日本西洋古典學文獻史

切支丹時代から昭和二十年までの著作文獻年表

（四）

【增補訂正版/補遺・總索引】

渡邉雅弘・編

をはりの序

本第④巻は、近年及び直近の「參考文獻」【追加[摘錄]】及び【追加・III】と既刊3巻中の誤記を編者の氣づいた限りで補正した訂正・削除・移動の記事、邦人・外國人名索引を編輯した最終巻である。地名・事項索引は斷念した。誤記及び、「凡例」の方針を立てた爲、餘分な記事滿載の印象を免かれ難い點は、御寬恕を乞ふ。

戰前といへども通覽できた新聞や雜誌、會誌には限りがあり、當時全國紙の「讀賣新聞」(創刊號−昭和20年分)と「東京日々新聞」(大正7年-昭和20年分)も、未見である。

學問研究の爲ならばといふ溫情の下、各種の資料を書庫で直接手に取る機會を許されたいずれの圖書舘に改めて深甚なる謝意を表する。未見の小雜誌や刊本古書、稀覯書(自筆本)等も編者の目に附く限り購入して參看した心算である。

【本巻附記】本巻における戰後文獻の採錄はきはめて不滿足な狀態にある。近年および直近に至るほどその遺漏が著しい。總記、人文、社會、自然の各領域は言ふを俟たず、ローマ法關聯文獻の採錄はことに乏しく、摘錄に終はつた。学問的には著書以上に論文の採錄が優先されるべきなのは、承知してゐる。しかし、各記事、論文、著作數は年々膨大に增し加はる一方で、濱の眞砂を素手で掬はうとするやうな、さながら魔界を相手にする無謀な試みと思ひ知つた。當然、利用者には御自分の論文、著書の擧げられてゐないことを、訝しむ向きもあらう。『西洋古典學研究』や『ペディラヴィウム』、『西洋古典論集』、『西洋古代史研究』、『西洋史研究』、『西洋史』などの記事全編を採錄できなかつたのは、心殘りである。『西洋古典學研究』、『史学雜誌』、『法制史研究』、『ローマ法雜誌』など、しかるべき各專門雜誌に附載の學界動向、文獻表を編年で御覽戴くしかない。

なほ、本巻に掲載の人名索引は戰前文獻分についてのみ作成した。戰後文獻分の著者・譯者名は含まれてゐない。

凡例

1. 文獻は部門に分類して、各年記載する。明治期以前はこの限りでない。單行本の發行所及び現所藏舘は原則として省略した。著者、發行年等で、不明な點、未確認の點には疑問符？を附した。また明治期以降、夥しく刊行される萬國史、歷史年表、西洋哲學史等については、適宜割愛したものもある。

2. 文獻採錄範圍の上限は、ギリシアではエーゲ海文明、ローマではエトルスキ文明とした。下限はおよそ５、６世紀である。古代末期論については、この限りでない。なお原典の梗概・要約は「①原典」の部に、西洋近代の古代哲學史家、研究者等に關する記事は分類項目「④紹介」の部に採錄する。

3. (*)は和文獻を、(*)(參考：)は洋文獻を意味する。

目次

・序、本巻附記、凡例----------2頁
・本巻目次----------3頁

・【補遺・II】[附錄・戰後參考文獻採錄]----------5頁

・「參考文獻(續)」は810頁以下に分載----------16頁

（17～22頁に餘白あり）

・【追加・III】----------23頁

・【發行年及執筆年不明文獻・訂正等】[戰前參考文獻(續)]--------670頁

・【發行年不明文獻・追補】----------780頁

・【補遺・III】[附錄・戰後參考文獻採錄(續)]----------810頁

・【出版年不明文獻】----------2441頁

・【總索引(戰前參考文獻分のみ)】----------2444頁

分類

A. 総論・紀行・文明史・読書論・修養論等
B. 哲学・思想・宗教学・倫理学・教育学等---------- ①原典訳（梗概・要約を含む）
②単行本（翻訳を含む）
③論文（翻訳、外国文、雑録、雑報）
④書評・紹介・古代研究者関連
C. 史学・考古学・地理・人類学等 ---------- 同上
D. 文学・文法・芸術・美学・音楽・建築 ---------- 同上
文献学等
E. 法律・政治・経済・社会思想等 ---------- 同上
F. 自然学・数学・科学・技術・医学等 ---------- 同上
G. 辞書・辞典・事典等

＊【著譯者版元關聯人名・邦人/外國人等】の索引表記について。例へば、
・高野長英①9[140,141](→第①巻、9頁、通し番号140,141、參照)と讀む。
・岩下壯一①328昭6.B(→第①巻、328頁、昭和6年、B分類中、參照)と讀む。
各巻中、各年のA-Gの下位分類①②③④は表記しない。例へば「B」上位分類の表記にとどめてある。從つて同頁に同一人物名の複數記載がありうる。

索引では、邦人名等は「あいうえお」順に配列したが、外國人名等は「あいうえお」順と洋字、カタカナの折衷で、嚴密なアルファベット順配列にはできなかつた。

なほ、讀み方が判明してゐる場合を除くと、國書總目錄や國會圖書舘藏書目錄、各種人名辭[事]典にも誤記或ひは記載のない、また資料自體に誤植のある邦人名の讀みは判別が不可能に近い。單純な例、【河野】[こうの、かわの]、【巴陵】[はりょう、ともおか]、【新居】[あらい、にい]、【千頭】[せんず、ちかみ]。從つて、いくつかの讀みで索引を使用されたい。推測で配列せざるを得なかつた邦人名もある。

＊＊なほ、外人名、外國の地名の宛字及び飜譯語の定着については、次の字書を參照。

・稲垣達郎編『明治文學全集・別巻・索引』（第100巻）、筑摩書房、1989年。

・現代言語セミナー『辞書にない「あて字」の辞典』、講談社＋α 文庫、1995 年。
(『遊字典』、冬樹社、1984 年刊。→『遊字典』、角川文庫、1986 年刊を改題。)

・宛字外来語辞典編集委員会編『宛字外来語辞典』、柏書房、1997 年(新装版)。

・石塚英彦・柴田隆行監修『哲学・思想翻訳語事典』、論創社、2003年。

＊＊＊「參考文獻」【追加［摘錄］】既刊分は、①巻[p.2~3]、②巻[p.10]の文獻表を參照。
「參考文獻（續）」は本巻670及び810頁以下に分載。

【補遺・II】［附錄・戰後參考文獻採錄］

(*)(參考：出隆『古代原子論哲學(1,2)』東大協同組合出版部,1946年。)
(*)(參考：加茂儀一『世界文化史』三笠書房,1946年。)
(*)矢澤邦彦『少年旅行記：アルプスからナポリまで』太平出版社,1946年。
(*)(參考：高津春繁『古典ギリシア』筑摩書房,1946年。)
(*)呉茂一「高津春繁「古典ギリシア」」展望11,1946年。
(*)(參考：リビングストン/田中秀央・高塚正規譯『ギリシアの精髄』全國書房,1946年。)
(*)(參考：村松正俊『歷史を創造する國民と傳統に壓倒された國民』明日への叢書4,玄同社,1946年。)
(*)(參考：有賀鐵太郎「ギリシャ・ローマ文化と基督教」基督教文化8,1946年。)
(*)(參考：サケッティ/杉浦明平譯『ルネサンス小説集』新版名著選,十一組出版部,1946年。)
(*)(參考：兒島喜久雄『葱南雜稿』東京堂出版,1946年。)
(*)(參考：育生社版『(ブルーノ・)タウト著作集』(→昭23)。)
(*)(參考：マチョス/高山羊吉譯『西洋技術人名辭典』北隆舘,1946年。)
(*)(參考：呉茂一「クラシックの敎養について」文藝春秋24(4),1946年。)
(*)(參考：國松孝二「愛と憎しみ--「ニーチェ」と古典文獻學の一章」(九州文学会)文学研究3月号,1946年。)
(*)(參考：田中秀央「西洋古典語の必要」思索4,1946年。)
(*)(參考：泉井久之助『東洋文庫本華夷譯語百夷館雜字並に來文の解読：その譯字・譯語・譯文と言語比較的研究』京都帝國大學,文學博士[報告番号不明],1946年。)
(*)(參考 : Hidenaka Tanaka“Greacae grammaticae rudimenta in usum scholarum”Iwanami,1946.)
(*)(參考：前田護郎“Das Leben-Jesus-Fragment Papyrus Egerton 2 und seine Unchristlischen Literaturgeschchite”Bern, 1946.)
(*)(參考：黑崎幸吉編『舊約聖書略註(上中下)』4版, 明和書院, 1946年。)
(*)(參考：神田盾夫「ΑΡΤΟΣ ΕΠΙΟΥΣΙΟΣ」(『市河[三喜]博士還曆祝賀論文集』所収)研究社,1946年。)
(*)(參考：“The catalogue of the late professor Masaki Nakayama memorial library”Library of the Meiji Gakuin,1946.
(*)福原麟太郎『日本の英學』生活社,1946年。
(*)比屋根安定『木下杢太郎氏の功績』キリシタン文化研究所,1946年。
(*)豐田實『聖書和譯の歷史』[“神學評論”(昭和6年)から抜粋],私家版,1946年。
(*)田中英光『オリンポスの果實』青春の書3,鎌倉文庫,1946年。
(*)(參考：リュシアン・レヴィ=ブリュエル/古野清人・淺見篤譯『原始神話學』哲學叢書,創元社,1946年。)
(*)(參考：カール・フィリップ・モーリッツ/藤田五郎譯『ギリシア・ローマ神話』みすず書房,1946年(→昭24,3版)。)
(*)(參考：大久保泰「ヴィーナスの生誕」婦人公論6月號,1946年。)
(*)(參考：ヴァン・ルーン/神近市子譯『聖書物語---舊約の巻』イデア書店,1946年。)
(*)(參考：エミール・ボーマン/戸塚文卿譯『眞理の使徒・聖パウロ』2版,中央出版社,1946年(←昭17,初版)。)

(*)(參考：フェデリコ・バルバロ編『ヨハネ福音書註解』ドン・ボスコ社,1946年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『新約聖書略註』聖泉會,1946年。)
(*)(參考：三谷隆正『信仰の論理』温故小文選2,新教出版社,1946年。)
(*)(參考：渡辺一夫「フランソワ・ラブレーと宗教」國土1,1946年。)
(*)(參考：近山金次『西方の金言』帝國書院,1946年。)
(*)(參考：河合榮治郎編『學生と先哲』日本評論社, 1946年(→昭23,再版)。)
(*)(參考：田中美知太郎『愛國心について：ソクラテスの場合』日本叢書32,生活社,1946年。)
(*)(參考：田中美知太郎『言論の自由について』日本叢書73,生活社,1946年。)
(*)(參考：田中美知太郎『古典的世界から：解釈と評論』中央公論社,1946年。)
(*)(參考：田中美知太郎「ギリシア精神に學ぶ」讀賣新聞朝刊10/21,1946年。)
(*)(參考：川田熊太郎『ギリシャ哲學研究』河出書房,1946年。)
(*)(參考:テイラー/林竹二譯『ソクラテス』櫻井書店,1946年(→同年, 訂正再版, 櫻井書店)。)
(*)(參考：山内得立「カロカガティア」思索4,1946年。)
(*)(參考：阿部六郎「ソクラテス,ゲーテ,ニイチェにおけるデーモンの意義」思索4,1946年。)
(*)(參考：川田熊太郎『ギリシヤ哲學研究』河出書房,1946年。)
(*)(參考：ロマン・ロラン/宮本正清譯『エンペドクレスとスピノーザ』岩波文庫, 岩波書店, 1946年.)
(*)(參考：Plato；B.Jowett(Eng.tra.)/E.Hattori[服部英次郎](ed.with notes)“The Symposium of Plato”Shin Nippon Tosho,1946.)
(*)(參考：ウォルター・ペーター/内舘忠藏譯『プラトンとプラトン哲學』2版,哲学名著叢書15,理想社,1946年(←昭6,初版)。)
(*)(參考：久保勉『プラトン(國家篇)』4刷, 大思想家文庫1, 岩波書店,1946年(←昭11初版)。)
(*)(參考：桑木嚴翼『プラトン六講』日月社,1946年。)
(*)(參考：桑木嚴翼『プラトン講話』4版, 理想社, 1946年(←昭13「プラトン講話」。→昭22再版)。)
(*)(參考：桑木嚴翼『西洋哲學史概説』早稲田大学出版部, 1946年(→7版,1947年)。)
(*)(參考：鹿野治助『ストアの哲人達』プラトーン著作集, 教養文庫, 弘文堂, 1946年。)
(*)(參考：ヒルティ/正木正編譯『ヒルティの言葉----人間の存在と救濟』羽田書店,1946年(→1950年,2刷。→2刷)
(*)(參考：ヒルティ/正木正編譯『ヒルティの言葉：悩める人のために』羽田文庫,羽田書店, 1946年。)
(*)(參考：カアル・ヒルティ/陶山務譯『我ら何を爲すべきか：哲學宗教篇』(日本文庫7, 日本社,1946年。)
(*)(參考：カール・ヒルティ/佐久間政一譯『處生論』北隆舘,1946年。)
(*)(參考：有賀鐵太郎『オリゲネス研究』京都大國大學,文學博士[報告番号不明],1946年。)
(*)(參考：三谷隆正『信仰の論理』(重版、附・山谷省吾解説,温故小文選2,新教出版社,1946年。)
(*)(參考：石原兵永『新約聖書略註』聖泉會,永遠の命社[発売],1946年。)
(*)(參考：ルイ・ベルトラン/柳川德治郎譯『人間聖アウグスティヌス』中央出版社,1946年。)
(*)(參考：クルストファ・ドウソン著/服部英次郎譯『聖アウグスティヌスとその時代』増進堂, 1946年。)
(*)(參考：矢内原忠雄『アウグスティヌス「告白錄」講義』2版, 新教出版社,1946年(←昭18,

初版)。)
(*)(參考：有賀鐵太郎『オリゲネス研究』全國書房,1946年(←昭18初版)。)
(*)(參考：聖アンセルムス/長澤信壽譯『モノロギオン』岩波文庫,岩波書店,1946年。)
(*)(參考：C.Lattry編・戸塚文卿譯『神の問題と近代人』(G.J.MacGilliay「神の研究」等)
中央出版社,1946年。)
(*)(參考：野々村戒三『キリスト教思潮概說』日月社, 1946年(→昭22,再版)。)
(*)(參考：野々村戒三『キリスト教思潮七講』日月社, 1946年。)
(*)(參考：プラトン/村治能就譯『パイドン：靈魂不滅論』ヒューマニズム叢書III,綜合出版社,1946年。)
(*)(參考：岡田正三譯『プラトン全集(第1-9)』[京都]全國書房,1946年。)
(*)(參考：久保勉『プラトン國家篇』岩波書店,1946年。)
(*)(參考：プルータルコス著/青木巖譯『隨想錄・モラーリア 1』帝國書院,1946年。)
(*)(參考：プロクロス/五十嵐達六郎譯『形而上學』2版,生活社,1946年。)
(*)(參考：アウグスチヌス/内村達三郎譯『懺悔錄』春秋社思想叢書, 春秋社,1946年。)
(*)(參考：ジャムバッティスタ・ヴィコ著/黑田正利譯『新科學』秋田屋,1946年。)
(*)三宅雪嶺『大學今昔譚』我觀社,1946年。
(*)「雪嶺三宅雄二郎博士の思ひ出」丁西倫理會倫理講演集518,1946年。
-----桑木巖翼「三宅雪嶺博士の想出」
太田秀穂「三宅雪嶺先生を偲びて」
遠藤隆吉「雪嶺先生を憶ふ」
八田三喜「我が雪嶺先生」
安倍能成「雪嶺先生の顔、其他」
杉森孝次郎「雪嶺氏追憶の一端」
「文學博士雪嶺三宅雄二郎氏の逝去」
(*)南原繁「三谷隆正君」(『學問・教養・信仰』中。近藤書店,1948年),1946年。
(*)「吉滿義彦氏追悼号」カトリック思想1（2),1946年。
-----「遺稿」
松田二郎「知識階級指導者としての吉滿先生」/デュモリン「吉滿教授の靈的姿について」/田中耕太郎「吉滿君の憶ひ出」/矢部貞治「吉滿義彦君の想ひ出」/渡邊一夫「吉滿さん」/三浦岱榮「吉滿君と醫學」/松村克己「吉滿先生の哲學思想」/松本正夫「故吉滿先生のトーマス研究」/小松茂「吉滿先生の哲學」/野村良雄「美學者としての吉滿教授」/ホイヴェルス「故吉滿教授に捧ぐ」/マイエー「吉滿氏のことども」/ロゲンドルフ「まことの紳士」/伊藤庄治郎「吉滿先生の印象」/中尾文策「人間としての吉滿」/山之内一郎「「創造」と吉滿」/小林珍雄「共通の想ひ出」/大塚市助「吉滿さんの追憶」/木村太郎「吉滿追悼斷想」/渡邊秀「私達の代父吉滿先生」/吉滿義敏「兄のこと」/矢部孟「聖フィリッポ寮生として」/岡田純一「最後の思ひ出」/石原靜雄「吉滿先生を憶ふ」/「吉滿義彦經歷」/增田良二編「吉滿義彦著作目錄」
(*)(參考：T.G.タッカー/田中秀央譯『古代アテナイ人の生活』全國書房,1946年。)
(*)(參考：トゥーキューディデース/青木巖譯『歷史』(上下)3版, 生活社, 1946年。)
(*)(參考：泉井久之助「春日照々(ポリュビオスについて)」(秋田屋)智慧4月号,1946年。)
(*)(參考：シェンキェーヴィッチ/谷口武譯『クヴァヂス物語』兒童圖書舘叢書, 玉川[大學]

出版部,1946年(→昭23,19版)。)
(*)(參考：西村貞二『歴史』目黒書店,1946年。)
(*)(參考：原隨園『歴史を學ぶ』日本叢書44,生活社,1946年。)
(*)(參考：原隨園『涉史漫筆』大八洲出版,1946年。)
(*)(參考：ジァムバッティスタ・ヴィコ/黒田正利譯『新科學』秋田屋,1946年。)
(*)(參考：和辻哲郎『ホメーロス批判』要書房, 1946年(→1950年, 再版)。)
(*)(參考：松村正俊『概說ギリシャ悲劇』玄同文庫, 玄同社,1946年。)
(*)(參考：呉茂一「ギリシャ上代の合唱詩」四季(復刊)2,1946年。)
(*)(參考：新関良三「ソポクレスからメナンドロスへ—ギリシァにおける人生觀の或る推移)」眞善美7月号,1946年。)
(*)(參考：サケッティ他著/杉浦明平譯『ルネサンス小説集』新版名著選,十一組出版部,1946年。)
(*)(參考：高安國世「人生の馬・ギリシヤの光(ビンディング)」新しき力としての文学4月号,1946年。)
(*)(參考：福原麟太郎『文學の風景』河出書房,1946年。)
(*)(參考：福原麟太郎「ヒウマニズムと英文學」(汎美社)ロゴス9月號,1946年。)
(*)(參考：齋藤勇『シェイクスピア概觀』あるびよん選書,新月社,1946年。)
(*)(參考：ギッシング/中西信太郎譯『ヘンリ・ライクロイフトの私記』岩波文庫, 岩波書店,1946年。)
(*)(參考：舟木重信『ゲーテ・生活と作品』創藝社,1946年（→1948年, 人生論叢書4。→1949年,4版）。)
(*)(參考：木村謹治『完成期のゲーテ』弘文堂書房,1946年。)
(*)(參考：コルフ著/桑嶋健一譯『ゲーテの生活理念』泰尚社, 1946年。)
(*)(參考:エマアソン/柳田泉譯『偉人論・第5』(ゲーテ等)清明文庫,春秋社松柏館, 1946年。)
(*)(參考：デルタイ/佐久間政一譯『ゲーテ』夏目書店,1946年。)
(*)(參考：ジンメル/木村謹治譯『ゲーテ』櫻井書店,1946年。)
(*)(參考：ホーエンシュタイン/齋藤榮治譯『ゲーテ----ピラミッド』櫻井書店,1946年。)
(*)(參考：H.A.コルフ/桑嶋健一譯『ゲーテの生活理念』泰尚社,1946年。)
(*)(參考：エツケルマン/龜尾英四郎譯『ゲエテとの對話』(上中下)岩波文庫,岩波書店,1946年(←大11,初版等)。)
(*)(參考：ベラーマン/野島正城訳『シラー伝(上下)』富士出版,1946年。)
(*)(參考：モンテーニュ著/關根秀雄譯『モンテーニュ隨想録』白水社,1946年。)
(*)(參考：エマアソン/柳田泉譯『偉人論・第4』(モンテェーニュ)清明文庫,春秋社松柏館,1946年。)
(*)(參考：ビレスコフ・ヤンゼン/佐藤輝夫譯『現代人モンテーニュ—その思索と體驗』近代文庫, 東京堂出版,1946年。)
(*)(參考：アンドレ・モロワ/生島遼一訳『ヴォルテール』百花文庫14,創元社,1946年。)
(*)(參考：モーリヤック/杉捷夫譯『テレーズ・デケイルゥ』青磁選書,青磁社,1946年。)
(*)田中饒『イソップ物語』學生英文叢書5,有朋堂,1946年。
(*)岩村信二『イソップ物語』愛育文庫4,愛育社,1946年。
(*)積善舘編輯部編『イソップ物語』英文物語シリーズ3,積善舘,1946年。
(*)楠山正雄文・黒崎義介畫『エホンイソップ』東西社,1946年。

(*)鳥生芳夫訳注『イソップ物語：対訳』白鳥社,1946年。
(*)橋本玉造編『イソップ物語』興文堂,1946年。
(*)Aisopos著/市川又彦譯『イソップ(Aisopos)物語：明解註釋』江戸書院,1946年。
(*)三浦吉兵衛譯註『エソップ物語=Aesopos Fabeln』2版, 郁文堂書店,1946年。
(*)こぐれよしお･はまだともあき繪『イソップものがたり』熊本･みなみしょてん,1946年。
(*)河村重治郎『狐と葡萄その他 イソップ物語』三省堂,1946年。
(*)イソップ原作/松村武雄著『イソップ物語』世界名作童話, 大日本雄辯會講談社, 1946年。
(*)(參考：コワレフスキー/中野廣譯『數學史』鷺ノ宮書房, 1946年。)
(*)(參考：岡邦雄『科學思想史』唯物論全集2,三笠書房,1946年(←昭17,唯物論全集17)
(*)(參考：藪内清『ギリシア科學の精神』全國書房,1946年。)
(*)(參考：藪内清「西洋天文学の東漸」東方學報15,1946年。)
(*)(參考：三枝博音「「泰西七金譯說」[馬場貞由]解說」(『日本科學古典全書13』所収), 朝日新聞社,1946年。)
(*)(參考：呉茂一「ギリシヤのデモクラシー:理想と實際」新生9月号,1946年。)
(*)(參考：樺俊雄・堀真琴『民主主義の歴史』愛育社,1946年。)
(*)(參考：田中美知太郎『言論の自由について』日本叢書73,生活社,1946年。)
(*)(參考：關根秀雄『賢者と政治：モンテーニュの政治論』日本叢書75,生活社,1946年。)
(*)(參考：プラトン/山本光雄譯『法律』(第1,2巻)近藤書店, 1946年。)

(*)(參考：加茂儀一『世界文化史』三笠書房,1947年。)
(*)(參考：加茂儀一『家畜文化史』復刻版,改造社,1947年。)
(*)(參考：大類伸『西洋文化史観：東と西』帝国書院,1947年。)
(*)(參考：前川誠郎『デューラアと伊太利旅行』座友寶刊行會,1947年。)
(*)(參考：下村寅太郎他『ヒューマニズムと諸文化』ヒューマニズム論1,みすず書房,1947年。)
(*)(參考：天野敬太郎「H.G.ウエルズと日本」時論1,2月號,1947年。)
(*)(參考：荒井新・清水政二『エトルリアの美術』寶雲舍,1947年。)
(*)(參考：メリメ/杉捷夫譯『カルメン：外5篇』(「エトルリアの壺」)太虚堂書房,1947年。)
(*)(參考：村田數之亮『史蹟の希臘』古文化叢刊13,大八州出版,1947年。)
(*)(參考：原隨園『ギリシア文化』再版, 百花文庫16,創元社,1947年。)
(*)(參考：呉茂一「ギリシヤの人々」理論4月號,1947年。)
(*)(參考：G.ギッシング/佐々木理譯『イオニア海のほとり』英米名著叢書,新月社,1947年。)
(*)小川晴暘『正倉院の研究(上)』明和美術叢書3,明和書院,1947年。)
(*)(參考：ヨハネス・ラウレス/松田毅一譯『きりしたん入門史』エンデルレ書店,1947年。)
(*)(參考：松田毅一『聖フランシスコ・サヴィエル---日本の使者』エンデレル書店,,1947年。)
(*)(參考：矢澤利彦『中国と西洋文化』中村書店,1947年。)
(*)沼田次郎「幕末洋學思想の一面」國民の歴史1(6),1947年。)
(*)(參考：有島生馬『青春回想：随筆集』青年叢書3,信濃青年社,1947年。)
(*)(參考：三浦新七「新日本國民の理念と西洋文化(1)」一橋論叢17(3・4),1947年。)
(*)(參考：民主主義科學者協會術部會編『藝術研究第2』(北条元一「アリストテレス詩学」)解放社,1947年。)
(*)(參考：村田數之亮『史蹟の希臘』古文化叢刊13,大八洲出版,1947年。)

(*)(參考：村田數之亮『ギリシャの陶藝』中央公論美術出版,1947年。）
(*)(參考：井島勉『藝術の創造と歷史』京都帝國大學,文學博士[報告番号不明],1947年。)
(*)(參考：文部省『學術用語集キリスト教學編』文部省,1947年。)
(*)(參考：泉井久之助『フンボルト』4版,西哲叢書10,1947年。)
(*)(參考：泉井久之助『言語構造論』創元社,1947年。)
(*)(參考：泉井久之助『一般言語學と史的言語學』增進堂,1947年。)
(*)(參考：泉井久之助『言語民族學』新學藝叢書4,秋田屋,1947年。)
(*)(參考：青野季吉『西洋文藝批評史』(司馬凌海)三興書林,1947年。)
(*)(參考：杉捷夫「ラテン語とフランス文化」女性線2(3),1947年。)
(*)(參考：カール・ヒルティ/佐久間政一譯『讀書・演說・敎養』(訂正第1版,文修堂,1947年。)
(*)(參考：呉茂一『花とふくろう：隨筆評論集』要書房,1947年。)
----「ケーベル博士の思ひ出」「クラシツクの教養について」「ギリシアのデモクラシー」「ダフニスとクロエー」「アナクレオンのうた」「ギリシアの戦記物」「ギリシア・ローマの文学」「我々はギリシアに何を負うか」
(*)(參考：Bunsho Jugaku,*A Bibliography of Ralph Waldo Emerson in Japan from 1878 to 1935*,Kyoto,The Sunward Press,1947.
(*)(參考：榎一雄「ダウニイ氏『フレイザーの面影』」東洋學報31(3),1947年。)
(*)(參考：野上彌生子『黄金の林檎：ギリシア神話』小國民シリーズ,小學舘,1947年。)
(*)(參考：呉茂一「ギリシヤの神々」詩学9月號,1947年。)
(*)(參考：ローベルト・シンチンゲル「オルフォイスについて」ドイツ文學1,1947年。)
(*)(參考：石島三郎『キリスト敎入門』新教出版社,1947年(←昭13,初版)。）
(*)(參考：比屋根安定『基督敎入門』大日本雄辨會講談社,1947年(→昭23,再版)。）
(*)(參考：藤井武『天國に關する研究』新教出版社, 1947年。）
(*)(參考：松村克己『交りの宗敎---ヨハネ書翰講釋』西村書店,1947年。）
(*)(參考：小嶋潤『パウロ神學の根柢---ガラテヤ書に拠る』春光社,1947年。）
(*)(參考：關根正雄『舊約に於ける神の獨一性』新教出版社,1947年。)
(*)(參考：聖書協會聯盟『舊新約聖書』(引照附),1947年。)
(*)(參考：聖書協會聯盟『我らの主たる救主イエス・キリストの新約聖書』(改譯),1947年。)
(*)(參考：賀川豊彦『四福音書に現れたるイエスの姿』中行社,1947年。）
(*)(參考：賀川豊彦『イエスの宗敎とその眞理』警醒社書店,1947年。）
(*)(參考：賀川豊彦『神と聖愛の福音：新約聖書の讀み方』會津新生舘,1947年。）
(*)(參考：牧田忠藏『わかりやすい子供の聖書』,1947年。)
(*)(參考：錦織貞夫『聖書の常識---基督敎聖典旧新約聖書概説(附・邦語聖書の由来,地図)』教養叢書6,堀書店,1947年。)
(*)(參考：ディキンズ/岩橋武夫譯『主イエス様の御生涯』1947年(←昭9初版)。)
(*)(參考：八代斌助『主イエス』明和書林, 1947年(←昭8,初版)。)
(*)(參考：ルナン/廣瀬哲士譯『耶蘇』東京堂,1947年(←昭10,初版)。)
(*)(參考：黒崎幸吉編；塚本虎二他著『舊約聖書略註(上)』4版, 明和書院, 1947年。）
(*)(參考：黒崎幸吉編；塚本虎二他著『舊約聖書略註(中)』2版, 明和書院, 1947年。）
(*)(參考：波多野精一『パウロ』温故小文選4,新教出版社, 1947年。)
(*)(參考：内村鑑三『羅馬書の研究』(3册)創元選書,創元社,1947年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『新約聖書略註』(コリント前後書。7版)明和書院,1947年。）

(*)(參考：黑崎幸吉『新約聖書略註』（マタイ傳。9版）明和書院,1947年。）
(*)(參考：黑崎幸吉『マルコ傳』4版,明和書院,1947年。）
(*)(參考：黑崎幸吉『ヨハネ傳』7版,明和書院,1947年。）
(*)(參考：黑崎幸吉『コリント前後書』7版,明和書院,1947年。）
(*)(參考：黑崎幸吉『ロマ書・ガラテア書』6版,明和書院,1947年。）
(*)(參考：黑崎幸吉『ヘブル書・ヤコブ書・ペテロ前後書・ユダ書』6版,明和書院,1947年。）
(*)(參考：黑崎幸吉『黙示録；ヨハネ書簡』5版,明和書院,1947年。）
(*)(參考：黑崎幸吉『使徒行傳』明和書院, 1947年。）
(*)(參考：黑崎幸吉『聖書の読み方：始めて聖書を読む人の為に』改訂増補版（20版）,
愛眞社, 1947年。）
(*)(參考：小林珍雄『ヴァチカン市國』中央出版社,1947年。）
(*)(參考：ヨハネス・ラウレス著『原始教會三百年間の羅馬司教の首位權』ドン・ボスコ社,
有斐閣(発売),1947年。)
(*)(參考：岩下壯一『カトリックの信仰−公教要理第一部解說・第2』ソフィア書院,1947年。）
(*)(參考：岩下壯一『カトリックの信仰−公教要理第一部解說・第3』ソフィア書院,1947年。）
(*)(參考：荻原晃『カトリック精神詳解』再版, 中央出版社,1947年。）
(*)(參考：パウロ・フュステル著『カトリック世界觀序說』,1947年。）
(*)(參考：熊野義孝『マルティン・ルター−−−その生涯と信仰』鱒書房,1947年。）
(*)(參考：由木康『讃美歌の話』新日本建設叢書,1947年。)
(*)(參考：篠原助市『獨逸教育思想史』(上下)創元社,1947年。)
(*)(參考：島芳夫『道德史學』秋田屋,1947年。)
(*)(參考：桑木厳翼『哲學四十年』辰野書店,1947年。)
(*)(參考：仁戸田六三郎『古代哲學者の横顔』霞書房, 1947年（→昭23,再版）。）
(*)(參考：山本光雄『ギリシヤの哲學者』築土書店,1947年。）
(*)(參考：岩崎勉「希臘哲學史」（日本科學哲學會編）世界哲學講座1,1947年。）
(*)(參考：金倉圓照,岩崎勉『印度哲學史,希臘哲學史』光の書房,1947年。)
(*)(參考：プラトン/田中美知太郎譯『テアイテトス』6版,岩波書店,1947年（←昭13,初版）。)
(*)(參考：田中美知太郎『ギリシア人の智慧』中央公論社,1947年。)
(*)(參考：書評「ギリシア人の智慧(田中美知太郎)」讀賣新聞朝刊7/28,1947年。)
(*)(參考：田中美知太郎『ロゴスとイデア』岩波書店,1947年。）
(*)(參考：田中美知太郎『ソフィスト』3版, 教養文庫87,弘文堂書房,1947年(←昭16初版）。）
(*)(參考：田中美知太郎他著/みすず書房編集部編『古典的ヒューマニズム』ヒューマニズ
ム論3,みすず書房,1947年。)
---- 田中美知太郎「ギリシア・ロオマ思想とヒューマニズム」
高桑純夫「中世とヒューマニズム」
加茂儀一「ルネサンスとヒューマニズム」
野田又雄「啓蒙思想とヒューマニズム」
佐々木斐夫「獨逸理想主義とニューマニズム」
(*)(參考：田中美知太郎「ヒューマニズムの意味」世界13,1947年。)
(*)(參考：田中美知太郎『ヒューマニズムの意味』史學社,1947年。)
(*)(參考：田中美知太郎『ヒューマニズムの歷史』史學社,1947年。)
(*)(參考：田中美知太郎『ギリシヤ研究とヒューマニズム』要書房,1947年（→昭23,再版）。）

(*)(參考：シェーラー著/樺俊雄譯『聖者・天才・英雄』冬書房,1947年。)
(*)(參考：樺俊雄『哲學と時代精神』九十九書房,1947年。)
(*)(參考：稻富榮次郎『ソクラテスの死』創元社,1947年。)
(*)(參考：出隆『ソクラテス以前』東海叢書, 東海書房, 1947年。)
(*)(參考：出隆『ソクラテスの道』(「アテネの民衆政治と日本」[世界1-6]/「ソクラテスと愛國心」[新人26-4]/「哲學者の貧困」[哲學評論1-1]/「ソクラテスの「思索」」[季刊・思索3]/「ソクラテスの毒杯とイエスの十字架」[基督教文化10]/「プラトンの理想の國」[婦人と政治1-10]/「ピロン翁のスケプシス」[哲學1-1,2-1]/「アタラクシアと禪」[八雲2]/「物にすること」[理論1]/「古代の唯物論者の「心」について」[理論2])青磁社,1948年。)
(*)(參考：出隆他『ヒューマニズム(1,2)』近代選書1,2,八雲書店編集部編,八雲書店,1947年。)
(*)(參考：出隆『哲學青年の手記』彰考書院,1947年。)
(*)(參考：出隆『愚を知る』小山書店,1947年。)
(*)(參考：出隆『場違ひ隨筆』霞ヶ關書房,1947年。)
(*)(參考：長澤信壽『古典と反省—哲學論集』全國書房,1947年。)
(*)(參考：川島清吉『西洋哲學入門』日本學藝社,1947年。)
(*)(參考：山崎謙『哲学の啓蒙』大井書店,1947年。)
(*)(參考：桑木嚴翼『哲學四十年』辰野書店,1947年。)
(*)(參考：鳥井博郎『明治思想史』唯物論全書13,三笠書房,1947年。)
(*)山崎正一「終戦以後 我國哲學界の展望」(創刊號)人文1,1947年。)
(*)豐川昇「西洋哲學の渡來」(同『哲學者覺書』所収,)鳳文書林,1947年。)
(*)(參考：岡田正三譯『プラトン全集』(12冊)[京都]全國書房,1947年。)
(*)(參考：プラトン/村治能就譯『パイドン---靈魂不滅論』ヒューマニズム叢書3,綜合出版社, 1947年。)
(*)(參考：プラトン/青木巖譯『プラトンの自叙傳』和田堀書店,1947年。)
(*)(參考：藤井義夫「善の超越性と人間性：プラトンの「善のイデア」の一解釋」一橋論叢18(2),1947年。)
(*)(參考：新村出「アカデミアの夢」アカデミア2月号,1947年。)
(*)(參考：出隆『アリストテレス篇 譯編註』世界大思想家選集,河出書房,1947年(←昭16,第一書房版)。)
(*)(參考：出隆編譯『アリストテレス選集』河出書房,1947年。)
(*)(參考：高瀨久太郎『アリストテレスの倫理學』再版,巖翠堂書店,1947年。)
(*)(參考：三木清『アリストテレス；アリストテレス「形而上学」：アリストテレス；ソクラテス』三木清著作集9,岩波書店,1947年。)
(*)(參考：松本厚「アリストテレスのフュシスに就いて」哲學研究31(4),1947年。)
(*)(參考：鹿野治助『ストアの達人たち』教養文庫,弘文堂,1947年。)
(*)(參考：キケロ—/岩崎良三譯『カティリーナ彈劾』玄洞文庫, 玄同社,1947年。)
(*)(參考：高桑純夫『中世精神史序說--- アウグスチヌス研究』みすず書房,1947年。)
(*)(參考：吉滿義彦『哲學者の神』(「神秘的勸善」[ソクラテス、アウグスチヌス、ダンテ等]、「古代基督教の古典について」),みすず書房,1947年。)
(*)(參考：ボエティウス/畠中尚志譯『哲學の慰め』岩波文庫, 岩波書店,1947年。)

(*)(参考：トマス・ア・ケンピス/内村達三郎譯『イミターショ・クリスチ：基督のまねび』春秋社思想選書, 春秋社,1947年(→昭24, ア・ケンピス『基督のまねび』大思想選書, 春秋社)。)
(*)(参考：下村寅太郎『ライプニッツ』西哲叢書18,弘文堂書房,1947年(←昭13,初版)。)
(*)(参考：青木巖『クローチェの哲學』和田堀書店,1947年。)
(*)(参考：海老澤有道『日本の讃美歌』香柏書房,1947年。)
(*)(参考：海老澤有道『洋樂演劇事始：キリシタンの音樂と演劇』大洋出版,1947年。)
(*)島田謹二「夏目漱石と上田敏(比較文學研究1)—大學講師としての二人の英文學者」(ケーベル)文藝4(2),1947年。)
(*)R「批評文學」(ケーベル)文藝4(9),1947年。)
(*)島田謹二「平田禿木」英語青年1月號,1947年。)
(*)番匠谷英一「茅野蕭々先生」ドイツ文学,1947年。)
(*)(参考：西脇順三郎『あむばるわりあ：西脇順三郎詩集』東京出版,1947年。)
(*)(参考：桃井鶴夫譯編『絵入西洋名作童話選』, 1947年。)
(*)(参考：楠山正雄編『おさるのめがね』世界童話集?, 1947年。)
(*)Joe Yoshida(ed.with notes)『Aesop's fables』Ai-iku-sha,1947年。
(*)R.Takei(with notes)『Aesop's fables』清水書院,1947年。
(*)夕刊ニイガタ社編『ローマ字イソップ』新潟日報社,1947年。
(*)イソップ作/菊池侃『イソップものがたり』福地書店, 1947年。
(*)新村出『イソップ物語』再刊, 東京出版, 1947年(←昭13,小山書店版)。
(*)浜林生之助編『イソップ物語—訳註』3版,英文併記,健文社,1947年。)
(*)山岸外史譯『新イソップ物語』再版,主婦之友社,1947年。)
(*)楠山正雄編 佐藤義郎『新修イソップ物語(1,2)』日本書院,1947年。
(*)イソップ著/齋藤公一編；大石哲路画『イソップ物語』黎明社,1947年。
(*)須藤鐘一編『イソップ物語』寺本書房,1947年。)
(*)イソップ/呉茂一訳・南波昌子絵「北風と太陽」こどもの世界文学27,1947年。)
(*)Joe Yoshida(ed.with notes)"Aesop's Fables" Ai-iku-sha,English Library 14,1947.)
(*)R.Takei(with notes)"Aesop's fables" Aurora English series,清水書院,1947年。
(*)玉川教育研究所編『こどもイソップ』兒童圖書舘叢書,玉川出版部,1947年。
(*)市川又彦『イソップ物語』江戸書院,1947年。)
(*)荒木良雄『中世日本の庶民文學』新日本圖書,1947年。)
(*)(参考：井上智勇『地中海世界史』西洋史概說1,弘文堂書房,1947年。)
(*)(参考：斑目文雄『新しい歴史年表：日本史・東洋史・西洋史対照』八重山書店,1947年。)
(*)(参考：亀井高孝『西洋史叢説』翰林出版,1947年。)
(*)(参考：村田數之亮『概観西洋歴史』河原書店,1947年。)
(*)(参考：黒田正利『ギリシア女人群像』明窗書房,1947年。)
(*)(参考：村川堅太郎「奴隷制度の古典的形態」思想280,1947年。)
(*)(参考：プルータルコス/青木巖譯『英雄傳』(第1巻)生活社,1947年。)
(*)(参考：青木巖『クローチェの哲學』和田堀書店,1947年。)
(*)(参考：工藤好美『文学論』朝日新聞社,1947年。)
(*)(参考：菊池寛『世界文學案内：文壇入門』高須書房,1947年。)
(*)(参考：木村毅『講演・世界文学史(上)』読書展望社,1947年。)

(*)(參考：岡崎義恵「世界文藝學序論」文学15(3),1947年。)
(*)(參考：岡崎義恵「世界文藝學と日本文藝學」解釋と文學?號,1947年。)
(*)岡崎義恵『日本文藝と世界文藝』弘文堂,1947年。)
(*)(參考：新関良三『古代劇』鎌倉書房,1947年。)
(*)(參考：新関良三『演劇』學徒援護會,1947年。)
(*)(參考：新関良三「研究の思ひ出」ドイツ文学1,1947年。)
(*)(參考：呉茂一譯編『花冠---ギリシヤ・ラテン譯詩集』みすず書房,1947年。）
(*)(參考：呉茂一著/児島喜久雄絵『ホーマー物語』ともだち文庫7, 中央公論社,1947年。）
(*)(參考：泉井久之助『Homer's Odyssey by Pope』新日本圖書,1947年。)
(*)(參考：小川政恭訳「イリアス 第1歌[韻文訳]」高原3,4,1947年。)
(*)(參考：呉茂一「古詩二篇」宗教と文化2(3),1947年。)
(*)(參考：呉茂一「ギリシアの鳥」四季(復刊)5,1947年。)
(*)(參考：呉茂一「希臘詞華集」至上律1,1947年。)
(*)(參考：呉茂一「ギリシャ悲劇の精神」大学12月号,1947年。)
(*)(參考：呉茂一「アリストパネースの「雲」について」季刊哲学2月号,1947年。)
(*)(參考：岩崎良三『ラテン作家論』玄同文庫, 玄同社, 1947年。）
(*)(參考：ルキアノス/高津春繁譯『ペレグリーノスの昇天：ルキアノス短編集』東京堂、1947年。）
(*)(參考：ルキアノス/呉茂一・山田潤二譯『本當の話』（丹波）養徳社, 1947年。）
(*)(參考：ウェルギリウス/越智文雄・田中秀央共譯『田園詩・農耕詩』生活社,1947年。）
(*)(參考：橋爪洋「ロンギノスの「崇高論」」外事論叢12月号,1947年。)
(*)(參考：花田清輝『復興期の精神』眞善美社,1947年。)
(*)(參考：西村貞二『ルネサンス精神史序說』生活社,1947年。）
(*)(參考：渡辺一夫『ルネッサンスの面影』民友社,1947年。)
(*)(參考：渡辺一夫「ルネサンスの文学」(『世界の文学』所収)毎日ライブラリー,1947年。)
(*)(參考：Dante;trans.into English by H.W.Longfellow:with introduction and notes by Hisanosuke Izui,“The divine comedy of Dante:inferno I-X”Shin Nippon Tosho,New English Series,1947.）
(*)(參考：泉井久之助『LongfellowのDante's Inferno』新日本図書,1947年。)
(*)(參考：宮崎信彦「新生のベアトリーチェ」藝苑?號,1947年。)
(*)(參考：大類伸「ダンテの愛」進路2月号,1947年。)
(*)(參考：新島繁「ダンテの「神曲」と現代の倫理」唯物論研究(復刊1),10月號,1947年。)
(*)(參考：大類伸「ダンテとコロンブス」改造8月号,1947年。)
(*)(參考：野上素一「ペトラルカの住んだ世界」玄想7月号,1947年。)
(*)(參考：野上素一「デカメロンの作者と人文主義」人間1月号,1947年。)
(*)(參考：ボッカチオ/森田草平譯『デカメロン』大泉書店,1947年。)
(*)(參考：ボッカーチオ/木原直夫譯『デカメロン：十日物語』文化書店,1947年。)
(*)(參考：エラスムス/池田薫譯『愚神禮讃』3版,白水社,1947年。)
(*)(參考：ラブレー述/渡辺一夫訳註『パンタグリュエル占筮』高桐書院,1947年。)
(*)(參考：ラブレー述/渡辺一夫訳註『ガルガンチュワとパンタグリュエル・第2之書パンタグリュエル物語』白水社,1947年。)
(*)(參考：渡辺一夫「フランソワ・ラブレーの中世批判—修道院生活を中心として」歴史

評論8月号,1947年。)
(*)(參考：森有正「モラリストの精神とその限界」季刊大学1,1947年。)
(*)(參考：モンテェーニュ/關根秀雄譯『人間隨想』養徳叢書・外國篇,養徳社,1947年。)
(*)(參考：關根秀雄『モンテェーニュ入門』八雲書店,1947年。)
(*)(參考：關根秀雄『モンテェーニュ論攷』八雲書店,1947年。)
(*)(參考：モンテーニュ/關根秀雄譯『子どもの教育に就て』(湯河原町)創藝社,1947年。)
(*)(參考：前田陽一『モンテーニュとパスカルに於ける護教學的論證「レーモンスポンの辯護」と「パンセ」の關係についての研究』東京帝國大學,文学博士[報告番号不明],1947年。)
(*)(參考：福原麟太郎「英文学展望」人文6月号,1947年。)
(*)(參考：鷲山第三郎『ジュリヤス・シーザー』物語シェイクスピア叢書3,福村書店1947年。)
(*)(參考：橘忠衛『シェイクスピア研究—ローマ史劇』櫻井書店,1947年。)
(*)(參考：大内修弘『シェイクスピアとその時代』研究社,1947年。)
(*)(參考：壽岳文章『エルサレムへの道：ブレイク詩文選』西村書店,1947年。)
(*)(參考：成瀬無極『懺悔としての文學』矢代書店,1947年。)
(*)(參考：藤崎俊茂『ゲーテ傳』風間書房,1947年。)
(*)(參考：谷川徹三訳『ゲーテ藝術論集』福村書店,1947年。)
(*)(參考：薗田香勲『ゲーテ斷想』堀書店, 1947年。)
(*)(參考：土井虎賀壽『抒情詩の厭世---ゲーテからニイチェへ』百花文庫17, 創元社, 1947年。)
(*)(參考：ヨハン・ペーテル・エッケルマン/小口優譯『ゲーテとの対話』春秋社思想選書, 春秋社, 1947年。)
(*)(參考：ヨハン・ペーテル・エッケルマン/片山正雄譯註『ゲーテとの談話』4版, 独和対訳叢書2,郁文堂,1947年(←大14初版)。)
(*)(參考：兼常清佐「ドイツ精神について」ドイツ文学1,1947年。)
(*)(參考：田中泰三「ゲーテ時代とギリシア精神」第五回学術大会文学研究報告,1947年。)
(*)(參考：土井虎賀壽「ゲーテのヒューマニズムと文学精神(上)」新文学8月号,1947年。)
(*)(參考：成瀬無極「木村博士の近業完成期のゲーテ」ドイツ文学1,1947年。)
(*)(參考：ディルタイ/山西英一訳『シルレル論』河出書房,1947年。)
(*)(參考：佐藤晃一「ヒューマニズムとヘルデルリーン」ドイツ文学1,1947年。)
(*)(參考：ヘルデルリーン/吹田順助訳『ヒュペーリオン』青春の書7,鎌倉文庫,1947年。)
(*)(參考：レッシング/高橋義孝譯『ラオコオン：繪畫と文藝との限界について』レッシング選集1,侑秀書房, 1947年。)
(*)(參考：レッシング/中川良夫譯『寓話と寓話論』八雲書店,1947年。)
(*)(參考：ニイチェ/生田長江譯『悲劇の出生』赤坂書店,1947年。)
(*)(參考：國松孝二「Dionysos Inkaenation(1)ニーチェのディオニューゾスの頌歌」人文1月号,1947年。)
(*)(參考：高橋義孝「トーマス・マンとヒュウマニズム」ドイツ文學1,1947年。)
(*)(參考：マグダ・レヴェッツ・アレクサンダー/池井望譯『塔の思想』河出書房新社,1947年(→昭55,7刷)。)
(*)太田博太郎『日本建築史序説』(黒川真頼「東大寺法隆寺の話」[明治22年])彰国社,1947年。

(*)(參考：野尻抱影/中島亀三郎製図『全天星座図志』鎌倉書房,1947年。)
(*)(參考：藪内清『近世天文学史』科学史研究叢書2,恒星社厚生閣,1947年(→1948年,再版)。)
(*)(參考：三宅剛一『數理哲學思想史』(「ギリシア」)弘文堂書房, 1947年。)
(*)(參考：平田寛『科學の誕生』自文堂新書,自文堂,1947年。)
(*)(參考：佐藤省三『近代に於ける自然の論理』精神科學選書1, 1947年。)
(*)(參考：今田惠『婦人の科學的敎養』婦人文化講座5[科學篇],聖光社,1947年。)
(*)(參考：額田晉『自然科学の發展』北光書房,1947年(←昭15初版)。)
(*)(參考：ランスロット・ホグベン/今野武雄等譯『市民の科學』(第1,2巻,2册),1947年(←昭17,初版)。)
(*)(參考：菊池寛『蘭學事始』春陽選書,春陽堂,1947年。)
(*)(參考：樺俊雄『内省と建設』(「近代科學の危機と古代哲學」[1939年7月],「學問の生成」[1940年4月]),三笠書房,1947年。)
(*)(參考：山本成之助『日本科學史』日本出版株式會社,1947年。)
(*)三上義夫「日本望遠鏡史」(『日本測量術史之研究』所収)恒星社,1947年。
(*)桑木彧雄『黎明期の日本科學』弘文堂,1947年。
(*)三上義夫『日本測量術史の研究』恒星社厚生閣,1947年。
(*)(參考：村田治郎『建築史參考圖集：西洋編(上下)』高桐書院,1947年。)
(*)洞富雄「西欧技術傳來記」文化史研究1,1947年。
(*)(參考：日本解剖学会編『解剖学用語』2版,丸善,1947年。)
(*)(參考：小川政修『西洋医学史綱要』医学選書5,学術書院,1947年。)
(*)(參考：富士川游・赤松金芳『世界醫學史』医学選書13,学術書院,1947年。)
(*)(參考：本庄榮治郎「西洋經濟學移入の歷史」國民の歷史1(5),1947年。)
(*)(參考：舞出長五郎『經濟學史概要』東京大學,經濟學博士[報告番号不明],1947年。)
(*)(參考：村川堅太郎訳『河出書房版・アリストテレス全集１６』(アテナイ人の國制・經濟學)改版, 河出書房,1947年。)
(*)(參考：田中晃『社會哲學----プラトンとアリストテレスの社會思想』惇信堂, 1947年。)
(*)(參考：アントン・レッバッハ/戸川敬一譯『カトリック社會觀』ルーベルト・エンデルレ書店,1947年。)
(*)(參考：原隨園『自由主義の歷史』全國書房,1947年。)
(*)(參考：出隆他『學問と政治』東大協同組合出版部,1947年。)
(*)(參考：佐野學『西洋社會思想史』九州書院,1947年。)
(*)(參考：T.モア/平井正穂訳『ユートピア』英米名著叢書,新月社,1947年。)
(*)(參考：大沢章「ダンテと秩序の思想」カトリック思想17号,1947年。)
(*)(參考：平塚博「ダンテのイタリア復興思想」(慶應義塾大学)史学1月号,1947年。)
(*)(參考：田中秀央「Magna Cartaの邦訳」(京都女子大学英文学研究室)英文学論叢3,1947年。)
(*)(參考：平野義太郎『民法に於けるローマ思想とゲルマン思想』6版,有斐閣,1947年。)

◆「參考文獻(續)」は810頁から分載】

【追加・III】

天正 8(1580) (?)『ラテン語文典(邦人用)』(アレッサンドロ・ヴァリニャーノ来日[天正 7 年(1579 年)]翌年) [24928
寛永 16(1639)『伊會保物語』(ラテン語イソップ物語邦譯 64 話。古活字版、3 巻 3 册。→萬治 2 年[1659 年]、『伊會保物語』3 巻、整版繪入本) [24929
寶永 6(1709)「新井白石、シドッチ(G.B.Sidotti)を尋問。通譯は長崎時通詞・今村英生。ラテン語、イタリヤ語を使用。」 [24930
正德 5(1715)新井白石『西洋紀聞』3 巻(初稿本なる。「羅馬人處置獻議」、「シドチ囚獄係諸記」→明 9「西洋紀聞」東洋文庫) [24931
享保 19(1734)[輸入]淸吳震編『說鈴』(南懷仁[フルビースト]『坤輿外紀』(プリニウス)を収錄) [24932
寶曆 12 (1762)會田剛『紅毛醫言』(?) [24933
寶曆 13 (1763)北島見信『紅毛天地二圖贅說』(→元文 2[1737]刊行?) [24934
明和 4(1767)西善三郎「蘭日辭書飜譯」(蘭舘日誌) [24935
明和 8(1761)前野良澤『蘭譯筌』(?) [24936
安永 1 (1772)本木良永『和蘭地球圖略說』 [24937
安永 3 (1774)＊[訂正]クルムス/前野良澤・杉田玄白・中川淳庵他譯『解體新書』(ガレノス、ヒポクラテス等)[← 明和 8(1771) 飜譯開始か?→昭 15「文明源流叢書」2、昭 17 日本科學古典全書 8][65] [24938
安永 7 (1778)三浦梅園『歸山錄』(プリニウス、邦文獻中初出か?) [24939
天明 2(1782）[→寛政 4(1792)」（藩主)松浦靜山『平戸藩藥藏堂藏書目錄』(巻 14「フリニウス[プリニウス]畧解(松村元綱筆?)、巻 20「プリニウス」、「厄勒意吉思烈的[キリイスレツテル]ノ盧、是歐羅巴厄勒察[ギリシア]國ノ文字也。刺的印[ラテイン]語) [24940
天明 2(1782）志筑忠雄『萬國管闚』(フリニース[プリニウス]) [24941
天明 2(1782）[?]本木榮之進「諸雜書集(二）」(『本木蘭文』中。ローマ史、ロヲーム、ルヲームセ、セザール、邏馬[ローマ]之國人、キリイキ[ギリシア]之國人、ラテン文解法、ギリシア文學解說等) [24942
天明 3(1783）『志加都天加阿牙留書[シカツテカアムル]』(全 76 丁。肥前國長崎浦町・山本氏譯『阿蘭陀海上藥品記』の寫本。出于フリニユスト[プリニウス]書。京都大学薬学部図書館蔵) [24943
天明 7(1787)森島忠良『紅毛雜話』(オヴィデイウス「變身譚」等) [24944
天明 7(1787)朽木昌綱『西洋錢譜』(?) [24945
天明 8(1788)松平定信・手澤本『阿蘭陀名目語』(?) [24946
寛政 3(1791)宇田川玄隨『遠西名物考』(?) [24947
寛政 4(1792)宇田川玄隨『西洋醫言』(?) [24948
寛政 5(1793)司馬江漢『地球全圖略說』 [24949

寛政 8(1796)司馬江漢『和蘭天說』 [24950
寛政 8(1796)橋本宗吉『喎蘭[オランダ]新譯地球全圖』 [24951
寛政 10(1798)本多利明[魯鈍齋]『西域物語』(アレキサンデル等) [24952
寛政 10(1798)＊[訂正]志筑忠雄『暦象新書』(英人奇兒。上巻[寛政 10(1798)]、中巻[寛政 12(1800)]、下巻[享和 2(1802)]。「西域天學來歷」[比太古剌私(ピタゴラス)]、亞里私鐸底兒斯[アリストテレス]､厄勒祭亞[ゲロシヤ]等) [81] [24953
寛政 10(1798)＊[訂正]桂川甫齋(森島忠良)撰『類聚紅毛語譯』(『蠻語箋』として流布。厄勒祭亞[ゲレシヤ]) [14485] [24954
寛政 10(1798)間重富『天地二球用法評說』 [24955
寛政 11(1799)楢林重兵衛高廣『楢林雜話』(イソホものがたり、イソヲヒスと云ふ書)
享和 1(1801)＊[訂正]山村才助『西洋雜記』(4 巻 4 冊。巻 1「厄勒察亞(ギリシア)國の大君の說」「邏馬(ローマ)國大君の說」「アレキサンデル大王諸將に寶を賜ふ說」・巻 2「ギリーキ國の名畫說」巻 4「西洋語說」。プリニウス、スタフボ[ストラボン?)][90] [24956
享和 1(1801)＊[訂正]志筑忠雄『鎖國論』(ケンペル「日本志」の蘭譯本からの一章。ヴァージル「地産賦」第 1 篇の詩句からラテン詩を漢譯二句重譯したものを含む。黑澤翁滿が「異人恐怖傳」と改題したもの。卽發禁) [91] [24957
文化 2(1805)宇田川玄眞『西說醫範手提綱釋義』 [24958
文化 7(1810 以前?)馬場佐十郎(貞由)『西語譯撰』(?) [24959
文化 7(1810)馬場佐十郎(貞由)『蘭語以呂波引』 [24960
文化 7(1810)吉雄如淵等『諳厄利亞言語和解』(?) [24961
文化 7(1810)奥平昌高『蘭語譯筌』(?) [24962
文化 7(1810)桂川甫賢『蘭日對譯藥物名彙』(?) [24963
文化 7(1810)高橋景保『新訂・萬國全圖』 [24964
文化 8(1811)[→文化 9(1812)]＊[訂正]司馬江漢『春波樓筆記』(假名草紙本「伊會保物語」[慶長寬永年間刊]) [104] [24965
文化 8(1811)本木正榮『拂郎察辭範』(?) [24966
文化 8(1811)本木正榮『和佛蘭對譯辭林』(?) [24967
文化 8(1811)(J.C.Blomhoff)本木正榮『諳厄利亞國語和解』(寫本、15 巻) [24968
文化 8(1811)馬場佐十郎(貞由)『西語譯筌』(?) [24969
文化 9(1812)(?)『的里亞加[テリアカ]』（ローマ時代以來の萬能の解毒藥。昭和時代に富士川游を中心に研究された。寫本に前野蘭化、杉田玄白､大槻玄澤の著作として「的里亞加ノ傳」、「的里亞加方」、「諸家・的里亞加譯稿」等の傳書があるといふ) [24970
文化 11(1814)＊[訂正]司馬江漢(無言道人)『訓蒙畫解・附錄』（イソップ。昭 52 刊・東洋文庫「訓蒙畫解・無言道人筆記」[111] [24971

文化 11(1814)＊[訂正]本木正榮・楢林高見・吉雄永保(馬場貞歷、末永祥守?)編『諳厄利亞語林大成』(寫本、15 巻)　[112]　[24972
文政 4(1821)[以降]中山作三郎譯『夫利仁由須[フリニユス]駱駝之說』(寫本 11 丁。プリニウス)　[24973
文政 5(1822)宇田川玄眞・宇田川榕庵『遠西醫方名物考』(?)　[24974
文政 6(1823)＊[訂正]小森桃塢(義啓)・源秀飛畫「(厄力西亞國人)ヒポクラテス[必甫拉(刺)的斯]像」(安永 3[1774]刊『解體新書』[通稱ターヘル・アナトミア]の脚註にあるヒポクラテスの項の蘭文を借用した賛)　[123]　[24975
文政 7(1824)堤它山(山崎美成序)『橐駝[ラクダ」考』(フリニウス、シカルタ[カルタゴ?])　[24976
文政 8(1825)日高涼臺『蘭日語彙集』　[24977
文政 9(1826)水戸彰考舘藏本『諳厄利亞語辭書』(吉雄忠次郎所蔵本の寫本)　[24978
文政 10(1827)＊[訂正]靑地林宗譯『輿地誌略』(文政 6 刊? ヒュプネル「ゼオガラヒ」蘭譯[蘭「萬國地誌」]からの重譯→昭 15「文明源流叢書」第 1 巻所収。[公斯當丁(コンスタンチン)等]　[132]　[24978
文政 12(1829)(未詳?)『蘭語字彙』　[24979
天保 1(1830)＊[訂正]An English and Japanese,and Japanese and English Vocabulary, by W. H.Medhurst,Batavia,1830(メドハースト『英和和英語彙集』)　[134]　[24980
天保 4(1833)宇田川榕庵『理學入門・植物啓原』(3 巻・附圖 1 巻)　[24981
天保 6(1835)＊[訂正]辻蘭室『蘭語八箋』(1 册、羅甸語ギリシヤ語←文政 11[1828]以降刊?)　[14496]　[24982
天保 6(1835) 内田五觀『新星發秘說抜抄』(草稿。厄勒祭亞、歷山大王等)　[24983
天保 7(1836) 横井瑮『藥名早引』　[24984
天保 8(1837)＊[訂正]横井瑮『泰西藥名早引』(巻 1,2、羅甸語)　[24985
天保 8(1837)小關三英『那波列翁[ナポレオン]傳』(成立?)　[24986
天保 11(1840)[參考：道光 20 年、Robert Thom(羅伯珅、ロバート・トーム)『意拾喩[イソップ]言』(Espo's　Fables,The Canton Press,1840。L'Estrange の英語イソップ寓話集より広東語に飜譯]　[24987
天保 12(1841)大槻磐溪『佛朗王[ナポレオン]詞』(歷山王等)　[24988
天保 12(1841)伊藤圭介[柳川春三校]『萬寶叢書・洋字篇』(?)[柳川春三=栗木辰助、西村良三]　[24989
天保 13(1842)箕作作州『和蘭文典』(第二版)　[24990
嘉永 1(1848)箕作作州『和蘭文典・後編成句論』　[24991
嘉永 1(1848)＊[訂正]箕作阮甫『改正增補・蠻語箋』(2 巻 2 册、厄勒祭亞[ゲレシヤ])　[14504]　[24992
嘉永 1(嘉永 2(1849)佐久間象山自筆『ドウーフ・ハルマ』開板史料(嘉永 2 年 9 月→嘉永 3 年 12 月)　[24993
嘉永 3(1850)極西・檢夫爾[ケンペル]著/志筑忠雄譯/武藏國忍藩・黑澤翁滿述『異人恐傳』

(前)　[24994
嘉永 4(1851)[→嘉永 7(1854)]西成量(吉兵衛)等編『エゲレス語辭書和解』(寫本 7 册)
嘉永 7(1854)村上英俊『三語便覧』(日佛英蘭對譯辭書)(→同年、安政 1[1854]刊?)
[24995
嘉永 7=1854)大槻磐溪『佛蘭西僞帝那波列翁[ナポレオン]一代記(上下)』(「佛朗王詞」を収載。歷山王)　[24996
安政 2(1855)＊[訂正]桂川甫周(國興)『和蘭字彙』(ヅーフ・ハルマと同内容。ソクラテス､プラトンは記載なし｡アポル･アポルロース[神]、アリストーテレス・アリストヲテレス、アレキサンデル・アレキサンドル、イタリヤ[意太利亞]、エソーピュス、エピキュリス、エラスミュス、オヒデイュス、ギリシャ・ギリシア[厄勒齋亞]、コンスタンテイホーレン、シシリヤ[西齋里亞]、シセロ・セーサル・セーザル・セサル、ダヒネ・ダフニス、テミス、テレマキュス、テレンテイウス、ネーロー、ネプトイン・ネプトニュス、パウリュス、パラメデス、ヒポカラーテス、ヒポカラス、ヒルギリウス、ヒロソヒア、ピーテル・ピートル、ユステイーニュス、ユピーテル・ユピテル、ユヘナール、ラテイン、ラテユム、レミュス、ロームリュス等)　(←[194])　[24997
安政 3(1856)杉田立・杉田成卿『荷蘭語林集解』　[24998
安政 3(1856)遠田天藾『和蘭文典前篇譯語箋』　[24999
安政 3(1856)可野亮『和蘭辭典』　[25000
安政 3(1856)(未詳?)『西字發蒙』(?)　[25001
安政 4(1857)＊[訂正・削除]~~桂川甫周(國興)『和蘭字彙』(ヅーフ・ハルマと同内容。)~~
[194]　[25002
安政 4(1857)廣田憲寛『增補改正・譯鍵』(安政 1[嘉永 7=1854]刊行?)　[25003
安政 4(1857)(弘前藩士)佐々木元俊校『蕃語象胥』(上下巻。Kramers,Woordentolk,1854)
安政 4(1857)小關三英『那波列翁[ナポレオン]傳初編』(カーサル[蘭語ケーザルト云フ]、アレキサンデル[漢譯・歷山王])　[25004
安政 4(1857)＊[訂正]森田千庵筆「ヒポクラテス像」(平戸藩松浦家藏 Medicyn-Boeck,Ch. Wirtsung,著 C.Battun 蘭譯､1627 年｡表題扉下部像が原畫か?)
[195]　[25005
安政 5(1858)長崎奉行所活字版摺立所印刷刊行『Kunst Woordenboek』(假題、ウェイランド外來學術用語辭典)　[25006
安政 5(1858)ボイス/長崎奉行所活字版摺立所印刷刊行『理學訓蒙(上下)』　[25007
萬延 1(1860)石橋政方『英語箋』　[25008
文久 2(1862)＊[訂正]西周「西洋哲學史の講案斷片」(自筆稿、ソコラテス、ソヒスト、プラト、アリストットル等)　[209]　[25009
文久 2(1862)小寺弘士譯・講武所/高島敦題字・銕心水原寛序『泰西兵話』(乾坤巻)（?)
[25010
文久 2(1862)開成所『單語篇』　[25011
文久 2(1862)石川鴻齋「醫聖ヒポクラテス[依ト加得]像」(渡邊崋山畫の模寫)　[25012

慶應 1(1865)＊[訂正]丁韙良[ウキルレム]漢譯『萬國公法』6 冊?　[215]　[25013
慶應 3(1867)加藤弘藏譯・谷山樓藏梓・柳川春三序『西洋各國盛衰強弱一覧表・附圖共袋附』　[25014

【発行年・執筆年不明】
・肥前國長崎浦町・山本氏譯『阿蘭陀海上藥品記』(出于フリニユスト[プリニウス]書) [→天明 3（1783）寫本『志加都天加阿牙留書[シカツテカアムル]』(全 76 丁)の原本]　[25015
・宇田川榕菴「林奶私[リンナス]燕乳動物篇」(玉里文庫本『譯文雜書』[プリニウス])　[25016
・黑田麴盧『博物新誌』(ロウマ國ヘシュヒウス[ベスビオス]山。宮内庁書陵部藏摘譯兩種、所収)　[25017
・小森義啓(桃塢)譯併書「必甫葛剌斯畫像マタリ」(無落款。ヒポクラテス)　[25018
・黑田麴盧『兩學星象名義解』(?)　[25019
・『(平戸藩主)松浦靜山舊藏書洋書』(・「縮刷世界圖帖」Petri Schenck[スヘンク],Atlas contractus[1700 年刊], Planishaerium Coeleste, Magnitudines Stellarum.Hypothesis Tychonica. Hypothesis Ptolemanica. AbrahamBogaert,DeRoomsche/Monarchy/Vertoont　[「古人プトロメユス與云ヘル者」、ロウマ國、ロヲムスセ、ロヲムセ等、ボハール氏「貨幣に描かれた皇帝肖像による東西ローマ帝國史」])　[25020
・(編者不詳)『拂郎察辭典・和佛蘭對譯語林』　[25021
・(編者不詳)『諳厄利亞語林大成』　[25022
・本木良永『和解例言』(?)　[25023
[1853 年?] (參考：『伊娑菩[イソップ]喩言』(上海施藥院版。Robert Thom(羅伯聃、ロバート・トーム)『意拾喩[イソップ]言』の改訂版→1868 年版)　[25024

明 1 (慶應 4＝１８６８)
D.①(參考：同治 7 年、『伊娑菩[イソップ]喩言』、香港英華書院版→1903 年版)　[25025
③＊[訂正]彌堅外史譯「イソピュス、所謂イソホなり、と惡棍との物語」遠近新聞 27(5/3)　[14554]　[25026
G　[明 1 頃]ホーバッ・ビーッル『西洋五體伊呂波・五音相通和訓手引』　[25027
[明 1 頃]福富淡水輯著『銅板新刻・英獨掌中洋學訓蒙』　[25028
木幡篤次郎、同甚三郎纂輯『英文熟語集』(半紙版)　[25029

明２(１８６９)
B.②＊[訂正]英國大學士・科利耳[Collier コルリール]著/河津孫四郎(祐之)譯『西洋易知錄』7 冊(簡単な西洋人名錄。西洋文學者の略傳多し)

[239] [25030
＊[訂正]西周『學原稿本』(アリストットル、ストイセーン等) [240] [25031
巴毘弁[ハピアン]著『破提宇子』(杞憂道人刊) [25032
C.②福地萬世『西史擧要』 [25033
G. 柳澤信大訓點(松莊舘飜刻藏板)『英華字彙』 [25034

明３(１８７０)
C.②渡部一郎著版『英國史』(二巻合本) [25035
②＊[訂正]假名垣魯文『西洋道中膝栗毛』15 編 30 册(11 編まで魯文作、以下は總生寛作→明 9。亞丁[アデン]、亞歷散大[アレキサンドル]、伊太里等) [425] [25036
G. 齋藤健之允『異人語早學・七體いろは』 [25037
賣捌/藏田屋清右衛門『官許・英吉利單語篇』（鳥ノ子紙兩面摺） [25038

明４(１８７１)
B.②＊[訂正]斯滿爾斯[スマイルス]原著/中村正直譯『西國立志編』 [257] [25039
C.②蘇格蘭、弗拉撒戴多拉/西村鼎重(茂樹)譯『西史年表(上中下)』 [25040
清宮秀堅・箕作逢谷閲『新撰年表』 [25041
D.①J.ゴーブル『摩太福音書』 [25042
F.②石川鴻齋・畫并賛「ヒポクラテス像」 [25043
G. ＊[訂正]内田晉齋編『淺解・英和辭林』 [14569] [25044
＊[訂正]文部省官版『解體學語箋』(英羅解剖學術語集、小本) [264] [25045
＊[訂正]吉田耕(養德)『袖珍英和節用集』(第一） [266] [25046

明５(１８７２)
B.②＊[訂正]彌爾[ミル]原著/中村正直(敬太郎)譯『自由之理』 [268] [25047
C.②假名垣魯文譯『倭國宇西洋文庫』(なぽれおんいちだいき)6 册 [25048
D.①Thomas James(trans.),Aesop's Fables, A new version chiefly from original Sources, Numadz, 1872(渡部溫飜刻） [25049
E.②ブルンチュリ/加藤弘之譯『國法汎論』（レプブレッキ） [25049
F.②糟川潤三編『西洋今昔袖鑑』（自然科學） [25050
G. ＊[訂正]司馬凌海撰(加賀・明石朝幹跋文)『和洋獨逸辭典』(春風社版。同年ノ東京學半社「孛和袖珍字書」ニ先行スル獨逸語字書ノ第一書) [17508] [25051
開拓使(荒井郁序)版『英和對譯辭書』 [25052
Y.D.Tsunenori(吉田養德)『袖珍英和節用集』(第二編） [25053

明６(１８７３)

A. 瓜生政和『西洋見聞圖解』(中 4 册)(?) [25054
中村翠編『訓蒙・世界開闢往來』(?) [25055
Ralph Waldo Emerson,Civilization,Art,Eloquence and Books;Essays,Tokyo,Dept. of Literature,Tokyo Daigaku,1873 [25056
B.②＊[訂正]准蘭德[フランシス・ウエーランド]/山本義俊譯・小川爲治校『泰西修身論』(半 3 册)(?) [25057
森有禮『日本に於ける宗教の自由』(ヘラクレス、エマーソン等) [25058
スマイルズ/佐藤富三郎譯『西國立志編巻之二・其粉色陶器交易』(パリッシーの事) 3 册 [25059
スマイルズ/佐藤富三郎譯『西國立志編巻之十二・鞋補童教草(上中下)』(ガスリーとパウンズの事) 3 册 [25060
④＊[訂正]報告「山本義俊譯「泰西修身論」(全三册)」新聞雜誌 134 [14588] [25061
＊[訂正]報告「山本義俊譯「泰西修身論」(全三册)」郵便報知新聞 8/26 [14589] [25062
＊[訂正]報告「山本義俊譯「泰西修身論」(全三册)」東京日々新聞 469 [14690] [25063
＊[訂正]報告「山本義俊譯「泰西修身論」(全三册) 准蘭德氏著」東京日々新聞 8/31 [17512] [25064
C.②サアゼント/加地爲也詳述『西洋　教の杖』(全 3 册。[中]「羅馬の貴女コル子リヤ」) [25065
美國ハルベル氏著/中村正直譯『西國童子鑑』2 册（巻 2「史家ギボン」）[25066
D.①＊[訂正]福澤英之助(本名、和田愼次郎)『訓蒙話草』(イソップ、G.F.Townsend,Three Hundred Fables,G.Routledge,London,1867.より飜譯) [302] [25067
②島一德(嶋次三郎)『各國以呂波』(?) [25068
時習軒主人『世界字盡五體伊呂波』(?) [25069
E.②美國・ラムソム・ギルレット著/中村正直譯『共和政治(1,2.上下)』(?) [25070
天香齋主人『泰西・政體起源』(?) [25071
トクヴキル/木幡篤次郎譯『上木自由之論』(原本 11 章邦譯。→明 14 刊・肥塚龍全譯「自由原論」) [25072
F.②中村愿『幾何うひ學』 [25073
遠藤茂平『太陽曆講釋』 [25074
G. ＊[訂正]編者未詳『稟准・和譯英辭書』(「薩摩辭書」再版系、天野芳次郎藏板) [313] [25075
＊[訂正]報告「ダイヤモンド裳和掌中字典」(青木輔清編)東京日々新聞 553,554,555 [14617] [25076
有馬私學校藏板(青木輔清序)『英和掌中字典』 [25077
薩摩學生(松田爲常・瀨之口隆敬・村松經春)『獨和字典』 [25078
天野芳次郎藏版『稟准・和譯英辭書』(「和譯英辭林」巻首を補入) [25079
廣瀨渡・長田知儀譯述『智環啓蒙和解』(石川縣學校版) [25080

明７(１８７４)

B.④＊[訂正]西周「知說」(該撒[シーザル]、歷山大王、亞立斯度德[アリストート]、伯拉多[プラトー]、ガッサンヂ、和墨耳[ホメール]等)
明六雜誌 14,17,20, 22,25 [14620] [25081
(參考：投書・寧海居士「西洋開闢紀元及洪水之說」(亞當[アダム]、諸亞[ノア]、亞伯拉罕[アブラハム]、底格歐[チグル]法拉底[エウハテト]二河等)
郵便報知新聞 309(4/5) [25082
C.②總生寬編・日下鐵字校『地理史小學』(3 巻) [25083
古川正雄『古今雜話』 [25084
田島象二『耶蘇一代辯妄記』(初、2 編。任天社版) [25085
D.②小林謙吉『西洋孝子・流別奇談』(?) [25086
④＊[訂正]西周「洋學ヲ以テ國語ヲ書スルノ論」(ヘボン、拉丁、希臘等)
明六雜誌 1 [14624] [25087
E.②＊[訂正]田中耕造編譯『泰西政法沿革誌』(?) [338] [25088
高田義甫『自由譚(1)』(?) [25089
模禮松(モリソン)著/大槻誠之(東陽)點・塚本明毅・重野安繹閱『古今萬國綱鑑錄』 [25090
ローレンス・ヒコック/箕作麟祥譯『泰西・勸善訓蒙續篇』(4 册。政體概要) [25091
F.②＊[訂正]太田美濃里筆錄『斯魯斯[シリウス]氏講義・動物學初篇』(羅甸語名)
[14627] [25092

明８(１８７５)
A. 投書・前田泰一「[リードル]よ里飜譯」(萬國古今におけるギリシヤ文明)
七一雜報 1(12/27) [25093
トーマス・バックル[伯克爾]/大島貞益譯『英國開化史總論』(巻之一、上)[25094
ギゾー/室田充美譯『西洋開化史』(→明 10 刊・ギゾウ/永峰秀樹譯「歐羅巴文明史」として再譯) [25095
B.②准蘭德[フランシス・ウエーランド]/平野久太郎譯『修身論』(中 4 册)(?) [25096
平山誠一郎譯『獨逸國學制論』(全 1 册) [25097
マルチン[丁韙良]/中村正直譯直訓點『天道溯原』(3 册) [25098
永田方正譯『西洋教草----一名、愛敬篇』(本邦初和訳聖書 3 巻←1873 年) [25099
③西村茂樹「小言四則」(亞立斯德度[アリストト]）洋々社談 1 [25100
④＊[訂正]西周「人世三寶說」(希臘、埃比哥列斯[エピクレス]、俾歇兒[ヘイゲル]等)
明六雜誌 38,39,40,42 [14634] [25101
C.②＊[訂正]菅野虎太編纂『萬國史畧』 [361] [25102
田島象二『新約全書評駁』(3 册) [25103
③西村茂樹「西曆沿革畧說」(羅幕路[ロムリュス]、入畧該說[ヂュリユース]、入畧安[ジュリアン]等)洋々社談 3 [25104
D.①河鍋曉齋畫「新聞繪」（假綴一册、イソップの錦繪 13 枚） [25105
田島象二襲譯評『新約全書評駁----巻 1「馬太[マタイ]氏遺傳書」』（任天書院藏

版）[25106
②城谷謙『羅馬數字記法』 [25107
E.②淺見忠雅譯『孟德士[モンテスキュー]其法律精義』 [25108
F.②中桐絢海『解剖便覧表』 [25109
G. 永田方正編『萬國史畧字引』 [25110
永田方正編『萬國地誌略字引』 [25111

明９(１８７６)
A. 論說「文明は學問のみにあらざる論」(ロマ、ギリシヤの文華等) 七一雑報 7(2/18) [25112
「ムデ氏の講義」(グリーキ人等) 七一雑報 40(10/6) [25113
B.②曲木如長『挿畫・泰西訓蒙』(半 1 册)(?) [25114
若山儀一「洋教宗派」(不羅多[プラトン]等、文部省「百科全書」中) [25115
④雑話「講義第一、世道上進ノ希望スベキ極度(2)」(アセンス、ペルクリス、ゼノフホン、ソクレチース、プレトー、「アポシーオース」、アリシパヤデース等) 七一雑報 52(12/29) [25116
C.②關息定・飯尾朋央共編『萬國地名字類(木版彩色・口繪地球圖附)』 [25117
宮崎柳城・縮圖『萬國新圖』 [25118
林多一郎校訂『萬國地誌略』(上下 2 巻) [25119
河津祐之(孫四郎)『佛國革命史』 [25120
③投書・(靜岡)山中笑「天道湖原ヨリ抄出ス、仁義兩善ノ二ツ話」(昔希臘國ノ小邦「ローキ」)七一雑報 17(4/28) [25121
④＊[訂正]報告「菅野虎太編纂「萬國史畧」(一ノ巻)朝野新聞 741,743(2/19.21) [436] [25122
D.①飜譯委員社中(横濱上梓)『新約聖書路加傳』 [25123
②大槻文彦『印刷術及石版術』(キケロ等、文部省「百科全書」中) [25124
坪井爲春譯『蜜蜂』(アリストパネス等、文部省「百科全書」中) [25125
新井小八郎編『羅馬數字活用便』 [25126
飯田正宣抄譯『羅馬數字綴法』 [25127
村井清『傍訓註釋・西洋千文字』 [25128
堀江復譯『新約聖書略史』 [25129
③＊[訂正]通高嗣子・那珂通世「古代ノ文字」(パピラス等)洋々社談 21 [14655] [25130
＊[訂正]通高嗣子・那珂通世「古今文字ノ沿革」(羅甸字等)洋々社談 23 [14656] [25131
雑話「聖書のむかし」(グリーキ語、ヘボン氏等) 七一雑報 24(6/10) [25132
E.②＊[訂正]小林雄七郎『法律沿革事體』(文部省「百科全書」中) [449] [25133
＊[訂正]ビーデルマン/加藤弘之譯『各國立憲政體起立史』6 巻(第 5 册第 4 巻下巻中[希臘]) [451] [25134
F.②西村茂樹『天文學』(文部省「百科全書」中) [25135
錦織精之進『金類及錬金術』(文部省「百科全書」中) [25136
G. 高橋昜直『袖珍・萬國地誌畧字引』 [25137

明１０(１８７７)
A.　土居光華『偶評・歐米大家所見集』(4 巻。アダムス、セツフエル、ミル、モンテスキュウ、バックル、スペンサー、ベーコン、ヴヲルテール、ギゾー、マルチン等)　[25138
雑話「人間は進歩する話」(羅馬の大將シイザル、グリシヤのアセンス等)
七一雑報 2-26　[25139
B.②＊[訂正]彌爾[ミル]原著/中村正直譯『改正・自由之理』　[476]　[25140
斯滿爾斯[スマイルス]原著/中村正直譯『西國立志編』　[25141
今來恭本『造物主論』　[25142
③那珂通世「轉生ノ說（英書ヨリ摘譯セシ所)」(ピサゴラス、プラト等)
洋々社談 30　[25143
雑話「富貴は幸福にあらざる說」(アゼンス人ソロン等)　七一雑報 2-33　[25144
雑話並飜譯類「怨む□[一字不明]を善視ざるなし」(ユウクリッド、ソクラチース等)　七一雑報 2-45　[25145
④告知「美國・丁韙良[マアチン、ウヰルレム]/渡部溫訓點「勸善喩道傳」」
郵便報知新聞 1299,1304(5/28・6/2)　[25146
投書・(西京同志社英學校)小崎弘道「未來ノ說」(希臘、大賢ソクラテース等)
七一雑報 2-12　[25147
雑話「名譽を慾する事」(ハンニバル、ローマの大王シーサー等)
七一雑報 2-20　[25148
雑話「外貌を飾る事を戒むる話---第 2 ビューモント氏の說」(シセロー、デルホス等)　七一雑報 2-27　[25149
投書・松筠居士「談論ノ利害」(ソコラテス等)　七一雑報 2-28　[25150
投書・(東京三田寓)鈴木弘太「不信ニススム」(希利尼[グリーヒ]、瑣格底[ソクラテス]、巴累多[プラト]等)　七一雑報 2-37　[25151
七一(東京)植村氏郵送「無類」(グリースの古賢ソクラチイス等)
七一雑報 2-43　[25152
C.①雑話「デモセニースの語(1)」七一雑報 2-33　[25153
②馬爾加摩[マルカム]著/小林雄七郎譯『日耳曼[ゲルマン]國史(上)』(文部省印行)
[25154
永田方正(愛媛縣士族)『師範學校編纂・萬國史略問答』(二巻)　[25155
星子長『各國群雄傳』(巻一。西洋古今英雄名)　[25156
關信三郎編譯『古今萬國英婦列傳』(アダムス烈女言行錄及びフルロム婦人史より抄譯)(?)　[25157
石川彝編『紀元年表』　[25158
松川半山(直水)編『新撰・年代記』　[25159
③雑話「耶蘇公會史略譚(1)」(太王コンスタンチン等)　七一雑報 2-11　[25160
雑話「ローマ王シーサーの事」七一雑報 2-21　[25161
雑話「勇將イアパミノンダスの事」七一雑報 2-26　[25162
雑話「基利家」(羅馬総督代シセロ等)　七一雑報 2-28　[25163

雑話「使徒行傳中にある地名のはなし」(シセロ、羅馬の帝王アーガスタス、カエザル、希臘人等) 七一雑報 2-28 [25164
雑話「婚姻の話し」(グリシヤ國のセミストートル等) 七一雑報 2-29 [25165
雑話「羅馬國は神の福音を弘める爲に備へられし說」(イタリヤ、ギリシヤ、カーセーヂ、大王アレキサンドル等) 七一雑報 2-32 [25166
雑話「各邦禮遇の殊別」(古代の希臘人等) 七一雑報 2-36 [25167
雑話並飜譯類「マセドン王フ井リップのこと」七一雑報 2-45 [25168
七一「野心の結果」(アレキサンドル、ハンニバル、シーザル等) 七一雑報 2-52 [25169
④(?)「或人傑鹿兒嶋人[ガリバルヂー]ヲ猜疑セシ話」文明新誌 20 [25170
雑話「身は奴隸となる話」(グリシヤ國の大王アレキサンドル、羅馬の大將シイザル等) 七一雑報 2-26 [25171
雑話並飜譯類「野心の結果」(アレキサンデル、ハンニーバル、シーザル等) 七一雑報 2-52 [25172
D.①＊[訂正]ヘンリー・サウズゲート著/岩見鑑造譯・子安峻校閲『西洋諺草』 [514] [25173
② T.Babington Macauley,Milton;An Essay,Toyko,Dept.of Literature,Tokyo Daigaku,1877 [25174
E.②天野御民『國制沿革略史』(?) [25175
戎雅窟・婁騷[ジャン・ジャック・ルソー]/服部德譯・田中弘義閲『蘆騷[ルソー]氏・民約論』(本邦初譯か?) [25176
ボアソナード/井上操譯『性法講義』 [25177
④「佛國商法ノ大意ヲ論ズ」(希臘、羅馬律等)法律雑誌 1 [25178
G. 齋田訥於・那波大吉・國司平炉句(勝海舟題字)『和獨對譯字林』 [25179
＊[訂正]菅野虎太(大洲)編譯『羅甸七科譯字林』 [537] [25180

明１１(１８７８)
A. 佛人クラツセ/太政官飜譯係譯『日本西教史』(上下、全 2 巻) [25181
七一「開化說(3)」(バックル等) 七一雑報 3-12 [25182
(參考：教會新報「横濱リフォームドミッション學校規則書板」、七一雑報 3-47
一年第二期：「萬國史」、四年第一期：萬國史」) [25183
投書・東京協義社員・千葉松雄「腕力論・第二篇」(羅馬ノ文明、希臘ノ開化、スパルタノ國風、羅馬ノ壯大等) 郵便報知新聞 1602(5/31) [25184
B.④七一・同志社一書生「基督教ノ能力」(ソクラチス、羅馬帝國等) 七一雑報 3-20 [25185
雑話並飜譯類「情欲の力」(アレキサンドル等) 七一雑報 3-23 [25186
投書・西京ニ住ム一書生「無題」(希臘のソクレチス、プラト、アリストートル等) 七一雑報 3-23 [25187
(靜岡)愛隣生「耶蘇教を非難する人々に告ぐ」(希臘羅馬の文明等)

七一雜報 3-23,27 [25188
雜話並飜譯類「他人の爲に我をたつ」(大將リヲンダス等) 七一雜報 3-45 [25189
雜話並飜譯類「人力の及ばざる事」(神學者ヲーゴスタイン等)
七一雜報 3-49 [25190
C.②尼格頼[ニコライ?]閲・小野ベトル譯『教會史畧』 [25191
橋爪貫一譯『西國・立志編列傳』(?) [25192
(?)『使徒行傳の話』 [25193
柴田承桂『太古史』(文部省「百科全書」中) [25194
松浦謙吉『中古史』(文部省「百科全書」中) [251945
石川彝(寧靜)『紀元年表』 [25196
③雜話並飜譯類「使徒保羅[パウロ]畧史」七一雜報 3-7,8,9,10,11,12,13,14,15,16,17,18
[25197
雜話並飜譯類「聖書にある五ツのヘロデのはなし」(羅馬帝國) 七一雜報 3-24,25,26
[25198
④雜話並飜譯類「ケレヨウ・パレラの針」(ローマのシーザルの時エジュプス女王ケレヨウ・パレラ、ローマの大都ポンペ等)
七一雜報 3-8 [25199
七一・諏訪山道人「神戸女學院の話」(姫クレオパトラ等) 七一雜報 3-11 [25200
社說「無題」(希臘：阿染斯[アテネ]、羅馬：加兒帝爾[カルタゴ]等)
郵便報知新聞 1488(1/14) [25201
小言・芝海漁客「無」(マーク・アントニー、クレヲパトラ等)
郵便報知新聞 1507(2/6) [25202
社說・杉山繁「貴族處世ノ策略ヲ論ス」(アレキサンドル、アリストートル、ソクレエート[ソクラテス?]、ハンニバル、シーサル等) 郵便報知新聞 1549(3/28) [25203
社說「節儉及ヒ驕奢ノ說」(羅馬等) 郵便報知新聞 1630(7/3) [25204
(參考：公告「(東京大學)豫備門自費入學者試驗----パーレー「萬國史」」 [25205
郵便報知新聞 1642(7/17),1643(7/18),1645(7/20),1655(8/1),1668(8/17)
社說「養兵ノ訣、治民ノ術」(羅馬帝國等) 郵便報知新聞 1676(8/27) [25206
社說「辨妄(續)」(羅馬、シーザル等) 郵便報知新聞 1725(10/26) [25207
D.②＊[訂正](佛人)フェネ(ヌ)ロン作(?)/長澤正毅譯『へろねむ物語』[イソップ譯者渡部溫藏板で出版申請(版權書目第 7 號掲載、第 16 號返納)は出てゐるが、出版されなかつたらしいので、内容不明。フェネロン「テレマック物語」あるいは「フエーブル」の飜譯か。譯者・長澤正毅の名前の讀みも不明。柳田泉『明治初期の飜譯文學』22 頁、參照。→明 12-13 宮島春松譯「歐洲小說・哲烈禍福譚」、明 16 伊澤信三郎譯「鐵烈奇談經世指針」、明 21 加藤幹雄譯「警世奇話」、明 24 加藤幹雄譯「心の樂・教育奇談」、大 9 秋田雨雀譯(飜案)「フェネロン物語」、大 10 秋田雨雀譯(飜案)「テレマック冒險譚」、大 15 木村幹譯(飜案)「テレマック物語」)

[25208
③雑話並飜譯類「老年鍛錬」(ケート、グリーキ語、ラテン語、ヘレニック等)
七一雑報 3-13 [25209
④教會新報「横山氏、京學校を建てて、グリーキ、ラテン等を供ふ」
七一雑報 3-10 [25210
教會新報「聖書譯社中」(ヘボン等) 七一雑報 3-13 [25211
七一・外國教師の演說「アフリカとレビーングストンとスタインの話」(グリーキ、ラテン語等) 七一雑報 3-35 [25212
E.②ブーヴィエール/細川潤次郎譯註『法律格言』(元老院藏板。→明 15・2 册合本)
[25213
④投書(在西京)山崎某「不釣合ヲ論ス」(希臘ノ人民等) 七一雑報 3-48 [252134
投書・北淵陳夫「讀[東京]日々新聞」(羅馬ノ古制、「ヂヤス・ゼンタイアム」、羅馬人、ギリシヤ人等)
郵便報知新聞 1482(1/7),1483(1/8),1484(1/9) [25215
社說・杉山繁「各國交際ノ形勢ヲ論ス」(馬塞頓[マケドニア]ノ歷山大王、羅馬ノ斯西[シーザー]等) 郵便報知新聞 1515(2/16) [25216
告知「星亨先生著「英國法律全書附錄」(羅馬法附錄)
郵便報知新聞 1560(4/11) [25217
社說「法律ヲ保護シテ社會ヲ害スル弊」(ドロコ法等)
郵便報知新聞 1622(6/24) [25218
投書・東京協義社員・赤松生稿「干涉主義ノ邦國ヲ福害スルハ暴虐壓制ヨリ甚シキ論」(羅馬テヘリウース、ニロ等)
郵便報知新聞 1623(6/25) [25219
社說・大江直「讀東京日々新聞(1972 號)」(羅馬兩帝國、羅馬帝國、アルシビーデス、ペリクル、デモステンス等)
郵便報知新聞 1631(7/4) [25220
「讀議會(本月八日初日)」(モンテスキュー/猪飼麻太郎「萬法精理」等) [25221
郵便報知新聞 1722(10/23),1731(11/2) [25222
F.②河村重固「時學及時刻學」(文部省「百科全書」中) [25223
G. 村上瑛子編『動物字彙』 [25224
タビース氏/山田昌邦編譯『英和數學辭書』 [25225

明１２(１８７９)
A. ＊[訂正]菊池大麓『修辭及華文』(チャムバア「百科全書」中、「レトリック・アンド・ペルレツタア」の邦譯) [592] [25226
土居光華・菅生泰三共譯『英國文明史』(原本トーマス・バックル[伯克爾]、1-6 册) [25227
ギゾー/藤田喜三郎譯『佛蘭西文明史』 [25228
投書「無題」(バックル、學士プトレミー等) 郵便報知新聞 1780(1/7),1781(1/3)
[25229
B.①雑話並飜譯類「拝むものの無國なし」(希臘人プロターク) 七一雑報 4-49 [25230
②准蘭德[フランシス・ウエーランド]/阿部泰藏譯『修身論』(中 1 册)(?) [25231

スタンレー・ゼボン/戸田欽堂譯『論事矩』(2 册。→明 16) [25232
④投書・脇山義保「無題」(ソクラテス、プレト、セニカ、アリストートル等)
七一雜報 4-3 [25233
投書「智慧傳遷の妙理を論ず」(シーザル、アレキサンデル等) 七一雜報 4-3
[25234
投書(西京)山崎爲徳譯「(フオルト氏ノ變遷論)無神變遷論ヲ論ス(1)」(リュークレショス、ギボン等) 七一雜報 4-5 [25235
投書・菊池廣治譯「第四章・耶蘇ノ性質」(グリースの教育等) 七一雜報 4-8
[25236
投書・菊池廣治譯「第五章・四傳ノ信據スベキ事」(リュークレショス、シセロ「オレーション」、ホーレース「ポーエム」等)
七一雜報 4-9 [25237
教會新報「同志社英學校卒業式---演說・浮田和民先生「眞正ノ智慧」」
七一雜報 4-25 [25238
投書・森田久万人「理學ト宗教ノ關係ヲ論ス(1)」(グリーキ、ローマ史等)
七一雜報 4-27 [25239
投書・伊勢時雄譯「變遷論・第四編」(アリストートル等) 七一雜報 4-31 [25240
投書・森田久万人「理學ト宗教ノ關係ヲ論スルノ續キ」(グリーキの學士プレート等) 七一雜報 4-33,37 [25241
投書・伊勢時雄譯「變遷論・第七編」(往古希臘國ノ學士アリストートル氏等)
七一雜報 4-37 [25242
投書(駿河)上田貞嘉「智慧傳遷の妙理を論ず」(シーザル、アレキサンデル等)
七一雜報 4-37 [25243
投書・小崎弘道「宗教總論」(希臘の學者セリス、ピサゴラス、ソクレチース、プレト、アリシトートル等) 七一雜報 4-38 [25244
雜話並飜譯類「第一編・聖書を證據として論ずる事」(プレート、アリストトル等)
七一雜報 4-39 [25245
投書・伊勢時雄譯「變遷論・第八編」(希臘人、羅馬人等) 七一雜報 4-46 [25246
宮川經輝「妖教ノ蔓延」(テデラス、ヂュリエノス等) 七一雜報 4-47 [25247
社說・犬養毅稿「人間同等ノ主義」(バックル氏、希臘・羅馬等)
郵便報知新聞 1794(1/23) [25248
公告「講談會---3 月 16 日午后 1 時、淺草須賀町井生村樓」
郵便報知新聞 1834(3/13),1835(3/14),1836(3/15) [25249
-----・中村正直：品行論/・西周：自由ハ自立ニ成ルノ說」
C.②＊[訂正]猶里[ジュリユイ]著/大内青巒閲評・相良尚辰抄譯『原道要史』(上巻、古代地理、亞理斯多爾[アリストウトル]、ストラボン、プラトン、希臘語、羅甸語等) [17778] [25250
ヘボン(J.Hepburn)譯『志とぎやうでん』 [25251
廣瀨乘信補纂『增補訓點・四裔年表』 [25252
四屋純三郎『亞細亞地誌』(文部省「百科全書」中) [25253
宮崎國嘉譯・片山淳吉閲『西國烈女傳』2 册(スターリング[Moble deeds of Women])
[25254

チャーレス・ベル/栗原亮一纂譯『泰西名家演說集(附・演說法)』 [25255
④雜話並飜譯類「現今天竺にある古き猶太人」(アレキサンドル・ゼー・グレート等)
七一雜報 4-3 [25256
教會新報「江州彦根に道の傳はりし由來」(ヘボン等)七一雜報 4-25 [25257
投書・佐藤未足「スタチスチックの學(仮題)」(希臘・羅馬等)
郵便報知新聞 1824(3/1) [25258
告知「(東大)豫備門第二、第四級入學試驗----第二級生試驗課目：萬國史大意」
郵便報知新聞 1914(6/16),1917(6/19),1960(8/11),1964(8/15),
1972(8/26),1979(9/31) [25259
公告「(東大豫備門)當門第四級生(最下級)缺員試業課目----パーレー「萬國史譯講」」
郵便報知新聞 2060(12/13),2063(12/16) [25260
社說「人命請負」(羅馬帝クラージュス等) 郵便報知新聞 2064(12/17) [25261
告知「片山淳吉閲・宮崎國嘉譯「西洋列女傳」」(全 2 册)
郵便報知新聞 2066(12/19),2068(12/22), 2072(12/26) [25262
公告「東京師範學校：中學及小學師範生徒募集試業---史學」」
郵便報知新聞 2075(12/29) [25263
D.②小島準治『舊新兩約聖書傳』(初篇・舊譯書傳、第 2 篇・新約書傳。→明 13)
[25264
橋爪貫一『西國立志編列傳』(ミル、シルレル等) [25265
④投書・菊池廣治譯「第六章・聖書ノ異能」(グリーキ語等) 七一雜報 4-10 [25266
リットン/小川漁史譯「父子奇遇・白浪艶話」(「ポール・クリフォード」)
驥尾團子 7 月號(→明 14 年まで聯載) [25267
バイロン/末松謙澄譯「髑髏杯歌」郵便報知新聞 2058(12/11) [25268
E.②馬場辰猪『法律一斑』(慶應義塾出版社→明 12 再版) [25269
ヘンリー・チー・テリー著/島田三郎譯『法律原論』(4 册。→明 13) [25270
④社說「我國事ニ關スル西人ノ著書ヲ論ス」(孟德咎[モンテスキュー]等)
郵便報知新聞 1831(3/10) [25271
社說「國民ヲシテ國アルヲ知ラシメサル可ラス」(希臘ノ兩聖プラトー、アリストートル等) 郵便報知新聞 1833(3/12) [25272
社說「太政官ノ布達ヲ讀ム」(希臘羅馬ノ賢帝オグスタス、ウェスパシアン、アントニュース、マルキュス・オーレキュス、カリギュラー、グラチュス、子ロ、コンモデス等)
郵便報知新聞 1836(3/15) [25273
社說「官吏ノ商法」(羅馬帝デオフィルス、皇后オドラ等)
郵便報知新聞 1843(3/25) [25274
社說「外交變遷論第二」(孟德斯鳩[モンテスキュウ]等)
郵便報知新聞 1846(3/28) [25275
告知「箕作麟祥・大井憲太郎譯「佛國法律提要」」
郵便報知新聞 1861(4/16), 2006(10/7), 2007(10/8),2008(10/9),
2046(11/24),2047(11/26) [25276
社說「廢藩置縣」(孟德斯鳩[モンテスキュウ]氏等) 郵便報知新聞 1882(5/10)
[25277
告知「林茂雄譯「訓蒙・政學大意」」郵便報知新聞 1894(5/25),1903(6/4) [25278

告知「米國法律博士ヘンリー・チー・テレ著/日本・島田三郎譯「法律原論」」
郵便報知新聞 2001(10/1),2009(10/10),2010(10/11),
2028(11/4),2036 (11/6) [25279
F.②ジョーヂエ・リーランド述/久松義典譯『體育新論』(「體育ノ沿革」、希臘羅馬)
[25280
③告知「東京數學會社----4/5,午后 1 時、湯島昌平舘にて : 岡本則錄「代數學沿革史」」
郵便報知新聞 1848(3/31),1851(4/4) [25281
告知「東京化學會第一部年會(東京大學ノ學部講義。19 日午后 4 時)----Prof.Atkinson,
History of the Ideals held regarding the Nature of the
Elements」郵便報知新聞 1862(4/17) [25282
告知「算學歷史」郵便報知新聞 1931(7/8) [25283
④投書・伊勢時雄「變遷論第六篇」(アリストートル氏・生物發育の事等)
七一雜報 4-3 [25284
G. 敬宇中村先生校正・津田仙・柳澤信大・大井謙吉譯『英華和譯字典』(2 册)
[25285
告知「菅野[虎太]先生譯「羅甸七科字典」(全 1 册小本。鶯撫列兩[ガブレル]氏、巴
依西[ハイゼ]氏の他國字典より抜粋。先生記憶に
よる羅甸語數千を加へて記述)
郵便報知新聞 1839(3/19),1849(4/1), 1850(4/2) [25286

明１３(１８８０)
A. 森谷重次郎『通俗造化起原史---一名、婚姻之導』 [25287
ジアン・クラセ/太政官飜譯係譯『日本西教史』(2 册。→明 27 訂正增補 2 版)
[25288
告知「土居光華・菅生泰三譯「伯克爾[バックル]氏「英國文明史」」
郵便報知新聞 2095(1/28) [25289
投書「府會議員に質す」(バックル、スペンセル等) 郵便報知新聞 2270(8/26)
[25290
告知「久松定弘「右學課教授----論理學[ローギック]、心理學[プシェヨロギー]」
郵便報知新聞 2286(9/14) [25291
B.②＊[訂正]斯邊撒[スペンセル]原著/文部省譯(尺振八譯)『斯氏教育論』(半一册)
[637] [25292
松井恕助『西哲言行錄』2 册(パアシイ「アネクドーツ」刊否未詳)(?) [25293
丁[イ韙]良/中村正直訓點『天道溯原』(3 卷) [25294
③雜話並飜譯類(浪華)小田和民譯「理學史傳ノ概畧」(ギリシア哲學史、ユークリッ
ド、アルクミデス等）七一雜報 5-22,23,24,27,
28,29,31,34,37,38,40,44, 45,51,52 [25295
雜話並飜譯類「先哲上帝ニ付テ語リシ言葉」(普拉的[プラトン]、瑣格剌底[ソクラ
テス]、シセロ等) 七一雜報 5-25 [25296
雜話並飜譯類「神のゐますことにつひての話」(アルキミデス、イラトステニス、
トレミー、ヒッパコス、ギリシヤ人のコス
モス、ローマ人のモントス、中世暗黒の時

代、グリースの遺産、アリストートル等)
七一雑報 5-29,31,34,37,40,51 [25297
雑話並飜譯類「ヲヲエッチ・ギュリチ氏の書翰(11)----グリシヤのアテンスの景狀及テソス寺院の圖」(アテンス、パルテノン、ソクラテス、プラト、グリースの遺産、アリストートル等)七一雑報 5-49 [25298
④雑話並飜譯類「天地大原因論(1)(6)」(ヒサゴラス、アナキサゴラス、ソコレト[ソクラテス?]、アリストーツル、ゼノ、ダント、トマス・アキノス、羅馬帝ニロー、ヘゲル等)
七一雑報 5-35,49 [25299
大阪大親睦会會演說−−−(横濱)稻垣信「安息日ノ說」(希臘等) 七一雑報 5-32 [25300
大阪大親睦會演說−−−南小柿洲吉「日本女子教育論」(セーント・アウガスチン、グリーキ等) 七一雑報 5-36 [252301
「オオ・エイチ・ギュリキ氏の書翰(10)(11)(12)」(ギリシヤ人、アルテミスの宮、エペソ等) 七一雑報 5-47,48,49 [25302
告知「西周先生閲・松田政久譯「小學道德論」」郵便報知新聞 2157(4/14) [25303
告知「文部省御藏版飜刻「修身教訓」(全 1 册) 郵便報知新聞 2276(9/2) [25304
告知「五味尚二郎抄譯「西國名士傳」」郵便報知新聞 2298(9/29) [25305
社說・波多野承五郎稿「教育餘論」(希臘羅馬、スパルタ等)
郵便報知新聞 2310(10/13) [25306
社說・竹内正志郵寄「眞理ハ早晩登場ス」(ソクラテス、希臘ノ文藝等)
郵便報知新聞 2327(11/2) [25307
告知「海舟・勝先生題字、魯道・北畠先生序、敬宇・中村先生序、秋山・大沼先生譯詩、中洲・三島先生閲、乾立夫・中原淳藏譯「泰西名士傳」」(上中下)
郵便報知新聞 2346(11/26),2350(12/1),2362(12/15) [25308
C.②尾崎行雄編譯『泰西名家幼傳』(?) [25309
清宮秀堅・中島市平補『新撰年表』 [25310
④投書(信州)松代公會信徒「無題(貴社 49 號批評)」(希臘人プロターク等)
七一雑報 5-8 [25311
雑話並飜譯類(遠州相良)小澤龍三述「兩夜のついでばなし」(フィリップ物語等)
七一雑報 5-20 [25312
社說・藤田茂吉稿「外形論」(羅馬帝等)郵便報知新聞 2230(7/9) [25313
告知「沼間守一校閲・久松義典譯述「續・雄辨大家集」」
郵便報知新聞 2305(10/7) [25314
告知「久松義典編纂「萬國史略」」郵便報知新聞 2364(12/17) [25315
D.①聖書飜譯委員社中譯『新約聖書』 [25316
Thomas James(trans.),Aesop's Fables, Tokyo, Watanabe, 1880) [25317
E.②＊[訂正]ブルンチュリー/石津可輔譯『國會汎論』 [661] [25318
④社說・犬養毅「無題」(カルサジー、アゼン、羅馬等)
郵便報知新聞 2117(2/25) [25319

社說・竹内正志郵寄「寡人政治」(ギゾー氏、希臘羅馬等)
郵便報知新聞 2298(9/29) [25320
告知「吉本達編「法律原論」」(全 3 册) 郵便報知新聞 2370(12/24) [25321
F.④社說・原敬稿「理義ノ勢力ヲ論ス」(希臘ノ工藝、プラトン等)
郵便報知新聞 2300(10/1) [25322

明１４(１８８１)
A. ゼームス・ウキリアム・ギルバート/西村玄道譯『泰西布教要術』(是我書房版)
[25323
廣告「小川爲治纂輯「一學問ノ方法」」(全 4 册) 郵便報知新聞 2638(11/8)[25324
末廣重恭「漢學變遷論」(ソコラテス、ギゾー氏文明史等)
朝野新聞 2237(3/6) [25325
論說「社會ト教法トノ關係」(ボックル文明史等) 朝野新聞 2243(3/13) [25326
北海漁史「英學國士ハーリス氏文明論抄譯」(古代、アリストーツル等)
東京與論新誌 30 [25327
(?)「人類の起源」(ホーモル、希臘人等) 六合雜誌 11 [25328
論說・ヘンリー・フォールヅ「人類ノ起源(第六卷)」(希臘道學者等)
六合雜誌 16 [25329
傳記「ギゾウ畧傳」六合雜誌 16 [25330
B.①教理・福アウグステン講述/栗野得一郎譯「現在未來ノ生活ヲ論ス」
正教新報 9 [25331
雜錄「金言」(ソクラテス、ソロン、プルタルフイー) 正教新報 13 [25332
②美國・維格爾暹/久松義典譯『學校總理論』(?) [25333
奚服氏著/西周譯『心理學(上下合册)』(?) [25334
チャムプル等/吉田五十穗譯『西哲小傳』(?) [25335
③雜錄「訓言」(アポルロン、ソクラテス等) 正教新報 4 [25336
雜錄「賢婦ノ勸告」(福アウグスティン、母モニカ) 正教新報 8 [25337
雜錄「上帝ノ智ハ人智ノ及フ所ニ非ス」(アウグスティン) 正教新報 11,12,13
[25338
雜話並飜譯類「僞善の惡むべきこと」(ギリシヤの聖人索克拉的[ソクラテス]等)
七一雜報 6-5 [25339
雜話並飜譯類(浪華)小田和民譯「理學史傳ノ概畧」七一雜報 6-18,19 [25340
雜話並飜譯類「龍宮の乙女」(セイレーン、オルフェウス、ユーリセイス・アルゴヲルヒーヲスツ、ギリシヤの昔噺等)
七一雜報 6-31 [25341
雜話並飜譯類「希臘國ノ聖賢ソクレチス氏畧傳」七一雜報 6-43,45,48,51 [25342
④澤田平三郎「眞理ハ何レノ處ヨリ湧出スル乎」(聖賢蘇格剌底[ソクラテス]等)
東京與論新誌 38 [25343
壽喜家滿「近事記者ノ反射」(瑣格剌底[ソクラテス]等) 東京與論新誌 43 [25344
修身・院長ゲラシムウジ演述/三井西面譯述「自然教ハ人道ヲ維持スルニ足ラス」
(シセロン、希臘羅馬ノ民、カリグラ、子ロン、ド

ミテアン帝、プルタルヒ、詩家ホラチイ、ユピテル神、ギボン、希臘羅馬ノ理學者、プラトン、アリストーテル、ソクラテス、ストイク、アルキビアデス等)正教新報 2,3,4 [25345
修身「修道將軍の續き」(ロマン帝、希臘等) 正教新報 2 [25346
教理・松井壽郎「宗教論第二篇」(希臘のヲルブェーノ詩、ゼーウス神、ゲジオド[ヘシオドス?]、ゴメル[ホメロス?]、ピンダル、エウリピード、エスヒル[アイスキュロス?]、ソフォクル、ピファゴル[ピタゴラス?]、ゼノン、ソクラテス、プラトン、アリストテリ、シセロ、アレキサンドリヤノクリメン、シセロ、羅馬、雅典、セネカ等) 正教新報 5,7,8,9,10 [25347
雜錄「父母ノ愛」(アウグスティン等) 正教新報 6 [25348
教理「宗教論第三篇(前号ノ續)」(アリストテリ等) 正教新報 13 [25349
雜話並飜譯類「眞正の友寡なし」(ギリシヤの聖人ソクラテス等) 七一雜報 6-2 [25350
雜話並飜譯類「聞を多くせよ語を少くせよ」(グリシヤの賢人ゼノウ等) 七一雜報 6-2 [25351
雜話並飜譯類(西京)森田久万人「基督教不可不學論(續)」(グリーキノ理學、ローマノ法律、グリースのソコラット等) 七一雜報 6-3 [25352
投書・同志社一寒生「基督教ヲ奉ジタル青年諸君ニ告グ」(プレト等) 七一雜報 6-12 [25353
雜話並飜譯類「亞非利加州ズール國王と宣教師の話」(ギリシヤ國の大博士プラト等) 七一雜報 6-18 [25354
投書・東北ノ寒生「靈魂不死論」(アレキサンドル等) 七一雜報 6-23 [25355
「大阪大演說の概畧(續)−−−宮川經輝「基督ノ感化力」(ソクレチース等)」 七一雜報 6-26 [25356
教會新報「大阪大說教の概畧」(ソクレチース等) 七一雜報 6-26 [25357
投書(西京)澤上漁夫「人ニ宗教心アルヲ證ス」(ウインチイエール氏著書中ヨリ譯ス。グリーキ、ローム等) 七一雜報 6-27 [25358
投書・宇野作彌「神ハ万物ヲ以テ之ヲ知ルベシ」(希臘國ノ碩學アリストーツル、彫刻家フヒデヤス、ヘゲル等) 七一雜報 6-46 [25359
投書(東京築地大學校)森本介石稿「智德ノ辯」(グリーキ、ローム等) 七一雜報 6-47 [25360
投書(神戸) 宇野作彌「婦人ヲ尊重スヘク其教育ノ缺クヘカラサルノ論」(往古希臘國スパルタ婦人ノ一婦人等) 七一雜報 6-49 [25361
七一「安息日論」(ソクレチス、羅馬國人、羅馬皇帝コンスタンチン等) 七一雜報 6-50 [25362
廣告「吉見經綸編「修身論略」」(全 2 册) 郵便報知新聞 2426(3/8) [25363
廣告「恒庵・伊地知眞馨先生、靜齋・堤正勝先生編、成齋・重野先生閲「修身小學」(全 3 册) 郵便報知新聞 2426(3/8) [25364
淺野乾(演說)「何ヲカ貴ト云ヒ何ヲカ賤ト云フ」(羅甸語・希臘の古語等)

朝野新聞 2321(6/14) [25365
雑記「ダニエル・ウェブストル氏信仰條目」(デモセニース、エピキュロス等)
六合雑誌 10 [25366
高橋吾良「非聖氣論(續)」(シセロ等) 六合雑誌 11 [25367
平岩愃保「辨妄批評」(希臘語、マクス・ミューレル等) 六合雑誌 11 [25368
井深梶之助「佛教及基督教」(エ井ゲアン海、希臘羅馬、ヒッポクラテス、アウグツス帝、希利尼[ギリシア]ノ聖人ゼノ等)
六合雑誌 12 [25369
C.②田島象二『西國烈女傳』(→明 19 改題「婦女立志歐洲美談」) [25370
中尾氏就譯・永坂秀親校正『沿革奇談・英艸紙』(マーセット「コンベルセーシオン・ヲン・ゼ・ヒストリー・ヲフ・イングランド」) [25371
金子堅太郎『政治論略』(E.バーク「フランス革命論」) [25372
和志理・米迦勒斯基(Vasilli,Mikhailovskil)著/上田將譯『羅馬加持力教會論』[25373
③雑錄「コンスタンティ官吏ヲ選フ」(羅馬ノ皇帝コンスタンティン、コンスタンティノ父コンスタンティ・フロリイ) 正教新報 6 [25374
修身「將軍プラキーダの小傳」(羅馬帝トラヤン) 正教新報 8,9,10 [25375
修身「聖致命女アナスタシヤの苦難」正教新報 8,9,10 [25376
修身「惠施者聖イオマンの芳譚」正教新報 11 [25377
修身「聖女ペラギヤの畧傳」正教新報 11,12,13 [25378
雑話並飜譯類「フ井リップの洪歎」(マセドン王) 七一雑報 6-15 [25379
雑話並飜譯類「節婦ルークレシヤ及びスサンナの譚」(羅馬) 七一雑報 6-22,23 [25380
雑話並飜譯類(京都)一書生「羅馬ニテ基督教ノ擴布」(奥我斯多[アウグストス]帝、ニーロ帝、トロヤンコルコス、ヲーレリュース帝等) 七一雑報 6-28,29 [25381
雑話並飜譯類「惡魔の心」(シイザル) 七一雑報 6-33 [25382
雑話並飜譯類「欲心身を亡ぼす」(グリースのヒルロス王、ローマの賢人シニアス)
七一雑報 6-41 [25383
雑話並飜譯類「西班牙の古水道」(羅馬のウェスペシアン帝等)
七一雑報 6-49 [25384
④「ヲヲエッチ・ギュリチ氏の書翰(14)----巴威里國摩尼克の景狀」(グリシヤ・ローマの蠟石、ソクラチース、デモステニース、アレキサンドル、シセロ、アウゴステン、惡王ニロ等)七一雑報 6-2 [25385
雑話並飜譯類「大人豪傑の出處」(ホーモル、希臘の辯論家デモセンス、ウオルヂル、シンシンケトス等)七一雑報 6-11 [25386
雑話並飜譯類「古今世界各國トン子ルの履歷」(希臘・羅馬等)
七一雑報 6-15 [25387
七一「ヲヲ・エッチ・ギュリキ氏の書翰(20)(21)(22)----富貴は人に幸福を與へるもの乎」(羅馬歷代帝王の事等) 七一雑報 6-22,23,24,25 [25388
投書(京都)一信徒「吾不恥福音」(ヲーゴスト帝等) 七一雑報 6-26 [25389

雑話並飜譯類「ヲヰ・エッチ・ギュリキ氏の書翰(29)----英國博覧會の列品・聖書の眞を證す」(ローマ史等) 七一雑報 6-40 [25390
漫言・醉雲居士「夢之記」(デモスゼ子ス等) 郵便報知新聞 2454(4/11) [25391
廣告「東京大學豫備門第三級入試課業----譯解：スイントン氏「萬國史」」郵便報知新聞 2566(8/22),2578(9/5) [25392
廣告「西村玄道譯述「西洋討論規範・續編」」(全 1 册)郵便報知新聞 2652(12/6) [25393
廣告「農務局駒場農學校・官費生募集----第四：地形學・萬國歷史」郵便報知新聞 2653(12/7), 2654(12/8) [25394
社說・原敬稿「航海者奬勵ノ義」(希臘羅馬等) 郵便報知新聞 2664(12/20) [25395
草間時福「京都府下有志諸君ニ告グ」(シイザア、ポンヒー等)朝野新聞 2211(2/2) [25396
高橋基一(演說)「無敵國外患者國恒亡」(デモスゼンス等)朝野新聞 2234(3/3) [25397
更級矢雄寄稿「精神論」(デモステンス等) 朝野新聞 2248(3/19) [25398
論說・高井俊(麻布)「我ガ國民ハ自ラ其ノ身ノ貴重ナルヲ知レ」(羅馬元老官メ子リウス、アグリッパ等) 朝野新聞 2319(6/11) [25399
論說「狂論世ヲ駁ス(承前)」(デモスセンス等) 朝野新聞 2372(8/14) [25400
報告「東京大學豫備門第三級(最下級)入學試業課目----スイントン氏「萬國史」」、朝野新聞 2376(8/19),2381(8/25),2382 (8/26), 2383(8/27) [25401
雑錄「英雄の効用」(ソクラテ、エメルソン等) 六合雑誌 13 [25402
D.①雑話並飜譯類「狐と葡萄棚」(イソップ) 七一雑報 6-23 [25403
米國聖書『新約全書』(→明 20) [25404
何進善選輯・理雅各[レッグ]訂・廣瀬又治訓點『新約全書註釋---巻 1「馬太[マタイ]傳福音書[上]」』 [25405
靑柳高鞆『馬太[マタイ]傳辨謬』 [25406
紀好弼(R.H.Graves)著/安川亨譯『新約聖書比喩略解』 [25407
③「ロマ國の建築及彫刻像」七一雑報 6-22 [25408
④雑話並飜譯類「下僕より監督となりし少年の話」(グリーキ語、ラテン語等)七一雑報 6-35 [25409
廣告「采覧異言」(新井白石著。全 2 册) 郵便報知新聞 2543(7/25),2549(8/2),2550(8/3),2550(8/3) [25410
報告「中尾氏就「西洋諺集」」朝野新聞 2234(3/3) [25411
報告「新井白石先生・大槻文彦校「采覧異言」(全 2 册) 朝野新聞 2356(7/26) [25412
(?)「詩論一斑」(アリストウトル、マルクス・アウレリウス帝、ストイク派、ホーレス等) 六合雑誌 12 [25413
E.②石田傳吉『内外理想鄉物語』(?) [25414
栗原亮一編『泰西名家政治論纂』(?) [25415
石巻清隆編『法理概言』 [25416
トクヴキル/肥塚龍譯『自由原論』 [25417
④論說「日本婚姻法改正案」(「羅馬婚儀」「日本羅馬婚儀比較」)

郵便報知新聞 2386(1/18), 2387(1/19) [25418
廣告「ボアソナード先生講義/井上操先生纂譯「校訂增補・性法講義」」(全 1 册)
郵便報知新聞 2392(1/25),2436(3/17),2468(4/27) [25419
社說「日本獨立論・第一」(羅馬人等) 郵便報知新聞 2447(4/1) [25420
論說「論養子法---附改正案」(第三・羅馬養子法大略) 郵便報知新聞 2491(5/24)
[25421
龍敦通信・末松謙澄「鋤雲・鳴鶴先生」(モンテスキウ等)
郵便報知新聞 2592(9/1) [25422
廣告「獨乙カルピーデルマン/日本加藤弘之譯「各國立憲政體起立史」」
郵便報知新聞 2608(10/12),2609(10/13),2670(10/14) [25423
社說(又新社)茨木治郎「政治宗教ノ關係」(バックル等)
郵便報知新聞 2624(11/1) [25424
廣告「加藤弘之「絶版廣告」」(「眞政大意」) 郵便報知新聞 2642(11/24) [25425
廣告「文部省編輯局「飜譯二着手セリ」----メイン著「エンシェント・ロウ」(古代法)」郵便報知新聞 2659(12/14) [25426
高橋基一「政府ノ非ヲ論ズルハ何故ニ不可ナルヤ」(ソコラテス等)
朝野新聞 2261(4/5) [25427
論說「兵隊政治」(アレキサンドル、デヲクレチアン、オーガスタス帝、マーク・アントニー等) 朝野新聞 2406(9/24) [25428
共生樓演說筆記「愛國心ノ說」(ソクラチース、モンテスキュー等)
六合雜誌 10 [25429
F.④投書・容膝堂主人「小蟲之演說」(古哲アリストートル等) 七一雜報 6-24 [25430
學藝叢談「生類自生說」(アナキシマントル、エムヒドリクス、アリシトートル等)
六合雜誌 12 [25431
G. 永峰秀樹訓譯『華英字典』 [25432
矢田堀鴻挿譯『華英學藝辭書』 [25433
和田垣謙三等(井上哲次郎)編『哲學字彙----附・淸國音符』(東京大學三學部)
[25434
報告「東京大學文學部印行・哲學字彙」朝野新聞 2349(7/17) [25435

明１５(１８８２)

A. 叢談「日本國印書の進歩」(スマイルス氏・中村[正直]先生飜譯「品行論」、バックル氏「開化史」等) 七一雜報 7-29 [25436
(參考：廣告「東京一致神學校、學科改正廣告」、七一雜報 7-29,30 [25437
・第四學年：教會歷史
・入學生徒資格試驗中：萬國歷史)
(參考：報告「明治義塾豫科課程表」、朝野新聞 2639(7/29) [25438
第三級前期：ゼボン氏論理學/後期：ゼボン氏論理學
第二級後期：羅馬律
第一級前期：哲學史/後期：エマソン氏教育論)
報告「ギゾー氏「歐羅巴文明史」全 14 册」朝野新聞 2747(12/13) [25439

論說・ヘンリー・フォールヅ「人類ノ起源(第六巻)」(エクリーショス等)
六合雜誌 17 [25440
高橋吾良「論開化之理(續)」(シシロ、アリストートル等)
六合雜誌 18,19,21 [25441
B.①雜錄「哲言」(大アファナシィ、ユリアン帝を評す。福アウクテイン[アウグスティヌス?]) 正教新報 47 [25442
叢談「謙遜の美德」(ヲーゴスチンの言) 七一雜報 7-12 [25443
叢談「義務」(セシル[キケロ]の言) 七一雜報 7-41 [25444
②林守淸纂輯『敎育格言』(全 1 册。プラトー、アリストートル、ペサゴラス、セニカ、ク井ンチリアン等) [25445
尾崎行雄(羇堂)『演繹推理學』(增訂 2 版) [25446
ビンネー著/ソーパル、小林謙一郎譯『天道總論』 [25447
北畠路夫『新約全書非福音論』 [25448
On Liberty ,by J.S.Mill,Tokyo,Bookselling Co.,1882 [25449
③谷川元長「品行論」(希臘羅馬等)小學雜誌 12 [25450
(參考:敎會新報「横浜報知演說會---デニング「ソクラテス略傳」」七一雜報 7-45) [25451
投書「議論ノ正確巧妙ヲ欲セバ論法ヲ講スヘシ(續)」(壽各太斯[ソクラテス]、亞利斯奪爾[アリストテレス]等) 郵便報知新聞 2801(6/14) [25452
④「草木に對する山中の演說」(雅典のデモスセンス等)陸羽日々新聞 9/4 [25453
敎理・耶路撒冷ノ聖居利爾[オリゲネス?]演述/三井西面譯「復活ヲ論ス」(希利尼[ギリシヤ]人等) 正敎新報 39 [25454
論說・粟野得一郎稿「太古の宗敎は一神敎なり」(希臘のゼウス等) 正敎新報 46 [25455
論說・粟野得一郎稿「人の知惠を以ては眞正なる宗敎の光明を世に輝かすこと能はず」(シセロ[シセロン]、羅馬帝國、ピファゴル[ピタゴラス?]、プラトン等) 正敎新報 47 [25456
敎理・金口聖約翰講述・三井西面譯「夫婦二相愛和合スルヲ勸ム」(ソクラート等) 正敎新報 46 [25457
七一論說・宇野作彌「思想變遷の理法(續 3)」(アリストートル等) 七一雜報 7-3 [25458
七一論說・森田久万人「眞理ノ品格ノ關係ヲ論ス」(ソコラット、アリストートル等) 七一雜報 7-7 [25459
演說・宇野作彌「良心必ズシモ良心ナラズ」(アルシバイヤデス等)
七一雜報 7-13 [25460
七一論說「宗敎ノ變遷ヲ論ズ」(ブルノー等) 七一雜報 7-17 [25461
演說・ジョセフ・クック氏「方今宗敎ノ徵候」(シイザル、羅馬國ノコンスタンチン帝等) 七一雜報 7-21,22 [25462
七一論說「ジョセフ・クック氏ノ來遊」(ソクラテス、プラトー等)
七一雜報 7-23 [25463
ジョセフ・クック氏演說「日本將來ノ宗敎(1)」(グリーキ人、シーザル等)
七一雜報 7-23 [25464
七一論說・宇野作彌「道義上ノ幸福」(エピキュリ井ス、ストイク等)

七一雜報 7-25　[25465
說教・伊勢時雄「基督と其十字架」(ギリシヤ羅馬の學問等)　七一雜報 7-26 [25466
叢談「靈魂不滅の說(續)」(ギリシア人及び羅馬人、羅馬帝ニーロ等)
七一雜報 7-29　[25467
叢談「奇人の話」(希臘雅典のダイヲヂニス等)　七一雜報 7-32　[25468
叢談「懷疑者流に告ぐ」(アウグスチン等)　七一雜報 7-33　[25469
七一論說・大西祝述「論基督教之道德」(ソクラット、アテンス、セ子カ等)
七一雜報 7-36 [25470
七一論說「神性論」(シラキュース王ハイロー、希臘國賢者ダイヲゼニス、デモクリトス、ヲウガステン、トマス・アク井ナス等)
七一雜報 7-41,45　[25471
「基督の復活事實なる證據」(ローマの法律等)　七一雜報 7-44,46　[25472
廣告「西村茂樹先生講義「殷氏道德學」」郵便報知新聞 2704(2/18),2705(2/20),2723
2723 (3/13), 2764(5/2)　[25473
社說「解惑」(ソローン、デモスゼ子ス等)　郵便報知新聞 2722(3/11)　[25474
廣告「尾崎行雄「演繹・推理法」」郵便報知新聞 2736(3/19),2738(3/31),2739(4/1),
2890 (9/27), 2897(10/5)　[25475
廣告「副島種臣公題辭、石川鴻齋先生篇「小學修身篇」」(全 11 册)
郵便報知新聞 2891(9/28), 2893(9/30),2896(10/4)　[25476
廣告「鈴木忠篤編纂「小學・格言訓話」」(全 3 册)郵便報知新聞 2903(10/12)
[25477
論說・高井俊「品行方正トハ果シテ何物ゾヤ」(ソコラテス等)
朝野新聞 2559(4/8)　[25478
論說「道德論・第二」(ソコラテス、アリストウトル等)　朝野新聞 2741(12/6)
[25479
論說「應飯島獲之君(續)」(ギリシヤ・ローマの聖賢、英國の大學者ペイン等)
六合雜誌 17　[25480
「宗教ノ字義ニ付テ質由ニ答フ」(ロウマノ賢哲シセロ等)　六合雜誌 17　[25481
論說「道德ト宗教」(希臘ノ古哲ソクラット等)　六合雜誌 20　[25482
ジョウセフ・クック「死ハ萬事ヲ經ル可キ乎」(プレート、ソクラテイ、ソッフォクリース、イユリピデス、ニロウ帝等)　六合雜誌 24　[25483
「ジョウセフ・クック氏演說附ロ錄」(プーレト、アリストウトル、エピキュラス、ソウクリシャス等)　六合雜誌 25　[25484
奥野昌綱教師「基督ノ人ト爲ヲ論ス」(シイザル、アレクサンドル、ソクラテイ、昔グリシヤのダイヲジェ子ス等)　六合雜誌 26　[25485
ジョウセフ・クック「道德上ノ品格終ニ永固ナルヲ論ス」(エメルソン氏、プラト、アリストウトル、ソクラテ等)　六合雜誌 30　[25486
C.②＊[訂正]堀ロ昇校閱・黒岩大[涙香]譯・末廣重恭序『雄辯美辭法』?(カツケンボス「修辭學」抄譯)　[721]　[25487
クリストリープ著/ハリス譯述/倉田繁太郎譯『耶蘇教奇跡論』　[25488
米國聖教書類出版會社『繪入耶蘇基督一代記』(改正增補)　[25489
正教會『初代教會史』　[25490
高垣守正譯『世界婚姻奇談』(米人フート氏「婚姻史」)(?)　[25491

江川勝信『西洋奇談・富貴の種蒔』(シュヰル氏「世界史」中、ペルシヤ王キロス傳抄錄) [25492
トーマス・アースキン・メー/川田德二郎譯『歐洲民力史論』 [25493
③修身・森田保留譯「聖大アントニイの略傳(前号ノ續)」正教新報 38 [25494
教會史「古代基督教徒ノ行爲一班(前号ノ續)」(保羅、テルトリアン、アウグステン等)正教新報 38,39 [25495
修身・森田保留譯「大致命者いと賢き處女---聖エカテリナの略傳」正教新報 39 [25496
修身・森田保留譯「聖致命者スミルナの司祭ピヲーニイの略傳」正教新報 39,41 [25497
修身・森田保留譯「カルファゲンの主教聖致命者キプリアンの略傳」(羅馬帝國)正教新報 46 [25498
修身・三井西面譯「義人フィラレトの略傳(前号ノ續)」(皇帝コンスタンティン等)正教新報 47 [25499
雜錄「耶蘇ガ仇敵ニ承認セラレシコト」(羅馬帝ユリアン等) 正教新報 47 [25500
修身・岩澤亞爾子譯「ダマスクの聖人イオマンの略傳」正教新報 48,49 [25501
演教「基督の剛毅」(シーザル、アレキサンデル等) 七一雜報 7-8 [25502
七一論說・大西祝述「基督復活論・第一」(羅馬史の大家ギボン等) 七一雜報 7-30 [25503
叢談「八月の大なる由緣」(ジュリアス・シーザル、ヲーゴスチン等) 七一雜報 7-34 [25504
「貨幣の由來(續)」(ホーマル翁等) 七一雜報 7-48 [25505
④海外實況「雜件」(羅馬の名將シーザル等) 七一雜報 7-3 [25506
七一論說「宗教原論」(日耳蔓ノ學者ヘルデル等) 七一雜報 7-5 [25507
叢談「舊約史論・第二編」(希臘人、羅馬人等) 七一雜報 7-39 [25508
海外實況「近世稀有ノ發見」(ポムペーの遺跡) 七一雜報 7-47 [25509
叢談「舊約史論・第四編、終末總論」(ヘロドトス、シュシヂデス、ゼノフォン、テシヤス、マ子ソ、ペロソス、アビデノス、ミナンドロス、ニコラス等) 七一雜報 7-52 [25510
廣告「末廣重恭序、堀口昇校閲、黑岩大譯述「雄辨美辭法」(クワッケンブス著) 郵便報知新聞 2724(3/12),2797(6/9) ,2903(10/12)[再販廣告] [25511
廣告「岡田黌「ウ井ルソン・リードレー・パアレイ萬國史」」(私家版) 郵便報知新聞 2750(4/15) [25512
論說「我レ敢テ代ハルベシ」(ブルタス、該撒[シーザー]、アウグスタス等) 朝野新聞 2538(3/14) [25513
論說・堀口昇「間諜論」(希臘國ノアテンス等) 朝野新聞 2541(3/17) [25514
論說・高井俊「勳章論」(古代勳章ノ概畧等) 朝野新聞 2550(3/29) [25515
論說・大石正巳(演說)「勳閥政府を論ズ」(シーザル、ポンペー等) 朝野新聞 2568(4/19) [25516
論說・末廣重恭(演說)「區々タル人カ豈能ク自由ノ進路ヲ妨害セン」(シーザル、ブルタス、オーガスタス等) 朝野新聞 2577(4/29) [25517

論說「反動論・第四」(オーガスタス、タシタス、シイサル、ブルタス、ケシアス、フェシアス等) 朝野新聞 2626(7/14) [25518
論說「反動論・第七」(デモスゼンス等) 朝野新聞 2639(7/29) [25519
論說・堀口昇「無題」(デモスゼンス等) 朝野新聞 2713(11/1) [25520
論說「史論・第一/第三」(フェニシヤ國、ヘロドタス等) 朝野新聞 2756(12/23),2759(12/27) [25521
D.①プルウドン著/守永彌六譯『福音全書評註---一名、聖經駁論』(馬太[マタイ]傳・第1卷) [25522
ミハイル編/白極潔譯『馬太[マタイ]福音書註解』(2 册。→明 16) [25523
②ボッカス/大久保勘三郎譯・服部誠一校閲『歐洲情系譜・群芳綺話』(「十日物語」内第 7 話抄譯) [25524
關藤成緒『建築學』(文部省「百科全書」中) [25525
③叢談「年中月名の起源」七一雜報 7-34 [25526
「家畜の由來(續)」(歷山王の東征等) 七一雜報 7-46 [25527
＊[訂正] 無名氏(植村正久)「ホウレーシ詩讀法」六合雜誌 25 [730] [25528
④廣告「獨逸・親而列兒[シルレル]原著/日本松湖漁史[山田郁治]譯述「哲爾[テル]自由譚--- 一名、自由之魁」」郵便報知新聞 2897(10/2) [25529
末松青萍(謙澄)譯「譯錫磊[シェレイ]雲雀詩」郵便報知新聞 2632(11/9) [25530
附錄・報告「明治六年刊行版權所有・通俗伊蘇普物語」(稻田佐兵衛) 朝野新聞 2490(1/10) [25531
附錄・報告「新井白石著、箕作秋坪・大槻文彦校「西洋紀聞」2 册」朝野新聞 2603(6/11) [25532
評說「聖書の飜譯」六合雜誌 17 [25533
質疑應答「音樂ニ付テノ質問二答フ」(ロウマノ賢哲プルタルク等) 六合雜誌 18 [25534
E.②井田實之編『民權自由・西洋演說軌範』 [25535
新潟縣・長谷川春纂輯『國權奮起・政權軌範---附討論演舌の主意』(?) [25536
ブルンチュリー/玉田啓一郎譯『國法國制學沿革史・第一卷』(?) [25537
オルスキン・メイ/川田德二郎譯『歐洲民力史論・緒論』(?) [25538
杉山藤次郎『泰西政治學者列傳』(?) [25539
英國・マクラウド/田尻稻次郎譯『銀行史』(專修學校教科書)(?) [25540
飜譯開始『匝[イェーリング]氏・權利爭闘論』 [25541
井上勤(譯)『良政府談』(サア・トマス・モーア「ユトウピア」) [25542
戎雅窟・婁騷[ジャン・ジャック・ルソー]/中江兆民譯解『民約譯解・第一卷』 [25543
④＊[訂正]廣告「ブルンチュリー/中根重一譯「政治學」」東京日々新聞 11/16 [17892] [25544
七一論說(東京大學)中川恒二郎「道德法律ノ關係ヲ論ズ」(プラトーノ「レポブリカ」等) 七一雜報 7-21 [25545
演說([ジョセフ・]クック氏)「日本富强ノ基礎」(羅馬帝シーザル、シーザル刺殺等) 七一雜報 7-27,31 [25546
社說「主權論」(ギゾー氏等) 郵便報知新聞 2717(3/6),2718(3/7),2719(3/8) [25547

社説・矢野貞雄「都區長公撰論」(ブリュタス、シーサル等)
郵便報知新聞 2780(5/20) [25548
廣告「川田德二郎「歐洲民力史論」」郵便報知新聞 2795(6/7) [25549
廣告「林包明「社會哲學」」郵便報知新聞 2799(6/12) [25550
廣告「墺國スタイン/荒川邦藏譯「國理論」」(全 1 册)
郵便報知新聞 2893(9/30),2894(10/5) [25551
社説・「加藤弘之氏ノ人權新說ヲ讀ム・第一」郵便報知新聞 2920(11/2),2921(11/4),2923(11/7),2924(11/8),2925(11/9),2926(11/10),2927(11/6), 2931(11/16)2932(11/17),2933(11/18) [255552
附錄・報告「獨乙ブルンチリー氏/玉田啓一郎譯「國法國政學沿革史」」
朝野新聞 2521(2/22) [25553
報告「東京經濟學講習會講義錄」(「古代商業史」) 朝野新聞 2582(5/5) [25554
論說・柴山正路「地方自治の利益(續)」(ポンペー、シイザア、スパルタ、アテン等) 朝野新聞 2601(6/9) [25555
論說「論歐洲社會黨」(プラトー等) 朝野新聞 2609(6/24) [25556
報告「ウールセイ氏/依田百川先生批評、宍戸義知先生譯「古今社會黨沿革史」」
朝野新聞 2637(7/27),2736(11/30) [25557
論說「支那ニ對スル政畧如何」(スパルタ、羅馬ニコス等) 朝野新聞 2667(9/6) [25558
論說「讀加藤弘之君「人權新說」」(羅馬帝國ノ滅亡、イェーリング等)
朝野新聞 2730(11/22), 2734(11/28),2735(11/29),2739(12/3) [25559
報告「原彌一郎纂譯「歐米大家・政治格言」(上中下)」(ソクレート、アリストートル、ミル、バックル、ギゾー等)
朝野新聞 2740(12/5) [25560
論說「讀福澤[諭吉]氏時事小言」(ラスキン、ソクラテイ、亞典[アテネ]府、グリシヤのソフ井スト、バックル、プレトー、ターリース、ストイック等)六合雜誌 23 [25561

F.②富山淳道編『病名三語編』
G. 雜報「ドクトル・ヘボン歸港」七一雜報 7-6 [25562
報告「中村敬宇先生、津田・柳澤・大井三先生同譯「英華和譯字典」」朝野新聞 2486(1/4), 2496(1/17),2499(1/20),2552(3/31),2559(4/8),2574(4/26), 2574 (4/26), 2584(5/7),2588(5/12) [25563
附錄・報告「崎陽好樹纂譯「佛和辭典」」朝野新聞 2601(6/9) [25564
報告「泰西政事類典」(請求豫約募集、第 1 卷、第 2 卷)
朝野新聞 2624(7/12),2653(8/15),2718(11/8),2743(12/8) [25565
報告「西周先生序、和田音吉・風祭甚三郎譯「獨和字彙」」
朝野新聞 2690(10/4),2694(10/8),2705(10/22) [25566

明１６(１８８３)
A. 「ジョセフ・クック氏「新日本」」(プルターク、ヘボン氏、希臘語、羅甸語等)

七一雜報 8-10,13 [25567
報告「矢野文雄「譯書讀法」全」朝野新聞 3024(11/15),3026(11/17),3027(11/18),3029(11/21), 3031(11.24),3036(11/30),3038(12/2),3042(12/7) [25568
社說「百年の是非」(ソクラチース等) 東京與論新誌 133 [25569
土居光華譯『英國文明史』(原本トーマス・バックル[伯克爾]、第 7,8 編) [25570
B.②＊[訂正]米國・ヒロビブリアス/西村茂樹譯『教育史』(上下合本) [754] [25571
アレキサンドル・ベイン(倍因氏)/添田壽一譯『教育史』(井上哲次郎、グロート) [*25571
坪井九馬三『論理學講義----演繹法歸納法』(→明 19,21・改正增補版) [25572
中江篤介・野村泰亭(亨?) 譯『維氏美學』(2 册) [25573
清野勉『格致哲學諸論』(?) [25574
ジョン・ウヒルリアム・ドレバル(戎維廉違勒巴兒)/小栗栖香平譯版『學教史論----一名、耶蘇教と實學との爭闘』(→明 24・再版) [25575
大野雲潭『泰西格言集』(第一集) [25576
③元良勇次郎「普通教育ヲ論ズ(續)」(埃及、希臘等)小學雜誌 36 [25577
(?)「女子ト男子」(希臘七賢人の一人ソロン、アリストートル、ホーメル、ハンニバル等)小學雜誌 39 [25578
(?)「歐亞人智發達ノ異同ヲ論ズ(續)」(希臘文字、亞氏、ソクラテス、プラトー、シセロ、タンタス、ゼノフホン、羅馬ノ文字等)小學雜誌 50 [25579
叢談「名士成華ノ年齢」(賢人ソローン、ピコタス、大王アレキサンデル等) 七一雜報 8-12 [25580
④嘉言善行(格言)「スマイルス」小學雜誌 52 [25581
鈴木江淵「西國立志篇序」(漢文、中村敬宇評)螢雪・學庭志叢 33 [25582
井上哲次郎「へーゲルの傳」專攻雜誌 2 [25583
七一(西京)一學生「現世ハ人ヲ滿足セシムルヲ得ス」(アルキメデス、歷山王、賢人アナクサルコ等) 七一雜報 8-2 [25584
七一「社會ト宗教ノ關係」(希臘ノ名家、プルータルク、希臘羅馬ノ文明等) 七一雜報 8-3,4,8 [25585
七一・海老名彈正「天國論」(プレトー、プレトウ、ケトー、アレキサンデル、シーザル等)七一雜報 8-5,6 [25586
七一「天道と人心の論」(ソクラット、プレト等) 七一雜報 8-6 [25587
論說・三宅荒毅投寄「靈魂不滅論(續)」(希臘人羅馬人、プレト、羅馬帝ニーロ、トロセン帝等) 七一雜報 8-9 [25588
七一(京都)南溟生「天啓ヲ論ス」(ソクラト、ソクラテス、シセロ、セ子カ、アセン等) 七一雜報 8-13,14 [25589
論說（西京同志社）三宅荒毅「聖書ハ眞神ノ黙示タルノ論](ソコラチス、プレト、セ子カ、シセロ、ホーモル、希臘理學者、ダイヲクレシアン、トロジヤン帝、プライニーの書翰等) 七一雜報 8-15,16,17 [25590
「豫言の說」（ロマ人、マケドニヤ人、ギリシヤ人等）七一雜報 8-18 [25591

七一「無神論ト有神論ノ理非ヲ判ス」(ヒッパルコス、アリストートル、シシロ等)
七一雑報 8-19 [25592
七一「義ト利トヲ論ス」(羅馬の賢哲シシロ等) 七一雑報 8-22 [25593
植村正久「日本傳道論」(ソクラテス、ヘレネ人、スパルタ、ローマ市民等)
東京毎週新報 6(9/19),7(9/26) [25594
廣告・吉田捨象「井上哲次郎先生、西洋哲學講義開始」
郵便報知新聞 3000(3/10) [25595
廣告「外山正一君序・坪井九馬三講述「論理學講義」(演繹・歸納法)」
郵便報知新聞 3197(10/30),3200(11/2),3210(11/15),
3215(11/21) [25596
廣告「末松謙澄先生著「古代希臘理學一斑」」郵便報知新聞 3236(12/17),
3238(12/19) [25597
報告「東京專門學校入學試驗」、朝野新聞 2775(2/15) [25598
------ 政治學科：論理學(演繹、歸納法大意)
法律學科：政治學科に同じ
公告・吉田捨象「井上哲次郎先生、西洋哲學講義開始」朝野新聞 2817(3/13),
2818(3/14) [25599
報告「井上哲次郎君講義「西洋哲學講義」全 5 巻」朝野新聞 2938(8/3) [25600
論說「保守ノ念慮」(希臘ノ大儒ソクラチース等) 朝野新聞 3054(12/21) [25601
演說・内山名政「形而上ニ着眼セヨ」(フェニシヤ、希臘、ピサゴラス、ヘラクレトス、ソクラチース、アリストートル等)
東京與論新誌 138 [25602
雜錄「兩演說會」(國友會客員デニング氏、ソクラテスの言行等を說く)
東京與論新誌 141 [25603
漫錄・赤松子「心熱逆上」(ソクラテス等) 東京與論新誌 142 [25604
高橋吾良「評大成教誌」(ギリシヤ、ローマノ諸先生、グリシヤノ聖賢、ギリシヤ、ローマ両國ノ先哲等)六合雜誌 31 [25605
元良勇次郎「知識交換論」(グリース古代ノ詩人ホーメル、プレトー、アリストートル、羅馬ノ學士ルシアス、シセロ、シーザー、トレミー等) 六合雜誌 32,33 [25606
イービー述「スペンソル氏哲學ノ批評（續）」(リュクリショス等) 六合雜誌 33
[25607
(?)「宗教ノ道德」(アリストートル、ソクレチース、プレトー等) 六合雜誌 35
[25608
余志多佐久也「哲學論說ノ社會興廢ニ關係アルヲ論ス」(ソフィズム、古昔希臘教會哲學派等) 六合雜誌 35 [25609
高橋吾良「評大成教法幷排眞論者之僻見」(ギリシヤ國、ゼノ、マルクス・アウレリウス帝、クレアンテス、クリシアス、ストイク學、アレキサンデル等)
六合雜誌 36 [25610
吉田作彌「人性ハ善乎惡乎」(ソクラテス、アリシタイダス、エピクラルス、ニーロウ帝等)六合雜誌 37,39 [25611
「倫理所說漫評(上)」(エピキウラス、ストイック等) 六合雜誌 39 [25612

C.②荒井郁之助譯『地理論略』 [25613
杉山藤治[次?]郎『政治學理・演說討論種本』 [25614
久松義典譯『泰西辯談典型』(?) [25615
木瀧清類編『演說引要笑話萬邦史』(?) [25616
石川利之『萬國龜鑑』(全 30 巻)・『繪入通俗萬國龜鑑』(全 10 册) [25617
③無署名「歐洲戲曲　ジュリアス・シーザルの劇」(河島敬藏譯、小宮山天香?)
日本立憲政黨新聞 2/27~4/11 [25618
雜錄「人ヲ救贖ニ導ノ熱心」(エヘス等) 正教新報 61 [25169
漫談・翠嵐生「春宵夜話(The Winter Tale)」(シシリイノ國王・禮溫夫[レオンダス]、
條后邊達溫[アンナゴナス]クルミオン人等)
郵便報知新聞 3004(3/15), 3005(3/16),3006(3/17),
3007(3/19),3008(3/20),3009(3/22),3012(3/26),
3013(3/27),3014(3/28) [25620
④廣告「東京專門學校政治學科及法律學科・第一年組二期生募集試驗課目」
郵便報知新聞 2968(2/1),2973(2/7) [25621
------ 政治學：史學(希臘羅馬)/ 法律學：史學(希臘羅馬)
廣告「石川利之「萬國龜鑑」(全 10 編。希臘羅馬等)
郵便報知新聞 3942(5/1),3954(5/15) [25622
廣告「石川利之「繪入通俗萬國龜鑑」」郵便報知新聞 3042(5/1) [25623
廣告「東京大學豫備門「本黌第一級ヨリ第三級マデ新募集」
郵便報知新聞 3049(4/9),3051(5/1),3052(5/12),
3103(7/11),3106 (7/14),3108 (7/17), 3125(8/6)
[25624
------- 第三級入學試業科目：譯讀反譯「スウィントン「萬國史」」
廣告「岡本直吉「Suinton's Quttlines of the World's History,part I,section III」(「キリーキ」、「ローマ」) 郵便報知新聞 3082(6/16),3083(6/18)
[25625
廣告「東京大學法學部別課法學生徒募集廣告」郵便報知新聞 3110(7/19),3113(7/23),
3120 (7/31), 3122(8/2),3124(8/4),3125(8/6) [25626
------ 洋文：アンドレー「萬國史」
論說「仁政論・第九」(デモスゼンス、オーガスタス等)朝野新聞 2775(2/15)[25627
報告「東京專門學校入學試驗」、朝野新聞 2775(2/15) [25628
------ 政治學科：史學(希臘、羅馬、中世史大意)
法律學科：政治學科に同じ
理學二年級：歷史(太古及び中古の部)
論說「揚州ノ鶴」(スパルタ、オーガスタス等) 朝野新聞 2831(3/12) [25629
論說「何ヲカ侮辱ト云ヒ何ヲカ成法誹謗ト云ヒ何ヲカ國安妨害ト云フ(續)」(デモスゼンス等) 朝野新聞 2841(4/12) [25630
報告「石川利之「萬國龜鑑」(希臘羅馬あり)、「繪入通俗萬國龜鑑」」
朝野新聞 2884(6/1) [25631
論說「世事ハ波瀾ノ如シ(續)」(ホーメル、オーガスタス、ギゾー、ボックル等)
朝野新聞 2995(10/10),2997(10/12),3005(10/23) [25632
論說・信濃太郎「名ニ惑ハサルル勿レ」(アレキサンダー大王、シーザー等)

東京與論新誌 143　[25633
高橋吾良「日本古史考緒論」(ギリシヤ國ホメル、ローマ人ビルジル等)
六合雜誌 37　[25634
高橋吾良「日本古史考・第 4 章」(ギリシヤ并ローマノ文學等) 六合雜誌 40
[25635
D.①斐沃芳著/上田將譯『羅馬書註釋』(上中巻。聖使徒保羅達羅馬人書註釋)　[25636
上野巳熊『提多[テトス]書註釋』(聖使徒保羅贈提多書)　[25637
陶錫祈(トウ・シャッキ)漢譯/奥野昌綱和譯『雅各[ヤコブ]書註釋----新約聖書』
[25638
Yesuno Tatoe Banashi,Yokohama Bible Press,1883（邦文にローマ字併記）　[25639
②＊[訂正]矢野龍溪纂譯『齎名武士・經國美談』前編(→明 17 後編。明 20、40 合本版。阿保留[アポロン]等)　[776]　[25640
③叢談「詩家ホーメル氏の傳」七一雜報 8-18　[25641
④演說・赤羽萬二郎「稗史講演演劇ノ改良ヲ論ジテ世ノ稗史講演演劇二從事スル者二諜ル」 (ソクラテス、ブリュチス[ブルタス]等)
東京與論新誌 144　[25642
藤田茂吉譯「春宵夜話」(シェイクスピア[Ch.ラム]「ゼ・ウイントルス・テール」)
郵便報知新聞 3/14~3/28　[25643
府下雜報「古畫重於海外」(希臘羅馬印度等) 郵便報知新聞 3059(5/21)　[25644
廣告「佛國フェ子ロン氏著・日本伊澤信三郎譯「經世指針・鐵烈奇談」」
郵便報知新聞 3173(10/1),3181(10/10)　[25645
E.②井上勤『新政府組織談』(←明 15,トマス・モーア「良政府談」改題)　[25646
栗原亮一『魯曹[ルソー]自敍傳』(刊否未詳)　[25647
小野衛門太『蘆騷[ルソー]懺悔記事』(刊否未詳)　[25648
戎雅窟・婁騷[ジャン・ジャック・ルソー]/原田潛譯『民約譯覆義』　[25649
中江篤介(譯)『非開化論』(ルソー「Discours sur les Scienses et les Artes」)　[25650
杉山藤次郎編譯『政治學術金言集--- 一名、作文演說引用』　[25651
ウィリアム・マークビー/安藤一太郎等譯『法理原論』(3 册、巻 1 校正・鳩山一夫、巻 2,3 譯者・小野德太郎。→明 17)　[25652
ジョン・オウスチン/鳩山和夫譯・田島達策記『法理』　[25653
植木枝盛『天賦人權辯』　[25654
④「英國グラッドストン氏著「希臘古政考」」東京與論新誌 109,111　[25655
荒井泰治演說「政治ノ意義(東京政談演說会二於テ)」(アテーヌ共和ノ希臘王ヒリップ、モンテスキュー等)東京與論新誌 141　[25656
廣告「政體各論」郵便報知新聞 2957(1/18),2959(1/20)　[25657
廣告「植木枝盛先生著「天賦人權辨」」郵便報知新聞 2972(2/6)　[25658
廣告「馬場辰猪著「天賦人權論」」(全 1 册)郵便報知新聞 2984(2/20),2987(2/27)
[25659
社說・高橋胤彦「正黨員ノ本務ヲ論ス」（アリストートル等）
郵便報知新聞 3062(5/24)　[25660
社說・高橋胤彦「腕力ノ說」（羅馬帝セベス、カルテージ、ハンニバル等）
郵便報知新聞 3072(6/5)　[25661

廣告「土居光華先生題字・杉山藤次郎纂譯「泰西政治學者列傳」」(孟德斯鳩[モンテスキュー]､魏層[ギゾー]､彌爾[ミル]､斯邊鎖[スペンサー]等)
郵便報知新聞 3102(7/10),3109(7/18) [25662
社說「上告判決澁滯ノ不利及ヒ私裁判ノ必要ナルヲ論ス・第 4,5,6」(希臘アゼン、羅馬法等)郵便報知新聞 3131(8/13), 3132(8/14),3133(8/15) [25663
廣告「米國ウールセイ/日本堀口昇譯「政學、一名政治理學」」
郵便報知新聞 3196(10/29) [25664
廣告「米國ケーベル/日本大石正己譯「政經、一名政法道德論」」
郵便報知新聞 3198(10/31) [25665
論說「道德ト政事ノ關係・第一/第二」(シイザア、マキャベリー等)
朝野新聞 3023(11/14), 3025(11/16) [25666
F.④廣告「落合泰藏著（石黑忠篤・淺田宗伯・永松東海・今村了庵閲序）「漢洋病各對照錄」（上下・附錄。羅甸語あり）
郵便報知新聞 3077(6/11),3079(6/13) [25667
論說「雪ニ對シテ惑アリ」(西哲ギゾー氏等) 朝野新聞 2797(2/4) [25668
北洋學人編「ダーウィン氏ノ傳」(アリストートル、エパミノンダス、詩人ゴエテ等) 六合雜誌 39 [25669
G. 羅布存德(ロブスタード、W.Lobscheid)/井上哲次郎校訂『訂增・英華字典』(全 1 册) [25670
東洋舘書店『引用外國人地名便覽』(→明 17) [25671
和田萬吉・風祭甚三郎共譯『獨和字彙』(全 1 册) [25672
司法省編譯『法律語彙初稿』(司法省) [25673
廣告「(丸善)百科全書豫約廣告」郵便報知新聞 3103(7/11) [25674
廣告「伊藤圭介先生閲・柴田承桂先生校・伊藤謙先生編・村井純之助先生補「增訂・藥品名彙」」（羅甸語）郵便報知新聞 3239(12/30) [25675
報告「百科全書豫約廣告」朝野新聞 2922(7/15),2923(7/17),2928(7/22),2947(8/4),2950(8/17), 2951(8/18),2952(8/19), 2953(8/21),2954(8/22), 2955(8/23), 2956(8/24),2957(8/25),2958(8/26),2959(8/27),2960(8/24),2957(8/25),2958(8/26),2959(8/27),2960(8/29) ,2961(8/30), 2962(8/31) [25676

明１７(１８８４)
A. 論說・廣瀨彬稿「日本ヲ開明ニ導クノ策」(ソクラット、プラトン、アリストット等) 東京與論新誌 156 [25677
文苑雜賞・栗本鯤撰「文明東漸史序」郵便報知新聞 3472(9/29) [25678
文苑雜賞・敬宇中村正直撰「文明東漸史序」(亞利斯篤[アリストテレス]等)
郵便報知新聞 3474(10/1) [25679
文苑雜賞・森田思軒「文明東漸史外篇序」郵便報知新聞 3480(10/8) [25680
文苑雜賞・高鋭一甫「文明東漸史外跋」郵便報知新聞 3481(10/9) [25681
論說・關根政路「開化ト開化ノ戰爭」(フラトウ、ヂヲヂネス、ホウマー、アナクレヲン等) 朝野新聞 3269(9/28) [25682

雜報「亞細亞學舘課程----英學：パーレー　萬國史」朝野新聞 3321(11/30)[25683
B.②バックレー/近藤賢三譯『萬國學術史』(希臘時代より) [25684
V.カウシン/竹越與三郎譯『近代哲學宗統史』(全 5 册。第 1 册「總論」ヴ井クトル・カウシン著/ヲ・ダブリュー・ウェート米譯/竹越與三郎重譯) [25685
レヴィス/關直彦譯『哲學通鑑』(古代より) [25686
レウエス/和田瀧太郎譯『哲學通鑑』(全 10 册、ギリシヤ關聯) [25687
ボーエン/有賀長雄譯『近世哲學史----譯解』(第 1-3 合綴 2 册。→明 18) [25688
襄・維・納屈士(G.W.Knox)/石川寧靜(彝)譯『神學略說』 [25689
③宮川[經輝?]氏「アリストテルの傳」福音新報 2-19,20,21,22,24,25,26,27 [25690
④赤羽萬二郎抄譯「哲學ノ何者ナルカヲ論ジ併セテ哲學ト科學トノ關係及ヒ哲學ト實業トノ關係ヲ說ク」(バイル氏ノ說。希臘古昔のヒロソヒー等) 東京與論新誌 158 [25691
教理・「ミトロポリト」瑪加理乙[マカリオス?]述/上田馬太譯「世界ノ創造ヲ論ス(前号ノ續)」(福アウグスティン等)正教新報 77 [25692
教理・「ミトロポリト」瑪加理乙述/上田馬太譯「物質世界ノ創造ヲ論ス(前号ノ續)」(アウグスティン等)正教新報 81 [25693
廣告「佛國ヴィクトル・カウシン/日本竹越與三郎譯「近代哲學宗統史」」(古代哲學等) 郵便報知新聞 3362(5/22),3365(5/26),3367(5/28),3369(5/30) [25694
井上哲二[次]郎「伯林通信」(ソクラテス、ヘーゲル、ギエテ、シルレル、フムボルト等) 郵便報知新聞 3474(10/1) [25695
廣告「植村正久・奥野昌綱序「眞理一斑」」郵便報知新聞 3494(10/25) [25696
報告「英國レウエス原著/關直彦譯「哲學通鑑」」(古代哲學等) 朝野新聞 3274(10/4),3277(10/8),3279(10/10),3313(11/20),3314(11/21),3316(11/25),3321(11/30),3322(12/2) [25697
咀眞堂主人「宗教ノ津梁」(シシリイノ君、アルキミデース、プリニイ氏等) 六合雜誌 41 [25698
狷狂齋「因循論」(アイヲニヤ、アテンス、スパルタ、ペリクレス、マシドン、ホーメル、ジピチー神、布拉多[プラト]、亞里斯都底爾[アリストテレス]、ヒポクレーテス、ゼノ、マルクス・ヲヲレリヲス、エピクテト等) 六合雜誌 43 [25699
雜錄・小崎弘道「幼童ヲ感化誘導スルノ方位如何ノ問ニ答フ」(ソクラチース、アリストートル等) 六合雜誌 43 [25700
狷狂齋「歸納演繹孰レカ優レル」(シラキューズ、アルキミデス等) 六合雜誌 44 [25701
C.②合衆國モーレー氏著・是石辰二郎譯『地文學』(全 26 章合本) [25702
クリシイ/吉村軌一・岩田茂穗譯『萬國有名戰記』 [25703
英國無名氏著/垣上綠譯『耶蘇開明新論』 [25704
米國聖教書類會社『聖書之奇事』 [25705
③修身・石田約翰譯「聖致命者モーキイの略傳」(皇帝コンスタンティン等) 正教新報 75 [25706

(?)「初代基督教會史」(アレキサンデル大王、トレミー、フハイロー、クレメント、アウグスチン、ターレス、ポリビヲス、アリストートル、セ子カ、ルークレショス、プライニー等) 六合雑誌 46,47 [25707

井深梶之助(記者筆記)「(ロマ皇帝)ジュリアン･ゼアポステイト論」(ドミシアン、トラジアン、マルカス・アオレリヤス、デシアス、デオクレシアン等)六合雑誌 48 [25708

④廣告「美國・謝衛樓口述/清國・趙婉筆記/日本・岡千仞訂正「訂正・萬國通鑑」全 1 册」(第二巻「西洋古代史」)
郵便報知新聞 3307(3/17),3310(3/21),3313(3/25) [25709

廣告「夜學講義科----ス井ントン・萬國史」郵便報知新聞 3328(4/12),3335(4/21), 3340(4/26), 3342(4/29) [25710

廣告「海軍省會計局「海軍主計生徒募集廣告」(試業：萬國史ノ譯法)」
郵便報知新聞 3328(4/12),3329(4/14),3330(4/15) [25711

廣告「東京大學法學部別課法學生生徒募集廣告(試業：獨文ウェルタル萬國史)」
郵便報知新聞 3329(4/14),3331(4/16),3334(4/19),3335(4/21), 3338(4/23) [25712

廣告「東京大學豫備門入學試業科目」郵便報知新聞 3380(6/12),3384(6/17),3386 (6/19), 3389(6/20) [25713

-----獨乙語學或ハ英語學：釋解(譯讀反譯)スウ井トン氏・萬國史」

論說「社會ノ進歩ハ自然ニ摸倣スルニアリ・第三」(ヒポクラチース、アレキサンドリア、アスクレピヂシス、セミソン等)
朝野新聞 3039(2/8) [25714

論說「内地雜居論・第一」(羅馬兵ノアルプス越等) 朝野新聞 3109(3/) [25715

報告「海軍主計生徒募集廣告----英學：萬國史の譯讀」、朝野新聞 3142(4/11), 3144(4/13),3146(4/16),3150(4/20) [25716

報告「東京大學法學部別課程法學生徒募集廣告----洋學：ウェルタル萬國史畧」
朝野新聞 3144(4/13),3146(4/16),3150(4/20) [25717

論說「如何ナル方法ニ頼テ人心ヲ支配ス可カ」(マセドニヤ等)
朝野新聞 3160(5/2) [25718

「婦人ノ地位ヲ論ズ」(ホーメル、ツロイ、スパルタ王、アリストートル等)
六合雑誌 41 [25719

高橋吾良「日本古史考・第 7.9 章」(ギリシヤ語、ラテン語等)
六合雑誌 42,43 [25720

東京青年會一員「社會ニ起リシ人爲淘汰----大疑問二答フ」(アテンス、ソクラチス、プレトー、デモツセニス等) 六合雑誌 43 [25721

D.①イムブリー/井深梶之助譯『福音史---- 一名、基督言行錄』(→明 20・2 版)[25722

ミハイル/小野彼得譯『約翰[ヨハネ]福音註解』(2 册) [25723

斐沃芳著/白極潔譯『以弗所[エペソ]書註解』(聖使徒保羅達以弗所人書註解) [25724

②原彌市郎譯『經典史』(チャンバー氏百科全書中の一篇を飜譯) [25725

伊澤修二『音樂取調成績申報書』(「音樂ト教育トノ關係」、プラトン) [25726

④雜報「老練リー氏の演說」(古代の語學等) 東京與論新誌 178 [25727

廣告「永井徹「各國演劇史」」(希臘羅馬等) 郵便報知新聞 3304(3/13) [25728
社說「獨逸學及ヒ支那學」(希臘羅典學等) 郵便報知新聞 3328(4/12),
3329(4/13) [25729
論說・高田早苗「英學論一斑(1)」(羅甸語等) 郵便報知新聞 3421(7/30) [25730
E.②高田早苗・市島謙[謙?]吉『國憲論』(ウルピアヌス等) [25731
＊[訂正]亞哥剌士[アコラス]著/中江篤介校/酒井雄三郎・白石時康譯『政理新論(前篇上下)』 [812] [25732
高木豐三『佛國・法理學』 [25733
湯目補隆『歐米女權』(?) [25734
③漫語・咄々小史「社會ニ起レル人爲淘汰ノ疑問答辨ヲ批評ス」(加藤弘之、東洋學藝雜誌 29 號。スパルタ、アデン、ライカルガス憲法、マセドン王等)東京與論新誌 165 [25735
④飜譯・スペンセル氏著/波多野傳三郎譯「地方官司論(續)」(スパルタ、アゼンス、アッチカ、羅馬、タシタス、サー・ヘンリー・メーン等)東京與論新誌 155,160,162 [25736
飜譯・佛國ジュールシモン/荒井泰治譯「自由權ノ鞏固」(羅馬、子ロン、アリストット、モンテスキュー等) 東京與論新誌 157,158 [25737
長嶋正義寄稿「政治家トハ何ゾヤ」(シーザル、ブリュタス[ブルタス]等)
東京與論新誌 157 [25738
論說・和知和太郎「政理通義(續)」(太古ノ史家ヘロドタス、スパルタ、アゼンス、ライカルガスノ法律等) 東京與論新誌 185,186,195 [25739
廣告「佛國ジウールダン氏原著/日本織田人覺・河村善益譯「佛律原論」」(羅馬法等) 郵便報知新聞 3258(1/16) [25740
廣告「英國デヴィッド・ヒューム/日本黑岩大君譯「政治哲學論集」全 3 册」
郵便報知新聞 3325(4/9),3326(4/10), 3327(4/11),3328(4/12),
3333(4/18) [25741
社說「獨逸學及ヒ支那學」(モンテスキュー等) 郵便報知新聞 3330(4/15) [25742
廣告「馬場辰猪・島田三郎先生序・木村鐵三郎義解「政治哲學法律金言集義解」」
郵便報知新聞 3352(5/10) [25743
社說「日本將來ノ内閣(續)」(プラトー、アリストートル等)
郵便報知新聞 3414(7/22) [25744
論說「獨裁政治ノ利益」(オーガスタス、アントニー、レヒダス等)
朝野新聞 3132(3/29) [25745
報告「英國ダビッド・フーム氏/黑岩大君譯「政治哲學論集」」
朝野新聞 3143(4/12) [25746
論說「人民ハ政府ノ反射ナル」(アゼン、スパルタ等) 朝野新聞 3160(5/2) [25747
論說「政治家ノ資格」(プラトー氏等) 朝野新聞 3161(5/3) [25748
報告「馬場辰猪・島田三郎先生序・木村鐵三郎義解「政治哲學金言集義解」全」
朝野新聞 3188(6/21) [25749
論說「財房ノ安國(續)」(希臘羅馬等) 朝野新聞 3293(10/28) [25750
論說「國家對」(希臘政事學者、グナイスト、マキャベリー、アゼン、グロシヤス、メ子ニコース、アグリッパ、プラトー、アリストートル、ハ

ンボルト等)朝野新聞 3320(11/29),3321(11/30),3324(12/4),3325
(12/5) [25751
狷狂齋「土地ヲ以テ君主ノ所有ト爲スノ話(續)」(タソル、ヘンリー・メーン氏、
チベリウス、グラコス等) 六合雜誌 42 [25752
F.②黑澤惟則編/佐々木文蔚・瀨川昌耆閲『病名便覽』 [25753
④論說「算數之要ヲ論ズ」(ユクリード等) 朝野新聞 3107(2/28) [25754
(?)「進化ト有神論ノ關係(續)」(アリストートル、デモツセニス等)
六合雜誌 45 [25755
G. ＊[訂正]Nishiyama Yoshiyuki(西山義行),revised by TsuyukiSeiichi『英和袖珍字彙』
[819] [25756
松村任三編(矢田部良吉閲)『日本植物名彙』 [25757
＊[訂正]廣告「ウェブストル氏原著/早見純一郎・長野一枝合譯「英和對譯辭典」」
東京日々新聞 11/20,21 [17969] [25758
廣告「片山國嘉先生閲・渡忠純先生編纂「原語附新撰・藥名以呂波字引」」(英獨
羅語) 郵便報知新聞 3352(5/10) [25759
廣告「岩川友次郎編輯「生物學語彙」」郵便報知新聞 3422(7/31),3467(9/22),
3470(9/26) [25760

明１８(１８８５)
A. 學術「文明史ノ要素ヲ論ズ」教育報知 6,7,8 [25761
文苑雜賞・(森田)思軒埜客「題文明東漸史後」郵便報知新聞 3584(2/8) [25762
廣告「松林伯圓謹演「文明東漸史・高野長英實錄」」
郵便報知新聞 3622(3/25),3623(3/26) [25763
(參考：「米國博士フ井リップ・シャフ、獨逸國諸大學」、六合雜誌 59 [25764
・ゴッチンゲン大學：ロイテル氏「中世唯理論史」」(再版「アウグスチン論」)
・ギースセン大學：チッセンドルフ編著「希臘語聖書末版」
・ハイデルブルク大學：ガス「シュライルマッヘル傳」、「基督教倫理史」)
B.②植村正久『福音道志流郎[みちしるべ]』(ソクラテス、プラトン等。→明 21)
[25765
西村茂樹『心學講義』(全 8 册) [25766
ニウトン著『十誡の說明』 [25767
④＊[訂正]中川重麗譯「唯物論一斑(續)」(ツヲイス、ユーノ、アポルロ、アルテミー
ス、ウラヌス、ゲーア、ポサイドン、ヘネストース、
アエラルス、フェヌ、アリストテレス等)
東洋學藝雜誌 49 [17979] [25768
廣報普告「今野一英編纂「西洋哲學士列傳---一名、哲學小史」」
螢雪・學庭志叢 84,85,86,87,89,92 [25769
廣告「井上哲次郎(1,2,3,4 卷)・有賀長雄(5,6 卷)講述「西洋哲學講義」」
郵便報知新聞 3587(2/12) [25770
廣告「教育・心理・論理術語詳解」郵便報知新聞 3606(2/27) [25771
公告「英國レウ井ス原著/日本和田瀧次郎譯述「哲學通鑑」」
朝野新聞 3354(1/8) [25772

公告「坪井九馬三「論理學講義」全 2 册」朝野新聞 3349(1/14),3360(1/15)　[25773
論說「夢ニナレナレ(下篇四)」(モンテスキュウー、ギゾー、ミル、スペンサー、ヘーゲル等)朝野新聞 3615(11/22),3616(11.23)　[25774
中江汪氏筆記・市原盛宏「說教」(ソクラット關聯)福音新報 3-7　[25775
デビス氏「眞正の幸福」(アレキサンドル大王等) 福音新報 3-23　[25776
平岩愃保「眞誠の宗教を論ず」(プルターク關聯)福音新報 3-24　[25777
井深梶之助「基督教の感化」(ギリシヤ、ローマ帝國、セ子カ、マルカス・アウレリウス等)六合雜誌 52　[25778
本間童慶「基督復活論」(シセロ等) 六合雜誌 54　[25779
兩洋天狗「文學士・高田[早苗?]君ノ實物學論ヲ讀ム」(エマーソン、デモクリタス等)六合雜誌 54　[25780
蘇内學人・和爾曼「心理研究ノ方法」(ホルメル、センカ等) 六合雜誌 57　[25781
「舊約書緒論・第一篇」(オーゴスチン、アレキサンドル、シーザー等)六合雜誌 58　[25782
ゼー・ピー・パオン「宗教的信仰ノ論理(續)」(プレトウ、アリストウトル等)六合雜誌 59　[25783
新刊諸書「アメルマン/井深梶之助譯「天地創造論」」(第三章「古代哲學ノ教」)六合雜誌 59　[25784
C.②酒井捨彦『新撰・萬國全圖』　[25785
亞勃的[アボット]/秋庭楓山(濱太郎)譯『閨秀美談、那翁[ナポレオン]外傳』（アボット氏「ジョセフィン皇后」→明 19.2 版　[25786
リットン著/[坪内]逍遙遊人譯「開巻悲憤・慨世士傳」前一」(リエンジー、前半のみ)　[25787
アレキサンドル・ルダコフ/小野成籌譯補『教會史略』　[25788
ウードブリヂ/瀬川淺譯『教會歷史』(2 册。→明 21)　[25789
③コリンズ/譯者不記「羅馬没落奇談・榮華の夢」繪入自由新聞 1/4~?　[25790
④廣告「ロルド笠頓翁[リットン]著/坪内雄藏先生譯「開巻悲憤・慨世士傳」」(羅馬帝ネロ等)郵便報知新聞 3606(3/6),3608(3/8)　[25791
廣告「「萬國龜鑑」發兌學術講演會」(辯士：石川利之、客員：堀口昇、早見忍龍)郵便報知新聞 3643(4/18),3644(4/19)　[25792
公告「稻垣千代橘譯「ウェルテル萬國史獨案内」」朝野新聞 3449(5/13)　[25793
公告「馬場辰猪先生述「雄辯美辭法」」朝野新聞 3521(8/5),3530(8/15),3531(8/16)　[25794
D.①＊［訂正］「大久保常吉譯・伊會保物語」(舊日下部鳴鶴藏の部分譯)繪入朝野新聞?號　[838]　[25795
M.Toyama「［イソップ物語］羅馬字譯・獅子と鼠の話」Rômaji Zasshi 1(6 月號)　[26796
(?)「［イソップ物語］羅馬字譯・兄弟げんかする農夫と息子」Rômaji Zasshi 2(7 月號)　[25797
(?)「［イソップ物語］羅馬字譯・狼と子羊の話」Rômaji Zasshi 3(8 月號)　[25798
渡部溫譯「［イソップ物語］羅馬字譯・アリとキリギリスの話(セミとアリ)」」Rômaji Zasshi 4(9 月號)　[25799

渡部溫譯「[イソップ物語]羅馬字譯・あほーガラス[とクジャク]の話」
Rômaji Zasshi 5(10 月號) [25800
渡部溫譯「[イソップ物語]羅馬字譯・老いたる犬[と狩人]の話」
Rômaji Zasshi 5(10 月號) [25801
渡部溫譯「[イソップ物語]羅馬字譯・ネズミとカエル」Rômaji Zasshi 6(11 月號)
[25802
渡部溫譯「[イソップ物語]羅馬字譯・屋根の上の子ヤギとオオカミ」
Rômaji Zasshi 6(11 月號) [25803
渡部溫譯「[イソップ物語]羅馬字譯・犬と鶏とキツネ」Rômaji Zasshi 7(12 月號)
[25804
渡部溫譯「[イソップ物語]羅馬字譯・カメとウサギ」Rômaji Zasshi 7(12 月號)
[25805
バーンス/三浦徹譯『標附・馬太傳----バーンス氏新約全書註釋』(第 1-6 號、2 册[第1-5 合本]。→明 19) [25806
②＊[訂正]東海散士(柴四郎)『佳人之奇遇』8 編 16 册(→明 30。阿兒貿美鐵斯[アルキメデス]、安斗乳[アントニー]、伊太利、於麟飛[アリンピア]、志清老[キケロ]、久麗王葩都羅[クレオパトラ]、獅威挫[シーザー]、君士擔丁堡[コンスタンチノープル]、獅子利[シシリー]、曾虞刺鐵[ソクラテス]、虞刺怒須屯[グラッドストン]等)
[837] [25807
藤田鳴鶴・尾崎庸夫『諷世嘲俗・繫思談』(リットン「ケネルム・チリングリイ」、朝比奈知泉譯、初め報知新聞・聯載[1 月より]) [25808
井上勤『全世界一大奇書』(合本)(?) [25809
T.Babington Macauley,Milton;An Essay,Tokio Publishing,,1885 [25810
③(在神戸)中津海炳也稿「永生論」(希臘語、拉丁語、ホーマル、ヘロドトス、ソフォクルス、ヒポクレーツス、ミーヂゴス、イースキーロス、デモスセンス、シセロ、エピキューラス、聖ヲーゴステン等)六合雜誌 56,57,58 [25811
④社說「中原ノ鹿果シテ誰ノ手ニ落シ」(グラッドストーン氏) 郵便報知新聞 3762(9/4),3763(9/5),3764(9/6)[3842(12/6),3844(12/9),3845(12/10)にも倒閣をめぐる記事がある。] [25812
文苑雜賞・清宮兼堂「讀經國美談」郵便報知新聞 3832(11/25) [25813
山王下の木葉天狗「指輪ノ裁判」(ボッカチオ「デカメロン」第一日三話分)
朝野新聞 3552(9/11)3553(9/12) [25814
公告「矢野文雄先生纂譯補述「齋武名士・經國美談」(前後篇)」
朝野新聞 3458(5/23),3460(5/26) [25815
報告「東海散士「佳人之奇遇」」朝野新聞 3599(11/4),3613(11/20) [25816
E.②英國・ジョン・イーツ/川上謹一譯『商業沿革史』(?) [25817
加藤政之助『英國名士・回天綺談』(マグナカルタ發布顚末) [25818
江木衷『法理學講義』(1-17 號。→明 21) [25819
筒井明俊『法律本源』 [25820

④論說・鹽太[鹽入太輔]起稿「土地所有權ヲ論ス」(羅馬ローミロース等)
東京與論新誌 204 [25821
澤柳政太郎「愛セラレシ乎將タ恐レラン乎」松本親睦會雜誌 1 [25822
公告「坊寧・有賀長雄「羅馬法綱要」」朝野新聞 3357(1/11),3359(1/14) [25823
公告「外交政略ノ標準ヲ論ズ」(マキャヴェリー、ブリュンチュリー等)
朝野新聞 3381(2/22) [25824
論說・末廣重恭「政事家ノ目的ヲ一定セザルベカラズ(大意)」(ソコラテス、アリストートル、[プラノー]ギヲルダノー等)
朝野新聞 3461(5/27) [25825
報告「エーチ・エス・メイン/鳩山和夫譯「緬[メイン]氏古代法」」
朝野新聞 3556(9/15) [25826
論說「佛國々會改選ノ結果」(アリストトートル等) 朝野新聞 3590(10/24) [25827
西京同志社・林格「兵權論」(シーザリズム、ソロヲン憲法、ペリクル、ヲーゴストヲス等)六合雜誌 52 [25828
F.②＊[訂正] 三木長重『世界數學史物語(上)』 [14239] [25829
英國・ジョン・イーツ/大島貞益譯『商業工藝史』(?) [＊→ E.②] [25830
リー・ナイト・ゼル・カーター・ベックマン等著/海野力太郎纂譯『簿記學起源考』[＊→ E.②] [25831
伊澤富二郎著・柴田勝央閲『病名藥名和洋便覽』 [25832
④雜報「病院の起源」(ホーマー以後、希臘羅馬等) 東京與論新誌 217 [25833
「ホ井ットニー氏和漢洋醫事沿革史年表」(基督教新聞 111 號掲載。エスキュレピアス、ヒポクラテス、プラトー、アリストテル、プラクサゴラス、コスのゼノフォン、アレテウス、ダイヲスコライデス、ゲーレン等)
六合雜誌 57,58 [25834
G. 高田重助發兌『大正增補・和譯英辭林』 [25835
市川義夫纂譯・高橋五郎校訂『英和和英袖珍字典』(→明 20 縮本) [25836
＊[訂正]小山篤敍纂譯『學校用英和字典』 [854] [25837
＊[訂正]小栗栖香平校訂・傍木哲二郎纂譯『明治新撰・和譯英辭林』[855] [25838
＊[訂正]栗野忠雄『袖玉英和辭鱗』 [861] [25839
廣告「工藤精一先生校閲・尾本國太郎・江口虎之輔共編「和英對照いろは字典」」
郵便報知新聞 3551(1/1),3552(1/2) [25840
廣告「普通學科・用語詳解」全 10 卷」郵便報知新聞 3606(2/27) [25841
廣告「小山篤敍纂譯「學校用・英和辭典」全 1 册」郵便報知新聞 3601(2/28), 3603(3/1) [25842
廣告「興津記一郎稿「和英・伊呂波字彙」」郵便報知新聞 3689(6/11) [25843
「村上英俊翁の榮譽」(佛和字典) 郵便報知新聞 3821(11/19) [25844
報告「新宮涼園・伊地知英太郎纂輯「袖珍・醫學辭彙」」
朝野新聞 3591(10/26) [25845

明１９(１８８６)

A. ラ(ル)ボック/井出德太郎譯『開化起源論』 [25846
佛國博士ギゾー氏原著/獨逸國カール・ザックス氏譯/山田郁次閲『文明史』(上下) [25847
浮田和民「文明ノ前途」(マックス・ムロル[ミュラー]氏、古詩ホメル、ギゾー氏、プレトー、アリストテル等)六合雜誌 64,69 [25848
島田三郎「文明道德相關論」(希臘羅馬の文明等) 六合雜誌 68 [25849
浮田和民「文明ノ前途ヲ論ズ」(羅馬賢哲タシチス、ライカルガス等) 六合雜誌 69,70 [25850
井深梶之助「亞細亞ノ光ト世界之光」(マックス・ミュレル氏、ローマ帝國等) 六合雜誌 69 [25851
社說「御雇外國人論」郵便報知新聞 3945(4/8),3946(4/9) [25852
小言・(藤田)鳴鶴山史「文明東漸史に據れる演劇を觀て所思を記す」 郵便報知新聞 4014(6/27),4015(6/28),4016(6/30),4018(7/2), 4022(7/7) [25853
社說「日本ニ於ケル泰西學風ノ變遷及ヒ將來ノ趨勢(續)」(ミル、バックル、スペンサー等) 郵便報知新聞 4036(7/23) [25854
投書・(播陽)岡田梅夫「周遊雜記ヲ讀ム」(矢野文雄[龍溪]著) 郵便報知新聞 4062(8/22) [25855
西洋風俗記「伊國羅馬府の有様如何((續)(正誤)」 郵便報知新聞 4142(11/26),4143(11/27) [25856
(在英ケムブリッヂ大學)未知生「矢野龍溪君に與へて周遊雜記を論す」 郵便報知新聞 4170(12/29) [25857
西洋風俗記「引續て羅馬各所の御話を承り度し(續)」 郵便報知新聞 4171(12/30) [25858
B.②＊[訂正]ラワール(Laval)著/リギョル(Ligneul)・三島良忠譯『心之良藥』 [875] [25859
脇山義保記述『歐米立志金言』(セシル、ソクラテス等、半 1 册) [25860
斯邊撒[スペンセル]原著/有賀長雄譯)『標註・斯氏教育論』(中二册 →明 20 年) [25861
海野力太郎『師範學校起原考』 [25862
平沼淑郎『論理學----通信教授』 [25863
ゼボン(惹穩)氏/戸田欽堂譯・伴新三郎補『論理學』(→明 20・4,5 版) [25864
ダブルュー・デニング述/雨倉子城譯『通信講授錄---論法篇・第一』 [25865
ダブルュー・デニング述/雨倉子城譯『論法講義』(1 册[1-3 合本]) [25866
中江兆民(篤介)『理學鉤玄』 [25867
アレーニ(艾儒)著/三島良忠點『萬物眞原』 [25868
アメルマン/井深梶之助譯『人性論----一名、人學』 [25869
③清澤滿之"The Ethics of Spinoza compared with the Ethics of Plato"、"Brief Explanation of the Fundamental Principles of Philosophy of Spinoza & Plato"(11/2「哲學レポート」、昭 28 年刊全集 1 所収) [25870
④演說・波多野傳三郎演說・鹽入太輔筆記「一夫一婦は人の大倫利(3)」(レッキー「歐洲道德史」等)東京與論新誌 230 [25871
雜報「自殺に關する理論」(ストイック派等) 東京與論新誌 235 [25872

高橋吾良(五郎)「宗教改革之事如何(續)」(ギリシヤ古代の三千の神、マキス・ミラル[ミュラー]、ヘラクライトス、ヘジオト、ホメル、ホラテウス氏等)六合雜誌 60,61,62 [25873
竹越與三郎「陰陽新說(續)」(アリストーテル等) 六合雜誌 60 [25874
「西邨[村茂樹]氏ノ宗教論ヲ駁ス」(エピキウラス等)六合雜誌 64 [25875
「ヘルマン・ワッエ氏有神哲學ヲ略說ス」(デモクリタス等) 六合雜誌 65 [25876
學術・豐臣生「心理學講義・第二章」(プラトー、アリストテリ、大王アレキサンデル等)六合雜誌 65,66 [25877
「宗教的眞理の性質」(雅典人のソクラテス毒殺等) 六合雜誌 67 [25878
「利己主義の道德論」(グリシヤのイピキウラス、セ子カ、ジュエルナル、ソクラテ等) 六合雜誌 67 [25879
雜錄「宗教と自由」(マラソンの役、テモピレーの戰、グリシヤの自由、ギッボン、プレート、モンテスキュー等) 六合雜誌 67 [25880
ジェイムズ・マコッシ「スペンセル氏ノ諸先輩」(プレート、ヘラクリタス、ピタゴラス、タイタン等) 六合雜誌 68 [25881
雜錄「問答二件(靈魂と肉體との關係)」(答：スピル子ル氏。グリシヤ・ロウマの男尊女卑等) 六合雜誌 68 [25882
「基督ノ復活ヲ論ズ」(プレトー、アリストウトル等) 六合雜誌 70 [25883
小崎弘道「宗教の起原(續)」(マクス・ミュラル氏、フ井ニシヤ、カルセーヂ、希臘羅馬等) 六合雜誌 70 [25884
植村正久「基督教神論(1)」(グリシヤのエピキウラス、プレート、ソクラテス、タールース[タレス]、アリストテル、アナクサゴラス、ストイク、アウガスチン、獨乙のツェラル[ツェラー]等) 六合雜誌 72 [25885
土岐篁村「近時厭世哲學」(グリシヤ悲劇、ショウオペンハウエル等) 六合雜誌 72 [25886
松山高吉「汝らの父は求る者に聖靈を與へざらんや」(ギリシヤ人等) 基督教新聞 177(12/15) [25887
論說・小崎弘道「有神論・第七」(希臘の哲學者ヘラクリタス等) 基督教新聞 178(12/22) [25888
C.②鶯林學人・天香逸史譯『沙吉比亞[セキスピーア]戲曲・羅馬盛衰鑑』 [25889
米國派遣傳教師事務局・デビイス(J.Davis)『古代教會史』 [25890
三宅雪嶺『基督教小史』(第一册) [25891
前田甫吉『改正新版・萬國明細全圖』 [25892
後藤七郎衛門編『明治新撰・萬國精圖』 [25893
中里顯孝『古今各國偉人傳』(?) [25894
田島象二『婦女立志歐洲美談』(←明 14「西國烈女傳」を改題) [25895
久松義典『詩史偶評・壯烈譚林』(佛革命史評) [25896
清宮秀堅・安藤一郎補『新撰年表』 [25897
③空々生[小栗貞雄]「志々利[シシリ]譚」（ル・サージュ「ジルプラス物語」の一節譯。郵便報知新聞 10/29~11/7） [25898
④寄書「スピン子ル氏ノ書簡」(タシタス「日耳曼人」)六合雜誌 69 [25899

高橋吾良(五郎)「人類學一斑----評原人論並緒論」(古哲プロタゴラス、ソクラテイス等) 六合雜誌 70,72 [25900
山内員川「讀佳人之奇遇・二首」(漢詩。東海散士)螢雪・學庭志叢 99 [25901
内務省令 10 號「ドクトル・グロート飜譯」([ギリシア]史家)
東京日々新聞 6/25 [25902
文苑雜賞・藤田鳴鶴撰「泰西革命史鑑序」(久松義典著)
郵便報知新聞 3932(3/23) [25903
報告「米國學士・烏斯多爾[ウースタル]原撰/日本・和久正辰譯述「西史擧要」全 8 册」(希臘羅馬史あり)朝野新聞 3694(2/23) [25904
論說「敢テ日報記者ニ横箭ヲ呈セン」(ネロ帝等) 朝野新聞 3743(4/21) [25905
報告「餓鬼堂先生著「基督教小史」」朝野新聞 3795(6/20),3799(6/25) [25906
雜報「羅馬人の遺物」(墺州クウィン縣グルクフェルド)
朝野新聞 3866(9/11) [25907
朝野新聞「タイリンス宮殿の發見」(ドクトル・スクティマン及びドルフェルド、古代希臘) 朝野新聞 3981(6/25) [25908
雜錄「二、大海の利害」(希臘の大王アレキサンデル等)
基督教新聞 124(4/15) [25909
「說教と演說の勢力は何邊に在るやを論ず」(ソロン、ペリクレス、デモセニース等) 基督教新聞 172(7/10) [25910
今日堂主人「憤餘一喝」(アデンス人等) 基督教新聞 177(12/1) [25911
D.①＊[訂正・削除]前田健次郎譯(紅雪、紅雪山人)・大久保常吉(夢遊)編『伊曾保物語』(2 月・春陽堂版、4 月・尚古堂版→明 20) [910] [25912
渡部溫譯「(イソップ物語)羅馬字譯・風と日輪[北風と太陽]の話」
Rômaji Zasshi 8(1 月號) [25913
渡部溫譯「[イソップ物語]羅馬字譯・農夫と息子たち」Rômaji Zasshi 10(3 月號) [25914
渡部溫譯「[イソップ物語]羅馬字譯・胃袋と足」Rômaji Zasshi 10(3 月號) [25915
渡部溫譯「[イソップ物語]羅馬字譯・じゃれつくロバと主人」
Rômaji Zasshi 12(5 月號) [25916
オオツボアイセキ譯「(イソップ物語)羅馬字譯・カエルと牛のはなし」
Rômaji Zasshi13(6 月號) [25917
渡部溫譯「(イソップ物語)羅馬字譯・百姓[獵師]とこうのとりの話」
Rômaji Zasshi13(6 月號) [25918
渡部溫譯「(イソップ物語)羅馬字譯・木と斧[きこりと松]の話」
Rômaji Zasshi 13(6 月號) [25919
假名草紙「伊曾保物語」「(イソップ物語)羅馬字譯・自分を膨らませるヒキガエル」
Rômaji Zasshi 13(6 月號) [25920
(?)「(イソップ物語)羅馬字譯・カラスとキツネ」Rômaji Zasshi 14(7 月號) [25921
渡部溫譯「(イソップ物語)羅馬字譯・オオカミとサギ」Rômaji Zasshi 15(8 月號) [25922
渡部溫譯「(イソップ物語)羅馬字譯・鷄のヒナと眞珠」Rômaji Zasshi 15(8 月號) [25923

渡部溫譯「(イソップ物語)羅馬字譯・男の胸の中の蛇」Rômaji Zasshi 16(9 月號) [25924
渡部溫譯「(イソップ物語)羅馬字譯・ライオンを見たキツネ」
Rômaji Zasshi 16(9 月號) [25925
渡部溫譯「(イソップ物語)羅馬字譯・薪の束の話」Rômaji Zasshi 19(12 月號) [25926
渡部溫譯「(イソップ物語)羅馬字譯・兄弟げんかする農夫と息子」
Rômaji Zasshi 19(12 月號) [25927
オオツボイチロウ譯(假名草紙「伊曾保物語」)「(イソップ物語)羅馬字譯・狐と鶴の話」Rômaji Zasshi 19(12 月號) [25928
J.C.Hepburn 譯(北英國聖書會社)『Warerano shu Iesu Kirisuto no Shin yaku Zensho』 [25929
ラールネデ述/足立琢記『使徒行傳註釋』 [25930
ミハイル[美波伊留]/坂牛支良[保羅]譯『使徒行傳實註解』(上編) [25931
②末松謙澄『演劇改良意見』(附・歐洲劇場曾圖入) [25932
丈山居士[草野宜隆]譯『王子羅西拉斯[ラセラス]傳記』(ジョンソン博士著。2 册) [25933
仁田桂次郎譯『泰西奇談・冬物語/因果物語』(シェイクスピア[Ch.ラム]) [25934
佐野臥牛樓[尚]譯『想夫戀----ボッカース翁十日物語』 [25935
バイロン/大和田建樹譯『新調唱歌・詩人の春』(The Ocean「バイロン氏の青海原」)
③龍動通信・森田思軒「ブラタスの七首グラッドストーン氏の頸上を一打す」(シーザー、ブラタス) 郵便報知新聞 3988(5/28),3989(5/29), 3993(6/2),3994(6/4), また 3975(5/13), 3976(5/14),3978(5/16),3985(5/25)にも倒閣、新組閣、愛蘭問題をめぐる記事が頻出する。] [25936
④「舊譯聖書注解」(羅甸「ウヲルゲート[ウルガタ]」譯書)六合雜誌 61 [25937
四谷浪人「矢野文雄氏ノ宗教道德論ヲ讀ム(承前)」(「經國美談」)
東京與論新誌 263 [25938
(參考：カタヤマキンイチロウ譯「(グリム童話)羅馬字譯・羊飼ひの童」
Rômaji Zasshi 4 月(10 日)號[グリム童話本邦初譯か?] [25939
投書「羅馬字會ノ書方改良ヲ望ム主意」郵便報知新聞 3865(1/5) [25940
文苑雜賞・陳雨農「答森田思軒書」郵便報知新聞 3949(4/13) [25941
龍動通信・森田文藏(思軒)「英國政治世界の局勢、愛蘭事件の問題」(具[グラッドストーン]氏) 郵便報知新聞 3959(4/24),3960(4/26), 3961(4/27),3962(4/28), 3963(4/29),3964(4/30),3965(5/1),3966(5/2)また[3887(1/30),3888(1/31),3890(2/3),3891(2/4),3894(2/7),3895(2/8),3911(2/27),3919(3/9), 3920(2/10),3921(2/11),3926(3/7),3931(3/22),3932(3/23)にも倒閣、新組閣、愛蘭問題をめぐる記事が頻出する] [25942
龍動通信・森田文藏(思軒)「グラッドストーン氏の詭辨、パーテル氏の陰険」
郵便報知新聞 3997(6/8),3998(6/9),4000(6/11)[3992(6/2),3994(6/4), 3995(9/5),3996(9/6),3997(9/7)また 999(6/20),4003(6/15),4004(6/16),

4006(6/18) にも倒閣、新組閣、愛蘭問題をめぐる記事が頻出する] [25943
「發刊」(中央學術雜誌。批評・半峰居士「佳人之奇遇」、春城學人「西哲叢話」等) 郵便報知新聞 3962(4/28) [25944
小石川・樂樂齋主人「ピアノの起源の荅(續)」(希臘等)
郵便報知新聞 4097(10/2) [25945
E.②故小野梓著『民法ノ骨』(全 3 册、羅瑪法等) [25946
ホーランド/大橋素六郎譯『法理學汎論』(上中卷、→明 21) [25947
ル・エラン・エーリング著/オ・ド・ムーランエール佛譯/磯部四郎重譯『法理原論』(合本 1→明 21 再版 2 册) [25948
外山正一述・林茂淳記『社會改良と基督教との關係』 [25949
堀江復譯・尼格賴(ニコライ)閲『教會法學略記』 [25950
マキアヴエリ/杉本淸胤譯『經國策』 [25951
④荅・麹町 F・M「無言の雄辯の荅」(マセドン、羅馬共和國、裁判等)
郵便報知新聞 4091(9/25) [25952
F.②松村任三編『植物學語抄』 [25953
G. 大阪同志社『訂正增補・英和對譯大辭彙』 [25954
P.Austin Nuttall/棚橋一郎譯『英和雙解字典』 [25955
A Japanese-English and Englishi -Japanese Dictionary,by J.C.Hepburn(丸善、東京) [25956
市川義夫纂譯・島田三郎校訂・河原英吉校字『英和和英字彙大全・和英英和之部』 [25957
齋藤恒太郎纂述『和譯英文熟語叢』 [25958
高良二・寺田勇吉共譯『獨英和・三對字彙大全』(1650 頁の大厚册→明 20) [25959
工學協會編纂『工學字彙』 [25960
報告「加太藤林他譯「佛和法律辭彙」」朝野新聞 3710(3/13) [25961

明２０(１８８７)
A. 西洋風俗記「世界三奇觀の一(續)」(古希臘羅馬の大理石等)
郵便報知新聞 4347(7/29) [25962
末松謙澄「ケンブリッヂ大學ノ實況」中央學術雜誌 55 [25963
B.②＊[訂正]辰巳小次郎『西洋女權沿革史』 [1003] [25964
渡邊嘉重『歐米大家教育格言、附列傳』(中 1 册、プラトー、アリストートル等) [25965
スウィンボルン/朝夷六郎譯『通俗論理談』(上中 2 卷) [25966
ジュールダン(儒氏)/磯部四郎・佐藤郁二郎譯『論理學』 [25967
坪井九馬三『論理學入門』 [25968
井上圓了『哲學一夕話』(第 1-3 編) [25969
井上圓了『哲學道中記』(第 1 卷) [25970
井上圓了『哲學要領』(→明 22,23,24 訂正增補) [25971
Albert le Roy,Gustav Ducoudray 合著/鳥居忱譯『哲學一班』 [25972

③「オーガスチンの感化」基督教新聞 203(6/15) [25973
圖書「希臘の七賢人」教育雑誌 40,43 [25974
④＊[訂正]新刊「辰巳小次郎「西洋女權沿革史」」出版月評 3 [1012] [25975
獨乙人スピン子ル「學術と宗教」(古代希臘の哲學士デモクリット及エピクール等)
六合雜誌 73 [25976
豐臣生「心理學講義・上篇(知性の部)」(アリストテル、カイザル、アレキサンデル、アウガスチン、プラトー、シラキュウスのアルキミデス、ホーメル等) 六合雜誌 73,74 [25977
泰西の思想「獨乙國哲學ノ近況」(ヘゲル、前ソクラテ期等) 六合雜誌 73 [25978
宗教及神學雜錄「道徳と文學」(ホメル、ソフォクレス、エスキラス、ユリピデース、グリシヤ、ロウマのタセトス、ビルジル、エイーセス等) 六合雜誌 73 [25979
植村正久纂述「英國哲學の近況」(ヘゲル、グリーン等) 六合雜誌 74 [25980
「文科大學教授チェムバレーン氏の新著を批評す」(希臘國ノジュヒテル、アポロ、エソプ等) 六合雜誌 74 [25981
＊[訂正]森田久万人「哲學ノ目的及範圍附哲學之彙類」(セーリス、アナキシマンダ、ゼノ、フェニーマ、パルミニデース、ゼーノ、ゼノフェニース、ソクラチース、プラトー、アリトシトツル等)
六合雜誌 75[957] [25982
佐藤舜吉「名數考」(アリストートル等) 六合雜誌 77 [25983
植村正久「果たして神に事ふ可らす焉んぞ人に事へんや」(デモクリータス、イピキュラス、ロウマの義士ブルツタス、聖人ソクラテス、ストイク、プラート等) 六合雜誌 79[25984
小崎弘道「有神哲學」(プレトー、アリシトウトル、ヘゲル等) 六合雜誌 80[25985
雜記「英米近時刊行の心理哲學書類」(マックス・ミレル氏の思想學、博言學等)
六合雜誌 81[25986
雜記「宮中顧問官西村茂樹氏が哲學會に呈出せる質疑を評す」(プレトー等)
六合雜誌 83[25987
雜記「德育と宗教」(アリストウトル等) 六合雜誌 84 [25988
「末松謙澄君の三著述」(「希臘哲學一斑」等) 朝野新聞 4017(3/6) [25989

新著の批評「井上圓了著「哲學要領」」朝野新聞 4083(5/22) [25990
「佛教道德一斑」(グリシヤの聖賢ソクラテス等) 基督教新聞 182(1/19) [25991
論說「人物となる修業、特に我等青年の心得」(デモセニース、アリストーテル等)
基督教新聞 190(3/16) [25992
「無神主義の道德」(イピキウラス、ルツクリシャス等)基督教新聞 192(3/30)
----- 何故にグリシヤ國のイピキウラスは善惡を混同し賞罰の理を抹殺するが如き快樂主義の道德を主張したりしや其論の由々來たる所を考うれば宇宙を解說するに無神主義を以てしたるに起因すと謂はざる可らずルツクリシャス其他古への無神主義道德 論者の弊軌轍を同うして皆此に出るは亦一奇と謂ふ可きなり」 [25993

論說・大西祝「童女の教育を論じ幷せて婦女子に望む所あり」(プラトーンの「アイデア」等) 基督教新聞 195(4/20) [25994
原田助「基督の愛、我儕を勉せり」(ソクラテ、アレキサンドル等) 基督教新聞 200(5/25) [25995
德富猪一郎「無名の英雄」(アリストートル等) 基督教新聞 204(6/22) [25996
小崎弘道「基督論一斑」(希臘の哲人プレトウ、ソクラチース、アレキサンデル、シイザル等) 基督教新聞 205(6/29),212(8/17) [25997
C.②＊[訂正]須因頓(スウイントン)氏著/栗野忠雄譯『萬國史直譯』2 册 [989] [25998
＊[訂正]辰巳小次郎『西洋日本女權沿革史』(希臘あり) [25999
ウ井ルソン/鈴置倉次郎譯『歷史哲學』 [26000
越川文之助譯『日耳曼政略史----一名、弗勒德力[フレデリック]大王論』(マコーレー「フレデリック大王論」。→明 23 訂正再版) [26001
渡邊修二郎『世界軍事奇談』(エドワード・ウィリアム・キング「奇事一萬題」[Thousand Wondful Things]より) [26002
柴田六郎『軍役奇談』(原作 Curiousties of War) [26003
下里彌生譯編『泰西偉人傳』(第 1 編)(?) [26004
安岡雄吉『加厘波地[ガリバルヂー]全傳・建國偉業』 [26005
春烟小史[赤司新三郎]『哀別奇遇・誠之鏡』(シェイクスピア「ペリクリズ」抄譯)
マックス・ヲーレル、ブルータ・サイソン著/尾崎行雄・尾崎行隆抄譯『訐隱發秘[ケツインハッピ]・一讀三嘆』(「ジョン・ブルとその島國」)(?) [26006
香夢樓主人[岩本五一]『歐洲奇談・戀情花之嵐』(明 19 空々生[小栗貞雄]「志々利譚」[ル・サージュ「ジルプラス」]と同じ。→明 22 改題「春色花合戰」) [26007
大石高德『泰西美聞・共和之色旗』(佛革命史) [26008
高木秋浦『通俗佛蘭西革命史』 [26009
島尾岩太郎・内田彌八『世界英傑傳』(?) [26010
島嵜湊譯述『才子佳人艷話・歐洲美談』(?) [26011
米國テオドル・スタントン編著/住田頼之譯『西國婦人立志編----一名婦人之活動』(?) [26012
鈴木關造編『全地球之圖』 [26013
松葉卓爾『增補改定・西洋風俗記』 [26014
東洋漁人『耶蘇一代記』 [26015
Hellenischer Heldensaal,von Ferdinand Bässler,hrgb. mit Rücksicht auf neuer Forschungen von Diro Kitao(北尾次郎),Tokyo,Tokyo-Zenshu-Gakko [26016
③北山初太郎「使徒保羅[パウロ]」(希臘羅馬ノ文明、プリニー、セ子カ、エピクテタス、マーカス・アウレリアス等六合雜誌 78 [26017
說林「歐洲古代の髪の斬方」(希臘人、羅馬人) 郵便報知新聞 4202(2/8) [26018
說林「古代に行はれたる毒指環の事」(デモスゼ子ス、ハンニバル等) 郵便報知新聞 4300(6/4) [26019
說林「歐洲にて最も古き新聞紙」(羅馬のアクタデュルナ、シーザル、オーガスタス帝等) 郵便報知新聞 4335(7/15) [26020

④竹越與三郎「社會問題の成行」(ミットフォヲルド氏、グロート氏、シーザル、ポンペー等)六合雜誌 81 [26021
新著の批評「鈴置倉二郎譯「歷史哲學」」(ギボン氏羅馬盛衰記、ギゾー氏文明史等)朝野新聞 4061(4/27) [26022
西洋風俗記「伊太利にて闘獸場及び古共和政治の時の宮殿の遺物等の尚ほ古蹟の面白きもの之ある也(續)」郵便報知新聞 4173(1/4) [26023
說林「髯の沿革」(羅馬等) 郵便報知新聞 4222(3/4) [26024
「青年子弟の爲に明治廿三年の未來記を想像す----革命を生せすとせば暗殺は起らさるや」(シイサル等) 郵便報知新聞 4310(6/16) [26025
說林「歐洲諸國にて用ゆる鷲の徽章の事」(羅馬の古例、シーザル、東羅馬、西羅馬、コンスタンチン帝等) 郵便報知新聞 4336(7/16) [26026
新刊書籍「世界英傑傳」(島尾岩三郎・内田彌八共著。亞歷山等) 郵便報知新聞 4451(12/2) [26027
「馬琴小說の神髓」(ブルウタス等) 基督教新聞 183(1/26) [26028
「東洋淸教徒を論ず・第三」(ジュリアス・シ井ザル等) 基督教新聞 184(2/2) [26029
雜錄「オルリッチ・ズウ井ングリの畧傳(完)」(シセロ、セ子カ、ホーレース等) 基督教新聞 187(2/23) [26030
「男女交際、實地の危險」(ダンテ等) 基督教新聞 188(3/2) [26031
「基督教と婦人」(ロマグリシヤの婦人、クリンストム、ペーシル、アムブロウス、アウグスチン、ロマ帝ジュリアン、碩學リベーニヤス等) 基督教新聞 193(4/6) [26032
論說・アッキンソン「基督降誕日の說」(ロマ國、ネロ、コンスタンチン、保羅[パウロ]、サテルマ等) 基督教新聞 229(12/14)[26033
雜錄「初代の教會に於ける婦人の地位」(ギリシヤ人、コンスタンチン帝時代等) 基督教新聞 229(12/14),230(12/25) [26034
D.①＊[訂正・削除]タウンゼント著/田中達三郎譯・若菜蝴蝶園校閱『寓意勸懲・伊蘇普物語』(→明 21.D.①) [1013] [26035
前田健次郎譯(紅雪、紅雪山人)・大久保常吉(夢遊)編『伊曾保物語』(←明 19 春陽堂版再版) [26036
渡部溫譯「(イソップ物語)羅馬字譯・子牛と鹿」Rômaji Zasshi 21(2 月號) [26037
(?)「(イソップ物語)羅馬字譯・アリとハト」Rômaji Zasshi 22(3 月號) [26038
渡部溫譯「(イソップ物語)羅馬字譯・大山鳴動して」Rômaji Zasshi 25(6 月號) [26039
ラールネデ著/伊勢時雄譯『路加[ルカ]傳註釋』(新約聖書路可傳福音書註釋) [26040
ラールネデ述/加藤勇次郎譯『以弗所[エペソ]書註解』(使徒パウロエペソ人に贈れる書註釋) [26041
海老名彈正『彼得[ペテロ]前後書註釋』 [26042
ハリス述/河村天授編『約翰[ヨハネ]黙示錄註釋---新約全書』(第 1-5 號) [26043
陽瑪若(エンマヌエル)漢譯/三上七十郎(奥斯定)解譯『聖經直解』(第 1 卷) [26044
②牛山鶴堂『英和對譯・西洋落語』(?) [26045

森斌『一覧博識・歐米百家隨筆』(?) [26046
安田倉三『通俗・經國美談』(大川錠吉刊) [26047
英國・麻鴻禮郷[マカウレー]/吉田直太郎譯『批評の鏡・彌兒頓[ミルトン]論』
マーセル/吉田直太郎譯『外國語研究法』(プラト、デモスゼニス、プリュータ－ク、シセロ、セミストクルス、カトー等) [26048
佛國カストル譯/近藤東之助(重譯)・菊亭靜閲(作?)『伊國情史・鴛鴦奇觀』(ボッカス翁十日物語中) [26049
菊亭靜『密夫之奇獄』(「デカメロン」抄譯) [26050
(參考：霧南居士[菅了法]譯版・赤坂龜次郎出版『西洋古事・神仙叢話』(グリム童話譯初出) [26051
中澤順三編・評點『一讀一驚・世界一大奇聞』(譯者不記「志々利物語」、[森田]不語軒主人譯「金驢譚」等) [26052
東條種家編『才子妙案・天外奇談』(「世界一大奇聞」と同内容) [26053
英國・理智先生原撰・渡邊修次郎譯補・宮川保全『大政事家・虞拉士斯頓[グラッドストン]立身傳・附英國時事』(全 2 册) [26054
山田研一『詩文・英語解釋』(ジョンソン博士、スペンサー、ラム、シェイクスピア、マコーレー、ベーコン) [26055
福地復評論・流鶯散史編『演劇史』(日本及西洋) [26056
濱田健次郎『言語哲學』 [26057
④批評・地塘學人「哲學會雜誌を讀む」(ゴエーテ、シルレル、マシュー・アーノルド等)六合雜誌 74 [26058
大西祝「和歌に宗教なし」(ヘラクリトス、プロチユース等) 六合雜誌 76 [26059
海老名彈正「聖書進化論」(トレミー氏、プラトー氏、アリッストーテル氏等) 六合雜誌 78 [26060
嘉波通信・報知叢談「不語軒主人(森田思軒)譯「金驢譚」」郵便報知新聞 4184(1/18), 4185(1/19), 4186(1/20),4187(1/21),4188(1/22),4189(1/23),4190(1/25), 4191(1/26),4192(1/27),4193(1/28),4194(1/29),4195(1/30), 4196(2/1), 4197(2/2) [26061
新著の批評「ラボワー/村越銘譯「音樂沿革史」」(古代希臘等) 朝野新聞 4117(7/1) [26062
電報「米國通信(續)----第 13「ウワッサー女大學校」」(ラテン、グリーキ語等) 朝野新聞 4195(10/26) [26063
名士列傳「美兒頓[ミルトン]の傳并に肖像」教育雜誌 23,24 [26064
ベルンハルゲ/司馬こう譯「フルレンツ[フィレンツェ]府の放れ獅子」 女學雜誌?號 [26065
(?)「ラセラスの傳」(ジョンソン博士「アビシニア王子ラセラス」 西洋學藝雜誌 3,4 月號 [26066
架空道人譯「情天恨地・ししりい物語」(シェイクスピア「冬物語」) 學藝之世界 10~12 月號 [26067
E.②前川普佐二郎『法律名家論集』 [26068
パテルノストロー/宮城浩藏譯『法理學講義』 [26069
ボアソナード述『性法講義』 [26070

有賀長雄『社會進化論』 [26071
③圖書「古代西洋刑具の圖」教育雜誌 45 [26072
④瀬川光行稿「紙幣新論(3)」(阿善ノ名士デモスゼニス等)東京與論新誌 274 [26073
板尾確太郎「社會改良ニ關シ法律ノ用ヲ論ス」(拉丁語、希臘語、古文學、プラトー、ペリキュルス、シセロ、ヂャスチニアン等) 東京與論新誌 323,325,326 [26074
F.②後藤重助編『天地史略』(古今暦集攬) [26075
③學術一斑「羅馬數字の原因」教育雜誌 31 [26076
④說林「魚類も亦睡眠す」(アリストートル等) 郵便報知新聞 4212(2/20) [26077
說林「蠶の歐洲に傳りし時代は如何」(アリストートル、東羅馬帝ヂャスチニヤン帝等) 郵便報知新聞 4421(10/26) [26078
說林「芳香(植物)」(羅馬の名將ポンペー等) 郵便報知新聞 4474(12/29) [26079
G. ＊[訂正]吉田直太郎編纂『珍袖・英和字典』(明 18 市川義夫「英和和英字書大全」和英の部縮抄) [1054] [26080
高橋五郎『漢英對照・いろは辭典』 [26081
箱田保顯纂譯『挿畫訂譯・英和對譯新辭書』 [26082
杉浦重剛他閲・島田豐『附音挿圖・和譯英字彙』 [26083
村松守義『英和雙解隱語彙集』 [26084
Dictionary of Idiomatic English Phrases,by J.M.Dixon(東京共益商社) [26085
高良ニ・寺田勇吉共譯『獨英和三對字彙大全』(前年印行) [26086
普及會『教育心理論理・術語詳解』 [26087
新刊書籍「佛和辭林の全備」(佛學塾版) 郵便報知新聞 4450(12/1) [26088
新刊書籍「平文[ヘボン]大辭書」(大阪日盛舘版) 郵便報知新聞 4469(12/23)[26089

明２１(１８８８)
A. 魯鈍齋[本多利明]著/東京日々新聞附錄『西域物語』(寛政 10 年 7 月中旬、魯鈍齋自序。→昭 10・本庄榮治郎「本多利明集」に飜刻) [26090
ボズウエル/山本憲一譯述『伊曼佛英米・五大國漫遊』 [26091
伊東忠太『浮世ノ旅』(エンタシス等) [26092
荻原善太郎編『日本博士全傳』(附・官費海外留學生並學士名表) [26093
報知新聞・加藤政之助演說「學問の勢力(續)」(アゼン共和政治、ペリクリス、グラッチー、マリウス、ポンペイ、シイザー等) 郵便報知新聞 4739(11/13) [26094
「ヘブリウ語又グリーキ語の教授」(三田のロイド師、通信教授) 基督教新聞 268(9/12) [26095
「必讀十書」(プラトー、ホーマア、アウグスチン等) 基督教新聞 273(10/17) [26096
B.①片言珠璣「セ子カの言」(p.2) 基督教新聞 244(3/28) [26097
②清澤滿之『哲學館講義錄』(アリスットートルと「純正哲學」) [26098
千頭清臣(初名：德馬)『論理指鍼』 [26099
松本源二郎述『論理學講義』 [26100

『哲學舘講義錄純正哲學』(三宅雪嶺「哲學史」) [26101
斯邊撒[スペンセル]原著/文部省譯(尺振八譯)『斯氏教育論』(中一册) [26102
ノックス（襄・維・納屈士）/石川彝（寧靜）譯『基督神子論』 [26103
アメルマン/井深梶之助譯『新約聖書神學』 [26104
アメルマン/井深梶之助譯『神性論』 [26105
アメルマン/井深梶之助譯『天地創造論』 [26106
スピンネル著『萬物ハ唯物質ヨリ成ルカ』(普及福音叢書 1) [26107
スピンネル著『萬有ノ原因ハ靈歟將タ物質歟』(普及福音叢書 2) [26108
瀬川淺『耶蘇教略解』 [26109
加藤覺『まるてん・るーてる傳』(教法改革るーてる傳) [26110
④仙臺東華學校教師デフォレスト「五官及び基督教」(ソクラテス、アリストーツル等)六合雜誌 85 [26111
カクラン「現象は基督教」(プロタルク等) 六合雜誌 86 [26112
原田助「良心は本源(續)」(ポンペーのウィシュイオス火山等) 六合雜誌 86[26113
小崎弘道「日本神學の方針(上)」(プレトウ、アリシトウトル、アレキサンデラのクレメント、アウガスチーン等) 六合雜誌 88[26114
デフォレスト「基督の教へし道德及ひ宗教」(ソクラテス、プレト、アリストツル等) 六合雜誌 89 [26115
＊[訂正]山田寅之助「自然有神論と基督教有神論」(ギリシヤの詩人クレンサス、ターレス、キセノファネス、プラト、ソクラテス等) 六合雜誌 89 [1074] [26116
小鹿旗之進「陰府と地獄」(ヘデス、プルトー、ホーマル時代、ソクラチス、プレトー、アリストテル等) 六合雜誌 90,91 [26117
森本介石「生前の教育」(プレトー、アリストートル等) 六合雜誌 92 [26118
山田寅之助「人間ノ尊貴ハ上帝ヲ信ズルニ在リ」(ソクラテス、プレトー等) 六合雜誌 92 [26119
高臣人生「グラッドストン氏のコロ子ルインガルサル氏基督教論の批評」(アリストートル等) 六合雜誌 92 [26120
小崎弘道「神學の位置及ひ區域」(ピサゴラス、シロスのフェレシテルス、クレティ、エピメニデス、希臘語、ラテン語等) 六合雜誌 92 [26121
大西祝「讀老子」(アナキシマンドロスの「アパイロン」、ストア學者、ターレス、ピタゴラス、詩仙ゴエテ等) 六合雜誌 93,94 [26122
浮田和民「宗教上の遺傳説」（セ子カ、リチャード・ポルソンといふ希臘語學者、スパルタ國、グエーテ、シルレル等）六合雜誌 96 [26123
高橋五郎「我國道德の現狀」(ソクラチス等) 六合雜誌 96 [26124
寄書・沈黙生「身后の事、吾れに於て何かあらん」(エピキュローズ先生等) 東京與論新誌 373 [26125
雜錄「文藝賞本金」(フロワー・シデンハム氏、希臘の碩儒プラトー遺稿の英譯事業完成) 朝野新聞 4276(1/28) [26126
雜錄「志を立つると常に晩からず」(ソクレテース、ケトー等) 基督教新聞 235(1/25) [26127

雑錄「神明の冥護」(アウガスチン等) 基督教新聞 236(2/1) [26128
「日本道德の急務(2)」(アウガスチーン等) 基督教新聞 247(4/18) [26129
雑錄「餘りに高尚すぎる」(アゼンス、ヘロドタス等) 基督教新聞 259(7/11)[26130
「境遇の勢力」(スパルタの少年、ソクレテース等) 基督教新聞 262(8/6) [26131
「矛盾世界」(アレキサンドル等) 基督教新聞 264(8/15) [26132
論說・エミール・レーブレー「宗教の將來(下)」(ソクラテス、エピキュラス派、ホレース等) 基督教新聞 267(9/5) [26133
社說「政府は何が故に基督教を日本國内に公許せざるや」(アリストートル、シセロ等) 基督教新聞 270)9/26) [26134
池本吉治「今日の基督教は果して防護的の位地にあるか」(ホーマー、ダンテー等) 基督教新聞 270)9/26) [26135
高娯廬主人「クリストマスにつゐて」(羅馬皇帝コンモダス、プレトー等) 基督教新聞 282(12/19) [26136
C.①片言珠璣「タシタスの言」(p.7) 基督教新聞 244(3/28) [26137
②＊[訂正・削除]~~淡海散士『政治學術 一 演說達辯法』~~ [1170] [26138
[ヘボン著]奥野昌綱譯『十字架ものがたり』 [26139
米國ウードブリヂ氏口述/瀬川淺譯(佐賀縣)『教會歷史(上下)』 [26140
ゼー・エッチ・デフォレスト/綱島佳吉譯『耶蘇基督の特性』 [26141
堀江景宣譯『評註・聖書名婦傳』 [26142
井深梶之助譯『活きた聖書の力』 [26143
三浦徹『放蕩息子の話』(喜の音 47) [26144
岩田德義『基督教と社會との關係』 [26145
松葉卓爾編(矢野龍溪閲・森田思軒刪潤)『西洋雜話』 [26146
工藤助作『萬國通史擧要』 [26147
叢菊野史[仁田桂次郎]『智孟物語』(Ch.ラム「物語」中「アゼンスのタイモーン」) [26148
幡溪仙史[阿部秀吉]『革命餘聞・英雄之世路』(米人チャンダアス著、佛革命史) [26149
コックス閲・志賀重昂編『英文萬國史(History of Nations)』 [26150
The Child’s First History of Rome,by E.M.Sewell,Tokyo,Jujiya [26151
History (of) Greece,Tokyo,Torindo(Fyffe, Chales Alan) [26152
③スピン子ル「基督教と婦人」(リパニウス、ホーメル、ソフォクレス、アリストテレス、プラトー、ソクラテス、ローマ人、ヒポナックス、ヒポクレス、カルタゴー人、テリツリアン時代、アウグスチン等)六合雜誌 86 [26153
ヘーリング畫/和田垣謙三口譯「基督信者墓碑銘の談」(カタコーム等) 六合雜誌 87 [26154
雑錄「福音記者路加[ルカ]の事」(羅馬帝國) 基督教新聞 249(5/2) [26155
④西京同志社教師・ゴルドン「婦人の位置を高くする事」(スパルタ、ロマ帝國等) 六合雜誌 85 [26156
高橋五郎「日本歷史學」(ニーブル、ロミュラス、ホメル等) 六合雜誌 85[26157
三汊漁郎「歷史家及び宇宙の調和」(デモッセンス、アレキサンドル等) 六合雜誌 86 [26158

竹越與三郎「十九世紀の勲爵士」(ロマのブルタス等) 六合雑誌 90 [26159
元良勇二(次?)郎述・濱田覺太郎筆記「日本歴史を學ぶの要を論ず」(ヘンリー・メイン、ギリシヤ開化、サビニー等) 六合雑誌 96 [26160
鯖江小漁「豪華之夢」(シェイクスピア「アゼンスのタイモーン」梗概) 學藝之世界 1/5~3/15 [26161
雑報「ボロナ大學の名譽學位----モムセン氏(羅馬史學)」 郵便報知新聞 4650(7/28) [26162
新刊「教育學」(能勢和之著) 朝野新聞 4808(10/17) [26163
雑錄「英雄と春」(デモスセン等) 基督教新聞 272(10/10) [26164
D.①＊[訂正]英國都運箋士[タウンゼント]直譯/田中達三郎譯・若菜蝴蝶園校閲『寓意勸懲・伊蘇普物語』(←明 20.D.①) [1013] [26165
＊[訂正]春煙小史(相良常雄)譯『滑稽狂言・雙兒之邂逅』(ラテン詩人プロータスの喜劇。リリー譯「メエヘチミ・オル・ツワイン・プロザース」) [1141]) [26166
＊[訂正]小野辰三郎『伊蘇普物語(漢譯批評)、一名伊會菩喻言』(→明 31) [1142] [26167
＊[訂正]竹村友治郎『伊曾保物語』(天理本イソップ、改進堂版) [1145] [26168
Charles Stickney(trans.), Aesop's Fables, with A Life of Aesop,Tokyo,Yoshidaya,1888 [26169
村上司馬編『各國才子・寄合演說』(不語軒主人譯「金驢譚」等) [26170
大舘利一編『西洋日本・昔噺』(伊會保) [26171
ウィリアム・ジョーンス/四方素譯『馬太[マタイ]傳說話』 [26172
ラールネデ述/速水琢巖記『約翰[ヨハネ]傳註釋』 [26173
ラール子デ講述/足立琢記『使徒行傳註解』 [26174
ジェー・ビー・ハースト/大西菅治譯『羅馬書略解』 [26175
ラールネデ述/速水琢巖記『帖撒羅尼迦[テサロニケ]前・後書註釋』 [26176
熊野與・熊野雄七合譯『約翰[ヨハネ]第 1,2,3 書・猶太[ユダ]書註釋』 [26177
②小中村清矩『歌舞音樂史』 [26178
(フェヌロン/)加藤幹雄譯『警世奇話』 [26179
シェイクスピア/架空道人譯『小說・活人形』(「冬物語」。明治文庫) [26180
瀬川淺譯『聖經歷史指南』 [26181
長坂毅編『聖書附錄』(→明 27・增補 6 版) [26182
奥平浩『童蒙聖書問答』 [26183
チヤルース・フォスタル/戸田忠厚譯『福音の譚』 [26184
Lord Macauley,Milton;An Essay,Tokyo, Rikugokwan,1877 [26185
③「一語千金」(フラウ井アス・ウオビスカス氏) 東京與論新誌 336 [26186
④＊[訂正]「柴四郎「佳人之奇遇」(巻八)」出版月報 8 [15038] [26187
玄川生「マシュウ・アルノルド氏」六合雑誌 91 [26188
＊[訂正]大西祝「美術と宗教」(フィデアス、カックラテース、ヴィーノス、アポロ、プラトーン等) 六合雑誌 88 [1156] [26189
宮川經輝「四福音書の由來(續)」(コンスタンチン大帝等) 六合雑誌 88 [26190
新刊書籍「滑稽狂言双兒の邂逅」(相良常雄譯。ブロータス脚本。古代羅馬)

郵便報知新聞 4602(6/2) [26191
雜報「ボロナ大學の名譽學位----グラッドストーン氏(希臘古學)」
郵便報知新聞 4650(7/28) [26192
新刊「滑稽狂言・雙兒の邂逅」(プラウタス/相良常雄譯。原語譯?)
朝野新聞 4374(5/27) [26193
雜報「グラッドストン氏の綿密」(ホーマーの詩) 朝野新聞 4493(10/7) [26194
「聖書の飜譯大成す」(ヘボン、フルベッキ等) 基督教新聞 237(2/8) [26195
E.②ホーランド/大橋素六郎譯『法理學汎論』(上巻、←明 19) [26196
④北陸散史「前途我邦ニ於ケル改革ノ性質」(シーザー等)東京與論新誌 328 [26197
演說・北陸散史「政論進歩ノ眞相」(アゼン、スパルタ等) 東京與論新誌 338
[26198
柳原豐太郎「政治家ノ瑕瑾」(デモスゼ子ス等) 東京與論新誌 369 [26199
論說・繁野珠城稿「憲法私案」(アリストウトル氏、三權分立等)
東京與論新誌 372 [26200
信岡雄太郎稿「國憲法之論(續)」(孟德斯鳩[モンテスキュー]等)
東京與論新誌 374 [26201
社說「創業の政治家、守成の政治家(接前)」(アリストートル、プラトー等)
朝野新聞 4492(10/6) [26202
寄書・一木老人「國粹保存策」(古代ローマ等) 基督教新聞 260(7/18) [26203
「日本國民」(羅馬、グリシヤ古代の道學者先生等) 基督教新聞 267(9/5) [26204
「社會問題」(古代ローマのグラッカイ等) 基督教新聞 268(9/12),269(9/19) [26205
「經濟雜誌の崇拜論」(アデンのクラヲジウス等) 基督教新聞 268(9/12) [26206
F.②三浦徹編『天文者と遠望鏡の話』(喜の音 50 號) [26207
③＊[訂正]教師ノ爲「體操術ノ歷史」(ストラボ、ダイヲトラス、ヘロドタス、ホーメル、スパルタ、セノホン、羅馬人等)
教育報知 100,102,105 [18253] [26208
G. 木村良平纂譯『袖珍新撰英和字府』 [26209
酒井勉編版『英和對譯中字彙』 [26210
清野勉「哲學字彙ノ事ヲ論ジテ併セテ言語改良ニ告グ」
哲學會雜誌 16,17,18,19 [26211

明２２(１８８９)
A. ＊[訂正]「書目十種」國民之友 48 中 [18264] [26212
國府寺新作「ギョテー著ファウスト、マキアベリ文集(英譯) [26213
綱島佳吉「基督教新聞第三百號の發刊を祝す」(コンスタンチン大帝等)
基督教新聞 300(4/24) [26214
B.①＊[訂正]セオフラスタス著/自笑居士重譯「人さまざま」(ヲーベルブライエル獨譯「氣質の繪畫」より)讀賣新聞 6/8 附錄 [26215
②井上圓了『歐米各國政教日記』(第 2「以太利紀行ノ部---- 附・希臘土耳古」)
[26216
池本吉治『基督教及哲學』(基督教文學 2) [26217

鈴木正三著/守永彌六校・校正新刻『破吉利支丹』(題筌書名「破鬼理死端」)
[26218
ロジデストワェンスキイ/堀江復譯『神學汎論』 [26219
三宅雪嶺述『論理學』(東京專門學校政學部第 1 年級講義錄。→明 23) [26220
山田郁治『簡明倫理學』 [26221
清野勉『歸納法論理學----眞理研究之哲理』(上下 2 册) [26222
素軒逸史(村田勤)譯『ルーテル傳』 [26223
③元良勇二(次?)郎「アトランタ島と日本の關係」六合雜誌 107,108 [26224
西洋言行叢話「犬尾を裁る」(オルシビヤデス、ソクラテス)
郵便報知新聞 4790(1/15 夕刊) [26225
雜纂「日本のソクラチース」國のもとひ 6 [26226
④＊[訂正・削除] ~~雜錄「因明學につきて」(古代と近世)哲學會雜誌 30,31,32~~
[18304] [26227
浮田和民「宗教上の遺傳說」(セーリス、ピサゴラス、プレトー等)
六合雜誌 97 [26228
山田寅太郎「基督教の眞理を講究する方法」(ソクラテス、ブルノー等)
六合雜誌 98 [26229
伊勢時雄「神の顯現」(ソクラテス、プレトー等) 六合雜誌 98 [26230
石本三十郎「六十六書(The Sixty-Six Books)」(シセロ、ホレース等)
六合雜誌 99 [26231
元良勇次郎「愛情論」(クレオパトラ、アノトー、ベアトリス、ダンテ、ソクラチス、プレトー、グロート氏等) 六合雜誌 100 [26232
小崎弘道「基督の復活」(ソクラチース、プレトー、アリストートル、ヘロドトス、タシタス、プライニー等) 六合雜誌 100 [26233
ゼー・デー・デビス「神言外に基督の神たることを證す」(プレトー、ソクラチス、羅馬帝ジャスチニアン、ツラジャン帝等)
六合雜誌 101,102 [26234
＊[訂正]中島力造「哲學研究法終極の區別」(ソクラチース、ルシポス、デモクリトス、アリストーツル、ヘゲル等)
六合雜誌 101,102 [1219] [26235
高橋五郎「暗中望あり」(フ井ニシャ人、カルセージ人、ギリシア人、羅馬人等)
六合雜誌 104 [26236
小崎弘道「佛教復興の現象」(羅馬希臘、コンスタンチン大帝、ヂュリアン帝等)
六合雜誌 105 [26237
小崎弘道「バビロニア太洪水の傳說」(アレーキサンデル大帝等)
六合雜誌 105 [26238
素軒逸史纂記「蘭芳逸事---メランクソンとルーテル」(ホーマー、プレトー、プルターク、タイ[キ]トス等) 六合雜誌 107 [26239
新刊書籍「三宅雄次郎著「哲學涓滴」」六合雜誌 108 [26240
論說・本莊太一郎「如氏教育學論評」教育報知 186,189,193 [26241
鈴木宗言「倫理の定義を論じて併せて其發達に及ぶ」(?)筆の力 3,4 [26242
論說・伴直之助「信仰と職業との關係を論じて新年の祝辭に代ふ」(シーザル等)

基督教新聞 284(1/2) [26243
論說・自由信徒「宗派の利害を論ず(附一致問題の疑惑)」(アナクサゴラス、ソクラチス、ブルーノ等) 基督教新聞 290(2/13) [26244
雜錄・薇倉道人譯「聖書の事業(續)」(ホーモル、プレート、アリストーツル、シュイスデース[ツキュディデス?]、プルターク、シセロ、セ子カ等)基督教新聞 298(4/10), 299(4/17) [26245
論說「肉體弱し」(アデンス人等) 基督教新聞 29(4/17) [26246
深叢・三浦徹「基督の愛によりて働くべし」(ギリシア人等) 基督教新聞 305(5/29) [26247
容膝堂主人「十年の回顧、信仰の變遷」(ブルタスの匕首、プラトの筆等) 基督教新聞 315(8/7) [26248
雜錄・ケ・エ・ヌ生「浩然の氣」(レヲニダス、ソクラテス、イバビノンダス[エパミノンダス?]、デモスセ子ス、ブリュタス等) 基督教新聞 322(9/25) [26249
社說「金子堅太郎氏「ユニテリアン」教授」(ダンテー、ギリシヤの學者等) 基督教新聞 326(10/23) [26250
說教・ヂョルヂ・エ・アルブレヒト氏、我樂多庵主人筆記「彼後」(ギリシヤ・ローマの哲學者、オレイヤス、セ子カ、ストイック派等) 基督教新聞 329(11/13), 330(11/20) [26251
雜錄・白雲山人「知惠襄」(トーマス・アクイナス等) 基督教新聞 333(12/13) [26252
C.②澤木繁雄(東山學人)『眞正・能辯精法』 [26253
神田熊千代女史『西洋德婦美譚』2 册(?) [26254
ルサージュ/小栗貞雄譯『色是空』(「ジル・ブラース物語」←明 19「志々利物語」を改題) [26255
香夢樓主人『春色花合戰』(←明 20「戀情花之嵐」を改題) [26256
ラーネット博士(ラーネルデ)述/速水琢嚴譯『基督教會歷史』 [26257
ジヨン・ヨング/井深梶之助譯『歷史上之基督』 [26258
ゼー・デー・デビス/木山巖太郎譯『神言外に基督の神たることを證す』 [26259
大橋小太郎『耶蘇救世論』 [26260
シー・エッチ・スパルジョン/神谷齊譯『農夫物語』 [26261
小崎弘道『基督教と國家』(→明 26 再刊) [26262
③＊[訂正]斗南狂生[小川琢治]「スパルタカス劍優ニ說ク」文園 7 [1250] [26263
神作淳吉「セミストクリスノ顰ニ倣フテ」教育報知 183 [26264
西洋言行叢話「羅馬帝子ロ」郵便報知新聞 4786(1/10 夕刊) [26265
西洋言行叢話「マセドニヤの卒」（アレキサンドル) 郵便報知新聞 4794 (1/19 夕刊) [26266
西洋言行叢話「プナシュスの圍」(マセドン王フヒリップ) 郵便報知新聞 4799(1/25 夕刊) [26267
ダブリュー・ジ・マハン「イエスの審問に附ピラトより羅馬皇帝に贈りし書」 基督教新聞 313(7/24),314(7/31) [26268

④櫻井恒太郎「與同志諸友論基督教書」(羅馬等) 六合雜誌 97 [26269
小崎弘道「教會史攻究の必要」(カトコム等) 六合雜誌 104 [26270
「聖書に關する各家の確言」(マシュー・アルノルド、レッキー氏「歐洲道德史」等) 六合雜誌 104 [26271
百事問答(37)「骨牌の發明及び其の畫模様の意味は如何なるものにや」(羅馬、アレキサンデル、シーサー等)朝野新聞 4692(6/4) [26272
百事問答(49)「開闢以來最も夥多なる常備軍を有せし帝王は如何」(ヘロドタス等) 朝野新聞 4704(6/18) [26273
百事問答(63)「晝夜時間の割り方」は國々如何なる異同ありや」(希臘羅馬等) 朝野新聞 4716(7/2) [26274
新刊「美辭學」(高田早苗著) 朝野新聞 4754(8/15) [26275
論說・加藤覺「東京傳道論(其一)」(ギリシヤ人、羅馬帝國等) 基督教新聞 303(5/15) [26276
仁田桂次郎(「サバッスッチング」第 16 巻 52 號より抄譯)「彼の恐るる所は唯だ一の罪ある 而已」(コンスタンチノープルの皇帝等) 基督教新聞 304(5/22) [26277
論說・絹川漁夫「西郷隆盛傳勢の疑點」（ソクラテス、アリストートル等） 基督教新聞 308(6/19),309(6/26) [26278
雜錄「青年に機會を與ふべし」(歷山大王等) 基督教新聞 329(11/13) [26279
廢娼演說・島田三郎演說/佃與二郎速記「公娼の害」(ソロン、グリーキのソクラテス等) 基督教新聞 334(12/20) [26280
D.①宮規子譯「子供談・不親切なる馬の話」(イソップ物語)女學雜誌 159 [26281
ラールネデ述『馬太[マタイ]傳註釋』(改正增補) [26282
石田祐安『哥林多[コリント]後書註釋』 [26283
ラールネデ述/速水琢巖記『提摩太[テモテ]前後書・提多[テトス]書・腓禮門[ピレモン]書註釋』 [26284
古莊三郎『腓立比]ピリピ]書註釋』 [26285
竹内廣業譯『馬可[マコ]傳註釋』 [26286
②シェイクスピア/架空道人譯『活人形』(「冬物語」。日本大家論集) [26287
平石嘉久太譯『泰西俚諺集』(2 册) [26288
望月小太郎・小嶋今四郎『グラッドストン公傳』 [26289
花之安(フアーベル)著/熊野與和譯/伊勢時雄、熊野雄七校『馬可[マコ]講義』 [26290
長坂毅『聖書釋義』 [26291
齋田巽著/高橋五郎校『聖書汎論』 [26292
井深梶之助譯『童蒙聖書問答』 [26293
④＊[訂正]獨醉庵主人「「菩提樹の逍遙」細評」(シルレル)志がらみ草紙 1 [15137] [26294
巖谷秀雄「ゴエテー傳」六合雜誌 106,107,108 [26295
ゲーテ/(小林)愛軒居士「伊太利の佳人」女學雜誌 11,12 月號 [26296
ヂッケンズ/森田思軒譯「西文小品・伊太利の囚人」國民之友 5,6 月號 [26297
バイロン/S.S.S.譯「いねよかし」(「Childe Harold」) 國民之友 8 月號 [26298

シルレル作/山口小太郎(譯)「理想と此世」學林 11 號（→明 23 年 3 月號まで聯載）
[26299
「一語千金」(ダンター[ダンテ?]氏) 東京與論新誌 411 [26300
新刊「グラッドストン公傳」(望月小太郎、永島今四郎共譯)
朝野新聞 4808(10/17) [26301
雜錄「基督の顯現」(彫刻家ダン子ツカル等) 基督教新聞 305(5/29),321(9/18)[26302
社說「小說に關する雜記(其四)」(ダンテ、シルレル等)
基督教新聞 318(8/28) [26303
E.②原田眞一『萬國政治家列傳』 [26304
パテルノストロー述/宮城浩藏譯『法理學講義』(明治法律學校講法會第 2 期法律政治講義錄) [26305
③柳原豐太郎「産業社會の大勢」(フェニシヤ、アゼンス、スパータ、マセドニヤ、ローマ、アレキサンダー大王等) 東京與論新誌 393 [26306
④時事「伊藤[博文]伯の演說」(プラトー、アリストートル、ヘーゲル等)
東京與論新誌 389 [26307
社說・北陸散史「殖民事業に關して時人に注意す」(古代文明、ソローン、ヘロドタス、聖哲テールス[ターレス?]氏、羅馬文明等)
東京與論新誌 391 [26308
報知新聞「憲法私解」(希臘諸國の立憲制等) 郵便報知新聞 4818(2/16) [26309
新刊書籍「獄制沿革史」(小原重哉撰。歐米の上古史等)
郵便報知新聞 5056(11/25) [26310
百事問答(91)「Majesty(通例陛下と譯す)なる尊稱の起源は如何」(希臘羅馬等)
朝野新聞 4765(8/28) [26311
「保守新論出たり」(羅馬帝國等) 基督教新聞 288(1/30) [26312
F.②ジャックス/川俣英夫譯『體育美貌論』 [26313
半谷清壽『養蚕術』 [26314
③岩川友太郎「動物學---沿革史」藥學講習錄 1 [26315
雜錄「鼻形に關する奇話(續)」(歷山大王、クレオパトラ、アントニー等)
朝野新聞 4784 (9/19) [26316
④雜報「地球破壞の二大原因」(プラトー、プリニー等)
郵便報知新聞 5036(11/1) [26317
G. クンデル・ヘイデン/佐々木隼士編譯『和譯・世界語辭林』 [26318
竹内廣業編『聖書伊呂波手引』 [26319
上田貞次郎編・辻密太郎補訂『新舊約兩全書聖語類聚----一名、聖書之標目』
[26320

明２３(１８９０)
A. ＊[訂正・削除]~~鷗外漁史譯稿(ツルゲネフ)「羅馬」東京中新聞 6/1~~ [15169] [26321
エマソン/佐藤重紀譯『文明論』 [26322
バッテソン/プファフ/高橋五郎譯『人類之時代及起源』 [26323
(參考：廣告「獨逸學協會學校廣告」、朝野新聞 5113(10/8) [26324
------ 專修科學科科目：第一年前期「羅馬法」

第一年後期「羅馬法」
第二年前期「羅馬法」
普通科學科科目：第三年「羅甸語」
第四年「羅甸語」
第五年「羅甸語」)

鶯溪・望月小太郎「人間の行動----地中海」朝野新聞 5125(10/23) [26325
(參考：廣告「國學院廣告---- 本院學科」、郵便報知新聞 5315(8/18) [26326
本科三學年：外國史(歐米史)、地理(「歷史地理一斑」)、哲學(論理學、心理學、教育學)
研究科二年：哲學(審美學、西洋哲學史) ）

B.①「ゼノの金言」福音週報 18(7/11) [26327
②葷花園主人纂輯『和漢泰西・金言集』 [26328
千頭清臣『論理學』(巻 1「名辭及命題」、巻 2「推度法」、第 3「推度法及誤謬」。→明 24,26) [26329
千頭清臣『論理學講義』(東京法學院 24 年度第 1 年級講義錄) [26330
千頭清臣『論理學入門』 [26331
三宅雪嶺述『論理學』(學藝新書。←明 22 刊) [26332
コッペー/清水友輔譯『論理學』(上巻) [26333
ウヰリアム・ドーソン/高橋五郎譯『天啓理學合一論』(青年會叢書) [26334
デビス著述/寺澤精一譯『基督教之基本』(米國聖教書類會社) [26335
ゼ・デ・デビス/寺澤精一譯『神學總論』 [26336
襄・維・納屈士(G.W.Knox)/細川瀏譯『神學提要』(米國聖教書類會社藏版) [26337
清野勉『歸納論理經世危言』(「經世危言歸納論理」ともあり) [26338
井上圓了『星界想遊記』 [26339
金井望(古志學人)『一辭千金』(第 1-4、4 册) [26340
西村龍三『萬國古今碩學者列傳』 [26341
村田勤『マルチン・ルーテル(路易)』(エラスムス等) [26342
③雜錄「デオゲ子ス」(新改)天則 3-3 [26343
報知新聞・言行叢話「マーカス・オーレリアス(Mareus Aurelius) 郵便報知新聞 5113(1/28) [26344
報知新聞・言行叢話「地を賭して智を闘はす」(希臘の哲學者バイアス、クレオパトラ等) 郵便報知新聞 5112(2/5) [26345
(參考：(矢野)龍溪居士「想起錄---神の性質」(ヘブリュー、ヘブル、舊約モーゼス) 郵便報知新聞 5340(9/12) ）[26346
(參考：(矢野)龍溪居士「想起錄--- 大變化」(ヘブリュー、ヘブル、舊約モーゼス) 郵便報知新聞 5340(9/12) ） [26347
「母の祈り」(アウガスチン、母モニカ) 福音週報 7(4/25) [26348
雜錄「モニカの祈り」福音週報 15(6/20) [26349
H.K.「聖オーガステン」福音週報 20(7/25),21(8/1) [26350
「希臘の社會に於る德義の缺乏」福音週報 30(10/3) [26351
④＊[訂正]中村小十郎「吾儕の信ずる所」(エピキクテタス、セ子カ等) 教育報知 201 [18446] [26352

論說・本莊太一郎「如氏教育學論評」教育報知 201,202,204,207,210,211,
212,213 [26353
擔庵居士「己を知り彼を知るは處世の要務」(ロマ國、グリーキ國等)
六合雜誌 112 [26354
横井時雄「日本將來の基督教」(ギリシヤの文學、ロマの法理等)
六合雜誌 114 [26355
浮田和民「道德之起原」(スパルタ、アレキサンデル、シーザー、エピクロス、ソクラチス、ストイク派等) 六合雜誌 116,117 [26356
「「日本將來の基督教」批評に答ふ」(ギリシヤ、ロマの文學法律等)
六合雜誌 116 [26357
元良勇次郎「倫理學ハ哲學カ將タ科學カ」(パイサゴラス、イウークリッド、デモクリタス、エピュキーラス、ルクレシアス、プラトー、アリストートル等)
六合雜誌 116 [26358
ドクトル・オブ・フイロソフイー某口述「神と宇宙の關係(1)」(グリーキ及ロマの信者等) 六合雜誌 118 [26359
筠莊居士「放任主義」(ダイヲジニス、歷山大帝等) 六合雜誌 118 [26360
横井時雄「天啓論」(ギリシヤの文學美術、ロマの法律等) 六合雜誌 120 [26361
土岐玄「宗教の眞假を辯ずるの標準」(ソロン、エピキューラス、ルクリシアス[ルークレシアス]、オーガスチン等)
福音週報 1(3/14),2(3/21) [26362
------「宗教の起原は恐怖心にありと是れ希臘のエピキューラスが首唱に係りルークレシアス等の唱和する處なり近世亦之と說を同ふする者なきに非ず然れども斯の如き說は文明の進むに從つて人の取らざる所になれり」
如山學人「基督教の要領」(ヲーガスチン等) 福音週報 3(3/28) [26363
說教「播く者と獲る者と同に喜ばし」(アリストートル等) 福音週報 5(4/11)
[26364
雜錄「幸福とは何か」(詩家サッフォー等) 福音週報 9(5/9) [26365
石崎愛民稿「知慧の礎(1)(2)(5)」(ソクラテス、アリストートル、アレキサンダー大王、シイザア、ダンテ等)
福音週報 11(5/23),12(5/30),15(6/20) [26366
「聖書中の物語」(ホーマル、ヘロドタス等) 福音週報 19(7/18) [26367
如山學人「基督の復活」(エピキュリアン派の哲學者セルサス、クピード等)
福音週報 19 (7/18) [26368
「何を以て基督を無罪なりと謂ふか」(グリシヤのゼノオ、ソクラテス等)
福音週報 22(8/8) [26369
神學博士・ウィリアム・イムブリー「詩人の神學」(ギリシヤ人、アデンス人、アレオ山等) 福音週報 22(8/8),23(8/15) [26370
「死」(シーザー、シセロ、セ子カ等)福音週報 34(10/31) [26371
耐軒居士「基督教の特質(續)」(羅馬の詩人、プレトー、アリストートル、セ子カ、プラトニック派等) 福音週報 34(10/31),38(11/18) [26372
「信仰」(シーザー、ブルタス、ヲーガスト等) 福音週報 36(11/14) [26373

阪野嘉一「心を治むる者は城を攻取る者に愈る」(アレキサンデル大帝等)
福音週報 36 (11/14) [26374
論說・杉山重義「新島[襄]先生の逝去につきて」(亞典のソクラテス、メガラのエウドクソス等)基督教新聞 343(2/21) [26375
論說・山崎太吉「基督教創立の奇異」(ソクラテス、プラトン、ゼノン、アリストテレス、アレキサンデル、セザル等) 基督教新聞 346(3/14) [26376
論說・三宅荒毅「基督信徒の責任(續)」(シセロ、セ子カ、ソクラテス、プレトー等) 基督教新聞 350(4/10) [26377
蓼州漁史「傳道士養成問題に付きて數言」(プレトー、トマス・アーノルド等)
基督教新聞 356(5/23) [26378
論說・(福音同盟會大演說會にて)增田鐵太郎筆記「神は侮る可きに非ず」(ソクラテース等) 基督教新聞 360(6/20) [26379
論說・(丹波)薇峯樵夫「眞個之人間」(ソクラテス等) 基督教新聞 369(8/22)[26380
論說・星野光多「吾人の大事業(2)」(ソクラテス等) 基督教新聞 373(9/19) [26381
金森通倫「桂夫人葬儀の說教」(マセドンのアレキサンデル大帝等)
基督教新聞 375(10/3) [26382
社說「眞理の王」(ストイック派、マルカス・アウレリオス帝等)
基督教新聞 375(10/10) [26383
寄書・(東洋英和學校一書生)たそがれ山人「聾者と聾者を導く能はず」(イリヤド、ソクラテス等) 基督教新聞 379(10/31) [26384
(矢野)龍溪居士「想起錄---宗教の萌芽」(小亞細亞、ヘブリュ等)
郵便報知新聞 5351(9/23) [26385
(矢野)龍溪居士「想起錄---一歩」(耶蘇等) 郵便報知新聞 5351)9/23) [26386
C.①「アレキサンデル曰く」(p.5) 基督教新聞 350(4/10) [26387
②＊[削除]~~今井壽造『基督教沿革史』(卷 1,2)~~ [26388
駒崎林三編『日本支那萬國歷史問答六百題』 [26389
前田儀作『萬國歷史試驗問題答案』 [26390
宮崎錠太郎『試業運用・萬國史綱』 [26391
孔理齋[クリーシー、グリイセイ]/天野鎭三郎譯『泰西十五大決戰史』(マラトン戰等→明 24) [26392
加藤覺『基督』 [26393
リチャード・ニュートン/佐々木笑受郎譯『生泉之溳滴』 [26394
ラゲ著『基督之復活----歷史的論點に據りて證す』 [26395
田中萃一郎『救主降世預言及應驗』 [26396
今井壽道『基督教沿革史』(1 册) [26397
ビクトヲル・ジュリュイ/熊谷從吾(篁村農夫)譯『聖教略史』(上卷) [26398
ビートン/加藤十四郎譯『六大演說規範』 [26399
マコーレー/越川文之助譯『挿註・弗勒德力[フェレデリック]大王論----一名、日耳曼政略史』(明 20「日耳曼政略史----弗勒德力[フェレデリック]大王論」訂正再版本) [26400
The Battle of Salamis,Tokyo,Keigyoysha(敬業社) [26401
The Battle of Thermopylae, Tokyo,Keigyoysha(敬業社) [26402

③＊[訂正]根岸逸人「ぽんぺい榮華の夢」東京中新聞 9/5~10/4 [1361] [26403
報知新聞・言行叢話「エパミノンダス」郵便報知新聞 5098(1/13) [26404
報知新聞・言行叢話「セン[ミ]ストークルと亞善[アテネ]國民」
郵便報知新聞 5100(1/15) [26405
報知新聞・言行叢話「羅馬市と元老院議員」(ヴェスパシア帝)
郵便報知新聞 5112(1/27) [26406
報知新聞・言行叢話「ピダリタス(Pedaritas)」(斯波多[スパルタ])
郵便報知新聞 5112(1/27) [26407
報知新聞・言行叢話「リカルガス(Lycurgas)」郵便報知新聞 5117(2/1) [26408
報知新聞・言行叢話「アルシビェーヅ(Alcibiades) 郵便報知新聞 5111(2/4)[26409
報知新聞・言行叢話「機密を洩すの弊」(ソロン) 郵便報知新聞 5129(2/13)[26410
報知新聞・言行叢話「ペリクルス(Pericles)」郵便報知新聞 5132(2/16) [26411
報知新聞・言行叢話「機智能く秘密を保つ」(古昔羅馬のパピリタス、プラエ、テクスタタス) 郵便報知新聞 5142(2/26) [26412
報知新聞・言行叢話「ポリーキセナスの妻」(暴君ヂオニーシアスの妹セスタ)
郵便報知新聞 5150(3/6) [26413
報知新聞・言行叢話「歴山大王」郵便報知新聞 5176(4/1) [26414
(矢野)龍溪居士「想起錄---發三箭」(羅馬コンスタンチュス帝、メ子レラウス、マグ子ンチウス、ロミリュス等)郵便報知新聞 5319(8/22) [26415
(矢野)龍溪居士「想起錄---志撤兒[シーザル]帝」(オーガスチス、シーザル)
郵便報知新聞 5325(8/28) [26416
(矢野)龍溪居士「想起錄---我に優る三百人」(希臘のスパルタ)
郵便報知新聞 5349(9/21) [26417
論說・阿部虎之助記述「四福音書の特質」(カルタゴーのハンニバル、ソクラテス、プラトー、ゼノフォーン等)
基督敎新聞 347(3/21) [26418
「基督敎と凡俗習慣」(ギリシヤ人、ローマ時代の大迫害等)
基督敎新聞 347(3/21) [26419
論說・山中百記述「タルソスのパウロ」(ロマ帝國) 基督敎新聞 364(7/18) [26420
家庭・新井きく子「おもひやり」(ギリシヤの勇將エパミノンダス、ローマの傑士ブルタス等) 基督敎新聞 365(7/25) [26421
「ポンペイ」福音週報 18(7/11) [26422
「事業家たる基督(上)」(ギリシヤ人、ローマ人等) 福音週報 26(9/5) [26423
久保田富次郎「各敎會の一致」(アゼン、スパルタ等) 福音週報 38(11/28) [26424
T.K.「殖民と基督敎」(カルセージ、フィニシヤ、ヘラス等)
福音週報 42(12/26) [26425
④報知新聞「土耳格盛衰の原因及ひ文學理學の權衛」(君斯擔丁堡[コンスタンチンノープル]、希臘の古學說等) 郵便報知新聞 5285(7/19) [26426
(矢野)龍溪居士「想起錄---比喩」(古羅馬の說客等) 郵便報知新聞 5323(8/26)
[26427
(矢野)龍溪居士「想起錄---王公の種」(アレキサンドル等)
郵便報知新聞 5331(9/3) [26428

(矢野)龍溪居士「想起錄---鋭敏・粗豪」(歷山王等) 郵便報知新聞 5331(9/3)[26429
(矢野)龍溪居士「想起錄---安祿山」(亞歷山、アレキサンドル、Alexander 等)
郵便報知新聞 5334(9/6) [26430
(矢野)龍溪居士「想起錄---東西の史」(古今事物の沿革等)
郵便報知新聞 5340(9/12) [26431
(矢野)龍溪居士「想起錄---戰車」(亞歷山等) 郵便報知新聞 5345(9/17) [26432
(矢野)龍溪居士「想起錄---明治以後の曆」(利瑪竇等)
郵便報知新聞 5352(9/24) [26433
「今ま五年の後は如何ならん」(グラッドストーン等)
郵便報知新聞 5404(11/15) [26434
抱一庵「竹越[與三郎]氏の「格朗宕[クロムウェル]」と松村[介石]氏の「倫古龍[リンコルン]」とを讀む」(「失樂園」、附錄「英雄崇拜論」等)
郵便報知新聞 5438(12/15),5439(12/20) [26435
戸川安宅「信徒の品位」(ホーマル、ヘクトル、アンドロマキー、プレトー等)
基督敎新聞 352(4/25) [26436
社說「此に由つて勝てよ」(ローマ帝國等) 基督敎新聞 368(8/18) [26437
社說「愛國と博愛」(アテンスの人等) 基督敎新聞 369(8/22) [26438
雜錄・滅々亭長「葡萄畝(第 3)」(シイザル等) 基督敎新聞 379(10/31) [26439
社說「前途の眺望」(ロマのニロ帝等) 基督敎新聞 381(11/14) [26440
「ギボンの羅馬衰退史」福音週報 17(7/4) [26441
D.①田村直臣『約翰[ヨハネ]傳註釋』 [26442
ラールネデ述/楠瀨一貫記『哥林多[コリント]後書註釋』(使徒パウロコリント人に贈れる後の書註釋[新約聖書]) [26443
ラールネデ述/楠瀨一貫記『腓立比［ピリピ］書・哥羅西［コロサイ］書註釋』[26444
②ジョンソン博士/峨洋逸人(田村左衛士)譯『亞微志尼亞ノ王子・刺世拉斯[ラセラス]傳』（「アビシニア王子ラセラス」) [26445
ジョンソン博士/渡邊松茂譯『刺西拉斯[ラセラス]經歷史』（「アビシニア王子ラセラス」) [26446
ジョンソン博士/福井有譯『羅世良斯[ラセラス]』（「アビシニア王子ラセラス」) [26447
麻侯禮(マコーレー)/平井廣五郎譯『彌爾敦[ミルトン]論』 [26448
ハチェソン・マッコレー・ポス子ッド/坪内雄藏譯『比照文學論』 [26449
田村直臣『聖書を神の言葉と信ずる理由』 [26450
エム・エス・サイト夫人/田村武治譯『訓蒙圖解聖經略史』(啓蒙圖解聖經略史) [26451
アンガス/三浦徹譯『聖經年表』 [26452
③報知新聞・言行叢話「ドラマの起原、滑稽作者アリストファ子ス」
郵便報知新聞 5164(3/20) [26453
(矢野)龍溪居士「想起錄---東洋西洋」(イソープ) 郵便報知新聞 5323(8/26) [26454
④巖谷秀雄「ゴエテー傳」六合雜誌 109 [26455
報知新聞・言行叢話「眞誠の貴族」(シルラー) 郵便報知新聞 5092(1/7) [26456
報知新聞・言行叢話「ラフォンタイン(La Fontaine)」郵便報知新聞 5119(2/3)

[26457
雑錄「土耳古のイソップ」福音週報 13(6/6) [26458
苅谷虎之助「詩人の本領を說て日本社會に其出現を望む」(ダンテ等)
基督教新聞 336(1/3) [26459
史傳「博士トマス・アーノルド氏」基督教新聞 346(3/14),349(4/14) [26460
(矢野)龍溪居士「想起錄---古史は歌なり」(ホーマーの「トロイ」)
郵便報知新聞 537(9/9) [26461
E.②金港堂編『政治一斑』(9 巻。第 1・メイン「民政論」、第 2・メイン「民政論(2)」、
「民政ノ性質」→明 24) [26461
サー・ヘンリー・テイロル/大浦佐助譯『政治家』(アリストートル等) [26462
矢部五洲『伊國再造の傑氏ガリバルジー』 [26463
石原健三『法理學』(政治学經濟學法律學講習全書) [26464
田村直臣『基督教と政治』 [26465
ルタンド原著/今井壽道譯『國と基督教』 [26466
④石坂龜治「基督教主義の愛國者」(ギリシヤ人、ローマ人の愛國心等)
福音週報 24(8/22) [26467
雑錄「古代崇拝家」(ルーソーの徒等) 福音週報 28(9/19) [26468
「自由の思想」(希臘羅馬の共和國等) 福音週報 32(10/17) [26469
「ボアソナード氏の書」(ジャスチニアン帝、モンテスキュー等)
郵便報知新聞 5234(5/29), 5235(5/30) [26470
報知新聞・藤田茂吉「政治意見概畧(1)」(羅甸語カンジダチュス等)
郵便報知新聞 5264(6/28) [26471
F.②明石朝霧畫「ヒポクラテス畫像」 [26472
杉浦爲充『太陽暦起原解』 [26473
木村駿吉『科學ノ原理』 [26474
③(矢野)龍溪居士「想起錄---天象星占」(星占學尚等)郵便報知新聞 5352(9/24)[26475
論說・山中百「基督教と理學の軋轢」(ソクラテース、アリストーツル、アナキサゴラス、アクイナス等) 基督教新聞 376(10/10),
377(10/17) [26476
G. 眞鍋定造編『聖書語類----新約之部』(米國聖教書類會社) [26477
田村直臣編『對照聖書辭典』(米國聖教書類會社) [26478
「ヘボン氏の金婚式」(和英大辭書) 郵便報知新聞 5389(10/31) [26479
末松謙澄「序」(棚橋一郎編「英和辭書」新譯無双) [26480

明２４(１８９１)
A. (＊[訂正]參考：專修英語科課程表中[英文]、早稻田文學 1 中 [18515] [26481
第一年級：萬國史/第二年級：ス井ントン氏萬國史/第三年級：フェリス氏英傑傳、ス井ントン氏大家文集)
ザベリヨ/ステファノ淺井甫八郎譯『聖フランシスコザベリヨ書翰記』(3 册)[26482
矢野龍溪『西遊漫記・想起錄(隨筆雜纂)』 [26483
B.①「金言一束」(ソクラチース) 福音週報 50(2/20) [26484

②田中達著・植村正久序『亞古土丁[アウガスチン]』(基督教叢書) [26485
エム・エル・ゴルドン著『使徒保羅[パウロ]の傳へし福音』(同志社神學叢書 2。使徒ポーロの傳へし福音[書]) [26486
小崎弘道『三位一體の說』(同志社神學叢書 4) [26487
今井壽道『神學階梯』 [26488
ゼ・デ・デビス著『神學之大原理』(→明 39・2 版) [26489
太田孝吉『啓蒙基督教概論』 [26490
エ・シ・ショウ/吉澤直江譯『教義覽要』 [26491
スマイルス/荻原朝之助譯『俊傑少年』(半 1 册) [26492
トーマス・リンドセー/平沼淑郎譯『論理史評』 [26493
相良常雄編・坪井九馬三閲『通俗論理學』(改正再版) [26494
井上圓了『哲學一朝話』 [26495
(參考：幸福散史(澁江保)譯『小學講話材料・西洋妖怪奇談』(グリム童話)) [26496
On Liberty ,by J.S.Mill,Tokyo,Kaishindo,1891 [26497
③＊[訂正]あやめ「プラトー及びスペンサーの美と愛論」婦女世界 1-9 [1460] [26498
海外事情「布哇通信」(エピキュラス主義---[p.6]キリストは Disinteresting Love を教ゆるも、世界の実狀はエピキュラスの主義を證據だてつつあり) 基督教新聞 391(1/23) [26499
(上毛安中)K.K.生「主義の人」(希臘の哲人ソクラチス等) 基督教新聞 392(1/30) [26500
鵜飼悅彌「教育略史」教育報知 257 [26501
竹田太郎司「蘇[ソクラテス]氏言行一斑」校友會雜誌(第一高等學校)11,12 [26502
④木戸忠太郎「本邦の理學及ひ其思想」校友會雜誌(第一高等學校)4 [26503
寺田勇吉述「獨逸國大學」校友會雜誌(第一高等學校)7,8 [26504
徹心生「理學大家」希臘史ヲ評ス」校友會雜誌(第一高等學校)11 [26505
（新刊）「元良勇次郎氏著「心理學」」(プレトー、アリストートル等) 六合雜誌 122 [26506
林公一「評老子」(プラトー、エピキュラス、ストイック學派等) 六合雜誌 125 [26507
横井時雄「金森通倫氏の神學說を評す」（ソクラット、プレトウ、アリストウトル、ホーマル等）六合雜誌 127 [26508
宮川經輝「基督教の秘戰」(大聖ソクラチス等) 六合雜誌 127 [26509
(參考：「神學校卒業論文」東京英和學校、六合雜誌 127 [26510
松浦重吉「使徒約翰[ヨハネ]之神學」(アウガステン、プレトー、ソクラテス等)) [26511
(明治學院)多田素「クリスチヤン・ミスチシズム」(アウガスチン、アオクラテス等) 六合雜誌 127 [26512
浮田和民「金森通倫氏の基督教」(プレトー、ソクラテス、アウガストス帝、タイビリチス帝、スッレボー、プリニー、プルタルキク、フワイロー、グローシャス等) 六合雜誌 127 [26513

竹越與三郎「現今思想界の潮流」(ソクラテス、エメルソン、アルノルド等)
六合雜誌 129 [26514
＊[訂正]學術講演・中島力造演/伊内太郎速記「歐洲厭世哲學」(希臘羅馬等)
六合雜誌 132 [1456] [26515
岐峰生「朋友論」(アリストートル、モンテイニュ、エマーソン等)
福音週報 43(1/2) [26516
論說・如山學人「天啓を論ず」(プレトー、アリストートル、シセロ、デモクリタス等)福音週報 51(2/27) [26517
評題「史海第六巻」(「アレクサンドル大王」)郵便報知新聞 5277(11/3) [26518
寄書・(東京新橋)内村鋭之「幽玄微妙は果して基督教の本色なるか」(ソクラテス、アリストートル等) 基督教新聞 394(2/13) [26519
雜錄・素軒學人「朝夕所懷(第 4 部)」(スパルタの烈母等)
基督教新聞 394(2/13) [26520
社說「神の國は生命なり」(ギリシヤの諸聖人等)基督教新聞 397(3/6) [26521
社說「キリストの人物、天眞爛漫」(ソクラット、アレキサンドル、シーザル等)
基督教新聞 398(3/13) [26522
雜錄・素軒學人「朝夕所懷(第 8 節)」(アレキサンドリアのクレメント等)
基督教新聞 398(3/13) [26523
う、まさを「神あるかな、神あるかな」(グリシヤの哲人アリストーツル等)
基督教新聞 398(3/13) [26524
說教・横井時雄述「人生の完全」(古代グリシヤ等) 基督教新聞 398(3/13) [26525
雜錄・霽月堂主人「大丈夫の精神」(ポンペイの發掘等)基督教新聞 409(5/29)
[26526
雜錄・杉山重義「キリストの說教者」(ソクラテース等)
基督教新聞 410(6/5) [26527
[26528
美軒小史「實驗的信仰」(希臘羅馬の哲士等) 基督教新聞 410(6/5) [26529
ゼー・エチ・デホレスト「中村敬宇飜譯自助論」(スマイルス)
基督教新聞 415(7/10) [26530
杉山重義譯「單純なるキリスト教(續)」(希臘羅馬思想等)
基督教新聞 425(9/18) [26531
社說「キリストの松火」(ロマ・グリシヤ學者達等) 基督教新聞 427(10/2) [26532
社說「正統信仰と神學思想」(ギリシヤの神學、ロマの神學等)
基督教新聞 428(10/9) [26533
横井時雄「道德の修養に於ける社交上の勢力」(ギリシヤ・ローマ、ソクラット、プラトウ等)基督教新聞 434(11/20),435(11/27) [26534
C.②葷花園主人纂輯『和漢泰西・俚諺集』 [26535
チャールズ・ディッケンズ/前田傳五郎譯『少年英國史』(「A Child's History of England」) [26536
杉山重義編『一讀三嘆智惠之泉---- 一名、泰西今古史談』 [26537
ゼー・エチ・デホレスト/三宅荒毅譯『歷史上之最大事實』 [26538
ゼームス・スタウカル/植村正久(謙堂逸人)譯『基督のすがた』(基督教叢書)

[26539
ニューマン・スマイス/小谷野敬三、村木經策譯『耶蘇の非凡』 [26540
ジョルヂ・ビー・フヒシャル/三宅荒毅譯『基督教證據論』(青年會叢書) [26541
メレー・エチ・シャッド著『使徒行傳問題』 [26542
C.MacCauley,Christianity in History,Tokyo,Uniterian Mission,1891 [26543
③横井時雄「基督教信仰の起原と新約聖書」(タシタス等) 六合雜誌 126 [26544
＊[訂正]オルブレクト「三福音書」(アレキサンデリヤのクレメント、ニーロー帝等) 六合雜誌 129 [1455] [26545
仙人傳・霽月堂主人「アントニーの傳」(ヲーゴスチン等)
基督教新聞 406(5/8), 408(5/22),409(5/29),410(6/5),
412(6/19) [26546
森鷗外譯「該撒[シーザー]」（ツルゲーネフ「まぼろし」明 23.6/1 東京中新聞掲載「羅馬」改題） 文則?號 [26547
④＊[訂正・削除]龍山子「東海散士柴四郎氏君に與ふる書」同志社文學 48
[15320] [26548
T.I.「グロート氏著希臘史ヲ評ス」校友會雜誌(第一高等學校)4 [26549
桑木嚴翼「歷史的人物」校友會雜誌(第一高等學校)7 [26550
金田楢太郎「地圖の種類と其來歷」校友會雜誌(第一高等學校)8 [26551
筆山樵夫「讀希臘史有感」(グロート)校友會雜誌(第一高等學校)10 [26552
岩野泡鳴譯「エマルソン氏歷史論」文壇 5,6 月號 [26553
寄書・(在京都)村田勤「日本の羅馬府」(シヲドシヲス帝、コンスタンチン大王等)
基督教新聞 410(6/5) [26554
寄書・越仙生「現今の教勢に就て所感を述ぶ」(アレキサンダー等)
基督教新聞 412(6/19) [26555
寄書・越仙生「失望は精神的自殺なり」(ローマの滅亡等)
基督教新聞 418(7/31) [26556
傳記「ベルリー・マルチン氏小傳」(アレキサンダー、シーザー等)
基督教新聞 421(8/21), 422(8/28),424(9/11),425(9/18) [26557
杉山重義譯「單純なるキリスト教(續)」(希臘羅馬思想等)
基督教新聞 425(9/18) [26558
D.①文廻家主人譯「(イソップ物語)鶴の復讐」幼年雜誌 1-3 [26559
愛柳子譯「(イソップ物語)狼と羊」幼年雜誌 7 月號 [26560
渡邊松茂著『家庭教育小學修身はなし』（積善舘版教育全書。イソップ） [26561
渡邊松茂著『家庭教育幼年修身はなし』（積善舘版教育全書。イソップ） [26562
夢廼家のあるじさむる識『魔術』(日吉堂、内題「希臘異聞・金驢譚」ラテン文人アプレイウス←明 20 不語軒主人・森田思軒譯) [26563
田村直臣『馬太[マタイ]傳註釋』(新約聖書馬太傳福音書註釋) [26564
田村直臣『馬可[マコ]傳・路加[ルカ]傳註釋』 [26565
金森通倫・オーチス・ケリー著『哥林多[コリント]後書註釋』 [26566
ラーネッド述/楠瀬一貫記『雅各[ヤコブ]・彼得[ペテロ]前後書・約翰[ヨハネ]一ニ三・猶太[ユダ]書註釋』 [26568
②デイケンズ/森田思軒譯『伊太利の囚人』(草野茂松編輯「第二國民小說」)[26569
リットン/小川漁史譯『父子奇遇・白浪艷話』(「ポール・クリフォード」)[26570

(フェヌロン/)加藤幹雄譯『教育奇談、心の樂』(明 21「警世奇談」改題本)[26571
矢部五洲『活劇史--- グラツトストンとガルバルジー像』 [26572
住田吉太郎編『童蒙手引聖語集』(附・日曜學校聖歌) [26573
デイ・ダブリュー・ラーネッド著『約翰[ヨハネ]傳證據論』(同志社神學叢 1) [26574
ジー・イー・アルブレクト著『三福音書論』(同志社神學叢書 5) [26575
③(京都同志社神學校教授)ラー子ット述「新約聖書約翰[ヨハネ]傳證據論」(アレキサンデリアのフハイローのロゴス等)
六合雜誌 122,123 [26576
雜錄「印度歐羅巴人言語の一斑」(希臘羅馬等) 福音週報 46(1/23) [26577
④和田垣謙三「日本の青年と英語」(グリーク、ラテン等)六合雜誌 123 [26578
高橋五郎「時事偶感---容忍か無頓着か」(エマルスン、亞典士[市?]の人民、ファイデアス等) 六合雜誌 127 [26579
「英國文學事情」(アーノルド、キーツ、バイロン等)朝野新聞 5285(5/7) [26580
ワイルド/增田藤之助譯「美術の個人主義」(「The Soul of man under Socialism」)
自由新聞 5/? [26581
山内晉卿譯[漢譯]「西黎[シェリー]告天子歌」文學會雜誌 5 月號 [26582
時文評論「飜譯すべき外國文學」(シェリー、バイロン等)早稻田文學 4 [26583
時文評論「近年の飜譯本」(モンテスキュー、ギゾー、リットン等)
早稻田文學 4 [26584
時文評論「文學に關する書籍」(希臘、ダンテのヂヴァイン・コメデー等)
早稻田文學 5 [26585
教報「内村鑑三氏」(グリーキの原語で聖書を讀む) 基督教新聞 4101(6/12) [26586
教報「第三回夏期學校通信(その二)」、基督教新聞 418(7/31) [26587
-----「海老名彈正氏」(p.3)[本年六月希伯語希臘語アラミック語學を以て、エール大學にて、ドクトル・オブ・ヒロソヒーの學位取得] 基督教新聞 410(6/5) [26588
ゲーテ/漣山人譯「狂言・魔法弟子」(「ファウスト」)讀賣新聞 9/21 [26589
E.②福永文之助編『基督教及社會』(基督教文學 3。「六合雜誌」掲載論文を収錄)
③田島錦治「「ジャスチニヤン」法典ノ後世ニ及ボセル影響ヲ概論ス」
校友會雜誌(第一高等學校)4 [26590
④雜記「稀代の古書發見せらる」(アリストートル氏アテンス憲法史)
六合雜誌 125 [26591
社說「罪の罰」(アテンスのドラコ氏の法等) 基督教新聞 406(5/8) [26592
論說「基督教と商業」(往古の雅典等) 福音週報 48(2/6) [26593
論說「社會主義の精神」(2)」(プレトー等) 福音週報 50(2/20) [26594
F.②エ・ビ・シンプソン/熊野雄七譯『醫療之福音』 [26595
③五島清太郎「生物ノ始原(1)」(アリストートル、ルクレシウス等)
六合雜誌 125 [26596
G. イーストレーキ・神田乃武『和英袖珍新字彙』 [26597

明２５(１８９２)
A. 時文評論「藤田鳴鶴[茂吉]氏逝く」(「文明東漸史」) 早稲田文學 22 [26598
海外文學・T.O.「英米書籍市場(承前)」(「名著の出版」希臘羅馬の古典等)
早稲田文學 30 [26599
(參考：「專修學校廣告」、郵便報知新聞 5951(8/17) [26600
・法律科第一年：羅馬法/法律科第二年：羅馬法)
(參考：「專修學校廣告」、朝野新聞 5683(8/7) [26601
・法律科第一年：羅馬法/第二年：羅馬法/第三年：法理學)
社說「基督信徒たる日本」(シルレル、ギリシヤ人等)基督教新聞 476(9/16)[26602
B.②エル・アール・クレーム/田中登作・藤本武譯『奧獨佛瑞學校概論』 [26603
ガーブライエル・コンペール著/ダブリュ・エッチ・ペイン/松島剛・橋本武重譯
『教育史』(2 册) [26604
トーマス・ア・ケンプス著/(東京・一二三舘)『基督之模範』 [26605
トマス・ア・ケンピス著/辻岩雄譯『世範』(「基督に倣ふ事」第 1,4 巻邦譯)
[26606
早坂千三郎『通俗非基督教---一名、三大耶蘇教之迷妄』 [26607
フイシヤ(ヨ)ル/横井時雄譯『天啓教と聖書』 [26608
Bacon's Essays with selected notes,by Francis Bacon,Tokyo,Kokumin Eigakukwai,1892
[26609
③＊[訂正](?)「英雄と家庭」(「ソクラテス人に嘲らる」)家庭雜誌 3
[18622] [26610
＊[訂正]ヂー・チー・ラッド「哲學の性質、根原、精神及方法」(プラトー、アリストーツル、ヘーゲル等) 六合雜誌 139
[1597] [26611
＊[訂正]三宅荒毅「神に關する思想の發達」(プルターク、アレキサンデリヤ學派、アナキサダマス、オーゴスチン、ストイック學派、アレキサンデリヤのクレメント)
六合雜誌 144 [26612
無名氏(島崎藤村)「夏草」(シェイクスピア「ヴィナスとアドニス」)
女學雜誌 7~9 月號 [26613
竹田太郎司「蘇[ソクラテス]氏言行一斑」校友會雜誌(第一高等學校)13 [26614
伊吹山德司「「トーマス・カーライル」を論ず」
校友會雜誌(第一高等學校)14,15 [26615
廣告「エール大學哲學教授テッド氏」(p.8、英語講演・七月三日、一橋外大講義室にて：哲學の淵源精神並方法) 基督教新聞 466(7/1) [26616
教報「テッド氏の哲學講演」(ギリシヤ哲學等) 基督教新聞 467(7/8) [26617
④＊[訂正]批評「スマイルス氏/荻原朝之助譯「俊傑少年」」國民之友 145
[18629] [26618
＊[訂正]ゼー・エッチ・デホルスト「萬有神話の影響」(マキス・ミュラ、ソクラテス、ストイック派、Pliny 、Verro、Lucretius等) 六合雜誌 137 [1592] [26619
＊[訂正]横井時雄「宗教と基督」(デルヒの女巫、ソフロニスカスの子ソクラテス等) 六合雜誌 137 [1593] [26620

＊[訂正]横井時雄「宗教と學問」(アレキザンドリヤのクレメント、ソクラット
ギリシヤ文學、ロマ律、ジャスチニアン成文律、
ホーメル、プレトウ、アリストウテル、シセロ、
ウオルジル、ロマ帝國等) 六合雑誌 138
[1594] [26621
＊[訂正] (フェルベルン博士講演)「近世神學の傾向」(ルクリショス等)
六合雑誌 138 [1627] [26622
＊[訂正]新著批評「ドーマン/米田庄太郎譯「比較宗教學・第一巻」」(希臘羅馬等)
六合雑誌 139 [1628] [26623
新著批評「金森通倫「自由神學」」（ギリシヤ人關聯） 六合雑誌 140 [26624
＊[訂正]原田助「シュライエルマヘルの性行」(プラトーの飜譯等)
六合雑誌 142 [1629] [26625
大西祝「哲學問題の範圍」(ソフィスト、ソクラテス等) 六合雑誌 143 [26626
＊[訂正]中島力造君講演・荒浪市平速記「哲學史上カントの位置」(アリストートル、プレトー、ヘーゲル等)
六合雑誌 144 [1631] [26627
尾原亮太郎「美とは何ぞや(1)」(ソクラテス、プラトー、アリストートル、カント、
オーガスチン、ヘーゲル等) 早稻田文學 13 [26628
齋藤木「支那の論理法」(アリストートル等) 早稻田文學 13 [26629
新刊「松村介石「デビニチー」」早稻田文學 28 [26630
新刊「田中達氏撰・植村正久序文「亞古士丁傳」」(聖アウガステン)
基督教新聞 441(1/8) [26631
家庭・古川道人「己の心の墨を洗へ」(グリシヤのアリストヲトル等)
基督教新聞 442(1/15) [26632
古川道人「安息日學校」(グリシヤ國のアルキメデス等) 基督教新聞 450(3/11)
[26633
聿水生「大哲學者」(アレキサンドリアのクレメンス等)基督教新聞 459(5/13)
[26634
論說・横井時雄「安息日論(4)」(テルトリヤン帝等)基督教新聞 464(6/17) [26635
家庭・古川道人「陰陽の電氣(下)」(シーザル等) 基督教新聞 466(7/1) [26636
說教・三宅荒毅「晩餐の席に於ける弟子」（希臘の聖賢プラトー等）
基督教新聞 468(7/15) [26637
社說「我職を敬重せよ」（アウゴステン等）基督教新聞 471(8/5) [26638
雜錄/ゼームス・バックトル/思月生譯「生命なる基督」(プラトー、ダンテ等)
基督教新聞 471(8/5) [26639
社說「傳道の時機益迫る」(プラトー、アリストートル、アテンス、ポンペー等)
基督教新聞 472(8/12) [26640
内村鑑三「未來觀念の現世に於ける事業に及ぼす影響(續)」(アウガスチン、ゲー
テ、ギリシヤ文明、ギリシヤ文學、ペリクレス、レ
ッシング等) 基督教新聞 476(9/9) [26641
横井時雄「基督教と偶像教の習俗」(ローマ帝國等) 基督教新聞 479(9/30) [26642
批評「松村介石「デビニチー」」基督教新聞 488(12/2) [26643

社説「宗教上の革新(2)(4)」(ソクラチス、プレトー、アリストートル、ローマ帝國、ソクラット、マルコッス・オウレリアス、エピクテトス等)基督教新聞 489(12/9)491(12/23) [26644
新刊「スマイルス氏/荻原朝之助譯「俊傑少年」東京日々新聞 2/21 [26645
C.①訓言「スパルタの母の訓戒」朝野新聞 5723(10/2) [26646
②同志社ジー・イー・アルブレクト/村田勤譯『使徒保羅之改信』(同志社神學叢書 7) [26647
村田勤（素軒逸史）『救の門』(明 25 增補 2 版) [26648
モール夫人/三浦けい子譯『童蒙基督一代記』 [26649
筒井民次郎『聖書の眞僞』 [26650
松村介石『保羅[パウロ]之傳』 [26651
エム・ウェルス氏校閲・大倉本澄先生講述『志ゆりあす、志～ざる講義』[26652
磯部彌一郎『英文學講義錄』(シェークスピア氏「シーザー」を讀む・附譯註) [26653
マコーレー/河田泰之助譯『フレデリック大王論』 [26654
敬業社編纂『萬國小歷史』(第 7 章「希臘」、第 8 章「羅馬」) [26655
中利通編『日本支那萬國歷史問答一千題』 [26656
元良勇次郎・家永豐吉『萬國史綱』 [26657
田村左衛士(南洋)譯編『泰西婦人』(?) [26658
芳洲散士『古今東西天下之豪傑奇談----一名、立身出世之種』(ポンペイ等)[26659
平田久纂譯『伊太利建國三傑』(民友社) [26660
③＊[訂正](?)「英雄と家庭」(「アゲシラス木馬に乗る」、「カトー息子の衣服を更ゆ」)家庭雜誌 3 [18664] [26661
拓喬生「散松葉(2)--- メテラスと其子」(オクタビアヌス等) 基督教新聞 451(3/18) [26662
松村介石「個人的獨立性」(希臘史、歷山王、アリストートル、ダイオゼニス等) 基督教新聞 478(9/23) [26663
④＊[訂正]批評「松村介石「保羅之傳」」國民之友 169 [18674] [26664
内村鑑三「コロムブスの功績」(シーザル、ダンテ等) 六合雜誌 142 [26665
雜記「松村介石「保羅之傳」」六合雜誌 142 [26666
時文評論「史家[エドウード・オーガスタス・]フリーマン氏逝く」(希臘上古史) 早稻田文學 14 [26667
新刊「元良勇次郎・家永豐吉「萬國史綱」」早稻田文學 25 [26668
說教・横井時雄「預言者の系統」(ペリクレス等) 基督教新聞 444(1/29) [26669
古川道人「知らぬが傳」(アルチミデース等) 基督教新聞 445(2/5) [26670
(?)「理想的傳道師(3)」(ソクラット等) 基督教新聞 453(4/1),454(4/8) [26671
批評「松村介石「保羅之傳」」基督教新聞 480(10/7) [26672
D.①Charles Stickney(trans.), Aesop's Fables, with A Life of Aesop,Tokyo, Fusanbo,1892 [26673
上田將譯『馬太[マトフェイ]傳福音書』 [26674
ラールネデ述/楠瀨一貫記『馬可[マコ]傳註釋』 [26675
ラーネッド述/楠瀨一貫記『羅馬書註釋』(改正新約聖書羅馬書註釋) [26676

ラーネッド述/楠瀬一貫記『新約聖書・加拉太[ガラテヤ]書註釋』・加藤勇二郎譯『增補新約聖書・以弗所[エペソ]書註釋』(加拉太書、以弗所書) [26677
イムブリー/井深梶之助譯『加拉太［ガラテヤ］書註解』 [26678
②近松門左衛門『百合若大臣野守鏡・あとおひ心中卯月の潤色』(戯曲叢書 14,15) [26679
長塩軍治『舊新兩約史略』(2 册。上巻・舊約史略、下巻・新約史略) [26680
ラーネッド著『約翰[ヨハネ]傳福音書批評』 [26681
澁江保『獨佛文學史』(通俗教育全書 57) [26682
芳賀矢一『世界文學者年表』 [26683
④森田思軒「日本現時の文學」(エソップ、拉丁語、エマーソン等) 六合雜誌 137 [26684
中島力造君講演・荒浪市平速記「外國語研究より生ずる精神上の利益」(ソフォクリスのエスクツラ、プラトンのゴージュス、アリストートル、グリーキ語、ラテン語等) 六合雜誌 141 [26685
新著批評「德富健次郎[蘇峰]「グラッドストーン傳」」六合雜誌 144 [26686
時文評論「文學者の信仰」(ヘルキュリーズ、ダンテ、バイロン、シェレー等) 早稻田文學 16 [26687
時文評論・S.H.「伊澤[修二]氏の音樂談」(「音樂の沿革」[ピーサゴラス]) 早稻田文學 21 [26688
雜錄・鶴田喜一郎「梨園のおちば」(ホーマー、エスキラス、ソフォクルス、ユーリピデース、アリストフーアネス、プラトー、アリストートル等) 早稻田文學 19 [26689
「泰西古今の圖書舘」(p.37-8) 早稻田文學 26 [26690
時文評論「ジェームズ・サリーの小說論」(アリストートル、古代希臘の藝術等) 早稻田文學 27 [26691
新刊「芳賀八一「文學者年表」」(日・支那・西洋)早稻田文學 28 [26692
平田禿木「詩人バイロン卿」女學生 28 [26693
星海堂詩人漢譯「Palisina」青年文學 6 月號 [26694
古川道人「二種の言語」(グリシヤの哲學者アリストトル等) 基督教新聞 455(4/15) [26695
宮崎湖處子譯「十日物語之中・可憐鷹」(ボッカチオ「デカメロン」中) 國民新聞 5/20~5/24 [26696
エマソン/神澤其村譯「厭世之歌」國民新聞 10/? [26697
アンデルセン/森鷗外譯「卽興詩人」しがらみ草紙 11~(明 27)8 月號 [26698
銀街茶話「ダンテ怒る」朝野新聞 5721(9/30) [26699
E.②增島仁吉編『泰西經濟學者列傳』(?) [26700
④寺尾熊三「國家の實体」(シーザル、ペリクル等)六合雜誌 136 [26701
論說・原田助「君權は神權なりと云ふ意義に就いて東海生に答ふ」(ストイク等) 基督教新聞 466(7/1) [26702
F.④本多光太郎「幾何學ノ二種ニ就テ」校友會雜誌(第一高等學校)19 [26703

思問子「歐洲に於ける遠所通信法の來歷」校友會雜誌(第一高等學校)24 [26704
G. 米國人博士平文[ヘボン]・山本秀煌『聖書辭典』 [26705
新著批評「平文[ヘボン]先生・山本秀煌譯「聖書辭典」」六合雜誌 140 [26706
植村正久「ヘボン博士その故國に歸らんとす」福音新報 82(10/7) [26707
「宣教師ヘボン博士の本國に歸るを送る」基督教新聞 481(10/14) [26708
教報「ドクトル・ヘボン氏並に令夫人の送別會」基督教新聞 483(10/28) [26709

明２６(１８９３)
A. 羽化仙人(澁江保)譯『支那哲學者・歐洲巡遊通信』2 册(寸珍百種第 28・29 編。ゴールドスミス「世界の市民」) [26710
高島得三『歐洲水奇勝』(2 册。第 2「伊太利」) [26711
(參考：「慶應義塾大學部生徒募集」、郵便報知新聞 6335(2/21) [26712
文學科課程第一年：修辭法、歷史、論理學、羅甸語
第二年：修辭法、倫理學、歷史、教育學
第三年：修辭法、英米文學史及哲學史
法律科課程第一年：羅甸語
第二年：羅馬法
第三年：法理學)
「讀書に就きて」(p.71。ギヨオテ、希臘語等) 早稻田文學 33 [26713
小崎弘道「新日本と基督教」(アレキサンドル、シーザル等)
基督教新聞 494(1/13) [26714
B.②同志社デビス(J.D.)/坂田貞之助譯『基督教教理略史』 [26715
同志社デビス(J.D.)『基督と諸先哲』 [26716
平岡希久『上帝論』(基督教解疑篇) [26717
平岡希久『處女の懷妊』(基督教解疑篇) [26718
小崎弘道『基督論』 [26719
池田平三郎編『福音圖解』 [26720
内村鑑三『基督信徒の慰め』(ギボン、ヲ―ガスチン、シーザル、カトー、シセロ、古哲ソクラテス等) [26721
横井時雄『宗教上の革新』(第 4 回「帝國ローマと新日本及び基督教」) [26722
ニカノル/小野彼得(成籌)譯『羅馬教考』 [26723
田中達譯『サヴォナローラ略傳』 [26724
シエドル・パーカー著/麻生繁雄譯『パーカー氏・一語千金』 [26725
杉山重義譯『チャンニング氏・一語千金』 [26726
星野光多編『立德堅信・談林』 [26727
星野光多編『修德養信思想の林----一名、日毎のさとり』(→明 40 刊「基督教思林---一名、日毎の學」の初版) [26728
米國ドッド/千葉廉譯『修學指鍼』(?) [26729
獨逸ウェンツケ原著/今井恒郎譯『哲學階梯』 [26730
井上圓了『哲學摘要』(訂 2 版) [26731
大西祝述『論理學』 [26732

櫻井吉松編『高橋五郎』 [26733
三田村熊之助(半學)編『一言萬金』 [26734
神崎一作編『破耶叢書』2 册)------ [26735
第 1 集・神崎一作「耶蘇教東漸の概略」
巴毘弁「破提宇子」
新井白石「西洋紀聞」
鈴木正三「破鬼理死端」
第 2 集・田島象二「耶蘇一代辯妄記・耶蘇教意問答」(下之巻)
天野爲之「哲學一斑」
③＊[訂正]ヲスカー・ブロウニング/有賀信靜譯「泰西教育史論」教育報知 380,382,383,388,389,390,393,394,395,396,397,398,399,401 [1761] [26736
＊[訂正]森田久万人「宗教哲學論理法の歴史及批評」(プレトー、アリストートル、ヘラクリタス、アウガステン、ソクレチーズ等) 六合雑誌 152,153,155 [1748] [26737
井上哲次郎「教育と宗教の衝突」(デモステネース氏、ソクラテス、プラトー、羅馬帝クラウジウス、ネロ等)教育時論 279,280,281,283 [26738
八面草「學者いじめの時代」(ソクラテス等)萬朝報 144(4/30) [26739
ハルナック「ペテロ黙示錄斷篇」(ダンテ、ウェルギリウス等)眞理 43 [26740
社說「初代基督教會内に於ける思想の衝突」(ギリシヤ思想、ローマ思想、新プラトン派、アレキサンドリア、アウゴスチン、マルコス・アウレリアス等) 基督教新聞 542(12/15),544(12/19) [26741
④＊[訂正]横井時雄「基督教の總合的特性」(マックス・ムーラ、クレオパトラ、新プラトー學派、ストイック學派、ピサグリアン學派、エピキュリアン學派、ローマ帝國等) 六合雑誌 146 [1741] [26742
横井時雄「現今の德育法を論評し幷せて當路者に一策を建す」(ソクラテス、プレトー、ギボン、ユウリピデセース、ハンス・アルノルド等) 六合雑誌 148 [26743
中島力造「觀念なる譯語に就て」(プレト、ヘーゲル等) 六合雑誌 148 [26744
＊[訂正]横井時雄「人生觀」(ギボン、バイロン、アテンスのチモン、ダイゼニス、ソクラット等) 六合雑誌 150 [1744] [26745
＊[訂正]高橋五郎「「精神界の革新」、一名倍根論」(アリストートル、プラト等) 六合雑誌 150 [1746] [26746
＊[訂正]朝河貫一「基督教に關する一卑見」(オルフィアス、ターレス、ギョウテ、ソクラット等) 六合雑誌 150 [1745] [26747
＊[訂正]原田助「宗教道德の性質」(ストイク派、エピキュリアン派、モンテスキュー等) 六合雑誌 154 [1747] [26748
松本亦太郎「印度哲學儈法論(承前)」(ピタゴラス、プラトー等) 六合雑誌 156 [26749
「アウトルック誌に據る」・「故教授ヂョウエット氏」六合雑誌 156 [26750
植村正久「雨の中に在る光」(ソクラテス等)日本評論 52 [26751

山内晉「井上哲次郎氏の教育と宗教の衝突を讀む」
尚志會雜誌(第二高等學校) 1 [26752
箕作元八「獨逸學生情況一斑」校友會雜誌(第一高等學校)29 [26753
文界現象「ドクトル・コエーベル氏」(ブッセ氏の後任として着任)
早稻田文學 34 [26754
文界現象(海外)「ラスキンが美の論」(プラトー等) 早稻田文學 42 [26755
文界現象(海内)「ドクトル・コエーベル氏來着」早稻田文學 44 [26756
文界現象(海内)「大學院新學生」(ドクトル・コエーベル氏) 早稻田文學 47[26757
ト里老猿「僞善者の大僻論を駁す(1)(2)」(高橋五郎批判、布拉多[プラトン]、亞里
私特德[アリストテレス]、ソクラテス等)
朝野新聞 5913(6/1),5914(6/2) [26758
□揚生「情=基督教と色情(6)(7)」(ダンテ、バイロン等)
朝野新聞 6040(11/7),6048(11/15) [26759
社說「宗教上の革新(7)」(アレキサンドル、フィリップ等)
基督教新聞 495(1/20) [26760
說教・グリフィス「彼は隔ての籬を毀てり」(ローマ帝國、ギリシヤ人、ギリシヤ
基督教新聞 499(2/17),500(2/24) [26761
(?)「キリストの教」(オーゴスチン、トーマス・アクイナス、プレトー、フィロー
等) 基督教新聞 500(2/24),501(3/3) [26762
教報「福井近況」(ソクラテス等) 基督教新聞 503(3/17) [26763
說教・原田助「神の能力」(ギリシヤ人、ソクラテス、プラトー、アリストートル、
ゼノ、エピキュラス等) 基督教新聞 503(3/17) [26764
横井時雄「國家的宗教と人類的宗教」(ローマの宗教等)
基督教新聞 505(3/31) [26765
容膝堂主人「未來」(ソクラテス、アレキサンデリヤの大哲學、ローマ・グリシヤ
の大聖徒等) 基督教新聞 518(6/30) [26766
横井時雄「道德と自由」(グリシヤの思想、アレキサンドル等)
基督教新聞 523(8/4) [26767
横井時雄「信仰」(アレキサンドル、ソクラット等) 基督教新聞 524(8/11) [26768
小崎弘道述・矢野由次郎速記「永遠の生命」(於明治 26 年 8 月 13 日番町教會。ア
リストーツル等) 基督教新聞 525(8/18) [26769
社說「基督教の進取的精神」(ギリシヤ人等)基督教新聞 535(10/27) [26770
丹羽清次郎「基督教青年會の方針を論ず」(ソクラチース等)
基督教新聞 538(11/17) [26771
(在北海道札幌)四方素「義人之永存」(ソクラチース等)
基督教新聞 539(11/24) [26772
愛軒主人「眞正の基督教會を認むべき徽號(承前)」(聖アウグスチン等)
聲 58(8/15) [26773
C.②＊[訂正]櫻井ふき子『婦人立志傳』(古哲金言) [1785] [26774
＊[訂正]學友舘編輯部・淡海散士『政治學術---- 演說達辯法』(←明 21.C.②)
[1170] [26775
澁江保『雄辯法』(通俗教育全書第 81。ブルタス、デモスセンス、シセロ等)

[26776
大倉本澄講述・ウェルズ閲『沙翁・志ーざー講義』 [26777
大家八十八郎・石田羊一郎共譯『英雄崇拝論』(カーライル「英雄と英雄崇拝」) [26778
小崎弘道『基督教と國家』(基督教迫害の來歴。←明 22 刊) [26779
平岡希久『耶蘇の磔刑』(基督教解疑篇) [26780
デール/松尾音次郎(霽月堂主人)譯『活ける基督と四福音』 [26781
村田勤『救の奥義』 [26782
三谷久太郎『基督教之根據』 [26783
竹越與三郎『基督傳記』(福音社,警醒社[發賣]。→1894 年,再版) [26784
ハーブル、ブレークスリー共著/メレー・エチ・シャッド譯『基督傳問題—-教科適用』(米國宣教師事務局藏版) [26785
イー・エム・ケリー/竹内文譯『基督一代記おさな學び』 [26786
博文舘藏板『新撰・學生實用萬國地圖』 [26787
ベルジイ・ジュ・ベルノア/金子直壽譯『應用戰史學』(?) [26788
③＊[訂正] (參考：批評・東京専門學校試驗問題(本年二月執行)、中央學術雜誌 2-3
------邦語政治科・一年級：松平康國出題(上古史) [15471] [26789
「ソロンの事業を記せ」
「ペロポンニサース戰爭の結果如何」
「アレキサンダー東征の結果如何」
「三大歷史家の名を擧げよ、併せて三大詩家の名其著書如何」
「羅馬政躰の變遷を列擧せよ」
「ヲーガスタスの遺業を記せ」
「ピクニック戰爭の遠因と近因を記せ」
註釋「ス井ントン英國七大家詩文抄---アヂソン作「ケートー」悲劇の一節」 日本英學新誌 40 [26790
上田敏「春の夕に基督を憶ふ」校友會雜誌(第一高等學校)26,27,28 [26791
プライス・ヒウス氏說教/油谷天行譯「基督教の勝利」(アリストートル、ストイック流、犬儒派等) 基督教新聞 496(1/27) [26792
④＊[訂正・削除]批評「桑原啓一郎「新編・希臘歷史(完)」國民之友 206 [18828] [26793
野田義夫「藤井健次郎氏の歷史論を讀む」尚志會雜誌(第二高等學校)3 [26794
文界現象「アウガスタン時代」早稻田文學 31 [26795
海外「歐洲に於ける史學の近況」(羅馬史のモムゼン) 早稻田文學 31 [26796
坪内逍遙「美辭論稿(7)」(キリアム・イー子「羅馬史」、ニーブル、モムゼン等) 早稻田文學 34 [26797
新刊「櫻井明石「希臘孝子腓立比物語」」早稻田文學 40 [26798
雜錄・奥泰資「小羊子閲「基督物語」」早稻田文學 40 [26799
社說「迫害」(ソクラテス、ローマ帝國等)基督教新聞 497(2/3) [26800
說教・山田寅之助「眞正の勇士」(アレキサンドル、シーザー、ハン子バル等) 基督教新聞 498(2/10) [26801

D.①栗本長質編『袖珍改正新約全書』 [26802
ジー・ジー・ハドソン/林弘之譯『馬太[マタイ]福音書問題集』(2 册) [26803
ラーネッド述/楠瀬一貫記『哥林多[コリント]前書註釋』(米國宣教師事務局藏版) [26804
イムブリー/高橋五郎譯『哥羅西[コロサイ]書註解』 [26805
②ウィリアム・ジョージ・スミス/佐々木笑受郎譯『基督教と聖書研究の端緒』 [26806
菊池孝順(雨森穩士)『新約小評』 [26807
北村透谷『内部生命論』(プラトー、ダンテ、バイロン等) [26808
澁江保『英文學史』(通俗教育全書 58) [26809
サミュール[如溫游]・ジョンソン博士/新井清・河田清彦譯『亞比斯尼亞國皇子剌世拉斯[ラセラス]史釋義』(アビシニア王子「ラセラス」、2 册→明 27) [26810
大島國千代譯『ジョンソン氏・ラセラス傳註釋』(アビシニア王子「ラセラス」) [26811
Yoshihide Hachiya(蜂屋可秀),Annotation to Macaulay's Milton,designed for Japanese teachers and students ,the Office of Museum [26812
④＊[訂正]井上德定「釋教の和歌(承前)」(ホーマー、ヘシヲッド、ダンテー等) 佛教 82 [15494] [26813
＊[訂正]明窓淨机・深見秋之助「英國ローヤル・アカデミーの總長(一)」(ラテン、グリーキ等、古文學等) 亞細亞 2-11 [15503] [26814
＊[訂正]坪内雄藏君述・荒浪市平速記「文學管見」(ホーメル、バイロン、エマルソン、ソクラテス等) 六合雜誌 147 [1815] [26815
山東生「むだがき」(シルレル)亞細亞 2-7 [26816
雜報「文豪テイン逝く」校友會雜誌(第一高等學校)25 [26817
雜錄・鶴田喜一郎「劇壇小言」(レッシング、ホーマル、エスキラス、ソフォクレス、ストイック哲學、エピキュラス哲學等) 早稻田文學 33 [26818
海外「佛の文豪テーン逝く」(「テーンの畧傳」「批評家としてのテーン」) 早稻田文學 36 [26819
雜錄・鄭隈生「詩論雜纂」(アリストトートル、上古叙事詩、アキリーズ、オレスチスの叙事詩等) 早稻田文學 38 [26820
文界現象(海外)「故ヒュッポリット・テーン」早稻田文學 42 [26821
文界現象(海外)「故テーンの性行」「其の技兩」(「當代評論」4 月號、G.Monedに據る)早稻田文學 43 [26822
紀淑雄稿(卒論)「劇の人心に於ける影響」(アリストオトル、希臘劇、ダンテ、シルレル等) 早稻田文學 44,46 [26823
金子馬治稿「詩才論」(プレトオ、アリストオトル等) 早稻田文學 46 [26824
雜錄・奥泰資(小羊子閲)「アレキサンドル・ポープ」(「イリヤッド」英譯) 早稻田文學 48 [26825
E.②平田讓衛述『法理學』(東京專門學校法律科第 3 年級第 5 回講義錄、政治科第 3 年級第 5 回講義錄、東京專門學校講義錄) [26826

六條隆吉・近藤千吉『中等教育・世界商業史』（→明 30） [26827
加藤弘之『強者の權利の競爭』 [26828
ルードルフ・フォン・イヤリング著/ジョーン・ジェー・レーラー譯/宇都宮五郎重譯『權利競爭論』(→明 27) [26829
④新刊「林會登吉「萬國商業史」」(古代あり)早稻田文學 31 [26830
F.③櫻井房記「物ノ色ニ就キテ」(プレトー、ピタゴラス等)東京物理學校雜誌 14 [26831
(?)「ピタゴラスノ定理」東京物理學校雜誌 23 [26832

明２７(１８９４)
A. 吉田正信『波斯之旅』(アレキサンデル大王等) [26833
大和田建樹譯『歐米名家詩集(下)』(バイロン「羅馬の友、希臘」等) [26834
八太德三郎「露西亞」(希臘羅馬の文明等)亞細亞 3-3 [26835
雜報「萬國東洋學會」(古代希臘、ヘレニズム等)東洋哲學 1-4 [26836
植村正久「歷史上の危機、文明の扶植」(ギボン、サラミス戰爭、アレクサンドロス等)福音新報 189 [26837
(參考：立教學校廣告「專修科第一學年---希臘語(倫敦大學文學士マックレー)」基督教新聞 575(8/3) [26838
「近時文明の缺點」(ベンジャミン・キッド「社會進化論」[希臘文明の缺點等]) 基督教新聞 586(10/19) [26839
B.①譚林「ゼノフォンの確言」聲 75(5/1) [26840
②田中恭麻呂纂譯『西洋近世・哲學者略傳/日本近世・學者小傳(全)』(アリストートル、ホーマー、ピエール・ガッセンディー、エピキュラス學系等) [26841
＊[訂正]秋鹿見橘編・國府寺新作校『教育史教科書』 [1845] [26842
＊[訂正]能勢榮『内外教育史』(「希臘の教育」、「羅馬の教育」、「西洋中古の教育史」、「西洋近世の教育史」) [1847] [26843
井上圓了『純正哲學講義』(哲學舘第 6 學年級正科講義錄） [26844
米山長太郎述・高村乙丸記『教育史』(哲學舘第 7 學年級正科講義錄） [26845
(境野黃洋譯)井上圓了『比較宗教學』(哲學舘講義錄→明 32 年) [26846
マルコルム・マッコル/高橋五郎譯『基督教と學術道德』 [26847
半井分次郎『人性論』(青年叢書 1) [26848
宮川經輝編『金言集』(增補訂正版） [26849
ヂ・ダブリュー・ラールネデ著『四福音書は吾等が希望の基礎なり』 [26850
アーサル・ジエムス・メーソン/高橋五郎譯『福音之道----一名、基督教理提要』 [26851
マクレイン著/マクネヤ、和泉彌六共譯『基督教の學術研究』 [26852
千頭淸臣『論理學講義』(東京文學院第 1 年級講義錄) [26853
澁江保『哲學大意』(通俗教育全書 91) [26854
松本文三郎『近世哲學史』(哲學舘第 7 學年度高騰教育學科講義錄。附・田中治六「哲學名義考」) [26855

③＊[訂正]ヲスカー・ブロウニング/有賀信靜譯「泰西教育史論」
教育報知 403,404 [1858] [26856
＊[訂正・削除]雜錄「The Golden Rule of Pythagoras」日本英學新誌 48
[15532] [26857
詞花中「ソクラテス、聖ヲグスチン」聲 67(1/1) [26858
詞花中「聖オグスチン」聲 75(5/1) [26859
詞花中「聖オグスチン」聲 77(6/1) [26860
キリストリープ「東西の厭世教と其倫理」眞理 51 [26861
④＊[訂正]原田助「實踐道德の中心問題」(ソクラット、オビド、プラトー、アリストートル、セ子カ、マルカス・オリリアス、エヒロクテトス等) 六合雜誌 157 [1870] [26862
小西增太郎「露國思想界の近況」(ソクラテス、プラトン、アリストーテル、ヘーゲリ等) 六合雜誌 157 [26863
「「ゼンド・アヴェスタ」の起源」(アレキサンドル大王、アリストートル等)
六合雜誌 158 [26864
＊[訂正]松本亦太郎「ショッペンハワー氏の宇宙問題解釋論」(プラトー等)
六合雜誌 163,164 [1880] [26865
アーサー・ロイド「黃金橋(B)」(ソクラテス、プレートー、アリストートル、シセロ、ストイック、セント・オーガスチン、エスキュラピイス、ハーキュリース等) 六合雜誌 167 [26866
雜記「佛學とスコラ哲學との相似の點」(プラトー、アリストテレス等)
六合雜誌 167 [26867
フレデリック・エッチ・バルフォール「道教論」(ソクラテス、プラトー、アリストートル、プロクロス、リュークレシアス等)
東洋哲學 1-1,2 [26868
講演・井上哲次郎「東洋の哲學思想に就いて」(プラトーン等)東洋哲學 1-2
[26869
松本文三郎「陰符經之哲學」(プラトー、ヘーゲル、ヘラクリタス等)
東洋哲學 1-4 [26870
淺井豐久「印度哲學諸派」(希臘語、テールス、アナクシネ子ス、プロタゴラス、ゴリギヤス、懷疑的詭辯家、瑣克拉底[ソクラテス]、亞里斯德土爾[アリストテレス]、ホーマー、ヘシオド、布拉土[プラトン]、ペリクルス、エムペドクレス、デモクリタス、羅馬ルクレシヤス等)東洋哲學 1-5,6 [26871
磯部武者五郎「日本哲學ノ性質」(希臘ノ諸賢及ストア學派等)東洋哲學 1-5 [26872
講演・加藤弘之「孔子之道ト徂徠學」(そくらてす、ぷらとう、ありすとうとる等)
東洋哲學 1-6 [26873
講演・元良勇次郎「惡の性質」(アリストートル、ストイック學派等)
東洋哲學 1-7 [26874
雜報「心學講義」(西村茂樹講述、希臘等)東洋哲學 1-7 [26875
(參考：雜報「文科大學卒業生---岩元禎氏[先天觀念論]」、東洋哲學 1-7) [26876
小柳司氣太「詩經を讀む」(ホーマー、プラトー等)東洋哲學 1-8 [26877

小柳司氣太「老莊餘滴」(プラトー、アリストートル等)東洋哲學 1-10 [26878
渡邊又次郎「勝論派の哲學」(アリストートル氏、デモクリタス氏、エムペドール氏等) 東洋哲學 1-11 [26879
谷本富「東洋教育の研究に就て」(プラトー、アリスト-トル等) 東洋哲學 1-11 [26880
雜報・た、ち生投「木村鷹太郎氏の倫理學書」東洋哲學 1-11 [26881
寄書・藤田豐八「孔子以後の儒學派(承前)」(ソクラテス、プレトー、アリストートル等)東洋哲學 1-12 [26882
雜錄・神崎一作「支那に於ける耶蘇教」(オーガスタス帝等)東洋哲學 1-12 [26883
愛軒主人「眞正の基督教會を認むべき徴號(承前)」(聖オグスチン等) 聲 67(1/1) [26884
京都オリエンチス神父「準秘跡の事(2)」(オグスチン聖人等) 聲 84(9/15) [26885
搜虎野史「落葉片々(1)(2)(3)(4)」(フェネロン大司教「テレマーク」中、ソクラトとアルシビヤドの問答)聲 86(10/15),87(11/1), 88(11/15),89(12/15) [26886
如安道人「信者の心得(4)」(聖オグスチン等)聲 87(11/1) [26887
飜譯「エマーソン報償論」日本英學新誌 62,63,64 [26888
註釋「スウ井ントン英文學・エマーソン「コンペンセーション」」 日本英學新誌 64 [26889
社說「確信」(ソクラテス等) 基督教新聞 547(1/19) [26890
社說「友情の勢力」(ソクラット等) 基督教新聞 548(1/26) [26891
大主教ディオニシオス氏「說教」(ソクラテス、プラトー、アレオパーグ山等) 基督教新聞 549(2/2) [26892
上毛山人「舊新神學に就て增野悅興君閣下に訂す」(ソクラテス等) 基督教新聞 550(2/9) [26893
說教・古木寅三郎「人物」(シ子カ等) 基督教新聞 551(2/16) [26894
新刊「星野光多「思想の林」」基督教新聞 553(3/2) [26895
「感化」(ソクラチース、アリスデース等) 基督教新聞 557(3/30) [26896
說教・村井知至「精神的宗教の復興を望む(承前)」(希臘羅馬等) [26897
基督教新聞 558(4/6) [26898
滅々子「下婢が生涯話の序(16)」(エピクテート、エゾップ、ソクラテス、プラトン、チセロ、ヴルヂル、ホラース等) 基督教新聞 563(5/11) [26899
社說「基督の倫理教(1)(5)」(希臘哲學、ギボン、ソクラテス、プラトー、エピクラトス、マルカス・アレリアス、イソクラテス、アリストートル、セ子カ等) 基督教新聞 568(6/15), 573(7/20) [26900
素軒(學人)[村田勤?]「愛に就いての名家の金言」(バイロン、エメルソン等) 基督教新聞 568(6/15) [26901
ヘンリー・シヂウィク/松尾音次郎抄譯「基督教と中世の倫理學」 基督教新聞 570(6/29) [26902
社說「新福音書の時代近し」(オグスチン等) 基督教新聞 572(7/13) [26903

白菊女史「母の感化」(アウガスチン等) 基督教新聞 572(7/13) [26904
素軒學人「トマス・アキナスの逸事」基督教新聞 573(7/20) [26905
村田勤稿「第四世紀講壇の偉人アムブロース」基督教新聞 577(8/17),
578(8/24), 579(8/31) [26906
佛國ラマルチーヌ/滅々子譯「下婢が生涯話の序」(ホメール、プラトン、ソフォクール、ヴィジル、ホレース、チセロン、ヂュヴェナル、タシット、ゲェーテ等) 基督教新聞 582(9/21),
589(11/9) [26907
ヒュー・ブライス・ヒュース/油谷天行譯「キリストの新誡」(プラトー、ソクラチス等) 基督教新聞 584(10/5),585(10/12) [26908
小笠原豐太郎「與オルチン宣教師表自我信仰書」(プラトン、アリストトル、ストイック、子オ・プラト派、オーゴスチン等)
基督教新聞 586(10/19),587(10/26) [26909
川村兵治「化身論」(シモニデス、アリストートル等)
基督教新聞 594(12/14) [26910
C.①譚林「聖王聖母を諫む」(アレキサンドル王)聲 67(1/1) [26911
②ビー・エフ・バックストン/伊藤重吉譯『聖靈のバプテスマ』 [26912
米國・ラール子デ講述/速水琢巖譯『基督教會歷史』 [26913
樋口忠子『基督教』 [26914
小林光茂『基督教一斑』 [26915
松尾音次郎編『基督教の礎』(第 2,3 輯) [26916
アッチカス・へーグッド/高橋五郎譯『基督人物考』 [26917
松野菊太郎・笹尾鐵三郎篇『救の歌----キリストの福音』 [26918
神原守文『律法と福音』 [26919
ゲラルド・マツシー/大原嘉吉譯『耶蘇基督起原史論』 [26920
カーライル/蘭山居士譯『詩人的英雄』(「英雄と英雄崇拝」) [26921
デトレトイー/陸軍乘馬學校譯『古今馬術書』 [26922
③明石居士譯「沙翁戲曲・該撒[シーザー]一節」女學雜誌 7 月號 [26923
「西史穴探」(オーガスチス帝、羅馬勇將マシアスノスケボラ、シーザー、希臘の哲學者デ井ヲゼニーズ、ロミュラス、亞歷大帝、アルキミデース、サーミピリーの死、レオノダース、ハンニバル、クレオパトラ、阿房大王、ネロ帝、タシタス、ペトロニウス、コンスタンチン大帝等)
郵便報知新聞 6353(1/5) [26924
戰闘史譚「名將の機智」(エパミノンダス、マセドーニア、シーザル等)
郵便報知新聞 6619 (12/12) [26925
雲影子「原始基督教」眞理 56 [26926
村田勤稿「第四世紀講壇の偉人聖アムブロース」
基督教新聞 577(8/17),578(8/24), 579(8/31) [26927
カルペンター氏/村井知至譯「耶蘇の時代に於ける猶太國(第 8 回)」(アセドンの大王アレキサンドル、グリーキ人等)
基督教新聞 593(12/7) [26928
④＊[訂正]時事「大學院學生(文科大學卒業者)」(芳川太郎吉「歷史哲學」)

國民之友 233　[18966]　[26929
(參考：雜報「文科大學卒業生---芳川太郎吉氏[歷史哲學]」、東洋哲學 1-7)[26930
み、志生投「銀蓮華」(古物學者ムクホポートヒァヤー氏、希臘等)
東洋哲學 1-12　[26931
社說「東洋傳道と日本の基督教」(ロマ人、ギリシヤ人等)
基督教新聞 583(9/28)　[26932
戰闘史譚「老婦至誠國を思ふ」(ラセドニア[スパルタ]等)
郵便報知新聞 6615(12/8)　[26933
戰闘史譚「余敢て其任に當らん」(羅馬、カルセージ等)
郵便報知新聞 6618(12/11)　[26934
戰闘史譚「死生命あり」(シーザル等)　郵便報知新聞 6619(12/12)　[26935
戰闘史譚「全都の民悉く困難に殉ず」(マセドニア王フィリップ等)
郵便報知新聞 6624 (12/18)　[26936
戰闘史譚「寡兵大軍を破る」(亞善[アゼン]の名將ミルチヤデス等)
郵便報知新聞 6630(12/25)　[26937
(?)「アーノルド・トインビーの性行及主義」基督教青年 13　[26938
天籟子「ヘルデル傳」(4)」自由基督教 3-7　[26939
D.①辻密太郎『携帶新約全書註釋』（米國派遣宣教師事務局藏版）　[26940
ミハイル編/上田將譯『馬可[マコ]福音註解』　[26941
長坂毅編『聖經古典圖畫』　[26942
②チリメン本・馬留武黨[バルブドー]譯『ラ・フォンテーヌ寓話撰集(佛譯、二册)』
(梶田半吉、狩野友信、岡倉秋水、河鍋曉水、
枝貞彦が作畫)　[26943
長坂毅『聖經古典圖畫』　[26944
星野光多編『聖語一覧』　[26945
③論海「羅甸語」(聖公會)聲 84(9/15)　[26946
④ドーソン述「ジョン・ラスキン---人物と天職」基督教青年 12　[26947
松元源太郎「ラスキンの美術論」校友會雜誌(第一高等學校)33,35,42　[26948
南風子「シルレル」同志社文學 76　[26949
松本亦太郎「言語相貌」(アリストートル、プラトー、カンパ子ラ、ゲーテ、ソフォクレス、フィデア等)六合雜誌 161　[26950
村井知至「基督の教に關する歷史的研究法(承前)」(フハイロ派、ニロ帝、グリーキ・ローマの開化等)　六合雜誌 162　[26951
淺田榮次「高等批評とは何ぞや」(ホーマル、ダンテ、エマルソン、ニーブル、ウールフ等)　六合雜誌 162　[26952
講演・黑川眞頼「佛教と美術との關係」(ソクラテス、アリストートル、セント・オーガスチン等)東洋哲學 1-1　[26953
南條文雄「印度語の沿革及び發達」(希臘語等)東洋哲學 1-2　[26954
雜報「東洋語學者會の狀況」(第六部「希臘及東洋」コロムビア大學教授メリアム)
東洋哲學 1-10　[26955
雜報「本居宣長大人の略傳」(アリストートル氏等)東洋哲學 1-11　[26956
講演・上田萬年「國語と國家と(承前)」(希臘羅馬の言語史等)東洋哲學 1-12

[26957
バイロン/大和田建樹譯「大海原」(Childe Harold)日本之少年 1 月號 [26958
キーツ/平田禿木譯「薄命記」(「書簡集」)文學界 3 月號 [26959
(參考：學術講演會(リール・オリエンス會)「キリストリープ君---十九世紀とゲーテー」、基督教新聞 546(1/21)) [26960
ボッカッチョ/こうえふ譯「冷熱」(「デカメロン」一節)讀賣新聞 5/27~7/6
[26961
E.②モア/萩原絹涯譯『理想的國家』(社會文庫第 3 編。「ユートピア」) [26962
ルードルフ・ゾーム/神宮教院譯『國家及教會ノ定義ニ基ヅケル國家及教會ノ關係』
[26963
加藤弘之『道德法律の進歩』 [26964
神宮教院譯『國家ト宗教ノ關係』 [26965
グラハム/森山信規譯『新舊社會主義』 [26966
④寄書・鹿洲生「藩閥政府と薩州の現況」(シーザル、ブルタス、アントニー等)
郵便報知新聞 6376(2/2) [26967
新著寸言「權利競爭論」(井エリング著、宇部富五郎重譯)
郵便報知新聞 6531(8/25) [26968
(?)「國民の義氣を勵ます者は誰れぞ」(ギリシヤ人等) 基督教新聞 574(7/27)[26969
F.③三守守「二種ノ液體中ニ於ケル固體ノ平均」(アルキメデス等)
東京物理學校雜誌 34 [26970
④雜報「理科大學ニュートン祭」(アルキメチス、ユークリッド、アリストートル)
東京物理學校雜誌 26 [26971
G. 嶌田豐纂譯『雙解・英和大辭典』 [26972
大田才次郎編『新撰歷史字典』 [26973
三宅秀編『人名醫語字典』 [26974

明２８(１８９５)
A. 小宮山綏介編『洋學大家列傳』(宇田川榕庵、前野良澤、山村才助、高野長英、中村敬宇等) [26975
ヂョセフ・スミス・ドッヂ/高橋五郎譯『基督教文明開化』(「基督教的文明開化」)
[26976
「物理學校教授細目]（「物質ノ性質-----アルキメデスノ原理」)
東京物理學校雜誌 39 [26977
雜錄・淺井豐久「ダット氏ノ古代印度文明史ニ就テ」(マキス・ミューレル、ホーマー「イリアッド、オデッセー」等)東洋哲學 2-2 [26978
(參考：雜報「兩大學の東洋學教師」(オックスフォルド、ケンブリッジ)、
東洋哲學 2-2 [26979
Oxford：比較博言學(エフ・マクス・ミューレル)、道德哲學(テー・ケース・ダブリュー・ワレース)
Cambridge : 比較博言學(ピー・ガイルス)、道德哲學(エチ・シジ井ック、ドクトル・ケーネス))
雜報「印度に於ける西方文明の影響」(プラトーン、新プラトーン派、新ピタゴラ

ス派、フ井ロン等)東洋哲學 2-5 [26980
(參考：雜報「哲學舘學則改正」、東洋哲學 2-6 [26981
豫科(教育學部、宗教學部)：萬國史、心理學
本科下級(教育學部)：史學(西洋)、教育學、論理學、倫理學、哲學史、社會學
本科下級(宗教學部)：史學(西洋)、宗教學、論理學、倫理學、哲學史、社會學
本科上級(教育學部)：教育學、心理學、美學及西洋文學、倫理學(東洋及西洋)
本科上級(宗教學部)：宗教學、純正哲學、心理學、美學及西洋文學、倫理學(東洋及西洋)
本科科外：人類學、博言學、法理學、政理學、國家學)
「立教學校廣告----（一）專修學部：倫理史、哲學史、希臘語」
基督教新聞 631(8/30) [26982
「先進學院生徒募集---學科：西洋哲學史」基督教新聞 632(9/6) [26983
B.①「エピクテトスの言」（p.1）基督教新聞 604(2/22) [26984
「マルカス・オリリアスの言」（p.1）基督教新聞 621(6/21) [26985
「シセロの言」（p.1）基督教新聞 643(11/22) [26986
②＊[訂正]湯本武比古[木野崎吉辰述?]『教育史講義錄』(大日本師範學科第ニ學年科講義錄) [1939] [26987
大日本教育會『洛克氏・教育思想』 [26988
大西祝述『論理學』（東京専門學校政治經濟科第 1 回 1 年級講義錄） [26989
ヘンリー・シー・シェルドン/松浦松胤・ミルトン・エス・ヴェール共譯『教理歴史』（原著改訂第 2 版の邦譯） [26990
原田助編『基督教及教育』（基督教文學 4） [26991
ビート著/マクネヤ、和泉彌六譯『福音之大原理』 [26992
マルチン/半田研吉譯『啓蒙天道溯源』 [26993
トマス・ア・ケンピス著/(外松謙版?)『和語遵主聖範』（第 1 巻、「基督の倣び」邦譯） [26994
ゼームス・マルチーノ原著/ホーランド編/蓮沼磐雄譯『マルチーノ氏・一語千金』 [26995
③清澤滿之「人物排立」(ソクラテス、エピクテタス、アリストートル、プラト等、1 月稿、昭 31 年刊・全集 4 所収) [26996
＊[訂正]クリストリープ「希臘の哲學宇宙論」眞理 62 [1953] [26997
＊[訂正]クリストリープ「希臘の性理論」眞理 63 [1954] [26998
＊[訂正]クリストリープ「希臘組織哲學」眞理 64,65,66 [1955] [26999
＊[訂正]クリストリープ「羅馬哲學」眞理 67 [1956] [27000
雜報「四賢肖像」(瑣克剌度[ソクラテス]等)東洋哲學 2-2 [27001
講演・加藤弘之「孔夫人と希臘人」東洋哲學 2-9 [27002
白菊女史「童兒之友」(グリースのひじりソクラチース)
基督教新聞 609(3/29) [27003
④＊[訂正]西田幾多郎「グリーン氏倫理哲學の大意」教育時論 362,363,364
[1970] [27004

＊[訂正]大西祝「改造的事業」(ヘーゲル、ソフィスト、アリストファ子ス、ソクラテス等) 六合雜誌 169 [1941] [27005
＊[訂正]時論「懷疑を破す」(プラトン、フイデアス、デモクリトス、アリストテレス、ヘーゲル等) 六合雜誌 169 [1942] [27006
＊[訂正]アーサー・ロイド「法經教に就いて」(ホーマー、ソクラテス、プラトー等) 六合雜誌 172 [1944] [27007
「歐洲中世紀の思想界における信仰と道理との關係」(新プラトン學派、アリストテレス等) 六合雜誌 176 [27008
森田久万人「カントの宗教思想(下)」(エピキュリアン學派、ストイック派等) 六合雜誌 178 [27009
キ(ク?)リストリープ「中世紀基督教哲學」(アリストテレス等)眞理 68 [27010
(京都)オリエンチス神父「洗禮の事」(大博士オグスチン、ギリシヤ人・ローマ人、オグスチノ聖人、オグスチンといふ聖人、アキノのトマス等) 聲 90(1/1),92(2/1), 94(3/1), 96(4/1),98(5/1) [27011
木村鷹太郎「倫理學史講義」を讀むを讀む」(棚橋一郎著)法之雨 93 [27012
清澤滿之「聖清(傳)集」(「ソクラテスとアポロン、[井上哲次郎氏・哲學史/哲學會誌、エーベルヴェグ哲學史、中江篤介(兆民)譯理學沿革史]、ダイオジェネス[井上哲次郎氏・哲學史」、エピクテーチス、明 28 年春稿、昭 31 年刊・清澤全集 4 所収) [27013
加藤弘之「ホッブスと徂徠」(アリストートル等)東洋哲學 2-1 [27014
井上圓了「易論」(ターレス、ソクラチース、ピタゴラス、ゼノフェーニス、デモクリタス、エピクラス、プラトー氏、エムペドクル氏、パルメニデス、ヘーゲル、アリストートル氏等)東洋哲學 2-1,2,4 [27015
雜報「哲學祭」(瑣[ソクラテス]氏等)東洋哲學 2-2 [27016
學海彙報「コエベル氏の講演」(シオペンハワーの哲學に就て)東洋哲學 2-2[27017
西脇玉峰「楊朱論」(エピクラス、ストイック派、セレネーク派のアリスチッパス等) 東洋哲學 2-2,5 [27018
小柳司氣太「老莊餘滴(承前)」(ストア學派、シニック學派アンテ、シレネック學派、ヘゲシアス、ダンテ、シオペンパウエル、ターレス等)東洋哲學 2-3 [27019
毛内千古「列子ノ哲學」(ギリシヤノ大賢ソクラテス、ヘラクリタス等) 東洋哲學 2-3,11 [27020
講演・井上[圓了]哲學舘主「東洋學振興策幷圖書舘設立案」(雅典[アテナイ]府、アレキサンドリア等)東洋哲學 2-5 [27021
雜報「ドイッセン氏の新著」(Allgemeine Geschichte der Philosophie, ウィンデッシュマン Die Philosophie im Fortgang der Weltgeschichte) 東洋哲學 2-6 [27022
清野勉「日本語に於ける論理的速釋の性質」(ソクラテス、プラトー、アリストートル、クロトナのミロ等)東洋哲學 2-7 [27023
雜報「亞輸迦[アショカ]大王と其敕諭(承前)」(希臘國の王、アンチオカス等) 東洋哲學 2-7,9 [27024

學海彙報・井上圓了「佛教哲學とスピノザ哲學との比較」(「禪宗」中、プラトー、ヘーゲル等東洋哲學 2-7 [27025
學海彙報・井上哲次郎「釋迦は如何なる種族か」(「四明餘霞」中、希臘のストラボン等)東洋哲學 2-7 [27026
學海彙報「大西祝「ストアの精神と武士の氣風を比較して我國民の氣質に論じ及ぶ」(「宗教」48)東洋哲學 2-10 [27027
學海彙報「(キリストリープ/)姉崎正治和譯「初三世紀に於ける基督教と希臘哲學との交涉」」(「哲學雜誌」107,108,109)東洋哲學 2-12 [27028
學海彙報「大西祝「學述に於けるソクラテスの事業」」(「六合雜誌」180) 東洋哲學 2-12 [27029
社說「宗教界の保守反動(承前)」(ソクラテス等)基督教新聞 600(1/25) [27030
清軒學人「青年學生と博愛事業」(アルノルド・トインビー) 基督教新聞 604(2/22), 605(3/1),606(3/8) [27031
緒方潮外「立命の信」(プラトー等) 基督教新聞 605(3/1) [27032
社說「日本基督教會の使命(下)」(希臘、羅馬、プラトー、アリストートル等) 基督教新聞 606(3/8) [27033
まさを「土曜日の夕」(アウグスチン等) 基督教新聞 618(5/31) [27034
坂上生「偶思錄(坤)」(大賢ソクラテス等) 基督教新聞 619(6/7) [27035
社說「基督教合同論」(希臘的思想等) 基督教新聞 629(8/16) [27036
(大阪島の内)古木虎三郎「召しを蒙りてもつところの冀望」(トマス・アーノルド、ローマの鴻儒セルサス、オリゲン等) 基督教新聞 634(9/20) [27037
無聲迂人「勢教振起私案」(ヲーガスチン等) 基督教新聞 640(11/1) [27038
「宗教何故に必要乎(二)」(ソクラテス、マルカス・オリリアス等) 基督教新聞 641(11/8) [27039
ブラッドフォード氏「余が信仰の理由」(プラトー、プルータールク、エマルソン等) 基督教新聞 641(11/8) [27040
(原田助氏演說の大意)「歷史に於ける基督の位地」(ソクラテス等) 基督教新聞 648(12/27) [27041
飜譯「エマーソン報償論」日本英學新誌 67,68,69,70,71,72,73,75,77 [27042
註釋「スウ井ントン英文學・エマーソン「コンペンセーション」」 日本英學新誌 67,68,69, 70,71,72,73,75,77 [27043
飜譯「ラスキン「美」」日本英學新誌 78,79 [27044
C.②松井廣吉『伊太利獨立戰史』(萬國歷史 14) [27045
フライデレル/田中知四郎譯『基督教の眞相』 [27046
テ・イ・スレェータル述『歷史上の基督教』(メソヂスト教會講演集) [27047
ウィリアム・ハーバー、ジョルヂ・グッドスピード/エ・エ・ベンネット/久代外治譯『基督の生涯及時代』 [27048
ジョシア・ストロング/本内文次郎譯『千古の大師表』 [27049
ダブリュー・ノックス・リットル述『婦人の信仰』(メソヂスト教會講演集) [27050
ビート著/マクネヤ、和泉彌六共譯『基督教信仰の根據----一名、基督教證據要略』

[27051
ソボルン述/本多庸一編『世界のペンテコステの說』(メソジスト教會講演集)
[27052
③カルペンター氏/村井知至譯「耶蘇の時代の猶太國(9)」(希臘哲學の聖化等)
基督教新聞 598(1/11) [27053
雜錄・容膝堂主人「新約の三傑」(ポーロ、グリシヤの學者等)
基督教新聞 615(5/10) [27054
アボット/原田助譯「基督傳研究餘錄」(アウガスチン等)
基督教新聞 639(10/25),643(11/22) [27055
④(參考：雜報「學科大學卒業者--- 史學科（村上直次郎)」、東洋哲學 2-6 [27056
坂上生「偶思錄(乾)」(マセドン、カーセージ、ホーマ[法馬]等)
基督教新聞 618(5/31) [27057
D.①ジョン・プルスオルド述『使徒信經略解』(メソジスト教會講演集) [27058
ミハイル/堀江復譯『路加[ルカ]福音書註解』 [27059
②チリメン本・馬留武黨[バルブドー]譯『フロリアン寓話撰集(佛譯、第二巻)』
(久保田桃水、狩野友信、梶田半吉が作畫) [27060
ボカッチョ/十千萬(尾崎紅葉)譯『四つの緒』(「デカメロン」一節) [27061
アンブラー著/本多庸一編『基督教の大眞理』(「福音書の起源」等) [27062
ヒンクス/服部綾太郎譯『四福音書可信論』(同志社神學叢書 8) [27063
チャップマン編『四福音書之調和』 [27064
高橋五郎譯『聖福音書』(2 册) [27065
③廣水生「希臘の建築術」尚志會雜誌(第二高等學校)9 [27066
④＊[訂正]坪井九馬三「古書古文書に見ゆる耶蘇教關係の言語」史學雜誌 62
[19165] [27067
雜錄「レッシングの指輪の說話と鳩翁道話の明德の玉の譬喩」六合雜誌 169
[27068
雜報「故(W.)ペエタアの遺稿」帝國文學 1-5 [27069
廣告・文學界書店「ダンテ畫像」文學界 28,29 [27070
上田敏「ダンテ・アッギエリ」文學界 34 [27071
ジオット「ダンテ・アッギエリの畫像」文學界 34 [27072
平田禿木「ベアトリチェ」文學界 36 [27073
雜報「薄伽梵歌の歐譯」([1823 年]アウガスト・ウ井ルヘルム・フォン・シュレーゲル氏羅甸譯、[1836 年]クリシチャン・ラッセン氏羅甸譯を補正、[1846 年]ヂメトリオス・ガラノス氏希臘譯、印度人カンダダルサ之を補助)東洋哲學 2-8 [27074
雜報「古代シンド地方の印度人」(スランケ氏、希臘の音譯) 東洋哲學 2-12
[27075
上松又男「美並に西洋繪畫の辯」校友會雜誌(第一高等學校)51,52 [27076
一畝庵主人「宗教家と文學」(ゲーテ、レッシング等) 基督教新聞 624(7/12)
[27077
阪上槇太郎「獨語(續)」(詩聖ホーマ、ダンテ、ギヨーテ等)
基督教新聞 624(7/12) [27078
阪上生「雜感隨筆(一)希伯來文學」(ホメロス、ソフォクリス、エスキラス等)

基督教新聞 635(9/27)　[27079
E.④＊[訂正] 松本亦太郎「社會に對する富豪家」(アリストートル、プラトー等)
六合雜誌 171　[2006]　[27080
講演･加藤弘之「國家生存の最大基礎に就て東西兩洋の比較研究」(ストイック派、オリゲ子ス、ラエルチス等)東洋哲學 2-8　[27081
F.③三守守「觀測器械ノ沿革一斑(1)」(第一「希臘羅馬時代」(亞歷山、ヘロン、ユークッド等)東京物理學校雜誌 49　[27082
外報「オリンピア競技の復興」基督教新聞 643(11/22)　[27083
④雜報・三輪桓一郎氏「理科大學ニュートン祭」(アルキメード、ユークリッド、アニマ等) 東京物理學校雜誌 26　[27084
「人類の壽命」(プリニー、シセロ、イソクレチス、ゴルギアス等)
六合雜誌 173　[27085
G.　駒野正和編『英和數學字彙』　[27086

明２９(１８９６)
A.　渡邊修二郎『内政外教衝突史』　[27087
横井時雄「唯物文明に對する精神的方面」(ゴエテ、シルレル、ヘルデル、ニーブル、トマス・アルノルド等) 六合雜誌 190　[27088
兒島昌憲「佛教渡來以前に於ける印度文化の東漸」(ソクラテース、希臘の理學者等)東洋哲學 3-9　[27089
外報「グリッフヒス博士の日本に關する演說」(グリキ哲學、羅馬法律等)
基督教新聞 660(3/27)　[27090
說教・本多庸一君/中央生筆記「日本の聲」(プラトー等)
基督教新聞 691(11/6)　[27091
B.①「ソクラテスの言」(p.1) 基督教新聞 665(5/1)　[27092
「セ子カの言」(p.1) 基督教新聞 671(6/12),675(7/10)　[27093
「ピタゴラスの言」(p.1) 基督教新聞 673(6/26)　[27094
②ダビッド・ケー/峰是三郎譯『歐米諸大家・教育指針』(小 1 册)　[27095
ジョン・ワイヤ著『新約聖書神學』　[27096
ヘンリー・ハーツホルン述『基督教と近世思想』　[27097
スマイス/高橋五郎譯『基督教道德學』　[27098
クレイ・マッコーレー/蓮沼磐雄譯『史觀的基督教』　[27099
松尾音次郎『啓蒙通俗基督教』　[27100
バーゼー・ジー・ノースロップ著『教育者としての聖書』　[27101
リギョル述/前田長太記『古事新論----一名、溫故知新』　[27102
彌留[ミル]/高橋正次郎譯補『自由之權利』　[27103
フリードリヒ・ヂッチス/岩田巖次郎譯『論理學』　[27104
③＊[訂正](亞洲生)川村竹治譯「マクミラン・幸福增進論(承前)」(ペリクレス、デモステニース、ホーマル、アルキビアデス、ソクラテース、グラオコン、ヘロドタス、ソフォクリース、ピタゴラス、セントポール、ヒッポクラテース/第一

級：ピンダー、イースキラス、ソフォクリース、ユーリピデース、アリストファーネース、メナンダー、ルクレシアス、ヴァーヂル、フイデアス、プラキステレーズ、ソクラテース、プレトー、アリストートル、ヘロドタス、シュスヂデース、デモステニース、ショセロ、アルケミデース、ペリクレス、アレキサンダー、ハンニバル、シイザー/第二級：セントアウグステン、タシタス、プリユータルク等)
教育報知 518,519,521,523 [27105
島崎藤村譯「夏草」(シェイクスピア「ヴィナスとアドニス」)文學界 2 月號 [27106
挹翠樓主人「オリゲ子ースの性行」基督教新聞 697(12/18) [27107
④高山林次郎「吠陀以前の信仰及其歴史的發達」(デアウス；ツオイス、ジュピター等)六合雜誌 182 [27108
新刊批評「自由之權利」(ミル氏著/高橋正次郎氏譯註) 六合雜誌 182 [27109
＊[訂正]雜錄・トルストイ伯著/小西增太郎譯「宗教と德義」(デモクリト、ソクラチス、ユーピテル、ピタゴラス教、プラトー、エピクラス等)
六合雜誌 185,186 [2043] [27110
＊[訂正]岸本能武太「宗教の分類」(フィニシヤ、ヘレニスト、グリース人、ローマ人等) 六合雜誌 188 [2040] [27111
「一周年會」(プラトー、シーザル等)ときのこゑ 9/19 [27112
笹本祖淳「大鹽中齋[平八郎]の哲學」(ソクラテス、アリストテレス、ブルノー、ターレス、アナクシメネス、シセロ、ゲーテ、ストア學派等) 東洋哲學 3-1,3,6,8 [27113
講演・重野安繹「孔子誕生會に就きて」(ソクラチース等)東洋哲學 3-1 [27114
井上圓了「須彌說研究ノ必要ヲ論ス」(デモクリタス氏等)東洋哲學 3-2 [27115
毛内千古「列子ノ哲學」(エピキュラス、ストア、グレースの哲學、ソヒスト、サイニック派、セレネーク派等)東洋哲學 3-3,7 [27116
外報一束「佛教倫理の由來」(ストラボ等)東洋哲學 3-3 [27117
講演・加藤弘之「科學的信仰」(アリストートル氏等)東洋哲學 3-5 [27118
講演・加藤弘之「眞理の妨害」(ソクラテス等)東洋哲學 3-6 [27119
西脇玉峰「荀墨の異同」(ソクラテス、詭辯派、ヘーゲル等)東洋哲學 3-7 [27120
(參考：「(帝大)大學院入學者」、東洋哲學 3-7 [27121
桑木嚴翼「認識論の歴史及び其心理的基礎」
姉崎正治「宗教の發達」
清水友次郎「比較神話學」
高山林次郎「審美學及び世界の美術文學史に於ける日本美術文學の位置」
下田次郎「教育學の心理的基礎」)
學海彙報一束「桑木嚴翼「希臘哲學に於ける唯心論の發達」(「哲學雜誌」116) 東洋哲學 3-9 [27122
坂上槇太郎「宇宙の秘眞を究めんとするか非か」(アウガスチン、レッシング等)

基督教新聞 652(1/31)　[27123
エム・エル・ゴルドン氏講演/石井晟一筆記「人は如何なるものぞ」(アリストーツル、ソクラテス等) 基督教新聞 656(2/28)　[27124
奇島山人「山と宗教」(アリンパス山系等) 基督教新聞 657(3/6)　[27125
講壇・宮川經輝「圓滿なる基督を受るを」(ソクラテス、プラトー、アリストートル等) 基督教新聞 665(5/1)　[27126
牧會・アル・エフ・ホルトン「基督と說教者」（ソクラテス等）
基督教新聞 667(5/15)　[27127
「蘇國エデンボロよりの書翰」(プレトー等) 基督教新聞 667(5/15)　[27128
仙臺名士「新時代に於ける神の經綸(中)」(プラトー、アリストートル、ソクラテス等) 基督教新聞 671(6/12)　[27129
社說「痛苦の教訓」(プラトン等) 基督教新聞 675(7/10)　[27130
萱軒「婦たるの道」(シニック派、ダイオゲネス、クラテース、ヒッパルキア等)
基督教新聞 675(7/10)　[27131
海老名彈正君演說/石井涌二筆記「聖靈我儕の爲に祈る」(オーゴスチン、母モニカ等) 基督教新聞 677(7/24)　[27132
(於箱根)廣井生「山路[愛山]氏の批評派を評する一節に就て」(希臘思想等)
基督教新聞 680(8/14)　[27133
家庭・松の家主人「懦弱なる家庭」(ソクラテス等) 基督教新聞 680(7/14)　[27134
海老名彈正說教/津谷不識生筆記「使徒保羅の福音十字架の教(其三)」(ギリシヤ人等)基督教新聞 686(10/2)　[27135
横井時雄君演說/桐の舍筆記「野の百合花を視よ」(プレトー､アエキサンドル大帝、ダイナゼンス等) 基督教新聞 687(10/9)　[27136
青山萬馬「講壇の諸派---快辯家・松村介石君」(アンチフォン、デモセニス等)
基督教新聞 690(10/30) [27137
說教・留岡幸助君「愛の宗教及其活力」（オウグスチン等）
基督教新聞 696(12/11)　[27138
倉長巍「基督崇拜」(ローマ國、ポンペイ、グラックス、シーザー、ブルタス、アントニー、アウグスツス帝等) 基督教新聞 696(12/11)　[27139
論說「カント學派の神學說（其六)」（プラトーン等） 基督教新聞 698(12/25)[27140
C.②山田寅之助『基督教の心髓』　[27141
リギョル述/前田長太(越嶺)記『事績以前以後之歷史』(→明 41 再版)　[27142
近藤圭造・望月亮觀編『和漢洋年表----各國史略』　[27143
藤堂卓『新撰・年代記』(訂 2 版)　[27144
松邑孫吉編『和漢洋年代記大成』　[27145
柳井絅齊『希臘獨立戰史』　[27146
秦政治郎『中等教育・萬國地誌』　[27147
ブッシュネル/原野彦太郎譯『耶蘇の品性』　[27148
マコーレー/大島國千代譯『フレデリック大王論直譯註釋』2 册(→下卷 30 年刊。)
[27149
坪内逍遙・增田藤之助講述『英文解釋』(ドライデン「アレクサンドルの盛衰」)
[27150

③＊[訂正]福井美靜「修身談」(スパルタかアゼンか)太陽 2-16　[2062]　[27151
原田助「社會的基督教の本領」(希臘思想等)六合雜誌 181　[27152
片山潛「社會學の綱領」(ゲーテ、シルレル、レッシング、プレトー、アリストートル等) 六合雜誌 188　[27153
「二人の少女・殉教の花」(子ロー、デオクレチアン帝、少女フェース等) ときのこゑ 8/15　[27154
「殉教の紅花」(ローマ史)ときのこゑ 9/5,9/19,10/3,10/17　[27155
講演・海老名彈正說教/亮々生筆記「保羅アラビヤの荒野を出づ」(ギリシヤ人等) 基督教新聞 668(5/22)　[27156
④平瀨龍吉「信仰復興時代(下)」(デモスセンス、カトー等) 基督教新聞 651(1/24)　[27157
平瀨龍吉「慈善家と慈善事業(下)」(ローマ、スシピオ、プルターク、ペリクレス等) 基督教新聞 657(3/6)　[27158
批評「民友社發行「兩ケトー」」基督教新聞 657(3/6)　[27159
平瀨龍吉「カイルハウに於ける偉人フレーベール」(プラトー、フィズラス、デモスゼニス等) 基督教新聞 662(4/10)　[27160
D.①＊[訂正]上田敏「サッフォーの歌集」(Sappho, 「タクブの淸光を歌ひて」[斷片 95、ベルク版]、「君の願ひ」[斷片 28、ベルク版]、「忘れたるにあらねども」[斷片 93、ベルク版])文學界 48 [2077] , [19280]　[27161
②緒方流水『シルレル』(十二文學、號外)　[27162
坪内逍遙・增田藤之助講述『英文解釋』(「イソップ物語」)　[27163
繁野天來譯・坪内逍遙閲『ミルトンの假面劇』(ミルトン「コーマス」)　[27164
③＊[訂正]雜錄「往時羅馬字綴り日本文の書籍」(エソポのファブラス) 六合雜誌 185　[2094]　[27165
(亞洲生)川村竹治譯「マクミラン・幸福增進論(承前)」(希臘文學：ソロン、ゼノファニース、シモニデース、アナクレオン、ステシコラス、ピンダー、イスキラス、ソフォクリース、ユーリピデース、クラテヌス､ユノポリス､アリストファニース､ヘロドタス、アナキスマンダー、ヘラニクス、シュシヂデス、アンチフォン、ゼノフォン、ゴルチアス、アンドシデース、リシアス、イソクラテース、デモステニース、イスキニース、リカーガスルリ、プレトー、アリストートル、テオフラストス、アンチフォン・アリシホール等) 敎育報知 523　[27166
(參考：「帝國文學會春期大會」、帝國文學 2-4　[27167
久米桂一郎「希臘の宗敎と彫刻」)
附錄「フハイジアス作・アテエナ古塑像」文學界 46　[27168
上田敏「アテエナ古塑像解說」文學界 46　[27169
④(亞洲生)川村竹治譯「マクミラン・幸福增進論(承前)」(第二級：ダンテ、ラベレース、シェーキスペーア、ミルトン、レオナロド・ダ・ヴィンチ、ミケールアンゼロ、ラフエール、マホメット、セント・トーマス・アクイナス、ベーコン、エラスムス、ルーテル、

ライプニッツ、モンテスキュー、ヴオルテール/第三級：ゲーテ、レッシング、キッボン等)教育報知 523 [27170
雑報「希伯來[ヘブライ]文學の研究」帝國文學 2-5 [27171
雑報「シルレル」帝國文學 2-5 [27172
雑報「ダンテの「俗語論」」帝國文學 2-10 [27173
雑報「新希臘の俗語説に戀歌」帝國文學 2-12 [27174
(平田)禿木「ダンテ地獄篇中の一節」うらわか草 1 [27175
(戸川)秋骨「以太利盛時の文學」うらわか草 1 [27176
松茶菴「ベアトリチエ(ランド原作の譯文を再掲)」うらわか草 1 [27177
荒川漁郎「ダンテが後半の事を記す」文學界 45 [27178
文藝・(平田)禿木「モウリス・ド・グエラン---ル・テントオル」(希臘古代の影響) 文學界 47 [27179
上松又男「美並に西洋繪畫の辯」校友會雜誌(第一高等學校)54,57 [27180
溪鹿生「讀書餘錄」(ゲーテ) 基督教新聞 650(1/17) [27181
家庭・耕雲翁「一度の怠慢」(ギリシヤ語聖書等) 基督教新聞 661(4/3) [27182
新刊批評「緒方維岳[嶽?]「シルレル」」基督教新聞 667(5/15) [27183
「エラスムスの言」(p.1) 基督教新聞 668(5/22) [27184
史傳・赤司麗粹「ソウ井ンヴリーデン(其二)」(エラスムス等) 基督教新聞 684(9/18) [27185
史傳・(坂上)幽花(槇太郎?)「レッシング」基督教新聞 695(12/4),696(12/11), 697(12/18) [27186
襄蜘生「近著一束----緒方[流水、維嶽]氏の「シルレル」」 萬朝報 1089(7/24) [27187
抱一庵主人「内村鑑三君に寄す」(バイロン等) 萬朝報 1111(8/19) [27188
飜譯・註釋「マコーレー「みるとん」」日本英學新誌 82,84,86,87 [27189
平田禿木譯「手むけの草」(ボッカッチョ「デカメロン」一節) 世界之日本 9 月號 [27190
E.②ボウマン夫人等著/井上寛一譯述・矢野龍溪補『西洋仙郷奇談』(?) [27191
田川大吉郎『國の進歩と基督教』 [27192
④片山潛「獨逸社會共和黨の創立者フェルヂナンド・ラサル(1)」(「ヘラクライトスの哲學」、フンボルト等) 六合雜誌 192 [27193
「モーセの律法を論ず」(ギリシヤの成文法等)ときのこゑ 5/23 [27194
思潮一斑「海老名彈正「國家と宗教」」基督教新聞 651(1/24) [27195
F.②松田正典『普通體育論』(第 6 章「體操歷史」) [27196
④註釋「ス井ントン英文學・ハックスレー「科學思想史」」 日本英學新誌 81,83,85 [27197
飜譯「ハックスレー「近世思想の科學的精神」」日本英學新誌 81,83,85 [27198
論說「基督教と進化論」(ヘルデル、ゲーテ、プラトーン、アリストテレース等) 基督教新聞 687(10/9),688(10/16),690(10/30), 691(11/6), 692(11/13) [27199
G. 『增廣華英字典』(光緒 22 年[明 29]、上海版、第二版) [27200
藤岡勝二「辭書編纂法並に日本辭書の沿革」帝國文學 2-1,2,6,10 [27201

明３０(１８９７)
A. 日本基督教會大會編纂委員會編『日本基督教會歴史』 [27202
磯野定次郎「異學の禁を論じて學術の研究に及ぶ」
校友會雑誌(第一高等學校)64 [27203
柏木義圓「日本主義を難ず」(第四。ソクラテース等) 基督教新聞 732(8/27)
[27204
社説「讀書と攻究」(羅馬史、ヲーゴスチン等) 基督教新聞 749(12/3) [27205
海老名彈正「國風振興の道」(ソクレチス等) 基督教新聞 738(10/8),739(10/15)
[27206
B.②藤田豐八・渡邊又次郎『東洋倫理及西洋倫理學』(哲學舘高等學科講義錄) [272207
大西祝『論理學原理』 [27208
井上圓了(甫水)『外道哲學』 [27209
神田佐一郎譯『チャンニング氏・一語千金』 [27210
ドルワール・ド・レゼー述/林壽太郎記『眞理之本原』(明 30・2 版→明 43 增補訂正 7 版) [27211
村田勤『マルチン・ルーテル傳』 [27212
Emile Souvestre,An Attic Philosopher in Paris,Tokyo, Sanseido,1897 [27213
③＊[訂正]山内正道「朱子鬼神論」(アリストートル、アレキサンダー王、エピクルルス、エムペドクルス、アナクザゴラス、メトロドーロス等) 六合雑誌 197 [27214
「ピタゴラスの妻子女の教育を說く」宗教 73 [27215
松本文三郎「論理學思想の變遷」(アリストテレース、エピクーロス、ストア學派、ヒルローン、セキストス・エムピリクス、プロチン、アウグスチヌス等)東洋哲學 4-5 [27216
蘭溪生「世界古代の航海談」(「埃及とフィニシヤ」、「希臘」、「其宗教的思想」、「イヲルコル王イーソン」、「ペリヲン山」、「ペリアス及神託」)家庭雑誌 110,111,112 [27217
「新島[襄]先生第七周年紀念會」、基督教新聞 703(2/5) [27218
---- 大西[祝]君感話（ソクラチス等）
④山内晉「佛教極微說一斑」(ソクラテス已前の哲學、エレアチムクス、ヘラクリタス等)六合雑誌 200 [27219
雑報「哲學思潮と西歐文學」(エピクロス等)帝國文學 3-2 [27220
雑報「所謂啓蒙時代の精神」(アリストテレエス等) 帝國文學 3-11 [27221
雑報「國家主義と啓蒙的精神」帝國文學 3-11 [27222
井上哲次郎「莊子の學の淵源」(アリスチップス、エピクルス、「イリヤス、オヂセー」、ヘーゲル等)東洋哲學 4-1,2 [27223
雑報「男爵西周氏薨す」東洋哲學 4-1 [27224
雑報「哲學要領」(コエベル)東洋哲學 4-6 [27225
元良勇次郎「知行合一說に就きて」(ソクラテス等)東洋哲學 4-7 [27226
櫻鄉學人「宗教的信仰」(プラトー、マクス・ミュラー博士等)東洋哲學 4-7
[27227

雜報「哲學舘新築落成開舘式辭報」、東洋哲學 4-9 [27228
------- 渡邊國武「祝詞」、「孔夫子誕生會」(アリストートル、プラトー等)
新刊「久津見蕨村「世界之十大宗教」」(希臘羅馬等)東洋哲學 4-10 [27229
(?)/蘭溪女史譯「泰西兒童訓」女子之友 7,8 月號 [27230
(京都)オリエンチス神父「洗禮の事」(オグスチノ聖人等)聲 152(9/15), 157(12/1) [27231
山口寒生「拿破[ナポレオン]の宗教觀」(アレキサンドル、セザル、ア[ハ?]ンニバル)聲 157(12/1) [27232
横井時雄/望湖樓筆記「耶蘇に就て學び得たる三個の信仰」(ギリシヤ人等)
基督教新聞 709(3/19) [27234
「福音派教會」(オイケン、哲學史、グリキ語等) 基督教新聞 710(3/26) [27235
社說「基督教の使命」(アレキサンドル、シザール、ソクラッチス、プラトー、アリストトル等) 基督教新聞 712(4/9) [27236
渡瀨昌雄「平安を穫るの道」(希臘人、ソクラテス等) 基督教新聞 714(4/23) [27237
清軒學人「誰か神學者たるを得べき乎」(プロチノス等)
基督教新聞 716(5/7) [27238
南筑生「制慾主義を論ず」(希臘思想等) 基督教新聞 717(5/14) [27239
外報「死後の生命」(シカゴ大學講演。第三「希臘羅馬」等)
基督教新聞 717(5/14) [27240
内外雜俎「教育講演會」(大西祝氏「啓蒙的思潮を論じて教育に及ぶ」(モンテスキュー、ヴォルテール等) 基督教新聞 719(5/28) [27241
松村介石君術・荒浪市平速記「總合的基督教」(ソクラテス、Sophists 、アレキサンドル大王等)
基督教新聞 720(6/4), 721(6/11),722(6/18) [27242
(?)「崇慾主義治聖慾主義」(シーザ、歷山大王、エモルソン等)
基督教新聞 723(6/25) [27243
雜錄・ペテー「分離と一致」(オーガスチン等) 基督教新聞 724(7/2) [27244
社說・海老名彈正「宗教の使命」(コンスタンチン帝、ロマ帝國等)
基督教新聞 726(7/16) [27245
津田次郎「自己を去れ」(グリースの賢人ペリアンドル等)
基督教新聞 726(7/16) [27246
(富田)石心生「職業の神聖を宣傳せよ」(アレキサンダア大王等)
基督教新聞 727(7/23) [27247
一日庵主人「世界大の心事」(理かるガス、カルセージ等)
基督教新聞 727(7/23) [27248
社說「日曜學校」(アセドニアの新政アンチパルラル[?]、スパルタ人等)
基督教新聞 728(7/30) [27249
富田石心「實躰の宗教」(ソクラット等) 基督教新聞 733(9/3) [27250
社說「獻金と王國の擴張」(コンスタンチン帝等) 基督教新聞 733(9/3) [27251
牧野虎次「時弊論」(聖オーゴスチン等) 基督教新聞 734(9/10) [27252
豐崎善之助「品狀論(上下)」(ソクラチス、アルシビアデース、プレトー、アリス

トートル、ペリクレース等)
基督教新聞 734(9/10),735(9/17) [27253
社說「金錢と道德」(セ子カ、ルシアス等) 基督教新聞 736(9/26) [27254
豐崎善之助「之を行はば生べし」(プレトー、アリストートル、希臘哲學等)
基督教新聞 736(9/26) [27255
懸賞論文・宮田政「如何にして日曜學校を盛ならしむべきや」(ソクラットの問答法等) 基督教新聞 739(10/15) [27256
豐崎善之助「人生の詩趣」(ゲーテ、ダンテ、エメルソン等)
基督教新聞 740(10/22) [27257
小崎弘道「十字架の教」(ギリシヤ人、プレトー等) 基督教新聞 743(11/12)[27258
社說「英米學生間の氣風」(トマス・ヒル・グリーン、[M.]アルノルド、[A.]トインビー、ラスキン等) 基督教新聞 745(11/26) [27259
C.②有賀長雄『希土戰爭クリート事件之眞相』(早稻田小篇 1) [27260
松村介石『伊太利一統史』 [27261
春陽堂編『中學西洋歷史』 [27262
ウイリアム・リード著/ワッドマン、堀田達治譯『十字架の寶血』 [27263
三浦徹譯『昔物語----一名、耶蘇記』 [27264
斯定荃(M.Steichen)/久米邦武記『耶蘇基督眞蹟考』 [27265
③譚林・山口寒生「羅馬の大將」(レグルス)聲 152(9/15) [27266
「偉人の悔改」(パウロ、コンスタンチン大帝等) 基督教新聞 750(12/31) [27267
④桑原隲藏「東洋史につきて」(亞歷山、ストラボー、トレミー等)
東洋哲學 4-1 [27268
吉井正一「カーライル論」尚志會雜誌(第二高等學校)35 [27269
史傳・赤司麗粹「ヘルデル傳」」基督教新聞 700(1/15),702(1/29),703(2/5),705(2/19) [27270
松尾音次郎「社會太平記」(スパルタ王等)基督教新聞 728(7/30) [27271
柏木義圓「日本主義を難ず(其四)」(ソクラテース等) 基督教新聞 732(8/22)[27272
D.①＊[訂正・削除] ~~荒川漁郎「以太利初代の敍情詩」文學界 52~~（→D.④）
[19464] [27273
ジョン・ウィスレー著/ゼー・ダブリュー・ワッドマン、田中達譯『新約筌蹄』(上中巻) [272274
アレキサンドル述/堀田達治記『腓立比[ピリピ]書講解』 [27275
Charles Stickney(trans.), Aesop's Fables, Tokyo, Ogawaya, 1897 [27276
John Batchelor(trans.)『Chikoro Utarapa ne Yesu Krisuto Ashiri Aeuiaknup oma kambi : The New Terstament of Our Lord Jesus Christ,Yokohama,1897』
[27277
②高橋五郎講註『英獨詩文研鑽』3 册(「バイロン「チャイルド・ハロルド江湖漂泛錄」) [27278
平田八郎『舊八郎・新八郎通俗馬太[マタイ]傳問答』 [27279
ジー・エス・ビゲロー編『聖語提要』 [27280
ターナー著/バン・ペテン・キャロライン、堀田達治譯『聖書歷史問答』 [27281
トーイ/神田佐一郎譯『近代の聖經批評』 [27282
白井菊也・加須屋壽賀藏合著『渡邊崋[華]山』 [27283

③荒川漁郎「南歐詩影」(ホオマア)文學界 50 [27284
露國トルストイ伯/小西增太郎譯「日のあるうちに歩むべし」(第 4 回。希臘の古詩「イリアダ」) 基督教新聞 703(2/5) [27285
江湖雜件「羅甸語を刻する偶像」基督教新聞 738(10/8) [27286
④＊[訂正]荒川漁郎「以太利初代の敍情詩」(ダンテ)文學界 52（←D.①） [19464] [27287
＊[訂正]評論「佳人之奇遇」(東海散士著)進歩黨々報 15 [15724] [27288
＊[訂正]五十嵐力「觀美心性を論じて美の範圍と美的活動とに及ぶ」(ソークラテース、プラトーン、アリストテレース等) 六合雜誌 199 [2186] [27289
雜報「泰西詩歌の飜譯を望む」帝國文學 3-4 [27290
雜報「ブリュ子チェル/[上田]柳村譯「佛蘭西文學の特性」」帝國文學 3-5,7 [27291
上田敏「佛蘭西文學の研究」帝國文學 3-8 [27292
雜報「喜劇不振の因緣に就て」(アリストファ子ス等)帝國文學 3-12 [27293
英子「詩人ゲーテの母」家庭雜誌 106,107,108,109,110 [27294
田岡嶺雲「平穩なる國民の文學」(バイロン等)萬朝報 1503(11/19) [27295
飜譯・註釋「マコーレー「みるとん」」日本英學新誌 89,90,91 [27296
時評「ダンテ「神曲」の英譯」日本英學新誌 103 [27297
アンデルセン/森鷗外譯「卽興詩人」めざまし草 2 月號(←明 25 年 11 月~明 27 年 8 月「しがらみ草紙」→明 34 年 2 月まで聯載) [27298
ゲーテ/大野酒竹譯「悲劇ファウスト」國民之友 34 [27299
ボッカッチョ/太田玉茗譯「五彩雲」(「デカメロン」一節)文藝倶樂部 4 月號 [27300
ボッカッチョ/太田玉茗譯「めぐりあひ」(「デカメロン」一節) 文藝倶樂部 4 月號 [27301
ボッカッチョ/尾崎紅葉譯「鐵の鋭」太陽 12 月號 [27302
金子笹下庵「詩人に就ての所感」(ダンテ、ゲーテ、エマルソン等) 基督教新聞 738(10/8) [27303
E.②リギヨール述/前田長太譯『國家盛衰之原理』 [27304
コサンド/水野忠丸譯『基督教と國政』 [27305
④＊[訂正・削除] 雜報「西洋近刊雜誌要目」哲學雜誌 123 中 [19542] [27306
J.Buernet,“Law and Nature in Greek Ethics”
豐崎善之助「社會主義の福音(承前)」(プレトー「レパブリック」、ベーコン「アトランタ」等)六合雜誌 204 [27307
豐崎善之助「キリストの社會觀(1)(2)」(羅馬の詩人テレンス等) 基督教新聞 722(6/18), 723(6/25) [27308
セーラー・マシュウス/草間生譯「基督教的社會學」(アリストーツル、プラトウ、ソクラチース等) 基督教新聞 735(9/17), 736(9/27),737(10/1) [27309
海老名彈正「國家人民の最大職分」(羅馬人、プラトー等) 基督教新聞 742(11/5) [27310
F.③菊池大麓「或ル一ツノ三角形ニ於ケル角ノ和ガ二直角ニ等シケレバ總テノ三角形

ニ於イテ二直角ニ等シ」(イウクリッド)東京物理學校雑誌 62　[27311
④飜譯「ハックスレー「近世思想の科學的精神」」日本英學新誌 93,95,99　[27312
G.　嶌田豐譯『再訂增補・和譯英字彙』　[27313

明３１(１８９８)
A.　批評「高山林次郎「世界文明史」」帝國文學 4-2　[27314
雜報「修養の必要」(ホーマー等)帝國文學 4-4　[27315
マーク・トウェイン/(?)譯「無邪氣なる觀光團」(?)中外英字新聞 8 月~9 月　[27316
井上哲次郎「萬國東洋學會の概況及び東洋學研究の方針」(第 6「東方即ち希臘(希臘文化と東方の關係)」)東洋哲學 5-3　[27317
雜錄「清國宮廷に於ける聖書」(書籍 163 部中、古代之宗教及ひ哲學、泰西教育、萬國史)　基督教新聞 771(527)　[27318
B.②Inazo Nitobe(新渡戸稻造),“The Soul of Japan(武士道)”、裳華堂(→明 41 櫻井鷗村譯「武士道」、昭 10 近藤晴卿譯、昭 13 矢内原忠雄譯、岩波文庫)　[27319
松本文三郎述『最近哲學史』(哲學舘第 10 學年度高等教育學科講義錄。→明 34 哲學舘第 13 學年度高等教育學科講義錄)　[27320
高山林次郎『論理學』(帝國百科全書 12。→明 38・16 版)　[27321
渡邊又次郎『論理學』(東京法學院 32 年度第 1 學年及講義錄)　[27322
有賀長雄述『論理學講義』(明治法律學校講法會第 8 期法律政治講義錄)　[27323
金井望(古志學人)『一辭千金』　[27324
③＊[訂正]中川正信「希臘人と印度の古哲との會見」東洋哲學 5-7,8　[27325
＊[訂正]村井知至「「基督の名によりて」といふ觀念に就て」(プラトー、アリストートル、フハイロー、オーガスチン、[2]希臘國民哲學思想の感化、[3]羅馬國民法律思想の感化等)六合雜誌 208　[2229]　[27326
④＊[訂正・削除] 雜報「西洋近刊雜誌要目」哲學雜誌 138　中 [19580]　[27327
Mekler「プラトン對話篇の年次に於ける「パルメニデース」の位置に關する觀カンベルの論文」
＊[訂正]本田增次郎「(レッキー、ギボンに據る新しい)貞潔の德について」(エトラスカン人、希臘人、羅馬人、ジャステイニヤン帝、ストア、エピクロス、ピタゴラス、フヒローの歷山府哲學等)六合雜誌 210　[2231]　[27328
＊[訂正]岡田哲藏「耶佛兩教ノ歷史的關係」(歷山遠征の結果、希臘哲學の關係等)六合雜誌 211,212,213　[27329
F.C.Lowell(The New World 誌抄譯)「神てふ觀念と人の理想」(アゼンス、アレキサンデリヤ、ローマ等)　六合雜誌 211　[27330
雜報「神話の開拓」帝國文學 4-2　[27331
蟹江義丸「韓圖[カント]の美學」帝國文學 4-7,9　[27332
外山正一「學教上に於ける聖權の利害」(アリストートル、プラトー、ソクラテス、シーザル、オーガスタス等)東洋哲學 5-1,2　[27333

中島力造「將來の倫理學」(ソクラテス、プラトー、アリストートル、エピクール、ストイック、デモクリタス等）東洋哲學 5-1　[27334
熊谷五郎「知情意の平等的發達を論じて日本教育の重點に及ぶ」(スパルタ、前羅馬、後羅馬、亞典、ソクラテス、プラトオ等)東洋哲學 5-1　[27335
銀塘主人「品性陶冶論」(リカルガス等)東洋哲學 5-1　[27336
横川回天「倫理斷片(正續)」(アリストートル、ソクラテス、プラトー氏、ヲーガスチン、セレ子ーク學派、セニック學派の祖アンチステ子ス等)東洋哲學 5-2,3　[27337
(石峰)「佛教研究の三方面」(マクス・ムーレル氏、ギリシヤ・ラテン語等)東洋哲學 5-2　[27338
松本文三郎「支那哲學に就いて」(アリストテレス等)東洋哲學 5-4　[27339
姉崎正治「佛教の直觀主義」(アリストテレス等)東洋哲學 5-5　[27340
時言・S.L.「競爭場裏に於ける風流の勢力」(アレキサンダー大王、アリストーツル、ホーマー等)東洋哲學 5-5　[27341
谷本富「教育學修業者の着眼點」(アリストートル、プラトー等)東洋哲學 5-6　[27342
雜錄・中島德藏「木村[鷹太郎]君の東洋西洋倫理學史の評を評す」東洋哲學 5-8,10　[27343
新刊批評「倫理學十回講義」（中島[力造]教授著)東洋哲學 5-8　[27344
桑原隲藏「老子の學に就きて」(ターレス、アナキシマンデル、ソクラテス前の諸學派、バックル、ラッボク等)東洋哲學 5-9　[27345
千田時次郎「ホッブスの倫理說」(アリストーツル等)東洋哲學 5-9　[27346
「新刊批評」、東洋哲學 5-9　[27347
------ 中島力造「列傳體西洋哲學史」、井上哲次郎「西洋哲學」、菅了法「哲學論綱」、有賀長雄譯ボーエン「近世哲學史」(未完)、三宅雄次郎「哲學涓滴」、井上圓了「哲學要領」、民友社版(大西祝)「哲學變遷史」、中江篤介[兆民]「理學沿革史」、某氏「哲學史鑑」
松本文三郎「宗教說」(アリストテレース、プラトーン等)東洋哲學 5-11　[27348
中島德藏「絶對理想の瞥見」(アリストテレース、プラトーン等)東洋哲學 5-12　[27349
時論一班「大學教授ケーベル氏」(東京獨立雜誌)萬朝報 1807(10/21)　[27350
原論「學問と實社會」(ソクラテス等) 萬朝報 1855(12/8)　[27351
(京都)オリエンチス神父「洗禮の事」(オグスチノ聖人、希臘國のプリーヌ[プリニウス?]、大哲學者ソクラテス等)聲 163(3/1),164(3/15),167(5/1),174(8/15)　[27352
論海・林壽太郎「各人は何を目的とすべきや(2)」(エピクル學派等)聲 164(3/15)　[27353
譚林・揚城隱士「どちらが馬鹿であるか」(ソクラテス等)聲 178(11/1)　[27354
論海・淡海漁夫「宗教の選擇」(聖オグスチン等)聲 179(11/15)　[27355
留岡幸助「生活の動力」(エピキュリアン哲學等) 基督教新聞 753(1/21)　[27356
石橋爲之助譯「古書發見」(子オ・プラトン說等) 基督教新聞 753(1/21),

754(1/28) [27357
新刊「内村鑑三「月曜講演」」基督教新聞 766(4/24) [27358
富田石心「三大修養(承前)」(セニカ、プレトー、ゲーテ等)
基督教新聞 767(4/15) [27359
社說「愛情の發動する二大原則」(オーガスチン等) 基督教新聞 768(5/6) [27360
平瀬龍吉「故ウ井リアム大學總長マーク・ホプキンス」(ソクラット、プラトー等)
基督教新聞 769(5/13) [27361
海老名彈正講演・荒浪市平速記「宗教の進化」(ソクラチス、プラート、アリステム等) 基督教新聞 770(5/20),771(5/27) [27362
「第十回夏期學校」（14 日、元田作之進「歐米大學生の生活」[其二]）
基督教新聞 778(7/15) [27363
葉山だより(2)「元田作之進「歐米の大學」第二回講演」
基督教新聞 779(7/22) [27364
元田作之進「歐洲大學の歷史」(古代のみ)基督教新聞 783(8/19) [27365
富田石心「道德の根本問題」(ゼノホン、ソクラット等) 基督教新聞 786(9/9)
[27366
小崎弘道君演說(大意)「神學の必要」(アリストー等) 基督教新聞 793(10/28)
[27367
C.②德富廬花『世界古今名婦鑑』 [27368
カーライル/土井林吉(晩翠)譯『英雄論』(「英雄と英雄崇拜」) [27369
依田雄甫編『世界讀史地圖』 [27370
堀田達治『聖地寫眞圖解』 [27371
清宮秀堅・野田文之助訂『新撰年表』 [27372
③＊[訂正]片山潛「歐洲國民的生活の發達に於ける都府の地位」(歷山大王、ストイック派、プラトニック派、ファイロー等)
六合雜誌 205 [2272] [27373
安部清造「人類の始原に關する古代の思想」(グリーキ古傳、フィニシヤ古傳等)
六合雜誌 208 [27374
「ス井ントン英文學詳解(沙翁「シーザー」)」日本英學新誌 7-1,2,3 [27375
ツルゲーネフ/二葉亭四迷譯「猶太人」(「ユダヤ人」)國民之友 5 月號 [27376
譚林・咬菜處士「ペルペチア」(羅馬國王セブチームのこと)聲 177(10/1) [27377
譚林「テルチュリエン」(カルタージュ)聲 181(12/15) [27378
④＊[訂正]評論「佳人之奇遇」(東海散士著)進步黨々報 20 [15777] [27379
＊[訂正] 彙報「書名につきて」(プレツ[Ploetz]氏の原著の譯書)史學雜誌 108
[19619] [27380
書評「Karl Ploetz/和田萬吉譯「世界通史」」史學雜誌 107 [27381
書評「浦井鍠一郎「西洋歷史年表(上中下)」」史學雜誌 107 [27381
上松又男「史學の研究に就て」校友會雜誌(第一高等學校)73 [27382
山下仲次郎「東洋人種の史學的思想」(アナキサゴラス、ソクラテース、デルフィの豫言、ソホークルス、フンボルト、ギゾー、バックル等)東洋哲學 5-8,9 [27383
「世界統一」(歷山大王等)萬朝報 1785(9/29) [27384
D.①＊[訂正]小野辰三郎(筑山)訓點・前田儀作編『漢譯批評・伊蘇普物語、一名伊娑菩

喩言』(同治 7(明 1、1868 年)「大清國大儒某反
譯」)　[2283]　[27385
アール・ビー・グリンナン著『以弗所[エペソ]書註解』　[27386
②セース/上田萬年・金澤庄三郎譯『言語學』　[27387
バイロン/高橋五郎講述『チャイルド・ハロルド 江湖漂泛錄』　[27388
④＊[訂正]天才逸話「第十六---血あり肉あり」(バイロン)六合雜誌 207
[2295]　[27389
鎌田辰郎「ハイ子の「ロオレライ」」(ホーマー、ゲエテ、シルレル等)
六合雜誌 209　[27390
藤井健治郎「湖上詩人を憶ふ」(ソークラテース等)帝國文學 4-2　[27391
海外騷壇「虞[グラッドストーン]翁の著書」帝國文學 4-8　[27392
---------Studies on Homer and the Homeric Age, 1858
Homeric Snychronism, 1896
Handmarks of Homeric,1890
A Translation of Horace, 1894
雜錄「グラッドストン氏の逝去を哭す」校友會雜誌(第一高等學校)78　[27393
源良澄譯「獨乙語發達史」校友會雜誌(第一高等學校)79　[27394
雜錄「グラッドストン氏とビスマルク公」校友會雜誌(第一高等學校)82　[27395
上田敏「わがダンテの學殖」東洋哲學 5-10　[27396
上田敏「近代の神曲註疏」(ダンテ)帝國文學 4-9　[27397
蟹江義丸「シルレルが美學上の見解」帝國文學 4-11,12　[27398
湖處子「古寺の鐘---詩人シルレルの事」家庭雜誌 115　[27399
柏陰清露主人「ギヨオテと女性」讀賣新聞 7/25　[27400
ダンテ/秋月すみ子譯「通俗地獄廻り」(「神曲」)福音新報 9/30~10/21　[27401
廣告「内村鑑三氏講演」(「二、ダンテとゲーテ」) 基督教新聞 751(1/7),
752(1/14)　[27402
内村鑑三氏講演「ダンテとゲーテ」基督教新聞 754(1/28),755(2/4)　[27403
「番町教會音樂會」(ケーベル) 基督教新聞 758(2/25)　[27404
留岡幸助「貧民の友」(ホレス等) 基督教新聞 761(3/18)　[27405
「東京青年會音樂會」(ケーベル) 基督教新聞 795(11/11)　[27406
E.②パテルノストロー著『法理學』(明治法律學校講法會)　[27407
彬周士著/藤堂融譯『國家宗教關係論』　[27408
④原論・[久津見]蕨村「政治殺人論(上)」(モンテスキュー等)
萬朝報 1826(11/9)　[27409
F.③神田選吉「電氣小史(1)」(ミリタスノシャーリーズ[ミレタスノターレス?]、ヴァージル、アスカニウス等)東京物理學校雜誌 75　[27410
④雜錄・飯島政之助「現行曆法」校友會雜誌(第一高等學校)77　[27411
G.　ボアソナード賛助・森義則他『佛和辭典』(第 2 版)　[27412
イーストレーキ・棚橋一郎『ウェブスタ氏新刊大辭書･和譯字彙』　[27413

明３２(１８９９)
A.　阿府曼[アフマン]作/一笑尊者譯「十二支物語」(「羅馬」)少年世界 12 月號(→明 33.6

月號まで聯載) [27414
村山博輔「社會上より文明と基督教との關係を論ず」新世紀 2-13 [27415
B.②＊[訂正]三宅雪嶺述『希臘哲學史』(哲學舘第 12 年度高等教育學科講義錄。→明 33,34) [2308] [27416
＊[訂正]藤井圓順『古今聖賢像賛』 [2306] [27417
松本文三郎『認識論提要』(哲學舘第 11 學年高等宗教學科講義錄。→明 34 哲學舘第 14 學年高等宗教學科講義錄) [27418
松本文三郎『哲學概論』(哲學舘第 11 學年高等宗教學科講義錄。→明 34 哲學舘第 14 學年高等宗教學科講義錄) [27419
井上圓了『純正哲學總論』(哲學舘第 11 學年高等宗教學科講義錄) [27420
井上圓了『哲學早わかり---通俗講談言文一致』 [27421
小野澤頼明『論理園--- 一名、思想之構成』 [27422
高村茅村正道編『美文散文・清風明月』(「夏草」：シェイクスピア「Venus and Adonis」。名家文庫第 2 編) [27423
ロバート・エフ・ホルトン/村田勤譯『耶蘇の教訓』 [27424
水島行揚『守護天使の事』(→明 41 再版) [27425
トマス・ア・ケンピス著/松田承久・三島彊記述/ヒュ・ゼ・フラス閲『世範』(「基督の倣び」) [27426
リギョル/前田長太(越嶺)譯『羅馬教皇』 [27427
加藤咄堂『排耶蘇教』 [27428
長田偶得『高野長英先生傳』 [27429
③雜報・葛見村夫抄錄「古希臘之英雄崇拝」六合雜誌 228 [27430
高木敏雄「秦尊嵐神話」(アフロディーテ等)帝國文學 5-11 [27431
坪内雄藏「ソクラテスと孔夫子」中學世界 1,2 [27432
湖涯子「羅馬の上古に於ける家庭教育の美風」基督教新聞 814(3/24) [27433
小崎弘道「基督降誕當時の三黨派」(ストイック派、エピキュリアン派、スケチズム等)基督教新聞 853(12/22) [27434
④豐崎善之助「ヒューマニチーの宗教」(シーザー、プラトー、エメルソン、バックル等)六合雜誌 217 [27435
＊[訂正]廣井辰太郎「進化思想と基督教」(ゲーテー、アリストテレース、デモクリトス、ロイキッポス、ヘルデル、ヘーゲル、コンスタンッチン大帝等) 六合雜誌 218,219 [2313] [27436
「諸種の宗教と宗教の進化」(ソクラテス、歷山、シーザー等) 六合雜誌 220 [27437
＊[訂正]中島德藏「道德嫌ひの國民」(ソクラチーズ、プラトー、アリストートル、ストア、エピキュラス、セ子カ、シセロ、マルクス・アウレリウス等) 六合雜誌 222 [2316] [27438
惟一舘記事「日曜講演---村井知至「マシュウ・アーノルドの宗教思想」」 六合雜誌 222 [27439
＊[訂正]松村介石「學問と修養」(ソクラテス、エピキュリアン等)

六合雜誌 223　[2318]　[27440
＊[訂正]廣井辰太郎「奇蹟斷案(其三)」(以彼古羅[エピクロス]派、學堂[アカデミックル]派、士多亞[ストア]派、アウグスチーヌス等) 六合雜誌 223　[2319]　[27441
新刊批評「西洋哲學史」(蟹江義丸著) 六合雜誌 227　[27442
雜報「明治 31 年文藝概評---哲學界」帝國文學 5-1　[27443
雜報「神話と戲曲」帝國文學 5-5　[27444
批評「蟹江義丸「西洋哲學史」」帝國文學 5-9　[27445
中島力造「蘇國哲學一斑」(ヴント、パウルゼン、アリストートル、プラトー等)
東洋哲學 6-2　[27446
西脇玉峰「儒學上に於ける子思の位置」(雅典のソクラテス、プラトン等)
東洋哲學 6-2　[27447
大瀨甚太郎「歐洲教育の現狀(承前)」(スパルタ等)東洋哲學 6-3　[27448
新刊批評「パウルゼン氏倫理學」(蟹江義丸氏譯)東洋哲學 6-5　[27449
(蓼峰)「純他力論に對する疑義」(ソクラテス、プラトー等)東洋哲學 6-8　[27450
蓼峰子「信仰は不變なりや」(プラトー、ヘーラクライトス、アリストートル等)
東洋哲學 6-9　[27451
新刊批評「「倫理學講義」(中島德藏著)、「西洋哲學史」(蟹江義丸著)」
東洋哲學 6-9　[27452
彙報「馬[マクス・ミューラ]博士の新著」(「印度哲學の六系統」)
東洋哲學 6-10　[27453
蓼峰子「純他力信仰の難」(新プラトー派等)東洋哲學 6-11　[27454
櫻鄉學人「靈魂不滅とは何ぞや」(プラトー等)東洋哲學 6-12　[27455
新書略評「西洋哲學史」(蟹江義丸著) 萬朝報 2110(8/26)　[27456
神父ドルアール氏口演「公教は救靈の道」(コンスタンチン大帝、聖オグスチ等)
聲 184(2/10),185(2/25)　[27457
德門小話「聖トーマスの箴言」聲 187(3/25)　[27458
伊庭菊次郎「懷疑なるかな暗黑なるかな現今の倫理界」(ソクラット、プラトン、アリストテーレス等)基督教新聞 803(1/7) [27459
「愛を追ひ求めよ」(アレキサンドル、シーザル等) 基督教新聞 804(1/13)[27460
八濱督郎「清貧論」(ホーマル、プラウタス等) 基督教新聞 804(1/13)　[27461
堤坡生「好尚の墮落」(カルセージ、トロイ等) 基督教新聞 805(1/20)　[27462
掬泉子「松村介石を訪ふ」(アリストーツル、ソクラチス等)
基督教新聞 805(1/20)　[27463
浮田和民「理想的青年の特性(承前)」(バイロン等) 基督教新聞 808(2/10)[27464
烏有仙史「心靈不干子の意識は普通なり」(ソクラット、プラトー等)
基督教新聞 808(2/10)　[27465
湖涯子「教育ある女子に告ぐ」(スパルタ、ローマ等)
基督教新聞 809(2/17)　[27466
湖涯子「日曜學校改良案」(グリース人、ミュゼス的教養等)
基督教新聞 815(3/15)　[27467
海老名彈正「人情の宗教」(ギリシヤ人、羅馬人、ソクレチス、プラトー、アリ

ストーテル等) 基督教新聞 820(515) [27468
小崎弘道「道徳と國家」(バックル等) 基督教新聞 827(6/23) [27469
「靈魂の救と肉體」(羅馬帝國、皇帝コンスタンチン等)
基督教新聞 842(10/6) [27470
金風生「宗教と藝術」(希臘上古ホメル等) 基督教新聞 843(10/13) [27471
「律法の說教」(グリーキ、ローマ等) 基督教新聞 847(11/10) [27472
湖涯子「兒童教育(1)」(プラトン等) 基督教新聞 847(11/10) [27473
「キリスト降誕時の宗教及び道德」(グリーキ、ローマ、ソクラテス、デモスセニース、シセロ等) 基督教新聞 851(12/8),852(12/15) [27474
C.②井上文慈郎『基督傳記朗吟集』(附・祝日詩集) [27475
上田敏著・中村不折畫『耶蘇』 [27476
水島行揚編『至聖生神マリヤの略傳』(6 月刊初版) [27477
③(參考：彙報「教員檢定試驗問題」史學雜誌 114 [27478
西洋史(甲)「エパミノンダス」(事蹟を問ふ)
(參考：彙報「中學外二校教員檢定試驗問題」史學雜誌 115 [27479
西洋史「(イ)老カトー」(事蹟を問ふ))
言論・[緒方?]流水「星亨と該撒[シーザー]」萬朝報 2170(10/19) [27480
武本喜代治「使徒ポーロの俗化精神」新世紀 2-13 [27481
宮川巳作「使徒パウロの傳道旅行」新世紀 2-18 [27482
「キリストと羅馬人」(ソクラテス、名妓アスパスヤ等)
基督教新聞 845(10/27) [27483
④書評「依田雄甫「世界讀史地圖略說」」史學雜誌 111 [27484
＊[訂正]梗概及評論(む、け生)書評「箕作元八・峰岸米造「西洋史綱」」
史學雜誌 115 [19749] [27485
書評「浦井鍠一郎「西洋歷史年表(上中下)」」史學雜誌 117 [27486
＊[訂正](參考：彙報「第十二回萬國東洋學會---ウレキア氏「羅馬人支那探險譚」」
史學雜誌 120 [19756] [27487
外報「新基督教の宣傳者ヘロン氏」(「基督及びシーザー」)
六合雜誌 226 [27488
批評「大町桂月「ハンニバル」」帝國文學 5-8 [27489
批評「箕作元八・峰岸米造「西洋史綱」」歷史地理 1-1 [27490
桑野禮治「歷史哲學に於けるカントの位置」(ヘルデル、ヘーゲル、希臘時代等)
東洋哲學 6-6 [27491
言論・沈冥子「東洋の危機とは何ぞや(中)」(ペルシヤのダライヲス、希臘等)
萬朝報 1914(2/5) [27492
言論・沈冥子「再び東洋の危機に就いて(1)(3)」(羅馬、フェニシヤ等)
萬朝報 1920(2/11),1925(2/16) [27493
掬泉子「リギョール神父を訪ふ」(二、基督中、羅瑪皇帝アントニオ等)
基督教新聞 815(3/31) [27494
D.①＊[訂正]鈴木常松(青溪)『伊蘇普物語』 [2371] [27495
大日本聖書舘『新約全書』(引照) [27496
大日本聖書舘『路加[ルカ]傳』(新約全書路可傳福音書。→明 33) [27497

②＊[訂正]森林太郎・大村西崖『審美綱領』(上下)　[2384]　[27498
宮田脩『通俗言語學』(?)　[27499
ホイトニー/保科孝一抄譯『言語發達論』(→明 36 訂 2 版)　[27500
内村鑑三『外國語の研究』　[27501
トーレー/佐藤牧師譯『聖書研究法』　[27502
③(參考：彙報「中學外二校教員檢定試驗問題」史學雜誌 115　[27503
西洋史「(ロ)ダンテ」(事蹟を問ふ)　)
アンデルセン/雪丸譯「御墓の花」(「ホメロスの墓の薔薇一輪」)
少年世界 6 月號　[27504
④海外騷壇「佛文近著」(アナトル・フランス等)帝國文學 5-4　[27505
批評「宮田脩「通俗言語學」」帝國文學 5-5　[27506
小日向定次郎「バイロンを讀む」帝國文學 5-9　[27507
雜錄「神話研究に於ける言語學」帝國文學 5-9　[27508
海外騷壇「少年文學」(Aesop's Fables）帝國文學 5-11　[27509
荒川漁郎「以太利に於ける神曲註疏の事を記す」(再掲)東京茗溪會雜誌 195
[27510
新刊批評「ホイトニー/保科孝一譯「言語發達論」」東洋哲學 6-7　[27511
西脇玉峰「先秦文藝發達の事情」(歷山大王、ターレス、ピタゴラス、アナキシマンデル、アナキシメ子ス、ヘラクリト、エムペドークルス等)東洋哲學 6-10　[27512
村山鄉太郎「虞[グラッドストン]氏と比[ビスマルク]公」
校友會雜誌(第一高等學校)83 [27513
新書略評「伊蘇普實傳」(ラフォンテーヌ)萬朝報 1924(2/15)　[27514
言論・沈冥子「政黨者流の腦髓」(グラッドストンのホーメル飜譯・評論等)
萬朝報 1990(4/22)　[27515
新書略評「外國語之研究」(内村鑑三著)　萬朝報 2020(5/22)　[27516
時評「ユリシス物語」(ジョイス)日本英學新誌 8-2　[27517
シェイクスピア/中村福助譯「梅模様形見小袖」(「冬物語」)
文藝倶樂部 4 月號　[27518
ボッカッチョ/太田玉茗譯「まごころ」(「デカメロン」一節)
文藝倶樂部 6 月號　[27519
E.②丸山長渡『法理學』（帝國百科全書 27）　[27520
穂積陳重述『法理學講義』（和佛法律學校 32 年度第 1 部講義錄）　[27521
④中島德藏「諸種の國家主義(承前)」(ニーチェ等)　六合雜誌 220　[27522
＊[訂正]豐崎善之助「社會學と他學科の關係」(プレトー、アリストートル等)
六合雜誌 226　[2396]　[27523
元良勇次郎「文明の進歩と制裁の變遷との關係(承前)」(シーザー、コンスタンチン帝等)東洋哲學 6-2　[27524
中島德藏「竹内楠三氏の國家主義を評す」(ソクラテース、アリストートル等)
東洋哲學 6-3,4　[27525
言論「東京市政を如何」(シーザー、ブルタス等)　萬朝報 2041(6/12)　[27526
G.　小栗栖香平・福見尚賢/谷口秀太郎增訂『獨和字典大全』　[27527

加藤玄智・保志虎吉編『袖珍通俗神話辭彙』 [27528
エッチ・クレートランブル著/アグネス・コーツ、櫻井成明譯『顯理平文[ヘンリー・ヘボン]傳-----一名、理想の日曜學校長』(明石山房藏版) [27529

明３３(１９００)
A. 平井金三「人類進歩論」(ソクラチース、プレートー、アリストーツル等)
六合雜誌 236 [27530
批評「内村鑑三「偉人と讀書」帝國文學 6-10 [27531
新書略評「偉人と讀書」(内村鑑三著)萬朝報 2497(9/11) [27532
(簸川)「思想一轉の期」(古代文明、羅馬等)東洋哲學 7-1 [27533
(參考：彙報「哲學舘記事」、東洋哲學 7-2 [27534
(一)：教育部教育倫理科 1 年----西洋倫理史、教育史、哲學概論、論理學
2 年------西洋倫理史、教育史、哲學史、心理學
3 年----- 倫理學通論、心理學、美學
科外-----西洋歷史
(三)：哲學部 1 年----西洋倫理、因明論、哲學概論、論理學
2 年------西洋倫理、哲學史、史學、比較宗教學
3 年----- 純正哲學、美學、宗教哲學
科外-----西洋歷史
(講師)倫理(井上)、哲學(近角)、哲學(塚原)、歷史(中川)、倫理(中島)、教育(熊谷)、歷史(本多)、哲學(高山)、教育哲學(松本)、哲學(姉崎)、哲學(有島)、倫理(湯本))
新刊批評「澤柳政太郎「讀書法」(5 版)」東洋哲學 7-12 [27535
B.②羽化仙人編『西洋秘術・魔術』(上下元合) [27536
三宅雪嶺述『近世哲學史』(哲學舘第 12 學年度高等教育科講義錄。→明 36 哲學舘第 15 學年度高等教育科講義錄) [27537
桑木嚴翼述『ジーベルト氏最近獨逸哲學史』([東京專門學校]名著綱要文學教育科 16。→明 34) [27538
桑木嚴翼・關山富共述『ドロービッシュ氏論理學綱要』([東京專門學校]名著綱要政法理財科 17) [27539
松本文三郎『純正哲學---シオペンハワー哲學綱要』(哲學舘第 11 學年度高等教育科講義錄) [27540
野田義夫述『論理學』(東京法學院 34 年度第 1 年級講義錄) [27541
ヒマン・リンコン著/エフ・ジー・ハリングトン/大倉本澄共譯『教理史提要』 [27542
天主公教會編『幸福之道』 [27543
エチ・ビ・リットン/吉村大次郎譯『主イエス基督之神性』 [27544
Lord Bacon：An Essay, T.B.Macaulay, with an introduction and notes by A.F.Blaisdell, Tokyo,Kokumin Eigakwai,1900 [27545
③[清澤]滿之・[渡邊]龍作・[渡邊]鼎・[?]秀道・[暁烏]敏「「ソクラテス」に就きて」無盡燈 1 月號 [27546

中島德藏「東西二聖の教育法」(ソクラチーズ、プラトー、アンチステ子ーズ、クレアンツス、アリストートル、クリシップス、シニック、ストア等)東洋哲學 7-8 [27547
④ひさ子(久子)「オーガスチンの母」女子之友 64,68,70,72 [27548
＊[訂正] 勁林園主人「オーガスチンの母」(ひさ子續稿)女子之友 77,78 [19849] [27549
＊[訂正・削除] (參考：彙報「第十二回萬國東洋學會・第三報」史學雜誌 122 バウムスタルク氏「アリストテレス亞拉比亞[アラビア]神學前史」) [19868] [27550
＊[訂正]桑木嚴翼解說『ヰンデルバンド・哲學史綱要』(名著綱要文學教育科 8[東京專門學校]。→明 34) [2411] [27551
安部磯雄「基督論」(ソクラテス等) 六合雜誌 229 [27552
＊[訂正]廣井辰太郎「神論緣起」(ホメロス、マックス・ミュルレル、ヘーゲル、ソクラテス、ルクレチウス、エピクール等) 六合雜誌 230 [2420] [27553
＊[訂正]小笠原豐太郎「現今之德育及將來之德育」(セ子カ、プラトン、ペリクレス等) 六合雜誌 231 [2423] [27554
豐崎善之助「基督論」(アレキサンデリアのファイロー、ソクラテス等) 六合雜誌 236 [27555
松本孝次郎「理想的偉人」(ソクラテス等)東洋哲學 7-2 [27556
叔桑生「消遣論」(ダイオゲ子ース等)東洋哲學 7-3 [27557
佐竹觀海「阿毘達磨俱舍論に顯はれたる極微說」(エムペドークレス氏、エレア學派等)東洋哲學 7-4 [27558
塚原政次「心理學者としてのホルムヘルツ」(アリストートル等) 東洋哲學 7-4 [27559
大江文城「陳搏の事跡及其學說」(プラトー、ヘーゲル、ストア學派等) 東洋哲學 7-6,8 [27560
日漸生「當世理想の瞥見」(プラトーン等)東洋哲學 7-6 [27561
中尾敬嚴「宗教的觀念の到達」(初期希臘哲學、ターレス、アナクシマンドロス、アナクシメ子ース、アイヲニア學派、エレア學派パルメニデース、エムペドクレース、アナキサゴラス、ソフィスト、ソクラテス、プラトーン、アリストテレス等)東洋哲學 7-9 [27562
加藤玄智「哲學と宗教との異同は那邊に在りや」(ソークラテース氏、ヘーゲル哲學、アリストテレース等)東洋哲學 7-10 [27563
新刊批評「加藤玄智編述「問答躰哲學小史」」(獨乙データ氏「哲學史要」「哲學史問答」の骨子)東洋哲學 7-10 [27564
新刊批評「パウルゼン氏倫理學解說」(蟹江義丸解說)東洋哲學 7-11 [27565
(?)「マクス・ミュルラー氏逝去」(p.548)東洋哲學 7-11 [27566
(參考：彙報「教員檢定豫備試驗問題」、東洋哲學 7-12 [27567
修身倫理科:「一、快樂說 Hedonism ニハ倫理學上價値アル元素アリヤ否ヤ」)
彙報「ニーツェ氏とシヂ井ック氏」東洋哲學 7-12 [27568

新書略評「瑣克剌底[ソクラテス]」(久保天隨著)萬朝報 2428(7/4) [27569
望岳樓主人「信者の德行一般」(聖オーギュスタン等)聲 208(2/10),210(3/10) [27570
望岳樓主人「信德に就て」(聖オーギュスタン等)聲 211(3/25) [27571
ドルワルド・レゼー口演/林壽太郎筆記「神と人とに就ての神學的研究」(聖トマス等)聲 213(4/25) [27572
望岳樓主人「望德論」(聖アグスチノ、母モニカ等)聲 215(5/25) [27573
譯讀註釋「スマイルス「品性論抄詳解」」日本英學新誌 9-1,2 [27574
C.②吉田東伍『海の歷史』(?) [27575
カーライル/住谷天來(八朔)譯『英雄崇拜論』(「英雄と英雄崇拜」) [27576
香取春介譯『增訂・英國七大家詩文集譯註』2 册(ホラシーアス「雅典ノ勢力」) [27577
ハールバット/元田作之進譯『イスラエル發達小史』 [27578
海老名彈正『耶蘇基督』 [27579
綱島梁川述『ルナン氏・耶蘇傳』(東京專門學校、名著綱要文學教育科 17。→明34) [27580
インノケンテイ/大和田敬時[イオアン]譯『救主の最終諸日考』 [27581
ジー・エム・フイッシャー著『基督傳研究綱目』 [27582
岩田泰巖編『世界大年契』 [27583
本多淺治郎『新體西洋歷史教科書參照圖畫』 [27584
③「歷山大王の話」(アレキサンデル)ときのこゑ 2/15 [27585
＊[訂正]啞流魔漢「トロイ戰爭」女子之友 89 [2572] [19877] [27586
＊[訂正]磧川生「歷史の父祖」(サラミス、プラテア、ミクール、エスクラス、ソォフクルス、ユーリピデス、アリストファー子ス、ソクラテス、フ井ヂアス、ポリグノタス、スキヂデス、ゼノフォン、ヘルドタス、ヘロドタス等) 史學界 2-3 [15860] [27587
雜錄「吾主基督の書翰」(アグリッパ王等)聲 216(6/10) [27588
譯讀註釋「スイントン・萬國史註釋」日本英學新誌 9-3,4,6 [27589
④杉山重義「婦人論」(プラトー等) 六合雜誌 231 [27590
特別寄書・杉山重義「都會の改良と其獨占事業」(希臘人、羅馬人、プラトー等) 六合雜誌 235 [27591
河上翠陵(清)「近世の家族觀」(プラトー、フンボルト等) 六合雜誌 238 [27592
書評「吉國藤吉「西洋史」、「西洋歷史」」史學雜誌 124 [27593
書評「箕作元八「西洋史綱要解」」史學雜誌 125 [27594
書評「本多淺治郎「西洋歷史教授法案」、「西洋歷史參驗考書」、「西洋歷史參照圖書」」史學雜誌 127 [27595
批評「本多淺治郎「西洋歷史參考書」、「西洋歷史參照圖畫」、「西洋歷史教授法」」帝國文學 6-8 [27596
雜錄「少年讀書の趣味」(プリュターク等)帝國文學 6-10 [27597
言論・翠陵「頑夢思想の代表者(2)---- 雜誌「明義」の愚論」(ス井ントン等) 萬朝報 2354(4/21) [27598

新書略評「世界歷史」(巖谷小波著) 萬朝報 2367(5/4) [27599
D.①大日本聖書舘『新約全書』 [27600
大日本聖書舘『約翰[ヨハネ]傳---新約聖書』 [27601
バプテスト共同傳道會社『馬可[マコ]傳』 [27602
バプテスト共同傳道會社『路加[ルカ]傳』(路可傳福音書) [27603
バプテスト共同傳道會社『標附・約翰[ヨハネ]傳----新約聖書』 [27604
②近松守太郎『グラッドストン』(世界歷史譚第 16) [27605
濱田佳澄『シェレー』 [27606
新村出『言語學通俗講義』(哲學舘講義錄) [27607
藤岡勝二述『言語學』(哲學舘第 12 年度高等教育科講義錄。明 32,33,35) [27608
保科孝一『言語學大意』 [27609
③講演・豐崎善之助「近世の三大理想」(14)羅馬の戲曲家テレンス)
六合雜誌 231 [27610
④後藤宙外「詩人を評價するの標準」(ミルトン、バイロン)新聲・臨時增刊號
[27611
ゲーテ/プーシキン譯・山田枯柳重譯「フワウスト」(「ファウスト」一節)
裏錦 12 月號 [27612
南亭生「批評家ラスキン翁」(史傳) 大日本 3-4 [27613
海外新報「ラスキン死す」萬朝報 2268(1/25) [27614
内外思潮「故ラスキンに關する世評一班」(希臘等) 萬朝報 2356(4/23) [27615
時評「ラスキン逝く」日本英學新誌 9-1 [27616
カ・ア・フローレンツ/新村出譯「新定羅馬字書方に就て」
言語學雜誌 11 月號 [27617
E.②リギョル著/前田長太譯『法理哲學』(?) [27618
④特別寄書・豐崎善之助「平和主義(下)」(アゼンス、スパルタ、アレキサンドル大帝、マセドン王國、ジュリアス・シーザル等)
六合雜誌 241 [27619
言論「法科大學の試驗」(サルモピリーの戰場に於ける希臘軍等)
萬朝報 2428(7/4) [27620
[27621
言論・内村鑑三「余の學びし政治書(1)」(アリストートル、ダンテ、ペリクリース、聖アウガスチン、トーマス・アクイナス等)
萬朝報 2590(12/13) [27622
G. 野村泰享・森義則著/ボアソナード贊助、中澤文三郎・阿部漸訂正『佛和辭典』(第二版) [27623

明３４(１９０１)
A. 伊達虎一『歐羅巴視察日記』 [27624
叢譚・れい「聖地巡禮譚(1)」(アテヌ、羅馬等)聲 244 [27625
社說「讀書と觀劇」(シセロン、シセロ等)聲 263 [27626
雜錄「鎖夏漫言」帝國文學 7- 8 [27627

佐藤忍「文明を論ず(承前)」尚志會雜誌(第二高等學校)47 [27628
(參考：哲學舘同窓會「哲學舘の新學年」、東洋哲學 8-10 [27629
-----教育學・教育史・英語(春山)、哲學概論・哲學史・宗教史(加藤)、心理學・論理學(塚原)、倫理學・倫理學史(中島)、歴史(中川)、宗教哲學(野田)、教育學・教育史(熊谷)、國語・言語學(八杉))
朝報「十九世紀の大著述」(ラスキン、エアーソン、ヘーゲル、ゲーテ等)
萬朝報 2639(1/31) [27630
B.②アラン・メンジース/加藤玄智譯『世界宗教史』 [27631
キリストリープ述/三並良譯『基督教要領講義』(神學叢書 2) [27632
ニカノル/吉田卯太郎譯『羅馬教會論』 [27633
イジドーロ・シヤロン述/樫尾太刀太郎記『プロテスタン歴史之正謬』 [27634
笹倉彌吉『啓蒙通俗基督教』 [27635
ボーカス編『主の晩餐』 [27636
ウォタ・ブカナン/堀田達治譯『全世界の神』 [27637
水島行揚『先祖の神』 [27638
戸澤姑射譯『愛と心--小說』(2 版,勉強堂) [27639
田中治六『哲學名義考』(哲學舘第 13 學年度高等學科講義錄) [27640
前田長太(越嶺)『死----平民哲學』 [27641
佛國リギョル述/前田長太[越嶺]記『(スコラ)哲學論綱』 [27642
ノルトン編/民友社譯『惠磨遜[エマルソン]の書簡』 [27643
エマアソン/神田佐一郎譯『エマアソン---一語千金』 [27644
塚原政次『論理學』(哲學舘第 13 學年度高等學科講義錄) [27645
中島力造『論理學講義』 [27646
小林茂理『議論之杖----通俗論理』 [27647
③＊[訂正]小笠原豐太郎「對神思想の沿革」(1.「ソクラテースの對神思想」、2.「プラトンの對神思想」、3.「アリストテレスの對神思想」、4.「ストア學派の對神思想」、5.「フハイロン及プロチノスの對神思想」、6.「中世の有神論及創造論」)
六合雜誌 251,252,253 [27648
＊[訂正]講演・岸本能武太「予が根本信念」(プレートー、アリストートル、ソクラテス等) 六合雜誌 252 [27649
清澤滿之「パンの問題」(ダイオゼネス氏、ソクラテス氏、エピクテタス氏等、明34,35 年稿? 昭 30 刊・全集 7 所収) [27650
④＊[訂正]雜錄・姉崎正治「大西祝君を追懐す」(プラトーン、ゲーテ、論文「ソクラテス以前の希臘哲學」等)
丁酉倫理會倫理講演集 7 [2558] [27651
＊[訂正]「西洋新刊書目」史學雜誌 137 中 [20005] [27652
J.G.Frazer,The Golden Borough,A Study in Magic and Religion,2nd ed.,3vols.」
山口金作「宗教意識論(承前)」(スパルタ、ギリシヤ美術、ダンテ等)
六合雜誌 242 [27653
小笠原豐太郎「東洋人の對天思想(承前)」(プラトンのロゴス、プロチノスのオン

等) 六合雜誌 242 [27654
平居黙堂「密宗眞想論(接前)」(希臘人の宗教等) 六合雜誌 249 [27655
安部磯雄「基督傳の研究」(ソクラテス等) 六合雜誌 249 [27656
新刊批評「哲學史要」(加藤玄智著) 六合雜誌 251 [27657
時論「井上[哲次郎]博士の「武士道と將來の道德」」(教育公論 248 號、ストア學派等)聲 242 [27658
論說ドルワル・ド・レゼー演述「生命の本原」(希臘の哲學者アリストット等) 聲 243 [27659
社說「唯物論者の遺言---續一年有半」(プラトン等) 聲 250 [27660
論說・リギョル「勞働と基督教」(アリストット、プラトン、アテナ、ゼノン、テレンス、シセロン「義務篇」、セネク等)聲 252,253 [27661
時論「ニーチェの倫理觀」(六合雜誌 256 號)聲 260 [27662
講壇・前田長太「吾師之道」(希臘の大儒デオゼネス、希臘七賢人ビアス、プラトン、オグスチノ等)聲 262,263 [27663
海外騷壇「登張信一郎譯「ニイチェの自傳」」帝國文學 7-1 [27664
海外騷壇「アンリ・リヒテンベルゲル/上田敏譯「フリードリッヒ・ニイチェ」帝國文學 7-1 [27665
批評「專門學校出版部「名著綱要」」帝國文學 7-5 [27666
登張信一郎「フリイドリヒ・ニイチェイを論ず」帝國文學 7-6 [27667
雜錄「美的生活論とニイチェ」帝國文學 7-9 [27668
雜錄「新文藝記者に與ふ」(ニイチェ)帝國文學 7-9 [27669
雜錄「解嘲」(ニイチェ)帝國文學 7-10 [27670
雜錄「奇怪なる現象」(ニイチェ)帝國文學 7-11 [27671
雜錄「馬骨人言を難ず」(ニイチェ)帝國文學 7-12 [27672
正岡藝陽「松村介石」新聲 5-2 [27673
高須梅溪「三宅雪嶺」新聲 5-3,4 [27674
「詩に現はれたる信仰」(ニーツエ、ゲーテ等)新聲 6-1 [27675
鹿島櫻巷「新博士物語---西村茂樹」新聲 6-3 [27676
「甘言苦言」(「罵倒觀音・ニーツェ」、「阿羅漢・ニーチェーズム」) 新聲 6-6 [27677
[27678
雜錄・高楠順次郎「マクス・ミュラー博士」東洋哲學 8-1,2 [27679
加藤三雄「マクス・ミュラー博士の儒教論」(希臘 Zeus、羅馬の Jipiter 等) 東洋哲學 8-1,3,4 [27680
(參考:「同窓會例會」------ 海老名彈正「基督教の三變遷」東洋哲學 8-1)[27681
市村瓚次郎「獨逸ギムナジウム、クールクラシックにおける羅甸語と希臘語」東洋哲學 8-2 [27682
海老名彈正「基督教の三變遷」(希臘羅馬、アレキサンドリア府等) 東洋哲學 8-3 [27683
長根禪提「第廿世紀に於ける宗教と儀禮問題」(シセロ、希臘オリムピアの祭禮等) 東洋哲學 8-4 [27684
雜事「新文學博士----西村茂樹、三宅雄次郎」東洋哲學 8-5 [27685

無遠慮子「景慕錄(2)(5)」(ヘラクレトス、ピタゴラス、ソクラテス等)
東洋哲學 8-5,10 [27686
新刊紹介「[井上]巽軒論文二集」東洋哲學 8-6 [27687
彙報・耶山章「ニイツェ熱と文界」東洋哲學 8-7 [27688
新刊紹介「倫理學提要」(マッケンジー氏著)東洋哲學 8-7 [27689
彙報「岩崎家寄贈・マクス・ミュラー文庫」東洋哲學 8-8 [27690
新刊紹介「ヴント氏倫理學」(蟹江義丸解說)東洋哲學 8-8 [27691
吉田熊次「所謂教育學とは何ぞや」(ピタゴラス、ソクラテス、プラトーン、アリストテレス、アレキサンデル大王、羅馬帝國、ストア哲學、羅馬法、ヘーゲル等)東洋哲學 8-9 [27692
(參考：彙報「哲學會第一回夏期講習會」、東洋哲學 8-9 [27693
----倫理學(野田)、哲學概論(加藤)、科外[「倫理學に就て」(融)]) [27694
新刊紹介「倫理學精義」(野口援太郎著)東洋哲學 8-9 [27695
新刊紹介「教育學要義」(伊賀駒太郎著)東洋哲學 8-9 [27696
彙報・簸川生「「續一年有半」を讀む」(中江兆民、プラトン、ソクラテス等)
東洋哲學 8-11 [27697
松村正一「孔子の學說」(ソクラチース等)東洋哲學 8-12 [27698
新書略評「哲學概論」(桑木嚴翼著) 萬朝報 265(2/26) [27699
朝報・内村鑑三「日本人の注文」(無神無魂說の一節。ダンテ、ミルトン、ヘーゲル等）萬朝報 2927(11/15) [27700
寄書・樋口龍峽「新思潮論(2)(3)(4)(7)(8)(10)(11)(12)(13)」(ニーチェ主義、ニーチェ、ミノタオル、ソクラテース等)
萬朝報 2940(11/28),2941(11/29), 2945(12/3), 2951(12/9),2953(12/11),2958(12/16),2960(12/18),2962(12/20), 2963(12/21) [27701
C.②金井啓一『世界一大奇書----權謀學』(附錄「模範權謀---西洋の部」) [27702
ボクスラウスキー著/伊藤芳松譯『古今戰法』 [27703
水島行揚『前期世界の滅亡』 [27704
ロボルトソン・ニコル/柏井園譯『基督傳』 [27705
元田作之進『十字架上の聲』(立教學院ミッション叢書 1) [27706
ゲラルド・ラヂングトン・ウエード原著/山鹿旗之進譯『耶蘇基督』 [27707
水島行揚『世の罪を負ふ上帝の羔を屠られたる事、大なる金曜日の事實』
[27708
H.G.Brand,Scriputures and Criticism,Yokohama,C.M.Bradbury,1901 [→B.②] [27709
③さいとう「寶冠」(ハンニバル)新聲 6-5 [27710
小說・孟庵散士抄譯・桂亭逸人執筆「雲間の月」(シェンキエウヰク氏の「クオヴァヂース」抄記)聲 242,243,244,245,246,247,248,249,250,251,252,253,254,255,256,257,258,259,260,261,262,263,264 [27711
(參考：彙報「教員檢定本試驗問題」、東洋哲學 8-3 [27712
------- 西洋史：「三、左の人々の顯著なる事績、(甲)キモン(Cimon))
(參考：彙報「第十五回教員檢定豫備試驗問題」、東洋哲學 8-12 [27713
------- 西洋史科：「三、左の人々の顯著なる事績：テミストクレース」)

④＊[訂正]「西洋新刊雑誌要目」史學雑誌 138　中　[20029]　[27714
Ch.Waldstein,Recent Discoveries in Greece and the Mycenean Age」
＊[訂正] 雑錄・入濱掬泉「古代埃及人の宗教及風俗」(ヘロデタス、クレオパトラ、イソップ等) 六合雑誌 245　[27715
野上啓之助「社會問題と勞働者教育」(グラックスの法、ギリシヤ・ローマの滅亡等) 六合雑誌 249　[27716
林壽太郎「婦人の位置」(ソロン等)聲 257　[27717
書評「幸田成友「西洋史要」」史學雑誌 137　[27718
雑錄「岡部精一「通俗歷史地理學」」(シュリーマン等)歷史地理 3-7　[27719
雑錄餘材・國府犀東「人種混同」(アレキサンダー大王等)新聲 6-6　[27720
海外文壇・中島孤島「ヘンリック・シェン井―ヴィッチ氏」(「クホヴディス」) 新小說 6-12　[27721
D.①Charles Stickney(trans.), Aesop's Fables, Tokyo, Okazakiya, 1901(カナサシ書店刊?)
C.M.Cady,The Series-form of Aeop’s Fables,with conversational phraises,Kyoto,Orphan Indutrial Press,1901　[27722
日本正教會譯『我主イイススハリストの新約』(→明 35・2 版)　[27723
Shinyaku Zensho, 大日本聖書舘　[27724
エル・ビー・チヤモレー著『加拉太[ガラテヤ]書註釋』　[27725
水島行揚『舊新約聖經畫帖』(圖版 117 枚)　[27726
大日本聖書舘『標附・馬太[マタイ]傳』　[27727
大日本聖書舘『標附・約翰[ヨハネ]傳』　[27728
②中村可雄『シエークスピーア』(世界歷史譚 21)　[27729
ラマルチーヌ/加藤紫芳譯『二勇婦』(?)　[27730
ジョージ・バイン原案/横濱語學協會編『外國語練習術講義』　[27731
八杉貞利『外國語教授法』　[27732
八杉貞利著『ストロング氏言語史綱要』(イエスペルセン氏言語進歩論[新村出を合綴。明 33-34[東京専門學校]名著綱要文學教育科 4)　[27733
アール・エ・トーレー/新井正平譯『聖書研究の栞』　[27734
③＊[訂正]木村鷹太郎「嗚呼グレシアの諸嶋」(英詩譯評、バイロン)明星 10(→1902 年以降、梁啓超、馬君武、蘇曼殊「哀希臘」と譯出)　[15949], [20045]　[27735
高須梅溪「希臘彫刻」(アルカメネス作、p.38)新聲 5-5　[27736
高須梅溪「希臘彫刻」(アポロー神、p.20)新聲 5-6　[27737
「希臘彫刻」(アレキサンダー王、ムデタセンース、p.12）新聲 6-1　[27738
柳内蝦州「人民の詩人」（ダンテ、ホーマー等)新聲 6-3　[27739
④＊[訂正]藤島武二「ダンテ肖像」明星 11　[15950]　[27740
＊[訂正]「西洋新刊雑誌要目」史學雑誌 143　中　[20075]　[27741
O.Seeck,Die Selbstverwaltung der Städte im Römerreich」
トルストイ/渡邊爲藏編譯「藝術論」(「ニ十世紀新講十種」中)　[27742
飯田綠行「社會主義と我公教」(聖アウグスチノ、聖トマス等)聲 242,243　[27743
高木敏雄「日本神話の印度起源に關する疑問」帝國文學 7-3　[27744

上田敏「神曲・由來及び趣旨」帝國文學 7-9 [27745
櫻溪子「わかきキイツ」尚志會雜誌(第二高等學校)50 [27746
高須梅溪「少壯論客」(國府犀東「シルレル傳」)新聲・臨時增刊號 [27747
社會時言「薄志弱行の徒」(グラッドストン、セクスピーヤ、ゲーテ、シルレル)
新聲 5-2 [27748
莊司華石「世捨人(2)」(ラテン語、ロマ、グレシヤ等)新聲 5-3 [27749
新聲記者「大いに傳記を讀め」(ゲーテ、シルレル、カーライル)新聲 5-4 [27750
文藝小說「文壇の諸家」(高山樗牛、島村抱月、土井晩翠、後藤宙外、登張竹風)
新聲 5-4 [27751
高須梅溪「第二少壯論客---山路愛山」新聲 5-5 [27752
王秋林「天才と道德」(バイロン)新聲 6-1 [27753
北嶺「文士に與ふる書」(ミルトン、キーツ、シエクスピーア、ヘーゲル等)
新聲 6-1 [27754
近刊・「國府犀東「豐公の美的研究」の一節、別題(特別發行)[長虹」犀東「英雄と美術」」(希臘スタイル、アレキサンダー)
新聲 6-3 [27755
登張竹風「舊現實と新現實」(ニイチェ、バイロン、ゲーテ、希臘美術)
新聲 6-3 [27756
高須梅溪「森鷗外」新聲 6-3 [27757
正岡藝陽「帝國文學記者に與ふ」(シルレル、シェレー)新聲 6-4 [27758
「甘言苦言」(方角違ひの提灯持ち・樗牛氏、ニイチェ、バイロン)新聲 6-5[27759
書齋觀・王秋林「登張竹風君」新聲 6-6 [27760
書評・新村出「羅馬字書方の改正に就て」(カ・オ・エルドマン「語詞の意義」)
言語學雜誌 1 月號 [27761
八杉貞利「言語學が國語學に與へる貢獻」(希臘羅馬・古典文獻學等)
東洋哲學 8-1 [27762
ボッカッチョ/淺野馮虛譯「女の鑑」(「デカメロン」一節)
新文藝 6 月號~8 月號 [27763
新書略評「詩人と戀」(關露香著。シェレー、バイロン等の傳記)
萬朝報 2898(10/17) [27764
＊[訂正]E.②新刊・櫻井熊太郎僭評「(穗積陳重著)Ancesterworship and Japanese Law」
二六新報 999 [2529] [27765
F.③こんろん山人「電氣學ノ發達」(ミレタスノターレス、ヴァージル、アスカニウス等) 東京物理學校雜誌 112 [27766
(參考：「「第二回萬國物理學會議」東京物理學校雜誌 116 [27767
----- 論文・パドア氏「有克立[ユークリッド]幾何學ノ定理ノ新聯」）
④雜報「伊藤圭介先生逝く」(「泰西本草名疏」) 六合雜誌 242 [27768

明３５(１９０２)
A. ＊[訂正]神田佐一郎「文明と野蛮・附裸躰美人の畫」(グリーキの裸躰畫等)
六合雜誌 255 [27769

＊[訂正]野上啓之助「自由と文明の關係を論じ國民の自省を促す」(希臘羅馬、フヒニシヤ、カルセージ、ソクラチス、アリストートル等) 六合雜誌 261 [27770
藤園・池邊義象『歐羅巴』(イタリア等) [27771
箕作元八「歐洲漫遊談----演說速記」校友會雜誌(第一高等學校)116 [27772
マーク・トウエイン/芥舟漁郎譯「羅馬の案内者」(「無邪氣者の外遊記」)
藝文 6 月號 [27773
(參考：「哲學舘創立時學科表」、東洋哲學 9-2 [27774
西洋哲學・第一年普通科：論理學、心理學、倫理學、教育學、純正哲學
第二年高等下級：人類學、言語哲學、歷史哲學、希臘哲學
第三年高等上級：論理學、近世哲學史、心理學、審美學、倫理學、政理久法理、宗教哲學
講師：論理學(演繹法、阪倉)、論理學(歸納法、清野)、心理學(理論、柳)、心理學(應用並妖怪說明、德永、清野)、倫理學・歷史(棚橋)、倫理學批評(嘉納)、教育學(國府寺)、哲學史(三宅)、哲學論(井上)、純正哲學(德永、清野))
新刊紹介「學生讀書法」（駿臺隱士著）東洋哲學 9-5 [27775
(參考：同窓會報「哲學舘の新學年」東洋哲學 9-10 [27776
心理學(石幡)、教育史(春山)、哲學史(虎石)、倫理學・倫理學史(中島)、歷史(中川)、言語哲學・比較宗教學(内田)、心理學・美學(深田)、哲學概論・哲學史・論理學(小林))
B.①景峨子「アフロヂテの負傷---ホメーアのイリヤス」
校友會雜誌(第一高等學校)119 [27777
放吟子「オリムポス十二神の歌」校友會雜誌(第一高等學校)121 [27778
②正岡藝陽『英雄主義』(ニーチェ) [27779
岸本能武太『比較宗教一斑』 [27780
アウグスト・キント/山元忠美譯『神子論意義・附・救主論』(神學叢書 4)[27781
ラボック/本田信教譯『人生之快樂』(「Pleasure of Life」)(?) [27782
風間禮助抄譯『偉人修養譚』 [27783
ドロービッシュ/桑木嚴翼・關山富譯『論理學綱要』 [27784
加藤玄智『哲學概論綱要』 [27785
アドルフ・ウェント著『學術と宗教』(普及福音教會叢書) [27786
③＊[訂正]角田柳作「神話と宗教」(希臘羅馬の祭祀、プラトン學派、ソフォクルス等) 六合雜誌 262,263 [27787
千葉鑛藏「哲學と經濟學との關係」(全篇 Platon 解說)萬年艸 1,2,3 [27788
朝永三十郎「學究漫錄」(プラトーン、デーモクリトス等)精神界 2-11,12 [27789
ロングフェロー/尾上紫舟譯「ミューズの降下」明星 1 月號 [27790
ツルゲーネフ/瀬沼夏葉・尾崎紅葉譯「神の宴」(「神の宴會」)小說 4 月號[27791
(參考：彙報「文部省教員檢定本試驗問題」、東洋哲學 9-2 [27792
------ 修身科：「三、ソクラテスの知德合一論と王陽明の知行合一說と其旨意同じきや否や」)
(參考：彙報「文部省教員檢定豫備試驗問題」、東洋哲學 9-9 [27793

西洋史：(三、左の人々の事績(イ)ピタゴラス))

④新刊批評「西洋哲學史要」(波多野精一著)六合雜誌 253 [27794

岡野養之助「人生觀を論じて二代天才に及ぶ」(ホーマー、プレート等)
六合雜誌 257 [27795

＊[訂正]石井光躬稿「哲學不振概論」(ソクラチース、プレトー、アリストートル等) 六合雜誌 257 [2640] [27796

新刊紹介「カール・マルクス」(西川光次郎著) 六合雜誌 258 [27797

新刊紹介「哲學概論綱要」(加藤玄智著) 六合雜誌 261 [27798

講話・靈父リギョル「我證人たれ」(哲人ジュスチノ、皇帝マルコ・オレリオ等)
聲 273 [27799

論評・柳茂安「海老名[彈正]氏「基督教神話の理解」を讀む」(アウギュスト、トマス、グノスチック、フ井ロン、新プラトン派、プラトン等)聲 275,276 [27800

雜錄「新道德と新宗教」(ニイチェ)帝國文學 8-1 [27801

(戸川)秋骨譯「オリムパスの山頂にペテロとパウロとが下しし審判」
帝國文學 8-2 [27802

雜錄「馬骨先生に答ふ」(ニイチェ)帝國文學 8-2 [27803

高木敏雄「日本神話學の歷史的概觀」帝國文學 8-5 [27804

雜錄「牛の戰慄」(ピタゴラス)帝國文學 8-5 [27805

雜錄「各人は孰れにか與みすべき」(ニイチェ)帝國文學 8-5 [27806

雜錄「冷然たる强者」(ニイチェ)帝國文學 8-5 [27807

高木敏雄「日本神話學の建設」帝國文學 8-9,10 [27808

批評「桑木嚴翼解說「ニイチェ氏倫理學一斑」」帝國文學 8-9 [27809

雜錄「難者に答ふ」(ニイチェ)帝國文學 8-12 [27810

中野達慧「埃及太古宗教史」無盡燈 7-1 [27811

千葉鑛藏「哲學と經濟學との關係」(J.E.Erdmann,History of Philosophy,Plato、希臘語)文藝 2 [27812

りんたろう(森林太郎?)「やまひこ(中)」(古傳說の先思神プロメトイス)
文藝 2 [27813

ミルトン作/からたちのや譯「リシダス」(ギリシヤ神話、ミルトン作)
萬年艸 1,10 [27814

「心中萬年艸合評(下)」(希臘語、希臘史、羅馬帝政時代の英雄 Julius Caesar,Augustus Tiberius,Calligula,Cladius,Nero,Galba,Titus,Domitian,Nerba,Trajan, Hadrian, Commodius,Dante、レスボス、Aristotle の Peripeteia[禍福轉變]、Anagnorisis[認識]）萬年艸 1 [27815

中村知子太「巴里來信」(ルーブル、グリーキ石膏等) [27816

新刊紹介「赤石[司]・石田二氏共編「天馬」」(希臘羅馬神話)新聲 7-5 [27817

新刊紹介「西川光次郎「カール・マルクス」」新聲 7-5 [27817

四目入道「各課効能二行書」(ニイチェ、古代希臘ソフ井ースト「詭辯の徒ありて、一代の風教を罵れるさま、百世の奇觀なりき」)
新聲 8-1 [27818

海外騷檀・正宗白鳥「メーテルリンクの神秘主義」(プレトー、プロチヌス、マー

カス・ヲーレリアス、エマーソン等)新聲 8-2　[27819
青柳有美「市川團藏」(希臘智神殿[パルテノン]の神像等)新聲 8-6　[27820
ジョージ・ハーバード・パーマー「倫理と宗教」(オーガスチン、リュークレシアス等)福音叢誌 76　[27821
ジー・イー・アルブレクト「三位一體に就て如何に考ふるべき乎」(プラトー、アリストートル、ツェノ、イピキュラス、プルターク、ファイロー、ストア學派等)
福音叢誌 77　[27822
デビッド・スミス「耶蘇の教訓の創新と不朽」(ソクラテス、アリストートル等)
福音叢誌 79　[27823
ロバート・スチュアルト・マックアーサ「千古の問題」(ソクラテス、プラトン等)
福音叢誌 87　[27824
ロポルトソン・エフル「人を見よ、神を見よ」(ソクラテス等)福音叢誌 87 [27825
評論・簸川生「明治卅四年の社會瞥見」(マスク・ミュラー、ニイチェ等)
東洋哲學 9-1　[27826
評論・耶山章「明治三十四年の文界」(ニイチェ等)東洋哲學 9-1　[27827
評論・洛日克「一年有半と舊式の唯物論」(バイロン、シーザー、クレオパトラ等)
東洋哲學 9-1　[27828
評論・平凡子「病的人生論」(ニイチェ主義等)東洋哲學 9-2　[27829
彙報「新文學博士」(高山林次郎、桑木嚴翼、姉崎正治)東洋哲學 9-2　[27830
新刊紹介「兒童研究第 4 卷第 9 號[高島平三郎「古代希臘に於ける兒童教育」]」
東洋哲學 9-2　[27831
西脇玉峰「先秦に於ける論理思想の發展」(エリカのツエノー、アリストテレス、ソクラテス等) 東洋哲學 9-3　[27832
同窓會報「嗚呼我が哲學舘」(ソクラテス等) 東洋哲學 9-3　[27833
吉田熊次「所謂新教育學とは何ぞや」(ギュヨー氏「功利學派の倫理學史」[エピキュロス]、フィツエ氏「ヒウピアス、ミルレ注釋」「自由論と必然論」、プラトン、アリストテレス等) 東洋哲學 9-4,7,8　[27834
雜錄・中島德藏「諸倫理書の讀法」東洋哲學 9-4　[27835
---(中島德藏講述「倫理學講義」、同「倫理學概論」、足立栗園「通俗倫理學」、中島力造「倫理學說十回講義」、山本良吉「西洋倫理學史」、木村鷹太郎「東西洋倫理學史」、中島力藏「輓近の倫理學」、渡邊又次郎「西洋倫理學史」、故大西祝「倫理學講義」、渡邊又次郎「倫理學講義」、桑木嚴翼「ムイアヘッド氏倫理學」、蟹江義丸「パウルゼーン氏倫理學」、西晉一郎「グリーン氏倫理學」
波多野精一「プロテスタントの哲學者カント」(プラトーン、アリストテレース等)
東洋哲學 9-5,6　[27836
新刊紹介「天馬」(元田永孚、赤司繁太郎編) 東洋哲學 9-6　[27837
同窓會報「無阿思談」(ソークラテス等) 東洋哲學 9-6　[27837
元良勇次郎「哲學の變遷と新系統」(ソクラテス、プラトー、アリストートル、デモクリタス、エピキュラス、ローマのルクレチ

ュア等) 東洋哲學 9-7 [27838
吉田賢龍「釋迦の特點」(ターレス、アナキシマンドロス、アナキスメ子ネス、ソヒスト、ソクラテース等) 東洋哲學 9-7 [27839
(參考：彙報「教員檢定試驗日時割--- 歷史：(西洋史)八月二十二日七時より八時三十分」東洋哲學 9-8) [27840
彙報「新文學士---哲學科：林一郎、深田康算、北澤定吉、中島萬次郎、煙山專太郎」東洋哲學 9-8 [27841
彙報「西村茂樹氏薨去」(履歷及著作) 東洋哲學 9-9 [27842
新刊紹介「津輕純夫譯「スマイルス・品性論譯解」」東洋哲學 9-9 [27843
(參考：同窓會報「第二回夏期講習會」東洋哲學 9-9 [27844
波多野精一「哲學原理」、中島德藏「倫理學」)
新刊紹介「リギョル「教育哲學講義」」東洋哲學 9-10 [27845
言論･河上淸「理想團員に寄せて我が新聖書を報ずる書(中)(下)」(アリストートル、プラトー、モムゼン、レキー、メーン、アルノルド、ラスキン、ミュラー等)
萬朝報 3135(6/11),3136(6/12) [27846
内村[鑑三]生「余の聖書((上)(中)(下) 」(在米の河上君に答ふ。マクス・ムラーの宗教學、ギボンの羅馬衰亡史、ローマ人等)
萬朝報 3138(6/14), 3139(6/15),3140(6/16) [27847
新書略評「哲學論叢」(故赤沼金三郎遺稿) 萬朝報 3333(12/26) [27848
C.②ウイリヤム・ジョージ・スミス『基督教と羅馬帝國』 [27849
ボーカス編『耶蘇一代記』(→明 41 再版) [27850
ウヰリアム・インブリー著『基督略傳』 [27851
竹内楠三『耶蘇人物養成譚』 [27852
シンプソン/千葉武雄譯『基督之事實』(日本學生及市基督教靑年會同盟叢書) [27853
アドルフ・ウェント著『復活の眞義』(普及福音教會叢書) [27854
宮川巳作『使徒保羅』 [27855
ホルブルック/堀江景宣譯『聖書名婦傳・評註』(2 版) [27856
エ・スミルノフ/松本高太郎譯『須氏教會史』 [27857
坪内雄藏(逍遙)著『文學叢書・英詩文解釋』(ドライデン「アレキサンドルの盛衰」) [27858
河原恒男閲『雄辯大家演說』 [27859
北村包直『新撰世界史綱』 [27860
松村介石『萬國興亡史』 [27861
歷史及地理講習會編『東京歷史及地理講義錄』(幸田成友「西洋史講義」) [27862
M.Clarke,ed.by H.Sakurai,Story of Caesar,Tokyo,Eigaku-Shimmpo-Sha,1903 [27863
③＊[訂正][佐藤]天風「ヴェスビアスの破裂」女鑑 264,265 [2696] [27864
小說・孟庵散士抄譯・桂亭逸人執筆「雲閒の月」(シェンキエウヰク氏の「クオヴァヂース」抄記) 聲 265,266,267,268,269,270,271,272,273,274,275,276,277,279,280,282,283 [27865
明覽小史「聖伯多祿[ペテロ](3)(4)」(羅馬史、ネロン、スエトニウス等)

聲 276,277 [27866
本田增次郎「歐洲女德衰退史」をんな 2-11,12 [27867
ダブリュー・ラム・ラムゼー「保羅論」(マルカス・アウレリアウス帝、プラトーン、マッシュウ・アーノルド等)
福音叢誌 78 [27868
(參考：彙報「第十六回教員檢定本試驗問題」、東洋哲學 9-12 [27869
西洋史：「三、左の人々の事績(甲)アゲシラオス」）
講釋史談・[緒方]流水「色卽是空、戀の斷末魔」(アントニーとクレオパトラ、シーザル)萬朝報 3000(1/27） [27870
④＊[訂正]「西洋新刊書目」史學雜誌 147 中 [20160] [27871
O.Seeck,Geschichte des Untergangs der antiken Welt 」
新刊紹介「萬國興亡史」(松村介石著）六合雜誌 263 [27872
芽海漁史「元氣を振起せよ」(羅馬、亞典等)聲 274 [27873
書評「史學科講義(第 1-7 號)」史學雜誌 147 [27874
書評「史學科講義(第 8-9 號)」史學雜誌 148 [27875
海外騷檀「メレジコフスキーの新作」(「基督及反基督」)帝國文學 8-1 [27876
海外騷檀・正宗白鳥「ドミトリ・メレジコフスキー」新聲 8-4 [27877
高楠順次郎「初期佛教の年代學とヴ井ンセント・スミス氏の史的攻究」(希臘羅馬の歷史家、歷山大帝等)東洋哲學 9-2,3 [27878
新書略評「萬國興亡史」(松村介石著) 萬朝報 3274(10/28) [27879
時文・後藤宙外「沙翁作中のアントニーを論ず、本能主義と諸名士」
新小說 7-4,5,6 [27880
D.①牧羊閑話「イソップ」幼児の教育 2-10 [27881
山田伊三郎「「ホメール」詩篇大觀」校友會雜誌(第一高等學校)121 [27882
景峨子「オヂソイス漂流譚----フォツイスのホメーア」
校友會雜誌(第一高等學校)121 [27883
坪内雄藏(逍遙)著『文學叢書・英詩文解釋』(「イソップ物語」) [27884
Charles Stickney(trans.), Aesop's Fables, Tokyo, Okazakiya, 1901(岡崎屋書店) [27885
Charles Stickney(trans.), Aesop's Fables, Tokyo, Okazakiya, 1901(コブンシャ刊?) [27886
Alfred J.Church,The Story of Illiad,Tokyo,Eigaku-Shimpo-Sha,1903 [27887
大日本聖書舘『新約全書』 [27888
②＊[訂正]木村鷹太郎『バイロン・文界之魔王』(「嗚呼ギリシアの諸島」等)
[2717] [27889
齋木仙醉(水野繁太郎序)『詩星文星』(ゲーテ「アナクレオンの墓」) [27890
バイロン/(土井晩翠譯?)『チャイルド、ハールト漂流記』(「Childe Harold」) [27891
勝俣銓吉郎『英和對譯・俚諺金言集』 [27892
保科孝一述『言語學』 [27893
保科孝一『言語學講話』 [27894
佐久間松之助『約翰［ヨハネ］默示錄第四章解釋』 [27895
聖金口約翰述/吉田卯太郎譯『哥林多[コリント]前書講話』(下巻) [27896
③雜錄「机上偶語」(Iamblichus)帝國文學 8-11 [27897

キーツ/上條青巒註「グレシヤ古瓶賦」山彦 1 [27898
伊太利博物館藏「希臘の彫塑」(寫眞、p.7)新聲 7-6 [27899
(參考：彙報「文部省教員檢定本試驗問題」、東洋哲學 9-2 [27900
-------- 西洋史：「三、左の人々の事績、(甲)アリスチファーネス」)
④書評・平田禿木「「詩聖ダンテ」を讀みて」第二明星 2 [27901
社說「觀劇(承前)」(希臘のテスピス、老ソロン、大テルトリアヌス、クレメンス・アレキサンドリヌス、オグスチヌス等)聲 265 [27902
時論「姉崎嘲風「再び[高山]樗牛に與ふる書」(太陽 8-10、ショーペンハウエル、ニーチェ等)聲 270 [27903
阿部秀助「文藝復興期と女性」帝國文學 8-2 [27904
批評「上田敏「詩聖ダンテ」」帝國文學 8-3 [27905
雜錄「傳記文學の推奬」帝國文學 8-4 [27906
批評「木村鷹太郎「バイロン・文界之大魔王」」帝國文學 8-9 [27907
雜錄「本邦の P、R、B、?」(バイロニズム)帝國文學 8-10 [27908
海外騷檀「希臘の愛國詩人」(ツアキントス)帝國文學 8-10 [27909
批評「森林太郎譯「卽興詩人」(上下)」帝國文學 8-11 [27910
瀧澤秋暁「「卽興詩人」に對する萬朝報の評言につきて」文庫?號 [27911
戸川秋骨「テニソンのアアサア物語」(トロイの事蹟、アレキサンダア大王)文藝 2 [27912
ゲーテ/野田まづま譯「文のゆきかひ」(ゲーテとカーライルと)文藝界 9 月號 [27913
河野紫雲「孤憤錄」(ニイチェ、バイロン、ホーマア、シェークスピア、ミルトン、ダンテ等)新聲 7-1,2 [27914
黑眼兒「(第 6 回)新刊短評---木村鷹太郎「アナクレオン」」新聲 7-2 [27915
正岡藝陽「天才---天才の讀解」(バイロン、シェレー、ゲーテ等)新聲 7-2 [27916
黑眼兒・崑崙山「新刊月旦---上田敏「詩聖ダンテ」」新聲 7-4 [27917
正岡藝陽「バイロニズム」新聲 7-4 [27918
中村さくら「兒童美觀」(ヴィンケルマン等)新聲 7-5 [27919
青鹿夢骨「二大詩人の對照---沙翁と巢林子」新聲 8-1 [27920
新刊紹介「白水郎譯「西詩餘韻」」(ハイ子、ゲーテ等)新聲 8-3 [27921
バイロン/馬場孤蝶譯「海音瀨音」(「Child Harold」)婦人界 7 月號 [27922
評論・門外漢「明治三十四年の韻文界」(バイロン等)東洋哲學 9-1 [27923
新刊紹介「新天地第 1 號」(木村鷹太郎「バイロンの快樂主義」)東洋哲學 9-2 [27924
新書略評「快樂詩人アナクレオン」(木村鷹太郎著)萬朝報 2999(1/26) [27925
懸賞募集讀者文藝「新体詩第百四十回當選----(信州)やよい子「バイロン」」萬朝報 3147(6/23) [27926
新書略評「古代の研究」(田口卯吉著。希臘語、拉丁語等)萬朝報 3295(11/18) [27927
言論・拝天「詩的思想」(ヘゲル、ゲーテ、シルレル等)萬朝報 3304(11/27) [27928
(?)「ゾラ氏の葬儀に於ける文士アナトール・フランス氏の演說」

讀賣新聞 12/4 [27929
E.④「新社會合評(1)」(ソロン、ライカルガス)萬年艸 3 [27930
蜷川新「歐洲公法學者の戰爭觀並びに平和觀」國際法外交雜誌 1-6,7 [27931
山脇貞三「家といふ觀念」(羅馬法等) 東洋哲學 9-4 [27932
山水「演說會の現狀に就いて」(デモスゼ子ス等) 東洋哲學 9-8 [27933
よろづ文字(北米)河上清「基督教と社會學」(ライマン・アポット著「人權論」。アリストートル・プラトーの民主主義、「ヘレニック・デモクラシー」等)
萬朝報 3228(9/12) [27934
言論「向上と社會主義」(ソクラテス、マルクス等) 萬朝報 3305(11/28) [27935
F.④三上義夫「中等學校ノ數學教授法」(ユークリッド等)東京物理學校雜誌 128[27936
學說・城北隱士「聖書と科學(7)」(アレキサンドリア派、聖オグスチヌス、聖トマス等) 聲 283 [27937
G. 田邊慶彌編『法律經濟辭典』 [27938
宮本淑・恩田重信編『新醫學大字典』 [27939
新刊紹介「育成會「教育辭彙」」東洋哲學 9-9 [27940
新書略評「法律辭典・第一卷」(上野眞正編纂) 萬朝報 3320(12/13) [27941
＊[訂正]平野一貫編『羅獨英和・藥學辭典』(→明 37 年、增補 2 版。→明 42 年、增補 3 版。) [2742] [27942

明３６(１９０３)
A. 竹内栖鳳作「羅馬之圖」 [27943
神田佐一郎「支那人と猶太人」(ローマ 大帝國等) 六合雜誌 273 [27944
新刊「建部遯吾「西遊漫筆」」(?)東洋哲學 10-6 [27945
(參考：同窓會報「哲學舘第三回夏期講習會」東洋哲學 10-8 [27946
小林一郎「倫理學」、松本文三郎「認識論」)
新書略評「歐洲學生の生活」(建部[遯吾]文學博士述。プラトーン、シセロ、モンテスキュ、ダンテ等) 萬朝報 3642(10/31) [27947
「小崎弘道氏の漢語」(希臘羅馬文明、希臘哲學、ストイック學派、マルコス・オレリオス等)東京朝日新聞 1/6 [27948
摘要「小崎弘道氏の「東西文明の長短」」(エピキュラス、ストイク學派、オーゴスチン等) 獨立評論 3 [27949
小崎弘道「我國文明の缺點」(ベンジャミン・キッド「社會進化論」、オーゴスチン、ストイック派、エピキュラス派等)
基督教新聞 1010(1/1) [27950
海外「名士消息」([ベンジャミン・]キッド氏の近狀[社會進化論、西洋文明の原理])
基督教新聞 1021(3/19) [27951
B.①文苑・埋草「シセロ」校友會雜誌(第一高等學校)127 [27952
抱膝生「聖アウグスチヌスの懺悔錄の言草」校友會雜誌(第一高等學校)130 [27953
②＊[訂正]津田元德『教育史要』 [2764] [27954

教育學術研究會編『教育史----英和對譯』(教育研究叢書) [27955
永廻藤一郎編『新撰・倫理教育問答』(小一册) [27956
桑木嚴翼・澁谷正太郎譯『論理學』(教育研究叢書) [27957
桂兼太郎述・横道復生記『論理學講義』 [27958
清野勉述『論理學』(哲學舘第 15 學年度高等科講義錄) [27959
高橋五郎『神秘哲學』 [27960
海老名彈正『基督教本義』 [27961
山室軍平『戰爭的基督教』 [27962
首藤新藏『福音の大意』(2 版) [27963
[昇曙夢等譯]山田藏太郎編『宗教と自然』(ウィクレスノエ・チテニエの抄譯) [27964
三宅溫岳(鎌吉)・市川溫海(億次郎)『宇宙大哲理』(?) [27965
エマソン/大谷正信(繞石)譯『標註・偉人論』(プラトー等) [27966
シェンキエヴィッチ/藤澤小雪譯『ささやき』(「ぜうすの判決」) [27967
『大西[祝]博士全集』(全 7 巻) [27968
Alfred J.Church, The Death of Heracules,Tokyo,Kinkodo,1903 [27969
③紫影譯「黄金王」(ミダス王)帝國文學 9-4 [27970
雜錄「吾人の生活」(ギリシア神話)帝國文學 9-5 [27971
雜錄「文界の惡魔」(Lucretius)帝國文學 9-6 [27972
雜錄「罪惡の福音」(ソクラテス)帝國文學 9-6 [27973
雜錄「懷疑と自殺」(エピクロス、レクレチウス)帝國文學 9-9 [27974
上田敏「牧笛」(希臘神話、パン神)萬年艸 7 [27975
燕處生「わが師その三つ---民衆哲學の發展」(Socrates,Platon,Aristoteles) 萬年艸 7 [27976
冬比古「友にミユーズの像を送りたる人にかはりてよめる」 校友會雜誌(第一高等學校)124 [27977
④角田柳作「風俗と道德的生活（承前）」(羅甸語 tructus、希臘語 ε ο δ 等) 六合雜誌 269 [27978
特別寄書・藤井健次郎「倫理宗教學新論」(アリストテレース、アレキサンダー大王、ヅエノーン、エピクロス、ストア、エピクテートス、新ピタゴロース學派等) 六合雜誌 268 [27979
(參考：「惟一舘記事」---廣井辰太郎「ツアラツーストラ」、六合雜誌 279) [27980
講演・黑岩周六「空理に馳する勿れ」(ソクラテス、プラト、アリストートル等) 六合雜誌 281 [27981
野上俊夫「ルーテルの傳を讀む」校友會雜誌(第一高等學校)127 [27982
梅澤和軒譯「ラスキンが美論の一節・大空」文藝界 11 月號 [27983
高木敏雄「日本神話學の建設」帝國文學 9-2 [27984
深田康算「人生の興味」(ニイチェ)帝國文學 9-3 [27985
海外騷壇「デカダン論」帝國文學 9-5 [27986
批評「阿部莊二「教育史綱要」」帝國文學 9-6 [27987

雜錄「狂者の教へ」(ニイチェ)帝國文學 9-7 [27988
批評「坪内逍遙「通俗倫理談」」帝國文學 9-8 [27989
石倉小三郎「歌劇オルフォイス」帝國文學 9-8 [27990
雜錄「歌劇オルフォイスを觀る」帝國文學 9-9 [27991
批評「前田越嶺「西歐文學・哲人と文章美」」帝國文學 9-11 [27992
批評「大谷正信譯「標註・偉人論」(プラトー、モンテイヌ)帝國文學 9-11[27993
雜錄「飜譯」(木村鷹太郎・松本亦太郎譯プラトン全集)帝國文學 9-12 [27994
ニイチェ/(登張)竹風譯「をんな」新聲 10-6 [27995
守屋元々「ニーツエの婦人觀」女鑑 13-21 [27996
新刊「故赤沼金三郎遺著「哲學論叢」」(天心遺稿) 東洋哲學 10-1 [27997
新刊「朝永三十郎「哲學綱要」」東洋哲學 10-1 [27998
深田康算「外界の實在」(パルメニデス、プラトオン、プロタゴラス、ゴルギアス、オリムポス等) 東洋哲學 10-2,3 [27999
市村與一「道家に於ける莊子の位地」(ソクラテイース等) 東洋哲學 10-2 [28000
松本文三郎「印度研究小史」(アレキサンダー大王、ピタゴラス、モラッキス、メガステネース、マクス・ミュラー等)
東洋哲學 10-4,5 [28001
新刊「坪内雄藏「通俗倫理談」」東洋哲學 10-4 [28002
田中治六「動機說」(希臘三哲の說、ソクラテス、プラトー、アリストートル等)
東洋哲學 10-4 [28003
元良勇次郎「所謂コントの人類教の立場より見たる釋迦牟尼」(ソクラテース等)
東洋哲學 10-5 [28004
西脇秋水「哲學眞觀を讀む」(新プラトン派のプロチナス等)東洋哲學 10-5[28005
高楠順次郎「數論哲學」(アリストートル、ピタゴラス等)東洋哲學 10-7 [28006
内田周平「遠湖漫筆」(ソクラテス等)東洋哲學 10-8 [28007
新刊「法貴慶次郎「中世哲學史綱」」東洋哲學 10-8 [28008
千里生「益軒晩年の學說」(アリストテレース等)東洋哲學 10-11 [28009
廣井辰太郎「哲學系統における認識論の位置」(アリストテレース、ターレス、プロタゴラス等)東洋哲學 10-12 [28010
詞林・思無邪「俳毅」(「プラトンの全集を保つ冬籠」)東洋哲學 10-12 [28011
新刊「前田越嶺著「哲人と文章美」」東洋哲學 10-12 [28012
新書略評「聖人ソクラテス」(松村介石著) 萬朝報 3409(3/12) [28013
新書略評「西洋哲學史・上巻」(文學博士・大西祝遺著) 萬朝報 3619(10/8)[28014
脉庵主譯「新譯・破天荒(75)」(希臘の神話等) 萬朝報 3621(10/10) [28015
新書略評「東西比較宗教史」(加藤玄智著) 萬朝報 3663(11/21) [28016
拝天生「大哲學者逝く」(スペンサー。アリストートル等)
萬朝報 3683(12/11) [28017
「發刊の趣意」(希臘のソフィスト等)獨立評論 1 [28018
宮崎八百吉「思惟の基礎としたる常識」(ソクラテス、ヘラクリタス等)
獨立評論 1 [28019
伊達源一郎「ニーチェの思想」獨立評論 1,2 [28020
摘要・櫻井錠二氏「元素に關する思想の發達」(アリストートル等)

獨立評論 2　[28021
社說「釋迦講を讀む」(エメルソン、デモクリタス、印度の「エピキュリアン」派順世論等)獨立評論 4　[286022
摘要「鎌田榮吉氏の「破偏狹思想論」」(慶應義塾學報 3/15 號。羅馬のパテリヤ、ポステスタス、プラトー、アリストテレス等)
獨立評論 4　[28023
論說・伊達源一郎「メーテルリンク(下)」（マルカス・オーレリアス、ニーチェ等）
獨立評論 6　[28024
摘要「元良勇次郎氏の釋迦論」（ソクラテス等）獨立評論 6　[28025
論說・高木壬太郎「人生問題の研窮に就て」（オウガスチン、ゲーテ、バイロン等）
獨立評論 9　[28026
雜記・讀書生「漫讀漫評」(ニーチェ、大西[祝]博士全集第三巻「西洋哲學史・上巻」、プラトーン、松本亦太郎・木村鷹太郎共譯「プラトーン全集」等) 獨立評論 9,10,11,12　[28027
井上哲次郎「青年と宗教を論じ併せて高木氏に答ふ」(ストア學派、プラトン、アリストテレス等) 獨立評論 11　[28028
近著一斑「前田越嶺「西歐文學・哲人と文章美」」獨立評論 12　[28029
「(明治)三五年の教育界概觀---教育界の暗流」(ニーチェ、バイロン等)
基督教新聞 1010(1/1)　[28030
宮川(經輝)師說教/山田都一郎速記「基督降誕の大目的」（アレキサンドリア、フ井ロー等）基督教新聞 1011(1/8)　[28031
蘆田慶治「基督の宗教と其の教理」(アリストテル等) 基督教新聞 1012(1/15)
[28032
海老名彈正「人の偉大なる所以」(アレキサンダー、ダイヲゼニス、オーゴスチン等) 基督教新聞 1014(1/29)　[28033
教界「松村介石「ソクラチス傳」(人物叢書第一巻) 基督教新聞 1018(2/26)[28034
雜纂「青年の世に處する法」(マックス・オーレリ曰く、等)
基督教新聞 1020(3/12)　[28035
講壇・原田助「死に對する思想」(モンテーン等) 基督教新聞 1035(6/25)　[28036
雛合鳥生「綠陰漫錄---傳教と眞我」（プラトン等）基督教新聞 1037(7/9)　[28037
海外通信(在獨逸)一信徒「ルーテル以前獨逸思想界の潮流」(エラスムス等)
基督教新聞 1044(8/27)　[28038
講壇・原田助「基督の視たる罪人」(アウガステン等) 基督教新聞 1046(9/10)
[28039
米澤尚三「パン幾個あるや」(ソクラテス、プラトー等)
基督教新聞 1047(9/17)　[28040
「基督教界の思想」(オーゴスチン等) 基督教新聞 1048(9/24)　[28041
AB 生「東京通信---故高山樗牛」(ヘブライズム、ヘレニズム等)
基督教新聞 1050(10/8)　[28042
「當代の福音」(ニーチェ等) 基督教新聞 1056(11/19)　[28043
植村正久「研究の精神---清き心をもつて研究すべし」(ラスキン、ニーチェ、エマスン等)福音新報 412　[28044

C.②坂本健一『伊太利亞史』(早稻田大學出版部、歷史叢書) [28045
藤澤直枝編『地史參考：西洋地名歷史』 [28046
高桑駒吉『西洋史參考書略解題』(早稻田大學 36 年政治經濟科 2 學年講義錄) [28047
歷史研究會編『世界大年表』 [28048
海老名彈正『基督之大訓註釋』 [28049
海老名彈正『耶蘇基督傳』 [28050
宮川經輝述・山田都一郎記『活基督』 [28051
ウィリアム・ジョージ・スミス著『基督教乃由來』 [28052
柏井園『基督傳之轉機』(日本學生及市基督教青年會同盟叢書) [28053
皆田篤實(董花)『聖書之婦人』(→明 38・2 版) [28054
斯定筌(M.Steichen)著『聖人傳』(2 版) [28055
磯邊彌一郎譯註『改版增補・英文學講義錄』(「ジュリアス・シーザーの弔葬」) [28056
マーク・トウエイン/原抱一庵譯『該撒[シーザー]慘殺事件、紳士、助言』[28057
Epochs in the History of Ancient Rome,by S.G.Goodrich,Tokyo,Kokumin Eigakukuwai, 1903 [28058
③本田增次郎「歐洲女德衰退史」をんな 3-1,2,3,4,5,6,7,9,10,11 [28059
社說「古英雄を憶ふ」(シーザル等) 獨立評論 5 [28060
家庭美談・美軒小史「(二)コル子リヤ秘蔵の家寶」(グラッカス兄弟、ハンニバル、スシピオ、シセロ等) 基督教新聞 1012(1/15) [28061
マーク・トウエイン/原抱一庵譯「該撒[シーザー]慘殺事件」 東京朝日新聞 4/6 [28062
史傳・米溪「サーモピレーの戰」幼児の教育 3-10 [28063
大題小題「サーモピレーの戰」幼児の教育 3-11 [28064
石原謙「ナザレの聖者を論ず」校友會雜誌(第一高等學校)123 [28065
④＊[訂正]紹介「山縣五十雄譯註「該撒殺害」」中央公論 6 月號 [2855] [28066
＊[訂正]新著精鑑「クレオパトラ」(佐藤天風著)二六新報 1794 [2860] [28067
＊[訂正・削除]「西洋新刊書目」史學雜誌 158 中 [20297] [28068
Azan,Annibal dans les Alpus
Ferrero,Grandezza e dacaden di Rome, vol.II
Seecke,Kaiser Augustus(Monographie zur Weltgeschichte XVII)
新刊紹介「プリュターク英雄傳」(森晉太郎譯)六合雜誌 282 [28069
書評「箕作元八・峰岸米造「西洋略史」、「同附圖」史學雜誌 160 [28070
書評「坪井九馬三「中學西洋歷史教科書」」史學雜誌 165 [28071
書評「藤澤直枝「史地參考・西洋地名」」史學雜誌 166 [28072
＊[訂正・削除]「西洋新刊書目」史學雜誌 166 中 [20313] [28073
A.Zimmern,Greek History ~~of~~ for Readers 」
＊[訂正・削除]海外史壇「萬國地理學會議に就て」(第 8「地理學學史」) 史學雜誌 168 [20315] [28074
書評「坪井九馬三「史學研究法」」史學雜誌 169 [28075
批評「坪井博士「史學研究法」」歷史地理 5-12 [28076
批評「山縣五十雄譯「婿選び(ヂッケンズ)・該撒[シーザー]殺害(マーク・トウエン)」

帝國文學 9-6 [28077
批評「坪井九馬三「史學研究法」」帝國文學 9-12 [28078
[高須]梅溪生「文豪の成功觀察」(カーライル「アレキサンドル大王傳」)
新聲 9-4 [28079
新刊紹介「佐藤天風「クレオパトラ」」新聲 10-5 [28080
[28081
新刊紹介「佐藤天風「クレオパトラ」」新聲 10-5 [28082
(於大阪)天龍生「花時の博覧會」(ヘルキュラニアム及びスダビニ、伊太利の古都等) 萬朝報 3456(4/28) [28083
新書略評「該撒[シーザー]殺害」(英文學研究第 6 號、マーク・トウェーン著)
萬朝報 3479(5/21) [28084
言論「モンムゼンと[尾崎]紅葉」萬朝報 3649(11/7) [28085
摘要「海老名彈正氏の「耶蘇基督論」を讀む」(アレキサンドリア學派の大哲ファイロー、スエトニウス、クロウヂウス傳)獨立評論 3 [28086
「京都基督教青年大親睦會」(シーザー劇) 基督教新聞 1017(2/19) [28087
「横井時雄氏通信」(印度巡遊中、アレキサンドル大王等)
基督教新聞 1017(2/19) [28088
D.①江村譯「寓意譚・エソオプ」(「鳥と狐」「鹿」「老人と熊と」「孔雀の眞似」「商人と船頭と」「木の苗」「驢馬」「二つの鍵」)
萬年艸 4,5 [28089
百島冷泉譯「群鳩(一)」(イソップ物語「北風と太陽」「冷たい水」「春の朝」「松と無果實」「獅子と野鼠」)福音新報 4/2 [28090
子ども・牧羊譯「伊蘇普物語」幼児の教育 3-2,3,4,5,6,7 [28091
雜錄・東擊水「讀書餘錄」(フロレンツの獅子) 幼児の教育 3-10 [28092
子ども「いそっぷ物語」幼児の教育 3-10,11,12 [28093
景峨子「オヂソイス漂流譚----フォツイスのホメーア」
校友會雜誌(第一高等學校)123 [28094
Mako den Fukuin-sho,大日本聖書舘 [28095
大日本聖書舘『新約全書』 [28096
大日本聖書舘『標附・馬太[マタイ]傳-----新約聖書』 [28097
大日本聖書舘『ぞくごマコ傳----新約聖書』 [28098
大日本聖書舘『馬可[マコ]傳』 [28099
大日本聖書舘『使徒行傳----新約聖書』 [28100
加島斌『新約聖書引證』 [28101
(參考：光緒 29 年、『伊娑菩[イソップ]喩言』、香港文裕堂版) [28111
②＊[訂正]繁野政璃[天來]譯『ダンテ神曲物語』(通俗世界文學第十編)
[2880] [28112
＊[訂正]湯原元一『畫趣及び詩味』(ラオコーン等。金港堂書籍) (←E.②)
[20366] [28113
木村鷹太郎譯『パリシナ・艶美の悲劇詩』(バイロン「Parisina」) [28114
ミルトン/繁野天來譯・坪内逍遙閲『失樂園物語』(通俗世界文學第 1 編)[28115
W.Imbrie,adapted by Rev.G.Fukuda,The History of the Bible,with introduction ,Tokyo,

Keiseisha,1903 [28116
Lord Macauley,Milton,Tokyo,Kokumin Eigakkai,1903 [28117
John Milton,Paradise Lost,with notes and paragraphs,Tokyo,Rising Generation Office, 1903 [28118
磯邊彌一郎譯註『改版增補・英文學講義錄』(「シェークスピーヤの小傳」「ジョンソン氏の沙翁論」「ミルトン氏の沙翁を頌する詩」) [28119
金澤庄三郎『言語學』(國學院雜誌 9-1,3,8,9,10,11,12/10-1,2,4,5,9 所載論文合綴書) [28120
③雜錄「團十郎の一瞥---(四)トルストイとアリストートル」帝國文學 9-10 [28121
雜錄「何故に牧歌は出でざるか」(テオクリトス、ウェルギリウス) 帝國文學 9-12 [28122
江村學人「言語の起原」(希臘、羅馬)萬年艸 9 [28123
④＊[訂正]「西洋新刊書目---- R.Ackermann,Lord Byron」史學雜誌 166 [20355] [28124
滿井信太郎「アリストファネスの喜劇を讀みて」 校友會雜誌(第一高等學校)128 [28125
詩人・蘆風生「ゲエテ/シェレイ/キイツ」校友會雜誌(第一高等學校)130 [28126
雜錄「島村抱月君に與ふ」(ニイチェ)帝國文學 9-3 [28127
雜錄「吾人の藝術」(ダンテ)帝國文學 9-5 [28128
雜錄「人生の詩」(ニイチェ)帝國文學 9-6 [28129
雜錄「何の痴言ぞ」(ゲーテ)帝國文學 9-6 [28130
雜錄「豈得べけむや」(ゲーテ)帝國文學 9-7 [28131
雜錄「おお我が友よ」(オレステス)帝國文學 9-7 [28132
雜錄「高山の曙光」(ゲーテ)帝國文學 9-8 [28133
雜錄「尚古癖を破す」(美術史)帝國文學 9-8 [28134
批評「正宗白鳥「イリアッド物語」」帝國文學 9-9 [28135
水上夕波譯「西風賦」(シェリー「Ode to the West Wind」) 帝國文學 9-9 [28136
雜錄「小說の戲曲化を難ず」(ダンテ)帝國文學 9-11 [28137
批評「長谷川福平「古代小說史」」帝國文學 9-12 [28138
バイロン/眞析譯「まぜつぱ」(Mazeppa) 帝國文學 9-12(→明 37 年 2 月號まで) [28139
上田敏「ダンテの番附」歌舞伎 38 [28140
高須芳次郎[梅溪]「高山樗牛氏を悼む」新聲 9-1 [28141
「甘言苦言」・牛骨「第二」(天來氏「ダンテ」神曲物語、白鳥氏「イリヤッド物語」、杉谷代水「沙翁物語」、)新聲 9-6 [28142
新刊評語「正宗白鳥「イリヤッド物語」、杉谷代水「沙翁物語」)新聲 9-6[28143
高須梅溪「阿雷兒の成功(2)(3)(4)」(ラスキン、ギッボン、バイロン、シェレー、シルレル等)新聲 10-1,2,3 [28144
奥村梅皐「水の雜感」(セキスピアー、ゲーテ、アナクレオン等)新聲 10-2[28145
新刊紹介「「ハーキュリースの最後」、「アルキスチスの操」」(希臘戲曲物語を英譯せるものに注解。金港堂刊)新聲 10-2 [28146
正岡藝陽「ジョンソンとゲーテの半面」新聲 10-4 [28147

桑木嚴翼「反道德主義の文學」(カロカガティア、希臘主義の文學、シルレル、アリストテレース等) 東洋哲學 10-1 [28148
新刊「保科孝一「言語學講話」」東洋哲學 10-1 [28149
(參考：報道「教員檢定豫備試驗問題」、東洋哲學 10-9 [28150
教育科：「文藝復興の由來及其教育上に及ぼしたる影響を畧述せよ」)
新書略評「英文イリアッド物語」(ハーツホーン著) 萬朝報 3482(5/24) [28151
藾語陽秋「正宗白鳥「イリアッド物語」」萬朝報 3509(6/20) [28152
雨のや生「若葉評論-----樗牛歿後の文壇/ゲーテ泣かせ」(ニイチェ、バイロン、高楠[順次郎]博士) 萬朝報 3699(12/17) [28153
ボッカッチョ/片上天絃譯「隻脚の鶴」(「デカメロン」一節)讀賣新聞 6/21 [28154
海外文壇・中島孤島「アーヴィングの「ダンテ」」新小說 8-7 [28155
平瀨龍吉「友情と文學」(ゲーテ、トマス・アーノールド、シルレル、エマルソン等) 基督敎新聞 1058(12/3) [28156
新刊「松村介石「欧洲近世史」(文藝復興學、文明史等)
基督敎新聞 1060(12/17) [28157
E.②＊[訂正・削除]~~湯原元一『畫趣及び詩味』(ラオコーン等)~~ (→D.②)
[20366] [28158
カーライル/西川光太郎譯『社會觀』(「過去と現在」。英米文學研究叢書)[28159
矢野文雄[龍溪]著『社會主義全集』(補講、古來理想の幸福說の概觀) [28160
片山潛『我社會主義』(プレトー「共和國」、モアー等) [28161
ルイ・ブリデル述/野澤武之助譯『法律原論』(明治法律學校 36 年度第 2 學年講義錄) [28162
③中村進午「外國の古代と本邦維新後に於ける外人の權利制限」
國際法外交雜誌 2-3 [28163
④社論「言論の自由」(グリシヤ、ソクラテス等) 六合雜誌 280 [28164
批評「高橋五郎「社會主義活辨」」(第一篇中「プラトーのレパブリック」)
帝國文學 9-5 [28165
雜錄「愚人の會話」(モンテスキュー)帝國文學 9-11 [28166
「新社會合評(2)」(Solon,Lykurgos,Platon 作 Kritias,Politeia)萬年艸 4 [28167
高橋作衛「國際法と自然法との關係」(羅馬法、ストイック、メーン、グローチアス等) 東洋哲學 10-4 [28168
山路彌吉[愛山]「余が所謂帝國主義(上)」(希臘羅馬の英雄等)獨立評論 2 [28169
近著一斑「博士戸水寬人氏の「法政管見」」(「ストイック哲學と羅馬法」)
獨立評論 7 [28170
荒木貞雄「吾人の理想」(シーザー、ブルータス等) 基督敎新聞 1032(6/4) [28171
蘆田慶治「耶蘇の私有財産觀(8)」(ストイック的自制主義等)
基督敎新聞 1044(8/27) [28172
F.③歸山信順「インドノ原子假說ニツキテ」(ロイキッポス、デモクリトス等)
東京物理學校雜誌 138 [28173
藤巻卯三郎「幾何學小言ニ就テ(2)」(ユークリッド等)東京物理學校雜誌 140 [28174

G. 坂本健一編『社會文學辭典』 [28175
書評「坂本健一「社會文學辭典」」史學雜誌 161 [28176
田中眞弓編『外國地名人名辭書』(帝國出版協會。→1906 年,再版) [28177
新書略評「增訂・外國地名人名辭書」(坂本健一等) 萬朝報 3681(12/9) [28178

明３７(１９０４)

A. 土井晩翠(詩)「南歐銷魂吟」帝國文學 10-1 [28179
雜錄「希臘を呼ぶの聲」帝國文學 10-2 [28180
(參考：評論及彙報「文科大學史學科講座」、歷史地理 6-10 [28181
坪井「西洋史概說」、中島「倫理學史」、大塚「美術史、文藝復興期」)
(參考：大學院入學者、歷史地理 6-10 [28182
山下寬次「西域史、特に東西兩洋の交通及文明の接觸に就きて」)
山下寬次「支那西域の交通路に就きて」歷史地理 6-11 [28183
新刊批評「登張竹風「讀書と修養」」新聲 11-2 [28184
(參考：「文科大學科目及授業規定改正」東洋哲學 11-4 [28185
---- 哲學概論、倫理學及認識論、純正哲學、西洋哲學史、心理學、倫理學、宗教學、美學、教育學、宗教史、美術史、教育史、西洋史概說、西洋史、史學研究法、年代學、言語學、文學概論、獨逸文學、佛蘭西文學、古代語學(希臘語學、羅甸語學)
(參考：「同窓會報」東洋哲學 11-5 [28186
---- 宗教學(近角)、心理學(田中)、倫理學・西洋哲學史(中島)、教育學・教育史(八木)、純正哲學(松本)、西洋哲學史・論理學(北澤)、地理學(志賀))
居易生「東西文明の眞相(3)」(アウグストス、チベリウス、羅馬市政等)
東洋哲學 11-9 [28187
新刊「齋木仙醉「文明主義」」基督教新聞 1066(2/4) [28188
石野逸羊「露國文明の性質」(羅馬帝國、カルセージ、コンスタンチン帝、ビザンチン等) 基督教新聞 1075(4/7) [28189
B.②加藤咄堂(熊一郎)『死生觀』(→明 39 增補 15 版。附「死生觀補遺」「死生講話」)
[28190
高橋五郎『宇宙觀』 [28191
服部宇之吉『論理學講』 [28192
菊池武信『福音の福音』 [28193
ウルホン/佐々木梅治譯『基督教と異教との衝突』 [28194
③「日の下に新き物なし」(デモクリート、エピキュール、リュークレース、ストイク學派ゼノン、ソクラト、プラトン、アリストトート、プロタゴラス、パルメニード、ヘラクリート等)聲 302,303 [28195
溫故叢譚・知新生「先哲の遺訓」(聖トマス・アクイナス)「大聖の誤解」(大聖人オグスチヌス)聲 320 [28196
それ雅史「古聖の逸話」(「二、缺點矯正の良法」[プリュタルク])聲 324 [28197
雜錄「東西思潮の接觸」帝國文學 10-1 [28198
雜錄「おお我友よ」(アトラス)帝國文學 10-4 [28199

まさき[皆川眞禧]「蠱歌女嶋」(マルゴー舟、キングスレイ「グリーク・ヒローズ」)
帝國文學 10-7 [28200
虎石惠實「諺に就て」(イソップ)帝國文學 10-8 [28201
齋木仙醉「獨身と結婚」(大哲プラトー等)新聲 11-4 [28202
大屋天藾「戰神」(アポロン、ヘファストス、ヘーラ、ポサイドン、アルテミス等)
新聲 11-5 [28203
桑木嚴翼「哲學の概念」(ソクラテス、ピタゴラス、プラトーン、アリストテレース等)東洋哲學 11-2 [28204
(參考：「教界・大阪教會---宮川經輝講演「希臘哲學と神觀」」
基督教新聞 1072(3/17) [28205
(參考：「各地通信---京都」(同志社講演會[12/10])、基督教新聞 1111(12/15)[28206
----- 新渡戸稻造「ソクラチース」)
④＊[訂正]綱島榮一郎「忠恕の意義及び根據を論ず」(ソークラテース以前の希臘人、ホメーロス等)六合雜誌 284 [2970] [28207
内報「神話の研究」(高木敏雄著)六合雜誌 288 [28208
孟庵「基督教道德の難者に答ふ」(聖オグスチヌス等)聲 304 [28209
講話・楳嶺「嫉妬」(聖アウグスチノ、聖トマス、ラフォンテイヌ等)
聲 314 [28210
講話・楳嶺「饕食(續)」(羅馬の大將リュクレアス等)聲 317 [28211
批評「齋木仙醉譯「譽の毒杯」」(エルカット「ソクラテエスとプラトオン」譯)
帝國文學 10-2 [28212
批評「稻葉昌丸譯「賢哲エピクテタスの教訓」」帝國文學 10-7 [28213
＊[訂正]批評「皆川正禧譯「英和對譯・希臘勇士譚、卷一」」
帝國文學 10-12 [2998] [28214
のぞきめがね「スマイル氏逝く」歷史地理 6-6 [28215
新刊紹介「羽化仙史「世界英雄物語」」新聲 11-1 [28216
中島德藏「個人性の愛護(上)」(プラトー「シンポジュム」等)
修身教會雜誌 1-2 [28217
建部遯吾「修身教會の設立を慶ぶ」(ソクラテス基督等)修身教會雜誌 1-2 [28218
井上圓了「獨尊說」([5]「西洋古代・天狗」)修身教會雜誌 1-4 [28219
有馬祐教「仁義の解」（希臘のプラトーン等)修身教會雜誌 1-5 [28220
詞林・春山作衛「選外」(「アリストテレス氏の宇宙論のこころを」)
東洋哲學 11-1 [28221
新刊「友枝高彦譯「倫理學概論」」(チルリー著)東洋哲學 11-1 [28222
應問・さち「倫理哲學の部」(三「快樂と幸福の異同」、ソクラチース、キレーネ學派、キニック派、プラトー、アリストートル、ヘーゲル、グリーン等)東洋哲學 11-2 [28223
思潮・谷本梨庵「スペンサーと日本」(著作飜譯、讀賣新聞?/?)
東洋哲學 11-2 [28224
思潮・桑木嚴翼「懷疑主義の價値」(早稻田學報?號、ソフィスト、ピュロン、プロタゴラス、ソクラテース、ニーチェ等)
東洋哲學 11-3 [28225

思潮・藤井健次郎「厭世主義の哲學的根據」(丁酉倫理會講演集?號、プラトーン、プロチーノス、ストア學派等)東洋哲學 11-3 [28226
新刊「吉田靜致著「倫理學講義」」東洋哲學 11-3 [28227
應問・さち「七「哲學と倫理學との關係」」(アリストートル、プラトー、ヘーゲル等)東洋哲學 11-4 [28228
思潮「丁酉倫理會講演集 18 號「戰爭に關する道德」(レッキー「人生の地圖」抄譯、グリース、ローマ等)東洋哲學 11-4 [28229
「人格の感化」(ヲーガスチン等) 基督教新聞 106(1/7) [28230
宮川經輝「國民の覺悟」(オーゴスチン等)基督教新聞 1062(1/7) [28231
新刊「海老名彈正「基督教本義」」(オーグスチン等) 基督教新聞 1062(1/7) [28232
村田勤「牢外の羊」(聖アウガスチン等) 基督教新聞 1065(1/28) [28233
古木虎三郎「改悔と生命」(セント・オーガスチン、シーザル等) 基督教新聞 1066(2/4) [28234
宮川經輝「宗教の研究(上)(中)」(プルターク、ルシアン、ヘルデル、マクス・ムーレル等) 基督教新聞 1067(2/11),1068(2/18) [28235
靜思「基督教徒の大願」(オーガスチン等) 基督教新聞 1069(2/25) [28236
蘆田慶治「斯ペンサー氏と日本國民」基督教新聞 1072(3/17) [28237
小說・滄浪堂主人「當世基督信徒氣質」(スマイルス「西國立志篇」等) 基督教新聞 1074(3/31) [28238
小崎弘道「新生命の源泉」(アウガスチン等) 基督教新聞 1075(4/7) [28239
(在紐育)油谷生「北米通信」(日曜日のカー子ギーホール、ヘンリー・フランク氏「合理的科學的宗教」[ソクラチス等]) 基督教新聞 1075(4/7) [28240
「新生」(オーゴスチン等) 基督教新聞 1076(4/14) [28241
新渡戸稻造「士道と民道」(プラトン、ニーチェ等) 基督教新聞 1077(4/21) [28242
高橋卯三郎「美と宗教(下)」(ソクラテス等) 基督教新聞 1078(4/28) [28243
「大西[祝]博士の宗教論」基督教新聞 1081(5/14) [28244
「朝鮮傳道」(ギリシヤ人等) 基督教新聞 1083(6/2) [28245
宮川經輝「理想の教會」(プラトー、オーグスチン等) 基督教新聞 1083(6/2) [28246
海老名彈正「讚神」(ケーベル博士等) 基督教新聞 1085(6/16) [28247
書齋漫錄「西國立志篇の著者」(サムエル・スマイルス) 基督教新聞 1086(6/23) [28248
滄浪堂主人「當世基督信徒氣質(5)」(ギリシヤ人等) 基督教新聞 1086(6/23) [28249
「キリスト教と自殺」(ストイク、エピクリアン、セ子カ、ケトー等) 基督教新聞 1087(6/30) [28250
青眼道人「近き道」(希臘の大聖人ソクラテス等) 基督教新聞 1087(6/30) [28251
「神秘論」(プレトー、アリストートル、新プラトー派、トマス・アクイナス、ゲーテ等) 基督教新聞 1088(7/7) [28252
宮川經輝「聖書の眞味」(ギリシヤのライコルゴス律、ジスチニヤン・コード等)

基督教新聞 1092(7/21) [28253
「現代の二大人物」(プラトー等) 基督教新聞 1095(8/25) [28254
「哲學と宗教」(プラトウ、ケーベル博士等) 基督教新聞 1095(8/25) [28255
(參考:「海外通信---[ハーバードにて]油谷生「北米通信」」、基督教新聞 1095(8/25)
ハーバード大學夏期講演:
エマトン博士「宗教改革の前代より改革時代」
トーイ教授「一神教の發達」(グリーキ・ローマ等)
モーア教授「キリスト教初代に於けるユダヤ教とキリスト教」(ネオ・プラトーの哲學等)) [28256
「聖書の一半」(「ソクラテースは人の如く死し、キリストは神の如く死せり」)
基督教新聞 1101(10/6) [28257
雜錄・綱島佳吉「東北巡回雜感」(高野長英の出生地等)
基督教新聞 1101(10/6) [28258
安部清藏「自然に映したる我」(オーゴスチン、ペトラーカ等)
基督教新聞 1103(10/20) [28259
宮川經輝「新約聖書に現れたる基督觀に就て」(アレオ山上、アゼンス等)
基督教新聞 1104(10/27) [28260
(參考:教界「組合教會教役社會」、基督教新聞 1104(10/27) [28261
----- (10/21) 宮川經輝「新約聖書に現れたる基督觀に就て」)
宮川經輝「基督教徒の修養」(ソクラチスの問答修練法等)
基督教新聞 1105(11/3) [28262
安部清藏氏講演「時代の精神と基督教」(歷山大王、ジュリアス・シーザー、オーガスチス、コンスタンチン大帝等)
基督教新聞 1106(11/10) [28263
松井文彌「人格の發展」(アレキサンダー等) 基督教新聞 1108(11/24) [28264
宮川經輝「基督に對する二大贊嘆」(アレキサンデル、フィロー等)
基督教新聞 1108(11/24) [28265
教界「宣言書運動」(青年會舘に於ける大講演會)、基督教新聞 1109(12/1) [28266
-----(11/22)宮川經輝「時代の要求」(オーガスチン等)
「音樂と宗教」(プラトン等) 基督教新聞 1110(12/8) [28267
TS 生「宏雅なる襟懷」(グリースの學術、羅馬の法律等)
基督教新聞 1111(12/15) [28268
教界「宣言書運動續報」(求道者大會)、基督教新聞 1111(12/15) [28269
---- (12/11) 宮川[經輝]牧師「基督教の眞髓」(オーガスチン等)
岡村愛藏「スマイルス氏品性論講義」中外英字新聞 11-11,12 [28270
新刊各種「北川博愛・若山操編「教員受驗提要」」東京朝日新聞 7/9 [28271
新刊各種「曉烏敏「死の問題」」東京朝日新聞 7/23 [28272
新刊各種「藤井健治郎「教育的倫理的學」」東京朝日新聞 10/25 [28273
新刊各種「北澤定吉譯「(ソーンダイク著)人性研究」」東京朝日新聞 12/30[28274
C.①櫻鄉學人「和英對譯・格言集(1)」(プルターク、タシタス)修身教會雜誌 1-5[28275
櫻鄉學人「和英對譯・格言集(2)」(シセロ、セネカ)修身教會雜誌 1-8 [28276
②ハルナック/和田琳熊譯『基督教の眞髓』 [28277

茫々學人『戰爭と婦人美』 [28278
本田增次郎譯『カーライル英雄論詳解』 [28279
井口正之『西洋歷史人名問答』 [28280
井口正之『西洋歷史地名問答』 [28281
坪井九馬三編『西洋歷史地圖』 [28282
阿部秀助『近世獨逸史學史』(早稻田大學 37 年度史學科第二學年講義錄) [28283
③＊[訂正] 雜錄 Samuel Lating /中村士德・保志嘉十郎抄譯「Eygpt の遺蹟」(アレキサンドリア、アレキサンダー大王、クレオパトラ、プトレミース等)考古界 4-7,8 [20440] [28284
柳茂安「公教信條史(2)(9)」(羅馬史、聖オグスチノ等)聲 303,310 [28285
明覽小史「聖保羅[パウロ](缺)(23)(24)(25)(26)(27)(28)(29)(30)(31)(32)(33)(34)(35)(36)」(アテネに於ける布教等)聲 305,306,307,308,309,310,312,313,315,316,317,318,319,323 [28286
講話・古博士「空前絶後の大奇怪」(羅馬皇帝クラウジウス)聲 307 [28287
講話・楳嶺「邪婬」(古羅馬の英雄マルク・アントニオ等)聲 312 [28288
雜錄「偉大なる豫言」(歷山大王)帝國文學 10-3 [28289
子安善之助「小亞細亞に於ける歷史及宗教を決定する地理的事情」歷史地理 6-7,8 [28290
質疑應答「問・研史生、答・Y・I・生「ローマ七丘の名稱及び其位置」」歷史地理 6-9 [28291
(參考：評論及彙報「第 18 回文部省教員檢定試驗問題中」、歷史地理 6-10[28292
------ 西洋史「一、ユリウス・ケーザル(Julius Caesar)征討時代のガリヤ(Gallia)の狀態」
「左の地名に關する顯著なる事蹟(甲)シラクサ」)
ケッロツジー作/松下岱川譯「角鬪士スパルタカス」新聲 11-5 [28293
(參考：報道「教員檢定豫備試驗問題」、東洋哲學 11-9 [28294
歷史科(西洋史)：「一、ユリウス・ケーザル(Julius Caesar)征討時代のガリア(Gallia)の狀態」
「三、左の地名に關する顯著なる事績、(甲)シラクサ」)
宮川經輝「傳道者としてのパウロ」(オーガスチン、ギリシヤ人等)基督教新聞 1073(3/24) [28295
數野虎次「イスラヘル史歷史年表」基督教新聞 1088(7/7) [28296
(參考：「別府修養會通信」[8/2]、基督教新聞 1094(8/18) [28297
講演・中村牧師「古代教會に就て」)
浮田和民「歷史上の基督教」(希臘羅馬の民愛獨立主義、ソクラテス、アウガスタス帝、コンスタンチン大帝等) 基督教新聞 1112(12/22) [28298
「ポムペイの廢市」中外英字新聞 11-12 [28299
④＊[訂正]「西洋新刊書目」史學雜誌 173 中 [20445] [28300
Schreiber,Studien über Bildnis Alexanders des Grossen 」
屠龍「教外者の基督教評」(羅馬史研究等)聲 302 [28301
福井利吉郎「エバンゼリン[福音書]を讀む」校友會雜誌(第一高等學校)140 [28302
紹介「森嵓峰譯「プリュターク英雄傳」」白百合 1-9 [28303

書評「森晉太郎譯「プリュターク英雄傳」」史學雜誌 176 [28304
書評「瀨川秀雄「西洋通史」」史學雜誌 179 [28305
斯界片影(書評)「ランケの學修時代と史論」(Leopold von Ranke's Bildungsjahre und Geschichtauffassung., Leiptizger Studien aus der Gebild der Geschichte, 8Bd. 2 Heft)歷史地理 6-1 [28306
彙報及評論「ランケ祭」歷史地理 6-1 [28307
斯界片影(書評)「史學界(六)の一、(論文)高桑駒吉「古代西洋諸國と印度との交通概略」歷史地理 6-2 [28308
斯界片影「東洋學藝雜誌中---坪井九馬三「西ローマ滅亡の情勢」」歷史地理 6-4 [28309
斯界片影「Rolinson Souttar, Short History of Ancient Peoples」歷史地理 6-5 [28310
質疑應答「問・碧山、答・青楓「史學研究法の書籍」」歷史地理 6-8 [28311
質疑應答「問・狂史生、答・みどり「西洋歷史の參考書の宜しきもの二、三種」」歷史地理 6-10 [28312
批評「瀨川秀雄「西洋通史」」歷史地理 6-11 [28313
海外騷檀「故モムゼンの逸話」帝國文學 10-3 [28314
犛牛「モムゼン博士を論じて我が國現代の歷史家に警告す」時代思潮 1-1[28315
輯同人「寸人尺山」(姉崎嘲風、高橋五郎、矢野龍溪、坪内逍遙、植村正久、井上哲次郎)新聲 11-2 [28316
(參考：報道「教員檢定本試驗日時割」、東洋哲學 11-1 [28317
歷史(西洋史)：二月十五日、午前九時から十一時まで)
高橋鷹藏「新年の希望」(ニーロ帝等) 基督教新聞 1062(1/7) [28318
ウエンライト「基督教と英雄」(ソクラチス、アリストートル、アレクサンドル、プラトン、シーザー等)
基督教新聞 1076(4/14) [28319
「歷史的研究」(ソクラテース、スコラ神學等) 基督教新聞 1078(4/28) [28320
西村卯「日露戰爭に對する基督信徒の覺悟」(グリーク、ローマ古代史等)
基督教新聞 1082(5/26) [28321
教界「福井に於ける宮川[經輝]牧師」(講演「戰後の注意」、希臘羅馬等)
基督教新聞 1085(6/16) [28322
宮川經輝「戰爭後の戰爭」(羅馬等) 基督教新聞 1086(6/23) [28323
高橋鷹藏「決死隊の精神を憶ふ」(セープスの名士イパミノンダス等)
基督教新聞 1088(7/7) [28324
安部淸藏「日露戰爭の倫理問題」(ギリシア・ロマ文明、ソクラテス等)
基督教新聞 1092(8/4) [28325
新刊紹介「植村正久「基督教と軍人」」(羅馬の軍人等)
基督教新聞 1095(8/25) [28326
小崎弘道「新時代の徵候」(コンスタンチノープル陷落等)
基督教新聞 1104(10/27) [28327
新書略評「リカーガスとニューマ」(プルターク。森晉太郎譯)
萬朝報 3877(6/22) [28328
D.①＊[訂正]ホメロス/赤司嚼花(繁太郎)・石田春風(元季)譯『オヂッセ梗概・さすらひ』

[3089] [28329
＊[訂正] ホメロス/赤司嚼花(繁太郎)・石田春風(元季)譯『イリアッド梗概・楯の響』 [3090] [28330
櫻郷學人「和英對譯・格言集(1)」(ホーマー)修身教會雜誌 1-5 [28331
櫻郷學人「和英對譯・格言集(2)」(羅甸、Latin)修身教會雜誌 1-8 [28332
子ども「イソップ物語」幼児の教育 4-1,2,4,5,6,7,8,10,11 [28333
高階柳蔭譯「家鷄」(イソップ物語)をんな 1 月號 [28334
上田萬年譯「御伽噺三則」(イソップ物語「兎のはなし」「駱駝のはなし」「人の口」)帝國文學 10-1 [28335
エフ・パロット譯『舊新約全書』(大英國北英国聖書會社) [28336
ヘンリー・ルーミス譯『引照・舊新約全書』 [28337
ヘンリー・ルーミス譯『引照・新約全書』 [28338
ヘンリー・ルーミス譯『新約全書』 [28339
三浦徹編『新約全書----略註』 [28340
エフ・パロット譯(大英國北英国聖書會社)『新約全書』 [28341
エフ・パロット譯(大英國北英国聖書會社)『引照・新約全書』 [28342
大英國北英国聖書會社『Shin-yaku zensho 』(ヘボン式ローマ字) [28343
Arthur Lloyd,The Gospel of the Four,Tokyo ,Kinkodo,1904 [28344
②小松武治(月陵)譯『沙翁物語集』(「冬物語」) [28345
上田敏譯『海潮音』(シェイクスピア「冬物語」。本郷書院) [28346
東京文科大學英文學會編『英文學叢誌』(バイロン「コリンスの園」) [28347
Lord Byron,ed.with notes by William Rolfe,Childe Harold’s Pilgrimage,a romaut,Tokyo, Shobido,1904 [28348
W.モリス/堺枯川(利彦)譯『理想郷』(平民文庫五錢本) [28349
ジエッセー・エル・ハールバアート/稻澤謙一・平塚勇之助譯『四福音書研究』 [28350
③＊[訂正]アンデルセン/相馬御風譯「ホーマーの墓より」白百合 1-7 [3095] [28351
雜錄「所謂「淋しみ」に就て」(アリストテレス)帝國文學 10-4 [28352
④犛牛「文明の趨勢を論じて新時代の藝術に及ぶ」時代思潮 1-1,2,3,4 [28353
ミルトン/松浦一譯「「エデン」の夕」(ミルトンの「失樂園」の一節」)婦人界 1 月號 [28354
上田敏「ダンテ塑像」明星 4 [28355
バイロン/旅びと譯「祖國の岸を離れて」(Childe Harold) 明星 12 [28356
上田敏「パオロ・フランチェスカの戀物語」文藝倶樂部 10-13 [28357
野口米二[次」郎「千九百０三年英米文學界概觀」(A.E.ハウスマン)帝國文學 10-2 [28358
批評「湯原元一撰「畫趣及び詩味」」(ラオコーン像)帝國文學 10-2 [28359
雜錄「嗚呼フランチェスカ」帝國文學 10-10 [28360
雜錄「戰後の文學如何」(ゲーテ、シラー)帝國文學 10-12 [28361
登張竹風「反科學主義」(希臘彫刻家プラキシテレス、古物學者シュリイマン)新聲 11-1 [28362
小川煙村「レオパムディ」(ホーマー、アナクレオン、プロチヌス等)

新聲 11-2,3,4 [28363
小島洒風「佛國文豪シャトウブリヤンの性格」(ホメロス、ミルトン、ダンテ、バイロン等)新聲 11-6 [28364
ニーチェ/登張竹風譯「操觚者」新聲 11-12 [28365
覆面論士「キーツと薄田泣菫」讀賣新聞 7/17 [28366
新書略評「西洋美術史要・第一編」(岩村透編) 萬朝報 3861(6/6) [28367
雑記・撲堂「文學時評」(テオドール・モムゼン、ニーブル、レッキー、ニーチェ等)獨立評論 2-1 [28368
滯歐文壇・島村抱月「アーヴィング劇「ダンテ」」新小說 9-3,4 [28369
田敏談話「文學者と讀者」(希臘羅馬文學等) 新小說 9-3 [28370
山岸荷華「劇界旦關錄」(ダンテ「フランチェスカの悲哀」) 新小說 9-11 [28371
西内藤男「藝術主義に就いて」(ストイク等) 基督教新聞 1070(3/3) [28372
行友都音子「芥子種(下)」(ギリシヤ・ロマの文學等) 基督教新聞 1070(3/3)[28373
油谷生「新英洲觀光錄の數節」(ボストン美術舘−−−グリーキ室・ロマ室)基督教新聞 1072(3/17) [28374
教界・(大阪島の内教會)大賀壽吉講演「ダンテの悔改」基督教新聞 1083(6/2) [28375
教界・(大阪浪花教會)大賀壽吉講演「ダンテ」基督教新聞 1090(7/21) [28376
(參考：「教界・鳥居直光「箱根夏期學校通信(1)」[9/2]、基督教新聞 1097(9/8)
内ヶ崎作三郎「ダンテ神曲物語」) [28377
(參考：「教界・鳥居直光「箱根夏期學校通信(2)」[9/4]、基督教新聞 1098(9/15)
内ヶ崎作三郎「ダンテ神曲の研究」) [28378
新刊紹介「内村達三郎「トロイの歌」」基督教新聞 1112(12/22) [28379
新刊各種「内村達三郎譯「トロイの歌」(第一册)」東京朝日新聞 12/9 [28380
E.④須藤和四郎「基督教と社會主義」(プラトーの共和政治等)基督教新聞 1086(6/23) [28381
F.②高島平三郎『體育原理』(第 3 章「體育史」) [28382
③寺尾壽「九々ノ聲ヲ論ス」(ピタゴラス等)東京物理學校雜誌 148 [28383
④評論「本年間の科學界」(希臘のソフィスト時代等) 獨立評論 2-1 [28384
G. 批評「郁文舍編輯所編「世界歷史辭典」」歷史地理 6-2 [28385

明３８(１９０５)
A. 久米桂一郎「伊太利三人旅」光風? 號 [28386
ゲーテ/櫻井天壇譯「羅馬悲歌」白百合 2-3 [28387
山川智應「日本は世界の中心なり」時代思潮 2-13,14 [28388
雑報「國民性と個人性」(レッシング) 帝國文學 11-6 [28389
井上哲次郎君演說/速記競技會員速記「日本民族の統一的精神」校友會雜誌(第一高等學校)148 [28391
＊[訂正](參考：惟一舘記事、六合雜誌 294 [28392
茅原華山「歐羅巴の衰運(5/4)」(伊太利、希臘、ペリクリスの治世等) [3239,3240]

(參考：評論及彙報「文科大學史學科講座」、歷史地理 7-9 [28393
史學研究法(坪井、箕作)、年代學(坪井)、西洋史概說(箕作)、美術史(大塚)、發見時代史・殖民史(村上))
(參考：報道「哲學舘大學の眞學則」、東洋哲學 12-3 [28394
・大學部第一科學科課程
第一年：倫理(西洋哲學史)、教育(心理學)、西洋哲學(哲學概論、論理學、西洋哲學史)
第二年：倫理(西洋倫理史)、教育(教育學)、西洋哲學(西洋哲學史)
第三年：倫理(倫理學)、西洋哲學(西洋哲學史)
第四年：倫理(倫理學)、西洋哲學(哲學概論、論理學、西洋哲學史)
・大學部第二科
第一年：教育(心理學)、哲學(哲學概論、論理學、西洋哲學史)
第二年：教育(教育學)、哲學(西洋哲學史)
第三年：哲學(西洋哲學史)
・専門部第一科
第一年：倫理(西洋倫理史)、教育(教育史、心理學)、哲學(哲學概論、論理學、西洋哲學史)
第二年：倫理(西洋倫理史)、教育(教育史、教育學)、哲學(西洋哲學史)
第三年：倫理(倫理學)、教育(教育學)、哲學(西洋哲學史)
・専門部第二科
第一年：倫理(西洋倫理史)、教育(教育學)、哲學(哲學概論、論理學)
第二年：倫理(西洋倫理史)、教育(教育學)
第三年：倫理(倫理學))
「讀書」(ギボン等) 基督教新聞 1136(6/8) [28395
(參考：教界「京都」(第三高等學校青年會)、基督教新聞 1162(12/7) [28396
----新渡戸稻造「予が愛讀の書物」(プルターク「英雄傳」、シルレル文集、スマイルス・キャラクター等))
B.①「シセロの言葉」(p.123)六合雜誌 291 [28397
②シルレル/齋木仙醉(延次郎)譯『接神術----一名、美神』 [28398
トルストイ/橋本青雨譯『男女觀』(「女神ヂアナ」) [28399
佐藤藏太郎『悲世觀』 [28400
加藤咄堂(熊一郎)『冥想論』 [28401
加藤咄堂(熊一郎)『宇宙論』(希臘哲學の宇宙論等) [28402
ウィリアム・エルダー/星野德治譯『自然主觀』 [28403
綱島梁川『梁川文集』(「國家主義に關して木村鷹太郎氏に質す」、「木村鷹太郎君の「東西倫理學史」を讀ム」、「古代希臘に於ける知力的倫理思想の傾向を論ず---ソークラテース、プラトーン、アリストテレース三家の倫理思想の比較」) [28404
ジョリ著『宗教階梯』(第 1,2 編、通俗宗教階梯) [28405
グリンム/三並良、清水戴四郎譯『耶蘇ノ倫理』 [28406
フェラン著『教理綱要』 [28407
モール著/ハインド譯・木庭孫彦訂『基督教々理要論』 [28408

ゼー・ジー・ベレット/首藤新藏譯『主耶蘇基督の德行の榮光』 [28409
トーマス・アリン著/アイ・ダブリュー・ケート譯『萬民救濟之福音』 [28410
加藤直士編『宗教界の三偉人』(「傑儈サボナローラの傳」) [28411
W.G.Smith ,Introduction to the New Testament,Tokyo,Japan Book & Treat Society,1905 [28412
③(?)「ソクラテス氏傳」東西 3 月號(?) [28413
兩衣生(藤井?)「喰嵎錄」(ソクラテス、アリストートルの平凡なる中庸說) 聲 331 [28414
兩衣生(藤井?)「一家言」(プラトン、古代希臘懷疑派アエスデーモス)聲 334 [28415
鶴翩(大城?)「聖書と聖傳(10)」(聖アウグスチヌス等)聲 335 [28416
(參考：教會彙報「公教靑年會例會」(講演・藤井則民「ソクラテスの死」) 聲 337) [28417
リットン/萍雨譯「花束」(「ヴィナスの降誕」)文庫 4 月號 [28418
ロングフェロー/(?)譯「ヘスペラスの難破」The Student(英文新誌)3 月號 [28419
緖方流水「悲みの極」(希臘神話イフィゼニア、ソフォークレス等)新聲 12-1 [28420
尾上柴舟選「歌」(琴聲「見そなはせミューズの神のみ手により永久にはえある我此姿」)東洋哲學 12-1 [28421
(參考：彙報「文部省敎員檢定本試驗問題」、東洋哲學 12-3 [28422
---- 修身科：「四、日本の武士道とストア主義を比較せよ」)
神學・日野眞澄「宗敎起源論(3)---物活的說明(ミレタス派)」 基督敎新聞 1121(2/23),1123(3/9) [28423
アンデルセン/野尻抱影譯「花の舞」(「小さなイーダの花」) 讀賣新聞 4/23,4/30 [28424
④＊[訂正]加藤玄智「誤解せられたる哲學と現時の信仰問題」(ソークラテース、プラトーン、アリストテレース、プロタゴラス、ゴルギアス等)六合雜誌 289 [3250] [29090
＊[訂正]中島德藏「多恨多情主義」(プラトー、アリストートル、ニーチェ、ゲーテ等) 六合雜誌 293 [3253] [28425
田中治六「敎權主義を排す」(プラトー、アリストートル等) 六合雜誌 295[28426
(參考：惟一舘記事、六合雜誌 296 [28427
尺秀三郎「勇德十種(7/9)」(スパルタ、アデン等))
「エマーソンの言葉」(p.643)六合雜誌 299 [28428
(參考：惟一舘記事、六合雜誌 300 [28429
廣井辰太郎「悲觀的樂觀(10/22)」(プラトー等)
神田佐一郎「女子ならば(11/5)」(セミラミス、クレオペトラ等))
雜報「現代の飜譯界に警告す」(木村鷹太郎・松本亦太郎譯プラトン全集) 帝國文學 11-9 [28430
時評「イーストレーキ氏逝去」新聲 12-2 [28431
正谷亮三郎「人生の目的を論ず(接前)」(暴君ネロ、カリグラ、チベル帝等) 聲 330 [28432
蠹魚「讀史餘錄」(聖アウグスチヌス、母モニカ)聲 334 [28433

亭「聖博士」(多然[トマス]アクイナス)聲 335 [28434
春野和「吾人の心眼に神を遮る三種の暗雲」(聖オグスチヌス、アレキサンドル、ハンニバル、セザル、アリストテレス、プラトン等)聲 337 [28435
兩衣(生)(藤井?)「古反古」(4 月 21 日、プラトンの「ファイドン」を讀む)聲 337 [28436
眞ふぢの舍主人「さみだれ日記」(6 月 22 日「聖オグスチヌス、7 月 3 日「アリストテレスの哲學」等」聲 337 [298437
兩衣生(藤井?)「潺々錄」(オーガスチン等)聲 337 [28438
柳茂安「天主公教會、英國低教會、兩者信條の相違(5)」(聖ヲグスチノ博士、聖オグスチノ等)聲 342 [28439
菅井猗竹「教育管見」(プラトー、アナクレオン等)聲 343 [28440
櫻井正隆「山嶽に關する文學」(エピクロス)帝國文學 11-11 [28441
月旦・黑風白兩樓主人「大學派の文章家」(登張竹風、ニーチェ、井上巽軒、上田萬年、戸澤姑射、淺野馮虛等)新聲 12-6 [28442
卒讀卒評「ストア主義と武士道」(中央公論 8 號)天鼓 11 [28443
深田康算「シルレルが美學上の効績」哲學雜誌 6,10 月號 [28444
紀平正美「莊子論(續)」(ソークラテース、ヘーゲル等)東洋哲學 12-2 [28445
鹽崎玄仁「中世哲學要論」(ソヒィスト、ソクラテス、プラトーン、アリストテレース、オーガスチン等)東洋哲學 12-3,5 [28446
北澤定吉「良心」(ストア派のクリシッポス、シセロ等)東洋哲學 12-4 [28447
西山鬼治「ささやき哲學」(ブルータス、シーザー等)東洋哲學 12-4 [28448
彙報「三宅雄次郎氏「哲學と哲學者との區別」」(「日本人」?號)東洋哲學 12-4 [28449
新刊「融道玄譯「宗教進化論」」」(エドワード・ケヤード抄譯)東洋哲學 12-8 [28450
綱島梁川「一家言「新人」」(羅馬ストアの賢者等) 東洋哲學 12-9 [28451
(參考：彙報「教員檢定豫備試驗問題中」、東洋哲學 12-9 [28452
教育科：「五、古來教育史上に現はれたる左の諸主義の意義を明にせよ。
國家主義、世界主義、個人主義、共同主義（社會主義ともいふ）」)
新刊「育成會「增補改定・倫理學書解說」」(アリストートル氏、ニーチェ等)東洋哲學 12-11 [28453
新書批評「宗教進化論」(ケヤード/融道玄譯)萬朝報 4249(6/29) [28454
新書批評「勤儉論」(スマイルス/若月保治譯)萬朝報 4363(10/24) [28455
新書批評「倫理學書解說」(育成會版)萬朝報 4417(12/17) [28456
岡村愛藏「スマイルス氏品性論講義」中外英字新聞 12-2,3,4,8,10,12 [28457
(山路)愛山生「現代思想史に於ける基督教の位置(1)(5)」(スパルタ勇士、老カトー、モンテスキュー、パーレ萬國史等)獨立評論 3-1,5 [28458
評論「基督教の運命如何」(ニーチェ等) 獨立評論 3-2 [28459
宮本[和吉]生抄譯「世の子と光の子----ヒルティ氏の幸福論より」校友會雜誌(第一高等學校)151 [28460

埋草「エマルソン」(3 篇、2 篇)校友會雜誌(第一高等學校)152,153 [28461
講壇・アール・エフ・ホルトン「將來の無宗教(上)」(ニーチェ、ギヨー 等)
基督教新聞 1118(2/2) [28462
「將來の精神教育」(ストイケ哲學等) 基督教新聞 1122(3/2) [28463
平田義道「希望」(ブルタース、歷山大王等) 基督教新聞 1125(3/23) [28464
松本益吉「靈的異象」(ギリシヤ人等) 基督教新聞 1126(3/30)
内田芳夢「母の感化」(モニカ、オーゴスチン等) 基督教新聞 1126(3/30) [28465
思潮「親鸞上人の妻帶に就て」(近刊「求道」誌：「親鸞上人の家庭」、プラトンの理想學、ダンテの學との比較)
基督教新聞 1128(4/13) [28466
論說・柏木義圓「基督は誰ぞ(上)」(ソクラテース、アウガスチン等)
基督教新聞 1129(4/20) [28467
「基督教徒の意氣」(ギリシヤ人の哲學思想、ラテン人の政治思想、エラスモス等)
基督教新聞 1130(4/27) [28468
平田義道「基督信徒の德」(サクラテス、プレトー等)
基督教新聞 1132(5/11) [28469
論說・日野眞澄「平民道德」(ソークラテース、プラトーン、ストーア學派等)
基督教新聞 1134(5/25) [28470
西内天行「靈界の戰士」(プラトーン、アリストテレス、エピキュリアン、ストア學派等) 基督教新聞 1135(6/1) [28471
高橋鷹藏「斯教徒の大心願」(アウグスチンの神學等) 基督教新聞 1135(6/1)
[28472
荒川生「古大寺の籠城」(聖オーガスチン等) 基督教新聞 1137(6/15) [28473
高橋卯三郎「人の如くなれり」(セントウガスチン等) 基督教新聞 1139(6/29)
[28474
論說・日野眞澄「意志の道德(上)」(大哲アリストトル等)
基督教新聞 1144(8/3) [28475
村上博輔「老子の學(上)」(希臘の θεος、羅馬の Deos 等)
基督教新聞 1146(8/17) [28476
藤井寅一「自覺論」(ソクラテス等) 基督教新聞 1147(8/24) [28477
講壇・野口米彦「深刻なる宗教生活」(オーゴスチン等)
基督教新聞 1148(8/31) [28478
宮川[經輝]牧師「耳對天、口對人」(ソクラテス、プラトー等)
基督教新聞 1152(9/28) [28479
「詩的宗教」(プラトーン、ダンテ等) 基督教新聞 1155(10/12) [28480
新刊「スマイルス/若月保治譯「勤儉論」」基督教新聞 1156(10/19) [28481
匿名隱士「我衷情の基督(10)(11)」(プラトー、オーゴスチン、ソクラテス等)
基督教新聞 1158(11/9),1159(11/16) [28482
論說・内田正雄「宗教と教育」(拉丁語等) 基督教新聞 1161(11/30) [28483
「自然なる道德」(ニーチェ等) 基督教新聞 1162(12/7) [28484
講壇・安部清藏「人の子の系圖」(ソクラテス等) 基督教新聞 1164(12/21)
雜錄・岡田紫櫻「曙の明星」(皇帝オーガスタス、ジュリアス・シーザー、ピサゴ

ラス、ソクラテス、セ子カ、シセロ、ルークレシャス、ヴァージル、ホーレース、オービッド、ケトー、ゼウス等）基督教新聞 1164(12/21) [28485
新刊各種「本田增次郎編「泰西女訓」」東京朝日新聞 5/12 [28486
新刊各種「吉田靜致「西洋倫理學史講義」」東京朝日新聞 8/14 [28487
C.②六盟舘編『世界史表解(前後)』(普通學表解叢書) [28488
山縣五十男譯註『英文學研究』(マーク・トウエイン「該撒[シーザー]殺害」) [28489
帝國軍人教育會『軍人教育講義錄』(西洋歷史) [28490
教育資料研究會編『袖珍萬國歷史年表』 [28491
普通教育研究會編『對照・世界讀史年表』 [28492
河村貞山『新撰・和洋漢史契』 [28493
ヂョン・デ・ブロウダス/篠島勇吉譯『ナザレの耶蘇』 [28494
ルマルシャル/村上春一譯『聖母崇敬の道』 [28495
菅寅吉『教會歷史問答』(上中下 2 册。→明 39) [28496
ゼー・エル・ハールバット著/ミス・カメラー編/宮本冬次譯『聖書地理』[28497
③塵外譯「哀歌リシダス」曙光 9 月號? [28498
明覽小史「聖保羅」(アグリッパ王等)聲 328,330,331 [28499
明覽小史「羅馬に於ける聖保羅」聲 334,335 [28500
明覽小史「聖保羅の末の巡教」聲 336,337 [28501
明覽小史「獄中の聖保羅」聲 338,339 [28502
明覽小史「保羅の凱旋」聲 340 [28503
湟東「續・聖人もの語」(「聖ジェネジチ」「ヂオクレチアン皇帝時代」) 聲 341 [28504
論說「謹祝・聖主之降誕」(聖オグスチノ等)聲 349 [28505
(參考：評論及彙報「第 18 回文部省中等教員本試驗問題中」、歷史地理 7-3 [28506
------- 西洋史：「一、ローマ教會と東ローマと關係を斷つに至りし理由」「三、左の地名に關する顯著なる事蹟(甲)アレオパゴス」)
(參考：史學會例會に於ける箕作[元八]博士の講演---「西洋拷問の話」」、歷史地理 7-7 [28507
(參考：評論及彙報「第 19 回文部省中等教員豫備試驗問題中」、歷史地理 7-9
西洋史：「四、左の人々の事蹟(甲)クリステ子ス」) [28508
(參考：評論及彙報「明治 38 年 11 月海軍兵學校入學試驗問題中」、歷史地理 7-12
------ 「四、左の事件は何世紀(西曆)に起りしか(ホ)トルコ人コンスタンチノープル占領」) [28509
樋口龍峽「戰爭と文學と」(ホメーロス、トロヤ戰爭)新聲 12-4 [28510
自潮子「花ぐもり---罔象」(牧神パーン等)新聲 13-7 [28511
シェーンキーツ/大嶋秀蘭譯「焰の都」(Quo Vadis の一節)天鼓 3 [28512
シェーンキーツ抄譯/大嶋秀蘭「Quo Vadis」天鼓 4 [28513
「西洋武勇傳(外國のお伽話)」(オフェラス)ときのこゑ 12/15 [28514
(參考：報道「教員檢定本試驗日時割表」、東洋哲學 12-1 [28515

歷史(西洋史)：二月十五日、午前九時から十一時まで)
(參考：彙報「中等教員檢定試驗の成績」、東洋哲學 12-3 [28516
歷史(西洋史)：受驗者 35 名、合格者 13 名)
(參考：彙報「文部省教員檢定本試驗問題」、東洋哲學 12-4 [28517
歷史(西洋史)：「一、ローマ教會と東ローマと關係を絶つに到りし理由」
「三、左の語の說明(甲)アレオパゴス」)
(參考：彙報「教員檢定豫備試驗問題中」、東洋哲學 12-9 [28518
西洋史：「四、左の人々の事蹟(甲)クリステネス」)
リットン/(櫻井)鷗村譯「ポンペイの末日」The Student(英文新誌)
3-17,18,19,20,21 [28519
リットン/ (櫻井)鷗村譯「盲少年の最期」(「ポンペイ最後の日々」)
The Student(英文新誌)3-18 [28520
「耶蘇傳管見」(アレキサンドリアの希臘化、プラトー、デモクリタス、アリストートル、アレキサンダー大王、ピタゴラス等)獨立評論 3-8[28521
(參考：教界「東京」(本郷教會講演)、基督教新聞 1126(3/30) [28522
------(3/26)今岡信一「アレオ山頭の偉人を想ふ」[パウロ])
(參考：教界「東京」(横濱短信、横濱組合教會勵精會)、基督教新聞 1156(10/19)
-----南原福次郎・宮田忠男兩氏「シーザーの弔ひ演說」) [28523
(參考：門内漢「赤門だより」(ケーベル博士の基督教發達史講義)
基督教新聞 1159(11/16)) [28524
④「ギッボンの言葉」(p.672)六合雜誌 299 [28525
魚住影雄「ガラテヤ書を讀む----拙き一篇を小山、山口、江本、福見の四君に獻ず」
校友會雜誌(第一高等學校)146 [28526
埋草「カーライル」校友會雜誌(第一高等學校)151,153 [28527
文界の人物・片山綠兒「山水十家(上)」(山路愛山、茅原華山)新聲 13-1 [28528
「學海餘瀝」(「コンゴー森林中の侏儒」ヘロドタス等)聲 346 [28529
任天生「御降誕當日の異蹟」(皇帝アウグスト等)聲 326(附錄) [28530
教界思潮「「新公論」社說「所謂武士道論」[2 月號]」（希臘羅馬の古英雄等）
聲 329 [28531
志乃武「戰爭の繼續と理想の勝利」(ペルシア戰爭等)時代思潮 2-16 [28532
田岡嶺雲「憤世史眼」(ヘルデル、ダンテ、ゲーテ、シルレル、バイロン等)
天鼓 13 [28533
田岡嶺雲「靜雲動雲」(羅馬ケーザー等)天鼓 14 [28534
松井文彌「人格と事業」(シーザル等) 基督教新聞 1132(5/11)
思潮「新聞紙の價値」(浮田和民氏講演「新聞紙第三面論」[ホーマー、プレトー、ソクラテス、アリストートル、ダンテ等]
基督教新聞 1160(11/23) [28535
新書批評「プリュターク英雄傳」(森晉太郎譯)萬朝報 4188(4/29) [28536
新刊紹介「和田萬吉編「西洋笑話」」東京朝日新聞 3/27 [28537
新刊各種「森晉太郎譯「プリュターク英雄傳・第四巻」」
東京朝日新聞 5/18 [28538
D.①「イソップ物語」幼児の教育 5-5,11 [28539

「ホーマーの言葉」(p.586)六合雜誌 298 [28540
「ホーマーの言葉」(p.643)六合雜誌 299 [28541
「プロータスの言葉」(p.643)六合雜誌 299 [28542
「オヴ井ッドの言葉」(p.643)六合雜誌 299 [28543
ラルネデ述/大宮季貞記『共觀福音書講解----新約聖書』(2 册。上巻・馬太傳講解、下巻・馬可傳講解、路加傳講解) [28544
ラルネデ述/大宮季貞記『約翰[ヨハネ]傳講解』 [28545
エフ・ミュラー著『馬可[マコ]傳略解----新約聖書』 [28546
②歐文學院編『歐米書體集』 [28547
バイロン/木村鷹太郎譯『海賊』 [28548
ジョンソン博士/芝野六助譯・上田敏校閲『王子羅世剌斯傳』(「アビシニア王子ラセラス」) [28549
ミルトン/内村達三郎譯『譯註・失樂園 第一編』(有樂社) [28550
田山花袋譯『キイツの詩』(キーツ「希臘古甕賦」「アポロ大神」「アポロの歌」) [28551
片上天絃譯『テニソンの詩』(「ユリシス王」) [28552
E.C.クライスト/橋本青雨譯『「ゲルマニア」の兒等に與ふる歌』(?) [28553
ユーリウス・ベネディクス/登張竹風・橋本青雨譯『當世ハイカラ競』(?) [28554
秋元蘆風(喜久雄)譯『獨詩・野葡萄』(シラー「ヘクトールのわかれ」) [28555
上田敏譯『海潮音』(ダンテ「心も空に[新生第 3 章]」。本郷書院) [28556
安部清藏『馬太[マタイ]傳講義』 [28557
③「ペトラークの言葉」(p.643)六合雜誌 299 [28558
藤田白村「文學者に對する余が希望」(パーセノンの建築彫刻、エスカイラスの戯曲、ホーマーの詩歌、ソクラテスの哲學、デモゼニースの雄辯等) 新聲 12-6 [28559
笹川種郎「文藝復興と古典攻究」時代思潮 13,16 [28560
彙報「混世「傑作と作家の年齢」」(ブラウニング「アリストファネスの教訓詩」、ホーマー「イリヤッド」「オデッセー」等) 東洋哲學 12-7 [28561
雜錄・如牛生「聖書の量」基督教新聞 1155(10/12),1156(1/19),1157(10/26) [28562
④＊[訂正]木村鷹太郎「書きすて---ヒュームの哲學とバイロンの詩」天鼓 5 [20614] [28563
論說「與論の奴隸と其の被害者」(希臘の古聖伊蘇普[イソップ]等)聲 336 [28564
木村鷹太郎譯「バイロンの「海賊」第三齣」明星 1 月號 [28565
シラー/川下江村譯「イピュクスの鶴」(?)明星 10 月號 [28566
上田敏譯「花くらべ」(シェイクスピア「冬物語」)白百合 2 月號 [28567
櫻井天壇譯「雲の歌」(ゲーテ「ファウスト」) 白百合 8 月號 [28568
木山熊次郎「ファウストに表はれたるゲーテの哲學的思想」帝國文學 11-1,3,5,6 [28569
雜報「坪内博士の藝術觀を論じて「新浦島」に及ぶ」(ゲエテ、サッポー、シルレル等)帝國文學 11-2,3,4 [28570
深田康算「思想家としてのシルラー」帝國文學 11-5 [28571

山岸光宣「詩人ノワーリスを論ず」(ホメール、ギョーテ等)帝國文學 11-5,7[28572
「第二、シルレル紀年號」、帝國文學 11-臨時增刊號 [28573
-----「詩人シルレル年表」
登張信一郎・片山正雄「シルレルの少年及青年時代」
石倉小三郎「シルレルのイエナ時代」
葉山萬次郎「シルレルのワイマール時代」
三浦吉兵衛「終焉のシルレル」
藤代禎輔「戯曲家としてのシルレル」
片山正雄「ゲーテとシルレルの交誼」
深田康算「思想家としてのシルレル」
櫻井正隆「詩人としてのシルレル」
芳賀矢一「太陽神話としてのウィルヘルム・テル」
「シルレル著述要目」
「シルレルに關する著書」(歐文獻のみ)
雜報「シルレルと藝術家(解題)」
ドクトル・カルル・フローレンツ/片山正雄譯「シルレル百年祭紀年講演」
帝國文學 11-7 [28574
海外騷檀「日本に於けるシルレル」帝國文學 11-10 [28575
時報「シルレル百年祭」新小說 10-6 [28576
上田敏「ダンテの肖像」時代思潮 2-14 [28577
(姉崎)嘲風譯「ワグネルの書簡二三」(ゲーテ内述)時代思潮 2-15 [28578
志乃武「シルレルを憶ふ」時代思潮 2-16 [28579
藪紫影譯「西風に與ふ/雲」(シェリー「Ode to the West Wind/The Cloud」) [28580
衣が浦人譯「紫髻綠鬣」(バイロン「大洋/故郷を去る曲」[Childe Harold])
文庫 12 月號 [28581
埋草「ミルトン「コオマス」の末節」校友會雜誌(第一高等學校)146 [28582
埋草「シラー」校友會雜誌(第一高等學校)147 [28583
山崎良平「御伽話に就て」校友會雜誌(第一高等學校)148 [28584
埋草「Schiller」校友會雜誌(第一高等學校)150 [28585
ミルトン/富永蕃生譯「(散文詩)失樂園」福音新報 11/30 [28586
「ダンテ肖像」(p.3)新聲 12-1 [28587
上田敏「如何にして外國文學を研究すべき」(希臘羅馬古典文學等)新聲 12-3
[28588
篠原流泉「伊太利に於けるゲーテ」新聲 12-3,4,5 [28589
登張竹風「無題錄」(ゲーテ、シルレル等)新聲 12-4 [28590
長谷川天溪「評壇の亂調子」(A・シュレーゲル「劇詩文學」、エジポス、シェークスピア、ソフォクリース、ロンギナス、レッシング、アリストートルの美論等)新聲 12-4 [28591
あやめ社若之助「當世文士崇拜競べ」(松本君平のシーザー、戸[?]張竹風のニイチェ、木村鷹太郎のバイロン、德富蘇峰のエマーソン)新聲 12-5 [28592
新刊紹介「内村達三郎譯「失樂園」」新聲 13-2 [28593

内ヶ崎愛夫「水の啓示」(ラスキン等)新聲 13-4 [28594
(白露號)紅兒「[上田]柳村と漱石」(希臘、拉丁、ダンテ等)新聲 13-5 [28595
新刊紹介「田山花袋譯「キーツの詩」」新聲 13-6 [28596
佐藤搖影「諤々錄」(「何故に國民詩人は出でざる乎」、バイロン)天鼓 1 [28597
新著紹介「正岡藝陽「文豪ラスキン傳」」天鼓 3 [28598
木村鷹太郎「非獨立主義」(ゲーテ、バイロン、プラトーン等)天鼓 4 [28599
千葉秀浦「如何にして外國語を學べきか」(パーレー萬國史、シルレル、ゲーテ等)
天鼓 4,5 [28600
木村鷹太郎「書きすて」(バイロン、プラトーン、ニーチェ、ハイ子、ヘーゲル等)
天鼓 5,6,13 [28601
佐藤藝峯「明治小說の現狀を論ず」(パーレー萬國史、バイロン、ゲーテー、ニーチェ、アリストートル、レッシング、ソホクレス、オイリピデス等) 天鼓 11,12,13 [28602
(?)「文學上より見たる飜譯難」(ダンテ、シルレル等)天鼓 11 [28603
(?)「飜譯界の亂調」(ダンテ、ニーチェ、ゲーテ、ホーマー等)天鼓 13 [28604
佐藤藝峯「飛雨颯到」(ヘーゲル、バイロン等)天鼓 14 [28605
佐藤藝峯「何ぞ其の本に返らざる」(キーツ、ゲーテ、バイロン等)天鼓 15
[28606
吉田東薇「詩人の心境を思ふ」(ソクラテース、デルフォイ等)天鼓 16 [28607
渡邊春影「世界共通語の第一國際會議」(希臘語、羅甸語、古文學)天鼓 16
[28608
土井晩翠「バイロン」中央公論 11 月號(200 號) [28609
「バイロン卿小傳」中外英字新聞 12-1 [28610
「バイロン卿及其詩評」中外英字新聞 12-2,3 [28611
「バイロンと頼山陽」中外英字新聞 12-3 [28612
「バイロン關係書類」中外英字新聞 12-3 [28613
小島鳥水「ゲーテの譯詩」文庫 29-3 [28614
(京都)シルレル「獨逸生活事情」(ゲーテ、シルレル、ヘーゲル、シュライエルマッヘル、ホーマー、フ井ヂアス、ペリクレス、ソクラテス、プラトー、アリストートル等)
基督教新聞 1119(2/9),1120(2/16) [28615
(參考：教界「東京」(宗教文學講座)、基督教新聞 1162(12/7) [28616
---- 柏井園「ダンテの理想」)
新刊各種「帝國文學會編「詩人シルレル」(帝國文學・臨時增刊)」
東京朝日新聞 6/14 [28617
新刊各種「田山花袋譯「キーツの詩」」東京朝日新聞 11/29 [28618
E.②山口孤劍『社會主義と婦人』 [28619
鶴田烝『法律格言義解』 [28620
④雜報「國家と國民性」(バイロン)帝國文學 11-6 [28621
村上茅海「横井[時雄]氏の國勢勃興の機運を讀みて」(アリストテレス、オーガスタス帝、カルタゴ、ピュニック戰爭、ケーベル博士等)
聲 331 [28622

「國家社會主義梗概」(プラトー等) 獨立評論 3-9 [28623
「國民の誇」(羅馬帝國、アゼンス等) 基督教新聞 1163(12/14) [28624
新刊各種「吉野作造「へーゲルの法律哲學の基礎」」東京朝日新聞 1/30 [28625
新刊各種「遠藤隆吉「國家論」」東京朝日新聞 11/15 [28626
F.③ジー・ピー・ハルステッド述/三上義夫譯「非ゆーくりっど幾何學ノ使命(1)(2)」(ほーまー、ゆーくりっど、ぷろちゆーす、ぷらとー、たれーす、へろどたす、暴君ぽりしらてす等)
東京物理學校雜誌 161,162 [28627
④(參考:教界「京都」(同志社神學校卒業式)[6/28]、基督教新聞 1139(6/29) [28628
----- 石田谷吉「近世科學と基督教的神の觀念」)
G. ＊[訂正]興津磐・大島本樂編『獨羅和・醫語新字典』 [3382] [28629
朝永三十郎著『哲學辭典』 [28630
郁文舍編輯所編纂『世界歷史辭典』 [28631
批評「新式の三歷史辭典を紹介す」(深澤博士「新式・西洋歷史辭典」)
歷史地理 7-9 [28632
新刊「朝永三十郎「哲學辭典」」東洋哲學 12-2 [28633
新刊「島田豐纂「雙解・英和大辭典」」東洋哲學 12-2 [28634
新書批評「哲學辭典」(朝永三十郎著)萬朝報 4100(1/31) [28635

明３９(１９０６)
A. 莊田文學士編・(清國)張春濤譯『世界地理風俗寫眞帖』(瀨川書房。希臘あり) [28636
加藤直士「羅馬のさすらひ」新人 7-3,6 [28637
(參考：評論及彙報「文科大學史學科講座」(本年度)、歷史地理 8-10 [28638
年代學(坪井)、西洋史概說(箕作)、埃及史(村川)、羅馬史(村川)、最近歐洲文藝史(美術史、大塚))
外交史料探訪錄「イタリア」歷史地理 8-12 [28639
鹽釜白潮「南歐の思ひ出---雅典」新聲 14-5,6 [28640
鹽釜白潮「南歐の思ひ出---羅馬」新聲 15-2,4,5 [28641
(參考：報道「哲學舘大學」(講師)、東洋哲學 13-4 [28642
倫理（中島、高瀨、有馬）、教育(溝淵、小泉、高島、八木)、哲學（松本、遠藤、紀平、北澤、田中）、歷史（高桑）)
(參考：雜報「東洋大學日清高等學部」(講師)、東洋哲學 13-6 [28643
・法政理財科：國際法（福岡）、政治學（生木）
・警務科：國際法（小林）
・師範科：倫理學(中島)、教育學・心理學(高島)、論理學(常磐)、歷史(境野)、地理（三島）
・普通科：歷史(境野)、地理（三島）)
(參考：報道「日清高等學部」、東洋哲學 13-8 [28644
・高等師範科・第一學年：倫理概論、心理學、倫理學、西洋歷史
第二學年：倫理學史、教育學

高等師範豫科：歷史
・高等法政科：國際法、政治學、法律哲學
高等法政豫科：歷史)
(參考：雜纂「京都帝國文科大學」(哲學・哲學史二講座、心理學一講座、倫理學一講座)、基督教新聞 1189(6/14)) [28645
新刊各種「島村抱月「滯歐文談」」東京朝日新聞 10/8 [28646
B.①「シセロの言」(p.123)六合雜誌 303 [28647
「シセロの言」(p.305)六合雜誌 305 [28648
「ダイオゼンスの言」(p.480) 六合雜誌 308 [28649
②＊[訂正]大瀬甚太郎『歐洲教育史』(→明 41.「續・歐洲教育史」→昭 10「歐洲教育史」) [3412] [28650
岡島誘『西洋哲學史』(帝國百科全書 156) [28651
中桐確太郎述『論理學』(早稻田大學 39 年度政治經濟科第 1 學年講義錄) [28652
竹林修譯述『品性論』(スマイルス著) [28653
畔上賢造譯述『自助論』(スマイルス著) [28654
關常吉(哲王)『哲王定義』 [28655
ビー・ピー・バウン/須藤鬼一譯『神子誕生---インカルネーション』 [28656
ジョン・フィスク/田中達譯『神の觀念』 [28657
ノースブルック卿編/三浦徹譯『基督の教訓』 [28658
ゼームス・オール/田中達抄譯『基督教世界觀』 [28659
村田平三郎編『福音圖解』 [28660
原忠美『神人合一』 [28661
ウ・デ・クドリャフツェフ/松本高太郎(十堂)譯『神の觀念の本源を論ず』 [28662
小原無絃(要逸)譯『對譯・英米名家詩抄/第 3 集』(「虹のかげ」[ロングフェロー「ヘスペラス號の難破」] [28663
小原無絃(要逸)譯『海の詩』(ロングフェロー「ヘスペラス號の難破」) [28664
(參考：寺本婉雅譯『十萬白龍----西藏古代神話』) [28665
③＊[訂正]北澤定吉「哲學史の概念」(ペリパティーック派、ストア派、ディオゲネス・ラエルシウス、セクスツス・エムピリス、ストベイオス、ヘーゲル、エルドマン、ツェラー、クノー・フィッシヤー、ユーベルヴェッヒ、オイッケン等)東洋哲學 13-2 [3417] [28666
＊[訂正]中井浩水「美姫ライス」趣味 1-4 [16220] [28667
荒井不鳴譯「希臘神話・苦みの起り」趣味 1-11 [28668
兩衣生(藤井?)「神秘的教の研究」(ヘロドタス、アリストテレス、新プラトン學派、ニイチェ、ピタゴラス、エピクラスの哲學) 聲 353 [28669
雜纂・桂亭「巖頭にて聖奧斯定(オグスチヌス)と語る」聲 361,362 [28670
菅井生(猗竹?)「會堂の四像(下)」(聖オグスチス)聲 364 [28671
雜報「眞美の愛慕」(ディオテイマ等)帝國文學 12-11 [28672

相馬明次郎「泰西神話に現はれたる冥府」宗教界 5 [28673
(參考：評論及彙報「第 19 回文部省中等教員本試驗問題中」、歷史地理 8-3[28674
------- 西洋史：「四、左の人々の事蹟(甲)フロイソス(乙)老カトー」)
口繪「詩神アポロ」新聲 14-4 [28675
信仰實談「領地を誇るの愚」(アルキビアデス、ソクラテス)ときのこゑ 11/1[28676
「ソクラテスとその妻(p.4)」ときのこゑ 11/1 [28677
ツルゲーネフ/中村孤月譯「森の女神」(「ニンフ　散文詩」)讀賣新聞 10/7 [28678
④＊[訂正]安藤州一「清澤先生とエピクテタス氏」精神界 6-7　[3447] [28679
尺秀三郎「人性の趣味」(プラトーン等)六合雜誌 304 [28680
東溟「睡語覺語」(プラトニックラブ等) 六合雜誌 311 [28681
柳茂安「比較信條論」(聖オーガスチン、聖オギスチス、ポリビウス等)
聲 355,357,358,362　[28682
論說「事實を掲げて誣妄に對ふ」(聖オグスチヌス等)聲 356 [28683
會山生「聖書と神學者」(アレキサンドリアの Clemens、Augustinus、Thomas
Aquinas 等)聲 360 [28684
「天主教の新教に優れる五十ケ條の理由」(聖オーギスタン等)聲 360 [28685
多然[トマス]「主行主義[プラグマチスム]の眞理論と吾公教」(聖オグスチヌス、聖
トマス・アキナス、プラトーン、オリゲネス等)
聲 361　[28686
(田岡嶺雲?)「神秘主義を論ず」(ニーチェ、ショーツペンハウアー等)
天鼓 17　[28687
雨のや生「木村鷹太郎足下」(ゲーテ、プラトーン、バイロン、ニイチェ等)
天鼓 17　[28688
(田岡嶺雲?)「現代の病根(アンモニズムを排す)」(希臘及羅馬等)天鼓 18　[28689
藤井紫影「俗諺研究の必要」(アリストオトル等)天鼓 20 [28690
思潮「古代崇拝に就きて」(レーベル氏「政治的倫理」より)斯民 1-6 [28691
華川生「ツアラトストラに現はれたるニーチツエの思想」東亞之光 1-8　[28692
桑木嚴翼「人生と道德」(?)六大新報 175 [28693
大島秀蘭譯「酷婦傳」(ザッハー・マゾッホ「毛皮を着たヴィーナス」)
新聲 1 月號 [28694
思潮「境野哲「思想界の變調」」(「日本人」?號。プラトン、アリストテレース、
ストア、ニイチェ、バイロン主義等)
東洋哲學 13-3 [28695
雜錄「海老名彈正「明治時代思想の變遷」」(ソクラテーズ、プラトーン、アリス
トテレス、ヘーゲル等) 東洋哲學 13-5　[28696
新刊「都河龍編「倫理學史」」(六盟舘「教育學研究叢書」1)
東洋哲學 13-6　[28697
思潮「チーベルマン述「ニイチェの病理的事實」」（「人性」?號）
東洋哲學 13-7　[28698
中島力造述「倫理問題の變遷を論じて現今の倫理學問題に及ぶ」(ソクラテス、プ
ラトー、アリストートル、アレキサンダ
ー大王、新プラトン派等)

東洋哲學 13-10　[28699
加藤三雄「個人生活の理想」（アリストートル、ソクラテス等）
東洋哲學 13-10　[28700
紀平正美「歸納法に就て」(アリストートル、ヘーゲル等）東洋哲學 13-11[28701
新刊「内田旭「愛之進化」」(希蠟羅馬等) 東洋哲學 13-11　[28702
「知洋學家と演奏の報酬」(ケーベル博士) 萬朝報 4512(3/22)　[28703
新刊批評「プラトー」(小林一郎著) 萬朝報 4600(6/18)　[28704
新刊批評「倫理學史」(都河龍著) 萬朝報 4622(7/10)　[28705
新刊批評「歐米教育史」(日高只一譯補) 萬朝報 4729(10/25)　[28706
新刊批評「最新・西洋哲學史」(岡島誘著) 萬朝報 4775(12/10)　[28707
新刊批評「修養小話」(赤松大勵譯述。イソップ、ラ・フォンテーヌ物語等)
萬朝報 4795(12/30)　[28708
岡村愛藏「スマイルス氏品性論講義」中外英字新聞 13-1,2,3,4,6,8,9,10,11,12
[28709
「評論」(ニーチェ、エメルソン等)獨立評論 4-1　[28710
「教育論(上)」(アリストートル、マシウ・アーノルド、エメルソン、グリーン等)
獨立評論 4-7　[28711
「回教教祖論」(サクラテス、プラトー等) 獨立評論 4-8　[28712
彩處生「フリードリッヒ・ニーチェを憶ふ(承前)」
尚志會雜誌(第二高等學校)71　[28713
批評・斬風生「「フリードリッヒ・ニーチェを憶ふ」を讀む」
尚志會雜誌(第二高等學校)71　[28714
登張竹風「女性論---- ニイチェに基ける」新小說 11-2　[28715
文學界消息「ケエベル博士」新小說 11-12　[28716
講壇・藤井寅一「休徵と智慧と(上)」(ギリシヤ人、アデンスの人々、トーマス・
アクイナス等) 基督教新聞 1170(2/1),1171(2/8)　[28717
「原田元田兩氏の使命」(希臘羅馬の文明等) 基督教新聞 1171(2/8)　[28718
聖書研究・八濱德三郎「湖畔の漁舟」(聖オーガスチン等)
基督教新聞 1171(2/8)　[28719
論壇・三浦範三「宗教と實生活」(ギリシヤ思想等) 基督教新聞 1178(3/29)[28720
聖書研究・八濱德三郎「葡萄園の勞働者(下)」(ソクラチース、ダイオニショス、
音樂師フィロクセノス、プラトー等)
基督教新聞 1180(4/12)　[28721
靑眼生「南陽學人に答ふ(2)」(ソクラテス、プラトー、アリストーツル等)
基督教新聞 1183(5/3)　[28722
星野光多「基督と復活の力(下)」(ソクラテス等) 基督教新聞 1184(5/10)　[28723
論壇・大久保三郎「偉大なる人格の要素」(プラトーン等)
基督教新聞 1185(5/17)　[28724
講壇・宮川經輝「吾人が生き動且つ存する所以」(ギリシヤの學問、プラトー派、
ストイク派、エピクリアン派、ソクラテス、アリ
ストーテル等) 基督教新聞 1190(6/21)　[28725
平瀨龍吉「友情」(ホーマー、ゲーテ、シルレル等) 基督教新聞 1191(6/28),

1192(7/5) [28726
ゼ・イ・フレーム「福音書の目的及び起源(1)」(フィロー等)
基督教新聞 1192(7/5) [28727
論壇・大久保三郎「福の恩寵に就きて」(希臘人、ロマ人等)
基督教新聞 1196(8/2) [28728
武本喜代藏「理想的現世主義(下)」(大帝國ロマ、エピクロース等)
基督教新聞 1197(8/9) [28729
說苑・本間俊平「小さき群れよ」(プラトー派等) 基督教新聞 1197(8/9) [28730
說苑・松井文彌「山と宗教」(オリムパス山等) 基督教新聞 1198(8/16) [28731
靜思・タットル博士/佐藤生譯「力のたまもの(1)」(希臘人、羅馬人等)
基督教新聞 1198(8/16) [28732
(參考：教界「夏期學校だより(2)」、基督教新聞 1198(8/16) [28733
----- 笹森宇一郎氏講演「靈的戰爭の生涯(2)」[ジーザー、オーガスチン等])
論說・井深梶之助「教會の合一に就て」(ギリシヤ哲學等)
基督教新聞 1211(11/15) [28734
說苑・西内天行「大西[祝]博士を憶ふ」(「西洋哲學史」)
基督教新聞 1211(11/15) [28735
「教會と人格」(アウガスチン等) 基督教新聞 1212(11/22) [28736
「特長の發揮」(アウガスチン等) 基督教新聞 1215(12/13) [28737
新刊各種「北澤定吉「哲學史綱」東京朝日新聞 6/9 [28738
新刊各種「遠藤隆吉「虛無恬談主義」東京朝日新聞 8/11 [28739
C.②伊藤銀月『世界女性史』(クレオパトラ等) [28740
リース[Rees]/田中達譯『耶蘇基督』(神學叢書 1) [28741
デー・エー・モーリ述『救之道----基督之資格と約束』 [28742
三省堂編『英文歷史地圖』 [28743
依田雄甫編『世界讀史地圖略說』(漢文) [28744
金港堂編『西洋讀史年表---中等教科』 [28745
③＊[訂正]菊池大麓「古羅馬の宇治川合戰」少年世界 12-6 [3489] [28746
楳嶺「猶太人の懷抱せる救世主の觀念(1)」(オーガスト帝、セザル等)
聲 350 [28747
ゴーチエ/野尻抱影譯「王女の喞言」(「クレオパトラの一夜」)
白百合 1 月號 [28748
(參考：評論及彙報「第 19 回文部省中等教員本試驗問題中」、歷史地理 8-3
------- 西洋史：「四、左の人々の事蹟(乙)老カトー」) [28749
評論及彙報・井樓「健陀羅の藝術」歷史地理 8-4 [28750
評論及彙報「ベスビオ山」歷史地理 8-5 [28751
(參考：評論及彙報「文部省中等教員豫備試驗問題中」、歷史地理 8-9 [28752
------- 西洋史料「三、左の人々の重なる事蹟(甲)ヂオクレチアヌス」)
上田敏「ペリクレエス胸像」藝苑 1(2 次) [28753
「癇癪を辛抱する法(p.4)」(シーザル)ときのこゑ 11/1 [28754
坪内逍遙譯「獅威羔[シイザア]の怨靈」(シェイクスピア「ジュリアス・シーザー」
[「自由太刀餘波鋭峰」の一節])

文章世界 5 月號 [28755
(參考：彙報「第十九回中學教員本試驗問題」、東洋哲學 13-4 [28756
西洋史：「四、左の人々の事績（甲）クロイソス(乙)老カトー」)
(參考：報道「中等教員試驗問題」、東洋哲學 13-8 [28757
歷史（西洋史）科：「三、左の人々の重なる事績(甲)ヂオクレチアヌス」)
龍太郎「基督信徒の家庭」基督教新聞 1169(1/25),1171(2/8),1172(2/15),
1173(2/22)
[28758
和辻生「基督信徒の家庭(5)(6)」基督教新聞 1175(3/8),1176(3/15) [28759
④書評「坪井九馬三「西洋歷史地圖」」史學雜誌 198 [28760
海外騷壇「ドミトリイ・メレジコウスキイ」帝國文學 12-4,5 [28761
海外騷壇「ステイブン・フィリップスが史劇「ネロ」」帝國文學 12-8 [28762
新刊紹介「伊藤源作「地理上發見史」」歷史地理 8-11 [28763
(參考：報道「中等教員本試驗---歷史(西洋史)：二月十七日」、
東洋哲學 13-1 [28764
新刊「北澤定吉「偉人耶蘇」」東洋哲學 13-5 [28765
(參考：報道「中等教員試驗期日---(西洋史)：八月十八日」、東洋哲學 13-7)
[28766
宮本和吉「カーライルの思想」校友會雜誌(第一高等學校)156 [28767
安倍能成「カーライルの人生觀---宮本君の「カーライルの思想」を讀む」
校友會雜誌(第一高等學校)157 [28768
「明治三十八年思想界及文學界」(森皚峰譯・プルタルク「英雄傳」等)
基督教新聞 1166(1/4) [28769
講演・(石工職)本間俊平「東京帝國大學青年會に於ける百姓演說」（リシャス、デ
モセニス等）基督教新聞 1176(3/15) [28770
今泉眞幸「田中達氏譯「耶蘇基督傳」」基督教新聞 1185(5/17) [28771
新刊「使徒行傳講解」基督教新聞 1185(5/17) [28772
說苑・平瀨龍吉「人はパンのみにて生くるにあらず(下)」（ローマ帝國等）
基督教新聞 1200(8/30) [28773
海老名彈正「基督降誕の感想」(ギリシヤ哲學、羅馬帝國等)
基督教新聞 1217(12/25) [28774
新刊批評「偉人耶蘇」(北澤定吉著)萬朝報 4577(5/26) [28775
新刊批評「羅馬史論」(林董著) 萬朝報 4709(9/15) [28776
新刊各種「伊藤銀月「世界女性史」」東京朝日新聞 4/24 [28777
D.①＊[訂正]岩野抱鳴「「イリヤッド」の一節」(「ヂオメーデースの奮戰」「アフロ
ヂテーの負傷」)太陽 12-5 [3520] [28778
シドニー・ギュリック編『舊新約聖書對讀文』 [28779
松島篤編『新約全書---- 英和對照』 [28780
デー・エ・モーリ著『天之友----新約聖書馬太[マタイ]傳』 [28781
宮川經輝『約翰[ヨハネ]傳釋義』 [28782
ラルネデ述/大宮季貞記『使徒行傳講解』 [28783
ラルネデ述/大宮季貞記『羅馬書講解---- 新約聖書』 [28784

②小原無絃(要逸)譯『シェレーの詩』(29 編) [28785
小原無絃(要逸)譯『海の詩』(バイロン「さらば故郷」[Childe Harold]) [28786
西村醉夢(眞次)『西詩の薫』(シェリー「西風の頌」) [28787
トルストイ/有馬祐政譯『藝術論』(帝國百科全書) [28788
中村春雨『通俗新約物語』 [28789
③梅澤和軒「ラオコーン像の研究」淸光 10 號 [28790
生田弘二「悲壯美論綱要」帝國文學 12-8,10,11 [28791
日野眞澄「新約聖書の性質と其編纂歷史」基督敎新聞 1207(10/18), 1208(10/29) [28792
④＊[訂正]吾妻耕一「國民文學の二要素」(フィディアス、ポリグトス、ゲーテ「イフィゲニア」等)六合雜誌 311,312 [28793
上田敏「余が愛讀書」(Gibbon 羅馬衰亡史、Winckelmann 美術史、W.Pater) 中央公論 2 月號 [28794
土井晩翠譯「ミルトン失樂園」太陽 1,2 月號 [28795
バイロン/礒萍水飜案「脚本・海賊」白百合 1~3 月號 [28796
バイロン/紫嵐譯「ヲータルローの夕」(「Childe Harold」)文庫 11 月號 [28797
繁野天來譯「ミルトン假面劇・コーマス」早稻田文學 12 月號 [28798
千葉江東「奈何か自覺すべき」(エマーソン、ゲーテ、ダンテ等)新聲 14-1[28799
浦瀨白雨譯「ミルトンの二雄篇(1)」(ビーナス神、バッカス神、オーフィウス、プラトー、ミューズ神等)新聲 14-2,4 [28800
雲突坊「文士內閣の未來」(ジョン・モーレー「グラッドストーン傳」) 新聲 14-3 [28801
素面文豪・XYZ「瑞典の沙翁---オーガスト・ストリンドベルヒ」(ニーツエの哲學等)新聲 14-4 [28802
扁舟生「文章家としての矢野龍溪」新聲 15-1 [28803
岡本照南「森田思軒の生地」新聲 15-2 [28804
月城子「片々錄」(「ダンテとゲーテ」)聲 356,361 [28805
猗竹生(菅井?)「時事漫言二束」(詩人ホラシュス)聲 366 [28806
藤波一如譯「人類と動物との分界線としての言語」（マクス・ミューレル氏「サイアンス・オブ・ランゲーヂ」ノ一節。アリストートル、オヂセー、ユリアス、ヘーゲル等）東洋哲學 13-1 [28807
新刊「藤井乙男「俗諺論」」東洋哲學 13-6 [28808
埋草「ミルトン」校友會雜誌(第一高等學校)159 [28809
埋草「Goethe」校友會雜誌(第一高等學校)159,162 [28810
埋草「Faust」校友會雜誌(第一高等學校)160 [28811
埋草「Heine」校友會雜誌(第一高等學校)161 [28812
埋草「ラスキン」校友會雜誌(第一高等學校)162 [28813
斬風「悲劇論」尚志會雜誌(第二高等學校)71 [28814
新刊批評「俗諺論」(藤井乙男著) 萬朝報 4601(6/19) [28815
新刊批評「神秘的半獸主義」(岩野抱鳴著。エマーソン) 萬朝報 4620(7/8) [28816
「文學及び思想」(ダンテ、トーマス・アクイナス等) 獨立評論 4-2 [28817

「明治三十八年思想界及文學界」(「世界美術史」、「西洋音樂史」等)
基督教新聞 1166(1/4) [28818
「基督教文學」(ダンテ「神曲」等) 基督教新聞 1176(3/15) [28819
(參考：教界「東京」(東京神學社宗教文學講演會)、基督教新聞 1177(3/22)
----- ケーベル博士「ゲーテの「ファウスト」に就て」) [28820
新刊「柏井園譯「ダンテ研究」」(ノルトン著) 基督教新聞 1186(5/24) [28821
新刊各種「登張竹風「筆舌錄」」東京朝日新聞 10/8 [28822
E.②津田法學士『政治學史』(帝國百科全書 125 編) [28823
③通俗史談・紫謙太郎「小國の大商業」(フェニキア人の商業)歴史地理 8-12[28824
④兩衣生(藤井?)「「社會主義と婦人」を讀む」(エピキュラスの徒等)聲 350[28825
中村大素「改正刑法と科學(上)」(ヘーゲル等) 萬朝報 4734(10/30) [28826
F.②柳茂安『羅馬教會と宗教裁判』 [28827
③ジー・ピー・ハルステッド述/三上義夫譯「生物學と數學」(サッポー、ホーマー、ダンテ、シーザー、デモセネス、シセロー、ユークリッド等)東京物理學校雜誌 171 [28828
④三上義夫「ハルツエル博士---日本數學論(1)(2)」(アーキメデス、ユークリッド、プラトー等)東京物理學校雜誌 174,175 [28829
菅井生(猗竹?)「地動說問題」(プトレミー學派、アリストトル等)聲 371,373
[28830
世界各國「石鹼の起原」(ホーマーの詩、希臘人、羅馬人等)
萬朝報 4787(12/22) [28831
G. 下田次郎編纂『日本家庭百科事彙』(シーザー、シセロ、ケーザル、キケロ、プラトニックラブ等) [28832
思潮「大槻文彦「對譯字書の起源」(國民新聞?/?、法爾末和解[ハルマワゲ]、道富法兒[ヅーフ・ハルマ]著) 東洋哲學 13-1 [28832
新刊「理科研究會編「最近物理學辭典」」(物理學小史等) 東洋哲學 13-1 [28833
新刊批評「醫學大辭書・第一册」(同文舘編輯部版) 萬朝報 4671(8/28) [28834
新刊各種「根來可敏・江間岩太・志賀重昂校閲「地理辭典」」
東京朝日新聞 5/23 [28836
「(下田次郎編纂)日本家庭百科事彙を評す」(シーザー、シセロ、ケーザル、キケロ、プラトニックラブ等)
東京朝日新聞 11/4 [28837

明４０(１９０７)
A. 村上直次郎講述『東西交通史』(早稻田大學三十九年度歴史地理科第一學年講義錄)
[28838
長谷川如是閑「如是閑語」(ソクラテス、アリストファネス、歴山大王、ダイオゼネス、ゲーテ、バイロン等)日本及日本人 467 [28839
藤井生「日本布教史の編纂を望む」(プラトン等)聲 374 [28840
(參考：教界思潮「文科大學の宗教問題」(相原生「新人」3 月號、彙報欄)聲 377
ケエーベル博士「基督教の發達」
姉崎[嘲風、正治]博士「ローマ帝國とワグネル」(ソクラテース等))

[28841
(參考：教界思潮「文科大學の神學講座に就て」(姉崎生「新人」4 月號)
聲 377) [28842
論說・綠汀「文明史に於ける基督教的精神」(モンテスキュー「羅馬盛衰記」、ギゾー「文明史」、ギボン等) 聲 380 [28843
(參考：彙報「第 15 回萬國東洋學會」史學雜誌 212 [28844
第 6 部「希臘及東方諸國、部長 I.L.Heiberg 氏」)
(參考：評論及彙報「京都帝國大學史學科開講」、歷史地理 10-1 [28845
史學研究法(内田)、西洋史(坂口) ）
(參考：評論及彙報「萬國史學會と萬國東洋學會」、歷史地理 10-3 [28846
萬國史學會「二、ギリシア・ローマ史、四、中世及近世文化史及同思想史」
萬國東洋學會「六、ギリシア及東方諸國」)
(參考：評論及彙報「東京帝國大學文科大學史學科本年度の新講義」、
歷史地理 10-3 [28847
史學研究法(内田)、西洋史概說・ローマ史(第二ポエニ戰役以後、村川)、東西交通史(村上)/副科目---教育學史(林)、原始基督教(波多野))
評論及彙報「開國五十年史の出版」、歷史地理 10-6 [28848
----- 大槻修二「歐洲學術輸入史略」、三宅雄次郎「哲學」、新渡戸稻造「泰西思想の影響」
(參考：報道「東洋大學」、東洋哲學 14-3 [28849
倫理學(中島)、認識論(今福)、宗教學(未定)、美學(未定)、基督教史(三並))
(參考：報道「東洋大學新學年」、東洋哲學 14-5 [28850
認識論（今福)、心理學（高島）、美學（瀧村）、哲學概論(田中)、倫理學・西洋倫理史(中島)、教育史(八木)、言語學（藤岡）、論理學（紀平）、哲學史（北澤）、教育學(溝淵)、基督教史(三並))
(參考：報道・西山悊次「紐育大學學制」、東洋哲學 14-5 [28851
「ニ、哲學及倫理學(古代及中世哲學史、倫理學、近世哲學史、論理學)」
「三、教育史（教育古典學、教育史）」)
(參考：教界「東京」(東京神學社三年間の學科)、基督教新聞 1243(6/27) [28852
----- 第一年：希臘語、
第二年：教會史、宗教史、希臘語、指定演習(プラトー等)
第三年：教會史、教理史、宗教史、希臘語
婦人科：基督傳、教會史 ）
(參考：教界「同志社神學校の擴張」、基督教新聞 1248(8/1) [28853
----教會史・希臘語(ラル子ド博士)、哲學史(日野眞澄)、文明史(ギュリキ博士)、倫理學(今泉眞幸))
(參考：教界「新教神學の發展」(新教神學校)、基督教新聞 1248(8/1) [28854
-----宗教史(オストワルド校長)、教會史、教義史、倫理學、神學史、希臘語(ウュルフェル教師)、哲學概論(ケーベル博士),、哲學史(波多野精一))
(參考：教界「東京」(文科大學の宗教講座)、基督教新聞 1264(11/21) [28855
----- 波多野精一「原始基督教」）

B.①一語千金「ソクラテス(p.2)」ときのこゑ 8/1 [28856
訓言「プラトー」(p.40)聲 387 [28857
「プルタークの言」(p.155)六合雜誌 315 [28858
「エピキュラスの言」(p.813) 六合雜誌 324 [28859
宮崎八百吉譯『（聖）アウガスチン懺悔錄』(警醒社) [28860
②神田左京『人性の研究』(プラトー等) [28861
高須梅溪(芳次郎)『偉人修養の径路』(?) [28862
ジョーヂ・バーカー・スティーヴェンス/松本益吉譯『耶蘇の教』 [28863
烏有仙士『『三位一體論』(佛國ボア博士對齋木仙酔) [28864
星野光多編『基督教思林----一名、日毎の學』(改題。←明 26 刊「修德養信・思想の林----一名、日毎のさとり」) [28865
内村鑑三『保羅[パウロ]の復活論』(聖書短篇 1) [28866
チヤルース・カスベルト・ホール/田中達譯『使徒神學の復興』 [28867
内田旭『愛と進化』 [28868
下田次郎『論理學講義』 [28869
松下桃蹊『論理學講義』 [28870
北澤定吉・宮地猛男『哲學汎論』 [28871
ドイッセン/井上圓了譯『純正哲學』(2 册、帝國百科全書 175,176。→明 41)[28872
加藤直士編『最近思想と基督教』(ケーベル博士「哲學諸派の宗教的批判」、浮田和民「社會理想の進化」、海老名彈正「時代思想と基督教」) [28873
③＊[訂正]清澤滿之「七賢人」精神界 7-3 (明 28 年、在垂水。昭 31 年刊・全集 4 所収) [3594] [28874
＊[訂正]グリム/三浦白水譯「希臘神話物語」こころの華 11-4,5 [3607] [28875
＊[訂正]山田伊三郎「羅馬帝國に於ける道德の變遷を論じて基督教に及ぶ」(レッキー「歐洲道德史」による)
六合雜誌 315,316 [3599] [28876
楳嶺「耶蘇の傳道(2)」(汎神論、クセノファネス、パルメニデス等)聲 380 [28877
生田弘二「悲壯美論綱要」帝國文學 13-4 [28878
(參考：報道「第二十回文部省檢定本試驗問題」、東洋哲學 14-3 [28879
修身科：「一、アリストテレスの中庸說を敍述せよ」
「二、倫理學上より厭世主義を批評せよ」)
(參考：教界「東京」(神學社講演會)、基督教新聞 1222(1/31) [28880
------ 第一席・波多野精一「ソクラテス」)
(參考：教界「組合教會教役者修養會執行順序」、基督教新聞 1229(3/21),1231(4/4)
----- ケーベル博士講演・波多野精一通譯「純正哲學各派の要點」 [28881
(參考：教界「東京」(東京神學社卒業式)、基督教新聞 1243(6/27) [28882
------波多野[精一]講師「希臘人の未來觀と基督教の未來觀」)
④＊[訂正]中島力造「シヂウキック教授と(心理的)直覺論者」教育學術界 15-2,3 [3631] [28883
廣井辰太郎「耶蘇は果して獨創の見を有せしや(2)」(歷山府のフ井ーロー等)
六合雜誌 318 [28884

三並良「宗教現下の問題」(希臘羅馬、アウガスチン等) 六合雜誌 323 [28885
批評「小林一郎「まあかす・あうれりうす冥想錄」」帝國文學 13-7 [28886
藤井武「思慕の生活」校友會雜誌(第一高等學校)164 [28887
今井登志喜「思想の變遷を述べてその統一を論ず」
校友會雜誌(第一高等學校)168 [28888
和辻哲郎「靈的本能主義」校友會雜誌(第一高等學校)171,172 [28889
新刊瞥見「朝永三十郎「哲學と人生」」新聲 16-4 [28890
野の人「梁川(綱島)先生を哭す」新聲 17-4 [28891
論說「超人乎聖人乎」(ニイチェ等)聲 375 [28892
鴻業(畠山?)「安住の地盤」(プラトンの「レパブリック」等)聲 374 [28893
兩衣生(藤井?)「約百[ヨブ]記と「ファウスト」」聲 375,376 [28894
學術・鴻業(畠山?)「天才の末路」(ホメロス、ダンテ、ゲエテ、アレキサンダー大
王、瑣克剌底[ソクラテス]等)聲 376 [28895
鶴翩(大城?)「聖會とは何ぞや」(聖オグスチヌス等)聲 377 [28896
學術・鶴翩(大城?)「美的感情と其地理的關係」(フェニシヤ、フィデアス、ミロン、
プラキシテレース、プラトン、アリス
トテレース等)聲 377 [28897
「宗教外の道德」(プラトン、アリストテレス、ギリシア、ソクラテス、シセロ
等)聲 378 [28898
畠山鴻業「偉人は長生き」(ヒポクラテス、プラトン、アルヒメデス、ペリクレス
等)聲 380 [28899
「何故に公教信徒たる乎」(牛込生「數多の理由がある」[希臘の大哲學者プラトー
等])聲 381 [28900
教界思潮「ケエベル博士「藝術と宗教との關係」(新人 8 月號)」聲 382 [28901
柳茂安「人祖の蒙れる特思(續)」(聖オギスチス等)聲 383 [28902
柳茂安「太祖の長壽」(聖オグスチノ等)聲 384 [28903
罪の子「四旬節の心得」(聖オギスチノ等)聲 388 [28904
大城鶴翩「耶蘇神性論」(プラトン、セザル等)聲 390 [28905
(參考:「本會特別講演記事」、斯民 2-1 [28906
澤柳政太郎「教育に就きて」(エピクテタスの「マニュアル」))
「天に貨を積むべし」(オーガスチン等)ときのこゑ 6/15 [28907
(參考:報道「第四回夏期講習會」、東洋哲學 14-5 [28908
渡邊又次郎「パウルゼン氏倫理學」(教科書・參考書:蟹江義丸「パウルゼ
倫理學解說」、中島力造「倫理學說十回講義」)
紀平正美「矛盾律に對する三種の態度」(エレア學派、ツエノー、アリストテレー
ス、ヘーゲル等) 東洋哲學 14-6 [28909
市澤彌一「運動及び變化とは何ぞや」(希臘の哲學者ツエーノーン等)
東洋哲學 14-6 [28910
新刊「ワーナー・ファイト/大島直治譯「倫理學原論」東洋哲學 14-6 [28911
新保德壽「ハックスレー氏解脫觀梗概」(ヘラクリタス、デモクリチス、ストイッ
ク等) 東洋哲學 14-7 [28912
新刊「中島德藏「倫理學要領」」(西洋部あり) 東洋哲學 14-8 [28913

新刊「吉田靜致「倫理學要義」」東洋哲學 14-8 [28914
中島力造「倫理學の根本概念」（プラトー、アリストートル、ストア派、ソクラテース等）東洋哲學 14-9 [28915
ジョン・エス・マッケンジー「終局原理としての倫理學」(ソクラテス、ソフヒスト、ストア、エピキュラス學派等)
東洋哲學 14-9 [28916
思潮「中島力造「倫理學研究上の注意」(「教育界」?號。プラトー、アリストートル、ヘーゲル等) 東洋哲學 14-10 [28917
鶴田理學博士譯「「自助論」の著者スマイレス翁自傳」東西南北 2 號 [28918
增田八風「ニイチェの生活」アカネ 2 月號 [28919
新刊批評「中村正直傳」(石井研堂著) 萬朝報 4853(2/26) [28920
新刊批評「眞善美・美之巻」(木村鷹太郎著) 萬朝報 4858(3/3) [28921
言論・旦堂「時代精神と人」(ソクラテス、プラトー、アリストートル等)
萬朝報 4946(5/30) [28922
新刊批評「最近思想と基督教」(ケーベル等) 萬朝報 5139(12/9) [28923
岡村愛藏「スマイルス氏品性論講義」中外英字新聞 14-3,4,5,6,7,10,12 [28924
(?)「スマイルス氏報償論講義」中外英字新聞 14-2,3 [28925
「支那思想史」(ピタゴラス、ストア學派、アレキサンドリア文明、トレミイの暦法、エメルソン、グリーン等)獨立評論 5-1 [28926
「泰西思想の神髄、一名、大なる思想と短き言語」(レッシング、ヘーゲル、ゲーテ、シュライエルマッヘル、エメルソン、グリーン、ニッチェ等) 獨立評論 5-2 [28927
(參考：教界「本郷教會」、基督教新聞 1218(1/3) [28928
----- 海老名彈正講演「基督の偉大」[ソクラテス、プラトー等])
平瀬龍吉「富と人物」(ソクラチース、カトー等) 基督教新聞 1220(1/17) [28929
不識生「我が書齋の記」(ストイク派の皇帝アウレリウス等)
基督教新聞 1222(1/31) [28930
聞書應答(アンケート)「蘆田慶治(3)---オーガスチン「告白錄」」
基督教新聞 1225(2/21) [28931
教壇・小崎弘道「眞理とは何ぞや」(ローマ帝國等) 基督教新聞 1228(3/14) [28932
社說「聞書應答を讀む」(オーゴスチン等) 基督教新聞 1230(3/28) [28933
海老名彈正「活ける神の證者(下)」(アレキサンダー、シーザー等)
基督教新聞 1231(4/4) [28934
「聞書應答」(曾木銀次郎[3]--- パウルゼン著・倫理學大系、蟹江[義丸]文學士外二文學士譯) 基督教新聞 1231(4/4) [28935
教界「ケーベル博士の謝狀」基督教新聞 1232(4/11) [28936
(參考：教界「京都」(音樂會)、基督教新聞 1240(6/6) [28937
----- 松本文學博士講演「宇宙感情」[プラトーのエロス等])
論說・半澤尚三「信仰の紅白(下)」(マルカス・アウレリアス等)
基督教新聞 1243(6/27) [28938
教壇・綱島佳吉「誰が傳道する者ぞ」(ギリシア人、ローマ人等)
基督教新聞 1248(8/1) [28939

海老名彈正「時代思想と基督教(1)」(ピタゴラスの地動説、トレミーの天動説等)
基督教新聞 1250(8/15) [28940
教界時論・有富虎之助「現代教育家の思潮」(西國立志篇、品性論[スマイルス]、
世界歴史譚) 基督教新聞 1252(8/29) [28941
新著英米書籍「Hatsch,The Influence of Greek Ideas and Usages upon the Christian
Church」基督教新聞 1256(9/26) [28942
想苑・不識生「微光の風光」(プラトーン、ダンテ等) 基督教新聞 1258(10/10)
[28943
(參考：教界「東京」(本郷教會)、基督教新聞 1259(10/17) [28944
-----海老名[彈正]牧師説教「靈界の使者」(プラトー、ソクラテース等))
社説「現代説教家の資格を憶ふ」(聖オーゴスチン等)
基督教新聞 1263(11/14) [28945
空霓「異本「シンポジオン」」(饗宴戯作) 新小説 12-4 [28946
新渡戸稲造氏談「ジャニユアリー」(羅馬神話)東京朝日新聞 1/1,1/3 [28947
「高野長英」東京朝日新聞 6/23 [28948
新刊雑書「神田左京「人性の研究」」東京朝日新聞 12/19 [28949
C.②山上萬次郎『日本帝國政治地理』((四)「地理學の發達」) [28950
木村鷹太郎『萬國史』 [28951
立柄教俊『參考綱目體西洋歴史』 [28952
高桑駒吉『中等西洋歴史詳解』 [28953
府南隠士(澁江保)『怪奇小説・新クレオパトラ』(大學舘) [28954
米國一信徒/日本一信徒譯『基督之教會』 [28955
ラルネデ述/大宮季貞譯『教會史』 [28956
牧野虎次『基督の人訓』 [28957
北澤定吉『偉人耶蘇』 [28958
海老名彈正『耶蘇基督傳』 [28959
バランタイン/開拓者編輯局譯『馬可傳に寫されたる耶蘇の面影』 [28960
宮崎虎之助『基督觀』 [28961
マーテン・サイデル/原田助譯『耶蘇之時代』 [28962
ウヰリアム・ブース著『ペンテコステ物語』 [28963
宮川巳作『加拉太[ガラテヤ]書研究』 [28964
菅野德助・奈良次郎譯註『クリートの迷宮』(ボールドウィン「クリートの迷宮」
「アタランタ姫物語」) [28965
③河野元三「古代希臘の婦人」女子教育 4-9 [28966
演藝寫眞「亞歴山大王の怒」(クリタス虐殺の場)演藝畫報 1-4 [28967
文藝欄「寫眞解説・亞歴山大王の怒」(クリタス虐殺の場)演藝畫報 1-4 [28968
演藝寫眞「埃及女王クレオパトラ」(佛國女優サラ・ベルナール)
演藝畫報 1-5 [28969
文藝欄・金港堂「(寫眞解説) 佛國女優サラ・ベルナール」(埃及女王クレオパトラ)
演藝畫報 1-5 [28970
東京座洋劇「ジュリアス・シーザー」演藝畫報 1-7 [28971
文欄・帚雪山人「脚本「羅馬皇帝」の梗概」演藝畫報 1-9 [28972

多然[トマス]生「比棘多[ピラト]の末路」聲 380,381,384,385 [28973
くれがし「神の勇士---聖セバスチアの傳」(羅馬史)聲 381,382 [28974
教界思潮「力行主義と眞生命」(姉崎[嘲風、正治]博士「ワグネルと羅馬帝國」
哲學雜誌 6 月號)聲 380 [28975
柳茂安「基督教初代三世紀間の公教信徒史(4)」(フィローン、プラトン等)
聲 390 [28975
(參考 : 評論及彙報「第廿回文部省檢定歷史及地理科本試驗問題中」、歷史地理 9-3
------- 西洋史 :「一、ローマの諸帝と元老會との關係の重なる變遷」
地理 :「一、太陽暦に就きて知る所を記せ」) [28976
(參考 : 評論及彙報「中等教員豫備試驗問題中」、歷史地理 10-3 [28977
------- 西洋史 :「三、左の人々の事蹟(甲)コンスタンチヌス帝」)
(參考 : 報道「第二十回教員檢定本試驗問題」、東洋哲學 14-4 [28978
歷史(西洋史)科 :「ローマの諸帝と元老院との關係の重なる變遷」)
有富[虎之助]生「祈禱の人」(オーゴスチンの母[モニカ]) 基督教新聞 1257(10/3),
1258(10/10),1259(10/17),1261(10/31),
1262(11/7) [28979
(參考 : 教界「大阪」(大阪教會)、基督教新聞 1264(11/21) [28980
----- 宮川[經輝]牧師「キリストと其時代」)
④書評「高桑駒吉「中等西洋歷史詳解」」史學雜誌 217 [28981
埋草「ポーロ」校友會雜誌(第一高等學校)171 [28982
批評「戸澤姑射譯「シーザー」(沙翁全集第 7 巻)」帝國文學 13-7 [28983
評論及彙報「林[董]外相の著述(マキヤベリー「ローマ史論)」歷史地理 9-1[28984
新刊「高桑駒吉「中等西洋歷史詳解」」歷史地理 10-1 [28985
評論及彙報「教科書以外の讀みもの」、歷史地理 10-3 [28986
------ 歷史「西洋通史」、傳記「世界古今名婦鑑」
齋藤斐章「歷史教授要目を論じて中等歷史教科書の本旨に及ぶ」(西洋上古史等)
東洋哲學 14-2,3 [28987
新刊「原田助譯述「耶蘇の時代」」基督教新聞 1256(9/26) [28988
高濱長江「クリスマスの今昔」(プレトー、ソクラチス、エマソン等)
基督教新聞 1269(12/25) [28989
D.①「伊蘇普の訓言」(p.23)聲 386 [28990
東基吉(牧羊)『教育童話　子供の樂園』(イソップ) [*28990
「ホレースの言」(p.379)六合雜誌 318 [28991
英國聖書會社『舊新約全書』(3 版) [28992
左近義弼『マタイの傳へし福音書』(博文舘) [28993
ラルネデ述/大宮季貞記『哥林多[コリント]前後書講解----新約聖書』 [28994
エル・ビー・チヤモレー著『腓立比]ピリピ]書釋義』 [28995
②＊[訂正]淺野和三郎『英文學史』 [3688] [28996
大城鶴翩『四福音書之研究』 [28997
三並良『福音書大觀』 [28998
百島冷泉譯『聖書物語』(通俗文庫 3) [28999
木村鷹太郎譯『天魔の怨・宇宙人生の神秘劇』(バイロン・附「人道と耶蘇教の衝

突」) [29000
木村鷹太郎譯『マゼッパ・汗血千里』(バイロン) [29001
兒玉花外譯『バイロン詩集・短編』 [29002
古賀圓藏譯『泰西名家キッス[キーツ]詩集』 [29003
加藤直士『文藝と宗教』(ゲーテ等) [29004
井上活泉譯『英詩吟譯』(ミルトン「失樂園」) [29005
Macaley's Essay;Milton,Tokyo,Kobunsha,1907 [29006
畔上賢造編『グラッドストン言行錄』 [29007
ミス・バラード著『羅馬の宣教師シドチ』 [29008
③＊[訂正]はくすい(三浦白水)譯「御墓の薔薇」(スミルナ。アンデルセン「ホメロスの墓の薔薇一輪」)こころの華 10-3 [16291] [29009
教界彙報「羅甸語聖書の改正」聲 379 [29010
海外時報「羅甸語聖書の改正」基督教新聞 1245(7/11) [29011
④＊[訂正・削除]~~南方熊楠「オリーブ樹の漢名」(ギリシア語等)東洋學藝雜誌 315~~ [16300] [29012
＊[訂正]折竹蓼峯「佛國基督教文學の始祖シャトウブリアン」(希臘拉丁文學等) 六合雜誌 316,317,319,321,322 [3702] [29013
＊[訂正]内藤水翟「美術的方面に於ける基督教の感化」(希臘歌曲、希臘繪畫等) 六合雜誌 322 [3705] [29014
批評「淺野和三郎「英文學史」」帝國文學 13-7 [29015
批評「マクス・ミュラ/金澤庄三郎・後藤朝太郎譯「言語學(下)」」 帝國文學 13-7 [29016
批評「マクス・ミュラ/金澤庄三郎・後藤朝太郎譯「言語學(下)」再錄」 帝國文學 13-8 [29017
評論及彙報「教科書以外の讀みもの------ 小說「經國美談、イソップ物語」」、 歷史地理 10-3 [29018
(參考：評論及彙報「中等教員豫備試驗問題中」、歷史地理 10-3 [29019
------- 西洋史：「三、左の人々の事蹟(乙)ミケランジェロ」)
沙木菴「シェレーを愛す」校友會雜誌(第一高等學校)164 [29020
埋草「Shelley,rosalind &Helena」校友會雜誌(第一高等學校)164 [29021
埋草「Shelley」校友會雜誌(第一高等學校)169 [29022
埋草「ゲーテ」校友會雜誌(第一高等學校)172 [29023
上田敏譯「ダンテ詩選」家庭文藝 1-1 [29024
上田敏譯「ありとあらゆるわが思」明星 1 月號 [29025
上田敏譯「歌よ、ねがふは」藝苑 2-1 [29026
上田敏譯「よそ人のあざむが如く」藝苑 2-3 [29027
上田敏「中世文學」藝苑 2-5 [29028
ケーベル博士「日本音樂」趣味 3-1 [29029
畔柳芥舟「比較文學」新小說 12-3,4,5 [29030
新村出「伊會保物語の校訂の後に」藝文 7 月號 [29031
時評・時評子「沙翁の花園」新聲 16-2 [29032
加藤漆花「ロマンチック・ムーブメント---ダンテの復活、佛蘭西ロマンチシズム

の魁」新聲 16-3,4,6 [29033
新刊紹介「淺野和三郎「英文學史」」新聲 16-6 [29034
(故)河井咀華「拂榻錄」(アレキサンダー、ホーマー、ゲーテ、シルレル、バイロン等)新聲 17-1 [29035
吉田碧寥「闇黑なる文壇」(ホーマー、セクスピア等)新聲 17-1 [29036
新刊紹介「小松月陵譯「沙翁物語十種」」(ラム著)新聲 18-2 [29037
なにがし「ワグネルの樂劇」(プラトー、ゲーテ、ニエチェ等)新聲 18-6 [29038
(?)「ラスキンの青春時代」中學世界 1 [29039
(?)「革命詩人シェレー」中學世界 2 [29040
晩潮生譯「ゲーテ清談抄」獨逸語學雜誌 5 月號 [29041
三井甲之「歡迎喜劇」アカネ 2 月號 [29042
(在布哇)山口生「文學の研究」(ゲーテ、バイロン等)基督敎新聞 1220(1/17) [29043
讀者欄「エス・ライナック「アポロ」」(一名、繪入古今美術史畧) 基督敎新聞 1264(11/21) [29044
新刊批評「言語學・上巻」(金澤庄三郎・後藤朝太郎共譯)萬朝報 4840(2/13)[29045
新刊批評「世界文學史」(橋本忠夫著) 萬朝報 4842(2/15) [29046
新刊批評「文藝講話」(上田敏著) 萬朝報 4925(5/9) [29047
言論・掬汀生「美術界の悲劇」(ペリクレース時代のファイデアス等) 萬朝報 4963(6/16) [29048
新刊批評「艶美の悲劇詩人パシリナ」(木村鷹太郎譯) 萬朝報 4988(7/11) [29049
新刊批評「グラッドストーン言行錄」(平瀨龍吉著) 萬朝報 5081(10/12) [29050
言論・素堂「藝術卽僞說(上)」(プレトー等) 萬朝報 5097(10/28) [29051
新宿浪人「高等學校と外國語」(希臘拉丁語等) 東京朝日新聞 8/14 [29052
新刊雜書「新譯・伊蘇普物語」(上田萬年解說) 東京朝日新聞 12/1 [29053
E.③(參考：敎界「組合敎會敎役者修養會執行順序」、基督敎新聞 1229(3/21) [29054
----- 浮田和民「社會理想の進化」[4/1,4/2])
論說・浮田和民「社會理想の進化(1)(2)」(プラトンの「ダイアーログズ」、聖オーガスチンの「神の國」) 基督敎新聞 1233(4/18),1235(5/2) [29055
④雜錄・飯田堯一譯「宗敎起原論」(アラーン・メンジース「ヒストリー・オブ・レリジョン」第 2 章「メーン「古代法典」」等) 東洋哲學 14-6 [29056
質疑應答・問「死刑存廢に關し宗敎上より觀察せる可否の解答を乞ふ」/答「アクイノの聖トマ」聲 374 [29057
牧野虎次「加藤[弘之]博士の新著「吾國體と基督敎」を讀む」(フムボルト等) 基督敎新聞 1255(9/19) [29058
F.②柳茂安『羅馬敎皇とガリレオ』
③竹本正文・渡邊撫松「物理學史概要(1)」(ぎりしあ時代あるきめです、ゆーくりっと、羅馬時代ねろ王等)東京物理學校雜誌 183 [29059
今川一講演/橋本八年筆記「化學史一斑」(希臘ノ哲學者ノ Atom 說等) 東京物理學校雜誌 193 [29060

月城子「自然の威力」(ヴェスビアスの大噴火等)聲 383 [29061
學術「古代の錬金術と將來の化學」聲 384 [29062
文苑「古代希臘の女子の體育」女子教育 5-12 [29063
袋惠須生「疾病と道德」(シーザー等) 萬朝報 4911(4/25) [29064
④桑木彧雄「物理學總論再版ノ序」(ありすとてれす等)東京物理學校雜誌 190[29065
學海餘瀝「動物の壽命」(アリストテレース等)聲 384 [29066
SY 生「生命の起原」(アリストテレス等)聲 385 [29067
G. 清水澄著/郭開文・張春濤漢譯『法律經濟辭典』 [29068
渡邊萬藏編『法律語彙----和英獨對譯』 [29069
金澤庄三郎編『辭林』 [29070
三餘學寮編『西洋歷史辭典』 [29071
阿部賓夫、清水如水編、平山松治校補『藥劑辭典』 [29072
新刊批評「教育大辭書・第一册」(同文舘版)萬朝報 4834(2/7) [29073
新刊雜書「教育大辭典」(第一册、同文舘版)東京朝日新聞 2/17 [29074
新刊雜書「子ルソン百科全書」(丸善賣出、The Nelson's Encyclopaedia)
東京朝日新聞 6/27 [29075
新村出「イソプ、イソホ」(「日本百科辭典」[三省堂]第 1 册中) [29076

明４１(１９０８)

A. ＊[訂正]澤柳政太郎『學修法』(←明 42.A.) [3904] [29077
戸川秋骨『歐米記遊二萬三千哩』 [29078
山田寅之助『羅馬觀光記』 [29079
ドワルト・レゼー『道德と文明』 [29080
芳賀矢一『國民性十講』(3 訂版) [29801
相馬御風譯「ヴェニスの春」(ツルゲーネフ「その前夜」)ハガキ文學 3 月號
[29082
在獨・佐藤生「南歐旅行記」法律新聞 512 [29083
楚特派「伊太利日記」(羅馬の古跡、ポムペイの遺跡等)
東京朝日新聞 6/22,6/23 [29084
(杉村)楚人冠「伊國鴻爪(4)(5)(6)」(「月のコロシアム」、ギボン、古羅馬の曉等)
東京朝日新聞 10/2,10/3,10/4 [29085
(杉村)楚人冠「(續)伊國鴻爪(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7)(8)(9)」(「ポムペイの埋没」「ポムペイの昔」「ポムペイの市街」「ポムペイの家々」「ポムペイの秘密」「ポムペイの浴場」「ポムペイのフォーラム」「ポムペイの選擧運動」「ポムペイの劇場」) 東京朝日新聞 11/8,11/9.11/10, 11/11,11/12,11/13, 11/15,11/17, 11/18 [29086
志賀重昂「半島と人文」(ギリシア・ローマの文化等)地學論叢 3 [29987
(參考：評論及彙報「東京帝國大學文科大學史學科の新講義」、歷史地理 12-3
西洋史概說(箕作)、ギリシア文化史・ローマ史(村川)、發見時代史(村上))
[29088

(參考：評論及彙報「東京帝國大學文科大學史學科の新講義」、歷史地理 12-4
史學研究法(内田)、西洋史概論(坂口)、西洋中世史講讀(坂口)、西洋史特別講讀及演習(坂口)、地理學史及文明地理學(石橋)、國際法(末廣))[29089
(參考：彙報「東洋大學の新學年」、東洋哲學 15-5 [29090
認識論(今福)、西洋哲學史(得能)、心理學(高島)、美學(瀧村)、教育史(立柄)、教育史(田中)、倫理學・西洋倫理學史（中島）、言語學（藤岡）、論理學・哲學概論(紀平)、教育學（溝淵）)
大槻茂雄『磐溪事略』(非賣品。清修如電口授、清復文彦補言、孫/茂雄・正二・清三謹記) [29091
新刊「山田寅之助「羅馬觀光記」」基督教新聞 1281(3/19) [29092
(參考：「東京---東京神學社、來學年の課目」、基督教新聞 1304(8/27) [29093
・第一學年：哲學概論及哲學史、基督教史、希臘語
・第二學年：哲學概論及哲學史、基督教史(前期)、原始基督教(後期)、希臘語
・第三學年：基督教教理史、希臘語）
海老名[彈正]生「羅馬より」基督教新聞 1310(10/8) [29094
(參考：教界「東京---新教神學校講義科目」、基督教新聞 1311(10/15) [29095
-----ケーベル博士「哲學概論」、波多野精一氏「哲學史」、海老名彈正氏「原始基督教」）
(參考：教界「神戸---神戸神學校」、基督教新聞 1314(11/5) [29096
----- マイヤス牧師「基督教、教會歷史、希臘語」）
B.①「シセロの言」(p.341)六合雜誌 328 [29097
「セ子カの言」(p.667) 六合雜誌 334 [29098
②＊[訂正]松村正一『西洋倫理學說批評』 [3741] [29099
北澤定吉『論理學講義』 [29100
岡村司『思想小史』(「ルーソーの懺悔錄を讀む」等) [29101
文藝協會編『最新思想講話』 [29102
水島行揚『守護天使の事』(訂 2 版。←明 32 初版) [29103
露無文治『基督教本原眞理』 [29104
高木壬太郎『基督教安心論』 [29105
宮崎八百吉譯『アウガスチン懺悔錄』(再版) [29106
宮崎八百吉『基督教大系』 [29107
星野光多『耶蘇之三大觀』(→大 3,再版) [29108
星野光多『基督教通觀----一名、聖日の友』 [29109
ヒルス/鈴鹿正一譯『萬民之福音』 [29110
水島行揚『福音略話』(通俗正教傳道叢書) [29111
アルフィアス・ダブリュー・ウ井ルソン/松本益吉譯『保羅[パウロ]の神學』 [29112
ヂョーヂ・アダム・スミス/吉田脩夫譯『神興の流れ』(近世講壇叢書 6) [29113
新渡戸稻造/櫻井鷗村譯『武士道』(ブルータス、ポリビウス、コンスタンチヌス帝、ソクラテス、カトー、ブルータス、ブルータス、ペトロニウス等) [29114

乙竹岩造『實驗教育學』(2 巻)（プラトー氏の説、ローマの教育實質説等）[29115
松本雲舟(赳)『ルーテル言行錄』(偉人研究 12) [29116
渡邊芳雄『ラスキン言行錄』 [29117
伊藤銀月(銀二)『偉人達人』 [29118
西洞たみの譯編『偉人に及ぼせる婦人の感化』 [29119
高橋五郎譯『ベーコン論説集』(→明 45・10 版) [29120
③(參考：惟一舘記事、六合雜誌 328 [29121
廣井辰太郎「人間の四大發見(3/22)」(アリストートルへの打撃等)）
朝永三十郎「懷疑思想に付いて」(ソークラテース、ソフィスト、ピュローン、セクストス・エムピリクス等)教育學術界 17-1 [29122
「スパルタの教育人體美の由來」法律新聞 484,485,486 [29123
内外思潮「藤井健次郎「ソクラテスの使命」」(2 月 16 日、丁倫會席上講演の大略)
東洋哲學 15-3 [29124
(參考：報道「丁西倫理講演會」（藤井健次郎「ソクラテスの使命」）
東洋哲學 15-3 [29125
熊本謙二郎「新式譯註・スパアタの教育」英語世界 2-12(11?) [29126
思潮「ソクラテスの使命」(丁酉倫理會講演集、藤井健次郎氏講演)
獨立評論 6-5 [29127
植村正久「聖アウグスティヌス悔悛の由來」福音新報 655(1/16) [29128
教界彙報「宮津通信」(藤田勝美「アリストテレスの人間生活の本元は物覺の外にありといふ説」）聲 394 [29129
柳茂安「基督教初代三世紀間の公教信徒史(9)(10)」(羅馬皇帝アドリアヌス、フィローン、グノスチック説等)聲 395,396 [29130
山の行者「各時代の聖人(2)」(トラジャン皇帝、アレキサンドル大王等)
聲 396 [29131
論説・松本益吉「希臘化せられたる基督教」基督教新聞 1305(9/3) [29132
④＊[訂正]堀田相爾「系統的西洋教育史を讀む」(田中義能著)東亞之光 3-6
[3797] [29133
＊[訂正]新刊「松村正一「西洋倫理學説批評」」丁酉倫理會倫理講演集 73
[3841] [29134
雜錄・一讀一抄「美の要素としての道德」(ソフォクリース、アリストートル等)
六合雜誌 331 [29135
雜錄・一讀一抄「永生と善行」(グリーキ、ラテン語等) 六合雜誌 334 [29136
教界思潮「加藤玄智「自然主義と修養」(宗教界 7,8 月號)」(デモクリトス、ソクラテース、ストア哲學者等)聲 394 [29137
教界思潮「横井時雄「我國德育の前途」(丁酉倫理講演集 72 號)」(ヂョーエット「プレート」等)聲 395 [29138
批評「モリス・ブロック/前田越嶺譯「偉人の母」」(アウグスチヌス等)
帝國文學 14-10 [29139
筑紫次郎「和辻哲郎君に贈る書」校友會雜誌(第一高等學校)175 [29140
埋草「エマーソン」校友會雜誌(第一高等學校)176 [29141
中島力造「倫理研究と實踐道德」(ソクラテース等) 東洋哲學 15-1 [29142

雜錄・井上圓了「古人崇拜と余の志望」(四聖堂｢世界的｣/西洋古代/ソクラテス)
東洋哲學 15-1 [29143
内外思潮「ケーベル博士「汎神論」」（「最近思想と基督教」）
東洋哲學 15-1 [29144
内外思潮「神田左京「自然派と理想派との戀愛觀」」（｢人性の研究｣。プラトーン等）東洋哲學 15-1 [29145
新刊「ケーベル・深田康算・小崎弘道・海老名彈正氏講演「最近思想と基督教」」
東洋哲學 15-1 [29146
紀平正美「觀念論に就て」(アリストテレース、プラトーン、ソークラテース、エピクレス學派、ストア學派等) 東洋哲學 15-1 [29147
藤井健治郎「道德的懷疑說批評」(ヒッピアス、カリクレス、ツラシマコス、ポロス、ゴルギアス、アリストートル、ピウロン、セクスト・エムピリクス、プロタゴラス、ゴルギアス、ペリクレス等) 東洋哲學 15-2 [29148
松村正一「快樂說に就て」(ソクラテス、アリスチッパス、エピキュラス等)
東洋哲學 15-2 [29149
小林一郎「哲學者は何を爲す者か」（アリストテレス、ヘーゲル等）
東洋哲學 15-3,4,6 [29150
飯田堯一譯「精神生活に於ける宗教の地位」(イオニヤ學派、ホーマー、ヘシオット等) 東洋哲學 15-4 [29151
新刊「ドイシャン/井上圓了譯「純正哲學」」東洋哲學 15-4 [29152
新刊「松村正一「西洋倫理學說批評」」東洋哲學 15-11 [29153
新刊「中島德藏氏述「解說批評・倫理學原論」」(ファイト著)
東洋哲學 15-11 [29154
上田解牛「天を論ず」(ソクラテース、ストア學徒等) 東洋哲學 15-12 [29155
社說「クリスチャン道德の偉大」(ニーツェズム等) 基督教新聞 1274(1/30)[29156
想苑・適流生「W.J.ジャップ氏の「自然の宗教」を讀む」(プラトー等)
基督教新聞 1274(1/30) [29157
新刊「宮崎八百吉譯「アウガスチン懺悔錄」」基督教新聞 1275(2/6) [29158
(參考：教界「東京」(本郷教會)、基督教新聞 1276(2/13) [29159
----- (2/9)海老名彈正說教「基督の自然主義」[エピクリアス、ストイック等])
社說「基督教夫れ自身の理想」(オーガスチン等) 基督教新聞 1277(2/20) [29160
宮崎八百吉「愚譯「[アウガスチン]懺悔錄に就て」」基督教新聞 1278(2/27)[29161
教壇・海老名彈正「救の靈能(下)」(ギリシヤ人、ローマ人等)
基督教新聞 1279(3/5) [29162
溪鹿生「卿等の先決問題とは何ぞや」(アリストテレスの倫理書等)
基督教新聞 1282(3/26) [29163
論壇・渡瀨恒吉「植村[正久]氏一流の神學說を論じ兼ねて基督の宗教意識に及ぶ(1)(2)」(オウゴスチン、ソクラテス、ゲーテ等)
基督教新聞 1284(4/9),1287(4/30) [29164
神學評論「チ・トム氏「救拯論」[福音新報]」(アウグスチン等)
基督教新聞 1287(5/7) [29165

オーグスト・サバチエー/加藤直士譯「現代宗教思想に於ける贖罪論(4)」(先哲プラトー等) 基督教新聞 1291(5/28) [29166
講壇・安部磯雄「理想の人」(フムボルト、バイロン、ニイチェ等)
基督教新聞 1292(6/4) [29167
南陽生「德教の解體期」(ギリーキ・ローマ憲政等) 基督教新聞 1292(6/4) [29168
社說「我國民性と個人の價値」(アウガスチン等) 基督教新聞 1294(6/18) [29169
海外時觀「ミューアヘッド教授の「教育の要素としての宗教」」(プラトー、アリストートル等) 基督教新聞 1294(6/18) [29170
ブローニング夫人/羊舟譯「快樂の悲感」(グリーキ等)
基督教新聞 1294(6/18) [29171
(參考：教界「東京」(本郷教會)、基督教新聞 1294(6/18) [29172
----- (6/14)野口牧師講演「理想的基督者の教養」(エピクリアン、オーゴスチン等))
社說「國家以上の權威---有賀[長雄]法學博士の「日本國民の精神上の疑問」を讀む」(ストア派等) 基督教新聞 1296(7/2) [29173
教壇・小崎弘道「躬行實踐」(ギボンの羅馬史等) 基督教新聞 1296(7/2) [29174
内田芳夢「三種の人生觀」(エピキュリアン、ストイク等)
基督教新聞 1296(7/2) [29175
加藤直士「靈魂の不滅に就て」(ダンテ、ゲーテ、シルレル等)
基督教新聞 1299(7/23) [29176
ヂョーヂ・エー・ゴルドン博士「眞理の進歩的顯現(中)」(ホーマー、イリアド、オデシー、プラトー、アリストートル等)
基督教新聞 1304(8/27) [29177
雜誌の雜誌「人格的唯心論とは何ぞや」(北澤定吉・丁西倫理講演集 8 月號、プラトン、プロティノス等) 基督教新聞 1304(8/27) [29178
教壇・杉田潮「眞正の偉人」(ダイオゼニス等) 基督教新聞 1307(9/17) [29179
日曜學校欄・石野爲之助「教育と宗教に就て」(希臘羅馬の德育、スパルタンのビスゴラス等) 基督教新聞 1307(9/17) [29180
教壇・宮川經輝「孔子教再興を評す」(アリストートル、ソクラテス等)
基督教新聞 1311(10/15) [29181
新刊「元田作之進「宇宙の心」」基督教新聞 1312(10/22)
基督教新聞 1313(10/29) [29182
高木壬太郎「我國に於ける將來の基督教」(希臘拉典語等)
基督教新聞 1313(10/29) [29183
社說「一國教化の新事例(上)(中)」(羅馬帝國、コンスタンチン大帝等)
基督教新聞 1313(10/29),1314(11/5) [29184
社說「イエスの傳道的見識」(ギリシヤ人等) 基督教新聞 1316(11/19) [29185
教壇・山室軍平「祈禱」(オーゴスチン、母モニカ等)
基督教新聞 1316(11/19) [29186
加藤直士「書齋漫錄(1)」(「ヘーゲル哲學と人格」等)
基督教新聞 1316(11/19) [29187
講演・日野眞澄「神學の二方面(1)」(古代地動論、デモクリトス等)

基督教新聞 1317(11/26),1318(12/3) [29188
社說「否定と肯定」(聖オーガスチン等) 基督教新聞 1318(12/10) [29189
社說「精神界の風潮」(ソークラテス、プラトン等) 基督教新聞 1319(12/19) [29190
言論「美の要素としての道德」(ソフォクリースの劇詩オーヂパス、アリストートル等) 萬朝報 5335(6/22) [29191
武田豐四郎氏談「七福神(7)」(希臘アテーネー女神、羅馬ミ子ルワ女神等) 東京朝日新聞 1/9 [29192
新刊書籍「倫理學講義」(北澤定吉著) 東京朝日新聞 3/18 [29193
新刊書籍「アリストテレス倫理學」(附・ア氏倫理學筌蹄。元田作之助・高橋正雄) 東京朝日新聞 4/27 [29194
新刊雜書「大死生觀」(加藤咄堂著) 東京朝日新聞 12/25 [29195
岡村愛藏「スマイルス氏品性論講義」中外英字新聞 15-1,2,4,6 [29196
朝永文學士「シュライエルマッヘルの宗教論」活人 2 [29197
鶴田理學博士譯「「自助論」の著者スマイレス翁自傳」東西南北 3 號 [29198
增田八風「ニイチェの生活」アカネ 1 月號 [29199
靜思「生命哲學」(ヘーゲル、シュライエルマヘル、エメルソン等) 獨立評論 6-4 [29200
思潮「品性陶冶の可能なるや否や」(ソクラテス、ヘーゲル、グリーン等) 獨立評論 6-6 [29201
思潮「何ぞ進みて自ら取らざる」(トレジャン帝、ハドリアン帝、マーカス・オーレリアス帝、ジリアン帝等) 獨立評論 6-7 [29202
「莊子論----國松甕谷先生の莊子考を讀む」(プラトー、シセロ、セ子カ、プリニー等) 獨立評論 6-8 [29203
C.①「デモセニスの言」(p.341)六合雜誌 328 [29204
②マクス・オレル/正木照藏譯『ジョンブル---又名、英吉利氣質』 [29205
ボーカス編『耶蘇一代記』(←明 35 初版) [298206
エッチ・リンドストロム、堀江議作編『イエスキリストは誰か』 [29207
松本雲舟(赳)編著『基督』 [29208
リウィス・ワレース/宮田了山譯『ベテレヘムの厩』 [29209
ルマレシャル著『基督之超人格』 [29210
小崎弘道『基督之復活』 [29211
宮川經輝『基督の處世訓』 [29212
③佐伯好郎「太秦(禹豆麻佐)を論ず」(羅馬)歷史地理 11-1 [29213
村川堅固「百門の都」(羅馬)歷史地理 11-1 [29124
(參考：評論及彙報「第廿二回文部省中等教員檢定試驗問題中」、歷史地理 11-3
----- 歷史・西洋史「二、レパント(Lepanto)海戰の原因及び結果」
「三、左の人々の事蹟(甲)アンタルキダス」) [29215
「オリーブに就ての話」少女の友 3 [29216
弘城生「教の華(8)」(コンスタンチン帝、デオクレチアン帝等)聲 393 [29217
想苑・安部清藏「耶蘇受難の義」(ソクラテス等) 基督教新聞 1287(4/30) [29218
(參考：教界「同志社夏期神學校」、基督教新聞 1292(6/4) [29219

----- 原田助講義「基督教初代史」）
④談叢「一家族蔦欄に住居す」(ダイヲジェニーズ、アレキサンダー大王等)
六合雜誌 331 [29220
雜錄・無方子「道草の記(承前)」(ダイオジニヤス、大王アレキサンダー等)
六合雜誌 331 [29221
石巻良夫「分業論」(ヘラクリトス、アリストテレス等) 六合雜誌 336 [29222
書評「村川堅固「中等西洋歷史(全)」」史學雜誌 219 [29223
書評「高桑駒吉「新撰・西洋通史(古代史)」」史學雜誌 223 [29224
書評「波多野精一「基督教の起源」」史學雜誌 229 [29225
書評「木村重次「西洋史眼」」史學雜誌 229 [29226
批評「波多野精一「基督教の起源」」帝國文學 14-11 [29227
新刊「村川堅固「中等西洋歷史」」歷史地理 11-2 [29228
新刊「磯田良・關榮三郎「新編・西洋史」」歷史地理 11-3 [29229
阿部秀助「古代史研究の方法に就きて」(ニーブル等)歷史地理 12-3 [29230
「酒の害」(マセドニヤ王フ井リップ)ときのこゑ 10/1 [29231
新刊「松本雲舟譯「何處に往く」(前編)」(クオヴヂス)基督教新聞 1271(1/9)
[29232
新刊「松浦政泰編「世界遊戲法大全」」基督教新聞 1278(2/27) [29233
新刊「シェンエ井ッチ/松本雲舟譯「何處に往く」(後編)」
基督教新聞 1288(5/7) [29234
新刊「波多野精一「基督教の起源」」基督教新聞 1312(10/22) [29235
新刊批評「何處に往く(前編)」(シュンキヴィッチ/松本雲舟譯)
萬朝報 5167(1/6) [29236
新刊批評「雄辯法」(加藤咄堂著)萬朝報 5280(4/28) [29237
朝報「七十歲以上の事業家」(ソクラテス、プルターク、ケートー、ゲーテ、グロート等) 萬朝報 5306(5/24) [29238
D.①牧野虎次『舊新約全書』 [29239
大宮季貞編『對觀四福音書』 [29240
宮崎八百吉『希伯來[ヘブル]書----新約聖書私譯』 [29241
ラルネデ述/大宮季貞記『保羅[パウロ]小書簡講解』(2 册、上卷：加拉太書講解、以弗所書講解、腓立比書講解/下卷：哥羅西書講解、帖撒羅尼迦前書講解、帖撒羅尼迦後書講解、牧會的書簡---提摩太前書講解、提摩太後書講解、提多書講解、腓利門書講解) [29242
エフ・ジー・ハリングトン著『馬太[マタイ]傳註解』(馬太傳福音書) [29243
ジ・ダブリュ・フルトン著『馬可[マコ]傳』(馬可傳ときあかし) [29244
②根岸道(機峯)『聖書研究攬要----附・名士之面影』 [29245
山鹿旗之進『福音書の著者』(基督教叢書) [29246
柏井園『ヨハネ傳研究』(第 1-5 卷 5 册。→明 42) [29247
蘆田慶治『羅馬書講義』 [29248
渡邊芳雄譯『ラスキン言行錄』 [29249
一戸櫻外『毛利元就』(イソップ) [29250

高橋五郎譯『ベーコン論說集』(Essays) [29251
内村達三郎譯『ミルトン失樂園---- 始祖夫婦純愛之巻』 [29252
リットン/抱花生譯『愛國小說・魔法修業者』(?) [29253
イジドール・シャロン著『語學研究ノ秘訣』 [29254
③(參考：彙報「東洋大學學業試驗---美學：「二、悲劇の意義」」、
東洋哲學 15-4 [29255
木村鷹太郎「プラトンの文藝觀」絶叫(正岡藝陽主筆)7 [29256
④＊[訂正・削除]~~ダブリュー・スパー「古代人ノ有セシ色ノ感覺」人性 4-4~~
(→F.④) [3871] [29257
批評「上田萬年解說「新譯・伊蘇普物語」」帝國文學 14-3 [29258
批評「高橋龍雄「世界文字學」」帝國文學 14-4 [29259
小林愛雄譯「オスカー・ワイルド詞華」(「伊太利ちかく」) 帝國文學 14-8[29260
立澤剛「シルレルの思想」校友會雜誌(第一高等學校)181 [29261
晶川「ゲエテ小曲五篇」校友會雜誌(第一高等學校)182 [29262
新刊紹介「生田長江「外國文學研究法」」新聲 19-6 [29263
新刊紹介「渡邊芳雄譯「ラスキン言行錄」」新聲 19-6 [29264
ケーベル博士「日本の文藝と著述」趣味 3-4 [29265
内外思潮「ケーベル博士「自然主義は時代遲れ」」(「趣味」?號)
東洋哲學 15-5 [29266
雜纂・堀由藏「明治文藝史料(2)」（明 4 年 10 月上旬「新聞雜誌」17 號。箕作大六[菊池大麓]のラテン語、ギリシヤ語）東洋哲學 15-9 [29267
想苑・金子白夢「加藤直士君の「文藝と宗教」を讀む」基督教新聞 1272(1/16),
1273(1/23) [29268
(上州安中)根岸橘三郎「加藤直士君の「文藝と宗教」を讀む」
基督教新聞 1288(5/7) [29269
想苑・白夢生「西詩に現はれたる夕暮れの歌を讀みて」(キーツ、マシュウー・アーノルド等) 基督教新聞 1301(8/27) [29270
浦江「わが室」(ダンテの神曲等) 基督教新聞 1308(9/24) [29271
雜錄・(紐育)油谷治郎七「ヘボン博士と語學(上)(下)」
基督教新聞 1313(10/29),1314(11/5) [29272
新刊批評「世界文字學」(高橋龍雄著) 萬朝報 5225(3/4) [29273
「獨逸中等の教育」(長井博士談。希臘・羅甸語等) 東京朝日新聞 4/13,4/15
[29274
新刊書籍「イソップ話」(小波遠三著) 東京朝日新聞 4/26 [29275
島崎藤村譯「湧き返れ」(聯載「春」第 28 回。バイロン「Childe Harold」)
東京朝日新聞 4/? [29276
川田鐵彌「獨逸學校參觀記(續)」(希臘語、拉丁語等) 東京朝日新聞 7/1 [29277
田中喜一「我が國民性の立場よりクラッシシズムの意義を論ず」
新小說 13-9,10 [29278
E.②細川潤次郎譯『法律格言』(ラテン語併記) [29279
前橋孝義『世界商業史』 [29280
③春木一郎「Digesta 中ニ於ケル emblemata Triboniani」京都法學會雜誌 3-11 [29281

春木一郎「Digesta 中ニ於ケル emblemata Triboniani ヲ發見スルノ方法」
京都法學會雜誌 3-12 [29282
④「穂積陳重教授演說---平和會議の沿原」(希臘アンフィクチオン同盟等)
東京朝日新聞 3/31 [29283
一記者「基督信徒と商業」(福田德三「經濟學研究」第一篇、聖トマス等)
聲 391 [29284
F.③あるふれっど・べーか一述/三上義夫譯「幾何學ノ基礎ニ就キテ」(ゆーくりつと、あるきめですノ公理等)東京物理學校雜誌 195 [29285
刈谷他人次郎「數學的觀念ノ發達ニ就テ」(ゆうくりつと等)
東京物理學校雜誌 205 [29286
柳原吉次「ピタゴラスの定理」數學世界 15 [29287
質疑應答「西曆紀元に就て」(テベリウス帝、オーグスト皇帝等)聲 391 [29288
④＊[訂正]ダヴリュー・スパー述・A.Y.抄「古代人ノ有セル色ノ感覺」(ペリクレス、ポリグノトス、エムペドクレス、ルクレチウス、アリストテレース等)
人性 4-4(←D.④) [3871] [29289
雜錄「學海餘瀝----地球非冷却說」(プラトー、アリストートル等)
六合雜誌 325 [29290
富士川游「歷史地理的病理學」(ヒポクラテス)歷史地理 11-1 [29291
學術・龍門生「地球以外の天體に於ける人類棲息の有無」(ピタゴラス、リュークレース等)聲 396[p.16「詩人にして哲學者なりしリュークレースは生命の萌芽が宇宙間に散在すること及び他の地球や他の人類動物の存在することを歌つた。」]
[29292
G. 富山房『國民百科辭典』 [29293
北村松之助編『西洋歷史新辭典』 [29294
青木隆編・豐島直通閲『法律經濟熟語辭典』 [29295
新刊批評「藥劑辭典」(阿部賓夫、清水如水編、平山松治校補)
萬朝報 5221(3/4) [29296
新刊雜書「醫學大辭書出づ」(全 2 册、同文舘) 東京朝日新聞 10/8 [29297

明４２(１９０９)
A. ＊[訂正・削除] ~~澤柳政太郎『學修法』~~ (→明 41.A) [3904] [29298
小林一郎譯『らすきん氏讀書論』 [29299
坪谷水哉『世界漫遊案内』 [29300
小田内通敏『歐羅巴---趣味及地理』 [29301
マックス・オレル/鐵耕塾同人譯「倫敦觀察」文庫 4 月號 [29302
マックス・オレル/鐵耕塾同人譯「旅行奇談」文庫 6 月號 [29303
姉崎正治氏談「友邦伊太利(2)」(「學術國としての伊太利」)
東京朝日新聞 1/9 [29304
大森房吉「友邦伊太利(3)」(ベスビアス火山、ポムペイ) 東京朝日新聞 1/12[29305

藪野椋十「世界見物(85)(90)」(羅馬の郊外、幽霊町[ポムペイ])
東京朝日新聞 8/5,8/10 [29306
藪野椋十「ポムペイの寫眞一葉・別掲」東京朝日新聞 8/10 [29307
答問・菊池研介(福島)「第 24 問、蘭學の始て渡來せし以來、我國に於ける其現狀等を詳知すべき參考書類」(答、妻木)歴史地理 13-2 [29308
(參考：彙報「東京帝國大學文科大學史學科の新講義」、歴史地理 14-4 [29309
史學概論(坪井)、西洋史概說(箕作)、西洋海事史(箕作)、西洋古代人文史(ギリシア以前、村川) 、ローマ史(村川)/副科目---宗教史概論(姉崎)、教育學史(林)、西洋倫理學史(吉田))
(參考：彙報「京都帝國大學文科大學史學科の新講義」、歴史地理 14-4 [29310
史學概論(内田)、東西交通史(桑原)、西洋史概說(原)、西洋史演習(原))
(參考：彙報「東洋大學の新學年」、東洋哲學 16-5 [29311
認識論・論理學・哲學概論(今福)、西洋哲學史(得能)、心理學(高島)、美學(瀧村)、教育史(立柄)、教育史(田中)、教育學(田中)、倫理學・西洋倫理史(中島)、言語學(藤岡))
高村光太郎「伊太利より」常磐樹 1 [29312
寺田寅彦「墺斯利と伊太利」(日記 12/21～1/2。→明 43 年。1999 年刊全集第 9 巻中) [29313
新刊「澤柳政太郎「學修法」」丁酉倫理會倫理講演集 77 [29314
中島德藏「澤柳文學士の「學修法」を讀む」(ソクラチーズ等)
丁酉倫理會倫理講演集 77 [29315
泰西思潮「希臘文明の淵源」(D.G.Hogarth) 丁酉倫理會倫理講演集 77 [29316
加藤直士「書齋漫錄(20)」(エリオット五呎文庫中、プラトーの著三種、エピクテトス金言集、マーカス・オーレリアス瞑想錄、オーガスチンの自敍傳、プルータク英雄傳、シセロ及プリニーの書簡集、ダンテの神曲等) 基督教新聞 1357(9/9)[29317
(參考：教界「京都擴張傳道」、基督教新聞 1371(12/16) [29318
----- 牧野牧師「京都市民と基督」[ギリシヤ・ローマ國民等])
B.②ヂョルヂ・ヂー・ペリー/細貝邦太郎譯『基督教師父傳』 [29319
マクス・ミュラー/清水友次郎譯『宗教學綱要』 [29320
村田勤(素軒)『宗教改革史』 [29321
浮田和民『倫理的帝國主義』 [29322
澤柳政太郎『退耕錄』(「西洋第一の書」[エピクテータス]、「清澤滿之」)[29323
カーライル/土井晩翠(林吉)譯『鬼臭先生・衣裳哲學』 [29324
金子馬治述『西洋近世思潮』(早稻田大學四十二年年度文學科第二學講義錄) [29325
加藤咄堂『大死生觀』 [29326
有馬純清『福音の眞髓』(傳道叢書) [29327
柏木義圓『運命と信仰』(傳道叢書) [29328
衛生新報社編輯部編『世界三聖青年時代』 [29329
シドニー・ギュリック著『獨逸神學略史』 [29330
③＊[訂正・削除]~~シェーフィル「復活ソクラテスの通俗精神病學」人性 5-1-~~

(→B.④)　[3924]　[29331
＊[訂正]安藤州一「ソクラテスの教訓」精神界 9-1,2,3,4,5　[3931]　[29332
山の行者「各時代の聖人」(ストイック派、アリストートル、プラトン派、マルクス・アウレリウス等)聲 401　[29333
(參考：教界「京都----同志社教會」、基督教新聞 1339(5/6)　[29334
----- 武田牧師「ソクラテスの性格、學識、信仰についての畧述」）
吉井勇「パンの鬚」スバル 11　[29335
澁江羽化「ソクラテスの側面觀」陽明學 7　[29336
(參考：「本會記事---田中喜一「自由思想家の倫理觀」」、
丁酉倫理會倫理講演集 86　[29337
田中喜一「自由思想家の倫理觀」(プレトー等) 丁酉倫理會倫理講演集 88　[29338
應問・山口生(東京)[第 33 回文部省修身科本試驗問題解答]、
丁酉倫理會倫理講演集 88　[29339
-----問「三、儒教の中庸說とアリストテレスの中庸說を比較せよ」
答「アリストートルのは感情や動作の兩極端の中庸で、其の中庸も絶對的ではなく、相對的で、丁度兩極端の眞中ではなく、時と場所に從ふて動くもの」
問「五、ストア派の倫理說とエピクルス派の倫理說との異同如何」
答「理論上では、理性說(又た唯理論)と快樂說、世界主義と個人主義の大相異であるが、實際上ストア派の冷擔(エパージー)も、エピキュラスの無苦痛(アタラキシー)も、積極的快樂を拒けた點は殆ど一致する所に注意したなら可らう。此れも倫理學史上の問題である。
史論「古典の片影」(プラトー、アリストテレス、デモクリタス、ストア學派等)
獨立評論 8-5　[29340
④＊[訂正]新著「(シェーフィル)復活ソクラーテスの通俗精神病學」(H.Schäfer, Populäre Psychiatire des Socrates redivus, 1907)
人性 5-1(←B.③)　[3924]　[29341
＊[訂正・削除]新刊書「浮田和民「倫理的的帝國主義」」
東京日々新聞 11/20　[29342
雜錄・一讀一抄「靈的經驗は迷信に非ず」(ソクラテス等) 六合雜誌 337　[29343
内ケ崎作三郎「神と人」(ゲーテ、アリストートル、プラトー等)
六合雜誌 338　[29344
中島德藏「吾人は教權を戴かんか」(ギリシヤの神ピクレサオス、ソクラテース等)
六合雜誌 338　[29345
雜錄・一讀一抄「學問と精神の修養」(ソクラテス、陽明 2 號：三輪田眞佐子)
六合雜誌 339　[20346
＊[訂正]石巻良夫「自然宗教と經濟生活」(聖アウグスチン、アリストテレス等)
六合雜誌 342　[3950]　[29347
石巻良夫「人性の價値と價値の人生」(ヘラクリタス等) 六合雜誌 345　[29348
埋草「アナトール・フランス」校友會雜誌(第一高等學校)190　[29349
山鹿生(山口鹿三?)「理想の父母」(老カトー、グラッスス等)聲 398　[29350
藤井生(兩衣生?)「理想の夫妻」(ソクラテス等)聲 398　[29351

柳茂安「贖罪信條の研究(4)」(アレキサンドリアのクレメント等)聲 401　[29352
質問解答「靴行苦行の功德に就て」(聖オギスチヌ等)聲 404　[29353
本欄「思想の勢力」(往古希臘の聖人ソクラテス等)聲 406　[29354
質問解答「魔鬼の出現に就て」(聖トマス、アレキサンドリアのオレゼヌ、聖オギスチノ等)聲 406　[29355
本欄「姉崎[正治]博士の「現代主義」を讀む」(聖トマス、アリストテレス等)聲 407　[29356
本欄「吾邦現時の懷疑主義」(大聖アウグスチヌス、希臘の詭辯論者等)聲 408　[29357
敎界思潮「河島金五郎「威信なき我が精神界(開拓者 10 月號)」(プラトー、賢哲ソクラテス等)聲 408　[29358
生田長江「無題十七章」(アナトオル・フランス)帝國文學 15-4　[29359
生方敏郎譯「タイース」(フランス「タイス」)早稻田文學 1 月號　[29360
高桑駒吉「達磨の生國に就て三たび平子君に答ふ」(ギリシアの賢人リコウルゴス、スパルタ等) 東洋哲學 16-1　[29361
井上哲次郎「パウルゼン博士の學說に對する所感」(ギリシヤ時代、ヴント、プラトー、ニイチェ等) 東洋哲學 16-2　[29362
新刊「清水友次郎譯「宗敎學綱要」」(マクス・ミュラー著) 東洋哲學 16-2[29363
谷輝哲「機械論、目的論及び其調和」(アナキシメネス、ロイキッポス、デモクリタス、アリストートル、アナキサゴラス、プラトー、ソヒストス、ヘーゲル等)東洋哲學 16-6,7,8,10　[29364
田中敦「現今の倫理學說上より觀たる儒敎」(希臘語、エートス、アリストテレス、プラトーン等) 東洋哲學 16-8,9　[29365
松村正一「個人的快樂說」(ソクラチス、アリスチップス、エレネ派、エピキュラス等) 東洋哲學 16-8　[29365
(參考：彙報「第廿三回文部省敎員檢定試驗豫備試驗問題」、東洋哲學 16-9
　修身科：「五、ヘーゲルノ倫理說ノ特色ヲ敍述セヨ」)　[29366
朝永三十郎「「ロック」の哲學」(アリストテレース、プラトーン等)東洋哲學 16-10,11　[29367
應問・野崎靜江(栃木)・植田生(東海道)・某(埼玉)「文部省檢定試驗準備には如何なる書を研究すべきや」、丁酉倫理會倫理講演集 76
　---- パウルゼン/蟹江・藤井・深作譯「倫理學大系」、中島德藏「解說批評・倫理學原論」、中島力造「倫理學十回講義」、山本良吉「倫理學史」、木村鷹太郎「東洋西洋倫理學說史」、綱島榮一郎「西洋倫理學史」、ヴント/角田柳作譯「西洋倫理學史」、吉田靜致「西洋倫理學史講義」、北澤定吉「倫理學史綱」　[29368
(參考：雜報「本會記事」(研究會)、丁酉倫理會倫理講演集 78　[29369
　小柳司氣太「支那哲學者の自然に關する見解」)
應問・植田友市(靜岡)「ソクラテース、アリストートル、プラトー、カント氏の倫理學にて邦文(譯書と著書)のものあらば、御敎示を乞ふ」、丁酉倫理會倫理講演集 78　[29370

----- 答・木村[鷹太郎]氏譯プラトーン全集、元田[作之進]・高橋[正雄]氏譯「アリストートル・倫理學」、カントのは未だなし。

應問・加藤勝壽(宮城)「普通幸福論と日へば、快樂說と仝様と說明有之候所、北澤定吉氏の倫理學史綱には完全說に仝じと有之候、何れか宜敷哉(附・北澤氏日く、全性格の滿足卽幸福と)」
丁酉倫理會倫理講演集 78 [29371

----- 答・アリストートルのオエダイモニアといふ希臘語の譯し方の相違。

朝永三十郎「兩洋に於ける没我思想と主我思想との消長と民族的分布とを述べて我國の思想に及ぶ」(希臘羅馬の思想、イリヤッド、新プラトン說、プラトー、ヘーゲル等)
丁酉倫理會倫理講演集 79,81,82 [29372

應問・漢野重榮(宮城)「一、倫理學、二、倫理學史、三、哲學概論、四、哲學史、五、心理學、六、心理學史、右高遠・單簡の二種」、
丁酉倫理會倫理講演集 79 [29373

---- 答・吉田靜致「倫理學要義」、北澤定吉「倫理學史綱」、吉田靜致「西洋倫理學史講義」、朝永三十郎「哲學綱要」、北澤定吉「哲學史綱」、大西祝「西洋哲學史」

應問(?)「心理、倫理、哲學史、倫理學史の書籍中(獨文)理解の安く且又其精細なる批評的研究の點に於いて一般哲學書生に有り難がるるものあらば、其書各賣價知りたし」、丁酉倫理會倫理講演集 80 [29374

---- 答・Windelband, Lehrebuch der Geshichte der Philosophie,M.Wundt, Grundriss der Psychologia, F.Paulsen, System der Ethik

應問・ヒト生(長野)「精神修養に關して讀むべき書及び雜誌御心當りの程を御示し下され度候」、丁酉倫理會倫理講演集 80 [29375

----- 稻葉昌丸譯「エピクテタスの敎訓」。

小柳司氣太「支那哲學者の自然に關する見解」(希臘のヘラクリタス、ターレス、アナクジマンデル等) 丁酉倫理會倫理講演集 81 [29376

地方講演會(靜岡)・藤井健次郎「根本惡に就いて」(ヘーラクライトス、プラトン、ディオゲネス、ストア哲學、アリストテレス、ゼノーン等)
丁酉倫理會倫理講演集 83 [29377

應問・加藤勝壽(宮城)「普通の論理學には演繹法アリストテレスに始まり歸納的研究はベーコンに始まるとす。然るに中島力造先生列傳體哲學史にはアリストテレスは倫理學を歸納的に研究せりと、如何なるものに候哉」、丁酉倫理會倫理講演集 84[29378

----- 答・アリストテレスが倫理學を歸納的に研究せしは事實なり。

新刊「林董纂譯「修養の模範」」(希臘羅馬より現代まで)
丁酉倫理會倫理講演集 86 [29379

應問・雲峰(靜岡)「文部省敎育科檢定準備には如何なる書を研究すべきか御敎示願ひ度候」、丁酉倫理會倫理講演集 87 [29380

----- 答・大瀨甚太郎「歐洲敎育史」、日高只一「歐米敎育史」

應問・和田鐘吉(大津)「哲學を系統的に研究するには如何なる順序で如何なる書籍

に就て研究せば可なるや」、丁酉倫理會倫理講演集 87
----- 答・桑木嚴翼「哲學概論」、朝永三十郎「哲學綱要」、北澤定吉「哲學史綱」、桑木嚴翼「哲學史要」 [29381
原田助「古今同一撒(上)」(エピクリアン、ストイク、プラトー、アリストートル等) 基督教新聞 1322(1/7),1323(1/14) [29382
講演・日野眞澄「神學の二方面(4)」(エムペドクレース、アナクサゴラス、アトム論の巨魁デーモクレトス等)
基督教新聞 1322(1/7) [29383
教壇・海老名彈正「基督の博愛主義」(プラトー等) 基督教新聞 1325(1/28)[29384
雜誌の雜誌「社會の變遷と信仰問題」(姉崎[正治]博士「太陽」1 月號、ストア學派等) 基督教新聞 1325(1/28) [28385
(アトランチックシチーの旅舘にて)油谷生「聞書」(アウガスチン、グリーキ思想等) 基督教新聞 1326(2/4) [29386
雜錄・加藤直士「書齋漫錄(7)」(ハイド博士「エピキュラスより基督まで」等)
基督教新聞 1326(2/4) [29387
教壇・加藤直士「基督と吾との關係を一層明瞭にせよ」(希臘哲學等)
基督教新聞 1330(3/4) [29388
講演・日野眞澄「神學の二方面(11)」(エレア學派、アリストテレース等)
基督教新聞 1335(4/18) [29389
教壇・渡瀨常(恒)吉「基督の同情」(グリーキの哲學、ローマの政治等)
基督教新聞 1336(4/15),1337(4/22),1338(4/29) [29390
教壇・原田助「基督によれる豐富なる命」(グリーキ歷史、シーザー、アレキサンドル等) 基督教新聞 1338(4/29) [29391
教壇・海老名彈正「活ける神殿」(ソクラテース、セ子カ等)
基督教新聞 1342(5/27) [29392
社說「基督の教訓とプラグマチズム(上)」(希臘の哲人プロタゴラス「人は萬物の尺度なり」等) 基督教新聞 1343(6/3) [29393
講演・日野眞澄「神學の二方面(15)」(デーモクリトス等)
基督教新聞 1343(6/3) [29394
新刊「シドニー・ギュリキ博士「獨逸神學畧史」」(ヘルデル、シュライエルマッヘル等) 基督教新聞 1344(6/10) [29395
原田助「人生と宗教」(聖哲ソクラテース、プルータク等)
基督教新聞 1346(6/24) [29396
洋書廣告「I.Bryan,Plato the Teacher」基督教新聞 1348(7/8) [29397
篤「姉に與ふる書」(オーゴスチン等) 基督教新聞 1349(7/15) [29398
社說「基督教は天父教なり」(オーガスチン等) 基督教新聞 1351(7/29) [29399
園田重賢「誤謬は代償思想なり」(シジウ井ック「論理學史」)
基督教新聞 1351(7/29) [29400
社說「獨逸思想界の眞相」(シュライエルマッヘル、ゲーテ、オイッケン等)
基督教新聞 1355(8/16) [29401
講演・日野眞澄「神學の二方面」(アリストテレース等)
基督教新聞 1355(8/16) [29402

名家談叢・萩原碌水氏談「信仰と美術との關係」(ギリシヤ神話、ダンテ等)
基督教新聞 1355(8/16) [29403
雜錄・園田重賢「山内常太君に答ふ」(ソクラテイスの死等)
基督教新聞 1355(8/16) [29404
講演・日野眞澄「神學の二方面」(プラトーン派等) 基督教新聞 1358(9/16)[29405
說苑・吉田修夫「今後の基督教」(ギリシヤ思想、アレキサンドリアの哲學等)
基督教新聞 1359(9/23) [29406
開書應答・留岡幸助「スマイルス著「西國立志篇」」基督教新聞 1359(9/23)
[29407
開書應答・小松武治「オーガスチン懺悔錄」基督教新聞 1360(9/30) [29408
講演・日野眞澄「神學の二方面」(パルメニデス、デーモクリトス等)
基督教新聞 1361(10/7) [29409
家談叢・村田勤氏談「基督教の使命」(ソクラテース、プラトン等)
基督教新聞 1361(10/7) [29410
開書應答・住谷天來「プラトー「レパブリック」」基督教新聞 1361(10/7) [29411
開書應答・千葉忠雄「「プラトン全集第一巻」「故大西[祝]博士「西洋哲學史」」
基督教新聞 1361(10/7) [29412
開書應答・園田重賢「シジウ井ック「倫理學史」」基督教新聞 1361(10/7) [29413
開書應答・山内常太「プラトー全集」基督教新聞 1361(10/7) [29414
海老名彈正「國民の洗禮」(ソクラテース等) 基督教新聞 1362(10/14) [29415
開書應答・人見秀明「エピクテタス」基督教新聞 1362(10/14) [29416
開書應答・加藤直士「Schleiermacher,On Religion,/W.Lecky,History of European
Morals」基督教新聞 1362(10/14) [29417
講演・元良勇次郎「近世心理學の傾向」(アリストトートル等)
基督教新聞 1363(10/21) [29418
教壇・宮川經輝「靈的生命の本源」(プラトーンのイデヤ、アリストートルのエネ
ルギー、ソクラテース等)
基督教新聞 1364(10/28) [29419
(參考：(在米)蘆田慶治「ハーバード大學新總長就任式の光景」[アリストテル、史
學の大家ベルリン大學のエドワルド・マイヤ等]
基督教新聞 1367(11/18) [29420
講演・ギュリッキ博士「人間の微小と偉大」(ソクラテス、Know Thyself 等)
基督教新聞 1370(12/9) [29421
教壇・宮川經輝「信は萬事の本」(プラトー「イデヤ」、アリストーテル「エナル
ガヤ」等) 基督教新聞 1371(12/16) [29422
教壇・宮川經輝「公成の事業」(アレキサンドリアのフィロー等)
基督教新聞 1372(12/23) [29423
想苑・適流生「聖母マリヤと女性觀」(ギリシヤ・ロマの人心等)
基督教新聞 1372(12/23) [29424
新刊批評「自助論の著者スマイルス翁の自傳」(鶴田賢次著)
萬朝報 5557(1/30) [29425
「東人西人」(アリストートルの墓?) 東京朝日新聞 2/8 [29426

新刊雜書「希臘神話」(杉谷代水譯補) 東京朝日新聞 6/24 [29427
思潮「原始神道に於ける神觀特性に就いて」(希臘オリムポスの神話的宗教等)
獨立評論 7-1 [29428
登張竹風「ハイ子とニイチェ」新小說 14-6 [29429
C.②木村鷹太郎『東西古今女子軍----一名、女子兵役論』 [29430
古川正雄『古今東西今日之歷史』 [29431
ゼームス・ストーカー/宮崎八百吉(湖處子)譯『基督傳』 [29432
三神英子譯『救主小傳』 [29433
スザン・バラード著『聖ポーロのおはなし』 [29434
柏井園『基督教小史』(基督教叢書) [29435
藤谷深勵『基督教史』(帝國百科全書 190) [29436
千葉勇五郎『社會に關する耶蘇の教訓』(聖書研究叢書) [29437
ヂョルヂ・ヂ―・ペリー/細貝邦太郎譯『基督教師父傳』 [29438
Studies in the Life of Jesus Christ,Osaka,Osaka Kirisutokyo Seinennkai .1909 [29439
③松本雲舟譯「魔術者」(メレシコフスキー「神々の死----背教者ユリアヌス」)
新人 9 月號 [29440
家庭訓話・今月の歷史「亞歷山大王生る」(アリストートル等)
東京朝日新聞 6/19 [29441
家庭訓話・今月の歷史「フンボルト生る」東京朝日新聞 6/22 [29442
天空子「繪入・美男美女(1)(3)(7)」(古代希臘人、ウ井ンケルマンの調査、アルケデ井ア王サイプシーラス、スパルタ、レスボス、アポロ、バッカス、カストル、ライカルガス、アリスタイデス、セミスークルス、ペリクレス、アレキサンダー大王、ハーキュリース、プラトー等)
東京朝日新聞 10/10, 10/12,10/24 [29443
(參考：彙報「中等教員檢定試驗問題解答・森田鐵三郎「西洋史」、歷史地理 13-6
「三(甲)、ポントス王ミノテダテス六世/四(甲)、ミレトス」) [29444
(參考：彙報「第廿三回文部省教員檢定試驗豫備試驗問題」、東洋哲學 16-9
歷史(西洋史)科：「一、アウグスツス（Augustus）の改造した新政體の大略」） [29445
小川竹男「基督の教會」尚志會雜誌(第二高等學校)84 [29446
原田助「使徒時代年表」基督教新聞 1354(8/9) [29446
聖書研究・加藤直士「羅馬書研究」(ネロ帝、ストイック學派、セ子カ等)
基督教新聞 1357(9/9),1358(9/18),1359(9/23),
1360(9/30),1361(10/9),1362(10/14),1364(10/28),
1365(11/4),1366(11/11) [29447
「美人クレオパトラ」女學世界 13 [29448
西洋史譚「絶世美人クリオペイトラ」初等英語研究 2-1,2,3 [29449
表紙「クリオペイトラ置酒アントニーを饗す」初等英語研究 2-2 [29450
波多野精一「パウロの生涯」(警世社『回顧二十年』所収) [29451
④新刊雜書「西洋歷史便覽」(村川堅固著) 東京朝日新聞 1/10 [29452
書評「村川堅固「西洋歷史便覽」」史學雜誌 231 [29453

答問・いよ生(伊豫國)「第 26 問、文部省檢定に必要なる西洋歷史參考書並に箕作元八・磯田良兩氏の單獨著書の西洋史の書名及代價、發行所を問ふ」(答、妻木)歷史地理 13-2 [29454
新刊「村川堅固「西洋歷史便覽」」歷史地理 13-3 [29455
答問・東京逸民氏「世界歷史の變遷を自由思想の發露と見て敍述せる世界史并にミューレルの大小獨逸史に次げる同程度の現代獨逸史とチルジット條約以來 1850 年に至る獨逸史の小なるもの及び、アンドレー世界史と次いで讀むべき世界史、御敎示を乞ふ」(答、妻木)歷史地理 14-1 [29456
(參考：彙報「東京帝國大學大學院入學者」、歷史地理 14-5 [29457
龜井高孝「歐羅巴ノ中世時代ニ於ケル僧侶ノ社會的事業ノ研究」)
答問・一素讀生(山口縣)「英文歷史地圖の手頃なるものを雜誌上にて御敎示下されたし」(三省堂「英文歷史地圖」)歷史地理 14-5 [29458
新刊「重田勘三郎「詳說西洋歷史」」歷史地理 14-5 [29459
新刊「三省堂「最新世界年表」」歷史地理 14-5 [29460
古谷春峰「新井白石先生シドッチ鞫問の節用ゐられたる世界圖---附・先生の洋學に就て」考古界 8-9 [29461
戸川秋骨「近世英文學講話(1)」(リットン「ポンペイ最後の日」)新聲 20-1[29562
元良勇次郎「小說は必づ戀愛談ならざるべからざるか」(ソクラテース等)
新聲 20-2 [29463
黑板勝美「伊太利及希臘に於ける遺物發掘事業」斯民 5-8 [29464
泰西思潮「注意すべき新哲學者」(ベネデットー・クロース[Benedetto Croce])
丁酉倫理會倫理講演集 88 [29465
「史記總論(上)」(ソクラテス、プラトン、ヘーゲル等)獨立評論 8-3 [29466
「明末淸初の史觀----亡國論(上)」(羅馬のオーガス、シーザル等)
獨立評論 8-6 [29467
開書應答・今岡信一「波多野精一「基督敎の起源」」基督敎新聞 1360(9/30)
[29468
開書應答・園田重賢「ヴアンダイク「文藝復興時代史」」
基督敎新聞 1361(10/7) [29469
平田禿木「ジョオジ・ギッシング」新小說 14-6,9 [29470
マックス・オレル/鐵耕塾同人譯「英人氣質」（「ジョンブル」）文庫 3 月號
[29471
マックス・オレル/鐵耕塾同人譯「英國の學校と學生」文庫 5 月號 [29472
D.①坪內逍遙「エスキラスの三段曲梗概」(昭 2 刊、逍遙撰集別冊 3 中) [29473
長谷川元吉「イソップ物語詳解」正則・英語之日本 2-1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,13
[29474
宮川經輝『約翰[ヨハネ]傳第一、ニ、三書釋義』 [29475
ヒュ・ゼ・フラス/松田承久・三島彊譯『以弗所[エペソ]書註釋』 [29476
ラルネデ述/大宮季貞記『希伯來[ヘブル]書・雅各[ヤコブ]書・彼得[ペテロ]前後書・猶太[ユダ]書講解----新約聖書』 [29477
②關口榮『アルファベット』 [29478

有朋堂書店『譯註・近世英文學』(馬場孤蝶譯「チャイルド・ハロルド巡遊記の數節----告別の歌・出陣」) [29479
Ch.ラム/百島操(冷泉)譯『シェークスピア物語』(「冬物語」。通俗文庫第 8) [29480
ジョンソン博士/坂本大風(榮吉)譯『ラセラス王子物語』(「アビシニア王子ラセラス」) [29481
ヂー・エル・ムーデー/三浦徹譯『聖書研究の快樂』 [29482
③雜報「世界傑作戯曲瞥見---(11)エディプス王(ソフォクレス)」帝國文學 15-3 [29483
雜報「世界傑作戯曲瞥見---(17)蛙(アリストファ子ス)」帝國文學 15-4 [29484
座談「寄合論」(デオニゾス派の文學、アポロ党クラシック党)スバル 1 [29485
平野萬里「文字の起源」(フェニキア等) スバル 2 [29486
教界彙報「八代通信」(演藝會「エゾップの買物」)聲 399 [29487
有川治介「詩人基督」尚志會雜誌(第二高等學校)84,85 [29488
④吾妻耕一「マシウ・アアノルドに就て」六合雜誌 348 [29489
A.フランス/清見陸郎譯「シルエストル・ボンナールの罪」(「シルヴェストル・ボナールの罪」)新文林 4 月號(→昭 50 伊吹武彦譯「シルヴェストル・ボナールの罪」岩波文庫) [29490
月の人「月頭語」(ゲーテ、ニイチェ等)聲 403 [29491
批評「チャーレス・エレン・ヂンスモアー/住谷天來譯「ダンテの教訓」」帝國文學 15-3 [29492
厨川白村「オスカア・ワイルドの警句」帝國文學 15-5 [29493
和氣律「メレディスと時代との交渉」帝國文學 15-12 [29494
森林太郎「ユリウス・バップの戯曲論」(哲學的對話プラトン、エスキロス、シエクスピア、シルレル、ゲーテ等)スバル 2 [29495
平田禿木「バイロン卿の葬禮」英語青年 21-11,12 [29496
長谷川康譯「ヴェリーノの大瀑布」(バイロン「チャイルド・ハロルドの遍歷」)英語之日本 8 月號 [29497
水野錬太郎「偉人の面影----グラッドストン氏の性格と修養」(ホレース等)斯民 5-9 [29498
新刊「神州孟亞[ヂンスモーア]原著/住谷天來譯述「ダンテの教訓」」丁酉倫理會倫理講演集 78 [29499
地方講演會(京都)・姉崎正治「美術と信仰」(フ井レンツェ、ダンテ、アテナイ、ルネサンス、ラスキン等)丁酉倫理會倫理講演集 83 [29500
新刊「ヂンスモーア/住谷天來譯述「ダンテの教訓」」基督教新聞 1325(1/28) [29501
綠陰閑話「文藝趣味と信仰趣味」(ヘブライズムとヘレニズム等)基督教新聞 1348(7/8) [29502
開書應答・住谷天來「ダンテ「デヴィナ・コメデヤ」」基督教新聞 1361(10/7) [29503

開書應答・原田助「トマス・アーノルド傳」基督教新聞 1362(10/14) [29504
名家談叢・吉岡源一郎「言語學の必要及び價値」(プラトーン、バック[Böckh]等)
基督教新聞 1363(10/21) [29605
講演・島村抱月「最近文藝の傾向と宗教」(マシュウ・アーノルド、エンペドクレス等) 基督教新聞 1364(10/28) [29506
「シルレル百年祭」萬朝報 5844(11/13) [29507
岸邊福雄氏談「お伽話と小兒(2)」(寓話イソップ等) 東京朝日新聞 5/6 [29508
阿部峙樓「驚嘆と思慕」(シルレル) 東京朝日新聞 12/10 [29509
E.③＊[訂正]穂積陳重「希臘の家制」法學志林 11-9,10,12 [4012] [29510
F.③本田親二「希臘の天文學」天文學報?號 [29511
三上義夫「近世ノぜの氏ヲ論ズ」(希臘ノ學者ぜの、あきれす等)
東京物理學校雜誌 213 [29512
學海餘瀝「古代希臘に於ける飲用水殺菌」(ラ・ガセット、デ・ゾー紹介)
聲 398 [29513
④＊[訂正]社說・三並良「科學的自然觀と宗教的自然觀」(ゲーテ、ロイキップ、デモクリット、エピクール等) 六合雜誌 346 [4028] [29514
三上義夫「直角二等辺三角形ノ角ノ和ハ二直角ニ等シト云フらっせる氏ノ證明ニツキテ」(ゆーくりつと等)東京物理學校雜誌 218 [29515
佛國・ぽあんかれ一博士述/三上義夫譯「數學ノ將來」(希臘等)
東京物理學校雜誌 223 [29516
G. 書評「北村松之助編「西洋歷史新辭典」」史學雜誌 234 [29517
彙報「哲學大辭書の出版」東洋哲學 16-3 [29518
新刊「同文舘編輯部「哲學大辭書」(中一册) 丁酉倫理會倫理講演集 86 [29519
雜錄「ヘボン博士の事ども」基督教新聞 1345(4/18) [29520
新刊雜書「法律大辭書出づ」(同文舘) 東京朝日新聞 5/28 [29521
新刊雜書「法律大辭書・第一册」(同文舘) 東京朝日新聞 9/22 [29622
新刊雜書「哲學大辭書・第一册」(同文舘) 東京朝日新聞 9/22 [29523

明４３(１９１０)
A. ＊[訂正]兩東生「羅馬にて」(新體詩三篇)白樺 1-1 [21151] [29524
＊ [訂正]松丸無聲「漂浪行----羅馬」(ラマルチ井ヌ) 六合雜誌 356
[4041] [29525
江部淳夫『文明論』 [29526
エミール・ライヒ/村田勤譯『近世歐羅巴の基礎』(大日本文明協會刊行叢書 24)
[29527
アーチボルド・ウイーア/和田琳熊譯『近世歐洲文化史論』(大日本文明協會刊行叢書 29) [29528
加藤咄堂『讀書法』 [29529
「題畫の頌」(ヘブライズムとヘレニズム) 基督教新聞 1373(1/1) [29530
新刊「中村春雨「歐米印象記」」基督教新聞 1401(7/14) [29531
紀太藤一譯註「伊太利のネイプルズ」(マーク・トウエイン「無邪氣者の外遊記」)

英語之日本 3-8 [29532
「柴漬」(羅馬ジュピターの古殿堂) 東京朝日新聞 2/19 [29533
藪柑子「羅馬通信」東京朝日新聞 2/20 [29534
新刊雜書「讀書法」(加藤咄堂著) 東京朝日新聞 6/2 [29535
「第二回世界一周會---羅馬觀光」東京朝日新聞 6/14 [29536
「第二回世界一周會---伊太利見物」東京朝日新聞 6/19 [29537
世界一周會・天囚「羅馬の廢墟」東京朝日新聞 7/11 [29538
世界一周會・天囚「羅馬の名勝」東京朝日新聞 7/13 [29539
世界一周會・天囚「日本使節の遣歐」東京朝日新聞 7/14 [29540
世界一周會・天囚「ナポリの美醜」東京朝日新聞 7/15 [29541
世界一周會・天囚「活火山と死街」(ポンペイ) 東京朝日新聞 7/16 [29542
新刊雜書「近世歐洲文化史論」(アーチボルド・ウィーア/和田琳熊譯)
東京朝日新聞 10/4 [29543
(長谷川)如是閑「歸路(4)」(ヴェスヴ井オの山等) 東京朝日新聞 11/2 [29543
箕作元八「ルイス十四世時代に於ける文化と思潮」帝國文學 16-2 [29544
(參考：消息「東京帝國大學文科大學新規程・授業科目及語學中」、帝國文學 16-10
哲學科：(共通)哲學概論、西洋哲學史概說、心理學概論、倫理學概論、論理學/專門科目---西洋哲學史、認識論、美學概論、教育學、宗教學概論、宗教及宗教史、希臘語學、美術史、言語學概論、史學概論、比較法制史
史學科：(共通)西洋史概說、史學概論、心理學概論/專門科目---西洋史學、考古學、美術史、法制史、言語學概論、宗教史、哲學概論、文學概論
文學科：(共通)哲學概論、心理學概論、文學概論、言語學概論/專門科目---近世歐羅巴文學史、希臘羅馬文學史、美學概論、希臘語學・羅甸語學(擇二)、希臘文學・羅甸文學(擇二)) [29545
(參考：消息「東京帝國大學文科大學新學年講義目錄(自 43 年至 44 年)」、
帝國文學 16-10 [29546
哲學科：心理學概論(元良)、哲學概論(井上)、倫理學大系(中島)、倫理學概論(中島)、Greek((a)Reading of Platon, Homer, (b)Euripides:Iphigenia、コエーベル教師)、Greek Philosophy(コエーベル教師)、美學概論(大塚)、近代歐洲文藝史(大塚)
史學科：史學概論(坪井)、西洋史概說(箕作)、ローマ史(前學年の續、村川)、發見時代史・東西交通史(村上)
文學科：History of German Literature(フロレンツ教師)、Goethe's Faust(フロレンツ教師)、General History of French Literature(エック教師)、羅甸語上級(エック教師)、羅甸語下級(エック教師)、History of English Literature(フロレンツ教師)、言語學概論(藤岡)、ローマンス語概說・言語學(藤岡)、音聲學(藤岡)、獨逸文學(青木)、英文學(ロイド講師)、希臘語初歩(コット講師)、希臘ローマ文學史(コット講師))
彙報「日英博覽會出品の歷史的繪畫」(「六、西歐學藝の輸入」、杉田玄白、大槻磐水、司馬江漢、海上隨歐、渡邊崋山、高野

長英、平賀源内)歴史地理 15-2 [29547
答問・芳水(東京)「25 問、國定高等小学校學新制三學年用日本歴史中にある東西兩洋の意義並に其の境界又東西兩洋の諸國とは何れの國々か御示し下されたし」(答、妻木)歴史地理 15-5 [29548
(參考：彙報「京都文科大學史學科來年度講義題目中」、歴史地理 15-6 [29549
史學研究法(内田)、東西交通史(桑原)、西域史(羽田)、西洋史概説(原)、西洋史演習(原)、地理學發達史(小川)、考古學概論(濱田))
(參考：彙報「本學年東京大學史學科講義題目中」、歴史地理 16-4 [29550
史學概論(坪井)、フランス大革時代史(箕作)、西洋史概説(箕作)、ローマ史(村川)、發見時代史及東西交通史(村上)/副科目--- 哲學史概説(井上)、西域史解説(堀))
(參考：彙報「京大史學科の開講題目中」、歴史地理 16-5 [20551
史學研究法(内田)、東西交通史(桑原)、西域史(羽田)、西洋史概説(原)、西洋史演習(原)、地理學發達史(小川)、考古學概論(濱田)/副科目---美學(濱田)、倫理學史(桑木)、十九世紀獨逸哲學史(桑木)、十六七世紀英文學史(上田)、獨逸文學史(藤代))
(參考：彙報「文部省中等教員講習中」、歴史地理 16-5 [29552
磯田良「中世末期に於けるヨーロッパ」(毎週 2 時間))
(參考：彙報「東洋大學新學年」、東洋哲學 17-4 [29553
認識論・論理學・哲學概論(今福)、西洋哲學史(得能)、心理學(高島)、美學(瀧村)、教育史(立柄)、教育史(田中)、教育史(田中)、倫理學・西洋倫理史(中島)、言語學(藤岡)
格堂「南歐遊草」(羅馬、シーザル、ヴェビア山、オムペタ・メーシナ等)
アララギ 3-4 [29554
B.②＊[訂正]干河岸貫一『修養史譚』 [4052] [29555
森鷗外譯『黄金杯』(クレーガー「ソクラエテスの死」) [4054] [29556
ラファエル・フォン・ケーベル/教學研鑽和佛教會譯『神學及中古哲學研究の必要』 [29557
エマソン/高橋五郎譯『處生論』(The Conduct of Life) [29558
水島愼次郎譯『エマーソン論文集』第 1 巻(The Conduct of Life) [29559
シエドル・パーカー著/神田佐一郎譯『パーカー氏・一語千金』 [29560
水島行揚『造物主略話』(增訂 4 版、通俗正教傳道小書) [29561
ヘンリー・チャーチル・キング/加藤直士譯『イエスの倫理』 [29562
海老名彈正著・加藤直士編『基督教提要』 [29563
小崎弘道『基督教の本質』 [29564
松井文彌『基督教の本領』 [29565
柏井園『耶蘇の教訓一斑』 [29566
ニュートン/三浦徹譯補『十誡の説明』 [29567
ゼ・アール・イリングウオース/稻垣陽一郎譯『新編三位一體之教義』(聖公會神學叢書 6) [29568
トマス・ア・ケムピス/日高善一譯『基督の模倣』(→大 13) [29569
武本喜代藏『基督教哲學一斑』 [29570

チャールス・ゴア/稻垣陽一郎譯『新神學と舊宗教』(聖公會神學叢書 4)　[27571
神田琴月『世界偉人傳』　[29572
マーデン・藤井黙花譯『偉人と修養』　[29573
③＊[訂正]安藤州一「ソクラテスの教訓」精神界 10-2,3,4,5,8,9,10,12　[4062] [29574
(參考：惟一舘記事「日曜演說」、六合雜誌 349　[29575
三並良「オーガスチンの小傳」(1/9)　)
(參考：惟一舘記事「日曜演說」、六合雜誌 353　[29576
三並良「佛陀とロゴス」(3/20)　)
アール・エー・ホワイト述「口碑的神學は異邦教なり」(アテンス、アレキサンドリア、羅馬、コンスタンチン、オーガスチン等)
六合雜誌 355　[29577
山の行者「聖オグスチノ」聲 414　[29578
天藾地聲「プラトのダイアローグ、マーカス・オーレリアスの著書」
基督教新聞 1396(6/9)　[29579
山崎貞譯註「上帝の饗宴」(ツルゲーネフ「神の宴會」[「散文詩」中])
英語の日本 4 月號　[29580
メレシコフスキー/島村茗三譯「ダフネの森」太陽 6 月號　[29581
(參考：彙報「京都帝國大學の第一回夏期講演會」、歷史地理 16-1　[29582
「(七)五大哲學者(9 時間)」(桑木嚴翼)」
「古代巨人種の說---巨人種は果して存在したか」(希臘神話中の巨人)
萬朝報 5964(3/13)　[29583
木村鷹太郎「神典「祝詞」の世界的價値---希臘羅馬的研究」國民新聞 8/20,21,23,26,27,28（6628,6629,6631,6634,6635,6636）　[29584
(參考：彙報「第廿三回文部省教員檢定本試驗問題」、東洋哲學 17-1　[29585
修身科：「五、「ストア」派ノ倫理說ト「エピクルス」派ノ倫理說トノ異同如何」）
(參考：「本會記事--- 紀平正美「エラストラートス」」(靈魂不滅)
丁酉倫理會倫理講演集 90　[29586
應問・昏雨生(大阪)「二、ソクラテスの知德同一論につきては、之を王陽明の知行合一論と異として、知は直に德を來らすとの意に解せしが、頃日パウルゼンの書中にて蘇[ソクラテス]氏の說も、矢張り王氏と等しく其所謂知とは徒に聞見上の淺薄なる知を意味するにあらずして、德性的知卽ち情意を結合せるの知を意味するものなりと論評せるを見受けたり(蟹江・藤井・深作氏譯倫理學大系中 179 頁等)、然らば卽ち蘇[ソクラテス]氏と王氏の說は全然相一致するにあらずや如何」
丁酉倫理會倫理講演集 90　[29587
應問・(上記)答・「ソクラチースが言ひたる知德合一は分析的の知卽ち槪念なるが、其の自ら意味せし所は恐らく知に情の伴ひし革新なるべし、陽明の知の意義には槪念を指すあり、槪念には情を伴ふを指すあり、及び虛心意志等を指すありて一定せず、隨つて

知行にも多意義あるなり、然らば其の知行合一の或る一の意義は少くともソクラチースと一致と見て可なり」
丁酉倫理會倫理講演集 91 [29588
應問・影山濤(岡山)「王陽明の知行合一說とソクラテスの知行合一說との異同」、
丁酉倫理會倫理講演集 99 [29589
--- 答・ソクラチースの知は概念なるが、陽明の知は概念并に良知を意味す
司馬僧正「變身術(1)---面白い繪葉書」(大神ヂュピター、キューピット)
東京朝日新聞 8/2 [29590
司馬僧正「變身術(2)---戀愛の神鳶」(ヂュピター大神、キューピット神)
東京朝日新聞 8/3 [29591
司馬僧正「變身術(3)---狂人か偉人か」(ヂュピター大神) 東京朝日新聞 8/4 [29592
④＊[訂正]新刊「干河岸貫一「修養史譚」」藝文 1-4 [4092] [29593
＊[訂正]「愛讀の書と青年子女に推奬す可き書籍に對する諸先輩の聞書」
新女界 2-1 中 [21199] [29594
---- 宮田脩:「懺悔錄」(セント・オーガスチン、宮崎八百吉氏の譯書あり)」
シルレル「靈魂不滅論」(ソクラテス、プラト、シルレル、ゲーテ、シュライエルマッヘル等) 六合雜誌 349 [29595
一讀一抄「不讀書論---古來大哲學者」(ソクラテス、ゲーテ等) 六合雜誌 355
[29596
埋草「Ruskin」校友會雜誌(第一高等學校)195 [29597
埋草「ニーチェ」(2 篇)校友會雜誌(第一高等學校)196 [29598
埋草「Nietsche」(2 篇)校友會雜誌(第一高等學校)199 [29599
山鹿生(山口鹿三?)「現世教と來世教」(ダンテ、ゲーテ等)聲 413 [29600
藤井生(兩衣生?)「道德論新見」(オグスチヌ、トマス、ターレス、ソクラテス、プラトーン、アリストテレス等)聲 418 [29601
柳茂安「降誕祭は近づけり」(聖オグスチノ等)聲 421 [29602
文藝欄・草野柴二「「アナトール・フランス短編傑作集」を讀む」(若月紫蘭譯。エリデヤの野、プラトー、ソクラテス、アリストートル、シセロ、セ子カ、ダンテ、ヘーゲル等) 東京朝日新聞 3/24
[29603
文藝欄・吹田虛風「マクス・スチルネル」(ニーチェ) 東京朝日新聞 4/1 [29604
文藝欄「人性の要求と新文藝」(ストイシズムとエピキュリヤニズム等)
東京朝日新聞 5/2 [29605
新刊書籍「世界教育史要」(モンロー博士著、文明協會發行)
東京朝日新聞 8/27 [29606
「危險なる洋書---ニイチェ」東京朝日新聞 9/22 [29607
文藝欄・愚德「いろ草」(ニイチェ等)東京朝日新聞 10/6 [29608
和辻哲郎「ショウに及ぼしたるニィチエの影響」帝國文學 16-2 [20609
批評「姉崎正治譯「意志と現識としての世界」」(プラトーン論)
帝國文學 16-11 [29610
答問・黑瀧(下野)「34 問、木村鷹太郎が國民新聞以て、高天原が小亞細亞に高千穗が希臘に在りとの說ありしが、其の當否御示敎を乞ふ」(答、

妻木)歴史地理 16-5 [29611
田中王堂「ニイチェのザラツストラを論ず」新小説 15-9（9 月號） [29612
澤木四方吉「ニイチェの超人と回歸說」三田文學 1-4,6 [29613
紀平正美「哲學の研究法としての比論法と縯繹法」(アリストテレース、ヘーゲル等) 東洋哲學 17-1 [29614
田中敦「現今の倫理學說上より觀たる儒教(續)」(アリストテレス、プラトーン、デモクリトス等) 東洋哲學 17-2,3,4 [29615
雜錄・佐藤塗山「北澤定吉先生を弔ふ」(「哲學史綱」、アリストテレス、プラトン等) 東洋哲學 17-4 [29616
中島德藏「至誠論」(ニイチェ、ソクラテス等) 東洋哲學 17-5 [29617
市澤彌一「北澤先生を憶ふ」(「哲學史綱」、「偉人耶蘇」) 東洋哲學 17-5 [29618
田中敦「北澤先生を憶ふ」(西洋哲學史、プラトーン等) 東洋哲學 17-5 [29619
谷輝哲「逝ける北澤先生」(Weber,History of Philosophy [trans.by F.Thilly], Rogers, A Student History of Philosophy) 東洋哲學 17-5 [29620
北澤定吉講述「哲學概論」東洋哲學 17-6,7 [29621
高島平三郎「才の人と德の人」(ヴント、アリストートル、エピクール、ストア派、チェノー、セント・オーガスチン等)
東洋哲學 17-6 [29622
瀧村斐男「美學不振の理由」(プレトー、アリストートル、ヘーゲル等)
東洋哲學 17-7 [29623
得能文「哲學の進歩」(プラトーン、アリストテレース、ヘーゲル等)
東洋哲學 17-9 [29624
遠藤隆吉「支那尚古思想の一班」(プラトー、ヘーラクライトス、アリストートル、ヘーゲル等) 東洋哲學 17-10 [29625
(參考：彙報「第廿四回文部省教員檢定豫備試驗問題」、東洋哲學 17-10 [29626
教育科：「五、左ノ人々ニ就テ知ル所ヲ述ベヨ----モンテーニウ」)
雜錄・紀平正美「偉人」(プラトーン、ヘーゲル、アウグスチーヌス等)
丁酉倫理會倫理講演集 89 [29627
(參考：「本會記事」、丁酉倫理會倫理講演集 91 [29628
藤井健治郎「私有財産制度と道德」(クーランジュ關聯))
雜錄・多田雄「以太利のニイチェ」(「人生の徑路、道德の不道德」Leo G.Sera,‘On the Track of Life’」 丁酉倫理會倫理講演集 92
[29629
(參考：「本會記事---- 三輪田元造「奇人論」」丁酉倫理會倫理講演集 92 [29630
雜錄・水木子「沐浴と道德」(ハブロック・エリス著、希臘羅馬時代等)
丁酉倫理會倫理講演集 92 [29631
雜錄・多田雄「讀西雜誌」(プレトオ、パルメニデス等)
丁酉倫理會倫理講演集 93 [29632
吉田賢龍「道德の發展と社會設備」(ストア關聯) 丁酉倫理會倫理講演集 94[29633
深作安文「實行原理としての信念」(ソクラテス)、ブルウノウ等)
丁酉倫理會倫理講演集 94 [29634

新刊「加藤咄堂「修養論」」丁酉倫理會倫理講演集 94 [29635
三輪田元造「奇人論」(ソクラテ、ディオゲネス等)丁酉倫理會倫理講演集 95 [29636
(參考：雜錄「講習會一束」、丁酉倫理會倫理講演集 95 [29637
(4)京都帝國大學：桑木嚴翼「五大哲學者」
(5)東亞協會：村川堅固「西洋古代史」)
應問・松田智英「小生獨學を以て倫理を研究に文部省中等教員の修身科檢定試驗に應じる覺悟ですが、如何なる方法にして研究して宜敷き哉且つ其の書目等明細に御教示下さい」、丁酉倫理會倫理講演集 95
--- 答・パウルゼン/蟹江・藤井・深作譯「倫理學大系」、ファイト/大島直治譯「倫理學原論」、ファイト/中島德藏「解稅批評・倫理學原論」、グリーン/西晉一郎譯「倫理學」、中島力造「倫理學稅十回講義」、山本良吉「倫理學史」、木村鷹太郎「東洋西洋倫理學說史」、綱島榮一郎「西洋倫理學史」、ヴント/角田柳作譯「西洋倫理學史」、吉田靜致「西洋倫理學史講義」、北澤定吉「倫理學史綱」 [29638
吉田靜致「國民道德の倫理的基礎」(デルファイ神殿、ヘロドトウス、希臘のフィレー、羅馬のウリプス等)
丁酉倫理會倫理講演集 95,96 [29639
雜錄(紀平生)「伯林通信」(朝永[三十郎]助教授より。「ソークラテス前の宇宙論的思索」、哲學雜誌 Logos)
丁酉倫理會倫理講演集 96,97 [29640
應問・眞田永淸(埼玉)「初學者に適當なる哲學雜誌、哲學史及び倫理學書の御教示を乞ふ」丁酉倫理會倫理講演集 96 [29641
--- 答・桑木嚴翼「哲學概論」、波多野精一「西洋哲學史要」、桑木嚴翼「哲學史要」
藤井健治郎「私有財産制度と道德」(クーランジュ關聯)
丁酉倫理會倫理講演集 97 [29642
新刊「今福忍「最新・論理學要義」(附・「東西兩洋論理學變遷史の概觀」)
丁酉倫理會倫理講演集 98 [29643
敎壇・海老名彈正「靈界に於ける基督の立脚地」(グリシヤ・ローマの歷史等)
基督敎新聞 1373(1/1) [29644
「題畫」(ヘブライの宗敎とギリシヤの文藝等) 基督敎新聞 1374(1/6) [29645
傳道・加藤直士「靈魂の不滅」(ソクラテス、プラトー、シセロ、セ子カ等)
基督敎新聞 1376(1/20) [29646
綱島佳吉「神の子基督」(ソクラテイス等) 基督敎新聞 1379(2/10) [29647
聞書應答・今泉眞幸「Fisher’s History of Christian Doctrines」
基督敎新聞 1379(2/10) [29648
雜錄・赤司繁太郎氏談「新神學の使命」(ニーチェ等) 基督敎新聞 1381(2/24)
[29649
傳道・小崎弘道「罪惡と正義」(ロマ人、ギリシヤ人、アリストウトレス等)
基督敎新聞 1381(2/24) [29650
論說・中村長太郎「超人力に接觸せよ」(グリーキ宗敎史、アレキサンドリアのフハロー等) 基督敎新聞 1382(3/3) [29651

社説「宗教界の大言壯語」(聖アウガスチン等) 基督教新聞 1385(3/25) [29652
新刊「ケーベル博士「神學及中世哲學研究の必要」」基督教新聞 1385(3/25) [29653
評論・安部清藏「聖書と論語」(オーガスチン等) 基督教新聞 1386(3/31) [29654
社説「日本に於ける基督教の試練」(コンスタンチン時代の羅馬帝國等) 基督教新聞 1390(4/28) [29655
教壇・宮川經輝「人としての神、神としての人(上)(下)」(ソクラテス、プラトー、アリストートル等) 基督教新聞 1398(6/23), 1399(6/30) [29656
論說・中村長之助「神人の交涉」(オウガスチン等) 基督教新聞 1403(7/28)[329657
聖書研究・加藤直士「羅馬書研究(44)」(保羅[パウロ]の舊約聖書全書引用法等) 基督教新聞 1410(9/15) [29658
講壇・海老名彈正「基督論(1)(6)(7)(8)(9)」(ジュリアス・シーザー、希臘思想、プラトー哲學、フィロー哲學、テオフ井ヒラス、ストイック哲學、ソクラテス等) 基督教新聞 1413(10/6),1419(11/17),1421(12/1), 1422(12/8),1423(12/15) [29659
聖書研究・加藤直士「羅馬書研究(49)」(オリゼン、オウガスチン等) 基督教新聞 1416(10/27) [29660
評論・井上哲次郎「ショッペンハウエルとジェームス」(プラトー、アリストテレース等) 基督教新聞 1418(11/10) [29661
南陽生「愛とは何ぞや(6)」(グリーキ人等) 基督教新聞 1420(11/24) [29662
中村長之助「宗教の性質と其分類標準(下)」(ネオプラトニスト派等) 基督教新聞 1422(12/8) [29663
植村正久「ティン・チャーチを論じてカーディナル・ニューマンに及ぶ」(プラトン、トウキユヂィデス、アウグストウス、アトラス、プトレマイオス、ハドリアヌス、フエヂィアス、ホリュグノトス、ソフォクレス、アイッスキュロス、リュシアス、アンドキデス、デモステネス、ゲーテ、モンテーニュ等) 福音新報 781(6/9) [29664

C.②＊[訂正]坂本健一『參考西洋大歷史』 [4103] [29665
ゼームス・ストーカー/宮崎八百吉譯『須[スイントン]氏・保羅傳』 [29666
若月紫蘭譯『アナトール・フランス短篇傑作集』(「猶太の代官」) [29667
三宅雪嶺『偉人の跡』(古今東西十人) [29668
W.E.Barton, Th.G.Soare & S.Strong/大宮季貞譯編『聖書基督傳』 [29669
アルノー・ノイマン/栗原基譯『耶蘇傳』 [29670
ヂー・グリーソン著『耶蘇教訓之研究』(英文併記) [29701
原忠美『基督の面影』 [29702
聖アルホンソ/浦川和三郎譯『聖母マリアの七の悲傷』(2 版、家庭叢書 1) [29703
シルベン・プスケ著『聖人物語』(1,2 月之巻) [29704
アール・ビ・ラックハム/菅寅吉譯『教會之起源』 [29705

モール/溝口彈一・ミンキネン共譯『基督敎敎理----律法の巻』 [29706
アール・ビー・ガードルストーン/川崎市藏譯『基督敎信仰論』 [29707
坂本健一編『世界史年表----世界史三綱』 [29708
③メレジコウスキイ/島村盛助譯「ジュリアンの最後」」(ユリアヌス帝)
帝國文學 16-3 [29709
批評「若月紫蘭譯「アナトル・フランス短編傑作集」」帝國文學 16-4 [29710
柳茂安「カタコンブの發掘と初代敎會の信條」聲 410,411,412 [29711
會山生「基督敎と小兒」(アリストテレス、アレクサンドル大王、ライカルガスのスパルタ國の法律、タシタス、ソロン等)聲 418 [29712
(參考：彙報「敎員檢定本試驗問題中」、歷史地理 15-4 [29713
---- 西洋史：「一、エパミノンダス(Epaminondas)がスパルタの勢力を挫くために用ゐたる政治的手段」)
答問・好史生(東京)「13 回、支那にて何故ローマの事を太秦と稱せしや」(答、妻木) 歷史地理 16-2 [29714
(參考：彙報「第廿三回文部省敎員檢定本試驗問題」、東洋哲學 17-3 [29715
歷史(西洋史)科：「一、エパミノンダス(Epaminondas)がスパルタの勢力を挫くために用ゐたる政治的手段」)
(參考：彙報「第廿四回文部省敎員檢定豫備試驗問題」、東洋哲學 17-10 [29716
歷史(西洋史)科：「一、ペロポネソス戰後の初に於けるアテネ、スパルタの勢力比較幷に其の戰略」)
(參考：敎界「北京通信」、基督敎新聞 1380(2/17) [29717
----- アーサー・スミス博士「支那を古羅馬に比し羅馬の基督敎化されし理由」)
殉敎美談「燃るトロイの歌」(ニロ帝)ときのこゑ 3/1 [29718
殉敎美談「猶太の敎法師」(ニロ帝)ときのこゑ 4/15 [29719
殉敎美談「恐ろしき陰謀」(ニロ)ときのこゑ 5/1 [29720
「寸斷せられても屈せず」(羅馬皇帝ダイオクレシアン)ときのこゑ 7/15 [29721
殉敎美談「主の愛と弟子」(ニロ帝)ときのこゑ 7/15 [29722
殉敎美談「理不盡の拷問」(ニロ帝)ときのこゑ 9/15 [29723
殉敎美談「剛勇少年」(ニロ帝)ときのこゑ 10/1 [29724
殉敎美談「貴婦人の奔走」(セネカ、ニロ帝)ときのこゑ 11/15 [29725
(參考：敎界「同志社神學校本年度卒業生」(卒論)基督敎新聞 1382(3/3) [29726
----- 境野周次郎「使徒時代の歷史的研究」)
說苑・渡瀨常吉「慕ふべきステパノの人格と思想」(ギリシヤ方言、ローマの大將ポンペイ、アゼンス、アレキサンドリア等)
基督敎新聞 1403(7/28),1404(8/4),1405(8/11) [29727
敎壇・宮川經輝「基督敎存立の理由(上)」(コンスタンチン大帝等)
基督敎新聞 1410(9/15) [29728
美哉生「デモステ子ス」雄辯 7 月號 [29729
A.フランス/別所梅之助譯「ユダヤの女」新女界 6,7 月號 [29730
「柴漬」(アルキビアデス、ハンニバル、アレキサンダー大王)

東京朝日新聞 1/18　[29731
④藤田季荘「極東の地理及歴史考」(ストラボン、ヂオドール、希臘語、羅甸語等)
六合雑誌 352,353　[29732
「サロメの感想」校友會雑誌(第一高等學校)198　[29733
----柳澤[健]生「サロメ梗概」
野明生「Wilde が Salomé」
柳澤健「SLOMÉ を讀んで思つたことども」
新城和一「サロメより得たる感想」
佐々木好母「聖書のサロメ」
平泉良三「サロメ」
久保生「Salome の研究」
坪井[正五郎]博士「ロゼッタ石」學生 6・特別號(9 月號)　[29734
質疑解答「離婚に就て」(アレキサンドリアのクレメント、オリゼネス等)
聲 414　[29735
山鹿生(山口鹿三?)「基督教と婦人」(セネカ、プラトン、ヴェヌス神、バックス神、詩人ジュヴェナル、希臘詩人エスキル、賢哲エピクテート等)聲 419　[29736
書評「重田勘次郎「詳解・西洋歴史」」史學雑誌 243　[29737
書評「坂本健一「參考・西洋大歴史」」史學雑誌 243　[29738
書評「箕作元八「教科遍用・西洋歴史地圖」」史學雑誌 246　[29739
書評「瀬川秀雄「西洋全史」」史學雑誌 253　[29740
批評「箕作元八「西洋史講話」」帝國文學 16-10　[29741
雑報「メレシコフスキイ/島村茎三(盛助)譯「背教者ジウリアノ」」
帝國文學 16-12　[29742
魚住折蘆「「背教者ユリアヌス」の序文に就て」(メレジュコフシキー/島村冬三譯「背教者ユリアヌス」ケーベル博士序文)
ほととぎす 11 月號[增刊]　[29743
ケーベル博士「「背教者ユリアヌス」の序文(原文)」ほととぎす 11 月號[增刊]
[29744
時評・[劍郎]「參考西洋大歴史を紹介す」(阪本文學士著)歴史地理 15-4　[29745
新刊「箕作元八「教科遍用・西洋歴史地圖」」歴史地理 15-5　[29746
新刊「箕作博士「西洋史講話」」歴史地理 16-3　[29747
新刊「三宅雄次郎[雪嶺]「偉人の跡』(古今東西十人)
丁酉倫理會倫理講演集 93　[29748
泰西思潮「古代の羅馬と近世の亞米利加」(以太利の歴史家 Ferrero)
丁酉倫理會倫理講演集 99　[29749
R.ドクトル・ウンチリアン「雄辯術」雄辯 7 月號　[29750
聞書應答・村田勤「Ferrero のローマ史の英譯」基督教新聞 1380(2/17)　[29751
新刊「ノイマン博士/栗原文學士譯「耶蘇傳」」基督教新聞 1419(11/17)　[29752
新刊「横井時雄「歐洲近世史論」」基督教新聞 1420(11/24)　[29753
「二種の新西洋史」(箕作元八「西洋史講話」、瀬川秀雄「西洋全史」)
萬朝報 6230(12/4)　[29754

新刊雑書「参考・西洋大歴史」(坂本健一著) 東京朝日新聞 1/30 [29755
新刊雑書「西洋武士道」(古代等。前田長太纂譯) 東京朝日新聞 2/15 [29756
「歴史と政治家」(アゼンス、クレオン、シェシデイデス等)
東京朝日新聞 4/20 [29757
「歴史の眼目たりべき傳記」(オーガスタス、シーザー、ギリシヤ史、ミルテアデス、ペリクレス、フィデアス、エスキラス、ソフォークレス、ユーリピデース等) 東京朝日新聞 4/27
[29758
新刊書籍「西洋史講話」(箕作元八著) 東京朝日新聞 8/22 [29759
「危險なる洋書---メレジコフスキー」(「神々の死」)東京朝日新聞 9/24 [29760
新刊雑書「最新・世界歴史」(高桑駒吉著) 東京朝日新聞 10/28 [29761
文藝欄・(安倍)能成「批評と生活」(メレジュコフスキー「背教者ユリアアヌ」)
東京朝日新聞 11/22 [29762
「瀬川[秀雄]博士と語る」(「西洋全史」「西洋通史」) 東京朝日新聞 12/4 [29763
D.①中村德助『新譯解說・伊蘇普物語---附・日本名士逸話』 [29764
菅野德助・奈倉次郎譯註『伊蘇普物語』(青年英文學叢書 21) [29745
雜錄「本會記事」----さ、き、生「羅馬の諺」(廿八條)
丁酉倫理會倫理講演集 90 [29746
長谷川元吉「イソップ物語詳解」正則・英語之日本 3-7 [29747
エ・ラゲ譯『Waga Shu Iesus Kirisuto no Shin-yaku Seisho』(鹿兒島公教會) [29748
エ・ラゲ譯『我主イエズスキリストの新約聖書』(鹿兒島公教會) [29749
イー・エム・ブランド編『日課聖語錄』 [29750
シー・エフ・コックッス編『純金----聖書抜粹』 [29751
ゼームス・ハインド著/山縣雄杜三校『聖馬太[マタイ]傳註釋』 [29752
ラルネデ教授/大宮季貞記『約翰[ヨハネ]書簡・黙示錄講解』 [29753
②＊[訂正]H.フォス、J.P.エッケルマン/荻原井泉水譯『ゲーテ言行錄』
[4152] [29754
＊[訂正]ゲーテ/新渡戸稻造譯『ファウスト物語』 [21229] [29755
岡島狂花『レッシングの詩』 [29756
フレデリック・ロリエ/戸川秋骨譯『比較文學史』 [29757
刀根良詮『羅馬字解』 [29758
杉山元治郎(海南)『通俗新約物語』 [29759
吉崎彦一編『福音書對觀』 [29760
海老澤亮著・松本雲舟（赳）增補『讃美歌の歴史』 [29761
③＊[訂正]新村出「南風」(ホメーロス、キルギリウス、百合若傳說等)藝文 1-3
[4153] [29762
＊[訂正]瀧節庵(精一)「健駄羅美術の一標本として見るべき清涼寺の釋迦像」
國華 23 [4162] [29763
山鹿生(山口鹿三?)「靈名の稱呼」(希臘語、羅甸語)聲 410 [29764
柳茂安「初代公教會の彫刻(1)」聲 417 [29765
野々口精一「天稚彦物語の本源---ギリシヤの「愛と心」」帝國文學 16-10 [29766
「ホメーロス」ハガキ文學 7-6 [29767

(参考：教界「同志社神學校本年度卒業生」(卒論)基督教新聞 1382(3/3) [29768
---- 菊池忠四郎「新約聖書の希臘語と日本語との比較」）
文藝欄・吹田虚風[順助]「戯曲の本質」(アリストテレス等)
東京朝日新聞 8/11 [29769
④一讀一抄「昔は歴史、今は文學書」(ホメロス「イリアッド」「オデシイ」等)
六合雑誌 359 [29770
大槻如電「伊會保物語のものがたり」此花 4 [29771
櫻井正隆「詩は氣息なり」(ゲーテ)帝國文學 16-1 [29772
和辻哲郎「[B.]ショウに及ぼせしニイチェの影響」帝國文學 16-2 [29773
「ゲーテ語錄」時事評論 5-4 [29774
中澤臨川「バイロン」世界文藝 4 [29775
新刊紹介「松原至文譯述「近世大陸文學史」」(ドミーユ著) 東洋哲學 17-1
[29776
(参考：彙報・天桂子「梵語學會」、東洋哲學 17-10 [29777
堀謙德「ゼンダーヘスターに就て」(アレキサンダーのペルシア攻略等)
泰西思潮「學生時代のエマーソン」丁酉倫理會倫理講演集 91 [29778
泰西思潮「諸大學の協力」(Lord Rosebery, Gilbert Murray)
丁酉倫理會倫理講演集 93 [29779
新刊「荻原井泉水譯「ゲーテ言行錄」」丁酉倫理會倫理講演集 97 [29780
飯塚陽平譯「希臘懐古」(バイロン「チャイルド・ハロルド」)
英語之日本 3-2,3,6 [29781
山崎貞「サフォー」(佛國文學譯註)英語之日本 3-3,5,7 [29782
長谷川康譯註「ライン河」(バイロン「チャイルド・ハロルドの遍歴」)
英語之日本 3-8 [29783
生田長江「「悲劇の出生」に至るまで(Nietzsches Philosophie von Dr.Arthur Drauson
に據る)」新小説 15-9 [29784
新村出「落葉集」(吉利支丹版四種)國學院雜誌 7 月號 [29785
新村出「鷹狩」(ケーザー、プリニウス、タチタス等)藝文 10,11 月號 [29786
「ゲーテ語錄」時事評論 5-4 [29787
A.フランス/馬場孤蝶譯「上臈」(「ラエタ・アキリア」)(?)學生文藝 11 月號
[29788
「柴漬」(ゲーテ) 東京朝日新聞 1/11,6/7 [29789
文藝欄・厨川白村「近代文學と古文學」(アナトオル・フランス、ペトラルカ等)
東京朝日新聞 2/7 [29790
文藝欄・片山孤村「[島村]抱月の僞自然主義(下)」(ホメール、ゲーテ等)
東京朝日新聞 4/6 [29791
「(續)美男美女(4)」(ホーマー等) 東京朝日新聞 4/18 [29792
文藝欄・蒼瓶「飜譯物」(新渡戸稻造「ファウスト物語」、生田長江譯「ニイツェ
「ツアラストラ」) 東京朝日新聞 5/10 [29793
武者小路實篤「賞翫車と批評家と創作家と」(アナクレオン等)
東京朝日新聞 5/15 [29794
小池秋草「文藝家と壽命」(バイロン、ヘルデルリン、シルラー、ゲーテ等)

東京朝日新聞 5/22,5/23 [29795
文藝欄・(戸川)秋骨「美術的作物の要件(上)」(ミロの井―ナス、ラオコーン等)
東京朝日新聞 7/7,7/8 [29796
新刊雜書「石川弘編「泰西名家の手紙」」(バイロン、アーノルド等)
東京朝日新聞 7/28 [29797
文藝欄・魚住折蘆「自己主張の思想としての自然主義(上)」(ニイチェ主義、ルネッサンス等) 東京朝日新聞 8/22 [29798
文藝欄・太田善男「個性と統一(上)」(アリストートル等) 東京朝日新聞 9/12 [29799
E.②岡村玄治『法之眞髄』(?) [29800
永野八郎『商權爭奪史論』(羅馬帝國等) [29801
③石巻良夫「ハムラビ法典とカルデアの文化」(希臘羅馬の文明、羅馬法等)
六合雜誌 353 [29802
(參考：答問・讀史生(神井縣)「9 問、ローマ共和政治第二の建設のとき、ヴァレリウス、ホラチウスの發布したる法令御敎示」(答、妻木)歷史地理 15-4 [29803
「御講書始---洋書タントウス[タキトス]のゲルマニヤ卽ち古代法制史」(穗積八束)
東京朝日新聞 1/1 [29804
④雜錄・背川生「ボアソナード先生」臺法月報 4-8 [29805
F.②オイレル・カール著/坪井玄道・可兒德譯『體操發達史』 [29806
長澤龜之助『世界數學家畫傳』 [29807
内村鑑三『近代に於ける科學的思想の變遷-----新科學の福音』 [29808
③中川銓吉「非ゆーくりつど幾何學、特ニろばちふすきー及ぼりあと兩氏ノ研究ニ就テ」(ゆーくりつと等)東京物理學校雜誌 228 [29809
龍門生「地球中心の火」(エトナ火山、希臘と羅馬の哲學者達等)聲 415 [29810
④龍門生「天の無限」(希臘の哲學者プラトン等)聲 416 [29811
小西海南「本年の曆と天文」(ジュリアン曆、ジュリアス・シーザー等)
東京朝日新聞 1/1 [29812
文藝欄・富士川游「グラッペの病志(上)」東京朝日新聞 6/28 [29813
新刊雜書「泰西數學家畫傳」(長澤龜之助著) 東京朝日新聞 9/26 [29814
G. 新刊「大日本百科辭書編輯部編「哲學大辭書」(第二册)
丁酉倫理會倫理講演集 92 [29815
應問・浩蕩生(宗谷)「アイスレル氏哲學辭書の册數及定價」、
丁酉倫理會倫理講演集 96 [29816
----- 答・Aisler, Wörtebuch der philosophischen Begriff und Ausdrück
聞書應答・野口末彦「哲學大辭典」(同文舘發行)基督敎新聞 1379(2/10) [29817
新刊雜書「新譯・英和雙解辭典」(和田垣謙三、榊原彌編)
東京朝日新聞 5/23 [29818

明４４(１９１１)
A. ＊[訂正・削除]有島~~壬~~生馬「獨逸の古羅馬人」白樺 2-4 [4186] [29819

岩村透「初て見たアテンス」美術新報 10-3 [29820
久米桂一郎「歐洲歸朝談」美術新報 10-7 [29821
石井柏亭「君府[コンスタンチノープル]の雪(3)」(亞歷山大王等)
東京朝日新聞 3/29 [29822
三宅克己「伊太利の印象」新小說 16-7 [29823
書評「黑板勝美「西遊二年・歐米文明記」」史學雜誌 264 [29824
黑板勝美『歐米文明記』(「トロイの春雨」) [29825
海老名一雄「本多利明の通商交易說」歷史地理 17-? [29826
(參考：東京文科大學新學年講義目錄、帝國文學 17-10 [29827
哲學科：心理學概論(元良)、倫理學概論(中島)、Introduction to Philosophy(ケーベル教授)、History of Mediaeval Philosophy（ケーベル教授)、The“Poetics”of Aristotle and Lessing's Laokon（ケーベル教授)、Greek(Reading of Plato's Kriton & Homeros、ケーベル教授)、Greek(Reading of Theokritos,Horatius、ケーベル教授)、美學概論(大塚)、教育學概說(吉田)、教育學史(林)、形式論理學一般(今福)、認識論(紀平)
史學科：史學概論(坪井)、西洋史概說(箕作)、羅馬史(村川)、希臘史文化史(村川)、史籍解說附演習(村川)、發見時代史・東西交通史(村上)
文學科：Griechische-Römische Literature(フロレンツ教師)、History of French Literature(エック教授)、羅甸語(エック教授)、言語學概論(藤岡)、言語學各論(藤岡)、古文比較詳釋(岡田)、Goethe:Dichtung & Wahrheit(春木)、英文學(ロイド)、希臘羅馬文化史(コット)、希臘語(コット)
(參考：彙報「史學研究會近況」、歷史地理 17-5 [29828
谷本冨「歐洲漫遊談」)
(參考：彙報「京都文科大學來學年講義題目中」、歷史地理 18-1 [29829
史學研究法(内田)、東西交通史(桑原)、西洋史概說(原)、地理學史(小川)、地理發見時代史(中村)
(參考：彙報「本會西部夏期講演會記事」、歷史地理 18-3 [29830
村上直次郎「安土桃山時代の基督教」(2 回))
(參考：彙報「中學教員檢定豫備試驗の歷史地理問題中」、歷史地理 18-4 [29831
日本史：「三、左の事蹟の解釋(2)蕃書調所」)
(參考：彙報「東京文科大學史學科本學年度講座中」、歷史地理 18-4 [29832
史學概論(坪井)、佛國大革命時代史((箕作)、西洋史概說(箕作)、史籍解題及演習(村川)、羅馬史(村川)、ギリシア文化史(村川)、發見時代史・東西交通史(村上)、西域史解說(堀)/副科目---中世紀のキリスト教(姉崎)、美學史(瀧)
新刊「黑板勝美「西遊二年・歐米文明記」」歷史地理 18-4 [29833
(參考：彙報「東洋大學新學年」、東洋哲學 18-5 [29834
西洋哲學史(得能)、認識論(淀野)、心理學(高島)、教育學（田中）、教育史(田中)、倫理學・西洋倫理史(中島)、西洋倫理史(宇野)、哲學概論・論理學(大島)、言語學(藤岡)

堀維文「新聞紙に現はれる國民の神經衰弱」(グリース、羅馬の文化・國民・哲學等) 丁酉倫理會倫理講演集 110 [29835
内ケ崎(作三郎)生「南歐旅行だより」(第二信ダンテ紀念祭等) 基督教新聞 1446(6/1) [29836
B.①高橋正熊譯註「マーカス・オーレリアス瞑想錄」英語之日本 4-8 [29837
ギリシア神話「金髯」(繪入)初等英語研究 4-8 [29838
②木村鷹太郎『世界的研究に基ける日本太古史・上巻』 [29839
高千穂中學校編纂『世界訓話』(ソクラテス等) [29840
白川鯉洋『古典教育學』(ソクラヂス、アリストーツル等) [29841
カール・ブリユール/北島葭江譯『劍橋大學と學生』 [29842
同信舘編『福音の大意』(改版) [29843
ダブリュー・エチ・タートン/田中達譯『基督教の眞理』 [29844
ゼームス・オール/黒木洲尋譯『基督處女降誕論』 [29845
天主公教會『天主公教會要理』(3 版) [29846
ドルワール・ド・レゼー著『幸福』 [29847
ゼ・アル・イリングウオース/宍倉保譯『理性と天啓』(聖公會神學叢書 8)[29848
佐伯好郎『景教碑文研究』 [29849
Lord Bacon : Abbreviated and annoted by T.B.Macaulay, New ed.,Tokyo,Kobunsha, 1911 [29850
③＊[訂正・削除]兼常清佐「古代の希臘哲學者の斷片と傳記とに就いて」哲學雜誌 288,~~289~~ [4209] [29851
＊[訂正]安藤州一「ソクラテスの教訓」精神界 11-9,10,11,12 [4211] [29852
上田敏「民俗傳說」(12/26-5 日間。京都府立第一高女講演。「最近思潮教育冬季講習錄」所収。希臘羅馬、フホントネル、O.Müller,Bachofen 母權論、Tylor,Mommusen,Furttwängler,J.G.Frazer,The Golden Bough 等。昭 56 刊・上田敏全集第 9 巻所収。) [29853
上田[敏]博士「希臘神話中の諸神」中學世界 7 號 [29854
講演・浮田和民「ソクラテース時代と現代との比較」基督教新聞 1429(2/2)[29855
(參考：教界「東京」(靈南坂教會)、基督教新聞 1433(3/2) [29856
--- 高島平三郎「個人主義の發展及其影響」[ソクラテース、ストア哲學、エピキュラス等])
(參考：教界「東京」(本郷菊坂日基教會)、基督教新聞 1434(3/9) [29857
----- (2/25) 松永文雄講演「聖オーゴスチンの「告白錄」を讀む」）
聖書研究・加藤直士「羅馬書研究(56)」（希臘語の「愛」なる語）基督教新聞 1434(3/9) [29858
(參考：教界「東京」(第五回家庭夏期學校)、基督教新聞 1447(6/8) [29859
-----石原謙「アレキサンドリアのクレメントが教へたる宗教的生活」）
(參考：教界「各地」(東京青年會)、基督教新聞 1461(9/14) [29860
----- 柏井園「オイケンの見たるアウグスチンの宗教思想」)
思潮・アドルフ・ハルナック/加藤[直士]要約「異教徒の敬虔思想」(ヒッパーレ・ジョーナル誌 10 月號所載論文「第三世紀の終はりに於ける希臘的並に基督教的敬虔思想」

基督教新聞 1473(12/7) [29861
羅馬古實伏魔殿「師傅セネカ」ときのこゑ 6/1 [29862
羅馬古實伏魔殿「アウラスの家」(ストイック派のニューソノアス、リューファス、エピクテタス等)ときのこゑ 7/15 [29863
羅馬古實伏魔殿「外國の迷信」(アグリッピア、ニロ、セ子カ等) ときのこゑ 8/1 [29864
羅馬古實伏魔殿「希望の曙生」(ストイックの哲學等)ときのこゑ 8/15 [29865
④夏目漱石「日記(7/10)」(ケーベル。1996 年岩波版「漱石全集 20 巻」所収)[
＊[訂正]夏目漱石「ケーベル先生」東京朝日新聞 7/16,17、大阪朝日新聞 7/18,19 [4223] [29866
＊[訂正]新刊「(レッキー/)三浦範之譯「歐洲道德史」(下)」東京日々新聞 9/22 [21322] [29867
＊[訂正]三並良「耶蘇は神話的人格なるか」(ブルノー、アレキサンドリアの宗教哲學、アポロ等)六合雜誌 363 [4246] [29868
雜錄・柏葉生「基督抹殺論に就て」(幸德秋水著) 六合雜誌 363 [29869
三並良「祖先崇拜を論ず」(羅馬等) 六合雜誌 365 [29870
＊[訂正]文苑・旭山人「隨吟---(1)心澄みて」(ミューズの神等) 六合雜誌 369 [29871
三並良「思想の動搖と吾人の信念」(ソクラテス、ベルグソン、「萬物は流る」、プラトン等) 六合雜誌 370 [29872
ヨゼフ・ダルマン「大乘佛教と基督教の交涉(2)(3)」(ローマ、アンチオキア、アレキサンドリア等)聲 423,424 [29873
近事評論「「基督抹殺論」(幸德秋水著)」聲 424 [29874
雜誌の雜誌「村井知至著「將來の時代思潮」(道 8 月號)」(ダンテ等)聲 430[29875
本欄「心靈修養の要道」(ストイック學派の「汝自身を知れ」)聲 431 [29876
本欄・鶴翩(大城?)「基督、汝は誰なる歟(1)(2)」(賢哲ソクラテス、プラトン、ピタゴラス、英雄アレキサンドル、セザル、アリストット、ヒポクラテス、チェシヂートス、ホメール等)聲 431,432 [29877
本欄「公教光線の屈折」(ニエチェ等)聲 432 [29878
麻生霞城「原始宗教中の一神教(承前)」(希臘人の多神教、ソクラテス、プラトン、アリストテレス等)聲 433 [29879
小泉鐵夫「フリードリヒ・ニイチェの手紙」白樺 2-11 [29880
雜報「生田長江譯「ニーチェ語錄」」帝國文學 17-5 [29881
三浦白水抄譯「ニイチェの病理」(メービウス)帝國文學 17-6 [29882
最近世界思潮・幽紘部「今日の希臘少年」帝國文學 17-6 [29883
(參考：東京文科大學卒論、帝國文學 17-6 [29884
河野通一「パスカルの「パンセー」」)
生田長江「ツアラトウストラに關する斷片」帝國文學 17-10 [29885
出版「姉崎正治譯「意志と現識としての世界」」帝國文學 17-12 [29886
出版「木村鷹太郎「世界的研究に基ける日本太古史・上巻」(日本神話と希臘神話の比較)帝國文學 17-6 [29887

埋草「ニーチェ語錄」校友會雜誌(第一高等學校)209 [29888
新刊「今福忍「最新論理學要義」」(「東西兩洋論理學變遷史の概觀」)
東洋哲學 18-1 [29889
松村正一「精神的教育の不振を如何せむ」(ソクラチス、プラトーン、アリストテレース等) 東洋哲學 18-2 [29890
雜錄・松村正一「孔子の倫理說に就きて」(希臘のシニック犬儒派、ストア學派等)
東洋哲學 18-5 [29891
評言「學者と敬語」(プラトーン等) 東洋哲學 18-9 [29892
得能文「オイケン氏の哲學問題」(希臘思想、プラトー主義、アリストートル主義、ストア主義、エピクロス主義等) 東洋哲學 18-10,11 [29893
桑木嚴翼「レギー・ブルールの非規範學的倫理學」(ヘラクライトス、アナクサゴラス、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、ツェラー等)
丁酉倫理會倫理講演集 101 [29894
三宅雄次郎「修身といふ語」(ソクラテス等) 丁酉倫理會倫理講演集 101 [29895
應問・諸氏「倫理學研究手引(文檢受驗の程度)如何」、丁酉倫理會倫理講演集 101
----- 答・中島德藏(ファイト)「「解說批評・倫理學原論」、蟹江・藤井・深作譯(パウルゼン)「倫理學大系」、大島直治譯(ファイト)「倫理學原論」、西晉一郎譯(グリーン)「倫理學」、中島力造「倫理學說十回講義」、山本良吉「倫理學史」、木村鷹太郎「東洋西洋倫理學說史」、綱島榮一郎「西洋倫理學史」、北澤定吉「倫理學史綱」、吉田靜致「西洋倫理學史講義」 [29896
應問・諸氏「文檢教育科受驗準備には何書を讀むべきや」、
丁酉倫理會倫理講演集 101 [29897
----- 答・日高只一「歐米教育史」、大瀨甚太郎「歐洲教育史」
朝永三十郎「ショーペンハウエルの哲學」(アリストテレース、プラトーン、ヘーゲル等) 丁酉倫理會倫理講演集 102 [29898
桑木嚴翼「知識と人生」(希臘哲學、近世の希臘思想、ニーチェ、シラー等)
丁酉倫理會倫理講演集 104 [29899
應問・廣畔隱士(仙臺)「小生は哲學研究せむと欲する者に候が、如何なる書物を如何なる順序に讀破すべく候哉、初歩より系統的に其の書名、定價、發行所等、御指教相成度候」、
丁酉倫理會倫理講演集 105 [29900
----- 答・桑木嚴翼「哲學概論」、朝永三十郎「哲學綱要」、波多野精一「西洋哲學史要」、北澤定吉「哲學史綱」、大西祝「西洋哲學史」(二册)
泰西思潮「ブランダー・マシュース氏の模倣の義務」(The Duty of Imitation,by B.Mathews. 古典の模倣) 丁酉倫理會倫理講演集 106 [29901
應問・ZN 生(京都)「倫理研究の入門として簡單なる原書(英書)及び日本人による譯書 卽ち兩者對照して原書解釋の手引となる書名御教示を願ふ」、丁酉倫理會倫理講演集 106 [29902
----- 答・大島直治譯「倫理學原論」(Fite,An Introduction to Ethics)
新刊「中島力造「倫理學說十回講義」(第 8 版) 丁酉倫理會倫理講演集 107

[29903
應問・好學士(福島)「教育科文部檢定參考用書を御知らせありたし」、
丁酉倫理會倫理講演集 107 [29904
---- 答・日高只一「歐米教育史」、大瀬甚太郎「歐洲教育史」
雜錄・耳袋生「新自然主義」(ソクラテス、プレトー、アリストートル、ホーマー、ヘーゲル等) 丁酉倫理會倫理講演集 108 [29905
田中王堂「わが修養論」(プレトオ關聯) 丁酉倫理會倫理講演集 109 [29906
泰西思潮「ベルグソン論評」(エレア學派ツエーノー、飛矢不動の說等)
丁酉倫理會倫理講演集 109 [29907
應問・愛讀生(阿波)「第廿三回修身科(豫備及び本)試驗問題を御知らせ下さい」、
丁酉倫理會倫理講演集 109 [29908
----- 答・「三、儒教の中庸說とアリストテレスの中庸說を比較せよ」
「五、ストア派の倫理說をエピクルス派の倫理說との異同如何」
應問・夕月生(白川)「吾人は少しく哲學を研究せむと欲するものなれ共、曾て良書を見出す事能はず、何卒御手數恐入り候共、是が研究に適切なる哲學書有之候はば、次號の本紙上に御教示被下度(但し飜譯書にて代價郵稅共)偏に御願上候」、
丁酉倫理會倫理講演集 109 [29909
----- 答・朝永三十郎「哲學綱要」、北澤[定吉]・宮地「哲學汎論」
應問・吉田健吉(淡路)「次に掲ぐる倫理學書の比較批評を願度ものに御座候。1. 中島[力造]氏「倫理學說十回講義」、2.北澤[定吉]氏「倫理學史綱」、3. 吉田[靜致]氏「西洋倫理學史講義」」、
丁酉倫理會倫理講演集 111 [29910
----- 答・皆特種の長所ありといふ外數言にて述べ盡しがたし。
雜錄・西晉一郎「知行合一と意志」(ソクラテス、アリストテレス、ストア學者、ヌース、シラー等) 丁酉倫理會倫理講演集 112
[29911
應問・F 生(福井)「西洋倫理史の好參考書如何」、丁酉倫理會倫理講演集 112
[29912
----- 答・中島力造「倫理學說十回講義」、北澤定吉「倫理學史綱」、吉田靜致「西洋倫理學史講義」
應問・YS 生(秋田)「中學卒業程度の者、自習を以て、英語の原書につき教育倫理等を研究せむとするに、最近如何なる本を如何なる方法にて讀むべきか」、丁酉倫理會倫理講演集 112 [29913
----- 答・大島直治譯(ファイト)「倫理學原論」
海老名彈正「基督論(完)」(亞歷山府のクレメント等) 基督教新聞 1426(1/12)
[29914
「所謂時代思潮とは何ぞや(中)」(ベルグソン、オイケン等)
基督教新聞 1428(1/26) [29915
隨想「ニーチェの教訓」基督教新聞 1428(1/26) [29916
天藾地聲「幸德秋水「基督論」」基督教新聞 1430(2/2) [29917
講壇・海老名彈正「個人の價値」(ローマ市民、プラトーン等)
基督教新聞 1432(2/23) [29918

講壇・桑木嚴翼「婦人の力」(ニイチェ、ゲーテ等) 基督教新聞 1433(3/2) [29919
教壇・海老名彈正「基督に依れる神の恩寵」(ギリシヤ・ローマの賢哲等)
基督教新聞 1434(3/9) [29920
新刊「幸德秋水「基督抹殺論」」基督教新聞 1434(3/9) [29921
(參考：教界「東京」(東郷坂教會)、基督教新聞 1436(3/23) [29922
---- ウイッテ博士/向軍次通譯「眞の自由」[ニイチェ駁撃])
講壇・高島平三郎「現代個人主義の發展及び其影響」(ソクラテス、スチック哲學、
エピキュラス等) 基督教新聞 1437(3/30) [29923
宮川經輝「倫理の基礎」(ローマ帝國等) 基督教新聞 1442(5/4) [29924
故トルストイ/加藤直士譯「哲學と宗教」(アリストートル、プラトー等)
基督教新聞 1443(5/11) [29925
評論・加藤直士「諸家の批評を讀む」(聖オーガスチン、オイッケンの哲學等)
基督教新聞 1444(5/18) [29926
新刊「エヴレット/佐藤清譯「青年の倫理」」(ストア、エピキュラスの比較等)
基督教新聞 1444(5/18) [29927
評論・赤司繁太郎「沒我主義論爭の所感」(ヘレニズム、ヘブライズム、グノーシ
ス等) 基督教新聞 1446(6/1) [29928
宮川經輝「新同胞の教化」(マケドニヤ、西羅馬帝國等)
基督教新聞 1449(6/22) [29929
聖山生「老監督」(オーグスチン等) 基督教新聞 1451(7/6) [29930
論說・ハルナック・オイケン博士「宗教と人生」基督教新聞 1454(7/27) [29931
社說「哲學者の見たる新時代の要求」(オイケン博士の基督教觀、ニッチェ等)
基督教新聞 1455(8/3) [29932
天藾地聲「ヒッパーレ・ジョーナル誌 7 月號、サア・オリバー・ロッヂ「基督教
神觀」(ケーベル教授、ベルグソン、ゲーテ、ニツチェ、ダンテ等)
基督教新聞 1458(8/24) [29933
雜誌の雜誌「將來の宗教」(田中達「宗教缺くべからず」[宗教及文藝 8 月號]。希
臘の宗教等) 基督教新聞 1460(9/14) [29934
(參考：教界「各地」(組合教會按平禮試驗問題)、基督教新聞 1461(9/14) [29935
---- 「(5)オイケンの哲學と基督教の思想」)
(參考：教界「第 18 回組合教會教師會仮執行順序」、基督教新聞 1461(9/14)
---- (10/10)日野眞澄「ベルグソンの哲學評論」) [29936
雜誌の雜誌「柏井園「アウガスチンに關する史論」[開拓者 10 月號]
基督教新聞 1465(10/12) [29937
教壇・原田助「絶大の人格と不朽の事業」(ソクラテス、希臘文明史、プラトー、
羅馬史、シーザー等)
基督教新聞 1466(10/19) [29938
社說「歲晩の回顧」(ベルグソン、オイケン等) 基督教新聞 1476(12/28) [29939
增田藤之助「スマイルス氏・品性論講義」英語世界 5-1,3,5,9,12,13,14 [29940
鹽澤昌貞「學内の對立」(ギリシヤ關聯) 早稻田講演 1-4 [29941
新刊雜書「エマーソン論文集」(戸川秋骨譯) 東京朝日新聞 3/27 [29942
新刊雜書「ソクラテス語錄」(澁江保纂譯) 東京朝日新聞 8/30 [29943

新刊雜書「歐洲道德史(下)」(レッキ―/大日本文明協會發行、非賣品)
東京朝日新聞 9/6 [29944
新刊雜書「古典教育學」(白河鯉洋著) 東京朝日新聞 10/15 [29945
新刊雜書「プラトーン全集・第五」(木村鷹太郎譯) 東京朝日新聞 11/30 [29946
C.②ボールドウィン/吉田潔譯註『著聞五十講』 [29947
ボールドウィン/菅野德助・奈良次郎譯註『歷史物語』(青年英文學叢書第 20)
[29948
岡村愛藏譯註『須因頓氏・英文學詳解』(シェイクスピア「ジュリアス・シーザーの埋葬」、ミルトン、ギボン等) [29949
松本雲舟譯『神々の死』(メレシコフスキー「神々の死---背教者ユリアヌス」)
(昭文堂) [29950
高橋五郎『基督活殺論』(附「基督教會發達史」) [29951
教文舘編輯部編『耶蘇傳』 [29952
ジエムズ・ストウカァ/日高善一譯『使徒保羅[パウロ]』 [29953
本川惟敬『十字架教』 [29954
石川弘『基督の青年訓』 [29955
井口彌壽男『基督教の研究』 [29956
水島行揚編『讃美たる聖徒ペトルとパエルの略傳』(繪入正教家庭讀本) [29957
ジェ・エチ・ビー・マスタマン/山縣雄杜三譯『聖書人物考』 [29958
歷史研究會編『世界大年表』 [29959
③千頭淸臣(上院議員)「シーザー」學生・新年 1 月號 [29960
千頭淸臣(上院議員)「世界十二傑・ハンニバル」學生 11 月號 [29961
アンドレーエフ/森脇白夜譯「イスカリオテのユダ」新人 9 月號 [29962
木村鷹太郎「神功皇后の西征は埃及日本よりの伊太利征伐なり---參考書「日本書記」及びブッツゲル歷史地圖」帝國文學 17-1 [29963
(參考:東京文科大學卒論、帝國文學 17-6 [29964
高橋欣二「シチリアに於けるカルタゴの消長」
國枝史郎「ヴェスビアスの破裂前」劇と詩 2-1 [29965
(參考:彙報「第 24 回文部省教員檢定本試驗歷史地理問題中」、歷史地理 17-4
---- 西洋史:「一、アレクサンドル大王の東征時代に於けるペルシアの國情」) [29966
(參考:彙報「中學教員檢定豫備試驗の歷史地理問題中」、歷史地理 18-4 [29967
---- 西洋史:「一、第一ポエニ戰役の初に於けるローマとカルタゴとの國情」)
(參考:彙報「第廿四回教員檢定本試驗問題」、東洋哲學 18-4 [29968
歷史(西洋史)科:「一、アレクサンドル大王の東征時代に於けるペルシヤの國情」)
隨想錄「古聖徒の俤」(アウガスチン等)基督教新聞 1440(4/20) [29969
聖書研究・加藤直士「羅馬書研究(」(ローマ、聖アウグスチン等)
基督教新聞 1442(5/4),1443(5/11),1445(5/25) [29970
聖書・アーサー・エス・ピーク/加藤直士譯「羅馬書概論」
基督教新聞 1450(6/29) [29971

羅馬古實伏魔殿「皇后の陰謀」(アグリッピーナ等)ときのこゑ 1/1 [29972
羅馬古實伏魔殿「密談數劇」(皇帝クラウディオ等)ときのこゑ 1/15 [29973
羅馬古實伏魔殿「覆面の微行者」(アグリッピナ等)ときのこゑ 2/1 [29974
羅馬古實伏魔殿「ロウアスタ」(アグリッピナ等)ときのこゑ 2/15 [29975
羅馬古實伏魔殿「大通罪の女」(皇帝クラウディオ、アグリッピナ等)
ときのこゑ 3/1 [29976
羅馬古實伏魔殿「禁裏の晩餐」(皇帝ニロ、アグリッピナ等)
ときのこゑ 3/15 [29977
羅馬古實伏魔殿「大秘密」(皇帝ニロ、アグリッピナ等)ときのこゑ 4/1 [29978
羅馬古實伏魔殿「二人の狐子」(アグリッピナ等)ときのこゑ 4/15 [29979
羅馬古實伏魔殿「叛逆！叛逆!」(アグリッピナ等)ときのこゑ 5/1 [29980
羅馬古實伏魔殿「歡呼と悲哀」(ニロ、セネカ、アグリッピナ等)
ときのこゑ 5/15 [29981
羅馬古實伏魔殿「アカヤの代官」(セネカ等)ときのこゑ 6/15 [29982
羅馬古實伏魔殿「ブリタカス」(先帝クラウヂオ、オクタビア等)
ときのこゑ 7/1 [29983
羅馬古實伏魔殿「アウラスの家」(ストイック派のニューソノアス、リューファス、
エピクテタス等)ときのこゑ 7/15 [29984
「心の眼を開け」(羅馬の愛國者カトー)ときのこゑ 9/1 [29985
羅馬古實伏魔殿「小さき魚」(ニロ、クラウヂオ、オクタビヤ等)
ときのこゑ 9/1 [29986
羅馬古實伏魔殿「オネシモ」(師傅セネカ、クラウヂオ、オクタビヤ等)
ときのこゑ 9/15 [29987
羅馬古實伏魔殿「ピレモン」(アルテミスの伽藍等)ときのこゑ 10/1 [29988
羅馬古實伏魔殿「奇遇!!」(ピューヂンス等)ときのこゑ 10/15 [29989
羅馬古實伏魔殿「從姉從弟」(皇后オクタビア等)ときのこゑ 11/1 [29990
羅馬古實伏魔殿「秘密の大役」(先帝クラウヂオ、アグリピナ等)
ときのこゑ 11/15 [29991
羅馬古實伏魔殿「危機一髪」(ニロ、ブリタロス等)ときのこゑ 12/1 [29992
羅馬古實伏魔殿「神の挽臼」(クライデホ、ニロ、アグリピナ等)
ときのこゑ 12/15 [29993
④＊[訂正] 雜錄・甲賀宣政「一九一０年萬國錢貨學大會報告(三)」
考古學雜誌 2-3 [21327] [29994
彙報「箕作阮甫贈位奉告祭」歷史地理 17-4 [29995
答問・赤坂助次郎「31 問、專門的歷史研究に適當なる日本東洋西洋の各歷史地圖
御教示ありたし」(答、妻木)歷史地理 17-6 [29996
新刊「箕作元八「ギリシアの撥亂」」歷史地理 18-1 [29997
雜錄・高桑駒吉「室町幕府の遣明僧楠葉西忍は亞拉比亞[アラビア]の人の子なり」
(アレクサンドル大王、マルクス・アウレリウス・アントニウス
等）東洋哲學 18-1 [29998
雜錄・足利衍「狼に關する傳說」(羅馬の祖等) 東洋哲學 18-9 [29999
新刊「松本雲舟譯「神々の死」」(メレシュコウスキイ)

基督教新聞 1445(5/25) [30000
新刊「日高只一譯「使徒保羅傳」」(トーニカー博士著)
基督教新聞 1474(12/14) [30001
伊藤尚「オイッケン教授の歴史觀」(三、古代ギリシヤ人の理想)
早稻田講演 1-5 [30002
新刊雜書「神々の死」(メレシュコウスキイ/松本雲舟譯)東京朝日新聞 4/27 [30003
新刊雜書「ギリシヤの撥亂」(箕作元八著) 東京朝日新聞 6/1 [30004
D.①＊[訂正]舊雨樓編(朝野房編)『萬治舊板・伊曾保物語』(十錢文庫 5)
[4286] [30005
「イーソップ物語(第一)(第二)」初等英語叢書 12,18 [30006
丹羽後之助『イソップ唱歌』 [30007
英語研究社『イーソップの話』(初等英語叢書・第 12) [30008
英語研究社『第二・イーソップの話』(初等英語叢書・第 18) [30009
高橋五郎『廿世紀聖書新譯』 [30010
英國聖書會社『マタイ傳福音書----新約全書』 [30011
内山彼得『マトフェイ[マタイ]に因る聖福音略解』 [30012
聖書改譯委員譯(代表：シー・ケー・ハリントン、別所梅之助)『マコ傳福音書』
[30013
英國聖書會社『路加[ルカ]傳福音書』(英和對照) [30014
英國聖書會社『約翰[ヨハネ]福音書』 [30015
サンデイ・ヘドラム原著/加藤直士譯『羅馬書註解』 [30016
斐沃芳著/上田將譯『加拉太[ガラテヤ]書註解』(聖使徒パウェル・ガラティ人に達する書の註解) [30017
②古志學人『一辭千金』 [30018
山田寅次郎『土耳古畫觀』(希臘羅馬との比較) [30019
荻原守衛『彫刻眞髓』 [30020
ヂヨージ・グリーソン/加藤直士、桑田繁太郎譯『耶蘇基督之比喩』 [30021
柏井園『ピリピ書研究』 [30022
猪又賢三郎『聖書圖解』 [30023
③＊[訂正](參考：雜錄「美學研究會記事」哲學雜誌 295 中 [21338] [30024
菅原教造「希臘服裝及其藝術上の表現」)
藤井生(兩衣生?)「詩聖ダンテ」聲 422,423,424,425,426 [30025
柳茂安「カタコンブの美術」聲 422,423 [30026
柳茂安「初代の大聖堂」聲 425 [30027
柳茂安「初代聖堂の舊蹟」(希臘羅馬のの美術等)聲 426 [30028
柳茂安「初代公教會の彫刻」聲 427 [30029
柳茂安「函狀龕の彫刻」聲 428 [30030
藤井生(兩衣生?)「文豪シャトウブリアン(1)」(ソクラテス、アレキサンドル、ホメール、バージル等)聲 429 [30031
近事評論「文藝委員會のダンテ飜譯」(上田敏博士)聲 429 [30032
柳茂安「初代基督教美術」聲 430 [30033
柳茂安「羅馬式建築術」聲 431 [30033

藤井生(兩衣生?)「文豪ド・メーストル(續)」(ヒポクラド、プラトン等)
聲 433 [30034
衛藤東田「模描の原理---「新ラオコーン」より」帝國文學 17-4 [30035
森田龜之助「キンス・ロオ・ホオマア」美術新報 10-5 [30036
附錄・長井氏晟「ホーマー物語」英語世界 1 號 [30037
「ギリシヤ神話」初等英語叢書 14 [30038
④(參考：彙報「史學研究會」、藝文 3-9 [30039
深田(康算)教授「キンケルマンに就て」(昭 48 年刊「全集」第 3 巻所収)
ボッカッチョ/(?)譯「地獄に行つてきた詩人」文章世界 5 月號 [30040
新村出「金句集」(吉利支丹版四種)藝文 1 月號 [30041
小林愛雄「近代古劇」帝國文學 17-2 [30042
最近世界思潮・幽紘部「ラスキン傳」帝國文學 17-6
内ヶ崎作三郎「英文學史に於ける牛津大學の位置」帝國文學 17-12 [30043
山宮允「イエーツ及其詩歌」校友會雜誌(第一高等學校)209 [30044
姉崎正治「ショウペンハウエルの建築論」日本美術 14-2 [30045
姉崎正治「ショウペンハウエルの彫刻論」日本美術 14-5 [30046
新刊「新村文學士校「文祿舊譯伊會保物語」」歷史地理 18-4 [30047
滋賀重列譯「ジョン・ラスキンの建築論補遺」建築雜誌 9,10 月號 [30048
滋賀重列譯「ジョン・ラスキンの建築論補遺」建築世界 11,12 月號 [30049
紀平正美「一轉語」(古代希臘哲學、希臘語エッポクー、ヘーゲル等)
丁酉倫理會倫理講演集 101 [30050
(參考：「本會記事」公開講座---高島平三郎「ベルグソンとロダン」)、
丁酉倫理會倫理講演集 112 [30051
高安月郊「ゲーテとベートーヴェン」音樂 2-4 [30052
雜錄「忘恩の罪」(ダンテ) 基督教新聞 1429(2/2) [30053
川添萬壽得「改譯「マルコ傳」に對する左近氏の批評を讀む」」(希臘語・文法等)
基督教新聞 14612(9/21),1463(9/28) [30054
文藝欄・畔柳都太郎「猪の文學」(大哲プレエトオ、ホオマア)
東京朝日新聞 1/3,1/5 [30055
新刊雜書「イーソップの物語」(「イーソップの話」[初等英語叢書・第 12])
東京朝日新聞 6/28 [30056
新刊雜書「イーソップお伽話」(巖谷小波新譯) 東京朝日新聞 9/7 [30057
E.③應問・宇佐生(大分)「ヘーゲルとスピノーザとプラトーとの國家論、差異同を略記下され度候、表解的にてもよろしく候」、
丁酉倫理會倫理講演集 112 [30058
----- 答・餘りに複雜なり。
春木一郎「羅馬法」[執筆分擔](「大日本百科辭書・法律大辭典」中) [30059
④海老名一雄「本多利明の通商交易論」歷史地理 17-5 [30060
泰西思潮「病氣は興國の基礎」(エディンバラ評論「遺傳の原理」、希臘人、ローマ人等) 丁酉倫理會倫理講演集 105 [30061
多田雄「文化史上及び社會問題の一として視たる吉原」(古希臘のヘタイラ等)
丁酉倫理會倫理講演集 106 [30062

新刊「樋口秀雄「社會學小史」」(「古代に於ける社會學的研究」、「中世に於ける社會學的研究」)
丁酉倫理會倫理講演集 109 [30063
(參考：「本會記事」公開講座---紀平正美「ヘーゲルの國家觀」)
丁酉倫理會倫理講演集 110 [30064
紀平正美「ヘーゲルの國家觀」(希臘ソヒスト等)
丁酉倫理會倫理講演集 111 [30065
エーリング「權利の闘爭」雄辯 4 月號 [30066
副島義一「社會發展の針路」(ソクラテス等) 早稻田講演 1-5 [30067
講演・鵜澤聰明「國家構成員としての人物教育」(プラトー、アリストートル等)
基督教新聞 1435(3/23) [30068
F.③岡田三郎助「希臘婦人打出模様革細工紙入」美術新報 10-11 [30069
嘉内持長「オリムピック大會」日本雜誌 11 月 1 日號 [30070
黑板[勝美]博士「希臘のオリンピア競技」中學世界 6 號 [30071
(參考：雜報「東北大學理科大學數學科入學試驗問題」、
東京物理學校雜誌 239 [30072
3.(a)「ぴたごらす定理ヲ英文ニテ述ベヨ」)
G. 藤本慶祐編『最新歷史辭典』 [30073
新刊「共益商社版「英和大辭典」」(29 版。明 25 年、初版)
東洋哲學 18-10 [30074
高木壬太郎『基督教大辭典』(全一册。→昭 3 改版。昭 9 增補版[阿部義宗增補監輯])
[30075
服部保「ヘボン博士を弔す」英語世界 5-13 [30076
「ヘボン博士逝く」(ヘボン英和辭)基督教新聞 1463(9/28) [30077
個人消息「ヘボン博士」(享年 97 歲) 基督教新聞 1463(9/28) [30078
教界「東京通信」(ヘボン博士追悼會) 基督教新聞 1464(10/5) [30079
新刊「高木壬太郎「基督教大辭典」」基督教新聞 1474(12/14) [30080
時論・高木壬太郎「基督教大辭典著述苦心談」基督教新聞 1476(12/28) [30081
新刊雜書「學生英和辭典」(上野陽一、長崎英造、太田英次郎著)
東京朝日新聞 1/24 [30082
新刊雜書「基督教辭典」(赤司繁太郎編) 東京朝日新聞 2/5 [30083
新刊雜書「模範英和辭典」(三省堂) 東京朝日新聞 4/29 [30084
新刊雜書「經濟大辭典・第二卷」東京朝日新聞 9/12 [30085
村上外國語學校長談「ヘボンの辭書」東京朝日新聞 9/25 [30086
「ヘボン博士追悼會」東京朝日新聞 9/30 [30887

大１(明４５=１９１２)
A. ＊[訂正]鷲尾正五郎「ネオ・ヘレニズム」(希臘文學、希臘哲學、希臘政治、希臘劇、希臘美術等) 丁酉倫理會倫理講演集 118 [4333] [30888
雜纂・ウエンテ「伊太利より」六合雜誌 375(32-4) [30889
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 302 [30890

----- O.Braun,Herders Kulturphilosophie,Z.Ph.ph.Kr.145,1
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 303 [30891
---- R.M.MacIver,War and Civilization ,Int.J.Eh.22,2
山崎貞譯註「歐洲見物」(マーク・トウエイン「無邪氣者の外遊記」)
英語の日本 1 月號 [30892
石井柏亭「ヂエノワよりウェネチア」三田文學 3-7 [30893
坪井[九馬三?]博士「伊太利の名所」少年世界 5 月號 [30894
小林愛圀「羅馬の怪窟探検」少年園 5 月號 [30895
太刀雄「大成丸、世界周遊記---西風神(ゼフィラス)」東京朝日新聞 9/30 [30896
出版界「伊太利及伊太利人」(ヘレン・ツィンメルン/岸本能武太譯)
東京朝日新聞 12/4 [30897
與謝野[鐵幹]生「偉人の足跡(1)---フィレンツェにて」
東京朝日新聞 12/24,12/25 [30898
高橋五郎譯『世界文豪讀書觀』 [30899
出版「高橋五郎譯「世界文豪讀書觀」」帝國文學 18-6 [30900
(參考：東京帝國大學文科大學新學年講義題目中、帝國文學 18-10 [30901
文學科：Allgemeine Geschichte der deutschen Literatur（Florenz）、Lessing Studien(Florenz）、Histoire Générale de la Literature Française(Heck)、Latin (Heck)、言語學概論(藤岡)、History of Greek and Latin Literature(Cattes)、希臘語初歩(田中)、羅甸語初歩(田中)
哲學科：心理學概論(元良)、倫理學概論(中島)、Philosophie des Altertums(ケエベル)、Griechische für Vergeschritten(ケエベル)、Horatius,Ars Poetic, Boilean Poetique(ケエベル)、Die typische generallen Standpunkt in der Meta .& Religion(ケエベル)、美學概論(大塚)、宗教學及宗教史概論(姉崎)、教育史概說(吉田)、教育學(林)、宗教學(加藤)、形式論理學附近世倫理學的解說(今福)
史學科：史學概論(坪井)、西洋史概說(箕作)、羅馬史(村川)、史籍解題(村川)、埃及史(村川)、發見時代史・東西交通史(村上)、考古學(坪井))
時評「辛亥歷史地理學界の概觀」(黒板博士「南歐探古記」」歷史地理 19-1 [30902
(參考：時評「京大文科大學史學科講義題目中」(來学年)、歷史地理 20-1 [30903
史學研究法(内田)、西洋史概說(坂口)、ヘレニスチック時代(坂口)、古代地史解題(タシタス、中目)、考古學(濱田)、西域史(羽田))
(參考：彙報「東京文科大學文科大學史學科本學年度講義題目中」、歷史地理 20-4
史學概論(坪井)、西洋史概說(箕作)、フランス革命時代史(箕作)、羅馬史(村川)、史籍解題附演習(村川)、埃及史((村川)、發見時代史・東西交通史(村上)、 考古學(坪井)/副科目---西洋哲學史概說(井上)、日本美術史(關野)、中世盛期のキリスト教(姉崎)、教育史概說(吉田)、西域文化史(堀)) [30904
三井甲之「ヴントの歷史開眼に關する序說」人生と表現 6 月號 [30905
雜錄・紀平正美「日本國民の一特長」(プラトン、アリストートル等)
丁酉倫理會倫理講演集 113 [30906
泰西思潮「新歷史研究法」(フリンダース・ペトリー「文明の進化」)

丁酉倫理會倫理講演集 116　[30907
泰西思潮「淺薄なる文明論」(Joseph McCabe「文明は危險狀態にあるか」。古代文明と近代文明との差異) 丁酉倫理會倫理講演集 121　[30908
(參考：「心理學會例會」、心理學研究 4　[30909
石神文學士「ヴント氏民族心理學の意義」）
(參考：彙報「早稻田大學格外教育講師氏名及科目公表」、早稻田講演 2-1[30910
浮田和民：國家學、政治學、倫理、西洋史/ 平沼淑郎：經濟史/中桐確太郎：倫理、哲學/有賀長雄：外交史、国際法/山崎直三：文明史/島村瀧太郎：近代歐洲文藝、美學/中村進午：国際法/山崎光宣：獨逸文學/藤井健治郎・金子馬治：哲學/煙山專太郎：西洋史/中島半次郎：教育史、教育學　)
山口金作「ヒーブライズム」(ヘレニズムとの對比) 基督教新聞 1501(6/20)[30911
米澤尚三「讀書と研究」(オイケン、ベルグソン等) 基督教新聞 1527(12/21)[30912
B.②＊[訂正]オイケン著/安倍能成譯『大思想家の人生觀』(東亞堂、波多野精一序文)　[4346]　[30913
木村鷹太郎『世界的研究に基ける日本太古史・下巻』　[30914
前田越嶺『希臘物語---建國神話』　[30915
松原英一『キリスト教概觀』　[30916
稻垣陽一郎『基督教四要徳』(落穗集 2)　[30917
ウィリアム・アダムズ・ブラウン/今泉眞幸、シドニー・ギュリック譯『基督教要義』[30918
エス・コルレット著/エ・ビー・ハッチンソン、福井永頼譯『眞理なる聖書』　[30919
皆田篤實『母の典型-----一名、モニカ傳』(アウグスチヌス)　[30920
下澤瑞世『英俊青少年發展史---教育修養龜鑑』　[30921
笑門福集軒主人『一悟千金----一ッ目の巻』(高等伽文庫 1)　[30922
③＊[訂正]安藤州一「ソクラテスの教訓」精神界 12-1,2,3,4　[4358]　[30923
＊[訂正・削除]小此木松子「セント・オーガスティチンと其の母」明治の女子 9-1(女子青年界 9-1)　[21377]　[30924
小川清彦「月と神話」峽灣 2　[30925
修身・中島德藏「自彊不息」(エマーソン、アデン、スパルタ、ソクラテス、プラトー、アリストートル、ソロン、アルキヒヤの少年等)　東洋哲學 19-8　[30926
「神の守護---(1)道に迷ふて助かる」(アウガスチン)ときのこゑ 4/15　[30927
「擲て下さい」(希臘の賢人ダイオゼニス、アンチスヤーズ等)　ときのこゑ 9/15　[30928
應問・愛讀生(愛媛)「四十四年八月、十一月の文檢修身科問題(豫備と本)及其解答」、丁酉倫理會倫理講演集 113　[30929
----- 答・「本試驗：(1)プラトンの倫理說の要點を敍述せよ(3)西洋に於ける古代と近代との倫理說の異同を論ぜよ」
「ソクラテイズと妻」(新案讀本獨學び)初等英語研究 5-11　[30930
岡村博士「ダイオゼ子スと原憲」學生 2 月號　[30931
(參考：「西の京より」(倫理哲學會例會)、心理研究 3　[30932

鷲司哲次「セント・アウグステイヌスに現はれたる新プラトン學派の思想」)
隨想錄・武本生「愛の苦」(アウガスチン）基督教新聞 1501(6/20) [30933
内ケ崎作三郎「基督教の自殺觀」(サッフォー、ソクラテス、デモスゼニース、ハンニバル、ケートー、ブルータス、マーク・アントニー、クレオパトラ、ネロ、ピタゴラス、プラトー、アリストートル、ストイック派、ネオプラトー學派、セネカ、聖オーガスチン等)基督教新聞 1521(11/7) [30934
④＊[訂正・削除]~~村山廣道「エマースンの自持説と禪」和融誌 16-3~~ [21409] [30935
＊[訂正]新刊「千葉鑛藏譯「輓近倫理思潮の傾向」」東京日々新聞 4/19 [21456] [30936
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 301 [30937
-----E.von Aster(hgb.),Grosse Denker,2 Bde.,Leipzig
G.Entz,Pessimismus und Weltflucht bei Platon,Tübingen
R.B.Perry,Notes on the Philosophy of Henri Bergson,J.Ph.Ps.Sci.M.8.25-26
Harnack,Greek and Christian Piety at the End of the Third Century,Hib.J,30,1
A.Loisy,The Christian Mystry,Hib.J.19,1
F.Loreh,Die römische und greichische Kirche in Syrien und Palästina,Beitrage Zur Arientpolitik 1,Stuttgart
W.Sanday,The Apocalyptic Element in the Gospel,Hib.Mon.10,1
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 302 [30938
----- H.Schoen,Heinrich Bergsons Philosophische Anschauungen,Z.Ph.ph.Kr.145,1
Hultzmann(A.Jülichen u.W.Baner,hrg.)Lehrebuch der neutestamentlichen Theologie,2 Aufl., Tübingen
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 303 [30939
----- M.Kelly,Hegel’s Charlatanism,Exposed.Sh.2,6
D.Balsillie,An Examination of Prof.Bergson’s Philosophy,Sh.5
A.Ruge,System und Geschichte der Philosophie,Logos 2,3
W.Herrmann,Neu gestellete Aufgaben der evangelischen Theologie,Z.Theol.u.k. 22,1
K.Kesseler,Rudolf Euckens Bedeutung für das mioderne Christentum,Bunzlan
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 304 [30940
----- F.J.Dölger,Sphragis:Eine altchristliche Taffezeichung in ihren Bezieungen zur profane und religion Kultur des Altertums,Padenborn
W.Herrmann,Neu gestelite Aufgangen der evangelischen Theologie, Z.Theol.K. 22,2
R.Janssen,Die Quolibelta des heil,Thomas von Aquin,Bonn
M.P.Nilsson,Zur Archiv XIV,423ff;Die lateste griechische Zeitrechung ,Apollo und der Orient.Arch.Relig.-w.25,1-2
W.Nithack-Stahn,Goethes Religion,Vortrag,Lissa
B.Poschmann,Die Sündervergebung bei Origenes,Braunsberg
＊[訂正]彙報「田中王堂「哲人主義」」(上下、二册)哲學雜誌 304 [21433] [30941
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 305 [30942

----- E.Hermann,Eucken and Bergson:Their Significance for Christian Thought
F.von Hügel,The Religious Philosophy of Rudorf Eucken
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 306 [30943
----- Chr.Joh.Deter(von M.Frischeisen-Köhler),Abriss der Geschichte der Philosophie, 10.u.11.Aufl.,Berlin
P.Roques,Hegel,sa vie et ses oeuvres,Paris
E.Müller,Henri Bergson,Arch.sys.Ph.18,2
J.Dahlmann,Die Thomas Legende und die ältesten historischen Bezieungen des Chritentums zum fernen Osten im Lichte der indischen Altertums-kunde,Freiburg
R.Eucken ,Hauptprobleme der Religionsphilosophie der Gegenwart,4.u.5.Aufl., Berlin
W.Schmidt,Der Ursprung der Gottesidee,Eine histirische-kritische und positive Studie,Münster
G.P.Wetter,Der Vergeltungsgedanken bei Paulus,Göttingen
R.S.Rait,Life in the Medieval University,Cambridge
J.Addams,A New Conscience and an Ancient Evil,New York
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 307 [30944
---Fr.Nietzsche,Werke Bd.XV:Ecce Homo,Der Wille zur Machat,2 Aufl.,Lepzig
P.Hensel,Rouseau,2.Aufl.,Leipzig
H.Höffding,Jean-Jacques Rouseau et sa Philosophie,Paris
E.Le Roy,Une Philosophie nouvelle,Henri Bergson,Paris
B.Russell,The Philosophy of Bergson,Monist 22,3
A.V.Müller,Lurthers theologische Quellen,Seine Verteidigung gegen Denifle und Grisar, Giessen
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 308 [30945
----- A.W.Moore,Bergson and Pragmatism,Ph.Rev.21,4
A.Thomson,David Hume,Sein Leben und seine Philosophie,1.Bd.,Berlin-Charlottenberg
K.Renz,Die Ethik des Apostles Paulus,Freiburg
Rud.Sohm,Wesen und Ursprung des Katholizismus,Leipzig
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 309 [30946
----- M.Höffer,ΦΘΟΙΣ,Arch.Retig.-w.15,3.4
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 310 [30947
----- R,Kade,Rudolf Euckens noologische Methode in ihrer Bedeutung für die Religionsphilosophie,Leipzig
Ed,Bevan,The Gnostic Redeemer,Hibb.J.11,1
T.R.Glover,The Daemon Envirment of the Primirive Christian,Hibb.J.11,1
H.A,Storng,Quintilian:A Study in Ancient and Modern Methods of Education , Hibb.J.11,1
＊[訂正]宮本和吉「田中王堂氏の「哲人主義」を讀む」哲學雜誌 309 [21449] [30948
聖書研究・三並良「ヨハネ傳講義」(プラトーン、フィロ等) 六合雜誌 372(32-1) [30949
片々錄「東亞の光 462 號」(ソクラテス等) 六合雜誌 373(32-2) [30950
＊[訂正]高木壬太郎「自殺論」(「希臘人の自殺觀」、エピクロス等)

六合雜誌 382(32-11)　[30951
藤井健治郎「自殺に關する西洋學者の意見」(アウグステーヌス、アリストテレス、モンテーン、モンテスキュー、ヘーゲル等)
六合雜誌 382(32-11)　[30952
三並良「生命中心の哲學」(ターレス、ベルグソン、オイケン等)
六合雜誌 382(32-11)　[30953
廣告「統一基督教弘道會神學部」、六合雜誌 382(32-11)　[30954
----- 三並良「オイケン著 Die Sinn und Welt des Lebens」・「比較宗教史より見たる新約書」
隨時評論「慾望調和論」(ニッチェ等)聲 434　[30955
藻鹽艸「無意味の會合」(ソクラテス等)聲 437　[30956
質疑解答「御主の罪標」(コンスタンチノ大帝等)聲 437　[30957
海外雜報「羅馬に於ける大紀念祭」(コンスタンチノ大帝等)聲 437　[30958
高田生「宗教と教育との關係」(哲學の泰斗アリストテレス、ローマの興亡等)
聲 439　[30959
隨時評論「人物缺乏」(「基督教最大の問題」基督教世界・社說、羅馬の文化、シーザル、アレキサンドル等)聲 440　[30960
F.I.生「公教の「公」の字」(マルクス・アウレリウス、コンスタンチヌス大帝、大聖アウグスチヌス、グノーシス、聖トマス等)
聲 441,442　[30961
F.I.生「聖教會へ歸れ(2)」(プラトン等)聲 444　[30962
出版「ソオレイ/千葉鑛藏譯「輓近倫理思潮の傾向」」帝國文學 18-5　[30963
出版「山縣悌三郎譯「新譯・自助論」」帝國文學 18-5　[30964
和辻哲郎「哲人主義の價値」(田中王堂)、帝國文學 18-9　[30965
和辻哲郎「安倍能成氏の努力---オイケンの飜譯に就て」帝國文學 18-12　[30966
出版「木村鷹太郎「世界的研究に基ける日本太古史・下巻」(日本神話と希臘神話の比較)帝國文學 18-7　[30967
佐野文夫「動ける生---ベルグソン論」校友會雜誌(第一高等學校)215　[30968
埋草「ニイチェ」校友會雜誌(第一高等學校)216　[30969
彙報「木村鷹太郎「世界的研究に基ける日本太古史・下巻」(日本神話と希臘神話の比較)歷史地理 20-1　[30970
得能文「眞理の問題に關するオイケン教授の說」(プラトーン、アリストテレース、プロチヌス、ヲーガスチン等)
東洋哲學 19-4,5　[30971
修身・井上圓了「哲學道しるべ歌」(タレース、エメペドクレス、ヘラクリトス、ペタゴラス、デモクリタス、ソクラテス、プラトー、アリストートル、エピクラス等)
東洋哲學 19-4　[30972
石巻良夫「神火崇拜の性質と其の起源」(希臘オリンボス十二神等)
東洋哲學 19-5　[30973
新刊紹介「中島力造「泰西先哲像傳」」東洋哲學 19-5　[30974
下澤瑞世「日本武人の自然觀及宗教意識」(マクス・ミューラー、ジュースの子ア

ーレス神、アポロー神等)
東洋哲學 19-6 [30975
高橋邦三「心性學發達の大要」(ゴール博士紹介。ピサゴラス、プレートー、ガーレン、アリストートル等) 東洋哲學 19-8 [30976
井上哲次郎「玉學要論」(エピクーロス學派、ストア學派等)
東洋哲學 19-10 [30977
錦田義富「ギュヨーの道德義務論」(ストア、エピクテタス、エピクールの道德論、ニーチェ等) 丁酉倫理會倫理講演集 116 [30978
新刊「ソオレイ/千葉鑛藏譯「輓近倫理思潮の傾向」」(ニーチェ等)
丁酉倫理會倫理講演集 116 [30979
應問・古洞生(名古屋)「小生は曾て西洋哲學史を閲讀仕候が、その中にて特にアリストテレース氏の哲學說を研究致し度候に付、日本人による譯書の書名並に發賣所を御敎示之程願上候」、
丁酉倫理會倫理講演集 116 [30980
----- 答・元田作之進・高橋正雄共譯「アリストテレス倫理學」
應問・白汀生(廣島)「希臘の詭辯論者の人名及び其の人の傳記、若しくは論集の如きもの(本邦人の著書若しくは譯書にして)これあり候はば、成るべく詳細に御敎示願上候」、
丁酉倫理會倫理講演集 116 [30981
---- 答・木村鷹太郎氏譯「プラトン全集」(富山房)の第二巻を見らるべし。
桑木嚴翼「哲學と現代」(タレース等) 丁酉倫理會倫理講演集 118,119 [30982
雜錄・得能文「「輓近倫理思潮の傾向」(ソオレイ/千葉鑛藏譯)」(ニーチェ等)
丁酉倫理會倫理講演集 119 [30983
應問・一星(長野)、飛世伊七(富山)、明神生(宮城)、芳亥生(栃木)「A.倫理及 B.敎育科の受驗參考書及受驗上の注意に付て御敎示下され度候」、
丁酉倫理會倫理講演集 119 [30984
--- 答・A. 蟹江[義丸]・藤井[健次郎]・深作[安文]譯(パウルゼン)「倫理學大系」、大島直治譯(ファイト)「倫理學原論」、中島德藏(ファイト)「「解說批評・倫理學原論」、西晉一郎譯(グリーン)「倫理學」、中島力造「倫理學說十回講義」、山本良吉「倫理學史」、木村鷹太郎「東洋西洋倫理學說史」、綱島榮一郎「西洋倫理學史」、角田柳作譯「ヴント西洋倫理學史」、北澤定吉「倫理學史綱」、吉田靜致「西洋倫理學史講義」
B.大瀨甚太郎「歐洲敎育史」、日高只一「歐米敎育史」
泰西思潮「靈魂不滅論」(キリアム・ディロン[William Dillon]Hilbert Journal vol.x,no.3、プレトー、ソクラチース、ヴァージル、ダンテ等)
丁酉倫理會倫理講演集 120 [30985
泰西思潮「青年ニーチェ」(令妹フェルステル・ニーチェ女史著)
丁酉倫理會倫理講演集 122 [30986
應問・ 飛燕生(新潟)「哲學の一班を知らんとする初學者に徹底的に易く、且つ比較的完全なる哲學の著書譯書各二三御敎示願上候」、
丁酉倫理會倫理講演集 123 [30987

----- 答・朝永三十郎「哲學綱要」、桑木嚴翼「哲學概論」、北澤定吉「哲學汎論」

應問・小林宗重(長野)「オイケンの原著及び譯書若しくは本邦人の是についての書」、丁酉倫理會倫理講演集 123 [30988

----- 答・Eucken,Die Lebensanschuanugen der grossen Denker.阿[安]倍能成譯「大思想家の人生觀」(東亞堂)

應問・IN 生(長野)、TH 生(和歌山)「甚だ恐入候共、文檢修身科受驗參考書及び其の著者名等、御教示被下度候」、丁酉倫理會倫理講演集 123 [30989

---- 答・蟹江[義丸]・藤井[健次郎]・深作[安文]譯(パウルゼン)「倫理學大系」、大島直治譯(ファイト)「倫理學原論」、中島德藏(ファイト)「「解說批評・倫理學原論」、西晉一郎譯(グリーン)「倫理學」、中島力造「倫理學說十回講義」、山本良吉「倫理學史」、木村鷹太郎「東洋西洋倫理學說史」、綱島榮一郎「西洋倫理學史」、角田柳作譯「ヴント西洋倫理學史」、北澤定吉「倫理學史綱」、吉田靜致「西洋倫理學史講義」

新刊「ルドルフ・オイケン原著/安倍能成譯「大思想家の人生觀」丁酉倫理會倫理講演集 124 [30990

應問・某生(石川)「本年文部省檢定豫備本試驗問題及解答を御掲載下され度伏して奉希候」、丁酉倫理會倫理講演集 124 [30991

----- 答・三六山人(東京)「第廿六回豫備試驗問題及解答」「二、倫理學上より自然主義を批評せよ」(エピクロス派、ニーチェ、アリストテレスに言及した解答あり。)

應問・SK 生(青森)「外界から刺戟があるとそれが腦に傳はりこれが意識と化して始めて感覺となるのであるといふことであれば、刺戟が腦に傳はり感なる迄は種々の變化を受けるわけである。して見れば感覺は刺戟があるといふことを傳へるだけで刺戟の眞態は知ることが出來ぬ。つまり感覺の內容は虛僞なるものである。これより所謂外物は實在であるといふことが出來ませうか。又かかる考定は今日の學者の認めて學界の定說となつてゐるのでありませうか御教示を願ひます」、丁酉倫理會倫理講演集 124 [30992

----- 答・感覺は吾人を欺くものであるから信用することは出來ない。從つて外界に就ては毫も知ることが出來ないと說くのが懷疑論であつて最も顯著なる例は希臘末期のピュルローンの說である。

應問・哲人生(七谷)「最近發行された比較的最良で東京にて求められ且つ價格は一册二册が三圓位の左の英書の著者と書籍名、A.西洋倫理學史、B.西洋哲學史、C.西洋敎育史、D.西洋哲學概論、E.希臘神話」「哲學的書籍を讀むに當つて書中の行語を解する爲の哲學辭典とも稱すべき最良の日本書と英書の名」、丁酉倫理會倫理講演集 124 [30993

----- 答・(A)H.Sidgwick, Outlines of the History of Ethics, R.Rogers, Short History of Ethics,

(B)Bax, A Handbook of the History of Philosophy, A.K.Rogers, Students History of Philosophy, Weber, History of Philosophy,(C)T.Davidson, A History of Education, E.L.Kemp, History of Education, Painter, History of Education, W.N.Hali man, Tweleve Lectures on the History of Education,(D)Jerusalem, Introduction to Philosophy, Külpe, Introduction toPhilosophy,(E)G.H.Bianchi, The Mythology of Greece and Rome, T.Keightley, Mythology of Ancient Greece and Italy

・朝永三十郎「哲學辭典」、諸大家執筆「哲學大辭書」(同文舘)

應問・愛讀生(甲斐)「文部省の修身の検定に應ずるために準備として必讀すべき書籍につき成る可く少數にて比較的一般に應用のきくものを第一期卽ち基礎を作るために讀む可きもの、更に進んで第二期第三期に研究すべきもの等の如く、研究の順序御教示相成り度候」、丁酉倫理會倫理講演集 124 [30994

---- 答・菊盛永造氏「文部省檢定試驗受驗指針」よる轉載 : 山本良吉「倫理學史」、中島力造「倫理學說十回講義」、蟹井[江?]博士等譯「倫理學大系」、桑木[嚴翼]博士「アリストートル氏倫理學解說」、中島博士「グリーン氏倫理學說」、吉田靜致「西洋倫理學史講義」

應問・IT 生(富岡)「善惡は根底に於て差違があるか或は程度に於ての差違か、洽善說の立場より論ぜば如何、御教示を仰ぎたし、アリストートルの考によれば總て中庸を得るが善にして善惡の差異は程度上に於てのみ見ると得べきが如く、カントの説によれば理性の命ずるところに從ふが善、然らざるを惡として根底に於て劃然たる區別あるものとしたるに似たり」、丁酉倫理會倫理講演集 124 [30995

言論「訶梨跋摩とベルグソン(1)(2)」(希臘思想、コーンフォード氏「宗教より哲學へ」、モイラ、ヌース、アナクシマンデルス、エムペドクレス、ロイキッポスがアトム論、ヘーラクレイトース、ピタゴラス、ゲーテ、ニイチェ、オイケン等)萬朝報 6886(9/30),6897(10/1) [30996

辰野隆「(アナトオル・)フランス追憶」「アナトオル・フランスに就きて」(「佛蘭西文藝閑談」中) [30997

A,フランス/廣瀬哲士譯「海の基督」人生と表現 6 月號 [30998

(參考 :「哲學會春季例會」、心理研究 6 [30999

・井上哲次郎「哲學と科學との異同に就て」

・三宅雄次郎「現代哲學攻究法」)

(參考 :「東大哲學科卒業論文----岩下壯一、和辻哲郎、久保[勉]等」心理研究 6) [31000

教壇・小崎弘道「時期の到來」(アレキサンダー、プラトン、アレキサンドリアのクレメンス、ギリシヤ・ローマの宗教等)基督教新聞 1477(1/6) [31001

松永生「崇高なる渴信心(上)」(ホメーロス、ヴァジル、ボッカチオ、ダンテ等)基督教新聞 1478(1/11) [31002

天籟地聲「オイケン「宗教の眞理」」基督教新聞 1483(2/15) [31003
隨想錄「天才と努力」(ケーベル博士等) 基督教新聞 1484(2/22) [31004
天籟地聲「ベルグソン「靈魂の性質」」(A.D,リンドセー「ベルグソンの哲學」、
ジョセフ・ソロモン「古今哲學書ベルグソン篇」)
基督教新聞 1486(3/7) [31005
論說・三井芳太郎「宗教上より見たる基督教の地位並に予が他宗教に對する態度」
(クセノファネス、ホメロス、ヘシオドス、ヘラクレイトス、
プラトーン、Max Müller 等) 基督教新聞 1487(3/14) [31006
雜錄「偉人と平凡の妻」(ゲーテ、ソクラテスの惡妻等)
基督教新聞 1489(3/28) [31007
雜錄「二十人の最大偉人は誰ぞ」、基督教新聞 1493(4/25) [31008
-----・フレデリック・ハリソン氏「ホーマー、アリストートル、アーキメデス、
ジュリアス・シーザー、ダンテ」
・ジョン・クリッフォルド氏「ペリクレス、ソクラテス、プラトー、アリ
ストートル、シーザー」
・ステッド氏「シーザー、ダンテ、ホーマー、アリストートル、ソクラテス」
時論・三井[芳太郎]生「前號の社說を讀みて」(ゴエテ、ベルグソン、オイケン、
ヘーゲル等) 基督教新聞 1495(5/9) [31009
「質問應答標」(オーガスチン、トマス、ストーア派等)
基督教新聞 1495(5/9) [31010
内務省編纂「日本に於ける基督教諸派各派成立小史(1)」(ローマ市民、テオドシウ
ス帝等) 基督教新聞 1496(5/16) [31011
大英週報抄錄欄・デビッド・スミス「基督は神として何故人の如く誘惑されしか、
彼は幼年時代も神の化身たることを自覺せしや」
(プラトー等) 基督教新聞 1498(5/30) [31012
日野眞澄「質問應答」(プラトー、オーガスチン等) 基督教新聞 1499(6/6) [30013
富永德麿「過去三十年間における我國神學思想の推移」(ニーチェ主義、オイケン、
ベルグソン等) 基督教新聞 1500(6/13) [31014
彙報「大阪レーメンスクラブ」([8/22]加藤[直士]博士「ベルグソンの哲學と基督教」)
基督教新聞 1501(6/20) [31015
社說「エリオット博士と宗教を語る」(羅馬の法律思想、希臘の哲學等)
基督教新聞 1502(6/27) [31016
講演・日野眞澄「ユダヤの靈魂不滅論に就て」(プラトーンの理想國等)
基督教新聞 1502(6/27) [31017
(參考：教界「基督教夏期講習會」、基督教新聞 1502(6/27)
---- (7/15,16)内ケ崎作三郎「ベルグソンの哲學と基督教」)
史傳・日本一の牧師「盲人牧師・ジョルジュ・マセソン傳(6)」(スキピオ、ソクラ
テス等) 基督教新聞 1503(7/4) [31018
彙報「神學倶樂部」([7/22]内ケ崎作三郎講演「ベルグソン哲學が基督教に及ぼす
影響」) 基督教新聞 1505(7/18) [31019
雜錄「友情の秘訣」(ダンテ等) 基督教新聞 1510(8/22) [31020
思潮・フリードリヒ・フォン・フーゲル/加藤直士譯「ルドルフ・オイケンの「宗

教哲學」」(プラトー、アリストートル、プロチナス、聖オーガスチン、ヘーゲル等)
基督教新聞 1511(8/29), 1512(9/5),1513(9/12) [31021
(参考：「第 19 回教師會」、基督教新聞 1512(9/5) [31022
----- 小崎弘道「オイケンの「宗教眞理」」）
「見聞欄」(オイケン、ベルグソン) 基督教新聞 1512(9/5) [31023
社説「加藤玄智博士著「宗教學」を讀む」(希臘羅馬の宗教思想、希臘秘教等)
基督教新聞 1515(9/26) [31024
(参考：教界「第 19 回組合教會教師會仮執行順序」、基督教新聞 1515(9/26)
-----(10/2,3)小崎弘道「オイケンの「宗教眞理」」） [31025
「教師會片々」(小崎弘道「オイケンの「宗教眞理」」
基督教新聞 1516(10/3) [31026
「New Books」(A.D.Lindsay,The Philosophy of Bergson/Philosophy,Ancient and Modern[Early Greek,Stoicism,Plato] 基督教新聞 1518(10/11), 1519(10/24),1520(10/31) [31027
論文・古木慶吉「日本現代の基督教問題」(アウガスチン等)
基督教新聞 1519(10/24) [31028
(蘆田)「質問應答欄」(オイケン、ストアの宇宙觀等)
基督教新聞 1519(10/24) [31029
講演・小崎弘道「オイケンの「宗教眞理」」(バックル文明史、リュークリシアス、グリーン、ニッチェ、アリストートル、プラトーン、プロチノス、オーゴスチン、ベルグソン等)
基督教新聞 1520(10/31),1521(11/7),1522(11/14) [31030
「質問應答欄」(オイケン、ベルグソン、アリストーテル、ストア學派等)
基督教新聞 1521(11/7) [31031
谷岡勝美(ロマン・ロランより)「杜翁[トルストイ]印象記(2)」(ストイックよりエピキュリアンへ等) 基督教新聞 1522(11/14)
[31032
思潮・ルドルフ・オイケン教授「宗教と人生」基督教新聞 1524(11/28) [31033
新刊「オイケン/安倍能成譯「大思想家の人生觀」」基督教新聞 1524(11/28)[31034
東京通信・觀潮生「新しき人々の思潮」(富永德藏君「オイッケンとベルグソン」
基督教新聞 1527(12/21) [31035
新刊雜書「エマーソン論文集(下)」(戸川秋骨譯)東京朝日新聞 2/27 [31036
新刊雜書「輓近倫理思想の傾向」(千葉鑛藏著) 東京朝日新聞 4/21 [31037
新刊雜書「新譯・自助論」(スマイルス/山縣悌三郎譯) 東京朝日新聞 4/23 [31038
出版界「エピクテタス遺訓」(高橋五郎譯) 東京朝日新聞 11/5 [31039
C.①泰西思潮「偉人の言」(シーザー) 丁酉倫理會倫理講演集 116 [31040
②福本日南『英雄傳』(?) [31041
デヴィッド・グレッグ/稻澤謙一譯『聖地と聖書』 [31042
ジョージ・ソルトウ/溝口悅次譯『基督之四肖像』 [31043

天主公教會編『聖ヨゼフの月』 [31044
日本日曜學校協會編『新約書人物論』(日曜學校學課高等科第三年) [31045
松原英一『基督教概觀』 [31046
イ・ライアソン編『基督傳の概略と其分解』 [31047
イ・ライアソン編『使徒時代概觀』 [31048
シー・エ・ロー/木庭孫彦譯『基督教證據論』(聖公會神學叢書 10) [31049
③(參考 : 彙報「第 25 回文部省中等教員檢定本試驗歷史地理科 19 題」、歷史地理 19-4
----- 西洋史 :「三、左の人々の事蹟(甲)ポリビウス」) [31050
(參考 : 彙報「東大史學科卒業生」、歷史地理 20-2 [31051
高橋欣二「シチリア島に於けるカルタゴの消長」)
(參考 : 彙報「第 26 回文部省歷史地理科中等檢定本試驗問題」、歷史地理 20-6
西洋史 :「一、ローマの社會に於ける奴隷の影響」) [31052
聖書・牧野虎次郎「新約聖書總論研究」(第 12 章「使徒行傳」)
基督教新聞 1480(1/25) [31053
甕江「十字架崇敬の由來」(羅馬皇帝コンスタンチノ大帝等)聲 438
「古人の堅忍不抜-----アタナシヤスの漂流生活」(コンスタンチン大帝)
ときのこゑ 3/1 [31054
「愛は終に勝つ」(ジュリアス・シーザー、カトー、ブルタス)
ときのこゑ 4/15 [31055
「惡魔の慣用手段」(スパルタ人、マセドン王フィリップ等)
ときのこゑ 6/1 [31056
「スパルタの戰士」ときのこゑ 9/15 [31057
小野愛圀「羅馬の怪麓探檢」少年 5 月號 [31058
雜錄・本多「基督と語る」(コンスタンチン大帝等)
基督教新聞 1480(1/25) [31059
社說「學校と宗教」(植村正久「羅馬武士と耶蘇」福音新報 887 號)
基督教新聞 1503(7/4) [31060
北原安獲「「基督者」の由來」(ロマ史等) 基督教新聞 1505(7/18) [31061
講演・海老名彈正「イエス傳研究(1)」基督教新聞 1518(10/17) [31062
④東都講壇・井上哲次郎「東洋古代の女性觀」(帝國大學内史學會講演大意、記者筆記。希臘のツォイス、羅馬のジュピター等)
六合雜誌 379(32-8) [31063
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 301 [31064
----- P.Mehlhorn,Neue Jesusliteratur,Prot.Mon.15,11
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 302 [31065
----- E.Günther,Die entwicklung der Lehre von der Person Jesu Chriti im 19 Jahsuh., Tübingen
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 303 [31066
-----E.Kühnemann,Herder,Kant ,Goethe,Logos 2,3
P.Fiebig,Die Gleichnischen Jesu im Lichte der rabbinischen Gleichnisse des neutestamentlichen Zeitalters, Tübingen
J.Kardinal Hergemöthers(J.P.Kirsch,hrgb.),Handbuchu der allegemeinen Kirchegeschicchte,5 Aufl.,1Bd.,

Ereiburg
Rittelmeier,Das Weak Christi,Z.Theol.u.k.22,1
P.Schwen,Nazareth und Nazaräer,Z.w.theol.19,1
F.Spitta,Die Frauen in der Geneologie Jesu bei Matthäus, Z.w.theol.19,1
R.Steck,Das echte Zeugnis des Josephus vo n Chrisito,Prot.Monat.16,1
W.Wefer,Die neutestamentlichen Apostllisten,Z.W.Theol.19,1
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 304 [31067
----H.Aehelis,Das Christentum in den ersten drei Jahrhunderten,1 Bd.,Leipzig
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 305 [31068
----H.McLachlan,St.Luke,Evangelist und Historian
F.Wieland,Altar undAltargrab der christlichen Kirchen im 4.Jahrh.,Leipzig
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 308 [31069
---- A.Drews,The Witness to the History of Jesus,trans.by J.Mccabe,Sh.6
□川生「プルターク英雄傳を讀む」道 53,54 [31070
書評「坪井九馬三「西洋史要」」史學雜誌 272 [31071
天沼匏村「ロムポムポス物語」(アレキサンダーとヂオゲネス等)
帝國文學 18-5 [31072
時評「辛亥歷史地理學界の概觀」(箕作元八「ギリシアの撥亂」」
歷史地理 19-1 [31073
高槻未知生「德川氏時代に成れる邦文海外地理書解題」(4 回)
歷史地理 19-2,3,5,6 [31074
彙報「箕作元八「西洋史新話第二册・テーベの勃興」」歷史地理 19-2 [31075
(參考：彙報「史學研究會例會報告」、歷史地理 19-3 [31076
小川琢治「支那に傳はるアラビアの天文及地理上の智識」)
(參考：彙報「東大國史談話會記事」、歷史地理 19-6 [31077
坪井正五郎「博物館に於ける歷史の材料」)
彙報「坪井九馬三「西洋史要」」歷史地理 20-1 [31078
彙報「箕作元八「國土の經綸」」歷史地理 20-2 [31079
(參考：彙報「第 26 回文部省歷史地理科中等檢定本試驗問題」、歷史地理 20-6
----- 西洋史：「三、左の人々の事蹟(甲)ニーブール」) [31080
彙報「有賀長雄「西洋歷史(上)」」歷史地理 20-6 [31081
齋藤斐章「歐米に於ける歷史研究及其の教授法」歷史及地理 1-1 [31082
新刊紹介「高桑駒吉「女子參考・西洋れきし」」東洋哲學 19-4 [31083
辰巳塵廬「泰西史傳抄」(歷山大王、該撒[シーザー]、領尼陀斯[レオニダス]、高寧理亞[コーネリア]、世美西土國留[テミストクレス]、泥蒙西筮尼斯[デモステネス]、孤嶺鳴禮那斯[コルネリアス?ローマ人]、晉志那多斯[?ローマ人]、紫聲朗[シセロ]、蘇固竦地斯[ソクラテス]等) 東洋哲學 19-7 [31084
質問應答欄(加藤[直士])「波多野精一「基督教の起源」」
基督教新聞 1504(7/11) [31085
時評・村田勤「レーマン號を讀む」(セオドシウス帝、コンスタンチン帝等)
基督教新聞 1508(8/8) [31086
「質問應答欄」(ノイマン耶蘇傳/栗原基氏譯、リース耶蘇傳/田中達氏譯、北澤定

吉著「偉人耶蘇」、ニコル基督傳/柏井園氏譯、G.H.Gilbert,The Student's Life of Jesus,1898、Edelsheim,The Life and Times,1886、O.Holzman,The Life of Jesus,1904、[Eng.trs.]Bousset,Jesus,1906)
基督教新聞 1511(8/29) [31087
新刊「山田寅之助「基督傳」」基督教新聞 1520(10/31) [31088
(海老名彈正)「質問應答欄」、基督教新聞 1526(12/12) [31089
----- Schweitzer,Research of Historical Jesus/R.Ottos,Leben und Wirken Jesu/ A.Meyer,Was uns Jesus hearto ist?/Bousset,Jesus/B.Weiss,Life of Jesus/ Beishlag,Leben Jesu/Schmidt,Geschichte Jesu/Holzman,Life of Jesus/ Cartuff,Entstehung des Christentum/Lebrinsky, Entstehung des Christentum/ Keim,Jesus of Nazareth/J.Case,Historicity of Jesus/Weiss,Jesus von Nazareth
新刊批評「西洋史要」(坪井九馬三著) 萬朝報 6805(7/1) [31090
新刊雜書「テーベの勃興」(箕作元八著) 東京朝日新聞 1/11 [31091
新刊雜書「國土の經綸」(箕作元八著) 東京朝日新聞 6/11 [31092
新刊雜諸「西洋史要」(坪井九馬三著) 東京朝日新聞 6/15 [31093
出版界「西洋全史」(瀬川秀雄著) 東京朝日新聞 11/8 [31094
出版界「西洋歷史・上巻」(有賀長雄著) 東京朝日新聞 11/10 [31095
D.①＊[訂正]太田三郎「笛と網」(イソップ)小學生 3 月號 [21488] [31096
「トルコ・イソップ」少女畫報 7 [31097
Charles Stickney(trans.), Aesop's Fables, Tokyo, Okazakiya, 1901(コブンシャ刊?) [31098
米國聖書會社『舊新約全書』(引照附。3 版) [31099
米國聖書會社『新約聖書馬太[マタイ]傳』(2 版) [31100
Mako den Fukuin-sho,米國聖書會社 [31101
ミハイル/大和田敬時譯『使徒行傳實註解』(下編) [31102
安部清藏『羅馬書講解』 [31103
大村益荒『保羅書翰羅馬書重譯』 [31104
②モールトン/三浦關造譯『世界文學としての聖書』 [31105
③＊[訂正](參考：雜錄「第四回萬國宗教史會議」(石橋智信通信)哲學雜誌 309 中 [21491] [31106
Miss J.E.Harrison「希臘宗教の社會的起源を論じ τελετη てふ語の原義に及ぶ」)
④加藤一夫「(詩)あこがれの國へ」(ベアトリーチェ)六合雜誌 374(32-3) [31107
内ケ崎(作三郎)「ラスキン碑の說明」(希臘羅馬の彫刻等)
六合雜誌 378(32-7) [31108
内藤翟「メエテルリンクの運命」(アガメムノン、Socrate、Antigone 等)
六合雜誌 378(32-7) [31109
三並良「ワイマルの第一印象」(ヘルダー、ゲーテ、シルラー等)
六合雜誌 378(32-7) [31110
雜錄「最近內外哲學界」哲學雜誌 301 [31111
----- A.Kuhn,Allgemeine Kulturgeschichte
雜錄「最近內外哲學界」哲學雜誌 302 [31112
---- Almia von Hartmann,Zwischen Dichtung und Philosohpie I:Einleitung ,Lessing,

Herder,Schiller,II:Emerson,Ruskin,Novalis,Tolstoi,III:
Caryle,NIetzche,Goethe,Hartmann,Berlin
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 303 [31113
----- K.Streeker,Die Cena Cypriani und ihr Bibletext,Z.w.Teolol.19,1
W.Börner,Die Künstlerpsychologie im Altertum,Z.Ä.all.K.7,1
H.M.Kallen,The essence of Tragedy,Int.J.Eh.22,2
W.Meeg,Die homerische Gleichnisse,Z. Ä.all.K.7,1
E.Reisinger,Kretische Vasenmalerei vom Kamares bis zum Palast Stil,Leipzig
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 304 [31114
----- P.Mehlhorn,Neue Jesusliteratur,Prot.Monat.16,2
J.Neuwith,Illustrierte Kunstgeschichte,Berlin
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 306 [31115
---- P.Jamot,Les arts mincurs dans la Grece archaique, Gaz.B-a.Acril.
L.Rosenthal,La peinture romanique sous la Monarchie de Juillet, Gaz.B-a.Mars
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 307 [31116
----- R.Staehlin,Das Motiv der Mantik im antiken Drama,Giessen
E.Male,L'architecture romane,d'aprés un livre récent de M.R.de Lasteyrie,
Gaz.B-a.Juin,
L.Ziegter,Florentische Introduction zu einer Philosohpie der Archtectur und der
Bildenden Künste,Leipzig
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 308 [31117
----- W.Rosalewski,Schiller und Ästhetik im Verhältnis zur Kantischen,Heidelberg
Fr.Lancher,Die itanienischen Literalischen Gegner Luthers,Freiburg
A.Voigt,Utopie und Wissenschaft,Z.Soz-w.3,7.8
W.Moog,Die homerischen Gleichnisse,Z. Ä.all.K.7,3
C.Clemen,Die Entstehung des Johannesevangeliums,Halle
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 310 [31118
---- E.von Dopschütz(von A.Harnack,C.Schmidt),Das Decretum Gelasianum de libris
recipiendis et non recipiendis in krit.Text,Leipzig
P.Frankl.Die Renaissancearchitectur in Italien,I.,Leipzig
O.Wulff,Eine Gang durch die Geschichte der altchristlichen Kunst mit ihren neuen
Pfadfinden,Rep.K.-w.35,3
一宣教師「老司祭の回想錄(6)(7)」(明治 5 年創立の東京の拉丁語學校)
聲 439,440 [31119
海外教報「羅馬に於ける基督教公許紀念聖堂」(コンスタンチノ大帝等)
聲 439 [31120
「我國活字印刷術の開祖靈父ヴァレニャーニ師」(新村出「活字印刷傳來考」[藝文
9 月號よりの一節])聲 444 [31121
「前記新村博士の考證に就て」(魯庵内田氏「氣紛れ日記」[太陽 10 月號])
聲 444 [31122
大和久伊平「近世言語學研究の趨勢」帝國文學 18-3,4 [31123
歐米文壇逸事「希臘劇の勃興」帝國文學 18-5 [31124
出版「高橋五郎譯「エマルソン言行錄」」帝國文學 18-10 [31125
山宮允「妖術師----W.B.YEATS」校友會雜誌(第一高等學校)214 [31126
山宮充「イエーツの詩」アララギ 5-5 [31127

裏繪「モオド・アランの希臘踊」スバル 4-4 [31128
廣告「青踏研究會---ダンテの神曲(阿部次郎)」青踏 5,7,10,11,12 月號 [31129
深田康算「繪畫と其内容」(レッシング、ラオコーン等)藝文 1 月號 [31130
志賀重列譯「ジョン・ラスキンの建築論補遺」建築世界 1 月號 [31131
新刊紹介「厨川白村「近代文學十講」」東洋哲學 19-5 [31132
新村出「歐洲圖書舘所見」(切支丹版)圖書舘雜誌 15 [31133
新村出「言語の比較研究に就きて」(東方)京都醫學雜誌 7 月號 [31134
高島平三郎「ロダンとベルグソン」丁酉倫理會倫理講演集 113,114 [31135
瀧村斐男「藝術に就きて」(プレトー關聯) 丁酉倫理會倫理講演集 122 [31136
(參考：「哲學會春季例會」(美學會大會)、心理學研究 7 [31137
・深田[康算]教授「ロダンの藝術觀」
・藤代[禎輔]教授「能樂と洋劇」(ギリシア劇等)
想苑・松本雲舟「宗教と文藝」(ダンテ神曲等)基督教新聞 1487(3/14) [31138
社說「藝術としての人生」(プラトー、ソクラチース等)
基督教新聞 1489(3/28) [31139
岡田哲藏「日本の思想界に於ける基督教文學の貢獻」(オーガスチン、トマス、ケーベル博士、ヘーゲル、ニーチェ、オイッケン、ベルグソン、シュライエルマッヘル、エマーソン、ラスキン、アーノルド、ゲーテ、シルレル、ケーベル博士「哲學諸說の宗教的批判」等)
基督教新聞 1500(6/13),1501(6/20) [31140
上田敏「宗教と文藝」(希臘傳說、プロクルステエスの寢臺等)
基督教新聞 1527(12/21) [31141
(參考：「西の京より」(哲學倫理學研究會)、心理研究 1 [31142
・新村[出]教授「言語の變化」[ギリシア語、ラテン語等])
よもやま「ホーマーのオヂュッセイ」(赤坂萬踐舘) 萬朝報 6809(7/5) [31143
新刊批評「ファウスト」(町井政路譯) 萬朝報 6884(9/18) [31144
「佛語の過去と未來」(羅甸語より佛語へ)讀賣新聞 8/4 [31145
新村出「阿蘭陀正月」大阪朝日新聞 1/3
新刊雜書「世界動物譚話(新イソップ物語)」(高木敏雄著)
東京朝日新聞 5/3 [31146
新刊雜書「近代文學十講」(厨川白村著) 東京朝日新聞 5/29 [31147
新刊雜書「西洋美術史」(玉置邁著) 東京朝日新聞 6/28 [31148
E.③＊[訂正・削除]~~土屋特派員「オリムピック競技(2)---オリムピックの由來」(古代希臘) 東京日々新聞 7/30~~ (→F.③)
[21517] [3114
④高橋作衛「國際法の始祖ヒュウゴ・グロチウス」國際法外交雜誌 11-4 [31150
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 301 [31151
---- A.K.Rogers,Nietzsche and Democracy,Ph.R.21,1
言論「總選擧は明後日」(アリストファ子スの喜劇「ナイト」等)
萬朝報 6756(5/13) [31152
F.③＊[訂正] 土屋特派員「オリムピック競技(2)---オリムピックの由來」(古代希臘)

東京日々新聞 7/30 (←E.③)
[21517] [31153
④新村出「活字印刷術の傳來」藝文 9 月號 [31154
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 301 [31155
----- O.Rauppo,Naturwissenschft und Christentum,Prot.Mon.15,11
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 302 [31156
----- O.Rauppo,Naturwissenschft und Christentum,III, Prot.Mon.15,12
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 309 [31157
----- A.Liusmeler,Die Weiterentwicklung der Atomostik in der neuesten Zeit, PhJahr.G.G.25,3
G. ＊[訂正]新刊「模範中學英和大辭林」(英語研究會編)東京日々新聞 6/8 [21526] [＊この項目より 21529 まで G.に入る。] [31158
＊[訂正・削除] ④紹介「井上・元良・中島三博士共著「哲學字彙」」哲學雜誌 300 [21530] [31159
明治大學出版部編『法律經濟辭解』(明治大學法律科第 1 學年講義錄) [31160
登張信一郎『新式獨和大辭典』 [31161
新刊「井上哲次郎・元良勇次郎・中島力造述「英獨佛和・哲學字彙」」丁酉倫理會倫理講演集 115 [31162
應問・柳本知至(長野)「倫理、哲學等の用語を引くに便なる辭書をお教へ下さい」、丁酉倫理會倫理講演集 120 [31163
----- 答・井上[哲次郎]・元良[勇次郎]・中島[力造]三博士著「哲學字彙」、朝永三十郎「哲學辭典」、同文舘編輯「哲學大辭典」
新刊「英獨佛和・哲學字彙」(井上哲次郎・元良勇次郎・中島力造共著) 心理學研究 3 [31164
新刊雜書「英獨佛和・哲學字彙」(井上哲次郎・元良勇次郎・中島力造述) 東京朝日新聞 1/27 [31165
新刊雜書「基督教大辭典」東京朝日新聞 3/17 [31166
寶文舘編輯所編『法律經濟新辭典』 [31167
新刊雜書「新式・獨和大辭典」(登張信一郎著) 東京朝日新聞 4/29 [31168

大２(１９１３)
A. ＊[訂正]附錄・齋藤狂簡子「中學校歷史教授要目改正に關する意見」史學雜誌 287,288 [4687] [31169
＊[訂正]消息「自由講座の特別公開」(千葉鑛藏「ベルグソンの「笑の研究」とメレディスの喜劇との比較研究」)都新聞 5/23 (←B.④) [21549] [31170
＊[訂正]内ケ崎作三郎「バルカン戰爭の文明史的意義」(希臘文明、羅馬文明、ビザンチン文明等)六合雜誌 385(33-2) [4524] [31171
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 314 [31172
----- C.Sganzini,Die Fortschrifte der Völkspsychologie von Lazarus bis Wundt,[Neue Berner Abhdl.zur Philos.u. ihrer Gesch.,hrg. von R.Herbertz,2]Bern
モーパッサン/小杉青林譯『いたり行、外六篇』(伊太利紀行) [31173

雜纂・田中一貞「羅馬より」圖書舘雜誌 19 [31174
----「佛國リセー、普國ギムナジウム」
ジアン・クラツセ/太政官飜譯係譯『日本西教史』(上下巻) [31175
(參考：彙報「京大史學科九月以降學年講義題目中」、歷史地理 21-6 [31176
史學研究法(内田)、西域史(羽田)、西洋史概説(坂口)、羅馬市國史(坂口))
(參考：彙報「東大文科史學科講義題目中」、歷史地理 22-4 [31177
史學概論(坪井)、西洋史概説(箕作)、佛國大革命史(箕作)、希臘政治史概説(村川)、羅馬史(村川)、史籍解題附演習(村川)、東西交通史・洋學史(村上)、History of Chrstianity (コイーベル氏)、General History of French Literature（エック氏))
(參考：彙報「(東洋大學)新學年講義要目」、東洋哲學 20-4 [31178
倫理(前田、中島、宇野、補永)、教育（田中、高島、稻垣、田中）、哲學(遠藤、宇野、瀧村、得能、淀野、鈴木)、歷史（高桑）)
鈴木宗奕「民族心理學」(ヴント等) 東洋哲學 20-12 [31179
桑田芳藏「民族心理學の意義及び任務」心理研究 13(3-1) [31180
米田庄太郎「ヴントの民族心理學と余輩の社會學」心理研究 14(3-2) [31181
(參考：「獨逸大學に於ける心理學及び教育學の講義」、心理研究 18(3-6) [31182
ベルリン、ボン、プレスラウ、エルラデゲン、フライブルク、ギーセン、ゲッチンゲン、グライスワルド、ハッレ、エナ、キール、ケーニヒスベルゲ、ライプチヒ、スールブルヒ、ミュンステル、ミュンヘン、ロストック、ストラスブルヒ、チュービンゲン、ヴュルツブルグ、ハンブルグ）
栗原學士「エマーソンの民族思想」青年 12 月號 [31183
「自由講座會員募集」、スバル 5-6 [31184
----第二科：古希臘文明史(千葉鑛藏)、古希臘古戲曲(千葉鑛藏)、古希臘アリストオトルの詩學(千葉鑛藏)
廣告「科目---哲學史、文明史、社會學」青踏 4 月號 [31185
浮田[和民]博士「西洋民族文明史論」新日本・秋季增刊號 [31186
(參考 : 彙報「本年夏期に於いて派遣し得べき校外教育部講師及びその學科目」、早稻田講演 3-5 [31187
波多野精一 : 哲學・宗教論/金子馬治 : 哲學、思想問題、獨乙文學/片山伸 : 歐洲文學/吉江喬松 : 歐洲文學/坪内雄藏 : 實踐倫理、文藝叢論/相馬昌治 : 歐洲文學/中村吉藏 : 歐洲文學/中島半次郎 : 教育學、教育史/中桐確太郎 : 哲學、倫理、教育學/浮田和民 : 政治學、倫理問題、西洋史/内ケ崎作三郎 : 實踐倫理、宗教論/山岸光宣 : 獨乙文學/山崎直三 : 文明史/煙山專太郎 : 西洋史、外交史/藤井健次郎 : 倫理學、教育學/島村瀧太郎 : 美學、思潮解説、藝術論/平沼淑郎 : 經濟史/杉森孝次郎 : 哲學)
(參考：彙報「講師(早大)囑託----哲學(北昤吉)」早稻田講演 3-10 [31188
雜錄・小西增太郎「アゼンスに遊んで使徒パウロの遺跡を見る」基督教新聞 1532(2/2) [31189
講演・浮田和民「世界史上に於ける日本民族の位地と基督教」(希臘等馬の文明、アリストートルス、ソクラテス等)
基督教新聞 1548(5/22),1549(5/29) [31190

講演・大隈[重信]伯爵「東西文明の調和と青年の覺悟」(プラトー、アリストートル、エピキュリアン、ストイック、希臘羅馬の文明等) 基督教新聞 1576(12/4) [31191
B.①＊[訂正]クセノフォン著/安藤州一譯『ソクラテスの教訓』 [4534] [31192
②＊[訂正]ニイチェ著/安倍能成譯『この人を見よ』 [4541] [31193
篠原無然『變貌と人格』(ケーザル、シセロ等) [31194
ジョン・スチュアート・フラートン/元田作之進譯『哲學通論』 [31195
杉本光年『基督之宗教』 [31196
オイケン/額賀鹿之介譯『吾人は尚基督教徒たり得る乎』 [31197
ジョージ・グリーソン著『山上の垂訓研究』 [31198
ウイリアム・イムブリー著『キリスト教信仰要義』 [31199
丸山小羊『巨傑ルーテル』 [31200
ジョーセフ・コーサンド/加藤直士譯『東西思想の統一』 [31201
白石喜之助『基督教の宇宙觀及び人生觀----一名、宇宙人生の一元的解釋』[31202
③＊[訂正]清水橘村「プラトーンの少年教育」内外教育評論 7-11 [4577] [31203
＊[訂正]黒岩涙香[周六]「プラトニック・ラブニ就て」婦人評論 8 月號(→「予が婦人觀」所収) [16487] [31204
＊[訂正]評論・ヲルター・ペータアー/中島孤島譯「エピキュリアンの人生」モザイク・新年特別號 [4565] [31205
＊[訂正]内藤翟譯(エヅアール・シュレ作戯曲「リュシフェルの民」より)「沈黙の勝利」(第四世紀---希臘主義と基督教との爭闘酷なる時代) 六合雜誌 389(33-6) [4638] [31206
久保良英「倫理學之問題と希臘倫理學」東亞之光 7 月號 [31207
諸名家講述「 オーガスチン」宗教の日本 1 月號 [31208
シュミットボン作/秦豐吉譯「若きアキレス」ル・イヴウ 1 [31209
ベアリング/林かねを譯「ザンチッペとソクラテス」スバル 5-12 [31210
ベアリング作「ソクラテスと其妻」(戯曲)婦人評論 4(2?)月號 [31211
西宮藤朝「希臘神話の女」婦人評論 11 月號 [31212
應問・「第廿六回文檢本試驗問題解答」、丁酉倫理會倫理講演集 125 [31213
----- 答・三六山人(東京)「希臘の四元德(Fours Corinal Virtues)を論ぜよ」(プラトンの四元德に對する見解を使ふ解答。
文苑・アンドリュ・ラング/出野靑煙譯「テオクリソスより」基督教新聞 1541(4/3) [31214
(p.3)「聖オーガスチン其母モニカについて記す」基督教新聞 1548(5/22) [31215
(參考：教界「各地」(神學倶樂部例會)、基督教新聞 1554(7/3) [31216
----- 松本益吉「保羅の神學思想」(希臘))
史傳・小野村林藏「聖アウガスチンの回心」基督教新聞 1574(11/20),1575(11/27), 1576(12/4),1577(12/11) [31217
(參考：教界「一般--- 基督教十回講話」、基督教新聞 1575(11/27) [31218
---- 「三、神觀(一)プラトー」）
④＊[訂正]額賀鹿之助「安倍能成譯「大思想家の人生觀を讀む」」新人 14-1 [4580] [31219

＊[訂正・削除]~~消息.「自由講座の特別公開」(千葉鑛藏「ベルグソンの「笑の研究」とメレヂィスの喜劇との比較研究」)~~
~~都新聞 5/23~~ (→A.) [21549] [31220
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 312 [31221
----- W.Fggenschwyler,War Nietzsche Pragmatist? Arch.G.Ph.19,1
M.Meier,Die Lehre des Thomad von Aquino de passionibus animae,Münster
J.Prehn,Nietzsche und das Problem der Ethik,Neubabelsberg-Rerlin
W.St.Cl.Turner,Christianity and OtherFaiths,an Essay in Comparative Religion Sh.7,6
R.Wessely,Fr.Nietzsche als Vorkämpfer für Erziehungsund Schulreform, Päd.Arch.54,11
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 313 [31222
----- W.T.Lones,An Interpretation of R.Euken's Philosophy
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 314 [31223
------ R.M.Meyer,Nietzsche,Sein Leben und seine Werke,München
W.E.Hoching,The Meraning of God in Human Experience,London
M.Nohl,Eine historische Quelle zu Nietzsches Perspektivismus：G.Teich-müller,die wirkliche und die scheinbare Welt,Z.Ph.Rev.22,1
G.Murray,Four Stages og Greek Religions,London
H.Usener,Kleine Schriften Bd.4,Leipzig
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 316 [31224
------ H.Scharrenbroich,Nietzsches Stellung zum Eudaimonimus,Bonn
W.K.Fleming,Mysticism in Chrisianity,London
R.Eisler,Zum Ursprung d.altchristl.Fischer u. Fishsymbollik, Arch.f. Relwischen. 1913,1-2
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 317 [31225
----- R.Müller-Freienfels,Nietzsche und der Pragmatismus
P.Köhler,Der Begriff dr Repräsentation bei Leipniz,Bern
J.C.Frazer,The Belief in Immorality and the Worship of The Dead,vol.1,London
Luthers Werke krit.Gesuntaus.31,Bd.1,Weimar
Origenes Werke,5 Bd：De Principis,hrsg. von P.Koetschau
J.Pohl,Thomas a Kempis,TH.Glb.,1913
F.B.Westcott,St.Paul and Justification ,London
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 318 [31226
----- H.Scholz,Schleiermacher und Goethe,Ein Beitrag zur Gesch.d.deutschen Geistes, Leipz,1913
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 319 [31227
---- P.Smith ,Luther's Early Development in the Light of Psycho-Analysis
C.A.Briggs,The Fundamental Christian Faith：the Origin,History and Interpretation of the Apostles and Nieene Creed,Edinbg.
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 320 [31228
----- H.Schwarz,Der Gottesgedanken in der Geschichte der Philosophie I, Von Herakrit Bis Jacob Böhme, Heidelberg
Fr.Grandlean,Une revolution dans la Philosophie：La doctrine de M.H.Bergson, Paris
A.O.Lovejoy,The Practical Tendencies of Bergsonism, Int.J.E.23,4

S.E.Alischut,Die logische Struktur des historischen Materialismus,Ach.Soz.37,1
A.Drews,Geschichte des Monismus im Altertum Syuthrsis 5),Heidelbg.
雑錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 321 [31229
----Arth.Frews,Geschichte des Monismus im Altertums,Hedelbg.
雑錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 322 [31230
---- C.M.Gillesple,The Logic of Antisthenes,Arch.G.Ph.20,1
N.C.Barr,The Dualism of Bergson,Ph.Rev.22,6
Arth.O.Lovejoy,Some Antecendants of the Philosophy of Bergson
P.Zeussen,Die Philosophie der Bibel,Leipzg.
「ヴントとベルグソン」人生と表現 2 月號 [31231
＊[訂正]小林澄兄「オイケンの現代精神的潮流」人生と表現 3 月號
[21558] [31232
小林澄兄「ベルグソンの實生活」人生と表現 5-4(4 月號) [31233
廣瀬哲士「ベルグソンの笑の研究」人生と表現 5-4(4 月號) [31234
ないとう(内藤翟?)「口繪の裏に」(ベルグソン)六合雜誌 385(33-2) [31235
野村隈畔「最近の哲學と個性の問題」(ベルグソン、オイケン等)
六合雜誌 385(33-2) [31236
ルドルフ・オイケン「新教主義の任務」(アリストートル、希臘の世界觀等)
六合雜誌 388(33-5) [31237
「ニイチェの言」(p.22) 六合雜誌 388(33-5) [31238
海外思潮「オイケンとベルグソン」六合雜誌 389(33-6) [31239
内ケ崎作三郎「大思想家の婦人觀」(プラトー、シェレー、ゲーテ、スマイルス、ダンテ、ラスキン、エマルソン等)
六合雜誌 390(33-7) [31240
＊[訂正] 内ケ崎作三郎「耶蘇と保羅[パウロ]の婦人觀」(希臘羅馬文明、ソクラテス、プラトー、アリストテレス、ホーマー、エスキラス、ユウリピデイース、ペリクリーズ等)六合雜誌 390(33-7)
[4643] [31241
新刊批評「「哲學綱要」(桑木巖翼著)、「ベルグソンの哲學」(錦田義富著)、「現代思想講話」(大住嘯風著)」」六合雜誌 388(33-5) [31242
時評・吉田「再び岡田哲藏氏に答ふ」(デイオゲ子ス等)
六合雜誌 391(33-8) [31243
＊[訂正]野村隈畔「流轉哲學と東洋哲學」(ヘラクレイトス、ソクラテース、シセロー、パルメニデース、アナクスマンドロス、ピタゴラス、ベルグソン等)
六合雜誌 393(33-10) [4646] [31244
若望安田生「懷しい母」(アウグスチノ、聖者の母モニカ等)聲 446 [31245
「人生最大の急務」(プラトン、アリストテレス、キケロ等)聲 449 [31246
藻鹽生「ケーベル「宗教と哲學の分界點」」聲 449 [31247
隨時評論・筑蔭「流行兒ベルグソンを評す」聲 450 [31248
桂亭「不思議な糧」(羅馬皇帝カリグラ、聖オグスチノ等)聲 453 [31249
玉兎生「公教の修道院」(コンスタンチン皇帝、聖オグスチノ等)聲 455 [31250

出版「樋口龍峽「近代思想の解剖」」帝國文學 19-3 [31251
吉田絃二郎「ルミイ・ド・グウルモン」(エピクロス)帝國文學 19-4 [31252
出版「千葉鑛藏譯「輓近倫理思潮の傾向」」帝國文學 19-8 [31253
石坂養平「和辻哲郎氏の「ニイチェ研究」」帝國文學 19-12 [31254
出版「和辻哲郎「ニイチェ研究」」帝國文學 19-12 [31255
出版「千葉鑛藏編「泰西思想第一輯」」帝國文學 19-12 [31256
佐野文夫「神の發見の過程----生命觀の Prolegomena」
校友會雜誌(第一高等學校)227 [31257
消息「川合(貞一)教授「ベルグソンの哲學」」三田文學 4-3 [31258
消息「川合(貞一)教授科外講義「オイケンの哲學」」三田文學 4-4 [31259
井上哲次郎「東洋哲學の特色」(ソクラテース等) 東洋哲學 20-1 [31260
茅原華山「我人生觀」(希臘思想、ニイチェ等) 東洋哲學 20-1 [31261
照顏道人「井上甫水[圓了]先生著「明治徒然草」を讀みて所感を記す」(ソクラテース等) 東洋哲學 20-2 [31262
雜報子「哲學會春季公開講座を聞く」(藤井[健次郎]氏の「個人の意識」[ゾークラテース、プラトーン、コスモポリタニズム、ニーチェ]等) 東洋哲學 20-4 [31263
新刊紹介「桑木嚴翼「哲學綱要」」東洋哲學 20-4 [31264
紀平正美「範疇に就て」（アリストートル、ヘーゲル等）東洋哲學 20-5 [31265
井上哲次郎「東西洋哲學思想の一致」（ターレス、ヘラクリタス、ピタゴラス、デモクリタス、ストア學派、エムペドクレス等）東洋哲學 20-7 [31266
中島德藏「人生の實相と忠實の德」(ソクラチーズ、プレトー、アリストートル等)
東洋哲學 20-7 [31267
中島德藏「忠實の修德法に就て」(シーザー、ソクラチーズ、プレトー等)
東洋哲學 20-8 [31268
樋口功「謬れる至善說(文藝欄參看)」(プラトー、アリストートルの哲學等)
東洋哲學 20-10 [31269
淀野輝淳「オイッケンの認識論的見解」(プラトー、アリストテレス、ヘーゲル等)
東洋哲學 20-11,12 [31270
新批評新紹介「メエビウス原著/三浦白水譯「ニイチェの人格及哲學」」
東洋哲學 20-12 [31271
得能文「新實在論の人生觀に就て」(プロタゴリアンのシラー、ソクラテス、ソフィスト、プラトーン等) 丁酉倫理會倫理講演集
126 [31272
新刊「堺利彦「社會主義倫理學」」丁酉倫理會倫理講演集 127 [31273
鷲尾正五郎「噫スピノザ!」(プラトン、エリア學派、ヘーゲル等)
丁酉倫理會倫理講演集 128 [31274
雜錄・得能文「桑木[嚴翼]博士の「哲學綱要」に就て」
丁酉倫理會倫理講演集 128 [31275
新刊「桑木嚴翼「哲學綱要」」丁酉倫理會倫理講演集 128 [31276
新刊「ソオレイ/千葉鑛藏譯「輓近倫理思潮の傾向」」(再版)

丁酉倫理會倫理講演集 129　[31277
(記者)「ラブジョーイ教授の「ベルグソン哲學の實際的傾向」(ベルグソン、ソクラチーズ、ヘーゲル、ダンテ、エレア學派等)
丁酉倫理會倫理講演集 131,133　[31278
新刊「桑木嚴翼「現代思潮十講」」丁酉倫理會倫理講演集 131　[31279
新刊「千葉鑛藏「泰西思潮」」(第一輯)丁酉倫理會倫理講演集 131　[31280
泰西思潮「オイケンの精神生活の哲學」(ライマン・アボット[Lymann Abbot])
丁酉倫理會倫理講演集 132　[31281
新刊「吉田靜致「倫理學演義」」丁酉倫理會倫理講演集 132　[31282
新刊「千葉鑛藏「泰西思潮」」(再版)丁酉倫理會倫理講演集 135　[31283
新刊「稻毛詛風「オイケンの哲學」」丁酉倫理會倫理講演集 136　[31284
川島學士「ラスキンの婦人觀」婦人評論 2 月號　[31285
川島凡骨「ラスキンの女性論」婦人評論 4 月號　[31286
中澤臨川「ベルグソン」中央公論 6 月號　[31287
中澤臨川「ニーチェ論」中央公論 12 月號(300 號記念)　[31288
言論「現代思潮の煩悶」(ベルグソン等)萬朝報 7161(6/22)　[31289
「オイケン教授」萬朝報 7319(11/27)　[31290
飯田敏雄「美しい夢」(プラトーン、エピキュラス等) 早稻田講演 3-12　[31291
林道倫「善惡の彼岸(ニーチェ)」(エピクール、プラトー、ストアの徒等)
アララギ 6-1　[31292
茂吉抄「稱きニーチェ(1)」アララギ 6-3　[31293
(東京)心理學研究會編「明治年間に於ける心理學發達の史料」(附・文獻年表)
心理研究 13(3-1)　[31294
「故元良[勇次郎]博士追悼錄」(夏目漱石の師) 心理研究 14(3-2)　[31295
新刊「樋口龍峽「近代思想の解剖」」心理研究 16(3-4)　[31296
(參考：「哲學會春季公開講演會---藤井健次郎「個人の意義」」、
心理研究 17(3-5)　[31297
應問 106(大分・石川平吉)「中等教員檢定試驗教育科受驗準備の爲の教科書」(解答・龍山義亮) 心理研究 17(3-5)　[31298
應問 110(失名氏)「人格の意義を研究するに適當な二、三の英獨書を示せ」(解答・渡邊徹) 心理研究 17(3-5)　[31299
新刊「ルドルフ・オイケン/波多野精一・宮本和吉譯「新理想主義の哲學」(全)」
心理研究 18(3-6)　[31300
(參考：「哲學會春季大會---- 三宅[雄次郎]博士「ベルグソン哲學概評」」
心理研究 19(4-1)　)　[31301
新刊「和辻哲郎「ニイチェ研究」」心理研究 23(4-5)　[31302
新刊「千葉鑛藏編「泰西思潮」(第一輯)」心理研究 24(4-6)　[31303
新刊「稻毛詛風「オイケンの哲學」」心理研究 24(4-6)　[31304
評論・富永德磨「大正元年の精神界」(ベルグソン、オイケン等)
基督教新聞 1529(1/9)　[31305
評論「新年號の雜誌概評」(「開拓者」新年號、石原[謙]文學士「大思想家の人生觀」[オイケン著]) 基督教新聞 1531(1/25)　[31306

質問應答欄「ルドルフ・オイケンの主要著述」、基督教新聞 1532(2/2) [31307
----・「精神生活の統一」(英譯 Life of Spirit)
・「大思想家の人生觀」(安倍能成譯、英譯 The Problem of Human Life)
・「宗教の眞理」(The Truth of Religion、三並良譯近刊)
・「現代の宗教哲學の主要問題」(英譯 Chritianity and New Idealism、加藤譯近刊)
・「人生の根底と其理想」(英譯 Life's Base and Life's Ideal
・「現代思想の主要潮流」(英譯 Main Current of Modern Thought)
・「吾人は尚ほ基督教徒たり得る乎」(額賀鹿之助譯)
(參考)Boyce Gibson's"Rudolf Euken's Philosophy of Life",E.Herman's "Euken and Bergson"等
思潮「Thomas Seltzer 著/竹林拙三譯「哲學者オイケン」」
基督教新聞 1533(2/6) [31308
「見聞欄(錄)」(オイケン、ベルグソン等) 基督教新聞 1534(2/13),1541(4/3), 1570(10/23) [31309
評論・谷岡勝美「杜翁[トルストイ]印象記(10)」(ソクラテス、プラトー、エピクテタス、マーカス・オーレリアス等)
基督教新聞 1534(2/13) [31310
宮川經輝「基督に於ける生活」(希臘羅馬の德教等) 基督教新聞 1535(2/20) [31311
新刊「堺利彦譯「社會主義倫理學」」(クロポトキン著)
基督教新聞 1536(2/27) [31312
論說・内ケ崎作三郎「明治年間の外事思想と基督教」(クノーフィッシャー、ヴント、パウルゼン、ニーチェ等)
基督教新聞 1537(3/6) [31313
講壇・コルド・スミス「世界大勢と基督教」(プルターク等)
基督教新聞 1537(3/6) [31314
社說「活思想と活宗教」(オイケン、ベルグソン等)
基督教新聞 1538(3/13) [31315
思潮・成瀨仁藏「現代精神界の大勢と先覺者の態度」(オイケン、ベルグソン等)
基督教新聞 1540(3/27) [31316
講演・浮田和民「世界の大勢と基督教」(希臘羅馬文明等)
基督教新聞 1541(4/3) [31317
思潮・ライマン・アボット博士/加藤[直士]譯「ベルグソンの進歩哲學」
基督教新聞 1541(4/3),1543(4/17) [31318
新刊「錦田義富譯「ベルグソンの哲學」」基督教新聞 1543(4/17) [31319
社說「新理想主義の哲學」(オイケン) 基督教新聞 1549(5/29) [31320
想苑・小山鼎浦「現代の惱みと耶蘇の救ひ」(オイケン、ベルグソン等)
基督教新聞 1550(6/5) [31321
(參考:教界「東京」(基督教夏期講習會)、基督教新聞 1550(6/5) [31322
---- 額賀鹿之助「オイケンの基督教に對する態度」)
雜誌稿載「太陽」(金子筑水「生命の力」[ニーチェ]) 基督教新聞 1551(6/12)[31323
社說「理想主義の生活」(オイケン、ベルグソン等) 基督教新聞 1552(6/19) [31324

講壇・藤井健治郎「人生と信仰」(オイケン、ベルグソン等)
基督教新聞 1552(6/19) [31325
新刊「千葉鑛藏「泰西思潮」」基督教新聞 1552(6/19) [31326
思潮・加藤直士「「近代思想の解剖」の著者に答ふ」(樋口龍峽著)
基督教新聞 1554(7/3) [31327
高島平三郎「新思潮の衝突と宗教家の態度」(オイケン、ベルグソン等)
基督教新聞 1554(7/3) [31328
教壇・武本喜代藏「無邊の愛」(オイケン、ベルグソン等)
基督教新聞 1555(7/10) [31329
思潮・大住舜「現代思想の歸趨」(プロメトイス、ベルグソン等)
基督教新聞 1557(7/24) [31330
雜誌稿載「福音新報」(柏井園「「人生觀」と歷史哲學」)
基督教新聞 1557(7/24) [31331
論說・帆足理一郎「イエスの福音と基督教徒の異同」(オイケン、ベルグソン等)
基督教新聞 1558(7/31),1559(8/7) [31332
論說・樋口龍峽「加藤[直士]君に答へて再び近代思想を論ず」オイケン、ベルグソン等) 基督教新聞 1559(8/7) [31333
(參考：教界「一般--- 徹底せざる新思想家」(オイケン、ベルグソン等)
基督教新聞 1562(8/28) [31334
想苑・小野村林藏「高山樗牛を懷ふ」(ニイチェ) 基督教新聞 1563(9/4) [31335
婦人問題・宮川經輝「現代と婦人」(希臘女神ビーナス等)
基督教新聞 1565(9/18) [31336
ルドルフ・オイケン/增井生譯「宗教と人生」基督教新聞 1570(10/23),
1571(10/30), 1573(11/13) [31337
講壇・海老名彈正「現代思潮に對する吾人の態度」(オイケン、ベルグソン、オーゴスチン等) 基督教新聞 1570(10/23) [31338
西田幾多郎「宗教的眞理」(希臘哲學等) 基督教新聞 1566(9/25) [31339
雜錄・加藤[直士]生「紹介したき二書」(テュードル・ジョンス博士「オイケン哲學の解釋」) 基督教新聞 1570(10/23) [31340
講壇・桑木嚴翼「文藝と哲學」(ゲーテ、プラトーン、ニイチェ等)
基督教新聞 1573(11/13) [31341
一記者「パスカルの宗教思想」(ベルグソン等) 基督教新聞 1573(11/13) [31342
雜誌稿錄「中央公論社說」(「享樂主義を排す」[羅馬史等])
基督教新聞 1573(11/13) [31343
新刊「メエビウス/三浦白水譯「ニイチェの人格及哲學」」
基督教新聞 1574(11/20) [31344
時論・南陽生「我が教界の前途(上)」(ストイック、アレキサンドリアのフィロン、プラトン、グリーキ・ローマの文化等)
基督教新聞 1575(11/29) [31345
(參考：教界「一般---ニイチェ研究の勃興」(和辻[哲郎]氏、三浦[白水]氏、安倍[能成]氏)、基督教新聞 1576(12/4) [31346
想苑・金子白夢「生活の創造と表現」(オイケン等)

基督教新聞 1579(12/25) [31347
出版界「社會主義倫理學」(クロポトキン/堺利彦譯) 東京朝日新聞 2/6 [31348
出版界「近代思想の解剖」(樋口龍峽著) 東京朝日新聞 2/14 [31349
出版界「哲學綱要」(桑木嚴翼譯) 東京朝日新聞 3/6 [31350
出版界「ベルグソンの哲學」(錦田義富著) 東京朝日新聞 5/7 [31351
出版界「泰西思潮・第一輯」(千葉鑛藏編) 東京朝日新 6/21 [31352
出版界「セ子カ論說集」(高橋五郎譯) 東京朝日新聞 8/9 [31353
出版界「通俗倫理說」(坪内雄藏著) 東京朝日新聞 10/4 [31354
出版界「ニーチェの人格及哲學」(三浦白水譯) 東京朝日新聞 10/6 [31355
出版界「オイケンの哲學」(稻毛詛風著) 東京朝日新聞 11/11 [31356
出版界「この人を見よ」(ニーチェ/安倍能成譯) 東京朝日新聞 12/28 [31357
C.②＊[訂正]齋藤信策・姉崎嘲風著、小山鼎浦編『哲人何處にありや』(「モムゼン博士を論じて我國現代の歷史家に警告す」)
[4660] [31358
アル・エル・オツトレー/岩井順一譯『イスラエル宗教史』 [31359
山室軍平『通俗基督傳』 [31360
松本文雄『使徒保羅傳』 [31361
山室軍平『ロマ書餘師』(1 册。附・ガラテヤ書エペソ書餘師) [31362
チェス・チング譯/松山高吉校『ルカ傳福音書』 [31363
ジャネー・ハーヴェー・ケルマン/佐々木邦譯『少年少女基督傳』 [31364
高柳伊三郎『聖書に現はれたる人物』 [31365
賀川豐彦編『基督傳論爭史』 [31366
イー・ジー・ホワイト/末世之福音社編輯部譯述『基督に至る道』 [31367
三省堂編輯部編『最新世界年表』(大 2 年版→大 5・6 版) [31368
③(參考：彙報「第 27 回中等檢定豫備試驗歷史地理科問題中」、歷史地理 22-4
----- 西洋史：「三、左の人々の事蹟(甲)アグリッパ」) [31369
挿繪「アレキサンドル大王とダリアスとの戰」(十六世紀)、「アレキサンドル大王」(十六世紀)藝術・夏季特別號 [31370
「我に勝る者三百人」(古昔のスパルタ人、ヒューダリータス、ポリクラチダス)
ときのこゑ 7/15 [31371
松岡佳文「クレオパトラ秘史」雄辯 4-5 [31372
「電氣舘のクレオパトラ」(古今の名著・怪艷物語----淺草公園電氣舘)
萬朝報 7303(11/15) [31373
社說「希臘難波の古地圖發見---日本にて發見された希臘難波國」
日本民族(木村慶和主幹)12 月號 [31374
世良田進「ユダ」(小說) 校友會雜誌(第一高等學校)223 [31375
桑田芳藏「男女の地位の發達」心理學研究 21(4-3) [31376
說教・内村鑑三「基督降誕の意義」(シーザー、ソクラテス等)
基督教新聞 1531(1/25) [31377
論說・山口金作「パウロの宗教かイエスの宗教か」(ギリシヤ文明等)
基督教新聞 1546(5/8) [31378
海外教報「路加[ルカ]肖像發見さる」(カタコム) 基督教新聞 1566(9/25) [31379

内ケ崎作三郎「ダヌンツオーの歌劇と眞神秘主義」(「聖サバスチャンの歌曲、羅馬史」六合雜誌 387(33-4) [31380
＊[訂正]雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 313 [21644] [31381
---- A.Deiszmann,St.Paul,London
＊[訂正]雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 314 [21646] [31382
--- W.M.Ramsay, Suggestions on the History and Letters of St.Paul, Expos.1913
E.Schwartz,Kaiser Constantin u.die christl. Kirche,Leipzig
C.Latty,Alexander the God,Expos.1913,Feb.
E.Preusehn,Apostlegeschichte,Tübingen
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 317 [31383
---- E.Beth,Die Entwicklung des Chritentums zur Universal-Religion,Leipzig
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 320 [31384
----- W.Haupt,Worte Jesus und Gemeinfeünterlieferung (Untersuchungen z.N.T.3)
Leipzg.
W.Heitmüller,Jesus,Tübingen
C.E,Hill,History and Mysticism,Expositer.1913
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 321 [31385
----- Eusebius Werke VI Bd.Leipzg.
Ede.Faye,St.Paul,Problem de la vie Chrétienne, 2ed.Paris
W.Lütigert,Der Römerbrief als histor.Problem Güterrsl.
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 322 [31386
----- Eusebius Werke VII Bd.Leipzig
R.Knopf,Problem der Paulsforshung ,Tübingen
A.C.M'Giffert,Christianity on the Light of its History,Hibb.Journal,1913,July
新巻批評「家庭物語」(松本雲舟編。ジュルアス・シイザア、ダイオゲ子ス、ソクラテス等) 六合雜誌 392(33-9) [31387
教界彙報「萬國公教徒の大敵」(コンスタンチノ大帝等)聲 451 [31388
甕江散史「今年の大紀念祭」(コンスタンチノ大帝等)聲 452 [31389
野見國造「予の見たる洗者約翰[ヨハネ]」(ソクラテス等)聲 452 [31390
月城「「クオ・ヴァヂス」を見る」(帝劇活動寫眞)聲 457 [31391
出版「松本彦次郎・廣瀬哲士共編「西洋史論」」帝國文學 19-8 [31392
彙報・壬壬子「歷史地理學界概觀」、歷史地理 21-1 [31393
------「讀史會第一回」：
箕作教授「海戰史料の紹介」
大類學士「フレデリック・ハリソン氏のビザンツ史の紹介」
今井學士「ローウニ氏「歷史上に於ける都市」紹介」
評論及彙報・栗田元次「最新研究西洋史論を評す」(松本彦次郎・廣瀬哲士譯) 歷史地理 22-2 [31394
評論及彙報・栗田元次「西洋史論の批評に就いて松本君に答ふ」 歷史地理 22-5 [31395
山崎直三「エルネスト・ラビス」早稻田講演 3-6 [31396
消息「松本彦次郎・廣瀬哲士合著 Ernst Lavisse の「西洋史論」豫告」 三田文學 4-4 [31397
新刊「松本彦次郎・廣瀬哲士共著「西洋史論」」三田文學 4-8 [31398

消息「鹿子木氏學位、慶應義塾で 10 回講演」(→「文明と哲學的精神」)
三田文學 4-12 [31399
新刊「大山千代雄譯「プリュターク英雄傳」」丁酉倫理會倫理講演集 128[31400
演劇界消息「文藝協會のシーザー劇」新小說 18-6 [31401
「シーザーの舞臺面」(文藝協會のシーザー劇)讀賣新聞 6/7 [31402
「シーザー劇の衣裳小道具」(文藝協會のシーザー劇)都新聞 6/23 [31403
新刊「坪内逍遙譯「ジュリアス・シーザー」」早稻田講演 3-5 [31404
新刊「松本彦次郎・廣瀬哲士「最新研究・西洋史論」」早稻田講演 3-8 [31405
和田萬吉「歐洲中世期の裝飾寫本につきて」(切支丹本) 圖書舘雜誌 17 [31406
新刊「松本彦次郎・廣瀬哲士「最近研究・西洋史論」(全)」
心理研究 20(4-2) [31407
新刊「前田越嶺「基督傳」」基督教新聞 1530(1/16) [31408
ソルトウ/清口悦次譯「基督の四肖像」基督教新聞 1530(1/16) [31409
見聞録「デッビド・スミス教授「史的イエス」」基督教新聞 1531(1/25) [31410
想苑・赤星仙太「「生」の力」(ギリシヤ傳道等) 基督教新聞 1536(2/27) [31411
新刊「山室軍平「通俗基督傳」」基督教新聞 1570(10/23) [31412
出版界「ポンペーの埋沒」(箕作元八著)東京朝日新聞 2/4 [31413
出版界「プリュターク英雄傳」(大山千代雄譯) 東京朝日新聞 3/16 [31414
「坪内博士の新脚本」(シーザー) 東京朝日新聞 4/25 [31415
「「シーザー」に傭はれて」東京朝日新聞 6/30 [31416
未成「江西討袁軍の前途」(エピクテタス等) 東京朝日新聞 8/17 [31417
D.①米國聖書會社『新約聖書約翰[ヨハネ]傳』 [31418
米國聖書會社『新約聖書路加[ルカ]傳』 [31419
米國聖書會社『新約全書』(引照附) [31420
②鼓常良(フローレンツ序)『ゲーテ作・自傳戯曲・ファウスト評論』 [31421
玉置登臨『西洋美術史』 [31422
パタソン・スミス/松井米太郎譯『聖書の由來』 [31423
織笠繁藏『聖歌物語』 [31424
③甕江漁史「土都[トルコの都]聖智の寺院[セントソフィア]」(羅馬皇帝コンスタンチノ等)聲 447 [31425
山岸光宣「戀愛描寫の變遷」(上世、中世)帝國文學 19-5 [31426
[附錄]島村民藏「歐洲演劇發展史」劇詩 7 月號(4-7) [31427
繪畫「フリーズの浮彫」(パルテノン在)美術新報 12-11 [31428
繪畫「ミロのヴヒナス」美術新報 12-12 [31429
岩村透氏談「牛の繪と彫刻---泰西美術の名作」(グリースの「パフヒオ」)
東京朝日新聞 1/2 [31430
④＊[訂正]森鷗外「ギョオテ年譜」三田文學 4-9 (昭 49 刊岩波版鷗外全集 9 巻中)
[4742] [31431
＊[訂正]佐々木雪子「ファウストを觀て」こころの華 17-5 [16518] [31432
＊[訂正]松居松葉「エレクトラに就て」大正演藝 3 月號 [21680] [31433
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 312 [31434
----G.Simmel,Goethes Individualismus,Logos 3,3

W.Schonack,Der Horazunterricht,Ein Beitrag zur Didaktik und Methodik des latainishen in der Gymnasialprima,Berlin
J.Burckhardt,Briefe an einen Archtekten,1870,1889,München
I.Lindegaad, Un buste romain de l'epoque de la république(Aus Bulletin der Acd. des sciences et des lettres de Danemark,1912,4)
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 313 [31435
----- Th.Tiele,Das Evangelium des Lukas ausgelegt,1.Hälfte,Leipzig
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 314 [31436
----- W.M.Ramsay,Suggestions on the History and Letters of St.Paul,Expos.1913,Feb.
G.Helbig,Führer durch die öffentlichen Sammulungen klassischer Altertümer in Rom.,3 Aufl.,I,II,Leipzig u. Berlin
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 315 [31437
----- E.Pottier,Ètudes de céramique grecque
＊[訂正]雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 316 [31438
----- E.G,Gardner,Dante and the mystics：a Study of the mystical aspect of the Divine Comedy and its relation with some of its medieval sources ,London [21584]
----- ＊[削除]~~E.G.Gardner,Dante and the mystics:A Study of the mystical aspect of the Divine Comedy and its relation with some of its sources,London [21584]~~ [31439
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 317 [31440
------ G.Milligan,The New Testament Documents,London
H.V.Soden,Die Schriften d.N.Test.Text.u.Apparat.,Güttingen
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 318 [31441
------ P.Feine,Einleitung in das Neue Teatament,Leipz.1913
J.Hastings,The Great Texts of the Bible,Ephesians to Colosians,Edinbug.1913
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 321 [31442
----- H.Stoeks,Das neuest Griechich i. Licht d. modernen Sprachforschung,N.Kirchl. Z.13,8
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 322 [31443
----- W.C.Allen & I.W.Greusterd,Introdution to the Books of the New Testament, Edingburg.
大津康「ヘッベルの作品」東亞之光 8 月號 [31444
小澤愛圀「スコラスチカ」(A.フランス)黑耀 3 月號
うちかさき(内ケ崎作三郎?)「口繪の裏に」(ラファエロ「詩神」)
六合雜誌 386(33-3) [31445
竹友藻風「智慧」(メエテルリンク論。ソクラテス、マルクス・アウレリウス等)
六合雜誌 388(33-5) [31446
三並良「ファウストと人生問題」六合雜誌 388(33-5) [31447
仲田勝之助「イエツの思ひ出」劇と詩 29 [31448
秋元蘆風「詩人としてのニイチェ」劇と詩 29 [31449
廣政法夫「ファウスト劇の所感」劇と詩 4-5(5 月號) [31450
片山孤村「ハウプトマンの「アトランテイス」」帝國文學 19-9 [31451
石本筈「ショウの新お伽劇---アンドロクレスと獅子」帝國文學 19-12 [31452
出版「栗原古城譯「エマアスン・偉人論講演」」帝國文學 19-12 [31453

矢代幸雄「ラスキンの叫び」藝術 6 月號 [31454
黑田誠「ゲーテのファウストとグイのマルガレーテ」音樂 4-8,9 [31455
彙報「文藝委員會寂滅」(ダンテの「神曲」邦譯) 東洋哲學 20-4 [31456
應問・中野正雄(名古屋)「小生、將來研究の必用上グリーク及びラテン語の研究教育就ては何か獨學に適したる書物はにきものか、御指示希望致候、勿論英語は難解の書にあらざるは例は一通判讀致位の素養は有之者候」、
丁酉倫理會倫理講演集 128 [31457
----- 答・1.Collar and Daniel, Biginner's Latin Book, ibid.,First Year Latin, John Tellows, Latin Lesson, グリーク語に就ては知らず､問合せの上御答へすべし。
泰西思潮「マッシュウ・アーノルドの讀書」丁酉倫理會倫理講演集 133 [31458
水野鉚子「ファウストの印象」女學世界 5 月號 [31459
藤代[禎輔]博士「ファウスト雜話」新日本 6 月號 [31460
評傳・谷岡勝美「杜翁[トルストイ]印象記」(ホーマー等)
基督敎新聞 1530(1/16),1531(1/25) [31461
講演・上田敏「文學と現代生活」(ベルグソン、羅馬ジュリアン帝、ホーマー等)
基督敎新聞 1566(9/25) [31462
「ファウスト劇」(近代劇協會)萬朝報 7077(3/30) [31463
山宮充「イエツの批評的研究」(希臘人、羅馬人等)アララギ 6-3,4 [31464
深澤由次郎「譯註・エトナ登山記」英語世界 7-11,13 [31465
井上宗衛「バイロンの名詩譯註」中外英字新聞 20-5,6,7,8,9,10 [31466
「佛國の文藝對政府問題----アナトール・フランス及ロダン翁等聯名抗議」
讀賣新聞 7/12 [31467
「演劇エレクトラ」讀賣新聞 8/25 [31468
滿壽治譯「エレクトラ」(ホフマンスタール)とりで 2 [31469
松居松葉「エレクトラに就て」大正演劇 3 月號 [31470
出版界「歐洲演劇史」(ブランダース・マシュウス/中村春雨譯)
東京朝日新聞 2/7 [31471
「「ファウスト」に就て」(帝國劇場) 東京朝日新聞 3/22 [31472
「「ファウスト」の初日」(帝國劇場) 東京朝日新聞 3/28 [31473
出版界「ファウスト」(町井正路譯) 東京朝日新聞 4/28 [31474
出版界「ファウスト評論」(鼓響谷[常良]著) 東京朝日新聞 6/19 [31475
出版界「ゲーテ語錄」(高野一助譯) 東京朝日新聞 8/13 [31476
出版界「ゲーテ感想錄」(高橋五郎譯) 東京朝日新聞 11/28 [31477
E.④雜錄「最近內外哲學界」哲學雜誌 317 [31478
----- P.Dredieu,Montesquien.[Les grands Philosophes],Paris
雜錄「最近內外哲學界」哲學雜誌 320 [31479
----- H.Liezmann ,Zur altchristlichen Verfassungsgeschichte,Z.Wech.Th.1913,2
内ケ崎作三郎「政治の刷新か心靈の改革か」(プラトー、アナキサゴラス、ペリクルス等)六合雜誌 386(33-3) [31480
新刊批評「小崎弘道「國家と宗敎」」六合雜誌 389(33-6) [31481

山鹿生(山口鹿三?)「現代的聖人」(伊太利人コンタルド・フェリニ氏[羅馬法研究])
聲 455 [31482
新刊「山崎弘道「國家と宗教」」東洋哲學 20-6 [31483
栗原[古城]博士「エマアソンの民主思想」青年 12 月號 [31484
泰西思潮「現代の英雄に就て」(ウル井ック、アナクサゴラス、エソップ、ピタゴラス、グロチウス等) 丁酉倫理會倫理講演集 126 [31485
出版界「西洋社會運動史」(石川三四郎著) 東京朝日新聞 1/19 [31486
F.③平山清次「月ノ長年加速ト古代ノ日月食」(あれくさんどる、ありすとてれす[ありすとーとる]、ぷとれまいおす等)
東京物理學校雜誌 260 [31487
三守守「先哲小傳(1)いーくりーど」東京物理學校雜誌 263 [31488
三守守「先哲小傳(2)あるきめです」東京物理學校雜誌 264 [31489
三守守「先哲小傳(3)あぽろにうす」東京物理學校雜誌 265 [31490
④戸塚文卿「生命の起源(下)」(大哲アリストテレス、詩人ヴァージル等)
聲 447 [31491
講壇・谷津直秀「生物學より見たる生命」(アリストートル、ベルグソン等)
基督教新聞 1549(5/29) [31492
出版界「科學十講」(四元内治著) 東京朝日新聞 2/4 [31493
富田精「暦の話」心理學研究 13(3-1) [31494
G. 隨時評論「土橋氏の痛快なる哲學字彙評」(井上・元良・中島三博士共著、讀賣新聞・日曜附錄特輯號)聲 446 [31495
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 312 [31496
---- E.C.Woolley,Student's Use of Dictionary,Ed.Rev. 44,5
新刊「入江祝衛「詳解英和辭典」」東洋哲學 20-10 [31497
「杉浦伯邸史料陳列會」、圖書舘雜誌 21 [31498
--- 辭典：羅典和蘭辭書(1609 年、ロットルダム版ゼシワイム・ターサルト原書)
新譯和蘭羅典辭書(1719 年、アムステルダム版スハンノット著)
佛蘭辭書(1717 年、アムステルダム版フランコイスハルマ著)
出版界「新撰・英和辭典」(增田藤之助著) 東京朝日新聞 12/9 [31499

大３(１９１４)
A. 高槻未知生「蘭學者傳」國學院雜誌 20-5,7,9 [31500
正富由太郎「ネオ・ヘレニズム」(長詩)時代思潮 1 [31501
村川[堅固]博士「希臘の前途」新日本 7 月號 [31502
小川千甕「歐羅巴一見の後に」ほととぎす 3 月號 [31503
小川千甕「伊太利日記」ほととぎす 6 月號 [31504
隨時評論「所謂禁讀書について」(ベルグソン等)聲 468 [31505
出版会「伊太利紀行」(ゲーテ/高木敏雄譯) 東京朝日新聞 6/5 [31506
(參考：東京帝國大學文科大學史學科本年度講義題目中、歷史地理 24-4 [31507
史學概論(坪井)、西洋史概說附演習(坪井)、西洋海事史(箕作)、西洋史概說(村川)、羅馬史(最古より、村川)、史籍解題附演習(村川)、發見時代史(村

上)
(參考：京都文科大學史學科今年度講義演習題目中、歷史地理 24-4 [31508
史學研究法(原)、西域史(羽田)、西洋史概說(坂口)、神聖羅馬帝國史(坂口)、
西洋史概說(原)、地理學史(小川))
(參考：慶應義塾學科課程の改良、三田文學 5-3 [31509
文學科文學：藝術史、美學、哲學概論及哲學史、心理學
文學科哲學：哲學概論、哲學史、認識論、心理學、社會學論、理學、教育
學、教育學史
文學科史學：西洋史、史學研究法、歷史哲學、政治學、民族心理學、英文
學史、獨文學及佛文學、美術史、史學演習)
(參考：消息[慶應義塾]秋學期開始、三田文學 5-9 [31510
哲學・心理學(川合)、哲學・倫理學(鹿子木)、美學(阿部)、近代佛蘭西文
學(永井[荷風])、獨逸文學(小宮)、大陸文學(馬場[弧蝶])、佛蘭
西文學(廣瀬)、英文學(戸川)、西洋史・史學研究法(田中))
(參考:消息[慶應義塾]哲學科科外講義---オイケンの哲學[川合]、スピノザの哲學[鹿
子木]、三田文學 5-10) [31511
(參考：教界「東京」(基督教同志會夏期學校)、基督教新聞 1602(6/4) [31512
-----永井柳太郎「文明史上に於ける基督教徒の一大貢獻」
内ケ崎作三郎「現代のヘレニズムとヘブライズム」)
「夏期消息(2)(3)---讀書」(岡田哲藏[ニイチェ]、武本喜代藏[オイケン]、波多野培
根[Bergson] 、高木壬太郎[オイケン])
基督教新聞 1612(8/13),1613(8/20) [31513
永井柳太郎「文明史上に於ける基督教の貢獻」(君斯擔丁堡[コンスタンチノープル]
落城、東羅馬帝國滅亡等) 基督教新聞 1615(9/3)
[31514
「オイケン博士の文明論」中外英字新聞 21-9,11,12,13 [31515
(參考：彙報「本年夏期に於いて派遣し得べき校外教育部講師及びその學科目」、
早稻田講演 4-4,5 [31516
波多野精一：哲學・宗教論/金子馬治：哲學、思想問題、獨乙文學/片山伸：
歐洲文學/吉江喬松：歐洲文學/坪内雄藏：實踐倫理、文藝叢論/相馬昌治：
歐洲文學/中村吉藏：歐洲文學/中島半次郎：教育學、教育史/中桐確太郎：
哲學、倫理、教育學/浮田和民：政治學、倫理問題、西洋史/内ケ崎作三郎：
實踐倫理、宗教論/山岸光宣：獨乙文學/山崎直三：文明史/煙山專太郎：西
洋史、外交史/藤井健次郎：倫理學、教育學/島村瀧太郎：美學、思潮解說、
藝術論/平沼淑郎：經濟史/杉森孝次郎：哲學)
出版界「卽興詩人」(アンデルセン/森林太郎譯)東京朝日新聞 10/5 [31517
出版界「歐米我觀」(蜷川新著) 東京朝日新聞 11/3 [31518
B.①「Demokrit の言」(p.32, Diels Űbersetzung) 東洋哲學 21-1 [31519
簡想錄「聖アウガスチンの祈禱」基督教新聞 1610(7/30) [31520
②＊[訂正]中澤臨川『ベルグソン』 [4798] [31521
小野村林藏『聖アウグスチンは如何にして基督信徒になりし乎』 [31523
三木露風『大西[祝]博士の西洋哲學史』 [31524

ウィンデルバンド/村岡典嗣譯『近世哲學史』(第壱) [31525
J.S.ミル/平井廣五郎譯『思想言論の自由』 [31526
アリス・コークラン女史原著/林靜太譯『婦人の典型』)(モニカ等) [31527
小松武治『現代の思想家』(ベルグソン、オイケン等) [31528
③質疑解答「希臘人の天地開闢說」聲 461 [31529
島村抱月「希臘神話と文學」(「最近思潮・教育夏期講習錄」中) [31530
村井知至「ソクラテス論」雄辯 11 月號 [31531
齋木仙醉「ソクラチズム」時代思潮 9 月號 [31532
齋藤勇「解釋せられたるプロミューシュス神話」東亞之光 11(9-11)月號 [31533
大澤貞吉「天界の動搖」帝國文學 20-9 [31533
應問・SK 生(靑森)「タレースが所說として傳へられるものの中に「萬物は神々を以て充さる」(大西[祝]博士全集・西洋哲學史上巻タレースの條 22 頁の所揭による)といふことがあるさうでありますが、之は如何なる意でありませうか」、丁酉倫理會倫理講演集 139
----- 答・タレースの說は只斷片的に他人の書籍中に傳つて居るのですから、詳しいことはとても分かりません・・・後世の學者は、彼れは恐らく近世の物活論者と同じやうな考へを持つて居たものではなからうかと想像するのです。物活論とは、此の世界に存在するものは皆活きたもの、精神のあるもんだといふのです。・・・」 [31534
(參考：「哲學會」、心理研究 27(5-3) [31535
木村泰賢「「プラトー」と「ウパニシャッド」」） [31536
史傳・小野村林藏「聖アウグスチンの回心」基督教新聞 1580(1/1),1581(1/8) [31537
(參考：教界「名古屋」(齋木仙醉氏の來名)、基督教新聞 1629(12/10) [31538
--- 「ソクラテス運動」講演、「西哲ソクラテス」） [31539
④＊[訂正]安倍能成「飜譯について(哲學)」(→昭 24 刊、同「文化・思想・哲學」中)
(←③) [4835] [31540
＊[訂正]安倍能成「「大思想家の人生觀」」新人 15-8 [4853] [31541
＊[訂正]松本悟朗「近代論者としてのニイチェ」第三帝國 7 [4886] [31542
＊[訂正]松田艮四郎「ハウプトマンとニイチェ主義の哲學」(評論ヘルマン)
假面 14 [4896] [31543
＊[訂正・削除]木場了平~~本~~譯「シュライエルマッヘル獨語錄」
精神界 14-5,6,8,10,12 [16539] [31544
＊[訂正]雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 323 中 [21793] [31545
---- Ch.Bigg,The Christian Platonists of Alexandria,The Pampton Lectures of the Year,1886)
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 323 [31546
---- Th.J.Gerrard,Bergson,an Exposition and Criticism from the Point of View St. Thomas Aquinas,Sh.2,6
A.Dorner,Die Metaphisik des Chrisitentums,Stuutgart
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 324 [31547
---- F.X.Kiefl,Leipniz,Mainz
H.Leisgang,Die Begriffe der Zeit und Ewigkeit im spätern Platonismus,Mûnster
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 326 [31548

---- P.Carus,Nietzsche und other Exponents of Individualism,Chicago
B.Lachmann ,Protagoras,Nietzsche,Stiner,Berlin
A.Coralnik,Zur Geschchte der Skepsis I,Arch.G.Ph.20,2
B.Russell,The Philosophy of Bergson,Cambridge
J.W.Scott,Ethical Pessimism in Bergson
H.C.Corrance,Bergson's Philosophy and the idea of God,Hibb.J.1914,1
J.v.Walter,Vom jungen Luther,Neu.Kirch.Ztsch.1914,1
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 327 [31549
---- J.L.Johnston,Mysticism in the New Testament,Journ.Th.Stud.1914,Jan
D.C.Macintosh,What is the Chrisian Religion ,Havd.Th.Rev.1914,1
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 328 [31550
---- W.W.Jaeger,Nemesios von Emesa,Quellenforschungen zum Neoplatonismus und seinen Anfängen bei Poseidonios,Berlin
B.Lachmann ,Protagoras,Nietzsche,Stiner,Berlin
H.Schffganz,Nietzsches Gefühlslehre,Leipzig
I.Thorndike,Roger Bacon and the Experimental Method in the Ages,Ph.Rev. 23,3
＊[訂正](參考：雜錄「東西兩文科大學哲學科本年度卒論」哲學雜誌 329 中 [21814] [31551
東大：大谷庄治「ベルグソン哲學の研究」)
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 329 [31552
----- K.Rösener,Der Kampf ums Ich.Eine Auseinandersetung zwischen christlichem und Nietzschem Individualismus,Giessen
H.Denifle,Luther und Lutherenisme,Paris
D.C.Macintosh,What is the Christian Religion, Havd.Theol.1914,1
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 330 [31553
----- O.N.Smith, The Middle Ages,the renaissance and modern mind,Hilbert Journal 1914,April
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 331 [31554
---- E.Sandys, Roger Bacon,London
J.Gottschick, Luthers Theologie,Tübingen
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 332 [31555
---- Jos.Kroll, Die Lehren des Hermes Trismegistos,H. 5/6
Frdr.Beemelmans, Zeit und Ewigkeit nach Thomas von Aquino,Münster
R.Hönigswald,Die Skepsis in Philosophie und Wissenschaft,Göttingen
J.Gottschick,Luthers Theologie, Tübingen
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 333 [31556
---- N.Wilder, The Pragmatism of Pascal,Ph.Rev.23,5
F.Boll, Aus der Offenbarung Johannis.Hellenische Studien zum Weltbild der Apokalypse, Leipzig
W.K.Flemming,Myticism in Christianity, London
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 334 [31557
--- P.Coffey, Ontology:or The Theory of Being.Mind 92
＊[訂正]夏目漱石「戰爭から來た行違ひ」(ケーベル)東京日々新聞 8/13 [21872] [31558
＊[訂正]彙報「ソクラテス運動演說會」早稲田文學 108 中 [4834] [31559

「現代の要求する運動特徴」(田中王堂)
中島德藏「東洋に於けるオイケン學の意義」修養世界 7 月號 [31560
立石美和「ニイチェとブレイク」創造 12 月號 [31561
新刊批評「哲人何處にありや」(齋藤信策遺稿「ニーチェ」、姉崎・小山兩氏編)
六合雜誌 379(34-2) [31562
＊[訂正]新刊批評「此の人を見よ」(ニイチェ/安倍能成譯)
六合雜誌 379(34-2) [4933] [31563
山口鹿三[山鹿生?]「日本國を救ふべき宗教」(ケーベル博士等)聲 465 [31564
隨時評論「徒勞なる運動」(齋木仙醉の「ソクラテス運動」)聲 467 [31565
墨田庭泉「良心の糺明」(ピタゴラス、マルクス・アウレリウス、聖オグスチノ等)
聲 469 [31566
消息「シュミットボン「ヂオゲネスの誘惑」の上演」帝國文學 20-9 [31567
新刊「安倍能成譯「この人を見よ」」(ニイチェ)帝國文學 20-2 [31568
新刊「アロイス・リール/安井辰衛譯「現代哲學講話」」帝國文學 20-2 [31569
(參考：東京帝國大學文科大學本年度卒論、帝國文學 20-6 [31570
哲學科：大谷庄治「ベルグソン哲學の研究」
山本卯一「ライプニッツの單子」)
石坂養平「近世者の生活より」(ニイチェ)帝國文學 20-8 [31571
新刊「野村隈畔「ベルグソンと現代思想」」帝國文學 20-8 [31572
古谷榮一「「オイケン哲學の非難」に就いて」帝國文學 20-10 [31573
新刊「古谷榮一「オイケン哲學の非難」」帝國文學 20-10 [31574
新刊「伊達源一郎「オイケン」」帝國文學 20-11 [31575
新刊「中澤臨川「ベルグソン」」帝國文學 20-12 [31576
朝永三十郎「近世に於ける『我』の自覺史」丁酉倫理會倫理講演集
138,139,144,145 [31577
消息「自由講座---中澤臨川「ベルグソンの哲學」、三田文學 5-10 [31578
松田艮四郎「ハウプトマンとニイチェ主義の哲學」假面 14 [31579
石巻良夫「靈魂に關する俗信(1)」（希臘日神、希臘羅馬の火の崇拜、古代ギリシヤの說話等）東洋哲學 21-1,8,9 [31580
正富由太郎「時と我」（パルメニデース、プラキシテレスのヴ井―ナス、ネロ帝、ニイチェ、ゲーテ、バイロン等）東洋哲學 21-1,2,6,8 [31581
下澤瑞世「青年期の本領と大學教育の本領」(アリストテレース、アルキメデス等)
東洋哲學 21-3 [31582
彙報「(京大文科大學教授)桑木[嚴翼]博士、東京文大學教授ケーベル博士解雇の後任人事」東洋哲學 21-6 [31583
紀平正美「スピノザよりヘーゲルへ」(希臘思想等) 東洋哲學 21-8 [31584
中島德藏「眞我の發揮」(希臘羅馬人の厭世主義、エピキュラスの快樂主義、シーザー、アントニー、ブルタス等) 東洋哲學 21-9 [31585
(?)「國民的敵愾心と基督教の世界主義」(ハーバー氏に據る、紀元一、二世紀)
東洋哲學 21-9 [31586
越原富雄「ニイチェの女性觀」婦人評論 3 月號 [31587
鹿子木員信「哲學の使命」(ソクラテス、プラトー、ニチェ等)

丁酉倫理會倫理講演集 137　[31588
新刊「得能文譯「オイケン・精神生活の哲學」」
丁酉倫理會倫理講演集 137　[31589
新刊「リール/安井辰衛譯「現代哲學講話」」(「古代に於ける哲學」)
丁酉倫理會倫理講演集 137　[31590
朝永三十郎「近世に於ける「我」の自覺史」(プトレマイオス說、アリストテレース說、ヘーゲル、ベルグソン等)
丁酉倫理會倫理講演集 138,139　[31591
天野貞祐「平田[元吉]氏譯「幸福」(Karl Hilty, Glück,)」(エピクテタス、ストア哲學等) 丁酉倫理會倫理講演集 138　[31592
(參考：「本會記事--- 講演・宮田脩「思想界の輸入超過」、
丁酉倫理會倫理講演集 139　)　[31593
泰西思潮「英語に成れる最良書百册---- J.Harrison, Ancient Art and Ritual,G.Murray, Four Stages of Greek Religion」丁酉倫理會倫理講演集 139　[31594
新刊・紀平正美「「オイケン・精神生活の哲學」を讀む」(得能文譯、附・新理想主義の哲學) 丁酉倫理會倫理講演集 139　[31595
新刊「桑木嚴翼「哲學綱要」」、「得能文譯「オイケン・精神生活の哲學」」
丁酉倫理會倫理講演集 139　[31596
應問・上田質問生(長野)「倫理を秩序的に研究致すには如何なる書物より始むべきや、御迷惑ながら、御教示を得たく此段奉懇願候」、
丁酉倫理會倫理講演集 139　[31597
---- 答・中島德藏「解說批評・倫理學原論」(ファイト)、蟹江等「パウルゼン倫理學大系」、吉田精致「倫理學演義」、中島力造「倫理學說十回講義」、山本良吉「倫理學史」、木村鷹太郎「東西倫理學史」、綱島榮一郎「西洋倫理學史」、角田柳作「ヴント西洋倫理學史」、北澤定吉「倫理學史綱」、吉田靜致「西洋倫理學史講義」
新刊「桑木嚴翼「五大哲學者」」丁酉倫理會倫理講演集 140　[31598
新刊「ロジャース/藤井健次郎・北昤吉譯「西洋哲學史」」
丁酉倫理會倫理講演集 140　[31599
宮田脩「思想界の輸入超過」丁酉倫理會倫理講演集 141　[31600
新刊「久津見蕨村「ニイチェ」」丁酉倫理會倫理講演集 141　[31601
新刊「鹿子木員信譯「オイケン・自然主義か理想主義か」」
丁酉倫理會倫理講演集 141　[31602
新刊「ベルグソン/廣瀨哲士譯「笑の研究」」丁酉倫理會倫理講演集 141　[31603
西晉一郎「實在と道德」(ベルグソン、プラトー、ストア敎、プロチノス等)
丁酉倫理會倫理講演集 142　[31604
中島德藏「オイケンの「現代倫理學」を讀む」(Present Day Ethics)
丁酉倫理會倫理講演集 142　[31605
雜錄・中島力造「今後の敎育主義」(プレトー、アリストートル等)
丁酉倫理會倫理講演集 142　[31606
新刊「稻毛詛風・市川虛山「ベルグソン哲學の眞髓」」
丁酉倫理會倫理講演集 142　[31607

應問・一醫專生(岡山)「哲學を初歩より秩序的に研究致し度存候が、如何なる書物を讀むべきものに候や、甚だ恐入候へ共、日・獨・英語の書名、定價御教示下被度願上候」、
丁酉倫理會倫理講演集 142 [31608
---- 答・紀平正美「論理學綱要」、今福忍「論理學要義」、波多野精一「西洋哲學史要」、北澤定吉「西洋哲學史綱」、朝永三十郎「人格の哲學と超人格の哲學」、桑木嚴翼「哲學綱要」
新刊「野村隈畔「ベルグソンと現代思潮」」丁酉倫理會倫理講演集 143 [31609
雜錄・加藤弘之「祖先崇拜」(ベルグソン、オイケン等)
丁酉倫理會倫理講演集 143 [31610
新刊「北昤吉「時間と自由意志・哲學入門」(「ベルグソン哲學の解說及批判」全四巻中の第一巻) 丁酉倫理會倫理講演集 144 [31611
紀平正美「人格と歷史」(プラトーン、アリストートル、歷山大王、ソークラテース等) 丁酉倫理會倫理講演集 145 [31612
泰西思潮「インスピレーション」(マクネイル・ディクソン「インスピレーション」大要。プレトー、ソクラテース、ゲーテ、エマーソン等) 丁酉倫理會倫理講演集 145 [31613
新刊「古谷榮一「オイケン哲學の批難」」丁酉倫理會倫理講演集 145 [31614
大島正德「ベルグソンの倫理的歸結」丁酉倫理會倫理講演集 146 [31615
(參考：「本會記事----大島正德「ベルグソンの倫理的歸結」
丁酉倫理會倫理講演集 146) [31616
應問・原島重作(埼玉)「文部省檢定試驗修身科參考書、書名・定價共」、
丁酉倫理會倫理講演集 146 [31617
---- 答・中島德藏「解說批評・倫理學原論」(ファイト)、倫理學史(中島力造、山本良吉、木村鷹太郎、綱島榮一郎、角田柳作、北澤定吉、吉田靜致)、蟹江等「パウルゼン倫理學大系」、吉田精致「倫理學演義」
桑木嚴翼「倫理學の價値」(プラトー、アリストテレス、グリーン、ヴント等)
丁酉倫理會倫理講演集 147 [31618
(參考：「本會記事----桑木嚴翼「倫理學の價値」」
丁酉倫理會倫理講演集 147 [31619
新刊「伊達源一郎「オイケン」」丁酉倫理會倫理講演集 147 [31620
應問・藤川生(秋田)「西洋倫理學史を稍詳細に知るに左の三書の中の何れが最も適良に御座候哉、御高敎仰ぎ度候。----吉田靜致「西洋倫理學史講義」、綱島榮一郎「西洋倫理學史」、北澤定吉「倫理學史綱」」、丁酉倫理會倫理講演集 147 [31621
----- 答・吉田氏のもの最も詳しく候。
三並良「愛國者としてのオイケン博士」新日本・秋季特倍號 [31622
內藤濯「ベルグソンと佛人」新日本・秋季特倍號 [31623
中澤臨川「ニイチェ」中央公論 10 月號 [31624
大槻快尊「心理學に及ぼせしダー井ンの影響」心理研究 25(5-1) [31625
本村久一「精神とは何物なりや」(ギリシア思想等) 心理研究 25(5-1),26(5-2), 30(5-6),31(6-1),33(6-3) [31626

新刊「得能文譯「オイケン・精神生活の哲學」」心理研究 26(5-2) [31627
(參考：「哲學會」、心理研究 30(5-6) [31628
中島德藏「東洋人に對する「オイケン」學の意義」）
新刊「野村隈畔「ベルグソンと現代思潮」」心理研究 31(6-1) [31629
兒玉光榮「他界觀念の發達」心理研究 35(6-5) [31630
新刊「古谷榮一「オイケン哲學の批難」」心理研究 36(6-6) [31631
「我國基督教の將來と其使命」(宮川經輝、オイケンとベルグソンの紹介)
基督教新聞 1580(1/1) [31632
思潮・中島力造「現今哲學界の趨勢」(ニイチェ、オイケン等)
基督教新聞 1580(1/1) [31633
思潮・加藤直士「新理想主義と新實在論との接觸點」(オイケン、ベルグソン、プロタゴラス等) 基督教新聞 1580(1/1) [31634
評論・相原一郎介「大正二年度の思想界及教育界(下)」(ベルグソン、オイケン、ニイチェ等) 基督教新聞 1582(1/15) [31635
論說・額賀鹿之助「自由基督教の使命」(オーゴスチン等)
基督教新聞 1584(1/29) [31636
雜誌稿載「丁酉倫理」(鹿子木員信「哲學の使命」[オイケン哲學])
基督教新聞 1584(1/29) [31637
史潮・朝永三十郎「歐洲に於ける人格主義の發達」(古代希臘・拉丁文明等)
基督教新聞 1585(2/5) [31638
(參考：教界「一般--- 三宅[雪嶺]博士のベルグソン論」(哲學雜誌 1 月號)、
基督教新聞 1585(2/5)) [31639
評論・加藤直士「石原謙君譯「シュライエルマヘル宗教論」を讀む」
基督教新聞 1585(2/5) [31640
新刊「石原謙譯「シュライエルマヘル宗教論」」基督教新聞 1585(2/5) [31641
教壇・露無文治「宗教と人生」(ソクラチース等) 基督教新聞 1586(2/12) [31642
評論・蘆田慶治「オイケン著「現代宗教哲學の主要問題」を讀む」
基督教新聞 1586(2/12),1587(2/19) [31643
(參考：教界「東京」(統一教會春季說教會)、基督教新聞 1586(2/12) [31644
----額賀鹿之助「オイケンの基督教觀」）
講演・日野眞澄「最近に於ける歐米青年の要求」(プラトー、ベルグソン等)
基督教新聞 1587(2/19) [31645
雜誌稿載「神學評論」(ベーツ「生としての基督教」[上古希臘の物理的哲學等])
基督教新聞 1587(2/19) [31646
教壇・海老名彈正「新時代の要求」(ギリシヤのソクラテス等)
基督教新聞 1590(3/12) [31647
評論・谷岡勝美「新神秘主義」(ベルグソン等) 基督教新聞 1590(3/12) [31648
評論・賀川豐彥「自由思想家の進化」(ベルグソン、希臘のヒンダル[ピンダー]時代、ルナン「マーカス・アウレリアス」、ニーチェ等) 基督教新聞 1590(3/12) [31649
雜誌稿載「東亞之光」(井上哲次郎「オイケンの哲學と我が國の現狀」)
基督教新聞 1590(3/12) [31650

評論・加藤直士「富永德磨氏の「基督教の根本問題」を讀む」(プラトー、アリストートルの學識等) 基督教新聞 1592(4/2) [31651
雜誌稿載「神學の研究」(カーリプ・レーク「羅馬帝國に於ける基督教」)
基督教新聞 1595(4/16) [31652
思潮・エッチ・シー・メービー博士「オイケン及び其學說」
基督教新聞 1596(4/23) [31653
評論・谷岡勝美「新神秘主義の哲學者アンリ・ベルグソン」
基督教新聞 1597(4/30), 1598(5/7) [31654
新刊「久津見蕨村「ニイチェ」」基督教新聞 1597(4/30) [31655
(參考：教界「東京」(六合雜誌四百號紀念講演會)、基督教新聞 1599(5/14) [31656
----- 三並良「オイケンの内觀論」)
教壇・宮川經輝「傷める蘆」(ニイチェ、オーガスチン等)
基督教新聞 1601(5/28) [31657
(小山)鼎浦學人「書齋の一隅より」(プレトー、オイケン等)
基督教新聞 1601(5/28) [31658
思潮・ルドルフ・オイケン「神秘主義と基督教」基督教新聞 1602(6/4) [31659
海外教報「英譯「吾人は尚ほ基督信徒たり得る乎」」(オイケン著)
基督教新聞 1602(6/4) [31660
論說・(小山)鼎浦生「基督教思想の中心問題」(デルファイの神託等)
基督教新聞 1603(6/11) [31661
思潮・朝永三十郎「神秘說と近世思想」(プラトン、アリストテレス、オイケン等
基督教新聞 1603(6/11) [31662
家庭・日野眞澄「賢き女」(ソークラテース等) 基督教新聞 1603(6/11) [31663
論說「男性的基督教」(ニイチェ、古ギリシヤ/ローマ人等)
基督教新聞 1604(6/18) [31664
教壇・三並良「オイケン博士の内觀論」基督教新聞 1604(6/18) [31665
(小山)鼎浦學人「書齋の一隅より」(オイケン學) 基督教新聞 1604(6/18) [31666
小崎弘道「日本に於ける基督教と其思想上の戰備」(ベルグソン、オイケン、ギリシヤの「神人の理想」等) 基督教新聞 1605(6/25) [31667
講壇・桑木嚴翼「哲學と宗教」(希臘哲學等) 基督教新聞 1606(7/2) [31668
研究・近藤良董「愛の進化---日本文學と基督教との接觸點(2)」(ギリシヤ思潮等)
基督教新聞 1606(7/2) [31669
(參考：教界「各地」(第一回紀念大講演會)、基督教新聞 1606(7/2) [31670
---- 宮川經輝「過去現在未來の基督教」(ヘレニズムとヘブライズム)
海外教報「コンコルド「聖人エマーソンの新彫像」」基督教新聞 1607(7/9) [31671
社會通報「ケーベル博士の歸西」基督教新聞 1607(7/9) [31672
海外新著だより「Rudolf Euken ,The Problem of Human Life」(大思想家の人生觀)
基督教新聞 1608(7/16) [31673
(小山)鼎浦生「鎌倉山の麓より」(ベルグソン、オイケン、希臘、ニーチェ研究、
基督教新聞 1609(7/23),1611(8/6),1612(8/13) [31674
講壇・額賀鹿之助「將來の基督教」(オイケン、ベルグソン、アクインのトマス等)
基督教新聞 1610(7/30) [31675

他山の石・姉崎正治「基督教思想の動搖」(ギリシヤ思想等)
基督教新聞 1610(7/30) [31676
海外新著だより「R.B,Tolington,Clement of Alxandoria」
基督教新聞 1610(7/30) [31677
講壇「基督觀」(レッシング、マシュウ・アーノルド等)
基督教新聞 1611(8/6) [31678
近藤良董「現實的厭世主義--- 日本文學と基督教の接觸點(4)」(アウガスチン等)
基督教新聞 1611(8/6) [31679
新刊「三並良「ルドルフ・オイケンの哲學」」基督教新聞 1611(8/6) [31680
近藤良董「肉性・人情・意志---日本文學と基督教との接觸點(5)」(ギリシヤ的文明、
ギリシヤ思潮等)基督教新聞 1613(8/20) [31681
教壇・安部清藏「肉戰と靈戰」(ニーチェ、オイケン等)
基督教新聞 1614(8/27) [31682
思潮・長谷川直吉「基督教倫理の社會的價値」(ニイチェ、アレキサンダー大王等)
基督教新聞 1614(8/27) [31683
海外新著だより「W,W,Flowler,Roman Ideas of Deiety in the Century Before the
Chrisitiaan Era」基督教新聞 1614(8/27) [31684
(參考：教界「一般--- ケーベル博士のオイケン博評及警告」
基督教新聞 1614(8/27)) [31685
思潮・TN 生譯「ベルグソンの直觀論を評す」基督教新聞 1615(9/3) [31686
簡想錄「善良なる母は一百の校長に優る」(聖オーガスチン等)
基督教新聞 1616(9/10) [31687
(參考：教界「東京」(齋木仙醉氏と道會---ソクラテス)、
基督教新聞 1616(9/10)) [31688
論說「教壇」(ベルグソン、オイケン等）基督教新聞 1617(9/17) [31689
講壇・額賀[鹿之助]牧師「道と恩寵」(ギリシヤ思想、アレキサンドリアのロゴス
說等）基督教新聞 1621(10/15) [31690
日野[眞澄]教授「規範的科學としての神學」(アリストトートル、オーゴスチン等)
基督教新聞 1621(10/15) [31691
雜誌稿錄「世界の日本--- 筧克彦「オイケン博士の「宗教と生活」を讀みて」
基督教新聞 1621(10/15) [31692
新刊「上村邦彦「近代思想と宗教」」(オイケン等) 基督教新聞 1624(11/5) [31693
講演・浮田和民「歐洲大戰と現代思潮」(ニイチェ、オイケン等)
基督教新聞 1625(11/12) [31694
教壇・宮川[經輝]牧師「光なき處に蔭なし」(ソクラテス等)
基督教新聞 1626(11/19) [31695
教壇・武本喜代藏「導く星」(シーザー、プラトー、アリストートル等)
基督教新聞 1630(12/19) [31696
言論・黑岩生「「ニイチェ」を讀みて」(久津見蕨村著)萬朝報 7474(5/1)
新刊批評「ニーチェの人格及哲學」(メービウス/「ニーチェの病理」原著、三浦白
水譯) 萬朝報 7531(8/10) [31697
海外新刊「ニイチェの哲學」(Philosophy of Friedrich Nietzsche, von Meinecke)

萬朝報 7592(9/24) [31698
海外文藝「アナトオル・フランスの近狀」萬朝報 7688(12/21) [31699
新刊批評「現代の思想家」(小松武治著。オイケン、ベルグソン等)
萬朝報 7718(12/31) [31700
出版界「簡明倫理學史」(藤井健次郎、藤本慶祐共譯) 東京朝日新聞 2/18 [31701
出版界「西洋哲學史」(ロジャース/藤井健次郎、北昤吉譯)
東京朝日新聞 3/31 [31702
出版界「宗教の本質」(プラトー教。ブッセット/大川周明譯)
東京朝日新聞 4/16 [31703
出版界「ニイチェ」(久津見蕨村著) 東京朝日新聞 5/8 [31704
出版界「オイケンの哲學」(中島萬次郎著) 東京朝日新聞 6/18 [31705
出版界「ベルグソンと現代思潮」(野村隈畔著) 東京朝日新聞 6/24 [31706
名倉生「歌舞伎の須磨子(上)」(「ヂオゲ子スの誘惑」上演)
東京朝日新聞 8/12 [31707
出版界「歐洲之傳說」(松村武雄著) 東京朝日新聞 10/27 [31708
出版界「現代叢書・オイケン」(伊達源一郎著) 東京朝日新聞 10/27 [31709
出版界「增補改訂・オイケンの哲學」(稻毛詛風著) 東京朝日新聞 11/2 [31710
出版界「ベルグソン」(中澤臨川著) 東京朝日新聞 11/6 [31711
新著「野村隈畔「ベルグソンと現代思潮」」新小說 19-8 [31712
C.②ゴーチェ作/久米正雄譯『クレオパトラの一夜』(新潮文庫) [31713
小松武治編『沙翁史劇物語』 [31714
ジョージ・ホッジス/櫻井成明譯『通俗耶蘇一代記』 [31715
左近義弼譯編『耶蘇傳(新約聖書)』(聖書改譯社) [31716
前島潔『耶蘇基督』 [31717
宮川經輝『基督と其使命』 [31718
聖アルフオンソ・マリア・デ・リゴリオ著/聖若瑟[ヨゼフ]教育譯『聖母マリアの榮躍』 [31719
伴頼三譯『カタコンブ----殉教美談』 [31720
岡本政治『世界の七大血戰』(?) [31721
宮地巖夫述『世界太古傳實話 1』 [31722
箕作元八著『南亭史說集』 [31723
芳賀八一編『新式座右年表』 [31724
③＊[訂正]ショウ／楠山正雄譯「脚本・シーザーとクレオパトラ」新日本 4-5(臨時增大號、4 月號發禁) [4963] [31725
＊[訂正]レーク「羅馬帝國に於ける基督教成功の秘決」神學之研究 5-4
[4971] [31726
蟾魄生「新ポンペイと其建設者」聲 458 [31727
「コリゼウムの悲劇」(p.56,口繪の解))聲 458 [31728
質疑解答「御主御苦難の時間」(羅馬の風習)聲 460 [31729
ストリンドベルク「アゼンスの末日」新潮 9 月號 [31730
(參考：東京帝國大學文科大學本年度卒論、帝國文學 20-6 [31731
史學科：伊藤公澄「オーガスタスの對外政策」)

石坂養平「力の自由發現としての社會」(古代)帝國文學 20-11 [31732
(參考：東京文科大學史學科卒業生の卒論、歴史地理 24-2 [31733
伊藤公澄「オーガスタスの對外政策」)
白川龍太郎「ヤムプリクスとジュリアヌス」道 12 月號 [31734
「震はれざる國」(ダイオクレシアン帝等)ときのこゑ 9/1 [31735
柳川隆之介「スパルタカス(アナトール・フランス)新思潮 1 [31736
ショウ/菊池比呂士譯「スフィンクスの胸に居るクレオパトラ」新思潮 1 [31737
下澤瑞世「英雄表」心理研究 27(5-3) [31738
下澤瑞世「英傑の本質と産生」心理研究 30(5-6) [31739
聖書書話・山口金作「耶蘇は如何なる人なりし乎(5)」(ソクラテス、プラトー等)
基督教新聞 1601(5/28) [31740
④雑錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 323 [31741
----- M.Dibelius,Die Brief des Ap.Paulus 2 Tl,Tübingen
E.Kühl,Der Brief des Paulus und Römer,Lepzig
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 324 [31742
----- M.Eibl,Geschichtesphilosophies aus den ersten christlichen Jahrhundrtten,
Z.Ph.ph.Kr.152,1
W.Bousset,Kyrios Christos,Geschicgte des Christenglaubens von d.Anfängen
d.Christentums bis Irenaeus,Göttingen
E.Norden,Joseph und Tacitus über Jesus Christus und eine mesian. Prophetie,
Leipzig
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 325 [31743
----- A.C.Hearlam,St.Paul and Christianity ,London
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 326 [31744
----- Eck.V.Sydow,Das System Benedetto Croches,Arch.G.Ph.20
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 327 [31745
---- J.R.Aufhauser,Ankike Jesus-Zeugniss,Bonn
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 328 [31746
---- R.Seeberg,Der Ursprung des Christusglaubens,Lepzig
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 329 [31747
---- J.Hastings,The Greater Man and Women of the Bible, vol.2(The great Texts
of the Bible, 2 vols), Edinburgh
G.Kittel, Jesus and Rabbien, Berlin
D.Völter, Jesus der Menschensohn od.das Bernfsbewusstsein Jesu.Strasstag
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 330 [31748
---- W.Bousset, Der Gebrauch des Kyrios-titels als Kriterium f.d.Quellenscheidung
in d.ersten Hälfe der Apostelgesch.,Z.Nest.W.1914,2
A. Jülicher, Kritische Analyse der latenischen Übersetzung der Apostelgesch.
Z.Nest.W.1914,2
W.Larfeld, Die beiden Jahannes und Ephesus, derApostel u. der Presbyter, der
Luther u. der Schüler, München
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 332 [31749
---- M.Jones, The New Testament in the 20 Century, A Survey of Recent Chri-
stological and Historical Criticism of the New Testament,London
K.Kunert,Die Anfänge des Talmuds and die Entstehung des Christentuns,

Leipzig
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 333 [31750
---- H.Pachali, Der Römerbrief als historische Problem, Theol.St.Kr.1914,4
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 334 [31751
---- E.F.Scott, The Beginnings of the Church, New York
吻々生「活動寫眞「全勝」を觀る」(原名「コンスタンチノ」)聲 465 [31752
書評「大類伸「ヴェニスとフロレンス」」史學雜誌 300 [31753
新刊「芳賀矢一「新式座右年表」」帝國文學 20-11 [31754
新刊「島村抱月「クレオパトラ」」帝國文學 20-12 [31755
彙報・壬丑「歷史地理學界概觀」(西洋史：「森田[鐵三郎]學士「希臘羅馬の祖先崇拜に就いて」)歷史地理 23-1 [31756
彙報・秋山「史界漫言」(坂口博士「古代史研究の發展につきて」[史學研究會講演集「史的研究」中] 歷史地理 24-4 [31757
新刊「永代靜雄「女皇クレオパトラ」」生活と藝術 1-6 [31758
新板鳥瞰「クレオパトラ」假面 23 [31759
市村與一「「ランケ」の歷史觀」(ツキヂデス、ニーブル、ヘーゲル等) 東洋哲學 21-2 [31760
下澤瑞世「若き英傑の人格形成」(ハンニバル、ランケ、プラトーン、アリストテレース、聖者オーガスチン、小カトー等) 東洋哲學 21-5 [31761
泰西思潮「英語に成れる最良書百册----W.S.Ferguson, Greek Imperialism」 丁酉倫理會倫理講演集 139 [31762
新刊「柏井園「基督敎史」」丁酉倫理會倫理講演集 146 [31763
新刊「大日本雄辯會編「泰西雄辯集」」(「アントニーのローマ市民に告ぐ」) 丁酉倫理會倫理講演集 148 [31764
新刊「大日本雄辯會編「泰西雄辯集」」心理研究 36(6-6) [31765
(參考：敎界「一般--- クオワヂスの活動寫眞」、基督敎新聞 1581(1/8) [31766
新刊「松永文雄[夫?]「使徒パウロ傳」」基督敎新聞 1581(1/8) [31767
思潮・浮田和民「歷史上より觀たる世界現今の大勢」(希臘の史家ダイオニシウス、トマス・アーノルド等) 基督敎新聞 1597(4/30) [31768
新刊「柏井園「基督敎史」」基督敎新聞 1617(9/17) [31769
講壇・宮川[經輝]牧師「破壞と建設」(史家コルネリオ、タシトス、テベリオ帝、ニイチェ等) 基督敎新聞 1621(10/15) [31770
英國通信「歐洲禍亂の奥に精神的曙光」(ニイチェ等) 基督敎新聞 1623(10/29) [31771
小山東助「超戰爭觀」(オイケン等) 基督敎新聞 1629(12/10) [31772
海外新刊「ギボン羅馬史概要」(A Summary of Gibbon's "History of Rome" to the Fall of the Western Empire in the year 476 A.D. by Younger) 萬朝報 7592(8/25) [31773
新刊批評「新式座右年表」(芳賀八一著。西洋史あり) 萬朝報 7666(11/9) [31774
出版界「パウロ傳」(松永文雄著) 東京朝日新聞 1/10 [31775
出版界「ヘロドトス」(坂本健一譯) 東京朝日新聞 3/31 [31776
出版界「統合世界史」(木村鷹太郎著) 東京朝日新聞 4/24 [31777

出版界「西洋一話一言」(蕉雨樓主人) 東京朝日新聞 8/21 [31778
出版界「皇帝ネロ」(黒澤幹一著) 東京朝日新聞 9/3 [31779
出版界「基督教史」(柏井園著) 東京朝日新聞 9/14 [31780
出版界「女皇クレオパトラ」(永代靜雄著) 東京朝日新聞 10/3 [31781
出版界「プルターク英雄傳・第一巻」(高橋五郎譯) 東京朝日新聞 10/10 [31782
名倉生「帝劇の藝術座」(島村抱月改作「アントニーとクレオパトラ」)
東京朝日新聞 10/28 [31783
出版界「クレオパトラ」(島村抱月改作) 東京朝日新聞 11/11 [31784
出版界「プルターク英雄傳・第二巻」(高橋五郎譯) 東京朝日新聞 12/26 [31785
出版界「アントニイとクレオパトラ」(守田有秋譯) 東京朝日新聞 12/26 [31786
D.①「イーソプ芝居の筋書」初等英語研究 7-1,2,3,4 [31787
米國聖書會社『新約全書』 [31788
米國聖書會社『新約聖書[點字資料]』(羅馬書、使徒行傳、路加傳福音書、馬太傳
福音書) [31789
米國聖書會社『舊新約全書』 [31790
米國聖書會社『新約聖書馬可[マコ]傳』 [31791
②田中秀央『初等羅甸文法』(田中秀央) [31792
生方敏郎編『神曲』(ダンテ) [31793
アンデルセン/森鷗外譯『卽興詩人』(2 册。←明 35 初版) [31794
火田一枝『シルレル』 [31795
坪内[雄藏]博士校閲・繁野天來・杉谷代水・正宗白鳥・中村春雨・平尾不孤・坪内
鋭雄編『世界文學物語』(希臘文學等) [31796
『德川文藝類聚』(第 2 巻「教訓小說」、伊會保物語) [31797
③＊[訂正・削除]~~今川鎭夫「ポンペーの住宅」建築雜誌 336~~ [5044] [31798
彙報「高楠博士の印度遍歷探見報告」(官報より轉載「第二項・印度希臘時代(犍陀
羅王朝ノ藝術)」歷史地理 23-1 [31799
後藤慶二「鐵筋コンクリートに於ける現代様式の動機」(希臘の建築、羅馬の建築
等) 現代之建築 11 月號 [31800
「短い人生----スフィンクスの謎」 (希臘のテエベ、エヂプス王)
ときのこゑ 9/15 [31801
(參考：雜報「米國に於ける姉崎[正治]博士の事業」(ハーヴァード大學。佛教美術
講義) 丁酉倫理會倫理講演集 144 [31802
瀧精一「アジャンタの石窟寺」心理研究 27(5-3) [31803
④雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 323 [31804
------ H.Hefele,Francesco Petrarca,Berlin
P.Thomsen,Kompendium der palästin.Altertumskunde,Tübingen
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 329 [31805
----- J.A.M'Clymont,New Testament Criticism:Its History and Results,London
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 330 [31806
------ G.H.Thompson, The Accuracy of the φ(γ)Process,Br.J.Ps. 7,1
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 331 [31807
---- A.v.Harnack, Die Entstehung des Neuen Testament und die wichitigen Folgen
der neuen Schöpfung, Leipzig

A.Magner,Musik und Christentum, Th.Glb.1914,5
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 334 [31808
----.B.Carpenter, The Spiritual Message of Dante,[The Nobel Lecture Harvard University]
H.F.Rall,New Testament History
T.P.Wood & E.Grant, The Bible and Literature,New York
Jäger,Glück und Goethe, Musik 13,21
中澤臨川「久遠の女性」(ゲーテ、ニーチェ、ダンテ等)六合雜誌 401(34-6) [31809
新刊批評「神曲」(ダンテ/森田草平譯)六合雜誌 407(34-12) [31810
新刊「森林太郎鈔「ギョオテ傳」」帝國文學 20-2 [31811
新刊「西田宏譯述「藝術と民育」」帝國文學 20-2 [31812
山宮充「劇場論」(ウィリアム・イエーツ)帝國文學 20-4 [31813
新刊「木村莊八編「ロダンの藝術觀」」帝國文學 20-5 [31814
新刊「厨川白村「文藝思潮論」」帝國文學 20-6 [31815
山宮充「愛蘭と藝術」(イエーツ)帝國文學 20-11 [31816
上田敏「クラシック」(André Suarès)三田文學 5-1 [31817
新刊「松山思水「ホーマー物語」」三田文學 5-8 [31818
消息「自由講座---片山伸「近代文藝思潮」」、三田文學 5-10 [31819
伊庭孝「ロダンの藝術と演劇」生活と藝術 1-6 [31820
新刊批評紹介「平子鐸嶺「佛教藝術之研究」」東洋哲學 21-7 [31821
新刊批評紹介「厨川白村「文藝講話論」」(「近代文學における希臘思想の勝利」) 東洋哲學 21-8 [31822
大隅爲三「バイロン卿と希臘獨立」青年日本 5 月號 [31823
中島力造「學問研究と其普及應用とを區別する必要」(希臘語、羅甸語、エマソン等)丁酉倫理會倫理講演集 137 [31824
新刊「フォルケルト/西田宏譯「藝術と民育」」丁酉倫理會倫理講演集 137 [31825
泰西思潮「英語に成れる最良書百册----P.H.Wickstead, Dante and Aquinas」 丁酉倫理會倫理講演集 139 [31826
新刊「石井柏亭「歐洲美術遍路」」、「坪内[雄藏]先生「シェイクスピア」」 丁酉倫理會倫理講演集 139 [31827
泰西思潮「最近佛蘭西文學界の傾向」(アナトール・フランス、アリストートル、ダンテ、ベルグソン等) 丁酉倫理會倫理講演集 141 [31828
新刊「厨川白村「文藝思潮論」」(「古代思潮史」、「中世思潮史」、「希臘思潮の勝利」) 丁酉倫理會倫理講演集 142 [31829
新刊「木山熊次郎遺稿」(「ファウストに表はれたる哲學的思索」) 心理研究 25(5-1) [31830
新刊「厨川白村「文藝思潮論」」心理研究 31(6-1) [31831
新刊「生田長江譯「ゲーテ・我が生活より」」心理研究 32(6-2) [31832
想苑・谷岡勝美「藝術とその背景」(トルストイ「クロチェルソナタ」、エマアソン、プラトン、ゲーテ等) 基督教新聞 1588(2/26) [31833
(參考：教界「各地」(奈良平城教會)、基督教新聞 1597(4/30) [31834
---- 大賀[壽吉]組合教會幹事「ダンテに關する講演」）

海外新著だより「P.S.Allen,The Age of Erasmus」基督教新聞 1617(9/17) [31835
紹介・大賀旭江「山川丙三郎氏譯「神曲」第一篇「地獄」」(ダンテ)
基督教新聞 1629(12/10) [31836
新刊批評「十九世紀文學思潮・移民文學」(吹田順助譯。「ブランデス「十九世紀
文學思潮」第一巻譯)萬朝報 7520(6/16) [31837
新刊批評「世界名著物語・第二編」(白鳥省吾) 萬朝報 7575(8/10) [31838
出版界「美術と大學」(ラスキン/澤村寅二郎譯)東京朝日新聞 1/3 [31839
山崎貞譯「ゲーテ論」(エマソン)英語之日本 7-1 [31840
「羅馬に於けるバイロンの家」中外英字新聞 21-10 [31841
生方敏郎「淪落の天才ジョージ・ギッシング」早稻田講演 4-2 [31842
出版界「歐洲美術遍歷(下)」(石井柏亭著) 東京朝日新聞 1/10 [31843
「日本の廻舞臺(上下)」(エヂプス王、オレステス、ゲーテ「ファウスト」等)
東京朝日新聞 1/20,1/23 [31844
出版界「大正新イソップ」(高木敏雄著) 東京朝日新聞 1/30 [31845
出版界「新伊蘇布クルイロフ物語」(山田枯柳譯)東京朝日新聞 2/9 [31846
出版界「イソップ物語講義」(石原益治著) 東京朝日新聞 2/14 [31847
出版界「イフ井ゲーニ」(ゲーテ/增富平藏譯) 東京朝日新聞 2/26 [31848
出版界「世界文學物語」(富山房)東京朝日新聞 3/14 [31849
出版界「ロダンの藝術觀」(木村莊八著) 東京朝日新聞 3/18 [31850
出版界「藝術の起源」(本間久雄著) 東京朝日新聞 3/18 [31851
書評「からだの重み----希臘理想の復活」(ローヂャー・ワッツ著)
東京朝日新聞 5/14 [31852
出版界「文藝思潮論」(厨川白村著) 東京朝日新聞 5/17 [31853
出版界「佛教藝術の研究」(平子鐸嶺著) 東京朝日新聞 5/27 [31854
出版界「アゥーギュスト・ロダン・藝術論」(吉永談水譯)
東京朝日新聞 6/18 [31855
出版界「ユーデット」(ヘッベル/吹田順助譯) 東京朝日新聞 7/23 [31856
出版界「ゲエテ物語」(谷崎精二著) 東京朝日新聞 8/14 [31857
出版界「シルレル物語」(白鳥省吾著) 東京朝日新聞 8/15 [31858
出版界「ゲーテ「我が生活より」第一巻」(生田長江譯) 東京朝日新聞 9/4 [31859
出版界「西洋演劇史」(小林愛雄著) 東京朝日新聞 9/11 [31860
出版界「エレクトラ」(村上靜人著) 東京朝日新聞 10/3 [31861
出版界「サフォ」(黑田幹一著) 東京朝日新聞 10/3 [31862
マシュース教授「大戰後の文藝---戲曲大いに起らん」(イスキラス、ソフォクレス、
ユウリピデス、アリストフェーヌ、メ
ナンダー等)東京朝日新聞 10/17 [31863
出版界「泰西名家作品集・第一回」(光華社。「ラオコーンの群像」)
東京朝日新聞 11/16 [31864
出版界「シルレル」(畑一枝著) 東京朝日新聞 11/28 [31865
出版界「神曲」(地獄篇、ダンテ/山川丙三郎譯) 東京朝日新聞 12/24 [31866
E.③石巻良夫「神裁政治の文明史的研究」(ホメーロス時代、羅馬コンスタンチン帝、
希臘人の神宣、希臘羅馬の占星者、デモス

ゼネス、ユスチニアン帝等)
東洋哲學 21-10,11,12 [31867
④新刊「マキアヴェリ/金生喜造譯「權謀術數論」」(君主論)
丁酉倫理會倫理講演集 142 [31868
(參考：「哲學倫理研究會秋季大會」、心理研究 25(5-1) [31869
藤井[健次郎]教授「哲學者と國家」)
論說「民衆主義と基督教」(プレトー等)基督教新聞 1598(5/7) [31870
海老名彈正「基督教の社會的使命」(希臘羅馬の社會等)
基督教新聞 1605(6/25) [31871
米澤尚三「理想の都へ」(アウガスチン等) 基督教新聞 1627(11/26) [31872
言論「經國家と技師」(そくらてす等)萬朝報 7369(1/16) [31873
言論「第三政治」(オイケン、ニイチェ、ダンテ等) 萬朝報 7632(10/6) [31874
穗積博士談「進講の光榮と講書」(フーゴー、グローチウス等)
東京朝日新聞 1/7 [31875
出版界「ユ帝欽定羅馬法學提要」(末松謙澄譯) 東京朝日新聞 2/18 [31876
F.②アレニウス/一戸直藏譯『宇宙發展史』 [31877
③三守守「先哲小傳(4)えらとすてねす、ひぷしくれす、にこめです、ぢをくれす、
ひぱるかす、へろん、せをとしようす及ビぢをにそとらす、せれなす、
めねらうす、にこまつく」東京物理學校雜誌 267 [31878
三守守「先哲小傳(4)の續き、せおん」東京物理學校雜誌 269 [31879
三守守「先哲小傳(5)とれみ」東京物理學校雜誌 269 [31880
三守守「先哲小傳(6)ぱっぷす」東京物理學校雜誌 269 [31881
太田代唯六「物理學小史(2)」(あるきめです等)東京物理學校雜誌 272 [31882
簡想錄「科學に對するセネカの觀察」基督教新聞 1610(7/30) [31883
白鷹生「林檎の落る音(2)---黃金の王冠」(アルキメデス)
東京朝日新聞 10/29 [31884
④新刊批評「科學概論」(シドニー・ギュリック) 六合雜誌 380(34-3) [31885
新刊「シドニー・ギュリック「科學概論」」(アリストートル等)
基督教新聞 1586(2/12) [31886
海外新著だより「M.A.Orr,Dante and the Early Astronomies」
基督教新聞 1616(9/10) [31887
海外新著だより「R.Jones,Spiritual Reformations in the Sixteenth and Seventeenth
Ceturies」基督教新聞 1626(11/19) [31888
椙シマ「博覽會の印象----雨の情報」(ロダン、古代希臘の彫像等)
萬朝報 7443(3/31) [31889
「本年の天文現象(下)」(ジュリアン曆、シーザー等)東京朝日新聞 1/4 [31890
G. 雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 325 [31891
----- Thieme-Becker,Allegemeine Lexikon der bildiner Künstler,Bd.9,Leipzig
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 328 [31892
----- R.Eisler,Handwörterbuch der Philosophie,Berlin
新刊批評「新選・英和辭典」(增田藤之助著)六合雜誌 379(34-2) [31893
新刊「勝屋英造編「外來語辭典」」帝國文學 20-4 [31894

彙報「松浦伯邸の史料展覧會」、歴史地理 24-1 [31895
・羅甸和蘭辭書(千六百九年、ロッテルダム版、ゼシウイト・ターサルト原著)Woordenboek der Latignscheen Nederayitsche /taalen Jezijt Tachart goris Rotterdamis, 1609
・新譯和蘭羅甸辭書(千七百十九年、アムステルダム版、ス・ハンノット著) Nieuw woodenboek der Nederlandscheen Latignsche taalen, S.Hannot, 1719
史學會『外國地名人名稱呼一覧』 [31896
伊東忠太・黒板勝美・久米桂一郎・石井柏亭・黒田鵬心・結城素明編著 『美術辭典』 [31897
出版界「正譯英和新辭典」(上田萬年、上田敏合著)東京朝日新聞 2/5 [31898
出版界「袖珍・英和辭典」(熊本謙二郎、南日恒太郎共編) 東京朝日新聞 11/5,11/6 [31899
出版界「外國地名人名稱呼一覧」(史學會調査編) 東京朝日新聞 11/16 [31900

大４(１９１５)

A. 浦川和三郎『日本に於ける公教會の復活』 [31901
高槻未知生「蘭學者傳(續)」國學院雜誌 21-8 [31902
(杉村)楚人冠「モナコの國ぶり(3)---世界最古の國」(フ井ニシア人、羅馬皇帝オクテ井アス等) 東京朝日新聞 6/15 [31903
大類伸「地中海と伊太利」歴史地理 25-6 [31904
(參考：彙報「京都文科大學來年度史學科講義題目中」、歴史地理 26-2 [31905
史學研究法(原)、西洋史概說(坂口)、古代東方史重要問題(坂口)、ヘレニズム(坂口)、西洋史演習(坂口)
(參考：彙報「東京帝國大學史學科來年度講義題目中」、歴史地理 26-4 [31906
史學概論附演習(坪井)、西洋史概說(村川)、羅馬史(村川)、西洋史籍講讀及批評(村川)、日本と葡西兩國との交通附史料の研究(村上)、考古學(原田)、民族心理學(桑田) ）
新刊「村上直次郎「日蘭三百年の親交」」歴史地理 26-5 [31907
宮田脩「歐洲戰亂し後に起こるべき問題」(ヘブライズム&ヘレニズム等) 丁酉倫理會倫理講演集 149 [31908
泰西思潮「パーシー・ガードナー「獨逸の文化」(アレキサンダー大王、アリストートル､ユークリッド､デモスセ子ス、メナンダー、ソクラテス、アペレス、シルレル、フンボルト、ニーブル等) 丁酉倫理會倫理講演集 154 [31909
新刊「遠藤隆吉「讀書法」」丁酉倫理會倫理講演集 154 [31910
應問・青木進(吉野)「泰西の文明史(哲學、宗教、倫理、教育等)の好譯書有之候はば、書名、發行所、定價、御教示下され度候」、 丁酉倫理會倫理講演集 159 [31911
----- 答・佛國セニョボス古代中世近世文明史・三巻(文明協會)
新刊批評「南薫造「畫室にて」」(ナポリ、ポンペイ、ヴェネチヤ等)

帝國文學 21-4　[31912
(參考：學界記事「東京帝大文科大學本年度講義題目」、帝國文學 21-10　[31913
哲學科：哲學概論(井上)、倫理學概論(中島)、近世倫理學史(中島)、美學概論(大塚)、心理學概論(松本)、西洋哲學史概說(桑木)、心理學概論(松本)、教育史概說(吉田)、希臘哲學史(前學年の續、波多野講師)、民族心理學(桑田)、近世哲學思潮(得能)
史學科：史學概論(坪井)、 西洋史概說(箕作)、西域史(白鳥)、羅馬史(前年度の續、村川)、西洋史概說(後半、村川)、西洋史籍講讀及批評用書(Ludwig Sevin, Geschichtliches Quellenbuch、村川)、地理學概論(山崎)、考古學(原田講師)
文學科：Histoire générale de la Litterature Française(エック)、Explication de Textes　Classique(エック)、History of English Literature(ローレンス)、言語學概論(藤岡)、Geschichte von Goethe und Schiller(上田)、Schillers Jugend Drama（青木)、Goethes Iphigenie Tauris（青木)、Grammer and Explanation of Authors(Lucian's Vera Historia、コット)、The Great Historians and Authors、コット)、希臘語・羅甸語初歩・羅甸語上級(田中)、Goethes Leben und Werke(山岸)　)
高田[早苗]博士「歐米漫遊紀要(6)」(其ニ、羅馬/其三、ナポリとポンペイ)
早稻田講演 5-3　[31914
早稻田消息・松崎藏之助「歐洲旅行の感想」早稻田講演 5-4　[31915
(參考 : 彙報「本年夏期に於いて派遣し得べき校外教育部講師及びその學科目」、
早稻田講演 5-5,6　[31916
一戸直義 : 天文星學/波多野精一 : 哲學、宗教論/長谷川誠也 : 近代文藝思潮/大山郁夫 : 國家學、政治學/金子馬治 : 哲學、思想問題、獨逸文學/桂井當之助 : 哲學/片山伸・吉江喬松・中村吉藏 : 歐洲文學/高桑駒吉 : 歷史研究法/中島半次郎 : 教育學、教育史/中桐確太郎 : 哲學、倫理學、教育學/浮田和民 : 政治學、倫理問題、西洋史/煙山專太郎 : 西洋史、外交史/北昤吉 : 西洋哲學、西洋倫理學史/紀淑雄 : 美學、美術史/平沼淑郎 : 經濟史/關與三郎 : 近世哲學)
早稻田消息(地方夏期講習會)・内ケ崎作三郎「東西文明史論」早稻田講演 5-8
[31917
「前月の雜誌より」(前田太郎「ギリシアの謎々」人類學雜誌 29-9)
心理研究 39(7-3)　[31918
思潮・野本生「文明の統一」(ツインメル氏「グリーク・コモンウェルス」(A.Zimmern, Greek Commonwealth」、羅馬帝國、グリーキの學者等)
基督教新聞 1640(3/4)　[31919
講演・浮田和民「現代文明と理想の進歩」(希臘文化、羅馬帝國、アリストテレス、プラトン等) 基督教新聞 1671(10/7),
1672(10/14)　[31920
B.②＊[訂正]長谷川如是閑『捌手から』(→昭 5 再版。附錄「如是閑語」(ソクラテス、アリストファネス、アレキサンダー、ダイオゼネス、ゲーテ、バイロン等)　[22014]　[31921

小松武治『現代の思想家』(オイケン、ベルグソン等) [31922
大日本文明協會『世界の宗教』(ギリシア、ローマ等) [31923
内ケ崎作三郎『人生日訓』(希臘羅馬等) [31924
宮川經輝『基督教十講』 [31925
ルドルフ・オイケン/小宮豐隆譯『アウグステイン論』(現代百科文庫宗教叢書 19) [31926
川本宇之介『公民教育の理論及實際』(「古代公民教育」) [31927
至誠堂版『大正名著文庫 22』（夏目漱石「ケーベル先生」） [31928
③＊[訂正]木場[了平]學士「ソクラテス」新修養(加藤咄堂主筆)6,9 月號 [22021] [31929
齋藤茂三郎「魔術の星について」心理研究 7 月號 [31930
木場[了平]學士「プラトーン」新修養(加藤咄堂主筆)12 月號 [31931
「スパルタの教育」學生(大町桂月主筆) 1 月號 [31932
吉岡教授「英文(シセロ)」學生(大町桂月主筆)8 月號 [31933
加藤朝鳥「ネオ・ストイシズム」創造 1 月號 [31934
研究・日野眞澄「殉教者ユステヌースの基督教」(プラトーン思想、ストア學派、アリストテレース逍遙學派、ピサゴラス學派等) 基督教新聞 1648(4/29),1650(5/13),1651(5/20), 1652(5/27) [31935
(參考：彙報「第二十五回夏期學校」、基督教新聞 1658(7/8) [31936
-----日野眞澄「希臘神學の二大中心點」）
(?)「テリトリアヌスとパスカル」基督教新聞 1660(7/22) [31937
(參考：教界「按手禮試驗問題」(大正四年度)、基督教新聞 1674(10/28) [31938
------ 哲學史「プラトーンの德論を述べよ」）
④＊[訂正]安倍能成「[ジョルダーノ・]ブルノ」(→昭 24 刊、同「文化・思想・哲學」中) [5141] [31939
＊[訂正](參考：京都帝國大學文科卒論、藝文 6-6 [5160] [31940
西原達三「オイケン氏の人生觀」)
＊[訂正]津荷璟山「ブルノーの倫理觀」大阪講壇 11 月號 [31941
＊[訂正]新刊紹介「小松武治「現代の思想家」」(オイケン、ベルグソン等) 六合雜誌 409(35-2) [5167] [31942
＊[訂正]新刊批評「ダンテ神曲・地獄」(山川丙三郎譯)六合雜誌 409(35-2) (→D.④) [5168] [31943
新刊紹介「アリース・コルフラン女史/林靜太譯「婦人の典型」」(聖アウグスチン母モニカ等) 六合雜誌 411(35-4) [31944
新刊紹介「岩野抱鳴「惡魔主義の諸相と文學」」(ニーチェの超人主義等) 六合雜誌 411(35-4) [31945
野村隈畔「形而上學的要求と Upanishad」(パルメニデース、プラトー、ヘラクレイトス、ニイチェ、ベルグソン等) 六合雜誌 412(35-5) [31946
内ケ崎作三郎「自然と心靈との復興」(ソクラチース、プラトー、ユーリピデース、ソホクレス等) 六合雜誌 413(35-6) [31947

「ニイチェの言」(p.35) 六合雜誌 413(35-6) [31948
新刊紹介「「人生日訓」を讀む」(内ケ崎作三郎著) 六合雜誌 418(35-11) [31949
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 335 [31950
----- A.Ruhe & N.M.Paul, Henri Bergson, an Account of His Life and Philosophy
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 337 [31951
---- R.H.Charles, Religious Development between the Olid Testament and New Testamnet, New York
J.G.Frazer,Golden Bough:A Study in Magic and Religion,Part II,vol.2, New York
Er.Loofs, Solo Verbs: Lutheranism and Mysticism, Constr.Quart.2,8
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 339 [31952
----- W.S.Swayne, St.Paul and his Gospel,London
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 340 [31953
----- G.V.O'Neil(ed.),The Golden Legend:Lives of the Saints, Cambridge
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 344 [31954
----- O.Eward,Zur Psychologie des Cynikers, Logos 5,3
Kratzer,Die Frage nach dem Seelendualismus bei Augustinus,Arch.G.Ph.21,3
R.M.Laing,The Metaphysics of of Nietzsche's Immoralism,PH.Rev.24,4
Fr.Medieus,Girdano Bruno als Aethetiker,Logos 5,3
D.I.Ihimels,Die christliche Wahrheitgewissheit ;ihr letzter Grund und ihre Entstehung,Leipzig
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 345 [31955
----- S.D.F.Robert,The Christian Doctrine of Immortality,Edinburgh
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 346 [31956
---- W.M.Salter,Nietzsche's Superman,J.Ph.S.M.12,16
A.Pott,Das Höffen im Neuen Testament in seiner Beziehung zum Glauben, Leipzig
N.Söderblom,Das Werden des Gottesglauben, Untersuchunge über die Anfänge der Religion
須山一郎「知と信との研究(1)(4)(5)(7)」(アリストテレス、ヘラクリトス、聖トマス・アクイナス、プラトン、タシタス、スエトニウス、小プレニウス、聖オグスチノ等)
聲 471,474,475,477 [31957
質疑解答「ベルグソン及オイケンの哲學」聲 472 [31958
須田井飛燕「日本宗教界の現狀と聖ユスチノ」(ピタゴラス、プラトン、羅馬皇帝アントニノ、マルクス、オレリウス等)
聲 473 [31959
隨時評論「タゴールの流行」(ニイチェ、ベルグソン、オイッケン等)
聲 475 [31960
甕江散史「愛の使徒が落筆の一章」(聖アウグスチノ等)聲 481 [31961
＊[訂正]津荷環山「ブルノーの倫理思想」大阪講壇?號 [5165] [31962
立石美和「ニイチェとブレイク」創造 1 月號 [31963
廣瀬哲士「ニイチェよりもギーヨー」青年 3-4 [31964
ハルディーレ「ニーッチェの奉化」神學之研究 6 月號 [31965

＊ [訂正]須貝正「ヨハネ傳のロゴス神學」(ギリシヤ、ローマ等)
神學之研究 10 (7-1)月號 [22040] [31966
磯部泰治「妹の見たるニイチェ」新潮 8 月號 [31967
稻毛詛風「オイケン思想の眞髄」新潮 12 月號 [31968
青峰譯「アナトオル・フランスから」新評論 5 月號 [31969
民聲社主義主張「ニイチェからタゴールへ」政治及社會 5 月號 [31970
佐久間鼎「ダヌンチョのニイチェイズム」帝國文學 21-1 [31971
古谷榮一「大正三年に於ける評論壇」(オイケン、ベルグソン、ニイチェ等)
帝國文學 21-1 [31972
新刊批評「上野陽一「心理學通義」」帝國文學 21-1 [31973
新刊批評「生田長江「超人の哲學」」(ニイチェ)帝國文學 21-2 [31974
新刊批評「小松武治「現代の思想家」」(ベルグソン、ニイチェ)
帝國文學 21-4 [31975
消息「ケーベル博士」帝國文學 21-6 [31976
新刊批評「谷本富「歐洲教育の進化」」帝國文學 21-7 [31977
雜錄・大津康(ルドルフ・オイケン)「獨逸精神の世界歷史的意義」(希臘の唯心論等) 帝國文學 21-9 [31978
新刊批評「安倍能成「オイケン」」帝國文學 21-11 [31979
新刊「(岩波)哲學叢書の刊行」斯民 10-10 [31980
上田敏「水野和一譯「タイス」序」 [31981
文藝史傳「故大久保泡景譯「ツァラツストラ如是說」」東洋哲學 22-2 [31982
新刊批評紹介「ゲオルグ・フランデス/生田長江譯「ニイチェ・超人の哲學」」(近代思潮叢書・第一編)
東洋哲學 22-3 [31983
松村正一「舊思想と新思想」(ベルグソン、オイケン、ヘラクレイトス、プラトーン、アリストテレス、オーガスチン、ヘーゲル等)
東洋哲學 22-4 [31984
新刊批評紹介「野田義夫「教育學概論」」東洋哲學 22-4 [31985
新刊批評紹介「井上哲次郎「宗教と哲學」」東洋哲學 22-5 [31986
新刊批評紹介「大日本文明協會譯述「世界之宗教」」(ギリシア・ローマの宗教を含む)東洋哲學 22-5 [31987
新刊批評紹介「木村鷹太郎「哲學と人生」」(「ソークラテイスの知德同一論と王陽明の知行同一論を混同する勿れ」、「プラトーンの美少年論」)
東洋哲學 22-6 [31988
得能文「加藤[弘之]先生の自敍傳を讀む」(クーノーフ井シャー、エルドマン、ツェラー等) 東洋哲學 22-8 [31989
稻垣末松「倫理上の根本問題(3)(4)」(ソクラチス、プラトー、アリストートル、プロタゴラス、アンチステネス、エピクール、ニーチェ等) 東洋哲學 22-10,11 [31990
新刊批評紹介「谷本富「大學講義全集・歐洲教育の進化」(希臘羅馬等)
東洋哲學 22-10 [31991

新刊批評紹介「倫理研究會編「現代倫理思潮・第二輯」(白井成允「井ンデルバンドのプラトーン」収錄)
東洋哲學 22-11 [31992
新刊批評紹介「湯本武比古「倫理學要義」」東洋哲學 22-11 [31993
新刊批評紹介「紀平正美「認識論」」東洋哲學 22-11 [31994
朝永三十郎「思想上の國産奬励論に就て」(エピクロス、ガッサンディ、ヘーゲル等) 丁酉倫理會倫理講演集 149 [31995
吉田熊次「思想界に於ける非國家主義の源泉」(プラトー、アリストートル、エピクルス派、ストア派等)
丁酉倫理會倫理講演集 149 [31996
朝永三十郎「獨逸思想と軍國主義」(ストア派、エピクーロス派、ニーッチェ、ヘーゲル、グリーン等)
丁酉倫理會倫理講演集 150 [31997
雜錄・深作安文「昨一年内の我倫理學界の回顧」(大 3・井上哲次郎「オイケンの哲學と我國の現狀」東亞之光 9-3、中島德藏「東洋人に對するオイケン學の意義」哲學雜誌 328 號)
丁酉倫理會倫理講演集 150 [31998
新刊「ニイチェ/金子馬治譯「悲劇の出世・善惡の彼岸」」
丁酉倫理會倫理講演集 152 [31999
吉田熊次「北米合衆國の道德教授」(プラトー、アリストートル、マーカス・アウレリアス、オディセー、イリヤード、リカルガス、スパルタ人、エマーソン等)
丁酉倫理會倫理講演集 153 [32000
新刊「谷本富「歐洲教育の進化」」丁酉倫理會倫理講演集 154 [32001
應問・市原董(高知)「哲學上「範疇」の定義」、丁酉倫理會倫理講演集 154[32002
----- 答・先づ普通の哲學史に就きてアリストテレス及びカントの哲學を研究せよ。
應問・一愛讀生(新潟)「修身科の文檢受驗の參考書及び研究指針等承度候」、
丁酉倫理會倫理講演集 154 [32003
----- 答・研究の第二期：山本良吉「倫理學史」、中島[力造]博士「倫理學說十回講義」
研究の第三期：蟹江[義丸]博士等「倫理學大系」、桑木[嚴翼]博士「アリストートル氏倫理學解說」、中島[力造]博士「グリーン氏倫理學說」、吉田靜致「西洋倫理學史講義」
泰西思潮「愛國は道德か」(アレクサンダー大王關聯)
丁酉倫理會倫理講演集 156 [32004
新刊「倫理研究會編「現代倫理思潮」(第二輯)」(キンデルバンド/白井[成允]學士譯「プラトーン」)
丁酉倫理會倫理講演集 157 [32005
藤井健次郎「「平等」の諸定義について」(ソークラテース、シャールミダス、プラトーン、クセノフォン「蘇氏追憶錄」等)
丁酉倫理會倫理講演集 158,159 [32006

新刊「安倍能成「オイケン」」丁酉倫理會倫理講演集 158 [32007
得能文「紀平正美君の「認識論」を讀む」(エレア學派、ソフィスト、ソークラテース、プラトー、アリストテレース、ヘーゲル等) 丁酉倫理會倫理講演集 159 [32008
新刊「村岡典嗣譯「ウィンデルバンド・近世哲學史」」心理研究 37(7-1) [32009
新刊「メチニコフ/中瀬古六郎譯「人性論」」(古代分等) 心理研究 43(8-1) [32010
新刊「谷本富「歐洲教育の進化」」心理研究 45(8-3) [32011
教壇・小崎弘道「現狀打破」(ギリシヤ・ローマの奴隷等)
基督教新聞 1631(1/1) [32012
新刊「小松武治「現代の思想家」」(ベルグソン、オイケン等)
基督教新聞 1631(1/1) [32013
新刊「小野村林藏「聖アウガスチンは如何にして基督信徒となりし乎」」
基督教新聞 1631(1/1) [32014
海外新着だより「Rudolf Euken ,Zur Sammulung der Geister」
基督教新聞 1632(1/7) [32015
海外新着だより「W.Montogomery,St.Augusitine：Aspects of his Life and Thought」
基督教新聞 1632(1/7) [32016
海外新着だより「J.Patrick,Clement of Alexandria,Croall Lectures1899-1900/
R.B.Tomlinson, Clement of Alexandria」
基督教新聞 1634(1/21) [32017
教壇・綱島佳吉「新年の曙光(オイケン、ベルグソン等)
基督教新聞 1634(1/21) [32018
論說・白峯山人「教會生活とロマンチック・スピリット」(オイケン、ベルグソン、プラトー、ニイチェ等)
基督教新聞 1634(1/21) [32019
論說・小崎弘道「基督教の他愛主義とニイチェの超然主義」(プラトー、ネロ帝、ニイチェ等) 基督教新聞 1636(2/4) [32020
兒童說教・草野牧人「番をなさい」(トロヤ戰爭等) 基督教新聞 1636(2/4) [32021
海外新着だより「A.B.Cook,Zeus：A Study of Ancient Religion」
基督教新聞 1641(3/11) [32022
簡想錄「ニイチェの悲劇」基督教新聞 1643(3/25) [32023
海外新着だより「Frau F.Nietzsche(trans.by P.V.Cohn)The Lonely Nietzsche」
基督教新聞 1644(4/1) [32024
社說「共勵の精神」(ギリシヤ人等) 基督教新聞 1645(4/8) [32025
講壇・宮川經輝「無題」(オーゴスチン等) 基督教新聞 1645(4/8) [32026
思潮・靜思生「最近思潮と我國神學界の傾向」(ベルグソン、シュライエルマッヘル等) 基督教新聞 1647(4/22) [32027
論文・靜思生「信仰權威の確立(創造的信仰)」(プラトー、オーガスチン、ベルグソン、オイケン等) 基督教新聞 1648(4/29) [32028
海老名彈正「生春の宗教」(ソクラテス、プラトーン、ストイックの自殺是認說等)
基督教新聞 1649(5/6) [32029
新渡戸稻造「人生の勝敗」(ソクラテス等) 基督教新聞 1649(5/6) [32030

大住嘯風「現代價値論」(希臘哲學、ストア學派、ネオプラトー派、オイケン、ベルグソン等) 基督教新聞 1651(5/20) [32031
靜思生「現代宗教に於ける神秘的經驗の高調」(オーガスチン、新プラトー哲學等) 基督教新聞 1651(5/20) [32032
論說・久布白直勝「生きるべき時代精神」(ギリシヤの國家的精神、プラトーンの理想國等) 基督教新聞 1655(6/17) [32033
海外新着だより「John Burnet,The School of Philosophy,Greek Philosophy,Thales to Plato」基督教新聞 1655(6/17) [32034
教壇・米澤尚三「天と地の諧調」(プラトーの學校等) 基督教新聞 1658(7/8) [32035
海外新着だより「K.Hake,The Stewardship of Faith：Our Heritage from Early Christianity」(羅馬帝國、ストア主義等) 基督教新聞 1659(7/15) [32036
森の子「西田[幾多郎]博士を訪ふ」(オーガスチン等) 基督教新聞 1662(8/5) [32037
記者「原田[助]博士を訪ふ」(ベルグソン、オイケン等) 基督教新聞 1662(8/5) [32038
長谷川直吉「神秘」(ベルグソン、オイケン等) 基督教新聞 1666(9/2) [32039
(參考：教界「東京」(本郷教會)、基督教新聞 1667(9/7) [32040
----- 岡田哲藏「樂園の克復」(ミルトン等))
會木銀次郎「トマス・リンゼー先生」(A.D.Lindsay) 基督教新聞 1669(9/23) [32041
日野眞澄「至高價値の能率增進法」(ベルグソン、オイケン等) 基督教新聞 1674(10/28) [32042
講壇・宮川經輝「思想界に對する我黨の使命」(オーガスチン等) 基督教新聞 1676(11/11) [32043
海外新着・大賀旭江「有神論と人道論」(アーサー・バルフォア著。聖アウガスチン、ヘラクリタスの神等) 基督教新聞 1677(11/18) [32044
論說「道德の根柢を何に求めんとする乎」(ギリシヤ人等) 基督教新聞 1680(12/9) [32045
評論・栗原基「信仰生活と獨創」(オーガスチン等) 基督教新聞 1680(12/9) [32046
(參考：教界「神戸集中傳道」(兵庫教會)、基督教新聞 1680(12/9) [32047
---- 大賀壽吉「近世思想と基督教」)
言論「愛の宣傳」(ツアラツーストラ等)萬朝報 7721(1/3),7722(1/4) [32048
新刊批評「改正・西國立志編」(中村正直譯) 萬朝報 7779(3/2) [32049
言論「思想の末流的移入」(ニイチェ、ヘーゲル、オイケン、ベルグソン等) 萬朝報 7819(4/11) [32050
出版界「エマーソン」(栗原古城著)東京朝日新聞 2/7 [32051
出版界「縮刷・哲學概論」(桑木嚴翼著)東京朝日新聞 2/22 [32052
出版界「タイス」(フランス/水野和一譯) 東京朝日新聞 2/25 [32053
出版界「西國立志編」(中村正直譯) 東京朝日新聞 3/12 [32054
出版界「オイケンと現代思想」(稻毛詛風著) 東京朝日新聞 8/11 [32055
出版界「ベルグソン」(伊達源一郎著) 東京朝日新聞 9/21 [32056
出版界「自助論」(スマイルス/畔上賢造譯) 東京朝日新聞 10/1 [32057

出版界「オイケン」(安倍能成著) 東京朝日新聞 11/2 [32058
出版界「ニイチェ・超人の哲學」(生田長江譯) 東京朝日新聞 11/10 [32059
「帝大助教授と學生の衝突」(學生・古谷榮一「オイケン哲學の批難」、卒論「ニイチェ研究」) 東京朝日新聞 12/18 [32060
新著「生田長江「ニイチェ・超人の哲學」」新小說 20-2 [32061
新村出「圖書舘の一隅より」(エマニエル・バレトー「聖教精華」) 藝文 11 月號 [32062
C.②村井知至『雄辯の修養』(デモステネス、シセロ等) [32063
藤井伯民譯『クオヴヂス物語』(世界名著文庫 1) [32064
島田增平編『事項詳解西洋歷史年表』(→大 10・再訂) [32065
安部清藏『新撰基督傳』 [32066
デビッド・スミス/宮崎小八郎譯『歷史的耶蘇』 [32067
ヘンリー・エマーソン・フォスヂック/栗原基譯『耶蘇の人格』 [32068
ヘンリー・ビー・シュワルツ編『福音書に現はれたる耶[蘇]基督』 [32069
牧田忠藏『イエスの面影』 [32070
海老名彈正『基督教十講』 [32071
宮川經輝『基督教十講』 [32072
ジェイ・エル・ハールバット著/黑田惟信・尾島眞治譯『舊新約全書之研究』 [32073
③(參考：彙報「中等教員檢定試驗問題中」、歷史地理 25-1 [32074
----- 西洋史:「一、ローマ共和政治が武斷政治に變じた經路及びその理由」)
(參考：彙報「東京帝國大學卒業式」、歷史地理 26-2 [32075
中城陟「ペリクレースのスパルタに對する政策」)
(參考：彙報「中等教員檢定試驗問題中」、歷史地理 26-5 [32076
------ 西洋史：「三、左の人々の事蹟(甲)ポリビース」)
下澤瑞世「自二十一歲至三十歲・軍事上の年齡功程」(ケーザル、ポンペイウス、ハンニバル、スキピオ等) 東洋哲學 22-10 [32077
宮田脩「クレオパトラとアスパシヤ」女の世界 12 月號 [32078
「歷山大王の遠征」學生(大町桂月主筆) 1 月號 [32079
吉岡教授「英文(ブルタス)」學生(大町桂月主筆)9 月號 [32080
下澤瑞世「偉人的萌芽」心理研究 38(7-2) [32081
(參考：教界「東京」(協同傳道修養會)、基督教新聞 1632)1/7) [32082
----- 善賢寺徹吉「基督教史大要」)
講演・今井壽道「バルナバ論」(ストイック、學術の淵叢等) 基督教新聞 1634(1/21) [32083
聖書研究・武本喜代藏「哥林多前書講義(2)」(ギリシヤ人、アウグスチン等) 基督教新聞 1656(6/24) [32084
海老名彈正「ダニエルの夢」(アレキサンダア大王、アケドニア帝國等) 基督教新聞 1660(7/22) [32085
中村政路「基督教は何人に始まりしや」(ホーマー時代の希臘人、ツオイス神等) 基督教新聞 1679(12.2) [32086

「活動シーザー劇」(イタリヤ映画)萬朝報 7874(6/5) [32087
モーリス・ベアリング/本誌記者譯「アレキサンダーの馬」英語世界 9-1 [32088
④時評「甲寅歴史地理學界概觀」、歴史地理 25-1 [32089
・村川博士「ピラミッド天文臺說に關して日下部博士に質す」・「羅馬興亡史論」
・大類博士「オイケンの歴史哲學」
彙報・栗田「島田增平編「事項詳解西洋歴史年表」」歴史地理 25-6 [32090
彙報「七月の史學界」(坂口博士「獨逸帝國思想の由來」史學雜誌 307)
歴史地理 26-2 [32091
中村久四郎「利瑪竇傳」(キケロ等)歴史地理 26-3,4 [32092
彙報「大類伸博士」(學位論文「城廓之研究」)歴史地理 26-5 [32093
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 340 [32094
----- A.Agnus,The Enviroment of Early Christianity
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 342 [32095
---- D.A.Vonier, The Personality of Christ,Analysis of the third part of the “Summa” of Thomas Aquinas, London
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 344 [32096
----- P.Gardner,The Ephesian Gospel,London
R.Steiner,Chrisianity as Mystical Fact, New York
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 345 [32097
---- W.Bousset,Jüdisch-christlicher Schulbetrieb in Alexandrien und Rom,Göttingen
A.Lagarde,The Latin Church in the Middle Ages,Edinburgh
新刊批評「栗原古城著「西洋武士道譚」」(古代神話等)帝國文學 21-6 [32098
新刊批評「村上靜人譯編「新裝縮刷・沙翁傑作集」」帝國文學 21-11 [32099
新刊批評紹介「伊國チネス會社大作「史料參考・アントニーとクレオパトラ」寫眞帖」東洋哲學 22-2 [32100
新刊批評紹介「島田增平編「事項詳細・西洋歴史年表」」東洋哲學 22-6 [32101
新刊批評紹介「三並良「眞人基督」」東洋哲學 22-9 [32102
泰西思潮「ジー・エッチ・モルガン「トライチケ」」(モムゼン、ニーチェ、ゲーテ、ヘーゲル、モルガン、ドロイゼン等)
丁酉倫理會倫理講演集 149 [32103
新刊「村井知至編「雄辯の修練」」丁酉倫理會倫理講演集 154 [32104
新刊批評「何處へ行く」(松本雲舟譯。アントニオとクレオパトラの梗概等)
萬朝報 7901(7/8) [32105
新刊批評「沙翁物語」(相馬泰三著) 萬朝報 7902(7/9) [32106
新刊批評「西洋史話」(箕作元八著) 萬朝報 7916(7/17) [32107
新刊批評「村井知至著「雄辯の修練」」萬朝報 7934(8/4) [32108
新刊批評「ポンペイ最後の日」(大町桂月譯) 萬朝報 7934(8/4) [32109
新刊批評「泰西傑作集・第二巻、沙翁傑作集」(村上靜人編。ジュリアス・シイザア等) 萬朝報 8004(10/13) [32110
新著「坪内逍遙譯「アントニーとクレオパトラ」」新小說 20-8 [32111
大山郁夫「都市意識」(ヘレニズム關聯) 早稻田講演 5-4 [32112
新刊「坪内逍遙譯「沙翁傑作集第 8・アントニーとクレオパトラ」」

早稻田講演 5-7 [32113
新刊「坪内逍遙監修「通俗・世界全史」」早稻田講演 5-11 [32114
早稻田消息「「通俗・世界全史」と坪内博士」早稻田講演 5-12 [32115
講演・海老名彈正「基督教の變遷及教會の現狀」(ソクラテス、コンスタンチン大帝、オーゴスチン等) 基督教新聞 1637(2/11), 1638(2/18) [32116
(參考：教界「東京」(基督教學生雄辯會)、基督教新聞 1639(2/25) [32117
----- 小野長一郎「クオバヂス」)
新刊「(デビッド・スミス)宮崎小八郎譯「歷史的耶蘇」」基督教新聞 1663(8/12) [32118
出版界「教科難問・西洋歷史詳解」(佐藤秀男著) 東京朝日新聞 3/24
(杉村)楚人冠(ヨークにて)「羅馬皇帝の遺跡」(ハドリヤン帝、セプチミアス、セベラス、コンスタンテン帝、クローラス帝等) 東京朝日新聞 3/30 [32119
出版界「プルターク英雄傳・第三巻」(高橋五郎譯) 東京朝日新聞 4/11 [32120
出版界「沙翁物語」(相馬泰三著。アントニーとクレオパトラ)東京朝日新聞 6/24 [32121
出版界「縮刷・何處へ行く」(シェンキ井ッチ/松本雲舟譯)東京朝日新聞 6/25 [32122
出版界「プルターク英雄傳・第四巻」(高橋五郎譯) 東京朝日新聞 7/25 [32123
出版界「アントニーとクレオパトラ」（坪内雄藏譯）東京朝日新聞 7/27 [32124
出版界「西洋史話」(箕作元八著) 東京朝日新聞 8/4 [32125
出版界「沙翁傑作集」(村上靜人著。ジュリアス・シイザル)東京朝日新聞 10/8 [32126
D.②フレデリック・ロリエ/大日本文明協會譯『比較文學史』 [32127
中山昌樹(譯)『文藝復興の三大藝術家』(G.B.Rose,Renaissannce Masters 中、ラファエロ、ミケルアンヂエロ、ダ・ヴィンチの抄譯) [32128
松村武雄『印度文學講話』(ホーマーとの比較等) [32129
③口繪「希臘の家庭彫刻」心理研究 37(7-1) [32130
小野玄妙「佛教美術概論」(健駄羅、フーシェ氏「健駄邏の希臘佛教美術」[A.Foucher,L’ ant greco-bouddique de Gandhāra,1905])東洋哲學 22-1,2,3, 4,5,6, 9,11,12 [32131
土井壯良「造形美術の發達」教育研究 2,4,5,6 月號 [32132
(?)「前月の諸雜誌より」(「ギリシヤの謎々」)心理研究 39(7-3) [32133
太宰施門「悲劇と古典的佛蘭西精神(エミル・ファゲ「古代劇・近代劇」第一章)」帝國文學 21-9 [32134
太宰施門「希臘劇と近代劇」(エミル・ファゲ著「古代劇・近代劇」第三章・第四章より)」帝國文學 21-11 [32135
兒島喜久雄「美術史は如何にして科學たり得るや」心理研究 46(8-4) [32136
④＊[訂正]新刊批評「ダンテ神曲・地獄」(山川丙三郎譯)六合雜誌 409(35-2)(←B.④) [5168] [32137

雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 335 [32138
---- A.H.MeNeil,The Gospel according to St.Mathew,the Greek Texts with Introduction and Notes,London
W.M.Ramsay,The Bearing of Recent Discovery on the Truthworthiness of the New Testament, Edinburgh
U.T.Stoddart, The New Testament in Life and Literature,Edinburgh
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 337 [32139
---- C.W.Votaw, The Gospel and contemporary Biographies,Amer.Journ.Theol.1915,1
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 338 [32140
---- A.C.Headlam, The Miracles of the New Testament, The Moorhouse Lectures for 1914, London
H.B.Swete(revised by R.R.Ottley), An Introdution to the Old Testament in Greek, Cambridge
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 339 [32141
---- P.Carus, The Religion of Tragedy and the Christideal,Monist 1914,3
J.M.Pryse,The restored New Testament,London
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 340 [32142
---- J.A.Aitken, The Christ of the Men of Art
C.F.Fogg & W.E.Vine, The Epistle of Paul the Apostle to the Thesalonian,Glasgow
A.Plummer, The II Corinthians(International Critical Comm.),Edinburgh
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 342 [32143
---- A.Plummer,Gospel according to St.Mark, Cambridge
A. Plummer,A Critical and Exegetical Commentary on the Second Epistle of St.Paul to the Corinthians,Edinburgh
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 344 [32144
----- T.B.Foster,Mysterium and Sacramentum in the Vulgate and old Latin Versions, Am.Journ.Theol.1915,2
H.B.Swete(revised by R.R.Ottley), An Introdution to the Old Testament in Greek Cambridge
(?)「フィレンツエ、ダンテの生誕地」音樂 6-5 [32145
大類伸「愛國詩人ダンテ」青年 3-4 [32146
上田敏「ダンテの詩論」基督教世界 1659 [32147
新刊批評「半田眞平譯「ロダンの藝術」」帝國文學 21-1 [32148
新刊批評「大西克禮「社會學より見たる藝術」」帝國文學 21-2 [32149
新刊批評「生田長江譯「超人の哲學」」帝國文學 21-2 [32150
新刊批評「ダヌンチョオ/森田草平譯「快樂兒」」帝國文學 21-2 [32151
馬場睦夫「英國劇壇に於ける偶像破壞者---ショオとハンキン・バアカア・ゴルスワアシー」帝國文學 21-3 [32152
新刊批評「生田長江「藝術家と藝人」」(ニイチェ)帝國文學 21-3 [32153
馬場睦夫「英國劇壇に於ける偶像破壞者」(シヨオ、ハンキン・バアカア、ゴルスワアシイ、ソクラテス等)帝國文學 21-3 [32154
新刊批評「森田草平譯「ファウスト」」帝國文學 21-4 [32155
消息「フロレンツ教授」帝國文學 21-6 [32156
村松武雄「メレディスの天地觀」(ホーマー、ルクレシャス等)
帝國文學 21-8 [32157

玉置登臨「モロオの批評」(希臘美術等)帝國文學 21-8 [32158
(參考：東京帝大文科大學文藝關係卒論、帝國文學 21-8 [32159
鈴木禎二「悲劇の本質」
多田齋二「キーツの研究」
久保勘三郎「キーツの詩」
高宮儀助「ジョン・キーツの詩研究」
新關良三「戯曲と敍情詩ゲーテのイフィゲニエに描かれたる敍情詩」)
青木健作「弱き天才---ロオマン・ロオラン著「ミケルアンジェロ」を讀む」
帝國文學 21-9 [32160
新刊批評「新村出「南蠻記」」帝國文學 21-10、歷史地理 26-4 [32161
下澤瑞世「桂冠屬と常凡屬」(ソークラテース、ケーザル、ゲーテ等)
東洋哲學 22-5 [32162
新刊批評紹介「厨川白村「近代文學十講」」(縮刷版) 東洋哲學 22-9 [32163
榴丘學人「國家的譯場開設の議」(希臘語、羅甸語等)
丁酉倫理會倫理講演集 149 [32164
新刊「大西克禮譯「ギュヨー・社會學より見たる藝術」」心理研究 38(7-2) [32165
新刊「内ケ崎作三郎「近代文藝之背景」」(希臘文明等)
基督敎新聞 1634(1/21) [32166
海外新着だより「A.Della Seta(trs.by C.Harrison,with a Preface by Mrs.A.Strong),
Religion and Art,A Study in the Evolution of Sculpture,Painting and
Architecture」(希臘美術等) 基督敎新聞 1634(1/21) [32167
(參考：彙報「ダンテ生誕六百五十年紀念講演會」(5/22,5/29)、
基督敎新聞 1651(5/20), 1652(5/27) [32168
----- 大賀壽吉「預言者ダンテ」/上田敏「ダンテの詩篇」）
想苑・靜思生「詩聖ダンテを憶ふ」基督敎新聞 1652(5/27) [32169
海外新着だより「Sir W.Ramsey,The Bearing of Recent Discovery on the Truthworthi-
ness of the New Testament」(ギリシヤ語)
基督敎新聞 1654(6/10) [32170
史傳・(大賀)旭江漁史「青春のダンテ」基督敎新聞 1661(7/29) [32171
新刊批評「文藝復興」(ペーター/田部重治譯)萬朝報 7899(6/30) [32172
新刊批評「十九世紀文學の主潮」(吹田順助著) 萬朝報 7941(8/11) [32173
新刊批評「羅甸文法」(田中秀央著) 萬朝報 7944(8/14) [32174
飯塚陽平「バイロン卿漫遊詩草」英語之日本 8-2 [32175
新刊「ニイチェ原著/金子馬治譯「悲劇の出生・善惡の彼岸」」
早稻田講演 5-3 [32176
安藤忠義「初期の佛蘭西語と予の研究談」(羅典語等)早稻田講演 5-5) [32177
夏目漱石「硝子戸の中(3)(4)(5)」(ヘクトー、イリアッド、トロイ、アキレス等)
東京朝日新聞 1/15,1/16,1/17 [32178
出版界「ゲーテ・ファウスト」(齋木仙醉譯) 東京朝日新聞 3/1 [32179
出版界「ファウスト」(森田草平譯) 東京朝日新聞 3/20 [32180
大隅爲三「埃及希臘羅馬美術展覽會」東京朝日新聞 4/27,4/28 [32181
出版界「ラスキン抄」(澤村寅二郎譯) 東京朝日新聞 5/26 [32182

出版界「文藝復興」(ペーター/田部重治譯) 東京朝日新聞 6/2 [32183
出版界「神曲物語」(高月藹之助著。ダンテ) 東京朝日新聞 6/24 [32184
E.①＊[訂正]末松謙澄譯註・田中秀央共譯・宮崎道三郎校閲『ユスチーニアヌス帝欽定羅馬法學提要』(訂正增補再版) [5270] [32185
③(參考：「哲學會公開講演會」、心理研究 47(8-5) [32186
藤井健治郎「正義觀念の發達に就て」)
論說・蘆田慶治「イエスの社會倫理觀」(プラトン「共和國」、アリストートル「政治學」、ストア學派、マルク・アウレリ、羅馬法典等) 基督教新聞 1632(1/7) [32187
④大山郁夫「我が政治道德觀」(プラトーン、アリストテレス、ヘーゲル等) 六合雜誌 410(35-3) [32188
隨時評論「政治家の道德心」(プラトン等)聲 478 [32189
(?)「最近佛蘭西文學に於ける立君愛國の思想」(米人ステヴン氏論文紹介。アリストートル、ダンテ、ニーチェ、アナトール・フランス、ベルグソン等) 東洋哲學 22-2 [32190
富士川游「加藤[弘之]先生の壽を祝す」(ヘーゲル、バックル「文明史」、開化史の大家バックル、モンテスキュー「法の精神」等)東洋哲學 22-8 [32191
平沼淑郎「經濟史に就いて」(研究史) 早稻田講演 5-6 [32192
柏井園「宗教改革前の社會改善に及ぼせる基督教の貢獻」(クライジウ大帝、ユスチニヤン法典、アウガスチン懺悔錄等) 基督教新聞 1631(1/1) [32193
言論・谷岡勝美「新國民主義の提唱」(プラトン、アリストテレス、オーガスチン、ダンテ等) 基督教新聞 1664(8/19) [32194
出版界「ウルピアーヌス羅馬法範」(末松謙澄譯註)東京朝日新聞 4/2 [32195
出版界「訂正再版・ユ帝欽定羅馬法學提要」(春木一郎譯註) 東京朝日新聞 4/2 [32196
出版界「ガーイウス羅馬法解說」(末松謙澄譯註)東京朝日新聞 4/9 [32197
F.③小澤愛圀「中古の人形」三田文學 6-10 [32198
④＊[訂正] 新村出「北島見信の「紅毛天地二圖贅說」」(羅甸讀みを和蘭讀みと區別) 典籍 7 月號 [22172] [32199
新村出「圖書舘の一隅より」(北見見信「紅毛天地二圖贅說」)藝文 11 月號[32200
小川[政修]博士「ゲーテと解剖學」科學と文藝 1-? [32201
教壇・米澤尚三「靈眼透徹」(アルキメデス等) 基督教新聞 1652(5/27) [32202
G. ＊[訂正]新刊書「上田萬年・高楠順次郎・白鳥庫吉・村上直次郎・金澤庄三郎編「外來語辭典」」早稻田文學 119 [22174] [32203
新刊批評「井上十吉「井上英語大辭典」」帝國文學 21-11 [32204
上田萬年・高楠順次郎・白鳥庫吉・村上直次郎・金澤庄三郎編『日本外來語辭典』 [32205
出版界「日本百科大辭典續刊」東京朝日新聞 6/17 [32206
出版界「日本外來語辭典」(上田萬年他編) 東京朝日新聞 9/22 [32207

大５(１９１６)

A. 「伊太利と希臘」外交時報 5 月號 [32208
新村出「蘭書譯局の創設」史林 7 月號
新刊批評「伊太利から英國へ」(ウィリアム・ル・コー/本間久雄譯)
萬朝報 8157(3/14) [32209
(參考：教會だより「統一教會・基督教哲學講義」、六合雜誌 36-12 [32210
三浦吉兵衛「ツアラツストラに就て」(10/22)
三並良「ニイチェの性格」(10/22)
三並良「ニイチェの行き方」(10/29)
三並良「ニイチェ對ワグナー」(11/19))
(參考：彙報「京都帝國大學第七回夏季講演會」、歷史地理 28-2 [32211
坂口昂「希臘文明の世界的影響」)
(參考：彙報「京都文科大學史學科本年度講義題目中」、歷史地理 28-5 [32212
西洋史概說(坂口)、ヘレニズム(坂口)、史學研究法(原)、地理學史(小川)、考古學概論(濱田)/副科目---西洋哲學史(朝永)、史學教育發達史(小西)、西洋美術史概說(深田)、History of English Literature(Clarke)、獨逸文學史(藤代))
(參考：消息「慶應義塾大學文學科の刷新、三田文學 7-4 [32213
哲學・心理學(川合)、哲學・倫理學(鹿子木)、歐洲思想史(田中)、英文學(プレフェエア)、大陸文學(馬場[孤蝶])、近代英文學(野口、戸川)、古典英文學(畑)、佛蘭西文學(廣瀬)、獨逸文學(小宮、向)、美術史(澤木)、佛文學(太宰、前田))
(參考：消息[慶應義塾]「岩村透(古代美術史)擔當、澤木梢(近世美術史)擔當」)
三田文學 7-5 [32214
(參考：消息[慶應義塾]「澤木梢(近世美術史、建築史)擔當」)三田文學 7-7 [32215
(參考：學界記事「東京帝大文科大學本年度講義題目」、帝國文學 22-10 [32216
哲學科：哲學概論(井上)、西洋哲學史概說(桑木)、心理學概論(松本)、倫理學概論(中島)、中世哲學(波多野)、民族心理學(桑田)、近世倫理學史(中島)、美學概論(大塚)、上代佛教美術史(瀧)、教育學概論(吉田)、近世教育學史(木村)
史學科：史學概論(坪井)、 西洋史概說(前半、箕作)、西洋史概說(後半、村川)、地理學概論(山崎)、西域史(白鳥)、西洋海軍史(箕作)、羅馬史(村川)、史籍講讀并批評(Ludwig Sevin, Geschichtliches Quellen-buch、村川)、西洋中世史講義及演習(大類)
文學科：文學概論(松本)、言語學概論(藤岡)、History of English Literature(プレイフェア)、Histoire générale de la Litterature Française(エック)、希臘羅馬文獻學通論(藤岡)、希臘語初歩(White,First Greek Book、田中)、羅甸語初歩(用書羅甸文法、田中)、羅甸語上級用書(Cicero:De Amicitia、Virgilius:Aeneid、田中)、美術史(伊東)、地理學概說(山崎))
泰西思潮「チャールス・ショー「佛蘭西の文化とディレッタンティズム」」(アリ

ストートル、プレトー、アナトール・フランス、
ニーチェ、ギョーテ、モンテーニュ等)
丁酉倫理會倫理講演集 161 [32217
應問・青木生(長野)「希臘羅馬文化を書きたるもの」、
丁酉倫理會倫理講演集 162 [32218
----- 答・佛人セーニョボスの文明史三種あり。其初の二巻を見らるべし。(大日本文明協會)
大西克禮「民族心理學と美學」心理研究 52(9-4),53(9-5),54(9-6),55(10-1) [32219
(參考：彙報「京都哲學會發會式公開講演會」、心理研究 52(9-4),53(9-5) [32220
特別講演：米田[庄太郎]講師「民族心理」(5,6,7 回))
講演・米田庄太郎「世界的文化と民族的文化」(古代ギリシヤ、ラテン文化等)
基督教新聞 1694(3/23) [32221
(參考：教界「京都」(同志社神學部、本學年教授科目)、
基督教新聞 1698(4/20) [32222
----日野[眞澄]教授：倫理、論理、哲學
蘆田[慶治]教授：基督傳及基督教倫理學
ケレー博士：日本傳道史
カーブ教授：希臘語
ラル子デ博士：教會史、希臘語)
書齋より・甲浦學人「佛蘭西民族の天稟」(アウグスチン、シーザー、プラトー、
グリース文化、カルタゴジン、フェニシヤジン等)
基督教新聞 1707(6/22) [32223
清談餘錄・然々否々生「漫言教則」(ギリシヤ人等) 基督教新聞 1710(7/13) [32224
B.②吾妻兵治『英和漢對譯・泰西格言集』 [32225
スマイルス/栗原古城譯『新譯・西國立志篇』 [32226
湊謙治『キリスト? ニイチェ?』(宗教小說) [32227
山室軍平『使徒的宗教』 [32228
チヤレース・ゴルハム/久津見蕨村譯『基督教罪惡史』 [32229
柏木義圓述『天地創造と神子受肉』(附・贖罪私觀。大正信仰叢書) [32230
柏木義圓『基督教の神觀と人觀』(大正傳道叢書) [32231
倉長巍『約翰[ヨハネ]傳五十講』 [32232
山口小太郎著『（ニイチェ）ツアラトウストラ如是說』 [32233
エリザベド・フオルステル・ニイチェ/磯部泰治譯『妹の見たるニイチェ』[32234
トマス・エム・リンゼー/藤井武譯『ルーテルの生涯及事業』 [32235
③(參考：廣告「自由教會秋季講演會」、六合雜誌 36-10 [32236
岡田哲藏「エトナ火山に於ける哲學者エムペドクレス」)
(須田井?)飛燕生「テリチュリアヌスの國神論」聲 492 [32237
(參考：彙報「第 30 回大正五年度檢定本試驗歷史科問題」、歷史地理 28-6 [32238
------ 西洋史：「三、左の人々の事蹟(甲)セネカ」)
薄田斬雲「世界お伽話「木馬の計略」」婦人週報 2-10 [32239
薄田斬雲「世界お伽話「金毛の盾」」婦人週報 2-15 [32240
(參考：「東京帝大卒論---哲學科：中島精一「プラトーン研究」、帝國文學 22-6)

[32241
松村介石「ソクラテス實踐道德」道 1 月號 [32242
木村鷹太郎「耶蘇教の希臘神話剽竊」新公論 31-6 [32243
木村鷹太郎「世界統一の大女神」(?)東方時論 1 (創刊號) [32244
齋木仙酔「ソクラテスのニコニコ」ニコニコ 10 月號 [32245
岡田哲藏「劇詩メロペエの倫理」(希臘神話、ヘラクレス)
丁酉倫理會倫理講演集 165 [32246
紀平正美「觀念論の意義」(ソークラテース、プロチーヌス、アリストートル、プラトー、ヘルデル等) 丁酉倫理會倫理講演集 170 [32247
應問（熊本縣下益城郡・上羽雅人「エロチック說とは何か」、
心理研究 55(10-1) [32248
------ ・(答)香川（プラトーの說）
應問(下谷 NY 生)「古今の偉人として同性の戀に陷れる實例及其理由」、
心理研究 56(10-2) [32249
----- ・(答)香川(古代希臘分あり)
書齋より・甲浦學人「南歐の思想界に於ける理想主義の哲學」(ヘレニズムの覺醒、B.クローセ等) 基督教新聞 1685(1/20) [32250
日野眞澄「拉典神學の特徵」基督教新聞 1700(5/4) [32251
日野眞澄「アウグステーヌスの神學」基督教新聞 1704(6/1),1705(6/8),1706(6/15),1707(6/22),1708(6/29),1709(7/6),1710(7/13)
[32252
研究・野本稔幸「第四福音書とグリーク・ミスチシズム」
基督教新聞 1725(10/26), 1726(11/2) [32253
島田三郎「無信仰の悲慘」(羅馬の盛衰等)萬朝報 8392(11/?) [32254
④＊[訂正]小西重直「社會的教育學の過去及將來」哲學研究 1,2,4 [5360] [32255
＊[訂正]新刊書「木下四郎一「哲學汎論」」早稻田文學 128 [22242] [32256
＊[訂正]鷲尾正五郎「道德と美感」(ゼノフォン、ソクラテス、プラトン、エスキラス、 アリストファネス、ヘーゲル、アリストートル、ニーチェ等) 早稻田文學 130
[22244] [32257
＊[訂正]田中王堂「エマソンの現實主義」三田文學 7-5 [16592] [32258
回顧子「大正四年の我が思想界」六合雜誌 36-1 [32259
「現代思想家の何人に最も共鳴する?」(中村長之助：プラトンのダイヤログ)
六合雜誌 36-1 [32260
＊[訂正]帆足理一郎「現代思潮とクリスト教」(「ヘブライズムとヘレニズム」)
六合雜誌 421(36-3) [5404] [32261
＊[訂正]内ケ崎作三郎「生命の追求」(アレクサンドリアのロゴス哲學、ギリシヤ思想等) 六合雜誌 424(36-5) [5410] [32262
新刊紹介「哲學汎論」(木下四郎一著) 六合雜誌 39-9 [32263
新刊紹介「獨逸思想と基督教」(朝永三十郎著) 六合雜誌 39-9 [32264
(參考：廣告「自由教會秋季講演會」、六合雜誌 36-10 [32265
相原一郎介「ニイチェと基督教」）
(參考：教會だより「秋季特別講演會---三並良「超人の理想」[16 日]」

六合雜誌 36-12)　[32266

雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 347　[32267
----- F.W.B(o)usset,Religious Thought and Heresy in the Middle Ages, London
K.Lake,The Theology of the Acts of the Apostles,Amr.Journ.Theol.1915,Oct.
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 348　[32268
----- L.M.Miller,The Religious Implicates of Bergson's Philosophy regarding Intuition and the Primary of Spirit,J.Ph.Ps.S.M.12,23
W.M.Salter,Nietzsche on the Problem of Reality,Mind 96
E.M.Hulme,History of Renaissance:The Protestant Revolution and the Catholic Reformation in Continental Europe,London
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 349　[32269
---- C.F.Darey,Godand Freedom in Human Experience,London
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 351　[32270
----- K.A.A.Kennedy,The Alleged Paulism of First Peter,Expository Times 1916,3
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 356　[32271
----- R.P.Cole,A History of the Chrisitian Agapé,London
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 357　[32272
----B.M.Laing,The Origin of Nietzsche's Problem and Its Solution,Int.J.E.26,4
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 358　[32273
----C.D.Burns,Leibniz's Life and Work,Monist 26,4
C.D.Burns,Leipniz and Descartes, Monist 26,4
F.Cajori,Leipniz's"Image of Creation", Monist 26,4
J.M.Child,The Manuscripts of Leipniz on His Dicovery of the Differential Calculs, Monist 26,4
T.S.Eliot,The Development of Leipniz's Monadism, Monist 26,4
T.S.Eliot,Leipniz's Monads and Bradley's Finite Centres, Monist 26,4
Ph.E.R.Jourdain,The Logical Work of Leipniz, Monist 26,4
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 359　[32274
----G.R.Smith,A Guide to the Study of the Christian Religion, Chicago
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 364　[32275
---- A.Werner,Nietzsche als Philosoph und die Philosophie unserer Tage,Arch.G,Ph. 23,1
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 369　[32276
---- S.Radhakrishnan,Is Bergson's Philosophy Monistis? Mind 103
墨田庭泉「公教と聖書(1)(2)(4)(5)(6)(7)」(アレキサンドリア正經等)聲 482,483,485, 486,487,488　[32277
「悔悛の時機」(ソクラテス、プラトン、アリストテレス等)聲 483　[32278
「人智の際限と宗教」(ソクラテス、アリストテレス、プラトン等)聲 487[32279
山鹿生(山口鹿三?)「基督教退治號を駁す」(「基督教退治號」大國民 782 號、ニイチェ主義、レッシング、ギゾー等)聲 490　[32280
山口鹿三先生講演「公教の有神論」(ケーベル博士、ベルグソン等)聲 491 [32281
長谷川天溪「アナトール・フランスの無目的藝術」希望 3 月號　[32282
新村出「桑木[嚴翼]氏の「哲學と文藝」を讀みつつ」藝文 5 月號　[32283

新刊紹介「中澤臨川・生田長江「近代思想十講」」帝國文學 22-2 [32284
新刊紹介「マルチン/姑射良譯「印度の神々」」（希臘の神々等)
帝國文學 22-10 [32285
新刊紹介「生田長江譯「ニイチェ全集(一)」」帝國文學 22-11 [32286
井上哲次郎「東洋哲學研究の必要」(ターレス、ヘラクライトス、ピタゴラス、デモクリタス、ストア學派、アナキシマンデル、アナキシメネス、エムペドクレース、ディオゲネス・フォン・アポロニア、ソクラテス、プラトン等)
東洋哲學 23-2 [32287
新刊批評紹介「井上哲次郎「社會と道德」」(ケーベル論等) 東洋哲學 23-2[32288
稻垣末松「眞理とは何ぞや(上)」(キンデルバンド「哲學概論」中の一節。ソクラテス、プラトー等) 東洋哲學 23-2 [32289
稻垣末松「因果法則に就いて(1)」(ヴント「論理學・第一巻」を抄譯。エレアット、ヘラクリット、プラトーン、アリストートル等)
東洋哲學 23-4 [32290
三品薫「宮本[和吉]文學士の哲學概論を讀む」東洋哲學 23-4 [32291
松下舜孝「Romantic の思潮(朝永博士の「近世に於ける『我』の自覺史」)を讀む」
東洋哲學 23-5 [32292
新刊紹介「速水滉「論理學」」東洋哲學 23-5 [32293
新刊紹介「宮本和吉「哲學概論」」東洋哲學 23-5 [32294
彙報・K・M 生「東洋大學哲學會----オイッケン、ベルグソン、ニーチェ」
東洋哲學 23-6 [32295
新刊紹介「吾妻兵治「英和漢對譯・泰西格言集」」東洋哲學 23-6 [32296
三品薫「紀平[正美]學士の哲學概論を讀む」東洋哲學 23-9 [32297
新刊批評紹介「鹿子木員信「文明と哲學的精神」」東洋哲學 23-9 [32298
齋藤茂「誤られたるニイチェ」日本評論 8 月號 [32299
新刊「鹿子木員信「文明と哲學的精神」」丁酉倫理會倫理講演集 161 [32300
桑木嚴翼「書物合はせ」(近著四種中、朝永[三十郎]博士「近世に於ける我の自覺史」、鹿子木[員信]ドクトル「文明と哲學的精神」)
丁酉倫理會倫理講演集 162 [32301
新刊「朝永三十郎「近世に於ける「我」の自覺史」」
丁酉倫理會倫理講演集 162 [32302
新刊「大島正德「世界心・國家心・個人心」」丁酉倫理會倫理講演集 162 [32303
中島力造「西洋諸國の學風を論じて我國將來の學風に關して希望を述ぶ」(アリストートル、プラトー、ヘーゲル、シラー、ベルグソン、エモルソン、オイケン等)
丁酉倫理會倫理講演集 163 [32304
新刊「宮本和吉「哲學概論」」丁酉倫理會倫理講演集 163 [32305
得能文「二つの哲學書」(桑木嚴翼「哲學と文藝」、宮本和吉「哲學概論」、「古代研究と思想問題」」丁酉倫理會倫理講演集 164 [32306
新刊「桑木嚴翼「哲學と文藝」」(「古代研究と思想問題」)
丁酉倫理會倫理講演集 164 [32307

新刊「ソロウィヨフ/關竹三郎譯「神人論」」丁酉倫理會倫理講演集 164 [32308
新刊「紀平正美「哲學概論」」丁酉倫理會倫理講演集 166 [32309
新刊「安倍能成「西洋古代中世哲學史」」丁酉倫理會倫理講演集 167 [32310
吉田熊次「人道の意義」(ストア關聯) 丁酉倫理會倫理講演集 171 [32310
新刊「フランク・シルリイ/若守義孝譯「古代より現代まで西洋哲學史」」
丁酉倫理會倫理講演集 171 [32311
(參考：「哲學會----桑田芳藏「人文發達の心理學」」、心理研究 49(9-1) [32312
新刊「川本宇之介「公民教育の理論及實際」」(第一編一章「古代公民教育」)
心理研究 49(9-1) [32313
新刊「朝永三十郎「近世に於ける我の自覺史」」心理研究 50(9-2) [32314
圖書「速水滉「論理學」心理研究 54(9-6) [32315
圖書「大島正德「世界心・國家心・個人心」」心理研究 55(10-1) [32316
圖書「紀平正美「哲學概論」」心理研究 55(10-1) [32317
圖書「朝永三十郎「獨逸思想と其の背景」」心理研究 55(10-1) [32318
圖書「木下四郎一「哲學汎論」」心理研究 55(10-1) [32319
圖書「石原謙「宗教哲學」」心理研究 58(10-4) [32320
(參考：彙報「教育學會例會」、心理研究 60(10-6) [32321
----- 櫛引友三郎「Hegel's Educational Theory and Practice」）
「新年の夢」(プラトーの共和論、オーゴスチンの神の都市等)
基督教新聞 1682(1/1) [32322
教壇・海老名彈正「超自然の力」(ゲーテ、ギリシヤ人等)
基督教新聞 1683(1/6) [32323
原田助「修養の二方面」(ストイック派、エピキュロス、エピキュリアン派等)
基督教新聞 1689(2/17) [32324
講演・内ケ崎作三郎「宗教的知識と信仰の進歩」(往古ギリシヤ・ローマの黄金時代等) 基督教新聞 1690(2/24) [32325
講演・三宅驥一「ユーゼニックスに就て」(スパルタ、プラトー等)
基督教新聞 1691(3/2) [32326
書齋より・甲浦學人「ブラウン教授の現代基督教論」(ギリシヤ人、聖オーガスチン等) 基督教新聞 1692(3/9) [32327
說苑・栗原基「性慾問題と基督教」（オデソイイがサイレンの島、オルフスの音樂等）基督教新聞 1693(3/16) [32327
書齋より・甲浦學人「思想と其活動範圍」(ギリシヤ・ローマ文明等)
基督教新聞 1693(3/16) [32328
說苑・武本喜代藏「教會の理想」（プリニー等）基督教新聞 1695(3/30) [32329
宮川經輝「說教の準備」（オイケン、ベルグソン等）基督教新聞 1696(4/6) [32330
說苑・本間俊平「宗教の眞機」（オーガスチン等）基督教新聞 1697(4/13) [32331
教壇・日野眞澄「信仰の極意」(オーガスチン等）基督教新聞 1699(4/27) [32332
獨語錄・京兒生「宗教生活の眞味」(太古ギリシヤの聖人、エピキュリアン、ストイック等) 基督教新聞 1699(4/27) [32333
「牧會上の心得」(ギリシヤ人等) 基督教新聞 1701(5/11) [32334
和田琳熊「宗教教育兒童心理學」(アリストテレース、オーガスチン等)

基督教新聞 1703(5/25)　[32335
「活る者の神」(シーザー等) 基督教新聞 1708(6/29)　[32336
(參考：教界「京都教會」、基督教新聞 1708(6/29)　[32337
----蘆田[慶治]教授「心靈美」[ヘブライズムとヘレニズム])
說苑・安部清藏「日本の精神」（ギリシヤ、ロマ等）基督教新聞 1711(7/20) [32338
說苑・上村邦彦「信仰によれる義」（プトレミウスの天動說等）
基督教新聞 1712(7/27) [32339
新刊「石原謙「宗教哲學」」基督教新聞 1712(7/27)　[32340
清談餘錄・然々否々生「漫言教則」(オーゴスチンの告白錄等)
基督教新聞 1719(9/14)　[32341
「謬まれる國民道德の觀念」(シーザー等) 基督教新聞 1720(9/21)　[32342
(參考：教界「第二十三回日本組合教會教師會執行順序」、
基督教新聞 1720(9/14)　[32343
---- [10/5]金子卯吉「ウィンデルバンドの宗教思想」）
想苑・武本喜代藏「机上の塵」(ベルグソン、オイケン、プラトー、アリストーテル、ギリシヤ美術等) 基督教新聞 1722(10/5)　[32345
說苑・野本稔幸「近代の主知的思想と人文的自由思想」（ニイチェ、ホーマー、ダンテ等）基督教新聞 1722(10/5)　[32346
文界消息「征矢野晃雄譯/ヘフディング著「現代の哲學者」」(ベルグソン等)
基督教新聞 1722(10/5) [32347
鈴木浩二「近代多元論と宗教」(タレース、ベルグソン、シラー等)
基督教新聞 1723(1/12),1724(10/19)　[32348
新刊「木下四郎一「倫理綱要」」基督教新聞 1724(10/19)　[32349
講壇・杉浦貞二郎「予が了解する基督教」(アウグスチヌス、アクイナス等)
基督教新聞 1727(11/9)　[32350
日野眞澄「ルーテルの事業」(アウグステヌース、エラスムス、新プラトーン派等)
基督教新聞 1729(11/23),1730(11/30),1732(12/14)
[32351
栗原[基]生「情感の生活より宗教へ」(アウガスチン等)
基督教新聞 1730(11/30)　[32352
論說・津荷環山「多元論に就て」(タレース等) 基督教新聞 1731(12/7)　[32353
日野眞澄「成肉に就て」(希臘哲學者、ヘーラクライトス、ストーア派、プラトーン、新プラトーン派等)基督教新聞 1733(12/21)　[32354
蘆田慶治「基督降誕に就て」(ミトラ教等) 基督教新聞 1733(12/21)　[32355
海外新刊「希臘の傳說」(The Greek Tradition:Essays in the Reconstruction of ancient Thought, by Ja.Alexker,Thomson)萬朝報 8312(8/16) [32356
出版界「文明と哲學精神」(鹿子木員信著) 東京朝日新聞 1/10　[32357
夏目漱石「點頭錄(4)(5)(6)」（ニーチェ、ヘーゲル等）
東京朝日新聞 1/13,1/14,1/17,1/19　[32358
出版界「世界心國家心個人心」(大島正德著) 東京朝日新聞 1/20
出版界「近世に於ける「我」の自覺史」(朝永三十郎著) 東京朝日新聞 1/26[32359
出版界「現代思想十六講」(中澤臨川、生田長江共著) 東京朝日新聞 2/9　[32360

出版界「幸福論」(ジャン・フィエー/大日本文明協會譯) 東京朝日新聞 3/5 [32361
出版界「神人論」(ソロウィヨフ/關竹三郎譯) 東京朝日新聞 3/25 [32362
出版界「哲學概論」(桑木嚴翼著) 東京朝日新聞 4/13 [32363
出版界「哲學概論」(紀平正美著) 東京朝日新聞 6/19 [32364
出版界「妹の見たるニイチェ」(エリザベト・ニイチェ/磯部泰治譯)
東京朝日新聞 6/22 [32365
出版界「西洋古代中世哲學史」(安倍能成著) 東京朝日新聞 7/12 [32366
出版界「獨和對譯・ツアラトウストラ如是說・第一卷」(山口小太郎講述)
東京朝日新聞 8/4 [32367
出版界「自由思想史」(大住嘯風著) 東京朝日新聞 10/7 [32368
出版界「古代より現代まで西洋哲學史」（シルリイ/若守義孝譯）
東京朝日新聞 11/5 [32369
出版界「人間的な、餘りに人間的な」(ニイチェ/生田長江譯)
東京朝日新聞 12/10 [32370
C.②山本實彦『我觀南國』(附錄・和田垣[謙三]博士英譯「薩摩とスパルタ」) [32371
大類伸『西洋時代史觀・中世』 [32372
ラプソン/山下祥光譯『印度古代史』(第 9「アレキサンダー大王の後繼者」)
[32373
フレデリック・エル・アンダスン/柏井園譯『ナザレの人』 [32374
柏井園『基督の教訓及び人格』 [32375
ルナン/綱島梁川譯・安倍能成補譯『耶蘇傳』 [32376
大井一郎『耶蘇基督』 [32377
ビー・エフ・バックストン講義/米田豐筆記『使徒行傳講義』 [32378
③＊[訂正]世界名婦傳・翠水「ブルータスの妻・ポーシャ」婦人週報 2-15
[22257] [32379
斑龍生「使徒パウロとサロニカ」(アレキサンドル大王等)聲 484 [32380
藤井兩衣(兩衣生?)「痛恨女タイス」(アレキサンドルの遊女))聲 487 [32381
鰐川生「聖ペトロと哲學者ムシウス」聲 487 [32382
浦川砌「西洋史家の誤り傳へた東教會の分離」(中等教科用西洋歷史 62 頁、箕作[元八]博士著西洋史教科書 62 頁)
聲 488,489,490,491,492,493 [32383
今井登志喜「西洋に於ける都市の發達」歷史地理 27-5 [32384
(參考：彙報「史學會大會」、歷史地理 27-5 [32385
東洋史之部：中村久四郎「古代東西交通史に於けるシリア」)
(參考：彙報「兩京帝國大學文科大學史學關係卒業論文題目」、
歷史地理 28-1 [32386
佐藤庄兵衛「基督教初代の弘通」)
(參考：彙報「第 30 回大正五年度檢定本試驗歷史科問題」、歷史地理 28-6 [32387
----- 西洋史：「四、左の名稱に關スル事蹟(甲)ミケネ」)
名女傳・翠子「ブルータスの妻」婦人週報 2-15 [32388
(參考：東京帝大卒論、帝國文學 22-6 [32389
史學科：佐藤庄兵衛「基督教初代の弘通」)

「悔ひ改めよ」(ジュリアス・シーザー)ときのこゑ 8/1 [32390
「史劇ネロ」(ネロとアグリピナ)活動之世界 8 月號 [32391
小野秀雄「暴帝ネロ」日本一 8 月號 [32392
小野[秀雄]文學士「ネロ帝の最後」日本一 9 月號 [32393
荒野浪人「希臘古代の賣笑婦ライス」女の世界 4 月號 [32394
木村鷹太郎「希臘兩性觀」新公論 4 月號春季大附錄 [32395
上智室泉「希臘美少年觀」新公論 4 月號春季大附錄 [32396
蘆谷蘆村「希臘兵士」少年 12 月號 [32397
(參考：教界「京都」(日曜學校教師講習會)、基督教新聞 1684(1/13) [32398
---- 香山洛陽教會牧師「クリストと其時代」[2 回])
史傳・一記者「教會偉人列傳、クリソストム」(羅馬帝國、アウゴスチン、セオドシウス帝等) 基督教新聞 1686(1/27), 1688(2/10),1690(2/24), 1691(3/2) [32399
(參考：教界「東京」(男女問題演說會)[3/26]、基督教新聞 1695(3/30) [32400
---- 宮田脩「スパルタとアゼンス」)
(參考：教界「各地」(第十回北海道組合教會教師會)[6/20]、基督教新聞 1709(7/6) [32401
---- 海老澤亮「原始基督教のメシア觀」)
傳說・皆田篤實「第一世紀の回心者(5)」(ドミシヤン帝等) 基督教新聞 1726(11/2) [32402
④＊[訂正]＊海外史壇「史界近時片々(一)---古代史」史學雜誌 316 [22268]
C.Lazani,Mario e Sulla,Storia della Democrazia Romana negli Anin87-82 av.Chr.,1914) [32403
＊[訂正]蘆山生「アヴァンシュの一夜---瑞西追憶の一節」(羅馬人の古戰等) 六合雜誌 428(36-9) [5468] [32404
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 347 [32405
----- P.Gardner,The Ephesian Gospel,London
J.Huss,The Church,tr.from the Latin by D.Schaff,New York
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 348 [32406
----- G.Stebbing,The Story of the Catholic Church
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 351 [32407
-----H.B.Swete,The Holy Catholic Church:The Communion of the Saints,A Study in the Apostle's Creed,London
G.E.Wolfe,Troeltsch's Conception of the Signification of Jesus,Am.J.Thol.1916,2
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 356 [32408
----- F.Legge,Forerunners and Rivals of Christianity,2 vols.,Canfinge
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 359 [32409
----- G.A.Barton,Archaeology of the Bible
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 360 [32410
-----W.F.Burnside,The Acts of Apostles,Cambridge
W.A.L.Elmslie,The Book of Chronicles,Cambridge
H.M.Relton,A Study in Christology,London
野々村戒三「教會史及教義史の研究」神學之研究 10 月號 [32411

坂口昂「時代の趨勢と史家の任務」(ドロイゼン等)史林 1-1 [32412
福田吉藏「史家モムゼン」雄辯 4 月號 [32413
久保[勘三郎]文學士「ロゼッタ石の話」ミツワ文庫 35 [32414
三井甲之「今年の史學界」日本及日本人 694 [32415
大類伸「西洋中世史を讀みて」(山中謙二著)東亞之光 3 月號 [32416
評論「大正四年の歷史地理學界」歷史地理 27-1 [32417
夏山茂樹「歷史とは何ぞや」歷史地理 27-3 [32418
(參考：彙報「史學會大會」、歷史地理 27-5 [32419
西洋史之部：大類伸「西洋中世史に就いて」)
新刊「大類伸「西洋時代史觀」」歷史地理 28-2 [32420
新刊「島田增平編「事項詳解・日本・東洋・西洋歷史年表」」
歷史地理 28-4 [32421
新刊「橫井春野「西洋史參考書」」歷史地理 28-4 [32422
批評と紹介「マイアズ/齋藤勇譯「聖パウロ」」帝國文學 22-1 [32423
藤東田譯「トルストイ著「沙翁論」」帝國文學 22-5 [32424
石田三治「トルストイの沙翁論を評す」帝國文學 22-6 [32425
新刊批評「齋藤勇「シエイクスピア」」帝國文學 22-6 [32426
新刊「瀨川秀雄「西洋通史」上卷」丁酉倫理會倫理講演集 161 [32427
鹿子木員信「ヨーロッパの戰とニイチェ」丁酉倫理會倫理講演集 163 [32428
新刊「瀨川秀雄「西洋通史」上中下卷」」丁酉倫理會倫理講演集 165 [32429
新刊「袴田吉藏「雄辯二千五百年史」」丁酉倫理會倫理講演集 169 [32430
新刊批評「通俗世界全史・第三卷」(坪内雄藏著、希臘史(下))
萬朝報 8234(5/30) [32431
「通俗・世界全史の内容」(坪内雄藏著、「希臘史上卷」)早稻田講演 6-2 [32432
松枝德麿「現代英國の神秘的國家哲學---國家と戰爭に關するクラムの學說」(ギリシヤ等) 早稻田講演 6-3 [32433
蓑田胸喜「事物の根本關係を論じて徵象主義に及ぶ」(ローマ、リ[ク?]レオパトラ、シーザー等)龍南雜誌 12 月號 [32434
和田萬吉「我國及世界圖書舘の沿革(承前)」(世界古代文明等)
圖書舘雜誌 27 [32435
早坂信「ランプレヒト講術・近代史學」心理研究 60(10-6) [32436
教壇・小崎弘道「平信徒の勢力」(大羅馬帝國等) 基督教新聞 1687(2/3) [32437
「大正の時代」(ペリクレス治世、オーガスタス治世、コンスタンチン大帝治世等)
基督教新聞 1688(2/10) [32438
「落穗籠」(希臘ペリクレス時代のアデンスの人口、クラオデア皇帝時代の自由民等) 基督教新聞 1688(2/10) [32439
新刊「上原謙二「耶蘇傳」」基督教新聞 1691(3/2) [32440
講壇・上田敏「沙翁に對する吾人の態度」(アントニーとクレオパトラ)
基督教新聞 1700(5/4) [32441
新刊「ビー・エフ・パークストン講義/米田豐筆記「使徒行傳講義」」
基督教新聞 1706(6/15) [32442
說苑・米澤尚三「廢墟の閃」(ギボンの名著「ローマ史」等)

基督教新聞 1716(8/24) [32443
文界消息「松本雲舟氏「ベン・ハア」飜譯中」基督教新聞 1725(10/26) [32444
出版界「正史ロマンス」(中島孤島譯述、坪内雄藏補修、アントニーとクレオパトラ) 東京朝日新聞 1/10 [32445
出版界「通俗・世界全史(六巻)」(早稻田大學編輯部編。希臘羅馬の滅亡等)
東京朝日新聞 1/29 [32446
出版界「通俗・世界全史・第二巻」(希臘史[上]、薄田斬雲編)
東京朝日新聞 3/12 [32447
出版界「縮刷・新美辭學」(島村瀧太郎著) 東京朝日新聞 3/18 [32448
出版界「東西六千年」(山路愛山著) 東京朝日新聞 4/13 [32449
出版界「通俗・世界全史・第三巻[希臘史・下巻]」(早稻田大學編輯部)
東京朝日新聞 6/6 [32450
出版界「沙翁傑作集」(坪内逍遙譯。ジュリアス・シーザー、アントニーとクレオパトラ）東京朝日新聞 6/6 [32451
出版界「使徒行傳講義錄」(ビー・エフ・パックストン講述)
東京朝日新聞 6/23 [32452
出版界「通俗・世界全史・第四[羅馬史・上巻]、九巻」(薄田斬雲編)
東京朝日新聞 9/5,9/6 [32453
出版界「改訂增補・西洋史眼」(木村重治著) 東京朝日新聞 10/10 [32454
出版界「西洋上古史」(村川堅固著) 東京朝日新聞 10/12 [32455
出版界「繪入クオヴヂス何處へ行く」(シェンキヴィッチ/近藤京爾著)
東京朝日新聞 11/14 [32456
出版界「通俗・世界全史・第五[羅馬史・下巻]」東京朝日新聞 12/16 [32457
「沙翁祭(三百年紀念祭)」(早大でシーザー劇)國民新聞 4/20 [32458
D.①＊[訂正]楠山正雄『新譯・イソップ物語』(模範家庭文庫→昭 24 再版)
[5472] [32459
澤西徹「イソップ物語講義」英語倶樂部 1(創刊號),2 [32460
ジ・ビ・ピヤソン等編/日本基督教興文協會『舊新約全書・略註』(→大 14) [32461
②エリギエリ・ダンテ/古典文學研究會同人譯『神曲』(向陵社版) [32462
③(參考：彙報「京都帝國大學第七回夏季講演會」、歷史地理 28-2 [32463
濱田耕作「希臘の建築と自然景」)
口繪「ミロのヴィーナス」帝國文學 22-7 [32464
久保勘三郎「アナクレオンの詩」ミツワ文庫 389 [32465
高村光太郎譯「ロダン手記」(希臘藝術等)帝國文學 22-7,8 [32466
新關良三「演劇舞臺と造形美術」心理研究 50(9-2),51(9-3) [32467
(參考：彙報「京都哲學會發會式公開講演會」、心理研究 52(9-4) [32468
松本文三郎「佛教の美術史的研究」）
二瓶東泉「ピレモン書の改譯」基督教新聞 1692(3/9) [32469
④＊[訂正]「故上田敏博士追懷錄」、藝文 7-9 [5500] [32470
谷本梨庵「故人の面影」
佐々木信綱「柳村君の曇つた顔」
桑木嚴翼「上田君を偲ぶ」

深田康算「『うづまき』」
島華水「學生時代の柳村君
濱田耕作(青陵)「故博士の追想」
茅野蕭々「上田博士を憶ふ」
吹田順助「上田敏氏の追想」
成瀬清「敏博士」
瀧川規一「故上田先生を偲ぶ」
村野外牧「故上田敏博士」
一宮榮「思出づる事ども」
細田枯萍「意志の人上田博士」
三上節造「哲人育英家上田博士を偲ぶ」
三谷友三郎「偲びまつりて」
藤井紫影「濃きがまづ散る」
新村出「上田君の遺稿をさぐりて」
福井利吉郎「高木中學時代の上田敏先生」
植田壽藏「最後にお目に懸りたる日まで」
友枝照雄「上田博士をいたみて」
「上田博士著述單行書假目錄」
「上田博士手蹟」
向軍治「ファウストの飜譯」ROMAJI 1 月號 [32471
第一高等學校文藝部「上田敏先生の死を追悼す」
校友會雜誌(第一高等學校)258 [32472
新刊紹介「ミケランジェロ」(木村莊八譯)六合雜誌 36-4 [32473
久保正夫「詩人ヤコポウ・ダ・トーデイ」(プラトーン、アリストテレス、ケーザル、ダンテ等) 六合雜誌 37-10 [32474
(參考：教會だより「秋季特別講演會---岡田哲藏「バイロン」[15 日]」
六合雜誌 36-12) [32475
新刊紹介「イソップ物語」(楠山正雄譯) 六合雜誌 36-12 [32476
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 347 [32477
----- E.W.Lummis,How Luke was Written,Cambridge
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 349 [32478
----- A.H.McNeil,The Gospel of St.Matthew,The Greek Texts with Introduction, notes and Indices,London
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 351 [32479
----- J.T.Dean,The Book of Revelation,Edinburgh
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 353 [32480
----- W.C.Allen,The Gospel according to St.Mark,London
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 356 [32481
---- C.F.Kent,The Work and Teachings of Apostles,New York
J.H.Ropes,A Critical and Exegetical Commentary on the Epistle of St.James, New York
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 360 [32482
-----R.St.John Parry,the First Epistle of Paul to the Corinthians,Cambridge

雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 362 [32483
-----J.Denney,The 1 Epistle to the Corinthians
J.Denney,The 2 Epistle to the Corinthians
G.G.Findlay,The Epistle to the Garatians
太宰施門「中世紀文學と佛欄西國民性」東亞之光 7 月號 [32484
黑田亮「ヘーゲルの藝術觀」東亞之光 10 月號 [32485
島津久基「牛若丸」(エニアス傳說）東亞之光 11 月號 [32486
矢野良曉「グラツドストン夫人」(泰西良妻傳)婦人公論 1-8 [32487
戸川秋骨「アナトオル・フランスの思想」三田文學 7-4 [32488
最近文藝思潮・野口米次郎「牛津思想の將來」三田文學 7-4 [32489
田中王堂「エマソンの現實主義」三田文學 7-5 [32490
太宰施門「ゲーテと獨逸の文化」三田文學 7-7 [32491
太宰施門「新古典主義の文學」三田文學 7-10 [32492
堀口大學「ロダン博物館外一篇」三田文學 7-12 [32493
大賀旭江「ダンテ研究者へ」新人 17-8 [32494
桑木嚴翼「上田[敏]君を思ふ」心の花 12-8 [32495
新村出「上田[敏]君の思出」心の花 12-8 [32496
佐々木信綱「上田敏博士」心の花 12-8 [32497
菊池寛「上田敏先生を憶ふ」新思潮 1-6 [32498
三上節造「スキンバーン」(サフォー、ヴイナス、アフロヂタス像等)
帝國文學 22-1,2,3,4 [32499
上野竈太郎「ローレンス先生の死を悼む」帝國文學 22-4 [32500
(參考：東京帝大卒論、帝國文學 22-6 [32501
文學科：鳴澤寡愆「バイロンの研究」
久野眞吉「ジョルジ・メレヂスの小說に就て」
松浦嘉一「ジョルジ・メレヂスの小說に就て」
下條信敏「詩人としてのバイロン」
藤森成吉「ゲエテのトルファトオ・タッソオ」)
新刊批評・R.S.生「高安月郊「東西文學比較評論」」帝國文學 22-6 [32502
學界記事「東京帝大附屬圖書舘の近況、增加圖書」(羅甸書 24 册)
帝國文學 22-7 [32503
竹友藻風「輓歌(上田敏先生を悼む)」帝國文學 22-10 [32504
新刊批評紹介「ウォルター・ペーター/田部重治譯「文藝復興」」
東洋哲學 23-1 [32505
新刊批評紹介「高安月郊「東西文學比較論」」東洋哲學 23-9 [32506
新刊「田邊尚雄「西洋音樂講話」」丁酉倫理會倫理講演集 161 [32507
新刊「藤浪水處「ハイネ評傳」」丁酉倫理會倫理講演集 172 [32508
鈴木禎二「悲劇の心理」心理研究 48(8-6),50(9-2) [32509
圖書「田邊尚雄「西洋音樂講話」」心理研究 52(9-4) [32510
(參考：「哲學會----- 深田康算「美學と藝術學」」、心理研究 54(9-6) [32511
(參考：「美學心理學會---田邊尚雄「西洋音樂の發達について」、
心理研究 54(9-6)」) [32512

新關良三「藝術の目的---- コンラッド・ランゲの「眩想說」大意」
心理研究 58(10-4) [32513
菅原敎造「美術展覧會の發達」心理研究 58(10-4) [32514
原田[助]博士談「日本に於ける聖書の過去及現在」(イソップ物語の飜譯等)
基督敎新聞 1700(5/4) [32515
編輯局より「ダンテ研究者・大賀旭江子」基督敎新聞 1703(5/28) [32516
編輯局より「中世紀及ダンテ研究家・中山昌樹君」基督敎新聞 1704(6/1) [32517
中山昌樹譯「巡禮に寄せて---ダンテ「新生」の一節」基督敎新聞 1705(6/8) [32518
故・川中勘之助氏遺稿「日曜學校に於ける舊約聖書の價値(承前)」(イソップ物語等) 基督敎新聞 1717(8/30) [32519
内ケ崎作三郎「我國文學と基督敎との交涉」(オイケン、ベルグソン等)
基督敎新聞 1734(12/28) [32520
新刊批評「縮刷・新美辭學」(島村瀧太郎著)萬朝報 8156(3/13) [32521
海外新刊「ダンテ」(Dante:How to Know Him,by A.Mansfield Brooks)
萬朝報 8312(8/16) [32522
「在職廿五年のエック先生」萬朝報 8395(11/7) [32523
「帝大敎授ローレンス氏逝く」報知新聞 3/13 [32524
出版界「イリヤード」(ホメロス/馬場孤蝶譯) 東京朝日新聞 1/11 [32525
出版界「泰西の繪畫彫刻」(河本龜之助著。彫刻篇のみ) 東京朝日新聞 1/18[32526
出版界「グラッドストーン傳」(守屋貫敎、松本雲舟共著)
東京朝日新聞 1/31 [32527
出版界「十日物語」(ペトラルカ/戸川秋骨譯)東京朝日新聞 2/26 [32528
新刊「木村莊八「ボテイチェリ」」新小說 21-7 [32529
石原謙「ダンテ「神曲」に現はれたるルネサンスの精神」アララギ 9-1 [32530
阿部次郎「ゲーテ詩抄」アララギ 9-7,8,9,10,11 [32531
彙報・津田左右吉「インド文學と國文學との交涉」(百合若傳說)
史學雜誌 27-5 [32532
新村出「伊會保物語の漢譯」明星 1 月號 [32533
新村出「繪巻本「伊會保物語」の傳來」愛書趣味 5 月號 [32534
國府田邦一「熱火の天才バイロン」雄辯 5(春季增刊號) [32535
臺凌雲「民族的天才ゲーテ」雄辯 5(春季增刊號) [32536
三浦吉兵衛「文藝復興期」人文 12 月號 [32537
新村出「近世文化史料と九州の圖書舘」(キリシタン版) 圖書舘雜誌 26 [32538
伊原青々園「日本に於ける沙翁劇」早稻田文學 4 月號[沙翁紀念號] [32539
E.①＊[訂正]末松謙澄譯註・田中秀央共譯・宮崎道三郎校閲『ユスチーニアヌス帝欽定羅馬法學提要』(3 版) [5501] [32540
＊[訂正]ウルピアーヌス/末松謙澄譯註・田中秀央共譯・宮崎道三郎校閲『羅馬法範』(←大 6.E.①) [5698] [32541
＊[訂正]末松謙澄譯註・田中秀央共譯・宮崎道三郎校閲『ガーイウス・羅馬法解說』(←大 6.E.①) [5699] [32542
②ロベルト・リーメルス/經濟雜誌社譯『萬國通商史』(經濟叢書) [32543
③富山單治「羅馬時代の辨護人」法律新聞 1130,1133 [32544

研究・相馬勇二「基督の神國觀」(希臘の哲人、オーガスチン、ダンテ等)
基督教新聞 1718(9/7) [32545
④麻生霞城「教皇の教權と政權」(コンスタンチノ大帝等)聲 482 [32546
彙報「帝國學士院事業報告」、歴史地理 28-5 [32547
------「一、事業報告ニ於テ/末松謙澄「羅馬法律書飜譯出版ノ狀況報告」
「ニ、出版/ウルピアーヌス羅馬法範、ガーイウス羅馬法解說」
友枝高彦「國家の生存と理想の問題」(シーザー、アレキサンダー、アキレス、希臘羅馬の古文明、アリストートル、スパルタ、ローマとカルセージ、フィニシヤ、ゲーテ、ヘーゲル、ダンテ等)
丁酉倫理會倫理講演集 166 [32548
山崎學士「ニーチェの思想と歐洲戰亂」外交 6 月號 [32549
新刊批評「世界主義國民主義」(亞典とスパルタ、羅馬等)萬朝報 8177(4/3) [32550
安倍能成「貴族主義と平民主義」(プラトーン、ニーチェ等) 新小說 21-7 [32551
鶴見祐輔「平和論の開祖グロシアス」雄辯 5(春季增刊號) [32552
F.②＊[訂正]ぼあいえ一/林鶴一譯『數學史』(數學叢書 19) [5511] [32553
＊[訂正]久木田隊五(伍?)『化學史及化學大家傳』 [5515] [32554
③箕作[元八]博士「古代のオリンピア競技」東道 10 月號 [32555
中澤臨川「自然哲學の主潮」(?)中央公論 2 月號 [32556
林鶴一「和算ニ於ケルぴたごらすノ定理ノ證明」東京物理學校雜誌 293 [32557
本田親二「天文學ノ發達ト世界文明中心ノ推移」(希臘天文學、ひつぱるかす、とれみ等)東京物理學校雜誌 300 [32558
書評・小倉金之助「菊池大麓「幾何學新教科書」・林鶴一譯「ボアイエー數學史」」
Tohoku Math.J.vol.9,10 [32559
④新刊「田邊元「最近の自然科學」」(4 版) 丁酉倫理會倫理講演集 164 [32560
圖書「田邊元「最近の自然科學」」心理研究 53(9-5) [32561
出版界「生物學と哲學との境」(永井潛著) 東京朝日新聞 5/7 [32562
G. 新刊批評「芳賀矢一・安井小太郎・服部宇之吉「格言大辭典」」
帝國文學 22-6 [32563
新刊紹介「井上十吉「井上英和大辭典」」東洋哲學 23-5 [32564
雜錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 351 [32565
----- J.Hastings(ed.),Dictionary of the Apostolic Church,vol.I,Edinburgh
出版界「新々英和辭典」(三省堂編輯部編) 東京朝日新聞 5/19 [32566
出版界「語原本位英和辭典」(廣島中學校英語研究部編) 東京朝日新聞 7/12[32567
出版界「經濟大辭典・第九巻」(同文舘) 東京朝日新聞 7/15 [32568
出版界「井上英和中辭典」(井上十吉編) 東京朝日新聞 9/8 [32569

大６(１９１７)
A. 遠藤吉三郎『西洋中毒』(?) [32570
惠美東臺「民族心理と政治文明の趨勢」日本評論 21(2-1) [32571
(參考：彙報「東京帝國大學文科大學新年度講義題目中」、帝國文學 23-10[32572
哲學科：哲學概論(井上)、西洋哲學史概說(桑木)、心理學概(松本)、倫理學

概論(中島)、希臘哲學(ソクラテス迄、波多野)、認試論一般(紀平)、近世倫理學史(中島)、美學概論(大塚)、教育學概論(吉田)、明治教育思想史附演習(プラトン國家論、吉田)、一般教育學(林)

史學科：史學概論(坪井)、西洋史概說(村川、箕作)、第十九世紀歐洲史(七月革命以後、箕作)、第十八世紀ノ佛國文化及ビ大革命ノ由來(箕作)、羅馬史(村川)、史籍解題 (L.Sevin, Geschichtliches Quellenbuch、村川)、西洋中世史講義及演習(大類)

文學科：文學概論(松浦)、言語學概論(藤岡)、Literature of the Eighteenth Ceutury(プレイフェア）、Outline of English Literature（千葉)、Goethes Faust(青木)、Deutsche Literatur der Neuzeit（グールマン)、Goethes Gotz von Berlichingen und Egmont（グールマン)、Hebbels Dramen（グールマン)、 Histoire générale de la Litterature Française (エック)、民族と言語(演習、藤岡)、希臘下級用書(White:First Greek Book,Xenophon:Anabasis 1、田中)、希臘上級用書(1.Lucian:Vera historia,2. Aeschylos:Prometheus Vinctus, 3.Plato:Apologia、田中)、羅甸語下級・羅甸文法(Morton:Legends of Gods and Heros、田中)、羅甸語上級(Caesar: De Bello Gallics, Virgilius: Aeneid, Cicero:De Senectute、田中)、希臘神話(田中)、希臘羅馬文學史(コット)、希臘語(コット)、美術史(伊東)、地理學概(山崎))

(參考：彙報「東京帝大學史學科本學年講義題目中」、歷史地理 30-4 [32573
史學概論(坪井)、第十八世紀佛國文化及び大革命の由來(箕作)、羅馬史(村川)/副科目---西洋哲學史概說(桑木)、英吉利文學史概說(千葉)、佛蘭西文學史概說(エック氏)、希臘羅馬文學史(コット氏))

(參考：彙報「京都帝大史學科本學年講義題目中」、歷史地理 30-4 [32574
史學研究法(坂口)、西洋史概說(坂口)、ビザンツとルネサンス(坂口)、古代東方國民の文化(濱田))

新刊「辻善之助「海外交通史話」」歷史と地理 1-1 [32575

濱田耕作「伊太利紀行」歷史と地理 1-1,3 [32576

(參考：消息[慶應義塾大學]「文科教室」、三田文學 8-6 [32577
「ヴントを根據としての民族心理學」(川合)、希臘美術史(澤木)、ゲエテの研究(阿部)、歐洲演劇史(小山内[薫])、佛蘭西近代文學(太宰))

YK 生「「自ら裏切つたヴント教授」について」(教育學術界 12 月號)
心理研究 62(11-2) [32578

城戸幡太郎「聯想及び想像の民族的研究」心理研究 68(12-2) [32579

城戸幡太郎「心理學に於ける民族的研究方法に就て」(ヴント批判)
心理研究 71(12-5) [32580

(參考：教界「協同傳道士會---- ギリシヤ文明と戰爭との關係」
基督教新聞 1764(7/19)) [32581

「新世界の黎明期---ウォード・ペトリオチズム」(文藝復興、ヘレニズム復興、ニーチェ等) 基督教新聞 1770(9/6) [32582

雜錄・九轉十起生「富士山に寄せて所感を述ぶ」(ローマ帝國等)
基督教新聞 1771(9/13) [32583

論說・小山東助「歐洲文明の危機」(フェレロの近代アメリカと古代羅馬の比較等)
基督敎新聞 1774(10/4) [32584
廣告 [第十二回獨逸語夏期講習會(獨逸語專修學校) ----課外：羅甸語講習]
萬朝報 8616(1/16) [32585
出版界「西洋文明史觀」(齋藤斐章著)東京朝日新聞 12/14 [32586
B.②＊[訂正]井上圓了『奮闘哲學』(「西洋哲學の對照」) [5539] [32587
田中王堂『哲人主義論』 [32588
賀川豐彦『埃及宗敎推移の研究』 [32589
武藤健『マルチン・ルーテル』 [32590
マッギフオート/村田勤譯『マルチン・ルーテル』 [32591
グスターフ・フライタッハ/高橋信太郎譯『マルティン・ルウテル』 [32592
湊謙治『「信」の内村鑑三と「力」のニイチェ』 [32593
萩原清次郎『基督敎と近世思想』 [32594
今井三郎『宗敎と民主思想』(?) [32595
③＊[訂正]狄嶺「ソクラテスに就いて」月刊・世界大學 1 [5558] [32596
＊[訂正]諸家「ソクラテス講演の反響」月刊・世界大學 1 [5559] [32597
齋木仙醉「哲學者ソクラテス」月刊・世界大學 1 [32598
敎界彙報「公敎青年會第 11 回の例會」(龜とアルキレス[アキレス]の噺)
聲 503 [32599
「飲酒は濫費なり----(3)元來無駄な物」(賢人ダイゼニス)ときのこゑ 2/11 [32600
下澤瑞世「材能發生進化の先天的要素と後天的要素」(アリストートル、アウグステーヌス、ニイチェ、ゲーテ、ハンニバル、コンスタンチウス、エラスマス、エマーソン等) 東洋哲學 24-9,11 [32601
「東洋大學創立三十周年記念號」、東洋哲學 24-10 [32602
-----下澤瑞世「東西哲學的行動の年齡的發達」(エマーソン、ミル、ニイチェ、ラスキン、ガッサンディ、ベルグソン、ヘーゲル、ギゾー、オイケン、ウィンデルバント、ナトルプ等)
井上哲次郎「東洋哲學の歷史的價値」(ターレス、ドイッセン等)
齋木仙醉「歌劇ヴェヌス」ニコニコ 7 月號 [32603
虹之助「パンドラ物語」子供と科學 7 月號 [32604
坂口昂「古代の宗敎界(1)」無盡燈 22-1 [32605
「冷哲學者」(デモスゼネス、シセロ等)萬朝報 8671(8/10) [32606
思潮・甲浦(學人)生「新約聖書を根據とせる基督敎倫理と戰爭」(プラトーのゴルギアス等)
基督敎新聞 1765(8/2) [32607
研究・日野眞澄「使徒信條の由來と其眞義(3)(4)」(羅馬皇帝トラヤヌス帝、プラトーン等) 基督敎新聞 1765(8/2),1767(8/16) [32608
(參考：「日曜學校」(高等科第三學年敎案、第 28 課)、
基督敎新聞 1768(8/23) [32609
----- 主題：「放蕩兒より聖者となれるオーガスチン」)

④＊[訂正]雑錄「最近内外哲學界」哲學雜誌 362　[22352]　[32610
W.M.Frankl,“Dialogue:Platon oder über die ersten Dinge zur Einführung in die Methodes des Platonismus”　)
＊[訂正]野村隈畔「五月の思想界」(田中王堂「哲人主義論」)六合雜誌 437 [5600]　[32611
ミー・アル・ボオエン「新約全書の二問題と最近の論爭」(ソクラテス、ゼノフォン、プラトー等)六合雜誌 37-1　[32612
野村隈畔「大正五年の思想界大觀」六合雜誌 37-1　[32613
田部隆次「マーク・ラサフォードの斷片」(ギリシヤ人、ローマ人、プラトー等) 六合雜誌 37-1　[32614
新刊紹介「キリスト?ニイチェ?」(小說。湊謙治著) 六合雜誌 37-2　[32615
(フォアスタア)橋本正三「變化したる世界觀」(ヂオルダノ・ブルーノ、ソクラテス、プラトーン派等) 六合雜誌 37-5　[32616
三並良「超人の理想」(ニイチェ) 六合雜誌 37-12　[32617
ラピアーナ「伊太利の近世主義概觀」神學之研究 2 月號　[32618
須貝正「ニイチェの倫理に就て」神學之研究 2 月號　[32619
ドルタル・ド・レゼー師講演「誤れる理想」(ホメール、ヴ井ルヂル、ホラス、シセロン等)聲 494　[32620
浦川砌「中世紀に於ける歐洲の時代精神」(コンスタンチン大帝等)聲 497　[32621
須田井飛燕「公教會と學術」(古代希臘羅馬の典籍の保存、シセロ、セザル等) 聲 498　[32622
墨田生(庭泉)「アンテオキアの聖爵」(コンスタンチン大帝等)聲 498　[32623
岩下壯一「ソロウイエフと公教會----神人論の飜譯を讀みて」聲 500　[32624
質疑解答「未信者なる良人に對する態度」(聖オグスチノ、母モニカ等) 聲 502　[32625
浦川砌「教皇ボニファチオ八世と佛王フィリッポ四世」(羅馬法、アリストテレス、詩仙ウイルセシウス、ユスチニアン法典等) 聲 503　[32626
「幽明兩界の交通」(コンスタンチノ大帝、聖オグスチノ、母モニカ等) 聲 504　[32627
天涯孤客生「私の觀た日本の宗教(10)」(アリストテレス等)聲 504　[32628
春待月號「哲人ニイチェ」三田新聞 12/13　[32629
石原謙「宗教改革史餘談」(宗教改革とアリストテレス)思潮 5　[32630
岡本春彦「焚刑された哲人ブルノー」歷史と地理 1-2　[32631
小山内薰「泰西名劇の上演について島村抱月氏に訊す」中央公論 12 月號　[32632
(參考：彙報「東京京都兩帝國大學文科大學本年度卒業論文題目」、歷史地理 30-1　[32633
出隆「スピノザに於ける二元性と認識」)
和辻哲郎「自然兒が愛の宗教を産むまで(古代印度文化概說)」(希臘文化等) 帝國文學 23-11　[32634
芝田清吾「愛と宗教」校友會雜誌(第一高等學校)262　[32635
新刊「戸川秋骨譯「エマアソン論文撰集」」三田文學 8-12　[32636

著作及出版「(久津見)蕨村「ゲオルグ・ハインリッヒ/石原謙・山谷省吾譯「原始基督敎」」中外 1-2 [32637
下澤瑞世「材能態度の類型差異を論じ生命終息曲線に及ぶ」(ニイチェ、プラトーン、オイケン、ゲエテ、ターレス、ピタゴラス、エンペドクレース、ブルーノ、アリストテレース、ベルグソン、フムボルト、ダンテ、ケーザル、スピキオ等)
東洋哲學 24-1,2 [32638
新刊紹介「大住嘯風「自由思想史」」(希臘の自由思想發達等)
東洋哲學 24-1 [32639
新刊紹介「フランク・シルリー/若守義孝譯「古代より現代まで西洋哲學史」」
東洋哲學 24-1 [32640
新刊紹介「スマイルス/畔上賢造・竹村修譯「自助論・品性論」」
東洋哲學 24-1 [32641
田部重治「偉人」(プラトー、ゲーテ等) 東洋哲學 24-1 [32642
内山醒醉「浩然の氣とは何ぞや」(イオーニア學派のアナキシメネース等)
東洋哲學 24-3 [32643
紀平正美「青年宗教家の覺悟」(ソークラテースのダイモニオン等)
東洋哲學 24-7 [32644
寄贈書籍紹介「和辻哲郎「ニイツェの書簡集」」東洋哲學 24-8 [32645
中島力造「獨逸哲學と歐洲大戰亂」(アリストートル、希臘時代の權力主義、ヘーゲル、ゲーテ、シラー、ニーチェ等)
丁酉倫理會倫理講演集 173,174,180,183,184 [32646
新刊「ニイチェ/生田長江譯「人間的な、餘りに人間的な」」
丁酉倫理會倫理講演集 173,176 [32647
應問・(?)「文檢修身科の受驗參考書を御敎示下さい」、
丁酉倫理會倫理講演集 174 [32648
-----答・中島力造「(西洋)倫理學說十回講義」、吉田靜致「西洋倫理學史」
應問・大山生(北海道)「聖オウガスチンを研究いたしたく候が(英文若しくは邦文で)同人の著書又は個人に關する著書を御敎示下され度く候」、丁酉倫理會倫理講演集 178 [32649
-----答・英文 Confession(丸善、中西屋)、邦譯(宮崎八百吉氏のものあり)。「聖オーガスチンは如何にして信者となりしか」(定價十錢)、「モニカの傳」(オーガスチンの母、定價四十錢)、いづれも警醒社發賣。
記者「忠君愛國の自然的發達史」(ウェスターマーク氏「道德的觀念論の起源及發達史の一節」、古代希臘羅馬思想、ストア派等)
丁酉倫理會倫理講演集 179 [32650
新刊「湊謙治「内村鑑三と力のニイチェ」」丁酉倫理會倫理講演集 183 [32651
應問・松田信太郎(靑森)「吉田靜致著「西洋倫理學講義」158 頁 1 行以てオウグスティーヌスの學說として「人は自力にて善をなし惡を避け神の法則に適合する樣に行ふことの出來ないものである。是非共神の力を借りなければならない。人は自ら

善をなし得る自由の力を有して居らないものである。此の自由を有せずといふ事が頗る重大なる意義を有する」云々と。/中島力造著「倫理學說十回講義」332 頁末行に「氏の倫理說は意志を基礎として居る所の倫理說である。人の意志は自由である。二樣の意義に於て自由であること」云々とオウガステーヌスの說をときたり。右二說につき何れが眞なるや、御教示下され度く候」、
丁酉倫理會倫理講演集 183 [32652

-----答・吉田說は(人類の)始祖の犯罪以後に就いて眞であり、中島說は以前に就いて眞である。

應問(新潟縣佐渡郡・廣田又一郎)「日本の哲學者心理學者中にて英米獨佛の斯學界に對して誇るに足るべき或は少くとも敢て遜色なき學說又は學者が我國に於いて必ずしも無しと信ずること能はず、然れどもそは何人が如何なる事を如何なる槪念を發表せしやを知らず、御教示を希ふ」、心理研究 62(11-2) [32653

----- (答)香川(希臘哲學、哲學史分あり)

讀書會・中島力造解說「Santayana,Egoism in German Philosophy」
心理研究 65(11-5) [32654

論說・日野眞澄「過去五十年間に於ける我國神學の變遷」(希臘哲學、オリゲネス、ヘーゲル、クリストリープ氏等)
基督敎新聞 1735(1/6) [32655

想苑・三輪源造「萬歲新年の讚歌」(ヘレニズム、プラトーン等)
基督敎新聞 1735(1/6) [32656

說苑・安部淸藏「大正六年の傳道」(ソクラテス等)
基督敎新聞 1736(1/11) [32657

講壇・日野眞澄「ルーテルの事業」(ストーア派等) 基督敎新聞 1737(1/18) [32658

海老名彈正「靈能の宗敎」(オーゴスチン等) 基督敎新聞 1742(2/22) [32659

淸談餘錄・然々否々生「漫言敎則」(オイケン等) 基督敎新聞 1744(3/8) [32660

編輯局より「ルナン「アンチクライスト」」(タシタス、ローマ史等)
基督敎新聞 1745(3/15) [32661

敎壇・宮川[經輝]牧師「富厚の表彰」(デモセネス等)
基督敎新聞 1747(3/29) [32662

山崎弘道「家庭敎育と宗敎」(セネカ等) 基督敎新聞 1748(4/5) [32663

蘆田慶治「復活祭所感」(コンスタンチン大帝、アウグスチヌス、オリゲネス、希臘思想等) 基督敎新聞 1748(4/5) [32664

甲浦[學人]生「ルナン著「アンチクライスト」」
基督敎新聞 1751(4/26),1753(5/10), 1754(5/17), 1755(5/24),1759(6/21), 1760(6/27) [32665

海老名彈正「救済の宗敎」(ローマ史等) 基督敎新聞 1753(5/10) [32666

「幻覺と現代生活」(アケドニヤ、アレキサンダー、ダンテ、オイケン、ベルグソン等) 基督敎新聞 1755(5/24) [32667

說苑・安部清藏「傳道界と夫人の分野」(オグスチノの母モニカ等)
基督教新聞 1755(5/24) [32668
講壇・小崎弘道「現代思想と神學」(ギリシヤ・ローマの學者、ギリシヤ哲學等)
基督教新聞 1756(5/31) [32669
說苑・本間俊平「永久大安全城壘は何處にあるか」(プラトー、アリストートル等) 基督教新聞 1756(5/31) [32670
川添萬壽得「如何にして教職の使命を完ふすべきか」(オーガスチン等)
基督教新聞 1757(6/7) [32671
「創造的能力としての祈禱」(ダンテ神曲等) 基督教新聞 1760(6/28) [32672
想苑・米澤(尚三)生「海に對して」（女神サイレン等）
基督教新聞 1763(6/28) [32673
「指導者出現」(アウガスチン等) 基督教新聞 1768(8/23) [32674
「我國の思潮傾向、果して如何」(ゲーテ、シラー、レッシング、プラトー等)
基督教新聞 1772(9/20) [32675
「現代精神と宗教改革」(ヘレニズム等) 基督教新聞 1773(9/27) [32676
論說・ラルネデ「ルーテルの事業の實際的意義」(オーガスチン等)
基督教新聞 1773(9/27) [32677
栗原基「ルーテルの一面を思ひて」(ゲーテ、コンスタンチン大帝等)
基督教新聞 1773(9/27) [32678
「宗教改革所感」(鈴木浩二「オーガスチン神學、ルネサンスの人格主義」)
基督教新聞 1773(9/27) [32679
會木銀次郎「宗教改革運動開初四百年に際して」(プラウタス、ヴァージル、アリストートル、オーガスチン等)
基督教新聞 1773(9/27) [32680
(參考：教界「大阪」(大阪教會秋季講演會)、基督教新聞 1773(9/27) [32681
----- 松本益吉「ニイチェ乎、キリスト乎」）
(參考：教界「京都」(京都教會)、基督教新聞 1773(9/27) [32682
----- 島原逸三「ニイチェとキリスト」）
「未來性ありや」(オーガスチン等) 基督教新聞 1777(10/25) [32683
内村鑑三「宗教改革の意義」(セント・オーガスチン、ニーチェ等)
基督教新聞 1777(10/25) [32684
桑木嚴翼「意志力の解放」(希臘文明、羅馬文明等)基督教新聞 1782(11/29), 1783(12/6) [32685
新刊「今井三郎「宗教と民主思想」」基督教新聞 1783(12/6) [32686
論說・今泉眞幸「眞正のメシヤ」（アレキサンドリアの神學者等）
基督教新聞 1785(12/20) [32687
新刊批評「代表的偉人論」(エマアソン著、平田禿木譯。プラトーン、ゲーテ等)
萬朝報 8635(7/5) [32688
新刊批評「偉人の逸話」(逸話 150 撰、中井修著))萬朝報 8649(7/19) [32689
海外新刊「歐洲哲學史」(The History of European Philosophy, by W.A.Marvin)
萬朝報 8675(8/14) [32690
出版界「キリスト?ニイチェ?」(湊謙治著。小說) 東京朝日新聞 1/19 [32691

出版界「エマアソン全集・第一巻論文集」(平田禿木譯)
東京朝日新聞 3/19 [32692
出版界「エマアソン全集・第八巻人生論」(戸川秋骨譯)
東京朝日新聞 4/19 [32693
出版界「西洋近世哲學史」(安倍能成著) 東京朝日新聞 6/7 [32694
出版界「ニイチェ書簡集」(和辻哲郎譯) 東京朝日新聞 6/7 [32695
出版界「美學原論」(大西克禮著) 東京朝日新聞 6/17 [32696
出版界「教育學說の進化」(ジョン・アダムス/中島半次郎譯)
東京朝日新聞 10/23 [32697
出版界「エマアソン全集・第七巻自然論・演說及講演」(戸川秋骨譯)
東京朝日新聞 10/23 [32698
出版界「エマアソン論文選集」(戸川秋骨譯) 東京朝日新聞 10/26 [32699
和辻哲郎「ニイチェ」大學評論 2 月號 [32700
和辻哲郎「二十九才のニイチェ」新小說 22-3 [32701
新刊「和辻哲郎譯「ニイチェ書簡集」」新小說 22-8 [32702
丸善店員談「昨今の讀書界」(ベルグソンとオイケン廢れる)都新聞 11/22 [32703
岩野抱鳴「博士ケーベルその人」新日本主義 2-11 [32704
山本鼎「力の藝術とロダン」中央美術 2 月號 [32705
C.②阪本健一『西洋歷史集成(上)』 [32706
黑板勝美『世界歷史對照年表』 [32707
大日本雄辯會編『史上警句集』(希臘分あり) [32708
加藤栗泉『世界奇聞全集』(「巨壁廢墟」ポムペイ等) [32709
ジョン・イー・ホヰツテケル/佐々城佑譯『超絶せる生涯』(イエス) [32710
梶原長八郎『パウロの人物と信仰』 [32711
宮川巳作『聖書の話』(→大 13 再版) [32712
ラルネデ講術/大宮季貞筆錄『使徒行傳講解---新約聖書』 [32713
ラルネデ講術/大宮季貞筆錄『羅馬書講解----新約聖書』(3 版) [32714
高橋卯三郎『馬可[マコ]傳講義』 [32715
③坂口昂「世界史の古今觀」歷史と地理 1-1 [32716
(參考：彙報「第 31 回大正六年教員檢定本試驗歷史地理科問題中」、
歷史地理 30-6 [32717
------ 西洋史：「一、上古に於ける地中海海上勢力の爭奪」)
(參考：彙報「本會第百回談話會記念大會記事」、歷史地理 30-6 [32718
白鳥庫吉「亞細亞地方の古代民族」
坪井九馬三「西洋古代の民族」)
多胡雨絃譯「(ストリンドベルヒの史上巡禮)レオントポリス」
六合雜誌 37-8 [32719
草野牛郎「戲曲第一部----またはイエスと七人の男一幕」
校友會雜誌(第一高等學校)261 [32720
トレー教授「使徒行傳著作の研究」神學之研究 4 月號 [32721
村川堅固「ポエニ戰役と今の大戰亂」ローマ字 12-5 [32722
新見吉治「西洋兵制の沿革を述べて國民の覺悟に及ぶ」尚古 67 [32723

賢者の由來「(14)歷山王の征服」ときのこゑ 10/15 [32724
賢者の由來「(15)墮落文明の侵入」(亞歷山王)ときのこゑ 11/1 [32725
賢者の由來「(16)アンテオアカス」(歷山王)ときのこゑ 11/15 [32726
賢者の由來「(17)マツタテアス」(ジュピター神、希臘人の王等)
ときのこゑ 12/1 [32727
賢者の由來「(18)歷山都」(アレキサンドリア)ときのこゑ 12/15 [32728
歌川若葉女史「袈裟御前」(クレオパトラ) 東京朝日新聞 10/6 [32729
無名氏「バタの臭(11)---倫敦略史」(羅馬の名將ジュリアス・シーザー等)
東京朝日新聞 11/13 [32730
下澤瑞世「歷史學の進化と予輩の行動進化學」(アーノルド、オイケン、ヘーゲル、
ウィンデルバンド、ギゾー、セニョーボス、
ヒロドトス、サシヂヂス[?]、ツギティデス、
ダンテ等) 東洋哲學 24-4,5 [32731
堀内文次郎(中將)「歷山大王印度遠征」飛行少年 1 月號 [32732
濱田青陵「羅馬の最古橋」世界(學生別刊)1 [32733
長谷川直吉「エッセネ宗研究」(ツエラー氏、ピタゴリアン哲學等)
基督敎新聞 1743(3/1) [32734
(參考：「日曜學校」(高等科第三學年敎案、第 12,18 課、第 3 部----ヘロドトス、エ
ペソ、アテン人、コリント、ローマ、アレキサンダー大王、
ローマ史、プリニー書簡とトラジャン帝、ジャスチン帝の
生涯、マーカス・オウレリアス等)、
基督敎新聞 1748(4/5), 1755(5/24),1767(8/16)) [32735
宮川經輝「哥林多書の敎訓」(アステン人、プラトー、アリストートル等)
基督敎新聞 1766(8/9) [32736
說苑・赤星仙太「パウロの典型的生涯」基督敎新聞 1779(11/8),1780(11/15) [32737
④＊[訂正・削除]多胡雨絃譯譯「アインハルドよりエムマル---ストリンドベルヒの史
上巡禮」六合雜誌 438 [5643] [32738
向軍治「シェンキウ井ッチ氏を弔ふ言葉」ローマ字 12-4 [32739
甕江散史「進歩か退歩か」(古代羅馬史研究家モムセン等)聲 495 [32740
敎界彙報「公敎文豪の逝去」(シェンキウイチ、「クオ・ヴァヂス」の著者)
聲 495 [32741
植村清之助「中世から近世へ」歷史と地理 1-1 [32742
最近史界・板澤「箕作元八「海と歷史」(東洋學藝雜誌 425）」
歷史地理 29-3 [32743
彙報「我國考古學の將來」(濱田耕作、大阪朝日 3/6～3/13[5 回])
歷史地理 29-4 [32744
新刊「廣瀨哲士譯「歐洲政治史槪論」」歷史地理 30-2 [32745
新刊「廣瀨哲士譯「歐洲政治史槪論」」三田文學 8-7 [32746
甲浦[學人]生「注目すべき我邦の基督敎史」(ヘボン博士、高山樗牛のニイチェ等)
基督敎新聞 1738(1/25),1744(3/8) [32747
彙報「日曜學校敎師養成所」(柏井園「基督傳」) 基督敎新聞 1741(2/15) [32748
淸談餘錄・然々否々生「漫言敎則」(アレキサンデル帝國、羅馬帝國等)

基督教新聞 1768(8/23) [32749
「改譯聖書略ぼ成る」報知新聞 8/8 [32750
福田德三「予が偉人觀」(シーザー、アレキサンダー、バイロン、ゲーテ、ヘーゲル等) 東京朝日新聞 1/1 [32751
出版界「クレオパトラの鼻」(大住嘯風著) 東京朝日新聞 4/2 [32752
D.①菊池義郎「ゆりしす物語」史壇文藝 8 月號 [32753
②上田敏[未定稿]・朝永三十郎等編『ダンテ神曲』(星野敬一) [32754
木村鷹太郎譯『バイロン傑作集』(内外出版協會→大 7 年,後藤商店出版部) [32755
西宮藤朝『哲人高山樗牛』 [32756
高村眞夫『歐洲美術巡禮記』 [32757
マクネア/別所梅之助譯『讃美歌物語』 [32758
③＊[訂正]澤木梢「アフロデットの脱衣」中央美術 8 月號 [5673] [32759
會山生「世界の偉觀----羅馬の聖伯多祿[ペテロ]大聖堂」聲 504 [32760
質疑解答「聖像聖畫の崇敬」(レオ皇帝、コンスタンチノ大帝等)聲 505 [32761
(參考：彙報「學會講演」、歷史地理 29-1 [32762
・[東亞協會」瀧精一「健駄羅美術に對する批判」
・[考古學例會」大隅爲三「希臘羅馬の古鏡」）
(參考：彙報「第 19 回史學會大會」、歷史地理 29-6 [32763
西洋史部：「村川堅固「現代戰とポエニ戰との比較」)
井汲清治「藝術の「形式」と「内容」」三田文學 8-1 [32764
(澤木)梢「表紙國の說明」(クニドスのアプロヂィツト)三田文學 8-1 [32765
甲野哲之助「Venus の石膏像」(小說) 校友會雜誌(第一高等學校)262 [32766
新村出「蛇の語原(上)」(ホーマー等)東京朝日新聞 1/1 [32767
無名氏「バタの臭(28)---風俗と習慣」(希臘羅馬の裸體彫刻等)
東京朝日新聞 12/6 [32768
平田禿木「喜劇の魂---ジョオジ・メレデイス」帝國文學 23-10 [32769
④＊[訂正]深田康算「美しき魂」(獨文學、ゲーテ、シラー等)思潮 2-10
[16664] [32770
新刊紹介「中山(井上?)昌樹譯「ダンテ・神曲地獄篇」」六合雜誌 37-3 [32771
新刊紹介「林靜太「友誼と理想より觀たる婦人の精髄」」(「詩聖ダンテの理想の佳人ピアトリス」) 六合雜誌 37-3 [32772
隨時評論「ダンテ「神曲」の飜譯」(向陵社の完譯、山川丙三郎氏の未完譯、中山昌樹氏の全譯、故上田敏博士の「地獄篇」、馬場胡蝶氏の飜譯等)聲 498 [32773
鰐川「ダンテ「神曲」中の聖母」聲 502 [32774
新村出「西洋畫傳來の起源」太陽 1 月號 [32775
新村出「本邦英語學史話」英語青年 4/1 [32776
稻毛詛風「文藝上の理想主義」(オイケン)帝國文學 23-2 [32777
文藝だより「高瀨俊郎---フェネロンのテレマックスを飜譯中」
帝國文學 23-2 [32778
文藝だより「土屋文明---ホーマーのイリアードを飜譯中」帝國文學 23-2 [32779
新刊「古典文學會譯「ダンテ・神曲」」帝國文學 23-2 [32780

小松武治「ダンテの詩と宗教」開拓者 7 月號 [32781
(參考：彙報「東京京都兩帝國大學文科大學本年度卒業論文題目」、
歷史地理 30-1 [32782
增田寅雄「バイロン研究」)
消息「澤木梢氏の風邪」(ヴエニュス・ド・ミロの續稿不掲載)三田文學 8-4[32783
井汲清治「傳統主義に到るまで---十九世紀佛蘭西文學主潮より現代に及ぶ」
三田文學 8-6 [32784
消息「澤木梢「美術の都」出版豫告」」三田文學 8-10 [32785
新刊「澤木梢「美術の都」」三田文學 8-12 [32786
新刊「高村眞夫「歐洲美術巡禮記」」三田文學 8-7 [32787
消息「澤木梢「美術の都」出版」」三田文學 8-12 [32788
民子「名物教授・青山女學院の西洋美術史」婦人週報 3-9 [32789
山岸光宣「ゲーテ」東亞之光 13-7 [32790
大津康「ゲーテと獨逸語」人文 5 月號 [32791
寄贈書籍紹介「小野玄妙「佛教の美術及歷史」」東洋哲學 24-5 [32792
新刊「中山昌樹譯「ダンテ神曲」(地獄篇)（天國編）」
丁酉倫理會倫理講演集 175,177 [32793
菅原教造「美術展覧會の發達」心理研究 63(11-3) [32794
圖書「成瀬無極「文學に現はれたる笑之研究」」(アリストテレス等)
心理研究 65(11-5) [32795
新刊「中山昌樹譯「新生」」(ダンテ)基督教新聞 1743(3/9) [32796
新刊「山川丙三郎譯「ダンテ神曲」(淨火篇) 基督教新聞 1757(6/7)
社會週報「伊太利のナポリ東洋學校---下位春吉氏、ダンテ圖書舘設立の計劃」
基督教新聞 1774(10/4) [32797
厨川白村「文學と人生」(セント・オーガスチン、アリストートルの Poetics、マシュウ・アーノルド、シルレル、ペリクレス時代、アウグスタス時代、ベルグソン、希臘の Eolian Heart 等)
基督教新聞 1776(10/18),1778(11/1) [32798
新刊「小野玄妙「佛教美術概論」」基督教新聞 1783(12/6) [32799
新刊批評「古典文學研究會同人譯「神曲」」(向陵社版)萬朝報 8483(2/3) [32800
新刊批評「西洋美術史」(ライナック著、河野桐谷譯) 萬朝報 8659(7/29) [32801
海外新刊「オイリピデス」(Euripides and the Spirit of His Dramas,by P.Decharme)
萬朝報 8673(8/12) [32802
海外新刊「新希臘喜劇」(The New Greek Comedy,by E.Legrand)
萬朝報 8688(8/29) [32803
「世界的彫刻家ロダン逝く」(ダンテ等) 萬朝報 8772(11/19) [32804
「高村光太郎氏講演----ロダン翁病篤し」(ダンテ等)東京日々新聞 2/2 [32805
「ロダン翁逝く」(希臘以來文藝復興を經た理想美)讀賣新聞 11/19 [32806
出版界「ダンテ神曲・地獄篇」(中山昌樹譯) 東京朝日新聞 1/18,2/9 [32807
出版界「ロダンの言葉」(高村光太郎譯) 東京朝日新聞 1/22 [32808
出版界「ダンテ神曲・煉獄篇」(中山昌樹譯) 東京朝日新聞 2/9 [32809
出版界「佛蘭西文學史」(太宰施門著) 東京朝日新聞 3/1 [32810

出版界「新生・ダンテ」(中山昌樹譯) 東京朝日新聞 3/2 [32811
出版界「ダンテ神曲・天國篇」(中山昌樹譯) 東京朝日新聞 5/6 [32812
出版界「歐洲美術巡禮記」(高村眞夫著) 東京朝日新聞 7/7 [32813
出版界「西洋美術史」(河野桐谷譯) 東京朝日新聞 8/7 [32814
出版界「美術の都」(澤木梢著) 東京朝日新聞 12/5 [32815
出版界「ファウスト」(森林太郎譯) 東京朝日新聞 12/26 [32816
阿部次郎「ゲーテ詩抄」アララギ 10-1,4,5,6,8,10,12 [32817
E.①＊[訂正・削除]~~ウルピアーヌス/末松謙澄譯註・田中秀央共譯・宮崎道三郎校閲『羅馬法範』~~(→大 5.E.①) [5698] [32818

＊[訂正・削除]~~末松謙澄譯註・田中秀央共譯・宮崎道三郎校閲『ガーイウス・羅馬法解說』~~(→大 5.E.①) [5699] [32818
④稻毛詛風「政治の精神化、理想化」日本評論 21(2-1) [32819
鹿子木員信「哲人の政治とその最高原則」日本評論 21(2-1) [32820
須藤飛雨(二郎?)「後藤男の「民族の大潮と日本民族」[極東時報 11 月號]」(羅馬法、ソクラテス等)聲 504 [32821
擬國會號「古今の偉人一堂に會す」(ソクラテス等)三田新聞 10/27 [32822
井川恭「法及び戰爭に關するグロチウスの思想」京都法學會雜誌 13-2,3,4 [32823
中村久四郎「利瑪竇傳」(キケロ等)歷史地理 29-3,5/30-1 [32824
泰西思潮「ハトレイ・ビイ・アレクサンダア「力の意志」」(The North American Review Nov.1916、ソクラテイズ對カリクリイズ、プレイトウ、羅馬法等) 丁酉倫理會倫理講演集 173[32825
記者「父權及び孝道の起源及び發達」(ウェスターマーク氏「道德的觀念論の起源及發達史」より。古代羅馬等) 丁酉倫理會倫理講演集 182 [32826
藤井健治郎「武斷國家、文化國家」(ストア學派、ローマ帝國、オイケン等) 基督敎新聞 1739(2/1) [32827
「神の國の理想」(アレキサンデル、シーザル、ローマ帝國、ギリシヤ帝國等) 基督敎新聞 1754(5/17) [32828
講壇・古谷新太郎「婦人と法制」(女神ユスチチア等) 基督敎新聞 1754(5/17) [32829
社會研究欄・賀川豐彥「基督敎社會政策序說」(ニーチェ等) 基督敎新聞 1774(10/4) [32830
出版界「歐洲政治史概論」(ラウィッス/廣瀨哲士譯。古代希臘より近代) 東京朝日新聞 7/14 [32831
F.③箕作元八「古代ギリシヤのオリンピック競技」中學世界 2-5（一周年紀念特別增大號）[32832
記者「オリンピアとオリンピックの競技」ローマ字 12-6 [32833
辻博士「オリンピアの權威」世界(學生別刊)1 [32834
廣告「羅馬美人と美顏藥」萬朝報 8725(10/13) [32835
④＊[訂正]出版「ダンネマン/黑田啓次譯「世界自然科學史」」東京日々新聞 6/16 [22447] [32836

新刊紹介「自然科學者としてのゲーテ」(小川政修著) 六合雜誌 37-1 [32837
火焰劍主人「人間生命の發端」(希臘の碩學アリストテレス、アキノの聖トマス等)
聲 497 [32838
フェリシカン・シャレー「佛蘭西と科學」(ベルグソン、アリストート等)
帝國文學 23-10 [32839
新刊「小川政修「自然科學者としてのゲーテ」」
丁酉倫理會倫理講演集 173 [32840
新刊「ジィグムンド・ギュンタア/黑田啓次譯「世界自然科學史」」
丁酉倫理會倫理講演集 179 [32841
G. 生田長江・森田草平・加藤朝鳥編『新文學辭典』 [32842
新刊紹介「生田長江・森田草平・加藤朝鳥共編「新文學辭典」」
六合雜誌 37-2 [32843
新刊「生田長江・森田草平・加藤朝鳥編「新文學辭典」」帝國文學 23-2 [32844
出版界「藤井新獨和辭典」(藤井信吉編) 東京朝日新聞 10/15 [32845
青木隆編『法律經濟熟語辭典』 [32846

大７(１９１８)
A. ＊[訂正]坂口昂「君府[コンスタンチノープル]の思ひ出」史林 3-1,2
[5727] [32847
山本秀煌『日本基督教史』(上下、2 册。→大 14 增補改版) [32848
新村出「京都南蠻寺興廢考」史林 7 月號 [32849
ランヂス「(英文)支那文明と希臘文明」Romaji 13-1 [32850
坂口昂・村川堅固・大類伸「過去の世界大戰の文明史上に及ぼせる影響」
大觀 1-1 [32851
新村出「蘆火紅」(坂口昂「世界に於ける希臘文明の潮流」書評)
藝文 2 月號 [32852
新村出「慶長年間の京都耶蘇信徒の墓碑」史林 1 月號 [32853
有島生馬「羅馬の噴水」新小說 23-8 [32854
姉崎正治「ドイツの文化」人文 7 月號 [32855
太宰施門「佛蘭西民族史」人文 7 月號 [32856
(參考：消息「獨逸文學同窓會」---- 山岸光宣「ゲーテと伊太利」、
帝國文學 24-6) [32857
(參考：消息「大學公開講義」、帝國文學 24-7 [32858
箕作元八「十八世紀に於ける佛國文化史」
青木昌吉「十九世紀の獨逸文學に現れたる其國民思想」)
(參考：東京帝國大學文科大學講義題目中(大 7/9-大 8/7 まで)、
帝國文學 24-10 [32859
哲學科：哲學概論(井上)、西洋哲學史概說(桑木)、心理學概說(桑田)、倫理學概論(中島)、認識論一般(紀平)、希臘哲學史(石原)、民族心理學(桑田)、倫理學史・獨逸倫理學史((中島)、グリーンの倫理學(演習、友枝)、美學概論(大塚)、教育學概說(吉田)、教育ノ社會的基礎附

演習(プラトー國家論、吉田)
史學科：史學概論(坪井)、西洋史概說(箕作)、西洋中世史講義(大類)
文學科：文學論(松浦)、言語學概論(藤岡)、Studies in John Keats(齋藤)、Das klassische und Romantische Drama:Goethes “Iphigenia” und Schillers “Jungfrau von Orleans ”、ダールマン氏)、Die antike und moderne Schicksalstragodie: Schillers “Braut von Messina ”und Grillpargers “Ahufaru ”、ダールマン氏)、Die deutsche Lyrlic und Balladendichtungen ihres Entwicklung 、ダールマン氏)、Histoire générale de la Literature Française(エック氏)、一般音聲學(藤岡)、希臘神話(田中)、希臘語初歩(White: First Greek Book、田中)、希臘語上級(Xenophon: Anabasis, Platon:Criton etc. Herodotas,Homeros、田中)、羅甸語初歩(羅甸文法、Morton:Legend of Gods and Heros、田中)、羅甸語上級(Nepos,Caesar,Virgilius, Cicero,etc.、田中)、希臘羅馬文學史(コット)、希臘語二年(コット)、美術史(伊東))

青木昌吉「十九世紀の獨逸の文學に現はれたる其國民思想」
帝國文學 24-10,11,12 [32860
濱田耕作「伊太利紀行」歴史と地理 1-1,3,4,7/2-5 [32861
新刊「齋藤斐章「西洋文明史觀」」歴史と地理 1-3 [32862
中澤澄男「江戸時代西洋文化輸入の公許に關係せる隠れたる媒介者」(シドッチ、今村英生等)歴史地理 31-3 [32863
(參考：消息[慶應義塾]「文學科本科講義中」、三田文學 9-5 [32864
「ニイチェのツアラトオストラ」(川合)、美學・美術史(澤木))
太宰施門「佛蘭西の文學---井クトル・ジロウ氏著「佛蘭西文明」(La Civilization Française)の一節」三田文學 9-7 [32865
三上義夫「印度と東西世界の交通」人生 4 月號 [32866
下澤瑞世「法・文科大學接觸(下)」(ダンテ、ペーター、シキピオ、ボエチウス、小カトー等) 東洋哲學 25-3 [32867
下澤瑞世「文化史論とは何ぞや」(ブルクハルト、ランプレヒト、ヴント、ギゾー、バックル、ヘルダー等) 東洋哲學 25-5 [32868
松本亦太郎「民族の優性化と劣性化」(ソークラテース、ホーマー、ライカルガス、ヘシオッド、ソフクレス、エスキュラス、ペリクレス、ユーリピデス、フヒデイアス、ソークラテース、アリストファネス、プラトー等) 丁酉倫理會倫理講演集 188 [32869
增田惟茂「ヴントの新著「國民と其哲學」」丁酉倫理會倫理講演集 195 [32870
菅原敎造「愛の文化史と色情藝術」心理研究 81(15-3) [32871
蘆田慶治「新人類建設の理想」(希臘人、コンスタンチン大帝、羅馬的文明等)
基督敎新聞 1786(1/1) [32872
牧野虎次「年頭の所感」(マケドニヤ人、ギリシヤ人等)
基督敎新聞 1786(1/1) [32873
廣告「羅甸語講習會----獨逸語專修學校」萬朝報 8987(6/22) [32874
「東大文科に敎育學科の新設」東京日々新聞 9/3 [32875

出版界「ヴントの民族心理學」(桑田芳藏譯)東京朝日新聞 7/16 [32876
B.①木村鷹太郎譯『縮刷・新刊・プラトーン理想國』 [32877
②佐藤繁彦(内村鑑三序)『若きルーテル』 [32878
ジョージ・バーカー・ステイブンス/吉村大次郎譯『新約聖書神學』 [32879
オーリン・エー・カーチス/小畑久五郎譯『基督教神學』 [32880
アレキサンデル・バルメーン・ブルース/中川景輝譯『神の國』 [32881
③新村出「安土桃山時代の天主教教育」大學及大學生 7 月號 [32882
サンタヤナ/小島茂雄譯「哲學的三詩人」女子文藝 3 月號(創刊號) [32883
和辻哲郎(創作)「アリストンの演説」帝國文學 24-1 [32884
栗原古城「「戰闘」の崇拝と「貧」の崇拝」(ギリシア神話)帝國文學 24-2 [32885
木村鷹太郎「酒神バッコスと「翁」」黒潮 3 月號 [32886
大溝惟一「西洋神話」(英語に現はれたる月名と週名との起源)
歴史と地理 2-2 [32887
下澤瑞世「材能發生進化の先天的要素と後天的要素(續)」(アリストートル、アウグステーヌス、ニイチェ、ゲーテ、ハンニバル、コンスタンチウス、エラスマス、エマーソン等) 東洋哲學 25-1 [32888
應問・内山昇「デーモクリトスの原子、ライプニッツの元子、ヘルバルトの實素の大體の相違を」、丁酉倫理會倫理講演集 188 [32889
----答・デ氏の原子は物質的のものであり・・・又た原子は知の暗より明に向かつて向上發展するもの」
應問・天籟生(新潟)「本誌 188 輯(四月號)御答解デ氏以下三氏實在單位論は大體論に止つて深刻の御説明を聞き得なかつたことを殘念に思ひます。何卒左の諸項に對して再びお願ひ致したうございます。1.(イ)デ氏の原子説は普通に物質的とす。然共氏自ら「木石の如き物質的のものは粗雜重大なる原子よりなり、吾人の心の如き精神的のものは精緻輕微なる原子よりなれり」と一元論的也嚴密に物質的と云ひ得るか否や、2.(ロ)次に氏は異物異原子説(前項)を唱へ原子不變説なりと信ず。「知の暗より明に向かつて向上發展する・・・」の如きは了解に苦しむ所、原子は元子の誤植にてもあらずや」、
丁酉倫理會倫理講演集 189 [32890
----答・デーモクリトスの原子は單純にして分割すべからざる、不可透入性を有する、物理的單位なり。其が分割すべからずと云ふは物理的に不可分なるのであつて數學的に不可分なるのは無い。一切の原子は其性質に於ては同一にして只だ形狀大小等の點に於て異なるのみ、卽ち原子は偶然性二於ては異なるも其の本質に於ては異ならず。デーモクリトスは此物理的單位たる原子を以て一切説明の原理と立てりを以て此點に於ては原子の一元論と名づくるを得、しかし原子は其數無量無數なるを以て數量的には多元論であると云へる。因に云ふ、デーモクリトスの原子と近世自然科學の原子とは其概念構成に於て固より似ては居るが、デ氏の原子は形狀や大小に於て各原子それぞれ特異であつて、

各自固有の運動を爲すものなれども、近世自然科學に於ては此の如き個性は維持せられずして一般的となつたのである。ライプニッツのモナド(單子)は形而上學的個體にして力の中心點である。個性を有する點に於てはデ氏の原子と似たれども、原子は物質的のものにして形狀大小等の外面的、個性的の點に於てのみ特異の個性を有するのみである、之に反してライプニッツの單子は精神的單位にしてそれぞれ特異の仕方に於て發展すべき精神的内容を具へて居る。單子說も原子說も同じく性質の上から云へば(單子の)一元論であつて、數量の上から云へば多元論と云へる。ヘルバートのレアーレ(實有、實子)も亦た形而上學的存在體にして不變的なる絶對的位置(die absolute Posision)である。・・・ヘ氏の實有はエレア派の「有」を複數的にしたものとも見られるが、要するに全く内容なき抽象的のものである。

靈父ダルマン師「原始基督教の發展」(羅馬皇帝教、「シセロの預言」)
聲 507 [32891
(參考：彙報「哲學會」、心理研究 73(13-1) [32892
---- 鹿子木員信「哲學的理想主義の誕生」
三宅雄二郎「死の問題」）
(參考：「教育學會----- 高橋俊乘「希臘教育の特質」」、
心理研究 74(13-2)) [32893
三枝十一「古代の神々の傳說」心理研究 78(13-6) [32894
(參考：彙報「哲學會」、心理研究 84(15-6) [32895
---- 石原謙「希臘思想の主知主義的傾向」）
「新年の希望」(中村政路「ヂオゲネスと歷山大王」)
基督教新聞 1786(1/1) [32896
田村直臣「理想的教師エス・キリスト」(プラトー、アリストートル、エピキュリアン等[p.9「教育の目的に關して・・・エピキュルは快樂にあらん・・・」]
基督教新聞 1801(4/18) [32897
思潮・甲浦學人「使徒パウロと哲人プラトー---教授ブライスによる」(ストイック學派等) 基督教新聞 1802(4/25),1804(5/9)
[32898
④＊[訂正]阿部次郎「ツアラツストラの解剖」思潮 2-4,5 [16642] [32899
新刊紹介「ルーテル」(村田勤譯)六合雜誌 38-1 [32900
新刊紹介「内村鑑三と力のニイチェ」(湊謙治著) 六合雜誌 38-1 [32901
＊[訂正]帆足理一郎「神々の死」(グリシヤ・ローマの思想、プラトン等)
六合雜誌 452,453 [32902
村井物來「西哲名句短解」(エマアソン)道 3,4 月號 [32903
明石の浦人「聖市耶路撒陵[イエルサレム]」(アレキサンドル大王等)聲 507[32904
新刊「青木佐次郎「スコラ哲學論綱」」聲 507 [32905
天涯孤客生「義務の本源(5)」（シセロ等）聲 510 [32906
雪山曉村「カァル・シュピツテルと其「プロメートイス」とエピメートイス」」
帝國文學 24-2 [32907

(参考：東京帝大大正 7 年度卒論、帝國文學 24-6 [32908
哲學科：中込本治郎「西洋に於ける厭世哲學研究」
宮津榮太郎「直觀主義の哲學---ベルグソン教授の思想」
渡邊吉治「美學史の方法論---美學史序論」)
生田長江「自由如鳥公子の歌---ニイチェ」帝國文學 24-7 [32909
岡本春彦「焚刑にせられたる哲人ブルノー」歴史と地理 1-3,5 [32910
消息「阿部次郎「ツアラトストラとその解說」出版豫告」三田文學 9-12 [32911
著作及出版「松原露風生「ヘフディング/北昤吉譯「近世哲學史」」
中外 2-8 [32912
北昤吉「交戰諸國の代表的思想家」(ベルグソン、オイケン等) 中外 2-9 [32913
賢者の由來「(19)七十人譯」（亞歷山都[アレキサンドリア]、トレミー等)
ときのこゑ 1/1 [32914
カロリン女史/小倉志貴譯「佛教規範の研究(承前)」(ターレス、ヘラクライトス、
ロイキュポス、デモクリタス、プ
ラトー、アリストートル等)
東洋哲學 25-11 [32915
「十月の東洋學藝思潮」、東洋哲學 25-11 [32916
---- 阿部次郎「ツァラツストラ」(同「ニイチェのツァラツストラ論解釋並批
評」、思潮 10 月號)
桑木嚴翼「意志よりの解放」(希臘のテオリヤ、アリストートル、希臘文明、古代
希臘の精神、エピクロス主義等)
丁酉倫理會倫理講演集 185 [32917
(?)「昨年中の最良書籍：全米批評家より成る審査會選擇の結果-----W.M.Salter,
Nietzshe The Thinker」丁酉倫理會倫理講演集 186 [32918
中島力造「獨逸哲學と歐洲大戰亂」(ヘーゲル等)
丁酉倫理會倫理講演集 188,189,190 [32919
雜錄・周洋生「偉人の評價」(アレキサンダー、ペリクレス、シーザー、コンスタ
ンチン、アリストートル等)
丁酉倫理會倫理講演集 188 [32920
新刊「帆足理一郎「哲理と人生」」(アリストートル等)
丁酉倫理會倫理講演集 188 [32921
桑木嚴翼「倫理學と國民道德と日本語と」(アリストテレス關聯)
丁酉倫理會倫理講演集 190 [32922
新刊「ニイチェ/生田長江譯「黎明」」(ニイチェ全集第三編)
丁酉倫理會倫理講演集 190 [32923
桑木嚴翼「哲學的學科の研究法に就て--- 哲學古典の飜譯に因みて」
丁酉倫理會倫理講演集 192 [32924
應問・孤峯生「東洋及西洋哲學史の良書とそれ等書物の難易梗概繙讀順序等につ
き御示教被下度願上候」、丁酉倫理會倫理講演集 194 [32925
----答・波多野精一「西洋哲學史要」、大西祝「西洋哲學史」、安倍能成「西洋
哲學史・二巻」、 蟹江義丸「西洋哲學史」、中島力造「列傳體西洋哲
學史」、ロジャス「哲學史」(Rogers)、ティリー「哲學史」(Thilly,若守[義

孝]文學士譯)、ギンデルバント「哲學史」(「哲學史要」)、キンデルバンド「近世哲學史」(村岡典嗣譯)の一部、ヘッフディング「近世哲學史」(北昤吉譯)

朝永三十郎「哲學と女性」(ソークラテース、プラトン、新プラトーン派、女性豫言者ディオティーマ、シルレル等)
丁酉倫理會倫理講演集 195 [32926

新刊「西田宏紹「帝王教育思想史」」丁酉倫理會倫理講演集 196 [32927

新渡戸稻造「ミルの自由論と現代思想」自由評論 6 月號 [32928

桑木嚴翼「學說の心理」(ニーチェ等) 心理研究 77(13-5) [32929

(參考：彙報「心理學讀書會」、心理研究 79(14-1) [32930
----- 石神德藏「ヴント教授・祭祀說話論」)

渡邊吉治「美學史の方法論---美學史序論としての」
心理研究 80(15-2),81(15-3),82(15-4),83(15-5) [32931

評論・武本喜代藏「我國今後の教化問題」(羅馬帝國等)
基督教新聞 1786(1/1) [32932

帆足理一郎「哲理と人生」(プラトン、グリシヤ哲學等)
基督教新聞 1788(1/17) [32933

論說・鈴木浩二「神秘的經驗の特質及價値」(ネオプラトー哲學、オーガスチン、希臘的汎神思想等)基督教新聞 1790(1/31) [32934

新刊「佐藤繁彦「若きルーテル」」基督教新聞 1790(1/31) [32935

小崎弘道「復活の福音」(ローマの冬至祭、プラトー、ソクラテス等)
基督教新聞 1798(3/28) [32936

廣岡淺子「基督教の復活」(セント・オーガスチン等)
基督教新聞 1798(3/28) [32937

雜錄・錦織くら子「燈下獨語」(聖オーガスチン、母モニカ等)
基督教新聞 1798(3/28) [32938

新刊「帆足理一郎「哲理と人生」」(オイケン、ベルグソン等)
基督教新聞 1798(3/28) [32939

論說・海老名彈正「基督再臨論に對する見解(2)」(希臘の哲人ソクラテス、プラトー等) 基督教新聞 179 9(4/4) [32940

横川四十八「學習の心理概論」(ソクラテース式等) 基督教新聞 1801(4/18) [32941

「我國民思想の動搖と獨立せる宗教生活の確立」(ベルグソン、オイケン、ニイチェ、ギリシヤ、羅馬等)
基督教新聞 1805(5/16) [32942

教壇・内村鑑三「羅馬教の腐敗と新教の發祥」(聖オーガスチン派等)
基督教新聞 1805(5/16) [32943

編輯局より「筆のまにまに」([甲浦學人]「使徒パウロと哲人プラトー」)
基督教新聞 1806(5/23) [32944

平信徒教壇・村松吉太郎「徹底せる人生觀」(オーゴスチン等)
基督教新聞 1808(6/6) [32945

教壇・米澤尚三「選良の使命」(ホーマー、オルケアス、ターレス等)
基督教新聞 1810(6/20) [32946

錦織貞夫「兒童宗教教育原理(2)」(古代希臘羅馬の國家中心的教育等)
基督教新聞 1810(6/20) [32947
論評・桑田熊藏「世界意識と宗教」(丁酉倫理會講演。サラミス、アレキサンダー、羅馬帝國等) 基督教新聞 1811(6/27) [32948
エム生「學ばざる者(承前)」（グリシヤ人等）基督教新聞 1820(8/29) [32949
「自覺に生きる國民の指導」(ニイチェ等) 基督教新聞 1821(9/5) [32950
宮川[經輝]牧師「人格向上の分岐點」(プラトー、アリストートル等)
基督教新聞 1825(10/3) [32951
教壇・露無文治「基督に據る活動---總會禮拝冥想」(ニーロー帝、トラジャン帝、ローマ人、ギリシヤ人、アレキサンダー、シーザー等) 基督教新聞 1826(10/10) [32952
「生命の宗教と傳來の宗教」(オウガスチン等) 基督教新聞 1829(10/31) [32953
講演・内ケ崎作三郎「現代人に對する基督の使命」(ギリシヤの多神教、アリストビュラス、アレキサンドリアのクレメント等) 基督教新聞 1831(11/14) [32954
論文・大塚範治「カントよりリッチルへ」(プラトー、アリストテレス、トマス等) 基督教新聞 1832(11/21),
1833(11/28) [32955
出版界消息「日野眞澄氏「基督教教理史」出版」基督教新聞 1835(12/12) [32956
教壇・米澤尚三「新世界の曉星」(アレキサンダー、シーザー、ニイチェ等)
基督教新聞 1836(12/20) [32957
言論「戰後のミダス」(フルヂアのミダス王等)萬朝報 8945(5/11) [32958
新刊批評「近世哲學史(上下)」(ヘフディング/北昤吉譯) 萬朝報 8969(6/4) [32959
新刊批評「プラトーン理想國」(木村鷹太郎譯)萬朝報 9052(8/26) [32960
「哲學者ベルグソン氏が新猶太大學の教授に」時事新報 6/14 [32961
出版界「スコラ哲學論綱」(青木佐次郎著) 東京朝日新聞 1/25 [32962
出版界「哲學より政治へ」(北昤吉著) 東京朝日新聞 3/31 [32963
出版界「哲理と人生」(帆足理一郎著。オイケン、ベルグソン等)
東京朝日新聞 4/11 [32964
出版界「黎明」(ニイチェ/生田長江譯) 東京朝日新聞 5/14 [32965
出版界「プラトーンの理想國」(木村鷹太郎譯) 東京朝日新聞 7/8 [32966
出版界「歐洲思想史」(ヴィンデルバント/北昤吉・井上忻治譯)
東京朝日新聞 7/20 [32967
出版界「哲人ブルノー」(岡本春彦著) 東京朝日新聞 10/26 [32968
出版界「帝王教育思想史」(西田宏紹述) 東京朝日新聞 12/1 [32969
C.②野邊地天馬『新約物語』 [32970
ゲオルク・ハインリヒ/石原謙譯『原始基督教』 [32971
坂本健一『伊太利王國』（通俗世界歷史 6） [32972
③長瀨鳳輔「メソポタミアと歐洲戰爭」(ヘロドタス等)歷史地理 31-4,5 [32973
(參考：彙報「第 32 回(大正 7 年)中等教員歷史科豫備試驗問題中」、
歷史地理 32-5 [32974
----- 西洋史：「一、ローマの兵制の變遷」)

(参考：彙報「第 32 回(大正 7 年)中等教員歴史科豫備試驗問題中」、
歴史地理 32-5 [32975
----- 西洋史：「三、左の人々の事蹟(甲)アグリッパ」)
戸川秋骨「ポンテオ・ピラト」三田文學 9-1 [32976
堀口大學「基督の渇」(Pardo Bazán)三田文學 9-2 [32977
德永壽美子「アスパシアの人形」女人界 2-2 [32978
賢者の由來「(25)カイザルの物」(羅馬等)ときのこゑ 4/15 [32979
賢者の由來「(32)歡樂と罪惡の都」(羅馬全盛時代等)ときのこゑ 8/1 [32980
講演・日野眞澄「基督教の歴史」基督教新聞 1795(3/7) [32981
聖書研究・富永德磨「罪に沈める神の子」(アレキサンダー、ヘーゲル等)
基督教新聞 1797(3/21) [32982
聖書研究・今泉眞幸「使徒行傳講解(11)(19)」(ヘレニスチックのユダヤ人、ギリシヤ人、ギリシヤ語等) 基督教新聞 1798(3/28),
1807(5/30) [32983
聖書研究・今泉眞幸「使徒行傳講解(21)(23)(24)(25)(26)(28)(29)(32)(36)(37)」(ヘルメス神、ゼウス神、アレキサンダー大帝、ピリピ王、羅馬の市民權、大哲ソクラテス、大賢アリストテレス、エピクロス派、ストア派、アレキサンドリア風、レスボス、サモス島、マケドニア、ギリシヤ語、クレテ島、シシリー島シラクサ、羅馬等) 基督教新聞 1811(6/27),1813(7/11),
1815(7/25), 1816(8/1), 1817(8/8),
1822(9/12),1829(10/31),1833(11/28),
1834(12/12) [32984
④＊[訂正]小西重直「中學校に於ける歴史科の沿革並に其教育的價値に就て」
史林 3-1 [5844] [32985
＊ [訂正]須貝正「使徒文學に於けるメシヤ觀の變遷」神學之研究 9-3
[22495] [32986
新刊紹介「G.ハインリヒ/石原謙・山谷省吾譯「原始基督教」」
六合雜誌 38-3 [32987
佐藤江南「エマスンの歴史論を讀んで」六合雜誌 38-4 [32988
彙報「ヴエスヴィアス大噴火」歴史と地理 1-4 [32989
最近史界「箕作元八「エクノムスの海戰」(東洋學藝雜誌 436）」
歴史地理 31-2 [32990
最近史界「箕作元八「アクチウムの海戰」(東洋學藝雜誌 441）」
歴史地理 32-3 [32991
彙報「外國史教科書改良の議」歴史地理 32-6 [32992
彙報「齋藤清太郎「最新西洋史講話」」歴史地理 32-6 [32993
(?)「昨年中の最良書籍：全米批評家より成る審査會選擇の結果----- .Ferrero(assisted by Barbagallo), A Short History of Rome,2 vols.」
丁酉倫理會倫理講演集 186 [32994
斷想錄「疑ふ心」(ブルタス、シーザー等)基督教新聞 1827(10/17) [32995
雜錄・芳賀八一「日本の武士道と西洋の武士道」臺灣警察會雜誌 14 [32996

新刊批評「西洋歷史集成(上巻)」(坂本健一著)萬朝報 8884(3/11) [32997
出版界「西洋歷史集成(上巻)」(坂本健一著)東京朝日新聞 3/19 [32998
出版界「羅馬史論」(ナポレオン三世/長瀬鳳輔譯) 東京朝日新聞 5/17 [32999
出版界「東西英雄一夕話」(三宅雪嶺著) 東京朝日新聞 11/22 [33000
D.①＊[訂正]西片寒川譯『教訓叢話・イソップ物語』 [5853] [33001
(新潟南蒲原)小柳一藏『寓話詩』(イソップ話ノ漢詩文) [33002
秋庭俊彦「蟻と驢馬」(クロイロフから)赤い鳥(鈴木三重吉主宰)1-2 [33003
大英國北英國聖書會社『マコ傳福音書』 [33004
②ラスキン/小林一郎譯『塵の思想』(プラトーン等) [33005
森田洪『世界の建築様式』(希臘、エトルリヤ、羅馬、シシリー、東羅馬等) [33006
松本苦味編『新約聖書・一日一訓』 [33007
③＊[訂正]ワルドスタイン/草光信成譯「近代藝術と希臘彫刻」(續)美術新報（東西美術社版）17-4,5,7 [5872] [33008
＊[訂正]和辻哲郎「健陀羅まで」(創作)、讀賣新聞 3~4 月聯載 [5874] [33009
小日向臺一「聖ペテロの銅像」(コンスタンチノ大帝、ユピテル像等)聲 511 [33010
辰野金吾「復古式建築の沿革」(古代希臘)帝國文學 24-8 [33011
濱田青陵「古代藝術に現はれたる馬」大阪朝日新聞 1/1 [33012
禿氏祐祥「佛教藝術の發源」國華 341 [33013
賢者の由來「(41)心靈的ホーマー」(詩聖ホーマー)ときのこゑ 12/15 [33014
(參考：「四月の東洋學藝思潮抄」、東洋哲學 25-5 [33015
三上義夫「印度の戲曲は希臘の模倣にあらず」)
(參考：教界「第二十五回教師會」(講演會：岩城忠四郎「邦語聖書中に表はれたるグリーキ原文の意識一般」、基督教新聞 1826(10/10)) [33016
④新刊紹介「小野玄妙「佛教美術概論」」六合雜誌 38-1 [33017
今岡信一良「最大の發見」(希臘の彫刻家フィデアス、ソクラテース等) 六合雜誌 38-3 [33018
沖野岩三郎「文藝復興との日本の鎖國主義」(ダンテ、ペトラルカ、ボッカチオ等) 六合雜誌 38-4 [33019
新村出「故上田敏博士のダンテ飜譯」太陽 7 月號 [33020
新村出「例言「ダンテ神曲」」(星野書店刊) [33021
雲溪生「老信者の思ひ出」(横濱の拉丁學校)聲 509,510 [33022
木村鷹太郎「バイロンの海賊と毛剃九右衛門」史壇文藝 3 月號 [33023
後藤末雄「若き藝術家の群レ---オーギュスト・ロダン遺稿」帝國文學 24-5 [33024
(參考：東京帝大大正 7 年度卒論、帝國文學 24-6 [33025
哲學科：岩崎眞澄「印度上代に於ける佛像彫刻の美術史的研究」
文學科：上田良吉「「希臘の古甕に題する詩」の研究」(キーツ)
舟木重信「運命悲劇」)
雪山曉村「「オリュムプの春」に就て」(シュピッテル)帝國文學 24-9 [33026
太田善男「訓詁の學風」(希臘羅馬文物等)帝國文學 24-11 [33027
林達夫「歌舞伎劇に關するある考察」校友會雜誌(第一高等學校)270 [33028
黑板勝美「聖德太子を中心としての推古朝の美術」中央美術 5-2 [33029

消息「澤木梢「希臘神話」(西洋美術史講義)の準備中」三田文學 9-4 [33030
井汲清治「十六世紀佛蘭西文藝思潮」三田文學 9-5 [33031
著作及出版「サー・コルヴィン「キーツ傳」」中外 2-5 [33032
今秋の文展・藤井浩祐「羅馬末期の嗜好そのまま----彫刻」中外 2-1 [33033
深田康算「人生に於ける藝術の意義」(プラトン、ニーチェ等)
學校教育 6,7 月號 [33034
寄贈書籍紹介「小野玄妙「佛教美術概論」」東洋哲學 25-1 [33035
田部重治「自然の上に立つ文藝」(ギリシヤ精神、ギリシヤ文藝、ヘーゲル、ゲーテ、ペーター等)東洋哲學 25-4 [33036
下澤瑞世「繪畫發達の文化史的及び理學的研究(上)」(ポリグノタス、フィディアス等) 東洋哲學 25-9,10 [33037
新刊「小野玄妙「佛教美術概論」、「佛教之美術及歷史」」
丁酉倫理會倫理講演集 185 [33038
アンデルセン「ホオマアの墓の薔薇」文章倶樂部 3-4 [33039
新刊紹介「武林無想庵譯「サフォー」」文章倶樂部 3-9 [33040
阿部次郎「晩年のロダン」思潮 3 月號 [33041
阿部次郎「ゲーテ詩抄」アララギ 11-2,3,6,8,11 [33042
眞田直見「ロダン斷想」アララギ 11-3 [33043
久保良英「お伽噺の精神分析」(オイデプス等)心理研究 76(13-4) [33044
佐久間鼎「創作家と批評家」(プラトン等) 心理研究 79(14-1) [33045
講壇・川口卯吉「聖書の批評的研究の現狀」(ハドリアン帝等)
基督教新聞 1790(1/31),1791(2/7) [33046
講壇・今井壽道「聖書研究の方針」(グリーキ語等) 基督教新聞 1792(2/14) [33047
「四つの講壇より---聖雲は相談」(希臘語等) 基督教新聞 1801(4/18) [33048
編輯局より「筆のまにまに」(ゲーテ、ダンテ等) 基督教新聞 1812(7/4) [33049
桑木嚴翼「ロマンチシズム文藝と哲學」基督教新聞 1828(10/24) [33050
出版界「イソップ物語」(少年通俗教育會編) 東京朝日新聞 1/25 [33051
出版界「塵の倫理」(ラスキン叢書第 3 巻。小林一郎譯) 東京朝日新聞 2/23[33052
出版界「佛像の研究」(小野玄妙著) 東京朝日新聞 4/17 [33053
出版界「胡麻と百合」(ラスキン/栗原古城譯) 東京朝日新聞 4/24 [33054
出版界「泰西の繪畫及彫刻・第五巻上古篇」(木村莊八編)
東京朝日新聞 6/11 [33055
出版界「譯註ファウスト・第一部」(森田草平、東新共譯)
東京朝日新聞 7/20 [33056
出版界「ダンテ神曲刊行」(故上田敏遺稿、未定稿)
東京朝日新聞 8/18,11/4 [33057
出版界「泰西の繪畫及彫刻・第 七巻」(木村莊八解說) 東京朝日新聞 10/22[33058
吉田彌郎「文豪ダヌンチョ(下)」(カピトリーノの丘陵、羅馬紀元等)
東京朝日新聞 12/12 [33059
E.②マキアヴェルリ/吉田彌邦・松宮春一郎譯『君主經國策』(興亡史論第 1 期 7) [33060
ウオルター・ラウシェンブシ/栗原基譯『耶蘇の社會訓』 [33061
④＊[訂正]雜誌論文紹介「藤谷光之助「羅馬滅亡の經濟的考察(國民經濟雜誌

24-1,2）」」歴史と地理 1-6　[5914]　[33062
(參考：消息「英文學會例會」、帝國文學 24-11　[33063
齋藤(勇)講師「英米に於ける國家思想の發達」)
吉田熊次「國民性と個性との比較」(プラトーの國家論等)
丁酉倫理會倫理講演集 185　[33064
(參考：「本會記事--- 公開講座」、丁酉倫理會倫理講演集 186　[33065
鹿子木員信「全體主義」、中島力造「國家觀念の發達と國民道德の改善」)
鹿子木員信「全體主義」(ストア、エピクロス、デモクリトス、プラトン、アリストテレス、ソクラテス、希臘思想の發展等)
丁酉倫理會倫理講演集 187　[33066
中島力造「國家觀念の發達と國民道德の改善」(プラトン、アリストートル、羅馬國家、アレキサンダー、シーザル、グロチュース等) 丁酉倫理會倫理講演集 187　[33067
(參考：「本會記事---公開講座：桑田芳藏「國民より人類へ」」
丁酉倫理會倫理講演集 190　[33068
桑田芳藏「國民より人類へ」」(アレキサンダーの大帝國等)
丁酉倫理會倫理講演集 191　[33069
山鹿義敎「外國貨幣の研究(1)」(ホーマー氏、ギリシヤ等)貨幣 3　[33070
寺田精一「犯罪觀念の發達」心理研究 75(13-3)
論說・賀川豐彦「宗敎の社會的經濟的價価(中)」(ギリシヤ人、ロマ人等)
基督敎新聞 1793(2/21)　[33071
萬古生「日本博士通(6)----本野(一郎)博士の論文」(佛蘭西里昂[リヨン]法科大學提出「古代羅馬法に於ける代理の原則」)
東京朝日新聞 1/14　[33072
出版界「經濟學考證」(福田德三著。「シーザー及タチトスに據る古獨逸土地共有制度」) 東京朝日新聞 4/10　[33073
F.④＊[訂正]菅原敎造「古代衣服の文化的研究----古典服の繪畫的及び演劇的復活(埃及、希臘、羅馬等) 新小說 23-8　[5922]　[33074
高槻未知生「我が蘭學者と科學的思想の發達」(宇田川榕庵、志筑忠雄、吉雄俊藏、山村昌永、艾儒喀 Jurius Aleni「西學凡」等) 東洋哲學 25-2　[33075
海外新刊「科學史」(A Short History of Science, by Edgarick and Tayler)
萬朝報 8899(3/26)　[33076
田中舘秀三「イタリアの火山」(エトナ山、ベスビオ山等)地學雜誌 351,353[33077
出版界「カジョリ・數學史講義」(一戸直藏譯) 東京朝日新聞 11/14　[33078
G.　出版界「新文學辭典」(生田・森田・加藤共編)東京朝日新聞 5/7　[33079
出版界「武信・和英大辭典」(武信由太郎編東京朝日新聞 10/24　[33080

大８(１９１９)
A.　甕江散史「眞の文明とは何乎」(ド・ラマルゼール氏「眞の文明」、コレスポンダンス誌の紹介、羅馬帝國の歴史、アウグスト皇帝等)

聲 518,519,520,521,522,523 [33081
「汝は如何に讀む乎」(シセロ等)聲 527 [33082
野村隈畔「民主主義の文化史的意義」(希臘、ソクラテース、ヘラクライトス、パルメニデース等) 六合雜誌 39-4 [33083
久米邦武「古代東西洋の交通」大觀 12 月號 [33084
山本秀煌『西教史談』 [33085
(參考：學界消息「史學研究會」、歷史と地理 3-1 [33086
桑原隲藏「化學上より見たる東洋上代の文明」)
(參考：會報「國民教化講座の開講」、歷史と地理 3-4 [33087
植村清之助「西洋文明の由來」(4 回完講) ）
濱田青陵「伊太利ウムブリヤの旅」歷史と地理 4-3,4 [33088
(參考：會報「大津市に於ける國民思想涵養講演會」、歷史と地理 4-3 [33089
粟野主幹「外來文化と國民性」)
中山平次郎「神獸鏡より見たる東西文明の接觸」歷史と地理 4-5 [33090
(參考：彙報「東京帝國大學文學部史學科卒業論文」、歷史地理 34-1 [33091
下澤瑞世(選科)「世界文化史と年齡年代との關係」)
(參考：彙報「東京帝國大學文學部史學關係の新講義」、歷史地理 34-4 [33092
西洋史概說(坪井)、希臘政治史(村川)、蘭學史(村上)、西洋中世史(大類)、史學概論(坪井)/副科目---西洋哲學史概說(桑木)、希臘哲學史(石原)、民族心理學(桑田)、宗教學宗教史(深作)、美學美術史(吉田)、希臘神話(田中)、英文學史概說(齋藤))
(參考：消息[慶應義塾]「文學科本科講義課程中」、三田文學 10-6 [33093
西洋美術史(澤木)、Homer の Iliad(馬場[弧蝶])、Goethe の Faust(阿部)、Emerson の Essays(戸川))
(參考：雜錄「澤木四方吉[梢]氏、帝國大學文科にて希臘美術史講義中」
三田文學 10-11) [33094
(參考：學界雜聞「東京大學の文學部學科」、東洋哲學 26-9 [33095
---- 西洋史學、哲學、心理學、倫理學、宗教學・宗教史、教育學、美學・美術學、言語學、英吉利文學、獨逸文學、佛蘭西文學)
(參考：大學記事「本學基本金募集趣意書」、東洋哲學 26-10 [33096
・國學科：言語學、西洋哲學概說、心理學、倫理學、教育學、美學及美術總論
・漢學科：西洋哲學史及西洋哲學概論、心理學、倫理學、教育學、美學及美術總論
・佛學科：宗教學、西洋哲學史及西洋哲學概論、心理學、倫理學、教育學、美學及美術總論
雜錄・桑木嚴翼「讀書と追憶」(ブートルー、ツェラー等希臘哲學史)
丁酉倫理會倫理講演集 197,198 [33097
長谷川如是閑「種を蒔いた時の聯想」(希臘時代の小國家、パルテノン、アゼンス等) 我等 1-6 [33098
講壇・海老名彈正「日本精神的文明の將來」(ゲーテ、シラー、ニイチェ等)
基督教新聞 1838(1/9) [33099

思潮・宮田脩「文化の理想」(丁酉倫理會講演大意。ギゾー、マシュウー・アーノルド等)基督教新聞 1843(2/13) [33100
渡瀬常吉「朝鮮教化と組合教會の使命」(グリーキ民族等)
基督教新聞 1870(821) [33101
廣告「金鶴香水庵法」(古代希臘の文明期、醫聖ヒポクラテス等)
東京朝日新聞 8/17,8/25 [33102
出版界「歐洲民族文化史」(井上忻治譯) 東京朝日新聞 10/23 [33103
(希臘)メタクサ伯爵夫人「日本の印象」(クリート文化、ミノス文化、ヘラクレスの傳說等) 東京朝日新聞
10/23,10/24,10/25 [33104
B.①馬場孤蝶「「オデツセエ」物語」婦人公論 4-5 [33105
中山昌樹譯『聖アウグスティヌス懺悔錄』(洛陽堂。→大 13。信仰叢書 2) [33106
アウガスチン/宮崎八百吉譯『懺悔錄』(警醒社) [33107
②賀川豐彦『基督教論爭史』 [33108
賀川豐彦『精神運動と社會運動』 [33109
日野眞澄『基督教教理史』 [33110
宮川經輝『基督教の三德』 [33111
高島平三郎『精神修養・逸話の泉(第 10,11 編)』(10 編[ソクラテス、エマーソン、アーノルド]、11 編[アルキメデス、歷山大王、樽の哲人、ソクラテス、シルレル、デモステ子ス、ゲーテ]) [33112
カール・ヒルティ/平田元吉譯『神經衰弱に就て』 [33113
③＊[訂正]安藤州一「ソクラテスの獄中生活」新布教 5,6,7,8 月號 [16671] [33114
篦節三「ユウトピア物語」中央公論 7,8 月號 [33115
瀧内秀綱「古代ギリシヤの精神」我等の宗教 14 [33116
田村文學士「希臘神話」獨逸語 7 月號 [33117
(參考：東京帝大文科大學大正 8 年度卒論、帝國文學 25-6 [33118
哲學科：小川義章「プラトウの觀念論」)
(參考：會報「大津市に於ける國民思想涵養講演會」、歷史と地理 4-3 [33119
植村[清之助]文學士「西洋古代の思想」)
(參考：會報「大津市神職會主催の本會の講演會」、歷史と地理 4-4 [33120
植村[清之助]文學士「希臘思潮」(2 回))
藤本了泰「基督教に於ける遁世主義の起源に就て」歷史地理 34-1,4 [33121
「王様の禮服より美し」(賢者ソロン)ときのこゑ 9/15 [33122
(小說)「ソクラテスと天才」中學世界 9 月號 [33123
(北米ボストン)末岡章「スフィンクス」(希臘悲劇、希臘藝術等)
六合雜誌 39-6 [33124
④＊[訂正・削除]近事片々「外國」哲學雜誌 387 [22558] [33125
H.N.Gardiner,“The Pychologie of the Affections in Plato and Aristotle”,
Philosophical Review XXVIII,1 Jan. 1919)
＊ [訂正]内田繁隆「西田博士並に田中王堂氏の哲學的傾向を論じて哲學の將來に及ぶ」六合雜誌 462 [33126

新刊紹介「日野眞澄「基督教々理史」」六合雜誌 39-3 [33127
賀川豐彦「基督教に於ける救の經驗とその心理(其二)」(アウグスチン等)
六合雜誌 39-7 [33128
西淵峻「最高の自由への道」(アリストテレース、エマスン、ギリシア神話等)
六合雜誌 39-10 [33129
新刊紹介「社會主義倫理學」(カウツキー/堺利彦譯) 六合雜誌 39-10 [33130
新刊紹介「西教史談」(切支丹。山本秀煌著) 六合雜誌 39-10 [33131
新村出「足利學校の盛時と西教宣傳」史林 10 月號 [33132
五十嵐治孝「護教家オザナムを憶ふ」(聖アウグスチン等)聲 519,520 [33133
(墨田)庭泉「教父と博士と總主教」(コンスタンチノ大帝、聖オグスチノ等)
聲 522 [33134
須山二郎(飛雨?)「天主の無限性」(プラトン、アリストテレス等)聲 525 [33135
須藤教民「宗教の人間化を排す」(グノスチック等)聲 527 [33136
明石浦人「最良の護教論」(オリゼヌ[オリゲネス?]、羅馬の哲學者セルスス)
聲 528 [33137
隨時評論「先づ自己を知れ」(ダンテ等)聲 528 [33138
海外教報「東國三賢王の聖遺骨」(コンスタンチノ大帝の母ヘレナ等)聲 528[33139
(參考：東京帝大文科大學大正 8 年度卒論、帝國文學 25-6 [33140
文學科：鈴木信六郎「モンテーニュの享樂主義」)
彙報「御講書始---穂積陳重「フステル・ド・クーランヂ著、古代市府論中・祭祀と政治法律との關係」」歷史と地理 3-2 [33141
(參考：會報「大津市神職會主催の本會の講演會」、歷史と地理 4-4 [33142
魚住文學士「江戸時代の海外思想輸入」(2 回))
西村爲之助「日本西洋中世史の比較」歷史地理 34-1 [33143
(參考：彙報「東京帝國大學文學部史學科卒業論文」、歷史地理 34-1 [33144
鈴木信六郎「モンテーニュの享樂主義」)
竹友藻風「ヲルタア・ペイタア」三田文學 10-3 [33145
竹友藻風「審美批評論」(ペイタア)三田文學 10-8 [33146
雜錄「エピキュラスの園」(和氣律次郎譯)三田文學 10-12 [33147
遠藤無水「マルクス傳」改造 8 月號 [33148
堀江朔「佛蘭西文學の傾向とグルモンの思想」新公論 5 月號 [33149
小島茂雄「我國現代の思想界を論じてサンタヤナを紹介す」
中央公論 10 月號 [33150
小熊虎之助「ベルグソンの夢の說」變態心理 2 月號 [33151
斷片・河上肇「「ケーベル小品集」」社會問題研究 10 [33152
カロリン女史/小倉志貴譯「佛教規範の研究(承前)」(パルメニデス、ピタゴラス派、ヘラクラウトス等)
東洋哲學 26-5 [33153
「井上[圓了]先生著作總目錄」東洋哲學 26-7 [33154
下澤瑞世「世界哲學的事功の年齡的發達(1)」(シュライエルマッヘル、アーノルド、ブルノー、ヘーゲル、ミル、ベルグソン等)

東洋哲學 26-8 [33155
栗原英之助「妄想情解」(ケーベル關聯) 丁酉倫理會倫理講演集 197 [33156
吉田靜致「故中島[力造]先生を憶ふ」(大正 7 年 6 月 24 日、歸一協會。演題「實踐哲學上より見たるデモクラシー」、アリストテレース等) 丁酉倫理會倫理講演集 198 [33157
故中島力造「實踐哲學上より見たる民族主義」(アリストートル、スパルタのリコルゴス憲法、羅馬、希臘等)
丁酉倫理會倫理講演集 199 [33158
新刊「高島平三郎編「精神修養・逸話の泉」」(第 10 編、第 11 編。「ソクラテス其共を励ます」、「アルキメデスと黄金の冠」、「歴山大王と樽の哲人」)
丁酉倫理會倫理講演集 202 [33159
新刊「阿部次郎「ニイチェのツアラツストラ・解釋並に批評」」
丁酉倫理會倫理講演集 202 [33160
應問・HM 生(山形)「小生は今回中等教員文檢修身科を受驗せむと志し申し候、不案内につき參考書、勉強法等、又適當な講義錄あらば御教示下され度願上候」、丁酉倫理會倫理講演集 204 [33161
----答・大島[正德]學士「ファイト倫理學原論」、中島[力造]博士「倫理學說十回講義」、北澤[定吉]學士「倫理學史綱」、綱島榮一郎「歐洲倫理學史」
渡邊吉治「美學史の方法論---美學史序論としての」心理研究 86,89 [33162
應問(臺北・山口清光)「拝啓左記の事項御教示下され度願上候。一、心理學及哲學研究(初歩のものに候)の楷程、一、心理學及哲學に關する辭書は如何なるものもよろしく候や、發行所、價格等御教示下され度候」、心理研究 88 [33163
----(答)松原「波多野精一博士「哲學史要」、大西克禮「西洋哲學史」、ウィンデルバンド/村岡典嗣譯「近世哲學史」、宮本和吉「哲學概論」、紀平正美「哲學概論」、朝永三十郎博士「近世に於ける我の自覺史」、西田幾多郎博士「現代理想主義の哲學」、朝永博士編「哲學辭典」、同文舘編「哲學大辭典」
應問(神戸市熊内・岡田重尚)「美學とは如何なる學問ですか」
心理研究 89 [33164
----(答)渡邊吉治
應問「本能について研究したる有名な人について(東西古今を網羅)」
心理研究 92 [33165
----(答)增田（ヘラクリトス以降）
香川錦藏「ドイッセン教授」心理研究 95 [33166
ショー/小熊虎之助譯「理想と理想主義者」心理研究 96 [33167
新刊「日野眞澄「基督教教理史」」基督教新聞 1838(1/9)
講壇・小平國雄「平和的教育の高調」(ゼルクセス[クセルクセス]、アレキサンダー等) 基督教新聞 1841(1/30) [33168
家庭・トキ「二つの御感想を聞き私の思ふ程を」(ソクラテス等)
基督教新聞 1850(4/3) [33169

「自由平等と基督教」(ニイチェ等) 基督教新聞 1855(5/8) [33170
教壇・綱島佳吉「母の偉大」(セント・オーガスチンの母モニカ等)
基督教新聞 1859(6/5) [33171
想苑・野本甲浦(學人)「天眞二歸レ」(聖オーガスチン等)
基督教新聞 1864(7/10) [33172
聖書研究・長坂鑒次郎「懺悔と歡喜」(聖アウグスチン等)
基督教新聞 1867(7/31) [33173
N.Y.生「現代の歸趨と精神的背景」(レッシング、シルレル、シーザーの劍、プラトー等) 基督教新聞 1878(10/23) [33174
新刊批評「マルクス傳」(村上正雄譯。スパンゴ著抄譯)萬朝報 9411(8/24) [33175
新刊批評「エピキュラスの園」(アナトール・フランス/和氣律次郎譯)
萬朝報 9523(12/14) [33176
出版界「偶像再興」(和辻哲郎著) 東京朝日新聞 1/25 [33177
出版界「基督教々理史」(日野眞澄著。保羅、オリゲネース、アグスチヌース等)
東京朝日新聞 2/3 [33178
出版界「古今東西・偉人の面影」(町田辰治著) 東京朝日新聞 2/15 [33179
出版界「精神修養・逸話の泉（第 10,11 編）」(高島平三郎編)
東京朝日新聞 5/26,6/6 [33180
出版界「ニイチェのツアラツストラの解釋並びに批評」(阿部次郎著)
東京朝日新聞 6/7 [33181
出版界「社會主義倫理學」(堺利彦著)東京朝日新聞 8/15 [33182
出版界「エピキュラスの園」(和氣律次郎譯) 東京朝日新聞 11/25 [33183
出版界「金澤饗宴」(生田春月譯、プラトオン「饗宴」)
東京朝日新聞 11/25 [33184
C.②箕作元八『フランス大革命史・前編』 [33185
三宅雪嶺『東西英雄一夕話』 [33186
デヴイス/ホワイト、岩城忠四郎譯『耶蘇の奇蹟』 [33187
ダブルユ・ビ・ヒル/瀬川四郎譯『基督傳緒論』 [33188
左近義弼譯編『耶蘇教の初代----使徒行傳』(聖書改譯社) [33189
大野法瑞『赤裸々の基督-----史的研究』 [33190
松本苦味編『キリストの言葉』 [33191
ジェー・ジー・ベレツト/澤田忠治譯『路加[ルカ]傳の特徴』 [33192
③菅原敎浩「女性研究・希臘の女性」婦人公論 4-3 [33193
長谷川時雨「埃及の女王クレオパトラ」婦人世界 14-8 [33194
(參考：東京帝大文科大學大學院學生研究題目、帝國文學 25-2 [33195
山中謙二「基督教發展歷史、主として羅馬帝政時代より中世初期に至る」)
(參考：東京帝大文科大學大正 8 年度卒論、帝國文學 25-6 [33196
史學科：高橋邦枝「太古のローマ人は海より發展したりしか」）
(參考：會合「京都大學學術講演會」、歷史と地理 3-4 [33197
濱田文科教授「伊太利の古市ポムペイ及びヘルクラ子ウムの發掘」）
植村清之助「羅馬市國の基督教徒迫害」歷史と地理 4-3 [33198
(參考：彙報「第 32 回中等教員歷史科本試驗歷史地理科問題中」、

歷史地理 33-2 [33199
------ 西洋史：「一、アレクサンドリアの創建とエジプト史との關係」)
長瀬鳳輔「古代史に現はれたる巴爾幹[バルカン]半島」歷史地理 33-5,6 [33200
(參考：彙報「東京帝國大學文學部史學科卒業論文」、歷史地理 34-1 [33201
高橋邦枝「太古のローマ人は海より發展したりしか」)
(參考：彙報「大正 8 年教員檢定歷史地理科本試驗問題中」
歷史地理 34-6 [33202
----- 西洋史：「四、左の名稱の解釋(甲)フォールム」)
關寬之「教育史上に於ける遊戲」(「希臘の教育と遊戲」、「羅馬の教育と遊戲」)
東洋哲學 26-4,5 [33203
(參考：「本會記事」、心理研究 87 [33204
----- 菅原教造「クレオパトラとメッサリナ」）
聖書研究・露無文治「以弗所[エペソ]書講解----總論」
基督教新聞 1838(1/9),1839(1/16) [33205
賀川豐彦「イエス傳の教へ方(6)(7)」(ギリシア民族の宗教思想、プラトー、ソクラテス等) 基督教新聞 1867(7/31),1883(11/27) [33206
史傳・淺田すま「ペテロの死とポーロの死」(羅馬人、ネロの宮殿等)
基督教新聞 1882(11/20) [33207
④村川堅固「在米同胞の現狀に就て」(ペルシア戰爭等)帝國文學 25-7 [33208
(參考：彙報「最近に於ける京都帝國大學考古學教室學術的事蹟」
歷史と地理 4-3 [33209
人事・村川堅固談「箕作元八博士逝去」)
山下新太郎(揷畫)「羅馬の古址」婦人公論 4-6 [33210
大類伸「都市の變遷」歷史と地理 3-4,5 [33211
彙報「箕作[元八]文學博士の薨去」歷史地理 34-4 [33212
中村孝也「故箕作博士」雄辯・秋季特大號 [33213
下澤瑞世「歷史は繰返すや、文化は進歩せしや---世界改造に至る歷史心理」
心理研究 90,91,92 [33214
想苑・野本甲浦(學人)「然と汝は彼處に濟り行くを得ず」(世界文化の發祥地フェニキ等) 基督教新聞 1862(6/26) [33215
「戰場より濟し歸る靈話の信」(ロマの兵士、ニイチェ宗等)
基督教新聞 1865(7/17) [33216
「箕作元八博士危篤」(西洋史話、佛蘭西大革命史等)萬朝報 9394(8/7) [33217
新刊批評「西洋歷史集成(下巻)」(坂本健一著)萬朝報 9440(9/22) [33218
D.①＊[訂正]阿部次郎譯「希臘詞華集抄」アララギ 12-3,6 [6033] [33219
蘆川『イソップ修養講話』 [33220
馬場孤蝶「「オデッセエ」物語」婦人公論 5 月號 [33221
ダブリュ・ウヲルシャム・ハウ/吉村大次郎譯『聖ヨハネ傳註解』 [33222
②＊[訂正]水谷不倒(弓彦)『假名草紙』([イソップ]上下。→大 9) [6037] [33223
③質疑解答「新教の主禱文」(ウルガタ羅甸譯、希臘語譯等)聲 525 [33224
教界彙報「最も完全なる神名」(希臘語「テオス」、羅甸語「デウス」等)
聲 525 [33225

松本文三郎「健陁羅彫像に對する一疑問」國華 344,346 [33226
井汲清治「文學の世界性と人間性」三田文學 10-3
渡部雪夫「古代文學に表はれたる宗教と藝術の起原」婦人公論 5(4-5)月號 [33227
寺崎武男「藝術の變遷」心理研究 93 [33228
聖書研究餘錄・岩城生「聖語の研究」(希臘語)基督教新聞 1853(4/24),
1864(7/10) [33229
④吉田絃二郎「ラスキン思想の半面」六合雜誌 39-2 [33230
隨時評論「地獄」(ダンテ「神曲」中)聲 528 [33231
青木昌吉「十九世紀の獨逸の文學に現はれたる其國民思想」
帝國文學 25-1,2,3,4 [33232
(參考：東京帝大文科大學大學院學生研究題目、帝國文學 25-2 [33233
舟木重信「ゲーテ研究」)
(參考：東京帝大文科大學大正 8 年度卒論、帝國文學 25-6 [33234
文學科：本尾小二郎「ゲーテ最初の傑作イフィニエア・タウリスに就て」)
新刊「和辻哲郎「偶像再興」」帝國文學 25-3 [33235
新村出「言語の研究と古代の研究」民族と歷史 1 月號 [33236
新刊紹介「黒板勝美「聖德太子を中心としての推古朝の美術」(大 7・中央美術 5-2)」
歷史と地理 3-4 [33237
(參考：彙報「東京帝國大學文學部史學科卒業論文」、歷史地理 34-1 [33238
土屋廉藏「ジョン・キーツ」)
難波憲「ボナペンツウラ・ヅービニ」(イタリア文藝批評)三田文學 10-2 [33239
竹友藻風「國文學の研究」(ヨーロッパ文學)三田文學 10-11 [33240
佐久間鼎「國語の心理的觀察(1)」(ギリシヤ語、ラテン語のアクセント)
心理研究 94 [33241
有島武郎「藝術論(第 2,5 講)」(ニーチェ、ローマ帝政時代、ディオニッス、アポロ、ダンテ等) 基督教新聞 1850(4/3),1853(4/24) [33242
廣告「アテネ・フランセ」（希臘・羅馬科あり）萬朝報 9187(1/8) [33243
新刊批評「偶像再興」(和辻哲郎著) 萬朝報 9193(1/14) [33244
扉「ゲエテの生涯」(附・肖像)文章倶樂部 4-6 [33245
一志茂樹「アウギュスト・ロダン」地上 1-2,3 [33246
出版界「近代文學に現はれたる兩性問題」(島村民藏著) 東京朝日新聞 11/10[33247
E.①講演・中上友三郎(高等法院覆審部判官)「羅馬法格言」臺法月報 13-10,11 [33248
②宮崎力藏『經濟史より見たる修道院の研究』(社會問題叢書 4) [33249
③(參考：彙報「大正 8 年教員檢定歷史地理科本試驗問題中」、歷史地理 34-6[33250
------ 西洋史：「一、上古ギリシヤに於ける政體の變遷」)
④岡見愼二「民主論の根柢」(希臘古代アゼンス) 六合雜誌 39-1 [33251
阿部義宗「基督教と社會主義との衝突點(1)」(古代希臘プラトー「共和國」、アリストートル、アレオパカスの宮庭等)
六合雜誌 39-4 [33252
内ケ崎作三郎「國際的日本の位置と人種問題」(フェニシヤ、希臘、羅馬等)
六合雜誌 39-5 [33253
教界彙報「民主主義と公教」(ジェファーソン、モンテスキュー、聖トマス・アキ

ナス等)聲 529 [33254
(參考：消息「史學會」、帝國文學 25-5 [33255
穂積重遠「國際法の開祖グロチウス」)
吳文炳「法制の史的研究」(クーランジュ等)歴史地理 33-6 [33256
大類伸「ランケの國家觀」東亞之光 14-11 [33257
(?)「獨逸の興亡新生と獨逸哲學との關係(上)」(ゲーテ、ヘーゲル、ニーチェ等)
東洋哲學 26-1,2 [33258
泰西思潮「ヂァストロウ教授「現戰爭に含まれた究極道德問題」」(羅馬の知的高潮、シイザア時代、ゲーテ、シルレル等)
丁酉倫理會倫理講演集 197 [33259
新刊「社會及國體研究錄」(金子馬治「歐洲思想大觀」)
丁酉倫理會倫理講演集 198 [33260
新刊「吉田熊次「國民道德とデモクラシー」」(「プラトーのデモクラシー觀」)
丁酉倫理會倫理講演集 203 [33261
新刊「カウツキー/堺利彦譯「社會主義倫理學」」
丁酉倫理會倫理講演集 204 [33262
山鹿義敎「外國貨幣の研究(2)」(ホーマー氏、ギリシヤ等)貨幣 6 [33263
「國際聯盟問題に就て」(ローマ帝國、オーガスチン等)
基督敎新聞 1839(1/16) [33264
マッギファルト博士「基督敎とデモクラシー」(羅馬帝國等)
基督敎新聞 1855(5/8) [33265
F.②可兒德・石橋茂五郎・寺岡英吉『理論實際・競技と遊戲』(「西洋遊戲史」希臘羅馬) [33266
③菅原[敎造]教授「希臘人の化粧」婦人公論「美人と化粧」春季特別號 [33267
アアーネス女史「天文學と社會の進歩」(アレキサンドリア派ノ希臘文獻、プトレミーの天文學、羅馬帝國、アリストートル、希臘古典文學等)六合雜誌 39-2 [33268
④三上義夫「Stakar 氏著印度科學史(1)(2)」(希臘ゆーくりつと、羅馬時代等)
東京物理學校雜誌 332,333 [33269
須田井(飛燕)生「我邦の印刷術」(「エソップ物語」「フィデスの導師」等)
聲 524 [33270
(參考：彙報「第 32 回中等教員歴史科本試驗歴史地理科問題中」
歴史地理 33-2 [33271
---- 西洋史：「三、左の人々の事蹟(甲)アルキメデス」)
G. 高井清一[第 1~3 巻執筆]・麻生久[第 4 巻執筆]『法律熟語新辭典』(3 册) [33272
出版界「袖珍獨和辭典」(三浦吉兵衛編)東京朝日新聞 12/29 [33273
出版界「增補改訂・袖珍英和辭典」(熊本謙二郎、南日恒太郎共著)
東京朝日新聞 12/29 [33274

大９(１９２０)
A. ＊[訂正]安倍能成「日本文化と西洋文化---朝鮮群山開港 35 周年記念講演」(昭 24

刊、同「文化・思想・哲學」中)　[6100]　[33275
長谷川如是閑「現代文化とその轉向」(ギリシア美術彫刻、ホーマー等)
六合雜誌 40-7　[33276
寺田四郎「汝、美しいソルレントの都よ女よ」婦人公論 5-7　[33277
寺田四郎「美の都ナーポリの開祖・バルテーノペとチモーネ」
婦人公論 5-11　[33278
濱田青陵「伊太利と日本」東京朝日新聞 5/19,5/20　[33279
故荻原守衛「伊太利の旅」アララギ 13-1　[33280
蓼雨「伊太利の旅」中學世界 9 月號　[33281
二ケ島白菊「泰西名著・羅馬に咲く花」婦人家庭 3 月號　[33282
矢野仁一「支那に於ける西洋學」支那學 12 月號　[33283
新村出「京都に於ける西洋文明」京阪文化史論[11 月]　[33284
植村清之助「「概觀・世界史潮」を讀みて」(坂口昂)歷史と地理 6-4　[33285
彙報「大阪朝日新聞「ヴント逝く」」歷史と地理 6-4　[33286
(參考：彙報「東京帝國大學文學部春學期講義題目中」、歷史地理 35-4　[33287
西洋史學(羅馬史太古より、村川)、哲學概論(井上)、西洋哲學史概說(桑木)、西洋倫理學概史(吉田)、基督教の前提(石橋)、教育學?論（林)、教育史概說(春山)　)
(參考：彙報「東京帝國大學文學部史學科の新講義」、歷史地理 36-4　[33288
史學概論・史學概說(坪井)、史學方法論(村川)、羅馬史(村川)、西洋文化史概說(大類)/副科目---西洋哲學史概說(桑木)、希臘哲學史(石原)、民族心理學(言語と思考、神話及宗教、桑田)、教育史概說(林)、ギリシア美術史(澤木)、比較神話學(松村)）
(參考：彙報「第 34 回大正 9 年度歷史科及地理科教員檢定試驗問題中」、
歷史地理 36-4　[33289
---- 西洋史：「一、太古より文藝復興時代に至る西洋文化中心地の移動」)
(參考：[慶應義塾]「文學部開講中」、三田文學 11-5　[33290
美學及び美術史(澤木)、ダンテ研究(阿部)、「ゲーテのキルヘルム・マイステル」及び文藝評論(小宮)、古典研究(馬場[弧蝶])、英文學(戸川、竹友)、佛文學(豐島)　)
(參考：雜錄「澤木四方吉[梢]氏、東京帝大にて希臘建築を講ず(希臘美術史第二部)」
三田文學 11-10)　[33291
教育問題・思想問題の紹介及び批評・記者「金子筑水「時代精神としての文化主義」」(大觀 6 月號、古代ギリシア文化、ラテン文化等)教育論叢 4-1[33292
教育問題・思想問題の紹介及び批評・記者「森本厚吉「奉仕觀念の變遷と文化運動」」(ヘロドトス、プラトー等)
教育論叢 4-3　[33293
教育問題・思想問題の紹介及び批評・記者「金子筑水「文化主義の根抵」」(早稻田文學 10 月號、ギリシア文化等)
教育論叢 4-5　[33294
速水滉「故ヴント教授の功績」丁酉倫理會倫理講演集 213　[33295

彙報「ヴント教授逝く」心理研究 106 [33296
松本亦太郎「ヴント教授と歐米の心理學界」心理研究 107 [33297
野尻精一「ヴント教授の訃を聞いて」心理研究 107 [33298
塚原政次「ライプチッヒとヴント教授」心理研究 107 [33299
川合貞一「ヴント先生の追憶」心理研究 107 [33300
心理學研究會編「ヴント教授著作目錄」心理研究 107 [33301
心理學研究會編「ヴントに關する著述」心理研究 107 [33302
桑田芳藏「ヴントの人格と其の學風」心理研究 107 [33303
須藤新吉「科學的心理學確立者としてのヴント教授」心理研究 107 [33304
金子馬治「ヴント教授について」心理研究 108 [33305
楢崎淺太郎「ヴントの論理學より見たる個人心理學の概念」心理研究 108 [33306
井上哲次郎「ヴント教授の回想」心理研究 108 [33307
ビルンバウム「キルヘルム・ヴント」心理研究 108 [33308
故キルヘルム・ヴント「昔の伯林」(死後出版書の一節) 心理研究 108 [33309
海老名彈正「新時代建設の基礎」(羅馬市民等) 基督教新聞 1893(2/12) [33310
(參考：雜錄・小崎弘道「米國神學校記」、基督教新聞 1906(5/13) [33311
----- エール大學神學校案内：教會史家ウォーカー博士)
B.①摘み草・穗積陳重「大聖ソクラテスの義務心」(p.130)教育論叢 4-2 [33312
②波多野精一『宗教哲學の本質及其根本問題』(4 版。附・ソフィストとソクラテス) [33313
綾川武治・久保勘三郎『近世哲學思潮大觀』 [33314
内村鑑三『山上の垂訓に關する研究』 [33315
佐藤繁彦『一粒の麦』 [33316
トマス・ア・ケンピス/中山昌樹譯『基督に倣ひて』(→大 13) [33317
トマス・ア・ケムピス/小黑康正譯『基督模倣』 [33318
ヒルテイ/平田元吉譯『眠られぬ夜の爲』(1 册) [33319
ヤコブ・リンデン/荻原晃譯『ローマカトリック教理詳解』(附・教會史) [33320
③＊[訂正]木村鷹太郎「プラトンの「アトランチス島物語」---- 瓜哇バタヴィアなり」新小說 25-7 [6137] [33321
秀史生「アリウスの異端」聲 532 [33322
乘田實「羅馬の「天檀」」(詩)聲 534 [33323
中山昌樹「聖アウガスチンの懺悔錄」婦人公論 5-1 [33324
松村武雄「二人の異教徒の對話---希臘の宗教と文藝とに對する二、三の考察」帝國文學 26-1 [33325
田中萃一郎「プラトーの理想國」大觀 1 月號 [33326
中村勇太郎「パンドラ物語」童話 6 月號 [33327
大類伸「神話とギリシヤ思想」中央史壇 6 月號 [33328
忌無「ギリシヤ神話とエエネアスの漂泊」講談雜誌 8 月號 [33329
(參考：彙報「哲學會公開講演會」、心理研究 101 [33330
----- 石原謙「ヘレニズム時代の宗教」)
「バッカスの祭」心理研究 108 [33331
④＊[訂正]田中王堂「バアトランド・ラッセルの衝動論・信仰論」(ウォルター・ペ

ーター「文藝復興」、ニイチェ、レッシング等)
東洋經濟新報 898,899　[16697]　[33332
新刊紹介「倫理學概論」(荻原擴著)六合雜誌 40-11　[33333
オミクロン「老哲學者の回想」(聖オグスチノ等)聲 530　[33334
須山二郎(飛雨?)「聖書を學ぶ道」(聖オグスチノの經驗)聲 531　[33335
「ヴァチカンの威光」(重德來助氏、大阪朝日新聞より紹介。古代ローマの名残等)
聲 534　[33336
山鹿生(山口鹿三?)「靈魂不滅論(2)」(詩聖ダンテ等)聲 536　[33337
阿部秀助「中世紀文明に歸へれ---物質生活を去り宗教心に活きよ」(ギリシヤ思想、
プラトー、アリストートル等)
三田新聞 40(4/4)　[33338
鈴木習之「宗教改革の思想的背景」(プラトン、アリストトートル、聖アウグシチ
ヌス等)カトリック 1　[33339
アクイナス「姉崎[政治]博士の花日記より」(ダンテ等) カトリック 1　[33340
戸塚文卿「帝大カトリック青年會の使命」(ギリシヤ・ローマの文明等)
カトリック 1　[33341
新刊「歐洲思想大觀」(金子筑水著)三田文學 11-12　[33342
新刊「アナトル・フランス/和氣律次郎譯「エピキュラスの園」」斯民 15-2[33343
思潮紹介「吉田熊次「權利思想に心理及倫理」(國家學會雜誌 2 月號、ソクラテス、
プラトン、アリストートル、ストア派、エピクロス學派等)
教育論叢 3-4　[33344
說苑・河野清丸「人格と自由」(ソクラテス、プラトーン、アリストートル等)
教育論叢 3-5　[33345
兵士會「交際の心得」(シセロ等)ときのこゑ 5/15　[33346
(東洋大學學生)小川團次・三谷眞來「カントの哲學(上)」(デマクリタス、アリスト
テレース等)東洋哲學 27-4　[33347
紀平正美「大乘とは何ぞや」(プラトー關聯) 丁酉倫理會倫理講演集 209　[33348
新刊「荻原擴「倫理學概論」」丁酉倫理會倫理講演集 213　[33349
上野陽一「兒童觀の變遷と文明の進歩」心理研究 98　[33350
應問(岡山縣小田郡大井小學校内・吉原教)「拝啓恐縮ながら左の件御教示をお願ひ
致します。人相・骨相・方位等によつて本來の吉凶禍福即
ち人生一代の運氣を判斷するにいふことは、心理學上及至
學理上根據あるや否や、又信ずべき價値あるものに候や」、
心理研究 98　[33351
-----（答）アリストテレス等。
松本重彦「拝火教と火器の起源に關するシュルツの意見」心理研究 99　[33352
新刊「桑木嚴翼博士外十八名「哲學の進歩」」心理研究 101　[33353
圖書「半田孝海「嫉妬の研究」」心理研究 104　[33354
内ケ崎作三郎「現代教會の思想的覺醒を促す(上)」(ギリシヤ的精神、ローマ帝國、
ギリシヤ文化、ローマ文化等)
基督教新聞 1887(1/1)　[33355
栗原基「思想生活の冒險」(ソクラテーズ、プラトー、[K.]マルクス、クロポトキ

ン等) 基督教新聞 1901(4/1) [33356
「時代思潮雜感」([K.]マルクス、クロポトキン等) 基督教新聞 1903(4/22) [33357
畠中博「解放せられたる宗教」(シーザー、ローマ法、ギリシヤ人、ソクラテス等)
基督教新聞 1903(4/22) [33358
教壇・宮川[經輝]牧師「忠實と能律」(ギリシヤの賢者哲人、ローマの政治家法律家等) 基督教新聞 1904(4/29) [33359
賀川豐彦「實生活に生くる基督教」(オイッケン、ベルグソン、ニーチェ等)
基督教新聞 1904(4/29) [33360
講壇・吉野作造「現代青年の思想的傾向」([K.]マルクス、クロポトキン等)
基督教新聞 1905(5/6) [33361
(參考 : 彙報「世界日曜學校大會資金募集活動寫眞來る--- 「タイス」[A.フランス]」
基督教新聞 1905(5/6)) [33362
宮川[經輝]牧師「崇高なる人格を慕ひて」(トマス・アーノルド、ソクラテス等)
基督教新聞 1907(5/20) [33363
「優良者の使命」(ホーマー、ターレス等) 基督教新聞 1910(6/10) [33364
感想・栗原基「二つの善き書物」(ヒルティ原著/平田元吉譯「眠られぬ夜の爲に」)
基督教新聞 1914(7/8) [33365
「基督教倫理と現代生活」(マシュウー・アーノルド、ゲーテ等)
基督教新聞 1916(7/22) [33366
海外時報思潮「人格性に關する二三の名著」(デイン・インゲ「プロチヌス」)
基督教新聞 1918(8/5) [33367
(參考 : 教界「各地」(愛知教會)、基督教新聞 1919(8/12)
---- [7/18]ソロウイヨフ「神人論」の紹介あり)
渡瀬[常吉]生「傳道者の現代的典型(續)」(スパルタ、イパミノンダス等)
基督教新聞 1920(8/19) [33368
ホワイト/松尾正秀譯「溢るる恩寵に現はれたるバンヤン」(「わたしはプラトーやアリストートルを學ばなかつた」)
基督教新聞 1922(9/2),1924(9/16) [33369
富永德磨「因接せる大問題(1)(3)--- 基督教徒の抱負」(ニーチェ主義、ソクラテス等) 基督教新聞 1924(9/16),1926(9/30) [33370
「基督の宇宙的意義(3)」(プラトー等) 基督教新聞 1931(11/4) [33371
山口生「書齋だより」(R.B.Perry,The Present Conflict of Ideas[文明協會譯「現代理想の葛藤」]、I.A.Leighton,The Field of Philosophy)
基督教新聞 1935(12/2),1937(12/16) [33372
宮川經輝「聖誕の序幕」(アレキサンドリアのフィロ等)
基督教新聞 1938’12/23) [33373
「シュミットボンと表現主義」(「ヂオゲネスの誘惑」)萬朝報 9747(7/25) [33374
新刊批評「歐洲思想大觀」(金子筑水著)萬朝報 9856(11/11) [33375
「雪橇をぶっ壞したプラトン學者---雪に埋もれて博士論文を書いた鹿子木氏」
東京朝日新聞 1/7 [33376
有田音松「忠孝と思想問題」(アリストートル、羅馬の家族制度等)
東京朝日新聞 1/20 [33377

厨川白村「象牙の塔を出て」(バイロン、ゲーテ、オオガスティン、ダンテ、ニイチェ等) 東京朝日新聞 3/5,3/7.3/20 [33378
出版界「古代希臘の思想と文藝」(山原三郎) 東京朝日新聞 8/29 [33379
和辻哲郎「書かれた言葉と話された言葉----Butcher に據る」(プラトー等) 新小説 25-3 [33380
有島武郎「ケーベル博士小品集について」著作評論 1 [33381
C.②箕作元八『フランス大革命史・後編』 [33382
武者小路實篤『耶蘇』(新しき村出版部版。→大 15 新潮社版) [33383
賀川豐彦『イエス傳の教へ方』(宗教教育研究叢書 1) [33384
浦川和三郎『通俗耶蘇基督傳』(上下。→大 12) [33385
三好甫『聖會歷史物語』(第 1 巻) [33386
妻木忠太編『新編世界史年表』 [33387
③＊[訂正]大山久子夫人談「皇帝ネロンの夢の跡」女性日本人 1-1 [6188] [33388
高橋立吉「東西古今の惡婦物語」婦人公論 5-10 [33389
橋本辰彦「都市發達の歷史的觀察」歷史と地理 5-5,6 [33390
植村清之助「異教征服」歷史と地理 6-4 [33391
(參考：彙報「大正 9 年度東京帝國大學文學部史學科卒業生」、歷史地理 36-4 [33392
藤原音松「羅馬史の一部(都市の研究)」)
(參考：彙報「第 34 回大正 9 年度歷史科教員檢定豫備試驗問題中」歷史地理 36-4、教育論叢 4-4 [33393
----- (歷史科)西洋史：「三、左の人々の事蹟(甲)ガイウス、グラックス」「四、左の地に關する史實(甲)ケーロネヤ」)
少年園「王様らしくない---サイラス王と酒」(カムビセス)ときのこゑ 2/11 [33394
鈴木三重吉「デイモンとピシアス」赤い鳥(鈴木三重吉主宰)5-5 [33395
小川久喜「三人のユダヤ人とネブカドネザル」(創作)地上 2-1 [33396
趣味の人「クレオパトラも」萬朝報 9740(7/8) [33397
史傳・淺田すま「ユダヤに於ける革命」(希臘思想の中心地アンテオケ、羅馬のポンペイ等) 基督教新聞 1889(1/15) [33398
④＊[訂正](參考：彙報「第五十四回讀史會例會記事」史學雜誌 373 [22644] [33399
中城學士「ブレステッドの古代史、ロビンソンの中世及び近世史の紹介」)
新刊紹介「基督教史の研究」(野々村戒三著) 六合雜誌 40-12 [33400
彙報「大阪朝日新聞「京都史學研究會の地理書展覽」」(フンボルト) 歷史と地理 6-5 [33401
海外時報思潮「スミス教授の「保羅傳」」基督教新聞 1889(1/15) [33402
海外時報思潮「ウィリアム・ウォーカア教授「基督教會史」」基督教新聞 1904(4/29) [33403
(參考：彙報「世界日曜學校大會資金募集活動寫眞來る--- 「クオーワヂス」[シェンキーウヰツチ]」、基督教新聞 1905(5/6) [33404

說苑・笹井貞七稿「平和の慾求(1)」(アレキサンダー大王の建國、ローマ世界國の建設等）基督教新聞 1932(11/11) [33405
山口生「書齋だより」(野々村戒三「基督教史の研究」)
基督教新聞 1937(12/16) [33406
新刊批評「何處へ行く」(シェンキウ井チ/植村榮一譯)萬朝報 9837(10/23) [33407
新刊批評「基督教史の研究」(野々村戒三著)萬朝報 9848(11/3) [33408
出版界「クレオパトラ榮華物語」(久保青壽著)東京朝日新聞 2/13 [33409
柳澤「アルノルド・トインビー傳」新組織 2 月號 [33410
D.①「伊太利俚諺集(警句集)」面白倶樂部 10 月號 [33411
柏木義圓『希來伯[ヘブル]書略解』 [33412
②フェネロン/秋田雨雀譯『フェネロン物語』(世界少年文學名作集第 7 。家庭讀物刊行會) [33413
③＊[訂正]深田康算「アリストテレスの藝術論」藝文 11-1,4,6（→昭 3 年、「思想」75 に再錄) [6219] [33414
質疑解答「イエズスの罪標」(ギリシア語、ラテン語)聲 537 [33415
(參考：會報「第 3 回國民教化講座」、歴史と地理 5-1 [33416
-----濱田耕作「日本の彫刻、西洋の彫刻」)
濱田青陵「日本と希臘の彫刻---特に奈良朝以前とフィデアス以前との比較」
歴史と地理 5-2 [33417
濱田耕作「日本と希臘の彫刻」藝術と文化 5-2 [33418
中山平次郎「西域佛教藝術と神獸鏡」藝術と文化 5-2 [33419
消息「澤木四方吉氏講演「ギリシヤ史前の美術の發見の端緒」」
三田文學 11-1 [33420
消息「澤木四方吉氏講演「ビザンツ式建築」」三田文學 11-2 [33421
消息「ダンテ協會設立」三田文學 11-3 [33422
消息「澤木四方吉氏講演「アキレスの盾」」三田文學 11-7 [33423
(參考：大學記事「文藝研究會講話會成功」、東洋哲學 27-4 [33424
-----小林愛雄「希臘の舞踊」)
小林愛雄「希臘の舞踊」東洋哲學 27-12 [33425
(參考：教界・長谷川生「オーボルン通信」(リイド氏、希臘語解釋 2 時間)、
基督教新聞 1888(1/8)) [33426
④土井晩翠「ダンテ」六合雜誌 468(40-1) [33427
帆足理一郎「トルストイの藝術論」(ソクラテス、プラトン、アリストテレス等)
六合雜誌 40-12 [33428
(足利)瓦瓦金生「耶蘇教僧の木像に就て」(下野新聞抜粋。龍江院[カテキ?])
聲 537 [33429
(參考：會報「第 3 回國民教化講座」、歴史と地理 5-1 [33430
------植田壽藏「ミケールアンゼロ」)
(參考：會報「第 3 回大阪支部講演會記事」、歴史と地理 5-3 [33431
------佐々木恒清「奈良朝の佛寺建築と彫刻」）
(參考：會報「第 15 回史蹟踏査會記事」、歴史と地理 6-1 [33432
------魚住文學士「天平時代の彫刻と建築」)

(参考：彙報「史學會第二回大會記事」、歴史地理 35-5 [33433
------大類博士「中世文化上のダンテ」)
紹介・岩崎眞澄「佛教藝術の起源」國華 356,357,360 [33434
井汲清治「クラシイクとは何ぞや---サント・ブウブー」三田文學 11-6 [33435
土居光知「近代英文學に於ける批評精神」教育論叢 3-2 [33436
(参考：大學記事「文藝研究會講話會成功」、東洋哲學 27-4 [33437
---- 田部重治「シラーの藝述觀」、田部重治「再びシラーの藝述觀」)
田部重治「浪漫主義の藝術」(ギリシヤ文明、ゲーテ、シラー等)
東洋哲學 27-7,12 [33438
松本苦味「ギヨオテ警句選」現代 12 月號 [33439
正富汪洋「ゲーテ・シルレル・ハイネ」中央文學 4 月號 [33440
想苑・大林宗嗣「「青い世界」への交渉」(希臘語エワンゲリオン等)
基督教新聞 1894(2/19) [33441
(大賀)旭江漁史「登山者ダンテ」基督教新聞 1918(8/5),1919(8/12) [33442
新刊「佐藤清譯「宗教文藝叢書」」(ゲーテ) 基督教新聞 1925(9/23) [33443
海外文藝「ダンテ六百年祭」萬朝報 9799(9/15) [33444
中村吉藏「演劇と現代」(希臘デ井ニサス等)東京朝日新聞 1/5 [33445
「日比谷公園に野外劇場---希臘式の構造」東京朝日新聞 8/25 [33446
一志茂樹「アウギュスト・ロダン」地上 2-1,4,6,7 [33447
宇野浩二「鷹」(ボッカチオ)サンエス 7 月號 [33448
吹田順助「ゲーテとハイネ」我等 8 月號 [33449
高橋誠一郎「トマス・カンパネルラの「日の都」」三田學會雜誌 14-4 [33450
E.②J.J.ルソー/市村光惠・森口繁治譯『民約論』(→大 10) [33451
④工藤直太郎「ギルド社會主義の根本問題」(希臘羅馬のギルド制度、プレート、クセノフォン、ソクラテス等)
六合雜誌 469(40-2) [33452
「基督教と無政府主義」(ソクラテス等)聲 531 [33453
須藤敎民「國際法と我公教」(グロシウス等)聲 540 [33454
彙報「末松謙澄子薨去と防長回天史」(羅馬法)歴史地理 36-5 [33455
森戸辰男「クロポトキンの社會思想の研究」經濟學論集(東大)1-1 [33456
F.②＊[訂正・削除]カヂョリ/一戸直藏誤譯『物理學史』？ [6261] [33457
③菅原敎造「衣服の發達より見たる毛及び裸體の研究」心理研究 103 [33458
④三上義夫「亞剌伯[アラビア]數字ノ起源ニツキテ(Cajori 博士ノ所論ニ基キ)」(希臘羅馬等)東京物理學校雜誌 341 [33459

大１０(１９２１)
A. ＊[訂正・削除]~~二階堂眞壽「ヘレニズムとヘブライズムに就いて」女子青年界 18-3~~
[22672] [33460
中島弧島『文化史上に於ける女性と戀愛』 [33461
高山謹一『西航雜記』 [33462
ジァン・クラセ/太政官本局飜譯係譯『日本西教史』(上) [33463

(參考：山口昇編『歐米人の支那に於ける文化事業』(上海)　)　[33464
(參考：彙報「東京帝國大學大學院研究者並研究題目」、歴史地理 37-6　[33465
-----高橋邦枝「西洋古代文化史」)
(參考：彙報「東京帝國大學本年度講義中」、歴史地理 37-6　[33466
史學概說(坪井)、西洋史概說(坪井)、希臘文化史(村川)、羅馬史(村川)、史籍解題(村川)、西洋近世史(齋藤)、民族心理學(桑田)、神話及宗教文化(松村)、教育史概說(吉田)、ギリシア美術史(澤木)、中央發掘史(高楠))
(參考：彙報「京都帝國大學文學部史學科講義題目中」、歴史地理 37-6　[33467
史學研究法(坂口)、地理學史(小川)、考古學通論(濱田)、希臘羅馬考古學(濱田)、基督教會と歐洲中世の政治文化(植村)　）
(參考：彙報「東洋大學における史學講義中」、歴史地理 37-6　[33468
中世哲學史(出)、近世哲學史(得能)、西洋文化史(加藤)、西洋倫理史(中島)、古代哲學史(出)　)
(參考：慶應義塾文學部講義中、三田文學 12-5　[33469
美學・ギリシヤ建築及彫刻史(澤木)、民族心理學（神話、川合)、Goethe：Iphigenie auf Tauris 戯曲論(小宮)、M.Arnold's Culture and Anarchy(戸川)、英文學史(竹友)、キリスト教思想史(島原)、ニイチェの研究(阿部)、アナトール･フランス研究(廣瀬)、J.N.Seymour's The Mighty Mind of Old、スペイト)、シーザーのガリヤ戰記(ラテン語、荒木)　)
(參考：大學記事「學科改正及び新設學科」、東洋哲學 28-1　[33470
・大學部印度哲學倫理學科：西洋倫理史・倫理學(中島)、東洋倫理史(山口) 、心理學(高島)、教育學(野田)、印度哲學思想史(宇井)、論理學・古代哲學史・認識論・中世哲學史・近世哲學史(出)、近世哲學史・最近哲學史・現代哲學思潮(得能)、美學(瀧村)、西洋文化史(高桑)、宗教哲學(柳)
・大學部支那哲學東洋文學科：東洋倫理史(山口) 、倫理學(中島)、心理學(高島)、論理學(出)、教育學(野田)、文學概論(垣内)、言語學(藤岡)、日本文學史(藤村)、西洋文化史(高桑)、西洋哲學史(?)
・専門部倫理學教育學科：西洋倫理史･倫理學(中島)、東洋倫理史(山口) 、心理學(高島)、教育學(田中)、西洋古代哲學史・西洋中世哲學史・西洋近世哲學史(出)、西洋最近哲學史(得能)、西洋文化史(?)
・専門部倫理學東洋文學科：西洋倫理史・倫理學(中島)、東洋倫理史(山口) 、日本文學史(藤村)、言語學(藤岡)、文學概論(?)
・専門部文化學科：心理學(高島)、論理學・西洋古代哲學史・西洋中世哲學史･西洋近世哲學史(出)、哲學概論(得能)、教育學(野田)、美學(?)、倫理學(?)、現代哲學思潮(得能)、宗教哲學(柳)、歴史哲學(?)、西洋最近哲學史(得能)、國家學(?)
・専門部社會事業科(夜學)：心理學(高島)、論理學・哲學概論(出)、倫理學

概論(中島)、教育學(?)、民族心理學(?)、宗教學(柳)
(參考：東洋大學記事「新教授招聘と擔任學科」、東洋哲學 28-5 [33471
美學(大西克禮)、哲學概論(出隆、鈴木俊行))
雜錄・菅野村人「スペングレルの西歐文明の將來」
丁酉倫理會倫理講演集 227 [33472
雜錄・速水滉「故ヴント教授と獨逸文化の將來」
丁酉倫理會倫理講演集 229 [33473
新刊「ジ・ビ・アダムス/姉崎正治譯「理想主義と現代文化」(「プラトー主義とキリスト教」)
丁酉倫理會倫理講演集 229 [33474
下澤瑞世『日本歐洲比較文化史』 [33475
下澤瑞世「廿代の文化能率研究」心理研究 119,120, [33476
(參考：「東京靈南坂神學校の創立」、基督教新聞 1969(8/4) [33477
島原逸三：心理學、哲學史、宗教史、基督教史
佐竹直重：イエス傳
小崎道雄：基督教倫理)
B.①「逆境----「ホレースの言」」ときのこゑ 12/15 [33478
②＊[訂正・削除]田中王堂『創造と享楽樂』(「藝術哲學者ジ・サンタヤナ」)
[6302] [33479
＊[訂正]中島弧島『ギリシヤ神話』(早稻田大學出版部) [6310] [33480
ベーメ/征矢野晃雄譯『黎明』(哲學名著叢書 4) [33481
ジョージ・サンタヤナ/鷲尾浩譯『美識論』 [33482
内村鑑三『ルーテル傳講演集』(ニーチェ關聯、アウレリアス等) [33483
吹田順助『十九世紀獨逸思想史』 [33484
ゲオルグ・ウォーバミン/佐野勝也譯『現代哲學及び自然科學との關係に於ける基督教的神の信仰』 [33485
賀川豐彦『イエスの宗教と其眞理』 [33486
宮川經輝『約翰[ヨハネ]傳講義』 [33487
トマス・ア・ケンピス/中村詳一譯『基督の道』 [33488
荻原晃『カトリック信仰の基礎』 [33489
③＊[訂正]久松貞明「ソークラテースの哲學」六合雜誌 480(41-1) [33490
秀史生「ペラギウスの異端---カルタゴ及びミレヴィスの公會議」聲 542 [33491
(參考：彙報「京都帝國大學文學部卒業論文中」、歷史地理 37-6 [33492
橋寺太郎「プロチヌスの哲學」)
(參考：彙報「博士及學位論文」、歷史地理 38-1 [33493
松村武雄「古代希臘の文化に現れたる神々の宗教的葛藤」
鹿子木員信「プラトンの哲學」
紀平正美「行の哲學」)
(參考：彙報「東京京都兩帝國大學大學院新入学者」、歷史地理 38-1 [33494
(東京)廣島鋭夫「希臘哲學」)
坂東太郎「ソクラテス(尋四)」(南光社版「教材を中心としたる新教育講談」中)

宮武外骨「類似の半男女」(ストラボン、女神アフロヂトス、ヂオニツソス等)
現代 11 月號 [33495
④＊[訂正]安倍能成「神の愛と人の愛」(昭 24 刊、同「文化・思想・哲學」中)
[6330] [33496
＊[訂正]一條忠衛「古典に現はれたる男女道德」廓清 11-1,2 [6337] [33497
＊[訂正]新刊「渡邊聖龍「批評的倫理學」」哲學雜誌 410 [22694] [33498
山鹿生(山口鹿三?)「靈魂不滅論(7)(8)(12)(14)(15)」(アリストテレス、ダンテ、大聖ソクラテス、ネロ皇帝、プラトン、聖オグスチノ博士等)聲 542,543,549,551,552 [33499
赭丘生「或る公園にて」(ソクラテス、プラトン等)聲 544 [33500
須藤敎民「家庭に於ける母の感化」(聖アウグスチノ等)聲 546 [33501
新刊「中山昌樹譯「聖アウグスチヌス懺悔錄」カトリック 2 [33502
藤井伯民「林間の聖者」(大シーザー、聖パウロ等) カトリック 2 [33503
青山政德「無限への憧憬」(聖アウグスチヌス等) カトリック 3 [33504
(參考：彙報「中等敎員試驗豫備試驗問題」、歷史と地理 8-3 [33505
----- 西洋史：「（四)左の人々の事蹟(甲)トーマス・アクイナス」)
質疑應答・小田切德治「江戸時代に於ける禁書及び解禁について御解說願上候」
-----（答、妻木)歷史地理 37-3 [33506
(參考：彙報「東京帝國大學大學院研究者並研究題目」、歷史地理 37-6 [33507
渡邊吉治「美學史」)
彙報「紀平正美氏學位論文「行の哲學」審查要旨」歷史地理 38-4 [33508
彙報「鹿子木員信氏の學位論文「プラトン哲學由來」審查要旨」
歷史地理 38-4 [33509
(參考：彙報「大正 10 年度敎員檢定豫備試驗歷史科問題中」
歷史地理 38-4 [33510
----- 西洋史：「四、左の人々の事蹟(甲)トーマス・アクイナス」)
彙報「學位授與」(渡邊龍聖[石橋智信の誤り]「イスラエル宗敎文化史上のメシア思想の變遷」）歷史地理 38-4 [33511
井汲清治「牧羊神---上田敏遺稿」三田文學 12-3 [33512
新刊紹介「中島德藏「ヴント倫理學綱要」」東洋哲學 28-9 [33513
新刊「帆足理一郎「哲學概論」」丁酉倫理會倫理講演集 225 [33514
新刊「主文舘編輯所「研學參考・倫理學史」」丁酉倫理會倫理講演集 226 [33515
新刊「桑木嚴翼「學としての哲學史」」丁酉倫理會倫理講演集 228 [33516
新刊「荻原擴「倫理學概論」」心理研究 110 [33517
新館「リッカート/近藤哲雄譯「文化科學と自然科學」」心理研究 110 [33518
新刊「ウィンデルバンド/出隆譯「哲學とは何か」」心理研究 110 [33519
新刊「ヘルマン・コーエン/兒玉達童譯「新理想主義哲學序論」」
心理研究 116 [33520
「創造の歡喜」(ベルグソン等) 基督敎新聞 1947(3/3) [33521
說苑・別所梅之助「進む力、踏み留まる力」(ニイチェ等)
基督敎新聞 1947(3/3) [33522
山口生「書齋だより」(波多野精一「宗敎哲學の本質」に就て、ケーベル博士「小

品集」に就いて) 基督教新聞 1947(3/3),1951(3/31) [33523
宮川經輝「涙の福音」(ストア學派等) 基督教新聞 1951(3/31) [33524
相馬祐次「生の歡喜」(ソクラテース、プラトーン、ギリシヤ人等)
基督教新聞 1959(5/26) [33525
聖山生「宗教的經驗の種々」(ギリシア語の正典等) 基督教新聞 1963(6/23) [33526
松原大人「基督者の解決すべき三大問題(上)」(ニーチェの超人主義等)
基督教新聞 1964(6/30) [33527
別所梅之助「聖山生に與ふ」(ギリシヤ語等)基督教新聞 1965(7/7) [33528
信仰の友「海も亦なきなり」(黙示錄 21 章。クセノフォン「アナバシス」等)
基督教新聞 1965(7/7) [33529
石田次郎「愛か力か」(ローマ國民、シーザー、オクタビアヌス、アウグスツス、
ローマ帝國、コンスタンチン大帝、ジュスチニアヌス
大帝、アレキサンダー、アレキサンドリア等)
基督教新聞 1969(8/4) [33530
信仰の友「死に勝つの信」(ロマのカタコム等) 基督教新聞 1973(9/1) [33531
「奉化の條件」(ロマ末期のある詩人、ラスキン等) 基督教新聞 1973(9/1) [33532
石田次郎「享樂的精神に對する新教主義の挑戰」(ヘレニズムは獅子身中の蟲等)
基督教新聞 1975(9/15),1976(9/22) [33533
白夢生「讀みものより」(カール・ヨエル「ニイチェとロマンチック」)
基督教新聞 1978(10/6) [33534
(オールボン在學)長谷川生「シェビーア氏著「懷疑時代の宗教」(3)(5)」(アウガス
チン、トマス・アクイナス、アレキザンダア大王等)
基督教新聞 1982(11/10),1984(11/24) [33535
C.②エルネスト・ルナン/加藤一夫譯『耶蘇の生涯』(杜翁紀念文庫 3) [33536
二瓶要藏『人の子耶蘇』 [33537
ヘンリー・バクレー・スキート/稻垣陽一郎譯『苦難後の基督の出現』 [33538
エッチ・アール・マッキントッシ/柏井園譯『耶蘇基督の人格』 [33539
山谷省吾『パウロのピリピ書』 [33540
山室軍平『民衆の聖書マタイ福音書』 [33541
山室軍平『民衆の聖書マルコ福音書』 [33542
山室軍平『マタイ傳餘師』 [33543
山室軍平『マルコ傳餘師』 [33544
山室軍平『使徒行傳餘師』 [33545
江原小彌太『新約』(上中下) [33546
パジェット・ウィルクス/藤島孝平譯『碑文の聲----高等批評に對する考古學の反駁』
[33547
三省堂編輯部編『模範最新世界年表』(→大 14・訂 4 版) [33548
③甕江散史「我が征服者」(希臘のアレキサンドル、羅馬のセザル、阿布利加のハン
ニバル、スパルタ王レオニダス等)聲 547 [33549
植村清之助「異教征服」歷史と地理 7-1 [33550
(參考：會報「文化史研究部報告並に其の題目」、歷史と地理 7-1 [33551
安藤俊雄「希臘上代に關するもの」(未定))

(參考：會報「第 3 回文化史研究會」、歴史と地理 7-4 [33552
植村清之助「「タシタス」に現はれたるゲルマニアの生活」
安藤俊雄「ヘレニズム時代の都市生活」(未定))
(參考：會報「文化史研究會」、歴史と地理 7-6 [33553
安藤俊雄「ヘレニズム時代の都市生活」
植村清之助「ローマ時代の地方支配」)
(參考：彙報「中等教員試驗豫備試驗問題」、歴史と地理 8-3 [33554
----- 西洋史:「四、左の人々の事蹟(甲)キモン」)
小川琢治「利瑪竇の「萬國全圖」と「幾何學原本」に就て」史林 6-3 [33555
(參考：彙報「東大文學部卒業論文中、史學關係論文」、歴史地理 37-4 [33556
中山節郎「希臘の女性に就て」)
森文三郎「長崎高等商業學校大正 10 年入學試驗歴史科答案講評」
歴史地理 38-4 [33557
-----「五、下の事實の現はれたる時代を示せ(イ)トリウムイム(三頭政治)」
(參考：彙報「大正 10 年度教員檢定豫備試驗歴史科問題中」
歴史地理 38-4 [33558
----- 西洋史：「四、左の人々の事蹟(甲)キモン」)
久保田萬太郎「フィレモン夫婦」赤い鳥(鈴木三重吉主宰)7-1,2 [33559
春木一郎「羅馬國の奴隷制の話」國家學會雜誌 39-5,6 [33560
山谷省吾「アンチオケよりロマ迄---初代教會の發展史」
聖書之研鑽 55,56,57,58,59 [33561
秘傳(新約史談)・エ・ム抄譯「アクマタヤのヨセフ」基督教新聞 1954(4/21),
1955(4/28),1956(5/5) [33562
秘傳(新約史談)・エ・ム抄譯「二階座敷の家の他の物語」(タルソ、アセンス、アレキサンドリア、ストア哲學、ゼノー、クリアンテス、クリシップス、エピクテタス、エピメニデス、ヂオニソス神話、ピサゴラス等)
基督教新聞 1963(6/23),1964(6/30) [33563
少年少女・古屋生「ローマの迫害」基督教新聞 1964(6/30) [33564
④＊[訂正](參考：茶話會、史林 6-1 [6380] [33565
松本彦次郎「歴史學者としてのヴィコと愚管抄」)
日下生隆一「性と婦人解放」(ヒポクラテス、ガレーン、女詩人サフォー等)
六合雜誌 481(41-2) [33566
吻々生「奈翁[ナポレオン]の見たる耶蘇基督」(アレキサンドル、セザル、ハンニバル等)聲 549 [33567
(參考：彙報「東京帝國大學大學院研究者並研究題目」、歴史地理 37-6 [33568
山中謙二「基蘇教發展の歴史、主として羅馬帝政時代より中世初期に至る」
小野田萬壽「歴史哲學」)
新刊「野々村戒三「基督教史の研究」」基督教新聞 1940(1/13) [33569
(參考：[オーボルン在學]長谷川生「米國の神學校から」
基督教新聞 1951(3/31) [33570

----- コルス教授「教會史」/リード教授「ポーロ傳」）
「西の窓より」(「基督教の起源」、フォークス・ジャクソン及びカーソップ・レイク兩博士編輯) 基督教新聞 1952(4/7) [33571
D.①安部清藏編『新約聖書・對註改譯』 [33572
ヒュ・ゼームス・フラス/吉田菊治郎譯『聖徒彼得[ペテロ]前後書註釋』 [33573
米國聖書會社『マタイ傳福音書----英和對照』 [33574
米國聖書會社『マルコ傳福音書----英和對照』 [33575
②矢代幸雄『西洋美術史講話』 [33576
小野玄妙『畫圖解說・佛教藝術講話』 [33577
正富汪洋『ゲエテとシルレル』 [33578
京都文學會(京都帝國大學文學部内)編『ダンテの研究』(大賀旭江「日本に於けるダンテ文獻」等) [33579
③岩城生「イエスの用語に就いて」(グリーキ語) 基督教新聞 1951(3/31) [33580
日野眞澄「黙示文學の特質」(グリーキ思想、ソクラテス等)
基督教新聞 1969(8/4) [33581
④＊[訂正]深田康算「古い藝術觀と新しい藝術觀」(プラトー、ニーチェ等)
表現 11 月號 [6407] [33582
西脇信雄「婦人の社會的地位と文藝」(プラトー、アリストートル等)
六合雜誌 41-2 [33583
眞青年生「泰西文聖傳」(?)眞青年 8 月號 [33584
須田井(飛燕)生「ラフォンテイヌ及び其の寓話詩」(エソップ等)聲 549 [33585
海外教報「詩聖ダンテの六百年祭」聲 549 [33586
(須田井)飛燕生「紀念の世紀」(ダンテ等)聲 550 [33587
伯錄「修院に」(ギリシヤ・ラテンの傑作の保存)聲 550 [33588
竹友藻風「人生の批判」(マシュウ・アーノルド) 三田新聞 76(6/7) [33589
新村出「日本最古の銅版畫」大阪朝日新聞 2/19 [33590
新村出「吉利支丹文學斷片」藝文 12-2 [33591
黑田正利「追放の詩人」(ダンテ)藝文 12-9・10 [33592
坂口昂「モナルキア」(ダンテ)藝文 12-9・10 [33593
大賀壽吉「神曲・註疏について」(ダンテ)藝文 12-9・10 [33594
山川丙三郎「新婦はレバーノより」(神曲淨火篇第 30 曲譯)藝文 12-9・10 [33595
小川琢治「ダンテの「水と陸とに就て」」藝文 12-9・10 [33596
厨川白村「「神曲」の新研究」(ダンテ)藝文 12-9・10 [33597
濱田青陵「ダンテの跡」藝文 12-9・10 [33598
黑田正利「ダンテ年譜」藝文 12-9・10 [33599
紫榔「ダンテの肖像」藝文 12-9・10 [33600
山川丙三郎「天かけり」(神曲天堂篇第 2 曲譯)藝文 12-9・10 [33601
新村出「大西洋上より」(ダンテ關聯)藝文 12-9・10 [33602
甲陰生(坂口昂)「フロレンスの思ひ出」(ダンテ關聯)藝文 12-9・10 [33603
濱田青陵「ラヴンナの一日(ビザンツ時代の遺墟とダンテの墓所)」
藝文 12-9・10 [33604
KM 生「ダンテとボロニヤの詩人」藝文 12-9・10 [33605

旭江(大賀壽吉)「日本に於けるダンテ文獻」藝文 12-9・10 [33606
旭江(大賀壽吉)「ダンテ研究概況」藝文 12-9・10 [33607
上田敏譯「天女讃仰(神曲天堂篇第 33 歌譯)」藝文 12-9・10[同「だんて」より] [33608
は、こ「ボチチェルリの神曲挿畫」藝文 12-9・10 [33609
西脇順三郎「文學教養主義」(ルネサンス論)三田文學 12-1 [33610
竹友藻風「古典主義の精神」三田文學 12-3 [33611
平田禿木「キーツ「ハイピリオン」の詩稿に就いて」英語青年 45-12 [33612
高桑駒吉「猫「(フェニシヤ、希臘語、拉丁語等)東洋哲學 28-5 [33613
新刊「フィドラア/金田廉譯「藝術的活動の起源」」
丁酉倫理會倫理講演集 225 [33614
武藤直治「ダンテを憶ふ----ダンテ六百年祭にちなみて」文章倶樂部 6-11 [33615
阿部次郎「ダンテの「神曲」とニイチェの「タウアラッストラ」」
新小說 26-2,4,5,6 [33616
茅野蕭々「言葉より行爲への展開----ゲエテのファウストに對する一考察」
新小說 26-5,7 [33617
大庭米治郎譯「崇高論」(シルレル著) 新小說 26-8 [33618
大庭米治郎譯「悲壯論」(シルレル著) 新小說 26-10 [33619
一志茂樹「アウギュスト・ロダン」地上 3-5,6 [33620
帆足理一郎「キイツの詩に就て」開拓者 6 月號 [33621
大崎治郎「追憶の二十四と別るるに際して」(ダンテ「新生」等)
基督教新聞 1946(2/24) [33622
「西の窓より」(「キーツ祭」) 基督教新聞 1953(4/14) [33623
錦織くら子「ダンテ六百年祭に」(短歌六首、大賀壽吉師におくる)
基督教新聞 1976(9/22) [33624
E.②＊[訂正]カール・ビューヒヤー著/權田保之助譯『經濟的文明史』(改刻再版。
「プラトオ、政治學としての哲學」) [6442] [33625
③(參考：會報「文化史研究部報告並に其の題目」、歴史と地理 7-1 [33626
-----植村清之助「羅馬に於ける社會組織」)
鹿子木員信「刑罰の理想」(アデンの盛時等)中央法律新報 1-7 [33627
④高橋誠一郎「基督教會と徴利問題」三田學會雜誌 15-7,8,9,10,11 [33628
高橋誠一郎「聖トーマスの私有權論」國民經濟雜誌 32-4,5 [33629
澁谷治「公教と階級闘爭との關係」(聖アウグスチヌス、スパルタカス等)
聲 548 [33630
高柳賢三「人間味のあるイギリスの法學教育(下)」(ローマ法)
中央法律新報 1-7 [33631
新刊「鹿子木員信「國家的理想の危機」」丁酉倫理會倫理講演集 227 [33632
穂積重遠「比較婚姻法論(續)」(ローマ法等)女性同盟 6 [33633
G. 上海商務印書舘編『英華大辭典』 [33634
「英和辭典の訴訟」(三省堂と井上[十吉]博士)時事新報 2/17 [33635

大１１(１９２２)

A. ＊[訂正]ウエルス『世界文化史大系』(第 1-5 巻。佐野學・北川三郎共譯・第 1 巻、波多野鼎譯・第 2 巻、新明正道譯・第 3 巻、新明正道・佐野學・波多野鼎共譯・第 4 巻、波多野鼎譯・第 5 巻)　[6481]　[33636

坂口二郎『歐米三十五都』(?)　[33637

エッチ・ヂー・ウェルス/松根宗一譯『文明の救濟』　[33638

姉崎正治述・小島德彌記『物質文化より精神文化へ』(世界パンフレット通信・號外)　[33639

山本秀煌『日本基督教略史』(前篇)　[33640

新村出「西洋文化東漸論」(西洋文物東漸の由來)[講演要旨、筆錄原稿]　[33641

有島生馬(口繪)「伊太利の婦人」(世界風俗の九)婦人公論 7-9　[33642

平野千惠子「地中海周遊」女性日本人 3-7　[33643

長谷川如是閑「神と人と社會」(ギリシヤ文明等)大觀 5-4　[33644

中山昌樹「文明救濟者としてのダンテ」賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」1-2　[33645

「塵箱の英雄」(ギリシア文化、文化的羅馬等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」1-7　[33646

由木康「迷ヘルユダヤ人の手記」(ギリシア文化との接觸、アレキサンデルの都、エピキュロス、ストイック等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」1-7　[33647

高槻未知生「蘭學史の意義と價値に就て」歷史地理 39-4　[33648

(參考：雜錄「慶應義塾大學文學部講義題目中」、三田文學 13-4　[33649
西洋美術史概說(澤木)、ギリシア彫刻史(澤木)、印度及希臘演劇史(小山内[薫])、ファウストの解說及批評(阿部)、史學研究法(田中)、獨逸思想史(田中)、教育史(バルト「教育史」、小林)、ニイチェ「ツアラトストラ」(茅野)、佛蘭西古典文學(廣瀨)、政治學(板倉)、心理學(堀)、 古典研究(和辻、馬場[弧蝶]）、美學原論(大西)、英文學(スペート)、藝術の民族心理學的考察(川合)、倫理學の發展(川合)　)

(參考：彙報「獨逸諸大學冬期講義題目」、哲學研究 81　[33650
伯林大學：Prof.Wertheimer, Einleitung in der Philosophie
Prof.Wolfgang Koehler, Naturphilosophie
Prof.Spranger, Ethik
Dr.Groethuysen, Rechtsphilosophie
Prof. Vierkandt, Soziologie der Macht
Prof. H.Maier, Allgemeine Geschichte der Philosophie
Prof.F.J.Schmidt, Allgemeine Geschichte der Philosophie
フライブルヒ大學：Husseri, Einleitung in der Philosophie
Geyser, Geschichte Grundtypen der Philosophie
Mehlis, Philosophie d.Gr.-Vorsokratiker(Übungen）
Jonas Cohn, Goethes Weltanschauung
Heideger, Der Skeptizismus in der Antkien Philosophie
（Phänomenologische Interpretation zu Sextus Emp.）
Heideger, Phänomenologische Übungen(Aristoteles Physica, IV&V)

Jonas Cohn, Geschichte Pädagogik
マルブルヒ大學：Prof.Hartmann, Geschchite der alten Phil.(Thales-Neuplatonismus)
Hartmann, Platons “Parmenides”(Übungen)
ライプチヒ大學：Dr.Bergmann, Einleitung in der Philosophie
Dr.Freyer, Grundlagen der Metaphysik
Dr.Kreuger, Entwicklungspsychologie
Dr.Lipsius, Grundfragen der Ethik
Dr.Litt, Die Grundlagen der Pädagogik
Dr.Dittrich, Überblick und Repettitorium der Geschichte der Philosophie von Altertum bis zur Gegenwart
Dr.H.Schneider, Geschichte der Philosophie im entwicklunggeschichtlichen Überblick
Dr.H.Volkelt, Platons Ideenlehre)

(參考：東洋大學彙報「新任教授---心理學（千輪浩）、倫理學(神代峻通)」、東洋哲學 29-10 [33651

千葉鑛藏「スペングレルの一生驅者---- Fliamaers Petrie の文明轉變論を讀む」丁酉倫理會倫理講演集 227 [33652

布川靜淵「東西文明の調和とは何ぞや」(希臘人、拉丁人、ダンテ等)丁酉倫理會倫理講演集 234 [33653

金子健二「西漸思想の溯源的研究に就て」英文學研究 4 [33654

西島治彦『日本に於ける H・G・ウエルズ書目』(私家版) [33655

下澤瑞世「廿代の文化能率研究」心理研究 121,122,123 [33656

下澤瑞世「三十代の文化能率研究」心理研究 123,124,125,127 [33657

下澤瑞世「十代に於ける材能の發達」心理研究 129,130,131,132 [33658

下澤瑞世「四十代の文化能率研究」心理研究 138 [33659

(參考：講演會「第廿九回教師會概況」、基督教新聞 2029(10/12) [33660

---- 富森京次「四福音書の環境」(希臘羅馬文明、ストイック哲學等))

(參考：教界「東京」(本郷追分帝大基督教青年會舘)、基督教新聞 2031(10/26) [33661

---- 「ヒブル宗教史の背景」/渡邊善太「四、希臘文化の影響下にあるヒブル民族」）

B.①＊[訂正]エピクテートス教說/中島祐神全譯『我等は如何にして自己を救ふべき乎』オウガスチン(語錄、p.69)「彼は如何に己の追う求め戀愛の爲に囚はれしか」賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」1-8 [33662

②柳井和助『美學概論』 [33663

ブランデス/宮原晃一郎譯『黎明期の思想家』 [33664

村田豐秋『輓近哲學集成』 [33665

キュルペ/神谷元譯『哲學概論』 [33666

内村鑑三『宗教と文學』(ダンテ、ゲーテ等) [33667

宮武外骨『半男女考』(ギリシア等) [33668

谷川徹三『カントとゲーテ』 [33669

小野田喜十郎『約翰[ヨハネ]傳第壱書信解』 [33670

山室軍平『ヨハネ傳餘師』 [33671
③＊[訂正]鈴木錠之助「希臘羅馬に於ける思想の自由に就て」三田文學 13-7 [6526] [33672
＊[訂正]松村正俊「哲學と人生と」(新)批評 3 [6536] [33673
＊[訂正]平野威馬雄「ソフィスト」(戯曲)カトリック 2-1 [6528] [33674
G 生「基督降生當時の世界に於ける宗教道德の狀態」(羅馬帝國)聲 563,564 [33675
佐野勝也「聖アウグステイヌス」東亞之光 17-1 [33676
(參考：彙報「東京帝國大學卒業論題目」、歷史地理 39-4 [33677
加藤行信「古代希臘に於ける密儀の研究」)
(參考：東洋大學彙報「哲學堂ソクラテース祭」、東洋哲學 29-1 [33678
中島德藏「ソクラテースを祭るの辭」
井上玄一「祭文」
希臘代理公使コンスタチニデイ氏「祝詞」
三宅雄二郎「ソクラテース(に關する痛快な講演)」
中島德藏「余がソクラテース觀」)
＊[訂正]中島德藏「余がソクラテース觀」(附・[三宅]雪嶺博士への答辯) 東洋哲學 29-3 [6519] [33679
賀川豐彦「散文詩・魂の若芽の萌出ズル日」(アテネの街のエウジュリアン祭、シ[パ?] ンドラの手箱等) 賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」1-5 [33680
城戸幡太郎「女神と子産神との信仰について」心理研究 127,128 [33681
(參考：教界「東京」(神田日基教會)、基督教新聞 2019(8/3) [33682
----- 小平牧師「ロゴス哲學と耶蘇」）
④＊[訂正]新刊「土屋幸正「倫理學原理」」哲學雜誌 425 [22793] [33683
脇田登摩「新らしき生命」(プロメテー神話等)聲 554 [33684
「我邦現時の教育に於ける缺陷の由來」(聖オグスチノ等)聲 555 [33685
須山二郎(飛雨?)「救靈か滅亡か」(聖オグスチノ、ギリシヤ人等)聲 555 [33686
須山二郎(飛雨?)「日本に於ける神の成立---その一般に低級なる原因は如何」(アデンス、プラトン、アリストテレス、シセロン、聖會博士聖オグスチノ等)聲 558 [33687
ルモアヌ「常に注意されない「カトリック」の意義」(グレシアとローマの文明、アリストテレス、聖トマス・アキナス、プラトウ、ネオプラトニズム、聖アウグスチヌス等)カトリック 2-2 [33688
小野實「ロシアの大哲ソロ井エフの生涯」(プラトー、セネカ、聖アウグスチヌス等) カトリック 2-3 [33689
小野實「「神人論」概說(1)(2)」(プラトンの觀念論、ライプニッツのモナド論等) カトリック 3-1 [33690
富津麟太郎「アナトオル・フランスの言葉」婦人公論 7-4 [33691
島村民藏「ゲーテとその母」婦人公論 7-11 [33692
賀川豐彦「愛の溶解力」(ローマ帝國、プラトー、ストイック等) 賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」1-2 [33693
村田勤「人間尊重の叫び」(ソークラテ井ス、プラトーン、ペリクレス、フ井ヂデ

ス、古代ギリシア人・ローマ人の思想等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」1-4 [33694
森明「比較宗教學に於ける基督教の位置及特性」
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」1-8 [33695
彙報「石橋智信氏學位論文審査要旨」(「イスラエル宗教文化史上のメシア思想の變遷」)歴史地理 39-4 [33696
村岡省吾郎「ロゴスの顯現---ロゴスとデカルト及びヒューム」
三田文學 13-4 [33697
橋本孝「川合貞一氏著「現代哲學への道」」三田文學 13-10 [33698
廣井辰太郎「哲學と神學との交涉」(ホメロス、ヘシオドス、ソロン、クセノファネス、ゼーノー、アリストテレース、ロイキッポス、デモクライトス、ヘーゲル等)
東洋哲學 29-4 [33699
新刊紹介「宇野圓空・赤松智城共譯「宗教史概論」」東洋哲學 29-11 [33700
下田次郎「愛の醇化」(プラトー關聯) 丁酉倫理會倫理講演集 234 [33701
新刊「朝永三十郎「近世に於ける「我」の自覺史」」
丁酉倫理會倫理講演集 244 [33702
蓑田胸喜「アインシュタイン・ゲーテ・親鸞」日本及日本人 3 月號 [33703
蓑田胸喜「リッケルトの自然文化對立論の誤謬」(ニイチェ、ゲーテ等)
人生と表現 6 月號 [33704
外國法雜時文研究「アナトール•フランスの文」中外英語 29-6 [33705
最近文壇いろいろ「アナトール•フランス」文章倶樂部 7-1 [33706
「アナトール•フランスの言葉」文章倶樂部 7-9 [33707
上田義雄「我生活より」(オイケン、ベルグソン等) 基督教新聞 1989(1/2) [33708
本宮彌兵衛「新時代の神秘主義(1)」(新プラトー派等)
基督教新聞 1991(1/19) [33709
「國民生活と宗教」(プルターク、プラトン等) 基督教新聞 1999(3/16) [33710
「倫理の神秘性」(ストイック等) 基督教新聞 2014(6/29) [33711
金子白夢「神の思想を辿りて---- 此の稿は二三の教理史による」(アレキサンドリアのデオニシウス、アレキサンドリアのクレメント、オリゲン、新プラトーン派等)
基督教新聞 2014(6/29),2015(7/6),2016(7/13),
2018(7/27) [33712
講壇・長谷川直吉「人と歴史との指導者としての神」(希臘の共和政體、羅馬の市民權、ニイチェ等)
基督教新聞 2021(8/17) [33713
講壇・高橋皐三「知らざる偉大」(ギリシヤの哲人等)
基督教新聞 2024(9/7) [33714
講壇「追いすがる神」(アウグスチン等) 基督教新聞 2036(11/30) [33715
C.②メレジュコフスキー/柳田泉譯『ピイタアとアレキシス(前後 2 册)』 [33716
二瓶要藏『人の子耶蘇』 [33717
日本聖公會出版部『地上に於ける主の御生涯-----基督傳』 [33718

ルナン/廣瀬哲士譯『耶蘇』(世界名著叢書 4) [33719
イー・ジー・ホワイト/山本治一譯『顯はるるまでの耶蘇』 [33720
渡瀬常吉『新郎耶蘇』 [33721
デヴヰッド・スミス/日高善一譯『受肉者耶蘇』(上下巻。→大 12) [33722
ボズウォス/千葉勇五郎譯『イエス研究』(→大 13) [33723
トルストイ/高谷道男譯『簡易聖書』 [33724
長谷川直吉『新約聖書總論』 [33725
山室軍平『ルカ傳餘師』 [33726
高橋信太郎『ペテロ前書研究』 [33727
畔上賢造『羅馬書釋義』(第 1,2。聖書註解叢書。→大 12) [33728
柏木園『柏木園全集(1,2,3,5,巻 4 册)』（第 1 巻「基督傳之轉機・共觀福音書に據れる基督傳・基督傳」、第 3 巻「ヨハネ傳の研究」→大 15 刊） [33729
ベルンハイム/坂口昂・小野鐵二共譯『歴史とは何ぞや』(史學叢書 1) [33730
リース/坂口昂・安藤俊雄譯『世界史の使命』(史學叢書 3) [33731
③方濟閣主人「聖パウロの布教」聲 564 [33732
(參考：彙報「大正 10 年度教員檢定本試驗歴史科問題中」、歴史地理 39-1 [33733
----- 西洋史：「四、左の人々の事蹟(甲)アンチオキス三世」)
吉田源治郎譯「大工ノ應召」(ブーク・ホワイト氏原著 The Call of the Carpenter。イエス、羅馬史)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」1-1,2,4 [33734
中平章「アルキビアデス----一幕」(戲曲) 校友會雜誌(第一高等學校)289 [33735
「デモスゼニス」(第 4 讀本の研究)初等英語研究 15-12 [33736
「海の彼方」(「ケムブリッヂの夏期學校」中、題目「カタコムブについて」)
カトリック 2-10 [33737
山谷省吾「アンチオケよりロマ迄---初代教會の發展史」聖書之研鑽 62,65 [33738
「聖書に隠れたるロマンス」(羅馬史)基督教新聞 2009(5/25) [33739
祈禱會「パウロの心事」(ギリシヤ人等) 基督教新聞 2014(6/29) [33740
「西の窓より---- 保羅と彼得の遺骸」(セイス教授、コンスタンチン大帝等)
基督教新聞 2022(8/24) [33741
米光信三「パウロより基督へ」(オイケン、ベルグソン等)
基督教新聞 2039(12/21) [33742
④墨田庭泉「産兒制限の可否を論ず」(アリストテレス等)聲 555 [33743
鈴木習之「中世構成のカトリック的要素」(中世史概説)カトリック 2-11 [33744
(參考：彙報「東京帝國大學卒業論題目」、歴史地理 39-4 [33745
伊奈信男「ルネッサンスに於けるフーレンツエの繪畫に就て」)
著述消息「村川博士、藤本學士「西洋歴史講話」」歴史地理 40-1 [33746
著述消息「妻木忠太「最新西洋歴史解釋」」歴史地理 40-1 [33747
松本芳夫「ルネサンス雜觀」三田文學 13-5 [33748
蓑田胸喜「ヴントの歴史哲學・第二回」人生と表現 6 月號 [33749
新刊「賀川豐彦「イエス傳の教へ方」」基督教新聞 2013(4/22) [33750
(オーボルン在)長谷川生「アドナヤ著「エペソ福音書」、「希臘美術の諸原則」」

基督教新聞 2017(7/20) [33751
米澤尚三「永久平和への努力」(ダンテ等) 基督教新聞 2036(11/30) [33752
D.①米國聖書會社『新約聖書・英和對照』(再版) [33753
村田四郎『新約聖書ルカ傳講解』 [33754
黒崎幸吉譯『ルーテル加拉太[ガラテア]書註解』(附・羅馬書序文) [33755
ヒュ・ゼームス・フラス著『聖ヤコブ並聖ユダ書翰註釋』 [33756
②中山昌樹譯『ダンテ全集・全 10 巻』(既刊、第一巻「神曲・地獄篇」、第二巻「神曲・煉獄篇」、第三巻「神曲・天國篇」、第十巻「ダンテ神曲の研究」→大 15 刊) [33757
ホウエル/松原巖譯『ダンテ---- 彼の生涯と思想』 [33758
内多精一『シェリーの面影』 [33759
成瀬無極『近代獨逸文藝思潮』 [33760
青芳勝久『サボナローラ』(→大 14) [33761
③小野玄妙「健駄羅の佛教美術」東洋哲學 29-3,4,6,7 [33762
(墨田庭泉)「世界的精神と羅甸語」聲 555 [33763
少年少女「三月」(March の語源、ラテン語) 基督教新聞 2001(3/30) [33764
④＊[訂正]松村正俊「希臘研究の必要」東京日々新聞 10/31,11/2,3,45 [6639] [33765
吉田絃二郎「永遠性の實感と藝術」(プロメシウスの悲劇、ダンテ等) 早稲田大學新聞 2 (11/15) [33766
文壇消息「横山有策」(ギリシヤ劇に關する講話) 早稲田大學新聞 5(12/15) [33767
文壇消息「早大ダンテ研究會」早稲田大學新聞 5(12/15) [33768
(參考：彙報「大正 10 年度教員檢定本試驗歷史科問題中」、歷史地理 39-1 [33769
------- 西洋史：「四、左の人々の事蹟(甲)エラスムス」)
新刊「オスカー・ワルツェル著/高橋禎二譯「浪漫主義の世界觀及藝術觀」」三田文學 13-2 [33770
木村莊八「アウギュスト・ロダン」(美術家挿話)女人界 6-11 [33771
阿部次郎「ダンテについて」東洋哲學 29-5,6,7,8,9,10,11 [33772
「ダンテの夢」初等英語研究 15-4,5,6 [33773
「シェリ」初等英語研究 15-12 [33774
阿部次郎「ファウストとメフィスト(フェレス)」新小說 27-1,2,4,5,6 [33775
千葉龜雄「近代文學に現はれた海の作家、海の作物」(バイロン) 新小說 27-8 [33776
龜尾英四郎「ゲエテとの對話」新小說 27-11 [33777
佐成謙太郎「幸若舞用の詞章に就て」(百合若大臣等)藝文 1 月號 [33778
小林龜太郎「ボスウェーの說教に就て」(ラテン・ギリシヤの古文典學、バ[ヴ]ァ―ジル、ホーマー、オーガスチン等) 基督教新聞 2007(5/11) [33779
(參考：教界「京都---文學に現はれたる死生の問題」(アリストートルの悲劇の三要素、完成・壯烈・非凡等)、基督教新聞 2010(6/1)) [33780
今井白嶺「エマースンの藝術生活」基督教新聞 2020(8/10),2021(8/17) [33781

川口尚輝「シルレルの傑作「群盗」の背景としての聖書及宗教詩」
基督教新聞 2022(8/24),2024(9/7) [33782
E.②新明正道『ソフィストの政治的研究』 [33783
宮武外骨『私刑類纂』(クーパー「ムチの歴史」、ローマ時代の私刑等) [33784
賀川豐彦『聖書社會學の研究』 [33785
③＊[訂正]蠟山政道「アリストートルの三權分立論」法學新報 32-11,12
[16764] [33786
(參考：彙報「東京帝國大學卒業論題目」、歴史地理 39-4 [33787
小川秀雄「プラトンの國家觀の研究」)
(參考：彙報「中等教員試驗」、歴史地理 40-2 [33788
------ 西洋史：「一、第三世紀前後のローマ帝國の經濟狀態」)
綿貫哲雄「社會意識の擴大」(フェニキア人、ハンニバル時代のローマ人、ペリクレス時代のギリシヤ人、帝政時代のローマ人、ソロン時代のギリシヤ人、初期共和時代のローマ人、ホーマー時代のギリシヤ人、シーザー時代のゲルマン人等)
丁酉倫理會倫理講演集 244 [33789
賀川豐彦「聖書購讀・イエスと神の國(細目)・古代の社會的理想と神の國」
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」1-2 [33790
④＊[訂正]ラルノード教授/山路鎭男・千葉蓁一譯「佛蘭西の法律學(一)(二)」(羅馬法、モンテスキュー等)
中央法律新法 2-1,2 [22839] [33791
高橋誠一郎「聖トマスの奴隸論」三田學會雜誌 16-1 [33792
野村兼太郎君談「古代中世經濟史研究の爲に」三田新聞 89(1/18) [33793
彙報「淺見倫太郎氏學位論文審査文」(「半島法制の沿革」[希臘法、羅馬法])
歴史地理 39-1 [33794
泰西思潮「主權問題の諸様相」(ビー・エム・レーング[B.M.Laing]。ローマ政治等)
丁酉倫理會倫理講演集 233 [33795
菅原生「デモクラシーと教會組織(2)」(羅馬帝國等)基督教新聞 2004(4/20) [33796
講演・海老澤亮「神國民の自覺」(羅馬の市民權等) 基督教新聞 2007(5/11) [33797
F.②山本一清『星座の親しみ』(→昭 15 刊「新撰・星座の親しみ」) [33798
山本一清『星空の觀察』 [33799
山本一清『天文講話・天文と人生』 [33800
吉田源治郎『肉眼に見える星の觀察』(?) [33801
④須山二郎(飛雨?)「進化論に就いて」(聖オグスチノ等)聲 560 [33802
G. 大燈閣編輯部編『ウエルス世界文化史大系人名件名索引』 [33803

大１２(１９２３)
A. ＊[訂正]坂口昂『歴史家の旅から』(35「西洋の没落」36「南國[イタリア] 歸朝」)
[6693] [33804
＊[訂正]ヘンリー・トマス・バクル/西村二郎譯『世界文明史』(6 册。→大 13)
[33805

太田正孝『羅馬風呂』 [33806
國畫創作協會同人編『歐洲藝術紀行』 [33807
柳澤健『歡と微笑の旅---歐洲藝術巡禮』(中央美術社) [33808
長富雅二『ザベリヨと山口』(→大 13 再版) [33809
新村出・濱田耕作共著『吉利支店丹遺物の研究』(京大文學部考古學研究報告 7) [33810
アンデルセン/宮原晃一郎譯『即興詩人』 [33811
賀川豐彦「イエスの讀書」(ラスキン、プラトーン、ダンテ等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」2-5 [33812
鈴木習之「中世文化の概觀」カトリック 3-4 [33813
青木昌吉「伊太利紀行」東亞之光 18-3 [33814
編集部「希臘文明は今斯の如し---國家試驗の登第談」法律及政治 2-1 [33815
正宗得三郎(挿畫)「伊太利の女」婦人公論 8-7 [33816
書評「團伊能氏の「伊太利亞美術旅行」」國華 392 [33817
學藝欄「ギリシャの煙山教授」早稻田大學新聞 11(3/25) [33818
(參考：彙報「東大本年度講義題目中」、歷史地理 41-6 [33819
耶蘇會の日本宣教耶蘇會年報の研究(村上)、西洋史概說(村川)、史籍解題(村川)、西洋哲學史概說(桑木)、近世西洋倫理學史(吉田)、基督教の起源及發達(松村)、教育史概說(吉田)、西洋美術史(團))
(參考：東洋大學彙報「教授招聘」(新學年)、東洋哲學 30-5 [33820
哲學概論・認識論(田邊重三)、歷史哲學(板垣鷹穗)、宗教哲學(柳宗悅)、藝術論(和辻哲郎))
(參考：東洋大學彙報「教授招聘---宗教學(三枝博音)」、東洋哲學 30-9 [33821
林博太郎「スペングラー氏の教育論を評す」丁酉倫理會倫理講演集 251 [33822
新刊「桑田芳藏「ヴントの民族心理學」」丁酉倫理會倫理講演集 251 [33823
下澤瑞世「四十代の文化能率研究」心理研究 138,141,145 [33824
新刊「桑田芳藏「ヴントの民族心理學」」心理研究 140 [33825
(參考：彙報「第六回關西學院神學部夏季學校執行順序」
基督教新聞 2065(6/28) [33826
---- (交涉中)エッチ・ダブルユー・アウターブリンヂ「ヘレニズムと基督教」)
(參考：彙報「神戸基督教信徒學校開校」、基督教新聞 2076(9/13) [33827
-----教會歷史(會木銀次郎)、基督傳(吉崎彦一)、比較宗教學(村上博輔)、ヘブライ民族史(松本益吉))
「基調を改めよ」（ギリシヤ文明の花、麗言美辭等）基督教新聞 2088(12/6) [33828
B.②＊[訂正]ストリンドベルグ/福田久道譯『ソクラテス』(泰西戲曲選集第 6)
[6720] [33829
サンタヤナ/小島茂雄譯『獨乙哲學及哲學者』 [33830
③＊[訂正]橋本孝「倫理學上のプラトン主義」三田文學 14-1 [6758] [33831
安藤俊雄「オリムピア祝祭について」歷史と地理 12-2 [33832
得能文「哲學講座---- 實有の概念」(ギリシア哲學等)講座 7,8,9 [33833
みつち「神の愛---- 思辯的斷章(3)」(ギリシア悲劇等)講座 13,14 [33834
賀川豐彦「イエスの良心の藝術」(ソクラテス、プラトーン、アリストテレス、ア

スキラス、ソフォクルス、ユリピデス等)
賀川豐彦個人雑誌「雲の柱」2-5 [33835
賀川豐彦「ヤコブの信仰---神に勝つもの」(アリストートルの哲學等)
賀川豐彦個人雑誌「雲の柱」2-7 [33836
賀川豐彦「ヨシュアの信仰---勇ましき物」(シーザー等)
賀川豐彦個人雑誌「雲の柱」2-8 [33837
賀川豐彦「遍通自在の生活---コリント後書第六章の研究」(ニーチェ、ゲーテ等)
賀川豐彦個人雑誌「雲の柱」2-11 [33838
「青年と母」(聖モニカ、聖アウグチチノ)光明 407(10/14) [33839
二瓶要藏「オーガスチンの懺悔錄」宗教 1,2 [33840
(參考：教界「東京」(第三回宗教文化講座)、基督教新聞 2058(5/10) [33841
-----[6/3] 内ケ崎作三郎「古代宗教家及哲學者の理想たるユートピア」)
④＊[訂正・削除]~~羽田亨「ル・コック氏摩尼教遺文三巻」藝文 14-1~~ (→D.④)
[6794] [33842
浮田和民「プラトーン全集に就て」(「木村鷹太郎譯「プラトーン全集/内容見本」、
富山房」) [33843
赤石捨四郎「國神崇拝論」(「古代羅馬の神社崇敬」等)聲 569 [33844
須山二郎(飛雨?)「公教と學問」(希臘羅甸の書籍の蒐集等)聲 569 [33845
須山二郎(飛雨?)「聖體觀の歷史的一瞥」(オリゼヌ[オリゲネス?]、聖オガスチノ等)
聲 571 [33846
鳳辯生「死の思想と現實生活」(エピキュリアン等)聲 572 [33847
墨水老漁「犧牲の精神」(古のエピキュリアン等)聲 572 [p.18「犧牲は愚の骨頂だといふのである。氏の思想には毫も精神的の意味は含まれてゐない。純乎たる唯物論である。古のエピキュリアンは今のボルシェヴィズムの亞流である。」教界時報・佐藤某氏「犧牲」論文。] [33848
隅(墨?)田庭泉「聖ヘレナ遺骨物語」(コンスタンチン大帝等)聲 573 [33849
小野實「「神人論」概說」(アレキサンドリアの智學說、新プラトン派、フィローンのロゴス說等)カトリック 3-3,4 [33850
今井新太郎「ヘーゲル宗教哲學の序論」神學評論 1-2 [33851
三谷隆正「カントに就いて」(ソクラテス、プラトン等)聖書之研究 7 月號 [33852
學園餘談「E.Rohde,Psyche(1907,Bd.1)」講座 7 [33853
西晉一郎「シルレルの美的教育論」講座 9 [33854
學園餘談「Max Wundt, Geshichite der Griechischen Ethik, Bd.1,1908」講座 9 [33855
學園餘談「Allan Manzies, History of Religion, 1911」講座 9 [33856
學園餘談「古代ギリシア・ローマの辯證術」講座 9 [33857
學園餘談「H.O.Taylor,Ancient Ideals, vol.1,1913」講座 9 [33858
田部重治「十二世紀の哲學」講座 12 [33859
トレルチ/菅圓吉譯「宗教及び宗教學の本質(1)」講座 17 [33860
學界春秋「ソクラテスの知德說は王陽明に及ばず」東洋哲學 30-3 [33861
出隆「神秘思想家エウリゲナの世界觀」東洋哲學 30-4,5,6 [33862
新刊「金子筑水「現代哲學概論」」丁酉倫理會倫理講演集 247 [33863

應問・栗宮(廣島)「(文檢修身)同科準備上、西洋倫理學史研究に、一、三浦藤作氏「西洋倫理學史」、二、中島力造氏「倫理學說十回講義」以上二書の外で適切な參考書」、丁酉倫理會倫理講演集 247 [33864
------答・其れで大抵よろしからん。
講壇・額賀鹿之助「神の子の自由と平安」(グリーキ、ローマの人々等)基督敎新聞 2041(1/11) [33865
「日本宗敎界の趨勢と其の興味(下)」(グリーキの哲學、ストイック等)基督敎新聞 2043(1/25) [33866
求道の栞・富田政「基督敎の最大特質(1)」(ゲーテ、ソクラテス)基督敎新聞 2044(2/1) [33867
「戸外に逼る」(プラトン、ダンテ等) 基督敎新聞 2054(4/14) [33868
講壇・額賀鹿之助「實驗の宗敎」(オーガスチン等) 基督敎新聞 2058(5/10) [33869
一記者「基督敎の反對性」(コンスタンチン帝、アレキサンドリアのクレメント、オリゲン、セオドシャス帝、アウグスチン等)基督敎新聞 2059(5/17),2060(5/20) [33870
今泉眞幸「宗敎の三方面」(アレキサンドリアの基督敎等) 2063(6/14) [33871
金子白夢譯「ルッテルまでの獨逸(2)」(羅馬、コンスタンチノープル等)基督敎新聞 2071(8/9) [33872
(參考：敎界「京都」(神學研究會)、基督敎新聞 2071(8/9) [33873
----- 片桐敎授「ベルグソンの智識論」）
今井新太郎「生活の燈火」(ニイチェ等) 基督敎新聞 2075(9/6) [33874
(參考：「第 39 回總會に於ける報告と決議の摘錄」基督敎新聞 2085(11/15) [33875
---- 按手禮試驗委員報告：本宮彌兵衛「ベルグソン派の智識論に就て」）
相馬祐次「人間苦にある敬虔」(ギリシヤの宗敎、アポロ神、ゼノ、ゲーテ、ニイチェ、アレキサンダー、ヘレニズム文化等)基督敎新聞 2087(11/29),2088(12/6) [33876
「ケーベル博士逝く」讀賣新聞 6/15 [33877
C.②賀川豐彦『イエスの日常生活』 [33878
松本雲舟編『基督傳』 [33879
ヴィルヘルム・ブセット/林達夫譯『イエス』 [33880
國井半山『イエスとその弟子』 [33881
イングラハム/門馬紫苑譯『處女アディナとイエス』 [33882
野邊地天馬『聖書繪噺』 [33883
大屋佐一『聖書の歷史的地理』 [33884
エイ・チー・ロバートソン/川島保譯『新約研究』 [33885
齋藤斐章『世界讀史年表』(訂 3 版) [33886
③方濟閣主人「帖撒羅尼迦[テサロニケ]に於ける保羅」(アレキサンドル大王の大將カッサンドル、羅馬の學者タシタス、スエトン、クラウヂウス等)聲 566 [33887
方濟閣主人「雅典[アテナイ]に於ける聖保羅---使徒行錄の記事」聲 567 [33888
方濟閣主人「哥林多[コリント]に於ける聖保羅」聲 568 [33889

松本苦味「聖ペテロの悔」婦人公論 8-6 [33890
「ローマの沒落と米國禁酒法」法律新聞 2172 [33891
(參考：彙報「東大卒論」、歴史地理 41-4 [33892
-----石山乾二「古代の東方都市に關する一考察」)
島原逸三「耶蘇とその後」三田文學 14-1 [33893
賀川豐彦「パウロを發見したバルナバ---パウロの周圍の人々」(ローマ、シーザー、オーガスタス、プラトー、アリストテレス等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」2-2 [33894
賀川豐彦「パウロを援助したテトスー---パウロの周圍の人々」(ゆきづまつたギリシア文化、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、ソプオクレス、アスモラス、アリストファネス、ストイック派、デクヒアの神、デ井オゲネスの宗教等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」2-2 [33895
賀川豐彦「パウロの同勞者醫者ルカー---パウロの周圍の人々」(ギリシア語等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」2-2 [33896
賀川豐彦「誤解の中に立つ人---コリント後書のパウロ」(ニーチェ等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」2-11 [33897
鈴木三重吉「サーモピリーの戰」赤い鳥(鈴木三重吉主宰)10-1,2 [33898
鈴木三重吉「勇士レグルス」赤い鳥(鈴木三重吉主宰)10-4 [33899
中村詳一譯「ポンペイ最後の日---一節」(エドワルド・リットン作。外山正一の安政大地震に因んだ詩の一節を附記)
文章倶樂部 8-11 [33900
淺田淸造「洋書の沿革」(パピルス、アリストテレス、希臘文タブレット、ラテン・プラギリア等) 圖書舘雜誌 52 [33901
イ・エス・カープ「原始基督敎に於ける敎會の觀念」基督敎研究 1 [33902
杉浦儀一郎「原始基督敎の背景」基督敎研究 1 [33903
(參考：敎界「大阪」(大阪敎會聯合禮拜)、基督敎新聞 2046(2/15) [33904
----- 海老名[彈正]牧師「パウロ歐洲に入る」(ギリシヤ人、ギリシヤ哲學等))
講壇・海老名彈正「パウロ歐洲に入る」(ソクラテス、アリストートル等)
基督敎新聞 2051(3/22) [33905
賀川豐彦「使徒パウロの體驗せし宗敎」(ギリシヤ思想、ストイック哲學、ローマ等) 基督敎新聞 2058(5/10) [33906
(參考：彙報「市民自由大學夏期特別講座」、基督敎新聞 2067(7/12) [33907
----- 日野眞澄「原始基督敎と其の發達」）
④彙報「箕作元八「西洋海事史」」歷史地理 42-2 [33908
大震災寫眞畫報「ローマの廢墟も偲ばるる芝區の燒跡」婦人世界 18-10 [33909
學園餘談「M.Carriere,Die Kunst im Zusammenhang der Kultuentwicklung und die Ideale der Menschheit,1877)」講座 7 [33910
學園餘談「プルターク「アレキサンデル傳」」講座 9 [33911
柳宗悅「中世期への辯護」文化生活の基礎 8 月號 [33912
新刊紹介「廣瀨哲士「耶蘇」」東洋哲學 30-5 [33913

新村出「地獄小話」(ダンテ等)[初出不明](昭 46 巻全集第 5 巻中) [33914
想苑・清野重郎「秋を語る」(ポンペイのベスビアス山等)
基督教新聞 2077(9/20) [33915
D.①英國聖書會社『Shin-Yaku Seisho』 [33916
ラルネデ著『新約聖書共觀福音書講解』(改譯、上下 2 册) [33917
ラルネデ著『新約聖書使徒行傳講解』(改譯) [33918
ウイリアム・イムブリー/井深梶之助譯『腓立比[ピリピ]書註解』(→大 14) [33919
ヒュー・ゼームス・フラス/吉田菊治郎譯『ヘブル書註釋』 [33920
②ピエル・ルウイ/萩原厚生譯『妖婦クリシス』(原題「アフロディット」) [33921
田邊尚雄『文明史より見たる世界の音樂』 [33922
久保正夫譯『ダンテ詩集』 [33923
上田敏『上田敏詩集』(?) [33924
③小野玄妙「健駄羅の佛教美術」東洋哲學 30-3 [33925
赤石捨四郎「エスペラント語を排す---世界共通語として羅甸語の採用を勸む」(シセロ、セネカ等)聲 571 [33926
祈禱會「生命の絆」(希臘語レプタ等) 基督教新聞 2053(4/5) [33927
④＊[訂正]羽田亨「ル・コック氏摩尼教遺文三巻」(イソップ)藝文 14-1 (←B.④)
[6794] [33928
＊[訂正]ボッチェリ(畫)「ダンテとベアトリッチェ」生長する星の群 3-6
[22908] [33929
浦川和三郎「カトリック教會と文藝復興」カトリック 3-3,4,5,6 [33930
土居光知「Shelley の詩に於ける人間性の愛と美の觀念」(プラトー等)
英文學研究・別冊 2 [33931
齋藤勇「Shelley と Keats」英文學研究・別冊 2 [33932
(參考：彙報「東大卒論」、歷史地理 41-4 [33933
兒玉才三「シェリーの俤」
酒井眞人「人及び詩人としてのシェリー」)
田部重治「中世紀暗黑時期の概觀」(歐洲文藝史 1)講座 1 [33934
田部重治「カール大帝時代」(文藝)講座 2 [33935
田部重治「カール大帝以後の文化の態様」(文藝)講座 3,4 [33936
田部重治「中世文學を生み出す力」(歐洲文藝史 5)講座 5 [33937
谷川徹三「ゲーテに於けるスピノチスムス」(ゲーテ研究序說)講座 5 [33938
學園餘談「W.Ridgeway, The Origin of Tragedy,1910」講座 9 [33939
學園餘談「W.Ridgeway, The Dramas and dramtic Dance of non -european races,1915」
講座 9 [33940
田部重治「新しき中世時代」(歐洲文藝史 9)講座 10 [33941
團伊能「プロト・ルネッサンスの美術」講座 12,13,14 [33942
吹田順助「ヘルダアリンの「アルヒペラーグス」----グンドルフに據る」
講座 16,17 [33943
マックス・クリンゲル/金關文夫譯「繪畫と線畫」(ギリシア美術等)講座 16[33944
新刊「小野玄妙「健駄邏の佛教藝術」」丁酉倫理會倫理講演集 251 [33945
(參考：教界「東京」(第三回宗教文化講座)、基督教新聞 2058(5/10) [33946

-----[5/6]吉田紘次郎「近代文藝と基督教」）
吉田紘二郎「近代文藝と基督教(上)」(オルター・ペーター等)
基督教新聞 2060(5/24) [33947
錦織くら子「ダンテを歌ひて再び大賀[壽吉]師に送る」(短歌)
基督教新聞 2069(7/26) [33948
(參考：教界「大阪」(大阪基督教會、講演會)、基督教新聞 2070(8/2) [33949
---- 大賀壽吉「ダンテの思想と宗教」）
E.②リユ井ス・ヘネー/大野信三譯『經濟思想史』(上下) [33950
船田享二『カントの法律哲學』(→大 13・訂 6 版) [33951
高橋誠一郎『協同主義への道』(論文集) [33952
③＊[訂正]村瀬武比古「政治に於けるプラトニズムの公算、ΠλατωνB.C.427-347 or 429-347」法律論叢 2-1 [6892] [33953
高橋誠一郎「無統治と絶對の冨」(エピクロス等)三田文學 14-1 [33954
高橋誠一郎「エッセネ教團と共産主義」三田學會雜誌 17-3 [33955
高橋誠一郎「原始基督教の社會思想」三田學會雜誌 17-8 [33956
④生島廣次郎「マキャヴェリの國家論と近世ユートピア」國民經濟雜誌 34-2[33957
北澤新次郎「アダム・スミスの三百年祭を迎へるに際して」(ギリシヤ・ローマの經濟思想等)
早稻田大學新聞 7(1/25) [33958
恒藤恭「国際法と社會契約說」(グロチウス等)講座 5,7,8 [33959
山口正太郎「スコラ哲學に於ける經濟思想の變遷」講座 17 [33960
桑原重矩「王陽明の理想國家」(ソクラテス、プラトー、ゲーテ等)
東洋哲學 30-9 [33961
學界春秋「理想國家建設」(プラトー等) 東洋哲學 30-10 [33962
長谷川如是閑「民衆政治を超越して」(ギリシヤの思想、ローマの思想等)
改造 5-2 [33963
石田次郎「國民主義に中毒されたる基督教會」（コンスタンチン大帝）
基督教新聞 2045(2/8) [33964
帆足理一郎「近世に於ける社會改造思想の變遷(上)」(アリストテレス、[K.]マルクス等）基督教新聞 2050(3/15) [33965
論說・周再賜「教會と社會運動」（ローマ流の國家等）
基督教新聞 2084(11/8) [33966
F.②吉田源治郎(山本一清序說)『肉眼に見える星の研究』 [33967
鹽澤孝寛『星のしるべ』 [33968
山本一清『宇宙建築と其居住者』 [33969
③(?)「上古の科學」青年 8 月號 [33970
④學園餘談「E.N.Gardiner, Greek Athletic Sports and Festivals,1910」講座 5 [33971
新村出「時計傳來の歷史」歷史と地理 1,2 月號 [33972
G. 新刊紹介「神田乃武・金澤久共編「袖珍コンサイス英和辭典」」
東洋哲學 30-5 [33973
梶康郎編『法律經濟大辭典----原理研究』(2 册。松洋堂) [33974

大１３(１９２４)

A. 團伊能『パルナスの巡禮』(ギリシヤ、ローマの藝術等) [33975
小林鶯里『文明の誕生』(興亡五千年史・第 2 巻) [33976
ヘンドリック・ウイレム・ヴアン・ルーン/神近市子譯『人類物語』(下。新光社版) [33977
吉野作造『新井白石とヨワン・シローテ』 [33978
マクニール「日本の將來」(プラトー、アリストートル、トーマス・アクイナス等) カトリック 4-9 [33979
葉山葉太郎「カプリ島から」三田文學 15-2 [33980
山村暮鳥「ぎりしや小唄」女性改造 3-5 [33981
賀川豐彦「旅に出て、一還境と文化の交錯に就て感じたこと」(ウオルター・ペーター「プラトン及びプラトニズム」等) 賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」3-9 [33982
下澤瑞世「五十代の文化能率」(ダンテ、ゲーテ、ニイチェ、ケーザル、ブルーノ、モンテスキュー、ラスキン、ギゾー、イェーリング、キケロ等) 觀想 1,2,3 [33983
上石保教「ラテン文化と教育刷新運動」教育論叢 12-2 [33984
新春の小品・岡田三郎「ポンペイ廢墟の春」(寫眞 3 葉) 文章倶樂部 9-1 [33985
新村出「長崎再遊」心の花 1 月號 [33986
「最近最も興味を覺へたる書物」(津荷輔「H.G.Wells,The Outline of History/The Writing of Origen」) 基督教新聞 2123(8/14) [33987
(參考：「(同志社)組合教會神學校」(神學科大正十三年度擔任科目表)、基督教新聞 2131(10/16) [33997
・第一學年：(必修) 基督教起源史(富森)、教會史(ラーネド)、神學概論(大塚)、哲學史(濱田)/(選擇)希臘語(ラーネド)
・第二學年：(必修) 基督教倫理學(大塚)/(選擇) 希臘語(ラーネド)
・第三學年：(必修) 教理史(ラーネド)、宗教哲學(波多野)/(選擇) 古典希臘語(ラーネド))
(參考：「同志社專門學校神學部學科課程」、基督教新聞 2131(10/16) [33988
・第一學年：基督教要論、論理學、哲學概論、哲學史
・第二學年：教會史、哲學史、倫理學、希臘語(隨意科)
・第三學年：基督教起源史、基督教倫理學史、希臘語(隨意科))
・第四學年：教理史、宗教哲學、希臘語(隨意科)

B.①中山昌樹譯『聖アウグスティヌス懺悔錄』(←大 8) [33989
②＊[訂正]西宮藤朝『哲學入門』 [6954] [34090
＊[訂正]渡邊政盛『教育學說の論理及批判』 [6965] [34091
小林鶯里『傳說の世界』(興亡五千年史・第 1 巻) [34092
ルソー原著/林鎌次郎譯『懺悔の教育・エミール第一巻』(セネカ、プラトー「理想國」、ソクラテス等) [34093
村岡省吾郎『實生活と哲學』 [34094
二階堂眞壽『基督教神秘思想』 [34095

賀川豐彦『愛の科學』 [34096
賀川豐彦『イエスの内部生活』 [34097
アナトオル・フランス/望月百合子譯『タイス』(現代佛蘭西文藝叢書 10) [34098
ポール・リシヤル/大川周明譯『永遠の智慧』(古典格言等) [34099
中澤臨川・生田長江『近代思想十講』 [34100
稻毛詛風『哲學概論』(「西洋哲學の變遷」) [34101
牧野登美夫『世界的大宗教』 [34102
カッシィラア/三土興三譯『自由の理念と國家の理念』 [34103
トマス・ア・ケンピス/中山昌樹譯『基督に倣ひて』(信仰叢書 1←大 9) [34104
トマス・ア・ケムピス/日高善一譯『基督の模倣』(←明 43) [34105
③＊[訂正]ストリンドベルヒ作/外山楢吉・外村完二譯『ソクラテス』
[6945] [34106
＊[訂正]ストリンドベルヒ/外山楢吉・外村完二譯「ソクラテス」(新しき村出版部「人類の本」6,7 三部曲の中)
[6968] [34107
三木露風「聖アウグスチンの祈」早稻田大學新聞 29(4/15) [34108
小寺融吉「ある日の感想」(ソクラテス、プラトーン、アリストテレース等)
早稻田大學新聞 31(5/6) [34109
谷川徹三「古典的と浪漫的」思想 36,37[→大 14 同「正誤(其一)」思想 40] [34110
(參考：彙報「第 39 回中等教員檢定本試驗歷史科問題中」、歷史地理 43-2 [340111
----- 西洋史：「三、左の人々の事蹟(イ)アウレリヤヌス」)
杉浦儀一郎「イオニアの哲學者」基督教研究 2 [34112
森川正雄「プロテイヌスの事蹟」基督教研究 3 [34113
E.S.カープ「新約聖書に於ける「智識」の意義」基督教研究 3 [34114
本宮彌兵衛「パウロの異教思想征服」生命 10 月號 [34115
岸田耕讀「アウガスチンの生涯に對する一考察」生命 10 月號 [34116
山口金作「パウロの神學思想」(アレキサンドル哲學、ストイック哲學等)
基督教新聞 2111(5/22) [34117
(參考：教界「栃木」(佐野教會)、基督教新聞 2111(5/22) [34118
----- 講演：柏木義圓「プラトー、カントに返れ」)
(參考：教界「京都」(京都神學研究會再興)、基督教新聞 2114(6/12) [34119
----- [6/16]岸田耕讀「オーゴスチンの研究」)
(參考：「諸夏季學校(上)」(關西學院神學部夏季學校)、
基督教新聞 2117(7/3) [34120
----- 蘆田慶治「パウロ書翰の哲學的背景」/松本益吉「パウロの神學思想」)
(參考：「按手應禮式---- 岩(岸?)田耕讀「アウガスチンの宗教經驗」、
基督教新聞 2129(9/29)) [34121
④＊[訂正]金生喜三「ヴィンデルバントの思想」
初等教育研究雜誌・小學校 36-4 [7002] [34122
立花時鳥「神への王道」(プラト、プラトン派、エピクル、チェノンの徒、アリストテレス、聖トマス、プロチヌス、ピタゴラス、聖アイグスチノ等)聲 576,577,579,582,585 [34123

磐梯山人「公教學界の兩明星---アルベルト博士と聖トマス大博士」(アリストテレス、プラトン等)聲 577 [34124
椹野細溪「婦人の典型---聖女モニカの生涯を見よ」（大聖オグスチノ等）聲 579 [34125
海外「新教學者の聖トマ研究」(古代希臘のアリストテレス等)聲 579 [34126
須田井飛燕「タゴールの思想を論ず」(プラトン等)聲 582 [34127
田口芳五郎「基督教的死の思想」(シセロ等)聲 586 [34128
住谷穆「アナトオル・フランスの面影」力と愛 3 月號 [34129
嶋村民藏「ゲーテの天才教育」早稻田大學新聞 24(1/25) [34130
喜多壯一郎「大學制度の二つの流系」(プラトンのアガミイ、アリストテレスのリカイオン等) 早稻田大學新聞 29(4/15) [34131
小林龍雄「彼の功績----逝けるアナトオル・フランス」早稻田大學新聞 48(11/5) [34132
ルモアヌ「天啓の必要及びその表徵」(プラトー、シセロ、セネカ等)カトリック 4-5 [34133
内山善一「力強き公教思想の本質」(アリストテレス等)カトリック 4-11 [34134
プラウト「ジムメルの文化哲學」思想 35 [34135
世良壽男「ブレンターノに於ける道德的認識の起源に關する問題」思想 37[34136
安藤俊雄「エラスムスと教會改革」歷史と地理 14-4,5 [34137
消息「矢野目源一氏、「ダフニスとクロエ」(ロングス)を飜譯中」三田文學 15-4 [34128
小林澄兄「教育思想史上に於けるカントの位置」三田文學 15-5 [34139
岡田三郎「第 4 幕「タイス」」(アナトオル・フランス原作の梗概)女性 6-5[34140
トレルチ/菅圓吉譯「宗教及び宗教學の本質(2)」講座 18 [34141
鼓常良「根付」(アリストテレス美學等)講座 18 [34142
鼓常良「ヘーゲルの美學」講座 21 [34143
田部重治「十三世紀の學界(1)」講座 23 [34144
「青年と禁酒問題----スパルタ教育」(スパルタ)ときのこゑ 2/1 [34145
學界春秋「德の賊」(ソクラテス等) 東洋哲學 31-1 [34146
賀川豐彦「コリント後書に現はれたるパウロの信仰」(アテンス、フィニチア、シーザー等)賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」3-9 [34147
アルベルト・シュワイチェル/吉田源治郎譯「宗教科學より見たる基督教」(ブルノウ・バウエル「キリストとカイゼル---キリスト教のギリシア・ロマ的起源」[1887 年刊]、リヒアルド・ライツエンスタイン「ギリシア神秘宗教・根本思想と影響」[1910 年刊]、ユーゼナー「宗教史的研究」[1889,1899 年刊]、ローデ「プシケー」[1894 年刊]、デイエチリッヒ「ミスラの祈禱書」[1903 年刊]、キュモント「ミスラのミステリー」[1899 年刊)、キュモント「ローマ異教内の東洋諸宗教」[1906

年刊]等])
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」3-11,12 [34148
新刊「暁烏敏「ソクラテス」」丁酉倫理會倫理講演集 257 [34149
(參考：「本會記事---公開講座：紀平正美「知と行」」
丁酉倫理會倫理講演集 260) [34150
紀平正美「知と行」(ソークラテース、ヘーゲル等)
丁酉倫理會倫理講演集 260 [34151
桑木嚴翼「ミュラ・フライエンフェルスノ「人格と世界觀---殊にカントの性格と學說との關係に就て」(パルメニデス、ヘラクレイトス、希臘自然哲學、ヘーゲル等) 丁酉倫理會倫理講演集 261 [34152
新刊「桑木嚴翼「哲學體系及其他」」丁酉倫理會倫理講演集 262 [34153
新刊「木村鷹太郎譯「プラトーン全集・巻二」」
丁酉倫理會倫理講演集 263 [34154
新刊「木村鷹太郎譯「プラトーン全集・巻三」」
丁酉倫理會倫理講演集 264 [34155
島本愛之助「第廿世紀初頭の哲學(3)」(ベルグソン、ヘーゲル、Jacob Burckuhardt, Wundt 等) 丁酉倫理會倫理講演集 265 [34156
栗原英之助「哲人」(ソークラテース、ホーマー、ゲーテ等)
丁酉倫理會倫理講演集 265 [34157
新刊「木村鷹太郎譯「プラトーン全集・巻四」」
丁酉倫理會倫理講演集 266 [34158
新刊「プライデラー/鴨祐神譯「宗教の本質と各宗の特質」」(希臘宗教關聯)
丁酉倫理會倫理講演集 266 [34159
文壇近事畫報「人十回の誕辰を述べたアナトオル・フランス」
文章倶樂部 9-7 [34160
「アナトオル・フランス逝く」文章倶樂部 9-11 [34161
大山廣光「アナトオル・フランスの生涯」文章倶樂部 9-12 [34162
望月百合子「「タイース」の著者と有島[武雄]先生」文章倶樂部 9-12 [34163
「佛國文豪重態」(アナトール・フランス翁)國民新聞 9/19 [34164
久留間鮫造「ヘーゲルの哲學史とマルクスの經濟觀」
大原社會問題研究所雜誌 2-2 [34165
中川景輝「耶蘇の宗教とパウロの信仰」(ダイスマン著)聖書之研鑽 96 [34166
山田珠樹「フランスの心理學界」心理研究 146 [34167
久保良英「想像力とは何ぞや」(ギリシヤ等) 心理研究 147 [34168
小川無極「信仰の心理的考察(承前)」（ギリシヤ・ローマの國民宗教等）
基督教新聞 2099(2/28) [34169
講演・小島茂雄「生活と義憤」(希臘神話、パンドラ、ビーナス神等)
基督教新聞 2115(6/19) [34170
(參考：「青年學期學校---- 中山昌樹「聖フランチェスコよりダンテまで」
基督教新聞 2117(7/3)) [34171
相馬祐次「超倫理の宗教」(ギリシヤ人の生活等) 基督教新聞 2119(7/17) [34172
長谷川敞「北海道部會各教會応援記」(第一信、14 日、蘆田[慶治] 教授「使徒パウ

ロの哲學的背景」) 基督教新聞 2124(8/21) [34173
今泉眞幸「バベルの幻滅」(ギリシア文化、ストア學派、エピキュラス等)
基督教新聞 2129(9/29) [34174
新刊紹介・山口金作「「基督教思想十講」を紹介」(野々村戒三著)
基督教新聞 2135(11/13) [34175
名著紹介・山口金作「パウロ思想と他の新約聖書思想との關係」(A.H.McNeile,
New Testament Teaching in the Light of St.Paul」(ギリシヤ思想
等) 基督教新聞 2137(11/27) [34176
C.②＊[訂正]ファラー著/青芳勝久譯『ネロ』 [7019] [34177
エーヅワード・マイヤー著/植村清之助・安藤俊雄譯『歴史の理論及方法』(史學叢
書 5) [34178
オツトオ・ブラウン/京口元吉譯『歴史哲學緒論』 [34179
内村鑑三『羅馬書の研究』 [34180
中村吉藏『聖書物語』(春秋社,家庭文學名著選 6) [34181
山田寅之助『耶蘇傳』(警醒社) [34182
ボフヲース/千葉勇五郎譯『イエス研究』(→改訂版、3 版) [34183
ジョヴァンニ・パピニ/大木惇夫譯『基督の生涯』 [34184
ゴーデー/小池政美譯『基督の復活』 [34185
山室軍平『基督傳の教訓』(「通俗基督傳」の改題) [34186
增田抱村『兒童社會史』(第二編「古代ギリシヤ時代の兒童」、第三編「古代ロー
マ時代の兒童」) [34187
③(參考：彙報「第 39 回中等教員檢定本試驗歴史科問題中」、歴史地理 43-2 [34188
----- 西洋史：「一、ケーザルのガリヤ征服の政治的及文化的意義」
「四、左の地名の所在及史實(イ)ナウクラナス(ロ)シノペ」)
(參考：「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞 27(3/15) [34189
史學科：長谷井武人「羅馬皇帝の基督教徒迫害に就いて」)
「歴山大王よりえらい---豪傑とは酒のまぬ人」(アレキサンダー)
ときのこゑ 2/1 [34190
鷄聲樓學人「先哲及び古武士の研究」(ソクラテス、ミル、オイケン、ヘーゲル等)
東洋哲學 31-4,6 [34191
野上彌生子「アキリーズの話」赤い鳥(鈴木三重吉主宰)12-1,2 [34192
賀川豐彦「パウロの弟子の一群」(ギリシヤ・ローマ史等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」3-3 [34193
賀川豐彦「パウロ最後の弟子テモテ」(シェンクウェッチ「クオ・パデス」、ロー
マ、ギリシヤ等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」3-6 [34194
賀川豐彦「使徒パウロを圍る勇者たち」(ローマ、エフェソス、アレキサンドリア、
ギリシア等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」3-6 [34195
高崎能樹「アレキサンデルとルフ」(對話劇)日曜學校 4 月特別號 [34196
(參考：教界「大阪」(梅田教會)、基督教新聞 2105(4/10) [34197
----- 林龍太郎「羅馬の滅亡と帝國の將來」)

山口金作「パウロの羅馬人に對する挨拶」(ギリシヤ人等)
基督敎新聞 2115(6/19) [34198
④瀬田峨(峩?)谷「和蘭の模擬「カタコムブ」」聲 577 [34199
文壇消息「横山有策」(「アントニーとクレオパトラ」を講演)
早稻田大學新聞 50(11/9) [34200
菅原憲「メヂチ家の興隆と學藝の保護」歷史と地理 14-3,4,5 [34201
浩氣洞「英雄崇拜論」(エマーソン等) 東洋哲學 31-2 [34202
浩風樓主人「英雄・天然・經驗」(プルターク、プラトー、アリストートル、歷山大王、シーザー、ハンニバル、ソクラテス、ゲーテ、エマーソン等) 東洋哲學 31-3 [34203
伊藤證信「東人西人の色調」(オイケン、ベルグソン等)愛聖 11 月號 [34204
津川生「パピニが「基督傳」を書くまで」日曜學校 4 月特別號 [34205
新刊「國井半仙「イエスとその弟子」基督敎新聞 2091(1/1) [34206
新刊・本宮彌兵衛「A Cyclopedia of Twenteenth Century Illastlations」(A.R.Wells)
基督敎新聞 2136(11/20) [34207
D.①サツフオ/尾關岩二譯『戀愛詩集』(泰西名詩叢書 2,綠蔭書房) [34208
②木村壯八『少年藝術史---ニール河の草』(三「ギリシヤとローマ」) [34209
工藤好美『ペイタア研究』 [34210
ジムメル/小田秀人譯『ゲエテ』 [34211
エフ・エイチ・デビニー/明比甫譯『聖書研究』 [34212
③佐藤春夫「イソップ物語の鳥」婦人公論 9-7 [34213
大類伸「羅馬の殉敎畫」歷史と地理 13-6 [34214
加藤朝鳥「希臘悲劇の三宗---文豪畫譜(6)」(エスキラス、ソフオクレス、エウリピデス、寫眞各 1 葉)文章倶樂部 9-11 [34215
④奥井復太郎「ラスキンの倫理的藝術觀」三田文學 15-7 [34216
井汲清治「プロムナアド(その 2)---テエヌの「藝術哲學」(廣瀬哲士譯)」
三田文學 15-11 [34217
(參考：「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞 27(3/15) [34218
・英文科：片田一徹「ペーターの美の進化及本質」
蔡東鮮「イェーツと宿命」
工藤好美「ウォルター・ペーター」
・獨文科：關一男「ゲーテのファウストに就いて」)
山岸光宣「カント哲學とシルレルの藝術」早稻田大學新聞 30(4/28) [34219
「全集の出版からゲーテ擔がる」(聚英閣と大村の喧嘩)
早稻田大學新聞 40(7/30) [34220
三野來譯「ミケランジェロとラファエロの死----アサー・ドゴビリーの「文藝復興」の一節」早稻田大學新聞 42(9/19),44(10/1),47(10/29) [34221
平田禿木「バイロン」(掲載誌不明) [34222
平田禿木「バイロン卿の事ども」英語青年 51-4 [34223
福原麟太郎「キイツの詩的態度」(希臘神話等)觀想 3 [34224
薗川四郎「ゲーテと哲學(2)」生命 3 月號 [34225
谷川徹三「山」(ダンテ等)講座 18,19 [34226

山岸光宣「ゲーテとヘルデル」講座 19 [34227
ベネデット・クローチェ/岩崎昶譯「ダンテの詩の特質とその統一」
講座 23 [34228
深田康算「劇作家への注意」(アリストテレス等) 新舞臺 1 月號 [34229
吉野作造「新井白石とヨアン・シローテ」主張と閑談・第一輯 [34230
新村出「語源雜話」大阪銀行通信錄 3 月號 [34231
新村出「明治以前洋畫の源流」(講演要旨) 明治以前洋畫展覽會講演錄 [34232
木村毅「ゲエテの位置---文藝新話」文章倶樂部 9-5 [34233
左右田生「本邦イエイツ文獻概覽」英語青年 2 月號 [34234
渡邊善太「舊約文學に現はれたる苦痛の解決(3)」(アレキサンダー、ソクラテス、
ダンテ、ゲーテ等)基督教新聞 2103(3/27) [34235
新刊「畔上賢造「宗教詩人としてのブライニング」(ヘレニズムか基督教か)
基督教新聞 2103(3/27) [34236
錦織くら子「詩歌と自然」(エマーソン等) 基督教新聞 2122(8/7) [34237
米澤尚三「音樂と人生」(サイレンの歌曲、勇士ウリイシース等)
基督教新聞 2126(9/4) [34238
E.②ホブハウス/鈴木榮太郎譯『國家の形而上學的學說』 [34239
高橋清吾『歐洲社會制度發達史』 [34240
③孫田秀春「法律學に現はれたる希臘思想」一橋新聞 5(9/15) [34241
中村宗雄「獨逸法學と羅馬法」早稻田大學新聞 36(6/11),38(6/25) [34242
「編輯室より」(プラトーの哲人政治) カトリック 4-6 [34243
④菊地駒六「國際法沿革略史」國際外交 23-5 [34244
山本浩「國際的正義の否定---河野君の論文を讀みて」(プレートー、アリストートル
等) 早稻田大學新聞 37(6/18) [34245
ダールマン「初代教會に於ける國家の主權者に對する忠誠思想」
カトリック 4-1 [34246
關榮吉「ヘーゲルの社會哲學」(プラトン、アリストテレスの影響)講座 19 [34247
桑原重矩「道德國家の建設」(ソクラテス、ソフィスト、プラトー、アリストート
ル等) 東洋哲學 31-1 [34248
泰西思潮「社會主義、共産主義及び無政府主義の概念、本質及び種類」(プラトー、
デモクリット、グロチュース、ニーチェ等)
丁酉倫理會倫理講演集 261 [34249
紹介批評・内藤吉之助「穂積陳重著「法律進化論」」社會學雜誌 8 [34250
學界鳥瞰「小酒井不木「犯罪者の人相」(人と人 3 月號)」(古代分あり)
心理研究 151 [34251
五十年記念禮拜說教・海老名彈正「神の國への進展」(ローマ帝國、ヂオクリシャ
ン帝、コンスタンチン帝、北狄蠻人の勇將アラ
リック、カルタゴ、オリゲン、オーガスチン等)
基督教新聞 2129(9/29) [34252
F.②大石武一『體育の諸問題』(「古代オリムピックゲイムズ」) [34253
佐藤定吉『自然科學と宗教』(35「古代人類の自然觀」、36「古代の科學知識と吾
人の使命」) [34254

古川龍城『天文學と人生』 [34255
③小川琢治「東西文化民族の地震に關する神話及び傳說」藝文 15-1 [34256
小川琢治「東西文化民族の地震に關する神話及び傳說」(藝文 15-1 より) [34257
心理研究 148 [34258
(参考：「九州大學數學科夏期講習會概要」、(日本中等教育) 數學會雜誌
6-4・5（合）[34259
・力學ノ諸原理
(二)古代ニ於ケル力學的概念ノ發達
(三)希臘時代ニ於ケル力學的概念ノ發達：イオニア學派、エレア學派ノ運動ノ概念[宇宙論]、ありすとてれすノ物理學[自然、強制、完全運動ノ別。天動說]、あるきめですノ靜力學)
④原義男「科學的眞理とその相對性に就て」(古代ギリシヤ思想、プラトン、アリストテレス等)
早稻田大學新聞 50(11/19),51(11/26) [34260
G. 新刊「日曜世界社編「聖書辭典」」基督教新聞 2117(7/3) [34261
＊[訂正]梶康郎編『法律經濟大辭典』(帝國講學會。1 册) [34262
國民教育叢書研究會編『法律經濟熟語辭典』 [34263

大１４(１９２５)
A. ウエルス/赤井米吉譯『世界文化史』 [34264
ウエルス/早稻田英語研究會譯『文化史概觀』 [34265
ヴァン・ルーン/前田晃譯『世界文明史物語』(早稻田大學出版部) [34266
青木庄藏(内村鑑三序)『世界をめぐりて』(?) [34267
荒木幸太郎『古書目錄----文明移入に關する古書展覽目錄、一册』 [34268
山本秀煌『日本基督教史(增補改版)』(上下) [34269
ジアン・クラツセ/太政官飜譯係譯『日本西教史』(上) [34270
ジァン・クラセ/太政官本局飜譯係譯『日本西教史』(上下卷) [34271
新村出「切支丹使節の羅馬入」週刊朝日?/? [34272
新村出「日本近世天主教の遺物」(解說要旨)藝文 6 月號 [34273
新村出「西洋文化と大阪」(講演要旨)大阪文化史 8 月號 [34274
＊[訂正]折々の問題「基督教と世界文明」(南山師著)聲 588 [34275
高倉德太郎(說教)「基督教と文明の精神」聖書之研鑽 104(8 月號) [34276
森口多里「地中海上のお正月」婦人公論 10-1 [34277
木下杢太郎「ぽるつがる記」(キリシタン紀行)思想 40 [34278
小宮豐隆「伊太利紀行」思想 46,48 [34279
ハーバート・エチ・ガウエン/岩崎卯一譯「東西文明の融合」(西村信橘「法學論泉」) [34280
(參考：「返へる咲きの中村吉藏氏----新學年から希臘劇史講義」
早稻田大學新聞 56(1/28)) [34281
(參考：枚報一束「中村吉藏氏」(希臘劇史擔當) 早稻田大學新聞 58(2/11)) [34282
賀川豐彦「宗教教育講座(4)---イエスの友必讀書百種」

賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」4-4 [34283
-----・13「トーマス・アクイナスの神學」(ラオーロギア)、27「プラトー全集」、30「マーカス・オウレリヤスの瞑想錄」、31「エペクテタスの教訓」、45「相互扶助論」(クロポトキン)、56「イリヤード、オデュッセイ」(ホーマー)、57「エーニード」(バージル)、58「英雄傳」(プルターク)、59「ソクラテス傳」(クセノフォン)、78「ツアラツストラは斯く語る」(ニイチェ)、79「タシタス羅馬史」、80「ヘロドタス希臘史」、86「世界建築史」(ハガリッカ)、88「歐洲道德史」(レッキー)
下澤瑞世「「日本」の國號の比較文化史的考察」(F.クーランジュ、ギリシヤ語系統等) 觀想 17 [34284
學園餘談(S.M.)「W.Z.Ripley,The Race of Europe,1900」講座 26 [34285
學園餘談(S.M.)「H.G.Rawlinson,Intercourses between India and the Western World, 1916」講座 26 [34286
新刊「團伊能「パルナスの巡禮」」丁酉倫理會倫理講演集 270 [34287
下澤瑞世「シペングラーの「西洋文化没落」の思想を評す」丁酉倫理會倫理講演集 275 [34288
高橋鴻助「ヴントの道德觀」原理日本 1-1,2 [34289
下澤瑞世「諸民族における「歳」の單位觀念」心理研究 163 [34290
鑓田研一「新文藝講座(1)(2)----ヘレニズムとヘブライズム」文章倶樂部 10-9,10 [34291
渡邊元「「文明の没落」を評す」(池田林儀「文明の没落」、報知新聞 6/12 夕刊)基督敎新聞 2166(6/26) [34292
(參考：敎界「東京」(東京日曜學校敎師講習會)、基督敎新聞 2185(11/5) [34293
----新約聖書時代・使徒時代(白戸八郎)、基督敎史(郷司愷爾)、切支丹迫害史(山本秀煌))
新刊「山本秀煌「日本基督敎史(上)」」基督敎新聞 2189(12/3) [34294
B.②＊[訂正・削除]ジャン・ペラン著/植村琢等訳譯『原子』(→昭 53・玉蟲文一譯「原子」岩波文庫で再刊) [7229] [34295
ルドルフ・オイケン/安倍能成譯『大思想家の人生觀』(←大 1 初版) [34296
高木八太郎『東西思潮講話』(ニイチェ等) [34297
ミル/近江谷晉作譯『自由論』(世界名著叢書 2) [34298
フェヌロン/辻幸三郎譯『女子敎育論』(テレマック、希臘等) [34299
田制佐重編『クインテリアン』(新譯・世界敎育名著叢書 V) [34300
田制佐重編『「ゲーテ」、「シラー」、「エマーソン」、「ラスキン」、アーノルド」、「ニーチェ」』(新譯・世界敎育名著叢書 XI) [34301
シュワイチェル/吉田源治郎譯『宗敎科學より見たる基督敎』 [34302
ウンターマン/森喜一譯『哲學思想の史的考察』 [34303
大泉黑石『黑石怪奇物語集』(「犬儒哲學者」會呂利新左衛門) [34304
桑木嚴翼『Seiyoo-Kinsei-Tetsugakushi』 [34305
ヴィンデルバンド/金生喜造譯『近代獨逸人の精神生活』 [34306
ライプニッツ/河野與一譯『形而上學敍說』 [34307
ゴットフリード・ウヰルヘルム・ライプニッツ/松永材・木暮春雄譯『ライプニッ

ツ』 [34308
オイツケン/高橋正熊譯『社會生活と精神生活』 [34309
小林鶯里『基督の福音』(國民叢書 27) [34310
ニコライ/田島進譯『基督神性論』(基督教思想叢書) [34311
古谷太郎『基督教の神國觀』 [34312
フランシス・ゼ・ホール/稻垣陽一譯『基督教と近代主義』 [34313
ハルナック/山谷省吾譯『基督教の本質』(基督教名著集 1、イデア書院) [34314
③＊[訂正]((參考：東京帝國大學文科卒論、帝國大學新聞 104 [16823] [34315
哲學科：中山理久「プラトンに於ける神の觀念」）
秋山義雄「アウグステイヌス」（人生哲學研究會編「聖哲の懺悔」中） [34316
問と答と「聖オグスチノ改心の原因」聲 595 [34317
石原純「科學雜錄(20) ---ツエノンの迷論について」思想 43 [34318
中田幸治(發行兼編集人)「アリストテレスの形而上學大意」芥子種 59 [34319
佐野勝也「孤獨のアウグスティヌス」講座 25 [34320
佐伯復堂「神に就て」(「亞述[アゼンス]に於ける神」、「希臘に於ける神」)
東洋哲學 32-10 [34321
吉江喬松「詩----プロメエテ」文藝時報 1 [34322
錦織くら子(短歌)「水色の風」(ローマの花神フローラ)
基督教新聞 2175(8/27) [34323
④＊[訂正]新刊「吉原藤助・安達久「系統的日東西洋教育史」」教育論叢 13-4
[23048] [34324
問と答と「偉人の信仰を問ふ」(牧野登美夫「理想的信者の後半面」。ソクラテス、プラトー、アリストートル、シセロ、セネカ、ホメル、プルタルク、ゼノフォン、ダンテ、ゲーテ、モンテスキュー等)聲 589 [34325
須山二郎(飛雨?)「毎月の聖人」(聖女モニカ等)聲 590 [34326
伊藤秀一「クロポトキンの「倫理學」」三田新聞 157(10/29) [34327
「私共の主張」(「丙午の迷信」、ストア派、皇帝アウグスツス等)
カトリック 5-2 [34328
内山善一「我が國における公教思想教育の過去及現在(3)」（ケーベル博士等）
カトリック 5-3 [34329
「マクスオール寓話集より」(「天才は獨身者」、ホーマー、プラトー、ヴァーヅル、ホレラテス、ソクラテス、アレキサンダ大王、シーザー、バイロン等)カトリック 5-3 [34330
田口芳五郎「公教學生に聖トマ哲學を」(ターレス、デモクリツス、プロタゴラス、ストア、エピクレア學派等)
カトリック 5-10 [34331
鈴木習之「歴史漫筆(1)(2)」(ギリシヤ思想とヘブライ思想の對立、ボエチウス「哲學は老後の慰藉なり」、ヘレニズム、ユスチニアン帝等) カトリック 5-10,11 [34332
野口米次郎「キーツは死と戀に美の極致を見る」婦人公論 10-9 [34333
三木清「パスカルと生の存在論的解釋」思想 43 [34334

平野義太郎「フォルレンダーの「ナトルプを憶ふ」」思想 45 [34335
三木清「パスカルの方法」思想 49 [34336
三木清「パスカルの「賭」」思想 50 [34337
ヘルマン・コヘン/宮本新太郎譯「判斷と範疇」(ピタゴラス、アリストテレス、パルメニデス、プラトン、ストア等)
觀想 12 [34338
立花政美「至善の哲學的考察」(プラトン、ゴージアス等)觀想 12 [34339
橘高倫一「一般論理學について」(プラトーン、パルメニデス、ヘーラクレイトス等)觀想 18,19 [34340
田部重治「十三世紀の學界(2)」講座 24 [34341
「耶蘇は人ではない」(アレキサンダー、シーザー等)ときのこゑ 8/1 [34342
學界春秋「人文的古典主義」(佛蘭西フイーエー氏) 東洋哲學 32-1 [34343
三大寺活堂「人生と宗教(1)」(ソクラテース、ヘーゲル等) 東洋哲學 32-8 [34344
アルベルト・シュワイチェル/吉田源治郎譯「宗教科學より見たる基督教」
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」4-1 [34345
賀川豐彦「パリサイ派の人々」(ヨシイーファス、ジュリアス・シーザー、クレオパトラ等) 賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」4-3 [34346
賀川豐彦「宗教教育講座(3)---如何にして神話を教へるか(神話に對する理解)」(ホーマー、ヘシオッド等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」4-3 [34347
賀川豐彦「ヨハネの神秘思想」(マーカス・オーレリアス、プラトー等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」4-6 [34348
賀川豐彦「「眞理」と「聖交通」(ヨハネ研究)」(ソクラチスの弟子プラトーン、アレキサドリアの哲學者ヒロー、ヘラクリタス等) 賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」4-6 [342349
賀川豐彦「魂の勝利」(プラトー、アリストートル等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」4-8 [34350
歐洲短信・賀川豐彦「完全の鏡」(プラトーン等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」4-8 [34351
「新刊書二、三から」(シュワイチェル/吉田源治郎譯「宗教科學より見たる基督教」等) 賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」4-8 [34352
吉田源治郎「初代基督教の友愛と互助---基督教的兄弟愛運動史の序曲」
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」4-9 [34353
賀川豐彦「聖パウロの愛の體系----十三の書翰を通して見たる」(ギリシヤ的道德等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」4-12 [34354
新刊「渡邊聖龍「批評的倫理學」」丁酉倫理會倫理講演集 267 [34355
新刊「原田光槌「プラトンの哲學」」丁酉倫理會倫理講演集 267 [34356
新刊「木村鷹太郎譯「プラトーン全集・巻五、六」」
丁酉倫理會倫理講演集 268 [34357
新刊「ウィンデルバンド/出隆・田中美智太郎譯「プラトン」」
丁酉倫理會倫理講演集 269 [34358
新刊「兒玉達童「哲學概論」」丁酉倫理會倫理講演集 269 [34359

新刊「ロジャース/北昤吉譯「西洋哲學史」」丁酉倫理會倫理講演集 270 [34360
吉田熊次「エマーソンの思想を論ず」丁酉倫理會倫理講演集 272 [34361
新刊「木村鷹太郎譯「プラトーン全集・巻九・十」」
丁酉倫理會倫理講演集 272 [34362
新刊「石川謙「西洋教育史潮概說」」丁酉倫理會倫理講演集 273 [34363
西晉一郎「現實界の構造と惡」(プラトニストの哲學、プラトー、プロチノス、オーガスチン等) 丁酉倫理會倫理講演集 274
[34261] [34364
新刊「木村鷹太郎譯「プラトーン全集・終巻」」
丁酉倫理會倫理講演集 277 [34365
新刊「安倍浩譯「クロポトキン・倫理學」」丁酉倫理會倫理講演集 278 [34366
新刊「增田抱村「兒童社會史」」心理研究 156 [34367
伊藤證信「マクス・ミュラー博士のカント觀」(アリストートル等)
愛聖 1 月號 [34368
蓑田胸喜「マルキシズムの批判的諸研究(1)(2)」(ヘーゲル等)國本 3,4 月號 [34369
蓑田胸喜「心理學と宗教的信念」(ヴント)日本及日本人 4 月號 [34370
蓑田胸喜「ゾムバルトのマルキシズム批判」(プラトン、シーザー、ニイチェ、ゲーテ、ベルグソン等)大正公論 6 月號 [34371
山口正太郎「ランゲの唯物論史と倫理」社會政策時報 10 月號 [34372
今井新太郎「ベルグソン哲學に現はれたる倫理思想」神學評論 12-2 [34373
名著紹介・吉崎口「イエスとギリシア人」神學評論 12-2 [34374
富森京次「イエスとギリシア人」基督教研究 8 月號 [34375
海老名彈正「現代人の惱みとその解決」(オリゲネス、アリストートル、ソクラテス、セネカ等) 基督教新聞 2142(1/1) [34376
名著紹介「イエスの宗教とパウロの信仰」(A.Deismann,The Religion of Jesus and the Faith of Paul)基督教新聞 2142(1/1) [34377
新刊紹介「イエスの說明者としてのパウロ」(R.M.Ross,Faith of St.Paul：A Study of St.Paul as the Interpreter of Jesus)
基督教新聞 2144(1/22) [34378
名著紹介「新約聖書に於ける「靈」」(E.F.Scott,The Spirit in the New Testament。ギリシア化等) 基督教新聞 2147(2/12) [34379
栗原基「「現代の聖書觀」梗概(4)(5)(6)(7)(8)(10)(11)(13)」(ファイロ、ヘロドタス、シシデヂス、リヴ井ー、タシタス、オーガスチン、セネカ、トレミー、ガーレン、ホーマー、ヘラクリタス、ストイック派、イリアット、オデュセイ、ジュース神、アテーナ、ハーデス、レア、デメータ、ポセイドン、シセロ、クリシップス、オルヒュース、ミュセウス、ヘシオッド、アレキサンドリアの希臘文明、新プラトーの思想、オリゲン、プラトー、希臘羅馬の興亡、ソクラテス、プラトン、希臘思想等)
基督教新聞 2148(2/19),2150(3/5),2148(2/19),2150(3/5),2152(3/19),2153(3/26),2155(4/),2160(5/14),2175(8/27)
[34380

(參考：教界「京都」(同志社神學部卒業生綸文披露會)、
基督教新聞 2150(3/5) [34381
------佐野英造「ベルグソン研究」）
額賀鹿之助「イースター前の斷想」(オーガスチン等) 基督教新聞 2155(4/9) [34382
綱島佳吉「植村[正久]君を憶ふ(下)」(トマス・アーノルド等)
基督教新聞 2156(4/16) [34383
新刊「柏井園全集第三巻・ヨハネ傳研究」基督教新聞 2158(4/30) [34384
富田政「牧者の苦衷」(アウガスチン等) 基督教新聞 2158(4/30) [34385
片山尊子「惠まるる日(13)」(羅馬、ホーマー等) 基督教新聞 2159(5/7) [34386
金子白夢「文化と教育と宗教(2)(3)」(ベルグソン、ヘラクレートス等)
基督教新聞 2159(5/7)2160(5/14) [34387
島原逸三「近世に於ける基督教運動」(ローマ文化等)基督教新聞 2163(6/4) [34388
山本忠美「失敗の成功」(マケドニア人等) 基督教新聞 2164(6/11) [34389
小川清澄「信仰の賜」(セント・オーガステイン等) 基督教新聞 2171(7/30) [34390
松原大八「自己存在の自覺」(デルフォイの神託、ソクラテスの教義等)
基督教新聞 2177(9/10) [34391
畠中博「信仰の生活」(ローマ帝國等) 基督教新聞 2182(10/15) [34392
カーブ「眞理とは何ぞや」(アレキサンドリアのクレメント、アレキサンドリアのフィロー、新プラトー派、プロチヌス、ノスチック、アレキサンドリア派哲學、アウガスチン、アクイナス等) 基督教新聞 2188(11/26),2189(12/3),2191(12/17),
2192(12/24) [34393
C.②金の星社編輯部編『ローマ英雄物語』(世界少年少女名著大系 15) [34394
櫻井庄吉編『世界貨幣史』 [34395
武内省三『歷史哲學史概論』 [34396
内村鑑三『ガリラヤの道』 [34397
三浦關造『新約聖書物語』 [34398
佐々木眞一郎『聖書地理提要』 [34399
澤村五郎・米田豐『聖書人物の教訓』 [34400
藤井武『聖書の結婚觀』 [34401
ジェフアソン/中西貞雄譯『パウロの人格』 [34402
ウイリアム・イムブリー/井深梶之助譯『ピリピ書註解』(←大 12) [34403
ウ井リアム・ビー・ヒル/遠藤能定&ディー・シー・ライク共譯『使徒時代』
[34404
デボラ・アルコック女史原著/原戍吉譯『殉教の兄弟』(ローマ史) [34405
小林鶯里『キリストの出現』(興亡五千年史・第 5 巻) [34406
アルバアタス・ピイタルス著『基督百話』 [34407
モンロー・ギブソン/古藤重光譯『馬太[マタイ]傳講義』 [34408
松宮彌平譯述『マルコの傳へた喜のしらせ』 [34409
山室軍平『ルカ傳福音書----民衆の聖書』(5 版) [34410
山室軍平『使徒行傳----民衆の聖書』(7 版) [34411
吉田三男也『西洋史閲』 [34412

③談古樓主人「羅馬の舊蹟・アッピア街道」聲 593 [34413
春庭泉「馨る葷物語---女奴隷クリスチナの感化談」聲 593 [34414
溫故庵主人「ニセア會議---千六百週年にあひて」(コンスタンチノ皇帝等)
聲 597 [34415
Selma Lagerlöf/小山内薫譯「ペテロの母」女性 8-5 [34416
酒井皐次「聖會と奴隷」(ローマ史)カトリック 5-5 [34417
(學生)服部敬雄「羅馬に於ける新聞の發生と展開(上)(下)」
早稻田大學新聞 55(1/21),56(1/28) [34418
(參考：「大正 14 年度入學試驗問題---(二.a)アレキサンドリア(Alexandria)」
一橋新聞 15(4/20)) [34419
(參考：教界「浜名湖畔基督教夏期學校」、基督教新聞 2175(8/27) [34420
----- 田中龜之助「初代教會物語」)
祈禱の栞「(34)施洗者ヨハネ」(ヘレニズム思想とローマ等)
基督教新聞 2175(8/27) [34421
中村政路「眞のイスラエル」(アレキサンダー大王等)
基督教新聞 2180(10/1) [34422
④折々の問題「基督教果たして衰へしや---希臘の兜と羅馬の衣物」(田中氏「日本及
日本人」論文紹介)聲 588 [34423
教界の知らせ(海外)「カタコンブの發掘」聲 590 [34424
須田井飛燕「カタコムブに於ける聖母」聲 592 [34425
問と答と「未信者の著せる萬國歷史」(薄田斬雲「通俗世界全史」[全 20 册]、坪
内逍遙博士監修・早稻田大學出版部)
聲 592 [34426
(參考：「西洋史讀書會・第 6 回」、京都帝國大學新聞 14(12/1) [34427
----原弘二郎「ナポレオンとシーザー」(トライチケの論集中より紹介))
船田三郎「Leopold von Ranke 歷史認識の一面に就て」史學 4-4 [34428
「讀者の頁」・K 生「クオ・ヴァヂスより」カトリック 5-3 [34429
城戸幡太郎「歷史的現實性と心理學」(ナトルプ、ジムメル等)思想 43 [34430
飯田純忠「ツールのグレゴリイの「フランク史」に就いて」
歷史と地理 15-2 [34431
學園餘談(S.M.)「H.Hardy,König Asoka,1902」講座 26 [34432
學園餘談(S.M.)「E.J.Rapson の印度古代史」講座 26 [34433
新村出「小關三英の譯書「那波列翁[ナポレオン]傳(1)」書物禮讃 9 月號 [34434
桑木嚴翼「歷史主義に就て」(ターレス、プラトーン、アリストテレス等)
丁酉倫理會倫理講演集 267 [34435
歐洲短信・賀川豐彦「廣野に殘されたる精神」(「ポンペイは亡ぶ」等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」4-8 [34436
「歌舞伎座のシーザー祭」東京朝日新聞 3/16 [34437
紹介・富森京次「原始基督教の社會的考察」基督教研究 2-2 [34438
山谷省吾(感想)「ダイスマン教授と原始基督教研究」
聖書之研鑽 41 號(100 號紀念) [34439
新刊「山田寅之助「耶蘇傳」」基督教新聞 2142(1/1)

新刊紹介「基督教の起源」(ノルトン著。F.O.Norton,The Rise of Cristianity。グノスチシズム等)基督教新聞 2145(1/29) [34440
(參考：教界「傳道記念日に於ける禮拝(3)」、基督教新聞 2146(2/5) [34441
----- 栗原[基]牧師「基督教の起源」）
新刊「增田抱村「兒童社會史」」(第二編「古代希臘時代の兒童」、第三編「古代ローマ時代の兒童」) 基督教新聞 2150(3/5) [34442
萬木源次郎「徳富[蘇峰]先生哲待會の一夕」(明治のギゾー、マコーレー) 基督教新聞 2156(4/16) [34443
名著紹介「ヘブル書註解」(F.Moffatt,Commenntary on the Epistle to the Hebrew。アレキサンドリアの哲學等) 基督教新聞 2159(5/7) [34444
新刊「遠藤能定・デーシーライク共譯「ヒル博士著/使徒時代」」 基督教新聞 2165(6/18) [34445
錦織貞夫「恩を忘れた客」(マセドン王フィリップ等) 基督教新聞 2168(7/9) [34446
D.①＊[訂正]小西重直・石井蓉年撰『イソップ物語集』(課外讀本・學級文庫) [7369] [34447
田中達『マタイ傳註解』 [34448
村田四郎『ルカ傳註解』 [34449
ジ・ビ・ピヤソン編/三浦徹・和泉きん子訂・日本基督教興文協會『舊新約全書・略註』(改版。←大 5) [34450
②＊[訂正・削除]アントワンヌ・ドゥ・ラ・サル/井上勇誤譯『新百物語』(世界短編小說大系 1「希臘伊太利」篇中) [7393] [34451
ヘンドリック・ウイレム・ヴァン・ルーン/神近市子譯『バイブル物語----書きかへられた聖書』(上巻) [34452
田中三喜藏『救主キリスト畫傳』 [34453
中山昌樹譯『ダンテ・饗宴』(上下、新生堂) [34454
佐佐木信綱『百代草』(38 丙。イソップ天理本) [34455
麻生義『文學の創生期』(希臘。ポケット・ライブラリイ 1) [34456
後藤慶二『日本劇場史』(「西洋劇場の話」)[大正初期「建築工藝叢誌」に聯載] [34457
青木昌吉『ゲエテとクライスト』 [34458
ヨハン・ペーテル・エッケルマン/片山正雄譯註『ゲーテとの談話』 [34459
正富汪洋『詩聖ゲエテの戀愛』 [34460
青芳勝久『サボナローラ』(史傳叢書 1,附・「獄中の述懐」[青芳譯]。←大 11) [34461
③追古生「アルファベット起源異說」書誌 1 [34462
「イタリー美術畫報---ペルガモの壁畫、ポムペイの壁畫」女性 8-1 [34463
古典語講座・永見清/板東省「ラテン語」初等英語研究 18-1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12 [34464
古典語講座・水野清太郎「ギリシヤ語」初等英語研究 18-2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12 [34465
野尻抱影「「ラオコーン」覺書」初等英語研究 18-3 [34466
雜報・辻壯一「西洋音樂概論」心理研究 157 [34467
加藤朝鳥「「ダンテの夢」及び「ダンテとヴァジル」----文豪畫譜(9)」

文章倶樂部 10-3　[34468
グッドスピード(E.J.Goodspeed)/佐竹直重譯「新約聖書の話」(グリーキ譯、皇帝ジュリアン帝等)　基督教新聞 2168(7/9),2169(7/16),
2170(7/23),2171(7/30),2172(8/6),2175(8/27),
2176(9/3),2177(9/10),2179(9/24),2182(10/5),
2183(10/22),2186(11/12),2187(11/19),
2188(11/26),2189(12/10),2191(12/17),
2192(12/24)　[34469
④＊[訂正]出隆「大學と古典的教養」(ダンテ、プラトン、ホメロス等)
觀想(Theoria)15　[7420]　[34470
＊[訂正]齋藤昌三「明治初期の飜譯小說」愛書趣味 3 中----　[23198]　[34471
天香逸史「羅馬盛衰鑑」
西村眞次「日本に於ける羅馬加特力教徒の執拗なる信仰傳承」文思研 1　[34472
矢間久智「新教譯の聖書を排する所以」(聖オグスチノ、ヴルガダ等)
聲 597　[34473
濱田耕作「印度ガンダーラの佛像」(谷川茂次郎・山中定次郎寄贈)
京都帝國大學新聞 4(6/1)　[34474
瀧川幸辰「獨逸大學と大學生(續)」(ラテン語、ギリシヤ語等)
京都帝國大學新聞 5(6/15)　[34475
中川清「ゲーテ最初の戀人」婦人公論 10-11　[34476
伊原敏郎「上田[敏]君と大町君」橄欖樹(第一高等學校)・第 1 輯　[34477
林達夫「書籍の周囲(新村出「南蠻廣記」)思想 49　[34478
矢野禾積「世紀末英文學と大陸文藝との交涉」(ニイチェ關聯)藝文 16-4　[34479
「ボツカチオ五百五十年記念號」藝文 16-8・9　[34480
------ ア、ガスコ「ホスカチオ五百五十年に際して」
黑田正利「ボツカチオ」
大賀壽吉「ボツカチオとダンテ」
落合太郎「モンテーニュのボカース」
成瀨清「ボツカチオと獨逸文學」
矢野禾積「ボツカチオと英文學」
紫影「デカメロンを讀みて心おぼへまでに」
新村出「デカメロン邦譯本」
齋藤昌三「明治初期のデカメロン」書物往來 5 月號　[34481
新村出「デカメロンの邦譯本」書物禮讃 6 月號　[34482
新刊・神田喜一郎「新村出「南蠻更紗」」歷史と地理 15-2　[34483
新村出「異域研究者としての新井白石」歷史と地理 15-6　[34484
矢野目源一「薔薇歌物語考」三田文學 16-3　[34485
安原太郎「一村長の隨想錄より」(ダンテ等)斯民 20-4　[34486
稻垣末松「ジョヴァンニ・ボッカチオ」觀想 16　[34487
鼓常良「シッレルの哲學詩---「理想と生活」」講座 25　[34488
田部重治「中世諸藝術の推移」講座 26,27　[34489
學園餘談(S.M.)「M.Emmanul,The Antique Greek Dance,trans.by H.J.Beanley,1916」
講座 26　[34490

山岸光宣「ゲーテの哲學」講座 28 [34491
林久男「ゲーテのデーモンスに就いて」講座 29 [34492
田部重治「十三世紀の二大作」講座 29 [34493
田部重治「ダンテに至るまで」講座 30 [34494
高尾國男「ヘルデルリン作「ヒュペーリオン」研究」講座 30,31,32,33,34 [34495
新刊「フォルトケ/金田廉譯「悲劇美の美學」」丁酉倫理會倫理講演集 272[34496
新刊「中山昌樹譯「ダンテ・饗宴」上巻」」丁酉倫理會倫理講演集 272 [34497
新館「古谷榮一「世界文字論」」丁酉倫理會倫理講演集 276 [34498
新刊「青木昌吉「ゲエテとクライスト」」丁酉倫理會倫理講演集 278 [34499
古屋芳雄「ゲーテ戯曲ヒイロート其悲劇性に就て」文化の基礎 2 月號 [34500
杉田未來「ヘンリ・ライクロフトの世界」初等英語研究 18-8 [34501
杉山榮「ゲーテの書齋、シルラアの家」文章倶樂部 10-6 [34502
マルクス/河野密譯「ゲーテに就いて」クラルテ 3 [34503
青木昌吉「ゲエテとクライストとの文藝觀」新小說 30-4 [34504
矢代幸雄「傳說と詩化のフィレンツェ」新小說 30-9 [34505
新村出「伊藤松雄「伊會保物語」」週刊朝日 8/9 [34506
小谷誠一「アンデルセン飜譯書飜案書目錄」(「市立圖書舘と其事業」中) [34507
名著紹介「新英譯新約聖書」(E.J.Goodspeed,The New Testament：An American Translation。新約グリーキ、古典グリーキ)
基督敎新聞 2152(3/19) [34508
村尾昇一「舊約[聖書]に現はれたる民謠」(ギリシヤ人のポエテース等)
基督敎新聞 2162(5/28) [34509
新刊「中山昌樹譯「ダンテ「饗宴」」(下巻) 基督敎新聞 2171(7/30) [34510
新刊「中山昌樹譯「ダンテ全集第七巻・俗語論/水陸論」」
基督敎新聞 2178(9/17) [34511
海老澤亮「讃美歌歷史の意義」(オウガスチン等) 基督敎新聞 2178(9/17) [34512
相馬祐次「「ジョン・ラスキン」を讀みて」(浦口文治著)
基督敎新聞 2183(10/22) [34513
E.②クルト・シュテルンベルヒ/藤本直譯『政治學說史』 [34514
戸澤鐵彦『政治學史講義』 [34515
穂積重遠『法律小史』 [34516
小川市太郎『新稿・經濟學史』 [34517
ルーソオ/平林初之輔譯『民約論』 [34518
ホツグソン/岩田耕作譯『世界銀行史談』 [34519
③＊[訂正]不破祐俊譯「プラトーの社會哲學」(Lichtenberger,Development of Social Theory より) 法律及政治 4-10
[7473] [34520
④＊[訂正・削除]「新着雜誌要目」史學雜誌 428 [23109] [34521
F.Geyer,Der hellnistische Staat,ein Vorläufer des modern absoluten Staats)
大野辰見「商業史と經濟史」商業經濟研究 39,40 [34522
堤紫苑「萬國共同主義」(ラテン語、シセロ、セネカ等)聲 591 [34523
「在外研究員」(農学部助教授・田村口----ローマ法、ドイツへ二年)

京都帝國大學新聞 12(11/1)　[34524
米山勝美「イングラムの「經濟學史」に就て」早稻田大學新聞 61(4/30)　[34525
雜錄・深作安文「社會良心に就て」(プラトーン、ソークラテース等)
丁酉倫理會倫理講演集 267　[34526
新刊「石田傳吉「内外理想鄉物語」」(プラトン「國家」等)
丁酉倫理會倫理講演集 277　[34527
新刊「中山昌樹譯「ダンテ・帝政論書簡集」」丁酉倫理會倫理講演集 278 [34528
朝日融溪「マキャベリの政治思想と德義觀念とに就いて」(プラトー、アリストートル、リビー等) 社會學雜誌 13　[34529
村瀨武比古「民主制の原理とスチルネリズム」法律及政治 4-8　[34530
松村敏夫「基督敎と法律の公平」(羅馬のウルピアヌス等)
基督敎新聞 2154(4/2)　[34531
ウェーブス「イング僧正のライマン・ビーチャー・レクチュア」(「敎會史に於ける神國の敎理」) 基督敎新聞 2166(6/26)　[34532
海老名彈正「國際世界に於ける基督敎の二大使命」(コンスタンチン大帝等)
基督敎新聞 2180(10/1)　[34533
F.②澁井二夫『體育ダンスの理論と實際』(第 3 章「舞踏の沿革」、「體育ダンスの歷史」(希臘羅馬)　[34534
小野淸『天文要覽・天文彙考---附圖』　[34535
山本一淸『宇宙開拓史講話』(大 12・「宇宙建築と其居住者」改訂版。大天才トレミー、プラトン哲學等)　[34536
山本一淸『星につながる人々』　[34537
④賀川豐彦「進化論と宗敎」(古代ギリシヤのヘザクリタス等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」4-8　[34538
「東京陸軍幼年學校及ビ岡本熊男君藏[書]」、(日本中等敎育)
數學會雜誌 7-4・5(合)　[34539

---- ユークリッド幾何原本・八册
前 6 卷 伊國 Matteo Bicci 口譯、明徐光啓筆受(1608 年)
後 6 卷 英國 Wylie 口譯、淸、李善蘭筆受(1857 年)

G. 金澤庄三郎編『廣辭林』　[34540
＊[訂正]仲摩照久編『萬有科學大系』(正續全 13 卷→昭 6 普及版)　[7513]　[34541
高木斐川『學說人名用語思想辭典』　[34542
大阪每日新聞社編『自習用全科辭典』　[34543

大１５(昭和１=１９２６)

A. ＊[訂正・削除]ラモン・コフマン/鈴木厚譯『世界人類史物語---- 原始より中世まで』~~(上)~~　[7523]　[34544
＊[訂正]齋藤茂吉「ヴェネチア雜記」三田文學[復活號]1-5　[7534]　[34545
西村眞次『文化移動論』　[34546
スペングラー/村松正俊譯『西洋の沒落・第一卷』(批評社,3 册)　[34547
アウグスト・メッセル/奧津彦重譯『シペングレルの哲學-----「西洋の沒落」の紹

介並びに批判』 [34548
新刊・光一生「スペングラー著「西洋の沒落」第一部」三田新聞 184(11/12) [34549
「學府の動き」(東北大學法文學部の新講座:兒島喜久雄「西洋美術史」擔當)
早稻田大學新聞 103(9/16) [34550
一氏義良「外國都市の印象(2)」(コンスタンチノープル、ローマ等)
早稻田大學新聞 104(9/23) [34551
村松正俊「スペングラー著「西洋の没落」に就いて」
早稻田大學新聞 115(12/6) [34552
[本學に羅甸語開講---山内(得)教授の擔當で]一橋新聞 41(10/15) [34553
岩下壯一「アメリカの印象」カトリック 6-2,3 [34554
岩下壯一「イスパニアの橋」カトリック 6-6,7 [34555
吉澤音吉「聖年のローマを訪れて」(續)」(パンテオン、カトコンブ等)
カトリックタイムス 94(1/11) [34556
長崎市役所編『長崎と海外文化』 [34557
新村出「序」(永見德太郎著「南蠻長崎草」) [34558
石田幹之助「南蠻雜錄」(「慶長年間切支丹信者に紹介された希臘羅馬のクラシックス」) 新小說 31-7 [34559
岡本良知「二つの吉利支丹書、長崎版「ひですの經」の行方、アジユタ圖書舘藏「日本教會史」の目錄」書誌 4 [34560
小宮豐隆「伊太利紀行」思想 51 [34561
勝本英治「アレキサンドリアの太陽」(小說)三田文學[復活號]1-9 [34562
大谷光瑞「地中海遊記」女性 9-5,6/10-1,2,3,4 [34563
内藤虎次郎(湖南)「西洋文明と東洋文化」東洋文化 27,28 [34564
板垣鷹穂「ギリシア古都を訪ふ日(旅日記より)」觀想 23 [34565
(參考:彙報「東京帝國大學文學部史學科大正 15 年度講義題目中」、
歷史地理 48-1 [34566
西洋史概說(村川)、羅馬史村川)、希臘政治史(村川)、史籍講讀(Ranke, Weltgeschichte、齋藤)、西洋中世史(山中)、希臘考古學(原田)、概說西洋美術史(團))
(參考:彙報「京都帝國大學文學部史學科大正 15 年度講義題目中」、
歷史地理 48-1 [34567
西洋史概說(坂口、植村)、獨逸史學史((坂口)、羅馬考古學(濱田)、ゲルマン民族と羅馬帝國との關係(植村)、演習(Tacitus, Germania、植村)、史學概論(西田))
(參考:彙報「東北帝國大學法文學部大正 15 年度史學關係講義題目中」、
歷史地理 48-1 [34568
史學概論(中村)、西洋古代史(ギリシヤ人の政治生活とその理想國家への憧憬、原)、西洋古代史演習(Brested,Ajncient-Times、原)、西洋中世史概說(大類)、西洋中世史特殊講義(ルネサンスの伊太利、大類)、西洋中世史講讀(Bruckhardt, Kultur der Renaissance in Italien、大類))
下澤瑞世「第十四世紀の東西文化比較」東方公論 1-11 [34569
下澤瑞世「歷史學の比較文化史への歩み」歷史教育 1-3 [34570

新刊「中島孤島「西洋文明の搖籃(ギリシア民族の話)」」歴史教育 1-4 [34571
新刊「大槻如電「新撰・洋學年表」」歴史教育 1-5 [34572
泰西思潮「デアン・イング「文明は如何にして没落するか」(ヘレニズム等)
丁酉倫理會倫理講演集 279 [34573
クロオチエ「スペングラア「西洋の沒落」を評す」原理日本 2-3 [34574
杉山榮「都市文明と農村文明」反響 5 月號 [34575
(參考：教界「京都」(大學神學部)、基督教新聞 2201(3/4) [34576
----- 小林直吉「馬可傳の文化史的背景」）
山口[金作]生「前田晃譯「世界文明史物語」を讀む」(ヘンドリック・ヴァン・ルーン著) 基督教新聞 2204(3/25) [34577
新刊「山本秀煌「西教史談」」基督教新聞 2222(7/29) [34578
木村清松「歐羅巴隨筆」(「アテネの三日間」) 基督教新聞 2234(10/21) [34579
(參考：グスターフ・コル/鈴木哲譯『支那西教史考』) [34580
B.①(?)「ソクラテスの言葉」婦人世界 21-10 [34581
片々錄「聖オグスチノの語」聲 609 [34582
武井武雄『詩情豐な花傳說』(ギリシヤ神話等) [34583
佐藤武編『世界名作物語讀本・第一巻』(ギリシヤ神話物語) [34584
高橋五郎譯『エピクテタス遺訓』 [34585
元田作之進『基督教概說』 [34586
②＊[訂正]和辻哲郎『原始基督教の文化史的意義』 [7549] [34587
＊[訂正]田中王堂・守田有秋『エマアスン』 [7652] [34588
千葉命吉『「問題」の教育心理學的考察』(「ヘラクライタスとプラトー」) [34589
鈴木龍司『近代哲學概說』 [34590
乙竹岩造『文化教育學の新研究』 [34591
比屋根安定『世界宗教史』 [34592
ヘンリー・ドラモンド/氣賀重躬譯『愛の考想』(基督教等) [34593
今井新太郎『基督教の哲學的基礎を求めて』 [34594
北昤吉『哲學行脚』 [34595
脇田登摩『祖先崇拜と佛教とカトリツク教』 [34596
星野光多『山上說教』 [34597
三谷隆正『信仰の論理』 [34598
内村鑑三・畔上賢造『一日一生』 [34599
内村鑑三『加拉太[ガラテア]書の精神』 [34600
小林鶯里『宗教改革時代』(興亡五千年史・第 9 巻) [34601
三木露風『修道院生活』 [34602
和田潮風『修道院生活とその思想』 [34603
佐藤繁彦『信仰の人マルティン・ルッター』 [34604
チーグレル/伊藤吉之助・飯田忠純譯『獨逸思想史』(泰西名著歷史叢書 10) [34605
③＊[訂正]安部光槌・記「プラトン・シムポシオン」觀想 26,28 [7598] [34606
＊[訂正]仁木謙三「ピタゴラスの修身方針」向上 20-12 [7604] [34607
＊[訂正・削除]~~青木孝義「古典教養と其批評家」日本法政新誌 23-3~~
[7618] [34608

(参考：「(京都帝大)文學部卒論」、京都帝國大學新聞 17(2/1) [34609
哲學科：森信三「プロチノスの一者に就いて」
田中美知太郎「プラトンのイデア論と「第三の人間」のアポリア」
長澤信壽「プラトンの「永遠」の思想に就いて」
鈴木重夫「ゴルギアス篇研究」)
編輯室より「やせたるソクラテス」カトリック 6-6 [34610
「今月の聖會(2)」(「聖アウグスチノ」5/28)カトリックタイムス 107(5/28) [34611
(参考：「第 45 回文檢歷史科本試驗問題」、歷史教育 1-3 [34612
------ 西洋史：「四、左の地及び人に關する史實(イ)エレウシス」)
應問・耕晴生(三重)「大正十二年六月に行はれる高等學校哲學概論科教員檢定の問題及其の解答時間を御知らせ下さい」、
丁酉倫理會倫理講演集 282 [34613
----答・哲學概論科「西洋哲學史」の問題、三時間。プラトーのイデア論並みに之とソフィスト及びソクラテスの思想との關係略敍せよ。
5. 左の人々に就き知れるところを記せ。(イ)Parmenides(ロ)Ainesidemos（Aenesidemos）(ハ)Thomas Aquinas
澁谷榮一「古代羅馬の花祭り」反響 5 月號 [34614
征矢野晃雄「アウグスチヌスの恩寵論」聖書之研鑽 1,2,7,8,9,10 月號 [34615
薗川四郎「プロチノス」聖書之研鑽 4-1 [34616
長坂鑒次郎「約翰[ヨハネ]傳感話」(アレキサンドリアの哲學、ギリシヤ思想等)
基督教新聞 2193(1/1) [34617
④＊[訂正]牧野體山「シュライエルマッヘルの宗教意識に就いて」
佛教研究 7-1・2(合) [16889] [34618
岩下壯一「カトリック叢書の發行に就て」聲 608 [34619
問と答と「スコラ哲學研究書」(故リギョル師著、青木征次郎氏敷衍「スコラ哲學論綱」)聲 609 [34620
岩下壯一「折々の問題」中(「法と宗教生活」[田中耕太郎著書評]カトリックタイムス 124 號より轉載)聲 610 [34621
金子馬治「逝けるオイケンに就いて」早稻田大學新聞 104(9/23) [34622
松永材「中桐[確太郎]教授の「論理學綱要」を讀む」
早稻田大學新聞 110(11/11) [34623
田口芳五郎「大學教育に於けるカトリックの理想(2)(3)」(アリストテレス、アレキサンドリアのクレメンテ、プラトン派、アリストテレス派、ストア派、エピクロス派、ヴィルジリウス、ホーレイス、ホーマー、デモステンス、シセロ、ダンテ等) カトリック 6-2,3 [34624
ティルマン・ペッシュ/櫻木丘譯補「名譽心と虚榮心と」(ギリシヤの賢人ソクラテス等) カトリック 6-2 [34625
内山善一「公教より見たる宗教的基本問題」(ギリシヤ・ローマの多神教、マックス・ミュラー等) カトリック 6-5 [34626
浦川和三郎「教會と學問」(聖アウグスチヌス等) カトリック 6-6 [34627

學藝欄「各時代の護教論(1)」(ギリシヤの異教、アリストテレス等)
カトリックタイムス 93(1/1) [34628
齋藤茂吉「ニィチエの墓を弔ふ記」思想 51 [34629
エーラー「ニイチェと現代」思想 51 [34630
矢崎美盛「ヘーゲルの學位論文についての穿鑿」思想 56 [34631
彙報「恩賜賞並び學士院賞の授與」(石橋智信「イスラエル宗教文化史上のメシア思想の變遷」)歷史地理 48-1 [34632
澤木四方吉「裸體と羞恥感」文藝春秋 5 月號 [34633
眞德志摩「文藝復興哲學」小羊 4-10 [34634
眞德志摩「文藝復興哲學の終末から近世哲學へ」小羊 4-12 [34635
松村武雄「宗教及び呪術に關する新學說」東亞の光 21-3,4 [34636
北昤吉「哲學の分類に就いて」學苑 1-2 [34637
アウグスト・ファウスト「ヘーゲルとハイデルベルヒ(1816~1818)----ハイデルベルヒ傳統起源に關する哲學史閑話」學苑 1-3 [34638
河合讓「オイケン教授の訃」學苑 1-4 [34639
吉田源治郎「キリスト愛の浸潤----愛の組合運動としてのキリスト運動史の考察」
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」5-3,4 [34640
賀川豐彦「人生哲學講話」(ゲーテ、ニイチェ、Heraclitus、ギリシヤのエスキラス、ユリピデス、ソフォクレス等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」5-7 [34641
賀川豐彦「冥想斷片----物質と精神と道德」(アリストートル、プラトー、古代希臘の道德等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」5-7 [34642
鑓田研一「聖書にあらはれた神秘主義」(プラトン等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」5-8,9 [34643
賀川豐彦「ヨハネ傳の精神」(モムゼン「ローマ史」等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」5-9 [34644
賀川豐彦「エペソ書の精神----徹底の福音」(ターレス、ヘラクリタス等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」5-10 [34645
賀川豐彦「エペソ書に現はれたる一元的神秘主義」(プラトー、希臘主義[倉田百三]等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」5-11 [34646
鑓田研一「基督教の眞髓に就ての新解釋----淨土眞宗と比較しながら」(アレキサンダー大王、トレミイ王朝、希臘思想等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」5-1 [34647
賀川豐彦「テトス書の精神----實行の福音」(クリート文化等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」5-11 [34648
新刊「ジョージ・バートン/金山龍作譯「世界宗教史」」
丁酉倫理會倫理講演集 279 [34649
桑木嚴翼「新形而上學論の一標本----Geyser Einise, Hauptproblem der Metaphysik」(アリストテレス哲學、アウグスティン、プラトン、トマス・アクイナス等)

丁酉倫理會倫理講演集 284 [34650
岡田哲藏「サンタヤナの哲學の香」(デモクリトス、アルキビアデス、ディオニシウス、アリスティッポス等)
丁酉倫理會倫理講演集 285 [34651
荻原擴「倫理概論」」丁酉倫理會倫理講演集 285 [34652
大島正德「近世英國哲學史」」（グロート、ヘーゲル等）
丁酉倫理會倫理講演集 287 [34653
島本愛之助「最近歐米に於ける倫理學界」(プラトン、ヘーゲル等)
丁酉倫理會倫理講演集 288,289 [34654
新刊「ギリ・モーク原著/齋藤晌譯補「現代の獨逸哲學」」(オイケン、ニーチェ等)
丁酉倫理會倫理講演集 290 [34655
岩崎勉「ヘーゲルに於ける概念」教育論叢 16-6 [34656
薗川四郎「プロチノス文獻に就いて」基督教研究 3-3 [34657
ウルバン「最近二十五年間の哲學に於ける進歩」基督教研究 3-3 [34658
城戸幡太郎「オイケンの哲學と現代の心理學及び教育學」心理研究 1-5 [34659
今井新太郎「新春の靈感」(ソクラテス等) 基督教新聞 2195(1/21) [34660
畠中博「希望の輝」(ギリシヤ人の智識、世界最大帝國ロマ等)
基督教新聞 2195(1/21) [34661
名著紹介「現代に於ける宗教思想の諸問題」(H.G.Wood,Living Issues in Religious Thought ,From Geroge Fox to Bertrand Russell。ギリシヤ文化等)
基督教新聞 2200(2/25) [34662
金子白夢「宗教と詩と預言」(プロチヌス等) 基督教新聞 2202(3/11) [34663
二瓶要藏「罪とその贖」(テオドシアス帝、ミランの基督アンブロース等)
基督教新聞 2202(3/11) [34664
金子白夢「心の春を尋ねて」(アウグスチヌス等) 基督教新聞 2204(3/25) [34665
金子白夢「シュプランガーの宗教觀(上)」(プロチヌス等)
基督教新聞 2208(4/22) [34666
長坂鑒次郎「母の嘆き----「母の日」を迎へエスの涙を偲ぶ」(聖アウグスチンの母モニカ等) 基督教新聞 2210(5/6) [34667
金子白夢「古典研究に就て」(希臘羅馬の古典、オーガスチン、プロチノス等)
基督教新聞 2215(6/10) [34668
日野眞澄「基督教の淨化作用」(プラトーの四德目等)
基督教新聞 2216(6/17) [34669
上村邦彦「精神生活の戰」(プラトー、オイケン、ベルグソン等)
基督教新聞 2217(6/23) [34670
祈禱の栞「(27)愛の生活に進まん」(グリーキ人等) 基督教新聞 2218(6/30) [34671
菅原菊三「イエスの印」(グリーキのステイグマタア等)
基督教新聞 2219(7/8) [34672
賀川豐彦「逆境の恩寵」(オーガスチン等) 基督教新聞 2219(7/8) [34673
住谷天來「勝利の福音」(ジュリアス・シーザー、マラソン、サーモピリ等)
基督教新聞 2220(7/15) [34674
和田信次「神秘主義と基督教」(プラトーン等)基督教新聞 2231(9/30),

2233(10/14) [34675
(參考：教界「第 33 回教會教師會年會」、基督教新聞 2231(9/30) [34676
-----和田信次「神秘主義と基督教」)
平賀德三「基督を信ずる理由」(羅馬の賢帝[マルクス・]アウレリュース等)
基督教新聞 2232(10/7) [34677
金子白夢「生の哲學と生の宗教」(希臘羅馬の哲學、ニイチェ、ベルグソン、ディルタイ等) 基督教新聞 2233(10/14),2234(10/21) [34678
馬場久成「友愛の精神」(ギリシヤ人等) 基督教新聞 2241(12/9) [34679
和田信次「神の發見」(オーガスチン等) 基督教新聞 2242(12/16) [34680
C.②＊[訂正]アドルフ・ダイスマン著/佐野勝也譯『イエスとパウロ』 [7667] [34681
ピエール・ルキイス/川路柳紅譯『ビリチスの唄』(ギリシア文學) [34682
ヒル/遠藤能定・ライク譯『主の生涯の山巓』 [34683
Hetty Lee 著/小林清三郎譯『イエス傳教案』 [34684
武者小路實篤『耶蘇』(新潮社版。←大 9 新しき村出版部版) [34685
ルナン/廣瀬哲士譯『使徒』(世界名著叢書 8) [34686
シメック原作/天主教教會(譯)『白百合は散る』(ネロ皇帝時代の殉教劇) [34687
熊野義孝『愛の使徒ヨハネの書翰』 [34688
高柳伊三郎『新約書概論』 [34689
宮武外骨『明治演說史』(希臘の哲學者、デモッスセンス等) [34690
小林鶯里『土耳古[トルコ]の盛衰』(興亡五千年史・第 8) [34691
薄田斬雲編『古代列國史』(通俗世界全史 1) [34692
長瀬鳳輔編『世界各國興亡衰』 [34693
江澤慶信編『日本東洋西洋對照歷史年代表』(1 册折り畳み) [34694
③＊[訂正]穗積陳重「キケロー胸像の記」正義 2 月號 [7679] [34695
＊[訂正]橋本辰彦「ヘーゲルの歷史哲學より見たる歷史事實」
教育論叢 15-1 [7688] [34696
高市慶雄「基督教北歐傳播の發端」史學雜誌 37-12 [34697
問と答と「四福音書以外のキリスト傳」(羅馬の歷史家スエトニウス、羅馬の大歷史家タシツス等)聲 601 [34698
磐梯山人「隱れたる修士」(テオドジオス大帝、小プリニー、タラジャン帝、ネロ帝等)聲 602 [34699
教界の知らせ(海外)「聖墓の位置」(羅馬皇帝アグリッパ)聲 602 [34700
問と答と「救世主の御墓」(コンスタンチノ大帝、御母聖女ヘレナ)聲 606 [34701
ポール・クロワゼ「脚本・彼は蘇れり」(ローマ史)聲 608,609 [34702
(參考：「(京都帝大)文學部卒論」、京都帝國大學新聞 17(2/1) [34703
史學科：鈴木□吉「コンスタンチン大帝と基督教々會」）
瀧本誠一「都市發達の歷史と自治」都市研究 2-5 [34704
(參考：「(慶大)經濟學部卒論」、三田新聞 168(3/1) [34705
南部木九夫「古代羅馬奴隸制度史論」）
（參考：「第 45 回文檢歷史科豫備試驗問題」、歷史教育 1-2 [34706
----- 西洋史：「一、ローマの文化に及ぼせる奴隸の影響」
「四、左の地及び人に關する史實(ハ)ストラボ」)

山本義夫「第 44 回文檢本試驗擬答」（西洋史之部)歷史教育 1-3 [34707
---- [1]「エーゲ文明の遺跡及び遺物」、[2]「東西ローマ帝國の對ゲルマン政策」
（參考：「第 45 回文檢歷史科本試驗問題」、歷史教育 1-3 [34708
---- 西洋史：「一、西地中海に於けるギリシヤ民族勢力の消長」)
(參考：「大正 15 年度入學試驗問題」、一橋新聞 33(5/1) [34709
西洋史：「(一)左の事項を年代順に配列---東ローマ帝國の滅亡、ジャスチニヤン帝の法典編纂、アレキサンダー大王の遠征」
「(三) 左の事項の地名の所在を地圖で示すべし---1.コンスタンチノープル 2.ローマ 3.アレキサンドリヤ」)
近藤啓二「カタコンブ研究」小羊 4-2,3,4,5,6,7,8 [34710
鑓田研一「初代基督教の殉教者---ユウセビウス「信仰史」に於ける」)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」5-3,4,5 [34711
河邊滿甕「聖地に於ける最近の發掘」(クレテ島、オリンプス、イージキ海、サフォー、アリストテレス、ロゼッタストーン等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」5-9 [34712
(參考：教界「阪神」（神戸の日曜學校教師講演會）、基督教新聞 2240(12/2) [34713
----- 「パウロの基督教生活觀と教會活動」)
本宮彌兵衛「クリスマスの由來と其意義」(ローマ時代)
基督教新聞 2242(12/16) [34714
④＊[訂正]彙報「獨逸に於ける古典雜誌の新刊」(Gnomon、Die Antike)
史林 11-4 [7693] [34715
＊[訂正]彙報「歐米史界雜俎」史林 11-4 [7694] [34716
雜誌 Byzantion 發行(Diels,Jorga,Millet,Ramsay 等編輯)
Eduard Meyer,Geschichte Altertums 附錄 Die ältere Chronologie Babylo-niens,Assyriens und Algypuens
Cambridge Ancient History,vol.III,IV
Kromayer-Veith,Schlachten-Atlas zur Antiken kriegegeschichte 第四部
植村清之助「西洋時代史觀(中世)を讀む」史林 11-4 [34717
坂口昂「ランケの史學と彼の體驗した革命との關係」史學雜誌 37-11 [34718
＊[訂正]海外史界「古代史に關する最近歐米の新刊書」史學雜誌 440
[7686] [*34718
----Cambridge Ancient History,vol,3
G.Childe,The Dawn of European Civilization
Kromayer-Veith,Schlachter-Atlas zur Antiken Kriegegeschichte,Leipzig
Byzantinische Zeitschrift XXV.3-4
G.Glotz,Thr Aegea Civilizatiopn
F.Stählin,Das Hellenische Thesslien:Landeskunliche und Geschichtliche Beschreibung Thessalicus in der Hellenischen u. Römischen Zeit,Stuutgart,1924
R.I.Sargent,The Size of the Slave population at Athens during the Fifth and Fourth Ceturies before Christ,Urbana :University of Illinois,1925
G.Glotz & R.Cohen,Histoire de la Gréce,des Origines aux Guerres Médiques,1926

V.Ehrenberg,Neugründer des Staates,ein Beitrag zur Geschichte Spartas und Athens im G.Jahrhundert,München,1925
E.Babelon,Traitédes Monnaies Grecques et Romanes,Paris,1925
E.M.Steuart,The Annals of Quintus Ennius,Camgridge U.P.,
I.Th.Hill,Rome of the Kings,an Archaeology Stetzing for Livy and Virgil
Frirdrich von Woess,Untersuchungen über Römischen Aegypten, München
R.Clausing,The Roman Colonate:the Theories of its Origin,N.Y.,1925

山鹿生(山口鹿三?)「中世は暗黒時代でない---野上博士の說を駁す」(野上俊夫「近代文明の起源と日本國民の自覺」[雄辯誌])聲 609 [34719

「美はしの國に遊ぶ---古美術映画の夕」(アテネ・コリントの舊跡、ポンペイの發掘市、古代ローマ市の古跡等)
早稻田大學新聞 99(6/24) [34720

新刊「鈴木習之「趣味の西洋歷史」カトリックタイムス 113(7/21) [34721

伊東忠太「古代建築」(考古學講座 5、全 8 册) [34722

新村出「小關三英の譯書「那波列翁[ナポレオン]傳(1)」書物禮讚 1 月號 [34723

小川琢治「人文地理學の地名學的研究に就いて」歷史と地理 18-1,3 [34724

新刊[菅原]「デヴィス原著/金子幹太譯「西洋讀史指針」」歷史と地理 18-5 [34725

合格者・H・Y 生「文檢西洋史參考書に就きて」歷史教育 1-1 [34726

------ 村川(堅固)「中等西洋歷史教科書」、龜井(高孝)「參考西洋歷史」、箕作(元八)「西洋史講話」、村川・藤本(慶祐)「西洋史講話(上下)」、村川「西洋上古史」、坂口(昂)「概觀世界史潮」、齋藤(斐章)「西洋文明史觀」、瀨川(秀雄)「西洋通史(上中下)」、小林博「文檢受驗・西洋通史(上下)」、齋藤「西洋歷史地圖」、村川「中等西洋歷史地圖」、プッツケル「學校歷史地圖」、島田(增平)「最新對照・世界歷史年表」、齋藤「世界歷史年表」、三省堂「最新世界歷史年表」

「第 45 回文檢歷史科試驗委員」(西洋史--- 村川堅固、齋藤清太郎)
歷史教育 1-1 [34727

新刊「金子幹太譯「西洋讀史指針」(W.Davis, How to read History)」
歷史教育 1-1 [34728

史界[2]「西洋史の新參考書」(J.H.Breasted,The Conquest of Civilization/J.H.Robinson, The Ordeal of Civilization)歷史教育 1-5 [34729

田沼東三「史學權威者の無知無恥を剔抉す---箕作博士・瀨川博士・村川博士・坂口博士の西洋史」學苑 1-1 [34730

岡田哲藏「歷史の哲學觀---- プリンニグル・パティソン」(希臘羅馬の歷史觀、ヘロドタス、聖オーガスティン等)
丁酉倫理會倫理講演集 281 [34731

下澤瑞世「時代相變轉の法則的考察」(ギリシヤ・ローマの文化、ローマ帝國、キケロ、アウグストス等)
丁酉倫理會倫理講演集 281 [34732

細見正直「ドイツ史學の愛國的偏癖」原理日本 2-1 [34733

佐々木修一郎「ヴィコの歷史哲學と唯物史觀」(ギリシヤ等)社會科學 2-8 [34734

鈴木三郎「原始基督教信仰發達史觀」神學評論 13-3 [34735

新刊「野々村戒三「パウロ研究」」基督教新聞 2196(1/28) [34736
祈禱の栞「(11)性的生活に心して」(ギリシヤ文化史、ソクラテス、プラトー、アリストテレス等) 基督教新聞 2202(3/11) [34737
相馬祐次「ダイスマンの「パウロ研究」(上)」(ギリシヤ神秘思想等)
基督教新聞 2111(5/13) [34738
(參考：教界「關東部會年會---相馬[祐次]牧師「ダイスマンのポーロ研究」について」基督教新聞 2111(5/13)) [34739
(參考：教界「東京日曜學校教師講習會」、基督教新聞 2112(5/20) [34740
----- 「基督教史」(佐藤繁彦))
本宮彌兵衛「讀書の心理と讀物」(「兒童の讀物一覧」中、箕作元八「西洋史新話」)
基督教新聞 2214(6/3) [34741
山口[金作]先生「書齋より」(ロビンソン著/國友忠夫譯「パウロ傳」)
基督教新聞 2215(6/10) [34742
新刊「高垣勣次郎譯「パウロ傳」」(ロバート・バード著)
基督教新聞 2217(6/23) [34743
(參考：教界「京都」(青年會夏期學校)、基督教新聞 2221(7/22) [34744
---- 有賀[鐵太郎]教授「歴史的基督教」)
山口金作「パウロの書簡とその教訓」(グノスチック派等)
基督教新聞 2223(8/5) [34744
ジェファアソン博士「此の人を視よ」(ロマ帝國等) 基督教新聞 2224(8/12) [34745
蘆田慶治「現代人の執るべき基督教觀」(ニイチェ等)
基督教新聞 2229(9/16) [34746
新刊「アルコック女史著/原戍吉譯「殉教の兄弟」」基督教新聞 2234(10/21) [34747
新刊「賀川豐彦「使徒行動の精神」」基督教新聞 2238(11/18) [34748
新刊「ストーカー「基督論」」基督教新聞 2240(12/2) [34749
新刊「鑓田研一譯「ユウセビウス・信仰史」(後篇)」基督教新聞 2241(12/9) [34750
D.①林房雄「新いそっぷ物語----寓話再興」新小說 31-10 [34751
「新イソップ物語----三つの魚」大衆 2 月號 [34752
小崎弘道『マルコ傳註解』 [34753
英國聖書協會『我らの主なる救主イエス・キリストの新約聖書』(附・改譯引照)
[34754
大英國北英國聖書會社『Warera no sukuinushi shu Iesu Kirisuto no Shin-yaku Seisho』
[34755
②＊[訂正]三井光彌『獨逸文學十二講』(ゲーテ、シルレル等) [7719] [34756
木村壯八『藝術講話』(ギリシヤ・ローマ、中世、文藝復興等) [34757
ヘルマン・コルフ/高橋禎二譯『人本主義と浪漫主義』(東京堂) [34758
ブルック/石井誠譯『英文學史』 [34759
山岸光宣『ゲーテ』(評傳) [34760
中山昌樹譯『神曲---- 地獄篇・煉獄篇』(世界文豪代表作全集 2) [34761
中山昌樹譯『ミルトン失樂園物語』 [34762
ミルトン/藤井武譯『失樂園』(上巻) [34763
グッドスピード/佐竹直重譯『新約聖書の研究』 [34764

星野光多『新約聖書の背景とその成立次第』 [34765
ケー・イー・アウレル著『聖書和譯の歷史と聖書協會』 [34766
③＊[訂正]松浦嘉一「Aristotle の喜劇論---附･それより見たる Chauser 作 Miller's Tale」
英文學研究 6-3 [7735] [34767
＊ [訂正]岩崎勉「ヘーゲルの絶対的道徳とギリシヤ悲劇」教育論叢 16-1
[7742] [34768
(參考：「言語學談話會」、京都帝國大學新聞 16(1/15) [34769
田中[秀央]助教授「言語學史上に於けるアレクサンドリア」)
(參考：「(京都帝大)文學部卒論」、京都帝國大學新聞 17(2/1) [34770
文學科：井上增次郎「サッフオの希臘語」)
學藝欄「イタリア文學(1)(2)」(ダンテ、ペトラルカ、ボッカチオ等)
カトリックタイムス 93(1/1),94(1/11) [34771
(參考：彙報「東大文學部史學關係卒論」、歷史地理 47-2 [34772
寺澤保之「エウリピーデスと其の時代」)
新村出「讀書漫談---偶然發見した「カテキ」の本體など」
東京朝日新聞 11/7 [34773
西脇順三郎「プロファヌス」三田文學[復活號]1-1 [34774
伊藤功一「西洋建築史」(アルス建築大講座第 1 巻、全 7 巻、→昭 5 年) [34775
古典語講座・永見清/板東省「ラテン語」初等英語研究 19-1,3,4,5,6,7,9,10,11[34776
古典語講座・水野清太郎「ギリシヤ語」初等英語研究 19-1,2,3,5,6,9,11 [34777
グッドスピード(E.J.Goodspeed)/佐竹直重譯「新約聖書の話(18)(19)(20)(21)
(22)(23)(24)(25)(26)(27)」(ストイック派等)
基督教新聞 2194(1/4), 2195(1/21),
2196(1/28), 2197(2/4), 2199(2/18),2200(2/25),
2202(3/11), 2203(3/18),2206(4/8),2207(4/15)
[34778
④＊[訂正] 新村出「エラスムスと貨狄」藝文 17-8,10 [7643] [34779
村上直次郎「龍江院のカテキ様」史學雜誌 37-7 [34780
關口十九郎「東京中心主義を提唱す----學問と東京とに鑑みて」(ダンテ「神曲」、
聖オグスチノ「懺悔錄」等)聲 611 [34781
教界の知らせ「七十人譯聖書の再版」(希臘語譯聖書、舊譯聖書等)聲 611 [34782
(參考：「(京都帝大)文學部卒論」、京都帝國大學新聞 17(2/1) [34783
文學科：川越正雄「The Later Poems of J.Keats」）
新刊「竹友藻風「文學論」」早稻田大學新聞 95(5/27) [34784
新刊「山岸光宣「ゲーテ」早稻田大學新聞 95(5/27) [34785
新刊「テエヌ/廣瀨哲士譯「藝術哲學」」早稻田大學新聞 95(5/27) [34786
學藝消息「服部龍太郎「西洋音楽十二講」」早稻田大學新聞 114(12/9) [34787
鈴木習之「中世の學界」(ダンテ「神曲」、トーマス・アクイナス等)
カトリック 6-6 [34788
「カトリックの詩人」(ダンテ、ペトラルカ等)
カトリックタイムス 115(8/11) [34789
學藝欄「ペトラルカ」カトリックタイムス 126(12/1)
阿部次郎「ゲーテ研究資料(1)(2)(3)」思想 51,52,53 [34790

雪山俊夫「文藝學上の新潮に就て(1)(2)」思想 53,56 [34791
林達夫「書籍の周囲(ブリュンテイエル「フランス文學史提要」の飜譯)
思想 59 [34792
大類伸「ルネサンスの先驅者コラ・ディ・リエンツオ」歷史と地理 18-5 [34793
新刊「中島孤島「ホメロスのイリアッド」」歷史教育 1-4 [34794
柳田泉「明治の初期文學研究」新潮社版「日本文學講座」第 9 [34795
＊[訂正]齋藤昌三「明治初期の反譯小說」、愛書趣味 3 [23198] [34796
-----(追加分) 明 6：渡部溫「通俗伊蘇普物語」、
明 14：矢島象二「西國烈女傳」、
明 16：坪内雄藏「該撒奇談」(セキスピア)、
明 18：[坪内]逍遙遊人「慨世士傳」(リットン)、尾崎庸夫「繫思談」(リットン)、
明 19：中川霞城「得廉得自由の一箭」(シルレル),
明 20：尾崎行雄「一讀三嘆」(マツクス・オーレル)?、菊亭「密夫の奇談」(ボッカス)＊、桐南居士「神仙叢話」(グリム?)、
明 21：愛花仙史「悲風慘雨」(リットン)
高島華宵畫「文藝名作繪畫讀本」(ダンテ地獄篇)婦人世界 21-1 [34797
(?)「ゲーテの結婚觀」婦人世界 21-11 [34798
(?)「レッシングの少年時代」婦人世界 21-11 [34799
林久男「ヘッベルに對するゲーテの影響」講座 39 [34800
奥津重彦「ゲーテ作「西東詩集」の精神」(ハー・アー・コルフに據る)
講座 39 [34801
吹田順助「ヘルデルリーン詩抄」講座 39 [34802
高尾國男「フェリードリッヒ・ヘルデルリン」講座 39 [34803
舟木重信「シュトルウム・ウント・ドウランク時代の諸相-----特にライゼウキッツ作「ユリウス・フォン・タレント」に就いて」講座 39 [34804
茅野蕭々「獨逸に於けるゲョエテ評價の歷史的考察」講座 39 [34805
深田康算「美術史上の基礎概念としてのルネサンスとバロック」(ヴェルフリン等)
美 1 月號 [34806
(參考：「本會記事---公開講座：宮森麻太郎「文學と道德との關係」」
丁酉倫理會倫理講演集 279 [34807
宮森麻太郎「文學と道德との關係」(希臘神話、プラトウ、ブルータス、イースキラス、ソフォクリーズ、ユーリピディース、ゲーテ等)丁酉倫理會倫理講演集 280 [34808
岡田哲藏「牛津[Oxford]の學府」(ギルバアート・マアレー[G.Murray])
丁酉倫理會倫理講演集 282 [34809
比屋根安定「吉利支丹物語」吉利支丹文庫第 1 輯 [34810
蓑田胸喜「グンドルフ研究に就いて」(ダンテ、沙翁、ゲーテ、ニーチェ等)
原理日本 6 月號 [34811
海外文壇・長年長目・(出田)水鷄子「バイロンの研究新書」
初等英語研究 19-1 [34812
新村出「讀書漫談---偶然發見した「カテキ」の本體」東京朝日新聞 11/17 [34813

新村出「意拾[イソップ]諭言」（伊會保物語の漢譯本、其二）明星 1 月號 [34814
新村出「佐々木[信綱]博士の「百代草」」(イソップ)週刊朝日 3/29 [34815
新村出「「吉利支丹叢書」解說」(「珍書大觀書目」中) [34816
新村出「司馬江漢」文藝春秋 4 月號 [34817
新村出「村岡嗣典氏の「吉利支丹文學抄」」(書評)文藝春秋 8 月號 [34818
柳田泉「明治の飜譯文學----主として小說について」新小說 31-4 [34819
新村出「逍遙博士より得たる感銘」(「シーザル奇譚」、百合若傳說等)
早稻田文學 6 月號 [34820
新村出「海の星」(ダンテ、エラスムス等)女性 7 月號 [34821
新刊「中山昌樹譯「ダンテ帝政論・書翰集」」基督敎新聞 2200(2/25) [34822
(參考：敎界「東京」(ラスキン講座)、基督敎新聞 2213(5/27) [34823
-----御木本隆三「人としてのラスキン」
浦口文治「ラスキンと其女性觀」
浦口文治「ラスキンと其藝術觀」
太田正孝「ラスキンの經濟思想」
浦口文治「ラスキンと其宗敎生活」
浦口文治「ラスキンと其前驅者」
浦口文治「ラスキンと其以後」）
「神學者エラスムスの木像發見」(カテキ尊者) 基督敎新聞 2220(7/15) [34824
松本宗吉「エラスムスの木像に就て」基督敎新聞 2222(7/29) [34825
山口[金作]生「藝術と宗敎」(ゲエテ等) 基督敎新聞 2236(11/4) [34826
新刊「蘆谷蘆村「こどものダンテ」」基督敎新聞 2239(11/25) [34827
新刊「グッドスピード/佐竹直重譯「新約聖書の研究」」
基督敎新聞 2241(12/9) [34828
E.②＊[訂正]シュパン著/鷲野集太郎譯『經濟學說史』 [7774] [34829
マシウース/山本彌一郎譯『イエスの社會訓』 [34830
(參考：岩下壯一『愛と理性と信仰----加持力敎會と徵兵忌避事件』[カトリック叢書 1,2]） [34831
③＊[訂正]不破祐俊譯「プラトーの社會哲學」(Lichtenberger,Development of Social Theory より)法律及政治 5-4,8 [7473] [34832
＊[訂正・削除]柳澤泰爾「ギリシアの奴隸制度論」法律及政治 5-6
[7778] [34833
野村兼太郎「古代經濟史考斷片」三田學會雜誌 20-1 [34834
春木一郎「(儒帝)學說彙纂編纂に關する一疑問」法學新報 36-7[附錄] [34835
「(早大)卒業試驗時間割」、早稻田大學新聞 87(2/18) [34836
大學部政治經濟：三日(水)「アリストートル」
(參考：「(慶大)經濟學部卒論」、三田新聞 168(3/1) [34837
林祐三「クセノホン研究」
萩原吉太郎「初期貨幣學說史」）
④(參考：「(慶大)經濟學部卒論」、三田新聞 168(3/1) [34838
一力五郎「ジョン・ラスキンの經濟思想」
大村嘉彦「基督敎理と中世經濟思想」）

德富蘇峰「日本の罹弘とする統一病の豫防」(ソクラテース等)
斯民 21-11 [34839
雜錄・布川靜淵「社會思想體系の一瞥」(ファウスト・スクイラシ博士「社會學說」)
丁酉倫理會倫理講演集 279 [34840
川原次吉郎「穗積重遠博士の近業「婚姻制度講話」を讀む」(東京日々新聞所載)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」5-6 [34841
紹介批評・松本潤一郎「グムプロヰッチ「國家學說史」第二版とヰーゼ著「社會學」-----歷史と主問題」社會學雜誌 29 [348432
松下芳男「ダンテ、マキアベリの思想と帝國主義」法律及政治 5-3 [34843
福田德三「ウンフェルシタス・リテラルの意義」一橋新聞 41(10/15),42(11/1),
43(11/22) [34844
馬場英一「初代基督教界の社會思想」神學評論 13-2 [34845
岩下壯一「カトリック叢書第二輯「法と宗教生活」[田中耕太郎著]---十一月上旬發兌」」The Cathoric Times[カトリックタイムズ]124(11/11)
[34846
F.③中島宗治譯「ぴたごらすノ定理ニ關スル公理的研究」(Axiomatic treatment concerning the proofs of Pythagoras' theorem, by W.Suss)
(日本中等教育)數學會雜誌 8-2 [34847
「ぴたごらすノ定理ノ一證明」(日本中等教育)數學會雜誌 8-2 [34848
河野桐谷「東西の自然觀」東方ノ星 2-7 [34849
④戸坂潤「幾何學と現代」思想 56 [34850
書籍紹介・二階源市「田邊元博士ノ「數理哲學研究」(續)」(六、ゆーくりっど幾何學ノ獨自ノ地位)
(日本中等教育)數學會雜誌 8-3 [34851
(參考：教界「京都」(平安教會)、基督教新聞 2218(6/30) [34852
----- 山本[一淸]教授「天文學と人生」)
G. 田中秀央『羅甸文法補遺・羅和小辭典』 [34853
高木斐川『學說人名用語思想大辭書索引』 [34854
高城運七・江花恒與『法律經濟語辭典』 [34855
渡邊萬藏『法律大辭書』(1 册、頁附なし) [34856

昭２(１９２７)
A. ＊[訂正・削除]本位田祥祥男「ヤンキイとロマ文明」經濟往來 1 月號
[7817] [34857
折々の問題「人類は果たして進歩するか?」(ホメール、アリストテレス、プラトン等)聲 613 [34858
「(京大)本學夏季講習會-----「ルネサンス史概論」」
京都帝國大學新聞 57(8/3) [34859
本多淺治郎「ウェルズ氏の世界文化史大系」(北川三郎氏譯)
早稻田大學新聞 129(6/2) [34860
上山柑翁『歐米漫筆』(?) [34861
浦川和三郎『切支丹の復活』(前後篇。→昭 2) [34862

藤原義江「羅馬での失敗」婦人公論 12-10 [34863
齋藤茂吉「ナポリ旅行記」思想 66 [34864
安永不二男「ギリシヤの月と青蛙」校友會雜誌(第一高等學校)311 [34865
(參考：京都帝國大學文學部昭和 2 年度講義科目、藝文 18-5 [34866
哲學科 : 哲學概論(西田)、演習(Aristotle,Metaphysics, Aristotle,Über die Seele, 西田)、一般西洋哲學史(朝永)、心理學概論(野上)、教育思想概說(小西)、宗教學概論(波多野)/副科目--- 心理學講讀(W.Wundt, Völkers-psychologia III Bd. Die Kunst,岩井)、宗教學講讀(Platon's Sympo-sion(urtext), 波多野)、希臘語(White, First Greek Book, 菊池)
史學科：西洋史概說(坂口、植村)、獨逸史學史(坂口)、ペリクレス時代(Thucydides, History of Peloponnesian War, G.Lambeck, Quellen-sammelung[Perikles etc.]坂口)、中世都市の發達及其の生活(植村)、史學概論(西田)、考古學概說(濱田)/副科目--- 羅甸語(Gramatica Latina, Cicero:in Catilinam, 田中)、希臘語(White, First Greek Book, 菊池)、教育思想概說(小西)
文學科：History of English Literature(Clark)、The Poetry of Matthew Arnold (Clark)、Goethe:Faust（藤代)、Die Sturum- und Drangperiod（藤代)、Eckerman Gespräche mit Goethe(Hellfrisch）、古典時代(佛蘭西文學、太宰)、モラリスト研究(落合)、言語學概論(新村)、文法の理論的及び歴史的研究(新村)、希臘文學史(新村)、言語學上の諸問題(新村)/副科目---- 希臘語(White, First Greek Book, 菊池)、羅甸語(Gramatica Latina, Cicero: in Catilinam, Tacitus:Germania,田中)、希臘語(Homeros:Odysseia, Aiskhylos:Prometheus Vinctus, 田中)羅甸語(Virgirius: Aeneis, Horatius: De Arte Poetica, 田中)、教育思想概說(小西))
(參考：東京帝國大學文學部史學科講義題目、歴史地理 51-5 [34867
史學概論(今井)、西洋史概說(村川、齋藤)、羅馬史(村川)、西洋史學演習(U.Wilcken, Griechische Geschichte im Rahmen der Altertumsgeschichte、村川)、東西文化交涉・考古學觀察(原田))
(參考：京都帝國大學文學部史學科昭和 3 度講義題目、歴史地理 51-6 [34868
史學研究法(西田)、東西交通史上の諸問題(羽田)、西洋史概說(中村、植村)、中世の政治及文化(演習、D.Schafer, Mittelalter, Rambeck, Quellensammelung、植村)、考古學概說(濱田)、希臘考古學(濱田)、地學史(小川))
(參考：東北帝國大學法文學部史學科昭和 3 度史學關係講義題目、
歴史地理 51-6 [34869
史學概論(中村)、西洋古代史(羅馬史概說、大類)、西洋中世史特殊講義(ダンテ研究、大類))
學報彙報「(東洋大)講義委囑」、觀想 37 [34870
---- 美學(村田良平)、近世西洋哲學史・現代哲學・倫理學(大島正德)、西洋文化史(下澤瑞世)
學報彙報「教授異動(東洋大學)----言語學(藤岡勝二)」、觀想 41 [34871
學報彙報「北海道夏季大學----倫理學講座(中島德藏)」、觀想 41 [34872

學報彙報「東洋大學第二回夏季大學---哲學講座(紀平正美)」、觀想 41 [34873
岩生成一『近世日葡通交小史』 [34874
書評「大槻如電「新撰・洋學年表」」英文學研究 7-2 [34875
金子誠「西洋古代文明のページェント」歴史教育 2-1 [34876
鈴木生「西洋史の受驗と參考書」歴史教育 2-2 [34877
---- 文明史：泰西歴史名著叢書・ギゾー「歐洲文明史」、坂口博士「概觀世界史潮」、同「ギリシア文明の潮流」、大類博士「西洋の文化」
高市慶雄「日歐交涉史」歴史教育 2-4,5,6 [34878
編輯後記「最近交通文化史の大變退」歴史教育 2-4 [34879
キルパトリック「文化は移る教育は新たに」歴史教育 2-4 [34880
山田義直「洋學の發達」歴史教育 2-7 [34881
野々村戒三「ザヱリオ傳剝僞」文思研 5 [34882
小柳司氣太「十八世紀に於ける支那と歐洲」學苑 18 [34883
賀川豐彦「新しき創造」(ギリシヤ文化の末路等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」6-3 [34884
鑓田研一「原始基督教の文化史的背景」賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」6-9,11[34885
隈本有尚「東方文化と亞歷山大王」丁酉倫理會倫理講演集 299 [34886
島本愛之助「朝鮮新文化建設の第一歩の原理としての人本主義(承前)」(文藝復興、エラスムス等)
丁酉倫理會倫理講演集 300,301 [34887
桑田芳藏「ヴントの民族心理學と近時の心理學思想」心理研究 2-6 [34888
富森京次「銷夏讀書雜記」(ギリシヤ語、ギリシヤ思想、ギリシヤ化等)
基督教新聞 2277(8/25) [34889
B.①(?)「ギリシヤ神話」婦人世界 22-9,10 [34890
(?)「エムペドクレスの詩句」(p.12, D.K.5,6,8,15,20)學苑 7 [34891
(?)「アナクサゴラスの斷片」(p.84, D.K.3,5,17,21)學苑 7 [34892
「一言(p.3)」(エマーソン、アリストートル)ときのこゑ 12/1 [34893
②金子馬治『哲學概論』 [34894
矢崎美盛『西洋哲學史』 [34895
青木利七『佛耶對照・宗教哲學[宗教の根本問題?]』(アウグスチヌス等) [34896
土屋清一『問題、その歴史を中心としたる哲學綱要』 [34897
岡田怡川『現象學の哲學と教育思想』(アリストテレス等) [34898
内村鑑三『空の空なる哉』(プラトー、シーザー、歴山大王、ゲーテ等) [34899
ヨゼフ・フービー/戸塚文卿譯『カトリック思想史』 [34900
A.H.グレイ著/齋藤敏夫譯『男・女・神---- 基督教から觀た性問題の一考察』[34901
柏井園著『柏井園全集第６』(→昭 9/10 續版) [34902
日本組合基督教會教育部・岩村清四郎編(福音社)『青年用教科書・信仰に生きし人々』(長坂鑒次郎「オーガスチンと其母」) [34903
③(參考：京都帝國大學史學科昭和 3 年度卒論、藝文 18-5、
京都帝國大學新聞 47(3/1) [34904
鹿野治助「アリストテレースの本體と神に就て」

岡田三郎「プラトンの善論」
高田三郎「プラトンに於ける自體と存在」
北川振一「パイドンに於ける不死不滅論」
赤司裕「ディオテイマ、ソクラテスのエロス」)
山本義夫「第 45 回文檢西洋史本試驗の擬答」(第 4 問「左の地及び人に關する史實(イ)エレウシス」歷史教育 2-5 [34905
三谷隆正「畏怖と畏敬(Awe and Reverence)」(ソクラテス、プラトン等)
Japan Christian Intelligencer 5 月號 [34906
三谷隆正「キリスト教信仰の實在論(The Realism of Christian Faith)」(ソクラテス等)
Japan Christian Intelligencer 10 月號 [34907
三谷隆正「畏怖なき文明と畏怖の文明(Civilizations, Aweless and Awesome)」
Japan Christian Intelligencer 12 月號 [34908
北昤吉譯「フッサル「純粹現象論及び現象論的哲學への理念」」(22「プラトーン的實在の非難、本質と概念」)學苑 8 [34909
學報彙報「瑣[ソクラテス]聖祭」、觀想 43 [34910
----- 「ソクラテスに關する講演」(井上哲次郎、三枝博音)
「井上[哲次郎]先生九年忌法會朗讀文」(ソクラテス)
岩崎勉「アリストテレスに於ける自然の概念」教育論叢 17-5 [34911
青木[巖]學士「アリストテレスの認識論」教育論叢 18-1 [34912
征矢野晃雄「アウグスチヌスの恩寵論」基督教研究 4-1,3 [34913
人物傳「オーレリアス、アウガスチン」基督教家庭新聞 2 月號 [34914
新村出「御大切といふ言葉---國語の史的觀察」大阪時事新報 1/10 [34915
新村出「愛といふ言葉」大谷大學新聞 1/25 [34916
④＊[訂正]彙報「新着外國雜誌」哲學雜誌 488 中 [23264] [34917
J.H.Muirhead,“The Cambridge Platonists(II)”,Mind XXXVI,no.143)
教界の知らせ「教皇と聖トマの哲學」(希臘のアリストテレス哲學等)聲 615[34918
(參考：「(京都帝大)文學部卒論」、京都帝國大學新聞 47(3/1) [34919
宗教學專攻：鳴瀨恒太郎「パウロの信仰」）
「政治經濟攻究會----松永教授「ヘーゲル哲學解說」」
早稻田大學新聞 123(4/21) [34920
中桐確太郎「大西[祝]先生の面影」早稻田大學新聞 142(11/3) [34921
エンゲルベルト・クレップス「現今歐羅巴に於ける精神生活の轉向」(アリストテレース等) カトリック 7-1 [34922
田口芳五郎「トマ[ス]とカント(1)(2)(4)」(デモクリツス、アリストテレス、アリストテレス主義、聖アウグスチヌス等)
カトリック 7-3,4,6 [34923
岩下壯一「公教要理解說(6)(8)(9)(11)(13)(14)(15)」(ギリシヤ思想とキリスト教、ギリシヤ宗教思想との對照、三位一體の信仰とギリシヤ思想、ギリシャ人の宇宙形成說、アリストテレス、エンペドクレースとダーウ井ン、ローマ帝國、ヘレニズム、コンスタンチヌス大帝、ユリアヌス帝、アウグスチヌス、ギリシヤ文化、ローマ文明、プラトーン、ソクラテス、

「裸體を恥じざる文明とギリシヤ思想」等)
カトリック 7-3,5,6,8,10,11,12 [34924
書評「戸塚文卿氏譯のカトリック思想史」カトリックタイムス 158(10/21) [34925
新著「戸塚文卿譯「カトリック思想史」」聲 622 [34926
(參考：京都帝國大學文學部大正 15 年度卒論、
藝文 18-5、京都帝國大學新聞 47(3/1) [34927
山中貞義「ベルグソンの哲學に於ける物質と精神」
戸田三郎「ウィルヘルム・ディルタイの精神科學序論」
唐木順三「ベルグソンに於ける時間と永遠」
滝迫辰巳「ヘーゲルの倫理學」
德永郁介「美意識の權威について」(コーエン)
齋藤哲雄「J・M・Guyou の天才管見」)
鈴木生「西洋史の受驗と參考書」歷史教育 2-2 [34928
---- 哲學・宗教：安倍能成「西洋古代中世哲學史」、同「西洋近世哲學史」、
波多野精一「西洋哲學史要」、桑木[嚴翼]博士「ローマ字西洋近世哲學史」
小島政二郎「アナトール・フランス研究」三田文學 2-7,8,9 [34929
アンリ・マシス/高橋廣江譯「アナトール・フランス---卽ち、非人間的古典尊重」
三田文學 2-8 [34930
マーヘン/三木清譯「純粹認識の論理學」(プラトン等)學苑 14 [34931
ホフマン師「オイケンを憶ふ」宇由 1 [34932
田中治六「自然論」(ソクラテース、プラトン、アリストテレス等)觀想 34 [34933
馬場文翁「眞理を論ず(上)」(ソクラテス、パルメニデス等)觀想 39 [34934
田中治六「認識論」(プラトン、アリストテレス、ヘーゲル等)觀想 40,41 [34935
賀川豐彦「ヨハネ傳第三書の精神----兄弟愛の福音」
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」6-2 [34936
賀川豐彦「婦人と宗教」(カルセージ、オーガスチン、モニカ等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」6-4 [34937
賀川豐彦「日本精神とキリスト教精神----ルカ傳に於ける瞑想」(ローマ史、哲學者
ゼノオ、ローマの民法等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」6-8 [34838
賀川豐彦「パウロの思想的變化----ロマ書とエペソ書の比較」(ギリシヤ・ローマ文
明等)賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」6-9 [34939
賀川豐彦「ガラテア書の研究----自由の福音」(タシタス、ローマ帝國、ルナン「マ
ーカス・アウレリアス」等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」6-11 [34940
吉田靜致「ソロヴィヨフの生涯」(プラトーン、セ子カ、ヘルキュレス、プロメテ
ウス、イリアット、聖オーガスチン、ヘーゲル等)
丁酉倫理會倫理講演集 291 [34941
長尾喜一「倫理的價値認識の本質」(ソクラテス等)
丁酉倫理會倫理講演集 291 [34942
新刊「吉田靜致・小野正康「西洋倫理學史」(古代中世)

丁酉倫理會倫理講演集 291 [34943
新刊「吉田熊次「倫理學概論」」丁酉倫理會倫理講演集 291 [34944
布川靜淵「新時代思潮の傾向」(クランジュ等) 丁酉倫理會倫理講演集 294 [34945
ハロルド・ゼイ・ラスキ「カール・マルクス」丁酉倫理會倫理講演集 296,
297,298,299,300 [34946
新刊「中島半次郎「論理學」」丁酉倫理會倫理講演集 297 [34947
新刊「内田正一「增訂・儒家哲學本義」(プラトン、アリストテレス引用)
丁酉倫理會倫理講演集 297 [34948
カール・セベステン「貧困の哲學」(ペスター・ロイド誌上より抄)
丁酉倫理會倫理講演集 298 [34949
隈本有尚「形而上學から見たる「宇宙謎」」(ピタゴラス、ゲーテー等)
丁酉倫理會倫理講演集 298 [34950
新刊「田中義能「倫理學概論」」丁酉倫理會倫理講演集 298 [34951
山形東根「宗教側面觀」(希臘羅馬等) 丁酉倫理會倫理講演集 299 [34952
若木貞一「倫理思想の二つの流」(アリスティッパスとエピキュラス等)
丁酉倫理會倫理講演集 300 [34953
新刊「森川智德「哲學者の話」(「プラトーンの女性觀を見い出て」)
丁酉倫理會倫理講演集 301 [34954
新刊「得能文「最究竟者」」丁酉倫理會倫理講演集 302 [34955
「戲曲の舞臺面と梗概−−−エピクロスの快樂」(長與善郎作)
文章倶樂部 12-11 [34956
森戸辰男「「唯一者」の結構」(M.スチルナア。古代人等)
大原社會問題研究所雜誌 5-1 [34957
河合讓「中世哲學の新解釋」教育論叢 18-5 [34958
「受講書報告書(4)----哲學：ウィンデルバンド「古代哲學史」(原書)」
一橋新聞 47(1/14) [34959
福田德三「大學の意義」一橋新聞 51(5/16),52(6/6),53(6/20),55(7/18) [34960
川村豐郎「ヘーゲル主義の復活」一橋新聞 53(6/20) [34961
金子白夢「「序曲」を讀む」(ウィンデルバンド著。プラトーン、アリストテレス、
新プラトーン學派等)基督教新聞 2251(2/24) [34962
祈禱の栞「(10)喜び讃美せん」(ニイッチェ、ソフヒスト等)
基督教新聞 2251(2/24) [34963
松井文彌「私の體驗から」(セント・アウガスチン等)
基督教新聞 2253(3/10) [34964
金坂天園「青木利七氏著「佛耶對照・宗教哲學」を讀む」(アウガスチヌス等)
基督教新聞 2265(6/2) [34965
(參考：教界「通俗神學講座(2)----山口金作「人間の回心」[ゲーテ、ケーベル博士
等] 基督教新聞 2283(10/6)) [34966
(參考：教界「通俗神學講座(3)----山口金作「神の存在」[プラトー、ゲーテ等]
基督教新聞 2286(10/27)) [34967
新刊(額賀鹿之助)「エー・シー・ニウドソン/宮澤六郎譯「ヘブル預言者の宗教」」
(ギリシヤ哲學等) 基督教新聞 2287(11/3) [34968

宗教文藝(錦織くら子)「トルスト井「光の中に歩め」」(オリンピアの競技等)
基督教新聞 2287(11/3) [34969
薗川四郎「反動思想としての危機の神學」(ヘラクレス等)
基督教新聞 2291(12/1) [34970
C.②＊[訂正・削除]~~矢野道也『印刷技術發達史』~~(→F②) [8017] [34971
山中謙二『西洋史概説』 [34972
村上治『基督教十五講』 [34973
川合信水『耶蘇基督讃』 [34974
ロバート・リー/三谷種吉譯『輪郭的聖書』 [34975
山室軍平『使徒的宗教』(6 版) [34976
服部他之助『甦生の路を辿りて』(オーガスチンと母モニカ) [34977
デヴィッド・スミス/日高善一譯『聖パウロの生涯と其書翰』 [34978
久保徹『ガラテヤ書----新約聖書梗概研究』 [34979
松本卓夫述『ピレモン書の研究』 [34980
近代社世界戯曲全集刊行部編(昭 2-5、5 册)中------ [34981
第 3 集『シェイクスピア集』(和泉武譯「アントニーとクレオパトラ」)
③＊[訂正]三木春雄「アントニーの最後」(シェークスピア作)觀想 41,43 [34982
山本義夫「第 45 回文檢西洋史本試驗の擬答」(第 1 問「西地中海に於ける希臘民族勢力の消長」)歴史教育 2-5 [34983
救世講壇・山室軍平「アクラとプリスキラ」(コリント、クロオテ大帝等)
ときのこゑ 5/1 [34984
救世講壇・山室軍平「オネシモ」(ホーマ、ラセデモニア、歴山大王、ロマ等)
ときのこゑ 10/1 [34985
口繪・原色版/鈴木淳「トロイの木馬」赤い鳥(鈴木三重吉主宰)18-4 [34986
永峰光名「Pergamon 圖書舘とギリシヤの圖書舘」圖書舘雜誌 21-6 [34987
小北皎次郎「クオーヴァデス寺院からカタコムへ」基督教新聞 2252(3/3) [34988
宗教文藝・清水抄譯「モーリス・マーテルリンク「マグダラのマリア」」(羅馬の武官等) 基督教新聞 2277(8/25) [34989
(錦織くら子)「メレジュコウフスキー「背教者ジウリアノ」」
基督教新聞 2285(10/20) [34990
宗教文藝(錦織くら子)「ニューベリー「ピりピの闘技者」」
基督教新聞 2291(12/1),2292(12/8) [34991
宗教文藝(錦織くら子)「キングスレー「パイペシア」」
基督教新聞 2293(12/15) [34992
④野村兼太郎「古代英國都市概論---英國都市發達史の一節」
三田學會雜誌 21-1 [34993
折々の問題「昭和の聖代を迎へて」(大コンスタンチン帝等)聲 612 [34994
問と答と「婚姻の秘蹟」(聖會博士聖アウグスチノ等)聲 615 [34995
木村毅「世界文學全集について--- 日本のエヴリマン叢書の完成」(クオ・ヴァディス等) 早稻田大學新聞 120(2/17) [34996
濱田青陵「故リッジウェー教授の思出」藝文 18-5 [34997
(參考：京都帝國大學文學部大正 15 年度卒論、藝文 18-5 [34998

上里朝秀「原始基督教と羅馬帝國との關係」)
新刊[中村]「濱田耕作譯「ミハエリス氏・美術考古發見史」」
歴史と地理 19-2 [34999
新刊[神田]「辻善之助譯「古代家族」」歴史と地理 19-4 [35000
彙報「木村秀男「西洋陸戰史講話」」(「一、マラソン」)歴史地理 51-3 [35001
彙報・質問(村田生[久留米])「文檢合格後更に進みて原書で西洋史を研究せんとするにあたり適當な參考書を」歴史教育 2-1 [35002
----- Ranke,Weltgeschichte/Onken, Die Allegemeine Geschichte/Lavisse et Ramband,Histoire général/Halphen et Sagnac, Peuples et Civilization/Cambridge Ancient History /Cambridge Mediaeval History/Ashley,Ancient, Mediaeval and Modern Civilization/Bostford,A Brief History of the World/Seignobos, Histoire de la Civilization/Helmort,Die Weltgeschichte/Robinson & Breasted,Ancient, Mediaeval and Modern Times/Darlman Waitz, Quellenkunde/Herre, Quellenkunde/Herre,Quellenkunde zur Weltgeschichte/金子氏譯「西洋讀史指針」
彙報・質問(中生[石川])「世界各國の開闢神話を知るに適當な參考書を」
歴史教育 2-1 [35003
----Histoire général/Halphen et Sagnac, Peuples et Civilization/Cambridge Ancient History/Cambridge Mediaeval History/Ashley,Ancient, Mediaeval and Modern Civilization/Bostford,A Brief History of the World/Seignobos, Histoire de la Civilization/Helmort,Die Weltgeschichte/Robinson & Breasted, Ancient, Mediaeval and Modern Times/Darlman Waitz, Quellenkunde/Herre, Quellenkunde zur Weltgeschichte/金子氏譯「西洋讀史指針」
彙報・質問(中生[石川])「世界各國の開闢神話を知るに適當な參考書を」
歴史教育 2-1 [35004
----- 杉谷代水「希臘神話」、木村鷹太郎「希臘羅馬神話」、野上彌生子譯「傳說(ブルフィンチ)」、松村武雄監修「神話傳說體系」
鈴木生「西洋史の受驗と參考書」歴史教育 2-2 [35005
----- 通史：箕作博士「西洋史講話」、瀬川博士「西洋通史(上中下)」、村川博士・藤本慶祐「西洋歷史講話」、龜井孝高「參考西洋歷史」、小林博「文檢受驗・西洋通史」、早大出版部「通俗・世界全史16」、Parley, Universal History/Moyer, General History/Fischer, Outline of Universal History 各時代史：浮田博士「西洋上古史」、ホーランドローヅ/瀬川博士譯「歐洲諸國民發達史」
新刊「橋本辰彦「自學自修中等參考・趣味の西洋歷史」」歴史教育 2-2 [35006
史界[1]「國家主義と個人主義」(山中謙二「西洋史概說」中)歴史教育 2-4 [35007
史界[3]「西洋史の良參考書」(Karl Plaetz, Auszug aus der Geschichte[世界史提要])
歴史教育 2-4 [35008
酒井三郎「文檢西洋史の受驗について」歴史教育 2-4 [35009
----- 齋藤清太郎「新編西洋史教科書」、村川堅固「中等西洋歷史」、瀬川秀雄「三訂・中等西洋歷史」、三省堂編輯部「西洋歷史教科書」、大類伸「改訂・新體西洋歷史」、坂口昂「中等教育西洋史教科書」、龜井高孝「中等西洋史」、龜井高孝「參考西洋歷史」、本多淺治郎「高

等教科西洋歷史」、瀨川秀雄「西洋通史」、箕作元八「西洋史講話」、村川堅固・藤本慶祐「西洋史講話」、村川堅固「西洋上古史」(後編)、三省堂「最新世界年表」、齋藤清太郎「西洋歷史地圖」、島田增平「西洋歷史年表」、三省堂編輯部「西洋歷史地圖」、Parley, Universal History/Meyer, General History/ Fisher,Outline of Universal History/ Robinson,Outlines of European History/Deper, Weltgeschichte/Tinder,Welt-geschchte/Putzger,Historische Sohul-Atlas

應問：加瀨生[千葉縣]「西洋歷史地圖の優良なるもの」歷史教育 2-4 [35010

------Rothert, Karten und Skitzen/G.Doyseus, Allegemeiner Historischer Hand-atlas/ F. Scharder et L.Gallouede, Atlas Classique de Geographie

新刊「山中謙二「西洋史概說」」、中川一男「歷史及び歷史教育の本質」」歷史教育 2-4 [35011

東京帝國大學文學部教育研究室「中等教育に於ける歷史教授の比較」(日、英、佛、米、獨)歷史教育 2-5 [35012

新刊・中村久四郎「中川君の著「歷史及び歷史教育の本質」」歷史教育 2-5 [35013

新刊・大和喜眞太「中川一男著「歷史及び歷史教育の本質」を讀む」歷史教育 2-5

山上德信「文檢西洋史參考書の解說」 歷史教育 2-8 [35014

------ 村川堅固「七訂・中等西洋歷史」、大類伸「新體西洋歷史」、齋藤清太郎「新編西洋史教科書」、瀨川秀雄「西洋歷史教科書」、龜井高孝「參考西洋歷史」、柴田親雄「國民西洋歷史」、小林博「文檢受驗・西洋通史」、村川堅固「西洋上古史」、村川・藤本共著「西洋歷史講話」、瀨川秀雄「西洋通史」、本多淺治郎「新講・西洋歷史」

古閑潔「クローチェ「歷史敍述の理論及歷史」」(羽仁五郎氏譯)學苑 10 [35015

野々村戒三「西洋史の社會學的考察」學苑 13 [35016

エフ・ハーバート・ステド/竹中勝男譯「無産者の福音----ガリラヤに於ける」(ローマ官憲等)賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」6-5 [35017

泰西思潮「耶蘇神話說」(ジョジ・ブランデス、The Nation,Sept.22,1926)丁酉倫理會倫理講演集 291 [35018

海外名作の印象・木村毅「クオ・ヴァデイスの文獻的價値」文章俱樂部 12-3 [35019

永峰光名「バビロニア・アッシリアの圖書舘」圖書舘雜誌 21-3 [35020

新刊「高瀨無絃「少年基督傳」」基督教新聞 2252(3/3) [35021

南石福二郎「日本に於ける近代のパウロ」(ギリシヤ地方のペーガニズム等)基督教新聞 2256(3/31) [35022

相馬祐次「隱れたる矛盾」(ダンテ、ゲーテ等) 基督教新聞 2259(4/21) [35023

紹介・(山口[金作])「歷史及信仰に於ける耶蘇基督」(A.C.Headlam,Jesus Christ in History and Faith。ロマ帝國等)基督教新聞 2260(4/28) [35024

(參考：教界「神戶」(食堂建築資金募集映畫會)、基督教新聞 2266(6/9) [35025

------ 「クオバデス」)

祈禱の栞「(33)試練の中に在る同胞の爲に」(ローマ等)

基督教新聞 2274(8/4) [35026
紹介・山口金作「初代の基督教」(E.F.Scott,The First Age of Chrisianity。グリーキ語、ヘレニスト、ギリシヤ思想、アレキサンドル思想等)
基督教新聞 2274(8/4) [35027
錦織貞夫「巧みなる教授と接觸點」(ギリシヤの首都アテネ等)
基督教新聞 2282(9/29) [35028
大類伸「クローチェの歴史敍述の理論及歴史---羽仁[五郎]氏の譯を讀む」
東京朝日新聞 1/17 [35029
原田淑人「ミハエリス著/美術考古學發見史---濱田[耕作]博士の譯を讀む」
東京朝日新聞 3/7 [35030
「古代ギリシヤの議事堂を地下から發見」東京朝日新聞 10/21 [35031
D.①綠のお部屋「子供イソップ」婦人世界 22-8 [35032
近代社世界戲曲全集刊行部編(昭 2-5、5 册)中------ [35033
・第 1 集・村松正俊譯『希臘古典劇集』[悲劇]
・第 2 集・村松正俊譯『希臘羅馬古典劇集』[喜劇・ローマ劇]
米國聖書協會『我らの主なる救主イエス・キリストの新約聖書』(同年改譯→昭 10、16。昭 13 英和對照、15 版) [35034
日高善一『マタイ傳福音書講義---新約全書註釋』 [35035
ラルネデ講述『ロマ書講解---- 改譯新約聖書』 [35036
②石川巖『明治初期戲作年表』(伊會保物語等) [35037
愛書趣味社『明治文藝研究資料展覽會目錄』(「愛書趣味」2-2 別册) [35038
柳田泉『明治初期飜譯文藝年表』(吉野作造編『明治文化全集』第 14 巻「飜譯文藝篇」→昭 42 再刊發行) [35039
『海表叢書』第一巻(楢林高廣「楢林雜話」、前野良澤「西洋畫賛譯文稿」→全 6 巻。昭 3) [35040
ダンテ/マクファーソン英譯/大槻憲二邦譯『神曲』(英文世界名著全集 27) [35041
中山昌樹譯『ダンテ神曲・天國篇』(世界文豪代表作全集 3) [35042
ミルトン/木内打魚譯『失樂園』(世界文豪代表作全集 5) [35043
ゲーテ/中島清譯『ファウスト・第 1,2 部』(世界文豪代表作全集 6,7→昭 3) [35044
ボッカチオ/河原萬吉譯『デカメロン』(上巻。萬有文庫 13) [35045
ジョバンニ・ボッカチオ/河原萬吉譯『デカメロン』(下巻) [35046
ボッカチオ/戸川秋骨譯『十日物語』(改訂版) [35047
ボッカチオ/戸川秋骨譯『十日物語』(世界名作大觀各國篇・附錄第 5 巻) [35048
山岸光宣『獨逸文學概論』 [35049
石川會平譯『ゲーテ集』(袖珍世界文學叢書 2) [35050
近代社編『古典劇大系・第 4 巻』(伊太利西班牙篇) [35051
③＊[訂正]宮武外骨「小引・繪新聞(p.67)」(希臘のイソップ等)
すきなみち 1 [23288] [35052
捨井洗「七月の呼稱---歐米の諸國に於ける」(Julius Caesar)聲 618 [35053
「點心錄」(ギリシヤ悲劇等) 早稻田大學新聞 123(4/21) [35054
「點心錄」(拉丁語の Manus) 早稻田大學新聞 124(4/28) [35055
深田康算「アリストテレスの藝術論」思想 75(←「藝文」11-1,4,6 より再錄) [35056

(参考：京都帝國大學文學部大正 15 年度卒論、藝文 18-5 [35057
川越正雄「A Study of Prometheus Unbound」)
彙報「佛像の元祖はギリシヤの神」(國民新聞 10 月 31 日附) 歷史教育 2-9 [35058
森田草平「南歐文學について」(世界文藝名作講話)婦人世界 22-4 [35059
古典語講座・永見清/板東省「ラテン語」初等英語研究 20-1,3,4,5,6,7,10,
11,12 [35060
古典語講座・水野清太郎「ギリシヤ語」初等英語研究 20-2,3,5,6,7,10 [35061
ボスウォース教授/福井邦藏譯「イエス時代のパレスチナの宗教建築に就て」(ロマ人、ジュリアス・シーザー、ヨセフス古代記等)
基督教新聞 2290(11/24) [35062
④村上直次郎「再び龍江院の貨狄様に尚いて」史學雜誌 38-9 [35063
「文學部陳列舘陳列品の中から」(印度ガンダラ石彫)
京都帝國大學新聞 42(1/1) [35064
(参考：「(京都帝大)文學部卒論」、京都帝國大學新聞 47(3/1) [35065
美學專攻：中嶋萬次郎「レッシングに於ける悲劇の問題」
藤田貞次「シルラアの美しき魂に就て」)
「史學研究會談話-----林久男「ゲーテの古代研究に就て」」
京都帝國大學新聞 45(2/11) [35066
＊ [訂正]林久男氏談話要旨「ゲーテの古代研究に就て」」
京都帝國大學新聞 46(2/21) [8058] [35067
「濱田[耕作]博士と林[久男]博士の講演」京都帝國大學新 46((2/21) [35068
(参考：「(京都帝大)文學部卒論」、京都帝國大學新聞 48(3/11) [35069
文學科(英文)：川越正雄「A Study of Prometheus Unbound」
吉武昌明(男)「Byron in Love 」
(獨文)：阿部六郎「詩人ニイチェとディオニュソスの觀念」)
宮田齊「言語の發達變遷について」(希臘語のトラゴディア等)
早稻田大學新聞 124(4/28) [35070
「良書雜書」(土居光知「文學序說」)早稻田大學新聞 126(5/12) [35071
「點心錄」(ゲーテ) 早稻田大學新聞 138(9/29) [35072
横山有策「ハーン先生の追憶----附・ヘルンとハーンの事」
早稻田大學新聞 141(10/20) [35073
岩下壯一「聖者より神へ」(ダンテ等)カトリック 7-7 [35074
田沼利男「西洋の脚本を讀む人々の爲に」(「ギリシヤ」ソフォクレエス、エウリピデエス等) カトリック 7-9 [35075
學藝欄「詩聖ダンテ」カトリックタイムス 139(4/11),140(4/21) [35076
(参考：京都帝國大學文學部大正 15 年度卒論、藝文 18-5 [35077
中島萬次郎「レッシングに於ける悲劇の問題」
藤田貞次「シルラアの美しき魂に就いて」
吉武昌男「Byron in Love」
薗田香勳「ゲーテの樂天主義に就て」
阿部六郎「詩人ニイチェとディオニュソスの觀念」)
書評「Shelley と Keats」(by E.Bounden)英文學研究 6-8 [35078

鈴木生「西洋史の受驗と參考書」歴史教育 2-2 [35079
--- 美術史 : 板垣鷹輔「西洋美術史概要」、同「西洋美術史要」、S.Reinach,Apollo
應問：四迷生[京都]「邦文でかいた西洋美術史のよい參考書をお教へ下さい」
歴史教育 2-2 [35080
--- 答・板垣鷹穂「西洋美術史概要」、「西洋美術史主潮」、矢代幸雄「西洋美術史講話」(古代篇)
森田慶一「Vitruvius の六のカテゴリーに關する Jolles の說」
建築學研究 1-6 [35081
森田慶一「井トル井ウス書志錄」建築學研究 1-12 [35082
西脇順三郎「Esthétique Formaine(純粹藝術批判)」三田文學 2-5 [35083
世界藝術家異聞集「ラ・フォンテーヌと子供」婦人世界 22-1 [35084
高島華宵「ダンテ神曲」(名作繪畫小說) 婦人世界 22-1,2,3,4,5,6 [350785
高島平三郎「ゲーテの跡を繹ねて」少年團 4-5 [35086
聖書の挿話「改譯以前の聖書」(グリーキ語等)ときのこゑ 5/1 [35087
「一言(p.3)」(スマイルス、ゲーテ、ダンテ)ときのこゑ 10/1 [35088
賀川豐彦「牧羊歌----詩篇廿三篇の精神」(イリヤッド、オデセイ等)
賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」6-1 [35089
賀川豐彦「諧謔文學の社會的位置」(アリストファネス、ソクラテス、ダンテ、ベルグソン等)賀川豐彦個人雜誌「雲の柱」6-4 [35090
田部重治「文藝と道德」(ホーマー、希臘悲劇、バイロン、シラー、ゲーテ等)
丁酉倫理會倫理講演集 298 [35091
新刊「厨川文夫[白村]「校訂・近代文學十講」」丁酉倫理會倫理講演集 299[35092
新刊「大河内定雄・伊藤好太郎「美術教育としての美術史」」
丁酉倫理會倫理講演集 299 [35093
新刊「高柳伊三郎「ダンテ・神曲序說」」丁酉倫理會倫理講演集 301 [35094
海外名作の印象、文章倶樂部 12-3 [35095
---森田草平「「サッフォ」の思ひ出」/佐藤春夫「「デカメロン」その他」
新村出「ミリガン/神田盾夫譯「新約聖書文獻考」序」(→昭和 19 刊「新村出選集(3)」所収) [35096
新村出「日本切利支丹版本の回収」書物の趣味 11 月號 [35097
新村出「世界言語志の古版本」書物禮讃 1 月號 [35098
新村出「南蠻本の回収」サンデー毎日 10/23 [35099
新村出「カテキ存置論」東京朝日新聞 7/10 [35100
新村出「明治初期の飜譯」(イソップ、フェヌロン「テレマック物語」、「シーザー」)東京朝日新聞 12/26 [35101
佐藤瑞彦「教界名士の印象」(二、高橋正道氏[グリーキ、ラテン等])
基督教新聞 2244(1/1) [35102
相馬[祐次]生「グループメソッドに就て」(ギリシヤ語、ラテン語等)
基督教新聞 2265(6/2) [35103
E.①＊[訂正]春木一郎「儒帝勅法彙纂制定に關する勅錠三篇及儒帝法を伊太利に勅錠邦譯」法學新報 37-8 [8076] [35104
②田制佐重『社會思想讀本』 [35105

今井三郎『社會哲學概論』(ギリシヤ哲學等) [35106
石川三四郎『訂補・西洋社會運動史』 [35107
中島重『基督教と社會問題』 [35108
上田作一述『ムッソリーニ首相』(近世大偉人) [35109
デギュー/井上忻治譯『公法變遷論』 [35110
穂積陳重『法律進化論』(第 3 册) [35111
田崎仁義『經濟史講義』 [35112
③森山武市郎「ローマの社會とその奴隸制度」法律及政治 6-1,4,5,6 [35113
(參考：教界「YMCA 宗教學校」、基督教新聞 2254(3/17) [35114
----- 竹中勝男「歴史的基督教の社會思想」「イエス及初代教會の社會思想」「中世紀基督教の社會思想」）
④＊[訂正・削除]船田享二「栗生法學士稿「ローマの内縁と日本のそれ」を機縁として」~~法律及政治(日本法政新誌、改め)~~法律學研究 24-2,3,4 [8100] [35115
野村兼太郎「外國經濟史に關する新刊書」(英書)三田學會雜誌 21-12 [35116
喜田堅夫(男?)「國際法の元祖」(グロチウス)聲 618 [35117
(參考：「(慶大)經濟學部卒論」、三田新聞 193(4/15) [35118
高橋教授擔當：加藤英二「ラスキン考」
中田米藏「ジョン・ラスキンの社會思想研究」
新庄珠生「カトリックの私有財産理論」）
(參考：「(慶大)法學部卒論」、三田新聞 194(4/27) [35119
槇教授擔當：松田義治「中世政治思想に於けるスコラ哲學」）
井上周三「三浦[周行]博士の新著「續法制史の研究」に就て」（ローマ法等）
早稻田大學新聞 120(2/17) [35120
「ローマ法の圖書寄贈」(今村恭太郎氏より圖書舘へ)
早稻田大學新聞 138(9/29) [35121
井上忻治「デギュー「公法變遷論」」(ローマ法等)學苑 14 [35122
泰西思潮「マーリアム「輓近政治思想の推移」(上巻)」(「政治的研究の方法」[マセドニアのアレキサンダー、アリストートル、プラトー、モンテスキュ、トマス・アクエイナス、ヘーゲル等)
丁酉倫理會倫理講演集 292 [35123
新刊「島田武夫「法律哲學」」丁酉倫理會倫理講演集 297 [35124
新刊「シュタイン/協調會譯「社會思想史」」(エピクロス等)
丁酉倫理會倫理講演集 302 [35125
柳宗悦「ラスキンとモリス----大熊信行氏の近著を讀んで」(「社會思想家としてのラスキンとモリス」) 文章倶樂部 12-6 [35126
大槻憲二「「社會思想家としてのラスキンとモリス」を讀む」(大熊信行氏著)
文章倶樂部 12-6 [35127
「プロゼミナール紹介」、一橋新聞 46(1/1) [35128
---- 福田徳三「Platons Staat(Herd Hancune Bundt)Griechisch und deutsch herausgeb. von W.Andrea」

高橋誠一郎「基督教と經濟學」一橋新聞 61(11/7) [35129
美濃口時次郎「二つの文獻」(シュタインの社會思想史) 一橋新聞 61(11/7) [35130
F.②＊[訂正]矢野道也『印刷技術發達史』(←C.②) [8017] [35131
新村出『船舶史考』(增訂版。貨狄尊者[エラスムス]。→昭 18 再刊版) [35132
佐藤政次編著『改訂增補・曆學史大全』 [35133
宮道馨『理化學史物語』 [35134
③＊[訂正]柳原吉次「ぴたごらすノ定理ノ公理的研究」
(日本中等教育)數學會雜誌 9-2 [8124] [35135
④三上義夫「サートン氏著科學史概論第一巻を讀む」史學 7-1 [35136
森銑三「伊藤圭介の話」赤い鳥(鈴木三重吉主宰)18-1 [35137
浦川和三郎「ガリレオ問題に就て」(コンスタンチヌス帝、ギリシア・ローマの古典珍書等) カトリック 7-5 [35138
浦川和三郎「天動說と地動說」カトリック 7-6 [35139
荒木俊馬「學藝復興と近世天文學の黎明」天界 71(1 月號) [35140
G. 片山正雄『雙解獨和大辭典』 [35141
新村出「イソップ」(「日本家庭大百科字彙」第 1 册中) [35142

昭３(１９２８)
A. ＊[訂正]（參考：京城大學法文學部講義題目、哲學雜誌 496 中 [8152] [35143
宗教史講讀(Tiele-Sönderblom,Kampendium der Religiosgeschichte(赤松))
大阪每日新聞社編『吉利支丹叢書』(珍書大觀、17 册。→昭 4) [35144
笠信太郎『シュペングラーの歷史主義的立場』 [35145
＊[訂正]岩波講座「世界思潮」第 2 册----木村龜二「羅馬精神」(←昭 4.A) [35146
岩波講座「世界思潮」第 4-册---太田正雄「日本キリシタンの運動」 [35147
新村出「切支丹史話を讀む」長崎新聞 7/4 [35148
(參考：「(京都帝大)文學部卒論」、京都帝國大學新聞 73(3/11) [35149
哲學科：津田□「初期ビザンツ文化の一考察」)
間崎萬里「石の文明」三田新聞 216(6/22) [35150
新刊「牧野英一「海を渡りて野をわたりて」」丁酉倫理會倫理講演集 306 [35151
隈本有尚「地球面の形勢と東西人種の命數」(エムペドクレス等)
丁酉倫理會倫理講演集 310 [35152
新刊「煙山專太郎「再生の歐米を觀る」」丁酉倫理會倫理講演集 310 [35153
應問：太東生(千葉)「歷史教育の必要--- 西洋史の方面に之に適する書類」、
丁酉倫理會倫理講演集 311 [35154
---- 答・L.Thorndike, A History of Civilization
泰西思潮「エミール・ブービエ「東洋の智慧と西洋の文明」（ソクラテス、スペングラー等）丁酉倫理會倫理講演集 312 [35155
ガストン・ラジュオー「文化と藝」(ホーマー、ヘイシオドス、アレキサンダー大王、ギリシア・ラテン文明等)
丁酉倫理會倫理講演集 314 [35156

柳田國男『青年と學問』(「日本の民俗」中、フレーザー、パウサニアス、ソフォクレス、オイリピデス等) [35157
彙報「佐藤堅司「西洋文化史講話」」歴史地理 52-2 [35158
長嶺杲源「第 47 回文檢西洋史受驗記」歴史教育 3-2 [35159
「二、東ローマ帝國の西歐文化に對する貢獻」
長嶺杲源「文檢資料・第 47 回文檢本試驗西洋史擬答」歴史教育 3-3 [35160
「二、東ローマ帝國の西歐文化に對する貢獻」
新刊「佐藤堅司「西洋文化史講話」」歴史教育 3-3 [35161
山本義夫「文檢西洋史の研究」(昭和 2 年本試驗)歴史教育 3-4 [35162
「二、東ローマ帝國の西歐文化に對する貢獻」
木代修一「江戸時代の西洋學」歴史教育 3-5 [35163
久米成次「西洋文明の本質」觀想 54 [35164
蓑田胸喜「東西文明融合の學術的確證」原理日本 4-7 [35165
「三浦博士文明史ちかく上梓」(希臘思想より基督教統一文化へ)
一橋新聞 64(1/1) [35166
笠信太郎『シュペングラーの歴史的立場』 [35167
金子白夢「新世界の出現」(ギリシヤ人等) 基督教新聞 2329(8/30) [35168
鈴木二浩「敵前に立つ我等」(シュペングラー等) 基督教新聞 2335(10/11) [35169
「宗教指導者の社會的理解」(ギリシヤ・ローマの文明及野蠻人の文明等)
基督教新聞 2338(11/1) [35170
B.①金子健二譯『ジェスタ・ローマノーラム』(ラテン文) [35171
②＊[訂正]フリイドリヒ・アルバート・ランゲ著/川合貞一譯『唯物論史』(上→昭 4 中→昭 7 下) [8180] [35172
＊[訂正]ニイチェ著/安倍能成譯『この人を見よ』(岩波文庫) [8185] [35173
キングスレー/長澤英一郎譯『英雄物語』(英文併記。英文世界名著全集 21) [35174
モンテーニュ原著/辻幸三郎譯『兒童教育論』(教育思想精華選第 7。ラブレー、プラトン、アリストテレス、クセノフォン、ストイシアン、エピキュリアン、エピクーロスとメニケウス、アレキサンドル、イソキウラテス、カルネアデス、ヘゲシアス、リクルゴス,希臘,ローマ等,目黒書店)[*35174
中島義一『こども論理學プロメトイスの火』 [35175
ジャック・マリタン/吉滿義彦譯『スコラ哲學序論』 [35176
由良哲次『近世教育思想に於ける内在觀の研究』 [35177
ヘフディング/北昤吉譯『近世哲學史』(2 册) [35178
得能文『淺人零語』 [35179
由木康『聖悦に輝く人々』(アウガスチノ等) [35180
蓑田胸喜『獨露の思想文化とマルクス・レーニン主義』(11「東西思想の開展と價値對應」[シュペングラア、ゲーテ、ダンテ等]) [35181
大阪毎日新聞社『ぎやどべかとる』(下巻目錄。珍書大觀吉利支丹叢書) [35182
高橋乙治『宗教心理學より觀たるタルソのパウロ』 [35183

カアル・ホル/佐藤繁彦譯『ルッターの宗教觀』(オーガスチン等) [35184
佐藤繁彦『ルッター研究』 [35185
カール・ヒルティー/黒崎幸吉譯『宗教論文集』(上下、基督教名著集 3,4) [35186
ヒルティー/杉山茂譯『人生ノ段階』 [35187
③＊[訂正・削除]~~堀口大學「ヴェニュスの生誕」(詩)パンテオン 7~~ [8199] [35188
(參考：「(京都帝大)文學部卒論」、京都帝國大學新聞 73(3/11) [35189
哲學科：服部英次郎「アウグスチーヌスの Distetio Animi としての時間に就て」
小島威彦「アリストテレースのキネシス(Kinysis）に就て」
守谷英次「プラトンに於けるイデアを見る魂に就て」
上田忠雄「プラトンのロゴスを伴へる眞思斷」
日置茂治「プラトーの教育的理念と其方法」
吉原好人「Socrates の死」)
(參考：(早大)文學部卒論、早稻田大學新聞 150(1/19) [35190
社會哲學科：朝野貞次郎「プラトン「國家」の一研究---- その社會的教育學に於ける意義」)
山本義夫「文檢研究」(本年 10 月施行、豫備)歷史教育 3-8 [35191
---- 東洋史：「三、左記人名地名の史的說明(2）Delphi」
安部光槌「教育家としてのソフィスト」觀想 43 [35192
安部光槌「ソフィストについて」觀想 50 [35193
＊[訂正]出隆「ソクラテスの辯明」觀想 51,52 [35194
出隆「ソクラテスの使命」觀想 54 [35195
安部光槌「ソフィストの德論」觀想 55 [35196
岡田哲藏「善の發見の對話」(G.L.Dickinson, On the Dicovery of Good,Journal of Philosophical Studies--- A Dialogue、7 月號。ソクラテス、プラトン等) 丁酉倫理會倫理講演集 312 [35197
同情生「プラトンとブラウン、正直な宮地君感違ひして「貰ひ」に御馳走」文藝時報 76 [35198
畫「ポセイドンとその戰車の繪」婦人運動 6-7 [35199
石川純平「ヘラクリトス、時にそのロゴス說について」一橋文藝 2 [35200
「カトリック常識講座」(教會博士・聖アウグスチノ)
カトリックタイムス 198(12/1) [35201
琶水生「海の瞑想」(女神サイレン、レッシング等) 基督教新聞 2327(8/16) [35202
柏木義圓「聖人の死と神の死」(希臘のソクラテース、クリトン、妻ザンチープ、メリトス、ソフィスト、アリストファネス、アスクレピオスの神等) 基督教新聞 2339(11/8), 2340(11/15) [35203
(參考：教界「京都に於ける御大禮記念大講演會」、基督教新聞 2341(11/22) [35204
----- 今井三郎「體驗による辯證」(アウグステイヌス對ペラギウス))
④＊[訂正]書評「武田勘治「古今東西五十大家、教育說要論」」教育週報 175 [8277] [35205
＊[訂正]岩崎勉「アリストテレス形而上學の現代語諸譯に就て」、理想 5

[8420] [35206
-----The Translation by Thomas Taylor,London,1812
Aristotelis Opera, ed.Immanuel Bekker,Akademie d.Wissenshaft,Berlin, 1831
Die Uebersetzung von Herman Bonitz,(1843) Aus dem Nachlass herausgeben von Eduard Wellmann ,berlin,1890
Aristotelis Metaphysica recognovit et enarravit,2 Voll,II,H..Bonitz,Bonn. 1848-1849
H..Bonitz,Index Aristotelicus(Aristotelis Opera, ed.Immanuel Bekker,Kap.5)
Die Uebersetzung von Albert Schwegler,Tübingen,1847
The Translation by John M'Mahon,Bohn's Classical Library,London,1857,1879
Die Uebersetzung von Herman Bender,Langenscheidtsche Klassiker Bibliothek,Berlin ,1870
Bullinger, Aristotles's Metaphysik,München,1892
Die Uebersetzung von J.H.v.Kirchmann,Berlin ,1871
La Translation par Barthélemy Saint-Hilaire,Paris,1879
Die Uebersetzung von Eugin Rolfes,Philosophischen Bibliothek,Leipzig, 1904,1920
Die Uebersetzung von Adolf Lasson,Jena,1907,1924
The Translation by W.D.Ross,Oxford ,1908
W.D.Ross,Aristotole's Metaphisics,A revised Text with Introduction and Commentary, 2 vols., Oxford,1924
Die Uebersetzung von Riekher,Stuutgart,1860
La Translation par Pierron et Zévort,2 vols,Paris,1840-41
Die Uebersetzung von Hengstengerg, Bonn,1824
秋野東馬「無學なる學者の放言」(「拉和辭典」「イソップ物語」)聲 624 [35207
須田井飛燕「吾主基督の死の價値」(ギリシア人等)聲 627 [35208
片山彌三郎「教育と宗教」(プラト、デモステネス等)聲 634 [35209
三木清「ヘーゲルとマルクス」京都帝國大學新聞 69(2/1) [35210
坂口昂「カトリック研究勃興:戸塚文卿譯カトリック思想史」史林 13-1 [35211
岩下壯一「公教要理解說(16)」(ギリシヤ思想に於ける國體觀) カトリック 8-1 [35212
小杉嵐翠「文机に凭りて」(戸塚文卿譯「カトリック思想史」) カトリック 8-6 [35213
フリドリヒ・ウィルヘルム・ウェーバー作/水野繁太郎譯「ウェーバー落葉集」(「ディオゲネス」) カトリック 8-12 [35214
佐藤堅司「ボッカチオのキリスト教否定」歷史地理 52-1 [35215
遠藤早泉「世界偉人物語」(金の星社「ギリシヤ英雄物語」、「ローマ英雄物語」) 歷史教育 3-4 [35216
佐藤堅司「ボッカチオのキリスト教否定」歷史教育 3-7 [35217
小島政二郎「アナトール・フランス研究」三田文學 3-3 [35218
藤本才次郎「道德論」(ソクラテス、アリストテレス、プラトーン、アリスチップス、ストイック派、エピキュール、ニーチェ等) 觀想 46,50 [35219
服部繽「フリードリッヒ・ニーチェ」觀想 5 [35220

木村秀吉「中世西洋哲學史論」觀想 55 [35221
山室軍平「神様の親ごころ」(ギリシヤ神話、ジュピター等)
ときのこゑ 11/15 [35222
山口等樹「神秘主義に於けるディアレクティック---- サンタヤナの神秘主義觀」
丁酉倫理會倫理講演集 304 [35223
マッシモ・ボンテンペリ「將來の美學」(アテネのウリセス、ソクラテス、クリトブロ等) 丁酉倫理會倫理講演集 307[35224
新刊「吉田靜致・小野正康「西洋倫理學史」(近世篇)」(古代復興等)
丁酉倫理會倫理講演集 308 [35225
新刊・G.I.生「中島德藏氏「大講演集」を讀む」(「余がソクラテース觀」)
丁酉倫理會倫理講演集 308 [35226
田中龍夫「東西三大思潮の觀察」(希臘の實有思想關聯)
丁酉倫理會倫理講演集 309 [35227
新刊「安部光槌「希臘哲學概論」」丁酉倫理會倫理講演集 310 [35228
新刊「入澤宗壽「教育史上の人及び思想」」丁酉倫理會倫理講演集 311 [35229
應問：「第四十七回文檢豫備試檢修身科模擬答」、
丁酉倫理會倫理講演集 312 [35230
---- 答・(田村一郎)「ニーチェ(Nietztse)ノ道德觀ヲ批評セヨ」：要するに、氏の說は無道德論なり。合理的根據なく、有害無益なり。
布川靜淵「既成宗教の衰微と低級宗教の流行」(ローマ等)
丁酉倫理會倫理講演集 314 [35231
蓑田胸喜「正しき學」(ソクラテス、プラトー、アテネ、アリストーテレス、アレキサンダー帝國、ヘーゲル等)原理日本 11 月號 [35232
堀口九万一「錬金術師----アナトール・フランスの文章上の苦心」
文章倶樂部 13-10 [35233
堀口九万一「銑鐵から寶冠を」(附・アナトール・フランス夫妻の寫眞)
文章倶樂部 13-12 [35234
榎本修「眺望から飛躍へ」(ホーマー、トロアス、マケドニア等)
基督教新聞 2295(1/1) [35235
「七一雜報」(海老名[彈正]總長「オイケンの「大思想家の人生觀」を讀む」)
基督教新聞 2295(1/1) [35236
富森京次「人格の機會均等」(アテネ、コリント、エペソ、ギリシヤ的智識主義者等) 基督教新聞 2295(1/1) [35237
通俗神學講座・山口金作「現實の生活」(ヘレニズム、ギリシヤ思想等)
基督教新聞 2299(2/2),2230(2/9) [35238
遠藤喜英「超域の神乎内在の神乎」(ギリシヤ哲學、ストイック哲學、ギリシヤ文化等) 基督教新聞 2300(2/9) [35239
「宗教上の新發見へ」(アレキサンダー大王等) 基督教新聞 2303(3/1) [35240
畠中博「神の業」(ソクラテス等) 基督教新聞 2304(3/8) [35241
小北皎次郎「ナイルの岸邊に立ちて」(プラトー、アリストートル等)
基督教新聞 2312(5/3) [35242
「神信仰の意義(承前)」(プラトー、ゲーテ等) 基督教新聞 2316(5/31) [35243

(參考：教界「琵琶湖日曜學校教師養成講習會」、基督教新聞 2319(6/21)　[35244
----- 有賀鐵太郎「教會歷史---- 宗教改革時代」）
山口金作「ヒューマニズムと福音」(アウガスチン等) 基督教新聞 2321(7/5) [35245
「思想指導問題」(羅馬の侵略的政策と資本制度等) 基督教新聞 2323(7/19)　[35246
チ・アール・ゴローバー/琶水生譯「人類の經驗するイエス」(希臘哲學者、希臘神話、プラトー、プルターク、ローマ人、ローマ帝國、マシュウー・アーノルド等) 基督教新聞 2324(7/26), 2325(8/2)　[35247
遠藤作衛「將來日本の宗教と基督教」(ローマ帝國等)
基督教新聞 2324’7/26)　[35248
新刊「カアル・ホル/佐藤繁彦譯「ルッターの宗教觀」」(オーガスチン等)
基督教新聞 2324(7/26)　[35249
佐藤定吉「故國の精神的復活」(アウグスチン等) 基督教新聞 2325(8/2)　[35250
新刊「組合教會教育部編「信仰に生きし人々」(上下。ホーマー等)
基督教新聞 2326(8/9)　[35251
松田明三郎「自然を通して見たる神」(エマーソン等)
基督教新聞 2327(8/16)　[35252
山口金作「教團の使命」(アウグスチン等) 基督教新聞 2328(8/23)　[35253
祈禱の栞「陶醉より醒めん爲」(ローマの大帝國等) 基督教新聞 2331(9/13) [35254
「社會生活の基督教化」(ギリシヤ哲學、トマス・アクイナス等)
基督教新聞 2332(9/20)　[35255
園田重賢「今泉氏の論說を讀みて」(オーゴスチン等)
基督教新聞 2332(9/20)　[35256
今井新太郎「教壇より見たる宗教思想の瞥見」(ピタゴラス等)
基督教新聞 2336(1/18)　[35257
田川大吉郎「何を以て思想問題に對さん」(プラトー、[K.]マルクス等)
基督教新聞 2337(10/25)　[35258
思潮紹介・山口[金作]生「デインイングの Lay Thoguhts of A Dean を讀む(上)」(「ギリシヤ及ローマの遺産」、アウガスチン等)
基督教新聞 2337(10/25)　[35259
錦織貞夫「兒童の宗教(1)」(オウガスチン等) 基督教新聞 2341(11/22)　[35260
誠靜怡「萬國民渴仰の基督」(ギリシヤ人、ロマ人等)
基督教新聞 2342(11/29)　[35261
新刊「黑崎幸吉・山田幸三郎譯「ヒルティ宗教論文集(上下)」」
基督教新聞 2344(12/13)　[35262
新刊「ヨゼフ・フービー/戸塚文卿譯「カトリック思想史」」
基督教新聞 2344(12/13)　[35263
新刊「バーゼル・マシュース「勇者パウロ」」基督教新聞 2344(12/13)　[35264
「マルクス・エンゲルス全集刊行」大阪朝日新聞 5/10　[35265
C.②＊[訂正]本多淺治郎『批評的西洋時代史』　[8305]　[35266
＊[訂正]藤澤基一『隱れたる事實----西洋裏面史』(上古及中古篇、近古史篇、近世

史篇、現代篇→昭 7 再版)　[8308]　[35267
原隨園『ギリシア史研究』　[35268
高橋保『重要問題・西洋歷史解說(附・參考書)』　[35269
佐藤種信『受驗模範・西洋歷史精讀』　[35270
山上德信『文檢西洋史研究者の爲に』　[35271
湯淺吉郎譯『コーヘレスの言---傳道之書の正文新譯』　[35272
吉田悅藏『ナザレのイエス』　[35273
酒井勝軍『橄欖山上疑問の錦旗』(4 版)　[35274
横山美智子『賢こい王様の話』(聖書物語文庫 10)　[35275
白石喜之助『基督教讀本』　[35276
カール・カウツキー/近藤宗男譯『基督教の起源』(上下)　[35277
淺野猶三郎『山上の垂訓解說』　[35278
黑崎幸吉『山上の垂訓講義』　[35279
宮川巳作『約翰[ヨハネ]傳整理の問題』　[35280
エミール・シルレル& 山谷省吾『ヨハネ傳福音書』　[35281
バゼル・マシュース/教文舘編輯部譯編『勇者パウロ----大冒険の行程』　[35282
久保徹『テサロニケ前後書---新約聖書梗概研究』　[35283
山室軍平『聖書の人物』　[35284
上澤健二『大傳道者の話』(聖書物語文庫 23)　[35285
イー・ジー・ホワイト/末世之福音社編輯部譯『創世時代と父祖の生活---古代使徒の生涯に現はれたる眞理の輝き』(21 版。→昭 4、12)　[35286
シェンキーヴィッチ/木村毅譯『クオ・[ヴァ]デイス』(世界文學全集 25)　[35287
③問と答と「稅吏の意義」(羅馬政府の官吏)聲 626　[35288
教界の知らせ「羅馬のコリゼオに於ける十字架の道」聲 630　[35289
佐藤弘「ハドリアンの長城」科學畫報 7 月號　[35290
應問：小川生[甲府]「西曆紀元の起源について承りたし」歷史教育 3-1　[35291
長嶺杲源「第 47 回文檢西洋史受驗記」歷史教育 3-2　[35292
「一、民族移動以前に於けるローマ帝國とゲルマニヤ民族との關係」
長嶺杲源「文檢資料・第 47 回文檢本試驗西洋史擬答」歷史教育 3-3　[35293
「一、民族移動以前に於けるローマ帝國とゲルマニヤ民族との關係」
山本義夫「文檢西洋史の研究」(昭和 2 年度本試驗)歷史教育 3-4　[35294
「一、民族移動以前に於けるローマ帝國とゲルマニヤ民族との關係」
山本義夫「文檢研究」(本年 10 月施行、豫備)歷史教育 3-8　[35295
東洋史：「一、上古ギリシア植民の起源及び其の特質」
木代修一「東方のポムペイ」歷史教育 3-10　[35296
山本義夫「文檢研究」(昭和 3 年度本試驗)歷史教育 3-10　[35297
西洋史：「一、クラツススの遠征以前に於けるローマとパルチヤとの關係」
野々村戒三「綜合史學の提唱」學苑 24　[35298
三木春雄「クレオパトラの死」(シェークスピア作)觀想 45　[35299
「ベン・ハー」(誌上映畫封切)婦人運動 6-8　[35300
蘆田慶治「基督教起源の社會的背景」基督教研究 5-2　[35301

「カトリック常識講座」(「東方教會」「西方教會」)
カトリックタイムス 195(11/1) [35302
宗教文藝(錦織くら子)「ワイズマン「ファビオラ」[羅馬皇帝マクシミヤン]」
基督教新聞 2295(1/1) [35303
宗教文藝(錦織くら子)「ライダーハガード「眞珠姫」」(ローマ史)
基督教新聞 2297(1/19),2298(1/26),
2299(2/2), 2300(2/9),2313(5/10),
2315(5/24) [35304
(參考 : 教界「神戸教會」(米澤[尚三]牧師「アヒオポロの保羅」[ネロ、ロマ入城等]
基督教新聞 2300(2/9)) [35305
宗教文藝(錦織くら子)「シェンキュ井ッチ「何處へ行く」」(クオ・ヴァヂス)
基督教新聞 2300(2/9) [35306
宗教文藝(錦織くら子)「シェンキュ井ッチ「いざ彼に從はん」」
基督教新聞 2306(3/22) [35307
米澤尚三「アレオパゴスの丘」基督教新聞 2307(3/29) [35308
米澤尚三「大工イエス時代の羅馬」基督教新聞 2308(4/5) [35309
米澤尚三「大工としてのイエス」基督教新聞 2310(4/19) [35310
米澤尚三「大工イエスの理想と計劃」(アリストートル等)
基督教新聞 2312(5/3) [35311
米澤尚三「大工イエスの哄笑」(クレオパトラ、アントニー、オウグスチヌス等)
基督教新聞 2314(5/17) [35312
米澤尚三「疾風迅雷の大工イエス」(ダンテ等) 基督教新聞 2315(5/24) [35313
米澤尚三「大工イエスの特權階級との衝突」(皇帝オクタビアヌス、オゴスタス等)
基督教新聞 2316(5/31) [35314
(參考 : 「SS 世界大會通信(4)」(大會プログラム)、基督教新聞 2328(8/23) [35315
---- プール博士「アドレス」(ローマ帝國、アレキサンダー、シーザー等))
聖劇・H 生「その前、その時」(ローマ市民等) 基督教新聞 2342(11/29) [35316
長坂鑒次郎「光、世に來れり」(ギリシヤ人、ロマ人、ロマの國家、ロマの文化等)
基督教新聞 2345(12/20) [35317
④＊[訂正][讀書標](東京朝日新聞調査部)昭 3 分 中----- [8357] [35318
吉田三男也「西洋歷史物語」)
小西・榊兩教授「坂口(昂)教授の追憶」(古代史研究)
京都帝國大學新聞 69(2/1) [35319
(參考 : 「(京都帝大)文學部卒論」、京都帝國大學新聞 73(3/11) [35320
哲學科 : 朝月參伍「ドロイゼン「歷史學綱要」に就て」)
柳澤健「ポンペイ最後の日」婦人公論 13-6 [35321
田中秀央「坂口[昂]先生を憶ふ」藝文 19-5 [35322
新村出「坂口[昴]博士を憶ふ」藝文 19-5 [35323
會報「坂口博士の逝去」歷史と地理 21-3 [35324
會報「植村清之助氏逝去」歷史と地理 22-6 [35325
那波利貞「肅條餘錄」(植村清之助追悼)歷史と地理 22-6 [35326
菅原憲「植村さんを悼む」歷史と地理 22-6 [35327

大村佐次郎「亡き先生を追懐して」(植村清之助追悼)歴史と地理 22-6 [35328
安藤俊雄「故人を誄ぶ」(植村清之助追悼)歴史と地理 22-6 [35329
彙報「春藤與市郎「古今世界大陸戰史」歴史地理 52-1 [35330
新刊「木村秀男「西洋陸戰史講話」」(「一、マラソン」)歴史教育 3-5 [35331
一分間警告「生命に入る門」(トロイヤ等)ときのこゑ 5/15 [35332
一分間警告「罪の價は死なり」(ギリシアの埋葬等)ときのこゑ 5/15 [35333
新刊「大隅爲三「希臘美姫傳」」丁酉倫理會倫理講演集 305 [35334
「早大の講堂で四大學講演會」、一橋新聞 72(6/4) [35335
---- 櫻井義雄「へーゲルの歴史觀について」
「唯物論からのへーゲル批判」(櫻井[義雄]君講演) 一橋新聞 73(6/18) [35336
大宮季貞「ラルネデ先生の「新約聖書講解」と「教會史」の著作に就て」
基督教新聞 2321(7/5) [35337
思潮紹介・山口[金作]生「基督教社會思想」(金子鷹之助「イエスとパウロ」)
基督教新聞 2332(9/20) [35338
「クオ・ヴヂスを譯して勲章を貰ふ木村毅氏」讀賣新聞 2/27 [35339
後藤新平「世界地理凡俗大系の刊行」讀賣新聞 10/20 [35340
D.①金子健二譯『ジェスタ・ローマノーラム』 [35341
アルス兒童文庫『イソップ物語』 [35342
ラルネデ著『ヨハネ傳講解---新約聖書・改譯』 [35343
米國聖書協會『ヨハネ傳福音書---英和對照』 [35344
ルッター/佐藤繁彦譯『ガラテヤ書講解』 [35345
松本卓夫『ピレモン書註解』 [35346
②メーリング/川口浩譯『世界文藝と無産階級』 [35347
ダンテ/中山昌樹譯『神曲・地獄篇煉獄篇』(→昭 8。←大 6 初版) [35348
林久男『ゲーテの面影』 [35349
永井柳太郎『グラドストン』 [35350
『近代劇全集』(第 39-43 巻)中---- [35351
・第 42 巻中---- フィリップス/灰野庄平譯「ユーリシーズ」
ヂー・エル・ムーディ/鈴木二郎譯『四福音書脚註』 [35352
大阪朝日新聞社『羅甸文平假名書彌撒文及聯禱斷簡』 [35353
大阪毎日新聞社『オラショ雜纂斷簡』 [35354
大阪毎日新聞社『吉利支丹用語略解斷簡』 [35355
島村瀧太郎(抱月)『抱月全集』(全 4 巻。→昭 4) [35356
③＊[削除]~~和辻哲郎「「ところ」によつて異なる藝術の特殊性」岩波講座「世界思潮」第 9 中~~ (→昭 4.D.④) [8421] [35357
(參考：「(京都帝大)文學部卒論」、京都帝國大學新聞 73(3/11) [35358
哲學科：原田種夫「イリヤス及オヂュセエの背景の歴史的研究」)
相良德三「子供の美術史」歴史教育 3-4 [35359
B.C.Rider/森田慶一譯「ホメロスの宮殿」建築學研究 3-? [35360
近藤啓二「イタリヤ半島の古代繪畫史」小羊 6-5 [35361
中村吉藏「アンティゴネーに就いて」文藝時報 76 [35362
富森京次「「人の子」の研究」(ギリシヤ語) 基督教新聞 2319(6/21) [35363

④奥平武彦「明治六年維納版邦譯路加傳福音書に就て」明治文化研究 1 月號 [35364
喜田嘉太郎「聖書の改訂に就て」聲 635 [35365
大類伸「ルネサンスの先驅者---コラ・ディ・リェンツ」歷史と地理 18-5 [35366
佐藤堅司「ボッカチオのキリスト教否定」歷史教育 3-1 [35367
小林秀雄「古文書學の建設者ジャン・マビョンと其著「デ、レ、ヂプロマチカ」」
史苑 1-3 [35368
(参考：「(京都帝大)文學部卒論」、京都帝國大學新聞 73(3/11) [35369
文學科：賀來孝夫「Keats and Natural Beauty」
長澤健蔵「Hyperion and the Fall of the Hyperion of J.Keats」
府川功「A Study of Pater's "Renaissannce"」
中村健次郎「A Brief Study on the Mind of John Keats」
横堀富雄「On W.Pater」
泉井久之介「印歐語に於けるインフィニティブの發達」
檀野敎雄「Űber Goethe, Schiller und Kleist」
中原稔生「ゲーテ作、西東詩集」）
泉井久之助「小林英夫氏譯・ソッスユール「言語學言論」を讀みて」
京都帝國大學新聞 75(5/1),76(5/11) [35370
工藤信一良「潑剌たる演劇の旗下に「原始劇場」の生誕」
京都帝國大學新聞 75(5/1) [35371
(參考：(早大)文學部卒論、早稻田大學新聞 150(1/19) [35372
英文學科：中村博「シェリーが詩アドネス」
山岡要人「イエーツ初期詩篇」
吉海榮藏「キイツの思想並びに表現形式について」
獨文學科：林文三郎「「西東詩集」に於けるゲーテの生活理念」
平塚義角「ゲーテ」
藤原肇「シルレルの青春時代の戲曲について」）
大倉三郎「建築史の方法論的考察」建築學研究 3-? [35373
三木春雄「過渡期の英吉利戲曲」(シェークスピア「アントニーとクレオパトラ」
觀想 54 [35374
新刊「宮森麻太郎「近松とシェイクスピア」」丁酉倫理會倫理講演集 306 [35375
得一居士「中等敎育の外國語削減問題」(ギリシア語、ラテン語等)
丁酉倫理會倫理講演集 311 [35376
吉田九郎「藝術始源に關する一考察」(ギリシヤ悲劇等)
丁酉倫理會倫理講演集 313 [35377
木村卯之「ゲーテの佛蘭西革命觀」原理日本 4-4 [35378
水野龍介「ロダンとシェークスピア」原理日本 4-5 [35379
木村卯之「再びゲエテの語錄抄より」原理日本 4-5 [35380
「ラテン語を學ばんとする人へ」初等英語研究 20-11 [35381
若目田武次「「イリヤッド」の英譯について」初等英語研究 20-12 [35382
日夏耿之助「ダンテ神曲地獄巻第三歌」パンテオン(汎天苑)1 [35383
生田長江(赤松月船筆記)「ダンテの「神曲」に就いて語る」文章倶樂部 13-1[35384
由良哲次「ゲエテの神秘主義」敎育論叢 19-2,3 [35385

新村出「序」(改造社版改訂版天草伊會保物語) [35386
新村出「青春時代の上田柳村[敏]」MUSE 7 月號 [35387
新村出「イソップ古本の蒐集」京都日々新聞 7/18 [35388
新村出「貨狄像傳來徑路の想定」史林 10 月號 [35389
菅圓吉「カテキとエラスムスに關する一疑義」史苑 1-1 [35390
「カトリック常識講座」(儀式國語ギリシヤ語、ラテン語)
カトリックタイムス 196(11/11), 197(11/21) [35391
順記生「本邦に於ける沙翁の文獻」英語と英文學 2-5 [35392
「カテキ尊者遂に身賣りの出願」東京朝日新聞 5/19 [35393
E.②＊[訂正]レーモンド・ゲッテル/鷲野隼太郎譯『政治思想史』(上下)
[8466] [35394
穂積陳重『法律進化論』(第 1 册。「神權說と民約說」) [35395
穂積陳重『法律進化論』(第 2 册。「祭祀及禮と法律」) [35396
高畠素之『ムッソリーニとその思想』 [35397
井上靜一譯『ムッソリーニとそのファシズム』 [35398
澤田廉(謙)『ムッソリーニ傳』 [35399
米澤尚三『無産者イエス』 [35400
③寺田四郎「海上保險の起源---羅馬人の海上保險」法律及政治 7-5 [35401
高橋誠一郎「希臘經濟思想の後世經濟理論に對する影響」思想 75 [35402
④＊[訂正・削除]~~批評と紹介・矢島祐利「ホッペの「物理學史」について(E.Hoppe, Geschichteder Physik,1926)」(6.ギリシヤ物理學等)東洋學藝雜誌(續刊)539~~
(→F.④) [17041] [35403
高橋誠一郎「經濟學の黎明を古代哲學に求むるの說」文藝春秋 6-7 [35404
香取家蓮「マルクスの資本論について」(希臘クレタ島の法律家リクルグ、羅馬等)
聲 624 [35405
戸倉廣「文藝と政治」(アリストファーネス、シーザル、ゲーテ、シルレル等)
京都帝國大學新聞 70(2/11) [35406
(參考：「(慶大)經濟學部卒論」、三田新聞 212(4/27) [35407
高橋教授擔當：赤木俊雄「公正觀念を基礎として論述せるスコラ學者の經濟思想」
小泉[信三?]教授擔當：稻葉稔「ラスキンの經濟思想」)
(參考：「(慶大)法學部卒論」、三田新聞 212(4/27) [35408
高橋教授擔當：荒木茂「モリス研究」
奥井教授擔當：牛尾一郎「ジョン・ラスキンの社會思想概觀」)
春木一郎「羅馬法學の大家巴里法科大學名譽教授 Paul Frédéric Gilard 氏遂に逝く」
法學新報 37-3 [35409
長嶺杲源「文檢資料・第 47 回文檢本試驗西洋史擬答」歷史教育 3-3 [35410
「四、左の地及び人に關する史實(J)グロチウス」
山本義夫「文檢西洋史の研究」(昭和 2 年本試驗)歷史教育 3-4 [35411
「四、左の地及び人に關する史實(J)グロチウス」
泰西思潮「ハロルド・ゼー・ラスキ「共産主義の推移」(上)」(マルクス等)

丁酉倫理會倫理講演集 305 [35412
新刊「今井三郎「社會哲學概論」」(エピクロス等)
丁酉倫理會倫理講演集 305 [35413
雜錄「國際聯盟に關する教育(2)(3)----- 教育專門家委員會の設立、その第一回會議、専門家委員會第二回會合」(ギルバート・マーレイ教授、英國人オックスフォード大學ギリシア語教授)
丁酉倫理會倫理講演集 307 [35414
布川靜淵「現代の社會學說----ソローキンの新著を讀みて」(上中下。ローマ、プラトー、グロチウス、ピサゴラス、エピキュラス、クーランジュ等) 丁酉倫理會倫理講演集 308 [35415
吉田熊次「社會理想と宗教及び哲學」(プラトーン、エピクロス、ヘーゲル等)
丁酉倫理會倫理講演集 308 [35416
「左右田博士の著書米國圖書舘へ」(プラトー、アリストートル、ヘーゲル等)
一橋新聞 76(8/8) [35417
(參考：彙報「大阪教會基督教大講演會」、基督教新聞 2334(1/4) [35418
----- [10/14]中島重「基督教の社會理想」）
F.②東京開成館編輯部編『自然科學者とその功績---附・發見及發明年表』 [35419
エロイテロプロス/栗原嘉名芽譯『自然哲學の基礎』 [35420
ピエル・ブリゾン/臼井勝喜代譯『中世職人史』(?) [35421
③＊[訂正] 岩波講座「世界思潮」第 7 册----寺田寅彦「ルクレチウスと科學」
(←昭 4.F.③) [35422
口繪・原色版「古代のスポーツ」(ギリシヤ)赤い鳥(鈴木三重吉主宰)22-3 [35423
④＊[訂正]批評と紹介・矢島祐利「ホッペの「物理學史」について(E.Hoppe,Geschichte der Physik,1926」(6.ギリシヤ物理學等)
東洋學藝雜誌(續刊) 539(←E.④) [17041] [35424
＊[訂正]三上義夫「サートン氏著「科學史概論」第一巻を讀む」史學 7-1
[8525] [35425
仰天樓主人「星の名稱を基督教的に改めよ」聲 624 [35426
編輯後記「カジョリ「初等數學史」(小倉金之助、井出禰門譯補、三上義夫校閲)
歷史教育 3-8 [35427
G. 齋藤龍太郎「「文藝大辭典」に就いて」讀賣新聞 7/15 [35428

昭４(１９２９)
A. ＊[訂正・削除]岩波講座「世界思潮」~~131~~ 册中----- [8533] [35429
第 2 輯中---- 出隆「希臘思潮」
第 3 輯中---- 木村龜二「羅馬精神」
＊[訂正・削除]~~新刊(新見)「W.W.Tarn,Hellenistic Civilization」史學研究 1-1~~
[8538] [35430
阪倉篤太郎「伯林[ベルリン]懷古」史林 14-1 [35431
板澤武雄「慶長の遣使支倉一行の跡を尋ねて」史苑 2-2 [35432

史學研究會編（新村出・濱田青陵、解說)『京都帝國大學文學部所藏・天正年間遣歐使節關係文書』 [35433
三木露風『日本カトリツク教史』 [35434
新村出「日本吉利支丹文化史」(講演要旨)天理教青年會昭和三年度夏期講習會錄 [35435
新村出「遣歐青年使節と吉利支丹文化の移入」開國日本 11 月號 [35436
間崎萬里「ペリーの「イギリス最古の文明」」史學 8-1 [35437
須藤敎民「文明は推移す」(希臘・羅馬文明等)聲 639 [35438
折々の問題「スペングラー博士の文明論」聲 639 [35439
折々の問題「人類の統一とカトリック」(希臘の哲學者タールス、ローマ法等) 聲 640 [35440
(參考 : 教界の知らせ「公教神學校の開校」、聲 643 [35441
豫科：ラテン語、西洋史、聖書學、哲學(論理學、形而上學、心理學、宗教論及倫理學)
本科：教會史、神學、聖書學、ラテン文學
研究科：教會史、神學、聖書學、ラテン文學)
「對外カトリック講演會」(五百旗頭眞次郎「歐洲文明とカトリック」) カトリックタイムス 228(10/1) [35442
村松恒一郎「シュペングラーの歴史的立場---笠信太郎氏の近業を讀む」 一橋新聞 81(1/5), 82(1/29) [35443
幸田成友「ギリシヤ雜筆」一橋新聞 96(7/15),97(8/8),98(9/2) [35444
秋守常太郎『歐洲土産』(?) [35445
高石眞五郎『歐米を見て』(?) [35446
池田俊彦「伊太利亞の旅」史苑 1-1 [35447
齋藤茂吉「ヴェスヴィオ山」思想 84,85 [35448
(參考：「昭和 4 年度各大學英文學講義題目」、英文學研究 3-9 [35449
・法政大學：ギリシヤ神話・西洋古典學(野上豐一郎)
・同志社大學：言語學(高畑)　)
(參考：東大倫理學科本年度講義、倫理研究 2 [35450
倫理學概論(吉田)、西洋倫理學史概說(吉田))
(參考：各大學倫理學關係本年度講義題目、倫理研究 3 [35451
・京都帝大：倫理學概論(藤井)、分配の正義(藤井)
・東北帝大：倫理學史(石原)、演習(Schleiermacher,Monologen, Grundriss der philosophi schen Ethik, 石原)
・九州帝大：近世哲學史第一部(中島)
・京城帝大：倫理學概論(島本)　)
(參考：九州帝大法文學部後半講義中・哲學關係、倫理研究 5 [35452
西洋近世哲學史(中島)、精神史學概論(鹿子木)、哲學演習(Θουκυδιδειη, Πλατων：Πολιτεια、Απολογια,Κριτον.鹿子木)、
論理學概論(大島))
(參考：東京帝國大學文學部昭和 4 度史學講義題目中、歷史地理 53-5 [35453
史學概論(今井)、西洋史概說(村川、齋藤)、歐洲文明ノ起源(村川)、西洋史

學概說(W.Otto, Kulturgeschichte des Altertums、村川)
應問：遠賀生[福岡]「ギリシアの文化が後世に及ぼしたる影響を御說明下さい」
歷史教育 4-10 [35454
史界・中川生「文化史の形態とその意義」歷史教育 4-11 [35455
久米成次「大西洋文明建設の過程」(ギリシヤ主義等)觀想 59 [35456
高島平三郎「現代の價値」(ヘレニズム等) 丁酉倫理會倫理講演集 315 [35457
(布川)靜淵生「隨感數則」(ドクトル・ギゾーの文明史等)
丁酉倫理會倫理講演集 319 [35458
チャーレス・エー・ビヤード「近代文明の全景」(スペングラー、ローマ帝國、古代文明アリストートル、フィヂアス、ソホクレス、ホーレス、オーガサスチン、ダンテ等) 丁酉倫理會倫理講演集 319,320,
321 [35459
蓑田胸喜「「東西兩文明の相剋」(柳澤健著)と神洲日本」(シュペングラア)
原理日本 10 月號 [35460
新村出「薩道先生景行錄」(アーネスト・サトー、吉利支丹文獻等)
グロリア叢書・第 1 編 [35461
新村出「遣歐靑年使節と吉利支丹文化の移入」(大阪朝日新聞社主催關西文化展覽會における講演 3/20)[昭 48 刊全集第 6 巻中] [35462
寺田彌吉「シュペングラアの歷史觀と國史教育」教育論叢 21-2 [35463
(參考：「上智大學外國語專修學校・本年五月開講」、一橋新聞 99(9/16) [35464
---- 補缺募集學科：ラテン語初等科、ギリシヤ語初等科）
黑川善一「伊太利を語る」一橋新聞 103(11/25) [35465
内外思潮關係「ホール・バレエリー[ポール・ヴァレリー]「現代文化の基調」(1)(2)」(京都日々新聞より。フニシヤ人、グリーキ人、ローマ人、希臘の智識藝術等)
基督教新聞 2347(1/10),2348(1/17) [35466
(參考：メール「エール大學神學部新約聖書教授の新任」、
基督教新聞 2354(2/28) [35467
T.R.ブロード氏著作「史上イエス」「タッソのパウロ」）
B.①「聖オーガステイノ曰く」カトリックタイムス 225(9/1) [35468
フォン・ハルナック著/山谷省吾譯『アウグスティン懺悔錄』(→昭 8 再版) [35469
②＊[訂正]松村武雄『神話學論考』 [8594] [35470
中川重『偉人傳・第二巻』(ソクラテス) [35471
三谷隆正『問題の所在』 [35472
アスター/松原寬・西野錦治譯『(西洋)近世哲學史』 [35473
入澤宗壽『歐米教育思想史』 [35474
入澤宗壽『教育史の人及思想』 [35475
蓑田胸喜『世界文化單位としての日本』(「正しき學」。ギリシア文明、ピタゴラス、プラトー、アリストーテレス等) [35476
カンパネラ/加藤朝鳥譯『太陽の都』(世界大思想全集 56) [35477

吹田順助『獨和對譯詳註・ツィアラトウストラ解說』 [35478
ハルナック/山谷省吾譯『基督教の本質』(基督教名著集 1) [35479
岡田哲藏『思想と文學の諸相』 [35480
佐藤繁彦譯『三大名著集----ルター選集・第一編』 [35481
『世界文學全集 32----現代佛蘭西小說集』(アナトール・フランス/岡野馨譯「タイス」) [35482
③＊[訂正・削除]岩波講座「世界思潮」~~131 册~~中------ [8620] [35483
第 1 輯----- 出隆「ソクラテス」
西田幾多郎「希臘哲學に於ける「有るもの」」
第 2 輯------河野與一「プラトーン」
第 3 輯---- 三木清「アリストテレース」
野上豐一郎「ギリシヤ啓蒙運動」
第 5 輯----久松眞一「プロテイノス」
西田幾多郎「アウグスチヌスの自覺」
第 7 輯-----河野與一「アウグステイヌス」
(參考：「(慶大)文學部卒論」、三田新聞 231(3/21) [35484
哲學科・船田教授下：坂田厚英「ソフィステイツリ」）
展望臺「ソクラテスとプロタゴラス」早稻田大學新聞 6(6/27) [35485
「母性欄」(聖モニカ)カトリックタイムス 206(2/21) [35486
(彙報「全國各大學史學科學生昭和 3 年度卒業論文題目」、歷史地理 53-3 [35487
東大 ：柏木寅二郎「古代羅馬の宗教生活が羅馬生活に及ぼしたる影響」)
出隆「ソクラテスの使命」觀想 56 [35488
ピテリム・ソローキン「社會及歷史的過程の循環槪念」(ベルグソン、スペングラー、ヘーヂオッド、パルメニデス、シセロ、ゼノ、プラトー、アリストートル、セント・オーガスチン等)
丁酉倫理會倫理講演集 317,318 [35489
(參考：東大倫理研究室近況「倫理研究會二月例會」、倫理研究 1 [35490
卒論：寺尾靜香「プロチノスの倫理學に就て」)
(學界彙報：「哲學會六月例會----出隆「フェーシスに就て」」、
倫理研究 3) [35491
兒童讀物・錦織貞夫「迷ひの國」(ギリシヤ神話) 基督教新聞 2359(4/4) [35492
岸田耕讀「聖書の人」(アウグスチン、ローマ帝國等)
基督教新聞 2382(9/12) [35493
④＊[訂正]葉上照澄「ツッカー「ギリシア道德思想に於ける道德意識の發展」
(F.Zucker,Syneidesis-Conscientia,Ein Versuch zur Geschichte des Sittlichen Bewußtseins im Griechischen und im griechische-römischen Altertum）倫理研究 4 [8658] [35494
＊[訂正]新刊「Karl Joel,Wandlungen derWeltansscauung, Eine Philosophiegeschichte als Geschichtephilosophie,1928」宗教研究 6-5 [8673] [35495
＊[訂正・削除]紹介「哲學論叢(田邊・伊藤・高橋・山内氏編輯/岩波書店)」
哲學雜誌 512 中 [23425] [35496

20「プラトーン哲學に於ける生成(附・ブロシャール追想錄(リヲ))」(ブロシャール/河野與一譯)　)

＊[訂正]山田準次郎「ロッテルダムのエラスムスの頭骨及骨骼」
考古學雜誌 19-5　(→F.④)　[23426]　[35497

龜山伯多祿[ペテロ]「普樂の必要」(希臘のプラトン等)聲 639　[35498

教界の知らせ「聖アウグスチノ司教博士の千五百年祭」聲 640　[35499

教界の知らせ「カルタゴの萬國聖體會議」(ハンニバル、聖アウグスチノ博士等)
聲 640　[35500

推奬したきカトリック新刊書「戸塚文卿師譯「カトリック思想史」」
聲 645　[35501

田中耕太郎「現代智識階級問題----浦高カトリック研究會にて」(ギリシヤのソフィスト的狀況等)カトリック 9-1　[35502

内山善一「道理と事實と心」(プラトー、アリストテレース等)
カトリック 9-12　[35503

「權威ある神學・哲學の英語書籍」(ウルフ教授「中世哲學史」等)
カトリックタイムス 211(4/11)　[35504

「カトリックの教育、博愛事業」(人本的ギリシヤ思想、アリストテレスの實念論、プラトンの觀念論等)
カトリックタイムス 217(6/11)　[35505

＊[訂正・削除] 岩波講座「世界思潮」第 10 輯中----三木清「ニイチェ」
(→昭 5.B.④)　[8677]　[35506

岩波講座「世界思潮」第 1 輯----大類伸「西洋思潮」　[35507
安倍能成「ブルノ」

岩波講座「世界思潮」第 3 輯----石原謙「基督教思潮」　[35508

岩波講座「世界思潮」第 4 輯----岩下壯一「中世思潮」　[35509

岩波講座「世界思潮」第 7 輯----藤井武「ルーテル」　[35510

立澤剛「マルキシズムの世界觀に就て----吾が校友諸君におくる書簡六則」
校友會雜誌(第一高等學校)324　[35511

高市慶雄「十九世紀初期に於ける古典主義及び浪漫主義思想の潮流に就きて」
歷史教育 4-4　[35512

編輯局「第 51 回文檢豫備歷史科試驗問題と合格者」歷史教育 4-9　[35513

---西洋史：「四、左の地及び人に關する史實(イ)エフェソス(ロ)アウレリヤヌス」

朝日融溪「煩瑣哲學者エリゲナの思想に就て」(オーガスチン、新プラトン派、プラトーン等)觀想 60　[35514

「ニイチェを研究」ときのこゑ 6/15　[35515

「救と感謝必ず相伴ふ----何を感謝するか」(プラトー等)ときのこゑ 10/1　[35516

忙中忙筆「オリムピアの諸教會」ときのこゑ 10/1　[35517

新刊「高見澤榮壽「西洋哲學史講話」」丁酉倫理會倫理講演集 316　[35518

新刊「得能文「淺人零語」」丁酉倫理會倫理講演集 317　[35519

新刊「岡田哲藏「思想と文學の諸相」」丁酉倫理會倫理講演集 318　[35520

藤井章「パウルゼンの自由意志論(下)」(プラトー、デモステネス等)　[35521
丁酉倫理會倫理講演集 319　[35522

應問：吉竹生(東京)「クロポトキンの倫理學の邦譯がございますか」、
丁酉倫理會倫理講演集 319 [35523
----- 答・安倍浩氏譯。
新刊「入澤宗壽「歐米教育思想史」」丁酉倫理會倫理講演集 320 [35524
新刊「杉森孝次郎「總合倫理學」」丁酉倫理會倫理講演集 321 [35525
海外思潮「アレキサンデル・ヘルツベルグ「哲學者と職業及び金」(ギリシア哲學、
ソクラテス、プラトー、アリストートル、
エピクールス、セント・オーガスチン、
ブルノー、ヘーゲル、ニイチェ等)
丁酉倫理會倫理講演集 322 [35526
新刊「藤井專隨「歐米の教育と文化」(9.伊太利及南佛、12.希臘、13.アレキサンドリア港) 丁酉倫理會倫理講演集 322 [35527
海外思潮「アレキサンデル・ヘルツベルグ「哲學者と戀愛及び結婚」(ギリシア哲學、プラトー、セント・オーガウスチン、
エピクルス、ニイチェ、ヘラクリタス、
ソクラテス、アリストートル、ヘーゲル等) 丁酉倫理會倫理講演集 323 [35528
海外思潮「アレキサンデル・ヘルツベルグ「哲學者と社交及び政治」(ギリシア哲學、プラトー、シラキイスのデオヌシオス、セント・オーガウスチン、アリストートル、アレキサンデル大王、ヘーゲル等) 丁酉倫理會倫理講演集 324
[35529
海外思潮「アレキサンデル・ヘルツベルグ「哲學者と神經病」(セント・オーガウスチン、ニイチェ等)
丁酉倫理會倫理講演集 325 [35530
新刊「菰田萬一郎「思想と自己創造」」(ニーチェ關聯)
丁酉倫理會倫理講演集 326 [35531
高見澤榮壽「眞の學者としてのライプニッツ」東亞の光 1,2 月號 [35532
雜報「内外雜誌要目」、倫理研究 2 [35533
--- H.Hausheer,Plato's Conception of the Future as Opposed to Spengler's, The Mind, vol.xxxix,no.2,1929
R.T.Flewelling,Socratic Civilization in Conflict,The Personakist,vol.x,no.2,1929
彙報「讀書會四月例會」、倫理研究 2 [35534
出隆「L.Köhlen 編,Die Brief des Sokrates und die Sokratiker,Leipzig 及び H.Gompertz 著 Platos Selbstbiographie,Berlin u. Leipzig,1928」
友枝高彦「社會倫理學成立の条件」(プラトン等) 倫理研究 4 [35535
紹介・牧野信之助「アスター「道德と諸道德」」(Ernst von Aster,Moral und Moralen,Logos xv, H.2,1926 の大要) 倫理研究 4 [35536
紹介・牧野信之助「コルフ「古典的人間性理想」」(H.A.Korff,Das Klassische Humanitäts Ideal[1923],Die Entwicklung der Faustidee [1922]) 倫理研究 6 [35537
内藤赳夫「邦譯のマルクス・エンゲルス文獻」(學位論文)

大原社會問題研究所雜誌 6-1 [35538
一木文「若きヘーゲル」一橋文藝 6 [35539
山内得立「科學的と哲學的」(ターレス、アリストテレス、パルメニデス等)
一橋新聞 100(10/14) [35540
福井邦藏「福音の體驗」(ギリシヤ人等) 基督教新聞 2349(1/24) [35541
今井新太郎「米國最近の宗教思想運動」(プロタゴラス、オゴスチン等)
基督教新聞 2357(3/21),2358(3/28) [35542
新刊「岡田哲藏「思想と文學の諸相」」基督教新聞 2358(3/28) [35543
(K.Y.)「神と人との關係」(ギリシア人等) 基督教新聞 2369(6/13) [35544
清水安三「近代思想に對する辯證(上)」(ランゲの唯物論史、クロポトキン、ソクラテース、プラトーン、アリストートル等)
基督教新聞 2375(7/25),2377(8/8) [35545
(參考：メール「ベルグソンに關する著書」、基督教新聞 2379(8/22) [35546
Jacques Chevalier,Henri Bergson/J.Macwilliam,Criticism of the Philosophy of Bergson)
新刊「征矢野晃雄「聖アウグスチヌスの研究」」基督教新聞 2387(10/24) [35547
C.②＊[訂正]ショオブ著/矢野目源一譯『古希臘風俗鑑』 [8683] [35548
＊[訂正]エンゲルス&カウツキー著/喜多野精一譯『原始基督教史考・基督教の成立』(岩波文庫) [8687] [35549
＊[訂正]ジー・ケー・イングラム著/辰巳經世譯『奴隸制度史』 [8688] [35550
世界戲曲全集刊行會『世界戲曲全集 3 ----英吉利篇・シェイクスピア集』(和泉武譯「アントニーとクレオパトラ」) [35551
ディー・ダフリュー・ラッネッド論述/ 大宮季貞編『基督教の準備と猶太教の發達』 [35552
矢島敬二譯『聖書物語』(英文併記。英文世界名著全集 29) [35553
アウタブリッヂ/河島保譯『初代基督教之背景』 [35554
米國聖書協會『新約聖書----我らの主なる救主イエス・キリストの』(改譯) [35555
村尾昇一『イエスの垂訓』(基督教思想叢書・第 1 輯・第 2 巻) [35556
渡邊善太『舊約書の由來』(基督教思想叢書・第 1 輯・第 3 巻) [35557
松本卓夫『新約の時代』(基督教思想叢書・第 1 輯・第 4 巻) [35558
羽塚隆成編[宗教史實研究會]『基督教の淫樂と慘虐』(羽塚隆成譯「ナポリの秘密博物館」) [35559
文藝社編輯部編『聖書の要領』 [35560
吉崎彦一『使徒パウロの研究』 [35561
ヘーゲル/河野正通譯『歷史哲學緒論』 [35562
ヘーゲル/今田竹千代譯『歷史哲學序論』(哲學名著叢書 5) [35563
③若林二六郎「ラフォンテイヌの改心」聲 642 [35564
芝定詮「聖ペテロの墓」聲 642 [35565
(參考：「(慶大)經濟學部卒論」、三田新聞 230(2/23) [35566
野村教授下：江南友次郎「歐洲古代に於ける奴隸制度」)
文苑「最初の速記者」(マルクス・テユリウス・テイロ「シセロの奴隸」)
カトリックタイムス 235(12/11) [35567

岩波講座「世界思潮」第 4 輯中---- 山谷省吾「イエス」 [35568
岩波講座「世界思潮」第 6 輯---波多野精一「パウロ」 [35569
大谷美隆「ローマ時代の拷問に就て」法律春秋 12 月號 [35570
木村修一「東方ポンペイ」歴史教育 3-10 [35571
山本義夫「文檢研究・西洋史豫備試驗」歴史教育 4-5 [35572
----- [1]「上古ギリシア植民の起源及び其の特質」
山本義夫「文檢研究・西洋史(昭和 3 年度本試驗)」歴史教育 4-6 [35573
----- [1]「クラツススの遠征以前に於けるローマとパルチヤとの關係」
三浦新七「古代基督教會の團體意識」(東京商科大學一橋新聞部編「文化諸科學論集」中) [35574
宗教文藝・K.テルリンク「マグダラのマリア」(護民官ルシオ・ヴェロ) 基督教新聞 2365(5/16) [35575
江川榮「パウロの傳道」(オーガスタス帝、アデ[ゼ]ンス市、アレキサンドリア市等) 基督教新聞 2384(9/26) [35576
④＊[訂正] (參考：「各大學英文科昭和三年度卒論」、英文學研究 9-2 [35577
東京帝大：菊池安郎「A Study of Antony and Cleopatora」
＊[訂正]海外史界・村川堅太郎「第六回萬國史學會」史學雜誌 471 [8722] [35578
Louis Halphen「民族大移動の歴史的重大性」
Paul Collinet「ビザンツ帝國(Bas-Empire)に於けるローマ私法發達の諸要素」
Jean Bonnenot「學藝の國際的中心中古のパリー大學
J.Puigi Cadafalch「ローマ藝術の起原」
彙報・村川堅太郎「西洋中世史に關する三つの著述」史學雜誌 472 [*35578
・The Cambridge Mediaeval History,vol.V,Coquest of Empire and Papacy, Cambridge U.P.,1926
・F.Lot,La fin de Monde Antique et le Début du Moyen Age,Paris
・J.W.Thompson,Feudal Germany
彙報「西洋新刊書目」史學雜誌 473 [37779
・Klio,22,Heft 3----
S.Eitrern & H.Holst,Three Greek Papiri in Oslo with two plates.
J.Sundwall.Zur vorgriechischen Fests landsschrift.
G.I.Kazarow,Das Heiligtum des thrakischen Heros bei Diinikii.
M.P.Nilson,Die Hopolitentaktik und das Staatwesen.
E.Kalinka,Die griechischen Bogenschützen.
A.Schulten,Tartessos
K.Regling, Neue Königstetradrachmen von Istros und Kallatis.
A.Groth,Der Argeerkultus
H.R.Hall,Caucasian Relations of the Peoples of the Sea.
P.Bosch-Gimpera,Fragen der Chronologie der phönizischen Kolonisation in Spanien.
W.M.Ramsay,Res Anatlicae
長壽吉「教會分離由來」史學雜誌 40-9 [*35579
岩波講座「世界思潮」第 3 輯中----小山鞆繪「ヘーゲル」 [35580

岩波講座「世界思潮」第 5 輯中----土居光知「シェイクスピア」 [35581
岩下壯一「切支丹迫害に關する姉崎[正治]博士の新研究」聲 644 [35582
新刊紹介「村井東仙氏著「處女聖劇(アグネス)」」聲 647 [35583
新刊「京都帝國大學文學部陳列館考古目錄」歷史と地理 23-2 [35584
(彙報「全國各大學史學科學生昭和 3 年度卒業論文題目」、歷史地理 53-3 [35585
京大--- 鈴木成高「中世初期の西欧に於けるモナ・シチシズムの發展」）
應問：青葉生[仙臺]「西洋史の參考書について承りたし」歷史教育 4-1 [35586
-----Botsford, A Breif History of the World/Ashley, Ancient, Mediaeval and Modern Civilization/Breasted,The Conquest of Civilization /Robinson, The Ordeal of civilization /Ploetz's Manual of Universal History/Putzger, Historischer Schul-Atlas/ Lückenbach, Kunst und Geschichte
中川生「フランスの史學界」歷史教育 4-2 [35587
新刊「野々村戒三「史學概論」」歷史教育 4-4 [35588
應問：山元生[京都]「ドイツ語で書いた簡單な世界史を紹介して下さい」
歷史教育 4-8 [35589
----- Weber-Langer, Weltgeschichte in übersichtliche Darstellungen/Paul Croebe, Welt geschichte in Grundriss/Alexander Cartellieri, Grundzüge der Welt-geschichte
「第 51 回文檢豫備歷史科試驗問題と合格者」歷史教育 4-9 [35590
----- 西洋史：「一、ケルト民族の移動」、「二、西地中海に於ける海上權の推移」
小林秀雄「ランケに關する研究」史苑 2-1 [35591
栗田元次「ラムプレヒトの史學的見解」史學研究 1-2 [35592
清原貞雄「ランケの世界史觀於ける羅馬主義」史學研究 1-3 [35593
朝日融溪「サボナロラの幻想と史實」史學研究 2-2 [35594
阿部秀助「現代の史學とラムプレヒト」歷史地理 26-2 [35595
松本信廣「ドゥ・モルガンの「東方の史前」」史學 8-2 [35596
綠陰小話「(2)願かけことば」(シーザー等)ときのこゑ 8/1 [35597
岡田哲藏「英國哲學の一面」(G.グロート關聯) 丁酉倫理會倫理講演集 317 [35598
玉城肇「H.J.Nieboer 博士に於ける「奴隸」の槪念と類似の現象と奴隸との差異」
社會學雜誌 57 [35599
新刊「ラルネデ氏の「使徒行傳講解」」基督教新聞 2349(1/24) [35600
新刊・KY 生「シルレル、山谷兩氏の「ヨハネ福音書」について」(ローマ帝ユリアヌス、ギリシヤ思想等)
基督教新聞 2361(4/18) [35601
新刊「アウタブリッヂ/河島保譯「初代基督教之背景」」
基督教新聞 2369(6/13) [35602
D.①エス・エイチ・ウエンライト著『ヨハネ傳註解』 [35603
ヒュ・ゼ・フラス/吉田菊次郎譯『ロマ書註釋』 [35604
黑崎幸吉『註解新約聖書----コリント前後書』 [35605
②＊[訂正] 龜井藤太郎『羅甸語獨修』(增補新版・第 5 版) [8746] [35606
中里介山『夢殿』(羅馬等)[中里介山全集 15 巻所収、1971 年] [35607
田中秀央『Recta latini graecique sermonis pronuntiatio』（京都帝國大學） [35608

大賀壽吉(旭江)『A Dante Bibriography in Japan』(私家版) [35609
壽岳文章『キリアム・ブレイク書誌』(神戸ぐろりあ・そさえて) [35610
長沼賢海編『南蠻文集』(天草版イソップ傳物語) [35611
木下杢太郎[太田正雄]『えすぱにや・ぽるつがる記及び初期日本切支丹宗門に籍する雜纂』 [35612
姉崎正治『切支丹傳道の荒廢』 [35613
成瀬無極『疾風怒濤時代と現代文學』 [35614
日夏耿之助『明治大正詩史』(上下、新潮社。→昭 23-24 改訂增補版[創元社]) [35615
ダンテ/生田長江譯『神曲』(世界文學全集 1。→昭 9,新潮文庫[上下]) [35616
ボッカチオ/森田草平譯『デカメロン』(世界文學全集 2) [35617
ミルトン/繁野天來譯『失樂園』(世界文學全集 5) [35618
ゲーテ/秦豐吉譯『ファウスト』(世界文學全集 9) [35619
③問と答と「聖書の正經」(七十人譯)聲 637 [35620
問と答と「新約聖書の誤記」(「姉妹なる婦」、アレキサンドリアのクレメンス、聖アウグスチノ等)聲 637 [35621
喜田堅男(夫?)「公教と聖書」(聖アウグスチノ博士等)聲 639 [35622
問と答と「世界最古の聖書」(コンスタンチノ大帝等)聲 641 [35623
(參考：「(慶大)經濟學部卒論」、三田新聞 230(2/23) [35624
高橋教授下：弘田瀧之進「ユートピア思想史」)
(彙報「全國各大學史學科學生昭和 3 年度卒業論文題目」、歴史地理 53-3 [35625
京大---原田種夫「イリアス及びオヂュセウスの背景の歴史的研究」)
Rider/森田慶一譯「古代希臘の住家」建築學研究 4-21,22 [35626
パールフォース/高橋源次譯「戯曲の倫理的及び宗教的價値」(古代希臘のヂオニサス禮拜、古代希臘劇、ソクラテス、プラトン、ダンテ、ゲーテ等) 基督教新聞 2350(1/31), 2351(2/7),2353(2/14) [35627
大林生「聖書の辿りし道」(ギリシヤ語) 基督教新聞 2368(6/6),2369(6/13), 2370(6/20) [35628
④＊[訂正]新村出「影摸蘭古版繪入伊會保物語の斷簡」(ヨースト・ファン・フォンデル Vorstelijke Warande der Dieren[動物寓話集。動物の公苑(新村出譯)],1617 刊、イソップを多數收錄。6 話[19,51,62,63,74,116 話]の挿繪と蘭文を寫した斷簡が日本に殘存。繪師・四如軒[金澤]、山口爲範[蘭文寫]。)書物の趣味 4 [23471] [35629
問と答と「カトリック文學の傑作」(四、聖アウグスチノの懺悔錄。五、ダンテの神曲等)聲 642 [35630
新刊紹介「メーリング/川口浩譯「世界文學と無産階級」」京都帝國大學新聞 93(1/25) [35631
新刊紹介「ロダンの言葉」(高村光太郎譯) 京都帝國大學新聞 98(4/15) [35632
本間久雄「アルノ河の畔にて」(ダンテ等) 早稻田大學新聞 16(11/7) [35633
石川進「外國語を諸君は如何に勉強するのか? 外國語を如何にして勉強するの

か?」尚志會雜誌(第二高等學校)134 [35634
木下堅次「文藝復興の意義より見たるベニス派繪畫」歴史と地理 24-5,6 [35635
橋本辰彦「古美術史上における Platonism、Romanticism、Spinozism」
歴史教育 4-7 [35636
大倉三郎譯「ハインリッヒ・ヴェルフリン美術史の基礎概念」
建築學研究 7-41,42 [35637
「ゲーテの訓戒」聖化 25 [35638
牧野信之助「ゲエテ「ファウスト」の獨自性」哲學青年 5 月號 [35639
解說「コルフ「ゲーテと其生の意義」倫理研究 1 [35640
新村出「南蠻文學」新潮社版「日本文學講座」第 4 [35641
水谷不倒「假名草子研究」新潮社版「日本文學講座」第 4 [35642
守屋謙二「ゴーテイク美術の精神史的意義」三田文學 4-9 [35643
朝日融溪「文藝復興と思想の解放」史苑 3-1,2 [35644
松本吾朗「アメリカに於ける大學教育界の革新」(ラテン語、古代ギリシア語)
丁酉倫理會倫理講演集 324 [35645
原田謙次「伊太利亞文學概觀」初等英語研究 21-11 [35646
デル・レー「伊太利亞文學研究の價値」初等英語研究 21-11 [35647
團伊能「ダンテの肖像」初等英語研究 21-11 [35648
出田水鷄子「エトナをめぐりて」(スイットウエル) 初等英語研究 21-11 [35649
竹友藻風「ダンテと英文學」初等英語研究 21-11 [35650
板東省「チョーサーとペトラーカ」初等英語研究 21-11 [35651
秦豐吉「黴毒藝術法」(ゲエテ、ニイチェ等)文章倶樂部 14-2 [35652
新村出「言語學概說(1)」續國文學講座 1 [35653
新村出「外來洋語考」經濟往來 10 月號 [35654
新村出「序」(竹友藻風著「詩の起源」) [35655
新村出「和蘭ライデン大學肆書誌」(「ヒイデス經」、「三字經」、「江戸ハルマ」)
書物禮讃 2 月號 [35656
岩波講座「世界思潮」第 1 輯-----阿部次郎「ダンテ」 [35657
＊[訂正・削除]~~岩波講座「世界思潮」5 輯中---兒島喜久雄「近代美術史に於ける「ルネサンス」の概念」~~
(→昭 5.D.④) [8800] [35658
＊[訂正]岩波講座「世界思潮」第 6 輯-----和辻哲郎「「ところ」によつて異なる藝術の特殊性」(←昭 3.D.③) [35659
＊[訂正]岩波講座「世界思潮」第 7 輯-----阿部次郎「ゲーテ」 [8800] [35660
岩波講座「世界思潮」第 8 輯----兒島喜久雄「レオナルド・ダ・ヴィンチ」[35661
矢代幸雄「西洋美術に於ける東洋的要素」
佐藤義亮編(新潮社版)「世界文學講座」5「佛蘭西文學篇」中---- [35662
・關根秀雄「中世紀及び文藝復興期の歴史文學」
・内田傳一「フランソア・ラブレェ」
・落合太郎「モンテーニュ」
・川口篤「パスカル」
・根津憲三「アナトオル・フランス」

渡邊一夫「アンドレ・ジイドのモンテーニュ論について」
(1970 年刊著作集 3 中) [35663
(參考：「各大學英文科昭和 3 年度卒論」、英文學研究 2-9 [35664
・早稻田大：福富文雄「キーツのギリシヤ風」
五十嵐二郎「Keats の Ode に就いて」
山本伊津雄「Pater の研究」
・慶應義塾大學：上田保「The aethetic Phenomena of Walter Pater」
・法政大學：清水正雄「Keats の Ode の鑑賞」
李根□「A brief study on Keats' poetical works」
・立教大學：吉田數義「人としての Byron 」
・大正大學：加留部光運「On Keats' Poetic Attitude through 'The Fall of Hyperion'」
豐川玄雄「A Study of Shelley」
松本文則「On Beauty of John Keats」
・日本女子大學：大木りよ「Shelley, a Seeker after love and Beauty」
中村鈴子「Keats and His Odes」
山橋喜代「Shelly」
小林ハル子「The Critical Spirit of Walter Pater」
三浦やう子「P.B.Shelly」
・京都帝大：布施一夫「Short Narrative Poems of John Keats」
佐藤一雄「A Study of Keats' Odes」
・同志社大學：鹽見孫太郎「A Study of Pater's 'Marius the Epicurean'」
梅尾忠造「Walter Pater's 'Imaginary Portraits'」
岡橋厚一「The Platonic Element in Shelley's Self-Portraits」
[參考：重久篤太郎「The Mysticism of Emily Bronte」]
・龍谷大學：中川信一「キーツの詩に表はれたる唯美思想」
森岡清之「A Study of John Keats」
・東北帝大：天野一雄「A Study in Walter Pater's 'Marius the Epicurean'」
・九州帝大：野村直壯「Byron's Conception of Nature」
・京城帝大：盧泳昌「Some Aspets of Shelley」
朴忠集「On Keats」)
吹田順助「ヘルデルリン詩抄」一橋文藝 4 [35665
内藤濯「ラマルチーヌに就いて」一橋文藝 6 [35666
小會木恩「ヴォルフ「古代の言語有機體」」心理研究 4-4 [35667
長壽吉「イポリット・テェヌの後繼」歷史と地理 19-3 [35668
山口[金作]生「山川丙三郎氏譯「ダンテの新生」について」
基督教新聞 2388(10/31) [35669
E.②＊[訂正]ジー・ケー・イングラム/辰巳經世譯『奴隸制度史』(古代ギリシヤ、古代ローマ等) [8688] [35670
岡田忠一譯『ムッソリーニ自敍傳』 [35671
出井盛之『經濟學說史』 [35672
三谷隆正『國家哲學』 [35673

中島重『神との共同社會』(附・社會的基督教に於けるパウロの地位) [35674
穂積陳重『法律進化論』(第 4 册。「復讐と法律」) [35675
宮崎道三郎著・中田薫編『宮崎[道三郎]先生法制論史』 [35676
③(參考：「(慶大)經濟學部卒論」、三田新聞 230(2/23) [35677
瀧本教授下：原定一「フェニキヤ、カルタゴ及ギリシヤに於ける商業」
高橋教授下：五十嵐昂「古代中世に於ける財産論に就て」
内野清「希臘哲學と其經濟思想」)
(彙報「全國各大學史學科學生昭和 3 年度卒業論文題目」、歴史地理 53-3 [35678
京大--- 戸倉廣「羅馬法は如何にして英國に入りしか」)
④＊[訂正]柚木重三・上田藤十郎・堀江保藏共編「西洋經濟史歐文文獻一覽」
經濟史研究 2 [17095] [35679
M.Rostovtzeff,The Decay of the ancient world and its economic explanations.
(E.H.R.vol.II,no.2,1930)
J.P.Panraskevopulos,Die geldverfassung Griechenlands,Lepzig
上田藤十郎・堀江保藏共編「史學・經濟史一般文獻一覽」(昭和 4 年 1 月乃至 9 月)經濟史研究 2 [35680
----野々村戒三「史學概論」、ヘーゲル/河野正通譯「歴史哲學概論」、E.ベルンハイム/小林秀雄譯「史學研究法」(史苑)、小山榮三「文化史に於ける類型概念の形態と構造」(社會學雜誌)、三木清「ヘーゲルの歴史哲學」(思想)、羽仁五郎「世界史の可能性と必然性(エッチ・ジー・ウェルズ批判)」(新興科學の旗の下に)
上田藤十郎・堀江保藏共編「西洋經濟史文獻一覽」(昭和 4 年 1 月乃至 9 月)
經濟史研究 2 [35681
----德增榮太郎「ヨーロッパ經濟史(中世)」、鈴木八郎「古代ギリシヤ寺院の營業」(社會及國家)、ジエー・ケー・イングラム/辰巳經世譯「奴隸制度史」、土田杏村『ユートピア社會主義』、岡田太郎「ホーマー時代の奴隸制度」(史苑)、船田享二「古代羅馬の貴族と平民と野闘爭雜考」(我等)、林武雄「羅馬帝政時代に於ける政治的及び經濟的傾向」(史學雜誌)
・L.Brentano,Das Wirtschaftsleben d.Antiken Welt
A.Andréadès,Les finances de guerre d'Alexandre le Grand.(Annales d'Histoire Économique et Sociale,1,An.N. 3)
上田藤十郎・堀江保藏共編「史學及經濟史理論文獻一覽」(昭和 4 年 10 月至昭和 5 年 4 月)經濟史研究 5 [35682
----小林秀雄「史學研究法」(史苑)、小林秀雄「ランケに關する研究」(史苑)、大類伸「歴史に於ける發展の概念」(史學研究)、千代田謙「ラムプレヒトの史學的見解」(史學研究)、千代田謙「ランケの世界史觀に於ける羅馬主義」(史學研究)、今井登志喜「歴史に於ける比較攷究の問題」(史學雜誌 40-11)、グラス/加藤繁譯「總合經濟史」、黒正巖「經濟史概說」(經濟史研究)、西田宏「ゲルマニア(タキツス)」(國學院雜誌)、野村兼太郎「世界商業史(總論・古代篇)」、山口正太郎「十三世紀伊太利に於ける寺院と金融」(經濟史研究 2)、カウツキー/近藤宗男譯「基督教の發生と古代無産階級」、石濱知行「人間勞働史物語」(中央公論 44-11 號)、石濱知行「女性社會史考」(中央公論 45-2 號)、ポール・ユヴェラン/小町谷操

三譯「商法史」、原田慶吉「嚴格市民法に於ける羅馬家族法の研究」(國家學會雜誌)
新刊紹介「德增榮太郎「ヨーロッパ經濟史」(中世)」
京都帝國大學新聞 98(4/15) [35683
「恒藤教授を中心にヘーゲル讀書會生る----「法律哲學」をテキストに」
京都帝國大學新聞 100(4/29) [35684
(參考：「(慶大)文學部卒論」、三田新聞 231(3/21) [35685
哲學科・川合[貞一]教授下：原田來吉「ヘーゲルの法律哲學に就て」)
中村佐一「貨幣の發生に關するラウムの神聖說」(ホーマー時代等)
早稻田大學新聞 7(7/4) [35686
戸塚文卿「「ローマ問題」の解決を聽いて(上)」(ローマ史、コンスタンティヌス大帝等) カトリック 9-3 [35687
諸會消息「史學會創立四十周年紀年大會の盛況---大類伸「マキャヴェルリ國家論」」
歷史地理 54-6 [35688
＊[訂正・削除]岩波講座「世界思潮」~~131 册~~中----- [8839] [35689
第 4 輯中---~~宮澤俊義「モンテスキュー」~~(→昭 5.E.④)
第 4 輯中----末川博「イェーリング」
岩波講座「世界思潮」第 5 輯中----羽仁五郎「マキャヴェリ」 [35690
田中耕太郎「グローチウス」
岩波講座「世界思潮」第 7 輯中----高橋誠一郎「基督教經濟思想」 [35691
吉田熊次「變態せる封建思想」(プラトー等) 丁酉倫理會倫理講演集 322 [35692
(參考：「本會記事--- 公開講座：吉田熊次「變態せる封建思想」
丁酉倫理會倫理講演集 322) [35693
蓑田胸喜「田中耕太郎氏の「法と宗教と社會生活」を評す」(ローマ、カイザル等)
原理日本 3 月號 [35694
木村謹治「ゲーテとその社會思想」獨文學研究第 2 輯 [35695
紹介・伊藤千眞三「マリヲット「現代國家の機制」」(Sir J.A.R.Mariott,Mechanism of the Modern State,1927.アテナイ關聯)
倫理研究 5 [35696
(彙報：「讀書會九月例會」、倫理研究 5 [35697
伊藤千眞三「Mariott,Mechanism of the Modern State,2 vols.,1926」)
紹介批評・清水幾太郎「ヤコブ・バクサ「プラトンよりニイチェに到る社會學」(Jacob Baxa, Gesellschaftslehre von Platon bis Friedrich Nietzsche, 1927) 社會學雜誌 64 [35698
市川泰次郎「歐洲中世經濟史」(德增榮太郎氏の近業)一橋新聞 91(5/6) [35699
F.②東京天文臺『理科年表』 [35700
③＊[訂正] 岩波講座「世界思潮」第 4 輯中----寺田寅彥「ルクレチウスと科學」
[8847] [35701
＊[訂正]柳原吉次「ぴたごらすノ定理ノ證明ニツイテ」(日本中等教育)數學會雜誌
11-1 [8849] [35702
④＊[訂正]山田準次郎「ロッテルダムのエラスムスの頭骨及骨骼」
考古學雜誌 19-5 (←B.④) [23426] [35703

瀬田袮(峨?)谷「綠葉片々」(日本最初の眼鏡、顯微鏡はローマ時代に)聲 642[35704
ヨハネス・ラウレス/安樂潤二譯「スコラ哲學と現代の科學」(アリストテレス等)
カトリック 9-12 [35705
新村出「書物の工藝」(カックストンの「イソップ物語」挿繪等)
大阪朝日新聞 2/26 [35706
田中舘秀三「サントリン火山」地質學雜誌 427 號 [35707
書籍紹介「小倉井出補譯・カジョリ「初等數學史」」
(日本中等教育)數學會雜誌 11-2 [35708
G. 杉森孝次郎編『社會科學辭典』 [35709

昭５(１９３０)
A. 三村清三郎『本のはなし』 [35710
岡本良知『ポルトガルを訪ねる』 [35711
野々村戒三「日本在留時代の聖フランシスコ・ザヱリオ」日本研究 2 [35712
新村出『南蠻紅毛資料(1)(2)』(「海表叢書」改題。合訂再刊本) [35713
新村出「蘭學史談---名古屋における」新愛知 1/15,16,17 [35714
新村出「序言」(泉井久之助譯「サンデ氏編述天正年間遣歐使節記」) [35715
新村出「切支丹版研究五部作----姉崎[正治]博士の近著」大阪朝日新聞 8/19 [35716
岩波講座「世界思潮」第 11 輯中----阿部次郎「世界思潮」 [35717
太田正雄「日本キリシタンの運動」
濱田青陵「天正遣歐使節の跡」歷史と地理 25-1,2,3,4,5,6/26-1,2,3,4,5,6 [35718
ブック・レヴィユー/ほくそん生「「滯歐印象記」を讀む」(本間久雄氏の外遊記)
早稻田大學新聞 23(1/23) [35719
荻原晃「ローマを訪ねて」カトリックタイムス 242(2/21),243(3/1),253(6/11) [35720
學藝消息「上智大學夏季講座----- 獨・佛・希・羅語」[カトリックタイムス改め]
日本カトリック新聞 300(7/12) [35721
文苑・笹塚竹雄「羅馬に於けるシェレーの追憶」「キーツとシェレー」「悲劇的な死」「白黨」「英雄殉教者」) [アグネス・モットー女子「羅馬に於けるシェレーの追憶」]
カトリックタイムス 253(6.11),254(6/21) [35722
長谷川路可畫伯講演「歐洲を巡遊して」
カトリックタイムス 267(11/1),268(11/11) [35723
(參考：九州帝國大學昭和 5 年度史學關係講義題目中、史淵 2 [35724
西洋史演習(Droysen:Grundriss der Historik, 長)、西洋史演習(Lavisse: Vue générale de l'Histoire politique de l'Europe, 大村)、西洋法制史(金田)、商業史(竹内)、經濟學史(波多野)、プラトン理想主義の誕生及其發達(鹿子木)、獨文學史概說(片山)、西洋倫理學史(大島)、西洋哲學史(四宮)、十九世紀英文學史(豐田)、佛蘭西文學史(成瀨))
彙報「日葡協會「日葡交通」(第二)」、歷史地理 55-3 [35725
----- 渡邊修二郎「日歐交通西洋事物傳來の始」
太田正雄「耶蘇會年報より」

思潮・中川生「西洋國民史を讀む」(齋藤斐章「西洋文明史觀」)
歷史教育 5-2 [35726
(參考：史界近事「東京文理大講義科目」(昭和 5 年度)歷史教育 5-3 [35727
史學研究法(今井)、考古學(石田))
思潮・木代生「吉利支丹史研究の成果」歷史教育 5-5 [35728
(參考：史界近事「東京帝大史學講義科目」(昭和 5 年度)歷史教育 5-5 [35729
西洋史學概說(村川、齋藤)、西洋史學演習(Causer, Römische Geschichte、村川) 、西洋中世史(山中)、史學概論(今井))
史界近事「日歐交通史料展その他」歷史教育 5-10 [35730
思潮・木代生「昭和 5 年史學會一瞥」(南蠻學)歷史教育 5-11 [35731
(參考：國學院大學道義科昭和 4 年講義題目、倫理研究 7 [35732
哲學(中世哲學、斯波)、西洋哲學史(古代、斯波)、西洋哲學史演習(Cushmann, Beginner's History of Philosophy,vol.II,見尾)）
(參考：各大學講義題目、倫理研究 8 [35733
・東京帝大：倫理學概論(吉田)、西洋倫理學史概說(吉田)、西洋哲學史概說第一部(出)、中世哲學(出)、演習(Aristoteles,Ethica Nicomachea,出)、哲學概論(伊藤)、心理學概論(桑田)、宗教學概論(石橋)、宗教史概說(宇野)、教育學概論(吉田)、教育史概說(林)
・東北帝大：倫理學特殊講義(プラトン研究、石原)、同(キリスト教倫理思想史、石原)、同(ニイチェの文化哲學、阿部)
・京城帝大：倫理學概論(藤井)
・九州帝大：精神史學概說(鹿子木)、西洋倫理學史(大島)
・廣島文理大：倫理學概論及び國民道德(西)、西洋倫理學史(大島)
・慶應義塾大：哲學概論(船田)、西洋哲學史(古代中世、船田)、西洋哲學史(近世、橋本)、論理學(史的考察、川合)、倫理學概論(川合)、倫理學史(近世、橋本)、心理學概論(横山)、心理學史(城戸)、教育學概論(小林)、教育學史(Weimar ,Geschichte d.Pädagogik,小林)、西洋美術史(澤木、板垣))
「文部省主催社會教育指導者講習會----- (三)京都 : 野上俊夫「 西洋文化の發達」」
倫理研究 8 [35734
(參考：國學院大學道義科昭和 5 年講義題目、倫理研究 9 [35735
西洋倫理學史(馬場)、西洋哲學史(斯波)、同演習(Selection s from Medeaval Philosophes from Augustine to Albert the Great, 斯波)、論理學(Aristoteles の論理學、松永)）
(參考：九州帝大法文學部第二學期講義題目、倫理研究 11 [35736
プラトン理想主義の誕生及發展(鹿子木)、原典演習(Aristoteles:Politics,鹿子木))
(參考：[一橋]本學年度教授案、一橋新聞 106(1/27) [35737
哲學概論(山内得),哲學史(同)、文明史(三浦)、ギリシヤ語(山内得)ラテン語(上田))
上原專祿「歐洲の大學と日本の大學」一橋新聞 113(5/26),114(6/9),
115(6/26) [35738

辻善之助『增訂・海外交通史話』 [35739
新刊「辻善之助「海外交通史話」」史苑 4-5 [35740
市川勇「西洋文明起源說」史苑 5-2 [35741
小林秀雄「文化史發展の過程」史苑 5-3,5 [35741
大智勝觀「渡歐スケッチ」(ローマ初旅)文藝時報 142 [35742
竹中勝男「地には平和--- 神なき文明の破壞」(ギリシヤ・ローマの資本主義、古代ローマ法等) 基督教新聞 2446(12/18) [35743
B.①「アウグスチヌスの一言」（p.43）カトリック 10-11 [35744
「アウグスチヌスの一言」（p.27）カトリック 10-12 [35745
新村出「スバル星の記」旅と傳說 11 月號 [35746
②＊[訂正・削除]秋田縣立図圖書舘編『倫理學同盟目錄』 [8913] [35747
渡邊正知譯『アベラールとエロイーズの愛の手紙』 [35748
魚木忠一『ヘーゲルの辯證法と神學』 [35749
大江精一『ヘーゲル精神現象學序說』 [35750
高階順治『世界知的現象學』 [35751
ハイデガー/湯淺誠之助譯『形而上學とは何か』 [35752
帆足理一郎『西洋哲學史』 [35753
武政太郎『小さい西洋教育史』 [35754
阿部重孝『歐米學校教育發展史』(ギリシア語、ラテン語等→昭 25 年復刊) [35755
大日本學術協會編『系統的問題解答教育科要義』 [35756
蓑田胸喜『日本人の進路』(「桑木[嚴翼]博士のマルクス追從と東大赤化」。リーベルト「神話と文化」[ギリシア人、プラトー等]) [35757
岩下壯一『カトリックの信仰』
渡邊善太『舊約文學のユートピア思想』(基督教思想叢書 3 輯・第 1 巻。「共和國」希臘プラトン、「神の國」羅馬アウグスチヌス等) [35758
青芳勝久著並譯『聖ベルナアル傳及說教』(基督教文獻叢書 2) [35759
竹村清著並譯『聖アンセルムス傳及贖罪論』(基督教文獻叢書 3) [35760
宮川巳作『イエスの宗教と基督教』 [35761
海老名彈正『基督教大觀』 [35762
佐藤繁彦『ルッターの信仰及思想』(基督教文獻叢書 5) [35763
村尾昇一『愛の神學』(基督教思想叢書第 3 輯・第 2 巻) [35764
アーサー・クシュマン・マッギファート/栗原基・有賀鐵太郎譯『近代基督教思想史』(基督教思想叢書第 2 輯・第 2 巻) [35765
ピイ・テイ・フォルサイス/福元利之助譯『ルーテルの事業の眞髓----カソリシズムとプロテスタンテイズムとの對比』 [35766
③教界だより「第三十回萬國聖體大會執行順序」(研究問題「聖アウグスチノ博士及びアクリア公教會の教父等に據れる聖體の信心」) 聲 5-1(648) [35767
(參考：教界たより「第二回カトリック夏季講習會」、聲 5-8(655) [35768
-----大庭征露「オーガスチンの回心に就て」

「オーガスチン・アーベント」[「古代の近代人」])
關貫道「聖アウグスチノ博士の終焉」聲 5-12(659) [35769
(參考：「(京都帝大)文學部卒論」、京都帝國大學新聞 118(2/5) [35770
哲學科：森瀧市郎「プラトン哲學に於ける三つの道」
風早徹「プラトンのロゴスとクリトン篇」
三井浩「プラトン哲學に於けるエロースとヌース」
水野康治「パルメニデスに於けるあるもの」
難波浩「プラトンのメトロンに就いて」
太田和彦「ピレボス篇に就いて」）
(參考：「(京都帝大)文學部卒論」、京都帝國大學新聞 119(2/21) [35771
哲學科：石山脩平「プラトンに於ける愛、想起及對話的方法の教育的意義並にその相互關係」）
(參考：九州帝國大學昭和 5 年度史學科卒論、史淵 2・倫理研究 7 [35772
有馬貞一「パイドンに現れたるイデア說」
村井觀亮「プラトン哲學に於けるポリタイアに至るまでの善のイデアの發展史」
湊川孟弼「アウグスチヌスの宗教思想」)
(參考：[一橋]學士論文主題(4) 、一橋新聞 111(4/28) [35773
山内得立教授研究室：今井勝太郎「アリストテレースの德論」
高橋長太郎「アリストテレースの形而上學と「存在」の問題」）
田花爲雄「初期人文主義思想に見えたるク井ンテリヤヌスの影響」京城帝大法文學部・哲學論集中 [35774
橋本辰彦「英雄と時代との能動・所動の關係」(ローマ史)歷史教育 5-2 [35775
應問：筒井一男[江州水口]「基督教以前の歐羅巴の宗教」歷史教育 5-2 [35776
山本義夫「文檢研究・西洋史豫備試驗」歷史教育 5-4 [35777
-----[4]「左の地及び人に關する史實(イ)エフェソス(ロ)アウレリヤヌス」
田中宜太郎「キリストの祈りとソクラテスの祈り」聖化 45 [35778
創作・牧野信一「パンアテナイ祭の夢」文學時代 2-7 [35779
蓑田胸喜「辯證法の根源的考察」(古代哲學、デモクリートス、プラトン、ツエノ、アリストーテレス、ヘーゲル等)法律春秋 7 月號 [35780
蓑田胸喜「再び辯證法に就いて」(アリストートル、ヘラクリトス、ヴント等)法律春秋 12 月號 [35781
特別傳道・青山傳道師「聖パウロの救いの體系」(五「アウグスチヌスとルッテル」)基督教新聞 2401(2/6) [35782
聖書日課「三月、靈交」(ヘブル書研究。アレキサンドリア學派、ギリシヤ語等)基督教新聞 2404(2/27) [35783
(參考：組合教會報「九州組合教會夏期學校」、基督教新聞 2423(7/10) [35784
----- 重松征太郎「アウガスチンの生涯」）
(參考：「第二回九州組合教會夏期學校」、基督教新聞 2429(8/21) [35785
----- 重松征太郎「アウガスチンの生涯」)
④＊[訂正]田中王堂「唯物論批判」理想 6 [8964] [35786

朝日融溪「文藝復興と思想の解放」史苑 3-4 [35787
立澤剛「マルキシズムの世界觀に就て----吾が校友諸君におくる書簡六則」
校友會雜誌(第一高等學校)325,326,327,328,331 [35788
佐藤大四郎「マルキシズムの世界觀について----前號所載立澤剛先生御論文を中心として」校友會雜誌(第一高等學校)325 [35789
ルモアヌ「有産者と無産者の道德」(聖アウグスチノ等)聲 5-1(648) [35790
柳茂安「生活體なる公教會」(希臘のプラトン或はアリストテレス等)
聲 5-4(651) [35791
柳茂安「聖人を模範とせよ」(聖アウグスチノ等)聲 5-5(652) [35792
ルモアヌ「カルタゴの萬國聖體大會に就いて」聲 5-5(652) [35793
教界たより「聖アウグスチノ永眠千五百年祭----パヴィアに於ける」
聲 5-8(655) [35794
木村秀夫「速水敬二譯「ヘーゲル論理學」の紹介」
京都帝國大學新聞 117(1/21) [35795
田中千代松「ニイチェとストリンドベルクとの文通」
三田新聞 249(5/15),250(5/30) [35796
聖トマス・アク井ナスの神學綱要の支那譯再版成る」
カトリックタイムス 272(12/21) [35797
杉山平助「「ニイチェ傳」を讀む」三田文學 5-10 [35798
李敦河「工藤[好美]氏「ウォルタア・ペイタア短編集」」英文學研究 1-11 [35799
服部英次郎「ニーコラース・クサーヌス」哲學研究 166,167,170 [35800
新刊「征矢野晃雄「聖アウグスチヌスの研究」」哲學研究 167 [35801
新刊「理想社出版部「哲學名著叢書」」哲學研究 167 [35802
新刊「大橋勉譯「大思想家」」(オイケン)哲學研究 167 [35803
(參考：彙報「京都帝國大學文科卒論、哲學研究 169 [35804
大西貞一「ナトルプ社會學的教育學の理念」)
新刊「戸田三郎・坂田德男・三木清譯「哲學とは何か」」哲學研究 171 [35805
＊「訂正」岩波講座「世界思潮」第 10 輯中----三木清「ニイチェ」
(←昭 4,B.③) [8677] [35806
岩波講座「世界思潮」第 12 輯中----矢崎美盛「啓蒙思潮」 [35807
三宅雄二郎「倫理運動の問題」(藝妓デオドタ、ソクラテース、アルキビアデス、クリチアス、プラトー、アリストファネス、マケドニヤ、ローマ等)丁酉倫理會倫理講演集 327 [35808
帆足理一郎「自我の建設」(プラトン、ニーチェ等)
丁酉倫理會倫理講演集 332 [35809
應問：S.M.生(淡路)「彼(ヘーゲル)の說はプラトーンの觀念論を一層徹底せしめたと云へるでせうか。卽ち、彼の理性とプラトーンの觀念とには勿論共通點はあるが、プラトーンの理性=觀念は倫理的に制限されてゐる。然るにヘーゲルでは此の制限がないといへるでせうか。」、丁酉倫理會倫理講演集 334 [35810
----答・ヘーゲルは觀念論者であるから、プラトーンの傳統の流れをくむもの

の・・・だが、單にプラトーンの觀念論を徹底せしめたものだといひ切るだけでは未だ充分にヘーゲルの歴史的位置をいひ表してゐない。ヘーゲルは直接にはプラトーンよりも、より多くをアリストテレースに負うてゐる。

應問：S.M.生(姫路)「ヘーゲルの理性について」、
丁酉倫理會倫理講演集 334 [35811

-----答・プラトンとアリストテレースの繼承。

應問：小野盛雄(大分)「唯物論と道德------答・デモクリトス」、
丁酉倫理會倫理講演集 335 [35812

新刊「白根孝之譯「プラトン・シンポジオン戀愛論」」
丁酉倫理會倫理講演集 336 [35813

新刊「得能文「哲學講話」」丁酉倫理會倫理講演集 337 [35814

新刊「帆足理一郎「西洋哲學史」」丁酉倫理會倫理講演集 338 [35815

應問：長谷川文一「知行合一論について：三、ソクラテス氏の唱へたる該說の要旨」、丁酉倫理會倫理講演集 338 [35816

---答・ソクラテスの說は通常知德合一說といはれる。・・・知行或いは知德合一の說は陽明又はソ氏の様な哲學上の態度をとればその結果として當然出て來る結論。

應問：M.M.氏「一、A.西洋哲學史としての必讀の書、主として日本文なるもの、原書としては?(獨英文、著者發行所、B.ギリシヤ哲學を最も眞髓をつかんで書かれた良書。二、A.倫理學史として必讀のもの(日本、東洋、西洋倫理學史)日本語、獨英語での著書、譯書。」、
丁酉倫理會倫理講演集 338 [35817

--- 答・一、A.大西祝「西洋哲學史」(縮刷版)上下二册、波多野精一「哲學史要」安倍能成「西洋哲學史」上下二册、帆足理一郎「「「西洋哲學史」(最新刊)、B.F.Thilly, A History of Philosophy, H.Holt & C.Reinald ,A.P.Rogers, Student's History of Philosophy(北昤吉譯「西洋哲學史」)K.Vorländer, Geschichite der Philosophi Geschichite der Philosophie,J.Burnet, Greek Phlosophy, Ed.Zeller, Grundris der Geschichite der Greichischen Philosophie、波多野精一「西洋宗教思想史」(希臘の巻・第一)、出隆「西洋哲學史 1」、二、西洋倫理學史：吉田靜致・小野正康共著「西洋倫理學史」、H.Sidgwick, Outline of the History of Ethics, Reinald A.P.Rogers, A Short History of Ethics(藤井健治郎・藤本慶祐共譯、簡明倫理學史)、F.Jodl, Geschichite der Ethik in der neueren Philospphie, 2 Bde.

吉滿義彦「宗教と哲學」(ソフィスト、ソクラテス、聖アウグスチヌス等)
讀賣新聞 3/17 [35818

S.J.エリヒ・プシュワラ/吉滿義彦(紹介)「トーマスとヘーゲル」(E.Przywara,Ringer der Gegenwart,1929)倫理研究 7 [35819

牧野信之助譯「N.N.「プロレタリア倫理學」」倫理研究 7,8,10 [35820

「外國雜誌要目」、倫理研究 8 [35821

--- S.Hessen, Die Entwicklung der Physik Galiteis und ihr Verhältniss zum physikalischen System von Aristoteles

隨想・立澤剛「今日の思想問題に就いて」(シルレル「希臘の神々」等)

倫理研究 10 [35822
新刊「河合榮治郎「トーマス・ヒル・グリーンの思想體系(上巻)」」
倫理研究 10 [35823
講演・河合榮治郎「英國思想史上に於けるトーマス・ヒル・グリーン」(梗概)
倫理研究 11 [35824
(參考：「本會記事」、倫理研究 11 [35825
河合榮治郎「英國思想史上に於けるトーマス・ヒル・グリーン」)
トリストラム/木山實譯「ニューマンとマシュ・アーノルド」[東京帝國大學カトリック研究會編]カトリック研究 1 輯 [35826
辰野隆「フランスとヴァレリイ」さ・え・ら 6 月號 [35827
今了「淋しきニーチェ」一橋新聞 108(3/10),109(3/26),110(4/14) [35828
(參考：[一橋]學士論文主題(4) 、一橋新聞 111(4/28) [35829
山内得立教授研究室：松本巳義「ヘーゲルの反省規定に關する一考察」)
相良守次「デッソアル「哲學の藝術形式に就いて」」心理研究 5-2 [35830
菅原菊三「愛の團塊」(ギリシヤ人、ローマ人等) 基督教新聞 2399(1/23) [35831
ヒダリ「中島重先生の社會的基督教概說」(アウガスチン等)
基督教新聞 2440(11/6) [35832
新刊「カアル・ホル原著「原始基督教と宗教史」」基督教新聞 2443(11/27) [35833
C.②＊[訂正]アドルフ・ダイスマン著/ウイリアム・ジー・サイプル、郡山源四郎共譯
『保羅の研究、文化、宗教史概論』 [8988] [35834
岩井大慧『掌中・東西年表』 [35835
大野廷太郎『考古學大觀』 [35836
米國聖書協會編『舊新約聖書』(引照附) [35837
本田正一『イエス』(基督教思想叢書第 3 輯・第 3 巻) [35838
田村直臣『ナザレのイエスの姿----共觀福音研究』 [35839
中川景輝『ロマ書の精神』 [35840
大橋正吉述『放蕩息子の譬講義---新約聖書ルカ傳福音書第十五章』 [35841
大屋佐一『マルコ傳講話』 [35842
③＊[訂正]助川眞三「エトラスカ文化」史苑 4-5 [9001] [35843
＊[訂正・削除]ハシンガー/國松久禰次久彌譯「地理學と文化科學との交涉」
地理教育 13-3 [9011] [35844
シャトオブリアン/林亞仁子譯「殉教者物語----基督教の勝利」
聲 5-4(651),5-5(652), 5-6(653),5-7(654)
5-8(655),5-9(656), 5-10(657),
5-12(659) [35845
アントアン・アノージ「カタコンブの話」カトリック 10-2 [35846
石島三郎「基督教史概說」聖書之研鑽 157,158,159,160 [35847
諸會消息「史學會 6 月例會---山中謙二「初期基督教傳播の事情に關する一考察」
歷史地理 56-2 [35848
山中謙二「初期基督教傳播の事情につきての一考察」史學雜誌 41-8 [35849
杉勇「最古の東部小亞細亞」歷史教育 4-10 [35850
應問：筒井一男[江州水口]「西洋歷史上に於ける皇帝、國王、大公、公、候、伯の

區別を問ふ」歷史教育 5-2 [35851
應問：富田生[土佐]「カラカラ帝に就て伺ひたく」歷史教育 5-3 [35852
山本義夫「文檢研究・西洋史豫備試驗」歷史教育 5-4 [35853
-----[1]「ケルト民族の移動」、[2]「西地中海に於ける海上權の推移」
(參考：史界近事「史學會」、歷史教育 5-4 [35854
山中謙二「初期基督教傳播の事情に關する一考察」)
④＊[訂正]新刊「P.Russell,La Grece et l'Orient des Gurres Mediques la Conquete Romaine,1928」史苑 3-5 [9049] [35845
彙報「西洋新刊書目」史學雜誌 484 [35846
・Klio,Bd.23,Heft 2,1929----
F.Frahm,Die Entwicklung des Suebenbegriffs in der antiken Literatur
W.Schawahn,Die Nachfrage Alexanders des Grossen
W.M.Ramsay,Res Anatolicae III,Ecce iterum Pisidia
R.Henning,Der Hafen Kattigura und Magnetberg des Ptolemäus
F.Schaebermyr,Die gallische Katastrophe
W.Ensslin,Zum Heermeisteramt des spätrömischen Reiches I:Die Titlatur der magistri militum bis auf Theodosius I
O.Schissel,Kaiser Julians Schulbildung
・Revue Historique,54e Annéé,Tom.CLXII .I.Sep.-Oct.,1929---
J.Careopino,L'Afrique au dernier siècle de la République romaine.
S.Reinach,Une séance du Sénat romain sous Tibère.
海外史界・村川堅太郎「最近の古代史界(一)」史學雜誌 489 [35847
H.R.Hall,The Caucasian Relations of the Peoplesof the Sea,Klio XXII,1929
＊[訂正]海外史界・村川堅太郎「最近の古代史界(二)」史學雜誌 490 [9062] [35848
R.Hennig,‘Die Anfänge des Kulturellen-und Handelsverkehrs in der Mittelmeer-welt’,Historische Zeitschrift 139,Bd.,1929
A.Schulten,‘Tartessos’,Klio Bd.XXII,1929
Bosch-Gimpera,‘Fragen der Chronologie der Phönizischen Kolonisation in Spanienn ’,Klio XXII,1928
三浦周行「歐米史界の想出」史林 15-4 [35849
ブックレビュー・岩下壯一「山崎忠雄氏新編「西洋史」」聲 5-1(648) [35850
問と答「中世は暗黒時代か」(ダンテ等)聲 5-5(652) [35851
(參考：「(京都帝大)文學部卒論」、京都帝國大學新聞 118(2/5) [35852
哲學科：傳田恒夫「ヘーゲルの歷史哲學」)
(參考：「(慶大)文學部卒論」、三田新聞 246(2/21) [35853
茅野[蕭々]教授下：閑道「ヘルデルノ影響ニ就テ」）
新刊・岡島誠太郎「植村[清之助]博士著「西洋中世史の研究」」歷史と地理 26-2 [35854
新刊[菅原]「坂口昂「ルネッサンス史概說」」歷史と地理 26-4 [35855
諸會消息「史學會 1 月例會---羽仁五郎「歷史哲學の諸問題」」歷史地理 55-3 [35856
金子光介「ランケの世界史に於ける史的發展」京城帝大法文學部・哲學論集中 [35857

應問：塚越生[群馬師範]「歷史地圖でよいものを承りたし」(Putzger, Historischer Schul-Atlas) 歷史教育 5-1 [35858
新著「植村清之助「西洋中世史の研究」」歷史教育 5-8 [35859
新著「坂口昂「ルネッサンス史概說」」歷史教育 5-9 [35860
思潮・中川生「巴里大學の歷史科」歷史教育 5-12 [35861
平田禿木「「プルターク英雄傳」と「千一夜物語」」(高橋五郎譯「プルターク英雄傳」(第 1 巻折込み) [35862
小林秀雄「ランケに關する研究」史苑 3-2,3,4 [35863
(參考 : 彙報「京都帝國大學文科卒論、哲學研究 169 [35864
傳田恒夫「ヘーゲルの歷史哲學」)
(參考：「各大學英文科昭和 4 年度卒論」、英文學研究 1-? [35865
・京都帝大：吉田秀松「Shakespeare's 'Antony and Cleopatra'」)
(參考：「各大學英文科昭和 5 年度卒論」、英文學研究 1-11 [35866
・慶應義塾大學：神藏芳太郎「Shakespeare's 'Antony and Cleopatra'に就いて」) [35867
春路義郎「商業史研究の最初の權威書・野村[兼太郎]氏の「世界商業史」」一橋新聞 106(1/27) [35868
市川泰治郎「坂口[昂]博士遺著「ルネサンス史概說」」一橋新聞 111(4/28) [35869
聖書日課「一月、傳道」(使徒行傳研究。アレオ山の說教、エピキュリアン派の教、クレアンテス等)基督教新聞 2398(1/16) [35870
(參考：「特別傳道關東部會修養會」、基督教新聞 2410(4/10) [35871
------ 研究會・物井常五郎「新約聖書の歷史的社會的研究に關して」)
聖書日課「五月、靈育」(使徒行傳研究の二。神の都、羅馬、アウグスチヌス、ストア學派の人アタラス、デルフィの神殿、アルテミス女神等) 基督教新聞 2413(5/1),2414(5/8),2415(5/15) [35872
聖書日課「七月、修養」(ダニエル書研究。アレキサンダー大王、アンテオカス、エピアネス王、希臘化政策等) 基督教新聞 2422(7/3) [35873
D.①＊[訂正]アリストファネス作/村松正俊譯「蛙」「雲」「鳥」(世界戲曲全集中) [9080] [35874
ヴィルヘルム・ブウセット/國岡大樹譯『ガラテヤ書講解』 [35875
黑崎幸吉『註解新約聖書----マタイ傳』 [35876
黑崎幸吉『註解新約聖書----ヨハネ傳』 [35877
畔上賢造『ロマ書註解』 [35878
②＊[訂正]金子健二『七賢人物語』(英吉利中世詩・ローマ七賢人物語。3 版) [9091] [35879
＊[訂正]葛西勝彌(賴?)『醫語ヨリ見タル希臘語』 [9194] [35880
竹友藻風『英文學考攷』(「ダンテと英文學」) [35881
セシル・グレイ/太田黑元雄譯『音樂藝術史』 [35882
壽岳文章『書誌學とは何か』 [35883
新村出『琅玕記』 [35884

長沼賢海『南蠻文集』(天草版イソップ傳物語) [35885
吉崎彦一『ヨハネ文學の研究』 [35886
③＊[訂正]長沼賢海「伊會保物語繪巻(堀豐三郎藏)」史淵 2 [9105] [35887
ベア/岩下壯一譯「聖書高等批評と最近考古學的發見」[東京帝國大學カトリック研究會編]カトリック研究 1 輯 [35888
④＊[訂正](參考：京都帝國大學文科卒論、藝文 21-5、史林 15-3 中 [9127] [35889
伊中敬三「Friedrich Hölderlin について」）
＊[訂正]新刊「長沼賢海「南蠻文集」(天草版イソップ傳物語)史學研究 1-3 [9135] [35890
(參考：「(京都帝大)文學部卒論」、京都帝國大學新聞 119(2/21) [35891
文學科：小川季明「The Later Poems of P.B.Shelley」
安保常治「John Keats：the Development of his Mind」）
(參考：「(慶大)經濟學部卒論」、三田新聞 246(2/21) [35892
加田[哲二]教授下：堀口正次郎「ユートピア思想とウイリアム・モリス」）
岩波講座「世界思潮」10 輯中----林達夫「文藝復興」 [35893
＊[訂正]岩波講座「世界思潮」11 輯中----兒島喜久雄「近代美術史に於ける「ルネサンス」の概念」(←昭 4.D.④) [8800] [35894
大類伸「ゴテイクと文藝復興と宗教改革」歷史教育 5-2 [35895
史報「古邦譯「伊會保物語」」(大阪毎日新聞 6/29)歷史教育 5-5 [35896
新村出「吉利支丹版因緣物語」大阪時事新報 1/8 [35897
新村出「言語學に關する參考書」(質疑應答)續國文學講座第 7 回附錄 [35898
新村出「繪巻本伊會保物語の傳歷」愛書趣味 5 月號 [35899
新村出譯「希臘學」(日佛會舘編「佛蘭西科學」[下]中) [35900
天來記「解脫の人」(ダンテの神劇淨罪界 27)聖化 45 [35901
漫錄・バイロン/藤森きよし抄譯「ギリシヤ島よ」臺法月報 24-9 [35902
張耀堂「グラッドストーンの逸話」臺灣警察時報 1 [35903
西脇順三郎「ヘーゲルの文學論」三田文學 5-4 [35904
岡田哲藏「桂冠詩人の繼承」(桂冠詩人ブリヂズ。アキリーズ、マリジーマ、バッカス、希臘詩劇、ネロ帝の羅馬時代、ユリシイズの歸國、スキュロスに於けるアキリイズ、バカスの饗宴等) 丁酉倫理會倫理講演集 334 [35905
デル・レエ「ダンテとロウマ」初等英語研究 22-10 [35906
高柳伊三郎「ダンテの地獄における罪と罰」倫理研究 7 [35907
「ゲーテの言葉」作品 1-4 [35908
佐藤義亮編(新潮社版)「世界文學講座」4「英吉利文學篇」中---- [35909
------繁野天來「ミルトン」
船橋雄「バイロン」
矢野峰人「シェリイ」
田部重治「ウォルター・ペーター」
日夏耿之介「キリアム・バトラァ・イェエツ」
佐藤義亮編(新潮社版)「世界文學講座」10「南歐文學篇」中----- [35910
----有島生馬「伊太利文學概觀」

栗田三吾「中世期時代の伊太利文學」
下位英一「文藝復興期の文學」
生田長江「ダンテ研究」
岩崎純孝「ペトラルカ」
森田草平「ボッカチオ小傳」
吉田彌邦「ニッコロ・マキアヴェルリ」
永田定寛「西斑牙文學概觀」

(參考：「各大學英文科昭和 4 年度卒論」、英文學研究 1-? [35911

・東京帝大：梅原義一「Keats’‘Endymion’a Study」
李敫河「The Inner Life of Marius Epicurean, with reference to Walter Pater’s View of Life」
・早稻田大：石井健吉「キーツの「秋日頌歌」」
・慶應義塾大學：中島振二「John Keats」
・法政大學：茂木麟太郎「W.Pater の「文體論」に就て」
・駒澤大學：相澤佛典「Keats の詩的生涯」
石川精三「Meredith の喜劇論について」
・日本女子大：石川滿壽「The Sorrows of Shelly」
山本幸恵「Byron 」
皆川梅子「John Keats,the Poet of Beauty」
須賀祐子「On the ‘Beauty is Truth, Truth Beauty’by John Keats」
・京都帝大：小川季明「The Later Poems of P.B.Shelley」
沖田一「Shelley」
崔鳳守「Shelley’s ‘Prometheus Unbound’」
・同志社大學：石川義勝「Shelley’s Self-Portraits in his ‘Prometheus Unbound’」
才本義一「Keats’ Principle of Beauty」
浦川嘉郎「On the Idealistic Tendencies in Keats’ Odes」
・龍谷大學：濱田政二郎「John Keats」
・九州帝大：石丸淺雄「Studies in Byron,Shelley and Keats」
高比良喜一「‘Marius the Epicurean’」
本多三七「The poetical Painting of John Keats」
・京城帝大：金英俊「Shelley’s ‘Adonais’」
金龍煥「A Study of Keats」
大口義夫「On Keats ‘ Odes」）

(參考：「各大學英文科昭和 5 年度卒論」、英文學研究 1-11 [35912

・東京帝大：村岡朝日「A Study of John Keats」
石原純「Nature in ‘Venus and Adonis,’‘L’Allegro,’‘Il Penseroso’ and ‘Windsor Forest’」
市川任太郎「On M.Arnold’s Critical Works」
・早稻田大學：馬場悌治「Shelley 研究」
金子憲「劇詩‘Prometheus Unbound’を中心として見たる Shelley」
石橋哲郎「Shelley の‘Prometheus Unbound’研究」

山本直一「A.E.Houseman の生涯と詩風久彼の十年代詩壇に於ける位置」
・慶應義塾大學：[参考：厨川文夫「Studies in ‘Beowulf’」]
水谷守一「John Keats」
・日本大學：秋満慶三郎「A Studies on John Keats」
・日本女子大：宮野ハルエ「A Glimpse of the German Drama of the Expressionism and the ‘Birth of Tragedy’ of Nietzsche」
・京都帝大：石川健治「Matthew Arnold」
小川季明「Shelley」
小日向恒夫「Keats’ ‘Hyperion’」
福田常彦「A Study of Matthew Arnold’s Criticism」
神保永夫「Keats in his ‘Endymion’」
佐藤岩之進「‘Prometheus Unbound’」(Shelley)
・龍谷大學：神間修二「P.B.Shelley 研究(「アドニース」を中心として)」
・東北帝大：川村楢三郎「John Keats,Greek or Celt」
・九州帝大：平敷安貞「The Romantic Spirit in Keats」
渡邊隆登「Studies in the Walter Pater」
・京城帝大：崔載瑞「The Development of Shelley’s Poetic Mind」
曹圭善「A Study of ‘Prometheus Unbound’」
西川融「A Study of‘Paradise Lost’」(Milton)）
(参考：[一橋]學士論文主題(4) 、一橋新聞 111(4/28) [35913
吹田[順助]教授研究室：佐藤信綱「ルネッサンス研究」)
高橋源次譯「沙翁劇「リア王」と神の正義の問題(2)」(パームフォース「戯曲の倫理的及宗教的價値」、希臘悲劇詩人エスキラス、ソクラテース等) 基督教新聞(2407(3/20), 2408(3/27) [35914
E.②＊[訂正]モルガン著/山本琴子・佐々木巖譯『古代社會』(上下) [9154] [35915
コッサ/關未代策譯『コッサ・經濟學史』 [35916
小平國雄『基督教社會思想史』 [35917
ステッド/賀川豐彦・竹中勝男譯『キリスト教社會愛史』 [35918
③(参考：「各大學英文科昭和 5 年度卒論」、英文學研究 1-11 [35919
・日本女子大：池田菊代「A Short Account about Plato’s Communism」）
(参考：「(慶大)經濟學部卒論」、三田新聞 246(2/21) [35920
加田[哲二]教授下：奥田功「古代家族制度」
高橋教授下：米澤益二郎「古代希臘の勞働に關する概念」）
(参考：「(慶大)法學部卒論」、三田新聞 246(2/21) [35921
山崎教授下：山下亮一「國家學說史」）
岩下壯一「イエズスと律法」[東京帝國大學カトリック研究會編]
カトリック研究 1 輯 [35922
田中耕太郎「自然法の過去及び其の現代的意義」[東京帝國大學カトリック研究會編]カトリック研究 1 輯 [35923
④上田藤十郎・堀江保藏共編「外國經濟史(歐文)文獻一覧」經濟史研究 11 [35924

・L.André,Histoire économique depuis l'antiquité jusqu'a nos jours,4 ed.Paris,'27
H.Aubin,Die wirtschaftliche Entwicklung d.römischenDeutschlands.(H.Z.141.Bd. 1,Ht.'30)
A.Dopsch,Naturwirtschaft u. Geldwirtschaft in d. Weltgeschichte,'29
G.Ostrogorsky,Die wirtschaftliche u.sociale Entwicklungsgrundlagen d.byzantinischen Reich,'29
P.Goodmann,A History of Jews,,N.Y.,'30
A.I.Sachr, A History of Jews,6th ed.,N.Y.,'30
R.G.Collinwood,Town and Country in Roman Britain.(Antiquity,vol.3,no,11,'29)
L.Franchet,L'Agruculture en Gaul à l'époque romaine;une tremperie de lupins à Verde(Loire et Cher),Les laveries de blé de la vallée du Loup(Alpes Maritimes).(Rev.Sci.Illus.67[12],'29)
H.Hauser,Travelleurs et marchand dans l'Ancienne France,Paris,'29
A.R,Burn,The so-called "trade-leagues" in early Greek history and the Lelantine War.(Jour.Hellenic Studies,49[1],'29)
A.Gwynn,Greek sailors and the Indian Ocean.(Thought,no.1,'29)
上田藤十郎・堀江保藏共編「外國經濟史(歐文)文獻一覧」經濟史研究 14 [35925
H.Heichelheim,Wirtschaftliche Schuwankung der Zeit von Alexander bis Augstinus
F.de Coulanges,La cite antique,Paris
中島重「高柳賢三氏著「法律哲學原理」を讀む」
京都帝國大學新聞 118(2/5) [35926
新刊紹介「野村兼太郎「世界商業史」」早稻田大學新聞 35(6/5) [35927
鈴木券太郎「カトリック經濟學者デヴァスの「社會問題」」(アリストテレス、キケロ、ユエナリス、エピクテツス、マルクス・アウレリウス等)
カトリック 10-3 [35928
岩波講座「世界思潮」第 9 輯中----岸本誠一郎「マルクス」 [35929
岩波講座「世界思潮」第 10 輯中----羽仁五郎「ユウトピア思想」 [35930
＊[訂正]岩波講座「世界思潮」第 11 輯中----宮澤俊義「モンテスキュー」
(←昭 4E.④) [8839] [35931
新刊[牧]「本位田祥男「歐洲經濟史」」歷史と地理 25-6 [35932
不破祐俊「マキアベリの社會哲學」商業及經濟 10-2 [35933
寺田四郎「國際法學者傳(三)」(グロチウス)國際法外交雜誌 29-5 [35934
海外思潮「ロバート・エッチ・マレイ「輓近の英國社會思想」(上)」(「プレトーより現時に至る政治學史、中下」)
丁酉倫理會倫理講演集 330 [35935
(參考：京城帝大卒論「石本清四郎「正義の觀念に就いて」」倫理研究 8 [35936
福江弘「唯物史觀解說」(「ローマの社會」) 教育論叢 24-2 [35937
大平善隆「高柳賢三教授の近著「法律哲學原理」」一橋新聞 105(1/1) [35938
奈良岡茂雄「社會と個人」(プラトン等) 一橋新聞 107(2/12) [35939
F.②＊[訂正]セジィク& タイラァ著/土屋忠・山本修譯『自然科學史』(→昭和 17.ビゲロウ改補 2 册) [9198] [35940
小原國芳編『體育の理論と實際』中(畠山花城「世界體育史」) [35941
③松尾正夫「ゆーくりっどノ公理ニ就テ」數學教育 1 [35942

④新城新藏「飯島忠夫氏の「支那曆法起源考」を評す」
京都帝國大學新聞 118(2/5) [35943
新刊「木村德藏「少年自然科學史・六千萬年」」
丁酉倫理會倫理講演集 334 [35944
長谷川如是閑「群的被害者としてのスポーツ大衆」經濟往來 5-10 [35945
G. 岡本正三『外來語辭典』 [35946
百田宗治編『詩語辭典・世界詩人人名辭典』 [35947
高山岩男「適切簡明な新時代思潮への提示-----「岩波・哲學小辭典」に就て」
京都帝國大學新聞 123(5/21) [35948

昭６(１９３１)
A. 占部百太郎『聖地紀行』 [35949
定金右源二「イラークの旅」史觀 1 [35950
中河與一『海路歷程』 [35951
野々村戒三「日本在留時代の聖フランシスコ・ザヱリオ」日本研究 3 [35952
松本卓夫『日本人の觀たる基督』(基督敎思想叢書第 3 輯・第 4 巻) [35953
庄司淺水『書物の話』 [35954
羽田亨『西域文明史概論』(弘文堂書房) [35945
＊[訂正]濱田耕作(青陵)『天正遣歐使節記』(新村出「跋文」) (←昭 6.D.②)
[9445] [35946
クリストファー・ドウソン「性とカトリック」(古典文化の崩壞等)
カトリック 11-9 [35947
新刊[中村]「濱田青陵『天正遣歐使節記」」歷史と地理 28-1 [35948
(參考：彙報「十月の本會例會---板澤武雄「蘭學の意義及び蘭學創始の二、三に就いて」歷史地理 58-6) [35949
應問：廣川生[鳥取]「我が國上古が文化に希臘文化を加味してゐることは何によつて證せられますか」歷史敎育 6-2 [35950
新著「羽田亨「西域文明史」」歷史敎育 6-3 [35951
新著・木代「幸田成友「和蘭夜話」」歷史敎育 6-11 [35952
新著・山本「西村眞次「世界古代文化史」」歷史敎育 6-12 [35953
小林秀雄「文化史發展の過程」史苑 6-1 [35954
クロフォード「文明發祥の地」史苑 6-2 [35955
御木本隆三「ラスキン讀書論」書物展望 1-3 [35956
桑木嚴翼「獨佛に於ける文化闘爭」(波蘭[ポーランド]ルストラウスキーの[プラトン]文體統計研究等)
丁酉倫理會倫理講演集 339,340 [35957
學藝消息「上智大學夏季講座----- 獨・佛・希・羅語」[カトリックタイムス改め]
日本カトリック新聞 300(7/1) [35958
藝消息「上智大學外國語專修學校・夜間授業」(ドイツ語、ラテン語、ギリシヤ語)
[カトリックタイムス改め]日本カトリック新聞 310(9/20)
[35959

(參考：「昭和 6 年度各大學英文學講義題目」、英文學研究 3-11 [35960
・京都帝大：西洋古典文學(田中秀央)
・東北帝大：言語學原論(小林)
・九州帝大：言語學概論(A.J.Sington))
(參考：東京帝大文學部本年度講義題目、倫理研究 14 [35961
倫理學概論(吉田)、西洋倫理學史概說(吉田)、西洋哲學史概說第一部(出)、西洋哲學史第二部(桑木)、ヘーゲル（桑木)、ヘレニスト時代の哲學(出)、演習(Aristoteles,Metaphysik、出)、哲學概論(伊藤)、論理學一般(紀平)、心理學概論(桑田)、民族心理學(桑田)、教育學概論(林)、教育史概說(春山)、宗教史概說(石橋)、美學概論(大西)、中世に於ける基督教の勢力(山中)）
(參考：「ギリシヤ語代講---山内得立教授→高橋長太郎氏、White,First Greek Book, ホワイト・ギリシヤ語初歩、譯本」、
一橋新聞 131(4/13)) [35962
新村出「濱田青陵博士の「天正遣歐使節記」」(濱田青陵著「天正遣歐使節記」 跋文) [35963
新村出「濱田青陵博士の新著「天正遣歐使節記」」京都帝國大學新聞 7/5 [35964
新刊紹介「濱田青陵「天正遣歐使節記」」圖書舘雜誌 25-8 [35965
新刊紹介「相良德三「私の歐洲土産話」」圖書舘雜誌 25-8 [35966
推薦圖書「羽田亨「西域文明史概說」」圖書舘雜誌 25-9 [35967
推薦圖書「菊池重三「歐羅巴物語」」(紀行)圖書舘雜誌 25-11 [35968
今井新太郎「現代への光」(アウゴスチン等) 基督教新聞 2450(1/15) [35969
「砂言石語」(ヘブライズムとヘレニズム) 基督教新聞 2460(3/26) [35970
室伏高信「宗教否定の否定」(ニイチェ、スペングラア等)
基督教新聞 2466(5/7) [35971
B.①「ことば」(聖アウグスチヌス、二言) [カトリックタイムス改め]
日本カトリック新聞 303(8/2) [35972
「聖アウグスチヌスより(一言)」(p.27)カトリック 11-1 [35973
渡邊美豐譯『聖アウガスチンの信仰告白』 [35974
竹村清譯『恩寵・意志・豫定(聖アウグスチヌス恩寵論)』(新生堂) [35975
②＊[訂正]グロックナー著/大江精志郎譯『ヘーゲル復興とヘーゲル主義』
[9258] [35976
帆刈芳之助『趣味の偉人傳』 [35977
澤田謙『世界十傑傳』(?) [35978
ディルタイ/江澤讓爾譯『文藝復興と宗教改革』 [35979
高橋敬視『西洋哲學史講義』 [35980
阿部重孝『新編・教育史』 [35981
岩崎武夫『私の指は何を見たか』(7.「アウグスチヌスとペラギウスの自由意志論爭」) [35982
パピーニ/寺尾純吉譯『聖オーガスチン』 [35983
カトリック中央出版部『聖アウグスチヌス紀念論文集』 [35984
金子爲一郎著並譯『聖アタナシウス傳及神子受肉論』(基督教文獻叢書 1) [35985
竹村清著『エックハルト及獨逸神秘主義』(基督教文獻叢書 1) [35986

植村全集刊行會『植村全集全８巻』(→昭8まで。第1,2,3巻「說教」、第4巻「教義篇」、第5巻「教會論」、第6巻「眞理一班其の他」、第7巻「文學及人物篇」、第8巻「日記・書簡その他」)(→昭 9 まで) [35987
P.G.プライス/竹中勝男譯『共産主義と基督教----レニン及パウロの生涯に表はれし』 [35988
山本三生編纂『現代日本文學全集 57』(改造社。ラーファエル・ケーベル集) [35989
③家庭欄・森雅子「聖アウグッスチノの話」聲 667 [35990
佐野朝男「西洋古代中世教育史」教育修身研究 8 月號 [35991
井上芳郎「古代人の集團生活様式と世界觀」史苑 6-4,5 [35992
A.K.T.「プロメトイスの鎖を解くには----「新築地」22 回公演を觀て」校友會雜誌(第一高等學校)333 [35993
(參考：彙報「京都帝國大學文科卒論」、哲學研究 180 [35994
塚腰千代巳「Plotin の哲學に於ける宗教體驗」)
應問：田村一郎「昭和五年度文檢修身科豫備試驗問題擬答」、丁酉倫理會倫理講演集 342 [35995
----二、プラトーン Platon ノ倫理說トアリストテレースノ倫理說トヲ比較說述セヨ。
−−−答・(甲)差異點(1)形而上學(2) 形而上學と倫理(3)倫理學(4)至善(5)快樂(6)自由意志(7)德論/共通點(1)概念認識の可能(2)調和的思想(3)國家の目的。
(?)「ソクラテスの祖國愛」原理日本 7-8 [35996
「ヨハネ傳福音書の序」(ヘラクリタス、プラトー、アリッストテレス、ストイック等) 基督教新聞 2458(3/12) [35997
「ロゴス(道)教理に就て」(フィロン、希臘哲學等) 基督教新聞 2459(3/19) [35998
「ヨハネのロゴス論」(フィロン等) 基督教新聞 2460(3/26) [35999
④＊[訂正]紹介「フォールレンダー/栗田・吉野・古在譯「西洋哲學史・第三巻」」哲學雜誌 533 [23575] [36000
＊[訂正]今泉三良「アリストテレス中世期ラテン譯全集と中世期ラテン辭書との出版計劃」哲學雜誌 538 [9301] [36001
岩波講座「哲學」(概說[1]、合本一册 →昭 8)----- [36002
・田邊元「哲學概論」/・西田幾多郎「形而上學概論」/・波多野精一「宗教哲學」
カンドウ「世界を眺めて」(「聖トマスの哲學」)聲 664 [36003
問と答「ジョルダノ・ブルノーの火刑」聲 665 [36004
新刊紹介「ヘーゲルとヘーゲル主義」(國際ヘーゲル聯盟日本版)京都帝國大學新聞 145(6/2) [36005
(參考：「(慶大)經濟學部卒論」、三田新聞 261(2/20) [36006
小泉[信三?]教授下：高野恒男「ヘーゲル辯證法」)
(參考：「(慶大)文學部卒論」、三田新聞 261(2/20) [36007
西洋哲學：山脇泰一「ヘーゲルの辯證法に就て」)
橋本孝「フォーアレンダア「西洋哲學史・第三巻」の邦譯を讀みて」

三田新聞 268(6/25)　[36008
川合貞一「ヘーゲル百年祭---「國際ヘーゲル聯盟日本版」を薦む」
三田新聞 268(6/25)　[36009
新刊紹介「「カトリックの信仰」上巻、岩下壯一著」」[カトリックタイムス改め]
日本カトリック新聞 274(1/11) [36010
小林有方「カトリック教會の儀式の研究(2)(3)」(アリストテレス等) [カトリック
タイムス改め]日本カトリック新聞 275(1/18),
276(1/25) [36011
新刊「パピーニ/寺尾純吉譯「聖オーガスチン」」カトリック 11-1　[36012
「聖トマス・アクイナス特別號」、カトリック 11-4　[36013
戸塚文卿「聖トーマス號の發行について」
(聖トーマス)「研究前の祈禱」
岩下壯一「超自然的秩序と自然的秩序」(昭 6「哲學會 6 月例會講演」、
哲學雜誌 526)
高桑純夫「聖トーマスの認識理論の二章」
カンドウ「聖トーマスと家庭問題」
ラウレス「聖トーマスと當時の經濟問題」
小林珍雄「聖トーマス及びレールム・ノヴァールムに於ける私有財産の
基礎づけ」
クラウス「聖トーマスと國家」
ホイヴェルス「聖トーマスと詩」
佐藤清太郎「聖トーマスと中世紀に於けるアリストテレスのラテン譯」
佐藤清太郎「中世紀に於けるスコラ哲學發達原因に就て」(Aristotles 等)
カトリック 11-10　[36014
天來「ラスキンの宗教」聖化 51,52,53　[36015
土井友次郎「愛に就いて」校友會雜誌(第一高等學校)331　[36016
松谷義範「二大思潮と浪漫主義」校友會雜誌(第一高等學校)333　[36017
新刊「得能文「哲學講話」」哲學研究 178　[36018
(參考：彙報「京都帝國大學文科卒論」、哲學研究 180　[36019
長谷川和美「ベルグソンの自由論について」
佐々木孜「ベルグソンに於ける物質の問題」
岡本六郎「ヘーゲルの Phänomenologie des Geites について」
井上雅男「トーマス・ヒル・グリーンの「善」(Good)について」
二神輝一郎「ナトルプの社會的教育史の一面の研究」)
(?)「故藤井健治郎博士著書論文其他」哲學研究 181　[36020
新刊(高橋俊乘)「ギリシア・ラテン講座」哲學研究 183　[36021
新刊「城戸幡太郎「心理學概說」」哲學研究 187　[36022
脇坂光次「ヘーゲルに於けるイデアと辨證法」哲學研究 189　[36023
(參考：彙報「[京大]教育學讀書會」、哲學研究 189　[36024
中島萬朶「Dilthey の Ueber die Möglichkeit einer Allgeneingältigen Pädagogi-
schenschaft」)
山室軍平「求道心の種々相」(アウガスチン等)ときのこゑ 6/1　[36025

吉田熊次「明治思想史上に於ける教育勅語渙發の意義」(プラトンの理想國は萬世一系の皇統。ソクラテス等)
丁酉倫理會倫理講演集 339 [36026
(參考：「本會記事--- 大西祝博士三十周年忌記念講演會及び追弔會」、
丁酉倫理會倫理講演集 339 [36027
----金子馬治「黎明期哲學に於ける大西博士」
桑木嚴翼「明治哲學に於ける大西博士の地位」
姉崎正治「學者としての大西[祝]博士の人格」)
姉崎正治「思想家としての大西[祝]博士の人格---- 没後三十年記念會に於ける講話」(プラトン關聯)
丁酉倫理會倫理講演集 340 [36028
金子馬治「黎明期哲學に於ける大西[祝]博士」（西洋哲學史、ツェラー、バーネット、プラトーン等）
丁酉倫理會倫理講演集 340 [36029
應問：失名氏「文檢哲學概論科の受驗に就て」、
丁酉倫理會倫理講演集 344 [36030
---答・安倍能成「西洋哲學史」、Windelband,Lehrebuch der Philosophie,
K.Vorländer Geschichite der Philosophie,F.Thilly, A History of Philosophy.
應問：中山「文檢修身科の受驗」、丁酉倫理會倫理講演集 344 [36031
--答・哲學史と倫理學史(西洋)---大西祝「西洋哲學史」、安倍能成「西洋哲學史」、吉田靜致・小野正康「西洋倫理學史」。
新刊「プラトン・アリストテレス學會編「ギリシア・ラテン講座」(1)」
丁酉倫理會倫理講演集 345 [36032
吉田靜致「現代の常識」(古哲アリストテレス關聯)
丁酉倫理會倫理講演集 346 [36033
新刊「國際ヘーゲル聯盟日本編「百年忌記念・ヘーゲルとヘーゲル主義」」
丁酉倫理會倫理講演集 346 [36034
石井正雄「ラスキンの「想像」論」初等英語研究 23-12 [36035
吉滿義彦「現代佛蘭西哲學倫理學界に就いて」倫理研究 12 [36036
關谷謹之助「河合[榮治郎]教授著「トーマス・ヒル・グリーンの思想體系」を讀みて」倫理研究 1 [36037
雜報・馬場文翁「ベルリンだより」(第一信)、倫理研究 12 [36038
---- Heirich Maier,Allgemeine Geschichte der Philosophie
K.Hildenbrant,Plato
Prof.Liebert, Uebeungen über Plato's Ideenlehre im Anschliss an ausgewälte Kapital aus dem Staat
Eug.Herrigel(Erlangen), Logik,Erkentniss u. Methoden.Sem(Platon:Politeia)
紹介･解說/武山魁芳「ウイリアム･ケリー･ライト「道德と宗教との關係」」(William Kelly Wright,The Relation between Morality and Religion)
倫理研究 13 [36039
雜報：「讀書會一月例會」、倫理研究 13 [36040
---- 出隆「J.Burnet,Platonism,1928 及び C.Ritter,Die Kerngedenken der platonischen Philosophie,1930」

三木清「ヘーゲル復興とその方向」中央公論 3 月號 [36041
雜報・馬場文翁「ハイデルベルヒ便り」(第ニ信)、倫理研究 15 [36042
---- von Bubnoff, Schopenhauer und Nietzsche
Prof.Rickert u. Prof. Hoffman, Aristoteles Nikomachischen Ethik
(ベルリン大學)ニコライ・ハルトマン(演習)「アリストテレスの「倫理學」」
「ドイツ通信(第三回)」(馬場文翁氏より深作[安文]教授宛私信の一部)、
倫理研究 16 [36043
---- リッカーとホッフマンのアリストテレス「ニコマキア倫理學」(原書使用)
「ドイツだより(第三信)」(ハイデルベルヒ大學)、倫理研究 17 [36044
---- Prof.Hoffman,Socrates und der Socratische Krie
辰野隆「フランスの生涯と著作」ドンク 5 月號 [36045
新刊紹介「H.E.Bliss,Organization of Knowledge,1929」(第 16 章「プラトー及びアリストートルよりベーコン及びホッブス迄」等) 圖書舘雜誌 25-11[36046
谷川徹三「哲學と文藝」(プラトン、ゲーテ、トマス・アキナス、シルレル、レッシング、ホメロス、ヘーゲル、アリストファネス、古代ストア派等) 一橋新聞 136(6/26) [36047
本多謙三「ヘーゲルに於ける二つの方向---百年忌に際して」
一橋新聞 143(11/14) [36048
KS 生譯「エミル・ブルンネルの眞理研究--- 啓示の問題(1)(3)」(アリストートル、ソクラテス、ストイック教等)
基督教新聞 2450(1/15), 2456(2/16) [36049
薗川四郎(第二回日本英文學會講演抄錄)「コールリッヂに於ける基督教信仰とプラトニズム」基督教新聞 2455(2/19),2456(2/26),
2457(3/5) [36050
新刊「竹村清譯「聖アウグスチヌス恩寵論」」基督教新聞 2459(3/19) [36051
新刊「金井爲一郎「聖アタナシウス傳及「神學受肉論」」
基督教新聞 2459(3/19) [36052
新刊「渡邊美豐譯「聖アウグスチンの信仰告白」」基督教新聞 2461(4/2) [36053
今井新太郎「基督教信仰に就いての一考察(2)(3)」(オーガスチン等)
基督教新聞 2465(4/30),2466(5/7) [36054
新刊「「カトリック」の聖トマス・アクイナス特輯號」
基督教新聞 2467(5/14) [36055
新刊「Freiherr von U.-S.Arthur,Freiheit und Wirklichheit」(プラトー、アウグスチノ等)
基督教新聞 2470(6/4) [36056
山口「神の愛の信仰と自然主義の反對」(ギリシヤ・ロマ神話、ストイック等)
基督教新聞 2479(8/6) [36057
教文舘「City of God,St.Augstine」基督教新聞 2479(8/6) [36058
濱田與助「百年忌に際してヘーゲル(1770-1831)を憶ふ」(ギリシヤ民族等)
基督教新聞 2488(10/1) [36059
金子白夢「唯物史觀の批判」(ディアレクティケー、エレア學派の老ヅェーノン、ヘラクレートス、ソフィスト、ソキウラテス、プラトーン、アリストテレス、プロチノス等)
基督教新聞 2493(11/12) [36060

C.②アリアヌス・フラヴィウス/坂本健一譯『亞歷山遠征史』(世界興亡史論 11←大 8 興亡史論第 2 期第 2 巻) [36061
ナポレオン三世著/長瀬鳳輔譯『羅馬史論』(世界興亡史論 2。Histoire de Julius Cêsar の邦譯) [36062
原勝郎『西洋中世史概說』 [36063
菊池寛『ナポレオン傳』(偉人傳全集 1) [36064
藤浪剛一『東西沐浴史』(→昭和 19.增補) [36065
浦川和三郎『舊約史要』(上) [36066
藤田淳『バイブル物語』 [36067
ヴアン・ルーン/前田晃譯『聖書物語---人間の魂の歷史』 [36068
米國聖書協會『ルカ傳福音書』 [36069
ケイス/佐竹直重譯『耶蘇』 [36070
富永德磨『聖書耶蘇傳研究』(正) [36071
田村直臣『ナザレのイエスの背景』 [36072
野々村戒三『總合イエス福音書』 [36073
畔上賢造『初代の人々』 [36074
塚本虎二『基督教十講』 [36075
諏訪熊太郎『判り易いマタイ傳解釋』 [36076
エフ・ニックス・ラルポレット編/深井渙二譯『聖書はどうして出來たかどうなつたか』(カトリック大衆ライブラリー2) [36077
③＊[訂正]史報「古羅馬貴婦人の贅澤な化粧」(國民新聞 3/9) 歷史教育 6-1 [9367] [36078
＊[訂正]助川眞三「エトラスカ文化」史苑 5-5 [9370] [36079
問と答「基督の御降誕の時代」聲 6-12(671) [36080
(參考：「(慶大)經濟學部卒論」、三田新聞 261(2/20) [36081
野村教授下：濱口定之助「古代ギリシヤ初期の銀貨」)
學藝「福音史家ルカの御主御降誕の記述を裏書する文獻----アウグストゥス帝の記錄」日本カトリック新聞 323(12/20) [36082
長谷川才次「カスティ・コンヌビイ---- 貞潔なる婚姻」(聖アウグスチヌス等) カトリック 11-2 [36083
時雨「古代史に現はれた女性と奴隸研究其他」女人藝術 4-10,11,12 [36084
(參考：彙報「全國各大學史學關係卒論題目一覽」、歷史地理 57-5 [36085
京大：水川溫二「コンスタンチン大帝による基督教會統一以後、約四十年間に於ける埃及教會の民族的發達」
織田昌太郎「タキツスの羅馬史觀に就いて」)
水川溫二「コンスタンチン大帝による基督教會統一以後、約四十年間に於ける埃及教會の民族的發達」歷史と地理 28-1,2,3 [36086
諸會消息「史學會 1 月例會---今井登志喜「ブリタニヤに於けるローマ人の都市とアングロサクソンの都市」」歷史地理 57-5 [36087
(參考：史界近事「昭和 7 年度各大學卒論」、歷史教育 6-12 [36088
東大：板橋勉「羅馬に於ける農業の發展と土着農夫の發生」
逢澤武夫「共和制末期のローマ市に於ける生活に就いて」)

吉田信武「都市發達概史(1)((2)」建築學研究 10-?,? [36089
竹林熊彦譯「西洋圖[圖書舘]史研究(1)」(1 章「古代」、2 章「中世ノ古典ノ保存」。Ernest A.Savage,The Story of Libraries and Book-collectimg) 圖研究 4-2(14) [36090
新刊紹介「世界古代圖書舘」(G.H,Bushnel,The World's earliest Libraries,1931) 圖書舘雜誌 25-8 [36091
「テモテ書の著者問題」(アレキサンドリアのクレメント等) 基督教新聞 2454(2/12) [36092
④＊[訂正・削除]「タキツス/西田宏誤譯「ゲルマニア」」讀書標 (東京朝日新聞調査部)昭 6 分中 [9432] [36093
＊[訂正](參考：彙報「史學會第三十二回大會記事」史學雜誌 500 中 [23607] [36094
-----佐藤堅司「「三兵答古知幾」(高野長英)以前に於ける西洋兵書の飜譯について」)
「新刊史學關係書目」(日本の部)史學雜誌 501 [36095
・アーレニウス/寺田寅彦譯「史的に見たる科學的宇宙觀の變遷」/澤木四方吉「西洋美術史研究(下巻)」/岡本峻「西洋史講」/箕作元八「西洋史新話(上中下巻)」/吉田覺胤編「法隆寺の建築」
＊[訂正]海外史界「H.R.Hall 博士の逝去」(考古學)史學雜誌 502 [9422] [36096
・Oldest Civilisation of Greece(1901)/Aegean Archaeology(1915)/The Civilisation of Greece in the Bronze Age(1928)
「古代及中世關係文獻・歐米之部」史學雜誌 504 [36097
[Alterum]・M.André Piganiol,Esquisse d'une Histoire Romaine,Paris,1931
J.Hasebrock,Wirtschafts-und Sozialgeschichte Griechenlands bis Perserzeit ,1930
E.Albertini,L'Empire Romaaine,Paris,1928
M.E.Heitland,Last Words on Roman Manucipalities,Cambridge U.P., 1928
H.F.K.Günther,Rassengeschichte des hellenischen und römischen Volkes,München,1929
The Cambidge Ancient History, Vol.VII[The Hellenistic Monarchies and the Rise of Rome],1928
Deutsche Archäologisches Institut in Athen,Tirins .Die Ergebniss der Ausgrabungen des Instituts,Dritter Band,1930
H.H.Sculland,Scipio Africanus in the Second Punic War, Cambridge U.P., 1930
＊[訂正]海外史界「Bibliography の三新刊書」史學雜誌 505 [9423] [36098
(1)A Guide to Historical Literature,edited by William Henry Allison, Sidney Bradshaw Fay,Augustus Hunt Shearer,Henry Robinson Shipman.
(2)A Guide to the Study of Mediaeval History ,by Louis John Paetow, revised edition.
(3)International Bibliography of Historical Sciences,First Year,1926
＊[訂正]「中學校教授要目の改定」史學研究 3-1 [36099
(甲)第三、四學年：西洋史

(乙)第二、三學年」西洋史、外國史

新刊紹介「坂口昂「世界史論講」」京都帝國大學新聞 147(8/5) [36100
間崎萬里「故坂口[昂]博士の「世界史論講」を讀む」三田新聞 271(10/30) [36101
新刊［中村］「藤澤剛一「東西沐浴史論」」歷史と地理 28-1 [36102
新刊［鈴木］「坂口昂「世界史論講」」歷史と地理 28-5 [36103
彙報「故坂口昂「世界史論講」」歷史地理 58-3 [36104
應問 : ST 生［東京］「始めて西洋歷史を漢書で研究するには如何なるものを讀んだらよいでせうか」歷史教育 6-4 [36105
------ ロビンソン「ゼネラル・ヒストリー」、マイヤー「ゼネラル・ヒストリー」、ボツフォールト「簡明世界史」
新著・淺海「プツケル「歷史地理」（第 50 版）」歷史教育 6-8 [36106
新著・淺海「村川堅固「希臘史」」歷史教育 6-9 [36107
新著・木代「千代田・松本・櫻井等「史學名著解題」（現代史學大系第 15 巻）」歷史教育 6-11 [36108
新刊「京城帝國大學法文學會第二部論纂「哲學論集」第二輯」（金子光介「ランケの世界史に於ける史的發展」）哲學研究 178 [36109
島芳夫「ヘーゲルの歷史哲學」哲學研究 181,188 [36110
樫山欽四郎「歷史觀への二途」(ヘーゲルとマルクス)フィロソフィア 1 [36111
隈本有尚「人類史上四輪紀の建前に就て」(希臘羅馬時代等)丁酉倫理會倫理講演集 345 [36112
新刊紹介「庄司淺水「通俗・書物の話」圖書舘雜誌 25-7 [36113
推薦圖書「村川堅固「列國史叢書・希臘史」」圖書舘雜誌 25-11 [36114
新刊「ケイス/佐竹直重譯「耶蘇」」基督教新聞 2452(1/29) [36115
新刊「益本重雄「新編・ベン・ハー物語」」基督教新聞 2467(5/14) [36116
新刊「高橋乙治「聖書と考古學」」基督教新聞 2479(8/6) [36117
D.①カルヴィン/佐藤繁彦譯『ピリピ書註解』 [36118
バゼット・ウィルクス講演/米田豐筆記『羅馬書講演』 [36119
黑崎幸吉『註解新約聖書----ヘブル書、ヤコブ書、ペテロ前後書、ユダ書』[36120
ラルネデ/大宮季貞筆錄『ヘブル、ヤコブ、ペテロ前後、ユダ書講解----改譯新約聖書』 [36121
②＊［訂正］~~濱田耕作『天正遣歐使節記』~~(→昭 6.A) [9445] [36122
新村出『南蠻文學---- 日本文學と外來思潮の交涉[2]』 [36123
ペーター/田部重治譯『ペーター論集』（岩波文庫） [36124
ボッカチオ/森田草平譯『デカメロン・完譯・上巻』（新潮文庫 38） [36125
小宮山壽海『書誌學』 [36126
永井一夫『羅典語法---學名中心』（→昭 10 再版) [36127
蘆谷重常『童話學』 [36128
松本卓夫『新約文學序說』(基督教教程叢書 2) [36129
③＊［訂正］佐藤義亮編（新潮社版）「世界文學講座」2「上代文學」中---- [9460] [36130
-----永田寬定「上代文學と西班牙文學の交涉」
＊［訂正］陶山務「裸體史の一頁」法律春秋 6-9 [9476] [36131

＊[訂正・削除]~~重久篤太郎「明治以前の西洋文學傳來考」同志社文學 5~~
（→④）[9479] [36132
デル・レエ「ヴァジル」初等英語研究 24-6,7,8 [36133
チベサー「ラテンとエスペラント」聲 664 [36134
問と答「何故羅甸語を用ゐるか」聲 664 [36135
最上智之「Anima Candida」（ウェルギリウス研究）カトリック 11-8 [36136
④＊[訂正]重久篤太郎「明治以前の西洋文學傳來考」同志社文學 5（←③）
[9479] [36137
問と答「カトリック文學に就いて」(ダンテの「神曲」、聖アウグスチノの「告白錄」、シェンキウイッチの「何處へ行く」)聲 662 [36138
新刊紹介「ギリシヤ・ラテン講座」京都帝國大學新聞 145(6/2) [36139
(參考：「(慶大)文學部卒論」、三田新聞 261(2/20) [36140
獨乙文學：米山廣勝「ヘルデルリンのヒュペリオンに就て」
槇野喜藏「悲劇詩人ヘッベル」）
「聖堂スタイルの發展史(2)」(バジリカ等) [カトリックタイムス改め]
日本カトリック新聞 274(1/11) [36141
海外雜報「ダンテ研究の大家敍勲せらる」(ジョン・スレータリイ師)[カトリックタイムス改め] 日本カトリック新聞 274(1/11) [36142
「ダンテとペトラルカの肖像畫發見さる」[カトリックタイムス改め]
日本カトリック新聞 306(8/23) [36143
山村春夫「カトリックに因める藝術夜話-----時代の子ボッチェリー」(聖アクイナス、ダンテ等) [カトリックタイムス改め]
日本カトリック新聞 320(11/29) [36144
ジョセッペ・メッシナ/守田五郎譯「ダンテの神曲・解說」
カトリック 11-2,3 [36145
菅原憲「古典學派の人々」(ペトラルカ等)歷史と地理 27-1/28-1 [36146
(參考：彙報「全國各大學史學關係卒論題目一覽」、歷史地理 57-3 [36147
東大：荒井亮「ダンテと伊太利の問題」）
(參考：史界近事「史學會第 32 回大會」、歷史教育 6-3 [36148
荒井亮「ダンテのパトリヤの觀念とインペリアリズム」）
(參考：「各大學英文科昭和 6 年度卒論」、英文學研究 2-12 [36149
・東京帝大：清水勇「Shelley,An Introduction」
清水一繼「イタリーに於けるシェリイ」
馬場悌治「P.B.Shelley の詩」
立澤新六「演劇形式の史的考察」
・慶應義塾大學：篠原二郎「Milton's‘Paradise Lost’」
井上五郎「Walter Pater 論」
・立教大學：有馬次郎「T.S,Eliot の研究」
淺井武「A.E,Houseman」
西原讓二「Matthew Arnold の小研究」
田村讓二「Matthew Arnold」
・日本女子大：網代絢子「An Aspect of John Keats」

葉玉キミエ「Some Notes on Shelley」
大山芳子「A Study of Shelley's Lyrics」
上原ヌキ子「John Keats in reference ‘Hyperion’」
・駒澤大學：加々美南樹「A Study of John Keats」
・同志社大學：磯川治一「Philosophical Views in Shelley's ‘Prometheus Unbound’」
吉田利光「The Attitude of Contemplation in ‘Marius the Epicurean’」
・東北帝大：江藤貞夫「On Shelley's Poems」
鍛冶喜八郎「Shelley's Idea of Humanity」
・九州帝大：永井正巳「On Shelley's Love and Beauty」
室山輝長「Milton:Paradise Lost」
・京城帝大：西脇貞夫「On Keats' Narrative Poems」
星子武敏「Shelley's ‘Alastor’」
・東京文理大：工藤清三郎「Shelley's ‘Prometheus Unbound’」
成田成壽「The Critical Method of Matthew Arnold」
湯淺初男「On the Spiritual Development of Walter Pater」
・廣島文理大：中村清「A Study of John Keats」
・龍谷大學：鈴木初宣「沙翁劇に就いて」)

大倉三郎譯「ハインリッヒ・ヴェルフリン美術史の基礎概念」
建築學研究 8-44,46,47 [36150

エム・ゼイ・ツヴレイ/(大賀)旭江生譯「靈河---ダンテ小傳」
聖化 57,58 [36151

吉田小五郎「日本吉利支丹宗門史」史學 10-1,2,4 [36152

内田魯庵「日本の文學に及ぼしたる歐洲文學の影響」
新潮社版「日本文學講座」第 1 [36153

新村出「語源と語史」(「言葉の講座」1) [36154

新村出「吉利支丹文學殘闕」國語國文 10 月號 [36155

小泉信三「澤木梢君」三田文學[澤木四方吉氏追悼號] 6-1 [36156

三田文學[故澤木四方吉氏追悼號] 6-2 [36157

------「澤木四方吉氏日記抄」
濱田青陵「澤木梢君の思出」
小西誠一「澤木先生の早世を悼む」

兒島喜久雄「澤木君を憶ふ」三田文學 6-3 [36158

横部得三郎「澤木先生の思出」三田文學 6-3 [36159

(參考：彙報「京都帝國大學文科卒論」、哲學研究 180 [36160
伊藤卓治「Heinrich Wölfflin に就て」)

矢野峰人「「上田敏全集」を讀みて」書物展望 1-4 [36161

重久篤太郎「東西洋書誌覺書」(大賀壽吉(英文)「日本のダンテ書誌」、虛白原著蒲梢修訂「漢譯東西洋文學作品編品」第一回[1929年])書物展望 1-4 [36162

新刊紹介「荒木伊兵衛「日本英語學書誌」圖書舘雜誌 25-4 [36163

高田幸譯「世界文學一時講義」(古代等) 圖書舘雜誌 25-9 [36164

吹田順助「「イデオロギー論」と「文藝復興と宗教改革」」(江澤讓爾)
一橋新聞 137(7/8) [36165
市河三喜・山口武美「日本シェイクスピア書誌」
英語研究 12 月號(→昭 7.10 月號) [36166
新刊「ミリガン/神田盾夫譯「新約聖書文獻考」」基督教新聞 2454(2/12) [36167
教文舘「Greek English Lexicon, by Liddle & Scott」基督教新聞 2466(5/7) [36168
教文舘「The New Testament in Greek,by Westcott & Hort」
基督教新聞 2466(5/7) [36169
岩城忠四郎「神の愛に就て」(グリーキ語「ゲニケ、プトーシス」等)
基督教新聞 2481(8/20) [36170
大崎治郎「賀川豐彦氏の「ヴェニスの石」を讀みて」(ラスキン文藝復興史)
基督教新聞 2499(11/24) [36171
E.②塩津誠作編譯『ムッソリニ』 [36172
石濱知行『歴史と經濟組織』(?) [36173
③＊[訂正]鈴木義男「ソクラテス事件と赤穂義士事件」法律新聞 3212,3216,3218,
3224,3227,3228,3230,3236 [9532] [36174
(參考：彙報「全國各大學史學關係卒論題目一覧」、歴史地理 57-5 [36175
京大：市川文藏「アウグスチン國家思想に就いて」)
ザイベル博士「聖アウグスチヌスと國際聯盟」カトリック 11-1 [36176
長谷川直吉「社會問題に對するイエスの態度」(ロマ人、ギリシヤ人等)
基督教新聞 2469(5/28) [36177
④(參考：「(慶大)經濟學部卒論」、三田新聞 261(2/20),262(3/20) [36178
小泉[信三?]教授下：富本定雄「ラスキン社會思想の創成過程」)
(參考：「(慶大)法學部卒論」、三田新聞 261(2/20) [36179
槇教授下：山北多喜彦「原始基督教の背景と其社會思想」)
プルー「私有權の保障としての政治的主權」(アリストテレス、ヘラクレイトス、
プラトン、シセロ、F.クーランジュ等)
カトリック 11-2 [36180
新刊[牧]「瀧澤喜子雄「世界商業史」」歴史と地理 27-2 [36181
岩崎繼生「バジョットの社會思想」(H.メイン關係) 倫理研究 14,17,18 [36182
常盤敏太「パウンドの「法律史錄」---富井[政章]教授の近譯を讀む」
一橋新聞 130(3/27) [36183
上原專祿「修業偶感---經濟史文獻に就いて」一橋新聞 13(5/9) [36184
新刊「小平國雄「基督教社會思想史」」基督教新聞 2452(1/29) [36185
教文舘「Plato,The Republic,by Ch.K.Bakewell」基督教新聞 2453(2/5) [36186
吉田源治郎「キリストと社會--- 十九世紀英國に於ける基督教社會運動の足跡(4)」
(プラトー等) 基督教新聞 2489(10/15) [36187
竹中勝男「教會と變動期の社會」(ストイックの自然性、ヘーゲル等)
基督教新聞 2493(11/12),2494(11/19),2495(11/26) [36188
F.②矢島祐利『近世物理學史序論』 [36189
古川竹二『血液型と氣質』 [36190
④＊[訂正]新刊「セジィク&タイラー/土屋忠・山本修譯「自然科學史」」

科學(岩波)1-1　[9566]　[36191
参考：史界近事「昭和 7 年度各大學卒論」、歷史教育 6-12　[36192
東大：原種行「Ueber den Geschichtscharakder des heliozen erischen Welt-systems von Nicolaus Coppernichus（ニコラウス・コペルニクスの地動説的宇宙體系の歷史性に就いて ）」 ）
新刊「平田巧「少年物理學史」（アルキメデス、アレキサンドリアの學者等）
丁酉倫理會倫理講演集 350　[36193
G. 武部欽一『新外來語辭典』　[36194
三省堂百科辭書編輯部編『圖解・現代百科辭典』（全 5 巻）　[36195
新刊紹介「經濟學辭典」（岩波書店）圖書舘雜誌 25-1　[36196

昭７（１９３２）
A. ＊[訂正・削除]~~石原純「自然科學のルネッサンス」帝國大學新聞534~~
(→F.④)　[17273]　[36197
加藤一夫『農本主義・理論篇』(「希臘文明の史的研究」「ローマ文明の特質とその歷史」「ローマ歷史の通觀」)　[36198
吉田小五郎『聖フランチェスコ・シャ[ヴィ]エル傳』　[36199
比屋根安定『日本基督教史要』(基督教教程叢書6)　[36200
日本神學校編『基督教文獻假目錄----自天保九年至明治三十年』(謄寫版)　[36201
原田季夫『文化の進展と基督の再臨---「この世の國」と「神の國」』　[36202
大類伸「ブルクハルトの「伊太利ルネサンスの文化」を讀む」
西洋史研究1,2　[36203
Y.T.生「世界を巡りて」聲675,677　[36204
「第四回夏期ドイツ語、フランス語、ラテン語、ギリシヤ語講習會」
日本カトリック新聞352(7/10),353(7/17),354(7/24）[36205
山水曉明「カトリック教會と文化及び社會事業」（ギリシヤ・ローマ文明等）
日本カトリック新聞363(9/25)　[36206
海老名彈正「日本基督教思想進轉小史」開拓者4月號　[36207
（參考：昭和7年度第一學期九州帝國大學法文學部史學關係講義題目中、史淵4
中古史講義(長)、中世哲學史(鹿子木)、西洋近世哲學史（中島）、教育史概說（松濤）、言語學概論（吉町）、佛文學史概說（十八世紀、成瀨）、十七世紀佛文學史（須川）、佛文學史概說（須川））
（參考：彙報「東京帝大昭和七年度宗教關係講義題目」、（新）宗教研究9-3[36208
宗教學宗教史學科：切支丹傳道史（姉崎）、宗教學概論（石橋）、宗教史概說（宇野助教授）、宗教學演習（W.Schmidt, Handbuch der vergleichenden Religionsgeschichte、宇野助教授）
哲學科：哲學概論（桑木）、十九世紀哲學（桑木）、哲學演習（Hegel,Enzyclopädie der philosophischen Wissenschaften im Grunriss、桑木）、西洋哲學史概說第二部（伊藤）、西洋哲學史概說第一部（出助教授）、中世哲學（出助教授）、哲學演習（Aristoteles:Physica、出助教授）、哲學演習（Santayana 、大島講師）

心理學科：心理學概論(桑田)
倫理學科：倫理史概論(吉田)、西洋倫理學史概説(吉田)、社會思想の倫理的考察(深作))
(參考：「昭和七年度各官立大學教育學講義題目」、
教育學研究(東京文理大)1-1 [36209
東京帝大：教育史(吉田)
京都帝大：教育思想概説(小西)
九州帝大：教育史概説(用書Graves:A Student's History of Education、松濤)
京城帝大：教育史概説(用書Graves:A Student's History of Education、松濤)
東京文理大：體育史(大谷))
(參考：「昭和七年度各官立大學教育學講義題目(續)」、
教育學研究(東京文理大)1-2 [36210
廣島文理大：西洋教育史(長田)、神話傳説ノ教育學的考察(福島)、ギリシヤ教育史(稻富)、プラトン(演習、稻富))
板澤武雄「蘭學の内容と蘭學者の態度」聖德記念學會紀要38 [36211
板澤武雄「蘭學の意義及び蘭學創始とに關する二、三の問題に就いて」
歷史地理59-1,2,5,6 [36212
(參考：東大文學部新學年の史學關係講義中、歷史地理59-5 [36213
史學概論(今井)、西洋史概説(村川)、中世二於ケル文化ノ發達(山中)、演習(Otto, Kulturgeschichte des Altertums、村川))
野々村戒三「文明中心の移動方向に關する一考察」歷史地理60-5 [36214
(參考：史界近事「東京帝大文學部史學講義題目」、歷史教育7-4 [36215
西洋史概説(村川)、西洋史學演習(Otto, Kulturgeschichte des Altertums、村川)、中世に於ける文化の發達(山中))
(參考：史界近事「京都帝大本年度講義」、歷史教育7-5 [36216
東西交通史(羽田)、西洋史概説(原、時野谷)、エーゲ海に於ける文化(濱田)、デモステネスとその時代(原)、中世西歐社會の成立(鈴木)、史學研究法(原)、考古學概論(濱田))
飛松正「蘭學者の苦心と其圧迫」歷史教育7-7 [36217
三谷隆正「讀書に就いて」(ロマ詩人テレンチウス、ソクラテス等)
日本聖書雜誌3,4月號 [36218
蘇峰生「下澤瑞世君の「民族年齡文化誌論」と「日支歐・世界比較文化史」」
東京日々新聞12/3 [36219
(參考：彙報「京都帝大文學部昭和7年度講義題目」、哲學研究194 [36220
哲學概論(田邊)、古代哲學史(山内)、特殊講義(アリストテレスの範疇論、山内)、演習(Aristoteles:Physica、山内)、心理學概論(野上)、倫理學原論(和辻)、特殊講義(道德に於ける自然と歷史、西谷)、教育思想概説(小西)、美學序論(植田)、特殊講義(希臘彫刻史概説、須田講師)、演習(植田、Utitz, Grundlagen der allegemeinen Kunstwissenschaft) 、宗教學概論(波多野)、特殊講義(Plotinos,Enneades解釋、波多野)/副科目−−−Bergson:Matiève et Memoire、九鬼)、希臘語(Graecae Grammaticae Rudimenta, Platonis Apologia et

Meno, Aristoteles: Physica, Ploutarkhos: Themistokles et Perikles[史、文學科
Sophokles: Antigone, Euripides: Media、田中)、羅甸語(Nova Grammatica
Latina, Roehm, Junior Latin Lessons II, Erasmus: Colleguies, Greenough,
Virgilius and Other Latin Poets、田中))
(參考：雜錄「東京帝大昭和七年講義題目」、倫理研究20 [36221
倫理學概論(吉田)、西洋倫理學史概說(吉田))
井東憲法「中華新聞發達史」(歐洲新聞紙上「官報」、ローマの「アクテ・セネタス」、「アクテ・ディウルナ・ポプリ・ロマニス」等)書物展望2-5 [36222
新村出「歐洲學會巡禮」(談話筆記)京都帝國大學新聞10/5 [36223
新刊紹介「福島正雄「歐洲文明と教育史觀」」圖書舘雜誌26-2 [36224
新刊紹介「下澤瑞世「日支歐世紀比較文化史」」圖書舘雜誌26-3 [36225
今泉眞幸「日本組合教會小史」(ギリシヤ・ロマ文化、ロマ帝國等) [36226
基督教新聞2529(7/28), 2533(8/25),
2537(9/22) [36227
B.①アウグスチヌス「友よ！眞理へかへれ(1)」日本カトリック新聞375(12/18) [36228
内村達三郎譯『聖アウグスチヌス懺悔錄』(岩波文庫) [36229
竹村清譯『聖アウグスチヌス基督教綱要』(新生堂) [36230
プラトン原著/稻富榮次郎譯『道德教育可能論(メノン)』(教育思想精華選集第9) [36231
中島孤島『ギリシヤ神話』(兒童圖書舘叢書。←大10) [36232
②柳田國男『女性と民間傳承』(序文中、J・ハリスン「プロレゴメナ」等) [36233
坂野龍雄・坂野つる著『基督教女性觀』 [36234
香原一勢『初學者の爲の西洋哲學史概說』 [36235
カンパネラ/島谷俊三譯『太陽の都』(玉川叢書) [36236
道簱泰誠『阿彌陀佛と基督』(基督教優越叢書4) [36237
富永德磨『基督教徒は何ぞや』 [36238
中山昌樹『聖アウグスチヌス傳及「神の都」』(基督教文獻叢書10) [36239
植村全集刊行會『植村全集全８巻』(→昭8まで。第1,2,3巻「說教」、第4巻「教義篇」、第5巻「教會論」、第6巻「眞理一班其の他」、第7巻「文學及人物篇」、第8巻「日記・書簡その他」) [36240
エマソン/平田禿木譯『代表偉人論』 [36241
『内村鑑三全集』(第1-20巻。岩波書店。→昭8。第3,4巻「舊約研究」、第5,6,7「新約研究」、第8.9巻「教義研究」、第10,11巻「講演、第13巻「感想」等) [36242
佐伯好郎『景教文獻遺物目錄』 [36243
③＊[訂正](參考：廣島文理大學卒論、教育學研究1-1 中 [9655] [36244
皇至道「ソクラテスとプラトンの師弟關係」(→昭52年刊著作集2中)
岩波講座「哲學」(第2)------ [36245
・出隆「西洋哲學史概說・第1部[古代・中世上・中・下]」/・朝永三十郎「西洋哲學史概說・第2部「近世前期上・下」」/・桑木嚴翼「西洋哲學史

概説・第3部「近世後期」」/・石原謙「神學史・上下」/・安倍能成「道徳思想史」/・長田新「教育思想史」
(参考：「(慶大)文學部卒論」、三田新聞278(2/20) [36246
西洋史學：[間崎萬里教授下]篠崎昌夫「初期羅馬帝國に於ける異教に就て」）
大庭征露「哲學・神學の明星、聖アウグステイヌスの回心」
日本カトリック新聞359(8/28) [36247
青柳有美「泰西妖奇古今集」家庭3-8 [36248
(參考：彙報「全國各大學史學科卒論題目一覧」、歴史地理59-3 [36249
慶應義塾大：篠崎昌夫「初期ローマ帝國に於ける異**教**に就いて」 ）
佐野朝男「西洋古代中世教育史」教育修身研究1月號 [36250
ヂルソン/長澤信壽譯「アウグステイヌス形而上學の將來」
哲學研究191,194 [36251
(參考：彙報「東京帝大文學部卒論」、(新)宗教研究9-3 [36252
哲學科：東山松男「オーガスチンにおける自由の問題」）
(參考：「本年度各官立大學教育專攻學生卒論」、
教育學研究(東京文理大)1-1 [36253
廣島文理大：玉岡卓「アリストテレスのφιλιαに就いて」
皇至道「ソクラテスとプラトンとの教育的關係」）
短話集「オーガスチン」ときのこゑ11/1 [36254
應問：篠崎敬親(愛媛)「三、デーモクリトスの原子、ライプニッツの單子、ヘルベルトの實素の差異」、丁酉倫理會倫理講演集353 [36255
----答・デモクリトスのアトムは形狀及び大いさを異にして、純機械的な運動を行ふ物理的な實在である。
(參考：雜錄「(東大)倫理研究會11月例會」(馬場文翁氏歸朝歡迎會)
倫理研究23 [36256
(リッカート)「エルンスト・ホフマンのアリストテレースのニコマキア倫理學演習」)
④＊[訂正]小山鞆繪「自覺と辨證法」思想116 [9666] [36257
＊[訂正]石川興三「マルクスに於ける精神科學的構造」經濟論叢34-4
[9687] [36258
(參考：「本年度各官立大學教育專攻學生卒論」、
教育學研究(東京文理大)1-1 [36259
京都帝大：犬童信三「ウィルヘルム・マイスター遍歷時代に現はれたるゲーテの教育思想」 ）
井上音松「ゲーテの教育思想」教育學研究(東京文理大)1-4,5,6 [36260
篠原助市「ディルタイと文化教育學」教育學研究(東京文理大)1-9 [36261
マリア・アグネス譯「アキノの聖トマ」聲674 [36262
問と答・吉滿義彦「邦文の哲學研究資料」(故リギョル師「スコラ哲學綱要」、マッテン氏「スコラ哲學序論」、高見澤榮壽「西洋哲學史講話」、アリストテレス「メタフュジカ」、プラトン「ポリテイア」、聖アウグスチヌス號[「カトリック」]、聖トマス・アクイナス號等)

聲675　[36263
松下佐吉「信仰は神の光」(聖アウグステイヌス等)聲678　[36264
竹下直之「新ヘーゲル主義の典據「カントからヘーゲルへ」と、其の飜譯に就いて」京都帝國大學新聞157(2/5)　[36265
千葉一樹「大アルベルツスのプロフィル」(アキノの聖トマス、アリストートル等)カトリック12-3　[36266
ヴィンセント・マクナップ/小林珍雄譯「カトリック教會と哲學」(ソクラテス、プラトー、アリストートル等)カトリック12-3　[36267
ミュラー「ゲーテと宗教」カトリック12-4　[36268
プルー/林不可止譯「ルーテルとニューマン(13)」(聖アウグステイヌス等)カトリック12-5　[36269
吉滿義彦「ヘーゲル復興とヘーゲル批判」(アリストテレス等)カトリック12-6　[36270
ヨゼフ・フービー/鈴木美代子譯「改心錄」(アレクサンドリアのクレメンス、聖アウグスティヌス、ヴァージル等)カトリック12-9　[36271
内山善一「聖トーマスの神の存在の論證」(聖アウグステイヌス等)日本カトリック新聞367(10/23)　[36272
(參考：彙報「全國各大學史學科卒論題目一覽」、歷史地理59-3　[36273
廣島文理大：本崎瀧巳「ニーチェの歷史觀を檢討して歷史に於ける偉人英雄の意義に論究す」)
三谷隆正「何故日本的基督教」(ストア學派、ソクラテス、アレクサンダ大王、エピクロス派等)日本聖書雜誌9月號　[36274
油木愼一郎「ヘーゲルに關する文獻(1)」ヘーゲル及び辯證法研究10月號　[36275
若山超關「ヘーゲルとゲーテ」現實へ7　[36276
春山行夫「ペイタア的スタイルの考察」三田文學7-12　[36277
新刊(中井正一)「リヒアルト・クローナー/岩崎勉・大江精志郎譯「ヘーゲルの哲學」」哲學研究190　[36278
(參考：彙報「京都帝國大學文科卒論」、哲學研究192　[36279
勝田守一「シェリングの史觀における個體の自由」
河野通文「ギョー倫理の一考察」
矢追富夫「パスカルのパンセ」
矢島嘉久「パスカルに就て」　)
船山信一「世界觀論」(ディルタイ)哲學研究199　[36280
石田仁「ディルタイの世界觀論」哲學研究201　[36281
＊[訂正]學文路圭民「明治哲學研究の爲めに」(明治4年~明治23年迄の和書・翻譯書を摘錄)歷史學研究2-6　[9690]　[36282

＊[訂正]「哲學文獻(邦語に依る)」、理想32　[9681]　[36283
哲學一般：田邊元「科學概論」、紀平正美「行の哲學」、ハイデガー/湯淺誠之助譯「形而上學とは何か」、山内得立「現象學敍說」、

大關將一「現象學概論」、大島正德「現代哲學概論」、金子馬治「現代哲學概論」、矢崎美盛「現代哲學思潮」、得能文「最究竟者」、田邊元「數理哲學研究」、山内得立「存在の現象形態」、稻毛詛風「哲學概說」、桑木嚴翼「哲學概說」、ウィンデルバント/清水清譯「哲學概論」、ウィンデルバンド/松原寬譯「哲學概論」、金子馬治「哲學概論」、紀平正美「哲學概論」、キュルペ/增富平藏譯「哲學概論」、桑木嚴翼「哲學概論」、兒玉達童「哲學概論」、帆足理一郎「哲學概論」、宮本和吉「哲學概論」、桑木嚴翼「哲學綱要」、ウィンデルバント/河東涓譯「哲學とは何か」、ディルタイ・フッセール・シェラー/戸田三郎・坂田徳男・三木清譯「哲學とは何か」、ベルグソン/西宮藤朝譯「哲學入門」、紀平正美「認識論」、ウィンデルバンド/河東涓譯「プレルーディエン」、三木清「歷史哲學」、

講座：岩波講座「哲學」、岩波講座「世界思潮」、春秋社編「哲學」(大思想エンサイクリペディアの内)

哲學史：石原謙「希臘人の哲學思想」、ウィンデルバンド/村岡典嗣譯「近世哲學史」、ヘフディング/北昤吉譯「近世哲學史」、朝永三十郎「近世に於ける「我」自覺史」、安倍能成「西洋近世哲學史」、桑木嚴翼「西洋近世哲學史(ローマ字書き)」、安倍能成「西洋古代中世哲學史」、出隆「西洋哲學史(第一部)」、ウィンデルバンド/河合讓譯「西洋哲學史」、フォルレンデル/栗田・吉野・古在共譯「西洋哲學史」、帆足理一郎「西洋哲學史」、デューランド/村松正俊譯「西洋哲學物語」、朝永三十郎「第十九世紀の佛蘭西哲學」、サンタヤナ/小島茂雄譯「獨逸哲學及哲學者」、グロックナー/大江精志郎譯「ヘーゲル復興とヘーゲル主義」、加藤將之譯「ユーベルエーク大哲學史(第6巻)」

西洋哲學古典：オイケン/波多野精一・宮本和吉譯「新理想主義の哲學」、オイケン/得能文譯「精神生活の哲學」、ニィチェ/金子馬治譯「悲劇の出生・善惡の彼岸」、プラトン/久保勉譯「クリトン」、プラトン/稻富榮次郎譯「ゴルギアス」、プラトン/久保勉・阿部次郎譯「ソクラテスの辯明」、プラトン/菊池慧一郎譯「パイドン」・「プロタゴラス」、木村鷹太郎譯「プラトーン全集」、ヘーゲル/今田竹千代譯「歷史哲學序論」、ヘーゲル/河野正通譯「歷史哲學諸論」、ベルグソン/金子馬治・桂井當之助譯「創造的進化」、ライプニッツ/河野與一譯「形而上學敍說」・「單子論」、ラスク/久保虎賀壽譯「哲學の論理學並びに範疇論」、ロッツエ/山本泰敎譯「形而上學綱要」

個々の哲人：エーアリヒ/齋藤晌譯「カントとフッサール」、安倍能成「カントの實踐哲學」、松永材「カントの哲學」、田邊元「カントの目的論」、リッケルト/大江精一譯「現代文化の哲人としてのカント」、稻富榮次郎「スピノーザの哲學」、勝部謙造「ディルタイの哲學」、高橋里美「フッセルの現象學」、ペーター/内

舘忠藏譯「プラトンとプラトン哲學」、國際ヘーゲル聯盟編「ヘーゲル哲學解說」、田邊元「ヘーゲル哲學戸辯證法」、クローチェ/高見澤榮壽譯「ヘーゲル哲學批判」、米田庄太郎「リッケルトの歷史哲學」

(參考：彙報「東京帝大文學部卒論」、(新)宗教研究9-3 [36284
哲學科：石川準吉「アンリ・ベルグソンについて」)
山室軍平「克己は愛の別名である」(アレキサンダー等)ときのこゑ3/15 [36285
木本茂三郎「「神の國」に關する二著」新興基督教9月號 [36286
得能文「自然に就て」(アリストテレス、エムペドクレス等)
丁酉倫理會倫理講演集351 [36287
應問：(某氏)「第五十五回文檢修身科受驗記」、
丁酉倫理會倫理講演集356 [36288
-----答・西洋倫理學史之部：綱島[榮一郎]氏「西洋倫理學史」、中島[力造]氏「倫理學說十回講義」、大西[祝]氏「西洋哲學史」。
三宅雄二郎「盜賊と乞食」(アレキサンドル、ケーザル、ローマの養子皇帝5人、マルクス・アウレリウス等) 丁酉倫理會倫理講演集359 [36289
新刊「井上忻治譯「ウィンデルバント・一般哲學史Ⅰ」」
丁酉倫理會倫理講演集362 [36290
藤井章「滯歐二年の追憶」(ジーグムンド・シュルツ教授[ベルリン大學])
倫理研究17,18 [36291
「諸雜誌最新號所載倫理關係論文一覽」、倫理研究18 [36292
----- The International Jouranl if Ethics, vol.xli,no.4,1934
・W.W.Spencer, St.Augustine and the Influence of Religion on Philosophy
・I.Knox, Notes on the Moralistic Theory of Art: Plato and Tolstoy
宮崎寬「ますらをぶり」(ギリシア神話等) 倫理研究20 [36293
吉滿義彥「聖トーマスにおける人間概念の形而上的構成に就いて」
倫理研究22 [36294
關谷謹之助「劍橋[ケンブリッヂ]の學園」倫理研究23 [36295
新刊紹介「田中[田邊?]教授「ヘーゲル哲學と辯證法」」書物展望2-3 [36296
新刊紹介「ローゼンクランツ/高橋里美譯「ヘーゲル哲學概論」」
書物展望2-3 [36297
「主要新刊書目錄------ 鈴木權三郎譯「大論理學・上巻」(ヘーゲル全集中)」
書物展望2-7 [36298
保田與重郎「オプチミスムス」(プラトン、アリストテレス等)コギト2 [36299
推薦圖書「内舘忠藏譯「プラトンとプラトン哲學」」圖書舘雜誌26-3 [36300
卒論題目(2)----吹田(順)研究室：樋口楢次郎「十九世紀末ドイツ思潮史---フリードリヒ・ニーチェを中心として」
一橋新聞151(4/16) [36301
濱田與助教授述「笑と福音」(アリストテレス、ベルグソン等)
基督教新聞2505(11/11) [36302
新刊「桑田秀延「基督教の本質」」基督教新聞2511(3/24) [36303
高橋健二「安息日を聖潔すべし」(コンスタンチン大帝等)

基督教新聞2521(6/2) [36304
大下角一「教會建設の原理」(ストイック、プラトニック、ミシテシズム、ニロ等)
基督教新聞2540(10/13) [36305
(參考：「總會大禮拝說教」、基督教新聞2540(10/13) [36306
---- 山本忠美「我等の大躍進」(アレキサンドリアのクレメント、マケドニア人等))
新刊「竹村清譯「聖アウグスチヌス・基督教綱要」」
基督教新聞2547(12/1) [36307
C.②高山彬『性慾五千年史』 [36308
酒井三郎『西洋史系統的研究法』 [36309
モンテリウス/濱田耕作譯『考古學研究法』 [36310
三木清『歷史哲學』 [36311
池田哲郎編『邦文西洋史文獻展望目錄』 [36312
中島孤島『少年文庫・ギリシヤ英雄物語』 [36312
ヘンドリク・ウイレム・ヴァン・ルーン/神近市子譯『聖書物語---舊約の巻、新約の巻』(改造文庫。2册) [36313
[36314
田中龜之助『舊約女性物語』 [36315
筧光顯『歷史のイエスと躍動的生命の基督』(SCMパンフレット5) [36316
桑田秀延『基督教の本質』(基督教教程叢書3) [36317
氣賀重躬『概說基督教史』(基督教教程叢書5) [36318
橋本正三『イエス傳』(基督教教程叢書7) [36319
谷口武編『こどもエスさま』(兒童圖書舘叢書47) [36320
山口德夫『イエス傳---- 自傳ふうに』 [36321
フィンゲル/山縣天主教會『神人イエズス』 [36322
山室軍平『コリント人への前後書----民衆の聖書』 [36323
溝口彈一『勘喜の宗教---パウロの幽囚書翰集I(ピりピ書研究)』 [36324
福田君子『秘められたる新約聖書ロマンス』 [36325
歷史教育研究會編『明治以降に於ける歷史學の發達』(大類伸「西洋史學發達の目錄と展望」)「歷史教育」增刊號 [36326
③時雨「古代史に現はれた女性と奴隸研究其他」女人藝術5-1 [36327
芝崎路可「カトコムブと聖體」聲677 [36328
エリザベット・フォン・シュミット・パウリ作/ブルノ・プリカ譯「勇者タルチジウスの話」聲679,680,681,682,683 [36329
(參考：「(慶大)文學部卒論」、三田新聞278(2/20) [36330
西洋史學：近山金治(次?)「古代ガリアにおける政治制度とその統一的氣運の變遷について」
[間崎萬里教授下]：大島巳之助「ポリビオスに於けるイベリヤ・ガリヤの地理」
：齋藤成一「パピルスの發見と新約聖書」)
(參考：彙報「九大史學會昭和6年度第2回例會、史淵4 [36331
鹿子木[員信]教授「歷史哲學の根本問題」)

指針「セレウコス家とヘレニズム」（第55回文檢）歴史と地理30-1 [36332
（參考：彙報「全國各大學史學科卒論題目一覧」、歴史地理59-3 [36333
東大：板橋勉「羅馬に於ける農業の發展と土着農夫の發生」
逢澤武夫「共和制末期のローマ市に於ける生活に就いて」
東北大：井上謙二「ゲルマニヤ家族史」
慶應義塾大：大島巳之助「Polybiusに於けるIberia、Galliaの地理」
齋藤成一「パピルスの發見と聖書研究」）
（參考：彙報「史學會第33回大會---原隨園「ギリシアに於ける傭兵の問題」
歴史地理60-1) [36334
森河博「ゴートの原住地に就いて」歴史教育7-3 [36335
編輯局「文檢研究第4回模擬試驗成績發表」（吉田胡一郎[岐阜]「クリート島」）
歴史教育7-6 [36336
＊[訂正]史報「富籤はローマ時代から」（大阪朝日新聞9/1）歴史教育7-7
[9737] [36337
（參考：編輯局「第57回文檢歴史科本試驗問題」歴史教育7-11 [36338
西洋史：「一、ギリシヤ及びローマの史家と其の著作」)
（參考：編輯局「第57回文檢歴史科本試驗問題」歴史教育7-11 [36339
西洋史：「二、ローマの小アジア政策」)
表町健壽「クオヴァディス」(フリッツ・フォン・ウンルウ)現實へ11月號 [36340
高木武之介「古代羅馬の出版業」書物展望2-2 [36341
竹林熊彦譯「西洋圖[圖書舘]史研究(2)(3)」(3章「修道院」、4章「文藝復興」、5章「Italy」、6章「諸國」)。Ernest A.Savage, The Story of Libraries and Book-collecting)
圖研究5-1(17),5-2(18) [36342
平田寛「アレキサンドリア圖書舘」圖書舘雜誌26-9 [36343
(參考：「第一回市民福音學校」、基督教新聞2507(2/25) [36344
---- 山本忠美「パウロ研究」/鈴木浩二「基督教畧史」）
(參考：「諸大學卒業生の基督教に關する論文」、基督教新聞2510(3/24) [36345
・同志社大學(神學科)：山田基男「初代教會に於ける戰爭觀」
・東京帝大(西洋史)：片山亘「發生當初に於ける基督教の性質」）
(參考：「盛大なる第一回市民福音學校」、基督教新聞2515(4/21) [36346
---- 山本[忠美]牧師「パウロ研究」/鈴木[浩二]牧師「基督教畧史」）
(參考：「五月、教育」(使徒行傳の研究)、基督教新聞2518(5/12),2519(5/19) [36347
--- (5/17)テサロニケ傳道、(5/18)ベシヤ傳道、(5/19)アテネ傳道、(5/19)アレオパゴスの說教、(5/20)コリント傳道、(5/25)偶像アルテミス、(5/26)無知と偶像）
(參考：「活気に溢れつつ開校中の市民福音學校」、基督教新聞2519(5/19) [36348
----山本[忠美]牧師「パウロ研究」)
(參考：「七月、教會」(使徒行傳の研究)、基督教新聞2525(6/30),2526(6/30),
2527(7/14) [36349
----- (7/3)ロマ人の特權、(7/4)パウロの辯論、(7/5)陰謀を見る、(7/10)アグリッパの前にて、(7/11)パウロの辯論、(7/13)博學狂氣せりと、(7/4)良き港、

(7/15)ユーラクロンの疾風、(7/17)マルタの待遇)
小崎弘道「使徒パウロ信仰の體驗」(ソクラテース等)
基督教新聞2529(7/28) [36350
④＊[訂正]史報「エロス宮殿發見さる」(東京朝日新聞11/10)歴史教育7-10
[9776] [36351
＊ [訂正]北風飛燕生「文檢・西洋史參考書の解說」(村川堅固「西洋上古史」、齋藤清太郎、磯田良、斉藤斐章、瀬川秀雄、龜井高孝「參考西洋歷史」、箕作元八、本多淺治郎「批判的西洋時代史」、小林博、村川・藤本共著、大類伸、村川氏「民族分布圖」、坂口昂) 文檢世界18-1 [9799] [36352
＊ [訂正]北出一雄「文檢西洋史科參考書解說」(箕作元八「西洋史講話」、小林博「西洋通史・上下」、坂口昂「概觀西洋史潮」、龜井高孝「參考西洋歷史」、村川・藤本兩氏共著「西洋歷史講話･上下」､齋藤清太郎｢最近西洋史講話」、齋藤清太郎「西洋近世史講話」、村川堅固「世界改造の史的考察」・「希臘史」、齋藤清太郎「西洋歷史地圖」/上古：主、村川氏「西洋上古史」。副、村川・藤本兩氏共著「西洋歷史講話」。參、坂口氏「概觀西洋史潮」、箕作氏「西洋史講話」、村川氏「希臘史」/中古：主、村川・藤本兩氏共著「西洋歷史講話」。副、大類[伸]氏「西洋中世の文化」。參､坂口氏｢概觀西洋史潮」､箕作氏｢西洋史講話」。近世：主、齋藤清太郎「西洋近世史講話」。副、村川・藤本兩氏共著「西洋歷史講話」。參、坂口氏「概觀西洋史潮」、箕作氏「西洋講話」。最近世：主、齋藤清太郎「最近西洋史講話」。副、村川・藤本兩氏共著「西洋歷史講話」。參、坂口氏「概觀西洋史潮」、箕作氏「西洋講話」、村川氏「世界改造の史的考察」) 文檢世界18-1 [17274] [36353
＊ [訂正]「書評及紹介-----平竹傳三「露西亞考古文化史圖說」」史潮2-2 中
[23681] [36354
＊[訂正]日高「最近獨佛哲學界回顧」哲學雜誌541 [23689] [36355
W.Rehm,Der Untergang Roms im abendländischen Denken:Ein Beitrag zur Geschichtsschreibung und zum Dekadenzproblem)
＊[訂正]新刊「平竹傳三「露西亞考古文化史圖說」」(ギリシヤ植民等)
考古學雜誌22-4 [23691] [36356
中村友平(要約)「人文主義の歷史哲學と現代の歷史教授」(Jos.Ulmer:Humanistische Geschichitsphilosophie und Geschichitsunterricht der Gegenwart)
教育學研究(東京文理大)1-6 [36357
大類伸「故坂口[昂]博士の「獨逸史學史」を讀む」
京都帝國大學新聞164(6/21) [36358
「故田中[萃一郎]博士の史學論文集」三田新聞286(8/5) [36359

田中芳五郎「カトリックの戰爭觀」(聖アウグステイヌス、聖トーマス等)
カトリック12-2,3,6 [36360
新刊[井上]「坂口昂「獨逸史學史」」歷史と地理29-6 [36361
(參考：彙報「全國各大學史學科卒論題目一覧」、歷史地理59-4 [36362
日大：鮎澤信太郎「利瑪竇の世界圖に關する歷史的研究」)
彙報「三月の本會例會---蘆田伊人「江戸時代に於ける世界地圖智識發達の概觀」
歷史地理59-5 [36363
應問：鎌田生[宮城]「文檢西洋史料に必要なる指定書名を承りたし」
歷史教育7-1 [36364
史界近事「雜誌「西洋史學」の創刊」、歷史教育7-7 [36365
應問：三浦生[大分]「西洋史の原書を讀みたいのですが、何を讀んだらよいですか」(Meyer,General History/Robinson, General History)
歷史教育7-7 [36366
特集「明治以後に於ける歷史學の發達」、歷史教育7-9 [36367
------三上參次「史學發達今昔の感」
石田幹之助「西域史」
大類伸「西洋史學發達の回顧と展望」
池田哲郎「明治三十年以前の西洋史」
山中謙二「明治三十年以後の西洋史」
中川一男「フランスにあるローマ時代の遺跡」歷史教育7-10 [36368
史界近事「世界古美術展覽會」、歷史教育7-11 [36369
新著「濱田耕作譯=モンテリウス「考古學研究法」」歷史教育7-11 [36370
池田哲郎「一九三一年我國西洋史學界展望」西洋史研究1 [36371
新刊「エルンスト・ベルンハイム/小林秀雄譯「史學研究法」」史苑7-4 [36372
(參考：彙報「東京帝大文學部卒論」、(新)宗教研究9-3 [36373
哲學科：栃原敏房「ヘーゲルにおける歷史と形而上學的立場」
山内俊雄「ヘーゲルにおける歷史哲學」)
海外彙報「カリグラ帝の饗宴船の發掘」美術研究4 [36374
「世界のいろいろ」(ユリウス暦、ジュリアス・シーザー等)
ときのこゑ12/15 [36375
海外彙報「カリグラ帝の饗宴船の發掘」美術研究4 [36376
「主要新刊書目錄------ 故坂口昂「獨逸史學史」」書物展望2-7 [36377
竹内芳太郎「歐洲都市の近代「相」を讀む」建築世界7月號 [36378
新刊「ゾーム/岡田五郎譯「基督教會史」」基督教新聞2516(4/28) [36379
「週休と基督教」(ローマ帝國等) 基督教新聞2521(6/2) [36380
新刊「氣賀重躬「概說教會史」」基督教新聞2524(6/22) [36381
新刊「舘岡剛「基督教會史」」基督教新聞2524(6/22) [36382
新刊「山口德藏「イエス傳」」基督教新聞2531(8/7) [36383
新刊「賀川豐彦「コドモ・キリスト物語」」基督教新聞2531(8/7) [36384
海老澤亮「「破壞と崩壞」の印象」(シシリー島、ポンペイ等)
基督教新聞2537(9/22),2538(9/29),2540(10/13) [36385
D.①世界寓話家玉集・耳野卯三郎畫「牡鹿と葡萄」(イソップ)

家の光12月號(8-14) [36386
岸英雄『こどもイソップ』(兒童圖書舘叢書。←大13) [36387
②大儀見元一郎『新約聖書に關する希臘語文典』 [36388
世界戲曲全集刊行會『世界戲曲全集・別册−−−世界戲曲史』(北村喜八「世界演劇・戲曲前史」/佐藤雪夫他「世界演劇・戲曲各國史」) [36389
外山卯三郎『藝術史學の方法論』 [36390
小松耕輔『世界音樂史』(兒童圖書舘叢書) [36391
相良德三『西洋美術史』(兒童圖書舘叢書。←昭3) [36392
高柳伊三郎『ダンテ神曲序說』 [36393
中山昌樹『ダンテ神曲畫集』 [36394
ジョン・ラスキン/賀川豐彦譯『ヴェニスの石』 [36395
日獨文化協會編『ゲーテ研究』 [36396
茅野蕭々『ゲョエテ研究』(→昭18-19訂版) [36397
カッシーラ/佐藤明譯『ゲーテの思想』 [36398
三井光彌『父親としてのゲーテ』(→昭16,23重版) [36399
フランツ・メーリンク/土方定一・麻生種衛譯『レッシング傳說・第1部』 [36400
ハウイ・ライマン/岡田光雄譯『獨逸古典文學史批判』 [36401
富山房『富山房』(富山房新築落成記念、明19~昭7「富山房出版年史」。昭11年5版) [36402
由木康『讃美歌小史』(基督敎敎程叢書4) [36403
③＊[訂正・削除]~~昆祐三「歐洲裝釘史概說」書物展望2-9,10,11~~ [9832] [36404
＊[訂正]岩波講座「世界文學」中(→昭9) ------ [9823] [36405
第10中---- 野上豐一郎「ギリシヤ悲劇論」
岩崎良三「ホメロスを如何に讀むか」文藝汎論9月號 [36406
(參考：「諸大學卒業生の基督敎に關する論文」、基督敎新聞2510(3/24) [36407
・慶應大學(史學科)：齋藤成一「パピルスの發見と聖書研究」)
④＊[訂正]土井忠生「吉利支丹文學者養方パウロと其の作品」
國語・國文2-11,12 [9843] [36408
＊[訂正]「最近史界」史學研究4-2 中−−−− [9855] [36409
H.Dannenbauer,Die römische Peruslegende,H.Z.,Heft 2,1932」
＊[訂正・削除]岡田正三「古典學」京都帝國大學新聞176(2/5)
(→昭8.D.④) [9830] [36410
林健太郎「ダンテ・ルネサンス・歷史」校友會雜誌(第一高等學校)335 [36411
兼井聯「ステラ敎信仰」(戲曲) 校友會雜誌(第一高等學校)339 [36412
岩波講座「世界文學」中(→昭9) ------ [36413
第1中----林久男「文學の發生」
土居光知「文學形態論」
茅野蕭々「世界文學論」
野上豐一郎「比較文學論」
木村謹治「外國文學研究法」

第2中----竹友藻風「敍事詩」
第5中----辰野隆「フランス」
山宮允「イェーツ」
名原廣三郎「ヂョイス」
第6中----黑田正利「神曲」(ダンテ)
唐木順三「デカメロン」(ボッカチオ)
木村謹治「ファウスト」(ゲーテ)
第9中----松村武雄「神話及傳說」
馬場孤蝶「政治文學」
栗原古城「歷史文學」
戸川秋骨「傳記文學」
野上彌生子「童話文學」
金田鬼一「寓話文學」
松浦嘉一「ユートピア文學」
第10中----野上豐一郎「飜譯論」
小宮豐隆「喜劇及喜劇的精神」
第11中----岡倉由三郎「日本人の歐文文學」
正宗白鳥「日本文學に及ぼしたる西洋文學の影響」
塩田良平「日本文學に及ぼしたる西洋文體の影響」
木村毅・齋藤昌三「西洋文學飜譯年表」

石黑魯平「「外國語」教育諸問題の研究」教育學研究(東京文理大)1-9 [36414
藤井源一「澤木四方吉氏の「西洋美術史研究」」
京都帝國大學新聞165(7/5) [36415
(參考：「(慶大)文學部卒論」、三田新聞278(2/20) [36416
英吉利文學：井上五郎「ウォルター・ペイター論」）
加藤元彦「ゲーテの横顔を描く」三田新聞279(3/4) [36417
西脇順三郎「ゲーテと十八世紀思想」三田新聞282(5/20) [36418
大塚不二「獨逸に於けるゲーテ百年祭」三田新聞282(5/20) [36419
「ゲーテ百年祭の記念展覽會----二十六日から圖書舘で」三田新聞282(5/20) [36420
P.チェスカ「ゲーテの金言の中から」日本カトリック新聞338(4/3) [36421
(參考：「[九大]西洋史研究會記錄第4號」、史淵4 [36422
長[壽吉]教授「Neo-Classicismeと二州問題」）
新刊[寺尾]「故・澤村專太郎「東洋美術史の研究」」歷史と地理30-6 [36423
史界近事「矢代幸雄教授の渡米」、歷史教育7-12 [36424
春山行夫「新文學と「ユリシイズ」」三田文學7-3 [36425
龜井常藏「古典主義者の論爭」三田文學7-3 [36426
西脇順三郎「文學と學問」三田文學7-8 [36427
藏原惟人「藝術史の方法」中央公論2月號 [36428
木下一雄「澤木四方吉氏の「西洋美術史研究・上巻」」時事新報29 [36429
植田壽藏「美術史は作風の歷史なるか」(ヴィンケルマン等)哲學研究193 [36430
(參考：彙報「美學會」、哲學研究195 [36431
諏澤太郎「ヘーゲルの藝術家論」

井島勉「美術史の立場」（ヴィンケルマン）　）
（參考：彙報「大正大學昭和六年度宗教學科卒論」、（新）宗教研究9-3　[36432
田村道有「ダンテの思想に就いて」）
長谷川久一「操り人形ファウストと忠臣藏」斯民27-5　[36433
鶴田眞次郎「百年記念ゲーテ研究」哲學雜誌7月號　[36434
河崎珪一「ゲーテとトルストイ」エルンテ8　[36435
八百清顯「ゲーテに於ける世界文學の理念」エルンテ9　[36436
青木昌吉「ゲーテ百年紀念出版物の總決算」文藝春秋11月號　[36437
松岡敏幸「「ファウスト」の文獻について」季刊・批評11月號　[36438
山岸光宣「茅野蕭々氏の「ゲョエテ研究」を讀む」時事新報16　[36439
蘇峰生「茅野[蕭々]氏と三井[光彌]氏のゲーテに關する書」
東京日々新聞9/23　[36440
林久男「「ゲョエテ研究」（茅野蕭々）を讀む」東京朝日新聞11/7　[36441
平田禿木「「ユリシイス」と英吉利の評家」讀賣新聞3/3　[36442
E・R・クルティウス「ヂェイムス・ヂョイスと「ユリシーズ」」
新英米文學10,11,12月號　[36443
飯田安「クルティウスの「ユリシーズ」論」セルドン12月號　[36444
屋根安定「文獻學より見たる日本基督教史」新興基督教9月號　[36445
新村出「吉利支丹版稀書の回収」大阪朝日新聞11/28　[36446
「諸雜誌最新號所載倫理關係論文一覧」、倫理研究21　[36447
---- Kant Studien,Bd.xxxvii,H.1-2, A.Liebert, Goethes Platonisumus
新刊紹介「三井光彌「父親としてのゲーテ」」書物展望2-3　[36448
「主要新刊書目錄------日獨文化協會編「百年記念・ゲーテ全集」」
書物展望2-7　[36449
裝幀展望「ゲヨエテ研究」(第一輯)　書物展望2-10　[36450
石田憲次「基督教的文學論」英文學と教授8月號　[36451
菊池季生「ローマ字資料としての明治初期洋學入門書目」
讀書標(東京朝日新聞)7月分　[36452
讀者習作「ゲーテと英國」初等英語研究25-8　[36453
「ゲーテをめぐつて」作品3-4　[36454
牧野信之助「ゲーテ「ファウスト」の一考察」倫理研究18,19,23,24　[36455
新刊紹介「三井光彌「父親としてのゲーテ」」圖書舘雜誌26-4　[36456
推薦圖書「團伊能「概說・歐洲美術史」」圖書舘雜誌26-5　[36457
新刊紹介「石田憲次「基督教的文學觀」」(「ヘブライズムとヘレニズム」)
圖書舘雜誌26-8　[36460
推薦圖書「島村民藏「藝術學汎論」」圖書舘雜誌26-11　[36461
吹田順助「ゲーテと芭蕉---ゲーテ百年祭に因んで」一橋新聞149(3/12)　[36462
遠海春夫「ゲーテ崇拝の役割」一橋新聞158(7/23)　[36463
舟木重信「日本に於けるゲーテ書目」(日獨文化協會編「百年記念ゲーテ研究」中)
[36464
杉山産七「日本に於けるゲーテ文獻要覧」(日本ゲーテ協會編「ゲーテ年鑑」
第1~3巻[昭7年5月號~昭9年11月號]　[36465

(參考：「ハイドンとゲーテを記念せる彦根教會」、基督教新聞2521(6/2)　[36466
----- (彦根商高特別講義「ゲーテの思想に就て」/「ゲーテとハイドンの夕」：
竹内清「ハイドンとゲーテの生涯」/金子白夢「ゲーテの宗教觀」)
高橋源次「「基督教的文學觀」を讀む(續)」(石田憲次著。「ヘブライズムとヘレニズム」、「マシュウ・アーノルドの藝術觀」)
基督教新聞2535(9/8)　[36467
新刊「大儀見元一郎「新約聖書に關する希臘語文典」」
基督教新聞2549(12/15)　[36468
E.②杉森孝次郎『社會倫理學概說』　[36469
(懸賞當選作)榊原巖『基督教社會經濟倫理』(基督教思想叢書第3輯・第6巻)
[36470
田口芳五郎『カトリック的國家觀----神社參拜問題を繞りて』(→昭8・改訂增補3版)　[36471
菅圓吉『基督教社會化の理論』　[36472
室伏高信『ムッソリーニとムッソリーニ運動』　[36473
飯田忠純『「法律史」と「法制史」との限界』(法制史研究・第一輯)　[36474
③村田數之亮「アテナイ國家と在留外人---前四世紀を中心に」
歷史と地理29-2　[36475
小早川欣吾「西ゴート王アラリック二世の發布したる羅馬人法」
歷史と地理29-5/30-1,2　[36476
(參考：彙報「全國各大學史學科卒論題目一覧」、歷史地理59-3　[36477
・廣島文理大：吉永壽「古代ローマにおける法と社會との關係」
・慶應義塾大：近山金次「古代ガリヤに於ける政治制度と其の統一的氣運の變遷に就いて」
・早稻田大：原田秀雄「ポエニ戰後に伴ふ羅馬社會經濟變革論」)
岩間松太郎「神の國思想の研究」社會的基督教・創刊1號　[36478
(參考：「第一回市民福音學校」、基督教新聞2507(2/25)　[36479
---- 岩間松太郎「基督教社會思想史」)
(參考：「感謝の終わりを告げたる第一回市民福音學校」、
基督教新聞2527(7/14)　[36480
---- 岩間[松太郎]校長「基督教社會思想史」)
④田中芳五郎「現行教會法研究の一般的序說---マリオ・ファルコ氏の著書を繞りて」
(ローマ・ユスティニアヌス法) カトリック12-12　[36481
(參考：彙報「全國各大學史學科卒論題目一覧」、歷史地理59-3　[36482
東北大：金倉英一「マキャヴェリ研究」
(參考：彙報「帝國學士院の學術研究費交附者決定」、歷史地理59-5　[36483
船田享二「ユースチニアーヌス帝欽定學說彙纂第八巻邦譯」)
彙報「横井春野「世界商業史」」歷史地理60-1　[36484
新刊「藤井[健次郎]博士全集第4「正義・國家の倫理」」哲學研究199　[36485
三宅雄二郎「商業主義の蔓延」(ソクラテース、プラトーン關聯)
丁酉倫理會倫理講演集352　[36486
應問・五十嵐生(京都)「ファシズムの意味其他」、

丁酉倫理會倫理講演集359 [36487
-----答・語源的には古代ローマの執政官の官標であつたファスケス(Fasces)に由來。
吉田靜致解說「國際法の倫理的基礎」(W.F.Roemer,The Ethical Basis of International Law,1929.プラトーン、アリストテレス、グロチウス等)倫理研究22 [36488
(參考：彙報「本年度卒論」(東大)、倫理研究23 [36489
柳澤仁志「ボザンケットの哲學的國家理論について」)
新刊紹介「田中耕太郎「世界法の理論」」書物展望2-3 [36490
吉野作造「ブルンチュリ・政法學書邦譯」書物展望2-10 [36491
難波田春夫(紹介)「スタニイ・ウンダア「經濟哲學史」」經濟學論集(東大)2-10 [36492
上原專祿「ドプシュ教授のことども」一橋新聞146(1/1) [36493
「世界の苦惱と理想社會の憧憬」(ギリシヤ人の四德等)基督教新聞2509(3/10) [36494
「神の國運動--- 東京地方教師修養會」(ローマ人、ギリシヤ人等)基督教新聞2543(11/3) [36495
「學校と宗教」(東京カトリック學生聯盟、田中耕太郎「中世に於ける自然法の特徵」) 基督教新聞2547(12/1) [36496
F.②新城計藏『こよみと天文』(東西比較天象三枚等附圖共) [36497
兒玉帶刀『理化學史物語』 [36498
小坂正行『世界數學史』(兒童圖書舘叢書) [36499
③＊[訂正](?)「オリンピックの起原」婦人運動10-7 [9943] [36500
小林基「ぴたごらすノ定理ニ就テ」(日本中等教育)數學會雜誌14-2 [36501
④＊[訂正]石原純「自然科學のルネッサンス」帝國大學新聞534 (←A.) [17273] [36502
村岡典嗣「司馬江漢の天地理說に就て」ドルメン8(11月說) [36503
(參考：彙報「全國各大學史學科卒論題目一覽」、歷史地理59-3 [36504
東大：原種行「Ueber den Geschichtscharakder des heliozen erischen Welt-systems von Nicolaus Coppernichus(ニコラウス・コペルニクスの地動說的宇宙體系の歷史性に就いて)」)
下村寅太郎「數理哲學の一方針」(ギリシア等)哲學研究194 [36505
清水藤太郎「我國藥名に及ぼせる外國語の影響」本草1,3,4 [36506
窪田忠彦(第14回總會ニ於ケル講演)「初等幾何學作圖問題ノ歷史」(パップス A.D.340生存等)(日本中等教育)數學會雜誌14-4・5(合) [36507
推薦圖書「藤原安治郎「少年數學史」(上下)」圖書舘雜誌26-5 [36508
推薦圖書「清水英一「幾何學史物語」」圖書舘雜誌26-12 [36509
辻正次「小倉金之助著「數學教育史」」讀賣新聞9/3 [36510
山本良吉「「泰西醫學史----古代中世篇」」東京日々新聞9/29 [36511
G. ＊[訂正]「哲學文獻(邦語に依る)」、理想32 [9681] [36512
辭典：岩波哲學辭典、朝永三十郎編「哲學辭典」、同文舘編「哲學大辭書」

(6册)

板澤武雄「厚生新編譯述考」史學雜誌48-3 [36513
藤村作編『[新潮社版]日本文學大辭典・第一巻』(新村出「吉利支丹文學」) [36514
渡邊萬藏『法律辭書』 [36515
新著「龜井・野上・石原編「岩波・西洋人名辭典」」歷史教育7-12 [36516
蘇峰生「平凡社大百科辭典」東京日々新聞9/14 [36517
中目覺『外來語新辭典』 [36518
應問・山田生(三河)「哲學辭典?」、丁酉倫理會倫理講演集354 [36519
---答・岩波哲學小辭典。
應問:(某氏)「第五十五回文檢修身科受驗記」、丁酉倫理會倫理講演集356[36520
---答・雜之部:渡邊[聖龍]氏「哲學辭典」
貞松修藏「ハルマ和解について」圖書舘雜誌26-3 [36521
改造社調查部編『最新世界人名辭典』 [36522
市川源三編『哲人文士圖鑑』 [36523

昭８(１９３３)

A. ＊[訂正]ブレステド著/間崎萬里譯『古代文化史』 [9978] [36524
＊[訂正]書評・有賀春雄「ブレステド著/間崎萬里譯「古代文化史」
史學12-3 [9980] [36525
＊[訂正](參考:彙報「昭和八年度各帝國大學哲學關係學科講義題目」
哲學雜誌556 中 [23732] [36526
東北帝大:古代哲學史演習(Plato:Politeia、石原)
カンドウ「世界を眺めて」(ストイック的態度、マルクス・アウレリウス等)
聲685 [36527
比屋根安定『聖ザ井エル傳』 [36528
櫻井匡『教派別日本基督教史』 [36529
上智カトリック・インフォメーシオン編『日本カトリック圖書目錄』 [36530
浦川和三郎「基督教と世界文化」(聖アウグスチヌス、聖トーマス・アクイナス
等)カトリック13-7 [36531
瀧川規一「伊太利ところどころ」地球19-3 [36532
福原麟太郎「地中海」風5月號 [36533
澁澤敬三「伊太利旅行記」(大2刊「祭魚洞雜錄」中) [36534
推薦圖書「阿部次郎「游歐雜記」」(ニーチェ等) 圖書舘雜誌27-10 [36535
(參考:[九大]昭和8年度第一學期史學關係講義題目中、史淵6 [36536
基督教と希臘思想との調和(佐野)、哲學概論(鹿子木)、西洋古代及中世哲學史概說第一部(四宮)、西洋近世哲學史第一部(中島)、西洋倫理學史(大島)、佛文學史概說(須川)、獨逸文學史(小牧)、獨逸文學史概說(佐藤))
(參考:昭和8年度第二學期九大史學關係講義題目中、史淵8 [36537
宗教學史(佐野)、西洋倫理學史(大島)、西洋古代及中世哲學史概說第一部(四宮)、哲學概論(鹿子木)、西洋近世哲學史第二部(中島)、近代政治學史(今中))

紹介「ウェルス/一旗茂助譯「世界小文化史」」歴史地理61-1 [36538
（參考：東大國史學科日歐交通史の新講義、歴史地理61-6 [36539
板澤武雄「蘭學關係竝に蘭學の發達」 ）
編輯局「文檢研究第13回・模擬試驗成績發表」歴史教育8-3 [36540
谷口初意（福井）「エーゲ海文明とは何ぞや」
（參考：史界近事「新學年講義題目」、歴史教育8-3 [36541
東大：日蘭關係竝蘭學の發達（板澤）、西洋史概説（佐藤）、ローマの興隆（村川）、史學概論（今井）
東京文理大：史學原論及史學研究法（中川）、西洋史學（齋藤） ）
（參考：史界近事「各大學卒論」、歴史教育8-12 [36542
東大：生田俊夫「プロヴァンスにおけるギリシヤ的要素」）
（參考：［立教大學］昭和8年度史學科講義題目中、史苑8-2 [36543
フランク・ゲルマン世界(小林)、史學概論（小林）、原始經濟研究（岡田）、西洋美術史（辻） ）
（參考：彙報「京都帝大文學部昭和8年度講義題目」、哲學研究206 [36544
哲學概論（田邊）、特殊講義（認識・存在・行爲、田邊）、中世哲學史（山内）、特殊講義（マテシスとロゴス、山内）、演習（Platon:Thaetetus、山内）、心理學概論（野上）、倫理學原論（和辻）、教育學概説（篠原）、美學序論（植田）、特殊講義（藝術の類型、植田）、特殊講義（希臘彫刻史、ペルシヤ戰爭期、須田）、宗教學概論（波多野）、Plotinosの宗教哲學[Enneades Vの解釋］、波多野)特殊講義（基督教の起源、山内)、希臘語（Tanaka:Graecae Grammaticae Rudimenta, Platon:Crito, Herodotos: Selections from Herodotos,Homeros: Iliad [xiii-xxiv], Aiskhylos: Prometheus bound, Demosthenes: On the Crown, 田中・波多野)、羅甸語（Tanaka:Nova Grammatica Latina, Cicero: De Senectute, Tacitus: Germania, Ovidius: Selections from Ovidius, Vergilius: Aeneis、田中))
（參考：「（一橋大學）レーアプランの内容」、一橋新聞166(1/1) [36545
選択科目：經濟學史(大塚)、歐洲中世經濟學説（上田辰）、歐洲中世經濟史(上原)、哲學概論(杉村)、哲學史(山内得)、ギリシヤ語(山内得)、ラテン語(上原)、獨逸近代思潮史(吹田) ）
井上哲次郎「孤立日本の將來」(ピタゴラス、ソクラテース、プラトーン、ソフォクレス、エスキュロス、オイリピデス、マラソンの戰、セルモピレーの嶮、ペロポンネソスの戰爭、雄辯家デモステネース等)
丁酉倫理會倫理講演集366 [36546
バートランド・ラッセル「基督教は文明に寄與する所ある乎」(ストア主義、ルクレチウス關聯、no.369,p.77「余自身の宗教觀はルクレチウス(羅馬詩人、紀元前98-55) の宗教觀である。余は宗教を以て恐怖より生じたる一種の疾病なりとし、且つ人類に對して無數の悲慘困窮を與へた根源なりと見做すものである。」)
丁酉倫理會倫理講演集369,370 [36547
B.①フォン・ハルナック著/山谷省吾譯『アウグスティン懺悔錄』（岩波文庫。←昭4初

版） [36548
「マルクス・アウレリウスの言葉」（p.27）聲686 [36549
「聖人言」(聖アウグステイヌス。P.45)聲689 [36550
「聖者言」(聖アウグステイヌス。P.44)聲690 [36551
「聖者言」(聖アウグステイヌス。P.14)聲691 [36552
「聖者言」(聖アウグステイヌス。P.11)聲692 [36553
「聖者の言葉」(聖アウグステイヌス。P.26)聲693 [36554
「日はく集」(プロタゴーラス、ユークリドゥス、ヘラクリトウス)聲693 [36555
アウグスチヌス「友よ！眞理へかへれ(2)」日本カトリック新聞378(1/8) [36556
「聖アウグスティヌスのことば」日本カトリック新聞402(6/25) [36557
アウグスティヌ「キリスト教會建設の意志ありや」
日本カトリック新聞403(7/2) [36558
②村田四郎『パウロ思想概説』(基督教教程叢書9) [36559
高橋一男・黒田四郎『パウロ宗教の成立』 [36560
佐藤良雄『ヨハネ福音書の研究』（新版） [36561
黒崎幸吉『聖書の世界觀』 [36562
ヴィンセント・マックナップ/小林珍雄譯『カトリック教會と哲學』 [36563
三井芳太郎『基督教倫理學』（宗教學叢書16） [36564
イ・エフ(E.F)スコット/熊谷政喜譯『新約聖書に現はれたる神の國』 [36565
舘岡剛『基督教教理史』 [36566
佐藤繁彦『羅馬書講解に現はれたるルッターの根本思想』 [36567
高楠順次郎『高神學---佛教人間學』（ギリシヤ的人間學、デオニシス主義人間學等） [36568
蓑田胸喜『學術維新・原理日本』(第一篇(7)「西洋哲學史上に於ける辯證法の經歷」) [36569
西村先生傳記編纂會『泊翁・西村茂樹先生傳』（上下2巻） [36570
谷川徹三『思想遠近』 [36571
土田杏村『思想讀本』（「マルクスの傳記」） [36572
エマアソン/柳田泉譯『代表偉人論』(春秋文庫第3部3) [36573
ヒルティ/守谷英次譯『教育の仕方』(→昭17・訂再版) [36574
ヒュウ・エイ・レイバアン/陶山務・所一郎譯『ヘエゲル哲學への道』 [36575
③少女小說・香取ちよ「首飾り玉」（ギリシア神話、アリストテレス等）聲686 [36576
詩詩人・哲學哲人「アリストテレス」(p.68)聲687 [36577
大塚節治「イエスに於ける最高善としての神の國」基督教研究10-3 [36578
（參考：「(京都帝大)文學部卒論」、京都帝國大學新聞175(1/21) [36579
哲學科：松村克己「アウグスチーヌスに於ける惡の問題」
增田四郎「プラトンのパルメニデス篇に就いて」）
（參考：「京都哲學會公開講座」、京都帝國大學新聞191(11/21) [36580
山内得立「アナロギア思想の位置」）
田口芳五郎「聖ヨハネ福音書に於ける「序文」と「ロゴス」とに就いての研究」（ギリシア語等）
カトリック13-6,7,8,10,11,12 [36581

（參考：彙報「全國各大學史學科學生の卒論」、歴史地理61-3 [36582
東大：田中悦平「ヘレニズム世界の宗教文化と初期基督教との關係」）
（參考：彙報「全國各大學史學科學生の卒論」、歴史地理61-4 [36583
東北大：藤本範夫「ユリアヌス帝の宗教政策に就いて」）
三谷隆正「地上の國」日本聖書雜誌5月號 [36584
岩崎良三「ヒュウマニズム」三田文學8-12 [36585
福島正雄「プラトンの教育思想(3)」混沌8月號[(1),(2)の號數不明] [36586
（參考：彙報「京都帝國大學文科卒論」、哲學研究204 [36587
松村克己「アウグスチーヌスに於ける惡の問題」 ）
松村克己「アウグスチーヌスに於ける惡の問題」哲學研究212 [36588
應問・藤村長四郎（三重）「(3)プラトーは調和は善だと申しました。アリストテレスの見解は如何ですか」、
丁酉倫理會倫理講演集364 [36589
-----答・プラトーとアリストテレスは瑣末な點を除けば、大體に於いてその倫理說を同じうし、人間の天賦の性能が充分に且つ自由に伸張され、而もそれらが矛盾なく圓滿に調和してゐる境地を理想としてゐます。
「(5)左の事項に簡單にお答へ下さい。**(a)**イデア(b)ロゴス」
-----答・**(a)** イデアは「見る」といふ言葉からでたギリシヤ語で、見られる「形」「相」などといふ意味から轉じて、理性によつて見られる「形」「相」といふ意味に用ひられた。例、プラトー。(b)ロゴスは言葉又は悟性といふ意味を原義としてゐます。例、ヘラクレイトス、ストア派。
田村一郎「昭和七年度文檢中等教員修身科豫備試驗問題擬答」
丁酉倫理會倫理講演集366 [36590
「2,ストア派の倫理說を述べよ」---答・(1)發達(2)學系と學風(3)汎神論的世界觀(4)德・自然法(5)情念及解脫(6)賢者(7)隱遁・自殺(8)德・善・罪・惡(9)世界主義(10)國家觀
（參考：「第16回關西學院神學部夏季學校」、基督教新聞2579(7/26) [36591
---- 松下績雄「新約聖書の思想背景」）
④＊[訂正]今泉三良「アリストテレス中世期ラテン譯全集と中世期ラテン辭書との出版計劃」哲學雜誌562 [10059] [36592
＊[訂正・削除]~~レーヴィット/北山淳友「キェルケゴールとニーチェ」理想39~~ [10092] [36593
＊[訂正]新刊「Louis Gernet et Andre Boulanger,Le génie grec dans la religion,1923」宗教研究10-4 [10107] [36594
＊[訂正・削除]~~横光利一「「思想遠近」を讀む---谷川徹三氏の近業」（「ゲーテ研究」）帝國大學新聞516~~ [17346] [36595
＊ [訂正]書評・土田杏村「岡田[正三]氏新譯「プラトン全集」を讀む」京都帝國大學新聞192(12/5) [10111] [36596
岩波講座「哲學」第7,10------ [36597
・岩下壯一「新スコラ哲學」/・野上豐一郎「日本に於け西洋思想移植史」/
・三宅雄二郎「明治哲學界の回顧」/・石原謙「大學の歷史」
篠原助市「ディルタイと文化教育學」教育學研究(東京文理大)1-10 [36598

(參考：「昭和八年度各官立大學教育學科卒論」、
教育學研究（東京文理大）2-1 [36599
京都帝大：木村正直「シルレルの美育の考察」）
「美とは?」(アリストテレス、聖トーマス・アクイナス等。P.35)聲688 [36600
問と答「聖トマの神の存在に就いての宇宙論的說明につきまして」聲689 [36601
「ことば」（ニーチェ。p.35）聲690 [36602
「日はく集」(モンテイヌ)聲693 [36603
(參考：「(慶大)文學部卒論」、三田新聞296(2/17) [36604
倫理學：[川合貞一教授下]足立武夫「ニイチェと耶蘇」
西洋哲學：[船田三郎教授下]松本正夫「開闢の論理學的研究」）
ウゴリン・ノル「學の觀念の轉向とカトリック的學」カトリック13-8 [36605
＊ [訂正]浦川和三郎「カトリック教會の學的貢獻」(ローマ帝國、ユリアヌス帝、コンスタンチヌス帝等)
カトリック13-10 [10063] [36606
内山善一「無神論に就いて」(ソクラテス、アナクサゴラス、キケロ、デモクリトス、エピクロス等) カトリック13-11 [36607
「この人を見よ----ラファエル・ケーベル」日本カトリック新聞406(7/23) [36608
學藝「大學定期出版物より見たる萬國大學生の思想動向(上)」(イタリー「基督教的理想主義」）
日本カトリック新聞406(7/23) [36609
新刊「尹亨重/寺島鐵治譯「聖トーマス哲學の序曲」」(アリストテレス、ソクラテス、プラトン等) 日本カトリック新聞412(9/3) [36610
新刊「ヴ井ンセント・マックナップ/小林珍雄譯「カトリック教會と哲學」(希臘哲學の崩壞から)
日本カトリック新聞420(12/31) [36611
書評・有賀鐵太郎「F.C.Burkitt,Church and Gnosis」基督教研究10-4 [36612
外國文學講座・吉江喬松「アナトオル・フランスの生涯と作品」
婦人公論18-6 [36613
（參考：編輯局「文檢研究第20回模擬試驗成績發表」歷史教育8-10 [36614
渡野邊和吉（千葉）「ヨーロッパ中世に於ける大學について」)
（參考：彙報「京都帝國大學文科卒論」、哲學研究204 [36615
木村正直「シルレルの美育の考察」）
井島勉「十八世紀における美の觀念性の問題」哲學研究205 [36616
（參考：彙報「哲學研究會---石田仁「ディルタイの世界觀學」」、
哲學研究207) [36617
上田大助「種々の時間の關係に就いて」哲學研究213 [36618
由良哲次「ヘーゲルに於ける理念と實踐」道德教育2-3 [36619
山室軍平「山と宗教」(アントニー、アレキサンドリア等)ときのこゑ8/1 [36620
陶山務「「哲學概論」を讀む」（得能文・高橋順治）時事新報3/21 [36621
高山岩男「「辯證法の理論の歷史」」（三木清）内務省納本月報9月號 [36622
有山昌造「西周哲學著作集」（麻生義輝）國民新聞11/19 [36623
内堀維文「滿洲國の將來と其教育」(プラトー等) 丁酉倫理會倫理講演集363[36624

香原一勢「認識不足と指導原理及自力更生」(ギリシアのソフィスト時代、プロタゴラス、ゴルギアス、ソークラテース等) 丁酉倫理會倫理講演集363 [36625
新刊「井上忻治「ウィンデルバント・一般哲學史II」」丁酉倫理會倫理講演集363 [36626
新刊「陶山務「魂は哲學する」」(ギリシア哲學、羅馬ネロ帝の時代、スエトニウス等) 丁酉倫理會倫理講演集363 [36627
應問・藤村長四郎(三重)「(1)齋木仙醉先生著「ソクラテス」p.89に“everything to everybody”の句があります」、丁酉倫理會倫理講演集364 [36628
----答・私も不明瞭です。齋木仙醉といふ人は、明治末期に續出したいはゆる預言者の一人ではなかつたかと思ひます。
新刊「安岡正篤編著「ネロの名臣セネカ語錄」」丁酉倫理會倫理講演集366 [36629
新刊「得能文「哲學概論」」丁酉倫理會倫理講演集367 [36630
新刊「陶山務・所一郎譯「ヘーゲル哲學への道」」丁酉倫理會倫理講演集367 [36631
深作安文「生きることの倫理」(ソークラテース關聯)丁酉倫理會倫理講演集368 [36632
新刊「田中義能「系統的西洋教育史」」丁酉倫理會倫理講演集370 [36633
新刊「岡田正三譯「プラトン全集・メノン篇」」丁酉倫理會倫理講演集371[36634
海外思潮・中島俊教「ベルグソンの宗教觀---- 道德宗教の二根據」(希臘羅馬哲學、プリュタルク、ソクラテス、プラトン、モンテスキュー等)丁酉倫理會倫理講演集372,373,374 [36635
岡田哲藏「彼れ死より甦れるにあらず」(希臘哲學等)丁酉倫理會倫理講演集373 [36636
新刊「(竹村清譯)「聖アウグスチヌス・基督教綱要」」新興基督教6月號 [36637
松本卓夫「村田四郎氏著「パウロ思想概說」について」新興基督教9月號 [36638
新刊雜景「岡田正三譯「メノン篇」」(プラトン)書物展望3-8 [36639
戸坂潤「實踐的唯物論の哲學的基礎」(プラトン、アリストテレス、パルメニデス等) 理想38 [36640
大副公生「西洋教育史概說」教育修身研究5月號 [36641
新刊紹介「福島正雄「希臘教育史」」圖書舘雜誌27-1 [36642
新刊紹介「小野正康「西洋倫理學史」圖書舘雜誌27-2 [36643
新刊紹介「ウテッツ/佐藤明譯「美學問題史」」(ギリシヤ等)圖書舘雜誌27-10 [36644
新刊紹介「岡田正三譯「メノン篇」」(プラトン全集中) 圖書舘雜誌27-10 [36645
新刊「フォン・ハルナック/森敬之譯「基督教神學及び教會教理の成立」」基督教新聞2556(2/9) [36646
森敬之「ベルリン大學の神學教授たち」(ハルナック、ダイスマン、センベルヒ、カアル・シュミット、リーツマン)

基督教新聞2559(3/2),2560(3/9),
2562(3/23), 2563(3/30) [36647
松原大八「復活の根本精神」(ギリシヤ思想等) 基督教新聞2564(4/6) [36648
新刊「カール・ハイム/菊池雄一譯「新しき神の世界」(パウロのアレオ山說教の解說) 基督教新聞2565(4/13) [36649
新刊「(オー・レー・)リンゼー/鷲山第三郎譯「基督教倫理序說」」
基督教新聞2565(4/13) [36650
長坂鑒次郎「樂の如くに」(聖アウグスチン等) 基督教新聞2568(5/4) [36651
讀後感(K.Y.)「オー・レー・リンゼー/鷲山第三郎譯「基督教倫理序說」を讀む」
基督教新聞2577(7/6) [36652
新刊「舘岡剛「基督教教理史」」基督教新聞2578(7/13) [36653
讀後感・K.Y.生「村田四郎氏著「パウロ思想概說」」(ギリシヤ思想藤)
基督教新聞2581(8/3) [36654
色川猷次「禱告の勸め」(聖オーガスチン等) 基督教新聞2584(8/24) [36655
新刊「三井芳太郎「基督教倫理學」」基督教新聞2584(8/24) [36656
菅原菊三「バルト神學は更に發展した(1)(3)」(オーガスチン、アクイナス等)
基督教新聞2586(9/7),2588(9/21) [36657
清水武「故森敬之君畧歷」(「逝けるアドルフ・フォン・ハルナック教授」、「基督教神學及び教會教理の成立」、「グノーシス研究の資料及問題」、「殉教者ユスチヌスの神學」)
基督教新聞2587(9/14) [36658
讀後感(K.Y.)「プロテスタンティズムの意義及將來--- イング著/岸千年譯「プロテスタンティズム」[新生堂發行]について」(ギリシヤ思想、ロマ帝國等) 基督教新聞2598(11/30) [36659
C.②歷史教育研究會編『明治以後に於ける歷史學の發達』 [36660
德富猪一郎『東西史論』 [36661
大類伸『歷史學概論』 [36662
ヘーゲル/鬼頭英一訳『歷史哲學・1, 2』(春秋文庫第3期30,31) [36663
石川三四郎『歷史哲學序論』 [36664
曾我重郎『東西喫煙史』(新村出「序」) [36665
三井高陽『交通物語』(→昭12再版「交通文化物語」) [36666
江村寬一『基督教の起源と使命』 [36667
河邊滿甕『概說舊約地誌』(基督教教程叢書8) [36668
木下哲太郎『ユダヤ民族迫害史』(基督教モノグラフ叢書2) [36669
浦川和三郎『舊約史要』(中) [36670
八代斌助『主イエス』(→昭22再版) [36671
富永德磨『聖書耶蘇傳研究』(續) [36672
松永德次郎『パウロ傳引照---附・同勞者列傳』 [36673
麻生隆義『パウロ書翰概說』 [36674
バルト/丸川仁夫譯『ロマ書----バルト神學要綱』 [36675
平松實馬『ヘブル書講解說教』 [36676
佐藤良雄『ヨハネ福音書の研究』 [36677

別所梅之助『聖書民俗考』 [36678
小平國雄『聖書の歴史地理』(上巻。日曜學校パンフレット2) [36679
③エリザベット・フォン・シュミット・パウリ作/ブルノ・プリカ譯「勇者タルチジウスの話」聲684,685,687,688,689 [36680
野々村戒三「カルタゴと其の歴史」史觀2 [36681
(參考：彙報「全國各大學史學科學生の卒論」、歴史地理61-3 [36682
東大：鹿島仁「ネロ皇帝の基督教迫害に就いて」)
(參考：彙報「全國各大學史學科學生の卒論」、歴史地理61-4 [36683
東北大：照井豐「アウグストスと彼の時代の經濟?態との關係に就いて」)
(參考：編輯局「文檢研究第18回模擬試驗成績發表」歴史教育8-8 [36684
花澤亨(千葉)「ローマに於ける社會問題を概觀せよ」)
(參考：編輯局「文檢歴史科豫備試驗問題」歴史教育8-8 [36685
第1日分「五、ローマ興起以前ガリアに於ける民族の分布」)
(參考：史界近事「各大學卒論」、歴史教育8-12 [36686
東大：藤井泓「ローマ帝政初期に於ける奴隷の社會的地位に就て」
慶應義塾大：穴澤榮三郎「古代イオニア都市の經濟的發展と東方勢力との關係に就て」)
誌上映画「クレオパトラ」家庭4-12 [36687
ヴェー・ケーラー/渡邊泰三郎譯「國家と教會---問題の成立」哲學研究209[36688
「アレオパゴスの記念蔡」(寫眞・說明、p.2)ときのこゑ7/15 [36689
岡田哲藏「ボアデイシーア(Boadicea)女王の抗爭」
丁酉倫理會倫理講演集364 [36690
高橋皐三「イエスの衣食住」(ポンペイ、ギリシアの逍遙て哲學者等)
基督教新聞2555(1/1) [36691
(參考：「第二回市民福音學校の開催」、基督教新聞2562(3/23) [36692
----- 今泉眞幸「ユダヤ民族史」/鈴木浩二「基督教畧史」)
高橋元一郎「初代の迫害、再臨信仰、助け合ひ」(ウェルズ「世界文化史大系」、ディオクレデイアヌス帝等) 基督教新聞2565(4/13) [36693
長谷川直吉「救主イエスの降誕」(プラトー、アレキサンダー大王、ホーマー、オーガスタス帝等) 基督教新聞2599(12/7) [36694
佐藤健男「ヘロデ王とイエスの誕生」(ロマ共和國末期、アントニー、妖婦クレオパトラ等) 基督教新聞2620(12/14) [36695
④＊[訂正]石川興三「ヘーゲル史觀の實踐的構造」經濟論叢36-4,5 [10156] [36696
＊[訂正]＊海外史界・村川堅太郎「西洋史---最近の古代史界(二、ギリシヤ・ローマ)」史學雜誌518 中 [10168] [23776] [36697
R.Carrington,“The Etruscans and Pompeii”(Antiquity6(21)March,1932)
海外史界・宮城良造「中世史界の現況」史學雜誌519 [36698
Ed.Beninger,Der westgotisch-alanische Zug nach Mitteleuropa,Lpz.,1931
D.G.Merin,Un groupe inconnu de marytyrs goths dans un sermon anonyme d’ Origine barbare,H.Jb.52,1932
R.Macaigne,L’Eglise mérovinginne et l’ état pontifical,Paris,1922
Fr.Schneider(hrg.),Deutsches Dante-Jahrbuch,Bd.12,1930
＊[訂正]松本芳夫・有賀春雄「史學理論文獻目錄」史學11-4 [10179] [36699

・【明治】下山寛一郎「史學史」(史學雜誌)、山縣昌藏「歷史哲學の大要」(史學雜誌)、ヘーゲル/澁江保譯「歷史研究法」(通俗教育全集)、後藤寅之助「史學綱要」、浮田和民「史學通論」、久米邦武「歷史學の進み」(史學雜誌)、村川堅固「歷史研究法」(史學界)、坪井九馬三「歷史學」、下山寛一郎「史學史」(哲學舘)、さこん「希臘の二大史家」(史學界)、磧川生「スキヂデス」(史學界)、山路愛山「史學論」(國民新聞)、坪井九馬三「史學研究法」(東京專門學校)、建部遯吾「歷史研究の精神を論じて歷史哲學及文明史に及ぶ」(史學雜誌)、阿部秀助「近世獨逸史學史」(早稻田大學)、阿部秀助「アクトン卿」(史學界)、阿部秀助「ウィンケルマン(獨逸史學史の一節)」(史學界)、末松謙澄「史學研究法に就きて」(史學雜誌)、坪井九馬三「史家としてのマルクス」(史學雜誌)、立柄教俊「ラムプレヒト氏著「歷史とは何ぞや」(新著梗概3)、阿部秀助「古代史研究の方法に就きて」(歷史地理)、江部淳夫「文明及文明史の研究法」(社會學論叢)、内田銀藏「史學と哲學」(藝文)、山路愛山「史學を論ず」(國學院雜誌)、村田岩次郎「歷史と言語學」(三田學會雜誌)、桑木嚴翼「歷史哲學の問題」(史學研究會講演集)、深田康算「美術史及美學に就て」(東亞之光)、【大正】大類伸「オイケンの歷史哲學「讀史抄錄」」(史學雜誌)、大類伸「中世史研究の新基礎「讀史抄錄」」(史學雜誌)、内田銀藏「「世界」の觀念」(大阪毎日新聞)、坂口昂「古代史研究の發展につきて」(史學研究)、植村清之助「史學と文學」(歷史地理)、夏山繁樹「歷史とは何ぞや」(歷史地理)、坂口昂「世界史の古今觀」(歷史と地理)、植田壽藏「美術史の對象」(哲學研究)、新村出「言語の研究と古代史の研究」(民族と歷史1-1)、大類伸「戰時獨逸史學の一面」(史學雜誌)、兒島喜久雄「美術史に於ける傳記の意義」(哲學雜誌)、カミイ・ジュリアン/田中萃一郎譯「「古代國家論」の五十年紀」(三田學會雜誌)、カアル・ランプレヒト/和辻哲郎譯「近代歷史學」、林博太郎「歷史哲學の意義」(東亞之光)、米田庄太郎「新理想主義の歷史哲學」(輓近社會思想の研究・上巻)、瀧本誠一「歷史と歷史家」(三田學會雜誌)、坂口昂「リース博士「新世界史」」(史林)、三宅米吉「數と歷史について」(日本中等數學教育學會雜誌3-4,5)、モリツ・リッタ/小野田萬壽譯「政治史と文化史」(史學雜誌)、田中萃一郎「希臘の二大史家」(史學)、鈴木錠之助「アクトン卿」(史學)、桑木嚴翼「文化史の研究に就て」(中央史壇)、飯田忠純「シペングレル「泰西の結末」を讀む」(史學)、橘惠勝「史學とは何ぞや」、小林孤村「クローツェの歷史論」(國學院雜誌)、波多野精一「歷史の意義に關してギリシヤ思想とヘブライ思想」(哲學研究)、間崎萬里「歐米の死學研究五十年」(史學)、橋本孝「大正十一年の雜誌に表はれたる「歷史哲學」概觀」(史學)、丹羽正義「歷史學概論」、ヘルデル/田中萃一郎譯「歷史哲學(上)」(泰西名著歷史叢書)、坂口昂「獨逸史學の二大百年紀念」(史林)、オット・ブラウン/京口元吉譯「歷史哲學概論」、關榮吉「ヘーゲルの歷史哲學」(思想)、朝日融溪「地理は歷史の土臺なり」(中央史壇)、關未己榮「過去の歷史哲學」(經濟及商業4-1)、原隨園「ツキヂデスの史學に就いて」(史學)、關榮吉「ラムプレヒトの

文化發展時代分け」(社會學雜誌11)、原隨園「ポリビオスの史風」(史林)、ヘルデル/川合貞一譯「歷史哲學(下)」(泰西名著歷史叢書)、大野辰見「商業史と經濟史」(商業及經濟研究39,40)、澤木四方吉「美術史家ヴェルフリン」(思想)、坪井九馬三「改訂增補・史學研究法」、オスヴァルト・スペングラー/松村正俊譯「西洋の沒落」、板垣鷹穗「歷史學的勞作と歷史家の個性」(哲學1)、ベネデイ・クロオチェ/羽仁五郎譯「歷史敍述の理論及び歷史」、小林秀雄「文化史發展の跡を顧みて」(國學院雜誌33-1,2,3,4)、下澤瑞世「歷史學の比較文化史への歩み」(歷史教育1-3,4,5)、今井登志喜「國史に於ける西洋史學」(國學院雜誌33-4)、柳澤泰爾「歷史に於ける進化の理念」(法律學研究24-7)、宮崎勇藏「往古の歷史的觀念」(國學院雜誌33-9)、【昭和】澤木四方吉「ヴェルフリンの「美術史上の基礎概念」」(思想)、阿刀田冷造「西洋史論」、杉原圭三「價値自覺としての歷史---キンデルバンド歷史哲學考察」(哲學雜誌)、植村清之助「故坂口[昂]先生の史風」(藝文19-5)、佐藤堅司「文化の意義と文化史發展構成の態度」(西洋文化史講座)、清原貞雄「日本史學史」、原隨園「ギリシヤ史研究」、今井登志喜「歷史と文學」(歷史教育3-4)、エルンスト・ベルンハイム/小林秀雄譯「史學研究法」(史苑)、笠信太郎「シュペングラーの歷史主義立場」、野々村戒三「史學概論」、松原寬「ヘーゲルの歷史哲學」(理想)、ヘーゲル/今田竹千代譯「歷史哲學序論」(哲學名著叢書)、下澤瑞世「文化史と文化心理學との接觸」(大東文化6-5)、羽仁五郎「世界史の可能性と必然性---ウェルス批判」(新興科學の旗の下に2-3)、三木清「ヘーゲルの歷史哲學」(思想)、小山榮三「文化史に於ける類型概念の構造と形態」(社會學雜誌63)、テガート/今宮新譯「史的研究と修史學」(史學)、仲小路彰「ヘーゲルの史的辯證法」(ヘーゲル辯證法研究9,10)、河野正通「ヘーゲルの史的辯證法に就いて」(思想)、大類伸「歷史に於ける發展の觀念」(史學研究)、千代田謙「ランプレヒトの史學史的見解」(史學史)、大山柏「史前學、考古學、及び史學」(史前學雜誌)、中川生「文化史の形態とその意義」(歷史教育)、三浦周行「日本史學史概說」(日本史の研究2)、ヘーゲル/河野正通譯「歷史哲學緒論」、橋本辰彦「英雄と時代との能動所動關係」(歷史教育)、淺野利三郎「西洋史觀」、板垣鷹穗「美術史の根本問題」、市村甚三郎「歷史學の本質、方法、及び歷史家の立場」(歷史教育)、金子光介「ランケの世界史に於ける史的發展」(哲學論集)、高山峻「文化發展の一原理としての辯證法」(大東文化7-10)、小林秀雄「文化史發展の過程」(史苑)、小林健三「歷史學の基礎概念に就て」(歷史教育)、船山信一「歷史哲學の立場、その一」(哲學研究)、今田竹千代「ヘーゲルの歷史哲學」(理想)、島芳夫「ヘーゲルの歷史哲學」(哲學研究)、西田直二郎「文化史の性質」(歷史と地理)、坂口昂「近代史學の成立」(世界史論講)、千代田謙「マキャヴェリの史論に於ける羅馬主義」(史學研究)、リッケルト/山本泰教譯「歷史哲學」(世界大思想家全集)、松原寬「ヘーゲルと歷史哲學」、栗田賢三「歷史哲學」(ヘーゲル哲學解說)。樫山欽四郎「歷史觀への二途、ヘーゲルとマルクス」(フィロソフィア1)、佐藤潔「沙翁「史劇」に現はれたる

歷史の問題」(歷史教育の根本問題)、西村眞次「世界古代文化史」、高村象平「ヴィンデルバントに於ける歷史學と歷史の發展」(三田學會雜誌)、外山卯三郎「美術史學の方法論」(美術叢書)、ヘーゲル/鬼頭英一譯「歷史哲學」(世界大思想全集)、今井登志喜「歷史記述の方法」(理想)、竹下直之「歷史觀の諸形態」(理想)、樺俊雄「歷史敍述の歷史」(理想)、三木清「歷史哲學」、羽仁五郎「歷史學批判序說」、テエヌ/瀨沼茂樹譯「文學史の方法」(岩波文庫)、大類伸「ブルクハルトの「伊太利ルネサンスの文化」を讀む」(西洋史研究)、長崎茂次「中世及びルネサンス研究に於けるJacob Burckhardt粗描」(西洋史研究)、金巻賢宇「ヘーゲルの哲學---特に歷史、意識、論理の性格について」(經濟評論15)、高山岩男「歷史と類型(ヘーゲルの哲學史とディルタイ世界像)」(思想)、淸原貞雄「日本史學の發達」(三田評論419)、中原與茂九郎「バビロニア人の歷史觀」(史學雜誌)、三田史學會編「田中萃一郎史學論文集」、大類伸「史學槪論」（現代史學大系）、酒井三郎「歷史敍述にあらはあれたる個性」(歷史教育7-6)、長壽吉「近代世俗化と佛蘭西史學の影響」(史學雜誌)、千代田謙「近世史學史」(西洋史講座)、リヴース/米林富男譯「歷史と民族學」(民族學4-10,11)、ヘーゲル/鈴木權三郎譯「歷史哲學」(ヘーゲル全集)

「西洋史文獻目錄」(邦文史學關係雜誌所載の部)史觀3 [36700

----- ・(1)「歷史補助學---古文書學、歷史地理」/(2)「總類---歷史一般、史料、圖書舘・記錄文庫・博物舘、法制史一般、經濟史・社會史・交通史一般、文化史・科學史・教育史一般、宗教史・教會史一般、書評(歷史著作一般)・史家評傳、紀行、歷史教育」/(3)「古代史---古代史一般、古代東方諸民族史、希臘史[希臘史及羅馬史一般]、希臘史一般、宗教史、文學史・哲學史・科學史、考古學・美術史]、羅馬史[エトルスキ研究、史料・書評、特殊研究、羅馬とその世界國家、蠻族の侵入と羅馬國家、羅馬法、宗教史、考古學]/(4)「中古史---原始基督教會史、ビザンチン史」/(5)「中世史---史料及書評(中世史一般著作)、中世史一般、政治史、ゲルマン、ヴィキング、回教、經濟史・社會史、文化史・文學史・教育史、教會史、殖民史・旅行」/(6)「近代史---近代史一般、宗教史、文化史・文學史・教育史、經濟史・社會史、法制史、民族運動・國際運動・勞働運動・社會運動及び其他のism、政治・外交史[一般、殖民史、1500年より1789年まで、1789より1815まで、1815年より1890年まで、1890年より1914年まで、世界大戰史、ロシヤ革命史、大戰後の歷史]」/(7)「日本と西洋との交涉---史料、文化史、宗教史、交通史・通商史・外交史、西洋人の日本研究」/(9)「東西交涉」

メイラン「カトリック教信者の死體埋葬問題---土葬か?火葬か?」(ローマに於ける火葬の風習等)聲694 [36701

(參考：「史學者の集ひ----大類伸「ルネサンス人の中世觀」」

京都帝國大學新聞191(11/21) [36702

橋本孝「ヘーゲル「歷史哲學」---唯心史觀の典型(鈴木權三郎氏の邦譯を讀む)

三田新聞293(1/1) [36703
宮島貞克「犀利な觀察---田中萃一郎博士の史學論文集を讀む」
三田新聞293(1/1) [36704
新刊「池田紫峰・脚色「何處へ行き給ふ」(教會學校劇史・第一輯)
日本カトリック新聞411(8/27) [36705
内山善一「西洋雜記」(享和元年[1801年]刊、夢遊道人[山村才助]著。巻中、厄勒西亞國大君の說、邏馬國大君の說、アレキサンデル大王諸將に寶物を賜ふ說、並乞兒に千金を遺す說等)
日本カトリック新聞416(10/1) [36706
書評・有賀鐵太郎「E.F.Scott,The Opposition to Caeser Worship」
基督教研究11-1 [36707
柳田泉「政治小說研究」改造社版「日本文學講座」第11 [36708
平田禿木「澤村[寅二郎]氏ヂュアス・シーザー」書物展望3-4 [36709
(參考：史界近事「史學研究會大會」、歷史教育8-9 [36710
大類伸「ルネサンス人の中世觀」)
(參考：史界近事「京都史學研究會」、歷史教育8-11 [36711
大類伸「ルネサンス人の中世觀」)
金子光介「ランケ原著、世界史序論・譯註」歷史と地理32-2 [36712
紹介「三田史學會編「田中萃一郎史學論文集」」歷史地理61-1 [36713
(參考：彙報「全國各大學史學科學生の卒論」、歷史地理61-4 [36714
東北大：大部憲兒「W・v・フムボルトの歷史理念說に就いて」)
池田哲郎「一九三二年我國西洋史學界展望」西洋史研究3 [36715
(參考：[立教大學]卒論、史苑8-1 [36716
森上哲太郎「理念に現はれたるヘルデルの思想」)
小林秀雄「マックス・ウェーバーの史觀」史苑8-2 [36717
秋山謙藏「日本歷史研究の發展と教育への反映」教育(岩波)1-2 [36718
飯田晁三「フランスに於ける歷史教授」教育(岩波)1-2 [36719
伏見猛彌「ドイツに於ける歷史教授」教育(岩波)1-2 [36720
渡邊誠「イタリヤに於ける歷史教授」教育(岩波)1-2 [36721
宗像誠也「英米に於ける歷史教授」教育(岩波)1-2 [36722
勝田守一「シェリングの歷史哲學考」哲學研究208 [36723
「神を知るは神を愛するに在る」(アテネ人、トラキヤ市等)ときのこゑ7/15[36724
推薦圖書「三井高陽「交通物語」」(郵便制度史等) 圖書舘雜誌27-5 [36725
(左)「「聖なる」教會」(グレコ・ローマの世界等) 基督教新聞2554(1/26) [36726
教文舘「Greek Byways,by T.R.Glover」基督教新聞2556(2/9),2568(5/4) [36727
(K.Y.)「人生の眞相---石田憲次氏著「バーナード・シォウの眞髓」」(「シーザーとクレオパトラ」) 基督教新聞2565(4/13) [36728
論說・竹中勝男「非常時の福音」(ローマ帝國等) 基督教新聞2567(4/27) [36729
(伊庭)「基督教と婦人」(古代ローマ等) 基督教新聞2573(6/8) [36730
教文舘「Judism in the Greek Period from the Rise of Alexander the Great to the Intervention of Rome ,by G.H.Box」基督教新聞2575(6/22) [36731
D.①こども室「家庭イソップ」家庭4-3,4,5,6,7,8,9,10,11,12 [36732

「羅馬古諺」(p.29,50)聲693 [36733
新村出「樂しいイソップ」大阪時事新報11/1 [36734
西原慶一・谷口武『カタカナ兒童讀本・イソップものがたり』 [36735
楠山正雄譯『イソップ物語』(→昭9) [36736
兒童文學研究會編『イソップものがたり』 [36737
久米元一『カタカナ漫畫イソップ』 [36738
鈴木章弘『昆虫遊戲----童謠の本』(?) [36739
畔上賢造『ガラテヤ書講解』 [36740
②＊[訂正]呉茂一『ラテン文法概要』(→昭23同「ラテン文法概要---文法篇」)
[10213] [36741
關衛『西域南蠻美術東漸史』 [36742
中尾保『西洋建築史概要』 [36743
ジョン・ラスキン/内田佐久郎譯『建築と繪畫』 [36744
ボッカチオ/森田草平譯『デカメロン・第一～三巻』(新潮文庫38,51,63) [36745
木村謹治『若きゲーテ研究』(→昭13、訂版) [36746
中島清『ゲーテの生涯』(→昭17、訂版) [36747
ポォル・ヴァレリ/佐藤正彰譯『ゲエテ頌』 [36748
ウイットフォーゲル等著/大塚金之助等譯『ゲーテ批判』 [36749
山口武美『日本沙翁書目集覧』(詩仙洞。天保12年~昭4年間の文獻集覧) [36750
都留仙次『舊約文學序說』(基督教教程叢書10) [36751
新村出『言語學概說』 [36752
新村出『言語學概論』(「言語學序說」) [36753
③濱田青陵「花と壺」(クリート島の土器)瓶史7月號 [36754
(參考：編輯局「文檢研究第13回模擬試驗成績發表」、歴史教育8-9 [36755
谷口一吉(和歌山)「印度に於ける佛教藝術について述べよ」)
(參考：[立教大學]卒論、史苑8-1 [36756
田村武敏「希臘演劇史」)
神原一「エディプス」(A.ジイド)一橋文藝(新)1 [36757
岡崎俊雄「一册之聖書の働」(ダイスマン/佐野勝也譯「イエスとパウロ」等)
基督教新聞2561(3/16) [36758
④＊[訂正]岡田正三「古典學」京都帝國大學新聞176(2/5) (←昭7.D.④)
[9830] [36759
石黒魯平「「外國語」教育諸問題の研究」教育學研究(東京文理大)1-10,12[36760
今泉源吉「評傳日本の使徒物語----聖書和譯を中心として」
福音と現代22~24 [36761
山口鹿三(山鹿生?)「邦譯カトリック教聖書に就いて」聲684 [36762
問と答「(B)ラテン語の研究法とその書物」(田中秀央「ラテン語文典」、前田越嶺「ラテン文法」等)聲684 [36763
「文學とは!? 詩とは!?」(マッシュウ・アーノルド等)聲688 [36764
加藤信也「ゲエテに關する斷片」三田新聞299(5/5) [36765
鹿地亘「古典研究に就て」(ギリシヤ藝術等)三田新聞309(12/1) [36766
「イエズス會の有名な古典學者ドノーヴァン師逝く」(A Digestion of Greek Ideoms

and Theory of Greek Prose Composition ,“The Logic in Ancient and Recent Literature”
日本カトリック新聞410(8/20) [36767
書評・有賀鐵太郎「姉崎正治編著「切支丹宗教文學」」基督教研究10-3 [36768
正宗白鳥「ラフカディオ・ハーンの再評價」國際評論9月號 [36769
外國文學講座・茅野蕭々「若きギヨエテの生活とその作品」婦人公論18-2 [36770
嶋中雄作「坪内博士と私」婦人公論18-9 [36771
水谷八重子「沙翁劇はやり直し」婦人公論18-9 [36772
外國文學講座・日高只一「人類の王シェークスピヤ」婦人公論18-9 [36773
特集「シェークスピア寫眞物語」婦人公論18-9 [36774
須藤武一郎「シェークスピアの警句」婦人公論18-9 [36775
(?)「シェークスピア大懸賞」婦人公論18-9 [36776
(?)「シェークスピア時代」婦人公論18-9 [36777
藤井乙男「假名草子の研究」改造社版「日本文學講座」第4 [36778
柳田泉「明治の初期文學研究」改造社版「日本文學講座」第11 [36779
勝本英治「「ユリシーズ」宣傳」三田文學8-4 [36780
木下常太郎「エズラ・パウンド」三田文學8-4 [36781
岩崎良三「西脇順三郎氏著「ヨーロッパ文學」」三田文學8-7 [36782
新刊「關衛「西域南蠻美術東漸史」」史苑8-2 [36783
ジョセフ・アツカン「ハッタの佛教美術」(ヘレニスチックの影響等)
美術研究15 [36784
衣笠梅二郎「類歌中の外國語の問題」(オントース、プシュケ、プネウマ等)
外來語研究4 [36785
重久篤太郎「外來語研究文獻月錄(昭和七年分)」外來語研究4(1-1) [36786
伊藤武雄「ヴェルフリン的方法」エルンテ5-1 [36787
木村謹治「作品に現はれたるゲーテの生活感情」エルンテ5-3 [36788
正宗白鳥「文藝時評」(「ゲョエテ研究」(茅野蕭々))新潮1月號 [36789
山岸光宣「松岡氏の「ファウスト」」内務省納本月報1月號 [36790
三木清「田部重治教授著「中世歐洲文學史」」新英文學3月號 [36791
名原廣三郎「中世歐洲文學史」(田部重治)東京朝日新聞3/5 [36792
E・R・クルティウス「ヂェイムス・ヂョイスと「ユリシーズ」」
新英米文學1,3・4(合) 月號 [36793
新刊「田部重治「中世歐洲文學史」」丁酉倫理會倫理講演集364 [36794
柳田泉「明治新體詩の先祖----西周の功績」(麻生義輝「西周哲學著作集」等)
書物展望3-12 [36795
小日向恒夫「ユリシーズの技法と主題展開」初等英語研究27-1,2 [36796
讀者習作「グレゴールの「世界演劇史」」初等英語研究27-2 [36797
アルフレッド・ホプキンス「ラスキン追想」初等英語研究27-5 [36798
豐田實「ミルトン紹介研究の跡」
英語英文學論叢(廣島文理大英語英文學研究室)4 [36799
新村出「樂しい「イソップ」」大阪時事新報11/1 [36800
新村出「日本言語學私觀」(ギリシヤ文獻學、言語學、語法學等)

岩波講座「日本文學」中(→昭18『言語學序說』所収) [36801
渡邉一夫「モンテーニュ素描」(1970年刊著作集3中) [36802
魏根宣「ジョン・ゴールズワージの古典主義的風格」臺灣時報4月號 [36803
推薦圖書「中島清「ゲーテの生涯」」圖書舘雜誌27-6 [36804
E.②上田辰之助『聖トマス經濟學----中世經濟學說史の一文獻』 [36805
小島章太郎譯『ゾムバルト博士原著「三つの經濟學」』(第5章「アリストテレス」) [36806
沖中恒幸『經濟思想發展史』 [36807
高崎力造『經濟史・中世ヨーロッパ』 [36808
クーリッシャー/渡邊鼎譯『歐洲中世經濟史』 [36809
セエラー・マシウス/竹中勝男・溝口靖夫譯『イエスと社會組織の變革』 [36810
ヨハンネス・ラウレス著『カトリック的社會觀』 [36811
③南久太郎「福音の社會的教義の特異性」(プラトンの「共和國」、アリストテレスの「政治學等」カトリック13-9 [36812
(參考：彙報「全國各大學史學科學生の卒論」、歷史地理61-3 [36813
東大：相澤孝友「ヅエノンの「ポリテイア」について」
馬淵茂「羅馬帝政初期に於ける自由民に就いて」)
(參考：史界近事「各大學卒論」、歷史教育8-12 [36814
慶應義塾大：穴澤榮三郎「古代イオニア都市の經濟的發展と東方勢力との關係に就て」)
上田辰之助「クレマティスティケ---商業職分觀の種々相」(アリストテレス、アク井ナス等)一橋新聞169(5/29) [36815
④林達夫「社會的思想史・中世・上下」岩波講座「哲學」17回 [36816
(參考：「昭和八年度各官立大學教育學科卒論」、
教育學研究(東京文理大)2-1 [36817
東京文理大：倉澤剛「公民教育の基本問題としての國家と教育との關係」)
一ノ瀬長治「聖トーマスに於ける犯罪の觀念及び刑罰の本質との目的關係」
カトリック13-2,3 [36818
ハイメ・バルメス/高坂筆吉譯「デモクラシー」(アリストテレス等)
カトリック13-3 [36819
新刊「光明社編「永遠の都」」(カトリック講話第2期第7輯)
日本カトリック新聞388(3/19) [36820
(參考：彙報「全國各大學史學科學生の卒論」、歷史地理61-4 [36821
東北大：森實「ユートピアに窺はれるトーマス・モアの政治思想」)
(參考：史界近事「大塚史學會大會」、歷史教育8-9 [36822
酒井三郎「モンテスキューの政治思想に就て」)
(參考：史界近事「各大學卒論」、歷史教育8-12 [36823
東大：岩澤清三郎「ニコロ・マキャヴェリ著「君主論」の史的考察」)
書評・田中耕太郎「中世的自然法の特異性」(Hölscher, Vom römischen zum christlichen Naturrecht, 1931)法學協會雜誌51-1 [36824
春山作樹「國民指導原理の問題」(プラトンの哲人政治等)
丁酉倫理會倫理講演集363 [36825

友枝高彦「社會發達の契機としての社會問題」(ソークラテス、プラトーン等)
丁酉倫理會倫理講演集364 [36826
大塚久雄(紹介)「ブロッシュ「中世に於ける金の問題」」
經濟學論集(東大)3-6 [36827
本位田祥男「中世の統一的世界觀の經濟生活に於ける表現----中世統制經濟の原理と現實」經濟學論集(東大)3-8 [36828
栗木武夫「ゲルマン古法のスケッチ」法學(東北帝大)2-1,2,3,4 [36829
下地寛令「ヨーロッパのファシズム」臺灣警察時報206,207,208,209 [36830
紹介批評・實方正雄「田中耕太郎博士著「世界法の理論」第二巻」
法學(東北帝大)2-12 [36831
高谷道男「中世を彩つた聖トマス經濟學」(上田辰之助氏新著)
一橋新聞176(10/9) [36832
田中左右吉「竹中[勝男]教授の「社會主義と基督教の經濟倫理」を讀む」
基督教新聞2578(7/13) [36833
原田信夫「トレルチの「基督教社會哲學」(Troeltch,Die Sozialphilosophie des Christantums)とその(K.)バルト神學への關聯に就て(1)」
(古代ギリシヤ文化、ロマ行政法等)
基督教新聞2579(7/20),2580(7/27) [36834
新著「セエラー・マシウス/竹中勝男・溝口靖夫譯「イエスと社會組織の變革」」
基督教新聞2585(8/31) [36835
榊原巖「國民意識の勃興と基督教」(ローマ人等) 基督教新聞2594(11/2) [36836
F.①「ことば」(ヒポクラテス、ガレン。p.35)聲690 [36837
②＊[訂正]關場不二彦『西醫學東漸史話(上下)』(私家版) [10308] [36838
關場不二彦『西醫學東漸史話餘錄』(私家版) [36839
平山清次『暦法及時法』 [36840
竹内時男『科學者群像』 [36841
③＊[訂正]青柳有美「ギリシア人の沐浴」家庭3-7 [10312] [36842
[訂正]石本巳四雄「ギリシヤ・ローマ時代における地震原因諸說」
地理學1-1,3 [10314] [36843
編輯局「文檢研究第19回模擬試驗成績發表」、歷史教育8-9 [36844
檜垣駒太郎(愛媛)「ヘレニスチック文化時代の科學に就て」
小林佐平「プラトンの數學的教育論の基礎」算數教育1月號 [36845
上林彌四郎「ぴたごらすノ定理」數學教育7 [36846
小倉金之助「イデオロギーの發生(數學)・古代數學の發生とその成熟」
岩波講座「科學」3-?[數學史研究1(1935年)に収載] [36847
久崎章「フルトン「生理學史粹」」三田新聞297(3/28) [36848
佐藤清太郎「Compilatio de librius naturalibusを繞りて」(Aristoteles等)
カトリック13-1 [36849
(參考:彙報「九大史學會大會講演會」、史淵7 [36850
小川政修教授「文藝復興期の三醫人」)
推薦圖書「清水英一「幾何學史物語」」圖書舘雜誌27-1 [36851
書籍紹介「小倉金之助「數學教育史」(昭7刊) (日本中等教育)數學會雜誌15-2 [36852

書籍紹介「清水英一「幾何學史物語」」(昭7刊)
(日本中等教育)數學會雜誌15-2 [36853
G. ＊[訂正]齋藤秀三郎『Saito's Idiomological English-Japanese Dictionary 熟語本位・英和中辭典』(岩波書店初版→昭11[1936年]豐田實・增補新版)
[173388] [36854
登張信一郎『新式獨和大辭典』 [36855
應問：SH生[紀伊]「西洋史辭典の良書をお教へ下さい」歷史教育8-3 [36856
----龜井・野上・石原編「岩波・西洋人名辭典」等
蘇峰生「(岩波・)西洋人名辭典」東京日々新聞2/8 [36857
新刊紹介「(岩波・)西洋人名辭典」」圖書舘雜誌27-2 [36858
楳垣實「辭書類に見へたる外來語」(ラテン語等)外來語研究2 [36859
日曜世界社『聖書大辭典』 [36860
世界歷史大辭典編集委員會編『世界歷史大辭典』(全21册) [36861

昭９(１９３４)
A. 比屋根安定『東洋の使徒聖ザ[ヴィ]エル傳』(基督教大學叢書1) [36862
石田幹之助「西洋人の眼に映じたる日本」岩波講座「日本歷史」中 [36863
書評「コフマン/鈴木厚譯「世界人類史物語」」教育(岩波)2-12 [36864
新村出「西洋印刷文化史」(?)4/11 [36865
川人(ローマにて)「南歐の旅より」(ローマ、ギリシヤ)ときのこゑ4/15 [36866
(?)「ポンペイを訪ふて」ときのこゑ5/1 [36867
原信子「伊太利に在りし日」婦人公論19-3 [36868
安倍能成「マントヴァの一日」思想145 [36869
森田慶一「ペロポンネソスの旅」建築學研究75 [36870
木下常太郎「ピダミッド上の夕暮」三田文學9-9 [36871
藤井信「蘭學者の思想内容について」歷史學研究1-5 [36872
高瀨重雄「文明史に於ける歷史叙述の方法」(ギゾー、バックル等)
歷史と地理33-4 [36873
寺田寅彦「「ギリシヤとスカンディナ井ヤ」」(安倍能成著。帝國大學新聞社出版部「研究と世間」中) [36874
水田文雄「シュペングラーを訪ふ」東京朝日新聞3/15 [36875
出版界「世界文化と日本文化」(阿部次郎著) 東京朝日新聞5/9 [36876
出版界「ヴォルフ・民族文化史」(間崎萬里譯) 東京朝日新聞5/9 [36877
出版界「ギリシヤとスカンディナ井ヤ」(安倍能成著) 東京朝日新聞7/4 [36878
谷川徹三「世界文化と日本文化」(阿部次郎著) 東京朝日新聞10/12 [36879
(參考：彙報「各大學史學科卒業論文題目」、歷史地理63-3 [36880
東大：生田俊夫「プロヴァンスにおけるギリシヤ的要素」)
(參考：彙報「學士院本年度研究補助決定」、歷史地理63-6 [36881
重久篤太郎「明治時代の文化に貢獻せる歐米人の業績に關する資料蒐集」)
(參考：編輯局「文檢研究第24回・模擬試驗成績發表」歷史教育9-2 [36882
須賀女生(丸龜)「羅馬帝國文化の特質を記せ」)

（參考：編輯局「文檢研究第28回・模擬試驗成績發表」歷史教育9-6 [36883
谷口一吉（和歌山市)「サラセン文化につき述べよ」）
（參考：編輯局「文檢研究第31回・模擬試驗成績發表」歷史教育9-9 [36884
高山正夫(香川)「後漢と西域との關係を論ぜよ」)
（參考：[立教大學]昭和9年度史學科講義題目中、史苑8-3・4 [36885
十八世紀に於ける民俗思想(十河)、史學研究法(小林)、經濟史(山下)、西洋美術史(辻)　）
（參考：彙報「昭和9年度京都帝大文學部哲學科講義題目」、哲學研究217 [36886
哲學概論(田邊)、特殊講義(存在の判斷的性格、土井講師)、古代中世哲學史(山内)、特殊講義(アナムネーシス先後、Aristoteles: Ethica Nicomachiae、山内)、心理學概論(野上)、倫理學原論(和辻)、教育學概論(長田講師)、美學序論(植田)、特殊講義(伊太利亞文藝復興期の繪畫、植田)、宗教學概論(波多野)、Plotinosの宗教哲學[Enneades Vの解釋]、波多野)）
（參考：彙報「(臺北帝大)史學科講義題目」、
臺北帝國大學文政學部「史學研究年報」1 [36887
昭和5年度：史學概論(村上)、西洋史概說(庄司)
昭和6年度：史學概論(村上)、西洋史概說(新見、庄司)、地理學概論(小野)
昭和7年度：史學概論(村上)、西洋史概說(新見、庄司)、地理學概論(小野)
昭和8年度：史學概論(村上)、西洋史概說(新見、庄司)、地理學概論(小野)）
（參考：「昭和九年度全國官立大學教育學科講義題目」、教育學研究(東京文理大)3-2
東京帝大：教育史概說(春山)、教育學概論(入澤)
京都帝大：教育學概論(長田)
九州帝大：教育學概論(松濤)
臺北帝大：教育學概論(伊藤)、教育學概說(西洋教育史、近藤)、シュライエルマッヘルの教育學(福島)
京城帝大：教育學概論(松月)
東北帝大：教育學概論(春山)
東京文理大：教育學概論(乙竹)、勞作教育史(大谷)）
吉良弘「「印刷文明史」の著者へ」(島尾政一著)書物展望4-5 [36888
壽岳文章譯「愛書經」(リチャード「フィロビブロン」)
書物展望4-7,8,9,10,11 [36889
喜多壯一郎「讀書片言」(新渡戸稻造、ダンテ、プラトー、プルターク英雄傳等)
書物展望4-9 [36890
春山作樹「日本好きになられる」(ギリシア・ローマ文化等)
丁酉倫理會倫理講演集375 [36891
桑木嚴翼「安倍能成氏著「ギリシヤとスカンディナギア」を讀みて」
丁酉倫理會倫理講演集380 [36892
布川靜淵「スペングラーの「決定の年」を讀みて」
丁酉倫理會倫理講演集381 [36893
讀後感(K.Y.)「自由主義に對する懷疑---柳澤健氏著「日本發見」を讀む」(グレコ・ラテン文明等) 基督教新聞2605(1/25) [36894

K.Y.「文明の復興」(スペングラー、ギリシヤ等) 基督教新聞2612(3/15) [36895
K.Y.「文化の相違と宗教」(ロマ、ギリシヤ語等) 基督教新聞2623(5/31) [36896
B.①聖アウグステイーヌス「我等の教會に對する態度」(p.40)聲701 [36897
中山昌樹譯『聖アウグスチヌス懺悔錄』(新生堂) [36898
②＊[訂正]石山脩平『西洋教育史第一巻・ギリシヤ篇』(萬有文庫17)
[10390] [36899
浩文社編輯部編『世界廿傑傳』 [36900
高島平三郎編『世界偉人言行錄(逸話の泉叢書3,京文社) [36901
松原寛『西洋哲學物語』 [36902
三井甲之『しきしまのみち原論』(ローマの祖先崇拝、ヴントの心理學等) [36903
登張竹風『隨筆・人間修行』(ニーチェ等) [36904
有賀鐵太郎・魚木忠一共著『概說基督教思想』(基督教程叢書12) [36905
W.P.パターソン/松尾武譯『聖パウロの神學思想』(基督教叢書51) [36906
鑓田研一『基督教と歎異抄』(?) [36907
柏井園『柏井園全集、第１−５、別巻』(→昭9.第１巻・パウロ研究/第２巻・耶蘇及に福音書研究/第３巻・說教及び神學論文/第４巻・時事評論及び史論/第５巻・分學・小品・感想/別巻・基督教史)
カアル・ハイム/藤田孫太郎譯『聖書の世界觀』(基督教叢書3) [36908
カール・シュタンゲ/宮本武之助譯『基督教的世界觀と哲學的世界觀』(基督教叢書5) [36909
本位田祥男『マルチン・ルッター』(社會科學の建設者人と學說叢書3) [36910
プルー著『ルーテルとニューマン』 [36911
畔上賢造『無教會主義』(東方書院。日本宗教講座) [36912
畔上賢造『無教會主義とは何か』(獨立堂書房) [36913
③＊[訂正]＊(訂正)寺田寅彦「豆と哲人---ピタゴラスの最期」
東京日々新聞7/16 (←F.③) [23828]・[10828] [36914
＊[訂正]エドワード・エチ・ビアスタット「ソクラテスの死」(E.H.Bierstadt,Curious Trial Criminal Case) 他山の石(桐生悠々主筆)1-15(12/20)
[10484] [36915
(參考：「京大文學部卒論」、京都帝國大學新聞195(1/21) [36916
清水英一「プラトン哲學の實踐的要求」)
(參考:「京大文學部卒論」、京都帝國大學新聞197(2/21) [36917
增田四郎「プラトンの德論」)
PN生「古代哲學と靈魂の不滅」(ソクラテス、プラトー、アリストテレス等)
日本カトリック新聞442(4/1) [36918
巻頭論文・野上彌生子「パンドラの箱」婦人公論19-7 [36919
伊藤德男「アポロとデオニソス」尚志會雜誌(第二高等學校)154 [36920
(參考：彙報「各大學史學科卒業論文題目」、歷史地理63-4 [36921
・東北大：野村廣吉「アウグスチンの二神國論に於ける人類生活の運命觀」
・早大：阿部佐一郎「Tacitus のGermaniaに見ゆる宗教の吟味」)
三谷隆正「眞理と短文」(ヘラクレイトス、プラトン、アウグスチヌス、アキナス、レッシング、ゲーテ等)(『内村鑑三先生追想集』中) [36922

竹下直之「人間の本質と人間學」(アリストテレス等)哲學研究220 [36923
岡田哲藏「アリアドニの傳說と詩」丁酉倫理會倫理講演集377 [36924
福永恭助「アキレスの踵」新青年11月號 [36925
森本芳雄「アウグステイヌスの回心に就いて(1)」基督教研究11-3 [36926
高橋皐三「エッセネ派と基督教」(ギリシヤ思想、ギリシヤ・ローマの貨幣、ファイロー、ローマ等) 基督教新聞2640(9/27), 2641(10/4),2643(10/18) [36927
④＊[訂正]小山鞆繪「人間のイデーについて」文化1-11 [10469] [36928
＊[訂正]今泉三良「聖トマス・アクイナスの神の證明---基礎的解明としての類比(Analogia) 觀念」(新)宗教研究11-4 [17413] [36929
＊[訂正・追加]服部英次郎「新刊書目」、哲學研究215中 [17420] [36930
Montaigne:Essai en un volume:Texte,notes,variants,bibliographie,traduction, nouvelle des citations latines,glosaaire,etc.,par Alberrt Thibaudet, Paris
Montaigne:IVe centenaire de la naissance de Montaigne:Livre des conférences; Edité sous les auspices de l'Administration Municipale,Bordeaux
＊[訂正]服部英次郎「新刊書目」、哲學研究217中 [17423] [36931
Philo：tr.by F.H.Colson & G.H.Whitaker,vol.5
服部英次郎「新刊書目」、哲學研究217中 [36932
----Ch.Dawson,Mediaeval Religion
A.D.Lindsay ,Immanuel Kant
E.Emmerich,Wahrheit u.Wahrhatigkeit in d.Philos.Nietzsches,Halle
T.H.Westermann(compo.),A Bibliography of Sir James Gerge Frazer,with a note by Sir J.G.Frazer,London
＊[訂正]服部英次郎「新刊書目」、哲學研究218中 [17424] [36933
Aristotle：Traité de l'ame,tr. nouv.vavec.notes par Tricot,Paris,J.Vrin
＊[訂正] 服部英次郎「新刊書目」、哲學研究220中 [17426] [36934
M.Grabmann,Stud.u.Einflussd.Aristotel.Philosoph.auf de.Mittelalter,Theorien ü.d.Verhaltniss v.Kirche u.Staat
服部英次郎「新刊書目」、哲學研究222中 [36935
----James Frazer,The Fear of the Dead in Primitive Religion
E,Forenhorst,Hegel:Geist und Freiheit im System H.'s,Lpz
Thomas Aquinas,On Being and Essence,tr.fr.the Latin by Clarke C.Reidl,Toronto
岩波講座「哲學」第8------ ・岩下壯一「新スコラ哲學」 [36936
森宏一「哲學に關する文獻概觀」唯物論研究23 [36937
----- ・ニーチェ/鈴木賢之進譯「ニーチェとワグナー」/ニーチェ/阿部六郎譯(鹿子木[員信]氏用書の譯本)「物質と悲劇」/ブレンターノ/岩崎勉譯「アリストテレスの存在論」/岡田正三譯「プラトン全集----ゴルギアス、饗宴、パイドンの諸篇」/マクス・ヴント/出隆外一名譯「希臘人の世界觀」/ヘーゲル/岡田隆平譯「哲學史(ギリシヤ哲學)」/佐々木秀一「哲學物語」/桑木嚴翼監輯「哲學辭典」/イシチェンコ/廣島定吉譯「哲學辭典」/フォイエルバッハ/松本義雄等譯「近世哲學(上巻)」
小長谷亮策「大學の使命」(ハイデッガー)教育學研究(東京文理大)2-12 [36938
(參考：「昭和九年卒論、全國各官立大學教育學科卒論」、

教育學研究(東京文理大)2-12 [36939
京都帝大：三浦廣吉「W. von Humboltに於ける人間學の立場」）
シャトーブリアン/荻原彌彦譯「基督教精髄より」(ピタゴール等)聲696 [36940
問と答・：吉滿（義彦）生「パスカルの冥想錄、聖オウガスチンの懺悔錄、ダンテの神曲の日本文譯」(中山昌樹、山川丙三郎氏譯)
聲699 [36941
問と答「カトリック初代教會よりの歴史の文獻」(ヨゼフ・フービー著、戸塚文卿譯「カトリック思想史」等)
聲701 [36942
(參考：「京大文學部卒論」、京都帝國大學新聞195(1/21) [36943
久野収「ヘーゲル認識論考」
山車慶二郎「ベルグソンに於ける自由の問題」）
(參考：「京大文學部卒論」、京都帝國大學新聞197(2/21) [36944
中村慶造「トマス・ヒル・グリーンに於ける自意識の概念に就いて」）
田口芳五郎「超自然的天啓の可能性(1)」(ヘーゲルの政神論、ギリシヤ哲學等)
カトリック14-2 [36945
杉田英一郎「中正の道」(アリストテレス等) 日本カトリック新聞439(3/11) [36946
新刊「吉滿義彦「カトリシズムとトーマス・ニューマン」」
日本カトリック新聞439(3/11) [36947
杉田英一郎「「カトリシズムとトーマス・ニューマン」を讀む」(ギリシヤ思想等)
日本カトリック新聞440(3/18) [36948
加茂儀一「プラトン主義の復活」文藝7月號 [36949
吉江喬松「文藝復興の史的意義」文藝7月號 [36950
三木清「新しい人間の哲學」文藝7月號 [36951
三谷隆正「内村鑑三先生と神學」(ヒエロニムス、プラトン、アウグスチヌス等)(『内村鑑三先生追想集』中) [36952
難波田春夫(紹介)「ゲオルゲ派の新プラトン姿像」經濟學論集(東大)4-7 [36953
雜錄「若きディルタイ」(Der junge Dilthey：Ein Lebensbild in Briefen und Tage-Büchern,1852-1870.Zusammengestellt von Clara Misch geb.Dilthey ,Leipzig & Berlin,B.G.Tuebner)
哲學研究214 [36954
雜錄「ヘーゲル・レクシコン」(Hegel-Lexikon,von Herman Glockner,Stuttgart)
哲學研究214 [36955
雜錄「基督教思想の理解」哲學研究214 [36956
-----・Martin Grabmann,Die Geschichte der katholischen Theologie seit dem Ausgang der Väterzeit,Freiburg i.Br.:Herder & Co.,Rm.9.20;in Leinen Rm. 10.20/・Stefan Gilson,Der heilige Augustinus;derselbe: Der heilige Bona-Ventura/・A.D.Sertillanges,Der heilige Thomas von Aquin,Heiderberg,Verlag F.H.Kerbe,in Leinen jeRm.7.80/・Karl Adam,Jesus Christus,Haas & Grabher
雜錄・服部英次郎「古典の世界」哲學研究214 [36957
-----・Platon:Oeuvres complète,Tome IV.,3:Phèdre,texte établi e.traduit par L. Robin.(Coll.Budé)Paris,Les Belles Lettres,frs.30.00

・Lèon Robin,La théorie platonicinne de l’amour,Nouvell éd.(Coll.historique des grands philosophes)Paris,Félix Alcan.frs.20.00
・Aristotle:Metaphysica,with an English trans.by Hugh Tredennick,vol.I(Bk.I-IX)(The Loeb Classical Library)London,William Heinemann,10/-
・Sextus Empericus,with an English trans.by the Rev.R.G.Bury,3 vols.,(The Loeb Classical Library)London,William Heinemann,10/-
・The Symposion of Plato,ed.with introduction critical notes and commentary by R.G.Bury,2.ed.,Camridge:W.Heffers & Sons,7/-
・Gibert Murray,Aristophanes:AStudy,Oxford Clarendon Press,7/6
・Proclus,The Elements of Theology,A revised tex. With introduction and Commentary by E.R.Dodds, Oxford Clarendon Press
・Julius Stenzel,Zahl und Gestalt bei Platon und Aristoteles,2 erweiterte Aufl.,Leipzig & Berlin,B.G.Teubner,in Leinen Rm.12.00
・岡田正三單獨譯「プラトン全集」、東京河出書房版「アリストテレス全集」(豫告)[山内得立「トピカ」、藤井義夫「分析論」、田中美知太郎「生成と消滅」、高田三郎「ニコマコス編倫理學」、石山脩平「大道德學」、小田清「エゥデモス編倫理學」]

新刊紹介「麻生義輝編「西周哲學著作集」」哲學研究214 [36958

波多野精一「愛」哲學研究215

山谷省吾「神學者としてのパウロ−−−パウロ神學の意義について」哲學研究216 [36959

「新刊書目」、哲學研究216中----- [36960

-----W.Capelle,Die griech.Philos. 3,Bin.u.Lpz.
W.Mengel,Eros:Werterwicklung u.Dialecktik in ihren Ansitzen bei Platon (Diss.),Dresden
H.Karpp,Untersuchungen z.Philos.d.Eudoxos v.Kunidos(DIss.-Marburg), Würzburg
Aristote:De la generation et de la corruption,tr.nouv.avec notes par J.Tricot, Paris
H.Schmidt,Die Anthropologie Philos.v.Alexandria(Diss.-Lpz.), Würzburg
Ed.Krakowski,Plotin et le paganism religieux,Paris
W.Verwiebe,Welt und Zeit bei Augusinus,Lpz.
F.Hoffmann,Der Kirchenbegriff d.hl.Augustinus in seiner Grunglegung u.seiner Entwicklung ,München
Thomas Aquinas:On the Power of God,Bk.2;QQ.IV-VI,Lit.tr.by the Engl. Dominican Friars,London
.Destrez,Études critiques sur les oeuvres de saint Thomas d’Aquin d’apres La tradition manuscrite,Tom.1,Paris
H.Gmür,Thomas v.Aquino u.d.Krieg,Lpz.u.Bln.
J.Plattard,Montaigne et son tempt,Paris

「新刊書目」、哲學研究217中---- [36961

Plato, Republic trans.by Paul Shorey, vol.2
Aristotle, Physica, trans. by Philipp Wicksead & F.M.Conford, vol.2
Philo, trans. by .H.Colson & G.H.Whitaker, vol.5
Aristotle, Peri Poietikes, mit Einl., text Andotatio critica, exegetisch.

Kommenten, Kritisch. Anhersg. u. Index v. A.Gudemann, Bln. 495 S.

W.Jaeger, Aristotle, Fundamentals of the History of his Development, trans. by Richard Robinson, London, Oxford U.P.,

F.Otto Walter, Dionysos: Mytos u. Kurtur(Frankfurt Stud.z. Religion u. Kurtur de. Antike,4) Frankfurt a. M.

H.Ritter & L.Preller,Historia philosophiae graecae(grraecae-romae),Testimonia auctorum conlegerunt notisque instruerunt,Ed. 10.IV

「新刊書目」、哲學研究218中---- [36962

Aristote:Traité de l'ame,tr.nouv.avec notes par J.Tricot,Paris

St.Augustinus:Cofession,Texte établi.& traduit par P.de Labriolle,Tom.1 (Liv.1-8), 2ed.,Paris,Les Belles Lettres

A monument to St.Augustine,Essays of same aspects of his thought written in conmmemoration of his 15th centenary,London

P.F.Cayré,Les sources de l'amour divin. La divine presence Augustienne, Paris

E.Przywara,In the Light of St.Augustine,London

H.Bergson,La pensée et la mouvant,Paris

H.Reiner,Das Kantische Sittegesetze im sittlichen Bewusstsein der Antike, Kunststudien Bd.39,Ht.1

M.T.McClure,Thee Greek Concept of Nature, Kunststudien Bd.39,Ht.1

O.Reich,Ueber das Telos der Stoiker,Hermes Bd.69,Ht.1

「新刊書目」、哲學研究219中---- [36963

Platon:Oeuvres complete,Tom.VII,Ft.2:La République,Liv.8-10,Texte établ et traduit par E.Chambry,Paris

Platon:Kriton,Griech.u.deutsch. Text.v.R.Harder,Bln.

M.de Corte,La doctrine de l'intelligence chez Aristote,Essai d'exégése, preface de E.Gilson,Paris

Thomas Aquinas:On the Power of God,Bk.3,QQ VII-X.Lit.tr.by the Engl. Dominican Friars, London

A.E.Taylor,Philosophical Studies,London

L.W.Keeler,The Problem of Error from Plato to Kant,A historical & critical Study,Rome

雜錄「完全なるニーチェ」(全集の發刊)哲學研究220 [36964

(參考：彙報「倫理學讀書會---片山善之「グンドルフとゲーテ」」、哲學研究220 [36965

「新刊書目」、哲學研究222中---- [36966

Aristoteles:E.E,Spicer,A.'s Conception of the Soul,London

St.Augustin:G.Combès,La charité d'apres S.A.,Paris

H.Diels,die Fragmente der Vorsokratiler,5 Aufl.,neu arbe. v.W.Kranz,Bln.

Hegel:E,Farenhorst,Geist und Freiheit im System H.'s,Lpz.

Lucretius:De rerum natura libri VI,Rec.J.Martin,Lpz.

P.Vallete:La doctrine de l'ame chez L.,Examen de qeulques du "Rerumn natura" livre III,Paris

G.Milhaud,Les philosophiques géomètres de la Grèce,Platon et ses prédècesseurs,Paris

Platon:Parmenides,tr.with notes by A.E.Taylor,New York & London
Platon :P.Aristphron,P.'s Academy, the Birth of the idea of its discovery, Oxford U.P.
Platon:P.-M.Schul:Platon et l'art de son tempt,Arts plastiques,Paris
Platon:P.-M.Schul:Essais sur la formation de la pensée grecque,Paris
P.Salzi,La genèse de la sensation dans rapports avec la thèorie de la connaissance,chez Protagoras Platon et Aristote,Paris
Thomas Aquinas:On Being and essence,tr.fr.the Latin by C.C.Ried,Toronto
J.C.Février,Les Zeus-Helios dans l'ancien Orient,Revue d'histoire de la philosophie et d'histoire générale de la civilization N,S.Fas.6,15
Ed.Krakowski:Plotin et le néoplatonisme, Une revolution dans la philodophie antique,Mercure de France A.45,Tom.253,no.866

雑錄・服部英次郎「ロゴスの改題」哲學研究222 [36967
彙報「和辻[哲郎]教授の御轉任」(京都帝大から東京帝大へ)
哲學研究222 [36968
彙報「フランス哲學界の現況」哲學研究225 [36969
「モンテーニュ研究」、文體1周年記念 [36970
-------落合太郎「凡庸の道」
平田禿木「サンミッシェル上人忌に」
關根秀雄「モンテーニュの隨想錄をめぐつて」
太宰施門「モンテーニュの旅日記」
成瀬正一「モンテーニュの隨筆」
戸川秋骨「大本山モンテエニュ」
伊吹武彦「モンテーニュの肉體」
高橋廣江「モンテーニュの素描」
石川淳「モンテーニュの「德」に就て」
菱山修三「モンタアニュに就て」
佐藤朔「モンテエニュの周圍」
杉捷夫「モンテーニュの「旅日記」に就て」
高山峻「モンテーニュの宗教」
河盛好藏「モンテーニュの方法」
渡邊一夫「モンテエニュ研究と時代」
渡邊一夫編「モンテエニュ年譜」
山室軍平「希望」(歷山大王等)ときのこゑ1/1 [36971
「此の粥にあり」(哲學者アナクザルカス、アレキサンダー大王等)
ときのこゑ3/1 [36972
新刊雜景「三枝博音「日本に於ける哲學的觀念論の發達史」」
書物展望4-4 [36973
井上哲次郎「宗教改革の機運を促す」(ソクラテス、ピタゴラス等)
丁酉倫理會倫理講演集375 [36974
桑木嚴翼「批判と反省」(希臘原義スケプシス、プロティノス等)
丁酉倫理會倫理講演集375 [36975
新刊「桑木嚴翼・伊藤吉之助監修、出隆・磯部忠正譯「ユーベルエーク大哲學史・

各國篇、第一巻」」丁酉倫理會倫理講演集375 [36976
新刊「豐川昇譯「ユーベルエーク大哲學史・最近代(上)」」
丁酉倫理會倫理講演集378 [36977
得能文「自然法爾」(ギリシヤ思想とヘブライ思想、ベルグソン等)
丁酉倫理會倫理講演集379 [36978
新刊「三枝博音「日本に於ける哲學的觀念論の發達史」」
丁酉倫理會倫理講演集379 [36979
新刊「木下一雄「希臘倫理史」」丁酉倫理會倫理講演集379 [36980
新刊「麻生義輝編「西周哲學著作集」」丁酉倫理會倫理講演集379 [36981
海外思潮「布川靜淵「新生活の待望」」(スペングラー、セネカの幸福論、アウレリウスの瞑想錄、エピクテータスの語錄、ニイチェ等) 丁酉倫理會倫理講演集382 [36982
桑木嚴翼「智育の價値」(アリストテレス、ソクラテス等)
丁酉倫理會倫理講演集386 [36983
千葉掬香「人生哲學としての老子----小柳司氣太君の老子講話を讀む」(希臘哲學、プラトン「ダイヤロオグ」等)
丁酉倫理會倫理講演集386 [36984
春山作樹「「役に立つ教育」の一面」(大ローマ帝國、ローマ史等)
丁酉倫理會倫理講演集386 [36985
河上徹太郎「「プロメテ」に於ける存在と表現の問題」(ジイド)行動2-5 [36986
高沖陽造「ニイチェの新研究」作品5-4 [36987
シェストフ/中山省三郎譯「トルストイとニーチェの教義に於ける善」(シェストフ全集1中) [36988
讀書・「小野正康「西洋倫理學史概說」」圖書舘雜誌28-12 [36989
(參考:「(慶大)卒論」、三田新聞315(4/20) [36990
經濟:加田教授下:森悟一「唯物史觀とヘーゲル」)
守屋謙二「久保[勉]・阿部[次郎]氏譯「プラトン・饗宴」」
三田新聞324(11/2) [36991
奥野信太郎「安倍能成氏著「靜思集」」(ヘーゲル等) 三田新聞325(12/7) [37992
金子鷹之助「パウロの有機體思想---カトリック教育學の出發點」(アリストテレースの形而上學等)一橋新聞192(7/9) [37993
金子鷹之助「パウロよりトーマス・アキナスへ」(アリストテレース等)
一橋新聞194(9/10) [37994
戸坂潤「哲學書飜譯所見」(ユーバリエーヒ、エルドマン、ヘーゲル等)
東京朝日新聞11/9 [37995
讀書欄・安倍能成「プラトン「饗宴」の新譯」(久保勉、阿部次郎譯)
東京朝日新聞12/20 [37996
新刊「イング/岸千年譯「プロテスタンティズム」」基督教新聞2604(1/18) [37997
鈴木生「日本精神の鼓吹と基督教」(ギリシヤ、古代ローマ等)
基督教新聞2611(3/8) [37998
新刊「シュタンゲ/宮本武之助譯「基督教的世界觀と哲學的世界觀」」
基督教新聞2612(3/15) [37999

讀後感・今井新太郎「文學博士・松原寛氏の「生活と哲學」を讀む」(ヘーゲル等)
基督教新聞2614(3/29) [38000
教文舘「Essence of Plato,by Consstantine Ritter/ Church and Gnocis,by F.C.Burkitt」
基督教新聞2614(3/29) [38001
新刊「有賀鐵太郎・魚木忠一「概說・基督教思想史」」
基督教新聞2616(4/12) [38002
原田信夫「カール・バルトに於ける基督教倫理(2)」(プラトウの「國家」等)
基督教新聞2617(4/19) [38003
讀後感・岸田生「有賀・魚木兩氏共著「概說・基督教思想史」を讀む」
基督教新聞2618(4/26) [38004
靑木庄藏「神によつて救はるる日本」(ギリシヤ、アレキサンダー大王、ローマ帝國、シーザー等) 基督教新聞2618(4/26) [38005
竹内愛二「母性の新しき禮讃」(アテネ、ローマ等) 基督教新聞2620(5/10) [38006
山脇敏雄「母の日を祝きて」(聖アウガスチン等) 基督教新聞26120(5/10) [38007
園田生賢「浮田和民先生の新島[襄]傳を讀みて(3)」(オーガスチン傳等)
基督教新聞2625(6/14) [38008
海老名彈正「新日本精神の誕生とその由來(1)」(ローマの文化、ギリシヤの神々、ソクラテス等) 基督教新聞2631(7/26) [38009
平岡德次郎「福音を恥とせず」(ギリシヤ人、コンスタンチン帝、アレキサンダー等) 基督教新聞2643(10/18) [38100
新刊「W.P.パターソン/松尾武・野川群鳳譯「聖パウロの神學思想」」
基督教新聞2650(12/6) [38101
高橋信一「基督教と日本精神」(アテネの漠然たる神觀等)
基督教新聞2652(12/20) [38102
C.②M・イーリン/玉城肇譯『書物---その起源と發達の物語』 [38103
霜田史光『シーザー』 [38104
石原謙『基督教史』(岩波全書32) [378105
川合信水『山上垂訓講義及說教』 [38106
松本卓夫『新約の時代』 [38107
前島潔『耶蘇基督』 [38108
ディキンズ/岩橋武雄譯『主イエス様の御生涯』(16册。→昭22再版) [38109
シー・エイ・ローガン『主イエスの自己紹介』 [38120
小平國雄『聖書の歷史地理』(下巻。日曜學校パンフレット3) [378121
武田公平『ひとりで研究するマルコ傳福音書』 [38122
佐久達雄『東洋古代社會史』 [38123
千葉龜雄『坪内逍遙傳』(偉人傳全集23) [38124
③小寺健二「初代教會に於ける聖母信心---カタコムブの繪畫に示されたる聖母について」聲700 [38125
(參考:「京大文學部卒論」、京都帝國大學新聞208(10/5) [38126
若木禮「希臘人の殖民觀」)
近山金次「チベリウス帝政論攷」史學13-2 [38127
(參考:彙報「各大學史學科卒業論文題目」、歷史地理63-3 [38128

東大：藤井泓「ローマ帝政初期に於ける奴隷の社會的地位に就て」
田中德藏「六世紀前半における東ローマ帝國の外交政策に關する一考察---特に絹貿易を中心に」）
相葉伸「昭和8年度文部省檢定試驗・西洋史豫備試驗問題解說」
歷史教育9-3 [38129
「一、ローマ興起以前ガリアに於ける民族の分布」
（參考：史界近事「夏季歷史講座概況」、歷史教育9-6 [38130
大類伸「羅馬史を語る」）
（參考：編輯局「文檢研究第29回・模擬試驗成績發表」歷史教育9-7 [38131
中井守一（和歌山市)「上古に於ける地中海上勢力の爭奪につき述べよ」
（參考：編輯局「第61回文檢歷史科豫備試驗問題」歷史教育9-8 [38132
西洋史：「二、西ローマ帝國滅亡後チャールズ大帝に至るまでのイタリヤに於ける政治的勢力の推移」)
（參考：編輯局「第61回文檢歷史科本試驗問題」歷史教育9-10 [38133
西洋史：「一、プトレマイオス家の施政方針」)
相葉伸「昭和9年度文部省檢定試驗・西洋史豫備試驗問題解說」
歷史教育9-12 [38134
西洋史：「二、西ローマ帝國滅亡後チャールズ大帝に至るまでのイタリヤに於ける政治的勢力の推移」
福音書のイエス「都を見て泣き給ふ」（アレキサンダー大王等）
ときのこゑ2/1 [38135
「クレオパトラの鼻は曲がつてゐた」東京朝日新聞6/11 [38136
日高猪兵衛「イエスの誘惑(5)」(ギリシヤ、ローマ等)
基督教新聞262641(10/4) [38137
④＊[訂正]伊福部吉隆「都市起源論」都市問題19-1,2 [10637] [38138
＊[訂正]「最近史界」史學研究6-1 中 [10649] [38130
J.Huizinga,Eine Kries des römisch-germanischen Verhaltnisses(H.Z.,Heft 1, 1933)」)
＊[訂正]鈴木重貞「本邦初のゲーテ文獻」(馬爾加摩[マルカム]氏著「日耳曼[ゲルマン]國史(上)」小林雄七郎譯、明治10年10月、文部省印行)書物展望4-3 [10729] [38140
海外史界・村川堅太郎「古典古代社會、經濟史研究の近況」史學雜誌532 [38141
Johannes Hasebrock：Staat und Handel im alten Griechenland,1928/Griechische Wirtschafts-und Gesellschaftsgeschichte,1931
Erich Ziebarth：Beiträge zur Geschichte des Seeraaubs und Seehandels im alten Griechenland,1929
J.G.Miline：Greek Coinage,Oxford,1931
J.Laurent,Essais d'histoire sociale.Tome 1,La Grèce antique,1933
Max Mühl,Untersuchungen zur altorientalschen und althellenischen Gesetsgebung, 1933
Walter Schwahn：Demosthenes gegen Aphobos,1929
Schiffspapiere,Rheinisches Museum f.Philologie,1932
E.Ziebarth：Schuffspapier,Klio XXVI,Heft 2-3,1933

Chrimes：On Solon’s property classes,Classical Review,1932
G.Glotz：Demosthène et les finances athénienne de 346 à339,Revue Historique, 1932
Cambridge Ancient History ,vol.VIII,1930
André Piganiol：Un document d’histoire sociale romaine:la classification servienne Annales d’histoire écomonique et sociale,1933
Tenney Frank：Mercantilism and Rome’s forign Policy,American Historical Review,1912-13
A.M.Duff：Freedmen in the Early Roman Empire,1928
R.H.Barrow：Slavery in the Roman Empire,1928
E.H.Warmington：The commerce between the Roman Empire and India,1928
M.L.Strack：Die Freigenossene in ihrer Bedeutung für die Gessellschft derAlten, Hist.Zeitschrift,Bd.112,1913-14
Fritz Heichelheim,：Zur Währungskrisis des römischen Imperimus im 3 Jahrhundert n.Chr.,Klio XXVI,1932
Mickwitz Gunnar：Geld und Wirtschaft im römischen Reiche des 4 Jahrhundert
Mickwitz Gunnar：Welthistorische Geschichtspunkte zu den vormittelalterlichen Wirtschaftsepochen,Festgabe für Werner Sombart,zur 70 Wiederkehr seines zu den Geburtstages
Huvelin：Étude d’histoire du droit commercial romaine(H.Lévy-Brühl[ed.], Histoire
externe,Droit maritime,ouvrage publicé après la mort de l’auteur
Giuseppe Savioli：II Capitalismo Antico(Storia dell’Economia Romana,1929)
Giuseppe Savioli：Le capitalisme dans le monde antoque,traduit sur le manuscript Italien,par B.Bonnet,Paris,1906[佛譯]
海外史界・荒井亮「ドイツに於けるルネサンス研究の近況」史學雜誌535 [38142
----Paul Piur u.Konrad Burdach：Vom Mittelalter zur Reformation ,Forschungen zur Geschichte der deutschen Bildung[既刊7巻]
Konrad Burdach：Sinn und Ursprung der Worte Renaissance u. Reformation,1910
Über dem Ursprung des Humnismus,1914
Reformation Renaissance Humnismus,1918
Die seelischen u.geitigen Quellen der Renaissancebewegung, H.Z.Bd.149,H.3
Alfred v.Martin：Zur kultursoziologischen Problematik der Geitesgeschichte---- im speziellen Hinblick aauf die Ausgänge desMittelalters(d.Z. 142,Bd.,1930)
Soziologie der Renaissance,Zur Physiognomik u.Rhythmik bürgerlicher Kultur.1932
R.Stadelmann：Jacob Buruckhardt und das Mittelalter,H.Z.142 Bd.,1930
H.Baron：Die Erwachen des historischen Denkens im Humnismus des Quattrocento, H.Z.147 Bd.,1933
服部英次郎「新刊書目」、哲學研究215中------- [38143
Pfänder Alexander:Die Seele des Menschen:Versuch einer verstehenden Psychologie,Halle(Saale)
Alfled Loisky,La naissance du christianisme,Paris
F.J.Foakes-Jackson,Eusebius Phamphili:Bishop of Caesarea in Palestine and first

Christian historian,London
Rudolf Knopf,Einführung in das Neue Tetament:Bibelkunde des Neuen Tetaments ;Geschichte und Religion des Urchristentums,4 Aufl.völlig neu bearbeitet von Hans Lietzmann und Heirich Weinet,Giessen
服部英次郎「新刊書目」、哲學研究216中----- [38144
M.Brann,Griech.roman.u.hellenist.Geschichtsschreiben,Frankfurt a.M.
「新刊書目」哲學研究217----- [38145
F.Hellmann, Herodotos: Kroisos Logos（Neue Philol. Unters.,Heft 9）Bln.125 S.
H.Ritter & L.Proller, Historia Philosophiae Graecae（Graecae-Romane）, Testimonia auctorum colegerunt notisque instruxerunt, Ed.10 IV 606 S.
「新刊書目」、哲學研究219中---- [38146
H.Lietzmann Paulus:Würzburbg
（參考：彙報「倫理學研究會」、哲學研究219 [38147
内田文雄「Dilthey, Der Anbau geschichtlichen Welt in der Geisteswissen-schaften」）
（參考：彙報「倫理學讀書會」、哲學研究220 [38148
中村嘉太郎「Droysen: Grundriss der Historik」）
「新刊書目」哲學研究223----- [38149
P.Gardner-Smith & E.J.Foakes-Jackson,The Expansion of the Christian Church, Cambridge U.P.
（參考：「京大文學部卒論」、京都帝國大學新聞208(10/5) [38150
井上智勇「古代ローマ史研究法の近況」
高橋金也「マキャヴェリの歴史觀に於ける一考察」）
大類伸「ルネッサンス人の中世觀」文化1−1 [38151
（參考：彙報「各大學史學科卒業論文題目」、歴史地理63-4 [38152
・九大：讃井鐵男「ドロイゼン史學とプロシヤ獨逸問題」
・東北大：長崎茂次「ヤーコブ・ブルクハルトの「伊太利文藝復興の文化」に就いて」
・早大：上田正夫「中世初期に於ける都市の一考察」 ）
（參考：彙報「史學大會、諸家什寶展覧」、歴史地理64-1 [38153
武藤智雄「羅馬市及びその附近に於ける史蹟發掘の近狀」（幻燈使用））
田保橋潔「マルコ・ポーロとその地理史的研究」歴史地理64-4,5 [38154
彙報「伊太利で石の新聞を發掘」歴史地理64-6 [38155
史界近事「黒板、村川兩博士の退任」歴史教育9-11 [38156
評書「内藤智秀「西洋史概觀」」歴史教育9-12 [38157
池田哲郎「一九三三年我國西洋史學界展望」西洋史研究5 [38158
「基督教徒中の最高峰パウロ」（ダイスマン「保羅の研究」、サイブル、郡山譯）神の國新聞799(4/25) [38159
讀書「及川儀右衛門「概説・西洋史」」圖書舘雜誌28-5 [38160
（參考：「(慶大)卒論」、三田新聞315(4/20) [38161
佛蘭西文學：井汲教授下：矢橋讓吉「文藝復興」）
讀書欄・石井柏亭「裸體の習俗とその藝術」(太田三郎著。「希臘に於ける裸體の

習俗」、「エレニムスに扱はれたる裸體」)東京朝日新聞5/25 [38162
出版界「西洋史概觀」(内藤智秀著) 東京朝日新聞12/7 [38163
新著「麻生隆義「パウロ書翰概說」」基督教新聞2606(2/1) [38164
新刊「前島潔「耶蘇基督」」基督教新聞2612(3/15) [38165
新刊「松本卓夫「新約の時代」」(6章「羅馬帝國の政治組織」、7章「羅馬人の社會生活」、8章「希臘羅馬世界の文學」、9章「羅馬帝國に於ける主要思潮」、10章「原始基督教の宗教的背景」)基督教新聞2625(6/14) [38166
井伊玄太郎「ルナンに於ける奇蹟の說明(1)(2)」(フェニキヤ人、ギリシヤ精神、ソクラテス、プラト、アリストテレス、ヘーゲル、ベルグソン等)
基督教新聞2634(8/16),2635(8/23) [38167
(參考:「愛知教會の哲學講習會」、基督教新聞2635(8/23) [38168
----- 金子白夢「ヘーゲルの歷史哲學」)
鈴木生「吾人の立場を思ふ」(ギリシヤ・ローマ世界の崩壞等)
基督教新聞2637(9/6) [38169
教文舘「Greek Student's Manual,A Selection of Greek Historical Inscriptions, by M.N. Tod」基督教新聞2640(9/27) [38170
松原大八「歷史上の驚異」(ローマ史、プラトーン、ストイックの哲學等)
基督教新聞2652(12/20) [38171
新刊「(柏井園全集第一回配本)パウロ研究」基督教新聞2652(12/20) [38172
D.①＊[訂正]こども室「家庭イソップ」家庭5-1,2,3,4,5 [10679] [38173
金の星社編『オデッセイ物語』 [38174
楠山正雄譯『イソップ物語』(←昭8) [38175
谷崎伸『イソップものがたり』 [38176
米國聖書協會編『舊新約聖書』(引照附) [38177
米國聖書協會『英和對照使徒行傳』 [38178
アルバ社編輯部編『馬可[マコ]傳---新約聖書・口語體』(明治14刊の復刊) [38179
橋本宗範『羅馬書義解』 [38180
②＊[訂正]ヘルマン・ジーベック/橋本文夫譯『ゲーテの世界觀』
[10689] [38181
大宮健太郎・小川倩葭『西洋文學と圖案』 [38182
ジー・ビー・ピアソン/田中剛二譯『原語は:新約聖書原語研究』 [38183
舘岡剛『聖書解釋法』 [38184
三吉朋十『卍と巴との起源考』(私家版) [38185
太田三郎『裸體の習俗とその藝術』 [38186
新村出『國語學講習錄』(「規範的對歷史的日本文法」[ギリシヤ、ラテン等]) [38187
山宮允『明治大正詩書總覽』(本文篇・圖錄篇) [38188
倉持高雄『動詞中心獨英和對照羅典語研究』 [38189
ダンテ/生田長江譯『神曲』(上下。新潮文庫88,89) [38190

G.ジンメル/小田秀人譯『ゲエテ』 [38191
圓地與四松『グラッドストン傳』(偉人傳全集3) [38192
東京ヰリアム・モリス研究會『モリス書誌』(ヰリアム・モリス誕生百年祭記念文獻繪畫展覽會目錄。丸善) [38193
新村出『典籍散語』 [38194
③＊[訂正]ゲオルゲ/芳賀檀譯「ソフォクレスの追憶」エルンテ5月號[17451] [38195
＊[訂正]「古今東西詩人年齡鑑」(ゲーテ[84]、メレディス[82]、エウリピデス[75]、ブレイク[71]、ペトラルカ[71]、エンニウス[71]、アイスキュロス[70]、ネーヴィウス[69]、ミルトン[67]、ニーチェ[67]、モリス[63]、ハイネ[61]、ヘルデル[60]、キングスレー[57]、グールモン[57]、ダンテ[57]、レッシング[53]、シェークスピア[52]、シルレル[47]、ルクレティウス[45]、バイロン[37]、フッテン[36]等)
日本及日本人302 [10714] [38196
＊[訂正]「古今東西學者年齡鑑」(高野長英[47]、デモクリトス[100]、ヴント[89]、カーライル[87]、モンテスキュー[87]、ゲーテ[84]、スペンサー[84]、カント[81]、エマーソン[81]、オイケン[80]、シェリング[80]、ディルタイ[79]、ガリレオ[78]、クーザン[76]、アウグステイヌス[77]、アルキメデス[76]、ケーベル[76]、アルケシラオス[75]、ショーペンハウエル[75]、エピクロス[72]、ソクラテス[71]、セネカ[71]、ライプニッツ[71]、コペルニクス[71]、ヴィンデルバンド[69]、ミル[68]、シュライエルマッヘル[67]、ヒューム[66]、ベーコン[66]、マルクス[66]、ガッサンデイ[64]、ヘーゲル[62]、アリストテレス[63]、エムペドクレス[63]、ニーチェ[57]、トーマス・アクイナス[48]、パスカル[40]等)
日本及日本人304 [10715] [38197
＊[訂正]「古今東西文學者年齡鑑」(新井白石[69]、ソフォークレス[91]、カーライル[87]、ゲーテ[83]、メレディス[82]、シャトーブリアン[81]、エマーソン[80]、ユーリピデース[74]、シェンキーウイッチ[71]、アンデルセン[71]、エスキラス[70]、アイスキュロス[70]、ミルトン[67]、ボッカチオ[63]、ルーソー[62]/德富蘆花[60]、田山花袋[60]、岩野抱鳴[48]、島村抱月[48]、二葉亭四迷[46]、國木田獨歩[38]、高山樗牛[32]、アリストファネス[62]、ラシーヌ[61]、ハイネ[60]、ドオデエ[58]、ニイチェ[57]、グールモン[57]、ダンテ[57]、レッシング[53]、シェークスピーア[52]、ヘッベル[51]、シルレル[47]、バイロン[36]等)
日本及日本人309,310 [10716] [38198
＊[訂正]新村出「イソップ」岩波講座「世界文學」第15所収 [23868] [38199
(參考：彙報「各大學史學科卒業論文題目」、歷史地理63-4 [38200
早大：宇野鎭夫「ヘシオドス及び其「仕事と日々」の考察」)

瀧澤眞弓「パルテノン構圖論の展望」建築學研究74,75 [38201
西脇順三郎「近代人と中世紀人」三田文學9-2 [38202
應問・長谷川長四郎「中島力造博士著「倫理學說十回講義」p.53に記載中の「プラトーが慾望の世の中から離るる積極的準備として、音樂を研究せねばならぬ」といつてゐますが、プラトーの音樂は三味線や太鼓の事でない高尚な樂とありますが、どんな音樂を指してゐるのでございませうか」、
丁酉倫理會倫理講演集385 [38203
-----答・中島博士が三味線や太鼓と云はれたのは、恐らく花柳界でもてはやされるといふことを聯想しのお話でありませう。昔のギリシヤの樂器は實際どんなものがあるかは承知しませんが、今日の西洋音樂を聯想して考へれば十分でせう。
神田盾夫「新約聖書ギリシア語についての一管見」
ギリシヤ語聖書研究3月號 [38204
神田盾夫「新約聖書ギリシア語の研究法」ギリシヤ語聖書研究8月號 [38205
④＊[訂正]高沖陽造「アンドレ・ジイドの「ゲーテ論」批判」(建設社ジイド全集第9巻) 帝國大學新聞526 [17464] [38206
＊[訂正]ほんとほん・土井晩翠「ゲーテ・シェリイ・バイロン等」
帝國大學新聞552 [17465] [38207
＊[訂正]南方熊楠「地突き唄の文句」(ローマ帝國の姪婦、ツアナのアポロニウス、東ローマ國のレオ帝、プリニウス「博物志」等) ドルメン3-5,6,7 [17466] [38208
服部英次郎「新刊書目」、哲學研究216中 [38209
W.Schmidt & O.Stählin,Gesch.d.griech.Literatur,TI.1;Die kalss.Periode d.griech.Lit.,Bd.2:Die griech.Lit.in d.Zeit d.attisch.Hegemonie vor d.Eingreifen d.Sophistil,München
「新刊書目」、哲學研究218中---- [38210
J.J.Wicnkelmann,Geschichte der Kunst des Altertums,Neuaugs.
岩波講座「哲學」第8-----・落合太郎「言語」 [38211
石山脩平「解釋學試論」教育學研究(東京文理大)3-8,9,12 [38212
ジョルジョ・ゴウイヨウ/柳川德治郎譯「ロマンティスムとカトリシスム(上)」(ゲーテとヘレニズム、希臘文學等)
カトリック14-8,9 [38213
新刊「ラテイン文法・上巻」(ドン・ボスコ社)
日本カトリック新聞457(7/15) [38214
(參考：彙報「學士院本年度研究補助決定」、歷史地理63-6 [38215
姉崎正治「キリシタン宗教文學小篇の蒐集研究出版」)
木下常太郎「ロレンス・エリオット・パウンド」三田文學9-12 [38216
保田與重郎「清らかな詩人」(ヘルダーリン) 文學界1-2 [38217
井島勉「美的なるものに於ける藝術の位置」哲學研究218,223 [38218
高楠順次郎「佛傳の藝術化」日本精神文化1-3 [38219
新村出「兒童文學について」(講演要旨) 兒童藝術研究11月號 [38220
新村出「外來語の本源と徑路」外來語研究2-1 [38221

天野敬太郎「外來語研究文獻月錄」外來語研究2-3・4(合) [38222
佐藤功「若きゲーテの生活」尚志會雜誌(第二高等學校)154 [38223
木村謹治「作品に現はれたるゲーテの生活感情」エルンテ1月號 [38224
「木村(謹治)先生著「若きゲーテ」研究に就て」、エルンテ7月號 [38225
----新關良三「「若きゲーテ」と外國文學研究」
石川錬「感想」
櫻井和市「感想」
高橋健二「「若きゲーテ研究」の憶ひ出」
武田忠哉「無題」
中島勝「無題」
村山一郎「讀後感」
齋藤久雄「「若きゲーテ」研究を讀みて」
房内幸成「「若きゲーテ」研究について」
米原穣「「若きゲーテ」への感謝」
芳賀檀「無題」
相良守峯「無題」
「木村(謹治)先生著「若きゲーテ」研究に就て(續)」、エルンテ6-5 [38226
------小林健夫「辯疏の書」
畑中伊三郎「感想」
菊池榮一「「若きゲーテ」研究の印象」
春山行夫「西脇順三郎著「ヨーロッパの文學」」季刊・文藝6輯 [38227
新刊月評・土愚流文「「若きゲーテ研究」外三篇」東京堂月報2月號 [38228
辻野久憲「一九三三年版文學書プロムナアド」書物展望4-1 [38229
------西脇順三郎「ヨーロッパ文學」、田中秀央・井上增次郎共著「希臘文學史」、林達夫「文藝復興」
小泉一雄「父八雲の述懐」書物展望4-3 [38230
鈴木重貞「本邦最初のゲーテ研究」書物展望4-3 [38231
新村出「愛着する海彼の吉利支丹版」書物展望4-4 [38232
蛯原八郎「「典籍散語」を讀んで」(新村出著) 書物展望4-5 [38233
島田謹二「矢野峰人譯詩集「ぽうえつと」に就いて」(E.A.ハウスマン、イエイツ)
書物展望4-4 [38234
木村嘉次「聖書和譯に於ける高橋五郎氏」書物展望4-8 [38235
柳田泉「逍遙先生書志源流---- 明治十二年~二十二年」書物展望4-12 [38236
柳田泉「明治の飜譯文學研究」(改造社版)日本文學講座11「明治文學篇」 [38237
富田文雄「日本モリス文獻目錄」(モリス誕生百年記念協會編「モリス記念論集」
中。川瀬日進堂書店) [38238
「神の聖言への愛」(玉川直重氏の「ギリシヤ語獨習」)神の國新聞792(3/7) [38239
保田與重郎「清らかな詩人」(ヘルデルリーン覺書。ギリシヤ文學等)
文學界2月號 [38240
渡邊一夫「モンテーニュ研究と時代」(1970年刊著作集3中) [38241
木村謹治「ゲーテの死」(帝國大學新聞社出版部「讀書と散歩」中) [38242
新關良三「シルレルの思ひ出」(帝國大學新聞社出版部「讀書と散歩」中) [38243

讀書「小宮豐隆「黄金蟲」」(アリストファネス、「蟬」[ホーマー、アナクレオン、
アリストテレス等の見方を紹介]) 圖書舘雜誌28-5 [38244
讀書・岡田哲郎「ブルーノ・タウト/平居均譯「ニッポン」」
圖書舘雜誌28-9 [38245
窪川鶴次郎「ゲーテ研究の一文話---森山哲氏「ゲーテ詩集」を讀みて」
三田新聞315(4/20) [38246
加藤元彦「シルレルのこと---誕生百七十五年に際して」三田新聞324(11/2) [38247
新村出「ひですの經」東京日々新聞9/12 [38248
井上源次郎「外國文學の理會(1)」(ストイック哲學詩人ヴィニー、フォンテーヌ、
エソップ物語等) 東京朝日新聞9/20 [38249
(參考：「(慶大)卒論」、三田新聞313(2/16) [38250
文學部：英吉利文學：小谷精一「Bayronの批評に就て」)
林達夫「「痩松園隨筆」---モラリスト文學への一寄與」(モンテーニュ、ラ・フォ
ンテーン等) 東京朝日新聞9/22 [38251
本多顯彰「英文學の飜譯」(プルターク英雄傳、ユリシイズ等)
東京朝日新聞10/12 [38252
「ポムペイ壁畫は「フレスコ」に非ず」(ポッツイ教授) 東京朝日新聞11/1 [38253
出版界「ゲーテ・ファウスト」(櫻井正隆譯) 東京朝日新聞12/25 [38254
教文舘「Erasmus,by Ch.Hollie」基督教新聞2606(2/1) [38255
新刊「鷲山第三郎「文學と神の問題」」(ダンテ論) 基督教新聞2612(3/15) [38256
新刊「舘岡剛「聖書解釋法」」基督教新聞2633(8/9) [38257
E.②田中耕太郎『法律哲學概論(第一分册)』(第2編「法律思想史概觀」) [38258
ロリン・ウォーカー/杉村一枝譯『イエスと創造的保守主義』(→昭16再版) [38259
シェイラ・マシユウス/高柳伊三郎譯『イエスの觀たる家族・財産・國家』[38260
村松正俊譯『ファシズモ原理』(ムッソリーニ全集9) [38261
渡邊鼎『歐洲中世經濟史』 [38162
③(參考：彙報「各大學史學科卒業論文題目」、歷史地理63-4 [38163
京大：清水喜一「ローマ統治組織形態の變遷、附民權の發達について」)
(參考：編輯局「文檢研究第30回・模擬試驗成績發表」歷史教育9-8 [38164
只野三男(仙臺)「上古ギリシヤに於ける政體の變遷を述べよ」)
(參考：編輯局「第61回文檢歷史科豫備試驗問題」歷史教育9-8 [38165
西洋史：「一、アテネの經濟的發展と政治形態との關係」)
戸倉廣「ローマ法の世界史的使命」歷史教育9-11 [38166
相葉伸「昭和9年度文部省檢定試驗・西洋史豫備試驗問題解說」
歷史教育9-12 [38167
西洋史：「一、アテネの經濟的發展と政治形態との關係」
田邊元「社會存在の論理」(プラトン等)哲學研究224,225 [38168
資料「昭和九年三月施行・東京・京都・東北・九州各帝大法文學部試驗問題」
法律時報6-5 [38169
----政治學史：京都(末廣教授)「「マキアヴェリズム」を論ぜよ」
東北(佐藤教授)「Platoの共産主義に對するAristotleの批判に就て」
・羅馬法：東京(原田助教授)「一、物的擔保制度の沿革、ニ、次の語を簡單

に説明せよ。1.specificate 2.capitas deminutio 3.in iure cessio 4.actio Pauliana 5.actio Publiciana 6.datio in solutum 7.beneficium competentiae 8.piacausa」
京都（田中助教授）「一、爭點定決（litis contestatio）、二、ローマに於ける家子と奴隷の地位、三、市民法上の所有權と法務官法上の所有權、四、ローマ質權制度の不完全性」（二問選擇）
九州（武藤助教授）「一、Jus praetorium、二、Justinianus法典の價値」
大野純一「古代希臘に於ける貨幣思想」商學討究（小樽商科大學）8-(下)　[38170
（參考：「（慶大）卒論」、三田新聞313(2/16)
文學部：西洋史學：穴澤榮三郎「古代イオニア都市の經濟的發展と東方勢力との關係に就て」）
④＊［訂正］武藤智雄「「羅馬市民」ヴィットーリオ・メシャローヤ」（ローマ法學者）
國家學會雜誌48-9　[10789]　[38171
岩波講座「哲學」第8-----・田中耕太郎「法と道德」　[38172
安藤堯雄「陶冶理想としての政治的人間」教育學研究(東京文理大)3-3　[38173
（參考：「京大文學部卒論」、京都帝國大學新聞208(10/5)　[38174
佐々木忍「フーゴー・グローチウスと其の著「戰爭と平和の法」」）
（參考：彙報「各大學史學科卒業論文題目」、歷史地理63-3　[38175
東大：岩澤清三郎「ニコロ・マキヤヴェリ著「君主論」の史的考察」）
紹介「クーリッシャー/渡邊鼎譯「歐洲中世經濟史」」歷史地理63-4　[38176
（參考：彙報「各大學史學科卒業論文題目」、歷史地理63-4　[38177
東北大：宮崎信彦「ダンテの政治思想の一考察」）
（參考：彙報「各大學史學科卒業論文題目」、歷史地理63-6　[38178
廣島文理大：阿部岩尾「トーマス・モアの國家觀に就いて」
西田榮「Dante Alighieri のDe Monarchiaに就いて」）
小川正行「ヘーゲルの國家觀及公民教育論」學習研究8,9月號　[38179
「新刊書目」--------哲學研究217
The Laws of Plato, trans. & ed. with an Introduction, by A.E.Taylor
書評・田中耕太郎「中島重著「社會哲學的法理學」」法學協會雜誌52-11 [38180
小尾範治「ファッショ治下のイタリヤ」(ローマ進軍)
丁酉倫理會倫理講演集375　[38181
田中耕太郎「法に於ける道德・技術及科學」(ソフィスト、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、キケロ、ウルピアーヌス、ストア學派、グロチュース、イェーリング等) 丁酉倫理會倫理講演集377
[38182
柿花啓正「ヘーゲル哲學と變革期經濟の本質」(プラトー等)
天晴地明經濟新聞(前缺)6-7 (7/10),6-8(8/10)　[38183
「天晴地明」(田中[耕太郎]教授のローマ法)
天晴地明經濟新聞(前缺)6-12(12/10)　[38184
米田實「ムソリニーの新膨脹政策(ローマ帝國復活の實現如何)」

政経論叢(明治大學) 1-3 [38185
清水幾太郎「中世に於ける個人と社會」社會學評論?號(9/10發行) [38186
加茂儀一「ルネッサンス的人間に就いて」社會學評論?號(9/10發行) [38187
讀書・「田中耕太郎「法律哲學概論」(第一分册)」圖書舘雜誌28-9 [38188
前原光雄「田中耕太郎「法律哲學概論」(第二巻)」三田新聞310(1/1) [38189
峰村光郎「今泉孝太郎氏の「法律學概論」」三田新聞310(1/1) [38190
峰村光郎「田中耕太郎著「法律哲學概論」」三田新聞316(5/4) [38191
金子鷹之助「スミスとヘーゲル(歐洲大戰史の一節)」(ソクラテース、ソフィスト、プラトン、アリストテレース、エピクロス、ストア、新プラトン主義等)一橋新聞183(2/12) [38192
上原專祿「ド教授のこと」(ドプシュ) 一橋新聞198(11/12) [38193
讀書欄・恒藤恭「法律哲學概論」(田中耕太郎著) 東京朝日新聞5/18 [38194
氣賀重躬「古代教會の社會的進出----ケイス教授の近業」新興基督教10月號(49號) [38195
小崎弘道「非常時日本への警告」(ニーチェ等) 基督教新聞2614(3/29) [38196
太田一「愛國者・建設者(1)」(オーガスチン等) 基督教新聞2618(4/26) [38197
F.②三木重長『小學校理科教材としての世界數學史』 [38198
③＊[訂正・削除]~~寺田寅彦「ピタゴラスと豆」東京日々新聞(夕刊)7/16~~ (→B.③) [10828] [38199
林鶴一「幾何と代數との語源に就て(1)(2)」(Euclid等) 東京物理學校雜誌500,510 [38200
米山國藏「Goetheと自然科學」(Euclid等)東京物理學校雜誌511 [38201
(ヘンリ・クルウ博士)「最も短い科學史」(ピタゴラス、ユークリッド、アルキメデス、ゼノファネス、デモクリトス等) 東京朝日新聞1/25 [38202
④新刊「モーリス・マンカ「自然主義者としてのアリストテレス」(佛語。Maurice Manguat,Aristote:Naturaliste,Vrin,1932) カトリック14-2 [38203
質疑應答(一理學部生)「自然科學史及び技術史に關する定評ある著述(英、獨、佛)を教示せられたし」(Siegmund Günther, Geschichte der antiken Naturwissenschaft ,1888.W.Oswald, Klassiker der exakten Wissenschaften. Günther, Geschichte der anorganischen Naturwis senschafin 19,Jahrhundert 1901,9845 S. F.Daunemann, Grundriss einer Geschchite der Naturwissenschaften, 2Bde.,1902-03.L.Darmstädter & K. du Rois-Reymond, 4000 Jahren Pionerar Leit in den exakten Wissenschaften,1904,389 .S. Lippmann ,Abhandlungen und Vorträge zur Geschchite derder Naturwissenschaften 2 Bde., 1906&1913.(答・原種行) 歷史學研究3-3 [38204
石原純「「史的に見たる宇宙觀の變遷」」(アレニウス/寺田寅彦譯。帝國大學新聞社出版部「研究と世間」中) [38205
讀書「寺田寅彦「物質と言葉」」(ルクレチウス等) 圖書舘雜誌28-2 [38206
讀書・「平山清次「曆法及び時法」」圖書舘雜誌28-6 [38207
G. 平野學・松元竹二編、長谷川如是閑監修『世界人名辭典』(小辭典全集10) [38208

小河内美男編『聖書地名事典』 [38209
内藤午朗編『童話新辭典』 [38210
雜錄「ヘーゲル・レクシコン」哲學研究214 [38211
新村出「日本文學大辭典」(?)9/18 [38212
新刊「桑木嚴翼監修、春原一勢編「哲學辭典」」
丁酉倫理會倫理講演集380 [38213
貞松修藏「厚生新編とその原本調製及發行について」圖書舘雜誌28-9 [38214
讀書欄・下村海南「大百科事典の完成」(プリニウスの博物誌等)
東京朝日新聞2/26 [38215
讀書欄・永井葛助「二つの百科辭典---博文舘版と三省堂版」
東京朝日新聞6/26 [38216
出版界「基督教大辭典增補版」(故高木壬太郎著、阿部氏增補)
東京朝日新聞11/17 [38217
新刊「小河内美男編「聖書地名事典」」基督教新聞2646(11/8) [38218

昭１０（１９３５）

A. ＊[訂正]和辻哲郎『風土』(ヘルダー) [10854] [38219
＊[訂正]嘉治瑠璃子「パルナソス」（ギリシア紀行）創造6 (←昭11.A)
[11351] [38220
(參考：學界消息「法理學研究會」、法と經濟（立命館大學）4-2 [38221
淵定「サヰニーの民族精神について」)
海外哲學思潮「フランスに於ける文明觀念の歷史」思想160 [38222
石田幹之助「「ロドリゲース」の行方」（耶蘇會士）書誌學5-2 [38223
龜井高孝「「風土」雜觀（和辻[哲郎]氏に呈す）」思想163 [38224
新村出「南歐の海路」阿波禮1月號 [38225
新村出「舊時代の日本文化に及ぼせる西洋の影響」(講演要旨、自筆原稿。國際文化振興會における日本文化講演、のち英・西語譯されて刊行) [38226
森田慶一「ペロポンネソスの旅」建築學研究76,77 [38227
曾山生「泰西文化研究とカトリック教」(ケーベル、ダンテ、ゲーテ等)
日本カトリック新聞506(6/23),507(6/23),508(7/7),
510(7/21),511(7/28),512(8/4),
513(8/11),514(8/18), 515(8/25)
[38228
（參考：自昭和9年至昭和10年3月・[九大]史學關係講義題目中、史淵10 [38229
近世史學史(千代田)、西洋美術史(兒島)、宗教史（石橋）、美術史方法論（矢崎）、文藝思潮ノ變遷（須川）、經濟學史概論（波多野）、十九世紀政治學史（今中））
（參考：昭和10年[自4月至10月]・第一學期史學關係講義題目中、史淵11 [38230
伊太利のルネッサンス(大類)、西洋中世哲學史(鹿子木)、西洋近世哲學史概說（中島）、佛蘭西文藝思潮の變遷（須川）、獨逸文學史（小牧）、西洋法制史（武藤）、經濟學史（波多野）、社會思想史（加田））

（参考：[立教大學]昭和10年度史學科關係講義題目中、史苑9-2 [38231
史學概論（小林）、西洋史概説（古代東方諸國史、小林）、西洋史概説（野々村）、西洋哲學史概説（出）、教育學（岡部）、教育史（岡部））
（参考：彙報「京都帝國大學文學部史學科本學年講義題目中」、史林20-3 [38232
西洋史概説（原、時野谷）、復興期の精神（原）、中世精神史（鈴木）、希臘文化の黎明（村田）、羅馬共和政時代の社會的經濟的發展（井上）、歐洲考古學（羅馬希臘時代（濱田）、ギリシヤ精神の傳承（原）、史學研究法（原）、考古學概説（濱田））
（参考：彙報「昭和10年度京都帝大文學部哲學科講義題目」、哲學研究229[38233
哲學概論（田邊）、特殊講義（存在の判斷的性格、土井講師）、古代中世哲學史（山内）、特殊講義（ミュトスの研究、山内）、演習（Platon:Timaios、山内）、心理學概論（野上）、西洋倫理學史（天野）、教育學概論（長田）、美學序論（植田）、宗教學概論（波多野）、Plotinosの宗教哲學[Enneades Vの解釋]、波多野））
長尾行介「東西兩文明の融合調和の途について」（希臘スパルタ、ミルティアデス、マラソンの戰、テメストクリス、羅馬のシーザー、マセドニア、宰將フィロトス、クリトス、カリステーニス等）
丁酉倫理會倫理講演集387 [38234
海外思潮「ヒトラー時代直前の獨逸」(スペングラー等)
丁酉倫理會倫理講演集388 [38235
布川靜淵「女性の進出による社會變化」(オスワルド・スペングラー「西洋の没落」等) 丁酉倫理會倫理講演集395 [38236
澤柳大五郎「Goetheの伊太利紀行に關する一考察」文化2-3 [38237
（参考：「東北帝大法文學部昭和10年度講義題目」、文化2-4 [38238
哲學概論(高橋)、哲學特殊講義(自由の問題、高橋)、古代中世哲學史概説（石原）、近世哲學史概説（山内）、哲學史演習（Aristoteles,Ethica Nicomachia, 久保)、倫理學概論(?)、心理學概論(千葉)、教育史概説（春山）、美學概論（阿部）、美學特殊講義（ゲーテの美學、阿部）、音樂論及音樂史（?）、希臘美術史（紀元前5世紀、兒島）、西洋美術史特殊講義（伊太利文藝復興期、兒島）、西洋美術史演習（兒島）、西洋中世史概説（平塚）、西洋史特殊講義（伊太利ルネサンス研究、大類）、西洋史講讀（Quellensammmelung,Renaissance u. Humanismus、平塚)、希臘文化の一面(原)、英文學演習(2)(Shakespeare,Othello,Anthony and Cleopaetra)、獨文學演習(1)(ヘッベルの戲曲、小宮)、獨文學演習(2)(ニイチェのツァツストラ、小宮)、獨文學特殊講義(ゲーテ研究、奥津)、言語學概論(小林)、希臘語初級(Burnet,Greek Rudiments、久保)、希臘語上級(Xenophon: Anabashis, Platon:Episotlae,Thukydides,:Lib.I、久保)、羅甸語初級(Macmillan's Shorter Latin Course、久保)、羅甸語上級(Caeser:De Bello Gaelico, Lib.V、Sallustius:Ballum Catilinae、久保)、佛語上級(アナトール・フランス小説講讀、杉））
（参考：彙報「本年度各大學史學科講義題目」、史學研究7-1 [38239

・廣島文理大：西洋史概說（新見）、史學史演習（千代田）、西洋史演習（新見）、十八世紀精神史（千代田）、史學研究法（新見）
・東京帝大：史學概論（今井）、日蘭文化交涉史（板澤）、西洋史演習（今井）、西洋史概說（山中）、中世初期政治史（山中）、西洋史學演習（山中）
・京都帝大：西洋史概說・第一部（原）、第十八世紀の英國（時野谷）、復興期の精神（原）、中世精神史（鈴木）、希臘文化の黎明（村田）、羅馬共和政時代の社會的經濟的發展（井上）、歐洲考古學（羅馬・希臘、濱田）、ギリシヤ精神の傳承（演習、原）
・東北帝大：西洋近世史概說（大類）、伊太利ルネッサンス研究（大類）、講演（平塚）、希臘文化の一面（原）
・九州帝大：西洋史演習(B)（K.Lamprecht,Einführung in das histirische Denken）
・京城帝大：史學概論(松本)、西洋史學概說（金子）
・臺北帝大：史學概論(未定)、西洋史概說（未定）
・東京文理大：歐洲社會經濟史（中川）
・慶應義塾大：史學概論(橘本)、西洋史概說（下、近世。附・近世史學史、間崎）、Mediaeval Europa(by H.W.C.Davis、占部)、考古學概說（柴田）、西洋美術史（西洋近世美學史、守屋）、歷史哲學（船田）
・大谷大：西洋時代史（十七、八世紀、時野谷）、希臘史（村田）、史學概論(西田[直])
・龍谷大：史學研究法((西田[直])、西洋史(回基交涉史、岡島)、西洋史(原)
・立正大：史學(今井)、古代中世史(岡本)
・大正大：宗教史(大島)、史學概論(石田)、東西交通史(松田)、西洋史概說（大野））

（參考：彙報「山下教授歸朝、清原教授外遊、歡送迎史學講演會」
史學研究7-2　[38240
山下教授「歐洲所見談」)

(參考：彙報「昭和九、十年度三田史學會例會報告」、史學14-2　[38241
横部得三郎「イタリヤ雜觀」)

（參考：彙報「（臺北帝大）史學科講義題目」、
北帝國大學文政學部「史學研究年報」2　[38142
昭和9年度：史學概論(村上)、西洋史概說（新見、庄司）、地理學概論（小野））

（參考：「昭和十年度官立大學教育學關係講義題目(1)」、
教育學研究（東京文理大）4-2　[38243

・東京帝大：教育學概論(春山)、西洋教育史(入澤)、教育史概說（阿部）
・京都帝大：教育學概論(長田)
・臺北帝大：教育史概說（西洋教育史概說、福島）
・東京文理大：教育學概論(乙竹)、教育學概論(寺澤)、體育史(大谷)、民族心理學(桑田)、古代哲學史(山内)、美學概論(大西)、倫理學概論(友枝)、倫理學概論(吉田)、西洋倫理學史(吉田)

・京城帝大：教育學概說(松月)、教育史概說(松月)
・九州帝大：教育史概說(松濤))
(參考：「昭和十年度官立大學教育學關係講義題目(1)」、
教育學研究(東京文理大)4-3 [38244
廣島文理大：教育學概論(長田)、プラトンの教育學(稻富))
(參考：「三浦[新七]學長、古代史擔當」一橋新聞220(12/9)) [38245
松田福松「ヴント自傳「體驗と認識」から」原理日本11-8 [38246
讀書「鼓常良「生活文化の東西」」(紀行)圖書舘雜誌29-8 [38247
讀書・内藤智秀「笠間杲雄「砂漠の風」」(西域文明等)圖書舘雜誌29-10 [38248
讀書「清原貞雄「明治初期文化史」」圖書舘雜誌29-10 [38249
讀書・谷川徹三「和辻哲郎氏の「風土」」圖書舘雜誌29-12 [38250
有賀春雄「リシェ/間崎萬里氏譯「總合文化史論」」三田新聞332(5/10) [38251
井伊玄太郎「フランシス派ドミニク派によるキリスト教の文化的貢獻」(アリストテレス、アクイナス、ベルグソン等)
基督教新聞2673(5/23) [38252
B.②＊[訂正・削除]バーネット著/出隆・宮崎幸三郎譯『プラトン哲學』
[10868] [38253
住谷天來譯著『人生の歌----聖賢遺詠』(?) [38254
中川重『ソクラテス』(偉人傳記文庫20號) [38255
中川重『偉人最後の言葉集』(偉人傳記文庫50號) [38256
改造社『偉人論及偉人研究』(偉人傳全集24)------ [38257
・松本亦太郎「偉人の統計的研究」・藤澤利喜太郎「世界の三大人物その第三者は誰」・永井潛「醫學上より觀たる偉人論」・幸田露伴「偉人論」
・長谷川如是閑「偉人の典型とその發生」
永橋卓介『イスラエル宗教の異教的背景』(基督教教程叢書13) [38258
德憲義『愛の福音』 [38259
佐野勝也『使徒パウロの神秘主義』(學位論文) [38260
聖トマス/高桑純夫譯『形而上學敍說---有と本質とに就て』(→昭23再版) [38261
モンテェーニュ/關根秀雄譯『隨想錄』(第1-2巻,白水社) [38262
モンテェーニュ/關根秀雄譯『隨想錄』(訂。第3巻) [38263
大塚節治『基督教倫理學序說』(基督教思想叢書第2輯・第3巻) [38264
ボルケナウ/横川次郎・新島繁譯『近代世界觀成立史』 [38265
佐伯好郎『景教の研究』(エペソ、アンテオケ、アレキサンドリア、コンスタンチノープル、ロマ、カルタゴ等) [38266
③(參考：「昭和十年七月施行法學科試驗問題」(第一講座)日本法學1-4 [38267
西洋倫理：佐々木「一、西洋倫理思想の大要を述べよ」「二、ソクラテスの西洋倫理に及ぼせる影響を述べよ」)
(參考：「昭和十年七月施行法學科試驗問題」(第二講座)日本法學1-5 [38268
西洋倫理：佐々木「一、西洋倫理思想の大要を表解せよ」)
A.T.生「御公現の祝日」(古代ローマのエピファニー等)聲708 [38269
シェストフ/德永郁介譯「狂亂の言葉」(プロチノス論、シェストフ全集2中) [38270

古今東西哲人奇人外傳「ターレス」生活學校1 [38271
古今東西哲人奇人外傳「ソロン」生活學校2 [38272
古今東西哲人奇人外傳「ピタゴラス」生活學校3 [38273
古今東西哲人奇人外傳「クセノファネス」生活學校4 [38274
古今東西哲人奇人外傳「パルメニデス」生活學校5 [38275
古今東西哲人奇人外傳「ツエノーン」生活學校6 [38276
表紙說明「アリストテレス」(岡邦雄「科學文明史」に據る)生活學校2-1 [38277
表紙說明「イオニアの自然哲學者たち」生活學校2-2 [38278
金子武藏「ポイエシス(歷史的社會的現實)」思想163 [38279
廣井辰太郎「物心相剋」(デモクリトス、エピクロス、ルクレチウス等)
思想と文學1-2 [38280
應問・「文檢修身科文檢本試驗問題擬答----- 問・德の本質及び其の分類」
丁酉倫理會倫理講演集393 [38281
-----答・倫理學上に現はれし德の本質に關する諸說の批評---- ソクラテスの知德合一論、アリストテレスの意志論、西洋の德目の分類(古代希臘哲學者の四德說。
(參考:「東北帝大文科卒論」、文化2-3 [38282
稻澤史「愛」(アウグスチヌスの告知錄による))
大泉重治「ミトラ密敎に關する一考察」文化2-3 [38283
祈禱の偉人像「聖オーガスチンの母モニカの祈り」
神の國新聞888(1/8),889(1/15) [38284
森本芳雄「アウグステイヌスの回心に就いて(2)(3)(4)」基督敎研究12-2,3,4[38285
(參考:彙報「昭和九、十年度三田史學會例會報告」、史學14-2 [38285
山本光郎「ソクラテス靈魂觀」)
「復活形態に就いてのパウロの思想」(グリーキ思想等)
基督敎新聞2668(4/18) [38286
「パウロ神學の基礎」(アリストウトル、オーガスチン等)
基督敎新聞2674(5/30) [38287
④＊[訂正]「新刊書目」、哲學研究226 中----- [11012] [38288
Augustinus:E.Dinkler,Die Anthologie Augustinus,Stutt.,W.Kohlhammer
「新刊書目」、哲學研究226 中-----
Leipniz:M.Guerout,Dynamique et physique Leipnizienne,Les Belles Lettres
Paulus:W.Gutbrod,Die Paulinische Anthoropologie,Sttut.
「新刊書目」、哲學研究227 中----- [38289
H.Bergson,The TwoSources of Morality and Religion(Eng.tr.by A.Andra & C.Bereton with the assistance of W.H.Carter),London
Fr.G.W.Hegel:O.Kühler,Sinn,Bedeutung u.Auslesung d.Heiligen Schrift in Hegels Philosohpie
M.Luther:Werke, Krit.Gesamtaus.Briefwechsel,Bd.5,Weimar
O.Scheel,Evangelium, Kirche u. Volk bei Luther,Lpz
＊[訂正]「新刊書目」、哲學研究228 中----- [11014] [38290
Aristoteles:Metaphysics,Bks.,X-XIV tr.by H.Tredennick

＊［訂正］「新刊書目」、哲學研究229 中-----　[11015]　[38291
Aristoteles: Metaphysica,Recohn. W.v.Christ,Nova impr.correctior,Lpz. Teubner
「新刊書目」、哲學研究229中-----　[38291
James Frazer,Creation and Evolution in Primitive Cosmogonies and other Pieces,London
Thomas Aquinas,Unters.ü.d.Wahrheit,Indt.Uebertr. v.E.Stein,Lat-dt. Wörterverz,Breslau
O.L.Reiser,Non-Aristotelian Logics,The Monist vol.45,no.1,'35
「新刊書目」、哲學研究230中-----　[38292
M.Luther:P.Vignaux,Luther,commentateur de Sentennses,Liv.1,Ditinction XVII,Paris
T.Steinbüchel,Christliche Mittelalter,Lpz
Thomas Aquinas,Summawider Heiden.Mite.ausführl.Einleitung v.A.Dempf,
「新刊書目」、哲學研究231中-----　[38293
Fr.Nietzsche:K.Loewith,Nietzsches Philos. d.ewigen Wiedekuft d.Gleichen, Berl.
Thomas Aquinas,Summe d. Theologie,Zsgefasst,eingel.u.crl.v.J.Bernhart, Bd.2.,Lpz
D.R.Cousin,Aristotle's doctrine of substance,II,Mind vol.44,no.174,'35
K.Reihardt,Nietzsches Klage der Ariadone,Die Antike Bd.11,Ht.2.'35
「新刊書目」、哲學研究232中-----　[38294
J.G.Frazer,Totemism and Exogamy:A treatise on certain early forms of superstition and society,In 4 vol.2.,London
H.Freyer,Pallas Athena:Ethik d.polit.Volkes.Jena
Fr.Nietzsche:E.Föster-Nietzsche,Fr.Nietzsche u.d.Frauen seiner Zeit,München
Thomas Aquinas:Summa contra Gentiles,Roma.Apud Sedes Commissionis Leoninae
「新刊書目」、哲學研究233中----　[38295
Leibniz:E.Rolland,Ledéterminisme monaqueet le problem de Dieu dans la Philosophie de Leibniz,Paris
Leibniz:H.Ropol,Das Eine u. die Welt,Versuch e.Interpretation d.Leibniz' Schen Metaphysik,Lpz
R.Löwe,Kosmos u. Aion,E.Beitr.z.heisgesch.Dilaektik d.urchristl.Weltverständnisses,Gütersloh
O.Kein,D.Apollinische u.Dionysische bei Nietzsche u.Schelling,Berl
H.L.Miéville,Nietzsche et la volonté de puissance ou l'aventure nietzschéenne et le tempt présent ,Lausanne
＊［訂正］「新刊書目」、哲學研究234中-----　[11021]　[38296
Eusebius:P.Henry,Recherches sur la "Préparation Évangélique" d'Eusébe et l'edition perdu des oeuvres de Plotin publ.par Eustochius,Paris
「新刊書目」、哲學研究234中-----　[38297
M.T.McClure,The Early Philosophers of Greece,New York
Fr.Nietzsche:Werke u.Brirfe,Hist-krit.Gesamtausg.Werke,Bd.3,Schriften d. Studenten u.Militärzeit,1864-68.Hrsg.v.H.J.Mette u. K.Schlechta, München

Pascal:G.Desgrippes,Études sur Pascal,De Pantomatisme à la foi,Paris
Quintilianus:Institutionis oratoriae libri XII. Ed.L.Radermacher,Pars II,Libros VII-Xii continens Lpz.u.Berl.
Thomas Aquinas:A.Hufnagel,Studien z.Entwickl.d. Thomistischen Erkentniss begriffs im Anschluss a.d. Correctorium “quare”,Münster
J.R.Carré,Pascal et Voltaire:Raison ou Sentiment,Revue de Métaphysique et de Morale,42,no.3,1935
A.Körte,Hermann Usener—Urlich von Wilamowitz-Moellendorff, Ein Brief-Wechsel,Die Antike Bd.II,Ht.3,’35
「新刊書目」、哲學研究235中----- [38298
Aristoteles:G.Strohm,Unters.z.entwicklunggschichte d.Aristotel. Meteologie, Dieterich
Montaigne:Janse F.J.Billeskov,Sources vives de la pensée de Montaigne, Ètude sur les fondements psuchologiques et biographiques des des Essias,Copenhagen, Paris
Thomas Aquinas:E,Rolland,La loi de realisation humaine dans St.Thomas, sur un point de vue morale de continuité,Paris
G.E.Mueller,Plato’s Dialectical Form,The Monist vol.45,no,2,’35
「新刊書目」、哲學研究236中----- [38299
H.W.B.Joseph,Essays in ancient and modern Philosophy,Oxford Clrarendon Press
E.Mally,Erlebnis u.Wirklichkeit,Einleitun z.Philosoph.d .natul.Weltanchau-ung,Lpz.
Paulus:H.D.Wenland,D.Mittl.d.paulischen Botschaft,D.Rechtfertigungslehre d.Paulus im Zusanmmenhange s.Theologie,Göttingen
P.W.Schmidt,Der Ursprung der Gottesidee,Bd.6,Mnster
Thomas Aquinas:E.Gilson,St.Thomas Aqunas,Annual Lecture on Master Mind, FR.Proceedings of the British Academy vol,21,’35)
Thomas de Vio Cajetanus,In ente et essentia D.Thomas Aquinatis commentaria, Turin
W.Windelband,Lehrebuch d.Geschichte d.Philos. Mit. e. Schulsskapital, Tüb.
「新刊書目」、哲學研究237中----- [38300
M.Grabmann ,Mittelalterliches Gesitesleben,Abhandlumgen z.Gesch.d.Scho-stik,u. Mystik,Bd.2,München
Kant:K.Reich,Kant u.d.Ethik d.Griechen,Tübingen
R.Karsten,Origins of Religion,London
Montaigne:A.M.Boase,Fortunes of Montaigne,London
Thomas Aquinas:M.Grabmann ,Thomas v.Aquin.6. München
＊[訂正]紹介「グラープマン/高桑純夫譯「聖トマス・アクイナス：その生涯及び思想」哲學雜誌579 [23915] [38301
＊[訂正]雜錄/鶴田眞次郎「最近獨佛哲學概觀」(アルツール・リーベルト、The Philosophical Review Jan.1935)
哲學雜誌580 [23916] [38302
(一)獨逸哲學 : W.Jaeger,Aristoteles,Grundlegung einer Geschichte seiner Entwicklung)

＊[訂正](參考：彙報「讀書會例會」哲學雜誌581 中　[23919]　[38303
川田熊太郎「F.M.Cornford,Plato’s Theory of Knowledge,1935」
紹介と批評・松崎宗雄「松村武雄「民族性と神話」」歴史學研究3-6　[38304
丸田實「ヘーゲルの認識論に就いて」校友會雜誌(第一高等學校)350　[38305
「大瀬(甚太郎)博士著書目錄」教育學研究(東京文理大)3-11　[38306
（參考：「昭和十年度卒論、各官立大學教育學科卒論」教
育學研究（東京文理大）4-1　[38307
・東京帝大：淺川淑彦「教育者としてのニーチェ」
・京都帝大：松本忠太郎「ヘーゲルの教育思想に對する一考察」
・東京文理大：森實「ヘーゲルの國家的教育學」
・廣島文理大：片山顯一「ヘーゲル教育學」）
梅根悟(大意)「復古運動と古典教育」(W.Flitner,Die Rückkehr zum reien Ursprung des Gemeingeistes)
教育學研究（東京文理大）4-8　[38308
高山岩男「「大思想家文庫」所感」京都帝國大學新聞227(8/6)　[38309
淺井眞男「ニイチェへの再評價---救ひの感情と救ひへの意志」
早稻田大學新聞8(6/12)　[38310
讀書欄・京口元吉「佐野勝也氏著「使徒パウロの神秘主義」」(ギリシア思想等)
早稻田大學新聞17(10/9)　[38311
小口優「ニイチェと現代精神---高沖陽造氏の勞作」
早稻田大學新聞20(11/6)　[38312
小山甫文「桑木嚴翼博士著「西洋哲學史概說」」早稻田大學新聞21(11/13) [87313
大庭征露「アキノの聖トマスの内的生活」(アリストテレス、アウグスチヌス等)
カトリック15-1,3　[38314
吉滿義彦「現代倫理學における神學的問題」(ソクラテス、プラトン、アリストテレス、ニイチェ、聖アウグスタン等) カトリック15-10　[38315
「ケーベル博士「隨筆集」より」書物の周圍2-2　[38316
海外哲學思潮「アランの「神々」」思想153　[38317
戸田三郎「懷疑と信仰」(パスカル)思想156　[38318
海外哲學思潮「ベルグソン」思想159　[38319
高山岩男「思想時評(波多野精一「宗教哲學」)」思想161　[38320
岩崎良三「聖トマスとオルダス・ハクスレイ」三田文學10-6　[38321
千家元麿「「ニイチェ」研究---加藤[信也]君の勞譯」三田文學10-9　[38322
紹介「精神史の時代概念の問題」(B.v.Weise,Zur Kritik des geistesgeschichitlochen Epochenbegriffes,1933) 史林20-4　[38323
白根孝之譯「ディルタイ教育學史及概論」教育學術界10,11,12月號　[38324
書評「松村武雄「民族性と神話」」」教育(岩波)3-1　[38325
皇至道「中世大學ノ本質---パリ大學を中心として」教育科學7月號　[38326
(參考：彙報「美學會例會---加藤一雄「アナトール・フランス」」
哲學研究226)　[38327
(參考：彙報「宗教學茶話會」、哲學研究226　[38328

松村克己「Nygren,Eros und Agape」
岸田貫一郎「ゲーテの宗教觀」）
（參考：彙報「京都帝大文學部哲學科卒論」、哲學研究227 [38329
松本忠太郎「ヘーゲルの教育思想に對する一考察」
梅林正明「ヘーゲル宗教哲學考」
岸田貫一郎「ゲーテの宗教觀」 ）
ユリウス・シュテンツェル/服部英次郎譯「ディルタイとヘーゲル」
哲學研究228 [38330
フランツ・ユリア・フーラデチェク/服部英次郎譯「トマスによる存在の種々の意味」哲學研究230 [38331
高沖陽造「ニイチェ及びベルグソン的思惟と近代思想」世界文化6 [38332
高杉烱「邦譯モンテエニュ「エセエ」の刊行に際して」世界文化6 [38333
J・ラトス「二つの新刊書---マイエルの「エンゲルス傳」とコルニュのマルクス傳」」世界文化6 [38334 [38335
新刊（松尾）「ディルタイ「世界觀學---哲學の哲學」」世界文化6 [38336
新刊（秋田）「高沖陽造「ニイチェと現代精神」（清和書店）及びその他のニイチェ文獻」世界文化11 [38337
(?)「ニイチェ----- 生誕九十年（十月十五日）」エルンテ7-1 [38338
（參考：昭和九年度卒論、エルンテ7-4 [38339
山川大平「抒情詩人としてのフリードツ・ニーチェ」）
山室軍平「克己の實行」（アレキサンダー等）ときのこゑ4/1 [38340
平澤平作「二つの宗教論」(エヂプス・コムプレクス) 精神分析3-2
井上哲次郎「聖賢の偉業と日本の使命」(ソークラテース、ピタゴラス等)
丁酉倫理會倫理講演集387 [38341
桑木嚴翼「「檀風」所感--- 自由主義の悲劇詩人ニーチェ」（希臘劇等）
丁酉倫理會倫理講演集387 [38342
和辻哲郎「辯證法的神學と國家倫理學」(フマニテートの時代、ヘーゲル、ゴーガルテン「國家倫理學」等)
丁酉倫理會倫理講演集387 [38343
應問・田村一郎「文檢修身科豫備試驗問題擬答(昭8年10月施行分)---- ニ、アリストテレース(Aristoteles)ノ道德說ヲ述ベヨ」、
丁酉倫理會倫理講演集387 [38344
---答・(1)學風：デモクリタスの倫理說とプラトーンの倫理說を調和せるもの (2)形而上學：プラトーンの超越に反立せず(3) 形而上學と倫理：形相と質料、發展の概念(4)倫理學：プラトーンに反し事實の學問(5)至善：內在觀、目的論、自己實現、觀想の生活(6)快樂：自己實現に伴ふもの(7)自由意志論：意志の倫理的作用(8)德論：意卽德、四元德（節制、勇氣、公正、信誼）、理論的德と實踐的德、中の說(9)國家論：非超越的(10)餘說：制慾說（活動說、實現說）
桑木嚴翼「一言居士の辯」（ソクラテス等）丁酉倫理會倫理講演集388 [38345
桑木嚴翼「常識の跋扈」(ソクラテス、ブルーノ、ヘーゲル等)
丁酉倫理會倫理講演集390 [38346

高島平三郎「世界の動向と教育者の自覺」(プラトーン、ヘーゲル等)
丁酉倫理會倫理講演集390 [38347
(參考：「本會記事---公開講座：高島平三郎「世界の動向と教育者の自覺」
丁酉倫理會倫理講演集390 ） [38348
應問・蘆月生(宮城)「英雄主義」---答・ニーチェの超人論、
丁酉倫理會倫理講演集390 [38349
春原生「智育偏重」(ソクラテス等) 丁酉倫理會倫理講演集392 [38350
應問・及川清(岩手)「西洋倫理學史の選擇について」
丁酉倫理會倫理講演集392 [38351
----答・吉田靜致「西洋倫理史」(絶版)、吉田靜致・小野正康「西洋倫理學史」(三巻)、小野正康「西洋倫理學史概說」、ロジャーズ著/藤井健治郎・藤本慶祐譯「簡明倫理學史」
應問・本條正男「倫理學史」(歐文) 丁酉倫理會倫理講演集392 [38352
----答・Jodl,Geschichite der Ethik, 2Bde.,Wundt, Ethik II, Sidgwick, Outline of the History of Ethics, Rogers, A Short History of Ethics, Greek and Modern,Ernst Howald, Ethik der Altertums, Alois Demph, Ethik des Mittealters, Thordor Litt, Ethik der Neuzeit.
桑木嚴翼「哲學今昔譚」(西周「百一新論」、オイケン、ベルグソン、ニーチェ、ヘーゲル等) 丁酉倫理會倫理講演集393 [38353
三宅雄二郎「世間の友人關係」(エパミノンダスとプロピデス)
丁酉倫理會倫理講演集394 [38354
桑木嚴翼「無色無音の世界」(アリストテレス等)
丁酉倫理會倫理講演集394 [38355
高島平三郎「母性の心理に就て」(セント・オガスチンの母等)
丁酉倫理會倫理講演集394 [38356
遠藤隆吉「孝經及び孝經の碑について」(ピタゴラス派の學者ソクラテス等)
丁酉倫理會倫理講演集394 [38357
下田次郎「勤勞の生活」(ローマ帝國等) 丁酉倫理會倫理講演集396 [38358
新刊紹介「得能文「哲學汎論」」丁酉倫理會倫理講演集396 [38359
新刊紹介「桑木嚴翼「西洋哲學史概說」」丁酉倫理會倫理講演集398 [38360
學界消息「アナトール・フランス」文化2-1 [38361
新刊・宮崎信彦「松村武雄「民族性と神話」」文化2-1 [38362
石原謙「宗教改革と大學」(6.古典語學教授の招聘)文化2-10,12 [38363
三井甲之「現代思想とニイチェの超人思想」原理日本11-5 [38364
和木清三郎「エーリッヒ・ポーダッハの「ニイチェ研究」を讀む」
文藝通信3-9 [38365
江口渙「ベルグソンとニイッチェ」行動3-7 [38366
森山啓「ヒューマニズム及び文藝復興と現代」行動3-9 [38367
ドウソン/馬場明男譯「中世期宗教と科學」(ギリシヤ思想の再發明、アリストートル、ユークリッド、プトレミイ等)
社會學徒11月號 [38368
新島繁「高沖陽造著「ニイチェと現代精神」を評す」社會11 [38369

吉滿義彦「秩序の構造」(聖アウグスチヌス、ニイチェ等)創造4 [38370
ヘルマン・ホイヴェリス「人間とは何か----テオドル・ヘッケルに因みて」(プロタゴラス等)創造5 [38371
桑木嚴翼「哲學四十年」經濟往來5月號 [38372
山内政男「ニイチェよ何處へ行く----ニイチェと現代精神」圖書評論9 [38373
紹介「鳥井博郎「明治思想史」」圖書評論9 [38374
讀書「松村武雄「民族性と神話」」圖書舘雜誌29-4 [38375
讀書「佐野勝也「使徒パウロの神秘主義」」圖書舘雜誌29-12 [38376
讀書「桑木嚴翼「西洋哲學史概說」」圖書舘雜誌29-12 [38377
「ベルトラム著/淺井眞男譯「ニイチェ」(上巻) 三田新聞332(5/10) [38378
「モンテーニュ「隨想錄」」(關根秀雄譯)三田新聞332(5/10) [38379
上田辰之助「トマスとラスキン」一橋新聞203(2/11) [38380
新刊「高沖陽造「ニイチェと現代思想」」一橋新聞217(10/28) [38381
讀書欄・安倍能成「「民族性と神話」」(松村武雄著)東京朝日新聞3/23 [38382
井上源次郎「モンテーニュの思想」東京朝日新聞5/19,5/20,5/21,5/22,5/23 [38383
宮原晃一郎「アトラスの回想---ある老ロシヤ人の話」(ギリシヤ神話、アトラス等)東京朝日新聞7/7 [38384
讀書欄・林達夫「日本イデオロギー論」(戸坂潤著) 東京朝日新聞12/8 [38385
清水安三「支那から見たる日本的精神」(ギリシヤ人等)基督教新聞2653(1/1) [38386
中村小治郎「信仰の進化(2)」(ストア派とエピクルス派等)基督教新聞2660(2/21) [38387
讀後感「柏井園全集續篇第四巻、時事評論及び史論」(パウロ、アウグスチン、ルウテルの比較論) 基督教新聞2660(2/21) [38388
(K.Y.)「人格と自由」(ギリシア、ロマ等) 基督教新聞2669(4/25) [38389
新刊「柏井園全集續3、說教及神學論文」基督教新聞2670(5/2) [38390
渡瀨常吉「シンボルとしての聖像と全面的繼承」(アウゴスチーノ等)基督教新聞2671(5/9) [38391
「基督神秘主義」(グリーキ語、ストイック等) 基督教新聞2675(6/6) [38392
(今泉)「類似宗教の流行」(ギリシヤ人等) 基督教新聞2683(8/1) [38393
(K.Y.)「哲學の意義及使命について」(ベルグソン、オイケン等)基督教新聞2684(8/8) [38394
小崎弘道「博覽強記の人、高橋五郎氏の死去」基督教新聞2691(9/26) [38395
讀後感・(今泉)「中村獅雄「聖書に於ける矛盾思想」」基督教新聞2700(11/28) [38396
(K.Y.)「基督教的人生觀」(ゲーテ等) 基督教新聞2702(12/12) [38397
C.②＊[訂正]本多淺治郎『文化的に見たる西洋史』 [11035] [38398
＊[訂正・削除]ベルンハイム著/坂口昂・小野鐵二郎譯『歴史とは何ぞや』(岩波文庫) [11046] [38399
ムッソリーニ/栗田三吾・五十嵐仁譯『海上における古代羅馬』(ムッソリーニ全集6) [38400
柴山雄三郎『世界地名ローマンス』(?) [38401
高岡今平著/長井喜三郎編『解放の福音----高岡牧師遺稿集』 [38402

水野恭介『概說新約地誌』(基督敎敎程叢書14) [38403
土岐林三『物語新約概論』 [38404
武田公平『四福音書の描くイエスの姿---- 四福音書の特徴的研究』 [38405
高柳伊三郎『福音書概論』 [38406
シ・エ・ローガン著『ナザレのイエスは過ぎ給ふ』(→昭14版) [38407
松永德次郎『受難のイエス』 [38408
塚本虎二『聖書の要約』 [38409
三河尻長三郎編『聖書要綱』 [38410
關谷書店編『新渡戸稻造紀念聖書研究講座』(15册、合本2册。→昭11) [38411
---松本卓夫「新約書一般緒論」
橋本正三「イエス傳」
渡邊善太「イスラエルの民族の發達」
福富啓泰「原始基督敎」
富森京次「マタイ傳解說」
富森京次「マルコ傳・ルカ傳」
須貝止「ヨハネ福音書序說」
高橋虔「コリント前書・コリント後書・テサロニケ前書・テサロニケ後書」
須貝止「ヨハネ第一書・第二書・第三書」
③臼井房雄「使徒行傳講義錄」(ローマ史)カトリック15-3,4,6,7,8 [38412
岩佐三男「ギリシヤ傭兵使用の流行と其の史的意義」會誌5(日大地歷學會)丁酉倫理會倫理講演集394 [38413
三田元鑛「殉敎哀史「ジュリア」」國家及社會227 [38414
三上於兎吉「クレオパトラの最後」現代7月特大號 [38415
(參考:編輯局「文檢研究第35回・模擬試驗成績發表」歷史敎育10-1 [38416
高島政雄(香川)「アレキサンドル大王歿後其領土内に起こりたる諸國興亡を論ぜよ」)
相葉伸「昭和9年度文部省檢定試驗・西洋史本試驗問題解說」歷史敎育10-4[38417
西洋史:「一、プトレマイオス家の施政方針」
(參考:編輯局「文檢研究第40回・模擬試驗成績發表」歷史敎育10-6 [38418
井上壽一(東京)「ローマの社會に於ける奴隸の文化史的影響を記せ」)
(參考:編輯局「文檢研究第42回・模擬試驗成績發表」歷史敎育10-8 [38419
時枝伊太郎(大分)「ローマ共和政治が武斷政治に轉換せし經路と理由を論ぜよ」)
(參考:編輯局「文檢研究第45回・模擬試驗成績發表」歷史敎育10-11 [38420
片庭壬子夫(栃木)「ギリシア植民地の發生とその特質を問ふ」)
大類伸「西洋史に於ける東方の意義」歷史敎育10-12 [38421
(參考:編輯局「文檢研究第46回・模擬試驗成績發表」歷史敎育10-12 [38422
武元四郎(岡山縣)「西ゴート族移住と其建國の情態を記せ」)
小林善雄「古代史」(詩)三田文學10-8 [38423
臼井房雄「使徒行傳講義」(ロマ史)カトリック15-3,4,6,7,8 [38424
中山昌樹「パウロの回心」神の國新聞886(12/25) [38425

（參考：西洋史讀書會、史林20-1 [38426
若木禮「希臘人の殖民觀」）
（參考：彙報「地理學談話會」、史林20-3 [38427
田中秀作「殖民發向の型に就いて」（1.フェニシヤ、ギリシヤ型、2.ローマ型））
樺俊雄「歴史的時間」哲學研究227 [38428
山室軍平「世界の七不思議」(オリムパスのジュピター神殿、エペソのアルテミス神像、ハリカルナサスの靈廟、ローデス港口のアポロ神像、アレキサンドリアの大燈)
ときのこゑ10/1 [38429
祇園寺信彦「紀元193-197に於ける内亂の一理解」文化2-3 [38430
(參考：彙報「昭和九、十年度三田史學會例會報告」、史學14-2 [38431
島田久吉「ローマ人の都市生活」)
海老名彈正「主よ何處へ往き給ふや」(ローマ帝國、第二世アグリッパ、クリストナス等)基督教新聞2674(5/30) [38432
④＊[訂正]書評・（定金）「M.Rostovtzeff,Excavation at Dura-Euiropos」史觀8
[11098] [38433
＊ [訂正]書評・山中謙二「原隨園博士著「新義西洋史」」
京都帝國大學新聞223(5/26) [11081] [38434
「新刊書目」、哲學研究227中----- [38435
A.C.McGiffert,Christianity as History and Faith,New York
「新刊書目」、哲學研究233中---- [38436
M.Dibelius,Die Botchaft von Jesus Christus,Tübingen
「新刊書目」、哲學研究234中---- [38437
Herder:R.Haym,Herder,nach seinem Leben u. Werke 2Bde.,1880-85,Neudruck
吉田三郎「日本史學史研究の動向」歴史學研究3-4 [38438
林健太郎「フリードリッヒ・マイネッケ」歴史學研究4-4,5,6 [38439
村川堅太郎「西洋史學界・政治史(古代)」(歴史學年報・昭和10年度版)
歴史學研究5-1 [38440
粟野頼之祐「B.C.三二四年ヘラス聯盟定期總會とアレクサンドロスの君主禮拝確立の研究」史學雜誌(一昨年)
粟野頼之祐「B.C.三０二年ヘラス聯盟條約(碑文)之研究」史林19-1,2
村田數之亮「ギリシア史に於けるエーゲ海權の意義」史林19-4
井上智勇「アレクサンドル大王と希臘世界」史林18-4~19-1
高橋誠一郎「アリストテレスの生涯と其の政治理論」三田學會雜誌28-9
高橋誠一郎「リキニウス法前後---ローマ社會闘爭史研究」三田學會雜誌28-5
船田享二「ポリュビオスの羅馬共和政論」國家學會雜誌48-2,3
照井豐「平和的皇帝としてのアウグスツス」東北帝國大學西洋史研究6輯
工藤直太郎「世界風呂巡禮----瑞典の三助は若い女」(ギリシヤ、ローマ等)
早稻田大學新聞8(6/12) [38441
Book Review・佐藤慶二「樺俊雄「歴史哲學概論」」
早稻田大學新聞15(9/25) [38442
八尋正也「松下芳男著「戰爭思想の研究」」(ダンテ、マキャヴェリ等)

早稻田大學新聞12(8/21) [38443
學藝「現代のための教會史全二十四巻」(佛蘭西)
日本カトリック新聞483(1/13) [38444
學藝「清水利一「パウルトン& J.ゼイエ共著の初代教會史」
日本カトリック新聞491(3/10) [38445
務臺理作「時代の頽廢性と思想との關係(へーゲル歷史哲學の研究)」
思想152 [38446
海外哲學思潮「フムボルトの百年忌」思想163 [38447
飯田忠純「回教民族の地理學---特に「イフワーン・ウス・サファー」の地理學論、
併せてイブーン・ハルドーンの地理史觀について(サラセン學術思想史
研究の一節)」歷史地理65-3 [38448
飯田忠純「中世回教徒の地理文獻」三田評論10月號 [38449
評書「原隨園「新義・西洋史」」歷史教育10-1 [38450
(參考:史界近事「大塚史學會」(村川堅太郎氏の講演)歷史教育10-2) [38451
史界近事「人事」(村川堅太郎氏・東大講師)歷史教育10-2 [38452
新史論展望「林健太郎「フリードリッヒ・マイネッケ(二)」[歷史學研究9月號]
歷史教育10-7 [38453
評書「千代田謙「西洋近世史學史序說」」歷史教育10-10 [38454
新史論展望「大類伸「マキャヴェリとその時代」」(西洋史研究8)
歷史教育10-12 [38455
今井毅積「司馬江漢、その啓蒙者としての斷面」歷史教育10-12 [38456
池田哲郎「一九三四年我國西洋史學界展望」西洋史研究7 [38457
小林秀雄「マックス・ウェーバーの史觀」史苑9-1,2 [38458
勝田勝年「へーゲル歷史觀批判」史苑9-1 [38459
新刊「石原謙「基督教史」」史苑9-2 [38460
(參考:西洋史讀書會、史林20-1 [38461
高橋金也「マキアヴェリの歷史觀に對する考察」
柴山英一「Art of Warを通して觀たる戰術家としてのマキアヴェリに就て」
佐々久「Glotz: Ancient Greek at Work」)
鈴木成高「封建制度の起源と本質」史林20-2,4 [38462
アルクレート・ボイムラー/服部英次郎譯「ウィルヘルム・フォン・フムボルト」
哲學研究232 [38463
學界消息「歷史家の訃」(ヨハンネス・クロノマイヤー)文化2-2 [38464
新刊・長崎茂次「Willy Andreas, Deuscheland vor der Reformation, Fine Zeitenwerde
1932」文化2-2 [38465
新刊・長崎茂次「von K.A.VonMüller u.P.R.Rohden, Knaurs Weltgeschichite,1935」
文化2-4 [38466
新刊・平塚博「高木慶雄「西洋中世史」」文化2-8 [38467
「最近史界」、史學研究6-3 [38468
---- 大類伸「ローマ史を語る」歷史教育9-8(昭9)
酒井四郎「Montesguieu の地人相關論に就いて」西洋史研究5(1934) [38469
秋中三雄「ヘルデルよりランケに至る中世觀の根本諸形」

西洋史研究6(1934) [38470
新刊「内藤智秀「西洋史概觀」」史學研究6-3 [38471
新刊「大類伸「西洋史新講」」史學研究6-3 [38472
新刊「原隨園「新義・西洋史」」史學研究7-1 [38473
新刊「Greenidge & Clay,Sources for Roman History B.C.133-70,Cambridge Ancient History」史學研究7-1 [38474
「最近史界」、史學研究7-2 [38475
----- E.Ginzberg,The Decline of Antiquity(Sci.S.vol.xxvi,no.2,1935)
F.Geyer,Zur Beteutung der Rassenmischung für die Entwicklung Roms (V.u.G.Heft 1, 1935)
H.Zatschek,Die Ostpditik des Mittelalters(V.u.G.Heft 2, 1935)
C.Rüger,Die Ehegesetze des Kaisers Augustus((V.u.G.Heft 3, 1935)
O.W.Reinmuth,The Prefect of Eygpt from Augustus to Diocletian(Klio Beiheft 34,1935)
彙報・近山金次「内藤智秀「西洋史概說」」史學14-1 [38476
彙報・間崎萬里「J.H.Beasted, Ancient Times: A History of Early World, 2nd ed.,Boston, 1935」史學14-2 [38477
彙報・間崎萬里「内藤智秀「史學概論」」史學14-2 [38478
後藤末雄「ヴォルテールの史學的業績」史學14-3 [38479
彙報・間崎萬里「Dr.J.H.Beasted氏逝く」(著書略目) 史學14-4 [38480
彙報・近山金次「西洋史研究・第八輯」(マキャヴェリ號)史學14 [38481
國松久彌「アレキサンダー・フォン・フンボルトの地理學概念」地理學4-4[38482
讀書「大類伸「西洋史新講」」圖書舘雜誌29-6 [38483
竹林熊藏「明治初期の飜譯文學に見れたる圖書舘」圖書舘雜誌29-10 [38484
紹介「松本貞夫「パウロ書翰概論」」宗教思潮1-2(11月號) [38485
讀書欄・鈴木成高「「西洋史新講」」(大類伸著)東京朝日新聞4/15 [38486
讀書欄・齋藤茂「西洋史概觀」(内藤智秀著) 東京朝日新聞6/27 [38487
大島正滿「舊約の獅子」(ポムペーの博物舘等) 東京朝日新聞7/2 [38488
新刊「上澤謙二「パウロ」」(基督教文庫聖書物語23) 基督教新聞2676(6/13) [38489
新刊「有賀鐵太郎「ヘブル書」」基督教新聞2678(6/27) [38490
西内元行「建武中興六百年の啓示」(グリーキのアテネ等)
基督教新聞2685(8/15) [38491
新刊「郷司愷爾「基督教史」」基督教新聞2690(9/19) [38492
新刊「松本卓夫「パウロ書翰概論」」基督教新聞2690(9/19) [38493
D.①黒崎幸吉『ガラテヤ書講解』 [38494
松本卓夫『パウロ書翰概論』 [38495
金澤常雄『ロマ書講解』 [38496
②＊[訂正]トオマス・マン/阿部六郎譯『ゲエテ』 [11148] [38497
＊[訂正]ベネデット・クロチェ著/早乙女龍雄譯『ゲーテ』 [11147] [38498
＊[訂正]柳田泉『明治初期の飜譯文學』(長澤正毅、「「花柳春話」譯者・織田純一郎傳」、「「哲烈禍福譚」譯者・宮島春松」、「鐵烈奇談」譯者・伊澤信三郎傳」、「森田思軒傳記稿」、「沙翁文獻

篇」等）　[11140]　[38499
永井一孝『明治文學史』　[38500
新村出『遠西叢考』　[38501
新村出『言語學概說』（京大講義、言語學講座プリント版）　[38502
福澤詩磨子編『ラテン名家文選學問のすゝめ』（尚文堂）　[38503
神田盾夫『新約聖書の言葉』(→昭15刊「パピルスの話」附錄）　[38504
尾島眞治『日本語改譯聖書は使用するに足るか、永井譯の存在に對して』[38505
平田禿木『シェイクスピア物語』　[38506
木村謹治『ゲーテ論攷』　[38507
オグデン&リチャーズ/石橋幸次郎譯『意味の意味』（プラトン、ヘラクリタス、ピタゴラス、パルメニデス、アエネシデムス、エピキョロス派等）　[38508
小寺駿吉論文集『造庭建築』(?)　[38509
③瀧澤眞弓「パルテノン構圖論の展望」建築學研究76　[38510
瀧澤眞弓「ギリシヤ人の藝術觀」建築學研究78　[38511
批評と主張・芹澤常三「ギリシア藝術について」文學評論2-5　[38512
(參考：「(慶大)卒論」、三田新聞328(2/8)　[38513
文學部：美學美術史：中村吾郎「ギリシヤ美術に於ける神像型の變遷」)
小林市太郎「古代及び中世の西洋美術に對する東方の影響に就て」哲學研究233,234, 237　[38514
石島三郎「ピレモン書研究(上)」復活1(創刊號)　[38515
近藤啓二「希臘彫刻-----その發展推移の興味」日本カトリック新聞489(2/24),491(3/10)　[38516
高橋虔「アラム語福音書の問題」(ギリシヤ語、ギリシヤ文化等)基督敎新聞2656(1/24)　[38517
高橋正道「基督敎と新人道の覺醒--- 愛の文化的價値(1)(3)」(アガーペー、フィリア等)基督敎新聞2682(7/25),2684(8/8)　[38518
④＊[訂正]永松譲一「ファウスト的生の感情」エルンテ7-4　[11182]　[38519
「新刊書目」、哲學研究226 中-----　[38520
Longinus:T.R.Henn,Longinus and English Criticism,Cambridge U.P.
「新刊書目」、哲學研究231中-----　[38521
G.E.Lessing:M.Walter,Lessings Erzieung d.Menschengeschichts,Interprtation u.Dars.ihres rationale u.irrationalen Gehaltes.E. Auseinandersetz-ung mitd.Lessingforschung,M.7,80
E.Lobel,Callimachea,Hermes Bd.70.Ht.1,'35
E.Bethe,Homerphilosophie heute und künftig, Hermes Bd.70.Ht.1,'35
H.Lietzmann,Die Chester-Beatty-Papyri d.Neuen Testaments,Die Antike Bd.11, Ht.2,'35
「新刊書目」、哲學研究233中----　[38522
Erasmus,Die libero arbitrio diatribe sive collation,Hrsg.v.J.v.Walter,Lpz
「新刊書目」、哲學研究234中----　[38523

F.Matz,Die Kretisch-mykenische Kunst,Form und Entwicklung,Die Antike, Bd.II,Ht.3,'35
「新刊書目」、哲學研究237中----- [38524
K.Deichgräber,Die Kadmos-Teiresiasszene in Euripides' Bakchen,Hermes70,3
「ペトラルカの祈」(p.47)聲713 [38525
ブック・レヴユー/山岸光宣「小口優氏の「ヴントの「文藝論集」と淺井眞男氏の「ニーチェ」の兩飜譯」早稻田大學新聞2(5/1) [38526
稻垣達郎「柳田泉氏著「政治小說研究(上)(中)」」早稻田大學新聞24(12/4) [38527
戸塚哲郎「東京少年劇團第六回公演・イソップ者物語を觀る」生活學校2 [38528
相良德三「喜劇の觀念(メレディス「喜劇論」抄譯)」思想152 [38529
佐藤信衛「アンリ・ベルグソン(1)(2)」思想153,154 [38530
相良德三「喜劇精神の効用(メレディス「喜劇論」抄譯)」思想153 [38531
木下常太郎「パウンドの比較文學論」三田文學10-8 [38532
新刊・阿部知二「「黙示錄」「ユリシーズ」」文學界2-1 [38533
阿部知二「ジョイスのこと」文學界2-7 [38534
大木晃一「ヘルデルリーンの生涯とその思想」校友會雜誌(第一高等學校)353 [38535
表紙說明「ゲーテ」生活學校2-8 [38536
澄川深「ゲーテの青春時代」令女界1月號 [38537
高沖陽造「「ファウスト」の唯物論的解釋」(藝術的遺產研究會編『文學古典の再認識』中) [38538
新島繁「ダンテの「神曲」」(藝術的遺產研究會編『文學古典の再認識』中) [38539
新刊「逸見梅榮「印度に於ける禮拜像の形式研究」」史苑9-4 [38540
紹介「A.Shewan, Homeric Essays,1935」史林20-4 [38541
新關良三「シルレルに於ける個性的展開」エルンテ7-1 [38542
研究抄錄(紹介)・安田一郎「フーゴー・ワァルゲンハイム「ゲーテとヘーゲル」」エルンテ7-1 [38543
桑木嚴翼「「佛學好祖・村上英俊」を讀む」(瀧田貞治著)丁酉倫理會倫理講演集391 [38544
野田義夫「感想の感想----村上英俊の佛語明要」(「五方通語」)丁酉倫理會倫理講演集392 [38545
新刊紹介「柳田泉「明治文學叢刊・明治初期の飜譯文學」」丁酉倫理會倫理講演集396 [38546
新刊紹介「柳田泉「明治文學叢刊・政治小說研究(上)」」(矢野龍溪「經國美談」)丁酉倫理會倫理講演集398 [38547
新刊・島田謹二「瀧田貞治「佛學始祖・村上英俊」」文化2-1 [38548
平塚博「ダンテの自然感情に就て--- 神曲の自然描寫に關する一考察」文化2-2 [38549
鈴木富生「A Study of A.E.Houseman」文化2-3 [38550
ヘルムート・ズートハイメル(中野賢明譯)「ゲーテと獨逸精神」文化2-4 [38551
學界消息「ラブレエの英譯」文化2-4 [38552
新刊(中野)「輿水實「解釋學と意義學」」文化2-9 [38553

新刊・宮崎信彦「Giovanni Papanni: Dante Vivo,1933」文化2-10 [38554
學界消息「神曲の新獨譯」(Hans Deinhardt) 文化2-12 [38555
(參考：彙報「西洋史學研究會」、史學研究6-3 [38556
學生・岡本恒治「新人文主義思潮に於けるゲーテの歴史觀」
學生・坪井守麿「ヴェルフリンの美術史的根本概念」)
「最近史界----- ズートハイメル「ゲーテと獨逸精神」」(文化2-4)
史學研究7-2 [38557
小川二郎「ジョン・キーツ論」初等英語研究29-11,12 [38558
岡山俊雄「ゲーテの言葉」地理學4-4 [38559
ヨハネス・ミュラー/上田正紀譯「ゲーテ自敍傳としてのファウスト劇」
創造7 [38560
鶴見祐輔「大ナポレオンと詩聖ゲーテ」現代7月特大號 [38561
高沖陽造「ニイチェと現代文學」經濟往來8月號 [38562
大宅壯一「ゲーテの戀」經濟往來12月號 [38563
「ゲーテ特輯」、文藝10月號 [38564
---- 茅野蕭々「ゲーテの生涯」
木村謹治「ファウスト頌」
成瀬無極「近代文學とゲーテ」
ルナチャルスキー「ゲーテとその時代」
杉山榮「ゲーテ遺文抄」
片山敏彦「詩人としてのゲーテ」
高橋健二「ゲーテの足跡をたづねて」
木村毅「劍と戀の詩人バイロン」現代12月號 [38565
讀書「木村謹治「ゲーテ論攷」」圖書舘雜誌29-8 [38567
(參考：「(慶大)卒論」、三田新聞328(2/8) [38568
文學部：獨文：井出英夫「ヘッベルの世界觀」
英吉利文學：杉浦四郎「批評家としてのT.S.Eliot」
菅沼享「A Study in Keats Endymion」
湯淺行雄「Keats Odes」
梅林信夫「ジェームズ・ジョイス」)
出版界「史的言語に於ける比較の方法」(泉井久之助譯) 東京朝日新聞1/21 [38569
出版界「思想するヒュペリオン」(陶山務譯、ヘルデルリン)
東京朝日新聞6/1 [38570
生田長江「ニイチェとゲーテ及び劇的のもの」東京朝日新聞12/27,12/28,
12/29,12/30,12/31 [38571
新村出「南蠻文學」岩波講座「日本文學」第17中 [38572
柳田泉「明治の飜譯文學研究」改造社版「日本文學講座」11(明治文學篇) [38573
柳田泉「本邦沙翁劇飜案史」沙翁復興5月號 [38574
山口武美「日本に於ける沙翁飜譯史」藝術殿6月號 [38575
新刊「門脇清「日本語聖書飜譯史」」基督教新聞2687(8/29) [38576
E.②隈崎渡述(中央大學教務科編)『西洋法制史講義案』 [38577
三谷隆正『法律哲學原理』 [38578

柳田國男『農業政策學』[専修大學講義錄](羅馬共和政治、羅馬法等) [38579
マルジャリア『王たる基督』(カトリック講話集第4期4輯) [38580
遊佐慶夫『古バビロニア法の研究』 [38581
③應問・緒方武光(熊本)「アリストクラティア」丁酉倫理會倫理講演集396 [38582
---- 答・希臘語、古代カルタゴ、クレタ、スパルタ、古代ローマ共和制等。
(參考：學界消息「法理學研究會」、法と經濟(立命館大學)3-1 [38583
石本雅男「ローマ法に於けるSocietasの意義」)
小原敬士「古代社會の地理學」地理學4-4 [38584
④大類伸「ルネサンスの君主論とサルターティ」文化2-9 [38585
(參考：學界消息「法理學研究會」、法と經濟(立命館大學)3-5 [38586
淵定「サヴィニーにおける法の概念に就て」)
「新刊書目」、哲學研究231中----- [38587
M.de Montaigne:P.Villey,Montaigne devant la postérité,Paris
(參考：西洋史讀書會、史林20-1 [38588
佐々木忍「フーゴー・グローチウスと其の著「戰爭と平和の法」」)
紹介「戸倉廣「羅馬法制史概說」」史林20-4 [38589
相川春喜「奴隸制的構造とコヴァレフの見解---- 「古代社會論」の檢討」
經濟評論2-4 [38590
入澤宗壽「國家主義時代と教育」(ギリシア・ローマ文化等)
丁酉倫理會倫理講演集387 [38591
三輪田元道「身上相談に現はれたる社會相」(トロイの戰爭、クレオパトラ、アントニー等) 丁酉倫理會倫理講演集387 [38592
村岡晢「ゲーテの社會思想」文化2-3 [38593
朝日融溪「歐洲中世の封建制度とその階級組織」(ローマ史等)史學研究6-3 [38594
栗田元次「新見[吉治]博士の歷史教育論を讀む」」史學研究6-3 [38595
(參考：彙報「廣島文理大學史學科第四回卒論」、史學研究6-3 [38596
吉丸勇五郎「政治思想史上に於ける自然法思想の發展」)
「最近史界」、史學研究6-3 [38597
----- H.Berve,‘Antike und nationasozialistische Staat’, V.u.G.,Heft 5,1934
E.Reis, ‘Economic Conditions in Rome and their Lessons for us’, Soc.S., vol.xxv,no.6,1934
Dr.E.Rosenthal,‘Averroes’ paraphrase in Plato’s Politeia’,J.R.A.S.,Oct.1934
新刊「東晉太郎「歐洲經濟通史」」(古代あり)史學研究6-3 [38598
「最近史界」、史學研究7-2 [38599
---- 戸倉廣「ローマ法の世界史的使命」(歷史教育9-11,昭10)
書評「西洋史研究第八輯」(マキャヴリ號)史學14-4 [38600
三戸壽「獨逸法律學史----自然法時代の覺書」法學(東北帝大)4-2,3,6,10 [38601
行岡春夫「リーゼンベルク/直井武夫譯「經濟學史」」圖書評論6 [38602
讀書「三谷隆正「法律哲學原理」」圖書舘雜誌29-11 [38603
朝日賞「十年研鑽の大著----田中[耕太郎]博士の「世界法」」
東京朝日新聞1/25 [38604
「金利を否認する聖トマスの研究----商大の上田[辰之助]教授に羅馬法王の感謝狀」

東京朝日新聞1/29 [38605
森口繁一「一法學者の心境(上)」(アナトール・フランス、セント・アウグステイニス、アリストテレス等) 東京朝日新聞2/12 [38606
F.②＊[訂正]大村雄治『藥學醫學ラテン語教科書---文法・語彙』 [11297] [38607
吉村虎暢『科學界の偉人』(?) [38608
岡邦雄『自然科學史講話』(上) [38609
③今村嘉雄「歐米體育史」師範大學講座「體育1」 [38610
鍋島信太郎「三角法小史」(あれきさんどりやノひぷしくれす、あれきさんどりやノひーろー等) 數學教育13 [38611
小倉金之助「世界數學史の展望---古代數學の發生と其の成熟」(1933年、岩波講座「科學」3-?より轉載)數學史研究第1輯 [38612
④＊[訂正]「新刊書目」、哲學研究227 中----- [11325] [38613
Galenus：In Platonis Timaeum comment.fragmenta Coll.,dispos.,expel.II O.Schröder, Append.arab.add.P.Kahle.Lpz..u.Berl.Teubner
「新刊書目」、哲學研究233中---- [38614
A.Ray,Les mathématique en Grèce au Apriorismus in der Platonischen Philosohpie,Berl.
「新刊書目」、哲學研究237中----- [38615
M.B.Foster,Christian Theology and modern science of nature,Mind 44,176
質問應答(一理學部生)「自然科學史及び技術史に關する定評ある著述(英獨佛)を教示せられ度し」歷史學研究3-4 [38616
---- 答・前號參照。Sigmund Günther,Geschichte der antiken Naturwissenschaft, 1888[Müller,Handbuch der klassischen Altertumswissenschaft[東大圖書舘藏]
(二)[技術史關係]J.Beckmann,Beiträge zur Geschichte der Erfindungen,5 Bde. 1786-1805
K.Karmarsch,Geschichte der Technologie,1872[東大圖書舘藏]
L.Beck,Die Geschichte de Eisen,1884-1903
Daremberg et Saglis,Dictionaire des antiquités grecques et romaines,5 Bde., 1875-1919
J.Marquart,Privatleben der Römer,1886
L.Müller u.A.Bauer,Griechische Privat altertümer,1893
C.Merchel,Ingenieur technic im Altertum,1899
Pauly-Wissowa,Realencyclopädie der Altertumwissenschaft,1893-1935
E.Gerland u.F.Traumiller,Geschichte der physikalischen Experimentierkunst, 1899
H.Blümer,Technologie und Terminologie der Gegenwart und Künste bei Griechen und Römer,1 Aufl.,1879-87
H.Diels,Antike Technik,sieben Vorträge ,1920
R.Hennig,Buch berühmter Ingenieure,1923
G.Fester,Die Entwicklung der chemischeu Technik,1923
A.Fürst,Weltreich der Technik,4 Bde.,1923-27
G.Neudeck,Geschichte der Technik,1923
O.Johannsen,Geschichte des Eisens,1925
G.Sarton,Intoduction to the History of Sciences,1927

W.Kaempffert,Bahnbrechende Erfindungen,1927
F.M.Feldhaus,Kulturgeschichte der Technik,2 Bde.,1928
F.M.Feldhaus,Die Technik der Antike und des Mittelalters,1931
問と答「コペルニクスとガリレオ問題」(プトレメウスの天動説、聖オグスチノ等)
聲716 [38617
M.E.「自然科學と哲學(思想10月特輯號を讀む)」(田邊元「古代哲學質料概念と現代物理學」)科學(岩波)5-11 [38618
新刊紹介「遠藤先生華甲壽記念論文集(遠藤隆吉博士還曆記念會編)」(井上芳郎「埃及プトレミー時代の太陽曆」)
丁酉倫理會倫理講演集388 [38619
菊池榮一「ゲーテの自然科學に於けるニ、三の概念」ゲーテ年鑑4 [38620
菊池榮一「手----ゲーテによる手の比較解剖學」文藝3-10 [38621
「ゲーテ特輯」、文藝10月號 [38622
-----木下杢太郎「ゲーテと醫學」
菊池榮一「自然科學者としてのゲーテ」
桑木彧雄「エレキテル物語(1)---平賀源内と橋本雲齋」(ヘロドトス等)
東京朝日新聞6/12 [38623
讀書欄・桑木彧雄「自然科學史講話・上巻」(岡邦雄著) 東京朝日新聞12/3 [38624
大崎治部「自然科學による宗教教育」(哲人ブルーノー等)
基督教新聞2681(7/18) [38625
G. 「吉江[喬松]博士の聚修・世界文藝大辭典」」早稻田大學新聞14(9/18) [38626
讀書欄・五十嵐力「吉江喬松博士編輯・世界文藝大辭典」」
早稻田大學新聞18(10/23) [38627
吉江喬松「「世界文藝大辭典」の責任編輯者として」
早稻田大學新聞20(11/6) [38628
新村出「イソップ物語」・「アイソポス」(『世界文藝大辭典』第1巻中) [38629
西脇順三郎「世界文藝大辭典」(吉江喬松編) 三田新聞340(1/18) [38630
學藝・カトリック出版物委員「「カトリック思想辭典」(全2巻)出版計劃」
日本カトリック新聞491(3/10) [38631
新刊「藤岡勝二「大英和辭典」(上下)」日本カトリック新聞507(6/30) [38632
山本信次郎「「大英和辭典」を推奨す」日本カトリック新聞507(6/30) [38633
「故小川竹男氏の遺業、藤岡「大英和辭典」」
日本カトリック新聞507(6/30) [38634
「カトリック大辭典出版工作愈々進捗」日本カトリック新聞511(7/28) [38635
新刊「日曜世界社「聖書大辭典」」基督教新聞2654(1/10) [38636
「聖書大辭典」(日曜世界社編) 基督教新聞2655(1/17) [38637
「聖書大辭典出版記念・西阪保治氏慰勞祝賀會」(p.10)
基督教新聞2660(2/21) [38638

昭１１(１９３６)
A. ＊[訂正・削除]~~嘉治瑠璃子「パルナソス」(ギリシア紀行)創造6~~ (→昭10.A)
[11351] [38639

＊[訂正]龜井勝一郎「羅馬における武者小路實篤」日本浪漫派2-7,8,9,10,11
[11365] [38640
＊[訂正]小出楢重『大切な雰圍氣』(「地中海上」) [23991] [38641
小辻節三『文化史的に見たる聖書の「火」』(聖書原典研究モノグラフ) [38642
郷司愷爾『日本基督教會小史』 [38643
森與重『聖フランシスコ・サレジオの小傳』(カトリック講話集第5期9-11) [38644
西田市郎「文明史」(小說) 校友會雜誌(第一高等學校)357 [38645
紹介と批評・酒井三郎「世界文化史(近代篇)」歷史學研究6-10 [38646
回顧と展望・服部四郎「蘇聯邦國立物質文化史學士院」歷史學研究6-8 [38647
杉象水「「讀書術」(エミイル・ファゲ/石川湧譯)
京都帝國大學新聞249(8/5) [38648
(參考：「次の科外講義--- オリムピックと其文化的意義」(野口源三郎氏)、
早稻田大學新聞41(6/10) [38649
安田晃「馬場久治著「ゲーテと伊太利」」三田新聞350(4/24) [38650
「婦人のために三講座」(ラテン語講習會) 日本カトリック新聞538(2/2) [38651
「今週の講座案内」(ラテン語) 日本カトリック新聞570(9/20),572(10/4),
575(10/25) [38652
「今週の講座案内」(ラテン語) 日本カトリック新聞580(11/29),581(12/6) [38653
村川堅固『文化史上より觀たる古代ギリシヤ人と日本人』 [38654
田中峰子「羅馬の思ひ出」創造10 [38655
伊東多三郎「(江戸時代)禁書の研究」歷史地理68-4,5 [38656
Y.G.コッサール「ギリシヤと日本」(プラトン、アリストテレス、ギリシア哲學、
エピキュレイス派、ストア派等)創造12 [38657
石田幹之助「支那文化と西方文化との交流」岩波講座「東洋思想」中 [38658
新村出『Western Influences on Japanese History and Culture in Earlier Periods(1540-
1860)』(昭和10年12月の日本文化講演筆錄の英語譯刊) [38659
新村出「西洋學術渡來史」(講演筆錄) [38660
(參考：昭和10年第二學期[九大]史學關係講義題目中、史淵12 [38661
西洋史(武藤)、西洋倫理學史(大島)、西洋美術史要(矢崎)、西洋美術史(兒
島)、教育史概說(松濤)、佛蘭西文藝思潮の變遷(須川)、獨逸文學史(佐
藤))
竹内勝也「世界史と國民學---滯歐所感の一節」史淵13 [38662
(參考：「晚餐會」、史淵13 [38663
竹内勝也教授「歐洲見聞錄」)
(參考：昭和11年[自4月至10月]・第一學期[九大]史學關係講義題目中、
史淵13 [38664
史學概論(長)、西洋法制史(羅馬法、武藤)、西洋法制史演習(武藤)、國際
法史(野見山)、西洋近世哲學史(四宮)、ギリシア人の國家及其理想(中島)、
西洋倫理學史(大島)、西洋美術史(矢崎)、西洋經濟史(三田村)、經濟學史
概論(波多野))
(參考：編輯局「文檢研究第57回・模擬試驗成績發表」歷史教育11-11 [38665
井上萬太郎(大連市)「太古より文藝復興期に至る西洋文化中心地の移動に

つき述べよ」)
橋田次郎「第65回文檢歷史科合格を顧みて」歷史教育11-12 [38666
西洋史：「一、フェニキヤとギリシヤとの文化的關係」
(參考:[立教大學]昭和11年度史學科關係講義題目中、史苑10-3 [38667
史學概論(ベルンハイム「歷史とは何ぞや」、小林)、西洋史概說(小林)、民族學(インド・ゲルマン族の研究、小林)、西洋哲學史(出)、西洋美術史(辻)、教育學(岡部)、教育史(岡部))
(參考:彙報「京都帝國大學文學部史學科本年度講義題目中」、史林21-3 [38668
西洋史概說(原、時野谷)、希臘政治思想史(原)、第十八世紀の史學史(千代田)、羅馬共和政時代の社會的經濟的發展(井上)、クリートの考古學的遺蹟遺物(濱田)、ギリシヤ精神の傳承(原)、考古學概說(濱田)、考古學の諸問題(濱田)/副科目---M.Arnlod,Essays in Criticism (中西)、希臘語(H.Tanaka,Graecae Grammaticae Rudimenta, Xenophon: Anabsis, lib II, Homeros:Odysseia, lib I,田中、Platon, Phaidon 波多野、Sophokles: Antigone, Oidipus Tyrannos, 田中)、羅甸語(H.Tanaka, Nova Grammatica Latina, Morton ,Legends of Gods and Heros, Caesar:De Bello Gallico, lib IV, Ovidius: Metamorphoses, lib I, Horatius: Carmina lib I, 田中)、教育學概論(長田))
(參考:彙報「昭和11年度京都帝大文學部哲學科講義題目」、哲學研究241 [38669
哲學概論(田邊)、特殊講義(倫理學の發達、田邊)、特殊講義(人間學の體系試論、高山講師)、西洋中世哲學史(山内)、特殊講義(レトリック研究、山内)、演習(Aristoteles:Topica、山内)、Bergson: La Pensee et la Mouvant(九鬼)、心理學概論(野上)、倫理學概論(天野)、教育學概論(長田)、特殊講義(人文主義と文化主義、木村助教授)、美學序論(植田)、宗教學概論(波多野)、特殊講義(アリストテレスの神の思想---形而上學第十二巻の解釋、波多野)、宗教と哲學、西谷助教授))
彙報「オスヴァルド・シュペングラー」(訃報)哲學研究243 [38670
八田三喜「明治日本」(古代希臘の文化等) 丁酉倫理會倫理講演集400 [38671
新刊紹介「牧野英一「海を渡りて野をわたりて」」(ギリシヤ、コンスタンチノープル、イタリヤ等)
丁酉倫理會倫理講演集401 [38672
永田寛定「イスパニヤ人とその國民性」(ギリシヤ人、ローマ人、ギボン「ローマ衰亡史」、ドミティリアヌス帝、コモドウス帝、セネカ父子、ルカヌス、マルティカル、フィンティリアヌス、モンテーニュ、ゲーテ、エマソン等)
丁酉倫理會倫理講演集410 [38673
新刊(中野)「和辻哲郎「風土」」文化3-4 [38674
(參考:「東北帝大法文學部昭和11年度講義題目」、文化3-4 [38675
哲學概論(高橋)、古代哲學史概說(石原)、中世哲學史演習(Augustin, Gottesstadt、石原)、中世哲學史特殊講義(石原)、近世哲學史概說(小山)、古代哲學史演習(Aristoteles, Ethica Nicomochiae、久保)、倫理學講義(桑木、石原)、教育學概論(細谷)、教育史(西洋教育史、福島)、美學概論(阿部)、

美學特殊講義(ゲーテの晩年藝術、阿部)、美學演習(ファウスト第二部、阿部)、音樂史(加藤)、西洋藝術史概說(ギリシヤ彫刻史、兒島)、西洋藝術史特殊講義(文藝復興、兒島)、西洋藝術史演習(兒島)、基督教史(ポーロの神學とギリシヤ思想、出林)、史學概論(大類)、西洋古代史普通講義(大類)、西洋中世史特殊講義(平塚)、西洋史講讀(Thucydides,The History of the Peloponnesian War、平塚)、獨文學演習(1)(ヘッベルの戯曲、小宮)、獨文學演習(2)(ニーチェのツァラツストラ、小宮)、獨文學特殊講義(奥津)、言語學概論(小林)、希臘語初歩(Burnet,Greek Rudiments、久保)、希臘語上級(Plato:Gorgias, Homerus:Odyssea、久保)、羅甸語初級(Macumillan's Short Latin Course、久保)、羅甸語上級(Caesar:De Bello Gallico,Sallustius:Bellum Cathinae、久保))

(參考:彙報「映畫「永遠のギリシヤ」公開」(6月23日)、文化3-8) [38676

(參考:彙報「ギリシヤの夕」(6月24日)、文化3-8 [38677

----- 大類伸「ギリシヤの歴史に就いて」
石原謙「挨拶並映畫豫備解說」・「「ギリシヤの風物」映寫」
田中舘秀三「幻燈「ギリシヤの地理」」)

(參考:彙報「文部省主催中等教員歴史講習會」、文化3-9 [38679

大類[伸]講師「西洋古代の文化」)

(參考:彙報「本學年廣島文理大學史學科講義題目」、史學研究8-1 [38680

史學研究法(新見)、西洋史概說(新見)、十八世紀精神史(千代田)、史學史演習(Hegel, Gesellschaft,Staat,Geschichite、千代田))

(參考:彙報「(臺北帝大)史學科講義題目」、
臺北帝國大學文政學部「史學研究年報」3 [38681

昭和10年度:史學概論(村上)、西洋史概說(菅原)、地理學概論(小野))

(參考:「昭和11年度各大學教育學科講義目錄」、
教育學研究(東京文理大)5-2 [38682

・東京帝大:教育史概說(入澤)、教育學概論(福島)
・京都帝大:演習(Monroe,Brief Course in the History of Education、野上)、特殊講義(人文主義と文化主義、木村)、教育學概論(長田)
・東北帝大:教育學概論(細谷)、西洋教育史(福島)
・京城帝大:教育學概論(松月)、教育史概說(松月)
・廣島文理大:教育學概論(長田)、國家と教育(プラトン國家篇の研究、稻富)、獨逸教育制度史(皇)
・東京文理大:教育學概論(乙竹)、教育科學發達史(乙竹)、教育學概論(寺澤))

讀書「馬場久治「ゲーテと伊太利」」圖書舘雜誌30-5 [38683

讀書欄・安倍能成「風土」(和辻哲郎著) 東京朝日新聞3/8 [38684

(參考:「第五回群馬農民福音學校」、基督教新聞2708(1/30) [38685

----- 岸本牧師「宗教文化史」)

B.①アウグスティヌ「眞理に達せん爲に」日本カトリック新聞545(3/23) [38686

②＊[訂正]伊福部吉隆『ニイチェ愛と智慧の書』(→昭12「ニイチェ・人生哲學」と改題) [11405] [38687

＊[訂正]久保勉『プラトン(國家篇)』(大思想文庫1。→昭21再版) [11393]

[38688
ライプニッツ/河野與一譯『單子論』（大思想家文庫12。→昭26岩波文庫） [38689
平泉澄『萬物流轉』（ソクラテス、ヘラクレース、プラトン、アリストテレス、デルフィのアポロ神殿、パルテノン神殿等） [38690
中村武郎『東西偉人逸話集』 [38691
小野久『系統的教育史提要』 [38692
石山脩平『羅馬教育史』（西洋教育史講義案） [38693
出隆講述『西洋哲學史第一部・第一分册』（昭和12 年度東大講義案。謄寫版） [38694
モンテェーニュ/關根秀雄譯『選抄モンテェーニュ隨想錄』（白水社） [38695
長尾喜一&フリッツ・カルシュ共譯『ハルトマンの哲學』(アリストテレス思想等) [38696
レイバアン/陶山務譯『ヘエゲル哲學概說』 [38697
ブルンナー/丸川仁夫編『自然神學の諸問題』（神學思想叢書1） [38698
瀨川杢四郎『二つの都市』 [38699
高倉德太郎『福音的基督教』（基督教叢書1） [38700
佐野勝也『イエスの宗教とパウロの信仰』 [38701
熊野義孝『ヨハネ書翰の研究』 [38702
畔上賢造『基督教讀本』 [38703
海老名彈正『基督教讀本』 [38704
桑田秀延『傳道の神學』(基督教文庫3) [38705
チム・クライン/藤田孫太郎譯『若きルッター』(基督教文庫4) [38706
ヒルティ/草間平作譯『眠られぬ夜のために』(第1部、上下。岩波文庫) [38707
③＊[訂正」稻富榮次郎「プラトンの「パイデイア」---國家篇の解釋に對する一つの立場」文化3-12 [11412] [38708
(參考：「昭和十年十二月施行法學科試驗問題」(第一講座)日本法學2-1 [38709
西洋倫理：佐々木「一、ソクラテスの倫理說と孔子の倫理說とを比較して其の要領を述べよ」「二、プロタゴラスの學說を述べよ」)
(參考：「昭和十年十二月施行法學科試驗問題」(第二講座)日本法學2-2 [38710
西洋倫理：佐々木「一、ソクラテスの倫理說と孔子の倫理說とを比較して其の要領を述べよ」「二、快樂說を歷史的に述べよ」)
(參考：「昭和十一年三月施行法學科試驗問題」(第一講座)日本法學2-5 [38711
西洋倫理：佐々木「二、エピクロスの學說を批評せよ」)
(參考：「昭和十一年三月施行法學科試驗問題」(第二講座)日本法學2-6 [38712
西洋倫理：佐々木「一、ソクラテス倫理の大要を述べよ」「二、プラトーとアリストートルとの學說を比較論評せよ」)
(參考：「昭和十一年七月施行法學科試驗問題」(第二講座)日本法學2-9 [38713
西洋倫理：佐々木「西洋倫理學說を大要を略述せよ」)
(參考：「昭和十一年七月施行法學科試驗問題」(第一講座)日本法學2-10 [38714
西洋倫理：佐々木「一、ソフィストの功罪につきて述べよ」「二、左記につき簡單に說明せよ---(イ)アレテ—(ロ)アパタイヤ

(ハ)セオドルス(ニ)デイヲゲネス(ホ)プラトー」）
(參考：「昭和十一年七月施行法學科試驗問題」（第一講座)日本法學2-10　[38715
心理學：橋本「一、プラトン及びアリストテレスの心と物との關係に就ての學說を述べよ」）
(參考：「昭和10年度各大學教育學科卒論」、教育學研究(東京文理大)5-2　[38716
廣島文理大:早川忠雄「プラトンの國家教育論---ポリテイアを中心として」）
(參考：「昭和11年度文檢教育科試驗問題」、教育學研究(東京文理大)5-5　[38717
教育豫備試驗問題「五、ぷらとーんノ教育思想ヲ概說セヨ」）
ルネ・バザン/荻原彌彦譯「狩りの女神ディアンヌ」聲721　[38718
(參考：「京大文學部卒論」、京都帝國大學新聞240(2/6)　[38719
增田四郎「プラトンの道德論」）
(參考：「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞30(2/12)　[38720
西洋哲學科：孫明鉉「アリストテレスの形而上學に於ける實體論」
長島赤二「アリストテレスとへーゲル」
松浪信三郎「アリストテレスに於ける存在の形而上學」）
「泰西哲學にも影響深し、アウグスティニズム」
日本カトリック新聞549(4/19),550(4/26), 552(5/17),
553(5/24)　[38721
佐々木理「生命の園」(神話)思想165　[38722
吉滿義彦「プロネシス(實踐理性の性格)」(アリストテレス等)思想167　[38723
和辻哲郎「ヒューマニズムの希臘的形態(ソクラテスに於けるポリス的人間の倫理學)」特集「ヒューマニズム」思想173　[38724
三谷隆正「母モニカ」(アウグスチヌス)東京女子大學同窓會月報10月號　[38725
熊野義孝「アウグスチヌス」新興基督教?號(特輯・基督教大思想家號)　[38726
(參考：編輯局「文檢研究第56回・模擬試驗成績發表」歷史教育11-10　[38727
岩谷建三(島根縣)「キリスト教弘通以前羅馬帝國内に行はれし宗教を論ぜよ」）
安藤孝行「能力・自由・觀想---主としてアリストテレスを媒介とする實踐の解明」
哲學研究239　[38728
「克己」(プラトー等)ときのこゑ3/15　[38729
應問・田村一郎「修身科豫備試驗問題擬答」(昭9年度)
丁酉倫理會倫理講演集401　[38730
---問・「人間に良心現象ある理由を論ぜよ」。答・神聲說(古代希臘人の人心にあるエリネエスなる女神、ソクラテスがダイモン等。
佐藤良雄「初代基督教に於ける倫理的基礎」宗教思潮・新春特大號　[38731
宮本武之助「啓示の神、哲學者の神」神學と教會2-2　[38732
竹森滿佐一「回心への準備として見たるアウグスチヌスの内的發展」
神學と教會3-1　[38733
千葉昌雄述「知らざる神--- 使徒行傳17:23」(パウロ、アレオ山の說教)
基督教新聞2730(7/2)　[38734
④＊[訂正]井上政次「ニイチェに於ける〈永遠回歸說〉の誕生と死滅の事情」
文化3-9　[11471]　[38735

＊ [訂正]渡邊啓一譯「エラスムス素描(ゲルト・プウフハイト著)-----死後四百年に際し」創造9月號 [11485] [38736
「新刊書目」、哲學研究238中----- [38737
M.Luther:Werke Krit.Gesamtausg.v.Briefwechsel, Bd.6,1531-33,Weimar
M.Luther:H.Lammers,Luthers Anschauung v.Willen,E.Beitr.z.s.Kirchengesch., Bo.1.,Berl.
「新刊書目」、哲學研究240中----- [38738
K.Rogers,Plato's Theory of Form ,The Philos.Rev. 45,1
＊[訂正・削除]「新刊書目」、哲學研究241 中----- [11515] [38739
H.Cherniss,Aristotle's criticism of Presocratic Philosophy,Baltimore, Johns Hopkins Press
~~G.Murry,Greek Poetry and Life,Essays presented to G.Murry on his 70th.~~
「新刊書目」、哲學研究241 中----- [38740
K.L.Skutch,Libramen Aequum,Eine Untersuchung über die Entstehung des Wägungsgedankens von Antike bis ins christliche Mittelalter, Die Antike Bd.12,Ht.1
「新刊書目」、哲學研究245中----- [38741
E.Gilson,Christianismus et Philosophie,Paris
「新刊書目」、哲學研究248中----- [38742
Pascal:A.Vinet,Étude sur Blaise Pascal,Paris
Maurice de Wulf,Histoire de la philosophie médiéval,6e éd.entèrement refondue.Tom.2,Le 13e siècle,Paris
「新刊書目」、哲學研究249中----- [38743
G.Santayana,Obiter scripta;Lectures,Essays Reviews ed .by J.Butcher & B. Schwart,London
Schelling:Ch.M.Schröder,Das Verhältniss v.Heidentum und Christentum in Schellings Philosophie der Mythlogie und Offenba-Rung,E.Beitr.z.Religionspholos.d.dt.Idealismus(Diss. -München), München
「論文要目」、歷史學研究6-8 [38744
--- Revue Historique,tom.clxxvii
・H.Marrou,Défence de Ciciron
東京文理科大學教育學會「教育關係參考文獻目錄」(本邦の部)
教育學研究(東京文理大)4-10 [38745
石山脩平「教育史研究の方法的前提」教育學研究(東京文理大)5-2,3 [38746
(參考：「昭和10年度各大學教育學科卒論」、教育學研究(東京文理大)5-2 [38747
京都帝大：長谷川八郎「Goetheに於ける教育の宗教的基礎---「畏敬の念」を中心とせる一つの覺書」)
遠藤泰助(紹介)「歐洲に於ける中等教育の起源と運命に就て」(S.Hessen,Über Unsprung und Schicksal der europäischen höheren Schulbildung)
教育學研究(東京文理大)5-7 [38748
(參考：「第二回教育學研究發表會」、教育學研究(東京文理大)5-9 [38749
藤木顯久「ヘーゲルに於ける教育の意義」
溝上泰子「ディルタイ研究」)
アルフレッド・クレラ「フランス精神文化に及ぼせるニーチェの影響」

世界文化23　[38750
「天主の召命について」(聖アウグスチノ等)聲720　[38751
木間瀬精三譯「愉快な聖人フィリッポネリ----ゲーテ「伊太利紀行」[1810年]より」
聲727,728　[38752
(參考：「京大文學部卒論」、京都帝國大學新聞240(2/6)　[38753
田口健三「ニイチェの倫理學」
長谷山八郎「Goetheに於ける教育の宗教的基礎----「畏敬の念」を中心として」　)
梯秀明「小島威彦氏の「世界創造の哲學的序曲」を讀みて」
京都帝國大學新聞241(2/16)　[38754
＊ [訂正]書評・岡田正三「後藤孝弟氏の「ソクラテス」を讀む」
京都帝國大學新聞244(5/5)
[11493]　[38755
赤城啓「大島豐氏「世界觀の哲學」」京都帝國大學新聞254(11/20)　[38756
長島赤二「人間理性の限界----哲學の悲劇か悲劇の神學か」(アリストテレス、プロチノス、ヘーゲル等)
早稻田大學新聞37(5/13)　[38757
「大島豐氏著「世界觀の哲學」」早稻田大學新聞48(9/23)　[38758
武田良三「岩崎勉氏の「人間觀と世界觀」(アリストテレス論文等)
早稻田大學新聞51(10/14)　[38759
讀書・小山甫文「帆足理一郎教授の「倫理學原論」」
早稻田大學新聞57(12/2)　[38760
大庭征露「中世哲學に關する誤解」カトリック16-3,4,6　[38761
吉滿義彦「カトリック哲學の概念」(聖アウグスチヌス、新プラトン主義、アリストテリアニズム、グノステック、ヘーゲル等)
カトリック15-6　[38762
岩下壯一「AKより放送、基督に倣ひて(1)(2)(3)(4)」
日本カトリック新聞552(5/17), 553(5/24),
554(5/31),556(6/14)　[38763
(參考：「東大カトリック研究會の例會」、日本カトリック新聞558(6/28)　[38764
岩下[壯一]師が「カトリック世界觀の根本問題」を講演）
「カンドウ博士に訊く「哲學と實生活」(1)」(エピクテイテス等)
日本カトリック新聞567(9/6)　[38765
「パンフレット、基督に倣ひて、岩下壯一師が講演」
日本カトリック新聞569(9/13)　[38766
「カトリック研究講座で比屋根[安定]教授が講演」
日本カトリック新聞572(10/4)　[38767
カンドウ/小林珍雄譯「名著の名譯----マリテン著/岩下壯一譯「近代思想の先驅者」」日本カトリック新聞584(12/27)　[38768
新刊紹介「岩下壯一譯「近代思想の先驅者」」
日本カトリック新聞584(12/27)　[38769
ベルンハルト・ヤンゼン/星加敏秀譯「學問と信仰精神による生活形式(2)」(ロマ

帝國、アレキサンドリアのクレメント、アウグスチヌス、トマス、アリストテレス等)
カトリック16-9 [38770
深堀信一「聖寵に就て(3)」(聖アウグスチヌス、ストイック哲學等)
カトリック16-9 [38771
土井虎賀壽「知覺形而上學の問題」(アリストテレス)哲學研究238 [38772
土井虎賀壽「知覺論---第一部ゲシュタルト心理學」(アリストテレス)
哲學研究246 [38773
矢島祐利「「ルクレチウス」以後の寺田[寅彦]先生」思想166 [38774
海外哲學思潮「最近の西洋古代中世哲學文獻」思想167 [38775
海外哲學思潮「文獻學者の書簡集」(ヴォルフ、ヴィラモーヴィッツ、モムゼン)
思想171 [38776
海外哲學思潮「哲學と歷史(カッシーラ記念論文集)」思想172 [38777
特集「ヒューマニズム」思想173 [38778
------ 田邊元「ヒューマニズムに就いて」
天野貞祐「ヒューマニズムに就いて」
高坂正顯「ヒューマニズムの意義、限界、擴張」
三木清「ヒューマニズムの哲學的基礎(1)」
古在由重「ヒューマニズムの發展」
芳賀檀「ヒューマニズムに就いて」
加田哲二「ヒューマニズムとリベラリズム(その關係についての覺書)」
清水幾太郎「ヒューマニズムのために」
谷川徹三「ヒューマニズムについて」
三木清「ヒューマニズムの哲學的基礎(2)」思想174 [38779
ゲルト・ブウフハイト/渡邊一夫譯「エラスムス素描」創造9月號 [38780
新史論展望「三品彰英「古代祭政と樹林」」(史學雜誌6月號)
歷史教育11-5 [38781
木村莊五「モンテエヌ先生」三田文學11-5 [38782
關根秀雄譯「モンテーニュ抄」文藝懇話會1-7 [38783
岸田國士「關根秀雄譯「モンテーニュ隨想錄」推賞の辭」文藝懇話會1-7 [38784
永戸俊雄「佛蘭西とアナートル・フランス」文藝懇話會1-11 [38785
紹介「Armino Janner, Individualismus und Religiosität in der Renaissance」
史林21-1 [38786
(參考:彙報「史學研究會」、史林21-2 [38787
足利惇「ペルセポリスとスサ」)
海後宗臣「明治・大正・昭和教育學說史」教育(岩波)4-1 [38788
書評「小島威彦「世界創造の哲學的序曲」」教育(岩波)4-6 [38789
(參考:彙報「倫理學讀書會」、哲學研究238 [38790
川村喜久治「和辻哲郎著「風土」に就いて」)
(參考:彙報「京都帝大文學部哲學科卒論」、哲學研究239 [38791
田口健三「ニイチェの倫理學」
池田進「教育と時代精神---教育思想史序說」

長谷山八郎「ゲーテに於ける教育の宗教的基礎---「畏敬の念」を中心とせる一つの覺書」
武藤俊一「社會的教育學の基礎問題---ナトルプに就いて」
藤本新三「イデアリスムの宗教哲學と基督教宗教」）
彙報「コンスタンティン・リッター」（訃報）哲學研究244 [38792
彙報「ハインリッヒ・リッケルト」（訃報）哲學研究247 [38793
展望・(?)「若きニイチェの草稿（自傳的手記の發見）」エルンテ8-2 [38794
丸田潤ニ郎「ニイチェに關する邦語の文獻」書物展望6-2 [38795
高須芳次郎「高山樗牛の主要著作」書物展望6-3 [38796
根津憲三「アナトオル・フランスと書物」書物展望6-5 [38797
出隆「表紙カット・說明」（プラトン現存手寫本中最古のもの）思想と文學2-1,2,3 [38798
田中宏明「現代浪漫主義的思潮の考察」(ニイチェ等)思想と文學2-2 [38799
加藤猛夫「カーライルの倫理思想の現代的意義」（デモスセネス、アリストテレース等）思想と文學2-3 [38800
三宅雄二郎「中庸の容易と困難」(アウレリア・メディオクレタス、ホラチウス等)丁酉倫理會倫理講演集389 [38801
新刊紹介「ミル原著/柳田泉譯「自由論」」丁酉倫理會倫理講演集389 [38802
新刊紹介「パスカル原著/柳田泉譯「隨想錄」」丁酉倫理會倫理講演集389 [38803
得能文「四十年」(ヘーゲル、グリーン、ニーチェ、ベルグソン等)丁酉倫理會倫理講演集400 [38804
井上哲次郎「宗教に對する日本の地位」(ソークラテース等)丁酉倫理會倫理講演集400 [38805
宮田脩「信念を伴はぬ學問の貧弱を思ふ」(ソクラテス、プラトン、アリストテレス、ゲーテ等) 丁酉倫理會倫理講演集400 [38806
遠藤隆吉「建國祭に對する私見」(ローマ古代、マケドニア等)丁酉倫理會倫理講演集401 [38807
新刊紹介「桑木嚴翼「哲學及哲學史研究」」丁酉倫理會倫理講演集401 [38808
得能文「寺田彌吉君の「親鸞宗教讀本」を讀む」(エレア學派の靜等)丁酉倫理會倫理講演集402 [38809
桑木嚴翼「西斑牙の思想家ホセ・オルテガ・イ・ガツセット」(「アトランティス雜話」、ソクラテス、シーザー、パルメニデス、ヘラクレイトス、ゲーテ、ニイーチェ等)丁酉倫理會倫理講演403 [38810
得能文「ニーチェの七傾向」丁酉倫理會倫理講演集403 [38811
井上哲次郎「神典とは何ぞや」(希臘の「テオゴニー」等)丁酉倫理會倫理講演集404 [38812
新刊紹介「河野正道「ヘーゲル」」丁酉倫理會倫理講演集404 [38813
宮田脩「女子教育の社會的重要性」(古代希臘アテーネの滅亡、ヘテイラ、ソクラテス、プラトン、ソホクレス、ユーリピデス、プラトンのアルクラナッサ、アリストテレスの

ヘルピリス、エピキュラスのレオンチューム、
メナンダのグリセラ等)
丁酉倫理會倫理講演集405 [38814
新刊紹介「ベルグソン/平山高次譯「道德・宗教の二源泉」」
丁酉倫理會倫理講演集406 [38815
桑木嚴翼「自然の發見」(希臘の思想文化、プラトン、プロティノス等)
丁酉倫理會倫理講演集407 [38816
新刊紹介「桑木嚴翼「哲學と文學との間」」(「希臘管見」)
丁酉倫理會倫理講演集407 [38817
新刊紹介「十時彌「論理學」」(「アリストテレスの論理學」)
丁酉倫理會倫理講演集408 [38818
桑木嚴翼「日本文化に貢獻した西洋人に關する放送講演の一節---- ケーベル博士
の事」丁酉倫理會倫理講演集409 [38819
小野浩「ニーチェ・コントラ・ヴァーグナー」文化3-2 [38820
學界消息「古代基督教のパピルス」文化3-4 [38821
新刊・武市健人「高山岩男「ヘーゲル」」文化3-4 [38822
學界消息「新發見のニイチェ家の遺稿とそれの特別版」文化3-7 [38823
井上正次「ニイチェに於ける「永劫回歸說」の誕生と死滅の事情」文化3-9[38824
齋藤信治「ヴィンデルバンド「哲學史教科書・新版」」(ハイムゼート編)
文化3-9 [38825
(參考:彙報「文部省主催中等教員歷史講習會」、文化3-9 [38826
平塚博「古典精神の復活」)
學內豫告「カール・レーヴィット氏の新任」文化3-10 [38827
橘忠衛「芳賀檀氏の「ニイチェ」の一節に就いて」文化3-11 [38828
彙報「カール・レーヴィット氏に就いて」文化3-11 [38829
武市健人「ヘーゲルの辯證法」文化3-12 [38830
關根秀雄「モンテーニュ抄」文藝懇話會1-7 [38831
岸田國士「關根秀雄譯「モンテーニュ隨想錄」推賞の辯」文藝懇話會1-7 [38832
永戶俊雄「佛西蘭とアナトール・フランス」文藝懇話會1-11 [38833
新刊・松崎敏太郎「マ・エ・レ・フ研究所編「アドラッキー監修・廣島定吉譯「カ
ール・マルクス年譜」」經濟評論3-6 [38834
「最近史界」、史學研究8-1 [38835
---H.R.Patch, Nessity in Boethius and the Neoplatonists(Speculum, Oct.,1935)
新刊・武田良三「樺俊雄「歷史哲學概論」」社會學徒2月號 [38836
新刊・河合弘道「ベルグソン/平山高次譯「道德と宗教の二源泉」」
社會學徒9月號 [38837
新刊・湯村榮一「フランツ・ボルケナウ/横川次郎・新島繁譯「近代世界觀成立史」
上卷」社會學徒10月號 [38838
保田與重郎「美の悲劇的な性分(エリジウム)」(ギリシヤの美等)文藝11月號[38839
岡谷四郎「古典精神と國家精神の結合----ドイツに於ける文藝學」
圖書評論12 [38840
讀書「後藤孝弟「ソクラテス」」圖書舘雜誌30-11 [38841

小林珍雄「トマス・アク井ナス」新興基督教?號(特輯・基督教大思想家號) [38842
島原逸三「「世界創造の哲學的序曲」(小島威彦著)を讀む」
三田新聞350(4/24) [38843
安孫子鵠「世界創造の哲學的序曲、小島[威彦]氏の勞作を讀みて」
一橋新聞225(3/30) [38844
「ニーチェの妹」東京朝日新聞3/5 [38845
加藤朝鳥「「學」と「學」以外(1)----獨白體と對話體」(プラトーン、アリストテレス等) 東京朝日新聞4/20 [38846
關根秀雄「飜譯の難しさ(2)(3)----モンテーニュの言葉から」
東京朝日新聞6/25,6/26,6/27,6/28 [38847
讀書欄・渡邊幾治郎「杉浦重剛先生「倫理御進講草案」」
東京朝日新聞7/24 [38848
讀書欄・塚本虎二「パウロの神學」(山谷省吾著) 東京朝日新聞8/24 [38849
深作安文「杉浦重剛先生の「倫理御進講草案」を讀む」東京朝日新聞10/11[38850
讀書欄・三枝博音「永田廣志氏著「日本唯物論史」」東京朝日新聞11/9 [38851
出版界「萬物流轉」(平泉澄著) 東京朝日新聞12/8 [38852
批評と紹介・村田四郎「山谷省吾氏の「パウロの神學」を讀む」
神學と教會3-1 [38853
井伊玄太郎「神道と基督教」(ローマ法、ソクラテス、希臘哲學等)
基督教新聞2712(2/22) [38854
「故宮川(經輝)先生追悼之辭」(ロマ帝國等) 基督教新聞2715(3/19) [38855
長谷川直吉「現代と基督教」(大哲ベルグソン等) 基督教新聞2719(4/16) [38856
S.S.生拝草「叱かる宮川[經輝]先生」(ゲーテ「詩と眞實」等)
基督教新聞2721(4/30) [38857
讀後感・新刊「ブルンナー/清水義樹・菊池雄一譯「哲學と神學」」(2.グノーシスと信仰) 基督教新聞2722(5/7) [38858
田口重良「心は心を求める」(アウグスチヌスの懺悔錄等)
基督教新聞2725(5/28) [38859
讀後感・新刊「山谷省吾「パウロの神學」」基督教新聞2726(6/4) [38860
井伊玄太郎「日本的愛とキリスト教的愛」(古代希臘の殖民地等)
基督教新聞2731(7/9) [38861
相馬祐次「キリスト教の眞髓(1)(3)」(ギリシヤの哲學思想、羅馬の組織的行政的天分、ギリシヤ・ロマの社會等)
基督教新聞2737(8/20),2740(9/10) [38862
閑花溪樓主人「躓きの宗教としての基督教(4)」(ストア派、エピクロス派等)
基督教新聞2740(9/10) [38863
讀後感・新刊「チム・クライン/藤田孫太郎譯「若きルッター」」
基督教新聞2742(9/24) [38864
金子玄「神學は不必要か」(オーガスチン等) 基督教新聞2749(11/12) [38865
中村小治郎「愛は力なり」(ギリシヤ哲學、ストア學派の自力主義、エピクロス學派の他力主義等) 基督教新聞2750(11/19) [38866
讀後感・新刊「吉滿義彦「文化倫理の根本問題」」(プラトン、アリストテレス、

アウガスチン等) 基督教新聞2750(11/19) [38867
「教義と信仰」(アウグスチヌス等) 基督教新聞2751(11/26) [38868
森山英造「基督の處女降誕について」(グリーコ・ローマンの世界、シセロ等)
基督教新聞2753(12/10) [38869
C.②＊[訂正]遠藤元男・鈴木俊・原種行・田中正義編『史籍解題』(「西洋史」)
[11547] [38870
須貝清一・山本經『ギリシヤ史』(中等英語世界歷史叢書2) [38871
今泉忠厚『基督教初代教會史』 [38872
松下績雄『新約書の背景』(基督教教程叢書15) [38873
增井芳雄編『福音の書』 [38874
グリントゲス神父著『聖母の模範』(カトリック説話集第6期1 輯) [38875
西田天香『幸福なる者----キリスト山上の垂訓講話』 [38876
柏井園『基督の教訓及び人格』(基督教叢書2) [38877
益本重雄『若い頃のイエス』(獨立堂書房) [38878
千葉勇五郎『基督教讀本・パウロ傳』(基督教讀本1) [38879
柏井園『パウロの自傳』(附・パウロの私生涯、基督教文庫2) [38880
加藤一夫『第五福音書聖書』 [38881
③西村眞次「婚姻の歷史」(?)婦人公論21-12 [38882
(參考:「京大文學部卒論」、京都帝國大學新聞242(3/6) [38883
佐々久「アテナイに於ける氏族制度の崩壞」)
(參考:「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞30(2/12) [38884
西洋史:橘文叔「初期羅馬帝國のゲルマニア經略に就いて」)
近藤啓二「カタコンブ研究」日本カトリック新聞541(2/23),543(3/8),544(3/15),545
(3/22), 546(3/29),548(4/12),549(4/19),
550(4/26),552(5/17) [38885
永井隆「カタコンブ」(短歌)日本カトリック新聞540(2/16) [38886
「模範的クリスチャン使徒パウロ」神の國新聞887(1/1),888(1/8),889(1/25) [38887
わかりやすい子供のための教會史「迫害時代も終つてローマの國教となる」
神の國新聞889(1/15) [38888
子供のための教會史「コンスタンチン大帝物語」神の國新聞890(1/22),891(1/29),
892(2/5), 893(2/12) [38889
「偉人物語----ローマの大英雄ジュリアス・シーザー」東京朝日新聞7/11 [38890
(?)「英雄道凡人道」(スパルタ王レオニダス關聯)南海タイムス100 (7/13) [38891
(參考:彙報「各大學史學科卒論」、歷史地理67-3 [38892
京大:佐々久「アテナイに於ける氏族制度の崩壞」)
(參考:編輯局「文檢研究第50回・模擬試驗成績發表」歷史教育11-4 [38893
武本功「ローマ元老院の勢力の消長を述べよ」)
(參考:史界近事「史學會第37回大會」、歷史教育11-4 [38894
秀村欣二「羅馬帝政末期に於けるコレギアの國家統制」)
(參考:史界近事「第3回夏季歷史學講座」、歷史教育11-6 [38895
齋藤清太郎「英國史概說」)
(參考:編輯局「文檢研究第53回・模擬試驗成績發表」歷史教育11-7 [38896
大池國男「ゲルマニ諸國中フランク王國の隆興せし理由を論ぜよ」)

（參考：編輯局「第65回文檢歷史科豫備試驗問題」歷史教育11-10 [38897
西洋史：「一、ローマ帝國に於ける人口問題の史的意義」)
橋田次郎「第65回文檢歷史科合格を顧みて」歷史教育11-12 [38898
西洋史：「二、サラセンの東ローマ帝國領略奪ならしめたる各種の事情」
原隨園「歷史學に於ける時代區分」史苑10-2 [38899
（參考：彙報「西洋史讀書會」、史林21-1 [38900
市川文藏「アウグスチヌスの世界史論」）
（參考：彙報「京都帝國大學文學部史學科昭和11年度卒論」、史林21-2 [38901
磯部濤一郎「フランク王國に就いて」
佐々久「アテナイに於ける氏族制度の崩壞」）
（參考：彙報「史學研究會」、史林21-4 [38902
高山岩男「歷史意識の成立」）
高坂正顯「歷史的基體」（ギリシア等）哲學研究248 [38903
加藤猛夫「歐洲英雄觀の變遷----文化向上の原理より見たる英雄の使命」（プルターク「ギリシヤ・ローマの英雄比較傳記」等）
思想と文學2-2 [38904
（參考：科外・大類[伸]講師「西洋古代史の發展」（美術を通してみたる）幻燈使用）
文化3-9 [38905
栗野頼之助「ヴェノオン草紙文書補遺」史學研究7-3 [38906
井伊玄太郎「半澤牧師の死とパウロ傳」(プラトー、シセロ、ローマ帝國、ネロ皇帝等) 基督教新聞2724(5/21) [38907
(參考：「YMCAの夏期學校」、基督教新聞2729(6/25) [38908
---- 龜德正臣「初代に於ける諸教會と傳道」)
(參考：「聖書日課註解」、基督教新聞2731(7/9),2732(7/1) [38909
----- 第28週、使徒行傳23:11-35/26:24-32)[アグリッパ王、クリート島、マルタ島、ロマの監獄等])
④ 「新刊書目」、哲學研究240中----- [38910
H.Lietzmann ,Geschichte der alten Kirche,Bd.2,Berl.
L.Chestow,Athèns et Jérusalem,Revue Philosophique de la France et de L'Étranger,60,11-12
「新刊書目」、哲學研究248中----- [38911
E.Brunner,Die Kirche,die Gruppebewegung u d.Kirche Jesu Christi
B.Croce,Recenti contoversie intorno all'unita della storia d'italia,Oxf.U.P.
A.Schlatter,Die Kirche der Griechen im Urteil d.Paulus,eine Auslesung Seiner Briefe an Tomotheus u.Titus.Stuttgt.
高坂正顯「歷史的世界(1)(2)」思想174,175 [38912
今井登志喜「西洋史上の大都市」婦人の友30-11 [38913
報會「西洋史部會」、歷史學研究6-1 [38914
---- 合評「大類伸「西洋史新講」・内藤智秀「西洋史概觀」」
西洋史部會「最近の概說書を通じて見たる我國西洋史學界の動向」（大類伸「西洋史新講」・原隨園「新義西洋史」・内藤智秀「西洋史概觀」)
歷史學研究6-2 [38915
報會「西洋史部會---- 合評「原隨園「新義西洋史」」、歷史學研究6-2 [38916

紹介と批評・小原敬士「ゴルドン・イースト「ヨーロッパ歴史地理學」」
歴史學研究6-4 [38917
「論文要目」、歴史學研究6-5 [38918
--- The English Historical Review,vol.L,no.200,1935,Oct.
・E.Barger,The Problem of Roman Survivals in Germany
Klio,Bd.28,Heft,3
・R.Hennig,Herodots Handelsweg zu den sibirischen Issodnen
F.Taeger,Charismatische Ideen bei Herodot
F.Graefer,Die Operatinen des Antialkides im Hellespont
A.Semenov,Hypereides und Phryne
A.Wilhelm,König Antigonos Schriben an die Teïer
A.Neumann,Kritische Beiträge zur römischen Heeresdisplin des 1 und 2 Jahrhunderts n.Chr.
小原敬士「地理學の諸類型とその批判」歴史學研究6-6 [38919
紹介と批評・牟田口亘「イタリーの歴史教育」歴史學研究6-8 [38920
「論文要目」、歴史學研究6-8 [38921
---- Revue Historique,tom.clxxvii
・A.Tandry,Quelques aperçus concorant la dèpopulation dans l'antiqueité gréco, romaine
會報「綜合研究會----古代的構成：奴隷的構成に關する史的唯物論の缺陷」
歴史學研究6-8 [38234
紹介と批評・成田節男「鈴木俊・井上幸治・宮城良造編「世界歴史大年表」」
歴史學研究6-11 [38235
「論文要目」、歴史學研究6-11 [38236
---- Revue Historique,tom.clxxxvii,1936
・J.Gagé,De Càsar à Augusto,Oú en est leproblèm desorigines du Principa ?
Historische Zeitschsrift,Bd.154,Heft 3,1936
・K.Burdach,Die wahl Friedrics II,zum römishcen Kaiser
Historische Viertejahrschrift,Jahrgang xxx,Heft4,1936
・O.Kestner,Alpenpässe und römishce Malaria in der mittelalterlichen Kaisezeit
ミュルパウエル「奇妙なこと」(希臘デモステネス等)
日本カトリック新聞548(4/12) [38922
新刊「ヨット・マルクス/カトリック思想科學研究所譯「史料・基督教會史」」
日本カトリック新聞548(4/12) [38923
彙報「坪井文學博士の薨去」歴史地理67-3 [38924
(參考：彙報「各大學史學科卒論」、歴史地理67-3、史學研究8-1 [38925
廣島文理大(第五回)：伊藤隆治「ヴィコを中心としてツキヂデス史觀の比較(ヴィコとブルクハルトと新井白石の史觀の比較)」
岡本恒治「ヘルデルの歴史觀に於ける國民の理念とその發達」)
雜錄・伊木壽一「坪井博士と古文書學」歴史地理67-4 [38926
今井毅積「司馬江漢、その啓蒙者としての斷面」歴史教育11-1,4 [38927
「文檢參考書解說(三)」歴史教育11-2 [38928

「第三、西洋史」：A-J.Giant, European History,1920/ G.W.Botsford, A Brief History of the World,1930/ Myers, General History, 2nd revised ed.,1925/ R.Ashley, Early European Civilization, 1923/ H.Webster, Ancient Civilization,1931/ H.Webster, Medeaval and Modern Civilization,1931/ Robinson & Breasted, Outlines of European History, Part I & II,1920
「文檢參考書解說(四)」歷史教育11-4 [38929
「第三、西洋史」：J.H.Breasted, Ancient Times, A History of the Early World,1916/ G.W.Botsford, History of Ancient World 1911/ M.I.Rostovzeff, A History of Ancient World,1927/ J.B.Bury(ed.), Cambridge Ancient History, 1921/ G.W.Botsford, Hellenic History,1922
新史論展望「粟野頼之祐「アレクサンドロスのアムモン参拝行と世界意識「全人類の同胞的觀念」の誕生に就いて」(史學雜誌6月號)
歷史教育11-5 [38930
評書「中川一男「歷史及歷史教育」」歷史教育11-10 [38931
佐藤俊雄「ヘーゲル史觀一考」歷史學派3 [38932
池田哲郎「一九三五年我國西洋史學界展望」西洋史研究9 [38933
彙報「京都帝國大學文學部創設三十年祝典記事、記念講演」史林21-1 [38934
-----濱田耕作「考古學三十年」
稀書展觀「Ch.Newton, A History of Discoveries at Halicarnassus, Condidus and Branchidae,London, 1862
G.Wilpert, Le pitture della Catacombe Romane, Roma, 1903」
紹介「千代田謙「西洋近世史學史序說」」史林21-2 [38935
紹介「F.Lot, Les Invasions germaniques, Paris, 1935」史林21-3 [38936
紹介「Henri Pirenne とHenri Sée兩教授の訃」史林21-3 [38937
千代田謙「ボーリンググローク子と史學說」史林21-4 [38938
(參考：彙報「京都帝國大學文學部哲學科卒論」、哲學研究239 [38939
松平健「歷史に於ける發展の概念---主としてヘーゲルに就いて」)
三輪田元道「女性の貞操觀」(トロイ戰爭、クレオパトラ等)
丁酉倫理會倫理講演集401 [38940
新刊・長崎茂次「千代田謙「西洋近世史學史論序說」」文化3-3 [38941
新刊・祇園寺信彦「遠藤元男・鈴木俊・原種行・田中正義編「史籍解題」」
文化3-7 [38942
新刊・祇園寺信彦「佐藤堅司「世界兵學史」」文化3-11 [38943
「最近史界」、史學研究7-3 [38944
---- F.Bork,Zur altklein]asiatischen Geschichite(Klio,Bd.28,Heft 1/2,1935)
F.Miltner,Die Meerengenfrage in der Geriechischen Geschichite((Klio, Bd.28,Heft 1/2, 1935)
A.Dopsch,Motive der Freiheitsgarantien für Person und Eigentum im Mittelalter(A.f.K., Bd.xxvi,1935)
H.Lohrisch,Das Schiksalslied der römischen Volks(V.u.G.,Heft 6,1935)
Howard H.Scullard, A History of the Roman World from 753 to 146 B.C.
(參考：彙報「廣島文理科大史學科第五回卒論」、史學研究8-1 [38945

首藤助四郎「自然科學的歷史觀の一齣--- バックルの歷史觀」
「最近史界」、史學研究8-1 [38946
---- 由良哲次「歷史敍述の變遷と敍述形式」歷史教育10-10
F.Bork,Zur altklein]asiatischen Geschichite(Klio,Bd.28,Heft 1/2,1935)
大類伸「マキャヴェリと時代」西洋史研究8(昭10)
F.Miltner,Die Meerengenfrage in der Geriechischen Geschichite(Klio, Bd.28,Heft 1/2, 1935)
小原敬士「中世社會の地理學」地理學4-8,9 [38947
批評・小栗田壽秀「早川二郎著「古代社會史」」圖書評論15 [38948
讀書「入澤達吉「隨筆・楓萩集」」(史家グロート等)圖書舘雜誌30-11 [38949
批評と紹介「郷司愷爾「リーツマン「古代教會史」(1)」神學と教會3-1 [38950
「“史學”の海外進出----ハーヴァード大學との雜誌交換」(島田久吉「羅馬人の都市生活(下)」)三田新聞350(4/24) [38951
「良書推薦」、三田新聞352(5/22) [38952
-----間崎萬里「テーヌ文學史の方法」、「ベルンハイム「歷史とは何ぞや」」、「Brestead,Ancient Times,1935」
「流行のギリシヤ頭----モダン女性の博物舘通ひ」(結髪)東京朝日新聞2/24 [38953
河合勇「オリンピアの遺跡巡禮」東京朝日新聞7/7,7/8 [38954
「寶血に由つて買はれたる教會」(ギリシヤ、ローマ等)
基督教新聞2708(1/30) [38955
野波福太郎「深く頼みて」(ネロ皇帝等) 基督教新聞2716(3/26) [38956
新刊「渡邊善太「イスラエル民族發達史」」基督教新聞2719(4/16) [38957
讀後感・新刊「日野眞澄「パウロ書簡總論、ガラテア書」」(現代新約聖書註解全集9巻) 基督教新聞2733(7/23) [38958
永田善治「宣教の愚」(ギリシヤ人、ヘレニズム、文藝復興等)
基督教新聞2739(9/3) [38959
讀後感・新刊「柏井園/柏井光藏口譯併記「基督教小史」」
基督教新聞2742(9/24) [38960
讀後感・新刊「柏井園「パウロ自傳」」基督教新聞2743(10/1) [38961
D.①メツゲル譯『ベトーフイ詩』 [38962
堀口大學「新イソップ物語」明朗3（6月號） [38963
酒井朝彦『繪入イソップ物語』（ひらがなの巻） [38964
酒井朝彦『繪入イソップ物語』（カタカナの巻） [38965
②＊[訂正]村松正俊撰『羅甸語四週間』（再版） [11610] [38966
＊[訂正]大村雄治『ラテン語第一歩』（羅典語入門叢書第1編。昭12刊?）
[11611] [38967
相良德三『歐洲美術の歷史----エジプトから現代まで』 [38968
一氏義良『世界美術鑑賞』 [38969
青柳善吾『西洋音樂教育史』 [38970
茅野蕭々『ゲョエテと哲學』 [38971
舟木重信編ゲーテ人生の書』(人生叢書第2期4編) [38972
山岸光宣『獨逸文學概觀』 [38973
B・タウト/森儁郎譯『日本文化私觀』（パルテノン、ギリシア建築等） [38974

③森口多里「ミネルヴァの造形」ミネルヴァ1-1,2 [38975
（參考：彙報「西洋史學研究會」、史學研究8-1 [38976
渡邊[吉治]教授「ヘレニステイクの肖像畫」）
「聖書の名稱」(ギリシヤ語、ラテン語) 神の國新聞898(3/18) [38977
「ラオコーンとトーキー」京都帝國大學新聞241(2/16) [38978
黒田正利「アッカヂミア・デ・イタリア」京都帝國大學新聞241(2/16) [38979
（參考：「京大文學部卒論」、京都帝國大學新聞242(3/6) [38980
幸田芳雄「ユーリピデスのイフゲニアと比較したるゲーテのイフゲニー」）
黒田正利「イタリアのヒューマニズム」京都帝國大學新聞255(12/5),
256(12/20) [38981
神田盾夫「パピルス資料二つ」宗教思潮・新春特大號 [38982
④＊[訂正]「新刊書目」、哲學研究241 中----- [11515] [38983
G.Murray,Greek Poetry and Life,Essays presented to G.Murray on his 70th birthday,Oxfd. U.P. (←B.④)
「新刊書目」、哲學研究246中----- [38984
Chrysostoms:Kommentar zu een Briefen d.hl.Paulus an die Galater u.Epheser, aus .d.Gr.übers.v.Wensel Stoderl.München
Origenes:On first principles.Being Koetschau's Text of the "De Principiis", tr.into English, together with an Introd.& notes C.W.Butterworth, London
Thomas Aqiunas:Tractatus de Unitate intellectus contra Averroistas, editio critica by L.W.Keeler,Rome
（參考：「京大文學部卒論」、京都帝國大學新聞242(3/6) [38985
北村達三「Ruskin and Nature」
島田全「Shelley and his Poems 」
日置政治郎「Some Studies in Walter Pater 」
渡邊純「Problems of John Keats 」）
「卓上新刊三つ」京都帝國大學新聞252(11/12) [38986
----- 「日本ゲーテ協會」：内山眞三郎「ハンス・ザックスとゲーテ」
大森十五「ファウスト見物記」演藝畫報30-2 [38987
（參考：「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞29(2/5) [38988
・英文科：栗原秀吉「マシュウ・アーノルドの詩に於ける心意の展開」
大野豐茂「ペイタアと宣長の批評論比較研究」
高部齊「シェリーの詩に於ける愛の發展及びその哲學の一考察」
佐々木次郎「バイロンの詩及人格に就いて」
岩元將「ウォルター・ペイタア小論」
小林文夫「イエーツの劇の研究」
中野長寛「チャイルド・ハロルドの「巡遊に於けるバイロン」」
李根成「シェリーの精神」
・獨文科：中澤宣一郎「シルレルの藝術論に就いて」
小池春水「フリードリヒ・ニイチェに就いて」
稻葉英文「青年期ゲーテの抒情詩に就いて」

小島公一郎「ファウストの神曲」）
短長波・江川和彦「ホーマーは盲目だつた?----ナポリの胸像はデスマスク仕上げ」
早稻田大學新聞30(2/12) [38989
橋本彦一「バイロン全集」(那須書房刊)早稻田大學新聞37(5/13) [38990
小口優「F.シルレルの「文藝學の發展と批判」」早稻田大學新聞39(5/27) [38991
荒川龍彦「シェリの評論、感想、書翰----阿部知二氏の譯業「詩と戀愛」(アンドレ・モロワのシェリ論)」早稻田大學新聞43(6/24) [38992
小口優「獨文學への研究---舟木(重信)氏の新著「ゲーテ、ハイネ、現代文藝」」
早稻田大學新聞51(10/14) [38993
浦上后三郎「シルレルの「群盜」」早稻田大學新聞55(9/18) [38994
近藤啓二「中世期藝術爲覺書」日本カトリック新聞570(9/20),571(9/27),
573(10/11),574 (10/18),575(10/25) [38995
「長崎カトリック敎報社、今秋のプラン」(大窄政吉師編「ラテン文法」上下發行豫定) 日本カトリック新聞572(10/4) [38996
大井一郎「デシデリウス・エラスムス、一四六六~一五三六」
カトリック16-11 [38997
彙報「エラスムス像和蘭陀へ」歷史地理67-2 [38998
彙報「エラスムス像渡蘭謝絶」歷史地理67-4 [38999
彙報「エラスムス像愈和蘭行」歷史地理68-2 [39000
長廣敏雄「美術史と考古學」(リーグル)考古學論叢1 [39001
ヨハネス・ミューラ/上田正紀譯「ゲーテ自敍傳としてのファウスト悲劇」
創造7月號 [39002
外山定男「「伊太理の曙」小論」(ロレンスとプラトン)三田文學11-5 [39003
伊藤整「ユリシイズ再讀」文藝懇話會1-11,12 [39004
野上巖「ダンテ・神曲」家庭6-10 [39005
平田禿木「バイロンの飜譯」英語靑年76-3 [39006
衣笠梅二郎「ブレイクに關する本邦文獻の先驅」書物展望12月號 [39007
(參考：彙報「西洋史讀書會」、史林21-1 [39008
武藤醇吉「人文主義に就て」
三喜田熊藏「獨逸に於けるHumanismus運動とWittenberg大學」）
紹介「明珍恒男「佛像彫刻」」史林21-2 [39009
紹介「井島勉「キンケルマン」(西哲叢書XIII)史林21-4 [39010
(參考：彙報「史學研究會」、史林21-4 [39011
井島勉「美術史學の立場」）
松下武雄「シェリングの藝術哲學」哲學研究241 [39012
(參考：彙報「哲學茶話會」、哲學研究241 [39013
松下武雄「シェリングに於ける構想力の問題」）
楳垣實「日本外來語研究略史」外來語研究4-1 [39014
矢口茂雄「明治以前に於ける外來語の音譯」外來語研究4-2 [39015
エルギン・ヤーン/栗原兵吾譯「ゲーテに於ける山海」エルンテ8-2 [39016
柳田泉「明治初期に於ける政治小說の發達と文學改良運動」
丁酉倫理會倫理講演集400 [39017

(參考：「本會記事---研究會：柳田泉「明治初期に於ける政治小說の發達と文學改良運動」丁酉倫理會倫理講演集400) [39018
學界消息「シルレル新全集」文化3-2 [39019
新刊(中野)「輿水實「言語哲學」」文化3-3 [39020
(參考：「東北帝大文科卒論」、文化3-4 [39021
長谷川幸一「On the Mothod of Criticism of M.Arnold」
池田陸喜「ウォルター・ペイターの文體論」
長谷安生「Shelly's Prometheus Unbound」
松本文之丞「John Keats詩の發展」
柴田治三郎「フリードリッヒ・ヘーベル研究」)
新刊・酒井三郎「井島勉「キンケルマン」」文化3-9 [39022
學界消息「ゲーテとオリュムピア思想」文化3-11 [39023
(參考：彙報「伊太利亞學會公開講演會---宮崎信彦「ダンテの顔」」、文化3-11) [39024
新刊(中野)「上村清延「ゲーテ以後」」文化3-12 [39025
新刊紹介「アリエル/山室靜譯「シェレイの生涯」」文學評論3-1 [39026
「最近史界」、史學研究7-3 [39027
--- A.H.Krappe,Mediaval Literature and the Comparative Method(Speculum vol.x,no.3,1934)
彙報・相内武千雄「ヴェルフリン/守屋謙二譯「美術史の基礎概念」」史學15-3 [39028
編輯餘錄「古典語研究復活論」The Current of the World 13-2 [39029
立原道造(卒業論文)「方法論」（建築論。1972年版全集4巻所収） [39030
井上秀子「創刊に際して」(ギリシヤの哲人ソフォクレス等)家庭科學時報1 [39031
(參考：「社會學關係卒論」、社會學徒6月號 [39032
法政大学：郡山澄雄「ルネッサンスに於ける人間の研究」)
保田與重郎「小說の英雄」(シーザー、アレキサンドル、ニイチェ等)文藝9月號 [39033
古屋[芳雄]博士「ゲーテとシルレル」科學知識2月號 [39034
谷本弘「ゲエテ」文藝春秋3月號 [39035
(參考：昭和10,11年度三田史學研究會例會報告）、史學15-2 [39036
占部百太郎「西洋封建制度に就いて」)
書評「ハインリヒ・ヴェルフリン/守屋謙ニ譯「美術史の基礎概念」」史學15-3 [39037
占部百太郎「西洋封建制度の概況」史學15-4 [39038
岡谷四郎「古典精神と國民精神の結合---ドイツに於ける文藝」圖書評論12 [39039
ヨハネス・ラウレル「日本耶蘇會古版本三部の發見」圖書舘雜誌30-4 [39040
讀書「乙骨三郎「西洋音樂史」」圖書舘雜誌30-4 [39041
ヨハネス・ラウレス「一五九六年天草版「イギナシャス・ロヨラの精神の鍛錬」補遺」圖書舘雜誌30-8 [39042
伊藤粂藏「西洋中世の圖書舘」圖書舘雜誌30-10,11 [39043
讀書「相良德三「歐洲美術の歷史」」(エジプトから現代まで)

圖書舘雜誌30-10 [39044
千田是也「メフィストフェレスに就て」三田新聞345(1/3) [39045
三木清「生田長江氏」(ニイチェ、ゲーテ等) 三田新聞346(1/24) [39046
淺野浩「村松正俊「羅甸語四週間」」三田新聞358(9/28) [39047
讀書欄・齋藤清衛「國文學の文獻學研究」(ドイツ文獻學、芳賀八一博士)
東京朝日新聞1/12 [39048
讀書欄・遠藤宏「西洋音樂史」(乙骨三郎著) 東京朝日新聞1/19 [39049
讀書欄・板垣鷹穂「藝術史の課題」(植田壽義著) 東京朝日新聞2/9 [39050
本多顯彰「飜譯文學の現狀(3)」(ゲーテ、ニーチェ等) 東京朝日新聞2/9 [39051
「エラスムス像の和蘭行御免」東京朝日新聞2/16 [39052
小宮豐隆「西洋美術舘めぐり」(兒島喜久雄著) 東京朝日新聞3/15 [39053
讀書欄・板垣鷹穂「西洋美術概論その他」(兒島喜久雄著。ローマ美術等)
東京朝日新聞4/12 [39054
植村清二「素材と作家」(グロチウス、クレオパトラ等)
東京朝日新聞9/17,9/18 [39055
讀書欄・兒島喜久雄「ヴェルフリン著/守屋謙二譯「美術史の基礎概念」」
東京朝日新聞11/9 [39056
長谷川如是閑「藝術の古代化(1)----ナチスの藝術批評統制、(2)----藝術における自由」
東京朝日新聞12/5 [39057
イーストレーキ・ナヲミ「憶ひ出のナヲミ博言博士」明朗1(4月號) [39058
新村出「芳賀[矢一]博士の追慕」國漢12月號 [39059
菊池薫「武將物語---毛利元就」オール讀物5月號 [39060
豐田實「Shakespeare in Japan」英文學研究10月號 [39061
濱野修譯「詩・ニイチェ詩抄」宗教公論5月號 [39062
E.①＊[訂正]佐伯好郎譯「ユ帝欽定勅法彙纂邦譯」法律論叢15-9,10,11,12
[11712] [39063
②金澤理康述『西洋法制史講義』 [39064
③(參考：「昭和十一年三月施行法學科試驗問題」(第一講座)日本法學2-5 [39065
西洋倫理：佐々木「一、プラトーの理想國に就て述べよ」)
(參考：「昭和十一年七月施行法學科試驗問題」(第二講座)日本法學2-9 [39066
政治思想史學史：小林「ギリシヤ時代の政治學說を略述せよ」)
(參考：「昭和十一年七月施行法學科試驗問題」(第一講座)日本法學2-10 [39067
政治思想史學史：小林[一問選擇]「一、プラトーの學說を述べよ」「ニ、アリストテレスの學說を述べよ」)
(參考：學界消息「法政研究會」、法と經濟(立命館大學)5-1 [39068
末包留三良「英法と羅馬法の關係」)
石黑魯平譯「古代希臘の國家觀念」(The Greek Idea of the State,by S.H.Butcher)
英語研究5,6,7,8,9,10月號 [39069
武藤智雄「羅馬法進化の諸段階」法政研究(九大法政學會)?號 [39070
(參考：「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞30(2/12) [39071
西洋史：岸本重郎「紀元一、二世紀に於けるローマ帝國下の經濟生活について」)

高橋正道「基督教の尊王主義」(コンスタンテイヌス帝等)
基督教新聞2742(9/24) [39072
④「論文要目：Vierteil Jahrschrift für Sozial –und Wirtschaftsgeschichte,Bd.28,Heft.1---
J.Hashagen, Über die weltgeschichtliche Bedeutung der antiken Staats-und
Soziallehren」歴史學研究6-1 [39073
「論文要目：Vierteil Jahrschrift für Sozial –und Wirtschaftsgeschichte,Bd.29,Heft.2---
W.Gebauer,Die Aufnahme der Politik des Aristotele und die naturechtliche
Begründumg des Staats durch Thomas von Aquino
歴史學研究6-1 [39074
(參考：學界消息「法理研究會」、法と經濟(立命館大學)5-1 [39075
大岩誠「「ペルシア人の手紙」に就て」(モンテスキュー))
瀧川幸辰「フォイエルバッハとサヴィニー」法と經濟(立命館大學)5-2 [39076
(參考：學界消息「公法研究會」、法と經濟(立命館大學)5-2 [39077
淵定「サヰニーに於ける法律學の問題」)
(參考：學界消息「法理研究會」、法と經濟(立命館大學)5-2 [39078
恒藤恭「「世界法の理論」に就て」(田中耕太郎著))
淵定「サヰニーの法律學について」法と經濟(立命館大學)5-5,6 [39079
瀬川杢四郎「歐米正義思想の回顧」(希臘文化、羅馬文化、中世文化、文藝復興等)
カトリック15-8,9 [39080
姉崎正臣「黒田正利氏新譯「君主論」」(マキャヴェリ)
京都帝國大學新聞223(5/26) [39081
「卓上新刊三つ」京都帝國大學新聞252(11/12) [39082
------滝川幸辰「河合榮治郎「社會思想家評傳等」(グリーン等)
讀書・吉村正「小島幸治氏補譯「歐洲政治史概觀」(第一章・上古史)」(エルネスト・ラヴィ著)
早稻田大學新聞56(11/25) [39083
紹介「西本穎「西洋法制史講義」」史林21-4 [39084
(參考：彙報「京都帝國大學文學部哲學科卒論」、哲學研究239 [39085
多田淳政「ヘーゲルの人倫態---人倫態の哲學」)
下田次郎「社會生活と婦人」(パラス神、アテナカミ、ホーマー「イリアッド」、「オデイッセー」、シルレル、ダンテ、羅馬の詩人バーズル[ヴァージル]等)
丁酉倫理會倫理講演集400 [39086
杉森孝次郎「個人化、國民化及び社會化」(ルネサンス、中世のコスモポリタニズム、ラテン語等)
丁酉倫理會倫理講演集406 [39087
友枝高彦「日獨關係と最近の國際情勢」(ケーベル、ゲーテ、ヘーゲル、シルレル等) 丁酉倫理會倫理講演集407 [39088
深作安文「杉浦重剛先生の「倫理御進講草案」を讀む」
丁酉倫理會倫理講演集407 [39089
帆足理一郎「ソヴィエット聯邦共和國の動向」(プラトンの理想國、ベイコンの新アトランチス等)

丁酉倫理會倫理講演集408 [39090
陳紹聲「ヘーゲルに於ける市民社會論の成立」文化3-4,6 [39091
「最近史界」、史學研究7-3 [39092
---- H.Justus,Über die Weltgeschichite Bedetung der antiken Staats-und Soziallken (S.W.G., Heft 1,1935)
大類伸「ルネサンスの君主論とサルターティ」(文化2-9)
「最近史界」、史學研究8-1 [39093
----金倉英一「Virtuに現はれたるマキャヴェリの國家思想」西洋史研究8(昭10)
金倉英一「マキャヴェリ研究文獻」西洋史研究8(昭10)
O.Schilling,Die Staat u. Soziallehre des Hl.Thomas v. Aquin, München,1930
新刊・馬場明男「モンテスキュー/齋田禮門譯「ペルシア人への手紙」」
社會學徒10月號 [39094
柿花啓正「天晴地明經濟學の學史的體系」(古代等)
天晴地明經濟新聞8-8(8/10),
8-9(9/10), 8-10(10/10) [39095
「電力有國營法案の廻りてマルキスト・石川興二博士の赤化日本の陰謀を粉砕す」
(プラトー、ソフィスト、アリストテレス等)
天晴地明經濟新聞・號外(9/9),8-11(11/10) [39096
上田辰之助「職分思想の國際的様相」(アリストテレス、キケロ等)
一橋新聞236(10/20) [39097
讀書欄・新明正道「河合榮治郎氏著「社會思想家評傳」」
東京朝日新聞10/12 [39098
出版界「羅馬元首制の起源と本質」(船田享二著) 東京朝日新聞12/6 [39099
F.②＊[訂正・削除]大日本~~体~~體育協會編『オリムピックの書』 [11793] [39100
大石峯雄『民族體育の日本的建設』(ギリシア、ローマ等) [39101
山本有三編纂・飛田穂洲・豐島與志雄著『スポーツと冒険物語』(「オリンピック物語」) [39102
エリオット/山川均譯『近代科學と唯物論』(改造文庫第1部33) [39103
ジョン・ウィリアム・ドレーパー/荒畑勝三譯『宗教科學闘爭史』(改造文庫第1部98) [39104
③＊[訂正]新居格「オリムピックの文化的意義」日本評論9月號(同名論文、世界知識9月號に掲載) [11808] [39105
(參考：「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞30(2/12) [39106
西洋史：平田寛「古代希臘幾何學の研究」)
(參考：「史學會の講演會」、早稻田大學新聞56(11/25) [39107
定金右源二「古代ギリシヤのオリムピック・ゲームに就いて」)
小倉金之助「初等數學史話」婦人の友12月號 [39108
白木不二雄「ぴたごらすノ定理ノ擴張」(日本中等教育)數學會雜誌18-1 [39109
雜報・中居重四郎報「ぴたごらすノ定理ノ證明ニ就テ」(日本中等教育)
數學會雜誌18-1,2 [39110
原田三夫「ギリシヤ時代の科學者---幾何學の誕生」(エウクリッド)
子供の科學3月號 [39111

「オリンピック競技からパウロは學ぶ」ときのこゑ8/15 [39112
辰野隆「新しきオリンピアド」文藝懇話會1-2 [39113
編輯部「オリムピック大會の歴史」公民教育64（7月號） [39114
竹之下休藏「オリムピックと近代オリムピック」女子と子供の體育12月號 [39115
Sir W.B.Thomas「オリンピヤード史：The History of Olympiado」（The Observer）
英語研究10月號 [39116
「オリンピック優勝者に贈る神木「橄欖の冠」」（ギリシヤのフロースの丘の神木等）東京朝日新聞8/16 [39117
④「新刊書目」、哲學研究238中----- (→E.④) [39118
W.Schubart,Justinians Corpus Juris,Die Antike 11,4
「新刊書目」、哲學研究240中----- [39119
M.B.Foster,Christian Theology and modern science of nature,Mind 45,177
「新刊書目」、哲學研究245中----- [39120
Euklid Elemente,Buch X nach Heibergs Text übertragen von Theodor Peters,Kant-Studien 41,1/2
「最近讀書のうち何が最も感銘深かつたか」京都帝國大學新聞250(9/20) [39121
----末川博：「スワンテ・アーレニウス/寺田寅彦譯「史的に見たる科學的宇宙觀の變遷」(岩波文庫)
「卓上新刊三つ」京都帝國大學新聞252(11/12) [39122
---- 「日本ゲーテ協會」：鼓常良「ゲーテと自然」
後藤末雄「科學の發達と科學的精神の發展」科學(岩波)6-3 [39123
新刊「永井潛「優生學概論」」科學(岩波)6-8 [39124
遠藤佐々喜「算盤來歴考補遺」史學15-2 [39125
書籍紹介「小倉金之助「數學史研究・第一輯」」(日本中等教育)數學會雜誌18-1 [39126
新村出「花の名三つ四つ」(拉丁語等)表現4月號 [39127

G. 尾高豐作編(小西重直序)『教育人名大辭典』 [39128
山岸光宣『コンサイス獨和辭典』 [39129
佐藤通次『獨和言林』 [39130
伊庭孝編『最新・音樂大辭典』 [39131
新刊(S.S.)「三木清編輯代表・現代哲學辭典」」文化3-11 [39132
寮佐吉「研究社・新英和大辭典所見」The Current of the World 13-5 [39133
鈴木桂太郎「岩波辭典を評す」The Current of the World 13-6 [39134
寮佐吉「齋藤中辭典新版所見(1)」The Current of the World 13-6 [39135
寶來新「齋藤中辭典新版所見(2)」The Current of the World 13-6 [39136
寮佐吉「岩波英和辭典所見」The Current of the World 13-7,8 [39137
禾周生「齋藤英和中辭典は改惡」The Current of the World 13-7 [39138
新村出「イソップ物語」(岩波版「教育學辭典」第1巻中) [39139
新村出「吉利支丹學校」(岩波版「教育學辭典」第1巻中) [39140
阿部重孝「アカデミー」(岩波版「教育學辭典」第1巻中) [39141
來島繁男「現代思想のエンサイクロペヂア---「現代哲學辭典」」圖書評論18 [39142
中河與一「日本評論社の現代哲學辭典」京都帝國大學新聞251(11/5) [39243

舟木重信「獨和辭林」(白水社版) 早稻田大學新聞42(6/17) [39144
金原三郎「佐藤通次「獨和言林」」三田新聞352(5/22) [39145
讀書欄・永井萬助「國民百科辭典」東京朝日新聞1/12 [39146
讀書欄・谷川徹三「世界文藝大辭典」東京朝日新聞1/19 [39147
讀書欄・飯塚啓「動物學辭典」東京朝日新聞2/2 [39148
讀書欄・小林澄兄「教育學辭典」東京朝日新聞8/24 [39149
讀書欄・林達夫「吉江喬松編輯「世界文藝大辭典」第七巻「文學史」」東京朝日新聞9/14 [39150
出版界「世界文藝大辭典」東京朝日新聞9/14 [39151
「我が「カトリック大辭典」」日本カトリック新聞559(7/5) [39152

昭１２（１９３７）

A. ＊[訂正]武者小路實篤「羅馬、ナポリ、ポンペイ---歐洲見聞記」現代1月號 [24083] [39153
資料と報告・田中震二譯「近年の學術界を論ず」歷史學研究7-1 [39154
田中みね子「子供の爲の旅行記(2)(4)」(ニューヨークとローマ、ポムペイ等) 聲733,735 [39155
三井高陽『交通文化物語』(古代等。←昭8刊・同「交通物語」) [39156
平塚益德『日本基督教主義教育文化史』(基督教教程叢書18) [39157
日本カトリック新聞社『カトリック教と日本カトリック教徒----マニラ萬國聖體大會日本派遣參加團を送るに際して』 [39158
比屋根安定『世界巡禮記』(ギリシヤ等) [39159
幸田成友「ケンペル雜考」學燈41-12 [39160
安倍能成「斜塔の都(ピサ)」思想183 [39161
Y・G・コッサール「ギリシヤと日本」創造12月號 [39162
新村出『Infuencias Occidentales en la Historia yen la Cultura del Japon(1540-1860)』(昭和10年12月の日本文化講演筆錄の西語譯刊[39163
松本賢治譯「民族心理學研究の現況」(Jürgen Brake,Der Forschungstand der Rassen-psychologie) 教育學研究(東京文理大)5-11,12 [39164
(參考：「昭和12年度各官立大學教育學科講義題目」、教育學研究(東京文理大)6-2 [39165
・東京文理大：教育學概論(乙竹)、教育科學發達史(乙竹)、教育學概論(寺澤)
・京都帝大：教育學概論(長田)
・東北帝大：教育學概論(細谷)
・九州帝大：教育學概論(松澤)
・京城帝大：教育學概論(松田)、教育史概說(松月)、教授論史(田花)
・臺北帝大：教育學概說(伊藤)、教育史概說(福島))
(參考：「昭和12年度各官立大學教育學科講義題目」、教育學研究(東京文理大)6-3 [39166
廣島文理大：教育學概論(長田)、西洋教育史(古代及現代、稻富)、プラトンの國家教育學(稻富)、獨逸教育制度史(皇)、心理學史(久保))

書評・島田雄次郎「ハインリッヒ・シャルラー「歐洲文化史學論考」」
史苑11-1 [39167
(參考：「[立教大學]昭和12年度講義題目」、史苑11-1 [39168
史學概論(ベルンハイム史學研究法、小林)、西洋史概說(小林)、西洋史概說(ドイツ精神と民族主義、十河)、西洋哲學史(出)、西洋美術史(辻)、教育學(岡部)、教育史（平塚）)
(參考：「(京大)文學部の新スタッフ」、京都帝國大學新聞260(4/20) [39169
言語學概論(金田一)、哲學概論(田邊)、西洋古代哲學史(山内)、西洋近世哲學史(九鬼)、倫理學概論(天野))
(參考：「小島(幸治)教授の擔當で史學公開講座を」(佛文アノトー「ギリシヤ史家評傳」等) 早稻田大學新聞70(5/5)) [39170
「獨和對譯「イタリー紀行」(ゲーテ/吹田順助氏譯註)」
早稻田大學新聞90(11/24) [39171
東京大教區青年會主催「初等ラテン語講座」日本カトリック新聞602(5/2),
603(5/9),606(5/30) [39172
麹町教會「ラテン語講座開催」日本カトリック新聞603(5/9) [39173
田口芳五郎「田中[耕太郎]東大教授著、必讀の名著出づ「教養と文化の基礎」」
日本カトリック新聞608(6/13) [39174
古野清人「ヴォルフ教授の「民族文化史」」日本讀書新聞6(4/21) [39175
海外ニュース「アテネでは」(ギリシヤ第三次文明) 日本讀書新聞27(11/25) [39176
有島生馬「イタリー紀行」東京朝日新聞11/13,11/14,11/15,11/16 [39177
(參考：昭和11年度第二學期[九大]史學關係講義題目中、史淵15 [39178
史學概論(長)、西洋法制史演習(武藤)、西洋近世哲學史(四宮)、ギリシア人の國家及其理想(中島)、意志心理學史(矢田部)、ゲーテと獨逸浪漫主義(小牧)、西洋經濟史(三田村))
(參考：輯局「文檢研究第62回・模擬試驗成績發表」歷史教育12-4 [39179
飛塚光治(神奈川縣)「東羅馬帝國の西歐文化に對する貢獻を記せ」)
(參考：「[立教大學]昭和12年度講義題目中」、史苑11-1 [39180
史學概論(ベルンハイム史學研究法、小林)、西洋史概說(小林)、西洋史概說(ドイツ精神と民族主義、十河)、西洋哲學史(出)、西洋美術史(辻)、教育學(岡部)、教育史(平塚))
(參考：彙報「[京大]昭和12年度[文學部]卒論中」、史林22-2 [39181
角田文衛「希臘世界の成立に就いて」)
(參考：彙報「京都帝國大學文學部史學科本年度講義題目中」、史林22-3 [39182
西洋史概說(原、時野谷)、希臘政治思想史(原)、羅馬帝政確立期の社會(井上)、プルターク英雄傳(原)、史學研究法(原)、地圖學(小野)、考古學通論(濱田)/副科目---教育學概論(長田)、希臘語(H.Tanaka, Graecae Grammaticae Rudimenta, Xenophon:Cyropaedia, Book I&II, Homeros: Odysseia VII-XII、田中)、Platon, Phaidon 波多野)、羅甸語(H.Tanaka, Nova Grammatica Latina, Morton , Legends of Gods and Heros, Caesar:De Bello Gallico, Book I, Cicero: De Senectute, Virgilius: Aeneis, Book I、田中))
(參考：彙報「西洋史讀書會」、史林22-3 [39183

學生・吉川濤「G.B.Adams, Civilization during the Middle Ages」）
（參考：彙報「昭和12年度京都帝大文學部哲學科講義題目」、哲學研究253[39184
哲學概論（田邊）、西洋古代哲學史（山内）、特殊講義（ポリスの概念、山内）、演習（Aristoteles:Topica、山内）、Bergson:La Pensee et la Mouvant（九鬼）、心理學概論（野上）、倫理學概論（天野）、教育學概論（長田）、美學序論（植田）、特殊講義（美學思想の發展に於ける希臘美術と中世美術、井島）、宗教學概論（久松助教授）、特殊講義（パウロの神學、ロマ書の解釋[希臘語原典に據る]、波多野））
桑木嚴翼「文化の創造」（ベルグソン、ニーチェ、ヘーゲル等）
丁酉倫理會倫理講演集413　[39185
三宅雄二郎「文明文化の限度」(ギッボン「羅馬衰亡史」、マルクス・アウレリウス等) 丁酉倫理會倫理講演集419　[39186
千葉掬香「ドストイェヴスキイの「白痴」と新らしき宗教----ドストイェヴスキイの二小說に暗示せられたる一つの新らしい文明と宗教との上篇」(スペングレル、羅馬の詩人リュクレシヤス、[G.B.]バァリイ教授等)
丁酉倫理會倫理講演集421　[39187
千葉掬香「「カラマヅオフの兄弟」と歐羅巴の没落」(ニイチェ、希臘羅馬の文化、ネロ帝等)
丁酉倫理會倫理講演集422　[39188
(參考：彙報「(カール・)レヴィット教師の教授科目---- 哲學演習“ニイチェ「人生に對する歷史の功罪について」”」、文化4-1）　[39189
（參考：「東北帝大法文學部昭和12年度講義題目」、文化4-4　[39190
哲學概論(高橋)、近世哲學史(小山)、古代哲學史(アリストテレス以後、石原)、古代哲學史演習(Platon:Thaetetos u. Parmenides、石原)、中世哲學史(基督教人間觀、石原)、古代哲學史演習(Platon:Staat、久保)、心理學講義(1)(心理學の發生、千葉)、教育學概論(細谷)、倫理學概說（高橋）、美學概論（阿部）、美學特殊講義（ゲーテの晩年藝術、阿部）、美學演習（Goethe,Faust teil II、阿部)、宗教學概論(鈴木)、哲學講義(Die deutsche Philosophie von Hegel bis Nietzsche 、カール・レヴィット)、獨文學講義(Herders Ideen zur Philosophie der Geschichite der Menschheit、カール・レヴィット)、哲學演習(Hegel: Rechtphilosophie、カール・レヴィット)、西洋史特殊講義(ルネサンス研究、大類)、西洋史講讀(大類)、西洋史講讀(Les grands courants de la pansée antique、平塚)、獨逸文學演習(2)(フリードリッヒ・ニイチェの「ツァラツストラ」、小宮)、佛蘭西文學講義(河野)、希臘語初級(Burnet,Greek Rudiments、久保)希臘語上級(Xenophon:Memorabilia,Homeri:Odyssee、久保)、羅甸語初級(Macmillan’s Shorter Latin Course、久保)羅甸語上級(Nepos,Cicero,Cato maijor、久保)）
新刊・酒井三郎「Independence,Convergence and Borrowing in Institutions,Thought and Art, Harvard U.P.,1937」((8)H.Dodd,Hellenism and Chritianity)
文化4-9　[39191
(參考：彙報「西洋史研究會」、史學研究8-3　[39192
千代田[謙]助教授「史學史的見解による民族性の問題」

學生・山内光二「ペトリー氏の文明の進化に就いて」)
(參考：「昭和12年度本學史學科講義題目」[広島文理大]、史學研究9-1 [39193
史學研究法(新見)、西洋史概説(新見)、中世の生活と理想(渡邊)、西洋史演習(Bühler,Die Kultur des Mittelalters、渡邊)、十八世紀精神史(千代田)、史學史演習(千代田))
向坂逸郎「學問と時代---「六十周年記念論文集」を讀みて」(三浦新七「古代羅馬文化の實踐的傾向」)一橋新聞241(1/1) [39194
江澤讓爾「ゲーテと伊太利---馬場久治氏近著」一橋新聞242(1/25) [39195
永田善治「時代を超えて」(アレキサンダー、シーザー等)
基督教新聞2755(1/1) [39196
永田善治「近代文化と基督教」(ギリシヤ・ローマの文明等)
基督教新聞2759(1/28) [39197
讀後感・新刊「比屋根安定「世界巡禮記」」(ギリシヤ等)
基督教新聞2770(4/15) [39198
有賀鐵太郎「比屋根[安定]教授の「世界巡禮記」を讀んで」
基督教新聞2771(4/22) [39199
高橋正道「基督教と世界文化の道程」基督教新聞2774(5/13) [39200
讀後感「田中耕太郎「教養と文化の基礎」」基督教新聞2803(12/2) [39201
田中耕太郎『教養と文化の基礎』
B.①＊[訂正]オウガスチン/宮原晃一郎譯『懺悔錄』(全譯名著叢書5。←B.②より)
[6721] [39202
ハルナック編/服部英次郎譯『アウグスティヌス省察と箴言』(岩波文庫) [39203
②＊[訂正]三谷隆正『アウグスチヌス』(社會科學の建設者・人と學説叢書16)(→昭27重版・現代教養文庫) [11864] [39204
＊[訂正・削除]~~オウガスチン/宮原晃一郎譯『懺悔錄』(全譯名著叢書5~~。
→B.①へ) [6721] [39205
富森京次『ヨハネ黙示錄思想概説』(基督教教程叢書19) [39206
中島重『社會的基督教の本質---贖罪愛の宗教』(基督教教程叢書20) [39207
山谷省吾『基督教の愛について』(現代基督教叢書6) [39208
(カール・)シュタンゲ/山永武雄譯『キリスト信仰の眞理性』(附・基督教的神信仰の特質)(基督教叢書7) [39209
ジェームズ・デニー/石島潔譯編『パウロの贖罪觀---パウロ書翰に於ける「基督の死」の意義』 [39210
ジ・エチ・モール/須貝止譯『聖ヨハネ黙示錄研究の手引』 [39211
エス・エィチ・ウエンライト/中村獅雄譯『プロテスタント基督教の原理』[39212
ルマルシャル原著/今田健美改訂『聖母崇敬への道』(改訂版) [39213
長田新『近世西洋教育史』 [39214
野島忠太郎『心理學發達史』 [39215
出隆講述『西洋哲學史第一部・第二分冊』(昭和12 年度東大講義案。謄寫版) [39216
出隆講述『西洋哲學史第一部・第三分冊』(昭和12 年度東大講義案。謄寫版) [39217

ジルベルト・パスカル、ブレエス・パスカル/由木康譯『パスカル傳及論集』
[39218
清水義樹『基督教と哲學』(神學思想解說双書4) [39219
二瓶要藏『釋迦と基督』(ソクラテス等) [39220
カアル・ヒルティ/陶山務譯『病める魂---永遠の生命』 [39221
③＊[訂正]石山脩平「プラトンの國家主義教育思想と我が國現時の教育」
師道3[日本諸學振興委員會報告1] [11894] [39222
(參考：「文學部卒論」、早稻田大學新聞64(2/17) [39223
西洋史學科：金學燁「古代希臘に於ける神人交通の思想に就いて」)
世界ニュース「女神のモダン姿」(ミノス文化研究)
早稻田大學新聞83(9/23) [39224
坂田德男「一つの覺へ書」(アリストテレス感性論等)思想183 [39225
佐々木理「ファイエーケス(「おでゆつせいあ」の一靈魂神話)」思想184 [39226
(參考：彙報「各大學史學科卒論」、歷史地理69-4 [39227
早大：金學燁「古代希臘に於ける神人交通の思想に就いて」)
廣告「文化のエハガキ」(アリストテレス、ゲーテ等、8枚一組10錢百枚1册)
生活学校3-11 [39228
西谷啓治「宗教・歷史・文化」哲學研究250 [39229
ジャン・ルカジェウィッツ/三田博雄譯「命題論理學の歷史」(ギリシア)
哲學研究252 [39230
應問・ST生「「アウタルキー」---- 答・キニク、ストア派の道德生活の理想」
丁酉倫理會倫理講演集416 [39231
中原中也譯「海の泡から生まれたヴィナス」(「ランボウ詩集」中) [39232
森本芳雄「創造に關するアウグステイヌスの思想」基督教研究14-4 [39234
石原純「ツェノンの寓話(1)[アキレスと龜]----「神風」と日本文化」
東京朝日新聞5/26 [39235
中村愈「パウロの基督觀に關する一研究---- イエスの稱號を中心として」(ギリ
シヤ語、ギリシヤ思想等)
基督教新聞2761(2/11), 2762(2/18),
2763(2/25) [39236
茂義太郎「ヘブル書の宗教思想(1)(2)」(プラトー、フィローのロゴス、新プラトー
哲學等) 基督教新聞2786(8/5),2787(8/12) [39237
④＊[訂正]紹介と批評・秀村欣二「松村克己「アウグステイヌス」」
歷史學研究7-8 [11932] [39238
＊[訂正・削除]天來「曠野に立ちて---夏雲秋風」(ソクラテスの孤独獨等)
聖化129 [1983] [39239
「論文要目」、歷史學研究7-6 [39240
-----Klio,1936
・M.Gelzer,Die Datierung von Ciceros Rede de haruspicum response
・F.Altheim,Altitalische und altrömische Gottesvorstellung
紹介と批評・原種行「秋澤修二「西洋哲學史」(西洋篇)」歷史學研究7-9 [39241
「新刊書目」、哲學研究250中----- [39242
Thomas Aquinas:C.S.Peghaire,Intellectus et ration selon S.Thomas d'Aquin,

Paris
「新刊書目」、哲學研究251中----- [39243
Stirner:K.A.Mantz,Die Philosophie Max Stirners im Gegensatz zum Hegelischen idealismus,Berl
Thomas Aquinas:Über das Sein und das Wesen,Deut.-Lat.Ausg.,Wien
François Préchac,Erasme et l'humanisme,Revue d'Histoire de la Philosophie et de d'Histoire Générale de la Civilisation N.S.15,15
「新刊書目」、哲學研究252中----- [39244
H.Bremond,Autour de lhumanisme,D'Erasme à Pascal,Paris
E.Signoret,Cartésianisme et Aristotélisme,Revue Philosophique de la Franceet de l'Etranger 62e,no.1/2
「新刊書目」、哲學研究254中----- [39245
Nietzsche:Werke und Briefe,Historisch-kritische Gesamtausgabe, Werke Bd.4; Schriften der Stüdienten – und Militarseit,1866-68,München
Thomas Aquinas:Concerning being and essence,tr.fr.the latin with the addition of a preface by G.G.Leckie,New York
「新刊書目」、哲學研究259中----- [39246
Fichte:W.Becher,Platon und Fichte,‘Die Königliche Erziehungskunst ,Jena’
Leipniz:R.Getberg,Le problem de la limitation des créatures chez Leipniz,Paris
M.Luther,Vom unfreien Willen ,Nach d.Urtext neu verdeuscht.v.Otto Schumacher,Göttingen
岩崎喜一「ゲーテと教育」教育學研究(東京文理大)6-1 [39247
(參考：「昭和11年度各官立大學教育學科卒論」、
教育學研究(東京文理大)6-2 [39248
・東京文理大：藤木顯久「ヘーゲルに於ける教育理念」
溝上泰子「ディルタイの研究」
・東京帝大：喜多秀義「シュライエルマッヘルの教育學と近世教育史上に於ける其の地位」
・京都帝大：照井善信「愛と勞作----ゲエテの教育思想を中心として」)
林巖「教育學的問題措定のための思想史と社會學に就いて」(Erich Weniger,“Zur Geschichte und Soziologie der pädagoischen Fragestellung”)
教育學研究(東京文理大)6-4 [39249
神力甚一郎(金澤)「獨逸の陶冶組織に於ける人文主義」(Fritz Blättner,Der Huumanismus in deutschen Bildungswesen)
教育學研究(東京文理大)6-8,9 [39250
大塚三七雄「ヘーゲルの國家教育學」教育學研究(東京文理大)6-9 [39251
大石好武「パトス的意識の諸相」校友會雜誌(第一高等學校)359 [39252
公教要理講義・田口芳五郎「第一部・信ずべきこと」(ソクラテス、聖アウグスチヌス等)聲732 [39253
公教要理講義・田口芳五郎「公教要理諸言」（ソクラテス、プラトー、アリストテレス、キケロ、聖トマス・アクイナス、聖アウグスチイヌス、ギリシア・ローマの神々等）聲733,734,735,738 [39254
公教要理講義・里脇淺次郎「第二部・守るべきこと(5)(8)」(ローマの火葬の風習、

古代ローマの奴隷等)聲736,739 [39255
公教要理講義・田口芳五郎「公教要理諸言」(ソクラテス、プラトー、アリストテレス、キケロ等」聲738 [39256
「ポオル・カザンについて」(希臘羅馬人等)聲739 [39257
「定年五教授の横顔(2)」(宗教學の世界的權威・波多野精一博士)
京都帝國大學新聞260(4/20) [39258
吉井治郎平「山内[得立]博士の「體系と展開」」京都帝國大學新聞261(5/5) [39259
書評・鳥海一郎「エマスン論文集」京都帝國大學新聞262(5/20) [39260
「日野月明著「エマスン論文集」」早稻田大學新聞71(5/12) [39261
名取順一「山谷省吾氏著「パウロの神學」」早稻田大學新聞82(9/22) [39262
稻毛金七「「現代哲學十二講」(故金子馬治博士編)」
早稻田大學新聞87(11/3) [39263
「伊國新會員」(ファンスト・パピニ「聖アウグスチヌス」等)
日本カトリック新聞615(8/1) [39264
「ケーベル、日本に於ける西洋哲學の開祖」
日本カトリック新聞625(10/10) [39265
里脇淺二郎「聖トマ哲學ノ基礎概念」(エレア派、アリストテレス、ギリシア哲學、エピクロス等) カトリック17-1,2,3,4,5,6,7,8 [39266
内山眞三郎「ニーチェに關する重要文獻---ニーチェ哲學への二、三の入門書、並にニーチェ研究の時代相」書物展望7-2 [39267
豐永喜之「ニーチェのディオニソス・ディティラムベン」書物展望7-4 [39268
古川哲史「ベルグソン道德學と社會學」思想177 [39269
土井虎賀壽「スピノザからニイチェへ」思想178 [39270
海外哲學思潮・林達夫「大思想家の唯物論的研究」思想178[→昭14(1939年)同『思想の運命』所収〕 [39271
(參考:彙報「九大史學會例会」、史淵15 [39272
佐野勝也「宗教史と原始キリスト教」)
(參考:史界近事「史學會第38回大會」、歷史教育12-4 [39273
武藤智雄「フステル・ド・クーランジュをめぐる一問題」)
島田雄次郎「中世獨逸大學とヒューマニズム」史苑11-3・4(合) [39274
(參考:彙報「西洋史讀書會」、史林22-2 [39275
鹽月倫「Fustel de Coulange:Le Colonat Romain」)
足利惇「「ペルセポリス」と「スサ」」史林22-3 [39276
(參考:彙報「史學研究會」、史林22-3 [39277
土井虎賀壽「歷史的眞日實と藝術的虛僞」(ニイチェ))
書評「城戸幡太郎「心理學史」」教育(岩波)5-1 [39278
海外教育題目紹介・石三次郎「人文主義に就いての論爭」(Alfled Baeumler, Der Kampfum den Humanismus, International Zeitschrift für Erzieung , Heft 6,1936)教育(岩波)5-1 [39279
書評「白根孝之譯「ディルタイ教育史・教育學概論」」教育(岩波)5-7 [39280
(參考:彙報「京都帝國大學文學部哲學科卒論」、哲學研究251 [39281
野村純孝「意識と存在---ベルグソンの知覺說」

堅井善信「愛と勞作---ゲエテの教育思想を中心として」）
横山嚴「人格の問題---ベルグソンに於ける二つの自我に就て」
哲學研究260 [39282
戸坂潤「和辻哲郎博士・風土・日本」自由1-2 [39283
長谷川如是閑「座右の書---マルクス・アウレリウス「メデイテーション」」
自由1-4 [39284
秋山英夫「青年ニーチェとゲーテ」獨逸文學1-2 [39285
「人とは何ぞや」(アリストートル等)ときのこゑ1/15 [39286
高盛義雄「祖先崇拝思想」(希臘羅馬等)思想と文學3-1 [39287
新刊紹介「遠藤隆吉述「孝經及東西洋の孝道」」(「希臘古代の孝に關する諸說」)
丁酉倫理會倫理講演集411 [39288
新刊紹介「桑木嚴翼「倫理學の根本問題」」丁酉倫理會倫理講演集412 [39289
桑木嚴翼「現代哲學横議」(プラトン、アリストテレス、ヘーゲル等)
丁酉倫理會倫理講演集414 [39290
桑木嚴翼「古倫母より」(古ギリシヤのオルフュイス、愛妻コーリヂス、プロテシラウス王、王妃ラオダマイヤ等)
丁酉倫理會倫理講演集416 [39291
井上哲次郎「聖人を語る」(八聖殿に於ける隨時講演。ソクラテース、ヘーゲル等)
丁酉倫理會倫理講演集417 [39292
得能文「學生と學問」(中世のアリストテレス說等)
丁酉倫理會倫理講演集417 [39293
帆足理一郎「人生における死の意義」(ソクラテス、クリトン、ゾウス神、ダンテ、シラー等) 丁酉倫理會倫理講演集418 [39294
小尾範治「宗教と死苦の超越」(ギリシヤ末期の哲學者たち)
丁酉倫理會倫理講演集418 [39295
（參考：「本會記事-----公開講演會：帆足理一郎「人生における死の意義」
丁酉倫理會倫理講演集419) [39296
武市健人「ヘーゲルの辯證法」文化4-1,2,3 [39297
(參考：「東北帝大文科卒論」、文化4-3 [39298
堀内採用「ライプニッツに於ける時空の問題」)
學界消息「ウェルナー・イェーガー教授の消息」文化4-5 [39299
學界消息「ヘーゲル哲學生成記錄」文化4-7 [39300
新刊(齋藤)「土井虎駕壽「原初論理學」」文化4-9 [39301
「最近史界」、史學研究9-1 [39302
---- R.H.Bainton,Changing Ideas and Ideals in the sixteenth Century(J.M.H.,vol. viii,no.4, 1936)
「最近史界」、史學研究9-2 [39303
---- F.Altheim,Altialische und Altrömische Gottesvorstellung(Klio,Bd.xxxi,Heft 1,1937)
彙報・淺子勝二郎「平泉澄「萬物流轉」」史學16-1 [39304
讀書「關根秀雄譯「選抄・モンテーニュ隨想錄」」圖書舘雜誌31-5 [39305
(?)「グウルモンの哲學的散歩」(石川湧譯「哲學的散歩」)
日本讀書新聞7(5/1) [39306

「モンテーニュの言」(p.6) 日本讀書新聞7(5/1) [39307
青野季吉「アナトール・フランス「文學生活」」(朝倉季雄・權守操一共譯)
日本讀書新聞17(8/15) [39308
渡邊一夫「モラリスト」(1970年刊著作集6中) [39309
書評・小林秀雄「グウルモン「哲學的散歩」」(石川湧譯)文學界5月號 [39310
太田善男「エマスン論文集」三田新聞372(5/25) [39311
「良書推薦」、三田新聞376(7/10) [39312
----- 勝本鼎「鹿子木員信「文明と哲學的精神」」
岩田豐雄「モンテーニュ「隨想錄」」)
出版界「選抄モンテーニュ隨筆錄」(關根秀雄譯)東京朝日新聞1/27 [39313
飜譯短評・佐藤信衛「平山高次氏譯「道德と宗教の二源泉」(ベルグソン)
東京朝日新聞2/1 [39314
讀書欄・阿部次郎「土井虎賀壽氏著「ツアラトーストラ・羞恥、同情、運命」(ニイチェ)」東京朝日新聞3/15 [39315
出版界「ニーチェ論攷」(齋藤龍太郎著) 東京朝日新聞8/5 [39316
讀後感・新刊「村岸淸彦牧師著「基督敎罪惡觀の研究」」(オーガスチン等)
基督敎新聞2759(1/28) [39317
新刊「佐伯好郎「景敎の研究」」(エペソ、アンティオケ、アレキサンドリア、コンスタンチノープル、ロマ、カルタゴ等)
基督敎新聞2762(2/18) [39318
讀後感・新刊「淸水義樹「基督敎と哲學」」基督敎新聞2767(3/25) [39319
讀後感・新刊「竹村淸譯「パスカル傳及論集」」(3.「エピクラトス及モンテェニュに關するド・サシ氏との對話」)
基督敎新聞2767(3/25) [39320
新刊「故杉浦重剛氏の倫理御進講草案」基督敎新聞2772(4/29) [39321
芹野與太郎「我等はイエスを見たり」(ギリシヤの古賢、プラト等)
基督敎新聞2773(5/6) [39312
「思想の人としての海老名[彈正]先生」基督敎新聞2777(6/3) [39313
(D.M.)「救濟敎としての高調點」(哲人プラトーン、オーガスチン等)
基督敎新聞2779(6/17) [39314
高橋正道「基督敎と國民思想の陶冶」(希臘國、羅馬帝國等)
基督敎新聞2783(7/15) [39315
(K.Y.)「信仰の城砦を守るもの」(アウガスチン、ロマの神々等)
基督敎新聞2792(9/16) [39316
新刊「額賀鹿之助「聖アウガスチン」」基督敎新聞2792(9/16) [39317
讀後感「松村克己著「アウグスティヌス」を讀む」基督敎新聞2795(10/7) [39318
山口金作「信仰の人」(聖アウグスチン等) 基督敎新聞2797(10/21) [39319
新刊「松村克己「アウグスティヌス」」（西哲叢書第5巻）
基督敎新聞2803(12/2) [39320
松原大八「信仰」(ギリシヤの女等) 基督敎新聞2804(12/9) [39321
新刊「高柳伊三郎「基督敎思想史」」基督敎新聞2805(12/16) [39322
C.②三井高陽『交通文化物語』(古代等。←昭8刊・同「交通物語」) [39323

メレジュコフスキー/新生堂編輯部編『神々の死』(世界名著讀本5) [39324
鑓田研一『ものがたり聖書』 [39325
畔上賢造『羅馬書釋義』(上下。→大12刊) [39326
高柳伊三郎『マルコ傳の研究----附・詩篇の研究』(日曜學校青年科[中學五年以上]教案) [39327
黒崎幸吉『ヘブル書講話----無教會主義の虎の巻』 [39328
赤岩榮『微行者イエス・四福音書に於けるキリスト』(葡萄之枝文庫2) [39329
森山英造『基督傳』 [39330
竹村誠一郎『主イエスの生涯』 [39331
ペエジル・マシュウズ/益本重雄譯『青年のためのイエス傳』 [39332
メレジュコフスキイ/賀川豐彦・熱田俊貞譯『知られざる基督』(→昭13重版) [39333
ロリン・ウォーカー/杉村一枝譯『使徒パウロ---- 其力之秘訣』 [39334
カーネギー・シンプソン/齋藤敏夫譯『教會とは何ぞや』 [39335
浦川和三郎『提要カトリク教會史』(上。→昭13) [39336
③(參考：會報「西洋史部會」---秀村欣二「ギリシア人の民族意識」」、歴史學研究7-1 [39337
(參考：會報「歴史地理分科會」、歴史學研究7-10 [39338
村川堅太郎「ギリシア人の聚落位置選定」)
歴史學研究會編「歴史地理學參考文獻目録稿」歴史學研究7-11 [39339
歴史學研究會編「最近の歴史地理研究參考書目録」歴史學研究7-11 [39340
(參考：「京大文學部卒論」、京都帝國大學新聞259(3/5) [39341
地理學：杉村正治郎「エラトステネスの地理學」
考古學：角田文衛「希臘世界の成立について----多島海文明の一考察」)
海外文藝「ナイル」(アレキサンダー大王、シーザー、クレオパトラ等)
早稻田大學新聞69(4/28) [39342
今井登志喜「民族と都市の形態」思想179 [39343
橘忠衛「アントニーとクリオパトラ」思想184 [39344
高坂正顯「歴史哲學と政治哲學」思想185 [39345
(參考：彙報「各大學史學科卒論」、歴史地理69-2 [39345
東大：藤原正幸「コンスタンチヌス大帝と基督教」)
(參考：彙報「各大學史學科卒論」、歴史地理69-3 [39346
東北大：小野寺通典「ローマ皇帝史上に於けるハドリアヌス帝の地位」)
(參考：彙報「各大學史學科卒論」、歴史地理69-4 [39347
京大：杉村正治郎「エラトステネスの地理學」
角田文衛「希臘世界の成立に就いて---多島海文明の一考察」)
(參考：編輯局「文檢研究第60回・模擬試驗成績發表」歴史教育12-2 [39348
松岡正雄(香川縣)「エーゲ文明の遺蹟と遺物について」)
中川一男「西洋史上における女性」歴史教育12-3 [39349
(參考：史界近事「史學會第38回大會」、歴史教育12-4 [39350
秀村欣二「ユリアヌス帝の羅馬皇帝觀」)
(參考：編輯局「文檢研究第68回・模擬試驗成績發表」歴史教育12-10 [39351
武本功(岡山)「アレクサンドリアの創建とエジプト史との關係を記せ」)

(p.40)時錄「書物の歴史について」(イーリン著)生活学校3-11 [39352
柴山英一「戰術史上に於けるニコロ・マキアヴェルリの地位に就て」
史林22-1 [39353
(參考：彙報「[京大]昭和12年度[文學部]卒論中」、史林22-2 [39354
杉村正治郎「エラトステネスの地理學」)
(參考：彙報「史學研究會」、史林22-2 [39355
井上智勇「アウグスツスの地位に就いて」)
山室軍平「アレキサンダー」ときのこゑ1/15 [39356
中原中也譯「シーザーの激怒」(「ランボウ詩集」中) [39357
賀川豐彦「パウロの精神」神の國新聞967(7/21) [39358
趣味講座・西村眞次氏談「古代の船」(午后七時半) 東京朝日新聞2/12 [39359
茂義太郎「ヘブル書研究(序說その一、二、三) 」(フィロー哲學、新プラトー哲學、
ギリシヤ語、ロマ等)
基督敎新聞2781(7/1),2782(7/8), 2783(7/15) [39360
魚本忠一「福音の遡源と展望」(アウグスティヌス等)
基督敎新聞2798(10/28) [39361
岸田耕讀「怨恨の障壁と減除」(ワイルド、ギリシヤ哲學等)
基督敎新聞2800(11/11) [39362
④＊[訂正]田中正義「昭和十一年度我が西洋史學界の狀況」史學雜誌571
[12044] [39363
大類伸「西洋史に於ける東方の意義」(歷史敎育10-12)
原隨園「幸福者の島」(歷史敎育11-1)
原隨園「キロンの叛亂とその年代」(史林21-2)
粟野頼之祐「アレクサンドロスのアムモォン參拜行と世界意識「全人類
の同胞觀念」の誕生に就いて」(史學雜誌47-3~6)
粟野頼之祐「エヂプト出土初期プトレマイオス王朝下に於ける麥酒業収
稅不正事件に關するギリシヤ文書について」
(社會經濟史學6-1)
秀村欣二「羅馬帝政初期アレクサンドリアに於けるギリシア人のユダヤ
人排斥問題」(歷史學研究6-1~3)
照井豐「Dion Chrysostmosの君主觀」(西洋史研究10)
「伊太利古都ヘラクルヌムの發掘」世界知識3月號 [39364
「新刊書目」、哲學研究250中----- [39365
K.Heussi,War Petrus in Rom?Gotha
「新刊書目」、哲學研究251中----- [39366
Humbolt:Ed.Spranger,Wilhelm von Humbolt und die Humanitätsidee,Berl.
Polycarpus:P.N.Harrison,Polycarp’s two Epistles to the Philippians,Cambidge
U.P.
「新刊書目」、哲學研究252中----- [39367
Burckhardt:K.Löwith,Jaccob Burckhardt,der Mensche inmitten der Geschichte,
Luzerrn
「新刊書目」、哲學研究254中----- [39368
K.Heussi,War Peterus wirklich römishce Märtyrer,Berl.

「新刊書目」、哲學研究259中---- [39369
Eusebius Hieronymus,Des hlg.Kirchenvaters Eusebius Hieronimus ausgewählte Schriften.Bd.3,Ausgewählte Briefe,Übers.v.L.Schade, München
（參考：會報「西洋史部會−−−林健太郎「ランケに就て」」、歴史學研究7-3) [39370
「論文要目」、歴史學研究7-4 [39371
----- Historische Zeitschrift,Bd.155,Heft 1,1936,Oct.
・R.Adam,Wesen und Grenzen der oragnischen Geschichte,ausgang bei J.G. Herder
「論文要目」、歴史學研究7-6 [39372
----- The Americann Historical Review
・H.G.Hudson,The Shield Signal at Marathon
Revue Historique,tom.clxxviii
・A.Grenier,Les Éthusgues et l'hiritoire primitive de l'Italie
Klio
・U.Kahrstedt,Untersuchungen zur athenischen Behörden
・M.Rostovzeff,Alexandorien und Rhodes
原種行「地理上の發見と新航海術」歴史學研究7-8 [39373
河野正通「ヘーゲルの歴史觀」歴史2 [39374
新刊紹介「高坂正顯「歴史的世界」」京都帝國大學新聞271(11/20) [39375
近藤啓二「中世期研究」日本カトリック新聞600(4/18),603(5/9),610(6/27), 614(7/25),617(9/5), 621(9/12),623(9/26) [39376
新史論展望「船田三郎「ランケの歴史研究方法とその根底にあるもの」（史學15-4）歴史教育12-1 [39377
史界近事「人事」(大類伸博士、帝國學士院新會員)歴史教育12-2 [39378
史界近事「人事」(濱田耕作博士、次期京大總長)歴史教育12-4 [39379
史界近事「人事」(杉勇、東京高師教授)歴史教育12-4 [39380
池田哲郎「一九三六年我國西洋史學界展望」西洋史研究11 [39381
禰津正志「西方アジアに於ける考古學的活動−−−1931年−1934年」史林22-1,2,4 [39382
紹介「Kurt Breysig, Die Meister der entwicklenden Geschichitsforshung, Breslau,1935」史林22-1 [39383
前川貞次郎「テュルゴーの世界史論」史林22-1 [39384
禰津正志「西方アジアに於ける考古學的活動」史林22-2 [39385
樺俊雄譯「ドロイゼン「史學綱要」」(R.Hübner, J.G.Droysen:Historik, Vorlesungen über Enzyklopaedie und Mothodologie der Geschichte) 史林22-3 [39386
（參考：彙報「京都帝國大學文學部哲學科卒論」、哲學研究251 [39387
姉崎正臣「「歴史敍述の理論及歴史」に於けるベネデット・クローチェの歴史主義について」
杉園喜代男「ヘーゲルの歴史哲學に於ける民族精神と個人」)
内田文雄「カントの歴史觀」哲學研究254 [39388
長谷川如是閑「座右の書---プルターク「英雄傳」」自由1-4 [39389

下田次郎「青葉集」(アレキサンダー大王、ポムペイ、ジュリアス・シーザー、ゲーテ、シルレル等) 丁酉倫理會倫理講演集415 [39390
應問・長谷川長四郎(三重)「倫理學演義」(吉田靜致博士著)の中の人々」---- 答・ブルクハルト。丁酉倫理會倫理講演集419 [39391
カール・レヴィット/齋藤信治譯「獨逸の歴史哲學に於ける歐羅巴のイデー」(東北帝國大學就任講演)文化4-1 [39392
新刊・村岡哲「F.Meinecke, Die Entstehung des Historismus,1936」文化4-4 [39393
新刊・長崎茂次「K.Löwith,Jacob Burckhardt;Der Mensch inmitten derGeschichite,1936」文化4-5 [39394
學界消息「新著ブルクハルトの反響と著者の反論」文化4-5 [39395
長崎茂次「ブルクハルトの好意と若きディルタイ」文化4-8 [39396
「最近史界」、史學研究8-3 [39397
---- G.C.Homans,Men and the Land in the Midde Ages(Speculum,vol.xi,no.3,1936)
佐藤堅司「世界兵學史」(西洋篇)
F.J.Carmody,Latin Sources of Brunnetto Latini's World History(Speculum,vol.xi,no.3,1936)
「最近史界」、史學研究9-1 [39398
----- 船田三郎「ランケの歴史研究法とその根柢にあるもの」史學15-4(昭12)
L.White,The Byzatinization of Sicily(A.H.R.,vol.xlii,no.1,1936)
J.Papastarw,Amphipolis:Geschichite und Prosopographie(Klio,Beiheft xxxvii,Heft 24, 1936)
新刊「栗田元次「綜合世界年表」」史學研究9-1 [39399
「最近史界」、史學研究9-2 [39400
---- E.H.Vogel,Zur Geschichite des Giralverkehrs im Altetum(S.W.G.,Bd.2,Heft 4, 1936)
K.Pink,Römische Kaisermünzen als Geschichitesquelle(Klio,Bd.xxix,Heft 2/3 1936)
新刊「樺俊雄「ドロイゼン史學綱要」」史學研究9-2 [39401
山下昌孝「十九世紀獨逸文獻學派に就いて」史學16-1 [39402
海外史壇紹介・近山金次「エトルリア研究の現狀」史學16-3 [39403
讀書「小栗襄三「アッシリア學概說」」圖書舘雜誌31-5 [39304
讀書「仲小路彰「圖說・世界史話大成」」圖書舘雜誌31-12 [39405
山永武雄「教會史に就いて」神學と教會4-1 [39406
浦川和三郎「歴史の轉回期に於けるカトリック教會」(ローマの幸福、ピタゴラス等) カトリック17-5,6,7 [39407
讀書欄・高橋誠一郎「和田萬吉博士著「圖書舘史」」東京朝日新聞5/28 [39408
讀後感・新刊「今泉忠厚「基督教初代教會史」」基督教新聞2756(1/7) [39409
讀後感・新刊「千葉勇五郎「基督教讀本・パウロ傳」」督教新聞2770(4/15) [39410
(K.Y.)「戰時に於ける宗教と傳道」(アウガスチン等)基督教新聞2795(10/7) [39411
D.①まさきひろし「近々抄」(イソップ物語「太陽と風」の話)近きより1-2 [39412
新生堂編輯部編『アイスキュロス傑作集』(世界名著讀本7) [39413
石原謙『ロマ書註解・ロマ書に於けるパウロ』(葡萄之枝文庫1) [39414

日本聖書協會『舊新約聖書』(引照附) [39415
②＊[訂正]ブランデス著/栗原佑譯『ゲエテ研究』(ナウカ社) [11635] [39416
＊[訂正]大村雄治『ラテン語第一歩』(羅典語入門叢書第1編。昭11刊?)
[12063] [39417
ゲーテ/新生堂編輯部編『ファウスト』(世界名著讀本2) [39418
ダンテ/新生堂編輯部編『神曲』(世界名著讀本4) [39419
平田禿木『神曲餘韻』(文學界53號、百部限定) [39420
小栗孝則編『新編・シラー詩抄』(改造文庫) [39421
木村謹治『ゲーテ・シルレル』(教育家文庫17)
トーマス・マン/菅谷恒德譯『ゲーテとトルストイ---ヒューマニティの問題』
[39422
中原中也『ランボウ詩集』(「海の泡から生誕したヴィーナス」、「シーザーの激思」) [39423
日獨文化協會『日獨文化展覧會出品目錄』(「明治初期飜譯の獨逸文學」) [39424
中河與一『萬葉の精神』(「萬葉ギリシヤ」) [39425
村上濱吉『明治文學書目』 [39426
文部省宗教局『日本の「エラスムス」』(謄寫版) [39427
小澤三郎『日本最古の和譯聖書と飜譯者ギュツラフ先生』(「史觀」第13册抜刷)
[39428
日本童謠協會編『童話史』(總合童話大講座) [39429
頴原退藏『江戸文藝論考』(假名草紙、イソップ等) [39430
③兒島喜久夫「塡空隨筆(4)」(希臘彫刻)思想184 [39431
(參考：彙報「各大學史學科卒論」、歷史地理69-2 [39432
東大：八尾直三郎「ホメロス、ヘシオドス研究」)
原隨園「希臘藝術瞥見」寶雲21 [39433
蓮實重康「推古朝彫刻史序說」哲學研究250 [39434
大森馨「希臘の女詩人」詩と歌謠と 9月號 [39435
保田與重郎「沙翁、ホメール、ハーフィ」文藝首都9月號 [39436
石垣勝三郎「新約聖書の心の字を拾ふ」基督教新聞2772(4/29) [39437
④＊[訂正]菊池榮一「ゲーテ人生讀本」(舟木[重信]氏著)帝國大學新聞658
[24157] [39438
＊[訂正](參考：彙報「第百十二回讀史會」史學雜誌569 [24163] [39439
島田雄次郎「Stefan Zweig,Triumph und Tragik des Erasmus von Rotterdam,1935」)
飯田忠純「アラビア音樂の世界史的意義----主としてそれの中世基督教諸國に及ぼせる影響に就て」歷史學研究7-3,4 [39440
紹介と批評・島田雄次郎「F.Stählin,Humanismus und Reformation im bürgerlichen Raum,1936/
S.Zweig,Triumph und Tragik des Erasmus von Rotterduam, Wien & Leipzig,1935」歷史學研究7-4 [39441
紹介と批評・西村貞二「W.Rehm,Griechentum und Goeethezeit,1936」
歷史學研究7-12 [39442
「新刊書目」、哲學研究251中----- [39443

F.Heinimann,La méthod phenomenologique de Goethe, Revue d'Histoire de la Philosophie et de d'Histoire Générale de la Civilisation N.S.15,15
「新刊書目」、哲學研究254中----- [39444
M.Heidegger,Hölderlin, und das Wesen der Dichtung,München
「新刊書目」、哲學研究259中----- [39445
Thomas Aquinas:F.Manthey,Die Spachphilosophie des hl.Thomas von Aquin und ihre Anwendung auf Problem der Theologie, Paderborn
(參考：「京大文學部卒論」、京都帝國大學新聞259(3/5) [39446
英文學：植田輝夫「Some Thoughts on Shelley's Imagination 」
簡野政明「Oscar Wild the Epicurean」
竹田義夫「Marius the Epicurean」
獨逸文學：池内俊春「GoetheのPrometheusに就いて」
釋野紀稔「Hebbelの悲劇を決定する個人の限界に就いて」)
杉山玉朗「キーツ生涯の驚異の書」早稻田英文學5 [39447
(參考：「文學部卒論」、早稻田大學新聞62(2/3),63(2/10),64(2/17) [39448
西洋哲學科；石田義則「ヘーゲル美學について」
英文科：津田昇「ラフカディオ・ハーンの研究」
前島茂次郎「ウォルター・ペータ小論」
阿部善三「バイロンについて」
佛蘭西文學科；菊原政次「ラスイヌの悲劇」
獨逸文學科：飯河四郎「シルレルの「素朴と感傷の文學」研究」
小川力「ファウストを通じて見たるゲーテの理念について」)
高沖陽造「萬葉と希臘古典---東西文學の異同」早稻田大學新聞72(5/19) [39449
「文學生活」(「アナトオル・フランス/朝倉季雄・權守操一共譯」
早稻田大學新聞78(6/30) [39450
服部嘉香「本間久雄博士著「明治文學史」」早稻田大學新聞89(11/17) [39451
江川和彦「テーヌの名著「藝術哲學」」(廣瀨哲士譯)
早稻田大學新聞91(12/1) [39452
河合亨「學窓の哲人----テーヌの學知識」(ゲーテ、ギゾオ等)
早稻田大學新聞92(12/8) [39453
「詩聖ダンテの「神曲」の中の祈り」神の國新聞940(1/13),941(1/20) [39454
ヨハネス・ラウレス「北平北堂に於ける耶蘇會舊圖書館の稀覯書(殊に日本關係書類)に就いて」歷史地理70-1,2 [39455
彙報「前野蘭化遺墨展覽----富士川游「前野蘭化先生」」、歷史地理70-6 [39456
書評「小野玄妙博士の新著「佛教の美術と歷史」」國華557 [39457
松原秀治「佛蘭西言語學」三田文學12-2 [39458
(參考：彙報「西洋史讀書會」、史林22-1 [39459
學生・島田武雄「トマス・モーア、英國の文藝復興について」)
ロマン・ローラン/石川湧譯「ゲーテ論---死して成れ」自由1-4 [39460
阿部知二「現代に於けるヒューマニズムの位置」自由1-8 [39461
片山敏彦「ロマン・ロランとギリシヤ精神の春」書物展望7-1 [39462

舟木重信「ゲーテ文獻惡罵錄」書物展望7-1 [39463
木村謹治「人間創造」(ゲーテ、プロメトイス等)獨逸文學1-1 [39464
芳賀檀「ゲーテ讃」獨逸文學1-1 [39465
植田節郎「ゲーテのプロメートイス的斷篇に就いて」獨逸文學1-2 [39466
吉田學・朝倉保平「獨逸文壇消息」、獨逸文學1-2 [39467
----ヴァルテル・レーム「ゲーテ時代の希臘文化」(1936年) [39468
「第一回獨逸文學研究會大會及び懇親會記事」、獨逸文學1-2 [39469
----植田節郎「ゲーテのプロメートイスに就て」
秋山英夫「ニーチェのゲーテ像」エルンテ8-3・4(合) [39470
荻原朔太郎「私の詩人とツアラトストラ」いのち5月號 [39471
柳舜三「ヘーゲルの人間論、基督論、奇蹟論」いのち6月號 [39472
新刊紹介「速水[滉]博士還曆記念心理哲學論文集」(「上野直昭「ギリシヤ建築と朝鮮建築、特に柱について---比較藝術論の一つの試み」) 丁酉倫理會倫理講演集417 [39473
村岡勇「トロイラス物語考--- その成立まで」文化4-2 [39474
澤柳大五郎「ゲエテの藝術體驗資料」文化4-4,5,8,10,12 [39475
新刊(中野)「茅野蕭々「ゲョエテと哲學」」文化4-5 [39476
新刊・岡田松之助「芳賀檀編「芳賀矢一文集」」(「希臘の古劇と我が國の能樂」、「文學復興の時期」) 文化4-8 [39477
マルチン・ハイデッゲル/齋藤信次譯「ヘルダーリンの詩の本質」文化4-8 [39478
大久保純一郎「近代文藝批評史における詩の解釋」(マシュー・アーノルドとエリオット) 文化4-9 [39479
「最近史界」、史學研究9-2 [39480
----- Th.Nissen,Ein noodischer Dichter über der Fanatismus als dieUrsache der Grösse Roms (H.Z.,Bd.156,Heft 1,1937)
山下昌孝「十九世紀獨逸文獻學派に就いて」史學16-1 [39481
福原麟太郎「英文學の紀念塔・聖書の扉開かる」(市河三喜「ギリシア・ラテン語初歩」) 日本讀書新聞26(11/15) [39482
小島貞介「ゲーテの鼻髭」むらさき2月號 [39483
「芳賀八一博士著書並論文集」國語と國文學14-4 [39484
新村出「上田[敏]先生をしのぶ」國語と國文學14-12 [39485
山岸光宣「幕末の獨逸學」圖書舘雜誌31-1 [39486
讀書「ブルーノ・タウト/森儁郎譯「日本文化私觀」」圖書舘雜誌31-1 [39487
讀書「芳賀檀編「芳賀八一文集」」圖書舘雜誌31-6 [39488
(參考:「(慶大)卒論」、三田新聞366(2/5) [39489
文學部:西脇教授下:秋山賢之「James Joyceに就て」)
吉本明光「飯田忠純著「西洋音樂史概說」」三田新聞378(8/13) [39490
讀書欄・小宮豐隆「小牧健夫氏著「獨逸文學鑒覺」」東京朝日新聞4/5 [39491
讀書欄・萩原蘿月「芳賀檀氏編「芳賀八一文集」」(古典文獻學) 東京朝日新聞5/28 [39492
豐田三郎「蘭醫ポンペー日本文化の恩人」(司馬凌海、英獨佛露支希羅語) 東京朝日新聞6/3 [39493

「大賀壽吉[旭江]氏の永眠」(ダンテ研究) 基督教新聞2768(4/1) [39494
「故大賀壽吉氏略歷」(ダンテ研究) 基督教新聞2768(4/1) [39495
湯淺半月「聖書の飜譯に就て」基督教新聞2769(4/8) [39496
(參考:「世界教育會議」、基督教新聞2788(8/19) [39497
---- A.デル・レー「ラテン語教授の必要」)
新刊「アイスキュロス傑作集」(世界名著讀本第7巻) 基督教新聞2792(9/16) [39498
E.①＊[訂正]佐伯好郎譯「ユ帝欽定勅法彙纂邦譯」法律論叢16-1,2,4,8,9,10,11,12
[12124] [39499
②蓑田胸喜・三井甲之『眞理と戰爭』(東京帝大教授・矢内原忠雄氏の「眞理と戰爭」の批判に因みて。13「イエスの宗教とソクラテスの哲學とに於ける祖國主義と人道精神」)
[39500
久保正幡述『西洋法制史 I 』(東大プリント聯盟、昭12年4月以降講義東京帝國大學法學部・謄寫版) [39501
ベニト・ムソリーニ原著/木村毅譯『ムソリーニ自敍傳』 [39502
③＊[訂正]恒藤恭「正義の本質について」(「三、古典的政治思想の成立の歷史の理論」) 法と經濟(立命館大學)8-3,4 [12150] [39503
出隆「ギリシア人の政治思想」思想185 [39504
(參考:編輯局「文檢研究第61回・模擬試驗成績發表」歷史教育12-3 [39505
樫村義雄(茨城縣)「西洋史上に於ける世界統治思想の發現につき記せ」)
(參考:彙報「京都帝國大學文學部哲學科卒論」、哲學研究251 [39506
永井一「羅馬法の倫理的考察」)
(參考:「(慶大)卒論」、三田新聞366(2/5) [39507
文學部:新舘教授下:三宅幸治「古代中世に於ける自然法思想に關する考察」)
江北迂人「不問語(1)」(古希臘に於ける社會主義等)
丁酉倫理會倫理講演集418 [39508
柿花啓正「天晴地明經濟學の學史的體系」(古代等)
天晴地明經濟新聞9-2(2/10),9-4(4/10), 9-8(8/10) [39509
------「プラトンの共和政治」
「プラトンの共和主義と我が國「治安維持法」の檢討」
「プラトンとアリストテレス」
「古代各國に於ける皇帝崇拜」(ローマ、アレキサンドロス)
「「イテア」、「エホバ」、「ゴッド」とローマの「理想皇帝」」
批評「經濟學史---- 本位田祥男「經濟學史(その一)」」、
經濟學論集(東大)7-11 [39510
山谷省吾「原始基督教と國家」神學と教會4-1 [39511
④＊[訂正]「最近の經濟史學界」、經濟史研究18-6 [12200] [39512
------「A.Dopsch,The economic and social foundations of European civilization,'37」「論文要目」、歷史學研究7-4 [39513
----- Vierteljahrschruft für Sozial-und wirtscahftsgeschishte,Bd.29,Heft 3
・S.Lauffen,Die platyonische Agrarwirtschaft
E.H.Vogel,Zur Geschichte des Giralvehrkes im Altertum

回顧と展望・梶光之介「世界大戦とドイツの學者たち」(ヴント、オイケン、エルドマン、マイヤー、ヴィラモーヴィッツ等)
歴史學研究7-6 [39514
(參考：會報「古典講讀分科會---モンテスキュー「法の精神」(第6-8巻)」
歴史學研究7-6 [39515
「論文要目」、歴史學研究7-6 [39516
--- Vierteljahrschruft für Sozial-und wirtscahftsgeschishte,Bd.30,Heft 1
・H.Neidermeier,Francesco e,Petrarca und seine Sozialideen
Klio(1937)
・W.Schubart,Das Gesetz und der Kaiser in griechischen Urkunden
西村貞二「ニコロ・マキアヴェリ論---特に「政治と道徳」に就て」
歴史學研究7-9,10 [39517
(參考：「會報---西村貞二「ニコロ・マキアヴェリ論」」歴史學研究7-12[39518
(參考：會報「古典講讀分科會---モンテスキュー「法の精神」(續)」
歴史學研究7-12 [39519
藤井新一「政治哲學說(1)(2)」(アッキナス、ダンテ、マキアベリー)
日本法學3-7,8 [39520
典籍往來・淵定「栗生武夫「法の變動」について」(ローマ法等)
法と經濟(立命館大學)7-4 [39521
新刊「ヨハンネス・ラウレス「スコラ學派の貨幣論」」(アリストテレス等)
日本カトリック新聞586(1/10) [39522
小林珍雄「中世經濟學史の啓蒙的先驅書」(ヨハンネス・ラウレス「スコラ學派の貨幣論」) 日本カトリック新聞586(1/10) [39523
(參考：彙報「各大學史學科卒論」、歴史地理69-2 [39524
東大：西村貞二「ニコロ・マキアヴェリ論---特に「政治と道徳」に就いて」)
(參考：史界近事「史學會第38回大會」、歴史教育12-4 [39525
西村貞二「ニコロ・マキアヴェリに於ける政治と道徳」)
紹介・松本信次「ペンドルフ・商業史」」經濟志林(法政大學)11-1 [39526
吉田熊次「政治の倫理化か、倫理の政治化か」(プラトン、アリストテレス等)
丁酉倫理會倫理講演集411 [39527
(參考：「本會記事----公開講演會：吉田熊次「政治の倫理化か、倫理の政治化か」
丁酉倫理會倫理講演集411) [39528
布川靜淵「庶政一新と宗教的態度」(クーランジュ「古代都市」、プラトン、アリストテレス等) 丁酉倫理會倫理講演集414 [39529
布川靜淵「政治的對立相剋の倫理」(古代ローマ等)
丁酉倫理會倫理講演集417 [39530
新刊・祇園寺信彦「船田享二「羅馬元首政の起源と本質」」文化4-2 [39531
「最近史界」、史學研究8-3 [39532
----- G.Wermer,Die Aufnahme der Politik des Aristotles und die naturrechtliche Begründung des Staats durch Thomas von Aquino(S.W.G.,Bd.29, Heft 2,1936)
「最近史界」、史學研究9-1 [39533
----- L.Siegfried,Die platonische Agrarwirtschaft(S.W.G.,Bd.29,Heft 3,1936)

新刊「船田享二「羅馬元首政の起源と本質」」史學研究9-1 [39534
（參考：彙報「西洋史研究會」、史學研究9-2 [39535
高山一十「國家史觀の一問題」(ドロイゼンを中心として))
「最近史界」、史學研究9-2 [39536
----- W.Schaubart,Das Gesetz und der Kaiser in griechischen Urkunde(Klio,Bd.xxx, Heft1,1937)
彙報・近山金次「青木巖譯「アリストテレス・國家學」」史學16-1 [39537
柿花啓正「天晴地明經濟學の學史的體系」(古代等)
天晴地明經濟新聞9-2(2/10),9-4(4/10), 9-8(8/10) [39538
-----「社會主義經濟學の淵源」(希臘語、ラテン語等)
「强制經濟と大義名分經濟「一君万民」の生命史觀論」(プラトンの「國家論」等)
「日本に於ける生命學的全體主義」(エピキュラス等)
「君權の基礎とランケ」(エピキュラス、プラトーン、シセロ等)
「天晴地明經濟學の開題止揚目標」(アリストテレス等)
「法律的自由平等と經濟的自由平等」(プラトン等)
「「天命」帝王君臨說の吟味」（ローマの皇帝崇拜等）
「トーマス・モア」（プラトンの「理想國家論」等）
小山松吉「日本國民の忠誠(上)」(ギリシヤ人、ローマ人等)
天晴地明經濟新聞9-4(7/10) [39539
上田辰之助・批評「ヨハンネス・ラウレス著「スコラ學派の貨幣論」
經濟學論集(東大) 7-3 [39540
批評「經濟學史---- 大塚久雄「經濟學史(そのニ)」」經濟學論集(東大)7-11 [39541
三戸壽「獨逸に於けるローマ法の繼受をめぐる原因論の諸相」
法學(東北帝大)6-2,4 [39542
羽仁五郎「マキャヴェリ／君主論」圖書評論20 [39543
島原逸三「アリストテレスの國家論」(青木巖氏譯) 三田新聞368(3/3) [39544
讀書欄・木村龜二「恒藤恭氏著「法の基本問題」」東京朝日新聞2/1 [39545
竹中勝男「基督敎信仰と社會事業」(古代ギリシヤ、ローマ、コンスタンチン帝等)
基督敎新聞2770(4/15) [39546
F.②イリーン/玉城肇譯『時計の歷史』(兒童科學シリーズ) [39547
③白石早出雄「數理哲學の話」（プラトー、アリストテレス、アナトール・フランス等）近きより1-3 [39548
短長波・江川(和彦)生「バビロニアの數學書----西紀前二千年の粘土版」(ギリシア數學、ピタゴラス等)
早稻田大學新聞82(9/22) [39549
文部省「オリンピックの沿革」史料・週報36 [39550
④岡田章雄「キリシタンと星」歷史地理69-1 [39551
文化點描「蘭學事始」歷史敎育12-1 [39552
根本十郎「技術の友としてのゲーテ」科學ペン9月號 [39553
房内幸成「ゲーテの自然研究」獨逸文學1-1 [39554
房内幸成「ゲーテと數學」獨逸文學1-2 [39555

「第一回獨逸文學研究會大會及び懇親會記事」、獨逸文學1-2 [39556
---- 房内幸成「ゲーテと數學」
本多修郎「ヘーゲル數學論に於ける分析と綜合」文化4-3 [39557
竹之下休藏「オリムピックと近代オリムピック」女子と子供の體育1,2月號[39558
新村出「時計傳來の歷史」(ギリシヤ、ローマ等)歷史と地理2月號 [39559
長谷川如是閑「家畜を通じて見た---人類文化史の資料」(加茂儀一氏の「家畜文化史」) 日本讀書新聞7(5/1) [39560
牧野富太郎「支那の原本を飜刻した「植物學」」(韋廉臣[ウイリアレッソン]「植物學、J. Lindly,The Elements of Botany) 圖書舘雜誌31-5 [39561
石原辰郎「小泉丹著「生物學巡禮」(「生物學徒ゲーテ」)三田新聞364(1/1) [39562
讀書欄・佐藤芳三「小泉丹氏著「生物學巡禮」(ゲーテ等)」東京朝日新聞4/5[39563
G. 貞松修藏「幕府の飜譯事業と厚生新編等の記述について」歷史地理70-5 [39564
新村出「言語」・「言語學」・「語彙」・「シーボルト」(「教育學辭典」第2巻中) [39565
田中周友「田中秀央・落合太郎編「ギリシア・ラテン引用語辭典」」 京都帝國大學新聞273(12/20) [39566
辭典特輯「語學を學ぶにはどんな字引がよいか」(英和和英のみ) 日本讀書新聞6(4/21) [39567
「カトリック大辭典」日本讀書新聞14(7/11) [39568
市河三喜「現代日本の道は古代ローマに通ず---- 田中秀央・落合太郎編「ギリシア・ラテン引用語辭典」」日本讀書新聞30(12/25) [39569
讀書欄・奥津彦重「木村謹治博士著「和獨大辭典」」東京朝日新聞6/7 [39570

昭１３(１９３８)
A. 大久保幸次「西と觸れ合ふ東の世界(トルコの場合)」思想197 [39571
佐野一彦「西洋と東洋」思想197 [39572
田中豐藏「健駄羅の三日」畫說10 [39573
安藤堯雄「文化と民族との辯證法的關係」(B.Bauche,Kultur und Nation,1929) 教育學研究(東京文理大)6-11 [39574
比屋根安定『日本基督教史』(第1-5巻。第三巻・殉教篇) [39575
(參考:「昭和13年度各官立大學教育學科講義題目」、 教育學研究(東京文理大)7-2 [39576
・東京文理大:教育學概論(乙竹)、教育學概論(寺澤)
・廣島文理大:教育學概論(長田)、西洋教育學史概說(福島)、アリストテレスの教育學(稻富)、獨逸教育制度史の構成原理(皇)
・東京帝大:教育史概說(入澤)、西洋教育史(入澤)、教育學概論(阿部)
・京都帝大:演習(Monroe:History of Education 、野上)、教育學序說(木村)
・東北帝大:教育學概論(細谷)
・九州帝大:教育史概說(松濤)
・京城帝大:育學概論(松月)、教育史概說(田花)、教授論史(田花)

・臺北帝大：教育史概說(伊藤)　)
西田幾多郎「日本文化の問題・第二講」(ギリシアの藝術・哲學等)
京都帝國大學新聞279(5/20)　[39577
高山岩男「月曜講義----文化類型學の概念」(第2回「(1)希臘文化」等)
京都帝國大學新聞280(6/5),281(6/20),282(7/5)　[39578
「知的集團勤行(三高)」(高山岩男「世界と文化」[ギリシア民族文化等])
京都帝國大學新聞288(11/20)　[39579
木村太郎「田中峰子氏著「子供のための歐米旅行」(岩波)」
日本カトリック新聞686(12/11)　[39580
讀書「阿部次郎「秋窓記」」(テーベの古都等)圖書館雜誌32-2　[39581
讀書「松田壽男・小林元「乾燥アジア文化史論」」圖書舘雜誌32-11　[39582
沼田次郎「蕃書調所に就いて」歷史地理71-5　[39583
(參考：昭和12年度第二學期[九大]史學關係講義題目中、史淵18　[39584
西洋史概說(上古史、中古史、長)、演習A(G.Weil、長)、演習B(Ranke、小林)、西洋倫理學史(新開)、キリスト教思想史(佐野)、西洋美術史(兒島)、經濟學史(波多野)、西洋法制史(武藤)、近世政治學史(今中)、國際法史(野見山))
岩生成一「媽港のゼスス會コレジオに於ける日本人について」
歷史地理71-5　[39585
(參考：編輯局「文檢研究第76回・模擬試驗成績發表」歷史教育13-6　[39586
角田三郎(北海道)「西洋上古文明と現代文化との關係を記せ」)
内藤誓樹「文化史の概念」(ブルクハルト)歷史教育13-12　[39587
高倉テル「果物---隨筆的に書かれたる文化史の話」(ギリシア文化史等)
生活学校4-1　[39588
(參考：[立教大學]史學科學科課程の改正、史苑12-1　[39589
・必修科目：史學概論、西洋史概說、西洋史學
西洋史ヲ主トスルモノ：史學概說、史學史、西洋史概說、西洋史演習
・選擇科目：美術史、宗教史、西洋哲學史、教育學、教育史、史學史
(參考：[立教大學]昭和13年度史學科講義題目中、史苑12-1　[39590
史學概論(ベルンハイム史學研究法、小林)、西洋史概說(小林)、西洋史(中世文化史、小林)、西洋史(中世史、野々村)、西洋史(十河)、美術史(辻)、西洋哲學史(鬼頭)、教育學(岡部)、教育史(平塚))
(參考：彙報「京都帝國大學文學部史學科本年度講義題目中」、史林23-2　[39591
史學研究法(原)、西洋史概說(原、時野谷)、希臘政治思想史(原)、プルターク英雄傳(原)、地圖學特論(小野)、考古學概論(梅原)　)
(參考：彙報「昭和13年度京都帝大文學部哲學科講義題目」、
哲學研究265　[39592
哲學概論(田邊)、西洋中世哲學史(山内)、カタロゴス(山内)、特殊講義(十九世紀の哲學、九鬼)、演習(Aristoteles:Analytica Posteriora、山内)、Bergson: L' evolution créatrice(九鬼)、心理學概論(野上)、倫理學概論(天野)、教育學序說(木村)、美學序論(植田)、特殊講義(美に於ける形象と超形象、井島)、特殊講義(藝術の歷史と批評との關聯、井島)、宗教學概論(久松)、

原始基督教(山谷)、西洋哲學史講讀(Platon:Politeia、三井講師))
深作安文「水戸學に就て」(古代希臘に於けるアテーネの尚文主義、スパルタの尚武主義等) 丁酉倫理會倫理講演集432 [39593
(參考:彙報「第十回史學大会」、文化5-7 [39594
池田哲郎「江戸時代に於ける世界知識」)
(參考:彙報「昭和13年度本學史學科講義題目」、史學研究10-1 [39595
史學研究法(千代田)、西洋史概說(渡邊)、中世史演習(Augustinus:Bekenntnisse und Gottestadt、渡邊)、政治思想史(渡邊)、十八世紀精神史(千代田)、史學史演習(Droysen,Geschichite Alexanders des Grossen、千代田))
(參考:彙報「(臺北帝大)史學科講義題目」、
臺北帝國大學文政學部「史學研究年報」5 [39596
昭和12年度:史學概論(菅原)、西洋史概說(菅原)
昭和13年度:史學概論(菅原)、西洋史概說(菅原))
彙報・有賀春雄「ハンチントン/間崎萬里譯「氣候と文明」」史學17-2 [39597
今井新太郎「讀書文藝雜記」(内藤濯氏著「思はざる収穫」、ラシイヌ「プリタニキヌス」[ネロ皇帝]、中河與一氏著「日本の理想」、ギリシヤ、セネカ等)
基督教新聞2836(7/28),2837(8/4) [39598
有賀鐵太郎「羅馬より」基督教新聞2839(8/18) [39599
B.②＊[訂正・削除]~~ニーチェ著/青木巖譯『ギリシヤ悲劇時代の哲學(附・自己批判の試み)』(富山房百科文庫49)~~ [12268] [39600
＊[訂正]齋藤晌『哲學讀本』(「東西文化の哲學的融合」「西洋文化の沿革」)
[12277] [39601
石山脩平講述『西洋教育史講義案・上巻』(希臘羅馬中世篇) [39602
石山脩平講述『西洋教育史講義案・上巻』(緒論・希臘篇) [39603
新渡戸稻造/矢内原忠雄譯『武士道』(岩波文庫) [39604
蓑田胸喜『眞の大學問題』(ソクラテス、ダンテ、シェクスピア、エマーソン、ゲーテ、ロダン等) [39605
石島三郎『基督教入門』(→昭22再版) [39606
青木巖『イタリア哲學の主流』 [39607
坂本正義『國體と基督教及西洋思想の調整』 [39608
中村獅雄『基督教の哲學的理解』 [39609
パウロ・フィステル著『カトリック世界觀序論』(→昭16・2版) [39610
グスタフ・アウレン/森安延衛譯『贖罪觀の研究』(アウグスチヌス等) [39611
逸見廣編『ニーチェ人生の書』(人生叢書第2期9編) [39612
下村寅太郎『ライプニッツ』(西哲叢書18→昭22再版) [39613
③唐澤富太郎(抄譯)「エロースと愛」(E.Brunner,Eros und Liebe,1937)
教育學研究(東京文理大)6-10 [39614
(參考:「昭和12年度各官立大學教育學科卒論」、
教育學研究(東京文理大)7-2 [39615
廣島文理大:宇野卓夫「アリストテレスの國家教育學」)
(參考:「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞96(2/2) [39616

西洋史：荻野博「古代多島地方の母神崇拝」）
「神を見た人---哲學の元祖ソクラテス」
日本カトリック新聞667(7/31),670(8/21） [39617
「中庸はギリシヤに通ず」日本カトリック新聞672(9/4) [39618
呉茂一「爐邊隨筆(ギリシア古典詩に示された倫理觀)」思想189 [39619
高坂正顯「神々の誕生」思想195 [39620
和辻哲郎「人類の教師」(ギリシア)思想197 [39621
出隆「我・酒・女」岩波圖書月報24 [39622
岡島誠太郎「オシリス(Osiris）かサラピス(Sarapis）か」史林23-1 [39623
(參考：彙報「西洋史讀書會」、史林23-1 [39624
吉原好人「Apollon Smintheus(鼠の神アポローンの崇拝に就いて)」）
高山岩男「形式倫理の現實的根據に就いて」(ギリシア哲學)
哲學研究270,272 [39625
柳田謙十郎「高山岩男氏の「哲學的人間學」について」哲學研究270 [39626
街路に拾ふ「まさきひろし(1)海岸に拾ふ---ギリシアのダイオヂエネス」
近きより2-5 [39627
白石早出雄「逆理(パラドックス)に就いて」(ギリシア時代から)
近きより2-6 [39628
(參考：昭和十三年度文學部各科卒論題目」、思想と文學5-1 [39629
哲學科---- 金三道「ソクラテスに於ける自覺と自由」）
「聖アウグスチンを導きし「教會の母」モニカ」神の國新聞1007(5/4) [39630
村田四郎「パウロに於ける“死”の理解」神學と教會4-4 [39631
④＊[訂正]彙報「外國雜誌要覧」哲學雜誌619 中 [24228] [39632
Revue d'Histoire de la Philosophie et de'Histoire Générale de la Civilization 22,1938
Mélanges, “Speusippe ou Chrisippe”
＊[訂正]彙報「外國雜誌要覧」哲學雜誌620 中 [24229] [39633
F.M.Cornford, “The Polytheism of Plato:An Apology”)
雜錄「エトムント・フッセアル教授(1859-1938年)」(訃報)哲學研究267 [39634
「新刊書目」、哲學研究267中----- [39635
P.Althaus,Paulus und Luther über den Menschen,Ein Vergleich,Gütersloh
Aristoteles:M.Salomon,Der Gegriff der Gerichtigkeit bei Aristoteles,Nebst e.Anh.: des Tauschgeschäftes,Leiden
G.W.Fr.Hegel:Sämtliche Werke,Krit.Ausg.Bd.21,Nürnberger Scjriften,Texte , Reden,Bereich,u.Gutachten z.N Nürnberger Gymnasialunterricht, 1808-1816,hrsg.v.J.Hoffmeister,Lpz.
W.Kocehler,Dogmengeschichte als Geschichteder christlichen Selbstbewusstseins, Zürich
Lepniz:P.Schrecken,Leipniz;Ses idées sur l'organisation des realations internationales,Oxford U.P.
「新刊書目」、哲學研究269中----- [39636
Thomas Aquinas:J.Auer,Die menschliche Willsfreiheit im Lehrsystem d.Thomas v.Aquin u.Johannes Dums Scotus,München
「新刊書目」、哲學研究273中---- [39637

Hegel:J.Schwarz,Hegels philosophische Entwicklumg,Frankfurt a.M.
Leipniz,A.Boehm,La“vinculum substantiale”chez Leipniz,ses origines histo-Riques,Paris
Origenes:A.Lieske,Die Theologie der Logomystik bei Origenes,Münste
神力甚一郎(金澤)「獨逸の陶冶組織に於ける人文主義」(Fritz Blättner,Der Huumanismus in deutschen Bildungswesen) 教育學研究(東京文理大)6-10 [39638
大塚三七雄「ヘーゲルの國家教育學」教育學研究(東京文理大)6-10,11 [39639
大石峯雄「哲學的人間學ニ於ける身體の再發見」(J.Thernus,Die wiederentdeckung des Liebes in der philosophische Antthropologie der Gegenwart) 教育學研究(東京文理大)7-1 [39640
富田竹三郎「現實的理想主義の基礎」(G.Gentile,Der aktuale Idealismus,1931中) 教育學研究(東京文理大)7-2 [39641
(參考：「昭和12年度各官立大學教育學科卒論」、 教育學研究(東京文理大)7-2 [39642
廣島文理大：石崎喜代治「人文主義の教育學」)
加藤勝也「德概念の諸相−−−報德贅語」教育學研究(東京文理大)7-7,8 [39643
福田穂積「佛蘭西に於ける一般的教養の概念とその教授に及ぼす影響」(C.Bouglé, The French Conception of“Culture Génerole”and its Influence upon Instutution) 教育學研究(東京文理大)7-7,8 [39644
小寺健二「全きキリスト---信心の集団的傾向と神秘的傾向」(聖アウグスチノ等) 聲744 [39645
岡田正三「魂の産婆術----田中[美知太郎]氏譯「テアイテトス」」 京都帝國大學新聞278(5/5) [39646
樺俊雄「高山岩男「哲學的人間學」」京都帝國大學新聞282(7/5) [39647
篁實「樺俊雄氏の新著「世界觀の問題」」京都帝國大學新聞283(8/5) [39648
「ニイチェ講座開講」(土井虎賀壽氏) 京都帝國大學新聞287(11/5) [39649
「土井[虎賀壽]講師引張り凧」(講演「ベルグソンの世界像」) 京都帝國大學新聞287(11/5) [39650
河本敦夫「安倍能成・高橋健二共譯「シラー・美的教育論」」 京都帝國大學新聞287(11/5) [39651
長島赤二「ヘーゲル論理學---三枝博音氏の新著」早稻田大學新聞99(3/2) [39652
本間久雄「金子馬治博士選集・文藝及哲學論集」早稻田大學新聞111(6/20) [39653
松浪信三郎「由木康譯「パスカル冥想錄」」早稻田大學新聞121(11/9) [39654
「神を見た人(104)−−−組織學の創始者ビシヤ」(アリストテレス等) 日本カトリック新聞663(7/3) [39655
ヨハネス・クラウス「耶蘇會學事規制による人間像と人間陶冶」 日本カトリック新聞683(11/20),684(11/27), 685 (12/4),686(12/11), 687(12/18), 688(12/25) [39656
細井次郎「カトリック教育學の基礎概念(2)」(ペスタロッチとプラトーの理想主義等) カトリック18-6 [39657
岩下壯一「キリスト教を信じうるか」(オイケン、プラトン、アウグスチヌス等)

カトリック18-5 [39658
山崎宗直「世界最古の大學ボロニヤの「學生大學」とパリの「教師大學」の梗概」思想192 [39659
金子武藏「高山岩男氏の「哲學的人間學」」思想195 [39660
海老澤有道「ドチリナ・キリシタン雜考」歷史地理72-2 [39661
(參考：史學研究會、史苑12-1 [39662
島田[雄次郎]教授「ウルリッヒ・フォン・フッテンに就いて」)
(參考：彙報「教育學座談會」、哲學研究262 [39663
池田進「轉換期の教育---レネッサンス・ヒューマニズムの一解釋」)
(參考：彙報「京都帝國大學文科卒論」、哲學研究263 [39664
西村嘉彦「意識・身體・行爲---ベルグソン哲學管見」
坂口正司「ベルグソンに於ける實在」
田中光次「社會的教育學(ナトルプ)に就て」)
ハガキ問答「金子白夢---エマルソン、ニイチェ「アルゾー・シプラッハ・ツラツーストラ」、ゲエテ「ファウスト」」近きより2-4 [39665
武者小路實篤「自分の讀書」(プラトー、クセノホン、ソクラテス、エピクテート、マーカス・アウレリアス、プルターク等)岩波圖書月報29 [39666
書評・金子武藏「高山岩男氏著「哲學的人間學」」岩波圖書月報31 [39667
「獨逸文學會第二回總會報告」、獨逸文學2-2 [39668
------ 馬場久治「日本に於けるニイチェ研究と森鷗外」
桑木嚴翼「學藝は長く生命は短きか」(蜀山人、希臘の醫學・建築・物理學、アクロポリス、ゲーテ等) 丁酉倫理會倫理講演集423 [39669
布川靜淵「學藝と國民生活との交涉」(古代希臘羅馬思想、エピキューラス派、希臘羅馬藝術等) 丁酉倫理會倫理講演集423 [39670
三輪田元道「學藝と指導原理」(ソクラテス、プラトン等)丁酉倫理會倫理講演集423 [39671
入澤宗壽「學問と生活と教育」(プラトー等) 丁酉倫理會倫理講演集423 [39672
海外思潮・布川靜淵「猶太問題の常識(下)」(歐洲中世期のストイック主義、エペキュリアン主義等) 丁酉倫理會倫理講演集427 [39673
新刊紹介「桑木嚴翼「プラトン講話」」丁酉倫理會倫理講演集428 [39674
桑木嚴翼「「最後の清教徒」を讀む----指導者サンタヤーナの小說」(プレトー英語解說等) 丁酉倫理會倫理講演集430 [39675
海外思潮・布川靜淵「思想戰と猶太民族の關係(上)」(哲學史家・希臘思想研究家テオドール・ゴムペルツ& ハインリヒ・ゴムペルツ等)丁酉倫理會倫理講演集431 [39676
新刊紹介「金子馬治「文藝及哲學論集」」丁酉倫理會倫理講演集434 [39677
新刊紹介「柳田泉編「世界名著解題(一)」」丁酉倫理會倫理講演集434 [39678
カール・レヴィット/中野康存譯「薔薇と十字架----ヘーゲルとゲーテとに關する未定稿」文化5-4 [39679
中川秀恭「ヘーゲルの辯證法」文化5-6,7 [39680

新刊「高山岩男「哲學的人間學」」文化5-8 [39681
新刊(堀内)「下村寅太郎「ライプニッツ」」(西哲叢書)文化5-9 [39682
新刊・圓谷弘「藤平武雄「西洋哲學史講話」」社會學徒2月號 [39683
讀書「桑木嚴翼「プラトン哲學講話」」圖書舘雜誌32-9 [39684
土方定一「明治文化に燦たる貢獻---中村敬宇譯「自由之理」その他」
日本讀書新聞35(2/15) [39685
永井直二「現代のモンテーニュ、林語堂を語る」日本讀書新聞50(7/15) [39686
賀川豐彦「死線を超へる法」(アリストートル、ソクラテス等)
神の國新聞1011(6/1) [39687
草薙正夫「客觀主義美學への道---安倍能成・高橋健二譯「シラーの美的教育論」
一橋新聞273(9/10) [39688
西川正身「パンセの倫理性---パスカル/由木康譯「冥想錄」を讀む」
一橋新聞276(10/25) [39689
藤井義夫「熾烈な探求の精神---プラトン/田中美知太郎譯「テアイテトス」の問題」
一橋新聞277(11/10) [39690
甘粕石介「ヘーゲル美學の現代的意義」三田新聞386(1/29) [39691
「フランス文學者の好伴侶二著」(フランス/水野成夫譯「タイス」)
三田新聞396(8/15) [39692
讀書・高坂正顯「速水敬二・坂田德男氏共著「哲學者の哲學」」
東京朝日新聞6/20 [39693
讀書・務臺理作「下村寅太郎氏著「ライプニッツ」」(アリストテレス等)
東京朝日新聞9/9 [39694
讀書・細谷恒夫「高山岩男氏著「哲學的人間學」」東京朝日新聞9/12 [39695
新刊「二瓶要藏「釋迦と基督」」(ソクラテス等) 基督教新聞2807(1/1) [39696
松原大八「基督教の祈禱」(オーガスチン、シセロ等) 基督教新聞2808(1/8) [39697
(K.Y.)「人間生活の眞實」(ソクラテス等) 基督教新聞2810(1/27) [39698
(鈴木)「誤まれる個人主義」(プロタゴラス等) 基督教新聞2811(2/3) [39699
井伊玄太郎「國民としてのキリスト教徒」(ローマ世界、アリストテレス等)
基督教新聞2814(2/24) [39700
南石福二郎「日本キリスト教の信經」(コンスタンチン帝等)
基督教新聞2816(3/10) [39701
今井新太郎「愛の囁き」(アウグスチヌス、フィロソフィア、フィリヤ、ソフィア
等) 基督教新聞2821(4/14) [39702
讀後感・新刊「由木康譯「パスカル小品集」」(「ド・サシ氏との對話」)
基督教新聞2821(4/14) [39703
勝山安太郎「言語と神の自覺」(アウグスチヌス、ヘーゲル等)
基督教新聞2832(6/30) [39704
新刊「エピクテタス「眞の自由」」(羊門文庫) 基督教新聞283(7/7) [39705
讀後感・新刊「原田瓊生「ペテロはロマに在りしや」」
基督教新聞2836(7/28) [39706
田崎健作「神語り給ふ」(オリンプス山の神々等) 基督教新聞2839(8/18) [39707
今井新太郎「光明の生活と宗教」(アウグスチヌス等) 基督教新聞2843(9/15) [39708

讀後感「グスタフ・アウレン/森安延衍譯「贖罪觀の研究」」(アウグスチン等)
基督敎新聞2844(9/22) [39709
新刊「由木康譯「パスカル・冥想錄(一)」基督敎新聞2849(10/29) [39710
勝山安太郎「ニュードソン博士著「人格主義の哲學」」(A.C.Knudson,The Philosophy of Personalism,1928,2nd ed.プラトン、アリストテレス、プロテイノス、アウグスチヌス、アクイナス、ヘーゲル等) 基督敎新聞2850(11/3), 2751(11/10) [39711
C.②＊[訂正]ヘーゲル著/河野正通譯『歷史哲學緖論』(ラッソン版) [12370] [39712
丸山仁夫『メレジュコフスキイ・神々の死』(世界名作物語2) [39713
三井高陽『交通文化物語』 [39714
三井高陽『交通文化叢書・第一輯』 [39715
内村鑑三『羅馬書の研究』 [39716
小出正吾『エルサレムの丘---舊約聖書の人々 2』 [39717
山岸外史『人間キリスト記』(→昭16版) [39718
原田瓊生『ペテロはローマに在りしや』(東郷坂叢書 1) [39719
ジョナサン・ゴーブル譯/上田貞治郎等編『摩太[マタイ]福音書』(2册。附・「摩太福音書とジョナサン・ゴーブル」) [39720
浦川和三郎『提要カトリク敎會史』(中) [39721
③「新刊書目」、哲學研究267中----- [39722
K.Heussi,Kompendium der Kirchegeswchichte,9 Aufl.Tübingen
「クレオパトラの鼻とアントニオの意志」日本カトリック新聞642(2/6) [39723
(參考：彙報「各大學史學科卒論」、歷史地理71-4 [39724
東北大：趙義卨「ギリシアに於ける食糧問題」
早大：荻野博「古代多島地方の母神崇拜」)
編輯局「文檢研究第71回・模擬試驗成績發表」歷史敎育13-1 [39725
横谷竹治(高知)「上古に於けるギリシヤ民族分布の狀態を述べよ」
中川一男「人類生活の歷史」歷史敎育13-11 [39726
(參考：編輯局「文檢研究第81回・模擬試驗成績發表」歷史敎育13-11 [39727
杉田友英「ローマの海上權消失と海賊につき記せ」)
水川溫二「セバステに於て殉敎せる四十人の軍人に對する崇敬の歷史」
史林23-1 [39728
(參考：彙報「西洋史讀書會」、史林23-1 [39729
水川溫二「セバステ(Sebaste)の四十殉敎軍人崇敬の歷史に就て」)
(芹野)「二里往く時代」(ローマ法、ローマの軍隊等)
基督敎新聞2852(11/17) [39730
古老樹「何處へ行く」(クオワデス等) 基督敎新聞2852(11/17) [39731
④＊[訂正]林健太郎「昭和十二年度に於ける我國西洋史學界の狀況」
史學雜誌583 [12395] [39732
村川堅太郎「ギリシア人の聚落位置選定」(歷史學研究7-11)
靑木巖「プラトンとシケリア史の資料」(史學16-1)
定金右源二「古代希臘のオリムピック・ゲームズ」(史觀11)

近山金次「ローマ皇帝トラヤヌスの東方政策に就て」(史學16-2)
祇園寺信彦「ローマの帝Probusとその時代」西洋史研究12
鈴木成高「アウグスティヌスとその時代」(史林22-4)
平塚博「所謂西ローマ帝國の復興について」(西洋史研究12)
「新刊書目」、哲學研究267中----- [39733
Luther:E.Seeberg,Christus,Wirklichheit und Urbild,Stuutgt.
Nietzsche:W.Schlegel,Nietzsches Geschichteauffasung,Würzburg
A.Schlatter,Petrus und Paulus nach dem ersten Pertrusbrief.Stuutgt.
「新刊書目」、哲學研究269中----- [39734
Nietzsche:H.Heimsoeth,Nietzsches Idee d.Geschichte,Tübingen
「新刊書目」、哲學研究271中---- [39735
W.Jaeger,Demothtenes,The Origin and Growth of his Policy,Cambridge U.P.
「昨年度の歴史學界」・西洋史部會「三、西洋史」歴史學研究8-1 [39736
紹介と批評・K.H.「昨年度の歴史界、三、西洋史」歴史學研究8-2 [39737
フリードリッヒ・マイネッケ/西村貞二譯「レオポロド・フォン・ランケ---1936年1月23日/プロシア學士院に於ける記念講演」歴史學研究8-5 [39738
紹介と批評・西村貞二「E.Dürr,Jacob Burckhardt als politischer Publizist mit seinen Zeitwegsberichten aus den Jahren 1844」歴史學研究8-10 [39739
和田篤憲「三井高陽氏の新著「交通文化物語」」([羅馬の驛制])
京都帝國大學新聞276(3/5) [39740
「哲學講演會開く(東北帝大)」(カール・レヴィット「ヘーゲルとカントに於ける世界史の問題」) 京都帝國大學新聞288(11/20) [39741
短長波・江川(和彦)生「ヒトラーの大都市計劃---伯林に近代羅馬の再建を」
早稻田大學新聞94(1/19) [39742
森口多里「ルネサンス文化の研究」(大類伸博士著)
早稻田大學新聞98(2/16) [39743
書籍紹介「初代殉教記」(公教名著叢書第1巻)日本カトリック新聞661(6/19) [39744
新刊「浦川和三郎「提要カトリック教會史」」
日本カトリック新聞687(12/18) [39745
浦川和三郎「歴史の轉回期に於けるカトリック教會」(文藝復興、古典主義等)
カトリック18-2,3,4 [39746
海外哲學思潮「政治史家としてのディルタイ、ドロイゼンの「史學」」
思想189 [39747
小林榮三郎「ヘルデルの政治的關心と「人性書簡」」史淵18 [39748
(參考:「西洋史學研究會」、史淵18 [39749
辛島重義「Fr.Ségu, Le premier poète romantique《Philhellène》(Revue d'Histoire Litéraire de la France, 43e ann., pp.535-559」)
鮎澤信太郎「泰西地理學による司馬江漢の啓蒙活動」歴史地理72-3 [39750
千代田謙「ある歴史哲學のルネサンス」歴史教育13-12 [39751
池田哲郎「一九三七年我國西洋史學界展望」西洋史研究13 [39752

書評・島田雄次郎「大類伸「ルネサンス文化の研究」」史苑12-1 [39753
(參考：彙報「西洋史讀書會」、史林23-1 [39754
森瑞樹「坂口[昂]先生の著書を讀みて」)
紹介「大類伸「ルネサンス文化の研究」」史林23-2 [39755
(參考：彙報「[京大]本年度[文學部]卒論中」、史林23-2 [39756
姉崎正臣「ヴィコの「永遠の理想史歷史」」
永島孝雄「ドイツ市民社會成立過程の歷史哲學に於ける「民族」の觀念に對して---特にヘルデルを中心とせる」)
彙報「京都帝國大學總長本會評議員・濱田耕作博士訃」史林23-4 [39757
新村出「濱田青陵博士の追憶」考古學論叢8月號 [39758
(參考：昭和十三年度文學部各科卒論題目」、思想と文學5-1 [39759
國文科-----齋藤孝和「明治政治小說ニ就イテ」)
下田次郎「我が學界の新使命」(ギボン、グロート、モムゼン、マイヤー、ギゾー、シュリーマンのトロイ發掘、ギリシヤ語、エヴァンスのクノッソス發掘等)
丁酉倫理會倫理講演集423 [39760
新刊・長崎茂次「Jacob Burckhardt als plitoscher publizist.hrg.von Werner Kaegi」
文化5-3 [39761
(參考：彙報「第一回哲學會公開講演會」、文化5-12 [39762
カール・レヴィット(齋藤信次通譯)「ヘーゲル及びゲーテに於ける世界史の問題」)
「最近史界------ 杉田英一郎「歷史哲學史要」」、史學研究9-3 [39763
「最近史界」、史學研究10-1 [39764
---- 柏原祐泉「クロオチェ著「歷史敍述の理論及歷史」を讀みて」
尋源7(昭13)
野々村戒三「西洋中世史に關する一考察」史觀14(昭13)
村川堅太郎「ギリシヤの殖民に關する諸學說」日本史學((昭12)
W.L.Westermann,The Ptolemines and their subjects(A.H.R.,vol.xliii,no.2,an.1938)
舟越康壽「メロヴィンガー朝に於ける土地制度の發達」史學研究10-2 [39765
彙報「濱田耕作博士の御逝去」(主要御著作) 史學研究10-2 [39766
「最近史界」、史學研究10-2 [39767
------ E.Kornemann,Zum Augustusjahr(Klio,Bd.xxxi,Heft 1,1938)
H.Nesslhawf,Von der Feldherrischen Gewalt des römischen Kaisers(Klio Bd.xxx,Heft 3,1937)
T.Lenschau,Die Entstehung des spartnischen Staates(Klio,Bd.xxx,Heft 3,1937)
U.Kahrsteadt,Untersuchungen zur Athenischen Behörden II(Klio,Bd.xxxi,Heft 1,1938)
A.Tilley,Greek Studies in England in Early Sixtennth Cetury,part 1,2 (E.H.R.,vol.liii,no.211,July,1938)
E.Hohl,Zur den Testamenten des Augustus(Klio,Bd.xxx,Heft 3,1937)
E.Fueter,Geschichite der neueren Historiographie,3 Aufl.,1936.
(參考：彙報「日本諸學振興委員會第一回歷史學會の開催」、史學研究10-2 [39768

村川堅太郎「古代希臘史家の歴史觀」)
彙報・田中荊三「齋藤[斐章]先生古希祝賀記念論文集中----内藤智秀「イスタンブール名稱考」)史學16-4 [39769
＊[訂正]海外史壇紹介「森馨「パピルス學の現狀」(オックスフォード第五回國際パピルス學大會の概況)
史學17-1 [12392] [39770
Walter Otto,Zum heutigen Stande der Papyrusforschung(Historische Zeitschrift,Bd.157, H.2,S.309-318
海外史壇紹介・間崎萬里「修史史一般について」(H.E.Barens, A History of Historical riting,1937) 史學17-1 [39771
彙報・間崎萬里「内藤智秀「西洋史詳說」」史學17-2 [39772
書評「大鹽龜雄「各國植民史及植民地の研究」」史學17-3 [39773
内藤智秀「史觀と政治」(ドロイゼン、モムゼン等)史學17-3 [39774
嘉治隆一「ロゼッタ石の判讀」書物展望8-12 [39775
讀書「イリーン/玉城肇譯「書物の歴史」」圖書館雜誌32-1 [39776
太田可夫「高坂正顯氏「歴史的世界」を讀む」一橋新聞260(1/1) [39777
郷司愷爾「福音の理解に對するカトリック主義とプロテスタント福音主義との相違」(原始基督教等) 神學と教會4-2 [39778
(芹野)「成功への道」(エペソの無圓柱神殿、ローマの國寶等)
基督教新聞2814(2/24) [39779
D.①新村出譯(兒島喜久雄畫)『イソップ物語』(少年世界文集ノ改題。少年少女世界文庫第15、小山書店版。→昭22刊、東京出版)
[39780
丸川仁夫『ホメロス物語ギリシヤ戰話』 [39781
黒崎幸吉譯『ルーテル加拉太[ガラテヤ]書註解』(附・ルーテル羅馬書序文) [39782
近藤良董『ピレモン書註解』 [39783
②丸川仁夫『ダンテ神曲物語』(世界名作物語1,新生堂) [39784
小澤三郎『聖書和譯史上に於ける「バプテゾー」和譯の問題』(「基督教史研究」第1册抜刷) [39785
吹田順助『近代獨逸思潮史』 [39786
中河與一『日本の理想』(「萬葉の神々とギリシヤ」) [39787
町野靜雄譯編『ミルトン人生の書』(人生叢書第2期12編) [39788
③村田潔「「幾何學的」時代の希臘美術---作用と技術」思想199 [39789
東伏見邦英「飛鳥時代の藝術」史林23-3 [39790
幸田成友「エピダウロスの劇場」□□新聞(→昭15「史話東と西」所収) [39791
阿部知二「素材と詩と文學-----アリストテレスの詩學に就て」
東京朝日新聞12/29 [39792
④＊[訂正]彙報「外國雜誌要覽」哲學雜誌621 中 [24292] [39793
R.Bähme,“Aischylos und der Anagrnorismus”)
「新刊書目」、哲學研究267中----- [39794
Goethe:R.Th.Korff,Faustischer Glaube,Versuch über das Problem humaner Lebeshalty,Lpz.
「新刊書目」、哲學研究269中----- [39795

U.v.Wilamowitz-Moellendorf,Elegeia,mit e.Einf.v.F.Hiller v.Gaertringen u. Erl.hrsg.v.Wolfgang Buchwohl,Berl.
「新刊書目」、哲學研究270中---- [39796
Erasumus Roterodamus:Briefe,Verdeutcht.u. hrsg.v.W.Köhler,Lpz.
M.Luther :Werke,Krit.Gesamtaus.Bd.56,Der Brief an Die Römer,Weimar
紹介と時評・板倉勝正「Abram S.Katsuji,The Origin and Evolution of the Semitic Alphabets,1937,Tokyo」歴史學研究8-4 [39797
紹介と批評・矢田俊隆「泉井久之介「フンボルト」」歴史學研究8-11 [39798
新村出「原語と譯語と」英文學研究18 [39799
鳥海一郎「能面・伎樂面の性格----和辻[哲郎]博士の「面とペルソナ」を讀む」」京都帝國大學新聞277(4/20) [39800
新刊紹介「泉井久之助「フムボルト」」京都帝國大學新聞288(11/20) [39801
「田中秀央教授、勲章授かる、ギリシア皇帝より」京都帝國大學新聞290(12/20) [39802
德永郁介「ダ・ヴィンチと我々」早稻田大學新聞98(2/16) [39803
青柳正廣「美術と地理學---歐洲藝術地理學草案」(クルト・ゲルステンベルグ)早稻田大學新聞99(3/2) [39804
神保光太郎「殉教者エッカーマン---「ゲーテ對話の書」に關聯して」早稻田大學新聞104(5/11) [39805
德永郁介「ルネサンスの知識人と統制」(ギリシヤ・ローマの教養等)早稻田大學新聞115(9/21) [39806
「この人を見よ----不朽の名作「神曲」」(詩人ダンテの巨歩)日本カトリック新聞678(10/16) [39807
近藤啓二「古典復興-----續中世期研究」日本カトリック新聞686(12/11),687(12/18),688(12/25) [39808
(參考：彙報「四月の學會---考古學會總會」、歴史地理71-5 [39809
兒島喜久雄「美術考古學について」)
新史論展望「原隨園「希臘藝術瞥見」」(寶雲21) 歴史教育13-1 [39810
井汲清治「ペトラルカ山岳に登攀すること」三田文學13-8 [39811
(參考：彙報「西洋史讀書會」、史林23-3 [39812
學生・會田雄次「J.Huizinga, Renaissance and Realism(Wege der Kultur-geschichte))
内山貞三郎「シルレルの史劇と歴史」史林23-4 [39813
ハガキ問答「中村吉藏---ギリシヤ悲劇/土方辰三「マシウ・アーノルドの詩」」近きより2-4 [39814
野上豐一郎「古代作家と近代作家---「書物合戰」製作の眞相」岩波圖書月報25 [39815
武者小路實篤「自分の讀書」(ホーマー、ソポクレス等)岩波圖書月報29 [39816
石中象治「芳賀檀の神話の試み----「古典の親衛隊」について」」獨逸文學2-1 [39817
「獨逸文壇消息----Der Mythos als Dichtung von Ernst Howald,1937」獨逸文學2-2 [39818
吉田學「現實・神話・文學-----ヘルデルとシルレルの確執」獨逸文學2-3 [39819

千葉掬香「故榊原鐵研究生と「佳人之奇遇」」丁酉倫理會倫理講演集429 [39820
學界消息「世界ゲーテ全集」文化5-11 [39821
「最近史界」、史學研究10-1 [39822
----- 村岡哲「ゲーテと歴史」西洋史研究11(昭12)
澤柳大五郎「ゲエテの藝術的體驗資料(5)」文化4-12(昭12)
「最近史界」、史學研究10-2 [39823
----- G.A.Borgese,The Wrath of Dante(Speculum,vol.xiii,no.2,Apr.1938)
今宮新「レオン・パレス/吉田小五郎譯「日本切支丹宗門史(上)」史學17-1 [39824
書評「飯田忠純「西洋音樂史概說」」史學17-3 [39825
書評「岩崎克己「前野蘭化」」史學17-3 [39826
新村出「上田[敏]先生を憶ふ」(足利學校訪問記)國漢3月號 [39827
新村出「上田[敏]先生を偲ぶ」方言5月號 [39828
新村出「言語學史上におけるシーボルト先生」シーボルト研究6月號 [39829
新村出「天草版「金句集」」(吉田澄夫著「天草版金句集の研究」序) [39830
保田與重郎「「古典の親衛隊」と「江戸文藝論考」」新日本3月號 [39831
讀書「和辻哲郎「面とペルソナ」」圖書館雜誌32-3 [39832
戸川秋骨「國民精神總動員への力強い示唆----和辻[哲郎]氏の「面とペルソナ」」
日本讀書新聞36(2/25) [39833
芳賀檀「岡倉天心とゲーテ」日本讀書新聞36(2/25) [39834
書籍「丸山仁夫「ホメロス物語、ギリシア戰話」」神の國新聞1019(8/3) [39835
「良書推薦------ 山本實彦「ゲーテ全集」」、三田新聞393(5/25) [39836
村松正俊「希臘文學と希臘語の研究」三田新聞401(10/25) [39837
高沖陽造「ゲエテとシルレル----その理解方法への一つの暗示」
三田新聞402(11/10) [39838
讀書欄・岡崎義惠「和辻哲郎氏著「面とペルソナ」」東京朝日新聞2/7 [39839
海外短信「ラ・マルティーヌ」東京朝日新聞6/16 [39840
兒島喜久雄「日獨文化協定について(5)---- 美術交換の方法」(ゲーテ、在ローマ・
在アテネ美術考古學研究所等) 東京朝日新聞12/9 [39841
柳田泉「私記沙翁文獻：拾遺1~6」英語青年10~12月號 [39842
(參考：「堅忍持久を標語としてイエス友の會修養會開かる」、
基督教新聞2816(3/10) [39843
----- 中山昌樹「ダンテ地獄篇研究」)
讀後感・新刊「丸山仁夫「ホメロス物語・ギリシヤ戰記」」
基督教新聞2825(5/12) [39844
讀後感・新刊「レオン・パレス/吉田小五郎譯「日本切支丹宗門史」」
基督教新聞2835(7/21) [39845
E.②＊[訂正]春木一郎譯『「ユースティーニアーヌス帝」學說彙纂 ΠΡΩΤΑ』
[12455] [39846
蠟山政道『ヒューマニズムの政治思想』(エラスムス, 岩波書店, 政治学叢書3)[39847
相澤秀一『經濟學說史』 [39848
ヘーゲル/田村實譯『法律哲學綱要』(下巻。改造文庫第1部133) [39849
(參考：李玄伯譯『希臘羅馬古代社會研究』、中華教育文化基金董事會編譯委員會

編輯、上海、商務印書舘、民國27) [39850
③高橋誠一郎「アリストテレスと經濟學」科學知識10月號 [39851
（參考：彙報「第十回史學大会----原隨園「正義觀念の展開」」、
文化5-7) [39852
巴陵宣祐「空想の人口論----ローマ興亡の歴史が物語る」
東京朝日新聞12/16 [39853
④＊[訂正・削除]~~南原繁「人間と政治」（アリストートルの國家觀等）~~
[24440] [39854
「新刊書目」、哲學研究271中---- [39855
A.Dopsch,Beiträge zur Sozial-und Wirtschaftsgeschichte,hrgs.v.E.Patzell,mit
.Gesamtschriftenverz,Wien
テオドル・マイヤー/堀米庸三譯「獨逸政治組織の歴史的基礎」
歴史學研究8-5 [39856
淵定「サキニーにおける自由と必然」法と經濟(立命館大學)9-1 [39857
松本七郎譯「ヘラー「國家論の任務」」(Hermann Heller,Staatslehre)
法學研究(慶應大)17-1,2 [39858
松浪信三郎「アランの思想と彼の政治論---水野成夫・淺野晃共譯「政治と文化」
を讀む」(ユークリッド、プラトン等)早稻田大學新聞96(2/2) [39859
「商業史大綱」（室谷賢治郎著） 早稻田大學新聞120(11/2) [39860
カール・レーキット/柴田治三郎譯「ルソーよりニーツツェに至る市民社會の問題」
思想 198,199 [39861
栗生武夫「中世の農民」(ローマ法等)法學(東北帝大)7-3,4 [39862
栗生武夫「土地所有權の成立」(ローマ法等)法學(東北帝大)7-11,12 [39863
紹介「小島幸治郎譯「歐洲政治史概觀」」史林23-1 [39864
紹介「G.Dykmans, La vie Economique sous l'Ancien Empire, Paris, 1936」
史林23-4 [39865
紹介「G.Dykmans, L'organisation sociale sous l'Ancien Empire, Paris」史林23-4 [39866
淡野安太郎「社會哲學への試圖」（ベルグソン）哲學研究266 [39867
（參考：彙報「京都帝國大學文科卒論」、哲學研究263 [39868
野澤正夫「國家に就て---カント及びヘーゲルの國家觀」）
ハガキ問答「末川博---イェーリング「ローマ法の精神」」近きより2-4 [39869
今泉孝太郎「獨逸民法史の概觀」（ローマ法継承等）史學17-2 [38870
田中精一(批評)「難波田春夫「國家と經濟」第一巻」經濟學論集(東大)8-5 [39871
F.②ガリレオ・ガリレイ/今野武雄・日田節次郎譯『新科學對話』 [39872
兒山敬一『數理哲學』（「哲學史認識の對象としての哲學」） [39873
森銑三『おらんだ正月--- 日本の科學者達』（富山房百科文庫33） [39874
③高須鶴三郎「幾何學の發達と微分幾何學」（Euclid等）東京物理學校雜誌554 [39875
下村寅太郎「數學の形而上學的系譜について」哲學研究271 [39876
應問・木村生(東京)「ヒッポクラテス---- その經歴・思想・業績」
丁酉倫理會倫理講演集430 [39877
「悠々たる古代希臘----戰爭中にオリンピック」東京朝日新聞6/3 [39878
④紹介と批評・原種行「「暦」」歴史學研究8-1 [39879

紹介と批評・板野長八「論文・橋本增吉「十支十二支考」(東洋學報[昭9年21-2,4/22-1, 昭10年22-3,昭12年24-2]) 歷史學研究8-1 [39880
原種行「暦象新書の原典に就て」(志筑忠雄譯) 歷史學研究8-2 [39881
船山信一「田邊博士の近業「哲學と科學の間」」(「古代哲學の質量概念と現代物理學」) 京都帝國大學新聞274(1/20) [39882
書評「ガリレオ・ガリレイ/今野武雄・日田節次郎譯「新科學對話」」 教育(岩波)6-3 [39883
E・S「「哲學と科學の間」(田邊元著)」岩波圖書月報24 [39884
新刊「田邊元「哲學と科學の間」」科學(岩波)8-? [39885
房内幸成「ゲーテの自然研究」獨逸文學2-1 [39886
新刊紹介「富士川游「醫術と宗教」」(希臘の醫聖ヒポクラテース等) 丁酉倫理會倫理講演集428 [39887
三宅剛一「近代科學の思想的系譜」文化5-11 [39888
吉岡修一郎「近世數學ノ誕生」小學校數學教育2-3 [39889
會田梅太郎「世界大數學者列傳」學校數學30 [39890
書籍紹介「兒山敬一「数理哲學」」(日本中等教育)數學會雜誌20-1 [39891
書籍紹介「E.T.Bell,Men of Mathematics,1937」(II.古代ノ體ニ現代ノ心[じえのー、ゆうどきす、あるきめです]) (日本中等教育)數學會雜誌20-1 [39892
書籍紹介「Egmont Colerus,Von Pytagoras bis Hilbert」(ぴたごらす、ゆうくりっど、あるきめです) (日本中等教育)數學會雜誌20-1 [39893
書籍紹介「田邊元「哲學と科學との間」」(六. 古代哲學ノ質料概念ト現代物理學) (日本中等教育)數學會雜誌20-2 [39894
書籍紹介「Gerland Kowalewski,Grosse Mathematiker」(古代及ビ中世ノ回顧：みれつとノたーれす、あなきしまんでる、ぴたごらす、きおすノひぽくらてす、ゆうどくそす、第一期あれきさんどりや學校、ゆうくりつど、あるきめです、あぽろにうす、第二期あれきさんどりや學校、めねらうすトぷとれめうす、ぱつぱす、ぢおふぁんと、びざんちん學校、もすこぷらす) (日本中等教育)數學會雜誌20-2 [39895
「文部省主催夏期講習會」、(日本中等教育)數學會雜誌20-3,4 [39896
----- 藤原松三郎「數學教育ニ於ケル數學史」
會報「第五部・洋書輸入ニ關スル明治十年マデノ資料」、 (日本中等教育)數學會雜誌20-4 [39897
----- (32)幾何學原礎(巻首、巻1~5)格拉克[ユークリッド]口述、山本正臣・川北朝隣譯、紀元二五三三[明治8年版權免許]年刊。
(33) 幾何學原礎(巻首、巻6缺)格拉克[ユークリッド]口述、山本正臣・川北朝隣譯。
菅原憲「オリンピック大會の追想」(隨筆)臺灣時報3月號 [39898
「最近史界」、史學研究9-3 [39899

------F.J.Carmody,Brunetto Latini’s Trésor:Latin Sources on natural science (Speculum, vol.xii,no.3,1937)

讀書「田邊元「哲學と科學との間」」圖書舘雜誌32-5 [39900
三枝博音「哲學と科學との間」(田邊元著)日本讀書新聞35(2/15) [39901
讀書欄・石原純「田邊元氏著「哲學と科學との間」」東京朝日新聞2/14 [39902
G. 下中彌三郎『新撰大人名辭典』 [39903
成光舘出版部『世界人名辭典』(2版) [39904
宮澤俊義「「法律學小辭典」の編輯者の一人として」岩波圖書月報24 [39905
栗田賢三「「哲學小辭典」增訂版刊行に際して」岩波圖書月報24 [39906
打吹山人「岩波「哲學小辭典」の機關說思想」原理日本14-2 [39907
編輯餘錄・小野宏「簡易英々辭典を評す」The Current of the World 15-12 [39908
佐々木信造「諸國語對譯辭典の種類と様式」圖書舘雜誌32-4,5 [39909
讀書欄・出隆「田中秀央・落合太郎兩氏著「ギリシヤ・ラテン引用語辭典」」東京朝日新聞1/17 [39910
「カトリック大辭典、今秋出づ」日本カトリック新聞669(8/14) [39911

昭１４(１９３９)

A. 小林市太郎「文明の西漸」(ギリシア等)思想209 [39912
「内外文獻」、經濟學雜誌5-5 [39913
中川淸「文化的創造に於ける根源的形態としてのギリシア文化」思想209 [39914
三浦新七「西洋文化と日本精神」一橋論叢3-1 [39915
增田四郎「古ゲルマン文化聯續性の問題」社會經濟史學9-7 [39916
足立喜六「シルクロードに就いて」歷史學研究9-9 [39917
書評・會田倉吉「高橋磌一「洋學論」」史學18-1 [39918
(參考：彙報「三田史學研究會例會報告(昭和11,1,2,13,14年度)」史學18-1 [39919
・昭13: 齋藤德平「アラビア文化の西漸」)
幸田成友「耶蘇會版特にその日本字印刷物について」史學18-2・3(合) [39920
今日出海「羅馬の春」(創作)文學界6-8 [39921
今日出海「フィレンツェの春」(創作)文學界6-12 [39922
今日出海「ルネッサンス伊太利亞と現代伊太利亞」科學ペン11月號 [39923
中村恒夫「イタリアの文化」中央公論5月號 [39924
京口元吉「ゲルマン文化とラテン文化」世界週刊11月號 [39925
ラッサール著『イエズス會士』 [39926
比屋根安定『日本宗教史要』(基督教教程叢書22) [39927
深尾須磨子『ローマ便り』 [39928
田中峰子譯編『羅馬のフランチェスカ』 [39929
(參考：「昭和14年度官立大學教育學科關係講義題目」、教育學研究(東京文理大)8-3 [39930
・東京文理大：教育學概論(文科、乙竹)、教育學概論(理科、寺澤)、體育史(大谷)
・廣島文理大：教育學概論(長田)、ソクラテスの教育思想(稻富)、新プラトン

學派の人間觀(稻富)、教育作用に於けデュナミスとエネルゲイア(參考書：アリストテレス「メタフュジカ」、稻富)
・東京帝大：教育學概論(入澤)、教育史概說(岡部)
・京都帝大：教育學序說(木村)
・京城帝大：教育學概論(松月)、教育史概說(田花)、西洋教育史概說(田花)
・臺北帝大：教育學序說(伊藤)、教育史概論(福島))
アンリ・ベルナル「鎖國時代に於ける泰西文化の滲入」
日本カトリック新聞704(4/16),705(4/23),
706(4/30),707(5/7),708(5/14) [39931
アンリ・ベルナール/山口鹿三譯「泰西文化と日本文明との最初の接觸」
日本カトリック新聞713(6/18),714(6/25),715(7/2)
716(7/9),718(7/23),719(7/30),720(8/6),
721(8/13),722(8/20),723(8/27),725(9/10),
726(9/17),727(9/24),728(10/1),730(10/15),
732(10/29),733(11/5), 734(11/12),
735(11/19),736(11/26),738(12/10),
739(12/17),740(12/24) [39932
書評・岩下壯一「比屋根安定著「日本基督教史・第三巻・殉教篇、教文舘發行、
定價壹圓」」[カトリック改め] カトリック研究19-3 [39933
吉滿義彦「新刊哲學書評---「實存の哲學」と「文明の哲學」」(ベルグソン、ニーチェ、聖アウグスチン、ギリシア哲學等)
[カトリック改め] カトリック研究19-6 [39934
讀書「高山岩男「文化類型學」」圖書舘雜誌33-6 [39935
讀書・大久保利謙「史學會創立五十年記念出版」(「東西交涉史論」)
東京朝日新聞7/24 [39936
山脇巖「ローマ萬國博(1)」(ローマ史等) 東京朝日新聞8/24 [39937
清水幾太郎「西洋の没落---ヨーロッパ文化と大戰(1)」(ギリシヤ精神史、ローマ精神史等)東京朝日新聞9/12 [39938
内山孝一「日本に於ける西洋學術の發展」科學ペン3月號 [39939
比屋根安定「切支丹宗と西學」科學ペン3月號 [39940
(參考：「第11回九州史學會大會」、史淵21 [39941
長壽吉「西洋の異國情緒」)
(參考：昭和14年度第一學期九州帝國大學法文學部史學關係講義題目中、
史淵21 [39942
考古學概論(鐘山)、佛蘭西文學史概說(進藤)、十九世紀獨逸文學史(小牧)、獨文學史(獨逸古典主義、佐藤)、基督教思想史(佐野)、西洋法制史演習(武藤)、西洋經濟史(三田村)、經濟學史(波多野)/臨時講義---宗教學(姉崎))
新刊「史學會編「東西交涉史論」」歷史地理74-2 [39943
(參考：編輯局「文檢研究第83回・模擬試驗成績發表」歷史教育14-1 [39944
苅田益二(福井)「上古ギリシヤ文化と東方文化との關係を論ぜよ」)
編輯後記「ウェルズ/長谷部文雄譯「世界文化史概觀」」歷史教育14-1 [39945
(參考：史界近事「京大文學部本學年度史學講義題目中」、歷史教育14-3 [39946
西洋史概說(原、時野谷)、希臘宗教思想史(原)、中世の國家(鈴木)、

古代國家の構造とその思想(井上)、西洋史の諸問題(原)、考古學概論(梅原))
(參考：史界近事「東京文理大本學年度講義題目中」、歴史教育14-4 [39947
杉勇「西洋古代史」)
(參考：史界近事「東京帝大本學年度講義題目中」、歴史教育14-5 [39948
西洋史概説(山中)、西洋中世文化史(山中)、ヘレニズム世界(村川))
新史論展望「增田四郎「古代ゲルマン文化聯續性の問題」」
(社會經濟史學9-7)歴史教育14-9 [39949
(參考：[立教大學]昭和13年度史學科講義題目中、史苑13-1) [39950
史學概論(ベルンハイム史學研究法、小林)、西洋史學(中世文化史、小林)、西洋史學(中世史、野々村)、西洋史演習(十河)、史學史(小林)、考古學(駒井)、民族學(十河)、美術史(辻)、歴史哲學(田代)、宗教史(飯田)、西洋哲學史(鬼頭)、教育學(宗像)、教育史(岡部))
新著「史學會編「東西交涉史論」」歴史教育14-7 [39951
(參考：編輯局「文檢研究第91回・模擬試驗成績發表」歴史教育14-9 [39952
井上萬太郎(旅順)「埃及文明と希臘文明との關係を考察せよ」)
(參考：[立教大學]昭和14年度史學科講義題目中、史苑13-1 [39953
史學概論(ベルンハイム史學研究法、小林)、西洋史學(中世文化史、小林)、西洋史學(中世史、野々村)、西洋史演習(十河)、史學史(小林)、考古學(駒井)、民族學(十河)、美術史(辻)、歴史哲學(田代)、宗教史(飯田)、西洋哲學史(鬼頭)、教育學(宗像)、教育史(岡部))
(參考：史學會五月例會、史苑13-1 [39954
小林[秀雄]教授「サラセン文化に就いて」)
小林秀雄「サラセン文化---文學より史學へ」史苑13-2 [39955
新刊「H.G.ウェルズ/長谷部文雄譯「世界文化史概觀」」史苑13-3 [39956
(參考：彙報「[京都帝國大學文學部]昭和14年度史學科講義科目中」、
史林24-2 [39957
西洋史概説(原、時野谷)、希臘宗教思想史(原)、古代國家の構造とその思想(井上)、第18,19世紀西洋史上の重要問題(時野谷)、西洋史の諸問題(原)、史學研究法(原)、考古學概論(梅原)/副科目---Casson, Progress of Archaeology(梅原)、教育學序説(木村)、希臘語(H.Tanaka, Graecae Grammaticae Rudimenta, Xenophon:Memorabilia, Platon:Kriton, Euripides: Alkestis, Anthologia Graeca、田中)、羅甸語(H.Tanaka, Nova Grammatica Latina, 田中・久保・神田編「ラテン文撰集」、Virgilius: Aeneis, Book II、田中))
紹介「史學會編「東西交涉史論」」史林24-3 [39958
(參考：彙報「史學研究會---村田數之亮「ギリシア雜觀」」、史林24-4) [39959
(參考：彙報「昭和14年度京都帝大文學部哲學科講義題目」、哲學研究277 [39960
哲學概論(田邊)、西洋古代中世哲學史(山内)、特殊講義(PathosとPothos、山内)、演習(Plato:Cratylus、山内)、Bergson:L'evolution créatrice(九鬼)、心理學概論(野上)、倫理學概論(天野)、教育學序説(木村)、美學序論(植田)、藝術史的類型の成立(井島)、宗教學概論(西谷)、原始基督教(山谷))

(參考：「東北帝大法文學部昭和14年度講義題目」、文化6-4 [39961
哲學概論(高橋)、哲學特殊講義(高橋)、古代哲學史概說（石原）、西洋哲學史演習（Platon:Parmenides、石原)、西洋哲學史特殊講義(アウグスチヌスの歴史哲學、石原)、近世哲學史講義(ヘーゲルからニーチェ迄、レーヴィット)、倫理學概論(高橋)、美學概論(阿部)、美學特殊講義(ファウスト、阿部)、美學演習(Nietzche,R.Wagner in Beyreuth、西洋藝術史(伊太利ルネサンス美術研究、村田)、西洋藝術史研究(村田)、宗教史講義(2)(西洋宗教史--アウグスチヌスの歴史哲學、石原)、宗教史演習（文化史學派の宗教學、W.Schmidt, Handbuch der vergleichenden Religionsgeschichte,1930、鈴木)、西洋史普通講義(1)(古代中世史概說、大類）、西洋史演習(Ranke:Geschichte und Politik、大類)、西洋史特殊講義(3)(文藝復興前史、平塚) 、西洋史講讀(Burckhardt, Die Kultur der Renaissace in Italien、?)、英文學史(土居)、佛文學講義(16世紀文學史、河野)、言語學概論(小林)、希臘文學演習(ホメロス講讀、久保)、希臘語初級(J.Burnet,Greek Rudiments、久保)、希臘語上級(Herodotus, Thucydides、久保)羅甸語初級(Macmillan's Shorter Latin Course、久保)、羅甸語上級(Livius,Tacitus:Germania、久保) ）

(參考：彙報「本學年度各大學史學科講義題目(1)」、史學研究11-1 [39962
・東京帝大：西洋史學演習(今井、山中、村川)、西洋史概說（山中）、西洋中世文化史（山中）、ヘレニズム世界（村川）、史學概論（今井）
・京都帝大：西洋史概說・第一部（原）、希臘宗教思想史（原）、中世の國家（鈴木）、西洋史の諸問題（原）、史學研究法（原）、考古學概論（梅原）、講讀（Casson,Progress of Archaeology、梅原)
・東京文理大：西洋古代史(杉)
・廣島文理大：西洋史概說（渡邊）、西洋史學史上の諸問題（古典ギリシヤ史學の展開とグロートのギリシヤ史の内容的檢討、千代田）、史學研究法（千代田））

新刊「史學會編「東西交通史論」」史學研究11-1 [39963

(參考：彙報「本學年度各大學史學科講義題目(2)」、史學研究11-2 [39964
・東北帝大：古代中世史概說（大類）、文藝復興前史（平塚）、講讀（J.Burckhardt, Die Kultur der Renaissance in Italy、平塚)
・臺北帝大：西洋史學・史學・地理學講座(菅原)
・京城帝大：史學概論(松本)、西洋史學概說（金子）、第十八紀史（金子）)

彙報・平山榮一「Ch.Seignobos,Essai d'une histoire comparée des Peuple de l'Europe , 1938」史學17-3 [39965

(參考：「[一橋大學]來年度決定講座」、一橋新聞3/10 [39966
西洋法制史(町田)、經濟思想史(上田辰)、哲學(山内得)、文明史(三浦))

增田四郎「ゲルマン文化圏の構造」(希臘羅馬等)一橋新聞298(11/25) [39967

「西田幾多郎「日本文化の問題」---- 學生課でパンフレット發行」京都帝國大學新聞292(2/5) [39968

木村素衛「「學生と讀書」」京都帝國大學新聞292(2/5) [39969

「史學會五十年紀念「東西交涉史論」」日本讀書新聞84(6/5) [39970

清水幾太郎「大戰と西洋文化」(ギリシヤ精神、ギリシヤ語、ラテン語等)

日本讀書新聞95(9/25)　[39971
新刊「比屋根安定「日本基督教史・第三巻/殉教篇」基督教新聞2867(3/9)　[39972
(K.Y.)「現代の爆發的文化を救ふもの」(ギリシヤ・ロマの哲學及法理論等)
基督教新聞2880(6/8)　[39973
(K.Y.)「基督教の日本化について」(アウガスチン、ギリシヤ思想、ロマ文化等)
基督教新聞2895(9/21)　[39974
讀書のすすめ/ K.Y.生「パスカルの「田舎の友への手紙」[森有正譯]を讀む」(アウグスチン等) 基督教新聞2897(10/5)　[39975
平賀德藏「我々の信ずる犧牲」(アウグスチヌス等) 基督教新聞2899(10/19) [39976
B.①アウグスチヌス/竹村清譯『恩寵と自由』(新生堂)　[39977
②＊[訂正]陶山務『現代の獨逸哲學』　[12593]　[39978
＊[訂正]安部光槌『教養の哲學』(「希臘及び中世の世界觀」)(←昭15.B.②)
[24467]　[39979
林達夫『思想の運命』　[39980
下村寅太郎『ライプニッツ』(2版。西哲叢書10。←昭13初版。→昭22西哲叢書18)
[39981
バッホーフェン/冨野敬照譯『死と靈魂』　[39982
畠中尚志譯『アベラールとエロイーズ・愛と修道の手紙』(岩波文庫→昭23重版)
[39983
天野貞祐『學生に與ふる書』(岩波新書)　[39984
齋藤勇編『植村正久文集』(岩波文庫)　[39985
エルンスト・ルナン/廣瀬哲士譯『思出と告白』(富山房百科文庫88)　[39986
小島次男『基督教概論----學生のための』　[39987
熊野義孝『使徒パウロの「信仰」』　[39988
G.アレン/篠田一人譯『神觀念の進化』(文化と技術叢書5)　[39989
中川重『ルーテル』(偉人傳記文庫31)　[39990
政池仁『改革者マルチン・ルッター』　[39991
イーストウッド/由木康譯『パスカル復興』　[39992
カール・ヒルティ/丸山仁夫譯『永遠の光の中に----カール・ヒルティ隨想錄』
[39993
③(參考：「昭和十四年三月施行法學科試驗問題」(第一講座)日本法學5-3　[39994
西洋倫理：佐々木「一、プラトーとアリストートルの倫理學說を比較論述せよ」「ニ、左の問に答へよ---(1)ファイドン(2)スイヲゲネス(3)アリスチッポス(4)スラシマコス」)
(參考：「教育學會研究發表會」、教育學研究(東京文理大)7-12　[39995
水島正之「プラトンに於ける愛と教育」)
(參考：「昭和13年度官立大學教育學會卒論、教育學研究(東京文理大)8-3　[39996
東京文理大：水島正之「プラトンに於ける愛と教育」
東京帝大：吉田舜「西暦紀元前四、五世紀のアテナイ青年教育形態」)
金子武藏「感性の倫理」(エピクロス等)思想203　[39997
平野義太郎「商人道德」(中世アクナス等) 思想203　[39998
吉滿義彦「キリスト教における道德の問題」思想203　[39999
岡橋保(要約)「クリストファ・ドオスン「浪漫的傳統の起源」」思想206　[40000

「獨逸文學會第三回總會報告----秋山英夫「ヘラクレイトスとニーチェ」」
獨逸文學3-2 [40001
「己が身を神に」(ソクラテス)ときのこゑ1039 [40002
應問・牧田宗太郎(大阪)「道德の標準---- プラトーンの四德說」
丁酉倫理會倫理講演集439 [40003
(參考：「京都帝大卒論」、京都帝國大學新聞292(2/5) [40004
長尾久敬「プロメーテウス」)
「西脇[順三郎]教授を會長に----ギリシヤ・ラテン學會生る/語學の研究講座開設」、
三田新聞412(4/25) [40005
----前田越嶺「キケロ「スピキオの夢」研究」
田中美知太郎「プラトン研究」)
ヂルソン「アリストテリアンスムと聖トマス」
日本カトリック新聞698(3/5),699(3/12), 700(3/19),
701(3/26), 703(4/9) [40006
海外消息「古代ローマの祭臺」日本カトリック新聞733(11/5) [40007
G.サートン「哲學史の理想」科學ペン6月號 [40008
「求道者の教理研究」(聖アウグスチヌス。p.76)聲762 [40009
(參考：「同志社大學神學科、昭和13年度卒論」中、基督教新聞2870(3/30) [40010
・栗原陽一「アウグスティヌスの恩寵と自由意志に就て」
・田村貞一「新約聖書に於ける(又はパウロに於ける)來世の生命(又は來世の體)に就いて」)
有賀鐵太郎「明心の讃」(エロスとアガペー) 基督教新聞2874(4/28) [40011
(W.S.)「聖書に於ける宗教思想の發達」(H.E.Fosdick,A Guide to Understanding the Bible。ロゴス思想、ギリシヤの影響等)
基督教新聞2879(6/1) [40012
クラレンス・ヂレット「宗教教育思想史概說」(プラトン、古代ギリシヤ人、ギリシヤの教育、ロマの教育、初代基督教、回顧と展望)
基督教新聞2880(6/8),2882(6/22),2883(6/29),
2886(7/20),2887(7/27) [40013
④＊[訂正]松村一人「ヘーゲルの論理學について」哲學評論11 [12672] [40014
＊[訂正]「新刊書目」、哲學研究275 中----- [12675] [40014
Augustinus：Selbstgespräche,hrsg.v.A.D.Dyroff,Münch.,Kösel u.Pustet
＊[訂正]彙報「外國雜誌要覽」哲學雜誌623 中 [24360] [40015
S.Johnson,“Old Norse and Ancient Greek Ideals”
＊[訂正]彙報「外國雜誌要覽」哲學雜誌632 中 [24367] [40016
Comments on Criticism: “The Authenticity of Aristotle’s Categories”
(I.Huisik, Sir D.Ross)
「新刊書目」、哲學研究275中---- [40017
A.Nygren,Agape und Eros,Pt.II,vol.1,The History of the Christian ideal of Love,
Authorized translation by Philip S.Walson,London
Thomas Aquinas:Summa der Theologie,Zusammengefast, eingeleitet u.erläutert
v.Jos.Bernhardt,Bd.3,Der Menschuns das Heil,Lpz.
「新刊書目」、哲學研究276中---- [40018

Ch.Werner,La philosophie grecque,Paris
矢田俊隆「宗教史の精神と方法」歴史學研究9-4 [40019
倉橋文雄「昨年の米國歴史學會大会會」、歴史學研究9-11 [40020
・近代史部會：Hajo Holborn,The Humanism of the Fiftteenth and Early Sixteenth Centuries and Its Effects on the Rise of Nationalism
(參考：「東京文理大學教育學會例會」、教育學研究(東京文理大)7-11 [40021
小林虎五郎「イタリヤの教育思想に就いて---イタリヤ觀念論の發達」）
(參考：「教育學會研究發表會」、教育學研究(東京文理大)7-12 [40022
金子孫一「ディルタイの世界觀と教育學」
春田正治「ゲーテと其の教育思想」）
稲井廣吉「基本的精神訓練----中等學校論への寄與として」(W.Flitner,Grundlegende Geistesschulung ,Beitrage zur Theorie der höheren Schule)
教育學研究(東京文理大)8-2,3 [40023
(參考：「昭和13年度官立大學教育學會卒論」、教育學研究(東京文理大)8-3[40024
・東京文理大：金子孫一「ディルタイの世界觀と教育學」
春田正治「ゲーテと其の教育思想」
松井重男「ディルタイの精神構造と教育」
・廣島文理大：藤吉利男「人文主義理念と教育學」）
波多野完治(解說)「デュルケム：フランスに於ける教育の發達」
教育學研究(東京文理大)8-5,6,7 [40025
新刊書目「岩下壯一師「神の國」」聲757 [40026
(參考：「京都帝大卒論」、京都帝國大學新聞292(2/5) [40027
湯澤隆「へーゲル精神現象學に於ける意識の構造」）
長澤信壽「古典の意義と本質的二重性」京都帝國大學新聞297(6/5) [40028
西谷啓治「ベルグソン八十回誕辰に際して」京都帝國大學新聞305(11/20) [40029
江間道助「吹田順助著「近代獨逸思潮史」」早稲田大學新聞128(1/25) [40030
(參考：「(早大)文學部卒論」、早稲田大學新聞130(2/8) [40031
獨文學：野中義正「絶望の肯定---ニイチェの超人の思想について」）
岩崎勉「哲學教養講座---教養としての哲學」早稲田大學新聞136(5/3) [40032
長島赤二「アリストテレス/高田三郎譯「ニコマコス倫理學」」
早稲田大學新聞137(5/10) [40033
新庄嘉章「サント・ヴーヴ/渡邊一夫譯「モンテーニュ小論」」
早稲田大學新聞138(5/17) [40034
(參考：「哲學會の春季講演會」、早稲田大學新聞142(6/14) [40035
仁戸田[六三郎]氏「キリスト教的なるものとギリシヤ的なるもの」）
渡邊一夫「傳記について----モンテーニュ傳」(關根秀雄譯)
早稲田大學新聞147(9/13) [40036
小口優「シェストフ/阿部[六郎]・河上[徹太郎]譯「悲劇の哲學」」
早稲田大學新聞153(11/1) [40037
ヨハネス・クラウス「耶蘇會學事規制による人間像と人間陶冶」
日本カトリック新聞694(2/5),698(3/5),? [40038
柳川如安「パスカル「パンセ」について」(ダンテ等)

日本カトリック新聞717(7/16),718(7/23) [40039
山本章「スコラ哲學の本質----グラープマンの中世哲學より」(アリストテレス、新プラトン派等) 日本カトリック新聞7719(7/30) [40040
岩下壯一「信仰の遺産」(ルキアノス、アリストテレス等) カトリック19-3[40041
吉滿義彦「デカルト的思惟の限界」(聖アウグスチヌス、聖トマス、新プラトニズム等)[カトリック改め] カトリック研究19-4,5 [40042
岩下壯一「ドグマと理性及び道德との關係」(ストア哲學、フィロンの哲學等) [カトリック改め] カトリック研究19-4 [40043
波多野完治「デュルケムの教育史」思想204 [40044
坂田德男「生産的自然」(ゲーテ)科學ペン9月號 [40045
「内外文獻月報」、經濟學雜誌4-4 [40046
----- A,Cresson,Platon:sa vie,son oeuvre,sa philosophie, Alcan,'38
紹介「石原謙編「哲學及び宗教と其歷史---波多野精一先生獻呈論文集」 史林24-1 [40047
(參考：彙報「西洋史讀書會」、史林24-3 [40048
小田丙午郎「Lolimeyer, Christuskult und Kaiserskult」)
三宅剛一「ライプニッツに於ける個體と世界」哲學研究278,27 [40049
柳田謙十郎「行爲の表現的性格---木村素衛著「表現愛」に就いて」 哲學研究284 [40050
ヘルマン・グロックナー/平下欣一譯「ヘーリング著「ヘーゲル」第二巻」」 哲學研究285 [40051
川村喜久治「片山正直著「倫理學新講」を讀む」」哲學研究285 [40052
名著解題「岩崎勉「アリストテレス・形而上學」」科學知識19-1 [40053
木村謹治「(安倍能成・高橋健二氏譯)「シラーの美的教育論」」 獨逸文學2-4 [40054
ハンス・ミュラー「日本に於ける「ファウスト」の飜譯」獨逸文學3-1 [40055
「獨逸文學會第三回總會報告----芳賀檀「ニーチェ」」、獨逸文學3-2 [40056
齋藤响「日本哲學者の取扱ひ方に就て」(「希臘から獨逸へ」、「希臘から佛教へ」) 思想と文學5-3 [40057
藤井章「修養の目的」(ソクラテス、プラトー、ストア學派、社會思想家[A.D.]リンゼー等) 丁酉倫理會倫理講演集435 [40058
井上哲次郎「中島力造博士を追懷す」丁酉倫理會倫理講演集436 [40059
深作安文「恩師中島力造先生を偲びまつる」丁酉倫理會倫理講演集436 [40060
麻生正藏「同志社の先輩としての中島[力造]博士」 丁酉倫理會倫理講演集436 [40061
桑木嚴翼「千葉掬香君を想ふ」(「エウリピデス一篇」、ディオゲネス・ラエルチウス「哲學者列傳」、ソクラテス、プロタゴラス等) 丁酉倫理會倫理講演集436 [40062
遠藤隆吉「生々發展の過程に於ける婦人」(ピュタゴラスノ婦人觀等) 丁酉倫理會倫理講演集437 [40063
桑木嚴翼「生命觀」(プラトン、アリストテレス、ベルグソン等) 丁酉倫理會倫理講演集438 [40064

帆足理一郎「ベルグソンの「道德及宗教の二根原」」
丁酉倫理會倫理講演集438 [40065
新刊紹介「ウィンデルバンド/ハイムゼート增補/桑木嚴翼譯「哲學史要」」
丁酉倫理會倫理講演集439 [40066
高島平三郎「「倫理新說」に就いて」(井上哲次郎著。アリストテレース、ヘラクレイトス等) 丁酉倫理會倫理講演集441 [40067
新刊紹介「出隆「英國の曲線」」(「プラトン僧坊脫出記」、「猪退治をしたアリストテレス」、「店頭のプロチノス」、「聖オーガスチン渡英誤聞」)
丁酉倫理會倫理講演集442 [40068
帆足理一郎「創造的世界觀と人生の價値」(エレア派のパルメニデス、プラトン、ヘラクレイトス、プロタゴラス、ヘエゲル等)
丁酉倫理會倫理講演集444 [40069
カール・レヴィット(中野康存譯)「ヘーゲルとゲーテに於ける世界史の問題」
文化6-1 [40070
(參考:「東北帝大文科卒論」、文化6-4 [40071
梅津淸行「對・反時代的考察第三、第二(ニイチェ)の義務樣式文化!」)
學界消息「古代世界に於ける象徵」(ロジャー・ヒンクス著)文化6-12 [40072
(參考:彙報「第二回哲學會公開講演會」、文化6-12 [40073
稻富[榮次郎]廣島文理大助敎授「敎育愛の構造」(ソクラテス等)
文化6-12)
(紹介)粟田賢三「機械と思想」(P.M.Schuhl,Machinisme et Philosophie)
科學(岩波)9-8 [40074
「最近史界」、史學研究11-1 [40075
---- M.Grabmann,Ungedruckte,latenische Kommentare zur arititelischen Topik aus dem 13 Jahr(Archiv f.Kulturgeschichite,Bd.xxviii,Heft 2, 1938)
H.Krüger,Konrad II im politischen und weltanschauungskamp des Mittel-alter(V.u.G.,29 Jahrg.,Heft 6,1939)
ジイド「モンテーニュ」文藝4月號 [40076
讀書「稻富榮次郎「ソクラテスの對話法」」圖書舘雜誌33-6 [40077
讀書「土井虎賀壽「觸覺的世界像の成立」」(ニイチェ)圖書舘雜誌33-8 [40078
讀書「林達夫「思想の運命」」圖書舘雜誌33-11 [40079
神保謙吾「吹田[順助]敎授著「獨逸近代思潮史」---文化史の方法と民族的な立場」」
一橋新聞286(4/25) [40080
武田良三「社會的人間學のギリシヤ的展開---山內[得立]博士「人間のポリス的形成」」一橋新聞286(4/25) [40081
內藤濯「サント・ブーヴ/渡邊一夫譯「モンテーニュ小論」」
一橋新聞288(5/25) [40082
中島健蔵「文獻學の問題---關根秀雄譯「モンテーニュ傳」」
一橋新聞293(9/10) [40083
藤井義夫「珍重されるべき文獻---谷川徹三・松村一人譯/シュヴェーグラー「西洋哲學史」」一橋新聞296(10/25) [40084

井原糺「青木巖著「イタリア哲學の主流」」、三田新聞409(2/15) [40085
「西脇[順三郎]教授を會長に----ギリシヤ・ラテン學會生る/語學の研究講座開設」、三田新聞412(4/25) [40086
----- エス・カンドウ「聖トマス主義概要」
中川一義「明治啓蒙家の再認識(4)----儒學者・中村敬宇」(スマイルス、ミル等) 三田新聞417(6/25) [40087
平田喜代治「關根秀雄譯「モンテーニュ傳」」三田新聞420(9/25) [40088
近刊愛書メモ・谷川徹三「古典の研究」(吉田正通譯「テオフラストス・人さまざま」、田中美知太郎譯「プラトン・テアイテトス」) 東京朝日新聞3/13 [40089
讀書・渡邊一夫「モンテーニュ傳」(關根秀雄譯) 東京朝日新聞8/18 [40090
小林秀雄「思想家の思想---ショオペンハウエルの幽靈」(プラトン等) 東京朝日新聞10/7 [40091
小林秀雄「デカルト選集・第一巻」(ミロのヴィーナス等) 東京朝日新聞10/22 [40092
「基督者の辯證」(アテネの雄辯家アリスタイディスのハドリアン皇帝への手紙の 基督教新聞2860(1/19) [40093
遠藤作衛「この世に傚ふな」(ローマ等) 基督教新聞2864(2/16) [40094
(K.Y.)「感じを基礎とする生活」(アウガスチン等) 基督教新聞2866(3/2) [40095
ブックレビュー「同志社哲學會編「哲學年報・第1輯」、 基督教新聞2878(5/25) [40096
----- 高田武四郎「アウグスティヌス「幸福な生活」について」
志賀英雄「希臘に於ける教育精神とフマニスム」)
勝山安太郎「創造的人生觀(1)」(デルフィ等) 基督教新聞2884(7/6) [40097
新刊「ハルナック/山谷省吾譯「基督教の本質」」(岩波文庫) 基督教新聞2888(8/3) [40098
新刊「G.アラン/篠田一人譯「神觀念の進化」」基督教新聞2891(8/24) [40099
鈴木浩二「自己矛盾」(アウグスチヌス等) 基督教新聞2904(11/23) [40100
C.②三井高陽『世界軍事郵便概要』(?) [40101
高山一十『世界沿革地誌』 [40102
小野孜『偉人の母を語る』(?) [40103
渡邊善太・早川榮共著『イスラエル民族史・概說』(基督教教程叢書21) [40104
青山學院神學部編『教會と時代----神學講演集』(大塚節治「教會と文化」、淺野順一「イスラエル預言者と政治」、松本卓夫「使徒パウロの召命に就て」、氣賀重躬「基督教史上の傳道運動」、比屋根安定「日本傳道の特殊性」) [40105
フランツ・M.ヴィルラム/木暮浪夫譯『聖母マリアの生涯』 [40106
吉田悦藏『マルコの傳へしイエス物語』 [40107
村田四郎『歷史と神學』 [40108
フォーサイス/菟原八郎譯『贖罪論とキリストの業績』(フォーサイス選集1) [40109
京都帝國大學文學部考古學教室編『濱田[耕作]先生追悼錄』 [40110

③＊[訂正](參考：彙報「三田史學研究會例會報告(昭和11,1,2,13,14年度)」
史學18-1 [12693] [40111
・昭12: 近山金次「ローマ皇帝トラヤヌス帝の東方政策に就いて」
・昭14: 近山金次「ローマ皇帝ユスチニヤヌス帝の東方政策について」
＊[訂正]若木禮「ローマ殖民史考」農業經濟研究15 [12698] [40112
(參考：「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞130(2/8) [40113
西洋史：西村朝日太郎「原ゲルマーニー研究」
藤井溢「希臘都市國家の生成」)
(參考：史界近事「京大史學關係學會大會」(西洋史講演會)、歴史教育14-9[40114
井上智勇「ローマ土着農夫制の起源と本質」)
宮崎市定「條支と太秦と西海」史林24-1 [40115
(參考：彙報「本會大會---原隨園「戰爭と人間」」、史林24-1 [40116
(參考：彙報「西洋史讀書會」、史林24-1 [40117
平塚博「中世伊太利人のイタリヤ觀」)
岩下壯一「基督の降誕(3)(4)」日本カトリック新聞690(1/8),691(1/15) [40118
(K.Y.)「羅馬帝國の荒廢を偲ぶ」基督教新聞2870(3/30) [40119
田口重良「永遠の良友イエス」(オウガスチン等) 基督教新聞2873(4/20) [40120
星野三雄「使徒パウロの旅行時代の一端に關して」(歴代ロマ皇帝)
基督教新聞2875(5/4) [40121
④＊[訂正] (參考：彙報「三田史學研究會例會報告(昭和14,15年度)」
史學18-2・3(合) [12693] [40122
昭15：森馨「羅馬共和期の騎士階級」
＊[訂正] 彙報「外國雜誌要覧」哲學雜誌623 中 [24384] [40123
--- Hermes,Bd.43,H.3.1938
＊[訂正] 彙報「外國雜誌要覧」哲學雜誌630 中 [24389] [40124
---“Zwei Historien aus Herodot”, in der Űbersetzung von G.Schwartzkoff (1593), Mitgeteilt von B.Snell
＊[訂正]堀米庸三「昭和十三年度に於ける我國西洋史學界の狀況」
史學雜誌596 [12724] [40125
井上芳郎「古代の土地所有並びに測地記錄」(三田學會雜誌32-2)
原隨園「大地の力」(史苑11-3・4)
栗野頼之祐「アテナイを中心として見たる古代希臘の戰歿戰士を弔祭する制度について」(社會經濟史學8-7・8)
村川堅太郎「古代希臘史家の歴史觀」(日本諸學振興委員会報告)
山谷省吾「イエス傳の史料について」(?)
「新刊書目」、哲學研究276中---- [40126
F.Hirsch,Das Wesen des Christentums,Weimar
「新刊書目」、哲學研究280中---- [40127
M.Dibelius,Jesus,Brl..
フランツ・ミューレル「グレゴリオ暦の略史(1)」(ローマ暦の發展)
カトリック19-1,2 [40128
圖書批評・岩下壯一「レオン・パジェス/吉田小五郎譯/クリセル神父校閲「日本

切支丹宗門史」[上中巻]岩波文庫/ ・浦川和三郎師「耶蘇會年報一六一九年度の日本管區年報」」[カトリック改め] カトリック研究19-1 [40129

回顧と展望・西洋史部會「昨年度の歴史學界」(「三、西洋史」)歴史學研究9-1 [40130

「論文要旨」、歴史學研究9-7 [40131

---- Klio(1937)

・F.Hampl,Poleis ohne Territorium

・E.Hohl,Bessas Cäsar Tribunengewalt ?

・F.R.Urist,Zum Problem ‘ Imperialismus und ’und Machtpolitisches Denken im Zeitalter der Poleis
Historische Zeitschrift, Bd.160,Heft 1,1939

・E.Sander,Die Germanisierung der römischen Herrs
Revue Historique(Memoires et Études),1939

・Isid’ore Lévy,L’insciption triomphale de Xerxés

質疑應答・駒井和愛(高校生)「考古學について稍詳細を知りたいと思ひます。參考書をお教へ下さい。」（濱田耕作等譯「ミハエリス美術考古學發見史」・「モンテリュース考古學研究法」等）歴史學研究9-9 [40132

倉橋文雄「昨年の米國歴史學會大会會」、歴史學研究9-11 [40133

・古代史部會：Sterling Dow,On Agora Inscriptions and Athenian History
C.E.Van Sickles,Changihng Sanctions of the Roman Imperial Power in the Thiird Century A.D.

・都市化分科會：W.L.Westermann ,Urbaniztion in Antiquity
R.L.Reynolds,The Medieaval City

新史論展望「井上智勇「ラティフンディアの成立と經営」」（史林24-2）歴史教育14-3 [40134

（參考：史界近事「大塚史學會總會」、歴史教育14-3 [40135
廣瀬哲士「テエヌの歴史学とその思想」）

新著「史學會編「本邦史學史論集」」（今井登志喜「西洋史學の本邦史學に與へたる影響」、大類伸「最近ヨーロッパ史學の實態と本邦史學」）歴史教育14-7 [40136

新史論展望「近山金次「ローマ皇帝ユスチニヤヌスの東方經營に就て」（史林18-2･3）歴史教育14-10 [40137

新史論展望「村川堅太郎「民主政期に於けるアテネとアッテカ」（史學雜誌51-5）歴史教育14-12 [40138

新刊「鈴木成高「ランケと世界史學」」史苑13-3 [40139

内田秀雄「西川如見と其の地理學」史林24-1 [40140

紹介「史學會編「本邦史學史論集」」史林24-3 [40141

紹介（足利惇）「W.W.ターン著「バクトリア及び印度に於ける希臘人」」（W.W.Tarn, Greeks in Bactria and India,Cambridge,1938) 史林24-4 [40142

海外思潮「戰爭の社會學(ピトリム・ソローキン氏)」(イリアード、ヘラクリタス、エムペドクレス、プルターク、アリストー

トル、ポリビウス、エウリピデス、ペリクレス、アレキサンダー大王、アウガスタス帝、ダンテ等)
丁酉倫理會倫理講演集437,439 [40143
(參考：「東北帝大文科卒論---河邊利夫「クロウチエ史觀の構造」」、文化6-4) [40144
學界消息「ヘルデルの新選集」文化6-5 [40145
＊[訂正]新刊・祇園寺信彦「井上智勇「ラティフンディアの成立と經營」(史林24-1,2)、文化6-8 [12714] [40146
「その他」--- (1)「ギリシヤ・ローマ農業に於ける經濟合理主義」(Economic Rationalism in Greco-RomanAgriculture.The English Historical Review no.ccviii,1937)
(2)「古代經濟に於ける經營の問題」(Zum Problem der Betriebsführung in der antoiken Wirtschaft,Viertejahrschrift für Sozial-u. Wirtschaftsgeschichite,Bd.3&Ht.1,1939)
(參考：彙報「(廣島文理大)本年度卒論」、史學研究10-3 [40147
西川義雄「ヘーゲルの歴史觀、特に民族と歴史との關係につきて」)
「最近史界」、史學研究10-3 [40148
----- H.Dannenbauer,Nochmals die römische Peterslegende(H.Z.,Bd.159,Heft 1, 1938)
I.Hochholzer,Zur historischen Geographie des römischen Sizilien(Ar.F.K-G-.,Bd.xxviii, Heft 1,1938)
舟越康壽「メロヴィンガー朝に於ける土地制度の發達」史學研究11-1,2 [40149
(參考：彙報「西洋史研究會」、史學研究11-1 [40150
西川義雄「ヘーゲルの歴史觀、特に民族と歴史との關係につきて」)
「最近史界」、史學研究11-1 [40151
----- V.M.Scramuzza,Greek and English Colonization(A.H.R.,Jan.,1939)
T.Lenschau,König Klemennse I von Sparta(Klio,Bd.xxxi,Heft 4,1939)
中西敬二郎「希伯交通史上に於けるキプロス島」基督教研究・第2册
「史學史關係文獻目錄-----二、古代・中世」、史學研究11-1 [40452
「最近史界」、史學研究11-2 [40153
----- 廣瀬哲士「テーヌの史學と其の思想」史潮9-2
U.Kahrstead,Untersuchungen zur athenischen Behörden(Klio,Bd.32,Heft 2, 1939)
E.Hohl,Besaes Cäsar Tribunengewalt ? (Klio,Bd.32,Heft 2,1939)
F.Hampl,Poleis ohne Territorium(Klio,Bd.32,Heft 2,1939)
A.J.B.Wace & C.W.Blegen,Pottery as evidence for Trade and Colonization in the Agean Bronze Age(Klio,Bd.32,Heft 2, 1939)
探檢家列傳(29)「アレキサンダー・フォン・フンボルト」地理學7-3 [40154
渡邊一夫「貝殻追放について」(1970年刊著作集10中) [40155
新村出「さびしき中庭----濱田耕作先生を憶ひて」(「濱田[耕作]先生追悼錄」中) [40156
讀書「高坂正顯「歴史哲學と政治哲學」」(ギリシヤ等)圖書舘雜誌33-5 [40157

高村象平「山本與吉・井出貴夫氏編「世界通信發達史概觀」」(上世あり)
三田新聞412(4/25) [40158
讀書・原田淑人「濱田耕作博士著「考古學研究」」東京朝日新聞12/10 [40159
蘆田均「バルカンの宿命(2)---アジアとヨーロッパの相剋、(4)---再び列強爭覇の舞台となる」(ホーマー、アルキメデス、シドン、ビザンス、トロイ等)
東京朝日新聞4/14,4/16 [40160
井伊玄太郎「ルナン傳記」基督教新聞2869(3/23),2870(3/30),2874(4/28) [40161
(鈴木)「運命の哀史に學ぶ」(ギリシヤ・ローマの大國等)
基督教新聞2874(4/28) [40162
新刊「渡邊善太・早川榮共著「概說イスラエル民族史」」
基督教新聞2876(5/11) [40163
讀後感「渡邊善太・早川榮共著「概說イスラエル民族史」」
基督教新聞2877(5/18) [40164
(今泉)「歴史の示現」(ギリシヤ、ロマ等の勃興等) 基督教新聞2882(6/22) [40165
D.①新村出『天草本伊會保物語〈飜字〉』(舊版附錄を省く改訂版。←昭3「文祿舊譯天草本伊會保物語」) [40166
黑崎幸吉『註解新約聖書----使徒行傳』 [40167
②B・タウト/篠田英雄譯『日本美の再發見』(岩波新書。ギリシア文化、ローマ文化等) [40168
豐田實『日本英學史の研究』(岩波書店→昭44年3刷、「翻訳小説年表」[明11~24年]。昭38千城書店版、小原克己編「日本英學 筑紫文庫目録」) [40169
中野好夫・小川和夫共譯『バイロン・手紙と日記』 [40170
佐藤正一『干支の基督---代記解說・漢字ノ起源ハ聖書也』 [40171
小澤三郎『バプテスト教會宣教師N.ブラウンの聖書和譯に就て』(「基督教史研究」第2册抜刷 [40172
小澤三郎校『天保年間飜譯・最古の和譯聖書ギュツラフ譯「約翰上中下書』(「基督教史研究」第4册抜刷) [40173
フォーサイス/麻生隆義譯『藝術倫理及神學』(フォーサイス選集5) [40174
新村出『南蠻更紗』(改造文庫。←大15) [40175
③岡崎文彬「古代ローマに於けるウィラ、特にその庭園に就て」
建築學研究94 [40176
(參考:會報「西洋史部會」、歴史學研究9-11 [40177
三浦一郎「古喜劇から中喜劇へ」)
(參考:史界近事「京大史學關係學會大會」(西洋史講演會)、歴史教育14-9[40178
村田數之亮「クラシックの本質と限界」)
樺俊雄「歴史に於ける理念」哲學研究280,281 [40179
神谷弘「アリストテレスの「模倣」について」英語教育4-3 [40180
(?)「新經濟イソップ物語」家の光12月號(15-13) [40181
④＊[訂正]書評・高津春繁「Ch.Mulger,L'evolution des constructions partcipales complexes en grec en latin」言語研究4 [12786] [40182
＊[訂正]書評・高津春繁「R.Sjölund, Metrische Kürtung im Griechischen」

言語研究4　[12787]　[40183
＊[訂正]書評・高津春繁「E.Myser,Grammertik der griechischen Papyri aus der Ptolemerzeit」言語研究4　[12789]　[40184
紹介と批評・濱口重國「岩崎克己「前野蘭化」」歴史學研究9-4　[40185
紹介と批評・菊池謙一「羽仁五郎「ミケルアンヂェロ」」
歴史學研究9-5・6(合)　[40186
紹介と批評・三浦一郎「田中秀央・黒田正利「詳説・ギリシア文學史」」
歴史學研究9-11　[40187
小松周吉(紹介)「獨逸語教授の教科目組織に於ける重要性」(羅甸語等。ヴァンセロウ“Der Deutscheunterricht in System der Schulfacher”)
教育學研究(東京文理大)8-4　[40188
永田陸郎(紹介)「言語教授の目的に就いて」(Vom Ziel Sprachunterricht)
教育學研究(東京文理大)8-9　[40189
書物展望「耶蘇會年報」(レオン・パジェス/吉田小五郎譯「日本切支丹宗門史」(中))
聲756　[40190
(參考：「京都帝大卒論」、京都帝國大學新聞293(3/5)　[40191
英文學：森清「シェレーの詩、一考察」)
書評「黛三平「羽仁五郎「ミケルアンヂェロ」」京都帝國大學新聞295(5/5) [40192
(參考：「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞130(2/8)　[40193
英文學：御子柴廣之「シェリーの詩論」
金河植「キーツ研究」
鈴木正「「ユリシーズ」に就て」)
千田是也「古典思想の重荷---新協「ファウスト」評」
早稻田大學新聞132(3/1)　[40194
今和次郎「科學と藝術の交錯」(古代ギリシヤ・ローマの建築等)
早稻田大學新聞154(11/8)　[40195
(參考：「(慶大)卒論」、三田新聞409(2/15)　[40196
文學部：西脇教授下：北尾精造「ウォルター・ペイターに就て」
瀬下良夫「ジョン・キーツ」)
「西脇[順三郎]教授を會長に----ギリシヤ・ラテン學會生る/語學の研究講座開設」、三田新聞412(4/25)　[40197
---- 高津春繁「ギリシヤ語に於けるアルカディア方言の地位と歴史に就て」
近藤啓二「古典復興-----續中世期研究」日本カトリック新聞694(2/5), 698(3/5)　[40198
海老澤有道「キリシタン史研究餘滴----言語に關する覺書」(天草刊「エソポの物語」)
日本カトリック新聞709(5/21)　[40199
「ハンス・ミューラー師「日本に於けるファウストの飜譯に就て」の批評」(東京帝國大學新聞5/29。「獨逸文學」ゲーテ特輯號所載)
日本カトリック新聞712(6/11)　[40200
片岡彌吉「吉利支丹史雜筆---セミナリオとコレジオの譯語」
日本カトリック新聞733(11/5), 735(11/15) [40201

片岡彌吉「邦人パードレ養成事業の管見」[カトリック改め]カトリック19-4 [40202
岩崎良三「古典の運命」（ヴェルギリウス）書物展望9-3 [40203
内山眞三郎「シルレル・ルネサンス」書物展望9-10 [40204
新居格「ラオコーンを見るもの」新潮3月號 [40205
片山敏彦「ヂュアメルとゲーテ」新潮3月號 [40206
加茂儀一「ことばと道具」科學ペン7月號 [40207
杉森孝次郎「ルネッサンスの文化と現代文化」科學ペン8月號 [40208
大西昇「藝術と科學の融合」科學ペン8月號 [40209
龜井勝一郎「人間の青春とルネッサンス」科學ペン8月號 [40210
芳賀檀「ルネッサンスの人々」科學ペン8月號 [40211
木村謹治「ゲーテ的世界の構造」科學ペン9月號 [40212
龜井勝一郎「ゲーテを索めて」科學ペン9月號 [40213
舟木重信「ゲーテとフランス革命」科學ペン9月號 [40214
富田潔「ジョン・ラスキン藝術觀と建築觀」科學ペン12月號 [40215
ハンス・カロッサ/片山敏彦譯「現在に於けるゲーテの影響力（1938年6月8日ヴァイマールの「ゲーテ協會」に於ける講演）」思想201 [40216
兒島喜久夫「歐米餘香(1)(2)」（「[伊人]ヴェネーレ・デイ・モントラゴーネ」、ギリシア文化）思想206,207 [40217
中野好夫「英國初期人文主義者と母國語問題」思想211 [40218
（參考：「第10回九州史學會大會」、史淵20 [40219
小林榮三郎「ドイツ國民意識と人文主義」 ）
彙報「小野玄妙博士急逝」歷史地理74-2 [40220
（參考：史界近事「考古學會第44回總會」、歷史教育14-3 [40221
伊東忠太「建築學と考古學」）
新史論展望「中川一男「ゴティークに於けるルネサンス的なるもの」」（史潮9-4）歷史教育14-11 [40222
木村愛子「ダンテの神曲を讀みて」基督信徒之友58 [40223
島田雄次郎「エラスムスの「痴愚禮讚」に就て：紹介と考察と」史苑12-3[40224
島田雄次郎「フィチンガ[ホイジンガ?]のエラスムス論」史苑13-1 [40225
（參考：彙報「西洋史讀書會」、史林24-2 [40226
外山齋「ダンテ神曲、地獄篇六−十一」）
名著「中山昌樹「ダンテ・神曲」」科學知識19-2 [40227
西脇順三郎「文學とヒューマニズム」科學知識19-3 [40228
舟木重信「ドイツ文學とヒューマニズム」科學知識19-3 [40229
山宮允「書誌に現はれた明治初期の本邦ブレイク文獻」英語青年6月號 [40230
麻生種衛「近代文學に於ける生と死に關する一考察」（ニーチェ、ゲーテ等）獨逸文學2-4 [40231
山岸光宣「日本に於ける獨逸語研究の沿革」獨逸文學3-2,3 [40232
河崎芳隆「フリードリヒ・ヘッベルに於けるDie vorantike Forumに就て」獨逸文學3-2 [40233

「獨逸文學會第三回總會報告」、獨逸文學3-2 [40234
----- 山岸光宣「日本に於ける獨逸語研究の沿革」
河崎芳隆「フリードリヒ・ヘッベルに於けるDie vorantike Forumに就て」
太田正雄「日本吉利支丹關係の稀覯書・朱面書に就いて」
丁酉倫理會倫理講演集436 [40235
(參考：「本會記事---研究會：山岸光宣「日本に於ける獨逸學の影響」」
丁酉倫理會倫理講演集439) [40236
山岸光宣「日本に於ける獨逸學の沿革」」丁酉倫理會倫理講演集440 [40237
學界消息「ヘルデルリーンと哲學」(クルト・ヒルデブラント著)文化6-4 [40238
(參考：「東北帝大文科卒論---植木錬之助「ペイターのメイリアスに就て」、
文化6-4) [40239
「最近史界」、史學研究11-1 [40240
---- R.Pfeiffer,Von den geschichitlichen Begegnungen der kritischen Philologie mit dem Human- ismus(Archiv f.Kultur geschichite,Bd.xxviii,Heft 2,1938)
島田雄次郎「エラスムスの「痴愚神禮讃」に就て」史苑12-3
L.Curtius,Zur Antikenstudien Tizians(Archiv f.Kultur geschichite,Bd. xxviii,Heft 2,1938)
「最近史界」、史學研究11-2 [40241
----C.R.Morey,The Byzantione Renaissance(Speculum,vol.xiv,no.2,1939)
彙報・村田武雄「飯田忠純「西洋音樂史概說」」史學17-3 [40242
(參考：彙報「三田史學研究會例會報告(昭和11,1,2,13,14年度)」史學18-1 [40243
昭14：兒島喜久雄「美術史と歷史學」)
幸田成友「耶蘇會版特にその日本字印刷物について」史學18-2・3(合) [40244
「W.B,Yeats逝く」The Current of the World 16-3 [40245
推薦圖書「新村出著「イソップ物語」」(小山書店)圖書舘雜誌33-8 [40246
讀書「ブルーノ・タウト/篠田英雄譯「日本美の再發見」」
圖書舘雜誌33-10 [40247
芳賀檀「羽仁五郎著「ミケルアンヂェロ」」日本讀書新聞80(4/25) [40248
新村出「岩波版天草版伊會保物語・後記」 [40249
近刊愛書メモ・谷川徹三「古典の研究」(呉茂一譯「ギリシヤ抒情詩選」)
東京朝日新聞3/13 [40250
飜譯短評・白根孝之「ホメーロス詩、オデュスセイアー[上下]」(田中秀央、松浦嘉一譯) 東京朝日新聞7/14 [40251
工藤好美「ユーモアの精神(1)---英國及英國人氣質」(サンタヤナ、古代ギリシヤ、イタリヤ等) 東京朝日新聞7/24 [40252
讀書・荒城季夫「ミケランジェロ」(羽仁五郎著) 東京朝日新聞8/21 [40253
兒島喜久雄「金門博の奇觀(1)(2)」(「ヘラクレスとアンタイオス」等)
東京朝日新聞9/25,9/26,9/27 [40254
讀書・呉茂一「田中秀央・黑田正利共著「詳說・ギリシア文學史」」
東京朝日新聞10/29 [40255
E.②＊[訂正]原田慶吉『羅馬法講義案』(相續法) [12805] [40256
原田慶吉『羅馬法講義案』(物權法) [40257

久保正幡著『西洋法制史。佛蘭西Ⅰ』（東大ノート交換クラブ。昭14年4月以降10月講義東京帝國大學法學部・謄寫版。附：試驗問題集） [40258
③井上恭逸「ローマに現れたる政治と理論の問題」校友會雜誌(第一高等學校)366 [40259
（參考：「昭和十四年三月施行法學科試驗問題」（第二講座）日本法學5-3 [40260
政治學史・小林「一、アリストテレスの國家觀」)
(參考：彙報「三田史學研究會例會報告(昭和11,1,2,13,14年度)」史學18-1 [40261
・昭和13：森馨「ローマ法に於ける國民的なるもの」）
(參考：「(慶大)卒論」、三田新聞409(2/15) [40262
法學部：槇教授下：塚本愼三「Politicaに於けるAristotelesの根本思想とPlato批判」)
④＊[訂正]廣濱嘉雄編「佐藤(丑次郎)教授退職記念論集・法及政治の諸問題」中 [12811] [40263
＊[訂正] 典籍往來・森義宣「レヴィス「中世政治思想の有機體的團體說」(Euart Lewis,Organic Tendenncies in Medieaval Political Thougut,Am.Pol.Sci.Rev.'38)法と經濟(立命館大學)11-4 [40264
(參考：「學界消息」、法と經濟(立命館大學)11-5 [40265
森義宣「アドルフ・メンツェル「國家論に於ける環境と個性」(古代希臘等)」）
典籍往來・森義宣「フェレロ「マキアベリとマキアベリ主義」(G.Ferrero, Machiavelli and Machiavellism,'39) 」法と經濟(立命館大學)12-4 [40266
「新刊書目」、哲學研究286中---- [40267
H.Zeiss,Der Staatsman,Eine Beitrag zur Interpretation des platonischen Politikos, Lpz.
「内外文獻」、經濟學雜誌5-1 [40268
G.Mickwitz,Zum Problem der Betriebsfürhlung in der antiken Wirtschaft,'39
E.Sander,Die Germanisierung des römischen Heers,'39
「内外文獻」、經濟學雜誌5-2 [40269
高橋誠一郎「希臘及羅馬經濟學」三田學會雜誌33-5 [40270
「内外文獻」、經濟學雜誌5-4 [40271
O.Erb,Wirtschaft und Gesellschaft im Denken der hellenischen Antike.
中川善之助「バッハオーフェン「母權論」----富野敬照氏の邦譯について」京都帝國大學新聞291(1/20) [40272
柴山英一「ニコロ・マキアヴェルリ管見」歷史教育14-1,2 [40273
（參考：史界近事「京大史學關係學會大會」（西洋史講演會)、歷史教育14-9[40274
高橋金也「マキアウェリ解釋についての一考察」）
新史論展望「穴原榮三郎「ペルシア戰役前後に於ける兩國財政の比較」（史林18-2･3)歷史教育14-10 [40275
紹介「ドプシュ著「社會經濟史論叢」」(Alfons Dopsch, Beiträge zur sozial-und wirtschaftsgeschichte) 史林24-2 [40276
堀喜望「近代自然法思想の由來とその運命(4)」哲學研究280 [40277

田邊元「國家的存在の論理」哲學研究283,284,285 [40278
澤崎堅造「聖トマスの共同體思想」經濟論叢49-4 [40279
(參考：彙報「第十一回史學大會--- 鈴木成高「中世國家に就いて」」、
文化6-7) [40280
(參考：彙報「本年度卒論」、史學研究10-3 [40281
朝枝俊輔「ニーチェの國家觀及び歴史觀」)
「最近史界」、史學研究10-3 [40282
------ C.Bornhak,Römisches und deutsches Recht(H.Z.,Bd.159,Heft 1,1938)
(參考：彙報「西洋史研究會」、史學研究11-1 [40283
朝枝俊輔「ニーチェの國家觀及び歴史觀」)
「最近史界」、史學研究11-1 [40284
----- F.Dölger,Die Kaiserurkunde der Byzantiner als Ausdruck ihrer plotischen
Ansehauungen (H.Z.,Bd.159,Heft 2,1939)
「最近史界」、史學研究11-2 [49285
------G.Wickuritz,Zum Ploblem der Betirebsfühlung in der antike Wirtschaft
(S.W.G.,Bd.32, Heft 1,1939)
F.R.Wüst,Zum Ploblem ‘Imperialismus’ und ‘Macht-politisches Denken’
im Zeitalter der Polis (Klio,Bd.32,Heft 2,1939)
「内外文獻月報」、經濟學雜誌4-3,4 [40286
-----L.Cioli,Histoire économique depuis l'antiquieé jusquà nosjours,'38
O.Erb,Wirtschaft und Gesellschaft im Denken der hellenischen Antike
舞出長五郎(批評)「堀經夫「地代論集」----特に差益地代說を中心として」
經濟學論集(東大)9-10 [40287
紹介批評・廣濱嘉雄「穂積陳重先生の「祖先崇拝と日本法律」」
法學(東北帝大)8-2 [40288
栗木武夫「土地所有權の成立」(ローマ法等)法學(東北帝大)8-4 [40289
菅原菊三「時局認識と信仰」(ギリシヤのソロン、タールス等)
基督教新聞2861(1/26) [40290
(K.Y.)「健全な國民の發達」(ギリシヤ・ローマ等) 基督教新聞2902(11/9) [40291
F.②＊[訂正]三木重長『趣味の世界科學史』 [12850] [40292
宮道馨『理化學史物語』(新訂版) [40293
吉田洋一『零の發見』(岩波新書) [40294
松平道夫『萬人のための科學史』 [40295
アーネスト・トラットナア/林醲譯『思想の建築』 [40296
浦川和三郎『ガリレオ問題に就て』 [40297
③岩崎練「ピタゴラス方程式一解法」東京物理學校雜誌568 [40298
丸山俊明譯「數學史研究」(George Sarton,The Study of the History of Mathematics)
數學教育24,25 [40299
小田信夫「ろーま記數法ニ關スル心理學的研究」算術教育200 [40300
吉岡修一郎「數概念ノ發生」算術教育203 [40301
④倉橋文雄「昨年の米國歴史學會大会會」、歴史學研究9-11 [40302
中世史部會：Lynm White,Technology in the Middle Ages
槇原德治(全譯)「體育原理の起源及び材料」(J.F.Williams,The Sources and Date of

Principles of Physical Education)
教育學研究(東京文理大)8-8 [40303
新刊・會田軍太夫「吉岡修一郎「數學文化史」」科學知識19-2 [40304
古賀昇一「數學史ト數學教育」學校數學33 [40305
書物紹介「さーとん著/森島恒雄譯「科學史とヒューマニズム」(岩波新書)
(日本中等教育)數學會雜誌21-3 [40306
野尻抱影「泰西の古天文圖」(近世)書物展望9-12 [40307
菊池榮一「ゲーテの色彩論とその背景」獨逸文學3-1 [40308
菊池榮一「自證と實踐---ゲーテの科學性」科學ペン9月號 [40309
高島平三郎「國民生活と科學」(アリストテレース等)
丁酉倫理會倫理講演集435 [40310
「最近史界」、史學研究11-1 [40311
----- A.Rehm,Zur Rolle der Technik in dergroechisch-römischen Antike(Archiv f.Kultur- geschichite,Bd.xxviii,Heft 2,1938)
讀書「吉岡修一郎「數學文化史」」圖書舘雜誌33-3 [40312
先驅科學小話「舍密と[宇田川]榕庵」日本讀書新聞90(8/5) [40313
先驅科學小話「星雲說と[中野]柳圃」日本讀書新聞91(8/15) [40314
先驅科學小話「「窮理通」と[帆足]萬里」日本讀書新聞94(9/15) [40315
讀書・中谷宇吉郎「科學と宗教との關係」(ホワイト原著/森島恒雄譯)
東京朝日新聞10/22 [40316
暉峻義等「醫學及醫術の任務」科學知識19-3 [40317
坂田德男「科學とヒューマニズム」科學知識19-3 [40318
石原純「哲學に影響を及ぼした科學者」科學知識19-7 [40319
G. 馬場嘉市編『基督教百科事典』(日曜世界社) [40320
新史論展望「板澤武雄「辭書及び文法書の編纂と蘭學の發達」」
(史學雜誌50-5)歷史教育14-3 [40321
寮佐吉「クラウン英和辭典所見」The Current of the World 16-6 [40322
守宿捷「世にいふ「薩摩辭書」について」圖書舘雜誌33-6 [40323
新村出「文獻學」・「洋學」(「教育學辭典」第4巻中) [40324
淺野彌太郎『人性の百科全書-----修養哲學』(3版) [40326

昭１５(１９４０)
A. ＊[訂正](參考：彙報「各帝大哲學關係講義題目」哲學雜誌639 中
[24462] [40327
京都帝大：副科目・西洋哲學史購讀(Platon,Timaeos))
エドワルト・シュプランガー/大日向勝・喰代驥譯『民族性格學』 [40328
水野恭介『新約のゆかりを尋ねて』(基督教教程叢書14) [40329
新明正道「サラセン文化の社會學」新亞細亞2-4 [40330
神力甚一郎「國民性把捉の方法」(シュプランガー「Wie erfass man einer Nationalcharacter?」)教育學研究(東京文理大)8-12 [40331
(參考：「昭和14年度官立大學教育學科關係講義題目」、
教育學研究(東京文理大)9-3 [40332

・東京文理大：教育學概論(篠原)、教育學概論(寺澤)
・廣島文理大：教育學概論(長田)、西洋教育史概說(稻富)、アリストテレスの教育思想(稻富)
・東京帝大：教育史概說(入澤)、教育學概論(上村)
・京都帝大：教育學序說(木村)
・九州帝大：教育學概論(松濤)
・東北帝大：西洋教育史(細谷)、教育學概論(海後)
・京城帝大：教育學概論(松月)、教育史概說(松月)
・臺北帝大：教育學概論(伊藤)、教育史概說(福島)　)
東京日々新聞社『世界交通文化發達史』 [40333
山岸光宣『幕末洋學者歐文集』(全2册) [40334
千葉大樹「一月のローマの思出」聲767 [40335
田中秀央「ギリシア文化の行方」京都帝國大學新聞324(12/20) [40336
森與重「思ひ出の母校・長崎公教神學校の巻---私立ラテン神學校」カトリック新聞752(3/24), 753(3/31) [40337
「「學と信仰」の探求----慶大日吉誦會の新傾向」(語學會---ラテン語)カトリック新聞759(5/12) [40338
谷道雄「夏休みに於ける學生の讀書に就いて」(岩下[壯一]師著「聖アウグスチヌスの「神の國」」、エミール・ボーマン「聖パウロ」、ル井・ベルトラン「聖アウグスチノ傳」、グランメーゾン師「イエズス・キリスト」、澁谷[治]師「史料・基督教史」(全7巻)、フービー「カトリック思想史」等)カトリック新聞771(8/4) [40339
野上彌生子「イタリーの印象」(旅雁日記)婦人公論25-8 [40340
野上彌生子「寺院サンピエトロ(イタリーの印象)」(旅雁日記)婦人公論25-10 [40341
高田力藏「アテネの回想」新潮8,9月號 [40342
山口諭助「對立的文明の運命」思想215 [40343
小林市太郎「ヨーロッパ文明の將來」思想215 [40344
佐野一彦「ドイツロマンチクにおけるエウロッパ文明の問題」思想215 [40345
田中晃「論理より見たるヨーロッパ文化」思想216 [40346
片山敏彦「西歐的なヴィジョン」思想217 [40347
野上彌生子「埃及斷章」思想220 [40348
シュミット「シシリー島紀行」公論6月號 [40349
下村海南「オリンピア所感」アサヒグラフ6月號 [40350
ガイタ「地中海と伊太利」東洋經濟8月號 [40351
柳澤健「地中海の思ひ出」新潮9月號 [40352
野上豐一郎「プロハスとロドス」日本評論11月號 [40353
山田吉彦「ギリシヤの旅」週刊朝日11/17 [40354
松井明夫「アデン、カイロの印象」臺灣時報4月號 [40355
松井明夫「ナポリ、ローマの印象」臺灣時報6月號 [40356
讀書「幸田成友「史話・東と西」」圖書舘雜誌34-4 [40357

讀書「藤島亥治郎「ブルーノ・タウトの日本觀」」圖書舘雜誌34-4 [40358
泉谷氏一「コリント運河を遡る」東京朝日新聞11/3 [40359
長壽吉「論證史學のファタリスムとギゾオ時代」史淵24 [40360
(參考：昭和15年度第一學期[九大]史學關係講義題目中、史淵24 [40361
史學概論(長)、特講(啓蒙思想史、小林)、西洋史演習(Fr.Meinecke, Die Entstehung des Historismus、小林)、希臘哲學史概說(田中)、西洋中世の國家觀(中島)、基督教の起源(佐野)、西洋美術史演習(矢崎)、西洋法制史(武藤)、政治學史概說(近世、今中)/臨時講義---考古學(藤田))
浦川和三郎「イエズス會の活躍振」史學19-3 [40362
海老澤有道「ヤジロウ考」史學19-3 [40363
古賀十二郎「背教者澤野忠庵」」史學19-3 [40364
小島威彦「世界史に於けるアジアの文化」歷史教育15-8 [40365
新史論展望「浦川和三郎「イエズス會の活躍振」」(史學19-3)
歷史教育15-12 [40366
新史論展望「海老澤有道「ヤジロウ考」」(史學19-3)歷史教育15-12 [40367
新史論展望「古賀十二郎「背教者澤野忠庵」」(史學19-3)歷史教育15-12 [40368
(參考：彙報「史學研究會---鹽見高年「イタリヤ雜觀」」、史林25-1 [40369
(參考：彙報「西洋史讀書會---鹽見高年「伊太利の印象」」史林25-1 [40370
(參考：彙報「[京都帝國大學文學部]昭和15年度史學科講義題目中」、
史林25-2 [40371
西洋史概說(第一部、第二部、原、時野谷)、エーゲ文明論(村田)、西洋史の諸問題(原)、史學研究法(原)、考古學概論(梅原)/副科目---Casson, Progress of Archaeology(梅原)、希臘語(H.Tanaka, Graecae Grammaticae Rudimenta, Xenophon:Memorabilia, Homeros:Iliad, Buchholz-Sitzler, Anthologie aus den Lyrikean der Griechen, 田中)、羅甸語(H.Tanaka, Nova Grammatica Latina, 田中・久保・神田編「ラテン文撰集」服部、Terentius:Phormio, Plautus: Trinummus、田中))
(參考：彙報「昭和15年度京都帝大文學部哲學科講義題目」、哲學研究290[40372
哲學概論(田邊)、西洋中世哲學史(山内)、ストア研究(山内)、演習(Plato: Meno、山内)、Bergson: L'evolution créatrice(九鬼)、心理學概論(野上)、倫理學概論(天野)、教育學序說(木村)、美學序論(植田)、藝術に於ける理念と自然(井島)、宗教學概論(西谷)、原始基督教(山谷)、西洋哲學史演習(Platon:Timaios、三井講師))
高山岩男「人種、民族、國民と歷史的世界」(紀行)哲學研究294 [40373
石井研堂「明治文明に溶化した支那の西洋學術書」書物展望10-5 [40374
織田萬「歐羅巴精神の變遷」(希臘人、グレコ・ラテン文化、文藝復興、モンテスキュー等) 丁酉倫理會倫理講演集447 [40375
桑木嚴翼「文化と政治」(バックル文明史、フムボルト等)
丁酉倫理會倫理講演集448 [40376
桑木嚴翼「學問と文化」(プラトンのアカデメイア等)
丁酉倫理會倫理講演集451 [40377
「史學史關係文獻目錄」(西洋史)、史學研究11-3・4(合) [40378

------J.W.Draper,History of the Intellectual Development of Europe,2vols.,1925
W.W.デイヴィス/金子幹太譯「西洋讀書指針」(大15)
(參考：彙報「(廣島文理大)本年度本學史學關係講義題目」、史學研究12-1[40379
西洋史概説(渡邊)、中世史特講(渡邊)、史學概論(千代田)、西洋史學上の諸問題(千代田)、史學史演習(千代田)、考古學概論(梅原)
「最近史界」、史學研究12-1 [40380
----增田四郎「古ゲルマン文化聯續性の問題」社會經濟史學9-7
大都留溫「ヴント「獨逸理想主義」」學生生活6月號 [40381
(鈴木)「基督教日本化の問題」(ローマ等) 基督教新聞2913(2/1) [40382
溝口靖夫「支那に於ける基督教展開のエポック」(貴族とギリシヤ文化の紹介等)
基督教新聞2926(5/2) [40383
(鈴木)「此の時代に輝く任務」(ギリシヤ神話、プロメシウス、ジュピター等)
基督教新聞2942(8/22) [40384
(參考：「新体制に伴ふ學科の改正」(同神期報15 號掲載)、
基督教新聞2954(11/4) [40385
・第一課程：教會史
・第二課程：教理史
・第三課程：宗教哲學、キリスト教倫理
・選擇科目：新約ギリシヤ語初歩、新約ギリシヤ語、教父ギリシヤ語、中世ラテン語、教會史特講、教會史演習、倫理學概論、西洋倫理學史、哲學概論、哲學史、現代哲學、教育史等)
(參考：興亞院政務部『支那カトリック布教史』(興亞資料・政治篇10)) [40386
B.①＊[訂正・削除]~~内村達三郎譯『アウグスチヌス・懺悔錄』~~ [12926] [40387
聖アウグスチヌス/服部英次郎譯『告白』(上中, 岩波文庫。→昭24,下巻) [40388
②＊[訂正・削除]~~E.F.ニーチェ著/淺井眞男・小口優・山崎八郎・森・儁郎・野中正夫譯『ニーチェの生涯』~~
[12930] [40389
＊[訂正・削除]~~蓑田胸喜『學術維新』(西洋哲學史上に於ける辯證法の經歷」)~~
(→昭16.B.②) [12934] [40390
＊[訂正・削除]~~安部光槌『教養の哲學』(「希臘及び中世の世界觀」)~~
(→昭14.B.②) [24467] [40391
ヘンリー・バークレー・スキート/稻垣陽一譯『新約聖書に於ける聖靈、聖靈に關する原始基督教の教說の研究』[40392
稻富榮次郎『人間と言葉』 [40393
カアル・ヒルティ/陶山務譯『我ら何を爲すべきか』(→昭21・再刊[日本文庫7]) [40394
赤岩榮『イエスの譬、共觀福音書に於ける』(葡萄之枝文庫3) [40395
齋藤勇『キリスト教思潮』(研究社英米文學叢書26) [40396
小出正吾『宗教改革の偉人マルチン・ルッター』 [40397
岸千年『十字架の神學者マルティン・ルッター』(ルッター神學叢書1) [40398
北村常夫『人本主義と主知主義』 [40399
ジョン・スチュアート/賀川豐彦・熱田俊貞共譯『景教東漸史----東洋の基督教』 [40400

③＊[訂正]石山脩平「西洋古代教育史に於ける言語の問題」
教育學研究(東京文理大)9-4,5 [13009] [40401
(参考：「昭和十五年三月施行法學科試験問題」(第二講座)日本法學6-4 [40402
西洋倫理・佐々木「一、西洋倫理思想の大要を述べよ」)
富田竹三郎「プラトンの教育學」(O.Wichmann,Platoserziehungelehre)
教育學研究(東京文理大)9-4,5 [40403
高桑純夫「内面化された時間---アウグスチヌスの時間觀念」思想213 [40404
土井虎賀壽「西歐精神と世界性」思想215 [40405
下村寅太郎「ヨーロッパ的學問の性格と可能性」思想215 [40406
高桑純夫「「延長」をもつ心---アウグスチヌスの時間觀念」思想218 [40407
佐々木理「光明と暗黑のたたかひ」(神話)思想220 [40408
新刊批評「馬場久治譯「ニイチェ箴言集」」京都帝國大學新聞309(2/5) [40409
天野貞祐「大學の理念----ユニヴァシテイの全體性について」
京都帝國大學新聞312(5/5) [40410
服部英次郎「ヨーロッパの大學----その起源と發達」(プラトンの「アカデメイア」
等) 京都帝國大學新聞312(5/5) [40411
野尻抱影「オリオン信仰」(ギリシヤ神話)三田新聞447(12/5) [40412
俳壇「聖オグスチノ[アウグスチヌス]祭」カトリック新聞778(9/29) [40413
濱野修「ヴィーナスの謎」公論8月號 [40414
氣賀重躬「ヒッポリタスのApostike Paradosis」基督教史研究7 [40415
三谷隆正「教育論」(ソクラテス、プラトン、クセノフォン、アリストテレス、ア
レキサンダー大王等)聖書講義5月號 [40416
三谷隆正「沒人格主義」(プラトン等)聖書講義7月號 [40417
坂本春吉「パイダゴーゴス」山形教育11月號 [40418
(参考：彙報「京都帝國大學文科卒論」、哲學研究288 [40419
井狩克「Sensus Communicusの問題」[アリストテレス])
武政國藏「哲學者偶話」(聖哲ソクラテス)書物展望10-8 [40420
「コロサイ書の研究」(ギリシア哲學等) 神の國新聞1096(9/25),1097(1/2) [40421
有賀鐵太郎「第二世紀の希臘教父に於ける擬人神の問題」基督教研究17-2 [40422
森本芳雄「アウグスティヌスに於ける「咎」の意義」基督教研究17-3,4 [40423
「ヨハネ福音書の根本思想」(熊野義孝個人執筆)プロテスタント研究
13號(4-1) [40424
熊野義孝「ヨハネ福音書の性格」神學と教會6-1 [40425
本宮彌兵衛「イエスの教訓に於ける獨創性」(ギリシヤの哲人プラトーン等)
基督教新聞2918(3/7) [40426
(参考：「同志社大學神學科卒論(昭和14年度)」、基督教新聞2922(4/4) [40427
・堀田熊男「神觀に就いて野研究」
・市川恭二「イエスの神國觀」)
土居眞倫「ロマ書靈解(4)(5)」(ギリシヤ人等) 基督教新聞2955(11/21),
2956(11/28) [40428
④＊[訂正]江間道助「ニーチェの生涯(山崎八郎・小口優・森俊儁郎・野中正夫・
淺井眞男譯)」早稻田大學新聞174(5/8)

[13000] [40429
「新刊書目」、哲學研究286中---- [40430
F.Heinimann,Odysseus oder die Zukunft der Philosophie,Stockholm
J.Stenzel,Plato’s Method of Dialectic,tr.and ed. by D.J.Allan,Oxford U.P.
「新刊書目」、哲學研究287中---- [40431
M.Luther,Werke Krit.Gesamtausg.Bd.57,Nachschriften und Vorlesungen über Römerbrief,Gelateebrief und Hebräerbrief,Weimar
「新刊書目」、哲學研究289中---- [40432
E.Grassi,Vom Vorrang des Logos,Das Problem der Antike in der Auseinandersetzung zwischen italienischer und deutscher Philosophie,München
「新刊書目」、哲學研究291中---- [40433
A.D,Lindsay,The Two Moralities,London
「新刊書目」、哲學研究294中---- [40434
Thomas Aquinas:J.Goheen,The Problem of Matter and Form in the “De Ente et Essentia” of Thoamas Aquinas,Harvard U.P.
「新刊書目」、哲學研究296中---- [40435
Hegel:H.Glockner,Hegel,Bd. 2,Entwicklung und Schciksal der Hegelschen Philosophie,Stuttgt.
M.Luther:E.Seeberg,Grundzüge der Theologie Luthers,Stuttgt.
＊［訂正］「新刊書目」、哲學研究296 中−−−− [13008] [40436
J.Huizinga,Homo Ludens,Versuch einer Bestimmung des Spielementes der Kultur,Amsterdam,Pantheon
紹介と批評・金澤誠「關根秀雄「モンテーニュ傳」」歴史學研究10-1 [40437
（参考：會報「京大讀書會大會」、歴史學研究10-1 [40438
井上智勇「Römische Kolonat の起源と本質」）
金澤誠「モンテーニュに就て---Essaiのモラルの史的考察」歴史學研究10-12[40439
栗栖弘臣「「遍歴時代」に於けるゲエテの教育思想概說」
校友會雜誌（第一高等學校）371 [40440
「内外文獻」、經濟學雜誌6-2 [40441
J.S.J.Santeler,Der Platonismus in der Erkentnislehre des heiligen Thomas von Aquin,’39
E.Grassi,Vom Vorrang des Logos,’39
「内外文獻」、經濟學雜誌6-3 [40442
R.Demos,The Philosophy of Plato,’39
學界消息(T.H.)「ギリシヤに於ける天體祭祀の由來」(M.P.ニルソンの論文。Harvard Theological Review xxxiii,no.1)文化7-6 [40443
佐佐木秀一「夙成と晩成」教育學研究（東京文理大)8-11,12/9-1 [40444
田中茂一(紹介)「自由教育の意義」（L.L.Kardel「廿世紀に於ける自由教育の意味」序文）教育學研究（東京文理大)8-11 [40445
伊藤秀夫「基礎的知性教育の教科案の構造」（Wilhelm Flitner,Von Bau des Lehrplanes der grundlegenden Geistesschauung)
教育學研究（東京文理大)9-1 [40446
小林虎五郎(全譯)「植民と教育」（Wilhelm Patzschke,Was ist Kolonisationsidee der Völker mit ihren Pädagoischen Konsequenzen)

教育學研究(東京文理大)9-1,2　[40447
教育學研究室(紹介)「現代の陶冶的危機」(ハンス・フライエル「Zur Bildungs-krise der Gegenwart)
教育學研究(東京文理大)9-2　[40448
(參考：「昭和14年度官立大學教育學專攻卒論」、
教育學研究(東京文理大)9-3　[40449
・東京文理大：稲井廣吉「ディルタイに於ける歴史と教育」
・廣島文理大：是常正美「ヘーゲル哲學と教育學」
松村三之助「シュライエルマヘエル教育學研究」)
田口芳五郎「公教要理講義」(第一部・信ずべき事(19)。聖アウグスチヌス、聖トーマス・アクイナス等)聲767　[40450
吉滿義彦「復活よりの世界觀」(ベルグソン、プラトン、アウグスチヌス等)
聲770　[40451
關哲夫「秘蹟に就いて」(聖アウグスチヌス等)聲772　[40452
四宮兼之「愛・運命・ロゴス」哲學年報1(九州帝國大學哲學研究會編)　[40453
新開長英「パトスの倫理よりエートスの倫理へ」
哲學年報1(九州帝國大學哲學研究會編)　[40454
肥後和男「「神話」」(高坂正顯著) 京都帝國大學新聞322(11/20)　[40455
長澤信壽「根源的主體性の哲學----西谷啓治氏の大作」(ニイチェ等)
京都帝國大學新聞322(11/20)　[40456
(參考：「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞164(2/7)　[40457
英文學：小森隆夫「サンタヤーナ研究」
佛文學：岸田正「アナトオル・フランス研究」
獨文學：周文哲「Prolegonena zur religionaën God antiken bei Goethe」(歌德[ゲーテ]の宗教觀序說))
川又昇「良書案内」、早稻田大學新聞173(5/1)　[40458
------ 田邊元「哲學通論」、大西祝「西洋哲學史」、波多野精一「西洋哲學史要」、ウィル・ドラント「ザ・ストーリー・オブ・フィロソフィー」(邦譯・[村松正俊譯]「西洋哲學物語」等)
江間道助「ニイチェの生涯----山崎[八郎]・小口[優]・森[儁郎]・野中[正夫]・淺井[眞男]共譯」早稻田大學新聞174(5/8)　[40459
由良哲次「岩波講座「倫理學」」早稻田大學新聞177(5/29)　[40460
小山甫文「文化と禁欲の倫理學」(ベルグソン、スペングラー等)
早稻田大學新聞179(6/12)　[40461
帆足理一郎「波多野精一著「宗教哲學序論」」早稻田大學新聞179(6/12)　[40462
大島豐「デユラント/陶山務譯「哲學夜話」」早稻田大學新聞181(6/26)　[40463
中島健蔵「安倍能成著「青年と教養」」早稻田大學新聞196(12/4)　[40464
學藝雜信「聖アウグスチヌス告白」(服部英次郎譯)
カトリック新聞747(2/18)　[40465
外國圖書「イントロダクション・ア・ラ・フィロソフィ」(25フラン)
カトリック新聞748(2/25)　[40466
「ラスキンの教育觀」カトリック新聞749(3/3)　[40467

鎌田武夫「アウグスチヌス「告白」の新譯」(服部英次郎譯)
カトリック新聞751(3/17),752(3/24) [40468
「學的偉業を讃へて----聖トマスの祝典擧行」カトリック新聞751(3/17) [40469
「きりしたん文獻(5)----ヒデスの導師」カトリック新聞755(4/14) [40470
「早大で聯續講座----小松師を招聘して研究會の活躍」(「聖トマスに於ける神の概念の形而上學的構成に就いて」)」(アリストテレス等) カトリック新聞766(6/30) [40471
學藝雜信「吉滿義彦氏----「中世精神史」を納筆」カトリック新聞775(9/8) [40472
岩下壯一「成義(Justification)の神學」(アウグスチヌス等)
カトリック研究20-1 [40473
岩下壯一「比屋根安定氏の近著について」カトリック研究20-3 [40474
ヌーゲル「現代のヨーロッパ的思惟」(アリストテレス、マルクス・アウレリウス、ニーチェ等) カトリック研究20-3 [40475
江藤太郎「トマス・アクイナスの勝利」(アリストテレス等)
カトリック研究20-3 [40476
ヨゼフ・マレシャル「カトリック神秘主義における脱魂の問題」(アレキサンドリアのクレメンス、プロチノス、聖アウグスチヌス、聖トマス等) カトリック研究20-4 [40477
野田時助「カトリックとプロテスタントに於ける正經の問題」(ギリシア語、ラテン語、アウグスチヌス、ローマのクレメンス等)
カトリック研究20-4 [40478
デュモリン「パスカルに於ける人間の問題」カトリック研究20-6 [40479
吉滿義彦「パスカル的思惟の性格」(聖アウグスチヌス、ソクラテス、ニーチェ、マルクス・アウレリウス、プラトン、聖トマス等)
カトリック研究20-6 [40480
エチエーネ・ジルソン/河盛好藏譯「我等はベルグソンに何を負ふか、偉大なる哲學者の八十の賀に際して」思想212 [40481
新史論展望「中川一男「中世思想のルネサンス的傾向(一)」」(史潮10-1,(二)は史潮11-1[昭16]) 歷史教育15-3 [40482
鹿野治助「稻冨[榮次郎]氏の著書「無と直觀」」哲學研究287 [40483
新刊・高津春繁「R.Gerhard, Studien zur platonischen Substantivbildung」
言語研究5 [40484
新刊・高津春繁「Index Verborum Ciceronis Epistularum」言語研究5 [40485
新刊紹介「桑木嚴翼「讀書餘錄」」(「百年前」[高野長英]、「シエロと石橋」[プラトンとカント]、「哲學と科學との交涉」)
丁酉倫理會倫理講演集450 [40486
三宅雄二郎「教育家の生計」(ソークラテース、プラトーン、アリストテレース、マケドン王フィリップ、アレキサンドル大王、ディオゲネス等) 丁酉倫理會倫理講演集452 [40487
深作安文「忠孝思想」(古代希臘のソークラテース、プラトーン等)
丁酉倫理會倫理講演集452 [40488
紀平正美「行の形式」(希臘的ロゴス思想等) 丁酉倫理會倫理講演集452 [40489

井上哲次郎「中村敬宇先生の人物・性行及び思想」(スマイルス氏「自助論」、「西國立志編」、「西稗雜纂」二册、「自由之理」等)
丁酉倫理會倫理講演集453 [40490
桑木嚴翼「中島[德藏]君の想出」(ソフィスト、ソクラテス等)
丁酉倫理會倫理講演集453 [40491
深作安文「中島德藏氏の長逝を悼む」(「今ソークラテース」)
丁酉倫理會倫理講演集453 [40492
野田義夫「中島德藏氏の追憶」(「余がソークラテース觀」)
丁酉倫理會倫理講演集454 [40493
新刊紹介「桑木嚴翼「西周の百一新論」」丁酉倫理會倫理講演集454 [40494
新刊紹介「遠藤隆吉「生々示及其の修養法」」(porta rheia の周圍・出處、デオゲネス・ラエルテウスの書、希臘を知る古書---- プラトーン、アリストテレース、ストラボーンの書、アレキサンドリアの文化、哲學者の風プローテヌス、アヴナエウスとスイダス、ネオプラトニズムの觀察、ストア老子は自然を愛する等)
丁酉倫理會倫理講演集454 [40495
深作安文「古典とその解釋」(ニーチェ、ヘーゲル、エピクテート等)
丁酉倫理會倫理講演集456 [40496
中川秀恭「ハイデッガーに於ける無の問題」文化7-11,12 [40497
「史學史關係文獻目錄」(西洋史)、史學研究11-3・4(合) [40498
------ ユーベルヱーク/山本光雄譯「大哲學史」
W.Dilthey, Auffassung und Analyse des Menschen in 15. und 16. Jht, 189
H.Riesse, Motive des patritischen Stolzes bei den deutschen Humanisten, Freiburg, 1934
H.Rüdiger, Wesen und Wandlung des Humanismus
O.Willmann, Geschichte des Idealismus,2 Bde.,1907
J.Burnet, Early Greek Philosophy, 4 ed., London,1930
G.W.F.Hegel, Vorlesung über die Philosophie der Geschichte,Brl.,1837
J.G.Herder, Ideen zur Philosophie der Geschichte der Menschheit
F.A.Lange, Geschichte des Materialismus und Kritik seiner Bedeutung in der Gegenwart, 1866
蓑田胸喜「哲學原論」(アリストーテレス、プラトー、ツエノー、logos、ブルーノー、ゲーテ等)原理日本5月號 [40499
ラヴリン/吉岡峰夫譯「ニイチェ」批評2-1,2 [40500
「實妹の筆になる「ニーチェの生涯」---「上巻」若きニーチェ」
日本讀書新聞117(4/25) [40501
「世界精神史講座を觀る」(岩波講座) 日本讀書新聞117(4/25) [40502
吉滿義彦「デカルトよりトマスへの道」(プラトン、アリストテレス、アウグスチヌス、トマス等)デカルト選集月報5號 [40503
吉滿義彦「カトリック教會の倫理思想」(トマス・アクイナス等)
岩波講座「倫理學」3 [40504
三谷隆正「新生と淨福」岩波講座「倫理學」4 [40505

高橋健二「ドイツの青少年教育」科學ペン9月號 [40506
大島豐「デュラント/陶山務譯「哲學夜話」」(プラトン、アリストテレス等)
一橋新聞310(6/25) [40507
「デユ(ア)ランド著「哲學夜話」」三田新聞435(6/25) [40508
讀書・河上徹太郎「アナトール・フランス短編小說全集」(ギリシヤ的肉感性等)
東京朝日新聞1/14 [40509
阿部次郎「私の古典研究(1)(2)(3)---研究を一貫する理解の態度」(ゲーテ、ダンテ等) 東京朝日新聞3/20,3/21,3/22,3/23 [40510
學界餘滴・松原寛「哲學者と結婚」(ソクラテス、プラトー等)
東京朝日新聞5/21 [40511
書評・清水幾太郎「最近の良書(下)」(マクマレーヘン/堀秀彦譯「近代精神の形成」) 東京朝日新聞7/19 [40512
書評・清水幾太郎「中世ヒューマニズムと文藝復興」(ジルソン著/佐藤輝夫譯)
東京朝日新聞8/31 [40513
中河與一「全體主義の萌芽---愛の意味と文化の体制」(プラトン等)
東京朝日新聞10/12 [40514
勝山安太郎「戰爭・歷史・神」(ギリシヤ神話、ヘラクレイタス、ヘーゲル等)
基督敎新聞2911(1/18) [40515
塚原要「われ山に向ひて目をあぐ」(オーガスチン、クオヴァデイス等)
基督敎新聞2911(1/18) [40516
新刊「イーストウッド/由木康譯「パスカル復興」(2)(4)」(ベルグソン、ゼノン「アキレスと龜」、アウガスチン等)
基督敎新聞2912(1/15),2914(2/8) [40517
賀川豐彦「現代の神學と贖罪愛意識」(アリストートル、プラトン、ギリシヤ・ロマ等) 基督敎新聞2913(2/1) [40518
(K.Y.)「人間の悲觀的傾向と基督敎」(ギリシヤ思想等)
基督敎新聞2921(3/28) [40519
星野三雄「パウロ研究に於ける最近の二つの研究」(A.D.Nock,St.Paul/ D.W.Riddle, Paul,Man of Conflict。希臘哲學及アレキサンドリア哲學等)
基督敎新聞2924(4/18) [40520
(鈴木)「人間關係と愛の原理」(ソクラテース等) 基督敎新聞2925(4/25) [40521
(K.Y.)「宗敎に於ける偉人の感化」(ギリシヤ思想等)
基督敎新聞2928(5/16) [40522
海老澤有道「基督者としての中村敬宇先生」(西國立志篇等)
基督敎新聞2931(6/6) [40523
東山正芳「プロテスタントの道」(ギリシヤ文化等) 基督敎新聞2934(6/20) [40524
日高猪兵衛「戰爭と宗敎(下)」(古代ギリシヤ、ギリシヤ文化等)
基督敎新聞2934(6/28) [40525
(M.D.)「道德的實行力（詩篇119.105）」(ギリシヤ人等)
基督敎新聞2941(8/15) [40526
竹内信「基督者の義」(アウグスチヌース、ギリシヤ哲學等)
基督敎新聞2943(8/29) [40527

新刊「基督者への進言」(中山昌樹「ダンテの宗教思想」、中山昌樹「聖アウグスチヌスの愛と敬虔」等) 基督教新聞2946(9/19) [40528
(芹野)「創造の推進力」(ギリシヤ文化、アウグスチヌス等)
基督教新聞2952(10/31) [40529
棟方文雄「歴史的現實と宗教的現實」(田邊元「歴史的現實」批評、アウグスチヌス、ギリシヤ思想等) 基督教新聞2956(11/28) [40530
C.②畔上賢造著作集刊行會編『畔上賢造著作集・第３巻』(パウロ研究) [40531
畔上賢造著作集刊行會編『畔上賢造著作集・第４巻』(パウロの書翰[上]) [40532
カール・バルト/橋本鑑譯『ピリピ書註解---悖れる人々の間に於ける神の子たち。1章27－2章16』 [40533
桑田秀延『使徒信条十二講』(日曜學校パンフレット7) [40534
谷口茂壽『傳道者保羅---興亞の指針』(聖者精神叢書) [40535
③高山岩男「世界史の理念(1)(2)」思想215,216 [40536
金谷重義「古代の都市計劃について」(ギリシヤ・ローマ等)經濟論叢7-1 [40537
野上豐一郎「オベリスク考」思想218 [40538
野上豐一郎「オベリスク出埃及記」(「オベリスク考」續稿)思想219 [40539
高山岩男「歴史の地理性と地理の歴史性」思想221 [40540
西田幾多郎「ポイエシスとプラクシス」思想223 [40541
曾根曉彦「アンチオケ教團と其の背景に就ての一考察」基督教史研究7 [40542
編輯局「文檢研究第91回・模擬試驗成績發表」歴史教育15-1 [40543
井上萬太郎(關東州)「ローマとアフリカとの關係を述べよ」
(參考：編輯局「文檢研究第102回・模擬試驗成績發表」歴史教育15-8 [40544
井上萬太郎(大連)「次の名稱に就きて記せ(甲)ランゴバルド」)
(參考：彙報「西洋史讀書會大會」、史林25-1 [40545
井上智勇「Römische Kolonatの起源と本質」)
(參考：彙報「西洋史學研究發表會---服部良一「歴山大王の融合政策」」、史學研究12-1) [40546
太宰治「走れメロス」(小說。ローマ古代)新潮5月號 [40547
(參考：「同志社大學神學科卒論(昭和14年度)」、基督教新聞2922(4/4) [40548
松野茂「パウロ研究」)
④矢田俊隆「昭和十四年度に於ける我國西洋史學界の狀況」史學雜誌606 [40549
原隨園「波斯戰役の性格」(「東西交涉史論」)
穴原榮三郎「ペルシヤ戰役前後に於ける兩國財政の比較」(史學18-2・3)
(Andre Andreades「ギリシヤ經濟史」)
相澤友「ゼノンの「ポリテイア」に就いて」(歴史學研究9-11)
藤井義夫「古代アカデミーとポリス」(一橋論叢3-2)
藤井義夫「アリストテレス研究の歴史とその現段階」(一橋論叢4-4)
中西敬二郎「キプロス島に於ける太母崇拜に就いて」(史觀18)
中西敬二郎「希伯來交通史上に於けるキプロス島」(基督教史研究2)

田中秀央・黒田正利『ギリシヤ文學史』
原隨園『希臘神話』
村川堅太郎譯『アリストテレス、經濟學・アテナイ人の國制』
田中周友「古代ローマの民會に於ける投票」（佐藤教授退職記念論文集・法及政治の諸問題）
井上智勇「ラティフンディアの成立と經營」（史林24-1,2）
栗生武夫「ローマの農奴制」（公法雑誌10月號）
宮下孝吉「タキトスに對する解釋論」（坂西博士記念論文集）
祇園寺信彦「古羅馬Manuzipalwesen研究狀況」(西洋史研究14)
村川堅太郎「「エリュトラ海案内記」に見えたる紀元一世紀の南海貿易」
廣島定吉譯『ストルヴェ・世界古代史』
村山勇三譯『ギボン・羅馬帝國衰亡史』(改装版)
＊［訂正］(參考：彙報「第百七十五回讀史會例會」史學雜誌609　中　[24508]　[40550
村川堅太郎「M.Rostovzeff,Dura Europos and its Art,1938　」　）
＊［訂正］間崎萬里「史學及び西洋古代史研究書目選」　[13042]　[40551
「歴史の定義及び解釋」：ベルンハイム/小林秀雄譯「史學研究法」・ヘーゲル/鈴木權三郎譯「歴史哲學」(全集3)・ヘルダー./田中萃一郎・川合貞一譯「歴史哲學」(2 巻、泰西名著歴史叢書)・ランケ/村川堅固譯「世界史論進講錄」・クローチェ/羽仁五郎譯「歴史敍術の理論及歴史・A.Toynbee,A Study of History, 3 vols.,1934等。
「圖書及び著作法」：Th.Birt,Das antike Buchwesen,1882
K.Dzintzko,Untersuchungen über ausgewählte Kapital des antiken Buchwesens,1900
F.G,Kenyon,Books and Readers in Ancient Greece and Rome,1932
N.Lewis,L'Industrie du papyrus dans l'Egypte gréco-romane,1934
W.Schubart,Das Buch bei den Griechen und Römern,1921
「記時法」：F.H.Colson,The Week:an Essay on the Origin and Development of the Seven Days Cycle,1926
O.Lentze,Die römische Jahrzählung,1909
Aug.Mommsen,Chronologie,Untersuchungen über das Kalenderwesen der Griechen,1883
M.P.Nilson,Die Entstehung und religiöse Bedeutung des griechischen Kakendders,1918
「ユダヤの歴史」：
「ギリシヤ及びローマの修史」：J.B.Bury,The Ancient Greek Historians,1909
W.von Christ,Geschichte der griechischen Literture,ed. by W.Schmidt, vol.I,6 te Aufl.,1912,vol,II,5 te Aufl.,1908,vol.III. 6 te Aufl.,1920-24
A.& M.Croisset,Histoiure de la literature greque,5 vols.,rev.ed.,1910-21
J.W,Duff, A Literary History of Rome,1909
------ A Literary History of Rome in the silver Age,1927
F.Jacoby,Die Fragmnete der griechischen Historiker,2 vols.,in 6,1923-30

C.Müller,Fragmnete historicorum graecorum,5 vols.,1841-1870
G.Murray,A History of Ancient Greek Literature,1897
Pauly-Wissowa-Kroll,Real-encyclopädie derclassischen Altertums-Wissenschaft,1893ff
H.Pater,Historicorum romanorum reliquiae,2 vols.,1870-1906
------Historicorum romanorum fragmenta,1883
H.J.A.Rose,A Handbook of Greek Literature,1934
----- A Handbook of Roman Literature,1934
M.Schanz,Geschichte der römischen Literatur,ed. by C.Hosius,vol. I.4te. Aufl.,1927.vol.II.4te.Aufl.,1935,vol.III,3te.Aufl.,1922,vol.IV. 2te.Aufl.,1914
W.S.Teuffel, Geschichte der römischen Literatur,3 vols.,6 te.Aufl., 1913-20
K.Wachsmuth,Einleitung in das Stadium der alten Geschichte,1895
M.Büdinger,Die Universalhistorie im Alterthume,1895
T.Frank,Roman Historiography before Caeser,in A.H.R.XXXII,927
M.Galdi,L'epitome nella leteratura latine.1922
A.von Gutschmid,Kleine Schriften,5 vols.,1880-94
F.Jacoby,Ueber die Entwicklung der griechischen Historiographie,Klio, IX,1909
F.Leo,Die griechisch- römische Biographie,1901
E.Norden,Die antike Kunstprosa,1808
B.Perrin,History,in Greek Literature,a Series of Lectures Delivered at Columbia University,1912
H.Peter,Die geschichtliche Literatur über die römische Kaisezeit bis Theodosius I und ihre Quellen, 2 vols.,1897
---- Wahrheit und Kunst,Geschichtsschreibung und Plagiat im klassischen Altertum,1911
R.Reitzenstein,Hellenistische Wundererzählungen,1906
W.Ripl,Die Nachrichitenwesen des Altertums mit besonderer Rucksicht auf die Römern,1912
F.Scheller,De hellenistica historiae cnscribendae arte,1911
O.Seek,Die Entwicklung der antiken Geschichtsschreibung und andere populäre Scriften,1898
G.C.W,Soltan,Die Anfänge der römischen Geschichtsschreibung,1909
E.Taubler, Die Anfänge der römischen Geschichtsschreibung,in Tyche, 1926
A.Toynbee,Greek Historica Thought,1923
----- History,in the Legacy of Greece,1922
U.von Wilamowitz-Moellendorffe,Greek Historical Writing,1908
Herodotus(L.C.L.,A.D.Godley,4 vols.,1921-24;G.Rawlinson,4 vols., 1859-1864)
W.Aly,Volksmärchen, Sage und Novellen bei Herodot und seiner Zeit-genossen,1921
Fr.Focke,Herodot als Historiker,1927
T.R.Glover,Herodotus,1924
A.Hauvette,Hérodote historien des guerres mediques,1894
R.W.Macan,Herodotus,the Fouth,Fifth,and Sixth Books, 2 vols.,1895

----- Herodotus,the Seventh,Eighth,and Ninth Books, 2 vols.,1908
E.Meyer,Herodots Geschichtswerk,in Forschung zur Alten Geschichte,II. 1899
M.Pohlenz,Herodot der erste Geschichtsschreiber des Abendlandes,1937
Thucydides(L.C.L.,F.Smith, 4 vols.,1919-23:B.Jowett, 2 vols.,1881)
G.F.Abbot, Thucydides,a Study in Historical Reality,1929
C.N.Cochrane, Thucydides and the Science of History,1929
F.M.Cornford, Thucydides Mysthistoricus,1907
W.H.Forbes, Thucydides, Book I,1895
G.B.Grundy, Thucydides and the History ofHIs Age,1911
E.Meyer, Thucydides und die Entstehung der wissennschftlichen Geschich tsschreibung,1913
----- Thucydides,in Forschungen zur Alten Geschichte,II,1899
E.Schwartz,Das Geschichtswerk Thucydides,1919
Xenophon(L.C.L.C.L.Brownson & O.J.Todd, ? vols.,1922-)
A.Croiset, Xenophon,son character et talent,1873
H.G.Dakyns, Xenophon,in E.Abbot(ed.),Hellenica,1878
Ephorus:
G.L.Barber,The Historian Ephorus,1935
R.Laqueur, Ephorus,in Hermes, XLVI,1911
Theopompus:
E.Meyer, Theopompus Hellenika,1909
Aristotle(L.C.L.H.Rackham,1935)
F.G,Kenyon, Aristotle on the Consitution of Athens,2d ed.,1891
G.Mathieu & B.Haussoullier, Aristote: Consitution du Athènes,1922
J.E.Sandys, Aristotle's Consitution of Athens,1893
U.von Wilamowitz-Moellendorffe, Aristoteles und Athen,2 vols.,1893
原隨園譯『アテナイ人の國家』(岩波文庫、改訂版、昭12)
村川堅太郎譯『アテナイ人の國制』(アリストテレス全集第16巻、昭15)
Berossos：
P.Schnabel, Berossos und die babylonisch-hellinische Literatur,1923
Polybius(L.C.L.W.R.Paton,6 vols.,1922-27)
O.Cuntz, Polybius und sein Werk,1902
T.R.Glover, Polybius in Cambridge Ancient History, vol.VIII,1930
W.Siegfried,Studien zur geschichtlichen Anschauung des Polybios,1928
E.Täuber,In Tyche,1926,pp.74ff.
C.Wunderer, Polybios,1927
Apollodorus：
E.Jacoby, Apollodoros Chronik,1902
Diodorus(L.C.L.C.H.Oldfather,1933-)
M.Büdinger,Die Universalhisorie im Altertume,1895
C.Wachsmuth,Ueber das Geschichtswerk des Sikelioten Diodorus,1892
Dionysius(L.C.L.M.Cary,1937-)
F.Halbfas,Theorie und Praxis in Geschichtsschreibung bei Dionysos von Halikarnass,1910
W.R.Roberts, Dionysius of Halicarnassus,the Three Literary Letters,1901

Josephus(L.C.L.H.St.J.Thackeray & R.Marcus,1926-)
R.Laqueur,Der jüdische Historiker Flavius Josephus,1920
H.St.J.Thackeray, Josephus the Man and the Historian,1929
Plutarch(L.C.L.B.Perrin,11 vols.,1914-33)
A.Weizsäcker,Untersuchungen über Plutarchs biographische Technik,1931
U.von Wilamowitz-Moellendorffe, Plutarch als Biograph, in Reden und Vorträge,4 te.Aufl.1926
Arrian(L.C.L.E.I.Robson,2 vols.,1929-33)
Applan(L.C.L.H.White,4 vols.,1926)
Dion Cassius(L.C.L.E.Cary,9 vols.,1914-27)
Sallust(L.C.L.J.C.Rolfe,2d ed.,1931)
W.Baehrens, Sallust als Historiker,Politiker,und Tendenzschriftteller,1926
W.Schur, Sallust als Historiker,1934
E.Schwartz,Die Berichte über die catilinasische Verschwörung, in Hermes, XXXII,1897
Livy(L.C.L.B.O.Foster & E.T.Sage,1910-)
H.Bornecque,Tite Live,1933
W.Soltan,Livius Geschichtswerk,seine Composition und seine Quellen, 1897
H.Taine,Essai sur Tite Live,1855
Pompeius Trogus(Justin)(tr.J.S.Watson,in Bohn Library,1853)
M.Galdi,L'Epitome,Chap.X
Velieius Paterculus(L.C.L.F.W.Shipley,1924)
Tacitus(L.C.L. C.H.Moore & J.Jackson,1925-)
G.Boissier,Tacitus and other Roman Studies,Eng.tr.,1906
E.Courbaud,Les Procédés d'art de Tacite dans les Histoires,1918
Ph.Fabia,Les Sources de Tacite dans les Histoires et les Annals,1893
H.Furneaux,The Annales of Tacitus,2 vols.,1884-91
R.Reitzenstein,Tacitus und sein Werk,1926
Suetnius(L.C.L.J.C.Rolife,2 vols.,1914-20)
A.Macé,Essai sur Suétone,1900
Scriptores Historiae Augustae(L.C.L.D.Magie,3 vols.,1922-32)
T.R.Glover,Life and Letters in the Fourth Century,1901
「キリスト教の修史」：The Ante-Nicene Fathers,10 vols.,1905
O.Bardenhewer,Geschichte der altkirchlichen Literature,5 vols.,1914-32
Eusebius Werke,Die Chronik aus dem armenischen übersetzt,von Josef Karst,1911
Eusebii pamphili Chronici canones ,Latine----Hieronyms.ed., by J.H. Fotheringham,1923
J.N.Figgis,The Political Aspects of St.Augustine's City of God,1921.Ch.II.
H.Gelzer,Sextus Jullius Africanus und die byzantinische Chronographie, 2 vols.,1880-85
A.Harnack,Geschichte der altchirtlichen Literatur,2 vols.,in 4,1893-1904
F.J.Jackson,Foakes and Kirsopp Lake,The Beginning of Chrisianity,5 vols. 1920-33
P.de Labriolle,Histoire de la litérature latine chrétience,1920
The Nicene and Post-Nicene Fathers,First Series 14 vols.,Second Series 14

vols.,1905-06
Orosius,Seven Books of History against Pagans,Eng.tr.1936
A.Schöne,Die Weltchronik des Eusebius,1900
「新刊書目」、哲學研究287中---- [40552
W.Jaeger,Demosthenes,Der Staatsman und sein Werden,Berl
紹介と批評・西村貞二「Herder:B. von Wiese,Grudzüge seines Weltbildes,1939」
歴史學研究10-2 [40553
紹介と批評・林健太郎「鈴木成高「ランケと世界史學」」歴史學研究10-2 [40554
石母田正「クロオチェの歴史理論についての感想---羽仁[五郎]氏の近業「クロオチェ」の紹介をかねて」歴史學研究10-3 [40555
＊[訂正]昨年度史學界・回顧と展望」、歴史學研究10-4 [13057] [40556
----- 東洋史篇：西域・南海(田邊興道)
西洋史篇・古代史(三浦一郎、板倉勝正)、中世史(堀米庸三、倉橋文雄、岩永博)、近世史(内藤智秀、倉橋文雄、矢田俊隆、堀米庸三)
紹介と批評・今來陸郎「G.イースト/小原敬士譯「世界史の自然的基礎」」
歴史學研究10-8 [40557
高山一十「フィヒテの歴史哲學---理性國家と歴史」歴史學研究10-11 [40558
「内外文獻」、經濟學雜誌6-2 [40559
C.W.Reinhardt,An Outline of Roman History,'39
G.Tagliacarne,Sviluppo della città di Roma in cofronto alle alter maggiori città Italiano,'39
「内外文獻」、經濟學雜誌6-5 [40560
W.S.Ferguson,Polis and Idia of Periclean Athens,Am.Hist.R.45-2,'40
「内外文獻」、經濟學雜誌7-2 [40561
C.F.C.Hawkes,The Prehistoric Foundations of Europe to Mycenean Age,'40
平山平次「樺俊雄「歴史に於ける理念」」早稻田大學新聞186(9/18) [40562
武藤智雄「イタリヤに於ける歴史記述の契機と展望」史淵24 [40563
（參考：彙報「京大15年度卒論」、歴史地理75-5 [40464
會田雄次「盛期ルネサンスに於ける個人の一問題」）
（參考：彙報「日本諸學振興委員會第2回歴史學會」、歴史地理76-1 [40565
「一、研究發表---村岡晢「十九世紀ドイツ史學の基調」
「二、公開講座---大類伸「歴史に於ける自由と運命」）
新著「鈴木成高「ランケと世界史學」」歴史教育15-4 [40566
（參考：史界近事「日本諸學振興委員會第2回歴史學會」、歴史教育15-9 [40567
村岡晢「十九世紀ドイツ史學の基調」）
紹介(村田教授)「J.D.S.ペンドルベリー「クリート考古學」」(J.D.S.Pendlebury, The Archaeology od Crete, An Introduction,London, 1929)
史林25-1 [40568
紹介「鈴木成高「ランケと世界史學」」史林25-2 [404569
紹介(會田雄次)「ワルス・K・ファーガソン「ルネサンスのヒューマニスト的見解」」(Wallce K.Ferguson, Humanist View of Renaissannce, American Historical Review, vol.XLV.no.1)史林25-3 [40570
紹介・前川貞次郎「Ch.Dawson, The Making of Europe:An Introduction to the History of

European Unity 400-1000 A.D., London, 1933」史林25-4 [40571
（參考：彙報「西洋史讀書會」、史林25-4 [40572
前川貞次郎「Ch.Dawson, The Making of Europe」）
林健太郎「歷史觀と歷史教育」教育(岩波)8-7 [40573
樺俊雄「ランケの理念論」大正史學3-12 [40574
堀喜望「マイネッケ「歷史的感覺と歷史の意味」」哲學研究290 [40575
田邊元「永遠・歷史・行爲」（ランケ史學等)哲學研究295,296,297 [40576
布川靜淵「東西二大戰爭の世界史的意義」(H.N.シュパルヂング「東西の文明」1939年刊。「希臘思想とヘブライ思潮の交響」、ローマ帝國等) 丁酉倫理會倫理講演集453 [40577
平塚博「「中世」の誕生」(研究史)文化7-3 [40578
新刊・村岡哲「鈴木成高「ランケと世界史學」」文化7-4 [40479
新刊「鮎澤信太郎「東洋地理思想史」」文化7-12 [40580
寺田四郎「海賊考」海法會誌25 [40581
千代田謙「精神史的傾向と社會史的傾向----第十九世紀史學史の一側面」史學研究11-3・4(合) [40582
「史學史關係文獻目錄」(西洋史)、史學研究11-3・4(合) [40583

------ B.Croce,Zur Theorie und Geschichte der Historiographie ,Tüb.,1915
B.Croce,Zur Theorie und Geschichte der Historiographie und Betrachtungen zur Philosophie der Politik, Tüb.,1930
W.Dilthey,Der Aufbau der geschichtlichen Welt in der Geisteswissenschaften
A.Jordan, The Great Historians of ancient and modern Times,1914
ヘルデル/田中萃一郎・川合貞一譯「歷史哲學」(昭8)
ヘーゲル/鬼頭英一譯「歷史哲學」(昭8)
樺俊雄「歷史哲學概論」(昭10)
ヘーゲル/今田竹千代譯「歷史哲學序論」(昭4)
L.Kochem,Die geschichtsphilosophischen Beziehung zwischen Augustinus und Buset,1924
K.Korsch, Die materialistische Geschichtsauffasung, Lpz., 1929
E.Meyer, Kleine Schriften zur Geschichtstheorie und zur wirtschaftlichen und politischen Feschichte des Altertums,Halle,1910
E.Meyer, Zur Theorie und Methodik der Geschichte,Halle,1902
E.Meyer, Humanistische und geshichtliche Bildung, Brl,1927
W.Rehm, Der Untergang Roms im abendlandishcen Denken, Lpz.,1930
H.Sée, Materialigume historique et interpretation èconomique d l'histoire, Paris,1927
E.Seligman, The Economic Interpritation of History
R.Stammler, Die materialistische Geschichtsausfassung, 1921
坂口昂「世界史論講」
K.Borries, Die Romantik und die Geschichte,1925
E.Brendenburg, Die materialistische Geschichtsausfassung,ihre Wesen und ihre Wander ung,Lpz.,1920
E.Breisig, Die Meister der entwicklunden Geschichtsforschung,Breslau, 1935

E.Breisig, Deutsche Geschichtschreibung im Zeitalter Herders,1926
J.B.Bury, The Idea of Progress,,1924
R.Friedrich, Cäsar im Urtei der neueren Geschichtschreibung, Lpz.u. Brl.,1931
K.Lamprecht, Alte und neue Richtungen in der Geschichtswissenschaf Brl.,1896
松原寛「ヘーゲルと歴史哲學」
千代田謙「近世史學史序說」、「近世史學史」
坂口昂「獨逸史學史」
J.G.G.Graevius, Theasaurus Antiquitatum et Historiarum Italiae, Leiden, 1704-1723
T.L.Haering, Die Structur der Weltgeschichte, Tüb.,1921
------「二、古代・中世」
F.Argelati,Bibliotheca Scriptiorum Mediolanesium,Marland,1745
E.Bernheim,Mittelalterliche Zeitanschauungen im ihrem Einfluss auf Politik und Geschichtsschreibung,Tüb.1918
M.Büdigner,Die Universalhistorie im Altertum,1895
J.B.Bury,The Ancient Greek Historians,1909
W.Christ,Geschichte der griechischen Litertur,3 Bde.,Mün.1920-29
T.W.Danzel,Die Anfänge der Schrift,Lpz.1929
J.W.Duff,Literary History of Rome,Lond.,8ed.,1928
A.Ebert,Allgemeine Geschichte der Literatur des Mittelalters im Abentlande, 3 Bde.,Lpz.1880-1889
H.v.Eicken,Geschichte und System der mittelalterlichen Weltanschaungen, Stuut.,1888
Gecke-Edd Norden,Einleitung im die Altertumswissennschaft,1921
T.Gomperz,Griechische Denker,1895
A. et M.Croisset,Histoire de la Literature Greque,5 vols.,Paris,1921
G.Mahaffy,History of classical Greek Literature,2 vols.,5 ed .,Lond.,1910
E.Meyer,Thukydides und Entstehung der wissenschaftlichen Geschichts-schreibung,1913
G.Murray,History of ancient Greek Literature,N.Y. & Lond.,1927
W.Peter,Wahrheit und Kunst, Geschichtsschreibung und Plagiat im klassi-schen Altertum,1911
R.Reitzenstein,Werden und Wesen der Humanität im Altertum,Strass.,1907
A.Rosenberg,Einleitung und Quellenkunde zur römischen Geschichte,1921
M.v.Schanz,Geschichte der römischen Literature,4 Bed.,Hdb.,1907-14
O.Seek,Die Entwicklung der antiken Geschichtsschreibung,1898
J.T.Shotwell,Introdution to the Histiyr of History,N.Y.,1922
W.Soltan,Die Anfänge der römischen Geschichtsschreibung,Lpz.,1909
W.Teufell,Geschichte der römischen Literature,3 Bde.,1910/20
Vossius,Historici latini,1627
K.Wachsmuth,Einleitung in das Studium der alten Geschichte,1895
H.v.Zeissberg,Die polnische Geschichtsschreibung des Mittelalters,1908
E.Zeller,Grundriss der Geschichte der griechischen Philosophie,6 Aufl.,Lpz. 1901
ジェブ/木下正路譯「古代希臘文學總說」

田中秀央・井上增次郎「ギリシヤ文學史」
ハウイ・ライマン/岡田光雄譯「ドイツ古典文學史批判」
K.Beisig,Die Meister der entwickelnden Geschichtsforschungen,Breslau, 1935
K.Beisig,Deutsche Geschichtsschreibung im Zeitalter Herders,1898
J.B.Bury,The Idea of Progress,1924
B.Croce,Storia della storiografie italiana nel secolo 19,Bari,1921
W.Dilthey,Studien zur Geschichte des deutschen Geistes,Lpz.,u.Berl.,1927
W.Dilthey,Die Jugendgeschichte Hegels und andere Abhandlungen zur Geschichte des deutschen Idealismus,Lpz.,u. Berl.,1925

彙報・渡邊鼎「箕作元八先生」史學研究11-3・4(合) [40584
(參考：彙報「(廣島文理大)昭和14年度卒論」、史學研究12-1 [40585
山崎義藏「ゲーテの歴史思想---- 歴史的時間像を中心として」)
「最近史界」、史學研究12-1 [40586
---- E.Rothacker,J.J.Dyroisens Historik(H.Z.,Bd.161,Heft 1,1939)
J.Schaenebeck,Beiträge zur Religionspolitik des Maxentius und Conatantin (Klio,Beiheft 43,1939)
「最近史界」、史學研究12-2 [40587
-----小林秀雄「ランケ派の政治史家モムゼン」史苑13-3,4
平塚博「「中世」の誕生」文化7-3
C.Selmer, An Unpublished Collection of Psedo-Aristotelian Paroimia (Speclum, vol.xv, no.1,1940)
新刊「高山岩男「世界史の理念」」史學研究12-2 [40588
ゲオルグ・シュールマンマー「日本歴史の著書、通詞ヨハン・ロドリゲス神父」史學19-3 [40589
間崎萬里「史學及び西洋古代史研究書目選」史學19-4 [40590
渥美清太郎「通俗文化史・圖書舘の歴史」新若人9月號(創刊號) [40591
小此木眞三郎「西洋の歴史を理解するには」(ギリシヤ)
日本讀書新聞127(8/5) [40592
增田四郎「歴史に探る新しき倫理---マキャヴェリ/多賀幹彦譯「ローマ史論」の邦譯」一橋新聞315(10/10) [40593
成層圈・上原專祿「讀誌雜考」(ギリシヤ・ローマ史、ハーゼブロック、ツィーベルト、E.マイヤー、アルトカンプ、シャッツマイヤー、テニー・フランス等)
一橋新聞318(11/25) [40594
高橋誠一郎「大學圖書舘の開放---歐洲大戰と洋書飢饉」 (ペルガモン文書、アレキサンドリア圖書舘等) 東京朝日新聞6/7 [40595
村川堅固「地中海爭覇戰---英佛伊の宿命的角逐場」(古ローマ帝國等)
東京朝日新聞6/13,14,15 [40596
淺川治平「ム(ッソリーニ)首相と地中海」(大ローマ帝國、ケーザル等)
東京朝日新聞6/20 [40597
D.①石島三郎『山上の垂訓、マタイ傳第五―七章講解』(葡萄之枝文庫5) [40598
ジョン・ウェスレー/肥後吉秀譯『ロマ書要解』 [40599
ジョン・カルヴィン/松谷義範・石川靜子譯『エペソ書註解』 [40600

②東洋經濟新報社『明治大正昭和經濟文化展覧會目錄』(伊會保) [40601
濱田耕作『日本美術史研究』(ギリシヤ建築等。→昭18, 第4版) [40602
クローチェ/黒田正利譯『ダンテの詩篇』(刀江書院) [40603
畔上賢造著作集刊行會編『畔上賢造著作集９−−−英文學(下)[ミルトンの生涯]』
(「ミルトン研究第1・ミルトンの生涯」?)
[40604
ヴェスパー/渡邊格司譯『ヘルデルリーンの生涯』 [40605
豐田實「Shakespeare in Japan:An Historical Survey」(岩波書店) [40606
板澤武雄『杉田玄白の「蘭學事始」----附・日本民族の海外發展史』(ラヂオ新書5)
[40607
③岡崎文彬「古代ローマに於けるウィラ、特にその庭園に就て」
建築學研究96,97 [40608
黒田正利「アカデミアの文學者達」京都帝國大學新聞322(11/20) [40609
大島康正「悲劇と人間存在」(ギリシア悲劇等)哲學研究292,293 [40610
津田左右吉「漢文とラテン語」東洋史會紀要22-4 [40611
④「新刊書目」、哲學研究291中---- [40612
Ē.Gilson,Dante et la philosohpie,Paris
「新刊書目」、哲學研究294中---- [40613
H.A.Korff,Geist der Goethezeit 3,Teil Romantik,Frühromantik,Lpz.
(參考：會報「京大讀書會大會」、歴史學研究10-1 [40614
鹽見高年「ペトラルカ研究の問題」
村田數之亮「クラッシークの本質と限界---ギリシヤ美術史上における」)
紹介と批評・金澤誠「エティンヌ・ジルソン著/佐藤正彰譯「中世ヒューマニズムと文藝復興」(佛蘭西文藝叢書10)」歴史學研究10-9 [40615
紹介と批評・三浦一郎「村田數之亮「希臘美の性格」(弘文堂教養文庫)」
歴史學研究10-11 [40616
增田重光「イタリヤ・ルネサンスとサヴォナローラの運動」
歴史學研究10-12 [40617
新刊「トマス・マンハル「ラテン語の手引」」聲773 [40618
新刊「ジルソン「中世ヒューマニズムと文藝復興」」聲775 [40619
新刊「レオン・パジェス/吉田小五郎譯「日本切支丹宗門史」(中)」聲776 [40620
「新文學論全集」(6册)中----- [40621
・第4巻---- 福原麟太郎「敍事詩」
萩原朔太郎「抒情詩」
新關良三「悲劇」
渡邊一夫「喜劇」
・第6巻---- 本多顯彰「世界文學」
島田謹二「比較文學」
松平千秋「田中秀央・黒田正利兩氏著「詳說・ギリシア文學史」」
京都帝國大學新聞309(2/5) [40622
大山定一「ドイツ文學史の方法----鼓常良氏著「ドイツ文學史」」
京都帝國大學新聞314(6/5) [40623
工藤直太郎「花園兼定著「洋學百花」」(「ヘボンと田之助」「南蠻外來語史」)

早稻田大學新聞161(1/17) [40624
(參考：「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞164(2/7) [40625
英文學：若杉森榮兒「マシュウ・アーノルドの批評研究」
高田二郎「ウオルター・ペイタア研究序說」
矢澤淨「ペイタアの思想とその展開」
境全信「ウオルター・ペイタアの研究」)
山岸光宣「鼓常良「ドイツ文學史」」早稻田大學新聞177(5/29) [40626
石橋孫一郎「詩と科學と」(プラトー、キーツ、ラスキン、G.サートン「科學史と新ヒューマニズム」等) 早稻田大學新聞186(9/18) [40627
岡一男「グンドルフ/小口優譯「詩人と英雄」(改譯版)」(ゲーテ論、「ヘルデルリーンの多島海」等) 早稻田大學新聞188(10/2) [40628
岩崎勉「エラスムス/池田薫譯「愚神禮讃」」早稻田大學新聞196(12/4) [40629
「茅野蕭々教授(工)(大)でゲーテの講義」、三田新聞429(2/25) [40630
(參考：「(慶大)卒論」、三田新聞429(2/25) [40631
文學部：西脇教授下：近藤良男「ヂエイムズ・ヂョイスとその作品」)
村松梢風「馬場孤蝶先生と泊鷗會」(ホーマー「イリヤード」等)
三田新聞435(6/25) [40632
佐藤朔「エティンヌ・ジルソン著/佐藤正彰譯「中世ヒューマニズムと文藝復興」」
三田新聞441(10/6) [40633
今泉孝太郎「シラーの逸語」三田新聞442(10/15),443(10/25),444(11/6),445(11/16) [40634
吉川靜雄「アナトール・フランス作/伊吹武彦譯「シルヴェストル・ボナールの罪」」
三田新聞442(10/15) [40635
「パジェス著/吉田小五郎譯「日本切支丹宗門史」」三田新聞442(10/15) [40636
「吉利支丹文獻の集大成」(ラウレス博士「吉利支丹文庫書誌出づ」)
カトリック新聞749(3/3) [40637
「きりしたん文獻(9)-----平家物語、伊會保物語、金句集」
カトリック新聞759(5/12) [40638
「きりしたん文獻(10)----アルバアレス編「ラテン文典」(天草1594年刊)」
カトリック新聞760(5/19) [40639
江藤太郎「ドミヌスと文法」カトリック新聞789(12/15),791(12/29) [40640
笹谷道雄「昭和十五年度出版界を顧みて」(ラウレス師「切利支丹文庫」)
カトリック新聞791(12/29) [40641
新史論展望「村田數之亮「ギリシア・クラシックの本質と限界(1)」」
(史林25-2)歴史教育15-3 [40642
新史論展望「鹽見高年「ペトラルカとルネサンスの問題」」
(西洋史研究15)歴史教育15-10 [40643
ヂンスモーア/槌屋古典抄譯「ダンテの秘密」基督信徒之友74,75,76,77,78,79,80 [40645
土井忠生「文祿元年の日本耶蘇會目錄」史學19-3 [40646
三田文學會「弔辭---馬場弧蝶先生追悼記」三田文學15-9 [40647
フリッツ・シュトウリヒ作/井出貴夫譯「詩人と國家」三田文學15-11,12 [40648

宮崎市定「東洋のルネサンスと西洋のルネサンス」史林25-4 [40649
紹介(西井克己)「村田數之亮「希臘美の性格」」史林25-4 [40650
ハンナ・フィッシャー・ラムベルク/佐藤新一譯「シャルロッテン・フォン・シュタイン----ゲーテの一「教養體驗」」
獨逸文學3-4 [40651
ディートリヒ・ゼッケル/藤戸正二譯「獨逸に於ける新しいヘルダーリン像」
獨逸文學4-1 [40652
新刊紹介「Regina Häusler, Das Bild Italiens in der Dtsch. Romantik, 1939」
獨逸文學4-1 [40653
新刊紹介「Das Leben Goethes, von Hermenn Grimm」獨逸文學4-2 [40654
阿部知二「バイロン」文學界7-3,4,5,6,7 [40655
(T・S)エリオット/中橋一夫譯「異神を追ひて」文學界7-3,4 [40656
リルケ/石中象治譯「ロダン論」文學界7-3,4 [40657
新刊紹介「日獨文化協會「日獨文化」」(新關良三「シラーと現代獨逸」)
丁酉倫理會倫理講演集452 [40658
「史學史關係文獻目錄」(西洋史)、史學研究11-3・4(合) [40659
------R.Sabbadini,Storia e catica di testi latini,1914
R.Sabbadini,Il metodo degli Umanistini,1920
Schlosser, Über die ältere Kunsthistorigraphie der Italianer, 1929
A.Gaspary, Geschichte der italianischen Literatur,Strasburg, 1885-1888
M.Joachimi, Der Weltanschauung der Romantik,1905
E.Kircher, Philosophie der Romantik
G.Voigt, Wiederbelebung des kalssischen Altertums,1859
W.N.Christ, Metrik der Greiechen und Römer,1829
R.Sabbodini, Le Scoperte dei corici latine e greci nel secoli xive e xv,1914
「最近史界」、史學研究12-1 [40660
----島田雄次郎「フィチンガのエラスムス論」史苑13-4
ワイルド「ペイタアの散文」批評2-6 [40661
新關良三「鼓常良教授の力作「ドイツ文學史」---日本人による最初のもの」
日本讀書新聞120(5/25) [40662
森口多里「西洋美術を學ばうとする人に」(ギリシア・ローマ美術史文獻案内・邦文) 日本讀書新聞122(6/15) [40663
讀書欄「愚神禮讃---エラスムスの情熱」日本讀書新聞138(11/25) [40664
讀書「青木健一・平賀光司「ひらがなイソップ物語」」圖書舘雜誌34-1 [40665
讀書「板澤武雄「杉田玄白の蘭學事始」」圖書舘雜誌34-3 [40666
茅野蕭々「ドイツ文學史」(鼓常良氏の大著) 東京朝日新聞6/28 [40667
新村出「序文に代へて」(野尻抱影著「星と東西文學」) [40668
E.②ライリス・アレキサンダー・ゴスリン/丸川仁夫譯『教會と國家』 [40669
栗生武夫『法律史の諸問題』 [40670
(參考:久保正幡譯『リブアリア法典』) [40671
③＊[訂正]資料「昭和十五年三月施行・東京・京都・東北・九州各帝大法文學部試驗問題」法律時報12-5 [13148] [40672
-----政治學史:東京(南原教授)二問選擇「一、ギリシヤ國家觀の特徴を

論ず、一、マキャヴェリの政治思想とその現代的意義を論ず」
京都(牧教授)「左の諸氏の政治學に關する主著の名を擧げ其れに見ゆる國家觀の特色を述べよ。一、プラトン、二、トマス・アクイナス、三、マキアヴェリ、四、トマス・モア、五、モンテスキウ」
九州(今中教授)「トーマス・アキナス及びそれに到るまでの自然法理論の發達を說明せよ」
政治史：京都(池田教授)「一、(イ)十七條憲法に拜する政治的理想をプラトーンの「哲人政治(aristocratia)」と關聯して、謹述し、併せてその御理想より見たる、我憲政成立の意義に論究せよ」「二、古代より中世に互り立憲政治學說の基本原理の萌芽について說明せよ」
法制史・法史學：東北(栗木教授)「ローマ法經受と農民の地位の向上」
(參考：「昭和十五年三月施行法學科試驗問題」(第二講座)日本法學6-4 [40673
政治・思想史・學史/小林「一、プラトーの政治學說」「ニ、アリストテレスの最善の國家組織」「三、アリストテレスの政治學說」)
(參考：「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞164(2/7) [40674
史學科：中島健一「歐洲古代經濟地理」)
(參考：編輯局「文檢研究第99回・模擬試驗成績發表」歷史教育15-5 [40675
苅田益二(福井縣)「ローマ帝國成立前後の社會經濟事情に就きて記せ」)
澤崎堅造「聖トマスの法と愛」經濟論叢50-1 [40676
澤崎堅造「聖アウグスチヌスの共同體思想」經濟論叢50-5 [40677
④「新刊書目」、哲學研究287中---- [40678
T.S.Eliot,The Idea of Christian Society,London
(參考：會報「京大讀書會大會」、歷史學研究10-1 [40679
高橋金也「マキアヴリ解釋に就いての一考察」)
紹介と批評・三浦一郎「村川堅太郎譯「アリストテレス「經濟學・アテナ人の國制」歷史學研究10-2 [40680
(參考：學界消息「法政研究會」、法と經濟(立命館大學)13-3 [40681
森義宣「西洋政治思想の發展」)
(參考：「學界消息」、法と經濟(立命館大學)14-1 [40682
森義宣「中世の政治思想について」(アリストテレス等))
典籍往來・森義宣「レオン「プラトン」(P.Leon,Plato,'39)」
法と經濟(立命館大學)14-2 [40683
＊[訂正] 典籍往來・森義宣「レヴィ「プロタゴラスの倫理・社會思想」(A.Levi, The Ethical and Social Thought of Protagpras, Mind, '40,vol.xlix,no.195)」
法と經濟(立命館大學)14-4 [13156] [40684
(參考：「學界消息」、法と經濟(立命館大學)15-1 [40685

森義宣「マキアヴェリの君主論について」）
「内外文獻」、經濟學雜誌6-3 [40686
澤崎堅造「聖トマスの法と愛」經濟論叢50-1
「内外文獻」、經濟學雜誌7-1 [40687
澤崎堅造「聖アウグスチヌスの共同體思想」經濟論叢50-5
「内外文獻」、經濟學雜誌7-4 [40688
栗田眞造「歐洲古代の經榮事情」法と經濟14-1
高橋誠一郎「古代社會の經濟倫理」理想119
内田繁隆「多賀善彦譯「マキャヴェルリ選集・君主論」---政治技術の科學的研究書」（ローマの法學的國家觀等）
早稻田大學新聞168(3/6) [40689
戸村生「カトリシズムと資本主義」カトリック新聞759(5/12),760(5/19),761(5/26),762(6/2) [40690
新史論展望「西村貞二「マキアヴェリに於けるローマ觀念」」（西洋史研究15)歷史教育15-10 [40691
史界近事「社會經濟史學會十周年記念出版」（「西洋社會經濟史」中）歷史教育15-10 [40692
本位田祥男「概說」/祇園寺信彦「羅馬經濟史」（羅馬古代帝國主義）
（參考：彙報「西洋史讀書會大會」、史林25-1 [40693
高橋金也「マキアヴェリ解釋に就いての一考察」）
澤崎堅造「聖トマスの法と愛」經濟論叢50-1 [40694
井上哲次郎「皇紀二千六百年を迎ふ」(ミノス王國、プラトンのレパブリック、哲人政治等) 丁酉倫理會倫理講演集447 [40695
友枝高彦「國民生活と學問」(プラトン、ソクラテス等)丁酉倫理會倫理講演集454 [40696
學界消息「ソクラテスと政治」(A.D.Wispear & T.Silverberg,‘Who was Socrates’)文化7-6 [40697
「史學史關係文獻目錄」(西洋史)、史學研究11-3・4(合) [40698
-----Dunning,Political Theories,3 vols.,1927
G.Engelmann,Political Philosophiy from Plato to Jeremy Bentham,tr.by Geiser,1927
R.G.Gettel,History of Political Thought ,1924
F.J.C.Hernshaw, Social and Political Idea of the 16th and 17th Centuries, London,1926
F.W.Coker, Reading in Political Philosophy,N.Y.,1925
R.H.Murray, The History of Political Science from Plato to the present, Cambridge,1929
「最近史界」、史學研究12-1 [40699
------F.Jilbert,The Humanist Concept of the Prince and the prince of Machiavelli(J.M.H., vol.xi,no.4,193?)
G.Krüger,Konrad II in politoschen und weltannscauungskampfs des Mittelalters(V.u.H., 29 Jaurg.Heft 6,1939)
（參考：彙報「西洋史學研究會報」、史學研究12-2 [40700
渡邊[吉治]先生「マルシリウス及びニコラウスの政治思想」)

「最近史界」、史學研究12-2 [40701
----- J.Maier, Das Wesen der spartanischen Staatordung(Klio, Beiheft 42, 1939)
E.Rupprecht, Die Schrift von Staat der Athener((Klio, Beiheft 44, 1939)
木村龜二「ニーチェの犯罪及び刑罰觀」法學(東北帝大)9-3 [40702
小林秀雄「感想」(多賀善彦譯「マキャヴェリ全集第二、三巻「ローマ史論」」改造10月號 [40703
樺俊雄「協同體理論の哲學的考察----原子論的社會觀構成の反省」(アリストテレス等) 三田新聞441(10/6) [40704
米田實「伊參戰と國際關係---ローマ帝國再建、イタリヤ民衆の宿願」東京朝日新聞6/12 [40705
海老澤亮「新秩序と宗教觀の動向」(ローマの政治・法律、ギリシヤの哲學・藝術等) 基督教新聞2934(6/28)
井伊玄太郎「統制的社會とキリスト教」(ストア的自然法等)基督教新聞2936(7/11) [40706
F.②原種行『近世科學史』(科學史叢書1) [40707
③平田寛「一つの示唆---希臘科學に就いての」早稻田大學新聞182(7/3) [40708
(參考：史界近事「史學會第41回大會」、歷史教育15-3 [40709
小澤敏夫「希、羅、アラビアに於ける十四世紀までの砒素化合物の知識」)
服部之総「古代石鞠[鹸]史」インダストリー6月號 [40710
雜錄「とれみーノ定理ニ就テ」(日本中等教育)數學會雜誌22-4 [40711
④＊[訂正]良書紹介・小倉金之助「ハイベルク/平田寛譯「古代科學」」圖書59 [13193] [40712
新刊批評「原種行・清水英一「數學史新講」」京都帝國大學新聞309(2/5) [40713
高見豐「吉田洋一著「零の發見」」早稻田大學新聞164(2/7) [40714
山本忠興「ハイベルク/平田寛譯「古代科學」」早稻田大學新聞195(11/27) [40715
澁谷治「優生學に對する態度----カトリックよりの批判」(ソクラテス、エムペドクレス、パルメニデス、プラトーン、アリストテレース等) カトリック新聞752(3/24) [40716
新刊紹介「吉田洋一「零の發見」」東京物理學校雜誌580 [40717
新刊「吉田洋一「零の發見」」科學(岩波)10-4 [40718
新刊「原種行・清水英一「數學史新講」」科學(岩波)10-6 [40719
書籍紹介「ホグベン著/今野武雄・山崎三郎共譯「百萬人の數學・上巻」」(第4「涙ナシノゆーくりつど、或ハ幾何學ノ効用」)(日本中等教育) 數學會雜誌22-1 [40720
書籍紹介「吉田洋一「零の發見」」(日本中等教育) 數學會雜誌22-2 [40721
書籍紹介「R.G.Archibald,Outline of the History of Mathematics,1939 」(第十七世紀以前ノ科學史、ぎりしあノ數學等)(日本中等教育) 數學會雜誌22-6 [40722
桑木嚴翼「科學的精神」(希臘賢人ソロン、プラトン、アリストテレス等)丁酉倫理會倫理講演集447 [40723
藤井章「科學の尊重と精神の確立」(ギリシア・ヘレニズム文化、ローマ文化、シセロ、カルネアデス、ローマ法等)

丁酉倫理會倫理講演集447 [40724
森島恒雄「科學史への門----文化史的な立場に立つて」(G.サートン)
日本讀書新聞120(5/25) [40725
黎明期の科學者(2)「ブルーノ」日本讀書新聞139(12/5) [40726
讀書「荒木俊馬「天文と宇宙」」(「西洋天文學史」、「文藝復興と近世天文學の黎明」等)圖書舘雜誌34-2 [40727
書評・菅井準一「機械發明史」(アッシヤ著/富成喜成譯) 東京朝日新聞9/12 [40728
G. 玉川學園出版部『兒童百科大辭典』(全30巻) [40729
新刊「カンドウ「羅和辭典」」聲775 [40730
「カトリック宣教師と辭典---セスラン師著「和佛大辭典」評[昭15刊]、カンドウ師「羅和辭典」、エイレンボス師「舊約史要」[附錄・羅和字彙]」)聲777 [40731
新刊「柘植・谷田・永野編「生物學辭典」」科學(岩波)10-10 [40732
「カトリック大辭典の意義」日本讀書新聞141(12/25)
「皇紀二千六百年記念出版---記念碑的事業(待望の「カトリック大辭典」公刊)」
カトリック新聞741(1/1) [40733
小林珍雄「シャルル・デュ・ボスを悼む---彼と「カトリック大辭典」」
カトリック新聞747(2/18) [40734
小林珍雄氏講演「クルツール・ハイム例會---「カトリック大辭典」の成立」
カトリック新聞787(12/1) [40735
笹谷道雄「昭和十五年度出版界を顧みて」(上智大學編「カトリック大辭典」)
カトリック新聞791(12/29) [40736

昭１６(１９４１)
A. ＊[訂正・削除]~~カール・アダム「キリスト教ト西洋精神」カトリック研究21-1~~
[13242] [40737
＊[訂正]田中秀央「希臘文化と歐洲文化」文藝春秋6月號(女人藝術19-6?
[13206] [40738
「新刊書目」、哲學研究305中---- [40739
H.Schaller,Die europäische Kulturphilosophie,München
「内外文獻」、經濟學雜誌8-1 [40740
Perkins et al.,The Development of European Civilization from earliest times to the present,'40
「内外文獻」、經濟學雜誌9-4 [40741
T.B.Jones,A Short History of ancient Civilization,'41
有賀鐵太郎『學生自動車隊のイタリア一周』(ローマ、ナポリ等) [40742
有賀鐵太郎「初代教會の羅馬觀」基督教研究18-4 [40743
吉野藤一郎『世界一巡紀行』(?) [40744
岡田定信『世界一周の旅』(?) [40745
溝口靖夫『東洋文化史上の基督教』 [40746
幸田成友『聖フランシスコ・ザビエー傳』(日本文化名著選第2期12) [40747
新村出『日本吉利支丹文化史』 [40748

ヴァン・ルーン/前田晃譯『聖書物語』(上巻。岩波文庫) [40749
船橋雄『中世文化』(研究社英米文學叢書27) [40750
(參考：「昭和15年度各官立大學教育學科關係講義題目」、
教育學研究(東京文理大)10-4 [40751
・東京文理大：教育學概論(寺澤)、教育學概論(楢崎)
・廣島文理大：教育學概論(長田)、教育史概說(加藤)、ギリシヤ教育史研究(稻富)
・東京帝大：教育史概說(上村)、教育學概論(岡部)
・京都帝大：教育學序說(木村)
・東北帝大：教育學概論(細谷)
・九州帝大：教育史概說(松濤)
・京城帝大：教育學概論(松月)、教育史概說(松月))
池島重信「哲學的思考溢れる「時代の書」---高山岩男「文化類型學」」
三田新聞471(10/29) [40752
「[一橋]商大にラテン語研究會」(東京商大カトリック研究會)
カトリック新聞811(5/25) [40753
吉滿義彦「東洋と西洋---基督者に取つての歴史的課題」(ギリシヤ、ラブレ的ヒューマニズム等) カトリック新聞822(8/10),823(8/17),
824(8/31), 825(9/7) [40754
新刊「新村出「日本吉利支丹文化史」」カトリック新聞829(10/5) [40755
「田沼[利男]氏の譯書近刊----「西洋中世文化史」」
カトリック新聞838(12/7) [40756
カール・アダム「キリストと西洋精神」(聖アウグスチヌス、アリストテレス、アウグスチヌス、ストア、アクイナス等)
カトリック研究21-1 [40757
書評「新村出「日本吉利支丹文化史」」カトリック研究21-6 [40758
福原麟太郎「クレタ島」文藝7月號 [40759
田中耕太郎「伊太利の印象」日伊文化研究3 [40760
松田道一「羅馬印象記」日伊文化研究3 [40761
大塚彌平「ナポリの旅への點描」日伊文化研究3 [40762
彙報・重松俊章「文化史上に於ける歴山大王と成吉思汗[ジンギスカン]」
史淵26 [40763
板澤武雄「紹介三題」(新選洋學年表の蘭譯)歴史地理77-5 [40764
(參考：彙報「史學會大會」、歴史地理77-6 [40765
板澤武雄「蘭學から洋學への展開の一考察」)
鹽見高年「イタリア文化理解のために」[歴史教育、改め]歴史16-1 [40766
新刊「京大史學科史學論文集」(西洋史)」(村田數之亮「クレテ文明とクレテ美術」)
[歴史教育、改め]歴史16-2 [40767
成田喜英「エーゲ海」[歴史教育、改め]歴史16-3 [40768
(講演) 板澤武雄「蘭學から洋學への展開の一考察」
[歴史教育、改め]歴史16-3 [40769
成田喜英「ギリシア」[歴史教育、改め]歴史16-4 [40770

（参考：「昭和16年度歴史學講義題目中」、［歴史教育、改め］歴史16-4 [40771
東大：史學概論（今井）、西洋史概説（山中）、古代末期史（村川）、西洋史學演習（村川）、近世國民思想の發達（伊太利を中心として、大類）
東京文理大：史學研究法（杉）、西洋史概説（中川））
關口俊吾「ギリシヤへの旅」三田文學16-12 [40772
（參考：彙報「［京大］本學月曜講義---羽田亨「東西文化の交流」」、
史林26-1 [40773
（參考：彙報「［京都帝國大學文學部］昭和16年度史學科講義題目中」、
史林26-2 [40774
西洋史概説（第一部、第二部、原、時野谷）、希臘政治思想史（原）、Spät-antikeの研究(井上)、十九世紀フランス史學(前川)、講讀（A.v. Dopsch, Grund lagen der europäischen Kurturentwicklung、井上)、講讀（希臘考古學關係、英獨書講讀、村田）、西洋史の諸問題（原）、史學研究法（原）、考古學概論（梅原）/副科目---教育學序説（木村）、希臘語（H.Tanaka, Graecae Grammaticae Rudimenta, 田中、Xenophon:Memorabilia, Kyropädie、松平、Sopholkles: König Oedipus、田中)、羅甸語（H.Tanaka, Nova Grammatica Latina, 田中・久保・神田編「ラテン文撰集」松平、Plautus: Trinummus、田中)）
（參考：彙報「昭和16年度京都帝大文學部哲學科講義題目」、哲學研究302 [40775
哲學概論（田邊）、實存の超越性と内在性（田邊）、歴史主義の問題と世界史（高山）、西洋古代哲學史（山内）、テオポリスの哲學（山内）、演習（Plato: Charmides、山内）、Bergson: L'evolution créatrice（九鬼）、心理學概論（野上）、倫理學概論（天野）、教育學序説（木村）、美學序論（植田）、藝術的創造（井島）、宗教學概論（西谷）、パウロの神學とその後繼者の神學（山谷））
（參考：彙報「北京の史學科中」、史學20-4 [40776
北京大學：西洋上古史(呉祥麟)、西洋通史・外國史籍研究(田震)、西洋文化私・古代社會發達史(威佑烈)、西洋史學史(焦蘊楠)、宗教史(彭鑑)、史學方法概論(張尚德)
師範大學：考古學・史學概論(李泰棻)、西洋史(陳同爨、陸鼎吉)、史學研究法(王森然)
輔仁大學：西洋文明史・西洋中古史(胡魯士)
燕京大學：西洋史學名著選讀・西洋史學教學法(齋思和)、西洋通史・西洋上古史研究・西洋史學名著選讀(貝廬思・S.M.Burtt)、基督教史・西洋史學名著選讀(王克私。Ph.do.Vargas)、初級歴史方法・高級歴史方法(洪煨蓮)）
（參考：「［一橋大學］レーアプラン」、一橋新聞323(3/10) [40777
教育史(海後)、西洋倫理(藤井)、獨乙精神史(吹田)）
近藤兵庫「日本文化の一考察」（ギリシヤ・ローマの文化、ユリアヌス皇帝、ギリシヤの哲學・科學等）
丁酉倫理會倫理講演集461 [40778
新刊書「ファゲ/石川湧譯「讀書術」」丁酉倫理會倫理講演集462 [40779
新刊「新村出「日本吉利支丹文化史」」文化8-11 [40780
岡田哲藏「Philohellenismについて」The Current of the World 18-4 [40781

西村眞次『人類と文明』(「オリンピック・ゲーム」) [40782
安倍能成「讀書論」(昭16稿。昭24選集第4巻中[全5巻]) [40783
安倍能成『時代と文化』(「民族と神話」「政治と道徳」「西洋思想と教育」
「體と個體の倫理」等) [40784
河合榮治郎編『西洋と學生』------ [40785
田中美知太郎「西洋古典文化」
原隨園「希臘」
恒藤恭「羅馬」
石原謙「中世」
長澤信壽「文藝復興」
大類伸「伊太利の社會、國民性、文化」
有島生馬「伊太利の藝術」
加田哲ニ編『何を讀むべきか』 [40786
田中菊雄『現代讀書法』
スタンダール/小林正・渡邊明正・鈴木力衛・生島遼一譯『いたりあ物語』[40787
ブランデンブルク「ヨーロッパと世界」批評3-2,3,4,7,9,11,12 [40788
鬼頭英一「天人合一の哲理----世界史の理念が不文明:高山岩男「文化類型學研究」」
日本讀書新聞164(8/25) [40789
蘆田均「バルカン民族の横顔」東京朝日新聞2/18,19 [40790
幸田成友「新「耶蘇會版」の出現(1)(2)」(イソップ物語、イー・エム・サトウ「日
本耶蘇會刊行書法」等)
東京朝日新聞4/24,4/25 [40791
「古代希臘文化は獨逸思想の太陽」東京朝日新聞5/1 [40792
(參考:「興亞神學科・聽講生の新設」、基督教新聞2970(3/13) [40793
・宣教醫養成課程:神學通論、教會史
・速成教師養成A課程:教會史、基督教思想史、基督教倫理學)
新刊「有賀鐵太郎「學生自動車隊のイタリア一周」」(ローマ、ナポリ等)
基督教新聞2972(4/3) [40794
(K.Y.)「光は東方より」(ギリシヤ・ロマの文化等) 基督教新聞2987(7/10) [40795
(參考:阪田捨一「エール大學雜記」、基督教新聞2997(9/18) [40796
・「教會史」(ベントン)、「新約學」(クレールン)、「舊新約聖書思想」
(バロース))
海老澤有道「教界人に薦む、新村出博士著「日本吉利支丹文化史」」
基督教新聞2998(9/25) [40797
(參考:日曜學校欄「第三部と日曜學校」、基督教新聞3002(10/23) [40798
・「I.宗教教育史」[アレキサンドリア等])
(參考:彙報「宗教教育講座」、基督教新聞3003(10/30) [40799
・松村克己「新約時代の歴史」)
B.①テオフラストス「性格論」(ラ・ブリュイエール/中村通介譯『性格論(上中下)』
中、下巻附錄) [40800
Platon/淺井眞男譯『クリトン』(本文は獨語。大學書林) [40801
②＊[訂正]蓑田胸喜『學術維新』(「西歐古代近代學術の數學的思想法」、「西洋哲

學史上に於ける辯證法の經歷」、「希臘哲學と基督教と西歐文化」) (←昭15.B.②)
[12934] [40802
＊[訂正]ステファン・ツヴァイク/池田薫譯『エラスムスの勝利と悲劇』
[13268] [40803
前田河廣一郎『世界偉人美談』 [40804
エマアソン/柳田泉譯『代表偉人論』(春秋社思想選書) [40805
尾關岩二『母性思慕』 [40806
S・ツヴィク/高橋禎二譯『エラスムスの勝利と悲劇』 [40807
魚木忠一『日本基督教の精神的傳統』(現代基督教叢書2) [40808
E・カッシラア/矢田部達郎譯『神話---象徴形式の哲學第二』(ゲーテ、フムボルト等) [40809
蓑田胸喜『日本世界觀----世界精神史』(「平野義太郎氏のヴント譯に就て」、「無窮國體明徴戰」[近代のアリストートル「ヴント」、ヴントの民族心理學に就て]、「河合榮治郎氏の道德論」[ソクラテス、ダイモンの聲、阿部次郎譯「クリトン」] [40810
蓑田胸喜『國家と大學』(プラトー、ソクラテス、クリトン、ソフィスト、アリストテレス、ギリシア民族等) [40811
石山脩平『西洋教育史概說』(第一分册) [40812
ヒルティ/陶山務譯『人生希望論』 [40813
畔上賢造著作集刊行會編『畔上賢造著作集・第６巻』(ヨハネ研究) [40814
三谷隆正『知識・信仰・道德』 [40815
岩下壯一『信仰の遺産』 [40816
松木治三郎『使徒パウロの神學』 [40817
ニューマン/中村巳喜人譯『基督教と學問研究』 [40818
石倉三郎『基督教神學入門』(基督教教程叢書23) [40819
グラ―プマン/高桑純夫譯『聖トマス・アクイナスその人と思想』(增訂改版。←昭9初版) [40820
ユングラス/大泉孝譯『カトリック教理神學概說』 [40821
リカルダ・フーフ/藤田孫太郎譯『ルッターの信仰---一人の友人への手紙』[40822
ラ・ブリュイエール/中村通介譯『性格論（上中下)』(アレクザンドル、シーザー、ソクラテス、ホーマー、ヴァージル、プラトー、テランス、ルカーン、クローヂアン、セネーク、ストイシズム、ヘラクリイト[ヘラクレス]、アガメムノン、クリチムネストラ、ハンニバル、リュクレース、ヘクトー、アキレス、ジュピター、ヴィーナス、メルキュール、アドニス、テオグニス、ライス、ホレース、聖オウガスタン、キケロー、デモステネス、エパミノンダス、マリウス等)
[40823
三宅茂『パスカルと哲學』 [40824

井筒俊彦『アラビア思想史--- 回教神學と回教哲學』 [40825
③＊[訂正]三谷隆正(講演)「力と幸福との秘訣」(ソクラテス、アリスチッポス、アレキサンダー大王、ディオゲネス、キケロ、ヘゲシアス等)
聖書講義5月號 [13348] [40826
(參考：「昭和十六年三月施行法律試驗問題」(第一講座)日本法學7-8 [40827
西洋倫理・佐々木「ニ、ストアノ倫理說ヲ批評セヨ」)
(參考：「昭和十六年七月施行法學科試驗問題」(第一講座)日本法學7-9 [40828
西洋倫理・佐々木「左ノ問ニ答ヘヨ---(1)ソクラテス(2)リパブリック(3)アパテーア(4)エピクロス」)
(參考：「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞232(11/26) [40829
哲學：石關敬三「アリストテレスのウシアについて」)
長與善郎「エピクロスの快樂(一幕物)」長與善郎集(河出書房)[←大13「エピクロスの快樂」歷史物傑作選集3より再錄] [40830
(參考：學士會「日本諸學振興委員會哲學會特別學會」、
[歷史教育、改め]歷史16-2 [40831
出隆「コスモポリテースの倫理」)
原隨園「ギリシア人の理想」[歷史教育、改め]歷史16-3 [40832
プシュワラ/吉滿義彦譯「聖アウグスチヌスと近代哲學の精神」
カトリック研究21-6 [40833
「ギリシアの神々---イエズス會の集り」カトリック新聞802(3/23) [40834
渡邊勝也「古スパルタ教育と古アテネ教育の比較」朝鮮教育4月號 [40835
城戸幡太郎「世界觀と人間像」教育(岩波)9-9 [40836
井狩克「共通感覺(アリストテレス)」哲學研究301,302 [40837
大島康正「想起・反復・期待---主體的人間の現象學」(ギリシア等)
哲學研究304 [40838
田邊元「實在概念の發展」(アリストテレス等)哲學研究307,309 [40839
熊野義孝「使徒パウロとその神學」新興基督教6月號 [40840
桑田秀延「基督教死生觀」新興基督教8月號 [40841
(參考：「秋季に於ける特別傳道計劃」、基督教新聞3005(11/13) [40842
・洛陽教會：森本芳雄「アウグスチヌス研究」[9回聯續])
④＊[訂正]西谷啓治「神秘主義の倫理思想」岩波講座「倫理學」14
[13288] [40843
＊[訂正]川田熊太郎「プラトンの測定學に就て」哲學雜誌654,655
[13300] [40844
＊ [訂正]藤井義夫「「カラクレーテス」の復興」(テオフラストス)
文藝春秋8月號(女人藝術19-8?) [13316] [40845
辻村正吾「前カトリック期の異邦人基督教に於ける二潮流」史林26-4 [40846
「新刊書目」、哲學研究305中---- [40847
M.Luther:W.Elert,Der christliche Glaube,Grundlinien der lutherischen Dogmatik, Berl.
Pascal:H.F.Stewart,The Secret of Pascal,Cambridge U.P.
紹介と批評・田邊興道「W.F.Albright,Islam and the Religions of the Ancient Orient,

JAOS,vol.60,no.3,1940」歴史學研究91 [40848
「内外文獻」、經濟學雜誌8-3 [40849
M.Pohlentz,Grundfragen der stoischen Philosophie,'40
「内外文獻」、經濟學雜誌8-4 [40850
B.J.H.Ovink,Philosophie und Sophistik,'40
グラープマン/高桑純夫譯「聖トマス・アクイナス---その人と思想」
唐澤富太郎「ナトルプに於ける社會的教育學の發展(2)」(プラトンとの比較等)
教育學研究(東京文理大)10-5 [40851
久保勉「岩下[壯一]君とケーベル先生」聲780 [40852
山中巖彦「特に預言によるイエズス・キリストの神性の證明」(プラトン、ソクラテス、ヴィルギリウス等)聲784 [40853
下村寅太郎「三宅剛一氏著「學の形成と自然的世界觀」」
京都帝國大學新聞325(1/20) [40854
小林市太郎「ベルグソン哲學追想」京都帝國大學新聞326(2/5) [40855
九鬼周造「ベルグソンの想ひ出」京都帝國大學新聞326(2/5) [40856
森昭「國家愛の哲學----西谷[啓治]助教授著「世界觀と國家觀」」
京都帝國大學新聞336(10/5) [40857
新刊紹介「キケロ/水谷九郎・呉茂一譯「友情について」」
京都帝國大學新聞340(12/5) [40858
稲毛金七「ベルグソンを憶ふ」早稲田大學新聞199(1/15) [40859
「廿日(月)科學講義----ベルグソンの思ひ出」(桑木嚴翼博士)
早稲田大學新聞199(1/15) [40860
(參考:「(早大)文學部卒論」、早稲田大學新聞202(2/5) [40861
哲學:福岡英一「ツァラツストラを中心としたニーチェの世界觀」)
讀書「西谷啓治「世界觀と國家觀」」早稲田大學新聞227(10/22) [40862
森田龜之助「古典美の探」(アリストテレス等) 早稲田大學新聞229(11/8) [40863
讀書「アナトオル・フランス/水野成夫譯「舞姫タイス」(長編小說全集第8巻)」
早稲田大學新聞231(11/19) [40864
吉川靜雄「フランス思想の歴史的敍述----ル井・レイノオ著/佐藤輝夫譯「近代佛蘭西に及ぼしたる獨逸の影響」」三田新聞461(6/5) [40865
「學校通信(10)--- 一高カトリック研究會」(ホイヴェルス師講演「ニーチェの思想と詩」) カトリック新聞795(2/2) [40866
大山篤郎・解抄說記「ルイ・ベルトランの名著---永遠の靈哲・聖アウグスチン」
カトリック新聞799(3/2),800(3/9),801(3/16),
802(3/23),804(4/6), 805(4/13),808(5/4),
810(5/18), 811(5/25),813(6/8),814(6/15),
815(6/22), 816(6/19),821(8/3), 823(8/17),
825(9/7),827(9/21),829(10/5),830(10/12),
831(10/19),833(11/2),835(11/16),
836(11/23) [40867
山口鹿三「世界唯一の切支丹珍書----おらしょの飜譯」
カトリック新聞811(5/25),812(6/1) [40868
「吉滿義彦氏、帝大で公開講演」(「ベルグソンとパスカル」)

カトリック新聞814(6/15)　[40869
「ベルグソンとパスカル」(吉満義彦氏、帝大で講演)
カトリック新聞815(6/22)　[40870
「ベルグソン受洗す----事實を語る吉満義彦氏」カトリック新聞829(10/5)　[40871
「世界の稀覯本發見----アウグスチヌスの五十想華集」
カトリック新聞833(11/2)　[40872
「東大カトリック研究會例會----ホ[イヴェルス]師と田中[耕太郎]教授の講演」(ホイヴェルス博士「信仰と高等批評」「ローマのタキトスの年報」「小アジアのプリニウス」)
カトリック新聞836(11/23)　[40873
「東大カトリック研究會----例會と卒業生送別會」(田中耕太郎、ホイヴェルス師講演) カトリック新聞839(12/14)　[40874
パウロ・フィステル「人間實存の根柢」(アリストテレス、プラトー、ヘラクリト、プロティノス、ベルグソン等)
カトリック研究21-1　[40875
「カトリック研究21-2」(岩下壯一追悼號)　[40876
-----九鬼周造「岩下壯一君の思出」(ケーベル、ベルグソン、アウグスチヌス、クセノフォン等)
田中耕太郎「岩下壯一師と現代智識階級」(ケーベル、聖アウグスチヌス等)
久保勉「岩下[壯一]君の追憶」(ケーベル等)
立澤剛「神を味ふ人」(アウグスチヌス等)
栗野齋次郎「岩下師追憶」(ケーベル、クセノフォン、ホラチウス、ホーマー、ヴィルギリュス、プラトン、アウグスチヌス等)
吉滿義彦「基督教思想家としての岩下壯一師」(ホメロス、アイスキュロス、プラトン、アリストテレス、聖アウグスチヌス、ケーベル、聖トマス等)
小野豐明「現代カトリック人物評傳」(ロマ・グアルディニ、ジョヴァンニ・パピーニ) カトリック研究21-3　[40877
ヨハネス・ジーメス「存在學への復歸---ニコライ・ハルトマンの存在學について」(プラトン、アリストテレス、新プラトン派、スコラ哲學等) カトリック研究21-5　[40878
原武夫「モンテーニュの城」思想226　[40879
特集「ベルグソン」思想227　[40880
----- 三木清「充足經驗論」
金子武藏「ピュシスの倫理へ」
古野清人「ベルグソンと精神病理學」
小林市太郎「ベルグソン哲學と藝術」
吉滿義彦「ベルグソンとマリタン」
坂田德男「ベルグソンの示唆」
佐藤信衛「道德の二つの源」

ルネ・ドミニック/河盛好藏譯「ベルグソン歡迎の辭」
高桑純夫「アナロギア・エンチス(1)(2)」(アクナス)思想231,232 [40881
高橋亘「キェルケゴールの宗教的人生觀」思想235 [40882
吉滿義彦「哲學者の神」(ストア哲學、マルクス・アウレリウス、プラトン、アリストテレス、ソクラテス、聖アウグスチヌス、聖トマス、ニイチェ等) 文學界4月號 [40883
(參考:「三田史學研究會例會報告」(昭15,16年度分)、史學19-4 [40884
昭15:姜大良「ロレンツオに於けるフロレンスのヒューマニズム」)
島田雄次郎「ヒューマニズムと歴史」[歴史教育、改め]歴史16-5 [40885
(參考:彙報「西洋史讀書會例會」、史林26-1 [40886
古橋直樹「Fustel de Coulanges: La Cité Antique」)
紹介(井上智勇)「足利惇氏「ペルシア宗教思想」」史林26-3 [40887
高橋亘「ヘーゲルの宗教哲學」哲學研究302,304 [40888
土井虎賀壽「現實の形而性と形而上學」哲學研究306,308 [40889
深作安文「新しき倫理的要求」(ローマ人、ローマ法、ソークラテース等)
丁酉倫理會倫理講演集459 [40890
八田三喜「革新期の倫理觀」(シュペングラア「西洋の没落」等)
丁酉倫理會倫理講演集459 [40891
遠藤隆吉「倫理道德なる言葉に執着する勿れ」(コスモス、ピュタゴラス學派、ソークラテース、ラムプロクレース、アリストテレースの友愛等)
丁酉倫理會倫理講演集459 [40892
藤井章「時代の威壓か倫理の優位か」(ソクラテス、キニック學派、ストア學派、プラトン等) 丁酉倫理會倫理講演集459 [40893
吉田賢龍「現代自敬の精神」(ギリシヤのホーマの神話的文學等)
丁酉倫理會倫理講演集459 [40894
井上哲次郎「中島德藏氏著「論語の組織的研究」の序」(ソクラテース、アルキビアデース、シセロ、ヘーゲル等)
丁酉倫理會倫理講演集460 [40895
新刊紹介「金子馬治「美學及藝術學講義」」丁酉倫理會倫理講演集460 [40896
桑木嚴翼「ベルグソンの追憶----日本に於けるベルグソン」
丁酉倫理會倫理講演集462 [40897
小尾範治「言靈」(ギリシア哲學のロゴス等) 丁酉倫理會倫理講演集464 [40898
塩見薫「高野長英について」臺灣警察時報305 [40899
中川秀恭「ハイデッガーに於ける無の問題」文化8-8 [40900
小川二郎「ウォルター・ペイターの感覺」英語教育6-2 [40901
小松攝郎「個人主義と社會主義の倫理的思想(前篇)」(ニーチェ等)
岩波講座「倫理學」6 [40902
高坂正顯「祭り」(古代ローマ等) 岩波講座「倫理學」6 [40903
三宅剛一「不安」(ニーチェ等) 岩波講座「倫理學」10 [40904
久松眞一「平常心」岩波講座「倫理學」10 [40905
和辻哲郎「德の諸相」岩波講座「倫理學」10 [40906

岡田章雄「キリシタンの寺子屋」東京朝日新聞6/22 [40907
學藝科學・吉滿義彦「ベルグソンの晩年」東京朝日新聞10/4 [40908
西原勇「福音・神の力」(ギリシヤ人等) 基督教新聞2975(4/17) [40909
岩村信二「何故基督を信ずるか」(アウグスティヌス等)
基督教新聞2980(5/22) [40910
溝口靖夫「基督教的苦行道の進展」(アウグスチヌス、西ローマ帝國等)
基督教新聞2990(7/31) [40911
岡田五作「基督者の誇り」(ギリシヤ人等) 基督教新聞2993(8/21) [40912
(K.Y.)「健全なる基督教の成育」(ギリシヤ思想等) 基督教新聞2998(9/25) [40913
鈴木千代松「自己反省」(聖賢ソクラテス等) 基督教新聞2999(10/2) [40914
佐藤健男「神と惡魔」(ダンテ等) 基督教新聞3006(11/20) [40915
今泉眞幸「幹と枝----教祖と權祖」(ソクラテス等) 基督教新聞3009(12/11),
3010(12/18) [40916
C.②F. G. ハラビン/榎本菊雄譯『世界開拓史』(ローマ等) [40917
箕作元八『ギリシヤの撥亂』(博文舘文庫第2部14,「西洋史新話」第1巻。←明43)
[40918
箕作元八『テーベの勃興』(博文舘文庫第2部15,「西洋史新話」第2巻。←明43)
[40919
箕作元八『偉國民の奮闘』(博文舘文庫第2部68,「西洋史新話」第2巻。←大2)
[40920
三井高陽『世界交通史話』 [40921
加藤直士譯『無名の弟子の書けるイエス傳』 [40922
矢内原忠雄『山上垂訓講義』(嘉信文庫3) [40923
畔上賢造著作集刊行會編『畔上賢造著作集・第２巻』(イエス傳研究) [40924
畔上賢造著作集刊行會編『畔上賢造著作集・第５巻』(パウロの書翰[下]) [40925
③＊[訂正・削除]ムッソリーニ/坪内章譯「海上における古代ローマ」(下位~~冊~~春吉
等編「ムッソリーニ」3册中、9巻中)
[13378] [40926
中村宗雄「私の錬成---スパルタの母性に學ぶ」早稲田大學新聞232(11/26) [40927
群檮生「第73回文檢歷史科本試驗問題と合格者」[歷史教育、改め]歷史16-2[40928
西洋史：「一、上古ギリシヤの政治的統一を妨げたる諸要素」
(參考：「史學會第42回大會」(西洋史部會)、
[歷史教育、改め]歷史16-3 [39741] [40929
秀村欣二「古代ローマ市に於ける穀物分配」)
(參考：彙報「史學研究會大會」、史林26-1 [40930
村川堅太郎「希臘人の財産觀念についての一考察」)
雜話「羅馬の尼羅[ネロ]王」福音新報1-4 [40931
「初征服は歷山大王---ヒマラヤを中心とした山名考(4)」東京朝日新聞4/25 [40932
有賀鐵太郎「初代教會の羅馬觀」基督教研究18-4 [40933
高橋健二「聖パウロの模範」(ギリシヤ・ロマの宗教等)
基督教新聞2996(9/11) [40934
④＊[訂正]書評・十河佑[祐]貞「西洋史研究第一輯」史觀31 [13411] [40935
「内外文獻」、經濟學雜誌9-4 [40936

K.v.Fritz,The Historian Theopompos,'41
「回顧と展望」(昭15年度)、歴史學研究11-4・5（合） [40937
----東洋史：西域史・南海史篇(田邊)
西洋史：古代史(秀村、三浦)、中世史(金澤、渡邊、谷)、近世史(金澤、藤田、倉橋、渡邊)
會報「西洋史部會---昭和15 年度西洋史學會回顧[座談會]」歴史學研究11-7 [40938
樺俊雄「歴史と解釋」歴史學研究93 [40939
中島健一「歐洲先史時代史研究への一寄與---チャイルド「歐洲文明の黎明」(新版)の紹介」歴史學研究94 [40940
小林正之「ジュリアン/讃井鐵男譯「近世佛蘭西史學概論」」
早稻田大學新聞216(6/11) [40941
宮川貞一郎「斷想---- 歴史の目的(聖アウグスチヌス、ホッシュ・エイのことども)」
早稻田大學新聞230(11/12) [40942
(參考：「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞232(11/26) [40943
哲學：小林篤演「ヘーゲルの歴史哲學」）
近山金次「カミーユ・ジュリアン著/讃井鐵男譯「近世佛蘭西史學概觀」」
三田新聞459(5/15) [40944
新刊「京大史學科史學論文集」（西洋史)」（井上智勇「古代末期論---ローマ帝政史序說として」）
［歴史教育、改め]歴史16-2 [40945
鈴木成高「中世と現代」［歴史教育、改め]歴史16-3 [40946
小林榮三郎「ヴォルテールの上代フランス觀」史淵25 [40947
岩崎克己「山村才助の著譯とその西洋知識の源泉に就いて」歴史地理77-4 [40948
鮎澤信太郎「高橋景保の萬國全圖について」歴史地理77-5,6 [40949
（參考：彙報「日本諸學振興委員會歴史學特別學會」、歴史地理78-5 [40950
西村貞二「ローマ觀念より權力國家へ」）
研究抄錄「村川堅太郎「ギリシア人の財産觀念についての一考察」」
［歴史教育、改め]歴史16-1 [40951
新刊「京大史學科史學論文集」（西洋史)」（千代田謙「ランケ史學と「機」の問題」）
［歴史教育、改め]歴史16-2 [40952
小林秀雄「中世史學史について」史苑14-2,3,4 [40953
原隨園「ロストフツェフ教授自傳」史林26-2 [40954
（參考：彙報「[京大]昭和16年度[文學部]卒論中」、史林26-2 [40955
兼岩正夫「ヘルデルと歴史」)
（參考：彙報「西洋史讀書會」、史林26-2 [40956
鹽見高年「ルネサンスの本質」」
井上肇「J.Burckhardt,Weltgeschichtliche Betrachtungen」）
彙報「紀元二千六百年記念史學論文集刊行」史林26-3 [40957
（參考：彙報「西洋史讀書會---兼岩正夫「ヘルデルと歴史」」、史林26-3 [40958
（參考：彙報「西洋史讀書會」、史林26-4 [40959
土井虎賀壽「ランケの政治史觀とニイチェの悲劇史觀」）
海外思潮・布川靜淵「戰爭の科學的研究(中下)」（希臘羅馬の戰爭、希臘の文化、

ローマの文化、マケドニアのアレキサンダーの遠征等）
丁酉倫理會倫理講演集460,461 [40960
千代田謙「事情と運命---啓蒙史學の一斷面」文化8-6 [40961
新刊・酒井三郎「樺俊雄「歴史の理論」」文化8-12 [40962
編輯餘錄「ギボンの文法無視」The Current of the World 18-6 [40963
彙報「史學研究會----岡本恒治「十八世紀後半ドイツ世界史學の方法に於ける「進歩」の問題」史學研究12-3 [40964
書評・間崎萬里「J.T.Shotwell, The Histiry of History,vol.1」史學19-4 [40965
(参考：「三田史學研究會例會報告」、史學20-4 [40966
上原專祿「西洋封建制度の特徴」)
論說「福音新報」（カイザル・アウグスト等）福音新報1-1 [40967
論說・浪華に住む一信徒「基督信者の勇気」（マセドン王フィリップ等）
福音新報1-4 [40968
歴史學・上原專祿「西洋史研究の將來---史料研究所を設けよ」(村川堅太郎氏譯「アリストテレス/經濟學・アテナイ人の國制」、靑木巖譯「ヘロドトス歴史・上巻」、ローマ法：末松謙澄・春木一郎兩博士等)
一橋新聞320(1/1) [40969
杉捷夫「古典物一瞥(3)」(ジュリアン/讃井鐵男譯「近世フランス史學概觀」)
東京朝日新聞5/13 [40970
D.①濱田廣介・武井武雄「イソップ童話」コモギアサヒ7月號 [40971
ルッター/藤田孫太郎譯『ガラテヤ書講解』 [40972
カルヴィン/松谷義範譯『テモテ前書註解』(聖書註解古典叢書3) [40973
善德纂『約翰[ヨハネ]福音之傳』(2册) [40974
日本聖書協會『舊新約聖書』(引照附) [40975
②幸田成友『書誌學』（慶應義塾大學通信教育教材） [40976
マルチン・デイベリウス/日高善一譯『福音書批評と基督』（基督教叢書8） [40977
アランドルミー/柿沼太郎譯『西洋音樂史』 [40978
中山昌樹『ダンテ神曲の研究』（新生堂） [40979
ビーダーマン/大野俊一譯『第一部・ゲーテとともに』 [40980
マーガレット・リークス/大久保忠利譯『ゲーテの母』 [40981
本間久雄『日本英文學史』（研究社英米文學語學講座） [40982
重久篤太郎『日本近世英學史』（「初期の沙翁文獻」） [40983
日夏耿之助『輓近三代文學品題』（「本邦に於けるバイロン熱」［日本英文學史回顧］） [40984
③＊［訂正］高津春繁「ギリシア合唱隊歌用語の發達」言語研究7・8(合）
[13454] [40985
（參考：「史學會第42回大會」（西洋史部會）、［歴史教育、改め］歴史16-3 [40986
三浦一郎「アリストファネスの「アカルナイ人」」）
村松正俊「希臘劇のこと」三田新聞458(5/6) [40987
靑木巖「近代歐羅巴精神と古代希臘精神」三田新聞461(6/5) [40988

「一筋の線」(畫家アヘルレス等) 神の國新聞1127(8/6) [40989
星野三雄「ロゴス=基督論の新約聖書に於ける言語學的發展----序」(アレキサンドリアのファイロー等)基督教新聞2969(3/6), 2970(3/13) [40990
④清水博「米國歷史學會の1940年度大會」、歷史學研究95 [40991
---- W.K.Ferguson「文藝復興に於ける新しき光明」
新村出「序」(重久篤太郎著「日本近世英學史」) [40992
新刊「ヨハンネス・ラウレス師「吉利支丹文庫書誌(英文)」」聲779 [40993
栗野齋次郎「岩下[壯一]君と古典語」聲781 [40994
新刊「圖書漫筆」(神宮德壽「ラテン語の基礎」)聲783 [40995
增田良二「ルモアヌ師と明治カトリック文學」(ケーベル等)聲788 [40996
新刊「ルナール/小林珍雄譯「制度の哲學」」聲790 [40997
新刊「岩下壯一師「信仰の遺産」」聲790 [40998
山崎省吾「ヘルデルリンの抒情詩に現はれたるキリスト」(ギリシア精神の再現、エムペドクレス等) カトリック研究21-6 [40999
春江宣政「愚神禮讚」(エラスムス) 京都帝國大學新聞325(1/20) [41000
「のびるカメラの眼----古代藝術と近代科學のタイアップ」京都帝國大學新聞326(2/5) [41001
大山定一「桑原武夫氏著「アラン藝術論集」」京都帝國大學新聞332(6/20) [41002
井島勉「藝術史的諒解」京都帝國大學新聞339(11/20) [41003
新刊紹介「アエネーイス(下)」(ウェルギリウス、田中秀央・木村滿三譯) 京都帝國大學新聞340(12/5) [41004
荒川龍彦「逝けるジョイス」早稻田大學新聞200(1/22) [41005
(參考:「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞202(2/5) [41006
英文學:尾崎太郎「イェイツ」
獨文學:弘中春雄「ゲーテとその時代」)
讀書・山岸光宣「シラーの科學的研究----新關良三著「シラーと希臘悲劇」を讀みて」早稻田大學新聞204(2/19) [41007
小口優「ルイ・レイノウ/佐藤輝夫譯「近代佛蘭西に及ぼしたる獨逸の影響」」早稻田大學新聞211(5/7) [41008
(?)「ペトロニウス作/岩崎良三譯「トリマルキオーの饗宴」」早稻田大學新聞213(5/21) [41009
舟木重信「マイエル/淺井眞男譯「フッテン最後の日々」」(ドイツ人文主義者) 早稻田大學新聞213(5/21) [41010
中村星湖「ヴェッキオ橋懷古」(ダンテ等) 早稻田大學新聞214(5/28) [41011
(參考:「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞232(11/26) [41012
哲學:金彦炳「ファウスト的世界觀の研究」
英文學:西村茂「ウォルタア・ペイタアに關する一考察」
小野寺眞人「シェレー後期自然詩研究」
高木繁孝「ラスキン研究」
山本信雄「ワルター・ペイター研究序說」
佐藤安八「ウォルター・ペイター短觀」

獨文學：長谷川八州「ヘルデルリーンと詩の本質」
渡邊辰生「疾風怒濤時代に於けるゲーテ及びシェレ―の初期の作品中のドラマを中心として」
志波一富「若きゲーテ作品よりなされたるゲーテ研究」）
武者小路實篤「ラファエロ」（わが畫人傳）婦人公論26-11 [41013
ゲルハルト・ハウプトマン「ヴィンケルマンの晩年」新文化5月號 [41014
黒田正利「ダンテを中心とした伊太利亞古典文學」日伊文化研究3 [41015
下條雄三「伊太利美術の思ひ出」日伊文化研究3 [41016
板垣鷹穂「建築史家(1)」(ブルクハルト) 思想235 [41017
(參考：「史學會第42回大會」（西洋史部會)、[歴史教育、改め]歴史16-3 [41018
平塚博「ペトラルカの歴史的地位に關する一考察」)
ヂンスモーア/槌屋古典抄譯「ダンテの秘密」基督信徒之友83 [41019
フリッツ・シュトウリヒ作/井出貢夫譯「文學と文明」三田文學16-2,3 [41020
フリッツ・シュトウリヒ作/井出貢夫譯「詩人と國家」三田文學16-8 [41021
岩崎良三「ペトロニーウス飜譯餘談」三田文學16-8 [41022
相内武千雄「美術史講座と澤木先生」三田文學16-10 [41023
樋口勝彦「秀れた性格描寫----ペトロニウス作/岩崎良三譯「トリマルキオの饗宴」」
三田新聞460(5/25) [41024
田邊尚雄「パウル・ベッカー/河上徹太郎譯「西洋音樂史」」
三田新聞460(5/25) [41025
宮崎市定「東洋のルネサンスと西洋のルネサンス」史林26-1 [41026
(參考：彙報「[京大]昭和16年度[文學部]卒論中」、史林26-2 [41027
鹽田義秋「西域の美術考古學に關する一考察」）
紹介(會田雄次)「G.Weise, Die geistige Welt der Gothik und ihre Bedeutung für Italien」
史林26-3 [41028
紹介(村田數之亮)「Ernst Buschor, Griechische Vasen, 1940」史林26-4 [41029
(參考：「三田史學研究會例會報告」、史學20-4 [41030
板澤武雄「江戸時代洋學者の語學について」 ）
木村嘉次「高橋五郎先生著譯書目錄」書物展望11-8 [41031
書評・櫻田常久「新關良三氏著「シラーと希臘悲劇」」獨逸文學5-2 [41032
「ゲーテ特輯號」、獨逸文學5-3 [41033
------- 木村謹治「ゲーテの學道」
竹山道雄「「ファウスト」の夜の場とニーチェ」
大畑末吉「平凡人ゲーテ」
阿部知二「バイロン」文學界8-1 [41034
新刊・高津春繁「E.J.Goodspeed & E.C.Colwell, A Greek Papyrus Reader」
言語研究7・8(合） [41035
新刊・高津春繁「E.Schwyzer, Syntaktische Archaismen des Attischen Kapsomenkis」
言語研究9 [41036
新刊・高津春繁「G.Styliano, Voruntersuchungen zu einer Grammatik der nachchristrischen Zeit」言語研究9 [41037
八巻頴男「ダンテにおける死と永遠の問題」新興基督教8月號 [41038

(參考:「三田史學研究會例會報告」(昭15,16年度分)、史學19-4 [41039
昭15:積田俊夫「エラスムスの新約聖書に就いて」)
平塚博「ペトラルカと[コラ・ディ・]リエンツォ」文化8-6,7 [41040
吉武好孝「マシウ・アーノルドと現代英國の文藝批評」文化8-8 [41041
山本忠雄「パウル「言語史原理」」英語教育6-2 [41042
「希臘の今昔と詩人バイロン」The Current of the World 18-4 [41043
原田漸「ゲーテの作品に現はれたる反個人主義的精神」社會學徒10月號 [41044
千賀彰「シラーと希臘悲劇」(新關良三著) 日本讀書新聞152(4/15) [41045
近著片々「新關良三著「シラーと希臘悲劇」」日本讀書新聞164(8/25) [41046
古松貞一「新關良三氏編「シラー選集」」日本讀書新聞168(9/29) [41047
書評・吹田順助「シラーと希臘悲劇」(新關良三著)一橋新聞323(3/10) [41048
高橋義孝「文豪ゲーテの正しい理解」(ゲーテ/富野政邦氏譯「教育材」)
日本讀書新聞177(12/1) [41049
「[土井]晩翠翁と譯書「イリヤス」」東京朝日新聞3/24 [41050
土井晩翠「友情に感謝」(出版慰勞會) 東京朝日新聞3/25 [41051
茅野蕭々「シラーと希臘悲劇」(新關良三著) 東京朝日新聞4/29 [41052
長谷川千秋(評)「P.ベッカー/河上徹太郎譯「西洋音樂史」」
東京朝日新聞6/9 [41053
ロゲンドルフ「古典研究に就て」(古典文獻學)東京朝日新聞6/27 [41054
福原麟太郎「知的征服欲---西洋文學の部屋」(ギリシア語、ラテン語、プルタ
ーク、ホーマー、モンテーニュ等)
東京朝日新聞7/3,4,5 [41055
書評・荒城季夫「A.ローゼンベルグ/加茂儀一譯「レオナルド・ダ・ヴィンチ」」
東京朝日新聞10/6 [41056
E.②五十嵐喬『歐洲商業史要說』(中世) [41057
北澤新次郎『經濟學說史』 [41058
蓑田胸喜『國防哲學』(ソクラテス、アリストテレス哲學、パルテノン、ゲーテ等)
[41059
木村毅譯『わが自敍傳』(ムッソリーニ全集10) [41060
ジョルジオ・ピニ著/マルチェリ、吉田彌邦共譯『ムッソリーニ』 [41061
(參考:デ・グラッベ/久保田榮吉譯編『ユダヤの「タルムード」---世界攪亂の律法』)
[41062
③＊[訂正](參考:史學會大會記事、史學雜誌620 [13520] [*41062
秀村欣二「古代ローマに於ける穀物配分」)
＊[訂正]船田享二「Sacrosanctvm---- 羅馬に於ける神聖不可侵概念の起源と變遷
法學會論集12-1 [13504] [41063
(參考:「昭和十六年三月施行法律試驗問題」(第一講座)日本法學7-8 [41064
政治思想史(?)「一、アリストテレスノ社會組織ノ構造ヲ論セヨ」)
(參考:「昭和十六年七月施行法律試驗問題」(第一講座)日本法學7-9 [41065
政治思想史(小林)「一、アリストテレスノ國家論」)
(參考:學罔學會「日本諸學振興委員會哲學會特別學會」、
[歷史教育、改め]歷史16-2 [41066

青木巖「プラトンの國家觀を繞つて」）
久川武三「シュナイデル氏ロード投荷法」（ローマ法）商工經濟研究15-1,3　[41067
片山金章「民法に於ける「善惡」保護について----「序說の一」ローマの法律に於けるBona Fidesとの關係」
法學新報50周年記念論文集中　[41068
（參考：「[一橋大學]學部研究部スケジュール」、一橋新聞326(4/25)　[41069
哲學班(甲)：藤井[義夫]講師によりプラトー「リパブリック」研究報告」)
④＊[訂正]阿部市五郎「エルネスト・マイヤーの「ローマ及びイタリヤ地中海政治學」に就いて」地理學9-3　[13538]　[41070
＊[訂正] 典籍往來・森義宣「フリッツ「古代ギリシアにおける保守的反動と獨裁政治」（K.von Fritz,Conservative Reaction and One One Rule in Ancient Greece,Pdi.Sci.Quart.vol.lvl,no.1,’41）」
法と經濟(立命館大學)16-1　[13523]　[41071
「新刊書目」、哲學研究305中----　[41072
K.Larenz,Hegelianismus und preussische Staatsidee,Die Staatsphilosophie Joh. Ed.Erdmanns und das Hegelbild des 19 Jahrhunderts.
「内外文獻」、經濟學雜誌8-5　[41073
F.Tager,Das Altertum,’40
河野健二「モンテスキューの經濟思想」經濟論叢52-4
中島重「現代國家と民族----ヘーゲル的國家論の批判と公權力に關して」
早稻田大學新聞228(10/29)　[41074
市川秀雄「法的秩序と司法理論」（プラトン、アリストテレス等）
三田新聞466(9/15)　[41075
「聖トマスの自然法---帝大研究會で田中[耕太郎]博士講演」
カトリック新聞817(7/6)　[41076
「東大カトリック研究會例會----ホ[イヴェルス]師と田中[耕太郎]教授の講演」(田中耕太郎「聖トマスの自然法」)
カトリック新聞836(11/23)　[41077
田中耕太郎「スコラ的法律哲學の現代的任務」(聖トマス、アリストテレス等)
カトリック研究21-5　[41078
新刊(G.)「モンテスキュウ「ローマ人盛衰原因論」」(大岩誠譯、岩波文庫)
文化8-9　[41079
新刊「京大史學科史學論文集」（西洋史）」（原隨園「正義---希臘政治原理の一としての」）[歷史教育、改め]歷史16-2　[41080
（參考：學士會「日本諸學振興委員會歷史學會」、
[歷史教育、改め]歷史16-6　[41081
西村貞二「ローマ觀念より權力國家へ」）
柴山英一「ニコロ・マキアヴェリ管見---特に其の文學的作品について」
史林26-1,2　[41082
田中耕太郎「和田小次郎教授譯「デル・ヴェキオ、法哲學原理」（Del Vecchio,Lezione di filosofia del dritto,3a, 1936）法學協會雜誌59-8　[41083
森吉義旭「「ヘーゲル」法律哲學」法律及政治19-6/20-1,2,4　[41084

廣濱嘉雄「經驗法學の始祖モンテスキュー」法學(東北帝大)10-1 [41085
「卒論題目」、一橋新聞323(3/10) [41086
---- 上田[辰]研究室：中村巳口人「カトリシズムと經濟思想」
(參考：「[一橋大學]學部研究部スケジュール」、一橋新聞326(4/25) [41087
文化班(甲)：「上田[辰之助]教授により[トマス]スマ・テオロギアのジュスティティア論を中心とする報告」)
吉田熊次「「臣民の道」を讀む(中)」(ヘーゲル等) 東京朝日新聞8/9 [41088
中村哲「古典への道」(モンテスキュー「法の精神」) 東京朝日新聞7/22 [41089
(今泉)「新年の初頭に方り治亂の蹤跡を見る」(ロマ帝國、アレキサンダー帝國等)
基督敎新聞2960(1/1) [41090
F.②R.J.Harvey Gibson/川崎備寛譯『科學史をかざる人々』 [41091
平田内藏吉『科學の始め』(科學史叢書4) [41092
岩熊哲『ヒポクラテスへの目錄』 [41093
藤原安治郎『少年數學の歷史』 [41094
③＊[訂正]平田寛「古い科學」(ギリシヤ科學、ピュタゴラス、ヒッポクラテス、アルキメデス、アポルロニオス等)
早稻田大學新聞215(6/4) [13574] [41095
＊[訂正]平田寛「アルキメデスを想ふ----卒業するI君へ」
早稻田大學新聞233(12/3) [13575] [41096
新刊紹介「下村寅太郎「科學史の哲學」」京都帝國大學新聞340(12/5) [41097
富成喜馬平「時代と科學者(西洋)----古代から近世まで」三田新聞462(6/18) [41098
富成喜馬平「精神史「研究」新領域----下村寅太郎著「科學史の哲學」」
三田新聞475(12/10) [41099
谷田專治「古代の海綿業」科學人8月號 [41100
學界餘滴・巴陵宣祐「ギリシヤの鯨」(アリストテレス等)
東京朝日新聞5/22 [41101
④＊[訂正]「ダンネマン「大自然科學史」」(安田德太郎・加藤正譯。全9卷。三省堂)」出版同盟新聞790 [24677] [41102
淺井淺一「哲學と體育」(A.Baeumler,Philosophie und Leibsübungen)
敎育學研究(東京文理大)10-4 [41103
(參考：「昭和15年度各官立大學敎育學科卒論」、
敎育學研究(東京文理大)10-4 [41104
・東京文理大：岩本憲「ゲーテ敎育思想の發展」
・廣島文理大：末吉悌吉「敎育原理としての國家----ヘーゲル國家學の敎育學的研究」)
本間誠「ダンネマン原著/安田德太郎・加藤正共譯「大自然科學史」」
早稻田大學新聞213(5/21) [41105
富成喜馬平「科學史の必要と困難」早稻田大學新聞229(11/9) [41106
大島蘭三郎「自然認識の發展史----ダンネマン原著/安田德太郎・加藤正譯「大自然科學史」」三田新聞454(3/15) [41107
邑樂愼一「中世紀の癩」科學ペン2月號 [41108
板澤武雄「日本近世科學思想史---江戸時代に於いて西洋科學思想の我が國に及ぼ

せし影響」[歴史教育、改め]歴史16-1 [41109
(参考：「三田史學研究會例會報告」(昭15,16年度分)、史學19-4 [41110
昭16：水町龍男「コペルニクスと其の時代」)
書評・中田信彦「森銑三「渡邊崋山」」史學20-1 [41111
昭16：後藤末雄「西洋天文學の支那と日本に及ぼせる影響」)
紹介(西井克己)「ハイベルク/平田寛譯「古代科學」」史林26-2 [41112
書籍紹介「はいべるく/平田寛譯「古代科學」」
(日本中等教育) 數學會雜誌23-3・4(合) [41113
下村寅太郎「空間の數學と形而上學」哲學研究299 [41114
永野尚武「ルネサンスの醫學」科學ペン1月號 [41115
加茂儀一「ルネッサンスの科學について」日伊文化研究3 [41116
新刊「白川巖「科學史創造の偉人」」(科學史叢書) 科學(岩波)11-5 [41117
新刊「ダンネマン/安田・加藤譯「大自然科學史」（第1,2巻）」
科學(岩波)11-7 [41118
新刊「白井俊明「化學思想小史」」科學(岩波)11-10 [41119
新刊「篠遠喜人「十五人の生物學者」」(科學新書。ヒッポクラテス、アリストテレス、テオフラストス等)科學(岩波)11-12 [41120
菊池榮一「自證と實證」科學ペン4-9 [41121
G. 佐々木邦『豐分居雜筆』(「(英和辭書)ウェブスターの記」) [41122
笹谷道雄「カトリック大辭典」紹介」聲782 [41123
新刊「三木清編「新版・現代哲學辭典」」科學(岩波)11-5 [41124
原隨園「定規と辭書」(プラトン等) 京都帝國大學新聞336(10/5) [41125
金城朝永「百科辭典考」(歐米、日本) 早稻田大學新聞204(2/19) [41126
清水幾太郎「社會科學新辭典」(三木清・永田清・中山伊知郎編輯)
東京朝日新聞9/1 [41127

昭１７（１９４２）
A. エドゥアド・ア・サンデ編/泉井久之助他譯、濱田耕作・田中秀央閲『天正遣歐使節見聞對話錄』 [41128
海老澤有道『切支丹史の研究』(畝傍史學叢書) [41129
幸田成友『日歐交通史』 [41130
キリシタン文化研究會編『キリシタン研究』(第1-3輯。→昭23) [41131
・第1輯--- ・村上直次郎「キリシタン研究の回顧」
・第3輯--- ・岡田章雄「布教機關の分布について」
紹介と批評・石田幹之助「幸田成友「日歐交通史」」歷史學研究104 [41132
薗田香勳「ゲーテに於ける世界と民族」經濟學雜誌10-1 [41133
イタリアの會編『イタリアの印象』(21氏執筆) [41134
新居格・山内房吉『人類生活史』(3章「ギリシヤ及びローマにおける生産」4章「手工業と窮乏」) [41135
ヴァン・ルーン/前田晃譯『聖書物語』(下巻。岩波文庫) [41136
(参考：「昭和17年各大學講義題目」、教育學研究(東京文理大)11-9 [41137

・東京文理大：西洋教育史(石山)、教育學概論(長田)
・東京帝大：教育學概論(入澤)、教育史概說(岡部)
・京都帝大：教育學序說(木村)、人間形成理念の問題史的發展(木村)、古代思想と教育(高橋)
・東北帝大：教育學概論(細谷)、西洋教育史特殊講義(細谷)
・京城帝大：教育史概說(松月)
・臺北帝大：教育學概論(伊藤)、教育史概說(福島)
・廣島文理大：教育學概論(長田)、教育史概說(稻富)、教育史特設(プラトン研究、皇)
・慶應義塾大：教育學概論(小林)、勞作教育思想を中心とする教育學史(小林))

新刊「フランシス・ベテン/田沼利男譯「中世文化史」」聲794 [41138
西本顕「東亞とユダヤ問題」京都帝國大學新聞349(6/20) [41139
板澤武雄「克明な研鑽に依る勞作---幸田成友著「日歐通交史」」三田新聞495(8/5) [41140
新刊「田沼利男「西洋中世文化史」」カトリック新聞853(3/29) [41141
内山善一「中世紀文化への理解」(田沼利男氏「西洋中世文化史」）カトリック新聞861(5/24) [41142
吉滿義彦「文化と宗教の理念」(ニーチェ、ヘーゲル、聖トマス、アウグスチヌス等) カトリック研究22-4,6 [41143
ロゲンドルフ/織田正信譯「西洋文化---その基礎、形式、過程及びその危機」(ギリシヤ思想、プラトン、アリストテレス等) カトリック研究22-4 [41144
書評・佐藤直助「田沼利男「西洋中世文化史」」カトリック研究22-6 [41145
川島理一郎「イタリーのこと」日伊文化研究4 [41146
茅野蕭々「ゲヨエテの見たイタリア」日伊文化研究5 [41147
日夏耿之助「明治文學に於ける伊太利亞」日伊文化研究5 [41148
渡邊一夫「フロンソワ・ラブレーのローマだより」日伊文化研究5 [41149
松岡壽「フォンタネージと伊太利亞との想ひ出」日伊文化研究6 [41150
渡邊一夫「「イタリヤだより」について」(ラブレー。1970年刊著作集2中) [41151
杉勇「オリエントの歴史的意義」日本語2-7 [41152
(參考：昭和17年4月以降[九大]法文學部史學關係講義題目中、史淵28 [41153
演習(Taine, Essai de critique et d' hitoire、小林)、佛蘭西文學史(進藤)、ドイツ精神史(佐藤)、西洋倫理學史(新開)、基督教思想史(ギリシヤ思想との融合時代、佐野)、西洋美術史演習(矢崎))
(參考：「文檢模擬試驗問題」、歴史17-2 [41154
西洋史：「ヘレニズムの影響せる所を考察せよ」)
(參考：編輯局「第74回文檢歴史科豫備試驗問題」歴史17-2 [41155
西洋史：「一、ギリシヤ文化の發展に對する東方先進國家の寄與」)
(參考：編輯局「文檢研究第115回・模擬試驗成績發表」歴史17-4 [41156
樺山文夫(栃木)「ヘレニズムの影響せる所を考察せよ」)
原田文穂「明治史學の立場」(ギゾー、バックル等)歴史17-11 [41157
研究抄錄「原平三「蕃書調所の創設」」(歴史研究103) 歴史17-11 [41158

（參考：彙報「[京都帝國大學文學部]昭和17年度史學科講義題目中」、
史林27-3 [41159
西洋史概說（第一部、第二部、原、時野谷）、希臘精神史（原）、希臘の建築（村田）、古代末期論（井上）、佛蘭西史學史(前川)、西洋史の諸問題（原）、講讀（研究室編「ドイツ史學思想」、井上）、史學研究法（原）、考古學概論（梅原）/副科目---教育學序說（木村）、希臘語（H.Tanaka, Graecae Grammaticae Rudimenta, 田中、Greek Elementary Reader、松平、Euripides: Iphigenia in Tauris,田中）、羅甸語（H.Tanaka, Nova Grammatica Latina, 田中、Via Latina、松平、Plautus: Trinummus、田中））
（參考：彙報「昭和17年度京都帝大文學部哲學科講義題目」、哲學研究314 [41160
哲學概論（田邊）、歷史と實存（高山）、西洋中世哲學史（山内）、特殊講義（イデアと國家、山内）、演習（Cicero: De finibus bonorum et malorum、山内)、Bergson, Les deux sources de la morale et la religion(九鬼)、心理學概論（野上）、道德思想の發達（野上）、倫理學概論（天野）、教育學序說（木村）、人間形成理念の問題史的發展（木村）、古代思想と教育（高橋講師）、美學序論（植田）、藝術と民族（井島）、宗教學概論（西谷）、神秘主義の研究（西谷）、西洋哲學史講讀（Platon:Meno, Thaetetos、三井講師））
高山岩男「歷史的世界の構造」（紀行）哲學研究310,311 [41161
書評・下程勇吉「高山岩男氏「文化類型學研究」讀後」哲學研究312 [41162
書評「内藤智秀「東西文化の融合」」史學21-2 [41163
書評「幸田成友「日歐通交史」」史學21-2 [41164
遠藤隆吉「日本人の對外的態度」(ギリシヤ・ローマ文明研究の要等)
丁酉倫理會倫理講演集474 [41165
帆足理一郎「新東亞の宗教工作と世界的信仰」(アレキサンダーのグリシヤ文化强行等)丁酉倫理會倫理講演集477 [41166
村岡晢「ランケの南方旅行について」文化9-11 [41167
松木喬「エマスン讀書語錄」英語研究1月號 [41168
西村貞二「ヨーロッパに就いて」批評4-7,8,12 [41169
角田文衛「イタリアの文化---政治性とその將來性」(ローマ時代、ポムペイ、エルクラーノ等)東京朝日新聞7/26 [41170
芳賀檀「大きな民族移動---(1)歐洲文化の移調と交代、(2)新しい開花へ」(ニーチェ、ギリシヤ彫刻等) 東京朝日新聞9/4 [41171
秋山謙藏(評)「幸田成友「日歐交通史」」東京朝日新聞10/31 [41172
B.②＊[訂正]池田進『大學の歷史』（第1章「大學以前」、第2章「大學の發生」）
[13597] [41173
速水敬二『ロゴスの研究』 [41174
田中美知太郎『ギリシア人の智慧』（→昭22再版) [41175
田部隆次編『日本を觀る』(ケーベル) [41176
賀川豐彦『復活の福音』 [41177
山谷省吾『パウロ』 [41178
カール・アダム/服部英次郎譯『聖アウグスティヌスの精神的發展』 [41179
聖アンセルムス/長澤信壽譯『プロスロギオン』(岩波文庫) [41180

由木康『パスカル傳』(→昭24再版) [41181
Ch.ドーソン/刈田元司譯『進歩と宗教』(現代カトリック文藝叢書7) [41182
藤森成吉(小説)『若き洋學者』(三瀬周三[諸淵]、日新新書) [41183
③＊[訂正・削除]~~中野徹「ギリシヤ哲學の文化史的意義」(大東亞文化協會編「哲學と歴史」中)~~ [13637] [41184
(參考：「昭和十七年六月定期試驗問題」(第一講座)日本法學8-9 [41185
西洋倫理・佐々木「左ノ問ニ答ヘヨ---(1)プラトー(2)アリストートル」)
(參考：「(昭和16年度)官立大學教育學科卒論」、
教育學研究(東京文理大)10-10 [41186
廣島文理大：眞流堅「ポリス的人間の形成」)
(參考：「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞277(12/16) [41187
哲學：木村恒夫「プラトンのイデア論に關する一小研究」
倫理：安村義煌「アリストテレスの倫理學に於けるアレテについて」)
(參考：「(慶大)卒論」、三田新聞508(11/4) [41188
文學部：橋本教授下：廣瀬和「プラトンのエロスに就て」)
下村寅太郎「魔術の歴史性---近代科學の形而上學的系譜についての一試論」
思想247 [41189
(參考：彙報「東京帝大昭和16年度史學科卒論」、歴史地理79-2 [41190
太田秀通「ソクラテスとその諸像」)
三井浩「プラトーン哲學資料論補遺」哲學研究316 [41191
秀村欣二「アエネーアース傳說とウェルギリウスのアエネーイス」
日伊文化研究9 [41192
④酒井三郎「ブライジッヒの發展思想史論について---K.Breysig,Gestaltungen des Entwicklungsgedankens,1940の紹介」歴史學研究96 [41193
(參考：「(昭和16年度)官立大學教育學科卒論」、
教育學研究(東京文理大)10-10 [41194
・廣島文理大：村井道明「大學の歴史と理念」
・東京帝大：主原正夫「ベルリン大學の創設に就いて」)
(參考：「昭和17年教育學科卒論」、教育學研究(東京文理大)11-9 [41195
東京文理大：金子敏「人間の自覺----ヘーゲル精神現象學を中心として」)
新刊「カール・アダム/服部英次郎譯「聖アウグステイヌスの精神的發展」」
聲795 [41196
新刊「聖アウグスチヌス/高桑純夫譯「ソリロキア」」聲800 [41197
國分敬治「岡田正三氏譯「プラトン全集・第一巻」」
京都帝國大學新聞357(12/5) [41198
小口優「ドイツ精神潮流の開明---吹田順助氏著「獨乙精神史」」
早稻田大學新聞236(1/4) [41199
讀書・松浪信三郎「樫山欽四郎「ドイツ精神の生成」」
早稻田大學新聞237(1/21) [41200
(參考：「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞263(8/23) [41201
西洋史：大野達也「神話と科學」)
大江精志郎「輝かしい精神的傳統----岩下壯一著「中世哲學思想史研究」」

早稻田大學新聞264(9/2) [41202
(參考：「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞277(12/16) [41203
哲學：新原洪奎「トマス・アクイナスに於ける存在の概念について」)
芳賀檀「自己の贈與による創造----ニイチェ」三田新聞507(10/28) [41204
岩井大慧「歐米に於ける印度研究」思想245 [41205
賀川豐彦「基督者と從順精神」神の國新聞1142(1/21) [41206
「學年末最後の例會---東大カトリック研究會」(田中[耕太郎]、ホイヴェルス博士)
カトリック新聞845(2/1) [41207
新刊「カール・アダム/服部英次郎譯「聖アウグステイヌスの精神的發展」」
カトリック新聞860(5/17) [41208
新刊「クリストファー・ドウソン/刈田元司譯「進歩と宗教」」
カトリック新聞862(5/31) [41209
伊藤庄治郎「「聖アウグステイヌスの精神的發展」を讀みて」(カール・アダム著)
カトリック新聞866(6/28) [41210
ロゲンドルフ「宗教と文化との相關---- ドウソンの中心思想」
カトリック新聞867(7/5), 868(7/12) [41211
學藝消息「アウグスチヌス/高桑純夫譯「ソリロキヤ---私との對話」」
カトリック新聞875(9/6) [41212
奥澤生「聖アウグスチヌス/高桑純夫譯「ソリロキヤ---私との對話」」
カトリック新聞876(9/20) [41213
新刊哲學書紹介・吉滿義彦「グァルディーニとマリタン」(ヘルデルリーンの古代精神、ギリシヤ的ロゴス、ヴィルギリウス的古典的人間性等) カトリック研究22-1 [41214
フィステル「現代的思惟と宗教の本質」(ミュートス、ニーチェ、アウグスチヌス、プラトン、トマス、アリストテレス等)
カトリック研究22-2 [41215
新刊・ジーメス「ヨハンネス・ロッツ/ヨゼフ・ド・フリース「人間の世界」」(プラトン、アリストテレス等)
カトリック研究22-2 [41216
野村良雄「藝術と宗教---現代日本美學思潮の一斷面」(ケーベル等)
カトリック研究22-3 [41217
高橋憲一「デンプ「宗教哲學」の志向と方法」(アウグスチヌス、新プラトン主義、グノーシス等) カトリック研究22-4 [41218
書評・デュモリン「岩下壯一「中世哲學思想史研究」」
カトリック研究22-4 [41219
資料・デュモリン「三位一體の術語について」(聖アウグスチヌス、聖トーマス等)
カトリック研究22-6 [41220
紹介(岡島)「井筒俊彦「アラビア思想史----- 回教神學と回教哲學」」
史林27-1 [41221
前田博「ヘーゲルと國家的教育の理念」哲學研究311,312 [41222
書評・大島康正「(西谷啓治著)「世界觀と國家觀」について」
哲學研究311 [41223

澤潟久敬「デカルトのcogito,ergo sumの哲學史的考察」哲學研究319 [41224
(書評)荒川龍彦「アウグスチヌス/高桑純夫譯「ソソロキア」」
日伊文化研究9 [41225
加藤玄智「W・K・ライト著/上野隆誠譯「宗教思想史」」書物展望12-9 [41226
帆足理一郎「知識と鍛錬」(ソクラテス等) 丁酉倫理會倫理講演集471 [41227
近藤兵庫「知識の爲の鍛錬か、鍛錬の爲の知識か」(ギリシヤ人とギリシヤ文化等)
丁酉倫理會倫理講演集471 [41228
桑木嚴翼「愚管抄の論理」(エンペドクレス、プラトン、アリストテレス、ニーチェ等)丁酉倫理會倫理講演集472 [41229
大島正德「世界的常識の涵養」(アレキサンダーの東征等)
丁酉倫理會倫理講演集473 [41230
馬場文翁「自由意志論の展開」(特に古代、アリストテレースに於ける自由意志論の展開等) 丁酉倫理會倫理講演集473,474 [41231
新刊批評・香原生「井上哲次郎「修正・人格と修養」」(ソクラテス等)
丁酉倫理會倫理講演集475 [41232
近藤兵庫「日本倫理の二、三の特質」(ソクラテス、ソフィスト時代等)
丁酉倫理會倫理講演集477 [41233
八田三喜「ベルリン大學の創設」(フンボルト等)
丁酉倫理會倫理講演集478 [41234
友枝高彦「ベルツの眼に映じた日本民族の死生觀」(羅馬の武人、アレキサンダー、シーザー等) 丁酉倫理會倫理講演集481 [41235
中川秀恭「ハイデッガーに於ける無の問題」文化9-4,5 [41236
武市健人「ヘーゲル論理學の世界---「本質論」を中心として」文化9-5 [41237
松木喬「エマスン農耕語錄」英語研究2月號 [41238
松木喬「エマスン家庭語錄」英語研究3月號 [41239
桑原武夫「健康な倫理---モンテーニュを斯く讀む」日本讀書新聞188(2/23) [41240
藤井義夫「哲學的と政治的」(プラトン、アリストテレス等)
一橋新聞352(8/10) [41241
(?)「古代藝術と祭式」(J.ハリスン/佐々木理譯)東京朝日新聞1/25 [41242
評書「三谷隆正「アウグスチヌス小傳」」基督教新聞2588(4/9) [41243
(龜德)「日本の母ごころ」(アウガスチヌスの母モニカ等)
基督教新聞2592(5/16) [41244
阿部義宗「母を讃ふ」(アウガステインの母モニカ等)
基督教新聞2592(5/16) [41245
宇都宮充「日本基督教の實踐的性格」(ギリシヤ人の自由と文化の都阿アテネ等)
基督教新聞2603(7/23) [41246
平賀德造「日本基督者の自覺」(オーガスチン等) 基督教新聞2609(9/17) [41247
C.②高山岩男『世界史の哲學』 [41248
＊[訂正・削除]シェティーヴェ著/石川錬次郎譯『獨逸民族二千年史』
[13690] [41249
＊[訂正]村田數之亮譯『先史世界への情熱---シュリーマン自傳』(La China et le Japon au temps présent,Paris,1869. 1990[平成2]年、石

川和子譯『シュリーマン旅行記 清國・日本』新潮社版、1998[平成10]年、講談社學術文庫版。1871年、トロイ發掘。1954[昭29]年、村田數之亮譯『古代への情熱---シュリーマン自傳』岩波文庫、1967[昭42]年、同譯『古代への情熱---發掘王シュリーマン自傳』) [13679] [41250
千葉勇五郎『殉教の使徒パウロ研究』 [41251
エミール・ボーマン/戸塚文卿譯『眞理の使徒・聖パウロ』(聖パウロ會叢書、偉人傳1。→昭21再版) [41252
中上義行『パウロの回心と基督教の起源』 [41253
左近義弼譯『ヨハネの傳へし福音書』 [41254
アイリーン・バウア/赤木俊譯『中世紀の人々』 [41255
カーライル/柳田泉譯『フランス革命史』(第1部、第2部) [41256
③＊[訂正・削除]~~近山金次「カルタゴ撲滅論考」史學21-3・4(合)~~ (→昭18.C③) [13698] [41257
＊[訂正]カニンガム著/木口浩一譯「世界古代史」(大東亞文化協會編「哲學と歴史」中) [13693] [41258
＊[訂正](參考：史學會大會西洋史部會發表要旨補遺、史學雜誌633 [13705] [41259
秀村欣二「nostrum mareについて」)
(參考：歴史學界情報「史學大會第43回大會」、歴史17-6 [*41259
秀村欣二「Mare Nostrumについて」)
＊[訂正]下位春吉「閑談ローマの水」イタリア1月號 [13716] [41260
＊[訂正]原隨園「ギリシアにおける人口問題の一面について」 歴史學研究95 [13710] [41261
＊[訂正](參考：會報「史學會大會」、歴史學研究96 [41262
村川堅太郎「ギリシアの歴史家に就いて」) [137711] [41263
山川敏夫「ローマのイギリス征服」宗教研究4-4 [41264
新刊「外山卯三郎譯「マリシアン將軍筆記/ジュリアス・シイザア戰爭論」」 早稻田大學新聞237(1/21) [41265
高山岩男「歴史主義の問題と世界史」思想237 [41266
岩村忍「亞歐大陸諸民族活動の方向についての史的考察」思想241 [41267
平田禿木「古代英國に於けるローマ人」(Sir John Marriot譯註) 英語青年87-2,4,5 [41268
青木巖「二人の歴史家」(ツキヂデス、ヘロドトス)文藝6月號 [41269
杉勇「羅馬帝國の興亡」新若人8月號 [41270
④＊[訂正]小林秀雄「ガリア戰記」(昭17・近山金次譯「ガリア戰記」) 文學界5月號 [24717] [41271
＊[訂正・削除]~~井口一郎「地中海の地政學的意義(1)」地政學1-10~~ (→E.③) [13717] [41272
＊[訂正]中村英勝「昭和十六年に於ける我國西洋史學界の狀況」 史學雜誌630 [13279] [41273

村田數之亮「クレテ文明とクレテ美術」(紀元二千六百年紀念論文集)
村田數之亮「クレテのPriestkingに就いて」(西洋史說苑)
原隨園「エポスに見ゆる希臘政治思想」(政治と思想)
原隨園「正義--希臘政治原理の一として」(紀元二千六百年紀念論文集)
原隨園「アテナイの民衆指導者」(西洋史說苑)
原隨園「ディオニュソス精神」
村川堅太郎「ギリシヤ人の財産觀念についての一考察」(史林26-1)
村川堅太郎「Polisを繞る問題」(社會經濟史學の發達)
吉原好人「デモステネスの「第一ピリッピカ」」(西洋史說苑)
粟野頼之祐「プラトン寫本野傳承について」(史學20-1)
小泉功「アリストテレースに於ける國家と個人との關係」
(經濟學雜誌8-5)
小川政恭「ヘロドトスの生涯」(文化8-1,3)
山内得立「ポリスの倫理思想」(岩波講座「倫理學」5)
出隆「コスモポリテースの倫理思想」(岩波講座「倫理學」9)
田中美知太郎「ギリシヤ詩人の倫理思想」(岩波講座「倫理學」13)
~~仁戸田六三郎[仁井田大三郎は誤植]『スパルタ』(目黒書店)~~
田中美知太郎『ソフィスト』
祇園寺信彦「古代羅馬の帝國主義」(社會經濟史學の發達)
原田慶吉・境野剛「羅馬法に於ける兵士の私法的地位」
(法學協會雜誌59-1)
戸倉廣「羅馬法と基督敎との交涉」(西洋史說苑)
五十嵐松朗「帝政初期に於ける羅馬皇帝の被解放民について」
(史學20-1)
井上智勇「古代末期論―羅馬帝政史序說として」
(紀元二千六百年紀念論文集)
井上智勇「古代末期再考」(西洋史說苑)
有賀鐵太郎「初代敎會の羅馬觀」(基督敎研究18-4)
水川溫二「敎會史家ユウゼビウスの「コンスタンティヌス大帝傳」執筆の動機に就いて」(西洋史說苑)
辻村正吾「前カトリック期の異邦人基督敎二於ける二潮流」
(史林26-4)
岩崎勉「西洋古代道德思想」(世界精神史の諸問題)
水川溫二「古代ロードスの海上權と國際關係」
(中部日本歷史地理學會論文集1)
「ソフォクレス」の全譯(田中[秀央]・内山[敬二郎]共譯)
アリストパネス「蜂」(高津春繁譯)
ヘロドトス「歷史」(青木巖譯・下巻)
タキトゥス「ゲルマニヤ」(田中[秀央]・泉井[久之助]共譯・新版)
キケロ「友情について」(水谷[九郎]・呉[茂一]共譯)
ペトローニウス「トリマルキオーの饗宴」(岩崎良三譯)
ルナン/津田穣譯『イエス傳』

清水博「米國歷史學會の1940年度大會」、歷史學研究95 [41274
---- Tom B.Jones「宣傳、ヒステリー及ペロポネサス戰爭」
＊[訂正](三浦一郎)「(昭和16年度)歷史學年報」、歷史學研究99
[13736] [41275
・東洋史：蒙古・中亞(佐口)、南アジア(大原)
・西洋史：古典古代(三浦)、中世(藤田)、近世初期(倉橋)
酒井三郎「史學史の課題---千代田[謙]博士に近作を讀みて」(「歷史學」)
歷史學研究100 [41276
＊[訂正]紹介と批評・赤羽尚志「世界歷史・第3卷「西洋精神の源流」」
歷史學研究100 [13737] [41277
出口勇藏「フランス啓蒙時代後期の歷史觀」歷史學研究105 [41278
前川貞次郎「ギゾーとランケ---佛獨史學比較研究の一試論」歷史學研究105[41279
前川貞次郎「新世界史學の建設----高山岩男著「世界史の哲學」」
京都帝國大學新聞356(11/20) [41280
新刊「村田數之亮譯「シュリーマン自敍傳----先史世界への情熱」」
早稻田大學新聞274(11/25) [41281
(參考：「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞277(12/16) [41282
哲學：西腰松丘「ヘーゲル歷史哲學に於ける「個人」について」)
秀村欣二「良心的な譯業----カエサル著/近山金次譯「ガリア戰記」」
三田新聞482(3/25) [41283
宮崎友愛「人間的存在の先驅----クローチェ著/青木巖他譯「ヴィコの哲學」」
三田新聞484(4/15) [41284
(參考：第13回九州史學會大會、史淵28 [41285
新開長英「ロマンテイクの歷史思想」)
鮎澤信太郎「渡邊崋山の世界と地理研究」歷史地理79-1,2 [41286
リットン・ストレイチー/山上正太郎譯「六人の英國史家(二)ギボン」
歷史地理80-5 [41287
新著「鈴木成高「歷史的國家の理念」」歷史17-5 [41288
吉武夏男「トライチュケのランケ批判」歷史17-9 [41289
史園點描・小澤榮一「歷史的關心と歷史的使命」(原隨園「世界史への斷章」)
歷史17-9 [41290
成田喜英「國防と科學・科學史の業績」(ゲオルク・フォン・ベロウ/讚井鐵夫譯
「獨逸史學史」)歷史17-10,11 [41291
(參考：彙報「[京大]昭和17年度[文學部]史學科卒論中」、史林27-2 [41292
井上肇「ブルクハルト」)
(參考：彙報「西洋史讀書會---前川貞次郎「フランス史學の特性」」、
史林27-2 [41293
紹介(西井克己)「原隨園「世界史への斷章」」史林27-4 [41294
間崎萬里「ミノア王宮發掘者イヴァンズの訃」史學20-3 [41295
平塚博「中世イタリヤ都市の歷史的考察」日伊文化研究4 [41296
大類伸「ルネサンス的人間」日伊文化研究6 [41297
アントニオ・モンティ/東又清譯「佛蘭西革命の影響としての伊太利亞の復興」

日伊文化研究7 [41298
松本雪舟「クオヴヂス飜譯當初の思ひ出」書物展望12-12 [41299
中野康存「ヘルデルの詩論と民族の問題」文化9-1,3 [41300
平塚博「コラ・ディ・リレンツォのローマ復興運動」文化9-3,11 [41301
(?)「鈴木權三郎助教授の逝去を悼む」文化9-4 [41302
新刊・村岡哲「ベロウ/讃井鐵男譯「獨逸史學史」」文化9-11 [41304
「ランケ/鈴木・相原譯「世界史概觀」」日本讀書新聞185(2/2) [41305
教育專門「高山岩男「世界史の哲學」」日本讀書新聞226(11/16 [41306
杉山平助(評)「食事史」(山本千代喜著) 東京朝日新聞3/23 [41307
D.①＊[訂正]山本光雄譯・新村出校閲『アイソーポス寓話集』(岩波文庫)
[13755] [41308
②＊[訂正]レッシング/高橋義孝・呉茂一共譯『ラオコオン---繪畫と文學との限界について』 [13765] [41309
＊[訂正]アテネ・フランセ(東京)『ヌウヴェルクレストマチイラチイヌ』
(←昭18D.②) [14128] [41310
ジュコール・コンバリウ/園部三郎譯『音楽の進化と法則』 [41311
カトリック新報社『カトリック羅典聖歌集』 [41312
市村惠吾『フランソワ・ラブレイ』 [41313
竹村潤『子供のためのダンテ物語』 [41314
ベルトラム/外山完二譯『獨逸的形姿』 [41315
ハインリッヒ・フォン・シュタイン/郡山千冬譯『ゲーテとシラー---獨乙古典派美學のために』 [41316
冨野敬邦『諦念者ゲーテ』 [41317
Frédéric Jacob Soret/小原度正譯『ゲーテと共にありし十年』 [41318
育生社弘道閣版『(ブルーノ)タウト全集』(全8巻→昭19年) [41319
土井忠生『吉利支丹語學の研究』(靖文社。→1971年・再刊) [41320
中村宗太郎『司馬江漢』 [41321
守隨憲治『近世國文學・第一輯』(假名草紙、イソップ) [41322
新村出『言葉の歴史』 [41323
③(參考：會報「西洋史部會」、歴史學研究96 [41324
鈴木雅也「ソポフォクレスの悲劇について」)
平田禿木「ホーマの「イリアード」」新若人? 號 [41325
エルヴィン・ヤーン「ラインとローマ---ドイツ詩人とイタリーに對する考察」獨逸文學6-1 [41326
高津春繁「印歐比較文法に於ける共通基語再建の可能性に就いて」
言語研究10・11(合) [41327
④原平三「蕃書調所の創設」歴史學研究103 [41328
廣岡亮藏譯「ゲーテと人生」(Spranger,Goethe über menschenlichen Lebensalter)
教育學研究(東京文理大)10-12 [41329
(參考：「昭和17年教育學科卒論」、教育學研究(東京文理大)11-9 [41330
東京帝大：田代元彌「我國中世末期キリシタン學校」)
新刊「マンハル「ラテン語の手引」(下)」聲794 [41331

新刊「カロロ「ラテン語文章法」」聲794 [41332
新村出「南蠻文學の性格」京都帝國大學新聞351(8/5),352(9/20) [41333
「アリストパネース作/高津春繁譯「蜂」」早稻田大學新聞236(1/14) [41334
新刊「マガレット・リークス/大久保忠利譯「ゲーテの母」」
早稻田大學新聞237(1/21) [41335
(參考：「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞263(8/23) [41336
英文學：伊東保次郎「ラフカディオ・ヘルンに就て」
石川宏作「バイロン書簡研究序說」
小野江爲直「ペーター及びワイルドの唯美主義研究」
舍英一「バイロンのチャイルド・ハロルド」
齋藤英夫「キーツのバグッドの文獻的研究」
寺本菅三「批評家としてのアーノルド」
獨文學：玉禎壽「ゲーテの詩に就いて」
小林辰尾「ヘッベルの戲曲觀研究」
高木貞男「タウリスのイフィゲーニエ及トルウクート・タッソーに現はれたるゲーテの個性」）
(參考：「(早大)文學部卒論」、早稻田大學新聞277(12/16) [41337
英文學：苅部百合子「シェリーに於ける抒情味とプラトン的理想主義」
國島和彦「ペイターの藝術觀について」
古川晴風「シェリー及キーツの詩的作家に於ける複合形容詞」
獨文學：岩澤豪彦「ゲーテにおけるStrum und Drang運動の萌芽について」
橋本勳「ゲーテ研究」
文岩有洙「シルレルの生涯及彼の作家研究序說」
發田久德「ゲーテ研究」
諸井清彦「レッシング研究」
渡邊一朗「シラー論」）
岩崎良三「古典的作品への注目----外國文學飜譯への方向」(ギリシヤ・ローマの古典等)三田新聞492(6/24) [41338
片山敏彦「カの聖なる秩序の「愛」----ダンテ」三田新聞495(8/5) [41339
厨川文夫(白村)「原著に勝る飜譯書----岩崎良三著「ローマ文學史」」
三田新聞495(8/5) [41340
森口多里「文藝と造型藝術の差別----レッシング著/呉[茂一]・高橋[健二]譯「ラオコオン」」三田新聞511(11/25) [41341
「西洋美術の創始----澤木[梢・四方吉]教授の遺稿出版」三田新聞515(12/23) [41342
板垣鷹穂「建築史家(2)」(ブルクハルト) 思想236 [41343
板垣鷹穂「建築史觀」思想237 [41344
飯塚友一郎「演劇と教育」(河出孝雄編「演劇論4・演劇と文化」中) [41345
新村出「南蠻文學の性格」京都帝國大學新聞8/5,9/20 [41346
新刊「岩崎良三譯「ローマ文學史」」三田文學17-8 [41347
武藤金太「「三田派の美術史家」覺書」三田文學17-11 [41348
「故澤木四方吉先生十三回忌に際して----澤木先生著作年表」三田文學17-11 [41349
紹介(村田數之亮)「リーブル著/長廣敏雄譯「美術様式論」」史林27-4 [41350

(參考：彙報「哲學茶話會---西村嘉彦「クローチェの藝術哲學」」
哲學研究319,321) [41351
西村嘉彦「藝術哲學の基督教問題---クローチェ研究への覺書」
哲學研究319,321 [41352
學藝消息「吉滿義彦氏「日伊文化研究・第五巻」・「聖トマスとダンテ」」
カトリック新聞851(3/15) [41353
學藝消息「ダンテ「神曲」地獄界/日伊文化研究・第五巻」(竹友藻風氏譯)
カトリック新聞851(3/15) [41354
澁谷治「舊約聖書原語の假說」(アレキサンドロス大帝、ギリシヤ文化等)
カトリック研究22-2 [41355
新村出「序文」(土井忠生著「吉利支丹語學の研究」)
海老澤有道「イタリヤ人耶蘇會士と日本との最初の交涉」日伊文化研究4 [41356
板垣鷹穗「都市整備計劃と「永遠の都」」日伊文化研究4 [41357
柳澤健「伊太利とスタンダールへの回想」日伊文化研究4 [41358
吉滿義彦「聖トマスとダンテ」日伊文化研究5 [41359
荒川龍彦「イタリア文學と英文學」日伊文化研究5 [41360
竹友藻風譯「ダンテ「神曲」地獄界」日伊文化研究5,6,7,8,9 [41361
增田重光「ルネサンス觀と大ロレンツィオ觀」日伊文化研究6 [41362
竹友藻風「シェイクスピアと伊太利亞文學」日伊文化研究6 [41363
遠藤宏「「御みさへん事」と彌撒聖祭」(切支丹ラテン語)日伊文化研究7 [41364
中井駿二「統一の意志------リソルジメントの文學思想」日伊文化研究7 [41365
板垣鷹穗「建築・彫刻の歷史上に於ける特殊性」日伊文化研究8 [41366
尾島正太郎「シェリイに於けるイタリアの自然と文学の影響」
日伊文化研究9 [41367
ジョバンニ・パピー二/鹽見高年譯「ルネサンス私見」日伊文化研究9 [41368
スピンダーン/山室靜譯「文藝復興期批評の基礎問題」日伊文化研究9 [41369
渡邊一夫「ユマニストのいやらしさ」(1970年刊著作集1中) [41370
渡邊一夫「〈ラブレーの十五分〉Le guart d'heure de Rablais」(1970年刊著作集1中)
[41371
内山貞三郎「ゲーテとハンス・ザックス」書物展望12-9 [41372
畑中伊三郎「ゲーテの形而上學性一考」獨逸文學5-4 [41373
ローベルト・シンチンゲル「獨逸文學の情感性と實質性」(ゲーテ等)
獨逸文學6-2 [41374
武由宗俊「ハイデッガーの藝術、文藝觀」文化9-3 [41375
書評「黑田正利「イタリヤ研究」」英語教育7-4 [41376
高村一之「希臘羅馬研究と英語」英語研究8,9,10,11,12月號 [41377
田中美知太郎「文藝批評とは」(プラトン等) 新潮3月號 [41378
本多顯彰「批評論覺書(1)(2)」(プラトン、アリストテレス、ギリシア文學等)
新潮4,5月號 [41379
片山敏彦「ゲーテとリルケ」新潮8月號 [41380
村井順一郎「ロダンの言葉」新美術2月號 [41381
秋山六郎兵衛「シラー藝術」文藝世紀6月號 [41382

保田與重郎「歴史の年齢」(伊太利畫、ゲーテ等)イタリア7月號 [41383
(參考:「三田史學研究會例會報告」、史學19-4 [41384
昭16:板澤武雄「江戸時代の洋學者の語學について」)
幸田成友「外國語修業」(ギリシヤ、ラテン等)新若人3-6 [41385
幸田成友「ラウレス師著吉利支丹文庫とその補遺」學燈45-1 [41386
「平易な獨逸精神史」(樫山欽四郎「ドイツ精神の生成」)
日本讀書新聞184(1/26) [41387
「古代希臘文學の粹----ソポクレス「希臘悲壯劇」」(田中秀央・内山敬二郎譯)
日本讀書新聞185(2/2) [41388
伊那鼎「書物の衣裳---二十世紀以前の装幀史」日本讀書新聞191(3/10) [41389
新村出「吉利支丹文學の研究」(土井忠夫著「吉利支丹文學の研究」序) [41390
北村喜八「暗示の藝術への示唆--- ガストンバテイ著/坂丈緒譯「演劇の眞髄」」(ローマ演劇等) 一橋新聞349(6/10) [41391
(參考:「第五回ギリシア語聖書研究會----[講師]玉川直重、神田盾夫、鈴木俊郎」、
基督教新聞2585(3/19)) [41392
E.②＊[訂正]隈崎渡『西洋法制史概論』(附錄・「原始父權社會に於ける婦人の法律的地位」・「古代エジプトの財産相續と妻子の地位」)
[13843] [41393
＊[訂正]沖中恒幸『經濟學說史』(第一章「經濟學說前史」) [13846] [41394
戸水寛人遺稿中『法律學綱領』(ローマ法等) [41395
佐藤清勝『西洋法律學批判』(第1章「西洋實定法の概觀」、第2章「西洋法學說の概觀」) [41396
田中耕太郎『法律哲學論集(一)』([法と道徳」[昭8. 岩波講座・哲學中]、「グローチウス論」[昭3. 岩波講座・世界思潮中]、「昭15. デル・ヴェキオ法律哲學講義・序文」[和田小次郎譯]」 [41397
③＊[訂正]井口一郎「地中海の地政學的意義」地政學1-9,10,11 (←C.③)
[13717] [41398
(參考:「昭和十六年十二月卒業試驗問題」(第一講座)日本法學8-2 [41399
政治思想史・小林「一アリストテレスノ彊善ナル國家組織」「三、ストア學派、エピクロス學派」)
(參考:「昭和十七年六月定期試驗問題」(第一講座)日本法學8-9 [41400
政治思想史・小林[一問選擇]「一、プラトーンノ政治思想ヲ論述スベシ」「ニ、アリストテレスノ國家論存續ノ要件ヲ述ベヨ」)
(參考:「(慶大)卒論」、三田新聞508(11/4) [41401
法學部:潮田教授下:秋山武「ギリシヤ都市國家とアリストテレスの政治學」)
斑目文雄「海---ゲオポリティーク風に」思想238 [41402
(參考: 編輯局「文檢研究第113回・模擬試驗成績發表」歴史17-2 [41403
塙喜美造(茨城)「ローマ人の政治理想に就て記せ」)
(參考:編輯局「第74回文檢歴史科豫備試驗問題」歴史17-12 [41404

西洋史：「一、上古ギリシアに對するヘレスポントの經濟的重要性」）
新刊「教育局「日本諸學振興委員會研究報告「特輯第二篇・哲學」」
丁酉倫理會倫理講演集471 [41405
----- 青木巖「プラトンの國家觀を繞りて」、出隆「コスモポリテースの倫理」
④高柳賢三「イギリス法系の誕生」（ローマ法等）法學協會雜誌60-8,9,11,12 [41406
久保正幡「フランク時代における屬人法主義の成立について」
「杉山教授還暦祝賀論文集」中 [41407
清水博「米國歷史學會の1940年度大會」、歷史學研究95 [41408
------Gaines Post「ローマ法の中世的表現」
紹介と批評・林健太郎「鈴木成高「歷史的國家の理念」」歷史學研究97 [41409
紹介と批評・增田重光「L.C.Mackinney,The Medieaval World,1938」
歷史學研究98 [41410
上原專祿「歷史的經濟學派の古代經濟史研究---その方法と業績との概括的觀察」
歷史學研究105 [41411
「内外文獻」、經濟學雜誌10-1 [41412
J.B.Gattler,Social Thougut amang the early Greeks,’41
ドープシュ/增淵龍夫譯「初期中世の經濟と社會」商學論集13-1,2
カール・レーヴィット/坂田志郎譯「ヘーゲル及びその學派の哲學問題としての勞働」山口商學雜誌13-2
「ゾーム/久保正幡・世良晃志郎譯「フランク法とローマ法」」
早稻田大學新聞249(5/13) [41413
(參考：「(慶大)卒論」、三田新聞508(11/4) [41414
法學部：伊藤教授下：大場忠義「モンテスキュウ・法の精神研究」)
長谷川武敏「法律學研究の一生--- コンタルド・フェリーニを憶ふ」（ローマ法等）
カトリック新聞874(8/30) [41415
「研究會始まる----東大カトリック研究會」(田中耕太郎「聖トマスと自然法」)
カトリック新聞883(11/1) [41416
ペーテル・ヘルツォグ「法の目的性について」(アリストテレス、聖トマス、イェーリング等) カトリック研究22-1 [41417
（參考：彙報「東京帝大昭和16年度史學科卒論」、歷史地理79-2 [41418
今村文夫「ダンテ「帝政論」の史的考察」）
（參考：編輯局「文檢研究第120回・模擬試驗成績發表」歷史17-10 [41419
野木善太「十七八世紀歐洲諸國に於ける政治と文化の關係を考察せよ」
紹介（豐田堯）「鈴木成高「歷史的國家の理念」」史林27-2 [41420
紹介（豐田堯）「長壽吉博士還暦記念：西洋史論集「政治と思想」」史林27-2[41421
（參考：彙報「西洋史讀書會---會田雄次「ルネサンスの君主觀」」、
史林27-2) [41422
桑木嚴翼「徂徠の「政談」を讀む」(プラトーの「法律」等)
丁酉倫理會倫理講演集477 [41423
中村哲「ゲルマン國家と軍隊」臺法月報36-5 [41424
「相馬氏紀念文化講演會」、一橋新聞350(6/25) [41425
---- 上田辰之助博士講演要旨「經濟倫理のスコラ的展開」

（参考：「卒論題目」、一橋新聞358(12/10) [41426
板垣助教授ゼミ：笠原義雄「マキャヴェリの政治思想に關する一考察」)
F.②＊[訂正・削除]高階順治郎『東西思想と日本』（「希臘に現はれたる自然觀」「物質的自然觀」[パルメニデス]「數理的自然觀」[プラトー]「生物的自然觀」[アリストートル]） [24773] [41427
白川巖『科學史創造の偉人たち---大科學者の傳記』（古代ギリシヤ等） [41428
林醰『科學人史話』 [41429
中瀬古六郎『世界化學史要』 [41430
③近藤洋逸「アルキメデスの求積法について」昭和高商論叢2 [41431
平田寛「ガリレイとギリシヤ科學----反證されたアリストテレス」
早稻田大學新聞245(4/15) [41432
④新村出「じゃがいもの話」日本評論8月號 [41433
紹介と批評・湯川和夫「下村寅太郎「科學史の哲學」」歷史學研究96 [41434
讀書・大介「矢崎彈「技術文化史」」（科學史叢書）
早稻田大學新聞240(2/11) [41435
新刊「下村寅太郎「科學史の哲學」」早稻田大學新聞244(4/8) [41436
森島恒雄「藝術のルネサンスから科學のルネサンスへ」
早稻田大學新聞245(4/15) [41437
新刊「テイラー/森島恒雄譯「科學史」」早稻田大學新聞253(6/10) [41438
鈴木啓介「レオナルド・ダ・ヴィンチ展の歷史的意義」(ギリシヤ・ローマの文化、マケドニヤ等) 早稻田大學新聞258(7/15) [41439
新刊「田中邦次郎「自然科學文明史」」早稻田大學新聞278(12/23) [41440
篠遠喜人(評)「科學史の諸斷面」(菅井準一著) 東京朝日新聞3/9 [41441
浦本政三郎(評)「生物學史」(上下。巴陵宣祐著) 東京朝日新聞6/17 [41442
成田喜英「國防と科學・科學史の業績」（ピゲロウ改補・タフラー・セジ井ク/安田春夫譯「自然科學史(上)」、松原晩香「南蠻通交史」）歷史17-10,11 [41443
松山武夫「科學的思惟」（ゲーテ小論）獨逸文學6-3 [41444
新刊「稻葉三男「數學發達史」」科學(岩波)12-1 [41445
書籍紹介「E.T.Bell,The Development of Mathematics,1940」
(日本中等教育) 數學會雜誌24-2 [41446
書籍紹介「下村寅太郎「科學史の哲學」」(日本中等教育) 數學會雜誌24-3[41447
書籍紹介「アイバー・ビー・ハイト原著/加茂儀一譯「レオナルド・ダ・ヴィンチ數學」」(日本中等教育) 數學會雜誌24-4 [41448
書籍紹介「ていら一著/森島恒雄譯「科學史」」(二、ぎりしやの科學)
(日本中等教育) 數學會雜誌24-6 [41449
菊池榮一「現象の歷史學----ゲーテの自然科學に於ける一つの問題」
ゲーテ年鑑10 [41450
G. 植村長三郎『書誌學辭典』 [41451
新村出「序」（植村長三郎著「書誌學辭典」） [41452
瀨川賴太郎編『教育新辭典』 [41453

「教界待望の書----カトリック大辭典・第二巻」カトリック新聞851(3/15) [41454
K.S.「「カトリック大辭典」紹介」聲800 [41455

昭１８（１９４３）

A. 谷津直秀『生物紀行---日本からナポリまで』 [41456
飯塚浩二「アメリカ文化とヨーロッパ文化、その類似と相異とについて(1)(2)(3)」
思想256,257,258 [41457
增田重光「近世初期文化(ルネサンス)」歴史學研究110 [41458
土方成美「イタリアの旅の思ひ出」イタリア4月號 [41459
文化時評・坂田德男「文明と文化」（ギリシヤ・ローマ等）
京都帝國大學新聞361(3/5) [41460
黑田正利「「スコラ」を憶ふ----失はれたイタリアの文化」
京都帝國大學新聞369(9/20) [41461
呉茂一「ラテン文化と中世」三田新聞520(2/10) [41462
間崎萬里「文化史的敍述の魅力----フライターク著/向坂逸郎譯「獨逸文化史」」
三田新聞530(7/10) [41463
吉滿義彦「支那哲學叡智とカトリシズム---ベルナール師「東西思想交流史」邦譯版に因んで」(ソクラテス、アリストテレス、プラトン、聖アウグスチヌス等) カトリック研究23-2 [41464
マリオ・カルソ/岩崎純孝譯『ムッソリーニの伊太利』 [41465
浦川和三郎『浦上切支丹史』（附・浦上切支丹史年表、浦上教會主管者一覧表）
[41466
金指正三『近世日本に活動せる伊太利人』 [41467
書評・高村象平「幸田成友「日歐通交史」」史學21-2 [41468
（參考：昭和17年10月以降[九大]法文學部史學關係講義題目中、史淵29 [41469
フランス文學史(進藤)、獨逸精神史(佐藤)、西洋近世哲學史(四宮)、基督教の起源(佐野)/臨時講義---古代史概說(原) ）
（參考：編輯局「第129回文檢歷史科豫備試驗問題」、歷史18-4 [41470
日本史：「蘭學を批判せよ」)
一女教師「シチリア島」小學校女教員19-8 [41471
相良守峯「イタリアに於けるドイツの詩人」（ゲーテ）日伊文化研究10 [41472
會田由「イタリアに於けるセルバンテス」日伊文化研究10 [41473
大畑末吉「アンデルセンとイタリア」日伊文化研究10 [41474
正宗得三郎「伊太利亞文化の追憶」日伊文化研究12 [41475
幸田成友「伊太利訪書記」日伊文化研究15 [41476
篠崎彰「南イタリア----その地理と都邑概觀」日伊文化研究15 [41477
伊藤廉「雜草・蝶・ギリシヤ」書物展望13-12 [41478
（參考：[立教大學]昭和17年度史學科講義題目中、史苑15-2 [41479
史學概論(大類)、西洋史概說(野々村)、西洋史學(野々村)、史學史(大類)、美術史(辻)、西洋哲學史(出)、教育史(佐藤)、教育學(宗像)）
（參考：昭和17年10月史學科講義題目中、史林28-1 [41480

西洋史概說(第一部、第二部、原、時野谷)、希臘史學史(原)、中世文化の性格と諸相(鈴木)、古代世界の成立(井上)、エーゲ文明(村田)、獨逸史學思想(井上)、古代史の研究(原)、史學研究法(原)/副科目---教育學序說(木村)、希臘語(H.Tanaka, Graecae Grammaticae Rudimenta, 田中、A Greek Reader、松平、Euripides:Iphigenia in Tauris,田中)、羅甸語(H.Tanaka, Nova Grammatica Latina, 田中、Via Latina・ラテン選文集、松平、Plautus: Trinummus、田中))

(參考：[京大]昭和17年10月史學科講義題目中、史林28-4 [41481
西洋史概說(第一部、第二部、原、鈴木)、民族興亡史(原)、ローマ帝國と基督教との關係、井上)、講讀(獨逸史學思想、井上)、演習(アリストテレス政治學、原)、史學研究法(原)、考古學概論(梅原)、希臘的美術(村田))

桑木嚴翼「文化そのもの」(希臘末期、アウグスチヌス「神の國」、ピュタゴラス、ヘーゲル等) 丁酉倫理會倫理講演集483 [41482

帆足理一郎「民族文化と世界文化」(シュペングラア、グリシア民族、ロウマ法制等) 丁酉倫理會倫理講演集483 [41483

近藤兵庫「文化と民族の興亡」(ギリシア、ローマ等)
丁酉倫理會倫理講演集483 [41484

新著批評「桑木嚴翼「書物と世間」」丁酉倫理會倫理講演集488 [41485

小尾範治「苛烈なる戰局に直面して」(ギリシヤ文化、ギリシヤ哲學等)
丁酉倫理會倫理講演集492 [41486

川合貞一「ヴント先生の思ひ出」原理日本19-6 [41487

書評・高村象平「幸田成友「日歐通交史」」史學21-2 [41488

大類伸「「西洋」との對立」(ギリシヤ・ローマ國民等)
日本讀書新聞239(3/6) [41489

(參考：「一橋大學」本年度レーアプラン決定)、一橋新聞372(9/25) [41490
西洋經濟史(上原)、西洋法制史(町田)、經濟思想史(上田辰)、西洋文明史(村松)、西洋倫理學(藤井))

B.②＊[訂正]桑木嚴翼『哲學史箚記』(「獨逸哲學影響の種々相」「ベルグソン雜纂」「佛蘭西哲學の否定性」) [13986] [41491

＊[訂正]皇至道『獨逸教育制度』(古典語學校、ラテン語の優位とドイツ語の荒廢、古典語學校傳統と近代的學校の誕生等)
[14007] [41492

ヴィルヘルム・ヴント/房内幸成譯『諸國民とその哲學』 [41493

L.P.シャンクス/内山敏譯『アナトオル・フランス傳』 [41494

シリング/岡本良知譯『日本に於ける耶蘇會の學校制度』(東洋堂) [41495

A Catalogue of the Koeber Collection.---- Tohoku Imperial University Library,1943.
[41496

賀川英夫編『日本特殊産業の展相』(住谷悦治「三瀬諸淵[周三]の研究」)[41497

③＊[訂正](參考：京都帝國大學文科卒論、史林28-1 [14024] [41498
市川承八郎「ストア派に於けるコスモポリスについて」)

(參考：會報「西洋史部會」、歷史學研究113 [41499

秀村欣二「ユリアヌス帝と古代末期思想界」)
(參考：會報「特別研究會」、歴史學研究116 [41500
田中美知太郎「ヘラクレイトスの宗教思想」）
「聖アウグスチヌス----神か人か」カトリック新聞939(12/19) [41501
大庭征露「聖アウグスチヌスに於ける秘義と神秘主義」
カトリック研究23-1 [41502
（參考：彙報「倫理研究會---五十嵐明「アリストテレースの德論」、
哲學研究328) [41503
島芳夫「倫理と全體の理念」(プラトン)哲學研究325 [41504
高桑純夫「アウグスチヌスの近代性に就て」日伊文化研究10 [41505
石原謙「アウグステイヌスの世界創造の思想」文化10-8 [41506
佐々木理「ディオニューソスの祭」演劇4月號 [41507
④紹介と批評・三浦一郎「ジェーン・ハリソン/佐々木理譯「ギリシヤ神話論考」」
歴史學研究113 [41508
「内外文獻」經濟學雜誌18年度分 [41509
今泉三良「心の形而上學---アウグスチヌス哲學の一側面」經濟商業論纂31
山中巖彦「快樂と人生」(聖アウグスチヌス等)聲802 [41510
新刊「形而上學序論」(舊「スコラ哲序論」)聲802 [41511
新刊「シリング/岡本良知・柳谷武夫譯「見本に於ける耶蘇會の學校制度」」
聲806 [41512
新刊「フービ/戸塚文卿譯「カトリック思想史」(再版)」聲810 [41513
住谷悦治「三瀬諸淵の研究」(賀川英夫編「日本特殊產業の展相」所収、ダイヤモンド社、昭和18年。) [41514
文化時評・岡田正三「飜譯と原典」(プラトン等)
京都帝國大學新聞364(5/20) [41515
町田文夫「西歐十九世紀の精神---キエルケゴール・ニーチェ的立場」
京都帝國大學新聞364(5/20) [41516
片山敏彦「ロマン・ロランと東方----近代西歐的人間觀の超克」(ギリシア神話等)
京都帝國大學新聞373(11/20) [41517
書評・長澤信壽「藤井義夫「哲學的人間の形成」----眞摯周到なる研究」
京都帝國大學新聞374(12/5) [41518
「植田清次編「大哲學者----思想と生活」」早稻田大學新聞282(1/20) [41519
井汲清治「その「實學」の精神---- モンテーニュ」三田新聞・號外(1/27) [41520
「レヴィット著/中川秀恭譯「キエルケゴールとニーチェ」」
三田新聞520(2/10) [41521
原敏夫「ジャック・マリタン/吉滿義彦譯「形而上學序論」」
カトリック新聞894(1/24) [41522
山口鹿三「大學者の聖母崇拝」(ケーベル博士) カトリック新聞910(5/16) [41523
「トマス學會の創設」(公開講演會11/25---- 吉滿義彦「トマス神學大全の構造概論」、
デユモリン師「トマスの存在論(特にアナロギア・エンチスを中心として)」、ヘルツォグ師「トマス「スンマ・テオロギカ」に於け

る法律の定義」、高桑純夫「トマスの形而上學序説」) カトリック新聞929(10/3) [41524
「久遠の哲學探求----トマス學會第一回講演」カトリック新聞935(11/14) [41525
松本正夫「聖トマスの現代的意義---- 聖トマスと現代哲學」
カトリック新聞 945(3/12),948 (4/23),
949(5/7),951(6/4) [41526
吉滿義彦「神秘主義の形而上學----宗教的實存の秘儀」(聖アウグスチヌス、プラトン哲學、プロチノス、新プラトン主義、グノーシス等) カトリック研究23-1 [41527
デュモリン「東洋及び西洋の神秘思想」(聖アウグスチヌス、アリストテレス、新プラトン派、プロテイノス等)
カトリック研究23-1 [41528
アイロス・マーゲル/中村克己譯「神秘經驗の心理學のために」(アリストテレス等)
カトリック研究23-1 [41529
フーゴー・ラーネル/小林珍雄譯「エックハルト源流考」(アウグスチヌス等)
カトリック研究23-1 [41530
ルブルトン/松本正夫譯「十字架の聖ヨハネと「靈魂の暗夜」---その神秘思想の由來と性格に就て」(アレキサンドリアのクレメンス、フィロン等) カトリック研究23-1 [41531
ジーメンス「哲學思惟の文法としてのスコラ的存在論---二つの新刊「哲學概論」について」カトリック研究23-3 [41532
新刊「ヘッセン/大西昇譯「人生の意味」」(「トマス・アクイナスの世界觀」。プラトン、アリストテレス的傾向、トマス的傾向等)
カトリック研究23-3 [41533
デュモリン「ニイチェの宗教性とキリスト教」カトリック研究23-4,5 [41534
野村良雄「中世美學思潮考」(聖アウグステイヌス、アリストテレス等)
カトリック研究23-5 [41535
(參考：彙報「西洋史讀書會---植村雅彦「Huizinga,Erasumus」、
史林28-3) [41536
黒田一郎「ニイチェ哲學の方法序說---肉體を求むる心」哲學研究324 [41537
黒田一郎「誠實と戲れ---ニイチェ哲學の方法序說(2)」哲學研究326 [41538
正木昊「わが藏書より---出隆「ギリシアの哲學と政治」」近きより7-9,10[41539
(書評)荒川龍彦「岩下壯一「中世哲學思想史研究」」日伊文化研究10 [41540
(書評)荒川龍彦「カール・アダムス/服部英次郎譯「聖アウグスティヌスの精神史的發展」日伊文化研究10 [41541
(書評)呉茂一「キケロ「老年について」(岩崎良三譯)」日伊文化研究14 [41542
岡田哲藏「先見」(希臘神話エピメシウスとプロメシウス等)
丁酉倫理會倫理講演集483 [41543
新著批評「マッソン・ウルセル/大島豐譯「東西哲學の比較研究」」
丁酉倫理會倫理講演集484 [41544
小尾範治「不可避の形而上學」(プラトーン等) 丁酉倫理會倫理講演集485 [41545
新刊批評「桑木嚴翼「哲學史劄記」」丁酉倫理會倫理講演集489 [41546

小尾範治「自然と精神」(ターレス、プラトーン、アリストテレース、ヘーゲル、ゲーテ等) 丁酉倫理會倫理講演集491 [41547
桑木嚴翼「譯語と術語」(中江兆民「理學沿革史」、「理學鉤玄」) 丁酉倫理會倫理講演集492 [41548
新刊批評「桑木嚴翼「明治の哲學界」」丁酉倫理會倫理講演集493 [41549
新刊批評「帆足理一郎「帆足理一郎選集」」丁酉倫理會倫理講演集493 [41550
田中耕太郎「危局に立ちて先學を憶ふ：教育者としての岩元禎先生」帝國大學新聞1/1 [401551
蓑田胸喜「帝大學風と大學院問題」(プラトー、アリストーテレス、スパルタ教育、ケーベル、岩元禎、田中耕太郎等) 原理日本19-3 [41552
新刊「鹿子木員信「文明と哲學的精神」」日本讀書新聞241(3/20) [41553
高桑純夫「最近の哲學書」(岡田正三譯「プラトン全集」、河出版「アリストテレス全集」)日本讀書新聞247(5/1) [41554
C.②＊[訂正]フレイザア著/永橋卓介譯『金枝篇』(上)? [14069] [41555
＊[訂正]村上至孝『ギボン自傳---我が生涯と著作の思ひ出』(岩波文庫) [14070] [41556
ヘーゲル著/河野正通譯補『歷史哲學緒論』(ラッソン版) [41557
前田偉男『偉人の母と妻』(?) [41558
アンドリュー・マーレー/横井一粒子譯『ヘブル書講義---第一章一節より第三章十一節まで』(羊門文庫) [41559
藤原藤男『ロマ書の研究』 [41560
③＊[訂正]近山金次「カルタゴ撲滅論考」史學 21-3・4(合) (←昭 17C.③) [13698] [41561
＊[訂正]近山金次「西ローマ崩壞に就いての一考察」大類伸監修・西洋史研究會編「西洋史研究」第一輯中) [14098] [41562
椽川一朗「コンソルテースとコリベルティー」史學雜誌54-12 [41563
④＊[訂正]宮下孝吉「ケーザルに關する解釋論」國民經濟雜誌74-1 [14105] [41564
＊[訂正]山上正太郎「昭和17年度西洋史關係諸業績の回想---放恣なる散策の如く」史學雜誌641 [14103] [41565
古代：栗野頼之祐「アレクサンドリア圖書舘長錄の研究」(史學雜誌53-6
原隨園「ギリシヤに於ける人口問題の一面」(歷史學研究95)
村田數之亮「ギリシヤ幾何學様式の壺の精神と問題」(史林27-2)
井上智勇『プラトンの國家論』
井上智勇「コロナトゥスの本質と成立」(史林27-1,2)
秀村欣二「アェネーアース傳說とウェルギリウスのアェネーアース」(日伊文化研究9)
カエサル/近山金次譯『ガリア戰記』
『世界歷史』(第三巻。「西洋精神の源流」)中----

板倉勝正「古代東方社會」/村川堅太郎・秀村欣二「ギリシヤ世界」/山川敏夫「ローマの世界統一」
祇園寺信彦「古代ローマの平民」(日伊文化研究4)
青木巖『ヘロドトスの「歴史」と人』
シュリーマン/村田數之亮譯『先史世界への情熱』(シュリーマン自敍傳)
A.W.ピカアド・ケムブリヂ/土屋光司譯『デモステネス』(その生涯とギリシヤ衰亡史)
トゥーキューディデース/青木巖譯『歴史』(上巻)
マイエル/村田數之亮・二宮義夫譯『ギリシヤ主義の東漸』
ブッチャー/兩角克夫譯『ギリシヤ文化の特質』
レヴィー/原隨園譯『ギリシヤ彫刻史』
呉茂一譯『ギリシヤ・ローマ古詩抄』
山谷省吾『パウロ』
中世：中川一男『中世史新講』/上原專祿『獨逸中世史研究』/岩下壯一『中世哲學思想史』

金子武藏「有るところのものの了解---初期ヘーゲルのドイツ史觀」歴史學研究107 [41566
紹介と批評・金澤誠「前川貞次郎「フランス史學」」歴史學研究109 [41567
「昭和17年度歴史學年報」、歴史學研究110 [41568
・東洋史：北アジア(佐口)、南アジア(渡瀬)
・西洋史：西洋考古學及び古代東方(杉)、古典古代(祇園寺)、中世(八段)
會報・西洋史部會「昭和17年度西洋史學界の回顧」(座談會)歴史學研究110 [41569
紹介と批評・林健太郎「樺俊雄「歴史的意識」」歴史學研究115 [41570
「内外文獻」經濟學雜誌18年度分---- [41571
大淵彰三「ローマのイングランド征服」經濟商業論纂27-8
金澤誠「史學史の問題」科學知識2-4
新刊「利光洋一「歴史を創る時代」」(プラトン等)聲810 [41572
前川貞次郎「大類伸著「ルネサンス文化の潮流」」京都帝國大學新聞367(7/5) [41573
「德澤龍潭「イランものがたり」」(アレキサンダー大王等)早稻田大學新聞288(3/3) [41574
「コンスタンチン大帝の立像發見」(リスボン祭) カトリック新聞949(5/7) [41575
(參考：彙報「立敎大學第一回史學公開講演會」、歴史地理82-1 [41576
大類伸「ローマ帝國沒落史觀」)
研究抄錄「大久保利謙「明治史學史成立の過程」」(歴史學研究105)歴史18-2 [41577
千代田謙「世界史體の一段階---Hurt Breysigの讀み方に就て」歴史18-2,4 [41578
書評「大類伸博士の「ルネッサンス文化の潮流」」國華635 [41579
大類伸「ルネサンスを否定するもの---フリードリヒ・シュレーゲルのルネサンス觀」史苑15-2 [41580

新刊「マイネッケ/中山治一譯「歴史主義の立場」」史苑15-2 [41581
紹介(井上智勇)「高山岩男「世界史の哲學」」史林28-1 [41582
紹介(會田雄次)「中川一男「西洋中世史新講」」史林28-1 [41583
紹介(豐田堯)「前川貞次郎「フランス史學」」史林28-1 [41584
(參考：彙報「史學研究會大會---原隨園「ギリシヤ史學の形式」」、
史林28-1 [41585
(參考：彙報「史學研究會---角田文衛「伊太利に於ける最近の考古學的研究」、
史林28-3) [41586
(參考：彙報「西洋史讀書會---秋山博愛「G.Glotz、世界史觀」、
史林28-3) [41587
紹介(鹽見高年)「大類伸「ルネサンス文化の源流」」史林28-4 [41588
(參考：彙報「西洋史讀書會例會」、史林28-1 [41589
原田邦夫「J.Beloch, Der Verfall der antiken Kultur」
植田高史「F.Meinecke, Droysen」)
(書評)深澤理三郎「オルシ・ピエトロ/東又清譯「伊太利史」」
日伊文化研究11 [41590
野々村戒三「秘蹟の原始基督教會から司教政治の社會的團體への展開」(ロマ帝アウグストゥス、詩人ルクレティウス、コンスタンティヌス大帝、ギリシアの學問、テオドシウス帝等) 丁酉倫理會倫理講演集486,487 [41591
桑木嚴翼「シェリングの歴史哲學----歴史と神話」(羅馬共和國、ヘロドトス、トゥキュディデス、ホメロス、ソフォクレス等)
丁酉倫理會倫理講演集487 [41592
野々村戒三「現代歐米思潮の方向を瞥見して」(ケーベル博士、ロマ帝國、ネオプラトニズム、ヘーゲル、シュペングラア、ゲーテ等)
丁酉倫理會倫理講演集491 [41593
大類伸「西洋的性格の問題」(坂口昂「西洋史概説」)
日本讀書新聞240(3/10) [41594
新刊「エム・イリーン/八住利雄譯「書物の歴史」」日本讀書新聞243(4/3) [41595
D.①＊[訂正]田中秀央・村上至孝譯『ホラティウス書簡集』 [14117] [41596
松谷義範『山上の垂說教註解』(聖書註解古典叢書4) [41597
小原福治『ガラテヤ書講解』 [41598
黒崎幸吉『註解新約聖書----パウロ小翰』 [41599
②＊[訂正・削除]~~アテネ・フランセ(東京)『ヌウヴェルクレストマチイラチイヌ』~~
(→昭17.D.②) [14128] [41600
＊[訂正]サーリス著/藤原肇譯『ギリシヤ藝術』 [14137] [41601
岡本貫瑩『印度美術の主調と表現』(ギリシア美術等) [41602
渡邊一夫『ラブレー覺書その他』 [41603
エードゥアルド・シュプランガー/中川昌夫譯『ゲーテの世界觀』 [41604
茅野蕭々『ゲヨエテ研究』(3册。←昭7初版) [41605
吉武好孝『日本英文學史』(三省堂・語學文庫。→昭34改題「明治大正の翻訳発達

史」[研究社叢書]) [41606
荻田庄五郎『シェリー研究』(「明治時代のシエリィ」「明治時代のシエリィの文献三つ」) [41607
海老澤有道『切支丹典籍叢考』 [41608
楳垣實『日本外來語の研究』 [41609
新村出『言語學序說』(附・「日本言語學私觀」←昭8「言語學概說」) [41610
新村出『新村出選集・第一巻』(南蠻篇。假名草紙、イソップ等) [41611
③井島勉「美的理念と藝術史的理念」哲學研究326,327 [41612
高津春繁「ギリシヤ喜劇」演劇4月號 [41613
岩崎良三「ローマ文學に於ける婚姻觀」日伊文化研究10 [41614
板垣鷹穂「イタリアの風土と造形文化史」日伊文化研究12 [41615
樋口勝彦「諷刺詩に窺へる「朗讀」に就いて----殊にその行はれたる場所に焦點を置いて」日伊文化研究15 [41616
④新刊「海老澤有道「切支丹典籍考」」聲806 [41617
新刊紹介「呉茂一「オリンポスの雪」」京都帝國大學新聞374(12/5) [41618
樋口勝彦「重寶な辭書的書----田中秀央著「ラテン文學史」」三田新聞529(6/25) [41619
山口鹿三「福音史家聖ルカ」(ギリシヤ語、ギリシヤ的精神等) カトリック新聞931(10/17) [41620
高津春繁「比較言語學といふもの」日本語3-3 [41621
新村出「序文」(楳垣實著「日本外來語の研究」) [41622
河出孝雄編『演劇論1・演劇概論』中 [41623
------- 新關良三「演劇論序說」/山田肇「俳優論」
新刊「海老澤有道「切支丹典籍考」」歷史地理82-3 [41624
(參考:彙報「西洋史讀書會---加藤一朗「Winckelmann、古代美術史」、史林28-3) [41625
竹友藻風譯「ダンテ「神曲」地獄界」日伊文化研究10,11,12,13,14,15 [41626
中村光夫「ルネサンス私觀」日伊文化研究10 [41627
荒川龍彦「ルネサンス精神の形成」日伊文化研究14 [41628
ジャン・プラエタオル/渡邉一夫譯「フランソワ・ラブレー」(ベディエ・アザール「フランス文學史」第三巻中) [41629
渡邊一夫譯「ラブレー」(「サント・ブウブ選集」第一巻中) [41630
永松讓一「エッケルマンの「ゲーテとの對話」に就いて」獨逸文學7-2 [41631
藤井外輿「ゲーテの世界觀と全個の問題(1)」獨逸文學7-2 [41632
「第七回総會報告」、獨逸文學7-2 [41633
----永松讓一「エッケルマンの「ゲーテとの對話」に就いて」
藤井外輿「ゲーテの世界觀と全個の問題」
書評「高津春繁「比較言語學」」英語教育8-1 [41634
高村一之「希臘羅馬研究と英語(續)」英語研究2,3,4,5,7,9月號 [41635
新刊「呉茂一・山田潤二譯「ルキアノス短編集」」日本讀書新聞243(4/3) [41636
新刊「ホーマー/土井晩翠譯「オヂュッセーア」」日本讀書新聞245(4/17) [41637
茅野蕭々「自然創造---ゲョエテの詩精神の源泉」日本讀書新聞252(6/5) [41638

新刊「ビルショウスキー/渡邊格司譯「ゲーテ評傳」」
日本讀書新聞268(11/16) [41639
渡邊一夫「著者の死に情熱---新村氏への私信に代へて」(市村惠吾「ラブレー」)
一橋新聞364(4/10) [41640
山田九朗「注目すべき「ガルガンチュワ物語」---佛蘭西文學最近の三名著」(渡邊一夫等) 一橋新聞372(9/25) [41641
E.②＊[訂正]船田享二『羅馬法』(第1-5巻、改訂版。第1巻「公法・法源」、第2巻「私法第一分册・總論・物權」、第3巻「私法第二文册・債權」、第4巻「私法第三分册・家族・相續・民事訴訟」、第5巻「附錄」) [14187] [41642
大谷美隆『法律哲學』(第5章「法理學說」) [41643
和田小次郎『法哲學(上巻)』(第2章「法哲學の史的概觀」) [41644
クルト・ジンガー/清水武譯『プラトーンの國家像』 [41645
③原隨園「アテナイの國家と演劇」演劇4月號 [41646
久保正幡「ザリカ法典のマルベルク註釋」法學協會雜誌61-4 [41647
戸倉廣「萬民的私法の作成を要望----ローマ法と[大東亞]共榮圈の問題」
早稻田大學新聞282(1/20) [41648
④中島健一「古代ゲルマンの移住様式とその經濟・社會形成に關する最近の論爭」
社會經濟史學13-5 [41649
「羅馬法獎學賞」(鷲塚錦司、廣崎喬吾、出川一男)
早稻田大學新聞282(1/20) [41650
新刊「南原繁「國家と宗教」」早稻田大學新聞283(1/27) [41651
原田剛「明快なる解釋的敍述----ダンニング/古賀鶴松譯「政治學說史・第一巻」」
早稻田大學新聞284(2/3) [41652
中野正「綜合的利子論史の課題----高木暢也著「利子學說史」」
三田新聞520(2/10) [41653
渡邊鼎「中世イタリアに於ける近代國家の萌芽」日伊文化研究13 [41654
中川一男「イタリア都市經濟の歷史的考察」日伊文化研究13 [41655
西村貞二「宗教裁判をめぐつて----近代國家の胎動」日伊文化研究13 [41656
片岡義雄「ウールフ「古代會計史」」經濟集志(日本大學)15-4,5,6 [41657
F.②新村出『船舶史考』(貨狄尊者[エラスムス]、「エラスムスと貨狄」、「エラスムス貨狄拾遺」) [41658
三浦岱榮譯編『クロード・ベルナール』 [41659
③近藤洋逸「ギリシヤ的と近代的---數學思想史斷片」科學技術2-1 [41660
天藤正遠「エラトステネスノ篩ニ就イテ」
(日本中等教育) 數學會雜誌25-4・5(合) [41661
④「内外文獻」經濟學雜誌18年度分---- [41662
エー・エヌ・ホワイトヘッド/森島恒雄譯「近代科學の精神史的系譜」
科學思潮10-10
阿閉吉男「古代技術---技術史ノート(3)」科學知識2-8 [41663
富成喜馬平「近世日本科學史(1)」歷史18-4 [41664
矢崎彈「ヨハンゼン/三谷耕作譯「鐵の歷史」」三田新聞521(2/25) [41665

正木昊「わが藏書より---カジョリ「數學史講義」・吉田洋一「零の發見」」
近きより7-9,10 [41666
砂原茂一「ヨーロッパ醫學の傳統とイタリア----その結核史上に於ける寄與」
日伊文化研究12 [41667
三枝博音「ルネッサンスと技術」日伊文化研究12 [41668
山田欽一「ブートルー/河野伊三郎譯「數學思想史」」(ギリシア等)
一橋新聞370(7/10) [41669

昭１９(１９４４)

A. 桑木嚴翼「伊太利文化の復興性」日伊文化研究17 [41670
吹田順助「イタリアに於けるプラーテン」(ゲーテ等)日伊文化研究18 [41671
ドロテゥス・シイリング/外山卯三郎譯『きりしたん文化史』 [41672
新刊「外山卯三郎「きりしたん文化史」」聲817 [41673
小澤三郎『幕末明治耶蘇教史研究』 [41674
H.ユール著/H.コルディエ補/東亞史研究會譯編『東西交涉史』 [41675
「戰火迫るローマ---古蹟に富む決戰場、ハンニバルの轍を踏むか米英」
東京朝日新聞6/4 [41676
(參考：[九大]法文學部史學關係講義題目中[昭和18年4月以降]、
史淵30・31 [41677
西洋哲學史(四宮)、希臘哲學史序說(田中)、十八世紀文學史(進藤)、浪漫主義序說・自然主義時代(小林)、西洋法制史(武藤)、經濟學史(波多野))
(參考：[九大]法文學部史學關係講義題目中[昭和19年4月以降]、史淵32 [41678
西洋史概說(小林)、西洋近世哲學史(四宮)、希臘哲學史序說(田中)、西洋哲學史(瀧澤)、西洋古代倫理學史(永野)、美學美術史(矢崎)、十八世紀佛文學史(進藤)/臨時講義---史學史的研究特講(千代田))
(參考：彙報「昭和18年10月-19年9月までの京都帝大文學部哲學科講義題目」、
哲學研究334 [41679
哲學概論(田邊)、西洋中世哲學史(山内)、特殊講義(ギリシア主義と基督教主義、山内)、演習(Plotinos,Enneades、山内)、倫理學概論(天野)、倫理の歷史性と民族の問題(島助教授)、教育學序說(木村)、人間形成理念の問題史的發展、理想主義より國民主義へ(木村)、古典と教育(高橋)、近世に於ける國家思想の諸問題(木村)、美學序論(植田)、藝術史的發展(井島)、宗教學概論(西谷)、心理學概論(野上)、西洋哲學史講讀(Augustinus, Soliloquia、服部講師)、宗教學講讀(Novum Testamentum Graece、松村助教授))
伊藤吉之助「「茶の本」」丁酉倫理會倫理講演集497 [41680
常磐大定「昭和化せる桃太郎としての日本民族」(イソップ物語、ジュピター神等)
丁酉倫理會倫理講演集498 [41681
「フランソワ・ギゾー/中田精一譯「ヨーロッパ文明史」上巻」
日本讀書新聞282(4/15) [41682
「エドワルド・マイヤー/佐々木俊次譯「人類學概論」」

日本讀書新聞310(9/21)　[41683
B.①＊[訂正]プラトン著/長澤信壽譯『パルメニデース』(弘文堂書房。→昭23再版)
［14272］　[41684
野村良雄譯『聖アウグスチヌス---人倫と愛：ヨハネ第一章の解釋』　[41685
②聖トーマス・アクィナス/酒井瞭吉譯『異教徒に與ふる大要』(第一巻)　[41686
グラ―プマン/小林珍雄譯『聖トマス・アクイナスの文化哲學』　[41687
ジルソン/服部英次郎譯『中世哲學の精神』(上巻)　[41688
石原謙『マルティン・ルターと宗教改革』　[41689
③出隆「己れ自身を知れ」丁酉倫理會倫理講演集504　[41690
讀書座右銘・原隨園「生ける限り學ばんと致し且つ希ふ」(ソロン)
日本讀書新聞317(12/1)　[41691
④＊[訂正]彙報「外國雜誌要覽」哲學雜誌689・690　中　[24852]　[41692
Notizen:W.Rauschenberger,Parmenides und Heraclit（Richart Göth ）
「内外文獻」、經濟學雜誌19年度分----　[41693
藤井義夫「アリストテレスの自由意志論への序說」一橋論叢13-6
細谷恒夫「教育政策の世界觀的前提」教育學研究(東京文理大)13-1　[41694
書評・(石山脩平)「皇至道「獨逸教育制度史」」
教育學研究(東京文理大)13-1　[41695
田口芳五郎「日本教學研究の急務」(ギリシヤ、ラテン、ヘレニズム、アウグスチヌス、トマス・アクイナス等)聲814　[41696
新刊「シリング/岡本良知・柳谷武夫譯「見本に於ける耶蘇會の學校制度」」
聲817　[41697
新刊「ヨゼフ・フビー/戸塚文卿譯「カトリック思想史」」聲817　[41698
藤井義夫「論證と辨證と詭辯---山内得立・多賀瑞心兩氏譯「アリストテレス・トピカ」(弁證論)」(京都帝國)大學新聞6(9/1)　[41699
金澤誠「内なる苦惱の超克----近代哲學の混迷」(アリストテレス等)
(京都帝國)大學新聞14(11/21)　[41700
野村良雄「スコラ哲學について----特にその教育的意義」(岩下壯一「中世哲學思想研究」)三田新聞546(5/10)　[41701
高桑純夫「聖トマスの「本質論」に就て」(ニイチェ、ソクラテス、アリストテレス等) カトリック研究24-1　[41702
M.H.ルロン/安井源治譯「パスカルの「賭」の起源について」(プラトン、セネカ等)
カトリック研究24-5・6（合）　[41703
書評・デュモリン「ジルソン/服部英次郎譯「中世哲學の精神」上巻」
カトリック研究24-5・6（合）　[41704
書評・高桑純夫「野村良雄譯「人倫と愛---アウグスチヌスのヨハネ一の書解釋」」
カトリック研究24-5・6（合）　[41705
（參考：彙報「第11回讀書會大會」、史林29-1　[41706
鹽見高年「近代精神とルネサンスとの關係」）
（參考：彙報「西洋史讀書會例會」、史林29-4　[41707
植村雅彦「宗教改革以前に於ける獨逸ヒューマニズムに就いて」）
今泉三良「トマス・アクイナス序章」日伊文化研究17　[41708

紀平正美「時乃日新」(プラトーン、ソークラテース等)
丁酉倫理會倫理講演集495 [41709
林博太郎「興味の心理的意義と大東亞建設の倫理」(ソクラテス等)
丁酉倫理會倫理講演集495 [41710
深作安文「西[晉一郎]博士を憶ふ」丁酉倫理會倫理講演集496 [41711
野田義夫「西晉一郎君の思ひ出」丁酉倫理會倫理講演集496 [41712
斯波義慧「教權と理性との緊張---- 聖アンセルムスを中心として」(プラトン、アリストテレス、アウグスティヌス、ボエティウス等) 丁酉倫理會倫理講演集498 [41713
桑木嚴翼「反道德主義の諸相」(ホメーロス、ヘシオドス、プラトン、アリストテレス、ソフィスト、ソフォクレス、「ノモス・フューシス」論爭、プロタゴラス、トラシュマコス、カリクレス、リュコフロン、キュニコス學派、ストア派、エピクロス派、ピュロン、プロティノス等)
丁酉倫理會倫理講演集499 [41714
桑木嚴翼「明治の倫理學界」(プラトン、ニーチェ、ケーベル博士等)
丁酉倫理會倫理講演集500,501 [41715
斯波義慧「信仰と知識の問題」(聖アンセルムス、アウグスチヌス等)
丁酉倫理會倫理講演集505 [41716
紀平正美「矛盾といふこと」(ディケー神、プラトーン、アリストテレース、ヘラクレイトース等) 丁酉倫理會倫理講演集506 [41717
草薙正夫「ニイチェ雜觀」新潮2月號 [41718
C.②＊[訂正]フレイザア著/永橋卓介譯『金枝篇』(中) [14336] [41719
海老澤有道『切支丹の社會的活動及南蠻醫學』 [41720
④＊[訂正]書評「 村上至孝「ギボン自傳---我が生涯と著作の思ひ出」
史學雜誌653 [14348] [41721
＊[訂正]雜錄・北村忠夫「昭和十八年の本邦西洋史學」史學雜誌655
[14350] [41722
栗野頼之祐「安息王アルタバノス賛成王令のギリシア碑文について」歴史學研究8,9月號
原隨園「政治思想史に於けるヘシオドス」史林28-1
原隨園「ギリシアに於ける政治思想前史」西洋史研究1
近山金次「西ローマ崩壞に就ての一考察」西洋史研究1
三浦一郎「歴史學と考古學」西洋史研究1
栗野頼之祐「キュレネ發掘と主要なる碑文に就て」
日伊文化研究11,12
井上智勇「ローマの土地所有に就て」日伊文化研究13
祇園寺信彦「古ローマ興隆の因」日伊文化研究13
近山金次「ローマ帝國とキリスト教」日伊文化研究13
井上智勇「ローマ土地所有形成の中世への連續」日伊文化研究14
椽川一朗「コンソルテースとコリベルティー」史學雜誌54-12
中島健一「古代ゲルマンの移住様式とその經濟・社會形成に關す

る最近の論爭」社會經濟史學13-5
久保正幡「ザリカ法典のマルベルク註釋」法學協會雜誌61-4
「日獨文化---中世獨逸特輯號」(4-2・3[合])中----
石原謙「中世獨逸の基督教」/高田武四郎「中世獨逸に於けるギリシア思想」/雪山俊夫「中世隆昌期の物語文學とその背後」
森口多里「イタリア中世期美術の様式的變遷」日伊文化研究14
渡邊鼎「中世イタリアに於ける近代國家觀の萌芽」日伊文化研究13
中川一男「イタリア都市經濟の歴史的考察」日伊文化研究13
森口多里「イタリアルネサンス繪畫の自然觀」日伊文化研究12
新規矩男「ルネサンス美術發達の様式的考察」日伊文化研究14
讃井鐵男「テーヌと歴史」史淵29
井上智勇「エドワルド・マイアーの「歴史と歴史學」」西洋史研究1
大類伸『ルネサンス文化の潮流』
＊[訂正]書評・十河佑[祐]貞「西洋史研究・第一輯」史觀31 [14353] [41723
「内外文獻」､經濟學雜誌19年度分---- [41724
西洋史研究會編「西洋史研究(1)」[昭18年刊]
小林元「世界史の本義」早稻田大學新聞322(4/20) [41725
紹介(中山治一)「酒井三郎「國家の興亡と歴史家」」史林29-1 [41726
紹介(前川貞次郎)「西洋史研究會編「西洋史研究第一輯」」史林29-3 [41727
紹介(兼岩正夫)「京都帝國大學西洋史研究會編「西洋史說苑」」(昭和17年度)史林29-4 [41728
山田憲太郎「南蠻香錄---過去の香料の性狀と主要香料の商品史的概觀」史學22-4 [41729
近山金次「イタリアと政治」日伊文化研究16 [41730
樺俊雄「ヴィコと歴史哲學」日伊文化研究18 [41731
井上哲次郎「戰爭と倫理」(ペルシア戰爭、アレキサンドル大王の印度遠征等)丁酉倫理會倫理講演集495 [41732
書評・ロゲンドルフ「クリストファー・ドーソン/野口啓祐譯「ヨーロッパの形成」」カトリック研究24-5・6(合) [41733
村川堅太郎「英雄の逸事を描く---- プルータルコス/青木巖譯「對比列傳」第7巻」(キケロ等) 日本讀書新聞299(6/1) [41734
小林元「皇國史觀と世界史---- ロゴス玩弄の風潮よ去れ」日本讀書新聞317(12/1) [41735
村勢秋夫「中世文化の問題---- ドウソン/野口啓祐譯「ヨーロッパの形成」」日本讀書新聞317(12/1) [41736
D.①アリストパネス/呉茂一譯『鳥』(岩波文庫→昭23再版) [41737
ベンゲル/松谷義範・石井靜子共譯『ヤコブ書註解』(聖書註解古典叢書5) [41738
フェデリコ・バルバロ編『路加[ルカ]聖福音書註解』 [41739
②＊[訂正]パッキングトン&レサビイ著/眞野善一郎譯『西洋建築史入門』[14365] [41740

メレジコーフスキイ/黒田辰男譯『ミケランジェロ』 [41741
本多顯彰『浪漫主義と古典主義』(研究社英米文學叢書29) [41742
ヘルマン・アウグスト・コルフ/永松讓一譯『ゲーテ時代の精神』(第1巻) [41743
ジムメル/木村謹治譯『ゲーテ』(→昭21再版) [41744
舟木重信『ゲーテとその世界』 [41745
ペーターゼン/橋本忠夫譯『シラーの對話---詩人を繞ぐる同時人の記錄』(前附「シラー年表」) [41746
新村出『新村出選集・第三巻』(史傳・典籍篇/神田盾夫「新約聖書文獻考」序) [41747
新村出『外來語の話』 [41748
北條秀雄『淺井了意』(假名草紙、イソップ等) [41749
岡野他家夫『明治文學研究文獻總覽』(→昭51復刊) [41750
③瀧精一「佛教藝術の起源」國華642,643,644 [41751
(參考：彙報「第11回讀書會大會---村田數之亮「ギリシア「アルカイック」」、史林29-1) [41752
小川長成「美的自律性への藝術史的展開」哲學研究337,338 [41753
④出版案内「土井忠生「吉利支丹語學」(再版)」聲817 [41754
新村出「歐米語の移入、ギリシヤ・ラテン語」(新日本圖書株式會社創立事務所發行「外來語の話」中) [41755
小林榮三郎「ドイツ晩期中世と人文主義---國民意識史の觀點から」史淵30・31 [41756
高津春繁「比較言語學と民族の研究」日本語4-3 [41757
紹介(村田數之亮)「村田潔「ギリシヤの神殿」」史林29-3 [41758
大類伸「帝國の樹」---ダンテ「神曲」の一研究」帝國學士院記事3-3 [41759
竹友藻風譯「ダンテ「神曲」地獄界」日伊文化研究16 [41760
渡邊一夫「白日夢」(ラブレー)日伊文化研究19 [41761
渡邉一夫「ラブレーと古典學」(1970年刊著作集1巻中) [41762
渡邉一夫「肉附けの一例」(1970年刊著作集1巻中) [41763
桑木嚴翼「大東亞の史詩」(イリアス、オデッュセイオス等) 丁酉倫理會倫理講演集495 [41764
デュモリン「ファウスト的信仰---コルフのファウスト研究に因みて」カトリック研究24-1 [41765
花園兼定「マックス・ミュラーと其弟子」(明治英學史XX) The Current of the World 21-12 [41766
(?)「黒田正利著「イタリア文學史」(上巻)」(京都帝國)大學新聞14(11/21) [41767
茅野晃「理念ゲーテの把握----ゲオルグ・ジンメル/木村謹治譯「ゲーテ」」三田新聞544(3/10) [41768
呉茂一「竹友藻風著「詩學と修辭學」」日本讀書新聞2 [41769
E.④中島健一「ローマン・ガリアの經濟的發展とその變質---P. グルニエ「ラ・ゴオル・ロメイン」(1937年)の紹介」歷史學研究117 [41770
「内外文獻」､經濟學雜誌19年度分---- [41771
クラウス/小林珍雄譯「中世經濟倫理序說」

加茂儀一「ペトラルカの愛國觀」日伊文化研究16 [41772
黑田正利「青年ダンテの愛國精神」日伊文化研究19 [41773
帆足理一郎「大東亞共同宣言と大東亜建設の倫理」（具リシア文化等）
丁酉倫理會倫理講演集495 [41774
香原一勢「大東亞の解放と倫理的自覺」(ローマ法等)
丁酉倫理會倫理講演集495 [41775
井上芳郎「六千年前、シュメル人の社會生活---- 信仰中心の東洋古代的性格」
(ヘロドートス等) 丁酉倫理會倫理講演集499 [41776
菅波三郎「モンテスキューの金言集に就て」理想日本1月號 [41777
F.②ウオルター・シェーファド/赤木俊譯『自然科學史講話(上)』 [41778
末綱恕一『數學と數學史』(「精神史としての數學史」、「希臘數學」) [41779
小野忠重『マテオ・リッチ[利馬竇]と支那科學』 [41780
桑木彧雄『科學史考』 [41781
④三枝博音「ヴェニスの造船に就いて」日伊文化研究18 [41782
矢島祐利「コペルニクスとガリレイ」日伊文化研究19 [41783
鮎澤信太郎「利瑪竇と日本」日伊文化研究19 [41784
桑木彧雄「貧困な史的研究----科學史(物理學)の回顧と展望」
(京都帝國)大學新聞2(7/11) [41785
彌永昌吉「數學的本質の究明----末綱・下村兩氏の近著[「數學と數學史」]を評す」
(無限論の形成と構造)(京都帝國)大學新聞3(7/21) [41786
G. 上智大學編『カトリック大辭典』第一巻 [41787

昭２０（１９４５）
A. (參考：[九大]史學關係講義題目中[10月至4月]、史淵33 [41788
古ゲルマン研究發展史(小林)/臨時講義---西洋法制史(武藤)、西洋經濟史(宮本))
(參考：[京大]昭和19年史學科講義題目中、史林30-1 [41789
史學研究法(原)、西洋史概說(原)、考古學研究法(梅原)、講義指導(原、鈴木、井上、前川))
(參考：[京大]史學科新學期の講義中、史林30-3 [41790
西洋史概說(原)、ギリシヤに於ける政治思想(原)、ローマ商工業史(井上)、考古學概論(梅原)、エーゲ文明よりギリシヤ文明へ(村田)、史學研究法(原))
B.②エマアソン/柳田泉譯『偉人論』(4册、清明文庫。第2「プレトオ卽哲人」、第4「モンテェニュ卽懷疑家」等) [41791
④金子孫市「科學的教育の哲學的基礎」(アリストテレス等)
教育學研究(東京文理大)13-2 [41792
(參考：「西洋史研究會」、史淵33 [41793
松垣裕「Ch.Waas, Mitras und Wodam(Preussche Jahrbücher, 214,1927)」)
岡田哲藏「大學の同級」(ケーベル關聯) 丁酉倫理會倫理講演集516 [41794
新村出「序」(大久保利謙編「西周全集」) [41795

圖書室・雅川滉「關根秀雄氏譯「モンテエニュの隨想錄」」新潮1月號　[41796
書評・ジーメス「松本正夫「存在の論理學」研究」」(アリストテレス等)
カトリック研究25-1　[41797
山内得立「太初に參徹するもの----生成と形成と創造の問題」(ギリシア哲學)
(京都帝國)大學新聞20(2/11)　[41798
藤井義夫「日本的世界觀と西洋思想の問題---- 田中晃「プラトンとアリストテレス」」日本讀書新聞324(2/21)　[41799
C.④＊[訂正]彙報「村川堅固博士の逝去」(業績表)史學雜誌669　[24882]　[41800
・講義題目：エジプト古代史、ギリシヤ文化史、ローマ史
・著述：「西洋上古史」(大5)、「ギリシヤ史」(昭6)/飜譯「レオポルド・フォン・ランケ「世界史論進講錄」[大13刊]
・論文：「古代ローマの火の崇拜」(史學雜誌19-1,2)/「イオニア叛亂の原因」(史學雜誌25-1)/等
(參考：彙報「西洋史讀書會」、史林30-1　[41801
鹽見高年「ルネサンス概念の系譜---特にルネサンス主義について」)
桑木嚴翼「ルナンの哲學的戲曲を讀む」(大著「基督起原史」)
丁酉倫理會倫理講演集512　[41802
D.②新村出『新村出選集・第二巻』(南蠻篇)　[41803
③板垣鷹穂「藝術政策史の課題」思想271　[41804
④矢崎美盛「(美學美術史學)實のり豐かな領域---東亞圈經營への直接的寄與」
(京都帝國)大學新聞25(4/11)　[41805
大山定一「ゲーテ」新潮1月號　[41806
幸田成友「(太田正雄)教授と吉利支丹研究」文藝11　[41807
新村出「木下杢太郎君を悼む」文藝12　[41808
E.②田中耕太郎『法律哲學論集(一)』(昭5.「自然法の過去及び其の現代的意義」、昭和8.「中世的自然法の特異性」[Hölscher, Vom römischen zum christlichen Naturrecht, 1931.
法學協會雜誌51-1]　[41809

【発行年及執筆年不明・訂正】(＊本文中に採錄できなかつた記事、訂正を含む。)
＊[参考文献(續)]

-----[訂正] (27)Harushige Kozu(高津春繁)　[第1巻,3頁。]　[41810
(29)Shigeru Kawada(川田殖)　[第1巻,3頁。]　[41811

[大永7(1527)-天正4(1576)]山科言繼『言繼卿記』(百合若。現存37册)　[41812
[文祿3(1594)]　天草版アルバレス(M.Alveres)『ラテン文典(羅甸日。De Institutione Grammatica libri tres』　[41813
[文祿4(1595)]　天草版『Lexicon Latino-japonieum・・・in Amacusa in Collegio Iaponico Societatis Iesu anno Domoni MDXCV』(1870年ローマ復刻本)[41814
[慶長12(1607)]　(參考：マッテオ・リッチ口述/徐行啓筆述『幾何原本』全6巻[41815

［慶長15(1610)］　原田アントニオ版［京都版］・國字抄本「こんてむつすむん地」（「基督に倣いて」厭世經［新村出］=基督模倣）　［41816
［江戸期(1623?)］　宇田川榕庵書入「西學凡」（重刻・伊/艾儒略（Julio Alenio）撰）［理科、謂之、費錄處費亞（ヒロソヒア）/理學者、義理之大學也、人以義理超於萬物、而爲萬物之靈、格物窮理、則、於人全、而於天近、然物之理藏在物中、如金在砂王在撲、須淘之剖之、以斐錄處費亞（ヒロソヒア）/斐錄所（ヒロソ）者、亞理斯多（アリスチテレス、一大賢）、其識超卓、其學淵深、其才曠逸、爲歷山（アレキサンデル）大王之師/大賢、名爲多瑪斯（聖トマス）等）　[41817
［＊寛永8(1631)］　艾儒略『幾何要法』（出版者不明）　［41818
［＊江戸期?］　小森義啓［桃塢］「必甫葛剌的斯［ヒポクラテス］畫像マタリ」[41819
［＊江戸中期］　山本九右衛門・山本九兵衛『竹もと忠臣藏』（百合若大臣）[41820
［＊江戸中期］　山本九右衛門・山本九兵衛『竹本竹のはやし』（百合若大臣）　[41821
［＊江戸中期］　玉水文瀾堂［編］『音曲萬歳巻』（天滿屋玉水源二郎, 百合若大臣）　[41822
［＊江戸中期］　糸屋市兵衛・正本屋若四郎・正本屋仁兵衛『竹本珠文庫』（百合若大臣）　[41833
［＊江戸中期］　糸屋市兵衛『音曲待兼山』（百合若大臣）　[41834
［＊江戸中期］　近松門左衛門作『百合若大臣野守鑑』　［41815
［＊正保2(1645)］　『ひそめ草』（假名草子。イソップ。「鸚鵡新徒然草」と改題の作あり）[41836
［＊正保4(1647)］　井上小左衛門(?)『悔草』（イソップ）　[41837
［＊寛文2(1662)］　鈴木正三『破吉利支丹』　[41838
［＊寛文7(1667)］　苗村丈伯『理屈物語』（イソップ）　[41839
［＊延寶8(1680)］　『自己問答』（イソップ。『悔草』を改題）　[41840
＊「訂正」［＊延寶9(1681)吉永升庵他『當流傳記要撮抜書』（宗家天禮須（ソウカテレイス等）[41]　[41841
［＊延寶9(1681)/天和2(1682)?］(?)『うかればなし』（「當世輕口」,イソップ）　[41842
［＊元祿3(1690)］　田原定保［寫］『百合若一生記』（10巻）　[41843
［＊元祿5(1692)］　(?)(菱川師宣畫)『噺かのこ』（イソップ）　[41834
[＊寶永年間]　鳥居清信畫『ゆり若大じん』(鱗形屋孫兵衛)　[41835
[＊正德頃]　正本屋平兵衛『音曲龍虎勢』（百合若大臣）　[41836
[＊亨保7(1722)]　萬尾時春・細井廣澤序『規矩文等集』(ユークリッド)　[41837
[＊寛保2(1742)]　爲永太郎兵衛作『百合稚高麗軍記』(正本屋九左衛門)　[41838
［＊寶暦2(1752)］　其笑・瑞笑作『百合稚錦嶋』（5巻, 八文字屋八左衛門）　[41839
[＊天明7(1782)]　Nicholas Sason撰/前埜熹[良澤][訳編・解説]『輿地圖編小解』(前野良沢写)　[41840
[＊天明7-寛政3(1787-91)直熊 (寫)「謡曲俗解」(百合若大臣,書寫資料)　[41841
＊「訂正」[＊寛政8(1796)]森島忠良『鄙都言種』(前編。イソップ)　[78]　[41842

[＊寛政2(1790)]　本木良永譯『阿蘭陀全世界地圖書譯』(3巻3册)　[41843
[＊寛政9(1797)]　前埜良澤『和蘭譯筌』(書写者不明。)　[41834
[＊寛政10(1798)]　蒲蘆居士葛質序『萬國地名箋：蠻語箋』(中一册)　[41835
[＊享和2(1802)]　樗樸道人『鄙都言種』(後編。イソップ)　[41836
[＊文化1(1804)]　高橋景保『亞歐語鼎』(對譯字書)　[41837
[＊文化2(1805)]　吉雄藘莪口述『蘭譯筌蹄』　[41838
[＊文化7(1810)]　藤林泰輔撰『譯鍵』　[41839
[＊文化8(1811)]　司馬江漢畫「伊曾保物語圖」　[41840
[＊文化8(1811)]　『諳利亞國語和解』(長崎版)　[41841
[＊文政1(1818)]　武部游子藝甫『發泡打膿考』(山形屋傳右衛門,紀藩普齋藏板)　[41842
[＊文政1(1818)]　一禮[豐]齋國信畫作『(百合若物語)錦嶋戀釣舟』(6巻,雙鶴堂鶴屋金助)　[41833
[＊文政2(1819)]　志滿山人作・國信畫『百合若軍法鎧櫻』(6巻,存3巻, 雙鶴堂鶴屋金助)　[41834
[＊文政2(1819)]　王函涅斯・雅谷歩・伍乙志(ヨハンネス・ヤコッブ・ウヲイツ/橋本宗吉譯『西洋醫事集成寶函(巻之1-3)』(河内屋太助)　[41835
[＊天保3(1832)]　工私蒲略倔[著]/鶴洲[譯註]『學語略說』(出版者不明)　[41836
[＊天保8(1837)?]　ギュツラフ(郭實臘)譯/漂民・音吉他協力『約翰福音之傳』(新嘉坡・堅夏書院蔵板)　[41837
[＊天保8(1837)?]　ギュツラフ(善德)纂/漂民・音吉他協力『約翰上中下書』(新嘉坡・堅夏書院蔵板)　[41838
[＊天保15(1844)?]　爲永春水作・歌川貞重畫『繪入教訓近道』(イソップ)　[41839
[＊弘化2(1845)]　和蘭人・林田[リンデン]/小關三英譯・牧天穆序『那波列翁樸把尓[ナポレオン]的傳』(大3册。→安政4)　[41840
[＊嘉永1(1848)]　高野長英「譯業必要之書籍目錄」　[41841
[＊嘉永1(1848)-2]　好華堂野亭主(山田意齋)作・柳齋重春選・宮田南北畫『大伴金道忠孝圖會(前後篇)』(百合若大臣。北畠茂兵衛)　[41842
[＊嘉永3(1850)]　(津藩)齋藤正謙『海外異傳』(惜陰書屋)　[41843
[＊嘉永4(1851)]　(美作)箕作阮甫述『八紘通誌(歐邏巴部初編三部)』(以下未完。秋眠天竺樓藏、竹口貞齋刻)　[41844
[＊嘉永5(1852)]　新發田収藏(佐渡・宿根木)序刊『新訂坤與累全圖』(春草堂高木耕藏板、竹口貞齋刻)　[41845
[＊嘉永7(1854)]　(?)『那波列翁一代記』(巻之上,巻之下,出版者不明)　[41846
[＊安政2(1855)]　高橋景保『重訂萬國全圖』　[41847
[＊安政2(1855)]　ベッテルハイム(伯德令,B.J.Bettelheim)譯(琉球語譯)『路加傳福音書』(93丁)『約翰傳福音書』(66丁)『聖差言行錄』(90丁)『保羅寄羅馬人書』(38丁)　[41848
[＊安政3(1856)]　杉田立卿撰『荷蘭語林集解』　[41849
[＊安政3(1856)]　(書寫者不明)『萬國地誌』(巻1-3,書寫資料)　[41850
＊「訂正」[＊安政3(1856)?] 村上英俊[義茂、茂俊]『五方通語』3册(英佛蘭羅日の五ヶ國語對照字書)　[196]　[41851

[＊安政4(1857)]　(弘前)佐々木元俊藏板飜刻『蕃語象胥』(クラマース『蘭語辭典』飜刻)　[41852
[＊安政4(1857)]　ヤーコップ・ハン・ブレンキ/新宮義正・新宮義健重譯『小兒全書』(6巻。出版者不明)　[41853
[＊安政4(1857)]　林田[リンデン]/小關三英譯・松岡權序『那波列翁勃納爾的[ナポレオン]傳』(3册。←弘化2)　[41854
[＊安政4(1857)]　(尾張)柳川春三『洋學指針・蘭學部』　[41855
[＊安政6(1859)]　南里有鄰(佐賀藩和學寮)『神理十要』　[41856
[＊萬延1(1860)]　『羅蘭藥品名彙』(出版者不明)　[41857
[＊萬延 1(1860)[　本木昌造『蠻語小引』　[41858
[＊萬延 1(1860)]　褘理哲(R.Q.Way)著/箕作阮甫訓點『地球說略』(上中下 3 巻,中巻「歐羅巴大洲之部」)　[41859
[＊文久1(1861)]　(庄内)佐藤政養譯圖『官許　新刊輿地全圖』　[41860
[＊文久1(1861)]　英國・慕維廉(ウィリアム)『英國志』(八巻、大1册)長門溫故社藏上梓[41861
[＊文久2(1862)]　司馬凌海(近藤芳樹・序)『七新藥』(三巻、17丁)　[41862
[＊文久2(1862)]　佐藤政養編『新刊・輿地全圖』(萬屋平四郎發兌,竹口瀧三郎,上村福三郎私刻)　[41863
[＊文久2(1862)]　洋書調所『官板　獨逸單語篇』　[41864
＊「訂正」[＊元治1(文久4(1864)]　村上英俊『佛語明要』(辞書,4巻)　[213]　[41865
[＊元治1(文久4(1864))]大槻磐溪『近古史談』(百合若。4巻。嘉永7(1854)成立。)　[41866
＊[訂正][＊慶應1(1865)]（參考：同治7年、栗本鋤雲譯『伊娑菩[イソップ]喩言』,香港英華書院版→1903年版　[227]　[41867
[＊**慶應**1(1865)3**月**]　正泉寺藏版『耶蘇興廢年表』(原本。→昭3年,中尾松泉堂飜刻覆製本)　[41868
[＊**慶應**2(1866)]　『馬可傳福音書畧解』(**美華局。→明**4,再版)　[41869
[＊**慶應**3(1867)]　高島祐啓『歐西行紀』(誠求堂)　[41870
[＊**慶應**3(1867)]　**「**鼴鼠の會議**」**(イソップ)萬國新聞2（2月中浣、3**月**）　[41871
[＊**慶應**3(1867)]　**「**狐と猫の智**」**(イソップ)萬國新聞2（2月中浣、3**月**）　[41872
[＊**慶應**3(1867)]　**「**性惡の犬**」**(イソップ)萬國新聞3（3月下浣、5**月**）　[41873
[＊**慶應**3(1867)]　**「**當時の形　譬へばなし**」**(イソップ)萬國新聞9（12月中浣、1868**年1月**）　[41874
＊「訂正」[**慶應**4(1868)]　唐通居士(神田孝平)　錄**「喩言一束」**(イソップ)中外新聞外篇4/3　[231]　[41875
[**慶應**4(1868)]　唐通居士(神田孝平)**「喩言一束」**錄(イソップ)中外新聞外篇5月　[41876
[**慶應**4(1868)]　櫻洲山人中井貞『西洋紀行』(巻之上,巻之下,出版者不明,敦賀屋爲七[發賣])　[41877
[＊江戸末期]　著者不明(?)『萬國地球山海輿地全圖』　[41878
[＊江戸末期]　森島忠良撰/一足菴補正『改正增補蠻語麩(2巻附錄1巻[存1巻]』(書写者,書写年不明)　[41879

［＊江戸後期］　箕作虔儒[痒西]纂述『泰西名醫彙講(存1巻)』(出版者, 出版年不明)［41880
［＊江戸後期］　箕作虔儒[痒西]纂述『泰西名醫彙講8巻(存1巻)』(箕作阮甫自筆。巻之22-23)　［41881
［＊江戸後期］　箕作虔編輯『泰西藥表活人小册』(箕作阮甫自筆)　［41882
[＊明治1(1868)]村上俊吉『回想』(警醒社書店)　[41883
[＊明治1]　英國・慕維廉譯『耶穌言行綱目』(美華書)　［41834
[＊明治1]　(美國)倪維思註『使徒行傳註解(釋)』(美華書舘)　[41835
[＊明治1]　B.プティジャン譯編『聖教初學要理』(→明2,5, 再版)　[41836
[明治初期?]　赤水長玄『地球萬國山海輿地全圖說』　［41837
[＊明治前期]　佐藤敬太郎寫『歐羅巴洲全圖』(60×82)　[41838
[明治初期?]　河鍋曉齋畫「いそほ物語の畫」(巻子本一巻)　[41839
［明治初期］　昇雲齋村上南洋鐵筆『掌中輿地萬國全圖』(石田松雅堂板)　[41840
［明治初期］　耶羅伊々々々拉瑪薩瓦合發兌『新約地名人名字引』　[41841
［明治初期］　著者不明(?)『哥林多前後講述』(寫本。傳教孝校公物。尾題「宗徒保羅達哥林多後書講義」)　[41842
［明治初期］　福冨淡水輯著『銅刻新版・英獨掌中洋學訓蒙』　[41843
［明治初期］　西周「論理新說」(亞利斯度德[アリストテレス])　[41844
［＊明治初期］　西周「美的學說」(梭倫[ソロン]、列古里屈[レキュリクス]　[41845
［明治初期］　西周「随筆」(「朝頁の培育」[ギリシヤ、ローマ等]、「脚二ッあるけもの」[ローマの中葉等])[全集3巻所収]　[41846
［明治初期頃］　ビーッル、ホーッパ『西洋五體伊呂波五音相通和訓手引』　[41847
[＊明治1-7]　『新刻書目便覽』(司馬凌海, 朋百[ポンペ]等)　[41848
[＊明治1]　堤殼士志譯『萬國公法譯義』(丁韙良漢譯「萬國公法」)　[41849
[＊明治2(1869)]　村田文夫『西洋聞見錄』　[41850
[＊明治2]　「束木の昔噺」(イソップ)萬國新聞15(2月下旬、4月)　[41851
[＊明治2]　「兩箇の硝子器の噺」(イソップ)萬國新聞16(3月下旬、5月)[41852
[＊明治2]　「鼷鼠と蟇と同穴に住し譬論」(イソップ)萬國新聞17(5月下旬、6月)　[41853
[＊明治2]　渡部溫(無盡藏)英文翻刻『經濟說略』(含・イソップ)　[41854
[＊明治2]　原貫山編『官許・外國年表』(4册,寶集堂,大和屋喜平衛發行)[41855
［明治2頃］　三瀨周三(諸淵)『獨文・政治學・經濟學』(自書。[1」歷史の部・ギリシヤ[ソクラテス、アリストテレス、プラトー」)　[41856
［明治期?］　三瀨周三(諸淵)『哲學』(自書。「ソクラテスの哲學」)　[41857
[＊明治3(1870)]　中井貞『西洋紀行』(堺屋仁兵衛)　[41858
[＊明治3]　中井貞『西洋紀行航海新說(上下)』(堺屋仁兵衛)　[41859
[＊明治3]　箕作麟祥譯『建國法：佛蘭西法律書』(製作者不明。書写資料。)　[41860
[＊明治 3]　木幡篤次郎譯『生産道案内』(渡部溫翻刻『經濟說略』[含・イソップ→明 10『經濟入門,一名生産道案内』として再刊。)　[41861

[＊明治3]　河津孫四郎譯『英國史略』（全4巻。チャンブル及ハルドウィン著からの抄譯。作樂戸癡鶯譯［3・4巻］。）[41862
[＊明治3]　B.Th.Petitjean“Lexicon Latino-Iaponicum”(キリシタン版・羅和辞書[葡語の部を削除]。羅・和辭典刊行會)　[41863
[＊明治3]　艾儒略著/若望瑪利亞譯『耶穌言行略（巻1-4）』（出版者不明）[41864
＊[訂正] [＊明治3]今井史山『西洋童話』1册(大阪,イソップ喩談三則あり。明6刊?)[253]　[41865
［明治期］　＊［訂正］和久正辰述『教育史講義』（尋常師範科講義錄）[4507]　[41869
［明治期］　松濤阪智編譯『教育如何』（マッケーとゴールドスミスの地理書から抄出した各國教育事情）　[41870
［＊明治期?］　(?)『使徒信經問答』　[41871
［＊明治期?］　(?)『新約聖書馬留古傳福音書』　[41872
［＊明治期?］　倫敦聖教書類會社『基督教證論』　[41873
［＊明治期?］　北英國聖書會社『新約聖書約翰傳』　[41834
［＊明治期?］　マッカティー著/J.C.ヘボン譯『眞理易知』　[41835
［＊明治4(1871)］高橋景保『重訂萬國全圖』(安政2[1855],山路階孝,大學南校) [41836
［＊明治4］　寺内章明譯篇『五洲記事（6巻）』（紀伊國屋源兵衛）　[41837
［＊明治4］　「三月中東京府下私塾並生徒數」（司馬［凌海］少博士）新聞雜誌5[41838
［＊明治4］　『新約全書馬太傳福音書』（美華書舘）　[41839
［＊明治4］　『約翰傳福音書』(美華書舘)　[41840
［＊明治4］　大野九十九『解體學語箋[英羅]』(文部省)　[41841
［＊明治4］　司馬凌海譯『解馬新書』　[41842
［＊明治4］　春風社(司馬凌海)編纂『獨逸單語篇』　[41843
［＊明治4］　崎陽好樹堂譯『官許佛和辭典』（上海出版）　[41844
［＊明治5頃］　J.C.ヘボン譯/米國聖書會社『馬太傳福音書』　[41845
［明治5頃］　J.C.ヘボン譯/奥野昌綱筆版（横濱刊）『新約聖書馬可傳』（内題「新約聖書巻之二/馬可傳福音書）　[41846
［＊明治5頃?］　J.C.ヘボン譯/米國聖書會社『路加傳福音書』　[41847
［＊明治5(1872)］　B.プティジャン譯編『煉獄說畧』　[41848
［＊明治5］　仮名垣魯文著・錦朝樓芳虎畫『倭國字西洋文庫』(全6册,紅木堂・木屋宋次郎) [41849
［＊明治5］　山田昌邦『幾何學』(ユークリッド。開拓使)　[41850
［＊明治5］　小林義直譯・司馬盈之［凌海］閲『理禮氏藥物學』（和本17册）[41851
［＊明治5］　明石志津摩(朝幹)編『和譯獨逸字典』(春風社版)　[41852
［＊明治5］　レーマン(R.Lehmann)編『和譯獨逸辭書』(第一分册)　[41853
［＊明治5］　藤井三郎・櫻井勇作編『孛和袖珍辭書』(學半社版)　[41854
［＊明治5］　長崎版『袖珍孛語譯囊』(ドイツ語)　[41855
［＊明治5］　知新舘社員同譯（吉田賢輔序・大槻磐溪跋）『英和字典』　[41856
［＊明治5］　ヘボン譯『約翰傳福音書』(米國聖書會社)　[41857
[＊明治5]　田中芳男・小野職慤・久保弘道『植學譯筌［羅英和］』（文部省）[41858

［＊明治6(1873)］ 永田方正譯『西洋教草----一名、愛敬篇』(前川善兵衛序。本邦初和訳聖書3巻→1873年,岡田茂兵衛) [25099] [41859
[＊明治6］ 佐澤太郎譯・河津裕之閲・平田宗敬校『佛國學制, 3篇附錄(10巻)』（文部省。→明9) [41860
[＊明治6] 箕作麟祥編輯『童蒙教の道須知(上下)』(稻田佐兵衛) [41861
＊[訂正] [＊明治6]今井史山撰『西洋童話』(イソップ喩談三則あり,グリフッスの教科本[1872刊],明3刊?) [305] [41861
［＊明治6] 加地爲也『西洋教の杖』(東京尚古堂。イソップ) [41862
[＊明治6?] ウィケルスハム/箕作麟祥譯述『學校通論(全9巻)』(私製。→1874年, 文部省, 出雲寺萬次郎［發行］。→1876年, 文部省) [41863
［＊明治6] 長沼熊太郎譯・仮名垣魯文解『通俗那波烈翁傳』(齋藤寛) [41864
［＊明治6] 田中耕造譯述・青木先孝校『拿破崙政略』（伏龍軒） [41865
［＊明治6] ウェーランド/山本義隆譯『修身論』 [41866
［＊明治6] チャムバー/澤井梵平譯『修身小學』 [41867
［＊明治6] フローリー/山本義隆譯『修身訓蒙』 [41868
［＊明治6] 有獨著/横井信之譯(?)『七藥新書』(龍章堂) [41869
［＊明治6] 奥山虎章譯『醫語類聚』(→明11,增訂) [41870
［＊明治6] 上海版『獨和辭典』 [41871
［＊明治6] 京都版『和譯獨逸辭書』 [41872
［＊明治6] アドルフ・ホルツハウゼン『約翰傳福音書』 [41873
［＊明治6] B.J.ベッテルハイム譯『路加傳福音書』 [41874
［＊明治6] プティジャン『後婆通志與』 [41875
［＊明治6］ J.C.ヘボン譯/米國聖書會社『馬太傳福音書』 [41876
［明治6-7?］ J.C.ヘボン譯/奥野昌綱筆版(横濱刊)『新約聖書約翰傳』(内題「新約聖書巻之四/約翰傳福音書) [41877
［＊明治7(1874)］ 秋津學人「世界人物品評」(亞勒散得大王,伊蘇普等)東京日々新聞5/24 [41878
［＊明治7] 西村茂樹『經濟要旨』(イソップ) [41879
［＊明治7] B.J.ベッテルハイム譯『使徒行傳』(アドルフ・ホルツハウゼン) [41880
[＊明治7] 田島象二編『耶蘇一代辨妄記 初帙』(和泉屋) [41881
[＊明治7] 矢野龍溪『西洋言行錄』(甘泉堂) [41882
[＊明治7] 宮里正靜『化學對譯辭書』 [41883
[＊明治7] 伊藤謙『藥品名彙』(→明16,增訂) [41884
[＊明治7] 文部省編纂『萬國史畧』(2巻,森本太助) [41885
[＊明治7] 師範學校編纂『萬國史畧』(2巻,岡崎左喜介) [41886
[＊明治7] 師範學校編纂『萬國史畧』(2巻,岡田惣兵衛) [41887
[＊明治7] 文部省編纂『萬國史畧』(功力孝太郎) [41888
[＊明治7] 文部省編纂『萬國史畧』(2巻,文部省) [41889
[＊明治7] 卜部精一纂譯『地球精圖』(大阪府・中野敬藏藏板) [41890
[＊明治7] グリゥリンヘルド原著/菅野虎太郎譯『萬國地誌略(巻1,2)』(内藤傳右衛門) [41891

[＊明治7]　菅野虎太郎譯『萬國地誌略』(5巻,山中市兵衛)　[41892
[＊明治7]　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,山中市兵衛)　[41893
[＊明治7]　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,出雲寺萬次郎)　[41894
[＊明治7]　師範學校編輯『萬國地誌略』(巻1,岡崎左喜介)　[41895
[＊明治7]　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,岡田惣兵衛)　[41896
[＊明治7]　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,文部省)　[41897
[＊明治7]　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,山口縣)　[41898
[＊明治7]　師範學校編輯『萬國地誌略』(巻1,積善圃)　[41899
[＊明治7]　師範學校編輯『萬國地誌略』(巻,1,2,佐々木慶助・佐々木惣四郎[發賣]　[41902
［明治7-9?］　フレミング/箕作麟祥譯『泰西自然神教』　[41901
[＊明治7]　ベアレル/中村臺譯『開化事始』（岡田屋嘉七）　[41902
[＊明治7]　ギゾー/荒木卓爾・白井政夫譯『泰西開化史』　[41903
[＊明治7?]　西周「「萬國史」序」(全集3巻所収）　[41904
＊「訂正」［＊明治8］末松謙澄「讀希臘史」（アルノルド氏希臘史）東京日々新聞　11/10　[371]　[41905
[＊明治8(1875)]　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,山梨縣)　[41906
[＊明治8]　師範學校編輯『萬國地誌略』(巻1,2,濱田縣)　[41907
[＊明治8]　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,文部省)　[41908
[＊明治8]　師範學校編輯『萬國地誌略』(巻,1,2,文部省)　[41909
[＊明治8]　師範學校編輯『萬國地誌略』(巻1,文部省)　[41910
[＊明治8]　藤井惟勉編『萬國地誌畧』(二書堂)　[41911
[＊明治8]　藤井惟勉編輯『萬國地誌略』(3巻,内藤傳右衛門)　[41912
[＊明治8]　井出猪之助編纂『萬國地誌畧』(4巻,淺井吉兵衛)　[41913
[＊明治8]　山田甲太郎・高原徹也著/日原昌造閲正・野田達助圖畫『萬國地誌畧諳射譯圖』(3巻,文部省)　[41914
[＊明治8]　渡部榮八『萬國地誌略字引』(水野慶治郎)　[41915
[＊明治8]　渡部榮八『萬國史略字引』(水野慶治郎)　[41916
[＊明治8]　永田方正編・加東秀三郎畫『註釋萬國史略字引』(岡田茂兵衛)　[41917
[＊明治8]　關息定輯解・飯尾朋央校正『萬國史畧字解』(2巻,合書房)　[41918
[＊明治8]　西野古海編輯『萬國史略字解』(菊田忍)　[41919
[＊明治8]　文部省編纂『萬國史略』(2巻,山口縣[反刻])　[41920
[＊明治8]　文部省編纂『萬國史畧』(巻1,小野正兵衛)　[41921
[＊明治8]　師範學校編『萬國史畧』(2巻,濱松縣)　[41922
[＊明治8]　師範學校編『萬國史畧』(2巻,大森弘三郎)　[41923
[＊明治8]　大槻文彦著・文部省編纂『萬國史畧』(文部省)　[41924
[＊明治8]　田中義廉編『萬國史』(5巻,内藤傳右衛門)　[41925
[＊明治8]　箕作麟祥纂輯『萬國新史』(上中下巻。稻田佐兵衛。→明9。→明10,市川清流)　[41926
［＊明治8］　『馬可傳福音書』（出版者不明）　[41927
［＊明治8］　米國 嘉魯日耳土閲『畧解 新約聖書 馬太』（中1册）　[41928

［＊明治8］　永田方正譯『西洋教草―一名、愛敬篇』(舊新約聖書。文榮堂・義玉堂合梓)　[41929
［＊明治8］　田島象二譯評『新約全書評駁』(マタイ傳。任天書院)　[41930
［＊明治8］　田島象二編『耶蘇教意問答』(和二册, 萬笈閣)　[41931
［＊明治8］　千河岸貫一譯『兩約全書自語相違』(和二册,東京擁海樓)　[41932
［＊明治8］　渡部溫譯『通俗伊蘇普物語』(渡部溫(6册))　[41933
［＊明治8］　トマス・ゼームズ/渡部溫(無盡藏書齋主人)和譯『通俗伊蘇普物語』(渡部溫(6册))　[41934
［＊明治8］　渡部溫譯『通俗伊蘇普物語』(稻田佐兵衛(6册))　[41935
［＊明治8］　T.バックル/飜譯局・大島貞益譯『英國開化史總論』　[41936
［＊明治8］　ホプキンス/箕作麟祥譯『萬國政體論』　[41937
＊「訂正」［＊明治8］ユークリッド/山本正至・川北朝鄰譯『幾何學原礎』7册(本邦初譯,靜岡文林堂發行) [391]　[41938
［明治8以降?］　西周「英主比較論」(馬塞頓［マケドニヤ］王・非立丕［フィリプ］、亞歷山德［アレキサンドリア］、亞立斯度德［アリストテレス］、和墨耳［ホメール］等　[41939
＊「訂正」［＊明治9］堀江復譯・司祭ニコライ閲『新約聖書略史(上下)』(正教會) [25129]　[41940
［＊明治9(1876)］西村茂樹譯『經濟要旨』(『經濟説略』の譯/イソップ。山中市兵衛生版。明7以降,數書上梓)　[41941
［＊明治9］　師範學校編輯『萬國地誌略』(巻3,藤森平五郎)　[41942
［＊明治9］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,鈴木吉兵衛)　[41943
［＊明治9］　師範學校編輯『萬國地誌略』(巻1,鈴木吉兵衛)　[41944
［＊明治9］　師範學校編輯『萬國地誌略』(巻2,横山安治良)　[41945
［＊明治9］　師範學校編輯『萬國地誌略』(巻3,飜刻,田中治兵衛)　[41946
［＊明治9］　師範學校編輯『萬國地誌略』(巻3,飜刻,杉本甚双)　[41947
［＊明治9］　師範學校編輯『萬國地誌略』(巻2,3,飜刻,加藤長平)　[41948
［＊明治9］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,茨城縣)　[41949
［＊明治9］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,高知縣)　[41950
［＊明治9］　師範學校編輯・谷喬述『萬國地誌略便解』(攵海堂, 尚書堂)　[41951
［＊明治9］　永田方正編『萬國地誌畧字引』(岡田群玉堂)　[41952
［＊明治9］　鈴木貞次郎輯『萬國地誌略字解』(中邨熊次郎)　[41953
［＊明治9］　鐵田登羅太訓點『萬國地誌畧字引』(梅原龜七)　[41954
［＊明治9］　新井隆存編輯『萬國地誌畧字引』(森本太助)　[41955
［＊明治9］　三宅秀一輯『萬國地誌略字引』(森本太助)　[41956
［＊明治9］　今井正篤編『萬國地誌略字引』(星野松藏)　[41957
［＊明治9］　高橋易直編『袖珍萬國地誌略字引』(山中市兵衛)　[41958
［＊明治9］　渡部榮八輯『萬國地誌略字引』(水野慶治郎)　[41959
［＊明治9］　古川良輔編・林多一郎閲『小學用萬國地誌略(上下)』(菅谷甚平)　[41960
［＊明治9］　古川良輔編・林多一郎閲『小學必携萬國地誌略字類(上)』(集英堂)　[41961

[＊明治9]　山口松次郎編輯『小學用地圖：日本地誌略萬國地誌略附圖』(淺井吉衛)　[41962
[＊明治9]　尾島精六編『萬國地誌略問答』(2巻,澤宗次郎)　[41963
[＊明治9]　高橋易直編『袖珍萬國史略字引』(高橋易直,山中市兵衛[發賣])　[41964
[＊明治9]　師範學校編『飜刻萬國史畧』(2巻,開拓史)　[41965
[＊明治9]　師範學校編輯『萬國史畧』(2巻,龍淵堂。→明11年。)　[41966
[＊明治9]　師範學校編輯『萬國史畧』(巻1,柳河梅次郎)　[41967
[＊明治9]　大槻文彦著・師範學校編輯『萬國史畧』(2巻,豐岡縣學務課)[41968
[＊明治9]　大槻文彦著・師範學校編輯『萬國史畧』(文部省)　[41969
[＊明治9]　師範學校編『萬國史畧』(2巻,内藤傳右衛門)　[41970
[＊明治9]　師範學校編纂『萬國史畧』(巻1,村上勘兵衛)　[41971
[＊明治9]　鐵田登羅太訓點『萬國史略字引』(梅原龜七)　[41972
[＊明治9]　パーレー/牧山耕平譯『萬國史』（上下5巻, 大谷仁兵衛）　[41973
[＊明治9]　パーレー/牧山耕平譯『萬國史』（上下, 弘令社）　[41934
[＊明治9］　作樂戸痴鶯『萬國通史』（上巻中下, 水野慶治郎）　[41935
[＊明治9］　作樂戸痴鶯編譯・平田宗敬校『萬國通史(上中下9巻)』（文部省。→明10年, 再版。）　[41936
［＊明治9］　Nathan Brown(T.Kawakatsu rev.)The Gospel of Matthew in venacular Japanese existihg Greek manuscripts with marginal notices of variations,Wm.P.Brown(prt.)for the Amerikan Baptist Free Mission Society,1876　[41937
＊「訂正」［＊明治10］H.サウズゲート/岩見鑑造抄譯『西洋諺草』［514　[41938
＊「訂正」［＊明治10］大橋素六郎「希臘理學者言」(西土伊句［ストイク］, 亞比加利耶［アピカリア(*エピクロス)］)同人社文學雜誌18[41939
＊「削除」［＊明治10］~~『平山果編古哲明言抄』~~　[475]　[41940
［明治10?］　西周「政略論」（羅馬法、ゴ［グ］ロジウス等）　[41941
[＊明治10(1877)］西周「演說會ノ說」（「講學餘談附錄」中、デモステニス、シセロ）　[41942
[＊明治10］　(山形縣)原精一編校『袖珍輿地指南/東半球之部・西半球之部』(74×52糎)[41943
[＊明治10］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,石田忠兵衛)　[41944
[＊明治10］　師範學校編輯『萬國地誌畧』(巻2,3,文江堂)　[41945
[＊明治10］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,益智舘)　[41946
[＊明治10］　師範學校編輯『萬國地誌略』(2巻,豐住伊兵衛)　[41947
[＊明治10］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,文部省)　[41948
[＊明治10］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,松村平吉)　[41949
[＊明治10］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,淺井吉兵衛)　[41950
[＊明治10］　師範學校編輯『萬國地誌略』(2巻,荒井大四郎)　[41951
[＊明治10］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,島村利助)　[41952
[＊明治10］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,河上章他)　[41953
[＊明治10］　師範學校編輯『萬國地誌略』(2巻,玉井忠道)　[41954
[＊明治10］　師範學校編輯『萬國地誌略』(2巻,廣瀨市藏)　[41955

[＊明治10］　師範學校編輯『萬國地誌略』(巻,2,3,村上勘兵衛)　[41956
[＊明治10］　師範學校編輯『萬國地誌略』(武藤信吉)　[41957
[＊明治10］　師範學校編輯『萬國地誌略』(五十嵐太右衛門)　[41958
[＊明治10］　師範學校編輯『萬國地誌略』(中川勘助)　[41959
[＊明治10］　淺野明道問標記井圖編輯『萬國地誌略』(3巻,加藤正兵衛)　[41960
[＊明治10］　加藤照道著・上田正庸閲『萬國地誌略附圖』(3巻,江藤喜兵衛)　[41961
[＊明治10]　今井正篤編輯『萬國地誌略字引　自一之巻至三之巻：全』(星野松藏)　[41962
[＊明治10]　田中致知編輯『萬國地誌略字引』(半月堂)　[41963
[＊明治10]　市橋久二郎編・丹羽適齋閲・師範學校編輯『萬國地誌略字解：全』(梶田勘助)　[41964
[＊明治10］　三瀬貞幹編『萬國地誌畧要解』(巻1,2,金港堂)　[41965
[＊明治10］　片山惇吉纂譯『萬國地誌要略：一名坤輿誌略』（7巻, 石川治兵衛）　[41966
[＊明治10］　高木怡莊編・岡松甕谷校『上等小學萬國地誌要略』（2巻, 原亮三）　[41967
[＊明治10］　世古成編『小學用地圖：萬國地誌略附圖』（田中太右衛門・西尾長平治）　[41968
[＊明治10］　大野原一松編・安田敬齋校訂『小學用地圖：萬國地誌略附圖』（中島德兵衛・柳原喜兵衛・前川善兵衛）　[41969
[＊明治10］　大野原一松編・安田敬齋校訂『小學用地圖』（浪華三玉堂）[41970
[＊明治10］　森琴石編『小學地圖用法』（森本太助）　[41971
[＊明治10］　近藤圭造評註『十八史略評註：萬國史標』（7巻, 近藤圭造）[41972
[＊明治10］　巴來著・『萬國史(下巻)』(大谷仁兵衛)　[41973
[＊明治10]　パーレー/牧山耕平譯『萬國史』（上下4巻, 大谷仁兵衛）　[41974
[＊明治10］　芳賀政宣編輯『萬國史略字解』（大森弘三郎）　[41975
[＊明治10］　谷喬編『萬國史略便解』（尚書堂, 文海堂）　[41976
[＊明治10］　大槻文彦著・師範學校編輯『萬國史畧』(2巻,群馬縣[飜刻]) [41977
[＊明治10］　大槻文彦著・師範學校編輯『萬國史畧』(2巻,文部省)　[41978
[＊明治10］　大槻文彦著・師範學校編輯『萬國史畧』(2巻,益智舘)　[41979
[＊明治10］　師範學校編輯『萬國史畧』(2巻,中西佐登)　[41980
[＊明治10］　師範學校編『萬國史畧』(2巻,松村平吉)　[41981
[＊明治10］　師範學校編『萬國史畧』(2巻,千葉縣)　[41982
[＊明治10］　師範學校編『萬國史畧』(2巻,梅原龜七)　[41983
[＊明治10］　師範學校編『萬國史畧』(2巻,島村利助)　[41984
[＊明治10］　師範學校編『萬國史畧』(2巻,大阪府第五課)　[41985
[＊明治10］　師範學校編『萬國史畧』(2巻,靜岡縣)　[41986
[＊明治10］　師範學校編纂・小川亮標注略解『萬國史略』(2巻,伊藤善太郎)　[41987
[＊明治10］　レーマン(R.Lehmann)編『和譯獨逸辭書』(完本)　[41988
[＊明治10(?)]　瀧邨鶴雄『平文[ヘボン]先生和英語林凡例抄譯稿』(自筆本) [41989
[＊明治10］　米國遣傳教師事務局『聖書史記問答』（→1888年,「全」版）[41990

[＊明治10］　米國聖書會社『新約聖書馬可傳』　[41991
[＊明治10］　北英國聖書會社編『新約聖書馬可傳』（北英國聖書會）　[41992
[＊明治10］　飜譯委員社中譯『新約聖書馬可傳』（出版者不明）　[41993
[＊明治10］　米國聖書會社・飜譯委員社中『新約聖書使徒行傳』（半一册, 横濱上梓）［41994
[＊明治10］　原胤昭『猶太國人名抄』（十字屋書舗）　[41995
[＊明治 10］　木幡篤次郎抄譯『(改題)經濟入門　一名生産道案内』(←明 3,同『生産道案内』[含・イソップ]　[41996
[＊明治10］　嘉魯日耳士閲/原胤昭譯『略解新約聖書』（第1册・馬太, 第2册・馬可）[41997
[＊明治11(1878)]　櫻洲山人『漫遊記程(上中下)』(築地避暑洞[藏板])　[41998
[＊明治11］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,石川治兵衛)　[41999
[＊明治11］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,中越久二・八田次郎次)　[42000
[＊明治11］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,中西嘉助)　[42001
[＊明治11］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,西澤喜太郎)　[42002
[＊明治11］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,西澤久米衛門)　[42003
[＊明治11］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,勝村治右衛門)　[42004
[＊明治11］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,梅原龜七)　[42005
[＊明治11］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,三上眞助)　[42006
[＊明治11］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,山本喜兵衛)　[42007
[＊明治11］　川尻藤三郎『萬國地誌畧圖掌覧』(勝村治右衛門)　[42008
[＊明治11］　佐久間正・木下義雄抄譯『萬國地誌畧圖譯解』（3巻, 佐久間正）　[42009
[＊明治11］　長岡道謙編纂・土方幸勝訂『萬國地誌略物産辨』（福田仙藏）　[42010
[＊明治11］　齋藤時秦編輯『萬國地誌略物産辨』（3巻,萬笈閣)　[42011
[＊明治11］　藤田乕雄編『小學萬國地誌略問題集』（江藤喜兵衛）　[42012
[＊明治11］　伊藤有隣編『小學用本萬國地誌畧問答（上）』（山中八郎）[42013
[＊明治11］　今井正篤編『萬國地誌略字引略注』（山中市兵衛・山中北郎・山中孝之助［發賣］）　[42014
[＊明治11］　長瀬寛二編『産物圖解萬國地誌略字引』（長瀬寛二）　[42015
[＊明治11］　山田申太郎, 高原徹也編・日原昌造閲正・野田達助圖畫『萬國地誌畧諳射譯圖』（地圖, 岡安慶介）[42106
[＊明治11］　作樂戸痴鶯譯編『萬國通史』（上編上中下, 平井文助）　[42017
[＊明治11]　師範學校編『萬國史畧』（2巻, 前川源七郎）　[42108
[＊明治11]　師範學校編『萬國史畧』（2巻, 前川善兵衛・大野木市兵衛）[42109
[＊明治11]　師範學校編『萬國史畧』（2巻, 中越久二・八田次郎次）　[42110
[＊明治11]　師範學校編『萬國史畧』（2巻, 前川源七郎）　[42111
[＊明治11]　師範學校編『萬國史畧』（2巻, 西澤喜太郎）　[42112
[＊明治11]　文部省編纂『飜刻萬國史畧』（2巻, 柳原喜兵衛）　[42113
[＊明治11]　三宅秀一編『萬國史畧字引』(森本太助)　[42114
[＊明治11]　『萬國史略』(桂彦藏)　[42115

[＊明治11]　パーレー/牧山耕平譯『萬國史』(7巻, 一貫社)　[42116
[＊明治11]　久米邦武『特命全權大使 米歐回覧寔記』(全100巻,太政官發行。→1977-82年,田中彰校注『特命全權大使 米歐回覧實記』全5册 岩波文庫。→1985年,岩波文庫・全5巻)。　[42117
[＊明治11］　米國聖書會社『馬太傳福音書』(新約全書)　[42118
[＊明治11］　米國聖書會社・飜譯委員社中『新約聖書馬太傳福音書』(米國聖書會社)　[42119
[＊明治11］　米國聖書會社・飜譯委員社中『約翰傳福音書』(米國聖書會社)　[42120
[＊明治11］　北英國聖書會社編・飜譯委員社中譯『新約聖書馬太傳福音書』(北英國聖書會)　[42121
[＊明治11］　北英國聖書會社編・飜譯委員社中譯『約翰傳福音書』(北英國聖會)　[42122
[＊明治11］　飜譯委員社中譯『新約聖書馬太傳』(出版者不明)　[42123
[＊明治11(?)]　『オラシヨ並ニヲシエ』(日本南緯聖會)　[42124
［＊明治11］　山田昌邦『英和數學辭書』　[42125
［＊明治11］　ミル氏原著/永峰秀樹譯『代議政體』(4巻, 初譯。稻田政吉)　[42126
［＊明治12(1879)］　西村茂樹編『西洋事物起源(元・亨)』(西村茂樹)　[42127
［＊明治12］　彼爾魏像［ギゾ］氏原著/藤田喜三郎譯述『佛蘭西文明史』(2編, 嶋林專二郎)　[42128
［＊明治12］　土居光華・菅生奉三譯『伯克爾［バックル］英國文明史』(4編, 片桐起太郎・小林新造)　[42129
［＊明治12］　伯克爾著/土居光華・菅生奉三譯『英國文明史』(6編, 寶文閣)　[42130
［＊明治12］　武藤壽『金石對名表』　[42131
［＊明治12］　少将ユソン［纂集］/大久保春野譯『第一世拿破崙—口咄, 一名, 思想記』(内外兵事新聞局)　[42132
［＊明治12］　アメデ・ガブール/矢島玄四郎編譯『拿破崙全傳』(加納久宣)　[42133
［＊明治12］　ミッチェル著/松村精一郎譯『萬國地誌階梯(下)』(增補改訂,江島伊兵衛)　[42134
［＊明治12］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,内藤傳右衛門)　[42135
［＊明治12］　師範學校編輯『萬國地誌略』(巻1,古澤良作)　[42136
［＊明治12］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,星野松藏)　[42137
［＊明治12］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,靜岡縣)　[42138
［＊明治12］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,森本太郎)　[42139
［＊明治12］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,高橋松之助)　[42140
［＊明治12］　師範學校編輯『萬國地誌略』(巻1,2,山中市兵衛)　[42141
［＊明治12］　由良丈一郎・長谷川次潔合著『萬國地誌』(大島勝海)　[42142
［＊明治12］　高木怡莊編・岡松甕谷校『萬國地誌要畧』(5巻, 奎文堂)　[42143
［＊明治12］　眞島寛編輯『小學用地圖：日本地誌畧・萬國地誌畧附圖』(三木美紀)　[42144

[＊明治12]　文部省編『萬國史畧』(巻1, 古澤良作)　[42145
[＊明治12]　師範學校編『萬國史畧』(2巻, 内藤傳右衛門)　[42146
[＊明治12]　師範學校編『萬國史畧』(2巻, 岡本運廣)　[42147
[＊明治12]　師範學校編『萬國史畧』(2巻, 藤森平五郎)　[42148
[＊明治12]　師範學校編纂・荒木市太郎問目抄解『萬國史畧』(2巻, 華木安次郎)　[42149
[＊明治12]　岡本監輔『萬國史記(上下)』(申報舘)　[42150
［＊明治12］　米國遣傳教使事務局『聖書之說』　[42151
［＊明治12?］　米國聖書會社藏板『よは祢でん』　[42152
［＊明治12］　倍瑠儺屢弩著/小嶋準治譯『舊約聖書傳』(龍章堂, 舊新約聖書傳初篇, 巻之1-3)　[42153
［＊明治12］　倍瑠儺屢弩著/小嶋準治譯『舊新約聖書傳』(龍章堂)　[42154
［＊明治13(1880)］師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,文部省)　[42155
［＊明治13］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,山川九一郎)　[42156
［＊明治13］　山田申太郎・高原徹也著/日原昌造閲正・野田達助圖畫『萬國地誌畧諳射譯圖』(6巻地圖, 岐阜師範學校)　[42157
［＊明治13］　山口恒七製圖・土方善賢閲『小學地圖：萬國地誌略用圖』(山口恒七)　[42158
［＊明治13］　小林義則編輯『小學萬國地誌』(2巻, 文學社, 丸屋善七)　[42159
[＊明治13]　師範學校編『萬國史畧』(2巻, 明文堂菅間定治郎)　[42160
[＊明治13]　師範學校編纂・荒木市太郎問目抄解『萬國史略』(2巻, 内藤彦一)　[42161
[＊明治13]　田中義廉編輯『萬國史略』(5巻,再刻,内藤傳右衛門)　[42162
［＊明治13］　小林雄七郎譯『拿破崙第一世傳』(全10巻, 附錄。陸軍文庫)　[42163
［＊明治13］　中山昌樹『ダンテ神曲の研究』(新生堂)　[42164
［＊明治13］　横井時庸『機關名稱字類』　[42165
［＊明治13］　K.Matsuoka『英和通商字典』　[42166
［＊明治13]　『またいでん』(出版者不明)　[42167
［＊明治13]　丁韙良(ウィリアム・マーチン)[著]/中村正直訓點『天道溯原』(倫敦聖教書類會社。→明15,明19,再版)　[42168
［＊明治13］　奥野昌綱譯『耶蘇教三要錄』(飯島靜謙出版)　[42169
［＊明治13］　『路加傳—第十五章ノ中俗譯 註解』(和紙袋綴活版六丁)　[42170
［＊明治13］　倍瑠儺屢弩著/小嶋準治譯『新約聖書傳』(龍章堂, 舊新約聖書傳2篇, 巻之1-3)　[42171
［＊明治13]　(明)利瑪竇述/小嶋準治譯『天主實義』(開世堂)　[42172
［＊明治13]　艾儒略著/若望瑪利亞譯『耶穌言行紀略』(出版者不明, 巻之1-4)　[42173
［＊明治13］　井上哲次郎「倫理之大本」(瑣格剌底, 普拉的, 亞里斯多德, 士多亞教, 以彼古羅教等)學藝志林7-38　[42174
［＊明治13］　プロフェッソル・テイト述/磯野德三郎述「物理學教授論」(エピキウラス等)學藝志林7-38　[42175
［＊明治14(1881)］師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,改正版,原亮三郎)　[42176

［＊明治14］　師範學校編輯『萬國地誌略』(改正,玉井忠道)　[42177
［＊明治14］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,齋藤源三郎)　[42178
［＊明治14］　師範學校編輯『萬國地誌略』(2巻,榊原友吉)　[42179
［＊明治14］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,室直三郎)　[42180
［＊明治14］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,前川源七郎)　[42181
［＊明治14］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,林正常)　[42182
［＊明治14］　松村精一郎譯并校訂『校訂萬國地誌階梯：完』（江島伊兵衛）　[42183
［＊明治14］　松村精一郎編・山本義俊校閲『萬國地誌階梯附錄字解』（白樂圃）　[42184
[＊明治14]　師範學校編『萬國史畧』（2巻, 中野啓藏）　[42185
[＊明治14]　師範學校編『萬國史畧』（2巻, 室直三郎）　[42186
[＊明治14]　師範學校編『萬國史畧』（2巻, 林正常）　[42187
[＊明治14]　師範學校編『萬國史畧』（2巻, 内田彌兵衛）　[42188
[＊明治14]　師範學校編『萬國史畧』（2巻, 青木榮次郎）　[42189
［＊明治14］　井上勤編『第一世拿破崙言行錄』（思誠堂）　[42190
［＊明治14］　［原著者不明］和田秀豐譯『世界開闢記』　[42191
［＊明治14］　江馬春熙『洋和藥名字類』　[42192
［＊明治14］　參謀本部『五國對照兵語字書』　[42193
［＊明治14］　矢田堀鴻『英華學藝辭書』　[42194
［＊明治14］　中島圓諦・吉武聞教（發起人）『耶蘇教國害論』　[42195
［＊明治14］　紀好弼著/安川亨譯『新約聖書譬喩畧解』（安川亨）　[42196
[＊明治14］　米國聖書會社編『新約聖書馬可傳』（米國聖書會社）　[42197
[＊明治14］　米國聖書會社編『新約聖書馬太傳』（米國聖書會社）　[42198
[＊明治14］　北英國聖書會社編『新約聖書馬可傳』（→明18,版）　[42199
[＊明治14］　北英國聖書會社編『新約聖書馬太傳』　[42200
[＊明治14］　北英國聖書會社編『新約聖書約翰傳』　[42201
[＊明治14］　大英國聖書會社編『新約聖書馬可傳』　[42202
［＊明治14］　米國聖教會社横濱印行『新約聖書約翰傳』　[42203
［＊明治14]　倫敦聖教書類會社『耶穌言行錄』　[42204
[＊明治14］　原胤昭『耶蘇教易知』（十字屋, 第1[耶蘇教大意篇］）　[42205
［＊明治15(1882)］小林義則編輯『地理總論』（日本地誌略・首巻/萬國地誌略・首巻, 文學社）[42206
［＊明治15］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,伊藤甲造)　[42207
［＊明治15］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,小幡金平)　[42208
［＊明治15］　師範學校編輯『萬國地誌略』(巻2,3,中外堂柳河梅次郎)　[42209
［＊明治15］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,改正,豐住伊兵衛)　[42210
［＊明治15］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,水谷善七)　[42211
［＊明治15］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,栗田東平)　[42212
［＊明治15］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,岡島眞七)　[42213
［＊明治15］　師範學校編輯『萬國地誌略』(巻1,改正飜刻,加藤萬作)　[42214
［＊明治15］　松村精一郎譯并校訂『萬國地誌階梯（上下）』（增補改訂, 白樂圃）

[42215
［＊明治15］　ミッチェル/松村精一郎譯『萬國地誌階梯』(増補改訂, 江島伊兵衛)
[42216
［＊明治15］　鈴木貞次郎編輯『小學萬國地誌擧要』(金港堂)　[42217
［＊明治15］　田中鼎編輯『小學萬國地誌撮要(上下)』(松田周平)　[42218
［＊明治15］　横井信之『名古屋の[司馬]凌海記念碑文』　[42219
［＊明治15］　土居光華『自由之理評論(全)』(自由出版會社)　[42220
［＊明治15]　大英國聖書會社編『新約聖書』　[42221
［＊明治15]　米國聖教書類會社『耶蘇に來れよ』　[42222
［＊明治15]　倫敦聖教書類會社『馬可講義：訓點』　[42223
［＊明治15]　ミハイル編/白極潔譯『馬太傳福音書註解(上下)』(正教會。→明16年。→明25年,密哈伊[ミハイル]原著/白極[潔]密哈伊譯, 正教會編輯局, 再版。)　[42224
［＊明治15］　マクラウド/田尻稻次郎譯『銀行史』　[42225
[＊明治16(1883)]　有栖川二品親王/林董編『歐米巡遊日記』(?)　[42226
＊[訂正][＊明治16]大竹龜之助編『國友會員學術演説筆記』(英人デニング「ソクラチースノ傳並哲學」)　[753]　[42227
[＊明治16]　文部省刊『百科全書・第十二册』(法律沿革事體,太古史,希臘史,羅馬史,中古史,有麟堂飜刻)　[42228
[＊明治16]　北英國聖書會社『訓點・舊新約全書』(訓點舊約全書39巻,訓點新約全書27巻)[＊訓點・舊新約全書の最古版]　[42229
[＊明治16]　ディ・ダブリュ・レアー子ド/伊勢時雄選『約翰傳福音書集註(上下)』(米國派遣宣教師事務局)(→明17年。)　[42230
[＊明治16]　木村信卿『更訂精撰・中外輿地圖』(木下孟寛寫、結城正明鐫)
[42231
［＊明治16］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,水野幸)　[42232
［＊明治16］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,改正,梅原龜七)　[42333
［＊明治16］　淺野明道問目標記并圖編輯『萬國地誌略』(3巻,改正補刻,加藤正兵衛)　[42334
［＊明治16］　井上喜一良編『小學用地圖：萬國地誌畧附圖』(井上喜一良)[42235
［＊明治16］　ピートル・パーリー/眞野秀雄挿譯『萬國史獨稽古』(4部, 眞野秀雄。→明18年。)　[42236
［＊明治16］　伯克爾著/土居光華譯『英國文明史=History of civilization in England』(日本出版會社)[42237
[＊明治16]　横井琢磨編『體育論』　[42238
[＊明治16-17]　中江兆民譯『維氏美學(上下)』(ウージェーヌ・ヴェロン)　[42239
［＊明治17(1884)］　オースチン/關直彦譯『法理學』　[42240
［＊明治17］　T.Iwakawa『生物學語彙』　［42241
［＊明治17］　「希臘の海綿獵」藥學雜誌1884(24)　[42242
［＊明治17］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,岡島眞七)　[42243
［＊明治17］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,改正,高橋松之助)　[42244
［＊明治17］　師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,梶田勘助)　[42245

［＊明治17］　渡部榮八『文部省改正萬國地誌略字引』(3巻, 水野幸)　[42246
［＊明治17］　城谷謙・三田利德・横須賀純編『標註小學萬國地誌』(集英堂)　[42247
［＊明治17］　田尻稻次郎講述・專修學校生徒筆記『萬國史略』(5巻, 專修學校。→明18年。)　[42248
［＊明治17］　伯克爾[バックル]著/土居光華・菅生奉三譯『英國文明史』(校訂再版,日本出版會社)　[42249
［＊明治17］　永井徹『各國演劇史』(田中和助・内田彌兵衛[發兌])　[42250
［＊明治17］　矢田堀鴻『英華學術辭書』　[42251
［＊明治17］　チャールズ・イービ述/倫敦聖教書類會社(横濱印行)『眞之生命』(→明18,福音社[發賣])　[42252
［＊明治17］　W.M.Taylor著/J.T.Gulick要約『神之杖摩西[マタイ]傳』(米國聖教書類會社)　[42253
［＊明治17］　美波伊留[ミハイル]著/小野彼得譯『約翰福音註解(上下)』(正教會)　[42254
［＊明治17］　倫敦聖教書類會社『釋迦と基督』(→明18, 再版)　[42255
［＊明治17］　W.J.Trower著『聖書譬草』(米國聖教書類會社)　[42256
［＊明治17］　米國聖教書類會社『聖經歷史指南：完』　[42257
［＊明治17］　斐沃芳撰/白極潔譯『以弗所書註解(上下)』(正教會)　[42258
［＊明治17］　Williamson編『訓點二約釋義叢書』(倫敦聖教書類會社)　[42259
［＊明治17］　［フレミング原編］井上哲次郎・有賀長雄增補『改訂增補・哲學字彙』　[42260
［＊明治18(1885)］青木恒三郎編/南枝醇閱『世界旅行萬國名所圖繪・第4巻』(土耳古, 希臘, 羅馬。青木恒三郎)(→明19年, [青木]嵩山堂)　[42261
［＊明治18］　師範學校編輯『萬國地誌略』(2巻,野口幾太郎)　[42262
［＊明治18］　師範學校編輯『萬國地誌略』(2巻,小林龜之進)　[42263
［＊明治18］　川添清知編『小學萬國地誌』(村上勘兵衛・大谷仁兵衛・島林專次郎)　[42264
［＊明治18］　東海散士『佳人之奇遇(5編10巻)』(柴史朗[私製],原田庄左衛門[發賣], 博文堂(→明24))　[42265
［＊明治18］　ピーター・パーレー原著/戸代光大譯『容易獨修萬國史直譯』(6巻, 中外堂)　[42266
［＊明治18］　ウェルテル/稻垣千代橘挿譯『萬國史獨案内』(巻1,松井忠兵衛)　[42267
［＊明治18］　アボット/秋庭清太郎譯『那翁外傳・閨秀美談』(文事堂)　[42268
［＊明治18］　Yokohama Bible Press『末留古亭無』(マルコ傳)　[42269
＊［訂正］［＊明治18］ホルブルック/堀江景宣譯『聖書名婦傳・評註：完』(米國聖教書類會社)(→明21,再版)　[26142　[42270
［＊明治18］　加村春齋撰『聖教提要論』　[42271
［＊明治18(?)］　「哲學義解」(フ井ロソフェー)今古妙々文庫31　[42272
［＊明治18(?)］　「病院の起源」(ホーマー, エイスクラピュース等)今古妙々文庫36　[42273
［＊明治18(?)］　「日本仮名發明の輯(承前)」(希臘語)今古妙々文庫39　[42274

［＊明治18］　ゲーテ原著/井上勤譯術・渡邊義方校正『狐の裁判:獨逸奇書：全』（繪入自由出版社。→1886年,「禽獣世界」, 春陽堂。→1887年，春陽堂書房） [42275
［＊明治18］　（前田）香雪散人「舊譯伊曾保物語の考」繪入朝野新聞9/1,2 [42276
［＊明治18］　「かはずが主君をのぞむ事（繪）」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/2 [42277
「とびとはとの事」・「いたちの事（繪）」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/3 [42278
「からすとくじゃくの事（繪）」・「獅子王とはらすのこと」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/4 [42279
「人とろばの事」・「馬と師子王の事（繪）」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/5 [42280
「師子王とろばのこと」・「さると人の事（繪）」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/6 [42281
「かのしかの事（繪）」・「ありとせみの事」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/8[42282
「鳥けだもののとのたたかひの事（繪）」・「はいとありとのこと」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/9 [42283
「馬とろばの事」・「腹と五體の事（繪）」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/10 [42284
「かゐるとうしの事（繪）」・「狼とはすとるの事」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/11[42285
「狐と庭鳥の事（繪）」・「人をねたむは身をねたむといふ事」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/12[42286
「つるときつねの事（繪）」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/13　[42287
「さると犬との事（繪）」・「かはらけまんきをおこす事」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/15[42288
「わらんべと盗人の事（繪）」・「修行じやの事」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/16[42289
「狼とゐのししの事」・「鳥人に教化をする事（繪）」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/17[42290
「人の心のさだまらぬ事（繪）」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/18 [42291
「庭鳥と狐の事（繪）」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/19　[42292
「出家と盗人の（繪）」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/20　[42293
「おほかめときつねの事（繪）」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/22 [42294
「狼ゆめものがたりの事（繪）」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/23 [42295
「出家とゐのこの事（繪）」・「ある人佛を祈りし事（繪）」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/24 [42296
「たつと人の事（繪）」・「かざみの事」（伊曾保物語）繪入朝野新聞9/25 [42297

「鳩ときつねの事」・「獅子王とろばのこと(繪)」(伊曾保物語)
繪入朝野新聞9/26 [42298
「わしとからすのこと(繪)」・「庭鳥金のかいこをうむ事」
(伊曾保物語)繪入朝野新聞9/27 [42298
「狼と犬の事(繪)」(伊曾保物語)繪入朝野新聞9/29 [42299
「男二女をもつ事(繪)」・「鼠のだんかうのこと(繪)」(伊曾保物語)
繪入朝野新聞9/30 [42300
［＊明治18] 大久保常吉編『伊曾保物語』(春陽堂) [4230
［＊明治18］ ジョン・イーツ/大島貞益譯『商業工藝史』 [42302
［＊明治18］ ジョン・イーツ/河上謹一譯『商業沿革史』 [42303
［＊明治18] デビス譯撰/米國派遣傳教師事務局『來世論』 [42304
［＊明治18] スペンセル/高橋達郎譯『宗教進化論』 [42305
［＊明治19(1886)] 師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,江島伊兵衛) [42306
［＊明治19] 師範學校編輯『萬國地誌略』(改正,中川勘助) [42307
［＊明治19] 師範學校編輯『大字萬國地誌略』(3巻,田村芳之助) [42308
［＊明治19] 東海散士『佳人之奇遇(8巻)』柴史朗 [42309
［＊明治19] ペートル・パーレー(巴來)/牧山耕平譯『萬國史』(春陽堂) [42310
［＊明治19] William Swinton『Outlines of the world's history,ancient,mediaeval,and modern：with special relation to the history of cilization and the progress of mankind』Doshisha. [42311
［＊明治19] William Swinton『Outlines of the world's history,ancient,mediaeval,and modern：with special relation to the history of cilization and the progress of mankind』Hobunkwan. [42312
［＊明治19] William Swinton『Outlines of the world's history,ancient,mediaeval,and modern：with special relation to the history of cilization and the progress of mankind：for use in the higher classes in public schools,and in high schools,academies,seminaries,etc.』(戸田直秀飜刻) [42313
［＊明治19] 米國聖教書類會社『新約聖書人名』 [42314
［＊明治19] 倫敦聖教書類會社『耶穌教例言』 [42315
［＊明治19] 竹内廣業選輯『馬太傳注解=A Commenntary on the Gospel of Matthew』(竹内廣業) [42316
＊「訂正」［＊明治19］清澤滿之「哲學史試稿」(「上古哲學」「希臘哲學」「希臘哲學第一期[ソフィスト以前の哲學]」。「雜錄」自筆本,昭28刊全集第１中) [880] [42317
＊「削除」［＊明治19］~~(?)「ソクラテース氏の小傳」古今妙文庫々19~~ [883] [42318
［＊明治19] バックル/土居光華・漆間眞學譯『自由之理評論』 [42319
［＊明治19] ボッカス翁原著/ア・サバチエール・カストル譯/菊亭靜(近藤東之助)譯『想夫戀：十日物語』(丸善) [42320
［＊明治19] 末松謙澄『日本文章論』(初版。附：歐文沿革考,羅馬字の書き方等) [42321
［＊明治19] マキャヴェリ/杉本淸胤譯『經國論・第一』(集成社) [42322

［＊明治19]　マキャヴェリー/永井修平譯『君論』（博聞社）　[42323
［＊明治19]　ル・ウヲン・エーリング原著/オ・ド・ムーランエール佛譯/磯部四郎重譯『法理原論』（全13册、樋渡書店。→明21年,上下巻,伊勢齋助,博文社他[賣捌],2版)　[42324
［＊明治19]　國分寺新作講述(和田垣謙三序)『獨乙聯邦普魯西國 教育新史』(レッシング文運復興)　[42325
［＊明治19]　池田龜藏編『修身勸・初篇/次篇』(イソップ、小川畜善舘)　[42326
［＊明治19]　工學協會『工學字彙』　[42327
［明治期］　仁保龜松述『法理學』（東京專門學校法律科第4回3年級講義錄、第7回3年級講義錄）　[42328
［明治期］　ボアソナード『遺物相續史』　[42329
［明治期］　稻田周之助『政治學原理』　[42330
［明治期］　東京政治學校『東京政治學校講義錄』（14册中）　[42331
----神藤才一「軍政學」、永井惟直「法理學」、松本君平「雄辯學」、浮田和民「國家學史」
［明治期］　Fables from Aesop and Others,Tokyo,Fukosha　[42332
［明治期］　高橋由一筆「ヒッポカラテツ肖像」　[42333
［明治期］　政教社出版部・中村不折畫「醫聖ヒポクラテス畫像」　[42334
［明治期］　井上圓了『哲學飛將棋』（丸山福治出版）　[42335
［明治期］　田中治六篇『哲學名義考』（哲學舘宗教學部講義錄）　[42336
［明治期］　『論理學』（哲學舘講義錄。板倉銀之助「演繹法」、清野勉「歸納法」）　[42337
［明治期］　大西祝述『論理學』（東京專門學校行政科第1學年級第7回講義錄、東京專門學校邦語文學科第1回第1年級講義錄）　[42338
［明治期］　大西祝述『論理學--- 形式的論理學大意・因明大意・歸納法大意』（東京專門學校文學科第3回第1部講義錄) [42339
［明治期］　名利博士『應用窮理學大意』(?)　[42340
［明治期］　平井金三『新約全書駁論』　[42341
［明治期］　上田敏「希臘の審美論」（學生時代作品）　[42342
［明治期］　上田敏「ソクラテス、プラトオン、アリストテレス」（未完）[42343
［明治期］　清澤滿之「病者に對して示すためエピクテトス氏の言を書き送れと井上豐光兄より來書ありしゆゑ、左の數項を書き送る」（昭和30刊・全集7所収）　[42344
［明治期］　清澤滿之「ソクラテス氏に就きて感服の點」（昭30年刊・全集7,所収）　[42345
［＊明治20(1887)]　ミッチェル/松村精一郎譯・荒井郁之助校閲『新撰萬國地誌階梯：校訂（上下）：完』（江島伊兵衛）[42346
［＊明治20]　山村亮作「御殿の鶯と藪鶯の話」(イソップ) 教育小共のはな誌3　[42347
[＊明治20]　山村亮作「無分別なる龜の話」/富士見の里人「尾なし狐の話」(イソップ) 教育小共のはな誌4　[42348

［＊明治20］　山村亮作「蟻といなごの話」(イソップ) 教育小共のはな誌5 [42349
［＊明治20］　(紀伊)山本投「蜻蛉と蟻の話」(イソップ) 教育小共のはな誌6[42350
［＊明治20］　綾部乙松『小學生徒修身教育昔話』(イソップ) [42351
［＊明治20］　小川孝吉『小學生徒教育昔噺』(第1~6巻。イソップ) [42352
［＊明治20］　青木富士『通俗繪入學藝獨案内』(崇山堂。イソップ) [42353
［＊明治20］　青木富士『日本西洋昔噺』(崇山堂。イソップ) [42354
［＊明治20］　城谷謙・三田利德・横須賀純同輯『標註小學萬國地誌』(訂正再版, 小林八郎) [42355
［＊明治20］　石心鐵腸子『通俗佳人之奇遇』駸々堂本店,京阪同盟書肆(印行)→明21,再版) [42356
［＊明治20］　大東萍士[土田泰藏]著/服部誠一序『通俗佳人之奇遇』[正續]同盟書肆(印行),[私家複製版]鶴聲社 [42357
［＊明治20］　ピーター・パーレー/橋詰隆治譯『巴來氏萬國史直譯(上)』(改正, 積善舘) [42358
［＊明治20］　ピーター・パーレー/藤田治明譯述『巴來氏萬國史直譯(上下)』(松成堂) [42359
［＊明治20］　彼得・巴來(ピーター・パーレー)/牛山良助譯『萬國史直譯(下)』(改正, 成文堂) [42360
［＊明治20］　ピータア・パーレー/戸代光大譯『容易獨修萬國史直譯(4巻)』(再版, 柳河梅次郎・神戸甲二郎[發行]) [42361
［＊明治20］　ピーター・パーレー/戸代光大譯述『容易獨修萬國史直譯(下)』(嚶鳴舘) [42362
［＊明治20］　スゥ井ントン/松村爲亮譯『スゥ井ントン氏萬國史直譯：全』(自由閣[發賣]) [42363
［＊明治20］　三宅雄二郎「哲學ノ範圍ヲ論ス」哲學會雑誌1 [42364
［＊明治20］　デニング「日本ニ於イテ哲學上ノ急務ナル問題」哲學會雑誌1-8,9 [42365
［＊明治20］　谷口政穂『演劇史』(福地復一) [42366
［＊明治20］　高橋幾次郎譯編『奇々怪々 西洋神斷裁判』(本邦初出「魔女狩り」紹介?) [42367
［＊明治20］　ダニエル・デ・ホイデン著/エム・シー・ハリス選譯『馬太傳福音書義解』(美以美雑書會社) [42368
［＊明治20］　修文書院『馬太傳福音書』(新約全書) [42369
［＊明治20］　イムブリー撰/井深梶之助譯『福音史：一名, 基督言行錄』(米國聖教書類會社) [42370
［＊明治20］　倫敦聖教書類會社編『聖書の章引』(倫敦聖教書類會社) [42371
［＊明治20］　清水市太郎編輯『那波列翁軍記』(清水市太郎) [42372
［＊明治20］　杉山藤次郎編譯『那波列翁軍記：通俗』(望月誠) [42373
［＊明治20］　鈴木金次郎『那波列翁軍記』(鈴木金次郎, 金星堂[發賣]) [42374
［＊明治20］　サー・トーマス・モール/井上勤譯『良政府談』 [42375
［＊明治20］　中村信三郎・青木武壽篇『羅獨及漢原譯對照病藥兩名集』(新潟・井筒駒吉) [42376

［＊明治20］　星野久成編『體育原理』　[42377
＊「訂正」［＊明治20］中江篤介校閲『佛和辭林』（初版。佛學藏板。纂譯者：野村泰亨・伊藤大八・初見八郎・小出拙藏・田中健士）[14933][42378
［＊明治21(1888)]小笠原利孝編『小學萬國地誌(上下)』(岡安慶介・水谷善七・長瀬寛二。→明22年,訂正再版。)　[42379
［＊明治21］　William Swinton/林朴堂譯『萬國史直譯大全』（吉岡書房）　[42380
［＊明治21］　巴來著/品田太吉著譯『パーレー萬國史直譯：獨修解釋』（嚶鳴舘）　[42381
［＊明治21］　清水市次郎編輯『通俗萬國史』(清水市次郎)　[42382
［＊明治21］　朴堂居士編『拿破侖三大記』(斯波二郎)　[42383
［＊明治21］　フェノロサ「奈良ノ諸君ニ告ク」郵便報知新聞6/15~[日出新聞,中外新報](→1988年,山口静一編『フェノロサ美術論集』所収,中央公論美術出版)　[42384
［＊明治21］　物理學譯語會『物理學術語和英獨佛對譯辭書』　[42385
［＊明治21］　磯部四郎『民法應用字解』　[42386
［＊明治21］　池田龜藏編『修身勸・三篇』(小川畜善舘。イソップ)　[42387
［＊明治21］　小川孝吉『小學生徒教育昔噺』(第7巻)　[42388
［＊明治21］　日置岩吉『小學生徒修身教育噺』(全5巻?。イソップ)　[42389
［＊明治21］　大舘利一『修身之教』(安井兵助。イソップ)　[42390
［＊明治21］　大舘利一『西洋日本昔噺』(文欽堂。イソップ)　[42391
［＊明治21］　子供談「心惡しければ身を損す」(イソップ)女學雜誌136　[42392
［＊明治21］　「子供と物語本」(イソップ)以良都女15　[42393
［＊明治21］　倫敦聖教書類會社『聖書者何乎=What is the Bible?』（倫敦聖教書類會社）[42394
［＊明治21］　倫敦聖教書類會社『天帝之示現=On the necesisty for a divine revelation』（倫敦聖教書類會社）　[42395
［＊明治21］　倫敦聖教書類會社『歷史上基督甦生之證據=The historical evidence of the resurrection of Jesus Christ』　[42396
［＊明治21］　長坂毅著刊（フルベッキ序/高橋五郎譯）『聖書附錄』（文庫版）[42397
［＊明治21］　高橋五郎校閲『提摩太[テモテ]前書註解』(東京聖教書類會社)[42398
［＊明治21］　倫敦聖教書類會社『馬可講義：訓點』　[42399
［＊明治21］　ラール子デ講述/速水拓巖筆記『馬太傳註釋』(福音社。→明27,3版）　[42400
［＊明治21］　ラール子デ講述/速水拓巖筆錄『約翰傳註釋』(福音社)　[42401
［＊明治21］　アッキンソン講述『耶穌山上訓解：全』（米國聖教書類會社）[42402
［＊明治21］　上田將譯『闇夜之燈：警世美談』（森保）　[42403
［＊明治21］　Thomas James,ed.with extensive additions by T.Watanabe“Aesop’s Fables:a new version,chiefly from original sources”渡邊溫版　[42404
［＊明治22(1889)]小林義則編輯『新編地理書(4巻)』(訂正再版,文學社)　[42405
［＊明治22］　伴山三郎『近世萬國地誌』(實用教育新撰百科全書,博文舘)　[42406
［＊明治22］　工藤助作『萬國通史攬要』(工藤助作)　[42407

［＊明治22］　『Peter Parley’s universal history on the basis of geography』A new ed.,brought down to the present day,Rikugo-kwan.[42408
［＊明治22］　子供談「金の卵を産む鵞鳥」(イソップ)女學雜誌144　[42409
［＊明治22］　「鼠の國會」(イソップ)(學齢舘)小國民1　[42410
［＊明治22］　米國派遣宣教師事務局編『和訳聖書衍義』(再版)米國派遣宣教師事務局　[42411
［＊明治22］　竹内廣業纂譯『馬可傳註解』（倉田重太郎）　[42412
［＊明治22］　ロジデストワェンスキイ著/堀江復譯『神學汎論(前後)』(正教會編輯局。→明24年。）[42413
［＊明治22］　上田將編『聖暦略』（正教會）　[42414
［＊明治23~24］　谷口政德(他)『通俗教育全書』(『萬國小歷史』,『萬國小地誌』等)　[42415
［＊明治23-26］　小立鉦四郎『南江堂發行・著譯獨逸書目錄』（文庫版2册）[42416
［＊明治23(1890)］　三宅米吉「法隆寺所藏四天王紋錦旗」(→1929年,『文學博士三宅米吉著述集』所収,目黒書店)　[42417
［＊明治23］　森田思軒「奈良の古美術」郵便報知新聞6/20　[42418
［＊明治23］　岡倉由三郎『比較博言學：一名 日本語學一斑』(明治義會。→明33年,改題『日本語學一斑：一名比較博言學』8版)　[42419
［＊明治23］　佐藤定介・畠山健校正兼編輯『百家說林』(巻1-10,吉川半七,司馬江漢『春波楼筆記』収錄→明25年。)(→明25年,吉川弘文館編。正續・索引)　[42420
［＊明治23］　和田萬吉『家庭教育修身はなし』(イソップ)　[42421
［＊明治23］　ふみ子「兒藍・羊と羊飼のはなし」（イソップ）女學雜誌243［42422
［＊明治23］　秋元政『新教育演說』(イソップ)　［42423
［＊明治23］　秋元政『少年教育博物ばなし』(イソップ)　[42424
［＊明治23］　秋元政『少年必携教育幻燈會』(イソップ)　[42425
［＊明治23］　秋元政『新教育智惠かゞみ』(イソップ)　[42426
［＊明治23］　榊信一郎「むぐらの兒(圖入)」(イソップ)(少年園)こども2-1[42427
［＊明治23］　榊信一郎「蝶と蟻」(イソップ)(少年園)こども2-2　[42428
［＊明治23］　榊信一郎「汝に出つるものは汝にかへる」(イソップ)(少年園)こども2-4　[42429
［＊明治23］　榊信一郎「獅子と黑奴」(イソップ)(少年園)こども8　[42430
［＊明治23］　榊信一郎「樵夫と山の神(畫入)」/「猫と猿(畫入)」(イソップ)(少年園)こども9　[42431
［＊明治23］　榊信一郎「鼠の會議(畫入)」(イソップ)(少年園)こども10　[42432
［＊明治23］　小櫃守衛「熊と旅人(承前)」(イソップ)(横浜文社)小學生徒之友9　[42433
［＊明治23］　小櫃守衛「蟻トきりぎりすトノ話 靑木幸太郎君寄贈」/「ころバヌさきノまへづゐ 野島市三郎君寄贈」(イソップ)(横浜文社)小學生徒之友17　[42434
［＊明治23］　小櫃守衛「あんどろーくるすト獅子トノ話 土屋大次郎君寄贈」(イソップ)(横浜文社)小學生徒之友24　[42435

［＊明治23]　「イソップ[以蘇菩]の事を記す 關場不二彦」(イソップ傳)少園46 [42436
［＊明治23]　盤峰樵者「以蘇菩」(漢文)少年園46 [42437
［＊明治23]　マコーレー/吉田直太郎譯『彌兒頓［ミルトン］論』（冨山房) [42438
［＊明治23]　別天樓主人(長澤說)『盲詩人』（ミルトン傳。政教社） [42439
［＊明治23]　チャールス・フォスタル著/小川豐吉譯『童蒙福音初歩：完』(小川豐吉) [42440
［＊明治23]　三上奥斯定(七十郎)譯『和譯聖經直解・第一巻』 [42441
［＊明治23]　倫敦聖教書類會社『耶穌言行錄』（→1890年, 再版） [42442
［＊明治23]　エピファノウィチ/上田將譯『比較神學』（正教會編輯局） [42443
［＊明治24(1891)] 秦政治郎『中等教育萬國地誌=Academy education of world geogrphy』(博文舘) [42444
［＊明治24]　矢野龍溪先生稿・栗本鋤雲先生漫評・久世久編纂『西遊漫記：想起錄隨筆雜纂』(長島恭三郎。→明25,増訂再版,3版,報知社) [42445
［＊明治24]　カエサル/松本君平譯編『英雄經』(松本君平。) [42446
［＊明治24]　福永文之助編『基督教及社會』(和田垣謙三「第一世拿破侖の傳」。) [42447
［＊明治24]　ヘッドレー/原抱一庵譯『拿破侖』(博文舘) [42448
［＊明治24]　秋元政『小學生徒少年倶楽部』(イソップ) [42449
［＊明治24]　痩々亭骨皮道人『面白叢談』(共隆舎。イソップ) [42450
［＊明治24]　渡邊松太郎『家庭教育小學修身はなし』(積善舘。イソップ)[42451
［＊明治24]　渡邊松太郎『家庭教育幼年修身はなし』(積善舘。イソップ)[42452
［＊明治 24]　蜃氣樓主人譯「(イソップ物語) 太郎兵衛」幼年雜誌 1-6 [42453
［＊明治 24]　西野正勝『尋常小學生徒教育』(濱本明昇堂。イソップ) [42454
［＊明治 24]　大舘利一『兒童教育知惠寶』(刀根松之助。イソップ) [42455
［＊明治 24]　木原季四郎『子供のをしえ』(やまと新聞社。イソップ) [42456
［＊明治 24]　小池清『通俗修身談』(共同出版社。イソップ) [42457
［＊明治 24]　秋元政『小學生徒少年倶楽部』(イソップ) [42458
［＊明治 24]　ふみ子「兒藍・熊の入婚のはなし」女學雜誌 247 [42459
［＊明治24]　ふみ子「兒藍・草と鹿の話し」女學雜誌255 [42460
［＊明治24]　榊信一郎「蛙と鼠(畫入)」/「犬と影(畫入)」(イソップ)(少年園)こども11 [42461
［＊明治24]　榊信一郎「狼の失望(畫入)」/「蚤と虱の競走(畫入)」(イソップ)(少年園)こども12 [42462
［＊明治24]　榊信一郎「蝙蝠の心變り」/「尾無し狐」(イソップ)(少年園)こども13 [42463
［＊明治24]　小櫃守衛「英語獨習READING LESSON. The wolf and the goat」(イソップ)(横浜文社)小學生徒之友40 [42464
［＊明治24]　小櫃守衛「ぽんち畫解」「英語獨習READING LESSON. THE DOG IN MANGER」(イソップ)(横浜文社)小學生徒之友45 [42465

［＊明治24］　小櫃守衛「英語獨習READING LESSON. THE DOG IN MANGER (*Continued*)」/「THE VIPER AND THE FILE」(イソップ)(横浜文社)小學生徒之友46　[42466
［＊明治24］　小櫃守衛「英語獨習READING LESSON. THE VIPER AND THE FILE (*Continued*)」(イソップ)(横浜文社)小學生徒之友47 [42467
［＊明治24］　「新いそっぷ物語(1,2)」(博文舘)日本之少年3-5,6　[42468
［＊明治24］　田村直臣編『新約全書約翰傳註解』(警醒社)　[42469
［＊明治24］　田村直臣編『馬可傳福音書：路加傳福音書』(十字屋書舗)　[42470
［＊明治24］　田村直臣編『馬太傳福音書』(警醒社,十字屋書舗,新約註釋全書)　[42471
［＊明治24］　エー・エム・ペリイ『基督言行錄』（基督教書類會社）　[42472
［＊明治24］　シュミーデル/三並良譯『奇蹟詳論』(三並良)　[42473
［＊明治24］　ディミトリ・ソロコフ/上田將譯『舊約聖歷史：全』（正教會）　[42474
［＊明治24］　佛學舎［土屋政朗］編『村上英俊先生［之］傳』　[42475
［＊明治24］　在慶應義塾某投書「慶應義塾大學部文學科」早稻田文學3　[42476
［＊明治24］　「哲學の近況」早稻田文學3　[42477
［＊明治24］　精神「全國の教育家に檄して歷史編纂法の意見を示せ」(萬國史)　[42478
［＊明治24］　「伊東忠太日記(7/23)」(エンタシス。稲葉信子所蔵コピー) [42479
［＊明治24］　東京化學會『化學譯語集』　[42480
［＊明治25(1892)］「Proverbs and Maxims—ホレース」The Museum：みゅ～ぜあむ雑誌29　[42481
［＊明治25］　「Punction句讀法「第四則—シーザル」The Museum：みゅ～ぜあむ雑誌31　[42482
＊[訂正]［＊明治25]佐藤治郎『少年書類・新伊蘇普物語』(博文舘)國民之友149　[18703]　[42483
［＊明治25］　[黄薇]鎌田淵海口演・顯道居士[松田甚左右衛門]筆記『少年佛教修身はなし』(漢字平仮名表記本、漢字方仮名表記本。イソップ)　[42484
［＊明治25］　森下龜太郎『家庭教育日本修身談』(積善舘。イソップ)　[42485
［＊明治25］　西野正勝『尋常小學生徒修身話』(濱本明昇堂。イソップ)　[42486
［＊明治25］　西村寅二郎『教育修身談』(東雲堂。イソップ)　[42487
［＊明治25］　秋元政『滑稽子供演說』(イソップ)　[42488
［＊明治25］　秋元政『少年必携子供伊蘇普』(イソップ)　[42489
［＊明治25］　秋元政『少年必携教育一口話』(イソップ)　[42490
［＊明治25］　秋元政『教育幼稚の寶』(金櫻堂。イソップ)　[42491
［＊明治25］　ヘッドレー/原抱一庵纂譯『拿破崙』(博文舘)　[42492
［＊明治25］　(?)「希臘及愛蘭土は日本より未開の國なる乎」地學雜誌4-7 [42493
［＊明治25］　大瀬甚太郎「歐洲ニ於ケル教育思想ニ變遷(1-3)：論說」龍南會雜誌4,5,6　[42494
［＊明治25］　堀貞「希臘の興亡に就て：論說」龍南會雜誌12　[42495
［＊明治25］　R.Meiklejohn,Co.“KYUSHIN YAKU SEISHO,OLD AND NEW TES-

TAMENT IN JAPANESE, YOKOHAMA,1892”
(ヘボン式ローマ字聖書,同志社) [42496
［＊明治25］ ディミトリ・ソロコフ/上田將譯『新約聖歷史：全』（正教會）[42497
［＊明治25］ トマス・ア・ケンピス/辻岩雄譯,エドワード・ピカステス序,ヒュ・ゼ・フラス校閲『世範』(英國聖公會布教所) [42498
［＊明治25］ 長塩軍治編纂『舊約史略』（長崎天主堂, 舊新約史略・上巻）[42499
［＊明治25］ 長塩軍治編纂『新約史略』（長崎天主堂, 舊新約史略・下巻）[42500
［＊明治25］ ラールネデ講述/楠瀬一貫筆記『馬可傳註解』（福音社) [42501
［＊明治25］ ラーネット講述『馬可傳註解』（今村謙吉） [42502
［＊明治25］ ラーネット述/横井時雄編『約翰傳福音書批評』(警醒社,同志社神學叢書6) [42503
［＊明治25］ スピンネル/三並良譯『基督教約說』（三並良） [42504
［＊明治25］ 淺田榮次「和譯聖書訂正の必要」六合雜誌12月號 [42505
［＊明治25］ ヂー・チー・ラッド「哲學の性質、根原、精神及方法」六合雜誌139 [42506
＊[訂正][明治25] 新刊「ドーマン/米田庄太郎譯「比較宗教學」六合雜誌139 [1628] [42507
＊[訂正][明治25]芳洲散史『古今東西・天下之高豪傑奇談—一名,立身出世之種』(好文堂) [1635] [42508
＊[訂正][明治25]鹽島仁吉編『泰西經濟學者列傳』(經濟雜誌社) [18744] [42509
＊[訂正][明治25]仁保龜松「イエーリング氏畧傳」」法學協會雜誌10-12 [1702] [42510
［＊明治25］ 雜錄「獨逸法曹イエリング氏逝ケリ」法學協會雜誌10-12 [42511
［＊明治25］ 近松門左衛門作『百合若大臣野守鏡：あとおひ心中卯月の潤色』（武蔵屋叢書閣, 戲曲叢書14） [42512
［＊明治25］ ギッピンス/林曾登吉譯『萬國商業歷史』 [42513
［＊明治 26(1893)］寓話「狼と子羊」「一人の王を慾しがる蛙群」(イソップ)家庭雜誌16 [42514
［＊明治 26］ 笛仙子譯「クルイロウフの寓意詩」(イソップ)家庭雜誌 17 [42515
［＊明治 26］ 笛仙子譯「寓意詩 クルイロウフ氏作」(イソップ)家庭雜誌 18 [42516
［＊明治 26］ 笛仙子譯「寓意詩 クルイロウフ氏作/寓言」(イソップ)家庭雜誌 19 [421517
［＊明治 26］ 嵯峨の家主人(おむろ)譯「寓意詩 ヅミーツリエフ氏作」(イソップ)家庭雜誌 20 [42518
［＊明治 26］ 「伊蘇普物語 晩翠禪史譯」(佛教花園婦人會)花の園生 34 [42519
［＊明治 26］ 「伊蘇普物語 櫻外生譯述」(佛教花園婦人會)花の園生 35 [42520
［＊明治 26,27?］ 坪内雄藏『英文解釋』（早稻田大學出版部。イソップ） [42521
［＊明治26］ イエロニムス「聖ポーロ行者の傳」・「外教の哲學者と基利斯督教」（アウグスティヌス）公教雜誌?号 [42522
［＊明治26] ニカノル著/小野彼得譯『羅瑪教考』（正教會） [42523
［＊明治26] ポペドノスツェフ/上田將譯『基督正教會史』（正教會編輯局） [42524

［＊明治26]　金港堂書籍會社編輯所編『小學萬國地誌』(金港堂書籍。→明27年,訂正再版)　[42525
［＊明治26］　六條隆吉・近藤千吉合著『中等教育・世界商業史』　[42526
［＊明治26］　伊藤鏢三郎『銀貨之過去現在未來』(?)　[42527
［＊明治26］　Raphael von Koeber“Lectures on introduction to Philosophy”,Shueisha,1893　[42528
［＊明治26］　林政文『佐久間象山』(開新堂。→1895年, 增訂版。)　[42529
［＊明治26］　宮崎湖處子『宮崎湖處子日記』(文学資料, 書写資料)　[42530
［＊明治26］　石井敬吉「日本佛寺建築沿革史(1,2)」(エンタシス)建築雜誌2,3月號　[42531
［＊明治26］　三輪靑谷「日本美術の沿革」(エンタシス)史海10月號　[42532
［＊明治26］　伊東忠太「法隆寺建築論」(エンタシス)建築雜誌11月號　[42533
［＊明治26］　記事「蘭方醫書彫刻禁止の事に關する書類」中外醫事新報309,310　[42534
［＊明治26］　岡倉由三郎「東洋博言學研究の必要」東京人類學會雜誌9-93[42535
［明治26,27?］　長坂毅『聖書原本寫眞』　[42536
［明治26?］　ラブレー/櫻田助作譯『社會經濟問題・文明社會之宗教』　[42537
［＊明治27(1894)］　澁江保編『西洋事物起源(全)』(博文舘)　[42538
[＊明治27]　雜錄「獨逸哲學の近況(承前)」哲學雜誌93　[42539
[＊明治27]　トーマス・モーア原著/荻原民吉(絹涯)譯『理想的國家(全)』(社會文庫3,博文館　[42540
[＊明治27]　大日本聖書舘『舊新約全書』(前後篇,文庫判二册)　[42541
[＊明治27]　大日本聖書舘『新約聖書馬可傳』　[42542
［＊明治27]　大日本聖書舘『約翰傳』　[42543
[＊明治27]　ブラウン(Nathan Brown)譯・川勝鐵彌訂(米國バプチスト共同傳道會社出版)『新約聖書』(ひらがな聖書)　[42544
［＊明治27]　ミハイル著/上田將譯『馬可福音書註解：全』(正教會編輯局)[42545
[＊明治27]　太政官飜譯係譯述(内閣書記官室記錄課)『訂正增補・日本西教史』(菊判2册,上下,博聞社印行)　[42546
[＊明治27]　Ch.Stickney“Aesop’s Fables”,5th ed.,Yoshioka,1894　[42547
[＊明治27]　久津見蕨村「蛙の演説」(イソップ)(文林會)少文林2-5　[42548
[＊明治27]　大和田建樹譯『歐米名家詩撰』(上巻。博文舘)　[42549
[＊明治27]　大和田建樹『明治文學史』(博文舘)　[42550
[＊明治27]　大槻如傳『[前野]蘭化先生年譜』　[42551
[＊明治27]　伊東忠太「日本建築築術研究の必要及び其研究の方針に就て」建築雜誌8月號　[42552
[＊明治27]　山崎直方「司馬江漢」地質學雜誌1(11)　[42553
[＊明治27]　物集高見[講義]『言語學』(書写資料)　[42554
[＊明治27]　涉史漫筆・坪井九馬三「耶蘇誕生の紀年」史學雜誌5-6　[42555
[＊明治27]　星野光多『基督論評一班』　[42556
[＊明治27]　ウィリアム・モリス/荻原絹涯譯『理想的國家』(社會文庫3)[42557
［＊明治27]　野々村金五郎『拿破崙戰史』(博文舘)　[42558

［＊明治27］　イェリング/三村立人譯『權利競爭論』（哲學書院）　[42558
[＊明治28(1895)]　學部編輯局『小學萬國地誌』　[42559
[＊明治28]　加藤弘之「昔の蘭學の話」名家談叢3　[42560
[＊明治28]　雜錄「獨逸哲學の近況(承前)」哲學雜誌95　[42561
[＊明治28]　雜錄「我邦現時の學術と古典の研究」哲學雜誌102　[42562
[＊明治28]　高橋五郎譯『聖福音書(上下)』（天主公教會)　[42563
[＊明治28]　密哈伊□□原著/堀江薩瓦譯『路加福音書註解』（正教會編輯局)　[42564
[＊明治28]　ミセス・マコーレー纂譯『聖書史記問答』（5版。出版社不明）　[42565
[＊明治28]　トマス・ア・ケンピス/外松謙譯『和語遵主聖範(1巻)』（外松謙)　[42566
[＊明治28]　星野光多『福音入門』　[42567
[＊明治28]　Raphael von Koeber“An introduction to Philosophy”,Shueisha Branch Office,Tokyo-Seishibunsha,1895　[42568
＊[訂正][明治28]　坪井九馬三「西洋古文書學の由來」史學雜誌6-5,6,7 [1981]　[42569
[＊明治28]　北水生「運動會の歷史及種類」少年世界1-7　[42570
[＊明治29(1896)]　マコーレー夫人譯/佐久間嘉七・岡本昆石補助『舊約聖書史記問答：全』（出版社不明。→1904年, 教文館版）　[42571
[＊明治29]　丸山通一「加藤弘之「先哲未言」評」(ニーチェ)太陽2-9　[42572
[＊明治29]　彙報「哲學界」(ケーベル等)早稻田文學(2次)1　[42573
＊[訂正]［明治29］　器賓[ギッピンス]/永田健助譯補『歐洲商業開化史』[2109] [42574
[＊明治29]　雜錄「歷史教授上の注意」(古代史,スゥイントン等)史學雜誌7-5　[42575
[＊明治29]　「伊蘇普物語の新落語」(雷笑社。嘘普[ウソップ]物語。)面白草紙8,　[42576
[＊明治29]　村上直次郎「古文書古書に見ゆる歐語の出處」史學雜誌7-6 [42577
[＊明治29]　西村寅二郎『教育修身美談』(大日本圖書出版社。イソップ)[42578
[＊明治29]　ルードウィヒ・リース「ハインリッヒ・フォン・トライチュケ」史學雜誌7-8　[42579
[＊明治29]　矢津昌永『中學萬國地誌(上中下)』(丸善。→明30年,增補訂正再版。→明35年,再版)　[42580
[＊明治29]　リギョル述/前田越嶺譯『事蹟以前以後之歷史』　[42581
[＊明治29]　竹越與三郎『二千五百年史』(開拓社。→1923年,增補訂正版,二酉名著刊行會)　[42582
［＊明治29]　ポゴスロフスキー著/高橋謙策・上田將譯『舊約歷史』（正教會編輯局）[42583
［＊明治29]　村井純之助編『最新藥譜[羅獨]』(島村理助)　[42584
［＊明治29]　松田正典編『普通體育論』　[42585
［＊明治29]　碧落外史「オリンピヤ運動會(1,2)」文武雜誌29,30　[42586
［＊明治29]　遠藤利貞『日本數學史』(庚寅新誌社)　[42587
［明治30?]　Charies Stickney,Ogawa ,Aesop’s Fables,Tokyo,1897(?)　[42588
［明治30?]　長田偶得『高野長英・渡邊崋山』(偉人史叢書13)　[42589

[＊明治30(1897)] 平田八郎『舊八郎 新八郎 通俗馬太傳問答』 [42590
[＊明治30] 斯定筌述/久米邦武記『耶蘇基督眞蹟考』(岩崎重雄) [42591
[＊明治30] 大日本聖書舘『新約聖書約翰傳』(→明30年,=St.John) [42592
[＊明治30] 高木敏雄「塑像に現れたる希臘人の人生觀：論說(正続)」龍南會雜誌53,54 [42593
[＊明治30] リギョル述/前田越嶺譯『処世哲學—一名、賢哲之對話』 [42594
[＊明治30] 岩崎重三・池田鹿之助『新編萬國地誌(上下)』(内田老鶴圃。→明31年,訂正再版) [42595
[＊明治30] 猪間生「矢津昌永氏著中學萬國地誌を讀む」地學雜誌9-3 [42596
[＊明治30] 「理學士岩崎重三池田鹿之助合編萬國地誌」地學雜誌9-3 [42597
[＊明治30] 小宮山綏介編『洋学大家傳』(前野良澤。少年叢書7,博文舘)[42598
[＊明治30] 村川堅固「天草耶蘇會徒の遺孽」史學雜誌8-10 [42599
[＊明治30] 「伊蘇普物語註解 同人(S.F.)」(少年新誌社)少年新誌2 [42600
[＊明治30] 「イソップ物語(意譯及註釋)」(少年新誌社)少年新誌3 [42601
[＊明治30] 「イソップ物語註釋及意譯」/「貪欲太郎と嫉妬之助の話」(少年新誌社)少年新誌4 [42602
[＊明治30] (?)「古希臘人は如何なる方法を以てアイオニック渦線(ぽりゆーと)を畫きしや」建築雜誌11(131) [42603
＊[訂正][＊明治30] 雜報「哲學思想と西歐文學」(プラトオン,アナキザゴラス,ユリピデエス,エピキュエロス,メアンヅロス,ホメエロス,ストイック,デモクリトス,リウクレシウス等)帝國文學3-2 [2133] [42604
＊[訂正][＊明治30] John Batchelor譯(アイヌ語譯)『新約聖書』 [42605
＊[訂正][明治31] 大槻文彦「和蘭字典文典の譯述起原」史學雜誌9-3,5,6[19653][42606
[＊明治31(1898)] 大槻文彦「和蘭文典の譯述起原」日本及日本人646 [42607
[＊明治31] 巖谷小波編・中村不折え『世界の始 人間の始[世界お伽話I]』(博文舘) [42608
[＊明治31] 平田八郎譯(風來子未定稿。原田助序・ゴードン跋)『最古の手紙』(パウロ書簡抄。敎文舘) [42609
[＊明治31] 木村鷹太郎『日本主義國敎論』(開發社。→明32年,訂正再版)[42610
[＊明治31] 伊東忠太「法隆寺建築論」東京帝國大學紀要1-1 [42611
[＊明治31] 鶴川漁史譯「海の詩趣」(ホメエル等)帝國文學3-7,9 [42612
[＊明治31] 時事論評「宗敎界—ニーチェ思想の輸入と宗敎」太陽4-6 [41613
[＊明治31] 雜報「歐洲哲學界の消息」(ヴァシロー氏「アレキサンドリー學派の批評史」) [42614
[＊明治31] ウェント/三並良編『信仰と迷信』(普及福音敎會叢書第2輯第1册) [42615
[＊明治31] 森鷗外「洋學の盛衰を論ず」公衆醫事6-4・5 [42616
[＊明治31] 森鷗外『審美史綱』(未定稿。第一、古代Antiquity。プラトン、アリストテレエス、悲劇等) [42617
[＊明治31] 森鷗外・大村西崖・久米桂一郎・岩村透共同撰『洋畫手引草』 [42618

[＊明治31] 堀田達治編『福岡同盟會演說集4---宗教と教育の關係・基督の金言/元田作之進演說・井深梶之助演說』 [42619
[＊明治31] 雜錄・石橋爲之助譯「古書發見」(エジプト)基督教新聞705(1/21) [42620
＊明治31] 坪井九馬三「長崎市西勝寺に見ゆる外國語解說」史學雜誌10-7 [42621
[＊明治32(1899)] 赤司繁太郎・石田元季編『天馬：神話梗概』(岡崎屋書店) [42622
[＊明治32] ゼッシー・エル・ハールバット/元田作之進譯『イスラエル發達小史』(日本聖公會出版社) [42623
[＊明治32] 坂本健一・江崎誠『新撰歷史』(冨山房) [42624
[＊明治32] 米國聖書會社『約翰傳』 [42625
[＊明治32] 大日本聖書舘『ぞくごマコ傳：新約聖書』 [42626
[＊明治32] H.G.ブランド,首藤新蔵.乘松雅休譯『新約聖書 羅馬書新譯』(大阪・上田貞治郎) [42627
[＊明治32] トマス・ア・ケンピス/松田承久・三島彊記述刪正『世範』(英國聖書公會布教會社) [42628
[＊明治32] シルレル/三並良編『日本の基督教』(普及福音教會叢書第2輯第2册) [42628
[＊明治32] 西川如見遺著(西川忠亮編輯)『增補華夷通商考』(5巻) [42629
[＊明治32] Raphael von Koeber“An introduction to Philosophy”,The Japan Times Office,1899 [42630
[＊明治32] 林壽太郎「パスカル氏の思想」聲190-193 [42631
[＊明治32] 嶺南生筆記「伊庭氏談」(グリーキ文明等)婦人新報26 [42632
[＊明治32] リギョル述/前田越嶺譯『羅馬教皇と現代社會』 [42633
[＊明治32] 長田忠一『戀の奈破烈翁』(春陽堂) [42634
[＊明治32] 永田健助『商業史要』 [42635
[＊明治32] 「エトナ山噴火及羅馬の地震」地學雜誌11-9 [42636
[＊明治32] 保志虎吉・加藤玄智編『袖珍通俗神話辭彙』(南江堂) [42637
[＊明治33(1900)] J.フォルトケ/森林太郎『審美新論』(春陽堂) [42638
[＊明治33] ハルトマン/森林太郎・大村西崖縮譯『審美綱領』(春陽堂) [42639
[＊明治33] 木村鷹太郎『鳴潮餘沫』(松榮堂) [42640
[＊明治33] 木村鷹太郎『東洋倫理學史(上)』(松榮堂。→1903年,博文舘,再版) [42641
[＊明治33] 石原和三郎作詞/納所辨次郎作曲「(唱歌)「うさぎとかめ」(イソップ) [42642
[＊明治33] 登張信一郎「獨逸の輓近文學を論ず」(ニイチェ等)帝國文學5,6,7 10,12 [42643
[＊明治33] 元良勇次郎「思想の發達と形式論理との關係」(アリストートル等)哲學雜誌158 [42644
[＊明治33] 桑木嚴翼「哲學難」(希臘哲學,ミソロジー等)哲學雜誌159 [42645
[＊明治33] 彙報「哲學入門の良書」(アイスレル「哲學字彙」)哲學雜誌159 [42646
[＊明治33] 元田作之進『十字架上の聲』稲垣陽一郎,立教學院ミッション叢書

1 [42647
[＊明治33] リッテル/三並良譯『有神疑義』(世光社) [42648
[＊明治33] 社論「大西祝君逝けり」六合雜誌239 [42649
[＊明治33] 松村介石『英雄青年時代』 [42650
[＊明治33] 松村介石『婦人のかがみ』(4版) [42651
[＊明治33] 岩田泰巖『世界大年契』(村上書店.→1901年,再版) [42652
[＊明治33] 河野元三「本多[淺治郎]君に答ふ」史學雜誌11-8 [42653
[＊明治34(1901)] 洋々學人「日本に於ける洋學の起原並昔時洋學者の事蹟(日歐交涉史年表)」學燈47-8 [42654
＊[訂正][明治34] キンデルバンド著/桑木嚴翼譯『哲學史要』(冨山房。→昭和14年,增訂『哲學史要』) [2612] [42655
[＊明治34] 西村眞次『東西偉人傳』(矢島誠進堂) [42656
[＊明治34] 大江小波編/中村不折畫『獵師大臣』(世界お伽話30[希獵の部],博文舘) [42657
[＊明治34] 井上幸一『明治大諷刺 增補文字反古』(王道雜誌社。「明治今伊蘇普物語」今イソップ) [42658
[＊明治34] 田島應親「舊幕の佛蘭西語學校」同方會報告17 [42659
[＊明治34] 登張竹風「烏有先生に與ふ」(ニーチェ)帝國文學7-8 [42660
[＊明治34] 坪内逍遙「馬骨人言」(ニイッチェ)讀賣新聞10/12~11/7 [42661
[＊明治34] 登張竹風「馬骨人言を難ず」帝國文學7-12 [42662
＊[訂正][明治34] 解題・白雲(生)「讀史の志をり(5)希臘史」史學界3-6
---- G.W.Cox,A General History of Greece,Londen & NewYork,1876,New Edition,1883
E.Curtius,The History of Greece,trsns.by A.W.Ward,5 vols.,London & New York,1871-74
G.W.Cox,A History of Greece,2 vlos.,London,1874,New Edition,1879
C.C.Felton,Greece,Ancient & Modern,2 vols.,Boston,1867,in one vol.,Boston,1880 [2570] [42663
[＊明治34] アプレウス/戸澤姑射譯『愛と心—小説』(2版,勉强堂) [42664
[＊明治34] 孟庵散士[ルヌモア師]譯,桂亭主人[工藤應之]執筆「雲間の月」(シエンキヴィッチ「クォ・ヴァディス」本邦初譯?)聲?[增田良二「ルヌモア師と明治カトリック文學」聲789[昭16]より] [42665
[＊明治34] 大日本聖書舘『標附馬太傳』 [42666
[＊明治34] 大日本聖書舘『標附約翰傳』 [42667
[＊明治34] 大日本聖書舘『新約聖書馬太傳』 [42668
[＊明治34] 田尻稻次郎『經濟史眼』 [42669
[＊明治34] 小林丑三郎『歐洲財政史』 [42670
[＊明治34] 植村清之助「中世の僧團」歷史地理3-5,6 [42671
[＊明治34] 松村介石『人物論』 [42672
[＊明治34] 高山樗牛「ニイチェの歎美者」太陽7-12 [42673
[＊明治34] 土井晩翠著・中村不折畫『那破翁』(世界歷史譚22,博文舘)[42674

[＊明治34]　松村介石『ナポレオン』(警醒叢書2,警醒社書店)　[42675
[＊明治35(1902)]　山邊平助「阿弗利加大陸に關する地理的知識の進歩」歴史地理4-3,5　[42676
[＊明治35]　坪井九馬三・神保小虎・箕作元八・野田保興・磯田良・山崎直方「外國地名及人名書キ方及稱へ方調査表」地學雜誌14-12　[42677
[＊明治35]　キリストリープ述/三並良譯『基督教要領講義』(再版,神學叢書第2編,眞理社)　[42678
[＊明治35]　シュミーデル・ハルナック/三並良・青木律彦譯『奇蹟新論』(神學選書3,眞理社)　[42679
[＊明治35]　木村鷹太郎『人物養成譚：孔子・孟子・荀子』(大學舘)　[42680
[＊明治35]　木村鷹太郎『莊子・人物養成譚』(大學舘)　[42681
[＊明治35]　木村鷹太郎『王陽明・人物養成譚』(大學舘)　[42682
[＊明治35]　登張竹風「馬骨先生に答ふ」帝國文學8-2　[42683
[＊明治35]　井上哲次郎『巽軒講話集』(初編博文舘。ニーチェ)　[42684
[＊明治35]　川上峨山『戀愛の文豪』(ゲーテ。文學同志會)　[42685
[＊明治35]　リイプマン/森林太郎譯『審美極致論』(春陽堂)　[42686
＊[訂正][明治35]　西村眞次(酔夢)・坪内逍遙校閲・東城鉦太郎畫『イソップのはなし』(少年世界文學第5篇)　[2711]　[42687
［＊明治35］　坪内雄藏『文學叢書 英詩文評釋』（早稻田大學出版部。イソップ）　[42688
[＊明治35]　「かめとうさぎのかけっこ」(イソップ)婦人と子ども1-7　[42689
[＊明治35]　霞山子「かうもりの二心」(イソップ)羽陽之少年6　[42690
[＊明治35]　長與專齋『松香私志』(司馬凌海,ポンペ)　[42691
[＊明治35]　大槻文彦「和蘭字典文典の訳述起原」(『復軒雜纂』所収,廣文堂)　[42692
[＊明治35]　Ch.Stickney“Aesop’s Fables: wuth a life of Aesop”Koubunsha,1902.(→1912年,訂正3版)　[42693
[＊明治35]　レオポルド・フォン・ランケ/坂本健一譯『羅馬法王史』(早稻田大學出版部)　[42694
[＊明治35]　坂本健一『西洋史講義：全』(再版。歴史地理講習會)　[42695
[＊明治35]　坂本健一『東洋史及西洋史講義』(歴史地理講習會)　[42696
[＊明治35]　矢島玄四郎譯『拿破崙全傳』(55版,青木嵩山堂)　[42697
[＊明治35]　ダブリュー・エー・ショー/信夫淳平譯『歐洲貨幣史』　[42698
[＊明治35]　モルトビー/杉山重義譯『都市發達論』　[42699
[＊明治35]　高市慶雄「十九世紀初期に於ける古典主義と浪漫主義思想の潮流に就いて」歴史地理4-2　[42700
[＊明治35]　安藤俊雄「中世の中期に於ける東方の光明」歴史地理4-5　[42701
[＊明治36(1903)]　久米邦武「聖德太子實錄」(→1988年,『久米邦武歴史著作集・第1巻』所収,吉川弘文館)　[42702
[＊明治36]　大江小波編/片山春帆畫『黑足小僧』(世界お伽話42[希獵の部],博文舘)　[42703
[＊明治36]　「豫告」(イソップ)婦人と子ども3-1　[42704

[＊明治36]　英國聖書會社『新約聖書馬太傳』[42705
[＊明治36]　中村春雨『舊約バイブル物語』(冨山房,通俗世界文學8)　[42706
[＊明治36]　木村鷹太郎譯『プラトーン全集11巻：註釈・固有名詞原綴字對照・索引』(富山房)　[42707
[＊明治36]　中島德藏『倫理學講義』(富山房)　[42708
[＊明治36]　井上哲次郎君談「日本の哲學教師」(ケーベル等)太陽9-13　[42709
[＊明治36]　杉谷代水編『沙翁物語』(通俗世界文學2, 冨山房)　[42710
[＊明治36]　中島孤島編『沙翁物語』(通俗世界文學6, 冨山房)　[42711
[＊明治36]　坪井九馬三「ヨハンネス・フォン・チゥロツのアッチラ系圖に就きて」史學雜誌14-8　[42712
[＊明治36]　村上直次郎「往時の西洋交通が國語に及ぼしたる影響」史學雜誌14-10附錄　[42713
[＊明治36]　戸水寛人『法政管見』[42714
[＊明治36]　M.Ueda & B.Ueda“The newest English-Japanese dictionary：with full appendices and copious illustrations”,冨山房(→明37,訂正6版)　[42715
[＊明治36]　坂本健一『西洋編：全』(歴史新教本,普及舍。→1904年,訂正再版,中外圖書局)　[42716
[＊明治36]　坂本健一譯『ヘロドトス』(早稻田大學出版部。→明治38年,再版)　[42717
[＊明治36]　阪本健一『外國地名人名辭典』(三書舘。→1903年,寶文舘。→1907年,增訂5版)　[42718
[＊明治36]　坂本健一編『社會文學辭典』(寶文舘・六合舘)　[42719
＊[訂正][[＊明治36]繁野政璃(天來)編『ダンテ神曲物語』(通俗世界文學第十編,冨山房)[2880]　[42720
＊[訂正][[＊明治37]新刊各種「繁野政璃(天來)編『ダンテ神曲物語』(通俗世界文學第十編,冨山房)朝日新聞3/7　[3212]　[42721
[＊明治37(1904)]　チャールス・ラム/小松月陵譯『沙翁物語集』(日高有隣堂)　[42722
[＊明治37]　雜錄「明治卅六年の思想界」哲學雜誌203　[42723
[＊明治37]　雜錄・K.I.「机上偶語」(プラトーン,アリストテレス,クセノファネス,パルメニデス,ゲテー,グリーキ古典研究等)哲學雜誌204　[42724
＊[訂正][[＊明治37]小林一郎「支那人の『天』と希臘人の『天』」哲學雜誌213[3259]　[42725
[＊明治37]　上田萬年「御伽噺三則」(イソップ)帝国文學10　[42726
[＊明治37]　巖谷小波閲・高階柳陰譯「教訓御伽百譚」(イソップ)をんな4-11　[42727
[＊明治37]　高木敏雄『比較神話學』(帝國百科全書116,博文舘。→1924年,再版。)　[42727
[＊明治37]　上田萬年「緒言」(同『舞の本』所収,金港堂書籍)　[42728
[＊明治37]　村上直次郎「ポルトガル旅行」歴史地理6附錄　[42729
[＊明治37]　村上直次郎「イスパニヤ史料」歴史地理6附錄　[42730
[＊明治37]　村上直次郎「リスボン史料」歴史地理6附錄　[42731

[＊明治37]　時評「希臘的思想なき日本國民」史學界6-1　[42732
[＊明治37]　坪井九馬三「ヨハンネス・フォン・チゥロツのアッチラ系圖に就きて」史學雜誌15-3　[42733
[＊明治37]　山縣昌藏「德川時代に於ける蘭學の發展に就きて」史學雜誌15-4,5,7　[42734
[＊明治37]　加藤弘之「蘭學談(上)」同方會誌26　[42735
[＊明治37]　大槻修二『日本洋學史料』(文學資料「書写資料」1-4。)　[42736
[＊明治37]　評論「土地と人」(ペリクレス等)東京二六新聞7/7　[42737
[＊明治37]　火光劍影欄「日本の位地は古代の希臘」東京二六新聞5/6　[42738
[＊明治37]　評論・飯牛歌人「ヘロイズム」(希臘ホーメル)東京二六新聞5/11　[42739
[＊明治37]　ステッド氏「日本と波蘭の復活(上)(下)」(プラトー,ルストラウスキー)東京二六新聞11/29,30　[42740
[＊明治37]　芳賀八一「國學とは何ぞや(承前)」(A.ベイック)國學院雜誌10-2　[42741
[＊明治37]　ゲーテ/高橋五郎譯『ファウスト』(前川文榮閣)　[42742
[＊明治37]　米國聖書會社『引照 新約全書(詩篇附)』(文庫判)　[42743
[＊明治37]　米國聖書會社『新約聖書馬可傳：全』　[42744
[＊明治37]　大英國北英國聖書會社『新約聖書馬太傳：全』　[42745
[＊明治37]　大英國北英國聖書會社『新約聖書馬可傳：全』　[42746
[＊明治37]　大英國北英國聖書會社『新約聖書約翰傳：全』　[42747
[＊明治37]　珀蹊生「ヴェスビアス火山の破裂とポンペイ市」建築雜誌18(209)　[42748
[＊明治37]　珀蹊生「ポンペイ市街の埋沒と其の發掘」建築雜誌18(214)[42749
[＊明治37]　「羅馬市を流るるチベル河上流の濁水及び同流域内侵蝕作用の平均價値」地學雜誌16-12　[42750
[＊明治37]　慶應義塾編『二十世紀英和辭書』　[42751
[＊明治38(1905)]　加藤弘之「蘭學談(下)」同方會誌27　[42752
[＊明治38]　木村鷹太郎『大日本建國史』(ギリシア。尚友舘→明治39年,再版。→明治41年,增訂版)　[42753
[＊明治38]　久米邦武『上宮太子實錄』(井洌堂,鴻盟社[發賣],積文社)發賣])　[42754
＊[訂正][＊明治38]小林一郎「支那人の『天』と希臘人の『天』」哲學雜誌215　[3259]　[42755
＊[訂正][＊明治 38]牧羊譯「いそつぷ物語」婦人と子ども 5-5,6,11 [3340]　[42756
[＊明治 38]　石丸敏一「狐と鶴のお伽話」(近事畫報社)(イソップ)少女智識畫報 1　[42757
[＊明治 38]　石丸敏一「黄金の鷄卵」(近事畫報社)(イソップ)少女智識畫報 2　[42758
[＊明治 38]　石丸敏一「鷲と烏の智」(近事畫報社)(イソップ)少女智識畫報 3　[42759
[＊明治 38]　石丸敏一「(十二)鷲と矢(お伽話)」(近事畫報社)(イソップ)少年智識畫報 3　[42760

[＊明治 38]　石丸敏一「(三)狼と鶴」/「(四)太陽と北風(近事畫報社)(イソップ)少年智識畫報 4　[42761
[＊明治 38]　石丸敏一「(三)樵夫と河伯」(近事畫報社)(イソップ)少年智識畫報 6　[42762
[＊明治 38]　東基吉(牧羊)『家庭童話　母のみやげ』(同文舘。イソップ)[42763
[＊明治38]　雷笑子『廿世紀新落語』(松陽堂・盛花堂,嘘普物語)　[42764
[＊明治38]　巖谷小波閲・高階柳陰譯「教訓御伽百譚」(イソップ)をんな5-8　[42765
[＊明治38]　箕作元八「懐舊談」動物學雜誌17(200)　[42766
[＊明治38]　箕作元八「ケンブリッヂ遊覧記」歴史地理7-7　[42767
[＊明治38]　新見吉治譯『プルタルコス偉人傳』(第1輯, 早稻田大學卅六年度史學科第二學年講義錄) [42768
[＊明治38]　植村清之助「異教征服」歴史地理7-1　[42769
[＊明治38]　箕作元八「西洋拷問の話」史學雜誌16-9,11　[42770
[＊明治38]　大英國北英國聖書會社『新約聖書約翰傳：全』　[42771
[＊明治38]　グリンム/三並良・清水載四郎共譯『耶蘇ノ倫理』(神學叢書,第9編眞理社) [42772
[＊明治38]　シェークスピア/戸澤姑射・淺野和三郎譯『沙翁全集』(大日本圖書) [42773
＊[訂正][明治38]　白雲生「外國文の西洋史初學參考書類(二)」史學界7-3
--- Swinton,Outline of the World's History
Barnes,General History,Ancient,Mediaeval and Modern Peoples
Sanderson,Histiry of the World,From theEariest Time to the Year 1898 [42774
[＊明治38]　元田作之進『和英英和兵語辭典』英學新報社,東京堂　[42775
［＊明治38]　鈴木文太郎『解剖學名彙』(丸善)　[42776
［明治38年以降?］　上田敏「希臘神話」(講演)　[42777
［明治38,39?］　(ペトラルカ)/蓼峯譯『短曲』　[42778
［明治39年?］　柳茂安『羅馬教皇とガリレオ』　[42779
［明治期?］　松村介石・大槻文彦『社會改良家列傳・箕作麟祥君傳』(→明40年,再版。私家版複製) [42780
［明治期］　獨逸・デーニッツ氏講義『裁判醫學』　[42781
［明治期］　新保磐次『源語時代之教育』(?)　[42782
［明治期］　高島平三郎『教育史講義』(帝國通信講習會文科講義)　[42783
［明治期］　西村醉夢『詩聖ホーマー』　[42784
［明治期］　田山花袋『キーツの詩』　[42785
［明治期］　家永豐吉述・山澤俊夫編『文明史』(東京專門學校講義錄) [42786
［明治期?］　(同志社?)デビス氏撰『古代教會史』(?)　[42787
[＊明治39(1906)]　登張竹風『舌筆錄』(ニーチェ等。春陽堂)　[42788
[＊明治39]　森林太郎『ゲルハルト・ハウプトマン』(春陽堂)　[42789
[＊明治39]　石黒忠悳『佐渡の[司馬]凌海記念碑文』　[42790
[＊明治39]　彌彦「いそっぷの話・イソップ傳」婦人と子ども6-2,9　[42791
[＊明治39]　石丸敏一「(三)獅子の婿入」/「(四)兎と龜」(近事畫報社)(イソップ)

少年智識畫報8 [42792
[＊明治39] 山路愛山『基督教評論』(警醒社書店) [42793
[＊明治39] 中村吉蔵『新約物語』(金尾文淵堂) [42794
[＊明治39] 宮崎八百吉『バプテスマ考』(警醒社書店) [42795
[＊明治39] ア・ケンピス/國定彌平譯『耶蘇基督之模範』(三才社) [42796
[＊明治39] トマス・ア・ケンピス/松田承久・三島彊記述刪正,ヒュ・ゼ・フラス校閲,エドワード・ビカステス序文『世範』(再版。英國聖書公會布教會社) [42797
[＊明治39] W.E.ブラックストン/中田重治譯『耶蘇之再臨』(C.F.カウマン) [42798
[＊明治39] 村川堅固「北部アフリカ旅行談」地學雜誌18-11,12 [42799
[＊明治39] 村上直次郎「イスパニヤ旅行」歴史地理8附錄 [42780
［＊明治39］ 村上直次郎「地中海諸都市史料」歴史地理8附錄 [42781
［＊明治39］ 村上直次郎「ローマ史料」歴史地理8附錄 [42782
［＊明治39］ 村上直次郎「イタリア史料」歴史地理8附錄 [42783
［＊明治39］ 幸堂得知「百合若大臣と甲賀三郎」早稻田文學5月號 [42784
［＊明治39］ 國書刊行會編・幸田露伴序文『新群書類從・第8(全10巻)』(百合若大臣。國書刊行會) [42785
［＊明治39］ 上田敏「鏡影錄(一)」(百合若大臣。『定本上田敏全集・第7巻』所収,教育出版センター,1985年。) [42786
［＊明治39］ 東京帝室博物舘篇『嘉永以前西洋輸入品及參考品目錄』 [42787
［＊明治39］ ヂョサイア・スツロング/石川三四郎譯『廿世紀の大覺醒：耶蘇の社會訓』(日高有倫堂) [42788
［＊明治39］ 羽化仙史『新ナポレオン：冒険小說』(冒險怪奇文庫5,大學堂) [42789
［＊明治39］ 山川幸雄編纂『Deutsche sprichtwörtliche redersarten übersetzt und Erörtert=獨逸故事塾字彙』(Nankodo) [42790
[＊明治39] 松村松年『日本害蟲目錄』(ラテン語。六盟舘) [42791
[＊明治40(1907)] 村川堅固「エジプト旅行談」地學雜誌19-3,4 [42792
[＊明治40] 大槻文彦『箕作麟祥君傳』(私家版。呉文聰[再版]。丸善) [42793
[＊明治40] 渡邊修二郎「鎖國時代歐洲知識人史料並に解題略」學燈11-1[42794
[＊明治40] 大江小波編/名和永年畫『獵師大臣』(世界お伽話82[希臘の部],博文舘) [42795
[＊明治40] 伊藤小翠編・笠井鳳齋畫『曾呂利新左衛門』(武田博盛堂。幼年お伽噺3。イソップ) [42796
[＊明治40] 伊藤小翠編・笠井鳳齋畫『少年武者修行』(武田博盛堂。幼年お伽噺4。イソップ) [42797
[＊明治40] 東基吉(牧羊)『教育童話子供の樂園』(同文舘。イソップ) [42798
［＊明治40] 中尾傘瀬「イソップ物語と[毛利]元就遺訓の別考」早稻田文學4月號 [42799
［＊明治40] 失名氏「イソップ物語と毛利元就遺訓」早稻田文學6月號 [42800
[＊明治40] チャールス・ラム/小松月陵譯『沙翁物語十種』(博文舘) [42801

[＊明治40]　バイロン/木村鷹太郎譯『天魔の怨：宇宙人生の神秘劇』（二松堂書店・岡崎屋書店）[42802
[＊明治40]　廣告「藝苑第1回講演會」(1/12)藝苑1月號　[42803
----- 上田敏「希臘古劇論」
平田禿木「沙翁傳の研究」
[＊明治40]　中村春雨『舊約物語』(金尾文淵堂)　[42804
[＊明治40]　宮崎八百吉『新約聖書(私譯)：羅馬書・附「羅馬書管見」』(警醒社書店)　[42805
[＊明治40]　バランタイン/開拓者編輯局譯『馬可傳に寫されたる耶蘇の面影』（日本基督教青會同盟本部）[42806
[＊明治40]　朝永三十郎「哲學と現代」(希臘哲學等)哲學雜誌247　[42807
[＊明治40]　星野光多『基督教談義：一名、日毎の教』　[42808
[＊明治40]　三並良『福音書大觀』(日本ゆにてりあん弘道會)　[42809
＊[訂正] [＊明治40]内村達三郎譯『ソホクレス・希臘原語・悲劇オイヂポス』（日淸堂）[3681]　[42810
＊[訂正] [＊明治40]加藤直士編『最近思想と基督教』(ケーベル述/波多野精一譯「哲學諸說の宗教的批判」等)　[28873]　[42811
[＊明治40]　蠣崎富三郎述・陸軍大學校編纂『奈破翁第一世戰史』(隆文舘)　[42812
[＊明治40]　坪井九馬三「史家としての[K.]マルクス」史學雜誌18-9　[42813
［＊明治40]　寺尾國平『和獨羅對病名字典』(南江堂)　[42814
［＊明治41(1908)]久米邦武「神道の話」(1908年)(→1990年,『久米邦武歷史著作集・第3巻』所収,吉川弘文館)　[42815
［＊明治41]　佐伯好郎「太秦(禹豆麻佐)を論す」(同『景教碑文研究』所収,待漏書院,1911年。)　[42816
[＊明治41]　南方熊楠「『大日本時代史』の載する古訓三則」(『南方熊楠全集・第3巻』所収,平凡社。) [42817
[＊明治41]　藤岡作太郎『國文學史講話』(百合若大臣。岩波書店)　[42818
[＊明治41]　「いそっぷ話・猪と狐」婦人と子ども8-6　[42819
[＊明治41]　伊藤小翠編・笠井鳳齋畫『狸のお使』(武田博盛堂。幼年お伽噺5。イソップ)　[42820
[＊明治41]　伊藤小翠編・笠井鳳齋畫『水戸黄門』(武田博盛堂。幼年お伽噺6。イソップ)　[42821
[＊明治41]　教堂散史編・笠井鳳齋畫『惡魔退治』(武田博盛堂。幼年お伽噺13。イソップ)　[42822
[＊明治41]　伊藤小翠編・笠井鳳齋畫『袈裟御前』(武田博盛堂。幼年お伽噺15。イソップ)　[42823
[＊明治41]　伊藤小翠編・笠井鳳齋畫『巴御前』(武田博盛堂。幼年お伽噺16。イソップ)　[42824
[＊明治41]　伊藤小翠編・笠井鳳齋畫『狼退治』(武田博盛堂。幼年お伽噺18。イソップ)　[42825
[＊明治41]　伊藤小翠編・笠井鳳齋畫『和氣淸麿』(武田博盛堂。幼年お伽噺20。

イソップ) [42826
[＊明治41] 伊藤小翠編・笠井鳳齋畫『お猿の兵隊』(武田博盛堂。幼年お伽噺21。イソップ) [42827
[＊明治41] 伊藤小翠編・笠井鳳齋畫『天人娘』(武田博盛堂。幼年お伽噺22。イソップ) [42828
[＊明治41] 大江小波編/滿谷國四郎畫『大勇士』(世界お伽話1[希臘の部],博文舘) [42829
[＊明治41] 大江小波編/名和永年畫『金馬將軍』(世界お伽話62[希臘の部],博文舘) [42830
[＊明治41] 大江小波編/久保田金仙畫『地獄巡り,飛行器』(世界お伽話78[希臘の部],博文舘) [42831
[＊明治41] 齋藤阿具「ハルマ字書と其著者」學燈12-9 [42832
[＊明治41] 吉田熊次「教育上より見たる獨佛大學に於ける哲學研究の現況」哲學雜誌253 [42833
[＊明治41] 堀謙德「西暦第六世紀の波斯[ペルシア]」史學雜誌19-1 [41913
[＊明治41] J.E.ルナン/綱島梁川譯・安倍能成譯補『ルナン氏耶蘇傳』(日高有倫堂) [42834
[＊明治41] ジ・ダブリュ・フルトン『馬可傳』(教文舘) [42835
[＊明治41] 左近義弼譯『マタイの傳へし福音書』(博文舘) [42836
[＊明治41] 星野光多『基督の救：全』 [42837
[＊明治41] 星野光多『宗教の中心事業としての祈禱』 [42838
[＊明治41] モリス・ブロック/前田越嶺譯『偉人の母』 [42839
[＊明治41] 木村鷹太郎『美的生活』(大日本圖書) [42840
[＊明治41] 松村松年『日本益蟲目錄』(ラテン語。六盟舘) [42841
［＊明治41] 二村領次郎『解剖學表粹[羅和]』 [42842
[＊明治41] 藤吉喜一編『ナポレオン言行錄』(偉人研究19,内外出版協會)[42843
[＊明治41] イポリット・アドルフ・ティエンヌ/土井晩翠(林吉)編『拿破翁性格論』(博文舘。→明43年,再版。) [42844
[＊明治41] 船越煙波口述・速記社社員速記『新講談世界の豪傑なぽれおん』(博多成象堂) [42845
＊[訂正] [明治42] 和田垣謙三『世界商業史要』 [4011] [42846
[＊明治42(1909)] 大江小波編/渡部審也畫『報恩鬼』(世界お伽話9[希臘の部],博文舘) [42847
[＊明治42] 無名氏編『英雄ナポレオン』(聚榮堂大川書店) [42848
[＊明治42] ウォーター・エル・シェルドン原著/宮崎八百吉譯『舊約聖書物語』(内外出版協會) [42849
[＊明治42] 伊藤小翠編・笠井鳳齋畫『山賊退治』(武田博盛堂。幼年お伽噺1,10版。イソップ) [42850
[＊明治42] 伊藤小翠編・三宅花塘畫『忠義の政岡』(武田博盛堂。幼年お伽噺11。イソップ) [42851
[＊明治42] 中川柳涯編・稻垣蝸堂畫『狼と狐』(島鮮堂。明治少年お伽噺4,イソップ) [42852

[＊明治42]　中川柳涯編・稻垣蝸堂畫『旅人と熊』(島鮮堂。明治少年お伽噺6,イソップ)　[42853
[＊明治42]　中川柳涯編・稻垣蝸堂畫『孔雀の願ひ』(島鮮堂。明治少年お伽噺8,イソップ)　[42854
[＊明治42]　中川柳涯編・稻垣蝸堂畫『蝙蝠の天罰』(島鮮堂。明治少年お伽噺11,イソップ)　[42855
[＊明治42]　中川柳涯編・稻垣蝸堂畫『曾我兄弟』(島鮮堂。明治少年お伽噺18,イソップ)　[42856
[＊明治42]　中川柳涯編・稻垣蝸堂畫『五郎正宗』(島鮮堂。明治少年お伽噺27,イソップ)　[42857
[＊明治42]　青葉山人編・笠井鳳齋畫『中將姫』(島鮮堂。繪入日本お伽噺48,イソップ)　[42858
[＊明治42]　坪内逍遙『作と評論』(ギリシア演劇,エスキラス)　[42859
[＊明治42]　平出鏗二郎『近古小說解題』(百合若大臣。大日本圖書)　[42860
[＊明治42]　大類伸「軍事的方面に於けるビザンツ文明の特色」史學雜誌20-1　[42861
[＊明治42]　加藤弘之「蕃書調所に就て」史學雜誌20-7　[42862
[＊明治42]　本誌記者「文學博士 桑木嚴翼君」太陽15-9(增刊號)　[42863
[＊明治42]　(?)「希臘の新鐵道」地學雜誌19(223)　[42864
[＊明治42]　古谷春峰「新井白石先生シドッチ鞫問に節用せられたる世界地圖--附・先生の洋學に就て」考古界8-9　[42865
［＊明治42］　山川幸雄編纂『和文獨譯練習：附・和獨字彙』（丸善）　[42866
[＊明治43(1910)]　坂本健一編『世界史年表：世界史三綱』(博文舘)　[42867
＊[訂正] [明治43]　坂本健一『參考西洋大歷史』(寶文舘)　[4103]　[42868
[＊明治43]　田中萃一郎「箕作元八著「西洋史講話」」三田學會雜誌4-4[42869
[＊明治43]　中村吉蔵『歐米印象記』(春秋社書店)　[42870
[＊明治43]　中村直吉・押川春浪編『鐵脚縱横』(五大洲探検記・第3)　[42871
[＊明治43]　澁川玄耳『世界見物：籔野椋十』(有樂社。→大2,縮刷版)　[42872
[＊明治43]　平山成信稿『西歐紀游』(僻綴活版十五頁)　[42873
[＊明治43]　齋藤謙『佐久間象山』(隆文舘)　[42874
[＊明治43]　林茂淳『箕作阮甫先生のことに付いて』(自筆)　[42875
[＊明治43]　白松南山「大西操山論」早稻田文學(第2次)50　[42876
[＊明治43]　生方敏郎「綱島梁川論」早稻田文學(第2次)50　[42877
＊[訂正] [明治43]　白念坊[大槻]如電「伊曾保物語のものがたり」(雅俗文庫)此花4(同「藝侯戒諸子」(イソップ),『近古史談原文集』)(発行年不明)あり)　[4157]　[42878
[＊明治43]　杉山孫之助譯註『ギリシャ神話』(初等英語叢書14,英語研究社)　[42879
[＊明治43]　大江小波編/谷洗馬畫『飛行の馬』(世界お伽話16[希臘の部],博文舘)　[42880
[＊明治43]　伊藤小翠編・笠井鳳齋畫『春日局』(武田博盛堂。幼年お伽噺2。イソップ)　[42881

[＊明治43] 教堂小史編・笠井鳳斉畫『怠惰太郎』(武田博盛堂。幼年お伽噺14。イソップ) [42882
[＊明治43] 伊藤小翠編・笠井鳳斉畫『木村重成』(武田博盛堂。幼年お伽噺17。イソップ) [42883
[＊明治43] 中川柳涯編・山本佳年畫『鎭西八郎爲朝』(島鮮堂。繪入日本お伽噺1,イソップ) [42884
[＊明治43] 中川柳涯編・山本佳年畫『毛谷村六助』(島鮮堂。繪入日本お伽噺3,イソップ) [42885
[＊明治43] 青葉山人述・笠井鳳齋畫『楠正行』(島鮮堂。繪入日本お伽噺16,イソップ) [42886
[＊明治43] 中川柳涯編・笠井鳳齋畫『忠僕直助』(島鮮堂。繪入日本お伽噺32,イソップ) [42887
[＊明治43] 青葉山人編・笠井鳳齋畫『菅原道眞』(島鮮堂。繪入日本お伽噺47,イソップ) [42888
[＊明治43] 青葉山人編・笠井鳳齋畫『武雄兄弟島廻り』(島鮮堂。繪入日本お伽噺61,イソップ) [42889
[＊明治43] 青葉山人編・笠井鳳齋畫『常磐御前』(島鮮堂。繪入日本お伽噺68,イソップ) [42890
[＊明治43] 小蝶山人『少年お伽演說』(岡村書店。イソップ) [42891
[＊明治43] 馬場直美『お伽百題』(岡村盛花堂。イソップ) [42892
[＊明治43] 吉田幾次郎『イーソップの話』研究社(英語研究叢書12) [42893
[＊明治43] 上田敏(講演11月)『伊曽保物語考』(出版者不明) [42894
[＊明治43] 上田敏「近代藝術(講演大意)(思潮)」校友會雜誌51 [42895
[＊明治43] 小林丑三郎『國家財政史』 [42896
[＊明治43] 笹山準一『新釋シェクスピア』(大阪・精華堂) [42897
[＊明治43] 若月紫蘭譯『アナトール・フランス短編傑作集』(三教書院) [42898
[＊明治43] 鹽釜天飆『ゲーテの詩研究』(博文舘) [42899
[＊明治43] 岡島敬治譯『レッシングの詩：附・小傳』(河野二郎) [42900
[＊明治43] エ・ラゲ譯『我主イエズス・キリストの新約聖書』([天主]公教會)。→昭10年,7版。→1964年,18版・改訂版) [42901
[＊明治43] ゼームズ・ストーカー著/宮崎八百吉譯『保羅傳』(基督教書類會社。→大4年, 再版。) [42902
[＊明治43] 武本喜代藏・古木虎三郎『澤山保羅傳』(警醒社書店) [42903
[＊明治43] 笹山準一譯『新譯ナポレオン：絶世の英雄』(精華堂書店) [42904
[＊明治43] 石井卯三郎・泉幸次郎『新撰西洋建築雛形(上下)』(田中宋榮堂) [42905
［＊明治43] 加藤辰三郎・木村廣平・兒玉元吉『和羅獨英新醫學辭典』(南江堂) [42906
[＊明治44(1911)] 福地源一郎『往年長崎洋學の次第』(明治雄辯集前編。大日本雄辯會) [42907
[＊明治44] 教文舘編輯部編『耶蘇傳』(教文舘) [42908
[＊明治44] 聖書改譯委員譯(本多庸一・星野光多聯名序)『マコ傳福音書』

(米國聖書會社,英國聖書會社) [42909
[＊明治44] 聖書改譯委員譯『新約聖書 改譯馬可傳』(米國聖書會社,英國聖書會社) [42910
[＊明治44] 植村正久「聖書の改譯」福音新報826 [42911
[＊明治44] 植村正久(假名・白井)「改譯マコ傳福音書の評判」福音新報846,847 [42912
[＊明治44] British and Foreign Bible Society『吾主耶蘇基督新約聖書』(2巻) [42913
[＊明治44] M.Guizot/abrgd.& adapt.by H.Sakurai『General history of civilization in Europe』Teibi Pub.Co.[42914
[＊明治44] 幸野花咲『滑稽世界見物』(報文舘) [42915
[＊明治44] ニイチェ/生田長江譯『ツァラトゥストラ』(新潮社) [42916
[＊明治44] 木村鷹太郎『世界的研究に基づける日本太古史(上下)』(希臘史。木村鷹太郎) [42917
[＊明治44] 山路愛山『佐久間象山』(東亞堂書房) [42918
[＊明治44] 西村眞次編纂『ナポレオン』(冨山房) [42919
[＊明治44] 小栗要逸編『ナポレオン傳』(内外出版協會) [42920
[＊明治44] 姉崎嘲風編『樗牛文篇・文は人なり』(博文舘。ニーチェ) [42921
[＊明治44] 青葉山人編・笠井鳳齋畫『高山彦九郎』(島鮮堂。繪入日本お伽噺62,イソップ) [42922
[＊明治44] 青葉山人編・笠井鳳齋畫『熊本籠城』(島鮮堂。繪入日本お伽噺81,イソップ) [42923
[＊明治44] 青葉山人述・笠井鳳齋畫『黒百合姫』(島鮮堂。繪入日本お伽噺84,イソップ) [42924
[＊明治44] 青葉山人述・笠井鳳齋畫『金言姫』(島鮮堂。繪入日本お伽噺95,イソップ) [42925
[＊明治44] 中川柳涯編・山本佳年畫『酒井の太鼓』(島鮮堂。繪入日本お伽噺135,イソップ) [42926
[＊明治44] 天籟山人『新お伽十八番』(岡村書店。イソップ) [42927
[＊明治44] 鈴木源四郎『少年教育修身はなし―動物の巻』(大川屋書店。イソップ) [42928
[＊明治44] 「壱岐に於ける百合若大臣の傳說」人類學雜誌27-9 [42929
[＊明治44] 南方熊楠「西暦九世紀の支那書に載せたるシンダレラ物語(異なれる民族間に存する類似古語の比較研究)」(1911年)(『南方熊楠全集・第2巻』所収,平凡社,1971年。) [42930
[＊明治44] 前田太郎「國語になつた西洋語」史學雜誌22-3,4,7,8,9,11,12[42931
[＊明治44] 松村任三監修『新撰植物圖編』(第1-3編。丸善。→大正10) [42932
［＊明治44] 椎野銕太郎・西成甫・歌川弋『實用・和獨羅醫語字典[附・佛和小辭典]』(金原商店) [42933
[＊明治45(1912)] 『現代人名辭典』(再版,中央通信社) [42934
[＊明治45] ゲーテ/町田政路譯『ファウスト』(東亞堂) [42935
[＊明治45] 錦田義富「ギュヨー道德無義務論」(ストア,エピクール,ニーチェ等)

帝國文學? [42936
[＊明治45] 桑木嚴翼「哲學と文獻學」藝文1-7 [42937
[＊明治45] 篠田周之「北歐神話エッダの話」歴史地理19-3,4,5,6 [42938
[＊明治45] クライブ・デー/三上正毅譯『世界商業史』 [42939
[＊明治45] 三宅雄二郎「哲學雜誌三百號と哲學」哲學雜誌300 [42940
［＊明治末頃］ (?)『基督教思想ノ肉筆雙六』（新約聖書ノ章節記入） [42941
［＊明治末−大正末］伊達ハル（一信者）筆記『聖書講義筆記帖』（宣教師コレル、パートリッチ、パットン、木村先生の聖書講義を筆記した自筆本7冊。愛知教育大学図書館所蔵） [42943
[＊大正1(1912)] 中村直吉著・押川春浪編『歐洲無錢旅行』(五大洲探検記・第5) [42944
[＊大正1] 木村鷹太郎『在五中將業平秘史』(春秋社) [42945
[＊大正1] 海老澤有道「德川氏時代に成れる邦文海外地理書解題」歴史地理19-2-6 [42946
[＊大正1] 『栗本鋤雲事歴』(書写資料,栗本秀二郎) [42947
[＊大正1] 高木敏雄『新イソップ物語：世界動物譚話』(宝文舘) [42948
[＊大正1] ゲーテ/森林太郎譯『ファウスト・第1,2部』(冨山房) [42949
[＊大正1] 山本秀煌『新日本の恩人醫學博士法學博士勲三等ヘボン傳』[42950
[＊大正1] ヨルク・フォン・ワルテンブルヒ/東京偕行社譯/高橋是清校正『將師トシテノ奈破翁(上下)』(東京偕行社) [42951
[＊大正1] コナン・ドイル/岡本日亭譯補『史外秘傳ナポレオン奇譚』(東亞堂書店) [42952
［＊大正1］ 高橋作衛「國際法始祖グロチウス」國際外交11-4 [42953
［＊大正1］ 井上哲次郎・元良勇次郎・中島力造共著『英獨佛和・哲學字彙（丸善） [42954
［＊大正1］ 藤井信吉編『獨和 法律新辭典［附・ラテン用語集］』（有斐閣書房） [42955
［大正2?］ 上村邦彦『近代思想と宗教』（オイケン等） [42956
［大正2?］ Thomas Seltzer/竹林拙三譯『哲學者オイケン』 [42957
[＊大正1] ド・ラ・カーズ/前田長太(越嶺)譯『聖ヘレナにおけるナポレオン回想錄』(博文舘) [42958
[大正1,2?] 前田越嶺『基督傳』 [42959
＊[訂正] [大正2] 冨山房編輯部編・坪内逍遙閲『世界文學物語』(冨山房) [4723] [42960
[＊大正2(1913)] ブランダー・マシューズ著/大日本文明協會譯『歐洲演劇史：全』（大日本文明協會第二期刊行書8,大日本文明協會事務所）
[＊大正2] 有島生馬『蝙蝠の如く』(ローマ,白樺叢書,洛陽堂。→代表的名作選集40,新潮社。→1942年,愛宕書房版。→1947年,手帖文庫2部33,地平社) [42961
[＊大正2] 翠化生「小地中海の印象」六條學報143 [42962
[＊大正2] 高木敏雄『日本傳說集』(郷土研究社。→1924年,再版。→1943年,東京武蔵野書院。) [42963
[＊大正2] 齋藤信策遺稿『哲人何處にありや』(オデュッセイヤ譯,第1巻。博

文舘) [42964
[＊大正2] 前埜熹譯「西洋畫贊譯文稿」(書写者不明。京都大学文学研究科図書) [42965
[＊大正2] ジョージ・スチュアート・フラトーン/作田元之進譯『哲學通論』警醒社書店 [42966
[＊大正2] 長瀬鳳輔・榎本秋村編『帝王ナポレオン』(奈翁全集3巻,草村松雄,隆文舘[發賣]) [42967
[＊大正2] 長瀬鳳輔『愛のナポレオン』(奈翁全集4巻,草村松雄,隆文舘[發賣]) [42968
[＊大正2] 長瀬鳳輔・榎本秋村編『ナポレオンの鴻業』(奈翁全集5巻,草村松雄,隆文舘[發賣]) [42969
[＊大正2] 長瀬鳳輔『ナポレオン史話』(奈翁全集7巻,日本史料調査會[發賣]) [42970
[＊大正2] 竹友藻風『祈禱』(昂發賣所) [42971
[＊大正2] 三宅雄二郎『明治思想の小史』(丙午出版社) [42972
[＊大正2] 木村鷹太郎『日本太古小史：日本の使命世界の統一』(木村鷹太郎,二松堂書店。→同年,訂正再版,松榮堂書店,益文堂書店)[42973
[＊大正2] 竹内楠三『ラテン語獨修書：獨佛英對照』(福岡書店) [42974
[＊大正2] ラ・ロシフコー/高橋五郎譯『寸鐵—一名,人生裏面觀』(玄黄社) [42975
[＊大正2] 鈴木正士譯・荒井克成註『イーソップの話』(英語研究社,初等英語叢書24) [42976
[＊大正2] サー・トマス・モーア/三上正毅譯『ユートピア』 [42977
[＊大正2] 石川三四郎『西洋社會運動史：全』(東雲堂書店。→大11年,大鎧閣) [42978
[＊大正2] 谷本富『洋行土産談：教育宗教社會經濟』 [42979
[＊大正2] 新刊紹介「文學博士谷本富著「洋行土産談」」經濟學商業學國民經濟雑誌15-3 [42980
[＊大正2] 姉崎正治「中世文明の特質」史學雜誌24-2 [42981
[＊大正2] 月城「本欄「クオ・ヴァヂス」を見る」聲457 [42982
[＊大正2] 樋口長衛「家庭はローマの産物である」心理研究4-22 [42983
[＊大正2] K.Ueda & B.Ueda“A new English-Japanese dictionary”,Fusanbo [42984
[大正2,3?] 皆田篤實『母の典型』(アウグスチヌスの母モニカ。→大14・改装版) [42985
［大正3,4?］ 上原謙治『耶蘇傳』 [42986
[＊大正3(1914)] 左近義弼『耶蘇傳(四福書)』 [42987
[＊大正3] 大塚保治「大西祝博士を憶ふ」哲學雜誌324 [42988
＊[訂正] [大正3] 彙報「古代史研究二三」史學雜誌299 [4988] [42989
C.Schuchhardt(講演)「古代地中海沿岸の殿堂建築」
G.Jèquier,Histoire de la civilisation Egyptienne des origines à la conquète d’Alexandre
Th.Birt,Römische Charakterköpfe

[＊大正3] 「西洋新刊雑誌書目」史學雑誌299 [42990
・Klio, Bd.XIV,Heft 3----
H.Pomtow,Delphische Neufunde
Fr.Westberg,Zur Topographie Herodot
[＊大正3] M.Godolphin;annoted by A.W.Playfair and Kamegoro Washimi
“Aesop’s Fbles:arranged in words of one sylable for young children
[42991
[＊大正3] A.J.Church,“Stories form ancient Greece and Rome：selected and adapted”(訂正再版。Dai-Nippon-Tosho-Kwaisha) [42992
[＊大正3] 小林愛雄『神話と傳說』(赤城正藏) [42993
[＊大正3] 小林愛雄『西洋演劇史』(アカギ叢書44,赤城正藏) [42994
[＊大正3] 大江小波編『百合若大臣』(日本お伽文庫8,博文舘) [42995
[＊大正3] 山科言繼『言繼卿記』(百合若。全4巻,國書刊行會) [42996
[＊大正3] 柳田國男『山島民譚集』(百合若。甲寅叢書3,甲寅叢書刊行會) [42997
[＊大正3] 青葉山人編・笠井鳳齋畫『捨てられた子』(島鮮堂。繪入日本お伽噺,初版・明治?イソップ) [42998
[＊大正3] 後藤末雄『モリエール物語』(世界名著物語6,實業之日本社)[42999
[＊大正3] 今井白楊『失樂園物語』(世界名著物86,實業之日本社) [43000
[＊大正3] フゥゴオ・フォン・ホフマンスタール作/村上靜人譯『エレクトラ』(赤城正藏,アカギ叢書54) [43001
[＊大正3] ダンテ/村上靜人編『神曲』(赤城正藏,アカギ叢書27) [43002
[＊大正3] ダンテ/森田草平譯『神曲』(日月社,現代百科文庫1) [43003
[＊大正3] 三上義夫「亞剌伯亞數字の起源及び發達」史學雜誌25-1 [43004
[＊大正3] 讀史抄錄・大類伸「中世の政治思想」史學雜誌25-1 [43005
[＊大正3] 讀史抄錄・大類伸「甲冑の發達と經濟事情」史學雜誌25-5 [43006
[＊大正3] 讀史抄錄・大類伸「中世史研究の新基礎」史學雜誌25-5 [43007
[＊大正3] 讀史抄錄・大類伸「古代末期及中世初期の国家組織」史學雜誌25-8 [43008
[＊大正3] 鈴木錠之助「クーランジュ氏古代民族研究」人生と表現6-10,11 [43009
[＊大正3] 木村鷹太郎『統合世界史』(以文舘) [43010
[＊大正3] 日蘭協會編輯局『日本と和蘭』(日蘭協會編輯局刊) [43011
[＊大正3] 國書刊行會編刊『文明源流叢書3』(海外知識篇。→1969年,覆刻,名著刊行会) [43012
[＊大正3] 大類伸『ヴェニスとフローレンス』(アカギ叢書82) [43013
[＊大正3] 作田元之進『監督ウィリアムス傳』(京都地方部故ウィリアムス監督紀念實行委員事務所。→同年改題『老監督ウィリアムス』) [43014
[＊大正3] ピエトロ・コッサ/黒田幹一譯『皇帝ネロ』(赤城叢書,赤城正藏) [43015
[＊大正3] 米國聖書協會『舊新約聖書』(文庫版) [43016
[＊大正3] 聖アルフォンソ/聖若瑟教育院譯『聖母マリアの榮耀』(聖若瑟教育

院) [43017
[＊大正3] ボッカッチヨ原著/矢口達譯『十日物語』(矢口著,河野書店版。譯書,實業之日本社版,世界名著物語9) [43018
[＊大正3] ゲーテ/增富平藏譯『イフヰゲニヱ』(玄黄社) [43019
[＊大正3] シェクスピア/北島春石譯『アントニーとクレオパトラ』(名著文庫3,春江堂) [43020
[＊大正3] セーキスピーア/守田有秋譯『アントニイとクレオパトラ』(名著叢書15,日吉堂) [43021
[＊大正3] W.E.イエーツ/栗原古城譯『幻の海』(アカギ叢書) [43022
[＊大正3] 林田春潮・森口多里・河野桐谷述『日本美術史講話・西洋美術史講話』(文學普及會。早稻田文學社文學普及會講話叢書6) [43023
[＊大正3] 石井柏亭・黑田鵬心・結城素明編『美術辭典』(日本美術學院。→1916年,增補3版。→1922年,改訂增補7版。) [43024
[＊大正3] マキャヴェリ原作/葛西又次郎譯『マキャヴェリ主義：原名君主論』(アカギ叢書84,赤城正藏) [43025
[＊大正3] マキャヴェリ原著/金生喜造譯『權謀術數論』(巢園學宿舍出版部) [43026
[＊大正3] 境野正『大奈破翁：Great Napoleon』(偉人叢書：グレートメン・シリーズ1,鐘美堂書店) [43027
[＊大正3] 長瀨鳳輔『ナポレオン史話』(奈翁全集7巻,草村松雄,隆文館[發賣]。→大10年,長瀨鳳輔・榎本秋村編『ナポレオン史話：縮刷』(改版奈翁全集7巻,隆文舘) [43028
[＊大正3] 櫻井鷗村『ナポレオン物語』(丁未出版社) [43029
[＊大正3] 呉秀三『箕作阮甫』(大日本圖書) [43030
[＊大正3] 呉秀三「箕作阮甫」地學雜誌26-8 [43031
[＊大正4(1915)] 新村出「圖書舘の一隅から」(1915年)(『新村出全集・第5巻』所収,筑摩書房,1971年。) [43032
[＊大正4] 中村直吉『世界探檢十五萬哩(上下)』(啓成社) [43033
[＊大正4] 澁川玄耳『籔野椋十日本世界見物』(誠文堂。→大6,袖珍版。→大7,22版) [43034
[＊大正4] 島村抱月述・伊藤尚述・長谷川誠也述『文藝概論講話；宗教史及宗教哲學講話；西洋文明史講話』 [43035
[＊大正4] ローマン・ローラン/木村莊八譯『ミケランジェロ』(洛陽堂) [43036
[＊大正4] 大槻文彦「吾邦蘭學勃興の原因」日本及日本人646 [43037
[＊大正4] 渡邊修二郎「西洋文藝傳來に關する逸事」筑紫史談6 [43038
[＊大正4] 井野邊茂雄「蘭學の起原」歷史地理26-5 [43039
[＊大正4] 三上義夫「廣川晴軒の三元素説」哲學雜誌544 [43040
[＊大正4] 伊東篤太郎「文明東漸に關する植物學の古史」典籍3 [43041
[＊大正4] 「古賀筑後守洋学所意見書」江戸1-2 [43042
[＊大正4] 木村鷹太郎『日本書紀仁德天皇の埃及・難波』(日本民族協會,日本民族研究叢書1) [43043

[＊大正4] 木村鷹太郎『高天原』(日本民族協會,日本民族研究叢書2) [43044
[＊大正4] 木村鷹太郎『神武帝の來目歌は緬甸歌：羅馬建國史詩との一致』(日本民族協會,日本民族研究叢書3) [43045
[＊大正4] 木村鷹太郎『哲學と人生』(日進堂) [43046
[＊大正4] 有島生馬「鳩飼ふ娘」(ローマ)文章世界4月號 [43047
[＊大正4] 須藤新吉『ヴントの心理學』(内田老鶴圃) [43048
[＊大正4] 米國聖書會社『新約聖書馬可傳：全』 [43049
[＊大正4] 高橋鷹藏『耶穌傳』(基督教月報社) [43050
[＊大正4] 箕城教會臨時謄寫部『耶穌傳之研究』 [43051
[＊大正4] 栗原古城著『西洋武士道譚』(北星堂) [43052
[＊大正4] 元田作之進述『有神論と有心論』 [43053
[＊大正4] 上田敏『獨語と對話』(弘學舘書店) [43054
[＊大正4] フレデリック・ローリエ原著/戸川秋骨(大日本文明協會)譯『比較文學史』(文明書院) [43055
[＊大正4] 阿部秀助「古代の經濟史的研究」歴史地理26-4 [43056
[＊大正4] マキャヴェリ原著/橘田東聲譯・森田草平他編『權謀術數學』(薔薇叢書7,植竹書院) [43057
[＊大正4] 坪井九馬三「イタリア國に現存する最古の金石に就て」考古學雜誌5-12 [43058
[＊大正4] 大類伸「コンスタンチノープル處分論(佛國史家ドリヨール氏の所論)」歴史地理26-4 [43059
[＊大正4] 植村清之助「ドプシュ氏「カロリング朝時代の經濟發展」」史學雜誌26-3 [43060
[＊大正4] 植村清之助「古代ゲルマニの徴兵制度と土地所有との關係に就いて」史學雜誌26-5 [43061
[＊大正4] 蜷川新「奈翁[ナポレオン]の遠征と學述尊重」國際外交13-6 [43062
[＊大正4] Hidenaka Tanaka “Grammatica Latina” Sumptibus Maruzen,Bibliopolare [43064
[＊大正4] フレデリク・ウィリアム・ヘンリ・マイヤズ作/齋藤勇譯『聖パウロ』(丁未出版社) [43065
[＊大正4] トマス・ア・ケンピス/松田承久・三島彊譯述刪正,ヒュ・ゼ・フラス校閲,エドワード・ビカステス序文『聖範：完』(4版。日本聖公會) [43066
[＊大正4] シェンキウィッチ/大町桂月編『クオ・ワヂス』(三星社) [43067
[＊大正4] 中澤臨川・生田長江編『近代思想十六講』(新潮社。→昭8年,新潮文庫70) [43068
[＊大正4] ルッソウ/生田長江・大杉榮譯『全懺悔錄(上下)』(新潮社) [43069
[＊大正4] 巖谷季雄譯述『イソップお伽噺』(田中太右衛門) [43070
[＊大正4] 前田太郎・中島泰藏「前月の諸雜誌より：ギリシヤの謎々・ゼームスとミュンスターベルヒ」心理研究7-39 [43071
[＊大正4] 佐藤彰美『西洋建築應用圖集(入口及窓之部)』(大倉書店。→1927年,再版) [43072

［＊大正4］　イェリング/三村立人譯『權利爭闘論』（清水書店）　[43073
［＊大正4］　登張信一郎『登張獨和辭典』（大倉書店）　[43074
[＊大正5(1916)] 木村鷹太郎『日本民族東漸史』(日本民族協會,日本民族研究叢書4。→昭4年,訂正再版,日本民族協會,日本民族研究叢書20)　[43075
[＊大正5]　新村出「日本文學の海洋趣味」(『新村出全集・第5巻』所収,筑摩書房。) [43076
[＊大正5]　新村出「蘭書譯局の創設」史林1-3　[43077
[＊大正5]　津田左右吉「インド文學と國文學との交涉に就いて」史學雜誌5月號　[43078
[＊大正5]　高木敏雄『童話の研究』(百合若。家庭文庫,婦人文庫刊行會)[43079
[＊大正5]　ブルツクハルト/山岸光宣譯『文藝復興史』（世界大思想全集[第2期-10],春秋社)　[43080
[＊大正5]　今泉眞幸編『日曜學校教科用聖書讀本 : 馬可傳を骨子とせる耶蘇傳』(日本組合基督教會日曜學校部,福音舍書店。→大11,改譯。→昭2,改版6版)　[43081
[＊大正5]　ルナン/綱島梁川譯・安倍能成譯補『耶穌傳』（山陽堂書店, 3版）　[43082
[＊大正5]　上澤謙二『耶蘇傳』(洛陽堂)　[43083
[＊大正5]　松宮彌平譯『馬可傳：口語』（日本語通信教授發行所）　[43084
[＊大正5]　教界彙報「内地教信―ヘック師在職二十五年祝賀」こゑ493 [43085
[＊大正5]　蛭川新「異民族の同化と宗教」國際外交14-6　[43086
[＊大正5]　平山成信「横濱語學所記事(1,2)」江戸3-3,4(11,12)　[43087
[＊大正5]　シェンキェヴィチ/近藤京爾編『何處へ行く：クオ・[ヴァ]ヂス 繪入』(2版。磯部甲陽堂)　[43088
[＊大正5]　西村醉夢(眞次)編纂『新國史觀努力の跡』(冨山房)　[43089
[＊大正5]　象山先生遺跡表象會編『佐久間象山』(實業之日本社。→1920年,再版,明治圖書。→1930年,增訂,地理歷史研究會)　[43090
[＊大正5]　箕作元八『西洋歷史小地圖』(開成舘)　[43091
[＊大正5]　武藤長藏『アーノルド・トインビー』(有斐閣書房)　[43092
＊[訂正] [大正5]　木村重治『改訂增補・西洋史眼』(開成舘)　[43093
＊[訂正] [大正5]　海外史壇「史界近時片々(一)---古代史」史學雜誌316 [5440]　[43094

Ettore Päis,Ricerche sulla Storia e sul Dirrito Publico di Roma,1915
F.Leifer,Die Einheit des Gewaltgedankes im Römischen Staatrecht: ein Beitrag zur Geschichte des Oeffentlichen Rechts,1914
S.Angus,The Envirrment of Early Christianity
Varese,Ricerche di Storia Militare dell' Antichità,1915
E.T.Newell,Dated Alexander Coinage of Sidon and Ake
G.Dahl,The Materials for the History of Dor
F.Sartiaux,Troie:la Guerre de Troie et les Origines Prehisoriques de la Question d'Orient,Paris,1915
C.N.Rados,Les Guerres Médlique:la Bataille de Salamine,Paris,1915
M.Romstedt,Die Wirtschaftliche Organisation des Athenischen Reiches,1914
P.Fraccaro,Studi sull' Età dei Graechi,1914

C.Lazani,Mario e Sulla,Storia della Democrazia Romana negli Anin 87-82 av.Christo,1914
Veith,Die Feldzüge C.Julius Caesar Octavianus in Illyrien in den Jahren 35-33 v.Chr.,1915
L.Bouillon,L'Église Apostlique et les Juifs Philosophes jusquà Philon, 1914
E.Meyer,Italien und die Entstehung der Italischen nation im Altertum
G.Bloiz,Les Lois de la Guerre dans l'Antiquité Greque,
A.Stein,Tacitus als Geschichtsquelle

[＊大正5] P.ロチ/吉田孤雁譯『氷島の漁夫・埃及紀行』(博文舘) [43095
[＊大正5] 石山徹郎『埃及美術史』(世界美術史刊行會) [43096
[＊大正5] 有島生馬『南歐の日々』(ローマ,新潮社。→大6,改版。) [43097
[＊大正5] フイルダウシー/土屋文明譯『波斯神話』(神話叢書,向陵社) [43098
[＊大正5] ボッカッチョ/戸川秋骨譯『十日物語(デカメロン)』(國民文庫刊行會,泰西名著文庫。→大6,再版) [43099
[＊大正5] トルストイ/相馬御風譯『藝術論・沙翁論』(早稻田大學出版部) [43100
[＊大正5] 上田敏"Ueda's standard English readers"(Meijishoin。→大10,細田秀造,石田憲次補修増訂版) [43101
[＊大正5] シェークスピア/久米正雄譯『全譯・沙翁名作選』(新潮社) [43102
[＊大正5] チャールス・ラム,メリー・ラム共著/笹川臨風譯『通俗シエークスピーア物語』(通俗教育普及會出版局) [43103
[＊大正5] 齋藤勇『シェイクスピア：彼の生涯及び作物』(丁未出版社) [43104
[＊大正5] 星野光多『日毎の教』(基督教) [43105
[＊大正5] 原勝郎「エスステルス・ハンチングトン氏著「文明と氣候」」史林1-4 [43106
[＊大正5] 長瀬鳳輔編『縮刷奈翁全傳(上下)』(隆文舘圖書) [43107
[＊大正5] 生田長江・森田草平・加藤朝鳥共編『新文學辭典』(天弦堂書店) [43108
[＊大正6(1917)] 木村鷹太郎『常世の國何處?』(日本民族協會,日本民族研究叢書5) [43109
[＊大正6] 高木敏雄・小笠原省三『日本國民傳說』(敬文舘) [43110
[＊大正6] 教界彙報「内地教信—瑪理亞會創立百年記念祝賀」(ケーベル) こゑ504 [43111
[＊大正6] ダンテ/山川丙三郎譯『神曲淨火』(警醒社) [43112
[＊大正6] ダンテ/中山昌樹譯『新生』(洛陽堂) [43113
[＊大正6] 德冨猪一郎『杜甫と彌耳敦[ミルトン]』(民友社) [43114
[＊大正6] 高橋卯三郎講述『堅信修德馬可傳講義』(靈潮社) [43115
[＊大正6] 上田敏『聖教日課』(上田エツ子) [43116
[＊大正6] 土井晩翠譯『〈カーライル〉英雄論』(岡崎屋書店) [43117
[＊大正6] 藤井武『ルーテルの生涯及事業』(岩波書店) [43118
[＊大正6] 久津見蕨村『基督教罪惡史』(丙午出版社) [43119
[＊大正6] ダブルユー・エー・ブラックストーン/中田重治譯『耶穌は來る』

東洋宣教會(→1930年,3版。) [43120
[＊大正6] 增田貢[岳陽](寫)『伊娑菩喩言』(文字資料,書寫資料) [43121
[＊大正6] 千頭清臣『那翁大帝』(博文舘) [43122
＊[訂正] [大正6] 坂本健一『西洋歷史集成』(上・中[上下]。隆文舘。→大8) [5605] [43123
[＊大正6] 新見吉治「中學校に於ける西洋史教授に就て」史林2-4 [43124
[＊大正6] 小林房太郎「歐洲三大民族の消長」歷史地理29-4 [43125
[＊大正6] 長壽吉「しゆもらあ教授ノ史傳ニ就テ」經濟論叢5-4 [43126
[＊大正6] 生田長江他共述『新文學百科精講』(新潮社) [43127
[＊大正6] 平本直次『オリンピック競技法』(健康堂) [43128
[＊大正7(1918)] 末廣鐵腸『啞の旅行：西洋見物』(磯部甲陽堂。→大13年,中村書店版) [43129
[＊大正7] B.G.Niebur,“Griechische Heroengeschichiten”(Ikubundo.→1919年,2Aful.) [43130
[＊大正7] 本間久雄「ケーベル博士の警告」文章世界7月號 [43131
[＊大正7] 中澤澄男「江戸時代西洋文化輸入の公許に關係せる隱れたる媒介者」歷史地理31-3 [43132
＊[訂正] [大正7] V.G.Simkhovitch/藤谷光之助抄譯「羅馬滅亡ノ經濟的考察」(經濟學商業學)國民經濟雜誌24-1,2 [5913] [43133
＊[訂正] [大正7] 記事「東京高等師範學校附屬中學の外國史教材要項」[5836] [43134
「上古及中古」(漢代の東西交通---羅馬との交通)/太古の西洋諸國」(フニキア文明)/「希臘及其の文物」/「ローマ及其の文物」/「基督教」/「ドイツ諸民族の大移住とローマ帝國の潰裂」
[＊大正7] 青葉山人編・笠井鳳齋畫『荒木又右衛門』(島鮮堂。繪入日本お伽噺57,初版・明治?イソップ) [43135
[＊大正7] 青葉山人編・笠井鳳齋畫『母のみとり』(島鮮堂。繪入日本お伽噺,初版・明治?イソップ) [43136
[＊大正7] 坂本健一『世界最古史：全』(世界歷史大系附錄,隆文舘圖書。→大正8年,再版)。) [43137
[＊大正7] 長瀨鳳輔『ナポレオン：全』(英傑傳叢書6,實業之日本社) [43138
[＊大正7] 木村鷹太郎譯『バイロン傑作集』(後藤出版部) [43139
[＊大正7] ニイチェ/生田長江譯『黎明』(新潮社) [43140
[＊大正7] ゲーテ/東新譯註『ファウスト』(岩波書店) [43141
[＊大正7] 遠藤利貞『增修・日本數學史』(岩波書店) [43142
[＊大正7] 三上義夫「日本數學史論」史苑3-1,2,3 [43143
[＊大正7] 高野岩三郎「故杉亨二氏と本邦の統計學」國家學會雜誌32-1[43144
[＊大正7] 生田長江他編『新文學辭典：附・藝術家人名辭典』(新潮社)[43145
[＊大正7] 科外教育叢書刊行會編輯部編『内外人名辭典』(科外教育叢書刊行會,科外教育叢書) [43146
[＊大正7] 大島宗治編『袖珍獨和辭典』(飯島書店,成進堂書店) [43147
[＊大正8(1919)] 濱田耕作(青陵)『南歐游記』(大鐙閣。→昭23,再版) [43148

[＊大正8] 和辻哲郎『古寺巡礼』(岩波書店) [43149
[＊大正8] 久米邦武『聖德太子實錄』(丙牛出版社。→1930年,再版。) [43150
[＊大正8] 伊波普猷『沖繩女性史』(小澤書店。→2000年,平凡社ライブラリー371。→2008年,上笙一郎・山崎朋子編『複刻日本女性史叢書・第8巻』クレス出版) [43151
[＊大正8] 英國聖書會社『路加福音書：英和對照』 [43152
[＊大正8] 左近義弼『耶蘇教の初代』(自費) [43153
[＊大正8] 三谷隆正「基督者的教養」福音之使者10,11,12月號 [43154
[＊大正8] 生田春月譯『ゲエテ詩集』(新潮社) [43155
[＊大正8] 生田春月編『泰西名詩名譯集』(越山堂。→昭11年,資文堂) [43156
[＊大正8] 阿部次郎『ニイチェのツァラツストラ解釋並びに批評』(新潮社) [43157
[＊大正8] 宮崎力藏『經濟史より見たる修道院の研究』 [43158
[＊大正8] 中山平次郎「神獸鏡より見たる東西兩文明の接觸」歷史と地理4-5,6 [43159
[＊大正8] 猪狩史山編『奈翁曰く』(弘學舘書店) [43160
[＊大正8] 穂積重遠「國際法學の開祖「グロチウス」」史學雜誌30-9 [43161
[＊大正8] 水谷不倒「仮名草子の挿繪と雛屋立圃」錦繪9月號 [43162
＊[訂正] [大正8] 長瀬鳳輔「古代史に現はれたる巴爾幹[バルカン]半島」歷史地理33-5,6 [6019] [43163
＊[訂正] [大正8] アリストテレース著/木村鷹太郎譯『政治哲学』[英譯E.Walford & W.Elisから重譯](興亡史論2期第6巻,興亡史論刊行會) [6055] [43164
[＊大正8] 藤本了泰「基督教に於ける遁世主義の起源について」歷史地理34-1 [43165
[＊大正8] 柴謙太郎「小國の大商業(フェニキヤ人の商業)」歷史と地理8-5 [43166
[＊大正8] マアフィー/金栗四三・石貫鐵心譯『オリンピック競技法』(菊屋出版部) [43167
＊[訂正] [大正9] M.Kubo(hrsg.)“Lesestücke für höhere schulen:eine Auswahl aus Dr.R. Koebers“Kleinen Schriften””,Iwanami,Tokyo,1920 [43168
＊[訂正] [大正9] 木村鷹太郎『希臘羅馬神話』(日新閣→大11年,南洋堂。→大15年,創造社,教文社) [6118] [43169
[＊大正9(1920)] 木村鷹太郎『日本民族祖先の雄圖』(日新閣) [43170
[＊大正9] 木村鷹太郎『耶蘇教の日本的研究』(二松堂書店) [43171
[＊大正9] 間崎萬里「第十九世紀の文明史及び文明史家(上下)」三田學會雜誌14-9,10 [43172
[＊大正9] 「會津八一(39歳),日本希臘學會設立」(工藤美代子『野の人：會津八一』新潮社,2000年,24-2頁。) [43173
[＊大正9] カニンガム/宮崎力藏譯『西洋經濟史論』 [43174
[＊大正9] A.J.トインビー/村瀬武比古譯『國民性と改造』(慶文堂書店)[43175
[＊大正9] 松本文三郎「エジプト旅行記」史林5-3 [43176
[＊大正9] 岩崎克己「輿地圖編とその原書」歷史地理76-6 [43177

[＊大正9] 織田萬「宗教制度の發達」法學論叢3-1 [43178
[＊大正9] シェンキウィッチ/佐々木孝丸譯『大洪水』(新潮社。→大10・後編) [43179
[＊大正9] トマス・ア・ケンピス著/内村達三郎譯『基督のまねび』(春秋社思想選書,春秋社。) [43180
[＊大正9] ダンテ/古典文學研究會譯『神曲』(三星社) [43181
[＊大正9] ブラウニング/齋藤勇譯『サウル』(岩波書店) [43182
[＊大正9] G.Gissing；野上豐一郎編纂“The private papers of Henry Ryecroft” [再版]Shobunn-do.(→1930年,改版。) [43183
[＊大正9] G.Gissing；with introduction and notes by Shukotsu Togawa“The private papers of Henry Ryecroft”,Ars Bookshop [43184
[＊大正9] レッシング/大庭米治郎譯『賢者ナータン』(岩波書店) [43185
[＊大正9] 中澤臨川『ナポレオンの人格と運命』(大鐙閣) [43186
[＊大正9] ブーリエンヌ/栗原古城譯『奈翁實傳』(玄横社) [43187
[＊大正9] 小泉信三「Thomas Aquinasの利息論」三田學會雜誌14-9 [43188
[＊大正10(1921)] 岡田哲藏『ナポレオン語錄』(千城堂) [43189
[＊大正10] 餘白錄「ナポレオンと文書學校」史學1-1 [43190
[＊大正10] 木村鷹太郎『日本が世界に與へたる世界平和の理想：外に三篇』(日本民族協會,日本民族研究叢書12) [43191
[＊大正10] 木村鷹太郎『世界の三大宴會：天文學史に於け太古日本』(日本民族協會,日本民族研究叢書13) [43192
[＊大正10] 石川三四郎『古事記神話の新研究』(三徳社。→1923年,改訂増補5版。→1924年,改訂増補6。→1933年,改訂増補11。) [43193
[＊大正10] 野村兼太郎「新館紹介 和辻哲郎著 日本古代文化」三田學會雜誌15-4 [43194
[＊大正10] Ernest Renan/綱島梁川譯・安倍能成譯補『ルナン氏耶蘇傳』(三星社) [43195
[＊大正10] 文学「お茶うけ」(岩元禎)讀賣新聞朝刊3月16日付 [43196
＊[訂正] [＊大正10] 鈴木兼吉『詩聖ダンテ』(朝日新聞社) [6397] [43197
[＊大正10] トマス・ア・ケンピス原著/松田承久・三島彊譯述刪正, ヒュ・ゼ・フラス, エドワード・ピカステス序文『聖範』(6版, 日本聖公會出版社。) [43198
[＊大正10] 近松門左衛門著・小林榮子校訂『傑作近松時代淨瑠璃集成』(大同舘書店) [43199
[＊大正10] 田中秀央“Recta latini graecique sermonis pronuntiatio”Kyoto Teikokudaigaku Bungakubu [43200
[＊大正10] 末松謙澄著/末松生子編纂『うきくさのあと』(末松生子) [43201
[＊大正10] 小坂狷二『エスペラント語譯詳註イソップ物語=Fabloj laû ezopo』日本エスペラント社,エスペラント研究叢書3 [43202
[＊大正10] 河島敬藏『英文伊蘇普物語注釋』(文友堂書店) [43203
[＊大正10] ミルトン/今井白楊譯『失樂園物語』(世界名著物語8,上方屋出版部) [43204

[＊大正10]　厨川白村『英詩選釋』(第1巻。キーツ「ギリシャの古甕の賦」) [43205
[＊大正10]　福原麟太郎「寄贈の新刊書・「ペータ文藝復興」田部重治譯」英語青年46-3 [43206
[＊大正10]　ニイチェ/生田長江譯『ツアラトウストラ』(新潮社) [43207
[＊大正10]　生田長江『ニイチェの超人哲學』(大京堂書店) [43208
[＊大正10]　生田長江他『近代文藝十二講』(新潮社。→昭8年,新潮文庫) [43209
[＊大正10]　ゴオチエ/久米正雄譯『クレオパトラの一夜』(新潮社) [43210
[＊大正10]　メレジュコースキイ/米川正夫譯『神々の死』(新潮社。世界の文藝全集) [43211
[＊大正10]　ビュヒアー/權田保之助譯『改刻再版・經濟的文明史論』 [43212
[＊大正10]　エフ・ミユツラーリヤー/鼓常良譯『文化の諸相と其進路』 [43213
[＊大正10]　中島孤島『文化史上に於ける女性と戀愛』(天佑社) [43214
[＊大正10]　ポール・ラフアギュ/高畠素之譯『財産進化論』 [43215
[＊大正10]　レビンスキー/貴島克己譯『財産起源論』 [43216
[＊大正10]　木村鷹太郎『世界の三大宴會：天文學史に於ける太古日本』(日本民像研究叢書13,日本民族協會) [43217
＊[訂正] [大正 10]　後藤守一「海外考古學論著の二、三」考古學雜誌 11-12 [22721] [43218
「考古學的新事實より見たるドリア人の南下」(The Dorian Invasion reviewed in the ligut of some new evidence, by S.Casson,1921.)
「希臘文明の先驅クリート」(Creet,the Forerunner of Greece,by C.H.& H.B. Haws,1916)
「英國に於ける羅馬式陶器窯の一遺跡研究」(A Descriptive Account of the Roman Pottery made at Ashley Rails,New Forest,by Heywood Sumner,1919)
[＊大正 11(1922)]眞田幸憲『私の西洋見物』(正。目黑書店) [43219
[＊大正 11]　眞田幸憲『西洋見物お土産話』(續。目黑書店) [43220
[＊大正 11]　田邊尚雄『文明史上より見たる世界の音樂』(市民大學講座 3,警醒社書店[發賣]) [43221
[＊大正 11]　井野邊茂雄「蘭學者に對する幕末識者の態度」國學院雜誌 28-3 [43222
[＊大正 11]　西村眞次『安土桃山時代』(早稻田大學出版部) [43223
[＊大正 11]　西村眞次『大和時代』(早稻田大學出版部。→1925 年,訂正再版。) [43224
[＊大正11]　木村鷹太郎『日本建國と世界統一の天照大神』(日本民族協會,日本民族研究叢書 14) [43225
[＊大正11]　木村鷹太郎『天地開闢と高天原』(日本民族協會,日本民族研究叢 15) [43226
[＊大正11]　松本芳夫「國民の日本安土桃山時代,西村眞次著,早稻田大學出版部(東西新史乘)」史學1-4 [43227
[＊大正11]　デヰッドソン/小林澄兄譯『世界教育思想史』(金港堂書籍) [43228

[＊大正11]　吉田熊次『本邦教育史概説』(目黒書店)　[43229
[＊大正 11]　久保勉「(獨文)ケーベル先生畧傳」獨逸雜誌 Deutsche Blätter 5 月號(→大 12,思想 23 に轉載)　[43230
[＊大正 11]　阿部次郎『地獄の征服』(ニイチェ等。岩波書店)　[43231
[＊大正 11]　龜井藤太郎『羅甸語獨修』(金剌芳流堂)　[43232
[＊大正 11]　新村出「日英關係圖書展觀志」藝文 13-6,7　[43233
[＊大正 11]　彌富濱[破摩]雄「西詩飜譯の嚆矢」(伊曾保,中島廣足)心の花 26-9　[43234
[＊大正11]　福原麟太郎「寄贈の新刊書・「文學序說」土居光知著」英語青年 47-11　[43235
[＊大正11]　アナトオル・フランス/川崎備寛譯『シルヴエストル・ボナール博士の罪』(冬夏社)　[43236
[＊大正 11]　チャールス・ラム/小松武治譯/上田敏・夏目漱石閲『ラム沙翁物語集』(大鐙閣)　[43237
[＊大正11]　Takeshi Saito & Kochi Doi(with introduction and notes)“Select poems of Percy Bysshe Shelley”研究社出版,研究社英文學叢書　[43238
[＊大正 11]　ダンテ/山川丙三郎譯『神曲・天堂』(警醒社)　[43239
[＊大正 11]　山宮允譯『ブレイク選集』(アルス)　[43240
[＊大正11]　箕作元八『社會主義運動史』　[43241
[＊大正11]　安藤俊雄「羅馬の人口政策」歷史と地理9-1　[43242
[＊大正11]　間崎萬里「A General History of Europe,by J.H.Robinson andJ.H.Breasted with the collaboration of E.P.Smith/History of Europe：Ancient and Medieval, by J.H.Robinson and J.H.Breasted/History of Euorpe：our own times,by J.H.Robinson C.Beard」史學2-1　[43243
[＊大正11]　古塚正治「佛蘭西南部に造られたる羅馬人の偉業」建築雜誌33-4　[43244
[＊大正11]　ハンチングトン/間崎萬里譯『氣候と文明』(→昭和13, 岩波文庫版)　[43245
＊大正11]　松本信廣「氣候と文明、ハンチングトン、間崎萬里譯」史學2-1　[43246
[＊大正11]　野田桂華『イソップ物語』(岡田文祥堂)　[43247
[＊大正11]　田中正『イソップ物語』(春江堂)　[43248
[＊大正11]　Isoppu著；Kawakubo-Kô tuduru;Tozawa-Subaru egaku“Isoppu Monogatari”N.-R.-S.1922,Nippon no rômaji 6 no maki　[43249
＊[訂正] [＊大正11]梅北末初著/福田德三校閲「希臘經思想濟概觀：主としてプラトン及アリストテレズに就て」商學討究2-1 [6679]　[43250
［大正期］　メチニコフ/中瀨古六郎譯『人性論』(古代分)　[43251
［大正期］　柏井園『エペソ書研究』　[43252
［大正期］　賀川豐彦『イエス傳の教へ方』(宗教々育研究叢書1)　[43253
［大正期］　ラルネデ博士述/大宮季貞筆錄『教會史』(出版者不明)　[43254
［大正期］　田村直臣『聖書辭典』　[43255
［大正期］　下村孝太郎『靈魂不滅論』　[43256

［大正期］　ウィリアム・バンクロフト・ヒル著/I.オルトマンス・森田修作共譯『基督之生涯』 [43257
［大正期］　柏井園譯『ニコル・基督傳』 [43258
［大正期］　野邊地天馬『基督傳』 [43259
［大正期］　『木山熊次郎遺稿』（「ファウストに表はれたる哲學的思索」） [43260
［大正期］　桑木嚴翼他十八名『哲學の進歩』 [43261
[＊大正12(1923)]　木村鷹太郎『偉大不思議の繼體天皇(上)』(日本民族協會,日本民族研究叢書16。繼體天皇の大研究) [43262
[＊大正12]　木村鷹太郎『東亞及び全米國の繼體天皇(下)』(日本民族協會,日本民族研究叢書17。繼體天皇の大研究) [43263
[＊大正12]　阿部秀助「國民の日本史「大和時代」,西村眞次著,早稻田大學出版部」史學2-3 [43264
[＊大正12]　バイロン/木村鷹太郎譯『バイロン：評傳詩集』(東盛堂→大13年,東盛堂再版.敎文社・17版・鵜飼文庫) [43265
[＊大正12]　木村鷹太郎『酒の讃美と其の哲學』(鈴木書房) [43266
[＊大正12]　木村鷹太郎『星座と其神話』(東盛堂。→大12年,復刻版,八幡書店。→2001年,復刻版。) [43267
[＊大正12]　石川三四郎『東洋古代文化史談』(書物展望社,不盡書院) [43268
[＊大正12]　箕作元八『ナポレオン時代史』(冨山房。→昭13年,大類伸校訂,冨山房百科文庫版。) [43269
[＊大正12]　日高善一『耶穌傳十講』（日曜世界社, 宗教々育研究叢書4） [43270
［＊大正12］　桑木嚴翼「ケーベル先生について」哲學雜誌438 [43271
［＊大正12］　藤浪由之譯・猪飼春紅繪『新譯イソップ物語』(大古田文英堂) [43272
[＊大正12]　麻生路郎『新譯イソップの話』(藤谷崇文堂) [43273
［＊大正12]　ダンテ/竹友藻風譯『(神曲)地獄界(上)』(文獻書院) [43274
［＊大正12]　ボッカチオ/大澤貞藏譯『十日物語(デカメロン)(上下)』(天佑社) [43275
［＊大正12]　ブラッドリー/鷲山第三郎譯『シエイクスピア悲劇の研究』(内田老鶴圃) [43276
［＊大正12]　ストロング/佐藤清譯『宗教改革の詩人ミルトン』(宗教と文藝叢書7,[下関]福音書舘) [43277
[＊大正12]　福原麟太郎『文學の輪郭』(研究社) [43278
[＊大正12]　福原麟太郎「ジュピター以前の希臘神話」英作文雜誌8-6 [43279
[＊大正12]　小野玄妙『健駄羅の佛教美術』(丙午出版) [43280
［＊大正12］　森口多里・田邊泰編『希臘の文化と建築』（建築文化叢書2-3。→昭和1）[43281
[＊大正12]　エッチ・ヂー・ウェルス/戸川秋骨譯『文化の聖書』(アルス)[43282
[＊大正12]　Takeshi Saito & Rintaro Fukuhara(with introduction and notes)“Select Poems of John Keats”研究社出版,研究社英文學叢書 [43283
[＊大正12]　龜田次郎「露國創刊日露辭典及其編纂者」國學院雜誌29-11 [43284

［＊大正13(1924)］金の星社編『ギリシア神話』（世界少年少女名著大系8, 金の星社）
[43285
[＊大正13]　西村眞次『日本の神話と宗教思想』(早稻田文學パンフレット,春秋社)
[43286
[＊大正13]　西村眞次『文化人類學』(人類學概論1,早稻田大學出版部)　[43287
[＊大正13]　大杉謹一譯『人文主義に基ける補修教育の新研究』(世界教育教授新潮叢書4,モナス社)　[43288
[＊大正13]　坂崎侃『哲學の概念』(大村書店)　[43289
［＊大正13］　木村鷹太郎『酒の讃美と其哲學』（鈴木書店）　[43290
［＊大正13］　中村吉蔵『聖書物語』（春秋社。→大14, 再版）　[43291
［＊大正13］　出隆『神の思ひ：外四篇』（大村書店）　[43292
[＊大正13]　清水正己『商賣世界見物』(誠文堂書店)　[43293
[＊大正13]　木村毅『近代文學に現はれたる神愛・自然愛・人間愛』(早稻田文學パンフレット,春秋社)　[43294
[＊大正13]　山岸光宣『現代の獨逸戯曲』(大村書店)　[43295
[＊大正13]　チャールス・ラム,メリー・ラム著/塩見清・塩見エッサー譯『セキスピア劇二十篇全譯』（3版。東京閣文出版所）　[43296
[＊大正13]　小日向定次郎『英文學史—ドライデン時代よりヴィクトリア王朝初期迄』([京都]文獻書院)　[43297
[＊大正13]　工藤好美『ペイタア研究』(京文社)　[43298
[＊大正13]　厨川白村『象牙の塔を出て』(文會堂書店)　[43299
[＊大正13]　福原麟太郎「寄贈の新刊書・「ペイタア研究」工藤好美氏著」英語青年52-5　[43300
[＊大正13]　福原麟太郎「キイツの詩的態度」觀想3　[43301
[＊大正13]　福原麟太郎『詩心巡禮：バイロンほか二詩人の研究』(研究社)
[43302
[＊大正13]　新津米造『ヂョージ・ギッシング抄』(北星堂)　[43303
[＊大正13]　Gissing,*By the Ionian Sea*,Seigyodo.　[43304
[＊大正13]　Gissing,*The private papers of Henry Rycroft*,Seigyodo.　[43305
[＊大正13]　Gissing,*Extracts from the private papers of Henry Rycroft*,尚文堂[43306
［＊大正13］　エドワード・リットン/大町桂月譯『ポンペイ最後の日(全)』(新潮社世界文藝全集18)　[43307
［＊大正13］　シェンキェヴィッチ/木村毅譯『何處へ行く(上下)』(家庭文學名著選,春秋社) [43308
［＊大正13］　大類伸『ヴェニスとフロレンス』（博文舘）　[43309
［＊大正13］　櫻井鷗村『ナポレオン物語』（丁未出版社）　[43310
［＊大正13］　宮島新三郎「發祥時代の明治文化」（ケーベル等）大日本文明協會編［明治文化發祥記念誌］中　[43311
［＊大正13］　安倍能成『山中雜記』（「『ケーベル博士小品集』を讀む」・「『續小品集』と『冬彦集』と」・「人間としてのケーベル先生」）（→1954年, 角川文庫版）　[43312
[＊大正13]　トマス・ア・ケンピス原著/松田承久・三島彊譯述刪正, ヒュ・ゼ・

フロス, エドワード・ピカステス序文『聖範：完』(5版, 日本聖公會出版社。) [43313
［＊大正13］ 永島忠重『野草』(「ダンテに倣ふて」「ケーベル先生」, 警醒社) [43314
［＊大正13] 中山昌樹『詩聖ダンテ』(新生堂.ダンテ全集9) [43315
［＊大正13] 中山昌樹『ダンテ神曲の研究』(新生堂.ダンテ全集10) [43316
［＊大正13] 中山昌樹『ダンテ神曲物語』(婦人之友社) [43317
［＊大正13] 春秋社譯『イソップ童話』(春秋社) [43318
［＊大正13] 青木茂男・澁谷修繪『新譯イソップ物語』(崇文堂) [43319
［＊大正13］ J.H.Stickney“Aesop's Fables”(訂正再版, 有朋堂書店) [43320
［＊大正13］ 蘆谷重常『童話十講(附・イソップ及びイソップ物語)』大阪毎日新聞社他[共同刊行：東京日日新聞社] [43321
［＊大正13］ 山中商會編『埃及希臘波斯支那古代美術展覽』 [43322
［＊大正13］ 太陽出版社編輯局編『埃及希臘波斯古萄金石大觀』山中商會發賣 [43323
［＊大正13］ 前田三男『西洋音樂十二講』(アルス) [43324
［大正13］ 田中萃一郎「フェレロ氏羅馬盛衰史」史學3-2 [43325
［＊大正13］ 小林愛雄『西洋演劇史』 [43326
［＊大正13］ 松浦嘉一「アリストテレスの『詩學』と英國」英文學研究5 [43327
［大正13］ 高見澤忠雄『オリンピック競技の組織的研究』(トラック篇, フィールド篇。日本青年舘) [43328
［大正13］ アリストテレス/木村鷹太郎譯『政治哲學』(興亡史論第2期第6巻) [43329
［＊大正13］ 「學藝だより 田中美知太郎」東京朝日新聞朝刊9/13 [43330
［＊大正13］ 廣告「大村書店 ヴィンデルバンド著プラトン 出隆・田中美知太郎共譯」東京朝日新聞朝刊11/25 [43331
［大正13?］ 桑田秀延「アウグスティヌスの宗教とその示唆」[福音新報?號] [43332
[＊大正14(1925)]曾我廼家五郎,事和田久一手記『曾我廼家五郎の滑稽世界見物』(井上盛進堂) [43333
[＊大正14] 濱田青陵「私の見た地中[海]の沿岸」地球3-1 [43334
[＊大正14] 寺田貞次「地中[海][紀]行渡歐日[記](第八信)」地球3-4 [43335
[＊大正14] 石井柏亭『美術と自然 滯歐手記』(中央美術社) [43336
[＊大正14] 宮島貞亮「歐洲文明史,松本芳夫譯」史學4-3 [43337
[＊大正14] 石川三四郎『東洋文化史百講』(上巻,育生社。大14-19年,全3巻,育生社弘道閣。) [43338
［＊大正14］ 荒木千里「希臘神話物語(1-3)」天界=The Heavens5-49,50,51 [43339
［＊大正14］ 金の星社編『ギリシア英雄物語』(世界少年少女名著大系18,金の星社) [43340
［＊大正14］ 野口鶴編『ギリシャ英雄傳』(課外讀本學級文庫, ヨウネン社) [43341
［＊大正14］ 高木敏雄『日本神話傳說の研究』(岡書院。→1936年,3版。→1943年,荻原星文堂。→1943年,再版。) [43342

［＊大正14］　木村毅「雑學問答」（同『文藝東西南北』所収,新潮社,1926年。）[43343
［＊大正14］　木村毅『世界文学の輪郭』（文藝入門叢書1,新潮社)　[43344
［＊大正14］　木下杢太郎「古典復活禮讃」明星7-5　[43345
［＊大正14］　文學「晴雨計」（河野與一）讀賣新聞朝刊9/11　[43346
［＊大正14］　出版界「哲学 田中美知太郎」東京朝日新聞朝刊4/19　[43347
［＊大正14］　ウンターマン『哲學思想の史的考察』（改造社）　[43348
［＊大正14］　山本光郎「神聖羅馬帝國, 占部百太郎譯」史學4-1　[43349
［＊大正14］　吉野作造「明治初期政治学關係文献概目」國家學會雜誌39-12　[43350
［＊大正14］　東海散士『佳人之奇遇』（聚芳閣）　[43351
［＊大正14］　長谷川誠也「新聞雜誌と海外文學の飜譯」早稻田文學229　[43352
［＊大正14］　荒木幸太郎「明治初期の飜譯書に就いて」書物往來2-2　[43353
［＊大正14］　柳田国男『海南小記』（大岡山書店。→1940年,創元社。→1941年,創元選書）[43354
［＊大正14］　關根正直遺註『近松名作選：標注』（明治書院）　[43355
［＊大正14］　馬場直美『通俗泰西文藝名作集』（帝國講學會）　[43356
［＊大正14］　楠山正雄編・武井武雄畫『イソップものがたり』（冨山房, 畫とお話の本）　[43357
［＊大正14］　太田聽南『イソップ童話飛双六』（小學舘）　[43358
［＊大正14］　中側紅果『新訳イソップ物語』（日本兒童文庫3,日本出版社）[43359
[＊大正14]　『イーソップ寓話集,フェードルス寓話集,ゲスタ・ロマノールム,ペンタメロ,伊太利童話集』世界童話大系1,世界童話大系刊行會)　[43360
［＊大正14］　中井宗太郎編『希臘藝術』（美術圖書出版部, 歐洲藝術精華・第2編）[43361
［＊大正14］　意匠美術寫眞類聚刊行會編輯『希臘瓶繪集』（洪洋社, 意匠美術寫眞類聚・第1期第3輯）[43362
［大正14?］　アグネス・コワレス(Agnellus,Kowarz?)『神の思想』(希臘宗教思想等)　[43363
[＊大正14]　福原麟太郎「ヂョオヂ・ギッシング論の一つ」英語研究18-8[43364
[＊大正14]　ダンテ/中山昌樹譯『新生・詩集』(ダンテ全集4,新生堂,　[43365
［＊大正14］　蘆谷蘆村『神曲物語 : こどものダンテ』（日曜學校文學部）　[43366
［＊大正14］　クヰラ・クウチ/課外讀物刊行會譯『シエクスピア史劇物語』（課外讀物刊行會）[43367
［＊大正14］　高橋誠一郎「「ユートピア」島より「新アトランチス」島への移動」三田學會雜誌19-3　[43368
［＊大正14］　森口多里・木村幸一郎編『ビザンチン文化と建築』(建築文化叢書5,洪洋社)　[43369
［＊大正14］　井上一之『西洋建築史』(中央工學會。→1933年,8版)　[43370
［＊大正14］　野尻抱影『星座巡禮』（研究社）　[43371
［＊大正14］　廣瀬渉編『獨羅和譯掌中 醫學新辭典』（金原商店）　[43372

［＊大正14］　廣瀬渉・橋本節齋『醫學藥學大辭典』（金原商店）　[43373
［大正?昭和?］　高瀬無絃『少年基督傳』　[43374
［大正?昭和?］　松村介石原著『松村介石』(自傳)　[43375
[＊昭和1(1926)]　Shinji Nishimura『Ancient rafts of Japan』(Society of Naval Architects) 日本古代船舶研究 pt.4 [43376
[＊昭和1(大正15)]西村眞次『文化移動論』(エルノス。→1930年,ロゴス書院。→1936年,李寶瑄譯, 商務印書舘。→1989年,東西方文化研究影印文庫1,上海文化出版)　[43377
[＊昭和1]　松本芳夫「文化移動論,西村眞次著,エルノス出版」史學5-3　[43378
[＊昭和1]　白鳥省吾編輯『工學博士辰野金吾傳』(辰野葛西事務所)　[43379
[＊昭和1]　Parley/trans.& annt.by T.Kita『Parley’s nuiversal history(Europe)』(武田芳進堂) [43380
[＊昭和1]　新村出「逍遙博士より得たる感銘」(百合若大臣。『新村出全集・第8巻』所収,筑摩書房,1972年刊。)　[43381
[＊昭和1]　谷川磐雄『民俗叢話』(坂本書店)　[43382
[＊昭和1]　田中淸一『彷徨へる希獵の神々：詩集』（同人社出版, 詩神社）　[43383
[＊昭和1］　スペングラー/村松正俊譯『形態と實在』（「西洋の没落」第1巻, 批評社) [43384
[＊昭和1］　佐久間秀雄編輯『西洋の沒落/スペンギラー, 次の戰爭/ベークレス, 科學的人文主義/ストッダード, 三民主義/孫文』(日本讀書協會會報70, 日本讀書協會日本讀書協會)[43385
[＊昭和1］　松山高吉『聖書日本譯概言』　[43386
[＊昭和1］　大澤章『永遠を刻むこころ』（イタリア紀行）　[43387
[＊昭和1］　エルンスト・トレルチ/菅圓吉譯『宗教哲學及宗教學の本質』（大村書店。→1933年, 普及版。）[43388
[＊昭和1］　佐藤武編『ハウプトマン物語；芥川龍之介物語；トルストイ物語；平家物語；ギリシャ神話物語；謠曲狂言物語；シエクスピア物語；菊池寛物語；アンデルセン物語』文教書院, 大阪寶文舘［發賣］, 南海書院［發賣］, 世界名作物語讀本1　[43389
[＊昭和1］　ラム原著/八住俊雄譯『原文譯註シェークスピア研究=The four Interesting tales from Lamb’s“Tales from Shakespeare”』（泰文舘。→昭7年, 普及版）[43390
[＊昭和1］　ギュスタヴ・ドレイ畫/中山昌樹編『ダンテ神曲畫集』（新生堂。→昭7,奉仕版。→昭17,改版4版）　[43391
[＊昭和1］　松山敏譯『ダンテ名詩小曲集』（綠蔭叢書,［東京府］綠蔭社)[43392
[＊昭和1］　ダンテ/河原萬吉等譯『神曲（上）』（萬有文庫, 萬有文庫刊行會）　[43393
[＊昭和1］　ミルトン/帆足理一郎譯『失樂園（上）』（新生堂）　[43394
[＊昭和1］　中村喜代三「江戸幕府の禁書政策（上中下）」史林2,3,4　[43395
[＊昭和1］　鈴木券太郎「『萬國公法』［西周］上梓につきて」新舊時代1-6[43396

[＊昭和1］　岡本良知譯「エウオラ圖書舘藏アジア地圖四葉に就きクリストワン・アイレス氏の解說」書誌2-1 [43397
[＊昭和1］　「南蠻紅毛號」新小說? [43398
[＊昭和1］　新刊紹介「プラトン(田中美知太郎譯)」讀賣新聞朝刊1/24 [43399
[＊昭和1］　木村毅・相田隆太郎『世界宗教十六講』(新潮社) [43400
[＊昭和1］　木村鷹太郎『希臘羅馬神話』(創造社, 教文社) [43401
[＊昭和1］　木村鷹太郎『オノコロ島及び國生み神生み』(日本民族協會,日本民族研究叢書17)[43402
[＊昭和1］　勝俣銓吉郎「『江戸ハルマ』に就て」新舊時代2-2 [43403
[＊昭和1］　上原敬二「歐洲庭園史 農學博士岡本茂武著」造園學雜誌2-12 [43404
[＊昭和1］　グリツフイス/佐々木孝丸・松村武雄譯『ラ・フオンテーヌ寓話集/ペロー童話集/和蘭童話集』(世界童話大系9,世界童話大系刊行會) [43405
[＊昭和1］　田中淸一『彷徨へる希臘の神々：詩集』(同人社出版, 詩神社) [43406
＊[訂正][昭和1］　北原義雄・一氏義良編『希臘彫刻集』(昭2刊?) [7704] [43407
＊[訂正][昭和1]　永井潛「學術發達史より觀たる中世紀」哲學雜誌471 [7580][43408
＊昭和1-2］　近松門左衛門作・日本名著全集刊行會編『近松名作集(江戸文藝之部)』(百合若大臣)[43409
[＊昭和1］　近松門左衛門作・關根正直校訂『國姓爺合戰：百合若大臣野守鏡』冨山房, 新型名著文庫 [43410
[＊昭和1］　日本名著全集刊行會編『近松名作集(上下)』(日本名著全集：江戸文藝之部4-5巻, 日本名著全集刊行會)[43411
[＊昭和1］　大阪每日新聞社『ゆり若大じん』(珍書大觀, 金平本全集) [43412
[＊昭和1]　岡本保孝『況齋解題書目』(伊曾保物語。書寫者不明) [43413
[＊昭和1]　宮島新三郎『明治文學十二講』(新詩壇社) [43414
[＊昭和1］　松村介石『信仰五十年』 [43415
[＊昭和1]　ケー・イー・アウレル『聖書和譯の歷史と聖書協會：米國聖書協會日本支社創立滿50周年記念』(米國聖書協會) [43416
[＊昭和1］　エ・ラゲ譯『聖福音書と使徒行錄』(公教會) [43417
[＊昭和1］　田口芳五郎「大學教育に於けるカトリックの理想(1)(2)(3)」カトリック6-1,2,3 [43418
[＊昭和1］　加藤仁平『和魂洋才說』(培風館, 日本教育思想史の研究1) [43419
[＊昭和1］　兒玉花外『ナポレオン』(少年教育偉人英雄傳叢書10,朝日書房) [43420
[＊昭和1］　大類伸『永久の都羅馬』 [43421
[＊昭和1］　下位春吉編『死都ポンペイを訪ふために：附・ナポリ市內と郊外の見物』(→昭12,日本郵船版) [43423
[＊昭和1］　宇佐見勝夫編『世界文學讀本(1-3巻)』(ポンペイ最後の日, 東亞書院) [43424
[＊昭和1]　Ch.Stickney“Aesop’s Fables : with a life of Aesop”(興文社編輯所編)

(訂正版)　[43425
[＊昭和1]　太田原在文『十大先覺者傳』(栗本鋤雲,東京日々新聞社,大阪毎日新聞社)　[43426
[＊昭和1]　太田黒克彦・岡田七藏繪『ひらがないそっぷ』(文園社)　[43427
[＊昭和1]　Hidenaka Tanaka“Grammatica Latina”(Iwanami)　[43428
[＊昭和1]　元田作之進『基督教概説』(總合大學講座7,聖山閣)　[43429
[＊昭和1]　山本秀煌『新日本の開拓者ゼー・ヘボン博士』　[43430
[＊昭和1]　金子馬治「文藝哲學思潮篇」(萬朝報社)新日本3　[43431
[＊昭和1]　福原麟太郎『近代の英文學』(研究社)　[43432
[＊昭和1]　福原麟太郎「寄贈の新刊書・「ブルック英文學史」石井誠譯」英語青年54-10　[43433
[＊昭和1]　福原麟太郎「寄贈の新刊書・「星座巡禮」野尻抱影著」英語青年55-1　[43434
＊[訂正] [＊昭和1]不破祐俊「プラトンの社會學的思想」商業と經濟(長崎高等商業學校)8-2　[8483]　[43435
[＊昭和1]　ペーター/工藤好美譯『享樂主義者メイリアス(上)』(國民文庫。→昭2・下巻)[43436
［＊昭和2(1927)］福井英一郎「エーゲ海諸島の變遷」地理學評論3-6　[43437
［＊昭和2］　平林松雄・木村一郎・高木敏雄『世界名著解題』(太陽堂書店)　[43438
［＊昭和2］　一氏義良『西洋文明史』(兒童圖書舘叢書30,イデア書院)　[43439
［＊昭和2］　田口卯吉著：鼎軒田口卯吉全集刊行會編輯『文明史及社會論』(鼎軒田口卯吉全集2,大島秀雄)　[43440
［＊昭和2］　ルゥドルフ・オットー/山谷省吾譯『聖なるもの』(基督教名著集2,イデア書院,玉川學園出版部)　[43441
［＊昭和2］　横山千代・平賀輝男え『ギリシヤ神話 イリアッド物語』(世界少年少女名著大系 新4, 金の星社)[43442
［＊昭和2］　高野辰之「幸若舞曲研究」(新潮社「日本文學講座」第5巻)[43443
＊[訂正] [昭和2]島津久基「『天狗の内裏』と『イニード』--牛若丸地獄極樂廻傳說とイーニアス傳說」(新潮社「日本文學講座」第11巻)　[8412]　[43444
［＊昭和2］　島津久基『近古小說選』(中興舘)　[43445
＊[訂正] [昭和2] バルフィンチ著/野上彌生子譯『希臘羅馬神話時代(傳說の時代)』岩波文庫(→昭17年,「ギリシア・ローマ神話[改譯版],岩波文庫。→昭28年,改訳「附：印度・北欧神話」[2分冊],岩波文庫。→昭34年,岩波少年文庫78。→昭36年,岩波少年少女文学全集1。→昭53年,改版[1册],岩波文庫。→昭58年,岩波クラシックス24「ギリシア・ローマ神話」,岩波書店。)　[7868]　[43446
[＊昭和2]　吉田九郎編『高等現代文選集』(夏目漱石「ケーベル先生」,光成館書店)　[43447
[＊昭和2]　Mary Macpherson;with translation and notes by K.Otsuki“Stories from

Dante”英文世界名著全集刊行所,World’s Classics in English 27(→1929年,英文學社刊) [43448
[＊昭和2] ダンテ著/マクファーソン英譯・大槻憲二譯註『神曲物語』(英文Stories from Dante英文世界名著全集27,英文世界名著全集刊行會) [43449
[＊昭和2] ダンテ/河原萬吉[他]譯『神曲（天國篇）：詩集・新生』（萬有文庫刊行會，萬有文庫2）[43450
[＊昭和2] 須貝止『魂の巡禮』(聖アウガステン,トマス・ア・ケンピス。日本聖公會出版社。) [43451
[＊昭和2］ ミルトン/帆足理一郎譯『失樂園（下）』（新生堂） [43452
[＊昭和2］ 尾關岩二『ミルトン研究』（スキア書院） [43453
[＊昭和2］ 畔上賢造『ミルトン研究・第1篇』（警醒社） [43454
[＊昭和2］ 高橋五郎・栗原古城譯『モンテーヌ隨筆集（上下）』（再版, 世界名作大觀 各國篇12,13,國民文庫刊行會。→昭3）[43455
[＊昭和2］ 伊藤政之助『名將奈破崙の戰略と外交』（同文舘） [43456
[＊昭和2] リザヤノフ/青野季吉譯『マルクス・レーニン傳』 [43457
[＊昭和2] 西村眞次『發明發見物語』(日本兒童文庫41,アルス。→1982年,復刻版,名著普及会) [43458
[＊昭和2] 西村眞次『神話學概論』(文化科學叢書4,早稻田大學出版部)[43459
[＊昭和2] 中山太郎『賣笑三千年史』(春陽堂) [43460
[＊昭和2] 三島敦雄『天孫人種六千年史の研究』(スメル學會。→1928年,再版。) [43461
[＊昭和2] 大隅爲三『希臘美姫傳』(國際文獻刊行會,世界奇書異聞類聚7) [43462
[＊昭和2] 下中彌三郎編輯『世界美術全集』(平凡社。→昭5年.) [43463
[＊昭和2] プラトン/久保勉等譯『ソクラテスの辯明・クリトン』（岩波文庫） [43464
[＊昭和2] プラトン/菊池慧一郎譯『プロラゴラス』（岩波文庫） [43465
[＊昭和2] 田中耕太郎「ソフィストと我が國の現代思潮」社會經濟體系[43466
[＊昭和2] 蘆川忠雄『面白くて爲になるイソップ修養講話[30話 解說史談]』(下村書房) [43467
[＊昭和2] 菊池寛譯編『イソップ童話集』(小學生全集3,興文社・文藝春秋社,) [43468
[＊昭和2] 菊池寛責任編輯『古今東西乘物讀本』(興文社・文藝春秋社,小學生全集22) [43469
[＊昭和2] 土岐善麿『春歸る』(「町のイソップ」,人文會出版部) [43470
[＊昭和2] 岡田希雄『東勝寺鼠物語』(書寫本) [43471
[＊昭和2］ 大類伸『美術をたづねて：伊太利みやげ』（博文舘） [43472
[＊昭和2］ 神原甚造「1822年刊藤林淳道著(?)BASTAARDT WOORDEN-BOEK」新舊時代3-3 [43473
[＊昭和2］ 山岸光宣「大學南校と獨逸學」學燈41-1 [43474
[＊昭和2］ 山岸光宣「幕末の獨逸學」圖書舘雜誌31-1 [43475

[＊昭和2］　山岸光宣「幕末の獨逸學」中外醫事新報1245　[43476
[＊昭和2］　山岸光宣「明治以前の獨逸學」中外醫事新報1248　[43477
＊昭和2]　齋藤勇『思潮を中心とせる英文學史』(研究社)　[43478
[＊昭和2]　スイフト/野上豐一郎譯・ラム/平田禿木譯『ガリヴァの旅；沙翁物語』(世界名先大観・各国篇11,国民文庫刊行會) [43479
[＊昭和2]　福原麟太郎「寄贈の新刊書・「アセンスのタイモン(Shalespeare : Timon of Athens)坪内逍遙氏譯」英語青年56-11　[43480
[＊昭和2]　福原麟太郎「新刊紹介・「イエイツ研究」尾島庄太郎著」英語青年58-4　[43481
[＊昭和2]　福原麟太郎「西洋の批評文學」(アリストテレス)牧人4-10　[43482
[＊昭和2]　石井研堂「明治初期に出版したる英和辭書類」新舊時代3-2　[43483
[＊昭和2］　Hidenaka Tanaka“Graecae grammaticae rudimenta in usum scholarum” Iwanami　[43484
[＊昭和2］　日本日曜學校協會文學委員編纂『キリスト物語・中等科教案 第1,2學期分』（1册）　[43485
[＊昭和2］　日本日曜學校協會文學委員編『イエス傳・高等科教案 第1,2學期分』（1册）　[43486
[＊昭和2］　上澤謙二『天より火を降らせた人の話』(昭陽堂書店, 聖書物語文庫11）　[43487
[＊昭和2］　藤井武『イエスの生涯とその人格』　[43488
[＊昭和2］　賀川豐彦『キリスト山上の垂訓』　[43489
[＊昭和2］　英國聖書協會『我らの主なる救主イエス・キリストの新約聖書：英和對譯』　[43490
[＊昭和2］　三谷隆正「東都書齋便り」地塩12月號　[43491
[＊昭和2］　三谷隆正「經驗の書物(英文“A Theory of Common Sense”)」ジャパン・クリスチャン・インテリゼンサー9月號 [43492
[＊昭和2］　原田慶吉『羅馬法』（東大ノート交換クラブ）　[43493
＊[訂正] [昭和2]　春木一郎「儒帝勅法彙纂制定に關する勅諚三篇及儒帝法を伊太利に勅諚邦譯」法學新報37-8　[43494
[＊昭和2］　野尻抱影『星座めぐり』（研究社）　[43495
[＊昭和2］　石川寅吉『古今東西乘物繪本』（小學生全集22,文藝春秋社)　[43496
[＊昭和2］　桑木彧雄「我國宇宙論の發達」文藝春秋5-3　[43497
[＊昭和2]　橋本吉郎『英獨羅和化學用語新辭典』(太陽堂書店)　[43498
[＊昭和3(1928)]　松本芳夫「神話學概論,西村眞次著,早稻田大學出版部」史學7-1　[43499
［＊昭和3］　島津久基『近古小說新纂』（中興舘）　[43500
[＊昭和3]　笠信太郎『シュペングラーの歴史主義的立場』(同文舘)　[43501
[＊昭和3]　小林秀雄「古文書學の建設者ジャン・マビヨンと其著デ・レ・ヂプロマチカ」史苑1-3　[43502
[＊昭和3]　清原貞雄『日本史學史』(中文舘)　[43503
[＊昭和3]　山本光郎「日本史學史,清原貞雄, 中文舘發行」史學7-3　[43504
[＊昭和3]　木村毅『明治文學展望』(改造社)　[43505

[＊昭和3]　木村鷹太郎『一天四海五大洲の大日蓮』(教文社。→昭60年,復刻、八幡書店)　[43506
[＊昭和3]　稲毛詛風『歐洲文化の印象と批判』(南歐旅行。大同舘書店) [43507
[＊昭和3]　和田仙太郎「羅馬より」同窓會報18　[43508
[＊昭和3]　木代修一「江戸時代の西洋學」歷史教育3-5　[43509
[＊昭和3]　水木梢『日本數學史』(教育研究會)　[43510
[＊昭和3]　澤田吾一『日本數學史講話』(刀江書院)　[43511
[＊昭和3]　高木菊三郎「我邦に於ける地球儀の歷史」科學知識8-11　[43512
[＊昭和3]　增田廉吉「德川幕府と外來思想並に書籍輸入の方針に就いて」(長崎文獻社編)長崎談叢1　[43513
＊[訂正] [昭和3] 新村出・解說「前野良澤「西洋畫賛譯文稿」(海表叢書6中。→昭和47刊新村全集・第8,所収,筑摩書房)　[8413]　[43514
[＊昭和3]　澁澤篤太夫『航西日記』(『澁澤榮一滯佛日記』所収,日本書籍協會　[43515
[＊昭和3]　斯波義慧「哲學會史料」哲學雜誌500　[43516
[＊昭和3]　高木武・芳賀檀編『芳賀八一遺著』(日本文獻學)(富山房)　[43517
[＊昭和3]　岡田希雄「東勝寺鼠物語と幸若舞の曲名」國語國文の研究21[43518
[＊昭和3]　M.Sato(with trans.& notes)“Aesop’s Fables”(英文學社,World’s Classics in English 4)　[43519
[＊昭和3]　ダンテス・デ・アリグリイス/竹村眞手雄譯『ダンテ集』(袖珍世界文學叢書7,中央出版社)[43520
[＊昭和3]　トマス・ア・ケンピス/内村達三郎譯『イミターショ・クリスチ：基督のまねび』(岩波文庫)　[43521
[＊昭和3]　青木巖「デカルトからヴィコへ」哲學4　[43522
[＊昭和3]　ゲーテ/生田長江譯『わが生涯より：作爲と眞實(前後)』(聚英閣)　[43523
[＊昭和3]　薗田香勳「ゲーテの楽天主義に就いて」龍谷大學論集278　[43524
[＊昭和3]　B.G.Niebur(übers.u.erläut.von Masakazu Sakuma)“Greichische Heroen-geschichiten”,Nanzando’s Sammelung deutscher Schlausgaben 21　[43525
[＊昭和3]　B.G.Niebur“Greichische Heroengeschichiten”,獨和對譯獨逸國民文庫5,Nanzando　[43526
[＊昭和3]　菊池寛編『世界童話集(上下)』(小學生全集9,10,興文社・文藝春秋社)　[43527
[＊昭和3]　菊池寛編『宗教童話集』(小學生全集11,興文社・文藝春秋社) [43528
[＊昭和3]　菊池寛譯編『外國文藝童話集(上下)』(小學生全集17,18,興文社・文藝春秋社)　[43529
[＊昭和3]　東京高等師範學校附屬中學校國語漢文研究會編『新定國文讀本參考書・巻3』(夏目漱石「ケーベル先生」,目黒書店) [43530
[＊昭和3]　都田恒太郎『舊約の人物』(文川堂)　[43531
[＊昭和3]　永井直治(和)譯『新契約聖書』(挺身會。→昭7,再版。)　[43532
[＊昭和3]　[ロベルト・ステハヌス編]永井直治譯『新契約聖書』(日本聖書株式會社→昭11,再版。)　[43524

[＊昭和3］　上澤謙二『イエス・キリストの話』(昭陽堂書店, 聖書物語文庫20-21) [43525
[＊昭和3］　上澤謙二『獅子を降参させた人の話』(昭陽堂書店, 聖書物語文庫16) [43526
[＊昭和3］　上澤謙二『大傳道者の話』(昭陽堂書店, 聖書物語文庫23) [43527
[＊昭和3]　シュルベン・プスケ『聖母マリアの傳圖解』(ギリナン。→昭11年, 再版) [43528
[＊昭和3］　賀川豐彦『キリスト一代記』 [43529
[＊昭和3]　田口芳五郎「聖傳に就いて(1)(2)」カトリック8-8,9 [43530
[＊昭和3]　奥平武彦「日本譯聖書初期文獻雜考(2)」明治文化研究4-12 [43531
[＊昭和3]　パスカル/柳田泉譯･オーガスチン/宮原晃一郎譯『世界大思想全集4—隨感錄・懺悔錄』(春秋社) [43532
[＊昭和3］　ア・ケンピス/内村達三郎譯『イミターショ・クリスチ：基督のまねび』(岩波文庫。→昭8, 春秋社文庫版。→昭15,トマス・ア・ケンピス,春秋社思想選書。→昭21,春秋社,「基督のまねび：イミターショ・クリスチ」。→昭22, トマス・ア・ケンピス,春秋社思想選書。→昭24,ア・ケンピス『基督のまねび』大思想選書, 春秋社) [43533
［＊昭和3］　菅圓吉「カテキとエラスムスに關する一疑義」史苑1-1 [43534
[＊昭和3]　(大阪)中尾松泉堂飜刻覆製本『耶蘇興廢年表』 [43535
[＊昭和3］　天沼俊一『埃及紀行』 [43536
[＊昭和3］　澤田謙『ムソリニ傳』 [43537
[＊昭和3］　司馬亨太郎「日本に於ける獨逸語教授史」新ドイツ語講座・第?輯 [43538
[＊昭和3]　シェイクスピア/齋藤勇編注“Hamlet and Julius Caeser”(山陽堂) [43539
[＊昭和3]　福原麟太郎「新刊紹介・「星座めぐり」野尻正英(抱影)著」英語青年58-9 [43540
[＊昭和3]　福原麟太郎「新刊紹介・「ペリクリーズ(Shakespear：Pericles)坪内逍遙譯」英語青年59-4 [43541
[＊昭和3]　福原麟太郎「新刊紹介・「ジェスタ・ローマノーラム(全譯)金子健二譯」英語青年59-4 [43542
[＊昭和3]　H.D.「工藤氏PATER論：『ウォルター・ペイタア』,工藤好美著, 岩波書店」英文學研究8-3 [43543
[＊昭和3]　Gissing/山田惣七譯註『秋の田園』(青年英文學研究叢書3,泰文堂) [43544
[＊昭和3］　プラトーン/村松正俊譯『國家』(春秋社版『世界大思想全集1』［デカルト「感情論」と合本］所収) [43545
[＊昭和3］　レオン・デュギー/木村龜二譯『國家變遷論』 [43546
[＊昭和3］　大塚金之助「マルクス・エンゲルス全集」商学研究7-2 [43547
[＊昭和3］　高橋誠一郎「アリストォテレース經濟學の疑點 福田博士の「アリストォテレースの『流通の正義』=マルクスの其解釋に關する疑」(其三)中に現はれたる拙稿「アリストテ

レース經濟學」の批評に就いて」三田學會雜誌22-1 [43548
[＊昭和3] 高橋誠一郎「「アリストテレスの『流通の正義』=マルクスの其解釋に關する疑」(其三)中に於ける福田博士の拙稿に對する批難に就いて」三田學會雜誌22-3 [43549
[＊昭和3] 高橋誠一郎「古代希臘の貨幣思想に就きて」三田學會雜誌22-7 [43550
[＊昭和3] 山口正太郎「希臘現代の經濟學」經濟論叢27-1 [43551
[＊昭和3] 石川寅吉『西洋偉人傳』(小學生全集44,文藝春秋社) [43552
[＊昭和3] 高橋學而他『兒童物理科學物語』(小學生全集61,文藝春秋社) [43553
[＊昭和3] 國元東九郎『算術の話』(小學生全集73,文藝春秋社) [43554
[＊昭和3] 神田豐穗『思想家人名辭典』(春秋社, 大思想エンサイクロペジア。→昭6年,春秋社思想辭典。→昭6年,龍文社。→2011年,学術出版会,日本図書センター[発売]、学術アーカイブズ,学術辞典叢書) [43555
[＊昭和3] 神田豐穗『經濟學辭典』(同上) [43556
[＊昭和3] 神田豐穗『文藝辭典』(同上) [43557
[＊昭和3] 神田豐穗『哲學辭典』(同上) [43558
[＊昭和3] 神田豐穗『社會辭典』(同上) [43559
[＊昭和3] 神田豐穗『文藝思潮』(同上) [43560
[＊昭和3] 神田豐穗『自然科學』(同上) [43561
[＊昭和3] 神田豐穗『社會學』(同上) [43562
[＊昭和3] 神田豐穗『經濟學』(同上) [43563
[＊昭和3] 神田豐穗『政治思想』(同上) [43564
[＊昭和3] 神田豐穗『哲學』(同上) [43565
[＊昭和3] 橋本節齋『獨羅和 醫學十五萬辭典』(金原商店) [43567
[＊昭和4(1929)] 小泉信三「近刊のマルクス傳二種」三田學會雜誌23-5 [43568
[＊昭和4] 菅原憲「カール大帝時代の文化とその特徴」大谷學報10-4[43569
[＊昭和4] 寺門咲平『佐久間象山』(大峰書房) [43570
[＊昭和4] 呉秀三「洋學の發展と明治維新」(史學會編『明治維新史研究』所収,冨山房) [43571
[＊昭和4] 『文學博士三宅米吉著述集』(目黒書店) [43572
[＊昭和4] 牧野信之助「世界圖並に南蠻人渡來屏風圖に就て」(朝日新聞社編刊『開國文化』所収) [43573
[＊昭和4] 岡野他家夫「蕃書取調書覺へ書」明治文化5-11 [43574
［＊昭和4］ 木村鷹太郎『日本民族東漸史』(訂正再版,)日本民族研究叢書20,日本民族協會) [43575
[＊昭和4] 木村鷹太郎『天孫降臨の世界的研究,世界的意義』(日本民族協會,日本民族研究叢書21。) [43576
[＊昭和4] 小谷部全一郎『日本及日本國民之起原』(厚生閣。→1933年,普及版。) [43577

[＊昭和4]　林癸未夫氏講「西洋思想の日本化」(市立名古屋圖書舘講演集7, 市立名古屋圖書舘(→昭7年,章華社版)。)　[43578
[＊昭和4］　大塚武松編『遣外使節日記纂輯』(野澤郁太『遣歐使節航海日錄』, 日本史籍協會。→昭5)　[43579
[＊昭和4］　尾佐竹猛『幕末遣外使節物語：夷狄の國へ』(萬里閣書房。→1989年,講談社学術文庫版。→1989年,岩波文庫版)　[43580
[＊昭和4］　川島信太郎述・啓明會編『希臘事情』(啓明會, 講演集32)　[43581
[＊昭和4］　Charels Kingsley/武井亮吉譯註『The Heros=希臘英雄傳』(研究社,研究社英文譯註叢書) [43582
[＊昭和4］　本枝增一編『明治大正文學選集(下)』(夏目漱石「ケーベル先生」, 星野書店)　[43583
[＊昭和4］　田中耕太郎「「教養」と「文化」の時代—明治大正思想史の一斷面」(ケーベル)綠會雜誌3 [43584
[＊昭和4］　三谷隆正「道」・「富める青年の話」・「幸福論」(『問題の所在』所収) [43585
[＊昭和4］　榎本秋村『英雄研究ナポレオン秘史』(再版, 日本書院)　[43586
[＊昭和4］　今井登志喜『外國歷史物語』(小學生全集35,文藝春秋社)　[43587
[＊昭和4］　小學生全集編輯部編『世界一周旅行』(小學生全集56,文藝春秋社) [43588
[＊昭和4］　間崎萬里「埃及紀行、天沼俊一著」史學8-1　[43589
[＊昭和4］　間崎萬里「コリングウッドの『ブリタニヤとローマ帝國』」史學8-3　[43590
[＊昭和4］　コリニョン/富永惣一譯『パルテノォン』(岩波書店, 美術叢書7) [43591
[＊昭和4]　折口信夫「壱岐民間傳承探訪記」(1929年)(『折口信夫全集・第15巻』所収,中央公論社,1967年。) [43592
[＊昭和4］　長沼賢海編『南蠻文集』(イソップ)　[43593
[＊昭和4］　金の星社編『イソップ物語：繪入』(世界少年少女名著大系11) [43594
[＊昭和4］　近代社編『イーソップ寓話集』(世界童話全集)　[43595
[＊昭和4］　近代社編『フランス童話集』(イソップ, ラ・フォンテーヌ, 世界童話全集)　[43596
[＊昭和4］　ダンテ/生田長江譯『神曲』(世界文學全集1,新潮社)　[43597
[＊昭和4］　ダンテ/山川丙三郎譯『新生』(岩波書店)　[43598
[＊昭和4］　ボッカチョ/梅原北明譯『デカメロン(上下)』(成光舘出版部)[43599
[＊昭和4］　T.モーア/守田有秋譯「ユートピア」(平凡社「社會思想全集・第1巻」所収)　[43600
[＊昭和4］　モーア/加藤朝鳥譯「ユートピア(無何有鄉通信記)」(春秋社「世界大思想全集50」[43601
[＊昭和4］　ベーコン/大戸微誠譯「ニュー・アトランティス」(春秋社「世界大思想全集50」)　[43602
[＊昭和4］　犬養健『南京六月祭』(アリストテレス。改造社)　[43603

[＊昭和4］　桑木嚴翼他『特別講座（上下）』（プラトン, 文科大學講座14,15。玉川大學出版部）　[43604
[＊昭和4］　クロオチエ, ヴルフ, バアネット/青木巖譯『ヴイコの哲學, 西洋中世哲學概觀,プラトン哲學體系』（世界大思想全集70, 春秋社）　[43605
＊[訂正][＊昭和4］ニイチェ著/生田長江譯『悲劇の出生, 季節はづれの考察』（ニイチェ全集10,新潮社）　[8751] [43606
[＊昭和4］　栗林茂「ヘーゲルの青年時代」哲學5　[43607
[＊昭和4］　安竹金治譯『失樂園』（ミルトン叢書1,［神戸］採日庵）　[43608
[＊昭和4］　ミルトン/繁野天來譯『失樂園』（世界文學全集5,新潮社）　[43609
[＊昭和4]　Takeshi Saito(ed.)“Poems of John Keats”(Kenkyusha)　[43610
[＊昭和4]　Takeshi Saito“Keats’ View pf poetry；to which is prefixde an essay to English literature in Japan by Edmund Blunden”(Kenkyusha)　[43611
[＊昭和4]　Takeshi Saito“English literature in Japan：a sketch”(Japanese Council, Instituteof Pacific Relations,Western influencesin modern Japan no.9　[43612
[＊昭和4]　福原麟太郎「新刊紹介・「シェークスピア研究栞」坪内逍遙著」英語青年60-9　[43613
[＊昭和4]　Gissing/K.Yamamoto(with trans. & notes),*Spring*,(World’s classics in English,英文學社) [43614
[＊昭和4]　Gissing/Sanki Ichikawa(ed with introduction & notes),*The private papers of Henry Rycroft*,(研究社小英文叢書4,Kenkyusha。→1934年,Rev.ed.)　[43615
[＊昭和4］　Hidenaka Tanaka“Nova grammatica Latina” Iwanami Bibliopolae[43616
＊[訂正] [＊昭和4]奥平武彦「日本譯聖書初期文獻雜考；明治六年維納版邦譯路加傳福音書に就て」明治文化研究1號　[36364]　[43617
[＊昭和4］　上澤謙二譯『マタイのうれしいおしらせ』（子供聖書刊行會）[43618
[＊昭和4］　上澤謙二譯『ルカのうれしいおしらせ』（子供聖書刊行會）　[43619
[＊昭和4］　上澤謙二譯『マルコのうれしいおしらせ』（子供聖書刊行會）[43620
[＊昭和4］　小林鶯里『基督の一生』　[43621
[＊昭和4］　松本卓夫編『イエス研究』　[43622
[＊昭和4］　由木康『イエス傳詩畫集』（日曜世界社）　[43623
[＊昭和4］　由木康『イエスの種々相』　[43624
[＊昭和4］　川俣義一『神の國の使徒—山上垂訓講演』　[43625
[＊昭和4］　トレルチ/松本良彦譯『宗教學に於ける心理學と認識論』哲學論叢21,岩波書店）[43626
[＊昭和4］　松山賤吉「戰爭に關する聖トマスの學說」カトリック9-4　[43627
[＊昭和4］　大久保周八編『世界大雄辯物語集』（山中峯太郎「鎖の使徒パウロの熱辯」・中里次郎「殉教者サボナロラ」）[43628
[＊昭和4］　小林耕輔『西洋音樂史』（イデア書院）　[43629
[＊昭和4］　戸坂潤述・尾崎義夫筆記『哲學概論』尾崎義夫自筆, 文字資料（書写

資料） [43630
[＊昭和4] 神田豐穗『政治・法律辭典』（春秋社, 大思想エンサイクロペジア。→昭6年,春秋社思想辭典。→昭6年,龍文社。→2011年,学術出版会,日本図書センター[発売]、学術アーカイブズ,学術辞典叢書） [43631
[＊昭和4] 神田豐穗『歷史辭典』（同上） [43632
[＊昭和4] 神田豐穗『自然科學辭典』（同上） [43633
[＊昭和4] 神田豐穗『思想用語辭典』（同上） [43634
[＊昭和4] 神田豐穗『思想名著解題』（同上） [43635
[＊昭和4] 神田豐穗『法律學』（同上) [43636
[＊昭和4] 神田豐穗『宗教思潮』（同上) [43637
[＊昭和4] 神田豐穗『美術・音樂』（同上) [43638
［昭和5,6?］ 益本重雄『新編・ベン・ハー物語』 [43640
［昭和5,6?］ 松澤兼人『母性の典型モニカ』（アウグスチヌス） [43641
［昭和5,6?］ 竹村清譯『聖アウグスチヌス恩寵論』 [43642
[＊昭和5(1930)] 西村眞次『日本文化史概論』(東京堂) [43643
[＊昭和5] 西村眞次『人類協同史』(春秋社) [43644
[＊昭和5] 桑木嚴翼『哲學概說』(改造社) [43645
[＊昭和5] プラトン/白根孝之譯『シンポジオン：戀愛論』（アルス） [43646
[＊昭和5] 世界戯曲全集刊行會『世界戯曲全集2—希臘・羅馬篇（希臘・羅馬古典劇集）』(テレンティウス,プラウトス。世界戯曲全集刊行會) [43647
[＊昭和5] 酒井勝軍『神代秘史百話』 [43648
[＊昭和5] 金の星社編『ローマ英雄物語・支那英雄物語・ギリシヤ英雄物語』(金の星家庭文庫,金の星社) [43649
[＊昭和5] 溝口駒造「維新前の外國知識と神道者」神道學雜誌8 [43650
[＊昭和5] 下村三四吉「國史に於ける外國文化攝取と自主的精神」歷史教育5-1,2 [43651
[＊昭和5] 安岡正篤『東西洋思想の特質』(思想研究資料44,海軍省教育局編) [43652
[＊昭和5] 牧野信之助「世界圖屏風考」(『内藤博士頌壽記念史學論叢』所収,弘文堂書房) [43653
[＊昭和5] 菊池寛『明眸禍』(改造文庫第2部127,改造社出版) [43654
[＊昭和5] 菊池寛編『世界童話集』（興文社, 小學生全集16） [43655
[＊昭和5] 菊池寛・齋藤龍太郎編『文藝大辭典』(小峰書店,改訂增補。←昭3年) [43656
[＊昭和5] M.Kuroda(ed.)“Greek Ideals：periods of European civilization”Hirano Shoten [43657
[＊昭和5] 中村吉蔵述/文學研究會編輯『文學原論：希臘劇研究』(文學研究會) [43658
[＊昭和5] 渡邊修二郎「明治前後日欧文学の関係(上下)」明治文化6(2,3)[43659
[＊昭和5] 呉茂一「市河三喜著「ラテン・ギリシャ語初歩(英學生の爲め)」英文學研究10-2 [43660

[＊昭和5] 高木元豁「禁書考」國學院雑誌36-1 [43661
[＊昭和5] 井上哲次郎「我邦に於ける哲學術語の起源(1)」哲學雑誌524 [43662
[＊昭和5] 木下杢太郎「天正年間 耶蘇會諸教育機関の移動」思想100 [43663
[＊昭和5] 新村出『(改題)南蠻紅毛史料』(前野蘭化等) [43664
[＊昭和5] E.F.スコット/都田恒太郎譯『イエスの倫理思想』(文川堂書店。→1937年, 改訂2版)。[43665
[＊昭和5] 新刊紹介・戸田路聯「エミール・ボーマン/戸塚文卿譯「聖パウロ」」カトリック10-12 [43666
[＊昭和5] ブルクハルト/山岸光宣譯『文藝復興史』(世界大思想全集) [43667
[＊昭和5] 不破祐俊「マキャヴェリの社會哲學」商業と經濟10-2 [43668
[＊昭和5] ダニエル・アレ[ヴ]イ/生田長江・野上巌譯『ニイチェ傳』(新潮社) [43669
[＊昭和5] 有賀春雄「宗教教改革に對する史觀の變遷(下)」史學9-3 [43670
[＊昭和5] フリードリヒ・グンドルフ/立澤剛他譯『シュライエルマヘルの浪漫主義』(岩波書店) [43671
[＊昭和5] 佐藤正治譯註『イソップ物語』(英文學社, 英文名作文庫4-2) [43672
[＊昭和5] 新村出「繪巻物『伊曾保物語』の傳來」愛書趣味5月號 [43673
[＊昭和5] 折口信夫「七夕祭の話」(1930年) (『折口信夫全集・第15巻』所収, 中央公論社,1967年。) [43674
[＊昭和5] 村岡典嗣校『天地理談』(司馬江漢『無言道人筆記』[イソップ]。岡書院) [43675
[＊昭和5] 伊藤孝一『ラ・フォンテイン』(玉川學園出版部,小孝文庫2年)[43676
[＊昭和5] 『フランス童話集』(「ラ・フォンテーヌ寓話集」。近代社)[43677
[＊昭和5] 柳田国男「桃太郎の誕生」(『定本柳田国男集・第8』所収,筑摩書房,1969年) [43678
[＊昭和5] ボッカチオ/森田草平譯『デカメロン』(新潮社, 世界文學全集2。→昭6,1,2巻,新潮社。→昭8,新潮文庫) [43679
[＊昭和5] ボッカチオ/森田草平譯『デカメロン：補遺』(新潮社, 世界文學2・別册) [43680
[＊昭和5] エ・ラゲ譯『耶蘇基督(イエズス・キリスト)・聖ヨハネ福音書』(天主公教會) [43681
[＊昭和5] 中田重治講演『四重之福音』(出版社不明) [43682
[＊昭和5] 永井直治『新契約聖書譯語解一斑』(挺身會, マタイ・ルカ傳福音書の巻) [43683
[＊昭和5] Trinitafrian Bible Society『新約聖書馬可傳』 [43684
[＊昭和5] デニー/白鳥宗司譯『基督の死』 [43685
[＊昭和5] 浦川和三郎『聖母マリア小聖務日課』(光明社) [43686
[＊昭和5] 日曜世界社編輯部編纂『聖書辭典』(日曜世界社) [43687
[＊昭和5] シェリー/土居光知・齋藤勇注釋『シェリー抒情詩抄』(研究社,研究社小英文叢書75) [43688
[＊昭和5] 前田越嶺述『羅佛語學文學講座』 [43689
[＊昭和5] 入澤達吉「司馬凌海傳」中外醫事新報?號 [43690

[＊昭和5］ 增澤淑「佐久間象山の理化學研究」歷史地理教育2-9 [43691
[＊昭和5］ 「日本の恩人、印度哲學言語學の權威ダアルマン靈父逝く」（ギリシャ語）聲654 [43692
[＊昭和5］ 高藪良二『西洋建築構造』（中央工學會） [43693
[＊昭和5］ 小倉金之助・岡邦雄「自然科学史」（岩波書店）日本資本主義發達史講座4 [43694
[＊昭和5］ 百田宗治編纂『詩語辭典：世界詩人人名辭典』（金星堂, 現代詩講座10） [43695
[＊昭和5］ 神田豐穗『總目次・參考書目一覧』（春秋社, 大思想エンサイクロペジア) [43696
[＊昭和5］ 神田豐穗『藥理學篇』（春秋社, 現代醫學大辭典6) [43697
[＊昭和5］ 神田豐穗『精神病科學・法醫學・醫史學・醫事法制學篇』（春秋社, 現代醫學大辭典23） [43698
[＊昭和6](1931)] 木村鷹太郎『宇和島の古代毬歌及び童謠,俚諺(上中)』(日本民族協會, 日本民族研究叢書23-24。) [43699
[＊昭和6] 西村眞次『世界古代文化史』(1-6巻。東京堂。→1932年。→1933年, 合本普及版。) [43700
[＊昭和6] 西村眞次『人類性文化史』(性科學全書4,武俠社。→2009年,性科学全集4,クレス出版。) [43701
[＊昭和6] 羽田亨『西域文明史概論』(弘文堂東京店。→1931年,再版。→1932年,3版。→1942年,5版。→1948年,8版。) [43702
[＊昭和6] 羽田亨「西域文明史概論」龍谷大學論集299 [43703
[＊昭和6] 羽田亨原著/鄭元芳譯『西域文明史概論』(史地小叢書,商務印書舘) [43704
[＊昭和6] 羽田亨原著/錢稻孫飜譯『西域文明史概論』(泉壽譯叢1,出版者不明) [43705

[＊昭和6] 小笠原「羽田亨著『西域文明史概論』」龍谷史壇8 [43706
[＊昭和6] 「羽田亨,西域文明史概論」史苑6-4 [43707
[＊昭和6] 野村兼太郎「和辻哲郎著 日本古代文化」三田學會雜誌15-4 [43708
[＊昭和6] 福原麟太郎「片々錄：大陸の旅から」英語青年65-5 [43709
[＊昭和6] 福原麟太郎「羅馬より」英語青年65-7 [43710
[＊昭和6] 福原麟太郎「イタリア紀行：講談社版『世界美術大系』の刊行によせて」日版通信新刊月報：讀書人・學校・圖書館・公民舘のための讀書の指針95 [43711
[＊昭和6] 藤田元春「喝蘭新譯地圖全圖を讀む」地球15-4 [43712
[＊昭和6] 渡邊修次(二)郎「幕府時代西洋知識人傳に關する書籍一斑」書物春秋13 [43713
[＊昭和6] 桑木嚴翼「哲學と哲學史」(巽軒會編『井上先生喜壽記念文集』(冨山房) [43714
[＊昭和6] 「井上巽軒先生譜略」(同上) [43715
[＊昭和6] 桑木嚴翼「大西[祝]博士と啓蒙思想」丁酉倫理會倫理講演集341 [43716

＊[訂正] [昭和6]　阿部次郎「「悲劇の誕生」その體及び論理」(ニイチェ。大西克禮編「大塚(保治)博士還暦記念・美學及び美術史研究」中→昭9「文藝評論・第2輯・世界文化と日本文化」中)[9493][43717
[＊昭和6］　横山有策著/増田藤之助校訂編修『シェイクスピア研究』（東京泰文堂）[43718
[＊昭和6］　井上桂『文学趣味養成論』（興文社）[43719
[＊昭和6］　荒木伊兵衛『日本英語學書誌』（創元社）[43720
[＊昭和6］　市河三喜「外來語について」（音聲學協會）ことばの講座1　[43721
［＊昭和6］　本山桂三「長崎方言に於ける外來語の研究」民俗研究26　[43722
[＊昭和6］　新村出「語源と歴史」（音聲學協會）ことばの講座1　[43723
[＊昭和6］　福井久藏「鷹の文學」（百合若大臣）東洋學研究1　[43724
[＊昭和6］　中山太郎「郷土傳說と民俗學」郷土史研究講座1　[43725
[＊昭和6］　中山太郎『郷土傳說と民俗學』（雄山閣）[43726
[＊昭和6］　豐田實「聖書和譯の歴史」神學評論18-1　[43727
[＊昭和6]　ジェムズ・アイ・ヴァンズ著/ケー・イー・アイフル編『萬民へ唯この一書』(米國聖書協會)　[43728
[＊昭和6]　鶴見祐輔『ナポレオン』(大日本雄辯會講談社)　[43729
[＊昭和6］　菊池寛『ナポレオン傳』（改造社, 偉人傳全集1)　[43730
[＊昭和6］　石濱知行『マルクス傳』（改造社, 偉人傳全集6）　[43731
[＊昭和6］　ブルクハルト/村松恒一郎・藤田健治譯『伊太利文藝復興期の文化(上下)』(岩波文庫。→昭14年。)　[43732
[＊昭和6］　間崎萬里「西洋美術史研究, 澤木四方吉著」史學10-4　[43733
[＊昭和6］　間崎萬里「世界史論講（坂口昂著）」史學10-4　[43734
[＊昭和6］　佐々木孝丸譯・村山知義畫『フランス童話集』（「ラ・フォンテーヌ寓話集」、世界童話大系5,誠文堂。→1931年, 金正堂）[43735
[＊昭和6］　山本供平譯註『イソツプ物語』(春陽堂辭書無叢書,春陽堂)　[43736
[＊昭和6]　藤澤衛彦『日本傳說研究・三』(六文舘)　[43737
[＊昭和6］　菊池寛『新文藝辭典』（誠文堂, Seibundo’s 10sen Library。→昭7年, 誠文堂文庫）　[43738
[＊昭和6］　朝比奈泰彦・清水藤太郎『植物藥物學名典範』（有明書房）[43739
[＊昭和6］　上条秀介『日常醫語集覧［獨羅希和 附・ラテン語・ギリシア語小文典］』（金原商店）[43740
[＊昭和6］　ヨハネス・クラウス/近藤俊二譯「トーマスと國家」カトリック11-4　[43741
[＊昭和6］　吉滿義彦「カトリック史家に與ふ」日本カトリック新聞322 [43742
[＊昭和6］　波多野通敏「ヘーゲルの解釋せるヘラクレトス」ヘーゲル及辯證法研究34　[43743
[＊昭和6］　南原繁『政治學』[43744
[＊昭和6］　ハッガード/巴陵宣祐譯『古代醫術と分娩考』（→昭8再版）[43745
[＊昭和6］　學習院編『學習院構内植物目錄』（ラテン語。學習院）　[43746
[＊昭和6］　上澤謙二譯『うれしいおしらせ：マタイ・マルコ・ルカ』（子供聖

書刊行會, 5版） [43747
[＊昭和6] 塚本虎二『イエスの國語』 [43748
[＊昭和6] 山室軍平『基督傳の教訓』 [43749
[＊昭和6] ルシアン等/竹内道之助『苦痛と快楽』（風俗史料刊行會） [43750
[＊昭和6] 秀村欣二「ヘラスへの情熱と青き華の憧憬—浪漫的詩人としてのヘルデルリンとノヴァリスに就きての一考察」福岡高等學校校友会雑誌〔創立十周年記念號〕17 [43751
[＊昭和6] 吹田順助「レッシングの思想史的位置を論ず：レッシング誕生記念二百年に際して」商學研究8-4 [43752
[＊昭和6] 間崎萬里「新アルファベットの發見と解讀：シリヤのラス・シヤラムに於ける」史學10-1 [43753
[＊昭和6] 丸山國雄『初期日獨通交小史』 [43754
[＊昭和6] イェーリング/井上忻治譯『歐洲民族文化史』(平凡社,再版) [43755
[＊昭和6] 柚木馨「ローマ法に於ける賣主瑕疵擔保責任の研究(1-6)：信頼利益賠償の發展を骨子として」國民經濟雜誌50-3,4,5/51-2/52-2,4 [43755
[＊昭和6] 建築學會建築學參考圖刊行委員會編『西洋建築史參考圖集（上下）』（建築學會。→1936年,3版。→1942年,8版。） [43756
[＊昭和6] 哲學講座編輯所編『始めて學ぶ人の爲の哲學・哲學字解・哲學者人名辭典』（誠文堂, 哲學講座15） [43757
[＊昭和6] 明治史講座刊行會『明治科學史』（日本文学社） [43758
[＊昭和6] 岡邦雄著・北原鐵雄編輯『科學文明史』（最新科學圖鑑1,アルス) [43759
[＊昭和6] 石原純・本田親二・中瀬古六郎・矢島祐利・阿部邦彦・菅井準一「物理學史概觀・天文學史・化學史・歷史年表・學者年表等」（岩波講座物理學及び化學・別項） [43760
[昭和6,7?] ワツソン/中田重治譯『耶〔蘇ソ〕の型なるヨセフ』 [43761
〔昭和?〕 原田慶吉『羅馬法論文集』 [43762
〔昭和?〕 岸田耕讀『聖書の人』（アウグスチン、ローマ帝國） [43763
〔昭和?〕 賀川豐彦『コドモ・キリスト物語』 [43764
〔昭和?〕 柳田國男(未刊、自筆稿本)「小島氏譚集(二)」(「太大法師」〔百合若〕) [43765
〔昭和?〕 ホメーロス/土井晩翠譯(手稿本)「イーリアス」（第1,2歌） [43766
〔昭和?〕 關口存男「ラ・フォンテーヌの寓話」（1994年刊著作集10巻中） [43767
〔昭和?〕 中原中也譯「アルテミス」（ランボウ「詩(Interenide II)」、1968年刊角川版全集5) [43768
〔昭和?〕 有賀鐵太郎『ヘブル書』(?) [43769
〔昭和?〕 上澤謙治『パウロ』（基督教文庫聖書物語23） [43770
〔昭和?〕 門脇清『日本語聖書飜譯史』 [43771
〔昭和?〕 田中豐次『聖書成長史話』 [43772
〔昭和?〕 中村獅雄『聖書に於ける矛盾思想』 [43773

［昭和?］　ブルンナー/清水義樹・菊池雄一譯『哲學と神學』 [43774
［昭和?］　鷲山第三郎『文學と神の問題』 [43775
[＊昭和7(1932)]　笹川種郎他「室町時代」(日本文學講座7,新潮社) [43776
[＊昭和7]　三浦俊三郎『本邦洋樂變遷史』(日東啓院) [43777
[＊昭和7]　演劇史學會編『演劇史研究(3輯)』(第一書房) [43778
[＊昭和7]　板澤武雄「蘭學の意義と蘭學創始に關する二,三の問題」歷史地理59-1,2,5,6 [43779
[＊昭和7]　板澤武雄「蘭學の内容と蘭學者の態度」明治聖德記念學會紀要38 [43780
[＊昭和7]　板澤武雄「厚生新編譯述考」史學雜誌43-8 [43781
[＊昭和7]　宮本仲『佐久間象山(本文・補遺)』(岩波書店。→1936年。) [43782
[＊昭和7]　森茂『幕末四傑學風管見』(佐久間象山,吉田松陰,大東文化協會) [43783
[＊昭和7]　中田重治『聖書より見たる日本』 [43784
[＊昭和7]　林癸未夫『西洋思想の日本化』(章華社) [43785
[＊昭和7]　高市慶雄編『明治文獻目錄』(日本評論社) [43786
＊[訂正] [昭和7]　井上哲次郎「明治哲學界の回顧」(ケーベル)岩波講座「哲學」4 [9623] [43787
[＊昭和7]　三宅雄二郎「明治思想史」岩波講座「哲學」4 [43788
＊[訂正] [＊昭和7]安部光槌「プラトンの世界觀：HANS MEYER」學習研究11-6 [9659] [43789
＊[訂正] [＊昭和7]小林佐平「數學者及數理哲學者としてのプラトン」學習研究11-6,9,10 [9938] [43790
[＊昭和7]　クロオチエ著/青木巖譯, ヴルフ著/青木巖譯, バアネツト著/青木巖譯『ヴイコの哲學・西洋中世哲學概觀・プラトン哲學體系』(春秋社, 世界大思想全集70) [43791
[＊昭和7]　村岡景夫「アリストテレースに於ける存在論の限界(1)」基督教研究10 [43792
＊[訂正] [＊昭和7]青木巖「アリストテレスの問題法とヘーゲルの辯證法的哲學」(三田哲學會)哲學9 [9643] [43793
[＊昭和7]　廣井辰太郎「唯物論の一檢討」(デモクリトス, エピクール, ルクレチウス等)中央大學學報5-2 [43794
[＊昭和7]　學術「[展望臺]どこまで續く唯物論研究會」(河野與一)讀賣新聞朝刊11/1 [43795
[＊昭和7]　彌富濱[破摩]雄「海洋文學者としての中島廣足」國語國文5,6月號 [43796
[＊昭和7]　リチャード・グリーン・モウルトン/本多顯彰譯『文學の近代的研究：文學の理論及び解釋の序論』(岩波書店) [43797
[＊昭和7]　ダンテ/古典文學研究會同人譯『神曲』(神話叢書, 近代出版社) [43798
[＊昭和7]　工藤好美「十九世紀の英文學にあらはれた美の觀念：ウォルター・ペイタアの長篇小説「享樂者マリウス」を中心としての考察」英文學研究11-1 [43799

[＊昭和7] 福原麟太郎「新刊紹介・「プラトンとプラトン哲學」ウォルター・ペイター原著/内舘忠藏譯」英語青年67-1 [43800
[＊昭和7] 福原麟太郎「Olympusの神々以前」英語の研究と教授1-1 [43801
[＊昭和7] 福原麟太郎「The Homeric Question」英語の研究と教授1-3 [43802
[＊昭和7] 福原麟太郎「Homerの中の神々」英語の研究と教授1-7 [43803
[＊昭和7] 野上豐一郎「飜譯と能」英文學研究12-1 [43804
[＊昭和7] M.T.「批評紹介 ローマ七賢人物語及び英吉利中世紀物語詩集 : 金子健二譯「ローマ七賢人物語」/金子健二譯「英吉利中世紀物語詩集」」英文學研究12-2 [43805
[＊昭和7] T.K.S.「批評紹介 「ユリシーズ」と「オーランド」 : 伊藤整,永松定,辻野久憲譯,「ユリシイズ」前篇, 第一書房/森田草平, 名原廣三郎, 瀧口直太郎, 小野健人, 安藤一郎, 村山英太郎共譯,「ユイリシーズ」, 第一分册, 岩波書店/織田正信譯,「オーランド」, 春陽堂」英文學研究12-2 [43806
[＊昭和7] T.K.S.「COLERIGDE研究 : 工藤好美著「コウルリヂ研究」岩波書店」英文學研究12-4 [43807
[＊昭和7] チャールズ・ラム,メアリ・ラム/野上彌生子譯『沙翁物語』(岩波文庫) [43808
[＊昭和7] 繁野政璃『「失樂園」研究』(ミルトン。研究社) [43809
[＊昭和7] ギッシング/根本剛譯註『夏』(英學生文庫12,春陽堂) [43810
[＊昭和7] 三枝義夫『基督時代(下)』(春秋社) [43811
[＊昭和7] 姉崎正治・翻字『切支丹宗教文學』(「基督に倣いて」) [43812
[＊昭和7] カール・アダム/吉滿義彦譯『カトリシズムの本質』 [43813
[＊昭和7] ヘーゲル/高橋里美・武市健人譯『哲學概論』(岩波書店) [43814
[＊昭和7] ヘーゲル/鈴木權三郎譯『歷史哲學』(ヘーゲル全集10,岩波書店) [43815
[＊昭和7] モーク/土方定一譯『ヘーゲル學派史』(刀江書院) [43816
[＊昭和7] ローゼンベルク/松岳謙一譯『ヘーゲル解釋史』(刀江書院) [43827
[＊昭和7] 平泉澄『ドイツ復活の原動力』思想研究資料82,海軍省教育局 [43818
[＊昭和7] 槇智雄「西洋政治制度史」西洋史講座(雄山閣) [43819
[＊昭和7] 大野法瑞「西洋先史時代史」西洋史講座(雄山閣) [43820
[＊昭和7] 千代田謙「近世史學史」西洋史講座(雄山閣) [438221
[＊昭和7] 今井登志喜「坂口昂著「獨逸史學史」」社會經濟史學2-5 [43822
[＊昭和7] 吉滿義彦「ヘーゲル復興とヘーゲル批判」カトリック12-6 [43823
[＊昭和7] 吉滿義彦「カトリシスムの歷史と論理」カトリック12-12 [43824
[＊昭和7] 吉滿義彦「聖トマスにおける神概念の形而上學的構成について」宗教研究9月號 [43825
[＊昭和7] 吉滿義彦「聖トマスにおける人間概念の形而上學的構成について」倫理研究22 [43826
[＊昭和7] レッシング/清水清譯『レッシング 教育と啓示 : 人類の教育』(玉川大學出版部, 玉川文庫31) [43827

[＊昭和7]　ニイチェ/生田長江譯『ツァラトゥストラ(前後)』(世界名作文庫 204,205,春陽堂)　[43828
[＊昭和7]　巴陵宣祐『人類性生活史』　[43829
[＊昭和7]　S.Yamada(with trans.& notes)“The Fables of Aesop”(Taibundo)　[43830
[＊昭和7]　塚本虎二『イエス傳對觀表』(4版)　[43831
[＊昭和7]　山口德夫『イエス傳—自敍傳ふうに』　[43832
[＊昭和7]　三枝義夫『基督時代』(宗教學叢書6)　[43833
＊[訂正] [昭和7]　中山昌樹「聖アウグスティヌス「神の國」序說」明治學院高商論叢 1,2　[43824
[＊昭和7]　三谷隆正「信仰の勘」日本聖書雜誌8月號　[43825
[＊昭和7]　H.ラスキ/市村今朝藏譯『政治學範典』　[43826
[＊昭和7]　教育「一高の名物教授岩元[禎]・菅[圓吉]兩氏去る 教へ子の諸博士が謝恩宴」讀賣新聞朝刊2月24日付　[43827
[＊昭和7]　田部重治「山と人生」(ギリシア人等)帝國大學新聞438　[43828
[＊昭和7]　佐々木[信綱]博士還曆記念會編『日本文學論纂』(明治書院)[43829
[＊昭和7]　中山太郎「百合若傳說異考」(同『日本民俗學論考』所收,一誠社,1933年。)　[43830
[＊昭和7]　荒川惣兵衛『外來語學序說』　[43831
[＊昭和7]　森田慶一『井トルー井ウスの建築論的研究：特に數價の建築論的概念に就いて』(森田慶一)　[43832
[＊昭和7]　大橋孝吉編『古代埃及希臘クレタ嶋壁畫選』(聚樂社)　[43833
[＊昭和7]　(?)「希臘古代船模様染附ビール呑」大日本窯業協會雜誌26(310)　[43834
[＊昭和7]　木村彦右衛門「日本ノ醫藥ノ神小彦名命トギリシヤノ醫藥ノ神アスクレピオストノ植物學的連鎖ニ就イテ」植物學雜誌 46(544)　[43835
[＊昭和7]　貞松修藏「[ゾーフ(D.)]ハルマ和解について」圖書舘雜誌26-3 [43836
[＊昭和7]　ヴオルテール/安谷寬一譯『哲學辭典』(世界大思想全集71,春秋社)　[43837
[＊昭和7]　改造社調査部編『最新世界人名辭典』(改造14-4附錄)　[43838
[＊昭和7]　田代信德他編『獨羅和譯ポケット醫學小辭典』(金原商店)　[43839
[＊昭和7]　江崎悌三『動物の學名の構成法』(福岡國際書院)　[43840
[＊昭和7]　藤田元春『日本地理學史』(刀江書院)　[43841
[＊昭和7]　蘆田伊人「世界圖屛風考(正)」歷史地理59-6　[43842
[＊昭和7]　泉幸次郎『西洋建築雛形』(田中宋榮堂)　[43843
[＊昭和7]　村川堅太郎「一、ギリシヤ經濟史につきて(社會經濟史學會第一回大會の記)」社會經濟史學1-4　[43844
[＊昭和7]　尾佐竹猛「近世日本の國際觀念の發達」(共立社)現代史学大系5　[43845
[＊昭和8(1933)]　小谷部全一郎『日本及日本國民之起原』(岡本正一,厚生閣[發賣])　[43846
[＊昭和8]　加藤仁平「日本教育史學史管見(1-3)」教育學研究1-11,12/2-3

[43847
[＊昭和8]　山下昌孝「獨逸史學史, 坂口昂著,岩波書店」史學11-4　[43848
［＊昭和8］　島津久基『國民傳說類聚』（大岡山書店）　[43849
[＊昭和8］　楠山正雄『百合若大臣』（春陽堂, 少年文庫5)　[43850
[＊昭和8］　中山太郎編『日本民俗學辭典（正・補遺）』（昭和書房。→1935年,再版。→1941年,改訂版,梧桐書院。）　[43851
[＊昭和8]　高村象平「ホランド・ロオズ著「古代の地中海」：J.Holland Rose The Mediterranean in the Ancient World,1933」三田學會雜誌27-6　[43852
[＊昭和8]　鮎澤信太郎「稻垣子□の譯した坤輿全圖について」地球21-1 [43853
[＊昭和8]　岩生成一「石橋博士所藏世界地圖年代考」歷史地理61-6　[43854
[＊昭和8]　栗田元次「萬國總圖と萬國總界圖」人情地理1-4　[43855
[＊昭和8]　三隅貞吉「萬國總圖に就いて」文藝春秋11-7　[43856
[＊昭和8]　「日歐交涉文化號」人情地理1-4　[43857
[＊昭和8]　佐藤堅司「日歐近世戰術の起源に關する一考察」歷史教育7-2　[43858
[＊昭和8]　堀内信水『佐久間象山：世界的偉人』(不動書房。→1934年,普及版)　[43859
[＊昭和8]　齋藤勇『文學としての欽定英譯聖書』(新英米文學者社,英語英文學講座) [43860
[＊昭和8]　齋藤勇『ミルトン』(研究社,研究社英米文學評傳叢書11)　[43861
[＊昭和8]　岩橋武夫『失樂園の詩的形而上學』(基督教思想叢書刊行會)[43862
[＊昭和8]　ジョン・スマート/田上元德譯『悲劇論』(研究社)　[43863
[＊昭和8]　西脇順三郎『ヨーロッパ文學』(第一書房)　[43864
[＊昭和8]　西脇順三郎『Ambarvalia : 西脇順三郎詩集』(「LE MONDE ANCIEN」,「拉典哀歌」。椎ノ木社)　[43865
＊[訂正] [昭和8]　イソップ原作/村岡花子著『日本イソップ繪物語』(大日本雄辯會講談社。→1936年,21版。)　[10193]　[43866
[＊昭和8]　中島孤島編『エジプト・アッシリヤ・バビロン神話傳說集』(神話傳說体系,誠文堂）　[43867
[＊昭和8]　サルヴァドル・デ・マダリアガ/相良次郎譯『英・佛・西文藝の比較』(研究社)　[43867
[＊昭和8]　フランシス・トムスン/北村常夫譯『新舊異教主義』(研究社) [43868
[＊昭和8]　工藤好美「敍事詩及び敍事文學」岩波講座世界文學　[43869
[＊昭和8]　本多顯彰「シェイクスピアと世界文學」岩波講座世界文學　[43870
[＊昭和8]　日本シェイクスピア協會編『本邦に於ける出版と上演シェイクスピア展覽會目錄』(日本シェイクスピア協會)　[43871
[＊昭和8]　山口武美編『日本沙翁書目収覽・第1編』(詩仙洞)　[43872
[＊昭和8]　牧一編註『テールズ・ギッシング』(大倉廣文堂)　[43873
[＊昭和8]　織田正信『ギッシング』(研究社英米文學評傳叢書67,研究社)[43874
[＊昭和8]　福原麟太郎「希臘に歸れ」英語の研究と教授1-11　[43875
[＊昭和8]　福原麟太郎「英文學の概要」英語の研究と教授2-1~8-6(1939年)　[43876

[＊昭和8] 福原麟太郎「新刊紹介：ミルトン「失樂園」研究；繁野政瑠著」英語青年69-3 [43877
[＊昭和8] 福原麟太郎「新刊紹介：「新譯ヂュリアス・シーザー」澤村寅二郎譯」英語青年69-4 [43878
[＊昭和8] ディルタイ『獨逸精神史研究』(政經書院) [43879
[＊昭和8] 二宮源平「ヘラクレイトスのギリシャ主義とヘブライ主義」基督教研究10-4 [43880
［＊昭和8］ 山崎謙『哲學讀本』（厚生閣書店） [43881
[＊昭和8］ 井上哲次郎「明治哲學界の回顧」岩波講座「哲學」14 [43882
＊[訂正] [昭和8] 井上哲次郎「明治哲學界の回顧附記」（ケーベル）岩波講座「哲學」14 [43883
[＊昭和8］ 入澤達吉『雲莊隨筆』（司馬凌海） [43884
[＊昭和8］ 板澤武雄「蘭學の發達」（國史研究會編「岩波講座日本歷史」所収） [43885
[＊昭和8］ 板澤武雄「厚生新編醫事攬要に就いて」中外醫事新報1201,1202 [43886
[＊昭和8］ 齋藤靜「和蘭語の日本語に及ぼした影響」外來語研究2-2 [43887
[＊昭和8］ 新村出「和蘭語の名殘」外來語研究2-3 [43888
[＊昭和8］ 楳垣實「西京版「英吉利単語篇」其他」書物展望3-11 [43889
[＊昭和8］ 雄山閣編『異說日本史・第17』（「龍江院のカテキ様」） [43890
[＊昭和8] 阿部眞琴「江戸時代の世界地理学(1,2)」歷史學研究1,2 [43891
[＊昭和8］ 蘆田伊人「世界圖屏風考(續)」歷史地理60-5 [43892
[＊昭和8] 三上義夫「日本測量術史の考察」中外醫事新報1198~1200 [43893
[＊昭和8］ 鳴瀨恒太郎『ラテン語の輪郭=Principia Latina』（尚文堂, 語學文庫4 →昭12年,3版）[43894
[＊昭和8］ グワルチエリ/木下杢太郎譯『日本遣歐使者記』（岩波書店）[43895
[＊昭和8］ 安藤正次『國語學』（明治書院, 國語科學講座3-4） [43896
[＊昭和8］ 神田盾夫「聖書」岩波書店, 岩波世界文學講座 [43897
[＊昭和8］ 三谷隆正「ダニエル書を讀む」日本聖書雜誌6,7,10月號 [43898
[＊昭和8］ 聖書研究「ガラテヤ書研究—三谷隆正先生の組」女子青年界30-8 [43899
[＊昭和8］ 聖書研究「歐洲文學とキリスト教思想—中山昌樹先生の組」女子青年界30-8 [43900
[＊昭和8］ 武藤長藏『聖トマス原書Sunmma Theologicaの漢譯『超性學要』について』（森山書店） [43901
[＊昭和8］ 住谷悅治「マルクス主義日本渡來記」帝國大學新聞470(3/13)[43902
[＊昭和8］ トマス・モーア/村山勇三譯『ユトーピア』（春秋文庫3部54）[43903
[＊昭和8］ Juji Nakada,“Japan in Bible” Oriental Missionry Society,Japan Holiness Church Pub.Dept. [43904
[＊昭和8] 中田重治『聖書より見たる日本』(ホーリネス教會出版部。→昭13年,7版。) [43905
[＊昭和8］ 上澤謙二『子供聖書：新しいお約束の御本(上下)』（實業之日本社） [43906

[＊昭和8]　永井直治『神聖なる黙示：拾貳原典對照』(日本聖書)　[43907
[＊昭和8]　ブルトマン/佐治良三・福富啓泰譯『イエス』　[43908
[＊昭和8]　帆足理一郎『イエスの生活原理』　[43909
［＊昭和8］　今井新太郎『イエス傳』　[43910
[＊昭和8]　關根文之助『日日の偉人：一日一人』(厚生閣)　[43911
[＊昭和8]　間崎萬里「古代文字の類似」史學11-4　[43912
[＊昭和8]　下村寅太郎述・更級教育會編『自然科學概論』(更級教育會)[43913
[＊昭和8]　平沼淑郎「泊翁西村茂樹傳・貳巻」社會經濟史學3-1　[43914
[＊昭和8]　本位田祥男「平沼淑郎博士傳記」社會經濟史學3-8　[43915
[＊昭和8]　南原繁「理想主義の國家哲學史」(ギリシア等)國家學會雜誌47-10　[43916
[＊昭和8]　イェーリング/尾崎賢三郎譯註『權利鬪爭論』(南山堂書店)[43917
[＊昭和8]　ルードルフ・フォン・イェーリング/松島烈雄編纂『權利の爲の鬪爭』(春陽堂)　[43918
[＊昭和8]　臺北帝國大學理農學部附屬植物園編『臺北帝國大學理農學部附屬植物園種子目錄=Taihoku botanic garden list of seeds for exchange』(臺北帝國大學理農學部附屬植物園)　[43919
[＊昭和8]　北村四郎「東亞菊科新植物(IV)」植物分類・地理2-3　[43920
[＊昭和8]　中尾保『西洋建築史概要』(淀屋書店)　[43921
[＊昭和8]　『世界詩人人名辭典』(分册現代詩講座, 金星堂,)　[43922
[＊昭和8]　河原吉次郎編『羅和辭典』(大阪文翫堂)　[43923
[＊昭和8]　現代詩講座編輯部編『詩語辭典』(巧人社)　[43924
[＊昭和8]　山本一清・村上忠敬『天文學辭典』(恒星社)　[43925
[＊昭和8]　日本辭書出版社編輯部編『近代文化小百科事典』(日本辭書出版社)　[43926
［昭和8年以降?］　濱田耕作・講義案「希臘考古學」(横罫ノート)　[43927
濱田耕作・未定稿「希臘先史考古學」(總罫半紙墨書)　[43928
[＊昭和9(1934)]　谷讓次『踊る地平線』(紀行。一人三人全集15,新潮社,)　[43929
[＊昭和9]　桑原隲藏著・宮崎市定他編『東洋文明史論叢』(弘文堂書房) [43930
[＊昭和9]　桑原隲藏著/楊鍊譯『張騫西征考』(史地小叢書,商務印書舘)　[43931
[＊昭和9]　ウィットフォーゲル/新島繁譯『人類社會發達史概要(上)』(大畑書店)[43932
[＊昭和9]　羽田亨著/鄭元芳譯『西域文明史概論』(史地小叢書, 商務印書舘)　[43933
[＊昭和9]　西村眞次『日本民族理想』(東京堂。→1939年,增補版。)　[43934
[＊昭和9]　久米邦武述『久米博士九十年回顧錄(上下)』(早稻田大學出版部。→1939年。→1985年,上下・復刻版,宗高書房)　[43935
[＊昭和9]　山口麻太郎校訂『百合若說經』(一誠社)　[43936
[＊昭和9]　山口麻太郎『壱岐島民俗誌』(「百合若說經に就いて」,一誠社)　[43937
[＊昭和9]　エヅアルド・デ・サンデ師編/三谷昇二他譯『遣歐日本使節對話錄』(出版者不明)　[43938
[＊昭和9]　中村孝也「近世初期の思想界」歷史教育9-4　[43939

[＊昭和9]　藤井信「蘭學者の思想内容について」歴史學研究5　[43940
[＊昭和9]　徳重淺吉「幕末に於ける非常時の常識と蘭學者の貢獻」立命舘文學1-2　[43941
[＊昭和9]　赤池濃『佐久間象山』(人物研究叢刊26,金鶏學院)　[43942
[＊昭和9］　貞松修藏「厚生新編とその複本調製及發行について」葵文庫ト其事業97 [43943
[＊昭和9］　貞松修藏「厚生新編とその複本調製及發行について」圖書舘雜誌28-9　[43944
[＊昭和9］　前田一良「經驗科學の誕生」岩波講座日本歴史11［近世3］　[43945
[＊昭和9］　東京科學博物舘編『江戸時代の科學』（博文舘。→1971年, 覆刻, 名著刊行会刊）［43946
[＊昭和9]　杉本勲「南蠻キリシタン研究の鳥瞰」歴史學研究2-3　[43947
[＊昭和9]　石田幹之助「支那に於ける耶蘇教」岩波講座東洋思潮7-8　[43948
[＊昭和9]　石田幹之助「支那文化と西方文化との交流」岩波講座東洋思潮7-8　[43949
[＊昭和9］　トマス・モア/本多顕彰譯『ユートピア：理想郷』（岩波文庫）[43950
[＊昭和9］　佐藤通次「生の悲劇性—Philo-logieに導かれたるPhilo-sophieの一試論」(九州文學會)文學研究8　[43951
[＊昭和9］　丸山時夫「明治哲學史研究」唯物論研究19　[43952
[＊昭和9］　戸弘柯三「我國に於ける近世哲學史の回顧—輸入哲學との關係に於いて」唯物論研究24　[43953
[＊昭和9］　プレハノフ/笠信太郎譯『ヘーゲル論』（岩波文庫）　[43954
[＊昭和9］　松原寛『ヘーゲル哲學物語』（普及版18版, 同文舘）　[43955
[＊昭和9］　土方定一「明治美學史の一齣—大塚保治先生のこと」歴史科學2-9　[43956
[＊昭和9］　エミール・ウティッツ原著/久冨貢譯『エミール・ウティッツの美學』（玉川文庫51,玉川學園出版部）[43957
[＊昭和9］　和辻哲郎「原典批評の方法について」岩波講座「世界文學」[43958
[＊昭和9]　竹村覺「日本英學史」英語英文學講座?　[43959
[＊昭和9]　ミルトン/中村爲治譯『闘技者サムソン』（岩波文庫）　[43960
[＊昭和9]　ミルトン/竹友藻風譯註『リシダス』（文教閣）　[43961
[＊昭和9]　福原麟太郎「「書物戰爭」(上中下)」(J.Swift)英語青年71-6,7,8[43962
[＊昭和9]　福原麟太郎「ナポリ出港」英文學風景1-5　[43963
[＊昭和9]　Gissing/S.Yamada(ed.with trans.& notes),*The private Papersa of Henry Rycroft*,(Taibunndo)　[43964
[＊昭和9］　島田謹二「上田敏の英文學觀」英文學研究14-2　[43965
[＊昭和9］　住谷悦治「登張竹風と土井晩翠」文藝春秋3月號　[43966
＊昭和9］　シェラード・ヴァインズ/三留虎雄譯『古典主義』（研究社）[43667
[＊昭和9］　アーヴィング・バビット/上田勤譯『人本主義』（研究社）　[43968
[＊昭和9］　グリアスン/原一郎譯『古典的と浪漫的』（研究社）　[43969
[＊昭和9]　F.シュレーゲル/江澤讓爾譯『ルチンデ』(世界名作文庫236,春陽堂)　[43970
[＊昭和9］　根津憲三・佐藤輝雄譯『ジイド全集10—モンテーニュに即して』

（金星堂）[43971
[＊昭和9］　佐々木孝丸譯・村山知義畫『フランス童話集』((「ラ・フォンテーヌ寓話集」)世界童話大系5,金正堂。→1931年, 誠文堂）[43972
[＊昭和9］　圓地與四松『グラッドストン傳』（偉人傳全集3,改造社）[43973
[＊昭和9］　千葉龜雄『坪内逍遙傳』（偉人傳全集23,改造社）[43974
[＊昭和9］　齋藤勇編/シドニー・リー著/田上元德譯『文藝復興とシェイクスピア』（文學論パンフレット26,研究社）[43975
[＊昭和9］　野上豐一郎「坪内博士のシェークスピヤ改訂：坪内逍遙譯『新修シェークシピヤ全集』中央公論社」英文學研究13-1 [43976
[＊昭和9］　坪内逍遙譯『ヂュリアス・シーザー』（新修シェークスピア全集26,中央公論社)[43977
[＊昭和9］　坪内逍遙譯『新修シェークスピヤ全集34—ペリクリーズ』（中央公論社）[43978
[＊昭和9］　占部百太郎「佛國革命史及ナポレオン時代史講話, 齋藤清太郎著」史學13-1 [43979
[＊昭和9］　吉野裕「研究ノート 西川光次郎の自傳」歷史科學2-9 [43980
[＊昭和9］　井上哲次郎「哲學界の追懷談」哲學雜誌573 [43981
[＊昭和9］　田中耕太郎「常識哲學の再生」（希臘, 中世, スコラ)經濟往來12月號[43982
[＊昭和9］　細谷德三郎『獨逸精神史研究』（政經書院）[43983
[＊昭和9］　山本泰次郎『ダビデ傳』（聖書講義社）[43984
[＊昭和9]　安江仙弘・中田重治講演/田中眞三郎編『ユダヤ民族と其動向並此奥義』(東方書院,日本宗教講座) [43985
[＊昭和9］　大塚素『友愛』（大塚小一郎）[43986
[＊昭和9］　關根文之助『シヤロンの野花：聖書對話劇集』（教文舘）[43987
[＊昭和9］　アルパ社編輯部編『馬可傳：新約聖書：口語譯』（アルパ社書店）[43988
[＊昭和9］　日本聖公會アポクリファ飜譯委員譯『舊約聖書續篇』[43989
[＊昭和9］　富森京次『イエスの私生涯』[43990
[＊昭和9］　八木一男『キリストの基督教』[43991
[＊昭和9］　柏井光藏『パウロ研究』（長崎書店）[43992
[＊昭和9］　有賀鐵太郎「イグナティオスのキリスト觀(1)(2)」基督教研究1,4月號 [43993
[＊昭和9］　長崎茂次「現下獨逸ルネサンス研究の一象面」西洋史研究5 [43994
[＊昭和9］　加茂儀一「ルネサンス研究, メヂチ家を繞る人々」文藝7月號 [43995
[＊昭和9]　加茂儀一「ルネサンス的人間に就て」社會學評論97月號 [43996
[＊昭和9]　吹田順助「バロック時代の思想史的考察」東京商科大學研究年報,經濟學研究3 [43997
[＊昭和9]　吉田秀夫「近世初頭のイタリア都市」社會經濟史學4-4 [43998
[＊昭和9]　川原治郎吉「イタリア民族の統一運動の經過」經濟商業論纂7[43999
[＊昭和9]　赤松正章『昭和九年度,酒井校教授ゼミナール研究報告,『プラトーン

アリストテレスより,聖トマスに至る連携への考察』』書写資料(書写者不明) [44000
[＊昭和9］ 水野清太郎『希臘語初歩』（新英米文学社, 英語英文学講座） [44001
[＊昭和9］ 守屋謙二『美術史理論』（春秋社） [44002
[＊昭和9] ミネノキヨシ(ホンヤク)『イソップモノガタリ』(カナモジカイ,カナモジブンコ4) [44003
[＊昭和9] 登張竹風『人間修行』(ニーチェ等) [44004
[＊昭和9] トマス・モア/本多顕彰譯『ユートピア』（岩波文庫） [44005
[＊昭和9] 潮田江次「マキアヱリ「國家論」辯」法學研究13-3,4 [44006
[＊昭和9] 岩根保重「我國に於ての黎明期の數理地理學」地球20-6 [44007
[＊昭和9] 野尻抱影『星座春秋；天文隨筆集』(研究社) [44008
[＊昭和9] 成蹊高等學校文化史年表研究會編『天文學史年表』(成蹊高等學校文化史年表研究會) [44009
[＊昭和9] 能智修彌「西欧科學東漸史の一詢」歴史科学3-7 [44010
[＊昭和9] 寺島一夫「明治前期に於ける科學の體系的發展の特質」思想144 [44011
[＊昭和9] サルバトル・カンドウ編『Lexicon Latino-Japonicum(羅和辭典)』(公教神學校) [44012
[＊昭和9] 鈴木重貞「獨和辭書の嚆矢」書物展望4-7 [44013
[＊昭和9] 小河内美男『聖書地名事典』(日本基督教會日曜學校局) [44014
[＊昭和9] 平野學・松元竹二編/木村毅監修『日本人名辭典』(非凡閣,小辭典全集9。→昭和13年, 成光舘版。） [44015
[＊昭和9] 松元竹二編『世界人名辭典』(非凡閣,小辭典全集10) [44016
[＊昭和9] 成光舘出版部『世界人名辭典』(成光舘) [44017
[＊昭和9] 藤村作編『日本文學大辭典』(新潮社) [44018
[＊昭和9］ 五十嵐省吾編『日獨羅醫語字典』（南山堂） [44019
[＊昭和9］ 富田軍二「J.F.フルトン著, 原島進譯,1933, 生理學史粹, 生理學に貢獻した人々と其の論文, 岩波書店」動物學雜誌46(544） [44020
[＊昭和10(1935)]横濱正金銀行頭席調査課編『パレスタインの近情；シリアの近情；希臘及近東地方見聞雜錄』(横濱正金銀行頭席調査課,調査報告95號) [44021
[＊昭和10] 岡本良知「16世紀後半ヨーロッパ人作世界地圖上の日本の變遷」歴史地理66-6 [44022
[＊昭和10] 貞松修藏「幕末に於ける本文庫所藏の世界地圖について」葵文庫ト其事業105 [44023
[＊昭和10] 井上清『話題の陸海軍物語』(學藝社) [44024
[＊昭和10] 井上和雄『書物三見』(書物展望社) [44025
[＊昭和10] 增田廉吉「幕府時代に於ける外來思想取締と洋書輸入に關する取締狀況」長崎談叢16 [44026
[＊昭和10] 富士川游「蘭醫書検閲」中外醫事新報1220 [44027
[＊昭和10] 岩根保重「蘭學創始以前長崎に於ける萌芽期の近世地理學」地球21-1 [44028

[＊昭和10]　中山太郎『愛慾三千年史』(サイレン社) [44029
[＊昭和10]　中島孤島編『神話と傳說 ギリシヤとローマ』(神話傳說大系,趣味の教育普及會) [44030
[＊昭和10]　古野清人「レヰ・ブリュル「原始的神話學」について」民族學研究1-3 [44031
[＊昭和10]　瀬川三郎「デメーテル祭」(國劇向上會編)藝術殿5-10 [44032
[＊昭和10]　和辻哲郎「面とペルソナ」思想6月號 [44033
[＊昭和10]　新關良三「古代希臘の喜劇論」(國劇向上會編)藝術殿5-11 [44034
[＊昭和10]　北村喜八述『西洋演劇史(上下)』(日本大學藝術科講座：演劇篇,日本大學出版部) [44035
[＊昭和10]　イソップ作/谷崎伸編『ひらがなイソップ--二年生童話』(キンラン セカイメイチョ,金蘭社) [44036
［＊昭和10］　島津久基『義經傳說と文學』(明治書院) [44037
[＊昭和10]　竹山道雄譯「ゲーテのヴェネチア詩抄」アカツキ9月號 [44038
[＊昭和10]　木村謹治『若きゲーテ研究』(伊藤書林) [44039
[＊昭和10]　ニイチェ/生田長江譯『權力への意志(上下)』(ニイチェ全集10,11,日本評論社) [44040
[＊昭和10]　ニイチェ/生田長江譯『人間的な餘りに人間的な(上下)』(ニイチェ全集3,4,日本評論社) [44041
[＊昭和10]　ニイチェ/生田長江譯『黎明』(ニイチェ全集5,日本評論社) [44042
[＊昭和10]　ニイチェ/生田長江譯『悅ばしき知識：附・放浪公子の歌』(ニイチェ全集6,日本評論社) [43043
[＊昭和10]　ニイチェ/生田長江譯『ツァラトゥストラ』(ニイチェ全集7,日本評論社) [44044
[＊昭和10]　ニイチェ/生田長江譯『善惡の彼岸；この人を見よ(ニイチェ自傳)』(ニイチェ全集8,日本評論社) [44045
[＊昭和10]　ニイチェ/生田長江譯『道德系譜学；偶像の薄明；反基督』(ニイチェ全集9,日本評論社) [44046
[＊昭和10］　金星堂編『現代隨筆全集1』(「ケーベル先生の十周年」) [44047
［昭和10年10/13起稿、昭和16年10/7脱稿］ホメーロス/土井晩翠譯(手稿本)「オヂュッセーア」(第1-6、6册) [44048
[＊昭和10］　岩崎克己『柴田昌吉傳』(一誠堂書店) [44049
[＊昭和10］　丸山國雄『我が國に於ける獨逸學の勃興』(日獨文化協會) [44050
［＊昭和10］　重久篤太郎「西洋語と國語」國語科學講座26 [44051
[＊昭和10］　辻村正吾「ルーテル初期の宗教的轉向期について」史林20-1 [44052
[＊昭和10]　山口等澍「哲學的時間論批判」(アリストテレス,アウグスティヌス)哲學14 [44053
[＊昭和10］　鳥居博郎『哲學者としてのキェルケゴール』(第一書房) [44054
[＊昭和10］　兼常清佐『音樂と生活』(ケーベル, 岩波書店) [44055
[＊昭和10］　松本亦太郎『偉人論及偉人研究』(改造社) [44056
[＊昭和10］　ジュウル・ルメエトル/工藤肅譯『ジャン・ラシイヌ』(神戸)川瀨日進堂) [44057

[＊昭和10］　アンドレ・モーロア/木村毅譯『バイロン：傳記小說』（改造社）[44058
[＊昭和10］　ヘルデルリーン/陶山務譯『思想するヒユペリオン』（第一書房）[44059
[＊昭和10］　河野正通『ヘーゲル』（社會科學の建設者人と學說叢書, 三省堂）[44060
[＊昭和10］　手塚壽郎『マルクス研究』（小樽高商）[44061
[＊昭和10］　戸弘柯三『近代日本哲学學史』（ナウカ社）[44062
[＊昭和10］　ブイコフスキー/早川二郎譯『考古學概論』（白楊社）[44063
[＊昭和10］　阿部眞琴「末松謙澄とZerffi:The Science of History」歷史學研究3-4[44064
[＊昭和10］　伊東多三郎「幕末に於ける耶蘇教排撃」歷史地理65-3[44065
[＊昭和10］　小關紹夫「我國基督教文化史への一展望」歷史學研究4-1[44066
[＊昭和10］　南原繁「宗教と文化—高谷道男「基督教經濟文化史」について」一橋新聞215 [44067
[＊昭和10]　中田重治述『日本人とユダヤ人』(東洋宣教會ホーリネス教會出版部)[44068
[＊昭和10]　門脇清『日本語聖書飜譯史』（アガペー社）[44069
[＊昭和10]　門脇清『ノアの洪水圖解』（アガペー社）[44070
[＊昭和10]　柏井園『基督教史』(長崎書店)[44071
[＊昭和10]　郷司愷爾『基督教史』(新生堂)[44072
[＊昭和10]　神田盾夫「マルコ傳ところどころ」ギリシャ語聖書研究5,7,12月號[44073
[＊昭和10］　青木萃一『基督之系圖』［44074
[＊昭和10]　益本重雄『イエス傳・神音書聖句』[44075
[＊昭和10］　ヘンリ・ブルトン・シャーマン編『イエスの生涯の記錄』[44076
[＊昭和10］　フランツ・M・ヴヰルラム/ヘルマン・ホイヴェルス、木暮浪夫譯『キリストの生涯』[44077
[＊昭和10］　秋保孝藏『基督傳』[44078
[＊昭和10］　ゴーデー/西岡虎造譯『基督の復活』[44079
[＊昭和10］　中川重『キリスト』（偉人傳記文庫19）[44080
[＊昭和10］　中川重『ポーロ』（偉人傳記文庫78）[44081
[＊昭和10］　上澤謙二『パウロ』（基督教出版社, 基督教文庫・聖書物語）[44082
[＊昭和10］　坪内逍遙譯『新修シェークシピヤ全集31—アントニーとクレオパトラ』（中央公論社）[44083
[＊昭和10］　ウォルター・ローリ/柏倉俊三譯『シェイクスピア序說』（研究社）[44084
[＊昭和10］　成田成壽『アーノルド』（英米文學評傳叢書, 研究社）[44085
[＊昭和10］　北嶋忠夫『羅甸語初歩』（青木學修堂）[44086
[＊昭和10］　泉井久之助「語彙の研究」（明治書院）國語科學講座3[44087
[＊昭和10］　岩波書店編輯部編『國語・學習指導の研究・巻7』（夏目漱石「ケーベル先生」。→1936年版）[44088
[＊昭和10］　高沖陽造『歐洲文藝の歷史的展望—ダンテからゴーリキーまで』

（清和書房） [44089
[＊昭和10］ 大日本文學會編『近代文學講話』（宮本書房） [44090
[＊昭和10］ 柳田泉『明治初期飜譯文學』（松柏舘書店） [44091
[＊昭和10] 福原麟太郎『春與倫敦子』(研究社) [44092
[＊昭和10] 兒島喜久雄編『西洋美術舘めぐり』(座右寶刊行會。→昭11年,『西洋美術舘めぐり』改訂版) [44093
[＊昭和10] 團伊能『改訂概說歐洲藝術史』(冨山房) [44094
[＊昭和10] 神田龍一『西洋音樂史』（西洋音樂講座3） [44095
[＊昭和10] 音樂世界社編『音樂史』（初等音樂） [44096
[＊昭和10] 江藤太郎「ダンテ神曲に現れた一異端哲學者—Siger de Brabant」精神科學10-4 [44097
[＊昭和10] ピエル・ブリソン/松本勝喜代譯『勞働生活史』（刀江書院） [44098
[＊昭和10] 米山梅吉『幕末西洋文化と沼津兵學校』(三省堂) [44099
[＊昭和10] マキアヴェルリ/黑田正利譯『君主論』（岩波文庫） [44100
[＊昭和10］ 明石鐵也「ローマ進軍の大演說(ムッソリーニ)」（大日本雄辯會講談社『東西大雄辯家物語』中） [44101
[＊昭和10] 石井滿『ムッソリーニの全貌』(ヤシマ書房) [44102
[＊昭和10] アリストテレス/原隨園譯『アテナイ人の國家』（改訂版, 岩波文庫） [44103
[＊昭和10] 「スパルタ的教育と涙」(奈良女子大學)學習研究14-9 [44104
[＊昭和10] 龜德正臣「アウグスチヌス「神都論」に現はれたる國家觀」新興基督敎6月號 [44105
[＊昭和10] 氣賀重躬「基督敎史に於ける國家觀の變遷」新興基督敎6月號[44106
[＊昭和10] 野々村戒三「ヘブライ民族の社會思想」史苑9-4 [44107
[＊昭和10] 林稷[A.D.リンゼイ]著/彭基相譯『康德［カント］哲學』（百科小叢書, 商務印書舘） [44108
[＊昭和10] 佐藤昌介・稻田昌植『世界農業史論』(西ヶ原刊行會) [44109
[＊昭和10] シュペングラー/入澤民政譯『シュペングラーの經濟觀』（小山書店） [44110
[＊昭和10] 松本信廣「シャム發見の希臘羅馬型ランプ」史學14-3 [44111
[＊昭和10] 中島淸之助「コペルニクス」進歩5月號 [44112
[＊昭和10] 田中重穗「學名とラテン語との關係」動物學雜誌47(561) [44113
[＊昭和10] 「ギリシャ」建築雜誌606 [44114
[＊昭和10] 細井淙「日本科學の特質(數學)」東洋思潮12 [44115
[＊昭和10］ 岡田平八郎『齒科醫語辭典』（萬國出版社） [44116
[＊昭和10］ 牧野富太郎・淸水藤八郎『植物學名辭典』（春陽堂） [44117
[＊昭和10］ 武藤智雄「第1回羅馬法學會」法政研究52 [44118
[＊昭和10] 西村眞次『小野梓傳』(冨山房。→4版) [44119
[＊昭和11(1936)] 西村眞次『日本人はどれだけの事をして來たか』(日本小國民文庫3, 新潮社。→1943年,改訂版) [44120
[＊昭和11] 西村眞次他『日本建國の研究』(章華社) [44121
［＊昭和11］ 竹山道雄「希臘にて」世代11月号(→1941[昭16年]5月号まで連載。昭

和24年,同『希臘にて』収載) [44122
［＊昭和11］　玉生道經「和辻哲郎著「風土：人間學的考察」」民族學研究2-2 [44123
［＊昭和11］　柳沢健文；藤田嗣治繪『紀行世界圖繪』（岡倉書房） [44124
［＊昭和11］　鈴木利貞編『學生と教養』（野上彌生子「一つの注文：遠くイタリーへ學ばんとするSへ」。日本評論社。） [44125
［＊昭和11］　木村毅『旅と讀書』（双雅房） [44126
［＊昭和11］　龜井高孝「山田聯の地球輿地全圖に就て」地理學4-7 [44127
［＊昭和11］　飛松正「近世に於ける世界知識の展開」歴史教育11-3 [44128
［＊昭和11］　九鬼周造「書齋漫筆」（プラトン、エピクテトス等）文藝春秋8月號 [44129
[＊昭和11］　三宅雪嶺「雪嶺自傳」婦人之友1,12月號 [44130
[＊昭和11］　Etsurei Maeda［前田越嶺］“Grammatica latina,elementaria et complete selectae profanis et christianis scriporibus”, Keio Gijuku [44131
[＊昭和11］　B.Matsuoka『ラテン語第一歩=Primi in linguam Latinam passus』（南山堂書店） [44132
[＊昭和11］　鈴木重武「改訂の解剖學（ラテン語）名彙に就て」千葉醫學會雜誌 14-9 [44133
[＊昭和11］　櫻井投『日本英語教育史稿』（蕗文舘） [44134
［＊昭和11］　花野冨藏「紅毛日本文學考」むらさき3-5 [44135
[＊昭和11］　吉田三郎「近世思想の動向」歴史教育11-3 [44136
[＊昭和11］　原平三「蘭學發達史序說」歴史教育11-3 [44137
[＊昭和11]　原種行「西歐科學の輸入と移植」歴史教育11-3 [44138
[＊昭和11]　貞松修藏「厚生新編を何故に發行せんととするか」葵文庫ト其事業 117 [44139
[＊昭和11]　阿部眞琴「科學的宇宙觀—地球地動說について」(西岡虎之助編『日本思想史の研究』所収,章華社) [44140
[＊昭和11]　大日本體育協會『オリムピックの書』(三省堂) [44141
[＊昭和11]　野口源三郎『オリムピックの知識』(成美堂書店) [44142
[＊昭和11]　川本信正『オリンピック讀本』(旺森社) [44143
[＊昭和11]　瀧澤真弓「40 パルテノンに窓があつたか」建築學會論文集1[44144
[＊昭和11］　澤田謙『プルターク英雄傳』（大日本雄辯會講談社。→昭和16年, 再版） [44145
[＊昭和11］　佐伯好郎『Solomon and Herodotus in Japan』（冨山房） [44146
[＊昭和11］　鍋島寛之「中世に於ける神佛關係の動向：反本地垂迹說を中心として」（百合若大臣)駒澤大學佛教學會年報7-1 [44147
[＊昭和11］　阿刀田令造『郷土誌漫筆』（百合若。仙臺郷土研究會出版部) [44148
［＊昭和11］　島津久基編・市古貞次校訂『お伽草子（正續）』（岩波文庫） [44149
[＊昭和11］　辻野久憲「天と地のあはひ」（ヒューマニズム）（季刊）創造8（→昭和24年,「望楼」2月号に再錄) [44150
＊[訂正] [＊昭和11］青木巖「プラトン政治思想の序論：その背景と原理」哲學（三田哲學會）16 [11732] [44151

[＊昭和11］　高山岩男『ヘーゲル』（大思想文庫21,弘文堂）　[44152
[＊昭和11］　F.シュレーゲル/飯田安譯『ロマン的人間』(第一書房)　[44153
[＊昭和11］　桑木嚴翼『哲學と文學との間』（大日本圖書）　[44154
[＊昭和11］　佐藤正治譯註『イーソップ物語』(外語研究社)　[44155
[＊昭和11］　齋藤磯雄譯『ラ・ロシュフコオ箴言錄』（三笠書房）　[44156
[＊昭和11]　神田盾夫「マルコ傳について」ギリシャ語聖書研究1~5月號　[44157
[＊昭和11]　Iwakura・Tomizane,Ooshima・Isao譯『Maruko no tutaeta hukuin』日本のローマ字社, Romazigakino Seisyo1　[44158
[＊昭和11］　トマス・ア・ケンピス/内村達三郎譯『基督のまねび』（春秋文庫, 第1部, 春秋社）　[44159
[＊昭和11］　日本組合基督教會教育部編（今泉眞幸執筆）『キリストなるイエス』（宗教教育叢書 標準日曜學校學課教案 中學科第2級)　[44160
[＊昭和11］　吉滿義彦「カトリック哲學の概念」カトリック16-6　[44161
[＊昭和11］　吉滿義彦「カトリシズムとヒューマニズム」讀賣新聞10/10-15　[44162
[＊昭和11］　ゴーデー原著/岡藤丑彦譯『天使論：附地上に於ける生命發展の方法』（一粒社）　[44163
[＊昭和11］　榊原誠『概觀世界史』（學藝社）　[44164
[＊昭和11］　中川一男『歴史學及歴史教育の本質』（刀江書院）　[44165
［＊昭和11］　廣瀬哲士『英雄の生涯：ナポレオン評傳』（千倉書房）　[44166
［＊昭和11］　早坂二郎『運命の英雄ナポレオン』（新傳記叢書, 新潮社）　[44167
[＊昭和11］　早川二郎『古代社會史』（三笠書房）　[44168
［＊昭和11］　伊豆公夫『日本史學史：日本歴史研究の基礎』（白楊社）　[44169
[＊昭和11］　石井建次『キリストの聖骸布』　[44170
[＊昭和11］　山邊久吉『基督傳研究序論』（聖公會出版部）　[44171
[＊昭和11］　ルナン/廣瀬哲士譯『耶蘇』(東京堂)　[44172
[＊昭和11］　A.C.デイーン/川合義信譯『イエス・キリスト』(新生堂)　[44173
[＊昭和11］　能勢陽三『諷刺詩聖 キリスト傳』（ナウカ社）　[44174
[＊昭和11］　リーダー/上澤謙二譯『青少年のイエス』(日曜世界社,青少年宗教教育叢書1)　[44175
[＊昭和11］　千葉勇五郎『パウロ傳』（基督教讀本1）　[44176
[＊昭和11］　ミリガン/黒瀬保郎譯『新約聖書とその由來』（聖公會出版部）[44177
[＊昭和11]　チム・クライン/藤田孫太郎譯『若きルッター』（基督教文庫4,長崎書店)　[44178
[＊昭和11]　藤田孫太郎『ルッターの後半生』（基督教文庫5,長崎書店)　[44179
[＊昭和11］　清水博「アメリカ史學50年」歴史學研究6-11　[44180
[＊昭和11］　佐藤堅司『世界兵學史—西洋篇』（學而書院）　[44181
[＊昭和11］　和田萬吉『圖書舘史』（藝草會）　[44182
[＊昭和11］　間崎萬里「（彙報）Dr.J.H.Breasted逝く」史學14-4　[44183
[＊昭和11］　間崎萬里「青木萃一編「基督之系譜」」史學15-1　[44184
[＊昭和11］　長壽吉『新修史學概論』（同文書院）　[44185

[＊昭和11］　龜谷長輝「神話と天文星座と地理」沖繩教育244　[44186
[＊昭和11］　與儀清修「ゲーテ」沖繩教育244　[44187
[＊昭和11]　間崎萬里「ゲーテとシラーの正しい發言」史學15-3　[44188
[＊昭和11]　ニイチェ/生田長江譯『悲劇の出生：附・ワグネルの事件』（ニイチェ全集1,日本評論社）　[44189
[＊昭和11]　ニイチェ/生田長江譯『季節はづれの考察』(ニイチェ全集2,日本評論社）　[44190
[＊昭和11］　ヴェルツマン他/大澤章譯編『古典美術の再批判』（芝書房）[44191
[＊昭和11］　登張信一郎『竹風隨筆』(南光社)　[44192
[＊昭和11]　兒島喜久雄『美術批評と美術問題』(小山書店)　[44193
[＊昭和11]　兒島喜久雄『美術概論：其他』(小山書店。→昭和15年,改訂增補版)　[44194
[＊昭和11］　乙骨三郎『西洋音樂史』（京文社）　[44195
[＊昭和11］　太田黑元雄『音樂藝術史』（第一書房）　[44196
[＊昭和11］　竹友藻風『英文學史,670-1660』（川瀨日進堂）　[44197
[＊昭和11］　ミルトン/畔上賢造譯『復樂園』（改造社）　[44198
[＊昭和11］　日本圖書舘協會編『良書百選・第5輯』　[44199
--- 桑木嚴翼『西洋哲學史概』・佐野勝也『使徒パウロの神秘主義』・和辻哲郎『風土』・松村武雄『民族性と神話』・大類伸『西洋史新講』・三谷隆正『法律哲學原理』・木村謹治『ゲーテ論巧』
[＊昭和11］　上伊那哲學會編『哲學的自然觀：下村寅太郎先生講演』(上伊那哲學會) [44200
[削除][~~＊昭和11］　三上義夫「和漢數學上に於ける希臘・印度・亞剌比亞の要素の有無有無(1922年度調査部講演会要旨)」東洋學報12-4~~ [→大11]　~~[44201~~
[＊昭和11］　上林彌四郎・山本松七『中等學校篇(ギリシャ幾何學に於ける五大數學者), 小學校篇(完)』(師範大學講座數學教育［第二期］12,數學教育教授資料6,建文舘)　[44202
[＊昭和11］　田端茂穗『西洋工藝史』（中央工學會）　[44203
[＊昭和11]　世田雄一「數學史の研究」唯物論研究46-50　[44204
[＊昭和11]　鈴木重武「改訂の解剖學(ラテン語)名彙に就て」千葉醫學會雜誌14-9　[44205
＊[訂正] [昭和12]佛蘭西ルーヴル美術舘研究所編/柳亮譯註『様式世界美術全集・第2巻--希臘・羅馬：附ポンペイアン』（アトリエ社）[12069］　[44206
[＊昭和12(1937)]　西村眞次『日本文化史點描』(東京堂)　[44207
[＊昭和12］　日本郵船株式會社船客課編『死都ポンペイを訪ふために』（日本郵船船客課）　[44208
[＊昭和12]　石井柏亭『西洋繪畫史』(洋畫實技講座5,アトリエ社)　[44209
[＊昭和12］　ヨハネス・ラウレス/小林珍雄譯「北平北堂圖書舘發見の日本耶蘇會出版にかかる七册」歷史地理70-4 [44210
[＊昭和12］　海老澤有道「スピリツアル修行の古寫本に就テ」史苑11-2　[44211
[＊昭和12］　小澤三郎『日本最古の和譯聖書と翻譯者ギュツラフ先生』(出版社

不明) [44212
[＊昭和12］ 伊東多三郎「國學と洋學」歴史學研究41(7-3) [44213
[＊昭和12］ 伊東多三郎「洋學の一考察」社會經濟史學7-3 [44214
[＊昭和12］ 冨成喜馬平「蘭學發達の基礎条件」商學23 [44215
[＊昭和12］ 山岸光宣「幕末の獨逸學」(『學窓夜話』所収, 東苑堂) [44216
[＊昭和12］ 幸田成友「日本文化に及ぼした和蘭語の影響」學燈41-1 [44217
[＊昭和12］ 幸田成友「日本の文化に及ぼした和蘭の影響—ポックサー大尉の新著を讀む」學燈41-1 [44218
［＊昭和12］ 赤尾藤市「ペリー渡来以前に於ける對外國民思想の考察(上下)」史林22-3,4 [44219
[＊昭和12] 河野省三「神道と教育,西洋思想と教育」岩波講座國語教育 [44220
[＊昭和12］ 寺島柾史『日本科學發達史』(啓文社) [44221
[＊昭和12］ ヴェ・ダニレフスキイ/岡邦雄・桝本セツ譯『近代技術史』三笠書房(→1938年,普及版。) [44222
[＊昭和12] 富成喜馬平「近世初期の數學」商學24 [44223
[＊昭和12］ 貞松修藏編・解説『厚生新編』(厚生新編刊行會) [44224
[＊昭和12] 貞松修藏「厚生新編の覆刻に就て」中外醫事新報1247 [44225
[＊昭和12] 熊井一郎「厚生新編覆刻について」葵文庫ト其事業136 [44226
[＊昭和12] 貞松修藏「德川幕府の飜譯事業」葵文庫ト其事業136 [44227
[＊昭和12] 貞松修藏「幕府飜譯事業と我國の新教育」葵文庫ト其事業137,138 [44228
[＊昭和12] 貞松修藏「幕府の飜譯事業と厚生新編等の記述について」歴史地理70-5 [44229
[＊昭和12］ 定宗數松『日本英學物語』(English Teacher's Library,三省堂) [44230
[＊昭和12］ 河合榮治郎『學生と先哲』(出隆。日本評論社) [44231
[＊昭和12］ 新村出『思想と學問』(日本文化史大系9 江戸前期文化。誠文堂新光社) [44232
[＊昭和12］ ウェルズ/松平道夫譯『少年世界文化史(1)(2)』(春秋社) [44233
[＊昭和12］ プラトーン/津久井龍雄譯『理想國』(新潮文庫253) [44234
＊[訂正] [＊昭和12］村岡景夫「アリストテレースに於ける「模倣」の意義(1,2)」基督教研究15,16[昭13] [24266] [44235
[＊昭和12］ 水野清太郎「古代希臘文明に關する一考察」英米文學10月號 [44236
[＊昭和12］ 三浦新七「古代羅馬文化の實踐的傾向」東京商大60周年記念論文集 [44237
[＊昭和12］ 鹽見森之助「イエスと山岳」基督教世界2780(6/24) [44238
[＊昭和12］ 竹山道雄「新ソフィスト時代」思想9月號 [44239
[＊昭和12］ 葉上照澄「希臘末期に於ける「一と多」に就いて」大正大學々報26 [44240
[＊昭和12］ 土井虎賀壽『原初論理學：ヘーゲル的ロゴスの發展』(ナカニシヤ) [44241
[＊昭和12］ 山本光雄「アウグスチヌスの「幸福なる生活」に就いて」哲學雜誌593 [44242
[＊昭和12］ 日本圖書舘協會編『良書百選・第5輯』 [44243

---後藤孝弟『ソクラテス』・相良德三『歐洲美術の歴史』・乙骨三郎『西洋音樂史』・馬場久治『ゲーテと伊太利』・木下杢太郎『藝林間歩』 [44244
[＊昭和12] イソップ原作/黒崎義介繪・八波則吉文『イソップ繪話』(1册, 大日本雄辯辯會講談社。→1938年, 重版, 講談社の繪本16。) [44245
[＊昭和12] 大畑末吉譯『アンデルセン自傳』(岩波文庫) [44246
[＊昭和12] イポリット・テーヌ/平岡昇・河内清譯『シェイクスピアからミルトンまで』(大山書店) [44247
[＊昭和12] 齋藤勇『キーツ』(研究社,研究社英米文學評傳叢書45) [44248
[＊昭和12] 田部重治「ペーターと現代思潮」駒澤大學人文學會年報4 [44249
[＊昭和12] N.K「成田成壽著『アーノルド』(英米文學評傳叢書)研究社,(昭和十年(批評紹介))」英文學研究17-3 [44250
[＊昭和12] 齋藤勇編『研究社英米文學辭典』(研究社。→昭14年,再版。→昭16年,5版)。) [44251
[＊昭和12] T.Jingu『Fundamenta linguae latinae=ラテン語の基礎』(Ikubundo → 昭13年,訂正再版) [44252
[＊昭和12] Hermann Hesse“Lateinschüler：Erzählungen”(藝文書院) [44253
[＊昭和12] 冨原正義「西洋の古代家具とその使命」沖繩教育256 [44254
[＊昭和12] 和辻哲郎『面とペルソナ』(岩波書店) [44255
[＊昭和12] 矢島玄四郎纂譯・河津祐之序並校閲『拿破崙全傳』(狩野久宜出版) [44256
[＊昭和12] 宮崎孝治郎『ナポレオンとフランス民法』(岩波書店) [44257
[＊昭和12] 佐藤正彰譯『ナポレオン：回想錄』(スタンダァル選集7,竹村書房) [44258
[＊昭和12] 樺俊雄譯『ドロイゼン史學綱要』(刀江書院) [44259
[＊昭和12] 出村實「ヘーゲル歷史哲學の基礎概念」研究と資料7 [44260
[＊昭和12] 神畑勇「ベルンハイムの史學に就いて」歷史5 [44261
[＊昭和12] 岩月太刀男『ルネサンスの根本概念』(興文社) [44262
[＊昭和12] 内藤智秀「イスタンブール名稱考」齋藤先生古稀祝賀記念論文集 [44263
[＊昭和12] 泉井久之助「言語地理學」(地人書館)地理學講座14 [44264
[＊昭和12] 大類伸「ルネサンスの概念」西洋史研究11 [44265
[＊昭和12] 新生堂編輯部編『世界名著讀本4—神曲(ダンテ)』(新生堂) [44266
[＊昭和12] 平塚博「所謂西羅馬帝國の復興に就いて」西洋史研究12 [44267
[＊昭和12] 村岡哲「ゲーテと歷史」西洋史研究12 [44268
[＊昭和12] ニイチェ/生田長江譯『ツァラトゥストラ』(新潮文庫237) [44269
[＊昭和12] 廣瀨哲士『概觀フランス史』(白水社) [44270
[＊昭和12] 木村房吉「海—毎—母」(希臘語・拉典語等)思想180 [44271
[＊昭和12] 香川縣立圖書舘編『菊池寛文庫所藏目錄』(香川縣立圖書舘) [44272
[＊昭和12] 村上濱吉監修『明治文學書目』(末松謙澄等、村上文庫藏板) [44273
[＊昭和12] 羽石弘志繪・北村壽夫文『日本童話集：百合若大臣外五篇』(大日本雄辯會講談社, 講談社の繪本44) [44274

［＊昭和12］　小田貢士『寓話文學』（イソップ。興文社, 英友叢書3）　[44275
［＊昭和12］　黒崎義介繪・八波則吉文『イソップ繪話』（講談社の繪本16）[44276
［＊昭和12］　長沼賢海『日本文化史の研究』（イソップ等。教育研究會）　[44278
［＊昭和12］　外山卯三郎『美術史論』（建設社）　[44279
＊［訂正］［昭和12］オンリ・マルタン編/柳亮譯註『希臘・古羅馬 : 附ポンペイアン』（アトリエ社, 様式世界美術全史・第2巻）［12067］　[44280
［＊昭和12］　C.H.Dodd/神田盾夫譯「新約聖書研究當面の課題」ギリシャ語聖書研究1~5月號[44281
［＊昭和12］　M.Dibelius/神田盾夫譯「福音書批判とキリスト教(1~3)」ギリシャ語聖書研究6月號～3月號（昭和13年) [44282
［＊昭和12］　神田盾夫「様式史法覺へ書」ギリシャ語聖書研究8月號　[44283
［＊昭和12］　神田盾夫「Sitz im Leben」ギリシャ語聖書研究9月號　[44284
［＊昭和12］　神田盾夫「地の塩」ギリシャ語聖書研究10月號　[44285
［＊昭和12］　船橋雄『英譯聖書鈔』（研究社）　[44286
[＊昭和12]　福原麟太郎「新刊書架：「英譯聖書鈔」船橋雄著」英語青年77-6　[44287
[＊昭和12]　福原麟太郎「リヨン：旅の一節」雜記帳2-7　[44288
[＊昭和12］　蘆田慶治「バルト著『ロマ書講解』未完譯稿の一部」基督教研究15(1・2)　[44289
[＊昭和12］　森山英造『基督傳』　[44290
[＊昭和12］　佐野勝也『キリスト聖語讀本』　[44291
[＊昭和12］　モオリアック/辻野久憲譯『イエス傳』(野田書房)　[44292
[＊昭和12］　加藤一夫『（小說）キリスト』　[44293
[＊昭和12]　畔上賢造・中央聖書研究會編『獨立傳道廿五年：畔上賢造先生獨立傳道廿五周年記念講演並感想集』(中央聖書研究會青年會)
----三谷隆正「アウグスチヌスの神國論」・塚本虎二「パウロ對ペテロ」　[44294
[＊昭和12］　三谷隆正「アウグスチヌスの神國論」日本聖書雜誌8月號&畔上賢造・中央聖書研究會『獨立傳道廿五年・畔上賢造先生獨立傳道廿五周年記念講演並感想集』中央聖書研究會青年會　[44295
[＊昭和12］　中澤辯次郎『都市社會進化論』（日本農村問題研究所）　[44296
［＊昭和12］　庄又三郎『海洋發達史』（海洋協會）　[44297
[＊昭和12］　鈴木義男「我國に於ける西洋法學の濫觴」國家學會50周年記念國家學論集　[44298
[＊昭和12］　ヴェルネル・ハイゼンベルク/中川「近代物理學における古代古代自然哲學の思想」哲学雜誌606　[44299
[＊昭和12］　山本一清『東西天文學史』（圖說天文學講座8,恒星社・厚生社)　[44300
[＊昭和12]　廣瀬謙三『オリンピック競技史』(オリンピック叢書2,成美堂)[44301
[＊昭和12]　エフ・エイ・エム・ウエブスター原著/宮原治・森田俊彦譯『オリンピック競技史』(日本青年舘)　[44302

[＊昭和12］　大井次三郎「東亞植物資料15」（ギリシャ語・ラテン語）植物分類・地理6-3 [44303
[＊昭和12］　大塚節治「蘆田慶治先生を追懐す」基督教研究15 [44304
[＊昭和12］　平凡社編『新撰大人名辭典』（平凡社。→1941年。） [44305
[＊昭和12］　小林珍雄編集代表『カトリック用語小辭典』（札幌光明社）[44306
[＊昭和12］　高木耕三・尾持昌次共編『新舊對照解剖學名集覧』（南山堂）[44307
[＊昭和12］　勝本鼎「岩波書店編岩波哲學辭典」三田學會雜誌17-1 [44308
[＊昭和12］　古野清人「ノアイユ,「ロマ人の原始法律に於ける婚姻のタブー」民族學研究3-4 [44309
[＊昭和13(1938)] 西村眞次『文化と歴史』(人文書院) [44310
[＊昭和13］　原哲雄「ローマ人の英國占領とその後の造林が英國風景に及ぼせる影響」日本林學雜誌20-9 [44311
[＊昭和13］　宮崎市定「バグダッド旅信」東洋史研究3-3 [44312
[＊昭和13］　關根文之助『神ながらの道と基督教』(不二屋書房) [44313
[＊昭和13］　ダンテ・ゲーテ・トルストイ原著/丸山仁夫著『神曲・ファウスト・戰爭と平和』(新生堂。世界名作物語1) [44314
[＊昭和13］　マルティン・ハイデッガー/齋藤信治譯『ヘルダーリンと詩の本質』(理想社出版部) [44315
[＊昭和13］　野村兼太郎「平沼淑郎博士を憶ふ」社會經濟史學8-8 [44316
[＊昭和13］　寺尾元彦「平沼淑郎博士の逝去」社會經濟史學8-8 [44317
[＊昭和13］　平沼淑郎「法學回顧談（遺稿）」社會經濟史學8-8 [44318
[＊昭和13］　町田實秀・吉永榮助編「羅馬法關係羅典語試譯抄」東京商科大學年報4 [44319
[＊昭和13］　武藤智雄「わが國の文化とイタリアの協力」中央公論5月號 [44320
[＊昭和13］　ディルタイ/甘粕石介譯『青年時代のヘーゲル』(現代思想全書4,三笠書房) [44321
[＊昭和13］　ヘーゲル/河野正道譯『歴史哲學緒論：ラッソン版』(白楊社。→1943年,增補版。) [44322
[＊昭和13］　泉井久之助『フンボルト』（西哲叢書18,弘文堂。→昭14年, 再版。） [44323
[＊昭和13］　天野貞祐「ハイデルベルグ學派の人々」（ウィンデルイバント, ホフマン等）（→昭和14年,同『學生に與ふる書』所収,岩波新書) [44324
[＊昭和13］　天野貞祐「濱田［耕作］總長の追憶」京都帝國大學新聞8/?（→昭和14年,同『學生に與ふる書』所収,岩波新書) [44325
[＊昭和13］　天野貞祐「濱田耕作先生のこと」知性12月號（→昭和14年,同『學生に與ふる書』所収,岩波新書) [44326
[＊昭和13］　水野清一「濱田耕作先生の訃 附・著作目録」東洋史研究3-6[44327
＊［訂正］［昭和13］評書・出隆「最近の哲學書--「テアイテトス」を讀む」（田中美知太郎譯）帝國大學新聞718(5/2) [12329] [44328
[＊昭和13］　戸坂潤『讀書法』三笠書房,1938年（→1946年,現代叢書60） [44329
＊［訂正］［昭和13］丸川仁夫『ホメロス物語ギリシヤ戰話』（新生堂）[12403] [44330

[＊昭和13］　記事「東亞協同體の理想 ヘレニズム文化の歴史を見よ 三木[清]氏希望を説く」帝國大學新聞745(12/12)　[44331
[＊昭和13］　有賀春雄「ハンチントン、氣候と文明、間崎萬里譯、岩波文庫版」史學17-2 [44332
[＊昭和13］　南原繁「ヒューマニズムの現代的意義—蠟山政道著「ヒューマニズムの政治思想」について」國家學會雜誌52-5　[44333
[＊昭和13］　島田雄次郎「中世獨逸大學とヒューマニズム—獨逸ヒューマニズムの史的意義の問題に寄せて」史苑11-3・4　[44334
[＊昭和13］　島田雄次郎「大類伸著「ルネサンスの文化」」史苑12-1　[44335
［＊昭和13］　赤尾藤市「ハリス來朝當時に於ける對外思想」史林23-4　[44336
［＊昭和13]　赤尾藤市「第一回遣米使村垣正範の外國觀」歷史教育13-9　[44337
［＊昭和13]　岡本良知『16世紀世界地圖上の日本』(弘文莊)　[44338
［＊昭和13]　下村三四吉「江戸時代の對外思想の起伏」歷史公論7-10　[44339
［＊昭和13］　栗田元次「江戸時代の世界地圖概說」史學研究10-1　[44340
[＊昭和13]　井上清『陸海軍事史話』(四海書房)　[44341
[＊昭和13］　丸山國雄『我が國學術の進歩と獨逸學』（日獨文化協會）　[44342
[＊昭和13］　貞松修藏「厚生新編を複刻せる動機」葵文庫ト其事業140　[44343
[＊昭和13］　沼田次郎「蕃書調所について」歷史地理71-5　[44344
[＊昭和13］　坂本正義『國體と基督教及西洋思想と教育』(櫻民會)　[44345
[＊昭和13］　山宮允「「西國立志篇」[スマイルズ]及びその類書に就いて(1)」學燈43-2　[44346
[＊昭和13］　古川晴男「日本學會所藏筆者不明の昆虫類の和名・獨名・學名對照る表に就いて」（日獨文化協會編『シーボルト研究』所収,岩波書店。）[44347
[＊昭和13］　長谷川誠也「明治初年の外國語教科書」學燈42-11　[44348
[＊昭和13]　齋藤勇『英文學史』(研究社,3訂新版)　[44349
[＊昭和13］　ミルトン/繁野天來譯『失楽園(上下)』(新潮文庫)　[44350
[＊昭和13］　ミルトン/藤井武譯『失楽園(上中下)』(岩波文庫)　[44351
[＊昭和13］　勝俣銓吉郎『日本英學小史』研究社　[44352
[＊昭和13]　福原麟太郎「新刊書架：「明治文學史」(上下二巻)本間久雄著」英語青年79-2　[44353
[＊昭和13]　福原麟太郎「ギリシャ悲劇：讀書新講1」英語の研究と教授7-7　[44354
[＊昭和13]　野上豐一郎『飜譯論：飜譯の理論と實』(岩波書店)　[44355
[＊昭和13]　中井修『世界偉人言行錄』(大洋社出版部)　[44356
[＊昭和13］　小出正吾『イエス・キリスト傳』　[44357
[＊昭和13］　エル・エス・オールブライト/扇玉閲雄譯『イエスの生涯とその教訓』　[44358
[＊昭和13］　エル・エス・オールブライト/北澤滿雄譯『イエスの生涯における轉機』（基督教青年叢書1）　[44359
［昭和?］　佐野勝也『永遠の思慕』（「永遠の都ローマ」）　[44360
[＊昭和13］　出隆『神の思ひ』（岩波書店。←1924年, 大村書店）　[44361

［昭和?］　原田瓊夫『ペテロはロマに在りしや』　[44362
[＊昭和13]　神田盾夫「「神の國」と「人の子」」(石原謙編『哲學及び宗教と其歴史—波多野精一先生獻呈論文集』所収,岩波書店)[44363
[＊昭和13]　神田盾夫「M.ディベリウス『イエス』」(鈴木俊郎編『新約之研究』7月號　[44364
[＊昭和13]　柳亮譯註『ビザンチン』(様式世界美術全史3,アトリエ社)　[44365
[＊昭和13］　板澤武雄「オランダ人の傳へた西洋科學」(日本放送出版協會)ラジオ講演講座44 [44366
[＊昭和13]　下村寅太郎講述『數理哲學』(下伊那教育會第七支會)　[44367
[＊昭和13]　千谷利三『一般物理化學』(内田老鶴圃。→1939年,增訂2版)　[44368
[＊昭和13］　巴陵宣祐『醫學思想史』　[44369
[＊昭和13]　V.ダニレフスキー/岡邦雄・桝本セツ譯『近代技術史』(三笠書房)　[44370
[＊昭和13］　小林澄兄『勞作教育思想史』（丸善。→1948年, 改版）　[44371
[＊昭和13］　ゴーブル譯/上田貞治郎復刻『摩太福音書』(本編。上田文庫古典和譯聖書刊行會)　[44372
［＊昭和13］　上田貞治郎・門脇清『ギュツラフ博士の俤』　[44373
[＊昭和13］　K.F.A.ギュツラフ譯『約翰福音之傳』[出版者不明]　[44374
[＊昭和13］　同志社庶務部「ギュツラフ譯『約翰福音之傳』の刊年」開化2-11　[44375
[＊昭和13］　小澤三郎「ギュツラフと最古の和譯聖書」基督教史研究1　[44376
[＊昭和13］　小澤三郎「ギュツラフと最古の和譯聖書第二編」基督教史研究5　[44377
［＊昭和13］　重久篤太郎「ギュツラフ譯「約翰［ヨハネ］福音之書傳」解題」基督教研究16-1　[44378
［＊昭和13］　齋藤潔『明治基督教文學雜藁』（羊門社, 一粒社［發賣］, 羊門文庫13）　[44379
[＊昭和13］　野尻抱影「星書亂抽」天界（The Heavens)18(203)　[44380
[＊昭和13］　木村毅監修・松元竹二他編『日本人名辭典』（成光堂）　[44381
[＊昭和14(1939)]　西村眞次『民族と生活』(人文書院)　[44382
[＊昭和14］　中西貞雄「西村眞次著, 文化と歴史, 昭和拾參年七月發行, 京都, 人文書院」民族學研究5-1　[44383
[＊昭和14］　小泉信三『學府と學風』（慶應出版會）　[44384
[＊昭和14］　三宅雪嶺「大學の今昔」婦人之友1,12月號　[44385
[＊昭和14］　九鬼周造『人間と實存』　[44386
[＊昭和14］　九鬼周造「偶然と驚き」ラジオ講演原稿（→1981年, 岩波版全集5所収)　[44387
[＊昭和14］　天野貞祐「讀書の思い出」（アリストテレス, 高田三郎）東京堂月報1月號（→昭和14年,同『學生に與ふる書』所収, 岩波新書) [44388
[＊昭和14］　出隆『空點房雜記』（岩波書店）　[44389
[＊昭和14］　出隆『英國の曲線』（理想社出版部。→1939年, 再版）　[44390
[＊昭和14］　藤井義夫「アリストテレス研究の歴史と現段階」一橋論叢4-4

[44391
[＊昭和14］　小林淳男「アリストテレスに於ける言語問題」言語研究4　[44392
[＊昭和14］　原田光槌『プラトンの哲學』（潮文閣。→昭16年, 再版）　[44393
[＊昭和14］　野尻抱影「へーシオドスの星：希臘語「仕事と月日」抄譯」天界（The Heavens)19(217)　[44394
[＊昭和14］　小野清一郎「ソクラテスの刑事被告事件」（同『法學評論（下）』所収, 弘文堂。→昭和17,弘文堂書房版。)　[44395
[＊昭和14]　森本芳雄「アウグスティヌスのロマ書第七章十四節以下に對する理解」基督教研究16-2　[44396
[＊昭和14］　魚木忠一「ロマ書[パウロ]第七章の理解に就てルッテルに與へたアウグスティヌスの影響」基督教研究16-3　[44397
[＊昭和14］　鈴木「運命の哀史に學ぶ」（ギリシャ、ローマ等）基督教世界2874(4/27) [44398
[＊昭和14］　門脇清編『聖書展覧會目錄・聖書和譯史の概觀』（沼津基督教會聯合會）　[44399
[＊昭和14］　平山榮一「ナポレオン時代史書籍解說」史學17-3　[44400
[＊昭和14］　小島貞介譯『へーゲル書簡集』（河出書房）　[44401
[＊昭和14］　竹山道雄「ゲーテに於ける自然と倫理」獨逸文學5月號　[44402
[＊昭和14］　井伊玄太郎「ルナン傳」基督教世界2869(3/23)/2874(4/27)　[44403
[＊昭和14］　サント・ブーブ/渡邊一夫譯『モンテーニュ小論』（白水社, 佛蘭西文藝思潮叢書2) [44404
[＊昭和14］　アンドレ・ジイド/渡邊一夫譯『モンテーニュ論』（岩波文庫）[44405
[＊昭和14］　辰野隆・本田喜代治『モリエール』（大阪創元社。→昭和23年, 再版）　[44406
[＊昭和14］　ジョオジ・ギッシング/谷崎精二譯『ヘンリイ・ライクロフトの手記』（改造文庫, 改造社）　[44407
[＊昭和14］　木本茂三郎「地中海を征く」基督教世界2890(8/17)　[44408
[＊昭和14]　佐藤功一「是蒙誌」學燈8月號　[44409
[＊昭和14］　K.Y.生「比屋根安定教授の日本基督教史第四巻を讀む」基督教世界2890(8/17)　[44410
[＊昭和14］　澁川驍「嚴格なスタイリスト 林達夫氏著『思想の運命』をよむ」帝國大學新聞778(9/18)　[44411
［＊昭和14］　近刊愛書メモ「古典の研究 田中美知太郎」東京朝日新聞朝刊3/13　[44412
[＊昭和14］　板澤武雄「辭書及び文法書の編纂と蘭學の發達」史學雜誌50-5　[44413
[＊昭和14］　宇宿健「世にいふ「薩摩辭書」に就いて」圖書舘雜誌33-6　[44414
[＊昭和14］　高瀬慎吾「和英語林集成に就いて」書物展望9-10　[44414
[＊昭和14］　花園兼定『洋學百花』（ヘラルド雜誌社）　[44415
[＊昭和14］　伊東多三郎「洋學と歷史觀」（史學會編『本邦史學史論叢（下）』所収, 冨山房）[44416
[＊昭和14］　板澤武雄「國學と洋學」國語と國文學16-10　[44417
[＊昭和14］　板澤武雄「「厚生新編」に就いて」葵文庫ト其事業155　[44418

[＊昭和14］　藤原治「新しき精神—蘭學の發達について」古典研究4-8,9 [44419
[＊昭和14］　井上忠「德川時代に於ける洋學の發達」科學評論5　[44420
[＊昭和14］　山岸光宣「大學南校文書の獨逸學關係事項」書物展望9-4　[44421
[＊昭和14］　内山善一「日本に於ける西洋學術の發達」科學ペン4-3　[44422
[＊昭和14］　福島直四郎「文獻學・言語學・語源学」言語研究1939(1)　[44423
[＊昭和14］　山宮允「「西國立志篇」[スマイルズ]及びその類書に就いて(2)追補」學燈43-3　[44424
[＊昭和14］　田制佐重『趣味の日本科學史』（啓文社）　[44425
[＊昭和14］　富成喜馬平『日本科學史要』（弘文堂）　[44426
[＊昭和14］　三枝博音「帆足萬里の洋學促進と文學の側面」學燈43-8　[44427
[＊昭和14］　沖野舜二「洋學者の國體的自覺」國體論史2-18　[44428
[＊昭和14］　上野益三『日本生物學の歷史』（弘文堂）　[44429
[＊昭和14］　田北耕也「鎖國時代長崎を通じて日本に入れる西洋文化の紹介」長崎談叢24　[44430
[＊昭和14］　中川一男「地理上の發見」歷史教育13-11　[44431
［＊昭和14］　蘆田伊人「橋本宗吉著「喎蘭新譯地球全圖」に就て」歷史地理74-5　[44432
[＊昭和14]　井上清『軍事史物語』(國民圖書協會。→1942年,增補改訂版。)　[44433
[＊昭和14]　渡邊修次郎「我國に傳はつた最初の國際法規及び其れに關係ある逸事」學燈43-8　[44434
[＊昭和14］　三浦新七「西洋文化と日本精神」一橋論叢3-1　[44435
[＊昭和14]　大川周明『日本二千六百年史』(第一書房。→昭17,新版)　[44436
[＊昭和14]　大野愼『大川周明博士の日本二千六百年史を駁す』(亞細亞出版社)　[44437
[＊昭和14］　田中秀央『ラテン選文集=Auctores Latini』（岩波書店）　[44438
[＊昭和14］　森優・小林榮三郎『解剖學名ヲ中心トセル醫學生ノ「ラテン」語法』（訂正2版。南江堂）　[44439
[＊昭和14］　泉井久之助『言語の構造』(弘文堂書房,教養文庫12)　[44440
[＊昭和14]　齋藤勇『英米文學年表』(研究社,英米文學評傳叢書・別冊1)[44441
[＊昭和14］　高津春繁「Φσεσιμβροτος」言語研究1　[44442
[＊昭和14］　高津春繁「印歐語母音變化の研究とLaryngles の發見」言語研究3　[44443
[＊昭和14］　泉井久之助「新刊紹介・学會彙報　Dringer,David　著L’alfabeto nella storia della civitia」言語研究3　[44444
[＊昭和14］　高津春繁「新刊紹介　Halbherr-Guarducci著　Inscriptiones Creticae」言語研究4　[44445
[＊昭和14］　高津春繁「新刊紹介　Risch,Ernst著　Wortbildung der homerischen Sprache」言語研究4　[44446
[＊昭和14］　高津春繁「新刊紹介　Fuchs,Siegfried著　Die griechischen Fundgruppen der fruhen Bronzezeit und ihre auswartigen Beziehungen」言語研究4　[44447
［＊昭和14］　青木健一『ひらがなイソップものがたり』（童話春秋社）　［44448

［＊昭和14］　阿蘇三郎『カタカナイソップものがたり』（童話春秋社）　［44449
[＊昭和14]　福原麟太郎「イエイツ(上下)」中外商業新報2/2,3　[44450
[＊昭和14]　福原麟太郎「外國文學の性格(上中下)」中外商業新報12/6,7,8[44451
[＊昭和14]　福原麟太郎「「戸川秋骨先生傳」加藤憲市著」英語青年81-11[44452
[＊昭和14]　福原麟太郎「新刊書架：「英和活用大辭典」勝俣銓吉郎著」英語青年81-11　[44453
[＊昭和14］　山田保治「故濱田耕作先生の思出」防蟲科學3　[44454
[＊昭和14］　羽仁五郎『ミケランヂェロ』（岩波書店）　[44455
[＊昭和14］　下村寅太郎『自然哲學』(弘文堂書房, 教養文庫23)　[44456
[＊昭和14］　鈴木安藏「明治初年における丸善出版の政治文獻」學燈43-8[44457
[＊昭和14］　住谷悦治「幕末明治西洋經濟學移入系譜」松山高商論集1-1,3[44458
[＊昭和14］　馬場嘉市編『基督教百科事典』（日曜世界社）　[44459
[＊昭和14］　ウオルター・リップマン/服部辨之助譯『自由全體主義』（世界全體主義大系10,白揚社）　[44460
＊[訂正] [昭和14]　矢田一男「明治以來ローマ法邦譯事歷(1-4)--『ローマ法大全』を中樞として」法學新報49-6,8,10,12　[12836]　[44461
＊[訂正] [昭和15]　小林秀雄「ランケ派の政治史家テオドール・モムゼン」史苑13-3,4　[44462
＊[訂正] [昭和15]　森義宣「西洋政治思想史における統一性原理(1)(2)」法と經濟13-2,3　[13135]　[44463
[＊昭和15(1940)]　小笠原義勝「牧畜の發達過程より見たる環地中海地帶の文化の移動」地理3-3　[44464
[＊昭和15]　伊東忠太「法隆寺研究の動機」(1936年4月15日記録)建築史2-1[44465
[＊昭和15］　板澤武雄「蘭學の役割と形態」太平洋3-4　[44466
[＊昭和15］　山岸光宣『幕末洋學者歐文集』（私製, 弘文莊）　[44467
[＊昭和15］　山岸光宣『幕末洋學者歐文集解說』（私製, 弘文莊）　[44468
[＊昭和15］　磯西忠吉『外來文化の吸収と國民性』（學友社）　[44469
[＊昭和15]　西村眞次『傳統と土俗』(人文書院)　[44470
[＊昭和15]　西村眞次『技術進化史』(科學知識普及會。→1941年,再版)　[44471
[＊昭和15］　杉本勲『洋學』（新講大日本史14,「日本思想史(下)」雄山閣)[44472
[＊昭和15］　羽仁五郎「明治維新史研究（思想及文化)(1-6)」中央公論55(1-6)　[44473
[＊昭和15］　岩崎克己「「ゼオガラヒー」の渡來と其の影響」書物展望10-12　[44474
[＊昭和15］　小澤三郎「地球說略の著者」明治文化13-9　[44475
[＊昭和15］　鮎澤信太郎「橋本宗吉著「喝蘭新譯地球全圖」に就て--蘆田伊人氏の所說を中心に」歷史地理76-1　[44476
[＊昭和15］　下田理三郎「ギリシャ精神と科學」龍南247　[44477
[＊昭和15］　高村象平『近代技術史』（現代經濟新書第4部, 慶應出版社）[44478
[＊昭和15］　三枝博音『技術史』（現代日本文明史14,東洋經濟新報社）　[44479
[＊昭和15］　桑木彧雄「泰西科學の攝取と其の展開」啓明會第99回講演集[44480
[＊昭和15］　井上忠「「窮理」の發展—徳川時代の科學精神とその限界」歷史学研究79　[44481

[＊昭和15］　勝俣銓吉郎「再び江戸ハルマに就て」日本古書通信127　[44482
[＊昭和15］　石井研堂「明治初期辭書出版の惱み」書物展望10-3　[44483
[＊昭和15］　石井研堂「明治初期に出版した英和辭書」書物展望10-7　[44484
[＊昭和15］　上田貞治郎『基督教古典圖書目錄』（弘文社）　[44485
[＊昭和15]　齋藤勇『キリスト教思潮』(研究社,英米文學語學講座26)　[44486
[＊昭和15］　トマス・ア・ケンピス/内村達三郎譯『基督のまねび』（春秋社思想選書, 春秋社松柏舘）　[44487
[＊昭和15]　アプレイス/呉茂一譯『愛と心—クーピードとプシュケエの物語』（岩波文庫）[44488
[＊昭和15]　石井柏亭『西洋美術論』(學生文庫,河出書房)　[44489
[＊昭和15]　福原麟太郎『叡智の文學』(研究社)　[44490
[＊昭和15］　津田道治編『津田眞道』　[44491
[＊昭和15]　Toyoichiro Nogami“The Noh and Greek Tragedy”,Sendai International Cultural Society.　[44492
[＊昭和15］　勝山安太郎「戰爭・歷史・神」(ギリシャ神話)基督教世界2911(1/18)　[44493
[＊昭和15］　K.Y.「人間の悲觀的傾向と基督教」基督教世界2921(3/28)　[44494
[＊昭和15］　出石誠彦「フレーザー氏『原始宗教に於ける死者に對する恐怖』東洋學報27-1　[44495
[＊昭和15］　太宰治「驅け込み訴へ」（キリスト, ユダ）中央公論2月號　[44496
[＊昭和15］　海老澤有道「ヤジロウ考」史學19-3　[44497
[＊昭和15］　上田文庫聖書舘編『基督教古典圖書目錄』（上田貞治郎）　[44498
[＊昭和15］　神田盾夫「様式史的方法について」形成5月號　[44499
[＊昭和15］　神田盾夫『パピルスの話：新約聖書を中心とせる』（長崎書店）　[44500
[＊昭和15］　渡邊善太「（教學講習會講演要旨）新約聖書の國家觀と祖國觀」基督教世界2954(11/14)　[44501
[＊昭和15］　槍騎兵「（8月の書評）「知性」と「文學界」」（田中美知太郎）東京朝日新聞朝刊8/2　[44502
[＊昭和15］　三谷隆正「基督者世界觀」内村鑑三先生記念・望星講座1「我等の世界觀」[44503
[＊昭和15］　三谷隆正「世界觀の確立」向陵時報11月號　[44504
[＊昭和15］　三谷隆正「歷史的現實國家（述）」聖書講義1,2,5月號　[44505
[＊昭和15］　三谷隆正「學窓を出る諸君に（述）」聖書講義3月號　[44506
[＊昭和15］　石原謙「教會」岩波講座「倫理學」4　[44507
[＊昭和15］　吉滿義彦「古代基督教の古典—Procul est profam!」新興基督教121　[44508
[＊昭和15］　增田四郎「ドープシュ教授の生誕七十年紀年」一橋論叢6-4 [44509
[＊昭和15］　增田良二編「ブレーズ・パスカル書誌」カトリック研究20-6[44510
[＊昭和15］　天野貞祐「岩下壯一君の追憶」カトリック新聞12/?　[44511
[＊昭和15］　矢内原忠雄『イエス傳講話—マルコ傳による』　[44512
[＊昭和15］　W.H.ロヂャーズ/杉田龜久夫譯『神・人 基督の本質と其御事業』　[44513

[＊昭和15］　上澤謙二譯『マルコの福音書：口語譯聖書』（愛之事業社）[44514
[＊昭和15］　大久保利謙『日本近代史學史』(白楊社)　[44515
［＊昭和15］　巖谷小波『日本イソップ物語』(3版, 學藝社）　[44516
［＊昭和15］　杉山雄一郎『動物の國たんけん：繪ものがたり』（イソップ)[44517
［＊昭和15］　畠野圭右繪・松村武雄文『イソップ繪物語』（講談社の繪本136）[44518
［＊昭和15］　長沼直兄編“Stories from Aesop”（開拓社）　[44519
［＊昭和15］　中西芳朗『イソップ對話、ちいさな子の別』（コドモ藝術學園, 子供の喜ぶ童話劇資料書）[44520
［＊昭和15］　河合榮治郎編『學生と日本』（日本評論社)中 −−−−−　[44521
・阿部次郎「日本文化と外國文化との交涉」
・桑木嚴翼「哲學」/・兒島喜久雄「美術」
・久保勉「ケーベル先生の觀た日本」
［昭和15年?］　ホメーロス/土井晩翠譯(手稿本)「イーリアス」（第1-11、11册）[44522
［＊昭和15]　マキャヴェルリ/多賀善彦譯『フィレンツェ史(上下)』（マキャヴェルリ選集5,6巻,創元社) [44523
［＊昭和15]　中山昌樹『ダンテの神曲』(日本放送出版協会, ラジオ新書12)[44524
［＊昭和15]　中山昌樹『ダンテ神曲の研究』(新生堂)　[44525
［昭和15年?］　『基督者への進言』中−−−−−　[44526
・中山昌樹「ダンテの宗教觀」/同「聖アウグスチヌスの愛と敬虔」
［＊昭和15]　クローチェ/黑田正利譯『ダンテの詩篇』（刀江書院）　[44527
［＊昭和15]　高津春繁「新刊紹介 Powell,J.Enoch著 A Lexicon to Herodotus」言語研究5　[44528
［＊昭和15]　高津春繁「新刊紹介 Ros Jan S.J.著 Die μεταβολη(Variatio) als Stilprinzip des Thukydides」言語研究5　[44529
［＊昭和15]　高津春繁「新刊紹介 Röttger,Gerhard著 Studien zur platonischen Substantivbildung」言語研究5　[44530
［＊昭和15]　高津春繁「新刊紹介 Index Verborum Ciceronis Epistularum ,William Abbot Oldfather, Haward Veron Canter, Kenneth Morgan Abbot, with the assistance of friends and in completion of the task inaugrated by M.N.Westmore and A.M.Dame：based on the edition by L.C.Purser in Oxford classicai Texts 1901-1903」言語研究5　[44531
［＊昭和15]　高津春繁「新刊紹介 Conferennces de I’Institute de Linguistique de I’Universite de Paris.V」言語研究6　[44532
［＊昭和15]　仁科武光『レッシング』(弘文堂書房,教養文庫44)　[44533
［＊昭和15］　竹内時男『科學風土記』（「南歐遊記」。帝國教育出版部）[44534
[＊昭和15］　鮎澤信太郎『日本地理學史の研究』（日本大學第3普通部）　[44535
[＊昭和15］　スタンダール/佐藤正彰譯『ナポレオン：ナポレオンに關する備忘錄』（世界文庫19,弘文堂書房）[44536
[＊昭和15］　蓑田胸喜『ナチス思想批判』（原理日本社）　[44537

[＊昭和15］　三枝博音『技術史』(現代日本文明史14,東洋經濟新報社)　[44538
［＊昭和15］　A.P.アッシャー/富成喜馬平譯『機械發明史』(岩波書店)　[44539
［＊昭和15］　T.Kusazima“Lateinische Unterrichtsbuch für Ärtzte und Pharmazeuten” Nanzando　[44540
［昭和15年］　岡崎文彬「希臘に於ける今日の森林政策(2.林政)」日本林學會誌 22(4)　[44541
＊[訂正][＊昭和15]宮田幸一『ヴァンドリエスの言語學』(興文社,英友叢書7) [13078]　[44542
＊[訂正][＊昭和16]批評及紹介・大塚高信「ヴァンドリエスの言語學」(宮田幸一著) 英文學研究21-2　[13475]　[44543
＊[訂正][＊昭和16] 野上豐一郎『西洋見學』(日本評論社。→昭16年,再刊) [13211] [44544
＊[訂正][＊昭和16] 福原麟太郎「ギリシヤを憶ふ(1-3)」都新聞5/4,5,6(→昭17年刊・「新しい家」所収)　[24557]　[44545
＊[訂正][＊昭和16] 福原麟太郎「ミノアン文化：クレーテ遊記」文藝7月號(→昭17年刊・「新しい家」所収)　[24558]　[44546
［＊昭和16(1941)]鮎澤信太郎『日本文化史上における利瑪竇の世界地圖』(日本大學新聞社)　[44547
[＊昭和16]　鮎澤信太郎「高橋景保の萬國全圖について」歴史地理77-(5・6) [44548
[＊昭和16]　西村眞次『人類と文明』(人文書院)　[44549
[＊昭和16]　西村眞次『原始人から文明人へ』(新日本兒童文庫5,アルス) [44550
[＊昭和16]　西村眞次『日本文化論考』(厚生閣)　[44551
[＊昭和16]　宮崎市定「毘沙門天信仰の東漸について」(1941年。→1992年,宮崎市定全集・第19[巻所収,岩波書店]　[44552
[＊昭和16]　島田雄次郎『西洋史概說講義案』(敬文堂書店)　[44553
[＊昭和16]　尾崎憲三『新井白石—シドッチ尋問と海外事情』(日本文學者評傳全書,音信社)　[44554
[＊昭和16]　新村出「日本人南進史と南洋文学」(1941)(『新村出全集・第10巻』所収,筑摩書房,1971年。) [44555
[＊昭和16]　中村拓「歐人の手本となれる極東製地圖(1,2)」文獻報告7,9 [44556
[＊昭和16］　佐藤昌介「展望洋學史」科學史研究1　[44557
[＊昭和16］　岩崎克己「德川時代に於ける英語辭書の舶載」書物展望11-3[44558
[＊昭和16］　藤田東一郎「幕末の横濱に於ける佛國語學傳習所—栗本鋤雲とメル・ド・カション(1,2)」日本古書通信141,142, [44559
[＊昭和16］　蓑田胸喜『日本世界觀：世界精神史』(原理日本社)　[44560
[＊昭和16］　トマス・マンハル『ラテン語の手引き=Exercitia Latina』(ドン・ボスコ社)　[44561
[＊昭和16］　フンボルト/岡田良平譯『言語と人間』(冨山房)　[44562
[＊昭和16］　小川政恭譯「アルカイオス詩篇」狼煙8　[44563
[＊昭和16］　マリノウスキー/國分敬治譯『神話と社會』(創元社)　[44564
[＊昭和16］　比屋根安定著・姉崎正治閲補『宗教史』(現代日本文明史16,東洋經濟新報社)　[44565

[＊昭和16］　カール・アダム/小林珍雄譯「キリストと西洋精神」カトリック研究21-1　[44566
[＊昭和16］　ロゲンドルフ「政治の彼方に―クリストファ・ドウソンの近著雜感」カトリック研究21-4 [44567
[＊昭和16］　上野直藏「憂鬱から啓蒙へ」（M.アーノルド特輯號）主流6　[44568
[＊昭和16］　H.W.ギャロッド（Garrod）、木田武佳「批評家としてのマシウ・アーノルド」（M.アーノルド特輯號）主流6　[44569
[＊昭和16］　今村武夫「Poetry」(M.アーノルド特輯號）主流6　[44570
[＊昭和16］　齋藤信一「ミルトンを語るアーノルド」(M. アーノルド特輯號）主流6　[44571
[＊昭和16］　木口敏郎「文藝批評態度管見」(M. アーノルド特輯號）主流6[44572
[＊昭和16］　齋藤信一「ミルトンを語るアーノルド」(M. アーノルド特輯號）主流6　[44573
[＊昭和16］　田草川宏「文學の再批判」(M. アーノルド特輯號）主流6　[44574
[＊昭和16］　ステファン・ツワイク/池田薫譯『エラスムス』(創元社)　[44575
［＊昭和16］　内山善一「ルモアヌ師と雜誌の刊行」聲788　[44576
［＊昭和16］　增田良二「ルモアヌ師と明治カトリック文學」（シェンキエヴィッチ、ケーベル、エック）聲789[44577
［＊昭和16］　吉滿義彦「新しき英雄性の倫理―ニイチェからプラトンへ」知性6月號 [44578
[＊昭和16]　江澤讓爾「ゲーテの自然研究の現代的意義：未定稿」一橋論叢8-5　[44579
［＊昭和16］　廣島文理科大學廣島高等師範學校精神科學會編『現下の問題を哲學する：精神科學論文集』（プラトン, 目黒書店）　[44580
［＊昭和16］　黑田正利譯『熱血詩人ダヌンチオ』（日本放送協會, ラジオ新書62）　[44581
［＊昭和16］　野上豐一郎『クレオパトラ：エジプトの王たちと女王たち』（丸岡出版。→1979年, 冨山房百科文庫25）　[44582
[＊昭和16］　ハウプトマン/橋本忠夫譯『基督狂(上下)』(白水社)　[44583
[＊昭和16］　ヘルマン・ヘッセ/高橋健二譯『世界文學をどう讀むか』(現代叢書5,三笠書房)　[44584
[＊昭和16］　ヂェームズ・ボズウェル/神吉三郎譯『サミュエル・ジョンソン傳』(3册,岩波文庫)　[44585
[＊昭和16］　ラ・ブリュイエール/中村通介譯『性格論(上中下)』(文化叢書16-18, 青木書店)　[44586
[＊昭和16]　ラ・ブリュイエエル/齋藤磯雄譯『人間の探究：キャラクテル(正續)』（三笠書房）　[44587
＊[訂正] ［[＊昭和16］河出書房（新世界文學全集8)『アトランティス・グストゥル少尉・奉公・アウグストゥス』（ハウプトマン、角信雄譯等)　[13429]　[44588
[＊昭和16］　吹田順助『獨逸精神史』（畝傍書房）　[44589
[＊昭和16］　松村克己「新約聖書の倫理思想」岩波講座「倫理學」14　[44590

[＊昭和16］　吉滿義彦「アウグスティヌスの基督教史における意義」信仰と生活9月號 [44591
[＊昭和16］　吉滿義彦「基督教精神史と聖アウグスチヌス」インテル・ノス2 [44592
[＊昭和16］　吉滿義彦・抄錄『聖アウグスチヌスと近代哲學の精神』(E.プシュワラ）[44593
［＊昭和16］　三谷隆正『アウグスチヌス小傳』 [44594
[＊昭和16］　三谷隆正「知識と信仰」・「信仰と道德との關係について」・「世界歷史と基督の事實」・「律法論」・「信賴の鍛鍊」(『知識・信仰・道德』所収) [44595
[＊昭和16］　三谷隆正「岩元禎先生を憶ふ」向陵時報9月號 [44596
[＊昭和16］　三谷隆正「ペテロ應召(畔上[賢造]先生三周年記念講演筆記)聖約7月號 [44597
[＊昭和16］　上澤謙二譯『マタイの福音書：口語譯聖書』（愛之事業社）[44598
[＊昭和16］　上澤謙二譯『ルカの福音書：口語譯聖書』（愛之事業社） [44599
[＊昭和16］　ギュツラフ(善德纂)譯『約翰福音之傳』(長崎書店) [44600
[＊昭和16］　ルッター/藤田孫太郎譯『ガラテヤ書講解』(長崎書店) [44601
[＊昭和16］　カール・バルト/松谷義範・秋山憲兄共譯『ルカ傳第一章に關する四つの聖書研究』長崎書店,十字架の神學叢書14 [44602
[＊昭和16］　黑崎幸吉『新約聖書語句索引(希和)』(→昭17,再版) [44603
[＊昭和16］　田中秀央「朝鮮に於けるキリスト教傳來報告書(西曆一七九七年)」基督教研究19(1) [44604
［＊昭和16]　天野貞祐「岩元[禎]先生の追憶」(岩下壯一,九鬼周造)一高會誌2月號[→昭46年, 栗田出版「全集3」所収] [44605
［＊昭和16］　ルナン/津田穣譯『イエス傳』（岩波文庫） [44606
［＊昭和16］　ミドルトン・マリー/中橋一夫譯『キリストの生涯』 [44607
［＊昭和16］　Emil Ludwig/中岡宏夫・松室重行譯『ナポレオン』（鱒書房）[44608
［＊昭和16］　南原繁「政治理論史への課題—開講の辭」（→昭48年,『南原繁著作集・第3』所収, 岩波書店）[44609
［＊昭和16］　イェーリング/日沖憲郎譯『權利の爲の闘爭』（岩波文庫） [44610
［＊昭和16］　中島健一「T.フランク「ローマ世界の經濟衰頽」,T.Frank,“The Ecomomic Decay of the Roman World”Epilogue of vol.V of An Economic Survey of Ancient Rome,1940」社會經濟史學11-7 [44611
［＊昭和16］　平野次郎「はいべるく著/平田寛譯「古代科學」」日本中等教育數學會雜誌23-3・4 [44612
[＊昭和16］　J. カスバート・ハッドン/川崎備寛譯『科學史を飾る人々』（河出書房） [44613
［＊昭和16］　與田準一著・桑野俊介繪『エンピツ兄弟』（イソップ） [44614
[＊昭和16］　齋藤阿具『西洋文化と日本』（創元社） [44615
［＊昭和16］　丸山國雄『日獨交涉史話』（日本放送出版協會） [44616
[＊昭和16］　後藤末雄『日本・支那・西洋』（「ヨーロッパ文化の日本文化に及

ぼせる影響」。生活社） [44617
[＊昭和16］ 板澤武雄「日本を中軸とする國際文化の交流・歐米」［建文舘］師範大學講座8 [44618
[＊昭和16］ 板澤武雄「日本文化に影響せる外國人」［目黒書店］國史と人物 [44619
[＊昭和16］ 矢代幸雄『健駄羅式の金銅佛』（美術研究所） [44620
[＊昭和16］ 會津八一「唐招提寺の圓柱」(同『渾齋隨筆』所収,創元社) [44621
［＊昭和16］ 吉江喬松著/西條八十他編纂『佛蘭西文學史』（吉江喬松全集2, 白水社） [44622
［＊昭和16］ 荒川惣兵衛『外來語辭典』 [44623
［＊昭和16] 高津春繁「ギリシア合唱隊歌用語の發達」言語研究(7・8) [44625
［＊昭和16] 高津春繁「新刊紹介 Schwyzer,E.著 Syntaktische Archaismen des Attischen」言語研究9 [44625
［＊昭和16] 「学藝・科學」(村川堅太郎)東京朝日新聞朝刊9/25 [44626
［＊昭和16] 岩崎克己「蘭學史上のヨハンストン禽獸譜(1-3)」書物展望11(7-9) [44627
[＊昭和16］ 板澤武雄「江戸時代に於いて西洋科學思想の我が國に及ぼした影響」歴史15-1,2,3 [44628
[＊昭和16］ 板澤武雄「日本近世科學思想史」歴史16-1 [44629
[＊昭和16］ 板澤武雄「江戸時代に於ける地動說の展開と其の反動」史學雜誌 52-1 [44630
[＊昭和16］ 矢島祐利『高野長英の理化學の研究』（改造社） [44631
[＊昭和16］ 建築研究會編『西洋建築構造』（中村書店） [44632
[＊昭和16］ 竹田龍治『暦學史』（新講大日本史, 雄山閣） [44633
[＊昭和16］ 朝比奈貞一「川本幸民と化学(1,2)」自然科學と博物舘12(10,11) [44634
[＊昭和16］ 日本内科學會編『内科用語集』 [44635
[＊昭和17(1942)］ 勝俣銓吉郎「蘭學者の參考書」學燈46-8 [44636
[＊昭和17］ 柳原吉次「見失つたショメール、其他」學燈46-12 [44637
[＊昭和17］ 緒方富雄『ギリシヤの文化』（築地書房） [44638
[＊昭和17］ シュリーマン/村田數之亮譯『先史世界への熱情：シュリーマン自敍傳』（星野書店） [44639
[＊昭和17] 西村眞次『歴史と文藝』(人文書院) [44640
[＊昭和17］ Norman H.Baynes & Eileen Power(with intro.& notes by Takeo Teranishi & Akira Ota)『European througjhout the ages：from the coming of the Greeks to the end of the Middle Ages』(研究社小英文叢書85, Kenkyusha.) [44641
［＊昭和17］ ゲオルグ・フォン・ベロウ/讃井鐵男譯『獨逸史學史』（白水社。→1943年,再版。） [44642
[＊昭和17] 湯村榮一『民族的世界觀の研究』(慶應書房) [44643
[＊昭和17］ 大川周明『回教概論』(慶應書房。→1954年,岩崎書店版。→2008年,ちくま学芸文庫版)。) [44644
[＊昭和17］ 桑原武夫「登山の文化史」（日本山岳會關西支部・大阪毎日新聞社

共同主催「山岳研究講座」における講演。→1980年,『桑原武夫集1』所収, 岩波書店） [44645
［＊昭和17］ 藤田元春『日本地理學史』（増補改訂版。刀江書院） [44646
［＊昭和17］ 鮎澤信太郎「西村遠里の萬國夢物語」歴史17-6 [44647
［＊昭和17］ 柏熊達生(他)編『イタリアの印象：隨筆集』（イタリアの友の會） [44648
［＊昭和17］ 黒田正利『イタリア研究』（甲鳥書院） [44649
［＊昭和17］ 摩壽意善郎『サンドロ・ボッティチェルリ』（アトリエ社） [44650
［＊昭和17］ クローチェ/青木巖譯『ヴィコの哲學』（東京堂） [44651
［＊昭和17］ 林達夫『文藝復興』（小山書店） [44652
［＊昭和17］ 呉茂一編『ギリシア・ローマ古詩鈔』（岩波書店） [44653
［＊昭和17］ 田中美知太郎・呉茂一「對談・古典文學對談(1)」（改造社）文藝8月號 [44654
［＊昭和17］ 鼓常良『西洋美學史(上下)』（現代叢書18,24,三笠書房） [44655
［＊昭和17］ 城戸幡太郎『心理學史(上)』（日本評論社） [44656
［＊昭和17］ 岡田正三譯『プラトン全集(第1-5)』（第一書房） [44657
［＊昭和17］ 關根秀雄『モンテーニュ傳』（白水社, 再版） [44658
［＊昭和17］ 太宰施門『フランス古典悲劇の形成』（甲鳥書林） [44659
［＊昭和17］ ラ・フォンテーヌ/中村通介譯『寓話(上)』（肇書房） [44660
［＊昭和17］ ベディエ&アザアル共編/杉捷夫・有永弘人・佐藤輝雄譯『中世文學史(1,2)』（創元選書, 創元社） [44661
［＊昭和17］ ベディエ&アザアル共編/杉捷夫他譯『フランス文學史(1,2,3)』（創元選書, 創元社） [44662
［＊昭和17］ ニイチェ/井汲越次譯『ニイチェ藝術論抄(1,2)』（改造文庫） [44663
［＊昭和17］ ヴォルフガング・シュレーゲル/河合昇譯『ニイチェの歴史哲學』（愛宕書房） [44664
［＊昭和17］ ヨゼフ・カピロ記/角英和譯『ハウプトマン隨想抄：ハウプトマンとの對話』（郁文堂） [44665
[＊昭和17］ 原平三「蕃書調所の創設」歴史學研究103 [44666
［＊昭和17］ 青野季吉『佐渡』（司馬凌海, 佐渡郷土文化の會, 小山書店, 新風土記叢書4） [44667
［＊昭和17］ 本庄榮治郎「翻譯經濟學より日本經濟學へ」（大阪商科大學）經濟學雜誌11-6 [44668
［＊昭和17］ 齋藤晌『哲學讀本』（内田老鶴圃） [44669
［＊昭和17］ 丸山眞男「麻生義輝『近世日本哲學史』（昭和17年）を讀む—日本哲學はいかに「歐化」されたか」國家學會雜誌670(56-12) [44670
[＊昭和17］ 榊原悠二「明治初期の洋學者と基督教の問題」歴史學研究102 [44671
［＊昭和17］ 川島清吉『母性と教養』（教育科學社) [44672
［＊昭和17］ 蘆原英了『舞踏美論』（アリストテレス。小山書店） [44673
［＊昭和17］ Otto Apelt(verdeutscht)/浅井眞男編“Apologie des Sokrates” (Daigaku syorin) [44674

［＊昭和17］　三谷隆正「岩元禎先生光來」一高同窓會報2月號　[44675
［＊昭和17］　評書・青山武雄「三谷隆正「アウグスチヌス小傳」」基督教新聞2588(4/9)　[44676
［＊昭和17］　ロゲンドルフ/織田正信譯「西洋文化―その基礎・形成過程及びその危機」カトリック研究22-5　[44677
[＊昭和17］　吉滿義彦「世界史と教會史の秘儀―カトリック學生の集ひに寄せて」聲800　[44678
［＊昭和17］　海老澤有道『いるまん・ろれんそとその宗論』（キリシタン文化研究所・例會講演速記錄4）[44679
［＊昭和17］　海老澤有道『京畿切支丹史話：日本人伊留滿ロレンソの足跡を辿りつつ』（東京堂）　[44680
[＊昭和17］　上澤謙二譯『ヨハネの福音書：口語譯聖書』（愛之事業社）[44681
［＊昭和17］　魚木忠一『復活の基督：躍動せる永遠の生命』（朝鮮基督教聯合會叢書2）　[44682
［＊昭和17］　小平國雄『基督と其の時代』　[44683
［＊昭和17］　太宰施門『フランス古典悲劇の形成』（甲鳥書林）　[44684
[＊昭和17]　齋藤勇編『獨・佛・伊三國に於ける英文學研究』(研究社,研究社英米文學語學講座3) [44685
[＊昭和17]　福原麟太郎『新しい家』(研究社)　[44686
[＊昭和17]　福原麟太郎「Walter Pater」」英語青年87-1　[44687
［＊昭和17］　新村出校閲・山本光雄譯『イソップ物語』（岩波文庫）　[44688
［＊昭和17]　青木健一・柴田資良繪『ひらがなイソップ物語』(童話春秋社)[44689
［＊昭和17]　荒木良雄『中世文學の形象と精神』(昭森社)　[44690
［＊昭和17］　阿部眞琴『江戸時代の地理學』（新講大日本史19,雄山閣）　[44691
［＊昭和17］　伊藤政之助『ナポレオン戰史』（國防科學叢書26,ダイヤモンド社）　[44692
［＊昭和17］　梅崎延太郎『奈翁戰史略』（偕行叢書, 陸軍偕行社）　[44693
［＊昭和17］　外山卯三郎「日本で描かれた世界地圖の變遷」（『日歐交涉文化論』所収, 葛城書店）[44694
［＊昭和17]　吉川芳秋「尾張本草學の回顧」日本医史學雜誌1301-1303　[44695
[＊昭和17］　中村光『江戸時代の科學政策』（ラヂオ新書, 日本放送出版協會）　[44696
[＊昭和17]　F.Ferchl,A.Sussenguth/原野太郎譯『化學技術史』(科學選書, 慶應書房)　[44697
［＊昭和17］　石原純『科學史』(現代日本文明史13,東洋經濟新報社出版部)[44698
[＊昭和17］　田中邦次郎『自然科學文明史』（山海堂出版部）　[44699
[＊昭和17］　伊藤至郎『日本科學史』（伊藤書店）　[44700
[＊昭和17］　田制佐重『日本科學史夜話』（日新書院）　[44701
[＊昭和17］　矢島祐利「本邦に於ける初期の物理學的研究(1,2,補遺)」科學史研究2,4/6［→昭18年。］　[44702
＊[訂正]［＊昭和17］吉岡修一郎『科學逸話史』（エピクロスの原子。山雅房）　[13908]　[44703
［＊昭和17］　宍戸儀一『民族形成と鐵の文明』（道統社）　[44704

［＊昭和17］　スヴェドベリー/田中實譯『物質觀の歷史：化學史を中心として』（白水社, 白水社科學選書4）[44705
［＊昭和17］　根生誠「明治期中等學校の教科書について」(現代日本文明史13)[44705
［＊昭和17］　住谷悅治『三瀨諸淵［周三］傳』(愛媛先賢叢書5)　[44706
［＊昭和17］　本庄榮治郎『日本經濟思想史研究』(日本評論社)　[44707
［＊昭和17］　金澤理康「栗生武夫博士」社會經濟史學12-4　[44708
＊[訂正]［＊昭和17］戸倉廣「ローマ法復興の氣運—船田享二氏の快著『羅馬私法提要』帝國大學新聞891(3/2) [13786]　[44709
[＊昭和17］　橘高林助編『日獨英佛羅　獸醫語字典』(文永堂書店)　[44710
[＊昭和18(1943)]　小寺小次郎『言靈研究入門』(文淵閣)　[44711
[＊昭和18］　「ポンペイの發掘者逝去」民族學研究New 1-7　[44712
[＊昭和18］　小松芳喬「西村眞次博士」社會經濟史學13-4　[44713
[＊昭和18］　洞富雄「西村眞次博士略年譜竝に著作目錄」社會經濟史學13-4[44714
[＊昭和18]　北川桃雄『斑鳩襍記』(文藝春秋社)　[44715
［＊昭和18］　池田龜鑑「古典文獻學の方法論」(A.ベツク)國語と國文学20-1[44716
[＊昭和18］　中川淸著/出隆編『古典ギリシアの精神』(河出書房)　[44717
［＊昭和18］　伊東多三郎『近世國體思想史論』(洋學。同文舘出版部)　[44718
［＊昭和18］　山田孝雄『國語學史』(寶文舘)　[44719
［＊昭和18］　乙竹岩造「洋學派先覺の研究態度と教育精神」教育學研究11-10[44720
［＊昭和18］　桑木嚴翼『明治の哲學界』(國民學術協會編，國民學術選書1, 中央論社)[44721
［＊昭和18］　桑木嚴翼『哲學の立場』(中央公論社)　[44722
［＊昭和18］　大川周明『日本精神研究』(明治書房)　[44723
[＊昭和18]　得能文他『高等教育哲學概說』(增訂版,東洋圖書株式合資會社)[44724
［＊昭和18］　三谷隆正「内在的歷史觀と超越的歷史觀」工業大學新聞1月號[44725
［＊昭和18］　南原繁「中世の回顧--堀豐彦著「中世紀の政治學」について」國家學會雜誌57-2　[44726
［＊昭和18］　小西干比古編『歷山大王の印度遠征』(南洋資料228號,南洋經濟研究所出版部)　［44727
[＊昭和18　ヨハンネス・ケラー/島田雄次郎譯『ドイツ史概觀：ドイツ史の諸時期』(ドイツ史体系,三省堂)　[44728
［＊昭和18］　酒井三郎執筆『ナポレオン戰爭』(總力戰研究所編, 經濟戰史研究資料，總力戰研究所)　[44729
［＊昭和18］　ナポレオン/難波浩譯『イタリア戰記(上)』(ナポレオン全集1, 昭和刊行會)　[44730
［＊昭和18］　櫻井鷗村『人間ナポレオン』(常磐書房)　[44731
［＊昭和18］　岡島誠太郎『ナポレオンとエジプト』(天理時報社)　[44732
［＊昭和18］　麻生三郎『イタリア紀行』(越後屋書房)　[44733
［＊昭和18］　ハウゼンスタイン/阪本勝訳『裸体芸術社会史』(栗田書店)[44734

［＊昭和18］　森口多里『美術五十年史』(鱒書房)　[44735
［＊昭和18］　鮎澤信太郎『鎖國時代の世界地理學』(日大堂書店)　[44736
[＊昭和18]　鮎澤信太郎「山村昌永の華夷一覧圖について」歴史地理81-1[44737
［＊昭和18］　中村拓「東亞地圖の歴史的變遷」(大陸文化研究會編『續大陸文化』所収, 岩波書店)　[44738
［＊昭和18］　桂川甫周(國瑞)譯/小野忠重編「新製地球萬國圖說」(『紅毛雜話』所収, 双林社)　[44739
［＊昭和18］　鈴木權三郎『ヘーゲル哲學研究』(岩波書店)　[44740
［＊昭和18］　ディルタイ/村岡晢譯『ドイツ史体系 フリードリヒ大王とドイツ啓蒙主義』(三省堂)　[44741
［＊昭和18］　キンケルマン/澤柳大五郎譯『希臘藝術模倣論』(私製。座右寶刊行会。→1948年, 座右寶刊行会。)[44742
［＊昭和18］　菊池榮一譯『ゲーテとシルレル：往復書簡集』(世界文庫46,郁文堂書店)　[44743
［＊昭和18］　ゲーテ/吹田順助・小牧健夫・實吉捷郎譯『第二次羅馬滯在, 滯佛陣營記, マインツ攻圍』(ゲーテ全集15,大東出版社)　[44744
［＊昭和18］　大類伸「ルネサンスを否定するもの：フリードリヒ・シュレーゲルのルネサンス観」史苑15-2　[44745
［＊昭和18］　ヘルデルリーン/吹田順助譯『ヒュペーリオン』(獨逸ロマンチツク叢書1,青木書店)　[44746
［＊昭和18］　吹田順助「ベルトラム著 淺井眞男譯『ニーチェ』：附・比較的新しいニーチェ文獻に就て」一橋論叢11-1　[44747
［＊昭和18］　田中美知太郎「歴史と創作—アリストテレスから」(河出書房)知性1月號　[44748
［＊昭和18］　田中美知太郎・呉茂一「對談・古典文學對談(2)」(改造社)文藝8月號　[44749
[＊昭和18]　田中豐蔵監修・谷信一編集『世界美術圖譜』(東京堂)　[44750
[＊昭和18]　内山敏『アナトオル・フランス傳』(梁塵社)　[44751
[＊昭和18]　ベディエ&アザアル共編/鈴木信太郎他譯『中世末期文藝復興前期文學』(フランス文學史, 創元社)　[44752
[＊昭和18]　ラブレー/渡邊一夫譯『ガルガンチュワ大年代記—解說略註・フランス古譚』(筑摩書房。→同年,再版)　[44753
[＊昭和18]　ラブレー/渡邊一夫譯『ガルガンチュワとパンタグリュエル・第1之書』(白水社)　[44754
[＊昭和18]　ラブレー/渡邊一夫譯『ガルガンチュワとパンタグリュエル・第1,2之書』(白水社。→1947年。)　[44755
[＊昭和18]　渡邊一夫『ラブレー覺書・その他』(白水社)　[44756
[＊昭和18]　市村惠吾『フランソワ・ラブレエ--人と時代と作品の研究』([京都]山口書店)　[44757
[＊昭和18]　ジュ・ペレエ/加藤美雄『フランス語の擁護と顕揚』(白水社)[44758
[＊昭和18］　シュテファン・ツワイク/高橋禎二譯『エラスムスの悲劇と勝利』

(河出書房) [44759
[＊昭和18］ 笹野堅編『幸若舞曲集』（百合若。第一書房） [44760
［＊昭和18] 荒木良雄『室町時代文學史』(人文書院) [44761
[＊昭和18] 福原麟太郎「日本文化と外國文學の位置：外國文學について」新潮40-4 [44762
[＊昭和18] 福原麟太郎「平田禿木傳」英語青年89-4 [44763
[＊昭和18] 福原麟太郎「平田禿木傳正誤」」英語青年89-6 [44764
[＊昭和18] 福原麟太郎「故平田禿木氏」」(東京文理科大學英語學英文學研究室)研究室だより2? [44765
[＊昭和18] 福原麟太郎編『平田禿木追憶(明治六年~明治十六年)」』(平田春雄(發行)非賣品) [44766
[＊昭和18］ ベネット/山内義雄譯『文學趣味：その養成法』(岩波文庫) [44767
[＊昭和18] フェデリコ・バルバロ編『路加聖福音書註解』(教成社） [44768
［＊昭和18］ 氣賀重躬『東亞基督教史』（新光閣） [44769
［＊昭和18］ 魚木忠一『日本基督の性格』（日本基督教教學叢書1） [44770
［＊昭和18］ 丸山國雄『近世日獨文化の交流』（日獨文化協會） [44771
［＊昭和18］ 大久保利謙「蕃書調所—洋書調所—開成所」（『日本の大學』所収,創元選書, 創元社）[44772
[＊昭和18］ 原平三「蕃書調所の科學及び技術部門に就て」帝國學士院紀事2-3 [44773
[＊昭和18］ 小泉丹『日本科學史私考・初輯』(岩波書店) [44774
［＊昭和18］ 有賀鐵太郎「日本に於ける神學の任務」基督教研究20(3) [44775
[＊昭和18] 豐田實「〈批評紹介〉重久篤太郎著『日本近世英學史』教育圖書株式會社」英文學研究22-4 [44776
[＊昭和18] 矢野峰人『近英文藝批評史』（全國書房） [44777
[＊昭和18] 宮武正道『マライ語童話集』(イソップ,愛國新聞出版部) [44778
[＊昭和18] 長江邦四郎「ヘック師を憶ふ」聲812 [44779
[＊昭和18] 長江邦四郎「情味豐な慈父 ヘック先生の訃を聞いて」日本カトリック新聞918 [44780
[＊昭和18] 「遠大な思想 エミール・ヘック師逝く」日本カトリック新聞918 [44781
[＊昭和18] 串田孫一「午前の日影 エミール・ヘック師の靈に捧ぐ」日本カトリック新聞918 [44782
[＊昭和18] 木澤展「恩師ヘック靈父」日本カトリック新聞918 [44783
[＊昭和18] 「わが佛文學界の父 エミール・ヘック師逝去」日本カトリック新聞918 [44784
[＊昭和18] マオケル・ロバーツ/加藤憲市譯『近代の精神：藝術的世界と科學的世界』筑摩書房 [44785
[＊昭和18] 平田寛「プラトンの目覺し時計」天界=The heavens 23(264) [44786
[＊昭和18］ 齋藤靜「現代科學用語の語史的文化的研究」科學史研究9 [44787
[＊昭和18] 多賀義憲『技術史話雜稿』(北光書房) [44788
[＊昭和18] 杉原三郎『技術史物語』(日本産業報國新聞社) [44789

[＊昭和18]　富成喜馬平「近世日本科學史—蘭學の性格について」歴史18-4,5,6 [44790
[＊昭和18]　大久保恒次『日本科學技術史話』(ダイヤモンド社) [44791
[＊昭和18]　中瀬古六郎『日本科學史』(新講大日本史19,雄山閣) [44792
[＊昭和18]　小泉丹『日本科學史私攷(初輯)』(岩波書店) [44793
[＊昭和18]　田制佐重『日本科學史物語』(啓文社) [44794
[＊昭和18]　寺島柾史『日本科學史話』(霞ヶ関書房) [44795
[＊昭和18]　矢島祐利「本邦に於ける窮理學の成立(1)」科學史研究7 [44796
[＊昭和18］　渡邊敏夫『天文暦學史上に於ける間重富とその一家』(山口書店) [44797
[＊昭和18］　荒木俊馬『日本暦學史概説』（恒星社） [44798
[＊昭和18］　村上忠敬『天文學史』（科學史叢書, 山雅房） [44799
[＊昭和18]　野尻抱影「星象美隨感」天界=The heavens 23(266) [44800
[＊昭和18］　藤原松三郎「ゲール全書の和蘭訳本に就て（寄書）」科學史研究7 [44801
[＊昭和18］　大崎正次「「暦象新書」［志筑忠雄］天明舊譯本の發見—附錄「天文管闚」「暦象新書」異同一瞥」科學史研究(4・5)[44802
[＊昭和19(1944)]　石井研堂『增補改訂　明治事物起源(上下)』(春陽堂。→平成8年,国書刊行会版。) [44803
[＊昭和19]　石井研堂「西洋小説の翻譯の始」「丹羽純一郎」(『增補改訂　明治事物起源(上)』所収、春陽堂) [44804
[＊昭和19]　淺野晃『明治文學史』(萬里閣) [44805
[＊昭和19]　シュペングラア/村松正俊譯『西洋の没落・第1巻』（櫻井書店） [44806
[＊昭和19]　左山貞雄『大川周明博士その思想』(大同書院) [44807
[＊昭和19］　出隆『詩人哲學者』（小山書店） [44808
[＊昭和19］　野上豐一郎『能面論考』（小山書店） [44809
[＊昭和19］　永積安明『中世文學論(鎌倉時代篇)』(日本評論社。→1946年,改版） [44810
[＊昭和19］　高橋敬視『心と生命の哲學的研究』（山口書店。→昭和23年,京都印書館版。) [44811
[＊昭和19］　リュブルック・カルピニ原著/ウィリアム・ロクヒル英譯/妹尾韶夫譯『リュブルック東遊記』（文松堂書店） [44812
[＊昭和19］　メレジコーフスキイ/米川正夫譯『拿破崙第一世傳』（東晃社） [44813
[＊昭和19］　スタンダール/佐藤正彰譯『ナポレオン：ナポレオン傳』（河出書房） [44814
[＊昭和19］　佐藤堅司『ナポレオンの政戰兩略研究』（愛宕書房） [44815
[＊昭和19]　安倍能成『西遊抄』(小山書店) [44816
［＊昭和19］　岡田正三譯『プラトン全集(第6)』（河出書房） [44817
[＊昭和19］　服部英次郎譯「アウグスチヌス告白論」（山口經濟專門學校編）「讀書之栞」9 [44818
[＊昭和19]　アウグスティヌス/服部英次郎譯『信仰・希望・愛—エンキリディ

オン』(〔大阪〕增進堂)　[44819
［＊昭和19］　ベルグソン/五十嵐達六郎譯『アリストテレスの場所論』(伊藤書店。飜譯學術論叢2　[44820
［＊昭和19］　塚本虎二・鶴田雅二・長本三千藏譯『希和逐語 對譯マタイ傳』(新約知識社)　[44821
[＊昭和19]　兒島喜久雄他編輯『天平彫刻』(小山書店,小山美術新書1)　[44822
[＊昭和19]　關根文之助『日本精神史要』(敎文舘)　[44823
[＊昭和19]　村岡典嗣「日本倫理學思想史上西洋思想との交涉」岩波講座倫理學　[44824
[＊昭和19]　シモンヅ/橘忠衛譯『ダンテ』(櫻井書店)　[44825
［＊昭和19］　モンテーニュ/關根秀雄譯『モンテーニュ隨想錄』(佛蘭西古典文庫、白水社)[44826
［＊昭和19］　ヴォルテール/松山厚三譯『歷史哲學』(伊藤書店)　[44827
［＊昭和19］　テオドール・モムゼン/淺野秋平譯『ハンニバル戰史』(紙硯社)　[44828
［＊昭和19］　赤木健介『人生古典：ゲーテ・宣長・モンテーニュの人生觀』(伊藤書店)[44829
[＊昭和19]　フリッツ・シュトリヒ編/石川鍊次邦譯監修『獨逸大學の精神：アカデミーに於ける歷代碩學記念講演集』(高山書店,ローマ人等)　[44830
[＊昭和19]　熊野義孝『トレルチ』(現代哲學者叢書、鮎書房)　[44831
[＊昭和19]　田村實解說『ヘーゲル歷史哲學』(關書院。→1946年,改版)[44832
[＊昭和19]　田村實『歷史哲學』(ヘーゲル哲學叢書4、靑年通信社。→1946年,改版)　[44833
[＊昭和19]　原平三「幕末の獨逸學と市川兼恭」史學雜誌55-8　[44834
［＊昭和19］　時枝誠記『國語學史』(岩波書店)　[44835
[＊昭和19]　齋藤勇『文學としての聖書』(研究社)　[44836
[＊昭和19]　本多顯彰『浪漫主義と古典主義』(研究社,研究社英米文學語學講座)　[44837
[＊昭和19]　新村出編『海表叢書(全6巻・別巻)』(前野良澤「西洋畫贊譯文稿」,3版。平樂寺書店。)　[44838
[＊昭和19]　佐藤莊一『國防意志と地理學』(國華堂)　[44839
[＊昭和19]　海老澤有道『鎖國史論』(私製、國書出版)　[44840
[＊昭和19]　海老澤有道『切支丹の社會活動及南蠻醫學』(冨山房)　[44841
[＊昭和19]　天野貞祐「一高時代の思ひ出」(岩下壯一、岩元禎、九鬼周造等)一高會誌2月號　[44842
[＊昭和19]　三谷隆正「岩元禎著『哲學概論』序」(近藤書店)　[44843
[＊昭和19]　藤田健治「岩元禎著『哲學概論』跋」　[44844
[＊昭和19]　福原麟太郎「A Retrospect by Edward Gibbon：思ひ出」英語靑年90-4　[44845
[＊昭和19]　和田小次郎「明治初年における西洋法學の移入」社會經濟史學14-8　[44846
[＊昭和19］　中川善之助・宮澤俊義『法律史』(現代日本文明史5,東洋經濟新報社)

[44847
[＊昭和19] 野尻抱影編『分圖解說全天星座帖：兵用・觀測用』(研究社)[44848
[＊昭和19] H.パッキングトン,W.R.レサビイ/眞野善一郎譯『西洋建築史入門』（日本出版社） [44849
[＊昭和19] 三枝博音『技術史研究』(十一組出版) [44850
[＊昭和19] 三枝博音「わが科學思想史の諸問題」(科學古典4,日本科學古典全書1・附錄。朝日新聞社） [44851
[＊昭和19] 三枝博音「日本科學史の或る重要な特質に就いて」(科學古典5,日本科學古典全書11・附錄。朝日新聞社） [44852
[＊昭和19] 富成喜馬平『日本の科學史』(教文局） [44853
[＊昭和19] 矢島祐利「本邦に於ける窮理學の成立(2)」科學史研究8 [44854
[＊昭和19] 稻垣足穂『天文日本星の學者』(柴山教育出版社) [44855
[＊昭和20(1945)] 東京文理大学哲学科講義題目(昭18年10月--19年9月)「哲学論叢」10
-----坂崎侃「哲學概論」/務臺理作「形而上學の諸問題」
坂崎侃「論理學及認識論」/下村寅太郎「近世哲學史」/
田中美知太郎「西洋古代哲學史」/田中美知太郎「講讀(Plotinus Enneades)/宮島肇「歴史哲學の諸問題」/矢代幸雄「日本美術史」
東京文理大学哲学科・昭和18年度卒業論文題目「哲学論叢」10
-----增田哲明「ギリシャ哲學に於ける政治の問題」
齋藤吉史「ヘーゲルの國家觀」
東京文理大学哲学科講義題目(昭19年10月—20年9月)「哲学論叢」10
------務臺理作「哲學概論」/坂崎侃「論理學及認識論」/
下村寅太郎「近世哲學史」/田中美知太郎「西洋古代哲學史」/
東京文理大学哲学科・昭和19年度卒業論文題目「哲学論叢」10
------ 椙浦善次「ヘーゲルの精神現象學」 [44856
[＊昭和20] 新村出「天明時代の海外知識」（新村出選集2,養德社) [44857
［＊昭和20］ 新村出「阿蘭陀正月」（新村出選集2,養德社) [44858
［＊昭和20］ 新村出「蘭書譯局の創設」（新村出選集2,養德社) [44859
［＊昭和20］ 新村出「本邦英語學史話」（新村出選集2,養德社) [44860
［＊昭和20］ 大和資雄「アーノルドからT.S.エリオットへ：矢野峰人著,「近英文藝批評史」」英文學研究24-2 [44861
［＊昭和20］ ヂュモリン『告白錄における聖アウグスチヌスの回心への道』（吉滿義彦・序「聖アウグスチヌスと新しき精神の世紀」） [44862
［＊昭和20］ 有賀鐵太郎「海老名彈正と希臘神學—歴史神學思惟の一研究」基督教研究21-4 [44863
［＊昭和20］ ボエティウス/石田毅譯『哲學の慰め』(富士出版) [44864
［＊昭和20］ 新關良三『希臘羅馬演劇史』（第4「エウリピデス・上」。東京堂出版） [44865
［＊昭和20?］ 近藤書店飜刻『羅英辭典』(ルイス著、1915年オックスフォード版) [44866
［＊昭和20］ 岸田日出刀『建築學者・伊東忠太』（乾元社） [44867

［＊昭和20］　トビアス・ダンツィク/河野伊三郎譯『科學の言葉=數』(岩波書店) [44868

【発行年不明・追補】

[＊出版年不明] (?)『繪本吾妻錦』(初編--10編,百合若) [44869
[＊出版年不明] 『意拾喩言』(イソップ。書写者不明。) [44870
[＊出版年不明] 内田正雄『西洋史略(上下)』(高田政七) [44871
[＊出版年不明] 内田正雄『西洋史畧』(出版者不明) [44872
[＊出版年不明] 岡本監輔・中村正直『萬國史記』(20巻。出版者不明) [44873
[＊寶永年間] 鳥居清信畫『ゆり若大人』(鱗形屋孫兵衛) [44874
[＊天保9(1738)] 阿部喜任(跋)『東西半球世界地圖』(丁子屋平兵衛) [44875
[＊天保9] 阿部喜任編/栗原信晁再校『地球萬國全圖』(丁子屋平兵衛) [44876
[＊天保11] 田島柳卿志『喎蘭地球全圖』(蘭園) [44877
[＊天保15] 赤水長(玄珠)『地球萬國山海輿地全圖說』(出版者不明) ［44878
[＊安永4(1775)] 若城治左衛門信昌『世界地圖』（書寫者不明） ［44879
[＊寛政1(1789)] 朽木昌綱『泰西圖說』(17巻,存15-17[3]巻。松本善兵衛) [44880
[＊寛政8] 赤水長閲・橋本直政(伯敏)製・錢希明子(遠甫)校『喎蘭新譯地球全圖』(岡田新次郎,小川太左衛門・淺野彌兵衛・北澤伊八) [44881
[＊文化6(1809)] 高橋景保『新鐫總界全圖』（出版者不明） ［44882
[＊文化7] 高橋景保『新訂萬國全圖』（測量所, 出版者不明） ［44883
[＊文化8] 『利子世界圖』(製作者不明) [44884
[＊弘化1(1844)] 箕作省吾『新製輿地全圖』(夢霞樓) [44885
[＊弘化2] 箕作省吾『坤輿圖識』(5巻,天地人,夢霞樓) [44886
[＊弘化3] 永井則『萬國輿地方圖』(出版者不明) [44887
[＊弘化4] 箕作省吾『坤輿圖識』(5巻,補4巻,須原屋伊八他) [44888
[＊嘉永年間] 栗原信晁再校『嘉永校定東西地球萬國全圖』(丁子屋平兵衛) [44889
[＊嘉永2(1849)] 嶺田楓江『海外新話(かいぐわいしんわ)』(5巻,嶺田氏) [44890
[＊嘉永3] 赤水長(玄珠)述/山崎美成補『地球萬國山海輿地全圖說』(高谷氏) ［44891
[＊嘉永4] 『萬國地理細圖』（出版者不明） ［44892
[＊嘉永4] 箕作阮甫述『八紘通誌6巻』(存初編3巻』(秋眠天竺樓) [44893
[＊嘉永5] 翠堂彭編述『地球萬國方圖』（出版者不明） ［44894
[＊嘉永5] 新發田耘(収藏)作『新訂坤輿全圖』(春草堂高木耕造[藏]) [44895
[＊嘉永6] 中島彰『地球萬國方圖』（出版者不明） ［44896
[＊安政2(1855)] 山路影常,柴田収藏校訂『重訂萬國全圖』(暦局) [44897
[＊安政2] 高橋景保撰/兒彰常校訂『重訂萬國全圖』（出版者不明） ［44898
[＊安政5] 岡田春燈齋『萬國輿地畧圖』(再刻,出版者不明） ［44899
[＊萬延1(1860)] (美國)禕理哲著述/(日本)箕作阮甫訓點『地球說畧』(3巻,存2巻。老皂舘) [44900
[＊文久2(1862)] 手塚律藏譯/佐波銀次郎校訂『格爾屯氏萬國圖誌』（2巻, 駿臺樓） ［44901

[＊元治1(1864)] (美國)禕理哲著述/(日本)箕作阮甫訓點『地球說畧(上中下)』(3巻,老皂舘萬屋兵四郎) [44902
［＊江戸前期］ 近松門左衛門作『百合若大臣野守鑑』（山本九兵衛） ［44903
[＊江戸中期] (書写者不明)『百合若大臣(1,2)』(文字資料) [44904
[＊正德年間] 『音曲龍虎勢』(百合若。正本屋平兵衛) [44905
[＊江戸期?] 『泰西圖說』(17巻中,存14巻。出版者不明） ［44906
[＊江戸期?] (?)『萬國圖』(寫本。書寫年代不明。) [44907
[＊江戸期?] 『新訂萬國略全圖』（出版者不明） ［44908
[＊江戸期?] 岡本保孝(1797-1878)『況齋雜記』(伊曾保物語。書寫者,書寫年不明) [44909
[＊江戸期 18-] 柳亭種彦作・歌川國貞畫『正本製』(百合若,西村屋與八) [44910
[＊江戸期 18-] 櫻洲山人中井貞『西洋紀行：目見耳聞錄』(巻之上,巻之下。出版者不明。→慶應4[1868年]自序) [44911
[＊江戸期 18-] 前埜良澤『和蘭譯筌(2編附1巻)』(書寫者不明。書寫年不明)[44912
[＊江戸期] 箕作阮甫『讀舊約全書』 [44913
[＊江戸期] 小關三英『吉利支[キリスト]略傳』(?) [44914
[＊江戸後期] 『萬國人物之圖』(榮壽堂) [44915
[＊江戸後期] 長久保赤水原圖『萬國輿地山海圖說』（出版者不明） ［44916
[＊江戸後期] 杉山親順譯『近世哲人傳・萬國地誌』(杉山親順,書寫資料) [44917
[明治4(1871)] 高橋景保撰『重訂萬國全圖』(大學南校) [44918
[明治4] 松田綠山撰『地球全圖』(蜷川氏,須原屋茂兵衛) [44919
[明治4] ミッチェル編述/橋爪貫一校正『地球萬國方圖』(湯津香木會,須原屋茂兵衛) [44920
[明治4] (美國)禕理哲著述/(日本)箕作阮甫訓點『地球說畧(上中下)』(3巻,萬屋兵四郎) [44921
[明治5(1872)] 閉戸齋主人著/柳雨女史書『世界一覧』(和泉屋市兵衛等) [44922
[明治5] Thomas James原譯『英文伊蘇普物語』（出版者不明） ［44923
[明治6(1873)] 大屋愷敔『射號萬國譯圖：西半球』(石川縣學校用出版會社) [44924
[明治6] ヒル・ホウゲル著/古川正雄譯刻『稽古地圖』（古川正雄) [44925
[明治6] 哥德斯米(ゴールドスミス)著述/望月誠譯『萬國地理啓蒙(巻1,2)』（和泉屋市兵衛）［44926
[明治7(1874)] 福澤諭吉『世界國盡』(4巻,高橋氏寫) [44927
[明治7] 森本太助『萬國史畧』(文部省) [44928
[明治7] 功刀孝太郎『萬國史畧』(文部省) [44929
[明治7] 岡崎左喜介『萬國史畧』(師範學校) [44930
[明治7] 文部省『萬國史畧』(師範學校) [44931
[明治7] 岡田惣兵衛『萬國史畧』(師範學校) [44932
[明治7] 大槻文彦『萬國史畧』(文部省,師範學校) [44933
[明治7] Samuel G.Goodrich/中村臺譯『開化事始』(岡田屋嘉七(賣弘) [44934
[明治7] ヘルマン ベルゴース原撰/邨[村]田文夫譯撰『輿地新圖』（金蘭社）［44935
[明治7] ヘルマン ベルゴース原撰/邨[村]田文夫纂譯『輿地新圖附錄2巻』

（稻田佐兵衛）［44936
[明治7] 黑田行元『世界地圖用法』(福井源次郎他) [44937
[明治7] 宮崎柳城縮圖『萬國新圖』(市川清流) [44938
[明治7] 中野啓藏『地球精圖/占部精一纂譯』(地圖資料) [44939
[明治7] 青木輔清譯『萬國地理小學(上中下)』(名山閣) [44940
[明治7] 阿部泰藏『萬國小學地圖』(阿部泰藏) [44941
[明治8(1875)] 大槻文彦『萬國史畧』(文部省,師範學校) [44942
[明治8] 田中義廉『萬國史略』(内藤傳右衛門) [44943
[明治8] 田中義廉『萬國史』(内藤傳右衛門) [44944
[明治8] 『萬國史畧』(師範學校,濱松縣) [44945
[明治8] 文部省『萬國史畧』(師範學校,山口縣) [44946
[明治8] 關息定・飯尾朋央『萬國史畧字解』(合書房) [44947
[明治8] 藤井新助縮圖『地球全圖』(藤井新助) [44948
[明治8] 米國聖書會社編『路加傳』(米國聖書會社) [44949
[明治8] 井出猪之助編纂『萬國地誌畧』(淺井吉兵衛) [44950
[明治8] 塩津貫一郎譯述『暗射世界地圖』（出版者不明） ［44951
[明治9(1876)] 速水岩吉・大島細吉『地球圖』(大島細吉) [44952
[明治9] 吉田傳二郎著譯『暗射地球譯圖：文部省』(版權免許,日新堂)[44953
[明治9] 市川耒次郎編輯『重訂萬國地圖』(山中市兵衛) [44954
[明治9] 『地圖：兩半球及五大洲』（出版者不明） ［44955
[明治9] 保田久成飜譯『地圖：兩半球,日本,亞細亞,歐羅巴,亞弗利加,北亞米理加,南亞米理加,澳大利亞』(保田久成) [44956
[明治9] 近藤圭造・望月亮觀編『和漢洋年表：各國史略』(山岡吉右衛門) [44957
[明治10(1877)] 家内煥『小學萬國地圖』(新井誠吉) [44958
[明治10] 大野原一松編/安田敬齋校訂『小學用地圖：萬國地誌略附圖』(中島德兵衛他) [44959
[明治10] 世古成編『小學用地圖：萬國地誌略附圖』(田中太右衛門他) [44960
[明治10] 井出猪之助編纂『地圖答式及各大洲分圖：全』(上等小學課書萬國地理書,淺井吉兵衛) [44961
[明治10] 北條龍山編輯『萬國地圖』(田中治兵衛) [44962
[明治11(1878)] 藤田守編輯『萬國地圖說略』(近江佐平,北村佐平) [44963
[明治11] (英國)ヒリプ氏著/尾藤庸一譯『萬國地圖』（鈴木久三郎） ［44964
[明治11] 小牧六郎編輯/井出猪之助校正『下等小學萬國地圖提要』(田中太右衛門,此村庄助) [44965
[明治12(1879)] 淺野明道譯/鬼頭道秦圖畫/吉川降春校正『萬國譯圖』(小澤吉三郎) [44966
[明治12] 眞島寬編輯『小學用地圖：日本地誌畧・萬國地誌畧附圖』(三木美紀) [44967
[明治13(1880)] 山田申太郎,高原徹也著/日原昌造閱正/野田達助圖畫『萬國地誌畧暗射譯圖』(岐阜師範學校) [44968
[明治15(1882)] 青木榮次郎『伊太利亞國彫刻師用解剖書ノ内書取[寫]』私製 [44969

[明治16(1883)] 淺野明道問目標記并圖編輯『萬國地誌略』(3巻,改正補刻,加藤正兵衛) [44970
[明治16] 高橋健三講義/專修學校生徒筆記「羅馬法」(出版者不明) [44971
[明治17(1884)] 青木恒三郎編『萬國名所圖繪：世界旅行』（青木恒三郎） ［44972
岡千仞訂正訓點『訂正萬國通鑑地圖』(野口愛) [44973
[明治18(1885)] 佐久間舜一郎『小學科用萬國地理小誌(上下)』(武内彌三郎) [44974
[明治18] アーデー・スチーレル原圖/長尾陽三抄譯『學校用萬國地圖』（高橋松之助）［44975
[明治18] 川添清知編『小學萬國地誌』(村上勘兵衛他) [44976
[明治19(1886)] 後藤七郎右衛門編輯『萬國精圖』(中村淺吉) [44977
[明治19] 坪井仙次郎編『小學外國地誌略：全』(久恒一雄) [44978
[明治19] レア子ド著『羅馬教會論：一名耶蘇教三大派之區別』(米國派遣宣教師事務局) [44979
[明治20(1887)] 青木恒三郎編輯『世界旅行萬國全地圖』(青木恒三郎) [44980
[明治20] 田名瀬昇藏編輯『洋語挿入新訂萬國輿地全圖』(吉岡平助) [44981
[明治20] 山中英次郎編輯『萬國周遊雙六』(山中英次郎) [44982
[明治21(1888)] Thomas James/T.Watanabe(ed.with extensive additins)“Aesop’s fables：a new version,chiefly from original Sources”増訂,渡部温 [44983
[明治22(1889)] 山中善三郎『萬國明細全圖』(兒玉又七) [44984
[明治22] 前橋孝義『萬國地理』(訂正版,冨山房) [44985
[明治22] Mitghell & Student原著/松本仁吉譯『小學用地圖：萬國之部』（石田忠兵衛, 積善舘）［44986
[明治23(1890)] 小藤文次郎編纂『地理學教科書』(敬業社) [44987
[明治23] 岡倉由三郎『比較博言學：一名日本語學一斑』(明治義會) [44988
[明治23] 皇典講究所編『皇典講究所講演』(清水市太郎「羅馬法の由來を陳へて日本法典の頒布に及ぶ」)(皇典講究所) [44989
[明治24(1891)] 大橋新太郎編纂『萬國地圖』(博文舘) ［44990
[明治24] 大橋新太郎編『新撰學生實用萬國地圖』(博文舘) ［44991
[明治24] 坪井祥編『萬國地圖：改訂小學新地誌用：全』(訂正再版,神戸直吉) [44992
[明治24] 上田貞治郎纂譯『分邦詳密萬國地圖』(訂正再版,青木崇山堂) [44993
[明治24] 吉原祐太郎編『新撰萬國地圖』(武内教育書房) [44994
[明治25(1892)] ディミトリ・ソコロフ/上田將譯『新約聖歷史：全』（正教會）［44995
[明治25] 石井敬吉「日本佛寺建築沿革略(1-7)」(法隆寺,ギリシア)建築雜誌61-65,67 [44996
[明治26(1893)] 金港堂編輯所編『小學外國地圖』(金港堂。→明28,訂正再版) [44997
[明治26] 石井敬吉「日本佛寺建築沿革略(8,9)」(法隆寺,ギリシア)建築雜誌74,75 [44998
[明治26] 伊東忠太「法隆寺建築論」建築雜誌83 [44999
[明治26] 山上萬次郎編/原田豐吉閲『新撰地文學(上下)』(冨山房。→明28,3版。→明30,訂正8版) [45000
[明治26] ジョンストン原著/氏家安信譯『萬國地圖』(増補再版, 杉本七百丸他) ［45001

[明治26] 松島剛『内外地圖集攬(外國之部,日本之部)』(春陽堂) [45002
[明治26] 冨山房編『萬國新地圖』(訂正增補6版, 普通學全書16,冨山房。→明28, 訂正增補10版)[45003
[明治26] 李提摩太著/鑄鐵生譯『天下五大洲各大國志要』(廣學舍) ［45004
[明治26] 平田久纂譯『伊太利建國三傑』(民友社) [45005
[明治26] 高島北海『歐洲山水奇勝：佛蘭西・伊太利・蘇格蘭』東陽堂[45006
[明治27(1894)] エチ・エム・ランヂス,眞野文二『世界新地圖：教科摘要』(龜井忠一) [45007
[明治27] 野際馨編纂『萬國全圖』(訂正,鐘美堂) [45008
[明治27] 金港堂書籍編輯所編輯『小學外國地圖』(訂正再版,金港堂書籍) [45009
[明治27] C.Stickney“Aesop's fables”(5 版,Yoshioka) [45010
[明治27] 石井敬吉「日本佛寺建築沿革略(10-12))」(法隆寺,ギリシア)建築雜誌87,94,95 [45011
[明治28(1895)] 「ローマ帝國道州圖」(sn。地図資料) [45012
[明治28] 「羅馬統一歷史地圖」(sn。地図資料) [45013
[明治28] 松井廣吉『伊太利獨立戰史』(博文舘) [45014
[明治28?] 「紀元前5世紀ギリシア地圖=Greece in the fifth century B.C.」(文字資料・書写資料)(in-house reprodution) [45015
[明治28] 興風學舘『萬國地圖：改訂小學新地誌用：全』(神戸直吉) [45016
[明治28] 田村英太郎編纂・奈佐忠行校閱『教科適用新案世界地圖』(訂正增補再版, 杉本七百丸)［45017
[明治28] 吉倉清次郎編輯『教科適用新案萬國地圖』(林榮之助) [45018
[明治28] ジョンストン原著/近藤賢三編輯『萬國新地圖=The new-map of the world』(濱本伊三郎) [45019
[明治28] 林信廣編纂・齋藤時之助校閱『新撰萬國地圖・附統計表=The new-map of theworld』(成美堂) [45020
[明治28] 『新定學生適用萬國地圖』(吉岡寶文軒・吉岡支店・豊住謹次郎) [45021
[明治29(1896)] ボゴスロフスキー/高橋謙作・上田將共譯『舊約聖史』(正教會編輯局)［45022
[明治29] 西田幾多郎「希臘倫理学(春)」教育時報408 [45023
[明治29] 西田幾多郎「希臘倫理学(夏)」教育時報410 [45024
[明治29] 西田幾多郎「希臘倫理学(秋)」教育時報412 [45025
[明治29] 西田幾多郎「希臘倫理学(冬)」教育時報413 [45026
[明治29] 伊東忠太「法隆寺建築論(1)」考古學會雜誌1-1 [45027
[明治30(1897)] 長澤市藏著/金谷熊四郎編『世界史』(明治講學會) [45028
[明治30] 松村介石『伊太利一統史』(警醒社書店) [45029
[明治30] C.Stickney“Aesop's fables”Ogawa &Co [45030
[明治30] 伊東忠太「法隆寺建築論(2-6)」考古學會雜誌1-2,3,4,5,8 [45031
[明治31(1898)] 依田雄甫編『世界讀史地圖』(冨山房) [45032
[明治31] 伊東忠太『法隆寺建築論』(東京帝國大學) [45023

[明治31] 伊東忠太「法隆寺建築論に就ての坪井博士の評論」建築雑誌138 [45024
[明治31] 依田雄甫編『世界讀史地圖略說』(冨山房。→明32,再版。→明40,8版) [45025
[明治31] 岩崎重三・池田鹿之助共編『新編萬國地誌(上下)』(訂正再版,内田老鶴圃) [45026
[明治31] 服部悦次郎纂譯(E.hattori)『近世萬國新地圖=Modern atlas of the world』（訂正, 田中宋榮堂） ［45027
[明治32(1899)] ジョンストン/辰巳小次郎・須崎芳三郎譯『世界大地圖』(6版,林平次郎） ［45028
[明治32] G.F.Townsend(trans.from Greek)“Aesop’s Fables”Sekizenkwan[45029
[明治33(1900)] 修文舘編輯部編述『新撰西洋歷史地圖』(松榮堂書店) [45030
[明治33] 廣田直三郎編『西洋歷史地圖』(石井鉤三郎) [45031
[明治34(1901)] 新保磐次『外國地理小誌：全』(金港堂書籍) [45032
[明治34] 井上勝五郎編輯『萬國地圖：教科適用』(薫志堂) [45033
[明治34] 山上萬次郎『外國地理：高等小學校用』(訂正5版,冨山房) [45034
[明治34] 學海指針社編『修正萬國地理初歩(上下)』(修正4版,集英堂) [45035
[明治34] 吉國藤吉・辻安彌編『西洋史地圖』(内田老鶴圃。→明37,改訂4版) [45036
[明治34] 岡倉由三郎『日本語學一斑：一名比較博言學』(8版,明治義會) [45037
[明治34] C.Stickney“Aesop’s fables”(Kanasashi Shoten) [45038
[明治34] “Selections from book of tales”(Aesop,Flawers of Fable,The Kobunsha series of supplemetaryEnglish readers for middle schools)(Kobunsha) [45039
[明治34] 森田思軒「羅馬人叢話」(春陽堂編『青すたれ』所収,春陽堂) [45040
[明治35(1902)] 下村三四吉編纂『西洋歷史附圖：女子教科』(目黒書房,成美堂) [45041
[明治35] 小川銀次郎編『中等西洋史地圖』(訂正版,金港堂書籍。→明38,再版) [45042
[明治35] C.Stickney“Aesop’s fables”The Kobunsha series of supplemetaryEnglish readers for middle schools)(Kobunsha) [45043
[明治35] ウイリアム・ジョージ・スミス著『基督教と羅馬帝國』(基督教書類會社)[45044
[明治36(1903)] 海老名彈正『耶蘇基督傳』(7版,文明堂) [45045
[明治36] 冨山房編纂『袖珍世界新地圖』(冨山房) [45046
[明治36] 普及舍編輯所著作『萬國地圖』(普及舍) [45047
[明治36] 輿地學會編『萬國輿地圖』(出版者不明) [45048
[明治36] 箕作元八・峯岸米造合著『西洋史參照圖表：完』(六盟舘) [45049
[明治36] 伊藤允美・箕田甲之『中等西洋歷史』(訂正3版,中外圖書局) [45050
[明治36] 伊東尾四郎『中等教科西洋史略：全』(冨山房) [45051
[明治36] 伊東尾四郎『女子西洋史：歷史教科用書』(冨山房) [45052
[明治36] 坂本健一『西洋編：全』(歷史新教本,普及舍) [45053

[明治36] 新保磐次『女子西洋歴史』(金港堂書籍) [45054
[明治36] 「いそっぷ物語(子ども)」婦人と子ども3-8,9,10,12 [45055
[明治36] “Aesop’s fables”(Shobido) [45056
[明治36] 水野繁太郎『羅甸文法階梯：教科及自習用：完』(南江堂) [45057
[明治37(1904)] 北村包直編『簡易外國歴史教科書』(明治書院) [45058
[明治37] 地理研究會編『地理教授暗記射代用世界新地圖』(訂正3版,田中宋榮堂) [45059
[明治37] 地學研究會編纂『新定外國地圖：全』(地學研究會) [45060
[明治37] 坪井九馬三『西洋歴史地圖』(文學社) [45061
[明治37] 箕作元八「学藝 ポンペイ埋沒談」太陽2 [45062
[明治37] 「いそっぷ物語(子ども)」婦人と子ども4-2,4,5,6,7,8,10,11, [45063
[明治37] Seki Kume(關貢米)“Stickney’s Aesop’s fables”(Ogawa Shoyeido) [45064
[明治37] C.A.Parry“Fables from Aesop：in short sentences”(訂正再版,Kobunsha) [45065
[明治38(1905)] 荻野仲三郎『女子西洋史教科書附圖』(集成堂) [45066
[明治38] 荻野仲三郎『女子西洋史教科書』(訂正,集成堂) [45067
[明治38] 小島政吉・北村包直『女子西洋歴史教科書』(明治書院) [45068
[明治38] 小川銀次郎『女子西洋史附圖』(六盟舘) [45069
[明治38] 「いそっぷ物語(子ども)」婦人と子ども5-5,11 [45070
[明治39(1906)] 山崎直方『普通教育外國地圖』(訂正再版,開成舘) [45071
[明治39] 六盟舘編輯所編『外國新地圖：最新式』(六盟舘) [45072
[明治39] 吉田晉編『漢譯世界大地圖』(6版,出版者不明) [45073
[明治39] 下村三四吉『女子西洋史教本』(訂正,目黒書店) [45074
[明治40(1907)] 依田雄甫編『世界讀史地圖』(訂正增補8版,冨山房) [45075
[明治40] 新保磐次『改訂西洋歴史』(訂正3版,金港堂書籍。→明43,訂正5版。→明44,訂正6版) [45076
[明治40] 新保磐次『改訂女子西洋歴史』(訂正3,4版,金港堂書籍) [45077
[明治40] 六盟舘編輯所編『女子外國新地圖』(六盟舘) [45078
[明治40] 小川銀次郎『修正女子西洋史：全』(修正2版,六盟舘) [45079
[明治40] 野口保興考案『國定小學地理準據新撰世界地圖』(訂正再版,國定教科書共同販賣所) [45080
[明治40] 無無無生「オリンポス十二大神略說」龍南會雜誌121 [45081
[明治41(1908)] 村川堅固『中等西洋歴史地圖』(訂正3版,寶文舘。→大6,訂正7版。大6,4訂,訂正7版,東京寶文舘。→大10,5訂,訂正11版。→大14,6訂。→大14,訂正14版。→昭6,8訂,訂正16版) [45082
[明治41] 大元茂一郎編・槇山榮次補修『地理科教授用黑板地圖(日本之部,外國之部)』(目黒書店) [45083
[明治41] 及川泰治『小學歴史地圖』(三省堂書店) [45084
[明治41] 立柄教俊『師範學校西洋歴史教科書附圖』(目黒書店) [45085
[明治41] 小川銀次郎編『新編西洋史教科書』(金港堂書籍) [45086

[明治41] 小川銀次郎『修正女子西洋史教本』(修正3版,六盟舘) [45087
[明治41] 水野繁太郎『羅甸文法階梯：教科及自習用：完』(増訂4版,南江堂) [45088
[明治42(1909)] 堀田信直『伊達政宗歐南遣使始末,一名支倉六郎衛門羅馬派遣事略』(英華堂) [45089
三省堂編輯所編纂『世界地圖』(三省堂) [45090
[明治42] 龜井忠一編輯・三省堂編輯所編纂『世界地圖索引』(龜井忠一,三省堂) [45091
[明治42] 三省堂編『世界大地圖』(三省堂。→明44,大修正11版) [45092
[明治42] 佐藤傳藏『最近世界大地圖索引』(大倉書店) [45093
[明治42] 寶文舘編輯所編纂『最新内外一統地圖(日本之部,外國之部)』(寶文舘) [45094
[明治42] 山上萬次郎撰『最近統合外國地圖』(訂正5版,大日本圖書。→明43,再版。→明45年版。→大2,訂正10版。→大4,訂正143版) [45095
[明治42] 猪間収三郎『教科適用中等外國地圖』(啓成社。→明45年,訂正5版。→大3,訂正8版) [45096
[明治42] 高桑駒吉編『最近外國地圖』(金刺芳流堂他) [45097
[明治42] 下村三四吉『女子西洋史教本附圖：全』(修正,目黒書店) [45098
[明治42] 下村三四吉『女子西洋史教本』(修正4版,目黒書店) [45099
[明治42] 小島政吉・北村包直『女子西洋史教科書』(訂正増補,明治書院) [45100
[明治42] 伊東忠太「建築文化の原則より見たる我邦建築の前途」(希臘羅馬)建築雜誌1月號 [45101
[明治43(1910)] 箕作元八『教科適用西洋歷史[小]地圖』(東京開成舘。→大8,訂正6版。→大9,修正5版) [45102
[明治43] 六盟舘編輯所編『增訂女子外國新地圖』(六盟舘) [45103
[明治43] 六盟舘編輯所編『最新式外國新地圖：全』(増訂再版,六盟舘) [45104
[明治43] 山崎直方『外國地圖：普通教育』(修正6版,開成舘。→明44,訂正4版New school atlas) [45105
[明治43] 地理研究會編『世界新地圖』(修文舘) [45106
[明治43] 英語研究社『イーソップの話(第一)』 [45107
[明治43] 普光社『英文イソップ物語=Fables from Aesop and others』 [45108
[明治43] 水野繁太郎『羅甸文法階梯：教科及自習用：完』(増訂5版,南江堂) [45109
[明治43] エ・ラゲ譯『我主イエズスキリストの新約聖書』(「Waga Shu Iesus Kirisuto no Shin-yaku seisho」)(公教會,中央出版社) [45110
[明治44(1911)] 中村久四郎『新編外國歷史教科書(甲乙)』(三省堂) [45111
[明治44] 安部清藏『羅馬書講解』(日本基督教青年會同盟出版部,開拓社) [45112
[明治44] 三省堂編輯所編纂『最近世界地理：女子教科』(三省堂。→明45,修正再版。→大2,修正5版。→大4,3訂版,修正7版) [45113
[明治44] 冨士德治郎『女子西洋史教科書：全』(晩成處) [45114

[明治44] 小川銀次郎『新編女子西洋史：全』(六盟舘) [45115
[明治44] 啓成社編輯所『女子教科西洋歴史』(啓成社) [45116
[明治44] 村川堅固『女子西洋歴史』(寶文舘) [45117
[明治44] 東京寶文舘編輯所『New selections from Aesop's fables』(Hobunkwan) [45118
[明治44] イソップ著/田山停雲譯『伊蘇普物語：正譯』(國文舘書店) [45119
[明治44] 稻葉翠浪『新式イソップものがたり』(私家版?) [45120
[明治44] 「羅馬パンテオン原形想像圖と現在のパンテオン」建築雑誌294 [45121
[明治44] 山本一清『星座の親しみ』(4版,恒星社) [45122
[明治45(1912)] 三省堂編輯所編纂『最近世界地圖』(三省堂。→大2,修正3版。→大5,修正7版。→大10,6訂改造版。→大14,修正17版。→大15,修正18版。→昭2,修正19版。→昭4,新訂版) [45123
[明治45] 六盟舘編輯所編『新式外國新地圖』(六盟舘。→大2,訂正) [45124
[明治45] 啓成社編輯所『女子教科西洋歴史』(訂正再版,啓成社) [45125
[明治45] 冨士德治郎『女子西洋史教科書：甲種』(晩成處) [45126
[明治45] 冨士德治郎『女子西洋史教科書：全』(訂正再版,晩成處) [45127
[明治45] 小川銀次郎『新編女子西洋史：全』(再版,六盟舘) [45128
[明治45] 大村益荒『保羅書翰羅馬書重譯』(警醒社書店) [45129
[明治45] C.Stickney“Aesop's fables : with a life of Aesop”(訂正3,4版,Kobunsha) [45130
[明治初期] 『獨逸辭書』(京都府出版) [45131
[明治初期] 中村順郎・吉田虎之助・西村善作編/芳川萬三郎・菅原俊雄閲『英獨對譯學語篇』(北島茂兵衛・初編) [45132
[明治期?] 大英國聖書會社『約拿書・哈基督・馬拉基督』(四六判) [45133
[明治期?] 北英國聖書會社『新約聖書・路加傳』(無刊記,中一册) [45134
[明治期?] 三橋・津田[仙]先生清囑・雲溪春畫「馬太傳福音書第五章耶蘇山上之垂訓拓本幅」 [45135
[明治期?] 艾儒略『耶穌言行畧(4巻)』(出版者不明) [45136
[明治期] 『萬國輿地圖說』(雲峯閣) [45137
[明治期] 『萬國輿地圖說補』(3集,雲峯閣) [45138
[明治期] 『萬國輿地圖說拾遺』(雲峯閣) [45139
[18-] 倫敦聖教書類會社編『耶穌山上垂訓』(倫敦聖教書類會社) [45140
[18-] 倫敦聖教書類會社編『山上垂訓』(倫敦聖教書類會社) [45141
[18-] モロード・ジョンネー/箕作麟祥譯『表記畧論（上篇1,2,3）』(各國地勢。私製) [45142
[18-] 『天然法律評釋引』(私製。箕作文書112.東京大学図書館蔵) [45143
[18-] 師範學校編輯『萬國地誌略(3巻)』(文部省,文華堂石田忠兵衛[發兌][明治期]) [45144
[18-] 師範學校編輯『萬國地誌略(巻2,3)』(眞部武助[明治期]) [45145
[18-] 師範學校編輯『萬國地誌略(巻2,3)』(須原屋) [45146

[18-] 師範學校編輯『萬國地誌略(巻1,2)』(兵庫縣) [45147
[1---?] 師範學校編輯『萬國地誌略』(3巻,文部省飜刻) [45148
[1--?] 穂積陳重述『羅馬法講義』(出版者不明) [45149
[1---?] 伴山三郎『近世萬國地誌』(實用教育新撰百科全書7,出版者不明) [45150
[1---?] 木村鷹太郎『高千穂天降の天孫と吾田鹿葦津姫：希臘高千穂とカアシズ國』(日本民族研究叢書22,日本民族協會) [45151
[1--?] 坪内雄藏講義『上古史,3巻(東洋史,歐羅史,羅馬史)』(東京專門學校) [45152
[1---?] 鈴木『校訂萬國全圖』(地圖資料) [45153
[1---?] 橋本玉蘭畫『萬國地球分圖』(近藤氏藏板) [45154
[1---?] 櫻池寒生『萬國輿地全圖』(博愼堂) [45155
[1---?] 小林公峯『世界萬國全圖說：全』(出版者不明) [45156
[1---?] 『世界圖』(出版者不明) [45157
[1---?] 山上萬次郎『地圖學』(早稻田大學出版部) [45158
[1---?] 『段彩式世界大地圖』(全教社) [45159
[1---?] 聖書協會(?)『聖書飜譯語分布圖』 [45160
[1---?] 『馬太傳福音書山ののりごと』(出版者不明) [45161
[1---?] 『使徒行傳の話』(福音舍) [45162
[1---?] 永井直治譯『聖使徒等の行爲詳解(使徒行傳)：全』(出版者不明) [45163
[1---?] 『新約全書馬可傳福音書』(出版者不明) [45164
[1---?] 『使徒行傳・羅馬書・哥林多書』(製作者不明) [45165
[1---] 關根正直『戲曲語源：國姓爺合戰』(百合若)[自筆]書写資料[45166
[1---] 關根正直『巢林子院本事言考證』(百合若)[自筆]書写資料 [45167
[18-] 柳亭種彦；歌川國貞畫『正本製』(百合若)(西村屋與八) [45168
[187-] ヘボン/奥野昌綱譯『十字架ものがたり』(出版者不明) [45169
[189-] 姉崎正治『言語學的宗教學』(哲學舘) [45170
[18-] 米國聖書會社『新約全書馬可傳福音書』 [45171
[18-] 米國聖書會社『新約全書馬太傳福音書』 [45172
[18-] 『新約聖書馬可傳』(出版者不明) [45173
[18-] 『新約聖書馬太傳』(出版者不明) [45174
[18-] 『新約聖書使徒行傳・全』(出版者不明) [45175
[18-] 北英國聖書會社『志とぎやうでん』 [45176
[18-] 北英國聖書會社『新約聖書馬可傳：全』 [45177
[18-] 大英國聖書會社『新約全書馬太傳福音書』 [45178
[18-] 大英國聖書會社『新約全書使徒行傳・全』 [45179
[18-] 『新約全書使徒行傳：眞片假名：全』(出版者不明) [45180
[18-] 内田正雄纂輯『輿地誌畧』(小川金介) [45181
[18-] 岡本監輔著・中村正直閲『萬國史記(20巻)』(出版者不明) [45182
[18-] 「ホメロス時代のギリシアと隣接諸國」(地図資料。京都大学所蔵。出版者不明) [45183

[1--- ?] 關根正雄[自筆]『巢林子院本事言考證』(百合若大臣) [45184
[1--- ?] 關根正雄[自筆]『戯曲語源：國姓爺合戰』(百合若大臣) [45185
[1---?] (書写者不明)『百合若物語』 [45186
[1---?] (書写者不明,書写年不明)『百合若物語』(書写資料) [45187
[1---?] 島村瀧太郎『泰西審美學史』(東京專門學校) [45188
[1---?] 關根正直『巢林子院本事考證』(百合若。自書) [45189
[1---?] 關根正直『戯曲語源：國姓爺合戰』(百合若。自書) [45190
[1---?] 改造社調査部編『世界人名辭典』(改造社) [45191
[1---?] 岡本芳二郎講述『羅馬法講義』(明治法律學校出版部講法会出版) [45192
[19--?] 田中周友講述『羅馬法』(黎明社) [45193
[19--?] 原田慶吉『羅馬法論文集』(出版者不明) [45194
[19--?] 東大法學部緑會書籍部監修『原田[慶吉]教授羅馬法講義案(全)』(東大共同組合プリント部) [45195
[19--?] 望月信成編修並解説『世界の美術』(上代編。集畫堂) [45196
[19--?] 加太邦憲『歐洲紀行』(加太邦憲) [45197
[19--?] 村松繁樹・小野鐵二・秋岡武次郎・遠藤金英・岩根保重「日本地理學史,西洋地理學史,地圖學史,地理學の教育的價値,近代地理探檢」(岩波講座地理學) [45198
[19--?] 人文社編集部『標準世界地圖』(增訂版,人文社) [45199
[19--?] 人文社編『標準世界大地圖=Map of the world[地図資料]』(人文社) [45200
[19--?] 大日本帝國陸地測量部校閲『世界大地圖』(冨山房) [45201
[19--?] 大阪集書堂編纂『最新[表現]世界大地圖』(大阪集書堂) [45202
[19--?] 大阪集書堂編纂『世界大地圖』(大阪集書堂) [45203
[19--?] 田中啓爾監修『社会科用：世界地圖黒板』(学習資料会) [45204
[19--?] 『最新世界大全圖』(日本地圖) [45205
[19--?] 『世界旅行萬國全地圖』(出版者不明) [45206
[19--?] 大中書局編『標準世界各國地圖』(改編本,大中書局) [45207
[19--?] 全國教育圖書編『標準世界大地圖』(全國教育圖書) [45208
[19--?] 三省堂編輯所編『世界改造地圖』(三省堂) [45209
[19--?] 新日本教文編『ヨーロッパ州図』(基範世界州別大地図,新日本教文) [45210
[19--?] 新日本教文株式会社編『世界大地圖』(新版,新日本教文) [45211
[19--?] 地圖出版社編制『世界地圖册』(地圖出版社) [45212
[19--?] 地圖出版社編制『世界分國地圖』(地圖出版社) [45213
[19--?] 紀伊國屋書店編『古典世界地圖帖』(紀伊国屋書店) [45214
[19--?] 村川堅太郎他『世界史地図』(山川出版社) [45215
[19--?] 村川堅太郎他『解説世界史地図帳』(山川出版社) [45216
[19--?] 齋藤清太郎編『西洋歷史地』(明治書院) [45217
[19--?] 日本書院編纂『大觀世界大地圖』(日本書院) [45218
[19--?] 崇山堂編纂『分邦詳密萬國地圖』(崇山堂) [45219

[19--?] 『東西兩洋の出逢ひから生まれた地圖製作術とマカオ』(ポルトガル大航海時代記念委員會マカオ支部) [45220
[19--?] 柴四朗撰『政治小說佳人之奇遇』(出版者不明) [45221
[19--?] 大塚金之助『トーマス・モーア』(大塚金之助) [45222
[19--?] 書寫者不明『幸若舞曲考：初稿；祝言小節：五表』(文学資料) [45223
[19--?] 關根文之助文・星野和子畫『イエスさまの一生(上中下)』(日本基督教協議會文書事業部,日本基督教團出版部[發賣教文舘[發賣] [45224
[19--?] 目賀田種太郎『羅馬法』(出版者不明) [45225
[大正?] ダンテ/山川丙三郎譯『神曲』(菅野兼吉) [45226
[大正?] ダンテ/竹友藻風譯『神曲』(文獻書院) [45227
[大正?] 『ダンテ神曲入門』(エンデルレ書店) [45228
[大正1(1912)] 「エーゲ海諸島の嚮背」外交時報16-4 [45212
[大正1] 「東方地中海の伊太利(コルレスポンダンス・ポリチック)外交時報16-4 [45213
[大正1] Helen Zimmern/岸本能武太譯・大日本文明協會編『伊太利及伊太利人』(大日本文明協會) [45214
[大正2(1913)] 地理研究會『近世萬國新地圖：附 地理統括表』(田中宋榮堂) [45215
[大正2] 米國聖書會社『引照新約聖書=Reference Testament』 [45216
[大正2] 磯田良『新編外國歷史地圖(西洋之部)』(三省堂書店) [45217
[大正2] 開成舘編輯所『開成舘模範世界地圖=Kaiseikan's standard atlas of the world』(訂正再版,開成舘。→大4,修正3版。→大7,修正7版。→大14,訂正13版。→昭2,訂正14,15版) [45218
[大正2] 六盟舘編輯所編『綱要外國地圖：全』(六盟舘) [45219
[大正2] 六盟舘編輯所編『最近地圖：全』(六盟舘) [45220
[大正2] 小川銀次郎編纂『改訂最新西洋史』(六盟舘) [45221
[大正2] 齋藤清太郎『女子西洋史教科書』(明治書院) [45222
[大正2] 冨士德治郎『女子西洋史教科書：第四年制度用』(訂正再版,晩成處) [45223
[大正2] 『工業大辭書・第5卷』(エンタシス,同文館) [45224
[大正3(1914)] 伊達源一郎『現代歐洲』(「エーゲ海諸島問題」)(現代叢書4,民友社) [45225
[大正3] 桑木厳翼『五大哲學者』(金尾文淵堂) [45226
[大正3] 『埃及希臘古代藝術集』(尚古出版社) [45227
[大正3] Mary Godolphin,A.W.Playfair & Kamegoro Washimi(annnot.[鷲見龜五郎])"Aesop's fables：arranged in words of syllable for young children" Yuhodo [45228
[大正3] A.J.Church"Stories from ancient Greece and Rome：selected and adapted" Dai-Nippon-Tosho-Kwaisha [45229
[大正3] 電氣舘内寫眞帖出版部『アントニーとクレオパトラ：史料參考：寫眞帖』 [45230
[大正3] シエクスピア作/島村抱月改作『クレオパトラ』(新潮社) [45231

[大正3] 山崎直方『普通教育世界地圖』(訂正9版,開成舘。→大4,訂正11版) [45232
[大正3] 地理研究會編『新外國地圖』(訂正再版,文學社) [45233
[大正3] 田中秀央『初等羅甸文法』(田中秀央) [45234
[大正3] 弘文社『羅馬法』(謄写版) [45235
[大正4(1915)] 啓成社編『外國新地圖』(訂正再版,啓成社) [45236
[大正4] 村川堅固『女子西洋歷史』(改訂訂正4版,東京寶文舘) [45237
[大正4] 牧田忠藏『イエスの面影』(日本基督教興文協會) [45238
[大正4] 内藤民治『世界實觀=The world through a camera』(伊太利,日本風俗圖繪刊行會) [45239
[大正5(1916)] 川副嘉一郎『伊太利王國』(金城社) [45240
[大正5] 田中秀央『羅甸文法』(2版,丸善) [45241
[大正5] 島田耕一『羅甸語處方文例：附羅甸文法通解：全=Lateinische Rezeptformeln：nebst dem Grundbegriffe der lateinischen Grammatik』(同濟號書房) [45242
[大正6(1917)] 永田稠『海外發展と我國の教育』(同文舘) [45243
[大正6] 大住嘯風『クレオパトラの鼻』(日東堂) [45244
[大正6] 相馬泰三『沙翁物語』(世界名著物語14,實業之日本社) [45245
[大正6] 齋藤清太郎『西洋歷史地圖』(明治書院。→大15,18版) [45246
[大正6] 龜井藤太郎『獨修羅甸文法』(東京學院出版部) [45247
[大正6] 植村清之助「紹介 坂口昂著 世界に於ける希臘文明の潮流」史林2-4 [45248
[大正7(1918)] 梅原末治「紹介 濱田青陵「希臘紀行」」史林3-4 [45249
[大正7] オリンピア社『オリンピア』 [45250
[大正7] 日曜世界社日曜學校研究部編纂『舊約時代聖書地圖：パレスチナ』(聖書大地圖1,日曜世界社) [45251
[大正7] 日曜世界社日曜學校研究部編纂『羅馬帝國：附パウロの旅行』(聖書大地圖2,日曜世界社) [45252
[大正7] 日曜世界社日曜學校研究部編纂『出埃及記：舊約時代聖書地圖』(聖書大地圖3,日曜世界社) [45253
[大正7] B.ショー/楠山正雄譯『シーザーとクレオパトラ』(世界名作文庫10,春陽堂文庫,春陽堂) [45254
[大正7] 峯岸米造編『女子用西洋歷史地圖：完』(修正4版,光風舘。→大15,修正5版) [45255
[大正7] 脇水鐵五郎『實科教育世界地理提要』(修正再版,開成舘。→大9,訂正6版) [45256
[大正7] B.G.Niebuhr“Griechische Heroengeshichite”Ikubundo [45257
[大正7] 朝永三十郎「新著紹介 文學博士坂口昂著 世界に於ける希臘文明の潮流」」哲學研究3-1 [45258
[大正8(1919)] 大阪朝日新聞社調査部編纂『世界新地圖』(大阪朝日新聞發行所) [45259
[大正8] 山崎直方監修『改造世界地圖：平和記念』(東京日日新聞) [45260

[大正8] B.G.Niebuhr“Griechische Heroengeshichite”Ikubundo [45261
[大正9(1920)] 山田毅一『戰後の歐米漫遊記』(再版,山田毅一,冨山房) [45262
[大正9] 荻原晃『ローマカトリック教理詳解：附聖會史』(三才社) [45263
[大正9] 内田寛一製『世界地圖』(右文舘。→大10年版) [45264
[大正9] 小山精一郎編纂・長瀬鳳輔監修『最新改造世界大地圖』(外交時報社。→大15,駸々堂出版部) [45265
[大正9] 小川琢治校閲・冨山房編輯局編纂『模範改造世界大地圖』(冨山房。→大15,7版) [45266
[大正9] 左右田喜一郎「〈新刊紹介〉大西猪之介教授著「伊太利亞の旅」ト「囚はれたる經濟學」,附福田徳三博士著「經濟學研究」 [45267
[大正10(1921)] 守屋荒美雄『世界地圖』(帝國書院。→大15,訂正) [45268
[大正10] Goethe/M.Katayama(片山正雄譯)“Italienische Reise：Auch ich in Arkadien!”(ゲーテ伊太利旅行)(Nankodo) [45269
[大正10] 大英國北英國聖書會社『新約聖書：希臘原語より飜譯せる大正八年完成の改譯=The New Testament：the revised version, A.D.1881』 [45270
[大正10] 英國聖書會社『引照舊新約全書』 [45271
[大正10] 脇水鐵五郎『實科教育世界地理』(訂正8版,東京開成舘。→大14,訂正10版) [45272
[大正10] 山崎直方『普通教育世界地圖』(訂正15版,東京開成舘) [45273
[大正10] 瀬川秀雄『女子西洋歷史』(訂正再版,冨山房) [45274
[大正10] 箕作元八編・大類伸補訂『女子教育西洋史教科書』(東京開成舘。→大14,修正7版。→昭2,修正12版。→昭5,修正14版) [45275
[大正11(1922)] 山上萬次郎編『新式世界地圖：全』(訂正再版,大日本圖書) [45276
[大正11] 三省堂編輯所編『新世紀世界地圖=The new century atlas of the world』(改造版,修正3版,三省堂。→大14,修正5版。→昭2,改訂版,修正8版。→昭3,改訂版,修正8版。→昭6,新訂版,修正11版) [45277
[大正11] 大英國北英國聖書會社『新約聖書：希臘原語より飜譯せる大正八年完成の改譯=The NEW TESTAMENT』 [45278
[大正11] Goethe/M.Katayama(片山正雄譯)“Italienische Reise：Auch ich in Arkadien!”(ゲーテ伊太利旅行)(Nankodo) [45279
[大正11] 團伊能『伊太利亞美術紀行』(春陽堂) [45280
[大正11] 飯野文三『伊太利の童話と童謡』(大盛堂書店) [45281
[大正11] 山本一清『星座の親しみ』(再版,天文同好会) [45282
[大正11] 三上義夫「和漢數學上に於ける希臘・印度・亞剌比亞の要素の有無（1922年度調査部講演会要旨）」東洋學報12-4 [45283
[大正12(1923)] 篠原助市・小川正之・佐藤熊治郎『輓近近世教育史』(訂正再版,東京寶文舘) [45284
[大正12] 山本光郎「西洋宗教思想史 希臘の巻一,波多野精一著」史学2-4

[45285
[大正12] ヨハン・ゴトフリート・ヘルダー著/田中萃一郎・川合貞一譯『歴史哲學(上下)』(泰西名著歴史叢書13-14,國民圖書) [45286
[大正12] 松本芳夫「希臘羅馬史論,鈴木錠之助譯」史学2-4 [45287
[大正12] 藤岡勝二『言語學概論』(東京帝國大學講義[1923]) [45288
[大正12] ダブリュー・リッピー著/岡邦雄譯『科學史概論』(春秋社) [45289
[大正13(1924)] アル・エル・オットレー/岩井順一譯『希伯來民族史』(5版,日本聖公會出版社) [45290
[大正13] ヘンドリック・ウィレム・ヴァン・ルーン著/柳井和助譯『人類の足跡　原始時代より太古時代まで』中央出版社 [45291
[大正13] ヘンドリック・ウィレム・ヴァン・ルーン著/神近市子譯『人類物語書き直された世界史』新光社 [45292
[大正13] 東京開成舘編輯所編『新制西洋歴史地圖』(東京開成舘。→昭5,訂正4版) [45293
[大正13] 小川琢治『中等地理學：地圖挿入』(日本之部,外國之部上中下巻,冨山房) [45294
[大正13] 齋藤清太郎『女子西洋史教科書』(明治書院) [45295
[大正13] パピー二著/大木惇夫訳『基督の生涯』(アルス) [45296
[大正13] パピー二著/柴田勝衛訳『きりすと傳』(警醒社) [45297
[大正13] パピー二著/新居格訳『ジョバンニ・パピー二自叙傳：終わりし人』(アテネ書院) [45298
[大正13] 服部豐「古代伊太利のガーデンの花」學習研究3-12 [45299
[大正13] J.H.Stickney“Aesop’s fables”(訂正再版,有朋堂書店) [45300
[大正13] 黒田正利「ダンテとトマス・アクヰナス」哲學研究9-5 [45301
[大正13] 山本一清『星座の親しみ』(改版,再版,警醒社書店) [45302
[大正14(1925)] 日本郵船株式會社編『歐洲大陸旅行日程』(日本郵船) [45303
[大正14] ゲーテ著/小野澤百八・黒坂禎次譯『征佛記；羅馬滞在』(聚英閣) [45304
[大正14] ゲーテ著/小野澤百八・黒坂禎次譯『羅馬第二次滞在記；征佛記』(ゲーテ全集刊行會) [45305
[大正14] 英國聖書協會『新約聖書』 [45306
[大正14] 澤村五郎・米田豐『聖書人物の教訓』(東洋宣教會出版部) [45307
[大正14] 村島靖雄『小さい西洋史』(再版,廣文堂) [45308
[大正14] 冨山房編集部編『最新世界詳圖』(訂正再版,冨山房) [45309
[大正14] 冨山房編集部編『新體女子西洋歴史』(訂正再版,冨山房) [45310
[大正14] 齋藤斐章『女子西洋史』(大日本圖書) [45311
[大正14] 小川琢治『外國地理掛圖』(小林又七本店) [45312
[大正14] 峰岸米造『中等西洋歴史地圖』(六盟舘。→昭3,訂正) [45313
[大正14] 桑木厳翼『Seiyoo-kinsei—tetsugakusi』Nippon-no-roomaji-sya,Iwanami Syoten [45314
[大正14] 桑木博士述『西洋哲學史：完：大正十四年度東大文學部講義』(石田正七) [45315

[大正15(1926)] 大類伸『永遠の都羅馬』(雄山閣) [45316
[大正15] 比屋根安定『世界宗教史』(三共出版社) [45317
[大正15] エ・ラゲ譯『聖福音書と使徒行錄』(公教會) [45318
[大正15] エ・ラゲ譯『我主イエズスキリストの新約聖書』(5版,公教會) [45319
[大正15] 山崎直方『新制世界地圖』(訂正再版,東京開成舘。→昭8,修正9版) [45320
[大正15] 龜井高孝編『中等西洋史地圖』(岩波書店。→昭2,訂正再版。→昭5,增訂,訂正3版。→昭6,增訂,訂正4版) [45321
[大正15] 村川堅固『簡明西洋歷史地圖：新刊』(訂正再版,寶文舘) [45322
[大正15] 長壽吉『新西洋史』(帝國書院) [45323
[大正15] 淺野利三郎『新制女子西洋歷史』(東京開成舘) [45324
[大正15] 橋本辰彦『趣味の西洋歷史：自学自習・中等參考(上下)』(三友社) [45325
[大正15] 柳田加藤次「女皇クレオパトラ：論說」龍南會雜誌158 [45326
[大正15] シェイクスピア作・木村莊太譯/シルレル作・佐藤通二譯『トロイラスとクレシダ,オレルアンの少女』(文藝に現れたる泰西の代表的女性,世界婦人文獻5,世界文獻刊行會) [45327
[大正15] C.Stickney“Aesop’s fables：with a life of Aesop”(訂正版,興文社) [45328
[大正15] 黑田正利「神曲の倫理思想及びその組織」哲學研究11-2 [45329
[大正15] ゲーテ著/吹田順助譯註『伊多利紀行』(郁文堂書店) [45330
[大正15] 永見健一「青語抄：伊太利庭園概說」造園學雜誌2-1 [45331
[大正15] 山本一清『天文につらなる人々』(警醒社書店) [45332
[明治,大正,昭和?] 穗積陳重『羅馬法講義』(謄寫版和裝本) [45333
[19--?] 岡本芳二郎講述『羅馬法講義・完』(明治法律學校) [45334
[19--?] 武藤智雄『西洋法制史』(出版者不明) [45335
[19--?] 尾佐竹蒙『法律學文獻年表』(日本評論社) [45336
[19--?] 神保[格]講師述『言語學概論』(東京帝國大學文學部) [45337
[19--?] 『宮崎市定著作目録』(出版者不明) [45338
[19--?] 中岡彌高講演『二大神話民族の血戰』(東京市翼贊壯年團本部) [45339
[19--?] 小川琢治『東西文化民族の地震に關する神話及び傳說』(出版者不明) [45340
[19--?] 鈴木良德『古代オリンピア祭』(日本オリンピック委員會) [45341
[19--?] 武藤長藏『ゲーテ及シラー雜考』(武藤長藏) [45342
[19--?] 福田英男『ゲーテ晚年の世界觀とその表現』(關西ゲーテ協會) [45343
[19--?] 佐藤正彰譯『ナポレオン回想錄』(スタンダァル選集7,竹村書房特製) [45344
[19--?] Maeda Goro“Language and the Gospel” [45345
[19--?] 西村眞次『人類文化史』(早稻田大學出版部) [45346
[19--?] 海老澤有道『西洋文化の傳來と日本』(朝日新聞社) [45347
[19-- ?] 海老澤有道『いるまん・ろれんそとその宗論』(私製) [45348
[19--?] 北村喜八郎『西洋演劇史(上)』(出版者不明) [45349

[19--?] 菅圓吉『トレルチの基督教本質論：歴史哲學の根本問題』(哲學パンフレット1,立教大學哲學室) [45350
[昭和1] 及川ふみ「ぬりゑ孔雀：イソップ物語より」幼兒の教育26-5 [45351
[＊昭和?] 伊東好次郎編著『イソップ物語』(教學研究社) [45352
[1---?] 改造社調査部編『世界人名辭典』(改造社) [45353
[1927?--1935?] 『羅獨語病名辭典[點字]』(1-3巻) [45354
[昭和2(1927)] 東京開成舘編輯所編『標準世界地圖=A standard atlas of the world』(修正5,6版,東京開成舘) [45355
[昭和2] 三省堂編輯所編『西洋歴史地圖』(三省堂) [45356
[昭和2] 小川琢治『中等世界地圖帖=The school atlas of the world』(博多成象堂。→昭3,訂正再版) [45357
[昭和2] 積善舘編輯所編纂『正則世界地圖=Sekizenkan's correct atlas of the world』(積善舘。→昭4,訂正再版) [45358
[昭和2] Goethe/J.Suita(吹田順助)譯註“Italienische Reise：auch ich in Arkadia!”(伊多利紀行,改訂增補,Ikubundo) [45359
[昭和2] 齋藤勇『詩ニ關スル「キーツ」ノ見解』東京帝國大學,文學博士[報告番号不明] [45360
[昭和2] 英國聖書協會『我らの主なる救主イエス・キリストの新約聖書：英和對譯』 [45361
[昭和2] 藤井悌『ナポリの浮浪兒』(日本エツセイ叢書,人文會出版部) [45362
[昭和2] 藤岡勝二『言語學概論』(東京帝國大學講義[1927]) [45363
[昭和2] シェークスピヤ/坪内逍遙譯『トロイラスとクレシダ』(早稻田大學出版部) [45364
[昭和2] ホラーティウス/田中秀央・黒田正利『ホラーティウス詩論』(岩波書店) [45365
[昭和2] 黒田正利「古代英文學の背景(1,2)」龍谷大學論叢272,273 [45366
[昭和2] 『錦巷會美術教育叢書3』(大日本圖書) [45367
----「日本美術史」「ギリシヤの美術」「ローマの美術」「ビザンチンの美術」「ルネッサンスの美術」
[昭和2] 原田慶吉『羅馬法』(東大ノート交換クラブ) [45368
[昭和2] 原田慶吉『羅馬法：東京帝國大學法學部講義』(螢光堂) [45369
[昭和3(1928)] 木崎龍尾編『世界地勢地圖』(地文舘) [45370
[昭和3] 煙山專太郎『再生の歐米を觀る』(實業之日本社) [45371
----「アテネでの生活」「サロニカ瞥見」「エーゲ海からマルモラ海に」「コンスタンチノプル生活」「君府からアンゴラへ」「再度の君府生活」「トルコ拾遺」
[昭和3] 「土耳古と希臘」外交時報20-2 [45372
[昭和3] 「エーゲ海上の希土」外交時報20-2 [45373
[昭和3] 植村清之助『歐州中世期初頭ニ於ケル國家的社會的轉換期ニ關スル研究』京都帝國大學,文學博士[報告番号不明] [45374
[昭和3] 下中彌三郎『希臘と後期埃及・先秦時代』(平凡社) [45375
[昭和3] B.G.Niebuhr/佐久間政一註“Griechische Heroengeshichite”Nanzando

[45376
[昭和3] 宇田川鈞編『絵話寶典日本イソップ』(大日本雄辯會講談社) [45377
[昭和3] 佐藤正治(M.Sato,trans.with notes)『Aesop's fables（英文學社） [45378
[昭和3] 齋藤勇『思潮を中心とせる英文學史』(3版,研究社) [45379
[昭和3] 松浦嘉一「HORATIUS詩論：田中秀央・黒田正利共譚「譚註ネラーティウス詩論」(岩波書店) [45380
[昭和3] ゴルドオニ他作/有島生馬他譯『伊太利古典近代劇集』(世界戯曲全集刊行會) [45381
[昭和3] 山崎直方『世界地理綱要』(修正再版,東京開成舘) [45382
[昭和3] 山崎直方『新制女子世界地理』(修正5版,東京開成舘) [45383
[昭和3] 瀬川秀雄『新撰女子西洋歴史』(冨山房) [45384
[昭和3] 坂口昂『新修女子西洋史』(東京開成舘) [45385
[昭和3] 三橋直喜『文部省檢定西洋史受驗準備の指導』(啓文社書店) [45386
[昭和3] パピー二著/大木惇夫譯『基督の生涯』(普及版,アルス) [45387
[昭和3] 松本卓夫『新約人物考』(新生堂) [45388
[昭和3] 松本卓夫『ピレモン書註解』(教文舘) [45389
[昭和3] 八代斌助『聖パウロ』(教文舘) [45390
[昭和3] 東京基督教青年會『基督教講座(3,4分册)』 [45391
[昭和3] 尾關岩二『ミルトンの思想と藝術』(世界文學研究叢書,綠蔭社) [45392
[昭和3] 富永孟『世界醫學史』(カニヤ書店) [45393
[昭和4(1929)] 山本大善『世界巡禮』(海外之日本社) [45394
[昭和4] 羽塚隆成譯『ナポリの博物舘』(文藝市場社) [45395
[昭和4] 『郵船の世界一周』(日本郵船) [45396
[昭和4] 今村學部「伊太利の地理學界」地理學評論5-4 [45397
[昭和4] 瀧川規一「伊太利ところどころ(1)」地球12-6 [45398
[昭和4] 高橋里美「學と哲學」(「無知の知」初出か?)河北新報6/? [45399
[昭和4] 下田禮佐『新外國地圖』(冨山房。→昭5,訂正再版) [45400
[昭和3] 坂口昂『新修女子西洋史』(訂正再版,東京開成舘) [45401
[昭和3] 瀬川秀雄『新撰女子西洋歴史』(訂正再版,冨山房) [453402
[昭和4] 齋藤勇『思潮中心の英文學史』(增補改訂新版,研究社) [45403
[昭和4] 塚本虎二『主の祈りの研究』(向山堂書房) [45404
[昭和4] 山口金作『使徒パウロがロマ人に贈りし書簡』(基督教世界社)[45405
[昭和4] 日高善一『エペソ書；コロサイ書；ピレモン書,ピリピ書』(新約聖書註解,日曜世界社) [45406
[昭和4] 小島幸治『トインビーの父：英國に於ける十九世紀前半期の時代精神に就て』(小島幸治) [45407
[昭和4] 伊澤蘭奢遺稿/鷹羽司編『素肌な自畫像』(前田河廣一郎「その「クレオパトラ」の役」,世界社) [45408
[昭和4] 寺西武夫譯注“Aesop's fables=イーソップ物語”(研究社出版)[45409
[昭和4] 『イーソップ寓話集』(近代社) [45410
[昭和4] イソップ著『イソップ物語：絵入』(金の星社) [45411

[昭和4] 田中耕太郎『世界法の理論』東京帝國大學,法學博士[報告番号不明] [45412
[昭和4] 栗生武夫『ビザンチン期における親族法の發達』京都帝國大學,法學博士[報告番号不明] [45413
[昭和5(1930)] 桑原隲藏著/馮攸譯『唐宋元時代中西通商史』(初版中外交通史料名著叢書,商務印書舘) [45414
[昭和5] ブラスコ・イバーニェス/永田寛定譯『地中海：外三篇』(世界文學全集[第2期]17,新潮社) [45415
[昭和5] 瀧川規一「伊太利ところどころ(2-11)」地球13-1-6/14-2,3,5,6 [45416
[昭和5] 板垣鷹穂『伊太利亞美術史』(春秋社) [45417
[昭和5] 田中秀央『羅甸助辭quin及ビ其ノ歷史的慣用ニ就キテ』京都帝國大學,文學博士[報告番号不明] [45418
[昭和5] 塚本虎二他著『イエス傳對觀表』(聖書知識文庫1,聖書知識社) [45419
[昭和5] ジョウエット著/澤村五郎譯『基督の弟子』(改題,基督敎書類會社) [45420
[昭和5] パピーニ著/大木惇夫譯『基督の生涯』(大衆版,アルス) [45421
[昭和5] パピー二著/寺尾純吉譯『聖オーガスチン』(アルス) [45422
[昭和5] 口村佶郎『王宮秘聞：羅馬法王』(萬里閣書房) [45423
[昭和5] 東京外國語學校編『維新前後外國圖書目錄』(羅甸語等) [45424
[昭和5] 齋藤斐章『實業世界史』(大日本圖書) [45425
[昭和5] 瀨川秀雄『新撰西洋歷史地圖』(冨山房) [45426
[昭和5] 齋藤清太郎『中等敎育西洋歷史地圖：全』(明治書院) [45427
[昭和5] 地理學同攻會『最新世界地圖』(中和書院。→昭6,訂正,吉川弘文舘) [45428
[昭和5] 中島孤島・飯塚羚兒・二瓶等『こどもの世界史』(冨山房) [45429
[昭和5] 淺倉淸『我が國地圖學の發達に就きて』(謄寫版,淺倉淸) [45430
[昭和5] 東京高等師範學校附屬中學校内英語研究會“Selections from Aesop’s fables”(Meguro) [45431
[昭和5] ヴィンチ/加藤朝鳥譯,ゲーテ/秋田忠義譯,シラア/佐久間政一譯『繪畫論,詩と眞實,素朴の文學と感傷の文學』(世界大思想全集9,春秋社) [45432
[昭和5] Fuzoku-Chugakko Tokyo higher normal school“Selections from Aesop’s Fables”(Meguro) [45433
[昭和5] 黑田正利編“Greek ideals：periods of European civilization”(Hirano Shoten) [45434
[昭和5] 山内得立『認識の存在論的基礎』京都帝國大學,文學博士[報告番号「不明」 [45435
[昭和5] 岡邦雄『自然科學史』(春秋文庫32,春秋社) [45436
[昭和5] 岡邦雄「自然科學史」日本中等敎育數學會雜誌12-4 [45437
[昭和5] 石川興二『經濟學祖ありすとてれす並二經濟學父あだむ,すみす二於ケル精神科學的經濟學ノ基礎問題』(京都帝國大學, 經濟學博士[報告番号不明] [45438

[昭和6(1931)] 平野常治「ドプシュ著「世界史上に於ける自然經濟と貨幣經濟 (Alfons,Dopsch,Naturalwirtscahft und Geldwirtscaft in der Weltgeschichite,Wien,1930)」社會經濟史學1-2 [45439
[昭和6] 太田三郎編『世界裸體美術全集(全6巻)』(平凡社) [45440
[昭和6] 間崎萬里「西洋美術史研究(澤木四方吉著,岩波書店)」史學10-4 [45441
[昭和6] 瀧川規一「伊太利ところどころ(12-22)」地球15-1~6/16-1~6 [45442
[昭和6] L.ウォーレス/益本重雄譯『ベン・ハー物語：新編』文教書院) [45443
[昭和6] 井上智勇「紹介 坂口昂著世界史論講,村川堅固著希臘史,高市慶雄著佛蘭西史」史林16-4 [45444
[昭和6] 守屋荒美雄『新撰詳圖(世界之部)』(帝國書院。→昭7,訂正) [45445
[昭和6] ハーバート・アダムス・ギボンス/武者金吉譯『ワイダー・ホライゾンス：世界の新地圖(上下)』(文明協會) [45446
[昭和6] 塚本虎二『イエスの國語』(向山堂書房) [45447
[昭和6] 塚本虎二『基督教十講』(向山堂書房) [45448
[昭和6] エ・ラゲ譯『我主イエズスキリストの新約聖書』(7版,天主公教會) [45449
[昭和6] 基督教女子青年會日本同盟宗教部編纂『私は何故神を信ずるか』教文舘出版部。
-----三谷隆正「何故私は神を信ずるか」
武藤富男「何故に神を信ずるか」
織田安子「わたしはどんな神様を信じてゐるか」
須貝止「信仰のこころ」
田川大吉郎「何故私は神を信ずるか」
山本忠興「神を信ずる理由」
山室民子「何故私は神を信ずるか」
山谷省吾「生活の喜び」 [45450
[昭和6] 川上爲次郎『齒科醫學史』(金原商店) [45451
[昭和6] 岡邦雄著/北原鐵雄編輯『科學文明史』(最新科學圖鑑1,アルス) [45452
[昭和6] 山本一清『初等天文學講話』(恒星社) [45453
[昭和6] 山本一清「野尻[抱影]氏の文に添へて」天界11(118) [45454
[昭和7(1932)] 丸善株式會社編『珍籍展覽會目錄：天正使節渡歐三百五十年記念』(丸善) [45455
[昭和7] 瀧川規一「伊太利ところどころ(23-33)」地球17-1,2,4,5,6/18-1~6 [45456
[昭和7] 藤原生「伊太利の旅」家事と衛生8-9 [45457
[昭和7] 『有島生馬全集(1-3)』(第1巻「新しき古羅馬人」)(改造社)v [45458
[昭和7] 井上(智勇)「紹介 Ernst Kornemann；Niebuhr und der Aufbau der altrömischen Geschichite」史林17-4 [45459
[昭和7] 和辻哲郎『原始佛教の實踐哲學』京都帝國大學,文學博士[報告番号不明] [45460

[昭和7] 九鬼周造『偶然性』京都帝國大學,文學博士[報告番号不明] [45461
[昭和7] 齋藤茂『西洋歷史講』(文藝春秋社。→昭9,增補改訂,川崎書店) [45462
[昭和7] 伊達龍城『改造最新世界地圖』(フアツシヨの嵐,明治圖書出版協會) [45463
[昭和7] 冨山房編輯部・大類伸『新體女子西洋歷史』(3訂,冨山房) [45464
[昭和7] 及川儀右衛門『新編女子西洋史』(星野書店) [45465
[昭和7] 龜井高孝『最新女子西洋史』(興文社) [45466
[昭和7] 「世界地圖屛風」(出版者不明。→昭8,中島泰成閣) [45467
[昭和7] 佐々木恭一『新日本圈中心世界地圖』(國際地學協會) [45468
[昭和7] 黑崎幸吉『新約聖書ギリシャ語文典』(永遠の生命社) [45469
[昭和7] 由木康『讃美歌小史』(日獨書院邦文部) [45470
[昭和7] 伊藤欣二『現代植民政策論』(「奴隸經濟時代に於けるギリシア・ローマの植民」)(雄文閣) [45471
[昭和7] 吉江喬松『佛蘭西古典劇研究：ラスィヌの悲劇』早稲田大学,文学博士[報告番号不明] [45472
[昭和7] 早稻田大學文學部編『文學思想研究』(野々村戒三「英譯聖書考」。春秋社) [45473
[昭和7] イソップ作/伊藤貴麿譯『鹿の水かがみ』(兒童書房) [45474
[昭和7] 山田惣七譯“The fables of Aesop”(trans.with notes,Taibundo)[45475
[昭和7] 小倉金之助・岡邦雄『自然科學史』(日本資本主義發達史講座2部,岩波書店) [45476
[昭和8(1933)] 瀧川規一「伊太利ところどころ(34-36)」地球19-1~3 [45477
[昭和8] 原隨園『テセウス傳說考』京都帝國大學,文學博士[報告番号不明] [45478
[昭和8] 沖野岩三郎『歐洲物語』(四條書房) [45479
[昭和8] 村川堅固『摘要西洋史地圖』(寶文舘) [45480
[昭和8] 三省堂編輯所編纂『新制最近世界地圖』(增訂版,三省堂) [45481
[昭和8] 三省堂編輯所編纂『小學世界地圖』(3訂版,三省堂) [45482
[昭和8] 帝國書院編輯部編纂『西洋歷史地圖』(帝國書院) [45483
[昭和8] 島田啓三畫『世界パノラマ大地圖』(少年倶楽部20巻12號附錄,大日本雄辯會講談社) [45484
[昭和8] 新見吉治『新制西洋歷史地圖』(六盟舘) [45485
[昭和8] 碧海康溫校閱『最新世界大地圖』(大阪朝日新聞社) [45486
[昭和8] 石橋五郎『新制中等世界地圖』(積善舘) [45487
[昭和8] 內藤智秀『新實業外國歷史』(帝國書院) [45488
[昭和8] 瀨川秀雄『實業教育統合外國史』(冨山房) [45489
[昭和8] 及川儀右衛門『新編女子西洋史』(訂正再版,星野書店) [45490
[昭和8] 龜井高孝『最新女子西洋史』(訂正再版,興文社) [45491
[昭和8] 中井正一「新刊紹介 岩波西洋人名辭典 龜井高孝・野上豐一郎・石原純編輯」哲學研究18-4 [45492
[昭和8] 村松恒一郎「我國に於ける西洋史研究の態度について」(東京商科

大學研究年報・經濟學研究2) [45493
[昭和8] 長壽吉『女學校用新西洋史』(冨山房) [45467
[昭和8] 岡倉由三郎「日本人の歐文文學」(岩波講座世界文學,岩波書店) [45468
[昭和8] ヘーゲル/鬼頭英一譯『歷史哲學(1,2)』(春秋文庫, 春秋社) [45469
[昭和8] 八代斌助『主イエス』(聖公會出版社) [45470
[昭和8] 由木康・高野忠博『馬ぶねの聖子：クリスマス・カンタタ』(日曜世界社) [45471
[昭和8] 松本卓夫『新約聖書』(日本宗教講座,東方書院) [45472
[昭和8] 松本卓夫『コリント前書』(現代新約聖書註解全書刊行會。→昭17,5版) [45473
[昭和8] ルッター原著/佐藤繁彦譯『羅馬書講解(1,2)』(ルッター研究會) [45474
[昭和8] ダンテ/黑田正利譯『神曲』(岩波書店) [45475
[昭和8] I.Hamabayashi“New Aesop’s fables”(訂正,Sankyosha) [45476
[昭和8] 小倉金之助・岡邦雄『自然科學史』(改訂版,日本資本主義發達史講座2部,岩波書店) [45477
[昭和9(1934)] 高田保馬「植民の世界史的意義—貧しきものは必ず勝つといふこと」經濟論叢38-1 [45478
[昭和9] 内藤智秀『日土交涉史』慶應義塾大學,文學博士[報告番号不明] [45479
[昭和9] 服部龍太郎『羅馬太平記=Roman scandals』(シンフォニー楽譜出版社) [45480
[昭和9] 關口英太郎「伊太利復興期の庭園」造園雜誌1-1 [45481
[昭和9] 鶴見「〈紹介〉大類伸,平塚博共著「列國史叢書 伊太利史」」史林19-1 [45482
[昭和9] 齋藤清太郎『女史西洋史』(明治書院) [45483
[昭和9] 大類伸『新體西洋歷史地圖』(改訂版,冨山房) [45484
[昭和9] 内田寬一製『最新世界地圖』(訂正再版,興文舘) [45485
[昭和9] 武藤貞一『世界地圖第百版』(新政社) [45486
[昭和9] 村田數之亮「ギリシヤ史におけるエーゲ海權の意義」史林19-4 [45487
[昭和9] 坪内逍遙譯『トロイラスとクレシダ』(新修シェークスピヤ全集23,中央公論社) [45488
[昭和9] 櫻根孝之進『「クリスマス」即ち菊祭り：附・ローマ字世界地圖』(我等の主張16,帝國ローマ字クラブ) [45489
[昭和9] 比屋根安定『世界宗教史』(三陽書院) [45490
[昭和9] ディキンズ/岩橋武夫譯『主イエス様の御生涯』(三省堂) [454491
[昭和9] 松本卓夫「新約聖書」(『日本宗教講座4』所収,東方書院) [45492
[昭和9] 黑崎幸吉『ロマ書・ガラテア書』(日英堂書店) [45493
[昭和9] M.ルッター著/佐藤繁彦譯『羅馬書への序言』(ルッター研究会) [45494
[昭和9] フリードリヒ・グンドルフ/小口優譯『グンドルフ文藝論集』

(「ヘルダーリンの多島海」。木村書店) [45495
[昭和9] 森田慶一『キトルーキスの建築論的研究』京都帝國大學,工學博士[報告番号不明] [45496
[昭和10(1935)] カミーユ・フラマリオン/武者金吉[昭和16(1941)]譯『天文科學星空遍路』(大勝舘) [45497
[昭和10] 大和資雄「MOULTONの“WORLD LITERATURE”,本多顯彰譯『世界文學及び一般化におけるその位置』岩波書店」英文学研究15-2 [45498
[昭和10] 團伊能『概觀歐洲藝術史』(巽軒叢書,冨山房) [454499
[昭和10] 黒田正利譯『ダンテ神曲』(岩波書店) [45500
[昭和10] 島津久基『近古稀覲小説ノ研究』東京帝國大學,文學博士[報告番号不明] [45501
[昭和10] 齋藤斐章『女子西洋史』(訂正3版,大日本圖書) [45502
[昭和10] 齋藤清太郎『女子西洋史』(訂正,明治書院) [45503
[昭和10] 時野谷常三郎『新編女子西洋史』(三省堂) [45504
[昭和10] 時野谷常三郎『新編女子西洋史教授資料』(三省堂) [45505
[昭和10] 瀬川秀雄『新撰女子西洋歷史』(訂正5版,冨山房) [45506
[昭和10] マキアヴェルリ/黒田正利譯『君主論』(岩波書店) [45507
[昭和10] 井手義行(Y.Ide)『Aesop's fables；Bible stories；Greek myths』(Sankaido) [45508
[昭和10] エ・ラゲ譯『我主イエズスキリストの新約聖書』(7版,天主公教會) [45509
[昭和10] 黒崎幸吉『マタイ傳福音書』(訂正4版,日英堂書店) [45510
[昭和10] 野々村戒三「ヘブライ民族の社會思想」史苑9-4 [45511
[昭和10] 荻原晃『ローマカトリック教理詳解：附聖會史』(カトリック中央出版部) [45512
[昭和10] 上田辰之助『社會職分を基調とするトマウ・アク井ナスの經濟思想に關する研究』東京帝國大學,經濟學博士[報告番号不明] [45513
[昭和10] 山本幹夫『哲学体系構成の二途：プローティーノース解釈試論』東京帝國大學,文学博士[報告番号不明] [45514
[昭和10] 原田慶吉『羅馬私法綱要』(原田慶吉) [45515
[昭和10] 岡邦雄『自然科學史講話(上)』(白揚社) [45516
[昭和11(1936)] 竹岡勝也「世界史と國民史 滯歐所感の一節」史淵13 [45517
[昭和11] B.Jowett;ed. by with notes by C.Uchida&O.Yamamoto“The Dialogue of Plato：Phaedo and symposium”Ritsumeikan [45518
[昭和11] 塚本虎二『死に勝つ』(向山堂書房) [45519
[昭和11] 黒崎幸吉編・塚本虎二他著『舊約聖書略註(上下)』(聖泉舍) [45520
[昭和11] ヒルティ/山田幸三郎譯『我ら何をなすべきか：「幸福論」第三巻より』(ヒルティ叢書1,向山堂書店) [45521
[昭和11] マキシム・ゴォリキイ/平井肇譯『伊太利物語』(改造社) [45522

[昭和11] 落合太郎『具體的言語ト抽象的言語：言語學的文學論』京都帝國大學,文學博士[報告番号不明] [45523
[昭和11] 齋藤清太郎『西洋歷史地圖』(增訂版,明治書院) [45534
[昭和11] 齋藤斐章『女子西洋史』(訂正4版,大日本圖書) [45535
[昭和11] 冨山房編輯部・大類伸『新體女子西洋歷史』(4訂,訂正7版,冨山房) [45536
[昭和11] 鮎澤信太郎「利瑪竇の世界地圖に就いて」地球26-4 [45537
[昭和11] 「告示/外務省/第74號/萬國農事協會ニ關スル條約ニ對スルエーゲ海ノ伊太利國諸島ノ加入ノ通告」官報1936.9/15 [45538
[昭和11] 近山金次「(書評)西洋史研究第八輯(マキヤヴェリ號)」史學14-4 [45539
[昭和11] ヴィンデルバント著/山本光雄・速水敬二・高桑純夫譯『哲學概論』(岩波書店) [45540
[昭和11] 岡邦雄『科學思想史』(唯物論全書,三笠書房) [45541
[昭和12(1937)] 富澤有爲男『地中海・法廷』(新潮社。→昭13,書物展望社) [45542
[昭和12] ゲーテ/吹田順助譯註『伊太利紀行』（改訂版, 郁文堂書店）[45543
[昭和12] ゴーゴリ作/平井肇譯『狂人日記：他一篇』（「羅馬=Rim」）(岩波文庫,岩波書店) [45544
[昭和12] 『オリンピア寫眞集：美と民族の祭典』(誠文堂新光社) [45545
[昭和12] 平出英夫『伊太利案内』(出版者不明) [45546
[昭和12] 山本智教「印度を中心としたる佛教美術文獻概觀(正續)」密教文化63,64 [45547
[昭和12] 出隆『ギリシア人ノ靈魂ト人間學』東京帝國大學,文學博士[報告番号不明] [45548
[昭和12] 金子武蔵『西洋倫理学史・第1分冊』(東京プリント刊行會)[45549
[昭和12] Harushige Kodzu[高津春繁]“On the dialect of Alkman”Greek Studies1,Iwanami [45550
[昭和12] Harushige Kodzu[高津春繁]“A study of the instrumental adverbs, particles and conjunctions in the Greek dialects especially those in-α-η-ω”Greek Studies 2,Iwanami [45551
[昭和12] 田中饒『イソップ物語』(有朋堂) [45552
[昭和12] Carl Hilty/佐久間政一譯『世の子は賢し』（大學書林語學文庫105, 大學書林）[45553
[昭和12] ピラト著『イエスの十字架に関しピラトが羅馬帝に具申せし書狀』(江藤榮吉郎) [45554
[昭和12] 山谷省吾『パウロの神学』京都帝國大學,文學博士[報告番号不明] [45555
[昭和12] 由木康『讃美歌小史』(4版,日獨書院) [45556
[昭和12] フォーサイス著/石島三郎譯『教會論』（土肥書店） [45557
[昭和12] 中山「紹介 樺俊雄譯 ドロイゼン「史學綱要」」史林22-3[45558
[昭和12] 帝國書院編輯部編『新撰歷史精圖』(西洋史之部,新制版,帝國書院。→昭13) [45559
[昭和12] 瀬川秀雄『新撰女子西洋歷史』(冨山房) [45560

[昭和12] 冨山房編輯部・大類伸『新體女子西洋歷史』(冨山房) [45561
[昭和12] 山中謙二『女子西洋歷史』(至文堂) [45562
[昭和12] 中川一男『最新女子西洋史』(東京開成舘) [45563
[昭和12] 今井登志喜『新制女子西洋史』(目黒書店) [45564
[昭和12] 内藤智秀『新説女子西洋史』(教育研究會) [45565
[昭和12] 藤田元春『新撰女子西洋史』(駸々堂) [45566
[昭和12] 時野谷常三郎『新編女子西洋史』(修正3版,三省堂) [45567
[昭和12] 三省堂編輯所『女子西洋史教科書』(修正9版,三省堂) [45568
[昭和12] 齋藤清太郎『新修女子西洋史』(明治書院) [45569
[昭和12] 中川一男『要説女子西洋西洋史：高等女學校用』(東京開成舘) [45570
[昭和12] 山本一清編『東西天文學史』(図説天文學講座8,厚生閣・恒星社) [45571
[昭和12] 小林珍雄/カトリック大辭典編輯所『カトリック用語小辭典』(カトリック研究社) [45572
[昭和13(1938)] 松本卓夫『解說ガラテア書』(聖書思想解說叢書2,日獨書院) [45573
[昭和13] 石島三郎『基督教入門』（長崎書店） [45574
[昭和13] 山岸外史『人間キリスト記---或ひは神に欺かれた男』（第一書房） [45575
[昭和13] 黒崎幸吉編・塚本虎二他著『舊約聖書略註(上中)』(日英堂書店) [45576
[昭和13] 黒崎幸吉編・塚本虎二他著『舊約聖書略註(上中下)』(明和書院) [45577
[昭和13] ヘアン著/八代斌助譯『新約の話』(聖公會出版社) [45578
[昭和13] 日本電報通信社『伊太利亞』(日本電報通信社) [45579
[昭和13] 外務省情報部『伊太利讀本』(改造社) [45580
[昭和13] 平出英夫『近代伊太利案内』(改訂版,出版者不明) [45581
[昭和13] ヴァンドリエス著/藤岡勝二譯『言語學概論：言語研究と歷史』（刀江書院） [45582
[昭和13] 大草實編輯『讀書隨筆』(新村出「プラトンのことば」,船田享二「國産學」)(矢の倉書店) [45583
[昭和13] 横山又次郎「地中海問題(上)」地學雜誌50-5 [45584
[昭和13] 箕作元八著・大類伸補訂『教科適用西洋歷史地圖』(修正10版,東京開成舘) [45585
[昭和13] 瀬川秀雄『新撰女子西洋歷史：高等女學校用』(訂正再版,冨山房) [45586
[昭和13] 中川一男『最新女子西洋史：高等女學校用』(修正再版,東京開成舘) [45587
[昭和13] 今井登志喜『新制女子西洋史：高等女學校用』(訂正再版,目黒書店) [45588
[昭和13] 齋藤清太郎『新修女子西洋史：高等女學校用』(訂正,明治書院) [45589

[昭和13] 時野谷常三郎『新編女子西洋史 : 高等女學校用』(修正再版,三省堂) [45590
[昭和13] 三省堂編輯所『女子西洋史教科書 : 高等女學校用』(修正再版,三省堂) [45591
[昭和13] 山本智教「印度を中心としたる佛教美術文獻概觀(完)」密教文化65 [45592
[昭和13] 齋藤惣一編『何を讀むべきか : 基督教研究指針』(日本基督教青年會) [45593
[昭和13] 原田慶吉『羅馬法講義案』(原田慶吉) [45594
[昭和14(1939)] 田中美知太郎「哲學と古典」(竹内富子編『哲學教養講座・第1巻』所収,三笠書房) [45595
[昭和14] 大草實編輯『讀書隨筆』(新村出「プラトンのことば」,船田享二「國産學」)(普及版,矢の倉書店) [45596
[昭和14] D.H.ローレンス/外山定男譯『伊太利の薄明』(冨山房) [45597
[昭和14] 原田謙次『伊太利亞文學展望』(岡倉書房) [45598
[昭和14] 黒田正利『われ祖国を求む : イタリア文學に現はれたる愛國精神』(外務省文化事業部) [45599
[昭和14] 石島三郎『ヨハネ黙示錄』(長崎書店) [45600
[昭和14] カール・ヒルティ/丸川仁夫譯『永遠の光の中に : カール・ヒルティ隨想集』(新生堂) [45601
[昭和14] 江澤讓爾「世界史の一齣としての獨逸思潮史 : 吹田[順助]教授の近著を中心として」社會經濟史學9-1 [45602
[昭和14] 及川儀衛右門『新修女子西洋史 : 高等女學校用』(訂正再版,星野書店) [45603
[昭和14] 竹内富子編『歴史』(三笠書房) [45604
[昭和14] 林武雄・原隨園『西洋古代史』(平凡社) [45605
[昭和14] 岡崎文彬『古代羅馬に於けるウィラ,特にその庭園に就て(1-3)』(出版者不明) [45606
[昭和14] 山本一清『新撰星座の親しみ』(恒星社) [45607
[昭和14] ランスロット・ホグベン著/今野武雄・山崎三郎譯『百萬人の數學 : 數學上の發明の社會史的背景に立脚せる數學入門書』(日本評論社) [45608
[昭和15(1940)] 國松久彌『地中海』(古今書院) [45609
[昭和15] 柏熊達生『伊太利案内』(改造社) [45610
[昭和15] Harushige Kodzu[高津春繁]“A study in the history of the arcadian dialect”Keio-Gijuku universitate[45611
[昭和15] 『ゴオゴリ全集(1-6巻)』(4巻「羅馬」)(栗田書店) [45612
[昭和15] クローチェ/黒田正利譯『ダンテの詩篇』(刀江書院) [45613
[昭和15] 吹田順助『近代獨逸思潮史』京都帝國大學,文學博士[報告番号不明] [45614
[昭和15] 岡島誠太郎「紹介 原隨園著 希臘神話」史林25-2 [45615
[昭和15] 西井克己「紹介 村田數之亮著 希臘の性格」史林25-4 [45616

[昭和15] 角田文衛「〈研究〉デュルプヘルト教授の功績：希臘考古學の六十四年」史林25-4 [45617
[昭和15] ヒルティ/陶山務譯『我ら何を爲すべきか』(第一書房) [45618
[昭和15] 田中英光『オリンポスの果實：外五篇』(高山書院) [45619
[昭和15] 大日本體育協會編『美と民族の祭典：オリンピア寫眞集』(七人社) [45620
[昭和15] 書香會『伊太利稀覯書賣立目錄』(書香會) [45621
[昭和15] 呉茂一「勸めたい書物」東京堂月報27-3 [45622
[昭和15] 杉勇『西洋古代史(1,2,3)』(平凡社) [45623
[昭和15] 守屋美智雄『新撰大地圖』(改訂,訂正4版。帝國書院) [45624
[昭和15] 三省堂編輯所編『西洋歷史地圖』(新制版,三省堂) [45625
[昭和15] 野上豐一郎“TheNoh and Greek Tragedy”Sendai International Cultual Society [45626
[昭和15] 山本智教「印度佛教美術史の主流」密教文化73 [45627
[昭和15] 松本卓夫『聖句研究：新約聖書』(新生堂) [45628
[昭和15] 額田晉『自然科學發達史』(日新書院) [45629
[昭和15] 原種行『近世科學史』(科學史叢書,山雅房) [45630
[昭和15] 原種行・清水英一『數學史新講』(筑摩書房) [45631
[昭和16(1941)] 新井和臣編「エンタシス（法隆寺）」(近畿觀光會)大和路9 [45632
[昭和16] 呉茂一「花と山水」塔影17-6 [45633
[昭和16] パピー二著/柏熊達夫譯『わがイタリア』(高山書院) [45634
[昭和16] 針ヶ谷鐘吉「ルネサンス初期の伊太利庭園(上)」造園雜誌8(2,3) [45635
[昭和16] 千代田謙『啓蒙史学の研究』東北帝國大學,文学博士[報告番号不明] [45636
[昭和16] 仁戸田六三郎『スパルタ』(目黒書店) [45637
[昭和16] 瀨川秀雄『新撰女子西洋歷史：高等女學校用』(訂正3版,冨山房) [45638
[昭和16] 時野谷常三郎『新編女子西洋史：高等女學校用』(修正3版,三省堂) [45639
[昭和16] 中川一男『最新女子西洋史：高等女學校用』(修正3版,東京開成舘) [45640
[昭和16] カスチリオーネ/太田千鶴夫譯『伊太利ルネッサンス生活・藝術・科學レオナルド・ダ・ヴィンチの創意』(築地書店)[45641
[昭和16] 黑崎幸吉『新約聖書語句索引：希—和』(日英堂書店) [45642
[昭和16] 山岸外史『人間キリスト記』(朱雀書林) [45643
[昭和16] 塚本虎二『イエス傳對觀表』(7版,聖書知識文庫1,聖書知識社) [45644
[昭和16] 姉崎正治・比屋根安定『宗教史』(東洋經濟新報社) [45645
[昭和16] フンボルト/岡田隆平譯『言語と人間』(冨山房) [45646
[昭和16] 川田熊太郎『プラトン辯證法の研究』(東京帝國大學,文学博士[報告番号不明] [45647
[昭和16] ヒルティ/陶山務譯『病める魂：永遠の生命』(第一書房) [45648

[昭和16] ヒルティ/陶山務譯『人生希望論』(第一書房) [45649
[昭和16] 加田哲二編『何を讀むべきか』(慶應出版社) [45650
[昭和16] 『國民文學と世界文學』(新關良三「國民文學：試論」/本多顯彰「世界文學」)新文學論全集6,河出書房) [45651
[昭和16] 森信胤『生理學ヲ中心トシタ醫學史』(河合商店) [45652
[昭和16] 額田晉『自然科學發達史』(12版,日新書院) [45653
[昭和16] アリストテレス著/村川堅太郎譯『經濟學；アテナイ人の國制』(再版,河出書房) [45654
[昭和16] 新獨逸國家大系刊行會編；上原專祿・小林良正譯『獨逸史』(日本評論社) [45655
[昭和16] コワレフスキー/中野廣譯『數學史：大數學者傳』（鷺ノ宮書房） [45656
[昭和16] コワレフスキー/中野廣譯『數學史』（八元社） [45657
[昭和17(1942)] ヴァレリイ著/佐藤正彰譯者代表『レオナルド・ダ・ヴィンチ論考』(ポオル・ヴァレリイ全集5,筑摩書房) [45658
[昭和17] チョーサー作/苅田元司譯『トロイルスとクリセイデ」(一)』(世界文庫70,弘文堂書房) [45659
[昭和17] W・フンボルト著/小口優他譯『教養への道：或る女友達への書簡』 [45660
[昭和17] ラムプレヒト著/上原專祿譯『歴史的思考入門』(經濟學名著選集2,日本評論社) [45661
[昭和17] 針ヶ谷鐘吉「ルネサンス初期の伊太利庭園(下)」造園雜誌9-1 [45662
[昭和17] ヴァンドリエス著/藤岡勝二譯『言語學概論：言語研究と歴史』（刀江書院）[45663
[昭和17] カール・ヒルティ/佐久間政一譯『教育の仕方』(近藤書店) [45664
[昭和17] ゲーテ/舟木重信譯『書簡集』(ゲーテ全集19,大東出版社) [45665
[昭和17] コルフ著/久保勘三郎譯『人間主義と浪漫主義：近代に於ける生の解釋とゲーテ時代に於けるその發展』(櫻井書店) [45666
[昭和17] コルフ著/羽白幸雄譯『人間主義と浪漫主義』(改造社) [45667
[昭和17] クローチェ著/青木巖譯『ヴィコの哲學』(東京堂) [45668
[昭和17] 黒崎幸吉『新約聖書ギリシャ語文典』(日英堂書店) [45669
[昭和17] 田中美知太郎・呉茂一「古典文學閑談 對談」文藝10-8 [45670
[昭和17] 呉茂一「書後のたより」文藝10-9 [45671
[昭和17] 山本一清『星座の話』(偕成社少年少女文庫,偕成社) [45672
[昭和17] 山本一清「ガリレオ傳(1-4)」天界22(250,251,252,253) [45673
[昭和17] 山本一清「Plutoの譯名について：巻頭隨筆」天界22(257) [45674
[昭和17] 藤田伊吉「下村寅太郎著 科學史の哲學」日本中等教育數學會雜誌24-3 [45675
[昭和17] 原田鋼『法治國家論』東京帝國大學,法學博士[報告番号不明] [45675
[昭和17] 田中周友『財産取得法』(有斐閣) [45676
[昭和18(1943)] 呉茂一「「和」を懐ふこころ」國畫3-1 [45677

[昭和18] 景山哲夫『地中海・西南アジア誌』(愛宕書房) [45678
[昭和18] パピー二/柏熊達生譯『わがイタリア』(高山書院) [45679
[昭和18] 瀬川秀雄『新撰女子西洋歷史：高等女學校用』(訂正4版,冨山房) [45680
[昭和18] 中川一男『最新女子西洋史：高等女學校用』(修正4版,東京開成舘) [45681
[昭和18] 時野谷常三郎『新編女子西洋史：高等女學校用』(修正4版,中等學校教科書) [45682
[昭和18] 高橋長太郎「歷史と眞實：古代哲學史研究の一側面」一橋論叢12-5 [45683
[昭和18] 樺俊雄『歷史哲學序說』(理想社) [45684
[昭和18] 樺俊雄『哲學と時代精神』(生活社) [45685
[昭和18] 樺俊雄『歷史的意識』(育英書院) [45686
[昭和18] 酒井三郎『国家の興亡と歷史家』(弘文堂) [45687
[昭和18] 西村貞二『近代ヨーロッパ史：世界史の成立』(冨山房) [45688
[昭和18] 福田邦三『實用ラテン文法初歩』(増補4版,克誠堂書店) [45689
[昭和18] 藤原藤男『ロマ書の研究』(一粒社) [45690
[昭和18] エ・ラゲ譯『我主イエズスキリストの新約聖書』(8版,天主公教會) [45691
[昭和18] ヨゼフ・ボーマン/戸塚文卿譯『カトリック思想史』(再版, 中央出版社。→昭20,刊) [45692
[昭和18] 上野景福「中世英文學の飜譯：苅田元司譯「トロイルスとクリセイデ」(一)チョーサー作,世界文庫[弘文堂]」英文學研究22-4 [45693
[昭和18] 舟木重信『ゲーテ：生活と作品』(六藝社) [45694
[昭和18] レオナルド・ダ・ヴィンチ/黒田正利譯『ダ・ヴィンチ隨想錄』(甲鳥書林) [45695
[昭和18] カミーユ・モオクレル/德久昭譯『ロダン傳』(梁塵社) [45696
[昭和18] 小川政修『西洋醫學史』(日新書院) [45697
[昭和18] 原種行『近世科學史』(普及版科學史叢書,山雅房) [45698
[昭和18] 山本一清「コペルニクの小傳(1-3)」天界23(261,262,263) [45699
[昭和18] 山本一清「星座と星名(改訂稿)(1,2)」天界23(261,262) [45700
[昭和18] 山本一清『コペルニク評傳』(恒星社) [45701
[昭和19(1944)] 景山哲夫『地政學上より見たる伊太利問題と地中海』(牧書房) [45702
[昭和19] ゲーテ/竹山道雄譯『情熱の形成(ゲーテ詩集)』(「羅馬哀歌」)(育英書院) [45703
[昭和19] 佐藤通次『ゲーテノ生命體驗』九州帝國大學,文學博士[報告番号不明] [45704
[昭和19] コルフ著/永松讓一譯『ゲーテ時代の精神』(櫻井書店) [45705
[昭和19] 呉茂一「耄耄の記」(平田次三郎編)襍志1 [45706
[昭和19] アーナンダ・クマーラスワーミ原著/山本智教譯『印度及び東南亞細亞美術史』(北海出版社) [45707

[昭和19] 田中晃『プラトンとアリストテレス』九州帝國大學,文學博士[報告番号不明] [45708
[昭和19] 矢田部達郎『意志心理學史』九州帝國大學,文学博士[報告番号不明] [45709
[昭和19] 荻原晃『カトリック精神詳解』(中央出版社) [45710
[昭和19] 塚本虎二・鶴田雅二・長本三千雄譯『對譯マタイ傳：希和逐語』(新約知識社)[45711
[昭和19] カール・ヒルティ/佐久間政一譯『教育の仕方』(文修堂) [45712
[昭和19] 上原專祿『獨逸近代歷史學研究』(弘文堂書房) [45713
[昭和19] 石山脩平「皇至道氏著獨逸教育制度史」教育學研究13-1 [45714
[昭和19] 上原專祿「ドイツ近代歷史學の興起」一橋論叢14-2 [45715
[昭和19] コワレフスキー/中野廣譯『數學史』(改訂版, 八元社) [45716
[昭和19] 川西實三他『三谷隆正誄辭集』(出版者不明) [45717
[昭和19] 田中周友『古代庇護法史研究』京都帝國大學,法學博士[報告番号不明] [45718
[昭和20(1945)] 吉滿善彦『告白錄における聖アウグスチヌスの回心の道』(上智大學出版部) [45719
[昭和20] 西谷啓治『宗教哲學』京都帝國大學,文學博士[報告番号不明][45720
[昭和20] 山田正司『プラトン哲學の根本問題』廣島文理大學,文學博士[報告番号不明] [45721
[昭和20] 小牧健夫『ヘルデルリーンノ自然觀ノ發展』京都帝國大學,文學博士[報告番号不明] [45722
[昭和20] 奥津彦重『ゲーテト「ファウスト」』京都帝國大學,文學博士[報告番号不明] [45723
[昭和20] パピー著/宮崎信彦譯『生けるダンテ』(日本書院) [45724
[昭和20] ヘルデル著/中野康存譯『民族詩論』(櫻井書店) [45725
[1---?] (蘭)四懿孛麟雋著/杉田玄瑞譯『地學正宗圖』(出版者不明) [45726
[1---?] 松本玉蘭畫『萬國地球分圖』(出版者不明) [45727
[1---?] 鈴木『校訂萬國全図』(地図資料) [45728
[1---?] 『地球萬國全図』(地図資料) [45729
[1---?] 『東半球；西半球』(地図資料) [45730
[1---?] 永井直治譯『聖使徒等の行爲詳解(使徒行傳)：新契約聖書』(出版社不明。→1999年,永井直治譯語解『新契約聖書：聖使徒等の行爲語句解』[鷲見昌太郎] [45731
[19--?] 小栗浩「二つのイタリアの旅—ヘルダー・コントラ・ゲーテ」東北ドイツ文學研究49 [45732
[19--?] 原弘毅『ゲーテと植物』(原弘毅) [45733
[19--?] 福田英男『ゲーテ晩年の世界觀とその表現』(關西ゲーテ協會) [45734
[19--?] 桑木巖翼『哲學講説；歐州文藝思潮史』(出版者不明) [45735
[19--?] 『新潮世界美術辭典』(新潮社) [45736
[19--?] 水木謙次郎編・改造社調査部編『最新百科社會語辭典・最新世界人

名辭典』(改造社) [45737
[19--?] 泉井久之助「ホメーロスの「枕ことば」」(秋田屋)智慧?号 [45738
[19--?] 泉井久之助「ヘーラクレースの柱」(秋田屋)智慧?号 [45739
[19--?] 泉井久之助「クレオメネースのこと」(秋田屋)智慧?号 [45740
[19--?] 高田三郎譯『アリストテレス：ニコマコス倫理學第一巻：試譯』(出版者不明) [45741
[19--?] 和辻哲郎「ホーメロス批判1-2」(写[自筆],自筆原稿,「日本人」講義ノート帙入) [45742
[19--?] 和辻哲郎「Homer1-3」(写[自筆],自筆原稿) [45743
[19--?] 田中周友『羅馬法』(京都帝國大學法學部講義,謄写印刷,黎明社) [45744
[19--?] 滋賀重利・秋保保治講述『西洋建築沿革』(大日本工業學會) [45745
[19--?] 相良德三『文學概論；美學史』(文科大學講座,イデア書院) [45746
[19--?] 相良德三『美學史』(文科大學講座,玉川學園出版部) [45747
[19--?] 城間正雄『日本民族形成の一視點：日本語と印歐語の關係の考察』(私製) [45748
[19--?] 家永豐吉講義・山澤俊夫編輯『文明史』(出版者不明) [45749
[19--?] セニョーボー/野澤武之助譯『文明史：完』(東京專門學校出版部) [45750
[19--] 『エーゲ文明』(Gemco video library,文明のおこりシリーズ,ジェコム出版) [45751
[19--] 源秀飛畫/小森啓訳[ヒポクラテス畫像]静止画像,出版者不明 [45752
(*)中村拓『本邦に伝わるブラウの世界地図について』(私製) [45753
(*)国立国会図書館デジタルコレクション『悔草』(井上小左衛門著[?]。イソップ) [45754
(*)国立国会図書館デジタルコレクション『訓蒙畫解集』(司馬江漢著。イソップ) [45755

【補遺・III】［參考・摘錄］

【◆「參考文獻(續)」

(*)東京文理大學哲学學科講義題目(昭和20年10月至昭和21年3月)哲學論叢11,1948年。
----務臺理作「哲學概論」/下村寅太郎「近世哲學史」/坂崎侃「論理學及認識論」/田中美知太郎「西洋古代哲學史」/菅圓吉「宗教學概論」
東京文理大學哲学學科(昭和21年卒業論文題目)哲學論叢11,1948年。
---- 秋山明「ソクラテス哲學の根本問題」/中村俊郎「ヘーゲルの自由について」
東京文理大學哲学學科講義題目(昭和21年4月至昭和22年3月)哲學論叢11,1948年。
----下村寅太郎「哲學概論」/下村寅太郎「西洋近世哲學史」/坂崎侃「論理學及認識論」/田中美知太郎「西洋古代哲學史」/竹内敏雄「美學概論」/菅圓吉「宗教學概論」
東京文理大學哲学學科講義題目(昭和22年4月至昭和23年3月)哲學論叢11,1948年。
----下村寅太郎「哲學概論」/下村寅太郎「西洋近世哲學史」/坂崎侃「論理學及認識論」/藤井義夫「西洋古代哲學史」/竹内敏雄「美學概論」/

(*)(參考 : 田中美知太郎「二十世紀哲学の系譜 古代アトム論の成立」(二十世紀研究所編『哲学教室』所収,啓示社,1948年。)
(*)(參考 : 馬葉禮「マルクス・エンゲルス文献秘話」社會評論5(9),1948年。)
(*)(參考 : 富澤有爲男『地中海』教育社,1948年。)
(*)(參考 : ジャン・ラクロワ/森有正譯「ヨーロッパ精神」ヨーロッパ2(8),1948年。)
(*)(參考 : F.ギゾー/安土正夫譯『ヨーロッパ文明史(上下)』世界古典文庫39-40,日本評論社,1948年(→1954年,角川文庫版)。)
(*)(參考 : 野上豐一郎『エジプトの驚異』要書房,1948年。)
(*)(參考 : 今村文英『西洋古代文化史』修文堂,1948年。)
(*)(參考 : ヤコブ・ブルクハルト/新關良三譯『ギリシヤ文化史』(3册。東京堂),1948年。)
(*)(參考 : ブルクハルト/新關良三譯『ギリシャ文化史(全6巻)』東京堂,1948--1950年。)
(*)(參考 : 坂口昂『世界に於ける希臘文明の潮流』改版,岩波書店,1948年(←大13,增訂正版。←大6,初版)。)
(*)(參考 : 小牧健夫「われもまたアルカディアに」(九州文學會)文學研究36,1948年。)
(*)(參考 : 高津春繁「ギリシャ風土記」花11,1948年。)
(*)濱田耕作(青陵)『希臘紀行』大雅堂,1948年。
(*)濱田耕作(青陵)『南歐游記』再版,大鐙閣,1948年。
(*)(參考 : 澤柳大五郎『伊太利亞紀行鈔 : ゲエテ太利亞紀行の一攷察』十字屋書店,1948年。)
(*)(參考 : キンケルマン/澤柳大五郎譯『希臘藝術模倣論』私製,座右寶刊行会,1948年。)
(*)(參考 : レオナルド・ダ・ヴィンチ著/黒田正利訳『ダ・ヴィンチ随想集』養徳社,1948年。)
(*)(參考 : 杉浦明平譯『ミケランジェロの手紙』青磁社,1948年。)
(*)(參考 : バンデルロ/杉浦明平譯『風流ミラノ夜話』新樹社,1948年。)
(*)(參考 : サケッティ/杉浦明平譯『イタリア浮世草紙』若草書房,1948年。)
(*)(參考 : ラブレー/渡辺一夫訳『イタリヤだより』出光書店,1948年。)
(*)小泉信三『讀書雜記』(即興詩人)文藝春秋,1948年(→1951年, 文藝春秋新社版)。
(*)(參考 : 足立勇,大類伸『オリンピアの丘』西洋史物語文庫2,史學社,1948年。)
(*)柳澤健『世界の花束』(「月のヴェネチア」・「アクロポリスの神殿」)コスモポリタン社,1948年。
(*)水谷正吉「アテネのオリンピア」美術手帖1(10,1948年。
(*)(參考 : フランシス・ベーコン/中橋一夫訳『ニュ・アトランシス』世界古典文庫48,日本評論社,1948年。)
(*)(參考 : 西台美智雄「ヘレニズムとヘブライズム」天理大学学報1(2・3),1948年。)
(*)(參考 : 神田盾夫「ヘレニズムの今日に與えるもの—近代精神の源流(1)」獨立4,1948年。)
(*)(參考 : アロン・ロベール/加藤周一譯「ドイツの異教主義」ヨーロッパ2(7),1948年。)
(*)(參考 : 宮城音彌「人間とは何か—カッシーラ「人間文化の哲學序說」Cassirer Essay on Man Harcourt Brace and Co.,1946)」思想の科学39(8),1948年。)
(*)(參考 : 村田數之亮「エクゼキアスのつぼ—ギリシヤの「つぼ」の美について」古文化1,1948年。)
(*)(參考 : 村田数之亮『クレタ文明の性格』京都大学,文学博士[報告番号不明],1948年。)
(*)(參考 : 村田潔『ギリシア・ローマの美術』西洋美術史第2巻,東京堂,1948年。)
(*)(參考 : 今泉篤男「西洋美術略史(5)エーゲ海美術」美術手帖1(10),1948年。)
(*)(參考 : 澤木四方吉『ギリシア美術』大丸出版社,1948年。)

(*)(參考：兒島喜久雄『美術概論』小山書店,1948年。)
(*)(參考：兒島喜久雄『天平彫刻』再版,小山美術新書1小山書店,1948年。)
(*)(參考：富永惣一『美術隨想』創藝社,1948年。)
(*)(參考：深田康算『藝術に就いて』岩波書店,1948年。)
(*)(參考：深田康算『美しき魂』アテネ文庫3,弘文堂,1948年。)
(*)(參考：牧野信一『吊籠と月光と』再版,創元選書,創元社,1948年。)
(*)(參考：羽田亨『西域文明史概論』6版,弘文堂,1948年。)
(*)(參考：羽田亨『西域文化史』座右寶刊行會,1948年。)
(*)(參考：岩村忍『マルコ・ポーロの研究(上)』筑摩書房,1948年。)
(*)海老澤有道『キリシタン文化概說』青年新書6,青年評論社,1948年。
(*)ヨハネス・ラウレス著『聖フランシスコ・サヴイエルの生涯』,1948年。
(*)家永三郎『外來文化攝取史論--近代西洋文化攝取の思想史的考察』岩崎書店,1948年(→1974年,青史社覆刻。)
(*)板澤武雄「江戸時代に於ける洋書の輸入と現存状態」學燈51(12),1948年。
(*)板澤武雄「蘭學に於ける人文科學の問題」日本歷史11,1948年。
(*)上原專祿「大學教育の人文化」表現1(3),1948年。
(*)「帝國學士院藏・(山岸光宣)『幕末洋學者歐文集解說』中の佛文の執筆者たる(昭和22年9月12日報告)」日本學士院紀要6(1),1948年。
(*)柏熊達生「ローマ大學—世界の大學めぐり」世界の動き3(19),1948年。)
(*)(參考：新興音樂出版社編『音樂人名辭典』,1948年。)
(*)(參考：見田石介・樺俊雄・加茂儀一他『哲學小辭典』霞書房,1948年。)
(*)(參考:W.フンボルト/西村貞二訳『世界史の考察:歷史哲學論文集』哲學叢書22,創元社、1948年。)
(*)(參考：フンボルト/岡田隆平譯『言語と人間』哲學叢書27,創元社,1948年。)
(*)(參考：田中秀央『希臘語文典』7版,1948年。)
(*)(參考：黑崎幸吉『新約聖書語句索引：希-和』改訂3版,明和書院,1948年。)
(*)(參考：呉茂一『ラテン文法綱要』(文法篇・演習篇)要書房,1948年(→ 昭24年,改訂版)。
(*)(參考:Hidenaka Tanaka“Graecae grammaticae rudimennta in usum scholarum”,Iwanami,7ed,1948.
(*)(參考：泉井久之助『南魚屋』高桐書院,1948年。)
(*)(參考：Maeda Goro(前田護郎)“Le language et l'évangile”Labor et fides,1948.)
(*)(參考:黑崎幸吉編『新約聖書語句索引(希和)・第一』改訂3版,明和書院,1948年(←昭16,初版/昭17,再版,日英堂書店)。)
(*)(參考：池田龜鑑『古典の批判的処置に關する研究』東京大学,文学博士[報告番号不明],1948年.)
(*)(參考：松村武雄『希臘の宗教』弘文堂,1948年(→1949年,再版。→1950年,3刷。)
(*)(參考：アポロドーロス/高津春繁譯『ギリシア神話』生活社,1948年(→昭25年,「ぎりしあ神話[定本ギリシャ神話],生活社。→昭28年,岩波文庫)。)
(*)(參考:野上彰・初山滋え『王さまの耳はロバの耳 ギリシャ・ローマの神話より』長野 さ・え・ら書房,1948年。)
(*)(參考：高橋双秋『ギリシャ神話物語』京都・教育出版,1948年。)
(*)(參考：谷村満知子・村上正夫え『神々の贈物 ギリシャ・ローマ神話』雄鶏社,1948年。)

(*)(參考：山根守道・三宅富也え『パンドラの箱 ギリシャ神話による童話集』大阪 明和書院,1948年。)
(*)(參考：ロンゴス/呉茂一訳『ダフニスとクロエー：牧人の恋ものがたり』(丹波市町)養徳社,1948年。)
(*)(參考：植木敏一「ミルトンの神話考」兵庫師範学校教育研究所紀要?,1948年。)
(*)(參考：佐々木理「ギリシャ神話」花11,1948年。)
(*)(參考：中村元「ギリシャ人の佛教信奉—その歴史的社會的背景」知と行4(4),1948年。)
(*)(參考：魚木忠一『基督教精神史』全國書房,1948年。)
(*)(參考：戸頃重基「ゲーテの宗教論」宗教公論18(8),1948年。)
(*)(參考：エ・ラゲ譯『我主イエズスキリストの新約聖書』9版,中央出版社,1948年。)
(*)(參考：山本和等編『教會：その形成への問題：論文集』(山本和「福音主義教會論」/淺野順一「イスラエル民族の教會的性格」/石島三郎「エクレシア・ミリタンス」/石原謙「カトリック主義とその教會」/北森嘉藏「ルターの教會觀」/赤岩榮「カルヴィンの教會觀」/熊野義孝「傳統」/阿部行藏「社會と教會」等),新教出版社,1948年。)
(*)(參考：石原兵永『アモス書略註』(石原兵永主筆)聖書の言162,1948年。)
(*)(參考：塚本虎二・鶴田雅二・長本三千藏共譯『對譯マタイ傳』(希和逐語,第2版),新約知識社,1948年。)
(*)(參考：八代斌助『聖書について』ミカエル出版社,1948年。)
(*)(參考：小嶋潤『基督教の話』宝文館,1948年。)
(*)(參考：沢村五郎『基督教案内』改訂版,日本傳道聖書學出版部,1948年。)
(*)(參考：沢村五郎『基督教案内』新日本建設叢書9,日本基督教團出版事業部,日本傳道聖書學出版部,1948年。)
(*)(參考：石原謙『基督教史』岩波全書32,岩波書店,1948年(←昭9,初版)。)
(*)(參考：藤原藤男『山上の垂訓--- 十字架の言の中に聞いた』明和書院,1948年。)
(*)(參考：塚本虎二『キリスト教十講』聖書知識文庫2,聖書知識社,1948年。)
(*)(參考:塚本虎二・鶴田雅二・長本三千藏訳『對譯マタイ傳:希和逐語』2版,新約知識社,1948年。)
(*)(參考：内村鑑三『四福音書の研究』(上)筑摩選書2, 筑摩書房,1948年。)
(*)(參考：内村鑑三『四福音書の研究』(下) 筑摩書房,1948年。)
(*)(參考：内村鑑三『羅馬書の研究』(3册)2版,創元選書,創元社,1948年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『新約聖書略註』改訂12版,1948年。)
(*)(參考：ルナン/廣瀬哲士譯『耶蘇』東京堂,1948年。
(*)(參考：塚本虎二「キリストは神か人か」聖書知識222,1948年。)
(*)(參考：田中純『耶蘇傳』堀書店,1948年。)
(*)(參考：荻原晃『キリスト傳』, 1948年。)
(*)(參考：錦織貞夫『キリスト・イエスの生涯』巧人社,1948年。)
(*)(參考：沖野岩三郎『聖書物語』現代評論社,1948年。)
(*)(參考：沖野岩三郎『キリスト教物語』スクール文庫6,蓼科書房,1948年。)
(*)(參考：石島三郎『キリスト教入門』再版, 新教出版社, 1948年。)
(*)(參考：石島三郎『新約聖書概観』香柏書店, 1948年。)
(*)(參考：松村克己『イエス』弘文堂書房,1948年。)

(*)(参考：飯塚羚兒『えつちえ・ほも：“この人を見よ”』南北書園,1948年。）
(*)(参考：パピニ/柏熊達生『キリストの生涯』中央出版社,1948年。）
(*)(参考：柏熊達夫「パピニの横顔」世界の動き3(8),1948年。)
(*)(参考：ヘーラルト・フロート著/由木康訳『基督に倣ひて：イミタチオ・クリスチ』日本社,1948年。)
(*)(参考：由木康『讃美歌の歴史』大水社,1948年。)
(*)(参考：大賀捨ニ『聖書とキリスト』文治書院,1948年。）
(*)(参考：小田實『聖書によるキリスト研究』關書院,1948年。）
(*)(参考：賀川豊彦『人間として見たる使徒パウロ』警醒社書店,1948年。）
(*)(参考：波多野精一『パウロ』(附「ケーベル先生追懐」)温故小文選4,新教出版社,1948年。)
(*)(参考：クリストファー・ドーソン/野口啓祐訳『中世紀の基督教』,1948年。)
(*)(参考：鬼頭英一『ハイデッガーの存在學』春秋選書,春秋社,1948年。)
(*)(参考：桑木厳翼『哲學的教養(正続)』春秋選書,春秋社,1948年(→1949年,重版)。)
(*)泉伸一「出隆論--現代哲学者論」哲学評論3(9),1948年。
(*)出隆「哲学はないか--わたくしの彷徨」表現1(3),1948年。
(*)「勇気のないところに哲学はない—出隆教授の彷徨」近代2(15),1948年。)
(*)出隆・武谷三男「物質と精神(1,2)対談」哲学2(3,4),1948年。
(*)出隆・高桑純夫「変革期のモラル(対談)」評論26,1948年。
(*)藤川覚「出隆教授夫人への手紙」婦人2(11),1948年。
(*)出隆「富士談義（承前）存在について」新潮45(12),1948年。)
(*)三一書房編集部編『回想の戸坂潤』三一書房,1948年。
(*)新島繁「回想の戸坂潤」唯物論研究5,1949年。
(*)和辻哲郎『ケーベル先生』アテネ文庫16,弘文堂,1948年。
(*)久保勉「ケーベル先生の25周年忌に際して(1-10)」心1(3-6),1948年//2(2-6,9),1949年。
(*)和歌森太郎「明治仏教思想の展開—井上円了と清沢満之」国民の歴史2(12),1948年。
(*)竹山道雄「三谷[隆正]先生の追憶」独立3月号,1948年(→昭和58年,同『竹山道雄著作集4/樅と木と薔薇』所収,福武書店。)
(*)南原繁『歌集・形相』(三谷隆正等)創元社,1948年。
(*)(参考：三谷隆正『世界観・人生観』(「宗教的個人主義」)近藤書店,1948年。
(*)(参考：田中美知太郎『近代思想と古代哲學』みすず書房,1948年。）
(*)(参考：橋本弘毅『奴隷制社会の哲學：世界哲學の發生』白揚社,1948年。)
(*)小山甫文「和辻哲郎著「ポリス的人間の倫理学」」読書倶楽部3(6),1948年。
(*)(参考：岩崎勉「哲学の語義の変遷」哲学評論3(9),1948年。)
(*)(参考：高山岩男「希臘に於ける哲學と哲學的實存」哲學季刊7,1948年。)
(*)(参考：田中美知太郎訳『ヘラクレイトスの言葉』アテネ文庫,弘文堂,1948年。)
(*)(参考：出隆『懐疑論』哲學選書, 角川書店,1948年。）
(*)(参考：出隆『詩人哲学者』小山書店,1948年。）
(*)(参考：三木清『ソクラテス』岩波書店,1948年(←昭14,初版。大教育家文庫8)。)
(*)(参考：稲富栄次郎『ソクラテスの辨証法』福村書店,1948年。）
(*)(参考：稲富栄次郎『ソクラテスのエロス』創元社,1948年。）
(*)(参考：斎藤信治「ヘーゲルのソクラテス解釈」(同『哲学』所収)思索社,1948年。)

(*)(參考：プラトン/久保勉・阿部次郎訳『ソクラテスの弁明・クリトン』22刷,岩波文庫,
岩波書店,1948年。)
(*)(參考：久保勉・阿部次郎訳『饗宴—プラトン対話篇』再版,岩波書店,1948年。)
(*)(參考：プラトン/青木巖訳『理想國』(上巻)哲学古典叢書, 思索社,1948年。)
(*)(參考：長澤信壽譯『プラトン著作集１・パルメニデース』再版, 1948年(←昭和19,初版)。)
(*)(參考：岡田正三譯『プラトン全集６』(ピレボス、ソピステス、第二アルキビアデス)
[京都]全国書房,1948年。)
(*)(參考：アラン/武者小路実光訳『プラトンに関する十一章』日本社,1948年。)
(*)(參考:木下法也「プラトンの教育思想に於けるポリス的見地及びイデア的性格について」
教育學研究16(1),1948年。)
(*)(參考：プルータルコス/青木厳訳『隨想録・モラーリア』青磁社,1948年。)
(*)(參考：ヘーゲル/真下信一訳『アリストテレス論』史学社,1948年。)
(*)(參考：西谷啓治『アリストテレス論攷』弘文堂,1948年。)
(*)(參考：岩崎勉訳『アリストテレス/形而上学』再版, 理想社,1948年。)
(*)(參考：高橋長太郎譯『河出書房版・アリストテレス全集８』(心理学, 第1総論。再版),
河出書房,1948年。)
(*)(參考：高橋長太郎譯『河出書房版・アリストテレス全集９』(心理学, 第2[各論]。再版),
河出書房,1948年。)
(*)(參考：出隆「アリストテレスの「理性」と「現実性」」理論2(10),1948年。)
(*)(參考：出隆「アリストテレスの実践学について(1,2)」哲學雜誌63(700,701),1948年。)
(*)(參考：呉茂一「哲學者と笑い」哲學雜誌63(700),1948年。)
(*)(參考：出隆「エリウゲナの哲学—第9世紀の哲学」近代思想3,1948年。)
(*)(參考：プロチノス/田中美知太郎訳『第一者について』創元社,1948年。)
(*)(參考：鹿野治助『プロティノス』2版,西哲叢書4,弘文堂,1948年。)
(*)(參考：キケロー作/岩崎良三訳『老年に就いて』(摩耶書房,1948年。)
(*)(參考：セネカ/樋口勝彦訳『幸福への道』養徳叢書 外国篇1028, 養徳社,1948年。)
(*)(參考：マルクス・アウレリウス/大原武夫訳『わが心の日記』海国書店,1948年。)
(*)(參考：岩下壯一『中世哲學思想史研究』岩波書店,1948年(←昭17,初版)。)
(*)(參考:岩下壯一『カトリックの信仰--公教要理第一部解說・第4』ソフィア書院,1948年。)
(*)(參考：岩下壯一『アウグスチヌス神の國』5刷,岩波書店,1948年(←昭10,初版)。)
(*)(參考：斯波義慧譯『アウグステイヌス哲學論文集』南北書園,1948年。)
(*)(參考：アウグスチンス/内村達三郎譯『懺悔錄』春秋社,1948年。)
(*)(參考：アウグステイヌス/斯波義慧譯『幸福なる生活』南北書園,1948年。)
(*)(參考：柳川德治郎『久遠の母聖モニカの生涯』グロリア文庫, 中央出版社,1948年。)
(*)(參考：荻原晃『カトリック精神詳解』3版, 中央出版社,1948年。)
(*)(參考：聖トマス/高桑純夫訳『形而上學敍説---有と本質とに就て』岩波文庫,岩波書
店,1948年(←昭10,初版)。)
(*)(參考：聖トマス・アクイナス/国分敬治譯『人間論---人間の本質』大翠書院,1948年。)
(*)(參考：聖アンセルムス/長沢信寿譯『モノロギオン』岩波文庫,岩波書店,1948年。)
(*)(參考：由木康『讃美歌の歴史』大水社,1948年。)
(*)(參考：由木康編『キリスト教の五つの古典』(松村克己「アウグスティヌス・告白」/
由木康「イミタチオ・クリスチ」・ケンピス),コギト社,1948年。)

(*)(參考：ヘーラルト・フロート/由木康訳『基督に倣いて：イミタチオ・クリスチ』(日本文庫27,日本社,1948年。)
(*)(參考：光明社譯『キリストに倣いて』光明社,1948年(→1958年,改正3版。→1962年,第4版)。)
(*)(參考：畠中尚志譯『アベラールとエロイーズ----愛と修道の手紙』岩波文庫, 岩波書店,1948年(←昭14,初版)。)
(*)(參考：國分敬治「聖トマスとアリストテレス」立命舘文學67,1948年。)
(*)(參考：霜山徳爾「キリスト教哲学の源泉を探りて—ディオニジウス偽書考」カトリック思想28(4),1948年。)
(*)(參考:武藤健『マルチン・ルッター---- 生涯とその事業』基督教新書1,二宮書店,1948年。)
(*)(參考：金子武蔵「近代ヒューマニズムと倫理(3)」近代思想3,1948年。)
(*)平塚益徳「聖書の日本語譯について」國文學 解釋と鑑賞6月號,1948年。
(*)(參考：塚本虎二「イエス傳研究」聖書知識222,1948年。)
(*)(參考：塚本虎二「キリストは神か人か」聖書知識222,1948年。)
(*)春日政治「1850年和訳の馬太伝」文學研究36,1948年。)
(*)(參考：上澤謙二『マルコ傳』やさしい聖書・口語訳,警醒社書店, 1948年。)
(*)(參考：上澤謙二『マタイ傳』やさしい聖書・口語訳, 警醒社書店, 1948年。)
(*)(參考：初見六藏『天主の聖母マリア傳』ドン・ボスコ社,1948年。)
(*)(參考：松本正夫『存在の論理学研究』慶應義塾大学,文学博士,1948年。)
(*)(參考：プルータルコス著/青木巖譯『隨想錄』青磁社,1948年。)
(*)(參考：橋本弘毅『奴隷制社会の哲學：世界哲學の發生』白揚社,1948年。)
(*)(參考：岩崎勉『印度哲學史・希臘哲學史』世界哲学講座1,光の書房,1948年。)
(*)(參考：岩崎勉『哲學序想』光の書房,1948年。)
(*)(參考：川田熊太郎『哲學小論集：文化と宗教』河出書房,1948年。)
(*)(參考：三谷隆正『世界観・人生観』近藤書店,1948年。)
(*)(參考：服部英次郎「哲學の再出発」哲學評論3(9),1948年。)
(*)(參考：Plato；B.Jowett(Eng.tra)/E.Hattori[服部英次郎]“The apology andCrito of Plato” Osaka Kyoiku Tosho,1948.)
(*)(參考：セネカ著/樋口勝彦譯『幸福への道』養徳叢書,外国篇1928,養徳社,1948年。)
(*)(參考：プルータルコス著/青木巖訳『隨想録：モーラーリア』青磁社,1948年。)
(*)(參考：金子武蔵『古代哲學』彰考書院,1948年。)
(*)(參考：金子武蔵『西洋精神史の問題(1)』小山書店,1948年。)
(*)(參考：吉滿義彦『中世精神史研究』みすず書房,1948年。)
(*)(參考：京都大学学生部編『近代精神の探究』明窓書房,1948年。)
(*)(參考：堀真琴・加茂儀一・樺俊雄編『近代思想講座』六和出版部,1948年。)
(*)(參考：船山信一『ヘーゲルにおける歴史と論理』民友社,1948年。)
(*)(參考：鈴木竜司『ヘーゲル哲学』古明地書店,1948年。)
(*)(參考:ラ・ブリュイエエル/齋藤磯雄訳『カラクテール:人間の探究(上下)』評論社,1948-49年。)
(*)(參考：出隆『空點房雜記』八雲書店,1948年(←1939年,岩波書店)。
(*)(參考：出隆『哲学的精神』志村書店,1948年。)
(*)(參考：出隆『神の思ひ』哲學選書,角川書店,1948年。)

(*)(參考：出隆編『哲学の基本問題(上中下)』実業之日本社,1948年。)
(*)(參考：大高冨一「出隆編「哲学の基礎問題」上巻」読書倶楽部3(7)1948年。)
(*)(參考:京都大學學生部編『近代精神の探求』京都大学學學生部叢書11,明窓書房,1948年。)
(*)(參考：下村寅太郎『科學以前』アテネ文庫10,弘文堂,1948年。)
(*)(參考：学生書房編集部編『わかき日の素描』私の学生の頃3,学生書房,1948年。)
(*)(參考：天野貞祐「ドクトル・クレスレルのことなど」(吉田賢龍,岩下壯一)朝日評論5月號,1948年。)
(*)(參考：天野貞祐「九鬼[周造]、岩下[壯一]、兩君のことなど」朝日評論6月號,1948年。)
(*)(參考：前尾繁三郎「岩元禎先生の哲学碑」(ケーベル等)文藝春秋9月號,1948年。)
(*)菊池寛『菊池寛：自敍傳全集』自敍傳全集,文潮社,1948年。
(*)(參考：原隨園『ギリシア史研究・第1,2』創元社,1948年。)
(*)(參考：原隨園『ギリシヤ史研究・第3』再版、改訂版, 創元社,1948年。)
(*)(參考：石母田正・太田秀通『史學：論集』(太田秀通「歴史に於ける二つの道：ヘロドトスとツキヂデスに関する一考察」)三省堂出版,1948年。)
(*)(參考：プルターク/前田晃譯・澤井一三郎繪『プルターク英雄傳』京屋出版社,1948年。)
(*)(參考：ゴーティエ/田邊貞之助譯『或る夜のクレオパトラ』齋藤書店,1948年。)
(*)(參考：タキトゥス/田中秀央・泉井久之助共訳『ゲルマーニア』創元社,1948年。)
(*)(參考：ブルクハルト/奥津彦重譯『世界史的考察』櫻井書店,1948年。)
(*)(參考：新關欽哉『人間及び歴史家としてのブルクハルト』東京堂,1948年。)
(*)(參考：モンテスキュー/大岩誠譯『ローマ史論』齋藤書店, 1948年。)
(*)(參考：戒能通孝『古典的世界の没落と基督教—附・近世の成立と神授説』雄鶏社,1948年(→1969年,新泉社版)。
(*)(參考：龜井高孝『東ローマ帝國史』生活社,1948年。)
(*)(參考：龜井高孝・林健太郎『概説西洋歴史』大八洲出版,1948年。)
(*)(參考：龜井高孝・三上次男『世界史地図』吉川弘文館,1948年。)
(*)(參考：村田數之亮『概観西洋歴史』改訂再版,河原書店,1948年。)
(*)(參考：世良晃志郎『封建制成立史序説』法制史叢書2,彰考書院,1948年。)
(*)(參考：樺俊雄『歴史哲學』小石川書房,1948年。)
(*)(參考：ヘルダー著/田中萃一郎・川合貞一譯『歴史哲學(上)』丁子屋書店,1948年。)
(*)(參考:ヨハン・ゴットフリート・ヘルダー著/鼓常良譯『人間史論(1-4)』白水社,1948年。)
(*)(參考:シェンキェーヴィッチ/谷口武訳『どこへ行く:クオヴァヂス』玉川大学出版部,1948年。)
(*)(參考：大岩誠「民族移動と二つの世界」ヒュウマニスト2,1948年。)
(*)(參考：前川貞次郎「アメリカ史学の形成—アメリカ史学史への序説」人文科学2(4),1948年。)
(*)間崎万里「ルネサンスと「史學」の復刊」史学23(1),1948年。
(*)(參考：鮎澤信太郎『近世日本の世界地理學』東光協會,1948年。)
(*)(參考：鮎澤信太郎『地理學史の研究』愛日書院,1948年(→1981年,原書房版)。
(*)(參考：久保田正文「文学の故郷—民族と世界文学古典」文学16(11),1948年。)
(*)(參考：高橋健二「古典のローマン」(新潮社)新文學講座2,1948年。)
(*)(參考：呉茂一「歌のうちの歌」宗教と文化3(1),1948年。)
(*)(參考：小川正恭譯「サフォーとアルカイオスの詩」高原8,1948年。

(*)(参考：アリストパネース；村川堅太郎譯『女の議會』要書房,1948年。）
(*)(参考 : A.Pope : with introduction and notes by Hiasanosuke Izui “The Odyssey of Homer” Shin Nihon Tosho,1948.
(*)田中饒『Aesop’s thirty fables』有朋堂,1948年。
(*)木下一二『イソップ物語』光書房,1948年。)
(*)青木常雄編・清水貞助訳『イソップ物語—英和対訳』学恩社,1948年。)
(*)玉川教育研究所編『こどもイソップ』児童図書館叢書,玉川出版部,1948年。)
(*)キクチ・スナオ『一、二年生のためのイソップものがたり』, 1948年。）
(*)(参考：ラ・フォンテーヌ/梶耕吉訳『寓話集』好江書房,1948年。)
(*)(参考：ラ・フォンテーヌ/田中末廣訳『ラ・フォンテーヌ童話集』小中學校圖書舘叢書, 玉川大学出版部,1948年。)
(*)(参考：スタンダール/吉川逸治・富永惣一共譯『イタリア繪畫史』(3巻)河出書房, 1948年。スタンダール全集4,5,6巻。←昭18年,初版。)
(*)(参考：荒川龍彦『ヒューマニズムと文学』宝雲舎,1948年。)
(*)(参考：荒川龍彦『近代文学思潮』生活社,1948年。)
(*)(参考 : 黒田正利「文藝復興と人間の完成」(国民の歴史研究会)国民の歴史2(11),1948年。)
(*)(参考：嘉門安雄譯『チチェローネ：古代篇』ブルクハルト著作集[第1],筑摩書房&私家版,1948年。)
(*)(参考：ゴビノー著/加茂儀一訳『ルネッサンス』みすず書房,1948年。)
(*)(参考：西脇順三郎「ルネサンスと自然主義(〈特輯〉ルネサンス文化)」史学23(1),1948年。)
(*)(参考：杉浦明平『ルネッサンス文學の研究』潮流社,1948年。)
(*)(参考：杉浦明平「ルネサンス文學史概説」(新潮社)新文學講座2,1948年。)
(*)(参考：杉浦明平「古譚百種の成立」西洋史論I(10月号),1948年。)
(*)(参考：杉浦明平「ルネッサンス・ヒューマニズムと現代」思潮1月号,1948年。)
(*)(参考：增田重光「サヴォナローラとメヂチ家」(三田史学会)史学1月号,1948年。)
(*)(参考：大類伸「ブルネルスキ談義」(三田史学会)史学1月号,1948年。)
(*)(参考：本多顕彰『文學の形成：プラトンからルネサンスまで』世界評論社,1948年。)
(*)(参考：ダンテ/竹友藻風譯『神曲−−−淨罪篇・地獄篇』創元社,1948年（→1949年, 再版）。
(*)(参考：ダンテ/山川丙三郎譯『新生』岩波文庫, 岩波書店, 1948年。）
(*)(参考：小池辰雄『ダンテの苦難「苦難の意義」』新教出版社, 1948年。
(*)(参考 : ボッカチオ作/野上素一譯『デカメロン : 十日物語』(6巻)岩波文庫,1948年(→1959年)
(*)(参考：ボッカチオ/梶耕吉譯『十日物語(デカメローネ)』萬里閣,1948年。)
(*)(参考：ボッカチオ/西野辰吉譯『デカメロン』世界名著物語文庫,新文社,1948年。)
(*)(参考 : ボッカッチョ/柏熊達生譯『デカメロン』世界古典文庫26,27,日本評論社,1948年。)
(*)(参考 : 柏熊達生「デカメロンの文学的價値—イタリア文学及び比較文学上に於けるデカメロンの價値に關する研究」(同『好色文学批判』所収),1948年。)
(*)(参考 : 柳澤健『世界の花束』(「貨荻尊者ことエラスムス」)コスモポリタン社,1948年。)
(*)(参考 : 渡辺一夫「エラスミスムについて」(同『まぼろし雑記』所収)河出書房),1948年。)
(*)(参考：エラスムス/池田薫訳『愚神禮讃』3版,白水社,1948年。）
(*)(参考：ウォルター・ペータ/佐久間政一譯『ルネサンス』南北書園,1948年。）

(*)(参考：山元一郎『ミケランジェロの怖れ』弘文堂,1948年。)
(*)(参考：小野武雄『西洋文学入門』糊山社,1948年。)
(*)(参考：西脇順三郎『古代文學序說：幻影の人』好學社,1948年。)
(*)(参考：北村喜八『西洋演劇史概說』白鯨書房,1948年。)
(*)(参考：稲垣足穂「ギリシヤと音楽—詩の倫理(1)」日本未来派16,1948年。)
(*)(参考：呉茂一『ホメーロスの世界』思索社,1948年。)
(*)(参考：小川正恭譯『ホメロスの讃歌集』生活社,1948年。)
(*)(参考：クセノポン/松平千秋訳『エペソス物語---ハプロコメースとアンテイアの恋』大翠書院,1948年(→1956年, 河出書房世界文学全集古典篇16。→1961年,筑摩書房世界文学大系64「古代文学集」)。)
(*)(参考：ロンゴス/呉茂一訳『ダフニスとクロエー、牧人の恋がたり』天理養徳社,1948年(→昭26年,角川文庫)。)
(*)(参考：プーブリウス・オウイヂウス・ナーソー/樋口勝彦訳『オイデイウス愛の技術(アルス・アマートーリア)』思索社, ,1948年。)
(*)(参考：アリストパネース/村川堅太郎訳『女の議會』要書房,1948年。)
(*)(参考：アリストパネス/呉茂一訳『鳥』岩波文庫, 岩波書店,1948年(←昭19,初版)。)
(*)(参考：エウリピデス/呉茂一訳『アウリケのイピゲネイア・ギリシヤ悲劇』再版,岩波文庫,岩波書店,1948年(←昭14,初版)。)
(*)(参考：新関良三『エウリピデス(上)：希臘羅馬演劇史第4巻』東京堂,1948年。)
(*)(参考：呉茂一訳『ギリシヤ抒情詩選---附・ラテン抒情詩篇』岩波文庫, 岩波書店,1948年(←昭13)。)
(*)(参考：ルキアノス/高津春繁訳『ペリグリーノスの昇天』重版,東京堂,1948年。)
(*)(参考：ルーキアーノス/高津春繁訳『悲劇訳者ゼウス—他4篇』白水社.,1948年。)
(*)(参考：ルキアノス/呉茂一・山田潤二訳『本当の話』再版,養徳叢書 外国篇1007,[丹波市]養徳社,1948年。)
(*)(参考：呉茂一「ギリシヤの抒情詩」八雲1月號,1948年。)
(*)(参考：呉茂一「ギリシァ新喜劇の人間性」悲劇と喜劇4月号,1948年。)
(*)(参考：山内邦臣「ディオニュソスの悲劇」宗教と藝術11月号,1948年。)
(*)(参考：アリストパネース/高津春繁訳『蜂』世界文庫,弘文堂書房,1948年(←昭16初版)。)
(*)(参考：杉浦明平「ヒューマニズムと文学」人間美学6,1948年。)
(*)(参考：柏熊達生「イタリア文學地圖」藝苑5(9),1948年。)
(*)(参考：加藤美雄『ルネッサンス・フランス文學史』學生叢書,文庫型,科學社,1948年。)
(*)(参考：加藤美雄「ルネッサンス思潮とラブレー」(河原書店)ユマニテ1,1948年。)
(*)(参考：ラブレー/塚原亮一訳・青木繁畫『巨人パンタグリュエル』好江書房,1948年。)
(*)(参考：ラブレー/渡辺一夫訳『ガルガンチュワ物語』第1之書,白水社,1948年。)
(*)(参考：ラブレー?/渡辺一夫訳『ガルガンチュワ大年代記—フランス古譚』白水社,1948年。)
(*)(参考：市村惠吾『フランソワ・ラブレエ—人と時代と作品の研究』京都印書館,1948年。)
(*)(参考：モンテーニュ/關根秀雄訳『モンテーニュ随想録(1-6)』仏蘭西古典文庫,白水社,1948年。)
(*)(参考：関根秀雄『モンテーニュ論攷』2版,八雲書店,1948年。)
(*)(参考：関根秀雄『モンテーニュを語る』創元社,1948年。)

(*)(參考：関根秀雄『フランスモラリスト研究』育成社,1948年・)
(*)(參考：落合太郎『モンテェーニュ』岩波書店,1948年(←昭12,初版。大教育家文庫11)。)
(*)(參考：パスカル/前田陽一訳『エピクテートスとモンテーニュとに関するパスカルとサシとの対話』哲學叢書,創元社,1948年。)
(*)(參考：鳥井博郎『ディドロ：フランス啓蒙思想の一研究』国土社,1948年。)
(*)(參考：小場瀬卓三『フランス古典喜劇成立史—モリエール研究,特にイタリア喜劇の影響』生活社,1948年。)
(*)(參考：成田重郎『モリエエルの悲劇的な生涯』報文社,1948年。)
(*)(參考：辰野隆・本田喜代治『モリエール』創元選書, 創元社, 1948年(←昭14, 初版)。
(*)(參考：瀬沼茂樹「イポリトト・テーヌ」世界文学研究2,1948年。)
(*)(參考：ラ・ロシュフコオ/内藤濯訳『箴言と考察』岩波文庫, 岩波書店, 1948年。)
(*)(參考：ラ・ロシュフゥコオ/齋藤磯雄訳『反省録』現代叢書56,三笠書房, 1948年。)
(*)(參考：G.チョーサー/苅田元司譯『戀のとりこ：トロイルスとクリセイデ』英米名著叢書,新月社,1948年。)
(*)(參考:中山竹二郎「チョウサの「トロイルスとクリセイデ」」(九州文學會)文学研究36,1948年。)
(*)(參考：シェイクスピア/中野好夫訳『ジュリアスシーザー』シェイクスピア選集,筑摩書房,1948年。)
(*)(參考：ベイコン/中橋一夫譯『ニュ・アトランチス』世界古典文庫48, 日本評論社,1948年。)
(*)(參考：ベイコン/中野好夫譯『ニュー・アトランティス』思索社,1948年(→1949年,思索選書131)。
(*)(參考：矢本貞幹『近代イギリス批評精神』(ペイター等)創元社,1948年。)
(*)(參考：ミルトン/繁野天來譯『失楽園(上下)』新選世界文学集, 大泉書店,1948年。)
(*)(參考：矢野峰人『アーノルド論攷』全國書房,1948年。)
(*)(參考：大澤實「ウルフとペイター」新英米文学1,1948年。)
(*)(參考：桂田重利「ウオルター・ペイターの印象批評への一つの反省」外事論叢2(1),1948年。)
(*)(參考：大和資雄『英米文学名作概観』研究社,1948年。)
(*)(參考：厨川文夫『英語発達史』(2分冊),慶應通信教育図書,1948年。)
(*)(參考：Andersen/大畑末吉訳『我が生ひ立ちの記』大学書林,1948年。)
(*)(參考：高沖陽造『欧洲文藝思潮史：ダンテよりジイドまで』北斗書院,1948年。)
(*)(參考：長壽吉等編『文藝論攷：小牧健夫博士還暦記念論文集』生活社,1948年。)
-----吹田順助「ゲーテの歴史哲学」
小牧健夫「ヘルデルリーンの作品における自然形象」
國松孝二「ニーチェと古典文獻學」
「小牧健夫博士著作目録」
「小牧健夫博士の略歴」
(*)(參考：片山敏彦「ゲーテと文化精神」季刊ゲーテ1,1948年。)
(*)(參考：高坂正顕「ゲーテとカント」季刊ゲーテ2,1948年。)
(*)(參考：新関良三「木村教授を悼む」季刊ゲーテ2,1948年。)
(*)(參考：木村彰一「ソ連邦のゲーテ文献」季刊ゲーテ2,1948年。)

(*)(参考 : 齋藤栄治「ライプツィヒ時代前後のゲーテ—詩と真実・第2部」季刊ゲーテ2,1948年。)
(*)(参考 : 小牧健夫「パンドラーの再来--「老年期のゲーテ」の一節」季刊ゲーテ2,1948年。)
(*)(参考 : 小城正雄「竹柏園先生記念号—ゲーテ伝を読みつつ」心の花52(9),1948年。)
(*)(参考 : 高安国世「ゲーテと肉体」世界文学26,1948年。)
(*)(参考 : 谷川徹三訳『ゲーテ藝術論集』再版, 福村書店,1948年。)
(*)(参考 : ベラーマン/野島正城訳『シラー伝(上下)』再版, 富士出版,1948年。
(*)(参考 : 國松孝二「ニーチェにおける運命への目覚め」(九州文学会)文学研究3月号,1948年。)
(*)(参考 : 高橋健二『ゲーテ』生ける思想叢書,新潮社,1948年。)
(*)(参考 : 秋山英夫『ゲーテとニーチェ』大東出版社,1948年。)
(*)(参考 : レッシング/櫻井和市譯『ラオコオン』生活社,1948年。)
(*)(参考 : 秋山英夫『ディオニュソスと超人 : ニーチェ研究序説』理想社,理想叢書,1948年(→1950年,改題『ニーチェ論 : ディオニュソスと超人』)
(*)(参考 : 氷上英廣『ニーチェの問題』創元社,1948年。)
(*)(参考 : 永野藤太「リルケのオルフォイス」望楼?,1948年。)
(*)(参考 : 野尻抱影『星の神話・傳説』再版,白鳥社,1948年(←昭8年,舊著「星座傳說」)。
(*)(参考 : 藪内清『近世天文学史』恒星社厚生閣,)再版,1948年。)
(*)(参考 : 加茂儀一『技術發達史』東洋書館,1948年。)
(*)(参考 : 日本數學會編『數學文獻抄』アカデメイア・プレス,1948年。)
(*)(参考 : 小倉金之助『数学史研究』岩波書店,1948年。)
(*)(参考 : 三田博雄『古代數學史』日本科学社,1948年。)
(*)(参考 : 三田博雄『數學史方法論 : 數學の哲學のために』三一書房,1948年。
(*)(参考 : 三田博雄「初期農業社会と科学のはじまり--「エルガ・カイ・ヘメライ」と「夏小正」その他の比較科学史的考察」唯物論研究3,1948年。)
(*)(参考 : ティングル/平田寛譯『科學と空想—附・ベルファースト講演』創元科學叢書, 創元社,1948年。)
(*)(参考 : 矢島祐利『科学史と科学』,1948年。)
(*)(参考 : 平原北堂『西洋古代科学史』人生道場, 1948年。)
(*)(参考 : 今野武雄著・民衆學術協會編『科学思想史』プレプス文庫1,プレブス社,1948年。)
(*)(参考 : 山田坂仁『唯物史観科学思想史』新興出版社,1948年。)
(*)(参考 : 森島恒雄『科学精神の歩み』自文堂新書, 自文堂,1948年。)
(*)(参考 : 原種行『新しい科學史---科學の發達と社會の進歩』青雲書院,1948年。)
(*)(参考 : 岡邦雄『自然科学史(1-7)』白揚社,1948年。)
(*)(参考 : 岡邦雄『大科學者傳—コペルニクス,プラーエ,ガリレオ,ケプラー,ニュートン : 生涯と學説』文理書院,1948年。)
(*)(参考 : 永井潜『自然科学史---回顧・景仰・翹望』春秋選書, 春秋社,1948年。)
(*)(参考 : 森本彌三八『自然科學史講話』出來島書店,1948年。)
(*)(参考 : 松本厚『アリストテレスの自然哲学』教養文庫152,弘文堂書房,1948年。)
(*)(参考 : レオナルド・ダ・ヴィンチ/黒田正利譯『ダ・ヴィンチ隨想錄』(養徳社,1948年。)
(*)(参考 : ランスロット・ホグベン/今野武雄・石村幸四郎譯『市民の科學』(第4巻),1948年。)
(*)森銑三『近世日本の科学者達』(新訂。おらんだ正月)青雲書院,1948年(→1958年,角川文庫

版。→1962年,「世界の人間像8」,角川書店。→1970年,「世界教養全集17」,平凡社。→1973年,森銑三著作集5,中央公論社。→1978年,冨山房百科文庫版)。
(*)(參考：吉岡修一郎・井上忠『日本科學史夜話』大八洲出版,1948年。)
(*)三枝博音「そのやり方が科學的でないことを日本の「科學史」の中に見る試み」(科學古典5,日本科學古典全書14・附錄)朝日新聞社,1948年。
(*)湯淺明『日本植物學史』研究社,1948年。
(*)(參考：加藤信一『醫學・歯學生用ラテン語・ギリシャ語教本』杏林書院,1948年(→昭24,吐鳳堂版)。)
(*)(參考：森信胤『かくては醫學派生まれた：醫學史の或る断面』愛育社文化叢書13,愛育社,1948年。)
(*)(參考：織田幹雄『オリンピック物語』朝日新聞社,1948年(→1952年,改訂版)。)
(*)(參考：青木喬『オリンピック物語』學友文庫,海住書店,1948年。)
(*)(參考：水谷正吉「アテネのオリンピア」美術手帖1(10),1948年。)
(*)(參考：讀賣スポーツ編集部編『オリンピック讀本』讀賣新聞社,1948年。)
(*)(參考：井之智勇『ローマ経済史の研究』京都大学,文学博士[報告番号不明],1948年。)
(*)(參考：川村仁也「海外新刊紹介 カッシラア「國家と神話」」書評3(5),1948年。)
(*)(參考：田中美知太郎『政治的関心』思索社,1948年。)
(*)(參考：大岩誠『政治思想發達史』三元社,1948年。)
(*)(參考：モンテスキュー/大岩誠譯『ペルシア人の手紙』齋藤書店,1948年。)
(*)(參考：今中次麿『西洋政治思想史』(第1巻),朝日新聞社,1948年。)
(*)(參考：平井新『近代社会思想史』慶友社,1948年。)
(*)小松清「イソップ寓話の眼—私の政治読本」文藝首都11月號,1948年。
(*)(參考：プラトン著/青木巌訳『理想國(上)』哲学古典叢書,思索社,1948年。)
(*)(參考：井上智勇『プラトンの國家論』再版,教養文庫107,弘文堂書房,1948年。)
(*)(參考：原随園「アリストテレスの理想国家論について」史林32(1),1948年。)
(*)(參考：平塚博「ダンテのイタリヤ復興思想」史學23(1),1948年。)
(*)(參考：トマス・モア/平井正穂訳『ユートウピア』再版,英米名著叢書,新月堂,1948年。)
(*)(參考：田中美知太郎「自由と独立」世界40,1948年。)
(*)(參考：田中美知太郎「時代と立場の相違を超えて」人間4(10),1948年。)
(*)(參考：渡邊格司「ゲーテの理想社会」自由文芸3(7),1948年。)
(*)學生書房編集部編『闘うヒューマニスト：近代日本の革命的人間像』(石川三四郎等)學生書房,1948年。
(*)(參考：比較法制史研究會編「イェーリング著「ローマ法の精神」第2巻邦訳(3)」季刊法律学5,1948年。)
(*)(參考：田中周友「古代に於ける國際條約の素描—特にローマ側に重点をおいて」法律文化3(9),1948年。)
(*)(參考:田中周友「古代における奴隷と勞働—特にギリシャに見る」法律文化3(10~12),1948年。)

(*)(參考:高橋義孝「マルクスの古典論をめぐって—古典の形式的諸規定」個性2(5・6),1949年。)

(*)(参考：ラ・メトリ原著/青木雄造・杉捷夫譯『ラ・メトリ著作集(上)』(エピクロス)實業之日本社,1949年。)
(*)小笠原孝次「黙示録と古事記」宗教公論19(9),1949年。)
(*)(参考：岩村忍『西洋と東洋』社会科文庫E7,三省堂出版,1949年(→1955年,三省堂百科シリーズ2)。)
(*)(参考：村田数之亮『エーゲ文明の研究』弘文堂,1949年。)
(*)竹山道雄『希臘にて』早川書房,昭和24年。
(*)竹山道雄「私の文化遍歴」文芸往来3(8),1949年。
(*)(参考：秋田八郎「世界文明展望(1-3)」スケッチ4(3,4,5),1949年。)
(*)(参考：イリン/八住利雄訳『人間の歴史：古代文明物語(3巻)』イリン選集1,7,8,岩崎書店,1949年。)
(*)(参考：ゲーテ/竹山道雄訳『羅馬哀歌・ゲーテ詩集』角川書店,1949年。)
(*)(参考：渡辺格司著『ゲーテ羅馬悲歌』大日本雄弁会講談社,1949年。)
(*)(参考：桜井国隆「ゲーテの「ヴェネツィア短詩」」知と行4(12),1949年。)
(*)前田護郎「オスロのこども(1,2)」開拓者43(7,8),1949年。
(*)(参考：小林政吉「Strum und Drungの自己超克—青年ヘルダー」文化1(3),1949年。)
(*)(参考：モンテーニュ/関根秀雄訳『モンテーニュ旅日記』白水社,1949年。)
(*)(参考：モンテェニュ/串田孫一訳『モンテェニュ旅日記(第1)』白日書院,1949年。)
(*)(参考：モンテェニュ/串田孫一訳『モンテェニュ旅日記(第1,2)』十字屋書店,1949年。)
(*)(参考：串田孫一「私生児の都ローマ—モンテーニュの「旅の日記」」塔1(3),1949年。)
(*)(参考：フランコ・サケッティ/杉浦明平訳『フィレンツェの人々(上下)』世界古典文庫59,60,1949年。)
(*)野上素一「イタリアの浮浪児」世界人1(9),1949年。
(*)樋口勝彦『ローマ風俗考・諸記事・朗読』日吉叢書2,慶應出版社,1949年。
(*)(参考：オウィディウス著/樋口勝彦譯『戀愛術』思索選書106,思索社,1949年。)
(*)小松清「自由なる射手—イタリア紀行」評論37,1949年。
(*)(参考：メリメ/杉捷夫訳『エトルリアの壺』青磁社,1949年。)
(*)内村直也「小泉信三著『読書雑記』」三田文學[第2期]24(4),1949年。
(*)(参考:マーク・トウェイン/濱田政二郎譯『赤毛布外遊記(上下)』英米名著叢書,新月社,1949年(→1951年,上中下,岩波文庫)。
(*)(参考：大内兵衛・向坂逸郎・有沢広己「ニューヨーク・ロンドン・ベルリン・ローマ(座談会)」世界週報30(42),1949年。)
(*)(参考：野上素一「イタリア人とアメリカ人」アメリカ研究4(6),1949年。)
(*)(参考：野上素一「懐かしい仲間[ローマ大学]—世界の大学」塔1(7),1949年。)
(*)(参考：西臺美智雄「ヘレニズムとヘブライズム」天理大学学報1(2・3),1949年。)
(*)(参考:マレー,ギルバート/上田基訳「ヨーロッパ文明の世界史的意義」雄鶏通信5(3),1949年。)
(*)(参考：アーノルド・トインビー/蝋山政道・阿部行藏譯『歴史の研究(1-3巻)』社會思想研究會出版部,1949年(→1952年)。)
(*)(参考：最所フミ「A.J.トインビーの「文明の再吟味」」書評483),1949年。)
(*)(参考：阿部行蔵「イギリス人と歴史観—アーノルド・トインビー」あるびよん1(1),1949年。)

(*)田中美知太郎「現代文明にとって‘人間’とは」(JMS財団法人日本マネジメントスクール)エグゼクティブ・ゼミナール14,1949年。
(*)田崎仁義「其の頃の三浦新七博士と私」一橋論叢22(1),1949年。
(*)増淵龍夫「三浦新七先生年譜」一橋論叢22(1),1949年。
(*)村松恒一郎「三浦新七先生とカール・ランプレヒト」一橋論叢22(1),1949年。
(*)(參考：吉川真治「ショトラックの発掘—ギリシヤ仏教美術の一新遺跡」仏教芸術5,1949年。)
(*)関根文之助『ヘボン博士 日本文明の父』香柏書房,1949年。
(*)佐伯好郎「西教東漸の跡を顧みて」史学研究39,1949年。
(*)上野直昭「法隆寺の柱」(エンタシス)佛教藝術4,1949年。
(*)上野直昭『日本美術史・上代篇』(エンタシス)河出書房,1949年。
(*)村田治郎『法隆寺の研究史』(エンタシス)毎日新聞社,1949年。
(*)沢柳大五郎「悼法隆寺金堂壁画」建築文化28,1949年。
(*)矢代幸雄「法隆寺壁画を弔う」人間4(4),1949年。
(*)河北倫明「フェノロサと岡倉天心」国文学解釈と鑑賞14(11),1949年。
(*)木村毅「サビエルと日本」女性改造4(7),1949年。
(*)新村出「サヴィエルと日本」(座談会)毎日新聞3/27,1949年。
(*)新村出「ザビエルの渡来と西洋文化」(講演要旨) ザビエルの渡来と西洋文化(5月),1949年。)
(*)新村出「聖ザベリヨ景仰記」ニューエイジ6月号,1949年。)
(*)新村出「日西文化の交流」(講演要旨)[筆録原稿],1949年。
(*)(參考：和辻哲郎「日本におけるシャビエル」展望43,1949年。)
(*)(參考：和辻哲郎「シャビエル渡来後の十年間(2,3)」展望45,46,1949年。)
(*)木村俊夫「和辻哲郎博士の業績—時代区分を試みつつ」心2(12),1949年//3(2),1950年。
(*)(參考：海老澤有道「ヴァリニアーノと日欧文化交渉」塔1(6),1949年。)
(*)石田幹之助「切支丹文化の発展」女性線4(6),1949年。
(*)沼田次郎「蘭学から英学へ—幕末洋学史の一節(上下)」日本歴史14,15,1949年。
(*)(參考：弘文堂編集部編『西歐美術圖譜』弘文堂,1949年。)
(*)(參考：今泉篤男「西洋美術略史(6,7)ギリシヤ美術(上下)」美術手帖2(3,4),1949年。)
(*)(參考：今泉篤男「西洋美術略史(8)エトルスク及びローマ美術」美術手帖18,1949年。)
(*)(參考：今泉篤男「西洋美術略史(9)中世の美術(上)/初期キリスト教美術及びビザンチン美術」美術手帖19,1949年。)
(*)(參考：矢代幸雄「大英博物館」あるびよん1(1),1949年。)
(*)(參考：兒島喜久雄『塡空隨筆』全国書房,1949年。)
(*)(參考：弘文堂編集部編『西歐美術圖譜』弘文堂,1949年。)
(*)富永惣一「ブルクハルト著,嘉門安雄訳「チチエローネ」」書評4(3),1949年。)
(*)(參考：『少年百科3』(「エーゲ海藝術」)日米出版社,1949年。)
(*)(參考：村田數之亮『エーゲ文明の研究』弘文堂,1949年。)
(*)(參考：齋藤勇編『研究社文學辭典』研究社出版,8版,1949年。)
(*)(參考：東京大学新聞研究會編『世界新語辭典：附 外國人名辭典』東京堂,1949年(→1955年)。)
(*)(參考：神田盾夫「『新約聖書神学辞典』への寄稿」(小塩力編)新教出版社,1949年。)

(*)(参考：守随憲治他編『日本文学辞典』上巻1,2,蒼明社,1949年。)
(*)(参考：福原麟太郎「英語辞書の話」(市河三喜主幹)新英語教育講座6,1949年。)
(*)(参考：高津春繁「アルカディア出土碑文の性質」(西洋古典学会)西洋古典論集1月號,1949年。)
(*)(参考：弓削達「ヘレニズム期アレキサンドリアにおける文献考證學の性格について：基督教歴史学成立史の一部(その序)」青山經濟論集1(1),1949年。)
(*)(参考：兼岩正夫「中世におけるギリシャ語及びラテン語の問題」史林11月号,1949年。)
(*)(参考：奥野拓哉「アレッサンドロ・マンゾーニとイタリア語の統一」(東京外国語大学)言語11月号,1949年。)
(*)(参考：泉井久之助「西洋典籍典史考」ビブリア・天理図書館報1,1949年。)
(*)(参考：壽岳文章『書物の世界』朝日新聞社,1949年。)
(*)泉井久之助「翻訳論その他」時論4(3),1949年。
(*)(参考：泉井久之助『古典と現代』甲文社出版部,1949年。)
(*)(参考：泉井久之助『比較言語學研究』創元社,1949年。)
(*)(参考：デル・コール著『ラテン語4ケ年』ドン・ボスコ,1949年。
(*)(参考：W・フンボルト/小口優訳『或る女友達への書簡(3巻)』春秋社思想選書,春秋社,1949年。)
(*)(参考：レッシング著/西村貞二譯『人類の教育』創元社,1949年。)
(*)呉茂一「冽泉記」表現2(7),1949年。
(*)呉茂一「読書への関心」ニューエイジ1(3),1949年。
(*)人文科学委員会編『日本の人文科学：回顧と展望』印刷庁,1949年。
-----服部四郎「言語学」
呉茂一「西洋古典学」
野上素一「イタリア語・イタリア文学」
林健太郎「西洋史」
江上波夫「考古学」
松本正夫「哲学」
金子武蔵「倫理学」
村田良作「美学・美術史」
久保正幡「西洋法制史」
堀豊彦「政治学史」
増田四郎「西洋社会経済史」甸
(*)(参考：西洋古典学会編『西洋古典論集』創元社,1949年。)
---- 高津春繁「アルカディア出土碑文の性質」
泉井久之助「蛙鼠戦役」
原随園「ピンダロスの政治思想」
松平千秋「若き日のアリストパネース」
神田盾夫「古典としての新約聖書」
井上智勇「ヨハネ黙示録とその歴史的背景」
高田武四郎「倫理学者としてのアルベルツス・マグヌス」
長澤信壽「聖アウグスティーヌスにおける哲學の概念」
村田数之亮「ギリシヤ・アルカイック」

泉井久之助「跋」
(*)(參考：村川堅太郎編『ギリシア研究入門』北隆館,1949年。)
----- 村川堅太郎「歴史」
松村武雄「宗教」
田中美知太郎「思想」
田中秀央「言語」
高津春繁「文學」
村田數之亮「考古學」
村田潔「美術」
佐々木理「神話」
平田寛「科學と技術」
栗野頼之祐「碑文」
神田盾夫「パピルス學」
三浦一郎「日常生活」
(*)呉茂一「我國における西洋古典學の現状と將來」人文7月号1949年。
(*)呉茂一「西洋古典學」人文科学委員会編「人文」特集號「日本の人文科學—回顧と展望」所収,1949年。)
(*)(參考：呉茂一『ラテン文法綱要 文法篇・演習篇』改訂版,要書房,1949年。)
(*)(參考：小田實「マルコ伝におけるImperfect Tense」(基督教研究会)基督教研究23(2),1949年。)
(*)土屋政朗『村上英俊先生之傳』,1949年。(←1891年,佛學舍)
(*)(參考：斎藤忍随・竹田厚太朗編「外国哲学雑誌要覧(3)アメリカ(1943-46年)」哲學雜誌64(702),1949年。
(*)村松武雄『神話學者の手記』培風館,昭和24年。
(*)中西貞雄「村松武雄著『神話學者の手記』昭和24年,培風館,」民族學研究14(1),1949年。。
(*)(參考：松村武雄「世界の神話と伝説」国文学 解釈と鑑賞14(12),1949年。)
(*)(參考：松村武雄『ひとつめの巨人：ギリシャ神話』アテネ出版社,1949年。）
(*)(參考：松村武雄『希臘の宗教』再版,1949年。)
(*)(參考：楠山正雄編『アポロンの竪琴：ギリシァ・ローマ神話集』世界おとぎ文庫1, 小峰書店,1949年。）
(*)(參考：田中秀央『ギリシァ神話』大阪書籍,1949年。）
(*)(參考：佐々木理『神話』中央公論社,1949年。)
(*)野平健一「太宰治と田中英光」新潮46(12),1949年。
(*)(參考：宮城音弥「神話について—カツシーラーの神話及び宗教論(人間についてのエッセイ)」思想の科学4(2),1949年。)
(*)(參考：宮城音弥「宗教について—カツシーラー「人間論」の1断章」思想の科学4(3),1949年。)
(*)(參考：長澤信壽他『特集 ギリシァの精神』季刊・教養1,アテナ書院,1949年。)
----- 長澤信壽「プラトーンの哲學」
鳥海一郎「ギリシァの藝術論」
矢羽眞弓「危機の藝術・パルテノン」
竹友藻風「ギリシァ詞花集」

瀧川幸辰「イタリアのギリシァ見學」
(*)(參考：寺田博「エロスの神とアガペーの神―神の国についての一断片」基督教文化33,1949年。)
(*)(參考：大畠清「後期ユダヤ教とヘレニズムとの関係」宗教研究122,1949年。)
(*)(參考：野々村戒三「キリスト教とロマ帝国との交渉」史観32,1949年。)
(*)出隆・野間宏「革命の芸術(対談)」芸術24,1949年。)
(*)出隆・熊野義孝「[宗教と哲学について]対調[対談]」基督教文化35,1949年。
(*)(參考：中川秀恭「基督教的時間意識」哲学季刊4(1),1949年。
(*)(參考：関根正雄『舊約聖書：その歴史・文學・思想』創元選書176,創元社,1949年。)
(*)(參考：関根正雄『舊約聖書』創元選書176,東京創元社,1949年。)
(*)(參考：塚本虎二『聖書の読み方』聖書知識文34,聖書知識社,1949年。)
(*)(參考：塚本虎二『放蕩息子とその父』聖書知識文庫4,聖書知識社,1949年。)
(*)(參考：塚本虎二『ヘブル書講義』聖書知識文庫5,聖書知識社,1949年。
(*)(參考：藤井武『イエス傳研究』岩波書店,1949年。)
(*)(參考：上澤謙二『ルカ傳』やさしい聖書・口語訳, 警醒社書店,1949年。）
(*)(參考：上澤謙二『ヨハネ傳』やさしい聖書・口語訳, 警醒社書店, 1949年。）
(*)(參考：井上智勇「ヨハネ黙示録とその歴史的背景」(西洋古典学会)西洋古典学論集1月号,1949年。)
(*)(參考：山岸外史『人間キリスト記---或ひは神に欺かれた男』書肆ユリイカ,1949年(←昭13,昭16版)。)
(*)(參考：波多野精一『原始キリスト教』岩波全書111, 岩波書店,1949年。）
(*)(參考：今田惠・二宮源平『キリスト教入門』基督教教育同盟會, 創元社, 1949年。）
(*)(參考：石島三郎『マルコ傳』聖書研究會, 1949年。）
(*)(參考：内村鑑三『羅馬書の研究』(上中)創元選書,創元社,1949年。)
(*)(參考：松本卓夫『新約文學概論』大水社,1949年。)
(*)(參考：パピーニ著/五十嵐仁訳『聖アウグスチヌス』中央出版社,1948年。）
(*)基督教教育同盟会編『キリスト教文学読本3』所収,内外文化社,1949年。
---- 「キリストにならいて」・「クォーヴァディス物語」
(*)基督教教育同盟会編『キリスト教文学読本6』所収,内外文化社,1949年。
---- 村松克己「アウグスチヌスの『告白』について」
塚本虎二「イエスは如何なる言語を用いたもうたか」
海老沢有道「キリシタン文学について」
(*)(參考：鈴木大拙他編『宗教史篇』宗教体系5,大東出版社,1949年。)
---- 関根正雄「キリスト教史 旧約」
後藤真「初代基督教史」
福田正俊「中世以後の基督教」
海老澤有道「キリスト教文化史」
(*)木村毅『切支丹文学の珍種を拾うて』キリシタン文化研究会編2,キリスト教伝来百年記念,白鯨社,1949年。
(*)パウコ・ヴィセンテ訳/高羽五郎編・翻刻『サントスの御作業』(全6冊)國語學資料2,高羽五郎,1949年。)
(*)「島津久基博士略年譜・講義題目・著作目録」国語と国文学26(6),1949年。

(*)松沢智里「幸若舞曲「所知入」の考察と幸若伝説の矛盾」東京学芸大学研究報告1,1949年。
(*)久保勉「日本文化の父ラファエル・ケーベル先生」伝記38(2),1949年。
(*)久保勉「ケーベル先生の25周忌に際して(5-10)」心2(2-6,9),1949年。
(*)『波多野精一全集・第3』(「ケーベル先生追憶」「プロティノスとカント」)岩波書店,1949年(→1969年,『波多野精一全集・第5』)。
(*)落合京太郎「岩元禎先生」アララギ42(4),1949年。
(*)天野貞祐「姉崎[嘲風]博士のことなど」改造文藝9月號,1949年。)
(*)増田良二「明治・大正カトリック著述家筆名考」望楼4(3),1949年。
(*)大池唯雄「東海散士—東北の著名作家」東北文学4(6),1949年。
(*)小名木滋「土井晩翠—東北の著名作家」東北文学4(6),1949年。
(*)安田保雄「上田敏と近代南蛮文学」国語と国文学26(5),1949年。
(*)安田保雄『上田敏研究文献稿』安田保雄,1949年。
(*)安田保雄「上田敏評傳」學苑3月号,1949年。)
(*)中野好夫「土井晩翠」望郷6,1948年。
(*)新関良三「木村[謹二]教授を悼む」季刊・ゲーテ2,1948年。
(*)「故加藤咄堂翁年譜」大乗禅26(6),1949年。
(*)下村寅太郎「東洋哲学・日本」(『哲学研究入門』所収)小石川書房,1949年。)
(*)唐木順三『現代史への試み』筑摩書房,1949年。
(*)(參考：学生書房編集部編『学生の頃：決定版』学生書房,1949年。)
(*)(參考：出隆『哲学以前』小山文庫5,小山書店,1949年。)
(*)(參考：出隆『變革の哲學』彰考書院,1949年。)
(*)(參考：出隆『哲学と政治』東大協同組合出版部,1949年。)
(*)(參考：勞農救援會篇『自由の旗の下に：私はなぜ共産党員になったか』(出隆)三一書房,1949年。)
(*)(參考：河合栄次郎編『学生と読書』(出隆)日本評論社,1949年。)
(*)(參考：高桑純夫『世界観の探求』河出書房,1949年。)
(*)(參考：下村寅太郎・淡野安太郎編『哲学研究入門』小石川書房,1949年。)
(*)出隆・山崎謙「人生と哲学(対談)」民主評論5(4),1949年。)
(*)出隆「現実と知識人」知識人2(4),1949年。
(*)出隆「唯物論者になるまで：1948.10.9明大講堂における講演」唯物論研究5,1949年。
(*)出隆・久松真一「宗教とコンミュニズム—二つの立場からの「哲学」の評価(対談)」東方10,1949年。)
(*)荒正人「論客姿態—竹山道雄と出隆」評論32,1949年。
(*)広告「大学生活/光文社(田中美知太郎)」讀賣新聞朝刊6/10,1949年。
(*)(參考：田中美知太郎「考える蘆」新潮46(11),1949年。)
(*)(參考：田中美知太郎「時代と立場の相違を超えて」人間4(10),1949年。)
(*)(參考：呉茂一「ギリシャ思潮」(新潮社)新文学講座：歴史篇,1949年。)
(*)(參考：原随園「ギリシアのヒューマニズム—叙事詩における」ユマニテ2,1949年。)
(*)(參考：青木巖「ヒューマニズムの教育」(講演速報社)講演速報3(4),1949年。)
(*)藤井義夫「我国に於ける古代哲学の現況」（読書研究会）読書倶楽部4(2),1949年。
(*)(參考：藤井義夫「古代哲学における自由と運命(講座1)」理想189,1949年。)

(*)(參考：相良徳三『美学史』玉川大学講座,玉川大学出版部,1949年。)
(*)(參考：田中王堂『西哲群像』王堂選集4,關書院,1949年。)
(*)(參考：橋本弘毅『哲学の起源：奴隷制社会の哲學』白揚社,1949年。)
(*)(參考：橋本弘毅『ソクラテス・プラトン・アリストテレス』白揚社,1949年。)
(*)(參考：出隆『西洋古代中世哲学史』角川全書2,角川書店,1949年。)
(*)(參考：プラトン/高田三郎譯『プラトンの自敍傳』アテネ文庫83, 弘文堂,1949年。)
(*)(參考：アラン/吉田秀和譯『プラトン；デカルト』(哲學入門[上])アルス,1949年。)
(*)(參考：久保勉『プラトン(国家篇)』5刷,岩波書店,1949年(←昭11年,初版)。
(*)(參考：久保勉『プラトン』(大思想文庫,岩波書店。←昭14年,初版。)
(*)(參考:プラトン/久保勉・阿部次郎訳『ソクラテスの弁明・クリトン』23版, 岩波文庫,1949年。)
(*)(參考：上原專祿「ソクラテスの死—随書随想(4)」表現2(6),1949年。)
(*)(參考：神山四郎「新プラトン的「流出説」の一問題」史学24(1),1949年。)
(*)(參考：高桑純夫等編『世界観の探究』(出隆「第3唯物史観 アリストテレスの「理論」と「現実性」」)河出書房,1949年。)
(*)(參考：神沢惣一郎「実践的三段論法—アリストテレスにもとづき」早稲田商学82,1949年。)
(*)(參考：岡野留次郎「アリストテレスの存在論の問題とその出発点」人文科学論集1,1949年。)
(*)(參考:岡野留次郎「アリストテレス存在論の基礎構造について(1,2,3)」哲學研究33-2,4,6,1949年。)
(*)(參考：安藤孝行「アリストテレスに於ける知性の構造(1-3)」哲學研究33(8,33),11,34(4),1949年。)
(*)(參考:藤井義夫「アリストテレス以前に於けるプロネーシス概念の展望」一橋論叢22(1),1949年。)
(*)(參考：山内得立「アリストテレスの理論」理想195,1949年。)
(*)(參考：高田三郎「アリストテレス「メタフィジカ」--古典解説」哲學評論4(5),1949年。)
(*)(參考:加川航三郎「アリストテレスに於ける人間像について」和歌山大学学芸学部学芸研究・人文科学1,1949年。)
(*)(參考:アリストテレス/高田三郎譯『倫理學』改版, アリストテレス全集13,河出書房, 1949年。)
(*)(參考：アリストテレス原著/安藤孝行譯『範疇論・命題論』増進堂,1949年。)
(*)(參考：エピクテートス/佐久間政一譯『人生語録』改訂版, 文修堂,1949年。)
(*)(參考：エピクテェトス/原納一富譯『精神の自由について』(養徳叢書・外国篇1033)養徳社,1949年。)
(*)(參考:アウレリウス/神谷美恵子譯『自省録 附・ケベスの絵馬』哲學叢書35,創元社,1949年（→昭31年,岩波文庫)。)
(*)(參考：セネカ/泉井久之助譯「閑暇について」手帖5,1949年。)
(*)(參考：由木康編『基督者の自由：基督教の五つの古典』国民教育社,1949年。)
(*)(參考：由木康・羽鳥明/基督教教育同盟會編『キリスト教入門(下)』創元社,1949年。)
(*)(參考：大畠清「後期ユダヤ教とヘレニズムとの關係」宗教研究122,1949年。)
(*)(參考：三谷隆正『アウグスチヌス』2改訂版,三省堂,1949年。)

(*)(参考：ジョヴァンニ・パピーニ/五十嵐仁訳『聖アウグスチヌス』中央出版社,1949年。)
(*)(参考：富沢孝彦『聖アウグスティーヌスの回心』[京都]大翠書院,1949年。)
(*)(参考：アウグスチヌス/高桑純夫譯『ソリロキア---淨福の生』筑摩書房,1949年。)
(*)(参考：アウグステイヌス/斯波義慧訳『幸福なる生活』思想選書, 春秋社,1949年。)
(*)(参考：聖アウグスチヌス/野村良雄訳『人倫と愛—ヨハネ第壱書の解釈』3版,エンデルレ書店,1949年。)
(*)(参考：服部英次郎「アウグスティヌスの「神の國」とその背景」哲學評論4(6),1949年。)
(*)長澤信壽「西田[幾多郎]先生と聖アウグスティヌース」知と行4(12),1949年。
(*)(参考：ボエティウス/小林珍雄譯『哲學の慰め』春秋社思想選書,春秋社,1949年。)
(*)(参考：高田武四郎「ボエティウス・デ・ダチアの最高善論又は哲学者の生活邦訳(資料)」同志社論叢91,1949年。)
(*)(参考：松本正夫「中世哲學の移植と發展」(太田朝男編『別册・哲學評論』)民友社,1949年。)
(*)今泉三良「近代以前への反省--わが国における中世哲学研究の状況」哲学評論4(2),1949年。
(*)(参考：佐藤繁彦『ロマ書講解に現れたるルッターの根本思想』(波多野精一序文)創元社,1949年。)
(*)(参考：矢崎美盛『啓蒙思潮の歴史的体系的研究』九州大学,文学博士[報告番号不明],1949年。)
(*)(参考：岩崎勉『ヘーゲル哲學解説』冬書房,1949年。)
(*)(参考：吉滿義彦『近世哲學史研究』みすず書房,1949年。)
(*)(参考：下村寅太郎・淡野安太郎『哲學研究入門』小石川書房,1949年。)
(*)(参考：下村寅太郎『精神史の一隅』弘文堂,1949年。)
(*)(参考：天野貞祐『天野貞祐著作集IV』細川書店,1949年。)
(*)安倍能成「若き日の読書」改造文芸1(6),1949年。
(*)鈴木成高「伝統とインテリゲンチア」展望48,1949年。
(*)(参考：鎌倉文庫編『近代精神』人間選書5,鎌倉文庫,1949年。)
----西谷啓治「近代精神の基盤」
鈴木成高「文芸復興とヒューマニズム」
大山定一「ゲーテの近代的性格」
氷上英広「ニーチェと近代精神」
(*)(参考：シュテファン・ツワイク/高橋禎二訳『エラスムスの悲劇と勝利』青磁社,1949年。)
(*)(参考：野田又夫「唯物論と二元論—ガッサンディとデカルト」時論4(5),1949年。)
(*)(参考：ヴォルテール/石川湧譯『狂信の墓—キリスト教の歴史的檢討』近代思想選書,彰考書院,1949年（→1950年,訂,彰考選書)。
(*)(参考：ハインリッヒ・ハイネ/高安国世訳『ドイツの宗教と哲学の歴史』アテナ書院1949年。)
(*)(参考：森昭「カントの大学論—大学論のコペルニクス的転回」哲学季刊4(1),1949年。)
(*)(参考：赤木健介『世界文学史』労働教育協会,1949年。)
(*)(参考：鈴木善太郎『世界文学史』講談社,1949年。)
(*)(参考：山室静『何を読むべきか：世界文学』新潮社,1949年。)
(*)(参考：創元社編輯部編『世界文学入門』創元社,1949年(→1953年,改訂新版)。)

(*)(参考：澤壽郎編『世界の文學：學生別册』研究社,1949年。)
(*)厨川文夫「西脇順三郎著,「古代文學序説」」好學社,昭和23年（批評紹介）」英文学研究26(2),1949年。
(*)(参考：呉茂一『ギリシア・ローマ文學襍攷』思索社,1949年。)
(*)(参考：高津春繁『古代ギリシア文學史・上巻』要書房,1949年。)
(*)(参考：ホメロス/田中秀央・越智文雄訳『イーリアス(上下)』全国書房,1949年。)
(*)(参考：ホメーロス/土井晩翠譯『イーリアス』世界文學選集19,三笠書房,1949年。)
(*)(参考:チャールス・ラム/神吉三郎訳『ユリシーズの冒険』少年世界文学,新月社,1949年。)
(*)(参考:泉井久之助「傳ホメーロス作『蛙鼠戰役』」(西洋古典学会)西洋古典論集1月號,1949年。)
(*)(参考：アリストテレス/阿部保譯『詩学』碓氷書房,1949年。)
(*)(参考：松浦嘉一訳『アリストテレス「詩學」〔袖珍版〕』岩波文庫,1949年。)
(*)(参考：呉茂一「アリストテレスの詩論」詩学4(7),1949年。)
(*)(参考:エウリーピデース/田中秀央・内山敬二郎訳『希臘悲壯劇 1』世界文学社,1949年。)
(*)(参考：アリストパネース/高津春繁譯『雲』生活社,1949年。)
(*)(参考：呉茂一・木原軍治『ギリシア抒情詩集』思索選書33,思索社,1949年。)
(*)(参考:ウェルギリウス/田中秀央・木村満三訳『アエネーイス(上下)』岩波文庫,1949年。)
(*)(参考：オヴィディウス/樋口勝彦訳『恋愛術』思索社,1949年。)
(*)(参考：水口伸ニ「スフィンクスの笑ふ—リアリズムとロマンティシズムの混乱」復活2(1),1949年。)
(*)(参考：新関良三「ギリシャ劇からローマ劇へ—古代劇における近代的精神の初期胎動」心2(2,3),1949年。)
(*)永野藤夫「演劇審査委員小論—ギリシヤ悲劇の審判について」テアトロ11(8),1949年。)
(*)(参考：矢内原伊作「実存主義と演劇--「アンティゴオヌ」について」劇作27,1949年。)
(*)(参考：樋口勝彦「ラテン文学のディプライト(1,2)」三田文学[第2期]24(4,9),1949年。)
(*)Kawakubo Kō tuduru ; Tozawa Tatuo egaku “Isoppu monogatari”日本ローマ字會出版部,1949年。
(*)五島謹一『イソップ名画集』小峰書房,1949年。
(*)大野道雄『イソップものがたり』中央出版社,1949年。
(*)楠山正雄文；武井武雄画『イソップものがたり』光文社,1949年。
(*)楠山正雄譯『イソップ物語』冨山房,1949年。
(*)アイソホス原作/楠山正雄編『ししの王国 イソップ物語篇』世界おとぎ文庫5,小峰書店,1949年。
(*)林秀芽『イソップ物語』七星社,1949年。
(*)(参考：上田勤「イソップ物語の成立と流転」国文学解釈と鑑賞14(9),1949年。)
(*)(参考：ラ・フォンテーヌ/澤木譲次訳『風流譚(1)』河出書房,1949年。)
(*)(参考：加茂儀一『ルネサンスとヒューマニズム』日本評論社,1949年。)
(*)水田洋「加茂儀一著「ルネサンスとヒューマニズム」」(民主主義科学者協会)理論3(10),1949年。
(*)(参考：山本正喜「ユートピアの文学について」水月4月号,1949年。)
(*)(参考:渡辺一夫「ルネッサンス異端精神ノート」(『教養についてなど』所収)白水社,1949年。)

(*)(参考：黒田正利『ダンテ神曲』5刷,岩波書店,1949年。)
(*)(参考：黒田正利『Dante(ダンテ)の詩に関するManifesto(マニフェスト)』京都大学 文学博士[報告番号不明],1949年。)
(*)(参考:ダンテ/中山昌樹訳『神曲—煉獄篇・天國篇・地獄篇』風間書房,1949年(→1951年)。)
(*)(参考:ギュタヴ・ドレエ筆/中山昌樹編『ダンテ神曲畫集』(圖版68枚),野口書店,1949年(←昭1,初版)。)
(*)(参考：ダンテ/竹友藻風訳『神曲：天堂篇』創元社,1949年(→1950年)。)
(*)(参考：パピーニ/宮崎信彦訳『生けるダンテ』日本書院,1949年。)
(*)(参考：竹友藻風「ダンテ其の他」ビブリア：天理図書館報1,1949年。)
(*)(参考:マシュー・アーノルド/玉木意志太郎訳「ダンテとベアトリーチェ」詩風土36,1949年。)
(*)(参考：鈴木幸夫『イギリス文学主潮』青山書院,1949年。)
(*)(参考：小林正『シェイクスピア研究』出版者不明,1949年。)
(*)(参考：福原麟太郎「Julius Caeser」英語青年95(4),1949年。)
(*)(参考:シェクスピア/澤村寅二郎訳『ヂュリアス・シーザー—対訳』6版, 研究社出版,1949年。)
(*)(参考:シェイクスピア/村岡勇譯『トロイラスとクレシダ』岩波文庫,岩波書店,1949年。)
(*)(参考：本多顕彰『シェイクスピヤ研究』弘文選書,弘文堂,1949年。)
(*)(参考：中野好夫他著『シェイクスピア研究』新月社,1949年。)
(*)(参考：中西信太郎『シェイクスピア批評史研究』シェイクスピア研究叢書,創元社,1949年。)
(*)(参考：齋藤勇『シェイクスピア研究』研究社出版,1949年。)
(*)(参考：徳富猪一郎『世界の二大詩人』(ミルトン)宝雲舎,1949年。)
(*)(参考：ドレイ画/帆足理一郎編『ミルトン失楽園画集』野口書店,1949年。)
(*)(参考：ミルトン/藤井武訳『楽園喪失(上中下)』岩波文庫,1949年(→1950年)。)
(*)(参考：中桐宣也「《リシダス》と青年ミルトンの肖像」明治学院論叢17,1949年。)
(*)(参考:朱牟田夏雄訳『幸福の追求---アビシニアの王ラセラスの物語』(附・文献リスト)思索社,1949年(→昭37,吾妻書房版)。)
(*)(参考：堀大司「ウォルター・ペイター概観」English 7月号,1949年。)
(*)(参考：ジョン・キーツ/大和資雄譯『エンディミオン』岩波文庫,岩波書店,1949年。)
(*)(参考：佐藤清『シェリー』世界文学はんどぶっく,世界評論社,1949年。)
(*)(参考：大沢衛「ハーディとローマ文人」(『市河博士還暦祝賀論文集IV』所収),1949年。)
(*)(参考：吉江喬松『フランス文學史』小山文庫17-8,小山書店,1949年。)
(*)(参考：ラブレー/権守操一訳『ガルガンチュワ物語』ともだち文庫41, 中央公論社,1949年。)
(*)(参考：ラブレー/渡辺一夫訳『ガルガンチュワとパンタグリュエル/第1之書』5版, 白水社,1949年。)
(*)(参考：ラブレー/渡辺一夫訳『ガルガンチュワとパンタグリュエル/第2之書』3版, 白水社,1949年。)
(*)(参考:ラブレー/渡辺一夫訳『ガルガンチュワとパンタグリュエル/第3之書』白水社,1949年。)
(*)(参考：渡辺一夫『ラブレー研究覺書』白水社,1949年。)

(*)(参考：加藤美雄「フランソワ・ラブレー(2)」(河原書店)ユマニテ2,1949年。)
(*)(参考：サント・ブーブ/渡邊一夫訳『モンテーニュ小論』3版,白水社,1949年。)
(*)(参考：関根秀雄「モンテーニュの若さ」知識人2(3),1949年。)
(*)(参考：関根秀雄『モンテーニュ傳』3版,白水社,1949年。)
(*)(参考：關根秀雄訳『モンテーニュ書簡集』仏蘭西古典文学集27,白水社,1949年。)
(*)(参考：モンテーニュ/關根秀雄訳『モンテーニュ随想録(7)』仏蘭西古典文庫,白水社,1949年。)
(*)(参考：關根秀雄訳『選抄モンテーニュ随想録』白水社, 1949年。)
(*)(参考：關根秀雄訳『人間随想』4版, 養徳叢書 外国篇[丹波市町]養徳社,1949年。)
(*)(参考：串田孫一『モンテェニュ素描』土羊社, 1949年。)
(*)(参考：前田陽一『モンテーニュとパスカルの基督教辯證論』創元社,1949年。)
(*)(参考：加藤美雄「モンテーニュ研究の方向」経済学雑誌20-1・2,1949年。
(*)(参考：伊豆公夫「モンテーニュの「人食人」について—ユートピア論の一形態」唯物論研究6,1949年。)
(*)(参考：関根秀雄「モンテーニュの若さ」知識人2(3),1949年。)
(*)(参考：小場瀬卓三『モリエール—時代と思想』日本評論社,1949年。)
(*)(参考：ラ・ロシュフコオ/進藤誠一訳『人間省察』[丹波市町]養徳社,1949年。)
(*)(参考：由木康『パスカル傳』白水社,1949年(←昭17,初版)。)
(*)(参考：氷上英廣・前田陽一・矢内原伊作「〈座談会〉パスカル・キエルケゴール・ニーチェ」独立9,1949年。)
(*)(参考：パスカル著/コンドルセ,ヴォルテール共編註・高沖陽造譯『パンセ』白鳳書院,1949年。)
(*)(参考：ラ・ブリュイエール/關根秀雄訳『人さまざま：又の名當世風俗誌(上下)』佛蘭西文庫,白水社,1948-49年。)
(*)(参考：小林正「スタンダールとバイロン」サロン4,1949年。)
(*)桑原武夫「〈イタリア絵画史〉のスタンダール」文化2,1949年。)
(*)(参考：矢内原伊作「実存主義と演劇--「アンティゴオヌ」について」劇作29,1949年。)
(*)(参考：内山敏『アナトオル・フランス』新文化叢書,日本評論社,1949年。)
(*)(参考：深田康算『ロダン』アテネ文庫79,弘文堂,1949年。)
(*)(参考：野上素一「現代イタリア文学の傾向」雄鶏通信5(1),1949年。)
(*)富永惣一「ブルクハルト著,嘉門安雄譯「チチェローネ」」書評4(3),1949年。)
(*)(参考：高沖陽造『世界文学：ダンテからジイドまで』評論社,1949年。)
(*)(参考：小牧健夫・手塚富雄編『ゲーテと現代：ゲーテ生誕200年記念論文集』講談社,1949年。)
(*)(参考：舟木重信『ゲーテとその世界』創藝社,1949年。)
(*)(参考：舟木重信監修『綜合ゲーテ研究』北隆館,1949年。)
(*)(参考：民科藝術部編『ゲーテ作品と世界観』北陸館,1949年。)
(*)(参考：ローベルト・シンチンガー/橋本文夫訳「ゲーテの認識論」理想192,1949年。)
(*)(参考：一条重美「マルクス・エンゲルスのゲーテ観」理想192,1949年。)
(*)(参考：渡邊格司「ゲーテの宗教性—畏敬について」理想192,1949年。)
(*)(参考：阿部六郎「ゲーテと吾々」理想192,1949年。)
(*)(参考：吹田順助「ゲーテと世界文学」理想192,1949年。)

(*)(参考：高橋義孝「ゲーテとトーマス・マン」理想192,1949年。)
(*)(参考：手塚富雄「現代に触るるゲーテ」理想192,1949年。)
(*)(参考：「ゲーテの著作文献」理想192,1949年。)
(*)(参考：田中泰三「ゲーテとギリシァ精神」理想192,1949年。)
(*)(参考：田中泰三「ゲーテ時代とギリシヤ精神—昭和22年11月人文科学委員会第5回学術大会・文学研究報告(要旨)」人文3(1),1949年。)
(*)(参考：田中泰三『ゲーテ時代とギリシア精神』人文科学研究叢書3,要書房,1949年。)
(*)(参考：大山定一訳編『知られざるゲーテ』弘文堂,1949年。)
(*)(参考：藤森秀夫訳『ゲーテ詩集』東京綜合出版社,1949年。)
(*)(参考:新関良三「ゲーテとギリシャ悲劇」(相良守峰編『ゲーテへの道』所収)櫻井書店,1949年。)
(*)(参考：田中隆尚「ゲーテの沈黙」アララギ42(12),1949年。)
(*)(参考：高橋義孝『ゲーテ小傳』郁文堂,1949年。)
(*)(参考：南楠生「ゲーテ小傳」塔8月号,1949年。)
(*)(参考：南楠生「ゲーテ作品・解題」塔8月号,1949年。)
(*)(参考：小牧健夫『ゲーテ雑考』白水社,1949年。)
(*)(参考：吹田順助「ゲーテと世界文学」理想192,1949年。)
(*)(参考：竹山道雄「若きゲーテの轉向—フランス語から自國語へ」人間8月号,1949年。)
(*)(参考：竹内敏雄「ゲーテの内面形成の理念」ドイツ文学3,1949年。)
(*)(参考：菊池栄一「反近代的ゲーテ「遍歴時代」の「天文學者」を中心として」ドイツ文学3,1949年。)
(*)(参考：向坂逸郎「わがゲーテ史」ドイツ文学3,1949年。)
(*)(参考：黒田辰男「ソ連に於けるゲーテ研究文献誌的に」ドイツ文学3,1949年。)
(*)(参考：道家忠道「ゲーテと時代」ドイツ文学3,1949年。)
(*)(参考：小口優「年長の同時代人のゲーテ観」ドイツ文学3,1949年。)
(*)(参考：ルドヴィヒ・エミール/中岡宏夫訳「若き日のゲーテ」世界文学35,1949年。)
(*)(参考：渡邊格司「永遠なるゲーテ—苦悩する人間像」世界文学35,1949年。)
(*)(参考：高橋健二「ゲーテにおける性と愛」個性2(3),1949年。)
(*)(参考：手塚富雄「われらのゲーテ像のために」個性2(3),1949年。)
(*)(参考：成瀬無極「ゲーテの面影」個性2(3),1949年。)
(*)(参考：小栗孝則「ゲーテと好奇心」文学集団12,1949年。)
(*)(参考:笹沢美明「ゲーテと女性—主としてヒュマニティについて」文学集団12,1949年。)
(*)(参考：高橋健二「ゲーテの自作破棄」文学集団12,1949年。)
(*)(参考：望月市惠「ゲーテ—作家とその永遠の伴侶(1)」個性2(5・6),1949年。)
(*)(参考：中嶋聡一「愛の人ゲーテ」ガイダンス1(3),1949年。)
(*)(参考：片山敏彦「ゲーテ頌」心2(8),1949年。)
(*)(参考：関口存男「ゲーテの言葉」心2(8),1949年。)
(*)(参考：相良守峯「ゲーテの世界観と進歩性について」塔1(8・9),1949年。)
(*)(参考：関泰祐「ゲーテの人生叡智について」塔1(8・9),1949年。)
(*)(参考：関楠生「ゲーテ小伝」塔1(8・9),1949年。)
(*)(参考：関楠生「ゲーテの主要作品解説」塔1(8・9),1949年。)
(*)(参考：片山敏彦「ゲーテの詩作」ワールド・リスナー3(8),1949年。)

(*)(参考：手塚富雄「ゲーテの小説について」ワールド・リスナー3(8),1949年。)
(*)(参考：荒川龍彦「美術人ゲーテ」スケッチ4(5),1949年。)
(*)(参考：フランツ・ゲッティング「戦後ドイツのゲーテ文献」世紀1(6),1949年。)
(*)(参考：土井虎賀壽「絶望を超えて--ゲーテに於ける生の祈願」再建評論1,1949年。)
(*)(参考：山下肇「ゲーテの秋」大法輪16(10),1949年。)
(*)(参考：高橋健二「日本版ゲーテ」読書倶楽部4(8),1949年。)
(*)(参考：日夏耿之助「明治文學に於けるゲエテ」(小牧健夫：手塚富雄編『ゲーテと現代』ゲーテ生誕二００年記念論文集中,講談社,1949年)。)
(*)(参考：黒田辰男「ソ連におけるゲーテ研究—文献史的に」ドイツ文学3,1949年。)
(*)(参考：一條里美「マルクス・エンゲルスのゲーテ観」理想192,1949年。)
(*)(参考：島村敎次「シラーの美的教育論について」綜合世界文藝9月号,1949年。)
(*)(参考：シラー著/野島正城訳『素朴文学と情感文学について』冨士出版,1949年。)
(*)(参考：シラー著/野島正城訳『菩提樹の下の散歩：』若きシラーの生活と思想』冨士出版,1949年。)
(*)(参考：望月市惠「ヘルダーリンの詩」詩学4(3),1949年。)
(*)(参考：本野亨一「文学者の祈念と愛情—ヘルダーリンと梅崎春生」玄想3(3),1949年。)
(*)(参考：吹田順助訳『ヘルデルリーン詩集』世界詩人叢書6,蒼樹社,1949年。)
(*)(参考：小林政吉「Sturm und Drangの自己超克—青年ヘルダー」文化1(3),1949年。)
(*)(参考：レッシング/山下肇訳『寓話；諷刺詩集』世界古典文庫93,日本評論社,1949年。)
(*)(参考：レッシング/西村貞二訳『人類の教育』哲学叢書45,創元社,1949年。)
(*)(参考：氷上英廣『ニーチェ：運命と意志』生ける思想叢書,新潮社,1949年。)
(*)(参考：氷上英廣『ニーチェ』新潮社,1949年。)
(*)(参考：土井虎賀壽『ニーチェの精神伝統』新月社,1949年。)
(*)(参考：赤木健介『「人生古典」デーモンとの闘爭』白揚社,1949年。)
(*)(参考：プルターク/鶴見祐輔訳『プルターク英雄伝(第3,4)：アレキサンダー,シーザー,アルシバイアデース』太平洋出版社,1949年。)
(*)(参考：カエサル/近山金次訳『ガリヤ戦記』3版,岩波文庫,岩波書店,1949年。)
(*)(参考：ネポス/呉茂一譯『外國名將傳』岩波書店,1949年。)
(*)(参考：高津春繁『アテーナイ人の生活』アテネ文庫, 弘文堂,1949年。)
(*)(参考：村川堅太郎「スパルタ型国家の農業生産者」史学雑誌58(3),1949年。)
(*)(参考：モンテスキュー/大岩誠譯『ローマ人盛衰原因論』3刷,岩波書店,1949年。)
(*)(参考：マキアヴェルリ/大岩誠譯『ローマ史論(3巻)』岩波書店,1949年。)
(*)北村忠夫「増田四郎著「ヨーロッパ社会の誕生」」史学雑誌58(3),1949年。
(*)(参考：「欧州歴史学界の近状」史学雑誌58(4),1949年。)
(*)西村貞二「ブルクハルト著・樺俊雄譯「世界史的考察」」史學雜誌58(6),1949年。
(*)(参考：ブルクハルト/樺俊雄訳『世界史的考察』ブルクハルト著作集,筑摩書房,1949年。)
(*)(参考：樺俊雄「知識人の典型--ブルックハルトの場合」読書倶楽部4(5),1949年。)
(*)(参考：ヘーゲル/鬼頭英一訳『歴史哲學講義(上下)』(重版)春秋社思想選書, 春秋社,1949年。)
(*)(参考：ヘーゲル/岡田隆平訳『ヘーゲル世界史の哲学』第一出版,1949年。)
(*)(参考：友田行夫「世界史の構想」社会科教育25,1949年。)
(*)(参考：有高巖「世界史の構想」社会科教育26,1949年。)

(*)(參考：鶴見祐輔『ナポレオン：英雄天才史傳(上下)』太平洋出版社,1949年。）
(*)樺俊雄「歴史主義と歴史」哲学評論4(9),1949年。
(*)石母田正・太田秀通『史學：論集』三省堂出版,1949年。
(*)(參考：井上智勇・村田數之亮他『西洋の起源』京大西洋史1,創元社,1949年。)
(*)(參考：村田數之亮・吉原好人他『西洋古典世界』京大西洋史2,創元社,1949年。)
(*)(參考：村田數之亮『概観西洋歴史』増訂3版,河原書店,1949年。)
(*)増田四郎「今井登志喜監修「世界史概説」」評論36,1949年。
(*)(參考：龜井高孝・林健太郎『概説西洋歴史』吉川弘文館,1949年。）
(*)(參考：村川堅太郎『西洋史提要』秀英出版,1949年。)
(*)(參考：村川堅太郎編『ギリシア研究入門』北隆館,1949年。)
----村川堅太郎「歴史」/松村武雄「宗教」/田中美知太郎「思想」/田中秀央「言語」/高津春繁「文學」/村田數之亮「考古學」/村田潔「美術」/平田寛「科學と技術」/栗野頼之祐「碑文」/神田盾夫「パピルス學」/三浦一郎「日常生活」
(*)(參考：村川堅太郎他著『西洋』世界の歴史2,毎日新聞社,1949年。)
(*)(參考：史學會編(村川堅太郎・山本達郎・林健太郎)『世界史概観』山川出版社,1949年(→1950年,改訂版)。)
(*)(參考：世界史研究会編『世界史讀本(上下)』大地書房,1949年。)
(*)(參考：世界史研究会編『新制世界史：學び方と問題』平安文庫,1949年。)
(*)(參考：世界史研究會編『新制世界史：教授資料(1-4,別冊上下)』平安文庫,1949年。)
(*)(參考：世界史研究會編『新制世界史(上下)』平安文庫,1950年。)
(*))(參考：角田文衛「欧州における遠古史研究の展開」人文学研究1(1),1949年。)
(*)「1948年の歴史学界—学界動向」史学雑誌58(1),1949年。
(*)(參考：布村一夫「ソ連における古代東方史学の発展--「マルクス新草稿」との関連において」歴史評論3(5),1949年。)
(*)中川一男「京大文学部西洋史学研究室編「世界史年表・上巻」」史潮42,1949年。
(*)(參考：瀧澤真弓「4.いわゆる「錯視」の幾何学的研究：パルテノン研究の一環」日本建築學會研究報告1,1949年。)
(*)(參考：森田慶一「71.アリストテレスにおける建築の用の問題」日本建築學會研究報告4,1949年。)
(*)(參考：足立一郎『西洋建築史』共立出版,1949年。)
(*)(參考：小林文次『西洋建築史圖集・古代篇』光藝社,1949年。)
(*)村田治郎『法隆寺の研究史』毎日新聞社,1949年。
(*)(參考：鈴木良徳『オリンピック読本』旺文社スポーツシリーズ,旺文社,1949年(→1955年,重版)。)
(*)(參考：大島鎌吉「近代オリンピックの検討」探究10,1949年。)
(*)(參考：河西三省「オリンピック時代」逓信協会雑誌485,1949年。)
(*)(參考：大島鎌吉「近代オリンピックの検討」探究10,1949年。)
(*)(參考：大島鎌吉「スポーツと文化」体育1(6),1949年。)
(*)(參考：野尻抱影「パピルスは語る」天馬1(5),1949年。)
(*)(參考：プトレマイオス著/藪内清訳『アルマゲスト(上下)』宇宙物理学研究会,1949年。)
(*)矢島祐利「“二儀略説”の研究」科學史研究10,1949年。)
(*)(參考：杉本勲「天動説から地動説へ」日本歴史14,1949年。)

(*)(參考：岡邦雄・加茂儀一・菅井準一『技術論 技術史』社會主義教育協會,1949年。)
(*)(參考：桝本セツ『技術史』再版,唯物論全書7,三笠書房,1949年(←昭13年,三笠全書),。)
(*)(參考：岡邦雄・加茂儀一・菅井準一執筆：社会主義教育協會編『技術論・技術史』社会主義講座4,三元社,1949年。)
(*)(參考：平原北堂『西洋科學史』文化時報社, 1949年。)
(*)(參考：矢島祐利『物理学史の断面』青山書院,1949年。)
(*)(參考：矢島祐利『科學概論と科學史』河出書房,1949年。)
(*)(參考：矢島祐利『物理學史』朝倉書店,1949年。)
(*)(參考：矢島祐利「アリストテレスの「フィジカ」について」科学史研究11,1949年。)
(*)(參考：岡邦雄『科学の歴史』ナウカ講座22, ナウカ,1949年。)
(*)(參考：森島恒雄『科学の歴史』文化シリーズ10,青也書店,1949年。)
(*)(參考：今野武雄『入門科学思想史』新プレブス社,1949年。)
(*)(參考：山田坂仁『唯物史観科学思想史』新興出版社,1949年。)
(*)(參考：原種行『数学の教養：数学と文化の歴史』青雲書院,1949年。)
(*)(參考：三田博雄「科学の宗教的起源について—ピタゴラス研究への序説」科学史研究12,1949年。)
(*)(參考：矢島祐利「アリストテレスの「フジイカ」について」科学史研究11,1949年。)
(*)(參考:三田博雄「絶対王朝の科学—ヘレニズム時代の科学の性格」唯物論研究5,1949年。)
(*)(參考：三田博雄「アルキメデスの手紙」科学史研究11,1949年。)
(*)(參考：三田博雄「科学の宗教的起源について—ピタゴラス研究への序説」科学史研究12,1949年。)
(*)「古代数学集(上),三田博雄著,昭和23年,日本科学社」(數學教育會)數學教育3(3),1949年。)
(*)(參考：近藤洋逸「ガリレイとサルビ神父—科学者と自由について」日本評論24(6),1949年。)
(*)吉岡修一郎『日本人の科学思想の発展(民主主義科学教程)』彰考書院,1949年。
(*)下村寅太郎「西欧科学受容の仕方について—明治科学史序説」人文3(1),1949年。
(*)(參考：田中實『原子論の誕生・追放・復活—原子と化學』三一書房,1949年(→1977年,新日本文庫版)。)
(*)(參考：矢島祐利『物理學史』科學・技術史全書,朝倉書店,1949年。)
(*)(參考：矢島祐利『科学概論と科学史』,1948年。)
(*)(參考：清水藤太郎『薬学ラテン語』南山堂,1949年。)
(*)(參考：加藤信一『医学生・歯科学生用 ラテン語・ギリシャ語教本』吐鳳社,1949年。)
(*)秀村欣二「井上智勇著「ローマ経済史研究」」歴史学研究140,1949年。)
(*)(參考：服部之總/清水盛光/村川堅太郎『明治維新における指導と同盟/中國の郷村統治と村落/羅馬大土地所有制』(社會構成史体系2,)日本評論社,1949年。)
(*)(參考：村川堅太郎「スパルタ型国家の農業生産者」史学雑誌58(3),1949年。)
(*)(參考：藪内芳彦「地中海式農業」人文地理1(3),1949年。)
(*)(參考：プラトーン/長澤信壽譯『國家(1,2)』プラトーン著作集, 弘文堂,1949年。)
(*)(參考：山本光雄「プラトンの革命論—所謂彼の改體變化の辯證法について」哲學雜誌64(704),1949年。)
(*)(參考：原随園「ピンダロスの政治思想」(西洋古典学会)西洋古典論集1月號,1949年。)
(*)(參考：國分敬治「アゴラのこころ」立命館文學73,74,1949年。)

(*)(参考：土方敬太「コスモポリチーズムとは何か」新本文学4(11),1949年。)
(*)(参考：大類伸「ルネサンスの限界−マキアヴェリ研究斷片」西洋史論I,1949年。)
(*)(参考：大畑末吉「ゲーテの市民性とその時代的背景」ドイツ文学3,1949年。)
(*)(参考：田中耕太郎「ゲーテの社会哲学」心2(8),1949年。)
(*)(参考：「海外法学思想(3)エルンスト・カッシーラ「国家の神話」」法律文化4(5・6),1949年。)
(*)(参考：蠟山政道『日本における近代政治学の発達』実業之日本社,1949年。)
(*)(参考：新島繁編『社會科學文献解題』(1.政治・經濟篇,2.哲學・教育篇,3.文學・藝術篇),東峰書房,1949年(→1950年,学生版,東峰書房,春秋社[発売])。
(*)(参考：増田四郎・津田左右吉・山本光雄・池内宏・三上次男・中村元・山田純・宇井伯寿『共同研究古代国家』啓示社, 1949年。)
(*)(参考：三谷隆正『法と國家』近藤書店,1949年。)
(*)(参考：プラトン/山本光雄訳『法律(第2)』近藤書店,1949年。)
(*)(参考:山本光雄「プラトンの革命論—所謂彼の改体変化の弁証法について」哲学雑誌604(704),1949年。)
(*)(参考：田中周友『法史學：比較法史學(比較法制史講義)』法史學1部,三和書房,1949年。)
(*)(参考：田中周友『ローマ法史』法史學2部,三和書房,1949年。)
(*)(参考：田中周友「法学のはじまり」法律文化4(1),1949年。)
(*)(参考：田中周友「旧約聖書に見る親と子との関係—ローマにおける父権を省察しつつ」法律文化4(3・4),1949年。)
(*)(参考：田中周友『法學概論』有信堂,1949年。)
(*)(参考：原田慶吉『ローマ法(上下)』有斐閣全書,有斐閣,1949年。)
(*)(参考：町田実秀「ローマの軍制と支配体制」一橋論叢22(1),1949年。)
(*)(参考：宇尾野久「ローマ人達のコローヌス制度」歴史学研究140,1949年。)
(*)(参考：田中周友「旧約聖書に見る親と子との関係—ローマにおける父権を省察しつつ」法律文化4(3・4),1949年。)
(*)(参考：比較法制史研究会編「イェーリング「ローマ法の精神」第2巻邦訳(4)」季刊法律学7,1949年。)
(*)(参考：原田慶吉「ローマの文化とローマ法」國家學會雜誌63(6),1949年。)
(*)(参考：原田慶吉「ローマ法に於ける法規範の独立」法学新報56(8),1949年。)
(*)(参考：原田慶吉「法の国ローマ」法学協会雑誌67(4),1949年。)

(*)(参考：林達夫「唯物論の歴史」([エピクロス,マルクス]筑摩書房版『哲学講座・第3巻・哲学の歴史』所収,1950年)。)
(*)(参考：高橋安光「エピクロスの復活」一橋論叢24(5),1950年。)
(*)(参考：吉田健一「人間マルクス—その生涯と伝説」雄鶏通信6(3),1950年。)
(*)(参考：出隆『哲学教程：マルクス主義哲学の基礎について』古明地書店,1950年。)
(*)石川三四郎『古事記神話の新研究』改訂増補,ジープ社,1950年(→1976年,石川三四郎選集1巻、黒色戦線社)。
(*)石川三四郎『東洋文化史百講』改訂増補,ジープ社,1950年(→1980年,石川三四郎選集2.3巻[上下]、黒色戦線社)。)
(*)(参考：加茂儀一『人類文化発達史』三省堂,1950年。)

(*)(参考：グルッセルネ/柳宗玄訳「東西両洋の精神的交流(1,2)」心3(3,4),1950年。)
(*)(参考：三浦新七『東西文明史論考：國民性の研究』岩波書店,1950年。)
(*)衣笠茂「書評 村田数之亮著「エーゲ文明の研究」」史林33(2),1950年。
(*)(参考：「ジャック・ピレンヌ著「世界史に於ける大きな潮流—陸の文明と海の文明」思想314,1950年。)
(*)(参考：田辺宗夫「西欧の前線—トルコとギリシヤ」雄鶏通信6(7),1950年。)
(*)下条義雄『春火：歌集』(「エーゲ海」)青樫発行所,1950年。
(*)(参考：伊藤廉『絵の話(3)絵の歴史』美術出版社,1950年。
----「品性ということ・エーゲ海文明とギリシァ」「見えるとおりとわかり易いということ・ギリシア」」「實用ということ・ローマ」「ギリシアの神様がともだちになる・ボッチェシェリ」「ギリシアの哲學者も・ラファエロ」
(*)(参考：岩崎真澄「絶対者の芸術的表現—特に希臘神像と対比しながら印度上代仏像彫刻の理念とその芸術的価値を論ずる」和歌山大学学芸学部学芸研究,人文科学1,1950年。)
(*)(参考：メリメ/杉捷夫訳『コロンバ；カルメン；イールの女神；マテオ ファルコネ；エトルリアの壺；その他』河出書房,1950年。)
(*)(参考：アンドレ・マルロオ/小松清訳「東西美術論(4)レオナルド・ギリシヤ芸術・古代」芸術新潮1(11),1950年。)
(*)(参考：田近憲三「古典美の近代性—ギリシヤ絵画について」アトリエ284,1950年。)
(*)(参考：今泉篤男「西洋美術の投影(11)ボッティチェルリとイタリアルネッサンスの絵画」ニューエイジ2(11),1950年。)
(*)武田武志「羽仁五郎著「ミケルアンヂェロ」--何を読むべきか」(農民の友社)何を読むべきか1(1),1950年。
(*)(参考：大久保泰「オリンピア—画題と絵と」美術手帖27,1950年。)
(*)(参考：金子九平次「シチリアで死んだ画家」文化と教育1(3),1950年。)
(*)(参考：鬼塚信彦「「シチリアの晩鐘」についての一考察—13世紀後半のシチリアをめぐる国際政局の動向」商大論集(37・38・39),1950年。)
(*)高木良夫「コスモポリチズム映画論」映画新潮1(1),1950年。
(*)(参考：大木正興「オルマンディー指揮「ローマの松」の新盤」レコード音楽20(8),1950年。)
(*)(参考：牧定忠「交響詩「ローマの泉」「ローマの松」「ローマの祭り」--名曲解説」音楽の友8(10),1950年。)
(*)有島生馬「ローマ」美術手帖25,1950年。)
(*)(参考：バーバラ・ウォード「永遠の都ローマ」カトリックダイジェスト3(5),1950年。)
(*)児島喜久雄「フィレンツェ」美術手帖25,1950年。
(*)野上素一「秋のチロル」朝日評論5(8・9),1950年。
(*)島田謹二「鷗外訳本「即興詩人」について」展望54,1950年。)
(*)(参考：ハンス・カロッサ/若林光夫訳『イタリア紀行』養徳社,カロッサ全集10,1950年。)
(*)(参考：岡本修助「ゲーテの〈イタリア紀行〉について」(大阪市立大学)人文研究1(3),1950年。)
(*)(参考：加茂儀一『ダ・ヴィンチ』弘文堂,1950年。)
(*)(参考：ヤコプ・ブルクハルト/池井望譯「ギリシャ人と美術家」立命館文學75,1950年。)

(*)和辻哲郎「イタリア古寺巡禮(1-4)」藝術新潮1(1-4),1950年。
(*)和辻哲郎『イタリア古寺巡礼』岩波書店,1950年(→1956年,角川文庫版。→1991年,岩波文庫版)。)
(*)(參考：栗野頼之祐『出土史料によるギリシア史の研究』岩波書店,1950年。)
(*)(參考：高津春繁『ギリシア民族と文化の成立』岩波書店,1950年。)
----「エーゲ海地域の地理的環境」「ギリシア先史時代の考古學的資料」「紀元前2000-1000年間エーゲ海域に於ける民族」「アカイア人とアイオリス属」」「アルカディア族」「ミュケーナイ文化とジョテンギリシュア」
(*)村川堅太郎「栗野頼之祐著「出土史料によるギリシア史の研究」/高津春繁著「ギリシア民族と文化の成立」」図書8,1950年。)
(*)弓削達「栗野頼之祐著「出土史料によるギリシア史の研究」」青山経済論集2(1),1950年。
(*)秀村欣二「栗野頼之祐著「出土史料によるギリシア史の研究」」史学雑誌59(10),1950年。
(*)(參考：木村正雄『古代の世界』金星堂,1950年。)
(*)(參考：西台美智雄「ヘレニズムとヘブライズム」天理大学学報1(2・3),1950年。)
(*)(參考：シュリーマン/村田数之亮訳『古代への情熱：シュリーマン自伝』みすず新書5,みすず書房,1950年。)
(*)矢田俊隆「A.J.トインビー著,蝋山・阿部訳「歴史の研究」」政治経済論集1(3),1950年。
(*)尾鍋輝彦「素朴な歴史観—アーノルド・トインビー著,蝋山政道・阿部行蔵訳「歴史の研究(1)」」なにを読むべきか2(2),1950年。
(*)喜多村浩「アーノルド・トインビー著,蝋山・阿部訳「歴史の研究(1)」」評論40,1950年。
(*)(參考：P.ニール・トーマス「トインビイの歴史哲学」雄鶏通信6(3),1950年。)
(*)(參考：鈴木成高「トインビーその他」展望56,1950年。)
(*)(參考：小島尚「シュペングラーのゲーテ観：アポロ的認識とファウスト的認識と」弘前大学人文社会1,1950年。)
(*)(參考：伊藤安二「或る一つの人間論—カッシーラの文化哲学」フィロソフィア18,1950年。)
(*)(參考：金子栄一「カッシラー『人間論』」一橋論叢23(1),1950年。)
(*)(參考：フンボルト/西村貞二訳『人間の諸問題』哲學叢書50,創元社,1950年。)
(*)(參考：村川堅太郎「古代のあるびよん」あるびよん2(1),1950年。)
(*)(參考：石田幹之助「東西文化の交流と「絹街道」」ニューエイジ2(11),1950年。)
(*)(參考：牧健二『近代に於ける西洋人の日本歴史観』(ニーブール等)弘文堂,1950年。)
(*)和辻哲郎「われわれの立場」中央公論65(10),1950年。
(*)和辻哲郎「いくつかの思ひ出」心3(9),1950年。
(*)和辻哲郎『鎖国』筑摩書房,1950年(→1951年,縮刷版)。
(*)(參考：鮎澤信太郎「江戸時代に刊行された萬國人物圖について」横濱市立大學論叢2(3),1950年。)
(*)水田昌二郎「宇田川榕庵の研究(1-2)」科学史研究14,15,1950年。
(*)緒方富雄『蘭学のころ』弘文堂,昭和25年。
(*)沼田次郎『幕末洋学史』刀江書院,1950年。
(*)三好保徳「蘭学の起こった頃を想う」伊予史談126,1950年。
(*)(參考：加茂儀一『タバコの文化史』弘文堂,1950年。)
(*)(參考：兒島喜久雄・安井會太郎・矢崎美盛編『少年美術館(25巻)』岩波書店,1950-53年。)

(*)(参考：高島善哉編『世界思想辭典』河出書房,1950年。)
(*)(参考：世界文藝辞典編集部『世界文藝辞典 西洋篇』東京堂,1950年(→1951年,5訂版。→1952年,改訂4版。→1954年,9版。→1957-59年,新訂版。)
(*)書評・呉茂一「世界古代文藝潮「世界文藝辞典 西洋篇」東京堂」 3月号,1950年。
(*)(参考：本多秋五他編『世界文學辭典』中部日本新聞社,1950年(→普及版)。)
(*)(参考：中野好夫他編『世界文學辭典』河出書房,1950年(→1951年,普及版)。)
(*)(参考：世界文学研究会編『世界文藝作家辞典』日英社,1950年。)
(*)(参考：創人社編集部編『西洋文学辞典』創人社,1950年(→1956年,再版)。)
(*)(参考：呉茂一他編『西洋文學辭典』小石川書房,1950年。)
------- 呉茂一「ローマ文学」
佐々木理「傳說と神話」
岩崎純孝「イタリア文学」
(*)(参考：野上素一編『西洋文學辭典』河出書房,1950年。)
------- 野上素一「イタリア文学史」
(*)(参考：日本独文学会編『ドイツ文学辞典』河出書房,1950年(→1956年,再版)。)
(*)(参考：相良守峰『ゲーテ事典』河出書房,1950年。)
(*)(参考：東大フランス学会編『フランス文学辞典』全国書房,1950年。)
(*)(参考：小川二郎他編『英米文辞典』文化評論社,1950年。)
(*)(参考：平凡社編『理科事典』(全19巻)平凡社,1950-53年。)
(*)(参考：原随園・井上智勇『西洋史辞典』創元社,1950年。)
(*)(参考：世界史研究會編『世界史小辞典』平安文庫,1950年。)
(*)(参考：新明正道・樺俊雄・大道安次郎他『社會思想史辭典』創元社,1950年。)
(*)(参考：東京学藝大學史学研究会編『教養と學習のための世界人名辭典』學藝出版社,1950年。)
(*)(参考：尾持昌次『解剖学名辞書』丸善出版,1950年。)
(*)(参考：木下正中『世界醫學人名辭典』醫學書院,1950年。)
(*)(参考：平凡社編『理科事典』(全13巻)平凡社,1950年(→1953年。)
(*)(参考：フンボルト/西村貞二訳『人間の諸問題』哲學叢書50,創元社,1950年。)
(*)(参考:山辺健太郎「マルクスのクーゲルマンに宛てた手紙—古典の翻訳と訳文のぎんみ」何を読むべきか1(1),1950年。)
(*)(参考：矢田一男「イタリヤにおける大学の濫觴(はじまりのころ)」法律時報22(12),1950年。)
(*)(参考：高津春繁「Origin of the Ionians」言語研究15,1950年。)
(*)(参考：高津春繁「-XF,-PE,-VF-P6-and Compensatory Lengtheing into Arcardians」言語研究16,1950年。)
(*)(参考：高津春繁「Absorption of Arcardian into Κοτυλη」言語研究17,18,1950年。)
(*)(参考:高津春繁「アルカディア方言の研究」(学術会議)文学史学哲学連合7(11),1950年。)
(*)(参考：阿部重孝『歐米学校教育発展史』(ギリシア語、ラテン語等),目黒書店,1950年(←昭5年刊,復刊)。)
(*)(参考：田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語文法』創元社,1950年。)
(*)(参考：呉茂一『新修ラテン語教程』要書房,1950年。
(*)(参考：田中秀央『ラテン文法入門』臼井書房,1950年(→昭26年,訂正再版。→昭27年,三和

書房版)。)
(*)(參考：市河三喜『ラテン・ギリシャ語初歩・英學生の爲の』12版,研究社出版,1950年。)
(*)(參考：デル・コール『ラテン語四ケ年(1,2)』ドン・ボスコ社,1950年。)
(*)(參考：大村雄治『大村實習ラテン語』白水社,1950年。)
(*)(參考：兼岩正夫「中世におけるギリシア語とラテン語の問題」史林33(5),1950年。)
(*)(參考:高津春繁『比較言語学』岩波全書,1950年(→1992年,『比較言語学入門』岩波文庫,1992年。)
(*)(參考：ホメーロス/高津春繁校注『イーリアス』岩波ギリシア・ラテン原典叢書,岩波書店,1950年。)
(*)(參考：ウェルギリウス/高津春繁校注『アイネーイス』岩波ギリシア・ラテン原典叢書,岩波書店,1950年。)
(*)(參考:アイソーポス/呉茂一校注『寓話選』岩波ギリシア・ラテン原典叢書,岩波書店,1950年。)
(*)(參考:プリニウス/神田盾夫校註『書簡集』岩波ギリシア・ラテン原典叢書,岩波書店,1950年。)
(*)出隆「「岩波ギリシァ・ラテン原典叢書」について」図書3,1950年。
(*)笹谷満「「ギリシア・ラテン原典叢書」の読者から」図書13,1950年。
(*)宮地敦子「「愛す」考」国語国文35(6),1950年。
(*)田中美知太郎「読書いろいろ」図書4,1950年。
(*)小泉信三「読書遍歴」文藝春秋28(12),1950年。
(*)藤田圭雄「少年少女は何を読むべきか」実践国語2(6),1950年。
(*)佐藤慶二「哲学を学ぶに何を読むべきか」理想212,1950年。
(*)(參考：麻生磯次等編『大学生の読書：何をいかに読むべきか』山根書店,1950年。)
----秀村欣二「西洋史」/呉茂一「古典語古典文学」/竹山道雄「美術」/前田陽一「外國語学修の意義」
(*)(參考：松村武雄『希臘の宗教』3刷,弘文堂,1950年。)
(*)(參考：桑田秀延編『キリスト教讀本』学芸社,1950年。)
(*)(參考：太田三郎『旧約聖書抄：readings from the old testament』開隆堂,1950年。)
(*)(參考：パピーニ著/大木惇夫訳『キリストの生涯』金園社,1950年。)
(*)(參考：宮本信之助「ニイグレン「ロマ書註解」」福音と時代5(4),1950年。)
(*)(參考：フェデリコ・バルバロ『聖ルカ福音書註解』新約聖書註解集,改訂第2版,ドン・ボスコ社,1950年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『マタイ傳』明和書店,1950年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『マルコ傳』6版,明和書店,1950年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『ルカ傳』明和書店,1950年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『ヨハネ傳』明和書店,1950年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『コリント前後書』9版,明和書店,1950年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『ロマ書・ガラテヤ書』8版,明和書店,1950年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『使徒行傳』6版,明和書店,1950年。)
(*)(參考：ルター原著/黒崎幸吉譯『ガラテヤ書注解：附・ルターのロマ書序文』9版,明和書店,1950年。)
(*)鈴木俊郎・黒崎幸吉「「注解新約聖書」の完成をめぐりて—黒崎幸吉氏に聞く(対談)」

独立17,1950年。
(*)(参考：秀村欣二『無教會主義と原始基督教』無教會主義論集,三一書房,1950年。)
(*)矢代幸雄『随筆ヴィナス』朝日新聞社,昭和25年(→昭和29年,改訂3版)。
(*)田中英光『オリンポスの果實：他二篇』田中英光選集1,月曜書房,1950年。
(*)岩上順一「田中英光論」新日本文学5(2),1950年。
(*)亀井勝一郎「文化の碑—太宰治と田中英光」風雪4(1),1950年。
(*)榛葉英治「田中英光を悼む」文学行動14,1950年。
(*)八木義徳「田中英光君のこと」文学行動14,1950年。
(*)山本健吉「善良な罪人—田中英光のために」人間5(4),1950年。
(*)林[ショウ]「眠りの反逆—田中英光氏の場合」群像5(7),1950年。
(*)(参考：關敬吾・石田英一郎編『世界の昔話(正続)』河出書房,1950年。)
(*)(参考：石田英一郎「月と不死：沖縄研究の世界的連関性によせて」民族學研究15(1),1950年。)
(*)(参考：伊藤貫一「エロスとパトス」学藝2(1),1950年。)
(*)(参考：秋山英夫「藝術と実存—アポロ的とディオニゾス的」独逸文学5月号,1950年。)
(*)(参考：E.ハーバート・ノーマン「クリオの顔」世界49,1950年。)
(*)(参考：ディベリウス/神田盾夫訳『イエス』新教出版社,1950年。)
(*)(参考：S.L.ファーズ/神田盾夫・矢崎源九郎訳『大工の子イエス』中央公論社,ともだち文庫58,1950年。)
(*)(参考：大畠清『イエス時代史の研究』要書房,1950年。)
(*)(参考：平石善司「宗教と文化に関する一考察--アレクサンドリアのクレメンスの神観を中心として」文化学年報1,1950年。)
(*)(参考：マーティン・ダーシィ著/壽岳文章訳『カトリシズム』アテネ新書10,弘文堂,1950年。)
(*)(参考：デル・コール編『聖母マリア小聖務日課』ドン・ボスコ社,1950年。)
(*)(参考：上澤謙二『一年生の聖書読本』冨山房,1950年。)
(*)(参考：フェデリコ・バルバロ編『我主イエズス・キリストの聖福音書：口語譯』(ドン・ボスコ社, 1950年。)
(*)(参考：カール・バルト/秋山憲兄・蓮見和男訳『降誕』新教出版者,1950年(→1962年,新教新書70)。)
(*)(参考：トレルチ著/西村貞二訳『近代世界とプロテスタンティズム』創元社,1950年。)
(*)松田智雄「トレルチ著, 西村貞二訳「近代世界とプロテスタンティズム」」(新教出版社)基督教文化48,1950年。
(*)高羽五郎編『サントスの御作業』(全4冊)国語学資料1,国語学資料刊行会,1950年。)
(*)海老澤有道校註『どちりなきりしたん：長崎版』岩波文庫,1950年。
(*)秀村欣二・中沢洽樹『無教会主義と原始基督教』三一書房,1950年。
(*)石原謙「信仰と友情の人波多野精一」ニューエイジ2(4),1950年。
(*)山谷省吾「波多野精一先生の追憶」基督教文化44,1950年。
(*)(参考：Aesopos[アイソーポス]/呉茂一校注『Fabulae Aesopicae selectae.Recognouit adnotationeque instruxit Shigeichi Kure』[岩波ギリシア・ラテン原典叢書] Iwanami,1950.)

(*)Genevieve Caulfield(retold)“Aesop’s fables”Kenkyusha’s spoken English series, Kenkyusha, 1950年。
(*)呉茂一著・三芳悌吉絵『イソップ物語:猫のお医者さん』ともだち文庫48,中央公論社,1950年。
(*)宮脇紀雄『イソップ童話』同和春秋社,1950年。
(*)高羽五郎編刻『天草版平家物語伊曾保物語：言葉の和らげ』(Feiqemonogatarito esopono fabvlasno vchino fvnbet xinicvqi cotobano yawarage,非売品,謄写版,[京都]高羽五郎,國語学資料7,1950年。)
(*)黒崎義介絵・八波則吉文『イソップ絵話』講談社の絵本37,大日本雄弁家会講談社,1950年。
(*)松村武雄文・島田啓三え『イソップ物語・イソップ寓話1』世界名作童話全集4,講談社,1950年。
(*)杉浦明平「イソップ譚」文藝7(5),1950年。
(*)ジェイムズ・サーバー/福田恆存訳『現代イソップ：名詩に描く』万有社,1950年。
(*)(参考：平野威馬雄譯『お猿の裁判官：ラ・フォンテーヌ童話集』福村書店,1950年。)
(*)(参考：ラ・フォンテーヌ/澤木譲次訳『風流譚(2,3)』河出書房, 1950年。)
(*)三輪福松「児島喜久雄の研究ノート」みずゑ539,1950年。
(*)富永惣一「児島喜久雄先生の業績」みずゑ539,1950年。
(*)児島喜久雄「芸術と生活」信濃教育765,1950年。
(*)島田謹二「上田敏論—上田柳村研究の一節」明治大正文学研究3,1950年。
(*)安田保雄「上田敏--「うづまき」覚書」明治大正文学研43,1950年。
(*)安田保雄「上田敏と文学批評」国語と国文学27(11),1950年。
(*)田中允「野上[豊一郎]先生と私」国文学：解釈と鑑賞15(6),1950年。
(*)安倍能成「野上[豊一郎]のこと」心3(4),1950年。
(*)矢野禾積「「文學界」と西洋文學」人文學3,1950年。
(*)佐々木満子「上田敏評傳」學苑3月,1950年。
(*)千葉京子「高山樗牛評傳」學苑4月,1950年。
(*)安藤美登里「原抱一庵評傳」學苑4月号,1950年。
(*)溝淵多香子「神田乃武評傳」學苑5月号,1950年。
(*)荒井美智子「平田禿木評傳」學苑5月号,1950年。
(*)荒井美智子「中沢臨川評傳」學苑6月号,1950年。
(*)村田とし「中村正直評傳」學苑9月号,1950年。
(*)(参考：一条重美「高沖陽造訳ならびに解説「マルクス=エンゲルス芸術論」」唯物論研究7,1950年。)
(*)(参考：ヘルマン・ヘッセ/高橋健二訳『世界文学をどう読むか』新潮社,1950年(→1951年,新潮文庫版)。)
(*)(参考：John Macy/内山賢次訳『世界文學史』新潮社,1950年。)
(*)(参考：呉茂一・矢野峰人・成瀬無極『世界文学史概説』角川全書,角川書店,1950年。)
(*)(参考：呉茂一『古代中世文學史概說』角川書店,1950年。)
(*)(参考：高津春繁『古代ギリシア文學史』岩波全書,岩波書店,1950年。)
(*)(参考：土井晩翠訳『オヂュッセーア』世界文学選書18,三笠書房,1950年(←昭18年,冨山房)。)

(*)(參考：土井晩翠訳『イーリアス』世界文学選書19,三笠書房,1950年。)
(*)(參考：呉茂一「オイデプース王の悲劇—古典案内」展望58,1950年。)
(*)(參考：新関良三「ソポクレス」新しい小学校2(11),1950年。)
(*)(參考：新関良三「原始ローマ演劇(1,2)」心3(10,11),1950年。)
(*)(參考：新関良三「ヨーロッパ古代の演劇論」演劇講座1[演劇の本質],1950年。)
(*)(參考：熊沢復六「アリストテレスの戯曲論(1,2)」喜劇悲劇4(10,12),1950年。)
(*)(參考：呉茂一「オイディプースの悲劇」展望10月号,1950年。)
(*)(參考：アリストパネース/高津春繁譯『蛙』岩波文庫,岩波書店,1950年。)
(*)(參考：アリストパネース/村川堅太郎譯『女の議会』再版,要書房,1950年(→昭29,岩波文庫)。)
(*)(參考：原納一富「シモニデスの詩」言語研究16,1950年。)
(*)ヒバードエステルL.「日本文学における百合若伝説」同志社女子大學學術研究年報1,1950年。
(*)L.ヒバードエステル/関本みよ子訳「Ulyssesと百合若伝説との比較研究」同志社女子大學學術研究年報1,1950年。
(*)加藤順三「追記」同志社女子大學學術研究年報1,1950年。
(*)(參考：井上智勇・村田數之亮他『西洋の起源』京大西洋史1,増訂版,創元社,1950年。)
(*)(參考：村田數之亮・吉原好人他『西洋古典世界』京大西洋史2,増訂版,創元社,1950年。)
(*)(參考：亀井高孝他編『世界歴史地図』吉川弘文館,1950年(→1952年,増訂版)。)
(*)(參考：亀井高孝・三上次男・児玉幸多『世界歴史對照年表』吉川弘文館,1950年。)
(*)(參考：羽仁五郎『百万人の世界史(上)』思索社,1950年。)
(*)(參考：満江巖著/キリスト教教育同盟會編『世界の歴史』(上下)清水書房,1950年。)
(*)(參考：廣島大學廣島高師附中社会科研究会編『新制新歴史年表』單元社,1950年。)
(*)(參考：中山久四郎・内藤智秀・肥後和男編『新修世界歴史年表』富士書店,1950年(→1954年,改訂増補版)。)
(*)(參考：織田武雄「中世の世界圖について」史林33(4),1950年。)
(*)倉石永太「本邦地理學の歴史的發達について」信濃教育767,1950年。
(*)(參考：太田秀通「「歴史のあけぼの」--伝説の問題」歴史評論4(6),1950年。)
(*)(參考：上原專祿「西洋及び中国における帝王伝記」(東京大学東洋文化研究所)東洋文化2,1950年。)
(*)(參考：井上一「ユーダス・マッカバイオスの乱—ヘレニズム時代に於けるユダヤ人の統治者觀」史學雜誌59(1),1950年。)
(*)「西洋史--1949年の歴史学界—回顧と展望」史學雜誌59(5),1950年。)
(*)(參考：吉村忠典「サルルステイウス小論」史學雜誌59(6),1950年。)
(*)秀村欣二「粟野頼之祐著「出土史料によるギリシア史の研究」」史學雜誌59(10),1950年。)
(*)太田秀通「中原与茂九郎著「シュメール人の家族について」史學雜誌59(11),1950年。)
(*)(參考：クセノポーン/田中秀央譯『アナバシス』岩波書店,1950年。)
(*)(參考：ヘロドトス/青木巖譯『歴史(1)』世界古典文庫141,日本評論社,1950年。)
(*)(參考：獅子文六『西洋色豪傳』(「西洋色豪傳」「女王クレオパトラ」「暴君ネロ傳」「東西粋人傳序説」)田園社,1950年。)
(*)(參考：佐藤春夫「クレオパトラ」科学知識30(1),1950年。)
(*)(參考：一氏義良「アレキサンダー大帝は英雄か」伝記4(3),1950年。)

(*)(参考：プルターク/鶴見祐輔訳『プルターク英雄伝(第5)』太平洋出版社,1950年。)
(*)(参考：沢田廉訳『英傑群像プルターク英雄伝』偕成社,1950年(→1964年,少年少女世界の名著19,偕成社?)。)
(*)(参考：池田書店『東西百傑傳』(全4巻。ダンテ,ナポレオン,グラッドストン等),1950年。)
(*)鮎澤信太郎「幕末佛教界をおびやかした新地理學」新地理4（8),1950年。
(*)大河内一男・清水幾太郎編『私の推薦する教養書』(村川堅太郎)日本評論社,1950年。
(*)(参考：高山十一「希臘に於ける社会史の系譜」史学研究42,1950年。)
(*)(参考：川久保公夫「ウェーバーの初期の古代史研究」経済学雑誌22(1),1950年。)
(*)(参考：矢田俊隆「ランケの世界史観」歴史評論4(1),1950年。)
(*)(参考：西村貞二『歴史的教養』目黒書店,1950年。)
(*)(参考：フンボルト著/西村貞二訳『人間の諸問題』創元社,1950年。)
(*)(参考：増田四郎「世界史的考察の課題」歴史評論4(1),1950年。)
(*)(参考：石木誠一「社会科世界史の構成」社会科教育28,1950年。)
(*)(参考：中屋健一「社会科世界史の新著について」社会科教育33,1950年。)
(*)(参考：千代田謙「社会科における世界史について」社会科研究3(8),1950年。)
(*)(参考：尾鍋輝彦「世界史教育を語る(座談会)」史潮43,1950年。)
(*)(参考：井上靖「「世界史」の氾濫」歴史学研究144,1950年。)
(*)(参考：有賀卓也「世界史の氾濫」日本歴史27,1950年。)
(*)(参考：高山一十「Polisの歴史」月刊世界史研究6,1950年。)
(*)(参考：京都大学西洋史研究室編『世界史アルバム』創元社,1950年。)
(*)(参考：大類伸他著『物語西洋史(古代・中世・近代)』中學生全集27,31,42,1950-51年。)
(*)(参考：千代田謙「社会科と世界史研究」月刊世界史研究8,1950年。)
(*)(参考：廣島史學研究會編『世界史研究(上下)』柳原書店,1950年。)
(*)(参考：東京文理科大學世界史研究會編『新しい世界史』金星堂,1950年。)
(*)(参考：世界史研究會編『新制世界史(上下)』平安文庫1950年版,1950年。)
(*)(参考：有高巌『最新世界史研究(古代)』池田書店,1950年。)
(*)(参考：村川堅太郎『西洋史提要』改訂版,秀英出版,1950年。)
(*)尾鍋輝彦「村川堅太郎著『西洋史提要』」社会科教育30,1950年。
(*)浅香正「〈書評〉村川堅太郎著 羅馬大土地所有制」史林33(1),1950年。
(*)太田秀通「ギリシャ史に関する近業」歴史学研究148,1950年。
(*)太田秀通「戦後わが国における歴史理論」電氣通信大學學報1,1950年。
(*)千代田謙「社会科と世界史研究」月刊世界史研究6,1950年。
(*)千代田謙「社会科における世界史について」社会科研究3(2),1950年。
(*)高橋功「幕末明治初年における西洋史研究」(北海道学芸大学)学芸2(2),1950年。
(*)(参考：川田熊太郎『倫理学』基礎学選書8,世界書院,1950年。)
(*)船山信一「近代日本の哲學」筑摩書房版『哲学講座・第3巻・哲学の歴史』所収,1950年。
(*)山内得立「哲学に志す人々のために」理想24(7),1950年。
(*)文学「“人間”三木清を繞り ペンの爆弾合戦 今日出海氏対故人の6友人」(河野與一)讀賣新聞朝刊3月11日付。
(*)阪田徳男「哲学について(3)」（ケーベル）人文研究1(9),1950年。
(*)和辻哲郎「私の信条」（ケーベル）世界59,1950年。
(*)(参考：平田次三郎等編『哲学思想篇』新日本代表作選集7,実業之日本社,1950年。)

(*)(參考：ダイジェスト・シリーズ刊行会編『古代ギリシアの哲学：人と派と哲理』(ダイジェスト・シリーズ35,ジープ社,1950年。)
(*)(參考：岩崎勉『ギリシアの厭世観：ギリシア人の憂鬱』理想叢書,理想社,1950年。)
(*)(參考：岩崎勉「厭世観と楽天観」理想24(11),1950年。)
(*)(參考：平田次三郎等編『哲学思想篇』新日本代表作選集7,実業之日本社,1950年。)
----本田喜代治「人間性の発見と自覚」
田中美知太郎「精神史観—宗教批判の一課題」
(*)(參考：田中美知太郎『ロゴスとイデア』京都大学,文学博士[報告番号不明],1950年。)
(*)(參考：田中美知太郎『哲學初歩』岩波全書,岩波書店,1950年。)
(*)(參考：田中美知太郎「善の意味」哲学研究」34(4),1950年。)
(*)(參考：出隆「幸福について—青い鳥の話」世界評論5(1),1950年。)
(*)(參考：出隆「三百年記念」理論4(2),1950年。)
(*)(參考：出隆『哲学以前』新小山文庫2,小山書店,1950年。)
(*)(參考：出隆『人生論十二講』ナウカ社,1950年。)
(*)大井正「出隆著「哲学教程」」理論4-6,1950年。
(*)(參考：唯物論研究所編『西洋近世哲學史』ナウカ社,1950年。)
(*)(參考：下村寅太郎・淡野安太郎『哲學研究入門』魚住書店,1950年。)
(*)(參考：学生書房編集部編『若き心の映像：決定版・私の學生の頃』学生書房,1950年。)
(*)(參考：篠原助市『歐洲教育思想史』(上下)創元社,1950年。)
(*)(參考：池田計三「ギリシャ教育史の社會的解釋試論」教育学研究18(3),1950年。)
(*)(參考：國分敬治「古代ギリシヤ人のすがた—とくにソクラテスのばあい」立命館文學76,1950年。)
(*)(參考：太田秀通「ソクラテス復元の問題によせて」電氣通信大學學報2,1950年。)
(*)(參考：プラトン/久保勉訳『ソクラテスの弁明・クリトン』新改訂版,岩波文庫,1950年。)
(*)(參考：久保勉・阿部次郎訳『饗宴—プラトン対話篇』15版,岩波文庫,1950年。)
(*)(參考：川田熊太郎「プラトーン(1)哲学古典解説」理想24(10),1950年。)
(*)(參考：稲富榮次郎「プラトン(2)中期対話篇」理想211,1950年。)
(*)(參考：武藤光朗「哲学は社会生活に何を教えるか—プラトン,ドストエフスキー,サルトルをめぐって」理想212,1950年。)
(*)(參考：三木清『アリストテレス』3版, 岩波書店,1950年。)
(*)(參考:安藤孝行「アリストテレスに於ける知性の構造」哲學研究33(11)/34(2,3,4),1950年。)
(*)(參考：岡野留次郎「アリストテレス存在論の基礎構造」哲學研究33(12),1950年。)
(*)(參考：藤井義夫「アリストテレスの「プロトレプチコス」(哲学への勧奨)について」一橋論叢23(6),1950年。)
(*)(參考：藤井義夫「アリストテレスの「エウデモス倫理学」について：その発展史的一研究」一橋論叢24(5),1950年。)
(*)(參考:神沢惣一郎「アリストテレス倫理学の存在論的基礎」フィロソフィア18,1950年。)
(*)(參考:加川航三郎「アリストテレスに於ける人間像に就いて」和歌山大学学芸学部研究・人文科学1,1950年。)
(*)(參考:笹谷満「アリストテレスの時間論の一考察」山形大学紀要・人文科學1(2),1950年。)
(*)(參考：テオフラストス/吉田正通訳『人さまざま』6版,岩波文庫,1950年。)
(*)(參考：キケロ/吉田正通譯『老境について』岩波文庫,1950年。)

(*)(参考：パピーニ著/柏熊達生訳『聖アウグスチヌス』三笠書房,1950年。）
(*)(参考：聖アウグスティヌス/大谷長訳『真の宗教について』[京都]ヴェリタス書院,1950年。)
(*)(参考：服部英次郎「アウグスティヌス「告白」」展望59,1950年。)
(*)(参考：今道友信「聖アウグスチヌスとデカルト」哲學雜誌65(705),1950年。)
(*)(参考：眞方敬道「ルターとアウグスチヌスにおける受動的な愛」宗教研究123,1950年。)
(*)(参考：ヒルティ/正木正譯『ヒルティの言葉：人間の存在と救済』2刷,羽田書店,1950年。)
(*)(参考：板垣直子『欧洲文藝思潮史』巖松堂書店,1950年。)
(*)(参考：杉浦明平『近代の思想—イタリアの近代思想』,1950年。)
(*)(参考：杉浦明平「イタリアにおける近代文学の形成過程」文学5月号,1950年。)
(*)(参考：平田禿木「地獄の巻きの一節」(ダンテ)人文学3,1950年。)
(*)(参考：ダンテ/山川丙三郎訳『新生』岩波文庫,岩波書店,1950年。)
(*)(参考：田近憲三編『Botticelli』東京堂,1950年。)
(*)武田武志「羽仁五郎著「ミケルアンヂェロ」--何を読むべきか」何を読むべきか1(1),1950年。
(*)西村貞二「ルネサンス精神史について—学界動向」史學雜誌59(10),1950年。)
(*)(参考：渡辺一夫『フランス・ルネッサンス断章』岩波新書, 岩波書店, 1950年。）
(*)(参考：渡辺一夫「フランス・ルネッサンスのユマニスムについて」(『仙人掌の歌』所収),中央公論社,1950年。)
(*)(参考：前田陽一『モンテーニュとパスカルのキリスト教弁証論』再版,創元社,1950年。)
(*)(参考：關根秀雄訳『モンテーニュ随想録(1-3)』白水社,1950年。）
(*)(参考:關根秀雄『モンテーニュ研究—モンテーニュを語る』再版, 人生論叢書2,創芸, 1950年。）
(*)(参考:モンテーニュ/關根秀雄訳『子供の教育について』世界思想選2,創芸社, 1950年。）
(*)(参考：加藤美雄「モンテーニュとその時代(1,2)」人文研究1(4,5・6),1950年。)
(*)(参考：佐藤輝雄「モンテーニュの自然の思想について」人文科学研究8,1950年。)
(*)(参考：関根秀雄「モンテーニュと教科書」教育現実2(2),1950年。)
(*)(参考：鈴木力衛『モリエール』世界文学はんどぶっく, 世界評論社, 1950年。）
(*)(参考：前田博「教養と有用—ゲーテの教育思想」哲学研究33(9),1950年。)
(*)(参考：石川道雄「ダンテ,シェイクスピア,ゲーテ」国文学 解釈と鑑賞15(2),1950年。)
(*)(参考：前田博「教養と有用—ゲーテの教育思想」哲学研究33(9),1950年。)
(*)(参考：ヤコブ・ブルクハルト/池井望訳「ギリシヤ人と美術家」立命館文學75,1950年。)
(*)(参考：小牧健夫「ヘルダーと若きゲーテ」(同『ドイツ浪漫派の人々』所収,アテネ新書25,弘文,1950年。)
(*)(参考：桑島健一「アメリカのゲーテ研究」世界の動き5(7),1950年。)
(*)(参考：藤井外輿「ゲーテの生活の宗教的意義」ドイツ文学5,1950年。)
(*)(参考：手塚富雄「ゲーテの詩論についての断想」詩学5(2),1950年。)
(*)(参考：中村真一郎「文学的転換期—ゲーテ百年祭の場合」評論41,1950年。)
(*)(参考：小島尚「シュペングラーのゲーテ観：アポロ的認識とファウスト的認識と」弘前大学人文社会1,1950年。)
(*)(参考：山田輝彦「ゲーテに於ける生の形式」文芸と思想1,1950年。)
(*)(参考：小口優「ヘルデル及びゲーテの世界観」人文科学研究8,1950年。)

(*)(参考 : 針生一郎「シラーの文藝様式説—ナイーブな文藝とゼンチュメンターリッシュな文藝」哲學雑誌6月号,1950年。)
(*)(参考 : 島村敎次「シラー傳説の誕生」ドイツ文学4,1950年。)
(*)(参考 : ズゼッテ・ゴンタルト/浅井真男訳『ディオティーマの恋文 : ヘルデルリーン ディオティーマ』新潮社, 1950年(→1951年, 再版)。)
(*)(参考 : 藤田健治「ブルクハルトとニーチェ—特にヘーゲル以後の精神史に現われる諸々の思想的類型と關聯して」理論4(3),1950年。)
(*)(参考 : H.Akiyama(ausgewählt u.erläutert)『Der jungen Nietzsche : ein Qullenbuch』Ikubunndo Verlag,1950) 。
(*)(参考 : 秋山英夫『ニーチェ論 : ディオニュソスと超人』理想叢書,理想社,1950年。)
(*)(参考 : 秋山英夫「藝術と實存 : アポロ的とディオニュソス的」独逸文学5,1950年。)
(*)(参考 : 斎藤忍随「ニーチェとクラッスィシェフィロロギー」哲學雑誌65(708),1950年。)
(*)(参考 : 原佑「ニーチェ序説」哲学雑誌65(708),1950年。)
(*)(参考 : 国松孝二「ニーチェルネサンス」雄鶏通信6(11),1950年。)
(*)(参考 : 国松孝二「ニーチェについて」(九州文学会)文学研究40,1950年。)
(*)(参考 : 川崎芳隆「ニーチェの生涯」書物5,1950年。)
(*)(参考 : 「ヤスパース小伝・著作・文献」理想203,1950年。)
(*)(参考 : 原佑「ヤスパースのニーチェ解釈」理想203,1950年。)
(*)(参考 : 竹内幹敏「トマス・モアにおけるヒューマニズムとカトリシズム」思想317,1950年。)
(*)(参考 : トーマス・モア/本多顕彰訳『ユートピア』世界文学選書36,三笠書房,1950年。)
(*)(参考 : 飯島正「「シーザーとクレオパトラ」について」映画芸術58(9),1950年。)
(*)(参考 : 滋野辰彦「シーザーとクレオパトラ」映画評論7(8),1950年。)
(*)(参考 : 滝沢一「シーザーとクレオパトラ」」映画新報5,1950年。)
(*)(参考 : 植草甚一「「シーザーとクレオパトラ」」キネマ旬報1,1950年。)
(*)(参考 : 越智文雄「詩人John MiltonのHomer理解」同志社女子大学学術研究年報1,1950年。)
(*)(参考 : 壽岳文章『ブレイク詩集』詩人全書,酣灯社,1950年。)
(*)(参考 : ペイタア/本多顕彰譯『享楽主義者マリウス』世界文學選書3,三笠書房,1950年。)
(*)(参考 : 小川武二「ペイターの文体論」福島大学学芸学部論集1,1950年。)
(*)(参考 : 峰尾都治「ウォルター・ペイターの人柄と其の作品」英文学思潮23(1),1950年。)
(*)(参考 : 元良勲「107 ギリシアの建築観(1,2,3)」日本建築學會研究報告8,1950年/11,12,1951年。)
(*)(参考 : 小林文次「パウル・フランクル著「建築史の研究」に就いて」建築史研究1,1950年。)
(*)(参考 : 小林文次「アメリカ建築史学会の一瞥」建築史研究2,1950年。)
(*)(参考 : 岸野雄三「ギリシャ裸話—裸体と体育」体育2(10),1950年。)
(*)(参考 : 山際靖「イオニア主義とドーリア主義合せてギリシヤのキトンのこと」(文化服装学院出版局)被服文化7,1950年。)
(*)村川堅太郎「自然と人間—自然感情について」哲學雑誌66(712),1950年。
(*)村川堅太郎「古代のあるびよん」あるびよん2,1950年。
(*)村川堅太郎「自然鑑賞について」ニューエイジ2(1),1950年。
(*)(参考 : 矢野健太郎「ギリシヤ人の算数」6・3教室4(5),1950年。)

(*)(参考：岡邦雄『大科學者傳—コペルニクス,プラーエ,ガリレオ,ケプラー,ニュートン：生涯と學説』文理書院,1950年。)
(*)(参考：ラムスバーガー/奥幸雄訳『科学とはどういうものか—その哲学的解明』(古代・中世の世界観)第一出版,昭和25年。)
(*)(參考：田中實編『自然科學入門』東峰書房,1950年。）
(*)(參考：矢島祐利『近世科學史』弘文堂,1950年。）
(*)(參考：和泉良久「アリストテレスの科学論」文化2(2),1950年。)
(*)(參考：三枝博音「プリニウスと自然誌の問題(1-3)」科学史研究13,14,16,1950年。)
(*)菅井準一「科学とヒューマニズム」理想24(10),1950年。
(*)(參考：船橋義明「古い占星術と新しい占星術」天文と気象16(5),1950年。)
(*)(參考：山本一清編『東西天文學史』(荒木俊馬「西洋天文学史」)図説天文講座8,恒星社厚生閣,1950年。)
(*)(參考：植村元覚「古代ギリシヤ商業の性格」富大経済論集1,1950年。)
(*)渡辺金一「村川堅太郎「羅馬大土地所有制」社會構成史體系第2巻所収」社会経済史学16(2),1950年。
(*)浅香正「書評 村川堅太郎「羅馬大土地所有制」」史林33(1),1950年。
(*)(參考：上原專祿「社会経済史研究におけるマックス・ウェーバー」一橋論叢24(5),1950年。)
(*)(參考：増田四郎「アルフォンス・ドープシュ」社會經濟史學6(2),1950年。)
(*)(參考：石川三四郎『西洋社会運動史』(仁書房,弘文社[発売],改訂増補版)。)
(*)「一橋経済学の75年、高橋誠一郎、藤本幸太郎、武井大助、高垣寅次郎、上田辰之助」一橋論叢24(3),1950年。
(*)(參考：武藤光朗「哲学は社会生活に何を教えるか—プラトン・ドストエフスキー・サルトルをめぐって」理想212,1950年。)
(*)(參考：今中次麿『政治学序説』九州大学,法学博士[報告番号不明],1950年。)
(*)(參考：村川堅太郎「プラトン『国家論』」展望57,1950年。)
(*)(參考：田中美知太郎「偶感—ある種の政治的風潮ついて」文藝7(9),1950年。)
(*)(參考：野上素一「ダンテの帝政論」(河出書房『世界思想辞典』),1950年。)
(*)(參考：モンテスキュー/大岩誠訳『ペルシャ人の手紙(上下)』岩波書店,1950年。)
(*)(參考：カムパネルラ/大岩誠訳『太陽の都』岩波書店,1950年。)
(*)(參考：蝋山政道「ラスキ教授の死を悼む」世界週報31(14),1950年。)
(*)「日本における政治学の過去と将来」政治学会研究年報,昭和25(→昭和43年,蠟山政道『叢書名著の復興 学生版　日本における近代政治学の発達・付録 討論　政治学の将来と未来』新泉社。
(*)(參考：アラン/加藤昇一郎・串田孫一訳『マルス：裁かれた戦争』思索社,1950年。)
(*)(參考：井上一「ユーダス・マッカバイオスの乱—ヘレニズム時代に於けるユダヤ人の統治者観」史学雑誌59(1),1950年。)
(*)(參考：パウル・ヴィノグラドフ/青山道夫譯『慣習と権利』改訂版,岩波文庫,岩波書店,1950年。)
(*)(參考：一柳俊夫「ホメーロスの詩篇に現われたる古代ギリシャの法律思想に就いて」早稲田法学会雑誌3,1950年。)
(*)(參考：柳沢義男『古代ギリシャの不動産法』中央大学,法学博士[報告番号不明],1950年。)

(*)田中耕太郎述・柳沢健著『生きてきた道：伝記・田中耕太郎』(顔：figures 6,世界の日本社,1950年。→1997年,大空社版。)
(*)(参考：田中周友『世界法史概説』有信堂,1950年。)
(*)(参考：柚木馨『ローマ法ニ於ケル賣主瑕疵擔甫責任ノ研究』立命館大学,法学博士[報告番号不明],1950年。)
(*)(参考：原田慶吉『ローマ法の原理』法原理叢書,弘文堂,1950年。)
(*)(参考：原田慶吉『ローマ法』法政大学通信教育部,1950年。)
(*)(参考：柚木馨『ローマ法ニ於ける賣主瑕疵擔保責任ノ研究』立命館大学,法学博士[報告番号不明],1950年。)
(*)矢田一男「日本におけるローマ法学界の近況—原田[慶吉]教授の学風を偲んで」法律時報22(12),1950年。
(*)(参考：比較法制史研究会「イェーリング「ローマ法の精神」第2巻邦訳(5)」季刊法律学8,1950年。)
(*)(参考：イェーリング/原田慶吉監修訳『ローマ法の精神(第1巻[1])』有斐閣,1950年。)
(*)(参考：河村泰啓「比較法前史素描—古代主として羅馬法発展史に現はれた比較法思想及比較法的方法施用の事例の跡づけ」日本私法学会私法33(1),1950年。)

(*)(参考：A.D.リンゼイ/木村健康・音田正巳訳『資本論入門』アテナ新書44,弘文堂,1951年。)
(*)(参考：運輸省観光部「ギリシヤの観光事業とその四ケ年計画(1)」国際観光3(5),1951年。)
(*)間島大治郎「ギリシヤに使いして」国際観光4(4),1951年。
(*)小松茂「祖国を離れて—ローマへの旅」世紀26,1951年。
(*)(参考：社会思想研究会編『西洋文化への省察』現代教養文庫8,社会思想研究会,1951年。)
(*)(参考：Hans Carossa“Aufzeichnungen aus Italien”Daigakushorin,1951.)
(*)(参考：モンテーニュ著/関根秀雄訳『モインテーニュ旅日記』再版, 白水社,1951年。)
(*)(参考：小松清「マルロオとギリシャの発見」理想213,1951年。)
(*)(参考：土方定一「ゴーガンの芸術とエジプト・ジャヴァ・古代ギリシャ」アトリエ301,1951年。)
(*)(参考：呉茂一「読書余録—ギリシャ人とわれわれ」読書人6,1951年。)
(*)(参考：呉茂一「ローマの文化」(平凡社版『美術全集3』所収),1951年。)
(*)(参考：呉茂一「ヘレニズム時代の文化」(平凡社版『美術全集6』所収),1951年。)
(*)(参考：大日正秀「ローマのキケロ(下)」師友15,1951年。)
(*)(参考：大日正秀「ローマを想う」師友16,1951年。)
(*)(参考：アルベリト・モラヴィア/清水三郎治訳『ローマの女(上下)』文藝春秋新社,1951年(→1966年,弘文堂版)。)
(*)(参考：ハンス・ティイツェ/中村二柄訳「精神科学的芸術史」文化史学4,1951年。)
(*)(参考：カール・ヤスパース/篠原正瑛訳「ヨーロッパ精神を論ず」群像6(3),1951年。)
(*)(参考：近藤晴彦「アルベール・カミュに於ける西欧精神の展開」愛知大学文学論叢4,1951年。)
(*)(参考：内山正熊「A.J.トインビー「試練下の文明」」日本政治學會年報政治學2,1951年。)
(*)(参考：A.トインビー/池本幸三訳[解説]「ロシアに継承されたビザンツの遺産」文化史学2,1951年。)
(*)(参考：大島康正「トインビーと世界史」理想217,1951年。)

(*)(參考：香原一勢「ヘルデルの史観(上)特にメーゼル・イゼーリン・ゲーテとの非類似」日本歴史36,1951年。)
(*)(參考：石田一良『文化史學の理論と方法』同志社大學出版部,1951年（→1955年,洋々社版。→1957年,再版。→1990年,ぺりかん社）。)
(*)林健太郎「東北大学西洋史研究室編「西洋文化史論大系第1巻」」史學雜誌60(3),1951年。
(*)(參考：澤柳大五郎「暗黒・模倣・独創」図書18,1951年。)
(*)(參考：木村荘八『少年芸術史1(ナイル河の草)』春秋社,1951年。)
----「考古學について」「ギリシアとローマ」「キリスト—キリスト教のこと」「バビロニア,アッシリア及びエーゲ海諸島の美術」「ギリシア」「ローマ」「ローマの壁画」「ヘラの像」「初期奉献女神像」「ラオコーン」「ミロのヴィーナス」「テネアのアポロ」「ヘルメス像」「人面牡牛」「カラカラ像」「ペリクレス像」「ホーマー像」「デモステネス像」「アウグスッス皇帝像」「ローマ市民」「ローマ凱旋門」
(*)(參考：村田数之亮編『西洋美術史』創元社,1951年。)
(*)(參考：村田潔編『ギリシア美術』世界美術大系5,講談社,1951年。)
(*)(參考：兒島喜久雄『レオナルド研究』岩波書店,1951年。)
(*)(參考：兒島喜久雄『西洋美術館めぐり』(2巻)美術出版社,1951年(→昭27)。)
(*)(參考：辻部政太郎『西洋美術』学生美術文庫刊行会,1951年。)
(*)參考：岩波書店編集部編・岩波映画製作所写真『様式の歴史：西洋美術』岩波書店,岩波写真文庫23,1951年(→1963年,美術出版社。→1990年,美術出版社。)
(*)參考：岩波書店編集部・岩波映画製作所編集・宮内廳書陵部写真『佛像：イコノグラフィー』岩波写真文庫42,岩波文庫,1951年。)
(*)(參考：柳宗玄「キリスト教美術史講座(1)カタコンブの絵画」世紀26,1951年。)
(*)(參考：柳宗玄「キリスト教美術史講座(2)ローマの聖堂装飾」世紀28,1951年。)
(*)(參考：柳宗玄「キリスト教美術史講座(3)ビザンテイン美術の形成と発展」世紀29,1951年。)
(*)(參考：柳宗玄「キリスト教美術史講座(4)西欧キリスト教美術の形」世紀30,1951年。)
(*)(參考：大阪市立美術館編『ポンペイの遺跡』美術館見學手帖4,大阪市立美術館,1951年。)
(*)(參考：小林剛「イタリヤの博物館と文化財に対する国民の意識」歴史評論5(7),1951年。)
(*)(參考：矢崎美盛「アレクサンドロスの石棺」世界61,1951年。)
(*)(參考：ねずまさし「合理主義先史学者チャイルド博士」図書24,1951年。)
(*)今井登志喜『都市発達史研究』(村川堅太郎「編者のことば」)東京大学出版部,1951年(→1978年復刻第1刷,東京大学出版会)。
(*)(參考：岩村忍『マルコ・ポーロ—西洋と東洋を結んだ最初の人』岩波新書,岩波書店,1951年。)
(*)井上忠「古学派から洋学へ」西南学院大学論集3(1),1951年。
(*)沼田次郎『幕末洋学史』刀江書院,昭和26年。
(*)杉本勲「沼田次郎著『幕末洋学史』」史學雜誌60(4),1951年。
(*)和辻哲郎『埋もれた日本』新潮社,昭和26年(→昭和55年,新潮文庫版)。
(*)和辻哲郎「埋もれた日本—吉利支丹渡来時代前後における日本の思想的情況」中央公論66(3),1951年。
(*)和辻哲郎『鎖國：日本の悲劇』(縮刷版)筑摩書房,1951年。

(*)池島重信「無限追求の精神—和辻哲郎著『鎖国』」地上5(5),1951年。
(*)大林太良「和辻哲郎著『鎖國：日本の悲劇：1951年1月(縮刷版)筑摩書房』」民族學研究16(2),1951年。
(*)岡田章雄「和辻哲郎「鎖国」--日本の悲劇」国文学16(9),1951年。
(*)(參考：矢島祐利・石田周三編『科學用語辞典』弘文堂,1951年。)
(*)(參考：新島繁「世界文学辞典類渉猟記」近代文学6(2),1951年。)
(*)(參考：渡邊一夫他編『世界文學辭典』河出書房,1951年。)
(*)(參考：平岡・呉・武村・土方編『西洋文学辞典』小石川書房,1951年。)
(*)(參考：思想人名辞典編集部編『思想人名辞典』第一出版,1951年。)
(*)(參考：田村松平編『科學人名辭典』アテネ文庫147,弘文堂,1951年。)
(*)(參考：相原信作『哲學人名辭典』アテネ文庫155,弘文堂,1951年。)
(*)(參考：山谷省吾『新約聖書辭典』アテネ文庫172,弘文堂,1951年。)
(*)(參考：酒詰仲男他『考古學辭典』改造社,1951年。)
(*)成瀬秀「井上十吉評傳」學苑2月号,1951年。
(*)田口花子「齋藤秀三郎評傳」學苑3月号,1951年。
(*)(參考：石田幹之助・山中謙二監修『世界史事典』河出書房,1951年(→1954年,普及版。)
(*)(參考：宗教辞典編纂会編『宗教辞典』堀書店,1951年(→梅田義彦・河野省三他編『宗教辞典』増補版,堀書店。)
(*)(參考：民俗学研究所編『民俗学辞典』東京堂出版,1951年。)
(*)(參考：出隆・古在由重共編『哲学用語辞典』増補版,青木文庫9,青木書店,1951年。)
(*)(參考：現代哲學辭典編集部編『現代哲學辭典』岩崎書店,1951年。)
(*)(參考：高山洋吉『思想人名辞典』第一出版,1951年。)
(*)(參考：マルセル・ジラール/渡邊淳訳『現代フランス文學事典：1918-現在』白水社,1951年。)
(*)久松潜一編『日本文學辭典』弘文堂,アテネ文庫171,1951年。
(*)(參考：上野一晴『解説医学用羅典語集』杏林書院,1951年。)
(*)岩井大慧「吉利支丹版拉葡日対訳辞典について」国立国会図書館支部東洋文庫,1951年。
(*)(參考：岩井大慧「ラテン語初刊本「東方見聞録」の錯簡について」読書春秋2(12),1951年。)
(*)新島繁「世界文学辞典類渉猟記」近代文学6(2),1951年。
(*)(參考：塚本虎二『福音書異同一覧：前三福音書共観』羽田書店,1951年。)
(*)(參考：高津春繁『ギリシア語讀本』要書房, 北星堂書店,1951年。)
(*)(參考：高津春繁『基礎ギリシア語文法』要書房, 北星堂書店,1951年。)
(*)(參考：松平千秋『ギリシャ語文法』創元社,1951年。)
(*)(參考：田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門』岩波全書, 岩波書店,1951年(→昭37,改訂版)。)
(*)(參考：サン・スピルス(J.トゥルデル師)/サン・スルピス大神学校訳『ラテン文法』改訂版,光明社,1951年。)
(*)(參考：田中秀央『ラテン語文法入門』訂正再版,臼井書房,1951年。)
(*)(參考：壽岳文章“A bibliographical study of W.Blake’s note-book”京都大学,文学博士[報告番号不明],1951年。)
(*)天理図書館『天理図書館稀書目録　和漢書之部 第二』(伊曽保物語)1951年。

(*)福原麟太郎「座談会：思い出の學生生活(1-3)」あるびよん6,1951年。
(*)福原麟太郎「傳統と古典：東と西」(目黒書店)人間6(3),1951年。
(*)弥吉光長「文庫本時代--何を読むべきか」刑政62(8),1951年。
(*)小倉金之助「何を読むべきか」読書人1,1951年。
(*)(參考：高津春繁「人文科学における言語学の位置」人文 特2,1951年。)
(*)(參考：高津春繁「Absorption of Arcadia into κοινη」言語研究17,18,1951年。)
(*)(參考：角田文衛「銘辞学の方法論」文化史学4,1951年。)
(*)天野敬太郎「日本におけるサルトル文献(1,2)」學燈48(11),1951年/54(4),1957年。
(*)筧五百里「上田万年博士の業績」国文学 解釈と鑑賞16(12),1951年。
(*)天野敬太郎「新村出博士著作目録(1-2)」書物展望18(1,2),1951年。
(*)「煙山専太郎先生著作目録」史観(34・35),1951年。
(*)田中英光『オリンポスの果實』角川文庫,角川書店,1951年。
(*)田中英光『オリンポスの果實』新潮文庫,新潮社,1951年。
(*)(參考：河合陟明「宗教本質論の関してヘレニズム・ヘブライズム・及ブディズム(要旨)」宗教研究127,1951年。)
(*)(參考：小島公一郎「STAUDACHER,Willibald,Die Trennung von Himmel und Erde：Ein vorgriechischen Schopfungsmythus bei Hesiod und orphikern,K. Bolzle, 1942.SS.xviii-121,W.シュタウダッハ著『天地の分離：Hesiodおよび Orphikerにおける先ギリシヤ的創造説話』」民族學研究16(2),1951年。)
(*)(參考：原隨園『ギリシァの神々』創元社,1951年。)
(*)(參考：ホーマー/石坂洋次郎訳・向井潤吉挿絵『オデッセイ物語』少年少女名作家庭文庫10,主婦之友社,1951年。)
(*)(參考：ギルバァト・マレィ/藤田健二訳『希臘宗教發展の五段階』岩波文庫,岩波書店,1951年。)
(*)(參考：三輪福松「ゼウスの恋愛」美術手帖47,1951年。)
(*)(參考：大林太良「アドニスの神話」季刊 民族學研究16(2),1951年。)
(*)(參考：富永惣一「クニドス島のヴィーナス」(Booksの会)Books：読書人の雑誌15,1951年。)
(*)矢代幸雄「ヴィナスの誕生—随筆ボテイチェリ(3)」藝術新潮2(6),1951年。
(*)(參考：大久保泰「ヴィーナスの誕生」別册文藝春秋20,1951年。)
(*)(參考：山本正男「アポロン的とディオニュソス的—芸術の体系生と歴史性との問題」美学1(4),1951年。)
(*)(參考：Ch.Kingsley/武井亮吉訳『The heroes=希臘英雄傳』(研究社英文譯註叢書,研究社出版,1951年。)
(*)(參考：アルベエル・カミュ/矢内原伊作訳『シジフォスの神話』新潮社,1951年(→1954年, 新潮文庫)。)
(*)(參考：アルベール・カミュ/矢内原伊作訳「「シジフォスの神話」」指12,1951年。)
(*)(參考：中野武彦「カミュ著,矢内原伊作訳「シジフォスの神話」」近代文学6(9),1951年。)
(*)(參考：ギルバート・マレー「偉大なる碩学—ジェイン・エレン・ハリソン女史に寄せて」あるびよん8,1951年。)
(*)(參考：上澤謙二・長道子『聖書と動物ものがたり集』中央出版社,1951年。)

(*)(参考 : ルー・ウォーレス/松本恵子訳『ベン・ハー : 圧制・闘争・栄光』英宝社,1951年。)
(*)(参考 : 神田盾夫「「ラメク書」の切開手術」独立5月号,1951年。)
(*)(参考 : C.H.ドッド/神田盾夫訳「新約研究三十年」福音と現代8月号。)
(*)(参考 : 蛭沼寿雄「新約聖書成立の経緯—新約正典史上におけるマルキオンの位置に就て」人文論究47(3),1951年。)
(*)(参考 : 蛭沼寿雄『新約聖書の成立』新教出版社,1951年。)
(*)(参考 : 太田三郎『新約聖書抄 : readings from the new testament』開隆堂,1951年。)
(*)(参考 : 松本卓夫『聖句研究 : 新約聖書』信仰指導叢書4,新教出版社,1951年。)
(*)(参考 : パスカル著/由木康訳『キリスト小傳』新教出版社,1951年。)
(*)(参考 : 塚本虎二『一の福音』三一基督教文庫2,三一書店,1951年。)
(*)(参考 : 黒崎幸吉『ルカ傳』改訂2版,明和書店,1951年。)
(*)(参考 : 沢村五郎『基督教案内』日本傳道隊文書伝道部,1951年。)
(*)(参考 : 小田実「倫理生活に就て—ロマ書研究(3)」基督教研究25(2),1951年。)
(*)(参考 : 基督教教育同盟會編『イエスの生まれるまで』創元社,1951年。)
(*)(参考 : 聖グリニョン・ド・モンフォル/尾方壽惠譯『聖母マリアに對するまことの信心』ドン・ボスコ社,1951年（→昭27年, 再版）。）
(*)(参考 : 土居友子「ロマ書七章における「我」の問題とパウロの人間観」神学3,1951年。)
(*)(参考 : 平石善司「アレクサンドリアのクレメンスの倫理思想—特に「覺智者」(完全な基督者)の理想像について」基督教研究25(1),1951年。)
(*)(参考 : 福富啓泰「ロゴス思想とヘレニズム・ドイツ浪漫哲学」茨城大学文理学部紀要・人文科学1,1951年。)
(*)(参考 : 須田豊太郎「古代ギリシャの自我」哲学雑誌66(713),1951年。)
(*)(参考 : 和辻哲郎『ギリシア倫理学史』要選書15,要書房,1951年。）
(*)(参考 : 岩崎勉『ギリシャの厭世観』理想社,1951年。)
(*)(参考 : 田中美知太郎『哲學的人生論』市民文庫16,河出書房,1951年。）
(*)(参考 : 村井實「アリストファネスのソクラテス」教育學研究18(6),1951年。)
(*)(参考 : 田中健二「ニーチェに於けるソクラテス像(上中下) : 一つのニーチェ解釈」人文研究2(8,9),1951年/3(1),1952年。)
(*)(参考 : 長澤信壽譯『プラトーン ; 國家(1,2)』弘文堂,1951年(→昭27)。)
(*)(参考 : 石井良博「フィールド著「プラトーンとその同時代者達」--紀元前四世紀に於ける生活と思想の研究」法学研究24(12),1951年。)
(*)(参考 : 藤井義夫『アリストテレスの倫理学—実践理性の発展史的研究』岩波書店,1951年。）
(*)(参考 : 平石善司「エウダイモニア—アリストテレス倫理学の性格」人文学5,1951年。)
(*)(参考 : 三渡幸雄「アリストテレスに於けるΦΑΛΤΑΣΙΑの概念規定について—その一節」広島大学文学部紀要1,1951年。)
(*)(参考 : 岩崎勉「アリストテレス(1,2,3)哲学古典解説」理想214,215,25(6),1951年。)
(*)(参考 : 佐藤三千雄「アリストテレスの可能性」龍國大學論集341,1951年。)
(*)(参考 : 今道友信「キケロとルクレティウス—哲学古典解説」理想220,1951年。)
(*)(参考 : 森進一「セネカ—慰めについて・幸福なる生について」理想222,1951年。)
(*)(参考 : 鹿野治助「エピクテートスとアウレリウス(哲学古典解説)」理想222,1951年。)
(*)(参考 : 岩崎勉「セクスッツ・エムピリクスとディゲネス・ラエリチオス」理想25(11),1951

年。)
(*)(參考：今道友信「聖アウグスチヌスとデカルト」哲学雑誌65(705),1951年。)
(*)(參考：新村出「パスカルの金言」學園新聞1/1,1951年。)
(*)(參考：ライプニッツ/河野與一譯『單子論』岩波文庫, 岩波書店,1951年(←昭11,大思想家文庫)。)
(*)(參考：カール・ヒルティ/山田幸三郎訳『我が民を慰めよ』(三一基督教文庫11,三一書店,1951年。)
(*)(參考：Karl Hilty/栗林茂編“Hilthys Essays”(Ikebunndo,1951.)
(*)(參考：亀井勝一郎編『幸福とは何か』(創元社学生シリーズ,創元社.1951年。)
------ 三谷隆正「幸福とは何か」/三木清「幸福について」/
谷川徹三「幸福について」/河上徹太郎「幸福と幸福論」/
串田孫一「孤独なる幸福」/市原豊太「生き甲斐について」/
亀井勝一郎「愛欲の悲劇と喜劇」/北森嘉蔵「聖書の教える幸福」/
荒正人「ストア派の幸福論」/石井立「ショペンハウエルの幸福論」/
陶山務「フィヒテの幸福論」/塩尻公明「ヒルティの幸福論」/
市原豊太「アランの幸福論」
(*)(參考：桂寿一『文藝復興期からフランス啓蒙期まで』西洋近世哲學史I,岩波全書,岩波書店,1951年。)
(*)野田又夫「桂寿一著「西洋近世哲学史1」」図書23,1951年。
(*)(參考：稲富栄次郎「ハイデッガーのヒューマニズム論」理想25(1),1951年。
(*)(參考：出隆『哲学以前』出隆選集1,三笠文庫21,三笠書房,1951年。)
(*)(參考：出隆『哲學教程』三笠書房,1951年。)
(*)(參考：高橋里美『私の哲学と人生観』角川書店,1951年。)
(*)(參考：山本光雄『哲学者の笑い』角川新書,角川書店,1951年。)
(*)(參考：中橋一夫「ヨーロッパにおける歴史文学の問題」文学10月号,1951年。)
(*)(參考：村尾力太郎「西欧古典文学の背景—古典文学と占星術」早稲田商学94,1951年。)
(*)(參考：桑原武夫「西洋文学研究者の自戒的反省」文学12月号,1951年。)
(*)(參考：中野好夫『文学の常識』(「アリストテレシスのカタルシス論」)要書房,1951年。)
(*)(參考：中野好夫『世界の文学』(「古代の文学」等)毎日新聞社),1951年。)
(*)(參考：中島健蔵他編『原典による世界文學史』河出書房,1951年。)
(*)前田治男『最新国語學習要覧』(世界哲学史・文学史年表)明明社,1951年。
(*)(參考：中村恭二郎編『トロイの木馬』新児童文庫,三十書房,1951年。)
(*)(參考：呉茂一「読書余録—ギリシャ人とわれわれ」読書人[復刊]6,1951年。)
(*)(參考：阿部知二「世界文學の成立」(筑摩書房)文学講座1,1951年。)
(*)(參考：島田謹二「比較文學」(筑摩書房)文学講座1,1951年。)
(*)(參考：大畑末吉「寓話とメルヒェン」(筑摩書房)文学講座3,1951年。)
(*)(參考：呉茂一「ギリシア・ローマの文學」(筑摩書房)文学講座2,1951年。)
(*)(參考：西脇順三郎「中世の叙事詩と物語」(筑摩書房)文学講座2,1951年。)
(*)(參考：高津春繁「イーリアスとオデュッセイア」(筑摩書房)文学講座6,1951年。)
(*)(參考：呉茂一「古代文學」(塙書房)文学便覧2(外國篇),1951年。)
(*)(參考：呉茂一「ヨーロッパ中世文學」(塙書房)文学便覧2(外國篇),1951年。)
(*)(參考：新関良三「ギリシャ古喜劇の翻訳」心4(8),1951年。)

(*)(参考：新関良三「ヨーロッパ古代の演劇論」(雲の会編・河出書房)演劇講座1「演劇の本質」,1951年。)
(*)(参考：新関良三「アリストテレスとホラチウス」(雲の会編・河出書房)演劇講座1「演劇の本質」,1951年。)
(*)(参考：呉茂一「演劇の黎明---ギリシャ劇について」(雲の会編・河出書房)演劇講座2「演劇の傳統」,1951年。)
(*)(参考：樋口勝彦「ローマの演劇」(雲の会編・河出書房)演劇講座2「演劇の傳統」,1951年。)
(*)(参考：熊沢復六「アリストテレスの戯曲論(3・完)戯曲論研究」喜劇悲劇5(5),1951年。)
(*)(参考：池田一朗「四つのアンチゴーネ(アヌイ論)」演劇8月号,1951年。)
(*)(参考：弓削達「最近に於けるホメーロス研究の一傾向--「統一性の牧者」によるアレクサンドリア批判学者の断罪」史学雑誌60(7),1951年。)
(*)(参考：新田潤「ホメーロスと酒」明窓2(2),1951年。)
(*)(参考：アイスキュロス/呉茂一訳『アガメムノン』岩波文庫,岩波書店,1951年。)
(*)(参考：アリストパネース/高津春繁訳『女の平和：リューシストラテー』岩波文庫,岩波書店,1951年。)
(*)(参考：アリストファーネース/村川堅太郎訳『アカルナイの人々』岩波文庫, 岩波書店, 1951年。)
(*)宇尾野久「アリストファネス作 村川堅太郎博士譯註『アカルナイの人々』」社會經濟史學17(6),1951年。)
(*)(参考：河出書房編『世界文学全集[第2期]2(古典篇, ギリシア・ローマ物語・喜劇篇)』河出書房,1951年。)

----アプレオウス：「黄金の驢馬」呉茂一訳
ルキアノス：「ルキアノス作品集」呉茂一訳
ティモン：「本当の話」呉茂一訳
アレクサンドロス：「嘘好きまたは偽予言者」高津春繁訳
アリストパネス：「雲」高津春繁訳
アリストパネス：「女だけの祭り」呉茂一訳

(*)(参考：プルターク/前田晃訳・池田勝之助絵『プルターク英雄伝・ギリシヤ人の巻』世界名作童話,同和春秋社,1951年。)
(*)(参考：高津春繁「追放の後に来るもの—オストラキスモスについて」法律時報23(7),1951年。)
(*)(参考：ゴーティエ/田邊貞之助譯『或る夜のクレオパトラ』市民文庫14, 河出書房,1951年。)
(*)(参考：野口真造「クレオパトラ以前—古代エジプトの繁栄」染織芸術2(9),1951年。)
(*)(参考：佐々木弘雄「劇中人物としてのクレオパトラ劇」福岡商大論叢2(1),1951年。)
(*)(参考：近山金次「大ローマの没落と教会」世紀25,1951年。)
(*)(参考：秀村欣二「W.ホフマン「紀元前218年におけるローマのカルタゴに対する戦線布告」史学雑誌69(11),1951年。)
(*)(参考：ギボン著/村山勇三訳『ローマ帝國衰亡史(1-10)』岩波文庫,岩波書店,1951年。)
(*)(参考：鶴見祐輔『ナポレオン』新版, 太平洋出版社,1951年。)
(*)(参考：『総合歴史年表：日本・世界』日地出版,1951年。)

(*)(参考：旺文社編『総合歴史年表』旺文社,1951年。)
(*)(参考：西荻書店編集部編『世界史対照歴史年表』西荻書店,1951年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男『学習世界史地図帳』吉川弘文館, 1951年。)
(*)鮎澤信太郎「幕末の國學界に利用された泰西地理學」横濱市立大學論叢3(4),1951年。
(*)「ドイツ歴史学界の現況と今後の課題」史學雑誌60(2),1951年。)
(*)(参考:林健太郎「東北大学西洋史研究室編「西洋文化史論大系第1巻」」史學雑誌60(3),1951年。)
(*)高橋昌郎「隅谷三喜男著「近代の形成とキリスト教」」史學雑誌60(3),1951年。)
(*)「1950年の歴史学界—回顧と展望」史學雑誌60(5),1951年。)
(*)高橋昌郎「大畑清著「イエス時代史の研究—イエス時代のユダヤ教の研究を中心とせる」」史學雑誌60(6),1951年。)
(*)(参考：太田秀通「A.E.ラウビチェック「陶片追放の起源」」史學雑誌60(11),1951年。)
(*)(参考：秀村欣二「AW.ホフマン「紀元前218年におけるローマのカルタゴに対する宣戦布告」」史學雑誌60(11),1951年。)
(*)井上幸治「世界史にふれて—二,三の新刊書」読書人4,1951年。)
(*)(参考：「世界史教育を語る—東大西洋史出身の若い先生たちの経験から(座談会)」歴史評論5(7),1951年。)
(*)(参考：九州大学世界史研究会編『世界史』世界社,1951年。)
(*)(参考：村田數之亮・吉原好人他『西洋の起源』京大西洋史1,新版,創元社,1951年。)
(*)(参考：亀井高孝『西洋史概要』勁草書房,1951年。)
(*)(参考：村川堅太郎『西洋史提要』改訂版,秀英出版,1951年。)
(*)(参考:村川堅太郎・江上波夫・林健太郎/史学会編『世界史』改訂版,山川出版社,1951年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎編『史料世界史(上下)』山川出版社,1951年。)
(*)(参考：村川堅太郎編『人物世界史：西洋』毎日ライブラリー,毎日新聞社,1951年。)
(*)(参考：村川堅太郎「ジョージ・トムソン教授の業績—世界の学界」思想323,1951年。)
(*)(参考：上原專祿「近代的歴史意識の形態」理論15,1951年。)
(*)(参考：千代田謙「普遍史としての史学史」広島大学文学部紀要1,1951年。)
(*)(参考：宮本富士雄「ヘーゲルにおける世界史」理想217,1951年。)
(*)(参考：樺俊雄「ブルックハルトと世界史」理想217,1951年。)
(*)(参考：高山岩男「世界史の理念」理想217,1951年。)
(*)(参考：福田正俊「基督教の歴史意識—特に世界史的自覚の関連において」理想217,1951年。)
(*)(参考：会田雄次「ブルクハルトとニーチェ(上下)」西洋史学9,11,1951年。)
(*)(参考：金子武蔵「ヤスパースの歴史哲学」心4)8),1951年。
(*)(参考：杉浦明平『世界文学案内』100ページシリーズ,中教出版,1951年。)
(*)(参考：杉浦明平「ルネサンス」(塙書房)文学便覧2(外國篇),1951年。)
(*)(参考：柏熊達生・會田由「南歐(イタリア,スペインその他文学)」(塙書房)文学便覧2(外國篇),1951年。)
(*)(参考：ダンテ/中山昌樹譯『神曲：煉獄篇・天國篇』再版,風間書房,1951年。)
(*)(参考：新村出「ダンテ回想」ダンテ学会誌11月号,1951年。)
(*)(参考:沢田昭夫「ジョゼフ・ルクレ—エラスムスと十六世紀キリスト教者の一致の危機」史学雑誌60(8),1951年。)

(*)(參考：中島健蔵「ルネサンスと宗教改革」(筑摩書房)文学講座2,1951年。)
(*)(參考：杉捷夫「古典主義時代」(筑摩書房)文学講座2,1951年。)
(*)(參考：野上素一「ボッカチオ」(筑摩書房)文学講座2,1951年。)
(*)(參考：竹友(乕雄)藻風「ダンテ」(筑摩書房)文学講座2,1951年。)
(*)(參考：竹友(乕雄)藻風「神曲」(筑摩書房)文学講座6,1951年。)
(*)(參考：渡邊一夫「ガルガンチュワとパンタグリュエル」(筑摩書房)文学講座6,1951年。)
(*)(參考：弥永勝太「ヒューマニストとしてのサー・トマス・モア」久留米大学論叢 人文・社会科学4(1),1951年。)
(*)(參考：加藤隆久「トーマス・モアーの生涯」法曹公論52(2),1951年。)
(*)參考：沢田昭夫「ジョゼフ・ルクレー—エラスムスと十六世紀キリスト教の一致の危機」史学雑誌60(8),1951年。)
(*)(參考：外国文学研究会編・舟木重信監修『教養のための世界文学』大村書店,1951年。)
(*)(參考：高沖陽造『世界文学：ダンテからジイドまで』再版,評論社,1951年。
(*)(參考：前田利道「ゲーテの永世観をめぐる覺書」ドイツ文学6,1951年。)
(*)(參考：桜井国隆「ゲーテ・シラー提携の序幕—ドイツ古典主義の一面」高知大学研究報告 人文科学1,1951年。)
(*)(參考：稲葉英文「青年期ゲーテの抒情詩(1,2)」文学研究6,7,1951年。)
(*)(參考：金尾音美「ゲーテにおける調和の問題」山口大学文学会誌2(2),1951年。)
(*)(參考：住吉勇「シラーの〈優美と尊厳〉に於ける人間性について」山形大学紀要・人文科学4,1951年。)
(*)(參考：櫻井國隆「ドイツ古典主義の一面—ゲーテ,シラー提携の字幕」高知大学人文研究報告・人文科学1,1951年。)
(*)(參考：大沢峰雄「教養理想についての覚書—美しき魂の問題,ゲーテとシラー」ドイツ文学6,1951年。)
(*)(參考：岡崎初雄「ゲーテの人間形成：二つの献詞に寄せて」文学紀要1,1951年。)
(*)(參考：川本正良「ゲーテと鴎外—マルクシズムより見られたる」愛媛大学紀要 第1部,人文科学1(2),1951年。)
(*)(參考：氷上英廣「ニーチェ」(筑摩書房)文学講座2,1951年。)
(*)(參考：カール・ヤスパース/高橋義孝訳「異端者—ニーチェ・キェルケゴール・マルクス」人間6(5),1951年。)
(*)(參考：秋山六郎兵衛「ハウプトマンのギリシャ主義：エロスを中心として」獨佛文學研究1,1951年。)
(*)(參考：ヘルデルリーン/吹田順助訳『ヒュペーリオン』新潮文庫,新潮社,1951年。)
(*)(參考：志村博「一つのヘルダーリン論」ドイツ文学6,1951年。)
(*)(參考：野村一郎「ヘルダーリンに於ける〈希臘〉と〈獨逸〉の問題」ドイツ文学6,1951年。)
(*)(參考：カール・ヤスパース/高橋義孝訳「異端者—ニーチェ,キェルケゴール,マルクス」人間6(5),1951年。)
(*)(參考：秋山英夫『ニヒルと神：キェルケゴールとニーチェ』社会思想研究会出版部,1951年。)
(*)(參考：土井虎賀壽「はかなきものの美しさについて—ヘラクレイトスの生成流転とニーチェの永劫回帰」思想330,1951年。)

(*)(参考：三崎義泉「ニーチェの実存主義的歴史観」文化史学4,1951年。)
(*)(参考：浅井眞男「ニーチェ解釈の歴史」綜合世界文藝3,1951年。)
(*)(参考：原田義人「人間の教師ニーチェ」新しい学校3(7),1951年。)
(*)(参考：山本正男「アポロン的とディオニュソス的—芸術の体系性と歴史性との問題」美学1(4),1951年。)
(*)(参考：北村義男「R.ワーグナアと古代ギリシャ[正続]」山口大学文学会誌2(2),1951年/3(1),1952年。)
(*)(参考：秋山六郎兵衛「ハウプトマンのギリシャ主義—エロスを中心として」独仏文学研究1,1951年。)
(*)(参考：横溝政八郎「ハウプトマン劇に於ける象徴とエロスについて」ドイツ文学7,1951年。)
(*)(参考：松尾正路「ミシエル・モンテーニュの自由」人文研究2,1951年。)
(*)(参考：ジャン・ゲーノー/渡邊一夫訳『フランスの青春：モンテーニュからジョレースまで』みすず書房,1951年。)
(*)(参考：関根秀雄『モンテーニュを語る』角川新書13,角川書店,1951年。)
(*)(参考：関根秀雄訳『モンテーニュ随想録抄』角川文庫,角川書店,1951年。)
(*)(参考：モンテーニュ/関根秀雄訳『随想録—選註(上下)』創元文庫,創元社,1951年。)
(*)(参考：ラ・ロッシュフコオ著/関根秀雄訳『マクシム：格言と反省』白水社,1951年。)
(*)(参考：A.フランス著/関根秀雄訳『エピキュールの園』白水社,1951年。)
(*)(参考：関根秀雄『佛蘭西文學史序説』岩波書店,1951年。)
(*)(参考：ラブレー/大澤寛三訳『ガルガンチュワ・パンタグリュエル物語』少年少女のための世界文学選26,小峰書店,1951年。)
(*)(参考：ラ・ロッシュフコオ/関根秀雄訳『マクシム—格言と反省』白水社,1951年。)
(*)(参考：ツヴァイク/青柳瑞穂訳『スタンダール』新潮社,1951年。)
(*)(参考：カミュ・アルベール/矢内原伊作訳「シジフォスの神話」指12,1951年。)
(*)(参考：島田謹二『比較文学序説』河出書房,1951年。)
(*)(参考：島田謹二『翻訳文学』日本文學教養講座13,至文堂,1951年。)
(*)(参考：R.G.モウルトン/本多顕彰譯『文學の近代的研究：文學の理論及び解釋の序論』岩波書店,1951年。)
(*)(参考：福原麟太郎『朝日新講座：英文學』朝日新聞社,1951年。)
(*)(参考：日本演劇學會編『シェイクスピア研究』(中央公論社)演劇學雑誌2,1951年。)
(*)(参考：本多顕彰『シェイクスピアの研究』弘文社,1951年。)
(*)(参考：中野好夫「シェイクスピア」(筑摩書房編輯部『文学講座・第2巻』所収,1951年。)
(*)(参考：シェイクスピア/中野好夫訳『ジュリアス・シーザー』岩波文庫, 岩波書店,1951年。)
(*)(参考：加納秀夫『イギリス浪漫派詩人』研究社,1951年。)
(*)(参考：ギッシング/中西信太郎訳『ヘンリ・ライクロフトの私記』岩波文庫,岩波書店,1951年。)
(*)(参考：村岡勇「ドライデンの「トロイラスとクレシダ」」(東北大学文学会)文化15(2),1951年。)
(*)(参考：中桐宣也「現代ミルトン研究」明治学院論叢21,1951年。)
(*)(参考：平井正穂「T.S.エリオット」(筑摩書房)文学講座3,1951年。)

(*)(参考：伊藤整「ジョイス」(筑摩書房)文学講座4,1951年。)
(*)(参考：安藤一郎「ユリシーズ」(筑摩書房)文学講座6,1951年。)
(*)都田恒太郎「日本の伝道と聖書」開拓者47(3),1951年。)
(*)木方庸助「謡曲に現われた聖書物語の影響」神戸外国語大学論叢2(3),1951年。
(*)高岸照子「高橋五郎評傳」學苑11月号,1951年。
(*)野村八良「明治大正の学界に影響した西洋の文学論」学苑13(7),1951年。
(*)新村出訳『イソップものがたり』小学生全集5,筑摩書房,1951年(←昭22東京出版)。
(*)宮脇紀雄・武井武雄え『イソップ物語・イソップ寓話2』世界名作童話全集28,講談社,1951年。
(*)宮脇紀雄・安泰え『イソップ物語・イソップ寓話3』世界名作童話全集42,講談社,1951年。
(*)藤波登・しのざき凡え『イソップものがたり』世界童話文庫8,宝文館,1951年。
(*)江上フジ・横田昭次え『イソップ童話』名作世界童話,宝文館,1951年。
(*)松村武雄・きよはらひとし絵『イソップどうわ』世界童話,あかね書房,1951年。
(*)イソップ原作/松村武雄編・宮脇紀雄『イソップ物語：イソップ寓話(1-3)』世界名作童話全集4,28,42,大日本雄弁会講談社,1951年。
(*)寺西武夫訳注『イソップ物語』研究社新英文訳註叢書1,研究社,1951年。
(*)木下一ニ訳『イソップえばなし』東京読書会,1951年。
(*)山座たいら作；相模原平吉画『ライオンとこねずみ』(イソップ童話選1)短編紙芝居選集,東京画劇社,1951年。
(*)(参考：ラ・フォンテーヌ/市原豊太訳『ラ・フォンテーヌ寓話（上下）』白水社,1951年。)
(*)野村八良「近刊の文学入門書」學苑13(7),1951年。
(*)荒木良雄「庶民文学としてのお伽草子」文学19(10),1951年。
(*)山岸徳平「島津久基先生」(百合若)国文学 解釈と鑑賞16(12),1951年。
(*)大内兵衛「古典的教養は難しい—「ケーベル先生とともに」をよむ」心4(7),1951年。
(*)久保勉『ケーベル先生とともに』岩波書店,1951年。
(*)姉崎正治『わが生涯』(ケーベル等)養徳社,1951年。
(*)安倍能成「「ケーベル先生とともに」序す」(ケーベル)心4-4,1951年。
(*)大内兵衛「古典的教養はむずかしい,「ケーベル先生とともに」をよむ」心4(7),1951年。
(*)服部英次郎「回顧」哲學研究35(2),1951年。
(*)滝沢典子「金子筑水評傳」學苑3月号,1951年。
(*)金沢ヒロ子「依田学海評傳」學苑11月号,1951年。
(*)白山亮一「明治思想界の先覚清沢満之を語る」仏教思想4(6),1951年。
(*)前嶋信次「史話・高楠順次郎(1-4)」大法輪18(7,8,9,10)1951年。
(*)秋永好郎「山室軍平」ニューエイジ3(7),1951年。
(*)「土井晩翠先生年譜」詩界2,1951年。
(*)中野好夫「岳父土井晩翠を語る--土井晩翠記念号」詩界2,1951年。
(*)(参考：大倉三郎「28「ゼンベルの被覆概念から見たギリシャ建築論について」」日本建築學會研究報告15,1951年。)
(*)(参考：小林文次「オリュントス市とその住宅」日本大学工学研究所彙報2,1951年。)
(*)(参考：野村茂治「18 西歐古典社会に於ける立座の発展(ギリシャの部)」日本建築學會研究報告11,1951年。)
(*)村川堅太郎「自然と人間—自然感情の問題について」哲学雑誌66(712),1951年。)

(*)海老沢有道「幕末における基督教科学書の出版」基督教史学1,1951年。
(*)(參考 : 石坂義一「3.ギリシヤに於けるダクツュロイより競技への移行と其の政治的意義」体育学研究1(1),1951年。)
(*)(參考：岸野雄三「4 ギリシャ競技の典型：「オデュッセイア」第八歌の研究」体育学研究1(1),1951年。)
(*)(參考：野口源三郎『オリンピック』教育文庫,金子書房,1951年。)
(*)(參考：鈴木良徳『オリンピックの知識』金子書房,1951年。)
(*)(參考：鈴木良徳『オリンピックの話』中學生全集54,筑摩書房,1951年。)
(*)(參考：水野忠文「プラトーンの体育思想」体育學研究1(1),1951年。)
(*)(參考 : 岸野雄三「プラトーンの体操規程とその歴史事情」体育學研究1(2suppl.)2,1951年。)
(*)(參考：林巖「8.アリストテレスの体育思想と運動論の考察」体育學研究1(2suppl.)2,1951年。)
(*)(參考：水野忠文「アリストテレスの体育思想：ギムナスティケーの概念構成」体育學研究1(2suppl.)2,1951年。)
(*)(參考：高野巽「ゲーテに於ける自然研究の意義」法文論叢2,1951年。)
(*)(參考：野尻抱影『星座神話』再版, 研究社,1951年。）
(*)(參考：田中實『化學の歴史』科學知識文庫2,學藝図書,1951年。）
(*)(參考：田中實『自然科學史：原始社會より産業革命期まで』アテネ文庫158,弘文堂,1951年。）
(*)(參考 : 岩崎允胤「ガリレオ・ガリレイの真空論の哲学史的考察(1)」哲学雑誌66(713),1951年。)
(*)(參考：矢島祐利「オウギュスト・コントと科学史」科学史研究14,1951年。)
(*)(參考：矢島祐利「フランスにおける科学史研究」科学史研究17,1951年。）
(*)(參考：三田博雄「アルキメデスの“牛の問題”」科学史研究18,1951年。)
(*)「書評および紹介—岡邦雄著「自然科学史」他」科学史研究20,1951年。
(*)三上義夫「我が歴史の研究（遺稿）」史学研究43,1951年。
(*)三上義夫「科学史の研究についての希望」科学史研究17,1951年。
(*)(參考：矢島祐利「フランスにおける科学史研究」科学史研究17,1951年。)
(*)大矢真一「三上義夫先生著作論文目録(1)大正11年以降」科学史研究18,1951年。
(*)小倉金之助「三上義夫博士(1875-1950)とその業績」科学史研究18,1951年。
(*)(參考：佐々木淳寿「進化説—ギリシヤ~ダーウィンまで」明治学院論叢23,1951年。)
(*)(參考 : ローゼンベルグ・ブリューミン著/橋本弘毅訳『經濟學史(上下)』新興出版社,1951年。)
(*)(參考 : 渡辺金一「ヘレニズム埃及社会経済史の二大業績」(M.Rostovzeff,C.Préaux)一橋論叢26(5),1951年。)
(*)(參考：渡辺金一「USIAKOI MISTHOAIについて：羅馬帝制期における属州埃及所在皇帝御料地(usiai)経営の一側面」一橋論叢26(5),1951年。)
(*)(參考：宮本又次「古典古代に於ける農耕的と商工的(上下)」(九州大学経済学会)経済学研究17(3),1951年/18(1),1952年。)
(*)上田辰之助「著者の悲哀—本虫の漫想」あるびよん6,1951年。
(*)(參考：原随園「ノモスからフエシスへ」史観(34・35),1951年。)
(*)(參考：山本光雄訳『政治学』アリストテレス全集15,河出書房,1951年。)

(*)(参考：永野羊之輔「アリストテレース倫理学における個人とポリス—「倫理学」の「国家学」に対する関係を中心として」哲学2,1951年。)
(*)(参考：大類伸「ルネサンスと市民精神」歴史研究評論4月号,1951年。)
(*)(参考：トマス・モア/平井正穂訳『ユートウピア』若月名著選,若月書店,1951年。)
(*)(参考：モンテスキュー/大岩誠訳『ペルシャ人の手紙(上下)』岩波書店,1951年。)
(*)(参考：ヴォルテール/池田薫訳,モンテスキュー/大岩誠訳『カンディード,ペルシャ人の手紙』河出書房,1951年。)
(*)(参考：マキアヴェルリ/大岩誠訳『君主論』酣燈社,1951年。)
(*)(参考：柴山英一「「ローマ史論」を通じて觀たニコロ・マキアヴェルリの社會思想」静岡大学教育学部浜松分校研究報告：研究と教授2,1951年。)
(*)(参考：石井良博「J.ボウル「西歐政治思想」」日本政治學會年報政治學2,1951年。)
(*)(参考：五十嵐豊作「E.カッシーレル「國家の神話」」日本政治學會年報政治學2,1951年。)
(*)高橋陸郎「明治初期における平和思想—中村敬宇を通じて見たる」日本歴史33,1951年。
(*)(参考：西村貞二「近代自然法の起源」(東北大学文学会)文化15(2),1951年。)
(*)(参考：船田享二「ローマの法学とギリシヤの自然法論」法哲学四季報(7-8),1951年。)
(*)(参考：久保正幡「ゲルマン法史上におけるローマ法の継受」比較法雑誌1(2),1951年。)
(*)(参考：福島四郎「ローマとゲルマン相続法の比較的概観(1)」関西大学法学論集1(2),1951年。)
(*)(参考：田中周友『法学概論』再版,有信堂,1951年。)

(*)(参考：出隆『哲學教程：マルクス主義哲學の基礎について』青木文庫75,青木書店,1952年。)
(*)(参考：中野正「A.D.リンゼイ「マルクスの資本論—入門的試論」」」経済志林20(2),1952年。)
(*)(参考：田中香浦「世界文明のなかの日本の位置」真世界3(8),1952年。)
(*)(参考：原随園『ギリシア文化』創元社,1952年。)
(*)田中耕太郎『南欧芸術旅行』(ギリシア,イタリア等)文藝春秋新社,昭和27年。
(*)(参考：福井文雄「決定の海「地中海」」婦人公論38(7),1952年。)
(*)(参考：三浦一郎「紀元前五・四世紀のアテナイの観客」茨城大学文理学部紀要,人文科学2,1952年。)
(*)間島大治郎「ギリシャに旅して」運輸2(1),1952年。
(*)武田清子「ギリシャの巡歴(上下)」ニューエイジ4(1,2),1952年。)
(*)(参考：帆足計「ローマからコペンハーゲンへ」ニューエイジ4(7),1952年。)
(*)三島由紀夫「希臘・羅馬紀行」芸術新潮3(7),1952年。
(*)三島由紀夫『アポロの杯』朝日新聞社,1952年。
(*)(参考：伊藤愿「パルテノン神殿」建設時報4(6),1952年。)
(*)(参考：村田潔「オリュンピア」東北大学文学部年報3月号,1952年。)
(*)(参考：三木利英「ローマの廃墟」鳥取大学学芸学部研究報告,人文科学3,1952年。)
(*)(参考：金山政英「永遠の都に十一年[ローマ]」文藝春秋30(13),1952年。)
(*)(参考：伊藤愿「ヨーロッパ拾遺—非戦災都市ローマ」建設月報5(10),1952年。)
(*)(参考：長谷川路可「ローマの「復活祭前後」」声891,1952年。)
(*)(参考：加藤寛一「ローマ雑記」金融界4(3),1952年。)

(*)(参考：ゲーテ/高橋健二訳『「詩と真実」抄：わが生活から：イタリア紀行：書簡集から』ゲーテ作品集創元社,1952年。)
(*)(参考：成田英夫「ゲーテ―「ローマ哀詩」に成立に関して」人文科学研究4,1952年。)
(*)(参考：リットン/柴田錬三郎著『ポンペイ最後の日』世界名作物語,偕成社,1952年。)
(*)(参考：定金右源二『古代東方史再建の基礎的研究：近代における発掘調査を中心に』早稲田大学,文学博士[報告番号不明],1952年。)
(*)(参考：小林文次「オリュントス市の遺跡」古代学1(1),1952年。)
(*)(参考:小林文次「24 古代ローマ市の上水道について」日本建築學會研究報告18,1952年。)
(*)(参考：中村英勝「英国開化小史(3)ローマのブリタニア征服」あるびよん15,1952年。)
(*)「アーノルド・トインビー著,蝋山政道・阿部行蔵共訳『歴史の研究』第1巻」師友27,1952年。
(*)(参考：A.J.トインビー/深瀬基寛訳『試練に立つ文明：全』特装版&普及版社会思想選書,社会思想研究会出版部,1952年。)
(*)(参考：A.J.トインビー/深瀬基寛訳『試練に立つ文明(上下)』社会思想研究会出版部,1952年(→1960年,現代教養文庫版。)
(*)安井美樹「トインビー著,深瀬基寛訳『試練に立つ文明』世紀37,1952年。
(*)杉勇「A.J.トインビー著『試練に立つ文明』中央公論67(10),1952年。
(*)(参考：鈴木成高「トインビー―人と学問」出版ニュース212,1952年。)
(*)(参考：寿岳文章「トインビーの史観(春季公開講演要旨)」大谷学報32(2),1952年。)
(*)(参考：光益徹也「十五世紀伊太利芸術に於ける人間像の研究(1)」静岡大学教育学部研究報告3,1952年。)
(*)(参考：安井曾太郎等編『少年美術館 続編1(古代東方)』(エジプト,メソポタミア,エトルリア,エーゲ海等の彫刻・工芸品34点写真図版)岩波書店,1952年。)
(*)(参考：京都大学美学美術史研究会編『西洋美術史』都出版社,昭和28年。)
(*)(参考:村田数之亮「ギリシヤ人の美術 講座 美の歴史 西洋(3,4)」美術教育1952(7,8),1952年。)
(*)(参考:木檜禎夫「西洋美術の歩み(1)原始美術とギリシャ美の世界」中学教育技術・数学・理科・図工2(1),1952年。)
(*)(参考：木檜禎夫「西洋美術の歩み(2)ローマから中世へ」中学教育技術・数学・理科・図工2(2),1952年。)
(*)(参考：高橋忠弥「西洋美術史(1-5)」アトリエ309-313,1952年。)
(*)(参考:木内克「エジプト・西南アジア・アッシリア・ギリシャ・ローマ・ヴィザンチン・ゴチック―の眼」アトリエ310,1952年。)
(*)(参考：富永惣一『美術の歴史と見方』学生教養新書,至文堂,1952年。
(*)(参考:アンドレ・マルロオ/小松清訳「東西美術論(22,23)ビザンチン芸術」芸術新潮3(5,6),1952年。)
(*)(参考：玉眞秀雄「168.西欧におけるビザンチン様式の分布について」日本建築學會研究報告17,1952年。)
(*)(参考：野上素一「イタリアの展覧会のあり方」美術手帖57,1952年。)
(*)「編集者の回想録(19)---児島喜久雄」図書33,1952年。
(*)三輪福松「レオナルドと児島喜久雄」図書34,1952年。
(*)澤柳大五郎「児島[喜久雄]先生と「レオナルド研究」」図書34,1952年。

(*)矢代幸雄「児島とレオナルド」図書38,1952年。
(*)(参考：矢代幸雄『受胎告知』創元社,1952年（→1973年,再版,新潮社）。)
(*)澤柳大五郎「鷗外と美学」文学20(4),1952年。
(*)辻善之助「江戸時代の町人と西洋文明」ソフィア1(2),1952年。
(*)鮎澤信太郎「異国風土記について—華夷通商考との関係」歴史地理83(2),1952年。
(*)阿部良三「明治初期に於ける洋学輸入の必然性」秋大史学1,1952年。
(*)(参考：田中秀央編『羅和辞典』研究社辞書部,1952年。)
(*)(参考：田中秀央・落合太郎編『ギリシア・ラテン引用語辞典』増補版,岩波書店,1952年。)
(*)Sanki Ichikawa,Madsami Nishikawaand Mamoru Shimizu,(ed.)THE KENKYUSHA DICYTIONARY OF ENGLISH QOTATIONS,with Examples of their Use by Modern Authors,Edited by ,Kenkyusha,1952.
(*)(参考：黒崎幸吉『新約聖書語句索引』永遠の生命社,1952年。)
(*)日本学術会議編『文科系文献目録(11-31)』(日本学術会議),1952-1986年。
(*)(参考：小原國芳編『世界人名辞典』玉川児童百科大辞典30,玉川大学出版部,1952年。)
(*)(参考：大類伸監修『世界人名辞典』(西洋篇・東洋篇)東京堂,1952年。)
(*)(参考：呉茂一・島田謹一監修『世界文学辞典：宝玉百科』学燈社,1952年。)
(*)(参考：加茂儀一・田中實・山崎俊雄『圖解科學技術史事典』弘文堂, 1952年。）
(*)(参考：出隆他編『哲学入門辞典』岩崎書店,1952年。)
(*)(参考：出隆・古在由重共編『哲學用語辭典』再版青木文庫9,青木書店,1952年(→1956年,3版)。)
(*)(参考：玉城肇編『明解西洋思想家辭典』古明池書店,1952年(→1961年,東西堂版。)
(*)飯野哲二他編『新撰日本文學大辞典』學燈社,1952年。
(*)野間清六・谷信一編『日本美術辞典』東京堂,1952年(→1953年,3版。→1955年,訂正3版。→1956年,訂正5版。→1958年,訂正7版。→1959年,訂正9版。→1966年,訂正18版。→1967年,20版。→1968年,21版。→1969年,22版。→1973年,29版。→1975年,31版。→1977年,33版。→1978年,34版)。
(*)(参考：石上良平『社会科学用語辞典』アテネ文庫190,弘文堂,1952年。)
(*)齋藤信「「ハルマ和解」(F.HALMA,Nereduits Woordenbock)について」鳥取大学学藝学部研究報告2,1952年。
(*)齋藤信「蘭日辞典の発達」鳥取大学学芸学部研究報告3,1952年。
(*)(参考：市河三喜・高津春繁共編『世界言語概説 上巻』研究社,1952年。）
(*)(参考：田中秀央『ラテン文法入門』京都・三和書房,1952年。)
(*)(参考：泉井久之助『ラテン廣文典』白水社,1952年(→昭30年,再版)。)
(*)(参考：呉茂一『ラテン語入門』岩波全書172,岩波書店,1952年。)
(*)「呉茂一「ラテン語入門」」出版ニュース218,1952年。
(*)(参考：呉茂一『新修 ラテン語教程』要書房,1952年。)
(*)(参考：粟野頼之祐「アレクサンドリア図書館「目録」の研究(1,2)」関西学院史学1,1952年/3,1953年。)
(*)(参考：片野達郎「文献学」(佐藤喜代治[代]編『国語学研究事典』所収,明治書院,昭和52年。)
(*)(参考：池田亀鑑『古典の読み方』学生教養新書,1952年(→1991年,『古典学入門』岩波文

庫,1991年)。)
(*)(参考：高塚正規「プラトーン対話篇に於ける語音分類について」研究論集1,1952年。)
(*)(参考：高富勝「アルファベットの起原(1,2)」ことばの教育14(3,4),1952年。)
(*)(参考：石黒修「ローマ字の変遷」国文学解釈と鑑賞17(6),1952年。
(*)(参考：石山脩平『ぽりす教育の成立と性格』広島文理大学,文学博士[報告番号不明],1952年。)
(*)田中美知太郎「西洋古典の翻訳と紹介について」文庫32,1952年。
(*)高津春繁「書痴雑録」図書』33,1952 年。
(*)(参考：高津春繁「書評・紹介Cohen Marcel著 Le langage：Structure et evolution」言語研究21,1952年。)
(*)(参考：高津春繁「書評・紹介Lejeune M.著 Traite de phonetique grecque」言語研究21,1952年。)
(*)(参考：高津春繁「書評・紹介Bally Ch.著 Manuel d'accentuation grecque 」言語研究21,1952年。)
(*)(参考：天野敬太郎「「ラ・フォンテーヌ寓話」の邦訳について」(関西大学)関西大学報252,1952 年。)
(*)(参考：富永牧太「ローマ法王庁図書館のキリシタン版ぎやどべかどる見記」日本古書通信17(25),1952年。)
(*)外山卯三郎「新村出博士を訪ねて」机3(11),1952年。
(*)矢尾太郎「第六改正薬局ではラテン語の薬の名前はどんなふうに変わったか」日本歯科評論120,1952年。
(*)社会思想研究会編『現代教養文献解題』何を読むべきか1,現代教養文庫29,社会思想研究会出版部,1952年。)
(*)岩波書店編『岩波文庫解説目録』岩波書店,昭和27年。
(*)(参考：高津春繁・高津久美子『ギリシア神話』世界名作全集49,大日本雄弁会講談社,1952年。)
(*)(参考：田中秀央『ギリシア神話』小学生全集18,筑摩書房,1952年。)
(*)(参考：アイスキュロス/呉茂一・湯井壮四郎訳『つながれたプロメーテウス』世界文学全集古典篇,河出書房,1952年。)
(*)(参考：ナザニエル・ホーソン/山主敏子・新井五郎え『パンドラのはこ』世界童話,あかね書房,1952年。)
(*)(参考：多田道太郎「神話の機能分析—S.K.ランガーのしごとの紹介」文学20(8),1952年。)
(*)(参考：福井守「エロース・アガペー・教育愛」北海道教育6,1952年。)
(*)(参考：沼沢喜市「天地分るる神話の文化史的背景」アカデミア1,1952年。)
(*)(参考：河原忠彦「オルフォイスに捧げるソネットについて,或はオルフォイス的世界」横浜国立大学人文紀要[第2類語学文学]1,1952年。)
(*)(参考：遠藤浩三「古代ギリシャの神託観念とヘブライ人の予言観念」宮城学院女子大学研究論文集2,1952年。)
(*)(参考：オスカー・ジンメル/霜山徳爾訳「神話と新約聖書」世紀38,1952年。)
(*)(参考：「神話と新訳聖書[オスカー・ジンメル]」世紀38,1952年。)
(*)(参考：「A.ドレウス著,原田玉生訳「キリスト神話」」指15,1952年。)
(*)(参考：北森嘉蔵「聖書研究—ロマ書3章21~31節」福音と世界7(8),1952年。)

(*)(參考：渡瀬圭一郎・武藤冨男訳『口語訳新約聖書』キリスト新聞社,1952年。)
(*)(參考：ライニルケンス訳『少年聖書：旧約新約聖書』
(*)(參考：エ・ラゲ譯『我主イエズスキリストの新約聖書』14版,中央出版社,1952年。)
(*)(參考:パゼット・ウィルクス著/米田豊訳『羅馬書講演』2版,バックストン記念霊友会,1952年。)
(*)(參考：松本卓夫『コリント前書』新約聖書要解7,新教出版社,1952年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『パウロ小書簡』3版,聖泉舎,1952年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『黙示録；ヨハネ書簡』7版,明和書院,1952年。)
(*)(參考：関根正雄『ガラテア書研究』三一書房,1952年。)
(*)(參考：関根正雄『舊約聖書の読み方』三一書房,1952年。)
(*)(參考：関根正雄『イスラエル宗教文化史』POD版,岩波全書,岩波書店,1952年。)
(*)(參考：比屋根安定『キリスト教読本』池田書店,1952年。)
(*)(參考：魚木忠一『基督教精神史』同志社大学,文学博士[報告番号不明],1952年。)
(*)(參考：亀井勝一郎『聖徳太子：親鸞：耶蘇伝』創元社,亀井勝一郎著作集3,1952年。)
(*)(參考:ヘボン訳/片子澤千代松校注・解題『新約聖書(上)』キリスト教文庫4,ナツメ社,1952年。)
(*)(參考：渋谷治『聖書入門』(和訳聖書)ドン・ボスコ社,1952年。)
(*)(參考：関根文之助『聖書の読み方』創元文庫,創元社,1952年(→1954年,角川文庫版)。)
(*)松村克己「ディベリウス著, 神田盾夫訳『イエス』」開拓者46(6),1952年。
(*)(參考：秀村欣二「背教者ユリアヌスの精神的形成—ユリアヌス研究序説」東京大学教養学部人文科学科紀要1,歴史学研究報告1,古代研究1,歴史と文化I,1952年。)
(*)半田元夫「秀村欣二著「背教者ユリアヌスの精神的形成—ユリアヌス研究序説」史学雑誌61(12),1952年。)
(*)(參考：フルード/山本泰次郎訳『宗教改革の精神：エラスムスとルーテル』平和舎,1952年。)
(*)(參考：加藤美雄「モンテーニュのキリスト教護教論について」人文研究3(12),1952年。)
(*)(參考：神田盾夫「ローリンソンの近著」(東京神学大学神学会)神学4輯,1952年。)
(*)(參考：クルーゼ・ハインリッヒ「古代の劃期的な八冊の書」ソフィア1(4),1952年。)
(*)(參考：出隆「Avicenna一千年祭」思想337,1952年。)
(*)海老澤有道「西洋中興革命論」ソフィア1-3,1952年。
(*)(參考：前田護郎「戦後基督教学界の趨勢—1949年オクスフオード会議を中心として」思想332,1952年。)
(*)(參考：デヴィッドソン/小林澄兄訳『世界教育思想史』法政大学出版局,1952年。)
(*)(參考：皇至道『西洋教育史』(戦前の講義草案。ギリシヤの教育、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、ローマの教育等) 教育叢書, 柳原書店,1952年。)
(*)(參考:下地恵常「ローマの教育—教育小史(2)」中学教育技術・数学・理科・図工2(2),1952年。)
(*)(參考：出隆・柳田謙十郎監修『人生論十二講』富士出版社,1952年。)
(*)(參考：カール・ヒルティ/正木正訳『悩みと愛と幸福：ヒルティの言葉』創元文庫,創元社,1952年。)
(*)(參考：金倉圓照『印度哲学入門：附・印度哲學と西洋思想』百華文庫8,百華會,1952年。)
(*)「川田熊太郎博士を訪ねて」(法然上人讃仰会)浄土18(2),1952年。)

(*)(参考：服部英次郎「ビュアリ著/森島恒雄訳「思想の自由の歴史」」図書28,1952年。)
(*)(参考：ヴィンデルバンド著；ハイムゼート補/服部英次郎訳『西洋哲学史要』創元社,1952年。)
(*)(参考：金子武蔵『古代哲学』双文社,1952年。)
(*)(参考：岩崎勉『希臘哲学史』昭和書房,1952年。)
(*)(参考：西沢利一「ギリシヤ哲学の底を流れるもの—知性」信濃教育781,1952年。)
(*)(参考：太田彰一「イオニア的とインド的—アナクシマンドロスのアデイキアを中心として」岡山大学法文学部学術紀要1,1952年。)
(*)(参考：Platon著/Benjamin Jowett英訳/英詩研究編集部編『アポロジー』The plain text series of English & American Literature,北星堂,1952年。)
(*)(参考：長澤信壽訳『プラトーン著作集—国家・第2』弘文堂,1952年。)
(*)(参考：プラトン/久保勉訳『饗宴』岩波文庫, 岩波書店,1952年。)
(*)(参考：プラトン/山本光雄訳『饗宴—恋について』角川文庫,角川書店,1952年。)
(*)(参考：田中美知太郎『善と必然との間に：人間的自由の前提となるもの』岩波書店,1952年。)
(*)(参考：白根孝之『プラトンの教育論』福村書店,1952年。)
(*)(参考：バーネット/出隆・宮崎幸三訳『プラトン哲学』岩波文庫,岩波書店,1952年。)
(*)(参考：長沢信壽『プラトン』5版,西哲叢書2,弘文堂,1952年。)
(*)(参考：村井観亮「合自然的人生観の克服：プラトン「ゴルギアス」に於ける」文藝と思想4,1952年。)
(*)(参考：香原一勢「歴史の背後に流れているもの−グレゴリウス第七世におけるプラトン哲学」日本歴史45,1952年。)
(*)(参考：出隆『アリストテレス入門』市民文庫110,河出書房,1952年。)
(*)(参考：神澤惣一郎「アリストテレス範疇の意義」早稲田商学101,1952年。)
(*)(参考：神澤惣一郎「アリストテレスの分量と性質」フィロソフィア23,1952年。)
(*)(参考：セネカ/樋口勝彦訳『幸福なる生活について：他1篇』岩波文庫, 岩波書店,1952年。)
(*)(参考：鹿野治助「エピクテートの哲学」京都工芸繊維大学工芸学部研究報告 人文1,1952年。)
(*)(参考：アウグスティヌ著/マンテガッツア訳編『幸福は地上のものではない』ドン・ボスコ社,1952年。)
(*)(参考：エルンスト・トレルチ/西村貞二訳『アウグスティヌス』基督教論集12,新教出版社,1952年。)
(*)(参考：三谷隆正『アウグスチヌス—魂の遍歴とその生涯』(重版)現代教養文庫28,社会思想社,1952年(←昭12,社會科學の建設者・人と學說叢書16)。)
(*)(参考：仁戸田六三郎「プロクロスとボエティウス—哲学古典解説」理想229,1952年。)
(*)(参考：松村一人・甘粕石介『ヘーゲル』弘文堂,1952年。)
(*)(参考：ヘーゲル/武市健人訳『哲学入門』岩波書店,昭和27年。)
(*)(参考：エルンスト・トレルチ著/西村貞二訳『ヨーロッパ精神の構造：ドイツ精神と西歐』みすず書房,1952年。
(*)窪田幸夫(海老澤有道)『吉利支丹文学ノート』基督教文庫2,ナツメ社,1952年。
(*)高羽五郎編刻『サントスの御作業：言葉の和げ』印刷国語学資料9,高羽五郎,1952年。
(*)(参考：片山敏彦「西欧文化と世界文学—回想と展望」新しい学校4(8),1952年。)

(*)(参考：大久保康雄他「世界文学」新潮49(10),1952年。)
(*)(参考：外國文學研究會『世界文学入門』肥後書林,1952年。)
(*)(参考：本多顕彰『世界文學の鑑賞』NHK教養大学5,寶文館,1952年。)
(*)(参考：本多顕彰『文学』同文社,1952年。)
(*)(参考：リチャード・ヂー・モウルトン/本多顕彰訳『世界文學：及び一般文化におけるその位置』岩波書店,1952年。)
(*)(参考：野上素一『世界文学史概説』河出書房,1952年。)
(*)(参考：中野好夫『世界文学史概説』市民文庫121,河出書房,1952年。)
(*)(参考：高津春繁『古代ギリシア文學史』岩波全書,岩波書店,1952年。)
(*)呉茂一「書評古代ギリシア文学史」」図書37,1952年。
(*)(参考：森本覚丹『詩と音楽』(ウェルギリウス等)理想社,1952年。)
(*)(参考：呉茂一「レスボスの鶯」婦人之友46(7),1952年。)
(*)(参考:金子健二「西洋のヘタイラー文学と日本の白拍子文学の研究」學苑2月号,1952年。)
(*)(参考：ホメーロス/田中秀央訳『イーリアス』世界文学全集古典篇,河出書房,1952年。)
(*)(参考：ホメーロス/田中秀央訳『オデュッセイアー』世界文学全集古典篇,河出書房,1952年。)
(*)(参考:本間久雄・高津久美子・伊原宇三郎え『ホメロス物語』世界名作全集40,講談社,1952年。)
(*)(参考：エイリーピデース/松平千秋訳『ヒッポリュトス』世界文学全集古典篇,河出書房,1952年(→1959年,岩波文庫。→1960年,人文書院。→1965年,筑摩書房)。)
(*)(参考：ソポクレス/高津春繁・熊崎雄二郎訳『オイディプース王』世界文学全集古典篇,世界文学全集,河出書房,1952年。)
(*)(参考：中村善也「アリストテレスの「詩学」に於ける悲劇と叙事詩」三重縣立大学研究報告1(1),1952年。)
(*)(参考：高津春繁「ギリシャ・ローマの叙事詩」文学20(1),1952年。)
(*)(参考:三浦一郎「紀元前五・四世紀のアテナイの観客」茨城大学文理学部,人文科学2,1952年。)
(*)(参考：山内登美雄「演劇の理念」美學383),1952年。)
(*)(参考：新関良三「ギリシャ劇の仮面」觀世19(10),1952年。)
(*)(参考：呉茂一「ギリシャ悲劇論」心5(3),1952年。)
(*)(参考：呉茂一編『ギリシア・ラテン抒情詩集』河出書房,1952年。)
(*)(参考:河出書房編『世界文学全集[第2期]1(古典篇ギリシヤ叙事詩悲劇篇)』河出書房,1952年。)

----ホメーロス：「イーリアス・オデュッセイア」田中秀央訳
アイシキュロス：「つながれたプロメーテウス」呉茂一・湯井壮四郎訳
ソポクレース：「オイディプース」高津春繁・熊崎雄二郎訳
エイリーピデース：「ヒッポリュトス」松平千秋訳

(*)(参考：ペートロニウス/岩崎良三訳『サチュリコン—全訳』創元社,1952年。)
(*)(参考：ペトロニウス/野上一夫訳『ローマの饗宴』紫書房,1952年。)
(*)(参考：兼岩正夫「中世史研究におけるPhilosophiaとPhilologia」西洋史学13,1952年。)
(*)阿部次郎『生いたちの記』(「ケーベル先生の言葉」,澤木四方吉,桑木巖翼,太田正雄)角川

書店,1952年。
(*)長与善郎「埋め草」(ケーベル)文庫5,1952年。
(*)江口渙「夏目漱石の死、思い出(1)」(ケーベル)新日本文学7-7,1952年(→1953年,同『わが文学半生記』所収,青木書店)。
(*)稲垣達郎「長谷川天渓」(ケーベル)英文学4,1952年。
(*)野口美枝子「厨川白村評傳」學苑1月号,1952年。)
(*)正富汪洋「井上円了先生」學苑4月号, 1952年。
(*)佐々木啓子「南日恒太郎評傳」學苑6月号,1952年。
(*)小林玲子「中沢臨川評傳」學苑6月号, 1952年。
(*)吉村タマエ「中村吉蔵—近代文学史料研究(106)學苑6月号,1952年。
(*)田中美知太郎「あと十年で一世紀」理想234, 1952年。
(*)山谷省吾「波多野精一先生の追憶」哲學研究35(8),1952年。
(*)田中美知太郎「波多野精一--波多野先生と古典研究」哲學研究35(8),1952年。
(*)西谷啓治「追悼 波多野[精一]先生のことども」哲學研究35(8),1952年。
(*)石原謙「波多野精一先生」哲學研究35(8),1952年。
(*)中村元「川田熊太郎博士を訪ねて」浄土18(2),1952年。
(*)中野好夫「土井晩翠と私」文藝春秋30(17),1952年。
(*)小西兵太郎「土井晩翠翁を偲ぶ」学芸評論5,1952年。
(*)宇野浩「石井柏亭」改造33(5),1952年。
(*)山本正男「明治時代の美学思想(上)(中の1)(中の2)(下)」國華61(5,9,10,12),昭和27年。
(*)(參考：福原麟太郎「雑談再々開：岡倉先生と平田禿木氏と」研究社月報8(8),1952年。
(*)(參考：日本地図学会史図研究部編『世界史地図』日地出版,1952年。)
(*)(參考：亀井高孝他編『世界歴史地図』増訂版, 吉川弘文館,1952年。)
(*)(參考：村田數之亮『概観西洋史』創元社,1952年。)
(*)(參考：村田數之亮他『西洋古代・中世史』京大西洋史,上,創元社,1952年。)
(*)(參考：島田雄次郎『西洋史概説』弘文堂,1952年。)
(*)(參考：亀井高孝・林健太郎『概説西洋史』増訂版,1952年。)
(*)(參考：山崎宏責任編集『新綜合世界史(上中下)』金星堂,1952年。)
(*)(參考：世界史研究会編『世界史演習ノート』ミネルヴァ書房,1952年。)
(*)(參考：京都大学世界史研究会編『高等学校新しい世界史』数学研究社,1952年(→1953年,再版)。)
(*)(參考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎/史学会編『世界史』改訂版,山川出版社,1952年。)
(*)(參考：村川堅太郎他著『西洋』世界の歴史2,毎日新聞社,1952年。)
(*)(參考：渡辺照宏「世界史的なもの」理想226,1952年。)
(*)(參考：山川茂夫「世界史教育の現状」歴史評論6(2),1952年。)
(*)(參考：プルターク/前田晃訳・池田勝之助絵『プルターク英雄伝・ローマ人の巻』世界名作童話,同和春秋社,1952年。)
(*)(參考：河野与一譯『プルターク英雄傳(1-12)』岩波文庫,岩波書店,1952年(→1956年)。)
(*)村川堅太郎「書評・プルターク英雄伝」(河野与一訳)」図書34,1952年。
(*)(參考：太田秀通「ホメロスにおける英雄」歴史学研究155,1952年。)
(*)(參考：竹村寿夫「二つのクレオパトラ劇」(同志社英文学会)主流1,1952年。)
(*)(參考：吉田健一「クレオパトラ—シェイクスピア論」文學界6(3),1952年。)

(*)(参考：小川和夫「小舟の上のクレオパトラ—Shakespeareを読むために」英語研究41(11),1952年。)
(*)(参考：井上一「フルッツ・テュガ「アレクサンドロス大王とヘレニズム的支配者礼拝の起源」」史学雑誌61(8),1952年。)
(*)(参考：メレジコーフスキイ/米川正夫訳『ナポレオン』創元文庫,創元社,1952年。)
(*)「1951年の歴史学界—回顧と展望」史學雑誌61(5),1952年。)
(*)(参考：弓削達「Aエウセビオス史学の一性格とその系譜に関する若干の覚書」史學雑誌61(7),1952年。)
(*)(参考：渡辺金一「最近のビザンツ史学界から」史學雑誌61(7),1952年。)
(*)(参考：井上一「フリッツ・テユガ著「アレクサンドロス大王とヘレニズム的支配者礼拝の起源」史學雑誌61(7),1952年。)
(*)(参考:石川澄雄「英･独における歴史教育—英誌Historyを中心として」史學雑誌61(1),1952年。)
(*)半田元夫「秀村欣二著「背教者ユリアヌスの精神形成—ユリアヌス研究序説」」史學雑誌61(12),1952年。)
(*)大塚史学会等編『歴史研究の自由』(村川堅太郎「おわりに」)東京大学出版部,1952年。
(*)(参考：クロォチェ著/羽仁五郎訳『歴史の理論と歴史』岩波文庫,岩波書店,1952年。)
(*)(参考：出口勇蔵「ヤスパースの歴史意識」経済論叢69(3・4),1952年。)
(*)(参考：栗野頼之祐「Michael Rostovtzeff教授」関西学院史学1,1952年。)
(*)Nakagaki Kojiro“45 fabloj de Ezepo”Esperanto-tomo-no-kai,1952年。
(*)Tozawa tateo“Isoppu nohanasi”ローマ字教育会,1952年。
(*)坂井徳三『中国イソップ物語』冨山房,1952年。
(*)佐藤義美・熊田五郎絵『イソップえばなし』世界絵文庫28,あかね書房,1952年。
(*)坪田譲治・宮永岳彦絵『イソップものがたり』浦和三十書房,1952年。
(*)藤波登・しのざき凡画『いそっぷ1・2年生どうわ』ふたばぶんこ1,潮文閣,1952年。
(*)志村明子・くれたひろし絵『イソップ物語』世界童話文庫21,日本書院,1952年。
(*)藤波登・しのざき凡え『イソップ物語・続』世界童話文庫22,日本書院,1952年。
(*)小山勝清・ししどさこう絵『イソップものがたり』世界名作童話,同和春秋社,1952年(→昭34)。
(*)水野護「読書人吉田松陰」(イソップ)日本及日本人3(12),1952年。
(*)柳田国男『海南小記』(イソップ)創元文庫,創元社,1952年(→1956年,角川文庫)。
(*)(参考:エラスムス/渡邊一夫訳『痴愚神礼讃』河出書房,1952年(→1954年, 岩波文庫版)。)
(*)(参考：坪内逍遙訳『シェークスピヤ全集』創元社,1952年。)
(*)(参考：尾島庄太郎「英詩に於ける「セルト的」と「ギリシア的」」英語青年98(3),1952年。)
(*)(参考：Gissing/Masao Hirai(trans.& annotated),*The private papers of Henry Rycroft*,Kaibunsha 1952年。)
(*)(参考：竹村壽夫「What is classic ?：T.S.エリオットのヴァージル論」主流14,1952年。)
(*)(参考：吉田弘美「現代古典主義の實體:（T.E.ヒュームに就いての考察）」西京大學學術報告,人文1,1952年。)
(*)(参考：杉捷夫『フランス文学』朝日新聞社,1952年。)
(*)(参考：A.ティボーデ/鈴木信太郎他訳『フランス文學史(上下)』ダヴィッド社,1952年(→

1954年。→1956年,[上中下巻・索引]普及版)。）
(*)(參考：関根秀雄「フランス古典文学のしるべ」學燈49(10),1952年。）
(*)(參考：関根秀雄訳『モンテーニュ随想録：全訳(1,2)』三笠文庫111,112,三笠書房,1952年。)
(*)(參考：串田孫一『人生について—モンテェニュ素描』要書房,1952年。)
(*)(參考：『世界文全集8』[第2期]（ラブレー）世界文学全集古典篇,河出書房,1952年。)
(*)(參考：渡邊一夫「笑いの研究—ベルグソンとラブレー」日曜日2(1),1952年。)
(*)(參考：ラ・ブリュイエール/関根秀雄訳『カラクテール：当世風俗誌(上中下)』岩波文庫,岩波書店,1952年。)
(*)(參考：光益徹也「十五世紀伊太利芸術に於ける人間像の研究(1)」静岡大学教育学部研究報告3,1952年。
(*)(參考：ダンテ/山川丙三郎訳『神曲（地獄）』岩波文庫, 岩波書店,1952年。）
(*)(參考：ダンテ/竹友藻訳譯『神曲』世界文学全集学生版, 河出書房,1952年。）
(*)(參考：『世界文全集5』[第2期]（ダンテ）世界文学全集古典篇,河出書房,1952年。)
(*)(參考：金子健二「ダンテの「神曲」の原本についての研究」學苑6月号,1952年。)
(*)參考：矢野禾積(峰人)「ダンテと日本」(河出書房)世界文学月報2月号,1952年。
(*)小塩力「キリストに従いし人々--征矢野晃雄」福音と世界7(4),1952年。
(*)(參考：野上素一「現代イタリア文学の動向」文学20(5),1952年。)
(*)(參考：新関良三「ドイツ文芸地図」地域1(3),1952年。)
(*)(參考：道部順『ゲーテの生活と詩の鑑賞』新地社,1952年(→1956年,改訂版[上中下巻],白樺社)。)
(*)(參考：薦田久規「知識階級人としてのゲーテ」ドイツ文学9,1952年。)
(*)(參考：小林政吉「Sturm und Drangの自己超克(2)青年ゲーテ」研究年報1,1952年。)
(*)(參考：江上敏「ゲーテの世界観」アカデミア1,1952年。)
(*)(參考：村井勇吾「ハイデルベルグと獨文學：特にゲーテとの關聯に於いて」人文論究2(5・6),1952年。)
(*)(參考：F.シュレーゲル/明石祐二譯『霊魂について』フェデリコ・バルバロ,1952年。)
(*)(參考：野島正城他訳『レッシング篇』世界文学全集・古典篇,河出書房,1952年。)
(*)(參考：会津伸「古代人は死を如何に表はしたか—レッシングとヘルダー」文化16(4),1952年。)
(*)(參考：タデウシェ・ジェリンスキ「隠れたるものは現われる--「古典学者と古本」(1929)より」図書39,1952年。)
(*)(參考：南大路振一「若きレッシングの宗教思想(1,2)」人文研究3(11),1952年/4(7),1953年。)
(*)(參考：上村行德「シラーとヘルデルリーン」鹿兒島大学文理学部研究紀要・文科報告1,1952年。)
(*)(參考：守永敏夫「デイオティーマ体験前後のヘルデルリーン」山口大学文学会誌3(1),1952年。)
(*)小牧健夫「戦後のヘルダーリン文献」ドイツ文学9,1952年。
(*)(參考：井上正藏「ハインリッヒ・ハイネ：愛と革命の詩人」岩波新書,岩波書店,1952年。)
(*)(參考：上平貢「ブルクハルト=ヴェルフリン往復書簡—ドイツ」美學3(2),1952年。)
(*)(參考：氷上英廣編『ニーチェ研究』社會思想研究會出版部,1952年。)
(*)(參考：ニーチェ/原田義人訳『若き人々への言葉』創元社,昭和27年。)
(*)(參考：ニーチェ/小野浩訳『わが生涯より：他6篇』(「わが教育施設の将来について」「ホ

メロスと古典文献学」「ホメロスの比武」「ギリシャの音楽劇」「ソクラテスと悲劇」「ディオニュソス的世界観」「わが生涯より」)角川文庫,角川書店,1952年。)
(*)(参考：原健忠「ニーチェの「神々の死」について」茨城大学文理学部紀要 人文科学2,1952年。)
(*)(参考：齋藤忍随「フィロローグ・ニーチェ：ニーチェ・コントラ・ブルックハルト」北海道大學文學部紀要1,1952年。)
(*)(参考：鈴木亨「ニーチェにおける人間の問題」大阪経大論集3,1952年。)
(*)(参考:飯塚信雄「19世紀的教養人としてのシュテファン・ツヴァイク」ドイツ文学8,1952年。)
(*)(参考:小林文次「24.古代ローマ市の上水道について」日本建築学會研究報告18,1952年。)
(*)(参考：バーナード・ルドルフスキー「第三のローマ」国際建築19(3),1952年。)
(*)(参考：スヴェドベリー/田中實譯『物質觀の歴史：化學史を中心として』新版, 白水社, 1952年(←1942年, 初版)。)
(*)(参考：ゲーテ/菊池栄一訳『色彩論：色彩学の歴史』岩波文庫,岩波書店,1952年。)
(*)(参考：三井高陽「世界郵便史談(1)ローマの文具」郵政4(1),1952年。)
(*)(参考：ピエール・デュカセ著/加茂儀一訳『技術の歴史』白水社,1952年。)
(*)(参考：加茂儀一『古代中世科学史：神話から科学へ』中京出版,1952年。)
(*)(参考：高橋郁郎「クレオパトラ・マンダリンとトロイア・シトレンジー—有望な柑橘の新砧木二種」果実日本7(12),1952年。)
(*)(参考：原種行『科學史概論(上下)』三和書房,1952-53年。)
(*)(参考：岡邦雄『自然科学學はいかに進歩したか：自然科學史要』春秋社,1952年。)
(*)(参考：岡邦雄『奴隷制社会から産業革命期前期まで』自然科學史概論(上),春秋社,1952年。)
(*)(参考：矢島祐利「ユネスコの科学文化史編纂計画」図書34,1952年。)
(*)(参考：下村寅太郎「近代科学の精神的基礎」文化と教育3(9),1952年。)
(*)「三上義夫先生著作論文目録(2)」科学史研究22,1952年。
(*)(参考：村治能就訳『自然学II[天体論]』アリストテレス全集6,河出書房,1952年。)
(*)(参考：林巖「アリストテレスの生涯と体育論」新体育22(2),1952年。)
(*)(参考：鈴木良徳編『オリンピックの話：歴史・日本の参加・種目・開催回数・会議国・記録』1952年オリンピック派遣後援会,1952年。)
(*)(参考：鈴木良徳・川本信正『オリンピック史』日本出版協同,1952年。
(*)(参考：日本体育教会編『オリンピックと日本スポーツ史』日本体育教会,1952年。)
(*)(参考：広瀬謙三「オリンピック夜話」地上6(7),1952年。)
(*)(参考：野口源三郎「オリンピックの意義と教育」中等教育資料1(7),1952年。)
(*)(参考：宮本又次『古典古代の盛衰』(西洋経済社会史・第2分冊)三和書房,1952年。)
(*)(参考：中島健一「古代的社會にかんする若干の考察」人文地理3(5-6),1952年。)
(*)(参考：羽仁五郎『イタリア社会史』岩波書店,1952年。)
(*)加茂儀一「羽仁五郎著「イタリア社会史」」図書36,1952年。)
(*)(参考：弓削達「四世紀末ローマ社会に関するアルフェルディの近著について」青山経済論集4(3),1952年。)
(*)(参考:森祐三「ローマ帝政期奴隷解放の経済的背景—特に帝政初期の農業状態について」

西日本史学9,1952年。)
(*)(参考：高山一十「古代スパルタにおける家の解体—相続のSitteに関連して」西洋史学13,1952年。)
(*)(参考：宇尾野久「「バシュレイア」と古ゲルマンの「グルンドヘルシャフト」の異同性について：ホーメロス,タキトゥスを中心として」三田学会雑誌45(10),1952年。)
(*)(参考：加藤新平「法と正義—正義論の思想史素描」(京都大学法学会)法學論叢58(1),1952年。)
(*)(参考：稲富栄次郎「プラトンの政体論」(上智大学)ソフィア1(2),1952年。)
(*)(参考：古賀鶴松訳『アリストテレス 政治学』明玄書房,1952年。)
(*)(参考：平井新「アリストテレスの社会思想」三田学会雑誌45(4),1952年。)
(*)(参考：井上一「ユダイズムとヘレニズム—マカビー党からヘロデ家に至るユダヤ支配層内の妥協と対立」岡山大学法文学部学術紀要1,1952年。)
(*)(参考：柴山英一「ニコロ・マキアヴェルリの社會思想に関する一考察」静岡大学教育学部浜松分校研究報告：研究と教授3,1952年。)
(*)(参考：大類伸「ダンテの政治思想−ジルソンの近著「ダンテ」を中心として」(上智大学)ソフィア1(3),1952年。)
(*)田中美知太郎「もっと実際的に」婦人公論38(19,1952年。)
(*)(参考：堀豊彦「A.D.リンゼイ「近代民主主義国家」」日本政治學會年報政治學3,1952年。)
(*)(参考：福田歓一「F.ワトキンス「西洋の政治的傳統」」日本政治學會年報政治學3,1952年。)
(*)(参考：蠟山政道『政治學原理』(A.D.リンゼイ,アリストテレス)岩波全書,岩波書店,1952年。)
(*)(参考：三谷隆正『国家哲學』現代教養文庫38,社会思想研究会出版部,1952年。)
(*)(参考：加藤新平「自然法の歴史—概観法思想史」法律時報24(4),1952年。)
(*)(参考：加藤新平『法思想史』法學大系,勁草書房,1952年(→1953年,改訂版)。)
(*)(参考：牧野英一「ローマ法によってローマ法の上に」国民609,1952年。)
(*)吉田五郎「春木一郎述「ローマ法講義」ノート(3)(4)」社研4(1),4(2),1952年。
(*)西田長寿「馬場辰猪小伝(上下)」三田学会雑誌45(7,8),1952年。
(*)(参考：柚木馨「ローマ市民法におけるDictum promissumに基く売主瑕疵担保責任の発展」神戸法学雑誌2(4),1952年。)
(*)(参考：戒能通孝「中世的自然法理念の崩壊過程」早稲田法学27(3),1952年。)
(*)(参考：三戸壽『ローマ法継受史の研究』京都大学,法学博士[報告番号不明],1952年。)
(*)(参考：和田小次郎『近代自然法学の発展』早稲田大学,法学博士[報告番号不明],1952年。)
(*)(参考：久保正幡『西洋法制史研究：フランク時代に於けるゲルマン法とローマ法』岩波書店,1952年。)
(*)(参考:宮本英雄『英国に於ける羅馬法継受の性質』京都大学法学博士[報告番号不明],1952年。)

(*)(参考：フランツ・メーリング/栗原佑訳『カール・マルクス—その生涯の歴史』(第1巻)大月書店,1953年。)
(*)(参考：安藤英治「歴史意識について—イエスとマルクス」社会事業36(9),1953年。)

(*)(参考：清水正徳「自然について：フォイエルバッハ・マルクス覚書」近代2,1953年。)
(*)(参考：G.E.スミス/西村朝日太郎譯『文明の起源』角川文庫,角川書店,1953年。)
(*)(参考：金倉英一『地中海をめぐる国国』世界の国国6,国民図書刊行会,1953年。)
(*)(参考：E.A.Freeman,J.R.Green etc.(compl.with itrod.choronology and notes by Munenao Yamasaki『The Oxford hisory of Western civilization』三和書房,1953年。)
(*)小池優「明治初期に於ける文明史の出現とその社会的意義」愛知学芸大学研究報告,人文科学2,1953年。
(*)小池優「日本近代史学成立上に於ける文明史の位置と特色について」史潮48,1953年。
(*)(参考:伊瀬仙太郎『世界文化交流史』金星堂,1953年(→1959年,改訂6版。→1963年,新版)。)
(*)阿部知二『ヨーロッパ紀行』市民文庫4021,河出書房,1953年。
(*)(参考：江上波夫「エーゲ海周辺」芸術新潮4(11),1953年。)
(*)(参考：岡田要「エーゲ文明とたこ」採集と飼育15(9),1953年。)
(*)(参考：同発掘隊「1932~1938年に於けるシンシナタ大学「トロイ」発掘報告概要」関西学院史学2,1953年。)
(*)(参考：「〈紹介〉1932~1938年に於けるシンシナタ大学「トロイ」発掘報告概要(史學特輯号)」(関西学院大学)人文論究4(3),1953年。)
(*)(参考：中村英勝「英国開化小史(4)ローマのブリタニア支配(1)」あるびよん16,1953年。)
(*)(参考：森岩雄「風薫る伽藍の雀—ローマ」文藝春秋31(6),1953年。)
(*)(参考：今泉篤男「私の美術紀行(6)イースタンブール」美術手帖72,1953年。)
(*)(参考：小堀巌「レオ・バグロー「地図学史」」地理学評論26(11),1953年。)
(*)(参考:村松正俊「オスヴァルトシュペングラー:思想と著作」出版ニュース224,1953年。)
(*)(参考：酒井三郎「西ヨーロッパの没落—スペングラーの史学史的考察」西日本史学13,1953年。)
(*)「アーノルド・トインビー著,蝋山政道・長谷川松治訳「歴史の研究」第3巻」師友45,1953年。
(*)(参考：アーノルド・トインビー/吉田健一訳「世界と西欧」新潮50(9),1953年。)
(*)(参考：アーノルド・トインビー/吉田健一訳『世界と西欧』一時間文庫,新潮社,1953年。)
(*)「A.トインビー「世界と西欧」」世界週報34(12),1953年。
(*)(参考：鈴木成高「トインビーの人と学風」信濃教育794,1953年。)
(*)(参考：阿部志郎「アーノルド・トインビー」社会事業36(2・3),1953年。)
(*)(参考：アーノルド・トインビー「極東と西欧」東洋経済新報2575,1953年。)
(*)(参考：アーノルド・トインビー「歴史の次の段階」中央公論68(1),1953年。)
(*)(参考：アーノルド・トインビー「西欧文明と極東諸国—世界と西欧・極東篇」あるびよん18,1953年。)
(*)(参考：藤谷弘懿「世界史学の問題：A.J.トインビーの紹介を兼ねて」ふびと2,1953年。)
(*)笠信太郎「三浦新七「東西文明史論考」」群像8-9,1953年。
(*)(参考：潮安「ヘレニズム文化」小野田高等学校研究論叢8,1953年。)
(*)(参考：広瀬京一郎「現代文明の危機と大学の使命—オルテガの所論から」世紀46,1953年。)
(*)(参考：西野照太郎「ホイジンガとHomo Ludens--「遊ばせ言葉」のことなど」學燈50(3),1953年。)
(*)(参考:村田数之亮「ギリシャ文化とギリシャの自然(公開公演要旨)」大谷学報33(2),1953

年。)
(*)參考：野村良雄「南欧と北欧—文化形態と宗教」世紀46,1953年。)
(*)參考：Gissing/U.Miyagi(ed.with notes),*By the Ionian Sea：notes of a ramble in southern Italy*, Sekkei Sybo,1953年。)
(*)參考：エリオ・ヴィットリーニ/清水三郎治訳『シシリー島の憂鬱』文藝春秋新社,1953年。)
(*)(參考：リットン/堀田正亮訳『ポンペイ最後の日』百万人の世界文学3,三笠書房,1953年。)
(*)(參考：土方定一「エトルリア遺跡」芸術新潮4(8),1953年。)
(*)(參考：町田甲一著者代表・東大美術史研究会編『少年世界美術全集』(エーゲ・ギリシア・エトルリア・ローマ)実業之日本社,1953年。)
(*)今泉篤男「私の美術紀行(6)イースタンブール」美術手帖72,1953年。
(*)(參考：中原與茂九郎他『西アジア・インド史』京大東洋史5,創元社,1953年。)
(*)神田喜一郎「敦煌学五十年(1,2)」龍谷史壇38,1953年/41,1956年。
(*)(參考：渋谷治『聖書考古学』ドン・ボスコ社,1953年。)
(*)(參考：都田恒太郎『世界聖書紀行』比叡書房,新教出版社(発売),1953年。)
(*)參考：岩波書店編集部編・岩波映画製作所写真『システィナ礼拝堂』岩波写真文庫97,岩波書店,1953年。)
(*)(參考：町田甲一・東大美術史研究会編『少年世界美術全集(巻1-6)』(第4巻：原始・エジプト・両河地方・エーゲ・ギリシア・エトルリア・ローマ)実業之日本社,1953年。)
(*)開国百年記念文化事業会編『鎖国時代日本人の海外知識—世界地理,西洋史に関する文献解題』乾元社,1953年(→1978年,覆刻,原書房。)
(*)(參考：世界宗教事典編纂所編『世界宗教事典』創元社,1953年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『新約聖書語句索引』再版,永遠の生命社,1953年。)
(*)(參考：塙書房編輯部編『文学便覧・外國編』塙書房,1953年。)
(*)(參考：荒正人編『文藝事典』市民文庫2034,河出書房,1953年。)
(*)(參考：矢島祐利・石田周三編『科學用語辞典』東京点字出版所,1953年。)
(*)石井光治「わが国最初の英和辞書について」神戸外大論叢4(2・3),1953年。
(*)野村八良「「岩波独和辞書」雑感」図書48,1953年。
(*)(參考：村治能就「P.ゴールケ刊行のアリストテレス著作集について(紹介・書評)」西洋古典學研究1,1953年。)
(*)(參考：小林太市郎「東洋の人間観と西洋の人間観—ギリシア美術について」ミューゼアム30,1953年。)
(*)(參考：田中秀央「或る数語の語原(1,2)」心6(10),1953年/7(2),1954年。)
(*)(參考：Hermann Hesse/高橋健二編“Der Latenischüler：aus Diesselts”Ikubundo,1953年。)
(*)(參考：福本喜之助「ゲーテの言語観」関西大学文学論集2(2),1953年。)
(*)(參考：ヴォリンゲル/草薙正夫訳『抽象と感情移入—東洋芸術と西洋芸術』岩波文庫,昭和28年。)
(*)(參考：呉茂一「古代文学」(塙書房編集部編『文學便覧 外國篇』所収塙書房,1953年。)
(*)(參考：高津春繁「ギリシア語のアスペクト」言語研究1953(22-23),1953年。)
(*)(參考：呉茂一「ギリシアの古典劇について」文学21(4),1953年。)
(*)(參考：呉茂一「ブールデル「弓を引くヘーラクレース」解説」美術手帖70,1953年。)

(*)(参考：左近義慈『新約聖書ギリシヤ語入門』基督教講座・別冊,1953年(→1957年,3版)。)
(*)(参考：Bunsho Jugaku(壽岳文章) “A bibliographical study of W.Blake’s note-book” Hokeseido-Press,1953.
)
(*)(参考：新関良三「文学の聯絡—比較文学の一つの面」心6(11),1953年。)
(*)(参考：F.G.ケニオン/高津春繁訳『古代の書物』岩波新書,1953年。)
(*)岩波書店編『古典の讀み方』(非賣品)岩波文庫,岩波書店,昭和28年。
(*)田中美知太郎「大学教授の弁」改造34(3),1953年。
(*)田中美知太郎「書物を買う」図書46,1953年。
(*)村川堅太郎「洋書—喜びと悩み」學燈50(8),1953年。)
(*)(参考：栗野頼之祐「アレクサンドリア図書館「目録」の研究(2)(史學特輯号)」人文論究4(3),1953年。)
(*)(参考：千葉勉『ヘンリー・ニューマンの大学理念論批判—大学とヒューマニズム』創文社,1953年。)
(*)(参考：松村武雄『希臘神話の新検討』培風館,1953年。)
(*)(参考：ホーゾン/三宅幾三郎訳『ワンダ・ブック：子どものためのギリシア神話』岩波少年文庫68,岩波書店,1953年。)
(*)(参考：露木洋子・澤田重隆え『ギリシア神話』(世界名作文庫56 西洋古典,偕成社,1953年。)
(*)(参考：船木枳郎編・松井行正等絵『ギリシャ神話』(世界の童話・物語名作選集,宝文館,1953年。)
(*)(参考：ブルフィンチ/野上彌生子訳『改訳ギリシア・ローマ神話(上下)』岩波文庫,岩波書店,1953年(→1954年,[上下]岩波少年文庫版。→1961年,岩波少年少女文学全集1。→1975年,[改訳,上下]岩波版ほるぷ図書館文庫版。→1978年,改版岩波文庫版。→1981年,岩波版ほるぷ名作文庫版。→1986年,改版岩波少年文庫版。→1990年,岩波少年文庫創刊40周年記念版。→1991年,ワイド版岩波文庫版。)
(*)(参考：木下順二「クリストファ・フライ「見まもられたヴィーナス」--現代人のための演劇(8)」芸術新潮4(11),1953年。)
(*)(参考：太田秀通訳「ヘーシオドス 労働と日々」(東京都立大学)人文学報8,1953年。)
(*)(参考：柳沼重剛「古代ギリシアにおける神と人間：ヘシオドスを中心として」西洋古典學研究1,1953年。)
(*)(参考：岩崎允胤「FESUGIERE,A.-J.Epicure et ses Dieux,Paris,P.U.F.,1946」西洋古典學研究1,1953年。)
(*)(参考：波多野通敏「アリストテレスの信仰の問題」文學部論叢1,1953年。)
(*)(参考：細谷貞雄「「シジフォスの神話」考(1,2)」理想236,237,1953年。)
(*)(参考：酒枝義旗「有機体説の二つの源流に就て—古代ギリシャ思想と原始キリスト教思想に於ける有機的思想」早稲田政治経済学雑誌124,1953年。)
(*)秦豊吉・村川堅太郎・南部圭之助「(座談会)三つの「サロメ」と歴史的背景」スタア8(9),1953年。
(*)(参考：神田盾夫『マルコ福音書研究序説』(東京大学に提出の学位論文?),1953年。)
(*)(参考：塚本虎二『マルコ福音書』教会無き人々のための口語新約聖書,聖書知識社,1953

年。)
(*)(參考：塚本虎二『キリスト教十講』聖書知識文庫2,聖書知識社,1953年。)
(*)(參考：黒崎幸吉編；塚本虎二他著『舊約聖書略註(中)』3版,聖泉會,1953年。)
(*)(參考：関根正雄『舊約聖書：その歴史・文學・思想』4版,創元社,1953年。)
(*)(參考：ドッド/神田盾夫訳『キリストの来臨：福音書について』新教出版社,1953年。)
(*)(參考：ドッド/神田盾夫訳『聖書：その今日における意義』新教出版社,1953年(→1954年,再版。→1962年,2版)。)
(*)(參考：蛭沼寿雄『新約外典概説』新教出版社,1953年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『ヘブル書・ヤコブ書・ペテロ前後書・ユダ書』9版,明和書店,1953年。)
(*)(參考：沢村五郎『基督教案内』バックストン記念霊交會,1953年。)
(*)(參考：沢村五郎『聖書人物傳』改訂増補2版,日本傳道隊文書傳道部1953年。)
(*)(參考：藤原藤男『イエス傳』聖書の研究社,1953年。)
(*)(參考:塚本虎二訳『マルコ福音書』教会無き人々のための口語新約聖書,聖書知識社,1956年。)
(*)フェデリコ・バルバロ編『我主イエズス・キリストの聖福音書：口語譯』(ドン・ボスコ社, 5版),1953年。
(*)(參考:J.H.モールトン/蛭沼寿雄訳『新約研究入門：パピルスと新約研究』三一書房,1953年。)
(*)(參考:クリストファー・ドーソン「〈書評〉キリストと文化(ニーバー,R)」ソフィア2(4),1953年。)
(*)(參考：C.レーヴィ/清水三郎治訳『キリストはエボリに止りぬ』岩波現代叢書,岩波書店,1953年。)
(*)野上素一「C,レーヴィ作, 清水三郎治訳「キリストはエボリに止りぬ」を読みて」図書51,1953年。
(*)(參考：秀村欣二「「ガリラヤ人よ、汝は勝てり!」--背教者ユリアヌスとキリスト教」[世界歴史講座1,三一書房?] 歴史評論7(9),1953年。)
(*)(參考：秀村欣二「古代・中世境界論—学説史的展望」東京大学教養学部人文科学科紀要2,歴史学研究報告2,古代研究1,1953年。)
(*)秦豊吉・村川堅太郎・南部圭之助「(座談会)三つの「サロメ」と歴史的背景」スタア8(9),1953年。
(*)(參考：ヴォリンゲル/草薙正夫訳『抽象と感情移入—東洋芸術と西洋芸術』岩波文庫,昭和28年。)
(*)海老澤有道「キリシタン典籍研究余録」聖心女子大学論叢3,1953年。
(*)海老澤有道『近世カトリックの布教機構』キリスト教史学会,切支丹研究シリーズ1,1953年。
(*)(參考:シェンキヴィッチ/木村毅訳『クオ・ヴァディス(上中下)』角川文庫,1953年(→1958年,『世界大ロマン全集35』所収,東京創元社,1953年。)
(*)(參考：シェンキェヴィッチ/山口年臣訳『クオ・ヴァディス』百万人の世界文学6,三笠書房,1953年。)
(*)(參考：桑田秀延『基督教神学概論』京都大学,文学博士[報告番号不明],1953年。)
(*)(參考：茂義太郎『基督教概論』三和書房,1953年。)
(*)(參考：関根正雄『舊約聖書：その歴史・文學・思想』4版,創元社,1953年。)

(*)(参考：石島三郎『ヨハネ黙示録』新教出版社, 1953年。）
(*)(参考：渋谷治「カトリックの教と聖書の教」声909,1953年。)
(*)(参考：渋谷治「聖書の解釈発達小史」声910,1953年。)
(*)(参考：渋谷治「聖ペテロと聖書的根拠」声912,1953年。
(*)野田時助「渋谷治「聖書入門—総論篇」」世紀42,1953年。
(*)(参考：松本卓夫「パウロとテクラの行傳」神学研究2,1953年。)
(*)(参考：松本卓夫「新約学者としてのジョン・ウェスレー」神学6,1953年。)
(*)柊源一「耶蘇教写経攷」国語国文22(10),1953年。
(*)小泉一郎「邦訳聖書について」(至文堂)解釈と鑑賞208,1953年。
(*)関根文之助『キリスト教学校略史：日本プロレスタント』基督教教育同盟会,1953年。)
(*)(参考：関根文之助『キリスト教と諸宗教』キリスト教叢書12,創元社,1953年。)
(*)助野健太郎「禁教下に於ける一蘭学者の聖書物語—山村昌永とその「西洋雑記」」六浦論叢1,1953年。
(*)村井益男「洋学論」(中央公論社)新日本史講座14,1953年。
(*)岡村千曳『紅毛文化史話』創元社,1953年。
(*)岡村千曳「洋学の発展とその文献」日本古書通信18(3),1953年。
(*)海老澤有道『南蛮文化』至文堂,至文堂日本歴史新書,1953年。
(*)杉本勲「禁書令下の西洋文化」日本歴史59,昭和28年。
(*)板澤武雄「蘭学史上に於ける人文科学の立場」法政大学史学会会報5,1953年。
(*)助野健太郎「西洋学問の分類—江戸初期に紹介せられた」日本歴史62,1953年。
(*)大月明「化政・天保期の思想史的考察(上下)」(大阪市立大学)人文研究4(9),1953年/5(10),1954年。)
(*)高橋功「明治初期に於ける歴史観の問題,特に文明論の概略について」学芸(第1)3(2),1953年。
(*)出隆「日本的知性の運命」改造34(11),1953年。)
(*)出隆「「我が文学半生記」の傍観者」新日本文学8(10),1953年。
(*)出隆「日本的知性の運命」改造34(11),1953年。
(*)伊藤整『日本文壇史』(1-16巻。講談社。→昭48年。)(→平6-9年,講談社文芸文庫版。)
(*)暁烏敏「清沢[満之]先生の思い出」大法輪20(2),1953年。
(*)日高善一『植村正久：信仰の巨人』ともしび社,1953年。
(*)住谷申一「馬場辰猪の草莽性」人文學11,1953年。
(*)安武千代子「近代文学史料研究(79)馬場孤蝶」学苑149,1953年。
(*)佐々木満子「近代文学史料研究(90)松本雲舟」学苑155,1953年。
(*)小出博「土井晩翠の悲劇性」文学者37,1953年。
(*)服部嘉香「土井晩翠の詩集」英語青年99(2),1953年。
(*)中野好夫「土井晩翠の思い出」英語青年99(2),1953年。
(*)高津春繁「土井晩翠とホメーロス」英語青年99(2),1953年。
(*)(参考：高津春繁「ギリシァの笑」文学21(8),1953年。）
(*)矢野禾積「文芸批評家としてのハルン」(東京都立大学)人文学報9,1953年。
(*)福原麟太郎「平田禿木先生」英語研究42-7,1953年。
(*)福原麟太郎「能の思い出：戸川秋骨先生」アルス グラフ11,1953年。
(*)河野与一「若い頃の矢崎」図書44,1953年。

(*)三枝博音「かぼそい現代の声」(河野与一)読売新聞朝刊7/19,1953年。
(*)(参考：ジェリンスキ・タデウッシュ/河野與一訳「ギリシャの學問とローマの學問」西洋古典學研究1,1953年。)
(*)川副國基『現代評論』(深田康算・寺田寅彦・阿部次郎・和辻哲郎・安倍能成・南原繁・三谷隆正等)學燈社,1953年。
(*)荘司雅子「皇至道著「西洋教育史」」教育学研究20(2),1953年。
(*)田中美知太郎「不安の時代をいかに生きるか」中央公論68(1),1953年。
(*)藤井義夫「田中美知太郎著「善と必然との間に」思想345,1953年。
(*)(参考：田中美知太郎『古典の智慧』河出新書15,河出書房,1953年(→1955,56年,新装版,河出新書)。)
(*)読書「「古典の智慧」田中美知太郎著」東京朝日新聞朝刊11/30,1953年。
(*)(参考：田中美知太郎・吉川幸次郎『自由について,儒者の言葉』現代日本評論選3,筑摩書房,1953年。)
(*)(参考：加藤信朗「メテクシスの問題」(東京都立大学人文科学研究所人文学報編集委員会)人文学報10,1953年。)
(*)(参考：有田潤「ルクレーティウスのnaturaをめぐって」早稲田大学教育学部学術研究,人文・社会・自然2,1953年。)
(*)(参考：ハーン著/太田三郎訳『西洋文学講義』市民文庫,河出書房,1953年。)
(*)(参考：安藤一郎「エズラ・パウンド「世界文学の読み方」・藤富保男著の詩集「コルクの皿」」机4(6),1953年。)
(*)麻生磯次等編『学問と教養：何をいかに読むべきか』(秀村欣二,呉茂一,竹山道雄,前田陽一等)勁草書房,1953年。
(*)(参考：中島健蔵「比較文学—日本文学を中心として」(共著『比較文学のために』所収,矢島書房,1953年。)
(*)(参考：島田謹二「比較文学—日本を中心として」(共著『日本文学と英文学』所収,矢島書房,1953年。)
(*)(参考：富士川英郎「比較文学—日本文学中心として」(共著『日本文学とドイツ文学』所収,矢島書房,1953年。)
(*)(参考：松田穣「比較文学—日本文学を中心として」(共著『日本文学とフランス文学』所収,矢島書房,1953年。)
(*)(参考：島田謹二「比較文学における材源の問題」東京大学教養部紀要7月号,1953年。)
(*)(参考：安藤一郎「エズラ・パウンド「世界文学の読み方」・藤富保男著の詩集「コルクの皿」」机4(6),1953年。)
(*)(参考：中島健蔵編『近代日本文學における外國文學の影響』近代日本文学講座2,河出書房,1953年。)
----太田三郎「ヨーロッパ系文学との接触初期」
竹内英之助「消化吸収時代第1」
太田三郎「消化吸収時代第2」
中島健蔵「同時代的影響の展開第1」
吉田精一「同時代的影響の展開第2」
山本正秀「西洋文学の日本文体に及ぼした影響」
小宮豊隆「外国文学摂取の回想」

(*)平田次三郎「翻訳文学の歴史」(至文堂)解釈と鑑賞208,1953年。
(*)瀬尾祐「原文訳と重訳」(至文堂)解釈と鑑賞208,1953年。
(*)高橋義孝「「即興詩人」」(至文堂)解釈と鑑賞208,1953年。
(*)安田保雄「「海潮音」--小曲を中心として」(至文堂)解釈と鑑賞208,1953年。
(*)西脇順三郎『あむばるわりあ・旅人かへらず』現代日本名詩選,筑摩書房,1953年。
(*)(參考：泉井久之助「ウエルギリウスのディードについて：文學史上のディードー傳説のテーマとその比較文学的一假説」西洋古典學研究1,1953年。)
(*)(參考：樋口勝彦「Captatio《遺産ねらい》に関するマールティアーリスの諷刺詩」西洋古典學研究1,1953年。)
(*)(參考：呉茂一「ギリシアの古典劇について」思想21(4),1953年。)
(*)(參考：呉茂一「お祭りごと」文藝春秋31(1),1953年。)
(*)イソップ原作/川端康成文・杉全直え『イソップ』トッパンの絵物語,トッパン,1953年。
(*)濱田廣介文・玉川大学出版部編『イソップ』こども百科14,誠文堂新光社,1953年。
(*)(參考：国分一太郎「イソップとクルイーロフの作品—世界の寓話文学」(文学教育研究会)文学教育3,1953年。)
(*)永積安明『中世文學論(鎌倉時代篇)』同心社,1953年(→1962年,2刷)。
(*)和辻哲郎「歌舞伎と操浄瑠璃(1,2)」(百合若)芸術新潮4(43,4),1953年。
(*)(參考：ゴビノー著/加茂儀一訳『ルネッサンス』角川書店,1953年。)
(*)(參考：池田廉「十三世紀トスカナ庶民詩の流れとアンジョリエーリの文学」イタリア学会誌2,1953年。)
(*)(參考：岡崎義恵「日本の文芸復興とイタリア・ルネッサンス」国文学 解釈と鑑賞18(8),1953年。)
(*)(參考：神山四郎「聖トーマスとルネッサンス」声909,1953年。)
(*)(參考：永井三明「ルネサンス・イタリアの崩壊過程に関する一考察」イタリア学会誌2,1953年。)
(*)(參考：ダンテ/山川丙三郎訳『神曲(中)』岩波文庫,岩波書店,1953年。)
(*)(參考：ダンテ/北川冬彦訳『神曲—現代訳・地獄篇』創元社,1953年。)
(*)(參考：中野好夫「狂信と殉教[ジロラー・サヴォナローラ]—世界史の十二の出来事(7)」新潮50(2),1953年。)
(*)參考：山内宣「エラスムスとルター」思想241,1953年。)
(*)(參考：G.ランソン,P.テュフロ/有永弘人訳『フランス文學史』(3巻)中央公論社,1954年。)
(*)(參考：杉捷夫『朝の詩人』(仏文学史,古典主義)三笠文庫,三笠書房,1953年。)
(*)(參考：荘保三郎「アメリカにおける仏語学・仏文学に関する学位論文について」Gallia1,1953年。)
(*)(參考：渡邊一夫「擬似デカダンス」思想5月号,1953年。)
(*)(參考：渡邊一夫「ラブレー管見」思想354(12月号),1953年。)
(*)(參考：小野清一「モラリスト研究序説」日本文化33,1953年。)
(*)(參考：関根秀雄「モンテーニュ・アルチスト」英語青年99(6),1953年。)
(*)(參考：関根秀雄「モンテーニュ—生涯と著作」理想244,1953年。)
(*)(參考：モンテーニュ著/アンドレ・ジード編/関根秀雄訳『モンテーニュ』永遠の言葉叢書,創元社,1953年。)
(*)(參考：河出書房・世界大思想全集23『モンテーニュ小論；月曜閑談・哲学的対話・イギ

リス文学史時論：シェイクスピア論：バルザック論』(サント・ブーブ/渡邊一夫・土居寛之訳,レナン/平岡昇訳,テーヌ/平岡昇訳),1953年。)
(*)(参考：ブリア・サヴァラン著/関根秀雄訳『美味礼讃：味覚の生理学』創元社, 1953年。)
(*)(参考：パスカル著/関根秀雄訳『パンセ』創元社, 1953年。)
(*)(参考：和田誠三郎「パスカルの道：『パンセ』を中心に」(大阪大学)Gallia 1,1953年。)
(*)(参考：岩瀬孝「フランスにおけるラシーヌ研究の近況」綜合世界文芸6,1953年。)
(*)(参考：加藤美雄「「半獣神の午後」の一解釈：初稿より決定稿へ」(マラルメ)人文研究4(12),1953年。)
(*)(参考：河合亨「スタンダールの青少年時代の読書について」綜合世界文芸6,1953年。)
(*)(参考：矢野禾積「テーヌと日本」(東京大学比較文学会)東京大学比較文学新聞312,1953年。)
(*)(参考：滝田文彦「ポール・ヴァレリイ」?,1953年。
(*)(参考：田中倫郎「ヴァレリー試論」三田文学XLIII(3),1953年。)
(*)(参考：鼓常良『ドイツ文学史』白水社,1953年。)
(*)(参考：西田秀穂「ヴィンケルマンとレッシング「ラオコーン」論争(1)「美の理想」」東北大学文学研究年報4,1953年。)
(*)(参考：ゲーテ/菊池榮一註譯『西東詩集』研究社独逸文学叢書3,研究社,1953年。)
(*)(参考：笹沢美明『ゲーテ—その生涯と作品』信友社,1953年。)
(*)(参考：毛利浄賢「ゲーテの形成衝動について：両極性の問題を中心として」独仏文學研究3,1953年。)
(*)(参考：大和邦太郎「ゲーテとフマニテート」人文学報9,1953年。)
(*)(参考：村井勇吾「ゲーテの詩における「虚構と真実」」人文論究4(1),1953年。)
(*)(参考：ヨハネス・ベッヒェル「解放者ゲーテ」中央評論27,1953年。)
(*)(参考：藤戸正二「ヒューマニズムとエゴイズム—ゲーテの「ファウスト」に就いて」理想246,1953年。)
(*)(参考：小野村胤久「ゲーテの現代に通じる道」奈良学芸大学紀要3(1),1953年。)
(*)(参考：浜川祥枝「二つのゲーテ像：ジムメルとルカーチ」ドイツ文学10,1953年。)
(*)(参考：西義之「トオマス・マンにおけるゲーテ像」金沢大学法文学部論集 文学篇1,1953年。)
(*)(参考：成瀬無極「ゲーテとハウプトマン」日本女子大学紀要・文学部3,1953年。)
(*)(参考：住吉勇「シラーの愛の体験と文学」ドイツ文学23,1953年。)
(*)(参考：高野巽「シラーにおける美的教育の問題」ドイツ文学23,1953年。)
(*)(参考：奥住綱男「レッシングとアリストテレス(1)」宇都宮大学学芸学部研究論集・第1部3,1953年。)
(*)(参考：南大路振一「若きレッシングの宗教思想(2)」大阪市立大学・人文研究4(7),1953年。)
(*)(参考：レッシング/高橋義孝訳,シラー/新関良三訳,ゲーテ/奥津彦重訳『ラオコオン,人間の美的教育について,エッケルマンとの対話』河出書房,世界大思想全集哲学・文芸思想篇22,1953年。)
(*)(参考：天野佳人「若きシラーの文学における叛逆の精神と行動について」静岡大学文理学部研究報告4,1953年。)
(*)(参考：ヘルダーリン/谷友幸訳『エムペードクレス：悲劇』岩波文庫,1953年。)

(*)(参考：小牧健夫「ヘルダーリン作,谷友幸訳「劇エムペドークレス」」図書47,1953年。)
(*)(参考：小牧健夫『ヘルダーリーン研究』白水社,1953年。)
(*)(参考：小牧健夫「ヘルダーリンの「ハイデルベルク」(1,2)」関西大学文学論集3(3),1953年/4(1),1954年。)
(*)(参考：野村八良「書斎から(1)--「ヘルダーリン研究」」學燈50(9),1953年。)
(*)(参考：高原宏平「ヘルダーリーン小論」(京都大学教養部)独逸文學研究2,1953年。)
(*)(参考：熊谷恒彦「ヘルダーリーンにおける文学と政治の問題--「エムペドクレス」以降」ドイツ文学10,1953年。)
(*)(参考：ニイチェ/生田長江訳『ツァラトゥストラ(前後)』近代文庫110,111,1953年。)
(*)(参考：秋山英夫『人間—ニーチェ』社会思想社,現代教養文庫,1953年。)
(*)(参考：佐野利勝「ブルクハルト・ニーチェ往復書簡」(京都大学教養部)独逸文学研究報告2,1953年。)
(*)国松孝二「戦後のニーチェ文献」ドイツ文学10,1953年。
(*)(参考：Hermann Hesse/高橋健二編“Der Latenischüler：aus Diesselts”Ikubundo,1953年。)
(*)(参考：蔵原惟人「マルクスと芸術」前衛85,1953年。)
(*)藤井啓一「日本英語雑誌史」(帝塚山学院短期大学)研究年報1,1953年。
(*)(参考：ショウ/山本修二譯『シーザーとクレオパトラ』岩波文庫,岩波書店,1953年。)
(*)(参考：福原麟太郎「ジュリアス・シーザー」スクリーン・ステージ365,1953年。
(*)(参考：舟津重輝「Mass Scene in Julius Caesar」兵庫農業短期大学紀要3,1953年。)
(*)(参考：大山敏子『シェイクスピアの心象研究』篠崎書林,1953年。)
(*)(参考：柏倉俊三『シェイクスピアとその周辺』研究社出版,1953年。)
(*)(参考：竹内秀雄「シェイクスピアの史劇より学ぶべきもの—民衆の声」横浜国立大学紀要 ?号,1953年。)
(*)(参考：刈田元司「〈書評〉シェイクスピア入門(アレクサンダー,P.)」ソフィア2(4),1953年。)
(*)(参考：刈田元司「〈書評〉シェイクスピア(ニコル,A.)」ソフィア2(4),1953年。)
(*)(参考：里美安吉「芸術に現れた権力意志—Caesar contra Brutus」西南学院大学論集5(2),1953年。)
(*)(参考：植木敬一「アメリカにおけるミルトン批評の性格」神戸大学教育学部研究集録8,1953年。)
(*)(参考：柳生直行「ミルトン私観」関東学院大学短大論叢11月号,1953年。)
(*)(参考：越智文雄『ミルトン研究』同志社大学出版部,1953年。)
(*)(参考：矢野禾積「テーヌの英文学史と日本」(東京大学比較文学会)比較文学報3(2),1953年。)
(*)(参考：松田実矩「詩人スペンサーと宗教」密教文化1953(22),1953年。)
(*)(参考：阿部嘉子「キーツの詩におけるギリシャ的要素」主流16,昭和28年。)
(*)(参考：椎名力之助「「エンディミオン」におけるミーツの象徴主義」茨城大学文理学部紀要・人文科学3,1953年。)
(*)(参考：山口鉄雄「自由解放の詩人シェリー(1-3)」(汎詩人詩話会)汎詩人7,9,11月号,1953年。)
(*)(参考：ギッシング/平井正穂訳『ヘンリ・ライクロフトの私記(上下)』開文堂,1953年。)
(*)(参考：Gissing/山田惣七編『ヘンリ・ライクロフトの私記(春の巻)』泰文堂,1953年。)

(*)(参考：Gissing/Kozo Hayashibara(ed.with notes),*The private papers of Henry Rycroft*,Nan'n do,1953年。)
(*)(参考：Gissing/S.Yamada,*The private papers of Henry Rycroft*,泰文堂,1953年。)
(*)(参考：Gissing/Nobutaro Nakanishi(ed.introduction & notes),*The private papers of Henry Rycroft*：*Spring &Summer*,English texts series,Yamkaguchi Shoten,1953年。)
(*)(参考：ギッシング/宮城運作編註, *The private papers of Henry Rycroft*,雪渓書房,1953年。)
(*)(参考：大西昭男「T.S.エリオットの個性滅却論」関西大学文学論集3(2),1953年。)
(*)(参考：守屋冨生「アーノルド・ベネット—その文学観の推移」早稲田文学[第3/4期]19(2),1953年。)
(*)(参考：シェーラー著/樺俊雄訳『聖者・天才・英雄』創元社,1953年。)
(*)(参考：潮安「ギリシャの哲学」小野田高等学校研究論集7,1953年。)
(*)(参考：A.E.テイラー/松浪信三郎訳『ソクラテス』パンセ書房,1953年。)
(*)(参考：岩崎允胤「ヌース・ポイエーティコス問題の哲學的展開：アリストテレスからトマスまで」北海道大學文學部紀要2,1953年。)
(*)(参考：稲田晃「古代哲学に於ける意志の自由と刑事責任の問題—プラトンの部(続)」宇都宮大学学芸学部研究論集/第1部(3),1953年。)
(*)(参考：有田潤「エピクーロス第三書簡の研究—ヘレニズム的人間像の素材として」フィロソフィア25,1953年。)
(*)(参考：松村克己『アウグスティヌス』(4版,西哲叢書5,弘文堂,1953年。)
(*)(参考：近山金次「アウグスティヌスと祖国の危機」ソフィア2(4),1953年。)
(*)(参考：平石善司「ギリシャ哲学とフィロン」人文學10,1953年。)
(*)(参考：田中美知太郎「古典研究における解釋の問題—プロクロスの註解から」西洋古典學研究1,1953年。)
(*)(参考：高津春繁「Arcadia(Notes and Discussions)」西洋古典學研究1,1953年。)
(*)(参考：泉井久之助「ウェルギリウスのディドーについて：文學史上のディドー傳說のテーマとその比較文學的一考察」西洋古典學研究1,1953年。)
(*)(参考：小島武味「ギリシャ観念論に於ける普遍の問題：ヘーゲル哲学への途」熊本大學教育學部紀要1,1953年。)
(*)(参考：ヒルティ/正木正訳『悩みと愛と幸福：ヒルティの言葉』創元文庫,創元社,1953年。)
(*)(参考：Carl Hilty,(erl.)von K.Yamada“Die Stufen des Leben”(2版,Nankodo,1953.))
(*)會津伸「三谷隆正先生—生涯の素描のために」學燈50(11),1953年。
(*)(参考：和田清・山中謙二『世界史；附歴史地図』日本書院,1953年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎/史学会編『世界史』3訂,山川出版社,1953年。)
(*)(参考：谷口五男「中学校における社会科世界史」歴史教育1(2),1953年。)
(*)(参考：酒井忠夫『世界史研究』新学生叢書,績文堂,1953年(→1955年,改訂。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎/史学会編『世界史』3訂,山川出版社,1953年。
(*)(参考：史学教育研究会,原随園『新考世界史』補訂,黎元社,1953年。)
(*)(参考：亀井高孝『西洋史夜話』吉川弘文館,1953年。)
(*)(参考：高山一十『希臘における社会史の研究：社会意識の史的考察』文学博士論文,広島文理大学,1953年。)
(*)(参考：ヘロドトス/青木巌訳『歴史(上中下)』創元文庫,創元社,1953年。)

(*)(參考：太田秀通「ペルシア戦争—世界史講座(1)」歴史評論7(6),1953年。)
(*)(參考：中原與茂九郎他『西アジア・インド史』(「第2章 ヘレニズム時代」)京大東洋史5,創元社,1953年。)
(*)(參考：村川堅太郎「古典古代史界野近況(紹介・批評)」西洋古典學研究1,1953年。)
(*)(參考：C.M.[松平千秋?]「書評のあとに(紹介・書評)」西洋古典學研究1,1953年。)
(*)(參考：太田秀通「古典古代の頽廃について」思想347,1953年。)
(*)(參考：浅香正「古代イタリアの大土地経営と奴隷制の関係」西洋史学17,1953年。)
(*)(參考：小島幸治「〈資料〉ロシアの「世界史学者」と外国史研究」社會事業の諸問題：日本社會事業短期大學研究紀要2,1953年。)
(*)(參考：藤谷弘懿「世界史学の問題：A・トインビーの紹介を兼ねて」ふびと2,1953年。)
(*)秀村欣二「1952年の歴史学界：西洋史：古代」史學雜誌62(5),1953年。)
(*)北村忠夫「1952年の歴史学界：西洋史：中世」史學雜誌62(5),1953年。)
(*)成瀬治「1952年の歴史学界：西洋史：近世」史學雜誌62(5),1953年。)
(*)松井透「1952年の歴史学界：西洋史：近代」史學雜誌62(5),1953年。)
(*)矢田俊隆「林健太郎著「史学概論」」史學雜誌62(11),1953年。)
(*)(參考：尾鍋輝彦「発展段階理論における奴隷制」お茶の水女子大学人文科学紀要2,1953年。)
(*)(參考：鈴木雅也「アテナイのエジプト遠征及びその敗戦に於ける年代的考察」関西学院史学2,1953年。)
(*)(參考：鈴木雅也「アテナイのエジプト遠征及びその敗戦に於ける年代的考察(史學特輯号)」(関西学院大学文学部)人文論究4(3),1953年。)
(*)(參考：柴山英一「ニコロ・マキアヴェルリ著「フィレンツェ史」の構成経緯について」西洋史学16,1953年。)
(*)(參考：ナポレオン著/オウターヴ・オーブリイ編/大塚幸男訳『ナポレオン』永遠の言葉シリーズ,創元社,1953年。)
(*)(參考：山中峯太郎『ナポレオン：運命の皇帝』偉人傳文庫,ポプラ社,1953年。)
(*)(參考：柴田練三郎『ナポレオン：世界の英傑』偉人物語文庫29,偕成社,1953年。)
(*)(參考：アンリ・カルヴェ/井上幸治訳『ナポレオン』文庫クセジュ,白水社,1953年。)
(*)(參考：井上智勇「ドイツにおける歴史教育」歴史教育11(3),1953年。)
(*)(參考：平泉澄「ナポリの哲人[ベネヂット・クローチェ]」藝林4(3),1953年。)
(*)(參考：羽仁五郎『クロォチェ：市民的哲学者』市民文庫2029,河出書房,1953年。)
(*)(參考：佐野利勝「ブルクハルト・ニーチェ往復書簡」独逸文學研究2,1953年。)
(*)(參考：千代田謙「モムゼンのケーザル観について」史学研究50,1953年。)
(*)(參考：M.C.ダーシー「キリスト教的歴史観」ソフィア2(1),1953年。)
(*)(參考：安藤英治「歴史意識について—イエスとマルクス」社会事業36(9),1953年。)
(*)(參考：刈田元司『ドーソン』現代史講座,創文社,1953年。)
(*)長寿吉「「思慮と追憶」の第十八章」史淵56,1953年。
(*)(參考：日本建築学会編『西洋建築史圖集』改訂新版,彰国社,1953年(→1960年,6版。→1964年,改訂新版7版。→1973年,再訂版。→1981年,3訂版。→1983年,3訂版3版)。)
(*)(參考：井上充夫『建築史』(「エーゲ海地方」「古典時代」「ビザンチン」「ルネッサンス」)建築教程新書1,理工図書,1953年。)

(*)(参考：飯田須賀斯『中国建築の日本建築に及ぼせし影響—特に細部について』(エンタシス。相模書院,1953年。)
(*)海老澤有道「西洋天文学の伝来」基督教史学4,1953年。
(*)(参考：原種行『ぼくらの科学史』ぼくらの叢書,東京堂,1953年。)
(*)(参考：林巖「古代ギリシャに於ける体育断想：アリストテレスの研究」お茶の水女子大学人文科学紀要4,1953年。)
(*)(参考：松本厚「ギリシヤ自然哲学者の科学的思考について」広島大学文学部紀要4,1953年。)
(*)(参考：近藤洋逸「近代科学の形成とプラトニズム」思想345,1953年。)
(*)(参考：中桐大有「近代科学における知識の性格と意義」文化学年報3,1953年。)
(*)(参考：宇尾野久「エジプト農業のギリシャ化に対する通説への反省—M.シェネーベルのパピルス研究を中心として」三田学会雑誌46(3),1953年。)
(*)(参考：ドゥ・カンドル著/加茂儀一訳『栽培植物の起源(上中下)』岩波文庫,岩波書店,1953-58年。)
(*)(参考：コペルニクス著/矢島祐利譯『天體の回轉について』岩波書店,1953年。)
(*)野尻抱影「星の観察と神話伝説への道」(日本読書新聞編集部『私の読書遍歴』所収,1953年。)
(*)野尻抱影『星座めぐり・春夏秋冬』誠文堂新光社,1953年。
(*)(参考：板倉聖宣『天動説と地動説の歴史的発展の論理構造の分析』東大自然弁証法研究会,1953年。)
(*)(参考：米倉二郎「地割の展開—古代オリエントよりギリシア・ローマへ」広島大学文学部紀要3,1953年。)
(*)(参考：栗野頼之祐「〈紹介〉アレクサンドロス大王(356-323B.C.)貨幣面肖像[表紙絵の説明](史學特輯号)」人文論究4(3),1953年。)
(*)(参考：浅香正「古代イタリアの大土地経営と奴隷制の関係」西洋史学17,1953年。)
(*)(参考：鈴木雅也「アテナイのエジプト遠征及びその敗戦に於ける年代的考察(史學特輯号)」人文論究4(3),1953年。
(*)(参考：鈴木雅也「アテナイのエジプト遠征及びその敗戦に於ける年代的考察」関西学院史学2,1953年。)
(*)(参考：井上一「ヘレニズム時代の君主礼拝の誕生」西洋史学19,1953年。)
(*)(参考：米倉二郎「地割の展開—古代オリエントよりギリシア,ローマへ」広島大学文学部紀要3,1953年。)
(*)(参考：田中整爾「ドイツ古代及び中世初期の土地制度に関するドプシュ理論(1,2)」阪大法学7,8,1953年。)
(*)(参考：戸沢鉄彦『国家の死滅について』名古屋大学,法学博士[報告番号不明],1953年。)
(*)(参考：衣笠茂「アテナイの民主政に関する最近の論文」西洋史学18,1953年。)
(*)(参考：久保勉『プラトンの僭王政治論』東北大学,文学博士[報告番号不明],1953年。)
(*)(参考：伊藤貫一「哲学と政治—プラトンの「国家」を中心として」人文論究11,1953年。)
(*)(参考：大羽哲郎「ヘーゲル法律哲学における「国家と世界史との関係」の考察」哲学会誌1,1953年。)
(*)(参考：田中周友「ローマ法學の古典期について」西洋古典學研究1,1953年。)
(*)(参考：船田享二『ローマ法入門』有斐閣,1953年(→1960年,改訂版。→1967年,新版)。)

(*)(参考 : 大竹玄吾「気候的文明史論小論—エルズワース・ハンティントンの「文明と気候」をめぐって」浜松商科短期大学研究論集2,1954年。)
(*)森田たま「羅馬旅情」婦人公論39(12),1954年。
(*)三島由紀夫『戯曲・評論・紀行』(「ニオベ」,「アポロの杯」)新潮社,1954年。
(*)新村出「南蛮文化要略」(1954年。→1973年,新村出全集・第7巻所収,筑摩書房。)
(*)(参考 : ジョージ・トムソン/池田薫訳『ギリシャ古代社会研究 : 先史時代のエーゲ海(上下)』岩波書店,1954年。)
(*)(参考 : 村田數之亮「エーゲ文明研究の近況について」史林37(1),1954年。)
(*)(参考 : 長谷川清子「エーゲ海服装の成立とその背景」名古屋女学院短期大学紀要1,1954年。)
(*)河相達夫「エーゲ海の鯛」(甘辛社)あまカラ36,1954年。
(*)(参考 : 元良勲「70.アトランティスの構想(歴史・意匠)」日本建築學會研究報告28(1),1954年。)
(*)白川渥『オリンピアの庭』中外書房,1954年。
(*)(参考 : 小川政恭「ギリシア文化の流れ」人間の心の歴史1(2),1954年。)
(*)(参考 : 村治能就「アリストテレスの世界像」理想254,1954年。)
(*)(参考 : 角田文衛「西方古典文化の成立について」古代学3(3),1954年。)
(*)(参考 : 西村貞二「回想のホイジンガ」史学雑誌63(4),1954年。)
(*)三輪福松「フィレンツェの図書館」図書62,1954年。
(*)(参考 : 栗野頼之祐「ファレロンのデメトリオスとアレクサンドリア學府の創建について」西洋古典學研究2,1954年。)
(*)(参考 : 小林文次「ウルク神殿について」古代学3(4),1954年。)
(*)(参考 : 森田慶一「アテナイのアゴラに関するノート」西洋古典學研究2,1954年。)
(*)(参考 : シュリーマン/村田数之亮訳『古代への情熱 : シュリーマン自伝』岩波文庫,1954年(→1975年,岩波版ほるぷ図書館文庫,1976年,文庫版改訳。1991年,ワイド版岩波文庫76。)
(*)(参考 : ジョルジュ・どー著/村田數之亮訳『考古學の歩み』文庫クセジュ,白水社,1954年。)
(*)杉浦明平「ヴィットリーニ著,清水三郎治訳「シシリー島の憂鬱」」近代文学9(3),1954年。
(*)(参考 : 座右寶刊行会編『ルーブル美術館』角川書店,角川写真文庫2,1954年。)
(*)(参考 : 杉浦明平訳『レオナルド・ダ・ヴィンチの手記(上下)』岩波文庫,岩波書店,1954年。)
(*)(参考 : 今泉篤男「ルネッサンスの素描」別冊みずゑ5,1954年。)
(*)(参考 : 岩波書店編集部・岩波映画製作所編集『ミケランジェロ : 彫刻』(岩波写真103,岩波書店)
(*)(参考 : 会田雄次「ルネサンスの美術と社会—ラファエロの場合」 西洋史学22,1954年。)
(*)(参考 : 会田雄次「ルネサンスの美術と社会」西洋史学25,1954年。)
(*)(参考 : 三雲祥之助「ビザンチン芸術覚書」美術手帖81,1954年。)
(*)参考 : 岩波書店編集部編・岩波映画製作所写真『ミケランジェロ : 彫刻』岩波写真文庫103,岩波書店,1954年。)
(*)(参考 : 東京大学美術史研究会編『少年世界美術全集4(西洋篇1)』実業之日本社,1954年。)
----「小アジアの美術」「エーゲ海の美術」「クレタの美術」「クレタ時代のエ

ーゲ海美術」「ミュケナイの美術」「ミュケナイ以後のエーゲ海美術」「ギリシアの美術」「アルカイック時代の美術」「クラシック時代の美術」「ギリシアの陶器画」「クラシック後期」「ヘレニスティック時代の美術」「エトルリアの美術」「ヘレニスティック及びローマ時代の絵画」「花を摘む女[ローマ]」「パリジェンヌ[クレタ壁画]」「マルスとヴィナス[ローマ]」「ディオニュソス秘儀[ローマ]」「婦人像モザイク[ローマ]」

(*)(参考：村田数之亮『西洋美術史』創元社,1954年。)
(*)(参考：中村二柄「美術史教育の課題」京都学芸大学教育研究所所報1,1954年。)
(*)(参考：中村二柄「美術史と歴史学：かさねて家永教授に問う」京都學藝大學學報A 文科5,1954年。)
(*)(参考：ハインリヒ・ヴェルフリン/中村二柄訳「「美術史の基礎概念」の修正」文化史学8,1954年。)
(*)(参考：中村二柄「ヴェルフリンの修正論」京都學藝大學學報A[文化]4,1954年。)
(*)(参考：中村智教「近代におけるガンダーラ美術の発見」密教文化27,1954年。)
(*)「日本洋画史年表(附・政治社会史,文化史,西洋美術史)1868(明治元年)~1953」美術手帖77,1954年。
(*)(参考：ヨセフ・ロゲンドルフ/渡辺秀訳「海外評論誌展望：イギリスのトインビー論争」ソフィア3(3),1954年。)
(*)(参考：西村貞二「二人の文明批評家—ドーシンとトインビー」あるびよん22,1954年。)
(*)(参考：深瀬基寛「トインビーとそのほか」あるびよん42,1954年。)
(*)(参考：山本新「トインビー」理想253,1954年。)
(*)(参考：渡辺真治「トインビーの観た近代」歴史教育2(10),1954年。)
(*)(参考：林健太郎「トインビー「世界と西欧」への一反論」學燈51(12),1954年。)
(*)(参考：ロゲンドルフ・ヨゼフ「海外評論誌展望：イギリスのトインビー論争」ソフィア3(3),1954年。)
(*)(参考：池島重信「オールテガ」理想253,2954年。)
(*)(参考：三輪福松「古代復原の夢」文庫39,1954年。)
(*)(参考：三輪福松「ギリシャ彫刻になった男」芸術新潮5(7),1954年。)
(*)(参考：三輪福松「ドゥオモの工事」」図書55,1954年。)
(*)(参考：三輪福松「フィレンツェの図書館」図書62,1954年。)
(*)(参考：山本智教「ガンダーラ派の佛傳浮彫の手法」印度學佛教學研究3(1),1954年。)
(*)(参考：山本智教「近代におけるガンダーラ美術の発見」密教文化27,1954年。)
(*)児島喜久雄他編『天平彫刻』生活百科刊行会,増補版,1954年。
(*)(參考:楫西光速等編『新しい目で見た世界と日本の歴史・2』(エンタシス)東西文明社,1954年。)
(*)(参考：板澤武雄『日蘭文化交渉史』法政大学,文学博士[報告番号不明],1954年。)
(*)(參考:井上幸治・川崎康之・野原四郎編『総合世界歴史事典』時事通信社,1954年(→1957年,改訂版)。)
(*)(参考:今泉篤男・山田智三郎編『西洋美術事典』東京堂,1954年(→1958年,訂正版。→1959年,訂正3版。→1960年,訂正4版。→1962年,訂正5版。→1963年,訂正6版。→1964年,訂正7版。→1965年,訂正8版。→1966年,訂正9版。→1967年,訂正10版。→1970年,訂正13版。→

1971年,訂正14版。→1973年,訂正16版。→1974年,訂正18版。→1975年,訂正19版)。
(*)(参考：稲富栄次郎「〈書評〉ヘルダー版教育学辞典」ソフィア3(3),1954年。)
(*)(参考：福原麟太郎編集代表『簡約英米文學辭典』河出書房,英語英米文学講座9,1954年。)
(*)(参考：渡邊一夫他編『世界文學辭典』(河出書房,世界名作文豪全集・別巻),1954年(←1951年刊。)
(*)(参考：研究社辞書部編(齋藤勇)『研究社世界文學辭典』研究社辞書部,1954年(→1961年,9版)。)
(*)(参考：中野好夫編『世界文学史概説』河出書房,河出文庫,1954年(→1955年,再版。)
(*)『大人名辞典』平凡社,1954年。
(*)(参考：西尾実・久松潜一編『日本文学辞典』上製,學生社,1954年。)
(*)久松潜一・吉田精一編『近代日本文学辞典』東京堂出版,1954年(→1965年,増訂10版。)
(*)近藤忠義編『日本文学史辞典』日本評論社,1954年。
(*)Y.Y.「引用句辞典：THEKENKYUSHA DICYTIONARY OF ENGLISH QOTATIONS,with Examples of their Use by Modern Authors,Edited by Sanki Ichikawa,Madsami Nishikawa and Mamoru Shimizu,Tokyo,Kenkyusha,1952.」英文学研究29.30(1),1954年。
(*)(参考：林達夫・野田又夫他編『哲学事典』平凡社,1954年。)
(*)(参考：小林珍雄編『キリスト教用語辞典』東京堂,1954年。)
(*)(参考：弥永昌吉「数学辞典のこと」図書54,1954年。)
(*)(参考：庄司浅水「聖書よもやま話」ニューエイジ6(9),1954年。)
(*)(参考：稲富栄次郎「〈書評〉教育学辞典(ヘルダー版)」ソフィア3(3),1954年。)
(*)(参考：太田秀通「ミケーネ文字の解読について」史学雑誌63(11),1954年。)
(*)(参考:粟野頼之祐「ファレロンのデメトリオスとアレクサンドリア學府の創建について」西洋古典學研究2,1954年。)
(*)(参考：堀松武一「第二部会 1 ギリシャ教育史におけるliberal artsのpractical artsに対する優位について：主としてその社会経済的背景に着目して」日本教育学会大會研究発表要項13,1954年。)
(*)(参考：高塚正規「プラトーンと言語の学」商学論究9,1954年。)
(*)石井光治「平文編「和英語林集成」」神戸外大論叢5(1),1954年。
(*)齋藤信「いわゆる「ハルマ和解」の異本について」金沢大学法文学部論集・文学篇2,1954年。
(*)齋藤勇『学究生活の思い出』金田一京助代表,宝文館,1954年。
(*)中村哲編『學生・友情・學問』河出書房,河出文庫30,1954年。
(*)河野与一「辞書・翻訳・語学・忠告(座談会)」図書59,1954年。
(*)社会思想研究会編『最近の教養文献』何を読むべきか2,現代教養文庫111,社会思想研究会出版部,1954年。)
(*)田中美知太郎「西洋古典の翻訳と紹介」文庫5月号,1954年。
(*)Fujii, Yoshio‘Development of the Study of Greek Philosophy in Japan’The Annals of Hitotsubashi Academy IV-2,1954.
(*)(参考：石濱純太郎他訳・泉井久之助編『世界の言語』(朝日新聞社),1954年。)
(*)(参考：ヴィルヘルム・トムセン/泉井久之助・高谷信一訳『言語學史：その主要點を辿りて』(朝日新聞社,3版),1954年。)

(*)(参考：泉井久之助「弁論と言語と日本語」政界往来20(9),1954年。)
(*)(参考：アーサー・フォードサー/角田順訳「パブリック・スクールの制度—ラグビイ校のトマス・アーノルド」信濃教育814,1954年。)
(*)(参考：大脇義一他『人物評伝』(アリストテレス等)中山書店,心理学講座1-II,7,1954年。)
(*)(参考：塚本虎二『福音書異同一覧：前三福音書共観』再版,伊藤節書房,1954年。)
(*)(参考：小田實「新約學文献表(1)」(基督教研究会)基督教研究28(1),1954年。)
(*)海老澤有道/基督教史学会編『日本基督教史関係和漢書目録1590-1890』文晃堂書店,1954年。
(*)(参考：杉原四郎「戦後わが国におけるJ.S.ミル文献について(上下)」関西大学経済論集3(4),4(2),1954年。)
(*)松村武雄『日本神話の研究・第1巻』(百合若)培風館,1954年。
(*)宇留野元一「「あこがれ」としての革命概念—太宰治・田中英光にかんするノート」文学評論8,1954年。
(*)(参考：田中秀央・姫野誠二『ギリシア神話,ホーマー物語,イソップ神話』(世界少年少女文学全集,古代篇)創元社,1954年。)
(*)(参考：中島孤島『ギリシヤ神話』同和春秋社,1954年。)
(*)(参考：ブルフィンチ/野上彌生子訳『ギリシア・ローマ神話(上下)』岩波少年文庫,岩波書店,1954年。)
(*)(参考：田中秀央訳・呉茂一訳・松村武雄訳・新村出訳『ギリシア神話・ホーマー物語・北欧神話・イソップ物語』世界少年少女文学全集1(古代篇),創元社,1954年。)
(*)(参考：江口裕子「ギリシャ神話とギリシャ人の特質：英文學研究の一道程として」青山学院女子短期大学紀要3,1954年。)
(*)(参考：徳永春夫「神話学の知識を史学に応用することについて」東方古代研究5,1954年。)
(*)(参考：佐々木教悟「アレクサンドロスと仏教」大谷学報34(1),1954年。)
(*)(参考：野上素一「彼岸の世界構造：ギリシア・ローマ及びキリスト教文学に現れた」イタリア学会誌3,1954年。)
(*)富永惣一岩波書店編集部編・岩波映画製作所写真『聖母マリア』岩波書店,岩波写真文庫131,1954年。)
(*)(参考：エマヌエル・ゴンザレス「新約聖書における聖母マリア(1,2)」声922,1954年/925,1955年。)
(*)A.M.ソーデン「聖母マリアと日本(2,3)」声914,915,1954年。
(*)ア・ソーデン/深井敬一訳『聖母マリアと日本』中央出版社,1954年。
(*)(参考：片岡小一郎『聖母崇敬史大要』中央出版,1954年。)
(*)(参考：デル・コール編『貧しき者の聖母』中央出版,1954年。)
(*)(参考：グドルフ『聖書に於ける聖母』中央出版,1954年。)
(*)(参考：ヒラリー・モリス/木船重昭訳『悲しみの聖母』ドン・ボスコ社,1954年。)
(*)(参考：ベルナルド著/G.ラグレーヴ訳『聖母マリアとわが生活』ドン・ボスコ社,1954年。)
(*)(参考：トマス・ア・ケンピス著/アルバン・デ・チガラ編/木船重昭訳『マリアにならう：イミタチオ・マリエ』エンデルレ書店,1954年。)
(*)(参考：新教出版社編集部編『キリストに従いし人々』新教出版社,信仰指導叢書9,1954年。)
(*)(参考：石島三郎「キリストに従いし人々」福音と世界9(3), 1954年。)

(*)(参考：トマス・ア・ケンピス/アルバン・デ・チガラ編/木船重昭訳『マリアに倣いて：イミタチオ・マリエ』ヘルデル代理店エンデルレ書店,1954年。)
(*)(参考：シェンキェヴィチ/河野与一訳『クォヴァディス：ネロの時代の物語(上中下)』岩波文庫、1954年。)
(*)(参考：ゼリン・ロスト著/関根正雄訳『舊約聖書緒論』普及版,待晨堂,1954年。)
(*)(参考：関根正雄・内田芳明『旧約宗教の社会学的背景：ウェーバー「古代ユダヤ教」研究』基督教論叢16,新教出版社,1954年。)
(*)(参考：渋谷治「聖ペテロはローマに来なかったという説」声923,924,1954年。)
(*)(参考：藤井武『パウロ・ヨハネ』岩波書店,1954年。)
(*)(参考：小嶋潤『キリスト教の話』改訂版, 宝文館,1954年。)
(*)(参考：新見宏『聖書の時代史』日本基督教団出版部,1954年。)
(*)(参考：ジョセフ・シェルホルン/曙学園訳『提要マリア学』ドン・ボスコ社,1954年。)
(*)チースリク師「キリシタン時代における聖書」ソフィア3(2),1954年。
(*)日本聖書協会訳刊『新約聖書：口語訳』1954年。
(*)村田四郎・山谷省吾『ヨハネ傳・使徒行傳』新約聖書註解第2巻,新教出版社,1954年。
(*)黒崎幸吉『使徒行傳』註解新約聖書,永遠の生命社,友愛書房(発売),1954年(→1955年,序,口語訳付改訂版,立花書房。)
(*)(参考：黒崎幸吉『ヨハネ黙示録』永遠の生命社,1954年。)
(*)(参考：黒崎幸吉『マルコ伝』永遠の生命社,1954年。)
(*)(参考：塚本虎二『友よこれにて勝て』伊藤節書房,1954年。)
(*)(参考：塚本虎二・鶴田雅二・長本三千蔵『対訳ヨハネ伝：希和逐訳』ハレルヤ書房,1954年。)
(*)山谷省吾「口語新約聖書をめぐって(座談会)」ニューエイジ6(7),1954年。
(*)山谷省吾「口語新約聖書について」福音と世界9(6),1954年。
(*)(参考：太田秀通「英雄時代論について」歴史評論57,1954年。)
(*)(参考：弓削達「所謂“ミラノ勅令”について」西洋古典學研究2,1954年。)
(*)(参考：前田護郎「古典古代とキリスト教：問題の所在」西洋古典學研究2,1954年。)
(*)(参考：半田元夫「ハドリアヌス勅令の一つをめぐって」史海1,1954年。)
(*)(参考：野上素一「彼岸の世界構造—ギリシャ・ローマ及びキリスト教文学に現われた」イタリア会誌3,1954年。)
(*)(参考：柳川徳治郎『久遠の母聖モニカの生涯』3版中央出版社,1954年。)
(*)海老澤有道『吉利支丹暦』一誠堂書店,1954年。
(*)海老澤有道「近代日本文化の黎明」歴史教育2(9),1954年。
(*)藤波登『いそっぷ』学級文庫,日本書房,1954年。
(*)藤沢育司『イソップ絵童話』講談社の繪本,大日本雄弁会講談社,1954年。
(*)イソップ作/八波則吉文；黒崎義介絵『イソップ絵話』講談社の繪本,大日本雄弁会講談社,1954年。
(*)Aisopos著/市川又彦訳注『イソップ物語：全訳』Phoenix Library,南雲堂,1954年。
(*)イソップ原著/佐藤義美文；熊田五郎絵『イソップえばなし』あかね書房,1954年。
(*)丹羽文雄『東京イソップ噺』東方社(丹羽文雄文庫11),1954年。
(*)相良徳三「イソップの世界」(宮崎大学)教育の研究20,1954年。
(*)荒木良雄「お伽草子(研究手引)」日本文学3(1),1954年。

(*)渥美かをる「幸若舞曲の歌謡的性格」愛知県立大学女子短期大学紀要12,1954年。)
(*)和辻哲郎「歌舞伎と操浄瑠璃との対立と交流(1-8)」(百合若)芸術新潮5(5-12),1954年。
(*)(參考：横田フサ「foukquetの失脚とLa Fontaine」フランス文学研究1854(3),1954年。)
(*)(參考：角田文衛『古代学序説』山川出版社,1954年。)
(*)文部省編『学制八十年史』文部省,1954年。
(*)(參考：亀井高孝・三上次男編『標準世界史掛図』吉川弘文館,1954年。
(*)(參考：亀井高孝・三上次男編『定本世界史地図』吉川弘文館,1954年。
(*)鎌田重雄「鮎沢信太郎著「マテオ・リッチの世界図に関する史的研究」」史学雑誌63(4),1954年。)
(*)(參考：平田俊春『最新歴史年表』日本書院,1954年。)
(*)(參考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎/史学会編『世界史』3訂,4訂版,山川出版社,1954年。)
(*)(參考：原随園『世界史』教育図書,1954年。)
(*)(參考：池田哲郎・西村貞二・村岡晢『新稿西洋史』文理圖書出版社,1954年。)
(*)(參考：楫西光速等編『新しい目で見た世界と日本の歴史1』東西文明社,昭和29年。)
----「西洋のはじまり」「エーゲ海の文明」「ギリシャのポリス」「アレクサンダー大王とヘレニズム」「ローマ帝国」
(*)(參考：弓削達「コンスタンティヌス大帝と太陽宗教の問題」史學雜誌63(2),1954年。)
(*)(參考：西村貞二「回想のホイジンガ」史学雑誌63(4),1954年。)
(*)(參考：井上一「フリッツ・テエガー著「古代史の位置」」史学雑誌63(8),1954年。)
(*)(參考：弓削達「F.G.マイヤー著「ローマ人口史と碑文統計」」史学雑誌63(8),1954年。)
(*)衣笠茂「1953年度のわが国西洋古代史学の回顧と展望」西洋史学21,1954年。
(*)(參考：梅田良忠「ユリアヌス帝の肖像の問題—欧州古代学界の展望(3)」古代学3(4),1954年。)
(*)(參考：高山十一「ソローンの楯」古代学3(4),1954年。)
(*)(參考：高山十一「奴隷制と人間性」広島大学文学部紀要6,1954年。)
(*)(參考：鈴木雅也「アテナイのエジプトに於ける敗戦の結果について」(神戸女学院大学)論集1(2),1954年。)
(*)(參考：半田元夫「ハドリアヌス勅令の一つをめぐって」史海1,1954年。)
(*)(參考：半田元夫「ローマの奴隷制と基督教」歴史教育285),1954年。)
(*)(參考：三木亘「世界史のつくり方」歴史学研究172,1954年。)
(*)(參考：川田熊太郎『倫理学』基礎学選書8,世界書院,1954年。)
(*)藤井義夫「我国に於けるギリシャ哲学研究の発展」一橋論叢32(1),1954年。
(*)(參考：河野憲善「西洋的時間と東洋的時間—古代哲学における」島根大学論集・人文科学4,1954年。)
(*)(參考：稲富栄次郎「教育と道徳教育：特にギリシャにおけるアレテーと教育」ソフィア3(4),1954年。)
(*)(參考：藤澤令夫「見失われた原像」思想359,1954年。)
(*)(參考：齋藤忍随「オロフ・ギゴンの「ソクラテス」」理想248,1954年。)
(*)(參考：加藤信朗「分割の問題(一と多)—プラトン研究」哲学雑誌68(719・720),1954年。)
(*)(參考：秋田稔「〈論文〉プラトンの「エロス」--その教育的意義についての一考察」倫理學年報3,1954年。)

(*)(參考：プラトン原著/山本光雄訳『ソクラテスの辨明：他一篇』角川書店,1954年。)
(*)(參考：プラトン原著/鹿野治助譯『ゴルギアース』プラトーン著作集,弘文堂,1954年。)
(*)(參考：岩崎允胤「BOCHENSKI,I,M.Ancient Formal Logic,Amsterdam,1951」西洋古典學研究2,1954年。)
(*)(參考：藤井義夫『アリストテレスに於ける実践理性の構造』京都大学,文学博士[報告番号不明],1954年。)
(*)(參考：今道友信「アリストテレス研究抄録」哲学雑誌68(719・720),1954年。)
(*)(參考：岩崎允胤「ルカシェヴィチのアリストテレス論理学の研究について」哲學雜誌68(719・720),1954年。)
(*)(參考:岩崎允胤「近代の古代哲学関係書ビブリオグラフィー」哲學雜誌68(719・720),1954年。)
(*)(參考:齋藤忍随「イエーガー「初期ギリシャ哲学者の神学」」哲学雑誌68(719・720),1954年。)
(*)(參考：H.エルリンハーゲン「〈書評〉国際社会のトマス主義的概念(ベンカート,G.F.)」ソフィア3(2),1954年。)
(*)(參考：長江恵「愛の闇夜：聖アウグスチヌスの説教より」ソフィア3(4),1954年。)
(*)(參考：渡辺秀「〈書評〉トマス哲学(グルネ,P.)」ソフィア3(4),1954年。)
(*)桑原武夫編『フランス百科全書派の研究：1751-1780』京都人文科学研究所報告,岩波書店,1954年。)
(*)池上鎌三「哲學七十年」哲學雜誌(725・726),1954年。
(*)(參考：山本光雄『哲學者の笑い』角川書店,1954年。)
(*)(參考：田中美知太郎『哲學のために』一時間文庫,新潮社,1954年。)
(*)(參考：桑木務『哲學の世界』(アリストテレス)學藝書房,1954年(→1959年,改訂版)。)
(*)(參考：大脇義一他『人物評伝』心理学講座1-II.7,中山書店,1954年。)
(*)「新・人物風土記[159] 新潟県10」(田中美知太郎)」讀賣新聞夕刊9/1,1954年。
(*)(參考：古市恵太郎「英米における最近のヘーゲル研究について」徳島大學學藝紀要,人文科學4,1954年。)
(*)(參考：ヒルティ/正木正訳『悩みと愛と幸福：ヒルティの言葉』角川文庫,角川書店,1954年。)
(*)(參考：ヒルティ./秋山英夫訳『幸福論』角川文庫,角川書店,1954年。)
(*)(參考:稲富栄次郎「教育と道徳教育—特にギリシヤにおけるアレテと教育」ソフィア3(4),1954年。)
(*)(參考：石山脩平「スパルタ式教育の歴史的背景と現代的意義」児童心理8(4),1954年。)
(*)(參考：呉茂一「ギリシア人の幸福」文庫38,1954年。)
(*)(參考：岩山三郎「狂気とカタルシス」神戸大学文学会研究5,昭和29年。)
(*)(參考：呉茂一「ホメーロスの比喩について」西洋古典學研究2,1954年。)
(*)(參考：アリストパネース作/村川堅太郎訳『女の議會』岩波文庫,岩波書店,1954年。)
(*)(參考：新関良三「アリストパネスの「女の平和」」心7(8),1954年。)
(*)(參考:辻部政太郎「アテナイの空,大阪の空—俳優座野外劇「女の平和」」演劇評論2(9),1954年。)
(*)(參考：中村善也「「イリアス」の統一に関するノート」西京大学学術報告,人文5,1954年。)

(*)(參考：兼岩正夫「中世ラテン文學上の諸問題」西洋古典學研究2,1954年。)
(*)海老澤有道「大塩平八郎の洋学弾圧」(茅誠司編『現代学問のすすめ』所収,大蔵出版,1954年。)
(*)佐藤昌介「渡辺崋山の洋学研究と蛮社の獄」文化18(1),1954年。
(*)佐藤昌介「「蛮社」の起源とその実態」日本歴史69,1954年。
(*)中山久四郎「智環啓蒙の日本伝来とその普及」」日本歴史70,1954年。
(*)唐木順三「司馬江漢について」心7(5),1954年。
(*)吉川芳秋「司馬凌海」郷土研究9(3),1954年。
(*)海老澤有道「近代日本文化の黎明」歴史教育2(6),1954年。
(*)竹岡勝也「学問の転換と洋学」歴史教育2(11),1954年。
(*)本山幸彦「文明開化期における新知識人の思想」人文学報13,1954年。
(*)松本三之介「明治思想における政治人と人間」思想366,1954年。
(*)猪野謙二「政治・社会小説の流れ」(同『近代日本文学史研究』所収,未来社,1954年。)
(*)石田雄「矢野龍渓と政治小説」(同『明治政治思想史研究』所収,未来社,1954年。)
(*)安倍能成『山中雑記』(「『ケーベル博士小品集』を讀む」「人間としてのケーベル先生」)角川文庫, 1954年（←大正13年刊）。
(*)香原一勢「井上哲次郎「日本歴史78,1954年。
(*)小林正之「煙山専太郎先生の回想」史観42,1954年。
(*)(參考：泉井久之助「弁論と言語と日本語」政界往来20(9),1954年。)
(*)(參考：福原麟太郎『英文學の特質』岩波書店,1954年。)
(*)矢野峰人「上田敏先生のこと」芸林間歩第2期1(1),1954年。
(*)安田保雄「上田敏略伝」芸林間歩第2期1(1),1954年。
(*)服部嘉香「上田敏の印象」芸林間歩第2期1(1),1954年。
(*)石田憲次「上田敏先生のこと」芸林間歩第2期1(1),1954年。
(*)太田三郎「土井晩翠論」明治大正文学研究12,1954年。
(*)石田幹之助「幸田成友先生追憶記」芸林間歩第2期1(11),1954年。
(*)間崎万里「序(慶應義塾史研究特輯)」史学27(2・3),1954年。
(*)笹淵友一『キリスト教と文学—前編 宗教文学論』新書83,青年文庫シリーズ,日本基督教協議会文書事業部,1954年。)
(*)(參考：中野好夫編『世界文学史概説』河出書房,河出文庫,1954年(→1955年,再版。)
(*)(參考：桑原武夫『世界文学入門』新評論社,1954年。)
(*)(參考：太田三郎「比較文学的研究方法」(至文堂)国文学・解釈と鑑賞218,1954年。
(*)野村八良「西洋の詩の種類と本邦の事情(仮名遣旧式)」駒澤大學文學部研究紀要22,1954年。)
(*)(參考：稲田菊太郎「農耕詩(ゲオルギカ)考察」史学研究57,1954年。)
(*)(參考：杉浦明平「ルネサンス人の笑い—世界史講座(7)」歴史評論52,1954年。)
(*)(參考:黒田正利「イタリア文学史の問題—イタリア文学の特質」日伊文化研究1,1954年。)
(*)木村文雄「大賀壽吉氏の書簡(大正期ダンテ研究の一断面)(1-5)」イタリア会誌3,1954年/7,1958年/8,1959年/9,1961年/15,1967年。)
(*)ベンチベンニ「日本のイタリア研究者によせて」イタリア学会誌3,1954年。
(*)(參考：池田廉「ペトラルカの思想」イタリア会誌3,1954年。)
(*)(參考：深作光貞「ペトラルカのラウラ」イタリア会誌3,1954年。)

(*)(参考：野上素一「彼岸の世界構造：ギリシア・ローマ及びキリスト教に現われた」イタリア会誌3,1954年。)
(*)(参考：村松嘉津「ヴォークリューズの谷間とペトラルカ」藝林間歩・第2期1(1),1954年。)
(*)(参考：エラスムス/渡邊一夫訳『痴愚神禮讃』岩波文庫,岩波書店,1954年。)
(*)(参考：濱田泰佑「ラブレー四百年忌：翻訳一つとそのあとがき」近代6,1954年。)
(*)(参考：ラブレー作/渡邊一夫訳,ラ・フォンテーヌ作/市原豊太訳,ペロー作/佐藤正彰訳『ガリガンチュワとパンタグリュエルの物語；ラ・フォンテーヌ寓話集・ペロー寓話集；他3編』世界少年少女文学全集11,フランス編1,創元社,1954年(→1962年,世界少年少女文学全集10,フランス編1,河出書房新社。)
(*)(参考：永井三明「ルネッサンス研究の視角」西洋史学22,1954年。)
(*)(参考：新村猛『フランス文学研究序説』ミネルヴァ書房,1954年。)
(*)(参考：関根秀雄・丸山熊雄『フランス文学読本』第三書房, 1954年。)
(*)(参考：モンテーニュ/関根秀雄訳『随想録(1-6)』新潮文庫,新潮社,1954年(→1955年,第6)
(*)(参考：F.モーリヤック著/関根秀雄『パスカル』
(*)(参考：福鎌忠恕訳『ヴォルテール自叙伝』民族教養新書,元々社,1954年。)
(*)(参考：弓削三男「スタンダールとイタリア浪漫主義」(九州大学)独仏文学研究4,1954年。)
(*)(参考：宇佐美道雄「主としてHistoire de la litérature anglaiseに現われたるHyppolyte Taineの思考の限界について」愛知学芸大学研究報告・人文科学4,1954年。)
(*)(参考：村松剛「リルケとヴァレリイ」近代文学7月号,1954年。)
(*)(参考：吉村啓喜「ヴァレリイの思想について」別府女子大学紀要2月号,1954年。)
(*)(参考：横田フサ「Fouquetの失脚とLa Fontaine」フランス文学研究1954(3),1954年。)
(*)(参考：田代三千稔『イギリス文学史』南雲堂,1954年。)
(*)(参考：シェークスピア原作/森三千代著・田村耕介絵『ジュリアス・シーザー』世界名作文庫92,偕成社,1954年。)
(*)(参考：伊東好次郎「Anthony and CleopatraにおけるImagery」(青山学院大学)英文学思潮17(1),1954年。)
(*)(参考：鍋島能弘「アメリカに於けるシェイクスピア」あるびおん3月号,1954年。)
(*)(参考：末永国明「ShawのShakespeare批評とCaesar and Cleopatra」Arthenaeum 1,1954年。)
(*)(参考：後藤和夫「L.P.Smith：Milton and his Modern criticsおよび最近におけるミルトン批評の動向」近代2月号,1954年。)
(*)(参考：後藤和夫「ミルトンと現代」(神戸大学文学会)研究4月号,1954年。)
(*)(参考：森清「理想美の追求—シェレー「エピサィキディオン」」(山口書店)海潮音7,1954年。)
(*)木内信敬「A Short Bibliography of P.B.Shelley from Jan.1.1945 to Dec.31.1949」千葉大学文理学部紀要1(2),1954年。
(*)衣笠梅二郎「本邦に於けるシェリの詩の漢訳」(同志社大学)人文学15,1954年。
(*)(参考：齋藤勇「最近のKeats研究」英語青年C(10),1954年。)
(*)(参考：橘忠衛「「ハイピーリオン」の断片性」(明治大学人文科学研究所)英文学研究3月号,1954年。)
(*)(参考：工藤好美「Walter Pater の主体(1,2)」英語青年C(10,11),1954年。)
(*)(参考：G.Gissing/Eiichi Sano(ed.translation & notes),The praivate papers of Henry Rycroft：a

selection from “Spring”and“Summer(1,2)”,大学書林語学文庫359,382,Daigakusyorin,1954年。)
(*)(参考：土居光知・村岡勇『ローレンス』新書版,研究社,1954年。)
(*)(参考：太田恭子「Ulyssesの意味するもの」英文学研究31(1),1954年。)
(*)(参考:中西好男「T.S.エリオットの前期の思想と手法」徳島大学学芸紀要,人文科学4,1954年。)
(*)藤井啓一「日本英語雑誌史・補遺」(帝塚山学院短期大学)研究年報2,1954年。
(*)(参考：相良守峯『ドイツ文学史—古典篇』角川書店,1954年。)
(*)(参考：井上正蔵『近代ドイツ文学研究』三一書房,1954年。)
(*)(参考：村田数之亮「J.ヴィンケルマンとH.ブルン」西洋史学21,1954年。)
(*)(参考：大庭米次郎『ゲーテ研究』大谷大学,文学博士[報告番号不明],1954年。)
(*)(参考：菊池栄一『ゲーテの世界』東京大学出版会,1954年。)
(*)(参考：御牧好隆「ゲーテと自由」文芸研究1,1954年。)
(*)(参考：大畑末吉「『ファウスト』の歴史的背景」一橋論叢31(3),1954年。)
(*)(参考：佐藤壮一郎「ゲーテ時代におけるドイツの著述業(1,2)」奈良短期大学・研究季報1(1),2(1),1954年。)
(*)(参考：福本喜之助「ゲーテと外来語の問題」関西大学・文学論集4(1),1954年。)
(*)(参考：毛利浄賢「ゲーテの形式衝動について」(九州大学)独仏文学研究4,1954年。)
(*)(参考：前田博「シラーの美的教育思想の發展」教育学研究21(4),1954年。)
(*)(参考：野島正城「最近のシラー研究」世界文学4,1954年。
(*)(参考：川口浩「シラーの再評価—ハンス・マイヤー「シラーと国民」について」世界文学4,1954年。)
(*)(参考：西田秀穂「レシングとヘルダァ(1,2)」美学5(2),1954年/5(4),1955年。)
(*)(参考：小林利裕「ニーチェの歴史観」日本歴史74,1954年。)
(*)(参考：吉沢伝三郎「近代批判の系譜—ニーチェ」実存5,1954年。
(*)(参考：池尾健一「近代批判の系譜—ハイデッガー」実存5,1954年。)
(*)(参考：吉沢伝三郎「近代批判の系譜—ヤスパース」実存5,1954年。)
(*)(参考：小林利裕「ヤスパースの歴史哲学」日本歴史70,1954年。)
(*)(参考：岩橋保「ヘルダーリンに関する一考察」独逸文學研究3,1954年。)
(*)(参考：谷友幸「ヘルダーリンにおける「犠牲」の問題(上)」独逸文學研究3,1954年。)
(*)(参考：高木勇「ヘルダーリンのドイツ批判」法文論集 文科篇6,1954年。)
(*)(参考：高木勇「ヘルダーリンと詩人の使命--「ヒュペーリオン」を中心に」ドイツ文学12,1954年。)
(*)(参考：田中健二「ヘルダーリンにおける宗教性」ドイツ文学13,1954年。)
(*)(参考:谷友幸「ヘルダーリン研究のための覚え書きから」ドイツ文学13,1954年。)
(*)(参考：坂上泰助「ヘルダーリンの郷愁」ドイツ文学13,1954年。)
(*)(参考：仁科武光「エムペドクレース時代」(ヘルダーリン)ドイツ文学13,1954年。)
(*)(参考：茅野良男「ハイデッガーのニーチェ観」哲学雑誌68(721),1954年。)
(*)(参考:三木正之「ハイデッガーのヘルダーリン理解について」鹿児島大学文科報告4,1954年。)
(*)(参考：佐々田肇「レッシングに於ける悲劇的なもの」九州工業大学研究報告・人文社会科学2,1954年。)

(*)(参考：西田秀穂「レッシングとヘルダア(1,2)「ラオコーン論争」--文芸論を巡って」美学5(2),1954,年/5(4),1955年。)
(*)(参考：高橋英夫「天使とオルフォイス」(リルケ)ドイツ文学13,1954年。)
(*)(参考：野口啓祐「クリストファー・ドウソン」理想6月号,1954年。)
(*)朝倉治彦・石山洋「蕃書調所旧蔵蘭書劄記」上野図書館紀要1,1954年。
(*)長谷川清子「エーゲ海服装の成立とその背景」名古屋女学院短期大学紀要1,1954年。)
(*)(参考：森田慶一「アテナイのアゴラに關するノート」西洋史学21,1954年。)
(*)(参考:ニコラウス・ペヴスナー/小林文次訳『ヨーロッパ建築序説』彰国社,1954年(→1959年,再版。→1989年,新版,小林文次・山口廣し・竹本碧訳)。)
(*)太田博太郎「伊東[忠太]博士と日本建築史」(1943年,5月6日,伊東談話。→1983年,同『建築史の先達たち』所収,彰国社,1954年。)
(*)藤島亥治郎「伊東忠太先生」建築雑誌69(810),1954年。
(*)古宇田実「伊東忠太先生の思い出」建築雑誌69(810),1954年。
(*)永井潜「呉秀三先生の伝：附・芸備医学会の思い出」広島医学7(6),1954年。
(*)(参考：田中実『近代科学史：科学理論の形成』科学史大系11,中教出版,1954年。)
(*)(参考:ヴェ・ダニレフスキイ/桝本セツ・岡邦雄訳『近代技術史』岩崎書店,1954年(→1968年,岩崎学術出版社)。)
(*)(参考：下村寅太郎「近代科学としての「力學」の精神史的源泉について：ガリレイに於けるnouve scienza」科学基礎論研究1(1・2),1954年。)
(*)(参考:古田光「バターフィールド「近代科學の起源」1300-1800」科学基礎論研究1(1),1954年。)
(*)(参考：クラウサー著/山田坂仁訳『唯物史観科学思想史』富士出版社,1954年。）
(*)(参考：白井俊明編『化学の歴史』毎日ライブラリー,毎日新聞社,1954年。)
(*)(参考：田中美知太郎『原子力時代に思ふ：回顧と批評』新潮社,1954年。)
(*)能田忠亮『暦の本義と歴史—附・昭和28年暦』日本暦法協会,1954年。
(*)海老澤有道「日本天文暦学の発展と南蛮学統」聖心女子大学論叢4,1954年。
(*)鮎沢信太郎「近世日本における地球説地動説の展開」日本歴史71,1954年。
(*)(参考：ローゼンベルグ・ブリューミン著/廣島定吉・橋本弘毅訳『經濟學史(上中下)』青木書店,1951年。)
(*)(参考：佐々木誠治「古代経済と海運活動：エジプト・フェニキャ・ギリシャ及びローマの海運」国際経済研究年報5,1954年。)
(*)(参考：竹島淳夫「羅馬帝国の印度貿易」古代学3(3),1954年。)
(*)(参考：コルネーリア・ジェリンスカー鹿子木/河野與一譯「ミハイル・イヴァーニヴィッチ・ロストーフツエフ」西洋古典學研究2,1954年。)
(*)(参考：ジョージ・トムスン/池田薫訳『ギリシャ古代社會研究：先史時代のエーゲ海』(上下)岩波書店,1954-55年。)
(*)(参考：プラトン著/青木巌訳『国家(上下)』創元文庫,創元社,1954年。)
(*)(参考：高橋秀「ラクタンティウスの正義論」史学雑誌63(4),1954年。)
(*)(参考：三浦一郎「アテナイにおける言論の自由について」西洋史学21,1954年。)
(*)(参考：霞信三郎「グロッツの「ギリシア都市」における「集団的自由」について」弘前大学人文社会4,1954年。)
(*)深瀬秀「書評 高山十一著「古代スパルタにおける家の解体」--相続のSitteに関連して(西

洋史XIII)」法制史研究1954(4),1954年。
(*)(参考 : 花田圭介「ホッブス著「リヴァイアサン」を読みはじめながら」図書57,1954年。)
(*)(参考 : 桜井光堂「国際法発展の観念とその文明史観的把握」法政研究21(3・4),1954年。)
(*)(参考 : マキアヴェルリ/大岩誠訳『フィレンツェ史』岩波書店,1954年。)
(*)(参考 : 赤井節「羅馬法における“loco filiae mariti est”に就いて」(大阪市立大学法学会)法学雑誌1(1),1954年。)
(*)(参考 : 原田慶吉『ローマ法』5版,有斐閣全書,有斐閣,1954年(→1955年,改訂オンデマンド版)。)
(*)(参考 : 田中周友『法学概論』有信堂,1954年。)
(*)(参考 : 久保正幡『フランク時代におけるグルマン法とローマ法』東京大学,法学博士[報告番号不明],1954年。)

(*)(参考 : 城塚登『社会主義思想の成立—若きマルクスの歩み』弘文堂,アテネ新書,昭和30年。)
(*)加藤周一『ある旅行者の思想 : 西洋見物始末記』角川書店,角川新書68,1955年。
(*)田中修「イタリア紀行(1,2)」教育美術16(8,9),1955年。
(*)籾山重広「南欧を訪れて」食料管理月報7(1),1955年。
(*)(参考 : 山本敏夫「イタリアの影 : 2つの心と2つの階級」世界週報36(36),1955年。)
(*)森岩雄「ヅカ・ガール羅馬行状記」文藝春秋33(1),1955年。
(*)村川堅太郎「苔談」文藝春秋33(2),1955年。
(*)和辻哲郎「古寺巡礼」文芸12(15),1955年。
(*)日高孝次「即興詩人の足跡を辿りて」図書70,1955年。
(*)(参考:清水晶「ワイラア特集 ウィリアム・ワイラアと「ローマの休日」」映画芸術9(1),1955年。)
(*)石本雅男「ヨーロッパの大学を訪ねて」法律時報27(2),1955年。
(*)(参考 : ヴェス・アラン/柘植二雄訳「ギリシャ人の来住」関西学院史学3,1955年。)
(*)小林秀雄「ギリシアの印象」中央公論70(11),1955年。
(*)三輪福松「永遠のギリシヤ」芸術新潮6(11),1955年。
(*)(参考 : 三輪福松「「即興詩人」を想ふ」文庫45,1955年.)
(*)(参考 : 三輪福松「エトルリア—古代美術」みずゑ595,1955年。)
(*)(参考 : ジョージ・トムソン/池田薫訳『ギリシャ古代社会研究 : 先史時代のエーゲ海(下)』岩波書店,1955年。)
(*)村田数之亮「〈書評と紹介〉G.トムソン著・池田薫訳『ギリシャ古代社会史研究 : 先史時代のエーゲ海』(岩波書店)」史林38(4),1955年。
(*)(参考 : C.W.ツェーラム著/村田數之亮訳『神・墓・學者 : 考古學物語(上下)』養徳社,1955年。)
(*)(参考 : 「古代文明略年表」みずゑ595,1955年。)
(*)大岡昇平「ギリシャの幻想」文學界9(12),1955年。
(*)(参考 : 高津春繁「ギリシア文化の成立」歴史教育3(4),1955年。)
(*)(参考 : ブラスコ・イバーニェス/永田定寛訳『われらの海(上下)』岩波文庫,岩波書店,1955年。)
(*)(参考 : 内田芳明「地中海世界史とヨーロッパ生成問題 : Ernst Kornemann : Weltgeschichte

des Mittelmeerraumes.Von Phlipp II von Makedonien bis Muhammed.heraus von Herman Bengtson,Band I,508 S.,Band II,563 S.,Munchen,1948 をめぐって」社会経済史学21(1),1955年。)
(*)(參考 : 尾留川正平「バウンズ ヨーロッパと地中海沿岸諸国」地理学評論28(1),1955年。)
(*)(參考 : 亀井高孝「歴史地図あれこれ」學燈52(2),1955年。)
(*)(參考 : A.ロス「「西欧の手を離れんとする」地中海」世界119,1955年。)
(*)(參考 : J.G.ド・ビュス/阿部秀夫訳『危機の分析 : シュペングラー,トインビーの学説と現実』巖松堂書店,1955年。)
(*)(參考 : 角田順「トインビアナ」學燈52(5),1955年。)
(*)(參考 : A.J.トインビー「「歴史研究」の大梗(上1,2/下1,2)」綜合文化1(1,2,3,4),1955年。)
(*)(參考 : 西村貞二「ラウス「イギリスの精神」とトインビー「歴史の研究」について」あるびよん29,1955年。)
(*)(參考 : W.H.ウォルシュ「トインビー教授の歴史哲学」社会思想研究7(2),1955年。)
(*)(參考 : 芦田均「トインビー博士の偉業」日本歴史80,1955年。)
(*)(參考 : 林健太郎「トインビーの問題」心8(2),1955年。)
(*)(參考 : J.ロゲンドルフ「〈書評〉歴史の研究(トインビー,A)」ソフィア4(1),1955年。)
(*)(參考 : J.ロゲンドルフ「D.ジェロルド「西洋に関する嘘言」(トインビー,A.)ソフィア4(1),1955年。)
(*)(參考 : 奥村家造「アーノルド・トインビー「世界と西洋」」立命館文學1251955年。)
(*)(參考 : 西田栄「A.J.トインビーに関する研究(1,2)」愛媛大学歴史学紀要4,1955年/5,1957年。)
(*)(參考 : 森有正「ヨーロッパ文明に基底をなすもの(対談)」福音と世界10(10),1955年。)
(*)(參考 : 森有正「文化の根というものについて」思想378,1955年。)
(*)加茂儀一「L.マンフォード著,生田勉訳「都市の文化」」學燈52(7),1955年。)
(*)(參考 : 矢内原忠雄他『学生への手紙』同文館,1955年。)
(*)(參考 : 澤柳大五郎「美術家の手記と評伝」文庫49,1955年。
(*)(參考 : 柳宗玄解説『ビザンティン絵画』原色版美術ライブラリー4,みすず書房,1955年(→1957年,再版)。)
(*)(參考 : 澤柳大五郎編並解説『初期ルネッサンス』原色版美術ライブラリー6,みすず書房,1955年(→1957年,再版)。)
(*)參考 : 岩波書店編集部編・岩波映画製作所写真『ジヨットー』岩波写真文庫161,岩波書店,1955年。)
(*)岩波書店編集部編・岩波映画製作所写真『死都ポンペイ』岩波写真文庫154,岩波書店,1955年(→1990年,岩波写真文庫・復刻ワイド版98)。
(*)(參考 : 堀亮「ポンペイの壁画」美術手帖94,1955年。)
(*)(參考 : 渋谷治「聖ペテロがローマに住んだという考古学的証明」声925,1955年。)
(*)(參考 : 森田慶一「アテナイのアゴラ(II)」日本建築學會研究報告30,1955年。)
(*)木村毅「マテオ・ロッチを書いた伝記小説」學燈528),1955年。
(*)内藤智秀「東西文化の交流」歴史教育3(6),1955年。
(*)板澤武雄『日本とオランダ—近世の外交・貿易・学問』日本歴史新書,至文堂,1955年。
(*)(參考 : 秀村欣二「H.Lamer : Wörtebuch der Antike mit Berücksichtigung ihrer Fortwirkens」世界歴史事典25,平凡社,1955年。)

(*)(参考：吉村忠典「Paulys編：Real-Encyclopädie der classischen Altertumswissenschaft」世界歴史事典25,平凡社,1955年。)
(*)(参考：久保正幡「図書館のこと」図書64,1955年。)
(*)石田幹之助「羽田[亨]博士追悼録」東方学 11,1955 年。
(*)石田幹之助「羽田亨博士の長逝を悼む」史學雜誌64(7),1955年。
(*)神田喜一郎「羽田[亨]先生の思い出」(1955年)(同『敦煌学五十年』所収,筑摩書房,1970年。)
(*)(参考：黒崎幸吉『新約聖書語句索引』聖泉舎,1955年。)
(*)(参考：白鐵編『世界文藝辞典』民衆書館,1955年。)
(*)(参考：小沢愛國『英語諺語辞典』篠崎書林,1955年。)
(*)島田謹二「「世界文学辞典」齋藤勇編,研究社,昭和29年」英文学研究32(1),1955年。
(*)(参考：稲富栄次郎「〈書評〉ヘルダー版教育学辞典」ソフィア4(3),1955年。)
(*)池浦敬子「堀達之助—近代文学資料研究・外国文学篇(100)」学苑180,1955年。
(*)友枝高彦「ヘボン和英語林集成」読書春秋6(11),1955年。
(*)高谷道男「平文先生「和英語林集成」の諸版について」私立大学図書館協会会報13,1955年。
(*)(参考：田中秀央『初等ギリシア語文典』研究社出版,1955年。)
(*)畠中尚志「一古典訳者のそぞろ言」文庫48,1955年。
(*)河野与一「怠けものの語学勉強法(1-3)」文庫49-51,1955年。
(*)河野与一「西洋語の字引と漢字の字引」図書68,1955年(→1982年,「文学」編集委員会編『翻訳』,岩波書店,再録)。
(*)(参考：森有正「古典は生きている」文庫51,1955年。)
(*)(参考：角田文衛「M.Platmauer：Fufty Years of Classical Scholarship」古代学4(1),1955年。)
(*)(参考：高津春繁「ミノア文字の解読」図書66,1955年。)
(*)(参考：高津春繁「ギリシア語の辞典」図書68,1955年。)
(*)(参考：高津春繁「古典の背景」文庫42,1955年。)
(*)(参考：高津春繁「古典の復活」思想367,1955年。)
(*)(参考：高津春繁「ギリシア散文の發達」西洋古典學研究3,1955年。)
(*)(参考：高津春繁『アルカディア方言の研究』岩波書店,1954年。)
(*)辻直四郎・高津春繁「高津春繁『アルカディア方言の研究』岩波書店,1954」西洋古典學研究3,1955年。
(*)(参考：越智文雄「Homerの原詩と翻訳の問題」同志社女子大学学術研究年報6,昭和30年。)
(*)(参考：呉茂一「金羊表をたずねて」思想373,1955年。)
(*)(参考：呉茂一「ぎりしあ人の女性観(私の好きな詩歌)」婦人之友49(2),1955年。)
(*)Kure,Shigeichi‘Les études latines au Japon’Revue des Études Latines 33,1955.
(*)(参考：越智文雄「Homerの原詩と翻訳の問題」同志社女子大学学術研究年報6,1955年。)
(*)(参考：渡部昇一「〈書評〉欧洲における古代中世語文法理論(ロビンズ,R.H.)」ソフィア4(3),1955年。)
(*)(参考：矢内原忠雄編『学生への手紙』(田中美知太郎)同文館,1955年。)
(*)(参考：金松賢諒「アメリカの大學に於ける古典研究の現況」西洋古典學研究3,1955年。)
(*)(参考：野上素一「イタリアに於けるギリシア學」西洋古典學研究3,1955年。)
(*)(参考：前田護郎「エルサレムのギリシャ名」西洋古典學研究3,1955年。)
(*)(参考：田中秀央『英語 語源漫筆 古典語編』大学書林語学文庫,大学書林,1955年。)

(*)(参考：泉井久之助「語原の原理」国語国文24(8),1955年。)
(*)(参考：塩谷饒「聖書のドイツ語」形成4,5,1955年。)
(*)(参考：塩谷饒「ルターの翻訳論」(京都大学教養部)独逸文学研究報告4,1955年。)
(*)(参考：小田實「新約學文献表(2)」(基督教研究会)基督教研究28(2),1955年。)
(*)森岡健二「訳語の変遷」(洋学)東京女子大学皮革文化研究所紀要1,1955年。
(*)齋藤信「再び「波留麻和解」の異本について」金沢大学法文学部論集・文学篇3,1955年。
(*)(参考：工藤好美「ギリシア叙事詩の成立」文学23,昭和30年。)
(*)(参考：工藤好美『叙事詩と抒情詩』南雲堂,1955年(→1956年,南雲堂不死鳥選書)。)
(*)三輪福松「「即興詩人」を想う」文庫45,1955年。
(*)野間宏他『古典を読もう』岩波書店,1955年。
(*)毎日新聞社編『何を読むべきか』毎日ライブラリー,毎日新聞社,1955年。
(*)(参考：村治能就「カオスとエロス」哲学論叢17,1955年。)
(*)(参考：秋田稔「エロスよりアガペーへ：キリスト教教育原理研究への一つの序説」国際基督教大学学報,I-A 教育研究1,1955年。)
(*)(参考：木下順二「クリストファー・フライ「見まもられたヴィーナス」--現代人のための演劇(8)」芸術新潮4(11),1955年。)
(*)(参考：石丸重治「ミロのヴィナスの片腕」新文明5(6),1955年。)
(*)(参考：船木枳郎・松井行正『ホーマー物語：宝文館の小学生文庫 4年生』宝文館,1955年。)
(*)(参考：大木惇夫・土村正寿え『オデュッセウス物語』世界少年少女名作選集,同和春秋社,1955年。)
(*)(参考：柳沼重剛「Amandry,P.：Lamantique apollienne a Delphes」西洋古典學研究3,1955年。)
(*)戸石泰一「大男の小心—田中英光の苦闘」文學界9(9),1955年。
(*)(参考：松下績雄「初代基督教とギリシア思想」広島女学院大学論集3(1),1955年。)
(*)(参考：上智大学編・ヨハネス・ジーメス編『聖アウグスチヌス研究』創文社,1955年。)
(*)松村克己「アウグスティヌスの「三一論」について」(東京神学大学神学会)神学5,1955年。)
(*)(参考：長友栄三郎「古代末期に於けるキリスト教徒の教養とヒューマニズムの問題」宮崎大学学芸学部研究時報1(1),1955年。)
(*)(参考：前田朴「現代と聖母マリア」世紀70,1955年。)
(*)(参考：比屋根安定『世界宗教史』2版,日本基督教団出版局,1955年。)
(*)小塩力「比屋根安定著『世界宗教史』」福音と世界10(9),1955年。
(*)海老澤有道「比屋根安定著『世界宗教史』」開拓者50,1955年。
(*)(参考：関根正雄『舊約聖書：その歴史・文學・思想』5版,創元社,1955年。)
(*)(参考：エ・ラゲ譯『我主イエズスキリストの新約聖書』16版,中央出版社,1955年。)
(*)(参考：小嶋潤『聖書』キリスト教叢書9,創元社,1955年。)
(*)(参考：石島三郎『キリスト教入門』改訂新版, 新教出版社, 1955年。)
(*)(参考：伴我何人『キリスト教の祭』柳原書店,1955年。)
(*)(参考：松本卓夫『ガタレア書註書』新教出版社,1955年。)
(*)(参考：黒崎幸吉『マタイ伝』永遠の生命社,1955年。)

(*)(參考：黒崎幸吉『マタイ傳』口語訳付改訂版,立花書房,1955年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『マルコ傳』口語訳付改訂版,立花書房,1955年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『パウロ小書簡』永遠の生命社,1955年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『パウロ小書簡』口語訳付改訂版,立花書房,1955年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『ヨハネ黙示録・ヨハネ書簡』口語訳付改訂版,立花書房,1955年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『コリント前後書』口語訳付改訂版,立花書房,1955年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『ルカ傳』口語訳付改訂版,立花書房,1955年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『ヨハネ傳』口語訳付改訂版,立花書房,1955年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『ロマ書・ハラテヤ書』口語訳付改訂版,立花書房,1955年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『使徒行傳』口語訳付改訂版,立花書房,1955年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『ヘブル書・ヤコブ書・ペテロ前後書・ユダ書』口語訳付改訂版,立花書房,1955年。)
(*)(參考：黒崎幸吉『ヘブル書・ヤコブ書・ペテロ前後書・ユダ書』永遠の生命社,1955年。)
(*)(參考：トマス・ア・ケンピス/池谷敏雄訳『キリストにならいて』新教出版社,1955年(→1984年,改訂版。)
(*)(參考：半田元夫「ペテロの死をめぐって」史学雑誌63(6),1955年。)
(*)(參考：野上素一「悪魔の系譜」イタリア学会誌4,1955年。)
(*)(參考：カール・フォルク「エミール・ブルンナーに於けるキリスト論」ソフィア4(4),1955年。)
(*)(參考：西村貞二「宗教改革における「自由」の意味(上下)」(歴史教育研究会)歴史教育3(8,10),1955年。)
(*)渡辺楳雄「わが国宗教学の開祖姉崎正治博士」大世界10(2),1955年。
(*)伊藤吉之助「井上[哲次郎]哲学の一面」中央大学文学部紀要2,1955年。
(*)田中耕太郎「吉満義彦教授を偲ぶ」世紀72,1955年。）
(*)手塚隆義「前史学科長[史家]小林秀雄教授の逝去」史苑16(1),1955年。
(*)「野々村戒三先生主要著書・論文目録」史観43・44,1955年。
(*)「三浦一郎先生研究業績抜粋(三浦一郎先生古希記念号)」上智史学 30,1955 年。
(*)(參考：上原專祿『ヨーロッパ世界の形成』東洋経済新報社,1955 年。)
(*)(參考：高山十一「アゴンと社会意識」西洋史学 26,1955 年。)
(*)(參考：清水勝太郎「ギリシャ史」歴史教育 3(4),1955 年。)
(*)(參考：高橋秀「ヘロディアノスにおけるローマ軍隊と諸民族」西洋古典學研究 3,1955年。)
(*)(參考：井上一「ヘレニズム時代の誕生とマケドニア王国の意義」史学雑誌 64(9),1955 年。)
(*)「新・人物風土記 340 熊本県 10 一家そろって7人が学者」(村川堅太郎)讀賣新聞夕刊 6/30,1955 年。
(*)(參考：太田秀通・村川堅太郎『ギリシアとローマ』筑摩書房,1955 年。)
(*)(參考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎/史学会編『世界史』5訂版,山川出版社,1955年。)
(*)(參考：村川堅太郎『西洋史提要』3訂版,秀英出版,1955年。)
(*)(參考：村川堅太郎「デーミウールゴス」史学雑誌 64(11),1955 年。)
(*)(參考：上原專祿『高校世界史』実教出版,1955 年。)
(*)(參考：上原專祿『世界史像の新形成』創文社,1955 年。)
(*)(參考：上原專祿『ヨーロッパ世界の形成』東洋経済新報社,1955 年。

(*)(參考 : 池田哲郎・西村貞二・村岡晢『新稿西洋史』修正増補版,文理圖書出版社,1955 年。)
(*)(參考：原随園『新義世界史』改訂版,雄渾舎,1955 年。)
(*)(參考：原随園『世界史』教育図書,1955 年。)
(*)(參考：亀井高孝・三上次男『世界史年表』新訂版, 吉川弘文館,1955 年。）
(*)(參考：亀井高孝・三上次男『標準世界史地図』吉川弘文館,1955 年。）
(*)(參考：亀井高孝「歴史地図あれこれ」學燈 52(2),1955 年。）
(*)(參考：京都大学文学部西洋史研究室篇『傭兵制度の歴史的研究』(原随園「序文」)比叡書房,1955 年。)
(*)(參考：渡辺金一「「奴隷制」の一つの在り方」史学雑誌 64(11),1955 年。)
(*)(參考：粟野頼之祐「ヘレニズム時代の史學史(史學特輯号)」人文論究 5(6),1955 年。)
(*)(參考：粟野頼之祐「ヘレニズム時代の史学史」関西学院史学 3,1955 年。)
(*)(參考：粟野頼之祐「ツキュディデスの肖像と伝記史料について」関西学院史学 3,1955 年。)
(*)(參考：粟野頼之祐『出土史料によるギリシア史の研究』関西学院大学,文学博士[報告番号不明],1955 年。)
(*)(參考：橡川一朗「西ヨーロッパ古代・中世における奴隷制の連続について」歴史学研究 182,1955 年。)
(*)(參考：弓削達「古代奴隷制衰退の問題」西洋史学 27,1955 年。)
(*)(參考：田中克己『楊貴妃とクレオパトラ』民族教養新書 28,元々社,1955 年。)
(*)(參考：羽仁五郎「イタリアにおける啓蒙(上下)」思想 373,375,1955 年。）
(*)(參考：奈良国立博物館編『世界歴史年表』奈良国立博物館,1955 年。)
(*)(參考：大森彬正編『日本・世界歴史年表』文祥堂,1955 年。)
(*)(參考：豊田武編『日本歴史地圖：日本と世界』純正社,1955 年。)
(*)秋岡武次郎『日本地図史』河出書房,1955 年。
(*)石山洋「近代地理学の曙と蘭学(1,2)」上野図書館紀要 2,3,1955 年。
(*)亀井高孝「歴史地図あれこれ」學燈 52(2),1955 年。
(*)「1954 年の歴史学界—回顧と展望」史學雑誌 64(5),1955 年。)
----高橋秀「古代---西洋史」/青山吉信「中世---西洋史」/中村英勝「近世—西洋史」/赤松儀彦「近代—西洋史」/松俊夫「現代—西洋史」
(*)(參考：渡辺金一「「奴隷制」の一つの在り方」史學雑誌 67(11),1958 年。)
(*)(參考：角田文衛「歴史学における西ヨーロッパ主義」新論1(3),1955年。)
(*)(參考：千代田謙「歴史教育について」歴史教育3(2),1955年。)
(*)(參考：酒井三郎「世界史学についての私見」歴史教育3(7),1955年。)
(*)(參考：田村実造「世界史の構造と東洋史」歴史教育3(7),1955年。)
(*)(參考：島崎敏夫「世界史の取扱いについて」歴史教育3(7),1955年。)
(*)(參考：法元正二「世界史の取扱い方」歴史教育3(7),1955年。)
(*)(參考：大野真弓「世界史の二途」信濃教育819,1955年。)
(*)(參考：増田重光「ミケーレ・サヴォナローラについて：ブルクハルト的解釈の限界」イタリア学会誌4,1955年。)
(*)(參考：定金右源二『古代東方史の再建』別冊共2巻,新樹社,1955年。)
(*)(參考：一橋大學一橋學會編『一橋大學創立八十周年記念論集(上下)』(上原專祿「ライプニッツの歴史研究」)勁草書房,1955年。)

(*)(參考：グーチ/林健太郎・林孝子訳『近代史学史』2巻,吉川弘文館,1955-60年。)
(*)高橋碵・太田秀通・宮原誠一編『歴史を中心として：指導書』日本と世界：指導書用,実教出版,1955年。
(*)(參考：川田熊太郎・山崎正一・原佑『西洋哲學史』東京大学出版会,1955年。)
(*)(參考：川田熊太郎「哲学の類型と汎神論の問題」東京大学教養学部人文科学科紀要6,1955年.)
(*)倉田百三『静思：希臘主義と基督教主義との調和の道』普及版,春秋社,1955年。)
(*)(參考：出隆『哲学以前』新潮文庫,新潮社,1955年。)
(*)(參考：古川哲史他編『外国人の道徳的心性』現代道徳講座2,河出書房,1955年。)
-----藤井義夫「ギリシャ人の道徳的心性」
鹿野治助「ラテン系モラリストの道徳的心性：ローマン・ストアのモラル」
(*)(參考：白石浩一「ポリスに於ける人間形成の問題(1)」学苑184,1955年。)
(*)(參考：手塚富雄「ギリシャ的メランコリアによせて」心8(5),1955年。)
(*)(參考：天野格之助「希臘女性の倫理(正続)」学苑174,178,1955年。)
(*)(參考：副島民雄「Ἀναγκη,Μοιρα及びΔικη：主としてVorsokratikerにおける」西洋古典學研究3,1955年。)
(*)(參考：ジョン・バーネット/神澤惣一郎訳『ギリシア哲学』理想社,1955年。)
(*)(參考：太田彰一「初期イオニア哲学の自然について」哲学5,1955年。)
(*)(參考：福島政雄『ソクラテス』福村書店,1955年。)
(*)(參考：稲富栄次郎『ソクラテスの弁証法』福村書店,1955年。)
(*)(參考：副島民雄『プラトン哲学序説』日本学術振興会,1955年。)
(*)(參考：有田潤「プラトーン著作年代学説史ノート」早稲田商学115,1955年。)
(*)藤井義夫・馬場啓之助「一橋学問の伝統と反省：哲学」一橋論叢34(4),1955年。
(*)土井正興「ジョージ・トムソン「ギリシャ古代社会研究」上をよんで」歴史学研究179, 1955年。
(*)(參考：齋藤忍随「「マルキストのギリシア哲学史構成の一例」--トムソンの『アイスキュロスとアテナイ』に寄せて」哲学雑誌70(727),1955年。)
(*)(參考：大谷啓治「〈書評〉西欧におけるアリストテレス(ステーンベルゲン,E.ファン)」ソフィア4(4),1955年。)
(*)(參考：茂手木元蔵「ギリシャ哲学における「量」の問題—アリストテレスを中心として」横浜大学論叢6(3・4),1955年。)
(*)(參考：永野羊之輔「〈論説〉アリストテレス徳論の「中庸説」とカントの批評について」倫理学年報4,1955年。)
(*)(參考：岩崎允胤「ソヴェトにおけるアリストテレス論理学の評価について」唯物論2,1955年。)
(*)(參考：鹿野治助「運命というもの(1)」(大阪市立大学大学院文学研究科)人文研究6(4),1955年。)
(*)杉原丈夫「ボヘンスキーの「古代形式論理學」に對する岩崎[允胤]氏の書評[西洋古典學研究2,1954年]について」西洋古典學研究3,1955年。)
(*)(參考：シェリング著/服部英次郎・井上庄七譯『ブルーノ』岩波書店,1955年。)
(*)(參考：秋山博愛「ヘーゲルとその時代」關西大學文學論集(特),1955年。)
(*)三好行雄「『帝国文学』」(ケーベル)文学23-5,1955年。

(*)日夏耿之介「一つの文学系図」(上田敏)日本古書通信20(2),1955年。
(*)「竹友藻風著作目録他」英語青年101(2),1955年。
(*)矢本貞幹「竹友藻風伝」英語青年101(2),1955年。
(*)大和資雄「[竹友]藻風の学風」英語青年101(2),1955年。
(*)西条和子「生田長江—近代文学史料研究・外国文学篇(96)」学苑173,1955年。
(*)吉原真子「森田思軒」学苑177,1955年。
(*)(参考：松田実矩「「神仙女王」の美的描写法について(2)」英米文学2,1955年。)
(*)イソップ原作/小山勝清編『にげたきつね：ひらがなイソップ』同和春秋社,1955年。
(*)井伏鱒二「「イソップのお話」を読んで」図書71,1955年。
(*)河野与一編訳『イソップのお話』岩波少年文庫,岩波書店,1955年(→2000年,新版)。
(*)(参考：林和夫「ラ・フォンテーネの「寓意詩」の文体因子について(1)」Gallia 3,1955年。)
(*)和辻哲郎『日本芸術史研究』(百合若)岩波書店,1955年(→1971年,改訂版)。
(*)金関丈夫『木馬と石牛：民族学の周辺』(百合若)法政大学出版局,1955年。
(*)高羽五郎(ローマ字校訂)「キリストに倣いて」国語学資料14,1955-56年。
(*)Shigeichi Kure“Les Études latines dans le Monde：I. Au Japon”Revue des Études latines 33, 1955.
(*)吉川幸次郎「ホイットマン・東海散士・ポオ」文学界9(11),1955年。
(*)有賀鉄太郎「故魚木忠一博士略歴」基督教研究28(3・4),1955年。
(*)(参考：Hidenaka Tanaka“Ambulatio etymologica：Graecorum atque Latinorum verborum”, 大学書林,大学書林語学文庫2503,1955年。)
(*)新村出「わが学問生活の70年(1-3)」思想377,378,1955年//379,1956年。
(*)新村出「愛執本と割愛本」日本古書通信20(1),1955年。
(*)新村出「辞書懐古録」図書68,1955年。
(*)新村出「天理図書館・吉利支丹版こんてむつす・むん他」ビブリア天理図書館報3, 1955年。
(*)池田哲郎「十九世紀初葉における蘭書分類法の一例」蘭学資料研究会研究報告2,1955年。
(*)沼田次郎「輸入洋書の検閲と蕃書調所」蘭学資料研究会研究報告6,1955年。
(*)弥吉光長「蘭学のいずみ」読書春秋6(6),1955年。
(*)多田顕「思想史上における[司馬]江漢」千葉大学文理学部紀要・文化科学1(3),1955年。
(*)中島万朶「明治時代における洋学」京都工芸繊維大学繊維学部研究報告1(2),1955年。
(*)高坂正顕『明治文化史・思想言論編』洋文社,1955年。
(*)波多野通敏「井上哲次郎生誕百年紀念会」宗教公論 25(2),1955 年。
(*)伊藤吉之助「井上[哲次郎]哲学の一面」中央大学文学部紀要 2,1955 年。
(*)海老澤有道・助野健太郎『キリシタン史文献解題：研究入門者のために』キリスト教史学会,切支丹研究シリーズ 2,1955 年。
(*)海老澤有道「蘭学時代における南蛮学統」史苑 16(2),1955 年。
(*)海老澤有道「比屋根安定著「世界宗教史」」開拓者 50(10),1955 年。
(*)(参考：関根文之助『聖書読本』修造社,1955 年。)
(*)田中耕太郎・H.デュモリン・山之内一郎・渡邊秀・岡田純一・広瀬京一郎・高橋憲一「吉満義彦教授を偲ぶ」世紀 72,1955 年。
(*)高羽五郎(ローマ字校訂)「キリストに倣いて」国語学資料 14,1955-56 年。
(*)(参考：山中巖彦「公教要理の変遷史—初代教会より現代まで」聲 931,昭和 30 年。)

(*)(參考：吉岡勝『使徒行傳』新約聖書要解 5,新教出版社,1955 年。
(*)(參考：関本至「ビザンティン文学序説」広島大学文学部紀要 7,1955 年。)
(*)(參考：松村緑「ソネット移植史」東京女子大学企画文化研究所紀要 1,1955 年。)
(*)(參考：ロベール・ピニャール/岩瀬孝訳『世界演劇史』文庫癖受 158,白水社,1955 年。)
(*)(參考服部英次郎「CURTIUS,Ernst Robert,Europaische Litertur und Latenisches Mittelalter,1948/ CURTIUS, Ernst Robert,European Literture and the Latin Middle Ages, ttranslated from the German by Willard R.Trask,London,1953」西洋古典學研究 3,1955 年。)
(*)(參考：太田三郎「比較文学研究の問題」(『岩崎教授還暦記念論文集』所収,研究社,1955 年。)
(*)(參考：太田三郎『比較文學：その概念と研究例』研究社英米文学語学選書,研究社出版,1955 年。)
(*)(參考：加茂儀一『ルネサンスから啓蒙時代まで』新評論社,1955 年。)
(*)參考：澤柳大五郎編集・解説『初期ルネッサンス』みすず書房,原色版美術ライブラリー 6,1955 年(→1957 年,再版)。)
(*)參考：澤柳大五郎「美術家の手記と評伝」文庫 49,1955 年。）
(*)(參考：杉浦明平『ルネッサンス文學の研究』未来社,1955 年。)
(*)(參考：西村貞二「アルフレット・フォン・マルティン著「ルネッサンス—その社会学的考察」について」史學雑誌 64(4),1955 年。)
(*)(參考：西村貞二「トマス・モーア」あるびよん 31,1955 年。)
(*)永井三明「〈書評と紹介〉杉浦明平著 ルネッサンス文学の研究」」史林 38(3),1955 年。
(*)(參考：黒田正利『ダンテの文学思想--「神曲」浄罪篇 XXIV,49-63 を中心として』日本学術振興会,1955 年。)
(*)參考：羽仁五郎「イタリアにおける啓蒙」思想 375,1955 年。)
(*)(參考：大類伸「ルネッサンス随想」歴史教育 3(10),1955 年。)
(*)(參考：柴山英一「ルネッサンス概念に関する一考察」静岡大学教育学部研究報告 5,1955 年。)
(*)(參考：信森広光「タッソーの叙事詩理論についての考察」イタリア会誌 4,1955 年。)
(*)(參考：増田重光「ミケーレ・サヴォナローラについて—ブルックハルト的解釈の限界」イタリア会誌 4,1955 年。)
(*)(參考：木場瀬卓三「フランスにおける文学遺産に継承の問題」日本文学 4(4),1955 年。)
(*)(參考：向井敏「フランス文学批評」(大阪大学)Gallia 3,1955 年。)
(*)(參考：林和夫「ラ・フォンテーヌの「寓話詩」の文体因子について(1)」(大阪大学)Gallia 3,1955 年。)
(*)(參考：大塚幸男「カトリシズムとフランス文学」福岡商科大学論叢 4(1),1955 年。)
(*)(參考：前田陽一「モンテェーニュとパスカル」知性 2(8),1955 年。)
(*)(參考：福鎌忠恕「「ペルシア人の手紙」の本質と意義」法学新報 62(9),1955 年。)
(*)(參考：常岡晃「鎖を離れたプロメテ」(ジイド)?,1955 年。
(*)(參考：滝田文彦「ヴァレリイにおける詩的創造の問題」?,1955 年。
(*)(參考：小松清・杉捷夫『フランス文學史』東京大学出版会,1955 年。)
(*)(參考：大塚幸男『フランス文学入門』河出文庫,河出書房,1955 年。)
(*)(參考：朱牟田夏雄他『イギリス文学史』東京大学出版会,1955 年。)

(*)(参考：野尻抱影『英文学裏町話』新書版,研究社,1955 年。)
(*)(参考：西村貞二「トマス・モーア」あるびよん 31,1955 年。)
(*)(参考 : 大山俊一『最近のシェイクスピア研究法』篠崎書林,1955 年 (→1960 年,増補版)。)
(*)(参考 : ピーター・ミルワード「歴史家としてのシェイクスピア」ソフィア 4(1),1955 年。)
(*)(参考 : 刈田元司「〈書評〉シェイクスピアを語る(ジェイムズ,A.ブレッド)」ソフィア 4(2),1955 年。)
(*)(参考：鷲山第三郎『悲劇と神の問題』福村書店,1955 年。)
(*)(参考 : 海江田進「Shakespeare 史劇の分析」(『岩崎教授還暦記念論集』所収,研究社,1955 年。)
(*)(参考：上野直藏「The Religious View of Chauser in His Italian Period(1,2)」(同志社大学)人文学 4 月号,1955 年/合併号,1956 年。)
(*)(参考：赤嶺弥生「Samuel Johnson の詩 Juvenal との比較論考」(同『近代の英文学』所収,研究社)。)
(*)(参考：赤嶺弥生「Samuel Johnson の詩 Juvenal の Satires との比較」Arthenaeum2(2),1955 年。)
(*)(参考：齋藤絹子「Areopagitica の一解釈」英米文学研究論叢 3,1955 年。)
(*)竹友藻風「ミルトンと明治文学(1,2)」英語青年 CI(2,3),1955 年。
(*)(参考：宮本正都「ヴェニスに於けるバイロン」大阪学芸大学紀要 3,1955 年。)
(*)(参考：矢野禾積『ポープ』新英米文学評伝叢書,研究社出版,1955 年。)
(*)(参考：大和資雄「イギリス農耕詩の伝統」日本大学文学部研究年報 6,1955 年。)
(*)(参考：秋山武夫「「プロミーシュース解縛」第 4 幕の意義」(シェリー)(青山学院大学)英米文学研究 1,1955 年。)
(*)(参考 : 福田陸太郎「The World of John Keats(1,2)」(東京教育大学文学部)紀要 1,3,1955 年。)
(*)(参考：菊池亘「キーツの精神論」一ツ橋評論 33,1955 年。)
(*)(参考：R.J.オコネル「〈書評〉バイロン卿(ナイト,G.ウィルソン)」ソフィア 4(12),1955 年。)
(*)(参考 : 黒田敬友「M.Arnold における精神展開の一時期」(広島大学)英語英文学研究 1(1),1955 年。)
(*)(参考 : 須藤兼吉「詩劇エトナ山上のエンペドクレス」(神奈川大学人文会)人文研究 3,1955 年。)
(*)(参考：植木錬之助「Marius the Epicurean の構成(1,2,3 部)」(関西学院大学短期大学)論叢 4,1955 年。)
(*)(参考：植木錬之助「Marius the Epicurean の構成(4 部)」神学と人文：大阪基督教学院・大阪基督教短期大学研究論集 1,1955 年。)
(*)(参考 : 植木錬之助「ウォルタア・ペイタアの人間観」(関西学院大学短期大学商科)論叢 10,1955 年。)
(*)(参考：田部重治「ペーターの芸術論」東洋大学紀要 7,1955 年。)
(*)(参考 : ギッシング/平井正穂編『ヘンリ・ライクロフトの私記』英文名著選集,開文社,1955 年。)
(*)(参考：阿部知二『ロレンス研究』英宝社,1955 年。)
(*)(参考：角倉康夫「T.S.エリオットのミルトン観の変遷」人文 1,1955 年。)
(*)(参考：佐藤清「ミルトンと T.S.エリオット」英文学思潮 28(1),1955 年。)

(*)(参考：岩井秀行「マシュ・アーノルド研究序説」東洋大学紀要 7,1955 年。)
(*)(参考：太田三郎「ジェムズ・ジョイスの紹介と影響」(昭和女子大学)学苑 175,1955 年。)
(*)中村順一「A Historical Survey of Englishi Studies in Japan(1640-1900)」神戸女学院大学論叢 4,1955 年。
(*)上田辰之助「Japan in some Englishi Works of the 17th and 18th Ceuturies」英語青年 CI(6), 1955 年。)
(*)(参考：菊池栄一他『ドイツ文學史』東京大学出版会,1955 年。)
(*)(参考：尾住秀雄「文芸学の歴史について」ドイツ文学 15,1955 年。)
(*)(参考：山田幸三郎『ファウストの救—キリスト者体験の観点から』待晨堂,1955 年。)
(*)(参考：小栗浩「Herders Humanitätsidee und ihre Bedeutung für unsere Zeit」ドイツ文学 14, 1955 年。)
(*)(参考：北村義男「近代ドイツにおける古代ギリシャの把握」山口大学文学会誌 6(1),1955 年。)
(*)(参考：中村恒雄「ゲーテに於ける生と死と不死性の関係」研究集録 人文・社会科学 3,1955 年。)
(*)(参考：新保勝夫「ゲーテの人間性の理想は現代的批判に堪えるか」神戸大学文学会研究 7,1955 年。)
(*)(参考：村田豊文「シュプランガーのゲーテ研究(1,2)」東京女子大学論集 5(2),1955 年/6(1), 1956 年)。)
(*)(参考：高橋義孝「ゲーテとトーマス・マン」知性 2(10),1955 年。)
(*)(参考：小名木栄三郎「トーマス・マンのゲーテ観」藝文研究 5,1955 年。)
(*)(参考：毛利浄賢「ゲーテの根源宗教序論」独仏文學研究 6,1955 年。)
(*)(参考：山岡直道「「ゲーテ時代」に就て」Literature6,1955 年。)
(*)(参考：村田宇兵衛「ハイネにおけるギリシャ主義とユダヤ主義の矛盾」岐阜大学学芸学部研究報告,人文科学 3,1955 年。)
(*)(参考：岡本素光「永劫回帰について：ニイチェ」駒澤大學研究紀要 13,1955 年。)
(*)(参考：中村正雄「ニーチェとヨーロッパ精神」説苑 3(3),1955 年。)
(*)(参考：谷山隆夫「永劫回帰」浪速大学紀要 人文・社会科学 3,1955 年。)
(*)(参考：小口登久治「ニイチェの「悲劇の誕生」にあらわれた「ソクラテス的なもの」と「ディオニュソス的なもの」」人文科学研究 8,1955 年。)
(*)(参考：氷上英広「創造と苦悩」(ニーチェ)新論 1(2),1955 年。)
(*)(参考：天野佳人「若きシラーの苦悩の体験とその文学」静岡大学文理学部研究報告・人文 4（荒正人編『市民文学論』所収,青木書店）,1955 年。)
(*)(参考：前田博「シラー美的教育論の本質」大谷学報 35(1),1955 年。)
(*)(参考：金田民夫「シラーの芸術論(1-4)」(同志社大学人文学会)人文學17,20,1955年/27,1956年/29,1957 年。)
(*)(参考：野島正城「最近のシラー研究」世界文学 4,1955 年。)
(*)(参考：村田宇兵衛「ハイネに於けるギリシャ主義ユダヤ主義の矛盾」岐阜大学学芸学部研究報告・人文科学 3,1955 年。)
(*)(参考：小宮□三「レッシングについて」新日本文学 10(3),1955 年。)
(*)(参考：吉田孚「ケーニヒスベルクにおけるヘルダーの文学理論」埼玉大学紀要 人文科学篇 4,1955 年。)

(*)(参考：村岡晢「ヘルダーの平和論について」西洋史研究 1,1955 年。)
(*)(参考：ハイデッガー/手塚富雄他訳『ヘルダーリンの詩の解明』理想社,ハイデッガー選集 3,1955 年(→1962 年,改訂版)。)
(*)(参考：井口省吾「ヘルダアリンに於ける詩の成立の基礎と詩的自然について」福岡学芸大学紀要 5,1955 年。)
(*)(参考:三木正之「ハイデッガーのヘルダーリン解釈について」鹿児島大学文科報告 4,1955 年。)
(*)(参考：吹田順助「ヘルダーリンの世界観」中央大学文学部紀要 4,1955 年。)
(*)(参考：岩橋保「詩人と時代 ヘルダーリンの讃歌をめぐって」独逸文學研究 4,1955 年。)
(*)(参考：守永敏夫「ヘルダリン覚書」人文科学研究 8,1955 年。)
(*)(参考：大河原順「ドイツ悲劇の展開(1)」福島大学学芸学部論集 6,1955 年。)
(*)(参考：大河原順「ヘルダーリンの「エムペードクレス」段階」ドイツ文学 15,1955 年。)
(*)(参考：吾妻寛治「「異端者」ヘルダーリン」(長崎大学)人文科学研究報告 5,1955 年。)
(*)(参考：竹内豊治「ヘルダーリンとキリスト教」理想 267,1955 年。)
(*)(参考：米本三爾「ヘルダァーリンのヒューペリオン：そのルカーチ解釈について」宮崎大学学芸学部研究時報 1(1),1955 年。)
(*)(参考：新関良三「ディルタイの戯曲論」美学 6(1),1955 年。)
(*)(参考：角ヶ谷和男「ヤスパースにおける「歴史性」について」哲学会誌 5,1955 年。)
(*)(参考：三浦賜郎「ヤスパースに於ける歴史観と歴史意義の問題について」社会問題研究 5(1),1955 年。)
(*)(参考：新関良三「演劇用語はこんなに変わった」心(2),1955 年。)
(*)富士川英郎「日本におけるリルケ」比較文学 4,1955 年。
(*)(参考：森田慶一「アテナイのアゴラ(II)」日本建築學會研究報告 30,1955 年。)
(*)(参考：小林文次「古代メソポタミアにおける神殿建築の成立」建築界 5(1),1955 年。)
(*)(参考：小林文次「古代メソポタミアにおける神殿建築の成立」日本大学工学研究所彙報 12,1955 年。)
(*)(参考：岸野雄三「古典古代(ギリシャ・ローマ)の競技」体育科教育 3(5),1955 年。)
(*)(参考：V.プリオット「パイデイアとしての医学」世紀 68,1955 年。
(*)(参考：大島鎌吉「ドイツ青少年体育の理念(1-3)」体育の科学 5(9,10,11・12),1955 年。)
(*)小川鼎三『解体新書』中公新書,中央公論社,昭和 43 年。
(*)(参考：加茂儀一『生命の起原から中世の終りまで』新評論社,1955 年。)
(*)(参考：加茂儀一『人間の歴史』中山書店,1955 年。)
(*)(参考：藤本豊吉「ジオスコリデスのギリシャ本草(3,4,5)」薬学研究 27(8,9,12),1955 年。)
(*)(参考：ステパーノフ/袋一平訳『原子の歴史(上下)』青木文庫,1955年。)
(*)(参考：バナール/鎮目恭夫・長野敬譯『近代科學の誕生と發展』歴史における科學2,みすず書房,1955年(→1955年,増補版。→1962年,改訂版。→1967年,再版)。)
(*)(参考：B.ファリントン/出隆訳『ギリシア人の科学—その現代への意義(上下)』岩波新書,1955年。)
(*)(参考：三田博雄「アリストテレスにおける數學と物理學の關係」西洋古典學研究3,1955 年。)
(*)(参考：三田博雄「「ギリシヤ人の科学」研究における「科学」概念」思想 375,1955 年。)
(*)(参考：S.メイスン著/矢島祐利訳『科学の歴史：科学思想の主なる流れ』岩波書店,1955

年。)
(*)(參考：平田寛「「アルマゲスト」の伝達を中心に」史観(43・44),1955 年。)
(*)中沢護人「ヴェ・ダニレフスキー著,桝本セツ・岡邦雄訳「近代技術史」」科学史研究 33,1955 年。
(*)近藤洋逸「永井博「近代科学哲学の形成」」373,1955 年。
(*)(參考 : 松本厚「μετεωρολογια と αδολεχια : ギリシャ科學の一考察」西洋古典學研究 3,1955 年。)
(*)(參考 : M.E.カルアナ「シェルーディンガー「科学とヒューマニズム」」ソフィア 4(4),1955 年。)
(*)(參考：下村寅太郎「近代科学としての「力學」の精神史的源泉について」科学基礎論研究 1(2),1955 年。)
(*)(參考：下村寅太郎「精神史としての科学史について」科学基礎論研究 1(4),1955 年。)
(*)吉田光邦『日本科学史』科学・技術史全書,朝倉書店,1955 年。
(*)藤田豊『日本科学史要稿』増補改訂版,一般教育研究会,1955 年。
(*)(參考：青木靖三「ガリレイとアリストテレス説」思想 369,1955 年。)
(*)(參考：山本一清『星座とその傳説』恒星社厚生閣,1955 年。)
(*)(參考：藪内清『天文学史』朝倉書店,1955 年。)
(*)藪内清『天文学史』科学・技術全書,朝倉書店,1955 年。
(*)有坂隆道「寛政期における麻田流天学家の活動をめぐって(上中下)」ヒストリア 11,12,1955 年/16,1956 年。
(*)海老澤有道「測量術の発展と南蛮学統」聖心女子大学論叢 6,1955 年。
(*)村田治郎・近藤豊編『法隆寺建築文献目録』彰国社,1955 年。
(*)内山孝一「オランダ正月」医譚 8,1955 年。
(*)(參考：樫原只好「ギリシャ・ローマ時代の印度貿易航路と Hippalus の発見について」神戸外大論集 6(1),1955 年。)
(*)(參考 : 長谷川誠一「古代インドの経済思想とギリシャへの影響—カウテイルヤ実理論を中心として」駒澤大學研究紀要 13,1955 年。)
(*)(參考：天野格之助「古代希臘の家政論」学苑 184,1955 年。)
(*)(參考 : 内田芳明「古代文化没落論をめぐる社会経済史問題の一性格」一橋論叢 33(1),1955 年。)
(*)(參考：今西正雄「社會經濟史家のための「古代・中世・近世地圖」について」同志社大學經濟學論叢 6(2),1955 年。)
(*)(參考：太田秀通「ホメロスにおける共有地の問題」西洋史学 26,1955 年。)
(*)(參考：鈴木雅也「カリアスの平和とアテナイ貢税表」西洋古典學研究3,1955年。)
(*)(參考 : 井上一「ギリシア古典古代に於ける「個人」と「社会」の意味」史学雑誌64(2),1955 年。)
(*)(參考：一橋大學一橋學會編『一橋大學創立八十周年記念論集(上下)』(藤井義夫「アリストテレスの正義論」)勁草書房,1955年。)
(*)(參考 : 家坂和之「トインビーの社会理論の構造」東北大学文学部研究年報?,昭和 30 年。)
(*)(參考：プラトン原著/山本光雄訳『国家』河出書房,1955 年。)
(*)(參考：矢部敏貞「国家」(プラトン)哲学会誌 6,1955 年。)
(*)(參考：アレクサンダー・アプシュ/志村博「ゲーテとコスモポリタニズム(特集 文化遺産

の問題)」日本文学 484),1955 年。)
(*)(参考：矢部貞治「西欧民主主義は亡びるか―リップマンの新著“Public Philosophy”を読んで」世界週報 36(11),1955 年。)
(*)(参考：霞信三郎「〈論説〉アテーナイにおける「ギリシア的自由」の展開と崩壊」倫理學年報 4,1955 年。)
(*)(参考：藤縄謙三「ツキュディデスにおけるアテナイの政治についての分析」西洋古典學研究 4,1955 年。)
(*)(参考：植田重雄「ヘレニズムにおける律法解釈の問題」早稲田商学 115,1955 年。)
(*)(参考：古林善祐「古代ギリシャ都市国家間の法」西南学院大学商学論集 1(1),1955 年。)
(*)(参考 : 古林善祐『古代ギリシャ法理学』國際事情研究所叢書 3,國際事情研究所,1955 年。)
(*)(参考：田中周友「〈書評〉一柳俊夫著「ホメーロスの詩篇に現われたる古代ギリシャの法律思想に就いて(早稲田法学会誌 3 巻)」法制史研究 1955(5),1955 年。)
(*)(参考：ミシェル・ヴィレー/田中周友・赤井節訳『ローマ法』文庫クセジュ,白水社,1955年。)
(*)(参考：佐伯好郎『中國に於ける景教衰亡の歴史：キリスト教の成立に及ぼしたローマ法學思想の影響』ハーバード・燕京・同志社東方文化講座委員會,ハーバード・燕京・同志社東方文化講座 第 7 輯,1955 年。)
(*)阿部賢一「小野東洋[梓]先生」読書春秋6(3),1955年。

(*)(参考：E.H.カー/石上良平訳『カール・マルクス』未来社,1956 年(→1998 年,『カール・マルクス：その生涯と思想の形成』新版,未来社)。)
(*)(参考：内海洋一「カール・マルクス」社会思想研究 8(1),1956 年。)
(*)(参考：淡野安太郎『初期のマルクス―唯物史観の成立過程』勁草書房,1956 年。)
(*)(参考：ゲオルク・ルカーチ/平井俊彦訳「若きマルクスの哲学的発展について,1840-1844年」経済論叢 77(5),1956 年。)
(*)(参考：藤田健治「マルクス・エンゲルスの先行哲学批判」お茶の水女子大学人文科学紀要 8,1956 年。)
(*)(参考：平原北堂『人類史』文化時報社, 1956 年。)
(*)(参考：河出書房編『古代の地中海文明：大空のふしぎ,生活のなかの美』日本少年百科全集 6,河出書房,1956 年。)
(*)(参考：三上次男・秀村欣二・関野雄編『目で見る古代の世界』学生社,1956 年。)
(*)(参考：峯崎康忠「現代文明史論と基督教史観：序説」研究紀要 2,1956 年。)
(*)(参考：サルヴァドールマダリアーガ/上原和夫訳『薔薇と十字架：ヨーロッパとは何か』みすず書房,1956年。)
(*)(参考：ペーター・メンデルスゾーン/川崎芳隆訳『哀愁のアルカーディア：長篇小説』河出新書,河出書房,1956年。)
(*)(参考：ルイージ・カブアーナ/清水三郎治訳『シチリアの少年』岩波少年文庫,岩波書店,1956年(→1992年,岩波少年文庫復刻30冊)。)
(*)(参考：織田武雄「ヘロドトスとスキティア：その地理的知識に就いて」京都大學文學部研究紀要4,1956年。)
(*)(参考：会田雄次「新大陸の新航路発見の歴史的背景」歴史教育4(9),1956年。)
(*)ハース・アドルフ「不滅なるヘラス」世紀76,1956年。

(*)松平千秋「アクロポリスの月」洛味 56,1956 年。
(*)福原麟太郎「多島海にて」文學界 10(9),1956 年。
(*)竹山道雄「イタリアの旅(1-3)」新潮 53(1,2,4),1956 年。
(*)大岡昇平「イタリアところどころ」日伊文化研究 2,1956 年。
(*)小川二郎「イタリア日記(2)」英語英文学研究3(1),1956年。
(*)(參考 : 辻圭一郎「大ナイル河の蛇」(ポンペイ等)(大阪市立大学文学会)人文研究7(4),1956年。)
(*)(參考：城野節子「スタール夫人とイタリア」?,1956年。
(*)(參考：西岡範明「カミュにおける海の想念」(熊本大学)法文論叢・文科篇8,1956年。)
(*)(參考：三上次男・秀村欣二・関野雄編『眼で見る古代の世界』学生社,1956年。)
(*)(參考：倉田俊「中近東紀行—トルコのイスタンブール」信濃教育830,1956年。)
(*)(參考：倉田俊「中近東紀行—イスタンブールの会議」信濃教育831,1956年。)
(*)内田享「イスタンブールの一夜」學燈53(2),1956年。
(*)(參考：小玉新次郎「東西交通史上より見たるパルミユラ」(関西学院大学文学部)人文論究6(5),1956年。)
(*)(參考：宮崎市定「オリエント・過去と現在」経済人10-5,1956年。)
(*)小川和夫「ロンドン暮色」新書版,研究社,1956年。)
(*)(參考：ルイージ・カプアーナ/清水三郎治訳『シチリアの少年』岩波少年文庫 125,岩波書店,1956 年(→1992 年,岩波少年文庫復刻版 30 冊)。)
(*)(參考：中野好夫(他)『世界探検紀行集』(シュリーマン作「夢を発掘した人」平田寛訳)世界少年少女文学48,創元社,1956年。)
(*)鮎澤信太郎『漂流—鎖国時代の海外発展』日本歴史新書,至文堂,1956 年。
(*)(參考：野上素一「イタリアの美術教育」美術教育 1956(34),1956 年。)
(*)(參考：岩波書店編集部,岩波映画製作所編編『アフガニスタンの旅』岩波写真文庫 202,岩波書店, 1956 年。)
(*)(參考：岩波書店編集部,岩波映画製作所編編『ルーブル美術館』岩波写真文庫 206,岩波書店, 1956 年。)
(*)(參考：三輪福松「西欧にせもの・鑑定」みづゑ 619,1956 年。)
(*)(參考：三輪福松「美術千一夜(1-4)」美術手帖 114,115,117,118,1956 年。)
(*)(參考：三輪福松「ジロラモ・サヴォナローラと美術」日伊文化研究 2,1956 年。)
(*)(參考：三輪福松「ギリシヤ彫刻」造形 2(3),1956 年。)
(*)(參考：三輪福松編集解説『ルネッサンスヴェネツィア派』原色版美術ライブラリー8,みすず書房,1956 年(→1957 年,美術の歩み。)
(*)(參考：フェルトヴェングレル,ウルリヒス共著/澤柳大五郎訳『ギリシア・ロマの彫刻』岩波書店,1956 年。)
(*)(參考：田中忠雄・中森義宗・柳宗玄編集『キリスト：美術作品に見る』日本基督教団出版部,1956 年。)
(*)今泉篤男「欧亜を旅して」みずゑ 615,1956 年。
(*)(參考：今泉篤男「エトルスクの芸術」みずゑ 615,1956 年。)
(*)(參考：今泉篤男「タルクィニアのエトルスク壁画」美術手帖 118,1956 年。)
(*)(參考：今泉篤男解説『美術の誕生』原色版美術ライブラリー1,1956 年。)
(*)(參考：今泉篤男『西洋の美術』小峰書店,1956 年。)

(*)(参考：今泉篤男『世界名画物語』日本児童文庫 32,アルス,1956 年。)
(*)児島喜久雄『古代彫刻の臍』岩波書店,1956年。
(*)志賀直哉「児島喜久雄の憶ひ出」図書82,1956年。
(*)児島光雄「父と私」(児島喜久雄)図書 82,1956 年。
(*)參考：澤柳大五郎「美術史の研究対象としての作品」美術研究 184,1956 年。)
(*)(參考：小川晴暢「仏教の彫刻 世界史的足跡(上下)」歴史教育 4(5,6),1956 年。)
(*)(參考：A.J.トインビー/蝋山政道他訳『歴史の研究(正続)』社会思想研究会出版部,1956 年。)
(*)(參考：A.J.トインビー/蝋山政道・阿部行藏・長谷川松治訳『歴史の研究：全』増補改訂版,社会思想研究会出版部,1956 年。)
(*)(參考：日本ヒューマニスト協会編『20 世紀のヒューマニスト』(トインビー,ニーチェ) 現代ヒューマニズム講座 4,宝文館,1956 年。)
(*)(參考：平田家就「トインビイにおける歴史と宗教」和歌山大学学芸学部紀要,人文科学 6,1956 年。)
(*)(參考：成瀬治「トインビーの学問と思想」歴史教育 4(11),1956 年。)
(*)(參考：トインビー,A.J.「人間の自由は神の賜である」福音と世界 11(11),1956 年。)
(*)(參考：A.J.トインビー「人間の自由は神の賜である」福音と世界 11(11),1956 年。)
(*)(參考：A.J.トインビー「歴史の曖昧性について」経済往来 8(12),1956 年。)
(*)(參考：A.J.トインビー他「日本と西欧(対談)」中央公論 71(3),1956 年。)
(*)(參考：小島威彦「オルテガ,マルセル,ハイデッガー」理想 273,1956 年。)
(*)(參考：五十嵐久仁平「トインビーの歴史観」理想 283,1956 年。)
(*)(參考：原佑「ホセ・オルテーガ・イ・ガセットの思想」哲学雑誌 71(732),1956 年。)
(*)(參考：南博「ハーバード・マーキュース「エロスと文明—フロイトについての哲学的考察」」思想 388,1956 年。)
(*)(參考：村田数之亮「エーゲ文明の発見」歴史教育 4(4),1956 年。)
(*)(參考：村田数之亮「ミノア文字解読への過程と影響」史林 39(3),1956 年。)
(*)(參考：高津春繁「ミノア文字 B の解讀」西洋古典學研究 4,1956 年。)
(*)(參考：渡辺紳一郎『西洋古典語典』東峰書店,1956 年(→1984 年,再版)。)
(*)(參考：桑原武夫編『岩波小辞典西洋文学』岩波書店,1956 年。)
(*)渡邊一夫「岩波小辞典「西洋文学」」図書 85,1956 年。
(*)(參考：創人社編集部編『西洋文学辞典』創人社,1956年。)
(*)(參考：日本独文学会編『ドイツ文学辞典』河出書房,1956年。)
(*)岩波書店編集部編『岩波 西洋人名辞典』岩波書店,1956年(→1981年,増補版)。
(*)篠田英雄「「人名辞典」一問一答」図書84,1956年。
(*)福原麟太郎「さばけている学究的辞典:『西洋人名辞典』」讀賣新聞 10/24 夕刊,1956 年。
(*)有馬成甫「中津侯編纂の蘭和辞典について」蘭学資料研究会研究報告 15,1956 年。
(*渋川驍「江戸ハルマ」読書春秋 7(6),1956 年。
(*)(參考：平凡社『社会科図解事典』平凡社,1956 年。)
(*)高柳伊三郎「日本宗教辞典と比屋根安定」ニューエイジ 8(6),1956 年。
(*)(參考：日本ヒューマニスト協会編：山室静・池島重信・藤原定編『ヒューマニズムの史的展開』宝文館, 現代ヒューマニズム講座 1,1956 年(→1969 年,務台理作・高津春繁・上原専禄監修：原一郎編『ヒュー

マニズムの史的展開』宝文館出版,再版)。)
(*)(參考：小林澄兄「ヒューマニズムと教育との関係について」哲學 32,1956 年。)
(*)(參考：高桑純夫編『古典人の言葉—現代に生きる言葉』実業之日本社,1956 年。)
(*)(參考：村田数之亮「〈論説〉ミノア文字解読への過程の影響」史林 39(3),1956 年。)
(*)(參考：高津春繁「ミノア文字 B の解読」西洋古典學研究 4,1956 年。)
(*)(參考：ハインツ・クルーゼ「所謂「死海写本」の研究の現状(上下)」ソフィア 5(2,3),1956 年。)
(*)(參考：泉井久之助『言語の研究』有信堂,有信堂文庫,1956年。)
(*)(參考：ヘルマン・ヘッセ/高橋健二訳『知と愛；湖畔のアトリエ；車輪の下；ラテン語学生：他』河出書房,世界文学全集・第2期23,1956年。)
(*)(參考：中山貞一郎「ギリシャの楽譜」音楽学2,1956年。)
(*)(參考：高津春繁「アリストパネースと「平和」」文庫58,1956年。)
(*)(參考：岩田義一「古人の引用にあらわれたルクレチウス」西洋古典學研究4,1956年。)
(*)(參考：久保正彰「五人の ΦΙΛΟΛΟΓΟΙ」西洋古典學研究 4,1956 年。)
(*)(參考：A.C.ムーアハウス/ねずまさし訳『文字の歴史』岩波書店,1956 年。)
(*)(參考：シャルル・イグーネ著/矢島文夫訳『文字』白水社,1956 年。)
(*)(參考：野上素一「イタリア人の言語生活」言語生活52,1956年。)
(*)(參考：ヘルマン・ヘッセ/高橋健二訳『知と愛；湖畔のアトリエ；車輪の下；ラテン語学生：他』河出書房,世界文学全集・第 2 期 23,1956 年。)
(*)中村元「古代日本人に知られたギリシア語」歴史教育 4(6),1956 年。
(*)山崎知二「幕末長崎におけるフランス語研究の先駆者たち」フランス語研究 12,1956 年。
(*)板澤武雄「オランダ語から英語へ」法政二高歴史研究 7,1956 年。
(*)(參考：庄司浅水「「フィロビブロン」(書物愛)とその作者」読書春秋 7(3),1956 年。)
(*)(參考：野上素一「イタリア出版界の横顔」図書 82,1956 年。)
(*)(參考：松平千秋「叙事詩「キュプリア」考」京都大学文学部五十周年記念論集,昭和31年。)
(*)(參考：神田盾夫『新約聖書ギリシア語入門』岩波全書218,岩波書店,1956年。)
(*)(參考:サン・スルピス会諸師著/サン・スルピス大神学校訳『羅典文法』改定版,光明社,1956年。)
(*)古田紹欽他編『何を読むべきか』現代禪講座5,角川書店,1956年。
(*)(參考：上原專祿『学生と教養』河出書房,1956年。)
(*)(參考：務台理作『学生と思想』河出書房,1956年。)
(*)(參考：渡辺一夫『学生と読書』河出書房,1956年。)
(*)(參考：小田實「新約學文献表(3)」(基督教研究会)基督教研究29(1),1956年。)
(*)杉原史郎『ミル文献目録』関西大学経済学会資料室,昭和31年。
(*)田中英光「太宰治への手紙」(河出書房)文藝13(20),1956年。
(*)(參考：呉茂一『ギリシア神話(上下)』新潮社,1956年（→昭44年,新装一冊本,新潮社）。)
(*)(參考：ブルフィンチ作/谷村まち子・西村保志郎え『ギリシア神話』幼年世界名作全集16,あかね書房,1956年。)
(*)(參考：ピエール・グリマル/高津春繁訳『ギリシア神話』白水社,文庫クセジュ201,並装・図書館用布装本,1956年(→1971年,再版。→1992年,新版)。)
(*)(參考：高塚正規「ホメーロスの神々」(関西学院大学)論攷3,1956年。)

(*)(参考：橋爪洋「「ヴィーナスとアドニス」」神戸外大論叢7(1-3)1956年。)
(*)(参考：加藤信朗「プラトンの神学をめぐって」ソフィア5(1),1956年。)
(*)(参考：加藤信朗「プラトンの神学」哲学雑誌71(731),1956年。)
(*)(参考：野上素一「彼岸の世界の橋」京都大學文學部研究紀要4,1956年。)
(*)(参考：有賀鐵太郎「神の無名性について」哲学研究33(10),1956年。)
(*)(参考：上澤謙二『イエス・キリスト(上下)』新教出版社,聖書少年文庫17-18,1956-57年。)
(*)(参考：小林信雄『洗礼：その起源と意義』新教出版社,聖書學叢書3,1956年。)
(*)(参考：エ・ラゲ譯『我主イエズスキリストの新約聖書』15版,中央出版社,1956年。)
(*)(参考：塚本虎二訳『ルカ福音書』教会無き人々のための口語新約聖書,聖書知識社,1956年。)
(*)(参考:塚本虎二訳『マタイ福音書』教会無き人々のための口語新約聖書,聖書知識社,1956年。)
(*)(参考：塚本虎二『死に勝つ』5版,伊藤節書房,1956年。)
(*)(参考：松村克己『聖書新解ヨハネ傳福音書』教文館,1956年。)
(*)(参考：半田元夫「J.ノックス著「パウロ伝研究」」史学雑誌65(8),1956年。)
(*)(参考：気賀重躬他『キリスト教と聖書』現代キリスト教講座2,修道社,1956年。)
(*)(参考：佐藤陽二『新約聖書とキリスト教』日本力行社,1956年。)
(*)(参考：松本卓夫『新約聖句の解釈』再版,新約聖書要解7,新教出版社,1956年。)
(*)(参考：遠藤義光訳『トマス・ア・ケンピス』教養文庫 10,日本基督教協議会,1956 年。)
(*)(参考:マルティン・ルター/藤田孫太郎訳『ガラテヤ書講解』ルター選集,新教出版社,1956年(→1974年,3版)。)
(*)(参考：藤田孫太郎「ルターの聖書解釈について(1-4)」三重県立大学研究年報2(2),1956年/2(3),1957年/3(1),1958年/3(2),1959年。)
(*)(参考：荒木甚三郎「英語聖書の研究(1-4)」島根大学論集・人文科学6,1956年/7,1957年/9,1959年/13,1984年,5,1966年。)
(*)(参考：清水護「聖書文学とSonof Manの意義」(『齋藤勇博士古稀記念祝賀論文集・英文学研究』所収,研究社,1956年。)
(*)豊田実「A Short History of the Japanese Translation of the Bible」(『齋藤勇博士古稀記念祝賀論文集・英文学研究』所収,研究社,1956年。
(*)(参考：祇園寺信彦「アテナイの歴史に関するノート」歴史教育4(5),1956年。)
(*)(参考：クローデル他/神西清他譯『現代世界戯曲』(ジロドゥー「トロイ戦争は起こらない」)世界文學全集[第2期]25,河出書房,1956年。)
(*)(参考：ジョン・アースキン作/西崎一郎・梅沢時子訳『トロイのヘレン：憧れる魂』新鋭社,1956年。)
(*)(参考：織田武雄「ヘロドトスとスティキア：その地理的知識に就いて」京都大学文学部研究紀要3,1956年。)
(*)(参考：宮本又次「ソロンの改革」経済人10(9),1956年。)
(*)(参考：衣笠茂「第二アテナイ海上同盟について」岡山史学2,1956年。)
(*)(参考：原随園『地理と世界の歴史：アジア篇』雄渾舎,1956年。)
(*)(参考：原随園『新制世界史』教育図書,1956年。)
(*)(参考：原随園「〈論説〉ツキジデスの史学について(思想史特集)」史林39(6),1956年。)
(*)(参考：原随園「スパルタの古制について」京都大學文學部研究紀要4,1956年。)

(*)(参考：荒正人「アレキサンダー大王」キネマ旬報150,1956年。)
(*)(参考：冨原芳彰「クレオパトラとエリザベス」英語青年102(2),1956年。)
(*)(参考：辻圭一郎「大ナイル河の蛇」(大阪市立大学文学部)人文研究7(4),1956年。)
(*)(参考：冨原芳彰「クレオパトラとエリザベス」英語青年102(2),1956年。)
(*)(参考：三木利英「クレオパトラの微笑」鳥取大学学芸学部研究報告,人文科学6,1956年。)
(*)(参考：シュターエルマン,E.M.「奴隷制の崩壊の問題(上下)」歴史評論74,75,1956年。)
(*)田中裕「〈書評〉京大西洋史研究室編 傭兵制度の歴史的研究」」史林39(2),1956年。
(*)(参考：鯖田豊之「いわゆる中世前期における古典的奴隷制の存続について」歴史学研究199,1956年。)
(*)(参考：大久保正太郎・菅忠道編『世界歴史物語(1-5)』日本児童文庫4,6,7,11,18,1956-57年。)
(*)(参考：上原專祿『世界史の理論と教育』東洋経済新報社,1956年。)
(*)(参考：上原專祿『高校世界史』実教出版,1956年。)
(*)石川武「上原專祿著「世界史像の新形成」」歴史評論72,1956年。
(*)(参考：藤間大生他編『歴史学おける諸問題』講座歴史3,大月書店,1956年。)
(*)(参考：二宮宏之「十六世紀の歴史像」机7(2),1956年。)
(*)(参考：内田芳明「フランツ・アルトハイム著「古代世界の衰退」について」一橋論叢35(2),1956年。)
(*)二宮宏之「日本西洋史学会第七回大会に参加して」歴史評論78,1956年。
(*)村瀬興雄他「1955年の歴史学界—西洋史」史学雑誌65(5),1956年。)
(*)(参考：村川堅太郎『西洋史提要』新訂版,秀英出版,1956年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎/史学会編『世界史』6訂版,山川出版社,1956年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・山本達郎・林健太郎『世界史：教授資料』増補,山川出版社,1956年。)
(*)「新・人物風土記 639 東京都・人文科学 5 西洋史から国史に」(村川堅太郎)讀賣新聞夕刊7/9,1956年。
(*)梅田良忠「日本に於ける西洋史学の課題」人文論究6(5),1965年。
(*)石川武「上原專祿著「世界史像の新形成」」歴史評論72,1956年。
(*)(参考：川久保勇「高校世界史古代教授実践案」歴史教育4(6),1956年。)
(*)(参考：広島史学会『世界史研究』[見本叛]柳原書店,1956年。)
(*)大久保利謙「明治における歴史理論」歴史教育 4(3),1956 年。
(*)(参考：中山太郎著・京口元吉校訂『賣笑三千年史』(増補改訂)日文社,1956 年。)
(*)(参考：西村貞二「ブルクハルトの新全集」學燈 53(2),1956 年。)
(*)(参考：仲栄太郎「ランケの世界史像」大阪学芸大学紀要 A 人文科学 4,1956 年。)
(*)(参考：木間瀬精三「ランケとブルクハルト」聖心女子大学論叢 7,1956 年。)
(*)(参考：アンリ・カルヴェ/井上幸治『ナポレオン』文庫クセジュ,白水社,1956年。)
(*)(参考：長友栄三郎「歴史学会をめぐる動向所見」教育の研究27,1956年。)
(*)(参考：関根正雄「ヤハウェストとヘシオドス-西洋思想の源流」東京教育大学紀要?,昭和31年。)
(*)(参考：出隆「哲学の起源について—トムソン教授の近著を読む」思想386,1956年。)
(*)(参考：永井滋郎「ヨーロッパ古典古代」歴史教育4(4),1956年。)
(*)(参考：三島由紀夫「亀は兎に追いつくか?」中央公論712(10),1956年。)

(*)(参考：伊藤貫一「知識について」(プラトン)人文論究16,)1956年。)
(*)(参考：高桑純夫『古典人の言葉』実業之日本社,1956年。)
(*)(参考：高桑純夫他『唯物論』(田中美知太郎)現代哲学講座2,河出書房,1956年。)
(*)(参考：田中美知太郎『考えることのよろこび：哲学と人生』河出新書244,河出書房,1956年。)
(*)(参考：田中美知太郎『哲學的人生論』河出新書,河出書房,1956年。)
(*)(参考：田中美知太郎『思想の遠近』新潮社,1956年。)
(*)(参考：日本ヒューマニズム協会編『ヒューマニズムの史的展開』宝文館,1956年。)
(*)(参考：船山信一『哲学概論』法律文化社,昭和31年。)
(*)(参考：ヒルティ/正木正訳『心の糧』(角川文庫,角川書店,1956年。)
(*)(参考：阿部矢二「世界観の生成」立命館経済学4(6),1956年。)
(*)(参考：川田熊太郎「Docta Ignorantiaと無分別智」東京大学教養学部人文科学科紀要8,1956年．)
(*)(参考：川田熊太郎「根本的無分別智に就いて」印度學佛教學研究4(1),1956年。)
(*)(参考：村井実『ソクラテス』西洋教育史1,牧書店,1956年(→1977年,講談社学術文庫版)。)
(*)(参考：山本光雄『ソクラテスの死』角川新書,角川書店,1956年。)
(*)(参考：Plato；B.Jowett(trans.)/E.Hattori[服部英次郎]（ed.with notes）“The Symposium of Plato”Sanwa Shobo,1956年。)
(*)(参考：金松賢諒「エロース—プラトン「酒宴」に学ぶもの」哲学論集2,1956年。)
(*)(参考：佐藤春夫「エロスの文学」中央公論71(6),1956年。)
(*)(参考：石井良博「書評 ベルンハルト・シュヴァイツアー著「プラトンとギリシヤ人の造型芸術」」美學7(2),1956年。)
(*)(参考：石本洪規「プラトン・プロチノス架橋の問題—Stoaのdynamis研究」教育科学6(1),1956年。)
(*)(参考：安藤孝行『アリストテレス研究』東京大学,文学博士[報告番号不明],1956年。)
(*)(参考：高田三郎「善そのものの認識：アリストテレスの場合とトマスの場合」京都大學文學部研究紀要4,1956年。)
(*)(参考：中野幸次「アリストテレスの時間論」哲学論叢18,1956年。)
(*)(参考：鹿野治助「運命というもの(承前)」(大阪市立大学大学院文学研究科)人文研究7(5),1956年。)
(*)(参考：岩崎勉「ルクレチウスに於ける「生の快適」」フィロソフィア30,1956年。)
(*)(参考：呉茂一「マルクス・アウレーリウスと二つの時代」文庫61,1956年。)
(*)(参考：マルクス・アウレリウス著/神谷美恵子訳『自省録』岩波文庫,岩波書店,1956年。)
(*)(参考：長友栄三郎「テルトゥリアーヌスの護教論と古典思想排撃の限界」基督教史学6,1956年。)
(*)(参考：山田晶「聖トマスにおけるesseとexistereについて(1-5)」哲学研究38(4,5,6,8,9),1956年。)
(*)(参考：広瀬京一郎「〈書評〉アクイナス(コプルストン,F.C.)」ソフィア5(4),1956年。)
(*)(参考：鈴木成高「古典と中世」早稲田大学大学院文学研究科紀要1,1956年。)
(*)(参考：長友栄三郎「ボエーティウスのConsolationについての一考察」宮崎大学学芸学部研究時報1(2),1956年。)
(*)參考：川口正秋「サンタヤナの哲学的自伝について」(立教大学)英米文学 17,1956 年。)

(*)(参考：草薙正夫「ヤスパース「大学の理念」」人文研究 5,1956 年。)
(*)(参考：松平千秋「英國聯合古典學會に出席して」西洋古典學研究 4,1956 年。)
(*)尾形裕康「明治初期皇漢洋三学派の抗争」社会科学討究 1(1),1956 年。
(*)佐藤昌介「蛮社の獄の真相」日本歴史 72,1956 年。
(*)(参考：久保田恭平・日下幸雄「本邦史学者の見たイエズス会」ソフィア 5(2),1956 年。)
(*)海老澤有道「禁書令に関する諸問題(上下)」歴史教育 4(11,12),1956 年。
(*)海老澤有道「南蛮天文学家沢野忠庵をめぐりて」六浦論叢 5,1956 年。
(*)海老澤有道『近代日本文化の誕生』日本 YMCA 同盟,キリスト教教養新書,1956 年(→1968 年,改訂版)。
(*)海老澤有道『キリシタン史展覧会解説目録』山手カトリック教会,1956 年。
(*)関根正雄訳『口語訳・旧訳聖書』岩波文庫,岩波書店,1956 年(以後続刊).
(*)F.プラ著/野口秀吉訳『使徒行伝・テッサロニケ書・コリント書・ガラダ書に依る』聖パウロの神学,声社,1956 年。
(*)『四福音書・使徒行伝』新約聖書註解上巻,新教出版社,1956 年。
(*)(参考：M.A.バーネット/小島伊助・羽鳥明共訳『ロマ書註解』福音伝道教団,1956 年(→1961 年,再版。福音伝道教団出版部。)
(*)(参考：ヘーラル・ホローテ著・由木康譯『キリストに倣いて：イミタチオ・クリスティ』角川文庫,角川書店,1956 年。)
(*)(参考：田中秀央「朝鮮に於けるキリスト教伝来報告書」朝鮮学報 10,1956 年。)
(*)古田光「明治のアカデミー哲学」(『近代日本思想史』1 所収,青木書店,1956 年。)
(*)古田光「日本的観念論哲学の成立」」(『近代日本思想史』2 所収,青木書店,1956 年。)
(*)宮川透『近代日本思想の構造』東大出版会,1956 年。
(*)船山信一『日本の観念論者たち』英宝社,1956 年。
(*)江部鴨村「清沢満之師の人と思想(上下)」大世界 11(9,10),1956 年。
(*)柳田泉『哲人三宅雪嶺先生』実業之世界社,1956 年。
(*)増谷文雄「姉崎正治の業績」宗教研究 147,1956 年。
(*)斎藤勇「文筆家としての柏井園先生」福音と世界 11(10),1956 年。
(*)石原謙「学級生活の想い出」思想 390,1956 年。
(*)八木三郎「斎藤勇博士と石原謙博士」ニューエイジ 8(10),1956 年。
(*)(参考：阿部知二編『世界文学』大系文学講座 8,青木書店,1956 年。)
(*)中田敬義原譯：田中秀改訂『華訳伊蘇普喩言=Aesop's fables in spoken Chinese＝伊索寓言=イソップものがたり』抜粋版,永和語学社,1956 年。
(*)イソップ原作/川端康成等編,市川禎男絵『イソップものがたり』世界幼年文学全集 1,宝文館,1956 年。)
(*)瀧口直太郎・清水良雄『イソップ寓話：フィフティ・フェイマス・ストリーズ』ニュー・メソッド英文対訳シリーズ 2,評論社,1956 年。
(*)永積安明『中世文学の展望』東京大学出版会,1956 年(→1975 年,学術書複製版。→1978 年, 復刊学術書)。
(*)(参考：太田三郎『性崇拝』黎明書房,1956 年(→1986 年,再版)。)
(*)(参考：小川政恭試譯「ホメーロス「イーリアス」(1-14)」近代 14,15,16,17,1956 年/18,19,20,1957 年/21,22,24,1958 年/25,26,27,1959 年。)
(*)(参考：佐藤三千雄「ホメーロスに於ける人間」立命館文學 132,1956 年。)

(*)(参考：井上正蔵編『世界名詩選』学生社新書,学生社,1956 年。)
----[ギリシア]サッポー：「夕星は」呉茂一訳,他 83 篇
(*)(参考：呉茂一『ぎりしあの詩人たち』鑑賞世界名詩選,筑摩書房,1956 年。
(*)(参考：呉茂一「古典の言い分」(東京大学学生新聞会編『私の卒業論文』所収,同文館,1956年。)
(*)(参考：阿部知二等編『体系文学講座 8』青木書店,1956 年。)
----手塚富雄「世界文学と諸国民の文学」
呉茂一「古代英雄叙事詩と抒情詩」
杉浦明平「ルネッサンスの文学」
(*)(参考：河出書房編『世界文学全集[第 2 期]16(古典篇ギリシア・ローマ文学篇)』河出書1956 年。)
----ソポクレース：「アンティゴネー」山田潤二・呉茂一訳
エウリピーデース：「アルケースティス」呉茂一訳
クセノポーン：「エペソス物語」松平千秋訳
プラウトウス：「ほら吹き軍人」樋口勝彦訳
ウェルギリウス：「アエネーイウス」樋口勝彦・藤井昇訳
オウィディウス：「メタモルポーセース」高津春繁・熊崎雄二郎訳
(*)(参考：高津春繁「アリストパネースと「平和」」文庫58,1956年。)
(*)(参考：大谷啓治「F.ファン・ステーンベルゲン「西欧におけるアリストテレス」」ソフィア4(4),1956年。)
(*)参考：高塚正規「アリストテレース『詩学』20章の後世挿入説について」(関西学院大学)論攷2,1956年。)
(*)(参考：当津武彦「悲劇のミュトス」(アリストテレス)大阪経大論集17,1956年。)
(*)参考：大島康正「悲劇と人間存在—ギリシャ的人間の主体的遺産」(同『実在倫理の歴史的境位』所収,創元社,昭和31年)。)
(*)(参考：内山敏「ゲレース・ケリーの結婚劇を仕組んだ男」(アリストテレス)中央公論71(7),1956年。)
(*)参考：松平千秋「エピダウロスのギリシャ劇」文庫63,昭和31年。)
(*)(参考：新関良三「ギリシャと日本の演劇」心 9(12),1956 年。)
(*)(参考：新関良三『エウリピデス研究』研究叢書 1,共立女子大学文學芸術研究所編,共立女子大学文學芸術研究所 1956 年。)
(*)(参考:アプレイウイス/呉茂一・国原吉之助訳『黄金のろば(上下)』岩波文庫,岩波書店,1956年。)
(*)(参考：ロベール・ピニャール/岩瀬孝訳『世界演劇史』図書館用布装本,文庫クセジュ 158,白水社,1956 年(→1969 年,改訂新版。→1971 年,改訂新版)。)
(*)新村出「思い出を語る(1-3)」言語生活 60,62,63,1956 年。
(*)中城惠子「木村鷹太郎—近代文学史料研究・外国文学(105)」(昭和女子大学)学苑191,1956年。
(*)岡林清水「上田敏研究--『幽趣微韻』考察を中心として」高知大学学術研究報告 3,1956年。
(*)昭和女子大学近代文学研究室編『近代文学研究叢書1,3,4,5,6,9,15,16, 18,19,20,21,22,23, 26,33,58,59』(中村正直,森田思軒,大西祝,中江兆民,西周,西村茂樹,高山樗牛,綱島

梁川,杉谷代水,上田敏,加藤弘之,山路愛山,末松謙澄,宮崎湖処子,東海散士,ケーベル,ヘボン,厨川白村,島村抱月,岩野抱鳴,中澤臨川,黒岩涙香,神田乃武,志賀重昂,芳賀矢一,木村鷹太郎,三宅雪嶺,中島孤島,茅野蕭々,桑木巌翼等)1956-1986年。
(*)Raphael Koeber,Kleine Schriften,revidiert von J.Shibata(ausgewhält u. erläutert von T. Matsuyama,第三書房,1956年。
(*)村田潔「名訳「プルターク英雄伝」に寄せて」図書85,1956年。
(*)(參考：河野与一「人のいい博識家—プルタークのこと」法政1月号,昭和32年。
(*)黒田正利「二村一水の三先師をおもう」The Albion 5,1956年。
(*)(參考：エヌ・ムラヴィヨヴァ,エス・トゥラーエフ/柚木信訳『世界文学入門』三一新書,三一書房,1956年。)
(*)太田三郎「比較文学のあり方」(東北大学文学会)文化20(3),1956年。
(*)(參考：矢野禾積『比較文学考察と資料』南雲堂,1956年。)
(*)(參考：矢野禾積「学問のProvincialism」英語青年CII(2),1956年。)
(*)(參考：矢野禾積「研究の国内版と海外版」英語青年CII(10),1956年。)
(*)(參考：矢野禾積「近代詩の成立と展開」(共著『「於母影』とその影響「海潮音」とその影響』所収,矢島書房,1956年。)
(*)(參考：ジャン・ルキエ/渡辺守章等訳『フランス文学史』東京日仏学院,1956年。
(*)(參考：渡邊一夫『フランソワ・ラブレー研究』東京大学,文学博士[報告番号不明],1958年。)
(*)(參考：加藤美雄「Maurice Scève研究(1-3)」(大阪市立大学)人文研究7(7),1956年/9(5),1958年/10(9),1959年。)
(*)(參考：岳野慶作「フランソア・ド・サールにおけるヒューマニズムの原理」アカデミア13,1956年。)
(*)(參考：戸張智雄「ラシーヌのギリシャ悲劇註解について—その作劇的意義」?,1956年。
(*)(參考：朝倉剛「フェヌロン研究(1,2)」(愛知県立女子短期大学)紀要6,1956年/8,1957年。)
(*)(參考：村松剛「ポール・ヴァレリイ研究」近代文学9月号,1956年。)
(*)(參考：土屋博正「ポール・ヴァレリイ」綜合世界文芸10,1956年。)
(*)(參考：齋藤祐蔵「英文学におけるイタリア文学の影響(上)」日本大学世田谷教養部紀要5,1956年。)
(*)番匠谷英一「ドイツ文学の翻訳と日本文学」(学灯社)国文学4(4),1956年。
(*)松田穣「フランス文学の翻訳と日本文学」(学灯社)国文学4(4),1956年。
(*)村松定孝「森鴎外と翻訳文学」(学灯社)国文学4(4),1956年。
(*)高田瑞穂「日本の近代作家と外国人作家」(学灯社)国文学4(5),1956年
(*)島田謹二「英米文学の翻訳と日本文学」(学灯社)国文学4(5),1956年。
(*)長谷川泉「大正文学史における翻訳文学」(学灯社)国文学4(5),1956年。
(*)參考：佐藤堅司「ルネサンスにおける人間性」西洋史研究2,1956年。)
(*)參考：野上素一「ルネッサンス文学と人文主義」日伊文化研究2,1956年。)
(*)參考：三浦逸雄「東方関係のダンテ文献」イタリア文化研究1,1956年。)
(*)參考：山崎功「ルネッサンスの概念」イタリア文化研究1,1956年。)
(*)參考：増山暁子「ボッカチオの世界・序説」イタリア学会誌5,1956年。)
(*)參考：ボッティチェルリ画/スティーブン・スペンダー解説/摩壽意善郎譯『ボッティチェルリ』平凡社,フェーバー世界名画,1956年。)

(*)(参考：酒井善孝『イギリス文学史』弘文堂,1956年。)
(*)(参考：山宮允「英文学思潮概観」青山学院大学研究講座6月号,1956年。)
(*)(参考：深瀬基寛『批評の建設のために』新書版,南雲堂,1956年。)
(*)(参考:ラム作/野上弥生子訳『シェイクスピア物語』岩波少年文庫,岩波書店,1956年(→1962年,岩波少年少女文学全集4。→1981年,岩波版ほるぷ名作文庫版)。)
(*)(参考：桑田孝雄「Julius Caesarの英語」広島女学院大学論集6,1956年。)
(*)(参考：日高八郎「Shakespeareをどの版で読めばよいか」(『齋藤勇博士古稀記念祝賀論文集・英文学研究』所収,研究社,1956年。)
(*)(参考：中村六男「Antony and Cleopatraにおける悲劇受容(1,2)」信州大学繊維学部研究報告6,1956年/7,1957年。)
(*)(参考：益田道三「バイロンとゲーテとの関係」(『矢野禾積博士還暦記念論文集・近代文学の研究』所収,北星堂,1956年。)
(*)(参考：瀬下良夫「十代のシェリイ」(慶應義塾大学)法学研究・別冊教養論叢1,1956年。)
(*)(参考：森清「Keatsの詩魂の展開—苦悩から解脱へ」尾道短期大学研究紀要5,1956年。)
(*)(参考：塚野耕「若きJohn Keatsの苦悩とその克服—HyperionからThe Fall of Hyperionへ」大阪学芸大学英文学会誌3,1956年。)
(*)(参考：小日向恒夫「「ギリシャ古甕の賦」の構成」(『矢野禾積博士還暦記念論文集・近代文学の研究』所収,北星堂,1956年。)
(*)(参考：工藤直太郎「李賀とKeats」英語青年CII(3),1956年。)
(*)(参考：ギッシング/栗原元吉訳『ヘンリ・ライクロフトの手記』角川文庫,角川書店,1956年。)
(*)(参考：矢野禾積「日本におけるアーサー・シモンズ」(東京都立大学英文学研究会)英語と英文学4,1956年。)
(*)(参考：祥端専一「詩人エマソンの神話」東京経済大学会誌15,1956年。)
(*)(参考：玉木意志太牢「T.S.Eliotの「ミルトン論」」The Albion 4,1956年。)
(*)(参考：山本和平「エリオット：古典とは何か」日本文学5(8),1956年。)
(*)(参考：ピーター・ミルワード「T.S.エリオットと古典的伝統」ソフィア5(1),1956年。)
(*)(参考：F.H.メヤー「〈書評〉聖トマス・モア(レオノルズ,E.E.)」ソフィア5(1),1956年。)
(*)(参考：バーナード・ブラックストーン/福田陸太郎訳『ヴァージニア・ウルフ』英文学ハンドブック「作家と作品」17,研究社出版,1956年。)
(*)(参考：明治大学独文学会編『独文學研究』小牧健夫,1956-57年。)
(*)(参考：枝法「近代ドイツ文学成立史研究」(東京教育大学)西洋文学研究8,1956年。)
(*)(参考：玉林憲義「東西ドイツの大学—一般教養課程の問題として」論攷3, 1956年。)
(*)(参考：大畑末吉「伝説より文学へ：ファウスト伝説の発生と進展」一橋論叢36(2),1956年。)
(*)(参考：小野浩「ゲーテのヴィンケルマン論」(関西ゲーテ協会)ゲーテ年鑑2,1956年。)
(*)(参考：高野巽「イデーを見るということ」(関西ゲーテ協会)ゲーテ年鑑2,1956年。)
(*)(参考：水野忠敏「「ゲーテの言語」研究史の初期」(関西ゲーテ協会)ゲーテ年鑑2,1956年。)
(*)(参考：中野康存「ヘルデルの文芸理論と若きゲーテ—主として抒情詩,天才,シェクスピアに関して」(関西ゲーテ協会)ゲーテ年鑑2,1956年。)
(*)(参考：砂沢喜代次「フンボルトと新人文主義」理想281,1956年。)

(*)(参考：小塩節「リュンコイスの歌」ドイツ文学17,1956年。)
(*)(参考：猿田悳「自伝文学としての「詩と真実」」ドイツ文学17,1956年。)
(*)(参考：猿田悳「Pandoraの成立とその中絶について」富山大学文学紀要5,1956年。)
(*)(参考：神崎義一「ゲーテの作品に表われた二つのパリス」島根大学論集6,1956年。)
(*)(参考：山岡直道「壮年期のゲーテの作品における愛の問題について」北海道大学・外国語外国文学研究3,1956年。)
(*)(参考：毛利浄賢「ゲーテの根源宗教序論」(九州大学)独仏文学研究6,1956年。)
(*)(参考：大庭米治郎「ゲーテの芸術論」大谷大学研究年報9,1956年。)
(*)(参考：臼井竹次郎「ゲーテ・プロメトイス断片について」(京都大学教養部)独逸文学研究報告5,1956年。)
(*)(参考：御牧好隆「青年ゲーテ時代のドイツにおけるシェクスピア研究」(明治大学)独文学研究2,1956年。)
(*)(参考：市丸茂人「205 ゲーテにおける職業的陶冶と一般的陶冶の理想」日本教育学会大会研究発表要項15,1956年。)
(*)(参考：前田利道「形而上学的諦念と対象的思惟」(ゲーテ)小樽商科大学人文研究13,1956年。)
(*)(参考：F.グンドルフ/小口優訳『ゲーテ研究(全3巻)』未来社,1956年。)
(*)(参考：住吉勇「シラーの「素朴文学と情感文学」における自然観の問題」広島大学文学部紀要6,1956年。)
(*)(参考：石塚敬直「シラーの境位」(東京教育大学)西洋文学研究8,1956年。)
(*)(参考：高木勇「ヘルダーリンとシラー」ドイツ文学17,1956年。)
(*)(参考：今井寛「ヘルダーリンの“Friedensfeier”について」ドイツ文学17,1956年。)
(*)(参考：今井寛「ヘルダーリンと古代ギリシャ」(北海道大学)外国語外国文学研究4,1956年。)
(*)(参考：高原宏平「ヘルダーリン論争—1956年度ヘルダーリン協会大会から」(京都大学教養部)独逸文学研究報告5,1956年。)
(*)(参考：小野浩「ニーチェ研究序説」(明治大学)独文学研究2,1956年。)
(*)(参考：秋山竜英「ニーチェのまわり」フィルハーモニー28(6),1956年。)
(*)(参考:鳥本清「ハイデッガーの哲学におけるニーチェの形而上学」龍谷大学論集352,1956年。)
(*)(参考：徳沢得二「ニーチェの反キリスト論」(修道社)現代キリスト教講座6,1956年。)
(*)(参考：元良勲『ギリシアに於ける建築的秩序原理の研究』京都大学,工学博士[報告番号不明],1956年。)
(*)(参考：小林文次他『西洋建築史』建築学大系5,彰国社,1956年(→1968年,改訂増補)。)
(*)(参考：針ケ谷鐘吉『西洋造園史』彰国者,1956年。)
(*)(参考：小寺駿吉「針ケ谷鐘吉著「西洋造園史」を手にして」造園雑誌20(2),1956年。)
(*)E.シュレジンガー/伏見康治・三田博雄・友松芳郎共訳『科学とヒューマニズム』みすず書房,1956年。)
(*)(参考：加茂儀一『人間の歴史』中山書店,1956年。)
(*)(参考：ピエール・デュカセ著/加茂儀一訳『技術の歴史』白水社,1956年。)
(*)(参考：加茂儀一『技術の歴史』毎日新聞社,1956年。)
(*)(参考：下村寅太郎『科学と哲学』河出書房,現代哲学講座4,1956年。)

(*)(参考：中原佑介「占星術の廃業について」美術批評58,1956年。)
(*)(参考：有田潤「ギリシヤ医学思想の一面」早稲田商学121,1956年。)
(*)(参考：東竜太郎「オリンピックの理想と現実」体育の科学6(2),1956年。)
(*)(参考：松延陽一「古代ギリシアの体育思想とオリンピア競技の史的考察(前後)」西南学院大学文学論集3(1・2),3(3),1956年。)
(*)(参考：能勢修一『古代オリンピアの祭典と競技』和光書房,1956年。)
(*)(参考：寺部頼助『オリンピック物語』洋々社,1956年。)
(*)(参考：I.O.エヴァンズ/大島鎌吉訳『オリンピックの勇者：古代ギリシャの青少年物語』スポーツ新書19,ベースボールマガジン社,1956年。)
(*)(参考：蘭書編集部編『古代オリンピック』蘭書房のスポーツ写真文庫14,蘭書房,1956年。)
(*)(参考：E.シュレジンガー著/伏見康治・三田博雄・友松芳郎訳『科学とニューマニズム』みすず書房,1956年。)
(*)(参考：平山諦『東西数学物語』増補新版,恒星社,1956年。
(*)赤羽千鶴「数学史家三上義夫博士の悲劇的終焉」日本数学教育会誌41(3),1956年。
(*)木村陽二郎「科学史について」科学史研究38,1956年。
(*)久野収「メイスン著/矢島祐利訳「科学の歴史・上」を読んで」図書76,1956年。
(*)(参考：矢島祐利『科學思想史入門』修道社,1956年。)
(*)海老澤有道「蘭学時代における南蛮学統—寛政改暦と地動説の理解を中心として」史苑16,(2),1956年。
(*)(参考：藪内清『自然科学史』恒星社厚生閣,1956年。)
(*)(参考：山本一清「天文学の歴史(1,2)」天界37(369,370),1956年。)
(*)(参考：山本一清「ケプラーの小伝」天界37(372),1956年。)
(*)佐藤賢司「邦訳三兵戦術書の捜索」蘭学資料研究会研究報告13,1956年。
(*)(参考：来住哲二「ロペス・レイモンド「地中海に於ける中世貿易」について」関西大学商学論集183),1956年。)
(*)上田辰之助「還暦の大塚[金之助]教授」一橋論叢36(4),1956年。
(*)福原麟太郎「上田辰之助博士を憶う」あるびよん38,1956年。
(*)石川三四郎『自叙傳』理論社,1956年（←1956年,『青春の遍歴』[自叙傳・上] 理論社。←1956年,『一自由人の旅』[自叙傳・下] 理論社。→1977年,『自叙傳』青土社,石川三四郎著作集5）
(*)吉村正(編集代表)『近代日本の社會科學と早稻田大學』(大西祝等)早稲田大學,昭和 32 年。
(*)小松春雄「政治学を学ぶには何を読むべきか」中央公論 8(2),1956 年。)
(*)(参考：山野耕治「山本光雄訳『国家』世界大思想全集1,河出書房,1955」西洋古典學研究5,1956年。)
(*)(参考：原随園「スパルタの古制について」京都大學文學部研究紀要 4,1956 年。)
(*)(参考：河野與一「弁論術師の月謝」図書 79,1956 年。
(*)(参考：田中周友「オストラキスモスと民主政治の発展」歴史教育 4(5),1956 年。)
(*)(参考：藤縄謙三「ツキュディデスにおけるアテナイの政治についての分析」西洋古典學研究 4,1956 年。)
(*)(参考：鈴木雅也「アテナイ帝国主義下のケルソネス植民について」(神戸学院大学)論集29(3),1956 年。)
(*)(参考：横尾壮英「イソクラテースについて」日本教育学会大會研究報告発表要項 15,1956

年。)
(*)(参考：原勲「ビザンティウム競技場に於ける諸党派について」(大阪市立大学文学会)人文研究 7(8),1956 年。)
(*)(参考：浅香正『ローマ世界の社会経済史』三和書房,1956 年。)
(*)(参考：浅香正「ローマ元首政治における「権威」の意味」西洋史学 31,1956 年。)
(*)(参考：浅香正「ローマ元首政治における「権威」の意味」文化史学 12,1956 年。)
(*)(参考：尾高朝雄・峯村光郎・加藤新平編『法思想の歴史的展開(1-5)』法哲學講座,有斐閣,1956 年。)
(*)(参考：古林善祐「法哲学の起源と確立—自然法史序説(1-3)」福岡商大平和台論集 1(2),2(2,3)1956 年。)
(*)(参考：古林善祐「法哲学の起源と形成—続古代ギリシャ債権法論(4)」福岡大學法學論叢 1(1),1956 年。)
(*)(参考：高坂直之「法理論における Aristotelianism の中世化について」北海道学芸大学紀要・第 1 部 6(1),1956 年。)
(*)(参考：石本雅男『過失の理論と歴史：所謂ローマ法的過失責任主義の批判』弘文堂,1956 年。)
(*)(参考：田中周友他『財産取得法』有斐閣,1956 年。)

(*)(参考：ヴァン・ルーン/前田晃訳『世界文明史物語』角川文庫,角川書店,1957 年。)
(*)(参考：トム・デール,ヴァーノ・ギル・カーター/山路健訳『世界文明の盛衰と土壌』農林水産業生産性向上会議,1957 年。)
(*)(参考：鬼頭礼蔵「ギリシャは再びよみがえらず」ことばの教育 19(7),1957 年。)
(*)(参考：高橋亘「〈書評〉西洋文明の地図(メール・F.ヴァンデル)」ソフィア6(3),1957年。)
(*)(参考：石田英一郎「世界史と文化人類学」東洋文化研究所紀要 12,1957 年。)
(*)竹山道雄『ヨーロッパの旅(正続)』新潮社,1957-59年(→1964年,新潮文庫版)。
(*)安倍能成「竹山道雄君の「ヨーロッパの旅」を読んで」心10(10),1957年。
(*)森於菟「森田思軒の滞欧私信」明治大正文学研究22,1957年。
(*)高安国世「欧洲紀行(1-6)」短歌研究14(6-11),1957年。
(*)前田護郎『若き日の欧州記』學生社,1957年。
(*)(参考：近山金次「アウグスティヌスのミラノ滞在」史學29(3),1957年。)
(*)(参考:長友栄三郎「詩人ブルーデンティスとローマ」宮崎大学学芸学部研究時報1(3),1957年。)
(*)(参考：辻昭三「イェイツ・「ビザンチンへの旅」について(承前)」法学6(1),1957年。)
(*)(参考：片桐邦郎「アルベエル・カミュの思想と風土」(慶應義塾大学芸文学会)芸文研究6,1957年。)
(*)(参考：山本新『東洋と西洋』(「キリスト教とギリシア文化」)毎日新聞社,昭和32年。)
(*)(参考：矢沢利彦『東西文化交渉史』中村出版社,1957年。)
(*)呉茂一「砂上の弁」新潮54(3),1957年。
(*)(参考：清家清編『ぱるてのん』相模書房,1957年。)
(*)宮崎道生「「外国之事調書」について」史學雑誌66(4),1957年。
(*)秀平麗二郎「勃興期洋学の思想的役割について」立命館文學147,1957年。
(*)中村拓「本邦に伝わるプラウー世界図について」(地理学史研究会編『地理学史研究』

所収,柳原書店,1957年。)
(*)アンドレ・プリュネ「百年前に於ける日本人のフランスに関する知識」東方學15,1957年。
(*)(參考：リットン/白川渥訳『ポンペイ最後の日』大日本雄弁会講談社,世界名作全集103,1957年。)
(*)(參考：高橋一男「レルナ出土の女人像—欧洲前古典古代学界の展望(1)」古代学6(3),1957年。)
(*)(參考：三輪福松「ロビア家の彫刻」美術手帖122,1957年。)
(*)(參考：三輪福松「神殿の装飾彫刻」別冊みずゑ15,1957年。)
(*)(參考：三輪福松『イタリア美術夜話』美術出版社,1957年。)
(*)(參考：瀬戸慶久「ザーリス：古代とルネッサンス」美学8(2),1957年。)
(*)(參考：澤柳大五郎「アクロポリスの奉献像」別冊みずゑ15,1957年。)
(*)(參考：澤柳大五郎「ルネサンス美術史の要点二三」歴史教育5(8),1957年。)
(*)參考：澤柳大五郎「ルネサンスの美術」美術手帖123臨増,1957年。)
(*)參考：澤柳大五郎「17,8世紀の美術」美術手帖123臨増,1957年。)
(*)(參考：今泉篤男・岡鹿之助編『世界の名画』(レネッサンス,17-18世紀,19世紀,20世紀1,20世紀2)」美術出版社,1957年。→1958年,20世紀。)
(*)(參考：今泉篤男編集解説『美術の誕生』原色版美術ライブラリー1,美術史のあゆみ,みすず書房,1957年。)
(*)參考：ハインリヒ・ヴェルフリン/中村二柄訳『美術史論考：既刊と未刊』三和書房,1957年。)
(*)參考:美術出版社制作『世界美術史:文部省美術スライド』静止画像(投影)美術出版社,1957年。)
(*)參考：矢代幸雄述「新編・西洋美術史(座談会)」芸術新潮8(1),1957年。)
(*)(參考：定金右源二「東地中海域における青銅時代後期文化の動態」早稲田大学大学院文学研究科紀要3,1957年。)
(*)(參考：山本智教「西域美術の系統(上下)」密教文化38,39,1957年。)
(*)(參考：奥村家造「ギルバート・マーレイ『ヘレニズムと近代世界』」立命館文學141,1957年。)
(*)(參考：H.G.ウェルズ著/原随園訳『世界文化史物語：H.G.ウェルズによる』創元社,1957年。)
(*)(參考：A.J.トインビー/松本重治編訳『歴史の教訓』岩波書店,1957 年。)
(*)(參考：社会思想研究会編『トインビー・人と史観』社会思想研究会出版部,昭和32年。)
(*)(參考：Arnold J.Toybnee/上田勤・平野敬一編註『エンキアウンタービツウィーンシビライゼイションズ』金星堂,1957年(→1960年,改訂5版Modern Englishi series,金星堂。→1967年,改訂10版。)
(*)(參考：小泉信三「アーノルド・トインビー」心10(12),1957年。)
(*)(參考：向井啓雄「トインビー博士という碩学」あるびよん40,1957年。)
(*)(參考：和歌森太郎「トインビーに接して」あるびよん41,1957年。)
(*)(參考：岩間正光「A.トインビー「歴史の研究」に対する一つの批判」史学研究67,1957年。)
(*)(參考：服部英次郎「NIERMEYER,J.F.,Mediae Latinitaits Lexon Minus,A Mediaeval Latin-

French-English Dictionary,Leiden,J.Brill,1954-56」西洋古典學研究5,1957年。)
(*)(参考：金子武蔵『倫理学事典』弘文堂,1957年。)
(*)(参考：小竹文夫編『世界人名辞典』岩崎書店,学生の辞典新書4,1957年。)
(*)(参考：小原國芳編『世界人名辞典』誠文堂新光社,玉川児童百科大辞典/玉川大学出版部編30,6版,1957年。)
(*)(参考：新関良三『ギリシャ・ローマ演劇図録・総目次全索引』改装「版」ギリシャ・ローマ演劇史7,東京堂,1957年。)
(*)(参考：『新訂 世界文芸辞典』東京堂,1957年。)
(*)清水幾太郎「「岩波西洋人名辞典」の完成」図書86,1957年。
(*)池田哲郎「本邦における英書翻訳の嚆矢」東北英文学会,1957年。
(*)柳田泉「言語表現と明治の翻訳文学」言語生活67,1957年。
(*)(参考：泉井久之助「第8回国際言語学者会議(Oslo)」言語研究32,1957年。
(*)田中秀央『西洋古典語語原漫筆』大学書林語学文庫2503,大学書林,1957年(←1955年,Ambulatio etymologica,大学書林。)
(*)(参考：エドワード・サピーア/泉井久之助訳『言語：ことばの研究』紀伊國屋書店,1957年。)
(*)(参考:福本喜之助「人文主義と宗教改革時代のドイツに於ける外来語(1)ドイツ語誌よりみた外来語の研究(3)」関西大學文學論集7(1),1957年。)
(*)(参考：野上素一「トゥッチ博士について」イタリア学会誌5,1957年。)
(*)(参考：高津春繁『言語学概論』国語国文学大系有精堂出版,1957年。)
(*)(参考：高津春繁「言語の構造と言語変化」言語研究31,1957年。)
(*)(参考：高津春繁「言語の構造と言語の變化」言語研究31,1957年。)
(*)庄子浅水「書物の歴史」民芸49,1957年。
(*)(参考：山本成二「ローマ図書館史の研究」図書館学会年報4(1),1957年。)
(*)(参考：中村善也「ヘレン抄」架橋2,1957年。)
(*)(参考：村川堅太郎「「ミケーネ」文書研究の近況」史學雜誌66(3),1957年。)
(*)(参考：高塚正規「ディオニューシオス・とラークスの文法」論攷4,1957年。)
(*)(参考:前田護郎「新約聖書に於けるギリシャ文學の引用について」西洋古典學研究5,1957年。)
(*)(参考：河野与一「失礼な誤読」図書97,1957年。)
(*)呉茂一「砂上の弁」新潮54(3),1957年。
(*)(参考：原随園「パロス大理石碑文」立命館文學(150・151),1957年。)
(*)(参考：呉茂一・泉木吉『ラテン語小文典』岩波書店,1957年。)
(*)(参考:堀井令以知「「家」を意味するラテン語について」愛知大学文学論叢15,1957年。)
(*)福原麟太郎「古典の道しるべ：ゆっくり読むのがコツ：まず新しいものから」毎日新聞1/4,1957年。
(*)沢田芳三郎「本館蔵イソップ物語目録」ビブリア・天理図書館報9,1957年。
(*)宮中市子「日本におけるヴァレリイ文献目録」国文学18,1957年。
(*)(参考：W.Cowper英訳/佐藤省吾編“The Odyssey of Homer[vol.1,9,10,12,17,19,21,23]”英文名著選集,開文堂。→1963年,3版。)
(*)呉茂市「村松武雄,希臘神話の再検討,東京・培風館發行」西洋古典學研究5,1957年。

(*)(参考：呉茂一「パンドーラの手筐より」新潮54(6),1957年。)
(*)(参考：マゾッホ/佐藤春夫訳「毛皮を着たヴィーナス」群像12(7),1957年。)
(*)(参考：松平千秋「神話の運命」架橋2,1957年。)
(*)(参考：岩波書店編集部・岩波映画製作所編集『ギリシアの神々』岩波写真文庫282,岩波書店,1957年。)
(*)(参考：鈴木照雄「ギリシア思想におけるエロース」理想290,1957年。)
(*)(参考：長澤信寿「アガペーとエロース」理想290,1957年。)
(*)(参考：トーレイフ・ボーマン/植田重雄訳『ヘブライ人とギリシア人の思惟』新教出版社,昭和32年(→昭和43年,増補改訂版第2刷)。
(*)(参考：長友栄三郎「アンミアーヌスの皇帝ユーリアーヌス観」西洋史学36,1957年。)
(*)(参考:アドルフ・ハルナック/山谷省吾訳『アウグスティヌスの「告白」』新教出版社,1957年。)
(*)(参考：渋谷治『聖書の教とキリスト教』聲社,1957年。)
(*)(参考：藤原藤男『イエス傳』再版,聖書の研究社,1957年。)
(*)(参考：藤原藤男『ガラテア書の研究』聖書の研究社,1957年。)
(*)(参考：塚本虎二『放蕩息子とその父』聖書知識文庫4,聖書知識社,1957年。)
(*)(参考：塚本虎二『ヘブル書講義』聖書知識文庫5,聖書知識社,1957年。)
(*)(参考：ウォーレス原作/松本恵子訳『ベン・ハー物語』世界名作全集106,大日本雄弁会講談社,1957年。)
(*)(参考：本多顕彰『聖書：愚者の楽園』光文社,カッパブックス,1957年。)
(*)(参考：倉長真「文学としての聖書」(大修館)英語教育6(5),1957年。)
(*)(参考：関根文之助『聖書図説：目で見る聖書』創元社,1957年(→1966年,改訂版)。)
(*)(参考：清水護『英国民の伝統と聖書：英語と聖書』新書版,研究社,1957年。)
(*)(参考:清水護「欽定英訳聖書を読むために」(語学教育研究所)語学教育12月号,1957年。)
(*)(参考：齋藤二郎「ビザンチンの皇帝」北海道學藝大学紀要・第1部8(1),1957年。)
(*)(参考：鹿島仁「中世理念の崩壊と宗教改革」世界史研究16,1957年。)
(*)久保勉「ケーベル先生の人と文」心10(2),1957年。
(*)熊谷岱蔵「ケーベル先生」(同『筆のまま』所収,熊谷謙二,1957年。)
(*)本間久雄『自然主義及び其以後』(ケーベル)東京堂,1957年。
(*)立澤剛「岩元禎先生」(立澤剛随筆集刊行会編『立澤剛随筆集』所収,立澤剛随筆集刊行会,1957年。)
(*)氷上英廣「現代の教養」社会思想研究9(3),1957年。
(*)生田長江顕彰会『生田長江の人と業績』生田長江顕彰会,1957年。
(*)安倍能成『岩波茂雄伝』岩波書店,1957年(←同「岩波茂雄伝の序」図書95,1956年)。
(*)(参考：Carl Hilthy/杉浦孝明訳註『仕事をする技術』大学書林語学文庫768,大学書林,1957年。)
(*)(参考：稲富栄次郎「〈書評〉古代教育史(マルウH.I.)」ソフィア6(1),1957年。)
(*)(参考：稲富栄次郎「ギリシャのヒューマニズムとその発展：とくに教育の立場より」ソフィア6(2),1957年。)
(*)「学界新地図・1 哲学・思想 大別して3つの流れ」(田中美知太郎)讀賣新聞夕刊3/22,1957年。
(*)(参考：エテイエンヌ・ジルソン/稲垣良典訳『哲学史と哲学教育』ヴェリタス書院,聖ト

マス哲学研究叢書2,1957年。)
(*)稲垣良典編『日本における中世哲学関係文献目録』南山大学,1957年。
(*)(参考：山田晶「神の存在とエッセ」人文研究8(5),1957年。)
(*)(参考：町田徳之助「ヨーロッパ精神と近代」早稲田号学会誌8,1957年。)
(*)(参考：稲富栄次郎「ギリシャのヒューマニズムとその発展—とくに教育の立場より」ソフィア6(2),1957年。)
(*)(参考：田中美知太郎・藤澤令夫訳『パイドロス』プラトン著作集,岩波書店,1957年。)
(*)(参考：田中美知太郎『』岩波新書,岩波書店,1957年。)
(*)(参考：田中美知太郎『ソフィスト』筑摩書房,1957年。)
(*)(参考：田中美知太郎「ギリシャ人と歴史」哲学研究39(3),1957年。)
(*)(参考：石山脩平『プラトン』西洋教育史2,牧書店,1957年。)
(*)(参考：務台理作「ヒーロニムス・ミューラー訳のプラトン全集」學燈54(5),1957年。)
(*)(参考：井上忠「プラトンへの接近」東京大学教養学部人文科学科紀要12,1957年。)
(*)(参考：山下実「荘子の至人思想について—プラトンの哲人思想との対比において」鈴峰女子短大研究集報 人文・社会科学4,1957年。)
(*)(参考：川田熊太郎「二種のイデア論---比較哲学的研究」東京大学教養学部人文科学科紀要12,1957年。)
(*)(参考：藤井義夫「アリストテレスをいかに学ぶか：最近の「アリストテレス本」について」一橋論叢37(1),1957年。)
(*)(参考：鹿野治助「Stoaに於ける質料について」西洋古典學研究5,1957年。)
(*)(参考：岩崎勉「エピクゥロスに於ける「賢者」の理想」早稲田大学大学院文学研究科紀要3,1957年。)
(*)(参考：高橋亘「〈書評〉聖アウグスチヌス研究(メール・F.ヴァンデル)」ソフィア6(2),1957年。)
(*)(参考：ジョン・マコーミック著/国分敬治訳『聖トマスと学問の生活』聖トマス哲学研究叢書3,南山大学哲学科篇,ヴェリタス書院,1957年。)
(*)(参考：齋藤信治『イロニーの研究』北海道大学,文学博士[報告番号不明],1957年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男・児玉幸太編『中学歴史地図』(吉川弘文館,1957年。)
(*)(参考：ゲルハルト・リッター/島田雄次郎訳『教育力としての歴史』創文社,1957年。)
(*)(参考：島田雄次郎編『近世の誕生』世界史大系9,誠文堂新光社,1957年。)
(*)(参考：岩田拓郎「奴隷制度の解釈に対する一つの疑問」歴史学研究204,1957年。)
(*)(参考：弓削達「奴隷制度にかんする一つの考え方」一橋論叢38(2),1957年。)
(*)(参考：原随園「パロス大理石碑文」立命館文學(150・151),1957年。)
(*)(参考：原随園「歴史あれこれ」新潮54(6),1957年。)
(*)(参考：ジロドゥ/内村直也・鈴木力衛訳『ジロドゥ戯曲全集(全6巻)』(鈴木力衛・寺川博訳3巻中「トロイ戦争は起こらない」)白水社,1957-58年。)
(*)(参考：呉茂一「アナカルシスとソローン」(阿部知二・国分市太郎編『子どもに聞かせたいとつておきの話・第2集』所収,英宝社,1957年。)
(*)(参考：高山十一「ヘクテモロイ考」広島大学文学部紀要12,1957年。)
(*)(参考：藤縄謙三「ツキュディデスの思想に変遷について」西洋史学33,1957年。)
(*)(参考：栗野頼之祐「ヘロドトスHerodotosの傳記史料と肖像について」人文論究7(6),1957年。)

(*)(參考:栗野頼之祐「ヘロドトスHerodotosの傳記史料と肖像について」関西学院史学4,1957年。)
(*)(參考：石井良博「ヘロドトスに於ける歴史的思惟の特質に就いて」法学研究30(2),1957年。)
(*)(參考：松村治英「Hellenica Oxythynchia」大阪学芸大学紀要A 人文科学5,1957年。)
(*)(參考：中野好夫「あるスパルタ教育」文藝春秋35(2),1957年。)
(*)(參考：丹羽正光「スパルタ学校」作家111,1957年。)
(*)原随園「河野與一譯,プルターク英雄傳,I-XII(岩波文庫),1952-1956,東京・岩波書店」西洋古典學研究5,1957年。
(*)(參考：大江善男「サン・クロア「アテーナイ帝国の性格」」文化21(1),1957年。)
(*)(參考：長友栄三郎「帝政期ローマ上流層の庶民観についての覚書」世界史研究(14),1957年．)
(*)(參考：新田一郎「四世紀におけるローマ社会の一考察」世界史研究16,1957年。)
(*)(參考：伊東好次郎「シドナス河のクレオパトラ」英文学思潮29(1),1957年。)
(*)(參考：井上幸治『ナポレオン』岩波新書,岩波書店,1957年。)
(*)(參考：日本地理学史研究会編『地理学史研究--1,2巻』柳原書店,1957年(→1979年,覆刻,臨川書店。)
(*)(參考：上原專祿「歴史学の伝統と創造」一橋論叢37(4),1957年。)
(*)(參考:村川堅太郎・江上波夫・山本達郎・林健太郎『世界史』改訂版,6訂版,山川出版社,1957年。)
(*)(參考：Kentarô Murakawa (村川堅太郎)“Demiurgos”F.Steiner,1957年。)
(*)(參考：広島史学会『世界史研究』柳原書店,1957年。)
(*)(參考：広島史学会内世界史研究会編『世界史研究：指導書』柳原書店,1957年。)
*)(參考：亀井高孝・三上次男・児玉幸多『中学歴史地図』吉川弘文館,1957年。）
(*)野村正七「16世紀以後の地図の発達」地理2-7,1957年。
(*)鮎澤信太郎「近世日本における世界地図の利用と発達」地理2-7,1957年。
(*)高瀬重雄「鎖国時代以前の外国地誌—特に紅毛天地二田贅説について」越中史談10,1957年。
(*)(參考:矢田俊隆「西洋史・総説(1956年の歴史学界—回顧と展望」史學雜誌66(5),1957年。)
(*)(參考:二宮宏之「西洋史・近世(1956年の歴史学界—回顧と展望」史學雜誌66(5),1957年。)
(*)(參考:成瀬治「西洋史・近代(1956年の歴史学界—回顧と展望」史學雜誌66(5),1957年。)
(*)(參考:三好洋子「西洋史・中世(1956年の歴史学界—回顧と展望」史學雜誌66(5),1957年。)
(*)(參考：浅香正「西洋史・古代(1956年の歴史学界—回顧と展望」史學雜誌66(5),1957年。)
(*)山崎正一『近代日本思想通史』青木書店,1957年。
(*)島本晴雄「「維氏美学」と中江兆民—比較文学研究ノート」(大阪女子大学)女子大文学9,1957年。)
(*)岩崎勉「筑水金子馬治の人生観思想」フィロソフィア32,1957年。
(*)原田実「教育者としての金子[馬治]先生」フィロソフィア32,1957年。
(*)和辻哲郎「「思想」の初期の思ひ出」思想12月号,1957年。
(*)金子武蔵「〈特別寄稿〉あとがき(和辻哲郎先生文化勲章受章記念論文集)」倫理学年報6,1957年。
(*)「和辻哲郎先生年譜」倫理学年報6,1957年。

(*)牧野信之助「〈特別寄稿〉先生をめぐる回想(同上)」倫理学年報6,1957年。
(*)谷川徹三「〈特別寄稿〉イデエを見る眼(同上)」倫理学年報6,1957年。
(*)高坂正顕「〈特別寄稿〉京都時代の思い出一二(同上)」倫理学年報6,1957年。
(*)手塚富雄「〈特別寄稿〉同車の縁(同上)」倫理学年報6,1957年。
(*)高木貞ニ「〈特別寄稿〉和辻[哲郎]博士の周辺にいて(同上)」倫理学年報6,1957年。
(*)天野貞祐「和辻[哲郎]君と私(同上)」倫理学年報6,1957年。
(*)和辻哲郎「自叙伝の試み」中央公論72(1,2,3,5,6,8,9,10,11,14),1957年//73(1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,13),1958年//74(1,6,8,9,11,12,14,16,17),1959年//75(1),1960年(→1961年,『自叙伝の試み』中央公論社。(→1992年,中公文庫)。
(*)河野與一「失礼な誤読」図書97,1957年。)
(*)文学欄「読売新聞社(社告)--第8回読売文学賞 5氏の作品に授賞」(河野与一)読売新聞朝刊1/24,1957年。
(*)文学欄「河野[与一]氏, 読売文学賞を辞退」読売新聞朝刊1/25,1957年。
(*)文学欄「第8回読売文学賞に輝45氏の作品 選考経過▽最終候補作品」(河野与一)読売新聞夕刊1/25,1957年。
(*)文学欄「受賞者の言葉/読売文学賞」(河野与一)読売新聞夕刊1/25,1957年。
(*)文学欄・本多顕彰「愚者の楽園」(河野与一)読売新聞夕刊2/5,1957年。
(*)太宰治『富嶽百景・走れメロス：他8篇』岩波文庫,岩波書店,1957年。)
(*)沼田次郎「輸入洋書の検閲と蕃書調所—幕府の洋学統制の一面」(伊東多三郎編『国民生活史研究1』所収,吉川弘文館,1957年。)
(*)D・キーン/藤田豊・大沼雅彦訳『日本人の西洋発見』錦正社,昭和32年(→昭和43年、改訳→昭和57年,芳賀徹新訳,中公文庫)。
(*)松平千秋「イソップ伝について」ビブリア・天理図書館報9,1957年。
(*)柳田泉「「栗本鋤雲」について」世界142,1957年。
(*)吉野源三郎「栗本鋤雲—埋もれた先覚者(1)(座談会)」世界142,1957年。
(*)荒木良雄『中世文学の形成と発展』ミネルヴァ書房,1957年。
(*)海老澤有道「切支丹邪宗門観後退過程の一考察」キリシタン文化研究会々報4,1957年。
(*)海老澤有道「国学における天主教学摂取」聖心女子大学論叢9,1957年。
(*)海老澤有道「聖心女子大学図書館新収善本解題」聖心女子大学論叢10,1957年。
(*)海老澤有道「寛永鎖国令」歴史教育5(11),1957年。
(*)佐藤昌介「洋学の権力隷属化に関する一考察(上下)」日本歴史105,106,1957年。
(*)大月明「洋学史に関する一考察—渡辺崋山を中心として」史林40(6),1957年。
(*)秀平麗二郎「勃興期洋学の思想的役割について」立命館文学147,1957年。
(*)家永三郎「日本近代思想における外来要素と自生要素」思想391,1957年。
(*)沼田次郎「輸入洋書の検閲と蕃書調所—幕府の洋学統制の一面」(伊東多三郎編『国民生活史研究1』所収,吉川弘文館,1957年。)
(*)池田哲郎「江戸時代のオランダ系「歴史」」福島大学学芸学部論集8(1),1957年。
(*)(参考：堀米庸三「世紀紀年法雑観」中央大学文学部紀要9,1957年。)
(*)バルバロ訳『新約聖書』ドン・ボスコ社,1957年。
(*)天理図書館『きりしたん版集成』(「基督に倣いて」)1957年。
(*)柊源一『吉利支丹文学集・上』(「基督に倣いて」)日本古典全書,1957年。

(*)片子澤千代『日本新教(プロテスタント)百年の歩み』日本YMCA同盟(出版部),キリスト教教養新書,1957年(→1969年,訂正版)。
(*)片子澤千代『日本新教史の研究』ナツメ社,1957年。
(*)三島由紀夫『現代小説は古典たり得るか』(「呉茂一の「ぎりしあの詩人たち」評」「ギリシア古典劇の風味—俳優座「女の平和」評」)新潮社,1957年。)
(*)(參考：越智文雄「「イーリアス」飜譯の覺書」西洋古典學研究5,1957年。)
(*)(參考：山内登美雄「悲劇的リズムの演劇論」文学25(1),1957年。)
(*)(參考：戸張智雄「ギリシャ悲劇の再興」新劇4(15),1957年。)
(*)(參考：中埜肇「苦悩の弁証法：悲劇のパイデイア」大阪学芸大学A 人文科学6,1957年。)
(*)(參考：新関良三『ギリシャ演劇史概説』改装版,ギリシャ・ローマ演劇史1,東京堂,1957年。)
(*)(參考：新関良三『アイスキュロス・ソポクレス』改装版,ギリシャ・ローマ演劇史2,東京堂,1957年。)
(*)(參考：新関良三『アリストパネス・メナンドロス』改装版,ギリシャ・ローマ演劇史4東京堂,1957年。)
(*)(參考：新関良三『ローマ演劇史概説』改装版,ギリシャ・ローマ演劇史5,東京堂,1957年。)
(*)(參考：新関良三『プラウトゥス・テレレンティウス・セネカ』改装版,ギリシャ・ローマ演劇史6,東京堂,1957年。)
(*)(參考：新関良三『ギリシャ・ローマ演劇図録：総目次索引』改装版,ギリシャ・ローマ演劇史57東京堂,1957年。)
(*)(參考：呉茂一・野上素一訳選『Spicilegivm latinvm=ラテン名家選』岩波ギリシャ・ラテン原典叢書,岩波書店,1957年。)
(*)重久篤太郎「「同志社文学」と西洋文学」同志社文学50,1957年。
(*)三島由紀夫「日本文壇に現状と西洋文学との関係」新潮54(9),1957年。
(*)岩崎良三「現代英米作家の古典への關心」西洋古典學研究5,1957年。)
(*)原隨園「河野與一譯、プルターク英雄傳I-X,岩波文庫、岩波書店」西洋古典學研究5,1957年。)
(*)(參考：滝沢敏雄「泉を護る者—中世騎士物語に於ける異教的要素についての覚書」お茶の水女子大学人文科学紀要10(松浦嘉一郎博士記念論文集)10,1957年。)
(*)(參考：市古貞次他編『解説 世界文学史年表』中央公論社,1957年。)
(*)(參考：本多顕彰『西洋文学入門』章文社,1957年(→1960年,現代教養文庫版)。)
(*)(參考：島田謹二『近代比較文学』光文社,1957年。)
(*)(參考：吉田健一『近代文学論』垂水書房,1957年。)
(*)倉長真「Translated Literature in the Early Years of Meiji」(青山学院大学英文学会)英文学思潮29(1),1957年。)
(*)(參考：細入藤太郎「英米における批評の伝統」(立教大学文学部英米文学研究室)英米文学18,1957年。)
(*)(參考：島田謹二「比較文学書誌」(『神田喜一郎博士記念論文集』所収,平凡社,1957年。)
(*)(參考：太田三郎「比較文学の動向」英語青年CIII(5),1957年。)
(*)(參考：矢本貞幹「批評史の叙述」英語青年CIII(9),1957年。)
(*)(參考：西村貞二「ルネサンス思潮における自然主義と歴史主義」西洋史研究3,1957年。)

(*)(参考：山本新「ルネサンス」(神奈川大学)人文研究7,昭和31/8,昭和32年。)
(*)(参考：永井三明「ルネッサンス研究の道標」西洋史学233,1957年。)
(*)(参考：荒川龍彦「文芸復興期における愛の理想」理想290,1957年。)
(*)(参考：会田雄次「ルネサンス人の生活」歴史教育5(8),1957年。)
(*)(参考：柴山英一「ルネサンス的人間像」歴史教育5(8),1957年。)
(*)参考：清水純一「パドヴァ学派論攷：アヴェロイズムの発展とポンポナツィ」イタリア学会誌6,1957年。)
(*)参考：清水純一「ルネッサンス・ヒューマニズム研究断章」(広島哲学会)哲学1,1957年。)
(*)参考：清水純一「イタリア哲学界とルネサンス研究」思想397,1957年。)
(*)参考：清水純一「ルネッサンスの哲学研究」日伊文化研究3,1957年。)
(*)参考：小川正己「ダンテとそれ以前」神戸外国語大学論叢'(1-3),昭和31年。)
(*)(参考：服部英次郎「DanteにおけるSiger-Symbolの問題」(奈良女子大学)研究年報1,1957年。)
(*)(参考：西村貞二「ルネサンス思潮における自然主義と歴史主義」西洋史研究3,1957年。)
(*)参考：相沢源七「エラスムスの自由意志論—宗教改革とヒューマニズム：再説」西洋史研究3,1957年。)
(*)(参考：カウッキー/渡辺義晴訳『トーマス・モーアとそのユートピア』東京教育書林,1957年(→1969年,改題『トーマス・モーアとユートピア』法政大学出版局,りぶらりあ選書)。
(*)(参考：今村妙「トーマス・モアとその「ユートピア」」世界史研究12,1957年。)
(*)(参考：斎藤美洲「現代とトマス・モアの伝記」あるびよん42,1957年。)
(*)(参考：増田暁子「ボッカチオの世界」イタリア学会誌2(3),1957年。)
(*)参考：ヴィットレ・ブランカ/池田廉訳「商人の叙事詩—中世のボッカチオ」イタリア学会誌4,1957年。)
(*)(参考：大畑末吉「ブラフォード著『十八世紀ドイツの文学復興の社会的背景』」一橋論叢37(2),1957年。)
(*)(参考：良知力「ウールリッヒ・フォン・フッテンの対話集について」経済志林25(9),1957年。)
(*)(参考：吉田次郎「東独におけるヘルダー研究」(京都大学教養部)独逸文学研究報告6,1957年。)
(*)(参考：H.ヘッセ/小栗浩・西義之訳『思い出草；ヨーロッパ人：世界文学の図書館・他』ヘルマン・ヘッセ全集15,三笠書房,1957年(→1961年,3版)。)
(*)(参考：ゲーテ/菊池栄一編訳『詩と真実』第三書房,1957年。)
(*)(参考：星野宏次「「イフィゲーニェ」について」(ゲーテ)日本大学世田谷教養部紀要6,1957年。)
(*)(参考：松本仁助「ゲーテの「イフィゲーニエ」に於ける劇構成とオレストの治癒」人文學31,1957年。)
(*)(参考：水野忠敏「Goethe ein Christ」ドイツ文学18,1957年。)
(*)菊池栄一「Goethe in Japan」(in GOETHE,N.F.des Jahrbuchs der Goethes-Gesellschaft,Bd,19,1957.)
(*)(参考：玉林憲義「ゲーテとノヴァリス」人文論究8(1),1957年。)
(*)(参考：西義之「トオマス・マンとゲーテ」立教大学研究報告 一般教育部2,1957年。)

(*)(参考：水谷洋「ゲーテにおける一つの明るさ」(明治大学)独文学研究3,1957年。)
(*)(参考：橘忠衛「ゲーテの〈世界文学〉」(明治大学)独文学研究3,1957年。)
(*)(参考：中村英雄「ゲーテの発想法」(早稲田大学文学部)綜合世界文芸12,1957年。)
(*)(参考：島田俊匡「ゲーテにおける宗教的なるものの変転」早稲田法学会誌8,1957年。)
(*)(参考：島村教次「シラー」(早稲田大学文学部)綜合世界文芸12,1957年。)
(*)(参考：野島正城「シラーの戯曲についての覚書」(日本独文学会)ドイツ文學,1957年。)
(*)(参考：徳沢得二「ヘルダーとディドロ」(世界文学研究会)世界文学13,1957年。)
(*)(参考：小口優「ヘルダーの歴史観--「歴史哲学試論」を中心として」」早稲田大学大学院文学研究科紀要3,1957年。)
(*)(参考：男沢淳「書評 ベーグナウ著「ヘルダーの美学」」美學7(4),1957年。)
(*)(参考：田中健二「初期ヘルダー—特に文学観を中心にして」大阪大学文学部紀要5,1957年。)
(*)(参考：前田利道「ヘルダーの“Humanitatsbreife”」小樽商大人文研究14,1957年。)
(*)(参考：吉田次郎「東獨におけるヘルダー研究」独逸文學研究6,1957年。)
(*)(参考：レッシング/中川良夫訳『寓話と寓話論』八雲書店,1957年。)
(*)(参考：山崎八郎「レッシングとドイツ国民文学—レッシング研究(1)」(早稲田大学文学部)綜合世界文芸12,1957年。)
(*)(参考：中埜肇「苦悩の弁証法：悲劇のパイデイア」大阪学芸大学A 人文科学6,1957年。)
(*)(参考：南大路振一「悲劇に関するレッシング・メンデルスゾーン・ニコライの往復書簡集(1756-57)」東北ドイツ文学研究1,1957年。)
(*)(参考：藤田健治「ワグネルとニィチェ—ディオニュソス的なものの成立及び発展過程について」お茶の水女子大学人文科学紀要9,1957年。)
(*)(参考：三光長治「ニイチェ私論」愛知大学文学論叢（特）,1957年。)
(*)(参考：岩山三郎「ニーチェの芸術観」神戸大学文学会研究15,1957年。)
(*)(参考：小島逸郎「ヘルダーリンの狂疾期の詩について」ドイツ文学19,1957年。)
(*)(参考：志波一富「ヘルダーリン」(早稲田大学文学部)綜合世界文芸12,1957年。)
(*)(参考：今井寛「ヘルダーリンと古代ギリシャ」北海道大学外国語・外国文学研究4,1957年。)
(*)天野敬太郎「日本におけるリルケ文献(1,2)」関西大学報300,302,1957年。
(*)(参考：高橋源次『英文学の精神』学芸書院,1957年。)
(*)(参考：上田保『現代ヨーロッパ文学の系譜』宝文館,1957年。)
(*)木村毅「英語風物五十年」英語研究6月号,1957年。
(*)(参考：大山俊一『シェイクスピア人間観研究』篠崎書林,1957年。)
(*)(参考：坪内逍遙訳『シェークスピヤ全集』新樹社,1957年。)
(*)(参考：桑田孝雄「Anthony and Cleopatraの英語」広島女学院大学論集7,1957年。)
(*)(参考：加藤竜太郎「シェイクスピアとその批評家たち(1)」名古屋大学文学部研究論集16,1957年。)
(*)(参考：大山俊一「最近のシェイクスピア研究」英語青年CIII(4),1957年。)
(*)西崎一郎「Shakespeare Bibliography in Japan」Shakespeare Quarterly(New Tork) 4月号,1957年。
(*)(参考：福原麟太郎「ミルトン：近代への扉(上中下)」英語青年103-10,1957年。
(*)(参考：後藤和夫「ミルトンとセイタン」(富山大学文理学部)文学紀要7,1957年。)

(*)鈴木幸夫「イギリス及びアメリカ文学の翻訳及び移植」(早稲田大学編『日本の近代文芸と早稲田大学』所収,早稲田大学,1957年。)
(*)(参考：伊東好次郎「シドナス河のクレオパトラ」(青山学院大学)英文学思潮17(1),1957年。)
(*)(参考：森清「シェリ」(京都大学教養部)英文学評論4,1957年。)
(*)(参考：栗山稔「ジョン・キーツのオード序説」(大阪市立大学)人文研究8(6),1957年。)
(*)(参考：花田秀雄「A Study of John Keats' Endymion」福岡学芸大学紀要7,1957年。)
(*)(参考 : 本間賢史郎「Matthew Arnoldの批評原理とその実践」(同志社大学人文科学研究所)紀要1,1957年。)
(*)(参考 : 高階陽一「Matthew ArnoldとA.E.Housman」(京都市立音楽短期大学)研究紀要4,1957年。)
(*)(参考：齋藤勇「享楽主義者メアリアス」(東京女子大学)学報10(1),1957年。)
(*)(参考：田部重治「ペーターとプラトン哲学」(東洋大学)白山英文学1,1957年。)
(*)(参考：寺崎唯良「W.Paterにおける快楽主義」(秋田短期大学)論叢1,1957年。)
(*)(参考：中島斉「W.ペイターの夢の分析」関東短期大学紀要4,1957年。)
(*)(参考：齋藤光『エマソン』研究社,1957年。)
(*)(参考：阿部保「ティ・エス・エリオットと伝統の理念」美学8(2),1957年。)
(*)田中準『上田敏と海潮音』広文堂,1957年。
(*)早稲田大学七十五周年記念出版委員会編『日本の近代文芸と早稲田大学』早稲田大学,1957年。)
(*)(参考 : ジョフリィ・ブリアートン/河盛好蔵訳『フランス文学の歩み』紀伊国屋書店,1957年。)
(*)(参考 : 渡辺一夫『FranÇois Rabelais研究序説— “Pantagruel” 異本文考(ラブレー研究序説)』東京大学出版会,1957年。)
(*)(参考：関根秀雄訳『モンテーニュ全集(2-4)』(随想録,旅日記)白水社,1957年。)
(*)(参考：モンテーニュ著/関根秀雄訳『随想録』白水社,1957年。）
(*)(参考：押村襄「モンテェーニュの教育観とその懐疑思想」教育学研究24(1),1957年。)
(*)(参考：岩瀬孝「コルネーユ劇の理想主義」綜合世界文芸12,1957年。)
(*)(参考 : J.ロゲンドルフ「ラシーヌと英国古典主義(ホィートリー,C.E.)」ソフィア6(2),1957年。)
(*)(参考：百岡胤正「ラシーヌのアンドロマーク」岩手大学学芸学部研究年報11,1957年。)
(*)(参考：小場瀬卓三『モリエールのドラマツルギー』白水社,1957年。)
(*)(参考：桑原武夫『フランス的ということ』岩波書店,1957年。)
(*)(参考：渡邊一夫『ラブレー研究序説—Pantagruel異本考』東京大学出版会,1957年。)
(*)(参考：小方厚彦「Chroniques Gargantuinesの言語」フランス語研究16,1957年。)
(*)(参考：片岡美智『スタンダーアルの人間像』白水社,1957年。)
(*)(参考：向井敏「テーヌと古典主義文学」?,1957年。
(*)(参考：ロジェ・キーヨ/室淳介訳『アルベール・カミュ：海と牢獄』白水社,1957年。)
(*)(参考：アルベール・ベガン他/河合亨編訳『カミュ研究』三笠書房,1957年。)
(*)(参考：ロベエル・ド・リュベ/窪田啓作訳『アルベエル・カミュ』新潮文庫,新潮社,1957年。)
(*)(参考：沢木譲次「Paul Valéryと人間」電気通信大学学報9,1957年。)

(*)宮中市子「日本におけるヴァレリイ文献目録」(関西大学国文学会)国文学18,1957年。
(*)Japan Pen Club“Footprints of Foreigne Literature in Japan”—Introduction,Graphs A. Graphs B,--Hardy,Joyce,Lawrence,Shakespeare,Sartre,Valiry,Zola,HineeRilke,Tagore,Poe,Whitman”日本ペンクラブ,1957年。
(*)(参考：上田保『現代ヨーロッパ文学の系譜』宝文館,1957年。
(*)(参考：山根銀二『音楽の歴史』岩波新書,昭和32年。)
(*)(参考:森田慶一『ウィトルウイウス研究:森田慶一評論集・第4』彰国社,建築文庫36,1957年。)
(*)(参考：藪内清・荒木俊馬・神田茂・渡辺敏夫・島村福太郎・前山仁郎『天文学の歴史』恒星社厚生閣,1957年。)
(*)(参考：野尻抱影「ギリシヤの星座」(同『星座』所収,恒星社,1957年。)
(*)(参考：山本一清『星座とその伝説』3版,恒星社厚生閣,1957年。)
(*)(参考：加茂儀一『食物の歴史』角川書店,1957年。)
(*)(参考：リヒァルト・レヴィンゾーン著/加茂儀一・小宮山量平訳『動物社会の歴史：文明と文化に及ぼすその影響』理論社,1957年。)
(*)(参考：立川昭二「OPEIXAΛKOΣ」西洋古典學研究5,1957年。)
(*)(参考:中川米造「ヒポクラテス全集における眩暈の記載について」耳鼻咽喉科臨床50(6),1957年。)
(*)(参考:丹野郁「ギリシアのコスチュームについて」埼玉大学紀要,教育学部編6,1957年。)
(*)(参考：川本信正『オリンピック物語』学級図書館61,青葉書房,1957年。)
(*)(参考：種山恭子「E.シュレジンガー著/伏見康治・三田博雄・友松芳郎訳,科学とニューマニズム,みすず書房,1956年」西洋古典學研究5,1956年。)
(*)(参考：三田博雄「原子論とニュートン—ネオ・エピキュリアンとしてのニュートン」科学基礎論研究3(2),1957年。)
(*)(参考：三田博雄「ギリシア科学における「実験」と類比」思想393,1957年。)
(*)(参考：D.J.ストロイク著/岡邦雄・水津彦雄訳『数学の歴史』みすず書房,1957年。)
(*)(参考：岡邦雄『科学と人間性』三一新書,三一書房,1957年。)
----「古典ギリシア」「エーゲ海の文明」「抽象科学の誕生」「ギリシア科学の第二段階 哲学の転向」「アレキサンドリア—ギリシア科学の第三段階」「古代科学の長い中絶」「ルネサンス」「ヒューマニズム(人文主義)」「科学のルネサンス」「コペルニクス」「新しい科学—ガリレオ・ガリレイ」「ルネサンス以後」
(*)高木吉武「工芸いそっぷ物語(圖工教育)」文化と教育8(2),1957年。
(*)(参考：島田雄次郎編『近世の生誕』世界史大系9,誠光堂新光社,1957年。)
----増田重光「イタリアのルネサンス」
西村貞二「西ヨーロッパのルネサンス」
原種行「科学と技術」
(*)(参考：玉蟲文一編『学生と科学』現代学生講座6,河出書房,1957年。)
---寺田寅彦「ルクレチウスと科学」
末網恕一「精選史としての数学史」
玉蟲文一「科学における人間的要素」
務臺理作「科学の形成と人間の形成」

(*)藪内清「江戸時代における外来科学の輸入」科学史研究43,1957年。
(*)矢島祐利「舶載分離蘭書—19世紀のオランダ化学書と日本の化学」蘭学資料研究会研究報告19,1957年。
(*)能田忠亮『暦—技術の上から時代の歴史を見る』至文堂,1957年。
(*)(參考：トマス・モア/平井正穂訳『ユートピア』岩波文庫,岩波書店,1957年。)
(*)(參考：猪城博之「家族論のためのノート(1,2)」西南学院大学文学論集4(1),1957年。)
(*)(參考：太田秀通「古代土地所有についての議論をめぐって」歴史学研究2014,1957年。)
(*)(參考：内田芳明「マックス・ウエーバーに於ける「オイコス」並びに「クリエンテーラ」と古代経済史研究への意義：弓削氏の批判に答う」一橋論叢37(1),1957年。
(*)川口義明「労働イソップ物語」労働研究112,1957年。
(*)斎藤勇「上田辰之助博士を憶ふ」一橋論叢37(5),1957年。
(*)福原麟太郎「細心なひと上田[辰之助]博士」英語青年103-3,1957年。
(*)樋舎典男・阿部志郎「上田辰之助名誉教授著作目録」一橋論叢37(5),1957年。
(*)樋舎典男「上田辰之助名誉教授年譜」一橋論叢37(5),1957年。
(*)大塚金之助「故上田辰之助名誉教授」一橋論叢37(5),1957年。
(*)(參考：J.レルスキ他「アリストテレス及びヘレニズム時代の政治理論(1)」日本法学23(2),1957年．)
(*)(參考：浅香正「キケロの「国家論」」文化学年報,1957年。)
(*)(參考：ウォルター・リップマン/矢部貞治訳『公共の哲学』時事通信社,1957年。)
(*)住谷申一「馬場辰猪の年譜について」人文學30,1957年。
(*)(參考：古林善祐「古代ギリシャ親族法の素描」福岡大學法學論叢2(1),1957年。)
(*)(參考：佐伯好郎『ローマ帝國キリスト教保護規定の研究：ローマ法とキリスト教』春秋社,1957年。)
(*)(參考：田中周友『法学概論』重版,有信堂,1957年。)

(*)(參考：G.ルカーチ/平井俊彦訳『若きマルクス』(改訂版)ミネルヴァ書房,昭和33年。)
(*)(參考：山中隆次「マルクス「学位論文」(1841年)について—マルクス,ヘーゲル理解のために」経済研究9(2),1958年。)
(*)(參考：角田文衛「マルクスとその歴史観」古代学7(2),1958年。)
(*)(參考：出隆・野田弥三郎『新・哲学教程：マルクス主義の理論的基礎について』青木全書,青木書店,1958年。)
(*)荘司憲季『日本民族の原郷』太平洋文庫刊行会,刀江書院(発売),昭和33年。
(*)(參考：H.キューン/角田文衛訳『人類と文化の誕生』人類文明史1,みすず書房,1958年。)
(*)(參考：秀村欣二編『文明の発生』世界史大系2,誠文堂新光社,1958年。)
(*)(參考：河合正一『ヨーロッパ』建築文庫39,各国の建築教育,彰国社,1958年。)
(*)(參考：ジャン・ルキェ/岩崎力訳『フランス文明史序説』改訂版,造型社,1958年。)
(*)(參考：村川堅太郎『地中海からの手紙』毎日新聞社,1958年。)
(*)山田晶「ヨーロッパ紀行」人文研究9(9),1958年。
(*)(參考：モンテーニュ著/関根秀雄訳『旅日記・書簡』白水社, 1958年。)
(*)(參考：永井博「ゲーテとペルシャ—その楽園思想について」広島大学文学部紀要14,1958年。)

(*)(参考：菊池栄一「ゲーテの「イタリア紀行」にあらわれる「大世界」と「小世界」」東京大学教養学部・外国文学研究紀要5(4),1958年。)
(*)(参考:矢儀万喜多「ゲーテの「イタリアの旅」の構成について」山口大学文学会誌9(2),1958年。)
(*)(参考：会津伸「ヘルダー旅日記研究の序」東北大学文学部研究年報8,1958年。)
(*)(参考：瀬下良夫「イタリアのシェリー—その最初の時期」(『慶應義塾創立百年記念論文集』(法学部)所収,1958年。)
(*)高橋邦太郎「欧米周遊旅行(1)」日本古書通信28(1),1958年。
(*)小町谷操三「欧州ところどころ」法学志林55(4),1958年。
(*)(参考：呉茂一「昔ばなし 日本とギリシャ」特集人物往来3(2),1958年。)
(*)守屋多々志「イタリアところどころ」日伊文化研究4,1958年。
(*)高安国世「イタリー紀行(1-4)」短歌研究15(1-4),1958年。
(*)津村秀夫「ヴェニス日記」キネマ旬報203,1958年。
(*)(参考：松島道也「ギリシャ神殿メトープ浮彫の展開」美学8(4),1958年。)
(*)(参考：友部直『古代クレタ文様研究』研究叢書 2,共立女子大学文學芸術研究所編,共立女子大学文學芸術研究所,1958年。)
(*)(参考：三輪福松「十五世紀中葉のフィレンツェにおける「芸術制作依嘱者」についての分析」イタリア学会誌7,1958年。)
(*)(参考：三輪福松「フィレンツェの市政府・職業組合とルネサンス芸術—ルネサンス芸術の形成」教養論叢4,1958年。)
(*)(参考：三輪福松『図説西洋絵画年表』誠文堂新光社,1958年。)
(*)(参考：ジェルマン・パザン/秋山光和・柳宗玄訳『世界美術史』平凡社,1958年。)
(*)(参考：ブレイキ/柳宗玄編『聖書画像』みすず書房,1958年。)
(*)(参考：岩波書店編集部,岩波映画製作所編,江上波夫写真『地中海の史蹟めぐり』岩波写真文庫,岩波書店,1958年。)
(*)(参考：L.ホグベン著/壽岳文章他訳『コミュニケーションの歴史』岩波現代叢書,岩波書店,1958年。)
(*)(参考：ねずまさし「チャイルド博士の死」図書100,1958年。)
(*)(参考:野上素一「パキスタンのイタリア考古学者一行の発掘」イタリア学会誌7,1958年。)
(*)岩生成一「日欧文化交流の夜明」国際文化45,46,1958年。
(*)(参考：八田良太郎「オスワルト・シュペングラー(1,2)」(同志社大学人文学会)人文學34,1958年/46,1960年。)
(*)(参考：奥村家造「マーレイ・ギルバート：ヘレニズムと近代世界」立命館文學141,1958年。)
(*)(参考：深澤正策「トインビー「歴史の研究」について」経済往来10(4),1958年。)
(*)(参考：深澤正策「トインビーの「挑戦」と「応戦」」経済往来10(5),1958年。)
(*)(参考:深澤正策「トインビーの「引退」と「復帰」--歴史は何を教えるか」経済往来10(6),1958年。)
(*)(参考:深澤正策「文明社会の生態--トインビー歴史の研究より」経済往来10(8),1958年。)
(*)(参考：平田家就「T.S.Eliot and Arnold Toynbee：A Comparative Study」和歌山大学学芸学部紀要6,1958年。)
(*)(参考：ソローキン,ガイル,ドーソン/山口光朔訳『トインビー批判』社会思想研究会,昭和

34年。)
(*)(参考：秀村欣二編『文明の発生』世界史大系2,誠文堂新光社,1958年。)
----秀村欣二「文明の圧制と展開：概説」
杉勇「エジプト」
板倉勝正「メソポタミア」
吉岡力「ヒッタイト」
板倉勝正「フェニキィア」
関根正雄「イスラエル」
杉勇「ペルシア」
(*)(参考：山本新「文明論を阻むもの」理想6月号,昭和33年。)
(*)(参考：デ・ベラ,J.M.「現代スペインにおけるホセ・オルテガ・イ・ガセットの評価」ソフィア7(2),1958年。)
(*)(参考：山本智教『アジャンタの彫刻』山本智教,1958年。)
(*)(参考：山本智教「ガンダーラ美術派の年代略説」印度学仏教学研究6(1),1958年。)
(*)(参考：山本智教「ガンダーラ美実派の年代—いろいろの意見と私の考え(1,2)」密教文化41・42,1958年/43・44,1959年。)
(*)(参考：榎一雄「イタリア中東亜研究所編「ガンダーラ及び中央アジアの美術」」東洋学報41(2),1958年。)
(*)(参考：柳宗玄「ペルシャ美術の西方への影響」三彩101,1958年。)
(*)(参考：石田幹之助「唐代支那に流伝せる象の報恩譚—ギリシア・ローマ説話の東伝に関する旧稿の補遺」季刊民族學研究22(1・2),1958年。)
(*)(参考:石田幹之助「東西文化交渉史に関する国際シンポジウム」学術月報10(10),1958年。)
(*)澤柳大五郎「光背唐草三種---飛鳥彫刻史の一側面」國華800,1958年。
(*)桜沢如一『世界無銭武者旅行：第一期五ヶ年の報告 東洋思想と西洋思想の対決』日本CI,1958年。
(*)(参考：堀内清治「東地中海沿岸の遺跡」三彩101,1958年。)
(*)(参考:京都大学文学部西洋史研究室,井上智勇,原随園『西洋史辞典』東京創元社,1958年。)
(*)(参考：今泉篤男・山田智三郎編『西洋美術辞典』訂正版,東京堂出版,1958年。)
(*)(参考:青柳安誠・後藤光治・平沢興他監修『医学大字典(羅英独仏・和対照)』金原出版,1958年。)
(*)(参考：本多顕彰他『西洋故事物語』河出書房新社,1958年。)
(*)(参考：関根文之助編『キリスト教用語辞典』新元社,1958年(→1969年,改訂版)。)
(*)(参考：黒崎幸吉『新約聖書ギリシャ語文典』4版,永遠の生命社,1958年。)
(*)勝俣銓吉郎「ハルマ辞書について」蘭学資料研究会研究報告32,1958年。
(*)(参考：高塚正規「ディオニューシオス・トラークスの文法について」論攷5,1958年。)
(*)(参考：古川晴風『ギリシャ語四週間』大学書林,1958年。)
(*)(参考：蛭沼寿雄「ホワッツモー教授の言語理論」言語研究34,1958年。)
(*)(参考：蛭沼寿雄「小型オスロー・パピルス」人文論究9(2),1958年。)
(*)(参考：田中秀央「語原若干」心11(7),1958年。)
(*)(参考:吉田秀太郎「イスパニア語に於ける俗語ラテン語の語彙的考察」イスパニカ3,1958年。)
(*)山形大学附属図書館編『高橋[里美]文庫図書目録：山形大学』山形大学附属図書館,1958

年。)
(*)(參考：前田陽一「米国諸大学での外国語教育」英語教育4月号,1958年。)
(*)天野敬太郎「比較文学関係雑誌総目次一覧」(日本比較文学会)比較文学1,1958年。
(*)天野敬太郎「外国文学作家に関する邦文書誌の書誌(1-6)」日本比較文学会報13-18, 1958年。)
(*)(參考：窪田啓作・矢内原伊作訳『結婚・シジフォスの神話』カミュ著作集5,新潮社,1958年。)
(*)(參考：大石明夫「ジョルジュ・ソレルにおける「神話」の理論について(1)」名古屋大学法政論集11,1958年。)
(*)(參考：大石明夫「ジョルジュ・ソレルにおける「神話」の理論について(2)」中京商学論叢9(2・3),1958年。)
(*)(參考：河野与一「『イリヤス』の詰らなさについて」文庫9月号,昭和33年。)
(*)(參考：吉村善夫「エロースとアガペー」福音と世界13(4),1958年。)
(*)(參考：呉茂一「ポセイドーンとイオーニア人(1)」西洋古典學研究6,1958年。)
(*)(參考：小林市太郎「ポセイドーンとスサノウノミコト：比較神話学の一方法の試み」西洋古典學研究6,1958年。)
(*)(參考：小野恭平編・安東延由え『ギリシャ神話』(保育社の幼年名作全集18)大阪保育社,1958年。)
(*)(參考：荒牧鉄雄編訳註『イソップ物語・ギリシア神話・聖書物語』チョイスリーディングシリーズ1,日栄社,1958年。)
(*)(參考：Thomas Bulfinch/柴崎武夫訳註『ギリシア神話』(大修館・ドルフィンブックス24,大修館書店,1958年。)
(*)(參考:石井桃子・富山妙子え『ギリシア神話』(‘世界児童文学全集1)あかね書房,1958年。)
(*)(參考:小中太道『イリアッド物語:トロイ戦争』世界少年少女名作選集,同和春秋社,1958年。)
(*)(參考：横田俊一「ナルシス-問題-詩的体験」国語国文28(5),1958年。)
(*)(參考：濱田廣介『世界童話名作集』児童世界文学全集1,偕成社,1958年。)
(*)(參考：小川正己「西洋文学の底流--小川政恭訳「イーリアス」にちなんで」近代23,1958年。)
(*)(參考：岡道男「英雄の怒り—英雄叙事詩における伝統と創造」架橋3,昭和33年。)
(*)小川政恭「ギリシャ悲劇ソポクレス「オウディプス王」の上演によせて」近代24,1958年。
(*)(參考：呉茂一「ギリシャ劇の上演について」ギリシャ悲劇研究1,1958年。)
(*)(參考：細井雄介「ギリシャ悲劇の歴史的性格」ギリシャ悲劇研究1,1958年。)
(*)中島貞夫「ギリシャ悲劇を上演して」悲劇喜劇12(8),1958年。)
(*)(參考：フランシス・ファーガソン/山内登美雄訳『演劇の理念』未来社,1958年。)
(*)(參考：木下順二・鈴木力編『演劇の理論と歴史』現演劇講座1,三笠書房.1958年。)
(*)久保正彰「古代劇場と現代劇場(2)」机9(9),1958年。
(*)(參考：和辻哲郎「ミリンダ王問経と那先比丘経(1-5)」心1,2,3,4,5,1958年。)
(*)(參考：久山康・小林信雄・藤井孝夫『狐は穴あり空の鳥は塒あり：聖書共同研究』基督教學徒兄弟團,1958年。)
(*)(參考：八代斌助『主イエス』奇峰社,1958年。)
(*)(參考：三浦アンナ著/塩谷饒・岩橋保訳『イエスの幼年時代：福音書と芸術による考察』

新教出版社,1958年。)
(*)(参考：岩波書店編集部・岩波映画製作所編『キリスト：その生涯と弟子たち』岩波書店,岩波写真文庫282,1958年。)
(*)(参考：オスカー・クルマン/荒井献訳『原始教会の伝承：釈義的・歴史的・神学的問題』新教出版社,聖書学叢書6,1958年。)
(*)(参考：フランシスコ会聖書研究所訳註『聖書』中央出版社,1958年。)
(*)(参考：池本喬「欽定訳聖書とノックス訳聖書」(山口大学文理学部)文学会誌?号,1958年。)
(*)(参考：トーレイ/森渓川譯『聖書の教』2巻,3版,基督教文書伝道会,1958年。)
(*)(参考：塚本虎二訳『ヨハネ福音書』教会なき人々のための口語訳新約聖書,聖書知識社,1966年。)
(*)モルガン・キャンベル原著/ビヤバード・フローレンス編集『使徒行伝の研究』聖書図書通信講座,聖書図書通信聖書学校,1958年。
(*)ビー・エフ・バップストン著『使徒行傳講義』改訂6版,バックストン記念霊交会,1958年。
(*)日本基督教団教委員会編『教会のはじめ：使徒行伝』聖書教室シリーズ13,日本基督教団出版部,1958年。
(*)福山猛『使徒行伝』信徒のための聖書講解5,聖文舎,1958年(→1966年,再版。)
(*)(参考：F.F.ブルース/聖書図書刊行会訳『使徒行伝』新約聖書註解,聖書図書刊行会,新教出版社(発売),1958年。)
(*)(参考：ルター原著/黒崎幸吉訳『ガラテヤ書注解：附・ロマ書序文』9版,聖泉舎,1958年。)
(*)(参考：黒崎幸吉『新約聖書略註』17版,立花書房,1958年。)
(*)(参考：藤田孫太郎「ルターの聖書解釈について(2,35-9)」三重県立大学研究年報2(3),3(1),1958年/3(3),4(1-4), 1960-64年。)
(*)(参考：相沢源七「ルターの「奴隷意志論」--宗教改革とヒューマニズムの問題」世界史研究19,1958年。)
(*)(参考：山本泰次郎『ローマ書講義(上下)』聖書講義社,1958-59年(→1976年,山本泰次郎聖書講義双書7,キリスト教図書出版社)。)
(*)(参考：フェデリコ・バルバロ『聖ルカ福音書註解』(新約聖書註解集,第3版,ドン・ボスコ社,1958年[→1965年,改訂版]。)
(*)(参考：秀村欣二「「背教者」ユリアヌス帝と古代末期世界観—ユダヤ教・キリスト教・新プラトン哲学の対比において」東京大学教養学部人文科学科紀要14,歴史学研究報告6,歴史と文化III,1958年。)
(*)(参考：P.リーチ/安井源治安訳「カミュとキリスト教の対立」世紀98,1958年。)
(*)(参考：片山精一『要約・年表・西洋教育思想史』牧書店,1958年。)
(*)高坂正顕「近代日本の思想家たち—その類型と系譜」理想300,昭和33年。
(*)宮川透「近代日本における西欧思想の受容過程の考察—問題史的回顧」東洋文化研究所紀要14,1958年。
(*)山崎正一「哲学思想史」理想300,昭和33年。
(*)三枝博音「唯物論史」理想300,昭和33年。
(*)大井正『日本近代思想の論理』合同出版社,1958年。
(*)古在由重・山崎正一・暉峻凌三編『哲学研究入門(上下)』(「日本における西洋哲学の移植史」)東京大学出版会1958年。
(*)田中美知太郎「文化国家と文化人」讀賣新聞夕刊11/3,1958年。

(*)久保勉「ケーベル先生のことなど」心11(1),1958年。
(*)久保勉「思い出す人々(1-4)」心11(7,9,10,12),1958年。
(*)長谷川才次「岩元禎先生」(ケーベル,三谷隆正,藤田健治等)文藝春秋36(10),1958年。
(*)(参考：稲富栄次郎「〈書評〉プロチノス全集(R.ハルダー編)」ソフィア7(3),1958年。)
(*)(参考：山本経「文学と思想」大阪府立大学紀要6,1958年。)
(*)(参考：矢野禾積『文学史の研究』松柏社,1958年。)
(*)川副国基『近代日本文学論』(翻訳文学)早稲田大学出版部,1958年。
(*)(参考：矢野禾積「邦文英文学史の回顧」(日本比較文学会)比較文学1,1958年。
(*)(参考：島田謹二『近代比較文学』光文社,1958年。)
(*)(参考：服部英次郎「DanteにおけるSizer-Symbolの問題」奈良女子大学文学会研究年報1,1958年。)
(*)(参考：ダンテ/山川丙三郎訳『神曲(下)』岩波文庫,岩波書店,1958年。)
(*)(参考：吉田東洲『燃ゆる神曲—其心霊的研究』古今評論社,1958年。)
(*)山田孝雄「ダンテの神曲を読みて古事記の一段を顧る」神道史研究6(1),1958年。
(*)(参考：岸本通夫「ダンテ『神曲』ラティニズモ(1,2)」イタリア学会誌7,1958年/9,1961年。)
(*)參考：永井三明「サヴォナローラ研究の焦点」イタリア学会誌7,1958年。)
(*)(参考：渡辺友市「ペトラルカとアヴィニョン」西洋史研究4,1958年。)
(*)(参考：大類伸「ミケランジェロとラファエロ」西洋史研究4,1958年。)
(*)參考：清水純一「イタリア哲学界の現況：ルネサンス哲学研究を中心として」哲学8,1958年。)
(*)參考：清水純一「ブルーノの死」哲学研究39(9),1958年。)
(*)R.レイン/玉井乾介訳「西鶴とボッカチオ」文学26(5),1958年。
(*)(参考：黒田健二郎「DonneのWit—OvidianとNot Ovidian」愛媛大学紀要 第1部・人文科学4(1),1958年。)
(*)(参考：福田恒存他「世界文学に何を求めるか(座談会)」文學界12(8),1958年。)
(*)(参考：高橋義孝『文学研究の諸問題—ドイツ文芸学を中心として』新潮社,1958年。)
(*)(参考：佐藤輝雄『概観フランス文学史』三笠書房,1958年。)
(*)(参考：ジャン・ルキエ/大久保道子等訳『フランス文学史』改訂版,造型社,1958年。)
(*)(参考：渡邊一夫『フランス・ユマニスムの成立』岩波書店,1958年。)
(*)(参考：渡邊一夫「ルネサンスの特徴」(弘文堂)講座・近代思想史1,1958年。)
(*)(参考：関根秀雄訳『モンテーニュ随想録』全訳縮刷特製版,白水社,1958年。)
(*)(参考：Jean la Bruyère/川口篤編注『De l'homme』大学書林,1958年。)
(*)(参考：岡部茂「大教育者の英知—モンテーニュからラッセルまで」教育技術13(5),1958年。)
(*)(参考：加藤美雄「〈デリ〉とプラトニズム」フランス文学研究1958(6),1958年。)
(*)(参考：伊地智均「前期古典主義時代の劇と劇論」(大阪大学)Gallia 4,1958年。)
(*)(参考：浅野冨美子「ラシーヌ研究—(1)悲劇性について」(大阪大学)Gallia 4,1958年。)
(*)(参考：村松剛「ポール・ヴァレリイ研究(1-4)」批評1,1958年/2,4,5,1959年。)
(*)(参考：杉田勇「ゲルハルト・クレンツリン「実存主義とパンフマニスム」1950」フィロソフィア35,1958年。)
(*)(参考：滝沢寿一「ヴィンケルマンと仏蘭西古典主義」広島大学文学部紀要13,1958年。)
(*)(参考：谷清「エリオットとゲーテ(松原巌教授古稀紀年特集号)」英文学思潮31,1958年。)

(*)(参考：梶野あきら「ゲーテの古典主義に就て(1)」独仏文學研究7,1958年。)
(*)(参考：吉住和子「ハイネのゲーテ観」ドイツ文学20,1958年。)
(*)(参考：高峯一愚「ゲーテとヘーゲル」哲学誌1,1958年。)
(*)(参考：菊池栄一「私のゲーテ詣り(1,2)」理想296,297,1958年。)
(*)(参考：有福博「若きGoetheにおける全体的人間」岐阜大学学芸学部研究報告 人文科学6,1958年。)
(*)(参考：梶野あきら「ゲーテの芸術観」美学9(2),1958年。)
(*)(参考：志山博訪「ゲーテにおける心情と神」山口大学文学会誌10(1),1958年。)
(*)(参考：岸田貫一郎「ゲーテの宗教思想—西東詩集を中心に」宗教研究155,1958年。)
(*)(参考：松山武夫「ゲーテの「プロゼルピナー」--「イフィゲーニェ」理解への準備として」文科紀要1,1958年。)
(*)(参考：志賀英雄「人間性の聖書としてのゲーテの「ファウスト」」日本教育学会大会研究発表要項17,1958年。)
(*)(参考：越塚信行「愛と信仰—Gretchen Tragodie研究」立正大学文学部論叢9,1958年。)
(*)(参考：小牧健夫「「十二文豪」のゲーテ伝」學燈55(9),1958年。)
(*)(参考：小牧健夫「ゲーテ認識の貧困—明治20年代のゲーテ論」學燈55(11),1958年。)
(*)(参考：村田豊文「ドイツロマンティークの芸術的直観—カントよりゲーテへの展望」東京女子大学論集9(1),1958年。)
(*)(参考：永井博「ゲーテとペルシャ—その楽園思想について」広島大学文学部紀要14,1958年。)
(*)(参考：原田義人「ゲーテとシラー」フィルハーモニー30(9),1958年。)
(*)(参考：新関良三『シラーと希臘悲劇』改装版,東京堂,1958年。)
(*)(参考：新関良三「あなぐま演劇学者」心11(5),1958年。)
(*)(参考：新関良三「戯曲の中のシラー像」心11(7),1958年。)
(*)(参考：石川実「シラーの「素朴文学と感傷文学について」にあらわれた近代文学の問題」(立命館大学)外国文学研究1,1958年。)
(*)(参考：ツヴァイク/秋山英夫訳『魔神との戦い：ニーチェ』角川文庫,1958年。)
(*)(参考：薗田宗人「「ディオニュソス的」と「アポロ的」について--ニーチェ「悲劇の誕生」に見られる自然観への一考察」和歌山大学学芸学部紀要8,1958年。)
(*)(参考：小口登久治「ニイチェにおける自己の問題」人文科学研究13,1958年。)
(*)(参考：小野浩「ニイチェ論—第一章：伝承への畏敬」明治大学和泉校舎研究室紀要9,1958年。)
(*)(参考：G.マルセル/岳野慶作訳「ニイチェの現代的意味」中央公論73(1),1958年。)
(*)(参考：小池多米司「ニイチェ「悲劇の誕生」--芸術論エクストラクト(2)」文芸首都27(8),1958年。)
(*)(参考：山田広明「先駆者レッシング」(早稲田大学文学部)綜合世界文芸14,1958年。)
(*)(参考：早川昭「レッシングのPantheimus」(島根大学)論集・人文9,1958年。)
(*)(参考：小塚敏夫「啓蒙期の芸術観—レッシングのラオコーンとの關聯において」岐阜大学工学部研究報告8,1958年。)
(*)(参考：山口忠幸「レッシングの「ラオーコン」について—ドイツ古典文学理論の歴史的研究から」中央大学文学部紀要10,1958年。)
(*)(参考：島村民蔵「「ラオコーン」の成立過程に於けるメンデルスゾーンとヴィンケルマ

ン—文芸上の主要問題(1)」静岡女子短期大学紀要5,1958年。)
(*)(参考：山本尤「詩精神の表現—ヘルダーリンの詩論を中心として」愛知学院大学論叢一般教育研究1,1958年。)
(*)(参考：赤沼一郎「詩人の使命—ヘルダーリンの場合」鳥取大学学芸学部研究報告 人文科学9,1958年。)
(*)(参考：大河原順「ヘルダーリンの「平和祝賀」讃歌について」文科紀要1,1958年。)
(*)(参考：高木勇「不協和音の解消：ヘルダーリンの「ヒュペーリオン」について」法文論叢・文科篇10,1958年。)
(*)(参考：小牧健夫「壁は言葉なく--「ヘルダーリン研究」補遺(1,2)」心11(7,9),1958年。)
(*)(参考：棗田光行「ヘルダーリンのヒューマニズム」(早稲田大学文学部)綜合世界文芸15,1958年。)
(*)(参考：野村一郎「完成以前のヒュペーリオン諸断片」静岡大学文理学部研究報告9,1958年。)
(*)(参考：深見茂「ヘルダーリンにおける戯曲性—「エムペードクレス」分析のこころみ」Quelle 4,1958年。)
(*)(参考：ヴイル・ヴェスパー/渡邊格司訳『ヘルデルリーンの生涯—書簡集通じて』弘文堂,1958年。)
(*)(参考：吉武夏男「近代歴史意識の発生と発展—特にルソーからヘルデルへの一線を基点として」神戸大学教育学部研究集録17,1958年。)
(*)(参考：枝法「ハイネの愛国思想」(東京教育大学)西洋文学研究17,1958年。)
(*)(参考：木本欽吾「ハイネとUrchristentum」(広島大学教養部)外国文学研究5,1958年。)
(*)(参考：土方辰三編『イギリスの文学』東大教養英語英米文学2,創元社,1958年。)
(*)(参考：吉田健一『英語の文学の横道』講談社,1958年。)
(*)(参考：島田謹二「19世紀英文学と大陸文学」英語青年CIV(5),1958年。)
(*)(参考：大和資雄「諷刺文学」英語青年CIV(9),1958年。)
(*)(参考：坪内逍遙訳『トロイラスとクレシダ』シェークスピヤ全集,新樹社,1958年。)
(*)(参考:シェイクスピア/本多顕彰訳『アントニーとクレオパトラ』岩波文庫,岩波書店,1958年。)
(*)(参考：坪内逍遙訳『アントニーとクレオパトラ』シェークスピア全集,新樹社,1958年。
(*)(参考：William Shakespeare/大山敏子編註『アントニーとクレオパトラ』Shinozaki English Classics,篠崎書林,1958年。)
(*)(参考：中村六男「「アントニーとクレオパトラ」におけるSerpent-Images」信州大学繊維学部研究報告8,1958年。)
(*)(参考：小池規子「クレオパトラの性格分析—シェイクスピアの舞台技巧を中心として」(早稲田大学英文学会)英文学16,1958年。)
(*)(参考：中条和夫「シェイクスピアの史劇」英語青年CIV(10),1958年。)
(*)(参考：三島由紀夫『日曜日』(「「シーザーとクレオパトラ」など」)三島由紀夫選集8,新潮社,1958年。)
(*)(参考：山内隆治「「ジューリアス・シィザア」--大人の世界・男の世界」(明治大学人文科学研究所)人文科学研究10,1958年。)
(*)(参考：松元寛「Shakespeare Surveyをめぐって—日本におけるShakespeare研究のあり方」英語英文学研究5(1),1958年。)

(*)(参考 : 齋藤祐蔵『Shakespeare and a Novella by Bandello English Studies in Japan,The English Literary Society of the Nihon University,Tokyo,1958.』
(*)(参考：上野直藏『The Religious View of Chauser in His Italian Period』南雲堂,1958年。)
(*)(参考：平井正穂『John Miltonミルトン』新英米文学評伝叢書,研究社出版,1958年。)
(*)(参考 : 松田実矩「ミルトンとスペンサーの類似性と関係の一例—主として青年期におけるミルトンより」近代23,1958年。)
(*)(参考：平林武雄「ミルトンの教育論」(明治学院大学)L.&L.3,1958年。)
(*)天野敬太郎「日本におけるミルトン文献(1,2)」関西大学報314,1958年/325,1959年。
(*)(参考：吉田新吾「チョーサーとボイーシァス」(大阪市立大学)人文研究9(6),1958年。)
(*)(参考：石黒昌幸「Hyperion破綻の意味—Keats研究」英語英文学研究5(2),1958年。)
(*)島田謹二「「若菜集」におけるキーツ」英語教育12,1958年。
(*)(参考：永井誠「Shelley：The Witch of Atlasの象徴と諷刺について」愛知県立女子大学紀要9,1958年。)
(*)(参考：鈴木弘「シェリーの思想と現代」(早稲田大学)英文学15,1958年。)
(*)(参考：花田秀雄「A Study of Hyperion by John Keats」福岡学芸大学紀要8,1958年。)
(*)(参考：本堂正夫「キーツにおける内部体験と創造の問題」(北海道大学一般教養部)外国語外国文学の研究5,1958年。)
(*)(参考：池田正「Endymionノート」(愛知大学)文学論叢17,1958年。)
(*)(参考：菊池亘「最近のキーツ研究」一橋論叢2(3),1958年。)
(*)(参考：植木錬之助「ペイタァのボッティチェリ考」(関西学院大学)論攷 5,1958 年。)
(*)(参考：土居光知「ペイタアの思い出」英語青年CVI(5),1958年。)
(*)(参考 : 田部重治「ペーターの芸術批評(1-3)」(東洋大学)白山英文学2, 1958年/3,4,1959年。)
(*)(参考：細川靖秦「ペイターとアーノルド」北海道英語英文学4,1958年。)
(*)(参考 : 谷清「エリオットとゲーテ(松原巖教授古稀記念特集号)」英文学思潮31,1958年。)
(*)(参考：竹森修「Arnoldに於ける近代的自然神話と“Empedocles on Etna”」(大阪府立大学英米文学研究会)英米文学6,1958年。)
(*)(参考：植田輝夫「A.E.ハウスマン考」(大阪市立大学)人文研究9(6),1958年。)
(*)(参考：久野真吉「フォスターの小説における神話的要素について」宮城学院女子大学研究論文集13,1958年。)
(*)(参考：今石益之「Emerson’s “Montaighne or Sceptic”」(『大和資雄博士還暦記念論文集：Englishi Studies in Japan』所収,1958年。)
(*)(参考：今石益之「エマソンと懐疑主義」広島女学院大学論集8,1958年。)
(*)(参考：石田憲次『エマーソンとアメリカのネオ・ヒューマニズム』研究社,1958年。)
(*)(参考：小泉一郎「人間形成期におけるエマソン」東京女子大学論集12月号,1958年。)
(*)(参考：酒本雅之「形成期のエマソン」島根大学論集8,1958年。)
(*)矢野峰人「邦文英文学史の回顧—渋江保の「英国文学史」」比較文学1,1958年。
(*)(参考：石田幹之助「唐代支那に流転する象の報恩譚—ギリシア・ローマ説話の東伝に関する旧稿の補遺」季刊民族学研究22(1・2),1958年。)
(*)(参考：亀井高孝『標準世界史地図』新版, 吉川弘文館,1958年。）
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『詳説世界史』山川出版社,1958年。)
(*)(参考：池田哲郎・西村貞二・村岡晢『新稿西洋史』改訂版,文理圖書出版社,1958年。)
(*)(参考：秀村欣二・木村尚三郎他『西洋史概説』東京大学出版会,1958年。)

(*)(参考：上原專祿『歴史學序説』大明堂,1958年。)
(*)(参考：西沢竜生「ヘロドトス解釈の一試論—「ヒストリアィ」第1巻第14章を中心として」東京教育大学文学部紀要16,1958年。)
(*)(参考：有田潤「Crahay,Roland；La litterature oraculaire chez Herodote,1956」西洋古典學研究6,1958年。)
(*)(参考：有田潤「古代ギリシャにおける歴史的認識の発展(ヘカタイオスについて[1])」早稲田商学133,1958年。)
(*)(参考：青木巌「ツキュヂデスについて」古代学7(1),1958年。)
(*)(参考：三浦一郎「アテナイの僭主殺し」歴史教育6(5),1958年。)
(*)太田秀通「香山陽平訳編「奴隷制社会の諸問題」」歴史評論99,1958年。
(*)(参考：土井正興「スパルタクス反乱の思想史的意義—スパルタクス反乱の主体的条件について」法学志林56(2),1958年。)
(*)(参考：Goro Kasahara,Masunori Sata(ed.&anno.)“Autobiography of Edward Gibbon”The Kaitakusha world English series,Kaitakusha,1958.
(*)赤井節「〈書評〉渡邊金一著「ビザンツ帝国における大土地所有の問題—テオドシウス法典の分析を中心として」(一橋論叢36巻2号)」「「奴隷制」の一つの在り方」(史学雑誌64編11号),弓削達「古代奴隷制衰退の問題」(西洋史学27号)」法制史研究1958(8),1958年。
(*)(参考：上田健一編『学習歴史年表』保育社,1958年。)
(*)(参考：半田元夫「ディックス著「ユダヤ人とギリシア人」」史學雑誌67(1),1958年。)
(*)(参考：中村英勝他「1957年の歴史学界—回顧と展望」史學雑誌67(5),1958年。)
(*)(参考：長谷川博隆「キケロ時代の騎士身分」史學雑誌67(8),1958年。)
(*)(参考：西島幸右「F.G.エァレー「ルソーとナポレオン」」世界史研究17,1958年。)
(*)瀬戸口昭夫「井上幸治著「ナポレオン」」世界史研究17,1958年。
(*)(参考：高山一十「世界史眼」世界史研究18,1958年。)
(*)(参考：池田忠生「クセノポーン「歳入論」考」世界史研究20,1958年。)
(*)(参考：酒井三郎「F.シラーは世界史をどう考えたか」世界史研究20,1958年。)
(*)(参考：高山一十「「二つの世界」史観」歴史教育6(6),1958年。)
(*)(参考：西村貞ニ「[E.]ギボンの生涯」歴史教育6(12),1958年。)
(*)(参考：池本幸三「アメリカ史学史の一断面」(奈良女子大学)研究紀要1,1958年。)
(*)(参考：大久保利謙「ゼルフィーの「史学」と岩倉具視—明治史学史の一遺聞」日本歴史118,1958年。)
(*)斎藤忍随「哲学青年A君へ」哲學雑誌72(734・735),1958年。
(*)(参考：L.ホグベン/壽岳文章・林達夫・平田寛・南博訳『コミュニケーションの歴史』岩波現代叢書,1958年。)
(*)河野與一『學問の曲り角』岩波書店,昭和33年(→1984-86年,再版。→2000年,原二郎編『新編学問の曲り角』岩波文庫版)。
(*)学術「あふれでる学識の泉 河野与一著「学問の曲り角」」読売新聞夕刊2/12,1958年。
(*)文化欄「編集手帳」(河野与一)読売新聞朝刊10/16,1958年。
(*)今日出海「人間の曲り角--河野与一という学者」新潮55(4),1958年。
(*)桑原武夫「河野[与一]学派の落第生」図書100,1958年。
(*)(参考：ヒルティ/氷上英廣訳『幸福論(3巻)』(ヒルティ著作集1-3,白水社,1958年。)

(*)(参考：Carl Hiltiy/原田武雄訳『人生の段階』(大学書林語学文庫770,大学書林,1958年。)
(*)(参考：大牟田章「Max Pohlenz,Greichische Freiheit,1955」西洋史学39,1958年。)
(*)(参考：河野与一「ギリシャ哲学の盲点」文庫2月号,昭和33年。)
(*)(参考：渡辺秀「〈書評〉西洋哲学概論(コルバート,R.)」ソフィア7(2),1958年。)
(*)(参考：川田熊太郎『倫理學』増補,基礎学選書,世界書院,1958年。)
(*)(参考：川田熊太郎『哲学要論』東京大学出版会,1958年。)
(*)(参考：山本光雄訳編『初期ギリシア哲学者断片集』岩波書店,1958年。)
(*)(参考：ジョージ・トムスン著/出隆・池田薫訳『最初の哲学者たち』岩波書店,1958年。)
(*)(参考：嶋本文雄『哲学の運命』嶋本多市,昭和33年)
(*)(参考：田中美知太郎『自分の考えを大切にしよう』知性新書,知性社,1958年。)
(*)(参考：田中美知太郎他『世界』転換期の倫理思想,講座・現代倫理10,筑摩書房,1958年。)
(*)(参考：太田彰一「哲学的思索における根源について—古代ギリシャ哲学史研究序説」岡山大学法文学部学術紀要9,1958年。)
(*)(参考：有田潤「古代思想史研究ノート(10)」早稲田商学133,1958年。)
(*)(参考：井上和也「ヘレニズム的人間像への転換—クセノポーンの先駆的性格」歴史教育6(5),1958年。)
(*)(参考：金松賢諒「パイデイアとしてのエロース—ソクラテスによって実証されたる」大谷学報38(3),1958年。)
(*)(参考：山本光雄著/金子武蔵編『プラトン』思想学説全書7,勁草書房,1958年。)
(*)(参考：村井実「ソクラテスとプラトン：プラトン作品についての教育史の立場から両者を区別する試み(III 教育,慶應義塾創立百周年記念論文集)」哲學35,1958年。)
(*)(参考：宮嵜友愛「エロースと道徳的悪について」(III 教育,慶應義塾創立百周年記念論文集)」哲學35,1958年。)
(*)(参考：井村陽一「書評 フーバー=アブラハモウィッチ著「プラトンにおける芸術の問題」(Eifriede Huber=Abrahamowicz：Das Problem der Kunst bei Platon,1954)」美學9(1),1958年。)
(*)(参考：藤澤令夫「プラトンの倫理学寸感」「講座・現代倫理1」,筑摩書房,1958年。)
(*)(参考：安藤孝行『アリストテレースの存在論』弘文堂,1958年。)
(*)(参考：鈴木一郎「アリストテレスにおける共通感覚の時間について(1)(英文)」(青山学院大学)紀要2,1958年。)
(*)(参考：岩崎允胤「アリストテレスにおける矛盾律・排中律と運動の論理との関係について」西洋古典學研究6,1958年。)
(*)(参考：鹿野治助『エピクテートス(上下)』岩波文庫,岩波書店,1958年。)
(*)(参考：鹿野治助「ストアの認識論」(大阪市立大学大学院文学研究科)人文研究9(9),1958年。)
(*)(参考：稲富栄次郎「〈書評〉プロチノス全集(ハルダー,R.編)」ソフィア7(3),1958年。)
(*)(参考：長澤信壽『アウグステイーヌスの哲学における知性と信仰』九州大学,文学博士[報告番号不明],1958年。)
(*)(参考：岩浅武雄「302 「聖アウグステイヌス」：ギリシャ的及びキリスト教的教養の史的考察」日本教育学会大會研究発表要項17,1958年。)
(*)(参考：泉治典「アウグスティヌスの創造思想」(都立大学哲学会)哲学誌1,1958年。)

(*)(参考：今泉三良「アウグスチヌス「自由意志論」[続]」(中央大学術部哲学会)哲学会誌9,1958年。)
(*)(参考：山田晶「自然の光と恩寵の光」中世思想研究1,1958年。)
(*)(参考：川田熊太郎「トマス・アクィナスのイデア論に就いて—キリスト教哲学のイデア論研究の一部分」中世思想研究1,1958年。)
(*)(参考：島田謹二「ルネッサンスの思想史的意義」講座・近代思想史I(文学・イタリア),弘文堂,1958年。)
(*)(参考：清水純一「ブルーノの死(1,2)」哲学研究39(9,10),1958年。)
(*)(参考：清水純一「ジョルダーノ・ブルーノ」(筑摩書房)講座・現代倫理IV,1958年。)
(*)(参考:清水純一「イタリア哲学界の現況:ルネサンス哲学研究を中心として」哲学1958(8),1958年。)
(*)(参考：高峯一愚「ゲーテとヘーゲル」哲学誌1,1958年。)
(*)菊池栄一「わたしのゲーテ詣り(1,2)」理想296,297,1958年。
(*)(参考:中埜肇「ヘーゲルに於ける行為の構造—特に悲劇に関連して」哲学研究39(8),1958年。)
(*)(参考：齋藤信治「ハイデガーのヘーゲル解釈」中央大学文学部紀要11,1958年。)
(*)(参考：L.アルンブルスター/加藤信朗訳「ヤスペルスとキリスト教」ソフィア7(3),1958年。)
(*)(参考：神田盾夫「「アンフィトリオン38」によせて」(国際基督教大学演劇研究会による、ジャン・ジロドー作「アンフィトリオン38」公演のプログラム。→1976年,『神田盾夫著作集2』所収,みすず書房。)
(*)太宰治著・佐藤忠良,朝倉攝さしえ『走れメロス』雨の日文庫,麦書房,1958年。
(*)イソップ作/猪野賢一編(宮脇紀雄・岩本康之亮)『イソップ絵話(1,2)』講談社の絵本,講談社,1958年。
(*)久保喬訳『百合若大臣』少年少女世界名作物語全集13,講談社,1958年。
(*)池田進「谷本富教授の生涯と業績」京都大学教育学部紀要4,1958年。
(*)「新村出博士著作目録」言語研究31,1958年。
(*)安田保雄『上田敏研究：その生涯と業績』矢島書房,1958年。
(*)高橋碵一「渡辺崋山の内願書について—蛮社の獄への一考察」蘭学資料研究会研究報告36,1958年。
(*)服部清子「洋学結社「尚歯会」について」史窓13,1958年。
(*)有馬成甫「西学と蘭学」蘭学資料研究会研究報告30,1958年。
(*)大久保利謙「幕末の蘭学と開成所」蘭学資料研究会研究報告40,1958年。
(*)板澤武雄「蘭学発達の基盤及び契機としての漢学」法政史学11,1958年。
(*)柳亮「司馬江漢」美術手帖141,1958年。
(*)海老澤有道「司馬江漢の人間観・宗教観」史苑18(2),1958年。
(*)石山洋「宇隣雋(プリンセン)の地理書について」蘭学資料研究会研究報告41,1958年。
(*)秋岡武次郎「桃山時代,江戸時代初期の世界図屏風等の概報」法政大学文学部紀要4,1958年。
(*)海老澤有道「キリシタン文学の周辺」文学26(5),1958年。
(*)海老澤有道「蘭学者の天主教理解—前野良沢・本多利明を中心として」ソフィア7(2),1958年。

(*)海老澤有道「戦後における日欧文化交渉史研究の成果—キリシタン研究を主として」歴史教育6(9),1958年。
(*)海老澤有道『南蠻學統の研究：近代日本文化の系譜』創文社,1958年(→1978年,増補版)。
(*)海老澤有道『南蛮文化：日欧文化交渉』至文堂,日本歴史新書,1958年(→1966年,再版)。
(*)新見宏「聖書と現代」福音と世界132(1),1958年。
(*)片子澤千代・助野健太郎『横浜キリスト教史』基督教史学会,1958年。
(*)笹淵友一『浪漫主義文學の誕生』(和譯聖書等)明治書院,1958年。
(*)山本四郎「辻蘭室」華頂学園研究紀要3,1958年。
(*)(參考：加藤角一「俳優と観衆：古代ギリシャの劇場と,その現代劇場への応用の基本的問題」建築雑誌860,1958年。)
(*)中島貞夫「ギリシャ悲劇を上演して」悲劇喜劇12(8),1958年。)
(*)小林文次「美術手帖における「世界建築史」に寄せて：方向と意図は正しいのだが」建築雑73(861),1958年。
(*)(參考：能勢修一「アテナイの身体訓練について)体育学研究3(1),1958年。)
(*)(參考：山崎勇視「古代(ギリシャ)のポリスより見た体育思想について」西南学院大学文学論集5(1),1958年。)
(*)(參考：保田孝一「黒海北岸地方のギリシャ植民市における農業—ケルネソスの場合」史學雑誌67(9),1958年。)
(*)安田龍夫「幕末における蘭学医家の語学研究」日本医史学雑誌9(1),1958年。
(*)岡村千曳「ドドネウスCruydi-boeckの邦訳「遠西草木譜」について」蘭学資料研究会研究報告31,1958年。
(*)岡邦雄「科学思想史」理想300,1958年。
(*)(參考：プトレマイオス著/藪内清訳『アルマゲスト(上下)』恒星社厚生閣,1958年。)
(*)三枝博音「過去二世紀日本にあつたニュートンについて—西欧科学の受容の仕方についての研究の試み」横浜大学論叢10(1),1958年。
(*)前山仁郎「ラ・ランデ天文書と寛政暦書・天保暦書」(「本邦蘭系天文学について 2」蘭学資料研究会研究報告39,1958年。)
(*)大矢真一「洋算を学習する和算家の態度」科学史研究48,1958年。
(*)井上忠「戦後における科学史研究の成果」歴史教育6(9),1958年
(*)(參考：H.D.モリス/稲垣良典訳『近代科学と聖書』声社,1958年。)
(*)佐藤堅司「佐久間象山とデッケルの「三兵答古知幾」」蘭学資料研究会研究報告28,1958年。
(*)(參考：池田忠夫「クセノポーン「歳入論」考」世界史研究20,1958年。)
(*)(參考：小林一郎「「市民の徳」と「人間の徳」--プラトンの倫理思想発展の一考察」文化22(2),1958年。)
(*)(參考：堀田彰「エウノミア」東京教育大学文学部紀要18,1958年。)
(*)(參考:尾形典男「古典古代における「代表」の展開」日本政治學會年報政治學9,1958年。)
(*)船田享二「〈書評〉浅香正著「ローマ元首政治における「権威」の意味」(同志社大学・文化史学12号)キケロの「国家論」(同・文化学年報6号)法制史研究8,1958年。
(*)(參考：箕輪三郎「エラスムスの平和思想」世界156,1958年。)
(*)(參考：原子林二郎「トロイの木馬とモスクワ“頂上”会談」世界週報39(26),1958年。)
(*)(參考：「チュニジアは“トロイの木馬”か—世界の潮」世界156,1958年。)

(*)(参考：田中美知太郎『敢えて言う：政治：哲学論集』中央公論社,1958年。)
(*)(参考：丹後杏一「ドイツの市民精神形成期に関する一考察」世界史研究20,1958年。)
(*)(参考：「ユスチニアヌス帝学説彙纂第20巻邦訳(1,2,3,4,5,6,7)」(京都大学法学会)法學論叢63(6), 64(1,2,3,4,5),1958年/64(6),1959年。)
(*)古林善祐「書評 高田三郎著「ギリシャの法思想」(「法哲学講座」2所収)法制史研究8,1958年。
(*)(参考：古林善祐『古代ギリシャ法の研究：ローマ法との対比において』赤坂書房,1958年。)
(*)(参考：古林善祐『古代ギリシャ訴訟法論』福岡大学研究所,1958年。)
(*)古林善祐「書評 高田三郎著「ギリシヤの法思想」(「法哲学講座」第2巻所収)法制史研究1958(8),1958年。
(*)(参考：古林善祐「古代ギリシャ訴訟法論—法哲学の起源と形成(7,8)」福岡大學法學論叢2(2),1958年。)
(*)(参考：古林善祐「古代ギリシャ法の研究と動向—法哲学の起源と形成(8)」福岡大學法學論叢3(1),1958年。)
(*)(参考：古林善祐「古代ギリシャ法とローマ法との関係について」福岡大學法學論叢3(2),1958年。)
(*)(参考：古林祐二「法哲学の起源—ソローンの法思想(1,2)」福岡大學法學論叢3(3),1958年/3(4),1959年。)
(*)(参考：弓削達「「テオドシウス法典」における奴隷と国家」古代学6(4),1958年。)
(*)(参考：弓削達「テオドシス法典における奴隷婚をめぐる問題」史学雑誌67(3),1958年。)
(*)片岡輝夫「書評 田中周友著「ローマ法学」(法哲学講座第2巻所収)」法制史研究8,1958年。)

(*)(参考：石田英一郎「日本人起源論の場合」新潮56(2),1959年。)
(*)芹沢弥太郎『神聖X型文化の秘密』出版者不明,昭和34年。
(*)(参考：山崎吉春「文明批評における一考察」世界史研究21,1959年。)
(*)(参考：H.キューン/角田文衛訳『古代文明の開花』人類文明史2,みすず書房,1959年。)
(*)(参考：村田数之亮「エーゲ文明について」日本オリエント学会月報2(4-5),1959年。)
(*)村川堅太郎『地中海からの手紙』毎日新聞社,昭和33年(→昭和50年,中公文庫)。
(*)「よみうり抄—第7回エッセイスト・クラブ賞/竹田米吉・曽宮一念・村川堅太郎」讀賣新聞夕刊5/26,1959年。
(*)「よみうり抄」(村川堅太郎)讀賣新聞夕刊6/12,1959年。
(*)竹山道雄『ヨーロッパの旅』新潮社,1959年(→1964年,新潮文庫版。)
(*)(参考：清家清「東の西の交差点：イドラ島にて」芸術新潮10(9),1959年。)
(*)緑川洋一「私のカメラ紀行—ギリシャから北欧へ」芸術新潮10(10),1959年。)
(*)団藤重光「イタリア通信—ヨーロッパの旅から(1,2)」ジュリスト178,179,1959年。
(*)岩崎鐸「イタリースケッチ放浪記」美術手帖153,1959年。
(*)(参考:矢儀万喜多「ゲーテの「イタリアの旅」の構成について」山口大学文学会誌9(2),1959年。)
(*)(参考：菅藤高徳他(明治大学独逸文学会)編『ゲーテとその時代：小牧健夫博士喜寿記念論文集』郁文堂出版,1959年。)中

------ 菊池栄一「イタリアにおけるゲーテのカトリシズムとの出会い」
(*)(参考：岡三郎「ワーズワースとイタリア」詩声24,1959年。)
(*)(参考:鎌田博夫「スタンダールにおける情熱(2)イタリア」東北大学文学部研究年報?,1959年。)
(*)清水正二郎『エロスの航海：ある船医の漁色メモ』光書房,1959年。
----「女だけの祝宴(エーゲ海)」「愛液を混ぜた酒(イズミール)」「女スパイ養成所(イスタンブール)」「男と女の複写器(イスタンブール)」
(*)(参考：木内信蔵「アトラス巡礼」地理4(2),1959年。)
(*)(参考：カルハ,R.S他「地図学の発展(座談会)」地理4(2),1959年。)
(*)(参考：ヴィルヘルム・ヴント著/比屋根安定訳『民族心理学：人類発達の心理学』誠信書房,1959年。)
(*)(参考：A.J.トインビー/吉田健一訳『世界と西欧』現代教養文庫249,社会思想社,1959年。)
(*)(参考：社会思想社編『トインビー人と思想』現代教養文庫250,社会思想社,1959年。)
(*)(参考：A.J.トインビー/山本新・山口光朔訳『戦争と文明』社会思想選書,社会思想研究会出版部,1959年。)
(*)(参考：A.J.トインビー/深瀬基寛訳『一歴史家の宗教観』社会思想社,1959年。)
(*)(参考：ソローキン,ガイル,ドーソン著/黒沢英二訳『東から西へ』毎日新聞社,1959年。)
(*)(参考：西田栄「A.J.トインビーに関する研究—“A study of history”の内面的一考察」愛媛大学紀要,第1部 人文科科学5(1),1959年。)
(*)(参考：ソローキン,ガイル,ドーソン/山口光朔訳『トインビー批判：その史観の発展のために』社会思想研究会,昭和34年。)
(*)(参考：山本新「西洋の没落」講座 近代思想史(弘文堂)6,昭和34年。)
(*)(参考：山本新「文明批評」講座 近代思想史(弘文堂)7,昭和34年。)
(*)『世界紀行文学全集・2』(村川堅太郎)修養社,1959年。
(*)『世界紀行文学全集・4』(村川堅太郎)修養社,1959年。
(*)『世界紀行文学全集・6』(イタリア・スイス編)修養社,1959年
(*)『世界紀行文学全集・16』(村川堅太郎,ギリシア・エジプト)修養社,1959年。
(*)村川堅太郎「古代王国の秘密を追って」中学時代一年生4(8),1959年。
(*)『世界建築全集・第6(西洋・第1[古代]』(村川堅太郎,松平千秋他)平凡社,1959年。
(*)(参考：村川堅太郎「KoreteとProkorete」(線文字B)西洋古典學研究7,1959年。)
(*)佐藤直助「わが国における西洋文化受容の史的展開」ソフィア8(4),1959年。
(*)(参考：海老澤有道「西洋図書館旧記」私立大学図書館協会会報24,1959年。)
(*)(参考：太田秀通「方法規定としての思想史」歴史評論112,1959年。)
(*)(参考:太田秀通「ミケーネ学の現段階が提起する二・三の問題」歴史学研究229,1959年。)
(*)(参考：児島喜久雄『少年美術館：西洋美術のながれ』岩波書店,1959年。
(*)(参考：澤柳大五郎編『図説西洋彫刻年表』誠文堂新光社,1959年。)
(*)(参考：中村浩著・武部本一郎絵『少年少女ウエルズ世界文化史物語1』(「民族と文明の夜明け」)岩崎書店,1959年。)
(*)(参考：新規矩男他編『イタリア・ルネサンスの開花：自然と人間の新しい発見』世界名画全集4,平凡社,1959年。)
(*)(参考:柳宗玄『キリスト:美術にみる生涯』現代教養文庫261,社会思想研究会出版部,1959年。)

(*)片子澤千代『キリスト教史蹟めぐり』ナツメ社,1959年。
(*)(参考：村田数之亮「第7回国際古典考古学会議に出席して」西洋古典學研究7,1959年。)
(*)(参考：堀内清治「東地中海沿岸の古代遺跡」東洋文化26,1959年。)
(*)(参考：大塚巧藝社制作『ペルシャ遺宝展：正倉院の源流をさぐる』大塚巧藝社,1959年。)
(*)永井三明「〈紹介〉京都大学西洋史研究室編「西洋史辞典」」史林42(1),1959年。
(*)(参考：建築辞典編集委員会編『共立建築辞典』共立出版,1959年。)
(*)(参考：今泉篤男・山田智三郎編『西洋美術辞典』訂正3版,東京堂出版,1959年。)
(*)(参考：水野清一・小林行雄編『図解考古学辞典』東京創元社,1959年(→1970年,5版。→1987年,景仁文化社版)。)
(*)(参考：樺俊雄編『新撰社会学辞典』中央経済社,1959年。)
(*)青木徹「詩人百科事典」国文学 解釈と鑑賞24(8),1959年。
(*)板澤武雄『日蘭文化交渉史の研究』日本歴史叢書,吉川弘文館,1959年(→1986年,4刷。→1993年,オンデマンド版)。
-----「辞書及び文法書の編纂と蘭学の発達」
(*)塚本虎二『齋藤の父：齋藤秀三郎先生のこと』塚本虎二,1959年。
(*)倉石五郎「独和辞典の問題点」成蹊大学政治経済論叢9(3),1959年。
(*)(参考：西村貞二『フンボルト』人と業績シリーズ13,有斐閣,1959年。)
(*)(参考：奥津彦重「ゲーテ全集・文献・事典について」(日本ゲーテ協会)ゲーテ年鑑1,1959年。)
(*)(参考：太田秀通「ピュロス文書におけるDAおよびTA」史学雑誌68(10),1959年。)
(*)(参考：渡辺金一「「テマ」(θεμα)」史学雑誌68(11),1959年。)
(*)(参考：中野幸次「アリストテレスの言語観—表現の問題をめぐって」言語学論叢18,1959年。)
(*)(参考：近松洋男「ラテン語と比較したスペイン,ポルトガル語動詞変化」京都外国語大学研究論叢3,1959年。)
(*)(参考：小泉功『宗教音楽におけるラテン語の読み方』カワイ楽器,1959年。)
(*)(参考：山下裕敏「欽定訳聖書出版までの聖書英訳史の研究」関西外国語短期大学研究論集4,1959年。)
(*)杉本つとむ「近代における外国語の摂取とその影響—近代日本語史の一断面」国語と国文学36(10),1959年。
(*)国立国会図書館編『明治・大正・昭和 翻訳文学目録』風間書房,1959年。
(*)三橋猛雄編『明治前期思想史文献目録草稿：家蔵』三橋猛雄,1959年。
(*)吉武好孝『明治大正の翻訳史』研究社,1959年。
(*)安藤美登里「翻訳文学文献総覧」(学燈社)国文学4-5,6,1959年。
(*)島田謹二「英米文学の翻訳と日本文学」」(学燈社)国文学4-5,6,1959年。
(*)太田三郎「翻訳文学」(岩波書店)日本文学史講座14,1959年。
(*)下村誠二「翻訳について」人文科学自然科学研究1,1959年。
(*)杉本つとむ「国語史研究ノート」国文学研究20,1959年。
(*)(参考：村川堅太郎「KoreteとPorokorete」西洋古典學研究7,1959年。)
(*)(参考：関根正雄「ヘレニズム期ギリシャ語におけるINAの用法—セプトゥアギンタのギリシャ語を中心に」東京教育大学文学部紀要23,1959年。)
(*)(参考：粟野頼之祐「アレクサンドリア図書館「目録」の研究(3)」関西学院史学5,1959年。)

(*)(参考：海老澤有道「西洋図書館旧記」私立大学図書館協会会報24,1959年。
(*)秀村欣二「第2章 古典古代」(『日本における歴史学の発達と現状 日本史・東洋史・西洋史』所収,東京大学出版会,1959年。)
(*)(参考：壽岳文章『書物への愛』栗田書店,1959年。)
(*)Japan Pen Club“Japanese Literature in European Languge—a Bibliography”日本ペンクラブ,1959年。
(*)(参考：井村陽一「書評 グラッシュ「芸術と神話」1956」美学10(1),1959年。)
(*)(参考：山室静「ラグラン卿の「英雄—伝承・神話・劇の研究」など—讀書雑記(1)」社会思想研究11(9),1959年。)
(*)(参考：増谷文雄「世界の始源に関する三つの神話について」宗教学年報1,1959年。)
(*)(参考：H.デュモリン「〈書評〉宗教学における諸類型(エリアーデ,M)」ソフィア8(1),1959年。)
(*)(参考：E.ドリオトン他/稲垣良典訳『古代オリエントの宗教』ドン・ボスコ社,カトリック全書141,1959年。)
(*)(参考：一柳俊夫「シュメール・バビロニアにおける宗教的売淫の習慣について—アジア共同体と古典古代的共同体との間」早稲田法学35(1・2),1959年。)
(*)(参考：木田献一「ボーマン著植田重雄訳『ヘブライ人とギリシャ人の思惟』」基督教論集6,1959年。)
(*)(参考：田中秀央・中川正文,山室静訳,呉茂一訳『ギリシア神話,北欧神話,イソップ物語：ほか1編』少年少女世界文学全集1,古代篇,講談社,1959年。)
(*)(参考：澁澤均編・早坂信え『ギリシアの神話』中学生世界神話全集3,宝文社,1959年。)
(*)(参考：伊藤健三註解『ギリシア神話』アトム英文双書,学生社,1959年。)
(*)(参考：フェリックス・ギラン/山口三夫訳『ギリシア・ローマ神話1』みすず書房,1959年。)
(*)(参考：田中秀央・中川正文訳,山室静訳,呉茂一訳『ギロシア神話・北欧神話・イソップ物語:ほか1編』(少年少女世界文学全集1(古代中世編),講談社,1959年。)
(*)(参考：Rex Warner(illastlated by E.Corsellis),“Men and Gods”,Classics forenjoyment, Kenkyusha, 1959.)
(*)(参考：呉茂一「ギリシャ叙事詩,ことに《イーリアス》形成の問題について」名古屋大学文学部十周年記念論集,昭和34年。)
(*)小林市太郎「ポセイドーンとスサノウノミコト：比較神話学の一方法の試み」西洋古典學研究7,1959年。
(*)(参考：岡道男「英雄伝説として見たヘーラクレースのoθλοιの問題：古代近東文学との關聯において」西洋古典學研究7,1959年。)
(*)(参考：J.ロゲンドルフ「「〈書評〉ミューズの神々の可死性(ウェドレー,W.)」ソフィア8(1),1959年。)
(*)(参考：上島建吉「神話類型としてみた「ジュリアス・シーザー」」武蔵大学論集7(2・3・4),1959年。)
(*)(参考：花木正和「アルベール・カミュにおける「不条理(l’absurde)の思想：「シジフォスの神話」解説」研究紀要1,1959年。)
(*)(参考：山口清「ビランデルロの神話「山の巨人たち」に就いて」イタリア学会誌8,1959年。)

(*)(参考：有賀鉄太郎「第9回国際宗教学宗教史会議について」哲學研究40(1),1959年。)
(*)(参考：半田元夫『キリスト教史』世界歴史シリーズ22,アテネ文庫298,弘文堂,1959年。)
(*)(参考：長友栄三郎「テオドシウスのクリスト教帝権について」宮崎大学学芸学部紀要・社会科学7,1959年。)
(*)(参考：長友栄三郎「教会史の中のテオドシウス—テオドシウスとルフィヌスの教会史を中心として」宮崎大学学芸学部紀要・社会科学8,1959年。)
(*)(参考：秀村欣二「コンスタンティヌス帝とクリスト教」(『聖書とその周辺』所収,伊藤節書房,昭和35年。)
(*)(参考：新田一郎「コンスタンティヌス帝とクリスト教」世界史研究22,1959年。)
(*)(参考：岩崎国春「トレルチ著/内田芳明訳「ルネサンスと宗教改革」」世界史研究23,1959年。)
(*)(参考：トマス・ア・ケンピス/荻原晃訳『キリストにならって』中央出版社,1959年。)
(*)(参考：塚本虎二『聖書の読み方』4版,聖書知識文庫3,聖書知識社,1959年。
(*)(参考：関根正雄・前田護郎・齋藤茂編『聖書とその周辺：塚本虎二先生信仰五十年記念論文集』伊藤節書房,1959年。)
(*)(参考：塚本虎二『主の祈りの研究』伊藤節書房,1959年。)
(*)(参考：石原兵永『テサロニケ人への第一の手紙』新約聖書注解,聖書の言社,1959年。)
(*)(参考：ルター/松尾喜代司訳『ローマ書講義(上下)』[ルター/藤田孫太郎譯,ルター選集,別巻2,3巻]新教出版社,1959-60年[→1961-62年,再刊]。)
(*)(参考：松本卓夫「最近英国の聖書学界展望」(青山学院大学同窓会基督教学会)基督教論集6,1959年。)
(*)(参考：関根正雄・前田護郎・齋藤茂編『聖書とその周辺：塚本虎二先生信仰五十年記念論文集』伊藤節書房,1959年。)
(*)(参考：関根文之助『心の旅路：中・高生のキリスト教文学読本』つのぶえ文庫2,新教出版社,1959年(→1963年,『心の旅路：少年キリスト教文学読本』3版,キリスト教少年文庫2)。)
(*)椎名麟三『私の聖書物語』中公文庫,中央公論社,1959年(→1973年,中公文庫。→1988年,大活字本シリーズ,埼玉福祉会。→2003年,中公文庫,中公論新社。)
(*)光明社版『旧約聖書』1959年。
(*)(参考：海老澤有道「ホワイト校訂馬太伝稿本：いわゆるバプテスト訳新約聖書について」史苑20(1),1959年。)
(*)(参考：松平惟太郎著・日本聖公会歴史編纂委員会編『日本聖公会百年史』日本聖公会教務院文書局,1959年。)
(*)高谷道男編『目で見る宣教百年史』日本基督教団出版部,1959年。
(*)米田勇『中田重治』中田重治伝刊行会,1959年(→1979年,復刊,福音宣教会。→1996年,『中田重治伝：伝記・中田重治』大空社,伝記叢書233)。
(*)椎名麟三『愛と自由の肖像』現代教養文庫,社会思想研究会出版部,1959年。
(*)(参考：衣笠梅之助「明治初期の西洋詩論をめぐって」比較文學2,1959年。)
(*)(参考：村井勇吉「〈世界文学〉の系譜—一覚書」(関西学院大学独文学研究室)独仏文学研究2,1959年。)
(*)手塚竜麿「東京の英学」(東京都政史料学館)東京都史紀要16,1959年。
(*)福原麟太郎「日本の英学史」(新潮社)日本文化研究3,1959年。

(*)参考 : 村井勇吾・宇賀檀『西洋文学の形姿と背景』(ヴィンケルマン)法律文化社,1959年、)
(*)參考：角倉康夫「古典と教育」(京都大学教養部)英文学評論6,1959年。)
(*)(參考：石田憲次「文芸復興期の紳士教育論」(京都女子大学)英文学論叢4,1959年。)
(*)(參考：神田盾夫「ドッドとその周辺」興文6月号,1959年。)
(*)野上素一「漱石とイタリア文学」比較文学2,1959年。
(*)(參考：田中美知太郎『正説と逆説』新潮社,1959年。)
(*)(參考：ヒルティ/渡辺義夫訳『眠られぬ夜のために(上下)』(角川文庫,角川書店,1959年。)
(*)(參考：ヒルティ/樺俊雄訳『眠られぬ夜のために(上下)』(新潮文庫,新潮社,1959年。)
(*)(參考：ヒルティ/前田啓作訳『眠られぬ夜のために(2巻)』ヒルティ選集1,2,東京創元社,1959年。
(*)(參考：ヒルティ/矢内原伊作・塩谷饒訳『愛と希望(2巻)』ヒルティ選集3,4,白水社,1959年。)
(*)(參考 : ヒルティ/小池辰雄訳『眠られぬ夜のために(2巻)』ヒルティ著作集4,5,白水社、1959年。)
(*)(參考：ヒルティ/塩谷饒訳『人生論』(ヒルティ著作集5,白水社,1959年。)
(*)(參考：ヒルティ/秋山英夫訳『愛と希望』(ヒルティ著作集6,白水社,1959年。)
(*)(參考：ヒルティ/岸田晩節訳『同情と信仰』(ヒルティ著作集7,白水社,1959年。)
(*)(參考：ヒルティ/国松孝二他訳『悩みと光』(ヒルティ著作集8,白水社,1959年。)
(*)(參考：ヒルティ/中沢洽樹訳『キリストの福音』(ヒルティ著作集9,白水社,1959年。)
(*)(參考：ヒルティ/高橋三郎訳『人間教育』(ヒルティ著作集10,白水社,1959年。)
(*)(參考：アルフレート・シュトゥッキ/国松孝二・伊藤利雄共訳『ヒルティ伝：ある偉大なスイス人の生涯と活動』(白水社,1959年。)
(*)(參考：田中美知太郎『哲学的人生観』河出講座,河出書房新社,1959年。)
(*)(參考：ハワード・セルサム著/高桑純夫・中野好之訳『哲学の変貌』紀伊国屋書店,1959年。)
(*)(參考：出隆・飯島宗享編『哲学者の言葉：西洋哲学思想史』理想社,1959年。)
(*)(參考：出隆「世界観序説」理想308,1959年。)
(*)鈴木照雄「山本光雄訳編,初期ギリシア哲學者断片集,岩波書店,1958」西洋古典學研究
(*)(參考：山本光雄訳編「ギリシア哲学史資料集(1,2,3)」(東京都立大哲学会)哲学誌2,1959年/3,1960年/4,1961年。)
(*)(參考 : 松本厚「プロタゴラス篇におけるプロタゴラスの話の考察—ソフィスト研究の一端として」広島大学文学部紀要15,1959年。)
(*)(參考：松本厚「ソフィストの思考についての一考察」広島大学文学部紀要16,1959年。)
(*)(參考：『世界大思想全集』[第1期]3,哲学・文芸思想篇3)河出書房,1959年。)
----キケロ：「大カトー；一名,老年について」呉茂一・重田綾子訳
「ラエリウス；一名,友情について」長澤信壽訳
ルクレチウス：「宇宙論」田中美知太郎・岩田義一訳
(*)(參考 : 福井守「教育愛の問題—プラトンのエロス論を中心として」北海道学芸大学紀要,第1部10(1),1959年。)
(*)(參考：A.マタイス「〈書評〉プラトンの著作における哲学の概念(ルイス,E.P.)」ソフィア：西洋文化ならびに東西文化交流の研究8(4),1959年。)
(*)(參考：山本光雄『プラトン』思想学説全書7,勁草書房,1959年。)

(*)(参考：井上和也「ヘレニズム的人間像への転換—クセノポーンの先駆的性格」歴史教育6(5),1959年。)
(*)(参考：藤井義夫『アリストテレス』思想学説全書6,勁草書房,1959年。)
(*)(参考：鈴木一郎「Some Aspects of the Problem of Time and Sensus communis in Aristotle(2)」(青山学院大学)紀要3,1959年。)
(*)(参考：東光寛英「アリストテレスの純粋思想についての聖トマスの解釈(上下)」宗教研究157,158,1959年。)
(*)(参考：高根仁「倫理学の方法について—アリストテレスをめぐって(1)」鹿児島大学文科報告8,1959年。)
(*)(参考：鹿野治助「ομολουμε νωζη φυσει ζην---ストアの自然と自由(1,2)」哲学研究40(4,5),1959年。)
(*)(参考：坂口昻吉「ボナヴェントゥーラとアリストテレス哲學の關係(上下)：十三世紀哲學思想史上の一問題」史学32(2,3),1959年。)
(*)(参考：キケロー著/呉茂一他訳,ルクレチウス著/田中美知太郎他訳『大カトー：老年について,ラエリウス：友情について,宇宙論』世界大思想全集,)哲学・文芸思想篇3,河出書房新社,1959年。)
(*)(参考：高橋亘「聖アウグスティヌスの「音楽論」」ソフィア8(4),1959年。)
(*)(参考：トレルチ/内田芳明訳『ルネサンスと宗教改革』岩波文庫,岩波書店,1959年。)
(*)岩崎国春「トレルチ著,内田芳明訳「ルネサンスと宗教改革」」世界史研究23,1959年。)
(*)(参考:千代田寛「精神史と社会史の課題について—ドイツにおける方法と史像の一考察」世界史研究23,1959年。)
(*)(参考：マルチン・ルター/藤田孫太郎訳『ルター自伝：「卓上語録」による』新教新書13,新教出版社,1959年。)
(*)(参考：小松茂「新しい聖トマス研究の道標—近代トミズムの哲学を省みて」世紀7月号,1959年。)
(*)(参考：清水純一「ルネサンスの哲学」(弘文堂)講座・近代思想I,1959年。)
(*)(参考：K.Ikeda「第三回国際イタリア学会について」イタリア学会誌8,1959年。)
(*)參考：池田廉・永井三明「ルネッサンス人文主義の方向」西洋史学42,1959年。)
(*)(参考：新規矩男他編『イタリア・ルネサンスの開花：自然と人間の新しい発見』平凡社,世界名画全集4,1959年。)
(*)(参考：刈田元司「〈書評〉悲劇の観念(シューアル,リチャード)」ソフィア8(3),1959年。)
(*)(参考：高橋源次『英文学概論』南雲堂,1959年。)
(*)(参考：富原芳彰「イギリス戯曲史」英文学風景3,1959年。)
(*)(参考：沢田昭夫『トーマス・モア』人と業績シリーズ8,有斐閣,1959年。)
(*)(参考：吉田健一『英国の近代文学』垂水書房,1959年。)
(*)(参考：二宮敬「ある異端者について—文学インターナショナル」(エラスムス)新日本文学14(10),1959年。)
(*)(参考：二宮敬「エラスムスの覚書—Querela Pacisの成立について(1)」中央大学文学部紀要15,1959年。)
(*)(参考:谷萩弘道「文芸の根柢となる自然と美との関係について」大正大学智山学報7,1959年。)
(*)(参考:加藤猛夫「英国ルネサンス期の人文学者アスカムの生涯とその著作の時代的意義」

(『大阪大学創立十周年記念論集』所収,1959年。)
(*)(參考：齋藤祐蔵「ルネサンス英国劇におけるイタリア文学の影響」イタリア文化3,1959年。)
(*)(參考：関根秀雄『モンテーニュ随想録入門』小山書店新社,1959年。)
(*)(參考：杉山京介「モンテーニュの均衡」Francia 3,1959年。)
(*)(參考：坂本勲「ラ・ブルイエール(1-4)」北九州大学外国語学部紀要1(2),2(3),1959年/2(5,7),1961年。)
(*)(參考：柴田稔彦「「トロイラスとクレシダ」論—二元論的理解への試み」文芸と思想17,1959年。)
(*)英文学研究室「沙翁研究八十年史目録」(昭和女子大学)学苑233,1959年。
(*)(參考:ブラッドレー/中西信太郎訳『シェイクスピアの悲劇』岩波文庫,岩波書店,1959年。)
(*)飯島小平「逍遙とシェイクスピア」(理想社)綜合世界文芸16,1959年。
(*)(參考：物部清三「シェイクスピア史劇の背景」北海道英語英文学5,1959年。)
(*)(參考：真下泰利「クレオパトラの幻想」(シェイクスピア)英語青年CV(3),1959年。)
(*)(參考：中村六男「ShakespeareのAntony and CleopatraのSeleucus Sceneについて」信州大学繊維学部研究報告9,1959年。)
(*)(參考：Shakespeare/大塚高信註釈『ジューリアス・シーザー』研究社小英文叢書69,研究社出版,1959年。)
(*)(參考:柏倉俊三「シェイクスピア劇における『ジュリアス・シーザァ』の位置について」北海道大学文学部紀要3月号,1959年。)
(*)(參考：野口健雄「Timon of Athens考」北海道学芸大学紀要10(2),1959年。)
(*)(參考：田中幸穂「英米におけるチョーサー研究の近況(1)」岐阜大学学芸学部研究報告8,1959年。)
(*)(參考：山口秀夫「Chauser’s Dante and the Dantesque Vision」(福井大学)齋藤静教授記念論文集8,1959年。)
(*)(參考:内田芳明「ミルトンと現代—見ることか聞くことか」岡山大学法文学部学術紀要12,1959年。)
(*)(參考：松田実矩「MiltonのStyle批評史要約」Kobe miscellany 1,1959年。)
(*)(參考:山浦拓造「ミルトンとギリシャ音楽」(福井大学)齋藤静教授記念論文集8,1959年。)
(*)(參考：山浦拓造「Milton and Music」東北学院大学論集35(6),1959年。)
(*)(參考：越智文雄『ミルトン論考』南雲堂,1959年。)
(*)(參考：川西進「AmorettiのNeo-Platonism」(東京)Critica 1,1959年。)
(*)(參考：岩田洵「スウィフトと「ミューズ」--その浪漫時代」(早稲田大学)英文学15,1959年。)
(*)(參考：松田卓「己にとりつかれたバイロン」北海道英語英文学5,1959年。)
(*)衣笠梅二郎「明治初年 バイロン詩の漢訳—末松謙澄訳「髑髏杯歌」」比較文学1,1959年。
(*)(參考：伊東好次郎「『西風の歌』の主題と象徴」詩声21,1959年。)
(*)(參考：伊東好次郎「『シェリ伝説』とダウデン評伝」詩声22,1959年。)
(*)(參考：伊東好次郎「シェリー解釈の現代的意義」詩声25,1959年。
(*)(參考：永井誠「シェリーの詩的精神の成長」愛知県立女子大学紀要10,1959年。)
(*)(參考:谷門信『On Shelley’s “Prometheus Unbound”』山口県立医科大学研究室,1959年。)
(*)(參考：矢野禾積「William Butler Yeats & Japan」Today’s Japan 9(7),1959年。)

(*)(参考：松下千吉「KeatsのOde on a Grecian Urn」(京都大学)Albion6,1959年。)
(*)(参考：宮下忠二「「エンディミオン」試論」(一橋大学研究年譜)人文科学自然科学研究1,1959年。)
(*)(参考：森清「ジョン・キーツ」(京都大学教養部)人文2,1959年。)
(*)(参考：阪田勝三「キーツと夢—『ハイピーリオンの没落』をめぐって」宮城学院女子大学研究論文集14,1959年。)
(*)(参考：田村英之助「Sleep and PoetryとEydymion」茨城大学文理学部紀要9,1959年。)
(*)(参考：花田秀雄「A Study of The Fall of Hyperion by John Keats」福岡学芸大学紀要9,1959年。)
(*)(参考：石黒昌幸「Apolloの映像—Hyperion論」広島修道短期大学論集8(1),1959年。)
(*)(参考：神保永夫「キーツの思想とその発展」(立命館大学)外国文学研究2,1959年。)
(*)(参考：菊池亘「『ギリシャの甕によせるオード』における成立の前提」(キーツ)(一橋大学)人文科学自然科学研究1,1959年。)
(*)(参考：都築佑吉「ペイターの新快楽主義」(早稲田大学)英文学18,1959年。)
(*)(参考：植木錬之助「ペイタァの教養主義の特色」(大阪キリスト教短期大学)神学と人文4,1959 年。)
(*)(参考：植木錬之助「ヴィットリアへの愛情—ペイタアのミケランジェロ論」(関西学院大学)論攷 6,1959 年。)
(*)(参考：後藤和夫「ミルトンとエリオット(1,2)」富山大学文理学部文学紀要 9,1959 年/10,1960 年。)
(*)(参考：井崎宏一「エリオットの伝統の意義」金沢大学法文学部論集,文学編 6,1959 年。)
(*)(参考：北村常夫他「伝統主義—The Traditionalism,T.S.エリオット」国文学：解釈と鑑賞24(13),1959 年。)
(*)(参考：八代中「T.S.エリオットと古典主義—T.E.ヒュームの影響を中心として」専修大学論集 19,1959 年。)
(*)(参考：谷清「エリオットとゲーテ」英文学思潮 31(1),1959 年。)
(*)服部純一「日本におけるT.S.エリオット文献」比較文學2,1959年。
(*)(参考：目賀田守公「A.E.ハウスマン序説」神戸外国語大学論叢9(3),1959年。)
(*)(参考：安藤幸雄「ロレンス批評を廻って」(立正大学)論叢12,1959年。)
(*)(参考：坂本公延「『ユリシーズ』研究—タイトルの意味及び潜在意識の解明」Prelude3,1959年。)
(*)矢野禾積「W.B.Yeats and Japan」“Tday’s Japan”4(7),Cross Continenta Cl.,1959年。
(*)矢野禾積「Lafcadio Hearn as a Literary Critic」“Tday’s Japan”4(19),Cross Continenta Cl.,1959年。)
(*)(参考：立間実「ヘラクレイトスの火」(新潟大学)人文科学研究16,1959年。)
(*)(参考：村井勇吾「“世界文学”の系譜—一つの覚書」独仏文学研究2,1959年。)
(*)(参考：氷上英廣「ヴィンケルマンの文章」形成12,1959年。)
(*)(参考：F.リンテレン/谷友幸訳「ゲーテに於ける人間像」哲学研究40(2),1959年。)
(*)(参考：小西悟「ドイツ古典主義と「ヴィルヘルム・マイスター」」人文学報19,1959年。)
(*)(参考：西川治「ゲーテとアレクサンダー・フォン・フンボルト,その影響」地理4(3),1959年。)
(*)(参考：酒井康彦「ゲーテの教育理念(1)」富山大学教育学部紀要8,1959年。)

(*)(参考：宮野悦義「ヘルダーの民謡研究」ドイツ文学23,1959年。)
(*)(参考：菅藤高徳他(明治大学独逸文学会)編『ゲーテとその時代：小牧健夫博士喜寿記念論文集』郁文堂出版,1959年。)中
---- 徳沢得二「ゲーテ時代」
新関良三「演劇とゲーテ」
梶野あきら「自然と芸術—ゲーテの芸術観の根底」
御牧好隆「若きゲーテとシェイクスピア」
吹田順助「ゲーテと若き詩人たち」
谷友幸「ディオティーマの死をめぐって—一つの再考察」(ヘルダーリン)
(*)(参考：芳賀檀「ゲーテとニーチェの形態学序説」(『記念論文集』所収,関西学院大学文学部,1959年。)
(*)(参考：水野忠敏「シュタイガーのゲーテ研究」(日本ゲーテ協会)ゲーテ年鑑1,1959年。)
(*)(参考：道家忠道「ルカーチのゲーテ研究」(日本ゲーテ協会)ゲーテ年鑑1,1959年。)
(*)(参考：藤井外輿「シュリンプの「晩年のゲーテの世界像」について」(日本ゲーテ協会)ゲーテ年鑑1,1959年。)
(*)(参考：大和邦太郎「フリトナーの晩年のゲーテ研究について」(日本ゲーテ協会)ゲーテ年鑑1,1959年。)
(*)(参考：齋藤栄治「ホーエンシュタインの「ゲーテ—ピラミッド」について」(日本ゲーテ協会)ゲーテ年鑑1,1959年。)
(*)(参考：大野俊一「E.R.クルチウスのゲーテ観」(日本ゲーテ協会)ゲーテ年鑑1,1959年。)
(*)(参考：朝日英夫「ゲーテにおける神の問題」(関西ゲーテ協会)ゲーテ年鑑3,1959年。)
(*)(参考：永野藤夫「タウリスのイフィゲーニェ--「ゲーテと古代」への一つの試み」(関西ゲーテ協会)ゲーテ年鑑3,1959年。)
(*)(参考：松山武夫「イフィゲーニェにおける「純粋」の理念」(関西ゲーテ協会)ゲーテ年鑑3,1959年。)
(*)(参考：志山博訪「ゲーテにおける心情と神」山口大学文学会誌10(1),1959年。)
(*)(参考：丸子基夫「Die neue Iphigenie」ドイツ文学22,1959年。)
(*)(参考：小笠原茂介「ゲーテの古典主義の一断面」ドイツ文学研究3,1959年。)
(*)(参考：梶野あきら「ゲーテの古典主義に就て—其の二・文芸理論」(京都大学教養部)独逸文学研究報告8,1959年。)
(*)(参考：大畑末吉「ゲーテの芸術理論—古典的形式論の成立と発展」一橋大学研究年報・人文科学自然科学研究1,1959年。)
(*)(参考：玉林憲義「人本主義と巨人主義—若きゲーテの人生観について」人文論究10(2),1959年。)
(*)(参考：山下秩光『若きシラー—戯曲の理念と構成』アサヒ書房,1959年。)
(*)(参考：新関良三『シラー：生涯と著作』東京堂,1959年(→1960年,再版)。)
(*)(参考：シラー著/新関良三訳者代表『シラー』筑摩書房,1959年。)
(*)(参考：新関良三「シラー思想における中間力理念の発展」(日本ゲーテ協会)ゲーテ年鑑1,1959年。)
(*)(参考：高尾国男「シラーとヘルダーリン」関西大學文學論集9(4),1959年。)
(*)(参考：関徹雄「ドイツ文芸学方法論(2)シラー様式史観の問題性」小樽商科大学・人文研究19,1959年。)

(*)(参考：男沢淳「シラーの美学」(日本ゲーテ協会)ゲーテ年鑑1,1959年。)
(*)(参考：野島正城「ドイツの新しいシラー研究」(日本ゲーテ協会)ゲーテ年鑑1,1959年。
(*)(参考：野島正城「シラーのマンハイム体験」ドイツ文学23,1959年。)
(*)(参考：浜田正秀「シラーと理念」(玉川大学文学部)論叢?,1959年。)
(*)(参考：上小沢敏博「啓蒙主義の精神とシラー」ドイツ文学23,1959年。)
(*)(参考：木本欽吾「シラーの方法」ドイツ文学23,1959年。)
(*)(参考：小栗浩「Schller und die Gegenwart」ドイツ文学23,1959年。)
(*)(参考：上村行雄「Schller und Willhelm Humboldt」ドイツ文学23,1959年。)
(*)(参考：安藤康雄「シラーの崇高と悲劇論(1)」(大阪大学南北校)研究集録・人文社会科学7,1959年。)
(*)(参考：井上正蔵「シラーと太宰治--「人質」と「走れメロス」」新日本文学14(11),1959年。)
(*)(参考：南大路振一「‘Hamburgische Dramaturgie’St.73/83：LessingのArstoteles解釈のために」西洋古典學研究7,1959年。)
(*)(参考：芳賀檀「バーゼルに於けるニイチェ—1879年を中心にして」独仏文学研究2,1959年。)
(*)(参考：内垣啓一「ニーチェの場合」新劇6(10),1959年。)
(*)(参考：小野浩「伝承探究の方向—ニーチェ論第2章(1-3)」明治大学人文科学研究所紀要13,1959年/16,1960年/20,1961年。)
(*)(参考：南大路振一「“Hamburgische Dramaturgie”St.73/83：LessingのAistoteles解釈のために」西洋古典學研究7,1959年。)
(*)(参考：島田四郎「ニーチェ解釈の一試論」(玉川大学文学部)論叢?,1959年。)
(*)(参考：薗田宗人「若きニーチェのギリシャ研究をめぐって—歴史と神話」和歌山大学学芸学部紀要9,1959年。)
(*)(参考：薗田宗人「若きニーチェのヘラクレイトス像」(阪神ドイツ文学会)ドイツ文学論攷2,1959年。)
(*)(参考：芳賀檀「バーゼルに於けるニーチェ」(関西学院大学)独仏文学研究2,1959年。)
(*)(参考：小牧健夫・吹田順助訳『ヘルダーリン詩集』角川文庫,角川書店,1959年(→1960年,再版)。)
(*)(参考：星野慎一「リルケと翻訳」(東京教育大学)西洋文学研究23,1959年。)
(*)(参考：菊池壬生郎「リルケの「オルフォイスに寄せるソネット」第二部第三の歌Spiegel-Sonettをめぐって」茨城大学文理学部紀要・人文科学10,1959年。)
(*)(参考：W.クレマン「ホーフマンスタールにおける文学観の変遷」ソフィア8(2),1959年。)
(*)(参考：山本有幸「ディドロとケンペル」(日本比較文学会)比較文学2,1959年。)
(*)(参考：杉富士雄「南仏文学史概観」フランス文学1,1959年。)
(*)(参考：杉山京介「モンテェニュの均衡」(京都大学)Francis 3,1959年。)
(*)(参考：関根秀雄『モンテーニュ随想録入門』小山書店新社, 1959年。)
(*)(参考：関根秀雄訳『新撰モンテーニュ随想録』白水社,1959年。)
(*)(参考：安田尚「神から自然へ—ルネサンス人・ラブレーの現代的意義」(東北大学フランス文学会)Regards 4,1959年。)
(*)(参考：小方厚彦「Chroniques Gargantuinesの異本文」文学論集9(1),1959年。)
(*)(参考：水波純子「ラシーヌの宗教劇について—ジャンセニスムの影響」フランス文学研

究1959(6),1959年。)
(*)(參考：佐藤真「Racine《Andromaque》について」フランス文学研究1959(6),1959年。)
(*)(參考：町田徳之助「アウトサイダーは歴史をつくるか」フランス文学研究1959(6),1959年。)
(*)(參考：ラ・フォンテーヌ/市原豊他訳『ラ・フォンテーヌ寓話』白水社,1959年。)
(*)(參考：坂本勲「ラ・ブルイエール(1,2)—フランス・モラリスト研究」北九州大学外国語学部紀要3,10月号,1959年。)
(*)(參考：栗津則雄「ポール・ヴァレリー」ユリイカ3(4-7),4-7月号,1959年。)
(*)(參考：谷村晃「ギリシャ音楽解明に於ける出発点」音楽学5(1),1959年。)
(參考：『世界文学大系2(ギリシア・ローマ古典劇)』筑摩書房,1959年。)
----アイスキュロス：「アガメムノン 供養する女たち 慈みの女神たち」呉茂一訳
ソポクレス：「アンティゴネ」呉茂一訳/「オイディプス王」高津春繁訳/「コロノスのオイディプス」高津春繁訳/「ピロクテテス」久保正彰訳
エウリピデス：「メディア」中村善也訳/「トロイアの女」松平千秋訳/「バッコスの信女」松平千秋訳
アリストパネス：「女の平和」「蛙」高津春繁訳
プラウトス：「捕虜」樋口勝彦訳
テレンティウス：「アンドロスから来たむすめ」泉井久之助訳
ギルバート・マリー「古典劇の伝統」松平千秋訳
高津春繁「解説」
(*)(參考：原随園「エウリピデスの「ヒッポリトス」--文学における継母子の一生態」立命館文學(170・171),1959年。)
(*)(參考：三井浩「悲劇的人間と世界：「ギリシャ的人間の形成と文学」(3),」人文論究10(1),1959年。)
(*)(參考：竹内敏雄『アリストテレスの藝術理論：美學的・文學的研究』弘文堂,1959年。)
(*)(參考：戸張智雄「「アンティゴネー」の伝統」新劇6(9),1959年。)
(*)(參考：戸張智雄「「悲劇」の伝統」新劇6(10),1959年。)
(*)呉茂一「新関良三著ギリシャ・ローマ演劇史」西洋古典學研究7,1959年。)
(*)(參考：高津春繁・三島由起夫・呉茂一・中村光夫[司会]「座談 ギリシア・ローマ劇をめぐって」(筑摩書房世界文学大系2「ギリシア・ローマ古典劇集」所収,1959年。)
(*)(參考：G.マリー/松平千秋訳「古典劇の伝統」(筑摩書房世界文学大系2「ギリシア・ローマ古典劇集」所収,1959年。)
(*)(參考：松平千秋「古代演劇と劇場」(『世界建築全集6』所収,平凡社,昭和34年)。)
(*)久保正彰「ギリシア悲劇と現代：うしなわれた詩とドラマを求めて」新劇6(10),1959年。
(*)(參考：加村赳雄「ソポクレスと私」(東京大学ギリシャ悲劇研究会)ギリシャ悲劇研究2,昭和34年。)
(*)(參考：松川敦子「衣裳製作における古代様式の復元」(東京大学ギリシャ悲劇研究会)ギリシャ悲劇研究2,昭和34年。)
(*)(參考：Y.Hosoi「オプステルテン「ソポクレスとギリシャペシミズム」J.C.Opstelten, Sophocles and Greek Pessimism(tr.from the Dutch by J.A.Ross, 1952」美学

10(3),1959年。)
(*)(参考：Y.Hosoi「リーヴァ「ギリシャ喜劇芸術」Katherine Lever,The Art of Greek Comedy, 1956」美学10(3),1959年。)
(*)(参考：石綿敏雄「外国の人名地名」言語生活92,1959年。)
(*)赤羽壮造「高橋景保の新訂万国全図について(上下)」日本歴史131,132,1959年。
(*)(参考：村川堅太郎等著『解説・世界地図帳』山川出版社,1959年。)
(*)(参考：織田武雄『古代地理学史の研究—ギリシア時代』柳原書店,昭和34年。)
(*)(参考:岩田慶治「アレクサンダー・フォン・フンボルトの人と地理学」地理4(3),1959年。)
(*)(参考：西川治「ゲーテとアレクサンダー・フォン・フンボルト,その影響」地理4(3),1959年。)
(*)(参考：下村寅太郎「歴史哲学の試みへの予備的考察」東京教育大学文学部紀要20,1959年。)
(*)(参考：村川堅太郎編『ギリシアとローマ』世界史大系4,誠文堂新光社,1959年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『詳説世界史』山川出版社,1959年。)
(*)(参考:村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『詳説世界史：教授資料』山川出版社,1959年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『要説世界史』山川出版社,1959年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『世界史』再訂,山川出版社,1959年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『解説世界史地図帳』山川出版社,1959年。)
(*)(参考：池田哲郎・西村貞二・村岡晢『西洋史要』昭学社,1959年。)
(*)(参考：原随園『世界史』教育図書,1959年。)
(*)(参考：浅香正『西洋史概説：古代・中世』再版,三和書房,1959年。)
(*)(参考：吉岡力編『ヨーロッパの成立』東京創元社,1959年。)
(*)石母田正「上原專祿著「歴史學序説」」歴史評論101,1959年。)
(*)(参考：猪飼将「古代都市」世界史研究21,1959年。)
(*)(参考：永嶋大典「Edward Gibbon素描」西南学院大学文学論集6(1・2),1959年。)
(*)(参考:近山金次「〈書評〉ギボンとローマ(オリヴァー.E.J.)」(上智大学)ソフィア8(1),1959年。)
(*)(参考：藤縄謙三「ギリシア的世界史像—その形成とラテン語世界への伝達」史林42(4),1959年。)
(*)(参考：藤縄謙三「西洋史学の源流」歴史教育7-6,昭和34年。)
(*)(参考：三浦一郎「アルクマイオニダイ考序説」茨城大学文理学部紀要,人文科学9,1959年。)
(*)(参考：池田忠生「ペリクレースにおけるポリスの成立」史学研究72,1959年。)
(*)(参考：柘植一雄「アンドロティオンのAttisについて」西洋古典學研究7,1959年。)
(*)(参考：栗野頼之祐「ヘレニズム研究序説」人文論究10(3),1959年。)
(*)(参考:村田数之亮「アレクサンドロスの解釈について」大阪大学文学部創立十周年記念論叢,昭和34年。)
(*)(参考:増田四郎『西洋封建社会成立期の研究』一橋大学,経済学博士[報告番号不明],1959年。)
(*)(参考：シラー/新関良三訳『世界史とは何か また何のためにこれを学ぶか』（『世界文学全集38』所収,筑摩書房,1959年。）
(*)(参考：松田智雄他『新制世界史研究：新指導要領準拠』教育出版社,1959年。)

(*)(参考：「1958年の歴史学界—回顧と展望」史學雑誌68(5),1959年。)
(*)(参考：酒井三郎『J.-J.Rousseauの史学上の地位』広島大学,文学博士[報告番号不明],1959年。)
(*)(参考:西村孝次「クリオの目—G.M.トレヴェリアンにおける歴史と文芸」文芸研究6,1959年。)
(*)(参考：原随園「伝記について」日本歴史136,1959年。)
(*)大類伸(他)「シリーズ・近代史学を作った人々--坪井九馬三・箕作元八(中下)」歴史教育研究11,12,1959年。
(*)鮎沢信太郎『山村才助』吉川弘文館,人物叢書,1959年。
(*)板澤武雄「芝蘭堂新元会図の題言について」かがみ1,1959年。
(*)林基編『日本人物史大系4 近世2』朝倉書店,1959年。
(*)相良亨「近代思想受容の学問的前提」(金子武蔵・大塚久雄編『日本における西洋近代思想の受容』所収,講座・近代思想史IX,弘文堂,1959年。)
(*)瀬沼茂樹『近代日本の文学—西洋文学の影響』新書版,社会思想研究会,1959年。
(*)福原麟太郎『日本の英学史』新潮社,日本文化研究3,1959年。
(*)(参考：小泉一郎「欧米文学の移植」(明治書院)日本文化史講座6,1959年。)
(*)小泉一郎『キリスト教と日本近代文学』新書58,基督友会日本青年会,1959年。
(*)石田幸太郎「上田敏の鑑賞眼」立命館文學170・171,1959年。
(*)安田保雄『上田敏研究』矢島書房,1959年(→1969年[増補新版],→1977年[増補新版3版]。)
(*)河村政敏「安田保雄氏著「上田敏研究」--その生涯と業績」国語と国文学36(6),1959年。
(*)池田進「敗北の教育学者—谷本富(承前)」京都大学教育学部紀要5,1959年。
(*)宮川寅雄「會津八一の学風」歴史評論109,1959年。
(*)福原麟太郎「ギリシャ的中正」(田中美知太郎)山陽新報5/1夕刊,1959年。
(*)(参考：鹿野治助「όμολονμενως τη φνσει ζην：ストアの自然と自由(1,2)」哲学研究40(4,5),1959年。)
(*)(参考：ヒルティ著/高橋三郎訳『人間教育』ヒルティ著作集10,白水社,1959年。)
(*)齋藤忍随「日本における古典哲学研究の現状(日本哲学界の展望)」理想316,1959年。
(*)田中美知太郎「古典教育雑感」新潮56(9),1959年。
(*)書評「「正説と逆説」田中美知太郎著」東京朝日新聞朝刊4/26,1959年。
(*)高橋里美「西田幾多郎先生の言葉」(ケーベル)心12(1),1959年。
(*)久保勉「思い出す人々(5-10)」(ケーベル)心12(1,3,6,7,11),1959年。
(*)山谷省吾「思想史家としての波多野精一博士」神学15,1959年。
(*)岩井忠熊『日本近代思想の成立』創元社,昭和34年。
(*)船山信一『明治哲学史研究』ミネルヴァ書房,1959年。
(*)半田剛「安倍能成著「岩波茂雄伝」」予算10(9),1959年。
(*)林健太郎解説「現代のソクラテス」(竹山道雄)(『新選現代日本文学全集34』筑摩書房,1959年。)
(*)大類伸(他)「シリーズ・近代史学を作った人々--坪井九馬三、箕作元八等(上下)」歴史教育研究11,12,1959年。
(*)土井忠生「ヴァチカン文庫蔵バレト手記の書写に関する私見」国文学攷21,1959年。
(*)田中秀央・中川正文訳『イソップ童話集』世界童話文学全集2,講談社,1959年。
(*)荒牧鉄雄編訳注『イソップ物語』チョイスリーディングシリーズ6,日栄社,1959年。

(*)浜田廣介『世界童話名作集』(イソップ)児童世界文学全集1,偕成社,1959年。
(*)前田淑「百合若伝説と八幡信仰」文芸と思想18,1959年。
(*)前田淑「幸若舞曲「百合若大臣」と報恩経—百合若文学成立に関する一試論」季刊文学・語学12,1959年。
(*)竹林賢「団伊能—ぶらり見参」美術手帖160,1959年。
(*)(参考：猪飼将「古代都市」世界史研究21,1959年。)
(*)(参考：小林文次『建築の誕生：メソポタミヤにおける古拙建築の成立と展開』相模書房,1959年。)
(*)(参考：長谷部行勇「エンタシスを捨てる」(Vouクラブ)Vou 72,1959年。)
(*)(参考：『世界建築全集・第6—西洋・第1[古代]』平凡社,1959年。)
----森田慶一「西洋古代の建築」
村田潔「古代の神殿」
小林文次「古代古典時代の住宅」
森田慶一「ギリシアの諸建築」
森口多里「ローマの諸建築」
村田数之亮「エーゲ文明の建築」
角田文衛「エトルスキの建築」
滝沢真弓「パルチノン」
松平千秋「古代劇と劇場」
粟野頼之祐「古代競技とその施設」
高津春繁「古代人の生活」
森田慶一「古代の都市計画」
森田慶一「古代アテナイ」
野上素一「古代ローマ」
村田治郎「東方の流れ」
村田数之亮「ローマ属州とその建築」
平田寛「古代における建築生産」
村田数之亮「古代遺址発見史」
村川堅太郎「風土と民族」
「参考文献」・「年表」
(*)菊池重雄「17 文部省における「百科全書」刊行の経緯濡ついて：文部省刊行の百科全書「建築学」に関する研究(1)」日本建築学会論文報告集61,1959年。
(*)(参考：能勢修一「アテナオイにおける“γυμναστικη”の考察」京都府立大学学術報告,理学及び家政学3(1),1959年。)
(*)(参考：伊東明『オリンピック史』新体育学講座1,逍遙書房,1959年(→1960年,増補改訂2版)。)
(*)(参考：織田幹雄『オリンピック』現代教養文庫236,社会思想研究会出版部,1959年。)
(*)(参考：大槻真一郎『医学・薬学ラテン語』三修社,1959年(→1976年,改訂版。→1977年,改訂4版。→1990年,改訂16版。)
(*)杉原丈夫「必然性と偶然性—哲学的物理学試論(1)」人文科学9,昭和34年。
(*)板澤武雄「厚生新編訳述考」(同『日蘭文化交渉史の研究』所収,吉川弘文館,1959年。)
(*)三枝博音「日本の科学及び技術の歴史」(肥後和男・大森志郎編『日本文化史講座5・近

世文化の形成(17-19世紀を中心に)』所収,明治書院,1959年。)
(*)(参考：山本一清『四十八人の天文家』恒星社厚生閣,1959年。)
(*)板澤武雄「江戸時代における地動説の展開とその反動」(同『日蘭文化交渉史の研究』所収,吉川弘文館,1959年。)
(*)吉田光邦「日本科学史の根本問題(明治前)」科学史研究50,1959年。
(*)細井淙「関孝和の数学の成立」数学10(3),1959年。
(*)大矢真一「柳川春三の洋算用法」蘭学資料研究会研究報告45,1959年。
(*)日本学士院編『明治前日本数学史』4巻4冊,岩波書店,1959年。
(*)藤井堅志「三上義夫博士顕彰会建碑報告」日本数学教育会誌41(3),1959年。
(*)古山陽司「近世日本植物学史研究序説」法政史学12,1959年。
(*)三田博雄「古代科学技術史研究の発展のために」科学史研究50,1959年。
(*)(参考：岩城正夫「理科教育におけるアリストテレス・スコラ的力学観と原子論的・ガリレイ的力学観」科学史研究52,1959年。)
(*)(参考：三田博雄「「種の起源」の倫理—ダーウィンにおける原子論とアリストテレス主義」思想417,1959年。)
(*)(参考：矢島祐利「18世紀について」科学史研究50,1959年。)
(*)(参考：矢島祐利「中世科学史の根本問題」科学史研究50,1959年。)
(*)(参考：矢島祐利「中世科学の意味づけについて」科学史研究50,1959年。)
(*)(参考：伊東俊太郎「青木氏の論文によせて」科学史研究50,1959年。
(*)(参考：岩城正夫・板倉聖宣(他)「理科教育におけるアリストテレス・スコラ的力学観と原子論的力学観」科学史研究52,1959年。)
(*)(参考：伊東俊太郎「近代科学成立史論(上下)16,7世紀科学革命の研究」東京大学教養学部人文科学科紀要18,1959年/20,1960年。)
(*)(参考：宮崎武三「アテナイの居留外人についての一考察—特に紀元前5,4世紀における経済活動について」史学32(1),1959年。)
(*)(参考：秋草実「ラティフンディウム経営に於ける奴隷制と小作制(1,2)」山口経済学雑誌9(5,6),1959年。)
(*)(参考:伊藤貞夫「ラウレイオン銀山における鉱山採掘権の問題」史学雑誌68(8),1959年。)
(*)(参考：マックス・ウェーバー原著/上原専禄・増田四郎監修/渡辺金一・弓削達共訳『古代社会経済史：古代農業事情』東洋経済新報社,1959年。)
(*)浅香正「〈書評〉マックス・ウェーバー原著/上原専禄・増田四郎監修/渡辺金一・弓削達共訳：古代社会経済史：古代農業事情」」史林42(5),1959年。
(*)土井正興「マックス・ウェーバーと西洋古代史研究—マックス・ウェーバー「古代社会経済史」の邦訳によせて」歴史評論107,1959年。
(*)參考：柴山英一「ルネッサンス政治思想の系譜—ダンテからマキャヴェリへ」イタリア学会誌8,1959年。)
(*)(參考：ヒルティ/秀村欣二・荒井献訳『永遠の平和；政治・歴史論文集』ヒルティ著作集11,白水社,1959年。)
(*)大澤正道「石川三四郎論(上下)」思想の科学[第4次]7,8,1959年。
(*)(參考：青木巌『古代ギリシア人の社会・政治思想(上下)』好学社,1959-60年。)
(*)(參考：A.D.リンゼイ/中村正雄訳『二つの倫理』アテナ新書98,弘文堂,1959年。)
(*)(參考：石井良博「アテーナイ人ソローン—その思想と政治的実践」法学研究32(10),1959

年。)
(*)(參考 : 清永昭次「ソロンの国制におけるティメーマに関する一考察」史学雑誌68(3),1959年。)
(*)(參考：浅香正「ローマ共和末期の貴族支配」文化学年報9,1959年。)
(*)(參考：マキアヴェッリ著/黒田正利訳『君主論』改版,岩波書店,1959年。)
(*)(參考：「ユスチニアヌス帝学説彙纂第21巻邦訳(5,6)」(京都大学法学会)法學論叢65(2,3),1959年。)
(*)(參考：京都大学西洋法史研究会「ユスチニアヌス帝学説彙纂第22巻邦訳(1,3,4,5)」(京都大学法学会)法學論叢65(4), 66(1,2,3),1959年。)
(*)田中周友「書評 古林善祐著「古代ギリシャ法の研究—法哲学起源論」法制史研究1959(9),1959年。
(*)(參考：古林祐二『古代ギリシャ法とその法思想の研究』赤坂書房,1959年。)
(*)(參考：古林祐二「古代ギリシャ法に於ける私的所有権の起源と発展」(『福岡大学創立二十五周年記念論文集』所収,福岡大学研究所,1959年。)
(*)(參考：宮崎孝治郎「ギリシャにおける親権制度」民商法雑誌39(1・2・3),1959年。)
(*)(參考：片岡輝夫『ローマ法講義要領』青梅・精興社,片岡輝夫,1959年。)
(*)(參考：石本雅男『ローマ法とゲルマン法：不法行為法,租鉱権：続 鉱業自営主義と斥先掘,近代的裁判制度の成立：フランスにおける絶対主義段階を中心として』合綴版,法律學体系 第2部 法學理論篇,日本評論新社, 1959年。)
(*)(參考：南博方『ドイツ行政裁判制度論』東京大学,法学博士[報告番号不明],1959年。)

(*)(參考：服部英次郎「デモクリットとエピクールとの自然哲学の差異(カール・マルクスの学位論文)」世界名著大事典・第4巻,平凡社,1960年。)
(*)(參考：H.ルフェーヴル/吉田静一訳『カール・マルクス：その思想形成史』ミネルヴァ書房,昭和35年。)
(*)白井厚「H.ルフェーヴル著,吉田静一訳カール・マルクス：その思想形成史」三田学会雑誌53(9),1960年。)
(*)重田晃一「書評 H.ルフェーヴル/吉田静一訳『カール・マルクス』：「その思想形成史」關西大學經濟論集10(2),1960年。)
(*)(參考 : 小貫徹「Moses Hadas : Hellenistic Culture,Fusion and Diffusion,1959」西洋史学47,1960年。)
(*)(參考：H.キューン/角田文衛訳『都市文明の曙』人類文明史3,みすず書房,1960年。)
(*)(參考：小澤栄一「「文明論之概略」とギゾーの文明史」日本歴史144,1960年。)
(*)(參考：平井正穂「T,S,Eliotの文化論」(『エリオット全集5』所収,中央公論社,1960年。)
(*)(參考：ゲーテ/相良守峯訳『イタリア紀行』(上中下)岩波文庫,改版,1960年(→2001年,ワイド版岩波文庫。→2007年,改版))。
(*)『世界紀行文学全集・15』(村川堅太郎)修養社,1960年。
(*)村川堅太郎「陋巷五十年」群像15,1960年。
(*)村川堅太郎「旅情クレタ島の遺跡」朝日ジャーナル2(22)(64),1960年。
(*)座談会「古代ギリシアの芸術文明」(村川堅太郎)心13(6),1960年。
(*)座談会「苔と庭」(村川堅太郎)心13(11),1960年。
(*)「精彩にとんだ楽しい読み物 協力執筆の効果をあげる「世界の歴史」第1巻」」(村川堅

太郎)讀賣新聞夕刊12/8,1960年。
(*)(参考：瀧澤真弓「パルテノンの関する三つの問題(学位論文)（意匠）」建築雑誌,研究年報59,1960年。)
(*)(参考：J.G.ヘルダー/小森潔他訳「旅日記(1)」岐阜大学学芸学部研究報告 人文科学9,1960年。)
(*)高梨公之「イタリヤ紀行—世界の旅(2)」綜合法学23,1960年。
(*)下村寅太郎「イタリア紀行—ヴェニス」心13(11),1960年。
(*)住谷悦治「ローマだより」同志社タイムス116,1960年。
(*)山田晶「ローマのお墓」人文研究11(5),1960年。
(*)山本丘人「アッシジの思い出」三彩122,1960年。
(*)長谷川昭子「「小さき貧しき者」の町を訪ねて」世紀125,1960年。
(*)(参考：ゲーテ/小牧健夫他編『ファウスト(大山定一訳)』ゲーテ全集2,人文書院,1960年。)
----「古代ワルブルギスの夜」「エーゲ海の岩間の入江」「スパルタのメネラス王の宮殿の前」
(*)(参考：ゲーテ/小牧健夫他編『詩と真実：イタリアの旅』ゲーテ全集10,人文書院,1960年。)
(*)(参考：岡田泰治「D.H.ロレンスにおける地中海世界復活の幻想について—キリストとイシノスとの婚姻」神戸商船大学・第1類文科論集8,1960年。)
(*)(参考：ロレンス・ダレル/高松雄一訳『ジュスティーヌ』世界新文学双書,アレキサンドリア4-1,河出書房新社,1960年。
(*)(参考：シュペングラー/八田恭昌訳『運命・歴史・政治』理想社,1960年(→1967年,改訂版,実存主義叢書17。)
(*)(参考：山本新「文明論の先達(上下)」人文研究17,1960年/19,1961年。)
(*)(参考：会田雄次「ヨーロッパ・ヒューマニズムの限界性について」人文学報12,1960年。)
(*)(参考：Arnold J.Toybnee/Masao Yano(ed.with notes)『The World and theWest』研究社英文叢書141,183,Kenkyusha,1960.)
(*)(参考：アーノルド・トインビー/山口光朔訳『現代宗教の課題：世界諸宗教とキリスト教』現代基督教思想選書,日本YMCA同盟出版部,1960年。)
(*)(参考：河瀬明雄「歴史における予見と創造—トインビーとヤスパース(1)」(長崎大学学芸学部)社会科学論叢10,1960年。)
(*)(参考：金子光男「〈論説〉オルテガ哲学研究序説」倫理學年報9,1960年。)
(*)(参考：柿木健一郎「思想形成の問題—オルテガを手がかりとする思想史研究序説」武庫川女子大学紀要8,1960年。)
(*)(参考：アンデルセン/大畑末吉訳『即興詩人(上下)』岩波文庫,岩波書店,1960年。)
(*)(参考：角田文衛編『世界考古学大系14—ヨーロッパ・アフリカIII,ギリシア・ローマ』平凡社,昭和35年。)
(*)(参考：ロバート・ペイン/高津久美子訳・オーレル・M.スタイン/松田寿男訳・W.H.ブールトン/平田寛・糸賀昌昭訳『トロイアの黄金・コータンの廃墟・パピルスの国・粘土の国』世界ノンフィクション全集10,中野好夫他編,筑摩書房,1960年(→1968年,再版)。)
(*)(参考：ディルタイ/澤柳大五郎訳『近代美学史：近代美学の三期と現代美学の課題』岩波文庫,岩波書店,1960年。)
(*)(参考：裾分一弘「書評 杉浦明平訳「レオナルド・ダ・ヴィンチの手記」美学10(4),1960

年。
(*)(參考：新規矩男等編『世界美術全集(30巻)』角川書店,1960-68年。)
(*)(參考：富永惣一「ギリシア美術の特質」陶説84,1960年。)
(*)(參考：辻成史「十一世紀ビザンチン写本における「放蕩息子のたとえ話」の図像の一例について」美學11(3),1960年。)
(*)神田喜一郎『敦煌学五十年』二玄社,1960年(→1970年,筑摩叢書169。→2004年,高野雪・初口波・高野哲次訳,北京大学出版社)。
(*)(參考：山本智教「麦積山のガンダーラ・西域風の塑像」密教文化47,1960年。)
(*)池田哲郎『日本とオランダ』大槻俊齋先生顕彰会,1960年。
(*)沼田次郎『洋学伝来の歴史』日本歴史新書,至文堂,1960年。
(*)(參考：『古代ペルシャ美術展』玉屋,1960年。)
(*)(參考：小林珍雄編『キリスト教用語辞典：附イスラム用語』訂正版,東京堂,1960年。)
(*)(參考：小林珍雄編『キリスト教百科事典』エンデレ書店,1960年。)
(*)(參考：高津春繁編『ギリシア・ローマ神話辞典』岩波書店,1960年(→昭50年,12刷。)
(*)村川堅太郎「「ギリシア・ローマ神話辞典」について」図書125,1960年。
(*)福原麟太郎「西洋文化の源泉：文学・美術・思想の理解に必須の常識」(高津春繁『ギリシア・ローマ神話辞典』帯,岩波書店,1960年。)
(*)(參考：医学教育研究会編『和英独羅医語新辞典』中央医書出版者,1960年。)
(*)福原麟太郎編『文学要語辞典』研究社出版,1960年(→1978年,改訂増補版)。
(*)(參考：今泉篤男・山田智三郎編『西洋美術辞典』訂正4版,東京堂出版,1960年。)
(*)(參考:ルイス・F.ペレス)「〈書評〉哲学大辞典(ガララテ哲学研究所編)」ソフィア9(3),1960年。)
(*)(參考:増田和宣「ヘルダー出版社編「二十世紀世界文学事典」第1巻1960」ソフィア9(3),1960年。)
(*)(參考：荒正人・大内兵衛等監修『世界名著大事典(全8巻)』平凡社,1960-62年。)
(*)(參考：土居光知『古代伝統と文学』岩波書店,1960年。)
(*)杉本つとむ『近代日本語の成立』桜風社,1960年。
(*)橋本進吉『国語音韻史』岩波書店,1960年。
(*)牧一「徳川時代における和蘭語学及び英語学の発達に関する研究」共立女子大学短期大学部紀要4,1960年。
(*)松村明「蘭語学書とその訳読法—国語学史上における西欧語摂取の一段階として」国語と国文学37(10),1960年。
(*)齋藤信「蘭日辞典の発達について」名古屋市立大学教養部紀要・人文社会研究6,1960年。
(*)(參考：高津春繁『ギリシア語文法』岩波書店,1960年。)
(*)(參考：近松洋男「イスパニア語に於ける俗語ラテン語の音韻変化」大阪外国語大学学報8,1960年。)
(*)(參考：R.H.ロウビンズ/郡司利男訳『ヨーロッパ古代中世文法論』南雲堂,1960年。)
(*)(參考：田中美知太郎・加来彰俊『ゴルギアス—プラトン著作集』岩波書店,1960年。)
(*)(參考：松本厚「プロディコスの類語分析について」広島大学文学部紀要16,1960年。)
(*)(參考：平田隆一「エトルスキ語の研究—その解読法について」(東北大学文学会)文化24(3),1960年。)
(*)大村喜吉『齋藤秀三郎伝』吾妻書房,1960年。

(*)(参考：関本至「ギリシアの言語地理学」(広島大学)方言研究年報3,1960年。)
(*)高津春繁“Forschungsbericht：Linguistics in Japan 1945-58”Kratylos 5(1),1960年。
(*)(参考：古川晴風「ギリシャ諸方言の相互関係：東ギリシャ方言を中心として」西洋古典學研究8,1960年。)
(*)(参考：高津春繁「第3回国際古典学会」西洋古典學研究8,1960年。)
(*)(参考：山田晶「イタリヤの古典教養教育」西洋古典學研究8,1960年。)
(*)(参考：山室静『世界神話物語集』児童世界文学全集21,偕成社,1960年。)
(*)(参考：安藤一郎等編『世界童話文学全集1』(ギリシア神話)講談社,1960年。)
(*)(参考：益子政次・清水勇治『英語教養の背景：聖書・ギリシア・ローマ神話・英米文学・英米史・英米地誌・その他』開拓社,1960年。)
(*)(参考：高津春繁・高津久美子編,ホメロス作・呉茂一訳編,神田盾夫編『ギリシア神話,イリアス・オデュッセイア,聖書物語』少年少女世界文学全集1,講談社,1960年。)
(*)(参考：高津春繁・高津久美子『ギリシャ神話』講談社,世界名作全集49,1960年。)
(*)(参考：呉茂一・高津春繁・太田大八等え『ギリシア神話』世界童話文学全集1,講談社,1960年。)
(*)(参考：L.アルンブルスター/本間英世訳「ミュトスの真理性」ソフィア9(2),1960年。)
(*)(参考：富山紗和子「アガペーとエロース研究の一動向」日本女子大学紀要,文学部10,1960年。)
(*)(参考：平凡社編『世界名画全集2—古代オリエントとギリシア・ローマ』平凡社,昭和35年。)
(*)呉茂一「ギリシア劇の翻訳と上演—その可能性と不可能性について」新劇7(6),1960年。
(*)呉茂一「新劇評--「縛られたプロメーテウス」(東大ギリシャ悲劇研究会),「陽気な幽霊」(文学座),「荷車の歌」(文化座),「母」(三期会),「8段」(青年座),「オセロー」」新劇7(8),1960年。
(*)(参考：有田潤「「しばられたプロメーテウス」の諸問題-古代思想史研究ノート(13)」早稲田商学144,昭和35年。)
(*)(参考：細井雄介「永遠に生きるプロメートイス」(東京大学ギリシャ悲劇研究会)ギリシャ悲劇研究3,昭和35年。)
(*)(参考：松川敦子「「縛られたプロメーテウス」の問題について」(東京大学ギリシャ悲劇研究会)ギリシャ悲劇研究3,昭和35年。)
(*)(参考：加村赳雄「アイスキュロス「縛られたプロメーテウス」演出ノートから—附・衣裳ノート」(東京大学ギリシャ悲劇研究会)ギリシャ悲劇研究3,昭和35年。)
(*)(参考：上島建吉「プロメテウスの後裔—神話類型としてみた「ハムレット」」武蔵大学論集8(1),1960年。)
(*)(参考：大橋也守「エディプ王試論」(コクトー)(大阪市立大学)Lutèce 2,1960年。)
(*)(参考：W．イェーガー/神澤惣一郎譯『ギリシャ哲學者の神學』早稲田大学出版部,1960年。)
(*)(参考：C.P.ティーレ著/比屋根安定訳『宗教史概論』誠信書房,1960年。)
(*)(参考：神田盾夫・寺沢芳雄・村岡花子『聖書物語』世界童話文学全集17,講談社, 1960年。)
(*)(参考：関根正雄『舊約聖書』11版,創元選書176,創元社,1960年。)

(*)(参考：エ・ラゲ譯『我主イエズスキリストの新約聖書』18版,中央出版社,1960年。)
(*)(参考：ウェスレー/松本卓夫・小黒薫訳『新約聖書註解(上下)』ウェスレー著作集1,2,新教出版社,1960年。)
(*)(参考 : 永井直冶訳『新契約聖書』基督教文書伝道会,修正改版,1960年(→1992年,新改版)。)
(*)(参考：塚本虎二『主の祈りの研究』8版,伊藤節書房,1960年。)
(*)(参考：中田重治『主の祈りと主の再臨』教文館,日本宣教選書6,1960年。
(*)(参考：倉長真「韻文化された「主の祈り」」英文学思潮30(1),1960年。)
(*)(参考：ルー・ウォーレス原作/松本恵子訳『ベン・ハー：全訳』英宝社,1960年。)
(*)(参考：ルー・ウォーレス作/松本恵子訳『全訳ベン・ハー；全訳』新訂,英宝社,1960年。)
(*)(参考：ルー・ウォレス作/白石佑光訳『ベン・ハー』新潮文庫,新潮社,1960年。)
(*)(参考：ルー・ウォリス作/飯島淳秀訳『ベン・ハー』角川文庫,角川書店,1960年。
(*)(参考：岩崎秀夫「「ベン・ハー」とワイラー」映画評論17(5),1960年。)
(*)(参考：平石善司「ロゴスと象徴—フィロンのロゴス論解釈論序説」文化学年報10,1960年。)
(*)(参考：ヨゼフ・ボーマン/戸塚文卿譯『カトリック思想史』中央出版社,1960年。)
(*)(参考：トマス・ア・ケンピス/大澤章・呉茂一訳『キリストにならいて』岩波文庫,岩波書店,1960年。)
(*)(参考：寺沢芳雄「ジュネーヴ聖書—英訳聖書史におけるその意義について」東京都立大学創立十周年記念論文集,1960年。)
(*)(参考 : 糸藤洋「A Grammatical Surney of RSV(Revised standard Version of the Bible)」Kyushu American Literature 3,1960年。)
(*)(参考：清水護「欽定英訳聖書」((研究社)英米文学史講座2,1960年。)
(*)(参考：森川甫「パスカルの聖書解釈」フランス文学研究1960(6),1960年。)
(*)(参考：細谷貞雄「理想と信仰と哲学—青年ヘーゲルのキリスト像をめぐって(1,2)」文化24(3),1960年/25(2),1961年。)
(*)(参考：高橋三郎『ロマ書講義』山本書店,1960年。)
(*)(参考：渡辺祐邦「青年期ヘーゲルにおけるイエス解釈とその問題」哲学10,1960年。)
(*)(参考：原田実『ヨーロッパ近世教育思想史』牧書店,1960年。)
(*)(参考：ディルタイ/澤柳大五郎訳『近代美学史：近代美学の三期と現代美学の課題』岩波文庫,1960年。)
(*)亀井勝一郎『私の美術遍歴』講談社,ミリオンブックス,1960年。
(*)山本四郎「辻蘭室伝補訂」蘭学資料研究会 研究報告68,1960年。
(*)高浜次郎『初期の蘭学』鍍金研究所,1960年。
(*)福原富喜子「蛮社の獄について—思想史的一考察」法政史学13,1960年。
(*)山下武「幕府洋学所の実態とその機能」(早稲田大学)学術研究9,1960年。
(*)石川謙『日本学校史の研究』小学館,1960年。
(*)河野与一「昔の雑誌の思い出」文庫12月号,昭和35年。
(*)(参考：河野与一「貨幣と独裁者」明星1月号,昭和35年。)
(*)久保勉「思い出す人々(11,12,13)」(ケーベル)心13(2,3,11),1960年。
(*)田中秀央「Festina lente」(ケーベル)心13(11),1960年。
(*)猪狩章「大正期文学論争—有島武郎「平凡人の手紙」をめぐって」(ケーベル)人文科学研究28,1960年。

(*)山本和夫・石井健之『滝廉太郎』(ケーベル)ポプラ社,子どもの伝記物語14,1960年。
(*)安倍能成「伝えられる自分と伝える自分」新潮57(2),1960年。
(*)石原萌記「竹山道雄とロゲンドルフ」新潮57(8),1960年。
(*)片山敏彦「三つの自叙伝を読んで」(安倍能成)思想428,1960年。
(*)高橋里美「阿部次郎君の思い出」思想429,1960年。
(*)上山春平「阿部次郎の思想史的位置—大正教養主義の検討」思想429,1960年。
(*)安田保雄「上田敏」国文学 解釈と教材の研究5(13),1960年。
(*)高田瑞穂「和辻哲郎」国文学 解釈と教材の研究5(13),1960年。
(*)川副国基「阿部次郎」国文学 解釈と教材の研究5(13),1960年。
(*)高田瑞穂「和辻哲郎」国文学 解釈と教材の研究5(13),1960年。
(*)菊田茂男「土居光知(近代評論の系譜)」国文学10月号,1960年。
(*)福原麟太郎「随想：和辻哲郎氏」讀賣新聞12/28夕刊,1960年。
(*)福田宏子「杉谷代水評伝」学苑239,1960年。
(*)谷村寿子「山路愛山評伝」学苑243,1960年。
(*)平山鈴子「織田純一郎評伝」学苑250,1960年。
(*)石田幹之助「慶長年間切支丹信者に紹介された希臘・羅馬のクラシックス」(助野健太郎編『切支丹風土記 別巻・研究編』所収,宝文館,昭和35年。)
(*)石田幹之助「バレトの「聖教精華」に引く欧西古典覚書」學燈11月号(→1986年,『石田幹之助著作集3』所収,六興出版。)
(*)M.Sakurai「維新前後：特に基督教新教の渡来を中心として」(中村栄養短期大学)研究紀要1(1),1960年。
(*)海老澤有道「阿部真造：維新前後における一知識人の足跡」史苑21(2),1960年。
(*)Arimichi Ebisawa (comp.)“Christianity in Japan：a bibliography of Japanese and Chinese sources ”Committee on Asian Cultual Studies,International Christian Univ.,1960-65
(*)海老澤有道『ゑぴすとら：日本キリスト教史を中心とする=Epistola』1960年。)
(*)沼田次郎『洋学伝来の歴史』至文堂,日本歴史新書,1960年。
(*)満井隆行「明治初期の外国史教育」茨城大学教育学部紀要9,1960年。
(*)大内三郎『近代日本の聖書思想』日本基督教団出版局,1960年。
(*)(參考：新関良三『ギリシャ・ローマの演劇』東京堂,1960年。)
(*)(參考：竹部琳昌“Die griechischen Trägodie und das japanische Noh-Drama”Wiener Huma-nistische Blätter,1960.
(*)(參考：茗荷幸也「ルネサンス演劇」(研究社)英米文学史講座2,1960年。)
(*)(參考：戸張智雄「フランスにおける「イーリアス」」西洋古典學研究8,1960年。)
(*)(參考：呉茂一「ギリシア劇の翻訳と上演—その可能性と不可能性について」(白水社)新劇7(6),1960年。)
(*)(參考：久保正彰「ギリシア悲劇と仮面について」(白水社)新劇7(6),1960年。)
(*)(參考：レジス・ジョリヴェー/稲垣良典訳『哲学者と知者の神』ドン・ボスコ社,1960年。)
(*)(參考：新見宏‘Old Testament in the Q Materials in the Gospels of Luke and Matthew’論集1,1960年。)
(*)原納一富「西洋古典学会展望」(東北大学)文化24(2),1960年。
(*)藤澤令夫「Aristoteles,Metaphysica A6再考：井上忠氏の所説について」西洋古典學研究

8,1960年。)
(*)(參考：戸張智雄「フランスにおける「イーリアス」」西洋古典學研究8,1960年。)
(*)(參考：高津春繁「第3回国際古典学会」西洋古典學研究8,1960年。)
(*)(參考：山田晶「イタリヤの古典教養教育」西洋古典學研究8,1960年。
(*)(參考：岩崎勉「古代ギリシャの人生観」理想324,1960年。)
(*)(參考：国原吉之助「田中美知太郎・岩田義一・共訳,ルクレチウス,宇宙論,（世界大思想全集,哲学・文芸思想篇,3,河出書新社,1959年）」西洋古典學研究8,1960年。
(*)(參考：レジス・ジョリヴェー/稲垣良典訳『哲学者と知者の神』ドン・ボスコ社,1960年。)
(*)(參考：新見宏‘Old Testament in the Q Materials in the Gospels of Luke and Matthew’論集1,1960年。)
(*)峰島旭雄「〈書評〉ハワード・セルサム著/高桑純夫・中野好之訳「哲学の変貌」」大正大学学報15,1960年。
(*)出隆「哲学者であること」理想327,1960年。)
(*)(參考：今道友信「智慧の投影」哲学年報22,1960年。)
(*)(參考：田中美知太郎『思ったこと考へたこと』有心堂,1960年。)
(*)(參考：Plato ; B.Jowett(trans.)/E.Hattori[服部英次郎](ed.with notes)“The Symposion of Plato”Apollo-sha,1960年。)
(*)(參考：三井浩『プラトン研究』関西学院大学,文学博士[報告番号不明],1960年。)
(*)(參考：プラトン/田中美知太郎・加来彰俊訳『ゴルギアス[序説・訳文・註解・研究用註』プラトン著作集,岩波書店,1960年。)
(*)(參考：B.Ebisawa「ムーツォプーロス「プラトンの著作における音楽」(Evanghelos Mouts-poulos,La musique dans l’oeuvre de Platon,Paris,P.U.F.,1959,p.328)」美學11(3),1960年。)
(*)(參考：藤井義夫「アリストテレス『形而上学』のむずかしさ」図書125,1960年。
(*)(參考：ウィリアム・ジョンストン「アリストテレスにおける知恵の概念」ソフィア9(4),1960年。)
(*)(參考：鈴木一郎「Some Aspects of the Problem of Time and Sensus communis in Aristotle(3)」(青山学院大学)論集2,1960年。)
(*)(參考：藤澤令夫「Aristoteles,Metaphysics A6再考：井上忠氏の所説について」西洋古典學研究8,1960年。)
(*)(參考：藤澤令夫「知るもの,生きるもの,動くもの」哲学年報22,1960年。)
(*)(參考：中野幸次『存在の故郷』理想社,昭和35年。)
(*)(參考：ジャン・ブラン/有田潤訳『エピクロス』文庫クセジュ,白水社,1960年。)
(*)(參考：鹿野治助「ストア哲学と禅」(大阪市立大学大学院文学研究科)人文研究11(5),1960年。)
(*)(參考：長沢信寿『アウグスティーヌス哲学の研究』創文社,昭和35年。)
(*)(參考：高田武四郎『アウグスティヌス及びトーマス・アキーナスの“De mMajisto”：歴史比較的研究』同志社大学,文学博士[報告番号不明],1960年。)
(*)(參考：内田芳明「古代末期の社会とキリスト教護教論の成立」社会経済史大系1,昭和35年。)
(*)(參考：内田芳明「アウグスティーヌスをめぐる古代と中世」商経法論叢11(1),1960年。)

(*)(参考：坂口ふみ「救済と解脱—アウグスティヌスと入楞伽経を中心に」比較文学研究1,1960年。)
(*)(参考：トマス・アクィナス/高田三郎他訳『神学大全』(45冊)創文社,1960-2012年。)
(*)(参考：内田芳明「ピレンヌ著『ヨーロッパ世界の誕生』(増田四郎監訳,中村宏,佐々木克己共訳)—アンリ・ピレンヌと「ヨーロッパ」成立史の問題」)」商経法論叢11(3),1960年。)
(*)(参考：アンリ・ピレンヌ/増田四郎監訳『ヨーロッパ世界の誕生』創文社,1960年。)
(*)(参考：長友栄三郎「教会史の中のテオドシウス—テオドレトスとルフィヌスの教会史を中心として」宮崎大学学芸学部紀要・社会科学8,1960年。)
(*)(参考：稲垣良典「〈書評〉エチエンヌ・ジルソン頌(オニール,C.J.編)」ソフィア9(2),1960年。)
(*)参考：ガレン・エウジェニオ/清水純一訳『イタリアのヒューマニズム』名著翻訳叢書,創文社,1960年(→1981年,再版)。)
(*)(参考：H.ミュラー「〈書評〉ヘーゲル『哲学綱要』(ニコリン,F：ペゲレル,O編)」ソフィア9(3),1960年。)
(*)(参考：青木隆嘉「フッサールの「エイドス」」哲学研究41(1),1960年。)
(*)(参考：田中加夫「原初期ギリシャとハイデッガー」哲学研究41(1),昭和36年。)
(*)(参考:町田徳之助「ヒューマニズムとニヒリズムの超克」早稲田法学会誌・人文編11,1960年。)
(*)(参考：ヘロドトス著/青木巌訳『歴史(上下)』新潮文庫,新潮社,1960年。)
(*)(参考：ルイス・フランシスコ・ペレス「トゥキゥディデスにおける歴史考察の方法：ペロポンネソス戦争初年の叙述について」ソフィア9(2),1960年。)
(*)(参考：長友栄三郎「De Rebus Bellicisについて」世界史研究25,1960年。)
(*)(参考：ハワード・ファースト著/村木淳訳『スパルタクス(上下)』三一新書上製版,三一書房,1960年。)
(*)(参考：土井正興「「スパルタクス」における「詩と真実」」歴史評論122,1960年。)
(*)(参考：森谷佐三郎「「虞美人草」と「ハムレット」と「アントニーとクレオパトラ」」富山大学文理学部文学紀要9,1960年。)
(*)(参考：関本まや子「「アントニィとクレオパトラ」」成城文藝23,1960年。)
(*)(参考：千代田謙「グロートのギリシア史について—自由と事情」広島大学文学部18,1960年。)
(*)(参考：千代田謙『第十九世紀ドイツ史学史研究』三省堂,1960年。)
(*)(参考：酒井三郎『ジャン・ジャック・ルソーの史学史的研究』山川出版社,1960年。)
(*)(参考：田中美知太郎・小林秀雄「対談 現代に生きる歴史」週刊読書人9/19日号,1960年。)
(*)(参考：「1959年の歴史学界—回顧と展望」史學雑誌69(5),1960年。)
(*)(参考：西村貞二「ブルクハルトの「歴史的断片」」史学雑誌69(8),1960年。)
(*)(参考：草薙正夫「ヤスパースの歴史論」人文研究17,1960年。)
(*)(参考：フリードリヒ・マイネッケ/中山治一・岸田達也訳『ランケとブルクハルト』創文社,1960年。)
(*)(参考：内田芳明「古代末期の社会とキリスト教護教論の成立」(弘文堂)社会経済史大系I,昭和35年。)
(*)(参考：土井成興「古代末期研究をめぐる諸問題—弓削達氏の一連の労作によせて」

歴史学研究237,昭和35年。)
(*)(参考：弓削達「「古代末期と奴隷」再考—土井氏の御批判にこたえて」歴史学研究237,昭和35年。)
(*)(参考：板倉勝正「ソビエト科学アカデミー版「世界史 古代1」」歴史学研究238,1960年。)
(*)(参考：土井正興「ヨーゼフ・フォークト「古代奴隷戦争の構造」をめぐって」歴史学研究243,昭和35年。)
(*)(参考：石田英一郎「世界史における発展段階そのほか—ソビエト科学アカデミヤ版『世界史』第1巻「古代史」邦訳の出版によせて」歴史評論114,1960年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『要説世界史』山川出版社,1960年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『詳説世界史』山川出版社,1960年。)
(*)(参考：上原專祿『日本国民の世界史』岩波書店,1960年。)
(*)(参考：増井経夫・高階秀爾『東洋史家とは何か,エラスムス随想』新潮社,1960年。)
(*)(参考：吉田健一『文学概論』垂水書房,1960年。)
(*)(参考：大西克礼『古典的と浪漫的』アテネ文庫301,弘文堂,1960年。)
(*)(参考:松平千秋「ギリシア悲劇の周辺(1-4)」(『ギリシア悲劇全集(1-4)』月報,人文書院,1960年。)
(*)(参考:井村陽一「芸術模倣説の展開—プラトンからプロティノスへ」美學10(4),1960年。)
(*)(参考：中野幸次「アリストテレスの「詩学」における模倣と創造の問題」学苑237,1960年。)
(*)(参考：竹内敏雄『アリストテレスの芸術理論,美学的,文学的研究』東京大学,文学博士[報告番号不明],1960年。)
(*)(参考：岩崎良三「風土の文学に及ぼす影響」英文学研究37(1),1960年。)
(*)(参考：島田謹二「「比較文学」の研究」英語青年2月号,1960年。)
(*)(参考：松浦暢「影響の経路—文学作品の移入経路の分析方法について述べたもの」(日本詩人クラブ)詩界62,1960年。)
(*)(参考：山元経「「文学史」の基礎概念」英米文学・研究と鑑賞7,1960年。)
(*)(参考：谷清「ダンテ覚書」詩声1月号,1960年。)
(*)(参考：増井経夫・高階秀爾『東洋史家とは何か：エラスムス随想』新潮社,1960年。)
(*)(参考:野上素一「二十世紀前半におけるイタイアの知的貢献(1)英文学の研究」イタリア学会誌9,1960年。)
(*)(参考：近藤恒一「ペトラルカのモラリスム—雄弁の問題をめぐって」イタリア学会誌9,1960年。)
(*)(参考：近藤恒一「ペトラルカにおける孤独」(広島哲学会)哲学2,1960年。)
(*)(参考:渡辺友市「ペトラルカとベネフィキウム—人文主義と教会との関係についての一考察」西洋史学44,1960年。)
(*)(参考：渡辺友市「ペトラルカとアウグスチヌス(Secretum)を中心とした初期ルネサンスの人間像に就ての一考察」文化24(4),1960年。)
(*)(参考:エウジニオ・ガレン/清水純一訳『イタリアのヒューマニズム』創文社,昭和35年。)
(*)(参考：大塚幸男『世界文学史の中で見たフランス文学史—起原から現代まで』白水社,1960年。)
(*)(参考:A.ティボーデ/鈴木信太郎他訳『フランス文學史(上下)』普及版,ダヴィッド社,1960年。)

(*)(参考：佐藤輝雄編『フランス文学史』出版者不明,1960年。)
(*)(参考：P.H.シモン/平井啓之訳『現代フランス文学史』紀伊國屋書店,1960年。)
(*)(参考：渡辺一夫・鈴木力衛『フランス文学案内』岩波文庫版,岩波書店,1960年。)
(*)(参考：平井啓之「フランス文学研究の現状について」文学28(2),1960年。)
(*)(参考：戸張智雄「二つの悲劇性とジャン・ルイ・バロー」新劇7(7),1960年。)
(*)(参考：関根秀雄訳『モンテーニュ随想録(1-3)』白水社,1960年。)
(*)(参考：上田友子「モンテェーニュに於ける人間的理性の観念」(大阪大学)Gallia 5,1960年。)
(*)(参考：田中敬次郎「ギリシャ小説とジャン・ラシーヌ(1,2)」名古屋大学教養部紀要4,1960年/5,1961年。)
(*)(参考：河崎重敬「5040 Valery：Euppalinos管見(歴史・意匠)」日本建築学会論文報告集66-2,1960年。)
(*)(参考：入澤康夫「Gerard de Nervalの《Octavie》」フランス文学研究1960(6),1960年。)
(*)(参考：W.ゴスマン他『ドイツ文学の精神』アポロン社,1960年。)
(*)(参考：前川道介「ヴィンケルマンの死」架橋6,1960年。)
(*)(参考：角英祐「古典戯曲の一面—牧歌と歴史(史劇)」ドイツ文学25,1960年。)
(*)(参考：ゲーテ/小牧健夫他編/氷上英廣他訳『タウリスのイフィゲーニェ：トルクワートー・タッソー；庶出の娘；プロメートイス；プロゼルピーナ；パンドーラ』ゲーテ全集4,人文書院,1960年。)
(*)(参考：小野浩「芸術における鎮魂性の問題--「イフィゲーニェ」のための序論」(明治大学工学部)研究報告14,1960年。)
(*)天野敬太郎「日本におけるゲーテ文献(1-5)」比較文学1-5,1960-64年。
(*)(参考：重原淳郎「ゲーテの「箴言と反省」について」綜合世界文芸17,1960年。)
(*)(参考：志賀英雄「ゲーテの「ファウスト」における世界観と人間像」教育哲学研究3,1960年。)
(*)(参考：松山武夫「ゲーテにおける「純粋」の意義」文科紀要5,1960年。)
(*)(参考：岸田貫一郎「ゲーテにおける諦念」理想322,1960年。)
(*)(参考：清水康雄「ゲーテの詩論」詩学15(7),1960年。)
(*)(参考：高橋巖「美学におけるゲーテアニスムの意義」美學11(3),1960年。)
(*)(参考：有福博「Strassburg時代のGoetheの文芸観」岐阜大学学芸学部研究報告 人文科学14,1960年。)
(*)(参考：宇津井恵正「古典主義におけるゲーテの形態追求の意義」(東京教育大学独文学会)影2,1960年。)
(*)(参考：横溝政八郎「ゲーテとハウプトマン」(日本ゲーテ協会)ゲーテ年鑑2,1960年。
(*)(参考：星野慎一「ゲーテとリルケ」(日本ゲーテ協会)ゲーテ年鑑2,1960年。)
(*)(参考：橘好一「トーマス・マンにおけるゲーテ像形成」金沢大学法文学部論集 文学篇7,1960年。)
(*)(参考：植村敏夫「シラーとゲーテ—学生に与える交友の素描」(日本大学)Lynkeus1,1960年。)
(*)(参考：W.Grenzmann「Freidrich Schiller」ドイツ文学24,1960年。)
(*)(参考：安藤康雄「シラーの思想における美と実践との関係」大阪大学研究集録8,1960年。)
(*)(参考：角英祐「古典戯曲の一面—牧歌と歴史(史劇)」ドイツ文学25,1960年。)

(*)(参考：大田哲夫「ドイツロマン派とシラー」ドイツ文学25,1960年。)
(*)(参考：小林政吉「教養と実存--ヘルダーとハーマン」研究年報8,1960年。)
(*)(参考：藤木喬「ヘルダーの抒情詩の外的要素：彼の言語哲学から」ドイツ文学25,1960年。)
(*)(参考：中野康存「ヘルデルの「生心」概念について—詩学の基本概念として」文科紀要5,1960年。)
(*)(参考：金田民夫「芸術における現実性の意味—ヘルダーの彫塑論を中心として」美學11(2),1960年。)
(*)(参考：金田民夫「ヘルダーの美学思想—民族詩論を中心に」美學11(3),1960年。)
(*)(参考：山本尤「ヘルダーリンのキリスト讃歌「唯一者」」近代28,1960年。)
(*)(参考：宮原朗「ヘルダーリンの姿勢」ドイツ文学25,1960年。)
(*)(参考：丸山良治「ハイデガーのヘルダーリン」天理大学学報12(1),1960年。)
(*)(参考：大河原順「ヘルダーリンの「平和祝賀」讃歌について」文化24(2),1960年。)
(*)(参考：「Lessing「ラオコーン」」詩学15(7),1960年。)
(*)(参考：芳賀檀「フリードリヒ・ニイチェ」(関西学院大学)独仏文学研究3,1960年。)
(*)(参考：杉原重治「崇高と優美—カント,ゲーテ,ニーチェの系譜」岡山大学法文学部学術紀要13,1960年。)
(*)(参考:犬養健「ニーチェの宗教性をめぐって—デュモリン神父のニーチェ論にちなんで」世紀123,1960年。)
(*)(参考：古内武「ニーチェとその時代」北海道大学外国語・外国文学研究83,1960年。)
(*)(参考：薗田宗人「「自由なる精神」ニーチェへの覚え書」和歌山大学学芸学部紀要人文科学10,1960年。)
(*)(参考：山本篤司「「ヴェニスに死す」の神話の要素」ドイツ文学24,1960年。)
(*)(参考：土方辰三『イギリス文学史大系I(16世紀)』東京大学出版会,1960年。)
(*)(参考：吉田健一『シェイクスピア物語』垂水書房,1960年(→1961年,新潮文庫版)。)
(*)(参考：大山俊一「シェイクスピア研究の現状」英語青年106(4),1960年。)
(*)(参考：中林謙二「シェイクスピア悲劇の生成序説(1-9)」(ヨハネ傳)學苑11月号,1960年~4月号,1964年。)
(*)(参考：小津次郎「シェイクスピアの史観」(中野好夫・小津次郎編『綜合研究シェイクスピア』所収,英宝社,1960年。)
(*)(参考：菅泰男「シェイクスピア批評史(19世紀まで)」(同上『綜合研究シェイクスピア』所収,英宝社,1960年。)
(*)(参考：大山敏子『ジュリアス・シーザー』篠崎書林,1960年。)
(*)(参考：福田恆存訳『ジュリアス・シーザー』シェイクスピア全集8,新潮社,1960年。)
(*)(参考：高柳俊一「書評 「ジュリアス・シーザー」の構造(ボンジュール,A.)」ソフィア9(2),1960年。)
(*)大山俊一「Shakespeare in Japan」The Shakespeare Newsletter 10(3),1960年。)
(*)(参考：海江田進「ローマ史劇コリオレイナス」東京外国語大学論集7,1960年。)
(*)(参考：森谷佐三郎「「虞美人草」と「ハムレット」と「アントニーとクレオパトラ」」富山大学文理学部文学部紀要9,1960年。)
(*)(参考：関本まや子「アントニイとクレオパトラ」成城文藝23,1960年。)
(*)(参考：宮内文七「Antony and Cleopatra研究(3-5)」鹿児島大学紀要・文科報告9,1960年

/11,1962年/13,1964年。)
(*)(参考：中村六男「A Historical Study on the Criticism of Shakespeare's Antony and Cleopatra」信州大学紀要25,1960年。)
(*)(参考：上島建吉「プロメテウスの後裔—神話類型としてみた「ハムレット」」武蔵大学論集8(1),1960年。)
(*)(参考：百岡胤正「ミルトン,サムソン・アゴニステスの考察」岩手大学学芸学部研究年報15(1),1960年。)
(*)(参考 : G.Gissing/T.Akiyama(ed.with introduction & notes),*The private papers of Henry Rycroft*, Seibido's English texts,成美堂,1960年。)
(*)(参考：Gissing/荒牧鉄雄篇訳注『ヘンリー・ライクロフトの私記：春』チョイスリーディングシリーズ208,日栄社,1960年。)
(*)(参考：村岡勇『D.H.Lawrence—テーマと研究』研究社,1960年。)
(*)(参考：村岡勇「ロレンス文学と宗教」英語青年107(8),1960年。)
(*)日高八郎「ジョイスの影響—日本文学の場合」(同『ジョイス入門』所収,南雲堂,1960年。)
(*)(参考：鈴木富生「A.E,Housmanについて」山形大学英語英文学研究5,1960年。)
(*)(参考：松下千吉「A.E.ハウスマンの詩序説」(京都大学教養部)人文6,1960年。)
(*)(参考：植木錬之助『ウォルタア・ペイタアの研究』弘文堂,1960年。)
(*)(参考：都築佑吉「ペイターの新快楽主義—生活と芸術の関係について」英文学18,1960年。)
(*)(参考：山川学而「「荒地」と「ユリシーズ」」近代文学15(9),1960年。)
(*)(参考：阿部保「ティ・エス・エリオットの詩劇論」美学40,1960年。)
(*)(参考：岡地嶺「アーノルドの批評理論」麻布獣医科大学研究報告1,1960年。)
(*)(参考：菊池亘「バイロンの芸術とその意義」一橋論叢44(2),1960年。)
(*)(参考：宮崎孝一「バイロン」(『英米文学史講座7』所収,研究社,1960年。)
(*)(参考：菊池亘「キーツ」(『英米文学史講座・十九世紀I』所収,研究社,1960年。)
(*)(参考 : 高橋雄四郎「キイツ詩論 : Not to the sensual earの思索」立正大学文学部論叢13,1960年。)
(*)(参考 : 磯田光一「抒情という罪—Keats,‘The Fall of Hyperion’の意味」英語青年104(11),1960年。)
(*)松浦暢『「美しきものは永久に」--泣菫とジオン・キイツの比較文学論』吾妻書房,1960年。)
(*)(参考：林田実「‘Prometheus Unbound’出版当時の評論雑誌に現れたその批評」松蔭文学12,1960年。)
(*)(参考 : 輪島士郎「Moonlit Death—‘Adonais’を中心としてShelleyの詩の構成」Kanazawa English Studies 6,1960年。)
(*)(参考：大和資雄「日本の英文学七十年」日本大学創立70周年記念論文集,1960年。)
(*)大木雄二文；猪野賢一編『いそっぷ絵話』講談社のたのしい絵本,講談社,1960年。
(*)與田準一『イソップ童話集』児童世界文学全集9,偕成社,1960年。)
(*)葉山脩平『日本イソップ噺』大和出版,1960年。
(*)(参考 : 有田健一「『イーソップ寓話集』について」(大阪市立大学文学部)人文研究11(12),1960年。)
(*)前田淑「百合若伝説と「大臣踊」--百合若伝説新考」日本文学9(1),1960年。

(*)長寿吉(他)「村上直次郎先生を囲んで(座談会)」歴史教育研究17,1960年。
(*)(参考 : 川崎重敏「5040 Valery : Eupalinos管見(歴史・意匠)」日本建築学会論文報告集66(2),1960年。)
(*)(参考：下村寅太郎『数学教育の基礎的科学的研究ということについて』日本数学教育会,1970年。)
(*)日本学士院編『明治前日本数学史・第4巻』岩波書店,1960年。
(*)日本学士院編『明治前日本天文学史』日本学術振興会,1960年。
(*)日本学士院編『明治前日本生物学史1,2巻』日本学術振興会,1960年。
(*)(参考：中山茂「占星術は天文学の発達に貢献したか?」天文月報53(5),1960年。)
(*)(参考：岩井允子「プロティーノスの占星術批判」立命館文學182,1960年。)
(*)杉本勲「歴史教育と科學史」日本歴史147,1960年。
(*)荒木俊馬『日本暦学史概説』恒星社厚生閣,1960年。
(*)広瀬秀雄「江戸時代の天文家と地動説」(「本邦蘭系天文学について 3」蘭学資料研究会研究報告60,1960年。)
(*)今井湊「松浦天地球両儀」蘭学資料研究会研究報告62,1960年。
(*)大場一義「西洋体育書の伝来」蘭学資料研究会研究報告66,1960年。
(*)矢島祐利「志筑忠雄「混沌分判図説」の翻訳」蘭学資料研究会研究報告74,1960年。
(*)正田建次郎「科学とヒューマニズム」社会教育15(2),1960年。
(*)(参考：雪永政枝『看護史年表』医学書院,1960年。)
(*)(参考：東京医科歯科大学歯学部編『カルテ記載のための歯科用語集[和英独羅]』医歯薬出版,1960年。)
(*)佐藤堅司「「垤三兵答古知幾」における歴史的要素—デッケルの時代意識の解剖」蘭学資料研究会研究報告65,1960年。
(*)大江善男「青木巖『古代ギリシア人の社会・政治思想(上)』好学社,1959」西洋古典學研究8,1960年。
(*)(参考：「ローマ・五輪準備進む—競技施設はローマ帝国の遺跡を利用」国連評論39(2・3),1960年。)
(*)(参考：浅香正「ローマ共和末期の社会—特に支配者層の結合関係について」文化史学15,1960年。)
(*)(参考：エラスムス/箕輪三郎訳『平和の訴え』岩波文庫,岩波書店,1960年。)
(*)(参考：E.カッシーラ/宮田光雄訳『国家の神話』創文社,名著翻訳叢書,1960年。)
(*)増淵竜夫「国家形成におけるヨーロッパへの道とアジアへの道—太田秀通著「共同体と英雄時代の理論」をよんで」歴史学研究237,1960年。
(*)(参考：鬼塚信彦「「シチリアの晩鐘」についての一考察—13世紀後半のシチリアをめぐる国際政治の動向」(兵庫県立大学)商大論集(37・38・39),1960年。)
(*)(参考 : 古林祐二「キュレネ都市国家法と神託法及び神殿法」法制史研究1960(10),1960年。)
(*)(参考：京都大学西洋法史研究会「ユスチニアヌス帝学説彙纂第23巻邦訳(1,3,4,6)」(京都大学法学会)法學論叢66(4), 67(2,4),68(2),1960年。)

(*)(参考：良知力「初期マルクス解釈についての覚書」経済志林29(4),1961年。)
(*)(参考：藤森俊輔「青年マルクスの思想的出発点—その「批判哲学」の意味するもの」一橋論叢46(4),1961年。)

(*)(参考：長谷川泉「キリスト教とマルクス主義」国文学：解釈と鑑賞26(11),1961年。)
(*)(参考：田中美知太郎他「世界文明と日本文化(談)」中央公論76(7),1961年。)
(*)(参考：高橋里美『西欧文化と日本文化』IDE教育選書45,民主教育協会,1961年。)
(*)(参考：三上次男・秀村欣二・関野雄編『あなたの世界史：文明の起こりと古代の世界』学生社新書40,学生社,1961年。)
(*)(参考：筑摩書房編集部編『ヨーロッパ世界の成立』世界の歴史5,筑摩書房,1961年。
(*)伊藤整『ヨーロッパの旅とアメリカの生活』新潮社,1961年。
(*)(参考:菊池栄一『イタリアにおけるゲーテの世界』内田老鶴圃,1961年(→1978年,再訂版)。)
(*)(参考：玉林憲義「ゲーテの「イタリア紀行」」(関西学院大学)独仏文学研究4,1961年。)
(*)(参考：上野英雄「ヘルダー「旅日記」試論—Seeleの問題を中心に」(富山大学)文学紀要11,1961年。)
(*)(参考：木間瀬精三「ヤーコプ・ブルックハルトと《イタリア・ルネッサンスの文化》」聖心女子大学論叢15,1961年。)
(*)芳賀徹「明治初期—知識人の西洋体験：久米邦武の米欧回覧実記」(『島田謹二教授還暦記念論文集』所収,弘文堂,1961年)。)
(*)武者小路公秀「日本人の対外意識」思想444,1961年。
(*)遠藤章二『私の世界紀行』遠藤章二.1961年。
(*)伊藤整『ヨーロッパの旅とアメリカの生活』新潮社,昭和36年。
(*)(参考：石山乾二「プリニウス小考—地中海について」武蔵大学論集8(5),1961年。)
(*)(参考：小林文次「セウトポリス—欧洲古典古代学界の展望(1)」古代学10,1961年。)
(*)(参考：筑摩書房編『地中海世界』世界の歴史4,昭和36年。)
---- 太田秀通「英雄時代とポリスの成立」
清永昭次「前期僭主制と過渡期のポリス社会」
三浦一郎「ギリシア民主制期の政治と社会」
井上一「ポリスの衰退とマケドニアの抬頭」
栗野頼之祐「アレクサンドロス」
柘植一雄「ヘレニズム時代のエジプト」
井上智勇「共和制ローマの発展」
浅香正「ローマ共和制期における海外発展と独裁政治の成立」
高橋秀「ローマ帝政期の社会」
秀村欣二「キリスト教とヘレニズム」
村川堅太郎「貴族と農民：ヘシオドスを中心に」
久保正彰「ギリシア文化：ヒロイズムの伝統と民主主義」
馬場天明「ローマの奴隷制」
三笠宮崇仁「死海文書」
(*)(参考：高津春繁・秀村欣二・村川堅太郎・田中美知太郎「座談 地中海世界をめぐって」(筑摩書房編『地中海世界』世界の歴史4,所収,昭和36年。)
(*)(参考：田中美知太郎・今西錦司「対談 世界文明と日本文化」中央公論7月号,1961年。)
(*)(参考：モア著・エラスムス著・ベーコン著・カムパネラ著/本多顕章他訳『ユートピア・痴愚神礼讃(抄)・ニュー・アトランチス・太陽の都』世界大思想全集1,社会・宗教・科学思想篇,河出書房新社,1961年。)

(*)(参考:篠田一士「アレクサンドリアにおけるフォースター(世界文学展望)」文学界15(11),1961年。)
(*)(参考：ロレンス・ダレル/高松雄一訳『バルタザール』世界新文学双書,アレキサンドリア4-2,河出書房新社,1961年。)
(*)(参考：田澤政方「ISSA第14回総会に出席して―イスタンブール・タウンホールにて」週刊社会保障180,1961年。)
(*)(参考：上野英雄「ヘルダー「旅日記」試論：Seeleの問題を中心に」富山大学文理学部文学紀要11,1961年。)
(*)(参考：玉林憲義「ゲエテの「イタリー旅行」」独仏文学研究4,1961年。)
(*)(参考:菊池栄一『イタリアに於けるゲーテの世界』内田老鶴圃,1961年(→1978年,再訂版)。)
(*)中村善也「ローマの一角から」新潮58(8),1961年。
(*)住谷悦治「ローマの思い出―オリンピックのころ」(12/8)(同『あるこころの歴史』所収,同志社大学篠部奨学金出版会,昭和43年。)
(*)登石登「イタリアの旅(1-4)」自由と正義12(9-12),1961年。
(*)武藤智雄「イタリア滞在記」法制史研究11,1961年。
(*)(参考：島田謹二教授還暦記念会編『比較文学比較文化：島田謹二教授還暦記念論文集』弘文堂,1961年。)
----玉虫左知夫「〈イタリア紀行〉考察」
(*)小林甲喜「イタリア紀行―食べ物を中心として」ノートルダム清心女子大学家政学部時報6,1961年。
(*)(参考：八田良太郎「シュペングラーとテンニエス」(同志社大学人文学会)人文學53,1961年。)
(*)(参考：山本新「トインビー批判」(神奈川大学人文学会)人文研究16,1961年。)
(*)(参考：A.J.トインビー/秀村欣二・清永昭次訳『ヘレニズム：一つの文明の歴史』紀伊国屋書店,1961年。)
(*)(参考：久保正彰「A.J.トインビー著秀村欣二・清永昭次訳「ヘレニズム」--一つの文明の歴史」歴史教育研究21,1961年。)
(*)(参考：日高六郎監修『マス・レジャー論』(ヨハン・ホイジンガ/早川善治郎訳「文明における「あそび」の役割」)マス・レジャー叢書2,紀伊国屋書店,1961年。)
(*)(参考：嘉門安雄・中山公男解説/美術出版社編集制作『初期キリスト教とビザンチンの美術』美術出版カラースライド4,西洋美術史,美術出版社,美術出版社サービスセンター(発売),1961年。)
(*)村田潔編『世界美術大系・第5(ギリシャ美術)』(村川堅太郎他)講談社,1961年。
(*)(参考：高野長生「〈書評〉『キリスト教文化の歴史的現実』：人間生活更新の道(ドーソン,C.)」ソフィア10(3),1961年。)
(*)(参考：W.ジョンストン「〈書評〉『神学者ニューマン』(ワルグラヴェ,J.H.)」ソフィア10(3),1961年。)
(*)(参考：橋口倫介「〈書評〉『十字架の世界制覇(ゼーエイ,ジャック)」ソフィア10(4),1961年。)
(*)(参考：野口啓祐「〈書評〉西欧における人間の冒険」ソフィア10(4),1961年。)
(*)(参考：下村寅太郎『ヨーロッパ遍歴：聖堂・画廊・広場』未来社,1961年(→1971,1983年,

再版))。
(*)(参考：下村寅太郎『レオナルド・ダ・ヴィンチ』勁草書房,1961年。)
(*)(参考：澤柳大五郎「東ベルリンの美術館」世界190,1961年。)
(*)(参考：インゲフォン・ヴィーゼ作/大塚勇三訳『夢を掘りあてた人：トロイアを発掘したシュリーマン』岩波少年少女文学全集22,岩波書店,1961年(→1969年,1977年,岩波の愛蔵版)。
(*)(参考：筑摩書房編集部編『イスラム文化の発展』世界の歴史7,筑摩書房,1961年。)
(*)芳賀徹「明治初期一知識人の西洋体験—久米邦武の米欧回覧実記」(『島田謹二教授還暦記念論文集・比較文學比較文化』所収,弘文堂,昭和36年。)
(*)倉持徳一郎編『石田幹之助先生著作目録稿』倉持徳一郎,1961年。
(*)(参考：橘西路『音楽の文化史—音楽の起源』角川書店,昭和36年。)
(*)(参考：ヨゼフ・ビーバー/稲垣良典訳『余暇・文化の基礎』エンデルレ書店,1961年。)
(*)(参考：旺文社編『世界人名事典』旺文社,1961年。)
(*)(参考：『世界の故事名文句事典』自由国民社,1961年。)
----呉茂一「ギリシア・ローマの神話から出た言葉」
小林珍雄「キリスト教から出た言葉」
板倉松正「古代オリエントの神話から出た言葉」
三浦一郎「古代史の物語の18項」
金沢誠「古代史の物語の18項」
平田次三郎「西洋の文芸から出た言葉」
(*)荒木良雄『中世鎌倉室町文学事典』日本文学事典,春秋社,1961年(→1966年,増訂版)。
(*)金沢康隆「百合若物」(早稲田大学坪内博士記念演劇博物館編『演劇百科大事典・第5巻』所収,平凡社,1961年。)
(*)泉井久之助他『日本文学辞典』数研出版,1961年(→1963年,再版。→1966年,再刊)。
(*)(参考：橋本吉郎『英独羅日 化学略号記号辞典』三共出版,1961年。)
(*)(参考：齋藤勇編『研究社英米文学辞典』研究社出版,増訂新版,1961年(←昭16年,初版)。)
(*)(参考：玉城肇編『明解西洋思想家辞典』東西堂,1961年。)
(*)(参考：常葉隆司他責任編集『聖書辞典』いのちのことば社,1961年。
(*)(参考：桑田秀延・手塚儀一郎・松本卓夫監修/相浦忠雄他編『聖書事典』日本基督教団出版社,1952年。)
(*)(参考：神田盾夫「『旧約聖書神学辞典』への寄稿」(小塩力・山谷省吾編,新教出版社),1961年。)
(*)(参考：福原麟太郎編『英語教育事典』研究社辞書部,1961年。
(*)石井光治「英和辞典の歴史(1,2)」神戸外国語大学論叢11(5),1961年/12(5),1962年。
(*)五島忠久「井上和英大辞典についての二三の考察」英語英文学評論と研究3,1961年。
(*)石井光治「英和辞典の歴史(1,2)」神戸外国語大学論叢11(5),1961年/12(5),1962年。
(*)池田哲郎「オランダ語研究史序説—江戸時代に輸入された辞典と文法書」福島大学学芸学部論集12(2),1961年。
(*)池田哲郎「本邦における仏(フランス)学の創始」蘭学資料研究会研究報告97,1961年。
(*)(参考：植田兼義「Lutherの訳業について」ドイツ文学27,1961年。)
(*)(参考：太田秀通「ミケーネ文字の解読」古代学9(4),1961年。)
(*)(参考：蛭沼寿雄「ホワットモー「言語」について」英米文学5(1),1961年。)

(*)(参考：高津春繁「言葉の問題」思想442,1961年。)
(*)(参考：田中秀央『言語学雑談』国民会館,国民会館教養講座1,1961年。
(*)(参考：笠原昇「ラテン語の発音」(関西外国語短期大学)研究論集6,1961年。)
(*)(参考：呉茂一「ラテン語における重母音の消長について」名古屋大学文学部研究論集25,1961年。)
(*)(参考：上野景福「英語の中のラテン語」英語研究11月号,1961年。)
(*)(参考：田中美輝夫「New Englishi Bibleの英語(1-4)」山口大学文学会誌11月号,1961年/12月号,1962年/12月号,1963年/12月号,1964年。)
(*)(参考：鈴木成高「カロリング・ルネサンス」史観61,1961年。)
(*)矢島文夫「古代伝説と文学—土居光知氏の試論集をめぐって」近代文学16(1),1964年。
(*)(参考：島田謹二「英米における古典教育」國文學：解釈と教材の研究6(2),1961年。)
(*)杉本つとむ「近代日本語の成立—洋学との関連において」国語学46,1961年。
(*)池田哲郎「西洋名辞の漢字訳について」蘭学資料研究会研究報告88,1961年。
(*)海老澤有道『南蛮学統の研究』東京大学,文学博士[報告番号不明],1961年。)
(*)天理図書館編『古活字本目録』天理大学出版部,1961年。
(*)(参考：松田毅一「在南欧日本関係文書探訪記(1-3)」日本歴史154,155,156,1961年。)
(*)(参考：松田毅一「在南欧日本文書目録」ビブリア天理図書館報19,1961年。)
(*)(参考：松田毅一「南欧図書館文書館雑録」ビブリア天理図書館報21,1961年。)
(*)(参考：ダンテ著；レオナルド・ダ・ヴィンチ著；マキャヴェルリ著/黒田正利他訳『俗語論；帝政論,絵画論,君主論』河出書房新社,1961年。)
(*)(参考：高津春繁・高津久美子『イリアス・オヂュッセイア』少年少女世界文学全集2,古代中世篇2[附・聖書物語],講談社,1961年。)
(*)(参考：船木枳・くろさわごろ絵『ぱんどらのはこ：ギリシア神話[附・いそっぷ]』学年別児童文学全集1・2年,日本書房,1961年。)
(*)(参考：木村徳三編・久米宏一え『ギリシァしんわ』世界幼年文学全集,宝文館,1961年。)
(*)(参考：ブルフィンチ/野上弥生子訳『ギリシア・ローマ神話』岩波少年少女文学全集1,岩波書店,1961年。)
(*)(参考：串田孫一『ギリシア神話』筑摩書房,1961年(→昭47年,雪華社。→昭52年,旺文社文庫。→昭58年,弱視者用大活字本シリーズ,東京ユリユール,小学館[発売]。
(*)山口精二「〈書評〉毒舌のミューズ(カーナン,アーヴィント)」ソフィア10(2),1961年。)
(*)(参考：関根正雄『舊約聖書』12版,創元選書176,1961年。)
(*)(参考：ミラー・バロウズ/新見宏・加納政弘訳『死海写本』山本書店,1961年。
(*)(参考：浅野順一編『パウロ研究：松本卓夫博士古稀祝賀論文集』創文社,1961年。)
(*)(参考：荒井献「コプト語グノーシス文書研究の現状」(日本宗教学会)宗教研究35(2),1961年。)
(*)(参考：池谷彰「欽定訳聖書のシンタックスの一面—原典と比較して」秋田大学紀要11,1961年。)
(*)(参考：清水護「The Bible in Arnold Toynbee」(ICU編)『湯浅八郎博士古稀記念論文集』所収,1961年。)
(*)(参考：神田盾夫「C.H.ドッド」興文4月号,1961年。)
(*)山本泰次郎編『使徒行伝・ロマ書』[内村鑑三聖書註解全集11,]教文館,1961年。

(*)(参考：新田一郎「H.Doerries；Constantine and Religious Liberty,translated by R.Bainton」西洋史学49,1961年。)
(*)(参考：J.ワイデンシリング/柴田千頭男訳『初代教会史：使徒行伝』コンコーディア社,1961年(→1962年,再版。)
(*)(参考：半田元夫「マルセル・シモン著「原始教会におけるステパノとヘレニスト」」史學雑誌70(4),1961年。)
(*)(参考：原勲「東西両教会の分裂とその歴史的背景について(天野元之助博士・還暦記念号)」(大阪市立大学文学会)人文研究12(8),1961年。)
(*)(参考：今道友信「イデアとテクネー」理想339,1961年。)
(*)(参考：村井實『教育的思惟の性格：ソクラテス研究』広島大学,文学博士[報告番号不明],1961年。)
(*)(参考：式部久『プラトン倫理の基礎構造の研究』広島大学,文学博士[報告番号不明],1961年。)
(*)(参考：松本厚『アリストテレスの自然学の研究』京都大学,文学博士[報告番号不明],1961年。)
(*)(参考：竹内豊「they stand in their ancient strength—反アリストテレス的考察を主として」北海道英語英文学7,1961年。)
(*)(参考：坂口昴吉「オックスフォードにおけるアリストテレス禁令について」史学34(1),1961年。)
(*)(参考：田之頭安彦「プロチノスに於けるテオーリアーの問題」哲學研究41)8),1961年。)
(*)(参考：飯沼絹子「プロチヌスとウパニシャッドにおける神秘思想—者と梵を中心に」比較文学研究2,1961年。)
(*)(参考:ルクレーティウス著/樋口勝彦訳『物の本質について』岩波文庫,岩波書店,1961年。)
(*)(参考：内田芳明『アウグスティーヌスと古代の終末』弘文堂,1961年。)
(*)(参考：内田芳明「西欧精神の基本問題—ウェーバーとトレルチのばあい」商経法論叢11(4),1961年。)
(*)(参考：稲垣良典『トマス・アクイナスの共通善思想：人格と社会』有斐閣,1961年。)
(*)(参考：山田晶「トマス・アクィナスにおける「ラチオ」の研究(序説)(坂田教授退任記念号)」人文研究12(4),1961年。)
(*)(参考：山田晶「トマスにおける「非有」のイデアについて—De veritate q.3,a.6.」中世思想研究 4,1961年。)
(*)(参考：山田晶「神の現存と認識—アウグスティヌスとトマスにおける(1,2)」哲学研究41(6,7),1961年。)
(*)(参考：佐藤繁彦『ロマ書講解に現れたるルッターの根本思想』改訂版,聖文舎,1961年。)
(*)(参考：小場瀬卓三『ディドロ研究(上下)』白水社,1961年。)
(*)(参考：船山信一『ヘーゲル哲学の体系と方法』(「下田次郎訳『ケーベル・哲学要領』におけるヘーゲル弁証法の理解」)未来社,1961年。
(*)(参考:尾田幸雄「〈論説〉ヘーゲル仕置きにおけるロゴス解釈の変遷」倫理學年報10,1961年。)
(*)(参考：田中加夫「原初期ギリシャとハイデッガー」哲学研究470,昭和36年。)
(*)(参考:エマソン/酒本雅之訳『代表的日本人』(プラトン等)エマソン選集6,日本教文館,1961年。)

(*)(参考：ハイデッガー/木場深定訳『真理の本質について；プラトンの真理論』ハイデッガー選集11,理想社,1961年。)
(*)藤澤令夫「現代における哲学の課題—プラトニズムより見た現代哲学の一形態」哲学年報23,昭和36年。)
(*)(参考：村井實『教育的思惟の性格：ソクラテス研究』広島大学,文学博士[報告番号不明],1961年。)
(*)(参考：ルクレーティウス/樋口勝彦訳『物の本質について』岩波文庫, 岩波書店,1961年。)
(*)(参考：ヒルティ/草間平作訳『幸福論(第1部)』改訳,岩波文庫,岩波書店,1961年。)
(*)(参考：ヒルティ/秋山英夫訳『希望と幸福：ヒルティの言葉』現代教養文庫357,社会思想研究会出版部,1961年。)
(*)(参考：小塩節「眠られぬ夜のために」理想339,1961年。)
(*)(参考：小林珍雄編『岩下神父の生涯』ダヴィッド社,1961年。)
(*)(参考：川田熊太郎『哲学智は何か』学生教養新書,弘文堂,1961年。)
(*)(参考：田中美知太郎「人文主義の抵抗」新潮58(5),1961年。)
(*)(参考：井上忠「哲学の方法の誕生」理想141,1961年。)
(*)出隆「桑木厳翼先生のあれこれ」理想333,1961年。)
(*)出隆「哲学50年を語る(1-61)」理想338-343,1961年//344-355,1962年//356-363,1963年//380-391,1965年//392-399,1966年//452-463,1971年//482-486,1973年。
(*)松下正寿「「無知」にいどむ哲人 田中美知太郎氏を語る」讀賣新聞朝刊6/11,1961年。
(*)(参考：植田敏郎『ビール世界地図』朝日麦酒,1961年。)
(*)(参考：織田武雄『古代地理学史の研究：ギリシア時代』京都大学,文学博士[報告番号不明],1961年。)
(*)鮎澤信太郎「利瑪竇の世界図を見た江戸時代の人々」日本歴史156,1961年。
(*)鮎澤信太郎「江戸時代の世界図について—横浜市立大学図書館所蔵の古世界図」蘭学資料研究会研究報告90,1961年。
(*)小野菊雄「近世日本地理学の性格と現代への意義—山片蟠桃・司馬江漢を地石井にして」史林44(3),1961年。
(*)池田哲郎「江戸時代のオランダ系「地理」--日本見在蘭書目録」福島大学学芸学部論集12(1),1961年。
(*)古今書院編集部編『社会科標準地図』古今書院,1961年。)
(*)「各界新地図・学界 12 社会科学・哲学・思想・1 転落した京都学派」(田中美知太郎)讀賣新聞夕刊3/13,1961年。
(*)「各界新地図・西洋史」(村川堅太郎)讀賣新聞夕刊4/8,1961年。
(*)亀井高孝「戦前教科書雑感」歴史教育研究19,1961年。)
(*)(参考：藤縄謙三「ツキュディデス伝記史料の訳註(1,2)」古代学9(4),10(1),1961年。)
(*)(参考：浅香正「古代ローマの本質—古代史理解の一方法」文化史研究13,1961年。)
(*)(参考：仲栄太郎「ランケの世界史像」史学会報9,1961年。)
(*)(参考：篠田一士「ギボン再読—刊行された縮刷版「ローマ帝国衰亡史」の各種の批判」文學界15(1),1961年。)
(*)(参考：永嶋大典「エドワード・ギボン小伝」(神戸大学「近代」発行会)近代31,1961年。)
(*)(参考：石母田正他編『古代史学序説』古代史講座1,學生社,1961年。)
----- 藤縄謙三「ギリシア・ローマにおける歴史学の成立と衰退」

秀村欣二「近代ヨーロッパにおける古典古代史研究の発展」
太田秀通「ミケーネ文字の解読」
(*)(参考：原随園「歴史の解釈」立命館文學193,1961年。)
(*)(参考：大石誠「古代史学習のいくつかの問題(社会)―私の授業研究」教育評論173,1961年。)
(*)(参考：『現代世界戯曲集』(ジロドー/鈴木力衛訳「トロイ戦争は起こらない」)特製豪華版,河出書房新社,1961年。)
(*)(参考：村川堅太郎責任編集『ギリシアとローマ』世界の歴史2,中央公論社,1961年。)
(*)久保正彰「村川堅太郎・秀村欣二「世界の歴史2」--ギリシアとローマ」歴史教育研究19,1961年。)
(*)(参考：山崎宏編『新制世界史研究』金子書房,1961年。)
(*)(参考：「史学文献目録」史學雑誌70(1),1961年。)
(*)(参考：弓削達「Vita Constantini研究の進展―学界動向」史學雑誌70(3),1961年。)
(*)「史学文献目録―西洋史」史學雑誌70(5),1961年。)
(*)(参考：「1960年の歴史学界―回顧と展望」史學雑誌70(5),1961年。)
(*)鈴木成高「戦後史学の動向―公開講演会抄録」上智史学6,1961年。
(*)(参考：土井正興「「世界史」の氾濫」歴史評論131,1961年。)
(*)(参考：加藤一朗「学界動向―古代オリエント・ギリシア・ローマ(1960.1~2)」西洋史学49,1961年。)
(*)衣笠茂「戦後のわが国におけるギリシア史研究--戦後西洋史学の回顧と展望」西洋史学50,1961年。
(*)(参考：一柳俊夫「ア・イ・テュメネフの遺稿―「東方とミケネ」について」歴史学研究249,昭和36年。)
(*)(参考：土井成興「バガウダエ運動の研究をめぐる諸問題」歴史学研究258,昭和36年。)
(*)角田文衛「柴田承桂博士と古代学」古代学10(1),1961年。
(*)(参考：尾崎寄春「詩劇におけるモラルとポゥエトリ---「アントニとクレオパトラ」の場合」(京都大学教養部)人文7,1961年。)
(*)(参考：エミール・ルートヴィッヒ/金沢誠・山田修訳,ピエール・ジュゲー/栗野頼之祐訳,スエトニウス/風間喜代三・田中利光訳『ナポレオン,ジンギスカン実録,アレクサンダー大王,ジュリアス・シーザー』世界ノンフィクション全集22,中野好夫他編,筑摩書房,1961年(→1968年,再版)。)
(*)(参考：飯田鼎「書評 エリック・ウォルドマン著スパルタクス団の蜂起1958；ルドルフ・コウバー著 革命の失敗1955」三田学会雑誌54(1),1961年。)
(*)(参考：土井正興「「スパルタクス反乱の政治史的意義についての覚え書」法学志林58
(*)(参考：祇園寺信彦「ローマ最古の奴隷」(東北大学文学会)文化25(3),1961年。)
(*)(参考：エミール・ルードウィヒ/金沢誠訳『ナポレオン伝』東京創元社,1961年。)
(*)(参考：沢田昭夫「課題としての「宗教改革」--一つの史学史的反省」アカデミア30,1961年。)
(*)松島栄一「箕作元八の「在独日記」について―近代史学史の一齣」史観61,1961年。
(*)(参考：阿部政雄「不死・永生・不生―東西における死の自覚」神学研究51,昭和36年。)
(*)太田三郎「日英比較文学誌―高山樗牛を中心に」(研究社)新英米文学史講座14,1961年。)
(*)(参考：森山重男「悲劇文学発生序説」(東京都立大学)人文学報25,1961年。

(*)(参考：加藤衛「演劇―非アリストテレス的演劇への傾き」音楽芸術19(4),1961年。)
(*)(参考：『世界文学大系1(ホメーロス)』筑摩書房,1961年。)
----「オデュッセイア」高津春繁訳
「イーリアス」呉茂一訳
「ホメーロス二編」井上究一郎訳
高津春繁「解説」
(*)(参考：『世界文学大系64（古代文学集）』筑摩書房,1961年。)
----ロンゴス：「ダフニスとクロエ」呉茂一訳
クセノポン：「エペソス物語」松平千秋訳
ルキアノス：「ルキアノス短編集」呉茂一・高津春繁訳
アルキプローン：「遊女の手紙」呉茂一訳
タティオス：「レウキッペーとクレイトポーン」引地正俊訳
ペトロニウス：「サテュリコン」岩崎良三訳
オウィディウス：「アルス・アマトリア」樋口勝彦訳
呉茂一訳「ギリシア・ローマ詩抄」
ツインメルマン「ギリシアの小説」久保正彰訳
呉茂一「解説」
(*)(参考：島田謹二教授還暦記念会編『比較文学比較文化：島田謹二教授還暦記念論文集』弘文堂,1961年。)
----呉茂一「メーディアとメドューサについて」
(*)(参考：松平千秋「ギリシア小説の読者へ」筑摩書房世界文学大系64「古代文学集」月報,1961年。)
(*)(参考：青木巌「ロンギノス『文学論』(上下)」ソフィア10(1,2),1961年。)
(*)(参考：呉茂一・高津春繁・村川堅太郎「座談 ホメーロスをめぐって」(筑摩書房版『世界文学大系1 月報53』,1961年。)
(*)(参考：三木利英「ソポクレスの悲劇について―史学史的一考察」鳥取大学学芸学部研究報告,人文科学11(2),1961年。)
(*)(参考：鈴木一郎「Horatius以前のLatin Satireの性格について」(青山学院大学)論集2,1961年。)
(*)(参考：工藤直太郎『ヨーロッパ文芸史』早稲田大学出版部,1961年。)
(*)(参考：クラブント/秋山英夫訳・G.ミショー/齋藤正二訳・A.ベネット/藤本良造訳・H.ヘッセ/石丸静雄訳・C.D.ルーイス/深瀬基寛訳『世界文学三十六講・文学とは何か・文学その味わい方,世界文学をどう読むか・詩を読む若き人々のために』世界教養全集13,平凡社,1961年(→1973年,2版。→1975年,新版。)
(*)(参考：ヘッセ/石丸静雄訳『世界文学をどう読むか』角川文庫,角川書店,1961年。)
(*)(参考：矢野峰人『新・文学概論』大明堂,1961年。)
(*)(参考：大和資雄「文芸思潮(英・米・ラテン=アメリカ)」(『文学入門』所収,小峰書店,1961年。)
(*)(参考：和田敏英「英国ユートピア文学の誕生―あるひとつの独断的展望」山口大学文学会誌12(2),1961年。)
(*)平井正穂「日本におけるイギリス文学研究」文学3月号,1961年。
(*)(参考：広瀬捨三「チョーサーとダンテ」関西大学文学論集10(4),1961年。)

(*)(参考：片山佳子「15世紀フィレンツェのプラトニズム」史林44(5),1961年。)
(*)(参考：ダンテ/竹友藻風訳『新生』垂水書房,1961年。)
(*)(参考：齋藤祐蔵「エリザベス時代の英演劇に与えたイタリア文学の影響」(東京イタリア文学会)イタリア文学会誌11月号,1961年。)
(*)(参考：野上素一「二十世紀前半におけるイタリアの知的貢献(1)英文学研究」イタリア学会誌9,1961年。)
(*)(参考：黒田健二郎「フランシス・ベーコン—文芸復興の人」愛媛大学紀要 第1部・人文科学6(2),1961年。)
(*)(参考：吉田健一「シェイクスピア」學燈58(11),1961年。)
(*)(参考：土方辰三「シェイクスピア版本の歴史」(『英語英文学史講座3』所収,研究社,1961年。)
(*)(参考：中村六男「An Apprecation of Antony and Cleopatra from the Standpoint of Its Three Principal Themes」信州大学紀要28,1961年。)
(*)(参考：栗駒正和「An Essay on the Languge and Imagery of Antony and Cleopatra」関西大学英語英文学論集3,1961年。)
(*)(参考：モローゾフ/中本信幸訳『シェイクスピア研究』未来社,1961年。)
(*)(参考：海江田進「シェイクスピア劇と地理」東京外国語大学論集8,1961年。)
(*)(参考：中村六男「An Appreciation of Antony and Cleopatra from the Standpoint of Its Three Principal Themas」信州大学紀要28,1961年。)
(*)(参考：尾崎寄春「詩劇におけるモラルとポゥエトリー--「アントニイとクレオパトラ」の場合」(京都大学教養部)人文7,1961年。)
(*)(参考：福原麟太郎「シェイクスピア物語：チャールズ・ラム傳(8)」(丸善)聲10(終刊号),1961年。)
(*)(参考：真下泰利「ラムのシェイクスピア(1,2)」英語教育,2,3月号,1961年。)
(*)(参考：小林象三「A Linguistic Approach to Shakespeare's Julius Caesar」大阪工業大学紀要・人文編6(1),1961年。)
(*)(参考：茗荷幸也「アントニオとクレオパトラ」と「恋三昧」Shakespeare's "Antony and Cleopatra" and Dryden's "All for Love"」金城学院大学論集12月号,1961年。)
(*)(参考：村岡勇「Phoenix TheaterのCariolanas」英語青年107(4),1961年。)
(*)(参考：清原良子「Sir PhilipSidneyのArchadianについて」アルビオン8,1961年。)
(*)(参考：土屋哲「ユトピア文学第2章—F.ベーコン『ニュー・アトランティス』について」(明治大学)英文学研究4月号,1961年。)
(*)(参考：宮西光雄『ミルトン研究』あぽろん社,1961年。)
(*)(参考：安西光雄「エンプソンのミルトン論」英語青年107(11),1961年。)
(*)(参考：赤川裕「神話としてのParadise Lost--KermodeのMilton論をめぐって」明治学院論叢(64・65),1961年。)
(*)(参考：柴田徹士「Mrs.DallowayとThe Odyssey」(V.ウルフ)大阪大学教養部研究集録,人文・社会科学9,1961年。)
(*)(参考：植木錬之助「ペイタアの人間研究」基督教文化学会年報8,1961年。)
(*)(参考：内田義郎「PaterのGoethe関心の意味」CAIRN 2,1961年。)
(*)(参考：内田義郎「Walter Pater—初期の作品の研究」(『中山教授還暦記念英米文学論叢』

所収,松柏社,1961年。)
(*)(参考：筧寿雄「ウォルター・ペーター素描—死の意識」(『中山教授還暦記念英米文学論叢』所収,松柏社,1961年。)
(*)(参考：杉山玉朗「ペイターの文体論」(早稲田大学英文学会)英文学19,1961年。)
(*)(参考：吉良松夫「ペイタアの二つの作品」(東北大学教養部)文科紀要8,1961年。)
(*)(参考：田部重治「ペーターの芸術批評」(東洋大学)白山英文学8,1961年。)
(*)(参考：山川鴻三「理想主義者としてのArnoldとPater」The Albion 8,1961年。)
(*)(参考:渡辺純「キーツのエンディミオン解釈をめぐって」京都学芸大学学報A[文科],1961年。)
(*)(参考：本堂正夫「キーツの内部世界」北海道大学文学部紀要10,1961年。)
(*)(参考：田村英之助「ギリシャの壺のばあい—キーツ小論」オペロン16,1961年。)
(*)(参考:菊池亘「「ギリシャの壺によせるオード」の末尾二行について」オペロン5(2),1961年。)
(*)(参考：竹中靖治「キーツにおける創作理念の諸相について」英米研究3,1961年。)
(*)(参考:安永義夫「洞窟の詩人たち—シェリーとキーツ」広島大学英語英文学研究7(2),1961年。)
(*)(参考：J.Keats/with introduction and notes by Takeshi Saito,“Endymion：a poetic romance”,英文学叢書,研究社,1961年。)
(*)(参考：西台美智雄「バイロン研究序説—自我と献身」ヨーロッパ文学研究1,1961年。)
(*)杉浦暢「薄田泣菫とキーツ」国文学6-14,1961年。
(*)杉浦暢「泣菫に及ぼしたキーツの影響」比較文学4,1961年。
(*)(参考：安永義夫「洞窟の詩人たち(シェリーとキーツ)」英語英文学研究7(2),1961年。)
(*)(参考:薬師川虹一「キーツ—その世界を支えるもの」立命館大学外国文学研究4,1961年。)
(*)(参考：桂田利吉「Sir C.M.Bowra」英語青年107(1),1961年。)
(*)(参考：西脇順三郎「文人エリオット」英語青年107(6),1961年。
(*)(参考：阿部保「ティ・エス・エリオットの韻文論：詩と韻文」美学44,1961年。)
(*)(参考：島津昭「イェイツとエリオット」(神奈川大学人文学会)人文研究18,1961年。)
(*)(参考：加納秀夫「イエイツ研究」英語青年107(10),1961年。
(*)(参考：新倉俊一「“Sailingt to Byzantium”」明治学院大学L&L 6,1961年。)
(*)(参考：佐藤晟「イエーツの詩のプラトニック・シンボルについて」新潟大学人文科学研究20,1961年。)
(*)(参考：ギッシング/平井正穂訳『ヘンリ・ライクロフトの私記』岩波文庫,岩波書店,1961年。)
(*)(参考：小野協一『エリオット入門』南雲堂,1961年。)
(*)(参考：加藤孝「The Quest for the Genuine Self—M.Arnold and the Modern World」英文学研究38(1),1961年。)
(*)(参考：由良君良「George Steiner and/or D.H.Lawrence」英文研究16,1961年。)
(*)(参考：由良君良「THE ANCIENT MARINERのモラル解釈におけるINTERNATIONAL FALLACYの試み」英文学研究37(2),1961年。)
(*)(参考：目賀田守公「A.E.Houseman and the Traditoin of the Ephithalamium」神戸外国語大学論叢12(6),1961年。)
(*)(参考：福原麟太郎「平田禿木の南英」(雪華社)文学散歩5,1961年。

(*)(参考：篠田一士「イタリアにおける「ユリシーズ」--初めて完訳されたこの作品がイタリア文学に投じた波紋(世界文学展望)」文學界15(7),1961年。)
(*)亀井秀雄「伊藤整とジョイス」国文学4月号,1961年。
(*)(参考：守屋冨生「アーノルド・ベネットの特質--「文学趣味」と「作家家業」を中心に」英文学19,1961年。)
(*)島田謹二「比較文学五十年」英語青年3月号,1961年。
(*)平川祐弘「比較文学,比較文化」學燈9月号,1961年。
(*)(参考：野上素一「イタリアにおける英文学研究」英語青年109(7),1961年。)
(*)(参考：筑摩書房編集部編・会田雄次他『ルネサンスと宗教改革』世界の歴史9,筑摩書房,1961年。)
(*)(参考：木間瀬精三「ヤーコプ・ブルクハルトと《イタリア・ルネッサンスの文化》」聖心女子大学論叢15,1961年。)
(*)(参考：森田鉄郎「盛期ルネッサンスの文化動向と繁栄の性格」(日伊協会)日伊文化研究3,1961年。)
(*)(参考：黒田正利「フィレンツェとダンテ」日伊文化研53,1961年。)
(*)(参考：松田智雄責任編集『近代への序曲』世界の歴史7,中央公論社,1961年。)
(*)(参考：近藤恒一「ペトラルカのモラリスム：雄弁の問題をめぐって」イタリア学会誌9,1961年。)
(*)(参考：池田廉「ペトラルカ「詩集」の研究—作品構成について」イタリア学会誌10,1961年。)
(*)(参考：渡辺友市「[最近イタリアの研究動向]ペトラルカ研究」イタリア学会誌10,1961年。)
(*)参考：清水純一「ブルーノ哲学の形成：修道院からの脱出まで」広島大学文学部紀要19,1961年。)
(*)(参考：福山三郎「悲劇《アンドロマック》の位置」(京都大学)Francia 5,1961年。)
(*)(参考：渡辺一夫『へそ曲がりフランス文学』新書版,光文,1961年。)
(*)(参考：白井浩司『入門フランス文学史』文化新書907,有信堂,1961年(→1969年,改訂版)。)
(*)(参考：島本晴雄「フランス比較文学の研究動向」(おうふう)言語と文芸3(5),1961年。)
(*)(参考：『世界文学大系8—チョーサー・ラブレー』筑摩書房,1961年。)
(*)(参考：広島敏史「モンテーニュの《自然》—Conscience moraleについて」フランス文学研究1961(5),1961年。)
(*)(参考：R.ヴーテノー「世界解釈とモラリスティック」ドイツ文学26,1961年。)
(*)(参考：吉川浩「ラ・ブリュイエールの文学史的位置--「ル・カラクテール」におけるポルトレの発展を中心に」人文学54,1961年。)
(*)(参考：『北九州大学開学五十周年記念論文集：外国文学・語学論集』(坂本勲「《自制心》について：パスカル,ラ・ロシュフコー,ラ・ブリュイエール」,提山淑郎「ホーフマンスタールの「エレクトラ」悲劇について」)北九州大学,1961年。)
(*)(参考：齋藤忍随「Un Roseau Depensant」理想339,1961年。)
(*)(参考：村松剛「あるユマニストの肖像—特集 アルベール・カミュの人と作品」文學界14(3),1961年。)
(*)(参考：中村光夫「アフリカ育ち—特集 アルベール・カミュの人と作品」文學界14(3),1961年。)

(*)(参考：マルティン・ハイデッガー/菊池栄一訳『芸術のはじまり』ハイデッガー選集12,理想1961年。)
(*)(参考：ゲーテ/菊池栄一他訳『評論集；グストヒェンへの手紙；ゲーテ格言集；ゲーテとの対話抄』ゲーテ全集11,人文書院,1961年。)
(*)(参考：トーマス・マン他/小牧健夫他編/佐藤晃一他訳『二十世紀におけるゲーテ像』ゲーテ全集12,人文書院,1961年。)
(*)(参考：林猪三「ゲーテの芸術観について：覚え書」独仏文学研究11,1961年。)
(*)(参考：高橋巖「対象的思惟とゲーテの古典主義的芸術観の成立」哲學40,1961年。)
(*)(参考：大畑末吉「ゲーテ：ゲーテ哲学の根本問題」一橋論叢45(4),1961年。)
(*)(参考：新井靖一「ゲーテ研究(1)古代ギリシアとその超克」(早稲田大学)ヨーロッパ文学研究1,1961年。)
(*)(参考：小野浩「ゲーテとヴィンケルマン—その古代的使命」(日本ゲーテ協会)ゲーテ年鑑3,1961年。)
(*)(参考：H.P.Müssle「Humanität in Goethes Iphigenie」(名古屋大学文学部)研究論集25,1961年。)
(*)(参考：松本仁助「ゲーテの少年童話「新パリス」」(同志社大学)人文學54,1961年。)
(*)參考：村井勇吾「フランスにおけるゲーテ理解」(関西学院大学)独仏文学研究4,1961年。)
(*)參考：福田英男「ゲーテと中国文学」比較文学4,1961年。)
(*)(参考：富士川英郎「ゲーテと日本文学」国文学：解釈と教材の研究6(14),1961年。)
(*)(参考：川崎芳隆「ヘッベルにおける悲劇的罪過」ドイツ文学26,1961年。)
(*)(参考：ディルタイ/小牧健夫・柴田治三郎訳『体験と創作(下)』岩波文庫,岩波書店,1961年。)
(*)(参考：芳賀檀『ニイチェ論：文学的方法論』関西学院大学,文学博士[報告番号不明,1961年。]
(*)久保忠夫「萩原朔太郎とニイチェ—生田長江訳ニイチェ全集の影響について」国文学 解釈と教材の研究6(3),1961年。)
(*)長谷川泉「ニーチェと日本文学」国文学 解釈と教材の研究6(7),1961年。
(*)(参考：草薙正夫「実存哲学者としてのニーチェ—ヤスパースのニーチェ解釈について」人文研究21,1961年。)
(*)(参考：信太正三「ニヒリズムと永遠回帰」人文研究19,1961年。)
(*)(参考：ロベルト・シンチンゲル/小塩節編註『ヘルダーリン』ドイツ文豪物語3,第三書房,1961年。)
(*)(参考：高岡和夫「ヘルダーリンの中期の詩作についての一考察」東海大学紀要 文学部3,1961年。)
(*)(参考：高木勇「ヘルダーリンとフランス革命：その理想主義的精神について」人文論集12,1961年。)
(*)(參考：山田杉夫「ヘルダーリンのゲルマーニエン—半神詩人の誕生」ドイツ文学27,1961年。)
(*)(参考：金田民夫「文芸と美術との関係(序論)—レシングの「ラオコオン」論について」文化学年報11,1961年。)
(*)參考：丸山匠「晩年のハウプトマン--「アトレウス一族四部作」をめぐって」形成17,1961年。)

(*)(参考：中本匡「ヘッベルの戯曲「ギューゲスと彼の指輪」の悲劇性」Quelle 9,1961年。)
(*)(参考：三木正之「ハイデッガーのリルケ解釈覚書き」(神戸大学)近代31,1961年。)
(*)(参考：提山淑郎「ホーフマンスタールの「エディプスとスフィンクス」における生について」北九州大学外国語学部紀要2(5),1961年。)
(*)(参考：高橋健二『ヘッセ研究』慶應義塾大学,文学博士[報告番号不明],1961年。)
(*)佐藤義美編『日本イソップ』小峰書店,1961年。
(*)巽聖歌文『イソップえどうわ』小学館の幼年絵本19,小学館,1961年。
(*)岡本良雄文；岩本康之亮他絵『イソップの童話』小学館の絵本：こども絵本デラックス版3,小学館,1961年。
(*)荒牧鉄雄編訳注『やさしいイソップ』チョイスリーディングシリーズ11,日栄社,1961年。
(*)濱田廣介『イソップ物語』ひろすけ幼年童話文学全集8,集英社,1961年。
(*)罵納堂商店「日本版イソップ物語(やまがら)」林業経済14(10),1961年。
(*)越智治雄「矢野龍渓」(『人と作品 現代文学講座明治編I』所収,明治書院,1961年。
(*)海老澤有道「和魂洋才主義—近代日本の欠如せるもの」世紀136,1961年。
(*)関根文之助「日本基督教新教の精神史的考察」神道宗教24,1961年。)
(*)堀江保蔵「日本近代化と洋学および儒学」(京都大学)経済論叢87(2),1961年。
(*)中沢護人「和漢洋才と東西両洋の仲裁人」思想の科学35,1961年。
(*)石山洋「「玉石志林」の成立とその原典」蘭学資料研究会研究報告78,1961年。
(*)參考：ヒルティ/草間平作訳『幸福論(第1部)』(改版,岩波文庫,岩波書店,1961年。)
(*)參考：ヒルティ/秋山英夫訳『希望と幸福：ヒルティの言葉』(現代教養文庫357,社会思想研究会出版部,1961年。)
(*)(參考：神田孝夫「森鷗外とE.v.ハルトマン--『無意識哲学』を中心に」(シュヴェーグラー「哲学史要」,ケーベル等。『島田謹二教授還暦記念論文集・比較文學比較文化』所収,弘文堂,昭和36年。)
(*)高坂正顕・下村寅太郎・唐木順三・鈴木成高「座談会・西田幾多郎先生の思い出」(ケーベル)心14(7),1961年。
(*)Dr.Raphael Koeber,Kleine Schriften(ausgewhält u. erläutert von H.Shiga,Sanshusha,1961.
(*)志賀英雄「プラトンとケーベル博士と私」文化学年報11,1961年。
(*)高田求「近代日本哲学史の一断面—出隆をめぐって」唯物論研究(季刊)2,1961年。
(*)出隆「桑木厳翼先生のあれこれ」(ケーベル)理想333,1961年。
(*)飯島宗享「出隆における含羞と哲学」理想333,1961年。
(*)山崎正一「伊藤吉之助先生管見」理想333,1961年。
(*)岩山三郎「阿部次郎先生の思い出」理想333,1961年。
(*)吉沢伝三郎「和辻哲郎先生」理想333,1961年。
(*)「和辻哲郎年譜」理想337,1961年。
(*)竹内敏雄「審美家としての和辻先生」理想337,1961年。
(*)大島康正「和辻博士と西洋古代研究」理想337,1961年。
(*)井上光貞「和辻史学の課題」理想337,1961年。
(*)谷川徹三「和辻[哲郎]さんを偲ぶ」世界183,1961年。
(*)谷川徹三「イデエを見る眼--和辻[哲郎]さんを偲ぶ」思想443,1961年。
(*)中村元「和辻学の未来的意義」思想444,1961年。
(*)田中美知太郎「和辻[哲郎]さんのこと」新潮58(4),1961年。

(*)河野与一「和辻[哲郎]さんの思い出」」図書2月号,昭和36年。
(*)古川哲史「〈追悼〉和辻[哲郎]会長を悼む」倫理学年報10,1961年。
(*)和辻哲郎『自叙伝の試み』中央公論社,1961年(→1992年,中公文庫版)。
(*)講談社版『日本現代文学全集・全108巻』(昭和44年刊)。
(*)「呉[茂一]教授略歴・著作目録」名古屋大学文学部研究論集25,1961年。
(*)(参考：フィリップ・ヴァン・チーゲム/戸張智雄訳『世界の名優：俳優による演劇史』白水社,文庫クセジュ305,1961年。)
(*)(参考：小林文次「3.メソポタミヤのトーロスについて：穀倉神殿説を中心に」日本建築學會研究報告55,1961年。)
(*)(参考：小林文次「5001 オリュントスの住宅の古代住宅史上の意義(歴史・意匠」」日本建築学会論文報告集692,1961年。)
(*)(参考：小林文次「メソポタミアにおける古拙建築の成立と展開(論文について)(日本建築学会賞特集)」建築雑誌76(900),1961年。)
(*)(参考：小林文次「セウトポリス—欧洲古典古代学界の展望(1)」古代学10(1),1961年。
(*)(参考：柳沼重剛「“Truth about Knossos”の問題：Palmer教授の声明とその反響」西洋古典學研究9,1961年。)
(*)(参考：松平千秋「F.I.E.Cだより」西洋古典學研究9,1961年。)
(*)河野与一「『吾輩ハ猫デアル』と西洋古典」図書9月号,昭和36年。
(*)吉川浩「芥川龍之介の『侏儒の言葉』とラ・ロシュフコオの『マキシム』」比較文学4,1961年。
(*)久保忠夫「萩原朔太郎とニイチェ—生田長江「ニイチェ全集」の影響について」国文学 解釈と教材の研究6(3),1961年。
(*)(参考：近藤洋逸「近代科学の形成とプラトニズム」思想345,1961年。)
(*)(参考：加藤信一『医学・歯学生用ラテン語・ギリシャ語教本』改訂8版,杏林書院,1961年。)
(*)(参考：平野耿『医科歯科のラテン語』大学書林,1961年。)
(*)(参考：『和英独ラ対照カルテ用語』金芳堂,1961年。)
(*)(参考：篠田基行・水野忠文「ローマ思想家達の体育思想史的研究(2)：特にセネカの幸福論における身体観について」体育学研究8(1),1961年。)
(*)(参考：長尾栄一『医学史』第2版,医歯薬出版,1961年。)
(*)(参考：小野光洋『ローマへの道：ローマ・オリンピック見聞記』東京書房,1961年。)
(*)(参考：鈴木良徳『オリンピックの歩み』少年少女体育全集2,ポプラ社,1961年。)
(*)(参考：伊東明『オリンピック史』3版,新体育学講座1,逍遙書房,1961年。)
(*)(参考：木村英夫「ローマ大会のオリンピック関係施設について」道路241,1961年。)
(*)(参考：木村英夫「ローマ大会のオリンピック諸施設」土木学会誌46(1),1961年。)
(*)(参考：三田博雄「コペルニクスとrevolutio」(神戸大学文学会)研究24,1961年。)
(*)(参考：伊東俊太郎「ギリシア科学思想史研究について」哲學雑誌746,昭和36年。)
(*)(参考：青木靖三「[最近イタリアの研究動向]ガリレイ研究」イタリア学会誌10,1961年。)
(*)富山小太郎「科学とヒューマニズム」思想439,1961年。
(*)源了円「実学史観の提唱」思想の科学35,1961年。
(*)(参考：湯浅光朗『日本現代史大系9・科学史』東洋経済新報社,1961。
(*)(参考：原種行『科學史概論(上下)』原種行,1961-62年。)

(*)(参考：原種行『近代科学の発展』世界史新書,至文堂,1961年。)
(*)吉田光邦『日本技術史研究』学芸出版社,1961年。
(*)鬼頭有一「格物制器論考—佐久間象山における儒学と科学との対決」東洋文化8,1961年。
(*)神田茂「「咬□吧曆和解」について」蘭学資料研究会研究報告86,1961年。
(*)大矢真一「会田安明の阿蘭陀算法」蘭学資料研究会研究報告96,1961年。
(*)高野明「館蔵・大黒屋光太夫遺物「露国国民学校用算術入門書」をめぐって」早稲田大学図書館紀要3,1961年。
(*)(参考：脇屋潤一「古典古代ギリシアに於ける授業料をめぐる問題」日本教育学会大會研究発表要項20,1961年。)
(*)(参考：宮本又次『フランス經濟史學史』ミネルヴァ書房,1961年。)
(*)(参考：井上一「オリエントの王権とギリシアの王権」オリエント学会月報4号外,昭和36年。)
(*)(参考：アリストテレス原著/山本光雄訳『政治学』岩波文庫,岩波書店,1961年。)
(*)(参考：山本光雄「哲学者と兵隊」理想339,1961年。)
(*)(参考：新村祐一郎「スパルタの制度とリュクルゴス伝説—立法伝説の形成とその時期」史林44(4),1961年。)
(*)(参考：弓削達「Vita Constantini研究の進展—学界動向」史學雜誌70(3),1961年。)
(*)(参考：土井成興「スパルタクス反乱の政治史的意義についての覚え書き」法学志林58-3・4[合併号],昭和36年。)
(*)(参考：エラスムス/箕輪三郎訳『平和への訴え』岩波文庫,岩波書店,1961年。)
(*)(参考：安藤英治「ロストフツェフの古代社会研究の一断面」成蹊大学政治経済論叢11-1,昭和36年。)
(*)有馬成甫「幕末における西洋軍事研究の勃興」歴史教育9(12),1961年。
(*)「蝋山政道名誉教授著作目録」お茶の水女子大学人文科学紀要14,1961年。
(*)「蝋山政道名誉教授について」お茶の水女子大学人文科学紀要14,1961年。
(*)(参考：ジェームスレストン編/村田豊明訳『リップマンとその時代』時事新書,時事通信社,1961年。)
(*)(参考：シュライエルマッヘル/梅根悟・梅根栄一訳『国家権力と教育：大学論・教育学講義序説』世界教育学選集7,明治図書出版,1961年。)
(*)(参考：大谷恵教「前ソクラテス時代の自然法思想—ジョン・ロックの“自然法論”研究への序(1)」拓殖大学論集27,1961年。)
(*)一柳俊夫「書評 古林祐ニ著「法哲学の起源—ソローンの法思想(1,2)」(福岡大学法学論叢3巻4号),「古代ギリシャ法に於ける私的所有権の起源と発展」(福岡大学創立二十五周年記念論文集,法学編)」法制史研究1961(11),1961年。)
(*)古林祐二「書評 宮崎孝治郎著「ギリシャにおける親権制度」(民商法雑誌39巻1,2,3号)」法制史研究1961(11),1961年。)
(*)(参考：古林祐二「古代ギリシヤ刑法に於ける過失責任論と刑法思想」福岡大学法学論叢6(1・2),1961年。)

(*)(参考：チャールズ・シンガー編『地中海文明と中世(上下)』技術の歴史3,4,筑摩書房,1962年。)
(*)(参考：レナード・コットレル著/矢島文夫訳『古代の不思議』紀伊国屋書店,1962年。)

(*)(参考：石母田正他編『古代文明の形成』古代史講座3,學生社,1962年。)
----- 三上次男「序説：古代文明発生の諸問題」
定金右源二「東部地中海文明」
(*)井上靖『地中海：詩集』新潮社,1962年。)
(*)(參考：菊池栄一『イタリアに於けるゲーテ』東京大学,文学博士[報告番号不明],1962年。)
(*)永松譲一「菊池栄一著「イタリアにおけるゲーテの世界」」ドイツ文学28,1962年。
(*)(參考：玉林憲義「ゲーテ博物館とシラー博物館」独仏文学研究5,1962年。)
(*)(參考：上野英雄「ヘルダー『旅日記』試論—Seeleの問題を中心に」富山大学文理学部文学紀要11,1962年。)
(*)(參考：江藤淳「現代と小説--「アレクサンドリア四重奏」をめぐって」文学界16(8),1962年。)
(*)一戸久『南ヨーロッパを行く』日本放送協会,1962年。
(*)和田英夫「南欧から北欧へ(1,スペイン)—海外通信13」時の法令440,1962年。
(*)和田英夫「南欧から北欧へ(2,ベルギー・オランダ)—海外通信14」時の法令441,1962年。
(*)和田英夫「南欧から北欧へ(3,コペンハーゲン)—海外通信15」時の法令443,1962年。
(*)(參考：マーク・トウェーエン/森いたる訳『欧州ユーモア旅行』マーク・トウェーエン名作全集9,岩崎書店,1962年。)
(*)大脇岳夫「江戸時代のアフリカ知見について(1,2)」ビブリア21,22,1962年。
(*)石田一良「日本人のヨーロッパ観(上中下)」自由4(11,12),1962年/5(1),1963年。
(*)杉浦明平「世界をのぞく窓—漂流記と探検記」文学34(4),1962年。
(*)(參考：ロレンス・ダレル/高松雄一訳『マウント・オリーブ』世界新文学双書,アレキサンドリア4-3,河出書房新社,1962年。)
(*)福原麟太郎『諸国の旅』三月書房,1962年。
(*)福原麟太郎「クレタ遊記」(『世界美術大系4：エーゲ美術/附録』所収,講談社,1962年。)
(*)益田義信「旅情 エーゲ海の島」朝日ジャーナル4(15),1962年。
(*)(參考：麻生武治「オリンピック聖火踏査の旅—アテネ→イスタンブール→ダマスマカス バグダッド→テヘラン→カブール」水利科学25[6(2)],1962年。)
(*)(參考：青木英夫・大橋信一郎『裁断図から見た西洋服装史』雄山閣出版,1962年。)
----「エーゲ海地方」「ギリシャ」「古代ローマ」「ビザンチン文化の時代」「ビザンチン」「キリスト教文化の時代」
(*)上野直昭「ギリシアを想ふ」心15(11),1962年。
(*)河野与一「ギリシャの外で会ったギリシャ人」思想457,1962年。
(*)(參考：飯塚浩二「アラブのシチリア--オリエント=地中海文化史の縮図(1)」思想457,462,1962年。)
(*)(參考：飯塚浩二「ノルマンのシチリア--オリエント=地中海文化史の縮図(2)」思想462,1962年。)
(*)(參考：三輪福松「日本におけるキクラデスの偶像」三彩147,1962年。)
(*)山内杜夫「セジェスタの孤独—シシリー紀行(3)」三彩149,1962年。
(*)山内杜夫「逆光の森—シシリー紀行(4)」三彩150,1962年。
(*)西脇順三郎「私のローマの休日」(1962年。同『雑談の夜明け』講談社学術文庫版,1989年。)
(*)大谷啓治「北イタリアの夏」世紀147,1962年。

(*)(参考：瀬藤芳房「EssaysとEssais—象徴としての旅の思想と表現」比較文学5,1962年。)
(*)(参考：村川堅太郎「アクロポリス雑記」美術手帖208,1962年。)
(*)(参考：村川堅太郎「チャドウィック「線文字B」の解読」みすず4(7)(40),1962年。)
(*)(参考:村川堅太郎「「ギリシア都市はどうつくられたか」」朝日ジャーナル4(13)(160),1962年。)
(*)(参考:R.E.ウィッチャーリー/小林文次訳『ギリシャ都市はどうつくられたか』みすず書房,1962年。)
(*)(参考:ヴルウェー/渡辺秀訳『ポンペイ最後の日』中央出版社,ユニヴァーサル文庫24,1962年。)
(*)(参考：澤柳大五郎「The Crete-Mycenean art and the Greek art(クレタ=ミュケナイ美術とギリシア美術)」オリエント5(3・4),昭和37年。)
(*)(参考：村田数之亮「エーゲ美術」講談社版世界美術大系第4巻26,昭和37年。)
(*)(参考：太田秀通「ギリシア通信—風土・発掘・ミケーネ時代文書」史学雑誌71(7),1962年。)
(*)小島男佐夫「北伊太利の3都市を巡って—ミラノ・ヂエノア・ヴェニス」會計82(4),1962年。
(*)野上素一「静寂の島トルチェルロ」美術手帖209,1962年。)
(*)(参考：小山富士夫「イスタンヴールの古陶博物館—トプカプ・サレイ博物館」芸術新潮13(10),1962年。)
(*)(参考:玉眞秀雄「ビザンチン様式の定義とその年代について」建築雑誌研究年報62,1962年。)
(*)(参考：林良一『シルクロード』美術選書,美術出版社,1962年。)
(*)(参考：長澤和俊『シルクロード：東西文化のかけ橋』校倉選書,校倉書房,1962年。)
(*)(参考：深田久弥『シルク・ロード』角川新書,角川書店,1962年。)
(*)(参考：平川祐弘『芸術にあらわれたヴェネチア』内田老鶴圃,1962年。)
(*)(参考：H.シュリーマン/立川洋三・平田寛・永橋卓介訳(他)『過去を掘る、発掘物語、先史時代への情熱、悪魔の弁護人』平凡社,世界教養全集19,1962年(→1974年,第2版)。
(*)(参考:ホワイト作/後藤富雄訳・バウマン/澤柳大五郎編『埋もれた世界;考古学の物語;大昔の狩人の洞穴』岩波少年少女文学全集23,岩波書店,1962年。)
(*)(参考:玉眞秀雄『続教会建築:ビザンチン様式の定義とその年代について』彰国社,1962年。)
(*)(参考：波多野完治・岩村忍・富永次郎『コロンブス,マルコ・ポーロ,レオナルド=ダ=ビンチ』少年少女世界伝記全集8(南欧編)、講談社,1962年。)
(*)(参考:ホワイト/後藤冨雄訳・バウマン/澤柳大五郎訳『埋もれた世界:考古学者の物語:大昔の狩人の洞穴』岩波書店,岩波少年少女文学全集23,1962年。)
(*)(参考:C.L.ウィーリー/平田寛訳,D.マスターズ/平田寛・大成莞爾訳,H.シュリーマン/立川洋三訳,J.G.フレイザー/永橋卓介訳『過去を掘る：発掘物語,先史時代への情熱,悪魔の弁護人』世界教養全集19,平凡社,1962年(→1974年,第2版)。)
(*)(参考:永井滋郎「ポリテウマタ考:ヘレニズム期における東西文化交流現象の一考察(第1部)」(全国社会科教育学会)社会科研究10,1962年。)

(*)(参考：八田良太郎「シュペンブラーとテンニエス」(同志社大学人文学会)人文学53,1963年。)
(*)(参考：荒川龍彦「Arnold .ToynbeetのThe World and The West」英語研究51(6),1962年。)
(*)(参考：アーノルド・トインビー/黒沢英二訳『アジア高原の旅：民族と文明の興亡』毎日新聞社,1962年。)
(*)(参考：マタイス,A./神吉敬三訳「初期オルテガ哲学の形成—フリアン・マリアスの新刊書「オルテガ—1.環境と使命」をめぐって」ソフィア11(2),1962年。)
(*)(参考：磯見辰典「〈書評〉修道士と西欧文明(デカロー,J.)」ソフィア11(3),1962年。)
(*)(参考：酒井三郎「文化史的方法についての試論」西洋史研究7,1962年。)
(*)石田一良「日本人のヨーロッパ観の変遷(上中下)」自由4(11,12),1962年/5(1),1963年。)
(*)(参考：会田雄次「ジオットーとその時代—ルネサンスの美術と社会」人文学報16,1962年。)
(*)谷泰「下村寅太郎著「レオナルド・ダ・ヴィンチ」」西洋史学53,1962年。
(*)(参考：吉村徳蔵「ホーム・スクール版「世界の歴史」1『古代文明の発見』--時宜をえた世界通史まだ究明の余地はあるが」歴史教育研究24,1962年。)
(*)(参考：平凡社編『人口大事典』平凡社,1962年。)
(*)(参考：鈴木幸夫『世界文学鑑賞辞典(イギリス・アメリカ篇)』東京堂出版,1962年。)
(*)(参考：今泉篤男・山田智三郎編『西洋美術辞典』訂正5版,東京堂出版,1962年。)
(*)島正三編『吉利支丹版羅葡日対訳辞書備考・2巻』文化書房,1962-64年。
(*)(参考：P.リーチ「〈書評〉聖書神学の用語辞典(デュフール,X.レオン)」ソフィア11(4),1962年。)
(*)(参考：松田毅一「南欧の図書館,文書館を訪ねて(1,2,3」図書館界14(1,3,4)1962年。)
(*)齋藤信「「ハルマ和解」の問題点」蘭学資料研究会研究報告114,1962年。
(*)新村出「古刊本辞書懐旧おぼえがき(上)」日本古書通信27(10),1962年。
(*)(参考：加藤一朗『象形文字入門』(シャンポリオン)中央公論社,1962年。)
(*)(参考：清水藤太郎『薬学ラテン語』9版,南山堂,1962年。)
(*)(参考：蛭沼寿雄『新約本文批評』新教出版社,関西学院大学研究叢書15,1962年。)
(*)(参考：関根正雄『イスラエルの思想と言語：特にギリシアの思想,言語との対比における』東京教育大学,文学博士[報告番号不明],1962年。)
(*)海老澤有道「聖書和訳史上の一文献」蘭学資料研究会研究報告111,1962年。
(*)(参考：村井勇吾「ナポレオンとゲーテの対談—三つの記録の信憑性について」独仏文学研究5,1962年。)
(*)(参考：中田祐夫「ナポレオン「エジプト紀要」初版二種並びに第二版をめぐって—製版印刷技術面よりの報告」ビブリア：天理図書館報23,1962年。)
(*)(参考：上野英雄「ヘルダー「言語起源論」の周辺」」富山大学文理学部文学紀要12,1962年。)
(*)(参考：七字康紀「ヘルダーの言語観について：「言語起源論」(1772)を中心に」ドイツ文学28,1962年。)
(*)(参考：栗野頼之祐「グレコ・ローマ時代のエジプトに於ける高等教育機関「エフェベイア」について(大伴茂教授退任記念号)」人文論究12(4),1962年。)
(*)(参考：村松正俊『ラテン語接続法についての若干の研究』東洋大学,文学博士,[報告番号不明],1962年。)

(*)土井敏雄「日本における西洋言語学―過去と現在」金城学院大学論叢20,1962年。
(*)Matsudaira,Chiaki‘Classical Studies in Japan’Romanitas 4(5),1962.
(*)「ルソー邦語文献目録」社会学論叢25,1962年。)
(*)渡部昇一「文献学の理念と実践」ソフィア11(2),1962年。
(*)『會津八一文庫目録』早稲田大学図書館文庫目録,早稲田大学図書館,1962年。
(*)(參考：M.エリアーデ/J.M.キタガワ編/岸本英夫監訳『宗教学入門』東京大学出版会,1962年。)
(*)(參考：E.B.タイラー/比屋根安定訳『原始文化：神話・哲学・宗教・言語・芸能・風習に関する研究』誠信書房,1962年。)
(*)(參考：青木巖「西洋哲学の生誕と古代オリエント諸国の神話」(上智大学)ソフィア11(1),1962年。)
(*)(參考：絆川羔「象徴と神話」英語青年108(11),1962年。)
(*)(參考：高橋憲一「〈書評〉神話から神秘主義へ(ビュルケ,G.)」ソフィア11(4),1962年。)
(*)(參考：佐野哲郎「イェイツの神話の形成と塔のイメージ」Kobe micellany 2,1962年。)
(*)(參考：小川英雄「ナバテア王オボダスの神格化について」史学35(2・3),1962年。)
(*)(參考：金松賢諒『プラトンの神学と宇宙論：「テイマイオス」研究』大谷大学,文学博士[報告番号不明],1962年。)
(*)(參考：R.クレーブス/高杉一郎訳『ギリシア神話(上下)』紀伊国屋書店,1962年(→1973年,再版)。)
(*)(參考：福原麟太郎「驚くべき構成力：学問と文学の双方から読める：グレイヴズ著「ギリシャ神話・上巻」週刊読書人427,1962年。)
(*)(參考：呉茂一・依光隆絵『ギリシア神話 西洋古典』講談社,少年少女世界名作全集1,1962年。)
(*)(參考：矢代堅二・武部本一郎え『ギリシア神話』世界名作絵文庫13,あかね書房,1962年。)
(*)(參考：田中秀央・姫野誠二訳,呉茂一訳,松村武雄訳,新村出訳『ギリシア神話・ホーマー物語・北欧神話・イソップ物語』世界少年少女文学全集1(古代編),河出書房新社,1962年。)
(*)(參考：福原麟太郎「驚くべき構成力：学問と文学の双方から読める：グレイヴズ著「ギリシャ神話・上巻」週刊読書人427,1962年。)
(*)(參考：毛利浄賢「ゲーテの敬虔主義時代の宗教史観」独仏文学研究12,1962年。)
(*)(參考：有福博「若きGoetheの宗教との戦い―Prometheus-Odeを中心に」岐阜大学学芸学部研究報告 人文科学10,1962年。)
(*)(參考：熊野義孝『基督教概論』京都大学,文学博士[報告番号不明],1962年。)
(*)(參考：関根正雄『イスラエルの思想と言語：特にギリシアの思想,言語との対比における』東京教育大学,文学博士,[報告番号不明],1962年。)
(*)(參考：関根正雄『イスラエルの思想と言語』岩波書店,1962年。)
(*)(參考：関根正雄『聖書と救済史』(日本聖書学研究所)聖書学論集1,1962年。)
---関根正雄「救済史の理解について」
田川建三「福音伝承にみられる「時」の理解の変遷」
八木誠一「パウロの救済史観」
木下順治「ヨハネ福音書と救済史」
(*)(參考：塚本虎二訳『放蕩息子とその父』聖書知識文庫4,聖書知識社,1962年。)

(*)(参考：塚本虎二訳『福音書：新約聖書』聖書知識社,1962年。)
(*)(参考：荻原晃『カトリック精神詳解』中央出版社,1962年。)
(*)(参考：B.ビュマン/橋口倫介訳『中世教会史』カトリック全書75, ドン・ボスコ社,1962年。)
(*)(参考：新見宏「フィロの律法理解をめぐって」基督教論集9,1962年。)
(*)(参考：新見宏「最近の「死海写本」研究から」宗教研究36(2),1962年。)
(*)(参考：神田盾夫「マルコ福音書への一考察」(国際基督教大学)人文科学科紀要1(湯浅八郎博士古稀記念論文集),1962年。)
(*)(参考：相沢文蔵「ローマにおけるユダヤ人の動向」人文社会27,昭和37年。)
(*)(参考：高野長生「〈書評〉分かれたるキリスト教プロテスタントとローマ・カトリックの神学的争点(カラハン,D.J.他編)」ソフィア11(1),1962年。)
(*)(参考：A.ラング「〈書評〉ローマ典礼入門(シュミット,H.A.P.)」ソフィア11(4),1962年。)
(*)(参考：新田一郎「コンスタンティヌスの改宗—その時期と動機をめぐる問題」西洋史学53,1962年。)
(*)(参考：安藤英治「古代史研究の一視点—内田芳明著「アウグスティヌスと古代の終末」をめぐって」政治経済論叢11(3),1962年。)
(*)(参考：水川温二『「ローマの平和」とキリスト教との接触面に関する一考察』京都大学,文学博士[報告番号不明],1962年。)
(*)(参考：糸藤洋「An Introduction to the Grammatical Studies of the New Englishi Bible」(福岡女子大学)文芸と思想：文学部紀要23,1962年。)
(*)(参考：植田兼義「Luther訳の新約聖書について」熊本大学法文論叢14,1962年。)
(*)(参考：ヘーラル・ホローテ著/由木康訳『キリストに倣いて：イミタチオ・クリスチ』7版,角川書店,1962年。)
(*)(参考：齋藤勇『讃美歌研究』研究社,1962年。)
(*)(参考：山口精二「〈書評〉愛の形而上学(ウィルヘルムセン,E.D.)」ソフィア11(3),1962年。)
(*)新人国記「兵庫県(15)」(河野与一)東京朝日新聞夕刊10/20,1962年。
(*)学芸蘭「河野与一先生のこと」東京朝日新聞朝刊12/2,1962年。
(*)陶山務「大西祝のことども」東北学院大学論集一般教育42,1962年。
(*)小玉晃一「昭和初期における外国文学の導入」国文学8月号,1962年。)
(*)石井光治「英学者としての中村正直」神戸外国語大学論叢13(1),1962年。
(*)山崎安雄『永遠の事業 岩波文庫物語』(村川堅太郎,河野与一)白鳳社,昭和37年。
(*)參考：ヒルティ/高橋三郎訳『人間教育』(3版,ヒルティ著作集10,白水社,1962年。)
(*)參考：ヒルティ/齋藤栄治編他訳『幸福論』(白水社,1962年。)
(*)信太正三「実存主義思想輸入史—明治から大正まで」実存主義26,1962年。
(*)(参考：石母田正他編『古代思想と芸術』古代史講座12,學生社,1962年。)
(*)(參考：今道友信「古代哲学前期」理想353,1962年。)
(*)(參考：坂口昴吉「オックスフォードにおけるアリストテレス禁令について」史学34,1962年。)
(*)「自己発見のための思考法 田中美知太郎著「学習帳から」」讀賣新聞夕刊8/16,1962年。
(*)田中美知太郎『学習帳から』新潮社,1962年。
(*)田中美知太郎・森進一『哲学：大学講座』日本女性文化協会,昭和37年。

(*)宮川透『近代日本の哲学』勁草書房,1962年。
(*)高坂正顕『西田幾多郎と和辻哲郎』新潮社,1962年。
(*)『和辻哲郎全集・第6』(ケーベル先生,ホメーロス批判,近代歴史哲学の先駆者)岩波書店,1962年(→1984年,再版)。
(*)久保勉「思い出す人々(15)」(ケーベル)心15(12),1962年。
(*)坂上博一「魚住折蘆の生涯と思想」(ケーベル)文学30(3),1962年。
(*)志賀英雄「ゲーテとケーベル博士と私」(同志社大学文学部)パイデイア2,1962年。
(*)竹山道雄「岩元禎先生」読売新聞・昭和37年7月16日夕刊(→昭和58年,同『竹山道雄著作集・4/樅と木と薔薇』所収,福武書店。)
(*)シュッテ師「ヴァチカン図書館所蔵バレト写本について」キリシタン研究7輯,1962年。
(*)チースリク師「宗教思想史から見たバレト写本」キリシタン研究7輯,1962年。
(*)土井忠生「バレト手記の書写に関する私見」キリシタン研究7輯,1962年。
(*)柊源一「『サントスの御作業』源流考序説」基督教史学12,1962年。
(*)関根文之助『日本精神史とキリスト教』創元学術叢書,創元社,1962年(→1968年,改訂版)。
(*)関根文之助「日本におけるキリスト教学校教育」日本教育学会大会研究発表要項21,1962年。)
(*)前田護郎「日本のキリスト教」思想454,1962年。
(*)川中なほ子「岩下[壮一]神父・ヒューゲル・ニューマン」世紀147,1962年。
(*)小山甫文「早稲田大学に於ける哲学80年史(1,2)」フィロソフィア44,1962年//50,1965年。
(*)(參考：澤柳大五郎「名画の秘密—ベノッツォ・ゴッツォーリ「東方マギの来朝」」美術手帖210,1962年。)
(*)(參考：前田護郎「古典・人文主義・聖書—序説的に」西洋古典學研究10,1962年。)
(*)(參考：森進一「ギリシャ悲劇上演に関する諸問題」西洋古典學研究10,1962年。)
(*)三島由紀夫/佐伯彰一編纂『三島由紀夫全集35(補遺,雑纂,詩他)』(「呉茂一の「ぎりしあの詩人たち」評」)新潮社,1962年。
(*)(參考 : 松平千秋『イーリアス第二歌の研究』京都大学,文学博士[報告番号不明],1962年。)
(*)(參考：呉茂一・中村光夫『ギリシア・ラテンの文学』文学案内I,新潮社,1962年。)
(*)藤田洋「三つの劇団—文化座・泉座・東大ギリシア悲劇研究会」新劇9(8),1962年。
(*)(參考：関根正雄「コーヘレスとテオグニス」東京大学文学部紀要・西洋文学研究?,1962年。)
(*)「古典学関係海外研究誌備えつけの現況」(日本西洋古典学会,東京大学,京都大学)西洋古典學研究10,1962年。
(*)長坂公一「F.I.E.C.だより」西洋古典學研究10,1962年。)
(*)(參考：松平千秋‘Classical Studies in Japan’(ブラジル古典学会)Romanitas 4(5),1962年。)
(*)(參考：青野寿郎『人文地理学：大学教養』訂正6版,森北出版,1962年。)
(*)(參考 : 帝国書院編集部編『新詳高等地図』最新版,帝国書院,1962年(→同年,7訂版。→1963年最新版。→1963年,最新版。→1963,67年,初訂版)。)
(*)青野寿郎・尾留川正平『高等地図帳：指導参考書』二宮書店,1962年(→1963年,再版。→1966年,改訂版。→1963年,1969年,3訂版)。）
(*)(參考：三省堂編修部編『世界史年表・地図対照』三省堂,1962年。)
(*)(參考：青山吉信・石橋秀雄・中村道雄編『解説世界史年表』山川出版社,1962年。)
(*)(參考：亀井高孝・三上次男『標準世界史年表』吉川弘文館,1962年。）

(*)(参考：全国教育図書編『標準世界地図』改訂版[本篇：増訂篇],人文社,1962年。)
(*)石山洋「蘭学におけるオランダ地理学」地理学史研究2,1962年。
(*)鮎澤信太郎「ロシア使節レザノフの将来した地図」日本歴史173,1962年。
(*)鮎澤信太郎「歴史地図の発展—江戸時代の歴史地図について」歴史教育10(9),1962年。
(*)秋岡武次郎「坤輿万国図屏風総説—渋川春海描並に藤黄赤子描の世界図天文図屏風等」法政大学文学部紀要8,1962年。
(*)(参考：尾鍋輝彦編『地図・年表・小辞典・読史備要』世界の歴史・別巻,中央公論社,1962年.)
(*)(参考：『世界史の諸問題』世界の歴史別巻,筑摩書房,1962年。)
(*)(参考：村川堅太郎『西洋史提要』新訂版,秀英出版,1962年。)
(*)(参考：山中謙二『西洋史』有信堂,1962年。)
(*)(参考：大類伸『西洋史新稿』改訂新版,冨山房,1962年。)
(*)(参考：赤井彰・井上泰男『西洋史通論』明玄書房,1962年。)
(*)(参考：小木曽公『西洋史学史概説』吉川弘文館,1962年。)
(*)(参考：和田清・山中謙二編『新編世界史』4訂版,日本書院,1962年。)
(*)酒井忠雄『日本史学史ノート』酒井忠雄,1962年。
(*)鈴木成高「大類[伸]先生の学風」西洋史研究7,1962年。
(*)(参考：原随園「ギリシア史学史序説—叙事詩を中心として」西洋史研究7,1962年。)
(*)千代田謙「歴史に関する2,3の近著」史学研究6,1962年。
(*)「間崎萬里先生略歴・主要著作目録(間崎萬里先生頌寿記念)」史学35(2・3),1962年。
(*)小澤栄一「泰西史と万国史」蘭学資料研究会研究報告102,1962年。
(*)橡川一朗「日本の西洋史研究と現代」歴史学研究270,1962年。
(*)(参考：藤縄謙三「ホメロスとミュケナイ時代—学説史の概観」西洋史学54,1962年。)
(*)(参考：石母田正他編『古代家族と村落機構』古代史講座6,學生社,1962年。)
----- 新村祐一郎「シュノイキスモスについて：スパルタとアテナイの場合」
(*)(参考：浅香正「第二マケドニア戦争と「ギリシアの自由」」人文学56,1962年。)
(*)(参考：辻圭一郎「コレオリーナス」(大阪市立大学文学部)人研究13(4),1962年。)
(*)「史学文献目録(西洋史)」史學雑誌71(1),1962年。
(*)(参考：岩田拓郎「古典期アッティカのデーモスとフラトリア「ヘカトステー碑文」の検討を中心として」史學雑誌71(3),1962年。)
(*)(参考：「1961年の歴史学界—回顧と展望」史學雑誌71(5),1962年。)
(*)「西洋史文献目録」史學雑誌71(5),1962年。
(*)「史学文献目録(西洋史)」史學雑誌71(9),1962年。
(*)北郷康「世界史の学習と参考書の読み方」学校図書館143,1962年。
(*)松本芳夫「序(間崎萬里先生頌寿記念)」史学35(2・3),1962年。
(*)(参考：ジャン・ジロドゥ/岩瀬孝訳『ジークフリード』(「トロイ戦争は起こらない」)角川文庫,角川書店,1962年。)
(*)(参考：栗野頼之祐「アレクサンドロスと西欧的君主礼拝制の確立」オリエント5(2),1962年。)
(*)(参考：栗野頼之祐「フィリッポス二世ならびにアレクサンドロス結成の「ヘラス同盟」の研究」関西学院史学6,1962年。)
(*)(参考：タキトウス/国原吉之助訳・エレシヤス・フォン・フリート/村上直次郎訳・フュ

レープミュラー/酒井只男訳・アンドレ・ファルク/山上正太郎訳『皇帝ネロ・山田長政・ラスプーチン・黒シャツ党のローマ進軍』世界ノンフィクション全集29,中野好夫他編,筑摩書房,1962年。)
(*)(参考：浅香正「第二マケドニア戦争と「ギリシアの自由」」(同志社大学人文学会)人文学56,1962年。)
(*)(参考：新田一郎「S.Perowne,Hadorian,1960.」文化史学16,1962年。)
(*)(参考：J.ロゲンドルフ「〈書評〉世界文学の素材史(フレンツエル,E)」ソフィア11(4),1962年。)
(*)(参考：神山圭介「人間再生の構想力—或いはルネッサンスの神話」近代文学17(9),1962年。)
(*)参考：E.ガレン/清水純一訳「ヨーロッパのヒューマニズム」イタリア学会誌10,1962年。)
(*)参考：清水純一「ブルーノ初期作品の研究—memnorialについて」広島大学文学部紀要21,1962年。)
(*)(参考：中村忠行「比較文学史の方法」文学・語学24,1962年。)
(*)(参考：野溝七生子「比較文学研究の現状」(東洋大学近代文学会)近代文学研究会報12月号,1962年。)
(*)(参考：野上素一「イタリアにおける文学史の方法」(研究社)英米文学講座・別巻,1962年。)
(*)(参考：野上素一『「十日物語」研究』京都大学,文学博士[報告番号不明],1962年。)
(*)(参考：平川祐弘『藝術にあらわれたヴェネチア』内田老鶴圃,1962年。)
(*)(参考：「Petrarchanism and Amoretti」(スペンサー)名古屋大学教養紀要5,1962年。)
(*)(参考：渡辺友市「ペトラルカ研究」イタリア会誌11,1962年。)
(*)(参考：渡辺友市「一ヒューマニストの平和提唱：ペトラルカとイタリアの政情(1,2)」イタリア会誌11,1962年/11(2),1963年。)
(*)(参考：池田廉「ペトラルカ「詩集」の研究(1)：作品構成について」イタリア会誌11,1962年。)
(*)(参考：『世界文学大系6—ダンテ』筑摩書房,1962年。)
(*)(参考：野上素一「放浪の詩人ダンテ」イタリア会誌11,1962年。)
(*)(参考：池田廉「ジョヴァンニ・ボッカチオ『ダンテの生涯』」イタリア会誌11,1962年。)
(*)(参考：岡戸久吉「北川冬彦氏のダンテについて」イタリア文化研究3,1962年。
(*)剣持武彦「正宗白鳥「ダンテ」について、その成り立ちと白鳥文学におけるダンテの意義」比較文学5,1962年。)
(*)(参考：東山正芳『人間像の展開I』新書版,あぽろん社,1962年。)
(*)(参考：佐瀬順夫『要説英文学史』英宝社,1962年。)
(*)(参考：矢本貞幹「文学史研究の歴史」(研究社)英米文学史講座・別巻,1962年。)
(*)(参考：平井正穂「文学史の理念」(研究社)英米文学史講座・別巻,1962年。)
(*)(参考：矢野禾積「文学史の概念」(研究社)英米文学史講座・別巻,1962年。)
(*)(参考：矢野禾積「感情の変化と文学史」(研究社)英米文学史講座・別巻,1962年。)
(*)(参考：宮下忠二「英米文学年表(Anglo-Saxon文学より現代まで)」(研究社)英米文学史講座・別巻,1962年。)
(*)(参考：矢本貞幹「イギリスの文学史」(研究社)英米文学史講座・別巻,1962年。)
(*)(参考：八木幹「Antony and Cleopatra」西南学院大学英文学論集3(1),1962年。)
(*)(参考：大場清「Bodily Idioms：A New on ‘julius Caesar’：Their Use in Drama」金沢大

学法文学部論集・文学編10,1962年。)
(*)(参考：海江田進「ジュリアス・シーザー：日本におけるシェイクスピア劇」東京外国語大学論集9,1962年。)
(*)(参考：栗原正和「Shakespeareと格言(1,2)」英語評論3(3,4),1962年。)
(*)(参考：栗原正和「Shakespeare's Use of Proverbs(1,2)」Anglica4,5,1962年。
(*)(参考：真下泰利「トロイラスとクデシダ」群馬大学紀要,人文科学編11,1962年。)
(*)(参考：辻圭一郎「「コリオレーナス」」人文研究13(4),1962年。)
(*)冨原芳彰『シェイクスピア試論—とくに悲劇について』研究社出版,1962年(→1968年,同続編。)
(*)(参考：中西信太郎『シェイクスピア批評史研究』(京都)あぽろん社,1962年。)
(*)西崎一郎「日本におけるシェイクスピア」(研究社)英米文学誌講座,1962年。
(*)(参考：大庭建治「ベン・ジョンソンの古典主義—「ウォルポーネ」を中心に」L&L 7,1962年。)
(*)向山泰子「A Study of Lord Byron」青山学院短大紀要16,1962年。
(*)(参考：津田迪夫「『ハイピアリオン』--その創作と放棄」大阪音楽大学研究紀要2,1962年。)
(*)松浦暢「Kyukin and Keats」高知学園論叢,1962年。
(*)(参考：岡地嶺「KeatsのOde on Grecian Urnについてテキスト研究」中央大学英語英米文学3,1962年。)
(*)(参考：菊池亘「Keats Letter to P.B.Shelley,August 16,1820」Hitoshibatsu Journal of Arts and Sciences 2(1),1962年。)
(*)(参考：山根義雄「Analisis of The Fall of Hyperion」(南山大学)アカデミア35,1962年。)
(*)(参考：山口圭三郎「D.H.Lawrence：Isisに寄せる幻想」研究と評論9,1962年。)
(*)(参考：山口圭三郎「D.H.Lawrenceの異教性」法政大学英文学誌5,1962年。)
(*)(参考：大橋安一郎「詩人ロレンスとギリシャ神話」京都工芸繊維大学工芸学部研究報告・人文11,1962年。)
(*)(参考：目賀田守公「Delphi and Thermopyrae：An Interpretation of A.E.Houseman's The Oracles」神戸外国語大学論叢11(5),1962年。)
(*)(参考：目賀田守公「学者・詩人ハウスマン--『散文選』をめぐって」英文学手帖17,1962年。)
(*)武田勝彦「日本におけるウォルター・ペーターの紹介(明治期)」（『河口真一郎教授還暦記念論文集』所収,1962年。)
(*)(参考：植木錬之助「ヴィットリアへの愛情—ペイタアのミケランジェロ論」」(関西学院大学)論攷6,1962年。)
(*)(参考：植木錬之助「ペイタアのプラトン理解」(関西学院大学)論攷9,1962年。)
(*)(参考：前川祐一「ウォルター・ペーターの世界(1,2)」エッセイズ 14,15,1962年。)
(*)(参考：武田勝彦「ペイタァの「浪漫主義」と,その先行文学としてのフランス浪漫派の文学」比較文學5,1962年。)
(*)(参考：大沢衛「Thomas Hardy：Tess of D' Urbervilles 大地女神的菜異教徒テス」(『英米文学史講座・別巻』所収,研究社,1962年。)
(*)(参考：川田周雄「アーノルドの古典主義(1,2)」英文学評論10,11,1962年。)
(*)(参考：鳥海久義「アーノルドのミューズ—マーガリートからエンペドクリーズへ」

和洋女子大学紀要7,1962年。)
(*)(参考 : 野島秀勝『女神と宿命 : ヴァージニア・ウルフ論』南雲堂不死鳥選書,南雲堂,1962年。)
(*)唄脩「日本におけるアナトール・フランスについての比較文学的考察(1)」成城文芸30,1962年。
(*)(参考 : 河野與一校閲・原二郎訳『モンテーニュ』世界文學大系9-A,B,筑摩書房,1962年(→1963年,新版)。
(*)(参考 : 関根秀雄訳『モンテーニュ随想録(3冊)』特製版,白水社,1962年。)
(*)(参考 : 関根秀雄・市原豊太他訳『随想録・箴言と省察・パンセ・覚書と随想』平凡社,1962年。)
(*)(参考 : 高橋誠「モンテーニュにおける理性の2重性とその現実認識の構造 : 宗教改革と宗教戦争とをかれはいかにうけとめたか」一橋研究9,1962年。)
(*)(参考 : 関根秀雄訳『ラ・ロシュフコー格言集』白水社, 1962年。)
(*)(参考 : ラブレー/山内宏之訳・吉崎正己絵『巨人ガルガンチュワ物語』さ・え・ら書房,1962年。)
(*)(参考 : ラブレー作/渡辺一夫訳,ラ・フォンテーヌ/市原豊太訳,ペロー作/佐藤正彰訳『ガルガンチュワとパンタグリュエルの物語 ; ラ・フォンテーヌ寓話集・ペロー童話集・他3編』世界少年少女文学全集10,フランス編1,河出書房新社,1962年。)
(*)(参考 : 坂本勲「《le merite personnel》について—ラ・ブリュイエール」フランス文学研究1962(5),1962年。)
(*)(参考 : 松尾政路「ラ・ブリュイエールの常識と批評精神」小樽商科大学人文研究24,1962年。)
(*)(参考 : 中川久定「ディドロ研究の方向」思想457,1962年。)
(*)(参考 : 田中敬二郎「ラシーヌとオウィディウス」名古屋大学教養部紀要6,1962年。)
(*)(参考 : 佐々木明「Paul Valeryにおける自然とストイシスム」フランス文学研究1962(5),1962年。)
(*)(参考 : 片岡幸彦「ポオル・ヴァレリイの『レナルド・ダ・ヴィンチの方法序説』の形成における三人の英国物理学者の影響」フランス文学研究1962(5),1962年。)
(*)(参考 : 坂本勲「《le meirte personnel》について—ラ・ブリュイエール」フランス文学研究1962(5),1962年。)
(*)(参考 : Y.Hosoi「ハンブルガー,「ソポクレスからサルトルまで」,Kate Hamburger,Von Sophokles zu Sartre,Stuttgart,1962」美学13(2),1962年。)
(*)(参考 : 大塚幸男『写真 フランス文学史』社会思想社,1962年。)
(*)(参考 : 島田謹二「フランスにおける英文学研究」英語青年107(9),1962年。)
(*)(参考 : 篠田一士「フランスにおけるイギリス・アメリカ文学研究」(研究社)英米文学史講座・別巻,1962年。)
(*)(参考 : 相良守峯『ドイツ文学史 : 近代篇』角川全書,1962年。)
(*)(参考 : 寺沢芳雄「ドイツにおける英文学研究」(研究社)英米文学史講座・別巻,1962年。)
(*)(参考 : J.ロゲンドルフ「書評 エリザベト・フレンツェル「世界文学の素材史」1962」ソフィア11(4),1962年。)

(*)(参考：ビーダーマン/大野俊一訳『ゲーテ対話録(1-5)』白水社,1962年。)
(*)参考：島田謹二「フランスにおけるゲーテ」(日本ゲーテ協会)ゲーテ年鑑4,1962年。)
(*)(参考：岡道男「ゲーテの「ナウジカア」断片—「オデッュセイア」との関連において」同志社大学人文學63,昭和37年。)
(*)(参考：長沼敏夫「ゲーテの“Iphigenie in Tauris”について」(東北大学)東北ドイツ文学研究6,1962年。)
(*)(参考：芳賀檀「ゲーテと世界歴史(1)」(関西学院大学)人文論究13(3),1962年。)
(*)(参考：岸田貫一郎「若きゲーテにおける「デモーニッシュなもの」」理想344,1962年。)
(*)(参考：横山喜之「旅人のこころの平安」(ゲーテ)世紀143,1962年。)
(*)(参考：福田英男「ゲーテの「西東詩集」における思想と表現」文科紀要9,1962年。)
(*)(参考：御牧好隆「頌歌を中心として見た風涛記ゲーテの宗教感情(上)」明治大学和泉校舎研究室紀要20,1962年。)
(*)(参考:大畑末吉『ゲーテにおけるスピノチスムス』東京大学,文学博士[報告番号不明],1962年。)
(*)(参考：道部順『ゲーテの生活と詩の鑑賞』九州大学,文学博士[報告番号不明],1962年。)
(*)(参考：清水豊明「ゲーテとヘルダーにおける人間性理念」ドイツ文学28,1962年。)
(*)(参考：橘忠衛「ゲーテとシェイクスピア」(日本ゲーテ協会)ゲーテ年鑑4,1962年。)
(*)(参考：浅井真男「ゲーテとヘルダーリン」(日本ゲーテ協会)ゲーテ年鑑4,1962年。)
(*)(参考：奥津彦重「ゲーテ的存在の意義」日本大学創立70周年記念論文集,1962年。)
(*)(参考：喜多尾道冬「生と精神のメタモルフォーゼ：トーマス・マンのゲーテへの道」人文論集13,1962年。)
(*)(参考：西尾幹二「ニイチェの言語観—初期の作品をめぐって」ドイツ文学28,1962年。)
(*)(参考：西尾幹二「論争と言葉—ニーチェをめぐって」(しんせい会)Neue Stimme 1,1962年。)
(*)(参考：西尾幹二「ニイチェと学問」静岡大学文理学部文学科研究紀要・人文論集13,1962年。)
(*)(参考：薗田宗人「若きニーチェのギリシャ研究をめぐって—歴史と神話」和歌山大学学芸学部紀要 人文科学9,1962年。)
(*)(参考：国松孝二『ニーチェ伝研究序説』東京大学,文学博士[報告番号不明],1962年。)
(*)(参考：古内武「近代ヨーロッパ史におけるニーチェの意味について」(早稲田大学)ヨーロッパ文学研究3,1962年。)
(*)(参考：水谷洋「ヘルダーリンと「したがい」」明治大学和泉校舎研究室紀要20,1962年。)
(*)(参考：最上宏信「ヘリダーリン研究(1)」金沢大学法文学部論集 文学編9,1962年。)
(*)(参考：谷友幸『ヘルダーリーン文学の基礎的研究』京都大学,文学博士[報告番号不明],1962年．)
(*)(参考：ハイデッガー/手塚富雄他訳『ヘルダーリンの詩の解明』改訂版 ハイデッガー選集3,理想社,1962年。)
(*)(参考：守永敏夫「ヘルダーリンの詩“Natur und Kunst oder Saturn und Jupiter”について」上智大学ドイツ文学会会報4(ミュラー博士五周年追悼記念特集号),1962年。)
(*)(参考：児玉昭人「Hölderlinのヘラクレス論」北海道大学外国語・外国文学研究10,1962年。)

(*)(参考：野村一郎「韻文稿と「ヒューペリオンの青春時代」」学習院大学文学部研究年報8,1962年。)
(*)神品芳夫「リルケ翻訳文献」無限11,1962年。)
(*)(参考：神品芳夫「ドイツにおけるリルケ観の変遷」無限11,1962年。)
(*)呉茂一「思い出」(片山敏彦)みすず4(1),1962年。
(*)(参考：ツヴァイク/今井寛・小宮曠三・杉浦博訳『デーモンとの闘争』みすず書房,ツヴァイク全集6,1962年。)
(*)(参考：柴田治三郎『体験と表現：フリードリヒ・ヘッベルの研究』東北大学,文学博士[報告番号不明」,1962年。)
(*)(参考：齋藤武雄「ヤスパースにおける歴史の意味」弘前大学人文社会26,1962年。)
(*)福原麟太郎「現代読書講座(3)太閤記とギボン：または本を読む仲間」サンケイ新聞4/21,1962年。
(*)『イソップのお話・小さな神さま：ほか』世界童話名作文庫13(古典編),小学館,1962年。
(*)『イソップえとおはなし』幼児えほん8,小学館,1962年。
(*)宇野義雄編『イソップの童話』こども絵本21,小学館,1962年。
(*)平井芳夫文『イソップえばなし』小学館の幼年絵本4,小学館,1962年。
(*)上崎美恵子文『イソップえばなし』小学館のお話絵本,こども百科シリーズ,小学館,1962年。
(*)平塚武二文『イソップ童話集』小学館の絵文庫1,小学館,1962年。
(*)与田準一訳『イソップ童話集』世界童話名作全集1,講談社,1962年。
(*)坂元彦太郎他編『イソップ童話』講談社の世界絵童話全集14,講談社,1962年。
(*)井上章『天草版伊曽保物語の研究—語論篇文論篇』謄写版,[秋田]井上章,1962年。)
(*)杉森美代子「版本刊行の面からみた『わらんべ草』成立過程の一考察」(イソップ)東京学芸大学研究報告13,1962年。
(*)千葉栄「栗本鋤雲について」白山史学8,1962年。
(*)前田淑「出雲の百合若伝説：『雲陽秘事記』をめぐって(特集 倉野憲司教授古稀記念)」香椎潟8,1962年。
(*)福田晃「甲賀三郎の後胤—甲賀三郎譚採集ノート(上下)」國學院雑誌63(6,7・8),1962年。
(*)海老澤有道他「(座談会)蘭学の話」立教文学2,1962年。
(*)竹田楠雄「二つの兵学校(沼津と築地)—この小論を小倉先生(前会長)に捧げる」科学史研究68,1963年。
(*)石井昌光「土井晩翠」國文學：解釈と教材の研究7(14),1962年。
(*)吉田精一「木下杢太郎(1-4)評論の系譜(5-8)」国文学：解釈と鑑賞27(10-14),1962年。
(*)西脇順三郎『豊饒の女神』現代日本詩集3,思潮社,1962年。
(*)岩津重雄『会津八一』近代短歌・人と作品6,桜楓社,1962年。
(*)佐々木満子・福山トシ「末松謙澄」(抜刷,掲載誌不明,ブリティッシュ・ライブラリー所蔵),1962年。
(*)(参考：皇至道『西洋教育史』玉川大学出版部, 1962年。）
(*)(参考：青木巌「西洋哲学の生誕と古代オリエント諸国の神話」ソフィア11(1),1962年。)
(*)(参考：山本光雄「哲学夜話(1-9)」理想344-353,昭和37年。)
(*)(参考：吉田東洲『西洋思想家評伝：人物と時評』哲学会・世界人物史研究所,1962年。)
(*)(参考：副島民雄『プラトンの後期における生成について』京都大学,文学博士[報告番号

不明],1962年。)
(*)(参考：武田信一『「プラトンとプロティノスのエロス論」及「アウグスティヌスのカリタス論」』北海道大学,文学博士[報告番号不明],1962年。)
(*)(参考：林竹二『ソクラテスおよびプラトンにおける人間形成の問題』東北大学,文学博士[報告番号不明],1962年。)
(*)(参考：ジャン・ブラン/戸塚七郎訳『プラトン』文庫クセジュ,白水社,1962年。)
(*)(参考：ジャン・ブラン/有田潤訳『アリストテレス』文庫クセジュ,白水社,1962年。)
(*)(参考：池田榮「ト・ティ・エーン・エイナイと私—アリストテレース政治哲学における」関西大学法学論集11(3~5),1962年。)
(*)(参考：青木巌「哲学史家としてのアリストテレスとテオフラストス：アナクシマンドロスのτο απειρονをめぐって」西洋古典學研究10,1962年。)
(*)(参考：今道友信「古代哲学前期」理想353,1962年。)
(*)(参考：戸塚七郎「ヘレニズムの哲学」理想353,1962年。)
(*)(参考：鹿野治助『エピクテートス哲学の根本問題：ロゴスをめぐって』京都大学,文学博士[報告番号不明],1962年。)
(*)(参考：長沢信寿「アウグスティーヌスの哲学とヒューマニズムの問題」中世思想研究5,昭和37年。)
(*)(参考：今野國雄「修道制史上における聖アウグスティーヌス(1-3)」経済系53,1962年//54,57,1963年。)
(*)(参考：安藤英治「古代史研究の一視点—内田芳明著『アウグスティーヌスと古代の終末』をめぐって」政治経済論叢11(3・4),1962年。)
(*)(参考：真方敬道『西洋中世哲学における個体論の研究』東北大学,文学博士[報告番号不明],1962年。)
(*)(参考：F.コプルストン/稲垣良典訳『トマス・アクイナス』未来社,ソフィア叢書10,1962年(→1968年,上智大学出版部版。))
(*)(参考：ヨゼフ・ビーバー/稲垣良典訳『哲学するとはどういうことか』エンデルレ書店,1962年。)
(*)(参考：本間英世「マルクス・ウエルナー「ハイデガーと伝統」ソフィア11(4),1962年。)
(*)(参考：森田慶一『西洋建築史概説』彰国社,1962年(→1970年,2版。→1982年,4版)。)
(*)(参考：鈴木良徳『オリンピックの話』中学生全集54,筑摩書房,1962年。)
(*)(参考：オリンピック青年協議会『少年少女のためのオリンピックの話』ベースボール・マガジン社,1962年。)
(*)(参考：フェレンス・メゾー/大島鎌吉訳『古代オリンピックの歴史』ベースボール・マガジン社,1962年(→1973年,復刻版)。)
(*)(参考：C.シンガー,F.E.J.ホームヤード,A.R.ホール/高木・田中・田名部・平田・八杉訳編『技術の歴史』(1-4)筑摩書房,1962-63年。)
(*)(参考：レナード・コットレル著/矢島文夫訳『古代の不思議』紀伊国屋書店,1962年。)
(*)(参考：A.C.クロンビー/渡辺正雄・青木靖三共訳『中世から近代への科学史(上下)』コロナ社,1962-68年。)
(*)(参考：Werner Heisenberg・神保謙吾編『Humanistische Bildung und Naturwissenschaft=人文主義的教養と自然科学』同学社,1962年。)
(*)朝日新聞社編『日本科学技術史』朝日新聞社,1962年。

(*)三枝博音「日本に於ける近代科学の受容と意義(1)」科学史研究61,1962年。
(*)下村寅太郎「「日本に於ける近代科学の受容と意義(2)」科学史研究61,1962年。
(*)大森実「「帆足万里述 勝田季鳳筆「窮理小言」について--「暦象新書」との関連を主として」科学史研究64,1962年。
(*)杉本勲『近世実学史の研究』吉川弘文館,1962年。
(*)中山茂「「実学」について--杉本勲『近世実学史の研究』に寄せて」科学史研究64,1962年。
(*)中山茂「本木良永訳「阿蘭陀地球説」について」蘭学資料研究会研究報告112,1962年/162,1964年。
(*)今井湊「VALK地球儀の倣製—京大地理学教室の一古地球儀」蘭学資料研究会研究報告112,1962年。
(*)織田武雄「天理図書館Vopellの地球儀について」ビブリア23,1962年。
(*)(參考：藪内清「中世科学技術史研究序説」東方学報32,1962年。)
(*)(參考：藪内清「〈学界展望〉西南アジア天文学の研究者たち」姫路工業大学研究報告,A.14,1962年。)
(*)大森実「「暦象新書」の研究—主として其の物理学のついて」法政史学15,1962年。
(*)(參考：阿知波五郎著/宗田一編『目で見る医学史』吉富製薬バイエル薬品部,1962年。)
(*)(參考：Adolf Portmann；erläutert von Jiro Okuyama“Naturwissenschaft und Humanismus”第三書房,1962年。)
(*)(參考：栗林健「ギリシア音楽の性格と数学の起源—ピタゴラスの協和音程比発見の意義の再検討」西洋史学54,1962年。)
(*)(參考：若木禮『ギリシャ農業経営学書の研究』北海道大学,農学博士[報告番号不明],1962年。)
(*)(參考：飯島幡司『キリスト教の社会理念』朝日新聞社,1962年。)
(*)(參考：住谷悦治『社会科学論』法律文化社,1962年。)
(*)(參考：馬場恵二「アッティカにおける非市民の不動産所有」史学雑誌71(8),1962年。)
(*)(參考：矢田一男「ギリシャ法学者ルイ・ジェルネ教授の訃報—海外学会消息」法学新報69(11),1962年。)
(*)(參考：石母田正他編『デスポティズムと古代民主制』古代史講座4,學生社,1962年。)
-----石母田正「序説：デスポティズムと古代民主制」
清永昭次「スパルタにおけるポリスの成立」
角田文衛「エトルーリア人とその制海権」
(*)(參考：石母田正他編『財政と軍事組織』古代史講座5,學生社,1962年。)
-----衣笠茂「ギリシアの財政組織：とくにアテナイの民主制時代に関して」
長谷川博隆「ローマの財政機構：徴税について」
大牟田章「ギリシアの軍事組織：その形成と発展」
太田秀通「デスポディズムと古代民主国家との対比」
祇園寺信彦「共和政期ローマの国家構造の特質」
(*)(參考：石母田正他編『古代家族と村落機構』古代史講座6,學生社,1962年。)
----新村祐一郎「シュンノイキスモスについて：スパルタとアテナイの場合」
森祐三「プレブス」
(*)(參考：村川堅太郎「第2回国際経済史会議に参加して」史学雑誌71(12),1962年。)

(*)(参考 : 青木巌『古代ギリシア人の社会政治思想』京都大学 文学博士[報告番号不明],1962年。)
(*)(参考 : 祇園寺信彦『古ローマの社会と政治』東北大学,文学博士[報告番号不明],1962年。)
(*)(参考：西村貞二『マキャヴェリ研究：特にマキャヴェリズムの研究』東北大学 文学博士[報告番号不明],1962年。)
(*)(参考 : 西島幸右「ルソーとホッブズ---ルソーの政治思想の形成過程」世界史研究28,1962年/37,1965年。)
(*)矢田一男「法制史学会第11回研究大会—学会消息」法学新報69(11),1962年。
(*)戒能通孝「日本における西洋法と東洋法」思想454,1962年。

(*)(参考：矢田一男『ローマ刑事法の研究』中央大学,法学博士[報告番号不明],1962年。)
(*)(参考：町田徳之助「キュクロス(κυκλος)」早稲田法学会誌・人文編13,1962年。)
(*)(参考：京都大学西洋史研究会「ユスチニアヌス帝学説彙纂第25巻邦訳(2)」法学論叢71(4),1962年。)
(*)(参考：古林祐二『古代ギリシャ法の研究』京都大学,法学博士[報告番号不明],1962年。)
(*)「服部英太郎教授・著作目録」(マルクス学位論文)研究年報経済学24(3・4),1963年。
(*)(参考：大内兵衛「マルクス小伝—向坂逸郎「マルクス伝」のダイジェスト(完)」世界216,1963年。)
(*)菊池豊『ナイルから邪馬台まで』[出版者不明],昭和38年。
(*)(参考：クロード・デルマス/清水幾太郎訳『ヨーロッパ文明史』文庫クセジュ351,白水社,1963年(→1966年,再版)。)
(*)吾郷哲夫『日本神學の幾何学的把握：八面体理論に基づく古神道の究明』日本神学連盟,日本神学選書1,1963年。
(*)(参考：呉茂一「西洋と東洋—その成立と差異への瞥見」国際文化105,1963年。」
(*)上野直昭「日本的なるもの・伊勢神宮とパルテノン—美学者の散歩(9)」芸術新潮14(9),1963年。
(*)(参考：前嶋信次『テリアカ考：文化交流史上から見た一薬品の伝播について(1,2)』前嶋信次,1963-64年。)
(*)(参考：前嶋信次「テリアカ考：文化交流史上から見た一薬品の伝播について(1-3)」史学36(4),1963年/37(3),1964年/38(4),1966年。)
(*)村川堅太郎「地中海ところどころ」心16(10,11),1963年。
(*)村川堅太郎「洋書—喜びと悩み」學燈50,1963年。
(*)(参考 : 村川堅太郎『オリンピア：遺跡・祭典・競技』中公新書,中央公論社,1963年(→1973年,再版)。)
(*)「よみうり抄」(村川堅太郎)讀賣新聞夕刊8/23,1963年。
(*)「短評・オリンピア」」(村川堅太郎)讀賣新聞夕刊11/28,1963年。
(*)「村川堅太郎著「オリンピア」」東京朝日新聞朝刊10/30,1963年。
(*)(参考：高階秀爾「マイヨールとギリシア」みずゑ703,1963年。)
(*)(参考：ロレンス・ダレル/高松雄一訳『クレア』世界新文学双書,アレキサンドリア4-4河出書房新社,1963年。)
(*)太田秀通『地中海文明印象記』岩波書店,昭和38年。
(*)三笠宮崇仁「太田秀通「地中海文明印象記」」オリエント6(2),1963年。

(*)千勝重次「清談会 「地中海」のことなど」短歌研究20(8),1963年。
(*)鈴木六林尾「〈地中海から〉—評論月評(3)」俳句12(11),1963年。
(*)呉茂一「ローマ便り」國際文化114,1963年。
(*)保良仲村「アッピア紀行—ホラチウス諷刺詩第1巻(5)」國際文化114,1963年。
(*)平川祐弘「フィレンツェ大学外人講座(14)欧米大学めぐり—イタリア」國際文化114,1963年。
(*)篠原真木「平川祐弘著「芸術にあらわれたヴェネチア」」比較文学研究7,1963年。
(*)門脇佳吉「ローマ便り(1-3)」世紀154-157,1963年。
(*)羽仁進「シシリーの旅から」世界210,1963年。
(*)(參考：竹内啓一「書評 R.アリマジアの遺著「イタリア」」イタリア学会誌12,1963年。)
(*)(參考：Hans Carossa/菊池栄一編注“Aufzeichnungen aus Italien”第三書房,1963年。)
(*)(參考：角英祐「ローマからシシリーへの旅—ゲーテの規範と理念」(日本ゲーテ協会)ゲーテ年鑑5,1963年。)
(*)和田秀夫「イタリアの空—ヨーロッパだより—海外通信(21)」時の法令451,1963年。
(*)(參考：三輪福松「エトルリアの芸術」三彩159,1963年。)
(*)(參考：三輪福松「エトルスクの壁画」三彩162,1963年。)
(*)(參考：三輪福松「憂愁と官能の詩人—古典は甦る(2)」美術手帖216,1963年。)
(*)福原麟太郎「野方閑居の記(17)：イタリア紀行」(草茎社)草茎28-5,1963年。
(*)(參考：大澤武雄「ビザンチンとルネサンスの空間」早稲田大学大学院文学研究科紀要9,1963年。)
(*)石井昭「イスタンブールのバザール」建築雑誌78(932),1963年。
(*)(參考：J.リーサー/由良君美訳・佐藤亮一訳編・田淵巖著『ロンドンの恐怖・ポンペイの最期・大地は壊れたり』筑摩書房,[中野好夫編]世界ノンフィクション全集49,1963年。)
(*)(參考：E.B.アンドレーエヴァ/清水邦夫訳『失われた大陸：アトランティスの謎』岩波新書,昭和38年。)
(*)(參考：土屋哲「ユートピア文学第2章--『ニュ・アトランチス』について」明治大学和泉校舎研究室紀要21,1963)
(*)(參考：コールゲン・シュバヌート/林剛至訳『北海のアトランチス』大陸書房,1963年。)
(*)(參考：C.シュツハルト/波多野忠雄訳「シュリーマン讃仰」古代学11(2),1963年。)
(*)(參考:村田数之亮「シュリーマン」(岩村忍編『未知への挑戦(14):20世紀を動かした人々』所収,講談社,昭和38年。)
(*)(參考：チャドウィック/大城功訳『線文字Bの解読』みすず書房,昭和38年。)
(*)(參考：森祐三「ヘレニズムにおける啓蒙的なるもの」世界史研究31~33,1963年。)
(*)(參考：大沢武雄「ビザンチンとルネサンスの空間」早稲田大学大学院文学研究科紀要9,1963年。)
(*)(參考:フォン・ガベン,A.M./羽田晃訳「世界史上のトルコ民族」オリエント6(1),1963年。)
(*)(參考:アーノルド・トインビー/黒沢英二訳『文明の実験:西洋のゆくえ』毎日新聞社,1963年。)
(*)(參考：A.J.トインビー著/D.C.サマヴェル編/長谷川松治訳『歴史の研究(1-5巻)』現代教養文庫,社会思想社,1963年。)

(*)(参考:H.L.メイスン/八田良太郎他訳「トインビーの世界政治観(1-14)」同志社法学14(7,9),15(1,2,3,4,5,6),1963年/16(1,2,3,4,5),1964年/16(6),1965年。)
(*)(参考：ヨハン・ホイジンガ/高橋英夫訳『ホモ・ルーデンス：人類文化と遊戯』中央公論社,1963年。)
(*)E.ライシャワー・前田陽一・竹山道雄・高木八尺・安倍能成「座談会・東洋と西洋の相互理解」(ケーベル)心16(5),1963年。
(*)(参考：澤柳大五郎編『様式の歴史：西洋美術のかたち』美術出版社,1963年(→1990年,新装版)。)
(*)(参考：会田雄次「西欧ヒューマニズムの限界」中央公論78(5),1963年。)
(*)(参考：会田雄次「生活と生存—ヨーロッパ文化と日本文化の歴史的基盤の考察」自由5(12),1963年。)
(*)(参考:J.ホイジンガ/高橋英夫訳『ホモ・ルーデンス：人類文化と遊戯』中央公論社,1963年(→1971年,普及版,→1973年,中公文庫)。)
(*)春日井真也「岡倉天心とインド」三彩159,1963年。)
(*)(参考：『アフガニスタン古代美術展』日本経済新聞社,1963年。)
(*)(参考：西沢竜生「Opsis とKagami」日伊文化会館Annuanario 1,1963年。)
(*)島正三『吉利支丹版羅葡日対訳辞書考II』文化書房,昭和39年。
(*)寺本界雄『南蛮渡来事物字句雑句』「長崎」発行所,1963年。
(*)(参考：山田坂仁・篠崎武篇『哲学小辞典』泉文堂,1963年。)
(*)(参考：日本基督教協議会文書事業部キリスト教事典編集会編集『キリスト教大事典』教文館,1963年。)
(*)(参考：田中秀央・落合太郎編『ギリシア・ラテン引用語辭典』新増補版,岩波書店,1963年。)
(*)(参考:緒方富雄『語原ギリシア語法:醫學術語の語原の理解と製作に必要なギリシア語法の知識』復刻版,東京リプリント社,1963年。)
(*)(参考：賀川哲夫『標準医語辞典 独羅英仏和』(改訂版)南山堂,1963年。)
(*)(参考：井上義昌『英米故事伝説辞典』冨山房,1963年。)
(*)(参考：土居寛之・平岡篤頼他編『フランス文学辞典』言潮社,1963年。)
(*)(参考：今泉篤男・山田智三郎編『西洋美術辞典』訂正6版,東京堂出版,1963年。)
(*)(参考：小林珍雄編『キリスト教用語辞典：附イスラム用語』訂正3版,東京堂,1963年。)
(*)(参考：水野有庸「アリストテレスに至るまでの哲学的文献におけるφυιςの語の歴史」西洋古典學研究11,1963)年。)
(*)(参考：田中秀央『英語の構造：西洋古典語からみた』泉屋書店,1963年(→1975年,再版。)
(*)(参考:E.ドーブルホーファ著/矢島文夫・佐藤牧夫訳『失われた文字の解読』山本書店,1963年。)
(*)堀口俊一「日本における英語教育史」法政大学教養部研究報告7,1963年。
(*)井田好治「薩摩の英学(1)その前史と薩摩辞書」鹿児島大学文理学部文科報告12,1963年。
(*)井田好治「玉重文庫本「暗厄利亞興学」および「暗厄利亞語林大成」の発見」英語青年2月号,1963年。
(*)(参考：田中秀央『英語の構造：西洋古典語からみた』泉屋書店,1963年(→1963年,岩波書店版。→1975年,泉屋書店再版)。)
(*)(参考：前田護郎『ことばと聖書』岩波書店,1963年。)

(*)森田武「キリシタンの日本語学習:マノエル・バレトの注解を中心に」国語教育研究8,1963年。
(*)松村明編『天草版伊曽保物語語彙索引稿(1-3分冊)』東京大学文学部国語研究室,1963年。
(*)土井忠生『吉利支丹文献考』三省堂,1963年。
(*)古田東朔「品詞分類概念の移入と其の受容過程」蘭学資料研究会研究報告130,1963年。
(*)(参考：大場建治「登場人物名の意味」明治学院論叢73,1963年。)
(*)齋藤信「稲村三伯(海上随鷗)—彼の生涯と「波留麻和解」研究」名古屋市立大学教養部紀要・人文社会研究8,1963年。
(*)(参考：樋口勝彦・藤井昇『Grammatica Latina』研究社出版,1963年。)
(*)泉井久之助“Recent Trends in Japan Linguistics”Trends in Modern Linguistics Spectrum Publishers,1963.
(*)Arai,Tsuguo‘The Japanese Contribution to Greek and Roman History since the End of the First World War to 1962/3’Lustrum 8,1963.
(*)杉本つとむ「近代語の標章」国文学研究25,1963年。
(*)(参考：金子武蔵「大学の理念」理想356,1963年。)
(*)岩波書店編『岩波書店五十年』岩波書店,昭和38年。
(*)津田内匠『ディドロ邦語文献目録』(津田内匠),1963年。
(*)(参考：「池田栄先生略歴及び著作目録」関西大学法学論集12(2・3),1963年。
(*)(参考：エリアーデ/堀一郎訳『永遠回帰の神話：祖型と反復』未来社,1963年。)
(*)(参考：元田脩一「神話批評をめぐって」不死鳥通信24,1963年。)
(*)(参考：呉茂一「ポセイドーンとイオーニア人(続)」西洋古典學研究9,1963年。)
(*)(参考:W.Schadewaldt(erläutert von Yoshimu Sugiyama),“Griechischen Sterrsagen”Hakushusha,1963.)
(*)(参考：シャーデヴァルト/河原忠彦訳『星のギリシア神話』白水社,1963年。)
(*)(参考:関根文之助訳『ギリシア・ローマ神話』少年少女世界名作文学全集29,小学館,1963年。)
(*)(参考：山室静『ギリシャ神話・付北欧神話』社会思想社,現代教養文庫,昭和38年(→昭55年,新版。)
(*)(参考:関根文之助・池田浩彰え『ギリシャ・ローマ神話』少年少女世界名作文学全集29,小学館,1963年。)
(*)(参考：高津春繁・野上素一編『ギリシア・ローマ南欧古典』世界短編文学全集8,集英社,1963年。)
(*)(参考：中井千之「フリードリヒ・シュレーゲルの文学観における「神話」と「啓示」」ソフィア12(1),1963年。)
(*)(参考：宮下忠二「コリンズの「夕べによせるうた」:その神話創造と古典模倣についての考察」一橋論叢50(4),1963年。)
(*)(参考：トレモンタン/西村俊昭訳『ヘブル思想の特質』(ギリシア思想比較)創文社,1963年。)
(*)(参考：新田一郎「コンスタンティヌスと太陽政策—Constantin Helios問題考」史林46(1),1963年。)
(*)(参考：半田元夫「イエス処刑責任論」史学雑誌72(1),1963年。)
(*)(参考：小嶋潤『イエスの出現と受難』立教大学キリスト教学科, 1963年。)

(*)(参考：塚本虎二訳『死に勝つ』6版,伊藤節書房,1963年。)
(*)(参考：塚本虎二訳『福音書：新約聖書』岩波文庫,岩波書店,1963年。)
(*)(参考：塚本虎二訳『新生のおとづれ』ハレルヤ書房,1963年。)
(*)(参考：石原兵永『ピリピ・ピレモン書』新約聖書注解,聖書の言社,1963年。)
(*)(参考：高橋三郎『ヨハネ伝講義(1-4)』待晨堂,1963年。)
(*)(参考：荒井献「グノーシス—主として原始キリスト教との関連において」日本の神学2,1963年。)
(*)倉田百三『静思；希臘主義と基督教主義との調和の道』倉田百三選集2,春秋社,1963年。
(*)(参考：藤原藤男『ロゴス・コトバ論』聖文舎,1963年。)
(*)(参考：山谷省吾『古代世界とキリスト教』新教出版社,昭和38年。
(*)(参考：栗原貞一『アレクサンドリアのクレメンス研究』奇峰社,1963年。)
(*)(参考：山下正男「アウグスチヌスの記号論とバースの記号論」人文学報14(2),1963年/14(3),1964年。)
(*)(参考：内田芳明「マックス・ウェーバーにおける「形式合理性」の概念について,及びアウグスティーヌスにおける「禍の神義論」について—安藤英治氏の疑問に答う」商経法論叢14(1),1963年。)
(*)(参考：ポシディウス/P.ネメシェギ編,熊谷賢二訳『聖アウグスチヌスの生涯』創文社,1963年。)
(*)(参考：基督教学校教育同盟編『旧訳聖書の教え』聖書教科書2,創元社,1963年。)
(*)(参考：基督教学校教育同盟編『聖書入門』聖書教科書2,創元社,1963年。)
(*)(参考：川田殖「オリゲネスにおける聖書と哲学」共助12月号,昭和38年。)
(*)(参考：蛭沼寿雄「ジュネーヴ聖書の意味」英米文学6(2),1963年。)
(*)(参考：齋藤勇「ウィクリフ訳聖書をめぐって」英語青年109(9),1963年。)
(*)(参考：蛭沼寿雄「本文上翻訳より見た新英訳聖書：特にマルコ福音書を中心として」英米文学7(2),1963年。)
(*)(参考：山田祥一「「新英訳聖書」の現代性」武蔵野女子学院学生文化会紀要34,1963年。)
(*)(参考：新見宏「死海写本」日本の神学2,1963年。)
(*)(参考：岸田貫一郎「ゲーテにおける宗教的生」理想356,1963年。)
(*)(参考：伊藤緑良「ゲーテと基督教」明治大学和泉校舎研究室紀要25,1963年。)
(*)(参考：アラン/井沢義雄訳『アラン人間論』角川文庫,昭和38年。)
(*)(参考：J.リンチ「ニューマンの心の遍歴：最近のニューマン伝を読んで」ソフィア12(4),1963年。)
(*)湯川秀樹『本の中の世界』(エピクロス)岩波新書,1963年。
(*)長尾一雄「言葉としての成功—東大ギリシア悲劇研究会上演「トロイアの女」」新劇10(8),1963年。
(*)水野恭一郎「備前妙覚寺蔵「世界図屏風」について」岡山史学10(3),1963年。
(*)(参考：教文館『キリスト教史年表・地図』感謝のことば,教文館,1963年。)
(*)帝国書院編集部編『新詳高等地図：教師用』最新版,帝国書院,1963年。)
(*)(参考：平凡社・ランドマクナリー社共同製作；田中薫,E.B.エスペシェード監修『世界地図帳』平凡社,1963年。)
(*)(参考：小野重雄「古代世界奴隷制史研究(1-3)」商経法論叢14(1),1963年/14(3,4),1964年。)
(*)(参考：安藤英治「ロストフツェフの古代社会観の一断面—ローマ帝国史論をめぐって」

成蹊大学政治経済論叢13-1,2,昭和38年。)
(*)(參考：井上一「E.H.カー「歴史とは何か」世界史と古代史—特にギリシア史への現代的視角を中心として」横浜市立大学論叢14-2,昭和38年。)
(*)(參考：安井久喜雄『奈翁戦争概史』戦史教養叢書,戦史教養叢書刊行会,1963年。)
(*)(參考：永井滋郎「古代没落の問題：ギリシア衰退とヘレニズム史の再検討」講座・社会科教育(柳原書店),世界史,昭和38年。)
(*)(參考：石母田正他編『古代における身分と階級』古代史講座7,學生社,1963年。)
----馬場恵二「アテナイの市民とメトイコイ」
吉村忠典「属州クリエンテーラと補助軍(III)」
(*)「史学文献目録(西洋史)」史學雑誌72(1),1963年。
(*)(參考：「1962年の歴史学界—回顧と展望」史學雑誌72(5),1963年。)
(*)「史学文献目録(西洋史)」史學雑誌72(9),1963年。
(*)(參考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『詳説世界史』山川出版社,1963年。)
(*)(參考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『詳説世界史：教授資料』山川出版社,1963年。)
(*)(參考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『要説世界史』山川出版社,1963年。)
(*)(參考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『要説世界史：教授資料』山川出版社,1963年。)
(*)(參考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『新編世界史』山川出版社,1963年。)
(*)(參考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『新編世界史：教授資料』山川出版社,1963年。)
(*)(參考：尾鍋輝彦編『中学校世界史の指導計画』指導計画書シリーズ,国土社,1963年。)
(*)(參考：小沢栄一「国民史と世界史が一本建て—フランスの歴史教育の現状」歴史教育研究26,1963年。)
(*)森崎晃「古代・中世史の世界史的視野にたった取扱—世界史(A)の指導上の1試案」世界史研究(31~33),1963年。
(*)(參考：須永梅尾「世界史教育における二つの問題—文明論としての世界史像をめぐる一試案について」白山史学9,1963年。)
(*)(參考：大江一道「歴史教育と世界史像」歴史学研究283,1963年。)
(*)(參考：田中陽児「現段階における歴史研究と歴史教育—世界史的歴史認識の意義について」歴史学研究283,1963年。)
(*)満井隆行「明治期の万国史教科書：五洲紀事と万国史(木村鷹太郎)著について」社会科教育研究1963(17),1963年。
(*)増淵竜夫「歴史意識と国際感覚—日本の近代史学史における中国と日本(1,2)」思想464,468,1963年。
(*)増田四郎「歴史と現実—日本における西洋史研究の問題情況」思想468,1963年。
(*)(參考：太田秀通「西洋史研究の意義についての感想」歴史評論150,1963年。)
(*)石母田正「近代史学史の必要について」歴史評論150,1963年。
(*)酒井忠雄「史論・史学論・史学史」歴史評論156,1963年。
(*)酒井忠雄「史学史研究の基本問題」歴史研究1,1963年。
(*)(參考：出隆『哲学以前』出隆著作集1,勁草書房,1963年。)
(*)(參考：出隆『哲学を殺すもの』出隆著作集2,1963年。)
(*)(參考：出隆『エッセー』出隆著作集3,勁草書房,1963年。)
(*)(參考：出隆『パンセ』出隆著作集4,勁草書房,1963年。)
(*)(參考：出隆『哲学史余話』出隆著作集5,勁草書房,1963年。)

(*)(参考：出隆『哲学青年の手記』出隆著作集6,勁草書房,1963年。)
(*)(参考：出隆『出隆自伝(正続)』出隆著作集7,8,勁草書房,1963年。
(*)(参考：山本光雄「ギリシア哲学史資料集(4,5,6)」(東京都立大学哲学会)哲学誌5,6,7,1963年。)
(*)(参考：加藤信朗「ヘラスとゲルマーニア—ドイツにおける古代哲学研究の現況」理想362,1963年。)
(*)(参考：松本厚「プロディコスの「岐路のヘラクレス」について--ソフィストの徳育の一考察」広島大学文学部紀要22(1),1963年。)
(*)(参考：ニーチェ/泉典治訳「ラエルティオス・ディオゲネスの資料について,ラエルティオス･ディオゲネスの資料研究と批判への寄与」(理想社版『ニーチェ全集1』所収,理想社,昭和38年。)
(*)(参考：村井実『ソクラテス—歴史を創った教師』牧書店,1963年。)
(*)(参考：田中美知太郎編『講座 哲学大系2』人文書院,昭和38年。----
第1巻「哲学そのもの」・田中美知太郎「哲学への案内」・藤澤令夫「哲学についての予備的反省」・森進一「哲学という概念の変遷(古代)」・森進一「哲学の主要問題の変遷(古代)」・山下正男「哲学の部門分け」
第2巻「哲学の歴史」・有賀鉄太郎「教父時代の哲学」・副島民夫「列伝体哲学史と問題別哲学史」・加来彰俊「十九世紀の哲学史家」・藤井義夫「文献学一般との関係」・津村寛二「哲学年表」
第3巻「科学理論と自然哲学」・松本厚「古代中世の自然観」・田中美知太郎「科学史の視点」
第4巻「歴史理論と歴史哲学」・兼岩正夫「西欧古代中世の歴史観」・藤縄謙三「古代史研究と考古学の役割」・加来彰俊「歴史記述の客観性」・田中美知太郎「現代歴史市主義の批判」
(*)「田中美知太郎編「哲学そのもの」明快な執筆態度 少壮学徒が説く「哲学」」讀賣新聞夕刊6/27,1963年。
(*)(参考：田中美知太郎・恒藤恭『倫理・社会』教学社,1963年(→1966年,改訂版。→1967年,改訂)。)
(*)八谷泰造「スパルタ教育のすすめ—日紡貝塚チームの記録映画を観て思う」中央公論78(6),1963年。)
(*)(参考：脇屋潤一「古典古代ギリシアにおける教育活動の二類型(2.個人発表論文要項,II.教育史学大会第6回大会記録)」日本の教育史学6,1963年。)
(*)(参考：田中美知太郎編『プラトン名言集』新潮社,1963年。)
(*)(参考：青木巌「〈書評〉『プロティノス著作集』第5巻（ハルダー,理非あると校訂・訳・註）ソフィア12(1),1963年。)
(*)(参考：森崎晃「古代・中世の世界史的視野にたった取扱—世界史(A)の指導上の1試案」世界史研究31,1963年。)
(*)(参考：副島民雄「ギリシアにおける啓蒙思想(1)」世界史研究(31~33),1963年。)
(*)(参考：森祐三「ヘレニズムにおける啓蒙的なるもの」世界史研究(31),1963年。)
(*)(参考：長友栄三郎「ローマ思想における啓蒙的なるもの」世界史研究(31),1963年。)
(*)(参考：河盛好蔵等編『世界人生論全集1』筑摩書房,昭和38年。)
----ヘシオドス：「仕事と日々」真方敬道訳

テオグニス：「エレゲイア詩集」久保正彰訳
ヘラクレイトス：「ヘラクレイトスの言葉」田中美知太郎訳
クセノフォン：「饗宴」村治能就訳
プラトン：「リュシス」山本光雄訳/「カルミデス」齋藤忍随訳
アリストテレス：「哲学のすすめ・友愛論」藤井義夫訳
テオフラストス：「性格論」藤井義夫訳
エピクロス：「メノイケウス宛書簡・主要教説・断片」戸塚七郎訳
藤井義夫「よく生きるための智慧」
(*)(参考：河盛好蔵等編『世界人生論全集2』筑摩書房,昭和38年。)
----キケロ：渡辺義雄訳「最善の善と最大の悪について」
呉茂一訳「人生の幸福について」
セネカ：湯井壮四郎訳「道徳書簡集」
アウレリウス：鈴木照雄訳「自省録(抄)」
プルタルコス：藤井義夫訳「七賢人の饗宴」
戸塚七郎訳「運命論」
ユウェナーリス：樋口勝彦訳「むなしきは人の願い」/「人の表,人の裏」
ホラーティウス：高津春繁訳「寛容の徳」/「わたしの父」/「売り込み」/
「人間の愚かさ」
ルーキアーノス：高津春繁訳「おとこおんな」/
メニッポス：「二重に訴えられて」
齋藤忍随「ヘレニズムと個人」
(*)(参考：河盛好蔵等編『世界人生論全集6』筑摩書房,昭和38年。)
----ギッシング：「ヘンリ・ライクロフトの私記」菊地重三郎訳
(*)(参考：河盛好蔵等編『世界人生論全集8』筑摩書房,昭和38年。)
----モンテーニュ：「エセー(抄)」原二郎訳
松浪信三郎「エセーとパンセ」
(*)(参考：河盛好蔵等編『世界人生論全集9』筑摩書房,昭和38年。)
----ラ・ロシュフーコ：「ラ・ロシュフーコ自画像・箴言録・反省録」齋藤磯雄訳
河盛好蔵「フランスのモラリスト」
(*)(参考：河盛好蔵等編『世界人生論全集12』筑摩書房,昭和39年。)
----エッカーマン：「ゲーテは語る」手塚富雄訳
(*)(参考：河盛好蔵等編『世界人生論全集13』筑摩書房,昭和38年。)
----ヘーゲル：「イエスの生涯」原健忠訳
佐藤晃一「哲学的な人生論」
(*)(参考：波多野通敏『哲学の基礎』明玄書房,1963年。)
(*)(参考：山本光雄『哲学者の憂い』角川新書,角川書店,1963年。)
(*)(参考：藤澤令夫「哲学そのものをどう考えるか」「講座・哲学大系1」,人文書院,1963年。)
(*)(参考：鹿野治助「エピクテートス哲学の根本問題(1)」(大阪市立大学大学院文学研究科)人文研究14(3),1963年。)
(*)(参考：松本厚「プロディコスの「岐路のヘラクレス」について—ソフィストの徳育の一

考察」広島大学文学部紀要22(1),1963年。)
(*)(參考 : 加藤信朗「ヘラスとゲルマーニア--ドイツにおける古代哲学研究の現況」理想362,1963年。)
(*)(參考 : 坂口昴吉「晩年のボナヴェントゥーラとアリストテレス哲学の関係」中世思想研究4,1963年。)
(*)(參考 : 永野羊之輔「キケロの「義務論」とカント倫理学—“Tugendpflicht”概念の源流についての一考察」広島大学文学部紀要22(1),1963年。)
(*)(參考 : 青木巖「〈書評〉『プロティノス著作集』第五巻(ハルダー,リヒアルト校訂・訳・註)」ソフィア12(1),1963年。)
(*)參考 : ヒルティ/小池辰雄編他訳『眠られぬ夜のために』白水社,1963年。)
(*)(參考 : 青柳晃一「批評家としてのサンタヤナ」比較文化研究4,1963年。)
(*)(參考 : 船山信一『ヘーゲル哲学体系の生成と構造』岩波書店,昭和38年。)
(*)(參考 : 村田昇「シュプランガーにおける人文主義と国民主義」滋賀大學學藝學部紀要 : 人文科学・社会科学・教育科学13,1963年。)
(*)(參考 : 岸本通夫「Mycenae,Arzawa,Hatti : Zum Andenken an F.Sommer」西洋古典學研究11,1963年。)
(*)「古典学関係海外研究誌備えつけの現況」(名古屋大学,南山大学,神言神学院) 西洋古典學研究11,1963年。)
(*)(參考 : 柏木英彦「エギディウス・ロマヌス研究の現状と問題点」中世思想研究4,1963年。)
(*)(參考 : 新関良三「カタルシスの新しい解釈」日本演劇学会紀要6,1963年。)
(*)(參考 : 務台理作・高桑純夫・南博『高校倫理・社会』実教出版,1963年。)
(*)(參考 : 有賀喜左衛門・下村寅太郎『倫理・社会』高教出版,1963年。)
(*)(參考 : 尾島庄太郎「軍記物語とヨーロッパ叙事文学」国文学 解釈と鑑賞28(4),1963年。)
(*)(參考 : 高津春繁・野上素一,奥野信太郎等編『世界短編文学全集8』（ギリシア・ローマ南欧古典）集英社,1963年。)
(*)(參考 : 長尾一雄「ことばとしての成功—東大ギリシアへ劇研究会上演「トロイアの女」」新劇10(8),1963年。)
(*)(參考 : 田中美知太郎編『ギリシァ劇集』新潮社,1963年。)
(*)(參考 : 鈴木一郎「ホラティウスの「書簡集」をめぐって」青山学院大学一般教育部会論集3,1963年。)
(*)(參考 : 『世界名詩集大成1(古代・中世篇)』平凡社,1963年。)
----「ギリシヤ抒情詩」呉茂一・藤井昇・河底尚吾訳
ピンダロス : 「オリュンピア祝捷歌集(全)」久保正彰訳
バキュリデース : 「詩集(抄)」高津春繁訳
カリマコス : 「讃歌(抄)」松平千秋訳
テオクリトス : 「詩集(抄)」呉茂一訳
「アナクレオンテア(抄)」呉茂一訳
「ギリシア詞華集(抄)」呉茂一訳
カトゥルス : 「詩集(抄)」呉茂一・坪井光雄訳
ウェルギリウス : 「田園詩(抄)」八木綾子訳
ホラーティウス : 「カルミナ(抄)」呉茂一・坪井光雄・国原吉之助訳
プロペルティウス : 「哀歌(抄)」呉茂一訳

ティブッルス：「詩集(抄)」国原吉之助訳
オウィディウス：「名婦の書簡(全)」松本克己訳
ペルシウス：「サトゥラ(抄)」湯井壮四郎訳
マールティアーリス：「エピグラム集(抄)」樋口勝彦訳
ユウェナーリス：「諷刺詩集(抄)」国原吉之助訳
「愛の女神宵宮の歌(全)」国原吉之助訳
「中世ラテン詩人集」呉茂一訳
アンキョル：「コーンスタンティヌポリス占領の哀歌(全)」梅田良忠訳
高津春繁「ギリシアの詩」
呉茂一「ローマ詩史」
(*)(参考:高津春繁･野上素一編『ギリシア･ローマ南欧古典』世界短編文学全集8,集英社,1963年。)
----ホメーロス/高津春繁訳「「オデュッセイア」より」
ヘーロドトス/久保正彰訳「「歴史」より」
クセノポーン/久保正彰訳「アブラダタスとパンティア物語」
ルーキアーノス/呉茂一訳「本当の話」
ルーキアーノス/高津春繁訳「遊女の対話」
ルーキアーノス/高津春繁訳「お雇兵士」
アルキプローン/呉茂一訳「遊女の手紙」
オウィディウス/松本克己訳「名婦の書簡(撰)」
ユウェナーリス/樋口勝彦訳「諷刺詩」
作者不詳/杉浦明平訳「古譚百種」
ボッカチオ/野上素一訳「「デカメロン」(抄)」
(*)(参考：丸岡明編『現代謡曲全集2(高砂)』(呉茂一「能とギリシャ劇」)筑摩書房,1963年。)
(*)(参考:小田実「アリストパネースと「駅前飯店」--映画の内と外で(2)」シナリオ19(3),1963年。)
(*)(参考：大塚幸男『ヨーロッパ文学主潮史』白水社,1963年。)
(*)(参考：徳田進『近代文学研究序説』井上書房,1963年。)
(*)(参考：町田徳之助「近代文学における人間像」人文論集1,1963年。)
(*)(参考：神田孝夫「比較文学の現状と問題」(東大比較文学会)比較文学研究7,1963年。)
(*)(参考：杉山和雄『国民精神の交流としての比較文学』南雲堂・桜風社,1963年。)
(*)(参考：矢野峰人「イギリスにおける比較文学」英語青年3月号,1963年。)
(*)(参考：西村孝次「イギリスの学風—Sir C.M.Bowraにおける「悲劇の英雄」の問題」明治大学人文科学研究紀要3月号,1963年。)
(*)藤木宏幸(協同研究者：遠藤慎吾・尾崎宏次)「日本演劇における外国演劇の影響」悲劇喜劇10月号,1963年。
(*)(参考：野上素一「『神曲』の印象」(ダンテ)世紀153,1963年。)
(*)(参考：信森広光「ダンテとタッソの叙事詩」イタリア学会誌13,1963年。)
(*)(参考：裾分一弘「arteの語義に関する覚え書き—ダンテ「神曲」の場合」武蔵野美術大学研究紀要1,1963年。)
(*)(参考:秋山晴夫「ペトラルカのロールとペトラルカキズム」フランス・ルネサンス文化1,1963年。)

(*)(參考：齋藤祐蔵「ルネッサンス英国劇に対するイタリア文学の影響」イタリア文化研究3,1963年。)
(*)(參考：齋藤祐蔵「英文学に見るイタリア文学の影響(中下)」日本大学理工学部一般教育教室彙報4,1963年/5,1964年。)
(*)(參考：齋藤勇『英文学史概説』研究社,1963年。)
(*)(參考：大山敏子「人間の復活」(福原麟太郎編『イギリスの文学』所収,新潮社,1963年。)
(*)天野敬太郎「日本におけるシェィクスピア文献(1961-1962)」関西大学学報10月号,1963年。)
(*)(參考：森谷佐三郎「Cariolanas---PlutarchよりShakespeareへ」富山大学文理学部文学紀要12,1963年。)
(*)(參考：加藤さだ「ShakespeareとSenecan Pride—自殺の原理として」アカデミア37,1963年。)
(*)(參考：柴田稔彦「否定的創造「アントニイとクレオパトラ」論」エッセイズ16,1963年。)
(*)(參考：岡田實「Shakespeareの「史劇」研究序説--「史劇」を如何に読むべきか」日本大学文理学部学叢?号,1963年。)
(*)(參考：百瀬泉「シェイクスピア歴史劇と時間の主題」クリティカ10,1963年。)
(*)(參考：久田竹一「「トロイラスとクレシダ」一考察」(新潟大学人文学部)人文科学研究23,1963年。)
(*)(參考：小林稔「A Note on “Inverted Platonism”of Shakespeare’s Sonnets」Shakespeare Studies 2,1963年。)
(*)(參考：赤川裕「神話としてのParadise Lost—レトリックからリアリティへ」明治学院論叢73,1963年。)
(*)(參考：田淵実貴男「相剋の相—Keats,ode試論」英語英文学研究9(1・2),1963年。)
(*)(參考：吉村昭男「詩人Matthew ArnoldのIdealism」英語英文学研究10(1),1963年。)
(*)(參考：吉田正和「ハリー・レヴィン著「ジェームズ・ジョイス」」比較文学研究7,1963年。)
(*)福原麟太郎「明治・大正時代の外来文史」學燈10,1963年。
(*)齋藤光「透谷とエマソン」學燈12月号,1963年。
(*)森清「花袋とキーツ訳詩集」英語と英文学92,1963年。)
(*)吉池進『會津八一傳』會津八一先生傳刊行会,1963年。
(*)「西脇順三郎 年譜・著作目録」西脇順三郎先生記念論文集,藝文研究14・15,1963年。
(*)東郷克美「「走れメロス」をめぐって」國文學：解釈と教材の研究8(5),1963年。)
(*)京都大學文學部國語學國文學研究室編『文禄二年耶蘇板伊曽保物語』京都大學國文學會,1963年(→1965年,再版)。
(*)イソップ作/田中豊太郎編『イソップ物語』ポプラ社,1963年。
(*)中川正文やく；長新太え『いそっぷのおはなし』特製版,こどものとも92,福音館書店,1963年。
(*)松村達雄訳注『イソップ物語=AESOP’S FABLES』旺文社・英文学習ライブラリー11,旺文社,1963年。
(*)村岡花子『イソップ物語』幼年世界童話文学全集9,集英社,1963年。
(*)猪野賢一編『イソップ絵話(1,2)』講談社の絵本6,34,講談社,1963年。
(*)宇野義雄編『どうぶついそっぷ』幼児絵本43,小学館,1963年。

(*)まどみちお文；宇野義雄編『イソップ』小学館の絵本35,小学館,1963年。
(*)『いそっぷえほん』(3-5歳)育児絵本55,小学館,1963年。
(*)中川正文・長新太「いそっぷのおはなし」こどものとも(092)1,1963年。
(*)小出五郎「私の貝殻イソップ」ちりぼたん2(6),1963年。
(*)(参考：阿部知二『世界文学の流れ』Kawade paperbacks47,河出書房新社,1963年。)
(*)(参考：中野好夫『世界文学史』少年少女世界文学選集15,あかね書房,1963年。)
(*)(参考：土屋哲「ユートピア文学第2章--『ニュ・アトランチス』について」明治大学和泉校舎研究室紀要21,1963年。)
(*)(参考：松山正男「回顧と群像〈イエーツの自伝と詩〉」オペロン21,1963年。)
(*)(参考：山口圭三郎「D.H.Lawrence：Isisに寄せる幻想」研究と評論9,1963年。)
(*)(参考：西台美智雄「T.E,Hulmeの古典主義について」ヨーロッパ文学研究2,1963年。)
(*)(参考:柳沼重剛「PopeのIliadについて」(立命館大学人文科学研究所)外国文学研究6/7,1963年。)
(*)(参考：川田周雄「ポウプと注釈」英文学評論13,1963年。)
(*)小池滋「Gissing in Japan」Bulletin of the New York Public Library 67(9),1963年。
(*)尾島庄太郎「W.B.Yeats and Japan」早稲田大学大学院文学研究科紀要9,1963年。
(*)(参考：福田民男「Ode on Grecian Urnh—Contextの中でのaphorismの意味について」広島大学教養部紀要・外国文学研究9,1963年。)
(*)武田勝彦「知られざる邦文「英文学史」書」英語青年3月号,1963年。
(*)(参考：鉄村春生「D.H.Lawrence研究(2)そのMysticismを支えるもの」下関商経論集7(1),1963年。)
(*)(参考：安藤一郎「新しい古典主義者—MacNeice」英語青年108(12),1963年。)
(*)(参考:村松真一「マシウ・アーノルドの批評主義再考」静岡大学文理学部人文論集14,1963年。)
(*)(参考：川田周雄「アーノルドの古典主義」英文学評論13,1963年。)
(*)(参考：植木錬之助「エリオットのペイター批判」(関西学院大学)論攷10,1963年。)
(*)(参考：岡橋祐「ペイターの印象主義」(立命館大学外国語科連絡協議会)外国文学研究5,1963年。)
(*)(参考：塚野耕「A Fever of Thyself—Think of the Earth—Two Versions of Hyperion」大阪学芸大学紀要11,1963年。)
(*)(参考：宮崎雄行「「ハイピリオン」私解」武蔵大学論集10(4),1963年。)
(*)(参考：宮崎雄行「キーツのオード私解」武蔵大学紀要1,1963年。
(*)(参考：石垣堅二「愛と美の序説—キーツの詩精神」芸文4(2),1963年。)
(*)(参考：土川彰「バイロンとゲーテ」法政大学教養部研究報告7,1963年。)
(*)(参考：津田迪雄「ShelleyのAdonaisについて」芸文4(2),1963年。)
(*)(参考：福原麟太郎『チャールズ・ラム傳—Charles Lamb：a Bibliography in Japanese』垂水書房,1963年。)
(*)(参考：植木錬之助「エリオットのペイタア批判」(関西学院大学)論攷10,1963年。)
(*)(参考：渡辺格司『ドイツ文学史：古典・浪漫』三和書房,1963年。)
(*)(参考：岡崎初雄「ドイツ文化とドイツ文学」富山大学文学紀要12,1963年。)
(*)(参考：滝沢寿一「ウィンケルマンにおけるラ・ブリュイェールの受容」広島大学文学部紀要22(3),1963年。)

(*)(参考：徳沢得二『ゲーテのファウスト』九州大学,文学博士[報告番号不明],1963年。)
(*)(参考：大野俊一『ゲーテとフランス』慶應義塾大学,文学博士[報告番号不明],1963年。)
(*)(参考：大畑末吉「ゲーテにおける〈自由〉について」一橋論叢50(1),1963年。)
(*)(参考：清水豊明「〈反抗〉の根底にあるもの—ゲーテの戯曲断片「プロメートイス」に寄せて」かいろす2,1963年。)
(*)(参考：中島明彦「ゲーテのイフィゲーニュ—危機を克服するときのイフィゲーニュの態度」(新潟大学)人文科学研究24,1963年。)
(*)(参考：井口正臣「ゲーテの「イフィゲーニュ」における悲劇性の回避」(東北大学)東北ドイツ文学研究7,1963年。)
(*)(参考：八木裕「ゲーテの世界における悲劇性の問題について」大阪府立大学紀要11,1963年。)
(*)川本正良「ゲーテと鴎外」愛媛大学紀要3(2),1963年。)
(*)(参考：長谷川勉「ゲーテに於ける古典主義の現代的意義について」學苑2月号,1963年。)
(*)(参考：徳沢得二「「ゲーテとその時代」雑考」文芸研究10,1963年。)
(*)(参考：高橋巖「ゲーテの「童話」とシラーの美的教育論」美學14(1),1963年。)
(*)(参考：杉浦実「ゲーテの詩「エウプロシュネー」について」独仏文学研究6,1963年。)
(*)(参考：井上正藏「ゲーテとハイネ—わかいハイネのゲーテ観をめぐって」(日本ゲーテ協会)ゲーテ年鑑5,1963年。)
(*)(参考：土川彰「バイロンとゲーテ」法政大学教養部研究報告7,1963年。)
(*)(参考：T.インモース「〈書評〉ゲーテ(シュタイガー,エミール)」ソフィア12(1),1963年。)
(*)(参考：田中健二「後期ヘルダーとその文学論」大阪大學文学學部紀要10,1963年。)
(*)(参考：滝沢寿一「ウィンケルマンにおけるラ・ブリュイエールの受容」広島大学文学部紀要22(3),1963年。)
(*)(参考：中井千之「フリードリヒ・シュレーゲルの文学観における「神話」と「啓示」」ソフィア12(1),1963年。)
(*)(参考:中井千之「フリードリヒ・シュレーゲルの文学研究の姿勢--《Bildung》と《Literatur》とを中心として」上智大学ドイツ文学会会報5,1963年。)
(*)(参考：上野英雄「レッシング『ラオコオン』の美学的考察」富山大学文理学部文学紀要13,1963年。)
(*)(参考：鎌田博夫「ディドロの批評家としてのレッシング」美学55,1963年。)
(*)(参考：手塚富雄他訳『ドイツ=ロマン派集』世界文学大系77,筑摩書房,1963年(→1974年,筑摩世界文學全集26。)
(*)(参考：高岡和夫「ヘルダーリーンの頌歌『ハデルベルク』について」外国文学11,1963年。)
(*)(参考：小島純郎「ヘルダーリーンの詩「自然と技術」について」麗澤大学紀要 外国語編2,1963年。)
(*)(参考:谷友幸「限界期に於ける詩人ヘルダーリーン」京都大學文學部研究紀要8,1963年。)
(*)(参考：山元哲朗「フリードリッヒ・ヘルダーリン—その愛国詩をめぐって」(関西大学)千里山論集1,1963年。)
(*)(参考：七里真水「ヘルダーリン研究の為の覚書から—方法論的序説(2)」和歌山大学学芸学部紀要13,1963年。)
(*)(参考：山田杉夫「ヘルダーリンのディオティーマ像--〈Diotima〉(1796)から〈Menons

Klagen um Diotima〉(1801)へ」金沢大学法文学部論集・文学篇10,1963年。)
(*)参考：松井忠夫「「Atreusの四部作」について」(ホーフマンスタール)ドイツ文学32,1963年。)
(*)(参考：提山淑郎「青年期のホーフマンスタール」北九州大学外国語学部紀要2(8),1963年。)
(*)(参考：柳沼重剛「PopeのIliadについて」立命館大学人文科学研究所・外国文学研究6/7,1963年。)
(*)(参考：小名木栄三郎「ギリシア劇の近代的解釈--〈Alkestis〉におけるEuripidesとHoffmann–stahlの比較研究」(慶應義塾大学法学研究会)教養論叢11,1963年。)
(*)(参考：ニーチェ/塩屋竹男訳『悲劇の誕生他』(「悲劇の誕生あるいはギリシア的精神と悲観主義」「『悲劇の誕生』の思想圏から」「ホメロスの競争」「ギリシア人の悲劇時代の哲学」「ホメロスと古典文献学」)ニーチェ全集2,理想社,1963年。
(*)(参考：秋山英夫「ニーチェとその時代」理想365,1963年。)
(*)(参考：小野浩「ニーチェ論第三章—ギリシャ像のゲルマン的性格(1,2)」(明治大学和泉校舎)紀要24,25,1963年。)
(*)(参考：福田行之「ニーチェにおけるゲーテ像」九州工芸大学研究報告11,1963年。)
(*)(参考：志山博訪「回帰思想と哲学的詩人としてのニーチェ—ニーチェ研究序論(1,2)」(山口大学)文学会誌14(1,2),1963年。)
(*)(参考：富岡近雄「道徳外の意味における真理と虚偽—ニーチェ小論」金沢大学教養部論集 人文科学篇1,1963年。)
(*)(参考：太田彰一「根源学としての哲学とニィチェ」岡山大学法文学部学術紀要16,1963年。)
(*)(参考：川原栄峰「ニーチェの永劫回帰説に関する諸説をめぐって」理想365,1963年。)
(*)(参考：信太正三「ニーチェの歴史観」理想365,1963年。)
(*)(参考：鈴木亨「ニーチェにおける実存の問題」理想365,1963年。)
(*)(参考：中島義生「ニーチェにおける人間の問題」理想365,1963年。)
(*)(参考：吉沢伝三郎「ニーチェ哲学の根本問題—永劫回帰思想の体験」理想365,1963年。)
(*)(参考：中村正雄「ニーチェとキリスト教」理想365,1963年。)
(*)(参考：Hermann Hesse/高橋健二編注“Der Lateinschüler”,郁文堂,1963年。)
(*)(参考：原二郎選訳『モンテーニュ・エセー』筑摩叢書10,筑摩書房,1963年。)
(*)(参考：関根秀雄訳『新撰モンテーニュ随想録』3版,白水社,1963年。)
(*)(参考：関根秀雄「モンテーニュの個人主義について—モンテーニュの知恵(フランス文学科新設記念)」青山学院大学文学部紀要7, 1963年。)
(*)(参考：家永道生「モンテーニュの自然についての試論(1)」哲学15,1963年。)
(*)(参考：坂本勲「『カラクテール』の《鍵》について(概説)：ラ・ブリュイエール」フランス語フランス文学研究3,1963年。)
(*)(参考：坂本勲「ラ・ブリュイエールにおける《非難の対象》について(1,2)」北九州大学外国語学部紀要2(8,10),1963年。)
(*)(参考：加藤宏幸「アナトール・フランスとジャン・ラシーヌ」(東北大学文学会)文化3月号,1963年。)
(*)(参考：田中敬次郎「J.ラシーヌの《ミトリダート》にみられる修司技巧について」名古

屋大学教養部紀要7,1963年。)
(*)(参考：戸張智雄「16世紀フランス悲劇におけるstyle euripidien とstyle sénéquin」フランス・ルネサンス文化1,1963年。)
(*)(参考：渡辺清子「《Iphigénie》を中心に考察したLully-Quinaultのopéra(tragédie Iyrique)に対するRacineの態度について」Etudes de Langue et Litterature Françaises 3,1963年。)
(*)(参考：加藤美雄「Maurice SCEVEとプラトニズム」フランス語フランス文学研究2,1963年。)
(*)(参考：高階秀爾「マイヨールとギリシア」みづゑ703,1963)年。)
(*)(参考：坂本勲「『カラクテール』の《鍵》について(概説)：ラ・ブリュイエール」フランス語フランス文学研究3,1963年。)
(*)河野與一「講演：日本人の考え方—いくつかの否定的側面」昭和38年8月(同『続・学問の曲リ角』所収,岩波書店,1963年。)
(*)池田哲郎「本邦におけるドイツ学の創始について--蘭系ドイツ学書誌」福島大学学芸学部論集14-2,1963年。
(*)池田哲郎「本邦におけるドイツ学の創始—蘭系ドイツ学書誌」蘭学資料研究会研究報告124,1963年。
(*)芳賀徹「平戸侯松浦静山旧蔵のフランス古書」蘭学資料研究会研究報告138,1963年。
(*)蘭学資料研究会『板澤武雄博士と蘭学』蘭学資料研究会研究報告148, 1963年。
(*)大鳥蘭三郎「高野長英の蘭学への貢献について」蘭学資料研究会研究報告153,1963年。
(*)大鳥蘭三郎「十七世紀に伝来された西洋学術書」医学のあゆみ44(6),1963年。
(*)太田秀通「社会科教育大系第三巻「歴史教育の課題」」歴史評論156,1963年。
(*)内藤智秀「喜寿に際して」聖心女子大学論集21,1963年。
(*)滝沢典子「東海散士の「佳人の奇遇」」学苑2,1963年。
(*)大田兼雄「羽化渋江保の著作」日本古書通信28(9),1963年。
(*)豊田実『新訂・日本英学史の研究』千城書房,1963年。
(*)森清「花袋のキーツ訳詩集」英語と英文学92,1963年。
(*)海老池俊治「「花柳春話」その他」一橋論叢49-2,1963年。
(*)片子澤千代『中江兆民・末広鉄腸・島田三郎』三代言論人集4,時事通信社,1963年。
(*)海老澤有道編「高橋五郎著訳書目録」史苑23(2),1963年。
(*)日高善一『植村正久先生：近代日本を作った魂の牧会者』教会新報社,1963年。
(*)和辻照編『和辻哲郎の思ひ出』岩波書店,1963年。
(*)『出隆自伝』出隆著作集7,勁草書房,1963年。
(*)「西脇順三郎(年譜・著作目録)」芸文研究(14・15）,1963年。
(*)銀河出版『現代人物伝シリーズ・第1集』,1963年。
(*)嘉治隆一「近事片々」(ケーベル)心16(4),1963年。
(*)田中秀央「回想 教室におけるケーベル先生」(同志社大学文学部)パイデイア4,1963年。
(*)山田泰嗣「ケーベル博士と教育学生」(同上)パイデイア4,1963年。
(*)山下和海「ケーベル博士の「小品集」を読んで」(同上)パイデイア4,1963年。
(*)中桐大有「ケーベル博士とその弟子たち」(同上)パイデイア4,1963年。
(*)千阪靖朗「ケーベル博士と中世思想史の研究」(同上)パイデイア4,1963年。
(*)松本仁助「ケーベル博士と日本の西洋古典学」(同上)パイデイア4,1963年。

(*)志賀英雄「古典的ケーベルと私の開眼」(同上)パイデイア4,1963年。
(*)志賀英雄「ケーベル博士の著書と文献(1,2)」(同上)パイデイア4,1963年。
(*)志賀英雄「編集後記 ケーベル博士と倉田百三を記念して」(同上)パイデイア4,1963年。
(*)加藤暁子「ケーベル博士に影響を与えたゲーテ」(同上)パイデイア4,1963年。
(*)梶嘉一郎「ケーベル博士の世界観と人生観」(同上)パイデイア4,1963年。
(*)今谷逸之助「ケーベル博士の哲学と宗教」(同上)パイデイア4,1963年。
(*)井上勝也「ケーベル博士の人間像」(同上)パイデイア4,1963年。
(*)下程勇吉・中島万朶・鰺坂二夫・森章博・西元宗助・志賀英雄・中桐大有・梶嘉一郎「私が初めてケーベルを読んだ時とその書名、私のケーベル観」(同上)パイデイア4,1963年。
(*)「ケーベル博士の生涯と意見」(同上)パイデイア4,1963年。
(*)今井仙一「倉田百三の人と思想(4)思想家の群像」(同上)パイデイア4,1963年。
(*)岡田信造「倉田百三と青年期の人間形成」(同上)パイデイア4,1963年。
(*)渡部幸枝「倉田百三と私との出逢い」(同上)パイデイア4,1963年。
(*)(参考 : 上智大学(J.ロゲンドルフ)編『伝統と創造 : 創立50周年記念』上智大学出版部,1963年。
----- ハインツ・クルーゼ「聖書翻訳の問題」
フランシスコ・ペレス「哲学と青年教育」
青木巖「エピクーロスとキリスト教」
高橋亘「聖アウグスチヌスの歴史観」
近山金次「歴史に於ける伝統と創造」
藤田嗣雄「日本の原初的共同体における法の発見」)
(*)福原麟太郎“The Dawn of English in Japan”(朝日新聞社)This is Japan 10,1963年。
(*)(参考 : 蛭沼寿雄「ジュネーヴ聖書の意味」英米文学6(2),1963年。)
(*)(参考 : 蛭沼寿雄「本文上翻訳より見た新英訳聖書 : 特にマルコ福音書を中心として」英米文学7(2),1963年。)
(*)(参考 : 田中秀央『英語の構造 : 西洋古典語からみた』泉屋書店,1963年(→1963年,岩波書店版。→1975年,泉屋書店再版)。)
(*)森田武「キリシタンの日本語学習 : マノエル・バレトの注解を中心に」国語教育研究8,1963年。
(*)土井忠生『吉利支丹文献考』三省堂,1963年。
(*)寺本界雄『南蛮渡来事物字句雑句』「長崎」発行所,1963年。
(*)海老澤有道「『ドチリナ・キリシタン』をめぐって」史苑24(1),1963年。
(*)海老澤有道・松田毅一『エヴォラ屏風文書の研究』ナツメ社,限定版,1963年。
(*)(参考 : 佐原六郎『世界の古塔』雪華社,1963年。)
(*)(参考 : 山本祐弘『西洋建築史』わかりやすい建築講座2,彰国社,1963年。)
(*)(参考 : シャーデヴァルト/河原忠彦訳『星のギリシア神話』白水社,1963年。)
(*)(参考 : 荒木俊馬『西洋占星術』恒星社厚生閣,1963年。)
(*)(参考 : 楢崎正雄「古代世界の体育の変遷に関する一考察—オリエント・エーゲ海・ギリシア・ローマ各文明とその体育について(上下)」福岡大学文理論叢7(1,2),1963年。)
(*)(参考 : 阿部正臣「古代オリンピア競技の起源」工学院大学研究論叢2,1963年。)

(*)(参考 : 伊東明「ホメーロス『イーリアス』に見られる競技精神」体育学研究8(1),1963年。)
(*)(参考：木村象雷『世紀のオリンピック：アテネから東京へ』山海堂,1963年。)
(*)(参考：鈴木良徳他『オリンピック読本』中教出版,1963年。)
(*)(参考：鈴木良徳『オリンピックを楽しむ本：歴史・競技・常識のすべて』How to books, 講談社,1963年。)
(*)(参考：『オリンピック：そのすべて』報知新聞社,1963年。)
(*)(参考：河合勇『オリンピックの歴史』白水社,1963年。)
(*)(参考：ヒポクラテス/小川政恭訳『古い医術について：他八編』岩波文庫,岩波書店,1963年。)
(*)(参考 : 岩崎允胤「アリストテレスの自然認識にかんする基本的諸問題とくに現代的観点から」哲学13,1963年。)
(*)(参考：三枝博音「オリエント・ギリシア・ローマの農業」古代史講座8,昭和38年。)
(*)(参考：大須賀康宏「ヴィコの「科学論」より」學習研究161,1963年。)
(*)(参考：田中美知太郎編『科学理論と自然科学』講座哲学大系3,人文書院,1963年。)
----山下正男「論理学の歴史」/松本厚「古代中世の自然観」/永井博「近代自然哲学の基礎問題」/田中美知太郎「科学史の視点」
(*)(参考：吉田光邦『錬金術』中公新書,昭和38年。)
(*)(参考：友松芳郎編『自然科学史』創元社,1963年。
(*)(参考：渡辺正雄『文化史における近代科学』未来社,1963年。
(*)(参考：近藤洋逸「近代科学の形式とプラトニズム」思想345,1963年。)
(*)(参考：コワレフスキー/中野廣譯『數學史：数学史』厚文社, 1963年。）
(*)(参考：ホグベン著/今野武雄訳『百万人の数学』筑摩書房,1963年。)
(*)今野武雄「小倉金之助と人の思想」思想469,1963年。
(*)近藤洋逸「小倉金之助氏の数学史研究—ヨーロッパ数学史を中心として」科学史研究・第II期65,1963年。
(*)坂口正男「『舎密開宗』の研究(1,2,3)」科学史研究67,1963年/72,1964年/83,1967年。
(*)荒川久寿男「幕末より明治末期に至る学問論の変転についての一素描」芸林14(5),1963年。
(*)筑波常治『科学事始—江戸時代の新知識』グリーンベルト・シリーズ,筑摩書房,1963年。
(*)松浦伯夫『近世日本における実学思想の研究』理想社,1963年。
(*)杉田元宜「近代科学の受容と日本の伝統的なもの」一橋論叢49(2),1963年。
(*)弥吉光長「蘭医書出版の裏面劇」日本古書通信38(1),1963年。
(*)中山茂「「乾坤弁説」の原著とクラヴィウス」蘭学資料研究会研究報告136,1963年。
(*)大森実「「暦象新書」と「夢の代」蘭学資料研究会研究報告141,1963年。
(*)大森実「「暦象新書」の研究史—従来の評価について(正続)」科学史研究68,1963年/64,1964年。
(*)芳賀徹「高橋由一と司馬江漢」蘭学資料研究会研究報告147,1963年。
(*)緒方富雄『語原ギリシア語法：醫學術語の語原の理解と製作に必要なギリシア語法の知識』東京プリント出版社,復刻版,1963年。
(*)(参考：石母田正他編『古代における身分と階級』古代史講座7,學生社,1963年。)
----- 馬場恵二「アテナイの市民とメトイコイ」
吉村忠典「属州クリエンテーラと補助軍(II)」

(*)(参考：新村祐一郎「スパルタのエポロイ—その起源と権力獲得の過程」西洋史学57,1963年。)
(*)(参考：八谷泰造「スパルタ教育のすすめ—日紡貝塚チームの記録映画を観て思う」中央公論78(6),1963年。)
(*)(参考：土井正興「「スパルタクス反乱の社会経済的背景について—スパルタクス南下の問題をめぐって」法学志林6(3・4),1963年。)
(*)(参考：石母田正他編『古代の土地制度』古代史講座8,學生社,1963年。)
----- 岩田拓郎「ギリシアの土地制度理解のための一「試論」
浅香正「ローマ大土地所有制」
三枝博音「オリエント・ギリシア・ローマの農業」
(*)(参考：石母田正他編『古代の商業と工業』古代史講座9,學生社,1963年。)
-----伊藤貞夫「古典期のアテネにおける手工業経営」
馬場典明「ローマの工業：都市経済と奴隷制」
高橋秀「ローマの商業」
(*)(参考：長谷川博隆「フレゲライの叛乱(bellum Fregellanum)考—ローマ市民権とラテン市(1,2)」史学雑誌72(11,12),1963年。)
(*)(参考：中村友太郎「聖アウグステチヌスにおける「永生の平和」理念について」(1))」比較文化研究4,1963年。)
(*)(参考：赤井節「書評 古林祐二著「古代ギリシヤ刑法に於ける過失責任論と刑法思想」(福岡大学法学論叢6巻1,2合併号),新村祐一郎著「スパルタの制度とリュクルゴス伝説—立法伝説の形成とその時期」(史林44巻4号),山本茂著「シュメール都市国家の労働組織について—ラガシュのパウ神殿と自由人および奴隷との関係を中心に」(西洋史学48号)」法制史研究1963(13),1963年。)
(*)(参考：町田実秀『ローマ法史概説(1,2)』有信堂,1963年。)
(*)佐々木満子『末松謙澄』(昭和女子大学)近代文学研究双書20,1963年。
(*)恒藤恭「栗生武夫君の追憶—忘られぬ人々(1)」法律時報35(1),1963年。
(*)「故武藤智雄先生略歴および著作目録」阪大法学(44・45),1963年。

(*)石田英一郎「二つの世界観—日本と西欧の文明史論的位置づけの試み」展望72,1964年。
(*)(参考：ロベール・シューマン/上原和夫・杉辺利英訳『ヨーロッパ復興』朝日新聞社,1964年。)
(*)(参考：北園克衛『黒い招待券』(「アトランティス」)Mira Center,1964年。)
(*)(参考：竹内啓一「シチリアの顔(1,2)」地理9(4,5),1964年。)
(*)(参考：小栗浩「「ローマのエレギー」--ゲーテ古典主義についての一考察」北海道大学文学部紀要12,1964年。)
(*)(参考：結城謙治「Fr.Hebbel の抒情詩より見たるGoethe羈絆よりの離脱と文藝観の確立」(日本独文学会)ドイツ文學33,1964年。)
(*)(参考：田中健二「ヘルダー夫妻の往復書簡より見たるヘルダーのイタリア旅行—ヘルダー研究の一資料」(関西大学)独逸文学10,1964年。)
(*)(参考：F.E.ヤーノジ/西村貞二訳「18・9世紀ヨーロッパにおける世界史叙述の試み—ヴォルテールからシュペングラーまで」思想482,1964年。)

(*)(参考：田中千代松「アーノルド・トインビーの発想の源泉」(大東文化大学経済学会)経済論集3,1964年。)
(*)(参考：田中千代松「マルクス主義とトインビーの思想(序説)」東洋研究9,1964年。)
(*)(参考：佐藤信夫「「James Joyceのローマ滞在の意義」」北海道英語英文学9,1964年。)
(*)(参考:齋藤祐蔵「ルネッサンスを考察して世界の文化を思う」國學院雑誌4月号,1964年。)
(*)(参考：渡辺金一「十五世紀の東地中海」一橋大学研究年報,人文科学研究6,1964年。)
(*)(参考：鴨沢巌「地中海西北端の国トルコ」地理9(4),1964年。)
(*)(参考：長谷川博隆「ローマと地中海」地理9(4),1964年。)
(*)(参考：小堀巌「地中海世界」地理9(4),1964年。)
(*)(参考：設楽寛「地中海性気候と地中海地域の気候」地理9(4),1964年。)
(*)佐々木静一「サントリニ・ブルース—エーゲ海帆走紀行」美術手帖236,1964年。
(*)吉城愈子『雫：歌集』(「ヨーロッパの旅：アテネにて,エーゲ海,ローマに遊ぶ,ピサの斜塔にて,フィレンツェ,ヴェネツィア」)績文堂,1964年。
(*)村川堅太郎+ルネ・ブリ「ギリシア」太陽2(8)(14),1964年。
(*)村川堅太郎「イベリヤの旅」心17(10),1964年。
(*)佐藤信一「オリンピアの遺跡をめぐって(1,2,3)」体育の科学14(5,6,8),1964年。)
(*)藤縄謙三「村川堅太郎『オリンピア：遺跡・祭典・競技』」西洋史学62,1964年。
(*)森裕三「村川堅太郎著「オリンピア」」世界史研究(34),1964年。
(*)(参考:村川堅太郎・佐藤久・竹内常行編『南ヨーロッパ』世界の文化地理12,講談社,1964年。)
(*)(参考：太田秀通「ギリシアの風土と歴史」理想376,1964年。)
(*)(参考：一柳俊夫「古代東方と古典古代—ミケーネ時代・ホメーロス時代」目白学園女子短期大学研究紀要1,昭和39年。)
(*)(参考：斎藤正躬『オリンピック』岩波新書,1964年。)
(*)(参考：エゴン・カエザル・コンテ・コルティ/松谷健二訳『ポンペイ』みすず書房,人間と文明の発見シリーズ,1964年。)
(*)(参考：シュリーマン作/三浦一郎訳(他)『ツタンカーメン王の秘密、地底の都をもとめて恐竜物語』講談社,世界の名作図書館25,1964年。
(*)(参考：クリーター/大城功訳『失われた言語』みすず書房,1964年。)
(*)(参考：新見宏『エルサレムの城壁：少年聖書考古学物語』(再版)新教出版社,キリスト教少年文庫7,1964年。)
(*)(参考：三輪福松『イタリア美術の旅』雪華社,1964年。)
(*)(参考：三輪福松「エトルリア・ギリシアの港湾都市—スピナの発掘現場を見て」古美術4,1964年。)
(*)(参考：澤柳大五郎『ギリシアの美術』岩波新書,岩波書店,1964年。)
(*)(参考：澤柳大五郎「L'afrodite da sinuessa」日本学士院紀要22(1),1964年。)
(*)(参考：ポール・ルメルル/辻佐保子訳『ビザンチン美術』美術選書,美術出版社,1964年。)
(*)(参考：富永惣一他編『ルーブル美術館』(5巻)講談社,1964-65年。)
(*)(参考：会田雄次「フラ・フィリッポ・リッピとその時代」人文学報19,1964年。)
(*)(参考：大沢武雄『西洋美術史』造形芸術研究会,1964年。)
(*)(参考：外山卯三郎『芸術の起源』造形芸術研究会,1964年。)
(*)(参考：別宮貞徳「ヨハン・ホイジンガ著高橋英夫訳「ホモ・ルーデンス—人類文化と遊

戯」」ソフィア13(1),1964年。)
(*)J.S.ビタウ「明治以前の日本における西洋文化の影響」ソフィア13(4),1964年。
(*)石田幹之助「憶鮎沢信太郎君追悼と回想」日本大学史学会研究彙報8,1964年。
(*)田村円澄『聖徳太子—斑鳩宮の争い』中公新書,中央公論社,1964年。
(*)(参考：田中美知太郎・小林秀雄「対談 教養ということ」中央公論6月号,1964年。)
(*)(参考：座右宝刊行会編・田中美知太郎・富永惣一編『ギリシア：世界の文化・第5』河出書房新社,1964年)。)

-------田中美知太郎「ギリシア文化の流れ」
松平千秋「ギリシアの文学」
村田潔「ギリシア神話の世界と美術」
村田潔「エーゲ海文明の特色」
村田潔「アルカイクの彫刻と神殿」
富永惣一「ギリシア古典期の美術」
柳宗玄「ビザンチン文化の本領」
小西晴夫「現代ギリシアの文化」
「ギリシア文化史年表」

(*)篠田一士「文明と小説—野上弥生子論」文學界18(9),1964年。
(*)(参考：『世界大百科事典(24巻,別巻2)』新版,平凡社,1964-68年。)
(*)(参考：小林珍雄編『キリスト教用語辞典』訂正4版,東京堂,1964年。)
(*)(参考：今泉篤男・山田智三郎編『西洋美術辞典』訂正7版,東京堂出版,1964年。)
(*)日立道根彦編『宇宙時代の神話辞典』道ひらき叢書12,天降日之宮再建同志会出版部,1964年。
(*)(参考：仙田正雄・高橋重臣・堀内稔編『漢訳漢名西洋人名字典』天理大学人文学会シリーズ6,天理大学出版部,1964年。)
(*)(参考：竹村文祥『活用医語新字典[和羅英独]』南江堂,1964年。)
(*)(参考：松田功編『理療科医学独和辞典：ラテン語を含む(上中下)』新潟県立高田盲学校雪あかり点字研究会,1964年。)
(*)(参考：織田昭編『新約聖書ギリシャ語小辞典』大阪聖書学院,1964年。)
(*)齋藤信「旧勝俣本および葵文庫本「ハルマ和解」について」蘭学資料研究会研究報告160,1964年。
(*)井田好治「中村正直と英華和訳辞典」東京都立大学メトロポリタン9,1964年。
(*)吉岡秋義編「『仏郎西辞典範』源流考」吉岡秋義,1964年。
(*)井田好治「「あんげりあ興学」後日譚」英語青年110(3),1964年。
(*)井田好治「薩摩の英学(2)本木正栄と玉重本「暗厄利亞興学」および「暗厄利亞語林大成」考」鹿児島大学文理学部文科報告13,1964年。
(*)井田好治「薩摩における洋学「玉重文庫所蔵洋学書籍考」」鹿大史学12,1964年。
(*)松村明「前野蘭化の“和蘭訳文略”について」蘭学資料研究会研究報告158,161,1964年。
(*)渡辺実「幕府の英独仏語研究の展開」(京都大学)人文研究10,1964年。
(*)堀口俊一「英語教育史—明治時代前期における英語教育」法政大学教養部研究報告8,1964年。
(*)Kozu,Harushige‘Forschungsberichte：Linguistics in Japan’Kratylos 5,1964.
(*)小川政恭「楽天的な随想」近代35,1964年。

(*)(参考：石川実「“物ごとの最初”ものがたり—文字の始め・粘土板・古代文字・ローマ字」貿易クレームと仲裁11(5),1964年。)
(*)(参考:高津春繁・関根正雄『古代文字の解読』(ミュケーナイ文書等)岩波書店,昭和39年。)
(*)佐竹明「塚本虎二「福音書」---「聖書翻訳」の検討(1)」(日本基督教学会)日本の神学；神学年報3,1964年。)
(*)佐竹明「マタイ福音書の批判」日本の神学3,1964年。)
(*)(参考：鷲田哲夫「ラテン語における非古典的傾向とローマ式学校制度の盛衰について」ヨーロッパ文学研究7,1964年。)
(*)(参考：木村直司「ゲーテにおける《Bildung》の語法」上智大学ドイツ文学論集1,1964年。)
(*)「樋口勝彦著作年表」(慶應義塾大学藝文学会)藝文研究18,1964年。
(*)「樋口勝彦年譜」(慶應義塾大学藝文学会)藝文研究18,1964年。
(*)(参考:樋口勝彦「文名に対するローマ人の憧憬」(慶應義塾大学藝文学会)藝文研究18,1964年。)
(*)キリスト教社会問題編『雑誌・新聞所蔵目録』同志社人文科学研究所,昭和39年。
(*)島田昭男「田中英光論」日本文学13(7),1964年。
(*)(参考：『現代の名言と古典の挿話』特集雑誌自由国民特別号,自由国民社,1964年。)
----「古典の挿話」
「神話と伝説と」
板倉勝正「古代オリエントの神話から 10話」
呉茂一「ギリシャの神話と伝説から 37話」
「ローマの神話と伝説から 7話」
「ギリシャ語から出たことば 35話」
「キリスト物語」
「新約聖書から 53話」
「キリスト教の歴史から 112話」
三浦一郎「古代史の物語から」
金沢誠「中世史の物語から」
(*)(参考：H.フランクフォート「神話と思考」近代文学19(2),1964年。)
(*)(参考：岩瀬悉有「Four Quartetsにおける神話とキリスト教」人文研究15(3),1964年。)
(*)(参考:川村安太郎「カッシーレルの神話の哲学」福島大学学芸学部論集16(第2分冊),1964年。)
(*)(参考：J.E.ハリスン/佐々木理訳『古代芸術と祭式』筑摩叢書31,筑摩書房,1964年。)
(*)(参考：佐々木理『ギリシア・ローマ神話』グリーンベルト・シリーズ18,筑摩書房,1964年。)
(*)(参考：高津春繁・高津久美子共編/ホメロス作・呉茂一編/神田盾夫編『ギリシア神話,イリアス・オデュッセイア,聖書物語』講談社,少年少女新世界文学全集1,1964年。)
(*)(参考：露木陽子・沢田重隆え『ギリシャ神話：西洋古典』偕成社,少年少女世界の名作15,1964年。)
(*)(参考：露木陽子『ギリシア神話』世界の名作39,偕成社,1964年。)
(*)(参考：E.Hamilton(ed.with notes by Shuichi Motoda)“Timeless tales of Gods and heroes”

Nan’un-do,1964.)
(*)朝日新聞社主催・国立西洋美術館(会場)『ミロのヴィーナス(会期：昭和39年4月8日~6月25日)』,1964年。
(*)(參考：澤木四方吉「ミロのヴヌスが謎」芸術新潮15(5),1964年。)
(*)(參考：住谷悦治「「ミロのヴィーナス」の渡来」文藝春秋42(1),1964年。)
(*)(參考：住谷悦治「はじめにロゴスありき」同志社時報13,1964年。)
(*)(參考：浜村順『ヴィーナス—ギリシャ彫刻の歩み』現代教養文庫469,昭和39年。)
(*)(參考：中村伝三郎「ミロのヴィーナスを語る(座談会)」三彩173,1964年。)
(*)(參考：木村重信「氷河時代のヴィナス—失われた美術(4)」日本美術工芸309,1964年。)
(*)(參考：H.R.ジョリッフ/内村直也訳『ギリシア悲劇物語』白水社,1964年。)
(*)(參考：細井雄介「「トロイアの女」におけるプロロゴス」美学14(4),1964年。)
(*)(參考：秀村欣二「ナザレ碑文に関する若干の考察」西洋古典學研究13,1964年。)
(*)(參考：相沢文蔵「イエス時代のガリラヤ」人文社会33,1964年。)
(*)(參考:新田一郎「啓蒙君主としてのコンスタンティヌス—その宗教政策を通して見たる」世界史研究34,1964年。)
(*)(參考：W.イェーガー/野町啓訳『初期キリスト教とパイデイア』筑摩叢書30,筑摩書,1964年。)
(*)(參考：秋田稔「人間についてのギリシヤ的思惟とヘブライ的思惟叙説」(国際基督教大学学報IV-B)キリスト教と文化1,昭和39年。)
(*)(參考：松原一郎「ギリシアとキリスト教—思惟形態の変遷の一瞥」同志社女子大学学術研究年報15,1964年。)
(*)(參考：新田一郎「啓蒙君主としてのコンスタンティヌス—その矛盾と発展」世界史研究(34),1964年。)
(*)(參考：戸張智雄「アミヨ《プルータルコス倫理論集》翻訳考(1)」フランス・ルネサンス文学2,1964年。)
(*)(參考：関根正雄『舊約聖書』15版,創元選書176,1964年。)
(*)(參考：バルバロ,デル・コル訳『聖書・旧新約口語訳』ドン・ボスコ社,1964年。)
(*)(參考：エ・ラゲ譯『我主イエズスキリストの新約聖書』改訂版,中央出版社,1964年。)
(*)(參考：関根文之助編『聖書ものがたり：西洋古典』世界名作童話全集60,ポプラ社,1964年。)
(*)(參考：山室静『聖書物語』児童世界文学全集24,偕成社,1964年。)
(*)(參考：関根正雄『舊約聖書』15版,創元選書176,創元社,1964年。)
(*)(參考：神田盾夫「ホスキンズ『新約聖書の謎』」図書新聞757,1964年。)
(*)(參考：蛭沼寿雄「本文上より見た新英訳聖書マルコ福音書(再考)」(関西学院大学)人文論究15(2),1964年。)
(*)(參考:由木康『神の前に立つ人間:ローマ人への手紙』日本YMCA同盟出版部,1964年。)
(*)(參考：由木康『キリスト者の生き方：ペテロの第一の手紙に学ぶ』日本基督教団出版部,1964年。)
(*)(參考：P.リーチ「〈書評〉福音書とイエズスの史実(X.レオン,デュフール)」ソフィア13(1),1964年。)
(*)(參考：戸塚文卿著/小田部胤明編『カトリック読本』戸塚文卿著作集1,中央出版社,1967年。)

(*)(参考：F.C.フォルベルク/大場正史訳『西洋古典好色文学入門』桃源社,1964年。)
(*)(参考：矢崎源九郎編『世界文学入門』三笠書房,1964年。)
(*)(参考：大塚野百合「キリスト教的世界観と悲劇的世界観—現代劇を中心として」基督教文科学会年報11,1964年。)
(*)(参考：土居光知『文学の伝統と交流』岩波書店,1964年。)
(*)太田三郎「土居光知著「文学の伝統と交流」岩波書店」比較文学7,1964年。
(*)(参考：今道友信「プラトンの芸術論覚え書」理想376,1964年。)
(*)(参考：「リヒター「プラトン及びアリストテレスにおける音楽の学説」(L.Richter,Zur Wissenschaftslehre von der Musik bei Platon und Aristoteles,Akademie-Verlag,Berlin, 1961,202 S)」美學15(3),1965年。)
(*)太田三郎“Some Problems in the translation of Western Literary Works into Japanese “Literary History and Criticism”” New York Univ.Press,1964.
(*)平川祐弘“La literatura Comparata n Jiappone”Anunnario Instituo Jiapponese di Cultura,1964.
(*)(参考:齋藤祐蔵「ルネッサンスを考察して世界の文化を思う」國学院雑誌4月号,1964年。)
(*)(参考：野上素一「知識人と信仰—パクス・ロマーナ大会出席の野上素一教授に聴く(対談)」世紀173,1964年。)
(*)(参考：吉川逸治編『ボッティチェルリ/ミケランジェロ』講談社,講談社世界美術9,1964年。)
(*)鷲山第三郎「中山昌樹氏の風格」(明治学院)同窓会報12,1964年。
(*)(参考：澁沢孝輔「さまよえるオルフェたち—近代詩とヨーロッパ」詩学19(5),1964年。)
(*)参考：清水純一「ブルーノ中期作品の研究—anima mundiをめぐって(1)」広島大学文学部紀要23(1),1964年。)
(*)(参考：野上素一「イタリア文学雑感」世紀173,1964年。)
(*)(参考：野上素一「オリエント学・中東極東学の研究(1)」イタリア学会誌12,1964年。)
(*)(参考：野上素一訳『世界古典文学大系35—ダンテ』筑摩書房,1964年。)
(*)(参考：高柳伊三郎『ダンテ「神曲」入門』日本基督教団出版部,1964年。)
(*)(参考：池田廉「ジォヴァンニ・ボッカチオ『ダンテの風貌』」イタリア学会誌12,1964年。)
(*)黒田正利「ダンテとともに50年」イタリア学会誌12,1964年。
(*)剣持武彦「ダンテ神曲と日本人との邂逅：明治期と大正期」イタリア学会誌12,1964年。
(*)剣持武彦「ダンテ神曲と昭和の作家たち」イタリア学会誌13,1964年。
(*)松崎芳隆「ダンテの方へ」イタリア学会誌13,1964年。
(*)(参考：野上素一「ダンテとヴィルジリオ」イタリア会誌13,1964年。)
(*)(参考：脇功「レオパルディのダンテ観」イタリア学会誌13,1964年。)
(*)(参考：G.ボッカチオ/池田廉訳「ダンテの作品」イタリア学会誌13,1964年。)
(*)(参考：米山喜晟・藤沢道郎「デ・サンクティスの「神曲」批評」イタリア学会誌13,1964年。)
(*)(参考：L.ベネット/目形照訳「ダンテとロダン」イタリア学会誌13,1964年。)
(*)(参考:F.マッジーニ/高田英樹訳「饗宴--〈ダンテ研究序説〉から」イタリア学会誌13,1964年。)
(*)(参考：U.コズモ/北川忠紀訳「「ダンテ案内第三章 青年時代」」イタリア学会誌13,1964年。)

(*)(参考：渡辺友市「ペトラルカとアウグスチヌス--〈Secretum〉を中心とした初期ルネッサンスの人間観についての一考察」(東北大学文学会)文化25(4),1964年。)
(*)二宮敬「フランソワ・ラブレーと日本」學燈5,1964年。
(*)(参考:ラブレー/渡辺一夫訳『ガルガンチュワとパンタグリュエル・第4之書』白水社,1964年。)
(*)(参考：山内宣「エラスムズとルターの自由意志論争の一側面—エラスムスのδιατριβηの側より見たる」フィロソフィア47,1964年。)
(*)(参考：三神勲「英国ルネサンス」(日本シェイクスピア協会編『シェイクスピア研究』所収,研究社,1964年。)
(*)(参考：赤木善光「エラスムスのキリスト観についての一考察—Enchiridion Militis Christiani (「キリスト教兵士必携」)を中心として」東北学院大学論集・一般教育46,1964年。)
(*)(参考：ツワイク/滝沢寿一訳・アンドレ・モロワ/生島遼一訳・ルソー/土居寛之訳・福沢諭吉著『エラスムスの勝利と悲劇/ヴォルテール/告白/福翁自伝』世界の人間像14,角川書店,1964年。)
(*)(参考:田崎研三「プロメシュースの主題による三つの変奏」(愛知大学~文学論叢26,1964年。)
(*)(参考：加藤美雄『モーリス・セーヴ作品研究』昭森社,1964年。)
(*)(参考：高橋誠「モンテーニュとルソー：その学芸批判の比較検討」一橋論叢51(3),1964年。)
(*)(参考:高橋誠「モンテーニュにおける“Presomption”について」一橋論叢52(1),1964年。)
(*)(参考：高橋雄四郎「異教主義の展開：エロスの神秘性を中心として」(実践女子大学)実践文学23,1964年。)
(*)(参考:高田勇「RONSARDの作品における神話について」フランス語フランス文学5,1964年。)
(*)(参考:安藤一郎「イギリス文学」(矢崎源九郎編『世界文学入門』所収,三笠書房,1964年。)
(*)(参考：加藤衛「ドイツのシェイクスピア」學燈7,1964年。)
(*)大山敏子「シェイクスピア・ビブリオグラフィー」學燈11,1964年。
(*)(参考：西村孝次「「シェイクスピア伝」への試み」本の手帖4月号,1964年。)
(*)(参考：外山滋比古「文学者と伝記--シェイクスピアを主として」(東京教育大学)英文学研究4月号,1964年。)
(*)(参考：小津次郎「シェイクスピアの生涯」(日本シェイクスピア協会編『シェイクスピア研究』所収,研究社,1964年。)
(*)(参考：倉橋健「シェイクスピアの史劇」(日本シェイクスピア協会編『シェイクスピア研究』所収,研究社,1964年。)
(*)(参考：飯島小平「シェイクスピア上演史」(日本シェイクスピア協会編『シェイクスピア研究』所収,研究社,1964年。)
(*)藤木宏幸「日本におけるシェークスピア上演史」悲劇喜劇5,1964年。
(*)(参考：齋藤祐蔵『シェイクスピア関係のイタリア小説』南雲堂,1964年。)
(*)(参考：齋藤祐蔵「イタリア文学とシェイクスピア」英語青年109(8),1964年。)
(*)(参考：宮内文七「Antony and Cleopatra研究5(Trail of Policy)」鹿児島大学紀要文科報告

13,1964年。)
(*)(参考：小池規子「「コリオレーナス」における母子像—Mother-Son Relationship in Coriolanas」英文学25,1964年。)
(*)(参考：安西徹雄「“The Blunt Monster with Uncounted Heads”—Julius Caesar試論」(上智大学)英文学と英語学11月号,1964年。)
(*)(参考：森谷佐三郎「Cassius」富山大学文理学部紀要13,1964年。)
(*)日高八郎「シェイクスピアと日本」(日本シェイクスピア協会編『シェイクスピア研究』所収,研究社,1964年。)
(*)(参考:外山滋比古「シェイクスピア批評史」(同上『シェイクスピア案内』所収,研究社,1964年。)
(*)(参考：猪俣浩「シェイクスピア評価の変遷」世界文学ニュース9,1964年。)
(*)(参考：柳田泉「沙翁生誕四百年」日本古書通信2,1964年。)
(*)(参考：本田顕彰『シェイクスピア四大悲劇の鑑賞』法政大学出版局,1964年。)
(*)(参考：大塚隆信『シェイクスピア手帖』研修者,1964年。)
(*)日本シェイクスピア協会編『シェイクスピア案内』研究社出版,1964年。)
(*)(参考：シェイクスピア/中野好夫他訳『シェイクスピア』世界古典文学全集41-46,筑摩書房,1964-67年。)
(*)福原麟太郎「「シェークスピア展」を見る：四百年にわたる歴史：日本ならではの資料もいっぱい」東京新聞3/1夕刊,1964年。
(*)(参考：成田成寿「海外のシェイクスピア」英語青年110(4),1964年。)
(*)福原麟太郎「日本におけるシェイクスピア」英語青年110(5),1964年。
(*)(参考：和田勇一「アセンズのタイモーン」英語青年110(5),1964年。)
(*)(参考：真下泰利「ペリクリーズ」英語青年110(5),1964年。)
(*)(参考：宮内文七「ルークリースの陵辱」英語青年110(5),1964年。)
(*)(参考：八木毅「Venus and Adonis」英語青年110(5),1964年。)
(*)(参考：道家弘一郎「ミルトン「キリスト降誕の朝」について(特集 近代の文学)」國學院雑誌65(8・9),1964年。)
(*)(参考：松田実矩「『失楽園』の「地獄」について」The Albion 10,1964年。)
(*)武田勝彦「漱石とペイター」(東洋大学)白山英文学10,1964年。
(*)(参考：植木錬之助「Paterに見られるDionysusのimage」(『土居光知先生喜寿紀年論文集・英文学試論』所収,研究社,1964年。)
(*)(参考：植木錬之助「Paterのギリシャ彫刻理解」(関西学院大学)論攷11,1964年。)
(*)(参考：新木正之介「ウォルター・ペイター」(学習院大学)研究年報11,1964年。)
(*)(参考：岡橋祐「ペイターの文対論について」(立命館大学外国語科連絡協議会)外国文学研究7,1964年。)
(*)(参考：都築佑吉「ペイターのルネッサンス観—甘美と力の結合」群馬大学紀要・人文科学編13,1964年。)
(*)(参考：長谷川光昭「Walter Paterの研究(1)審美批評の問題点(2)人間像と人間観の問題」北九州大学外国語学部紀要9,1964年。)
(*)(参考：山川鴻三「ペイターとリード(1,2)ヒューマニスト的芸術と抽象芸術」英語青年110(8,9),1964年。)
(*)(参考：上杉文世「ByronとP.B.Shelley」広島大学英語英文学研究10(2),1964年。)

(*)(参考：小松文雄「Shelley’s Adonais」The Literary Wagon 2,1964年。)
(*)(参考：本堂正夫「Prometheus Unboundにおける抽象と無生物界」(『土居光知先生喜寿記念論文集・英文学試論』所収,研究社,1964年。)
(*)(参考：宮本正都「バイロン論争」大阪学芸大学紀要12,1964年。)
(*)(参考：宮本正都「バイロン研究の方向」大阪学芸大学英文学会誌9,1964年。)
(*)(参考：今西信弥「The Moon and John Keats」大阪学芸大学英文学会誌9,1964年。)
(*)(参考：塚野耕「I Want to Compose This Fever –The Fall of Hyperion小論」大阪学芸大学英文学会誌9,1964年。)
(*)(参考：永沢二郎「キーツの「ハイピリオン」創作の事情について」大分大学学芸学部研究紀要2(4),1964年。)
(*)(参考：松下千吉「「ハイペリオン没落」序詩をめぐって」(京都大学)英文学評論14,1964年。)
(*)(参考：宮崎雄行「「ハイペリオンの没落」と「秋に」私解」武蔵大学紀要2,1964年。
(*)(参考：菊池亘「キーツの哲学」一橋論叢51(2),1964年。)
(*)(参考：高橋雄四郎「異教主義の展開：エロスの神秘性を中心として」實踐文學23,1964年。)
(*)(参考：長谷川年光「イエイツと変身--“Sailingt to Byzantium”を中心として」立命館文學230,1964年。)
(*)(参考：今石益之「エマソンの友情論—モンテェニュ・ベイコンとの対比において」広島女学院大学論集14,1964年。)
(*)齋藤光「透谷が『エマルソン』に用いた参考書」(同『英文学試論』所収,研究社,1964年)。)
(*)(参考：柳生直行「D.H.ロレンスとキリスト教」基督教文化会年報1月号,1964年。)
(*)(参考:大橋安一郎「詩人ロレンスと月」京都工芸繊維大学工芸学部研究報告・人文12,1964年。)
(*)(参考：高橋徹「伝統・文学・個性—T.S.エリオットの批評論管見」東京経済大学人文自然科学論集5,1964年。)
(*)(参考：増谷外世嗣「ホイットマン的伝統とエリオット的伝統」一橋論叢52(3),1964年。)
(*)(参考:長沢順治「T.S.Eliotに於ける個性と伝統」(南山大学英米学会)ヘリコン2,1964年。)
(*)(参考:山川鴻「近代英文学における古典的批評の伝統—アーノルドとエリオットの関係をめぐって」(The Albion)アルビオン10,1964年。)
(*)(参考：高谷毅「T.S.エリオットの方法」英文学評論15,1964年。)
(*)(参考:植木錬之助「Paterに見られるDionysusのimage」(『土居光知先生喜寿記念論文集・英文学試論』所収,研究社,1964年。)
(*)(参考：植木錬之助「Paterのギリシャ彫刻理解」関西学院大学論攷11,1964年。)
(*)(参考：長谷川光昭「Walter Paterの研究[I]」北九州大学外国語学部紀要9,1964年。)
(*)(参考：山川鴻三「ペイターとリード(1,2)：ヒューマニスト的芸術と抽象芸術」英語青年110(8,9),1964年。)
(*)(参考：西台美智雄「ギリシャ的とヘブライ的—Matthew Arnoldの「教養と無秩序」について」ヨーロッパ文学研究3,1964年。)
(*)(参考：鳥海久義「アーノルドとキーツ」和洋女子大学英文学会誌2,1964年。)
(*)(参考：山中光義「Matthew Arnoldの文学定義とHellenism」CAIRN 5,1964年。)
(*)(参考：新関良三『劇文学の比較研究』東京堂,1964年。)

(*)(参考：登張正実『ドイツ教養小説の成立』弘文堂,昭和39年。)
(*)参考：手塚富雄「Goethe and the Japanese」(朝日新聞社)Japan Quarterly 11(4),1964年。)
(*)参考：木村直司「ゲーテにおける〈Bildung〉の語法」(上智大学)ドイツ文学論集1,1964年。)
(*)参考：大畑末吉『ゲーテ哲学研究：ゲーテにおけるスピノチスムス』河出書房,1964年。)
(*)参考：大畑末吉「木村謹二博士のゲーテ研究」(菊池栄一教授還暦記念会編『菊池栄一教授還暦記念論文集「ゲーテの比較文学的研究」』所収,郁文堂,1964年)。)
(*)参考：大畑末吉「ゲーテ：ゲーテ哲学の根本問題」一橋論叢45(4),1964年。)
(*)(参考：芳原政弘「シュトルム・ウント・ドラング期(1770-1775)におけるゲーテの芸術観—特に自然観との関連において」名古屋大学文学部研究論集34,1964年。)
(*)(参考：芦津丈夫「ゲーテの「様式」ついて」ドイツ文學研究12,1964年。)
(*)(参考：岸繁一「ゲーテの「プロメートイス」覚書(1)詩作構想の背景」人文学72,1964年。)
(*)(参考：戸川敬一「〈書評〉W.グレンツマン「若きゲーテ作品解釈」1964」ソフィア13(3),1964年。)
(*)(参考：長谷川勉「ファウスト第一部「天上の序曲」とゲーテの古典主義」学苑291,1964年。)
(*)(参考：芳賀檀「ゲーテと世界歴史(承前)」論攷11,1964年。)
(*)(参考：七字慶起「ゲーテとヘルダーにおけるヴィンケルマンの超克」(菊池栄一教授還暦記念会編『菊池栄一教授還暦記念論文集「ゲーテの比較文学的研究」』所収,郁文堂,1964年。)。)
(*)(参考：杉田弘子「ゲーテとニーチェ」(菊池栄一教授還暦記念会編『菊池栄一教授還暦記念論文集「ゲーテの比較文学的研究」』所収,郁文堂,1964年)。)
(*)(参考：福田行之「ニーチェにおけるゲーテ像」九州工業大学研究紀要 人文・社会科学11,1964年。)
(*)(参考：岡道男「ゲーテの「アキレーイス」--「イーリアス」との關聯において」(同志社大学人文学会)人文學69,昭和39年。)
(*)(参考：大和邦太郎「ゲーテのギリシャ受容について」(東京都立大学)人文学報38,1964年。)
(*)(参考：岸繁一「ゲーテ「プロメトイス」覚書(1,2)」(同志社大学)人文学72,78,1964年。)
(*)(参考：井口正臣「Goetheの“Iphigenie”におけるOrestの救いについて」日本大学第二工学部紀要・一般教育5,1964年。)
(*)(参考：清水豊明「「プロメテウス」断片試論」(しんせい会)Neue Stimme 3,1964年。)
(*)(参考：永野羊之輔「シラーの「美しい魂論」の古典主義—φυχη καληとschöne Seele」広島大学文学部紀要23(1),1964年。)
(*)(参考：上野英雄「ヘルダーの論文「認識と感受について」」富山大学文理学部紀要14,1964年。)
(*)(参考：花崎皋平「J.G.ヘルダーと有機的世界観の問題」哲学誌6,1964年。)
(*)(参考：大山聡「ヘルダー像への一つの試み」人文学報38,1964年。)
(*)(参考：氷上英廣「フリードリヒ・ニーチェ」(講談社)月報「20世紀を動かした人々」6,1964年)。)
(*)(参考：桂芳樹「音楽と言葉—ニーチェの「悲劇の誕生」を中心に」金沢大学法文学部

論集・文学篇17,1964年。)
(*)(參考：富岡近雄「神話とロゴス—ニーチェにおけるソクラテスの問題」武蔵大学紀要2,1964年。)
(*)(參考：志山博訪「「自由精神」：哲学者としてのニーチェ—ニーチェ研究序論(3)」(山口大学)文学会誌15(2),1964年。)
(*)(參考：信太正三「ニーチェ解釈の方法試論」人文研究27,1964年。)
(*)(參考：丸山良治「ニーチェにおける人間と存在」天理大学学報16(1),1964年・)
(*)參考：丸山匠「ハウプトマン研究の現状—N.E.アレクサンダーの研究によせて」形成23,1964年。)
(*)(參考:鈴木重貞「日本におけるハウプトマン」(阪神ドイツ文学会)ドイツ文学論攷5,1964年。)
(*)(參考：横田ちゑ「ヘルダーリンの後期讃歌」北海道大学外国語・外国文学研究11,1964年。)
(*)(參考：大和歌子「ヘルダーリンの「エムペードクレス劇」に関する一考察—神々と人間の問題」國學院雑誌65(12),1964年。)
(*)(參考：内藤道夫「荊冠のオルフォイス—ゲオルク・トラークル」(リルケ)ドイツ文学33,1964年。)
(*)(參考：菊池壬生郎「リルケの「オルフォイスへのソネット」などにあらわれるBezugという語について」茨城大学文理学部紀要15,1964年。)
(*)(參考：本郷義武「ナルシス考(1)リルケの場合」架橋10,1964)年。)
(*)(參考：田口義弘「「オルフォイスへのソネット」の世界とプノイマ的形象」(京都大学)ドイツ文学研究12,1964年。)
(*)高安国世「Rilke und die Japaner」ドイツ文学32,1964年。
(*)富士川英郎「リルケと日本」(東京大学比較文学会)比較文学研究8,1964年。
(*)(參考：古塚隆朗「カロッサ「成年の秘密」--生と死の神話(1)」外国文学研究8,1964年。)
(*)松田毅一『南蛮史料の発見』(ラテン語教育等)中公新書,昭和39年。
(*)海老澤有道『日本の聖書：聖書和訳の歴史』日本基督教団出版部,1964年。(→1981年,新訂増補版。→1989年,講談社学術文庫版)
(*)関根文之助「キリスト教の日本的展開—とくに「救い」を中心として」神道宗教34,1964年。)
(*)イソップ原作/滑川道夫文；馬場のぼる絵『イソップ名作ものがたり』母と子の世界名作絵物語全集2,学習研究社,1964年。
(*)イソップ著/井上章編『天草版伊曽保物語』風間書房,1964年(→1968年,再版)。
(*)S.A.Handford訳/多田幸蔵編注“Fables of Aesop”Fuji English humour series,富士書房,1964年。
(*)滝田要吉『質屋いそっぷ』現代の民話,理論社,1964年。
(*)安部公房『水中都市』(「イソップの裁判」)桃源社,1964年。
(*)米村淑子「近松時代物研究：女性像とその愛情表現について」(百合若大臣)日本文學22,1964年。
(*)麻原美子「幸若舞曲の一考察」言語と文芸6(2),1964年。
(*)木村紀子「幸若舞曲「大臣」をめぐって—ユリシーズとの関係から」(お茶の水女子大学)国文22,1964年。

(*)林屋辰三郎『古典文化の創造』(百合若)東京大学出版会,1964年。
(*)高橋磌一「洋学の興隆と反封建的世界観」(岩波書店)岩波講座日本歴史13—近世5,1964年。
(*)佐藤昌介『洋学史研究序説—洋学と封建権力』岩波書店,1964年。
(*)W.カッテンディーケ/水田信利訳『長崎海軍伝習所の日々』東洋文庫,平凡社,1964年。
(*)津田左右吉「蘭学とその影響」(『津田左右吉全集7』所収,岩波書店,1964年。)
(*)池田哲郎「儒学と蘭学」福島大学学芸学部論集15(1),1964年。
(*)(参考：稲富栄次郎「西洋の伝統と教育」日本教育学会大會発表要項23,1964年。)
(*)宮城公子「「和魂洋才」--日本の近代化における倫理的主体の可能性と現実」日本史研究72,1964年。
(*)色川大吉「明治の思想と思想史家」歴史評論171,1964年。
(*)(参考：稲垣良典『論理学入門：伝統的論理学の立場から』明玄書房,1964年。)
(*)(参考：務台理作他責任編集『世界の大思想』河出書房,1964年。)
(*)(参考：河盛好蔵等編『世界人生論全集3』筑摩書房,1964年。)
----エピクテートス：「エピクテートス語録抄」齋藤忍随訳
プロチノノス：「幸福について・悪の本性と起源について・徳について」田之頭安彦訳
アウグスティーヌス：「恩寵と自由意志について」今道友信訳
トマス・アクイナス：「自由意志についての四章」今道友信訳
ボナヴェントゥラ：「意志の倫理的完成について」今道友信訳
ボエティウス：「哲学の慰め」渡辺義雄訳
今道友信「自由と思索の故郷たる中世について」
(*)(参考：河盛好蔵等編『世界人生論全集・別巻』筑摩書房,昭和39年。)
----大島康正編「翼を持った言葉」
(*)(参考:田中美知太郎編･廣川洋一他訳『ギリシア思想家集』世界文学大系63,筑摩書房,1964年。)
(*)(参考：竹内敏雄「古代芸術理論とその現代的意義」(田中美知太郎編『芸術理論』講座・哲学大系6,所収,人文書院,昭和39年。)
(*)(参考：田中美知太郎「徳の倫理と法の倫理」(田中美知太郎編『宗教と倫理』講座・哲学大系7」所収,人文書院,昭和39年。)
(*)(参考：斎藤忍随「「自由」雑感」理想376,1964年。)
(*)(参考:藤澤令夫「プラトンにおける論争の論理—西洋における哲学的思想の確立にあたって」思想478,1964年。)
(*)(参考：藤澤令夫「精神の秩序—プラトンの哲学思想について」理想9月号,1964年、)
(*)(参考:加藤信朗「ヘラス・フマニタス・自我—ギリシアのヒューマニズムをめぐる考察」理想376,1964年。)
(*)(参考：今道友信「プラトンにおけるイデアと一般者」西洋古典學研究12,1964年。)
(*)(参考：戸塚七郎『プラトン』世界思想家全書,牧書店,1964年。)
(*)(参考:藤井義夫「アリストテレス:その唯物論的解釈について」一橋論叢51(4),1964年。)
(*)(参考：川田殖「アリストテレス初期著作におけるプラトン解釈—断片集を中心として」哲学研究42(9),1964年。)
(*)(参考：遠山諦虔「ピュシスの実在論的解釈—アリストテレス「ピュシカ(B,1)」について

のハイデッガーの解釈を中心に」理想371,1964年。)
(*)(参考：杉原丈夫『様相論理学研究』(アリストテレス)山喜房出版部,1964年。)
(*)(参考:W.イェーガー/野町啓訳『初期キリスト教とパイデイア』筑摩叢書30,筑摩書房,1964年。)
(*)(参考：鹿野治助「エピクテートス哲学の根本問題(承前)」(大阪市立大学大学院文学研究科)人文研究15(2),1964年。)
(*)(参考：沢田謙訳・太田大八絵・吉村忠典解説『プルターク英雄伝』偕成社,少年少女世界の名著19,1964年(→1968年,再版。→2012年,『プリュータークク英雄伝』講談社文芸文庫)。
(*)(参考：河野与一選譯『プルターク『倫理論集の話』』岩波書店,1964年。)
(*)(参考：長友栄三郎「ローマ思想における啓蒙的なるもの—TertulianusとMarcus Aurelius」世界史研究(34),1964年。)
(*)(参考：泉治典「アウグスティヌスとその時代」歴史教育12(7),1964年。)
(*)(参考：永井明『聖アウグスチヌス—聖寵博士』グロリア文庫,中央出版社,1964年。)
(*)(参考：三上茂「(6)ヴィルマンにおけるアリストテレス的要素」日本教育学会大会研究発表要項23,1964年。)
(*)宮川透「日本文化論史」(『哲学研究案内』所収,有斐閣,1964年。)
(*)(参考：宮川透『哲学研究案内』有斐閣,1964年。)
(*)(参考：原佑他『西洋思想の流れ』東京大学出版会,1964 年(→1970 年,日本点字図書館版,文字資料[点字]→1971 年,UP 選書 63,東京大学出版会。)
(*)松風誠人「ケーベル先生--『声』の思い出から」聲1036(4月号),昭和39年。
(*)佐々木満子『ラファエル・フォン・ケーベル』(昭和女子大学)近代文学研究叢書22,1964年。
(*)山田幸三郎他編『真理の人：三谷隆正先生』待晨新書4,待晨堂,1964年。)
(*)参考：須藤信雄「C.Hilty on Happiness」(同『Essays on woman and happiness：女性・幸福論』所収,興文者,1964年。)
(*)(参考：務台理作・高桑純夫・南博『高校倫理・社会』実教出版,1964年。)
(*)(参考：『世界古典文学全集1：ホメーロス』筑摩書房,1964年。)
(*)(参考：『世界古典文学全集8：アイスキュロス・ソポクレス』筑摩書房,1964年(→1981年,再刊)。)
(*)(参考：『世界古典文学全集12：アリストパネス』筑摩書房,1964年。)
(*)(参考：藤縄謙三「ギリシアの英雄叙事詩の社会的基礎(1,2)」史学雑誌73(8,9),1964年。)
(*)(参考：竹部琳昌「ギリシア悲劇の先史」岐阜大学研究紀要?,1964年。)
(*)(参考：竹内敏雄「古代芸術理論とその現代的意義」(田中美知太郎編「講座・哲学大系6」所収,人文書院,1964年。)
(*)加村赳雄「ギリシア悲劇研究の8年」テアトロ31(8),1964年。
(*)新関良三「日本とギリシャの劇芸術について」日本學士院紀要22(1),1964年。
(*)(参考：細井雄介「「トロイアの女」におけるプロロゴス」美学14(4),1964年。)
(*)(参考：笠啓一「ルキアノスまたはマルクスの教訓」新日本文学19(4),1964年。)
(*)太宰治『走れメロス・女生徒』ジュニア版日本文学名作選10,偕成社,1964年。
(*)(参考：西沢竜生「Opsis et Kagami」日本學士院紀要22(1),1964年。
(*)(参考：国原吉之助「The History of the Collegium Poetarum at Rome」日本學士院紀要22(1),

1964年。)
(*)深萱和男「開明の思想—有賀長雄の場合」名古屋大学国語国文学14,1964年。
(*)山田幸三郎・高橋三郎(他)編『真理の人：三谷隆正先生』待晨堂新書4,1964年。
(*)「樋口勝彦年譜・著作目録」芸文研究18,1964年。
(*)(參考：松平千秋「F.I.E.Cだより」西洋古典學研究12,1964年。)
(*)(參考：久保正彰「Center for Hellenic Studies」西洋古典學研究12,1964年。)
(*)(參考：「古典古代特集」」世界史研究34,1959年。)
(*)(參考：栗野頼之祐「フィリポッス二世ならびにアレクサンドロス結成の「ヘアス同盟」の研究」関西学院史学6,1964年。)
(*)(參考：兼岩正夫「中世の歴史記述と古典的教養：12世紀を中心として」西洋古典學研究12,1964年。)
(*)「古典学関係海外研究誌備えつけの現況」(広島大学,九州大学)西洋古典學研究12,1964年。
(*)「1963年の歴史学界—回顧と展望」史学雑誌73(5),1964年。)
(*)(參考：浅香正「現代における古典古代の研究(インドネシアにおける歴史教育の現状)」歴史教育12(4),昭和39年。)
(*)(參考：今野國雄「中世社会における修道院運動の意識」歴史教育12(7),昭和39年。
(*)(參考：カール・ヤスパース/重田英世訳『歴史の起源と目標』(「枢軸の時代」)理想社,1964年。)
(*)野上弥生子「河野與一氏の『プルターク英雄伝』」(同『鬼女山房記』所収,岩波書店,1964年。
(*)(參考：田沼利男「コルネリウス・ネポスの「偉人伝」から—パウサニアスとハンニバルの伝記」早稲田商学172,1964年。)
(*)(參考：ミシェル・ランボー/寺沢精哲訳『シーザー』文庫クセジュ,白水社,1964年。)
(*)(參考：マルグリット・ユスナール/多田智満子訳『ハドリアヌス帝の回想』白水社,新しい世界の文学14,1964年(→1979年,白水社世界の文学。→1985年,新装版。→2001年,ユスナール・セレクション。→2008年,新装版。)
(*)(參考：上原專祿・江口朴郎編『世界史：西洋』岩波書店,1964年。)
(*)(參考：吉岡力編『標準歴史年表：日本史・世界史総合』旺文社,1964年。)
(*)(參考：亀井高孝・三上次男『標準世界史年表』第一次増訂初版, 吉川弘文館,1964年。)
(*)(參考：「プトレマイオスの世界図に示されたアフリカ大陸の名称」地図2(2),1964年。)
(*)(參考：日本教図編集部編『ヨーロッパ州大地図：最新版』六大州別大判地図,総布製,日本教図,1964年(→1968年,2版)。)
(*)(參考：全国教育図書株式会社編『新世界地図』全国教育図書,1964年(→1965年,スタンダード版,ポピュラー版。→1966年,人文社。→1966年,改訂新版,人文社)。)
(*)(參考：田中啓爾『最新高等地図：教授資料』日本書院,1964年。)
(*)(參考：日本教図編集部編『ヨーロッパ州大地図：最新版』六大別州大判地図,日本教育図,1964年。)
(*)今井湊「ピイテル・デ・ホンドの万国図記について」蘭学資料研究会研究報告160,1964年。
(*)中村拓「南蛮屏風世界図の研究」キリシタン研究9,1964年。

(*)(参考：「1963年の歴史学界—回顧と展望」史學雑誌73(5),1964年。)
(*)(参考：青木巖「古代ギリシア人の歴史意識について」ソフィア13(4),1964年。)
(*)(参考：副島民雄「歴史以前—古代ギリシア人の歴史観」世界史研究(34),1964年。)
(*)(参考：H.ピレンヌ/朝倉文市「マホメットとシャルマーニュ」世界史研究(37),1964年。)
(*)(参考：ヤノージ,F.E./西村貞二訳「18・9世紀ヨーロッパにおける世界史叙述の試み—ヴォルテールからシュペングラーまで」思想482,1964年。)
(*)松本信廣「間崎萬里教授を悼む」史学37(3),1964年。
(*)會津伸「誄辞：故原納一冨君を悼む」(東北大学文学部)文化28(1),1964年。
(*)「原随園博士略歴・著作目録」立命館文學228,1964年。
(*)(參考：大塚久雄「予見のための世界史」展望72,1964年。)
(*)(參考：浅香正「現代における古典古代の研究(インドネシアにおける歴史教育の現状)」歴史教育12(4),1964年。)
(*)(參考：手塚末松「歴史学と歴史教育—世界史的歴史認識を中心に」北海道学芸大学紀要,第1部社会科学編15(2),1964年。)
(*)(參考：磯崎新「迷路と秩序の美学・エーゲ海のまちと建築—世界の自然と造形(4)」みず゛ゑ723,1964年。)
(*)(參考：桐敷真次郎「5015 ウォートルス文書の誤訳(歴史・意匠・建築論,第1回日本建築祭研究発表会,学術講演要旨集)」日本建築学会論文報告集103,1964年。)
(*)(參考：中山茂『占星術：その科学史上の位置』紀伊国屋新書, 紀伊国屋書店,1964年(→1979年,新装版)。)
(*)(參考：篠田基行・水野忠文『ローマ思想家達の体育思想史歴史的研究(第4報)：ルクレチウスにおける身体論と心見相関の諸問題』体育学研究9(1),1964年。)
(*)(參考：川本信正『オリンピック物語』みつばち図書館16,国土社,1964年。)
(*)(參考：齋藤正躬『オリンピック』岩波新書,岩波書店,1964年。)
(*)(參考：鈴木良徳他『小学生のために』オリンピック読本,光風出版,1964年。)
(*)(參考：鈴木良徳『オリンピックのすべて』講談社,1964年。)
(*)(參考：阿部正臣「古代オリンピア競技の歴史」工学院大学研究論叢3,1964年。)
(*)(參考：村治能就「オリンピックにちなんで」理想376,1964年。)
(*)(參考:湯上二郎「オリンピックの歴史とオリンピック憲章」時の法令(484・485),1964年。)
(*)(參考：林修三「オリンピック競技の起原とギリシャ的性格」時の法令488,1964年。)
(*)(參考：小宮勝「オリンピックの知識」福岡学芸大学紀要[第5部]13,1964年。)
(*)(參考：彦坂春吉「オリンピックの理想と国際理解—国際理解をすすめるために—特集オリンピック・ムーブメントと学校体育」体育の科学14(8),1964年。)
(*)(參考：吉田隆「古代ギリシア・ローマの算盤」古代学11(3),1964年。)
(*)(參考：小泉英一「クレオパトラと解剖学」自由と正義15(5),1964年。)
(*)(參考：吉沢忠「崋山の田原蟄居とヒポクラテス像」國華873,1964年。)
(*)(參考:伊東俊太郎「中世アラビア科学史研究」東京大学教養学部人文科学科紀要35,1964年。)
(*)(參考：河野収「ゲーテの自然認識」武庫川女子大学紀要12,1964年。)
(*)堀内剛二『近代科学思想の系譜』至文堂,1964年。
(*)日本学士院明治前日本科学史刊行会『明治前日本物理化学史』日本学術振興会,1964年。
(*)向井晃「舎密開宗の影響」法政史学16,1964年。

(*)(参考：片野善一郎編著『問題形式による数学史—数学教育のための数学史』東西数学シリーズ5,富士短期大学出版部,1964年。)
(*)(参考：銭宝琮『中国数学史』(ユークリッド等)科学出版社,1964年。)
(*)向井晃「ショメール伝来と其の影響」蘭学資料研究会研究報告160,1964年。
(*)藤井定義「幕末における米・露との交渉の影響—経済思想を中心として」(大阪府立大学)経済研究31,1964年。
(*)(参考：池田栄「政治問題としての教政政治(アリストテレース宗教・政治学のエン源)—エジプト政治史に顧みて」関西大学法学論集13(4~6),1964年。)
(*)(参考：新村祐一郎「スパルタのGreat Rhetraに関するニ,三の問題：Great Rhetraの内容の考察を中心に」西洋古典學研究12,1964年。)
(*)(参考：矢田一男「スパルタ関係国際条約抄—Thucydides「歴史」に見る」上智法学論集8(1),1964年。)
(*)(参考：大西藤米次郎『中世政治思想研究：アリストテレス主義の連続性について』有斐閣,1964年。)
(*)(参考：植田敏郎「ヘルダーの国家観」一橋論叢51(6),1964年。)
(*)(参考：A.D.リンゼイ/永岡薫訳『民主主義の本質』未来社,1964年。)
(*)(参考：田中美知太郎「政治哲学の古典的形態」(田中美知太郎編『講座・哲学大系5』所収,人文書院,昭和39年。)
(*)(参考：田中美知太郎編『社会科学と哲学』講座哲学大系5,人文書院,1964年。)
(*)(参考：大竹秀男「西独における私法史研究の動向：とくにフランクフルト・アム・マイン〈ゲーテ〉大学ローマ法・継受研究室の最近の業績について(1,2,3)」神戸法学雑誌14(1,2,3),1964年。)
(*)(参考：大竹秀男『西独における私法史研究の動向：とくにフランクフルト・アム・マイン〈ゲーテ〉大学ローマ法・継受研究室の最近の業績について(1,2,3)』神戸法学会,1964年。)
(*)佐藤篤士『法史学から見た日本の近代化』早稲田大学比較法研究所,1964年。

(*)(参考：E.カメンカ/藤野渉・赤沢正敏訳『マルクス主義の倫理学的基礎』岩波書店,昭和40年。)
(*)(参考：富沢賢治「初期マルクスとキリスト教(2)」一橋論叢53(2),1965年。)
(*)(参考：上山春平「マルクス史観のヨーロッパ的性格」思想489,1965年。)
(*)(参考：戸上実賢「「初期マルクス」研究に寄せて」社会思想研究17(11),1965年。)
(*)吾郷清彦『有機的全神論：高次神観の幾何学的展開』日本神学連盟,改訂再版,1965年。
(*)(参考：シビレ・フォン・クレス=レーデン/河原忠彦訳『エトルリアの謎』みすず書房,1965年。)
(*)(参考：内田芳明「文化比較の諸観点と諸問題(1,2)—古代世界と古代ユダヤ民族」思想498,1965年/499,1966年。)
(*)(参考：生松敬三「ヨーロッパの歴史意識—比較文明論的世界史の視角をめぐって」思想489,1965年。)
(*)(参考：橋口倫介「西欧文明の黎明—世界史の鼓動(8)」世紀183,1965年。)
(*)(参考：平井周吉「西ヨーロッパ文化についての2,3の考察—旅行家の手記」世界史研究(37),1965年。)

(*)佐々木静一『ギリシャの島々：エーゲ海ヨット周航記』日本経済新聞社,1965年。
(*)(参考：イリアス ヴェネージス,岡野純「エーゲ海物語」広大言語5,1965年。)
(*)磯崎新「迷路と秩序の美学・エーゲ海のまちと建築—世界の自然と造形(4)」みずゑ723,1965年。
(*)(参考：平沢平三「古代オリンピアの研究(1-5)」大阪音楽大学研究紀要4,1965年/5,1967年/6,7,1968年/8,1969年。)
(*)(参考：平沢平三「オリンピアの研究(1-7)」大阪電気通信大学研究論集 人文・社会科学編1,1965年/2,1966年/3,1967年/4,1968年/5,1969年/6,1970年/7,1971年/8,1972年。)
(*)(参考:矢島文夫「西アジア文化史の課題」(東京大学東洋文化研究所)東洋文化38,1965年。)
(*)(参考：田中美知太郎・井上靖「対談 文明と歴史の流れ—ギリシアと中央アジアをたずねて」潮65,1965年。)
(*)(参考：東京大学イラク・イラン遺跡調査団編『オリエントの遺跡』東京大学出版会,1965年。)
(*)(参考： ヘディン/西義之訳『シルクロード』ヘディン中央アジア探検紀行全集9,白水社,1965年。)
(*)(参考：加藤九祚『シルクロードの十字路：中央アジアの昔と今』秘境探検双書,ベースボール・マガジン社,1965年。)
(*)『天理ギャラリー図録集(全15巻)』(シルクロード)東京天理教理館,1965年。)
(*)勝本清一郎「イスタンブールの散歩—こころの遠近(7)」朝日ジャーナル7(17),1965年。)
(*)(参考：デチオ・ペトエルロ/齋藤祐蔵訳『イタリア文明史』南雲堂,1965年。)
(*)(参考：高橋正「古代ギリシア・ローマの帯圏説に関する覚書」人文地理17(4),1965年。)
(*)玉虫佐知夫「菊池栄一著「イタリアに於けるゲーテの世界」」比較文學研究9,1965年。
(*)(参考：大久保進「ゲーテの「イタリア」への道—ヴァイマル」早稲田大学大学院文学研究科紀要11,1965年。)
(*)(参考：Friedrich Gundoruf/小野浩編『Hölderkins Archipelagus』郁文堂,1965年。)
(*)(参考：田中健二「「ヘルダー夫妻の往復書簡より見たるヘルダーのイタリヤ旅行—ヘルダー研究の一資料」独逸文学10,1965年。)
(*)(参考：出口泰生「Keats,Shelleyと伊太利：Romaへの道」(立正学園女子短期大学英語英文科研究室)英米学研究2,1965年。)
(*)(参考:八田良太郎「O.シュペングラーの先駆者たち」(同志社大学人文学会)人文學83,1965年。)
(*)(参考：J.フォークト/小西嘉四郎訳『世界史の課題：ランケからトインビーまで』勁草書房,1965年。)
(*)竹山道雄「都市美について考える—ローマ・パリ・東京」芸術新潮16(4),1965年。
(*)鹿島出版会『SD:Space Design：スペース・デザイン(5)』(村川堅太郎他)鹿島出版会,1965年。
(*)(参考：座右宝刊行会編『イタリア』(村川堅太郎,松平千秋,柳宗玄,村田潔,富永惣一他)世界の文化6,河出書房新社,1965年。)
(*)(参考：ルートヴィッヒ/秋山英夫訳『シュリーマン伝：トロイア発掘者の生涯』白水社,1965年(→1978年,1995年,新装復刊『シュリーマン：トロイア発掘者の生涯』。)

(*)(参考：柴田錬三郎『ナポレオン：運命の英雄』(ヒエログラフ)偕成社,1965年。)
(*)(参考：アディングトン・シミンヅ/齋藤祐蔵訳『イタリア・ルネィサンス美術編』(建築の部,絵画の部)南雲堂,1965年。)
(*)(参考：南大路振一「ゲッチンゲンに学んで」人文研究6(11),1965年。)
(*)石田幹之助他「学問の思い出(1,2)石田幹之助博士を囲んで(座談会)」東方学29,1965年/32,1966年。)
(*)児島喜久雄『美術の小窓』雪華社,1965年。
(*)(参考：三輪福松解説『ティツィアーノ/ティントレット』世界の美術/座右宝刊行会編6,河出書房新社,1965年。)
(*)澤柳大五郎「日本にあるギリシア美術」芸術新潮16(6),1965年。
(*)(参考：高階秀爾「ギリシア・ローマ時代—西洋美術史(座談会)」美術手帖248,1965年。)
(*)(参考：坂崎乙郎「初期キリスト教,ビザンチン美術—西洋美術史(3)座談会」美術手帖249,1965年。)
(*)(参考：坂崎乙郎「後期ゴシックからルネッサンスの開花—西洋美術史(5)座談会」美術手帖252,1965年。)
(*)(参考：坂崎乙郎「イタリア・ルネッサンスの美術—西洋美術史(6)座談会」美術手帖253,1965年。)
(*)(参考:坂崎乙郎「北方ルネッサンスの美術—西洋美術史(7)座談会」美術手帖254,1965年。)
(*)(参考:坂崎乙郎「古典主義とロココの美術—西洋美術史(9)座談会」美術手帖257,1965年。)
(*)(参考：柳宗玄・吉川逸治編『ルーヴル美術館』世界の美術1-2,講談社,1965年。)
(*)(参考：ヨハン・ホイジンガ/里見元一郎訳『文化史の課題』文明研究所シリーズ4,東海大学出版会,1965年。)
(*)(参考：生松敬三「ヨーロッパの歴史意識—比較文明論的世界史の視角をめぐって」思想489,1965年。)
(*)井上光貞「聖徳太子」(同『井上光貞著作集・第9巻』所収,岩波書店,1965年。)
(*)(参考：日本聖書学研究所編『現代旧約学の諸問題』(日本聖書学研究所)聖書学論集3,山本書店,1965年。)
(*)(参考：金子武蔵編『倫理学事典』弘文堂,1965年。)
(*)(参考：今泉篤男・山田智三郎編『西洋美術辞典』訂正8版,東京堂出版,1965年。)
(*)(参考：渡辺良孝編『英独和対照医学辞典』医学書院,1965年。)
(*)(参考：日立道根彦編『宇宙時代の神話辞典』天降日之宮再建同志会出版部,道ひらき叢書12,1965年。)
(*)(参考：織田昭編『新約聖書ギリシャ語小辞典』大阪聖書学院,1965年。)
(*)(参考：蛭沼寿雄「故ワットモー教授の業績」」(関西学院大学)人文論究16(3),1965年。)
(*)今泉源吉「和蘭字彙拾遺」蘭学資料研究会研究報告170,1965年。
(*)松田毅一「日欧交渉史研究文献目録：南欧・キリシタン篇A~E,F~I」清泉女子大学紀要11,12,1965年。
(*)森岡健二「蘭和辞典の英和辞典に及ぼせる影響」蘭学資料研究会研究報告174,1965年。
(*)森睦彦「幕府諸機関の記録に現われた「和蘭字彙」の出版過程」蘭学資料研究会研究報告175,1965年。
(*)高橋邦太郎「横浜仏語伝習所」成城文藝41,1965年。
(*)竹内精一「我国に於ける独逸語の曙(1,2)」日本大学文理学部研究年報14,1965年/15,1966

年。
(*)朝比奈貞一「沼津学校の一教科書—法朗西単語篇」蘭学資料研究会研究報告173,1965年。
(*)(參考：岡道男「「オッデュセイア」におけるφαοθυη—ホメーロス研究に於ける考古学と文献学の問題」(同志社大学法学部一般教養研究会)研究,昭和40年。)
(*)(參考：川本崇雄「言語年代学と日印祖語の蓋然性—特に日本語と英語・ラテン語」芸文6(1),1965年。)
(*)(參考：田中利光「古代ギリシア語の「短い人名」」言語研究48,1965年。)
(*)(參考：有田潤「ラテン語接続法試論」早稲田商学184,1965年。)
(*)杉本つとむ「近代語の形成」国語と国文学42(4),1965年。
(*)齋藤静「日本語に及ぼしたオランダ語の影響—語史・文化史的研究」東北学院大学論集・英語英文学47,1965年。
(*)高階秀爾「東京大学教養学科の15年—戦後学制改革の異端児に見る理想主義の成果」中央公論81(3),1965年。)
(*)『柳田泉先生年譜並著作目録』柳田先生記念会,1965年。
(*)(參考：田中美知太郎「第4回国際古典学会に出席して」西洋古典學研究13,1965年。)
(*)(參考：『津村信夫散文集2』)「追悼 呉茂一」)珊瑚書房,1965年。)
(*)(參考：亀井俊介「比較文学関係雑誌論文書誌」比較文學研究9,1965年。
(*)田中英光『オリンポスの果實 ; 端艇漕手 : スベニイル』田中英光全集1,芳賀書店,1965年。
(*)島田昭男「田中英光論：戦争期の生活と思想(戦後の文学)」日本文学14(4),1965年。
(*)(參考：橘好一「トーマス・マンにおける神話的叙事詩の意図」金沢大学教養部論集,人文科学篇2,1965年。)
(*)(參考：藤井澄子「ヘルダーリンの自然観：「河」に於ける神話像」實踐文学24,1965年。)
(*)(參考：澤柳大五郎『ギリシア神話と陶器画』Space Design 5,鹿島研究所出版,1965年。)
(*)澤柳大五郎「日本にあるギリシア美術」芸術新潮16(6),1965年。
(*)(參考：呉茂一『入門・世界の神話』講談社現代新書,講談社,1965年。)
(*)(參考：高津春繁『ギリシア神話』岩波書店,1965年。)
(*)(參考：木村徳三編・久米宏一え『ぎりしあしんわ』世界のひらがな童話27,岩崎書店,1965年。)
(*)(參考：中川正文・依光隆え『ギリシア神話：西洋古典』世界の名作21,講談社,1965年。)
(*)(參考：田島準子『ギリシャ神話[附・他アラビアンナイト,ホメーロス]』少年少女世界の名作文学I 古典編,小学館,1965年。)
(*)(參考：高橋睦郎『愛のギリシア神話』For ladies4,新書館,1965年。)
(*)(參考：高橋睦郎『愛の教室：女性のためのギリシャ神話』For ladies4,新書館,1965年。)
(*)(參考：G.シャンドン/有田順訳『ホメロス物語』白水社,1965年(→2000年,新装版)。)
(*)(參考：藤縄謙三『ホメロスの世界』至誠堂新書,至誠堂,1965年。)
(*)(參考：山本和夫『ホメーロス物語』少年少女世界の名作文学1,古典篇1,小学館,1965年。)
(*)(參考：キケロー/樋口勝彦訳「神々の本質に就いて・第二巻続」慶應義塾大学日吉論文集15,1965年。)
(*)(參考：関根正雄『舊約聖書』16版,創元選書,創元社,1965年。)
(*)(參考：フルトン・アワズラー/鮎川信夫訳『偉大な生涯の物語：イエス・キリスト伝』荒地出版社,1965 年。)
(*)(參考：弓削達「使徒パウロとローマ帝国」(山本和編『西欧世界の形成とキリスト教』

創文社,1965年。)
(*)中村和夫「ルカ福音書の検討：塚本虎二『福音書』(岩波文庫)」日本の神学4,1965年。)
(*)(参考：石島三郎『キリスト教入門』改訂新版, 新教出版社, 1965年。）
(*)(参考：佐藤清太郎訳『十二使徒の教訓』中央出版社,中央ライブラリー,1965年。)
(*)(参考：土戸清『私たちの『使徒行伝』：中・高生のための『使徒行伝』研究』新教出版社,つのぶえ文庫12,1965年。)
(*)(参考：土戸清『私たちの『使徒行伝』：青少年のための『使徒行伝』研究』新教出版社,つのぶえ文庫12,1965年。)
(*)(参考：赤木善光「エラスムスのPhilosophia Chritianaについて」東北学院大学論集・一般教育46,1965年。)
(*)(参考：藤井昇「西洋古典(ギリシァ・ローマ)の文学の立場から(特集：文学・芸術に現われたる女性像)」藝文研究19,1965年。)
(*)(参考：『世界古典文学全集9：エウリピデス』筑摩書房,1965年。)
----「アルケステイス」呉茂一訳/「メディア」中村善也訳/「ヘラクレスの子供たち」柳沼重剛訳/「ヒッポリュトス」松平千秋訳/「アンドロマケ」松平千秋訳/「ヘカベ」高津春繁訳/「救いを求める女たち」中山恒夫訳/「ヘラクレス」川島重成・金井毅訳/「イオン」松本克己訳/「トロイアの女」松平千秋訳/「エレクトラ」田中美知太郎訳/「タウリケのイピゲネイア」呉茂一訳/「ヘレネ」中村善也訳/「フェニキアの女たち」岡道男訳/「オレステス」松本仁助訳/「バッコスの信女」松平千秋訳/「アウリスのイピゲネイア」呉茂一訳/「レソス」柳沼重剛訳/「キュクロプス」中村善也訳
(*)『日本古典文学大系 仮名草子集』(森田武「解説」,イソップ)岩波書店,1965年。
(*)田代秀徳『日本の伝統的文化』(「ハーンとケーベル」)東海大学出版会,1965年。
(*)香川鈴「橘糸重先生の二五年忌をお迎えして」(ケーベル)同声会会報290,1965年。
(*)中桐大有「ケーベル博士とその弟子たち」パイデイア4,1965年。
(*)千阪靖朗「ケーベル博士と中世思想史の研究」パイデイア4,1965年。
(*)井上勝也「ケーベル博士の人間像」パイデイア4,1965年。
(*)今谷逸之助「ケーベル博士の哲学と宗教」パイデイア4,1965年。
(*)梶嘉一郎「ケーベル博士の世界観と人生観について」パイデイア4,1965年。
(*)加藤暁子「ケーベル博士に影響を与えたゲーテ」パイデイア4,1965年。
(*)松本仁助「ケーベル博士と日本の西洋古典学」パイデイア4,1965年。
(*)山下和海「ケーベル博士の「小品集」を読んで」パイデイア4,1965年。
(*)山田泰嗣「ケーベル博士と教育学生」パイデイア4,1965年。
(*)柳田泉「初期の西洋小説(上中下)」日本古書通信30(3・4・5),1965年。
(*)柳田泉『明治初期の文学思想(上下)』春秋社,1965年。
(*)柳田泉『明治初期の翻訳文學の研究』(明治文学研究・第5巻)春秋社,1965年。
(*)『柳田泉先生年譜並著作目録』柳田先生記念会,1965年。
(*)家永三郎「柳田泉著「明治初期の文学思想」文学33(10),1965年。
(*)山本正秀『近代文体発生の史的研究』岩波書店,1965年。(→1982年,再版。)
(*)木村毅「政治小説「佳人之奇遇」の思出—明治大正文学夜話(10)」国文学解釈と鑑賞31(12),1965年。
(*)(参考：青木巌『西洋古典とイギリス文学』研究社出版,1965年。)

(*)(参考：別宮貞徳「青木巖著「西洋古典とイギリス文学」」ソフィア14(2),1965年。)
(*)司馬遼太郎「清沢満之と明治の知識人」中央公論80(4),1965年。
(*)高田瑞穂「上田敏論—残された問題点」国文學：解釈と教材の研究10(5),1965年。
(*)(参考：剣持武彦「ダンテ「神曲」と昭和の作家たち」イタリア学会誌13,1965年。
(*)中野記偉「戸川秋骨先生のことども」世紀186,1965年。
(*)太宰治『走れメロス：赤い太鼓』雨の日文庫,麦書房,1965年。
(*)仲田湛和「「走れメロス」の場合（日本文学協会第20回特集号1）」日本文学14(8),1965年。)
(*)福田隆義「『女生徒』か『走れメロス』か」文学と教育36,1965年。)
(*)京都大学文学部国語学国文学研究室編『伊曽保物語—文禄二年耶蘇会板』再版,[翻字及び解題柊源一/索引・広島大学研究室](大英博物館本コロタイプ複製)新村出博士米寿祝賀記念出版,京都大学国文学会,1965年。)
(*)滝原章助・水野二郎・森国ときひこ・若菜珪絵；岩崎京子文；猪野賢一編『イソップものがたり』(3~5歳)講談社の教育絵本,講談社,1965年。
(*)イソップ作/平塚武二訳『イソップどうわ』せかいのおはなし1,講談社,1965年。
(*)猪野賢一編『いそっぷどうわ』講談社の幼児絵本,講談社,1965年。
(*)徳永寿美子文；若菜珪画『イソップ絵物語』なかよし絵文庫13,偕成社,1965年。
(*)平川祐弘「森鴎外の「洋学の盛衰を論ず」をめぐって—西洋文化との出会いの心理—研究」比較文化研究6,1965年。
(*)沼田次郎『洋学史』(日本歴史学会編『日本史の問題点』所収,吉川弘文館,1965年。
(*)沼田次郎「洋学史」日本歴史200,1965年。
(*)衣笠安喜「幕末における変革の論理の成立—儒学と洋学」立命館大学人文科学研究所紀要13,1965年。)
(*)佐藤良雄「蕃書調所の沿革と外国語学校」蘭学資料研究会研究報告169,1965年。
(*)飯塚浩二「“洋学研修”と大航海時代の実録—「大航海時代叢書」の監修にあたって」図書188,1965年。
(*)森田康之「洋学者と日本—西洋文化の摂取(1,2)」神道史研究13(5,6),1965年。
(*)森睦彦「蕃書調所の出版検閲」法政史学17,1965年。
(*)今泉源吉『蘭学の家--桂川家の人々』(第1巻)篠崎書林,1965年(→1968年)。
(*)芳賀徹「司馬江漢とその時代」みずゑ721,1965年。
(*)大鳥蘭三郎「大槻玄沢著「西賓対晤」に関する研究」日本医史学雑誌11(2),1965年。
(*)高梨健吉『英学ことはじめ』角川書店,1965年。
(*)木下繁弥「明治末期における谷本富の「新育論」について：近代日本教育思想史研究の「覚書」」人文學報47,1965年。
(*)笠井清「南方熊楠の愛讀書について」甲南大学文学會論集28,1965年。
(*)笠井清「南方熊楠と比較文学」日本文学14(4),1965年。
(*)河野与一「西田[幾多郎]先生の片影」『西田幾多郎全集』月報2月号,昭和40年。
(*)山中謙二「坪井九馬三先生—西洋史界の先駆者(3)」歴史教育13(5),1965年。
(*)山中謙二「箕作元八先生—西洋史界の先駆者(4)」歴史教育13(6),1965年。
(*)梅田義彦「加藤玄智」神道宗教41,1965年。
(*)有井博子「有賀長雄」学苑306,1965年。
(*)杉山康彦「和辻哲郎と津田左右吉—大正期における古典研究」国語と国文学42(10),1965

年。
(*)砂川英里『海老名弾正・植村正久』東海大学出版会,1965年。
(*)国際基督教大学アジア文化研究委員会(海老澤有道)編『日本キリスト教文献目録』国際基督教大学(創文社,発売),1965年。
(*)鎌田広夫「キリシタン語法覚書—バレト写本集から」日本文學論究24,1965年。
(*)御法川恵子「聖書和訳とその訳語についての国語学的研究」日本文學25,1965年。
(*)日本聖書協会訳『旧約聖書』1965年。
(*)(參考：関根正雄『舊約聖書』16版,創元選書176,1965年。)
(*)新改訳聖書刊行会訳『新約聖書：口語訳』日本聖書協会,1965年。
(*)(參考：石原兵永『主の祈り：イエスの教と私たちの生活』山本書店,1965年。)
(*)竹森満佐一『使徒行伝講解』日本基督教団出版部,1965年。
(*)(參考：五十嵐健治『使徒行伝ところどころ：パウロの伝道生涯』同信社,1965年。
(*)土戸清『私たちの『使徒行伝』：青少年[中・高生]のための『使徒行伝』研究』つのぶえ文庫12,新教出版社,1965年。
(*)助野健太郎「プティジャンと日本再布教」キリスト教史学16,1965年。
(*)左近義慈「左近義弼とその時代—日本の旧約学の歴史の一断面」(東京神学大学神学会)神学27,1965年。
(*)中村和夫「ルカ福音書の検討：塚本虎二『福音書』(岩波文庫)」日本の神学4,1965年。
(*)木村毅「日本聖書(上下)—明治大正夜話(5,6)」国文学 解釈と鑑賞30(6,7),1965年。
(*)(參考：Rex Warner,illust.Edwin Bawden“Greeks&Trojans”Classics for enjoyment4, Kenkyusha,1965.)
(*)(參考：イプセン他/岩崎純孝訳者代表『近代劇集』(ジロドゥ/鈴木力衛・寺川博訳「トロイ戦争は起こらない」)世界文學大系90,筑摩書房,1965年。)
(*)尾崎宏次「演技の洗濯—俳優座「ハムレット」・文化座「リリオム」・四季「トロイ戦争は起こらないだろう」評」新劇12(4),1965年。)
(*)(參考：有田潤「ヘーロドトスに於ける歴史眼」西洋古典學研究13,1965年。)
(*)(參考：土井正興「第1次シチリア奴隷反乱をめぐる諸問題」法学志林62(3・4),1965年。)
(*)(參考：大牟田章「アレクサンドロス抵抗の形成とギリシァ世界--「追放者復帰王令」をめぐる政治的背景」史林48(6),1965年。)
(*)(參考：橋口倫介「動乱のローマ帝国—世界史の鼓動(1)」世紀176,1965年。)
(*)(參考：橋口倫介「ローマ帝国の改宗—世界史の鼓動(2)」世紀177,1965年。)
(*)(參考：橋口倫介「異教の反動—世界史の鼓動(3)」世紀178,1965年。)
(*)(參考：橋口倫介「ローマ帝国の滅亡—世界史の鼓動(4)」世紀179,1965年。)
(*)(參考：橋口倫介「東ローマの余香—世界史の鼓動(5)」世紀181,1965年。)
(*)(參考：ピレンヌ,H./朝倉文市訳「マホメットとシャルルマーニュ」世界史研究(37・38・39),1965年。)
(*)太田秀通「古代社会論の若干の問題(1-2)」歴史評論177,178,1965年。
(*)(參考：太田秀通『ギリシア世界の黎明』ユーラシア文化史選書1,吉川弘文館,1965年。)
(*)(參考：太田秀通『史学概論：人間の科学としての歴史学』學生社,1965年（→1967年,2版)。)
(*)土井正興「イタリアで読んだ「史学概論」--太田秀通氏のてがみ(1)」歴史評論183,1965年。

(*)犬丸義一「太田秀通著「史学概論」を読んで--太田秀通氏のてがみ(2)」歴史評論183,1965年。
(*)(参考：太田秀通「歴教協大会参加記」歴史学研究306,1965年。)
(*)(参考：茂木政「大きくなった世界,小さくなった世界—世界史における主人公はかわる」朝日ジャーナル7(2),1965年。)
(*)(参考：谷川道雄「中国史の世界史的把握はどう進んだか(1)古代社会の性格論争をめぐって」歴史評論184,1965年。)
(*)(参考：瀬原義生「世界史の発展と西洋史学—西洋前近代史研究をかえりみて」歴史評論184,1965年。)
(*)(参考：川村正樹「中学校歴史改造論—世界史の再建」秋大史学13,1965年。)
(*)(参考：長嶋安雄「中学校社会科地理における世界史の取扱いについて」歴史教育13(12),1965年。)
(*)(参考：小松左京『地図の思想』講談社,1965年。)
(*)(参考：リーダーズダイジェスト社編『最新世界大地図』日本リーダーズダイジェスト社,1965年(→1966年,改訂普及版)。)
(*)(参考：吉野俊『中学校歴史学習資料集：年表・史料・地図』5訂初版,正進社,1965年。)
(*)(参考：浅香幸雄他『標準地図：中学社会科』古今書院,1965年。)
(*)(参考：織田武雄「世界地図の発達」ビブリア天理図書館報32,1965年。)
(*)家入敏光「天理図書館蔵,球儀に見られるインスクリプションの翻刻」ビブリア32,1965年。
(*)石山洋「英学における地理書について」日本英学史研究会研究報告26,1965年。
(*)石山洋「近代地理学のあゆみ—蘭学をとおしてみた」地理10(7),1965年。
(*)(参考：安藤弘「ホプリテーン軍隊のなりたち—アテナイを中心に(1,2)」史學雑誌74(1,2),1965年。)
(*)(参考：「1964年の歴史学界—回顧と展望」史學雑誌74(5),1965年。)
(*)(参考：吉岡力『世界史の研究』8訂版,旺文社,1965年。)
(*)山中謙二「村川堅固先生—西洋史界の先駆者(6)」歴史教育13(8),1965年。
(*)石田幹之助(他)「学問の思い出(1)」東方学29,1965年。
(*)芳賀徹「幕臣栗本鋤雲の生涯(上下)」自由7(6,7),1965年。
(*)山崎正一「明治以降における西洋哲学の受容」理想380,1965年。
(*)(参考：桂寿一『哲学概説』東京大学出版会,1965年、)
(*)船山信一『大正哲学史研究』法律文化社,1965年。
(*)Michitaro Tanaka,“On Gijutsu, Philosophical Studies of Japan”, compiled by National Commission for Unesco,vol.6,1965.
(*)田中美知太郎「退官講義 幸福だった京都大学の生活」讀賣新聞夕刊1/30,1965年。
(*)(参考：田中美知太郎『ギリシアの詩と哲学』思想の歴史1,平凡社,1965年。)
(*)「新しい全集 田中美知太郎編「ギリシアの詩と哲学」“古典思想の泉”をくむ」讀賣新聞朝刊5/2,1965年。
(*)(参考：田中美知太郎『自分のこと世界のこと』文藝春秋新社,1965年。)
(*)「田中美知太郎著「自分のこと世界のこと」人間味ゆたかな評論集」讀賣新聞夕刊7/29,1965年。
(*)(参考：田中美知太郎『哲学と人生』雪華社,1965年。)

(*)「「哲学と人生」田中美知太郎著 学問や愛国心の教え」讀賣新聞夕刊11/18,1965年。
(*)人事「田中美知太郎氏ら京大名誉教授に」東京朝日新聞朝刊4/1,1965年。
(*)(參考：田中美知太郎「第4回国際古典学会に出席して」西洋古典學研究13,1965年。)
(*)「古典学関係海外研究誌備えつけの現況」(東京教育大学,東京都立大学)西洋古典學研究13,1965年。)
(*)「古典学関係海外研究誌備えつけの現況」(北海道大学,同志社大学)西洋古典學研究13,1965年。
(*)(參考：引地正俊「アキレウス・タティオスの小説構成上の一問題：ErosとTyche」西洋古典學研究13,1965年。)
(*)(參考：山崎正一・原佑・井上忠『西洋哲学史』新版,東京大学出版会,1965年。)
(*)(參考：ブルクハルト,リンゼイ/成瀬治編訳『ルネッサンス；宗教改革史』少年少女世界の歴史4,あかね書房,1965年(→1969年,再版)。)
(*)(參考：国嶋一則『人間と思想：西洋思想の歴史と展開』新世書房,1965年。)
(*)(參考：『三谷隆正全集(全5巻)』(岩波書店,1965年(→1966年)。)
(*)(參考：山本光雄・田中美知太郎訳『プラトン』河出書房新社,1965年。)
(*)(參考:澁澤龍彦『快楽主義の哲学』光文社カッパブックス,1965年(→1996年,文春文庫版)。
(*)(參考：竹内良知「唯物論の歴史的発展」理想391,1965年。)
(*)(參考：サルトル/佐藤朔訳者代表『評論集』(アリストテレス)サルトル全集11,人文書院,1965年。)
(*)(參考:藤澤令夫「ギリシア哲学研究の条件」(『思想の歴史1』所収,月報,平凡社,1965年。)
(*)(參考：藤澤令夫「憂鬱の宇宙論詩--ルクレティウスについて」(『世界古典文学全集21』所収,筑摩書房,1965年。)
(*)(參考:藤澤令夫「懐疑のあり方について--「ピュロニスム」の原型覚書」展望12月号,1965年。)
(*)(參考：藤澤令夫「運動と実在—ゼノンの運動論駁をめぐって」哲学15,1965年。)
(*)(參考：岩崎允胤「ゼノンの逆理と唯物弁証法」唯物論研究23,1965年。)
(*)(參考：井上忠「ギリシア哲学は何であったか」学生社「古代史講座12」,昭和40年。)
(*)(參考：野町啓「ギリシア哲学ヘブル起源説—その起源・背景・系譜」(弘前大学)文経論叢1(1),1965年。)
(*)(參考：加藤裕「プラトンのホメーロス観」秋田大学学芸学部研究紀要15,昭和40年。)
(*)(參考：田中享英「R.K.スプレイグ「プラトンの使用する論理的誤謬」1962」哲学雑誌80(752),1965年。)
(*)(參考：新海邦治「W.G.ランシマン「プラトンの後期知識論」1962」哲学誌7,1965年。)
(*)(參考：山田友三郎「ヤスパースのプラトン観」理想391,1965年。)
(*)(參考：吉岡潔『プラトンと形而上学』京都大学,文学博士,乙第417号,1965年。)
(*)(參考：川田殖「アリストテレス初期著作におけるプラトン解釈—断片集を中心として」哲学研究42(9),1965年。)
(*)(參考：太田彰一「視覚・聴覚・触覚—アリストテレス・カント・ニーチェ」白百合女子大学研究紀要1,1965年。)
(*)(參考：鹿野治助「ヘーラクレイトスのロゴスとストアのロゴス」(大阪市立大学大学院文学研究科)人文研究16(1),1965年。)
(*)(參考：式部久『ストアのゼノン』世界思想家全集,牧書店,昭和40年。)

(*)(参考：泉井久之助他訳『ウェルギリウス；ルクレティウス』筑摩書房,1965年。)
(*)(参考：野町啓「紀元一世紀前半に於けるAlexandoriaのユダヤ人〈πολιτευμα〉—Philoの歴史的背景」東京教育大学文学部紀要,昭和40年。)
(*)(参考：加藤信朗「自己と超越—プローティーヌスの問題」哲学雑誌80(752),1965年。)
(*)(参考：荒井献「原始キリスト教における教育思想の展開」紀要9,1965年。)
(*)(参考：伊藤勝彦『愛の思想史』紀伊国屋新書A-23,紀伊国屋書店,1965年(→1980年,紀伊国屋書店,新装版。→1992年,東信堂,新版。→2005年,講談社学術文庫版。)
(*)(参考：三谷隆正『三谷隆正全集(1-5)』岩波書店,1965年。)
(*)(参考：江藤太郎・高田三郎・松本正夫編『西洋中世思想の研究：石原謙先生献呈論文集』岩波書店,1965年。)

----長沢信寿「アウグスティーヌスの存在論」
斯波義慧「聖アウグスティヌスの霊魂の不滅に関する証明について」
近山金次「アウグスティヌスの歴史理念」
渡辺秀「アウグスティヌスとデカルトの疑いについて」
武田信一「アウグスティヌスのカリタス」
中川秀恭「アウグスティヌスにおける解釈学について」
山田晶「懺悔と讃美」
今道友信「自由と神秘と美の聯関について」
印具徹「二つの神学的意志論」
高田三郎「十三世紀論理学書の「スポヂチオ論」に見られる命題分析の問題とトマス・アクィナスの態度」
真方敬道「古代哲学における「不可分なるエイドス」について」
仁戸田一郎「中世哲学の性格に関する一考察」

(*)(参考：森田良紀「中世思想史におけるパリ大学」（九州大学）哲学論文集1,1965年。)
(*)(参考：照井豊『大類史観について—マルクス・アウレリウス小伝』[富谷町]照井豊,1965年。)
(*)(参考：カール・ヤスパース/林田新二訳『イエスとアウグスチヌス』理想社,ヤスパース選集12,1965年。)
(*)(参考：E.トレルチ/西村貞二訳『アウグスティヌス—キリスト教古代と中世』新教出版社,昭和40年。)
(*)(参考：清水正照『アウグスティーヌスにおけるパウロ書翰と新プラトン主義』清水正照,1965年。)
(*)(参考：トマス・アクィナス著/服部英次郎訳『神学大全』河出書房新社,1965年。)
(*)(参考：今野國雄「11,12世紀におけるアウグスティーヌス復活の一面—アウグスティーヌス派聖堂参事会の起源と意識」中世思想研究6,1965年。)
(*)(参考：江川義忠「トマス・アクィナスの人間観：中世アリストテレス主義研究(1)」立正大学人文科学研究所年報3,1965年。)
(*)(参考：江川義忠「トマス・アクィナスの人間観：中世アリストテレス主義の研究(1)」哲学論叢7,1965年。)
(*)(参考：高柳俊一「書評 聖トマスと現代(ジェリヴェ,R.)」ソフィア14(4),1965年。)
(*)(参考：高柳俊一「中世哲学における学研的連帯性—聖トマスと書記たち」カトリック神学7,1965年。)

(*)(参考：ボエティウス/小野忠信訳「ボエティウス神学的小論集から(1,2)」明治学院論叢91,99,1965年。)
(*)(参考：江藤太郎・高田三郎・松本正夫編『西洋中世思想の研究：石原謙先生献呈論文集』岩波書店,1965年。)
(*)(参考：フランツ・ボルケナウ/訳者代表・水田洋『封建的世界像から市民的世界像へ』(ガッサンディ)みすず書房,1965年(→1985年,第8刷)。
(*)(参考：下村寅太郎『ルネッサンスに於ける諸学の綜合的研究(継2年)』東京教育大学(1965年),(科研費)1965年。)
(*)(参考：田中友次郎「ドイツ啓蒙主義の根本理念」世界史研究(37・38・39),1965年。)
(*)(参考：三田博雄「技術と人間疎外の問題—LewisMumfordの西洋文明史論〈Renewal of Life〉」神戸大学文学会研究35,1965年。)
(*)(参考：J.M.ドムナック/渡辺守章訳「悲劇の復活(1,2)」新劇12(9,10),1965年。)
(*)(参考：エーリッヒ・フロム/鈴木重吉訳『悪について』(ヴィラモーヴィッツ)紀伊国屋書店,1965年。)
(*)(参考：高階秀爾「ルネッサンスの光と闇(1-22)」三彩195,1965年/196,197,199,201,203,204,,205,206,207,209,210,1966年/211,212,213,214,218,220,1968年/224,237,239,1969年。)
[(*)(参考：高階秀爾「虚飾の焚刑--ルネッサンスの光と闇(1)」三彩195,1966年。)]
[(*)(参考：高階秀爾「偽預言者(1,2)--ルネッサンスの光と闇(2,3)」三彩196,197,1966年。)]
(*)(参考：里美安吉『ダンテ神曲解説』山本書店,1965年。)
(*)(参考：山県三千雄『ダンテ—創造と人間形成』早稲田大学出版部,1965年。)
(*)(参考：J.ロゲンドルフ他「ダンテ理解のために—野上素一教授を囲んで[座談会]」ソフィア14(3),1965年。)
(*)(参考：野上素一「ダンテとヴィルジオ」イタリア会誌13,1965年。)
(*)(参考：野上素一「ダンテの年—ダンテ研究国際会議に出席して」世紀185,1965年。)
(*)(参考：信森広光「ダンテとタッソの叙事詩：「神曲」と「エルサレムの解放」にみられる(intervento divino)」イタリア会誌13,1965年。)
(*)剣持武彦「ダンテ『神曲』と昭和の作家たち」イタリア会誌13,1965年。
(*)(参考：松崎芳隆「『ダンテの方へ』：二人のフランス作家におけるダンテ」イタリア会誌13,1965年。)
(*)(参考：脇功「レオバルディのダンテ観」イタリア会誌13,1965年。)
(*)(参考：秋山余思「「神曲」の脚韻に於ける語彙」イタリア会誌13,1965年。)
(*)(参考：米山喜晟[他]・藤沢道雄「デ・サンクティスの「神曲」批評」イタリア会誌13,1965年。)
(*)(参考：池田廉「ジョヴァン二・ボッカチオ『ダンテの作品』」イタリア会誌13,1965年。)
(*)(参考：北川忠紀「U.コズモ著「青年時代」『ダンテ案内』第三章Umberto Cosmo：Guida a Dante,Torino,1947,Cap.III.La Giovinezza.pp.27-38」イタリア会誌13,1965年。)
(*)(参考：望月和夫「M.バルビ著「新生」『ダンテ、生涯・作品・運命』からMichele Barbi：Dante, vita,opera e fortuna,Firenze,1940, La Vita Nuova,Rime,pp.42-51」イタリア会誌13,1965年。)
(*)(参考：赤木善光「エラスムスのPhilosophia Christianaについて」東北学院大学論集・一般

教育46,1965年。)
(*)(参考:J.ホイジンガ/宮崎信彦訳『エラスムス:宗教改革の時代』筑摩叢書49,筑摩書房,1965年。)
(*)(参考：ツヴァイク/内垣啓一・藤本淳雄・猿田悳訳『エラスムスの勝利と悲劇』ツヴァイク全集13,みすず書房,1965年。)
(*)(参考：内山貞三郎「フマニスムス時代の諷刺文学」独逸文学10,1965年。)
(*)(参考：新関良三「現代擬古典派文学について」日本學士院紀要23(2),1965年。)
(*)「回想の吹田順助先生」刊行会編『回想の吹田順助先生』(河野與一)同学社,1965年。
(*)(参考：滝沢寿一「菊池栄一教授還暦記念論文集「ゲーテの比較文学的研究」」ドイツ文学34,1965年。)
(*)(参考：小城正雄「「ゲーテの比較文学的研究」菊池栄一教授還暦記念論文集」比較文學研究9,1965年。)
(*)(参考：玉林憲義「イエスの地獄巡行—ゲーテの初期の詩作」人文論究16(1),1965年。)
(*)(参考:岸繁一「ゲーテの「プトメートイス」覚書(2)スピノザ哲学との関係」人文学78,1965年。)
(*)(参考:平野雅史「ゲーテの西東詩集におけるエロス」神戸大学教養部人文学会論集1,1965年。)
(*)(参考：滝沢寿一「ゲーテの比較文学的研究」ドイツ文学34,1965年。)
(*)(参考：小栗浩「「西東詩集,酌童の書」について及び,結論,「西東詩集」の精神」」北海道大学文学部紀要14(第1分冊),1965年。)
(*)(参考：玉林憲義「イエスの地獄巡行—ゲーテの初期の思索」人文論究16(1),1965年。)
(*)(参考:西村晧「ゲーテにおける人間的自然の概念と根本直観について」哲學47,1965年。)
(*)(参考：酒田健一「フリードリヒ・シュレーゲル「哲学講義(1800-1807)」紹介」ヨーロッパ文学研究9,1965年。)
(*)(参考：富田武正「ロマン主義と古典主義の出会い—F.シュレーゲルの評論「ゲーテのマイスター」を中心に」上智大学ドイツ文学論集2,1965年。)
(*)(参考:木村直司「最近のドイツ学術誌所載のゲーテに関する論文について—ドイツ文学研究誌より」上智大学ドイツ文学論集2,1965年。)
(*)(参考：平野孝国「ヘルダーにおける「自然」「人間」「神」」宗教研究38(3),1965年。)
(*)(参考:植田敏郎「ヘルダーとフランス革命」一橋大学研究年報 人文科学研究7,1965年。)
(*)(参考:植田敏郎「ヘルダーとアウグスト・フォン・アインズィーデル」一橋論叢54(4),1965年。)
(*)(参考:藤井澄子「ヘルダーリンの自然観：「河」に於ける神話像」實踐文學24,1965年。)
(*)(参考：山田杉夫「ヘルダーリンのエーロス：エーロスを養う者としてのÄther」金沢大学教養部論集・人文科学篇2,1965年。)
(*)(参考：戸田政雄「「ハイデルベルク」ヘルダーリンの詩」ドイツ文学論集1,1965年。)
(*)(参考：桂芳樹「言葉と音楽—ニーチェの「悲劇の誕生」を中心に」金沢大学法文学部論集 文学篇12,1965年。)
(*)(参考：倉沢行洋「ディオニゾス・アポロ・ソクラテス—ニーチェの芸術論」神戸大学文学会研究35,1965年。)
(*)(参考:木幡瑞枝「アポロンとディオニュソス—ニーチェ初期における〈悲劇的なるもの〉」美學15(4),1965年。)

(*)(参考：水野清志「ヘルマン・ヴァイン「肯定的反キリスト教—キリスト教的人間学の焦点におけるニイチェのキリスト像」1962」哲学誌7,1965年。)
(*)(参考：中村正雄『ニーチェとキリスト教倫理』京都大学,文学博士,乙第480号,1965年。)
(*)(参考：中村睦子「ニーチェとキリスト教の神について--「ツアラトゥストトラ」を中心に」一般研究1,1965年。)
(*)(参考：大河内了義「ニーチェ研究の姿勢」ドイツ文学論集1,1965年。)
(*)(参考：三木正之「ハイデッガーの『ニーチェ』・覚え書きと抄訳：ニヒリズムと存在の歴史」ドイツ文学論集1,1965年。)
(*)(参考：ビーザァオイゲン/大河内了義訳「「神は死んだ」：ニーチェの「気の狂った人間」の原典史的解明」近代37,1965年。)
(*)(参考：朝日英夫「著作家ニーチェの手法」研究年報12,1965年。)
(*)重松泰雄「鴎外とニーチェ」日本近代文学3,1965年。)
(*)(参考：倉沢勢津子「ヤスパースの「歴史性」について」社会福祉評論27・28,1965年。)
(*)(参考:菊池武弘「ホーフマンスタールとギリシア悲劇」東京外国語大学論集12,1965年。)
(*)登張竹風遺稿追想集刊行会編『登張竹風遺稿追想集』郁文堂出版,昭和40年。
(*)(参考：安藤信敏「新関良三博士著「劇文学の比較研究」」比較文学年誌1,1965年。)
(*)齋藤一寛「坪内逍遙の講義「比照文学」の紀淑雄のノートの発見について」比較文学年誌2,1965年。
(*)別宮貞徳「〈書評〉西洋古典とイギリス文学(青木巌)」ソフィア14(2),1965年。
(*)(参考：倉長眞『イギリスの文学とキリスト教』研究社,1965年。)
(*)(参考：坂田文男「「間違い続き」に於けるシェイクスピアとプラウトゥス」芝浦工業大学人文・外国語・社会・保健体育2,1965年。)
(*)松元寛「シェイクスピアの翻訳」英語英文学研究12(1),1965年。)
(*)(参考：宮西光雄『ミルトン研究』(京都)あぽろん社,1965年。)
(*)(参考：黒田健二郎「初期における「失楽園」の評価」神戸大学教育学部研究集録33,l965年。)
(*)(参考:黒田健二郎「ドライデンにおけるミルトン批評」神戸大学教育学部研究集録34,l965年。)
(*)(参考：大久保直幹「エドワード・エンゲルバーグ著「壮大なる意匠—W.B.イエイツの美学における様式」1964」比較文學研究9,1965年。)
(*)(参考：久野佐都美「ペイターにおける現代性」愛知大学文学論叢29,1965年。)
(*)(参考：岡橋祐「ペイターの浪漫主義」(立命館大学外国語科連絡協議会)外国文学研究9,1965年。)
(*)(参考：新木正之介「ウォルター・ペイター」学習院大学文学部研究年報11,1965年。)
(*)(参考：中島斉「W.ペイター試論」専修大学論集1,1965年。)
(*)(参考：植木錬之助「二つのペイター伝」」(関西学院大学)論攷21,1965年。)
(*)(参考：フェヌロン他/福井芳男他訳『文学論集』(ペイタア/吉田健一訳「「『ルネサンス』の序」,「『ルネサンス』の結論」」筑摩書房,1965年。)
(*)(参考：星谷剛一訳『A.E.ハウスマン全詩集』垂水書房,1965年(→1976年,荒竹出版社。)
(*)(参考：橋本雄一「A.E.ハウスマンの運命観」北海道英語英文学9,1965年。)
(*)(参考：土方辰三「ハウスマンとシロプシャイア」成蹊大学文学部紀要1,1965年。)
(*)(参考：鈴木健郎『現代フランス文学史』鈴木健郎遺稿刊行会,白水社,1965年。)

(*)(参考：阿部知二等編『世界文学全集3,4—ラブレー』河出書房新社,1965年。)
(*)(参考:ラブレー/渡辺一夫訳『ガルガンチュワとパンタグリュエル・第5之書』白水社,1965年。)
(*)(参考：モンテーニュ/原二郎訳『エセー(1-6)』岩波文庫,岩波書店,1965年(→1967年。)
(*)(参考：堀秀彦編・関根秀雄訳『モンテーニュ随想録—若い人のために』銀河選書8,大和書房,1965年。)
(*)(参考：関根秀雄『人生の知恵—モンテーニュ「随想録」に学ぶ』大和書房,1965年。)
(*)(参考：中川久定「ディドロの「セネカ伝」の2つのテクスト(1,2)」名古屋大学教養部紀要9,1965年/10,1966年。)
(*)(参考：岩瀬孝「サルトルとギリシャ悲劇—神々の死」新劇12(10),1965年。)
(*)(参考：渡辺淳「悲劇と現代(上下)ギリシャ劇のサルトル的転生にちなんで」テアトロ32(11,12),1965年。)
(*)(参考：片山左京「アルベール・カミュの青春—その歴史に於ける起点と,その意味を求めて」藝文研究20,1965年。)
(*)(参考：堀内清治「212「ヘレニズム建築」の意味(計画・歴史・意匠)」日本建築学會研究報告・九州支部(14・2),1965年。)
(*)村松貞次郎『日本近代建築史ノート—西洋館を建てた人々』(伊東忠太)世界書院,1965年。
(*)(参考：高橋正「古代ギリシア・ローマの帯圏説に関する覚書」人文地理17(4),1965年。)
(*)(参考:磯崎新「迷路と秩序の美学・エーゲ海のまちと建築—世界の自然と造形(4)」みすゞ723,1965年。)
(*)(参考:伊東俊太郎「12世紀におけるユークリッドDataのラテン訳について」西洋古典學研究13,1965年。)
(*)(参考:伊東俊太郎「14世紀におけるユークリッド「エレメンタ」の一写本—MS Paris, Bibliotheque Nationale latin 7215」東京大学教養学部人文科学科紀要37,1965年。)
(*)(参考:矢島祐利『アラビア科学の話』岩波書店,1965年。)
(*)(参考：コワレフスキー/中野廣譯『数学史』厚文社, 1965年。)
(*)(参考:副島民雄『プラトン哲学研究—宇宙論を中心として』理想社,1965年。)
(*)(参考:板倉聖宣編著『デモクリトスから素粒子まで』国土社,発明発見物語全集3,1965年。)
(*)(参考:ルクレチウス/国分一太郎編& ブラック/亀井理訳『宇宙をつくるものアトム、宇宙をつくるものアトム』国土社,少年少女科学明知全集4,1965年。)
(*)(参考:泉井久之助『ウェルギリウス;ルクレティウス』世界古典文学全集21,筑摩書房,1965年。)
(*)(参考:岩田拓郎「I.G.II2 110(=S.E.G.XV108)の解釈について—ハドリアヌス皇帝期アッティカの農業事情に関する一考察」(駿台史学会)駿台史学16,1965年。)
(*)(参考：クールトラント・カンビー著/加茂儀一訳『武器の歴史』恒文社,1965年。)
(*)(参考：クールトラント・カンビー著/加茂儀一訳『船舶の歴史』恒文社,1965年。)
(*)(参考：ロベール・スラール著/加茂儀一訳『機械の歴史』恒文社,1965年。)
(*)(参考：チャールス・A.ライヘン著/加茂儀一訳『化学の歴史』恒文社,1965年。)
(*)(参考：近藤恒一「ペトラルカの反自然科学論争(1,2)」哲学研究43(1,2),1965年。)
(*)(参考：ベルンハルト・ノイッチェ/杉勇訳『ギリシア芸術とスポーツ』養徳社,1965年。)

(*)(参考：阿部正臣「古代オリンピア競技の歴史」工学院大学研究論叢3,1965年。)
(*)(参考：平沢平三「古代オリンピアの研究(1-9)」大阪音楽大学研究紀要4,1965年/5,1967年/6,7,1968年/8,1969年/9,1970年/10,1971年/11,1972年/12,1974年。)
(*)(参考：平沢平三「オリンピアの研究(1-7)」大阪電気通信大学研究論集,人文・社会科学編1,1965年/2,1966年/3,1967年/4,1968年/5,1969年/7,1971年/8,1972年。)
(*)(参考:菊池万雄「オリンピックの地名 小学校児童の地名への関心度(2)」新地理13(2),1965年。)
(*)(参考：岸野雄三「ヒポクラテースの運動療法」体育学研究10(1),1965年。)
(*)(参考：加藤信一『医学・歯学生用ラテン語・ギリシャ語教本』杏林書院,1965年。)
(*)(参考：鈴木重昭「古代の乳および乳製品：七十人訳を媒介としたオリエントおよび東地中海域の技術史の研究」国立科学博物館研究報告8(2),1965年。)
(*)(参考：三木栄『医学史研究の一元的体系：東西医学一元論：医学とは何か』三木栄,1965年。)
(*)(参考：三木栄『医学史とは何か』三木栄,1965年。)
(*)(参考：藪内清・石蔵甚平『科学史概説』朝倉書店,1965年。)
(*)矢島祐利「アラビア科学史のために(展望)」科学史研究76,1965年。
(*)矢島祐利『アラビア科学の話』岩波新書,1965年。
(*)高橋邦太郎「厚生新編の仏原本」蘭学資料研究会研究報告170,1965年。
(*)大矢真一「近世日本科学史の時代区分試案」富士論叢14(1),1965年。
(*)坂口正男「Adolphus YpeyのChimie voor Beginnende Liefhebbersと『舎密開宗』」科学史研究73,1965年。
(*)渡辺敏夫『日本の天文暦学の先駆者—渋川春海と江戸時代の天文学の歩み』国立科学博物館,1965年。
(*)伊東俊太郎「我が国に移入された最初の西欧科学書--「乾坤弁説」について」東京大学教養部日本近代化研究会研究会会報1964年度,1965年。
(*)伊東俊太郎「乾坤弁説の成立について」蘭学資料研究会研究報告168,1965年。
(*)川越重昌「佐藤信淵の天文説(天柱及び鎔造化育論)を支えている和蘭天文訳書について」蘭学資料研究会研究報告168,1965年。
(*)藪内清「天理図書館所蔵の天球儀」ビブリア32,1965年。
(*)今井湊「天理図書館蔵Blaeuの天球儀」ビブリア32,1965年。
(*)織田武雄「天理図書館蔵メルカトールの地球儀について」ビブリア32,1965年。
(*)(参考：副島民雄『プラトン哲学研究—宇宙論を中心として』理想社,1965年。)
(*)(参考：ヨゼフ・サルヴィオリ/井上智勇・大牟田章訳『古代資本主義：ローマ経済史に関する研究』名著翻訳叢書,創文社,1965年。)
(*)(参考：清永昭次「スパルタの都市国家」歴史教育13(4),1965年。)
(*)(参考：新村祐一郎「スパルタの二王制をめぐる二,三の問題」史林48(2),1965年。)
(*)(参考：岩田拓郎「I.G.II2 1100(=S.E.G.XV108)の解釈について—ハドリアヌス皇帝期アッティカの農業事情に関する一考察」駿台史学16,1965年。)
(*)(参考：池田栄『最高文芸としての正統政治学：アリストテレースの進化論的宗教と東西文化』ミネルヴァ書房,1965年(→1966年,増補版)。)
(*)(参考：浅香正訳「クイーントゥス・キケロー選挙運動備忘録(1)」西洋史学84,1965年。)
(*)(参考：松田秀人「東独におけるスパルタクス派評価の方法—「ドイツ労働運動史綱要」

の方法を手がかりとして」法政研究60(3・4),1965年。
(*)(参考：大塚久雄(他)『マックス・ウェーバー研究』岩波書店,1965年。)
(*)(参考：C.ロシター&J.レーア編/矢部貞治訳『リップマンの真髄：自由民主主義のための政治哲学(4冊)』時事新書,時事通信社,1965年。)
(*)(参考：カルロ・ボッツイ「ダンテと法」ソフィア14(3),1965年。)
(*)入交好脩「恩師平沼淑郎博士の経歴とその学風：「生誕百年記念祭」における講演趣旨」聖心女子大学論叢24,1965年。
(*)佐藤篤士『日本におけるローマ法学の役割：日本におけるローマ法研究の歩みにたいする一つの反省』早稲田大学法学会,1965年。

(*)(参考：良知力「初期マルクス解釈の歴史」(『ドイツ社会思想史研究』所収,未来社,1966年。)
(*)(参考：E.A.ガトキンド/渡辺俊一・森戸哲訳『都市：文明史からの未来像』日本評論社,1966年。)
(*)並河萬里『神々の遺跡：地中海3万キロの旅』毎日新聞社,1966年。
(*)(参考：ローズ・マコーリ文/ロロフ・ペニイ写真/黒田和彦・江上綏・相馬隆訳『世界の遺跡：廃墟の美をめぐる感動とよろこび』美術出版社,1966年。)
(*)野口賢三「ヨーロッパに旅して」世界史研究40,1966年。
(*)(参考：ポール・ガレリ著/矢島文夫訳『アッシリア学』白水社,1966年。)
(*)(参考：浅香正・加藤一朗編『オリエント・地中海世界(1,2)』世界歴史2,3,人文書院,1966年。)
(*)(参考：呉茂一『西洋文化の源をたずねる』講談社現代新書92,講談社,1966年。)
(*)(参考：澤柳大五郎「アッティカの墓碑」美学17(3),1966年。)
(*)澤柳大五郎「ギリシアにて」世界247,1966年。
(*)澤柳大五郎「オリュムピア-発掘(6)」芸術新潮17(6),1966年。
(*)(参考：佐藤信一「古代オリンピア競技場の新発見—1958~1961年発掘報告書による」体育の科学16(4),1966年。)
(*)(参考：土井正興「シチリア紀行(1,2)奴隷反乱のあとを訪ねて」歴史評論190,191,1966年。)
(*)(参考：土井正興「スパルタクスの旅」歴史学研究313,1966年。)
(*)並河亮『神を訪ねて三万キロ』毎日新聞社,1966年。
(*)(参考：並河亮「愛と火の神殿・エフェソス—世界の風土と造形(5)」みずゑ735,1966年。)
(*)(参考：並河亮「海と石と人との対話・エーゲ海の島々—世界の風土と造形(7)」みずゑ737,1966年。)
(*)(参考：並河亮「溶岩と情熱・シチリアとパエストム—世界の風土と造形(8)」みずゑ738,1966年。)
(*)(参考：井汲越次「ゲーテ・シラー文庫所蔵の稿本Romische Elegienについて」女子大文学 外国文学篇18,1966年。)
(*)(参考：服部英次郎他訳『ベーコン』世界の大思想6,河出書房新社,1966年。)
(*)呉茂一「イタリアの味覚」あまカラ182,1966年。
(*)倉敷考古館『古代イタリア・エトルリアの壺と彫刻』倉敷考古館,1966年。
(*)(参考：三輪福松『イタリア：美術・人・風土』美術出版社,1966年(→1981年,朝日選書版,朝日新聞社)。)

(*)(参考：アルベルト・モラヴィア/清水三郎治訳『ローマの女』弘文堂,1966年(→1967年,新装版)。)
(*)(参考：多久和新爾「『大理石の牧神像』：イタリアにおける自己吟味」英語英文学論叢16,1966年。)
(*)(参考：八田恭昌『西洋の没落：文明と夜の思想家シュペングラーの生涯』桃原選書,桃原社,1966年。)
(*)(参考：アーノルド・トインビー/下島連他訳『歴史の研究(全25巻)』限定版,「歴史の研究」刊行会,1966年(→1972年。)
(*)(参考：アーノルド・トインビー/深瀬基寛訳『試練に立つ文明：全』現代教養文庫555,社会思想社,1966年。)
(*)(参考：アーノルド・トインビー,E.D.マイヤーズ/下島連他訳『歴史地図』歴史の研究24巻,「歴史の研究」刊行会,1966年。)
(*)(参考：西田栄「A.J.トインビー著「歴史の研究」--第12巻再考察篇についての覚え書」愛媛大学紀要,第1部 人文科学12(B),1966年。)
(*)増田四郎「三浦新七「東西文明史論考」--私の古典(17)」エコノミスト44(30),1966年。
(*)増田四郎「三浦新七と「東西文明史論考」」中央公論82(11),1966年。
(*)小澤栄一「文明史の翻訳 英米系史学について(第2報)」日本英学史研究会研究報告1966(60),1966年。
(*)(参考：里見元一郎「ホイジンガの「文化史の課題」について」文明5,1966年。)
(*)矢野峰人『明治文学全集31—上田敏集』筑摩書房,1966年。
(*)福地源一郎『懐往事談』(『明治文學全集』所収,筑摩書房,1966年。)
(*)田邊太一『幕末外交談』(全2巻。平凡社『東洋文庫』版,1966年。)
(*)(参考：ピーター・スロックモートン/水口志計夫訳『海底考古学の冒険』筑摩書房,ノンフィクションライブラリー22,1966年。)
(*)松島道也「ロドス島—たった一人のギリシャ(4)」芸術新潮17(4),1966年。
(*)(参考：ハインリッヒ・シュリーマン著/ヴィーロント・シュミート編/桃井直達訳『ホメロスなくしてトロヤなし：20年間の考古学的研究』[村川堅太郎「あとがき」]筑摩書房,1966年。)
(*)(参考：ルートウィッヒ/三浦一郎訳(他)『世界をむすんだ人マゼラン,海のドン・キホーテ コロンブス,黄金の探求者シュリーマン』世界の人間像23,角川書店,1966年。)
(*)(参考：二川幸夫写真・田中美知太郎文『パルテノン』鹿島研究所出版会,1966年。)
(*)(参考：ピエール・ドマルニュ/村田数之亮・高橋たか子訳『ギリシア美術の誕生』人類の美術5,河出書房新社,1966年。)
(*)上野直昭「失われた「古寺巡礼」」芸術新潮17(1),1966年。
(*)(参考：別宮貞徳「ヨーロッパ肉食文化の論理」ソフィア15(1),1966年。)
(*)(参考：吉川逸治・柳宗玄編『大英博物館』講談社,1966年(→1973年,再版)。)
(*)板澤武雄『日本とオランダ：近世の外交。貿易・学問』日本歴史新書至文堂,1966年。
(*)古賀十二郎・長崎学会編『長崎洋学史(上下・続編)』長崎文献社,1966-68年。
(*)斉藤阿具訳『ヅーフ日本回想録』異国叢書,雄松堂出版,1966年。
(*)山中良知「儒教・蘭学の伝統と近代化の論理に就いての試論」関西学院大学社会学部紀要13,1966年。

(*)(参考：三輪福松「スピナの発見—発掘(1)」芸術新潮17(1),1966年。)
(*)(参考：高階秀爾『フィレンツェ—初期ルネサンス美術の運命』中公新書,1966年。
(*)倉敷考古館『古代イタリア・エトルリアの壺と彫刻』1966年。
(*)(参考：堀米庸三「ゲルマン的文化の再発見」中央公論81(12),1966年。)
(*)(参考：辻佐保子『ビザンチン美術への旅』角川新書209,角川書店,1966年。)
(*)(参考：高田博厚編『ビザンチン』講談社世界美術6,講談社,1966年。)
(*)(参考 : S.Yaginuma, “Greek Poetry in the Italian Renaissannce”,Annuario 4,Istituto Giapponese di Cultura in Roma,1966-67.
(*)(参考：『これが新しい世界だ・第26』国際情報社,1966年。)
---- 〈イタリア〉「フォア・ローマノ」「古い歴史の門」「三つの凱旋門」「ローマ点描」「ローマの泉」「カトリックの本山・バチカン市国」「新しいローマ」「庶民の町テベレの西」「太陽の都・南部」「シチリアのギリシア遺跡」「“花の都”フィレンツェ」「水の都ベネツィア」「「ミラノの古さと新しさ」「ピサの斜塔」/呉茂一「ローマ史跡めぐり」/野村良雄「ローマ法王とバチカン市国」/「ローマあれこれ」「陽気で明るいローマの下町」「イタリアーノは食い道楽」「ローマの“ノミの市”」「イタリア南部の観光地」「南イタリアのベルサイユ宮殿」「シチリアの旅」「太陽の道を走る」「ルネサンスの町フィテンツェ」「ベネツィア・ガラス」「古式ゆたかなイタリアの祭り」
〈ギリシア〉「シンタグマ広場」「偉大なるアテネ」「歴史の栄光をになって」「アテネの夜」「スニオン オシオスルカス」「コリント ミケーネ」「ミストラ エピダウロス」「デルフィ オリンピア」「クレタ・ロードス」「アトス」/東珠樹「ギリシアの遺跡」「アテネ町と人」「「下町の住民たち」「外港ピレウス」「美しい飾り格子 ギリシアの民家」「地方の町と村」「アジアに一番近いロードス島」「ギリシアの聖地アトス修道院」
〈総論〉/東珠樹「ギリシア彫刻の流れ」/三輪福松「ルネサンスとイタリア美術」「イタリア旅行案内」「ギリシア旅行案内」
〈歴史〉太田秀通「輝かしい歴史の国」
〈地理〉中島健一「オリーブの実る国」
(*)高階秀爾「ユマニスムと日本文化」自由8(9),1966年。
(*)海老澤有道『日本キリシタン史』塙書房,塙選書52,1966年。
(*)海老澤有道『南蛮文化：日欧文化交渉』日本歴史新書,至文堂,1966年(←1958年)。
(*)横田弘之「イタリアの教育とその社会的背景—南欧の旅の印象」児童心理20(1),1966年。
(*)平川祐弘「西洋文明との出会いの心理(1-4)森鴎外の洋学論をめぐって」自由8(11,12),1966年,9(1,2),1967年。
(*)大久保利謙「幕末における西洋文化の移植の経路(第15回上智大学史学大会公開講演要旨)」上智史学11,1966年。
(*)吉村貞司「三島由紀夫二おけるギリシャ」国文学 解釈と鑑賞31(9),1966年。
(*)R.N.ベラー/勝部真長訳「近代日本における世界認識—和辻哲郎の場合」展望89,1966年。
(*)(参考：高柳俊一「「ペルソナ」における面と顔」世紀194,1966年。)
(*)(参考：別宮貞徳「ヨーロッパ肉食文化の論理」ソフィア15(1),1966年。)
(*)(参考 : 鯖田豊之『肉食の思想 : ヨーロッパ精神の再発見』中公新書,中央公論社,1966年(→

2007年,中公文庫版)。)
(*)(参考：林良一『シルクロードと正倉院』日本の美術6,平凡社,1966年。)
(*)(参考 : 岩村忍『シルクロード : 東西文化の溶炉』NHKブックス46,日本放送出版協会,1966年。)
(*)野村尚吾『秘境西域を行く：よみがえるシルクロード』講談社,1966年。)
(*)(参考：アトキンソン/水口志計夫訳『ユーラシア横断紀行』西域探検紀行全集1,白水社,1966年。)
(*)刈田元司「「新潮世界文学小辞典」」ソフィア15(3),1966年。
(*)(参考：今泉篤男・山田智三郎編『西洋美術辞典』訂正9版,東京堂出版,1966年。)
(*)(参考：大類伸監修『世界人名辞典』東京堂出版,訂正22版,1966年。
(*)森銑三編『大正人物逸話辞典』(岩元禎）東京堂出版,1966年。
(*)(参考：橋本吉郎『英独羅日 化学語大字典』三共出版,1966年。)
(*)(参考：林哲郎「英語辞書編集史：序論」英語英文学論叢16,1966年。)
(*)高橋邦太郎「仏語事始の背景」成城文藝44,1966年。
(*)コリャード/土井忠生序文・大塚光信解題・索引『羅西日辞典』臨川書店,特製限定版,1966年。
(*)コリャード/島正三編『コリヤード羅西日対訳辞書・同索引』文化書房,1966年。
(*)齋藤信「「波留麻和解」研究補遺—主として早大本および葵文庫本について」名古屋市立大学教養部紀要・人文社会研究11,1966年。
(*)(参考 : 高津春繁「西洋古典文献学」世界古典文学全集附録19から10回,筑摩書房,1966年。)
(*)(参考：一柳俊夫「「《奴隷》を意味する古代ギリシア語について—最近のソビエト古代史学の諸研究」法制史研究1966(16),1966年。)
(*)(参考：シャルル・イグーネ著/矢島文夫訳『文字』3版,白水社,1966年。)
(*)(参考 : 神笠公伯「英語におけるギリシア語からの借用語について(特集)」広大言語6,1966年。)
(*)(参考：竹島俊之「新約聖書ギリシア語の冠詞の用法について(修士論文)〈修士論文及び卒論要旨〉」広大言語6,1966年。)
(*)(参考：松本克己「イオニア-アッティカ方言の母音体系について—通時音韻的考察」金沢大学法文学部論集,文学編14,1966年。)
(*)(参考 : 平田隆一「ファリスク語人名ならびにそのラテン語及びエトルスキ語人名との関係(1,2,3)」(東北大学文学会)文化29(49),30(2,3),1966年。)
(*)(参考：平田隆一「ピルジの金の薄板上のエトルスキ語銘文—欧州古代学界の展望(6)」古代学13(2),1966年。)
(*)(参考：岸本通夫「フランス語とイタリア語」人文研究17(3),1966年。)
(*)(参考：出崎澄男「カロリング・ルネサンス—カールと宮廷文化人」歴史教育14(7),1966年。)
(*)中村義男「幕末長崎に於けるフランス語研究」広島大学文学部紀要9,1966年。
(*)越中哲也「長崎に於ける書物改めについて」長崎談叢45,1966年。
(*)大久保利謙「中村敬宇の初期洋学思想と『西国立志編』の訳述及び刊行について：若干の新史料の紹介とその検討(史学科創設40周年記念特集号)」史苑26(2/3),1966年。
(*)(参考：会田雄次「学生と読書」中央公論81(3),1966年。)

(*)(参考：目賀田守公「A.E.ハウスマンの蔵書」神戸外大論集17(1・2・3),1966年。)
(*)「野上弥生子著書目録」日本古書通信31(2),1966年。
(*)谷沢永一『木村毅先生著作目録私稿：草案』谷沢永一,1966年。
(*)(参考：山室静「神話について」目白児童文学4,1966年。)
(*)(参考：渡部昇一「ミルシア・エリアーデ「メフィストフェレスとアンドロジン」1965」ソフィア15(4),1966年。)
(*)(参考：三浦清宏「神話と杖—ニュークリティシズムと神話批評」明治大学教養論集35,1966年。)
(*)佐藤義美訳・中村妙子編・与田準一訳『アラビアン=ナイト,聖書物語,イソップ寓話』世界の名作図書館2,講談社,1966年。)
(*)(参考：稲富栄次郎『少年少女のためのギリシャ神話』福村出版,1966年。)
(*)田中秀央・中川正文訳；永橋卓介訳；山室静訳；呉茂一訳『ギリシア神話・エジプト神話・北欧神話・イソップ物語』少年少女世界名作文学全集講談社1,1966年。
(*)(参考：グスターフ・シュヴァープ/角信雄訳『ギリシア・ローマ神話(全3巻)』白水社,1966年(→1988年,新装版)。)
(*)藤縄謙三「佐々木理「ギリシア・ローマ神話」・呉茂一「入門・世界の神話」・高津春繁「ギリシア神話」」西洋古典學研究14,1966年。
(*)(参考：澤柳大五郎『ギリシア神話と壺絵』鹿島研究所出版会,昭和41年。)
(*)(参考：川島重成「イーリアスの神々をめぐって—ホメーロスによる存在理解,及びそのヘーラークレイトスとの内的連関について」(国際基督教大学)キリスト教と文化2,1966年。)
(*)(参考：中村宏「ミケランジェロのアポロン像に関する一考察」岡山大学教育学部研究集録24,1966年。)
(*)(参考：原随園「美の女神—美の東西(5)」日本美術工芸332,1966年。)
(*)(参考：高階秀爾「神秘の降誕(1,2)ルネッサンスの光と闇(4,5)」三彩199,201,1966年。)
(*)(参考：高階秀爾「パンの饗宴--ルネッサンスの光と闇(8)」三彩205,1966年。)
(*)(参考：高階秀爾「三美神(1,2)ルネッサンスの光と闇(11,12)」三彩209,210,1966年。)
(*)(参考：関根正雄『舊約聖書』18版,創元選書,創元社,1966年。)
(*)(参考：日本聖書学研究所編『聖書学の方法と課題』(日本聖書学研究所)聖書学論集5,山本書店,1966年。)
----ハイム・ラビン「翻訳としての七十人訳」
後藤光一郎「いわゆる「聖書考古学」について」
田川建三「マタイ福音書における民族と共同体」
八木誠一「イエスの思想解釈の視点」
(*)(参考：藤原藤男『イエス伝』3版,キリスト教新聞社,1966年。)
(*)(参考：W.バークレー/大島良雄訳『イエスの生涯：十字架と復活』新教出版社,昭和41年。)
(*)(参考：上澤謙二『イエス・キリスト：少年少女のために』新教出版社,1966年。)
(*)(参考：J.モンステレル/三輪佐知子訳『ルカ福音書の主題を求めて：われに従え』中央出版社,1966年。)
(*)(参考：エ・ヌベール/野口光三郎訳『聖母マリアとともに』中央出版社,1966年。)
(*)(参考：小林純一『現代人と聖母マリア』聖パウロ女子修道会,ユニヴァーサル文庫58,1966年。)

(*)(参考：渡辺貴美子「ケラーの世界観と『七つの伝説』：聖母マリアを中心として」研究年報13,1966年。)
(*)(参考：M.ブラック/新見宏訳『死海写本とキリスト教の起源』山本書店,1966年(→1971年,2版。→1971年,3版。)
(*)(参考：蛭沼寿雄「ローズ氏の拙著「新約本文批評」書評への回答」人文論究17(1),1966年。)
(*)(参考：前田護郎「聖書の現代性について—いわゆる非神話化をめぐって」自由8(5),1966年。)
(*)(参考：塚本虎二訳『使徒のはたらき』教会なき人々のための口語訳新約聖書,聖書知識社,1966年。)
(*)(参考：塚本虎二訳『ローマ人へ』教会なき人々のための口語訳新約聖書,聖書知識社,1966年。)
(*)(参考：フランシスコ会聖書研究所訳注『ルカによる福音書：原文校訂による口語訳』フランシスコ会聖書研究所,中央出版社(発売),1966年。)
(*)(参考：基督教学校教育同盟会編『新約聖書の教え』改訂初版,聖書教科書3,創元社,1966年。)
(*)(参考：相沢源七「キリスト教とヒューマニズム—宗教改革とヒューマニズの研究自序説」世界史研究43,1966年。)
(*)(参考：基督教学校教育同盟会編『教会の発展』8版,聖書教科書5,創元社,1966年。)
(*)(参考：山本和編『西欧世界の形成とキリスト教』今日の宣教叢書6,創文社,1966年。)
(*)(参考：関根文之助編『聖書図説：目で見る聖書』創元社,改訂版,1966年。)
(*)東京神学大学図書館『日本語訳聖書在庫表：昭和41年8月現在』,1966年。
(*)森岡健二「委員会和訳聖書の文体と漢訳聖書」キリスト教と文化2,1966年。
(*)竹山道雄「遠藤周作「沈黙」・ホホフート「神の代理人」」自由8(3),1966年。
(*)沼田次郎「文化文政期の蘭学について—志筑忠雄と馬場貞由」中艸7,1966年。
(*)和辻照「和辻哲郎とともに」新潮62(7,8,9,10,11,12),1965年//63(1),1966年。
(*)斉藤阿具訳『ヅーフ日本回想録』異国叢書,雄松堂出版,1966年。
(*)(参考：松平千秋「語り物としてのホメーロス」(日本文体論協会)文体論研究8,1966年。)
(*)(参考：高津春繁『ホメーロスの英雄叙事詩』岩波新書,岩波書店,1966年(→1992年,16刷。)
(*)(参考：高橋健二・吉田精一編『世界文学入門・校訂版』小峯書店,1966年(→1967年,再版)。)
(*)小池銈「古典と中国古典」理想397,1966年。
(*)(参考：フィリップ・ヴァン・チーゲム/戸口幸策・戸口智子・戸張智雄訳『イタリア演劇史』文庫クセジュ397,白水社,1966年。)
(*)(参考：戸張智雄「演劇における遠い古典と近い古典—ギリシャ人のギリシャ古典劇」新劇13(11),1966年。)
(*)渡辺淳「「トロイアの女」たち評」新劇13(11),1966年。
(*)(参考：藤井昇『ラテン文学のすすめ』講談社,昭和41年。)
(*)(参考：『世界文学全集1（ホメーロス,ギリシャ劇）』筑摩書房,1966年。)
----ホメーロス：「オデュッセイア」高津春繁訳
アイスキュロス：「アガメムノン」呉茂一訳
ソポクレス：「アンティゴネ」呉茂一訳
ソポクレス：「オイデュプス王」高津春繁訳

エウリピデス：「トロイアの女」松平千秋訳
アリストパネス：「女の平和」高津春繁訳
高津春繁「解説」
呉茂一「ギリシャ演劇年表」
(*)(参考：『世界文学大系67（ローマ文学集）』筑摩書房,1966年。)
----アプレイウス：「黄金の驢馬」呉茂一訳
ホラティウス：「諷刺詩集・詩論」鈴木一郎訳
キケロー：「書簡」泉井久之助訳
キケロー・プルートゥス：「往復書簡」高田邦彦訳
オウィディウス：「名婦の書簡」松本克己訳
レーフステッド「ローマ文学の背景」国原吉之助訳
呉茂一「解説」
(*)(参考：山田恒人「悲劇とミソロジー—G.スタイナー「悲劇の死」」文芸研究15,1966年。)
(*)明治学院大学大学院編『文学研究科英文学専攻十周年記念論文集』(吉原富三男「ユリシーズと百合若伝説—ギリシア文学の移入経路とその展開」)明治学院大学大学院,1966年。
(*)石井桃子訳；装画集団6B絵『いそっぷ・いそっぷ・いそっぷ』実業之日本社,1966年。
(*)中川正文訳『イソップ童話集』世界の童話1,講談社,1966年。
(*)猪野賢一・鋤柄肇編『イソップえばなし(1,2)』ワイド版講談社のえほん6,16,,講談社,1966年。
(*)向坂逸郎「私の「イソップ物語」(1-3)」社会主義171,173,176,1966年。
(*)(参考：今野一雄「ラ・フォンテーヌと芭蕉：寓話詩集解読余説」一橋論叢55(2),1966年。)
(*)(参考：大草嫩葉「ラ・フォンテーヌ研究：『寓話詩』を通して」青山フランス文学論集1,1966年。)
(*)(参考:伊地知均「ラ・フォンテーネの「寓意」における映画的表現」天理大学学報18(1),1966年。)
(*)麻原美子「幸若舞曲を中心とした平家物語世界の展開」言語と文芸8(1),1966年。
(*)(参考：野町啓「MacrobiusのCommentarii in Ciceronis somnium Scipionis 1,VIノート,PhilonとMacrobiusをめぐって」中世思想研究8,1966年。)
(*)安藤孝行『エピクロスの園：存在と人間についての省察』理想社,人生論ブックス,1966年。
(*)(参考：ヨゼフ・ビーバー/稲垣良典訳『大学とは何か：「アカデミック」概念をめぐって』エンデルレ書店,1966年。)
(*)(参考：アリストテレス/訳者代表・田中美知太郎編『アリストテレス』世界古典文学全集16,筑摩書房,1966年。)
(*)(参考：ラエルチオス著/山本光雄・田村巌訳,モオリヤック著/安井源治訳,プルタレス著/大島利治訳『古代哲学者の群像：プラトン他,わたしの不幸物語：アベラール自伝,パスカルとその妹,若き日のニーチェ』角川書店,1966年。)
(*)(参考：松本厚「ゴルギアス断片の研究」広島大学文学部紀要26(2),1966年。)
(*)(参考：田中美知太郎『古典の世界から』講談社名著シリーズ,昭和41年。)
(*)(参考：田中美知太郎『哲学的人生論』実日新書カルチュア8,実業之日本社,1966年(→1970

年,改訂版)。)
(*)(參考：藤井義夫『ギリシアの古典』中公新書,昭和41年。)
(*)(參考：山本光雄・北嶋美雪『ギリシアの知恵：古代名言集』社会思想社,1966年。)
(*)(參考：プラトン著/山本光雄・生島幹三訳『国家,ソクラテスの弁明,クリトン』河出書房,1966年。)
(*)(參考：プラトン著/山本光雄訳『饗宴：他一篇』改訳,角川書店,1966年。)
(*)(參考：村井実『教師ソクラテスの研究』牧書店,1966年。)
(*)(參考：吉岡潔『プラトーンと形而上学』酒井書店,1966年。)
(*)(參考：清水正照「学習成立の一条件についての哲学的反省—プラトン「Menon」についての一考案」佐賀大学人文紀要1,1966年。)
(*)(參考：岩崎勉「プラトンにおける「見真」に就いて」西洋古典學研究14,1966年。)
(*)(參考：田中美知太郎『古典の世界から』講談社名著シリーズ,昭和41年。)
(*)田中美知太郎「10氏が選んだ私のベスト3 プラトンを」讀賣新聞朝刊10/27,1966年。
(*)田中美知太郎・鈴木重信・会田雄次「鼎談 生きがいを考える」月刊教育ジャーナル8月号,1966年。
(*)(參考：田中美知太郎・永井道雄「対談 プラトンに学ぶもの」世界の名著6「プラトンI」付録月報,中央公論社,1966年。)
(*)(參考：アリストテレス著/田中美知太郎編・田中美知太郎訳者代表『アリストテレス』世界古典文学全集16,筑摩書房,1966年。)
(*)(參考：池田榮「テオーリアの真義と政治学—アリストテレース認識論の新研究」関西大学法学論集15(4・5・6),1966年。)
(*)(參考：池田栄太郎他「詩論の精神—アリストテレス政治学(法学)の基礎」大阪工業大学紀要,人文社会篇10(1・2),1966年。)
(*)(參考：Hisayasu Nakagawa[中川久定](par.)“Essai sur Sénèque(1,2)”Takeuchi,1966-年。)
(*)(參考:相沢源七「キリスト教とヒューマニズム—宗教改革とヒューマニズムの研究序説」世界史研究（43）,1966年。)
(*)(參考：高橋亘『聖アウグスチヌス「告白録」講義』理想社,1966年。)
(*)(參考：服部英次郎「アウグステュヌスと愛の秩序」中世思想研究8,1966年。)
(*)(參考：今道友信「包越者—アウグスティヌスによるgratiaと神の省察,恩寵と自由意志の論の研究」中世思想研究8,1966年。)
(*)(參考：清水正照『アウグスティヌスにおけるパウロ書簡と新プラトン主義』九州大学,文学博士,乙第312号,1966年。)
(*)(參考:A.カミュ「プロチノスと聖アウグスチヌスの間」ヨーロッパ文学研究10,1966年。)
(*)(參考：柏木英彦「アヴェロエス主義とその西欧への影響」歴史教育14(7),1966年。)
(*)(參考：江川義忠「トマス・アクィナスの主知主義：中世アリストテレス主義の研究(2)」立正大学文学部論叢2,1966年。)
(*)(參考：丹下信雄「聖トマスにおける言葉,思惟,対象の関係とアリストテレス自然学の方法」中世思想研究7,1966年。)
(*)(參考：アウグスティヌス,ボエティウス/渡辺義雄訳『アウグスティヌス,ボエティウス』世界古典文学大系26,筑摩書房,1966年(→1976年,世界古典文学大系24)。)
(*)(參考：里見元一郎「新プラトン主義の効用について」東海史学1,1966年。)
(*)(參考：清水純一「フィレンツェ・プラトニズムについて—とくにルネサンス・イギリス

との関係からみた」英語英文学研究12(2),1966年。)
(*)(参考：高階秀爾「ロレンツォ・デ・メディチ—ルネッサンスの光と闇(6)」三彩203,1966年。)
(*)(参考：高階秀爾「カレッジのアカデミア--ルネッサンスの光と闇(7)」三彩203,1966年。)
(*)(参考：平井照敏「詩集「アンチ・プラトン」心の空間—イヴ・ボンヌフォワ研究(16)」詩学21(12),1966年。)
(*)(参考：久志本秀夫「イタリア・ルネサンス」におけるヴェネツイアの位置：Geanakolos D.J. Greek Scolars in Veniceに関連して」 イタリア学会誌14,1966年。)
(*)(参考：渡部昇一「教養の伝統について」ソフィア15(3),1966年。)
(*)(参考：下村寅太郎「哲学的思惟の多様性について」(東海大学文明研究所)文明2,1966年。)
(*)(参考：服部英次郎他訳『ベーコン』河出書房新社,1966年。)
(*)(参考：澤柳大五郎・関根正雄・村治能就編『ヨーロッパ精神史の基本問題—下村寅太郎先生退官記念論文集,岩波書店,昭和41年。)
------ 下村寅太郎「ルネッサンスの科学と芸術
秀村欣二「古代世界におけるローマ没落観の展開」
渡辺金一「クワトロチェントのイタリアとオスマン帝国—15世紀のオリエント・ヨーロッパ交渉史の諸断面」
藤田健治「自然と歴史—ブルノォとヴィコー」
永井博「西欧精神史と科学」
澤柳大五郎「ルネサンス美術と古代—その二三の問題に関する覚書」
(*)(参考：務台理作・高桑純夫・南博『高校倫理・社会』改訂版,実教出版,1966年。)
(*)「日本における西洋古典学研究の現状」(文科系学会連合会編『文科系学会連合研究論文集16』所収,東京美術出版局,1966年。)
(*)「イタリヤ学研究」(文科系学会連合会編『文科系学会連合研究論文集16』所収,東京美術出版局,1966年。)
(*)「ドイツ文学研究」(文科系学会連合会編『文科系学会連合研究論文集16』所収,東京美術出版局,1966年。)
(*)(参考：山川鴻三「青木巖、西洋古典とイギリス文学,pp.245+4,東京,研究社,1965」西洋古典學研究14,1966年。）
(*)「古典学関係海外研究誌備え付けの現況」(北海道大学,同志社大学)」西洋古典學研究14,1966年。）
(*)高階秀爾「東京大学教養学科の15年—戦後学制改革の異端児に見る理想主義の成果」中央公論81(3),1966年。
(*)千葉宣一「江戸時代における西洋詩の受容状況」国語国文研究34,1966年。
(*)谷沢永一編『木村毅先生著作目録私稿：草案』谷沢永一,1966年。
(*)木村毅「我観の達人：三宅雪嶺--明治大正文学夜話(18) 」国文学解釈と鑑賞31(10),1966年。
(*)木村毅「歴史と文学:：山路愛山—明治大正文学夜話(20)」国文学 解釈と鑑賞31(10),1966年。
(*)木村毅「哲学と文芸：大西操山--明治大正文学夜話(20)」国文学 解釈と鑑賞31(10),1966年。
(*)石井光治「日本英語教育小史」神戸外大論叢17(1-3),1966年。

(*)池田哲郎「日本英学史研究序説」戸板女子短大研究年報9,1966年。
(*)冨原芳彰(聞き手)「英文学的人生：福原麟太郎氏に聞く」英語研究55(1),1966年。
(*)西脇順三郎『Ambarvalia：西脇順三郎詩集』復刻版,恒文社,1966年。
(*)木下常太郎・西脇順三郎「Ambravalia(アンバルワリア)」国文学 解釈と鑑賞31(1),1966年。
(*)坂根俊英「西脇順三郎ノート：「アムバルワリア」から「旅人かへらず」へ」近代文学試論1,1966年。
(*)本多顕彰(他)「翻訳文学の価値—上田敏50年忌に寄せて(座談会)」朝日ジャーナル8(29),1966年。
(*)佐々木満子「上田敏歿後50年記念講演会と展示物—附・展示会目録」学苑320,1966年。
(*)安田保雄「翻訳と近代文学—上田敏没後50年に際して」学校図書館191,1966年。
(*)赤瀬雅子「柳田泉著「明治初期の文学思想」(上下)春秋社」比較文学9,1966年。
(*)(參考：小林路易「世界文学と比較文学」比較文学年誌3,1966年。)
(*)(參考：小林秀雄『小林秀雄対話集』(田中美知太郎)講談社,1966年。)
(*)吉村貞治「三島由紀夫におけるギリシャ」国文学：解釈と鑑賞31(9),1966年。
(*)(參考：杉浦明平『ルネッサンス文學の研究』増補版,未来社,1966年。)
(*)(參考：フィリップ・ヴァン・チーゲム/戸口幸策・戸口智子・戸張智雄共訳『イタリア演劇史』白水社,文庫ケセジュ397,1966年。)
(*)(參考：ダンテ/平川祐弘訳『世界文学全集3』河出書房新社,1966年。)
(*)參考：清水純一「フィレンツェ・プラトニズムについて—とくにルネサンス・イギリスとの関係からみた」英語英文学研究12(2),1966年。)
(*)野上素一「明治大正期の日本のダンテ研究」(上田敏等)イタリア学会誌14,1966年。
(*)(參考：黒田正利「ダンテの生涯と思想」日伊文化研究7,1966年。)
(*)(參考：ベンチヴェンニ・アレッサンドロ/北川忠紀訳「「神曲」地獄篇第二十六歌について」イタリア学会誌14,1966年。)
(*)(參考：石倉小三郎「ダンテ神曲解説序説」相愛女子大学・相愛女子短期大学研究論集12,1966年．)
(*)野上素一「日本のダンテ研究」日伊文化研究7,1966年。)
(*)(參考：摩壽意善郎「ボッティチェルリの「神曲」の挿絵」日伊文化研究7,1966年。)
(*)(參考：池田廉「ダンテに対するペトラルカの視点」日伊文化研究7,1966年。)
(*)(參考：ギオドメニ/秋山余思訳「ダンテの書簡」イタリア学会誌14,1966年。)
(*)(參考：谷口勇「トゥバドゥールと中世イタリア文学：ダンテ、フランチェスコ・ダ・バルベリーノとペトラルカの場合」桃山学院大学人文科学研究4(1),1966年。)
(*)(參考：池田廉「ペトラルカ「詩集」研究—とくにラウラの象徴」英語英文学研究12(2),1966年。)
(*)(參考：出水春三「クレオパトラの恋」(広島大学英文学会)英語英文学研究12(2),1966年。)
(*)(參考：脇功「十六世紀後半のイタリアの抒情詩：デ・サンクティスの「文学史」を中心として」イタリア学会誌14,1966年。)
(*)(參考：島利雄「ペトラルカとフランスのソネット」イタリア学会誌14,1966年。)
(*)(參考：原二郎訳『モンテーニュ第1』世界古典文学全集37,筑摩書房,1966年。)
(*)(參考：中田光雄「シモーヌ・ウェーユ—世界美とキリストの解釈をめぐるその本質顕現」

比較文学研究7,1966年。)
(*)(參考：横塚光雄「アルベール・カミュ—孤独と,連帯と,幸福と—地中海文学の一つの相貌」横浜市立大学論叢,人文科学系列17(1),1966年。)
(*)(參考：サルトル/芥川比呂志訳『トロイアの女たち』サルトル全集33,人文書院,1966年。)
(*)竹内芳郎・鈴木道彦編『サルトルの全体像：日本におけるサルトル論の展開』ぺりかん社,1966年(→1969年,新装版。→1971年,新泉社)。)
(*)山川鴻三「青木巌,西洋古典とイギリス文学,東京・研究社,1965」西洋古典學研究14,1966年。
(*)(參考：服部英次郎他訳『ベーコン』世界の大思想6,河出書房新社,1966年。)
(*)(參考:黒田健二郎「アディソンにおけるミルトン批評」神戸大学教育学部研究集録36,l966年。)
(*)(參考：黒田健二郎「アーノルドとティリヤードのミルトン批評：聖マーガレット協会の「窓」によせて」Kobe miscellany 4,1966年。)
(*)(參考：松田実矩「ミルトンと雄弁術：主としてミルトンの散文より」論集：神戸大学教養部紀要2,1966年。)
(*)(參考：松田実矩「悪魔のレトリック：ミルトンの詩より」近代38,1966年。)
(*)(參考：パトリック・オフラナガン「〈書評〉イェイツと日本(尾島庄太郎)」ソフィア15(3),1966年。)
(*)(參考：高橋雄四郎「「ギリシャ瓶賦」の研究」」實踐女子大学紀要,国語・国文学9,1966年。)
(*)(參考:三橋光「ペイタアのヘレニズムについて」学習院大学文学部研究年報12,1966年。)
(*)(參考：奥天栄二「T.S.Eliotのペイタア考その他」北海道教育大学紀要・第1部A 人文科学編17(2),1966年。)
(*)(參考：渡辺久義「現代における創作の問題—T.S.エリオットとジョイス」英文学評論19,1966年。)
(*)(參考：小川清「エリオット劇とギリシャ悲劇—主題上の関連について」広島女学院大学論集16,1966年。)
(*)(參考：高柳俊一「ハーバート・ハワース「T.S.エリオットとその背景」1965」ソフィア15(2),1966年。)
(*)(參考：大澤實編『ヴァージニア・ウルフ』20世紀英米文学案内10,研究社出版,1966年(→1974年,改装版。)
(*)(參考:小林路易「世界文学と比較文学」(早稲田大学比較文学研究室)比較文学年誌3,1966年。)
(*)(參考：植村敏夫『ゲーテと音楽』日本大学,文学博士,乙第169号,1966年。)
(*)(參考：西村晧「ゲーテ教育論の人間学的基礎づけへの一つの試み」哲學48,1966年。)
(*)(參考：鵜川義之助「ゲーテのヘレーナ悲劇の性格」大阪大学教養部研究集録 外国語・外国文学14(2),1966年。)
(*)(參考：梶野あきら「造形芸術と文芸—ゲーテの芸術観」美學16(4),1966年。)
(*)(參考：永島栄一「『ゲーテとの対話』について」流通經濟論集1(1),1966年。)
(*)(參考：水野忠敬「ゲーテの言語芸術」広島大学文学部紀要26(2),1966年。)
(*)(參考：石井靖夫「フリードリッヒ・シュレーゲルの「アテネーウム」誌上の論文の中の本質的にロマン派的なもの」ドイツ文学36,1966年。)

(*)(参考：南大路振一「レッシュングとディドロ—演劇論にかんする比較」人文研究17(8),1966年。)
(*)(参考：南大路振一「LESSING UND DIDEROT」ドイツ文学37,1966年。)
(*)(参考：フリードリヒ・ニーチェ/秋山英夫訳『悲劇の誕生』岩波書店,1966年。)
(*)(参考：水野清志「ニイチェにおけるイエス像」理想401,1966年。)
(*)(参考：秋山英夫『キルケゴールとニーチェ』理想社,1966年。)
(*)(参考：信太正三「ニーチェにおける運命意識—一つの覚書」人文研究33,1966年。)
(*)(参考：清水孝純「ニーチェとヴァレリー」比較文學研究11,1966年。)
(*)(参考：杉田弘子「高山樗牛とニーチェ」比較文學研究11,1966年。)
(*)(參考:氷上英廣「齋藤茂吉とニーチェ—日本におけるニーチェ影響史への一寄与として」比較文學研究11,1966年。)
(*)(参考：太田彰一「ニーチェの哲学精神—序(1)」岡山大学法文学部学術紀要23,1966年。)
(*)(參考:氷上英廣「斎藤茂吉とニーチェ—日本におけるニーチェ影響史への一寄与として」比較文學研究11,1966年。
(*)杉田弘子「高山樗牛とニーチェ」比較文學研究11,1966年。
(*)杉田弘子「ニーチェ解釈の資料的研究—移入期における日本文献と外国文献の関係」国語と国文学43(5),1966年。)
(*)(参考：花崎皋平「ドイツ啓蒙思想とヘルダーの哲学」北海道大学文學部紀要14(2),1966年。)
(*)(参考：植田敏郎「ヘルダーとルソー」社會學研究8,1966年。)
(*)(参考：ヘルダーリン/手塚富雄他訳『詩』ヘルダーリン全集1,2,河出書房新社,1966年。)
(*)(参考：ヘルダーリン/手塚富雄・浅井真男訳『ヒューペリオン・エムペドクレス』ヘルダーリン全集3,河出書房新社,1966年。)
(*)(参考：波木居純一「人文主義としてのテオドール・ド・ペーズ」(学習院大学)研究年報13,1966年。)
(*)毛利與一『禅と西洋思想』勁草書房,1966年。
(*)坂本賢三「外来思想とナショナリズム」現代の理論35,1966年。
(*)和辻照「和辻哲郎とともに」新潮62(7,8,9,10,11,12),1965年//63(1),1966年。
(*)(参考：村田数之亮「ギリシア美への序章」(甲南大学)文学会論集31,昭和41年。)
(*)(參考 : S.Yaginuma, “Greek Poetry in the Italian Renaissannce”,Annuario 4,Istituto Giapponese di Cultura in Roma,1966-67.
(*)(参考：高階秀爾『フィレンツェ—初期ルネサンス美術の運命』中公新書,1966年。
(*)(参考：柴田治三郎責任編集『ブルクハルト』世界の名著45,中央公論社,1966年。)
(*)長谷川才次「恩師岩元禎先生」心19(11),1966年。
(*)富山紗和子「三谷隆正の人と思想：「信仰の論理」を中心として」史艸7,1966年。
(*)斎藤勇「三谷隆正氏と英文学など」(南原繁・高木八尺・鈴木俊郎等編『三谷隆正 人・思想・信仰』所収,岩波書店,昭和41年。)
(*)藤田建治「哲学と宗教—三谷[隆正]先生の思想の根本態度について」(同上,昭和41年。←昭和39年,同『若き人々に』所収,理想社。←昭和19年,「岩元禎『哲學概論』跋」)
(*)秀村範一「(三谷隆正著)幸福論」(同上,昭和41年。)
(*)水野浩四「三谷隆正全集と私」(同上,昭和41年。)

(*)野田良之「三谷隆正先生の法哲学」(同上,昭和41年。)
(*)秀村欣二「三谷[隆正]先生の御蔵書とアウグスチヌス」(同上,昭和41年。)
(*)伊藤正己「三谷[隆正]先生の学問」(同上,昭和41年。)
(*)福田歓一「真の意味での「教養」」(同上,昭和41年。)
(*)(參考:H.G.ウェルズ/長谷部文雄・阿部知二訳『世界史概観(上下)』岩波新書,岩波書店,1966年。)
(*)(參考：井上幸治・林健太郎他編『(新版)西洋史研究入門』有斐閣,1966年。)
(*)(參考：秀村欣二・木村尚三郎他編『西洋史概説』新版,東京大学出版会,1966年。)
(*)国際歴史学会議日本国内委員会編『日本における歴史学の発達と現状 日本史・東洋史・西洋史 第2』(村川堅太郎等)東京大学出版会,1966年。
(*)小澤栄一『近代日本史学の研究—十九世紀日本啓蒙史学の研究：一九世紀日本啓蒙史学の研究(幕末編,明治編)』吉川弘文館,1966-68年。
(*)酒井忠雄「史学史研究の基本問題について(第2報)—とくに日本史学史の場合」歴史研究4,1966年。
(*)(參考：長寿吉「世界史観念の系流」歴史教育14(3),1966年。)
(*)(參考：齋藤実「世界史教育前進のために---世界史と歴史のあいだ」世界史研究（43・44）,1966年。
(*)(參考：土井正興「第2次シチリア奴隷反乱についての覚え書き」法学志林63(4),1966年。)
(*)(參考：秀村欣二「古代世界におけるローマ没落観の展開」歴史教育14(3),1966年。)
(*)(參考:衣笠茂「ツキュジデス:アテナイとスパルタの対立と比較」西洋古典學研究14,1966年。)
(*)(參考：清永昭次「スパルタのヘイロータイ」歴史学研究315,1966年。)
(*)(參考:出水春三「クレオパトラの恋」(広島大学英文学会)英語英文学研究12(2),1966年。)
(*)(參考：太田秀通「歴教協大会に参加して」歴史学研究318,1966年。)
(*)(參考：「1965年の歴史学界—回顧と展望」史學雜誌75(5),1966年。)
(*)池島新平編『歴史よもやま話・西洋篇』(村川堅太郎他)文藝春秋,1966年。
(*)(參考：C.M.バウラ原著/タイムライフブックス編集部編『古代ギリシア』ライフ人間世界史1,タイムライフインターナショナル,1966年。)
(*)(參考:プルタルコス著/訳者代表・村川堅太郎編『プルタルコス』世界古典文学全集23,1966年。)
(*)(參考：林健太郎・堀米庸三編『ダリウスとアレクサンダー大王：西洋の興起』世界の歴史2,人物往来社,1966年。)
(*)(參考：林健太郎・堀米庸三編『シーザーとローマ帝国：世界帝国の建設』世界の歴史3,人物往来社,1966年。)
(*)(參考：林健太郎・堀米庸三編『ルネサンスと宗教戦争：陰謀と熱狂』世界の歴史5,人物往来社,1966年。)
(*)(參考：林健太郎・堀米庸三編『ナポレオンと国民戦争：革命と解放』世界の歴史7,人物往来社,1966年。)
(*)(參考：谷茂明『ナポレオン』山川出版社,1966年。)
(*)有馬成甫「幕末におけるナポレオン伝の刊行」蘭学資料研究会研究報告179,1966年。
(*)(參考：大場弥平・上田修一郎『ナポレオン戦略』国防双書2,甲陽書房,1966年。)
(*)(參考：アンリ・カルヴェ/井上幸治訳『ナポレオン』改訳,文庫クセジュ,白水社,1966年。)

(*)(参考：E.ルードウィッヒ/金沢誠訳『ナポレオン伝』角川文庫,角川書店,1966年。)
(*)(参考：朝日新聞社『大ナポレオン展=L'exposition Napoleon et son epoque』1966年。)
(*)(参考：タキトゥス/国原吉之助訳,フェルナン・グルナール/後藤冨男訳,ジョルジュ・ルノートル/橘西路訳,海音寺潮五郎『皇帝ネロ,アジアの嵐=チンギス・ハン,ナポレオン,織田信長』世界の人間像21,角川書店編集部編,角川書店,1966年。)
(*)(参考：酒井三郎「ルソーとヘルダーの歴史叙述の比較：第十八世紀後半における歴史叙述の一斑(第10輯刊行記念)」日本大学史学会研究彙報10,1966年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『詳説世界史』改訂版,山川出版社,1966年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『詳説世界史：教授資料』改訂版,山川出版社,1966年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『要説世界史』改訂版,山川出版社,1966年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『要説世界史：教授資料』改訂版,山川出版社,1966年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『新編世界史』改訂版,山川出版社,1966年。)
(*)(参考：村川堅太郎『西洋史提要』新訂11版,秀英出版,1966年。)
(*)(参考：三上次男,大野真弓,秀村欣二『世界史研究：指導書』[新版・見本版]中教出版,1966年。)
(*)(参考：三上次男,大野真弓,秀村欣二『世界史研究：指導書』新版,中教出版,1966年。)
(*)(参考：西村貞二『教養としての世界史』講談社,1966年。)
(*)(参考：原随園・尾鍋輝彦『世界史』新版,教育図書,1966年。)
(*)(参考：原随園「馬—美の東西(1)」日本美術工芸328,1966年。)
(*)(参考：A.J.トインビー,E.D.マイヤーズ/下島連他訳『歴史地図』歴史の研究24,「歴史の研究」刊行会,1966年。)
(*)(参考：帝国書院編集部編『新詳高等地図』最新版,帝国書院,1966年。)
(*)(参考：三省堂編集所編『地図対照世界史年表』改訂版,三省堂,1966年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男『標準世界史地図』増補版1刷, 吉川弘文館,1966年。)
(*)(参考：田中啓爾『詳密高等地図：教授資料』日本書院,1966年(→1967年,再版)。)
(*)(参考：松田寿男・森鹿三編『アジア歴史地図』アジア歴史事典・別巻2,平凡社,1966年。)
(*)秋岡武次郎『日本における地図作製史の概要』鹿島研究所出版会,1966年。
(*)高木菊三郎『日本に於ける地図測量の発達に関する研究』風間書房,1966年。
(*)今井功『黎明期の日本地理学—先駆者の生涯と業績』丸善,1966年。
(*)秋岡武次郎「19世紀中頃欧人著の中国文測量書・航海書などと,それらのうちの明治初年日本翻刻書」科学史手帖11,1966年。
(*)中野尊正「日本の地図学100年のあゆみ」地図4(2),1966年。
(*)西村庚「百年前の露文地図資料」月刊・共産圏問題10(2),1966年。
(*)(参考：「1965年の歴史学界—回顧と展望」史學雑誌75(5),1966年。)
(*)(参考：渋澤龍彦『秘密結社の手帖』早川書房,1966年(→1984年,河出文庫版。→2004年,文春文庫版)。
(*)河野与一「鉛のカーテン」(『白井赫太郎の思い出』『山田一雄の思い出』),昭和41年。
(*)(参考：溝上泰「4 家具の様式と機能に関する史的考察：ギリシア・ローマのその2(第3部[歴史・意匠関係])」学術研究発表会梗概集37(3・5),1966年。)

(*)荒木孝平「長野宇平治先生(建築家の作品と伝記[25])」(古代ギリシア建築)建築界5(5),1966年。
(*)森祐三「谷和雄編「西洋都市の発達」」世界史研究（40）,1966年。
(*)(参考：藤岡通夫他『建築史』実教出版,1966年(→1967年,市ヶ谷出版社版。→2010年,増補改訂版,市ヶ谷出版社版)
(*)(参考：伊東俊太郎「14世紀におけるユークリッド『エレメンタ』の一写本」東京大学教養学部人文科学科紀要37,昭和41年。)
(*)(参考：バラ ジュポン「ヒポクラテスと東洋医学の哲学的基礎」日本鍼灸治療会誌15(1),1966年。)
(*)(参考：ジャン・スタロビンスキー著/大沼正則・道家達将訳『医学の歴史』恒文社,1966年。)
(*)九州大学医学部解剖学教室第一講座編『森優教授定年退官記念研究業績目録』九州大学医学部解剖学教室第一講座,1966年。)
(*)(参考：ジンサー/橋本雅一訳『ねずみ・しらみ・文明』みすず書房,昭和41年。)
(*)(参考：飯沼二郎「古典古代と旱地農法」歴史学研究308,1966年。)
(*)(参考：鈴木重昭「古代の乳および乳製品 七十人訳を媒介としたオリエントおよび東地中海域の技術史の研究」国立科学博物館研究報告8(2),1966年。)
(*)松原宏遠『科学・明治百年史—エピソードでつづる三代の科学史』ブルーバックス,講談社,1966年。
(*)平山諦『学術を中心とした和算史上の人々』富士短期大学出版部,1966年。
(*)吉田光邦『日本をきずいた科学』講談社現代新書,講談社,1966年。
(*)吉田光邦「『日本科学史』まえあと」科学史手帖11,1966年。
(*)藤田豊『日本科学技術史』明玄書房,1966年。
(*)服部一敏「Nature,Scienceにみられる明治初期の日本の科学事情について(1)」科学史研究77,1966年。
(*)藤原暹『江戸時代における「科学的世界観」の研究』富士短期大学出版部,1966年。
(*)大道安次郎「帆足万里の復位—窮理通の意義」(関西学院大学)経済学論究20(3),1966年。
(*)帆足図南次『帆足万里』吉川弘文館,1966年(→1999年,再版)。
(*)東健一「『舎密開宗』中に記載された化学元素について」応用電気研究所彙報18(3・4),1966年。
(*)坂口正男「ふたたび「「舎密開宗」原本について」科学史研究80,1966年。
(*)森睦彦「天保改革と洋学書の出版—特に医学館との関係について」法政史学18,1966年。
(*)橋本万平「明治初期の物理(1,2)」物理学史研究3(1,2),1966年。
(*)(参考：モーリス・ファーバー著/遠藤一夫訳『陸運の歴史』恒文社,1966年。)
(*)(参考：モーリス・ファーバー著/根本順吉訳『通信の歴史』恒文社,1966年。)
(*)(参考：チャールス・A.ライヘン著/島村福太郎訳『天文の歴史』恒文社,1966年。)
(*)(参考：チャールス・A.ライヘン著/大沼正則・道家達将訳『物理の歴史』恒文社,1966年。)
(*)(参考：門馬寛明『西洋占星術：あなたを支配する宇宙の神秘』カッパ・ブックス,光文社,1966年。)
(*)広瀬秀雄「旧長崎天文派の学統成立について(1)二儀略説に関して」蘭学資料研究会研究報告184,1966年。
(*)松島博「野呂元丈撰訳「阿蘭陀本草和解」について」三重県立大学研究報告,人文・社会

科学5(2),1966年。
(*)(参考：石川操「アルフォンス・ドープシュと経済史研究(1,2)」青山經濟論集18(2),1966年/18(3),1967年。)
(*)(参考：H.ピレンヌ/朝倉文市訳「経済活動における対照—メロヴィング朝とカロリンガ朝」世界史研究（40・41・42）,1966年。)
(*)「住谷悦治教授略歴・著作目録」(同志社)經濟學論叢15(3・4),1966年。
(*)(参考：今井直重『プラトンの国家論の研究』(京都)法律文化社,1966年。)
(*)(参考：池田栄『最高文芸としての正統政治学：アリストテレースの進化論的宗教と東西文化』増補版,ミネルヴァ書房,1966年。)
(*)(参考：相馬隆治「「正義」に関する若干の考察—アリストテレスを主として」甲南大学文学会論集30,1966年。)
(*)(参考：大牟田章「ヘレニズム初期のギリシア都市における「君主崇拝」について」歴史研究4,1966年。)
(*)(参考：弓削達『ローマ帝国の国家と社会』一橋大学,経済学博士,乙第15号,1966年。)
(*)(参考：大谷恵教「ウォルター・リップマンの人間観—矢部貞治訳『リップマンの真髄』より」拓殖大学論集49,1966年。)
(*)(参考：田中美知太郎・貝塚茂樹「対談 中道主義と政治の思想」潮5月号,1966年。)
文学会論集30,1966年。)
(*)(参考：田中美知太郎・武者小路公秀「対談 政治と思想」経済往来9月号,1966年。)
(*)萩原延寿「馬場辰猪」中央公論81(6,7,8,9,10,11,12),1966年。
(*)矢田一男「法律学者としての馬場辰猪」一橋論叢55(4),1966年。
(*)「柚木馨博士略歴著作目録(柚木馨博士追悼号)」神戸法學雑誌16(1/2),1966年。
(*)高木多喜男「柚木馨先生の人と学問(同上)」神戸法學雑誌16(1/2),1966年。
(*)林良平「柚木馨先生の業績をしのんで」法律時報38(4),1966年。
(*)「石本雅男教授略歴・著作目録(石本雅男教授・大隅健一郎教授退職記念号)」神戸学院法学16(3・4),1966年。
(*)「石本雅男教授略歴・著作目録」阪大法学59・60,1966年。
(*)(参考：古林祐二「自然法と正義の現代的意義」福岡大学法学論叢11(2),1966年。)
(*)(参考：戸崎宏正『法称野研究』九州大学,文学博士,甲第356号,1966年。)

(*)(参考：廣松渉「初期マルクス像の批判的再構成」思想520,1967年。)
(*)(参考：『東西文化交渉資料展』天理ギャラリー17回展,天理ギャラリー1967年。)
(*)(参考：加茂儀一『世界の文化と人類の進歩』国土社,1967年。)
(*)荻原晃『世界伝道一週旅行：終戦直後の欧米巡廻記』信友社,1967年。)
(*)(参考：藤原藤男『聖地印象記』聖研シリーズ3,聖書の研究社,1967年。)
(*)並河亮・並河万里『地中海歴史の旅』集英社,1967年。
(*)(参考:村川堅太郎編『ギリシアの神殿』世界の文化史蹟3,講談社,1967年(→1978年,再版)。)
(*)(参考：座右宝刊行会編『イタリア』世界の旅8,河出書房,1967年。)
(*)(参考：デヂオ・ペトエルロ/齋藤祐蔵訳『イタリア文明史』南雲堂,1967年。)
(*)(参考：滝沢真弓「友情のパルテノン」建築雑誌82(984),1967年。)
(*)「女性美 エーゲ海のビーナス」週刊現代9(15),1967年。

(*)(参考：ノヴァーリス他,齋藤栄治他訳『ドイツ名作集』(ノヴァーリス「アトランティス物語」)中央公論社,1967年。)
(*)田中隆尚「シチリア遍歴(1-11)」心20(5,6,8,9,11,12),1967年//21(5,6),1968年//22(4,12),1969年//23(6),1970年。
(*)(参考：三木正之「ゲーテの制作理念：「イタリア旅行」を中心に」論集4,1967年。)
(*)(参考：柄谷行人「「アレクサンドリア・カルテット」の弁証法(亡命者文学,特集)」世界文学7,1967年。)
(*)(参考：御手洗博「「アレクサンドリア・クワルテット」考(2)ひとつの挿話から始めて」北九州大学外国語学部紀要14,1967年。)
(*)(参考：森本哲郎「東西文明の悲歌—シュペングラーとトインビーはわれわれに何を語るか」潮87,1967年。)
(*)中村元「ヘレニズム世界に対する印度思想の影響」心20(6),1967年。
(*)遠藤周作「ぽるとがる紀行」中央公論82(12),1967年。
(*)梶嘉一郎「ケルン大学留学記」(同志社大学)パイデイア5,1967年。
(*)志賀英雄「西欧の天才の故国でのパンセ(1)」(同)パイデイア5,1967年。
(*)竹内健「日本文化発祥異説—我々にとって故郷とは何か?」三田文学・第2期54(4),1967年。
(*)町田甲一『法隆寺』角川新書,角川書店,1967年。
(*)「女性美エーゲ海のビーナス」週刊現代9(15),1967年。
(*)(参考：小江慶雄「エーゲ海における海底考古学調査の近業」京都教育大学紀要A-31,昭和42年。)
(*)(参考：デュラント/川口正吉・林靖訳『日本文化史(続)エーゲ海の民族文化』[デュラント著]世界の歴史4,4,日本ブック・クラブ,1967年。)
(*)(参考：デュラント/川口正吉・林靖訳『ギリシア文明花咲く』[デュラント著]世界の歴史4,日本ブック・クラブ会員版,日本ブック・クラブ,1967年。)
(*)(参考：デュラント/川口正吉・大月邦雄訳『ギリシア文明花咲く』[デュラント著]世界の歴史5,日本ブック・クラブ会員版,日本ブック・クラブ,1967年。)
(*)(参考：村川堅太郎編『ギリシアの神殿』世界の文化史蹟3,講談社,1967年。)
(*)(参考：シュリーマン/永川玲二訳・ツェーラム/村田数之亮訳(他)『トロイアへの道、迷宮の発掘,ツタンカーメン発掘記,・墓・学者」筑摩書房,現代世界ノンフィクション全集2,1967年(→1978年,ヴェリタ242)。
(*)(参考：H.シュリーマン/佐藤牧夫訳『古代への情熱：発掘王シュリーマン自伝』角川文庫,角川文庫ソフィア,1967年。)
(*)(参考：梅棹忠夫『文明の生態史観』中公叢書,中央公論社,1967年。)
(*)(参考：シュペングラー/村松正俊訳『形態と現実と』近代選書,西洋の没落：世界史の形態学の素描1,林書院,1967年(→2007年,普及版。→2015年,ニュー・エディション)。)
(*)(参考：若林真「サルトルは新しいシュペングラーか—フランス文学」文學界21(3),1967年。)
(*)(参考：森本哲郎「東西文明の悲歌—シュペングラーとトインビーはわれわれに何を語るか」潮87,1967年。)

(*)(参考：A.J.トインビー/長谷川松治訳『歴史の研究(1-3)』トインビー著作集1-3,社会思想社,1967年。)
(*)(参考：A.J.トインビー/深瀬基寛訳『一歴史家の宗教観』トインビー著作集4,社会思想社,1967年。)
(*)(参考:A.J.トインビー/深瀬基寛訳『試練に立つ文明』トインビー著作集5,社会思想社,1967年。)
(*)(参考:A.J.トインビー/吉田健一他訳『現代論集』トインビー著作集6,社会思想社,1967年。)
(*)(参考：A.J.トインビー/長谷川松治・安田章一郎訳『歴史紀行』トインビー著作集7,社会思想社,1967年。)
(*)(参考：A.J.トインビー/永川玲二訳『ナイルとニジェールの間に』新潮選書,新潮社,1967年。)
(*)(参考：社会思想社編『トインビー：人と思想』社会思想社,1967年。)
(*)(参考：蝋山政道責任編集『トインビー』世界の名著51,中央公論社,1967年。)
(*)(参考：堀米庸三責任編集『ホイジンガ』世界の名著55,中央公論社,1967年。)
(*)(参考：齋藤二郎「トインビーのビザンチン像」史流8,1967年。)
(*)(参考：三橋知義「A.J.トインビーについて」立正大学文学部論叢26,1967年。)
(*)(参考：山本外告「トインビー・文明と宗教」金沢経済大学論集1(1),1967年。)
(*)村川堅太郎「蘚苔談」展望105,1967年。
(*)「木村亀二氏ら七人 学士院新会員きまる」(村川堅太郎)東京朝日新聞朝刊11/14,1967年。
(*)「学士院新会員7氏きまる」(村川堅太郎)讀賣新聞朝刊11/14,1967年。
(*)「東大教授に定年ラッシュ」(村川堅太郎)讀賣新聞朝刊12/30,1967年。
(*)「知恵と美への驚き 写真・二川幸夫 パルテノン」(田中美知太郎)讀賣新聞夕刊1/12,1967年。
(*)(参考：呉茂一「座右の音楽書—古代ギリシャ音楽断簡」音楽の友25(7),1967年。)
(*)(参考：読売新聞社『ポンペイ古代美術展』読売新聞社,1967年。)
(*)「ポンペイをどう見るか 古代美術座談会 完全なる古代再現」(田中美知太郎)讀賣新聞夕刊4/29,1967年。
(*)江上波夫「2 つの古代美術展をみる—ポンペイ展とメソポタミア展」みづゑ 748,1967 年。
(*)(参考：小川正隆「ナポリとポンペイ—名作のあるまち」美術手帖 283,1967 年。)
(*)(参考:三輪福松「西洋美術にみる画題の図典—神話篇(1-4)」美術手帖 278,279,280,281,1967年。)
(*)(参考：三輪福松「西洋美術にみる画題の図典—イリアスとオデュッセイア」美術手帖 282,1967 年。)
(*)(参考：三輪福松「西洋美術にみる画題の図典—キリスト伝(1,2)」美術手帖 286,287,1967年。)
(*)(参考：三輪福松「西洋美術にみる画題の図典—マリアの生涯」美術手帖 288,1967 年。)
(*)(参考：三輪福松「西洋美術にみる画題の図典—使徒と聖人と殉教者」美術手帖 289,1967年。)
(*)(参考：三輪福松「西洋美術にみる画題の図典—歴史・風俗・文学による主題」美術手帖 291,1967 年。)
(*)(参考：三輪福松「エトルリアの鏡」古美術 18,1967 年。)
(*)(参考：アンドレ・グラバール/辻佐保子訳『キリスト教美術の誕生』人類の美術 7,新潮

社,1967 年。)
(*)(参考：太田秀通「第1回ミケーネ国際会議」オリエント10(3-4),1967年。)
(*)藤井清「万葉の異国—唐・ヘレニズム文化の影響」短歌14(2),1967年。
(*)(参考：小貫徹「転換期としてのヘレニズム時代」史潮100,1967年。)
(*)増田四郎「三浦新七と「東西文明史論考」」中央公論82(11),1967年。
(*)(参考：増田渉「梁啓超の『西学書目表』」[『中国文学史研究』岩波書店,1967年。])
(*)(参考：森豊『樹下美人：シルクロード幻想』小峯書店,1967年。)
(*)勝部真長編『ドイツ留学のすすめ』評論社,1967年。
(*)(参考：山本光雄『音楽哲学,音楽史,民族音楽からみた古代ギリシア音楽の総合的研究と楽器の復元』東京都立大学(1967年),(科研費)1967年。)
(*)(参考：加納六郎・稲垣秀雄・大槻真一郎編『医学基本用語辞典』同学社基本用語辞典シリーズ,同学社,1967年。)
(*)(参考：吉田精一他編集委員・旺文社編『世界人物事典』旺文社,1967年。)
(*)(参考：今泉篤男・山田智三郎編『西洋美術辞典』訂正10版,東京堂出版,1967年。)
(*)A.Staub編『希和辞典』Augustin Staub,1967年(→1983年,南山大学神言神学院版。)
(*)鈴木博「蘭語訳撰について」(仏教大学)人文学論集1,1967年。
(*)松村明「前野良沢の『蘭訳筌』『和蘭訳筌』について」蘭学資料研究会研究報告194,1967年。
(*)前田清茂・三好成美編『中・日・欧対照世界地名辞典=World gatezzeer in Chinese,Japanese,European』天理大学人文学会シリーズ7,天理大学出版部,1967年。
(*)金沢大学法文学部国文学研究室編『ラホ日辞典の日本語』(本文篇1-7,索引篇1-4)ラホ日辞典索引刊行会,1967-73年。)
(*)島正三「吉利支丹版羅葡日対訳辞書備考追補」東京農業大学一般教養学術集報4,1967年。
(*)(参考：林哲郎「英語辞書編集史のための初期の資料：Goeffrey,CaxtonとBarclay(後藤武士教授退官記念号)」(九州大学)英語英文学論叢17,1967年。)
(*)(参考：矢島文夫『文字の歴史』徳間書店,1967年。)
(*)河島英昭「イタリア：世界の本屋」朝日新聞6/23,1967年。)
(*)鈴木重貞「ドイツ語の伝来—序編,江戸時代・本編,明治時代」大阪大学教養部研究集録15,1967年。
(*)鈴木重貞「ドイツ語の伝来」(司馬凌海)阪大教養部研究集録21,1967年。
(*)杉本つとむ『近代日本語の新研究』桜楓社,1967年。
(*)大類伸・土居光知共著『日本文化と西洋文化—城を中心として、世界文学と日本文学』帝国地方行政学会,教養講座シリーズ,1967年。
(*)沼田次郎・大鳥蘭三郎「洋学の発展」(『図説日本文化史大系10—江戸時代(下)』所収,小学館,1967年。
(*)杉本勲編『体系日本史叢書19—科学史』所収,山川出版社,1967年。
------ 佐藤昌介「蘭学の普及と発達」/同「蘭学の勃興とその特質」/同「蘭学勃興の諸前提」/同「対外関係の危機と洋学」/同「幕末の洋学」
(*)堀米庸三「島田雄次郎著「ヨーロッパ大学史研究」」史學雑誌76(12),1967年。)
(*)吉武好孝『翻訳事始』早川書房,1967年。
(*)山本修之助『司馬凌海』司馬凌海先生顕彰会,昭和42年。
(*)(参考：山本治夫「語詞の内在的Gedankengang,Bedeutungsfeld及びSinn,Stimmunglについて

の考察(2-B)古典地中海世界の抽象的分野」福岡大学文理論叢11(4),1967年。)
(*)(參考：山本光雄「ロス氏校訂Aristotelis Ars Rhetoricaについての二・三の疑問」(東京都立大学人文学部)人文學報58,昭和42年。)
(*)池内健次「館蔵ホメロス文献目録」(天理大学図書館報)ビブリア35,1967年。
(*)(參考 : 渡部昇一「ギリシャ人の言語観 : プラトン(1)」白百合女子大学研究紀要3,1967年。)
(*)(參考：松川敦子「“家”を意味する語彙の研究：ホメーロスを中心として」西洋古典學研究15,1967年。)
(*)(參考 : 堀井令以知「ホメーロスにおける飲食を意味する語彙について—P.Chantraine, Les noms d'action repondant aux verbes signifant “manger” et “boire” chez Nomereの紹介」愛知大学文学論叢(33・34),1967年。)
(*)(參考：一柳俊夫「〈奴隷〉を意味する古ギリシア語について—最近ソビエト古代史学の諸研究」法制史研究16,1967年。)
(*)(參考 : 関根正雄「セプトゥアギンタ・ギリシア語研究(1)」東京教育大学文学部紀要63,1967年。)
(*)(參考：山川丈平「ラテン語由来のドイツ慣用句六題(石本岩根教授退官記念号)」独仏文學研究17,1967年。)
(*)(參考：山元忠尚「英語に見られるラテン語の影響」教養諸学研究22,1967年。)
(*)(參考 : 田中政男「“Seven Liberal Arts”と中世〈自由〉について」明治大学教養論集37,1967年。)
(*)(參考：泉井久之助『言語の構造』紀伊國屋書店,1967 年。)
(*)(參考：トムセン/泉井久之助・高谷信一訳『言語学史』清水弘文堂書房,1967年。)
(*)(參考：久松敬弘「イスタンブールでのコローション・コロキウム(読物としての報告)」防蝕技術16(12),1967年。)
(*)神田孝夫「「アルカディア比較文学雑誌」1966(ARCADIA Zeitschrift für Vergleichende Literaturwissenschaft)」比較文學研究13,1967年。)
(*)(參考：田中穂積・野坂澄子訳「ウェスターマン教授[略歴・肖像],粟野頼之祐宛書簡[原文・訳文]（ウェスターマン教授）」関西学院史学（9・10）,1967年。)
(*)「粟野頼之祐教授著作論文目録並略歴」(関西学院大学)人文論究17(4),1967年。
(*)「粟野頼之祐教授著作目録目録・略歴」関西学院史学（9・10）,1967年。)
(*)「粟野頼之祐教授著作目録論文目録並略歴」関西学院史学11,1967年。)
(*)関西学院大学図書館編『粟野頼之祐文庫目録』関西学院大学図書館特殊文庫目録4,関西学院大学図書館,1967年。
(*)粟野頼之祐『溪韻集：歌集 家蔵版』初音書房,1967年。
(*)「下村寅太郎先生著作目録」(東京教育大学哲学会)哲学論叢24,1967年。)
(*)「副島民雄教授略歴・著作目録」哲学年報26,1967年。
(*)「山本光雄教授略歴・主要著訳書及び論文」哲学誌10.1967年。
(*)「松本厚教授 略歴・著書と論文」哲学19,1967年。
(*)石井順三「新村出先生略年譜」芸能9(9),1967年。
(*)浜田敦「新村[出]先生の御蔵書」静脩4(3),1967年。
(*)「新村出著書目録」日本古書通信32(11),1967年。
(*)(參考：小林晶「比較文学関係雑誌論文書誌」比較文學研究13,1967年。)
(*)(參考：松本富士男『新約聖書四福音書対観表』日本聖公会出版事業部, 1967年。）

(*)田中英光『オリンポスの果実』改版 新潮文庫,新潮社,1967年。
(*)『現代名作集(上下)』(田中英光「オリンポスの果実」)日本文学全集49-50,新潮社,1967年。
(*)竹内良夫・別所直樹『田中英光 愛と死と』大光社,1967年。
(*)岩井寛「田中英光の病跡 作品と英米の生活史より」東京慈恵医科大学雑誌81(3),1967年。
(*)(参考:三輪福松「西洋美術にみる画題の図典—神話篇(1-4)」美術手帖278,279,280,281,1967年。)
(*)(参考:植木錬之助「ペイタアのギリシャ神話理解—ディミティアとペルセポネ」(関西学院大学)論攷14,1967年。)
(*)(参考:A.J.トインビー/深瀬基寛訳『一歴史家の宗教観』トインビー著作集4,社会思想社,1967年。)
(*)(参考:杉村陽一「古代人における宗教意識の展開—カッシーラの哲学より」高知大学学術研究報告,人文科学15,1967年。)
(*)(参考:小野泰博「エリアーデの「聖」概念について」三康文化研究所年報1,1967年。)
(*)(参考:高津春繁・高津久美子・太田大八え『ギリシア神話 西洋古典』世界名作全集29,講談社,1967年。)
(*)(参考:高津春繁・高津久美子編訳・太田大八え『ギリシア神話』少年少女世界名作選13,偕成社,1967年。)
(*)(参考:石井桃子編『ギリシア神話』あかね書房,1967年。)
(*)(参考:福原麟太郎・朱牟田房子訳,山室静訳『ギリシア神話(附・他イソップ物語,北欧神話)』少年少女世界の文学I,河出書房,1967年。)
(*)(参考:高階秀爾「キューピッド・ルネッサンスの光と闇(13)」三彩211,1967年。)
(*)(参考:高階秀爾「春(1-3)ルネッサンスの光と闇(14-16)」三彩212,213,214,1967年。)
(*)(参考:高階秀爾「二人のヴィーナス(1-3)ルネッサンスの光と闇(17-19)」三彩215,218,220,1967年。)
(*)(参考:中尾喜保「「ミロのヴィーナス」に対する美術解剖学的考察」東京芸術大学美術学部紀要3,1967年。)
(*)(参考:津田静男「ディオニュソス的世界」関西学院哲学研究年報8,1967年。)
(*)(参考:小川政恭「ホメーロス・ノート『イーリアス』篇(1-5)」近代40,43,44,45,1967年。)
(*)(参考:清水護「神話・伝説と言葉」キリスト教と文化3,1967年。)
(*)(参考:A.ジークフリード著/鈴木一郎訳『ユダヤの民と宗教:イスラエルの道』岩波新書,岩波書店,1967年。)
(*)(参考:秀村欣二「古代末期におけるキリスト教と異教の対立(第16回上智大学史学大会公開講演要旨)」上智史学12,1967年。)
(*)(参考:秀村欣二「イエスの教説と行動の政治的性格—最近の原始キリスト教研究の一視角」歴史教育15(7),1967年。)
(*)(参考:秀村欣二「キリスト教とローマ帝国の没落—モミリアーノ教授の提言をめぐって」キリスト教史学18,1967年。)
(*)(参考:S.L.ファーズ/神田盾夫・矢崎源九郎訳『イエスの生涯』三笠書房,若い人たちのための世界名作への招待8,1967年。)
(*)(参考:秀村欣二『ネロ:暴君誕生の条件』中公新書,1967年。)
(*)(参考:荒井献「ナグ・ハマディ文書の発見とグノーシス主義研究史上におけるその意義」オリエント10(1-2),1967年。)

(*)(参考：G.ボルンカム/善野碵之助訳『ナザレのイエス』(増補改訂版)新教出版社,昭和42年。)
(*)(参考：バークレー/大島良雄訳『イエスの弟子たち』新教新書,新教出版社,昭和42年。)
(*)(参考：A.リチャードソン/渡辺英俊・土戸清訳『新約聖書神学概論』日本基督教団出版部,1967年(→1970年,再版。→2007年,オンデマンド版)。)
(*)(参考：R.H.Barinton/藤原位憲訳「聖書学に於けるエラスムスの貢献」基督教研究35(2・3),1967年。)
(*)(参考：石原兵永『イエスの招き：マルコ福音書を中心に』山本書店,1967年。)
(*)(参考：相見三郎『使徒行伝講解(上中下)』れいか叢書1,13,14,あなたの幸福にために,れいか友の会,1967-69年。)
(*)(参考：フランシスコ会聖書研究所訳注『マタイによる福音書：原文からの批判的口語訳』フランシスコ会聖書研究所,中央出版社(発売),1969年。)
(*)Vierhaus,J./熊谷賢二他訳「〈論争・注解・注〉日本の中・高等学校で使われている世界史の教科書におけるカトリック教会史」カトリック神学12,1967年。
(*)(参考：石原謙「宗教改革と人文主義の交流について—PH.Melanchtonの場合」キリスト教と文化3,1967年。)
(*)(参考：リター著/西村貞二訳『宗教改革の世界的影響』新教出版社,1967年。)
(*)(参考：久志本秀夫「ビュザンティオン人文主義とイタリア人文主義—クリステラー教授の見解を中心として」関西学院史学11,1967年。)
(*)遠藤周作・三浦朱門『キリシタン時代の知識人：背教と殉教』日経新書59,日本経済新聞社,1967年。)
(*)高尾正男「三谷隆正の信仰と思想」関西大学法学論集16(4-6),1967年。
(*)久山康「遠藤周作と椎名麟三」国文学・解釈と鑑賞32(7),1967年。
(*)笹淵友一「近代日本文学とキリスト教—主として遠藤周作「沈黙」について」國文学・解釈と教材の研究128#9,1967年。
(*)村岡花子訳『イソップ童話集』世界児童文学全集2,あかね書房,1967年。
(*)イソップ作/村岡花子ぶん；山中冬児え『イソップ童話：イソップ名作選』カラー版,世界の幼年文学1,偕成社,1967年。
(*)バン・ルーン原作/イソップ原作/・・・ブルフィンチ原作『聖書物語・イソップ寓話・ニーベルンゲンの歌・ローランの歌・キツネ物語・中世騎士物語』少年少女世界の名作文学2,古典編2,1967年。
(*)(参考：松平千秋「イソップ伝について」(天理図書館報)ビブリア9,1967年。)
(*)呉秀三『シーボルト先生--その生涯及び功業(全3巻)』東洋文庫,1967年。
(*)筑摩書房『明治文学全集3,6,31,33』(西周,東海散士,三宅雪嶺,上田敏)昭和41,42年。
(*)日本女子大学国語国文学会編『日本女子大学国語国文学論究』(幸若舞曲)日本女子大学国語国文学会,1967年。
(*)永積安明「「幸若と説経」序論」日本文学16(9),1967年。
(*)荒木良雄「「百合若大臣」成立考」甲南大学文学会論集35,1967年。
(*)荒木繁「幸若舞曲論ノート—曲舞の語り物と幸若舞曲」文学35(10),1967年。
(*)麻原美子「幸若舞曲小考—曽我物語をめぐって」文学35(10),1967年。
(*)麻原美子「幸若舞曲文献目録(明治~昭和42.8)」文学35(10),1967年。
(*)山本修之助『司馬凌海』山本修之助,昭和42年。

(*)杉本つとむ「二つの魂」日本語7(2),1967年。
(*)下村富士雄他編『和魂洋才』日本文学の歴史10,角川書店,1967年。
(*)飯田賢一「わが国における西洋哲学思想の形成(1)西洋哲学受容の思想史的背景」白山哲学5,1967年。
(*)植手通有「明治啓蒙思想の形成(1)(2)—西洋観の展開において」思想511,512,1967年。
(*)中野富夫「「蘭学」の精神を回顧して」日本医事新報2264,1967年。
(*)筑波常治「「尚歯会」とその役割」思想の科学65,1967年。
(*)石井俊恭「幕末維新期における諸学校の変遷」東山学園研究紀要12・13,1967年。
(*)青木光行「明治初期の外国語学校—官立校を中心として」法政史学19,1967年。
(*)池田哲郎他「明治の英学」英語教育15(10),1967年。
(*)河邑光夫「西村茂樹論」思想512,1967年。
(*)亀谷荘司『最初に聖書を日本語に訳したカール・ギュツラフ伝』出版者不明,1967年。
(*)左近義慈「和訳聖書の一、二の問題」(東京神学大学神学会)神学30,1967年。
(*)都田恒太郎『日本キリスト教合同史稿』教文館,1967年。）
(*)関屋光彦「ケーベル博士の大学論(隨想)」(国際基督教大学)キリスト教と文化3,1967年。
(*)「神田盾夫博士年譜・著作目録」キリスト教と文化3,1967年。
(*)斎藤勇「ICUにおけるキリスト教と文化研究所およびその所長」(神田盾夫)キリスト教と文化3,1967年。
(*)日高第四郎「想い出と願い」(神田盾夫)キリスト教と文化3,1967年。
(*)J.E.Kidder,‘A Tribute to Dr.Tateo Kanda’ キリスト教と文化3,1967年。
(*)麻生磯次・竹山道雄・嘉治真三・田中隆尚・市原豊太「座談会 安倍能成先生を偲ぶ」心20(10),1967年。
(*)石田幹之助「新村[出]先生のこと」日本古書通信32(11),1967年(→「新村先生追憶」[『石田幹之助著作集・第4巻』所収,六興出版,1986年。])。
(*)田中秀央「新村出先生を悼む」心20(10),1967年。
(*)嘉治隆一「夢に生きた老学者」(新村出)心20(10),1967年。
(*)生成会「故新村出略歴—本誌寄稿目録」心20(10),1967年。
(*)島田謹二「近代日本文学と近代西洋文学と—若き上田敏の学び方」国文學：解釈と教材の研究12(3),1967年。
(*)赤瀬雅子「柳田泉著「明治初期の文学思想(上・下)」比較文学9,1967年。
(*)畑実「柳田泉著「明治初期の文学思想(上下)」国文学研究35,1967年。
(*)池谷敏忠『西脇順三郎ノート』限定,千種正文館,1967年。
(*)(参考：福原麟太郎『英学三講』法政大学出版局,1967年。
(*)福原麟太郎『読書と或る人生』新潮社,新潮選書,1967年。
(*)福原麟太郎「折り折りの人(3)戸川秋骨：指導しない教育者」朝日新聞1/18夕刊,1967年。
(*)福原麟太郎「折り折りの人(5)安倍能成：直言をはばからず」朝日新聞1/20夕刊,1967年。
(*)福原麟太郎「折り折りの人(7)竹友藻風：上田敏門下の俊才」朝日新聞1/23夕刊,1967年。
(*)福原麟太郎「折り折りの人(8)上田辰之助：論争を挑発する」朝日新聞1/24夕刊,1967年。
(*)福原麟太郎「わが青春の書：綱島梁川の病間録,回光録：訴えることの多い随想」讀賣新聞11/2,1967年。
(*)佐藤善也「「走れメロス」--作品論」国文学：解釈と教材の研究12(14),1967年。
(*)太宰治『走れメロス』集団読書テキストB1,全国学校図書館協議会,1967年。

(*)太宰治『走れメロス』新潮文庫,新潮社,1967年。
(*)野島秀樹「アルカディアの凶器—三島由紀夫の豪奢な「肉体」」文學界23)11),1967年。
(*)三島由紀夫『朱雀家の滅亡』河出書房,1967年。
(*)(参考：羽仁五郎「クロオチェ「歴史叙述の理論および歴史」--私の古典(補遺)」エコノミスト45(17),1967年。)
(*)(参考 : 岸本通夫「世界史における古代オリエント史の意味」オリエント10(1-2),1967年。)
(*)(参考：ポール・ニザン/野沢協訳『トロイの木馬』世界革命文学選32,新日本出版社,1967年。)
(*)(参考：ヘロドトス/松平千秋訳『ヘロドトス』世界古典文学全集10,筑摩書房,1967年。)
(*)(参考：プルターク著/村川堅太郎他訳,クセノポン著/青木司朗・風間喜代三訳『プルターク・クセノポン』世界文学全集5,筑摩書房,1967年。)
(*)(参考：新村祐一郎「スパルタのテゲア征服について」大手前女子大学論集1,1967年。)
(*)(参考 : 池田栄「カタルシス政治史観の諸相—ヘーロドトス=アリストテレース史観通覧」関西大学法学論集17(2),1967年。)
(*)(参考：ペーター・バム/松谷健二訳『アレクサンダー』偉大な生涯4,筑摩書房,1967年。)
(*)(参考：一柳俊夫「共和国末期および帝国初期のローマの奴隷制について：最近のソビエト古代史学の諸研究(続き)」法制史研究1967(17),1967年。)
(*)(参考：栗野頼之祐「ローマ帝政初期に於けるエジプト産「アンノーナ」年貢穀物輸送について」関西学院史学（9・10）,1967年。)
(*)(参考：ジュゼッペ・サラガット/藤沢道郎訳「ベネデット・クローチェ生誕百年によせて」イタリア学会誌15,1967年。)
(*)大久保利謙「立教大学史学会小史(1)立教史学の創生：建学から昭和11年まで(100号記念特集)」史苑28(1),1967年。
(*)清水義則「中学校古代史学習を中心とした「考える授業」について—授業研究」歴史研究5,1967年。
(*)倉長真「パーレー「万国史」の影響」青山学院大学一般教育部会論集8,1967年。
(*)(参考：太田秀通「思想としての世界史像」歴史評論200,1967年。)
(*)中谷猛「戦後わが国における世界史像の変遷—その類型化と問題性」文化史学21,1967年。)
(*)(参考：吉田悟郎「世界史の方法への試行」歴史学研究324,1967年。)
(*)(参考：原随園・尾鍋輝彦『世界史』新版,教育図書,1967年。)
(*)(参考：原随園・尾鍋輝彦『世界史B』新版,教育図書,1967年。)
(*)田代利鋭「世界史教科書の実態」歴史教育15(9・10),1967年。)
(*)駒井義明「世界史教育の課題」歴史教育15(9・10),1967年。
(*)木村東一郎『江戸時代の地図に関する研究』日本史研究叢書2,隣人社,1967年。
(*)園部昌良「蘭学資料としての「ATLAS NOUVEAU」と「輿地図編小解」」蘭学資料研究会研究報告190,1967年。
(*)西村庚「露文地図の作成とその沿革」地理12(2),1967年。
(*)園部昌良『蘭学資料としての「Atlas nouveau」と「輿地図編小解」』園部昌良,1967年。
(*)(参考：亀井高孝・三上次男編『標準世界史地図』増補版2刷,吉川弘文館,1967年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男編『標準世界史年表』増訂再版4刷,吉川弘文館,1967年。)
(*)(参考：全国教育図書株式会社編『新世界地図』改訂新版,全国教育図書,1967年(→1967年,

田中啓爾監修,スタンダード版昭和42年版)。)
(*)(參考：帝国書院・ベルテルスマン共編『基範世界大地図』帝国書院,1967年。)
(*)(參考：H.H.ローリー/左近義慈訳『原色聖書地図』創元社,1967年(→1989年,13版)。)
(*)(參考：村川堅太郎他編『解説世界史地図帳』改訂版,山川出版社,1967年。)
(*)(參考：村川堅太郎他編『新世界史地図』改訂版,山川出版社,1967年。)
(*)(參考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『要説世界史』改訂版,山川出版社,1967年。)
(*)(參考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『新編世界史』改訂版,山川出版社,1967年。)
(*)(參考：村川堅太郎『古典古代の市民たち』大世界史2,文藝春秋,1967年。)
(*)(參考：青山吉信・石橋秀雄・中村道雄編『解説世界史年表』最新,山川出版社,1966年。)
(*)(參考：「1966年の歴史学界—回顧と展望」史學雜誌76(5),1967年。)
(*)「古典学関係海外研究誌備えつけの現況」(慶應大学・早稲田大学)西洋古典學研究15,1967年。
(*)(參考：村川堅太郎「F.I.E.C第12回総会に出席して」西洋古典學研究15,1967年。)
(*)(參考：松平千秋‘Homer and Wakarpa’(学術会議文科系学会連合)Japanese Science Review --Humanistic Studies 20,1967年。)
(*)(參考：野町啓「AristobulosとPhilon：εβδομα,sigmav:をめぐって」西洋古典學研究15,1967年。)
(*)(參考：堀米庸三「ホモ・ルーデンスの哲学[対談]」中央公論82(10),1967年。)
(*)(參考：里見元一郎「ホイジンガのルネサンス概念」東海史学3,1967年。)
(*)(參考：ヴェルナー・ケーギ/坂井直芳訳『ブルクハルトとヨーロッパ像』みすず書房,1967年。)
(*)(參考：H.Breitenstein/中井晶夫訳「ヤーコプ・ブルクハルトと1848年の革命」上智史学12,1967年。)
(*)古川久「阿部次郎の古典研究(1,2,3)」東京女子大學附属比較文化研究所紀要23,24,1967年//25,1968年。
(*)高尾正男「三谷隆正の信仰と思想」關西大學法學論集16(4-6),1967年。
(*)永井博「下村寅太郎先生」(東京教育大学哲学会)哲学論叢24,1967年。
(*)(參考：山田晶「哲学とキリスト教」哲学16,1967年。)
(*)(參考：出隆『ギリシャ人の霊魂観と人間学』出隆著作集・別巻1,勁草書房,1967年。
(*)(參考：田中美知太郎・R.ハッチンス・永井道雄[司会]「座談古典から学ぶこと」中央公論7月号,1967年。)
(*)(參考：田中美知太郎『古典への案内：ギリシア天才の創造を通して』岩波新書,岩波書店,1967年。)
(*)(參考：玉井茂『西洋思想史の人びと』理論社,1967年。)
(*)(參考：呉茂一「名著発掘『ヘラクレイトス語録』」文芸6(7),1967年。
(*)(參考：小松摂郎編『思想の流れ：タレスからサルトルまで』芸林書房,1967年。)
(*)(參考：西川亮『デモクリトス研究』広島大学,文学博士,甲第103号,1967年。)
(*)(參考：山本光雄『ソクラテスの死』角川文庫,角川書店,1967年。)
(*)(參考：中野孝次『ソクラテス』センチュリー・ブックス 人と思想3,清水書院,1967年(→2015年,新装版)。)
(*)(參考：中野孝次『プラトン』センチュリー・ブックス 人と思想5,清水書院,1967年(→2014年,新装版)。)

(*)(参考：川田殖「善のイデアの一面--「パイドン」の次善の策との連関より見たる」(国際基督教大学)キリスト教と文化3,1967年。)
(*)(参考：藤澤令夫「哲学の哲学性」岩波講座「哲学1」,岩波書店,1967年。)
(*)(参考：藤澤令夫「プラトンと現代」理想409,1967年。
(*)(参考：井上忠「プラトンへの接近」東京大学教養部人文科学科紀要12,1967年。)
(*)山野耕治「最近のプラトン研究について」理想409,1967年。
(*)藤澤令夫「卒業論文の季節」図書5月号,1967年。
(*)(参考：上岡宏「J.グールド「プラトン倫理学の発展」1955」哲学誌9,1967年。)
(*)(参考：小沢克彦「J.M.リスト「愛と魂」--プラトン,プロチノス及びオリゲネスに於ける研究(紹介)」哲学誌10,1967年。)
(*)(参考：井上忠「途の埋草二つ三つ」東京大学人文科学科紀要41,哲学19,1967年。)
(*)(参考：笠井貞「ヘーゲルとアリストテレス」倫理学研究13,1967年。)
(*)(参考：R.L.パーキンス「19世紀における二つのソクラテス解釈—ヘーゲルとキルケゴール」(尾崎和彦訳『キルケゴール研究』1967年。)
(*)(参考:松本厚『プラトンとアリストテレス:その問題と方法の一端について』松本厚,1967年。)
(*)(参考：岩崎勉『アリストテレス』世界思想家全書,牧書店,1967年。)
(*)(参考：山本光雄「ロス氏校訂ARISTOTELES Ars Rhetoricaについての二,三の疑問」(東京都立大学人文科学研究所人文学報編集委員会)人文学報58,1967年。)
(*)伊東俊太郎「アリストテレスと日本—わが国における西欧的世界像の最初の受容」(東京大学)教養学科紀要1,1967年。
(*)(参考：鹿野治助『ストア哲学の研究』創文社,1967年。)
(*)(参考：加藤信朗「Cor,Praecordia,Viscera—聖アウグスティヌス「告白録」(Confessione)におけるPsychologia又はanthropologiaに関する若干の考察」中世思想研究9,1967年。)
(*)(参考:小野忠信「ボエティウスの中世的意義」明治学院大学キリスト教研究所紀要1,1967年。)
(*)(参考：R.ポッジオーリ/杉本秀太郎訳「思想の秋」ディオゲネス1,1967年。)
(*)(参考：片山佳子「市民的ヒューマニズムからプラトニズムへ：ルネサンス・ヒューマニズムの人間観をめぐって(1)」園田学園女子大学論文集1,1967年。)
(*)(参考：片山佳子「市民的ヒューマニズムからプラトニズムへ：ルネサンス・ヒューマニズムの一般的性格(2)」園田学園女子大学論文集2,1967年。)
(*)(参考：清水純一「ルネサンス・ヒューマニズム文学の発祥について—フィレンツェ・プラトニズムの展開(1)」広島大学文学部紀要27(2),1967年。)
(*)(参考：野町啓「創造と悪：『ティマイオス』とフィロン」弘前大学人文学部紀要・文経論叢・哲学篇3,1967年。)
(*)(参考：福居純「ガッサンディのデカルト批判」一橋論叢58(4),1967年。)
(*)(参考：中川久定「ディドロにおける徳の鑑としてのソクラテス--「ディドロにおけるソクラテスの問題」(上下)」名古屋大学教養部紀要,外国語外国文学11,1967年/14,1970年。)
(*)(参考：渡辺茂「ルターとエラスムス」歴史教育15(7),1967年。)
(*)(参考：三串一士「自由意志論争(1—４)ルターとエラスムスの場合」西南学院大学文理

論集7(1・2),1967年/12(1),1971年/12(2),13(1),1972年。)
(*)(参考:小平尚道「宗教改革とエキュメニズム—エラスムスの寛容の精神を批判しつつ(カトリシズムとプロテスタンティズム〈特集〉」日本の神学6,1967年。)
(*)(参考:井上忠「途の埋草二つ三つ」東京大学人文科学科紀要41,哲学19,1967年。)
(*)(参考:笠井貞「ヘーゲルとアリストテレス」倫理学研究13,1967年。)
(*)(参考:R.L.パーキンス「19世紀における二つのソクラテス解釈—ヘーゲルとキルケゴール」(尾崎和彦訳『キルケゴール研究』1967年。?)
(*)(参考:波木居純一「人文主義者としてのテオドール・ド・ベーズ」学習院大学文学部研究年報13,1967年。)
(*)(参考:久志本秀夫「ビュザンティオン人文主義とイタリア人文主義」関西学院史学11,昭和42年。)
(*)(参考:齋藤二郎「トインビーのビザンチン像」史流8,1967年。)
(*)参考:ヒルティ/秋山英夫訳『人生論』(角川文庫,角川書店,1967年(→1969年,改訳)。)
(*)(参考:小川政恭「ホメロス・ノート『イーリアス』篇(1-5)」近代40,41,1967年/43,1968年/44,45,1970年。)
(*)山内登美雄「言葉に翼を—俳優小劇場公演「オイディプス王」評」テアトロ34(14),1967年。)
(*)山内登美雄「ひびかぬ劇的アイロニー—日生劇場公演「アンチゴーヌ」」テアトロ34(10),1967年。
(*)(参考:内山敬二郎「「アンティゴネー」の問題と文学の本質」立正女子大学研究紀要1,1967年。)
(*)(参考:篠田一士「白い百合,白い手—バロック期・ラテン詩瞥見」世界文学5,1967年。)
(*)(参考:太田三郎「西洋古典と近代文学」國文學:解釈と教材の研究12(3),1967年。)
(*)(参考:下位英一他『南欧の文学』世界の文学史3,明治書院,1967年。)
(*)(参考:ダンテ/三浦逸男訳『新生』角川文庫,角川書店,1967年。)
(*)(参考:石倉小三郎「ダンテ神曲解説序説」相愛女子大学・相愛女子短期大学研究論集14,1967年。)
(*)(参考:『サンドロ・ボッティチェルリ』美術出版社,別冊みずゑ49,1967年。)
(*)(参考:河盛好蔵・平岡昇・佐藤朔篇『フランス文学史』新潮社,1967年。)
(*)(参考:篠田浩一郎『フランス—美と歴史の発見』美術出版社,1967年。)
(*)(参考:Longerperre : texte établi et présenté par T.Tobari“Medée : tragédie”A.-G.Nizet,1967.)
(*)(参考:戸張智雄『ラシーヌとギリシア悲劇』東京大学出版会,1967年。)
(*)(参考:戸張智雄「Racine et Theocrite」フランス語フランス文学研究10,1967年。)
(*)(参考:坂本勲「無名時代のラ・ブリュイエール(1)」北九州大学外国学部紀要3(2),1967年。)
(*)(参考:クニッゲ/堀秀彦訳,ボナール/青柳瑞穂訳,ラ・ブリューエール/関根秀雄訳『交際について・友情について・人生について』人生の名著15,大和書房,1967年。)
(*)(参考:ブリア・サヴァラン著/関根秀雄・戸部松実訳『美味礼讃(上下)』岩波書店,1967年。)
(*)(参考:戸張智雄「演劇のレトリックから文法へ—ジャック・シェレールの演劇史方法論」新劇14(4),1967年。)
(*)(参考:シャンドン/井村順一訳『モリエール物語』白水社,1967年。)

(*)(参考 : 鎌田博夫「スタンダールと自然美」(東北大学フランス文学会)Regards10,1967年。)
(*)(参考 : エミール・リドー「〈ヒューマニズム・その1〉サルトルのヒューマニズムとキリスト教」神学ダイジェスト7,1967年。)
(*)(参考 : 高畠正明「アルベール・カミュの文学的出発をめぐって--「南」から「幸福な死」まで(佐藤朔先生還暦記念論文集)」芸文研究23,1967年。)
(*)(参考 : 大畑末吉「ゲーテの諦念(Ertsagung)について—スピノザとの関連における」早稲田人文自然科学研究1,1967年。)
(*)(参考 : 福田博子「ゲーテの人間形成について」日本女子経済短期大学研究論集10(2),1967年。)
(*)(参考 : 柴田齋「ゲーテに関する断章」姫路工業大学研究報告B.一般教養関係17,1967年。)
(*)(参考 : 平野雅史「オルフォイスのエロスとゲーテ「西東詩集」と「ファウスト」を中心に」ドイツ文学論集2,1967年。)
(*)(参考 : 大坪一裕「ゲーテにおける創造の原理について」独逸文学研究9,1967年。)
(*)(参考 : 横岡雅雄「ゲーテ素描—クラブント「一時間の独文学史」からの抄訳」独仏文学1,1967年。)
(*)(参考 : 小野村胤久「ゲーテの「イフィゲーニェ」における自由について」奈良教育大学紀要 人文・社会科学15,1967年。)
(*)(参考 : 林秀之「プロメートイス—若きゲーテの抒情詩研究」名古屋市立大学教養部紀要人文社会研究11,1967年。)
(*)(参考 : 玉置保巳「人間の住み処—シュティフターとゲーテについて」愛知大学文学論叢(33・34),1967年。)
(*)(参考 : 安西徹雄「シラーへの書簡およびエッカーマンとの対話におけるゲーテの試論上の用語」ソフィア16(1),1967年。)
(*)鈴木重貞「明治時代のゲーテ移入」独逸文学12,1967年。
(*)(参考 : 中村恒雄「ゲーテに於ける理想的人間像(1)少年ゲーテの詩から」独逸文学12,1967年。)
(*)(参考 : 橋村良孝「ゲーテとラーヴァター—ゲーテの宗教的態度を中心に」独逸文学12,1967年。)
(*)(参考 : 波田節夫「ルヒャルト・フリーデンタールのゲーテ像」独逸文学12,1967年。)
(*)(参考 : 芳原政弘「古典期のゲーテの芸術理論についての一考察--「自然の単純な模倣,技法,様式」論を中心として」独逸文学12,1967年。)
(*)(参考 : 朝日英夫『ゲーテの光に照らしてみたニーチェ像』東京大学,文学博士,乙第1139号,1967年。)
(*)(参考 : 富田武正「F.シュレーゲルのロマン主義の文学理念--「文学についての討論」を中心に」上智大学ドイツ文学論集241967年。)
(*)(参考 : 新関良三『詩人シラー : 研究と随想』筑摩書房,1967年。)
(*)野島正城「新関良三「詩人シラー : 研究と随想」」(日本ドイツ文学会)ドイツ文學39,1967年。
(*)(参考 : 堀尾孟「ニーチェの永劫回帰についての一考察」哲学論集13,1967年。)
(*)(参考 : 水野清志「ニイチェの永劫回帰思想に関する一考察」哲学誌 9,1967 年。)
(*)(参考 : 広畑治夫「無と形而上学—ハイデッガーのニーチェ批判」哲学論集25,1967年。)
(*)(参考 : 本田正昭「時熟論—ニーチェとアウグスチヌスに於ける時間意識の構造に関する

一比論」海星女子学院大学・短期大学研究紀要6,1967年。)
(*)(參考：會津伸「落日に題する詩について：シラー・ヘルダーリン・ハイネ・ニーチェの抒情より」研究39,1967年。)
(*)(參考:大河原順「錯乱期のヘルダーリン(3)讃歌と抒情詩」東北大学教養部紀要5,1967年。)
(*)(參考：ロベルト・シンチンゲル/小塩節編註『レッシング』ドイツ文豪物語6,第三書房,1967年。)
(*)(參考：竹部琳昌「ホフマンスタール訳エウリピデス『アルケスティス』について」(同志社大学人文学会)人文学,1967年。)
(*)(參考:武居忠通「「エディプスとスフィンクス」について—ホーフマンスタール覚書(3)」愛知大学文學論叢33・34,1967年。)
(*)(參考：平井正穂・海老池俊治『イギリスの文学』世界の文学史4,明治書院,1967年。)
(*)(參考：B.I.Evans/宮西光雄・森清編注『イギリスの文学』あぽろん社,1967年。)
(*)(參考：別宮貞徳「DrydenのAeneid—「Dido Episodeの変遷」補遺」英文学と英語学4,1967年。)
(*)(參考:別宮貞徳「悲劇と時代精神—英雄アエネーアースの変容」ソフィア16(1),1967年。)
(*)(參考:別宮貞徳「2.Aeneas=Dido悲劇の変貌Vergilius-Marlowe-Tate(第1室,日本英文学会第38回大会報告)」英文學研究43(2),1967年。)
(*)(參考:別宮貞徳「“DIDO EPISODE”の時代的変遷:VERGILIUS-CHAUSER-MARLOWE-TATE」英文學研究43(2),1967年。)
(*)(參考：河竹登志夫『比較演劇学』南窓社,1967年。)
(*)(參考：出水春三『シェイクスピアの悲劇』(京都)あぽろん社,1967年。)
(*)(參考：松元寛『シェイクスピア悲劇の世界—虚無の鏡』文化評論出版,1967年。)
(*)(參考:シェイクスピア/富原芳彰他訳『悲劇』シェイクスピア全集6,7,筑摩書房,1967年。)
----中野好夫訳「ジュリアス・シーザー」/三神勲訳「トロイラスとクレシダ」
(*)(參考：中西信太郎『シェイクスピアの世界』英宝社,1967年。)
(*)(參考：藤田実「「アントニーとクレオパトラ」の舞台」(後藤武士教授退官記念号)」(九州大学)英語英文学論叢17,1967年。)
(*)(參考：山田幹郎「「アントニーとクレオパトラ」の批評史的考察：「愛」の否定から肯定へ」IVY：The Nagoya Review of English Stuudies 6,1967年。)
(*)(參考：黒田健二郎「ミルトンの教育論」神戸大学教育学部研究集録 38,l967 年。)
(*)(參考：黒田健二郎「ドクター・ジョンソンのミルトン伝」The Albion 13,l967 年。)
(*)(參考：チャールズ・ラム,メアリー・ラム/本多顕彰訳『シェイクスピア物語』社会思想社,現代教養文庫,1967 年。)
(*)(參考：滝沢寿一「ドイツにおける沙翁研究の近況」英語英文学研究 14(1・2),1967 年。)
(*)(參考:都築佑吉「ペイターとヘーゲル」群馬大学教育学部紀要 人文社会科学編 17,1967年。)
(*)(參考：前川祐一「ウォルター・ペイターにおける「時」に意義」英文学研究 44(1),1967年。)
(*)(參考：小林定義「ペイターにおける文体の問題(1,2)」島根大学教育学部紀要 人文・社会科学 1,1967 年/2,1968 年。)
(*)(參考：加茂儀一「ギッシング遍歴」世界 288,1967 年。)
(*)(參考：秋保慎一「初期のイェイツとアーノルド」(早稲田大学英文学会)英文学 30,1967

年。)
(*)(参考：中川敏「マシュー・アーノルド」(神奈川大学人文学会)人文研究 35,1967 年。)
(*)(参考：植月徹「M.Arnold as a social critic—特に M..アーノルドの“Culture”と“State”の意義について」津山工業高等専門学校紀要 1(4),1967 年。)
(*)(参考：齋藤源吉「T.S.エリオットの詩劇とギリシャ悲劇(1)—Classics の概念との関連性に於て」(岩手大学人文社会科学部)アルテスリベラリス 2,1967 年。)
(*)(参考 : 齋藤源吉「T.S.エリオットの詩劇とギリシャ悲劇(2)—Classics 理論の観点から」(岩手大学人文社会科学部)アルテスリベラリス 3,1967 年。)
(*)(参考 : F.R.リーヴィス,藤井元子「ジョージ・エリオット論(1,2) :『偉大なる伝統』より」(東海学園大学)紀要 3,1967 年/5,1968 年。)
(*)(参考：エーリッヒ・アウエルバッハ/篠田一士・川村湊訳『ミイメーシス』(上下)筑摩叢書,1967年(→1994年,ちくま学芸文庫)。)
(*)大類伸・土居光知共著『日本文化と西洋文化—城を中心として、世界文学と日本文学』帝国地方行政学会,教養講座シリーズ,1967年。
(*)呉茂一「叙事詩の構想による人間把握—大江健三郎の「万延元年のフットボール」」季刊芸術1(3),1967年。
(*)(参考：伊東俊太郎「古代科学の形成—オリエントとギリシア」・「科学の形成と伝統」(山崎俊雄編『現代自然科学入門』所収,有斐閣,有斐閣双書,1967年。)
(*)(参考：W.ハイゼンベルク述/菊池栄一訳『ゲーテの自然像と技術：自然科学の世界』東京ドイツ文化研究所,1967年。)
(*)(参考：W.Heisenberg/E.Kikuchi(anmerkungen)“Das Naturbild Goethes und die technishch-naturwissenshcaftliche Welt”Asahi,1967.)
(*)(参考：広重徹「ハイゼンベルクの思想と近代科学」科学朝日27(2),1967年。)
(*)(参考：田中実「科学史序説(4)—近代科学の前史」教育17(8),1967年。)
(*)(参考：田中実「科学史序説(5)—近代科学の成立」教育17(9),1967年。)
(*)(参考：三枝博音『自然科学』図説日本文化史大系1・明治時代,小学館,1967年。
(*)杉本勲編『科学史』体系日本史叢書19,山川出版社,1967年。
(*)(参考：戸山孟生「クレオパトラの香水」文藝春秋45(8),1967年。)
(*)片桐一男「吉川宗元宛前野良沢書状と石川大浪筆ヒポクラテス像」日本医史学雑誌13(1),1967年。)
(*)松元明知「弘前の蘭医佐々木元俊と「地学全書」そのほか」蘭学資料研究会研究報告203,1967年。
(*)吉川芳秋「愛知県医史資料(7)近世日本の医学文化史上からみた晩年名古屋における司馬凌馬」現代医学14(2),1967年。
(*)長尾長男『食生活の知恵：栄養新イソップ物語』金剛出版,1967年。
(*)杉本勲「初期洋学と科学文化の勃興」(『図説日本文化史大系9—江戸時代(上)』所収,小学館,1967年。
(*)橋本万平「「理学初歩」のこと(正続)」日本古書通信32(5,6),1967年。
(*)武村重和「藩校と郷学校における理学教育—日本自然科学教育成立史研究(6)」新潟大学教育学部高田分校研究紀要11,1967年。
(*)尾原悟「我が国近世のヨーロッパ科学受容についての一考察—ペドロ・ゴーメスの“De Sphaera”と小林謙貞の「二儀略説」」キリシタン研究会報5(1),1967年。

(*)(参考：金子廉「アレクサンドリア学徒とインド—エラトステネスとトレミー」広島大学教育学部紀要,第2部16,1967年。)
(*)藪内清「天文学史からみた蘭学の意義」蘭学資料研究会研究報告196,1967年。
(*)渡辺敏夫「高橋至時の「ラランデ暦書管見」について」蘭学資料研究会研究報告198,1967年。
(*)加藤平佐衛門『日本数学史(上下)』槙書店,1967-68年。
(*)(参考：村田全「数学的創造の底流」思想513,1967年。)
(*)村田全「三上義夫とその数学史論」思想522,1967年。
(*)(参考：マルセル・ボル/村田全訳『改訳 数学の歩み』文庫クセジュ,白水社,1967年(→1971年,再版)。)
(*)(参考：小松彦三郎「数学の歴史から」(ダイヤモンド社)数学科学10月号,1967年。)
(*)永井博「下村寅太郎先生」哲学論叢24,1967年。
(*)荻原明男「下村寅太郎の哲学」哲学論叢24,1967年。
(*)下村寅太郎「最終講義」哲学論叢24,1967年
(*)「下村寅太郎先生著作目録」哲学論叢24,1967年。
(*)田中美知太郎・谷川徹三・猪木正道・宮澤俊義・萩原延壽[司会]「座談 政界浄化への道」潮1月号,1967年。)
(*)芳賀登「幕末明治初期における独立と自由—特に西欧観と対アジア意識を中心として」大塚史学会編『東アジア近代史の研究』所収,御茶の水書房,1967年。)
(*)(参考：池田栄「カタルシス政治史観の諸相—ヘーロドトス=アリストテレース史観通覧」関西大学法学論集17(2),1967年。)
(*)(参考：伊藤貞夫「ポリス社会における財産承継の変容」史學雑誌76(12),1967年。)
(*)(参考：赤井節「法思想史における「人間」の問題—ヘレニズム及びヘブライズムにおける正義の理解をめぐって」法と政治18(4),1967年。)
(*)入交好脩「平沼淑郎博士年譜・著書・論文目録」経済史学12,1967年。
(*)入交好脩「早稲田大学における平沼淑郎博士」経済史学12,1967年。
(*)瀧川政次郎「平沼淑郎先生をなつかしむ」経済史学12,1967年。
(*)北沢新次郎「故平沼淑郎博士の生誕百年に当たりその学蹟を憶う」経済史学12,1967年。
(*)猪谷善一「歴史派経済学者としての平沼淑郎先生」経済史学12,1967年。
(*)矢田一男「故佐伯好郎博士を懐う(含・略歴,著作目録)」法制史研究16,1967年。
(*)「故矢田一男先生略歴・主要著書論文目録」法学新報74(2・3),1967年。
(*)守屋善輝「矢田一男教授を追懐するの記」法学新報74(2・3),1967年。
(*)佐藤能丸「明治の知識人--「共存同衆」と小野梓」人文学報24,1967年。
(*)新明正明「建部遯吾博士の片影—明治社会学史の一齣」社会学論叢37,1967年。
(*)(参考：一柳俊夫「《奴隷》を意味する古代ギリシア語について—最近のソビエト古代史学の諸研究」法制史研究16,昭和42年。)
(*)(参考：一柳俊夫「共和国末期および帝国初期のローマの奴隷制について--最近のソビエト古代史学の諸研究」法制史研究16,昭和42年。)
(*)(参考：松本厚「ソフィストにおける法と自然の問題」広島大学文学部紀要25(2),1967年。)
(*)(参考：古林祐二「古代ギリシャ法廷技術研究—海上消費賃貸・船舶抵当権と訴訟制度について」福岡大学法学論叢12(2・3),1967年。)
(*)(参考：原田慶吉『ローマ法の原理』清水弘文堂,1967年。)

(*)(参考 : P.ヴィノグラドフ/矢田一男他訳『中世ヨーロッパにおけるローマ法』日本比較法研究所翻訳叢書5,日本比較法研究所,中央大学出版部,1967年。)

(*)(参考：宮本十蔵「マルクス学位論文の検討」信州大学人文科学論集3,1968年。)
(*)(参考：ジュール・ヴェルヌ/金子博『アドリア海の復讐(1,2)』コンパクト・ブックス,ヴェルヌ全集13,14,集英社,1968年(→1993年,上下,集英社文庫)。)
(*)村田正夫『ナポリを見て死ね：村田正夫詩集』潮流出版社,1968年。
(*)(参考：『文明誕生』世界歴史シリーズ1,世界文化社,1968年。)
(*)(参考：座右宝刊行会編『ナイルと古代エジプト』世界歴史の旅1,小学館,1968年。)
(*)(参考：座右宝刊行会編『神話の国ギリシア』世界歴史の旅3,小学館,1968年。)
(*)(参考：井上智勇『地中海世界史』清水弘文堂書房,1968年。)
(*)(参考：デュラント著/増野正衛訳『ビザンティン・イスラムの文化』日本ブック・クラブ会員版 世界の歴史10,日本ブック・クラブ,1968年。)
(*)(参考：マミルトン・A.R.ギブ/加賀谷寛訳『イスラム文明史：政治・宗教・文学にわたる七章』みすず書房,1968年。)
(*)(参考：福原麟太郎他編『ヴィクトリア朝英国における文明開化思想の研究』研究叢書8,共立女子大学文學芸術研究所編,共立女子大学文學芸術研究所,1968 年。)
---福原麟太郎「ヴィクトリア朝英国の文明開化思想」
倉品薫江「Matthew Arnold の“Culture and Anarchy”」
(*)(参考 : Goethe/小牧健夫他訳『ローマ悲歌：日記帖・詩集』世界名詩集6,平凡社,1968年。)
(*)(参考：横山潤「「アレキサンドリア・カルテット」鏡のなかの女--「ジュスティーヌ」」教養論集21,1968年。)
(*)(参考：横山潤「「アレキサンドリア・カルテット」形式に関する試論」教養論集21,1968年。)
(*)(参考：朝倉摂「視覚的文学感—ロレンス・ダレル「アレキサンドリア・カルテット」の絵画化(現代文学にのぞむもの—私にとって文学とは何か 特集)」新日本文学23(7),1968年。)
(*)(参考：小川英雄「サマリア発掘調査史(1)(2)」史学 41(3),1968 年//42(2),1969 年。
(*)鈴木英夫『えとるりあ：歌集』柏葉書院,コスモス叢書55,1968年。
(*)(参考：秀村欣二・三浦一郎『ギリシア・ローマ・地中海の文明』世界の歴史2,集英社,昭和43年。)
(*)(参考：デュラント/山内満・大月邦雄訳『ギリシア文化の斜陽』[デュラント著]世界の歴史6,日本ブック・クラブ会員版,日本ブック・クラブ,1968年。)
(*)(参考：増田四郎・会田雄次・堀米庸三「ヨーロッパとは何か[座談会]」自由10(2),1968年。)
(*)(参考：田中美知太郎・谷川徹三・湯川秀樹『対話 歴史と文明』潮新書 33,潮出版社,1968年。)
(*)(参考：増田四郎・会田雄次・堀米庸三「ヨーロッパとは何か(座談会)」自由 10(2),1968年。)
(*)(参考：会田雄次「ルネサンスと現代」自由10(9),1968年。)
(*)(参考：シャボー・フェデリコ/清水純一訳『ヨーロッパとは何か：西欧世界像の歴史的探究』サイマル双書,サイマル出版会,1968年(→

1977年,再版)。)
(*)(参考：スチュアート・ヒューズ/川上源太郎訳『二十世紀の運命：シュペングラーの思想』潮選書,潮出版,1968年。)
(*)(参考：チャールズ・フランケル/河上民雄・早乙女忠訳『近代人の擁護：マリタン,ニーバー,マンハイム,トインビーの近代批判に答えて』文明研究シリーズ9,東海大学出版会,1968年。)
(*)(参考：A.J.トインビー/山口光朔・増田英夫訳『人類と母なる大地(1,2)』トインビー著作集・補1,2,社会思想社,1968年。)
(*)(参考：R.クールボン他/山本新他訳『トインビー研究』トインビー著作集・別巻,社会思想社,1968年。)
(*)(参考：ジョン・コグレー/柳川啓一訳『宗教の意味：現代世界に占める信仰の位置』現代人の教養9,エンサイクロペディアブリタニカ日本支社,1968年。)
(*)(参考:アーノルド･トインビー/長谷川松治訳『交友録』オックスフォード大学出版局,1968年。)
(*)(参考：アーノルド・トインビー「世界文明の普遍性—岩畔氏に答える(国家の将来(往復書簡)」自由10(9),1968年。)
(*)(参考:田中美知太郎「宗教にとって文明とはなにか—トインビー史観は解答を与えるか」自由10(1),1968年。)
(*)(参考:河瀬明雄「トインビーとコリングウッド—歴史的思考の相対性と歴史の対象との関係について」長崎大学教養部紀要 人文科学8,1968年。)
(*)(参考：門間都喜郎「〈資料〉トインビーの文明論構想について」同志社法學20(2),1968年。)
(*)(参考：ヨハン・ホイジンガ/栗原福也訳『レンブラントの世紀：17世紀ネーデルランド文化の概観』歴史学叢書,創文社,1968年。)
(*)(参考：マタイス,A「時代批判の特徴—オルテガ」世紀216,1968年。)
(*)(参考：岸本通夫『古代オリエント』世界の歴史2,河出書房,1968年。)
(*)(参考：デュラント/増野正衛訳『ビザンティン・イスラムの文化』日本ブンク・クラブ会員版 世界の歴史11,日本ブッククラブ,1968年(→1970年,5版)。)
(*)(参考：中村元『インドとギリシアの思想交流』春秋社,昭和43年。)
(*)座右宝刊行会編『ナイルと古代エジプト』世界歴史の旅1,小学館,1968年。
(*)座右宝刊行会編『神話の国ギリシア』世界歴史の旅3,小学館,1968年。
(*)岡田宗叡「海外旅行記(5-7)クレタ島」陶説184,186,189,1968年。
(*)小宮豊隆「伊太利日記(遺稿)(9,12,21-29)」心21-8,1968年/23-4,1970年//29-8,10,11,1976年/30-1,2,3,6,9,1977年/31-12,1978年。
(*)「世界みすてりとぴっく アトランティスはエーゲ海にあった?」SFマガジン9(6),1968年。
(*)(参考：甲斐貞信「「凶暴な巡礼行」の跡を追って—シチリア」(立命館大学外国語科連絡協議会)外国文学研究15,1968年。)
(*)(参考：野上素一「花の都フィレンツェ」社会思想研究 20(3),1968 年。)
(*)(参考：羽仁五郎『ミケルアンヂェロ』岩波新書, 岩波書店, 1968 年。)
(*)(参考：三輪福松『エトルリアの芸術』中央公論美術出版,1968 年。)
(*)(参考：三輪福松「アルベルティの絵画論(1,2,3)」」教育論叢 21,23,1968 年/26,1969 年。)
(*)(参考：三輪福松「テラコッタの女神の首(名品鑑賞)」古美術 23,1968 年。)

(*)(参考：三輪福松『エトルリアの芸術』中央公論美術出版,1968 年。)
(*)(参考：勝国興「デューラーのイタリア紀行」大阪府立大学紀要 人文・社会科学16,1968年。)
(*)小宮豊隆「伊太利日記(9)(遺稿9)」心21(8),1968年。
(*)(参考：Goethe,Hölderlin/小牧健夫他訳『ローマ悲歌：日記帖：詩集』世界名詩集6,平凡社,1968年。)
(*)(参考：石田敏雄「ゲーテの自然観(2,そのII)主として“イタリア紀行によって」帯広畜産大学研究報告 第2部 人文社会科学篇3(3),1968年/3(4),1969年。)
(*)(参考：木村直司「イタリアにおけるゲーテの異教性(1,2)」上智大学ドイツ文学論集(5・6),1968年/8,1971年。)
(*)(参考：村田博司「〈イタリア絵画史〉とヴィンケルマン—理想美論成立の一契機」日本大学文理学部(三島)研究年報16,1968年。)
(*)(参考：デュラント/山内満・大槻邦雄訳『ギリシア文化の斜陽』日本ブッククラブ会員版・世界の歴史6,日本ブッククラブ,1968年。)
(*)(参考：金子武蔵「クリスト教について(32-35)イスラエルの都市とギリシャの都市(1-4)」心21(9,10,11,12),1968年。)
(*)(参考：呉茂一編『ローマとポンペイ』世界の文化史蹟4,講談社,1968年(→1978年,再版)。)
(*)(参考：摩寿意善郎編『ルネッサンスの都』世界の文化史蹟14,講談社,1968年。)
(*)(参考：バランタイン原作・キングスリー原作・C.ブロンテ原作・[ワーズワース作]・G.エリオット原作・リットン原作『名犬クルーソー,水の子トム,ジェイン=エア,ワーズワーズ詩,サイラス=マーナー,ポンペイ最後の日』小学館,少年少女世界の名作文学5；イギリス編3,1968年。)
(*)(参考：カーター/塩谷太郎訳,シュリーマン/三浦一郎訳,アンドリュース/久米穣訳『ツタンカーメン王のひみつ,地底の都をもとめて,恐龍物語』世界の名作図書館49,講談社,1968年。)
(*)(参考：シュリーマン/立川洋三訳『古代への情熱』世界の名著27,ポプラ社,1968年。)
(*)(参考：デル・リー/内田庶訳『謎の大陸アトランティス』角川文庫,角川書店,1968年。)
(*)(参考：田中梅吉『日獨言語文化交流史大年表：総合詳説』三修社,1968年。)
(*)福地重孝「伝統文化と外国文化の流入(特集・明治維新と中国の近代化)」歴史教育16(1・2),1968年。
(*)齋藤斐章「東西文化,特に東西芸術の相関・比較に関する[三宅米吉]博士の創見」(小沢栄一『近代日本史学史の研究・明治編』所収,吉川弘文館,1968年。)
(*)有坂隆道編『日本洋学史の研究1-6』創元社,1968,1972,1974,1977,1979,1982年。
(*)D・キーン/芳賀徹訳『日本人の西洋発見(本多利明)』中央公論社,昭和 43 年(→昭和 57 年,中公文庫版)。
(*)小澤栄一「本多利明の西洋の知識について」蘭学資料研究会研究報告 205,1968 年。
(*)矢島玄亮「「洋外通覧」と蕃史について」書誌学 11,1968 年。
(*)佐藤直助『西洋文化受容の史的研究』東京堂出版,昭和 43 年。
(*)渡部昇一「佐藤直助著「西洋文化受容の史的研究」」ソフィア 17(2),1968 年。
(*)伊東多三郎「日本研究と西洋学術の受容」(石田一良編『日本文化史概論』所収,吉川弘文館,1968 年。)
(*)芳賀徹『大君の使節』中公新書,1968 年。

(*)(参考：邦正美『舞踏の文化史』岩波新書,1968 年。)
(*)(参考：ジークフィリード・ギーデオン/江上波夫・木村重信訳『永遠の現在—美術の起源』東京大学出版会,1968 年。)
(*)(参考：田中美知太郎『アクロポリス』原色写真文庫,講談社,1968 年。)
(*)(参考：澤柳大五郎編『アテネ美術館』講談社,世界の美術館 6,1968 年。)
(*)(参考：村川堅太郎編『古代ギリシア』世界歴史シリーズ 2,世界文化社,1968 年。)
----- 富永惣一「古代ギリシアの遺跡」
穴沢一夫「ギリシアの神殿」
村田数之亮「発掘物語」
高津春繁「古代ギリシアの展望」
呉茂一「神々と英雄たち」
松川敦子「ホメロスとトロイア」
松平千秋「マラトンとサラミスの戦い」
高津春繁「古代ギリシア市民の生活と年中行事」
村川堅太郎「都市国家」
富永惣一・穴沢一夫「古代ギリシアの美術」
齋藤忍随「ギリシアの思想家たち」
久保正彰「劇と文学」
風間喜代三「ギリシアの文字」
平田寛「ギリシアの科学」
(*)(参考：『ローマ帝国』世界歴史シリーズ 5,世界文化社,1968 年。)
-----富永惣一「壮大なローマ建築」
富永惣一「ローマの建築様式」
弓削達「ローマ帝国の展望」
平田隆一「カルタゴとローマ」
浅香正「クレオパトラ」
秀村欣二「アウグストゥスの平和」
佐竹明「キリスト教の発展」
辻佐保子「カタコンベ」
新田一郎「コンスタンティヌスの町」
半田元夫「アッティラとその時代」
米田治泰「ユスティニアヌスとテオドラ」
国原吉之助「ローマ人の日常生活」
長谷川博隆「ローマ人の社会」
国原吉之助「ローマの文学と思想」
吉野悟「ローマ法」
富永惣一「古代ローマの美術」
(*)(参考：美術出版社スライド編集部編『新版西洋美術史』美術出版社,西洋美術シリーズ 1,1968 年。)
(*)(参考：美術出版社スライド編集部編『西洋絵画』美術出版社,西洋美術シリーズ 2,1968 年。)
(*)(参考：深田久弥・長澤和俊『シルクロード：過去と現在』白水社,1968 年。)

(*)松田毅一「日欧交渉史研究文献目録：(南欧・キリシタン篇)補遺1」清泉女子大学紀要16,1968年。
(*)田中梅吉『日獨言語文化交流史大年表：総合詳説』三修社,1968 年。
(*)(参考：山本光雄『音標哲学,音楽史,民族音楽からみた古代ギリシア音楽の総合的研究と楽器の復元』東京都立大学(1968 年),(科研費)1968 年。)
(*)(参考:押村襄編『世界人名辞典・総索引』誠文堂新光社,玉川児童大百科辞典 21(別巻),1968年(→1973年,再版。→1975年,改訂新版。→1986年,改訂4版。→1990年,再版。→1994年,改訂7版)。)
(*)(参考：西脇順三郎『ギリシア語・漢語比較研究 材料集I[原稿の写真版複製]』明治学院大学言語文化研究所,1968年。)
(*)島正三解題『薩摩辞書：初版本明治2年改正増補和訳英辞書』(出版社不明),1968年。
(*)東京大学文学部編『翻訳書目第一次未定稿(自慶應3年至明治23年,慶應4年~明治23年,明治元年~明治23年)』東京大学文学部,1968年。
(*)(参考：新教出版社編『聖書辞典』新教出版社,1968年。)
(*)(参考：山谷省吾『新約聖書辞典』清水弘文堂書房,1968年。)
(*)(参考:エルウィン・ルーカ原著/福山猛他訳編『信徒のための聖書辞典』聖文社,1968年。)
(*)林哲郎『英語辞書発達史』開文社,1968年。
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫他編『世界史小辞典』山川出版社,1968年。)
(*)古田東朔「堀達之助と「英和対訳袖珍辞書」(日本語の近代化に尽した人々2)」言語生活197,1968年。
(*)岩治勇一「大野高等学校補完の「ドーフ・ハルマ」の蘭文跋文について」蘭学資料研究会研究報告208,1968年。
(*)岩治勇一「大野高等学校補完の「ドーフ・ハルマ」の蘭文跋文について」若越郷土研究13(1),1968年。
(*)(参考：大矢金節「医学用語辞典の歴史(第 69 回日本医学史学会総会特集)—(一般演題抄録)」日本医学史学雑誌14(1),1968年。)
(*)広川獬著・鈴木博解題『蘭例節用集』臨川書店,1968年。
(*)宮崎道生「西洋紀聞の完成過程」文経論叢,史学篇4,1968年。
(*)(参考：高橋重臣「イソップの絵入古版本」ビブリア：天理図書館報39,1968年。)
(*)田中克彦「戦後日本における言語学の状況」文学36,1968年。
(*)(参考：高津春繁「言語研究の二三の問題(言語研究の諸問題)」思想534,1968年。)
(*)(参考：風間喜代三「比較文法における再建の方法(同上)」思想534,1968年。)
(*)(参考：田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語文法』岩波書店,1968年。)
(*)(参考：松平千秋・國原吉之助『新ラテン文法』南江堂,1968年。)
(*)(参考：ジャン・コラール著/有田潤訳『ラテン文法』白水社,1968年。)
(*)(参考：泉井久之助『ヨーロッパの言語』岩波新書,昭和43年。)
(*)(参考:坪井一「StephanusのThesaurs Graecae(ギリシャ語辞典)—その成立と歴史について」図書館学研究報告1,1968年。)
(*)(参考：吉岡治朗「聖書翻訳上のBelieveとBelive in(1)新約聖書ギリシャ語,ラテン語,ゴート語の場合」帝塚山短期大学紀要5,1968年。)
(*)(参考：下村寅太郎「レオナルド・ダ・ヴィンチのラテン語文法のこと」21(11),1968年。)
(*)(参考：田中秀央「五つの語原について(Prosperity,Sport,System,Religion,Templeについて)」

心21(11),1968年。)
(*)(参考：オルタガ/井上正訳『大学の使命』新世界叢書3,私製,桂書房,1968年。)
(*)長谷川泉「三島作品事典(三島由紀夫 特集)」国文学33(10),1968年。
(*)遠藤祐「三島由紀夫参考文献—紹介・解説・目録」国文学33(10),1968年。
(*)伊藤正雄「<追悼>新村出博士のプロフィール」甲南大学文学会論集 39,1968 年。
(*)池上禎造「新村出博士と国語学」国語学 71,1968 年。
(*)柊源一「新村出博士略年譜」国語学 71,1968 年。
(*)柊源一「新村出博士論文著書目録抄」国語学73,1968年。
(*)奥野健男編『太宰治研究』(田中英光「太宰治さんのこと・太宰治先生に」)筑摩書房,1968年。
(*)(参考：オットー/山谷省吾訳『聖なるもの』岩波文庫,岩波書店,1968年。)
(*)(参考：ジョン・コグレー/柳川啓一訳『宗教の意味：現代世界に占める信仰の位置』現代人の教養9,エンサイクロペディアブリタニカ日本支社,1968年。)
(*)(参考：久野佐都美「ペイターのギリシャ神話研究における悲哀の情について」愛知大学文学論叢35,1968年。)
(*)(参考：酒田健一「〈新しい神話〉—フリドリヒ・シュレーゲルの世界観」ヨーロッパ文学研究15,1968年。)
(*)(参考：藤縄謙三「ギリシャ神話と風土」史林51(2),1968年。)
(*)(参考：西尾幹二「オリンポスの神々(ヨーロッパとの対話[11])」自由10(10),1968年。)
(*)(参考：久野佐都美「ペイターのギリシャ神話研究における悲哀の情について」愛知大学文学論叢35,1968年。)
(*)(参考：佐々木明「オイディプス神話とボードレールの「猫」(構造主義とは何か—レヴィ=ストロースとその周辺[現代世界の思想状況1,特集]—(第2部・構造主義の方法)」中央公論83(3),1968年。)
(*)(参考：山口清「ビランデルロの神話」日伊文化研究8,1968年。)
(*)(参考：桑原洋「ギリシアの英雄叙事詩の史実性(神話研究と歴史教育の課題,特集)」歴史学研究335,1968年。)
(*)(参考：エリアーデ/堀一郎訳『大地・農耕・女性：比較宗教類型論』未来社,1968年。)
(*)(参考：山ノ井大治「〈資料と新刊紹介〉エリアーデ著・堀一郎訳『大地・農耕・女性』宗教学年報18,1968年。)
(*)(参考：エミール/有田潤訳『ギリシア神話』白水社,1968年。)
(*)(参考：柴田明「アフロディテと三美神たち」哲学53,1968年。)
(*)(参考：グスターフ・シャルク/角信雄・長谷川洋訳『ローマ建国の英雄たち：神話から歴史へ』白水社,1968年(→1997年,新装復刊)。)
(*)(参考：高階秀爾「神々の祝祭(1,2)ルネッサンスの光と闇(21,22)」三彩237,239,1968年。)
(*)(参考：関根正雄『舊約聖書』増補版,創元選書,創元社,1968年。)
(*)(参考：荒井献「グノーシス主義の起源」一橋論叢60(2),1968年。)
(*)(参考：伊藤緑良「聖母マリア—ゲーテのファウスト悲劇最終幕に登上する意義」和光大学人文学部紀要2,1968年。)
(*)(参考：秋田稔『聖書の思想：キリスト教思想の根底』塙新書,塙書房,1968年。)
(*)(参考：ウォレス原作,クレイン原作,オールドリッチ原作,ロフティング原作『ベン=ハー,怪物,わんぱく少年物語,アメリカ文学短編集,ドリトル先生航海記』

少年少女世界の名作文学18,アメリカ編9,小学館,1968年。)
(*)(參考：弓削達『ローマ帝国とキリスト教』カラー版世界の歴史5,昭和43年。)
(*)笠井秋生「遠藤周作とキリスト教—「黄金の国」「沈黙」を中心に」日本文藝研究 20(2/3),1968 年。
(*)国谷純一郎「背教と救済—遠藤周作「沈黙」を手がかりとして」明治大学教養論集42,1968年。
(*)(參考：Fritz-Joachim von Rintelen；erläutert von Kimio Komata,Minoru Uchiyama“Das Tragische in der griechischen Geisteshaltung und unsere Zeit”Daisan-shobo,1968。
(*)(參考：T.Bulfinch;ed.with notes by Makoto Oshima“The Trojan War&adventures of Ulysses”Hokeseido Press,1968.)
(*)(參考：呉茂一『ギリシア悲劇—物語とその世界』社会思想社,現代教養文庫629,1968年。)
(*)(參考：ブルックス編/大場建治他訳『悲劇の系譜』至誠堂,1968年。)
(*)(參考：新関良三『現代のギリシャ悲劇：復活と創作(1,2)』東京堂出版,1968年。)
(*)山内登美雄「悲劇エレクトラ?—民芸公演「エレクトラ」評」テアトロ 295,1968 年。
(*)(參考：トーマス・インモース「〈展望〉日本のアリストファネス」ソフィア17(2),1968年。)
(*)海老澤有道『維新変革期とキリスト教』新生社,日本史学研究双書,1968年。
(*)(參考：沢村五郎『聖書人物伝』いのちのことば社,1968年。)
(*)左近義慈「手塚儀一郎先生のこと[略歴・著作目録]」(東京神学大学神学会)神学31,1968年。
(*)門前真一「ギュツラフ訳約翰福音之伝」天理大学報60,1968年。
(*)都田恒太郎『バックストンとその弟子たち』バックストン記念聖会,1968年(→1999年,再版。)
(*)(參考：W.バークレー/鳥羽徳子訳『使徒行伝』聖書註解シリーズ7,ヨルダン社,1968年。)
(*)(參考：カルヴァン/益田健次訳『使徒行伝(上下)』カルヴァン新約聖書註解5,6,カルヴァン著作集刊行会,新教出版社(発売),1968-73年。)
(*)(參考：松村克己『交わりの宗教：ヨハネの手紙講釈』日本基督教団出版局,1968年。)
(*)(參考：神田盾夫「Obitur Dicta」国際基督教大学報IV-B・人文科学研究4,1968年。)
(*)(參考：堀米庸三編『人物・世界史』全3巻,旺文社新書,旺文社,1968年。)
(*)山本四郎「辻蘭室伝研究—京都蘭学史上の先駆者」(有坂隆道編『日本洋学史の研究』I 所収,創元学術双書,創元社,昭和43年。)
(*)今泉源吉『蘭学の家--桂川家の人々(第2巻)』篠崎書林,1968年。
(*)柳田泉『政治小説研究(上)(中)(下)』(明治文学研究8-10.矢野龍溪,東海散士,坪内逍遙,藤田鳴鶴,久松義典,小林雄七郎等)春秋社,昭和42年(→昭43年)。
(*)久松潜一編『明治文学全集44—落合直文・上田萬年・芳賀矢一・藤岡作太郎集』筑摩書房,1968年。
(*)筑摩書房版『明治文学全集7,12,15,49』(丹羽純一郎,矢野龍溪,馬場辰猪,小野梓、ケーベル等),1968,1970,1973年。
(*)笠井秋生「芥川龍之介の切支丹物：「神々の微笑」を中心に」(百合若大臣)日本文芸論集(創刊号)1,1968 年。
(*)福田栄一「発掘の美学—會津八一のギリシア(歿後 13 年の會津八一)」短歌 15(11),1968

年。
(*)西脇順三郎「美の女神と私」三彩 238,1968 年。
(*)大塚聰英「作品研究「走れメロス」」岐阜大学国語国文学 4,1968 年。
(*)太宰治『走れメロス：思ひ出』新学社文庫,新学社,1968 年。
(*)太宰治『斜陽：走れメロス』[ティーン・エイジ向]アイドル・ブックス 57,ポプラ社,1968 年。
(*)太宰治『冨嶽百景・走れメロス：他 8 篇』改訳岩波文庫,岩波書店,1968 年。
(*)[中村清三郎・初世市川団十郎作]；富田鉄之助翻刻『百合若大臣：一張弓勢三韓退治四番続』国立劇場調査養成部芸能調査室,未翻刻戯曲 2,1968 年。
(*)横山重編『説経正本集・第 2』(百合若)角川書店,1968 年。
(*)高橋重臣「イソップの絵入古版本」ビブリア天理図書館報 39,1968 年。
(*)磯田光一「吉本隆明論—歌わざるニーチェ(戦後批評家論[7])」文芸 7(7),1968 年。)
(*)河西万文「司馬江漢の研究」都留文科大学研究紀要 5,1968 年。
(*)海軍兵学校編『海軍兵学校沿革史』原書房,1968 年。
(*)毎日新聞社編刊「長崎海軍伝習所」(『歴史はここに始まる』所収,1968 年。)
(*)福鎌達夫『明治初期百科全書の研究』風間書房,1968 年。
(*)手塚龍三『英学史の周辺』吾妻書房,1968 年。
(*)日本の英学 100 年編集部『日本の英学 100 年』(全 4 巻)研究社,1968-69 年。
(*)茂住実男「日本英語教育史の研究—そのはじまりと定着をめぐって」教育研究 14,1968 年。
(*)永峰光名(他)「姉崎正治先生と図書館」図書館雑誌 62(5),1968 年。
(*)熊野義孝「植村正久とその時代」比較文化 14,1968 年。
(*)吉田精一「評論の系譜(36,37)上田敏(1,2)」国文學 解釈と鑑賞 33(7,8),1968 年。
(*)大庭米次郎遺稿集刊行委員会編『大庭米次郎遺稿集』(ケーベル),1968 年。
(*)唐木順三「ケーベルと漱石—二つの椅子の間」(『唐木順三全集 11』所収,筑摩書,1968 年。)
(*)唐木順三「阿部次郎,倉田百三と大正期」(『唐木順三全集 11』所収,筑摩書,1968 年。)
(*)唐木順三「ゲーテとナポレオン」(『唐木順三全集 11』所収,筑摩書,1968 年。)
(*)唐木順三「アントニーとクレオパトラ」(『唐木順三全集 11』所収,筑摩書,1968 年。)
(*)唐木順三「白石とシローテ」(『唐木順三全集 11』所収,筑摩書,1968 年。)
(*)唐木順三「アレキサンダーとディオゲネス」(『唐木順三全集 11』所収,筑摩書,1968 年。)
(*)唐木順三「ダンテとベアトリーチェ」(『唐木順三全集 11』所収,筑摩書,1968 年。)
(*)E・ベルツ他著/唐木順三編『ベルツ・モース・モラエス・ケーベル・ウォシュパン集』筑摩書房,明治文学全集 49,l968 年。
(*)(参考：西村貞二『神の国から地上の国へ』文藝春秋,1968 年。)
(*)(参考：デュラント/新田一郎訳『イタリアルネサンスの展開』日本ブッククラブ,日本ブッククラブ会員版,世界の歴史,1968 年(→1970 年,4 版)。)
(*)(参考：木野嘉明「レオナルド・ダ・ヴィンチとペーター」大東文化大学紀要・文学編 6,1968 年。)
(*)(参考：ダンテ原作/野上素一訳『神曲物語』現代教養文庫,社会思想社,1968 年。)
(*)(参考：野上素一訳編『ダンテ神曲—詩と絵画にみる世界』社会思想社,1968 年。)
(*)(参考：『世界文学全集 2—カラー版・ダンテ』河出書房新社,1968 年。)
(*)(参考：谷口勇「ビランデルロのクローチェ批評：『ダンテの詩』をめぐって」イタリア

学会誌 16,1968 年。)
(*)(参考：近藤恒一「ペトラルカの最初の学習(1304-1320)：ペトラルカにおけるヒューマニズムの形成(1)」イタリア会誌 16,1968 年。)
(*)(参考：植村雅彦「「痴愚神礼賛」から見たエラスムスの諸相」大阪大学教養部研究集録 人文・社会科学 16,1968 年。)
(*)(参考：平川祐弘『ボッティチェルリ(画)』美術出版社,1968 年。)
(*)(参考：濱谷勝也「ボッティチェルリの編年について」美學 19(2),1968 年。)
(*)(参考：加藤美雄「ルネサンスの詩と近代の象徴詩」人文研究 19(11),1968 年。)
(*)(参考：原二郎訳『モンテーニュ第 2』世界古典文学全集 38,筑摩書房,1968 年。)
(*)(参考：モンテーニュ/関根秀雄訳『随想録—若い人への古典案内』現代教養文庫,社会思想社,1968 年。)
(*)(参考：田村秀夫『イギリス・ユートピアの原型：トマス・モアとウィンスタンリ』中央大学出版部,1968 年(→1978 年,増補版)。
(*)(参考：渡辺一夫「トマス・モーアとフランソワ・ラブレー」明治学院論叢 138,1968 年。)
(*)(参考：『プーシキン/ラ・フォンテーヌ/トベリウス編』母と子の世界の文豪童話シリーズ 5,研秀出版,1968 年。)
(*)(参考：ラブレー原作/ドーノワ夫人原作/ボーモン夫人原作/ラ・フォンテーヌ原作/ラマルチーヌ作/メリメ原作/ジョルジュ・サンド原作『ガルガンチュウワ物語；森のめじか；美女と野獣；ラ・フォンテーヌ寓話集；ラマルチーヌ詩；コロンバ；マテオ=ファルコーネ；愛の妖精』少年少女世界の名作文学 19,フランス編 1,小学館,1968 年。)
(*)(参考：伊吹武彦他訳『サルトル』(芥川比呂志訳「トロイアの女たち」)世界文学全集 64,筑摩書房,1968 年。)
(*)(参考：生出恭治「「トロイラスとクレシダ」--試論」(東北大学文学会)文化 32(2),1968 年。)
(*)(参考：シェイクスピア/福田恆存訳『ジュリアス・シーザー』新潮文庫,新潮社,1968 年。)
(*)(参考：矢野重治「詩と神話—William Blake の場合」室蘭工業大学研究報告,文科編 6(2),1968 年。)
(*)(参考：中岡洋「詩と神話—イエイツをめぐって」英文学 33,1968 年。)
(*)(参考：秋保慎一「イェイツとアーノルド：類似的思考を中心に」山形大學紀要,人文科學 6(3),1968 年。)
(*)(参考：秋保慎一「アーノルドにおけるクラシシズムの要素：詩理論と実作との関連において」山形大学英語英文学研究 12,1968 年。)
(*)(参考：大澤實『時間と死の芸術：V.ウルフ論』南雲堂不死鳥選書,南雲堂,1968 年(→1971 年,改装版。→1974 年,改装版)
(*)(参考：若林光夫「ラオコーン群像をめぐって：ウィンケルマン・レッシング・ヘルダー」ドイツ文學研究 16,1968 年。)
(*)(参考：藤平憲郎「ヘルダーのヴィンケルマン批判」金沢大学教養部論集 人文科学篇 5,1968 年。)
(*)(参考：新保弼彬「若きゲーテの Pietisumus 体験前後：詩と真実を中心に」独仏文學研究 18,1968 年。)
(*)(参考：戸川敬一「ゲーテの抒情詩における月」上智大学ドイツ文学論集 5・6,1968 年。)

(*)(参考：小堀桂一郎「ピグマリオン―ルソーとゲーテの一つの出会い」芸文研究 25,1968 年。)
(*)(参考：吉田正勝「若きゲーテの言語を(1)」大阪大学教養部研究集録 外国語・外国文学 16(4),1968 年。)
(*)(参考：加藤一郎「カールスのゲーテ像」甲南大学文学会論集 37,1968 年。)
(*)(参考：村井勇吾「甦れるゲーテ像」独仏文学研究 11,1968 年。)
(*)(参考：五十嵐吉信「ゲーテの「イフィゲーニェ」」人文科学研究 35,1968 年。)
(*)(参考：大久保進「若いゲーテの芸術把握について」ヨーロッパ文学研究 15,1968 年。)
(*)(参考：藤田赤二「スピノザとゲーテ―その生涯と思想」早稲田商学 205,1968 年。)
(*)(参考:上野英雄「ハーマンの『美学撮要』とヘルダー詩学(1)」富山大学教養部紀要 1,1968 年。)
(*)(参考：植田敏郎「ヘルダーの人間学：初期の著作における」一橋大学研究年報 人文科学研究 10,1968 年。)
(*)(参考:酒田健一「〈新しい神話〉―フリードリヒ・シュレーゲルの世界観」ヨーロッパ文学研究 15,1968 年。)
(*)(参考：F.メーリング/小森潔・富田弘・戸谷修共訳『レッシング伝説』(第 1,2 部)風媒社,1968-71 年。)
(*)(参考：金田民夫『シラーの芸術論』哲学全書 13,理想社,1968 年。)
(*)(参考：中田作成「ヘルダーリンにおける「両極性」の問題」大阪工業大学紀要 人文社会篇 12(1・2),1968 年。)
(*)(参考:神谷完「ヘルダーリン「平和の祝祭―解釈」の試論」龍谷大学論集 387,1968 年。)
(*)(参考:守谷敏夫「ヘルダルリン―初回ホンブルク時代前後」人文科学研究 36,1968 年。)
(*)(参考:山本実「ニーチェ対イエス―ニーチェにおけるキリスト教攻撃への一瞥」鹿児島大学文科報告 4(外国語・外国文学),1968 年。)
(*)(参考：土屋明人「ニーチェの「悲劇の誕生」：芸術類型,藝術創造の心理学」独仏文學研究 18,1968 年。)
(*)(参考：小塚敏夫「ニーチェの芸術観」岐阜大学教養部研究報告 4,1968 年。)
(*)(参考:恒吉良隆「Nietzsche-Legende の後退:最近のニーチェ研究から」文芸と思想 31,1968 年。)
(*)(参考：山崎庸佑「悲劇的なもの―ディオニュソスとアポロン(ニーチェの哲学 特集)」理想 420,1968 年。)
(*)(参考:中島義生「ディオニュソス讃歌の謎―アリアドネーの問題(ニーチェの哲学 特集)」理想 420,1968 年。)
(*)(参考：小野浩「ホメロス叙事詩のアポロ的性格―ニーチェ古代悲劇論の序章として(ニーチェの哲学 特集)」理想 420,1968 年。)
(*)(参考：森田弘「遙かなるニーチェ」ドイツ文化 8,1968 年。)
(*)三嶋憲一「鴎外と貴族的急進主義者としてのニーチェ」ドイツ文学 41,1968 年。)
(*)(参考：山下茂「愛―運命の方式について―ニーチェ〈アリアドネの嘆き〉を中心に」ドイツ文学研究 5,1968 年。)
(*)(参考:佐伯守「歴史の意味とニヒリズム―ニーチェのばあいに即して」白山哲学 6,1968 年。)
(*)(参考:高橋巖「若きヴェルフリンにおける美学と美術史(守屋謙二先生古稀記念論文集)」

哲學 53,1968 年。)
(*)(參考 : スウィフト/山本和平訳『書物合戦・ドレイピア書簡—ほか 3 編』現代思潮社,1968 年。)
(*)(參考 : 壽岳文章訳『ブレイク詩集』世界の詩 55,弥生書房,1968 年。)
(*)(參考 : スウィフト/深町弘三訳『桶物語・書物戦争』岩波文庫,岩波書店,1968 年。)
(*)(參考 : 黒田健二郎「コールリッジにおけるミルトン批評」神戸大学教育学部研究集録 40,l968 年。)
(*)(參考 : 松田実矩「美の詩人と道徳の詩人 : Edmund Spencer 批評史上の二題潮流」論集 : 神戸大学教養部紀要 5,1968 年。)
(*)(參考 : 村川堅太郎編『ギリシャとローマ』中公バックス,世界の歴史 2,中央公論社,1968 年。)
(*)(參考 : 「史学文献目録—西洋史」史學雑誌 77(9),1968 年。)
(*)(參考 : 太田秀通『ミケーネ社会崩壊期の研究 : 古典古代論序説』岩波書店,1968 年。)
(*)(參考 : 桑原洋「トロイア戦争の歴史的蓋然性」歴史学研究 336,1968 年。)
(*)(參考 : 松平千秋「ヘロドトスにおけるクセルクセス像」西洋古典學研究16,1968年。)
(*)(參考 : ヘロドトス/青木巌訳『歴史』新潮社,1968年。)
(*)(參考 : 青木巌訳著『ヘロドトス「歴史」物語 : 若い人への古典案内』現代教養文庫, 社会思想社 1968 年(→2004 年,OD 版,教養ワイドコレクション, 紀伊國屋書店(発売)。)
(*)(參考 : 小西晴雄「ツキュディデスの主観 : 考古期の構造を通して」西洋古典学研究 16,1968 年。)
(*)(參考 : 久保田正文他編『新文学の探究 : 全国同人雑誌ベスト 12』(豊田穣「あるスパルタの敗北」)野火書房,1968 年。)
(*)(參考 : 一柳俊夫「アリストテレスにおける奴隷制の問題—奴隷制社会のイデオロギーの歴史から」歴史評論 210,1968 年。)
(*)(參考 : 浅野晃『ローマ盛衰記』少年少女世界史物語 2,偕成社,1968 年。)
(*)(參考 : マティアス・グルツァー/長谷川博隆訳『カエサル』偉大な生涯 8,筑摩書房,1968 年。)
(*)(參考 : 紀仲晋「「アントニーとクレオパトラ」試論 : 歴史的意識の溶解について」神戸山手女子短期大学紀要 11,1968 年。)
(*)(參考 : 山田憲太郎「香史艶筆(28)クレオパトラの鼻」産業経理 28(12),1968 年。)
(*)(參考 : 金澤良樹「過去及び現在におけるアレクサンドロス王評価の二分裂」史潮 104,1968 年。)
(*)(參考 : エミール・ルードウィヒ/金沢誠訳,山口修訳,ピエール・ジュゲー/栗野頼之祐訳, スエトニウス/風間喜代三・田中利光訳『ナポレオン,ジンギスカン実録,アレクサンダー大王,ジュリアス・シーザー』中野好夫他編, 世界ノインフィクション全集 29,筑摩書房,1968 年。)
(*)(參考 : ジョン・アップダイク/寺門泰彦訳『鳩の羽』(アレクサンドロス)新しい世界の短編 5,白水社,1968 年。)
(*)(參考 : 土井正興「イタリアにおけるスパルタクス研究」専修人文論集 1,1968 年。)
(*)(參考 : 土井正興「スパルタクス反乱復元への一つの試み」専修史学 1,1968 年。)
(*)(參考 : 松田秀人「〈自然発性理論〉の問題とローザ・ルクセンブルク理論の特質—最近

の東独におけるスパルタクス派評価への批評として」政治研究 16,1968 年。)
(*)(参考：小栗了之『ナポレオン帝国の栄光』世界のドキュメント 8,人物往来社,1968 年。)
(*)(参考：久保喬『ナポレオン』子どもの伝記全集 12,ポプラ社,1968 年。)
(*)辻田右佐男「日本近世の地理思想(1,2)」奈良女子大学文学会研究報告 11,12,1968 年。
(*)中川浩一「「輿地誌略」雑考」地理 13(12),1968 年。
(*)海野一隆「桂川甫周の世界図について」人文地理 20(4),1968 年。
(*)海野一隆「桂川甫周の世界図」蘭学資料研究会研究報告 208,1968 年。
(*)(参考：亀井高孝・三上次男・堀米庸三編『世界史地図』新版 9 増訂,吉川弘文館,1968年。)
(*)(参考：亀井高孝他『世界史新地図』吉川弘文館,1968 年。)
(*)(参考：亀井高孝他編『世界史地図』新版 9 刷増訂,吉川弘文館,1968 年。)
(*)(参考：全国教育図書株式会社編『新世界地図』全国教育図書,1968 年。)
(*)(参考：『世界大百科事典：世界地図』平凡社,1968 年。)
(*)(参考：『世界各国地図』世界原色百科事典・別冊,小学館,1968 年。)
(*)(参考：平凡社編『ポケット世界地図』平凡社,1968 年。)
(*)(参考：『ヨーロッパ：ハンディガイド』ジス・ウィーク・イン・トーキョー,1968,1969年版,1968 年。)
(*)(参考：天理圖書舘編『西洋古版世界地圖』善本寫眞帖 30,天理圖書舘,1968 年。)
(*)(参考：「1967 年の歴史学界—回顧と展望」史學雜誌 77(5),1968 年。)
(*)(参考：上野正治「世界史像の構成に関するノート—主に比較経済史学の成果に拠って」西洋史研究(10・11),1968 年。)
(*)円子修平「一筋の連環—ヴェルナー・ケーギ著,坂井直芳訳「ブルクハルトとヨーロッパ像」」世界文学 8,1968 年。)
(*)(参考：下村寅太郎「世界史の可能根拠について—歴史哲学的試論」(日本哲学会)哲学 18,1968 年。)
(*)(参考：木村尚三郎『歴史の発見：新しい世界史像の提唱』中央公論社,1968 年。)
(*)(参考：木村尚三郎『解題世界史』学生社,1968 年。)
(*)松本芳夫『日本史学史』慶應義塾大学通信教育部,1968 年。
(*)末松保和・金沢誠「座談会 研究生活の回顧(2)：大類伸,亀井高孝両先生に聞く」学習院史学 5,1968 年。
(*)(参考:式部久「アメリカにおけるギリシア哲学研究の近況」西洋古典學研究 16,1968 年。)
(*)「古典学関係海外研究誌備えつけの現況」(関西学院大学)西洋古典學研究 16,1968 年。)
(*)磯野友彦「大西祝」フィロソフィア 53,1968 年。
(*)(参考：出隆・粟田賢三編『哲学の概念と方法』岩波講座哲学 7,勁草書房,1968 年。)
(*)天沢退二郎『青春の記録』(出隆)現代日本記録全集 16,1968 年。)
(*)久山康編『出隆自伝(正続)』出隆著作集 7,8,勁草書房,1968 年。
(*)(参考：今道友信『美の位相と藝術』東京大學文學部美學藝術學研究室,1968 年(→1971年,増補版,東京大学出版会。)
(*)(参考：桂寿一・岩崎武雄編『存在と知識』岩波講座哲学 8,岩波書店,1968 年。)
(*)田中美知太郎『哲学のために』思想との対話 8,講談社,1968 年(→1977 年,レグルス文庫77)。

(*)田中美知太郎・串田孫一「対談 哲学と人生」新刊ニュース 11 月号,1968 年。
(*)(参考：田中美知太郎・山崎正和「対談 哲学のために—対話による解説」思想との対話 8「哲学のために」所収,講談社,1968 年。)
(*)「孤独な英知の歩み 日本にギリシャ学を築いた 田中美知太郎著「哲学のために」」讀賣新聞夕刊6/27,1968年。
(*)田中美知太郎「現代と宗教 超越性を取り戻せ」讀賣新聞朝刊11/3,1968年。
(*)「混乱期の自由な魂 田中美知太郎全集第1巻 清新な文体で冷徹な思索」讀賣新聞朝刊12/3,1968年。
(*)文化「理事長に田中[美知太郎]氏「日本文化会議」が発足」東京朝日新聞朝刊6/11,1968年。
(*)「山本光雄教授略歴・主要著訳書及び論文」人文学報 68,1968 年。
(*)峰島旭雄「明治期における西洋哲学の受容と展開(1-9)」(西周,西村茂樹,清沢満之、大西祝,井上円了,井上哲次郎,高山樗牛)早稲田商学 210,205,1968 年// 211,216,219,1970 年//223,226,1971 年// 229,232,1972 年。
(*)參考：ヒルティ/秋山英夫訳『幸福論』(角川文庫,角川書店,1968 年(→1969 年,改版。)
(*)參考 : 堀秀彦解説「ヒルティ/秋山英夫訳「幸福論」(同『幸福について』所収,角川書店,1968 年。)
(*)參考：金子武蔵編『西洋古代中世編』世界倫理思想史叢書 1,学芸書房,1968 年。)
(*)福田定良「自伝的喜劇論—ソフィスト出でよ(「現代」のイメージ〈特集〉)」思想の科学 第 5 次 82,1968 年。
(*)參考：松本厚「FURLEY,D.J.,Two Studies in the Greek Atomists,Princeton U.P.,1967」西洋古典學研究 16,1968 年。)
(*)(參考：ゴットフリード・マルティン/久野昭訳『ソクラテス』理想社,1968 年。)
(*)(參考：齋藤信治『ソクラテスとキェルケゴール—イロニーの概念』哲学選書,学芸書林,1968 年。)
(*)(參考：R.グァルディーニ/山村直訳『ソクラテスの死』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,1968 年。)
(*)(參考 : 副島民雄「古語異論抄—存在論におけるプラトンとアリストテレスの間」お茶の水女子大学人文科学紀要 21(1),1968 年。)
(*)(參考：本野亨一「茶の間のソクラテス—プラトンの対話編とテレビ・ドラマ(Joseph Pieper；Kummert euch nicht um Socters-Drei Fernsehspiel)」放送学研究 18,1968 年。)
(*)(參考：水波朗「カール・ポパー『「拓いた社会とその敵」第一巻：プラトンの呪文』/ジョン･ワイルド『プラトンの現代の的と自然法論』」法政研究 34(4),1968 年。)
(*)(參考：出隆監修・山本光雄編『アリストテレス全集(全 17 巻)』岩波書店,1968 年—1973 年。)
(*)(參考：茂手木元蔵「アリストテレスの矛盾：西洋古典哲学への道(哲学への道)」理想 419,1968 年。)
(*)(參考：堀田彰『アリストテレス』Century books 人と思想 6,清水書院,1968 年。)
(*)(參考 : 坪井一「アリストテレスの「自然学」の一考察—不動の動者について」思索 1,1968

年。)
(*)(参考：藤澤令夫「アリストテレス哲学の問題性」図書 4 月号,1968 年。)
(*)(参考：加藤信朗「古ストア派における προηγμονεννκαθηκον について」(東京都立大学人文学報編集委員会)人文学 68,1968 年。)
(*)(参考：鹿野治助責任編集『キケロ；エピクテトス；マルクス・アウレリウス』世界の名著 13,中央公論社,1968 年(→1980 年,世界の名著 14,中公バックス,中央公論社,。)
(*)(参考：鈴木照雄「精神の強さ,あるいは,弱さ—マルクス・アウレリウス「自省録」をめぐって」(神戸商科大学学術研究会)人文論集 4(1・2),1968 年。)
(*)(参考:須永梅尾「ファウストゥスとアガピウス—古代末におけるマニ教的異端の一考察」文化史学 23,1968 年。)
(*)(参考：長沢信寿「第 4 回国際中世哲学会に出席して」中世思想研究 10,1968 年。)
(*)(参考：金子武蔵編『西洋古代中世編』世界倫理思想史叢書 1,学芸書房,1968 年。)
(*)(参考:ヨゼフ・ビーバー/稲垣良典訳『キリスト教的人間像について』エンデルレ書店,1968 年。)
(*)(参考：山田晶責任編集『アウグスティヌス』世界の名著 14,中央公論社,1968 年。
(*)(参考：清水正照『アウグスティーヌス形而上学研究：アウグスティーヌスにおけるパウロ書翰と新プラトン主義』錦正社,1968 年。)
(*)(参考：今道友信「アウグスティヌスにおける超越の問題(1)(中世哲学と現代)」理想 435,1968 年。)
(*)(参考:赤井彰・山上正太郎『ヨーロッパのめざめ:ルネサンス』集英社,世界の歴史 7,1968 年。)
(*)(参考：矢島幹雄「ジョナサン・エドワーズに見られるネオ・プラトン主義的要素」帝塚山大学紀要 4,1968 年。)
(*)(参考：藤井義夫『哲学と人間形成：ギリシャ人の智慧』学芸書房,学芸叢書,1968 年。)
(*)(参考：服部英太郎・藤沢令夫編『哲学の歴史(1,2)』岩波哲学講座 16,17,岩波書店,1968 年。)
(*)(参考:アンドレ・ロビネ/篠田浩一郎・望月一雄訳『フランス哲学史』文庫クセジュ 436,白水社,1968 年。)
(*)(参考：堀秀彦解説『幸福について』(ヒルティ/秋山英夫訳「幸福論」,世界の人生論 7,角川書店,1968 年。)
(*)三谷隆正『幸福論』(高橋三郎解説)新教新書 144,1968 年(→1996 年,同『幸福論』[座談会三谷隆正先生の人と思想]岩波文庫)。
(*)末松保和・金沢誠「座談会・研究生活の回顧(2)大類伸、亀井高孝両先生に聞く」学習院史学 5,1968 年。
(*)助川徳是「安倍能成年譜」香椎潟 14,1968 年。
(*)山本嘉太郎「和辻哲郎の思想」北海道教育大学紀要 第 1 部 A,人文科学 19(2),1968 年。
(*)「名誉教授藤井義夫年譜抄・著作目録」一橋論叢 60(2),1968 年。
(*)住谷悦治『あるこころの歴史』(三瀬諸淵)同志社大学住谷篠部奨学金出版会,昭和 43 年。
(*)イソップ著/大阪教育図書編集部編『イソップ物語=Aesop’s fables』大阪教育図書,1968 年。
(*)教育童話研究会『イソップのお話』オールカラー版,世界の童話 16,小学館,1968 年。
(*)三浦靭郎『イソップ名言集』世界名言集 12,ポプラ社,1968 年。

(*)(参考：Rudolf Hagelstange 著/郁文堂編集部編注“Fabeln des Aesop”郁文堂,1968 年。
(*)菅野浩和作曲・野上彰台本『イソップの森：歌劇：序景：終景つきの四話』楽譜,蝸牛出版,1968 年。
(*)菅野浩和作曲・編曲/牧宏一作詞『きつねとつるの話：合唱劇イソップ物語より』楽譜,蝸牛出版,1968 年。
(*)菅野浩和作曲・編曲/牧宏一作詞『鶏を殺した召使いたち：合唱劇イソップ物語より』楽譜,蝸牛出版,1968 年。
(*)阪田寛夫詩・小倉朗作曲『イソップ物語：混声合唱と打楽器のための組曲』楽譜,日本放送出版協会,1968 年。
(*)(参考：ラブレー原作/ドーノワ夫人原作/ポーモン夫人原作/ラ・フォンテーヌ原作/ラマルチーヌ作/メリメ原作/ジョルジュ・サンド原作『ガルガンチュワ物語,森のめじか,美女と野獣,ラ・フォンテーヌ寓話集,ラマルチーヌ詩,コロンバ,マテオ=ファルコーネ,愛の妖精』少年少女世界の名作文学19,フランス編1,小学館,1968年。)
(*)イソップ原作/川端康成文・杉全直絵『イソップ2』フレーベル館,1968年。)
(*)安部公房『安部公房集』(「イソップの裁判」)日本文学全集85,1968年。
(*)高橋重臣「イソップの絵入古版本」ビブリア；天理図書館報39,1968年。
(*)井上章『天草版伊曽保物語の研究』風間書房,1968年。
(*)大友信一「「幸若舞曲」本文の研究序説」岡山大学教育学部研究集録25,1968年。
(*)河野与一「知らない、知らない、知らない」岩波版『波多野精一全集』月報12月号,昭和43年。
(*)(参考：河野与一「『問題集』と眼の話」岩波版『アリストテレス全集』月報11月号,昭和43年。)
(*)(参考：小林文次他執筆『西洋建築史』新訂版・増補改訂・建築学大系5,彰国社,1968年。)
(*)(参考：堀内清治「地中海建築研究について(西洋建築史の研究と教育,特集)」建築雑誌83(990),1968年。)
(*)(参考：堀内清治「地中海地域の都市と建築に関する総合的研究(科学試験研究・建設技術研究概要,昭和42年度)」建築雑誌83(999),1968年。)
(*)(参考：渡辺達三「古典古代の広場の成立と展開」造園雑誌32(4),1968年。)
(*)(参考：小寺武久「646 ローマ時代の地中海都市における列柱道路について」東海支部研究報告集6,1968年。)
(*)「最古の〈建築の本〉—森田慶一訳の〈建築書〉」近代建築22(9),1968年。
(*)(参考：山口広「アメリカにおける建築史研究(西洋建築史の研究と教育[特集])—(欧米における建築史研究の動向)」建築雑誌83(990),1968年。)
(*)(参考：兼田啓一「北ヨーロッパと西洋建築史S.E.ラスムッセン教授と北欧学者(西洋建築史の研究と教育[特集])—(欧米における建築史研究の動向)」建築雑誌83(990),1968年。)
(*)(参考：桐敷真次郎「西洋近世建築史研究の動向(西洋建築史の研究と教育[特集])—(欧米における建築史研究の動向)」建築雑誌83(990),1968年。)
(*)(参考：相川浩「ルネサンス・イタリア ブルノー・ゼビーの建築史論と,アンドレア・パルラディオの研究状況をめぐって(西洋建築史の研究と教育[特集])」建築雑誌83(990),1968年。)
(*)(参考：堀内清治「地中海建築研究について(西洋建築史の研究と教育[特集])」建築雑誌

83(990),1968年。)
(*)「建築史・意匠・建築論関係文献目録：昭和39(1964)年(西洋建築史の研究と教育[特集])」建築雑誌83(990),1968年。
(*)相川浩他「日本における西洋建築史の研究と教育(座談会)(西洋建築史の研究と教育[特集])」建築雑誌83(990),1968年。
(*)(参考：小林文次「西洋建築史の動向と教育(西洋建築史の研究と教育[特集])—(欧米における建築史研究の動向)」建築雑誌83(990),1968年。)
(*)(参考：田中実『自然科学概論』森北出版,1968年。)
(*)(参考：三宅剛一『數理哲學思想史』(「ギリシア」)学芸書房, 1968年。)
(*)高橋利衛「二つの「数学の歴史」(近藤洋逸編と森毅著)」世界296,1968年。
(*)(参考：丸山次雄「ガラス古代史ノート(1-17)」セラミックス3(1,3,5,7,9,11),1968年/4(1,3,5,7,9,12),1969年/5(1,3,9,11),1970年。)
(*)(参考：ロバート・J.フォーブズ/赤木昭夫訳『技術と文明：機械と人間の対決と調和』エンサイクロペディアブリタニカ日本支社,現代人の教養7,1968年。)
(*)(参考：S.リリー/伊藤・小林・鎮目訳『人類と機械の歴史』(増補版)岩波書店,1968年。)
(*)(参考：田中美知太郎・吉川幸次郎・川喜田愛郎・渡辺格「座談 生命の世紀」潮7月号,1968年。)
(*)(参考：Hans Prinz「雷の神話と科学」電氣學會雜誌88(954),1968年。)
(*)(参考：楢崎正雄「エーゲ文明の体育：古代オリンピック大会以前の体育」福岡大学文理論叢12(3),1968年。)
(*)(参考：高島実・見形道夫「327ポリス体育の原型としてのホメロスの価値」体育学研究12(5),1968年。)
(*)(参考：鈴木良徳『オリンピックの歩み』少年少女体育全集2,ポプラ社,1968年。)
(*)(参考：リチャード・アーマー/林克己訳『それはヒポクラテスから始まった：呪術から電子医学まで』ハヤカワライブラリー,早川書房,1968年。)
(*)(参考：多和健雄「345.トーマス・アーノルドの体育観」体育学研究12(5),1968年。)
(*)小川鼎三『解体新書』中公新書,昭和43年。
(*)(参考：日本歯科大学編『和英独ラ 歯科用語集』日本歯科大学,1968 年。)
(*)(参考：井上清恒『医学史概説』内田老鶴圃新社,1968 年(→1971 年,増補訂正版。→1979 年,第 4 版。→1984 年,増補訂正第 3 版)。)
(*)(参考：リチャード・アーマー/林克己訳『それはヒポクラテスで始まった：呪術から電子医学まで』ハヤカワライブラリー,早川書房,1968 年。)
(*)(参考：大矢金節「医学用語辞典の歴史(第 69 回日本医学史学会総会特集)—(一般演題抄録)」日本医学史学雑誌 14(1),1968 年。
(*)(参考：三木栄他「再び「体系・世界医学史」について(第 69 回日本医学史学会総会特集)—(一般演題抄録)」日本医学史学雑誌 14(1),1968 年。)
(*)村上陽一郎『日本近代科学の歩み』三省堂新書,三省堂,1968 年。
(*)日本学士院明治前日本科学史編纂会編『明治前日本科学史 総説・年表』日本学術振興会,1968 年。
(*)(参考：山本一清『星座とその伝説』恒星社厚生閣,1968 年。)
(*)有坂有道「享和期における麻田流天学家の活動をめぐって--「星学手簡」の紹介」(有坂有道編『日本洋学史の研究 1』所収,創元社,1968 年。)

(*)佐藤政次編著『日本暦学史—付・宣明暦の研究』駿河台出版社,1968 年。
(*)佐藤政次『暦学史大全』駿河台出版社,1968 年(→1977 年,改訂増補版。)
(*)板倉聖宣『日本理科教育史』第一法規出版,1968 年。
(*)杉仁「技術の思想史への一試論」民衆史研究 6,1968 年。
(*)田中実「科学史序説(9)—近代日本の科学」教育 18(1),1968 年。
(*)藤原暹「鶴峯戊申の「窮理学」と「開国論」」日本思想史研究 2,1968 年。
(*)大沼正則「日本物理化学史」人文自然科学論集 18,19,1968 年。
(*)坂口正男「「舎密開宗」における科学命名法」科学史研究 85,1968 年。
(*)坂口正男「「舎密開宗」の薬学関係引用書について」科学史研究 86,1968 年。
(*)藪内清「東と西の天文学—その発達と特質」東洋学術研究 6(9),1968 年。
(*)伊東俊太郎「思想史のなかの数学(座談会)」数理科学6(5),1968年。
(*)伊東俊太郎「転び伴天連の偉業—沢野忠庵の再評価」中央公論83(11),1968年。
(*)伊東俊太郎「アリストテレスと日本—わが国における西欧的世界像の最初の受容」(東京大学教養学部教養学科)教養学科紀要1,1968年。
(*)(参考:J.クチンスキー/良知・小川訳『労働の歴史』法政大学出版局,1968年。)
(*)(参考:田中美知太郎他『対話 日本の課題』潮新書36,潮出版社,1968年。)
(*)(参考:田中美知太郎・貝塚茂樹他「座談 中道主義と政治の理想」(『対話 日本の課題』所収,潮新書36,潮出版社,1968年。)
(*)(参考:橋本昭一「Edgar Salin著「政治経済学—プラトンから現代に至る経済政策理念の歴史(Politische Oikonomie,Geschichte der Wirtschaftpolitischen Ideen von Platon bis zur Gegennwart,第5版,1967)」関西大学経済論集18(2),1968年。)
(*)(参考:水波朗「カール・ポパー『「開いた社会とその敵」第一巻:プラトンの呪文』/ジョン・ワイルド『プラトンの現代の敵と自然法論』」法政研究34(4),1968年。)
(*)(参考:馬場典明「共和末・帝政初期のローマ鉱山業の状態—イータリア及び西部諸属領における」史淵100,1968年。)
(*)(参考:ペチルカ,J.「奴隷制的構成体とアジア的生産様式にかんする論争についての所見[ソ連科学アカデミー歴史部会「古典古代的社会—古典古代問題研究会議論文集」1967所収](アジア的生産様式と奴隷制的構成体—ペチルカとニキフォロフの見解の紹介)」東亜経済研究41(3・4),1968年。)
(*)(参考:『西洋史学論集:小林栄三郎先生・今井陸郎先生還暦記念』九州大学文学部西洋史研究室還暦記念事業会,1968年。)
----馬場典明「ローマ鉱山業に於ける奴隷制と「コローヌス」制:Leges Metallorum再考」
森祐三「ワレリウス・ホラティウス法以後におけるプレブスの権利闘争について:ローマ共和制初期についての一考察」
(*)(参考:今井直重『プラトンの国家論の研究』京都大学,文学博士,乙第1120号,1968年。)
(*)(参考:大江善男「前5世紀・アテーナイの将軍職について—ペリクレースの政治権力を理解するために」西洋史研究(10・11),1968年。)
(*)(参考:平田隆一「エトルスキの政務官職—タルクィニア及びムサルナの碑文史料の検討」西洋史研究(10・11),1968年。)

(*)(参考 : 湯川秀樹責任編集『平和の思想』(久野収「二つの平和論—エラスムスとカント」) 雄渾社,1968年(→1973年,戦争と平和シリーズ6)。)
(*)(参考井上昌保「R.H.トーニーとA.D.リンゼイ—ふたつのホランド記念講演をめぐって」 西洋史学77,1968年。)
(*)蠟山政道『叢書名著の復興 学生版 日本における近代政治学の発達』新泉社, 昭和43年 (←昭和24年, 同『日本における近代政治学の発達』)。
(*)(参考 : 渡辺金一『ビザンツ社会経済史研究』岩波書店,1968年。)
(*)(参考 : ビグレフスカヤ/渡辺金一訳『ビザンツ帝国の都市と農村 : 4-12世紀』歴史学叢書, 創文社.1968年。)
(*)久保田恭平「幕末遣外使節と万国公法移入」函館大学論究3,1968年。
(*)(参考 : 古林祐二『古代ギリシャ法廷技術と自然法と関係について』古代ギリシャ法研究3,赤坂書房,1968年。)
(*)(参考 : 古林祐二「海上保険契約の起源と特別妨訴抗弁について(古代ギリシャ法廷技術研究[2])」福岡大学法学論叢12(4),1968年。)
(*)(参考 : 古林祐二「古代ギリシャの海上冒険消費賃貸契約とラークリュイトス事件について(古代ギリシャ法廷技術研究[3])」福岡大学法学論叢13(1),1968年。)
(*)(参考 : 古林祐二「補記「海商法の起源について」」福岡大学法学論叢13(1),1968年。)
(*)稲田晃「古林祐二著「自然法と正義の現代的意義」(福岡大学法学論叢11巻2号)」法制史研究1968(18),1968年。
(*)(参考 : 船田享二『ローマ法』改版,ローマ法,岩波書店,1968年(→1972年)。)
(*)(参考 : 柴田光蔵『ローマ法裁判制度研究 : 元首制時代を中心として』京都大学,法学博士,乙第1476号,1968年。)
(*)(参考 : 栗生武夫『ビザンチン期における親族法の発達』清水弘文堂書房,1968年。)
(*)「寺田四郎博士略歴・著作目録」上智法学論集11(2・3),1968年。
(*)(参考 : 田中周友『法学概論』新版,有信堂,1968年。)

(*)(参考 : 山中隆次「マルクス思想の出立点--「学位論文」(1841年)を中心に」経済理論108, 1969年。)
(*)(参考 : 岡野哲士「FARRINGTON,B.,The Faith of Epicurus,London,1967.」西洋古典學研究17,1969年。)
(*)小笠原孝次『言霊百神 : 古事記解義』東洋館出版社,昭和44年。
(*)古代学協会編『古代文化論攷 : 浜田耕作先生追憶』古代学協会,1969年。
(*)渡辺保「トロイ・パリ・東京—四季・日生提携公演「トロイ戦争は起こらないだろう」(上演劇評)」テアトロ319,1969年。
(*)(参考 : M.ライヒ=ラニッキ一編『創られた真実』(シュテファン・ヘルムリーン/丸山匠訳「アルカディアの悲劇」・シュテファン・アンドレス/三城満禧訳「クサンティッペの弁明」・アンナ・ゼーガース/大久保健治訳「アルゴー船」)狂信の時代・ドイツ作品群,學藝書林,1969年。)
(*)(参考 : 小林路易「「文明圏文学」の成立—比較文学の脱皮について」比較文学年誌5,1969年。)
(*)(参考 : 荒松雄他編『古代オリエント世界 ; 地中海世界(1)』岩波講座世界歴史1,岩波書店,1969年。)

----並木浩一「東地中海沿岸諸国の隆替：前1200年まで」
関根正雄「イスラエルにおける政治と宗教」
太田秀通「総説」
太田秀通「エーゲ文明とホメロスの世界」
藤縄謙三「ポリスの成立」
清永昭次「国政推転のダイナミズム」
安藤弘「重装歩兵の発展と貴族社会」
岩田拓郎「アテナイとスパルタの国制」
(*)(参考：『ヘレニズム』世界歴史シリーズ4,世界文化社,1969年。)
-----松田寿男「ヘレニズムの跡をたずねて」
松田寿男「シロクロードを歩いた人たち」
松田寿男「イラン世界の展望」
松田知彬「アレクサンドロス大王の東征とイラン世界」
松田知彬「地中海縁辺のヘレニズム」
内藤みどり「パルティアとバクトリア」
岡崎敬「パルティアとササン朝の文化」
佐藤圭四郎「ササン朝の栄え」
井岡畯「ペルシアの神々」
松田寿男「パミールの東西」
池田百合子「さいはてのヘレニズム」
古賀登「東亜におけるグレコ・イラン文化」
松本弘「唐代の音楽」
(*)(参考：座右宝刊行会編『聖書の国』世界歴史の旅2,小学館,1969年。)
(*)(参考：座右宝刊行会編『大帝国ローマ』世界歴史の旅4,小学館,1969年。)
(*)(参考：座右宝刊行会編『西アジアとイスラムの国』世界歴史の旅5,小学館,1969年。)
(*)(参考：座右宝刊行会編『ルネサンスの旅』世界歴史の旅7,小学館,1969年。)
(*)座右宝刊行会編；小田実・前田正明・川島重成・三浦一郎・戸張智雄・シオリス,イォルゴス・藤井義夫『ギリシア・エーゲ海』世界の旅,河出書房新社,1969年。
(*)(参考：高階秀爾「キリコ・地中海の白日夢--〈占師の償い〉をめぐって(現代への道標[7])」美術手帖315,1969年。)
(*)高橋睦郎「地中海のバルバロス—エルサレム・アテネ・ロ-マへの旅」海1(6),1969年。
(*)瀬川三郎『ギリシア風土と文化』未来社,1969年。
(*)Michitaro Tanaka『The Acropolis』(The Beautiful World no.12)Kodansha International LTD, 1969.
(*)(参考：D.H.ロレンス/鈴木新一郎訳『エトルリア遺跡』不死鳥社,1969 年。)
(*)伊藤慶之助「ナウプリアからオリンピアへ」大手前女子大学論集 3,1969 年。)
(*)(参考：林玉樹「「太陽のオリンピア」(作品研究)」映画評論 26(12),1969 年。)
(*)(参考：佐藤信一・外園一人『オリンピアの研究：オリンピア遺跡と古代オリンピア競技』歩兵出版,1969 年。)
(*)(参考：外山茂「ギリシア雑感—アテネとデルフィ」社会思想研究 21(8),1969 年。)
(*)(参考：河口清巳編輯・呉茂一監修『有島生馬選集』実川美術,1969 年。

(*)(参考：小川鼎三「アッピア街道(道路 未来像・注文・雑感)」道路 335,1969 年。)
(*)(参考：金子武蔵「クリスト教について(36)イスラエルの都市とギリシャの都市(5)」心 22(4),1969 年。)
(*)田中隆尚「シチリア遍歴(9,10,11・完)」心 22(4,12),1969 年/23(6),1970 年。。
(*)竹山道雄「エーゲ海のほとり(1-3)」自由 11(11,12),1969 年//12(1),1970 年。
(*)竹山道雄「私の文化遍歴」文藝往来 3(8),1969 年。
(*)(参考：木村直司「イタリアにおけるゲーテの異教性(1,2)」上智大学ドイツ文学論集(5・6,1969 年/8,1971 年。)
(*)『シルクロード「文化館」：砂漠と遺跡のみち』宝塚ファミリーランド,1969 年。)
(*)(参考：『ビザンツとスラブ』世界歴史シリーズ 8,世界文化社,1969 年。)
(*)(参考：山中謙二『地理発見時代史』吉川弘文館,1969 年。)
(*)(参考：柳宗玄・高橋栄一編『ビザンティンの世界』世界の文化史蹟 11,講談社,1969 年(→1978 年,再版)。)
(*)(参考：座右宝刊行会編『トルコ・西アジア』世界の旅 4,河出書房新社,1969 年。)
(*)(参考：N.Guschow/伊藤哲夫訳「イスタンブールとトルコの都市」SD62,1969 年。)
(*)(参考：前嶋信次「マルコ・ポーロとアレクサンドロス伝説(1)」史学 41(4),1969 年。)
(*)(参考：平川祐弘『マッテオ・リッチ伝』(3 冊)東洋文庫平凡社,1969-1997 年(→2007 年,ワイド東洋文庫 141)。)
(*)井上靖『西域物語』朝日新聞社,1969 年。
(*)桑原隲藏著/楊鍊譯『張騫西征考』臺 1 版人人文庫,臺灣商務印書舘,1969 年。
(*)平等通昭『古き印度の旅：印度仏蹟紀行』印度学研究所,仲光社,1969 年。
(*)上原和『聖徳太子』東洋美術選書,三彩社,1969年(→1977年,再版)。
(*)(参考：望月照和「近代以前の東西交渉についての主題学習(世界史Bにおける主題学習,特集)」歴史教育17(2),1969年。)
(*)杉本勲「洋学の伝来」歴史教育17(2),1969年。
(*)板澤武雄『日蘭文化交渉史の研究』吉川弘文館,1969年。
(*)高原健吉「文明の同時性(こころ)の体参者(上下)—三浦新七の生涯」思想の科学第 5 次 84,85,1969 年。
(*)(参考：L.ザイドレル/中山一郎訳『アトランチス大陸』大陸書房,1969年。)
(*)(参考：コルゲン・シュバヌート/林剛至訳『北海のアトランチス』大陸書房,1969年。)
(*)(参考：インゲフォン・ヴィーゼ/大塚勇三訳『夢を掘りあてた人：トロイアを発掘したシュリーマン』岩波の愛蔵版25,岩波書店,1969年(→1977年,再版)。)
(*)(参考：荒川秀俊『異国漂流物語』現代教養文庫,社会思想社,1969年。
(*)(参考：下村寅太郎「ブルクハルト小論(1-5)」心22(8),1969年/23(5,6,7,8),1970年。)
(*)(参考：笠信太郎『思想・経済・経済学』(「シュペングラーの歴史主義的立場」)笠信太郎全集8,朝日新聞社,1969年。)
(*)(参考：A.J.トインビー/「歴史の研究」刊行会訳『歴史の研究(25巻)』経済往来社,1969年。)
(*)(参考：アーノルド・トインビー/長谷川松治訳『歴史の研究(1-3)』社会思想社,1969年。)
(*)(参考：池田進「比較教育学における巨視的アプローチとしてのトインビー史観について—比較教育学の可能と限界(3)」京都大学教育学部紀要15,1969年。)
(*)(参考：谷川徹三「トインビー博士に」世界281,1969年。)

(*)(参考 : 山口光朔「現代の偶像(29)トインビー—世界史の構築」朝日ジャーナル11(17),1969年。)
(*)(参考：秀村欣二・清永昭次訳『トインビー』世界の大思想(34)II-15,河出書房新社,1969年。)
(*)(参考：山本新『トインビーと文明論の争点』哲学思想叢書,勁草書房,1969年。)
(*)(参考：増田四郎・堀米庸三編『新しい歴史象』(堀米庸三「文明論と歴史論：一つのトインビー批判」)講座日本の将来8,潮出版,1969年。)
(*)(参考：アーノルド・トインビー/山口光朔・増田英夫訳『回想録(1,2)』オックスフォード大学出版局,1969年。)
(*)(参考 : マタイス・アンセルモ「オルテガの大学論に就いて(大学論,特集)」実存主義47,1969年。)
(*)郡司正勝「ヨーロッパ文芸・演劇紀行(5)—希臘・羅馬の悲歌」国文学 解釈と教材の研究14(13),1969年。
(*)郡司正勝「ヨーロッパ文藝・演劇紀行(6)—花の伊太利」国文学 解釈と教材の研究14(15),1969年。
(*)辻邦生「ユリアヌスの浴場跡—「背教者ユリアヌス」を書くにあたって」海 1(1),1969年。
(*)(参考：アンドレ・グラバール/辻佐保子訳『ユスティニアヌス黄金時代』人類の美術 10,新潮社,1969 年。)
(*)デ・サンデ/泉井久之助他訳『デ・サンデ天正遣欧使節記』雄松堂書店,新異国叢書5,1969年。)
(*)(参考：新規矩男『メトロポリタン美術館』講談社,世界の美術全集 10,1969 年(→1973 年,再版)。)
(*)(参考：三輪福松「アフロディーテの首 大理石彫刻(名品鑑賞)」古美術27,1969年。)
(*)(参考：三輪福松「芸術家の手紙(3,4)ミケランジェロ(1,2)」三彩241,243,1969年。)
(*)(参考：下村寅太郎『ルネッサンスの藝術家：精神史的研究』筑摩書房,1969年。)
(*)(参考：川島清吉『世界の大学：レポート』葵書房,1969年。)
(*)(参考：『現代教養百科事典10(美術)』(「エーゲ海・ギリシア・ローマの美術」「ルネサンスの美術」「飛鳥白鳳時代の美術」)暁教育図書,1969年。)
(*)(参考：大矢全節『ラテン医薬辞典[附・ラテン小文典]』金原出版,1969年。)
(*)(参考：関根文之助編『キリスト教用語辞典』改訂版,創元社,1969年。)
(*)(参考：小林珍雄編『キリスト教用語辞典』7版,東京堂,1969年。)
(*)(参考：金子武蔵編『倫理学事典』弘文堂,1969年。)
(*)(参考：松平千秋・國原吉之助『新ラテン文法』第2改訂版,南江堂,1969年。)
(*)(参考：大谷恒彦「ドイツ文学における若干のラテン語の引用について」言語科学 5,1969年。)
(*)(参考 : 高塚洋太郎「中世プロヴァンス語におけるラテン語—ct—の発展形について」(関西学院大学)人文論究 19(4),1969 年。)
(*)(参考：黒田正利「「Schole」：学校とその教育遡源」龍谷大学論集 389,1969 年。)
(*)(参考：アントワーヌ・レオン/池端次郎訳『フランス教育史』文庫クセジュ,白水社,1969年。)
(*)(参考：田口仁久「M.アーノルドにおける教養と教育」教育哲学研究 19,1969 年。)

(*)(参考：務台理作・谷川徹三・上原專祿監修：原一郎編『ヒューマニズムの史的展開』(初版；昭和 31 年刊)宝文館出版,1969 年。)
(*)直原利夫「日本仏語史(1-4)」天理大学学報64,1969年/86,90,1973年/97,1974年。
(*)西堀昭「幕末の横浜に設立された仏蘭西語学伝習所の成立と背景—わが国における仏語(教育)史(1-8)」千葉商大論叢A 11-18,1969-1972年。
(*)佐藤良雄「鳥海松亭の「音韻啓蒙」と蘭学について」蘭学資料研究会研究報告223,1969年。
(*)菅野陽「ショメル・オランダ語版について」岸學資料研究会研究報告228,1969年。
(*)広田栄太郎『近代訳語考』東京書籍,昭和44年。
(*)森岡健二編『近代語の成立』明治書院,1969年。
(*)広田栄太郎『近代訳語考』東京書籍,昭和44年。
(*)「柳田泉著・編・翻訳書目録」日本古書通信 34(7),1969 年。
(*)「故柳田泉先生著述目録(昭和40年以降)」国文学研究40,1969年。
(*)「国語学 73 集「新村出博士論文著書目録抄」補訂」国語学 76,1969 年。
(*)「新村出先生略譜・著書目録(故新村会長追悼)」言語研究54,1969年。
(*)天野敬太郎編『日本マックス・ヴェバー書誌：Max Weber 1864-1920』マックス・ヴェーバイの思想像・別冊附録,新泉社,1969年。
(*)(参考：永井道雄「自治とは何か—世界史のなかの大学」中央公論84(3),1969年。)
(*)(参考:呉茂一･江上波夫･並河亮･松下紀久雄「座談会 出雲神話の世界」太陽[7]11(77),1969年。)
(*)田中英光『オリンポスの果實』(第5集20)[阿部知二他編]現代日本文学・昭和戦前編,雨の日文庫,麦書房,1969年。
(*)『名作集(1-3)』(田中英光『オリンポスの果實』)日本文学全集86-88,1969年。
(*)尾崎秀樹編『愛をつくるもの:文学にみる女性の生き方』(田中英光「オリンポスの果実」)銀河選書14,大和書房,1969年。
(*)(参考：種村季弘「K.ケレーニイと迷宮の構想(人間と世紀(4))」SD53,1969年。)
(*)(参考：ミルチャ・エリアーデ/風間敏夫訳『聖と俗：宗教的なるものの本質について』叢書ウニベルシタス14,法政大学出版会,1969年(→2014年,新装版,前野佳彦訳)。)
(*)(参考：呉茂一『ギリシア神話』新潮社,1969年(→1970年,再版)。)
(*)(参考：トーマス・ブルフィンチ作/三浦朱門訳,バーバラ・リーオニ=ピカード作/鈴木武樹訳『ギリシア神話；北欧神話』少年少女世界文学全集14,学習研究社,1969年。)
(*)(参考：アイザック・アシモフ/間二郎訳『ギリシャ・ローマ神話のことば』アシモフ7,共立出版,1969年。)
(*)(参考：ホーソン/中川正文訳・田島征彦絵『ギリシア神話：ワンダ・ブック』文研児童読書館,外国名作1,文研出版,1969年。)
(*)(参考：松村仙太郎「神話への回帰」法政大学教養部紀要13,1969年。)
(*)(参考：尾崎宏次「「アポロンの地獄」を見て」悲劇喜劇22(5),1969年。)
(*)(参考：三輪福松「アフロディーテの首 大理石彫刻(名品鑑賞)」古美術27,1969年。)
(*)(参考：牧野純夫「ヴィーナスと古典社会」東京経済大学人文自然科学論集22,1969年。)

(*)(参考：佐々木英也[他]「ルーベンスの裸体像(特集 バロックのヴィーナス)」みずゑ775,1969年。)
(*)(参考：三輪福松「ルーベンスと生の歓喜(特集 バロックのヴィーナス)」みずゑ775,1969年。)
(*)(参考：山内貴美夫「デュメジルと神話学」思想536,1969年。)
(*)(参考：ダレス・アヴェリー「象徴・神話・聖書の啓示」神学ダイジェスト16,1969年。)
(*)(参考：新倉俊一「ゲリー・スナイダー—神話と本文」英語青年115(2),1969年。)
(*)(参考：久米博「神話と解釈：ポール・リクールの解釈学をめぐって」一橋論叢61(2),1969年。)
(*)(参考：木村治美「ランボオにおける神話とオフェリア—比較文学的検討」千葉工業大学研究報告,人文編9,1969年。)
(*)(参考：小川英雄「ミトラ教の起源について」宗教研究42(4),1969年。
(*)(参考：島田俊匡「ゲーテにおける神(1)」人文論集6,1969年。)
(*)(参考：柳宗玄「西洋の誕生(1)太陽神キリスト」芸術新潮20(1),1969年。)
(*)(参考：柳宗玄「西洋の誕生(2)聖樹より十字架へ」芸術新潮20(2),1969年。)
(*)(参考：柳宗玄「西洋の誕生(3)幻の「木の文化」」芸術新潮20(3),1969年。)
(*)(参考：柳宗玄「西洋の誕生(4)生命の泉」芸術新潮20(4),1969年。)
(*)(参考：柳宗玄「西洋の誕生(5)巨石の伝統」芸術新潮20(5),1969年。)
(*)(参考：柳宗玄「西洋の誕生(6)山岳信仰の流れ」芸術新潮20(6),1969年。)
(*)(参考：柳宗玄「西洋の誕生(7)聖母の誕生」芸術新潮20(7),1969年。)
(*)(参考：柳宗玄「西洋の誕生(8)古代彫刻の終焉」芸術新潮20(8),1969年。)
(*)(参考：柳宗玄「西洋の誕生(9)十字文の世界」芸術新潮20(9),1969年。)
(*)(参考：柳宗玄「西洋の誕生(10)不肖の像」芸術新潮20(10),1969年。)
(*)(参考：柳宗玄「西洋の誕生(11・完)謎の組紐文」芸術新潮20(11),1969年。)
(*)(参考：関根正雄『古代イスラエル研究：対象と方法』
(*)(参考：J.エスタライヒャー/稲垣良典訳『崩れゆく壁：キリストを発見した 7 人のユダヤの哲学者』春秋社,1969 年。)
(*)(参考：中野記偉「ブリュックベルジュ師の「キリスト伝」を読んで—ある比較文学的感想」世紀 235,1969 年。)
(*)(参考：半田元夫「エフェソス騒擾事件—パウロの異邦人伝道の性格をどう理解するか」東京学芸大学紀要,第 3 部門社会科学 21,1969 年。)
(*)金子武蔵「クリスト教について(36)イスラエルの都市とギリシャの都市(5)」心 22(4),1969年。
(*)荒井献「田川建三著「原始キリスト教史の一断面」」史學雑誌 78(1),1969 年。)
(*)(参考：秀村欣二「原始キリスト教におけるポリス観—イェルサレムの歴史と理念の展望を中心として」(秀村欣二・三浦一郎・太田秀通編『古典古代の社会と思想—村川堅太郎教授還暦記念』所収,岩波書店,1969 年。)
(*)「西谷氏ら 3 教授ご進講 講書始めの儀」(村川堅太郎)讀賣新聞夕刊 1/7,1969 年。
(*)「講書始めの進講者」(村川堅太郎)讀賣新聞朝刊 12/21,1969 年。
(*)(参考：松本卓夫『使徒パウロに学ぶ：テサロニケ人への手紙解説』静岡英和女学院短期大学,1969 年。)
(*)(参考：塚本虎二『主の祈りの研究』10 版,伊藤節書房,1969 年。)

(*)(参考:E.トロクメ/田川建三訳『使徒行伝と歴史』現代神学双書 40,新教出版社,昭和 4 年。)
(*)(参考：三木利英「アンブロシウスの発掘--『キリスト教古代』の意義」社会文化史学 5,昭和 44 年。)
(*)(参考：半田元夫「エフェソス騒擾事件—パウロの異邦人伝道の性格をどう理解するか」東京学芸大学紀要21(3),昭和44年。)
(*)(参考：堀光男『西洋思想史とキリスト教』創元社,1969年。)
(*)(参考：三枝充悳『東洋思想と西洋思想：比較思想序論』春秋社,1969年。)
(*)南原繁・高木八尺・原田健・神谷美恵子「新渡戸稲造—その人間と生涯」みすず 11(11),1969年。
(*)玉置邦雄「遠藤周作の「沈黙」の世界」日本文藝研究21(4),1969年。
(*)中村直勝「日本近世紀序説」(百合若大臣)大手前女子大学論集3,1969年。
(*)板沢武雄『日蘭文化交渉史の研究』吉川弘文館,1969年。
(*)福原麟太郎「特集 学問のすすめ(1)学問における東と西」季刊・藝術 夏号：学問のすすめ3-3,1969年。
(*)田中美知太郎『学問論：現代における学問のあり方』筑摩書房(筑摩総合大学),1969年。
(*)今西錦司・下村寅太郎『学問の建設：心の対話』日本ソノサービスセンター,1969年。
(*)川島清吉『世界の大学：レポート』葵書房,1969年。)
(*)奈良本辰也『日本の私塾』淡交社,1969年(→1974年,角川文庫版。)
(*)笠井助治『近世藩校における学統学派の研究(上下)』吉川弘文館,1969-70年。
(*)中野善達「「和蘭学制」と「仏国学制」をめぐって」蘭学資料研究会研究報告223,1969年。
(*)青木紀代子・茂住実男「英語教育黎明期における教師像—洋学観と教授法をとおしての考察」教育研究15,1969年。
(*)笹原一晃「幕末の英語教育」蘭学資料研究会研究報告218,1969年。
(*)唐木順三編『思想の饗宴：シンポジウム』国際日本研究所,創文社(発売),1969年。
(*)(参考：トインビー/秀村欣二・清永昭次訳『ハンニバルの遺産』河出書房新社,1969 年(→1972 年,再版)。
(*)(参考：June G.Yoshikawa“Hawthorne’s Greek Mythe(1,2)”(同志社女子大学英文学会) Asphodel 2,1969 年/3,1970 年。)
(*)(参考:新見宏「最近の聖書翻訳について—旧約および旧約外典」日本の神学 8,1969 年。
(*)(参考：神田盾夫「「種蒔きの譬話」への一考察」(日本言語学会)言語生活 54(新村出博士追悼号),1969 年。)
(*)(参考：フランシスコ会聖書研究所訳注『使徒行録：原文校訂による口語訳』フランシスコ会聖書研究所,中央出版社(発売),1969 年。)
(*)神田盾夫「新約聖書の近訳」聖書と教会 4 月号,1969 年。
(*)(参考：林哲郎「聖書英訳史文献」英語英文学論叢 19,1969 年。)
(*)(参考：戒能通孝『古典的世界の没落と基督教—付・近世の成立と神授説』新泉社,叢書名著の復興 9,1969 年(←1948 年,雄鶏社版)。)
(*)(参考：石島三郎『新約聖書入門』教文館, 1969 年。）
(*)(参考：小嶋潤『キリスト教：その由来と成立と特質と』宝文館出版,1969 年。)
(*)(参考：長友栄三郎「ヴァンダル人のキリスト教徒迫害」史學雑誌 78(6),1969 年。)
(*)(参考：久山宗彦「アレクサンドリアのクレメンスと異教哲学」日本大学工学部紀要 B,

一般教育編 10,1969 年。)
(*)(参考：久山宗彦「アレクサンドリアのクレメンスと異教哲学」カトリック神学 15,1969 年。)
(*)(参考：辻橋三郎『近代文学者とキリスト教思想』桜風社,1969 年。)
(*)(参考：中内敏夫「スパルタ教育で強い意志は育てられるか(意志の教育,特集)」児童心理 23(3),1969 年。)
(*)(参考：小林雅夫「ローマの教育とギリシア人教師」史観 80,1969 年。)
(*)(参考：キケロ/呉茂一訳,モンテーニュ/関根秀雄訳,パスカル/関根秀雄訳『人生の幸福について,随想録,パンセ』人生の名著 20,大和書房,1969 年。)
(*)(参考 : 印具徹編『アンセルムス,トマス・アクイナス,ボナヴェントゥラ他』(トマス・ア・ケンピス)キリスト教教育宝典 3,玉川大学出版部,1969 年。)
(*)(参考：務台理作・谷川徹三・上原専禄監修 ; 原一郎編『ヒューマニズムの史的展開』再版,宝文館出版,1969 年(←昭和 31 年刊)。)
(*)(参考 : 川島清吉『教育史要説』21 世紀大学講座,葵書房,1969 年(→1969 年,鳳文閣。→1985 年,新訂版,東洋館出版社)。)
(*)(参考：川島清吉・藤田政雄『教育原理要論』21 世紀大学講座,葵書房,1969 年(→1969 年,鳳文閣。→1980 年,新訂版,鳳文閣)。)
(*)(参考 : コルネリア・J.ド・フォーゲル/藤澤令夫他訳『ギリシア哲学と宗教』筑摩叢書 132,筑摩書房,1969 年。)
(*)(参考：西川亮「デモクリトスにおける感覚と思惟」西洋古典學研究 17,1969 年。)
(*)(参考：増田和宣編『岩下壮一一巻選集』(ギリシア哲学)春秋社,1969 年。)
(*)松村克己・小原国芳共編『追憶の波多野精一先生』玉川大学出版部,1969 年。
(*)(参考：田中美知太郎『人生論風に』新潮選書,新潮社,1969 年。)
(*)安倍能成・天野貞祐・田中美知太郎『安倍能成・天野貞祐・田中美知太郎』随想全集 2,尚学図書,小学館,1969 年。
(*)(参考：田中美知太郎編『ギリシアの詩と哲学』思想の歴史 1,平凡社,1969 年。)
(*)(参考 : 田中美知太郎『学問論 : 現代における学問のあり方』筑摩総合大學,筑摩書房,1969 年。)
(*)田中美知太郎・石原慎太郎「対談 人間回復の条件を探る」讀賣新聞 3/10,1969 年。
(*)(参考 : 田中美知太郎/鈴木重信インタヴュー「教育・国家・教師」教育と文化 4,1969 年。)
(*)(参考：田中美知太郎・高坂正顕「対談 現代と自由」電信電話 5 月号,1969 年。)
(*)(参考：田中美知太郎・山崎正和「対談 学問はその人を選ぶ」マイウェイ 2(1),1969 年。)
(*)(参考：田中美知太郎・村川堅太郎「対談 歴史の中のプラトン」世界の名著 8「プラトン II」付録月報,中央公論社,1969 年。)
(*)(参考 : 唐木順三編『思想の饗宴 : シンポジウム』国際日本研究所,創文社(発売),1969 年。)
(*)(参考 : 門脇佳吉「真の対話を求めて—論語とプラトン対話編の比較」上智大学 18(1),1969 年。)
(*)(参考：藤澤令夫『実在と価値—哲学の復権』筑摩書房,1969 年。)
(*)(参考：藤澤令夫「アリストテレス哲学の問題性」図書 4 月号,1969 年。)
(*)(参考：川田殖「アリストテレスの存在論の構想--「ピュシカ」と「メタ・ピュシカ」」理想 429,1969 年。)
(*)(参考：牛田徳子『Etude comparative de la psychologie d’Aristote,d’Avicenne et de St.Thomas

d'Aquin』慶應義塾大学,文学博士,甲第 224 号,1969 年。)
(*)(参考 : 坪井一「プラトンの「ティマイオス」のプロクロスによる注解 Πρκλου Διαδοχου εις τον Τιμαιον Πλατωνος υπομνηματων について」図書館学研究報告 2,1969 年。)
(*)(参考 : 小林雅夫「ローマの教育とギリシア人教師」史観 80,1969 年。)
(*)(参考 : 野町啓「ユスティノスのソクラテス観 : 初期クリスト教とギリシア哲学(1)」文経論叢・哲学篇 5,1969 年。)
(*)(参考 : C.ドーソン等/服部英次郎訳『アウグスティヌス—その時代と思想』筑摩叢書,筑摩書房,1969 年。)
(*)(参考 : ボエティウス/渡辺義雄訳『哲学の慰め』筑摩叢書 139,筑摩書房,1969 年。)
(*)(参考 : 杉山茂顕「ヴィコ自叙伝」法学研究 4(2),1969 年。)
(*)(参考 : 宮寺晃夫「W.v.フムボルトの教育理論における「陶冶」と「教育」 : 新人文主義の人間形成論」教育哲学研究 20,1969 年。)
(*)(参考 : 宮寺晃夫「新人文主義教育理論における人間形成と公教育--W.v.フムボルトを中心に」東京教育大学教育学研究集録 8,1969 年。)
(*)(参考 : 高桑純夫『近代哲学序章』世界書院,1969 年。)
(*)(参考 : 務台理作・高桑純夫・南博『高校倫理・社会』3 訂版,実教出版,1969 年。)
(*)成瀬不二雄「司馬江漢の生涯」日本美術工芸 369,1969 年。
(*)坂田祐「ケーベル博士の思い出」待晨 214,1969 年。
(*)重久篤太郎「新村出博士と英学史研究」京都市立美術大学研究紀要 14,1969 年。
(*)吉町義雄「筑紫路記(故新村出会長追悼)」言語研究 54,1969 年。
(*)浜田敦「新村先生の人と学問(同上)」言語研究 54,1969 年。
(*)田中秀央「新村先生を悼む(同上)」言語研究 54,1969 年。
(*)小林英夫「思い出の新村博士(同上)」言語研究 54,1969 年。
(*)泉井久之助「故新村出先生(同上)」言語研究 54,1969 年。
(*)金田一京助「嗚呼新村出先生(同上)」言語研究 54,1969 年。
(*)安田保雄『上田敏研究--その生涯と業績』矢島書房,昭和 44 年。
(*)吉武好孝「上田敏の小説「渦」(明 43)における W.Pater の影響」武蔵野女子大学紀要 4,1969 年。
(*)植田重雄『會津八一 : 短歌とその生涯』文藝春秋,1969 年。
(*)宮川寅雄『会津八一』紀伊國屋新書,紀伊国屋書店,1969 年。
(*)猪野謙二「柳田泉氏を悼む」文学 37(8),1969 年。
(*)野島秀勝「アルカディアの兇器—三島由紀夫の豪奢な「肉体」」文学界 23(11),1969 年。
(*)原敬吾「安倍[能成]先生の追憶二つ三つ」心 22(3),1969 年。
(*)河盛好蔵「落合[太郎]先生の思い出(落合太郎追悼)」心 22(11),1969 年。
(*)渡辺一夫「落合[太郎]先生を偲んで(同上)」心 22(11),1969 年。
(*)教育「友人の論文を“失敬”哲学の老教授 雑誌にそっくり転載」(松平千秋)読売新聞朝刊 6 月 27 日付,1969 年。
(*)呉茂一「寺田透氏のこと(寺田透評唱)」現代詩手帖 20(7),1969 年。
(*)野島秀勝「アルカディアの凶器—三島由紀夫の豪奢な「肉体」」文学界 23(11),1969 年。
(*)(参考 : 竹内敏雄『アリストテレスの芸術理論』改版,弘文堂,1969 年。)
(*)(参考 : 松本正夫・加藤信朗・稲垣良典「中世哲学と現代(中世哲学と現代)」理想 435,1969

年。)
(*)(参考：荒松雄他編『中世ヨーロッパ世界』岩波講座世界歴史,岩波書店,1969 年。)
(*)(参考：C.ドーソン/野口啓祐訳『中世キリスト教と文化』新泉社,1969 年。)
(*)(参考：J.ブロノフスキー& B.マズリッシュ/三田博雄(他)訳『ヨーロッパの知的伝統』みすず書房,1969 年。)
(*)(参考：P.Milward“The New Testment and Englishi Literature,Hokuseido Press,1969.(→1971 年,野坂秀男訳『新約聖書と英文学』中央新書,中央出版社。)
(*)(参考：H.Hesse/吉田正巳編『世界文学をどう読むか：初・中級読物』朝日出版社,1969 年。)
(*)(参考：『世界文学全集：カラー版 1』河出書房新社,1969 年。)
----「ギリシア・ラテン編」：呉茂一訳「アルキロコス」/同「サッポー」/「アナクレオーン」/「シモニデース」/呉茂一・坪井光雄訳「カトゥルス」/呉茂一・国原吉之助・坪井光雄訳「ホラーティウス」/八木綾子訳「ウェルギリウス」
(*)(参考：H.Hesse/M.Yoshida(erlat),Eine Bibliothek der Weltliteratur,Asahi Velag,1969.)
(*)村川堅太郎「私の好きなギリシアの詩一つ」ちくま 6,1969 年。
(*)呉茂一「私の思い出の著書」出版ニュース 802,1969 年。
(*)(参考：藤井昇「ラテン詩の世界から(特集 学問のすすめ)」季刊芸術 3(3),1969 年。)
(*)(参考：荒松雄他編『中世ヨーロッパ』岩波講座世界歴史,岩波書店,1969 年。)
(*)(参考：鈴木勤編『ルネサンス』世界歴史シリーズ 11,世界文化社,1969 年。)
(*)(参考：下村寅太郎『ルネッサンスの藝術家：精神史的考察』筑摩書房,1969 年。)
(*)(参考：塩野七生『ルネサンスの女たち』中央公論社,1969 年(→1973 年,中公文庫版。→1996 年,改版中公文庫版)。)
(*)(参考:平川祐弘監修『ダンテ—文豪の世界・第 3』タイムライフインターナショナル,1969 年。)
(*)(参考：田村一郎「英国のシェイクスピア」英語英文学研究 15(2),1969 年。)
(*)(参考：三好弘『人間への問い--シェイクスピア四大悲劇の人間像』世界書院,1969 年。)
(*)(参考：ジョン・ドウヴァ・ウィルスン/橘忠衛・岡崎康一・増田秀男訳『シェイクスピアの六大悲劇』八潮出版,1969 年。)
(*)(参考:山田昭広『シェイクスピア時代の戯曲と書誌学的研究—序説』文理書院,1969 年。)
(*)大山俊一「日本語に忠実な演出—雲講演「アントニーとクレオパトラ」(上演批評)」テアトロ 308,1969 年。
(*)(参考：逢坂信忢『盲詩人ミルトンを惟う』(札幌)宮崎広志,丸善(発売),1969 年。)
(*)(参考：齋藤祐蔵「明治時代のルネッサンス観とペイターの「ルネッサンス」國学院大学紀要 7,1969 年。)
(*)(参考：中野好夫『スウィフト考』岩波新書,岩波書店,1969 年。)
(*)(参考：長谷川光昭「キーツのオードの呪術的パターン「夜鳴鶯によせて」と「ギリシアの甕によせて」英語英文学研究 15(2),1969 年。)
(*)(参考：栗山稔「夢と現実意識--「エンディミオン」論」人文研究 20(7),1969 年。)
(*)(参考:庄子信「エンディミオンの寓意性について(1)」茨城大学教育学部紀要 18,1969 年。)
(*)(参考：真下泰利「T.S.エリオットの批評理論」群馬大学教育学部紀要・人文社会科学編 19,1969 年。)
(*)(参考：相原幸一「異端的個我と正統志向—ヒューム・エリオット・リード」英語青年

115(7),1969 年。)
(*)(参考：高柳俊一「ルドルフ・ゲルマー「T.S.エリオット—叙情詩人としての発端」」ソフィア 17(4),1969 年。)
(*)(参考：齋藤祐蔵「ミケランジェロの詩」國学院雑誌 70(12),1969 年。)
(*)(参考：岩倉具忠「フィレンツェ方言の歴史的一考察」」イタリア学会誌 17,1969 年。)
(*)(参考：野上素一「十日物語の真髄(1,2)」イタリア学会誌 17,1969 年/18,1970 年。)
(*)(参考：竹内信「ダンテ「神曲」の英訳について」(大阪女学院大学・短期大学)紀要 2,1969 年。)
(*)(参考：清水茂「ダンテとロマン・ロラン—この一文を佐藤輝夫教授に」比較文学年誌 5,1969 年。)
(*)(参考：近藤恒一「ペトラルカのボローニャ遊学(1320-26)：ペトラルカにおけるヒューマニズムの形成(2)」イタリア会誌 17,1969 年。)
(*)(参考：近藤恒一「ペトラルカと古代文学」文科系学会連合研究論文集 20,1969 年。)
(*)(参考：カール・ヨハン・カウツキー/渡辺義晴訳『トマス・モアとユートピア』りぶらりあ選書,法政大学出版局,1969 年。)
(*)(参考：坂本満「聖エラスムスとエラスムス像(1,2)」美術研究 262,263,1969 年。)
(*)(参考：渡辺一夫・二宮敬「乱世のなかの叡智(エラスムス生誕 500 年)[対談]」中央公論 84(5),1969 年。)
(*)(参考：森田昌樹「エラスムスとエミイル」日本教育学会大会研究発表要項 28,1969 年。)
(*)(参考：磯見辰典「エラスムスとホルバイン—肖像画問題をめぐって」ソフィア 18(3),1969 年。)
(*)(参考：沢田昭夫「エラスムスの「モア伝」[1519 年エラスムス書簡の訳]について—ヒューマニストの人間像(1,2)」アカデミア 70,1969 年/76,1970 年。)
(*)(参考：『世界文学全集 8—ラブレー』筑摩書房,1969 年。)
(*)(参考：渡辺一夫「トマス・モーアとフランソワ・ラブレー」日本学士院紀要 21(3),1969 年。)
(*)(参考：『モンテーニュ,パスカル』世界文学全集 11,筑摩書房,1969 年。)
(*)(参考：関根秀雄訳『随想録 モンテーニュ(第 1,2,3 部)』人生の名著 20,大和書房,1969 年。)
(*)(参考：関根秀雄・大塚幸男訳編『人生の思索：フランス・モラリストの言葉』現代教養文庫,社会思想社,1969 年。)
(*)(参考：北垣篤訳『世界の動物寓話』現代教養文庫,社会思想社,1969 年。)
(*)(参考：G.ドレ挿画/窪田般弥訳『ラ・フォンテーヌ寓話』社会思想社,1969 年。)
(*)(参考：フェヌロン/朝倉剛訳『テレマックの冒険(上下)』古典文庫,現代思潮社,1969 年。)
(*)(参考：名作選定委員会編『十五少年漂流記；青い鳥；太足のベルト姫：最後の授業；ラ・フォンテーヌ寓話；にんじん』少年少女世界の文学,カラー名作 15,フランス編 4,小学館,1969 年。)
(*)(参考：加藤美雄「フランスの形而上詩人：セーヴとランボーの類型」人文研究 19(11),1969 年。)
(*)(参考：齋藤偕子「行動の演劇の回復—雲「トロイアの女たち」(SPACE69)」新劇 16(5),1969 年。)
(*)(参考：山内登美雄「エウリピデスとサルトル—劇団雲公演「トロイアの女たち」(上演劇評)」テアトロ 311,1969 年。

(*)(参考：山内登美雄「サルトルの誘惑(「トロイアの女たち」)」現代演劇 7,1969 年。)
(*)(参考：長谷川四郎「気まぐれな神々--「トロイアの女たち」(雲)」(河出書房新社)文芸 8(5),1969 年。)
(*)(参考：手塚富雄他訳『世界名詩集』世界文学全集：カラー版・別巻 1,河出書房新社,1969 年。)
(*)(参考：丸山武夫『ゲーテの自然感情：抒情詩を中心にして』東京大学,文学博士,乙第 1789 号,1969 年。)
(*)(参考：望月一樹「レッシングとゲーテ」神戸商船大学紀要・第一類・文科論集 17,1969 年。)
(*)(参考：吉野茂「ゲーテの物語詩について」鳥取大学教養部紀要 2,1969 年。)
(*)参考：大畑末吉「イデーを見るゲーテ」一橋論叢 62(5),1969 年。)
(*)参考：川東祥剛「トーマス・マンのゲーテ像について」ドイツ文学 42,1969 年。)
(*)菊池栄一「二つのゲーテ研究書—徳沢得二「ゲーテ『ファウスト』論考,中村恒雄「ゲーテに於ける生と死と不死性との関係」」ドイツ文学 42,1969 年。)
(*)(参考：福田英男「アナクレオン風と青年ゲーテ」東北大学教養部紀要 10,1969 年。)
(*)(参考：村井勇吾「「諦念」とゲーテ的態度」人文論究 20(2),1969 年。)
(*)(参考：知念英行「ゲーテの古典主義—科学と芸術」流通経済論集 4(3),1969 年。)
(*)(参考：大坪一裕「ゲーテとシラーの出会い--「詩と真実」の試み」島根大学文理学部紀要 文学科篇 2,1969 年。)
(*)(参考：上野英雄「J.G.ハーマンの象徴としての言語観：J.G.ヘルダー『言語起源論』との関連において」富山大学教養部紀要 2,1969 年。)
(*)(参考：谷友幸「手塚富雄他訳『ヘルダーリン全集』河出書房,1969」ドイツ文学 43,1969 年。)
(*)(参考：ヘルダーリン/手塚富雄他訳『論文・書簡』ヘルダーリン全集 4,河出書房新社,1969 年。)
(*)(参考：河端春雄「ヘルダーリンの思想体験について」芝浦工業大学紀要 人文・外国語・社会・保健体育 6,1969 年。)
(*)(参考：田中雄次「ヘルダーリンにおける詩的生動性の問題」熊本大学教養部紀要 人文科学編 4,1969 年。)
(*)(参考：高尾国男「フリードリヒ・ヘルダーリン(2,3,5)」独逸文学 14,1969 年/17,1972 年/19,1974 年。)
(*)(参考：中田作成「ヘルダーリンの世界--「金色」と「聖」を手掛りとして」大阪工業大学紀要 人文社会編 13(3),1969 年。)
(*)(参考：Hanna Arent「キエルゲゴールとマルクスとニーチェ—伝統破壊者たち(Traditon and Modern Age(Between Past and Future,1968 所収)」中央公論 84(2),1969 年。)
(*)(参考：川原栄峰「大学に哲学がない—ニーチェの大学論(大学論 特集)」実存主義 47,1969 年。)
(*)(参考：輪田稔「美の形而上学—ニーチェ試論」文化 33(2),1969 年。)
(*)高松敏男「日本におけるニーチェ移入史」大阪文学(復刊)2,1969 年。
(*)杉田弘子「萩原朔太郎とニーチェ」(富士川英郎教授還暦記念論文集『東洋の詩 西洋の詩』所収,朝日出版社,昭和 44 年。)
(*)大森五郎『萩原朔太郎とニーチェ：ディオニュソスの世界』東京文献センター,1969 年。

(*)(参考：富岡近雄「「プリンツ・フォーゲルフライの歌」と「ディオニュソス酔歌」」ドイツ文学 43,1969 年。)
(*)(参考 : S・ツヴァイク/今井寛・小宮曠三・杉浦博訳『デーモンとの闘争』みすず書房,1969 年(→1973 年,ツヴァイク全集 9,所収,みすず書。)
(*)草薙正夫「日本におけるヤスパース哲学」理想 431,1969 年。
(*)(参考：シャルル・V.オーブラン/会田由・戸張智雄・戸張規子訳『スペイン演劇史』白水社,文庫クセジュ 447,1969 年。)
(*)(参考：トマス・ウルバン/橋口倫介監修・出崎澄男訳『世界史概観：人類のあゆみ』エンデルレ書店,1969 年。)
(*)(参考：増田四郎・堀米庸三編『新しい歴史像』講座日本の将来 8,潮出版社,1969 年。)
(*)一柳俊夫「太田秀通著「ミケーネ社会崩壊期の研究—古典古代論序説」」歴史学研究 353,1969 年。
(*)(参考：五十嵐久仁平「トーマス・アーノルドの歴史の観念—ヴィコとニーブルとの関連において」史観 79,1969 年。)
(*)(参考：寺崎峻輔「ヤスパースの世界史観」大谷学報 48(3),1969 年。)
(*)村川堅太郎「グスターフ・フォッツのこと」學燈 66(1),1969 年。
(*)(参考：呉茂一「トロイア戦争後記」心 22(4),1969 年。)
(*)渡辺保「トロイ・パリ・東京—四季・日生提携公演「トロイア戦争は起こらないだろう」(上演劇評)」テアトロ 319,1969 年。
(*)(参考：渡部治雄「800 年カール大帝戴冠事件の研究--「西ローマ帝国復興」の歴史的意義(1)」宮城学院女子大学研究論集 34,1969 年。)
(*)(参考：加瀬俊一『ナポレオン：その情熱的生涯』文藝春秋,1969 年(→1976 年,文春文庫版)。)
(*)(参考：長塚隆二『裸のナポレオン：天才と狂気の生涯』読売新聞社,1969 年。)
(*)(参考：鶴見祐輔『ナポレオン』潮文庫 3,潮出版社,1969 年。)
(*)(参考:ランシマン/護雅夫訳『コンスタンティノープル陥落す』みすず書房,1969 年(→1983 年.新装版)。)
(*)(参考：塩野七生『ルネサンスの女たち』中央公論社,1969 年。)
(*)大島隆雄「山之内靖著「マルクス・エンゲルスの世界史像」」歴史評論 231,1969 年。)
(*)(参考：仲手川良雄「歴史の連続性と類型的なもの—ブルクハルトにおける対極性」史観 80,1969 年。)
(*)(参考：田沼利男「国王の宝蔵に忍びこんだ盗賊の話[ヘーロドトス“Historiai”と「今昔物語」]」早稲田商学 209,1969 年。)
(*)(参考：松平千秋「ヘロドトスにおけるクセルクセス像」西洋古典學研究 16,1969 年。)
(*)(参考：秀村欣二・三浦一郎・太田秀通編『古典古代の社会と思想：村川堅太郎教授還暦記念』岩波書店,1969 年。)
----秀村欣二・三浦一郎・太田秀通「はしがき」
I :「ポリス社会の形成過程(1「ギリシャ重装歩兵制の発展」-3「ドラコンの国制」)
II：ポリス社会の性格とその変質(1「テミストクレスの建艦」-5「I.G.II.2776 の成立年代とその背景」
III：古代ローマの国家と社会(1「土地法における家畜の問題」-3「補助軍兵士に交付されたディプローマの考察」

IV : 古典古代の思想(1「いわゆる『アリステアス書簡』における王権論について」,
2「原始キリスト教におけるポリス観」
(*)(参考：荒松雄他編集委員『古代オリエント・地中海世界(1)』岩波講座世界史1,岩波書店,1969年。)
----太田秀通「総説」
太田秀通「エーゲ文明とホメロスの世界」
藤縄謙三「ポリスの成立」
清永昭次「国政推転のダイナミズム」
安藤弘「重歩兵制の発展と貴族政社会」
岩田拓郎「アテナイとスパルタの国制」
(*)(参考：荒松雄他編集委員『地中海世界(2)』岩波講座世界史2,岩波書店,1969年。)
----三浦一郎「クレイステネスの改革」
馬場恵二「デロス同盟とアテナイ民主政」
村川堅太郎「古代ギリシア市民：殺人についての意識をめぐって」
伊藤貞夫「古典期のポリスとその変質」
鈴木一州「ローマ共和政の成立と発展」
大牟田章「マケドニア王国の発展とアレクサンドロス」
岩田拓郎「ヘラス：アテナイの場合を中心として」
柘植一雄「プトレマイオス朝」
井上一「セレウコス朝」
長谷川博隆「ローマと地中海世界」
長谷川博隆「内乱の一世紀」
吉村忠典「ローマ元首政の起源」
荒井献「原始キリスト教の成立」
太田秀通「古典古代社会の基本構造と奴隷制」
高橋秀「地中海世界のローマ化と都市化」
浅香正「大土地所有の発展とコロナート制の成立」
(*)(参考：新村祐一郎・中原与茂九郎「古代史(オリエント・ギリシア史)研究の争点—岩波講座「世界歴史」(古代 I[オリエント・地中海世界])の書評によせて」史林 52(5),1969 年。)
(*)「史学文献目録—西洋史(1,2,3)」史學雑誌 78(1,5,9),1969 年。
(*)世良晃志郎「木村尚三郎「歴史の発見—新しい世界史像の提唱」」史學雑誌 78(2),1969 年。)
(*)「1968 年の歴史学界—回顧と展望」史學雑誌 78(5),1969 年。)
(*)(参考 : 新村祐一郎「スパルタ史研究の近況 : 学界動向」大手前女子大学論集 3,1969 年。)
(*)(参考：土井正興著『スパルタクス反乱序説』法政大学出版局,1969 年。)
(*)浅香正「土井正興著「スパルタクス反乱序説」」西洋史学 84,1969 年。
(*)(参考：溝上泰「ギリシア・ローマの奴隷制についての主題学習(世界史 B における主題学習,特集)」歴史教育 17(2),1969 年。)
(*)(参考 : 桑原洋「西洋古代奴隷制をめぐる理論的諸問題(1969 年度大会特集[1])—(〈古代・中世史部会〉前近代における人民闘争と国家)」」歴史学研究 351,1969 年。)
(*)(参考：熊野聡「奴隷制の問題について(1969 年度大会特集[2])—(大会批判)」歴史学研究

352,1969 年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『詳説世界史』再訂版,山川出版社,1969 年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『新編世界史』再訂版,山川出版社,1969 年。)
(*)酒井三郎『日本西洋史学発達史』吉川弘文館,昭和 44 年。
(*)「酒井三郎「日本西洋史学発達史」」出版ニュース 802,1969 年。
(*)(参考：文祥堂編集部編『日本世界歴史年表』増補版,文祥堂,1969 年。)
(*)(参考：田中啓爾『最新詳密地図』日本書院,1969年。)
(*)(参考：帝国書院編集部編『新詳高等地図』初訂版,3訂版,帝国書院,1969年。)
(*)(参考：帝国書院編集部編『標準高等地図』初訂版,帝国書院,1969年。)
(*)(参考：尾鍋輝彦責任編集『地図・年表・小辞典』世界の歴史17,中公バックス,中央公論社,1969年。)
(*)日本国際地図学会編『明治以降本邦地図目録』日本国際地図学会刊行物1,日本国際地図学会,1969 年。
(*)(参考：筑摩書房編集部編『十九世紀ヨーロッパ』新訂版,世界の歴史 14,筑摩書房,1969 年。)
(*)(参考：仲手川良雄「歴史の持続性と類型的なもの—ブルクハルトにおける対極性」史観 80,1969 年。)
(*)(参考：明石総一「「世界史」教育の彷徨」歴史教育 17(1),1969 年。)
(*)(参考:伊東俊太郎「新しい世界史像の形成(1)西欧中心主義の克服へ」中央公論 84(8),1969 年。)
(*)(参考:伊東俊太郎「地球的世界史の構想(新しい世界史像の形成(2)」中央公論 84(9),1969 年。)
(*)土手融「高校世界史教育のあり方」歴史教育 17(5),1969 年。)
(*)荒井桂「世界史像の一元化と二元化—その思想的背景」歴史教育 17(6),1969 年。)
(*)仙石益造「学習内容の配列と世界史像の形成—教科書を読む(1)」歴史教育 17(6),1969 年。)
(*)二股弥栄「高校における世界史教育への一考察」歴史教育 17(6),1969 年。)
(*)丹後杏一「高等学校における世界史教育のあり方をめぐって—現場教師としての提言」歴史教育 17(7),1969 年。)
(*)都築亨「日本史・世界史の関連と教科構造:古代史学習における比較研究(教科教育研究)」名古屋大学教育学部附属中高等学校紀要 14,1969 年。
(*)世良晃志郎「木村尚三郎「歴史の発見—新しい世界史像の提唱」史学雑誌 78(2),1969 年。
(*)中原与茂九郎・新村祐一郎「古代史(オリエント・ギリシア史)研究の争点—岩波講座「世界歴史」古代 1(オリエント・地中海世界)書評に寄せて」史林 52(5),1969 年。)
(*)(参考:近藤矩子「歴史と文学:クリオとアナトール・フランス」フランス文学論集 5,1969 年。)
(*)前田淑「日本各地の百合若伝説(上)その分布・分類・性格」福岡女学院短期大学紀要 5,1969 年。
(*)荒木良雄『安土桃山時代文学史』(百合若)角川書店,1969 年。
(*)柳田国男著・関敬吾・大藤時彦編『山島民譚集』(百合若)増補東洋文庫,平凡社,1969 年。
(*)(参考：山内登美雄『ギリシア悲劇：その人間観と現代』NHK ブックス 103,日本放送出版協会,1969 年。)

(*)(参考：加藤恭子「エウリピデスの「アウリスのイヒゲネイア」とラシィヌの「イフィジェニィ」の比較研究」比較文学年誌 5,1969 年。)
(*)(参考：山内登美雄「エウリピデスとサルトル—劇団雲講演「トロイアの女たち」(上演劇評)」テアトロ 311,1969 年。)
(*)(参考：山内登美雄「サルトルの誘惑[「トロイアの女たち」]」現代演劇 7,1969 年。)
(*)長谷川四郎「気紛れな神々--「トロイアの女たち」(雲)」文芸 8(5),1969 年。
(*)齋藤偕子「行動の演劇の回復—雲「トロイアの女たち」(SPACE69)」新劇 16(5),1969 年。
(*)安堂信也「戸張智雄著「ラシーヌとギリシャ悲劇」」演劇学 10,1969 年。
(*)(参考：瀬川登美江「演劇の起源と本質について—ギリシア悲劇からシェイクスピアへの流れ」大谷女子大学紀要 3,1969 年。)
(*)(参考：G.ハイエット/柳沼重剛訳『西洋文学における古典の伝統』(上下)筑摩叢書,1969 年。)
(*)(参考：シャルル・V.オーブラン/会田由・戸張智雄・戸張規子訳『スペイン演劇史』文庫クセジュ447,白水社,1969年。)
(*)黒田健二郎「明治中期におけるミルトンの伝記について(上中下)」神戸大学教育学部研究集録 41,42,1969 年/44,1970 年。)
(*)衣笠梅二郎「明治時代におけるシェリ雑記」(京都光華女子大学)研究紀要 17,1969 年
(*)伊藤敬一「「文学界」における浪漫主義の構造--平田禿木・戸川残花・北村透谷をめぐって」法政大学教養部紀要 13,1969 年。
(*)名作選定委員会編『きのこ太夫：耳なし芳一の話：坊っちゃん：ポチの話：山の力：山椒太夫：旅人とちょうちん：杜子春：ふきの下の神さま：月夜とめがね：風の又三郎：走れメロス：花のき村と盗人たち：死美人』少年少女世界の文学：カラー名作 28「日本編 3」,小学館,1969 年。)
(*)名作選定委員会編『家なき子；ペロー童話；モーパッサン短編；イソップおじさん：棺桶鳥』少年少女世界の文学：カラー名作 14「フランス編 3」,小学館,1969 年。
(*)イソップ原著/はまだひろすけぶん；せがわやすおえ『おしゃれなからす』ひろすけ絵本 6,偕成社,1969 年。
(*)すずきよしはるえ；いいじまとしこぶん『イソップ(1-5)』せかいのおはなし,ひかりのくに昭和出版,1969 年。
(*)(参考：ラ・フォンテーヌぶん；ブライアン・ワイルドスミスえ；わたなべしげおやく『ライオンとネズミ』オックスフォードえほんシリーズ 4,らくだ出版デザイン,1969 年。)
(*)太宰治『走れメロス』カラー版日本の文学 13,集英社,1969 年。
(*)(参考：森安達也「『ゲオポニカ』の編纂をめぐって」西洋古典學研究 17,1969 年。)
(*)「[大學関係機関所蔵・西洋]古典学関係研究誌備えつけの現況」西洋古典學研究 17,1969 年。
(*)「千代田謙博士略年譜・著書および論文目録」広島商大論集・商経篇 10(1),1969 年。
(*)平田寛「十河[佑貞]先生のこと」史観 79,1969 年。
(*)林田明「1591 年バレト手記写本「サントスの御作業」千葉大学人文学部紀要 1,1969 年。
(*)「井深梶之助とその時代」刊行委員会編『井深梶之助とその時代』明治学院,1969-71 年。
(*)牛丸康夫『明治文化とニコライ』教文館,1969 年。
(*)山谷省吾「口語訳新約聖書の問題点」神学 32,1969 年。

(*)山田洸「〈論文〉和辻哲郎と解釈学」倫理学年報 18,1969 年。
(*)高橋英夫「林達夫—批評における反語的精神」中央公論 84(1),1969 年。
(*)中野操「新元会員中の西哲像について」日本医史学雑誌15(2),1969年。
(*)中野操「新元会図中の西哲像について」蘭学資料研究会研究報告 222,1969 年。
(*)相川浩「現代に生きる建築理論--ウィトルーウィウス著/森田慶一訳注「ウィトルウィウス建築書」建築文化 271,1969 年。
(*)(参考：西川幸治「仏教寺院の形成と展開：インドからガンダーラ・バクトリアまで(東洋建築史の展望)」建築雑誌 1005,1969 年。)
(*)(参考：ギーディオン/太田實訳『新版 空間・時間・建築 1』丸善,1969 年。)
(*)(参考：ホセ・オルテガ・イ・ガセット/アンセルモ・マタイス,佐々木孝訳『ガリレオをめぐって』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,1969 年。)
(*)(参考：石田敏雄「ゲーテの自然観(II)：主として“イタリア紀行”によって」帯広畜産大学学術研究報告,第 II 部 3(4),1969 年。)
(*)(参考：広重徹「物理学史(3-7)」物理学史研究 5(2,3),1969 年/6(3),1970 年/7(1),1971 年。)
(*)(参考：村上陽一郎「近代科学史ノート(1-6)」世紀 224-229,1969 年。)
(*)(参考：ブロノフスキー,マズリッシュ著/三田博雄他訳『ヨーロッパの知的伝統：レオナルドからヘーゲルまで』みすず書房,1969 年。)
(*)片桐一男「阿蘭陀通詞馬場佐十郎の天文台勤務とその業績」法政史学 21,1969 年。
(*)今井湊「Gomez の天球論と Clavius(2)」日本医史学雑誌 15(2),1969 年。
(*)今井湊「Gomez の天球論と Clavius(2)」蘭学資料研究会研究報告 222,1969 年。
(*)(参考：山本一清『星座とその伝説』恒星社厚生閣,1969 年。)
(*)本田一二『日本の科学百年』鹿島研究所出版会,1969 年。
(*)橋本万平「明治初期の物理(3)」物理学史研究 5(3),1969 年。
(*)額田淑「黎明期の日本化学」美作短期大学研究紀要 10,11,12,1969 年。
(*)(参考：楢崎正雄「エーゲ文明の体育：古代オリンピック大会以前の体育」体育学研究 13(5),1969 年。)
(*)免取慎一郎「ヒポクラテス集成をめぐって(1,2)」山梨大學教育學部研究報告,第 1 分冊,人文社会科学系 20,1969 年/23,1972 年。)
(*)緒方富雄『三つのヒポクラテス画像の出あい』医歯系出版,1969 年。
(*)緒方富雄「日本におけるヒポクラテスの画像と賛(第 70 回日本医史学会総会 第 11 回蘭学資料研究会 第 2 回歯学史集談会総会合同学会特別講演要旨・一般講演要旨)」日本医史学雑誌 15(2),1969 年。
(*)(参考：安藤英治(他)編『マックス・ウェーバーの思想像』新泉社,1969年(→1970年,新装版。)
(*)天野敬太郎『日本マックス・ウェーバー書誌 : Max Weber 1864-1920』(安藤英治(他)編『マックス・ウェーバーの思想像』,別冊付録,新泉社,1969年。)
(*)(参考：松田至弘「世界史Bにおける発表授業—主題「古代の民主政治と現代の民主政治」の実践」歴史教育17(5),1969年。)
(*)(参考：会田雄次「マキァヴェリと現代」自由11(10),1969年。)
(*)(参考：西村貞二『マキャヴェリ：その思想と人間像』講談社,1969年。)
(*)(参考：アリストテレス著/山本光雄訳,アリストテレス著/村川堅太郎訳『政治学・経済学』アリストテレス全集15,岩波書店,1969年。)

(*)高木秀玄「箕作麟祥と統計学」関西大学経済論集19(1),1969年。
(*)日本文化会議編『日本は国家か』(田中美知太郎)讀賣新聞社,1969年。)
(*)論壇時評「(上)国家とは何なのか(田中美知太郎)」東京朝日新聞夕刊7/24,1969年。
(*)(参考：近藤恒一「ペトラルカの法律観」大分大学教育学部研究紀要・人文社会科学 B集3(3B),1969年。)
(*)大久保利謙「津田真道の「泰西国法論」について」蘭学資料研究会研究報告228,1969年。
(*)春木一郎講述・吉田五郎記「羅馬法講義(公法篇。講述)」八幡大学法律研究所報 3,1969年。
(*)「故平沼淑郎博士の追憶」経済史学 13,1969 年。
(*)(参考：船田享二『総論・物権』改版ローマ法,岩波書店,1969 年。)
(*)(参考：小菅芳太郎「ロオマ早期の家(学説管見)」法制史研究18,1969年。)
(*)一柳俊夫「書評 古林祐二著「古代ギリシヤ法廷技術研究—海上消費賃貸・船舶抵当権と訴訟制度について(福岡大学,法学論叢第 12 巻 2・3 号)」法制史研究 1969(19),1969 年。)
(*)(参考：古林祐二「無名の被告の訴答作成弁護人によるアパートウーリオスに対する特別妨訴抗弁について(古代ギリシヤ法廷技術研究[4])」福岡大学法学論叢 13(2),1969 年。)
(*)(参考：佐藤篤士『Lex XII tabularum :12表法原文・邦訳および解説』早稲田大学比較法研究所叢書7,早稲田大学比較法研究所,1969年。)
(*)(参考：春木一郎「「羅馬法講義」(公法篇)(講述)(吉田五郎記)」八幡大学法律研究所報 3,1969年。)

(*)(参考：城塚登『若きマルクスの思想--社会主義思想の成立』勁草書房,1970 年。)
(*)吾郷清彦『かきやわしウエツフミ：上古史現代訳(1)(2)分冊』日本神学連盟,1970 年。
(*)井上靖『井上靖集』(「地中海より」)現代日本の文学 34,学習研究社,1970 年。
(*)森本哲郎「ずいひつ エーゲ海のほとり」小説新潮 24(12),1970 年。
(*)(参考：『地中海』世界の楽園 2,番町書房,1970 年。)
(*)富澤有爲男著/富澤しま編『富澤有爲男撰集』(「白い壁 地中海ふるさと」)集団形星,1970年。
(*)(参考：George Gissing/津田千代吉編注『By the Ionian Sea』Shohakusha,1970 年。)
(*)(参考：山田知良「Hellas 試論：Clio の使命」熊本大学英語英文学 13/14,1970 年。)
(*)長谷川周重「ギリシアの魅力」文藝春秋 9 月号,1970 年。
(*)(参考：太田秀通『古代文明の発見—ヘレニズム・ヘブライズム以前』講談社現代新書,昭和 45 年。)
(*)(参考：シンクレア・フッド/村田数之亮訳『ギリシア以前のエーゲ海世界』創元社,世界古代史双書 2,1970 年。)
(*)(参考：平沢平三「オリンピアの研究(承前1-4)」大阪音楽大学研究紀要9,1970年/10,1971年/11,1972年/12,1974年。)
(*)デュラント/川口正吉・林靖訳『日本文化史(続)：エーゲ海の民族文化』日本ブッククラブ,1970 年(→1970 年,5 版)。
(*)(参考：野上素一・金倉英一共著『エトルリア・ローマ・ポンペイ：イタリア』新潮社,沈黙の世界史 4,1970 年。)

(*)(参考：J.B.トレンド/丹羽光男訳『スペイン文明史』みすず書房,1970 年。)
(*)(参考：オルテガ/小林一宏訳『世界史の一解釈』オルテガ著作集 7,白水社,1970 年(→1998 年,新装復刊。)
(*)磯見辰典「小林一宏訳「世界史の一解釈」(オルテガ著作集 7)」ソフィア 19(2),1970 年。
(*)小宮豊隆「伊太利日記(12)(遺稿 9)心 23(4),1970 年。
(*)野田宇太郎『羅馬の虹：天正使節の旅を南欧に拾ふ』芽起庵,1970 年。
(*)平山郁夫「トルコ雑感―アナトリアの遺跡群を訪ねて」世界 298,1970 年。
(*)(参考：竹村逸「洛東独居の記(8)イスタンブール」芸術新潮 21(8),1970 年。)
(*)(参考：正井泰夫「ヨーロッパへの入口：イスタンブール―トルコ都市の印象(アジアの都市)」地理 15(9),1970 年。)
(*)参考 : G.Gissing/田中義明訳注『詩人の旅行鞄』大学書林語学文庫 388,大学書林,1970 年。)
(*)(参考：ロレンス/伊藤整・伊藤礼訳『チャタレイ夫人の恋人・狐・エトルリア紀行』河出書房新社,1970 年。)
(*)(参考：中村茂夫「ローマ美術の様式構造(上下)」人文論叢 19,20,1970 年。)
(*)(参考：住谷悦治「シュリーマンとソフィア夫人」荊冠の友 2 月号,1970 年。)
(*)(参考：野上素一「ムッソリーニの考古学(発掘[51])」芸術新潮 21(3),1970 年。)
(*)(参考：矢野徹編『海に沈んだ海賊都市』(「消えた大陸,ムーとアトランティス」) 世界の名作怪奇館 8,講談社, 1970 年。)
(*)(参考：小泉源太郎訳『世紀の秘密』(アトランチス)大陸書房,1970 年。)
(*)(参考：八木健三「これがアトランテイスか?(グラビア)」自然 25(2),1970 年。)
(*)(参考：荒松雄他編集委員『地中海世界(3)・南アジア世界の形成』岩波講座世界歴史 3, 岩波書店,1970 年。)
(*)(参考：嶋田襄平編『イスラム帝国の遺産』東西文明の交流 3,平凡社,1970 年。)
----前嶋信次「十字軍と東西文明の交流」
嶋田襄平「思想と学術の交流」
(*)(参考：デュラント著/増野正衛訳『ビザンティン・イスラムの文化』5 版,世界の歴史 10, 日本ブック・クラブ,1970 年。)
(*)(参考：ウイル・デュラント,エアリアル・デュラント著/壽岳文書訳『歴史に学ぶ』日本ブック・クラブ,1970 年。)
(*)(参考：護雅夫編『漢とローマ』東西文明の交流 I,平凡社,1970 年。)
(*)(参考：羽田亨『西域文明史概論』新装版,弘文堂書店,1970 年。)
(*)宮芳平『聖地巡礼』胡桃書館,昭和 45 年。
(*)(参考:三輪福松「ギリシャ三美神レリーフ金銅鏡(東洋陶磁展ベスト 12)」芸術新潮 21(11), 1970 年。)
(*)(参考 : 原田満範「アレキサンダー石椀 狩猟中の騎馬人物と猟犬」体育の科学 20(1),1970 年。)
(*)(参考：A.J.トインビー/長谷川松治訳『交友録』社会思想社,1970 年。)
(*)(参考：アーノルド・トインビー/山口光朔・増田英夫訳『回想禄(1,2)』社会思想社,1970 年。)
(*)(参考：山本新・秀村欣二編『トインビー入門』経済往来社,1970 年(→1974 年,再版)。)
(*)(参考：J.ホイジンガ/坂井直芳訳『わが歴史への道』筑摩叢書 160,筑摩書房,1970 年。)
(*)(参考：橋口倫介「大学生と歴史学―ホイジンガの遺稿をめぐって」世紀 244,1970 年。)

(*)(参考：トレルチ著/西村貞二訳『ドイツ精神と西欧』筑摩書房,1970 年。)
(*)(参考 : 増田四郎編『西洋と日本 : 比較文明史的考察』中公新書 232,中央公論社,1970 年。)
(*)田中美知太郎・谷川徹三「対談 戦後 25 年 日本人を考える」讀賣新聞 8/17,1970 年。
(*)森田康之助『外国思想の受容と日本思想史的研究』学術書出版会,1970 年。
(*)惣郷正明『図説日本の洋学』築地書館,1970 年。
(*)田崎哲郎「幕末洋学についての一考察」日本歴史 271,1970 年。
(*)高橋正「本邦の伝来せるヨーロッパ古版都市図について」龍谷史壇 63,1970 年。
(*)(参考：日本文化財団編『ミケランジェロ彫刻館』日本文化財団,1970 年。)
(*)(参考：中江彬「ミケランジェロの素描とマンネリスト」美学 20(4),1970 年。)
(*)(参考：山田智三郎「「メトロポリタン美術館」の百年」芸術新潮 21(1),1970 年。)
(*)天理ギャラリー『地中海の古代美術』天理ギャラリー28 回展,天理ギャラリー,1970 年。
(*)(参考：岩村透編『西洋美術史要：岩村透生誕百年記念』鈴木孝,1970 年。)
(*)(参考：ヤンニス・ミリヤディス・澤柳大五郎編『ギリシア国立美術館』講談社,世界の美術館 30,1970 年。)
(*)(参考 : 澤柳大五郎「“ギリシアの大絵画”の発見(発掘 60)」」芸術新潮 21(12),1970 年。)
(*)(参考：アンリ・フォション/神沢栄三他訳『西欧の芸術』鹿島研究所出版会,1970 年。)
(*)(参考：中村了昭「古代地中海文化圏：古代人の二元的な考え方をめぐって」鹿兒島経大論集 11(3),1970 年。)
(*)(参考 : 増田四郎編『西洋と日本 : 比較文明史的考察』中公叢書 232,中央公論社,1970 年。
(*)(参考：齋藤広信「エドモンンド・ユゲ著 16 世紀フランス語辞書」(東北大学フランス文学会) Regards12,1970 年。)
(*)(参考：金子武蔵編『新倫理学事典』弘文堂,1970 年。)
(*)(参考：東北大学附属図書館閲覧課運用掛編『人名辞典(洋)』東北大学附属図書館,1970 年。)
(*)(参考：東京体育科学研究会編『体育人名辞典』逍遙書院,新体育学講座 54,1970 年。)
(*)(参考：丸山林平『世界ことわざ辞典』改訂版,実業之日本社,1970 年。)
(*)(参考：中島健蔵・太田三郎編『世界文学事典』河出文庫,河出書房,1970 年。)
(*)(参考：今泉篤男・山田智三郎編『西洋美術辞典』訂正 13 版,東京堂出版,1970 年。)
(*)永嶋大典『蘭和・英和辞書発達史』講談社,昭和45年。
(*)西堀昭「横須賀製鉄所と仏語学(1-6)」岸学資料研究会研究報告 240-245,1970-1971 年。
(*)(参考：ルソー/小林善彦訳『言語起源論』現代思潮社,1970 年。)
(*)辛島詢士「「中津辞書」の穿鑿」ビブリア 44,1970 年。
(*)堀甲子「袖珍英和辞書と堀達之助」女子聖学院研究紀要 7,1970 年。
(*)(参考:フィヒテ他著/梅根悟訳『大学の理念と構想』世界教育学選集 53,明治図書出版,1970 年。)
(*)(参考：皇至道『大学の歴史と改革』講談社現代新書, 講談社, 1970 年。）
(*)(参考：下村寅太郎『遭逢の人』南窓社,1970 年。)
(*)梅棹忠夫・永井道雄編『私の外国語』中公新書,中央公論社,1970 年。)
(*)(参考：壽岳文章『書物の共和国』壽岳文章・しづ著作集 6,春秋社,1970 年。)
(*)(参考：森進一「教養と専門—西洋古典思想の一つの本質的な視点から」関西医科大学教養部紀要 3,1970 年。)
(*)(参考：蛭沼寿雄「ギリシア語学者イラン学者モールトン」(関西学院大学)人文論究

21(1),1970 年。)
(*)高津春繁「なつかしいことども(市河三喜)」英語青年 116(7),1970 年。
(*)富田荘治編『シェークスピア雑誌紀要論文目録』立正大学図書館,1970 年。)
(*)呉茂一「市河先生の思い出」英語青年 116(7),1970 年。
(*)(參考：鈴木勇夫「印欧祖語,梵語,ギリシャ語,ラテン語及びゲルマン系古代語の音韻対照表—英語,ドイツ語,フランス語の語源調査の栞」三重大学教育学部教育研究所研究紀要 21(1),1970 年。)
(*)(參考：G.ポンファンテ/野上素一訳「イタリア語論」イタリア学会誌 18,1970 年。)
(*)(參考：金田民夫『美学における自然と現実：美学思想史的考察』創文社,1970 年。)
(*)(參考：Bakley William/滝沢陽一訳『新約聖書ギリシア語精解』日本基督教団出版局,1970 年。)
(*)(參考：小泉功『宗教音楽におけるラテン語の読み方』新訂,カワイ楽譜,1970 年。)
(*)(參考：A.Martinet/渡辺嘉郎訳「r—ラテン語から今日のフランス語まで」東京外国語大学論集 20,1970 年。)
(*)(參考：M・アモロス「ラテン語の学び方」南窓社,1979 年。)
(*)(參考：大谷啓治「M.アモロス「ラテン語の学び方」」ソフィア 19(2),1970 年。)
(*)山田晶「ラテン語に親しくなる方法」(梅棹忠夫・永井道雄編『私の外国語』所収,中公新書,中央公論社,1970 年。)
(*)(參考：呉茂一「西洋古典学」(『わが道 2』所収,朝日新聞社,1970 年。)
(*)(參考：藤井昇「Falenus の訳語について—ギリシア・ローマの地名表記の問題をも含めて」史学 42(4),1970 年。)
(*)(參考：泉井久之助「印欧語二題」アジア・アフリカ言語文化研究所通信 10,1970 年。)
(*)泉井久之助「「ヨーロッパの言語」追い書—風間喜代三さんの紹介に代えて」言語生活 222,1970 年。
(*)松田毅一「日欧交渉史研究文献目録：(南欧・キリシタン篇)補遺 M~P」清泉女子大学紀要 18,1970 年。)
(*)松村明『洋学資料と近代日本語の研究』東京堂出版,1970 年。
(*)「資料・諳厄利亜興学小筌(題筌「諳厄利亞國語和解」文化 8 年[影印・翻刻])英語英文学論叢 20,1970 年。
(*)井田好治「日本英学の源流：長崎における英語研究のはじめ」英語英文学論叢 20,1970 年。
(*)奥宮正澄「中浜万次郎と我国英語学史」土佐史壇 48,1970 年。
(*)西野和子「日本における英語研究史(正続)」東京女子大学附属比較文化研究所紀要 29,1970 年/33,1972 年。
(*)牧一「明治の英学」英学史研究 2,1970 年。
(*)桜井役『日本英語教育史稿』文科評論出版,1970 年。
(*)(參考：徳川宗賢「言語地理学と言語史」文科系学会連合研究論文集 20,1970 年。)
(*)(參考：林哲郎「「主の祈り」の原典と英訳文献」英語英文学論叢 20,1970 年。)
(*)(參考：塚本虎二『福音書異同一覧：前三福音書共観』伊藤節書房,1970 年。)
(*)(參考：松本富士男『新約聖書四福音書対観表』増補, 日本聖公会出版事業部, 1970 年。)
(*)(參考：前田護郎「聖書ギリシア語への道」學鐙 3 月号,1970 年。)
(*)(參考：前田護郎「古典の継承」東京大学教養学部教養学科紀要 11 月号,1970 年。)

(*)(参考：森進一「教養と専門—西洋古典思想の一つの本質的な視点から」関西医科大学教養部紀要 3,1970 年。)
(*)畑中岩雄「最初の日本人訳聖書「西洋教草」」(永田方正)新興基督教 59,1970 年。
(*)(参考：井上智勇「第 5 回国際古典学会報告」西洋古典學研究 18,1970 年。)
(*)檀一雄他編『檀一雄・織田作之助・田中英光集』(田中英光「オリンポスの果実」)[足立巻一他編『現代日本の文学 33』所収,学習研究社,1970 年。
(*)呉茂一・佐伯彰一「対談 ギリシア神話—人間の生き方の原型」波 4(1),1970 年。
(*)(参考：芳賀馨「神話と文学：myth criticism 序論」文化紀要 4,1970 年。)
(*)(参考：桂文子「Blake 神話覚え書—TheFour Zoas」四天王寺女子大学紀要 2,1970 年。)
(*)(参考:園部明彦「ジェイムズ・ジョイス—神話からことば」獨協大学教養諸学研究 4,1970 年。)
(*)(参考：伊東守男「バゾリーニによる執拗な神話の復権—P.パオロ・パゾリーニ監督「王女メディア」(アントニオーニとパゾリーニ,特集)」映画評論 27(6),1970 年。)
(*)(参考：中井千之「象徴としてのロマン主義文学—フリードリヒ・シュレーゲルにおける「神話」と「イロニー」に関する一考察」上智大学ドイツ文学論集 7,1970 年。)
(*)(参考：レヴィ=ブリュエル/古野清人訳『原始神話学』Kobundo renaissance,弘文堂,1970年（→1996年,再版）。）
(*)(参考：矢島文夫『ヴィーナスの神話』美術出版社,1970年。)
(*)(参考：原随園『ギリシア神話』清水弘文堂書房,1970 年。)
(*)(参考：トマス・ブルフィンチ/大久保博訳『ギリシア・ローマ神話：伝説の時代 完訳』角川文庫,角川書店,1970 年。)
(*)(参考：山室静・司修え『ギリシア神話』旺文社ジュニア図書館,旺文社,1970 年。)
(*)(参考：バーバラ・レオニ・ピカード作/J.キデル=モンロー絵/高杉一郎訳『ホメーロスのイーリアス物語』岩波の愛蔵版 32,岩波書店,1970 年。)
(*)(参考：バーバラ・レオニ・ピカード作/J.キデル=モンロー絵/高杉一郎訳『ホメーロスのオデュセイア物語』岩波の愛蔵版 33,岩波書店,1970 年。)
(*)(参考：ナザニエル・ホーソン/中川正文訳『ギリシア神話』文研児童読書館中学年向き,文研出版,1970 年。)
(*)(参考：名作選定委員会編『アラビアン・ナイト；オデュッセウス物語,ギリシア神話,イソップ物語』少年少女世界の文学；カラー版,第 1 巻/古典編,1970 年。)
(*)(参考：富士川英郎編『東洋の詩西洋の詩』朝日出版社,1970 年。)
----呉茂一「ヘーパイストスについて」
(*)(参考：呉茂一「神話伝説とその周辺」英語研究 59(12),1970 年。)
(*)(参考：野町二「英文学と神話伝説」英語研究 59(12),1970 年。)
(*)(参考：山室静「神話と文学についての断想」英語研究 59(12),1970 年。)
(*)(参考：吉田正俊「神話の芸術的表現」英語研究 59(12),1970 年。)
(*)(参考：吉田敦彦「日本神話とギリシア神話」伝統と現代 1,1970 年。)
(*)(参考：小田垣雅也「キリスト教信仰と神話」理想 453,1970 年。)
(*)(参考：本多顕彰『聖書：これから読むひとのために』二見書房,1970 年。)

(*)(参考：鎗田研一著/関根文之助解説『キリスト』世界伝記全集 9,ポプラ社,1970 年。)
(*)(参考：H.ブラウン/川島貞雄訳『イエス―ナザレの人とその時代』新教出版社,1970 年。)
(*)(参考：竹森満佐一編『イエス伝研究をめぐって』日本基督教団出版局,1970 年。)
(*)(参考：ドナルド・コーガン/八代斌助訳『聖書の五人の作者』エリザベス叢書 2,日本聖公会出版事業部,1970 年。)
(*)(参考：木田献一・西村俊昭『旧約(1-4)』聖書の世界 1-4,講談社,1970 年。)
(*)(参考：田川建三・八木誠一・荒井献『新約(1,2)』聖書の世界 5-6,講談社,1970 年。)
(*)(参考：ボルンカム/佐竹明訳『パウロ―その生涯と使信』新教出版社,1970 年。)
(*)(参考：服部治『使徒行伝』キリスト教夜間講座出版部,1970 年。)
(*)(参考：A.C.ウィン/大沼田実訳『使徒行伝』聖書講解全書 20,日本基督教団出版局,1970 年。)
(*)山室軍平『使徒行伝』山室軍平聖書註解全集：民衆の聖書,教文館,1970 年。
(*)(参考：W.バークレー/柳生望訳『ルカ福音書』聖書註解シリーズ 4,ヨルダン社,1970 年[→1999 年,改訂版]。)
(*)(参考：白井きく『ルカ福音書(上下)』キリスト教夜間講座出版部,1970-73 年。)
(*)(参考：高橋三郎『ヨハネ伝講義(上下)』待晨堂,1970-72 年。)
(*)(参考：半田元夫『キリスト教の成立』近藤出版社,1970 年。)
(*)(参考：小嶋潤『文化と宗教：科学・歴史・文化・道徳・諸宗教世との連関においてキリスト教を考える』2 刷,日本聖公会出版事業部,1970 年。)
(*)(参考:荒井献「魔術師シモンとその伝承について(特集 古典と現代)」教養学科紀要 3,1970 年。)
(*)(参考：荒井献「プトレマイオス派のグノーシス神話―その展開と構成」宗教研究 44(1),1970 年。)
(*)(参考：荒井献「イレネウスのグノーシス観」キリスト教史学 24,1970 年。)
(*)(参考：久山宗彦「アレクサンドリアのクレメンスと異教信仰とキリスト教：その芸術的表現について」研究紀要 6,1970 年。)
(*)(参考：久山宗彦「アレクサンドリアのクレメンスにおけるギリシャ哲学とキリスト教信仰」オリエント 13(1・2),1970 年。)
(*)(参考：久山宗彦「アレクサンドリアのクレメンスのキリスト教的グノーシスについて」カトリック神学 17,1970 年。)
(*)(参考：山田晶「無からの創造―その思想の形成(1,2)」哲学研究 44(9,10),1970 年。)
(*)(参考：ドーイウェールト/春名純人訳『西洋思想のたそがれ：キリスト教哲学の根本問題』関西学院大学社会学部研究叢書 1,法律文化社,1970 年。)
(*)(参考：塩野七生『チェーザレ・ボルジアあるいは優雅なる冷酷』新潮社,1970 年(→1982 年,新潮文庫版)。)
(*)「新年の講書始め」(村川堅太郎)讀賣新聞夕刊 1/7,1970 年。
(*)「村川東大名誉教授ら三氏がご進講 講書始めの儀」東京朝日新聞夕刊 1/7,1970 年。
(*)(参考：R.G.コリングウッド/小松茂夫・三浦修訳『歴史の概念』紀伊国屋書店,1970 年。)
(*)(参考：H.ヘルビック/石川武・成瀬治訳『ヨーロッパの形成：中世史の基本的諸問題』岩波書店,1970 年。)
(*)(参考：松平千秋「トロイア戦争雑感」岩波講座「世界歴史」18 月報,1970 年。)

(*)(参考 : M.I.フィンレイ編/古代奴隷制研究会訳『西洋古代の奴隷制 : 学説と論争』東京大学出版会,1970 年。)
(*)(参考 : 相野洋三「ビザンツ帝国の軍事組織について—最近ビザンツ海軍史研究を中心に」関西学院史学 12,昭和 45 年。)
(*)(参考 : H.チースリク「キリシタン書とその思想」(海老澤有道他『キリシタン書,排耶書』日本思想体系 25 所収,岩波書店,1970 年。)
(*)中田実「聖書以前の聖書」(永田方正)聖書の講解 62,1970 年。
(*)山谷省吾「柏井園—日本の神学におけるその貢献」日本の神学 29,1970 年。
(*)武田勝彦編『古典と現代 : 西洋人の見た日本文学』清水弘文堂書房,1970 年。)
(*)遠藤周作講演/齋藤広編『近代日本とキリスト教 : 伝統文化との関連をめぐって』日本文化会議月例懇談会収録集 11,日本文化会議,1970 年。)
(*)市山研「西欧人から見た遠藤周作—「沈黙」を中心に(世界文学の中の日本文学〈特集〉) --（古典から近代作品まで）」国文学・解釈と鑑賞 35(5),1970 年。
(*)佐古純一郎「遠藤周作「沈黙」(近代の歴史小説〈特集〉)—(歴史小説の分析)」国文学 35(4),1970 年。
(*)(参考 : 中野記偉「G.グリーンと日本の作家たち(2)遠藤周作の場合」世紀 241,1970 年。)
(*)半谷二郎『小関三英』旺史社,1970 年。
(*)杉本つとむ編『小関三英伝 : 幕末一思想家の生涯』敬文堂出版部,1970 年。
(*)芳賀檀『蛮社の獄—洋学の弾圧と夜明け前の犠牲者』歴史,図書館秀英社,1970 年。
(*)堀松武一「谷本富における教育思想の変遷」東京学芸大学紀要・第 1 部門・教育科学 21,1970 年。
(*)山崎彰「「和魂洋才」的思惟構造の形成と外圧問題」蘭学資料研究会研究報告 237,1970 年。
(*)(参考 : 三枝充悳「アジアにおける西欧思想と仏教」文科系学会連合研究論文集 20,1970 年。)
(*)(参考 : 金子武蔵『哲学散歩 : ヨーロッパ回想記』読売選書,読売新聞社,1970 年。)
(*)(参考 : 田中美知太郎・青山秀夫・高階秀爾編『現代思想の展開』講座日本の将来 1,潮出版社,1970 年。)
(*)(参考 : 讀賣新聞社編『変革の思想とはなにか』(田中美知太郎)讀賣新聞社,1970 年。)
(*)田中美知太郎・会田雄次・山崎正和「対談 現代の精神的飢餓について」(心情圏出版)心情公論 1(創刊号),1970 年。
(*)田中美知太郎・湯川秀樹・梅原猛「鼎談 知識と知恵の差」潮 1 月号,1970 年。
(*)松村克己・小原国芳共編『追憶の波多野精一先生』玉川大学出版部,1970 年。
(*)出隆『哲学自伝』宝文館出版,1970 年。
(*)和歌森太郎「石原慎太郎著「スパルタ教育」を読んで(強い子どもを育てる,特集)」児童心理 24(5),1970 年。
(*)遠藤豊吉「石原慎太郎の『スパルタ教育』批判(現代の視角教育)」月刊社会党 155,1970 年。)
(*)丸山邦男「石原慎太郎—タカ派に操られるスパルタ人形(続・現代虚人列伝)」現代の眼 11(4),1970 年。)
(*)(参考 : 吉田東洲『プラトン全集要粋』古今評論,1970 年。)
(*)(参考 : プラトン/山本光雄訳『プラトン書簡集 : 哲学者から政治家へ』角川書店,1970 年。)

(*)(参考：高橋勝「アケデメイア前後—ソクラテス,プラトン,アリストテレス(特集・大学の理念)」理想 450,1970 年。)
(*)(参考：中川久定「ディドロ訳プラトン「ソクラテスの弁明」および「クリトン」(冒頭の一節)の校訂テクスト(「ディドロにおけるソクラテスの問題」(下)」名古屋大学教養部紀要,外国語外国文学 14,1970 年。)
(*)(参考：木野嘉明「プラトンとペーター」大東文化大学紀要 文学編 8,1970 年。)
(*)川村二郎「内攻したプラトニズム—河野多恵子著「草いきれ」について(新書解体)」文學界 24(3),1970 年。
(*)(参考：阿部秀男「プラトニズムに於ける実在と善」北海道教育大学紀要 第 1 部 A,人文科学編 20(2),1970 年。)
(*)(参考：J.M.ツェンプ/新海邦治訳『アリストテレス』ロ・ロ・ロ・モノグラフィー叢書,理想社,1970 年。)
(*)河野与一「部屋の戸の話」岩波ホール 8 月号,昭和 45 年。
(*)高橋英夫『批評の精神』(林達夫)中央公論社,1970 年(→2004 年,講談社文藝文庫)。
(*)(参考：金田民夫『美学に於ける自然と現実—美学思想史的考察』創文社,昭和 54 年。)
(*)(参考:今道友信編『美学史研究叢書(1-7 巻)』東京大学文学部美学芸術学研究室,1970 年。)
(*)(参考:森進一「愛と死と狂気について(現代の渇きと愛の復権,特集)」日本及日本人 1491,1970 年。)
(*)(参考：ヒルティ/秋山英夫訳『読書と演説』角川文庫,角川書店,1970 年。)
(*)(参考：三谷隆正『信仰の論理：付 問題の所在』新教出版社,1970 年。)
(*)神沢惣一郎「岩崎勉先生とギリシャ哲学」フィロソフィア 57,1970 年。
(*)(参考：田中美知太郎「ヘーゲルとプラトン」哲学(日本哲学会)20,1970 年。
(*)(参考:浅野楢英「普遍の問題—プラトンの見解とアリストテレスおよび現代分析哲学者たちの諸見解との比較(1)(2)」哲学研究 44(9,10),1970 年。)
(*)(参考:G.F.Thomas,Humanism;Classical,Christian and Naturalistic,(国際基督教大学学報 IV-B)人文科学研究・キリスト教と文化 5,1970 年。)
(*)金子晴勇「アウグスティーヌスにおけるパウロ書簡と新プラトン主義—清水正照著「アウグスティーヌス形而上学序説」」日本の神学 10,1970 年。
(*)(参考：山田晶「自然神学について：その歴史と現代的意味」日本の神学 10,1970 年。)
(*)(参考:山田晶「アウグスティヌスにおける「真」と「真のもの」について(Soliloq.I,c.15,nn.27-28)」中世思想研究 12,1970 年。)
(*)(参考：稲垣良典『トマス・アクイナス哲学の研究』創文社,1970 年。)
(*)(参考：清水純一『ジョルダーノ・ブルーノの研究』創文社,1970 年。)
(*)(参考：カルル・レーヴェット/柴田治三郎訳「人間の自然と自然の世界」(ハイデガー)思想 12 月号,1970 年。)
(*)藤井義夫「アリストテレス「形而上学」(続・哲学書はいかに読むべきか)」理想 441,1970 年。
(*)(参考:若林明「フランシス・ベーコンの学問観」[アリストテレス,プラトン,エピクロス]木更津工業高等専門学校紀要 3,1970 年。)
(*)(参考：宮寺晃夫「新人文主義の「国民形成」論—R.Jachmann の《Archiv》を中心に」東京教育大学教育学研究集録 9,1970 年。)
(*)(参考：木村正雄監修『世界史年表：二色刷・歴史地図対照』金園社,1970 年。)

(*)(参考：亀井高孝・三上次男編『標準世界史地図』増補版 2 刷,吉川弘文館,1970 年。)
(*)(参考：亀井高孝他編『標準世界史年表』増補第 7 刷初版,吉川弘文館,1970 年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男編『前二千年紀の世界：(附・先史時代主要遺跡)；メソポタミア：ナイル三角州；エーゲ世界』標準世界史地図 1,吉川弘文館,1970 年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男編『前一千年紀前半の世界：フェニキアとヘブライ；古代のインド：(仏教の遺跡)；ペルシア戦争時代のギリシア』標準世界史地図 2,吉川弘文館,1970 年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男『ローマ帝国の発展：前二世紀の中国』,吉川弘文館,1970 年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男編『前四世紀後半の世界：古代のイタリア；第三・四世紀の中国：(戦国時代)』標準世界史地図 3,吉川弘文館,1970 年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男編『ローマ帝国の発展；前二世紀末の中国』標準世界史地図 4,吉川弘文館,1970 年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男編『ヨーロッパにおける民族の大移動；二世紀の西部アジア及びインド』標準世界史地図 5,吉川弘文館,1970 年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男編『十五世紀の世界；ルネサンス期のイタリア』標準世界史地図 10,吉川弘文館,1970 年。)
(*)(参考:板垣雄三・大江一道,木村直三郎他『高等学校世界史:教授資料』改訂版,好学社,1970 年。)
(*)(参考：青山吉信・石橋秀雄・中村道雄編『解説世界史年表』45 年度版, 山川出版社,1970 年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『資料世界史(上)』27 版,山川出版社,1970 年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『詳説世界史』再訂版,山川出版社,1970 年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『標準世界史』再訂版,山川出版社,1970 年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『要説世界史』再訂版,山川出版社,1970 年。)
(*)(参考：堀米庸三『歴史の意味』中公叢書,中央公論社,1970 年。)
(*)(参考：堀米庸三『歴史と人間』改装版,NHK ブックス 32,日本放送出版協会,1970 年。)
(*)(参考：文部省初等中等教育局高等学校教育課『新しい世界史像の探究』中教出版,1970 年。)
(*)(参考：鈴木力衛他訳『世界戯曲集』(ジロドゥ/鈴木力衛・寺川博訳「トロイ戦争は起こらない」)世界文学全集 67,筑摩書房,1970 年。)
(*)(参考：村川堅太郎責任編集『ヘロドトス;トゥキュディデス』世界の名著 5,中央公論社,1970 年(→1981 年,中公バックス版)。)
(*)(参考：コーンフォード/大沼忠弘・左近司祥子訳『トゥーキューディデース—神話的歴史家』みすず書房,1970 年。)
(*)新村祐一郎「紹介 コーンフォード著大沼忠宏・左近司祥子『トゥーキューディデース：神話的歴史家』」史林 53(3),1970 年。
(*)(参考：田中美知太郎『ツキュデデスの場合—歴史記述と歴史認識』筑摩書房,1970 年。)
(*)(参考：松浦健太郎「古代アテネ人の戦没者国葬儀—靖国神社法案と関連して」政策月報 175,1970 年。)
(*)(参考：A.ウェイゴール/古川達雄訳『アレキサンダー大王』角川文庫,角川書店,1970 年。)
(*)(参考：河津千代作・小林勇画『若き英雄：アレクサンダー大王の一生』新少年少女教養

文庫 35,牧書店,1970 年(→1975 年,改版グリーン・シリーズ 3,アリス館牧新社。→1979 年,新版,アリス館牧新社。)
(*)飯田鼎「書評 土井正興著スパルタクス反乱論研究序説」三田学会雑誌 63(5),1970 年。
(*)熊野聡「土井正興著「スパルタクス反乱論研究序説」」歴史学研究 364,1970 年。)
(*)(參考:有吉正勝「古代ローマの奴隷制に関する一考察(2・完)」九州女子大学紀要 6(1),1970 年。)
(*)(參考:M.I.フィンレイ編/古代奴隷制研究会訳『西洋古代の奴隷制:学説と論争』東京大学出版会,1970 年(→1974 年,第 2 版)。)
(*)(參考:内田芳明『マックス・ヴェーバーと古代史研究』岩波書店,1970 年。)
(*)安藤英治・内田芳明・住谷一彦編『マックス・ウェーバーの思想』新装,新泉社,1970 年。)
(*)飯田鼎「最近の「マックス・ウェーバー研究」を読む(内田芳明『ヴェーバー社会科学の基礎研究』住谷一彦『リストとウェーバー』林道義『ウェーバー社会学の方と構想』安藤英治・内田芳彦・住谷一彦『マックス・ウェーバーの思想像』(学界展望)」三田学会雑誌 63(11),1970 年。
(*)原田溥「山之内靖著「マルクス・エンゲルスの世界史像」」唯物史観 8,1970 年。)
(*)侘美光彦「山之内靖「マルクス・エンゲルスの世界史像」」(東京大学経済会)経済学論集 36(1),1970 年。)
(*)佐藤孝己「S.G.グッドリッチと「パーレーの万国史」」英学史研究 2,1970 年。
(*)藤戸正二「史学史と歴史哲学(日本近代における史学研究の発展,特集)」歴史教育 18(1), 1970 年。
(*)小沢栄一「日本史学史研究の方法(日本近代における史学研究の発展,特集)」歴史教育 18(1),1970 年。
(*)新見吉治「明治末における史学史の回顧(日本近代における史学研究の発展,特集)」歴史教育 18(1), 1970 年。
(*)「1969 年の歴史学界—回顧と展望」史學雑誌 79(5),1970 年。)
(*)(參考:杉村貞臣「ヘラクレイオス王朝におけるビュザンティオン世界の成立」史學雑誌 79(12),1970 年。)
(*)(參考:堂本正樹『男色演劇史』薔薇十字社,1970 年(→1976 年,増補版)。)
(*)(參考:青木巖「ギリシア悲劇を巡って」ソフィア 18(4),1970 年。)
(*)(參考:新関良三「現代のギリシア悲劇—オルペウスとエウリュディケー」心 11,12 月号.1970 年/1 月号,1971 年。)
(*)稲垣足穂「ギリシャ的男性愛への憧れ—KK 嬢からの書翰(三島以後—ホモセクシャルの世界,特集)」朝日ジャーナル 12(51),1970 年。
(*)(參考:当津武彦「古典詩学の評価について(大会報告)」美学 21(2),1970 年。)
(*)(參考:井上智勇「第 5 回国際古典学会報告」西洋古典學研究 18,1970 年。)
(*)チャイクロ/高田恵以構成・編『おはなし』ブックローン,1970 年。
----宮田保史えとぶん「からすとみずがめ:イソップ寓話より」,宮田須賀子え・山本貴穂子ぶん「きんのおのとぎんのおの:イソップ寓話より」,高田恵以え・山本貴穂子ぶん「きたかぜとたいよう:イソップ寓話より」
(*)イソップ作/八波則吉文;黒崎義介絵『イソップ絵話』復刻版,講談社の絵本 16,講談社,1970 年。
(*)清水良雄『イソップ寓話』英文世界名作シリーズ,評論社,1970 年。

(*)谷真介文 ; 赤坂三好絵『イソップ絵話』オールカラー,名作アニメート絵話 2,偕成社,1970 年。
(*)中谷千代子文・絵『うさぎとかめ：イソップ絵本』講談社,1970 年。
(*)中谷千代子絵・文『まちのねずみといなかのねずみ：イソップ絵本』講談社,1970 年。
(*)菅野浩和作曲・野上彰作詞『病める獅子大王：合唱劇イソップ物語より』女声版,ニューミュージック・マガジン社,1970 年。
(*)(参考：ラ・フォンテーヌぶん ; ブライアン・ワイルドスミスえ：わたなべしげおやく『うさぎとかめ』オックスフォードえほんシリーズ 2,らくだ出版デザイン,1970 年。
(*)(参考：増田渉「「イソップ物語」の最初の中国訳—「況義」とその筆伝者について」関西大学中国文学会紀要 3,1970 年。)
(*)永積安明「沖縄の百合若伝説—水納島の二つの伝承」文学 38(2),1970 年。
(*)室木弥太郎『語り物(舞・説経・古浄瑠璃)の研究』(百合若)風間書房,1970 年。
(*)越智治雄「解題」(『明治文学全集 15』所収,筑摩書房,1970 年。
(*)柴四朗原著/平泉澄解説『佳人之奇遇：解説』時事通信社,1970 年。
(*)佐中壮「「解説 佳人之奇遇」(平泉澄著)のすゝめ」藝林 21(2),1970 年。
(*)西脇順三郎『Ambarvalia：西脇順三郎詩集』稀覯詩集復刻叢書,名著刊行会,1970 年。
(*)岩沢文雄他編『文学教育実践講座/小中学校編』(太宰治「走れメロス」)有信堂,1970 年。
(*)太宰治『走れメロス』改訳,角川文庫,角川書店,1970 年。
(*)壺井栄・太宰治・林芙美子『二十四の瞳・走れメロス・泣虫小僧』世界の名作図書館 23,講談社,1970 年。
(*)田中美知太郎・上山春平「対談 西田哲学の価値」日本の名著 47「西田幾多郎」付録月報,中央公論社,1970 年。
(*)吉田精一「評論の系譜(39)大西祝」国文学 解釈と鑑賞 35(8),1970 年。
(*)元田作之進『日本基督教の黎明：老監督ウィリアムス伝記』立教出版会,1970 年。
(*)海老澤有道・大内三郎『日本キリスト教史』日本基督教団出版局,1970 年。
(*)伊東俊太郎「大学における一般教育」思想 550,1970 年。
(*)(参考：呉茂一講演・齋藤広編『ヨーロッパ文学におけるギリシア思潮』日本文化会議,日本文化会議月例懇談会収録集 13,1970 年。)
(*)(参考：藤本和子「エウリピデスと文化としての抑圧」同時代悲劇 1,1970 年。)
(*)(参考：水野有庸「サッルースティウスの「カティリーナ陰謀記」--古典ラテン語散文による歴史文学の起源」大谷大学研究年報 23,1970 年。)
(*)呉茂一「西洋古典学」(朝日新聞社編『わが道 2』所収, 朝日新聞社,1970 年。)
(*)(参考：松平千秋「Homer and Wakarpa」文科系学会連合研究論文集 20,1970 年。)
(*)奥田麓人「矢野峰人と「南欧文学」--その基礎的研究(1)」学苑 364,1970 年。
(*)(参考 : 増田重光「ルネサンス—南欧と北欧(ルネサンスの問題 特集)」歴史教育 18(6),1970 年。)
(*)(参考 : 渡辺友市「ルネサンスの文芸—南欧(ルネサンスの問題 特集)」歴史教育 18(6),1970 年。)
(*)(参考：久保尋二「ルネサンス期南欧美術の性格と特質 (ルネサンスの問題 特集)」歴史教育 18(6),1970 年。)
(*)(参考：齋藤祐蔵「再びミケランジェロの詩」國学院雑誌 71(9),1970 年。)

(*)(参考：渡邊一夫「昔噺・恐ろしい大学教授の話」(ラムス)(同『渡邊一夫著作集・3』筑摩書房,1970 年。)
(*)(参考 : E.H.ウイルキンス/渡辺友市訳『ペトラルカの生涯』東海大学文明研究所シリーズ 10,東海大学出版会,1970 年。)
(*)(参考：近藤恒一「ペトラルカと古代文学」文科系学会連合研究論文集 20,1970 年。)
(*)(参考：池田廉「ダンテ・ペトラルカ比較論の伝統—ルネサンス初期における」文科系学会連合研究論文集 21,1970 年。)
(*)(参考 : 近藤恒一「ペトラルカのボローニャ遊学(1320-26) : ペトラルカにおけるヒューマニズムの形成(3)」イタリア会誌 18,1970 年。)
(*)(参考：野上素一『ボッカチオ』タイムライフブックス,タイムライフインターナショナル,1970 年。)
(*)(参考：S.ドレスデン/高田勇訳『ルネサンス精神史』平凡社,大学選書 13,1970 年。)
(*)(参考 : カメンカ/成瀬治訳『寛容思想の系譜』(エラスムス)平凡社,大学選書 13,1970 年。)
(*)沢田昭夫「日本におけるトマス・モア研究(1,2)」Nanzan Review 6,1970 年//7,1971 年。
(*)(参考：日本トマス・モア協会編『トマス・モア研究』日本トマス・モア協会,1970 年。)
(*)(参考：前野光弘「演劇史的資料としてのエッカーマンの「ゲーテとの対話」(1,2)」ドイツ文化 12,1970 年/(14・15),1972 年。)
(*)(参考 : 長瀬義彦「ゲーテの世界観に関する一考察」名城商学 19(別冊・人文科学特集),1970 年。)
(*)(参考：知念英行「ドイツにおける古典主義の成立：Autonomie の思想を中心として」流通経済論集 4(4),1970 年。)
(*)(参考：會津伸「抒情詩人ゲーテ」研究 45,1970 年。)
(*)(参考：齋藤清「造型と批評覚書—ゲーテとハイネの場合」大阪大学教養部研究集録外国語・外国文学 18(6),1970 年。)
(*)(参考：西勝「ゲーテの「世界文学」についてのスケッチ—主に提唱の問題をめぐって」明治学院論叢 163,1970 年。)
(*)(参考 : 大場国彦「ゲーテの「タッソー」解釈の試み—その成立と月桂冠の象徴について」専修人文論集 5,1970 年。)
(*)(参考：馬場孚瑳江「ゲーテと古代ローマの詩人たち(1)ゲーテの詩「訪れ」をめぐって」北海学園大学論集 17,1970 年。)
(*)(参考 : 木村直司「ゲーテの愛と自然の神秘主義--「冬のハルツの旅」」ソフィア 19(1),1970 年。)
(*)(参考：吉野茂「ゲーテとシラーのエレギーについて」鳥取大学教養部紀要 4,1970 年。)
(*)(参考 : 中井千之「象徴としてのロマン主義文学—フリードリヒ・シレーゲルにおける「神話」と「イロニー」に関する一考察」上智ドイツ文学論集 7,1970 年。)
(*)(参考 : レッシング/齋藤栄治訳『ラオコーン』絵画と文学との限界について』岩波文庫,1970 年。)
(*)(参考：桂芳樹「ドイツ・ロマニスティクの系譜—E.R.クルチウスと E.アウエルバッハ」ドイツ文学研究 6,1970 年。)
(*)(参考：船橋弘「ニーチェの真理論」宮城教育大学紀要 5,1970 年。)
(*)(参考：田中幸一「〈論文〉ニーチェの歴史観—現代の「力」の解明としての」倫理学年報 19,1970 年。)

(*)(参考：刈田喜一郎「ニーチェの運命論：その(1)」東京学芸大学紀要 第 2 部門,人文科学 21,1970 年。)
(*)(参考：鈴木幹雄「ニーチェの歴史学批判--「生に対する歴史の利害について」をめぐって」思索 3,1970 年。)
(*)(参考：秋山英夫「ニーチェにおける仮面の問題(仮面の精神)」理想 446,1970 年。)
(*)(参考：氷上英廣「ニーチェにおけるヘーゲル(ヘーゲル)」理想 449,1970 年。)
(*)(参考：森田弘「甦るニーチェ」ドイツ文化 12,1970 年。)
(*)(参考：大森五郎「ニーチェの芸術論覚書」ドイツ文化 12,1970 年。)
(*)(参考：恒吉良隆「ニーチェにおける詩的形象と Perspektivismus」文芸と思想 33,1970 年。)
(*)(参考：船越清「「ディオニューソス」と創造：若きニーチェ研究序説(1)」成城文藝 59,1970 年。)
(*)高松敏男「ニーチェに関する新聞雑誌文献と翻訳書目(明治末年~昭和 44 年末)」大阪府立図書館紀要 6,1970 年/7,1971 年。
(*)高松敏男「「ニーチェ書誌」に関する覚書—移入史考察の試論として」国文学 44,1970 年。)
(*)杉田弘子「芥川竜之介とニーチェ(特集 古典と現代)」教養学科紀要 3,1970 年。
(*)(参考：新関良三「現代のギリシャ悲劇—オルフェウスとエウリュディケー(1-5)」心 23(11,12),1970 年/24(1,2,3),1971 年。)
(*)(参考：小俣公男「ヘルダーリンの悲劇性について—ディオティーマ体験を中心として」日本大学人文科学研究所研究紀要 12,1970 年。)
(*)(参考：坂田正治「ヘルダーリンの悲劇「エンペドクレスの死」について」法文論叢・文科篇 25,1970 年。)
(*)(参考：片山敏彦「ヘルダーリン(遺稿)」心 23(8),1970 年。)
(*)(参考：相良守峯「ヘルダーリンの内面的素描」心 23(8),1970 年。)
(*)(参考：ワイマル友の会東海支部編『ドイツの古典作家：ハンス・ザックスからフォンターネまで』ワイマル友の会東海支部,1970-78 年。)
(*)(参考：竹部琳昌「アヌイの「アンチゴーヌ」における問題性」(同志社大学)人学研究 116,1970 年。)
(*)(参考：田中昌子「ブレヒトの改作(1)アンティゴネー1948」東京経済大学人文自然科学論集(25・26),1970 年。)
(*)(参考：浜中英田「ハインリヒ・フォン・クライスト」文科系学会連合研究論文集 20,1970 年。)
(*)(参考：当津武彦「コルネイユの『詩学』解釈—アリストテレス『詩学』研究(11)」大阪樟蔭女子大学論集 8,1970 年。)
(*)(参考：工藤粛「Racine と《Phèdre》,Euripide との比較考察・異教的か基督教的か」アカデミア 77,1970 年。)
(*)(参考：高岡幸一「RACINEとVIRGILE」フランス語フランス文学研究17,1970年。)
(*)(参考：『渡辺一夫著作集1,2—ラブレー雑考(上下)』筑摩書房,1970年。)
(*)(参考：モンテーニュ/関根秀雄訳『随想録(2冊)』新潮社,1970年。)
(*)(参考：ブリア。サヴァラン著/関根秀雄訳『美味礼讃』白水社,全日本ブッククラブ(頒布),AJBC版,1970年。)

(*)(参考：齋藤広信「モンテーニュの「自己描写」宣言」(東北大学フランス文学会)Regards12,1970年。)
(*)(参考：益田健次「モンテーニュの塔：“エセー”と“徒然草”」学報6,1970年。)
(*)(参考：広田昌義「想像力の位置：モンテーニュからデカルトへ」一橋大学研究年報,人文科学研究12,1970年。)
(*)(参考:井上登「モンテーニュにおける〈Jouissance〉について」ヨーロッパ文学研究18,1970年。)
(*)(参考：小場瀬卓三『フランス古典喜劇成立史—モリエール研究』法政大学出版局,1970年（←昭23年,生活社版）。)
(*)(参考：松野みどり「ネルヴァルの詩作品『オリーブ山の基督』の意義—福音書及びジャン・パウルの『死後のキリストの説教』との連関において」(東北大学フランス文学会)Regards12,1970年。)
(*)(参考：矢本貞幹『エリザベス朝文学論』関浅井学院大学,文学博士,乙第27号,1970年。)
(*)(参考:伊形洋「空からの楽の音—「アントニーとクレオパトラ」の世界」)Walburgis1970年度,1970年。)
(*)原千代美「サルドゥ劇の敗北—浪漫劇場公演「クレオパトラ」(上演劇評)」テアトロ323,1970年。
(*)(参考：松田実矩「『失楽園(パラダイス・ロスト)』の魔王(セイタン)と古典叙事詩の英雄達」近代 44,1970 年。)
(*)(参考：黒田健二郎『ミルトン批評史研究』風間書房,1970年。)
(*)(参考：福原麟太郎責任編集『ベーコン』世界の名著20,中央公論社,1970年。)
(*)(参考：辻昭三「イェイツ・夢と実在：その(1)ビザンチン詩の分析」神戸商船大学紀要,第1部,文科論集18,1970年。)
(*)(参考:高橋雄四郎「5.Keatsの理想主義 : Neo-platonismと‘Knowledge’による“Hyperion”及び“The Fall of Hyperion”の分析(第二室,日本英文学会第41回大会報告)」英文学研究46(2),1970年。)
(*)(参考：高橋雄四郎「『ハイピァリァン(没落)』」實踐女子大学文学部紀要13,1970年。)
(*)(参考：松浦暢「『エピサイキディオン』：シェリーの愛のダイモーンの探究」成城文藝57,1970年。)
(*)(参考：都築佑吉「ペイターと他の諸作家との関係(1)」群馬大学教育学部紀要 人文社会科学編 20,1970 年。)
(*)(参考：小池滋「ジョージ・ギッシング再考」英語青年 116(4),1970 年。)
(*)(参考：大竹勝「T.S.エリオットの生涯と周辺」東京経済大学人文社会科学論集 23,1970年。)
(*)(参考:池谷敏忠「T.S.エリオット:秩序への志向」金城学院大学論集,英米文学特集 11,1970年。)
(*)(参考：高城楢秀「T.S.エリオット論(1)：その伝統論について」成城文藝 59,1970 年。)
(*)岩波書店版『日本思想大系・全77巻』岩波書店,1970-95年。
(*)松本武男「山本一清先生を悼む」天界51(547),1970年。
(*)(参考：H.ディールス/平田寛訳『古代技術』鹿島研究所出版会,1970年。)
(*)高木吉武『工芸いそっぷ物語：ずいひつ集』高木滋生建築設計事務所,1970年。
(*)(参考:今西錦司・藤澤令夫「自然・文明・学問(特集 自然について)」中央公論85(12),1970

年。)
(*)(参考：坪井一「プロクロスの自然論—プラトン「ティマイオス」の注解をめぐって」思索3,1970年。)
(*)(参考：伊東俊太郎「ユークリッド、その著作と伝承(含・翻訳書リスト)(特集・古典と現代)」教養学科紀要3,1970年。)
(*)參考：清水純一「魔術者の自然観(自然について 特集)」中央公論85(12),1970年。)
(*)藤井清久「明治初期における西洋科学思想の移入—杉浦重剛の場合」科学史研究96,1970年。
(*)源了円「幕末における二つの窮理観—徳川時代における合理的思惟の発展(10)」心23(6),1970年。
(*)岡田章雄「犬と日欧交渉史」日本歴史260,1970年。
(*)杉本勲「江戸中期の本草学の興隆」歴史と地理180,1970年。
(*)宗田一「化学の呼称は川本幸民が最初ではない」医学のあゆみ73(10),1970年。
(*)有坂隆道「地動説の伝来と新宇宙論の出現—とくに山片蟠桃の大宇宙論について」(木村武夫編『日本史の研究』所収,ミネルヴァ書房,1970年。)
(*)上原久「高橋景保の天文暦学研究」埼玉大学紀要・人文科学18,1970年。
(*)中山茂「「地動」ということ」蘭学資料研究会研究報告237,1970年。
(*)(参考：山本一清『星座とその伝説』3版,恒星社厚生閣,1970年。)
(*)(参考：藪内清『天文学の歴史』新版(4版),恒星社厚生閣,1970年。)
(*)「藪内清教授著作目録,岩村忍教授著作目録,長廣敏雄教授著作目録」東方學報41,1970年。
(*)(参考：清水藤太郎『薬学ラテン語』南山堂,改訂12版,1970年。)
(*)(参考：相馬隆「フェニキア紫雑考」東京国立博物館研究誌227,1970年。)
(*)(参考：平沢平三「古代オリンピア(Olympia)の研究」大阪電気通信大学研究論集,人文・社会科学編6,1970年。)
(*)(参考：I.O.エヴァンズ/大島鎌吉訳『オリンピックの勇者：古代ギリシャの青少年物語』スポーツ読物編,ベースボール・マガジン社,1970年。)
(*)(参考：山市孟・前川峯雄・浅田隆夫「51.19世紀に於ける英国パブリックスクールスポーツの教育的価値確立とトマス・アーノルドの教育思想との関連についての一考察」体育学研究14(5),1970年。)
(*)(參考:宮本忍「ヒポクラテスからなにを学ぶべきか(患者と私)」臨床外科25(10),1970年。)
(*)(參考:免取慎一郎「〈論文〉プラトンとヒポクラテス(1,2),3」倫理學年報19,1970年/20,1971年/22,1973年。)
(*)(参考：免取慎一郎「「ヒポクラテス集成」をめぐって(1)」山梨大学教育学部研究報告20,1970年/.)
(*)(参考：菅野陽「銅販ヒポクラテス画像と銅販印刷法」蘭学資料研究会研究報告238,1970年。)
(*)「実践・福祉入門シリーズ(2)措置費—現代イソップ“魔法のランプ”」月刊福祉53(3),1970年。
(*)(参考：広重徹「国際会議にみる物理学史と物理教育」物理学史研究6(4),1970年。)
(*)(参考：広重徹「物理教育のための歴史的資料」日本物理学會誌25(12),1970年。)
(*)「実践・福祉縫う門シリーズ(2)措置費—現代イソップ“魔法のランプ”」月刊福祉53(3),1970年。

(*)(参考：矢島祐利「アラビア科学史のために(展望)」科学史研究.第II期)9(96),1970年。)
(*)(参考：パオロ・ロッシュ/前田達郎訳『魔術から科学へ』サイマル出版会,1970年。)
(*)(参考：オルテガ/生松敬三,荒井正道訳『危機の本質；ガリレイをめぐって,体系としての歴史』オルテガ著作集4,白水社,1970年(→1998年,新装復刊。)
(*)(参考:“Some chapters from the history of medicine”ed.and annotated by Testuo Harada,Bunshu-do,1970.）
(*)(参考：汲田克夫「モンテーニュとモアの保健思想(1)」医学史研究34,1970年。)
(*)(参考：渡辺一夫「モンテーニュの「家事日記(リーヴル・ド・レーゾン)」から—モンテーニュ投獄事件をめぐって」心23(11),1970年。)
(*)(参考：伊達功『近代社会思想の源流—トマス・モア『ユートピア』の分析』ミネルヴァ書房,1970年(→1973年,増補版)。)
(*)(参考:坪井一「「プラトンの『ポリティア』のプロクロスによる注解 Προκλου φιροσοφου Λυκίου Πλατονικου Διαδοχου είς τας Πολιτειας Υπονητμα について」図書館学研究報告 3,1970 年。)
(*)(参考：吉富重夫訳「フォースター「プラトンとヘーゲルの政治哲学(M.B.Foster,‘The Political Philosophers of Plato and Hegel’」年報 自然法の研究3,1970年。)
(*)(参考：平田隆一「エトルスキの政務官職：ヴルチの碑文史料の検討」西洋古典學研究18,1970年。)
(*)(参考：平田隆一「エトルスキの政務官職—文献史料と碑文史料(総括)」東北学院大学論集 歴史学・地理学1,1970年。)
(*)田中美知太郎・宮澤俊義・伊藤正己「鼎談 言論の自由と人間の価値」潮5月号,1970年。
(*)(参考：M.I.フィンレイ/古代奴隷制研究会訳『西洋古代の奴隷制』(3巻)東京大学出版会,1970年。)
(*)萩原延寿『馬場辰猪』朝日新聞社,1970年(→1977年,中央公論社→1995年,中公文庫)。
(*)(参考：平野義太郎『民法におけるローマ思想とゲルマン思想』増補新版,学術選書10,有斐閣,1970年。)
(*)(参考：春木一郎講述；吉田五郎編『羅馬法講義』八幡大学法経学会,1970年。)
(*)(参考：船田享二『催権』改版ローマ法,岩波書店,1970年。)
(*)船田享二「古代法史とローマ法の研究」法学セミナー168,1970 年。
(*)桜井義之「船田享二先生を偲んで(含 主著リスト・年譜)」朝鮮学報 56,1970 年。
(*)町田実秀「船田享二博士の想出(追悼の辞)」法制史研究 20,1970 年。
(*)戸倉広「船田享二先生を偲ぶ(同上)」法制史研究 20,1970 年。
(*)佐伯好郎伝記刊行会『佐伯好郎遺稿並伝』,1970 年。

(*)(参考：良知力「マルクスの学位論文の一節によせて」一橋論叢65(4),1971年。)
(*)山中隆次「良知力著『初期マルクス試論』--現代マルクス主義の検討とあわせて—未来社,1971年」経済学史学会年報9(9),1971年。
(*)(参考：J.ホイジンガ/里美元一郎訳『ホモ・ルーデンス：文化のもつ遊びの要素についてのある定義付けの試み』河出書房新社,1971 年(→1989 年,ホイジンガ 選集1,新装版)。
(*)山と渓谷社編『日本と世界の旅』(並河萬里,北條秀司,加藤秀雄,村川堅太郎,佐々木静一,足立朗,三門昭彦,水野潤一)と渓谷社,1971年。

(*)牟田口義郎『地中海のほとり』朝日新聞社,1971年(→1976年,朝日選書67。→2008年,朝日新聞社)。
(*)川田順三「マグレブ紀行—地中海文化論」中央公論86(1),1971年。)
(*)堀内清治「環地中海遺跡調査について」学術月報23(1),1971年。
(*)高田博厚「地中海圏での記録」文芸10(6),1971年。)
(*)(参考：J.グルニエ/成瀬駒男訳『地中海の瞑想』AL選書,竹内書店,1971年。)
(*)(参考：中井英夫『見知らぬ顔』(「かつてアルカディアに」)河出書房新社,1971年。)
(*)(参考：渋沢孝輔『渋沢孝輔詩集』(「続：詩集〈われアルカディアにもあり〉から」)現代詩文庫,思潮社,1971年。)
(*)(参考：ウィリアム・キュリカン/村田数之亮訳『地中海のフェニキア人』世界古代史双書8,創元社,1971年。)
(*)『わが道3』(「加茂儀一 文明史」)朝日新聞社,1971年。
(*)(参考：P.L.ラルフ/小野寺健・由良君良訳『西欧文明史』グロリアホームライブラリー,西欧文化への招待1,グロリアインターナショナル,1971年。)
(*)(参考：呉茂一責任編集『古代ギリシア』グロリアホームライブラリー,西欧文化への招待2,グロリアインターナショナル,1971年。)
(*)(参考：呉茂一責任編集『古代ローマ』グロリアホームライブラリー,西欧文化への招待3,グロリアインターナショナル,1971年。)
(*)(参考：西川治編『都市と都市観』グロリアホームライブラリー,西欧文化への招待16,グロリアインターナショナル,1971年。)
(*)(参考：鯖田豊之『生と死の思想：文明史の旅から』朝日新聞社,1971年。)
(*)饗庭孝男『石と光の思想：ヨーロッパで考えたこと』勁草書房,1971年(→1990年,再版)。
(*)(参考：小川英雄「サマリアのコレー女神遺跡の編年(西方亜細亜古代学界の展望[16])」古代学17(4),1971年。)
(*)(参考：マージョリー・ブレイマー/亀山龍爾訳・太田大八画『風あらきトロイア：シュリーマン』世界の伝記3,学習研究社,1971年。)
(*)(参考：グリム原作,ビュルガー原作他『グリム童話・シュバイツァー,ほら男爵の冒険』(シュリーマン作/大森宏之文「地底のトロイア」)少年少女世界の名作・ドイツ編2,小学館,1971年。)
(*)時実利彦「人間の可能性を求めて」(クノッソス宮殿)保育26(9),1971年。
(*)(参考：久保正彰「エーゲ海の空間的把握」中央公論(歴史と人物)1,1971年。)
(*)藤本泉「緑色の美しい逃亡者がエーゲ海の霧と消えたあわい想い。黒海は霧」小説club24(12),1971年。
(*)(参考：岩崎允胤「弁証法と論理学の問題—ソ連からイタリアへの旅のなかで」季刊科学と思想2,1971年。)
(*)(参考：熊野聡「ミケーネ社会の世界史的位置づけについて—太田秀通氏への疑問」彦根論叢 150,1971 年。)
(*)土屋清「クレタのこと」社会思想研究 23(6),1971 年。
(*)(参考：千葉昌樹「ギリシア神殿の誕生—イオニアとドーリアの精神」東北学院大学論集,一般教育 55,1971 年。)
(*)毎日新聞社『アレキサンダー大王の道展：パルテノン神殿から正倉院まで』毎日新聞社,1971 年。

(*)(参考 : 筒井均「アレキサンドリアの灯台—E.M.Forster の歴史と現実」経済理論 120,1971 年。)
(*)(参考 : 小谷仲男「アフガニスタンのギリシア人都市—アイ・ハヌム遺跡」大手前女子大学論集 5,1971 年。)
(*)(参考 : 高畠正明「アルベール・カミュの「新しい地中海文化」--1937 年から 39 年の幾つかの未刊行資料をめぐって」芸文研究 30,1971 年。)
(*)(参考 : 大森通子「ゲーテの色彩論のために : イタリア紀行における美術およびもや,青を通して」ドイツ文学 46,1971 年。)
(*)(参考 : 坂井英八郎「イタリア旅行以後のゲーテの国際活動—Goethes amtliche Schriften Geothes Tagtigkeit im Geheimen Consilium.Bd2 : Die Schriften der Jahre1788-1819,Halbberd 1788-1797 1968(資料紹介)」外国語科研究紀要 19(1),1971 年。)
(*)(参考 : 浜口広之「ゲーテの「ローマ悲歌」について」愛媛大学教養部紀要 3,1971 年。)
(*)(参考 : マージョリー・ブレイマー/亀山龍樹・太田大八訳『風あらきトロイア : シュリーマン』学習研究社,世界の伝記 3,1971 年。)
(*)(参考 : 有井琢磨「ベスビアス火山とポンペイの遺跡(イタリア)」地理 16(7),1971 年。)
(*)(参考 : J.P.V.D ボールスドン編/長谷川博隆訳『ローマ人 : 歴史・文化・社会』岩波書店,1971 年。)
(*)(参考 : 堀米庸三『歴史家のひとり旅』新潮社,1971 年。)
(*)(参考 : 池田晧「「漂流記」のなりたちとその史料的価値について」(石井研堂編『異国漂流奇譚集』所収,新人物往来社,1971 年。)
(*)(参考 : J.P.V.D.ボールスドン編/長谷川博隆訳『ローマ人 : 歴史・文化・社会』岩波書店,1971 年。)
(*)(参考 : 鈴木美治「ハドリアヌスンのヴィッラ—ティヴォリのローマ皇帝別荘」建築 131,1971 年。)
(*)(参考 : 菊池一雅「地中海沿岸のローマン・ロード」地理 16(2),1971 年。)
(*)(参考 : A.モラヴィア/大久保昭男訳『ローマの女(上下)』角川文庫,1971 年。)
(*)(参考 : 橋本龍幸「トゥールのグレゴリウスの「ローマ世界」意識について」広島大学文学部紀要 30,1971 年。)
(*)(参考 : 村田潔『西洋古代美術論』岩波書店,1971 年。)
(*)(参考 : H.W.ジャンソン著/村田潔訳『美術の歴史 : 絵画・彫刻・建築』改訂増補,美術出版社,1971 年。)
(*)(参考 : オットー・ベネシュ/前川誠郎・勝國興・下村耕史訳『北方ルネサンスの美術 : 同時代の精神的知的諸動向に対するその関係』美術名著叢書 16,岩崎美術社,1971 年。)
(*)正井泰夫「イスタンブールとユスキュダル(随筆・近況)」お茶の水地理 12,1971 年。
(*)(参考 : キッツィンガー/辻佐保子訳『ビザンティン美術の二潮流 : ユスティニアヌス大帝からイコノクラスムまで』歴史学叢書,創文社,1971 年。)
(*)(参考 : エルヴィン・パノフスキー/浅野徹他訳『イコノロジー研究 : ルネサンス美術における人文主義の諸テーマ』人間の科学叢書,美術出版,1971 年(→1987 年,新装版。→2002 年,ちくま学芸文庫版)。)
(*)(参考 : 中村二柄「美術史の自律(第 2 章) : 文化・美学・美術史」京都教育大学紀要 A

人文・社会 39,1971 年。)
(*)(参考：中村二柄「東洋の美術と西洋の美術」美術教育 1971(186),1971 年。)
(*)(参考：L.B.アルベルティ/三輪福松訳『絵画論』中央公論美術出版,1971 年(→1992 年,新装普及版。→2011 年,改訂新版)。)
(*)(参考：三輪福松「ペイディアスの「アテナ・レムニア」についての一考察--ペイディアス研究(1)」教養論叢 33,1971 年。)
(*)(参考：高階秀爾責任編集『芸術と芸術家』グロリアホームライブラリー,西欧文化への招待 11,グロリアインターナショナル,1971 年。)
(*)(参考：西村貞二『レオナルド・ダ・ヴィンチ：ルネサンスと万能の人』清水書院,1971 年。)
(*)(参考：下村寅太郎『レオナルド・ダ・ヴィンチ』平凡社,1971 年。)
(*)(参考：下村寅太郎『ヨーロッパ遍歴：聖堂・画廊・広場』再版,未来社,1971 年。)
(*)(参考：柳宗玄『西洋の誕生』新潮社,1971 年。)
(*)(参考：オスヴァルト・シュペングラー/村松正俊訳『西洋の没落(1,2)』五月書房,1971 年(→1976 年,縮刷版。→1977 年,改訳版。→1989 年,完訳新装版。→1996 年,新装縮約普及版。→2001 年,定本版。→2017 年,中公クラシックス)。)
(*)(参考 : J.ホイジンガ/堀越孝一訳『朝の影のなかに : わたしたちの時代の精神の病の診断』中央公論社,1971 年。)
(*)(参考：ヨハン・ホイジンガ/高橋英夫訳『ホモ・ルーデンス：人類文化と遊戯』普及版,中央公論社,1971 年。)
(*)(参考：里見元一郎訳『ホモ・ルーデンス：文化のもつ遊びの要素についてのある定義づけの試み』ホイジンガ選集 1,河出書房新社,1971 年。)
(*)(参考：藤縄千艸訳『あしたの蔭りの中で』ホイジンガ選集 2,河出書房新社,1971 年。)
(*)(参考：兼岩正夫訳『歴史を描くこころ』ホイジンガ選集 3,河出書房新社,1971 年。)
(*)(参考 : 里見元一郎他訳『ルネサンスとリアリズム』ホイジンガ選集 4,河出書房新社,1971 年。)
(*)(参考：大島勉「遊戯の相の下の文化—ホイジンガ(遊びと演劇〈特集〉)—(遊びの哲学)」テアトロ 341,1971 年。)
(*)(参考：早坂忠博「遊戯と人間—ホイジンガを中心として(遊び[特集])」実存主義 55,1971 年。)
(*)(参考：尚樹啓太郎編『歴史における文明の諸相：東海大学創立 30 周年記念論文集』東海大学出版会,1971 年。)
(*)(参考：前嶋信次『東西文化交流の諸相』東西文化交流の諸相刊行会,1971 年。)
(*)(参考：松村潤「護雅夫編「漢とローマ(東西文明の交流 1)」」史學雑誌 80(2),197 1 年。)
(*)沼田次郎編『日本と西洋—東西文明の交流 5』平凡社,1971 年。
(*)箭内健次『日本商館の盛衰と洋学の発展』(中欧史,世界各国史 7,山川出版社,1971 年。)
(*)大久保利謙「本邦博物館事業創業史」Mouseion17,1971 年。
(*)高橋邦太郎「オランダを通じて移入されたフランス文化」(緒方富雄編『蘭学と日本文化』所収,東京大学出版会,1971 年。)
(*)林文雄「「古寺巡礼」の系譜と展開(文化諸問題の焦点〈特集〉)文化評論 113,1971 年。
(*)Watsuji Tetsuro(trans.by G.Bownas),*Climate and Culture：A Philosophical Study*,Hokuseido Press,1971.

(*)芳賀徹「徳川幕府と西欧世界—ケンペルからツュンベリーへ(上下)」自由 13(8,9),1971 年。
(*)田崎哲郎「幕末洋学の性格について」蘭学資料研究会研究報告 251,1971 年。
(*)佐藤昌介「洋学史(展望)」科学史研究 97,1971 年。
(*)平川祐弘『和魂洋才の系譜—内と外からの明治日本』河出書房新社,1971 年。
(*)緒方富雄編『蘭学と日本文化』所収,東京大学出版会,1971 年。
------高橋邦太郎「オランダを通じて移入されたるフランス文化」
熊倉美康「オランダ文学と日本」
池田哲郎「儒学と蘭学」
森睦彦「徳川幕府の洋学書の翻訳出版規制」
古田東朔「江戸期における翻訳書の文章形式」
(*)勝部真長「渡辺崋山と高野長英(維新前夜の思想と文学[特集])」国文学 解釈と鑑賞 36(14),1971 年。
(*)笠井忠「幕末思想の一前提--高野長英について」白山哲学 8,1971 年。
(*)(参考：鯖田豊之『生と死の思想：文明史の旅から』朝日新聞社,1971 年。)
(*)(参考：岡田隆彦「現代馬引事典—中の(2)—神話・伝説・歴史・畜産・運搬・文化篇」現代詩手帖 14(1),1971 年。)
(*)(参考：布川角左衛門他編『出版事典』出版ニュース社,1971 年。)
(*)(参考：A・シュタウブ編『ギリシア・ローマ古典文学参照辞典』中央出版会,1971 年。)
(*)(参考：今泉篤男・山田智三郎編『西洋美術辞典』訂正 14 版,東京堂出版,1971 年。)
(*)(参考：岩隈直『新約ギリシア語聖書辞典』山本書店,1971 年。)
(*)(参考：馬場嘉市編『新聖書大辞典』キリスト教新聞社,1971 年。)
(*)(参考：河部利夫・保坂栄一編『世界人名辞典』(西洋編・東洋編・日本編)東京堂出版,新版,1971-73 年。)
(*)西堀昭「五方通語について 仏語辞書の一源流を求めて」(自家版)昭和 46 年。
(*)町田俊昭『三大の辞書—英和・和英辞書百年小史』三省堂,1971 年。
(*)(参考：福原麟太郎「牛津古語辞典」學燈 68-1,1971 年。)
(*)島正三編『羅葡日対訳辞書検案』(1 巻)文化書房博文社,1971 年(→1974 年,再版。→1977 年,5 版)。
(*)杉本つとむ「「蘭訳弁髦」に関する考察—宇田川玄随とその蘭語学」武蔵野女子大学紀要 6,1971 年。
(*)(参考：Bunsho Jugaku(壽岳文章)“A bibliographical study of W.Blake’s note-book”Haskell House Pub.,1971.)
(*)(参考：松平千秋・國原吉之助『新ラテン文法』改訂増補版,南江堂,1971 年。)
(*)(参考：ジョセフ・ヘルマン/新村猛・国原吉之助共訳『俗ラテン語』白水社,文庫クセジュ 498,1971 年。)
(*)(参考：山下憲治「ラテン語又はラテン語より由来した耳鼻咽喉科術語の発音」耳鼻咽喉科臨床 64(5),1971 年。)
(*)(参考：岩倉具忠「イタリア方言成立の諸要因—歴史と地理(イタリア)」地理 16(7),1971 年。)
(*)(参考：B.ミリオリーニ,I.バリデッリ/岩倉具忠訳「イタリア語小史」イタリア学会誌 19,1971 年。)
(*)(参考：野上素一「国際イタリア語・イタリア文学連盟 第 7 回大会報告」イタリア学会

誌 19,1971 年。)
(*)杉本恵美「アテネ・フランセの思い出(和田誠三郎教授退官記念号)」(大阪大学) Gallia 10/11,1971 年。
(*)(参考 : 蛭沼幸雄「ギリシア語学者イラン学者モールトン」(関西学院大学)人文論究 21(1), 1971 年。)
(*)(參考：大塚幸男「ピエール・オステール監修「新・フランス引用語辞典」(Nouveau Dictionnaire citations francaises)[1970])福岡大学人文論叢 3(1),1971 年。)
(*)(參考 : 当津武彦「古代の書物—プラトンとアリストテレスの著作について」私立大学図書館協会会報 56,1971 年。)
(*)(參考：藤枝晃『文字の文化史』岩波書店,1971 年。)
(*)(參考：シャルル・イグーネ著/矢島文夫訳『文字』白水社,1971 年。)
(*)(參考：ヴィクトル・シクロフスキー/水野忠雄訳『散文の理論』せりか書房,1971 年。)
(*)(參考：山口昌男「もうひとつのルネサンス(本の神話学[5])」中央公論 86(2),1971 年。)
(*)(參考：福原麟太郎「近況：ルネサンスの本」朝日新聞 8/16,1971 年。)
(*)(參考：市井三郎『歴史の進歩とは何か』(フンボルト)岩波新書,岩波書店,1971 年。)
(*)井田好治「長崎におけるオランダ商館と蘭通詞による英学の導入」(緒方富雄編『蘭学と日本文化』所収,東京大学出版会,1971 年。)
(*)鈴木彦四郎「私立東京英語学校」英学史研究 3,1971 年。
(*)吉沢基生「本邦に於ける英語教育と英文学研究」西南女学院短期大学研究紀要 17,1971 年。
(*)呉茂一「悼む」心 24(8),1971 年。
(*)呉茂一「《私の教育随想》旧いこと新しいこと」(東海教育研究所)望星 2(7),1971 年。)
(*)杉浦明平「わが夢のルネッサンス文庫(出版時評)」展望 151,1971 年。
(*)早稲田大学図書館編『洋学文庫目録稿』早稲田大学図書館,1971 年。
(*)明治文献資料刊行会編『明治前期書目集成』(1-14 分冊,補巻 1-4),1971-75 年(→1991 年, 新編)
(*)Matsudaira,Chiaki‘Japanese Attitude towards the Classics’(ギリシア人文学協会)「デルフィ国際シンポジウム報告」2,1971 年。
(*)Matsumoto,Nisuke‘WELCHE ROLLE KANN DER HUMANISMUS IN DEN JAPANI – SCHEN UNIVERSITÄTEN SPIELEN? oder ：WAS SUCHEN DIE JAPANISCHEN STUDENTEN?’ΕΛΛΗΝΚΗ ΑΝΘΡΩΠΙΣΤΙΚΗ ETAIPEIA 21,AΘHNAI,1971.
(*)藤原与一「地中海言語国際会議に出席して」言語生活 241,1971 年。
(*)(參考 : 福田博子「人文主義におけるドイツの大学」日本女子短期大学研究論集 15(1),1971 年。)
(*)(參考：安丸一郎「教育改革論者としての M.アーノルド論」福井大学教育学部紀要,第 4 部,教育科学 21,1971 年。)
(*)(參考：鈴木道彦・海老坂武・浦野衣子編『サルトルとその時代：綜合著作年表』人文書院,1971 年。)
(*)加藤正秦「樺俊雄教授著作目録・年譜」中央大学文学部紀要 60,1971 年。
(*)(參考：三輪福松『美術の主題物語：神話と聖書』美術出版社,1971 年。)
(*)(參考：ギルバァト・マレー/藤田健治訳『ギリシア宗教発展の五段階』改訳,岩波文庫,

岩波書店,1971 年。)
(*)(参考：ハリー・マーク・ペトラスキ/中原宏訳『オリンポスの詩』Hayakawa novels, 早川書房,1971 年。)
(*)中井英夫「ケンタウロスの嘆き(三島由紀夫 生と死の遍歴 特集)」潮 136,1971 年。
(*)ベスタ ジョン「イカロス墜ちる(三島由紀夫追悼特集)—(三島由紀夫の死)」新潮 68(3), 1971 年。
(*)(参考：高橋英夫「ミュトスとビオス—神話原型的アプローチ=ケレーニイを中心に(文学創造と言語 特集)—(創造と言語—新しい批評の芳穂によるアプローチ)」国文学 解釈と教材に研究 16(10),1971 年。)
(*)(参考：エリアーデ/堀一郎訳『生と再生：イニシェーションの宗教的意義』UP 選書 75, 東京大学出版会,1971 年。)
(*)(参考：エリアーデ/前田耕作訳『イメージとシンボル』せりか書房,1971 年。)
(*)(参考：三木卓『ギリシア神話 イカロスのぼうけん』福音館書店,1971 年。)
(*)(参考：饗庭孝男「イカロスの神話—三島文学の原点」文学界 25(9),1971 年。)
(*)(参考：矢本貞幹「神話と原型(技術批評連携[6])」英語青年 117(7),1971 年。)
(*)(参考：呉茂一「神話と文学—ギリシャ神話に準拠して(記紀・神話)」文学 39(11),1971 年。)
(*)(参考：三輪福松『美術の主題物語 神話と聖書』美術出版社,1971 年(→昭 53 年,再版)。)
(*)(参考:山田三雄「知識としての神話性の教育的管見 E.カッシーラの象徴主義による考察」教育哲学研究 24,1971 年。)
(*)(参考：Roger Cailbis/広田昌義訳「タコの神話学」中央公論 86(7),1971 年。)
(*)(参考：高橋英夫「ミュトスとビオス—神話原型的アプローチ=ケレーニイを中心に(文学創造と言語,特集)—(作家像・その出自と背景)」国文学 解釈と教材の研究 16(10),1971 年。)
(*)(参考：円子修平「カール・ケレーニと文学(特集 ケレーニとギリシア神話)」海 3(1),1971 年。)
(*)(参考：カール・ケレイニ/生松敬三訳「迷宮の女王 (特集 ケレーニとギリシア神話)」海 3(1),1971 年。)
(*)(参考：カール・ケレイニ/高橋英夫訳「聖なるクレタ(特集 ケレーニとギリシア神話)」海 3(1),1971 年。)
(*)(参考：カール・ケレイニ/高橋英夫訳「ギリシアの光と神々(特集 ケレーニとギリシア神話)」海 3(1),1971 年。)
(*)(参考:カール・ケレイニ/松浦憲作訳「オルペウス教の宇宙生成説—一つの復元の試み(特集 ケレーニとギリシア神話)」海 3(1),1971 年。)
(*)(参考：カール・ケレイニ/菊盛英夫訳「始原児(特集 ケレーニとギリシア神話)」海 3(1), 1971 年。)
(*)(参考：近藤重明「芸術と神話的なもの—E.グラッスィを手掛かりとして」愛媛大学教育学部紀要・第 2 部 人文・社会科学 3(1),1971 年。)
(*)(参考:ゲオルグ・A.シオリス/松村寿雄訳「日本神話とギリシア神話」三田文学 1 月号,1971 年。)
(*)(参考：丹羽治男「『ヴェニスに死す』における美学的諸問題：ヘルメス神話とトオマス・マン」大阪経大論集 84,1971 年。)

(*)(参考：渡辺直樹「形而上学の起源としての神話―E.トービッチとイデオロギー批判」理想 453,1971 年。)
(*)(参考：小田垣雅也「キリスト教信仰と神話」理想 453,1971 年。)
(*)(参考：篠沢秀夫「まやかしとしての神話作用」理想 453,1971 年。)
(*)(参考：田島節夫「神話の論理学・ノート」理想 453,1971 年。)
(*)(参考：吉田敦彦「ギリシャとオリエントの神統記神話」理想 453,1971 年。)
(*)(参考：吉田敦彦「ギリシア神話と日本神話」歴史と人物 12 月号,1971 年。)
(*)(参考：吉田敦彦「変身神話と王祭儀―ギリシアと日本におけるその展開」伝統と現代 7 月号,1971 年。)
(*)(参考：吉田敦彦「日本神話とスキュタイ神話」文学 11 月号,1971 年。)
(*)(参考：呉茂一「神話と文学―ギリシャ神話に準拠して(記紀・神話)」文学 39(11),1971 年。)
(*)(参考：大林太良「松村神話学の展開―ことにその日本神話研究について(記紀・神話)」文学 39(11),1971 年。)
(*)(参考：松井利夫「ゲーテにおける神と人間：『美しき魂の告白』論」東京外国語大学論集 21,1971 年。)
(*)(参考：島崎暉久「青年ゲーテの三つの宗教論文」福井大学教育学部紀要 第 1 部 人文科学 21,1971 年。)
(*)(参考：渡辺英俊「グノーシスの「原人」(アンスローポス)神話について」神学 33,1971 年。)
(*)(参考：荒井献「古代オリエントの宗教―グノーシス主義に関連して」(『ヨーロッパ・キリスト教史 I』所収,中央出版社,1971 年。)
(*)(参考：『ヨーロッパ・キリスト教史(6 巻)』サンパウロ,1971-72 年。)
(*)(参考：山形孝夫「初期キリスト教におけるキリスト―アスクレピオス=パラレルの歴史過程」(東北大学文化会)文化 34(4),1971 年。)
(*)(参考：日本聖書学研究所編『聖書における啓示と歴史』(ウルリッヒ・ルツ/佐竹明訳「パウロにおける歴史理解の基本的問題」)聖書学論集 8,山本書店,1971 年。)
(*)(参考:荒井献「初期キリスト教における〈無神論者〉とその思想について」理想 6 月号,1971 年。)
(*)(参考：エバンヘリスタ『マリア論入門：主の母：教会の像』中央出版社,中央新書 8,1971 年。)
(*)(参考：半田元夫「ネロの迫害再論(2)」東京学芸大学紀要 23,1971 年。)
(*)(参考：延藤十九雄「ディオクレティアヌス帝のキリスト教徒迫害」関西西洋史論集 1 昭和 46 年。)
(*)(参考：高橋三郎『キリスト信仰の本質：イエスからパウロへ』新教出版社,1971 年。)
(*)(参考：橋本龍幸「トウールのグレゴリウスの「ローマ世界」意識について」広島大学文学部紀要 30,1971 年。)
(*)(参考：要理編纂専門委員会編『カトリック入門』中央出版社,1971 年。)
(*)(参考：フランシスコ会聖書研究所訳注『マルコによる福音書：原文校訂による口語訳』改版訳聖書,フランシスコ会聖書研究所,中央出版社(発売),1971 年。)
(*)(参考：C.ウェスターマン/徳善義和訳『若人と学ぶルカ福音書』聖文舎,1971 年。)

(*)吉村麒一郎『原始福音の再興：続・使徒行伝 29 章』第 3 版上製版,名古屋キリスト教聖書塾出版部,1971 年。
(*)(参考：久山宗彦「アレクサンドリアのクレメンスにおける哲学と神学」中世思想研究 13,1971 年。)
(*)(参考:久山宗彦「アレクサンドリアのクレメンスの聖書解釈について」オリエント 14(2),1971 年。)
(*)(参考：水垣渉「限界と定義：アレクサンドリアのクレメンスに至るまでの古代キリスト教史における」東京女子大學論集 21(2),1971 年。)
(*)(参考：今野国雄『修道院』世界史研究双書 6,1971 年。)
(*)渋川久子「井上哲次郎のクリスト教批判をめぐって」日本大学精神文化研究所・教育制度研究所紀要 5,1971 年。
(*)保永貞夫『七人の日本人漂流民—日本語訳聖書の誕生』小峰書店,1971 年。
(*)中川収「西洋教草の訳編者永田方正について」キリスト教史学 25,1971 年。
(*)新山茂樹「初期邦訳聖書、善徳纂『約翰福音之伝』の資料的研究覚え書」國學院大學日本文化研究所紀要 27,1971 年。
(*)土井忠生『(新版)吉利支丹語学の研究』三省堂,1971 年(←1942 年,初版)。
(*)岩波倭雄『ペドロ・カスイ・岐部』ドン・ボスコ社,1971 年。
(*)海老澤有道『切支丹史の研究』新人物往来社,増訂版,日本宗教史名著叢書,1971 年(←1942 年,畝傍書房)。
(*)林田明「吉利支丹文献資料と芥川の文学[含「サンタマリアの御作業」(ヴァチカン図書館蔵「サントスの御作業」所収)対校翻刻]」千葉大学人文学部紀要 3,1971 年。
(*)遠藤周作「一つの小説ができるまで--「沈黙」を中心に(講演)」早稲田文学・第 7 次 3(3),1971 年。
(*)佐古純一郎「たった一枚の踏絵から—遠藤周作の「切支丹の里」をめぐって」世紀 257,1971 年。
(*)大塚光信『エソポ物語--付・古活字本伊曽保物語』キリシタン版,角川文庫,角川書店,1971 年。
(*)明治文献史料刊行会編『明治前期書目集成(第 1 分冊—補巻 4 下)』明治文献,1971 年(→1975 年)。
(*)宮内豊「ナルシスの死—三島由紀夫覚え書」早稲田文学[第 7 次]4(1),1971 年。
(*)ベスタ ジョン「イカロス堕ちる(三島由紀夫追悼特集)-(三島由紀夫の死)」新潮 68(3),1971 年。
(*)饗庭孝男「イカロスの神話—三島[由起夫]文学の原点」文学界 25(9),1971 年。)
(*)太宰治『斜陽・走れメロス』ポプラ社,1971 年。
(*)太宰治『走れメロス：正義と微笑』潮文庫,潮出版社,1971 年。
(*)(参考：呉茂一「「太陽は日々に新しい」」ちくま 32,1971 年。)
(*)大塚光信校注『エソポ物語：付・古活字本伊曽保物語』角川文庫,角川書店,1971 年。
(*)イソップ原作/筒井啓介文；おのきがく絵『ライオンとネズミ おしゃれなからす』おはなしの本,こどものための三冊の本 2,世界文化社,1971 年。
(*)小出正吾ぶん；三好碩也え『イソップどうわ』世界の童話,学習研究社,1971 年。
(*)榎本ナナ子文・鈴木未央子子他絵『イソップどうわ集』世界の名作童話；デラックスカラー1,講談社,1971 年。

(*)浜田廣介・岩本康之亮『イソップ物語』ひろすけ幼年童話文学全集 9,集英社,1971 年。
(*)イソップ著/二宮フサ訳『イソップの寓話』白水社,1971 年。)
(*)教育童話研究会編『新イソップ物語』世界の童話 : オアールカラー版 41,小学館,1971 年。
(*)星新一『未来いそっぷ』新潮社,1971 年。
(*)(參考：田中美知太郎・中村哲「対談 今日の大学・学問・思想を考える」(法政大学)法政 9 月号,1971 年。)
(*)(參考：小田切秀雄他『知識人の再建』(田中美知太郎)読売新聞社,1971 年。)
(*)(參考：三谷隆正『知識・信仰・道徳』新教新書 159,新教)出版社,1971 年。)
(*)田中美知太郎『時代と私』文藝春秋,昭和 46 年(→1984 年,新装版)。
(*)「田中美知太郎「時代と私」動乱凝視した目」讀賣新聞朝刊 6/7,1971 年。
(*)書評「田中美知太郎『時代と私』」東京朝日新聞朝刊 5/31,1971 年。
(*)(參考：マルセル・ボル&ジャック・レーナル/花田圭介・吉田夏彦訳『論理学の歩み』文庫クセジュ,1971 年。)
(*)(參考：井上勝也「ポリスと教育(1)スパルタの場合」文化学年報 19,1971 年。)
(*)(參考：西川亮『デモクリトス研究』理想社,1971 年。)
(*)(參考：荒井献「古代オリエントの宗教—グノーシス主義に関連して」(『ヨーロッパ・キリスト教史 I』所収,中央出版社,1971 年。)
(*)(參考：野町啓「「輪廻転生」と「復活」：初期クリスト教とギリシア哲学(2)」弘前大学人文学部紀要・文経論叢・哲学篇 6,1971 年。)
(*)(參考 : 坪井一「「プラトンの『パルメニデス』のプロクロスによる注解「Προηλου Διαδοχου τα εις τον Πλατωνος Παρμενιδην επτα βιβλια」について—ヴント文庫所蔵本による紹介」図書館学研究報告 4,1971 年。)
(*)(參考：野町啓「《ティマイオス》(28B7)解釈史ノート--ギリシア哲学とクリスト教との交流の一断面」西洋古典學研究 19,1971 年。)
(*)(參考：今道友信「思索の主体とは誰か：プラトンの知識論について」西洋古典學研究 19,1971 年。)
(*)(參考：山野耕治「プラトンの視点」西洋古典學研究 19,1971 年。)
(*)(參考：田中亨英「プラトンと方法(古典の再発見)」理想 455,1971 年。)
(*)(參考：河島清吉「イソクラテスの「修辞学校」とプラトンの「アカデメイア」--政治哲学と教育を中心として」教育学研究 36(2),1971 年。)
(*)(參考：廣川洋一「弁論術と哲学：プラトンとキケロの場合 付録・キケロ『詩人アルキアス弁護論』試訳」東海大学紀要,文学部 16,1971 年。)
(*)(參考：田中美知太郎『プラトン『饗宴』への招待』私の古典,筑摩書房,昭和 46 年。)
(*)(參考：山本光雄『哲学者の笑い』角川選書,角川書店,1971 年。)
(*)(參考 : 坪井一「アリストテレス「形而上学」第 12 巻における実体論」倫理学年報 20,1971 年。)
(*)(參考：加藤信朗「アリストテレスの矛盾律について」(東京都立大学人文学報編集委員会)人文学報 79,1971 年。)
(*)(參考 : 川端香男里『ユートピアの幻想』潮出版社,1971 年(→1993 年,講談社学術文庫版。)
(*)(參考：茂泉昭男『アウグスティヌス倫理思想の研究』日本基督教団出版局,1971 年。)
(*)(參考：山田晶「在りて在る者：アウグスティヌスとトマスの Exod.3,14 解釈」京都大學文學部紀要 13,1971 年。)

(*)(参考：高橋亘『西洋神秘主義思想の源流』創文社,1971 年。)
(*)(参考：五十嵐久仁平「G.ヴィコと G.ヘルダーについて」史観 83,1971 年。)
(*)(参考：柏木英彦「サン・ヴィクトルのフーゴーにおけるフィロソフィアの問題」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 2,1971 年。)
(*)(参考：種山恭子「「哲学」と「宗教」の同盟—ホワイトヘッドの歴史観」松蔭女子学院大学・キリスト教論藻 5,1971 年。)
(*)(参考：今野國雄『修道院』近藤出版社,世界史研究双書 7,1971 年。)
(*)(参考：パノフスキー/浅野徹他訳『イコノロジー研究：ルネサンス美術における人文主義の諸テーマ』(新プラトン主義等)美術出版社,1971 年(→1987 年,新装版)。)
(*)(参考： 久志本秀夫「アンコーナのチリアコ伝のために」相愛女子大学・相愛女子短期大学研究論集 18,1971 年。)
(*)(参考：ヨハン・ホイジンガ/里見元一郎他訳『ルネサンスとリアリズム』(エラスムス)ホイジンガ選集 4,河出書房新社,1971 年(→1990 年,重版)。)
(*)(参考：荒川光男「ルネッサンス期の魔術—Greene,Marlowe,Shakespeare の手法」東北学院大学英語英文学研究所紀要 2,1971 年。)
(*)(参考：池田廉「ダンテ・ペトラルカ比較論の伝統：ルネサンス初期における」イタリア学会誌 19,1971 年。)
(*)(参考：佐藤三夫訳「プラトンの『饗宴—愛について』に関するマルシリオ・フィチーノの注解(1-3)」(流通経済大学学術研究会編)流通経済論集 6(2,3),1971 年/7(1),1972 年。)
(*)(参考：『筑摩世界文学大系 2(ホメーロス)』筑摩書房,1971 年。)
----「イーリアス」呉茂一訳
「オデュッセイア」高津春繁訳」
エミール・ファゲ/井上究一郎訳「『イーリアス』のなかのヘクトールとアンドロマケーとの別れ」
ベスバロフ/中川敏訳「トロイアとモスクワ」
高津春繁「解説」
(*)観世寿夫「私のなかのオイディプース」テアトロ 10 月号,1971 年。
(*)山崎有一郎「『オイディプース王』を観て」テアトロ 10 月号,1971 年。
(*)(参考：中村恒夫「ホラチウス研究の問題点」順天堂大学文理學紀要 14,1971 年。)
(*)(参考：ソンタグ/高橋康也(他)訳『反解釈』(ギリシア悲劇)竹内書店新社,1971 年。)
(*)(参考：岡道男「Die Ilias und die Heike-Monogatari—über die Entstehung eines Grossepas」学術会議文科系学会連合研究論文集 21,1971 年。)
(*)(参考：E.R.クルツィウス/南大路振一・岸本通夫・中村善也訳『ヨーロッパ文学とラテン中世』みすず書房,1971 年。)
(*)(参考：山口昌男「もうひとつのルネサンス(本の神話学[5])」中央公論 86(2),1971 年。)
(*)(参考：高階秀爾『ルネサンスの光と闇』三彩社,昭和 46 年(→1987 年,中公文庫版)。)
(*)(参考：高階秀爾「現代とエラスムス(1)」自由 13(1),1971 年。)
(*)(参考：高階秀爾「現代とエラスムス(2)不信の時代」自由 13(2),1971 年。)
(*)(参考：高階秀爾「現代とエラスムス(3)改革への底流」自由 13(3),1971 年。)
(*)(参考：高階秀爾「現代とエラスムス(4)古代へのめざめ」自由 13(4),1971 年。)

(*)(参考：高階秀爾「現代とエラスムス(5)一つの友情」自由 13(5),1971 年。)
(*)(参考：高階秀爾「現代とエラスムス(6)イタリアへの旅」自由 13(6),1971 年。)
(*)(参考：高階秀爾「現代とエラスムス(7)ベネチアの印刷業者」自由 13(7),1971 年。)
(*)(参考：高階秀爾「現代とエラスムス(8)ゆっくり急げ」自由 13(9),1971 年。)
(*)(参考：高階秀爾「現代とエラスムス(9)「痴愚神礼讃」」自由 13(10),1971 年。)
(*)(参考：高階秀爾「現代とエラスムス(10)宗教改革の嵐」自由 13(11),1971 年。)
(*)(参考：高階秀爾「現代とエラスムス(11)嵐のなかの生涯」自由 13(12),1971 年。)
(*)(参考：木ノ脇悦郎「Devotio Moderna とエラスムスの Philosophia Chritiana」神學研究 19,1971 年。)
(*)(参考：小原信「自由論再考―ルターとエラスムス(ルター〈特集〉)」実存主義 57,1971 年。)
(*)(参考：R.H.ペイトソン/出村彰訳『エラスムス』日本基督教団出版局,1971 年。)
(*)(参考：R.シュトゥッベリッヒ/倉塚平訳『メランヒトン：宗教改革とフマニスム』ルター神学研究叢書 6,聖文舎,1971 年。)
(*)(参考：山崎正己「ディドロ Diderd(1713-1784)とモンテェーニュ Montaigne(1533-1592)」東洋大学紀要 教養課程篇 9,1971 年/11,1972 年。)
(*)(参考：ヨハン・ホイジンガ/里見元一郎訳『ルネサンスとリアリズム』(エラスムス)ホイジンガ撰集 4,河出書房新社,1971 年(→1990 年,再版。)
(*)(参考：阿部知二『世界文学の歴史』カラー版,河出書房新社,1971 年(→1989 年,新装版。河出世界文学全集・別巻)。)
(*)(参考：鈴木力衛編『フランス文学史』明治書院,1971 年。)
(*)(参考：大友浩「パスカルとストイシスム」フランス語フランス文学研究19,1971年。)
(*)(参考：竹田英尚「『エセー』における随想の秩序」フランス語フランス文学研究19,1971年。)
(*)(参考：広島敏史「モンテェーニュ研究の歴史：ヴァレリーおよびボルドー市版以後：モンテェーニュ研究の問題と視点(和田誠三郎教授退官記念号)」(大阪大学) Gallia 10/11,1971 年。)
(*)(参考：後藤リラ子「モンテーニュにおける死と創造」洗足論叢 1971,1971 年。)
(*)(参考：一之瀬正興「ラ・ブリュイエールの「カラクテール」における女性像」文化紀要 5,1971 年。)
(*)(参考：吉川浩「ラ・ブリュイエールとその時代」同志社外国文学研究 2,1971 年。)
(*)(参考：山崎正己「ディドロ Diderot(1713-1784)とモンテーニュ(1533-1592)(1,2)」東洋大学紀要 教養課程篇 9,1971 年/11,1972 年。)
(*)(参考：P.ミルワード/野坂秀男訳『新約聖書と英文学』中央新書,中央出版社,1971 年。)
(*)(参考：ローパー・ウイリアム/松川昇洋郎訳・註「トマス・モア伝(Hitchcook 博士校訂版による)(1,2)」人文研究 47,1971 年/50,1972 年。)
(*)(参考：松田実矩「Paradise Lost における天国の描写法について：特にダンテの Paradiso と対比して」論集：神戸大学教養部紀要 10,1971 年。)
(*)(参考：戸田尚『Shaekespeare 研究』大盛堂書房,1971 年(→1977 年,2 版)。)
(*)(参考：シェークスピヤ/坪内逍遙訳『トロイラスとクレシダ』再版シェークスピヤ全集,新樹社,1971 年。)
(*)(参考：都留久夫「「トロイルスとクリセイデ」試論」横浜国立大学人文紀要,第二類,語

学・文学 18,1971 年。)
(*)(参考 : 引地正俊「ロミオとジュリエット伝説の形成について」比較文学年誌 7,1971 年。)
(*)玉木意志太牢「伝上田敏訳「リシダス」について」立命館文學 307,1971 年。
(*)宮西光雄『明治百年にわたる日本のミルトン研究』風間書房,1971 年。
(*)(参考 : 川田周雄「ドライデンの悲劇論—アリストテレスの「詩学」に照らして」甲南大学紀要・文学編 3,1971 年。)
(*)(参考 : 飯島武久「Rasselas 試論 : 詩人イムラックとラセラス王子」山形大学利語英文学研究 15,1971 年。)
(*)(参考 : 川口裕子「ジョン・キーツの憧れ—「エンディミオン」の場合」人文論究 21(4),1971 年。)
(*)(参考 : 高橋雄四郎「キーツと現代 : キーツ研究の最近の動向をめぐって」實踐英文学 3,1971 年。)
(*)(参考 : 高橋錘「T.S.エリオット・郷愁的伝統主義者 : 荒地からの離反」宮崎大学教育学部紀要,人文科学 30,1971 年。)
(*)(参考 : エリオット『詩人論』(菅康男訳「エウリピデスとマリ教授」/同訳「エリザベス朝の翻訳におけるセネカ」/平井正穂訳「シェイクスピアとセネカの克己主義」/吉田健一訳「ダンテ」/大浦幸男訳「バイロン」)改訂版エリオット全集 4,中央公論社,1971 年。)
(*)(参考 : 『批評—文学と言語 : 成田成壽教授還暦記念論文集』(宮下忠二「キーツの神話的想像」/中村義勝「美と永遠 : ペイターにおける唯美主義の展開」)研究社出版,1971 年。)
(*)(参考 : 戸張智雄「18 世紀初頭の悲劇「エレクトル」二篇[Longepierre,Crebillon]」仏語仏文学研究 4,1971 年。)
(*)(参考 : 岡光一浩「トーマス・マンのゲーテ像」北海道教育大学紀要 第一部 A 人文科学編 21(2),1971 年。)
(*)(参考 : 木村直司「「美しき魂の告白」の宗教性」ドイツ文学47,1971年。)
(*)(参考 : 中川英世「「箴言と省察」にみるゲーテの叡知」富山工業高等専門学校紀要5,1971年。)
(*)(参考 : 山中祥二「ゲーテの詩「原詞オルフェウス風に」“Urworte Orphisch”についての一考察」関西大学文学論集20(4),1971年。)
(*)(参考 : 平野雅史「ゲーテにおけるオルフォイスの暗闇」近代45,1971年。)
(*)(参考 : 大坪一裕「ゲーテの大学時代」島根大学文理学部紀要 文学科篇4,1971年。)
(*)(参考 : 高橋健二「ゲーテ伝の試み(1-45[完])」心24(12),1971年/25(1-12),1972年/26(1-12),1973年/27(1-12),1974年/28(1-8),1975年。)
(*)(参考 : 大森道子「アレクサンダー・フォン・フンボルトとゲーテ」立正大学教養部紀要 4,1971年。)
(*)(参考 : 藤平憲郎「「人類史の哲学のための諸理念」に於けるヘルダーの人間学」明治大学教養論集 62,1971 年。)
(*)(参考 : 五十嵐久仁平「G.ヴィコと J.G.ヘルダーについて」史観 83,1971 年。)
(*)(参考 : ウルリヒ・ホイサーマン/野村一郎訳『ヘルダーリン』伝記叢書,理想社,1971 年。)
(*)(参考 : 『手塚富雄全訳詩集』角川書店,1971 年。)
(*)(参考 : 佐々木直之輔「ヘルダーリン後期讃歌にあらわれたキリスト像試論」上智大学

ドイツ文学論集 8,1971 年。)
(*)(参考：最上宏信「ヘリダーリン研究(2)」金沢大学法文学部論集 人文科学編 8,1971 年。)
(*)(参考：中野久一「ヘルダーリン考察—時間の現象学」人文科学研究 40,1971 年。)
(*)(参考：ヘンリッヒ・ディーター「ヘーゲルとヘルダーリン—愛と美による生の統一をめぐって」自由 13(7),1971 年。)
(*)(参考：藤原五雄「過渡期のヘルダーリン—初期の「ヒューペリオン」草稿群を通して」愛媛大学教養部紀要 3,1971 年。)
(*)(参考：ヴェルナー・フォルケ/横山滋訳『ホーフマンスタール』理想社, 伝記叢書,1971 年。)
(*)(参考：H.ブロッホ/菊盛英夫訳『ホフマンスタールとその時代：20 世紀文学の運命』筑摩書房,筑摩叢書 174,1971 年。)
(*)(参考：辻善夫「ハックスの改作劇『平和』(アリストファネスによる)」(クヴェレ会『現代ドイツ戯曲論集』所収,1971 年。)
(*)(参考：山下太郎「ニーチェと原始キリスト教価値観」[静岡大学]人文論集 22,1971 年。)
(*)(参考：秋山英夫「ニーチェの「偉大な様式」という理念」ドイツ文学 47,1971 年。)
(*)(参考：水野清志「ニーチェの良心批判」哲学誌 13,1971 年。)
(*)(参考：水野清志「ニーチェの学問論」哲学誌 14,1971 年。)
(*)(参考：堀内操「近代批判の系譜(1)ニーチェとスティルナーの思想」高千穂論叢(昭和 45 年度),1971 年。)
(*)高松敏男「「ニーチェ文献」補遺(本誌 6 月号掲載「ニーチェに関する新聞・雑誌文献と翻訳書目」の補遺)」大阪府立図書館紀要 7,1971 年。
(*)杉田弘子「秋山英夫「文学的ニーチェ像」」ドイツ文学 46,1971 年。
(*)(参考：赤松宏「ハイデガー哲学と言葉の問題—ニーチェとの関連性」哲学 21,1971 年。)
(*)(参考：赤松宏「ハイデガー哲学と言葉の問題—ニーチェとの関連性」名古屋工業大学学報 22,1971 年。)
(*)(参考：塩屋竹雄「ニーチェ『悲劇の誕生』ノート--「悲劇的喜劇的芸術」について(古典の再発見)」理想 455,1971 年。)
(*)(参考：古賀保夫「ニーチェ研究序説」中京大学教養論叢 12(1),1971 年。)
(*)氷上英廣「鷗外とニーチェが近づいた」比較文學研究 18,1971 年。
(*)(参考：出口裕弘「アンドレ・マッソン—ディオニュソスの末裔」みすゞ 796,1971 年。)
(*)(参考：藤田赤二「悲劇について—ヤスパースの芸術論」早稲田商学 226,1971 年。)
(*)(参考：竹部琳昌「ブレヒト改作「ソフォクレスのアンチゴネー」における二つの問題—暴力的独裁政治のプロセスと非アリストテレス演劇」同志社外国文学研究 1,1971 年。)
(*)(参考：植田勝弘「Thomas Hardy：The Return of the Native とギリシア悲劇」待兼山論叢 4,1971 年。)
(*)『日本の名著・全 86 巻』中央公論者,1971-84 年。
(*)助川徳是「生田長江の出発—明治末年から大正初年までを中心に(近代批評の再検討,特集)」日本近代文学 15,1971 年。
(*)竹山道雄(他)「大正昭和文化人(和辻哲郎・安倍能成・小泉信三を中心に)」心 24(2),1971 年。
(*)和辻照「大正昭和文化人」(「心」12 月号座談会を読んで「和辻哲郎の青春時代」)

心 24(4),1971 年。
(*)木村毅「思出となった柳田泉」早稲田大学史紀要 4,1971 年。
(*)亀井高孝「あの頃の和辻哲郎君」心 24(6),1971 年。
(*)呉茂一「悼む」心 24(8),1971 年。
(*)神田盾夫「メモラビリア・座談と回顧---菅円吉/辻荘一/神田盾夫三先生をかこんで」キリスト教学 12,1971 年。
(*)野村光一編『お雇い外国人—音楽』鹿島出版会,1971 年。
(*)小長久子「音楽家としてのケーベル博士について」大分大学教育学部研究紀要・人文社会科学 B 集 4(1),1971 年。
(*)木村浩「ケーベル博士とロシア」ロシア手帖 1,1971 年。
(*)藤田一美「諸大学における美学講座等開設に関する資料」(ケーベル)美学 87,1971 年。
(*)久保勉「ケーベル先生を語る」図書 263,1971 年。
(*)弘津千代「中村吉蔵先生管見」悲劇喜劇 24(9),1971 年。
(*)村川堅太郎「貝殻追放」図書 263,1971 年。
(*)村川堅太郎「チェチェローネ初体験記」ちくま 24,1971 年。
(*)村野四郎・福田陸太郎・鍵谷幸信編『西脇順三郎研究』近代日本文学作家研究叢書,右文書院,1971 年。
(*)鍵谷幸信『西脇順三郎論』思潮社,1971 年。
(*)島朝夫「Ambravalia—旅人の出発(西脇順三郎の地平)」詩学 26(4),1971 年。
(*)(参考：神川信彦責任編集『歴史をつくった名演説』グロリアホームライブラリー,西欧文化への招待17,グロリアインターナショナル,1971年。)
(*)(参考：岸田達也「ホイジンガと西独史学」名古屋大学教養部紀要 A 人文科学・社会科学 15,1971 年。)
(*)(参考：ヘロドトス/松平千秋訳『歴史(上中下)』岩波文庫,岩波書店,1971 年。)
(*)(参考：ギボン；ヘロドトス/秀村欣二訳『ローマ帝国の衰亡；歴史物語』少年少女世界の歴史 2,あかね書房,1971 年。)
(*)(参考：久保正彰「トゥキュディデスとペルシア戦争」西洋古典学研究 19,1971 年。)
(*)河底尚吾「アクロポリスの丘から(ギリシアの大学・研究機関・演劇)」西洋古典學研究 19,1971 年。
(*)(参考:新村祐一郎「Lykurgos 改革と Rhetra をめぐって—A.Toynbee 氏の近業に関連して」大手前女子大学論集 5,1971 年。)
(*)(参考：太田芳三郎「ペシミズムとペーソスと--「西方のいしぶみ・序説」第8章[ヘロドトスとシモニデス]」静岡大学教養部研究報告,人文科学篇(6),1971 年。)
(*)(参考：土井正興「イタリアにおけるシチリア奴隷蜂起の研究について」専修人文論集 6,1971 年。)
(*)(参考：土井正興「第 1 次シチリア奴隷蜂起勃発年代の決定をめぐって」専修史学 4,1971 年。)
(*)土井正興「古代ギリシヤ史研究の新展開とその内包する諸問題—太田秀通氏の「古典古代」史の構想によせて」歴史評論 254,1971 年。)
(*)弓削達「古典古代『奴隷制社会』論の問題—フィンレイ『西洋古代の奴隷制』について」歴史学研究 379,昭和 46 年。)

(*)(参考：ギボン,ヘロドトス；秀村欣二編訳『ローマ帝国の滅亡；歴史物語』少年少女世界の歴史 2,あかね書房,1971 年。)
(*)(参考 : N.グラッツェル/岩本修一訳『F.ヨセフスによるユダヤ人の歴史—ハスモン家の台頭からエルサレム陥落まで』日本基督教団出版局,1971年。)
(*)(参考 : アンリ・カルヴェ/井上幸治訳『ナポレオン』(改訳)文庫クセジュ,白水社,1971 年。)
(*)(参考：ブルクハルト/樺俊雄訳『世界史的考察』潮文庫,潮出版社,1971年。)
(*)那須宗一「樺教授[樺俊雄]のプロフィール」中央大学文学部紀要 60,1971 年。
(*)樺俊雄「私の研究の過去と現在(最終講義)」中央大学文学部紀要60,1971年。
(*)(参考：岩井経男「ジャンフランコ=ティビレッティ「グラックス時代から帝政成立までのイタリアにおけるラティフンディアの展開」西洋史研究12,1971年。)
(*)伊藤貞夫「M.I.フィンレイ編古代奴隷制研究会訳「西洋古代の奴隷制—学説と論争」」史學雑誌 80(3),1971 年。)
(*)村川堅太郎他編『世界史地図・年表』山川出版社,1971 年。
(*)(参考：船越昭生「マテオ=リッチ作成世界地図の中国に対する影響について」地図 9(2),1971 年.)
(*)(参考 : 船越昭生「朝鮮におけるマテオ・リッチ世界地図の影響」人文地理 23(2),1971 年。)
(*)辻田右佐男『日本近世の地理学』柳原書店,1971 年(→1979 年,再版。)
(*)長久保光明「長久保赤水の中国地図・世界地図編集について」地図 9(2),1971 年。
(*)尾崎幸男「紅毛測量術(測量・地図百年史外伝)」測量 21(12),1971 年。
(*)上原久「高橋景保の地理学(前後)」埼玉大学紀要・人文科学 19,1971 年,20,1972 年。
(*)中井英夫「ケンタウロスの嘆き(三島由紀夫・生と死の遍歴[特集])」潮 136,1971 年。
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫編/東京大学文学部内史学会編『年表世界史提要』改訂 19 版,山川出版社,1971 年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『史料世界史(下)』23 版,山川出版社,1971 年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『詳説世界史』再訂版,山川出版社,1971 年。)
(*)(参考 : 村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『要説世界史 : 教授資料』再訂版,山川出版社,1971 年。)
(*)(参考：酒井忠夫『精説世界史研究』中教出版,1971 年。)
(*)「1970年の歴史学界—回顧と展望」史學雑誌80(5),1971年。
(*)「史学文献目録—西洋史2」史學雑誌80(5),1971年。
(*)「史学文献目録—西洋史3」史學雑誌80(8),1971年。
(*)(参考：永田雄三「トルコ語史料よりみたる 1770 年におけるモレア半島のギリシヤ人反乱」史學雑誌 80(7),1971 年。)
(*)(参考：熊野聡「ミケーネ社会の世界史的位置づけについて—太田秀通氏への疑問」(滋賀大学経済学会)彦根論叢 150,1971 年。)
(*)富沢賢治「マルクスの世界史像にかんする最近の研究—とくに山之内,淡路両氏の研究について」経済研究 22(3),1971 年。)
(*)土井正興「内田芳明著「マックス・ウェーバーと古代史研究」岩波書店」社会経済史学 37(4),1971 年。
(*)中西敬二郎「野々村戒三教授探訪記抄録」早稲田大学史記要 4,1971 年。
(*)呉秀三『箕作阮甫』(初版 大 3 年)復刻,思文閣,1971 年。

(*)(参考：久場嬉子「フリードリッヒ・リストの世界史認識について」一橋論叢 65(2),1971 年。)
(*)太田秀通「吉田悟郎著「歴史認識と世界史の論理」,「歴史認識と世界史教育」」歴史学研究 371,1971 年。
(*)(参考：神川正彦「世界史における時代区分の諸問題—比較歴史学の前提(1)」(神奈川大学人文学研究所)人文学研究所報 5,1971 年。)
(*)(参考：SD 編集部編『特集・地中海建築』鹿島研究会出版会,1971 年。)
(*)厨川勇『日本ビザンチンの建築』出版社不明,1971 年。
(*)(参考 : T.グレゴリー/飯尾都人訳「アリストテレス自然学導入以前の中世哲学における自然観」イタリア学会誌 19,1971 年。)
(*)(参考：立川昭二『病気の社会史』NHK ブックス,1971 年。)
(*)(参考：岡西順二郎『結核の歴史年表』日本化薬医薬部,1971 年。)
(*)(参考：桜井信夫「ヒポクラテスと破傷風(研究余話)」千葉医学会雑誌 47(2),1971 年。)
(*)(参考：緒方富雄「ヘイステル内科書とそのなかのヒポクラテスのことば」日本医史学雑誌 17(4),1971 年。)
(*)(参考：北沢清「ユニバシアードとオリンピアードの研究の資料」順天堂大学保健体育紀要 14,1971 年。)
(*)(参考：加藤元和「古代オリンピア祭典競技の起源と周辺」体育学研究 16(2),1971 年。)
(*)(参考：高松守一「古代社会における体育—ギリシア神話時代の体育」愛知県立大学文学部論集,一般教育編 22,1971 年。)
(*)(参考：L.マンフォード/樋口清訳『機械の神話』河出書房新社,1971 年。)
(*)(参考 : T.K.テリー,T.I.ウィリアムズ/平田寛・田中実訳『技術文化史(上下)』筑摩書房,1971-72 年。)
(*)(参考：田中実『科学と歴史と人間』国土社,国土新書 36,1971 年。)
(*)(参考：田中美知太郎/志村栄一インタヴュー「人間と自然について」(志村栄一編『現代文明について発言する—創価学会員との対話』所収,仙石出版,1971 年。)
(*)(参考：田中美知太郎・山元一郎・石本新「対談 三人の科学哲学者」(世界の名著 58「ラッセル・ウィトゲンシュタイン・ホワイトヘッド」付録 55,中央公論社,1971 年。)
(*)(参考：八杉龍一責任編集『自然と人間』グロリアホームライブラリー,西欧文化への招待 12,グロリアインターナショナル,1971 年。)
(*)(参考：崎川範行責任編集『自然科学の歩み』グロリアホームライブラリー,西欧文化への招待 13,グロリアインターナショナル,1971 年。)
(*)木村陽二郎編『科学史』College Books,有信堂,1971 年。
(*)中山秀太郎「村上陽一郎「西欧近代科学—その自然観の歴史と構造」」ソフィア 20(3),1971 年。
(*)野尻抱影「オリオンとともに 70 年」科学朝日 31(4),1971 年。
(*)(参考：佐藤睦「アポロ 15 号の輝かしい成果—古代の月の秘密に触れる」世界週報 52(34),1971 年。)
(*)東京科學博物舘編『江戸時代の科學』名著刊行会[覆刻],1971年(←昭和9年,博文舘刊。)
(*)岩城正夫「日本科学史学会 30 年の歩み」科学史研究[第 2 期]10(100),1971 年。
(*)片桐一男「オランダ正月の盛行」蘭学資料研究会研究報告 242,1971 年。

(*)緒方富雄「芝蘭堂新元図の西洋人の画像」蘭学資料研究会研究報告 242,1971 年。
(*)大崎正次「天文方雑考」蘭学資料研究会研究報告 250,1971 年。
(*)海老澤有道「日本天文暦学と南蛮学統」(岩波書店)『日本思想史大系』月報 15,1971 年。
(*)有坂有道「蘭学と日本人の宇宙観」(緒方富雄編『蘭学と日本文化』所収,東京大学出版会,1971 年。)
(*)大矢真一「和算と暦学」『日本思想大系』月報 15,1971 年。
(*)古田東朔「大庭雪齋訂補の『暦書新書』」蘭学資料研究科研究報告 251,1971 年。
(*)向井晃「暦象新書(佐野恒民旧蔵)について」蘭学資料研究科研究報告 251,1971 年。
(*)ジャック・ペジノ「厚生新編の翻訳について」上智大学フランス語フランス文学研究 3,1971 年。
(*)兼重護「シーボルトと川原慶賀」長崎談叢 52,1971 年。
(*)片桐一男「杉田玄白と海外知識」日本歴史 272,1971 年。
(*)青木靖三「世紀末と科学史」物理学史研究 7(3),1971 年。
(*)額田淑「宇田川榕菴の窮理」美作女子大学研究紀要 4,1971 年。
(*)橋本万平「明治初期の物理学」日本天文研究会報文 4(4),1971 年。
(*)宗田一「わが国における“化学”の呼称」科学史研究 98,1971 年。
(*)島尾永康「日本におけるラヴォアジェ化学の受容—宇田川榕庵手稿本にみる」科学史研究 99,1971 年。
(*)矢部一郎「宇田川榕菴の植物啓原(1)」」蘭学資料研究会研究報告 242,1971 年。
(*)宗田一「川本幸民の理化学書」蘭学資料研究会研究報告 248,1971 年。
(*)矢部一郎「宇田川榕菴と自然発生説」蘭学資料研究会研究報告 251,1971 年。
(*)矢部一郎「宇田川榕菴の植物独語」蘭学資料研究会研究報告 253,1971 年。
(*)木村陽二郎「紅毛本草と鉱山事業(日本生物学史雑話)」高校理科研究 5(3),1971 年。
(*)上野益三「本草綱目と日本の博物学」甲南女子大学研究紀要 7,1971 年。
(*)山崎俊雄「岡邦雄氏の逝去を悼む—氏の生涯と著作[含略歴・著作年表]」(日本科学者会議編)日本の科学者 6(8),1971 年。
(*)桝本セツ「岡邦雄の一生」思想の科学(第 5 次)125,1971 年。
(*)田邊振太郎「岡邦雄サンとの出会い」科学史研究(第 II 期)10(99),1971 年。
(*)山崎俊雄「岡邦雄の生涯と業績」科学史研究(第 II 期)10(99),1971 年。
(*)佐々木享「岡邦雄先生の想い出に」技術教育研究会会報 67,1971 年。
(*)木々高太郎『随筆・詩・戯曲ほか』(「ヒポクラテスの全集 Logico-physiologicus」)木々高太郎全集 6,朝日新聞社,1971 年。）
(*)(参考 : 岸野雄三『ヒポクラテースの養生法 : 食養生と体操』杏林新書,杏林書院,1971 年。)
(*)『日本人とヒポクラテス画像展』梅澤記念館,1971 年。
(*)(参考 : 緒方富雄「ヘイステル内科書とそのなかのヒポクラテスのことば」日本医史學雑誌 17(4),1971 年。)
(*)緒方富雄編『日本におけるヒポクラテス讃美 : 日本のヒポクラテス画像と賛の研究序説』日本医事新報社,1971 年。
(*)(参考 : 加藤元和「古代オリンピア祭典競技の起源とその周辺」体育学研究 16(2),1971 年。)
(*)(参考 : 馬場典明「共和政末・帝政初期の東部諸属領に於けるローマ鉱山業の状態」史淵 104,1971 年。)
(*)藤原昭夫「明治前期における経済学史研究の発展—日本における経済学史研究史(1)」

千葉商大論集 B(商経)15,1971 年。
(*)(参考：田中美知太郎『直言,そして考察：今日の政治的関心』講談社,1971 年。)
(*)(参考：田中美知太郎・猪木正道他『変革期のなかの自由』自由選書,自由社,1971 年。)
(*)(参考：田中美知太郎・山崎正和「対談 国家について」自由11月号,1971年。)
(*)(参考：平田隆一「エトルスキ王制—ウエイーの王制(1)」東北学院大学論集 歴史学・地理学2,1971年。)
(*)清水純一「原理と状況—佐々木毅「マキャヴェッリの政治思想」」思想562,1971年。)
(*)西村卓二「佐々木毅著「マキアヴェツリの政治思想」」史學雑誌80(8),1971年。)
(*)(参考：『知識人と狂信』自由選書,自由社,1971年。)
(*)(参考：佐藤篤士「Lex Poetelialについて—ローマにおける奴隷制発展の法的側面」早稲田法学46(1),1971年。)
(*)(参考：船田享二『家族・相続』改版ローマ法,岩波書店,1971年。)
(*)(参考：F.H.ローソン/小堀憲助・真田芳憲・長内了訳『英米法とヨーロッパ大陸法』日本比較法研究所翻訳叢書8,日本比較法研究所,1971年(→1980年,再版。))
(*)田中周友「故町田実秀法学博士略歴・主要業績」法制史研究21,1971年。
(*)春木一郎[述]・吉田五郎[解説]「春木一郎講述「羅馬法講義(訴訟法篇)」[明治40年度、京都帝国大学法学部講義の翻刻]八幡大学社会文化研究所紀要1,1971年。

(*)(参考：セレブリャコワ/福井研介訳『青春』物語マルクス・エンゲルス伝,合同出版,1972年。)
(*)(参考：村上五郎「若いマルクスとその学位論文」奈良文化女子短大紀要3,1972年。)
(*)(参考：正木八郎「マルクスにおける実践理念の生成—学位論文と「準備ノート」」思想580,1972年。)
(*)(参考：D.マクレラン/西牟田久雄訳『マルクス主義以前のマルクス』勁草書房,1972年。
(*)杉原四郎「広松渉著「青年マルクス論」(著者への手紙)」現代の眼13(3),1972年。
(*)(参考：布村一夫「19-2「古代社会ノート」(マルクス・コンメンタール 特集[7])」現代の理論9(6),1972年。)
(*)吾郷清彦『古事記以前の書』大陸書房,1972年(→1975年,『古事記以前の書：「ウエツフミ」の研究』新装特装版。)
(*)本城靖久『優雅な貧乏旅行のすすめ(ヨーロッパ篇)』ジャパンタイムズ,1972年。
(*)堀米庸三「ヨーロッパ歴史紀行(5-7)地中海世界の覚え書(1-3)」潮153,154,156,1972年。
(*)(参考：三木利英「地中海文化の証人(世界の大学と学生生活[6]アルジェ大学)」厚生補導74,1972年。)
(*)(参考：G.ウッドコック/金倉円照・塚本啓祥訳『古代インドとギリシア文化』平楽寺書店,1972年。)
(*)(参考：高柳俊一「ヨーロッパ—精神史における意義と役割」ソフィア21(3),1972年。)
(*)大慈弥嘉久「西と南[欧州・フィリピン]への旅」通産ジャーナル4(6),1972年。
(*)塩野七生『イタリアからの手紙』新潮社,1972年。
(*)立田洋司「トルコ・ギリシア紀行(1-5)」三彩284,285,286,287,288,1972年。
(*)竹山道雄「南仏紀行」ジェット・トラベル9,10,12月号,1972年。
(*)(参考：杉村貞臣「コンスタンス2世のローマ訪問とシチリア移住」関学西洋史論2,1972

年。)
(*)南條範夫『エーゲ海に死す：長編推理小説』カッパ・ノベルス,光文社,1972年。
(*)船越謙教授退官記念事業会『地理科学の諸問題』(米倉二郎「瀬戸内海 エーゲ海 エリー湖—その沿岸の比較地誌的考察」)1972年。
(*)「特集 エーゲ海遺跡と女と」週刊文春14(33),1972年。
(*)「石坂浩二・浅丘ルリ子夫妻がエーゲ海へ」週刊明星15(13), 1972年。
(*)(参考：鈴木良徳『オリンピック紀行』ベルブックス,日本交通社,1972年。)
(*)堀米庸三「ヨーロッパの歴史紀行(1-10)」潮149,150,151,152,153,154,156,158,159,160,1972年。)
(*)(参考：田口かおり「〈論文〉近代イタリア修復学と《マドンナ・ピカソ》—1972 年「フィレンツェ・レスタウラ(フィレンェは,修復する)」を中心に」ディアファネース：芸術と思想 1,1972 年。)
(*)(参考 : 佐藤真理恵「〈論文〉顔を逃れる顔—古代ギリシア世界におけるアプロソポス論」ディアファネース：芸術と思想 1,1972 年。)
(*)(参考：鯖江秀樹「〈論文〉ローマ万博の光と影—ジョゼッペ・ボッタイのまなざし」ディアファネース：芸術と思想1,1972年。)
(*)(参考：勝国興「デューラーのイタリア体験(上下)」人文学122,123,1972年。)
(*)(参考：馬場孚瑳江「南へひらかれた世界—ゲーテの「ローマの悲歌」」学園論集20,1972年。)
(*)(参考 : 菊地昌実「地中海の青春—カミュの場合」北海道大学外国語・外国文学研究18,1972年)
(*)(参考：皆川三郎「歴史の糸—日本に「博言学」を誘導したCaptain Hallの「航海記」」明治学院論叢188,1972年。)
(*)水野公寿「「開化の手引き」について」熊本史学40,1972年。
(*)(参考 : 金子史朗「崩されたアトランチス大陸の伝説—サントリン火山をめぐる最近の研究(2)」地理17(12),1972年。)
(*)(参考：ベーコン/服部英次郎・多田英次訳,中橋一夫訳『学問の進歩,ノヴム・オルガヌム ニュー・アトランチス』世界の大思想8,河出書房新社,1972年。)
(*)(参考：N.F.ジロフ/伊藤清久訳『アトランティス大陸研究』大陸書房,1972 年(→1977 年新装特製版)。)
(*)(参考：新妻篤「「ローマの泉」--コンラート・フェルディナンド・マイヤーの抒情詩」北海道大学外国語・外国文学研究18,1972年。)
(*)荻野博「西方世界と印度洋貿易(1)：ヘレニズム時代・ローマ帝政初期を中心に」流通経済論集6(4),1972年。
(*)(参考：チャップリン/中野好夫訳,ロモラ・ニジンスキー/三田正雄訳,シュリーマン/永川玲二訳『私の駆出し時代・神との結婚・トロイアへの道』ノンフィクション全集15,筑摩書房,1972年。)
(*)(参考：堀田彰「ミュケーナイとホメーロス」東京教育大学文学部紀要85,1972年。)
(*)(参考：田中秀央「プラトーンのアカデーメイア」心7月号,1972年。)
(*)(参考：鯖田豊之『文明の条件：日本とヨーロッパ』講談社現代新書,講談社,1972年。)
(*)(参考：飯沢匡「ホモ・ルーデンスとパロディ(パロディ,特集)」悲劇喜劇25(3),1972年。)
(*)(参考：栗原福也「ホイジンガ再考」史学雑誌81(9),1972年。)

(*)(参考：栗原福也「ホイジンガ再論」東京女子大學附屬比較文化研究所紀要33,1972年。)
(*)(参考：堀米庸三「栗原福也著「ホイジンガ」」史学雑誌81(9),1972年。
(*)(参考：栗原福也『ホイジンガ：その生涯と思想』潮新書84,潮出版社,1972年。)
(*)(参考：アントン・ミルコ・コクターネフ/南原実・加藤泰義訳『シュペングラー：ドイツ精神の光と闇』新潮社,1972年。)
(*)(参考：小出厚之助『オスヴァルト・シュペングラーの都市観』設研,日本開発銀行設備投資研究所,1972年。)
(*)(参考：アントン・ミルコ・コクターネク/南原実・加藤泰義訳『シュペングラー：ドイツ精神の光と闇』新潮社,1972年。)
(*)(参考：松本重治「未来に生きる史家の面影(歴史家トインビーの人と真実(インタビュー構成 真木俊一郎)」潮156,1972年。)
(*)(参考:岩村忍「今世紀最大の歴史家(歴史家トインビーの人と真実(インタビュー構成 真木俊一郎)」潮156,1972年。)
(*)(参考：山本新「ギリシャ人の虐殺批判(歴史家トインビーの人と真実(インタビュー構成 真木俊一郎)」潮156,1972年。)
(*)(参考：谷川徹三「謙虚な人柄と天才的研究(歴史家トインビーの人と真実(インタビュー構成 真木俊一郎)」潮156,1972年。)
(*)遠藤周作『牧歌：留学・紀行エッセイ集』番町書房,1972年。)
(*)(参考:C.W.ツェーアム/大倉文雄訳『神と墓の古代史:図説・考古学』法政大学出版局,1972年。)
(*)三越『古代地中海考古と美術展=Exhibition of ancient mediteranian art and archaeolgy』,1972年。
(*)(参考：加藤九祚「古代シルクロードの住民―その生と死と来世観」世界314,1972年。)
(*)(参考：長澤和俊『張騫とシルクロード：東西文化の交流』Century books,人と歴史シリーズ,清水書院,1972年(→1984年,清水新書。→2017年,新訂版,新・人と歴史拡大版12,清水書院。)
(*)(参考:Dandekar Ramchandra Narayan/荒牧典俊訳「インドと地中海世界の文化接触について(“Some aspects of the Indo-Mediterranean contacts”,Diogenes No.71,1970)」ディオゲネス6,1972年。)
(*)(参考：Gustav E.von Grunebaum/青木靖三訳「地中海地域における文化的伝統の収斂(“The convergence of cultural traditons in the Mediterranean area” Diogenes No.71,1970)」ディオゲネス6,1972年。)
(*)(参考：中村二柄『美術史の自律』京都教育大学,1972年。)
(*)(参考：中江彬「ミケランジェロの素描teste divineについて」大阪府立大学紀要,人文・社会科学20,1972年。)
(*)堀内清治「第二次熊本大学環地中海遺跡調査」学術月報25(10),1972年。)
(*)(参考：金田民夫,村上憲司,深田進『美術のヨーロッパ：美術館と遺跡をたずねて』創元社,1972年。)
(*)(参考：京都国立近代美術館『近代イタリア美術の巨匠たち』(会場：京都国立近代美術館,会期:1972年4月15日~5月21日),昭和47年。)
(*)上山春平『日本の思想：土着と欧化の系譜』サイマル出版,1972年。
(*)家永三郎『上宮聖徳法王帝説の研究』(増訂版)三省堂,1972年。

(*)富永惣一先生古稀記念会編『富永惣一先生古稀記念論文集』天心社刊行会,1972年。
(*)文部省/日本学術振興会『学術用語集』1972年。
(*)(参考：谷津,内田『動物分類名辞典』中山書店,1972年。)
(*)(参考：エヴェレット・F.ハリソン,W.ジョフリ,F.H.ヘンリーブロムソ/神学事典翻訳委員会訳『神学事典』聖書図書刊行会,いのちのことば社(発売),1972年。)
(*)(参考：倉橋健編『シェイクスピア辞典』東京堂出版,1972年。)
(*)(参考：A.シュタウブ『ギリシア・ローマ古典文学参照辞典』中央出版社,1972年。)
(*)(参考：新庄嘉章・根津憲三編『フランス文学辞典』東京堂出版,1972年。)
(*)三沢光博「ホフマンの日蘭辞典について—その編纂事情を中心に」(日本大学)語文37,1972年。
(*)齋藤信「前野良沢の「蘭訳筌」について(含京都大学文学部蔵「蘭訳筌」写本・翻刻)」名古屋市立大学教養部紀要,人文社会研究16,1972年。)
(*)上原久「蕃書和解御用の創設事情」蘭学資料研究会研究報告262,1972年。
(*)(参考：J.G.ヘルダー/木村直司訳『言語起源論』大修館書店,1972年(→1977年,3版。→1975年,再版)。)
(*)(参考：渡部昇一「言語学古典の出版(J.G.ヘルダー著木村直司訳「言語起源論」C.ランスロール,A.アルノー共著P.リーチ編序南館英孝訳「ポール・ロワイヤル文典」)」ソフィア21(2),1972年。)
(*)(参考：J.ヴェルガン他/風間喜代三他訳「世界の言語」アンドレ・マルティネ編「近代言語大系」2,1972年。)
(*)(参考：松田禎二「古典ギリシアのパイデイア」京都産業大学論集・外国語と文化系列1,1972年。)
(*)(参考：野上素一「第11回国際言語学者会議に出席して」言語研究1972(62),1972年。)
(*)(参考：藤原与一「地中海域言語問題とその研究に対する私の関心：第4回地中海域言語研究会国際会議について」ニタバ1,1972年。)
(*)(参考：皆川三郎「歴史の糸—日本に「博言学」を誘導したCaptain Hallの「航海記」」明治学院論叢188,1972年。)
(*)(参考：田中秀央『語源百話：文化史的に見た外来語』南江堂,1972年。)
(*)泉井久之助著/河合忠信解説『吉利支丹における日本語学の潮流』天理大学出版部,Classica Japonica,1972年。)
(*)(参考：岡道男「ギリシア・ラテン語あらかると(1-9)」英語研究4,5,6,7,8,9,10,11,12,1972年。)
(*)栗城順子「キリシタン文学における「自由」について」『国語国文学論集・谷山茂教授退職記念』所収,塙書房,1972年。
(*)海老澤有道「『耶蘇教写経』再考：さんたまりあのおひしよ」史苑32(2),1972年。
(*)福島邦造「ヴィセンテ訳聖女カテリナ伝：サントスの御作業本文成立考」實踐國文學2,1972年。
(*)(参考：渡部昇一「アリストテレスの言語観」英語英文学世界8月号,1972年。)
(*)(参考：田中美知太郎・外山滋比古「対談 テクストをめぐって」世界の名著8「アリストテレス」付録60,中央公論社,1972年。)
(*)(参考：松本克己「ホメーロスの言語の方言的・年代的諸相」西洋古典學研究20,1972年。)

(*)(参考：岡道男「ギリシア・ラテン語あらかると(1-9)」英語研究4,5,6,7,8,9,10,11,12,1972年。)
(*)(参考：竹島俊之「ポリュビオス「歴史」の中に見出される格言的表現について」(西日本言語学会)ニダバ1,1972年。)
(*)(参考：R.D.ベリー/古田暁訳『フィロビブロン(書物への愛)』フォルム画廊出版部,1972年。)
(*)(参考：小方厚彦『16 世紀フランスにおけるフランス語とフランス語観—Ramus の研究』関西大学出版・広報部,1972年。)
(*)(参考：梶嘉一郎「ドイツ的フマニスムとヴィルヘルム・フォン・フンボルト：フンボルト言語哲学の背景」同志社外国文学研究3,1972年。)
(*)(参考:芦津丈夫「言葉の起源:ヘルダーの『言語起源論』について」ドイツ文學研究19,1972年。)
(*)柳沼重剛「大学における古典教育のあり方(シンポジウム発表要旨)」西洋古典學研究 20,1972 年。
(*)水野有庸「日本におけるラテン語教育の現状と課題：京大文学部のばあいを中心に(同上)」西洋古典學研究 20,1972 年。
(*)小畑明「わが国における古典語教育について(同上)」西洋古典學研究20,1972年。
(*)(参考：佐藤玖美子「古典ラテン語音素についての一考察」(駒澤大学)論集1,1972年。)
(*)(参考:山下憲治「ラテン語又はラテン語より由来した耳鼻咽喉科術語の発音 各論 耳の[1,2](温故知新)」耳鼻咽喉科臨床 65(8),1972 年/66(8),1973 年。)
(*)(参考：柴田光蔵「法学ラテン語教室(1-8)辞書のひき方あ・ら・か・る・と」判例タイムズ23(2-4,6, 7-9),1972年。)
(*)(参考：柴田光蔵「法学ラテン語教室(9)質問に答えて」判例タイムズ23(10),1972年。)
(*)(参考：柴田光蔵「法学ラテン語教室(10)英語とロマンス語とラテン語」判例タイムズ23(11),1972年。)
(*)(参考：丑田弘忍訳註「中世のラテン語叙事詩“Waltharius”の翻訳並びに研究(1,2,3)」中京大学教養論叢13(2,3),1972年/14(1),1973年。)
(*)泉井久之助著/河合忠信解説『吉利支丹における日本語学の潮流』天理大学出版部,Classica Japonica,1972年。)
(*)呉茂一「呉家と箕作家」文学40(6),1972年。
(*)杉本つとむ『ことばの文化史』桜風社,1972年。
(*)柳父章『翻訳語の論理：言語にみる日本文化の構造』法政大学出版局,1972年(→1992年教養選書80)。
(*)松田修「神聖無頼—田中英光における聖痕(ステイグマ)の構造」中央公論87(4),1972年。
(*)小田切一雄「洒落っ気ある人間讃歌—四季「オリンポスの恋歌」(上演劇評)」テアトロ348,1972年。
(*)(参考：カール・ケレーニイ/高橋英夫訳『神話と古代宗教』新潮社,1972年(→2000年,ちくま学芸文庫)。)
(*)(参考：カール・ケレーニイ/辻村誠三訳『プロメテウス：ギリシア人の解した人間存在』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,1972年。)
(*)(参考：トーマス・マン&カール・ケレーニイ/菊盛英夫訳「神話への回帰(トーマス・マン=ケレーニイ「往復書簡」(1960)より)」海4(2),1972年。)

(*)(参考:エリアーデ/岡三郎訳『神話と夢想と秘儀』国文社,1972年(→1982年,新装版。→1994年,新装版)。)
(*)(参考：古賀武麿「象徴と歴史(1)エリアーデの諸説に関して」哲学論集18,1972年。)
(*)(参考：伊藤正穏「聖の象徴的表現に関して—特にエリアーデとティリッヒの所論」同朋大学論集26,1972年。)
(*)(参考：水田徹「ギリシア幾何学様式美術における神話・伝説的物語表現」西洋古典學研究 20,1972 年。)
(*)(参考：吉田敦彦「ヘロドトスのスキュタイ神話」西洋古典學研究 20,1972 年。)
(*)(参考：吉田敦彦「印欧神話と日本神話」歴史と人物3月号,1972年。)
(*)(参考：吉田敦彦「戦神と豊穣神」歴史と人物3月号,1972年。)
(*)吉田敦彦「アマテラス・スサノオ・オオクニヌシ—古典神界における主神グループの構造」歴史と人物 12 月号,1972 年。)
(*)(参考：布村一夫「新しい日本神話学のために—悲歌期神話学者・高木敏雄五十年忌」歴史評論 268,1972 年。)
(*)(参考:青柳正規「『花冠を担ぐエロス』の源流と伝播に関する一考察」オリエント15(2),1972年。)
(*)(参考:カール・ケレーニイ/高橋英夫訳『神話と古代宗教』新潮社,1972年(→2000年,ちくま学芸文庫版。)
(*)(参考：串田孫一『ギリシア神話』雪華社,1972年。)
(*)(参考：呉茂一編『ギリシア神話 美術と伝説にみる世界』社会思想社,1972年。)
(*)(参考：ピカード/高杉一郎訳『ホメーロスのオデュセイア物語』岩波児童図書,1972年。)
(*)(参考：篠田知和基「水上の詩学—G.ド・ネルヴァルにおけるウェヌス誕生の様相」明治学院論叢192,1972年。)
(*)(参考：饗庭孝男「リヒャルト・ワーグナーと神話の問題」音楽芸術30(10),1972年。)
(*)(参考：トーマス・マン,カール・ケレーニイ/菊盛英夫訳「神話への回帰(トーマス・マン=カール・ケレーニイ「往復書簡」[1960])」海4(2),1972年。)
(*)(参考：松谷健二「神話のあざらし『ホメーロスと北欧神話』」(『東北大学柴田治三郎先生記念論文集』所収,1972年。)
(*)(参考:小川英雄「ドウラ･エウロポスのミトラス神殿と初期ミトラス教(2)」史学44(4),1972年。)
(*)(参考：佐竹昭臣「ゲーテの宗教観--「たゆまぬ努力」の問題(2)」新潟大学教育学部高田分校研究紀要16,1972年。)
(*)(参考：佐竹昭臣「ゲーテの宗教観--「天上の序曲」の問題(1)」新潟大学教育学部紀要人文・社会科学編13,1972年。)
(*)(参考：O.クルマン/川村輝典訳『イエスと当時の革命家たち』日本基督教団出版局,1972年。)
(*)(参考：半田元夫『原始キリスト教史論考』清水弘文堂書房,1972年。)
(*)(参考：神田盾夫「C.H.ドッド『イエス』」聖書と教会5月号,1972年。
(*)(参考：蛭沼寿雄『新約正典のプロセス』山本書店,1972年(→1989年,2版)。
(*)(参考：小嶋潤『キリスト教の起源と定礎』聖公会出版,1972年。)
(*)(参考：小嶋潤『新約聖書正典の編成と伝承』聖文舎,1972年。)
(*)(参考：石原兵永『パウロの生涯』石原兵永著作集2,山本書店,1972年。)

(*)(参考：フランシスコ会聖書研究所訳注『ヨハネの黙示録：原文からの批判的口語訳』聖書,中央出版社(発売),1972年。)
(*)(参考：秀村欣二「サンヒドリンのイエス裁判の歴史性についての問題—研究の現段階」歴史と文化(東大・教養)10,(歴史14),1972年。)
(*)(参考：野町啓「最近のボルフュリオス研究の動向—Heirich Dorrie:Porphyrios“Symmikta Zetemata”(Zetemata,Heft 20,1959)をめぐって」中世思想研究14,1972年。)
(*)(参考:Yu Ibuki“Die Wahirheit im Jahannesevangelium”Bonner biblische Betrage39,P.Hanstein,1972.)
(*)(参考：居村栄「エクレシアの展開(4-6)ヘレニズムとヘブライズム(1-3)」岡山大学教育学部研究集録34/1972年/35,37,1973年。)
(*)(参考：荒井献『パウロをどうとらえるか』新教出版,1972年。)
(*)(参考：荒井献「古代教会における正統と異端の問題—マルキオンとグノーシス主義を中心として(キリスト教会における正統と異端[特集]--(キリスト教における正統と異端—歴史的展望[研究フォーラム・日本基督教学会第19回学術大会「昭和46年における発題」])」日本の神学11,1972年。)
(*)高田茂『聖母マリア観音：御姿と伝承』立教出版会,1972年。
(*)(参考：久山宗彦「アレクサンドリアのクレメンスの人間論について」カトリック研究21,1972年。)
(*)(参考：北杜夫・辻邦生「長篇小説の主題と技法—辻邦生「背教者ユリアヌス」を書き終えて」海4(9),1972年。)
(*)(参考:辻邦生『背教者ユリアヌス』中央公論社,1972年(→1974-75年,中公文庫,上中下巻)。
(*)(参考：笠井叡『天使論』現代思潮社,1972年(→1976年,新装版。→2013年,再版)。)
(*)(参考：アンリ・ダヴァンソン/新倉信一訳『トゥルバドゥール—幻想の愛』筑摩書房,1972年。)
(*)(参考：橋本龍幸「トゥールのグレゴリウスと「聖マルチヌスの座」--ガロ=ローマ人の意識変革に関する一考察」史学研究116,1972年。)
(*)(参考：山崎寿雄「「神に対する友愛について」--ベルナルドゥスの愛神訓とキリスト教的友愛の意味の研究」カトリック研究22,1972年。)
(*)(参考：塩野七生『神の代理人』中央公論社,1972年(→1975年,中公文庫版。→1996年,改版中公文庫版)。)
(*)(参考:久志本秀夫「フィレンツェ公会議のイタリア人文主義に与えた影響について(1,2)」イタリア学会誌20,1972年/21,1973年。)
(*)渡辺晋「〈論文〉不在と韜晦—G.Greene：The Powewr & the Glory 遠藤周作「沈黙」に於ける神の不在」実践英米文学 2,1972 年。
(*)荒井聡子「日本と西欧の異質性をどうみるか—遠藤周作の場合をめぐって(土着とその周辺〈特集〉)」世紀 261,1972 年。
(*)水浦シヅエ「キリストにおける言葉の連続--「沈黙」[遠藤周作著]の転びをめぐって」世紀 266,1972 年。
(*)青木晃「映画『沈黙』からはじめて：遠藤周作論ノート(1)」青須我波良 5,1972 年。
(*)秋元なおみ「十字架の文学：『沈黙』を中心とする遠藤周作論の試み」国文目白 11,1972 年。
(*)菅野陽「銅版世界図(1)司馬江漢」蘭学資料研究会研究報告264,1972年(→1973年。)

(*)菅野陽「はぎ合わせた銅版地球図」學燈69(2),1972年。
(*)高瀬重雄『近世における地球計測の一例—加賀藩士遠藤高環の場合』(赤松俊秀教授退官記念事業会編『赤松俊秀教授退官記念国史論集』所収,1972年。)
(*)菊池政夫「わが国の地図作製と図式の変遷」軍事史学 7($),1972 年。
(*)(參考：小林秀雄『歴史について：小林秀雄対談集』(田中美知太郎)文藝春秋,1972 年。)
(*)(參考：カミュ/大久保輝臣・高畠正明・滝田文彦訳『アストゥリアスの反乱；裏と表：結婚』カミュ全集 1,新潮社,1972 年。)
(*)(參考：ブルクハルト/藤田健治訳『世界史的考察』岩波文庫,岩波書店,1972年。)
(*)(參考：トインビー/秀村欣二・清永昭次訳『ハンニバルの遺産』世界の大思想44,河出書房新社,1972年。)
(*)(參考：土井正興「第 1 次シチリア奴隷蜂起勃の復元をめざして(1,2)」専修史学 4,1971年5,1972年。)
(*)(參考：千代田謙「歴史主義の三途—クローチュ・ホイジンガ・オルテガ(1,2)」広島商大論集 法文編13(1),1972年/13(2),1973年。)
(*)(參考：新井嗣雄「ハイヘルハイム教授の業績とその古代史学上に於ける意義」関西学院史学14,1972年。)
(*)(參考：長谷川博隆他訳『テォドール・モムゼン；ルードルフ・オイケン,アンリ・ベルグソン』ノーベル賞文学全集21,主婦の友社,1972年。)
(*)(參考：西村貞二「ブルクハルトの青年時代」東北大学教養部紀要15,1972年。)
(*)(參考：西村貞二「ドーソン追想(研究ノート)」(東北史学会)歴史47,1972年。)
(*)(參考：西村貞二『西洋史』新訂,昭学社,1972年。)
(*)(參考：亀井高孝『世界史年表』再訂増補版,吉川弘文館,1972年。)
(*)(參考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『詳説世界史：教授資料』新版,山川出版社,1972年。)
(*)(參考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『標準世界史』山川出版社,1972 年。)
(*)(參考：前川貞次郎・木村尚三郎他『双書新しい世界史教育』明治図書出版,1972 年。)
(*)(參考：秀村欣二・木村尚三郎『世界史 1000 題』新版,学生社,1972 年。)
(*)沼田次郎「明治初期における修史事業と重野安繹—とくに重野による西洋の歴史記述法の導入の試みについて」キリシタン研究会報14(４),1972年。
(*)伊豆公夫『日本史学史』新版歴史科学叢書,校倉書房,1972年。
(*)(參考：黒羽茂『新西洋史学史』吉川弘文館,1972年。)
(*)吉田悟郎「世界史の起点—上原専禄の世界史認識(1)」歴史評論270,1972年。
(*)「1971年の歴史学界—回顧と展望」史學雜誌81(5),1972年。
(*)「史学文献目録—西洋史2」史學雜誌81(5),1972年。
(*)「史学文献目録—西洋史3」史學雜誌81(9),1972年。
(*)(參考：下村寅太郎『精神史の森の中で：研究ノートより』河出書房新社,1972年。)
(*)(參考：高柳俊一「ヨーロッパ：精神史における意義と役割」ソフィア21(3),1972年。)
(*)(參考：阿部良雄・森有正「西欧精神について」文芸11(11),1972年。)
(*)(參考：坂本堯『西洋思想史：近代への懸け橋を探る』エンデルレ書店,1972年。)
(*)松井修「箕作元八著「西洋史講話」(回想・この一冊[23])」國文學：解釈と教材の研究17(5),1972年。
(*)村川堅太郎「近況近影—老欅を友に」月刊百科124,1972年。

(*)秀村欣二「吉岡力教授の業績について(含 主要論文・概説)」歴史学研究報告14,1972年。
(*)板澤武雄『シーボルト』(4版)人物叢書45,吉川弘文館,1972年(→1988年,新装版。)
(*)沼田次郎「江戸の洋学」(緒方富雄編『江戸時代の洋学者たち』所収,新人物往来社,1972年。
(*)山中良知「儒学・蘭学の伝統と近代化の特質」(高橋幸八郎編『日本近代化の研究(上)』所収,東京大学出版会,1972年。
(*)沼田次郎「諸藩の蘭学と江戸大坂の蘭学塾」・「長崎の海軍伝習所と養生所」(緒方富雄編『江戸時代の洋学者たち』所収,新人物往来社,1972年。)
(*)高橋碵一『洋学思想史論』新日本出版社,1972年。
(*)上山春平『日本の思想：土着と欧化の系譜』サイマル出版,1972年。
(*)中谷一正「近世洋学の萌芽と封建体制」ヒストリア61,1972年。
(*)中谷一正「洋学の発展段階について」近代史研究16,1972年。
(*)杉本勲「洋学勃興の背景」(「日本思想大系・月報23」岩波書店,1972年。)
(*)山崎彰「和魂洋才的思惟構造の萌芽—杉田玄白を中心に」(有坂隆道編『日本洋学史の研究2』所収,創元社,1972年。)
(*)西口克己「高野長英(進歩と革命の思想：日本編[9])」前衛 346,1972 年。
(*)高橋[愼一]「高野長英—その思想と実践」文化評論127,1972年。
(*)吉武好孝「英米文学の導入と日本の近代化」英学史研究5,1972年。
(*)緒方富雄編『江戸時代の洋学者たち』新人往来社,1972年。
(*)(参考：古田光他『哲学の名著12選』名著入門ライブラリー,学陽書房,1972年。)
(*)(参考：山下正男「朱子の哲学の比較思想史的研究」(京都大学人文科学研究所)人文学報35,1972年。)
(*)(参考：向坂寛『ロゴスの世界』勁草書房,1972年。)
(*)「文化勲章4氏きまる」(田中美知太郎)讀賣新聞夕刊10/28,1972年。
(*)「文化勲章 文化功労者 受賞10氏の略歴」(田中美知太郎)讀賣新聞夕刊10/28,1972年。
(*)藤澤令夫「常に本格を求めて：文化勲章 功労者の人々」(田中美知太郎)讀賣新聞夕刊11/18,1972年。
(*)「文化勲章・功労者(田中美知太郎ら)」東京朝日新聞夕刊10/28,1972年。
(*)「秋晴れ“一筋道”文化勲章・文化功労者(田中美知太郎ら)」東京朝日新聞夕刊10/28,1972年。
(*)「文化功労者の略歴(田中美知太郎ら)」東京朝日新聞夕刊10/28,1972年。
(*)「授賞にも“思索”「仕事が認められたのなら」田中美知太郎さん」東京朝日新聞夕刊10/28,1972年。
(*)「文化功労者の顕彰式(文化勲章・文化功労者 田中美知太郎ら)」東京朝日新聞夕刊11/4 ,1972年。
(*)田中美知太郎講演・斎藤廣編『哲学の文章について』日本文化会議,日本文化会議月例懇談会収録集100,1972年。
(*)田中美知太郎『古典学徒の信条』人と思想,文藝春秋,1972年。
(*)田中美知太郎『読書と思索』レグルス文庫23,第三文明社,1972年。
(*)(参考:服部英次郎『自由の意識とその歴史的な表現形態』関西大学(1972年),(科研費)1973年。)

(*)(参考：藤澤令夫編『哲学を学ぶ人のために』(田中美知太郎・野田又夫・藤澤令夫「対談 人間にとって哲学とは何か」)世界思想社,1972年(→1977年,2版)。)
(*)(参考：横谷輝「「スパルタ教育」がめざすもの—石原慎太郎の児童観・教育観について(今日の教育問題,特集)」文化評論18,1972年。)
(*)(参考：新堀通也「スパルタ教育と子どもの反抗(子どもの反抗,特集)」児童心理26(7),1972年.)
(*)(参考：E.R.ドッズ/岩田靖夫・水野一訳『ギリシァ人と非理性』みすず書房,1972年。)
(*)(参考：P.-M.シュル/粟田賢三訳『機械と哲学』岩波新書,岩波書店,1972年。)
(*)(参考：村井実『ソクラテスの思想と教育』玉川大学出版部,1972年。)
(*)(参考：齋藤忍随『プラトン』岩波書店,1972年。)
(*)(参考：アレクサンドル・コイレ/川田殖訳『プラトン』みすず書房,1972年。)
(*)(参考：G.マルティン/久野昭訳『プラトン』理想社,1972年。)
(*)(参考：山本光雄『プラトン』勁草書房,1972年。)
(*)(参考：プラトン/山本光雄・田中美知太郎訳『国家,ソクラテスの弁明,クリトン』河出書房新社,1972年。)
(*)(参考:坪井一「プラトンの『アルキビアデース第一』のプロクロスによる注解」--Προκλον Διαδχον εις τον Πρατωνος Πρωτον Αλκιβιαδηςについて」図書館学研究報告5,1972年。)
(*)(参考：森進一「二つの狂気—プラトンにおける」関西医科大学教養部紀要4,1972年。)
(*)(参考:アリストテレス著/田中美知太郎責任編集『アリストテレス』世界の名著8,中央公論社,1972年。)
(*)(参考：出隆『アリストテレス哲学入門』岩波書店,1972年。)
(*)(参考：藤代幸一『アリストテレスの笑い—美女に馬乗られた哲学者』創造社,1972年。)
(*)(参考：野町啓『初期キリスト教とギリシア哲学』創文社,1972年。)
(*)(参考：鹿野治助「プロチノス」(神秘思想特集)理想466,1972年。)
(*)(参考：山田晶「アウグスティヌスにおける悪の問題--「悪は存在しない」という命題の意味について(悪)」理想489,1972年。)
(*)(参考：山田晶「在りて在る者—アウグスティヌスのExod.3,14解釈」哲学研究45(6),1972年。)
(*)(参考：荒井献『原始キリスト教とグノーシス主義』岩波書店,1972年。)
(*)(参考：今道友信「教養と発明—教父時代の哲学と神学」中世思想研究14,1972年。)
(*)(参考：J.B.モラル/城戸毅訳『中世の刻印』岩波新書,1972年。)
(*)(参考：ヒルティ/前田敬作訳『眠られぬ夜のために』筑摩叢書,筑摩書房,1972年。)
(*)(参考：原二郎「モンテーニュの宗教思想」東北大学教養部紀要16,1972年。)
(*)(参考：ベーコン著/服部英次郎・多田英次訳/服部英次郎・中橋一夫訳『学問の進歩.ノヴム・オルガヌム.ニュー・アトランチス』河出書房新社,1972年。)
(*)(参考：坂本堯『西洋思想：近代への懸け橋を探る』エンデルレ書店,1972年。)
(*)(参考：小林道憲「懐疑論の『精神現象学』に対する関係」福井大学教育学部紀要・人文科学22,1972年。)
(*)東京国立博物館編『東京国立博物館図版目録・キリシタン関係遺品篇』,1972年。
(*)中村暢時「矢野龍渓の文体」文学史研究 13,1972 年。

(*)吉田精一「高山樗牛(1-5)評論の系譜(55-59)」国文学：解釈と鑑賞 37(1-5),1972 年。
(*)吉田精一「島村抱月(1-5)評論の系譜(60-64)」国文学：解釈と鑑賞 37(7,8,10,11,12),1972 年。
(*)太田秀通「著者より学生諸君へ(歴史を学ぶということ)」歴史評論 263,1972 年。
(*)呉茂一「呉家と箕作家」文学 40(6),1972 年。
(*)呉茂一「三島[由起夫]さんとギリシアのこと(三島由紀夫 再評)」新潮 69(12),1972 年。
(*)宮内豊「ナルシスの死—三島由紀夫覚え書」早稲田文学[7 次]4(1),1972 年。
(*)神尾庄治「ケーベル博士と日本文化」(聖徳大学)紀要 5,1972 年。
(*)仙台トマス会「上の山にて—ある学徒のばあい[眞方敬道懐旧談]」思索 5,1972 年。
(*)斎藤信治「久保[勉]先生の想い出」(ケーベル)図書 275,1972 年。
(*)「こぼればなし」(ケーベル) 図書 275,1972 年。
(*)田中秀央「久保勉君を悼む(久保勉追悼)」(ケーベル)心 25(8),1972 年。
(*)土居光知「久保勉君の思い出(同上)」(ケーベル)心 25(8),1972 年。
(*)龜井高孝「安倍能成君の憶い出」心 25(8),1972 年。
(*)佐竹彦七郎「速記者傍観(安倍能成先生のこと)」心 25(12),1972 年。
(*)小林勇「人間を書きたい(2)安倍能成」文藝春秋 50(2),1972 年。
(*)萩原延寿「声低く語れ--「林達夫著作集」」(書評形式による時評)文藝春秋 50(14),1972 年。
(*)「青木巖名誉教授年譜(含 著作)」英文学と英語学 8,1972 年。
(*)佐藤孝巳「渋江保の晩年」英語青年 118(8),1972 年。
(*)西田秀穂「村田潔先生の学風」文化 36(1・2),1972 年。
(*)宮川寅雄『会津八一の文学』講談社,1972 年。
(*)柳田泉『柳田泉自伝』広文庫,明治文化研究 6,1972 年。
(*)(參考：伊索[Aesop]原著/左秀靈譯註『中日對照原音標註伊索寓言』一文出版社,文昇書店,1972 年。)
(*)(參考：天理圖書館編『歐本イソップ物語』善本寫眞集 38,天理大學出版部,1972 年。)
(*)イソップ作/呉茂一訳；南波昌子絵『北風と太陽ほか』世界の民話,こども世界文学 27,講談社,1972 年。
(*)イソップ原作/稗田宰子文；石井健之絵『北かぜとお日さま』イソップ童話,オールカラー母と子の世界の名作 2,集英社,1972 年。
(*)イソップさく/やまなかひさしぶん；さとうちゅうりょうえ『イソップのおはなし』世界おはなし絵本 28,偕成社,1972 年。
(*)(參考：福田正男編『エスペラントイソップ再入門』朝明書房,1972 年。
(*)平塚武二『いろはのいそっぷ』平塚武二童話全集 2,童心社,1972 年。
(*)前川康男・渋谷清視「対談書評 [宇野和子朔「ポケットの中の赤ちゃん」阪田寛夫作「おんなの子」平塚武二童話全集 2「いろはのいそっぷ」]（現代の幼年童話,特集）」日本児童文学 18(5),1972 年。
(*)安部公房『安部公房集』(「イソップの裁判」)日本文学全集 85,1972 年。
(*)安部公房『壁 ; 水中都市 ; 闖入者 : 他』(「イソップの裁判」)安部公房作品集 2,新潮社,1972 年。
(*)『近松全集(12 巻)』(第 9 巻,「百合若大臣野守鏡」)思文閣出版,1972 年。
(*)松井静夫「「百合若大臣野守鏡」考--近松宝永期の時代浄瑠璃」語文 37,1972 年。

(*)倉島栄子他『百合若大臣・太閤記・日蓮・御伽草子・謡曲狂言物語ほか』少年少女世界の名作 46,小学館,1972 年。
(*)関敬吾「桃太郎の郷土」(1972)(『関敬吾著作集・第 4』所収,同朋舎出版,1980 年。)
(*)太宰治『走れメロス：女生徒：富嶽百景』講談社文庫,講談社,1972 年。
(*)(参考:呉茂一・高津春繁他訳『筑摩世界文学大系 4(ギリシア・ローマ劇集)』筑摩書房,1972 年。)
----アイスキュロス：「アガメムノン」「供養する女たち」「慈しみの馬上」呉茂一訳
ソポクレス：「アンティゴネ」呉茂一訳/「オイディプス王」「コロノスのオイディプス」高津春繁訳/「ピロクテテス」久保正彰訳
エウリピデス：「メディア」中村善也訳/「トロイアの女」「バッコスの信女」松平千秋訳
アリストパネス：「女の平和「蛙」高津春繁訳
プラウトス：「捕虜」樋口勝彦訳
テレンティウス：「アンドロスから来たむすめ」泉井久之助訳
P.クローデル/渡辺守章訳「アイスキュロスの『オレステイア』
C.P.スィガール/根付絢子訳「『アンティゴネ』の対立とソポクレスの人間」
ケレーニイ/高橋英夫訳「エウリピデスの『バッコスの信女』」
喜志哲雄訳「現代服のアリストパネス(「タイムズ」文芸附録)
高津春繁「解説」
(*)(参考：齋藤忍随「恥と死—ホメーロスの場合(特集 羞恥)」実存主義 59,1972 年。)
(*)(参考:木村健治「西洋古典文学におけるスカトロギア序説(1)(?)(3)」ユークロニア 2,1972 年/6,1977 年。)
(*)(参考：矢本貞幹「アリストテレスの詩学」英語英文学世界 8 月号,1972 年。)
(*)(参考：渡辺保「現代ギリシャ能楽」新劇 10 月号,1972 年。)
(*)(参考：戸張智雄「ギリシア悲劇のパロディ(パロディ(特集))」悲劇喜劇 25(3),1972 年。)
(*)(参考:河底尚吾「公役奴隷—アリストパネェスの奴隷たち(1)」関東学院大学文学部紀要 6,1972 年。)
(*)(参考：蔵原惟治「メルヒンガー「政治演劇史」--新著紹介」新劇 19(3),1972 年。)
(*)(参考：メルヒンガー・ジークフリート/尾崎賢治・蔵原惟治訳「政治演劇史(1)序説」新劇 19(6),1972 年。)
(*)(参考：メルヒンガー・ジークフリート/尾崎賢治・蔵原惟治訳「政治演劇史(2)アテーナイ都市国家(ポリス)」」新劇 19(8),1972 年。)
(*)(参考：メルヒンガー・ジークフリート/尾崎賢治・蔵原惟治訳「政治演劇史(3)アイスキュロス」新劇 19(9),1972 年。)
(*)(参考：メルヒンガー・ジークフリート/尾崎賢治・蔵原惟治訳「政治演劇史(4)ソポクレース」新劇 19(10),1972 年。)
(*)(参考：メルヒンガー・ジークフリート/尾崎賢治・蔵原惟治訳「政治演劇史(5)エウリピデース」新劇 19(11),1972 年。)
(*)(参考：若木礼「ヴェルギリウス農耕詩」京都学園大学論集 1(1),1972 年。)
(*)(参考：澁澤龍彦編『変身のロマン』立風書房,1972 年(→1990 年,新装版)。
(*)(参考：柏木英彦「ソールズベリのヨハネスのグランマティカ論と人文教育の理念」慶應

義塾大学言語文化研究所紀要 3,1972 年。)
(*)(参考：今井道児「南大路振一・岸本通夫・中村善也訳 E.R.クルツィウス ヨーロッパ文学とラテン中世」ドイツ文学 49,1972 年。)
(*)(参考：D.E.Mikalicy,M.F.Obchannukof/谷口勇訳「フランチェスク・デ・サンクティスの「イタリア文学史」」日伊文化研究 11,1972 年。)
(*)(参考：岩倉具忠「イタリアにおける日本研究」びぶろす 23(12),1972 年。)
(*)(参考：清水純一『ルネサンスの偉大と頽廃：ブルーノの生涯と思想』岩波新書,岩波書店,1972 年。)
(*)(参考：坪井一「「プラトンの『アルキビアデース第一』のプロクロスによる注解」--Προκλον Διαδοχου ξις Πλατωνος Πλατων Αλκιβιαδην について」図書館学研究報告 5,1972 年。)
(*)(参考：佐藤三夫訳「プラトンの『饗宴・愛について』に関するマルシリウス・フィチーノの註解(III)」流通経済大学論集 7(1),1972 年。)
(*)(参考：来山多助「カール・ポッパーのプラトン批判」佐世保工業高等専門学校研究報告 9,1972 年。)
(*)(参考：エウジェニオ・ガレン/齋藤泰弘訳「レオナルドの普遍性：“La scienza e vita civile nel Rinascimento italiano”」(プラトン)イタリア学会誌 20,1972 年。)
(*)(参考： 久志本秀夫「フィレンツェ公会議のイタリア人文会議に与えた影響について(1,2)」イタリア学会誌 21,1972 年。)
(*)(参考：竹内信「ダンテの「主の祈」について」(大阪女学院大学・短期大学)紀要 4,1972 年。)
(*)(参考：池田廉「「ダンテ・ペトラルカ比較論」考—レオナルド・ブルーニを中心として」日伊文化研究 11,1972 年。)
(*)(参考：谷口勇「ダンテ研究の歴史に寄せて」イタリア学会誌 20,1972 年。)
(*)(参考：高階秀爾「現代とエラスムス(12)自由意志論争」自由 14(1),1972 年。)
(*)(参考：高階秀爾「現代とエラスムス(13・完)栄光ある孤立」自由 14(3),1972 年。)
(*)(参考：木ノ脇悦郎「エラスムスの Paraphrasis マタイ 5-7 章について」桃山学院大学キリスト教論集 8,1972 年。)
(*)(参考：篠田浩一郎『ゲーテの木：戦闘的ニューマニズムの文学』晶文社,1972 年。)
(*)(参考：小栗浩『「西東詩集」研究：その愛を中心として』郁文堂,1972 年。)
(*)「大畑末吉先生年譜・著書・論文・翻訳その他」早稲田人文自然科学研究 9,1972 年。
(*)(参考：沓掛良彦「プーシキンにおける古典古代の文学への志向(1)ギリシア文学(ロシア・東欧文学研究,特輯)」比較文學研究 22,1972 年。)
(*)(参考：大森道子「ゲーテとホメーロス」立正大学教養部紀要 5,1972 年。)
(*)(参考：喜多村得也「ゲーテ研究--「聖書とゲーテ」序論(1)」昭和大学教養部紀要 4,1972 年。)
(*)(参考：吉田正勝「若きゲーテの言語(2,3,4)」大阪大学教養部研究集録 外国語・外国文学 20(8),1972 年/21,1973 年/22,1974 年。)
(*)(参考：手塚富雄「ゲーテと現代：昭和 46 年度齋藤学術講演要旨」東京女子大学論集 23(1),1972 年。)
(*)(参考：シラー著/内垣啓一・岩淵達治・石川実・野島正城訳『シラー名作集』白水社,1972 年。)

(*)(参考：中井千之「フリードリヒ・シュレーゲルの虚像と実像—その受容の諸断面」ソフィア 20(4),1972 年。)
(*)(参考：下村耕史「デューラーの素描にあらわれた古典古代の伝統」九州産業大学芸術学部研究報告 3,1972 年。)
(*)(参考：梶嘉一郎「ドイツ的フマニスムとヴィルヘルム・フォン・フンボルト：フンボルト言語哲学の背景」同志社外国文学研究 3,1972 年。)
(*)(参考：西村貞二「ブルクハルトの青年時代」東北大学教養部紀要 15,1972 年。)
(*)(参考：ステファン・ゾンス/水野清志訳『ニーチェの良心論』以文社,1972 年。)
(*)(参考：船越清「若きニーチェのアポローン像：若きニーチェ研究序説(II)」成城文藝 62,1972 年。)
(*)(参考：栗山次郎「希望と懐疑—ニーチェの初期遺稿について」愛知教育大学研究報告人文科学・社会科学 21,1972 年。)
(*)(参考：古内武「ニーチェ研究におけるバーゼル伝統」北海道大学外国語・外国文学研究 18,1972 年。)
(*)(参考：平木幸二郎「ニーチェにおける「創造」概念—認識と生の対立」実存主義 59,1972 年。)
(*)(参考：吉田園子「ニーチェとヴァグナーの芸術観」人間研究 8,1972 年。)
(*)「田中泰三教授著作・論文目録」外国語科研究紀要 20(1),1972 年。
(*)(参考：氷上英廣編『ニーチェとその周辺』朝日出版社,1972年(→氷上英廣教授還暦記念論文集刊行委員会編『ニーチェとその周辺』朝日出版社,限定版。)
(*)小堀桂一郎「森鷗外のニーチェ像」(同上),1972年。
(*)井田卓「『天うつ浪』ノート」(同上),1972年。
(*)道家弘一郎「内村鑑三と進化論」(同上),1972年。
(*)太田雄三「内村鑑三とニーチェ」(同上),1972年。
(*)平川祐弘「夏目漱石の『ツアラトゥストラ』読書」(同上),1972年。
(*)氷上英廣「[中村]草田男とクラウディウス」比較文學研究 21,1972 年。
(*)(参考：ペーター・ヴァイス/岩淵達治・野村一郎訳『ヘルダーリン』白水社,1972 年。)
(*)(参考：竹部琳昌「ヘルダーリンとソポクレス—Antigone の翻訳と註解への試論」同志社外国文学研究 4,1972 年。)
(*)(参考：田中雄次「ヘルダーリンにおける悲劇の意味」熊本大学教養部紀要・人文科学編 8,1972 年。)
(*)(参考：高木昌史「ヘルダーリンの後期讃歌「メネモシュネー」研究序説」(東京都立大学独文研究室編『吉田六郎教授記念論文集』所収，東京都立大学独文研究室,1972 年。)
(*)(参考：高木昌史「ヘルダーリンの後期讃歌「ムネーモシュネー」」(東京都立大学)人文学報 34,1972 年。)
(*)(参考：大河原順「讃歌「パトモス」の成立(錯乱期のヘルダーリン(5))」東北大学教養部紀要 16,1972 年。)
(*)(参考：高安国世『リルケと日本人』レグルス文庫 20,第三文明社,1972 年。)
(*)(参考：武藤光朗「ヤスパースの歴史観(歴史の論理)」理想 474,1972 年。)
(*)(参考：『世界文学大系 12—チョーサー・ラブレー』筑摩書房,1972 年。)
(*)(参考：白井浩司「モンテーニュと「エッセー」」日本及日本人 1509,1972 年。)

(*)(参考：家永道生「モンテーニュのエセェにおける自己描写について」水産大学校研究報告 20(3),1972 年。)
(*)(参考：荒木昭太郎「モンテーニュにおける《conditon humaine》の概念」外国語科研究紀要 19(3),1972 年。)
(*)(参考：三宅中子「習慣の問題をめぐるパスカルとモンテーニュ」研究年報 19,1972 年。)
(*)(参考：田中敬次郎『ラシーヌ研究』社会思想叢書,社会思想社,1972 年。)
(*)(参考：ラ・フォンテーヌ/今野一雄訳『寓話(上下)』岩波文庫,岩波書店,1972 年。)
(*)(参考：菊地昌実「カミュとギリシア世界」パイデイア 14,1972 年。)
(*)(参考：ベーコン著/服部英次郎・多田英次・中橋一夫訳『学問の進歩,ノヴム・オルガムヌ,ニュー・アトランチス』世界の大思想 8,河出書房新社,1972 年。)
(*)(参考：P.ミルワード/安西徹雄訳『シェイクスピア研究入門』中央新書,中央出版社,1972 年。)
(*)(参考：文学座編『文学座シェイクスピアフェスティバル』(「トロイラスとクレシダ」公演日程・場所：4 月 13 日~4 月 24 日：文学座アトリエ)文学座公演,文学座,1972 年。)
(*)大場建治「明快な演劇の勝利—文学座「トロイラスとクレシダ」(劇評)」テアトロ 351,1972 年。
(*)(参考：三宅敦身「「トロイラスとクレシダ」におけるシェークスピアの演劇の方法」東海大学紀要,文学部 17,1972 年。)
(*)(参考：上野直蔵『チョーサアの『トロイラス』論』南雲堂,1972 年。)
(*)(参考：物部清三『シェイクスピア史劇序説—史劇を通じエリザベス朝史観が如何に実践されているかの分析』学書房出版,1972 年。)
(*)(参考：藤井治彦「Lycidas[Milton]と Spencer の牧歌」英語英文学研究 19(1),1972 年。)
(*)(参考：山村武雄「ドライデンとヴァージル」人文 18,1972 年。)
(*)(参考：安川昱「エズラ・パウンドの『トラキスの女たち』」関西大学東西学術研究所紀要 5,1972 年。)
(*)(参考：松田実矩「ミルトンとダンテの類似性と関係の一例—世俗化した教会に対する非難において」The Albion 18,1972 年。)
(*)(参考：黒田健二郎「「明治中期におけるミルトンの伝記について」補遺」神戸大学教育学部研究集録 47,1972 年。)
(*)(参考：黒田健二郎「日本のミルトン文献おぼえ書：宮西光雄氏の新著によせて」Kobe miscellany 6,1972 年。)
(*)(参考：高橋雄四郎「『秋によせるオード』の研究」實踐女子大学文学部紀要 14,1972 年。)
(*)(参考：相島倫嘉「ジョン・キーツ研究：「美的なるもの」を求めて」中京大学教養論叢 13(1),1972 年。)
(*)(参考：都築佑吉「A Chronological List of the Works by W.H.Pater and Critical Studies in His Works」群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編22,1972年。)
(*)(参考：福原麟太郎『ヂョンソン』新英米文学評伝叢書,研究社出版,1972年。)
(*)(参考：柳沼重剛「学者としてのハウスマン」(東海大学)文明 8 月号,1972 年。)
(*)(参考：児玉実用「The Book of Job と William Blake」同志社大学英語英文学研究 4,1972 年。)
(*)(参考：松山信直「“The Modern Job”の行方—ホーソーンと「ヨブ記」」同志社大学英

語英文学研究 4,1972 年。)
(*)(参考：奥村家造「趣味について[T.S.エリオットのヴァージル協会会長就任講演「古典とは何か」について]」(立命館大学外国語科連絡協議会)外国文学研究 24,1972 年。)
(*)(参考：鍵谷幸信編『エリオットの詩と芸術』清水弘文堂,1972 年。)
(*)(参考：石田幹之助「「英文学史」の著者ゼフィー博士に就いて—明治初年西洋史学導入の一翼を担った英国学者の略伝とその業績」國學院雑誌 73(3),1972 年。)
(*)(参考：鈴木富生・藤田孝・秋保慎一「明治期における山形市の英学：地方都市における英学史の試み」山形大学英語英文学研究 16,1972 年。)
(*)会田倉吉「明治時代における英学の導入」英学史研究 5,1972 年。
(*)(参考：ワルター・グロピウス/桐敷真次郎訳『デモクラシーのアポロン：建築家の文化的責任』彰国社,1972 年。)
(*)(参考：堀内清治「地中海建築研究(建築の安全性とは何か[47 年度九州大会「研究協議会」課題—連合研究協議会])—(西洋建築史の再検討,建築歴史・意匠)」建築雑誌 87(1056),1972 年。)
(*)(参考：大江宏「ヨーロッパ建築史観—序(建築の安全性とは何か[47 年度九州大会「研究協議会」課題—連合研究協議会])—(西洋建築史の再検討,建築歴史・意匠)」建築雑誌 87(1056),1972 年。)
(*)(参考：大江宏他「西洋建築史の再検討(建築歴史・意匠)(建築の安全性とは何か[47 年度九州大会「研究協議会」課題—連合研究協議会])—(西洋建築史の再検討,建築歴史・意匠)」建築雑誌 87(1056),1972 年。)
(*)(参考：成瀬輝男「イスタンブールの橋(ヨーロッパの橋梁雑話[2])」土木技術 27(1),1972 年。)
(*)(参考：大槻真一郎『人間の知恵の歴史：宗教・哲学・科学の知恵をとおして見たもの』原書房,1972 年。)
(*)(参考：井塚政義『技術文明史』ミネルヴァ書房,1972 年。)
(*)(参考：岩城正夫「古代技術復原実験」女子栄養大学紀要 3,1972 年。)
(*)藤田豊『日本文化技術史』明玄書房,1972 年。
(*)萩原豊「「泰西勧善訓蒙」に現れた保健体育思想の研究」群馬大学教育学部紀要・芸術技術編 8,1972 年。
(*)石田五郎「野尻抱影・星座伝説(一冊の本・一篇の論文[4])」天文月報 65(4),1972 年。
(*)(参考：ヨハネス・ケプラー/渡辺正雄・榎本恵美子訳『ケプラーの夢』講談社,1972 年(→1985 年,講談社学術文庫版)。)
(*)沼田次郎「幕府の天文方—蕃書調所—開成所」(緒方富雄編『江戸時代の洋学者たち』所収,新人物往来社,1972 年。)
(*)中山茂『日本の天文学—西洋認識の尖兵』岩波新書,岩波書店,1972 年。
(*)打田芳朗『日本の暦』木耳社,1972 年。
(*)広瀬秀雄『日本人の天文観—星と暦と人間』NHK ブックス,日本放送協会,1972 年。
(*)吉田忠「天文方の蘭方対話」比較文化研究 12,1972 年。
(*)金丸由雄「明治期における西洋科学の雄丹生について—士族のはたした役割を中心とした視点設定のために」駒澤社会学研究 4,1972 年。
(*)渡辺正雄「明治前期の日本における科学と技術—当時の学術雑誌論文記事に表われたそ

の趨勢」科学史研究 101,1972 年。
(*)源了円「徳川時代における実学思想の展開」日本女子大学文学部紀要 21,1972 年。
(*)黒田孝郎「幕末における日本人の科学的思考の理解」専修経営学論集 11,1972 年。
(*)橋本万平「明治初期の物理(4)」物理学史研究 8(3),1972 年。
(*)朝比奈貞一「川本幸民—はじめて「化学」を書名に入れる」(緒方富雄編『江戸時代の洋学者たち』所収,新人物往来社,1972 年。)
(*)(参考：新井清・大岩さつき・井村三郎「古代染色の化学的研究：第 1 報古代紫染について(予報)」奈良大学紀要 1,1972 年。)
(*)矢部一郎「宇田川榕菴とリンネ分類」蘭学資料研究会研究報告 25,1972 年。
(*)小島勝治『日本統計文化史』未来社,1972 年。
(*)(参考：田村松平責任編集『ギリシアの科学』世界の名著 9,中央公論社,1972 年。)
-----田村松平「ギリシア自然科学論」
藤沢令夫「アリスチテレスの自然学」
大橋博司「ヒッポクラテスの医学」
池田美恵「エウクレデス原論」
三田博雄「アリキメデスの科学」
種山恭子「アリスタルコス太陽と月の大きさと距離について」
(*)緒方富雄「早稲田大学図書館蔵ヒポクラテス関係資料」早稲田大学図書館紀要 13,1972 年。
(*)緒方富雄「坪井信道のヒポクラテス賛の作詩の年代」日本医史学雑誌 18(2),1972 年。
(*)大矢全節「泰西医学と数学」日本医史学雑誌 18(3),1972 年。
(*)(参考：三木栄『体系・世界医学史：書誌的研究：医学とは何か・医学史とは何か』三木栄,医歯薬出版(発売),1972 年。)
(*)(参考 : 細田泰弘「ヒポクラテスの誓いとジュネーブ宣言(話題)」慶應医学 49(4),1972 年。)
(*)(参考：山本徳郎「GutsMuths と Jahn における運動内容のちがいが意味するもの：19 世紀初頭ドイツ体育の一考察」体育学研究 17(1),1972 年。)
(*)(参考：大熊房太郎「ヒポクラテスの誓い(医史にみる医の倫理[1])」臨床科学 8(1),1972 年。)
(*)(参考 : 長谷川高敏「病気とはどんなものか : ヒポクラテスの液体病理学が見直される(鏡下耳語)」耳鼻咽喉科 44(3),1972 年。)
(*)(参考：加藤元和「アレクサンドロスの生涯と体育との関係：歴史的研究」日本体育学会大会号 23,1972 年。)
(*)(参考：加藤元和「カール・ディームのアレクサンドロスにおける体育の研究とその批判研究」大阪体育大学紀要 4,1972 年。)
(*)(参考：高城常雄責任編集『オリンピック百科』学習研究社,1972 年。)
(*)文芸時評「(上)田中美知太郎氏の「自然に帰る」」東京朝日新聞朝刊 10/26,1972 年。
(*)(参考：永井博「空間概念の歴史的変遷(空間〈特集〉)」数理科学 10(10),1972 年。)
(*)(参考：池野信一「調和美にみちた半多面体の世界—プラトンからポアソンまで」科学朝日 32(10),1972 年。)
(*)(参考：P.-M.シュル/栗田賢三訳『機械と哲学』岩波新書,1972 年。)
(*)(参考：L.ホワイト/青木靖三訳『機械と神』みすず書房,1972 年。)
(*)(参考：L.マンフォード/生田勉訳『技術と文明』美術出版社,1972 年。)

(*)(参考：加藤信一『医学・歯学ラテン語教本』杏林書院,1972 年(→1975 年,3 版)。)
(*)(参考：I.アシモフ/小尾信彌監修,東洋恵訳『科学の語源』共立出版,1972 年。)
(*)(参考：ジャン・セルヴィエ/朝倉剛・篠田浩一郎訳『ユートピアの歴史』筑摩叢書 186,筑摩書房,1972 年。)
(*)(参考：荻野博「西方世界とインド貿易—ヘレニズム時代・ローマ帝政初期を中心に(1-6)」流通経済論集 6(4),7(1,3),1972 年/8(1),1973 年/8(4),)8(1),1974 年。)
(*)(参考：古館喜代治『世界主義思想の研究』弘文堂,1972 年。)
(*)(参考：アリストテレス著/今道友信訳,村川堅太郎訳,宮内璋・松本厚訳『詩学,アテナイ人の国制,断片集』アリストテレス全集 12,岩波書店,1972 年。)
(*)(参考：桑原洋「アリストテレスの「正義の流通経済論：3 種の『倫理学』とその『ギリシア語註釈書』に関する一考察(大会研究発表要旨)」西洋古典學研究 20,1972 年。)
(*)(参考：ダントレーヴ/石上良平訳『国家とは何か：政治理論序説』みすず書房,1972 年(→2002 年,新装版)。
(*)(参考：居村栄「エクレシアの展開(4-6)ヘレニズムとヘブライズム(1-3)」岡山大学教育学部研究集録 34,1972 年/35,37,1973 年。)
(*)(参考：平田隆一「エトルスキの政務官職—研究史を中心として」古代学 18(1),1972 年。)
(*)(参考：平田隆一「エトルスキの政務官職—Pfiffig 説をめぐって」西洋史研究 1,1972 年。)
(*)藤井幸『イソップ法律物語：損をしないために』同信社,1972 年。
(*)(参考：長島武之「R.S.ストラウド「殺人に関するドラコンの法」西洋史研究 1,1972 年。)
(*)宮田豊校註「泰西国法論(津田真道)」(京都)産大法学 6(2-4),7(1-4),1972—74 年。
(*)(参考：E.ギボン/戸倉廣訳『ローマ法学の理念』有信堂,1972 年。)
(*)(参考：吉野悟『ローマ所有権法史論』大阪市立大学法学叢書 11,有斐閣,1972 年。)
(*)(参考：船田享二『民事訴訟』改版ローマ法,岩波書店,1972 年。)
(*)一柳俊夫「書評 古林祐二著「海上冒険消費貸借金に関する原告クリューシッポスとその仲間の被告フォルミーオンに対する,再抗弁について--古代ギリシヤ法廷技術研究 V(福岡大学三十五周年記念論文集,法学編所収)」法制史研究 1972(22),1972 年。)
(*)小林忠正「箕作麟祥訳『泰西勧善訓蒙』にあらわれた法と家族の倫理」日本大学工学部紀要,B 億版教育編 13,1972 年。
(*)杉山晴康・佐藤篤士『法史学：日本法史・ヨーロッパ法史』評論社,現代邦楽講義 3,1972 年。

(*)(参考：榎本益栄「マルクスの学位論文「注釈」考(マルクスとフォイエルバッハ[2])」(北海学園大学)学園論集22,1973年。)
(*)家坂和之「東西の「人種」関係—柳田国男とバーク」東北大学文学部研究年報22,1973年。
(*)川崎真治『混血の神々：日本人と日語の起源』講談社,昭和48年。
(*)中田重治全集刊行会『中田重治全集・全7巻』1973-1975年(→米田勇編『中田重治全集・全7巻』福音宣教会,1990-1992年。)
(*)海野一隆「「夢の代」の世界地名と「天地二球用法記」」蘭学資料研究会研究報告271,1973年。

(*)(参考：古代学協会編『古代文化の形成と発展』西洋古代史論集1,東京大学出版会,1973年。)
(*)(参考：弓削達『地中海世界』講談社現代新書,講談社,1973年。)
(*)竹山道雄「ヨーロッパと私(1,2)」自由15(3,4),1973年。
(*)(参考：藤岡謙二郎編『ヨーロッパ』(竹内啓一「地中海：歴史地理学的序説」)世界地誌ゼミナール4,大明堂,1973年。)
(*)堀米庸三『ヨーロッパ歴史紀行』潮出版,1973年。)
(*)慶應義塾三田情報センター『初期の日佛文化交流展：福澤諭吉とロニイを中心として』慶應義塾三田情報センター,1973年。)
(*)(参考：アンドレ・ボナール/岡道男・田中千春訳『ギリシア文明史(1-3)』人文書院,1973-75年(→1989年,改装版)。)
(*)吉田禎吾「自然の思想 東西文化比較研究セミナーから それは人間への問い」(田中美知太郎)讀賣新聞夕刊12/3,1973年。
(*)岡田陽編『南ギリシアを行く』玉川大学出版部,1973年。
(*)社告「春のエーゲ海写真教室会員募集」アサヒカメラ58(4),1973年。
(*)大崎記者「〈写真教室同行記〉エーゲ海のんびり船旅」アサヒカメラ58(10),1973年。
(*)菅野喜勝「〈エーゲ海写真教室〉コンテスト入選作品の島々」アサヒカメラ58(11),1973年。
(*)菅野喜勝「アサヒカメラ ヨーロッパ写真教室 エーゲ海の島々」アサヒカメラ58(13),1973年。
(*)二川幸夫企画・撮影/磯崎新文『エーゲ海の村と街』A.D.A.EDITA Tokyo,1973年。
(*)立原正秋「エーゲ海の島々 風景の原点を求めて(5)ミコノス,ロードス,クレタ,サントリーニを豪華客船でめぐった三泊四日の旅」旅47(5),1973年。
(*)三浦一郎「エーゲ海の旅」旅47(8),1973年。
(*)「千葉真一・野際陽子 エーゲ海で暁の挙式」週刊明星16(22),1973年。
(*)「吉永小百合,エーゲ海で誓った永遠の愛」週刊明星16(35),1973年。
(*)登川直樹「欧州映画の旅ついにエーゲ海の休日」視聴覚教育27(8),1973年。
(*)色川大吉「“ヨーロッパ思索行”のすすめ ヨーロッパを旅する若者たちに,そこで何を見,何を感じ取るべきかを示唆する」旅47(8),1973年。
(*)「巻末 特集ガイド ヨーロッパハワイの休日 都市の魅力と郊外ツアー―ローマ〈郊外ツアー〉ティボリのピラデステの庭園他」旅47(8),1973年。
(*)「巻末 特集ガイド ヨーロッパハワイの休日 都市の魅力と郊外ツアー―アテネ〈郊外ツアー〉ディルフィ,コリント,エーゲ海他」旅47(8),1973年。
(*)井上忠司「イタリアの旅から」季刊・人類学4(3),1973年。
(*)河島英昭「イタリアの光と影(異国にて)」早稲田文学[第7次]5(5),1973年。
(*)長谷川徳七編『山本亜稀個展：地中海の旅』日動画廊,1973年。
(*)『カンツォーネと地中海の旅』Trevel in pops 2,学研,1973年。
(*)下村寅太郎「行旅」心26(1),1973年。)
(*)岡田宗叡「山水放蕩(1-6)西地中海周辺の国々の旅」陶説248,1973年/250-254,1974年。
(*)(参考：村川堅太郎『オリンピア』中公新書,中央公論社,1973年。)
(*)(参考：坂本鉄男『ポンペイ：付エルコラーノ,スタービエ遺跡』Storiti guides,Edizione Storti,1973年(→1980年,再版)。)

(*)(参考：エルコレ・パッティ/大久保昭男訳『シチリアの恋人』角川文庫,1973年。)
(*)(参考：D.H.ロレンス/土方定一・杉浦勝郎訳『エトルリアの遺跡』美術出版社,1973年。)
(*)菊池栄一「オリエントにおけるゲーテ--「西東詩集」理解のために(1)」比較文學研究23,1973年。)
(*)(参考：寺本敬子「アレクサンドリアの人々：ロレンス・ダレル「アレクサンドリア・カルテット」について」研究紀要5,1973年。)
(*)(参考：鏡味国彦「この古く新しいもの：ロレンス・ダレルの『アレクサンドリア・カルテット』について」立正大学人文科学研究所年報11,1973年。)
(*)二川幸夫企画・撮影/磯崎新文『エーゲ海の村と街』A.D.A.EDITA Tokyo,1973 年(→2016年,改訂新版,世界の村と街 1,エーディーエー・エディタ・トーキョー)。
(*)アサヒグラフ編「ギリシア・サントリニ島—地底に生き続けた 3500 年前のミノア文化」アサヒグラフ 9/21,1973 年。
(*)馬場恵二「サントリーニ島の遺跡を訪ねて(アトランティスの謎を解くサントリーニ島の発掘特集)」芸術新潮 24(4),1973 年。
(*)高橋睦郎「彼方なるアトランティス(同上)」芸術新潮 24(4),1973 年。
(*)(参考：ジェーン・ギャスケル/深町真理子訳『アトランの女王(1-3)』創元推理文庫,東京創元社,1973 年。)
(*)(参考：金丸継夫『アイヌ語に解説復元できる地名：アトランチス』ヤイユーカラアイヌ民族学会,1973 年。)
(*)(参考：金子史朗『アトランティス大陸の謎』講談社現代新書 328,講談社,1973 年。)
(*)(参考：Levin G.M.Bongard/青柳正規訳「ソ連の仏教研究と中央アジアにおける最近の考古学的発掘」仏教芸術 93,1973 年。)
(*)(参考：青柳正規「コンマゲーネの美術(続地中海建築—中近東・バルカン編(熊本大学環地中海建築調査団レポート)」SD104,1973 年。)
(*)杉勇「古代オリエント・ギリシヤ展の出陳作品をめぐって」東京国立博物館研究誌265,1973 年。
(*)(参考：瀬木慎一「「メトロポリタン美術館」はスキャンダルか(2)ギリシアの壺をめぐるミステリー」芸術新潮24(5),1973年。)
(*)澤柳大五郎「ギリシア陶器と日本--古代中近東・地中海考古と美術展に触れて」陶説242,1973年。
(*)和歌山県立近代美術館編『地中海の古代美術展：大阪市立美術館蔵品によるコプト染織とエトルスクの古代遺品』和歌山県立近代美術館,1973年。
(*)『富士美術館性小用古陶磁展』富士美術館,1973年。
(*)(参考：新規矩男責任編集『古代地中海美術』大系世界の美術4,学習研究社,1973年。)
(*)『古代中近東・地中海考古と美術展』出版者不明,1973年。
(*)(参考：河上徹太郎「近代史幻想(14)ユダヤとビザンチン」文学界27(10),1973年。)
(*)(参考：白柳美彦『ホメロスの丘：シュリーマン伝』朝日新聞社,1973年。)
(*)(参考：立田洋司「小アジアの遺産(1)古代アナトリアとヒッタイト」三彩305,1973年。)
(*)(参考：立田洋司「小アジアの遺産(2)トロイア文化の源流」三彩306,1973年。)
(*)(参考：立田洋司「小アジアの遺産(3)トロイア物語」三彩307,1973年。)
(*)(参考：立田洋司「小アジアの遺産(6)ヘレニズム時代の美術[1]」三彩311,1973年。)
(*)(参考：松田寿男他/山と渓谷社編『シルクロード』山と渓谷社,1973年。)

(*)(参考：里見元一郎「三つのホイジンガ論をめぐって」歴史学研究398,1973年。)
(*)(参考：栗原福也「ホイジンガと現代：昭和48年度始業講演—文理学部」東京女子大学論集24(1),1973年。)
(*)(参考：平田家就『トインビー研究』経済往来社,1973年。)
(*)(参考：丸山繁郎「A.J.B.トインビーの文明史観—その思想と連帯性について」芝浦工業大学紀要,人文・外国語・社会・保健体育7(2),1973年。)
(*)(参考：山本新「トインビーの三つの転機」(神奈川大学人文学研究所)人文学研究所報7,1973年。)
(*)(参考：玉井友希夫「歴史家の宗教観(1)アーノルド・トインビー」横浜国立大学人文紀要,第1類,哲学・社会科学19,1973年。)
(*)(参考：山田晶「[講演要旨]芸術がわかるとはどういうことか」美術教育1973(201),1973年。)
(*)(参考：会田雄次「大人の社会になることへの恐怖—北西ヨーロッパと南ヨーロッパと日本」心26(11),1973年。)
(*)会田雄次・小松左京・梅棹忠夫「世界を変えた110人」文藝春秋51(10),1973年。)
----「皇帝」：ダレイオス,アレクサンドロス,オクタウィアヌス,ナポレオン
「政治家」：グラッドストーン,マキアベリ
「宗教家」：イエス・キリスト,パウロ
「思想家」：ソクラテス,エピキュロス,アヴェロイス,ルソー,マルクス
「科学者」：アルキメデス,コペルニクス
「芸術家」：ミケランジェロ,ジョット,ダンテ,シェークスピア,ホメロス
「軍人」：クセノフォン,
「女性」：クレオパトラ
(*)平凡社取材「ギリシア神話の旅」太陽4月号,1973年。
(*)(参考：W.F.オールブライト/小野寺幸也訳『考古学とイスラエルの宗教』日本基督教団出版局,1973年。)
(*)(参考：弓削達『地中海世界』講談社,講談社現代新書,1973年。)
(*)(参考：上野アキ訳『大英博物館』講談社,1973年。)
(*)東京国立博物館編『東京国立博物館百年史』東京国立博物館,1973年。
(*)森睦彦「海外新話の刊行事情」(『長澤先生古稀記念図書学論集』所収,三省堂,1973年。)
(*)(参考：河部利夫・中村義編『世界人名辞典』(西洋編・東洋編)東京堂出版,新版,1973-79年(→1996年,新版増補版4版。→2000年,新版増補版5版)。)
(*)(参考：松浪信三郎編『西洋思想辞典』東京堂出版,1973年。)
(*)(参考：今泉篤男・山田智三郎編『西洋美術辞典』16版,東京堂出版,1973年。)
(*)川崎真治『混血の神々：日本人と日本語の起源』講談社,1973年。
(*)鈴木重貞「司馬凌海 我国最初のドイツ語学者」四天王寺女子大学紀要 6,1973 年(→昭和50年,『ドイツ語の伝来』所収,教育出版センター)。
(*)岩治勇一「ラテン語・オランダ語医学小辞典(写本)」若越郷土研究101,1973年。
(*)蒲原宏「竹山屯旧蔵“クラーメルス蘭々辞典”原書(1855年ゴーダ版)」新潟医師会報276,1973年。
(*)(参考：松本克己「エーゲ海域におけるギリシア語前の言語層の問題—Kretschmerの学説とその展開をめぐって」金沢大学法文学部論集 文学編20,1973年。)

(*)(参考 : 蛭沼幸雄『新約・古典ギリシャ語の読み方[附・カセット1巻]』山本書店,1973年。)
(*)(参考 : 相沢忠一「基本的な医学英語とラテン・ギリシャ語源(1)」杏林医学雑誌4(2),1973年。)
(*)(参考 : 山下憲治「ラテン語又はラテン語より由来した耳鼻咽喉科術語の発音 各論 鼻の[1,2](温故知新)」耳鼻咽喉科臨床66(11),1973年/67(2),1974年。)
(*)(参考 : 壽岳文章『書物の世界』定版,出版ニュース社,1973年。)
(*)(参考 :『クリスチャン・ギリシヤ語聖書 : 新世界訳』Watchtower Bible and Tract Society of New York,1973.)
(*)(参考 : 木村昭男「ラテン借用語彙表」天理大学報25(1),1973年。)
(*)(参考 : 木村直司「ヘルダーの初期言動理論—文学と言語」ソフィア21(4),1973年。)
(*)(参考 : 水津一朗「言語と地域—ヘルダー「言語起源論」200年紀念によせて(文化圏の歴史地理)」歴史地理学紀要15,1973年。)
(*)望月清司「杉原四郎「マルクス・エンゲルス文献抄」」甲南経済学論集13(4),1973年。
(*)辻直四郎「故高津春繁君追悼の辞(故高津春繁博士追悼号)」言語研究 64,1973 年。
(*)風間喜代三「故高津春繁先生(同上)」言語研究 64,1973 年。
(*)「高津春繁先生略譜・主要論著目録(同上)」言語研究64,1973年。
(*)「青木巌名誉教授年譜[含著作]」(上智大学英文学科)英文学と英語学9,1973年。
(*)杉本つとむ「日本語への探究(1-4)」国語通信159-162,1973年。
(*)藤田豊「気海観瀾広義」を中心に見た蘭学者の訳語について」蘭学資料研究会研究報告271,1973 年。
(*)茅原弘「蘭医橘家旧蔵のハルマ和解写本について」蘭学資料研究会研究報告271,1973年。
(*)岡本勲「「和英語林集成」と「日葡辞書」--研究篇」中京大学文学部紀要8(1),1973年。
(*)辻田左右男「箕作省吾「坤輿図識」--著者をめぐる1,2の問題」奈良大学紀要2,1973年。
(*)西堀昭「神奈川の仏学--幕末—横浜「語学所」を中心として」神奈川史談15,1973年。
(*)(参考 : W.カリー「〈文献紹介〉世界の大学 : アメリカ」ソフィア22(283),1973年。)
(*)(参考 : A.ファントリ「〈文献紹介〉世界の大学 : イタリア」ソフィア22(283),1973年。)
(*)(参考 : M.オブライエン「〈文献紹介〉世界の大学 : イギリス」ソフィア22(283),1973年。)
(*)(参考 : J.ペジノ「〈文献紹介〉世界の大学 : フランス」ソフィア22(283),1973年。)
(*)(参考 : J.ソネーニャ「〈文献紹介〉世界の大学 : スペイン」ソフィア22(283),1973年。)
(*)立風書房編集部編/太宰治著・田中英光著・堀辰雄著『人間失格・オリンポスの果実・菜穂子』日本青年文学館4,立風書房,1973年。
(*)(参考 : 土居光知『神話・伝説の研究』岩波書店,1973年。)
(*)太田三郎「土居光知『神話・伝説の研究』岩波書店」比較文学16,1973年。)
(*)高木敏雄著・大林太良編『日本神話伝説の研究』増訂・東洋文庫,平凡社,1973-74年(→2003年,ワイド版東洋文庫。)
(*)高木敏雄著・山田野理夫編『日本伝説集』宝文館出版,1973年(→1975年,修正版。→1990年,再版。→2010年,ちくま学芸文庫版。)
(*)(参考 : ケレーニイ/種村季弘・藤川芳朗訳『迷宮と神話』弘文堂,1973年(→1996年,Kobunndo renaissance,弘文堂)。)
(*)(参考 : 布村一夫「新しい神話学のために—マルクス死去90年記念(1-5)マルクス・エンゲルス神話論(神話と古代,特集)」歴史評論274,283,1973年/285,294,1974年/308,1975年。)

(*)(参考：藤井龍和「エディプス・コンプレックスの神話的・悲劇的背景」大手前女子大学論集7,1973年。)
(*)(参考：宇野道義「神話とワーグナー--「ニーベルンゲンの指輪」をめぐって」日本演劇学会紀要14,1973年。)
(*)(参考：丹羽治男「ヘルメス神話とトーマス・マン(2)魔法の山と海(1)」大阪経大論集96,1973年。)
(*)(参考：大沼忠弘「ケレーニイ『迷宮と神話』の象徴性」図書新聞6/23,1973年。)
(*)(参考：川村二郎「ケレーニイ追悼 白夜の学匠（特集 ケレーニイ/新しいギリシア像の発見）」現代思想8月号,1973年。)
(*)(参考：高橋英夫「ケレーニイ追悼 遠き神,近き神(同上)」現代思想8月号,1973年。)
(*)(参考：種村季弘「ケレーニイ追悼 二つの世界の間で(同上)」現代思想8月号,1973年。)
(*)(参考：ケレーニイ/大久保健治訳「ケレーニイのギリシア テーバイ近郊におけるカビーレン聖地縁起(同上)」現代思想8月号,1973年。)
(*)(参考：ケレーニイ/岩田行一訳「ケレーニイのギリシア 饗宴の神聖性(同上)」現代思想8月号,1973年。)
(*)(参考：ケレーニイ/田部淑子訳「ケレーニイのギリシア 饗宴の大いなるダイモン(同上)」現代思想8月号,1973年。)
(*)(参考：オットー/岸美光訳「ケレーニイとオットーと運命(同上)」現代思想8月号,1973年。)
(*)(参考：オットー/辻村誠三訳「ケレーニイとオットーと 神話としてのことば(同上)」現代思想8月号,1973年。)
(*)(参考：呉茂一「ギリシアと今日 生と死とに付いて—上代ギリシア人における(同上)」現代思想8月号,1973年。)
(*)(参考：澤柳大五郎「ギリシアと今日 ギリシア美術と現代(同上)」現代思想8月号,1973年。)
(*)(参考：寺田透「ギリシアと今日 η εικων η εμου περι των Ελληνωνギリシアの幻像(同上)」現代思想8月号,1973年。)
(*)(参考：鷲巣繁男「ギリシアと今日 神話短見(同上)」現代思想8月号,1973年。)
(*)(参考：柳沼重剛「古典学の展開 悲劇の起源は祭祀か(同上)」現代思想8月号,1973年。)
(*)(参考：吉田敦彦「古典学の展開 印度神話とギリシア神話 (同上)」現代思想8月号,1973年。)
(*)(参考：沢本弘子「古典学の展開 ヘシオドスの種族神話—構造分析の試み(同上)」現代思想8月号,1973年。)
(*)(参考：カーク/内堀基光訳「古典学の展開 ヘシオドスの神話的思弁(同上)」現代思想8月号,1973年。)
(*)(参考：秀村欣二「古典学の展開 ギリシアへの新たな視角—ドッズ『ギリシア人と非理性』によせて(同上)」現代思想8月号,1973年。)
(*)(参考：齋藤忍随・伊藤勝彦・大沼忠弘「シンポジウム：ギリシア像の転換—“高貴なる単純”を求めた時代/アテナイの愚かなる大衆/死と直接関係するアポロン/脅かして人間を鍛える/プラトンとピタゴラス派/フォルソクラチカの理解/ヨーロッパ中心主義/レヴィストロースへの疑問/ミュトスが語るロゴス/プネウマ,プラナ,気/コスモスに人間を合わせる/大いなる冬の時代/日本人のエスカトロジー」現代思想8月号,1973年。)
(*)(参考：鈴木幹也「螺旋文の女神—G.ツンツ『ペルセポネ』に聞く(同上)」現代思想8月

号,1973年。)
(*)(参考：伊東俊太郎「哲学すること ギリシアにおいて固有なるもの(同上)」現代思想8月号,1973年。)
(*)(参考：井上忠「哲学すること ギリシア哲学の最前線—G.E.Lオーエンのこと (同上)」現代思想8月号,1973年。)
(*)(参考：高柳俊一「神話・文学・神学(現代と神話,特集)」世紀271,1973年。)
(*)(参考：ペトロ・ネメシェギ「神話とキリスト(現代と神話,特集)」世紀271,1973年。)
(*)(参考：玉井友希夫「歴史観の宗教観(1)：アーノルド・J.トインビー」横浜国立大学人文紀要,第一類,哲学・社会科学19,1973年。)
(*)(参考：山本岩夫「リチャード・チェイスと神話批評」立命館法學1972年別冊,1973年。)
(*)(参考:豊国孝「The Trespasserにおける神話的要素について—D.H.Lawrenceの神話の世界」室蘭工業大学研究報告,文科編8(1),1973年。)
(*)(参考：田中美代子「迷宮と神話と実存(カール・ケレーニイ「迷宮と神話」について[批評の批評])」早稲田文学[第7次]5(11),1973年。)
(*)(参考：ミルチャ・エリアーデ/宮治昭訳『悪魔と両性具有』エリアーデ著作集6,せりか書房,1973年。)
(*)(参考：ミルチャ・エリアーデ/中村恭子訳『神話と現実』エリアーデ著作集7,せりか書房,1973年。)
(*)(参考：ミルチャ・エリアーデ/前田耕作訳『修子湯の歴史と意味』エリアーデ著作集8,せりか書房,1973年。)
(*)(参考：堀田善衛『スフィンクス』毎日新聞社,1973年(→1977年,集英社文庫版)。)
(*)(参考：久保正彰『ギリシア思想の素地—ヘシオドスと叙事詩』岩波新書,岩波書店,1973年。)
(*)(参考：グレーヴス/高杉一郎訳『ギリシア神話(上下)』紀伊国屋書店,1973年。)
(*)(参考：岡上鈴江・鈴木琢磨え『ギリシャ神話』カラー版 世界の幼年文学27,偕成社,1973年。)
(*)多田智満子「古代への墓碑銘—呉茂一訳「花冠」」現代詩手帖16(9),1973年。
(*)(参考：竹部琳昌「現代文学におけるギリシア神話」同志社時報6月号,1973年。)
(*)(参考：小苅米[ケン]「演劇と人間—劇的環境としての祝祭—ディオニューソス祭祀について(1,2)」新劇20(4,5),1973年。)
(*)(参考：竹部琳昌「現代文学におけるギリシア神話」同志社時報6月号,1973年。)
(*)(参考:桜井万里子「エレウシスの祭儀とアテナイ民主制の進展」史學雑誌82(10),1973年。)
(*)(参考：辻邦生『ポセイドン仮面祭：祝典喜劇』書き下ろし新潮劇場,新潮社,1973年。)
(*)(参考：小沢克彦「輪廻転生と終末論—プラトンの場合」人文学報94,1973年。)
(*)(参考：西村潔「神々の饗宴,笑うプラトン」短歌20(3),1973年。)
(*)(参考：K.ハインリヒ/池田芳一訳『哲学と神話にかんする四考察—パルメニデスとヨナ』未来社,1973年。)
(*)(参考：M.J.フェルマースレン/小川英雄訳『ミトラス教』山本書店,1973 年。)
(*)(参考：パウル・アルトハウス/橋村良孝訳「ゲーテと福音」独逸文学 18,1973 年。)
(*)(参考：ヨゼフ・ラッチンガー/小林珍雄訳『キリスト教入門』エンデレ書店,1973 年。)
(*)(参考：ディベリウス著/キュンメル補訂/神田盾夫・川田殖訳『イエス』新教出版社,復刊[1950 年,初版]現代神学双書 55,1973 年。)

(*)(参考：板垣新平『綺譚サンタ・マリア』紀元社出版,1973 年。)
(*)(参考：井上智勇『初期キリスト教とローマ帝国』創文社,1973 年。)
(*)浅香正「井上智勇「初期キリスト教とローマ帝国」」西洋史学 89,1973 年。
(*)(参考：末國章『羅馬とヴァチカン』Fotorapidacolor,1973 年。)
(*)(参考：栗原貞一『初期キリスト教異端思想の研究』キリスト新聞社,1973 年。)
(*)(参考：岳野慶作『愛の論理』中央出版社,1973 年。)
(*)(参考：赤木善光『権威と信仰：新約聖書からアウグスティヌスまで』東京神学大学,神学博士,乙第2号,1973年。)
(*)(参考：ウォルター・M.アボット他/別宮貞徳・稲垣良典訳『新約聖書の基礎知識』春秋社,1973 年。)
(*)(参考：フランシスコ会聖書研究所訳注『ローマ人への手紙；ガラテア人への手紙：原文校訂による口語訳』聖書,パウロ書簡,フランシスコ会聖書研究所,中央出版社(発売),1973 年。)
(*)高橋英夫「現前するイデアを求めて—辻邦夫著「背教者ユリアヌス」(新思潮 11)」すばる 11,1973 年。)
(*)北杜夫・辻邦生「長篇小説の主題と技法(辻邦生「背教者ユリアヌス」を書き終えて)」海 4(9),1973 年。
(*)(参考:氷上英廣「ツアラストラとゾロアスター」武蔵大学人文学会雑誌 4(3・4),1973 年。)
(*)(参考：野町啓「クリスト教的人間観の形成とプラトニズム—J.ペパンの近業を中心として」実存主義 65,1973 年。)
(*)(参考：居村栄「エクレシアの展開(6)—ヘレニズムとヘブライズム」(岡山大学)研究集録 37,1973 年。)
(*)(参考：久山宗彦「ギリシャ教父に対するアリストテレスの影響について」オリエント 16(1),1973年。)
(*)(参考:久山宗彦「アレクサンドリアのクレメンスの「救われるべき富める人はだれか」」カトリック研究22,1973年。)
(*)(参考：荒井献「原始キリスト教とグノーシス主義(昭和48年度日本学士院受賞者の研究の概要[特集])」学術月報26(4),1973年。)
(*)(参考：野町啓「クリスト教的人間観の形成とプラトニズム--J.ペパンの近業を中心として」実存主義65,1973年。)
(*)(参考：高柳俊一「初期キリスト教思想史について(荒井献「原始キリスト教とグノーシス主義」他3点)」ソフィア21(4),1973年。)
(*)(参考：E.トーピュテェ/碧海純一・小西正樹訳「マルクス主義とグノーシス(1,2)」国家学会雑誌85(11,12),1973年。)
(*)(参考：秀村欣二「熱心党(Zeiotai)の研究についての動向—予備的考察」キリスト教史学 27,1973年。)
(*)(参考：高橋英夫「現前するイデアを求めて—辻邦生著『背教者ユリアヌス』」すばる 11,1973年。)
(*)(参考：アン・フリーマントゥル原著/タイムライフブックス編集部編『信仰の時代』ライフ人間世界史4,タイムライフインターナショナル,1973年。)
(*)(参考：K.V.アーレティン/沢田昭夫訳『カトリシズム：教皇と近代世界』世界大学選書 43,平凡社,1973年。)

(*)遠藤周作『死海のほとり』新潮社,1973年。)
(*)遠藤周作『イエスの生涯』新潮社,1973年。)
(*)福原麟太郎「生けるキリストを描く：遠藤周作著『イエスの生涯』」波 46,1973 年。
(*)瀬尾勲夫「遠藤周作とグレアム・グリーン：「神の像」の探究について」徳島大學学藝紀要・人文學 23,1973 年。
(*)利沢行夫「ユダの哀しみ—遠藤周作論」群像 28(11),1973 年。
(*)上総英郎「交錯する軌跡—遠藤周作著「死海のほとり」(新書解体)」文學界 27(9),1973年。
(*)鶴田欣也「遠藤周作「沈黙」の海外評価—宗教と文学の比重」国文学 : 解釈と鑑賞 38(8),1973 年。
(*)武田友寿「神の探究者・遠藤周作(現代日本のキリスト教作家たち[3])」世紀 274,1973 年。
(*)遠藤周作著/武本純一・Enns Robert 訳「『留学生』英訳」大阪樟蔭女子大学英米文学会誌 10,1973年。
(*)(参考：川田熊太郎「無の比較哲学的研究」駒澤大学佛教学部論集4,1973年。)
(*)石川達三『若き日の倫理』(ルカ伝)石川達三作品集23巻,新潮社,1973年。
(*)(参考：山崎正一「道元の哲学」現代思想11月号,1973年。)
(*)(参考：齋藤正二「「スパルタ教育」の原像をさぐる(子どもにとっての学校,特集)」児童心理27(11),1973年。)
(*)(参考：H.アレント/志水速雄訳『人間の条件』中央公論社,1973 年(→1994 年,ちくま学芸文庫)。)
(*)(参考：田中美知太郎・貝塚茂樹「対談 生と死の哲学—東と西」潮 4 月特大号,1973 年。)
(*)(参考：古田光編『哲学の名著 12 選』名著入門ライブラリー,学陽書房,1973 年。)
(*)(参考:服部英次郎『自由の意識とその歴史的な表現形態』関西大学(1973 年),(科研費)1973年。)
(*)(参考：佐藤守「ギリシア民族の教育：アウパルタとアテネを中心に」教育 8,1973 年。)
(*)(参考：加藤信朗「形の現象—存在の美をめぐる省察」理想 483,1973 年。)
(*)(参考：加藤信朗「何がよいか」理想 486,1973 年。)
(*)(参考：大畑荘一「ギリシヤと古代哲学 I」帯広畜産大学学術研究報告,第 III 部,人文・社会科学編 4(1),1973 年。)
(*)(参考：稲富栄次郎『ソクラテスのエロスと死』福村出版,1973 年。)
(*)(参考：稲富栄次郎『ソクラテスの教育的弁証法』福村出版,1973 年。
(*)(参考：プラトン/山本光雄編『プラトン全集』角川書店,1973 年-1977 年。)
(*)(参考：荻原茂久「プラトン主義とマゾヒズム：ラ・ファイエット夫人『モンパンシュ公爵夫人』における「シャパンヌ」造型の意味」一橋論叢 70(2),1973 年。)
(*)(参考：飯田実「「ソネット集」試論—プラトン的伝統をめぐって」信州大学教養部紀要第 1 部 人文科学 7,1973 年。)
(*)(参考：木ノ脇悦郎「宗教改革前史における新プラトン主義とエラスムス：特にその人間観について」桃山学院大学キリスト教論集 9,1973 年。)
(*)(参考：G.E.R.ロイド著/川田殖訳『アリストテレス：その思想の成長と構造』みすず書房,1973 年。)
(*)(参考：井上忠「同一性—アリストテレスによせて(哲学する)」理想 486,1973 年。)
(*)(参考：藤澤令夫「観ること(θεωρια)と為すこと(πραξις)：イソクラテス,プラトン,および

後期アリストテレスとの比較におけるアリストテレス『プロトレプチコス』の哲学思想」西洋古典學研究 21,1973 年。)
(*)(參考 : 山田晶「在りて在る者—アウグスティヌスの Exod.3,15 解釈」哲学研究 45(7),1973 年。)
(*)(參考：山田晶「アウグスティヌスにおける神の知りかたについて—Soliloq.I,cc.2~5」中世哲学研究 15,1973 年。)
(*)(參考 : 山田晶「存在と本質—トマスにおける実存的区別の意味について(存在)」理想 484,1973 年。)
(*)(參考：岩本一夫「クラウス・クレーマー「新プラトン派の存在哲学とトマス・アクイナスへのその影響」(Klaus Kremer ; Die neuplatonische Seinsphilosophie und ihre Wirkung auf Thomas von Aquin,1966)」フィロソフィア 61,1973 年。)
(*)(參考：野町啓「摂理・運命・自由意志：カルキディウスとボエティウス」文経論叢,哲学篇 7,1973 年。)
(*)(參考:加藤西郷「ヘーゲルにおける〈ソクラテスの死〉の意義」龍谷大学論集 400･401,1973 年。)
(*)(參考：岡崎英輔「危機と人間：ブルクハルト解釈の試み(1,2)」文経論叢・哲学篇 7,1973 年/8,1974 年。)
(*)(參考：Nakao Takashi「歴史哲学への一考察：ブルクハルト,ニーチェのヘーゲル歴史哲学批判」神戸山手女子短期大学紀要 16,1973 年。)
(*)(參考：船越清「若きニーチェのソークラテース観」成城文藝 68,1973 年。)
(*)(參考：野町啓「摂理・運命・自由意志—カルキディウスとボエティウス」文経論叢・哲学篇 7,1973 年。)
(*)(參考：野町啓「永遠と時間—“ティマイオス”(2887)解釈史との関連における」中世思想研究 15,1973 年。)
(*)(參考：エトムント・ヘルツェン/佐藤自郎訳「ギリシャ的世界観への復帰—カール・レーヴィットの哲学について」思想 12 月号,)1973 年。)
(*)(參考：井上忠「ギリシア哲学の最前線—G.E.L.オーエンのこと（特集 ケレーニイ/新しいギリシア像の発見）」現代思想8月号,1973年。)
(*)(參考：G.E.R.ロイド/川田殖訳『アリストテレス—その思想の成長と構造』みすず書房,1973年(→1998年,新装版)。)
(*)(參考：Ch.ドーソン/野口洋二・諏訪幸男訳『中世ヨーロッパ精神史』創文社,1973 年(→1993 年,改題『中世ヨーロッパ文化史：宗教と西方文化の興隆』創文社。)
(*)(參考：齋藤忍随・伊藤勝彦編『美の哲学』現代哲学叢書 12,北樹出版,学文社(発売),1973 年。)
(*)(參考：ヒルティ/草間平作・大和邦太郎訳『眠られぬ夜のために(第 1,2 部)』改訳,岩波文庫,岩波書店,1973 年。)
(*)(參考：三宅剛一『学の形成と自然的世界』みすず書房, 1973 年。）
(*)(參考：高桑純夫『近代哲学思想史要』世界書院,1973 年。)
(*)(參考：高桑純夫『高校倫理・社会』実教出版,1973 年。)
(*)鶴田潔『會津八一先生の思い出』アポロン社,1973 年。
(*)『対談：古典の再発見』(西脇順三郎等)現代選書,学燈社,1973 年。

(*)岡崎義恵・島田謹二監修/赤羽淑・朝倉文市編『日本文学と英文学』研究叢書 3,教育出版センター,1973 年。
(*)(参考：E.クルティウス/生松敬三訳『読書日記』みすず書房,1973 年。)
(*)(参考：R.G.コリングウッド/近藤重明訳『芸術の原理』勁草書房,1973 年。)
(*)(参考：ジョン・メーシィ/大谷利彦訳『世界文学史物語』角川文庫,角川書店,1973 年。)
(*)(参考：中村善也編『西洋文学を学ぶ人のために』世界思想社,1973 年。)
(*)(参考：呉茂一「増頁総合特集 文学の時間エッセイ「時」について」ユリイカ 5(9),1973 年。)
(*)多田智満子「古代への墓碑銘—呉茂一訳「花冠」」現代詩手帖 16(9),1973 年。
(*)(参考：青木巖「ギリシア悲劇をめぐって」(上智大学)ソフィア 18(4),1973 年。)
(*)(参考：戸張智雄「ムーゼニデスのギリシア悲劇演出観」テアトロ 361,1973 年。)
(*)(参考:戸張智雄「ギリシア悲劇のコメディアン(コメディアン(特集))」悲劇喜劇 26(1),1973 年。)
(*)新関良三「伎楽とギリシア系統の芸能」學鐙 3,4,5,6,7,8,9 月号,1973 年。
(*)加村赳雄「いま,ふたたび,ギリシア劇—ぼく自身のためのメモランダム」悲劇喜劇 26(11),1973 年。)
(*)(参考：菅原太郎『西洋演劇史』演劇出版社,1973 年。)
(*)(参考：メルヒンガー・ジークフリート/尾崎賢治・蔵原惟治訳「政治演劇史(6)喜劇」新劇 20(1),1973 年。)
(*)毛利三弥「演劇史をどうみるか」テアトロ 359,1973 年。)
(*)(参考：桂芳樹「E.R.クルツィウスの「ヨーロッパ文学とラテン中世」の問題点(文学史の再検討[特集 3])」ドイツ文学 50,1973 年。)
(*)(参考： 久志本秀夫「ヴェネツィアの起源(1,2)」相愛大学・相愛女子短期大学研究論集 21,1973 年。)
(*)參考：家田義隆「イタリア・ルネサンスの世界—D.ウィーリー著森田鉄郎訳イタリアの都市国家」,塩野七生「チェーザル・ボルジアあるいは優雅なる冷酷」清水純一「ルネッサンスの偉大と頽廃」」歴史学研究 396,1973 年。)
(*)(参考：ジョン・R.ヘイル原著/タイムライフブックス編集部編『リネサンス』ライフ人間世界史5,タイムライフインターナショナル,1973年。)
(*)(参考：児島喜久雄著/澤柳大五郎編『レオナルド研究寄與』座右宝刊行会,1973 年。)
(*)(參考：飯田実「「ソネット集」試論—プラトン的伝統を巡って」信州大学教養部紀要 第 1 部,人文科学 7,1973 年。)
(*)(参考：『筑摩世界文学大系 11-ダンテ』筑摩書房,1973 年。)
(*)剣持武彦「花袋・独歩・抱月とダンテ「神曲」(ダンテとその時代)」イタリア学誌 21,1973 年。
(*)(参考：野上素一「晩年のダンテ」イタリア学会誌 21,1973 年。)
(*)(参考：三浦逸雄「ダンテと天の説」イタリア学会誌 21,1973 年。)
(*)(参考：山口秀樹「ダンテとフォレーゼの喧嘩誌(テンツオーネ)」イタリア学会誌 21,1973 年。)
(*)(参考：北川忠紀「クローチェの「ダンテの詩」をめぐる「神曲」問題論争について」イタリア学会誌 21,1973 年。)
(*)(参考：ミハイール・バフーチン/川端香男里訳『フランソワ・ラブレーの作品と中世・

ルネサンスの民衆文化』せりか書房,1973 年(→1980 年,新装版)。)
(*)(参考：内田雄一「モンテーニュの「空虚」とエラスムスの「痴愚」について」フランス語フランス文学研究 23,1973 年。)
(*)(参考：竹田英尚「モンテーニュの思索の歩み--「エセー」の構造とその論理に見る(1,2)」天理大学学報 24(6),1973 年。)
(*)(参考：『モンテーニュ(1,2)』筑摩世界文学大系 13,14,筑摩書房,1973 年。)
(*)(参考：犬飼政一「ユートピアにおける宗教—トマス・モアのキリスト教批判」世紀 278,1973 年。)
(*)小田洋「トマス・モア「ユートピア」と日本」文学科論集 9,1973 年。
(*)(参考：奥田博之「Sir Thomas Wyatt のソネット—ペトラルカの翻訳についての覚書」大阪大学教養部研究集録・外国語外国文学 21,1973 年。)
(*)(参考：木ノ脇悦郎「宗教改革前史における新プラトン主義とエラスムス：徳にその人間観について」桃山学院大学キリスト教論集 9,1973 年。)
(*)(参考:大谷恒彦「Friedrich Heer とそのエラスムス論について」独仏文學研究 23,1973 年。)
(*)(参考：内山稔「ウルリッヒ・ツヴィングリ—宗教改革者への道(2)[附 エラスムス作「キリストの哀歌」]」精神科学 12,1973 年。)
(*)(参考：国信浩洋「ヴィンケルマンの芸術観について—その「芸術作品の観察に関する覚書き」より」文科研究誌 2,1973 年。)
(*)(参考：風巻孝男「カルステン「夜とその子ら」のための序論—ヴィンケルマンの「模倣論」とドイツ古典主義美術の三段階(後期バロック,ロココ—クラシチシムス,カルステンス)」愛知教育大学研究報告 美術・保健体育・技術科学 22,1973 年。)
(*)(参考：後潟雅生「ゲーテの古典主義と「トルクヴァート・タッソー」：「タッソー形象」の問題点」岡山理科大学紀要 9,1973 年。)
(*)(参考：高橋義人「ゲーテの古典主義と純粋概念」ドイツ文学 51,1973 年。)
(*)(参考：林正則「ゲーテ「パンドーラ」をめぐって」待兼山論叢 6(文学),1973 年。)
(*)(参考：岩村行雄「ゲーテにおける真実について--「詩と真実」をめぐって(真実 特集)」実存主義 64,1973 年。)
(*)(参考：木村直司「ゲーテ像の変遷—ゲーテ研究史の一断面」ソフィア 22(4),1973 年。)
(*)(参考：木村直司「若きゲーテの世界像」上智大学ドイツ文学論集 10,1973 年。)
(*)野島正城「内藤克彦『シラー研究』」ドイツ文學研究 50,1973 年。)
(*)(参考：水野清志「権力と芸術(ニーチェ後期の芸術論)」人文学報 94,1973 年。)
(*)(参考：芳賀檀「ニーチェの「偉大な形式」について」文学部論集 2(2),1973 年。)
(*)(参考:伊藤虎丸「魯迅におけるニーチェ思想の受容について」外国文学研究 19,1973 年。)
(*)茅野良男「明治時代のニーチェ解釈—登張・高山・桑木を中心に 30 年代前半まで(日本におけるニーチェ研究 特集)」実存主義 63,1973 年。
(*)川原栄峰「和辻哲郎「ニーチェ研究」(日本におけるニーチェ研究 特集)」実存主義 63,1973 年。
(*)山崎庸佑「戦後のわが国におけるニーチェ研究に関する批判的展望(日本におけるニーチェ研究 特集)」実存主義 63,1973 年。
(*)小倉志祥他「信太正三氏のニーチェ研究をめぐって(日本におけるニーチェ研究 特集)」実存主義 63,1973 年。

(*)藤田健治「シュテファン・ゾンス著水野清志訳「ニーチェの良心論」(日本におけるニーチェ研究 特集)」実存主義 63,1973 年。
(*)(參考：水野清志「ニーチェにおける身体と芸術(身体 特集)」実存主義 65,1973 年。)
(*)(參考 : 太田垣典生「ニーチェの「三つの変化について」」大阪商業大学論集 37,1973 年。)
(*)(參考：木阪昌知「ニーチェとキリスト教倫理」城西人文研究 1,1973 年。)
(*)(參考：松塚豊茂「ニーチェの永劫回帰説について」島根大学文理学部紀要 文学科篇 7,1973 年。)
(*)(參考：内田文雄「本来的自己：ヤスパースのニーチェ批判」研究紀要 5,1973 年。)
(*)(參考：川村二郎「文学の根への問い(1)ヘルダーの断念」文芸 12(1),1973 年。)
(*)(參考 : 七字勝紀「ヘルダー研究ノート(1)」東京農工大学一般教養部紀紀要 9(5),1973 年。)
(*)(參考 : 安達忠夫「ヘルダーリンの詩作における両義性について(1)」埼玉大学紀要 9,1973 年。)
(*)(參考：木村行宏「ヘルダーリンの短頌歌(1)」日本大学文理学部(三島)研究年報 22,1973 年。)
(*)(參考：坂田正治「ヘルダーリン覚書：「ヒューペリオン」の構成を中心として」法文論叢・文科篇 32,1973 年。)
(*)(參考：田中雄次「ヘルダーリンにおける悲劇の意味」熊本大学教養部紀要・人文科学編 8,1973 年。)
(*)(參考 : 高木昌史「ヘルダーリンの文体美学—後期讃歌の研究(1)」人文学報 95,1973 年。)
(*)(參考：大河原順「讃歌「追想」における「詩と真実」(錯乱期のヘルダーリン(6))」東北大学教養部紀要 18,1973 年。)
(*)(參考 : 吉本隆明「書物の解体学(21)ヘルダーリンと〈神話〉〈自然〉〈愛〉」海 5(9),1973 年。)
(*)(參考：吉本隆明「書物の解体学(22)ヘルダーリンと〈頌〉」海 5(10),1973 年。)
(*)(參考 : 伊藤一彦「ヘルダーリンとハイデガー—ヘルダーリンの詩人概念とハイデガーの哲学について(ドイツ語学文学論文集)」外国語科研究紀要 21(1),1973 年。)
(*)(參考：横田ちゑ「ヘルダーリンの後期讃歌：時代観」千葉大学教養部研究紀要 A6,1973 年。)
(*)(參考 : ラブレー/渡辺一夫訳『ガルガンチュワ物語・第 1,2 之書』岩波文庫,岩波書店,1973 年。)
(*)(參考：ミハイール・バフチーン/川端香男里訳『フランソワ・ラブレーの作品と中世・ルネサンスの民衆文化』せりか書房,1973 年。)
(*)(參考：リュシアン・ゴルドマン/山形頼洋訳『隠れたる神(上下)』(ラシーヌ)社会思想叢書,社会思想社,1973 年。)
(*)(參考：中川久定「ディドロの「セネカ論」(上下)--初版と第 2 版とに表現された著者の意識の構造にかんする考察」京都大學文學部研究紀要 13,1973 年/15,1975 年。)
(*)(參考：戸張智雄「La Mythologie grecque dans le théâtre français à la fin du XVIIe siècle」(Cahiers de l’Association intewrnationale des Etudes françaises,N 25,1973 年)
(*)(參考 : 森谷宇一「ポワローと古代詩学(1)(2)」岡山大学法文学部学術紀要 33,1973 年//35(哲学篇),1974 年。)
(*)(參考：沓掛良彦「グネージチ訳『イーリアス』について：ロシアにおけるホメロス受容

の一側面(1,2)(故西垣雄太郎教授追悼号)」人文研究 25(1),1973 年// 26(1),1974 年。)
(*)富田仁「フランス文学移入史序説—明治十年・二十年の翻訳」日本仏学史研究 3,1973 年。
(*)(参考:ヘーレス・ヨハンネス/谷口勇訳「クローチェ『詩論』解題」イタリア学会誌 23,1973 年。)
(*)(参考:関根秀雄・市原豊太他訳『随想録,箴言と省察,パンセ,覚書と随想』2 版,平凡社,1973 年。)
(*)(参考:ミシェル・ピュートル/松崎芳隆訳『モンテーニュ論—エセーをめぐるエセー』筑摩叢書,筑摩書房,1973 年。)
(*)(参考:加藤美雄「モーリス・セーヴ小論—ふたたびプラトニズムをめぐって」人文研究 25(1),1973 年。)
(*)(参考:小田桐光隆「ジイドとソォフォクレスにおける『オィディプス王』の比較研究」上智大学フランス語フランス文学研究 4,1973 年。)
(*)「Seiji Yamaguchi:In Memoriam(青木巌名誉教授・山口精二助教授追悼号)」(上智大学英文科)英文学と英語学 9,1973 年。
(*)「青木巌名誉教授年譜[含著作]」(上智大学英文科)英文学と英語学 9,1973 年。
(*)刈田元司「青木巌先生を悼む」(上智大学英文科)英文学と英語学 9,1973 年。
(*)(参考:小田島雄志訳『シェイクスピア全集(1-7)』白水社,1973-80 年。)
(*)(参考:中林謙二『シェイクスピア研究序説』昭和女子大学近代文化研究所,1973 年。)
(*)(参考:平嶋雅縁「シェイクスピアの「アントニーとクレオパトラ」」成城英文学 3,1973 年。)
(*)(参考:金城盛紀「Shakeapeare における「エデン」」同志社大学英語英文学研究 6,1973 年。)
(*)(参考:井上善五郎「「トロイラスとクレシダ」--その後世のパターン」(早稲田大学法学会)人文論集 10,1973 年。)
(*)(参考:桝井迪夫「上野直蔵著,チョーサァの「トロイラス」論,南雲堂」英文学研究 50(1),1973 年。)
(*)(参考:村上至孝『イギリス新古典主義の詩—ドライデンからクーパーへ』研究社出版,1973 年。)
(*)(参考:山村元彦「E.M.フォースターの『モーリス』について—ギリシアとグリーンウッド」(大阪女子大学)文学 25,1973 年。
(*)(参考:谷清「ダンテの影:エリオットとオデュッセウス・エピソード」(青山学院大学)論集 14,1973 年。)
(*)(参考:佐藤昇「Aristotle,E.Poe と Understanding Fiction」Otsuka Review 10,1973 年。)
(*)(参考:犬飼政一「ユートピアにおける宗教—トマス・モアのキリスト教批判」世紀 278,1973 年。)
(*)小田洋「トマス・モア「ユートピア」と日本」文学科論集 9,1973 年。
(*)(参考:黒田健二郎「明治末期におけるミルトンの伝記について(上中下)」神戸大学教育学部研究集録 49,50,1973 年/52,1974 年。)
(*)(参考:永沢二郎「「エンディミオン」の主題とその展開」大分大学教育学部紀要・人文社会科学 B 集 4(3),1973 年。)
(*)(参考:高橋雄四郎『キーツ研究:自我の変容と理想主義』北星堂,1973 年(→1974 年,再

版。→1977 年,増補版。→1983 年,4 版。→1990 年,5 版)。)
(*)松浦暢「日本におけるキーツ(1)」成城文藝 68,1973 年。
(*)(参考 : ジョン・ドライデン/小津次郎訳『劇詩論』英米文芸論双書 2,研究社出版,1973 年。)
(*)(参考 : 都築佑吉「ペイターとホプキンス : 附・ペイター研究書誌補遺」群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編23,1973年。)
(*)(参考 : 小池滋「最近のギッシング研究」英語青年119(8),1973年。)
(*)(参考 : 高柳俊一「3.T.S.Eliot and Theodor Haecker on Virgil」英文学研究49(2),1973年。)
(*)『幸若小八郎正本幸若舞曲 : 三十六種』古典研究会叢書2期「国文学」,古典研究会,汲古書院(発売),1973年。
(*)麻原美子「幸若舞曲の生成」言語と文芸76,1973年。
(*)(参考 : 小牧近江『イソップ三代目』(ラ・フォンテーヌ)第三文明社,1973年。)
(*)(参考 : 島田清太郎『イソップ伝の研究』中央公論事業出版,1973 年。)
(*)川端康成,木村徳三共編『いそっぷどうわ』世界の幼年童話,岩崎書店,1973 年。
(*)北垣篤「明治期以前におけるイソップ寓話の移入について」茨城大学教養部紀要 5,1973 年。
(*)堀関夫『ウソップ物語 : 寓話(1,2)』文化書房博文社,1973 年。)
(*)宮崎道生『新井白石の洋学と海外知識』吉川弘文館,1973 年。
(*)辻田右佐男「箕作省吾「坤輿図識」--著者をめぐる 1,2 の問題」奈良大学紀要 2,1973 年。
(*)菅野陽「銅版世界図(2)司馬江漢」蘭学資料研究会研究報告 267,1973 年。
(*)菱本丈夫『箕作阮甫と聖書』私家版,1973 年。
(*)佐野正己『国学と蘭学』雄山閣,1973 年。
(*)平岩昭三「「西国立志編」と「其粉色陶器交易」の周辺—明治初期における西欧文化受容の一面について」日本大学芸術学部学術研究 3,1973 年。
(*)(参考 : ア・ケンピス/由木康訳『キリストにならいて』,1973 年。
(*)新改訳聖書刊行会訳『聖書 新改訳』,1973 年。
(*)木下清「永田方正年譜」桃山学院大学キリスト教論集9,1973年。
(*)(参考 : 左近義慈「新改訳聖書—旧約聖書—の翻訳について」(東京神学大学神学会)神学 34・35,1973年。)
(*)伊藤毅編『新契約聖書物語訳者・永井直冶小伝』挺身社,1973 年。
(*)武田清子『背教者の系譜』岩波新書,1973 年。
(*)中内敏夫「洋学教育史試論—明治国家と日本の教育」科学と思想 8,1973 年。
(*)佐藤誠実著・仲新也校訂『日本教育史(1,2)』東洋文庫,平凡社,1973 年。
(*)井上哲次郎『井上哲次郎自伝』井上正勝,冨山房,昭和 48 年。
(*)保坂忠信「素描 : 永峰秀樹とその周辺(1,2)」英語青年 119(6,7),1973 年。
(*)「故久保勉名誉教授略歴・著書・訳書」白山哲学 9,1973 年。
(*)吉田精一「生田長江(1,2)評論の系譜(1,2)」国文学 解釈と鑑賞 38(6,8),1973 年。
(*)湯浅泰雄編『人と思想 和辻哲郎』三一書房,1973 年。
(*)東光寛英「追慕の影像—故長沢信寿[含著作]」中世思想研究 15,1973 年。
(*)木下清「永田方正年譜 : 和訳聖書の先覚者」(和訳聖書)桃山学院大学キリスト教論集 9,1973 年。
(*)加藤武「石原謙先生略年譜・著書目録」中世思想研究 15,1973 年。
(*)泉治典「石原謙博士のキリスト教史研究について」中世思想研究 15,1973 年。

(*)『対談：古典の再発見』現代選書,学燈社,1973 年。
(*)平岡敏夫「政治小説」(同『近代日本文学の出発』所収,紀伊国屋書店,1973 年。
(*)長部日出雄「「走れメロス」(小さい巨像[36])」朝日ジャーナル 15(40),1973 年。
(*)太宰治『走れメロス・新樹の言葉：他 9 篇』旺文社文庫,旺文社,1973 年。
(*)太宰治『走れメロス・女生徒』日本の文学 4,金の星社,1973 年。
(*)松本徹『三島由紀夫論：失墜を拒んだイカロス』朝日出版社,1973 年。)
(*)(参考：剣持武彦「花袋・独歩・抱月とダンテ『神曲』」イタリア学会誌 21,1973 年)。
(*)川崎宏「木村鷹太郎攷序」英学史研究 6,1973 年。
(*)松井幸子「近代文芸創生期の文体意識---矢野竜渓の場合」日本文芸学 8,1973 年。
(*)松本信広「史学者としての田中萃一郎先生」史学 45(4),1973 年。
(*)稲富栄次郎「私の教育学研究」教育学研究 40(4),1973 年。
(*)(参考：石川謙二「フルウィス氏について」愛媛大学教育学部第 2 部・人文社会科学 5(1),1973 年。)
(*)(参考：芝川治「〈論説〉エピアルテス」史林 56(6),1973 年。)
(*)(参考：新村祐一郎「第 2 メセニア戦争とスパルタ：Lykurgos 体制成立の時期と関連して」西洋古典學研究 21,1973 年。)
(*)(参考：丹藤浩二「ツキュディデス研究の現状について(動向)」(広島大学)西洋史学報(復刊)1,1973 年。)
(*)(参考：長谷川博隆『ハンニバル：地中海世界の覇権をかけて』人と歴史シリーズ 3,清水書院,1973 年。)
(*)(参考：一柳俊夫「ローマ喜劇における奴隷制の問題」宇都宮大学教育学部紀要,第 1 部 23,1973 年。)
(*)(参考：大牟田章「「アーギスの蜂起」の背景：アレクサンドロス東征下のギリシア世界」富山大学文理学部文学科紀要 1,1973 年。)
(*)(参考：河上徹太郎「近代史幻想(14)ユダヤとビザンチン」文學界 27(10),1973 年。)
(*)(参考：山崎寿雄「イタリーの地図事情」地図 11(1),1973 年。)
(*)(参考：C.モーリス・.バウラ著/タイムライフブックス編集部編『古代ギリシア』ライフ人間世界史1,タイムライフインターナショナル,1973年。)
(*)(参考：モーゼス・ハダス著/タイムライフブックス編集部編『ローマ帝国』ライフ人間世界史2,タイムライフインターナショナル,1973年。)
(*)(参考：サミュエル・C.バーチェル著/タイムライフブックス編集部編『近代ヨーロッパ』ライフ人間世界史10,タイムライフインターナショナル,1973年。)
(*)「史学文献目録—西洋史 1」史學雑誌 82(1),1973 年。
(*)「史学文献目録—西洋史 2」史學雑誌 82(5),1973 年。
(*)「1972 年の歴史学界—回顧と展望」史學雑誌 82(5),1973 年。
(*)「史学文献目録—西洋史 3」史學雑誌 82(9),1973 年。
(*)(参考：亀井高孝・三上次男他編『標準世界史年表』10 増訂初版,吉川弘文館,1973 年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男他編『標準世界史年表』15 増訂初版,吉川弘文館,1973 年。)
(*)(参考：秀村欣二・木村尚三郎『世界史 555 題』新版,学生社,1973 年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『標準世界史』山川出版社,1973 年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『詳説世界史』新版,山川出版社,1973 年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『詳説世界史：教授資料』再訂版,山川出版社,1973

年。)
(*)(参考：田中美知太郎・小林秀雄「対談 現代に生きる歴史」(『小林秀雄対談集 歴史について』所収,文藝春秋,1973 年。)
(*)(参考：堀米庸三『歴史学のすすめ』学問のすすめ 11,筑摩書房,1973 年。)
(*)(参考：堀米庸三『西洋中世世界の展開』東京大学出版会,1973 年。)
(*)(参考：西洋中世史研究会編『西洋中世世界の展開：堀米庸三先生還暦記念論集』東京大学出版会,1973 年。)
(*)吉田悟郎「世界史の起点—上原専禄の世界史認識(2-5)」歴史評論 273,274,295,276,1973 年。
(*)(参考:岡崎英輔「危機と人間—ブルクハルト解釈の試み(1)」(弘前大学)文経論集 8(4),1973 年。)
(*)(参考：Nakao Takashi「歴史哲学への一考察：ブルクハルト,ニーチェのヘーゲル歴史哲学批判」神戸山手女子短期大学紀要 16,1973 年。)
(*)(参考：潮木守一『近代大学の形成と変容：十九世紀ドイツ大学の社会的構造』東京大学出版会,1973 年。)
(*)(参考：山本学治『西洋建築史考』建築設計講座,理工図書,1973 年。)
(*)(参考：千葉正士編『都市の概念：その総合的検討のために(全 5 巻)』都市研究報告 32,33,34,35,40,東京都立大学都市研究組織委員会,1973 年。)
(*)(参考：大戸千之「ヘレニズム時代の都市と土着民—初期セレウコス朝の都市建設・植民を対象として」史林 56(1),1973 年。)
(*)(参考：五島利兵衛「1.西洋建築史の方法と課題(VII〈歴史・意匠〉)」東海支部研究報告集 11,1973 年。)
(*)(参考：稲垣栄三「建築歴史・意匠 西洋建築史の再検([47 年度日本建築学会九州大会[主集]—(研究協議会)」建築雑誌 88(1062),1973 年。)
(*)阿久井喜孝「東地中海の民家と集落(続地中海建築—中近東・バルカン編熊本大学環地中海建築調査団レポート)」SD104,1973 年。
(*)木島安史「環地中海都市の古代都市(続地中海建築—中近東・バルカン編熊本大学環地中海建築調査団レポート)」SD104,1973 年。
(*)堀内清治「神殿建築(続地中海建築—中近東・バルカン編熊本大学環地中海建築調査団レポート)」SD104,1973 年。
(*)(参考：F.メゾー/大島鎌吉訳『古代オリンピックの歴史』復刻版,ベースボール・マガジン社,1973 年。)
(*)(参考：杉本政繁「ルキアーノスの『アナカルシス』における体育論の研究：その思想史的意義：2.歴史的研究」日本体育学会大会号 24,1973 年。)
(*)青木一郎「江馬家にある坪井信道のヒポクラテス賛詩」日本医史学雑誌 19(1),1973 年。
(*)小川鼎三「医史学と私」日本医史学雑誌 19(4),1973 年。
(*)陰里鉄郎「石川大浪ヒポクラテス像をめぐって(江戸洋風画とヨーロッパ版画(1))」東京国立博物館研究誌 268,1973 年。
(*)(参考:渡辺次雄「生活気象の研究(2)ヒポクラテスにおける気象生活」測候時報 40(9),1973 年。)
(*)(参考:高橋幸一「ガレーノスにおける体操術」東京教育大学教育学研究集録 12,1973 年。)
(*)小川鼎三「医学史と私」日本医学史雑誌 19(4),1973 年。

(*)(参考：伊東俊太郎「科学史と科学哲学の融合—アメリカ科学哲学界の一傾向」科学哲学 5,1973 年。)
(*)(参考：丸山次雄『ガラス古代史ノート』窯業協会,雄山閣,1973 年。)
(*)(参考：時実利彦編『生命の尊厳』(田中美知太郎)人間の世紀 1,潮出版社,1973 年。)
(*)(参考：A.コイレ/横山雅彦訳『閉ざされた世界から無限宇宙へ』みすず書房,1973 年。)
(*)(参考：バジル・ウィリー著/三田博雄他訳『十八世紀の自然思想』みすず書房,)1973 年。)
(*)(参考：三宅剛一『学の形成と自然的世界』みすず書房,1973 年。)
(*)(参考：ウィリアム・ウィルソン著/矢島祐利・大森実訳『近代物理学史』講談社,1973 年。)
(*)(参考：G.フリードマン/中岡・竹内訳『力と知恵(上下)』人文書院,1973 年。)
(*)辻哲夫『日本の科学思想—その自立への模索』中公新書,中央公論社,1973 年。
(*)吉田光邦「日本の近代」窓 7,1973 年。
(*)吉田忠「蘭学と自然哲学一試論」日本文化研究所研究報告 9,1973 年。
(*)帆足図南次「『徳川合理思想の系譜』[源了円著]における「自然科学概論」『窮理通』」の成立ちについて」歴史評論 275,1973 年。
(*)上野益三『日本博物学史』平凡社,1973 年。
(*)矢部一郎「宇田川榕菴の『植学啓原』の原画について」科学史研究 108,1973 年。
(*)佐藤昌介「洋学の思想史的基礎考察—医学思想を中心として」(豊田武教授還暦記念会編『日本近世の地方史的展開』所収,吉川弘文館,1973 年。)
(*)(参考：佐藤和兄「古代希臘における運動文化現象—その社会的機能について」(創価大学文学部)文学部論集 2(2),1973 年。)
(*)(参考：加茂儀一『家畜文化史』オンデマンド版,法政大学出版局,1973 年。)
(*)藪内清「山片蟠桃の天文学説」蘭学資料研究会研究報告 271,1973 年。
(*)(参考：ポール・クローデル/有田忠郎・菅原孝雄訳『占星術』文庫クセジュ 535,白水社,1973 年(→1975 年,図書館用特装叛)。)
(*)稲垣正機「『地球里数明証実算』の紹介」海事史研究 21,1973 年。
(*)大矢真一「和算に影響したかもしれぬ西洋の数学」蘭学資料研究会研究報告 273,1973 年。
(*)宇賀田為吉「ショメル異聞」蘭学資料研究会研究報告 274,1973 年。
(*)(参考：石村暢五郎「西洋経済史におけるヘブライズムとヘレニズム(試論)」(日本大学商学研究会)商学集志 42(4),1973 年。)
(*)杉原四郎「明治初期における欧米経済書の伝来--「諸官庁所蔵洋書目録」を中心として」関西大学経済論集 22(5・6),1973 年。
(*)藤井定義「幕末期徳川幕府の西洋経済思想の許容—米,露使節との交渉による」(大阪府立大学)経済研究 18(3),1973 年。
(*)宮原賢吾「三兵答古知幾—玄木と長英(1-3)」西日本文化 89,90,92,1973 年。
(*)(参考：湯川秀樹責任編集『平和の思想』(エラスムス)戦争と平和シリーズ 6,新装版,雄渾社,1973 年(→1975 年,戦争と平和シリーズ 2,愛蔵版。)
(*)(参考：内田芳明「西洋的市民の特質とその意識(「市民」とは何か(横浜四大学連合学会公開シンポジウム)」商経論叢 8(3・4),1973 年。)
(*)(参考：新村祐一郎「スパルタの政治組織に関する覚書—研究ノート」大手前女子大学論集 7,1973 年。)
(*)(参考：池田忠生『イソクラテス研究：政治と社会の関係を視座として』広島大学,文学博士,乙第 408 号,1973 年。)

(*)田中美知太郎「政治と哲学」理想 479,1973 年。
(*)(参考：西尾孝司「主知主義的人間批判と近代政治学の形成—ウォーラス,リップマン,メリアムの啓蒙合理主義批判」法学新報 80(7),1973 年。)
(*)(参考：カール・ポパー/武田弘道訳『自由社会の哲学とその論敵(1,2)』世界思想社,1973 年。)
(*)(参考：いいだもも「プラトンの〈ポリティヤ〉と現代—権威の起源について(管理をくずすスタイル(主題)」思想の科学・第 6 次 17,1973 年。)
(*)(参考：平田隆一「エトルスキ王政—ポルセンナの王政」西洋史研究 2,1973 年。
(*)(参考：八田恭昌「オスワルド・シュペグラーと政治—両大戦間におけるインテリと政治(1)」評論・社会科学 6,1973 年。)
(*)(参考：岡崎勝世「初期ドイツ・ロマン主義とフリードリヒ・シュレーゲル：「政治的ロマン主義」の成立過程」研究紀要 6,1973 年。)
(*)(参考：寺井正弘「リンゼイの民主主義論(1)」大谷女子大学紀要 7,1973 年。)
(*)(参考：江藤文夫他編『コミュニケーション思想史』（井上俊「宛てないの民主制とプラトンのコミュニケーション論」,井上俊「教会とアウグスティヌスのコミュニケーション論」）講座コミュニケーション 1,研究社出版,1973 年。)
(*)(参考：加藤新平『法思想史』新版法學大系,勁草書房,1973 年。)
(*)三代川潤四郎「三谷隆正教授の自然法思想—個人の尊厳と自我主義の問題を中心として」金沢法学 18(1・2),1973 年。)
(*)(参考：古林祐二『情報化社会における法学・法哲学・法史学—古代ギリシア法研究第四巻』赤坂書房,1973 年。)
(*)一柳俊夫「書評 古林祐二著「海上冒険消費貸借金に関する原告クリュシーポッスとその仲間たちの被告フォルミーオンに対する,再抗辯について—古代ギリシャ法廷技術研究Ⅴ」(福岡大学三五周年記念論文集,法学編所収)」法制史研究 22,1973 年。)
(*)(参考：柴田光蔵『ローマ法の基礎知識』有斐閣叢書,有斐閣,1973 年。)
(*)「故三戸壽博士略歴・主要著作目録(三戸壽博士追悼論文集)」金沢法学 18(1・2),1973 年。
(*)野村敬造「追悼の辞(同上)」金沢法学18(1・2),1973年。

(*)(参考：I.バーリン/倉塚平・小箕俊介訳『カール・マルクス』中央公論社,1974 年。)
(*)(参考：柄谷行人「マルクスその可能性の中心(1-5)」群像 29(4,5,6,7,8),1974 年。)
(*)(参考：鈴木伸一「マルクスの哲学的出発点における知と実在の問題」(熊本大学)法文論叢 34,1974 年。)
(*)吾郷清彦『高天原論究』霞ヶ関書房,1974 年。
(*)吾郷清彦『ウエツフミ要録』霞ヶ関書房,1974 年。
(*)(参考：神部武宣『消えた文明 99 の謎：幻のアトランチスからイースター島の奇跡まで』サンポウ・ブックス 68,産報,1974 年(→1984 年,角川文庫版)。)
(*)(参考：R.シルヴァバーグ/三浦一郎・清永昭次訳『埋もれた古代文明』法政大学出版局,教養選書,1974 年。)
(*)(参考：Ch.ベルリッツ/小江慶雄・小林茂訳『謎の古代文明』紀伊国屋書店,1974 年。)
(*)(参考：中野幸次「西欧の思念(1-5)」学苑 410,411,414,420,1974 年/423,1975 年。)

(*)古屋健三「小川国夫における〈地中海〉(小川国夫—実在の感触,特集)」国文学：解釈と教材の研究 19(8),1974 年。)
(*)(参考：小川国夫「アクロポリスの丘—神意の実在(古代美術館[1])」芸術新潮 25(10),1974 年。)
(*)澁沢孝輔『われアルカディアにもあり』青土社,1974 年。)
(*)吉増剛造「鬼の華・極の透視図—渋沢孝輔「われアルカディアにもあり」(新詩論[6])」すばる 16,1974 年。
(*)(参考：渡辺格司「羅馬悲歌」帝塚山大学論集 7,1974 年。
(*)(参考：万足卓「ゲーテ「ローマ悲歌」--訳と解説」金沢大学法文学部論集 文学編 22,1974 年。)
(*)(参考：横山滋「『ギリシャでの瞬間』について(1)」(武蔵大学)人文学会雑誌 5(3・4),1974 年。)
(*)(参考：川路重之『夏織；焚かれた女：川路重之作品集』(「アレキサンドリア一戒」)羽黒洞,1974 年。)
(*)(参考：垣ケ原美枝「「アレクサンドリア四重奏」の構造(刈田元司教授還暦記念号)」英文学と英語学 10,1974 年。)
(*)(参考：木村尚三郎『西欧文明の原像』講談社,1974 年。)
(*)(参考：芳賀徹他編『東西文明圏と文学』講座比較文学 6,東京大学出版会,1974 年。)
----呉茂一「文明圏と文学 ギリシア文学の成立」
森安達也「ビザンチン文明の意味」
平川祐弘「東の橘と西のオレンジ：文学的感受性の伝播のあとをたどって」
菊池栄一「東方へのまなざし：『西東詩集』の世界」
氷上英廣「ニーチェにおける脱ヨーロッパの思想」
(*)トーマス・インモース「クレタと日本」(上智大学)ソフィア 23(2),1974 年。
(*)塩野七生「君知るや南の国(イタリアだより[3])」文藝春秋 52(8),1974 年。)
(*)高田博厚「地中海,パリ—分水嶺(2)」世界 339,1974 年。
(*)藤縄謙三『ギリシア文化と日本文化—神話・歴史・風土』角川書店,1974 年。
(*)堀米庸三「捨遺の旅,自我の旅」中央公論 89(6),1974 年。
(*)堀米庸三「ヒッポ・レギウスへの道—アウグスティーヌス遺跡巡礼」展望 189,1974 年。
(*)堀米庸三「パレルモ紀行—シチリア晩祷の教会を訪ねて」展望 191,1974 年。
(*)宮島圀夫「都市をゆく(4)トルコ〈イスタンブール〉」建築 166,1974 年。)
(*)二川幸夫企画・撮影；横山正解説；ウェイン・藤井作図『アドリア海の村と街』世界の村と街2,A.D.A,EDITA Tokyo,2016年。)
(*)(参考：立田洋司「小アジアの遺産(7)ヘレニズム時代の美術[2]」三彩 312,1974 年。)
(*)(参考：立田洋司「小アジアの遺産(8)ローマ時代の小アジア」三彩 313,1974 年。)
(*)(参考:立田洋司「小アジアの遺産(9,10)小アジアのビザンチン美術[1,2]」三彩 315,316,1974 年。)
(*)(参考：新妻信明「地中海は鹹湖であった(深海底下に記録された地球の歴史,特集)」科学 44(4),1974 年。)
(*)(参考：C.L.ウーリー/平田寛訳,D.マスターズ/平田寛/大成莞爾訳,H.シュリーマン/立川洋三訳,J.G.フレザー/永橋卓介訳『過去を掘る・発掘物語・先史時代への情熱・悪魔の弁護人』第 2 版・世界教養全集 19,平凡社,1974 年。)

(*)(参考：N.C.フレミング/杉辺利英編『海底の都市』学生社,1974 年。)
(*)(参考：近藤公夫・小笠原淑江・服部照美・細川彰子・宮原順子「地中海沿岸地方の歴史的庭園の事例的観察による諸考察」家政學研究 21(1),1974 年。)
(*)川村喜一「マルカタ遺跡発掘(4)ヘロドトスを継ぐ人びと」朝日ジャーナル 16(17),1974 年。
(*)(参考：山本新・秀村欣二『トインビー入門』(再版)経済往来社,1974 年。)
(*)(参考：J.ホイジンガ/里見元一郎訳『ホモ・ルーデンス：文化のもつ遊びの要素についてのある定義づけの試み』河出書房新社,1974 年。)
(*)(参考：里見元一郎「ブルクハルトとホイジンガ」清泉女子大学紀要 22,1974 年。)
(*)(参考：久山満夫「遊戯考—J.ホイジンガ,R.カイヨワの所説によせて—(未完)」武蔵大学人文学会雑誌 5(3・4),1974 年。)
(*)(参考：堀米庸三「オットー・ブルンナーにおける「ヨーロッパ概念」--オットー・ブルンナー「ヨーロッパ—その歴史と精神(Otto Brunner,Neue Wege der Verfassungs-und Sozialgeshichte,1968)の紹介にかえて」思想 600,1974 年。)
(*)世良晃志郎「オットー・ブルンナー著,石井紫郎他訳「ヨーロッパ—その歴史と精神」」史學雑誌 83(10),1974 年。
(*)村川堅太郎「ギリシア文明を語る—西欧文明を築いた古代文化の意味を探る」月刊世界政経 3(4),1974 年
(*)井上靖「アジア古代遺跡の旅—アレキサンダーの道(1-18)」文藝春秋 52(1-13),1974 年/53(1-6),1975 年。
(*)(参考：M.クーパー「〈書評〉最初の遣欧使節：A Boscaro“Sixtenn Century Printed Works On ths First Japanese Mission to Europe : A Descriptive Biboliography”」ソフィア 23(1),1974 年。)
(*)家永三郎『外來文化攝取史論--近代西洋文化攝取の思想史的考察』青史社覆刻,1974年(←1948年,岩崎書店。)
(*)(参考：田中美知太郎・今西錦司・貝塚茂樹・勝田吉太郎・山崎正和「座談 東洋人と西洋人」大白蓮華 4 月号,1974 年。)
(*)尾原悟「「外なるもの」への意識—鎖国初期における日本人の海外知識の系譜」ソフィア23(2),1974年。
(*)(参考：秀村欣二・三浦一郎『古代ヨーロッパ』現代教養文庫 822,世界の歴史,社会思想社,1974 年。)
(*)(参考：三輪福松「戦士の像(新資料紹介)」古美術 44,1974 年。)
(*)(参考：青柳正規「第二の「ポンペイ」--新発見のオプロンティス荘とユリウス・ポリピウスの家」芸術新潮 25(2),1974 年。)
(*)(参考：ルネ・デヴナン/笹本孝訳『伝説の国』(アトランティス) 文庫クセジュ 558,白水社,1974 年(→1975 年,図書館用特装版)。)
(*)(参考：L.スプレーグ・ド・キャンプ/小泉源太郎訳『幻想大陸』(アトランティス)大陸書房,1974 年。)
(*)(参考：ストルガッキー兄弟他/深見弾也訳『アトランティス創造』早川書房,ハヤカワ SF シリーズ,1974 年。)
(*)(参考：神部武宣『消えた文明 99 の謎：幻のアトランチスからイースター島の奇跡まで』

サンポウ・ブックス 68,産報,1974 年(→1984 年,角川文庫版)。)
(*)(参考：井出孫六『アトラス伝説』冬樹社,1974 年。)
(*)(参考：林武「「地中海文化民族」論の一問題：ターハー・フサインのエジプト文化論にかんするノート」一橋論叢 72(6),1974 年。)
(*)(参考：中村喜和「ロシア民衆叙事詩における地中海世界」一橋論叢 72(6),1974 年。)
(*)(参考：鯖田豊之『文明と風土』日本経済新聞社,1974 年(→1976 年,3 版)。)
(*)(参考：会田雄次「ヨーロッパ文化の基礎構造」学術月報 27(9),1974 年。)
(*)(参考：高階秀爾編集解説・杉浦明平,三浦朱門特別寄稿『ダ・ヴィンチとミケランジェロ』グランド世界美術 11,講談社,1974 年。)
(*)(参考：団伊能『伊太利亞美術紀行』東京堂出版,1974 年。)
(*)(参考：村田潔責任編集『ギリシア美術』大系世界の美術 5,学習研究社,1974 年。)
(*)(参考：村田数之亮『ギリシア美術』新潮社,1974 年。)
(*)(参考：穴沢一夫解説・座右寶刊行会編『ギリシア』世界彫刻美術全集 4,小学館,1974 年。)
(*)(参考：中村茂夫『ギリシア美術の様式構造』京都女子大学研究叢刊 3,京都女子大学,1974 年。)
(*)(参考：平田隆一「エトルスキ研究の近況」史学雑誌 83(3),1974 年。)
(*)(参考：大岡昇平「エトルスク―「エトルリアの謎」を探ねて(古代美術館[3])」芸術新潮 25(12),1974 年。)
(*)(参考：三輪福松「エトルリア芸術とルネサンス芸術」東京学芸大学紀要,第 2 部門,人文科学 25,1974 年。)
(*)(参考：前田正明「泰西陶芸雑話(3)エトルリアの黒陶とローマの赤陶」陶説 260,1974 年。)
(*)(参考：呉茂一「特集ホモセクシャル 芸術的創造と同性愛 ギリシア・ラテン エロスの変幻」ユリイカ 6(13),1974 年。)
(*)(参考：大沼忠広「特集ホモセクシャル 芸術的創造と同性愛 ギリシア・ラテン 恋の刺客」ユリイカ 6(13),1974 年。)
(*)(参考：D.J.ウェスト「特集ホモセクシャル 芸術的創造と同性愛 歴史 ホモセクシャルの歴史」ユリイカ 6(13),1974 年。)
(*)(参考：富士川義之「特集ホモセクシャル 芸術的創造と同性愛 評論 死の美神―ペイター試論」ユリイカ 6(13),1974 年。)
(*)(参考：由良君良「特集ホモセクシャル 芸術的創造と同性愛 ダイアローグ レスボスへの船出」ユリイカ 6(13),1974 年。)
(*)(参考：土岐恒二「ユリイカ詩書批評 渋沢孝輔われアルカディアにもあり」ユリイカ 6(13),1974 年。)
(*)(参考：中村二柄『美術史学の課題』岩崎美術社,昭和 49 年。)
(*)(参考：針生一郎「モナ・リザの謎―その文明史(「レオナルド・ダ・ヴィンチ研究」から)(レオナルド・ダ・ヴィンチ,特集)」美術手帖 381,1974 年。)
(*)(参考：杉浦明平訳「レオナルド学事始(レオナルド・ダ・ヴィンチ,特集)」芸術新潮 25(5),1974 年。)
(*)(参考：下村寅太郎『レオナルド・ダ・ヴィンチ』勁草書房,1974 年。)
(*)(参考：加茂儀一『モナ・リザの秘密：レオナルド・ダ・ヴィンチの生涯』日本経済新聞社,1974 年。)
(*)(参考：ケネス・クラーク著/加茂儀一訳『レオナルド・ダ・ヴィンチ：芸術家としての

彼の発展の物語』法政大学出版局,1974 年。)
(*)伊東多三郎「新井白石の洋学と海外知識」史學雑誌 83(3),1974 年。)
(*)(參考：藤田豊八著/池内宏編『東西交渉史の研究』国書刊行会,1974 年。)
(*)(參考：日獨協会編『日獨文化交流の史実』日獨協会,1974 年。)
(*)藤井貞文(他)「石田幹之助博士追悼記事(付・石田幹之助博士略年譜)」国史学 94,1974 年。
(*)長沢規矩也「石田幹之助氏を悼む」書誌学 24・25,1974 年。
(*)佐藤政次「石田先生の思い出(同上)」史叢 18,1974 年。
(*)「石田幹之助先生御略歴(日大関係のみ)・御著作目録(著書・共著を含む)(同上)」史叢 18,1974 年。
(*)(參考：山内登美雄『演劇の文明史：呪術・芸術・娯楽』NHK ブックス 200,日本放送出版協会,1974 年。)
(*)(參考：今泉篤男・山田智三郎編『西洋美術辞典』18 版,東京堂出版,1974 年。)
(*)(參考：平戸幹夫「地図と世界像(辞書,事典,地図、年表,特集)」海外事情 22(5),1974 年。)
(*)近藤申一「歴史事典,歴史地図,歴史年表(辞書,事典,地図,特集)」海外事情 22(5),1974 年。
(*)(參考：日本フランス語フランス文学会編『フランス文学辞典』白水社,1974 年。
(*)大塚光信解題『羅西日辞書(Dictionarium sive Thesauri Linguae Iaponicae Compedium)』勉誠社,1974 年。
(*)田中貞夫「「三語便覧」の成立をめぐって—オランダ出版の辞書との関係を中心に」(創価大学)文学部論集 4(1),1974 年。
(*)太田臨一郎「写本「異国人の言葉」のオランダ語」蘭学資料研究会研究報告 279,1974 年。
(*)菅野陽「「ショメール」オランダ語版」(有坂隆道編『日本洋学史の研究 3』所収,創元社,1974 年。)
(*)ジャック・ペジノ/伊東正受・佐藤文樹訳「フランス文化と蘭学—ショメル著「家事辞典」の邦訳」ソフィア 23(1),1974 年。
(*)惣郷正明「英和対訳袖珍辞書」英学史研究 7,1974 年。
(*)(參考：石井博「英和辞典参校(辞書,事典,地図、年表,特集)」海外事情 22(5),1974 年。)
(*)(參考：森田伸子「思想の辞典(辞書,事典,地図、年表,特集)」海外事情 22(5),1974 年。)
(*)(參考：近藤申一「歴史事典,歴史地図,歴史年表(辞書,事典,地図、年表,特集)」海外事情 22(5),1974 年。)
(*)(參考：神品友子「ドイツ語に関する辞書について(辞書,事典,地図、年表,特集)」海外事情 22(5),1974 年。)
(*)(參考：浜名政晃「フランス語の辞典紹介(辞書,事典,地図、年表,特集)」海外事情 22(5),1974 年。)
(*)(參考：落合淳隆「法律学をいかに学ぶべきか(辞書,事典,地図、年表,特集)」海外事情 22(5),1974 年。)
(*)(參考：木暮正義「政治学入門としての「事典」と「辞典」」(辞書,事典,地図、年表,特集)」海外事情 22(5),1974 年。)
(*)(參考：末永晃「私の辞書(辞書,事典,地図、年表,特集)」海外事情 22(5),1974 年。)
(*)荒尾禎秀「「雑学類編」と「蘭語以呂波引」との編纂関係について」國學院雑誌 75(12),1974 年。
(*)岩治勇一「大野藩洋学館旧蔵の蘭日辞書：付・大野藩蘭学者の単語帳」医海時報 629,630,1974 年。

(*)山本昌子『「ヒイデスの導師」の語彙』上智大学国文研究叢書 1,上智大学国文学会,1974年。
(*)西堀昭「日本におけるフランス語研究—文化 5 年~慶応 4 年(資料紹介)」千葉商大論叢 A(一般教育)22(3),1974 年。
(*)直原利夫「幕末における仏語関係出版物」天理大学学報 92,1974 年。
(*)富田仁『佛蘭西のあけぼの 村上英俊の人と業績』日本仏学史研究会,昭和49年(→昭和50 年,カルチャー出版社)。
(*)(参考：蝋山道雄「〈巻頭言〉日本人と外国語」ソフィア 24(1),1974 年。)
(*)(参考：蛭沼寿雄「古代東部地中海領域の言語」地域文化 1,1974 年。)
(*)(参考：平田隆一「エトルリアにおける下層身分—Rix と de Simone のエトルスキ語人名研究」東北学院大学論集 歴史学・地理学 4,1974 年。)
(*)(参考：ノヴァーリス/生野幸吉訳「キリスト教世界またはヨーロッパ」(『筑摩世界文學大系 26,ドイツ・ロマン派集』筑摩書房,1974 年。)
(*)(参考：宮田幸一「品詞体系の源流を探る—ギリシア時代からルネッサンス時代まで」鶴見女子大学紀要 10,1974 年。)
(*)(参考：松本克己『紀元前のエーゲ・アナトリア地域諸言語の研究—特にギリシア先住民族言語との関連において』金沢大学(科研費),1974 年。)
(*)藤原藤男『聖書の和訳と文体論』キリスト新聞社,1974 年。
(*)海老澤有道「初期のキリシタン版：キリシタン版書誌」アジア文化研究 10,1974 年。
(*)(参考：山下憲治「ラテン語又はラテン語より由来した耳鼻咽喉科術語の発音 各論 口腔と咽頭[1,2](温故知新)」耳鼻咽喉科臨床 67(4,5),1974 年。)
(*)(参考：山下憲治「ラテン語又はラテン語より由来した耳鼻咽喉科術語の発音 各論 咽頭(温故知新)」耳鼻咽喉科臨床 67(10),1974 年。)
(*)(参考：山下憲治「ラテン語又はラテン語より由来した耳鼻咽喉科術語の発音 各論 気管・気管支・食道・音声・言語・医学および結語(温故知新)」耳鼻咽喉科臨床 67(10),1974 年。)
(*)堀内四郎「言語への人間的アプローチ(4)渡部昇一「言語と民族の起源について」」ソフィア 23(1),1974 年。
(*)杉本つとむ「ことばはいきている—翻訳・西欧・近代の一つの構造」放送文化 29(10),1974年。
(*)杉本つとむ『覆刻・和蘭字彙』早稲田大学出版部,1974 年。
(*)田中美知太郎・藤澤令夫編『プラトン全集・別巻 索引・月報[1986 年版付録]』岩波書店,1974 年。)
(*)(参考：逸身喜一郎「Resolution と単語の選択」西洋古典學研究 22,1974 年。)
(*)(参考：藤原藤男『聖書の和訳と文体論』キリスト教新聞社,1974 年。)
(*)川崎真治『日本語の謎を解く』讀賣新聞社,1974 年。
(*)関西学院大学図書館編『栗野[頼之祐]文庫目録』関西学院大学図書館特殊文庫目録 4,関西学院大学図書館,1974 年。)
(*)「故田中秀央先生履歴・著作目録」英文学論叢 18,1974 年。
(*)天野貞祐「田中秀央教授の思い出(田中秀央追悼)」心 27(10),1974 年。
(*)(参考：松本宣郎「Maximinus Daia のキリスト教政策」西洋古典學研究 22,1974 年。)
(*)村川堅太郎「弔辞(故高津春繁博士をしのんで)」西洋古典學研究 22,1974 年。

(*)「高津春繁博士(1908-1973)(写真)」西洋古典學研究 22,1974 年。
(*)「高津春繁博士主要著作年表略歴」西洋古典學研究 22,1974 年。
(*)村川堅太郎「よき友に先立たれて(高津春繁教授追悼)」武蔵大学人文学会雑誌 5(3・4),1974 年。
(*)辻直四郎「高津春繁博士の学勲を偲ぶ(同上)」武蔵大学人文学会雑誌 5(3・4),1974 年。
(*)正田建次郎「弔辞(同上)」武蔵大学人文学会雑誌 5(3・4),1974 年。
(*)上野量福「高津春繁博士の学勲を偲ぶ(同上)」武蔵大学人文学会雑誌 5(3・4),1974 年。
(*)高津久美子「想ひ出—ミノア文化の夢(同上)」武蔵大学人文学会雑誌 5(3・4),1974 年。
(*)鈴木武雄他 10 篇「高津[春繁]さんを偲んで(同上)」武蔵大学人文学会雑誌 5(3・4),1974 年。
(*)辻直四郎「故高津春繁君追悼の辞(故高津春繁博士追悼号)」言語研究 64,1974 年。
(*)風間喜代三「故高津春繁先生(同上)」言語研究 64,1974 年。
(*)(參考：ミルチャ・エリアーデ/久米博訳『太陽と天空神』エリアーデ著作集 1,宗教学概論,せりか書房,1974 年。)
(*)(參考：ミルチャ・エリアーデ/久米博訳『豊饒と再生』エリアーデ著作集 2,宗教学概論,せりか書房,1974 年。)
(*)(參考：ミルチャ・エリアーデ/久米博訳『聖なる空間と時間』エリアーデ著作集 3,宗教学概論,せりか書房,1974 年。)
(*)(參考：ミルチャ・エリアーデ/前田耕作訳『イメージとシンボル』エリアーデ著作集 4,せりか書房,1974 年。)
(*)(參考：ミルチャ・エリアーデ/堀一郎訳『シャマーニズム：古代的エクスタシー技術』冬樹社,1974 年(→2004 年,ちくま学平文庫版(上下)。)
(*)(參考：幸日出男「未開宗教研究の意義—エリアデ論覚書」基督教研究 38(1・2),1974 年。)
(*)(參考：田中美知太郎・貝塚茂樹・勝田吉太郎・山崎正和「座談 古代インドにおける仏・神・人間」大白蓮華 7 月号,1974 年。)
(*)(參考：山本新編『トインビーの宗教観』レグルス文庫 39,第三文明社,1974 年。)
(*)柴田実「柳田国男とハイネの「諸神流竄記」」日本民俗学 94,1974 年。
(*)(參考：ポール・ラディン他/皆河宗一他訳・山口昌男解説『トリックスター』晶文全書,晶文社,1974 年。)
(*)(參考：ケレーニイ/高橋英夫・植田兼義訳『ギリシア神話：神々の時代』中央公論社,1974 年(→1985 年,中公文庫[二分冊])。)
(*)(參考：国信浩洋「ベルヴェデーレのアポロン—ヴィンケルマンの解釈をめぐって」文科研究誌 3,1974 年。)
(*)(參考：田中英道「ふたごのヴィーナス」・「裸のモナ・リザたち」學燈 9,10 月号,1974 年。)
(*)(參考：「安田侃の「現代のヴィナス(ルポルタージュ 新人[11])」」芸術新潮 25(6),1974 年。)
(*)(參考：西田正明「アルルのアフロディテ(表紙写真の解説)」体育の科学 24(1),1974 年。)
(*)(參考：田中穂積「ストラトニケとアフロディテ・ストラトニキス」人文論究 23(3),1974 年。)
(*)(參考：辻邦生作・浅利慶太演出『ポセイドン仮面祭：祝典喜劇』劇団四季,1974 年。)
(*)(參考：高橋康也「道化の「裏切り」--四季「ポセイドン仮面祭」(上演批評)」テアトロ

373,1974 年。)
(*)(参考：別役実「儀式としての演劇--「ポセイドン仮面祭」より(文学平行線)」早稲田文学[第 7 次]6(4),1974 年。)
(*)(参考：ピエール・クロソウスキー/宮川淳・豊崎光一訳『ディアーナの水浴』美術出版社,1974 年(→1988 年,書肆風の薔薇叛。)
(*)(参考:『上野学園創立 70 周年記念論文集』上野学園大学・短期大学研究紀要,勉誠社,1974 年。)
-----呉茂一「先史ギリシア・ミュケーナイ期の宗教像について」
野村久康「オリュンピアゼウス神殿破風彫刻の復元について」
(*)(参考：呉茂一「シーシュポスメディアその他」海 6(3),1974 年。)
(*)(参考：吉田敦彦『ギリシア神話と日本神話—比較神話学の試み』みすず書房,1974 年。)
(*)(参考:吉田敦彦「ギリシア神話と日本神話の類似点について」成蹊大学文学部紀要 9,1974 年。)
(*)(参考:ジャン=ピエール・ヴェルナン/吉田敦彦訳「オイディプス王の場合—悲劇と神話」海 6(8),1974 年。)
(*)(参考：大林輝彦「キーツの詩と神話的思考」英語青年 120(7),1974 年。)
(*)(参考：矢本貞幹「神話の美学—Pater と Eliot」英語青年 119(119),1974 年。)
(*)(参考：古野清人「古典的神話学の集成」學鐙 71(9),1974 年。)
(*)(参考：ヨゼフ・ビーバー/稲垣良典訳『愛について』エンデルレ書店,1974 年。)
(*)(参考：W.E.フイップス/石川重俊訳『イエスは結婚していたか：キリスト教伝統における性の歪み』ヨルダン社,1974 年。)
(*)(参考：関根正雄・木下順治編『聖書』筑摩書房,1974 年。)
(*)(参考：C.H.ドッド/神田盾夫訳『聖書：その今日における意義』新教出版社,12 版,現代神学双書 10,1974 年。)
(*)(参考：荒井献他訳『新約聖書外典』講談社,聖書の世界・別巻 3,1974 年(→1997 年,講談社学術文庫版)。)
(*)(参考：荒井献他訳『使徒教父文書』講談社,聖書の世界・別巻 4,1974 年(→1997 年,講談社学術文庫版)。)
(*)(参考：M.J.Cresham/田辺滋訳『新約聖書ギリシャ語原典入門』新生運動,1974 年。)
(*)(参考：フランシスコ会聖書研究所訳注『聖書使徒行録：原文校訂による口語訳』2 版,フランシスコ会聖書研究所,1974 年。)
(*)(参考：ジーグフリート原作/ローリングズ原作/ウォレス原作・他『パナマ運河,子じか物語,ベン・ハー』少年少女世界の名作 17,アメリカ編 7,小学館,1974 年。)
(*)(参考：武藤富男『キリスト教入門』善本社,1974 年。)
(*)(参考：新井智『聖書を読むために』筑摩書房,1974 年。)
(*)(参考：前田護郎「救済史と仮現説：三位一体論の聖書学的一考察」日本の神学 13,1974 年。)
(*)(参考：荒井献「祭儀(クルトウス)と認識(グノーシス)」宗教研究 47(4),1974 年。)
(*)(参考：荒井献「「十字架の言葉」と「知者の言葉」」理想 490,1974 年。)
(*)(参考：辻邦生『灰色の石に座りて：辻邦生対談集』中央公論社,1974 年。)
(*)(参考：吉田熙生「背教者ユリアヌス(辻邦生—現代のロマネスク[特集])(作品論)」国文学解釈と教材の研究 19(1),1974 年。)

(*)(参考：柳沼重剛『古代知識人群像』東海大学出版会,1974 年。)
(*)(参考：B.スネル/新井靖一訳『精神の発見』創文社,1974年。)
(*)(参考：戸沢明「ラテン語原典の虚構について--「クラーゲ」の詩人における詩と真実(戸沢明教授退官記念論文集)」(東京都立大学人文学会)人文学報101,1974年。)
(*)(参考：A.グウィン/小林雅夫訳『古典的ヒューマニズムの形成：キケロからクインテリアヌスまでのローマ教育』創文社,歴史学双書,1974年。)
(*)(参考：エウジェニオ・ガレン/近藤恒一訳『ヨーロッパの教育：ルネサンスとヒューマニズム』サイマル出版,1974年。)
(*)(参考：真崎隆治「宗教改革者と人文主義者との意識の相違をめぐる覚え書」明治学院大学キリスト教研究所紀要7,1974年。)
(*)(参考：K.ブールダッハ著/坂口昴吉訳『宗教改革・ルネサンス・人文主義』歴史学叢書,創文社,1974年。)
(*)(参考：西村貞二「K.ブールダッハ著坂口昴吉訳「宗教改革・ルネサンス・人文主義」(Konrad Burdach；Reformation Renaissance Humanismus,1926)」史学雑誌83(9),1974年。)
(*)(参考：橋本龍幸「古典的教養の衰退状況に関する一考察—トゥールのグレゴリウスの叙述を通して」西洋史学 95,1974 年。)
(*)(参考：L.ハンケ/佐々木昭夫訳『アリストテレスとアメリカ・インディアン』岩波新書,1974年。)
(*)海老澤有道「日本におけるキリスト教受容の前提的研究視点」キリスト教史学 28,1974 年。
(*)立教学院百年史編纂委員会編『立教学院百年史』立教学院,[上装・並装],1974 年。
(*)長沢順治「遠藤周作の「沈黙」と G.グリーンの「権力と栄光」との間の距離」大東文化大学紀要 12,1974 年。
(*)遠藤周作他「なぜ「イエス」を書くか--「死海のほとり」「或る聖書」をめぐって」文學界 28(2),1974 年。
(*)古屋健三「「或る聖書」の文学的屈折率(宗教と文学〈特集〉)—(キリスト者作家・遠藤周作と小川国夫)」国文学・解釈と鑑賞 39(8),1974 年。
(*)小久保実「「死海のほとり」にみるイエス像(宗教と文学〈特集〉)—(キリスト者作家・遠藤周作と小川国夫)」国文学・解釈と鑑賞 39(8),1974 年。
(*)上条滝子[構成・イラスト]「イエス時代のパレスチナ(アニメ・遠藤周作)」国文学・解釈と鑑賞 39(16),1974 年。
(*)上条滝子[構成・イラスト]「イエスの生涯(アニメ・遠藤周作)」国文学・解釈と鑑賞 39(16),1974 年。
(*)遠藤周作原作・橋本治作画「劇画・沈黙」(アニメ・遠藤周作) 国文学・解釈と鑑賞 39(16),1974 年。
(*)田辺保「遠藤周作とカトリック作家(アニメ・遠藤周作)」国文学・解釈と鑑賞 39(16),1974 年。
(*)武田友幸「遠藤周作と神(アニメ・遠藤周作)」国文学・解釈と鑑賞 39(16),1974 年。
(*)椎名麟三他『聖書の世界』現代日本キリスト教文学全集 17,教文館,1974 年。
(*)椎名麟三他『キリスト教と文学』現代日本キリスト教文学全集 18,教文館,1974 年。
(*)佐々木啓一『椎名麟三研究』冬樹社,1974 年(→1979 年,増補改訂版)。

(*)別宮貞徳「ギリシアの風流—テオクリトスと千利休(1-3)」心 27(2,3,5),1974 年。)
(*)鶴田欣也「三島由紀夫とギリシア精神」(吉田精一編『日本近代文学の比較文学的研究』所収,1974 年。)
(*)小堀桂一郎『鎖国の思想』(ケンペル)中公新書,昭和 49 年。
(*)平川祐弘『西欧の衝撃と日本』講談社,昭和 49 年。
(*)吉村昭(小説)『冬の鷹』(前野良沢)毎日新聞社,1974 年(→昭和 51 年,新潮文庫版)。
(*)神辺靖光「学制期における東京府の私立外国語学校—その形態と継続状況についての一考察」日本の教育史学 17,1974 年。
(*)高橋磌一司会『近代思想の源流』シンポジウム・日本歴史 12,学生社,1974 年。
(*)横手通有『近代日本思想の形成』岩波書店,1974 年。
(*)田崎哲郎「近代日本と洋学」歴史と人物 4(11),1974 年。
(*)織田武雄『地図の歴史—日本篇』講談社現代新書,講談社,1974 年。
(*)園部昌良「県内・明治初期発刊の地図・地誌について」石川郷土史学会々誌 7,1974 年。
(*)佐藤佻「明治初期における地図作製機関の変遷」古地図研究 5(2),1974 年。
(*)池田哲郎「幕末明治初期洋学史話—江戸時代以外の」日本古書通信 39(6),1974 年。
(*)北川忠彦「解題」(日本思想史大系『古代中世芸術論』(イソップ)所収,岩波書店,1974 年。
(*)『幸若舞曲・御伽草子』岩崎文庫貴重本叢刊・近世編 1,貴重本刊行会,1974 年(→限定版,図書月販(発売))。
(*)瀬沼茂樹編『明治哲學思想集』筑摩書房,明治文学全集 80[西周,西村茂樹,井上圓了,清澤滿之, 清野勉,,大西祝,井上哲次郎,元良勇次郎,桑木嚴翼,哲学字彙等],1974 年。
(*)衣笠梅之助「木村鷹太郎とバイロン」(京都光華女子大学)研究紀要 12,1974 年。
(*)富田仁『佛蘭西のあけぼの 村上英俊の人と業績』日本仏学史研究会,昭和49年(→昭和50 年,カルチャー出版社)。
(*)柳田泉『西洋文学の移入』(明治文学研究)春秋社,1974 年。
(*)『日本近代文学大系 2』(「経国美談」前編のみの註釈),角川書店,1974 年。
(*)(參考：木村益夫「梁啓超および「佳人之奇遇」」人文論集 11,1974 年。)
(*)巖谷大四『波の足音：巖谷小波伝』新潮社,1974 年。
(*)玉置邦雄「「走れメロス」研究」人文論究 24(1),1974 年。
(*)三枝康高「富嶽百景 駆込み寺へ 走れメロス(太宰治の世界(特集)--（太宰治・作品事典）」国文学：解釈と鑑賞 39(15),1974 年。
(*)(參考：渡辺勇三「実践的スパルタ教育として(賞と罰,特集)--（わたしは体罰をこう考える）」児童心理 28(4),1974 年。)
(*)(參考：齋藤正二「スパルタ教育は「軍事征服者の教育」(教育をめぐる民主主義とファシズム,特集)」国民教育 22,1974 年。)
(*)(參考：B.スネル著/新井靖一訳『精神の発見：ギリシア人におけるヨーロッパ的思考の発生に関する研究』明知翻訳叢書,創文社,1974 年。)
(*)高橋勝「E.R.ドッズ著岩田靖夫・水野一訳『ギリシァ人と非理性』」実存主義 67,1974 年。
(*)アナトール・フランス/大塚幸男訳『エピクロスの園』岩波文庫,1974 年。
(*)(參考：西尾幹二『古典と現代』中央公論社,1974 年。)
(*)井上忠「詩の言葉と根拠の言葉」理想 494,1974 年。

(*)(参考:服部英次郎『自由の意識とその歴史的な表現形態』関西大学(1974 年),(科研費)1974 年。)
(*)(参考：プラトン/山本光雄・田中美知太郎訳『プラトン』河出書房新社,1974 年。)
(*)(参考：プラトン/田中美知太郎校註『ソクラテスの弁明：原典』岩波書店,1974 年。)
(*)(参考：田中美知太郎・貝塚茂樹・勝田吉太郎・山崎正和「座談 物質主義と人間」大白蓮華 1 月号,1974 年。)
(*)(参考:田中美知太郎・今西錦司・貝塚茂樹「座談 人間の精神異常」大白蓮華 3 月号,1974 年。)
(*)(参考：山崎正一「意識の彼岸と背面について—主体性の哲学の破壊と再建」法政大学文学部紀要 20,1974 年。)
(*)(参考：井上忠・大森荘蔵・加藤信朗「現代にギリシア哲学はいかに生きるか」(ギリシアを興す)」理想 497,1974 年。)
(*)(参考:井上忠「本質論以前—現場言語のうちで」(ギリシアを興す)」理想 497,1974 年。)
(*)大川瑞穂「井上忠著「根拠よりの挑戦」--ギリシア哲学究攻」実存主義 70,1974 年。
(*)(参考:吉増剛造「わたしは燃えたつ蜃気楼--「風」からパルメニデスへ(詩)」理想 494,1974 年。)
(*)(参考：森進一「一つの教師像—ソクラテスにおける」日本及日本人 1522,1974 年。)
(*)(参考:坂本清音「ソフィストの弁論教育と聖アウグスティヌスの De Doctorina Chritiana」同志社女子大學學術研究年報 25(1),1974 年。)
(*)(参考:藤澤令夫「特別報告 形而上学の存在理由(第 33 回日本哲学会大会)」哲学 24,1974 年。)
(*)(参考:寺岡弘雄『ソークラテースとプラトーンのあいだ—プラトーン哲学の根源』南窓社,1974 年。)
(*)(参考:加藤信朗「白鳥の歌序説--「パイドン」解釈のための一つの試論」理想 494，1974 年。)
(*)(参考:加藤信朗「「何かのために」と「誰かのために」--目的の構造」理想 497,1974 年。)
(*)(参考:井之忠・大森荘蔵・加藤信朗「現代にギリシア哲学はいかに生きるか」理想 497,1974 年。)
(*)(参考：藤田晋吾「プラトン主義の争点」石川工業高等専門学校紀要 6,1974 年。)
(*)(参考：呉茂一「イオーンの場合」厚生保護 25(1),1974 年。)
(*)(参考:高橋睦郎「詩(ポエジー)から無限に遠く(18)反プラトーン的に」現代詩手帖 17(12),1974 年。)
(*)(参考:山口昌男「フォニイ礼讃—ナボコフとプラトンの場合」中央公論 89(8),1974 年。)
(*)(参考：中里良男「英国 17 世紀思想史研究序説：経験論の成立とケムブリヂ・プラトン主義」亜細亜大学教養部紀要 10,1974 年。)
(*)(参考:浅野楢英「アリストテレスのシュロギスモス体系—最近の研究によって」哲学研究 528,1974 年。)
(*)(参考：山田晶「肉体と自由(自由〈春季特集〉)理想 492,1974 年。」
(*)(参考：大鹿一正「提題 プラトンとアリストテレスにおけるアナロギア(アナロジアの問題シンポジウム)」中世思想研究 16,1974 年。)
(*)(参考：今道友信「類比と象徴(アナロジアの問題シンポジウム)—(提題 プラトンとアリストテレスにおけるアナロギア)」中世思想研究 16,1974 年。)

(*)(参考：F.Perez「トマスを中心にしたアナロジアの問題(アナロジアの問題シンポジウム)—(提題 プラトンとアリストテレスにおけるアナロギア)」中世思想研究 16,1974 年。)
(*)(参考：松村克己『根源的論理の探究：アナロギア・イマギニスの提唱』関西学院大学,神学博士,)乙第 49 号,1974 年。)
(*)(参考：川田熊太郎「時と永遠—アウグスチンと竜樹」理想 489,1974 年。)
(*)(参考：山本耕平「トマス・アクイナスによるアリストテレスの運動論の解釈--『自然学』第 3 巻のトマス註解を中心として」古代哲学研究 Methodos 6,1974 年。)
(*)(参考：E.ジルソン著/服部英次郎訳『中世哲学の精神』筑摩書房,1974 年。)
(*)(参考：E.R.クルツィウス/朝倉文市訳「西欧思想の中世的基盤」ノートルダム清心女子大学紀要 9,1974 年。)
(*)(参考：フランシスコ・ペレス「〈書評〉トマス・アクイナスと現代：没後七百年記念国際会議に出席して」ソフィア 23(4),1974 年。)
(*)(参考：橋本龍幸「古典的教養の衰退状況に男安する一考察—トゥールのグレゴリウスの叙述を通して見た南・北ガリア」西洋史学 95,1974 年。)
(*)(参考：K.ブールダッハ/坂口昂吉訳『宗教改革・ルネサンス・人文主義』歴史学叢書,創文社,1974 年。)
(*)西村貞二「K.ブールダッハ/坂口昂吉訳『宗教改革・ルネサンス・人文主義』(Konrad Burdach;Reformation　Renaissance Humanisumus,1926)」史學雜誌 83(9),1974 年。
(*)參考：清水純一「講演要旨 ルネサンスの精神」美術教育 205,1974 年。)
(*)(参考：J.ブルクハルト/柴田治三郎訳『イタリア・ルネサンスの文化(上下)』中公文庫,1974 年。)
(*)(参考：家田義隆「イタリア・ルネサンスの世界—D.ウェーリ著森田鉄郎訳「イタリアの都市国家」,塩野七生「チェーザレ・ボルジアあるいは優雅なる冷酷」,清水純一「ルネッサンスの偉大と頽廃」」歴史学研究 396,1974 年。)
(*)(参考：　久志本秀夫「チリアコ・ダンコーナの生涯について—ルネサンスにおける古代探究の一例」西洋史学 34,1974 年。)
(*)(参考：高桑純夫『高校倫理・社会』実教出版,1974 年。)
(*)(参考：澤柳大五郎「レオナルド頌—纏りのない断章(レオナルド・ダ・ヴィンチ〈特集〉)」美術手帖 381,1974 年。)
(*)(参考：ダンテ/板谷松樹訳『ダンテの神曲』日本心霊科学協会,1974 年。)
(*)(参考：Dante Alighieri/山川丙三郎訳『神曲—改訳稿本』[仙台]日本工芸,[東京]文流(発売),1974 年。)
(*)(参考：Dante Alighieri/寿岳文章訳『神曲(地獄篇,煉獄篇,天国篇)』集英社,1974-76 年。)
(*)(参考：野上素一『ダンテ　その華麗なる生涯』新潮選書,新潮社,1974 年。)
(*)(参考：谷清「ダンテの影—エリオットとオデュツセウス・エピソード」青山学院大学一般教育部会論集 14,1974 年。)
(*)木村毅「「神曲」の地獄銘—早稲田がダンテを迎えるまで」早稲田大学史紀要 7,1974 年。
(*)平川祐弘「謡曲の詩と「神曲」の詩—ウェーリーの試作能「アマルフィ公爵夫人」を共通項として」季刊・芸術 8(4),1974 年。
(*)(参考：木ノ脇悦郎「Ratio verae Theologiae の研究：エラスムスの神学について」桃山学院大学人文科学研究 10(1),1974 年。)

(*)(参考：ベーコン著/服部英次郎・多田英次訳『学問の進歩』岩波書店,1974 年。)
(*)(参考：藤村昌昭「コーラ・ディ・リエンツォについて：文藝の世界に与えた影響」イタリア学会誌 22,1974 年。)
(*)(参考：『世界文学全集 1』綜合社,1974 年。)
----ホメーロス「オデュッセイア」呉茂一訳/アイスキュロス「アガメムノーン」呉茂一訳/ソポクレース「アンティゴネー」/セネカ「メーデーア」渡辺守章訳/呉茂一「解説」
(*)(参考 : ホメロス/呉茂一訳,アイスキュロス他/呉茂一他訳『オデュッセイア ; 古典悲劇集』愛蔵版 世界文学全集 1,集英社,1974 年。)
(*)(参考：呉茂一『ギリシア悲劇』社会思想社,1974 年。)
(*)(参考：中村善也『ギリシア悲劇入門』岩波新書,1974 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「オイディプースあるいは詩人の生と死(詩)」理想 494,1974 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「詩(ポエジー)から無限に遠く(15)プルートーン或説」現代詩手帖 17(8),1974 年。)
(*)(参考 : 高橋睦郎「詩(ポエジー)から無限に遠く(18)反プラトーン的に」現代詩手帖 17(12),1974 年。)
(*)(参考：ジャック・ニシェ/利光哲夫訳「演劇のなかの演劇批評—アリストパネス,モリエール,ブレヒトをめぐって」新劇 21(4),1974 年。)
(*)渡辺守章「古代風ギリシア劇—ギリシア国立劇場日本公演を見て」新劇 21(5),1974 年。
(*)毛利三弥「“正統的”ギリシア悲劇舞台--ギリシア国立劇場」テアトロ 375,1974 年。
(*)渡辺保「現代ギリシア人の悲劇--ギリシア国立劇場」テアトロ 375,1974 年。
(*)倉橋健・尾崎宏次（対談）「ギリシヤ悲劇を見て」悲劇喜劇 27(6),1974 年。
(*)高橋健「アガメムノン・オイディプス王・オレステス--ギリシア国立劇場を見て」実存主義 68,1974 年。
(*)演劇「岩波ホール演劇進出 第一「トロイアの女」」(松平千秋)読売新聞夕刊 12 月 7 日付,1974 年。
(*)(参考：『エウリピデス』ギリシア悲劇 2,筑摩書房,1974 年。)
(*)(参考 : エウリピデス原作/松平千秋翻訳/大岡信潤色/鈴木忠演出/高野悦子編『トロイアの女』岩波ホール･演劇シリーズ公演第 1 回,岩波ホール,1974 年。)
(*)(参考：山内登美雄『演劇の文明史：呪術・芸術・娯楽』NHK ブックス 200,日本放送出版協会,1974 年。)
(*)(参考：野町啓「教育と教養—パイデイアーをめぐって」実存主義 70,1974 年。)
(*)(参考：大熊五郎「古代ギリシア・ローマの作文教育に学ぶもの：イソクラテスの理論と実践を中心に(第 45 回福岡学会,学会研究発表要旨,〈言語観・作文教育〉)国語科教育 21,1974 年。)
(*)(参考：A.グウイン/小林雅夫訳『古典的ヒューマニズムの形成—キケロからクインティリアヌスまでのローマ教育』歴史学叢書,創文社,1974 年。)
(*)林達夫・久野収『(対談)思想のドラマトゥルギー』平凡社選書,1974 年(→1984 年,同『増補・思想のドラマトゥルギー』)
(*)吉増剛造「鬼の華・極の透視図—澁澤孝輔「われアルカディアにもあり(新評論 6)」すばる 16,1974 年。
(*)木村毅「東京大学の英語講義(2)ケーベル博士」英語青年 120(1),1974 年。

(*)木村毅「東京大学の英語講義(3・完)リース博士」英語青年 120(2),1974 年。
(*)吉田精一「評論の系譜(80)西周」国文学 解釈と鑑賞 39(2),1974 年。
(*)吉田精一「評論の系譜(81)中江兆民」国文学 解釈と鑑賞 39(3),1974 年。
(*)峰島旭雄「大正期における倫理宗教思想の展開(2)桑木厳翼の文化主義哲学(10)安倍能成、天野貞祐」早稲田商学 244,1974 年//280,1980 年。
(*)出雲路暢良「清沢満之の主題と方法(1-4)」金沢大学教育学部紀要 人文科学・社会科学・教育科学編 23,1974 年//24,1975 年//25,1977 年//26,1978 年。
(*)渡辺和靖「明治中期の思想的課題(1,2)---井上哲次郎と大西祝」日本文化研究所研究報告 10,11,1974 年。
(*)荒川久寿男「大正初期の教養派の一分析—とくに初期の和辻哲郎氏を中心として」大倉山論叢 11,1974 年。
(*)苗村丈伯『理屈物語』(イソップ。岩崎文庫貴重本叢刊〈近世編〉第 2 巻『仮名草子』所収,貴重本刊行会,1974 年。
(*)(参考：Burton Richard Francis,Sir/大塚正史訳『アラブ版イソップ物語』千夜一夜物語：バートン版 3,河出書房新社,1974 年。)
(*)(参考：イソップ著/山本光雄訳『イソップ寓話集』改版,岩波文庫,岩波書店,1974 年。)
(*)平方久直文；菊池定雄・浦田又治絵『イソップものがたり』オールカラー名作絵本 1,ポプラ社,1974 年。
(*)大石真文；神田真之介・浦田又治絵『イソップえばなし』オールカラー名作絵本 15,ポプラ社,1974 年。
(*)村岡花子ぶん；山中冬児え『イソップ童話：イソップ名作選』カラー版・世界の幼年文学 1,偕成社,1974 年。
(*)浜田広介文；輪島清隆絵『イソップ童話』玉川こども図書館,玉川大学出版部,1974 年。
(*)(参考：関楠生訳・グラビアンスキー画『動物寓話集』ブックマン社,1974 年。)
(*)ジェームス・サーバー著/西田実・鳴海四郎訳『空中ブランコに乗る中年男』(「現代イソップ物語」)講談社,1974 年。
(*)谷口巖「福沢諭吉とイソップ物語—『童蒙教草』『かたわ娘』をめぐって」愛知教育大学研究報告 23,1974 年。
(*)倉島栄子他『百合若大臣・太閤記・日蓮・謡曲狂言物語ほか』小学館,少年少女世界の名作 46,1974 年。
(*)(参考：西田正秋「アルルのアフロディテ(表紙写真の解説)」体育の科学 23(3),1974 年。)
(*)(参考：引地正俊「ラフカディオ・ハーンとギリシャ詩」早稲田比較文学年誌 10,1974 年。)
(*)木村毅「凡書珍籍談(1)ギリシャ語のヘルン」日本古書通信 39(99),1974 年。
(*)(参考：三輪福松「エトルリア芸術とルネサンス芸術」東京学芸大学紀要・第 2 部門・人文科学 25,1974 年。)
(*)(参考：青木巖『イギリスの詩：西洋古典詩との比較』荒竹出版,1974 年。
(*)(参考：別宮貞徳「英詩に流れる古典の伝統—青木巖「イギリスの詩—西洋古典詩との比較」」ソフィア 23(3),1974 年。）
(*)(参考：生地竹郎「青木巖著「イギリスの詩—西洋古典詩との比較」」比較文学 17,1974 年。）
(*)(参考：西脇順三郎「象牙の塔のよろこび—青木巖氏の「イギリスの詩」を読む」英語青年 120(5),1974 年。）

(*)福原麟太郎「御輿をかつぐ」(ギリシア語)新潮 71-1,1974 年。
(*)(参考：長谷部加寿子『シェイクスピアにおける人間群像』高文堂出版,1974 年(→1986 年,改訂版)。)
(*)(参考：富原芳彰他訳『悲劇』シェイクスピア全集 6-8,新装版,筑摩書房,1974-75 年。)
----中野好夫訳「ジュリアス・シーザー」/三神勲訳「トロイラスとクレシダ」/小津次郎訳「アントニーとクレオパトラ」/八木毅訳「アセンズのタイモン」/本堂正夫訳「ヴィーナスとアドゥニス」
(*)(参考:仁木久恵「「トロイラスとクレシダ」--対比手法に関連して」津田塾大学紀要 6,1974 年。)
(*)(参考：宮崎雄行「「アントニーとクレオパトラ」覚書—“O heanenly mingle!”(I.V.)」武蔵大学人文学会雑誌 5(3・4),1974 年。)
(*)(参考:児玉清志「三本柱と売春婦の道化を超えて—アントニーとクレオパトラについての小論」鶴岡工業高等専門学校研究紀要 8,1974 年。)
(*)(参考：田村秀夫「王政復古とユートピアー「オルビア」と R.H.の「続ニュー・アトランティス」」経済学論纂 15(1・2),1974 年。)
(*)(参考：平井正穂『ミルトンとその時代』研究社出版,1974 年。)
(*)(参考：沢田和夫『ジョン・ミルトン論--『失楽園』と現代』(南雲堂),1974 年。)
(*)衣笠梅之助「木村鷹太郎とバイロン」(京都光華女子大学)研究紀要 12,1974 年。
(*)(参考：村上至孝『イギリス新古典主義の詩：ドライデンからクーパーへ』研究社,昭和 48 年。)
(*)(参考：狐野利久「Blake とギリシヤ文化—the day after visiting the Truchsessian Gallery の意義について」北海道英語英文学 19,1974 年。)
(*)(参考：中野行人「George Steiner における批評(吉竹迪夫教授退官記念号)」英語英文学論叢 24,1974 年。)
(*)(参考：山内正一「「エンディミオン」の寓意性」山口大学教養部紀要 8,1974 年。)
(*)(参考：出口保夫訳『一八一七年詩集：エンディミノオ：物語詩』キーツ全集第 1 巻,白鳳社,1974 年(→1978 年,改訂版全集。)
(*)松浦暢「八木重吉とキーツ」英語青年 120(5),1974 年。
(*)(参考：竜野武昌「Walter Pater and His Style—as a mode of perception」明星大学研究紀要人文学部 10,1974 年。)
(*)都築佑吉「日本におけるペイター：研究と言及(1,2)」群馬大学教育学部紀要・人文社会科学編 24,1974 年/25,1975 年。
(*)(参考：澤井勇「ペィターとギリシア(1)「正続」われ また アルカディアにありき」實踐英文學 8,1974 年/10,1976 年。)
(*)(参考：大塚幸男「閑適抄—ギッシングとともに(1,2)」福岡大学人文論叢 6(2・3),1974 年/6(4),1975 年。)
(*)(参考:松林雄次「詩の形式の意味—Keats のいわゆる Petrarch 風 Sonnets の場合」青山学院大学一般教育部会論集 14,1974 年。)
(*)(参考：島村明「マシュウアーノルド研究：“教養と無秩序”について」(国立音楽大学)研究紀要 9,1974 年。)
(*)(参考：井上正名「マシューアーノルドのエンペドクレス像(Empedocles on Etna)」京都工芸繊維大学工芸学部研究報告,人文 24,1974 年。)

(*)(参考：芳賀徹他編『東西文明圏と文学』講座比較文学 6,東京大学出版会,1974 年。)
(*)(参考：手塚富雄『ドイツ文学案内』岩波書店,1974 年。)
(*)(参考 : 新井靖一「ヴィンケルマンにおける 2,3 の概念について」ヨーロッパ文学研究 22,1974 年。)
(*)(参考：玉林憲義『若きゲーテ研究』創文社,1974 年。)
(*)(参考 : 木村直司「人間のメタモルフォーゼ—ゲーテの教養理念」ソフィア 23(4),1974 年。)
(*)(参考 : 河野真「ゲーテのバラード「コリントの花嫁」をめぐって(1)」愛知大学文学論叢 51,1974 年。)
(*)(参考：鵜川義之助「ゲーテ自伝の文学性」大阪大学教養部研究集録 外国語・外国文学 22,1974 年。)
(*)(参考：新井靖一「ヴィンケルマンにおける 2・3 の概念について」ヨーロッパ文学研究 22,1974 年。)
(*)清水孝純「「草枕」の問題：特に「ラオコーン」との関連において」文学論輯 21,1974 年。
(*)(参考 : 良永康一朗「ハイネとゲーテ(日本大学商学部創立 70 周年特集号)」商学集志 44(2・3・4),1974 年。)
(*)(参考：金田民夫「[講演要旨]シラーの美的教育論」美術教育 205,1974 年。)
(*)(参考：緒方純雄「シュライエルマッヘルの批判継承の立場について」基督教研究 39(1),1974 年。)
(*)(参考：馬場孚瑳江「〈研究ノート〉ゲーテ『短篇』考：オルフェウスの微笑」同志社外国文学研究(7・8),1974 年。)
(*)(参考：松井良和「ヘーゲルと「アンティゴネー」」愛知県立大学文学部論集・一般教育編 25,1974 年。)
(*)(参考：手塚富雄「成熟期のヘルダーリン(1-40)」心 27(9-12),1974 年/28(2-6,8-10),1975 年/29(3-6,9,11,12),1976 年/30(1-,2,4,5,7,8,10-12),1977 年/31(6-8,10-12),1978 年。)
(*)(参考 : 高尾国雄「フリードリヒ・ヘルダーリン(5)フランクフルト時代」独逸文学 19,1974 年。)
(*)(参考：勝田泰弘「悲歌「パンとぶどう酒」におけるキリストとディオニューソス—苦悩するヘルダーリン」独逸文学 19,1974 年。)
(*)(参考：高木昌史「ヘルダーリンのピンダロス断片翻訳について(戸沢明教授退官記念論文集)」人文学報 101,1974 年。)
(*)(参考：棚瀬明彦「ヘルダーリンの『エンペードクレスの死』について：ヒュブリスの問題を中心に(1)」研究紀要 6,1974 年。)
(*)(参考 : 熊谷敦子「ヘルダーリンにおける詩と詩人の意味(ヘルダーリン研究[1])」哲学 26,1974 年。)
(*)(参考 : 古賀保夫「P.ヴァイス「ヘルダーリン」--詩人・革命家」中京大学教養論集 15(3),1974 年。)
(*)(参考 : 竹部琳昌「ヘルダーリンにおける「悲劇と変革」」同志社外国文学研究(7・8),1974 年。)
(*)(参考：富士川英郎・小堀桂一郎「日本におけるフーゴ・フォン・ホーフマンスタール翻訳・研究書誌(1905-1945)」ドイツ文学 52,1974 年。)

(*)(参考：富士川英郎・小堀桂一郎「ホーフマンスタール翻訳・研究書誌(1946-1974)」ドイツ文学 53,1974 年。)
(*)(参考：津川良太「ホーフマンスタール生誕百年」テアトロ 381,1974 年。)
(*)(参考：ロベルト・シンチンゲル著/小塩節註『ホフマンスタール』第三書房,ドイツ文豪物語 9,1974 年。)
(*)(参考：水野清志「ニーチェの教育論(教育特集)」実存主義 70,1974 年。)
(*)(参考：秋山英夫「ニーチェの文芸観の一端」ドイツ文学 52,1974 年。)
(*)(参考：杉田弘子「ニーチェと大正教養主義—阿部次郎の場合」講座・比較文学 4「近代日本の思想と芸術 II」,東京大学出版会,1974 年。)
(*)(参考 : 伊吹雄「ハイデッガーの思惟における神的なものと神学(ハイデガー 特集)」実存主義 69,1974 年。)
(*)(参考 : ラブレー/渡辺一夫訳『ガルガンチュワ物語・第 3,4 之書』岩波文庫,岩波書店,1974 年。)
(*)(参考：『ツヴァイク全集 8—三人の巨匠』(モンテーニュ)みすず書房,1974 年。)
(*)(参考：『モンテーニュ(1,2)』新装版,世界の大思想 5,6,河出書房新社,1974 年。)
(*)(参考：柿木冨紀子「フェードルとパイドラ—ラシーヌの『フェードル』とエウリピデスの『ヒッポリュトス』との一つの比較」関西医科大学教養部紀要 12 月号,1974 年。)
(*)(参考 : 榎本宏「古代的意識としてのヴァレリー像」上智大学大学院フランス語フランス文学研究 4,1974 年。)
(*)(参考：ヘーゲル/長谷川宏訳『歴史哲学講義(上下)』岩波書店,1974 年。)
(*)(参考：小田丙五郎「皇帝礼拝とキリスト礼拝—ヨハネの黙示録の一考察」奈良大学紀要 3,1974 年。)
(*)小林正之「野々村戒三先生の追憶—お仕事の点描」史観 89,1974 年
(*)進士慶幹(他)「山中先生の思い出(石田幹之助先生・山中謙二先生追悼)」史叢 18,1974 年。
(*)「山中謙二先生御略歴(日大関係のみ)・御著作目録(著書・共著を含む)(同上)」史叢 18,1974 年。
(*)(参考 : 山室静他『近代劇集』(ジロドゥ/鈴木力衛・寺川博訳「トロイ戦争は起こらない」)筑摩世界文学全集 84,筑摩書房,1974 年。)
(*)(参考：向坂寛「マシステスの悲劇--ヘロドトスの歴史観の底流にあるもの」精神科学13,1974年。)
(*)(参考：原随園『アレクサンドロス大王の父』新潮選書,新潮社,1974 年。)
(*)(参考：土井正興「第 2 次シチリア奴隷蜂起の基本的性格」専修史学 6,1974 年。)
(*)(参考：浅香正『クレオパトラとその時代：ローマ共和政の崩壊』創元新書,創元社,1974 年。)
(*)(参考：岡崎英輔「危機と連続性—ブルクハルト解釈の試み(2)」文経論集 9(3),1974 年。)
(*)上田穣「『新論』形勢篇にみられる世界地理知識」(有坂隆堂編『日本洋学史の研究 3』所収,創元社,1974 年。)
(*)海野一隆「「天地二球用法国名」考」(有坂隆堂編『日本洋学史の研究 3』所収,創元社,1974 年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男・堀米庸三編『標準世界史地図』増補第 9 次初版,吉川弘文館,1974 年(→1976 年,新版,増訂)。)

(*)(参考：ジェラルド・シモンズ著/タイムライフブックス編集部編『蛮族の侵入』ライフ人間世界31,タイムライフインターナショナル,1974年。)
(*)「史学文献目録—西洋史 1」史學雜誌 83(1),1974 年。)
(*)(参考：平田隆一「エトルスキ研究の近況」史學雜誌 83(3),1974 年。)
(*)「史学文献目録—西洋史 2」史學雜誌 83(1),1974 年。)
(*)柴田三千雄「一般[ヨーロッパ](1973 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 83(5),1974 年。
(*)村瀬興雄「一般[ヨーロッパ](1973 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 83(5),1974 年。
(*)松浦高嶺・竹内幹敏「イギリス(1973 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 83(5),1974 年。
(*)柴田三千雄「フランス(1973 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 83(5),1974 年。
(*)石原司「イギリス,フランスその他(1973 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 83(5),1974 年。
(*)木谷勤「ドイツ(1973 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 83(5),1974 年。
(*)望田幸男「ドイツ(1973 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 83(5),1974 年。
(*)北原敦「イタリア(1973 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 83(5),1974 年。
(*)井上泰男・木村豊「西欧(1973 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 83(5),1974 年。
(*)尾形禎亮「古代オリエント(1973 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 83(5),1974 年。
(*)馬場恵二「ギリシア(1973 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 83(5),1974 年。
(*)弓削達「ローマ(1973 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 83(5),1974 年。
(*)「1973 年の歴史学界・回顧と展望(追加)」史學雜誌 83(7),1974 年。
(*)「史学文献目録—西洋史 3」史學雜誌 83(9),1974 年。)
(*)森本芳樹「堀米庸三編「西洋中世世界の展開」」史學雜誌 83(10),1974 年。
(*)土井正興「戦後日本における奴隷制研究の展開と奴隷制研究の当面する課題」(専修大学)人文科学年報 4,1974 年。)
(*)(参考：村川堅太郎責任編集『ギリシアとローマ』世界の歴史 3,中公文庫,中央公論社,1973 年。)
(*)(参考：亀井高孝『世界史年表』7 次増訂初版,吉川弘文館,1974 年。)
(*)(参考：亀井高孝『標準世界史年表』11 増訂初版,吉川弘文館,1974 年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男他編『標準世界史地図』9 増訂初版,吉川弘文館,1974 年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『標準世界史：教授資料』山川出版社,1974 年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『世界史地図・年表』新版,山川出版社,1974 年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男他編『標準世界史年表』9 次増訂初版,吉川弘文館,1974 年。)
(*)(参考：桐敷真次郎解説『西洋建築史(1-3,静止画像,スライド)』日本建築学会,1974-75 年(→2001 年,建築学の基礎 3,共立出版。)
(*)森田慶一「ウィトルウィウス研究ならびに西洋古典学に基く建築論形成への貢献：ウィトルウィウス研究回顧(日本建築学会大賞)(主集 48 年度日本建築学会大賞)」建築雑誌 89(1083),1974 年。
(*)弥政和平「森田慶一先生のこと：学会大賞・受賞に因んで」建築雑誌 89(1085),1974 年。
(*)田中一「科学とヒューマニズム(ヒューマニズムと現代〈特集〉」現代と思想 17,1974 年。
(*)(参考：森淑仁「ゲーテにおける象徴的自然観の本質について」ドイツ文学 53,1974 年。)
(*)(参考：高橋義人「「ゲーテと自然」文献案内(ゲーテと自然)」理想 495,1974 年。)

(参考：日本文化会議編『自然の思想：東西文化比較研究』(田中美知太郎)研究社出版,1974 年。)
(*)(参考 : W.ハイゼンベルグ/山崎和夫訳『部分と全体 : 私の生涯の偉大な出会いと対話』[プラトン]みすず書房,1974 年。)（→1999 年,新版）
(*)(参考：田中実『科学の歩み：物質の探究』ポプラ社,ポプラ・ブックス,1974 年。)
(*)(参考 : J.M.ブッラン/塩浦政男訳『ソロバンの歴史—計算法の変遷』みすず書房,1974 年。)
(*)(参考：伊東俊太郎「中世科学史」科学史研究・第 2 期 13(109),1974 年。)
(*)(参考：F.ホイル/中島龍三訳『コペルニクス』法政大学出版局,1974 年。)
(*)大矢真一「近世日本科学史の時代区分試案・再論」富士論叢 19(1),1974 年。
(*)村田全「日本から見た科学史・数学史(対談)」数学セミナー13(11),1974 年。
(*)京極三朗「舎密開宗が刊行されるまで」薬事日報 5028,1974 年。
(*)矢部一郎「宇田川榕菴と植物分類」法政大学教養部紀要 20,1974 年。
(*)杉本つとむ「『植学独語』翻刻と解説」植物と文化 10,1974 年。
(*)杉本つとむ「小野蘭山『本草綱目啓蒙』覚書き」植物と文化 12,1974 年。
(*)篠遠喜人「生物学の古書など」遺伝 28(2),1974 年。
(*)大岩正芳「江戸時代の化学(1-3)」29(7,9,10),1974 年。
(*)菅原国香「明治初期の化学」化学教育 22(4),1974 年。
(*)村田全「和算の伝統と性格—西欧数学との思想史的対比」思想 604,1974 年。
(*)小林重章「和算の伝統と洋算の受容--「塵劫記」から「数学三千題」へ」東京大学教育学部紀要 13,1974 年。
(*)大矢真一「展望：日本数学史」科学史研究 111,1974 年。
(*)木村陽二郎『日本自然誌の成立—蘭学と本草学』自然選書,中央公論社,1974 年。
(*)松島博『近世伊勢における本草学者の研究』講談社,1974 年。
(*)木村陽二郎『日本自然誌の成立—蘭学と本草学』自然選書,中央公論社,1974 年。
(*)永積洋子「阿蘭陀正月の起源」歴史手帖 2(3),1974 年。
(*)中山茂「西洋宇宙観伝播の系譜」蘭学資料研究会研究報告 279,1974 年。
(*)(参考：矢島文夫「オリエントの暦」数理科学 12(1),1974 年。)
(*)上原久「ラランデ暦法及び同管見と表」蘭学資料研究会研究報告 280,1974 年。
(*)(参考：毛利可信「チョーサーと天文占星術(1,2,3)」英語青年 120(6,7,8),1974 年。)
(*)(参考：山本一清『星座とその伝説』5 版,恒星社厚生閣,1974 年。)
(*)中山茂「日本人の法則観—天文暦学の場合」思想 598,1974 年。
(*)(参考：加茂儀一「科学者,技術者としてのレオナルド・ダ・ヴィンチ」季刊自然科学と博物館 41(1),1974 年。)
(*)三浦一郎「平田寛「數學の起源—古代文化の一側面(第 16 回大会特集[日本オリエント学会]」オリエント 17(2),1974 年。
(*)(参考：日本体育協会・日本オリンピック委員会編『オリンピックのはなし』日本体育協会,1974 年。)
(*)(参考：伊東明『オリンピック史』新体育学講座 1,逍遙書院,1974 年。)
(*)(参考：杉本政繁「ルキアーノスの『アナカルシス』における体育論の研究(II)：競技における「善」αγαθον の概念をめぐって：3.体育史に関する研究」日本体育学会大会号 25,1974 年。）
(*)(参考：服部辨之助『政治思想史—古代』早稲田大学出版部,1974 年。)

(*)(参考：大西藤米治「古代政治思想とその進化(3)ギリシャの神話と神と政治思想」国士舘大学政経論叢 21,1974 年。)
(*)山崎彰「和魂洋才的思惟構造の形成と国家意識—大槻玄沢を中心に」(有坂隆道編『日本洋学史の研究 3』所収,創元社,1974 年。)
(*)杉本勲「広瀬旭荘の海外知識と国防思想」(森克己先生古稀記念会編『史学論集：対外関係と政治文化 3』所収,吉川弘文館,1974 年。)
(*)山下重一「明治時代におけるスペンサーの受容」國學院法学 12(1),1974 年。
(*)福田歓一「南原繁先生の生涯(追悼 南原繁氏)」世界 344,1974 年。
(*)中村哲「南原先生の追憶(追悼 南原繁氏)」世界 344,1974 年。
(*)大塚久雄「南原先生における民族愛(追悼 南原繁氏)」世界 344,1974 年。
(*)石川三四郎『西洋社会主義運動史』黒色戦線社,1974 年。
(*)北沢文武『学問と愛、そして反逆：石川三四郎の生涯と思想(上)』鳩の森書房,1974 年。
(*)北沢文武『愚かな彼、愚かな道：石川三四郎の生涯と思想(下)』鳩の森書房,1974 年。
(*)(参考：高梨公之「法—名言とことわざ スパルタとリクルゴス」時の法令 876,1974 年。)
(*)(参考：小野梓稿：福島正夫・中村吉三郎・佐藤篤士解説『国憲論綱・羅瑪律要』早稲田大学比較法研究所叢書 6,早稲田大学比較法研究所,有斐閣(発売),1974 年。)
(*)「戸倉広先生略歴・業績」専修法学論集 17,1974 年。
(*)「田中耕太郎博士略歴・主要著作目録(田中耕太郎博士追悼)」法哲学年報 1973,1974 年。
(*)加藤新平「田中耕太郎先生の御他界を悼みて(同上)」法哲学年報 1973,1974 年。
(*)松田二郎「田中耕太郎先生を偲びて(「法曹」28 号より転載)」判例時報 741,1974 年。
(*)鈴木竹雄「田中耕太郎先生を悼む」ジュリスト 559,1974 年。
(*)鈴木竹雄「田中耕太郎先生の思い出」世紀 288,1974 年。
(*)武者小路実篤「田中耕太郎君に死なれて(田中耕太郎追悼)」心 27(5),1974 年。
(*)天野貞祐「田中[耕太郎]さんの思いで(同上)」心 27(5),1974 年。
(*)嘉治隆一「田中[耕太郎]先輩を憶う(同上)」心 27(5),1974 年。
(*)横田喜三郎「田中[耕太郎]博士をしのぶ(同上)」心 27(5),1974 年。
(*)赤井伸之「書評 田中周友著「ローマ法に於ける法原則の研究—学説彙纂第 50 巻第 17 章邦譯」(甲南法学第 11 巻 4 号所収)」法制史研究 23,1974 年。

(*)(参考：ガリーナ・セレブリャコワ/西本昭治訳『若きマルクス(1-4)』マルクスエンゲルスの生涯,新日本出版社,1975 年。)
(*)(参考：山本雄一郎「初期マルクスの問題意識」(神戸大学)六甲台論集 22(2),1975 年。)
(*)(参考：横山潤「「アレクサンドリア・カルテット」--2通の手紙から」教養論集40,1975年。)
(*)木内克作・写真吉岡康弘・解説海上雅臣『エーゲ海に捧ぐ：木内克ローマ臘型全作品』UNAC,Tokyo,1975年。)
(*)「グラビア エーゲ海の旅情」キネマ旬報666,1975年。
(*)人見嘉久彦「映画批評 エーゲ海の旅情」キネマ旬報669,1975年。
(*)(参考：アンドレ・ボナール/岡道男・田中千春訳『ギリシア文明史2—アンティゴネからソクラテスまで』人文書院,1975 年(→1988 年,改装版。→1989 年,改装版 2 刷)。)
(*)(参考：アンドレ・ボナール/岡道男・田中千春訳『ギリシア文明史3—エウリピデスから

アレクサンドレイア』人文書院,1975年(→1988年,改装版。→1989年,改装版2刷)。)
(*)遠藤周作『世界紀行』遠藤周作文庫,講談社,1975 年。
(*)遠藤周作『死海のほとり：ガリラヤの春』新潮社,遠藤周作文学全集 7,1975 年。
(*)(參考：塩野七生『イタリアだより：君知るや,南の国』文藝春秋,1975 年。)
(*)鈴木照雄「形と色と存在—ギリシアでのエッセイ(1)」(大阪市立大学文学部)人文研究 27(3),1975 年。)
(*)澤柳大五郎『風花帖』みすず書房,1975 年。
(*)澤柳大五郎「ギリシア美術館」學鐙 8 月号,1975 年。
(*)(參考：澤柳大五郎「アイギナの青年墓碑とイリッソスの墓碑」(早稲田大学)美術史研究 16,1975 年。)
(*)(參考：ピーター・グリーン著/ニューズウィーク社編/大西広訳『パルテノン：世界文明の源流,女神アテナ神殿』ランドマーク世界史 2,講談社,ブック・ローン(発売),1975 年。)
(*)(參考：柏木秀夫「ヴァージニア・ウルフ評伝(1,2)」北海道大学外国語・外国文学研究 21,1975 年/22,1976 年。)
(*)(參考 : メリナ・メルクーリ/藤枝澪子・海辺ゆき訳『ギリシアわが愛』合同出版,1975 年。)
(*)(參考 : Isamu Sawai ,Kanji Watanabe(by annotation) “What we owe to Greece” Kirihara Shoten, 1975 年。)
(*)(參考：東京イタリア文化会館,イタリア政府観光日本及び極東支局,岩倉翔子『エトルリアの美術と歴史』東京イタリア文化会館,イタリア政府観光日本及び極東支局,1975 年。)
(*)(參考：富永惣一『ヨーロッパの美術館案内』鹿島出版会,1975 年。)
(*)(參考：小川正隆解説『ボッティチェルリ』新潮社,新潮美術文庫,1975 年。)
(*)(參考:辻成史解説『ミケランジェロ』日本アート・センター編 5,新潮美術文庫,新潮社,1975 年。)
(*)(參考：Kenneth Clark/高階秀爾訳「絵画の魅力を求めて(12・完)ボッティチェルリ《神秘の降誕》」SD136,1975 年。)
(*)(參考：日本語版編集・摩壽意善郎『ボッティチェルリ』集英社,リッツオーリ版世界美術全集,1975 年。)
(*)(參考：日本版編集 三輪福松『ティツィアーノ』リッツォーリ版世界美術全集/座右宝刊行会編 2,集英社,1975 年。)
(*)(參考:P.H.ラング/酒井諄・谷村晃・馬淵卯三郎監訳『西洋文化と音楽(上)』音楽之友社,1975 年。)
(*)(參考：増村宏「伊藤仙太郎・世界文化交流史の若干の漢文史料について」鹿児島経大論集 16(1),1975 年。)
(*)小林元『日本と回教圏の文化交流史』中東調査会,1975 年。
(*)(參考：矢島文夫「ヨーロッパとイスラム--「イスラムの遺産」新版刊行によせて」東洋研究 41,1975 年。)
(*)(參考 : レナード・コットレル著/矢島文夫訳『古代の不思議』新版,紀伊国屋書店,1975 年。)
(*)(參考 : 小林高四郎『東西文化交流史 : シルクロードを中心として』復刻版,西田書店,1975 年。)

(*)(参考：松田壽男博士古稀記念出版委員会編『東西文化交流史』雄山閣出版,1975 年。)
----松田壽男「シルクロード論」
井岡畯一「シルクロードの神々」
内藤みどり「西突蕨の西方発展と東ローマへの道」
カラックスのカシドロス/山本弘道訳「「イシドロスのパルティア道里記」訳註」
(*)小川国夫『海からの光』講談社文庫,講談社,1975 年。)
(*)(参考：ピエール・バリエ,ジャン・ピエール・ブレディ,ジェイ・アレン/清川妙訳『エーゲ海の旅情』サラ・プランタン,二見書房,1975 年。)
(*)山と渓谷社編『地中海 : 文明と風土を訪ねて』山渓フォト・ライブラリー,山と渓谷社,1975 年。
(*)和田勉『地中海人間』NHK 海外シリーズ,日本放送出版協会,1975 年。
(*)週刊朝日編『地中海の旅 : 歴史と伝統の誘い』海外取材シリーズ,朝日ソノラマ,1975 年。)
(*)浅香正『ローマ文明の跡を訪ねて』吉川弘文館,1975 年。
(*)吉浦盛純『ローマ歴史散歩』鹿島出版会,1975 年。
(*)(参考：日本コンキリウム編集局編『キリスト教精神の新しい展望』(ローマ文明)コンキリウム叢書 8,南窓社,1975 年。)
(*)柘植一雄「トルコの古代ギリシャ都市遺跡を訪ねて」人文論究 24(4),1975 年。
(*)幸田彰「イスタンブールへの旅」図学研究 9(1),1975 年。
(*)山口宏「歴史の断面が見える街—アドリア海のローマ離宮=ディオクレティアヌスの宮殿ほか」SD 126,1975 年。
(*)(参考：村川堅太郎『地中海からの手紙』中公文庫.中央公論社,1975 年。)
(*)(参考：村川堅太郎「ポンペイ—異教文化の楽天地(古代美術館[18])」
(*)(参考：小出五郎「ツロの染色工房跡：ポンペイの遺跡について」ちりぼたん 8(6),1975 年。)
(*)(参考：小川熙「150 年ぶりに公開されたポンペイの壁画(ポンペイの秘画〈特集〉)」芸術新潮 26(10),1975 年。)
(*)木内克著・吉岡康弘私信・海上雅臣解説『エーゲ海に捧ぐ：木内克ローマ臘型全作品』UNAC Tokyo,1975 年。
(*)(参考：下村寅太郎「ブルクハルトの家」心 28(11),1975 年。)
(*)(参考：仲手川良雄「ブルクハルトにおける文化史と「偉大さ」」史観 91,1975 年。)
(*)(参考：澤井勇「ペイターとギリシア(1,2)：われまたアルカディアにありき」實踐英文學 8,1975 年/10,1976 年。)
(*)(参考 : 會津伸「ヘルダーリンの『多島海』について」京都府立大學學術報告・人文 27,1975 年。)
(*)(参考：社会思想社編『トインビー人と思想』現代教養文庫,社会思想社,1975 年。)
(*)(参考：A.J.トインビー/山本敬編注『75 才のヤヌス』オックスフォード大学出版局,1975 年。)
(*)(参考：トインビー/長谷川松治訳『歴史の研究(1-3)』社会思想社,1975 年。)
(*)(参考：アーノルド・トインビー/桑原武夫他訳『図説歴史の研究』学習研究社,1975 年。)
(*)(参考：A.トインビー/深瀬基寛訳『試練に立つ文明』第 2 版,社会思想社,1975 年。)
(*)(参考：堤彪「〈原報〉バグビーとトインビー：文明の比較研究の方法論をめぐって」

共立薬科大学研究年報 19,1975 年。)
(*)(参考：平田家就「最近のトインビーにおける宗教」和歌山大学教育学部紀要,人文科学 24,1975 年。)
(*)(参考：西村貞二「トインビー史学に関する 2,3 の感想」西洋史研究 4,1975 年。)
(*)(参考：ホイジンガ/堀越孝一訳『朝の影のなかに』中公文庫,中央公論社,1975 年。)
(*)(参考：辻成史解説『ミケランジェロ』新潮美術文庫 5,新潮社,1975 年。)
(*)(参考：シュリーマン/村田数之亮訳『古代への情熱：シュリーマン自伝』岩波版ほるぷ図書館文庫,岩波書店,1975 年。)
(*)(参考：S.フロイト,W．イエンゼン/安田一郎・安田洋治訳『妄想と夢』(ポンペイ)誠信書房,1975 年。)
(*)(参考：C.W.ツェーラム/大倉文雄訳『神と墓の古代史：図説 考古学』法政大学出版局,新装版,1975 年(→1986 年,改装版)。
(*)(参考：ハンス・ゲオルク・ヴンダーリヒ/関楠生訳『迷宮に死者は住む：クレタの秘密と西欧の目覚め』新潮社,1975 年。)
(*)大迫俊夫他「日本人の外人観—異文化間における対人接触をめぐって」ソフィア 24(2),1975 年。
(*)(参考：小川英雄「ポール・ラップと聖書考古学」史学 46(4),1975 年。)
(*)(参考：藤野幸雄『大英博物館』岩波新書,1975 年。)
(*)(参考:石黒孝次郎『中近東欧州古美術図譜』(エトルリア,ギリシア,キプロス)三日月,1975 年。)
(*)(参考：文月京子『エトルリアの剣』講談社,1975 年。)
(*)(参考：中村二柄「東西の美術」美術教育 1975(212),1975 年。)
(*)(参考：水田徹責任編集・小田実特別寄稿『ギリシアとローマの美術』グランド世界美術 3,講談社,1975 年。)
(*)(参考：井上靖「ヒッタイト—アナトリア高原の“謎の民族”(古代美術館[8])」芸術新潮 26(5),1975 年。)
(*)(参考：村田数之亮「クーロスとコレ—古代ギリシア人と裸体像(古代美術館[9])」芸術新潮 26(6),1975 年。)
(*)(参考：由水常雄「古代ガラス—夢と歴史を透視する(古代美術館[10])」芸術新潮 26(6),1975 年。)
(*)(参考：渋沢竜彦「ヴィーナス—処女にして裸婦(古代美術館[14])」芸術新潮 26(11),1975 年。)
(*)(参考：中山公男「アッシリア—非情と陶酔の叙事詩(古代美術館[15])」芸術新潮 26(12),1975 年。)
(*)水田徹「資料 本邦所在ギリシア・；ローマの陶器(1)」（東海大学）文明・特別号,1975 年。
(*)(参考：『室住一抄教授古稀記念論文集』(ガンダーラ)身延山短期大学,1975 年。)
(*)紅野敏郎「有島生馬—その随筆活動について」早稲田大学教育学部学術研究 国語国文学編 24,1975 年。
(*)(参考：高橋堯昭『ガンダーラ巡礼・仏跡の旅：パキスタン・アフガニスタン仏教遺跡』千代田トラベル,1975 年。)
(*)上原和『斑鳩の白い道のうえに：聖徳太子論』朝日新聞社,1975 年(→1978 年,朝日選書

103,朝日新聞社。→1984 年,朝日文庫版。→1992 年,講談社学術文庫版)。
(*)(參考：クルト・ジンガー/鯖田豊之訳『三種の神器：一ドイツ人の日本文化史観』形象社,1975 年(→講談社学術文庫版)。)
(*)塩野七生「世にも不思議な法王庁(イタリアだより[8])」文藝春秋 53(1),1975 年。)
(*)塩野七生「ムッソリーニの登場(イタリアだより[9])」文藝春秋 53(2),1975 年。)
(*)塩野七生「イタリアが生きながらえるとしたら(イタリアだより[12・完])」文藝春秋 53(5),1975 年。)
(*)渡辺友市・山崎元一・岡島千幸「石田幹之助先生と外国史研究室(追悼文)」國學院雑誌 76(3),1975 年。
(*)榎一雄「石田幹之助博士の訃(石田幹之助先生追悼号)」東方学 49,1975 年。
(*)田村実造「石田先生を憶う(同上」東方学 49,1975 年。
(*)植村清二「杜村先生(同上)」東方学 49,1975 年。
(*)高橋盛高「石田幹之助先生に就いて(同上)」東方学 49,1975 年。
(*)辻直四郎「石田幹之助先生を偲ぶ(同上)」東方学 49,1975 年。
(*)神田喜一郎「石田杜村博士を悼む(同上)」東方学 49,1975 年。
(*)(參考：今泉篤男・山田智三郎編『西洋美術辞典』19 版,東京堂出版,1975 年。)
(*)(參考：日本医学会医学用語委員会編『医学用語辞典』南山堂,1975 年。)
(*)(參考：前嶋信次・加藤九祚編『シルクロード事典』芙蓉書房,1975 年(→1993 年,新装版)。)
(*)大槻真一郎『科学用語語源辞典：独・日・英』ギリシア語・ラテン語篇,同学社, 1975-79 年(→1984-97 年,5 版)。
(*)横山英監修『仮名草子伊曽保物語用語索引—底本日本古典文学大系仮名草子集』白帝社,1975 年。
(*)村上義茂『五方通語』カルチャー出版社,1975 年。
(*)鈴木重貞「高橋五郎の「ファウスト」翻訳に就て」(『ドイツ語の伝来』所収,教育出版センター,昭和 50 年。)
(*)吾郷清彦『日本神代文字：古代和字総覧』大陸書房,1975 年。
(*)吾郷清彦『古史精伝ウエツフミ：原文併記全訳(1~5 巻)』霞ヶ関書房,1975~76 年。
(*)川崎真治『日本語はどこからきたか：あなたもエジプト語を使っている』ボア・ブックス,学芸書林,1975 年。
(*)川崎真治『姓氏・地名の起源：あなたは何族?』新人物往来社,1975 年。
(*)(參考：小林雅夫「『雄弁術の衰退』観—修辞学と政治」創文 139,1975 年。)
(*)(參考：平田隆一「エトルスキ研究の近況」史學雑誌 84(3),1975 年。)
(*)(參考：平田隆一「エトルスキ語解明の現状—三つの問題を中心に」Spazio13,1975 年。)
(*)(參考：久保田周「アショカのギリシア語碑文(大谷大学における第 26 回[日本印度学仏教学会]学術大会紀要(1)」日本印度学仏教学研究 24(1),1975 年。)
(*)(參考：坪井一「「ナグ・ハマディ・コーデックス X3,プローテンノイア」--紹介と翻訳」図書館学研究報告 8,1975 年。)
(*)(參考：山下憲治「山下式ラテン語発音方式の改正と医真菌学関係術語の同式及び英米式発音」真菌と真菌症 16(3),1975 年。)
(*)(參考：国原吉之助『中世ラテン語入門』南江堂,1975 年。)
(*)(參考：岩倉具忠「ラテン語の歩み」言語 8 月号,1975 年。)
(*)(參考：岩倉具忠「イタリア語の歴史におけるダンテ」日伊文化研究 13,1975 年。)

(*)(参考：風間喜代三「古代語のアクセントについて」言語研究 1975(68),1975 年。)
(*)(参考：蛭沼寿雄『ホワットモー：その業績と言語理論』大阪言語研究会,言語研究双書 2,1975 年。)
(*)(参考：岩倉具忠「イタリア語の歴史におけるダンテ」日伊文化研究 13,1975 年。)
(*)石綿敏雄「オランダ語から英語へ—幕末明治初期の外来語」言語生活 291,1975 年。
(*)鈴木重貞『ドイツ語の伝来—日本独逸学史研究』教育出版センター,1975 年。
(*)高梨健吉「幕末洋学者欧文集について」日吉紀要 16,1975 年。
(*)小川鼎三・朝倉文夫・田村卓夫『前野良沢』(郷土の先覚者シリーズ 5,大分県教育委員会,1975 年。)
(*)『仮名草子伊曽保物語用語索引』白帝社,1975 年。
(*)緒方富雄『エバンズ博士旧蔵古典医学書文庫目録』講談社古典医学文庫,1975 年。
(*)「近山金次先生略歴・著作目録」史学 46(4),1975 年。
(*)杉本つとむ『江戸時代蘭語学の成立とその展開 I-VI』早稲田大学出版部,昭和 51-56 年。
(*)高橋邦太郎(他)『ふらんす語事始：仏学始祖村上英俊の人と思想』校倉書房,1975 年。
(*)富田仁『仏蘭西学のあけぼの—仏学事始とその背景』カルチャー出版社,1975 年。
(*)浅見篤「仏蘭西学ことはじめ」(京都外国語大学)ビブリオテカ 28,1975 年。
(*)孫野義夫「日本英語研究史考(1,2)」新潟大学教育学部紀要 16,1975 年/17,1976 年。
[(*)西脇順三郎著・洪順隆譯『西詩探源』人人文庫,臺湾商務印書館,1975 年。]
(*)三橋猛雄「「明治前期思想史文献」--50 年間の集書のまとめ」日本古書通信 40(9),1975 年。
(*)(参考：松平千秋「第 6 回国際古典学会議について」西洋古典學研究 23,1975 年。
(*)(参考：矢島文夫『メソポタミアの春：オリエント学の周辺』玉川大学出版部,1975 年。)
(*)(参考：仲手川良雄「ヤーコプ・ブルクハルトの宗教観(東京工業高等専門学校創立 10 周年記念号)」東京工業高等専門学校研究報告書 7,1975 年。)
(*)(参考：ホメーロス原作・イソップ原作・プルターク原作『ホメーロス物語・イソップ物語・プルターク英雄伝』少年少女世界の名作・古典編 2,小学館,1975 年。)
(*)(参考：吉田敦彦編『比較神話学の現在：デュメジルとその影響』朝日出版社,1975 年。)
(*)(参考：K.ケレーニイ& C.G.ユング/杉浦忠夫訳『神話学入門』晶文全書,晶文社,1975 年(→→2007 年,オンデマンド版,晶文社オンデマンド叢書)。)
(*)(参考：高良留美子「冥界に葬られた母系制の世界—K.ケレーニイ「ギリシアの神話・神々の時代」「ギリシアの神話・英雄の時代」ほか[思想と潮流]」朝日ジャーナル 17(2),1975 年。)
(*)(参考：ミルチャ・エリアーデ/中村恭子編訳『宗教学と芸術：新しいヒューマニズムをめざして』エリアーデ著作集 13,せりか書房,1975 年。)
(*)(参考：沢井義則「〈資料と新館紹介〉エリアーデ著・堀一郎訳『シャーマニズム』」宗教学年報 20,1975 年。)
(*)(参考：篠田浩一郎「10 年後に—アドニスのレポートについて」新日本文学 30(3),1975 年。)
(*)(参考：オード・カーゼル/小柳義夫訳『秘儀と秘義—古代の儀礼とキリスト教の典礼』みすず書房,1975 年。)
(*)(参考：クネヒト・ペトロ他著/大林太良編『死と性と月と豊穣』評論社,1975 年。)
(*)(参考：ドラおよびエルヴィン・パノフスキー/阿天坊輝・塚田孝雄・福部信敏訳『パン

ドラの箱：神話の一象徴の変貌』美術出版社,1975 年。)
(*)(参考：高橋睦郎『愛のギリシア神話』新書館,1975 年。)
(*)(参考：岡上鈴江・鈴木琢磨え『ギリシャ神話 西洋古典』世界の幼年文学29,偕成社,1975 年。)
(*)(参考：ブルフィンチ/野上弥生子訳『ギリシア・ローマ神話(上下)』岩波叛ほるぷ図書館文庫,岩波書店,1975 年。)
(*)(参考：リアン=ガーフィールド・エドワード=ブリッシェン/小野章・岩崎鐸え『ギリシア神話物語』世界の児童文学名作シリーズ,講談社,1975 年。)
(*)(参考：澁澤龍彦「ヴィーナス—処女にして娼婦(古代美術館[14])」芸術新潮 26(11),1975 年。)
(*)(参考：矢島文夫『ヴィーナスの神話』2 刷,美術出版社,1975 年。)
(*)谷川俊太郎「VINUS 計画(池田満寿夫新作版画展「ヴィーナス」)」みずゑ 849,1975 年。)
(*)(参考：山室静「『蛇聟入り』と『アモールとプシケー』」季刊・民話 4,1975 年。)
(*)(参考：篠田浩一郎「十年後に—アドニス・レポートについて」新日本文学 3 月号,1975 年。)
(*)(参考：吉田敦彦「女性器露出の神話」エピステーメー1(1),1975 年。)
(*)(参考：吉田敦彦「ヤヌスの二つの顔」エピステーメー1(2),1975 年。
(*)(参考：高岡幸一「Virgil et Hésiode—Notes sur l’allegorie de la renommée dans l’Eneide IV」(大阪大学フランス文学会)Galla15,1975 年。)
(*)(参考：仲手川良雄「ヤーコプ・ブルクハルトの宗教観」東京工業高等専門学校研究報告書 7,1975 年。)
(*)(参考：河野真「シェリングの神話論—神話的思惟と初期シェリング哲学の形成(シェリング生誕 200 年記念,特集)」実存主義 71,1975 年。)
(*)(参考：丹羽治男「ヘルメス神話とトーマス・マン(続 2)魔法の山と海」近畿大学教養部研究紀要 6(3),1975 年。)
(*)(参考：青柳謙二「トーマス・マンの神話的思考」ドイツ文学 55,1975 年。)
(*)(参考:高良留美子「冥界に葬られた母系制の世界—K.ケレーニイ「ギリシアの神話・神々の時代」「ギリシアの神話・英雄の時代」ほか(思想と潮流)」朝日ジャーナル 17(2),1975 年。)
(*)(参考：矢本貞幹「ペイターの「神話」」人文論究 25(1),1975 年。)
(*)(参考：倉持三郎「Pan の復活：D.H.ロレンスの神話原型」英學論考 7,1975 年。)
(*)(参考：小馬徹「吉田敦彦「ギリシア神話と日本」の方法論に就いての一考察」一橋論叢 30,1975 年。)
(*)(参考：山口昌男『道化の民俗学』(ヘルメス)新潮社,1975 年。)
(*)(参考：前田護郎「オリエントと新約聖書」(三笠宮還暦記念『オリエント学論集』所収,講談社,1975 年。)
(*)(参考：O.カーゼル/小柳義夫訳『秘儀と秘蹟—古代の儀礼とキリスト教の典礼』みすず書房,1975 年。)
(*)(参考：八木誠一「新約聖書のおける〈仮面・素顔・人格〉」エピステメー11 月号,1975 年。)
(*)(参考：大井正「シュトラウス著「イエスの生涯」における神話と教条」政経論集 44(2・3・4),1975 年。)

(*)(参考 : 日本聖書学研究所編『聖書外典偽典』(別巻[1]補遺 1 : 別巻[2]補遺 2,教文館,1975-82 年。)
(*)(参考 : フランシスコ会聖書研究所訳注『テモテへの第一の手紙 ; テモテへの第二の手紙 ; ヘブライ人への手紙 : 原文校訂による口語訳』聖書,パウロ書簡, フランシスコ会聖書研究所,1975 年。)
(*)(参考 : 茅野直子「『西方の人』とパピーニの『基督の生涯』」中央出版社,1975 年。)
(*)(参考 : ピツァー他編/南吉衛訳『イエスの十字架の意味』青山語文 4,,1975 年。)
(*)(参考 : 土屋博「イエス誕生物語における歴史と虚構—福音書記ルカの思想に関する一考察」(北海道大学)文学部紀要 23,1975 年。)
(*)(参考 : 吉岡勝『使徒行伝要解』2 版,新教出版社,1975 年。)
(*)(参考 : W.バークレー/大隅啓三訳『神への転換 : 使徒行伝と今日の回心について』ヨルダン社,1975 年。)
(*)(参考 : 山本和編『終末論 : その起源・構造・展開』(中川秀恭「原始キリスト教における黙示思想—E・ケーゼマンの提題をめぐって」)今日の宣教叢書 7, 創文社,1975 年。)
(*)(参考 : 豊田浩志「後期ローマ帝国とキリスト教(1,2)」史学研究 127,1975 年/130,1976 年。)
(*)(参考 : 居村栄「エクレシアの展開(6)—原始キリスト教(3)」(岡山大学)研究集録 41,1975 年。)
(*)(参考 : 吉沢昇「教育思想から学ぶ(3)背教者ユリアヌスは何に叛いたのか」季刊教育法 17,1975 年。)
(*)(参考 : 三小田敏雄「Constantinus の神観」東海大学紀要 23,1975 年。)
(*)(参考 : 久山宗彦「アレクサンドリアのクレメンスにおけるヘレニズムの問題」オリエント 18(1),1975 年。)
(*)(参考 : トマス・ア・ケンピス/呉茂一・永野藤夫訳『イミタチオ・クリスティ : キリストにならいて』講談社,1975 年。)
(*)池田敏雄『聖福音書を読む』中央出版社,1975 年。)
(*)(参考 : 山形孝夫『聖書の起源』講談社現代新書,講談社,1975 年。)
(*)曽野綾子『私の中の聖書』青春出版社,1975 年(→1981 年,集英社文庫版。→2007 年,ワック WAC BUNKO B-074)。)
(*)(参考 : 塩野七生『愛の年代記』新潮社,1975 年(→1978 年,新潮文庫版)。)
(*)(参考 : 日本コンキリウム編集局編『キリスト教精神の新しい展望』コンキリウム叢書 8,南窓社,1975 年。)
(*)(参考 : 野村文子「アメリカのピューリタニズム研究に関する動向と展望」宗教研究 49(1), 1975 年。)
(*)木下清「訂補永田方正年譜」キリスト教史学 29,1975 年。
(*)村松剛「遠藤周作の世界—ピエタについて(遠藤周作の文学世界〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 40(7),1975 年。
(*)菅井幸雄「神と人間の位相—遠藤周作の作品世界遠藤周作の文学世界〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 40(7),1975 年。
(*)高野斗志美「遠藤周作の二つの貌—汎神的血液と一神的血液(遠藤周作の文学世界〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 40(7),1975 年。
(*)佐藤泰正「遠藤周作における同伴者イエス--「死海のほとり」を中心に(遠藤周作の文学

世界〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 40(7),1975 年。
(*)小久保実「遠藤周作とモーリヤック(遠藤周作の文学世界〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 40(7),1975 年。
(*)佐古純一郎「遠藤周作とカトリシズム(遠藤周作の文学世界〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 40(7),1975 年。
(*)古屋健三「遠藤周作における留学の意味(遠藤周作の文学世界〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 40(7),1975 年。
(*)小野寺凡編「遠藤周作略年譜」(遠藤周作の文学世界〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 40(7),1975 年。
(*)池田純溢「遠藤周作研究案内(遠藤周作の文学世界〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 40(7),1975 年。
(*)山崎一穎「死海のほとり(遠藤周作の文学世界〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 40(7),1975 年。
(*)山崎一穎「沈黙(遠藤周作の文学世界〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 40(7),1975 年。
(*)神谷忠孝「留学(遠藤周作の文学世界〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 40(7),1975 年。
(*)池内輝雄「海と毒薬(遠藤周作の文学世界〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 40(7),1975 年。
(*)池内輝雄「白い人・黄色い人(遠藤周作の文学世界〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 40(7),1975 年。
(*)嵯峨コウ子「遠藤周作著作年表」日本文學 42/43,1975 年。
(*)南部全司「遠藤周作とフランソワ・モーリヤック--「海と毒薬」と「テレーズ・デスケルー」の影響関係を中心として」仏語仏文学研究 7,1975 年。
(*)(参考 : S.H.ナスル/黒田寿郎・柏木英彦訳『イスラームの哲学者たち』岩波書店,1975 年。)
(*)(参考：高柳俊一『ユートピアと都市：黙示思想の系譜』産業能率短期大学出版部,1975 年。)
(*)(参考:金子晴勇『人間と歴史:西洋思想における人間の理解』日本 YMCA 同盟出版部,1975 年。)
(*)松村仙太郎他『講座・文化と倫理』芸林書房,1975 年。
(*)福原麟太郎「旧著再読：「文学序説」そのほか」海 7(11),1975 年。
(*)久野収『30 年代の思想家たち』(林達夫)岩波新書,1975 年。
(*)杉浦明平「複雑な生を扱う伝記のむずかしさ—鶴見俊輔「高野長英」,守田志郎「二宮尊徳」」朝日ジャーナル 17(48),1975 年。
(*)(参考：宮澤康人「教育思想から学ぶ(4)スパルタ教育の幻影」季刊教育法 18,1975 年。)
(*)山本光雄『身辺雑話』山本光雄,1975 年。
(*)(参考：川田熊太郎他『原典が語る哲学説の歴史』公論社,1975 年。)
(*)(参考：桂寿一「哲学の発端」理想 503,1975 年。)
(*)(参考：井上忠「ものとこと考—哲学の成立—根拠をめぐって(ものとこと〈特集〉)」理想 50,1975 年。)
(*)(参考：廣川洋一『ヘシオドス研究序説—ギリシア思想の生誕』未来社,1975 年(→1992 年,復刊)。)
(*)(参考 : 鵜木奎治郎「ルクレチウス・サンタヤナ・[寺田]寅彦」比較思想研究 2,1975 年。)
(*)(参考 : 松永希久夫・岡野昌雄編『西洋精神の源流と展開 : 神田盾夫博士喜寿祝賀論文集』ぺデラヴィウム会,1975 年。)

(*)(参考：田中美知太郎編『哲学の歴史』人文書院,1975 年。)
(*)(参考：ジョン・バーネット/西川亮訳『初期ギリシア哲学』以文社,1975 年（→1982 年,改訂版。)
(*)(参考：高橋睦郎「夢解き産婆術私見—あるいはソークラテースと夢(夢の構造,特集)」現代詩手帖18(10),1975年。)
(*)(参考：アンドレアス・シュパイザー/山川偉也訳『プラトン弁証法の研究—『パルメニデス』註釈』法律文化社,1975 年。)
(*)山野耕治「文献案内」(田中美知太郎・藤沢令夫編集[第 1 次]『プラトン全集 15』所収,岩波書店,1975 年。)
(*)(参考：加藤信朗「ホドスとメトドス—哲学の道について(前後)」理想 510,511,1975 年。)
(*)(参考：加藤信朗「身体論素描」(日本哲学会)哲学 25,1975 年。)
(*)(参考：加藤信朗「哲学の道について(覚え書)」(上智大学哲学会)哲学論集 3,1975 年。)
(*)(参考：加藤信朗「καλον,δικαιον,αγαθον(1)アリストテレスにおける超越価値の諸相」(東京都立大学人文学報編集委員会)人文学報 106,1975 年。)
(*)(参考：M.アモロス「聖アウグスティヌスの「告白」について」(上智大学哲学科)哲学科紀要 1,1975 年。)
(*)(参考：中川純男「アウグスティヌスとプラトンにおける「分有」」中世思想研究 17,1975 年。)
(*)(参考：田口孝夫「『ヴェニスの商人』とプラトン的恋愛」大妻女子大学文学部紀要 7,1975 年。)
(*)(参考：長瀬真理「セェア「プラトンの分析的方法(K.M.Sayre；Plato’s Analytic Method,1969）」哲学誌 18,1975 年。)
(*)(参考：山川偉也「G.Vlastos と第三人間論」(桃山学院大学)人文科学研究 11(2),1975 年。)
(*)(参考：山川偉也「A.Wedberg のイデア論解釈」(桃山学院大学)総合研究所報 1(1),1975 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「夢解き産婆術私見—あるいはソークラテースと夢(夢の構造,特集)」現代詩手帖 18(10),1975 年。)
(*)(参考：川島清吉「ソクラテスは「ディダスカロス」であったか：「教師」概念の変遷」日本教育学会大會研究発表要項 34,1975 年。)
(*)(参考：加藤信朗「ホドスとメトドス—哲学の道について(1,2)」理想 510,511,1975 年。
(*)(参考：川田熊太郎「“Creatio ex nihilo”の起源」駒澤大学佛教学部論集 6,1975 年。)
(*)(参考：久山宗彦「アレクサンドリアのクレメンスにおけるヘレニズムの問題について」オリエント 18(1),1975 年。)
(*)(参考：橋本龍幸「〈論文〉メロヴィング=ガリア二おける俗人の教育状況について：アンリ・ピレンヌ説の一検討」愛知学院大学文学部紀要 5,1975 年。)
(*)(参考：岩波哲男「メメント・モリ」実存主義 73,1975 年。)
(*)(参考：山田晶責任編集『トマス・アクィナス』世界の名著 225,中央公論社,1975 年。)
(*)(参考：松本正夫・門脇佳吉・K.リーゼンフーバー編『トマス・アクイナス研究：没後七百年記念論文集』創文社,1975 年。)
(*)(参考：山田晶「提題 トマス哲学の現代的意義(トマス哲学の現代的意義〈中世哲学会第 23 回大会シンポジウム〉)」中世思想研究 17,1975 年。)
(*)(参考：今道友信「[司会のまとめ] (トマス哲学の現代的意義〈中世哲学会第 23 回大会シンポジウム〉)」中世思想研究 17,1975 年。)

(*)(参考：後藤秀子「トロイラスとボエチウス」Osaka Library Review14,1975 年。)
(*)(参考:堀米庸三「歴史と現在—中世論とルネサンス論の変遷に関する覚書」思想 609,1975 年。)
(*)(参考：ハスキンズ/野口洋二訳『十二世紀ルネサンス』創文社,1975 年。)
(*)(参考:古田光『西洋古代とルネサンスの精神構造の比較研究』横浜国立大学(1975 年),(科研費)1975 年。)
(*)(参考：近藤恒一「イタリア初期ヒューマニズムの教育思想：パリミエーリの『市民生活論』を中心に」イタリア学会誌 23,1975 年。)
(*)(参考:福原嘉一郎「イタリア人文主義から宗教改革へ(1)ヴァラとクザーヌス」教養諸学研究 50,1975 年。)
(*)(参考：田中峰雄「ヨアンネス・サレスベリエンシスの学芸観」史林 58(5),1975 年。)
(*)「服部英次郎先生略歴・業績表--服部英次郎先生古稀記念特集」関西大学哲学 6,1975 年。
(*)(参考：川瀬邦臣「F.I.ニートハンマーのバイエルン学校制度改革構想の性格と意図：人文主義教育と実学主義教育との対立をめぐって」日本の教育史学 18,1975 年。)
(*)(参考：服部英次郎「エラスムスとルター(同上)」関西大学哲学 6,1975 年。)
(*)(参考：ツィヴァイク/内垣啓一・藤本淳雄・猿田悳訳『エラスムスの勝利と悲劇』ツヴァイク全集 15,みすず書房,1975 年。)
(*)(参考：大竹勝「ユートピアについて—トマス・モアを中心に」東京経大学会誌 93,1975 年。)
(*)(参考：近藤恒一「ペトラルカのプラトニズム」東京学芸大学紀要・第 2 部門・人文科学 26,1975 年。)
(*)(参考：武安宥「シュライエルマッヘルの教育思想」キリスト教主義教育：キリスト教主義教育研究室年報 特集号,1975 年。)
(*)(参考：中村弘行「シュライエルマッヘルにおける社会の変革と教育」教育と教育思想 1,1975 年。)
(*)(参考:長谷川栄「ヴィルマンのシュライエルマッヘル教育学への接近」教育方法学研究 4,1975 年。)
(*)(参考：麦倉達生「ヒルティの教育観」滋賀大学教育学部紀要 人文科学・社会科学・教育科学 24,1975 年。)
(*)(参考：アルフレッド・スキアッフィニ/岩倉具忠訳「「文学研究のための文体論」」イタリア学会誌 23,1975 年。)
(*)(参考：鵜木奎治郎「ルクレチウス・サンタヤナ・寅彦」比較思想研究 2,1975 年。)
(*)(参考：愛知淑徳短期大学国文学会編『世界文学史人物年表：眼で見る世界文学史』中部日本教育文化会,1975 年。)
(*)(参考：平川祐弘「ブラウニングのフラット・リッポ・リッピ—そのイタリア材源について」外国語科研究紀要 22(2),1975 年。)
(*)(参考：山本治夫「中世のアラビア詩と南欧文学—〈遙かなる恋〉—東方世界から地中海を渡りピレネーを越えるまで」季刊技術 9(1),1975 年。)
(*)(参考：辻村誠三「ギリシア悲劇と現代」東洋大学紀要・教養課程篇 14,1975 年。)
(*)大岡信「「トロイアの女」潤色ノート」芸術新潮 26(2),1975 年。)
(*)大岡信・鈴木忠志・中村雄二郎「現代演劇の可能性--「トロイアの女」に即して」世界

352,1975 年。
(*)大笹吉雄「古バケツの国家—トロイアと日本（劇評）」新劇 22(2),1975 年。
(*)毛利三弥「岩波ホール「トロイアの女」--一晩のパロディ?(上演劇評)」テアトロ 384,1975 年。
(*)(参考：戸張智雄「ギリシア悲劇と酒（特集 バッカス）」悲劇喜劇 28(9),1975 年。)
(*)(参考：新関良三「ローマ演劇の近代性」心 28(11),1975 年。)
(*)(参考 : 鈴木一郎訳『プラウトス(1-4)』古代ローマ喜劇全集 1-4,東京大学出版会,1975 年。)
(*)(参考：呉茂一「坪内逍遙とギリシア悲劇」(新樹社)坪内逍遙研究資料 6,1975 年。)
(*)(参考：細井雄介「ギリシア悲劇の演出」(新樹社)坪内逍遙研究資料 6,1975 年。)
(*)(参考：中山恒夫『ホラテイウスと民衆』東京大学,博士(文学),乙第 3534 号,1975 年。)
(*)(参考：長友栄三郎『ゲルマンとローマ』創文社,昭和 51 年。)
(*)(参考：山本治夫「中世のアラビア詩と南欧文学--〈遙かなる恋〉—東方世界から地中海を渡りピレネーを越えるまで」季刊芸術 9(1),1975 年。)
(*)(参考：Kenneth Clark/高階秀爾訳「絵画の魅力を求めて(4)ラファエロ《漁獲の奇跡》」SD 128,1975 年。)
(*)(参考：Kenneth Clark/高階秀爾訳「絵画の魅力を求めて(8)ドラクロア《十字軍のコンスタンティノープル入城》」SD 132,1975 年。)
(*)(参考：木村尚三郎『近代の神話：新ヨーロッパ像』中公新書,中央公論社,1975 年。)
(*)(参考：木村尚三郎『世界の女性史』評論社,1975 年。)
(*)(参考：木村尚三郎『世界戦史 99 の謎：新ヨーロッパ像』産報,1975 年。)
(*)(参考：新村祐一郎「スパルタの対アルゴス策」史林 58(1),1975 年。)
(*)(参考：中井義明「紀元前 550 年におけるスパルタの対外政策の転換について」文化史学 31,1975 年。)
(*)安藤弘「土井正興「スパルタクスの蜂起」」歴史学研究 416,1975 年。
(*)(参考 : Kamienik Roman/土井正興[訳解説]「スパルタクス蜂起をめぐる 2 つの未解決の問題」歴史学研究 418,1975 年。)
(*)(参考 : 高階秀爾解説「歴史の中の女たち—もう一人のブルートゥス」文藝春秋 53(7),1975 年。)
(*)(参考 : 秀村欣二「古典古代の伝記の展開—プルタルコスとスエトニウスに至るまで」(秀村欣二・久保正彰・荒井献編『古典古代における伝承と伝記』所収,岩波書店,1975 年。)
(*)木村尚三郎「秀村欣二先生を送る(含 主要業績目録)」歴史学研究報告 15,1975 年。
(*)(参考：大戸千之「ラオイとカトイコイ—ヘレニズム時代史の一側面」立命館文學(364・365・366),1975 年。)
(*)(参考：三好準之助「中世スペイン版“アレクサンドロス伝(?)”：解説・邦訳・註釈」京都産業大学論集,外国語と外国文学系列 4,1975 年。)
(*)(参考：大牟田章「アレクサンドロス王権の成立と安定」金沢大学法文学部論集,史学編 24,1975 年。)
(*)(参考：木村尚三郎『世界戦史 99 の謎：トロイの木馬からナポレオン・トンキン湾まで』講談社文庫,講談社,1975 年。)
(*)(参考：織田幹雄「アトラス(地図)の歴史」地理学評論 48(8,9),1975 年。)
(*)(参考：長島武之「W.シュラー「第 1 次アテナイ海上同盟におけるアテナイ人の支配」」

西洋史研究 4,1975 年。)
(*)「論題 権力構造と異端運動—堀米庸三著「西洋中世世界の展開」をめぐって(1974 年度大会共通論題報告)」西洋史研究 4.1975 年。)
(*)(参考：平田隆一「エトルスキの政務官職—研究史を中心として」古代学 18(1),1975 年。)
(*)尾形禎亮「古代オリエント(1974 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 84(5),1975 年。
(*)木村豊「ヨーロッパ：中世西欧(1974 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 84(5),1975 年。
(*)伊藤貞夫「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1974 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 84(5),1975 年。
(*)松本宣郎「ヨーロッパ:古代:ローマ(1974 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雜誌 84(5),1975 年。
(*)越智武臣「近代—イギリス(1974 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 84(5),1975 年。
(*)服部春彦「近代—フランス(1974 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 84(5),1975 年。
(*)岡崎勝世「近代—ドイツ(1974 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 84(5),1975 年。
(*)越智武臣「近代—イギリス(1974 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 84(5),1975 年。
(*)北原敦「近代イタリア(1974 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 84(5),1975 年。
(*)「史学文献目録—西洋史 3」史學雜誌 84(9),1975 年。
(*)(参考：毛利晶「ガリア社会の従者制度(研究ノート)」史學雜誌 84(11),1975 年。
(*)(参考：上原専禄『クレタの壺：世界史像形成の試読』評論社,1975 年。)
(*)(参考：亀井高孝『標準世界史年表』増訂版,吉川弘文館,1975 年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男他編『標準世界史地図』10 次増訂初版,吉川弘文館,1975 年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『要説世界史』新版,山川出版社,1975 年。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『標準世界史』改訂版,山川出版社,1975 年。)
(*)(参考：ルイス・マンォード/木原武一訳『文学・人物論』解釈と予測：アンソロジー 1922-1972, 1 河出書房新社,1975 年。)
(*)(参考：岡崎英輔「ヘーゲルとブルクハルト「歴史の連続性」を中心として」(弘前大学)文経論叢 10(5),1975 年。)
(*)(参考：ラブレー/渡辺一夫訳『ガルガンチュワ物語・第 5 之書』岩波文庫,岩波書店,1975 年。)
(*)(参考：西脇順三郎・渡辺一夫訳『近代世界文学 1—チョーサー・ラブレー』筑摩書房,1975 年。)
(*)(参考:引地正俊「シェイクスピアのロマンスとギリシアのロマンス(正続)」英文学 42,1975 年//44,1976 年。)
(*)(参考：関谷武史『シェイクスピア論考—素材とその取り扱いをめぐって』千城,1975 年。)
(*)(参考:本多顕彰『シェイクスピア四大悲劇の鑑賞』教養選書 29,法政大学出版局,1975 年。)
(*)(参考：長谷部加寿子『仮面と実相—シェイクスピア劇素描』高文堂出版,1975 年。)
(*)(参考：今井佐智子「「トロイラスとクレシダ」における実験—その反演劇性の意味するもの」お茶の水女子大学人文科学紀要 28(1),1975 年。)
(*)(参考：岡田洋一「「アントニーとクレオパトラ」--リアリティの問題」英文学評論 34,1975 年。)
(*)(参考：中野里皓史「雲「アントニーとクレオパトラ」--ショウのパラドックス(上演評論)」テアトロ 394,1975 年。)

(*)(参考 : 田口孝夫「『ヴェニスの商人』とプラトン的恋愛」大妻女子大学文学部紀要 7,1975 年。)
(*)(参考 : 三好弘『英文学における古典との出会い : 付・シェイクスピアとエロス』朝日出版社,1975 年。)
(*)(参考 : 中里寿明「「ハムレット」批評の 2 つの方法とその問題—ハムレット・オレステス・オイディプスの複合をめぐって」文芸研究 34,1975 年。)
(*)Mitsuo Miyanishi『Milton in Japan.1871-1971』Kinseido,1975.
(*)(参考 : 齋藤祐蔵「シェリーと「西風に寄する賦」[含・翻訳]」日本大学理工学部一般教育教室彙報 22,1975 年。)
(*)(参考 : 目形照「ジロデ・トリオゾンのイタリア留学(1)」(キーツ)イタリア学会誌 28,1975 年。)
(*)(参考 : 田中雅男「ドライデンの「トロイラスとクレシダ」」神戸大学教養部論集 16,1975 年。)
(*)衣笠梅二郎「『欧米名家詩集』とシェリー及びバイロン」(京都光華女子大学)研究紀要 13,1975 年。
(*)(参考 : 井上正名「マシュー・アーノルドのエンペドクレス像(Empedocles on Etna)」京都工芸繊維大学工芸学部研究報告,人文 24,1975 年。)
(*)(参考 : 大塚幸男「閑適抄—ギッシングとともに(3)」福岡大学研究研究所報 23,1975 年。)
(*)(参考 : 大塚幸男『閑適抄 : ギッシングとともに』第三書房,1975 年。)
(*)浅野福治編「日本におけるジョージ・エリオット書誌—明治期から昭和 49 年春まで(日本におけるジョージ・エリオット—書誌つき)」学苑 424,1975 年。
(*)(参考 : 中沢生子『聖書とアメリカ・ルネサンスの作家たち』朝日出版社,1975 年。)
(*)(参考 : ヴァルター・ベンヤミン/川村二郎・三城満禧訳『ドイツ悲劇の根源』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,1975 年。)
(*)(参考 : 藤平憲郎「ネオ・ヒューマニズムと古代—ヴィンケルマン,フンボルト,ヘルダーの場合」明治大学教養論集 91,1975 年。)
(*)(参考 : 登張正実責任編集『ヘルダー ; ゲーテ』世界の名著(続 7),中央公論社,1975 年(→1979 年,中公バックス版)。)
(*)(参考 : 五十嵐蕗子「ゲーテの「タウリスのイフィゲーニェ」について」獨協大学ドイツ学研究 5,1975 年。)
(*)(参考 : 西山力也「ゲーテ老年期への第一段階--「デモーニッシュなもの」およびソネット「はげしい驚き」におけるその形象化を中心にして」人文科学研究 47,1975 年。)
(*)(参考 : 土橋寶「諦念の活動と自己の畏敬 : ゲーテにおける市民教育の論理について」日本教育学会大會研究発表要項 34,1975 年。)
(*)(参考 : 大槻裕子「ゲーテの『ノヴェレ』について : 古典主義的調和の理念を中心として」大阪慶大論集 107,1975 年。)
(*)(参考 : 富田武正「フリードリヒ・シュレーゲルとゲーテ—その最後のゲーテ論を中心に」上智大学ドイツ文学論集 12,1975 年。)
(*)(参考 : 秋山英夫『思索するニーチェ』人文書院,1975 年。)
(*)(参考 : 秋山英夫『魔性の文学ニーチェ』新潮選書,1975 年。)
(*)(参考 : 小野壽美子「初期ニーチェにおけるソクラテス像」研究年報 22,1975 年。)

(*)(参考：古田耕作「ニーチェの「永劫回帰」について」岐阜大学教養部研究報告 11,1975 年。)
(*)(参考：井ノ川清「ニーチェと神」名古屋工業大学学報 26,1975 年。)
(*)(参考：水野清志「ニーチェの倫理思想(1-14)」紀要 1,1975 年/2,1976 年/3,1977 年/4(1),1978 年,/5(1), 1979 年/6(1),1980 年/8(1),1982 年/9(1),1983 年/10(1), 1984 年/11(1),1985 年/13(1),1987 年/14(1),1988 年/16(1),1990 年/17,1991 年。)
(*)(参考：平木幸二郎「知識と生—対象知と自己知の問題をめぐって(知識 特集)」実存主義 72,1975 年。)
(*)(参考：平川祐弘『謡曲の詩と西洋の詩』朝日選書,朝日新聞社,1975 年。)
(*)(参考：篠田一士等編『詩論の展開—世界批評大系 3』筑摩書房,1975 年。)
(*)(参考：大河原順「錯乱期のヘルダーリン(7)「生のなかば」--陽暮れて道遠し」東北大学教養部紀要 22,1975 年。)
(*)(参考：小磯仁「フリードリヒ・ヘルダーリンのオーデ「盲目の詩人」と「キーロン」における闇と光」山梨大学教育学部研究報告・第 1 分冊,人文社会科学系 26,1975 年。)
(*)(参考：高木昌史「ヘルダーリンとピンダロス—讃歌の構成についての試論(現代詩と言語)」ドイツ文学 54,1975 年。)
(*)(参考：横田ちゑ「ヘルダーリンの後期讃歌(続) : 平和の祭」千葉大学教養部研究報告 A8, 1975 年。)
(*)(参考：坂田正治「ヘルダーリンの詩と人生」法文論叢・文科篇 35,1975 年。)
(*)(参考：木村行宏「ヘルダーリンの短頌歌(3)—頌歌「エムペードクレス」」日本大学文理学部(三島)研究年報,人文・社会科学編 23,1975 年。)
(*)(参考：手川誠士郎「三十年代におけるハイデッガーについて : その形而上学批判とヘルダーリンの詩をめぐって」哲学 25,1975 年。)
(*)(参考：川原栄峰「詩人的に住む—ヘルダーリンとハイデッガー(マルティン・ハイデッガー〈創刊 500 号紀年特集〉」理想 500,1975 年。)
(*)(参考：大中智男「ホーフマンスタールとゲーテ」静岡大学教養部研究報告・人文科学篇 11,1975 年。)
(*)(参考：西村雅樹「ホーフマンスタールとギリシアの光」中国四国ドイツ文学論集 8,1975 年。)
(*)(参考：浜口広之「トーマス・マンの作品に表現された自由に関する考察--「トニオ・クレーガー」「ヴェニスに死す」から神話的思考へ」愛媛大学教養部紀要 8,1975 年。)
(*)(参考：渡辺保「俳優座「アンティゴネ」--ブレヒトの表現とは何だったか(上演劇評)」テアトロ 394,1975 年。)
(*)(参考：W.ベンヤミン/川村二郎他訳『ドイツ悲劇の根源』法政大学出版局,1975 年。)
(*)(参考：松浦暢「リルケとキーツ」成城文藝 72,1975 年。)
(*)(参考：関根秀雄『モンテーニュとその時代』白水社,1975 年。)
(*)(参考：アンデルセン/大畑末吉訳『わが生涯の物語』岩波文庫,岩波書店,1975 年(→1981 年,岩波書店)。)
(*)山下久男『加賀昔話集』(イソップ)岩崎美術社,昭和 50 年。

(*)司馬江漢『春波楼筆記』(イソップ。『日本随筆大成 (第 1 期第 2 巻)』所収,吉川弘文館,1975 年。)
(*)S.A.Handford(trans.)；Brian Robb(ill.)；Takashi Kuroda（ed.with notes）“Fables of Aesop” Aiikusha,1975 年。
(*)長沼アントネット編『Stories from Aesop』Kaitakusha extensive reading series, Kaitakusha, 1975 年。
(*)イソップ著/松下仁治訳『イソップ物語：アイソーポス風の譬え話集成』けいざい春秋社,1975 年。
(*)おのかおるえ；みやわきとしおぶん『イソップものがたり』おはなし絵文庫 8,ポプラ社,1975 年。
(*)(参考：モーロワ原作；ガボリオ原作『デブの国ノッポの国,ルコック探偵尾行命令,スエズ運河ほか』(ラ・フォンテーヌ作；佐々木孝丸訳・編「イソップおじさん」)少年少女世界の名作 24,フランス編 5,小学館,1975 年。)
(*)星新一『未来いそっぷ；ちぐはぐな部品』愛蔵版,星新一の作品集 13,新潮社,1975 年。
(*)准陰生「アイスキュロスと亀と漱石」図書 4 月号,1975 年。
(*)(参考：上野瞭「寓話の時代から物語の時代へ―イソップ・ペロー・デフォ・スウィフト・グリム・アンデルセン(児童文学読本)―(児童文学の源流と発展をさぐる)」日本児童文学 21(2),1975 年。)
(*)(参考：フィゲレド作/浅川彰三訳,赤木三郎台本,関きよし演出,安達元彦音楽『狐とぶどう：フィゲレドの戯曲とイソップの寓話から』池袋小劇場試演第 10 回,池袋小劇場,第 10 回,1975 年 6,10 月。)
(*)(参考：都田恒太郎『中国語聖書翻訳史―ロバート・モリソンとその周辺』教文館,1975 年。)
(*)林田明『スピリツアル修行の研究―影印・翻字篇』風間書房,1975 年。
(*)日本聖書協会『共同訳聖書について』日本聖書協会,1975 年。
(*)田中千里「日本人のよる最初の和訳聖書『西洋教草』--片仮名書きの英語発音表記を中心として」近畿大学教養部研究紀要 7(2),1975 年。
(*)上原袈裟美「明治初期の聖書翻訳(1~7)」(四国学院大学創立 25 周年記念論文集)四国学院大学論集 1975,1975 年/35,1976 年/39,1977 年/42,1978 年/45,47,1980 年/50,1980 年。
(*)大内三郎「植村正久の思想的基礎論―その多岐性と統一性について」日本文化研究所紀要 11,1975 年。
(*)藤田福夫「橘糸重―その伝と歌」(ケーベル)椙山学園大学研究論集 6,1975 年。
(*)石田憲次「田中秀央さんの片影」(京大以文会)以文 18,1975 年。
(*)松平千秋「田中秀央博士の逝去を悼む」西洋古典學研究 23,1975 年。
(*)(参考：松平千秋「第 6 回国際古典会議について」西洋古典學研究 23,1975 年。)
(*)私市保彦「恐怖小説としての「青ひげ」--つつしんで故高津春繁先生にささげる」武蔵大学人文学会雑誌 6(1・2),1975 年。
(*)松永希久夫・岡野昌雄編『西洋精神の源流と展開：神田盾夫博士喜寿祝賀論文集』ペデラヴィウム会,1975 年。
(*)「(吉満義彦)没後 30 周年にあたって」世紀 306,1975 年。
(*)高遠基「松村介石―日本プロテスタンティズムの鬼子」神戸女学院大学論集 22(1),1975

年。)
(*)畑実「柳田泉著『西洋文学の移入』」国文学研究 56,1975 年。
(*)岡本勲「『経国美談』の文章」論集 22(1),1975 年。
(*)いいだもも「「佳人之奇遇」について—日本アラブ文化連帯会議シンポジウムでの私の発言に即して(2)」新日本文学 3082),1975 年。
(*)鍵谷信幸『西脇順三郎』日本の詩,ほるぷ出版,1975 年。
(*)西脇順三郎『西脇順三郎 詩と詩論(1-6 巻)』筑摩書房,1975 年。
(*)太宰治『走れメロス：富嶽百景他』現代日本の名作 30,旺文社,1975 年。
(*)太宰治『富嶽百景：走れメロス：他 8 篇』岩波版ほるぷ図書館文庫,岩波書店,1975 年。
(*)(参考 : 上野瞭「寓話の時代から物語の時代へ—イソップ,ペロ,デフォ,スウィフト,グリム,アンデルセン(児童文学読本)」日本児童文学 21(2),1975 年。)
(*)衣笠梅二郎「『欧米名家詩集』とシェリー及びバイロン」(京都光華女子大学)研究紀要 13,1975 年。
(*)Mitsuo Miyanishi『Milton in Japan.1871-1971』Kinseido,1975.
(*)西平功「鎖国日本における洋学導入の経路」沖縄国際大学教養部紀要 2(2),1975 年。
(*)升本清「幕末の洋学補遺」蘭学資料研究会研究報告 293,1975 年。
(*)杉本勲「諸藩の洋学」太陽 145,1975 年。
(*)加藤文三「前野良沢(日本の思想[5])」前衛 379,1975 年。)
(*)加藤文三「蘭学の意義と「洋学論争」--「解体新書」出版 200 年にあたって」文化評論 164,1975 年。
(*)(参考：竹内均「地球を考える(12)地中海物語—その干潟の歴史をめぐって」月刊自由民主 240,1975 年。)
(*)(参考：村上良丸『トンネルの歴史(1-3)』(「古代地中海世界編」)土木工学社,1975 年。)
(*)織田武雄「アトラス(地図帖)の歴史(日本地理学会創立 50 周年記念会長講演)」地理学評論 48(9),1975 年。
(*)吉田光邦「世界への船出—新地図の作成」太陽 145,1975 年。
(*)石山洋「日本の地理教科書の変遷—幕末・明治前期をめぐって(地理学の啓蒙)」地理 20(5),1975 年。
(*)相原良一「日本地図の発達に及ぼしたイナッシオ・モレイラの影響を示す両半球世界図」横浜市立大学論叢・人文科学系列 26(3),1975 年。
(*)今井泰子「和魂洋才・和魂漢才・やまとだましひ(1,2)」文学 43(8,9),1975 年。
(*)神田喜一郎「先学を語る--羽田亨博士」東方学 50,1975 年。)
(*)中川保雄「Quackenbos の Natural Philosophy とその日本への影響」大阪府立中之島図書館紀要 11,1975 年。
(*)矢部一郎「『ショメール百科』(『厚生新編』)・『植学啓原』・『植学独語』の関連」日本医史学雑誌 21(4),1975 年。
(*)「日本医史学関雑誌 21 巻総目録(1975)」日本医史学雑誌 21(4),1975 年。
(*)「医史学関係利論文目録」日本医史学雑誌 21(4),1975 年。
(*)小川鼎三「医家先哲追薦会について」日本医史学雑誌 21(4),1975 年。
(*)(参考：内海滉編『医科用ラテン語入門』南江堂,1975 年。)
(*)(参考：宮野彬「揺れるヒポクラテスの誓言(安楽死—ヒューマニズムの虚と実,特集)」朝日ジャーナル 17(51),1975 年。)

(*)(参考：森優「糖尿病の歴史(1-5)」臨床と研究 52(1-5),1975 年。)
(*)(参考：古賀守『ワインの世界史』中公新書,中央公論社,1975 年。)
(*)(参考：ルイス・マンフォード/木原武一訳『技術・文明論』解釈と予測：アンソロジー 1922-1972, 2 河出書房新社,1975 年。)
(*)(参考：荒川泓「近代科学の成立と科学的精神」文化評論 167,1975 年。)
(*)中西啓『長崎のオランダ医』(ケンペル,シーボルト,ポンペ等)岩波新書,1975 年。
(*)D.ウィリアム・ヘンリー原著/宇田川榕庵訳著：田中実校注『舎密開宗：復刻と現代語訳・注(正・別冊)』講談社,1975 年。)
(*)原正敏「幕末および明治初期における図学教育の導入」科学史研究 115,1975 年。
(*)神田茂「和算暦学史ノート」数学史研究 64,1975 年。
(*)海野一隆「Valk 地球儀伝来の波紋」」蘭学資料研究会研究報告 298,1975 年。
(*)大森実「上野彦馬「舎密局必携」の編術に使用した参考書について」蘭学資料研究会研究報告 298,1975 年。
(*)坂口正男他著『舎密開宗研究』講談社,1975 年。
(*)(参考：パーカー夫妻/西尾忠久訳『西洋占星術：定本』みんと,1975 年。)
(*)広瀬秀雄「天文方周辺の西洋天文学書」蘭学資料研究会研究報告 300,1975 年。
(*)大森実「志筑忠雄「暦象新書」の光学とその意義」法政大学教養部紀要 21,1975 年。
(*)木村陽二郎「ドドネウス「本草書」について(雑録)」植物研究雑誌 50(3),1975 年。
(*)矢部一郎「日本博物学史—明治前」科学史研究 115,1975 年。
(*)佐々木亨「近代日本技術教育史」科学史研究 114,1975 年。
(*)藤岡薫「日本の科学技術史博物館」自然科学と博物館 42(4),1975 年。
(*)中川保雄「幕末の窮理学と明治初年の科学啓蒙思想について」(大阪府科学教育センター)物理と教育 2,1975 年。
(*)近藤基吉「明治数学史覚書(1-6)」蟻塔 21(9-11),1975 年/22(1-3),1976 年。
(*)(参考：レナード・コットレル著/矢島文夫訳『古代の不思議』新版,紀伊国屋書店,1975 年。)
(*)(参考：矢島文夫「ヨーロッパとイスラム--「イスラムの遺産」新版刊行によせて」東洋研究 41,1975 年。)
(*)(参考：伊東俊太郎・原亨吉・村田全『数学史』数学講座 18,筑摩書房,1975 年。
(*)(参考：伊東俊太郎『近代科学の源流』中央公論社,1975 年。)
(*)(参考：伊東俊太郎「〈研究例会発表要旨〉比較文明論の系譜と枠組」比較思想研究 3,1975 年。)
(*)伊東俊太郎「「世界の科学史」に向かって—比較科学史の基礎視角」思想 612,1975 年。
(*)(参考：伊東俊太郎「国際科学史会議について(第 14 回国際科学史会議)」科学史研究 第(OxF9C2)期 14(113),1975 年。)
(*)(参考：下村寅太郎『科学史の哲学』復初文庫 15,評論社 ,1975 年(←1941 年,弘文堂)。
(*)(参考：下村寅太郎「科学史のおける「歴史主義」について」科学基礎論研究 12(2),1975 年。)
(*)(参考：アンデルス・ヴェドベリ/山川偉也訳『プラトンの数理哲学』阪南大学翻訳叢書 1,法律文化社,1975 年。)
(*)(参考：杉本政繁・水野忠文「ルキアーノスの『アナカルシス』における体育論について：体育思想史的研究」(プラトン)体育學研究 20(3),1975 年。)
(*)(参考：杉本政繁「ルキアーノスの『peri orcheseos』における舞踏論の研究：体育思想史

的にみた：2.体育史に関する研究」日本体育学会大会号 26,1975 年。)
(*)(参考：鈴木良徳『オリンピックの歴史』スポーツ全集 10,ポプラ社,1975 年(→1976 年,再版)。)
(*)(参考：いいだもも『朝日の昇る家；0 時間』(「近代オリンピアードの聖き聖き火」)出帆社,路書房(発売)1975 年。)
(*)(参考：H.ホッジズ/平田寛訳『技術の誕生』平凡社,1975 年。)
(*)大淵利男「明治 5=6 年における外来経済学の翻訳と租税論」(日本大学法学研究科)法学紀要 17,1975 年。
(*)(参考：E.デュルケーム/小関藤一郎・川喜多喬訳『モンテスキューとルソー：社会学の先駆者たち』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,1975 年。)
(*)(参考：サンケイ新聞社編『総合討論 二つの自由：偽善のカゲにひそむもの』日本教文社,1975 年。)
(*)(参考：田中雄次「ヘルダーリンと「共和主義的」原理」熊本大学教養部紀要 人文科学編 10,1975 年。)
(*)(参考：藤平憲郎「ネオ・ヒューマニズムとフランス革命：ヘルダーとフンボルトの場合」Beitrage zur Germanistik：Festschrift2,1975.)
(*)山下重一「明治時代におけるスペンサーの受容(日本における西欧政治思想)」日本政治学会年報・政治学 1975 年,1976 年。
(*)福田歓一「南原先生の遺されたもの(南原繁先生追悼講演)」國家學會雑誌 88(7・8),1975 年。
(*)丸山眞男「南原先生を師として(南原繁先生追悼講演)」國家學會雑誌 88(7・8),1975 年。
(*)岡義武「小野塚先生と南原先生(南原繁先生追悼講演)」國家學會雑誌 88(7・8),1975 年。
(*)高橋潔「ギリシヤ民主主義の華やかな帰郷」世界 5 月号,1975 年。
(*)(参考：古代学協会編『古代国家の展開』西洋古代史論集 2,東京大学出版会,1975 年。)
(*)鬼塚信彦「清水広一郎著「イタリア中世都市国家研究」」史學雑誌 84(10),1975 年。
(*)(参考：平田隆一「古ローマ共和政の成立—学説批判」東北学院大学論集 5,1975 年。)
(*)(参考：吉岡昭彦編『政治権力の史的分析』(平田隆一「古ローマ共和政の成立：端緒期における政務官職とその成立年代」)御茶の水書房,1975 年。)
(*)(参考：A.G.ウッドヘッド/丹藤浩二訳『権力の本質』渓水社,1975 年。)
(*)(参考:加瀬俊一「ヒットラーが登場するまで(2)消えたスパルタクス」文藝春秋 53(6),1975 年。)
(*)(参考：Inglis David Rittenhouse/豊田利幸訳「核のトロイの馬(資本主義の将来,特集)」世界 350,1975 年。)
(*)(参考：佐々木克己「地中海商業史とフランク政治史：ピレンヌ・テーゼについての考察」一橋論叢 74(2),1975 年。)
(*)(参考：渡辺与五郎「東西交渉史研究序説—古代・中世東西通商史概要」(亜細亜大学)経済学紀要 12,1975 年。)
(*)辻野功「石川三四郎—海老名弾正との関連において」キリスト教社会問題研究 23,1975 年。
(*)「加藤新平教授略歴・著作目録(加藤[新平]教授還暦祝賀記念号)」法学論叢 96(4・5・6),1975 年。)
(*)香西茂「幕末開国期における国際法の導入」(京都大学法学会)法学論叢 97(6),1975 年。

(*)前田正治「〈論説〉「権理」と「権利」覚え書」法と政治 25(3/4),1975 年。
(*)(参考：佐藤篤士『古代ローマ法の研究』敬文堂出版部,1975 年。)
(*)(参考：戸倉廣し『ローマ法の歴史的考察』専修大学,法学博士,乙第 1 号,1975 年。)
(*)渡辺洋三「戒能[通孝]先生の思い出」法社会学 28,1975 年。
(*)唄孝一「戒能通孝博士を偲ぶ」法律時報 47(6),1975 年。
(*)「戒能通孝博士略年表・著作文献目録(戒能博士の学問と業績〈特集〉)」法律時報 47(9),1975 年。
(*)島田信義「戒能通孝先生の想い出(同上)」法律時報 47(9),1975 年。
(*)若月俊一「戒能通孝先生を憶う(同上)」法律時報 47(9),1975 年。
(*)入交好脩「「平沼淑郎博士伝補遺—拙編「平沼淑郎博士年譜」を中心として(商学部史 3)」早稲田商学 249,1975 年。
(*)(参考:戸倉広「ビザンチン法小史—ビザンチン帝国におけるローマ法」国士舘法学 7,1975 年。)
(*)(参考：平田公夫「後期イェーリングにおける法と社会変動(1,2)—イェーリング研究の最近の一動向」法学論叢 97(1,2),1975 年。)
(*)(参考：勝田有恒「ウールリッヒ・ツァジウスの「人文主義的」法律学について」一橋大学研究年報,人文科学研究 15,1975 年。)

(*)(参考：内田弘「学問論としてのマルクス研究」経済評論 25(14),1976 年。)
(*)川崎真治『天皇家の日本語』読売新聞社,1976 年。
(*)川崎真治『日本語の起源を探る』読売新聞社,1976 年。
(*)川崎真治『古代稲作知婦負の起源』新人物往来社,1976 年。
(*)吾郷清彦『ウエツフミ全訳全五巻：附録・附篇』霞ヶ関書房,1976 年。
(*)吾郷清彦『日本超古代秘史資料』新人物往来社,1976 年。
(*)(参考：佐藤克己『文明史の転換(上)』多賀出版,1976 年。)
(*)(参考：酒井伝六『ピラミッド 99 の謎：世界文明の源泉を推理する』サンポウブックス 105,産報,1976 年。)
(*)井上宗和『地中海紀行：クイーンエリザベス II の旅』駸々堂ユコンカラー双書 24,駸々堂出版,1976 年。)
(*)井上宗和『船とワインと地中海と：クイーンエリザベス 2 世号乗船記』TBS ブリタニカ,1976 年。)
(*)本城靖久『タダでも行けるヨーロッパ : 若者のためのナウなガイド』コロン・ブックス,三修社,1976 年。
(*)田中隆尚『へらす巡歴：南の巻』乙骨書店,1976 年。
(*)藤井昇「オリーブのこと」(慶応出版社)三色旗327,1976年。
(*)『ギリシャ・エーゲ海』海外ガイド21,日本交通公社出版事業局,1976年。
(*)村田数之亮『私のギリシア』新潮選書,新潮社,1976年。
(*)有島生馬『思い出の我』(ローマ)中央公論新社出版,1976年。
(*)小宮豊隆「伊太利日記(21,22,23)(遺稿)」心29(8,10,11),1976年。
(*)安藤元雄「伊太利亜珊瑚珠の美(永井荷風—象徴と憧憬,特集)」現代詩手帖19(4),1976年。
(*)天理図書館編『遣欧使節対話録』天理図書館蔵きりしたん版集成8,1976年。
(*)草川スゲル「エーゲ文明考」東京都立鷺宮高校紀要8,1976年。

(*)(参考：蔀勇造「『エリュトゥラー海案内記』の成立年代について：古代南アラビア碑文を史料としての位置考察」史學雜誌 85(1),1976 年。)
(*)(参考：平山郁夫「古代ペルシア—文明の十字路を行く(古代美術館[17])」芸術新潮27(2),1976年。)
(*)(参考：村川堅太郎「ポンペイ—異教文化の楽天地(古代美術館[18])」芸術新潮27(3),1976年。)
(*)(参考:柳宗玄「古代ヨーロッパ—暗い森の幻想(古代美術館[21])」芸術新潮27(6),1976年。)
(*)(参考：塩野七生「古代ローマ—ティベリウス帝の肖像(古代美術館[23])」芸術新潮27(8),1976年。)
(*)野崎操一「唐招提寺とパルテノン」芸術新潮27(8),1976年。
(*)(参考:P.ネメシュギ「〈ソフィアという理念〉西洋文化の底流」ソフィア25(4),1976年。)
(*)(参考：T.インモース「〈ソフィアという理念〉思想史的源泉」ソフィア25(4),1976年。)
(*)(参考：レスピーギ『ローマ三部作(交響詩)：「ローマの泉」「ローマの松」「ローマの祭」』Columbia,名曲ギャラリー62,1976年。)
(*)(参考：ヴィンケルマン/澤柳大五郎訳『ギリシア美術模倣論』座右宝刊行会,1976年。)
(*)(参考：澤柳大五郎「ゲーテとギリシア美術」ゲーテ年鑑18,1976年。)
(*)(参考：前田和美「ゲーテと旅人(Wandre)—試論」外国語科研究紀要24(1),1976年。)
(*)(参考:木下康光「イタリアにおけるゲーテの再生劇についての一臆測—シチリア体験を中心に」近畿大学教養部研究紀要7(特集 独語・独文学・仏語・仏文学篇),1976年。)
(*)(参考：大川浩「ロレンスの「聖書」探求紀行：「イタリアの薄明」論」論集5,1976年。)
(*)(参考:C.H.ゴールドン/高橋正男訳『ウガリト文学と古代世界』日本基督教団出版局,1976年。)
(*)小久保実「三島由紀夫におけるギリシア(三島由紀夫とデカダンス〈特集〉)—(三島文学とヨーロッパ)」国文学 解釈と鑑賞 41(2),1976 年。
(*)渡部芳紀「太陽の発見—ギリシャ体験と「潮騒」(三島由紀夫の遺したもの—小説家の誕生から終焉まで,特集)—(「禁色」前後(昭和25-28年))」国文学 解釈と教材の研究21(16),1976年。)
(*)(参考：金井美恵子『アカシア騎士団』(「アルカディア探し」「ペネロペーの機織り」)新潮社,1976年。)
(*)(参考：竹内啓一「地中海という言葉についての一考察」一橋論叢76(6),1976年。)
(*)(参考：馬場恵二「ミノア文明崩壊に関する「自然災害説」の再検討—アクロティリ遺跡およびザクロス宮殿の発掘をめぐって」駿台史学 38,1976 年。)
(*)(参考：竹内均「地球を考える(13)アトランティス大陸の謎」月刊自由民主 241,1976 年。)
(*)(参考：アンドルー・トマス/青木榮一訳『幻のアトランティス伝説』二見書房,サラブックス,1976 年。)
(*)(参考:レザーノフ/金光不二夫訳『消えた大陸:甦るアトランティスの謎』東京図書,1976年。)
(*)(参考：クルト・マール,K.H.シェール/松谷健二訳『アトランティス要塞』宇宙英雄ローダン・シリーズ,ハヤカワ文庫,早川書房,1976 年。)
(*)(参考:C.H.Waddington/野島徳吉訳「ニュー・アトランティス再訪—ベーコンへの回帰(バナール記念講演 1975 年)」思想 628,1976 年。)

(*)(参考：シュリーマン/村田数之亮訳『古代への情熱：シュリーマン自伝』改訳・岩波文庫,岩波書店,1975 年。)
(*)(参考：J.J.ディス/穴沢咏光訳『ヘルクラネウム：よみがえった古代ローマ都市』学生社,1976 年。)
(*)(参考：読売新聞社『大ポンペイ展：栄光の遺跡』,1976 年。)
(*)(参考：中山公男編『初期キリスト教美術・ビザンチン・初期中世・ロマネスク・ゴシック・イタリア—ルネサンス』世界の美術,旺文社,1976 年。)
(*)渡辺守章「バイロイト紀行—神話と音楽と演劇と」海 8(11),1976 年。)
(*)(参考：牟田口義郎『地中海のほとり』朝日選書 67,朝日新聞社,1976 年。)
(*)(参考：松田寿男「西地中海のイスラム文化(石田幹之助博士追悼号)」國學院雑誌 77(3),1976 年。)
(*)那谷敏郎『紀行 ビザンチン史』新潮選書,新潮社,1976 年。)
(*)那谷敏郎『ビザンチンの光芒：聖域行』平凡社カラー新書 40,平凡社,1976 年。
(*)(参考：笹間一夫「ブルーノ・アウトの跡を尋ねて--イスタンブール」建築界 25(6),1976 年。)
(*)(参考：辻成史『イデアの宿り：古典古代美術からビザンティン美術へ』新潮社,1976 年。)
(*)(参考：高橋栄一解説・座右宝刊行会編『ローマ：エトルリア・ローマ』小学館,世界彫刻美術全集,1976 年。)
(*)(参考：旺文社,友部直『原始・エジプト・メソポタミア・エーゲ・ギリシア・エトルリア・ローマ・古代マヤ(マヤ・インカ)』旺文社,1976 年。)
(*)(参考：共立女子大学文学芸術研究所編『古代キプロス・クレタ展目録：先史美術を中心として』共立女子大学文学芸術研究所,1976 年。)
(*)井上靖文・平山郁夫画『アレキサンダーの道：アジア古代遺跡の旅』文藝春秋,1976 年(→1986 年,文集文庫版。→1991 年,平山郁夫著作集 7,講談社)。
(*)平山郁夫・鈴木進「壮大なテーマとロマン—平山郁夫展によせて(平山郁夫—シルクロード—幻想と現実の旅)」三彩 344,1976 年。
(*)吉村貞司「地球の素肌にふれた男—平山郁夫「シルクロード」展」三彩 345,1976 年。
(*)杉山二郎「平山郁夫のシルクロード(秘蔵[46])」芸術新潮 27(6),1976 年。
(*)(参考：川崎淳之助「チムール—シルクロードの王者(6)ルネッサンスの運命観」朝日ジャーナル 19(33),1976 年。)
(*)(参考：川崎淳之助「チムール—シルクロードの王者(7)ボスポラス海峡」朝日ジャーナル 19(34),1976 年。)
(*)大槻玄沢著/石井研堂校訂『環海異聞』叢文社,1976 年。
(*)尾原悟「「外なるもの」への意識—蘭学成立期における日本人の海外知識の系譜」ソフィア 25(1),1976 年。
(*)(参考：C.H.ゴードン/柴山栄訳『聖書以前—ギリシャ・ヘブライ文明の背景』みすず書房,1976 年。)
(*)(参考：石黒孝次郎『先史時代より紀元 6 世紀に至る中近東・地中海域出土の美術考古資料』古く美しきもの：石黒夫妻コレクション 1 部,三日月,求龍堂(制作),1976 年。)
(*)水田徹「資料 本邦所在ギリシア・；ローマの陶器(2,4,5)」（東海大学文明研究所）バルカン・小アジア研究 2,1976 年/4,1977 年/5,1978 年。

(*)水田徹「資料 本邦所在ギリシア・；ローマの陶器(3,6)」東京学芸大学紀要・第 2 部門 27,1976 年/29,1978 年。
(*)(参考：平山郁夫「古代ペルシア—文明の十字路を行く(古代美術館[17])」」芸術新潮 27(2),1976 年。)
(*)(参考 : 村川堅太郎「ポンペイ—異教文化の楽天地(古代美術館[18])」」芸術新潮 27(3),1976 年。)
(*)(参考：柳宗玄「古代ヨーロッパ—暗い森の幻想(古代美術館[21])」」芸術新潮 27(6),1976 年。)
(*)(参考：塩野七生「古代ローマ—ティベリウス帝の肖像(古代美術館[23])」」芸術新潮 27(8),1976 年。)
(*)(参考：ピエール・ユニアン編/長塚隆二訳『ルーブル美術館』Editions des musées nationaux,1976年。)
(*)(参考：三浦一郎・秀村欣二・高橋正男共著：秀村欣二編『美の世界の女たち』評論社, 世界の女性史3,1976年。)
(*)(参考：中江彬「「システィーナ礼拝堂天上画」の《巫女》について」大阪府立大学紀要, 人文・社会科学24,1976年。)
(*)(参考：オスヴァルト・シュペングラー/村松正俊訳『西洋の没落』縮刷版,五月書房,1976 年。)
(*)(参考：阿部志郎「アーノルド・トインビーのプロフィルと業績(人と業績[2])」月刊福祉 59(11),1976年。)
(*)(参考：アーノルド・トインビー/桑原武夫他訳『図説歴史の研究(1-3)』学習研究社,1976 年。)
(*)(参考：山本新編『トインビーの歴史観』レグルス文庫 68,第三文明社,1976 年。)
(*)(参考：山本新『わかりやすいトインビー』経済往来社,1976 年。)
(*)(参考 : J.フォークト/小西嘉志郎訳『世界史の課題：ランケからトインビーまで』新訂版, 勁草書房,1976年。)
(*)(参考 : 伊東俊太郎他編『西ヨーロッパと日本人』講座・比較文化3,研究社出版,1976年。)
(*)(参考 : 伊東俊太郎「〈研究例会発表要旨〉比較文明論の系譜と枠組」比較思想研究3,1976 年。)
(*)宮崎市定「先学を語る(2)羽田亨博士(含 羽田博士年譜)」東方学51,1976年。
(*)(参考：宮崎市定「東と西との交錯(1-6)」展望214,216,1976年/217-219,1977年。)
(*)(参考 : 海老澤有道「景教伝来説」(1960年)(同『地方切支丹の発掘』所収,柏書房,1976年。)
(*)阿部洋著・小林文男主査『「対支文化事業」の研究：近代日中学術文化交流史の一断面』所内資料調査研究部50-8,アジア経済研究所,1976年。)
(*)(参考 : 柴田光蔵『ローマ法ラテン語用語辞典』玄文社,1976 年(→1984 年,補訂版。→1980 年,増補版)。
(*)(参考：立川清『医語語源大辞典』国書刊行会,1976年。)
(*)(参考：竹之内安巳『漢日欧対照世界人名辞典』鹿児島短期大学南日本文化研究所,南日本文化研究所研究叢書 2,1976 年。)
(*)井田好治「吉雄永保編『蘭英漢三国対訳辞典』存在の可能性について(第 18 回大会発表要旨)」蘭学資料研究会研究報告 309,1976 年。
(*)惣郷正明「洋学関係辞書の発展略史」日本古書通信 41(2),1976 年。

(*)(参考：『世界人名辞典』日東書院,1976年。)
(*)長谷川泉・武田勝彦編『三島由起夫事典』明治書院,1976年。
(*)(参考 : 石井柏亭・黒田鵬心・結城素明編『美術辞典』歴史図書社,1976年(→1978年,21版。→1981年,24版。→1983年,26版。→1998年,32版。)
(*)(参考 : 矢島文夫『失われた古代文字99の謎 : いま甦る太古からのメッセージ』産報,1976年。)
(*)(参考：高津春繁『基礎ギリシア語文法：文法篇・読本篇』9版,北星堂,1976年。)
(*)(参考：金丸継夫『言葉は化石：アイヌ語とラテン語は親戚』金丸継夫,1976年。)
(*)橋本万平「物理学術語和英仏独対訳字書」科学史研究119,1976年。
(*)杉本つとむ「らんやくせんてい(lanyakusentei)」の考察」武蔵野女子大学紀要11,1976年。
(*)佐藤亨「「和蘭字彙」の訳語—医学用語を中心に」岩手医科大学教養部研究年報11,1976年。
(*)江沢哲也「「薩摩辞書」の熟語」昭和大学教養部紀要7,1976年。
(*)(参考：ゲルハルト・ヘルム/関楠生訳『フェニキア人』河出書房,1976年。)
(*)(参考：C.H.ゴールドン/高橋正男訳『ウガリット文字と古代世界』日本基督教団出版局,1976年。)
(*)太田秀通「C.H.ゴールドン著高橋正男訳『ウガリット文字と古代世界』(日本基督教団出版局)」史學雑誌85(9),1976年。
(*)(参考：森谷宇一「読むことの発達とギリシア悲劇」岩波講座「文学」4,1976年。)
(*)(参考 : 逸身喜一郎「ギルシア悲劇の詩句分析と電子計算機」西洋古典學研究24,1976年。)
(*)関根正雄「言語学・文献学・社会学」言語学論叢15(最終刊),1976年。
(*)(参考：泉井久之助『言語研究とフンボルト：思想・実践・言語』弘文堂,1976年。)
(*)(参考：藤井昇「ラテン語彙ノート(1-3)教授法の立場から」慶應義塾大学言語文化研究所紀要8,1976年/9,1977年/12,1980年)。)
(*)(参考：湯井壮四郎「ラテン語とイタリック語派」フェリス女学院大学紀要11,1976年。)
(*)(参考：松岡洸司「アルパレス ラテン文法書における日本語研究」上智大学国文学論集9,1976年。)
(*)(参考：細井敦子・片山英男「Index locorum to JH.D.Denniston：Greek Prose Style」成蹊大学一般研究報告12,1976年。)
(*)(参考 : ヴァルトブルク/田島・高塚・小方・矢島訳『フランス語の進化と構造』白水社,1976年。)
(*)川崎真治『日本語の起源を探る』讀賣新聞社,1976年。
(*)川崎真治『天皇家の日本語』新人物往来社,1976年。
(*)川崎真治『古代稲作地名の起源』新人物往来社,1976年。
(*)杉本つとむ『改訂版・日本語再発見』現代教養文庫,社会思想社,1976年。
(*)杉本つとむ『江戸時代蘭語学の成立とその展開(1-5)』早稲田大学出版部,1976-1982年。
1.長崎通詞による蘭語学習とその研究
2.蘭学者による蘭語学習とその研究
3.対訳語彙集および辞典の研究
4.蘭語研究における人的要素に関する研究
5.翻訳の方法に関する研究・資料・総索引
(*)原田二郎「鎖国時代から明治維新前後にかけての日本の英学事情概説」名城商学 24(別

冊),1976 年。
(*)外山敏雄「英語教育史の時代区分—日本英語教育史研究序説」札幌大学外国語学部紀要・文化と言語9(2),1976年。
(*)柳父章『翻訳とは何か：日本語と翻訳文化』法政大学出版局,1976年(→1985年,教養選書53。→2001年,新装版。→2003年,新装版)。)
(*)鈴木英夫「明治前期文語文の語法--「経国美談」の異同を中心に」国語と国文学 53(2),1976年。
(*)『九鬼周造文庫目録』甲南大学哲学研究室,1976年。
(*)宮谷宣史「日本におけるアウグスティヌス文献 : 松村克己博士への感謝として」(関西学院大学)神学研究24,1976年。
(*)「松村克己教授略年譜・研究業績一覧表」(関西学院大学)神学研究24,1976年。
(*)三橋猛雄編『明治前期思想史文献』明治堂書店,1976年。
(*)高木敏雄著・卯野木盈二編『高木敏雄初期論文集』高木敏雄顕彰会,1976年。
(*)(参考：布村一夫「近代神話学の樹立と集成(上下)[チョウ]然が献上した「王年代記」(高木敏雄生誕100年記念)」歴史評論318,319,1976年。)
(*)矢島道弘「田中英光・初期の問題—全集未収録小品をめぐって,「オリンポスの果実」まで」国文学：解釈と教材の研究21(13),1976年。
(*)(参考：ミルチャ・エリアーデ他/幸日出男編訳『宗教学とは何か』ルガール社,1976 年。)
(*)(参考：古賀武麿「象徴と歴史(3)エリアーデにおける超歴史の弁証法」哲学論集22,1976年。)
(*)(参考：古賀武麿「宗教研究における方法論的課題の一視点—M.エリアーデの比較宗教類型論を問題として」比較思想研究3,1976年。)
(*)(参考：西条好恒「暗き神—神話学者カール・ケレーニィ研究序説」立正大学哲学・心理学会紀要5,1976年。)
(*)(参考：西垣千明「W.ペイターとM.アーノルドの作品にみるアミニズム的考察」(玉川大学文学部)論叢17,1976年。)
(*)(参考：加藤孝「マシューアーノルドの宗教論」東北大学文学部研究紀要26,1976年。)
(*)川村二郎「柳田国男とハイネ(井上正蔵教授記念論文集)」人文学報116,1976年。
(*)(参考：前田護郎「言語と宗教との諸関係」言語研究1976(70),1976年。)
(*)(参考：木村毅・相田隆太郎『世界宗教十六講』新潮社,1976 年。)
(*)(参考：G.S.カーク/内堀基光訳『神話—その意味と機能』社会思想社,1976 年。)
(*)(参考：山形孝夫『レバノンの白い山：古代地中海の神々』未来社,1976 年。)
(*)(参考：串田孫一『ギリシア神話』雪華社,1976年。)
(*)(参考：呉茂一文・佐藤和男え『ギリシア神話』玉川こども図書館,玉川大学出版部,1976年。)
(*)(参考：奥村尚子「ギリシャ神話と女たち：ギリシャ造形史にあらわれた輻輳にみる」杉野女子大学紀要13,1976年。)
(*)(参考：渡辺浩「英雄の時代から暗黒の時代へ：ギリシャOR列伝(1)」オペレーションズ・リサーチ：経営の科学21(1),1976年。)
(*)(参考：渡辺浩「アテナイ都市システムの創始者?テセウス：ギリシャOR列伝(2)」オペレーションズ・リサーチ：経営の科学21(2),1976年。)
(*)(参考：渡辺浩「策謀に富むオデュッセウス：ギリシャOR列伝(3)」オペレーションズ・

リサーチ：経営の科学21(3),1976年。)
(*)(参考：沓掛良彦「エジプトにおけるヘレネー」エポス1(創刊号),1976年。)
(*)(参考：澁澤龍彦「ヴィーナス—処女にして娼婦(古代美術館[14])」芸術新潮26(11),1976年。)
(*)(参考：平川泰司「「妖精の女王」におけるウェヌスとアドーニス」京都府立大学学術報告,人文28,1976年。)
(*)吉田敦彦「日の子の神—印欧神話と日本神話」言語1月号,1976年。)
(*)岡田隆彦「エロスと擬似神話(大正のグラフィズム,特集)」美術手帖406,1976年。)
(*)(参考：松本仁助「「オデュッシア」1歌—13歌における神々の怒り—ゼウス,アテネ,ポセイドン,ヘリオスについて(上下)」同志社外国文学研究15,1976年/16,1976年。)
(*)(参考：金松賢諒『プラトンの神学と宇宙論』法蔵館,1976年(→1984年,再版)。)
(*)(参考：久野佐都美「ペイターのギリシャ神話研究について([愛知大学]開学30周年記念特輯)」愛知大学文學論叢(56・57),1976年。)
(*)(参考：石垣堅二「キーツの神話的象徴--「美は真なり,真は美なり」」近畿大学教養部研究紀要(特集,英語・英米文学篇7,1976年。)
(*)(参考：小磯仁「ヘルダーリンにおける神々への詩の道」山梨大学教育学部研究報告 第1分冊,人文社会科学系27,1976年。)
(*)(参考：木村行宏「ヘルダーリンの頌歌「運命の女神たちへ」--その理解のための一つの試み([日本大学三島学園]開設30周年紀年号)」日本大学文理学部(三島)研究年報 人文社会科学編25,1976年。)
(*)(参考：工藤喜作「ヘルダーの「神」について」人文学研究所報10,1976年。)
(*)(参考：平川祐弘『ジョットのイエス伝：パードヴァの壁画』限定版,新教出版社,1976年。)
(*)(参考：ウォルター・M.アボット他/稲垣良典訳『旧約聖書の基礎知識』春秋社,1976年。)
(*)(参考：前田護郎「旧新約関係論の書問題」(聖書愛読社)聖書愛読8,10月号,1976年。)
(*)(参考：関根正雄・木下順治編『聖書』古典世界文学5,筑摩書房,1976年。)
(*)(参考：高柳俊一「聖書という本(1-18)聖書を理解するために」世紀314-319,1976年/320-331,1977年。)
(*)(参考：川村輝典田訳『新約外典』(聖書外典偽典6-7巻)日本聖書学研究所編,1976年。)
(*)(参考：土屋博「ルカ福音書における「聖書」」北海道大学文学部紀要25(1),1976年。)
(*)(参考：土戸清「ヨハネ福音書の研究方法と翻訳の問題」東北学院大学論集 教会と神学7,1976年。)
(*)(参考：佐々木益男『燃える御霊』使徒行伝講解(上),基督教文書伝道会,1976年。)
(*)(参考：佐々木益男『使徒行伝講解』(下?)基督教文書伝道会,1976年。)
(*)(参考：山本泰次郎『使徒行伝』山本泰次郎聖書講義双書6,キリスト教図書出版社,1976年。)
(*)(参考：蛭沼寿雄・秀村欣二編『原典新約時代史—ギリシア・ローマ・ユダヤ・エジプトの史料による』山本書店,1976年。)
(*)(参考：G.クヴェル,E.シュタウファー/川村輝典訳『愛』(「キッテル新約聖書神学事典」所収,教文館,1976年。)
(*)(参考：高柳俊一「A.グリルマイヤー著「キリスト教伝統のなかのキリスト—使徒時代からカルケドン(451年)へ(Alois Grillmeier,Christ in Christian Tradition,

vol.1[revised Editon]—From the Apostlic Age to Chalcedon(A.D.451),A,グリルマイヤー著「彼とともに彼のうちに—キリスト論的研究と見通し」(Alois Grillmeier,Mit ihm und ihn—Cristologische Forschungen und Perspectiven ,1975)」カトリック研究30,1976年。)
(*)(参考：P.ミルワード「〈書評〉新しいキリスト伝/Malcolm Muggerridge：Jesus：The Man Who Lives」ソフィア25(1),1976年。)
(*)(参考:A.M.ハンター/岡田五作訳『史的イエスと福音書』教文館,聖書の研究シリーズ,1976年。)
(*)(参考：Stegemann Hartmult/坪井一[訳解説注解]「死海近傍で発掘されたクムラン文書の意義」図書館学研究報告9,1976年。)
(*)(参考：松本宣郎「キリスト教大迫害(303-313)研究：史料と年代決定に関する研究動向から」史學雜誌 85(2),1976 年。)
(*)(参考：延藤十九雄「マルクス・アウレリウス帝治下のキリスト教徒迫害—迫害激化の原因についての一考察」関学西洋史論集 6,1976 年。)
(*)(参考：米田利浩「古代末期試論--《古代末期史》研究の動向と課題」(北海道教育大学)史流17,1976年。)
(*)(参考：辻邦生「炎の形--〈背教者ユリアヌス〉の装幀について(宮脇愛子—透明狂気〈特集〉」SD139,1976年。)
(*)(参考：中井寿美「アレクサンドリアのフィロンにおける観想と行為(松村克己教授退任記念号)」(関西学院大学)神学研究4,1976年。)
(*)(参考：Sasagu Arai“Das Gleichnis vom verlorenen Schaf—Eine traditionsgeschichtliche Untersuchung”,(Annal of Japanese Bibliical Instiute,vol.2,Yamamotoshoten,Tokyo,1976.)
(*)(参考：武内裕『日本のキリスト伝説：イエス日本渡来説を実証する』ムーブックス,大陸書房,1976年。)
(*)遠藤周作・井上洋治・山元七平「切支丹・殉教・日本人」中央公論 91(12),1976 年。
(*)遠藤周作『私のイエス：日本人のための聖書入門』ノン・ブック 100,祥伝社,小学館(発売),1976 年。)
(*)南部全司「遠藤周作とフランソワ・モーリヤック--「海と毒薬」における「海」の原型をめぐって」仏語仏文学研究8,1976年。
(*)(参考：G.コーエン/山川偉也訳『二次元的人間』法律文化社,1976年。)
(*)H.チーリスク他解説『サントスの御作業』キリシタン資料集成,勉誠社,1976年。
(*)『伊曽保物語：天草版』[大英博物館所蔵本,1593年天草版「伊曽保物語」および「言葉のやわらげ」の複製合本],勉誠社文庫3,勉誠社,1976年。
(*)福島邦道解説『伊曽保物語：天草版(天草版イソポ物語)—大英図書館本影印』勉誠社文庫 3,勉誠社,1976 年(→1998 年,10 版)。
(*)中川芳雄解題『伊曽保物語：古活字版』[国立国会図書館蔵本の複製]勉誠社文庫 13,勉誠社,1976 年。
(*)大蔵虎明『わらんべ草』(イソップ。『大蔵家伝之書古本能狂言』所収,臨川書店,1976 年。)
(*)『うかればなし』(イソップ。武藤禎夫編『未刊軽口咄本集(上)』所収,近世文芸資料 14,古典文庫,1976 年。)
(*)イソップ作/八波則吉文;黒崎義介繪『イソップ繪話』復刻版,講談社の繪本 16,講談社,1976

年。
(*)市川又彦訳注『全訳イソップ物語』南雲堂=英和対訳学生文庫,NEW65,66,南雲堂,1976 年。
(*)菊池侃著；川上澄生[版画]『イソップものがたり』限定版,吾八,1976 年。
(*)庄野潤三『イソップとひよどり』冬樹社,1976 年。
(*)塚本邦雄詞；萩原英雄繪『繪詞夷蘇府譚』限定版,文化出版局,1976 年。
(*)(參考：平川祐弘[講演][斎藤慶編集]「イソップ物語」の文化受容・日仏英露米」日本文化会議,1976 年(日本文化会議月例懇談会収録集 89),1976 年。
(*)菅野陽「司馬江漢と伊曽保物語」蘭学資料研究会研究報告 308,1976 年。
(*)秋沢健「伊曽保雑考(枝村吉三教授退職記念号)」(宇都宮大学外国文学研究会)外国文学 24,1976 年。
(*)荒木繁他編注『幸若舞(1-3)』東洋文庫,平凡社,1976-1983 年。
(*)庵逧巖『幸若舞曲「毛利本」の成立』芸能発行所,1976 年。
(*)広島女子大学国語国文研究室編『幸若舞曲研究』国語国文資料集 1-2,渓水社,1976 年。
(*)松本隆信「中世における本地物の研究(3)」(甲賀三郎)斯道文庫論集 13,1976 年。
(*)木々康子「「西洋」の衝撃と日本の近代」ちくま 86,1976 年。
(*)山口宗之『幕末維新期の思想』山川出版社,1976 年。
(*)福井久蔵『諸大名の学術と文芸の研究(上下)』[復刊]原書房,1976 年。
(*)影山昇『日本近代教育の遺産—洋学受容と地域教育の展開』第一法規出版,1976 年。
(*)朝倉治彦『藩校の蔵書』日本古書通信社,1976 年。
(*)小田信士「徳川経世論特に蘭学思想とキリスト教の接触(上中下)」生活学園短期大学紀要 1,2,3,1976-78 年。
(*)吉田忠「蘭学管見(1,2)」知の考古学 10,1976 年/11,1977 年。
(*)杉捷夫「黎明期のフランス学」心 29(4),1976 年。
(*)大久保利謙『日本近代史学事始』宗高書房,1976 年。
(*)水岡不二雄「日本文化からみた地理学発達の歴史(特集 日本の思想と文化)」日本の科学者 11(10),1976 年。
(*)海野一隆「高橋景保の見たアロースミス図(第 18 回大学発表要旨)」蘭学資料研究会研究報告 309,1976 年。
(*)石原謙『キリスト教と日本 回顧と展望』日本基督教団出版局,1976 年(→1979 年,同『回想・評伝・小論』(ケーベル,石原謙著作集 11 巻)岩波書店)。
(*)(參考：井上洋治『日本とイエスの顔』北洋社,1976 年(→1978 年,北洋選書。→1981 年,講談社。→1990 年,日本基督教団出版局)。)
(*)宮谷宣史「日本におけるアウグスティヌス文献：松村克己博士への感謝として」(関西学院大学)神學研究 24,1976 年。
(*)(參考：ギュツラフ訳『約翰上中下書』新教出版社,1976 年。
(*)(參考：ギュツラフ訳『約翰上福音之傳』新教出版社,1976 年。
(*)高谷道男・秋山憲兄解説『約翰福音之伝約翰上中下書解説』新教出版社,1976 年。
(*)秋山憲兄「ギュツラフ訳『約翰福音之伝』原典探求」新教 22,1976 年。
(*)海老澤有道「聖書和訳史補遺」聖書翻訳研究 12,1976 年。
(*)海老澤有道『地方切支丹の発掘』柏書房,1976 年。
(*)鈴木英夫「明治前期文語文の語法」国語と国文学 2 月号,1976 年。
(*)嶋田啓一郎「賀川豊彦とその時代」季刊・社会保障研究 12(1),1976 年。

(*)広沢隆之「姉崎正治」宗教学年報 21,1976 年。
(*)高祖敏明「明治初期翻訳教科書に関する一考察—青木輔清篇「小学教諭民家童蒙解」の原書をめぐって」上智大学教育学論集 11,1976 年。
(*)渡辺和靖「桑木厳翼の思想形成—明治後期の思想的課題」愛知教育大学研究報告 人文科学・社会科学 25,1976 年。
(*)定平元四良「山路愛山研究(1-2)」関西学院大学社会学部紀要 33,1976 年//34,1977 年。
(*)七沢謙治「加藤玄智」宗教学年報 21,1976 年。
(*)「稲富栄次郎先生著作目録(単行本)・略歴(稲富栄次郎先生追悼号)上智大学教育学・心理学論集 10,1976 年。
(*)稲富栄次郎「遺稿(同上)」上智大学教育学・心理学論集 10,1976 年。
(*)尾形利雄「追悼のことば(同上)」上智大学教育学・心理学論集 10,1976 年。
(*)長谷川亀太郎「追悼のことば(稲富栄次郎博士追悼号)」教育哲学研究 33,1976 年。
(*)「故稲富栄次郎博士略歴・著作目録(同上)」教育哲学研究 33,1976 年。
(*)稲富栄次郎「ロゴスこと(遺稿)」教育哲学研究 33,1976 年。
(*)金田民夫「明治美学史年表」人文科学 8,1976 年。
(*)金田民夫「明治期における日本美学の基礎」人文科学 8,1976 年。
(*)金田民夫編「明治美学史年表」人文科学 2(4),1976 年。
(*)金田民夫「明治期における日本美学の基礎」人文科学 2(4),1976 年。
(*)(参考：亀井高孝・三上次男他編『世界史地図』新版,増訂,吉川弘文館,1976 年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男他編『標準世界史年表』13 増訂,吉川弘文館,1976 年。)
(*)(参考：チャルズ・F.ファイファー/森勝・棚瀬多喜雄訳『聖書地理』聖書図書刊行会,いのちのことば社(発売),1976 年。)
(*)(参考：三上次男・大野真弓・秀村欣二『世界史研究：指導書』新版,中教出版,1976年(→1979年,改訂新版)。)
(*)(参考：村川堅太郎・江上波夫・林健太郎『詳説世界史』改訂版,山川出版社,1976年。)
(*)柳沼重剛「秀村欣二・久保正彰・荒井献編『古典古代における伝承と伝記』岩波書店」西洋古典學研究24,1976年。)
(*)(参考：平田隆一「エトルスキのeteraならびにlautneteri」東北学院大学論集 歴史学・地理6,1976年。)
(*)(参考：渡辺浩「コリントスの僭主ペリアンドロス：ギリシャOR列伝(8)」オペレーションズ・リサーチ：経営の科学21(9),1976年。)
(*)(参考：松平千秋訳『ヘロドトス』古典世界文学10,筑摩書房,1976年。)
(*)(参考：プルタルコス著/村川堅太郎訳者代表『プルタルコス』古典世界文学22,筑摩書房,1976年。)
(*)(参考：藤縄謙三「ヘロドロス評価の変遷」西洋史学 103,1976 年。)
(*)(参考：向山宏「ヘロドロスとアルクメオニダイ」美作女子大学美作短期大学研究紀要 21,1976 年。)
(*)(参考：東千尋「Politica1254a14-17 および 21-24 をめぐって—アリストテレスの奴隷制観(哲学特輯号)」國學院雑誌 77(11),1976 年。)
(*)(参考：柳沼重剛「シシリー島のニキアス：プルタルコスの伝記記述の方法について,とくにトゥキュディデスとの対比において」文藝言語研究,言藝篇 1,1976 年。)

(*)(参考：井上一「古代マケドニア王国成立史研究の近況—Ancient Macedonia,Papers read at the first International Symposium held in Thessaloniki(26-29 Aug. 1968)」横浜市立大学論叢 27(2),1976 年。)
(*)(参考 : 太田秀通「エウリピデスの奴隷観--「アレクサンドロス」復元の問題との関連で(北島正元教授記念論文集)」人文学報 114,1976 年。)
(*)(参考：弓削達「ローマ皇帝観の形成(史学会第 73 回大会シンポジウム報告—その正当性理念と機能)」史學雑誌 85(3),1976 年。)
(*)(参考 : 大牟田章『アレクサンドロス大王 :「世界」をめざした巨大な情念』Cetury books,人と歴史シリーズ・西洋 2,清水書院,1976 年(→1984 年,清水新書版)。)
(*)(参考：村田数之亮「〈書評〉原随園著『アレクサンドロス大王の父』」史林 59(1),1976 年。)
(*)(参考：ギボン著/中野好夫訳『ローマ帝国衰亡史(1-11・別冊)』岩波文庫,岩波書店,1976 年。)
(*)(参考：毛利晶「ローマ帝政成立期のガリア社会」西洋史学 102,1976 年。)
(*)塩野七生「古代ローマ—ティベリウス帝の肖像(古代美術館[23])」芸術新潮 27(8),1976 年。)
(*)(参考：延藤十九雄「マルクス・アウレリウス帝治下のキリスト教徒迫害：迫害激化の原因についての一考察(今来陸郎先生御退職記念号)」関学西洋史論集 6,1976 年。)
(*)(参考：A.JI.カーツ/一柳俊夫訳「ソヴェトの歴史叙述におけるローマ帝国の滅亡の問題(1,2)」歴史評論 315,316,1976 年。)
(*)(参考：土井正興「スパルタクス蜂起 2050 周年記念シンポジウムの開催について」歴史学研究 437,1976 年。)
(*)(参考：橋本龍幸「〈論文〉グンドヴァルドゥス王位簒奪と東ローマ帝国との関係について」愛知学院大学文学部紀要 6,1976 年。)
(*)(参考 : 渡辺友市「15 世紀末のナーポリ王国について—C.Porzio の歴史記述を中心として(石田幹之助博士追悼号)」國學院雑誌 77(3),1976 年。)
(*)(参考：『6・7 世紀：大化改新・隋・ビザンツ帝国』増補版日本と世界の歴史 4,学習研究社,1976 年。)
(*)(参考：仲手川良雄『ブルクハルトの普遍史と「現代」』早稲田大学,文学博士,甲第 243 号,1976 年。)
(*)(参考 : 岸田達也「マイネッケとデヒーオ—ランケ・ブルクハルト問題をめぐって」名古屋大学教養部紀要 A,人文科学・社会科学 20,1976 年。)
(*)(参考 : 西沢竜生「アルフォンス・ロッキーの一隅—その「ブルクハルトとオーストリア」に寄せて(西山松之助先生退官記念記念論文集 2)」歴史人類 1976(10),1976 年。)
(*)「文献目録—西洋史 1」史學雑誌 85(1),1976 年。)
(*)(参考 : 石田智子「ロベール・マントラン著小川皓郎訳「トルコ史」」史學雑誌 85(2),1976 年。)
(*)西村貞二「本会顧問大類伸先生を偲ぶ」史學雑誌 85(3),1976 年。)
(*)(参考：西村貞二「ドイツ史学の過去と現在」史學雑誌 85(7),1976 年。)
(*)太田秀通「古代学協会編『西洋古代史論集 II 古代国家の展開』」史學雑誌 85(4),1976 年。
(*)木村尚三郎「堀米庸三先生を悼む」史學雑誌 85(5),1976 年。)

(*)「文献目録—西洋史 2」史學雑誌 85(5),1976 年。)
(*)矢島文夫「西アジア・北アフリカ・古代オリエント(1975 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 85(5),1976 年。)
(*)樺山紘一「ヨーロッパ: 中世西欧 (1975 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌 85(5),1976 年。)
(*)伊藤貞夫「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1975 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 85(5),1976 年。)
(*)馬場典明「ヨーロッパ:古代:ローマ(1975 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雑誌 85(5),1976 年。)
(*)樺山紘一「ヨーロッパ：中世：イギリス(1975 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 85(5),1976 年。)
(*)鳥山成人「ヨーロッパ: 中世 : 東欧(1975 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌 85(5),1976 年。
(*)今井弘「ヨーロッパ : 近代・一般(1975 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌 85(5),1976 年。
(*)松浦高嶺「ヨーロッパ：近代・イギリス(1975 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 85(5),1976 年。
(*)遅塚忠躬「ヨーロッパ：近代・フランス(1975 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 85(5),1976 年。
(*)増谷秀英「ヨーロッパ:近代・ドイツ(1975 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雑誌 85(5),1976 年。
(*)清水廣一郎「ヨーロッパ：近代イタリア(1975 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 85(5),1976 年。)
(*)(參考 : 金澤良樹「大牟田章著「アレクサンドロス大王--「世界」をめざした巨大な情念」」(清水書院)史學雑誌 85(6),1976 年。)
(*)(參考：西村貞二「ドイツ史学の過去と現在」史學雑誌 85(7),1976 年。)
(*)「史学文献目録—西洋史 3」史學雑誌 85(9),1976 年。)
(*)保坂栄一「大類伸先生と大類史学」日本歴史 337,1976 年。
(*)伊藤伊久男「祇園寺信彦先生の学風」文化 39(3・4),1976 年。
(*)芳村思風『感性論哲学の世界：新しい思想』思風庵哲学研究所,1976年。
(*)(參考：M.O'C.ウォールシュ/中込道夫訳『仏教の原像を求めて：原始仏教と禅,西洋思想からの解明』恒文社,1976年。)
(*)(參考：山崎正一「鏡のエピステメー」エピステメー1月号,1976年。)
(*)(參考：山崎正一「水のエピステメー」エピステメー4月号,1976年。)
(*)(參考：山崎正一「空海の哲学」エピステメー7月号,1976年。)
(*)(參考：渡部昇一「哲学に何を求めるか—哲学は再び神学の侍女たれ(哲学とはなのか,特集)」理想515,1976年。)
(*)(參考：田中美知太郎・西谷啓治「神秘思想の源流」世界の名著・続2「プロティノス・ポルピュリオス・プロクロス」所収,中央公論社,1976年。)
(*)(參考：田中美知太郎/長谷川泉インタヴュー「ものをそれ自体として見ることがなぜ必要か」(明治書院)古典と現代39,1976年。)
(*)(參考 : 森進一「慎みの心(アイドース)の回復—プラトンから」日本及日本人1533,1976年。)

(*)(参考：神田盾夫著/川田殖編『西洋精神の源流』神田盾夫著作集1,みすず書房,1976年。)
(*)(参考 : 神田盾夫著/川田殖編『西洋古典と聖書の源流』神田盾夫著作集2,みすず書房,1976年。)
(*)(参考：服部英次郎『西洋古代中世哲学史』ミネルヴァ書房,1976年。)
(*)(参考：川田熊太郎他『原典が語る哲学説の歴史』第2版,公論社,1976年。)
(*)(参考：田中美知太郎『哲学入門』講談社学術文庫,講談社,1976年。)
(*)(参考：田中美知太郎『ソフィスト』講談社学術文庫,講談社,1976年。)
(*)(参考：斎藤忍随『知者たちの言葉』岩波新書,1976年。)
(*)(参考：渡辺浩「諸学の開祖・ミレトスのターレス：ギリシャOR列伝(7)」オペレーションズ・リサーチ：経営の科学21(8),1976年。)
(*)(参考：渡辺浩「汎数理教団の教祖ピュタゴラス：ギリシャOR列伝(9)」オペレーションズ・リサーチ：経営の科学21(10),1976年。)
(*)(参考：浦松佐美太郎「プラトン「饗宴」(旧著再読)」海8(2),1976年。)
(*)(参考：アリストテレス著/田中美知太郎訳者代表『アリストテレス』古典世界文学16,筑摩書房,1976年。)
(*)(参考：加藤信朗「『ニコマコス倫理学』の冒頭箇所(109a1-22)の解釈をめぐって」西洋古典學研究24,1976年。)
(*)(参考：西尾昇「エピクロスと現代」現代の眼17(7),1976年。)
(*)(参考：ウェルギリウス,ルクレティウス著/泉井久之助他訳『ウェルギリウス；ルクレティウス』古典世界文学20,筑摩書房,1976年。)
(*)(参考 : 中野幸次『初期ストア論理学考 : クリューシッポスの想像の力学』現代文化社,1976年。)
(*)(参考 : 今道友信「人間論 : 西洋哲学の展開を軸として(特集 人間とは何か)」比較思想研究3,1976年。)
(*)(参考：聖アウグスティヌス著/服部英次郎訳『告白(上下)』改訳,岩波書店,1976年。)
(*)(参考：樺山紘一『ゴシック世界の思想像』岩波書店,1976年。)
(*)(参考：柏木英彦『中世の春：十二世紀ルネサンス』創文社,1976年。)
(*)(参考：堀米庸三編『西欧精神の探求—革新 12 世紀』日本放送出版協会,1976 年。)
(*)樺山紘一「堀米庸三編「西欧精神の研究—革新の十二世紀」(日本放送協会)」史學雑誌85(8),1976 年。)
(*)(参考：シャトレ/山田晶監訳『中世の哲学』シャトレ哲学史 2,白水社,1976 年。)
(*)(参考：松永雄二「提題 プラトンの philosophia(プラトニズムと中世哲学〈中世哲学会第 24 回大会シンポジウム〉)」中世思想研究 18,1976 年。)
(*)(参考：加藤信朗「提題 アウグスティヌスのプラトニズム(プラトニズムと中世哲学〈中世哲学会第 24 回大会シンポジウム〉)」中世思想研究 18,1976 年。)
(*)(参考：加藤信朗「CONSULERE VERITATEM(Augustinus,De Magistro 11,38-12,40)—アウグスティヌスの初期照明説をめぐる若干の考察」中世思想研究 18,1976 年。)
(*)(参考 : 大谷啓治「提題 12 世紀のプラトニズム(プラトニズムと中世哲学〈中世哲学会第 24 回大会シンポジウム〉)」中世思想研究 18,1976 年。)
(*)(参考：清水純一「提題 ルネサンスのプラトニズム—プラトン著作の受容を中心として(プラトニズムと中世哲学〈中世哲学会第 24 回大会シンポジウム〉)」

中世思想研究 18,1976 年。)
(*)(参考：泉治典「古代教父とプラトニズムに関する最近の研究文献(文献紹介)〈中世哲学会第24回大会シンポジウム〉)」中世思想研究18,1976年。)
(*)(参考：稲垣良典「[司会のまとめ]プラトニズムと中世哲学〈中世哲学会第24回大会シンポジウム〉)」中世思想研究18,1976年。)
(*)参考 : 清水純一「提題 ルネサンスのプラトニズムについて—プラトン著作の受容を中心として(プラトニズムと中世哲学〈中世哲学会第24回大会シンポジウム〉)」中世思想研究18,1976年。)
(*)(参考：竹内謙二『18世紀のフランス思想界』東京大学出版会,昭和51年。)
(*)(参考：中川久定『ディドロの『セネカ論』：初版と第2版とに表現された著者の意識の構造にかんする研究』京都大学,文学博士,乙第3110号,1976年。)
(*)(参考：鈴木峯子「ディドロの『セネカ論』と父親像」京都産業大学論集・人文科学系列 5,1976年。)
(*)(参考 : 千足伸行『新古典主義ロマン主義』世界文化社,世界の美術・カルチュア版 4,1976 年。)
(*)(参考：H.ワインシュトック/樫山欽四郎訳『ヒューマニズムの悲劇：西洋的人間における真と偽』創文社,昭和 51 年。)
(*)(参考 : C.H.ゴールドン/高橋正男訳『ウガリト文学と古代世界』日本基督教団出版局,1976 年。)
(*)(参考：呉茂一『アクロポリスの丘に立って：ギリシャ文学閑話』新潮社,1976 年。)
(*)(参考：マーチン・トロウ/天野郁夫・喜多村和之訳『高学歴社会の大学—エリートからマスへ』東京大学出版会,1976 年。)
(*)(参考：柳沼重剛「古典古代の文学概念」(小西甚一編『文学概念の変遷』所収,国書刊行会,1976 年。)
(*)(参考：梶原秀男「西洋叙事詩研究—特に冥界の観念に関連して」大阪大学教養部研究集録 24,1976 年。)
(*)(参考：久保正彰「口承叙事詩の文学的伝承とは何か」思想 11 月号,1976 年。
(*)(参考：呉茂一「ホメーロスはどう読まれてきたか」岩波講座・文学 9,1976 年。)
(*)(参考：呉茂一「能とギリシア劇」月刊世界政経 5(6),1976 年。)
(*)(参考：アリストパネス著/高津春繁訳『蛙』改版,岩波文庫,岩波書店,1976 年。)
(*)(参考：アリストパネス著/高津春繁訳者代表『アリストパネス』古典世界文学 12,筑摩書房,1976 年。)
(*)(参考：三浦尤三「アエネアスのカルタゴ漂着とディドーの悲劇」(国際基督教大学)人文科学研究 1976 年。)
(*)(参考：柏木英彦「ラヴァルダンのヒルデベルトゥス(1,2)」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 8,1976 年/9,1977 年)。)
(*)(参考:新関良三「比較演劇学への招待(比較演劇学研究〈特集〉)」日本演劇学会紀要 16,1976 年。)
(*)(参考：S.メルヒンガー/尾崎賢治・蔵原惟治訳『政治演劇史』白水社,1976 年。)
(*)(参考：アンリ・グイエ/佐々木健一訳『演劇の本質』TBS ブリタニカ,1976 年。)
(*)里見元一郎「木間瀬精三著「幻想の天国—ルネサンス文化の本質」」史學雑誌 85(1),1976 年。

(*)(参考：信森廣光『イタリア騎士物語詩の研究』風間書房,1976 年。)
(*)(参考：Dante Alighieri/寿岳文章訳『神曲』愛蔵版 世界文学全集 2,集英社,1976 年。)
(*)(参考：山口秀樹「T.S.エリオットの『ダンテ』」イタリア学会誌 24,1976 年。)
(*)(参考：J・グデ/小林公訳『救済の帝国—ダンテと政治』思想史ライブラリー,木鐸社,1976 年。)
(*)(参考：エンツォ・オルランディ/田中英道・田中俊子訳『ダンテ—カラー版世界の文豪叢書 19』評論社,1976 年。)
(*)(参考：福原嘉一郎「イタリア人文主義からドイツ宗教改革へ(2)フィレンツェ・アカデミーとロイヒリン,エラスムスの位置」教養諸学研究 52,1976 年。)
(*)(参考：近藤恒一「ペトラルカとアラビア文化」東京学芸大学紀要・第 2 部門・人文科学 28,1976 年。)
(*)(参考：近藤恒一「青年ペトラルカの古典研究：アヴィニョン時代初期のリウィウス研究を中心に」イタリア会誌 24,1976 年。)
(*)(参考：近藤恒一「ペトラルカと〈アヴェロイスト〉」中世思想研究 18,1976 年。)
(*)(参考：高岡幸一「ペトラルカとフランス・ルネッサンスの詩人達(1-3)」アカデミア 文学・語学編 23,1976 年/24,1977 年.25,1978 年)。)
(*)(参考：摩壽意善郎解説『ボッティチェルリ』集英社,世界美術全集 4,1976 年→1978 年,愛蔵普及版)。)
(*)(参考：沢田昭夫監修『『ユートピア』--歴史・文学・社会思想』ルネッサンス双書 4,荒竹出版,1976 年。)
(*)(参考：鈴木宣則「Utopia とトマス・モア」鹿児島大学教育学部研究紀要 人文社会科学編 27,1976 年。)
(*)(参考：橘忠衛『シェイクスピア研究：ローマ史劇』英宝社,1976 年。)
(*)(参考：シェイクスピア/平松秀雄訳『ジュリアス・シーザー』千城,1976 年。)
(*)(参考：和田勇一「「トロイラスとクレシダ」試論」(熊本大学)法文論叢 37,1976 年。)
(*)(参考：中村匡克「エリザベス朝演劇における復讐の諸相：セネカとマキアヴェリを通して」相模工業大学紀要 10(1),1976 年。)
(*)(参考：C.H.Waddington/野島徳吉訳「ニュー・アトランチス再訪—ベーコンへの回帰(バナール記念講演,1975 年)」思想 628,1976 年。)
(*)(参考：杉野徹「J.Keats と哲学」同志社大学英語英文学研究 14,1976 年。)
(*)(参考：高橋雄四郎「妖精国への旅：理想主義とフェアリー(試論)」實踐英文学 9,1976 年。)
(*)(参考：高橋雄四郎「『エンディミオン』研究(1-4)フェアリー・夢・神話・認識」実践女子大学文学部紀要 18,1976 年/20,1978 年/22,1980 年/26,1984 年。)
(*)(参考：片岡小百合「『エンディミオン』のテーマ」実践英米文学(6・7),1976 年。)
(*)(参考：三浦勲夫「エンディミオンの遍歴」アルテス・リベラリス 19,1976 年。)
(*)(参考：福原麟太郎『われとともに老いよ—ブラウニング随想』新潮社,昭和 51 年。)
(*)(参考：黒田健二郎「ミルトン論ことはじめ(1)：Macauley,Milton の二つの版」神戸大学教育学部研究集録 55,1976 年。)
(*)(参考：黒田健二郎「ミルトン論ことはじめ(2)：「中央學術雑誌」の「彌兒頓論」」神戸大学教育学部研究集録 56,1976 年。)
(*)(参考：小西晴夫「ペイター初期のヘレニズム--「ヴィンケルマン論」をめぐって(宮田武志教授退職記念論文集)」甲南大学紀要・文学編 18,1976 年。)

(*)都築佑吉「日本におけるペイター：研究と言及(3)：附・ホプキンス参考文献書誌」群馬大学教育学部紀要・人文社会科学編 26,1976 年。
(*)(参考：久保田重芳「ジェイムズ・ジョイスにおける「神話的抱保」に就いて(神戸学院大学創立 10 周年記念特別号)」神戸学院大学紀要 6,1976 年。)
(*)(参考：山口秀樹「T.S.エリオットの『ダンテ』」イタリア学会誌 24,1976 年。)
(*)(参考：クワンティン・ベル/黒沢茂訳『ヴァージニア・ウルフ伝』みすず書房,1976-77 年。)
(*)(参考：石井康一『ヴァージニア・ウルフの世界』南雲堂,1976 年。)
(*)(参考：桂芳樹「ドイツ比較文学の理論と現状(濱口富一教授退官記念号)」名古屋大学教養部紀要・外国語・外国文学 20,1976 年。)
(*)(参考：桂芳樹「比較文学の課題—E.R.Curtius のヨーロッパ文学の研究方法と,ドイツ比較文学の成果にもとづいて」ドイツ文学研究 8,1976 年。)
(*)(参考:岡田素之「両極性の姿勢—フマニスムスの一形態について」人文論集 14,1976 年。)
(*)(参考：小栗浩「ヘルダーにおける文学批評と文学史」ドイツ文学 57,1976 年。)
(*)(参考：西山勤二「カント対ヘルダー—あるいは哲学対歴史(橘女子大学創立十周年記念号)」橘女子大学研究紀要 4,1976 年。)
(*)(参考：ヴィンケルマン/澤柳大五郎訳『ギリシア美術摸倣論』座右宝刊行会,1976 年。)
(*)(参考：松宮秀治「「ギリシア美術模倣論」と「ドイツの特性と芸術について」--ドイツにおける近代芸術観の成立について」立命館文學 377・378,1976 年。)
(*)(参考：木村直司『ゲーテの多面的人間像』ゲーテ研究[正],南窓社,1976 年。)
(*)(参考：新関良三「ゲーテと演劇(1-3)ゲーテ理解の一側面」心 29(5,6,9),1976 年。)
(*)(参考：高安国世「ゲーテとリルケ」独逸文学研究 18,1976 年。)
(*)(参考：氷上英廣『ニーチェの顔』岩波書店,1976年。)
(*)(参考：齋藤信治「ニーチェのキリスト教解釈(高瀬久太郎教授退任記念号)」中央大学文学部紀要 81,1976 年。)
(*)(参考：山城昭健「ニーチェにおける回生の経験と運命愛(薗田義道教授退職記念)」白山哲学 10,1976 年。)
(*)西尾幹二「秋山英夫著「魔性の文学」/「思想するニーチェ」」ドイツ文学 57,1976 年。
(*)(参考：西尾幹二「本源からの問い—ニーチェとワーグナーの夢と行動」新潮 73(11),1976 年。)
(*)(参考：吉沢伝三郎「ハイデガーのニーチェ論(ハイデガー追悼 特集)」実存主義 77,1976 年。)
(*)(参考:松塚豊茂「形而上学とニヒリズム—ハイデデッガーのニーチェ論についての一考察」島根大学文理学部紀要 文学科篇 10,1976 年。)
(*)(参考：杉田弘子「強者の哲学と『武士道』」現代思想・臨時増刊(総特集 ニーチェ)1976 年。)
(*)(参考:佐藤修司「ヘルダーリンのエンペドクレス悲劇段階—仲介者的存在の問題について」ドイツ文学研究 8,1976 年。)
(*)(参考：棚瀬明彦「ヘルダーリンにおける「自然」の観念について(千代正一教授退官記念号)」独仏文學研究 26,1976 年。)
(*)(参考:高尾国男「フリードリヒ・ヘルダーリン(6)小説「ヒュペーリオン」第一章成立史」独逸文学 20,1976 年。)

(*)(参考：水田恭平「ヘルダーリン「ヒューペリオン」」岡山大学教養部紀要 12,1976 年。)
(*)(参考：横溝政八郎『ゲルハルト・ハウプトマン：人と作品』郁文堂,1976 年。)
(*)(参考：リルケ/高安国世訳『オルフォイスのソネット』リルケ選集4,創元文庫,創元社,1976 年。)
(*)(参考：桂芳樹「比較文学の課題—E.RCurtius のヨーロッパ文学の研究方法とドイツ比較文学の成果にもとづいて」ドイツ文学研究 8,1976 年。)
(*)(参考：河盛好蔵他『フランス文学史ノート』駿河台出版社,1976 年(→1977 年,改訂増補版。→1982 年,改訂新版。→1984,1988 年,増補改訂版)。)
(*)(参考：城野節子『スタール夫人研究』朝日出版社,1976 年。)
(*)(参考：鈴木峯子「ディドロの『セネカ論』と父親像」京都産業大学論集・人文科学系列 5,1976 年。)
(*)(参考：『増補版・渡辺一夫著作集 1—ラブレー雑考(上)』筑摩書房,1976 年。)
(*)(参考：関根秀雄『モンテーニュとその時代』白水社,1976 年。)
(*)(参考：モーリス・シャヴァルデス/有永弘人訳『カラー版世界の文豪叢書 25—モンテーニュ』評論社,1976 年。)
(*)(参考：竹田英尚「モンテェーニュの思索の歩み：「エセー」の構造とその論理に見る(9)」Gallia16,1976 年。)
(*)(参考：竹田英尚「モンテーニュの思索の歩み--「エセー」の構造とその論理に見る(10)」追手門学院大学文学部紀要 10,1976 年。)
(*)(参考：岡田舜平「アンドレ・マルローの死—西欧的人間価値二ついての一考察」世界週報 57(4),1976 年。)
(*)(参考：J.ベジノ「〈ソフィアという理念〉文豪クローデルの場合」ソフィア25(1),1976 年。)
(*)(参考：沓掛良彦「ロモノーソフと古典古代の詩人」(木村彰一教授還暦記念論文集刊行委員会編『ロシア・西欧・日本：木村彰一教授還暦記念論文集』所収,朝日出版,1976 年。)
(*)向坂寛「「和」の構造：ギリシア思想との比較において(1)」比較思想研究 3,1976 年(→1978 年,「(2)」日本大学人文科学研究所研究紀要 21)。
(*)相馬正一「太宰治「走れメロス」試論」日本近代文学 23,1976 年。
(*)「石田幹之助博士著作目録」國學院雑誌 77(3),1976 年。
(*)「石田幹之助博士略年譜」國學院雑誌 77(3),1976 年。
(*)鈴木成高「「教養」の文明学的考察」文明 17,1976 年。
(*)太田秀通「高等学校世界史教育の問題点」日本の科学者 11(4),1976 年。
(*)(参考：神田盾夫/川田殖編『西洋古典と聖書の世界』神田盾夫著作集 2,みすず書房,1976 年。)
(*)山谷省吾「神田[盾夫]さんの業績」神田盾夫著作集(みすず書房)「月報」1,1976 年。
(*)秀村欣二「神田[盾夫]先生と私」神田盾夫著作集(みすず書房)「月報」1,1976 年。
(*)今道友信「遠き日の歌に寄せて」神田盾夫著作集(みすず書房)「月報」1,1976 年。
(*)木村彰一「神田[盾夫]先生のこと」神田盾夫著作集(みすず書房)「月報」2,1976 年。
(*)前田護郎「御厚誼の数々を顧みて」神田盾夫著作集(みすず書房)「月報」2,1976 年。
(*)秋田稔「神田[盾夫]先生とヒューマニティーズの精神」神田盾夫著作集(みすず書房)「月報」2,1976 年。

(*)松村克己「石原謙博士の人と学問—一つの私的な回想」思想 627,1976 年。
(*)松本正夫「[石原謙]弔辞・略年譜・業績目録」中世思想研究 18,1976 年。
(*)「矢代幸雄著作目録（矢代幸雄追悼）」日伊文化研究 14,1976 年。
(*)Clark Kenneth「矢代幸雄を悼む(追悼・矢代幸雄)」日伊文化研究 14,1976 年。
(*)高草茂「[矢代]先生のこと(同上)」日伊文化研究 14,1976 年。
(*)摩壽意善郎「矢代[幸雄]先生と日伊協会と私の 40 年(同上)」日伊文化研究 14,1976 年。
(*)吉川逸治「矢代[幸雄]先生の指導を受けて(同上)」日伊文化研究 14,1976 年。
(*)新規矩男「矢代[幸雄]先生追憶(同上)」日伊文化研究 14,1976 年。
(*)隈元謙次郎「矢代[幸雄]先生を偲ぶ—先生と美術研究所(同上)」日伊文化研究 14,1976 年。
(*)岩崎昶「矢代[幸雄]先生の迷える弟子(同上)」日伊文化研究 14,1976 年。
(*)古垣鉄郎「矢代[幸雄]先生の思い出(同上)」日伊文化研究 14,1976 年。
(*)関根正雄・八木誠一・松永希久夫・並木浩一「聖書学関係この五年間の研究業績概観」日本の神学 15,1976 年。)
(*)(参考：Haward Saalman/長尾重武訳「ミケランジェロ：サンタ・マリア・デル・フィオレとサン・ピエトロ(The Art Bulletin“7509”)」建築雑誌 91(1111),1976 年。)
(*)(参考：矢島文夫「民族は固有の空間をもつ—世界史のなかで単位を見る」朝日ジャーナル 18(49),1976 年。)
(*)(参考：C.ブラッカー,M.ローウェ編/矢島祐利・矢島文夫訳『古代の宇宙観』海鳴社,1976 年。)
(*)(参考：森優「ヒポクラテス(1-12)」臨床と研究 53(1-12),1976 年。)
(*)(参考：清水重勇「フランスにおける近代体育史像の形成について--『方法論争』の成立とクーベルタン研究の発展によって」高知大学学術研究報告・人文科学編 25(12),1976 年。)
(*)(参考：大槻真一郎『医学・薬学ラテン語』(改訂版)三修社,1976 年。)
(*)中西武雄「わが国におけるチーズ研究の歴史」東方福祉大学紀要 1,1976 年。)
(*)(参考：C.ブラッカー,M.ローウェ著/矢島祐利・矢島文夫訳『古代の宇宙論』海鳴社,1976 年。)
(*)田中一郎「矢島祐利著「アラビア科学史序説」(岩波書店)史學雑誌 86(10),1976 年。
(*)川尻信夫「幕末における西洋数学受容の一断面—佐久間象山の「詳証術」をめぐって」(高野長英)思想 628,1976 年。
(*)(参考：下村寅太郎「一つのレオナルド像」展望 213,1976 年。)
(*)(参考：T.クーン/常石敬一訳『コペルニクス革命』紀伊國屋書店,1976 年(→1989 年,講談社学術文庫版)。
(*)(参考：伊東俊太郎『文明における科学』勁草書房,1976 年。)
(*)(参考：伊東俊太郎「近代科学の源流(1-11)」自然 31(5,8,10,11,12),1976 年/32(1,3,4,5),1976 年[4.「プラトニズムの伝統と初期ラテン科学—中世科学の発端(2)」。)
(*)(参考：杉本政繁「ルキアーノスの「peri orcheseos」における舞踏論：体育思想史研究を中心として」福井大学教育学部紀要第 6 部・芸術体育学 10,1976 年。)
(*)松本重一朗「日本最初の西欧科学教育—研究余話」ソフィア 25(4),1976 年。
(*)川尻信夫「幕末における西洋数学の受容の一断面—佐久間象山の「詳証術」をめぐって」思想 628,1976 年。

(*)藤井清久「江戸期から明治期にかけての物質の理解—粒子から原子へ(日本の近代化のあけぼの)」化学と工業 30(6),1976 年。
(*)「日本近代化のあけぼの(1-10,12,14-17)」化学と工業 29(2-10,12),30(2,4-7),1976-77 年。
----- 島尾永康「命名法の確立と化学のあけぼの」
吉田忠「近代化学をうけいれはじめたとき志筑忠雄と実学」
坂口正男「“元素”と“原子”—宇田川榕菴を中心とした化学史の翻訳」
芝哲夫「舎密学から化学へ」
佐藤昌介「化学教育のはじまり—蕃書調所のばあい」
藤井清久「江戸期から明治期にかけての物質の理解—粒子から原子へ」
(*)古島敏雄「科学技術の発達と洋学」岩波講座日本歴史 12・近世 4,1976 年。
(*)藤井松一「近代科学技術の導入」岩波講座日本歴史 17・近代 4,1976 年。
(*)上野彦馬訳編/大森実解説『舎密局必携』産業能率大学出版部,1976 年。
(*)渡辺正雄『日本の近代化と科学—学術雑誌にみる傾向とその考察』明治期科学史刊行会,1976 年。
(*)渡辺正雄『日本人と近代科学—西洋への対応と課題』岩波新書,岩波書店,1976 年。
(*)吉田光邦『日本科学史』講談社文庫,講談社,1976 年。
(*)海野隆一「宗覚の地球儀とその世界像」科学史研究 117,1976 年。
(*)木村陽二郎「シーボルトと川原慶賀植物図の関連（第 18 回大会発表要旨）」蘭学資料研究会研究報告 309,1976 年。
(*)矢部一郎「宇田川榕菴の「植学啓原」の原図について(1,2)」科学史研究 117,1976 年。
(*)矢部一郎「日本最初の本格的ヨーロッパ博物学書(1-3)」植物と文化 15,16,17,1976 年。
(*)(参考：アンソニー・S.マーカタンテ/中村保男訳『空想動物園：神話・伝説・寓話の中の動物たち』文化放送開発センター出版部,1976 年。)
(*)(参考：渡辺浩「スパルタ・システムの設計者リュクルゴス：ギリシャOR列伝(4)」オペレーションズ・リサーチ：経営の科学21(4),1976年。)
(*)(参考：渡辺浩「アテナイの立法家ソロン：ギリシャOR列伝(5)」オペレーションズ・リサーチ：経営の科学 21(5),1976 年。)
(*)(参考：渡辺浩「栄光と悲劇のリュデイア王クロイソス：ギリシャOR列伝(6)」オペレーションズ・リサーチ：経営の科学21(6),1976年。)
(*)(参考：渡辺浩「2つの3パーソン・ゲーム：イオニアの支配者たち(1)：ギリシャOR列伝(10)」オペレーションズ・リサーチ：経営の科学21(11),1976年。)
(*)(参考：渡辺浩「決定組織と説得抵抗性：イオニアの支配者たち(2)：ギリシャOR列伝(11)」オペレーションズ・リサーチ：経営の科学21(12),1976年。)
(*)(参考：清永昭次「第二次メッセニア戦争期スパルタの土地問題」学習院大学文学部研究年報24,1976年。)
(*)(参考：松尾太郎「古典古代的生産様式と「資本論」の構成」経済志林44(1),1976年。)
(*)(参考：平田隆一「エトルスキの政務官職に関する新しい碑文史料について([東北学院大学]創立90周年記念号)」東北学院大学論集 歴史学・地理学7,1976年。)
(*)(参考：Luhmer Klaus/森川直訳「精神の解放—プラトン社会・政治哲学をめぐる論争における自由教育の理想(稲富栄次郎先生追悼号)」上智大学教育学・心理学論集 10,1976 年。)
(*)塩野七生「イタリア総選挙報告—マキアヴェッリが生きている—非共産主義的共産主義

をめざすイタリア共産党の周辺」朝日ジャーナル 18(24),1976 年。)
(*)(參考：D.エドワード/藤田博司訳「キッシンジャーの“トロイの木馬”―イタリアとデタントのアイロニー」世界 363,1976 年。)
(*)(參考：田中美知太郎・勝田吉太郎・木村尚三郎「対談 国家とは何か」(武藤光朗・福田恆存企画編集『日本の将来 国家意識なき日本人』所収,高木書店,1976 年。)
(*)森一貫「「天賦人権」思想と「天」の概念」阪大法学 97・98,1976 年。
(*)北沢文武『帝力、我に何かあらんや : 石川三四郎の生涯と思想(完結編)』鳩の森書房,1976 年。
(*)太田秀通「古代学教会編「西洋古代史論集 II 古代国家の展開」」史學雜誌 85(4),1976 年。)
(*)森本芳樹「井上泰男著「西欧社会の構造と展開」(西日本文化教会)」史學雜誌 85(9),1976 年。
(*)(參考：加藤新平『法哲学概論』法律学全集 1,有斐閣,1976 年[デジタルパブリックサービス,オンデマンド版]。
(*)野田良之「加藤新平著『法哲学概論』(有斐閣法律学会集)」法哲学年報 1975,1976 年。
(*)今井弘道「加藤新平著「法哲学概論」」民商法雜誌 74(4),1976 年。
(*)半澤孝麿「田中耕太郎と自然法思想」思想 627,1976 年。
(*)半澤孝麿「思想形成期の田中耕太郎―地上に於ける神の国の探求」日本政治学会年報政治学 1975 年,1976 年。
(*)(參考：吉野悟『ローマ法とその社会』世界史研究双書 20,近藤出版社,1976 年。)
(*)坂口明「吉野悟著「ローマ法とその社会」」史學雜誌 85(10),1976 年。

(*)(參考 : 疋野景子「マルクス「学位論文」における「自己意識」」一橋論叢 78(2),1977 年。)
(*)小笠原孝次『言霊精義』小笠原孝次,昭和 1977 年。
(*)(參考：中野幸次『西欧の思念』南窓社,1977 年。)
(*)ブルー・ガイドブックス編集部編『ギリシアとエーゲ海』ブルーガイド海外版,実業之日本社,1977 年。
(*)小宮豊隆「伊太利日記(24,25,26,27,28)(遺稿)」心 30(1,3,6,9),1977 年。
(*)[受賞作「エーゲ海に捧ぐ」(池田満寿夫)(第 77 回昭和 52 年度上半期芥川賞決定発表)] 文藝春秋 55(9),1977 年。)
(*)池田満寿夫『エーゲ海に捧ぐ：池田満寿夫第一小説集』角川書店,1977 年。
(*)日本文芸家協会編『現代小説 1976』（「エーゲ海に捧ぐ」）角川書店,1977 年。
(*)「新著縦覧 池田満寿夫「エーゲ海に捧ぐ」」季刊芸術 11(4),1977 年。
(*)萩原葉子「あーと・あらかると 書評池田満寿夫著『エーゲ海に捧ぐ』池田満寿夫さんのこと」三彩 361,1977 年。
(*)城功「『エーゲ海に捧ぐ』に捧ぐ」月刊総務 15(11),1977 年。
(*)「ほん―臼井吉見『事故のてんまつ』池田満寿夫『エーゲ海に捧ぐ』」サンデー毎日 56(28),1977 年。
(*)「〈ワイド〉(1)『エーゲ海に捧ぐ』で注目を浴びた異色作家池田満寿夫氏の『わがエロスと芸術』」週刊ポスト 9(30),1977 年。
(*)吉沢輝夫「著者とその本 『エーゲ海に捧ぐ』の池田満寿夫氏」新刊展望 21(10),1977 年。
(*)「糸川英夫の入試突破作戦 国語編--「エーゲ海に捧ぐ」の読み方(1)」週刊文春 19(35),1977

年。
(*)出版写真部・米津孝/平嶋彰彦「グラビア—外国帰りのこどもの教室 エーゲ海・ハダカの島」サンデー毎日 56(33),1977 年。
(*)河底尚吾・青木猪一郎(ブルー・ガイドブックス編集部編集)『ギリシアとエーゲ海』実業之日本社,1977 年(→1980 年,新装第 1 版。1983 年,新装第 3 版。1984 年,新装第 4 版。1986 年,新装第 5 版)。
(*)(参考：坂本賢三「青銅器時代エーゲ海の帆船」海事資料館年報 5,1977 年。)
(*)(参考：ジョージ・F.バス/小江慶雄・小林茂訳『海底の文化遺産：エーゲ海古代沈船発掘記』時事通信社,1977 年。)
(*)(参考：メートランド・A.エディー著/タイムライフブックス編集編/水谷智洋訳『失われたエーゲ海文明』タイムライフブックス,1977 年。)
(*)(参考：小松左京他「エーゲ海の大噴火(歴史推理 学際座談会)」諸君 9(10),1977 年。)
(*)(参考：「ホモ・ルーデンス」諸君 9(10),1977 年。)
(*)(参考:高田博厚「エーゲ海文明—クレタの人間主義(古代美術館[30])」芸術新潮 28(3),1977 年。)
(*)(参考：「〈オフセット〉クノソス宮殿・大階段の間・玉座室壁画「パリの女」蛸文様の鐙壺」古代美術館[30]」芸術新潮 28(3),1977 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「聖山アトスへの道—ギリシア・ビザンティン(古代美術館[33])」芸術新潮 28(7),1977 年。)
(*)(参考:T.L.コンウェイ/野中重雄訳『エーゲ海の決闘』イフィ・ノベルズ・コックスマン・シリーズ,番町書房,1977 年。)
(*)(参考：バランタイン原作・キングスリー原作・C.ブロンテ原作・[ワーズワース作]・G.エリオット原作・リットン原作・ウィーダ原作・キャロル原作・シュウエル原作『名犬クルーソー,水の子トム,ジェイン=エア,ワーズワーズ詩,サイラス=マーナー,ポンペイ最後の日,ロビン=フッドの冒険,フランダースの犬,ふしぎな国のアリス,黒馬物語』小学館,少年少女世界の名作文学3；イギリス編3-4,1977年。)
(*)(参考：鈴木秀夫「気候変動と古代文明(気候の歴史)」地理22(11),1977年。)
(*)(参考：木村尚三郎『都市文明の源流』東京大学出版会,1977年。)
(*)(参考：木村尚三郎『文明にとっての変革期』日本放送出版協会,1977年。)
(*)(参考:堤彪「歴史と文明—いわゆる文明史観について(歴史,特集)」実存主義79,1977年。)
(*)産報ジャーナル『甦るポンペイ』産報デラックス99の謎,歴史シリーズ5,1977年。
(*)松本宣郎「J.J.ディス穴沢二光訳「ヘルクラネウム：よみがえった古代ローマ都市」(世界の考古学シリーズ,学生社)」史學雜誌 86(2),1977 年。
(*)松田孝一「佐口透著「J マルコ・ポーロ」(人と歴史シリーズ東洋 11,清水書院)」史學雜誌 86(8),1977 年。
(*)青柳正規『エウローパの舟の家：東京大学文学部ポンペイ遺跡発掘調査報告』東京大学文学部,1977 年。
(*)(参考：松宮秀治「ヴィンケルマンの「古代(ギリシヤ)美術模倣論」とその時代(1-8)」外国文学研究 38,39,40・41,42,1977 年//43,44,1978 年//45,46,1979 年。)
(*)(参考：米川良夫「ピランデルロとシチリア(ピランデルロ—鏡の中の他人,特集)」新劇 24(2),1977 年。)
(*)(参考：桂芳樹「シチーリアにおけるゲーテ：ゲーテと地中海世界(1-5)」文藝言語研究・

文藝篇 2,1977 年//3,1978 年//4,1979 年//5,1980 年//6,1981 年。)
(*)野崎操一「唐招提寺金堂とパルテノン」建築界 26(5),1977 年。
(*)(參考：生江義男『ヒッパロスの風：東西文化交流の旅』原書房,1977 年。)
(*)(參考：立田洋司『古代アナトリアの遺産』近藤出版社,1977 年。)
(*)設榮國廣「立田洋司『古代アナトリアの遺産』近藤出版社」史学雑誌 86(9),1977 年。
(*)(參考：ドーラ・ジェーン・ハンプリン/タイムライフブックス編集部編,平田隆一訳『エトルリアの興亡』タイムライフブックス,1977 年。)
(*)原谷和男他編『欧州との出会い』奈良県青年海外特別研修「希望の翼」報告書 6 回,奈良県,1977 年。)
(*)(參考：下村寅太郎「ブルクハルトの文化史について」(東海大学文明研究所)文明 19,1977 年。)
(*)(參考：下村寅太郎『レオナルド：遠景と近景』南窓社,1977 年。)
(*)(參考：下村寅太郎『レオナルド・ダ・ヴィンチ』集英社,1977 年。)
(*)(參考：下村寅太郎『西東心景』北洋社,1977 年。)
(*)(參考：インゲフォン・ヴィーゼ/大塚勇三訳『夢を掘りあてた人：トロイアを発掘したシュリーマン』岩波の愛蔵版 25,岩波書店,1977 年。)
(*)(參考：シュリーマン/関楠生訳『古代への情熱：シュリーマン自伝』新潮文庫,新潮社,1977 年(→2004 年,再版)。
(*)三浦一郎他『巨大遺跡』毎日新聞社,古代文明の謎と発見 6,1977 年。
(*)三笠宮崇人・杉勇・板倉勝正・川村喜一「「オリエント」をふりかえって」オリエント 20(2),1977 年。
(*)(參考：前田護郎「ヨーロッパ精神の源流—ギリシャとオリエント」日本ギリシァ協会会報 7,1977 年。)
(*)(參考：オットー・ムーク/金森誠也訳『アトランティス大陸の謎：伝説とその真相』佑学社,1977 年。)
(*)(參考：クルト・マール&K.H.シェール/松谷健二訳『アトランティス最後の日』早川書房,ハヤカワ文庫 SF,1977 年。)
(*)(參考：ロイ・ステマン/小野協一訳『謎の大陸』学習研究社,超常世界への挑戦シリーズ,1977 年。)
(*)(參考：チャールズ・バーリッツ/吉田康彦訳『謎の大陸アトランティス』文陽社,1977 年。)
(*)(參考：N.F.ジロフ/伊藤清久訳『アトランチス大陸研究』新装特装版,大陸書房,1977 年。)
(*)(參考：前川和也「古代メソポタミアと古典古代—比較史のひとつの試み」(樺山紘一編『歴史学』所収,1977 年。)
(*)学界「150 人が参加「地中海学会」発足 会長に谷川徹三氏」(田中美知太郎)讀賣新聞夕刊 5/11,1977 年。
(*)(參考：高橋睦郎「聖山アソスへの道—ギリシア・ビザンティン(古代美術館[33])」芸術新潮 28(7),1977 年。)
(*)(參考：鷲巣繁男・高橋睦郎「詩と人間存在の意味—英雄と叙事詩そしてギリシャの旅から」現代詩手帖 20(10),1977 年。)
(*)(參考：前田正明「泰西陶芸雑話(26)ビザンチンの陶器」陶説 287,1977 年。)
(*)(參考：澤柳大五郎「白地レキュトスに於ける死者の表現(加藤諄教授古稀紀年号)」美術史研究 14,1977 年。)

(*)(参考：太田秀通『東地中海世界—古代におけるオリエントとギリシア』世界歴史叢書,岩波書店,1977 年。)
(*)(参考：杉山二郎「ヘレニズム・ローマ期のシリア美術について—文献解題的意図のもとに」東京国立博物館研究誌 314,1977 年。)
(*)(参考：守山徳長「20 ヘレニズム期医歯学の考古学的遺物について(日本歯科医史学学会第 5 回学術講演抄録)」日本歯科医史学学会誌 5(2),1977 年。)
(*)(参考：柳沢義幸「インダス文化を中心として：特にヘレニズムについて」九州人類学会報 5,1977 年。)
(*)(参考：弓削達『地中海世界とローマ帝国』岩波書店,世界歴史叢書,1977 年。)
(*)(参考：並河萬里『地中海の中のスペイン』玉川選書,玉川大学出版部,1977 年。)
(*)(参考：並河亮『地中海 石と砂の世界』玉川選書,玉川大学出版部,1977 年。)
(*)北杜夫『マンボウ響躁曲：地中海・南太平洋の旅』文藝春秋,1977 年。
(*)大谷光瑞『大谷光瑞全集 11』(「地中海遊記」)国書刊行会,1977 年(昭 9-10 年刊,複製)
(*)(参考：平川祐弘『西洋の女性史(8)イタリア』評論社,1977 年。)
(*)(参考：平川祐弘編『南欧の永遠の女たち』女性の世界史 8,番町書房,1977 年。)
(*)(参考：佐口透『マルコ=ポーロ・東西を結んだ歴史の証人』清水書院,1977 年。)
(*)(参考：相馬隆『流沙海西古文化論考—シルクロードの東西交流』山川出版社,1977 年。)
(*)高浜秀「相馬隆著「流砂海西文化考—シルクロードの東西交流」」史學雜誌 86(6),1977 年。
(*)(参考：渡辺直蔵編『シルクロードのすべて：草原の英雄と遺跡文化』産報デラックス 99 の謎,歴史シリーズ 6,産報ジャーナル,1977 年。)
(*)(参考：『シルクロード』デラックス 99 の謎・歴史 7,サンポウジャーナル,1977 年。)
(*)(参考：長澤和俊「シルク・ロード研究の回顧と展望」史観 97,1977 年。)
(*)(参考：西川治「地理学者の中央アジアへの探検—フンボルト(シルクロード地帯の地理)」地理 22(10),1977 年。)
(*)(参考：鴇田文三郎『チーズの来た道』河出書房新社,1977 年(→1991 年,新装版。→2010 年,講談社学術文庫版)。)
(*)(参考：オスヴァルト・シュペングラー/村松正俊訳『西洋の没落(1,2)』改訳版,五月書房,1976年。)
(*)(参考：山本新「トインビーのルネサンス観」(神奈川大学人文学会)人文研究 66,1977 年。)
(*)(参考：D.ベイリー/左近義慈・南部泰孝訳『聖書の歴史地理』創元社,1977 年。)
(*)『考古と美術展：古代中近東地中海域』大塚工芸社,1977 年(→1978,1979,1996 年)。
(*)『古代オリエント,地中海域土偶展：東京個人蔵に拠る』三日月,1977 年。)
(*)(参考：三上次男・杉山二郎編『大英博物館：秘宝と人類文化の遺産』講談社,1977 年。)
(*)有賀喜左衛門「外国文明の輸入断想(1,2)」伊那路 21(2,8),1977 年。
(*)上田穣「鎖国期洋風文化の受容と伝播(特集・日本思想史上の中央と地方)」季刊・日本思想史 3,1977 年。
(*)飯沼二郎「新風土論(1)和辻哲郎の「風土」について」経済評論 26(5),1977 年。
(*)田中彰『岩倉使節団』講談社現代新書,1977 年(→岩波同時代ライブラリー『岩倉使節団・米欧回覧実記』収録)
(*)渡辺實『近代日本海外留学生史』講談社,1977-78 年。
(*)(参考：田中美知太郎・貝塚茂樹「対談 東洋と西洋—その科学・歴史・生命観」(東洋学

術研究所)東洋学術研究 16(3),1977 年。)
(*)竹越与三郎著・中村哲校閲『二千五百年史(1-5)』講談社学術文庫,講談社,1977 年(→1990 年,上下・新装版)。)
(*)久米邦武編・田中彰校注『特命全権大使『米欧回覧実記』(全 5 巻)』岩波文庫,岩波書店,1977-82 年。→1985 年,5 巻)。
(*)(参考：菊池租「アレクサンドリア図書館関係古文献断片訳稿」図書館学 30,1977 年。)
(*)沼尻源一郎「洋学初期の外国辞書をめぐって—東関東現存書を中心に」(沼尻源一郎編『水戸の洋学』所収,柏書房,1977 年。)
(*)杉本つとむ「高橋景保『亜欧語鼎』の小察」早稲田大学図書館紀要 18,昭和 52 年。
(*)井田好治「吉雄権之助編“蘭英漢三国対訳辞典”の発見とその考証」横浜国大学人文紀要（第 2 類 語学文学）24,1977 年。
(*)惣郷正明「薩摩辞書の系譜」英学史研究 10,1977 年。
(*)三橋猛雄編『明治前期刊行書古本目録』明治堂書店,1977 年。
(*)惣郷正明・朝倉治彦編『辞書解題辞典』東京堂出版,昭和 52 年。
(*)木村毅「翻案」(百合若。日本近代文学館編『日本近代文学大事典・第 2,3 巻』所収,講談社,1977 年。)
(*)(参考 : 祖父江孝男・米山俊直・野口武徳編『文化人類学事典』ぎょうせい,1977 年(→1987 年,改訂版)。)
(*)(参考 : 富松祥郎他編『薬学基本用語辞典』8 版,同学社基本用語辞典シリーズ,同学社,1977 年。→1985 年,改訂版。)
(*)(参考：岩隈直『新約ギリシャ語逆引辞典』山本書店,1977 年。)
(*)日本近代文学館編『日本近代文学大事典・第 2,3 巻』講談社,1977 年。
(*)斎藤毅『明治のことば : 東から西への架け橋』講談社,1977 年(→2005 年,『明治のことば : よみがえる江戸・明治のことば』講談社学術文庫版。)
(*)Michael Cooper/山本浩訳「十六世紀の日葡辞書(東西文化交流と言語の役割,特集)」ソフィア 26(1),1977 年。)
(*)杉本つとむ「蘭学者の言語思想(特集 江戸時代の言語思想)」言語生活 309,1977 年。
(*)(参考：矢島文夫『文字学のたのしみ』大修館書店,1977 年。)
(*)(参考 : A・メイエ/泉井久之助訳『史的言語学における比較の方法』みすず書房,1977 年。)
(*)(参考：松平千秋・國原吉之助『新ラテン文法』第 3 改訂版,南江堂,1977 年。)
(*)(参考：京都大学文学部編『イタリア学文献目録』日本イタリア京都会館,1977 年。)
(*)和田裕行編『會津八一の書誌』帝塚山大学図書館,1977 年。
(*)「著作目録(西村貞二)」東北大学史料館 147,1977 年。)
(*)(参考：高柳俊一「〈書評〉古典と聖書と世俗化」ソフィア 26(2),1977 年。)
(*)逸見喜一郎・片山英男「ギリシア悲劇の詩句分析と電子計算機」西洋古典学研究 24,1977 年。
(*)(参考：丑田弘忍「ボエティウス『哲学の慰め』におけるラテン語奪格の Notker Labeo の表現法」中京大学教養論叢 18(2),1977 年。)
(*)(参考：篠田浩一郎『形象と文明：書くことの歴史』白水叢書 19,白水社,1977 年(→1982 年,2 刷)。)
(*)惣郷正明『サムライと横文字』エンサイクロペディア・ブリタニカ(ジャパン)・インコーポレーテッド,1977 年。

(*)柳父章『翻訳の思想：「自然」と nature』平凡社選書 54,1977 年。)
(*)呉茂一『寺田透氏のこと』寺田透評唱,現代詩手帖 20(7),1977 年。
(*)(參考：山川偉也「神話(1)」桃山学院大学キリスト教論集 19,1977 年。)
(*)(參考：高橋睦郎『愛の女神たち』新書館,1977 年。)
(*)(參考：上妻龍「ミュトスとロゴス(神話,特集)」実存主義 81,1977 年。)
(*)(參考：大槻真一郎「プラトンの「神話」(ミュートス)—垂直思考の試み(神話,特集)」実存主義 81,1977 年。)
(*)(參考 : 大木文雄「ゲーテの象徴と神話—特に《古典的ヴァルブルギスの夜》をめぐって」釧路論集 9,1977 年。)
(*)(參考：木島俊介「大地と豊饒の神話（ピカソの「女」たち,特集）」美術手帖 427,1977 年。)
(*)(參考：中村善一「〈論説〉H.ブロッホにおける神話と文学(人文科学篇)」千葉敬愛経済大学研究論集 13,1977 年。)
(*)(參考：上村邦子「ボオドレエルにおける白鳥神話の位置」(大阪大学)Gallia17,1977 年。)
(*)(參考：高橋英夫「ケレーニイの『ディオニューソス』」學鐙 3 月号,1977 年。)
(*)(參考：古賀武麿「歴史の神話的考察—特にM.エリアーデの諸説に関して」大谷大學研究年報 29,1977 年。)
(*)(參考 : 荻野恒一「真正シャマーニズムの復権—H.フィンダイゼン「霊媒とシャマン」,M.エリアーデ「シャーマニズム」,桜井徳太郎「日本のシャマミズム」(思想と潮流)」朝日ジャーナル 19(20),1977 年。)
(*)(參考：『ギリシア神話・イソップ物語・北欧神話』少年少女世界の文学,パシフィカ,タイムライフブックス(発売)1977 年。)
(*)(參考：高津春繁・高津久美子訳『ギリシア神話』偕成社文庫 3043,偕成社,1977 年。)
(*)(參考：高津春繁・阿部知二『アラビアン=ナイト,ワイナモイネン物語,ギリシア神話,ホメーロス物語,聖書物語,イソップ寓話,ニーベルンゲンの歌,ローランの歌,きつね物語,中世騎士物語』少年少女世界の名作文学 1[古典編 2],小学館,1977 年。
(*)(參考：久野昭「不死鳥神話」地域文化研究 3,1977 年。)
(*)(參考：トーマス・インモース「ギリシャの神々とは何か」ソフィア 26(2),1977 年。
(*)(參考：松田修「プロメテウスの業」現代史手帖 20(7),1977 年。)
(*)(參考：吉村貞司「柿本人麻呂(7)エロス神話の民族性」理想 538,1977 年。)
(*)(參考 : 木村重信「古拙美術の旅(12 完)先史時代のヴィナス」日本美術工芸 471,1977 年。)
(*)(參考：田中英道「浴槽のふたりのヴィーナス：「ガブリエル・デストレとその姉妹」図の人文主義的解釈」美學 27(4),1977 年。)
(*)(參考：伊藤清司・大林太良編『国生み神話・高天原神話』(小林市太郎「ポセイドーンとスサノウノミコト—比較神話学の一方法の試み」/吉田敦彦「スキュタイ王の聖宝と日本の三種の神器」)日本神話研究 2,學生社,1977 年。)
(*)(參考:澤柳大五郎「白地レキュトスに於ける死者の表現」(早稲田大学)美術史研究 14,1977 年。)
(*)(參考 : 谷泰「イエスをめぐる神話的標徴のモデル—地中海地域羊群管理パターンとのかかわり」思想 636,1977 年。)
(*)(參考：新見宏『ジュネーブ聖書について：解説』講談社,1977 年。)

(*)(参考：三木利英『キリスト教古代の研究』風間書房,1977 年。)
(*)(参考：由木康『キリストを知る：ピリピ人への手紙講解説教』ヨルダン社,1977 年。)
(*)(参考：矢内原忠雄『山上垂訓講義；マタイ伝随想；マタイ伝断片；使徒行伝講義(1,2)』聖聖書講義 1,2,岩波書店,1977 年。)
(*)(参考：テーラー・コードウエル/原忠雄抄訳『愛すべき光栄ある医者：ルカ福音書の著者ルカの小説化』出版者不明,原忠雄,1977 年。)
(*)(参考：坪井一「『ヨハネ伝福音書』プロローグの研究—宗教史学派のばあい」(東北大学)文化 40(3・4),1977 年。)
(*)(参考：三小田敏雄「デキウスのキリスト教徒迫害に関する一考察」(東海大学)文学部紀要 27,1977 年。)
(*)(参考：立正大学文学部西洋史研究室内酒井三郎博士喜寿記念事業会編『世界史研究論叢：酒井三郎博士喜寿記念』(酒井三郎「世界史と文化史」,新田一郎「皇帝崇拝とキリスト教迫害」)令文社,1977 年。)
(*)(参考:松本宣郎「迫害帝ガレリウス—311 年の寛容令をめぐって」西洋史学 105,1977 年。)
(*)(参考：豊田浩志「《大迫害》直前のローマ帝国とキリスト教—殉教者伝叙述を中心として」キリスト教史学 31,1977 年。)
(*)(参考：新田一郎「皇帝崇拝とキリスト教徒迫害」世界史研究論叢 10 月号,1977 年。)
(*)松本宣郎「蛭沼・秀村・新見・荒井・加納編訳「原典新約時代史」(山本書店)」史學雑誌 86(9),1977 年。
(*)(参考：グスターフ・シュテーリン/大友陽子訳『使徒行伝：翻訳と註解』ATD・NTD 聖書註解刊行会,NTD 新約聖書註解 5,1977 年。)
(*)(参考:日本聖書学研究所編『聖書における言葉と伝承』聖書学論集 12,山本書店,1977 年。)
(*)(参考：關名正雄『旧約聖書学と共に(上下)』岩波全書,岩波書店,1977 年。)
(*)(参考：小嶋潤『文化と宗教：科学・歴史・文化・道徳・諸宗教世との連関においてキリスト教を考える』改訂増補,聖公会出版,1977 年。)
(*)(参考：H.R.ボーア/塩野靖男訳『初代教会史』教文館,1977 年。)
(*)(参考:エヴェレット・F.ハリソン/島田福安訳『新約聖書緒論』聖書図書刊行会,1977 年。)
(*)(参考：川村輝典『キリスト教入門 I 聖書』日本基督教団出版局,1977 年。)
(*)(参考：森優『私の聖書入門』聖文舎,1977 年。)
(*)(参考：木村義男著/大島節子絵『小学生の聖書(新約・旧約)』サンパウロ,1977 年。)
(*)(参考：『改版訳聖書』フランシスコ会聖書研究所,中央出版社(発売),1977 年。)
(*)(参考：Sasagu Arai“Simonianische Gnosis und die Exegese über die Seele”(in：K..Rudorph ed.,*Gnosis und Gnosticism*,J.Brill,Leiden,1977.)
(*)(参考:バローズ原作/ローリングズ原作/[ハート原作]/サバチニ原作/ウォレス原作・他『ターザン物語,子じか物語,ハート短編集,スカラムーシュ,ベン・ハー,怪物,わんぱく少年物語,アメリカ文学短編集,ドリトル先生航海記』少年少女世界の名作 9,アメリカ編 8,9,小学館,1974 年。)
(*)(参考：G.ヴィルク/新見宏訳『イエスの足あと』新教出版社,1977 年。
(*)(参考:高見澤潤子文/ドン・クエーカー絵『イエスにであったパウロ:使徒行伝 9 章 1-30』アーチブック・たのしいせいしょえほん 29,聖文舎,1977 年。)
(*)(参考：高見澤潤子文/オバタ・デザインズ,アリス・ハウスナー絵『くさりにつながれたパウロ：使徒行伝 27 章-28 章』アーチブック・たのしい

せいしょえほん 30,聖文舎,1977 年。)
(*)(参考：ベッテルハイム訳『保羅寄羅馬人書』複製品,)天理大学出版部,1977 年。)
(*)(参考：荒井献『使徒行伝(上下)』現代新約註解全書,新教出版社,1977 年。)
(*)(参考：塚本虎二『絶対との出会い：『イエス伝』からの一二篇』聖書知識社,1977 年。)
(*)(参考：塚本虎二訳『使徒のはたらき：新約聖書』岩波文庫,岩波書店,1977 年。)
(*)(参考：高柳俊一「古典と聖書と世俗化—Owen Chadwick,The Secularization of the European Mind in the Nineteenth century,1975 他 3 点」ソフィア 26(2),1977 年。)
(*)椎名麟三『小説マタイ伝』椎名麟三信仰著作集 12,教文館,1977 年。
(*)(参考：坪井一「「ヨハネ伝福音書」プロローグの研究—宗教史学派のばあい」文化 40(3・4),1977 年。)
(*)(参考：相沢文蔵「ヘロデ・アンティパス」(弘前大学)文経論叢 12(4),1977 年。)
(*)(参考：ウォルフガング・E・パックス/三浦朱門・曽野綾子訳『イエスの歩いた道』学習研究社,図説聖書の世界 1,1977 年。)
(*)(参考：モシェ・パールマン/三浦朱門・曽野綾子訳『モーゼの歩いた道』学習研究社,図説聖書の世界 2,1977 年。)
(*)(参考：森道子「ミルトンと初期キリスト教思想家：アレクサンドリアのクレメンスとテルトリアヌス」大手前女子大学論集 11,1977 年。)
(*)(参考：『ローマとヴァチカン』Plurigraf,1977 年。)
(*)(参考：「ニューイングランドピューリタニズム研究の動向—解題にかえて(New England Puritanism 書誌)」同志社アメリカ研究・別冊 2,1977 年。)
(*)(参考：ジャン・セズネック/高田勇訳『神々は死なず：ルネサンス芸術における異教神』美術出版社,1977 年。)
(*)遠藤周作「西洋人」群像 32(3),1977 年。
(*)(参考：遠藤周作「イエスがキリストになるまで(1-13)」新潮 74(5-12),1977 年/75(1-5),1978 年。)
(*)池内輝雄「遠藤周作「海と毒薬」(現代小説の方法—文学世代の台頭)」国文学・解釈と鑑賞 47(11),1977 年。
(*)松田修「新しい照射と謎解き—遠藤周作「鉄の足枷」」海 9(7),1977 年。
(*)南部全司「遠藤周作とフランソワ・モーリヤック—「海と毒薬」の技法をめぐって」仏語仏文学研究 9,1977 年。
(*)佐古純一郎『椎名麟三と遠藤周作』日本基督教団出版局,1977 年(→1989 年,朝文社版)。
(*)冬樹社編集部編『椎名麟三』現代作家入門叢書,冬樹社,1977 年。
(*)沖塩徹也『椎名麟三：その人と作品』Town 文庫 4,タウン編集室,1977 年。
(*)丸山真男「古典からどう学ぶか—ある読書会の開講のことば」図書 337,1977 年。
(*)「私の古典一冊—読者からの投稿」図書 337,1977 年。
(*)(参考：前田護郎「宗教批判と言語批判」言語 6(5),1977 年。)
(*)(参考：前田護郎「聖霊論と聖書論」聖書愛語 160,1977 年。)
(*)(参考：前田護郎「内村[鑑三]精神と西洋古典」聖書の言 500,1977 年。)
(*)(参考：前田護郎「西洋的精神を探る—東大(百年)と西洋古典学」東京大学新聞 2219,1977 年。)
(*)(参考：モーリス・ドペス,ガストン・ミアラレ編/波多野完治他監訳『教育の歴史』白水社,現代教育科学,1977 年。)

(*)(参考：皇至道『教育思想史』皇至道著作集 2,第一法規,1977 年。）
(*)(参考：野田又夫・藤澤令夫「真理をめぐって(特集 真理論)」理想 534,1977 年。)
(*)(参考：廣川洋一(他)『ヨーロッパにおける学の生成』東海大学出版会,1977 年。)
(*)(参考：遠山諦虔『哲学的自然の思想』芦書房,1977 年。)
(*)樫山欽四郎『悪について』創文社,1977 年。
(*)(参考：金子武蔵『西洋精神史考』以文社,1977 年。)
(*)(参考：山崎正一「光のエピステメー」エピステメー3-4 月号,1977 年。)
(*)(参考：山崎正一『幻想と悟り—主体性の哲学の破壊と再建』朝日出版社,1977 年。)
(*)(参考：山川偉也『人間とイデア』法律文化社,1977 年。)
(*)野田又夫「プラトンの「パイドン」(一冊の本)」理想 524,1977 年。
(*)(参考:森進一「影の洞窟から本然の生へ(虚構なる地平を切り拓くための各論,総合企画)」日本及日本人 1540,1977 年。)
(*)(参考：芹沢功「エリート論断章—プラトンとボットモアの間(エリート〈特集〉)」海外事情 25(9),1977 年。)
(*)(参考：清水純一「プラトニズムのルネサンス」現代思想 6 月号,1977 年。)
(*)(参考：『聖賢偉傑物語』修養全集：復刻版 1,講談社,1977 年(←昭 3 年刊の複製)。)
(*)(参考：田中美知太郎編『宗教と倫理』人文書院,1977 年。)
(*)(参考：田中美知太郎編『哲学そのもの』人文書院,1977 年。)
(*)(参考：田中美知太郎『哲学初歩』岩波全書 115,岩波書店,1977 年。)
(*)(参考：田中美知太郎講演/齋藤廣編『哲学の文章について』日本文化会議月例懇談会収録集 100,日本文化会議,1977 年。)
(*)(参考：田中美知太郎『哲学のために』レグルス文庫,第三文明社,1977 年。）
(*)(参考：川島清吉『プラトンのアカデメイア—その哲学と教育についての研究』公論社,1977 年。)
(*)(参考：角川書店版『プラトン全集・別巻：年表・総索引』角川書店,1977 年。)
(*)(参考：川田殖編『アリストテレス』世界の思想家 2,平凡社,1977 年。)
(*)(参考：田中美知太郎責任編集『アリストテレス』中公バックス,世界の名著 8,中央公論社,1977 年。)
(*)(参考：山本光雄『アリストテレス—自然学・政治学』岩波新書,岩波書店,1977 年。)
(*)(参考：鹿野治助『エピクテートス：ストア哲学入門』岩波新書,岩波書店,1977 年。)
(*)(参考：森岡卓也『プロティヌスの悪論研究序説』森岡卓也,1977 年。)
(*)(参考：山田晶『アウグスティヌスの根本問題』中世哲学研究 1,創文社,1977 年。)
(*)(参考：加藤信朗「山田晶著『アウグスティヌスの根本問題』--中世哲学研究第一」中世思想研究 19,1977 年。)
(*)(参考:三木利英『キリスト教的古代の研究—アンブロシウスとアウグスティヌス』風間書房,1977 年。)
(*)(参考：泉治典編『アウグスティヌス』世界の思想家 3,平凡社,1977 年。)
(*)(参考：下村寅太郎・服部英次郎編『哲学研究大系』河出書房新社,1977 年。)
(*)(参考:グラープマン著/高桑純夫訳『聖トマス・アクィナス:その人と思想』長崎出版,1977 年。)
(*)今野国雄「樺山紘一著「ゴシック世界の思想像」」史學雑誌 86(4),1977 年。
(*)(参考:小池辰雄『百世の師ヒルティ』小池辰雄著作集 5,小池辰雄著作集刊行会,1977 年。)

(*)「呉茂一氏死去　ギリシャ劇に名訳、田中美知太郎氏の話」東京朝日新聞朝刊 12/30,1977 年。
(*)(参考 : 古田光『西洋古代とルネサンスの精神構造の比較研究』横浜国立大学(1976 年),(科研費)1977 年。)
(*)(参考：高桑純夫・南博・古田光『高校倫理・社会』改訂版,実教出版,1977 年。)
(*)(参考：岡道男『ホメロスと叙事詩の環』京都大学,文学博士,乙第 3361 号,1977 年。)
(*)(参考：高津春繁『古代ギリシア文学史』改版,岩波全書 167,岩波書店,1977 年。)
(*)(参考：廣川洋一『ヘシオドス研究序説：ギリシア思想の生誕』京都大学,文学博士,乙第 3360 号,1977 年。)
(*)(参考：アリストパネース/高津春繁訳『蜂』改版,岩波文庫,岩波書店,1977 年。)
(*)(参考：アリストパネース/高津春繁訳『雲』改版,岩波文庫,岩波書店,1977 年。)
(*)(参考：新関良三『新関良三演劇論文集』東京堂出版,1977 年。)
(*)(参考 : 小苅米晄『葡萄と稲 : ギリシア悲劇と能の文化史』白水社,白水叢書 22,1977 年。)

(*)(参考 : 当津武彦「アリストテレスの喜劇論と Tractatus Coislinianus」美学 27(4),1977 年。)
(*)(参考：当津武彦「最近のカタルシス解釈」美学 28(2),1977 年。)
(*)(参考 : 河底尚吾「アリストパネェスの Syklophantes : 「悪」の表現」西洋古典学研究 25,1977 年。)
(*)(参考：村松仙太郎「ギリシャ悲劇と〈トロイアの女〉(映画・トロイアの女)」悲劇喜劇 30(1),1977 年。)
(*)(参考：野田雄司「「トロイアの女〉を観て(映画・トロイアの女)」悲劇喜劇 30(1),1977 年。)
(*)(参考：アリストパネース著/高津春繁訳『雲』改版,岩波文庫,岩波書店,1977 年。)
(*)(参考：アリストパネース著/高津春繁訳『蜂』改版,岩波文庫,岩波書店,1977 年。)
(*)(参考 : 松田治「ホラーティウスにおけるトロヤの英雄たち(1-4)」流通経済大学論集 11(3), 12(2),1977 年/15(4),16(1),1981 年。)
(*)(参考：辻佐保子“Quelques réflections sur le thème de la résurrection du Christ：ce que l’iconographie des ‘Saintes Femmes au tombeau’ doit à l’art funéraire paîen”*Orient* 13,1977.)
(*)(参考 : 田中千里「「アヴェロエス研究」--トマスのアヴェロエス派反論に反論して(A)(B)」近畿大学教養部研究紀要 9(2),1977 年//10(1),1978 年。)
(*)(参考 : 宮内璋「[司会のまとめ](中世哲学におけるプラトニズム—特に善の問題を中心にして)[中世哲学会第 25 回大会]シンポジウム」中世思想研究 19,1977 年。)
(*)(参考 : Riesenhuber Klaus/本間英世訳「提題 トマス・アクイナスにおけるプラトニズム：(中世哲学会第 25 回大会)シンポジウム」中世思想研究 19,1977 年。)
(*)(参考：Riesenhuber Klaus/本間英世訳「提題 アンセルムスにおける‘Entplatonisierug’について：(中世哲学会第 25 回大会)シンポジウム」中世思想研究 19,1977 年。)
(*)(参考：松永雄二・加藤信朗「質問(中世哲学におけるプラトニズム—特に善の問題を中心にして)[中世哲学会第 25 回大会]シンポジウム」中世思想研究 19,1977 年。)
(*)(参考：ジャック・ルゴフ/柏木英彦・三上朝造訳『中世の知識人—アベラールからエラ

スムスへ』岩波新書,岩波書店,1977 年。)
(*)(参考：エラスムス/山内宣訳・徳善義和解説『評論「自由意志」』聖文舎,1977 年。)
(*)(参考：野町啓「ボエティウスの認識論—mens・ratio・intellectus・intelligentia」中世思想研究 19,1977 年。)
(*)(参考：ルネッサンス研究所編『中世とルネッサンス』ルネッサンス双書,荒竹出版,1977 年。)
(*)(参考：W.ペイター/別宮貞徳訳『ルネサンス』冨山房百科文庫 9,1977 年。)
(*)樺山紘一「柏木英彦著「中世の春：十二世紀ルネサンス」(創文社)」史學雑誌 86(2),1977 年。
(*)(参考:三上朝造「シャルトル学派とその周辺:十二世紀人文主義の一側面」史学 48(3),1977 年。)
(*)(参考：生田圓・雪山行二『ルネサンスの絵画』世界文化社,世界の美術・カルチュア版 1,1977 年。)
(*)(参考：高橋康也『道化の文学：ルネサンスの栄光』(エピクロス,エラスムス)中公新書,中央公論社,昭和 52 年。)
(*)(参考：樺山紘一「ルネサンス—死と再生歴史想念」現代思想 6 月号,1977 年。)
(*)(参考:片山英男訳「フィレンツェのアカデミア・プラトニカ」現代思想 6 月号,1977 年。)
(*)(参考：清水純一「プラトニズムのルネサンス」現代思想 6 月号,1977 年。)
(*)(参考：山田弘明「ガッサンディとデカルト」名古屋市立大学教養部紀要 人文社会研究 21,1977 年。)
(*)(参考：五十嵐久仁平「ヴィーコとフォロソフ(小林正之先生古稀祝賀退職記念号)」史観 94,1977 年。)
(*)(参考:三上朝造「シャルトル学派とその周辺:十二世紀人文主義の一側面」史学 48(3),1977 年。)
(*)(参考：西沢邦輔訳『ダンテ神曲』東村山キリスト教図書出版社,1977 年。)
(*)(参考：楠村雅子「ダンテとイスラム文学との接点」イタリア学会誌 25,1977 年。)
(*)杉浦明平「古典、新訳のとき—ダンテ著壽岳文章訳「神曲」(地獄・煉獄・天国篇)(思想と潮流)」朝日ジャーナル 19(19),1977 年。
(*)大塚幸男「ダンテ「神曲」の翻訳について」福岡大学人文論叢 29,1977 年。
(*)(参考:デシデリウス・エラスムス/山内宣・徳善義和訳『評論「自由意志」』聖文舎,1977 年。)
(*)(参考：金子晴勇『宗教改革の精神：ルターとエラスムスとの対決』中公新書 462,中央公論社,1977 年。)
(*)(参考：高岡幸一「ペトラルカとフランス・ルネッサンスの詩人達(2)La Belle Matineuse の主題」アカデミア 文学・語学編 24,1977 年。)
(*)(参考：矢代幸雄著/高階秀爾他訳『サンドロ・ボッティチェルリ』岩波書店,1977 年。)
(*)(参考：辻邦生『春の戴冠(上下)』新潮社,1977 年(→1996 年,新潮社。→2008 年,4 冊,中公文庫。)
(*)高橋英夫「イデアと現実—辻邦生「春の戴冠」,中上健次「枯木灘」(新著月評)」群像 32(8),1977 年。
(*)清水徹「抵抗としての物語--辻邦生「春の戴冠」の場合」海 9(9),1977 年。
(*)栗津則雄「辻邦生への手紙--辻邦生「春の戴冠」」すばる 3,1977 年。

(*)峰尾雅彦「あーと・あらかると 書評辻邦生著「春の戴冠」」三彩 361,1977 年。
(*)(参考:大竹勝『イギリス文学新研究—トマス・モアから T.S.エリオットまで』評論社,1977 年。)
(*)(参考:渡辺誠一「イングランドの初期ヒューマニストの教育思想の研究(1)トマス・モアの教育思想」東京教育大学教育学研究集録 17,1977 年。)
(*)(参考:木下広居「トマス・モア」創価法学 7(1),1977 年。)
(*)(参考:池上忠弘他著『シェイクスピア研究』慶應通信,1977 年。)
(*)(参考:清水隆『ギッシング研究序説(正続)』桐原書店,1977 年。)
(*)イソップ著/亀山龍樹訳『イソップ寓話集』国土社版世界の名作 29,国土社,1977 年。
(*)フィゲレド作/浅川彰三訳;赤木三郎台本;関きよし演出;安達元彦音楽,ブレヒト作/加藤衛訳;赤木三郎台本;関きよし演出;安達元彦音楽,モリエール作/井村順一訳;赤木三郎台本;関きよし演出;安達元彦音楽『狐とぶどう:フィゲレドの戯曲とイソップの寓話から,セチュアンの善人:寓話劇,プールソニャック氏:モリエール笑劇』池袋小劇場,1977 年。
(*)『ひそめ草』(イソップ。近世文学資料類従仮名草子編 29『ひそめ草 ふしんせき』所収,勉誠社,1977 年。
(*)曽我休自『為愚癡物語』(イソップ。近世文学資料類従仮名草子編 33『為愚癡物語(下)』所収,勉誠社,1977 年。
(*)遠藤潤一「いそぽ物語試論(1-5)」國學院雑誌 78(4,7,8),1977 年/79(7,12),1978 年。
(*)山村公治「文学作品たらしめるために—イソップ寓話の解釈」奈良教育大学教育研究所紀要 13,1977 年。
(*)(参考:平川祐弘「イソップ物語・比較倫理の試み(前後)」諸君 9(4,5),1977 年。)
(*)「座談会 語り物の起源と渡来」フォクロア 2,1977 年。
(*)松尾利信『イソップ談義:随筆』片岡印刷所(印刷),1977 年。
(*)石井光治「英学事始」関西外国語大学研究論集 27,1977 年。
(*)中野記偉「漱石の正義—英語文学化したプラトニズムに関連して」比較文学 20,1977 年。
(*)(参考:『増補版・渡辺一夫著作集 2—ラブレー雑考(下)』筑摩書房,1977 年。)
(*)(参考:竹田英尚「モンテーニュの思索の歩み--「エセー」の構造とその論理に見る(11-17)」追手門学院大学文学部紀要 11,1977 年/12,1978 年/13,1979 年/14,1980 年/15,1981 年/16,1982 年/17,1983 年。)
(*)(参考:ラブレー原作/ドーノワ夫人原作/ボーモン夫人原作/ラ・フォンテーヌ原作/ラマルチーヌ作/メリメ原作/ジョルジュ・サンド原作/大デュマ原作/ユゴー原作/ペロー原作『ガルガンチュア物語;森のめじか;美女と野獣;ラ・フォンテーヌ寓話集;ラマルチーヌ詩;コロンバ;マテオ=ファルコーネ;愛の妖精;三銃士;ああ無情;ペロー童話』少年少女世界の名作文学 10,フランス編 1-2,小学館,1977 年。)
(*)(参考:清原洋子「ラ・フォンテーヌとユマニスム」フランス文学論集 12,1977 年。)
(*)(参考:ラ・ブリュイエール/関根秀雄訳『カラクテール:当世風俗誌(上中下)』岩波文庫,岩波書店,1977 年。)
(*)(参考:戸張智雄「ヴォルテールの悲劇「エディップ」批判の一書簡」仏語仏文学研究 9,1977 年。)
(*)(参考:五十野昭夫「カミュの学士論文『キリスト教形而上学とネオプラトニズム』につ

いて」フランス語フランス文学研究 31,1977 年。)
(*)(参考：桑原武夫「日本のフランス文学研究にのぞむ」フランス語フランス文学研究 31,1977 年。)
(*)(参考：菊池栄一『唱和の世界：ゲーテ『西東詩集』理解のために』朝日出版社,1977 年。)
(*)菊池栄一「木村直司著ゲーテ研究—ゲーテの多面的人間像」ドイツ文学 59,1977 年。
(*)戸川敬一「ゲーテ全体像の解明--木村直司著『ゲーテの多面的人間像』」ソフィア 26(1),1977 年。
(*)鈴木邦武「菊池栄一著唱和の世界：ゲーテ『西東詩集』理解のために」」ドイツ文学 60,1977 年。
(*)小栗浩「菊池栄一著唱和の世界：ゲーテ『西東詩集』理解のために」について—菊池栄一先生への書簡」比較文學研究 33,1977 年。
(*)菊池栄一「小栗浩教授へのお答え(菊池栄一著唱和の世界：ゲーテ『西東詩集』理解のために」について—菊池栄一先生への書簡)」比較文學研究 33,1977 年。
(*)(参考：内藤克彦『青年期のシラー：その主要テーマを中心に』東京教育大学 文学博士乙第 460 号,1977 年。)
(*)(参考：内藤克彦『マンハイム時代のシラーの作品：青年期のシラー第 2 部』南江堂,1977 年。)
(*)(参考：奥住綱男「レッシング文献批判」千葉商大紀要 14(4),1977 年。)
(*)(参考：武安宥「シュライエルマッヘルの大学論」教育科学研究年報 3,1977 年。)
(*)(参考：竹部琳昌「ヘルダーリンのエンペドクレス受容について—悲劇「エンペドクレスの死」以前」同志社外国文学研究 17,1977 年。)
(*)(参考：高尾国男「フリードリヒ・ヘルダーリン(7)小説「ヒュペーリオン」第二章「ターリア断片」及び諸々の遺稿についての考察および第三章完成作(齋藤清教授古稀記念号)」独逸文学 21,1977 年。)
(*)(参考：小林繁吉「ヘルダーリンのエムペドクレスについて：その没落と苦悩」ドイツ文学語学研究 1,1977 年。)
(*)(参考：木村彰一他編『ノヴァーリス・ヘルダーリン』世界文学全集 20,講談社,1977 年。)
(*)(参考：岩崎允胤「ノヴァーリスとかれの詩,愛,宗教(思想史と状況)」一橋論叢 78(5),1977 年。)
(*)(参考：船越栄「木下杢太郎とホーフマンスタール」文芸研究 85,1977 年。)
(*)(参考:船越克己「E.R.クルツィウスのホーフマンスタール評論について」独仏文学 11,1977 年。)
(*)(参考：奥田延子「クライスト『ペンテジレーア』とそのギリシア的素材について」待兼山論叢 10,1977 年。)
(*)(参考：森健二「ボルヒャルトのウェルギリウス論」近畿大学工学部紀要 7,1977 年。)
(*)(参考：高橋憲夫「ブルクハルト試論」立正大学文学部論叢 57,1977 年。)
(*)(参考：古賀保夫「ニーチェと時代精神」中京大学教養論集 18(3),1977 年。)
(*)(参考：恒吉良隆「R.J.ゾルゲの「ニーチェ時代」とその作品(1-3)」文芸と思想 41,42,1977 年/44,1978 年。)
(*)(参考：西尾幹二「ニイチェの「悲劇の誕生」(一冊の本)」理想 532,1977 年。)
(*)(参考：西尾幹二『ニーチェ：第 1,2 部』中央公論社,1977 年(→2001 年,ちくま学芸文庫)。
(*)吉沢伝三郎「ニーチェをどう読むべきか—西尾幹二「ニーチェ」第 1 部,第 2 部(思想と

潮流)」朝日ジャーナル 19(48),1977 年。)
(*)(参考：水野清志「ニーチェの倫理思想(3)イエスの問題」紀要 3,1977 年。)
(*)(参考：輪田稔「若きニーチェにおける芸術と認識」思索 10,1977 年。)
(*)(参考：高橋憲夫「ニーチェのヴァーグナー観：その受容と批判をめぐって」立正大学文学部論叢 59,1977 年。)
(*)(参考：杉谷恭一「ニーチェと貴族主義の倫理」熊本大学教養部紀要 人文科学編 12,1977 年。)
(*)(参考：川瀬志貴郎「バーゼル時代のニーチェ：出発と岐路をめぐって」東海大学紀要 沼津教養部 4,1977 年。)
(*)(参考：竹下春日「ニーチェの宗教経験：宗教経験の諸類型(2)」駒澤大学外国語部研究紀要 6,1977 年。)
(*)(参考：桐田清秀「Pforta ギムナジウムのニーチェ」花園大学研究紀要 8,1977 年。)
(*)(参考：河内信弘「『教育者としてのショーペンハウアー』から：ニーチェと自然」城西人文研究 4,1977 年。)
(*)(参考：川原栄峰「ニーチェの永劫回帰説(時間 特集)(時間の思想)」数理科学 15(9),1977 年。)
(*)(参考：国分幸「認識と遠近法：ニーチェ誤謬論の意義」法経論集 40,1977 年。)
(*)(参考：瀬戸鞏吉「ニーチェの芸術論をめぐって」成蹊大学一般研究報告 13,1977 年。)
(*)(参考：齋藤武雄「ヤスパースの歴史観(歴史 特集)」実存主義 79,1977 年。)
(*)(参考：藤田赤二「二つのヒューマニズム論—ハイデガーとヤスパース」早稲田商学 266,1977 年。)
(*)(参考：高安国世『わがリルケ』新潮社,1977 年。)
(*)(参考：戸張智雄「ヴォルテールの悲劇「エディップ」批判の一書簡」(中央大学)仏語仏文学研究 9, 1977 年。)
(*)(参考：野村修『ベンヤミンの生涯』平凡社選書 50, 平凡社,1977 年。)
(*)福田陸太郎「太田三郎さんを悼む」比較文学 19,1977 年。
(*)島本晴雄「太田三郎氏の追憶」比較文学 19,1977 年。
(*)小玉晃一「太田三郎先生を憶う」比較文学 19,1977 年。
(*)(参考：野町二・荒井良雄『イギリス文学案内』世界文学シリーズ,朝日出版社,1977 年。
(*)(参考：高柳俊一『精神史の中の英文学—批評と非神話化』南窓社,1977 年。)
(*)(参考：橋本一仁「ユージン・オニール劇における表現形式・技法の変遷(3)「喪服はエレクトラにふさわし」におけるギリシア悲劇的劇構成の探究」四国学院大学論集 39,1977 年。)
(*)(参考：阿部万亀男『Shakespeare ノート—史劇』神戸市外国語大学研究叢書 7,神戸市外国語大学外国学研究所,1977 年。)
(*)(参考：小田島雄志訳『ジュリアス・シーザー』シェイクスピア文庫 8,白水社,1977 年。)
(*)(参考：冨原芳彰『シェイクスピア—四大悲劇』講座・イギリス文学作品論 21,英潮社出版,1977 年。)
(*)(参考：外山滋比古『シェイクシピアと近代』研究社出版,1977 年。)
(*)(参考：三神勲訳『シェイクスピア戯曲選集』(「トロイラス」)開明書院,1977 年。)
(*)(参考：日本シェイクスピア協会編『シェイクスピアの演劇的風土』研究社出版,1977 年。)
----野島秀勝「キャリバンの悲哀：「われ,アルカディアにありき」」

尾崎寄春「シェイクスピアのボーイ：クレオパトラ」
蛯原啓「シーザーとブルータス：性格と演技をめぐって」
(*)(参考：森道子「ミルトンと初期キリスト教思想家：アレクサンドリアのクレメンスとテルトウリアヌス」大手前女子大学論集 11,1977 年。)
(*)(参考：森谷峰雄『ミルトンの芸術の理論的研究(上)』風間書房,1977 年。)
(*)(参考：道家弘一郎「『リシダス』--その主題と構造」(ミルトン)英文学思潮 47,1977 年。)
(*)(参考：黒田健二郎「ミルトン論ことはじめ(3)：批評の鏡,彌兒頓論」神戸大学教育学部研究集録 57,1977 年。)
(*)(参考:越智文雄「ミルトンの詩における飛翔と遠望の美学—“unsphers/The spirit of Plato”」(同志社女子大学)学術研究年報 28,1977 年。)
(*)(参考：松田直郎訳「ミルトン ラテン詩」(四天王寺女子大学)英文学会報 7,1977 年。)
(*)(参考：松田実矩「「闘技者サムソン」(Samson Agonistes)鑑賞法：その自伝的,ギリシャ悲劇的,ヘブライ的,キリスト教的要素について」論集：神戸大学教養部紀要 18,1977 年。)
(*)(参考：中村美枝子「Walter Pater の『ギリシア研究』について：ギリシア彫刻を中心に(創立十周年記念論文集)」作新学院女子短期大学紀要 4,1977 年。)
(*)(参考：前田俊美「シェリーのプロメシュウス」文学と評論 12 月号,1977 年。)
(*)(参考：ジョン・キーツ/高橋雄四郎訳・注解『エンディミオン(第 2,3 巻)』実践女子大学文学部紀要 19,1977 年,20,1978 年。)
(*)(参考：高橋雄四郎「キーツ学者訪問記」實踐英文学 11,1977 年。)
(*)(参考：平井隆「Philemon と Baucis の変貌—Dryden から Swift へ」(山口大学)英語と英米文学 12,1977 年。)
(*)(参考：安田章一郎編『エリオットと伝統』研究社出版,1977 年。)
(*)(参考：長西良輔「教養と秩序—T.S.エリオットの自由教育の理念」広島女学院大学論集 27,1977 年。)
(*)(参考：田村秀夫「ホッブスの初期論説「トゥキュディデースの生涯と歴史」について—ホッブス社会哲学の成立過程(2)」経済論叢 119(4・5),1977 年。)
(*)(参考：仲手川良雄『ブルクハルト史学と現代』創文社,1977 年。)
(*)(参考：カール・レーヴィット/市場芳夫訳『ヤーコプ・ブルクハルト：歴史の中の人間』みすず書房,1977 年。)
(*)(参考：カール・レヴィット/西尾幹二・滝内槙雄訳『ブルクハルト：歴史の中に立つ人間』TBS ブリタニカ,1977 年(→1994 年,ちくま学芸文庫。)
(*)山本七平編『日本人と聖書：対談』TBS ブリタニカ,1977 年
(*)松田毅一『黄金のゴア盛衰記』中公文庫,1977 年。
(*)キリスト教学校教員同盟編『日本キリスト教教育史』創文社,1977-93 年。
(*)牛丸康夫『日本正教史』日本ハリストス正教会教団府主教庁,1977 年。
(*)海老澤有道『天草学林 論考と資料集』天草文化出版社,1977 年。
(*)海老澤有道『最初の邦訳聖書—ギュツラフとベッテルハイム訳聖書』(天理図書館本解説。天理大学出版部,Classica Japonica) 雄松堂書店,1977 年。
(*)中田実「永田方正訳「西洋教草」補遺」聖書の講解 140-143,1977-78 年。
(*)ギュツラフ『約翰福音之傳』天理大学出版部,[複製版]Classsica Japonica：第 10 次,1977 年。)

(*)ベッテルハイム『約翰傳福音書』天理大学出版部,[複製版]Classsica Japonica : 第 10 次,1977 年。
(*)新山茂樹「『約翰福音之伝』『約翰上中下書』原書探求雑感」国文鶴見 12,1977 年。
(*)藤間繁義「II 稀観資料：田島象二著編『耶蘇一代辨妄記 初帙』明治 7 年 4 月 東京 和泉屋(所蔵資料紹介)」桃山学院大学キリスト教論集 13,1977 年。
(*)高橋[愼一]・西口克己「渡辺崋山と高野長英(歴史対談)」文化評論 190,1977 年。
(*)上原久『高橋景保の研究』講談社,昭和 52 年。
(*)小池喜明「幕末における「理」の変容—佐久間象山の場合」倫理学年報 26,1977 年。
(*)中川浩一「近代地理学の伝来と痴呆への展開—茨城県の場合」(沼尻源一郎編『水戸の洋学』所収,柏書房,1977 年。)
(*)吉田精一「評論の系譜(94)阿部次郎」国文学 解釈と鑑賞 42(14),1977 年//43(1),1978 年。
(*)大桑齋「清沢満之の思想形成—東京留学期における(秋季講演要旨)」大谷学報 56(4),1977 年。
(*)下村寅太郎『西東心景』北洋社,雁のたより 1,1977 年。
(*)(参考 : 川島重成・荒井献編『神話・文学・聖書—西洋古典の人間理解』所収,教文館,1977 年。
------- 秀村欣二「「背教者」ユリアヌスの宗教政策」
荒井献「イエスと福音書文学--『放蕩息子の譬話』によせて」
佐竹明「人生のかつてと今—パウロにおける回心・召命の理解を中心として」)
(*)(参考：水垣渉「キリスト教理解とキリスト教史学(石原謙先生追悼号・日本基督教学会第 24 回学術大会 主題 キリスト教史学は可能か)」日本の神学 16,1977 年。)
(*)青山玄「石原史学とカトリック史学(同上)」日本の神学 16,1977 年。
(*)宮谷宣史「石原謙のキリスト教史観について(同上)」日本の神学 16,1977 年。
(*)秀村欣二「一般史学とキリスト教史学(同上)」日本の神学 16,1977 年。
(*)中川秀恭「はじめに(同上)」日本の神学 16,1977 年。
(*)出村彰「歴史神学(成果と展望) (同上)」日本の神学 16,1977 年。
(*)松永晋一「新約学(成果と展望) (同上)」日本の神学 16,1977 年。
(*)徳善義和(他)「歴史神学関係この五年間の研究業績について(同上)」日本の神学 16,1977 年。
(*)大内三郎「石原謙—その日本キリスト教史研究の意義(同上)」日本の神学 16,1977 年。
(*)土肥昭夫「石原謙の日本キリスト教史研究について(同上)」日本の神学 16,1977 年。
(*)石原謙「明治・大正期におけるキリスト教学の歴史について(同上・昭和 32 年 10 月 28 日、青山学院大学における日本キリスト教学会)」日本の神学 16,1977 年。
(*)有賀鉄太郎「石原謙先生追悼—偉大なる先輩として(同上)」日本の神学 16,1977 年。
(*)岸千年「序—石原謙博士追悼号に寄せて(同上)」日本の神学 16,1977 年。
(*)「石原先生の晩年について思うこと(同上)」日本の神学 16,1977 年。
(*)「石原謙先生の遺骨埋葬後、懇話会席上における感話(同上)」日本の神学 16,1977 年。
(*)小嶋潤「自然と恩[チョウ]—石原先生の追悼に寄せて(同上)」日本の神学 16,1977 年。
(*)Dinkler Erich「Zum Gedenken an Professor D.Dr.Ken Ishiwara(同上)」日本の神学 16,1977 年。
(*)鈴木俊郎「神田[盾夫]さんのこと そのおちこち」神田盾夫著作集(みすず書房)「月報」

3,1977 年。
(*)蛭沼寿雄「同道精進」神田盾夫著作集(みすず書房)「月報」3,1977 年。
(*)玉川直重「ギリシャ語を学んだ頃」神田盾夫著作集(みすず書房)「月報」3,1977 年。
(*)(参考：立正大学文学部西洋史研究室内酒井三郎博士喜寿記念事業会編『世界史研究論叢：酒井三郎博士喜寿記念』令文社,1977 年。)
-----新田一郎「皇帝崇拝とキリスト教迫害」
(*)(参考：西村貞二『歴史観とは何か』第三文明社,1977 年。)
(*)(参考：Richard.W.サザン/大江善男(他)訳『歴史叙述のヨーロッパ的伝統』創文社,1977 年。)
(*)(参考：『古代西洋：先史—5 世紀』増補版日本と世界の歴史 2,学習研究社,1977 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『詳説世界史：教授資料』改訂版,山川出版社,1977 年。)
(*)(参考：木村尚三郎『世界史資料』東京法令出版,1977 年。)
(*)(参考：本間長世・木村尚三郎『概説西洋史』有斐閣,1977 年。)
(*)(参考：木村尚三郎・石橋秀雄他編『精通世界史』学生社,1977 年。)
(*)(参考：堀田彰『ギリシア社会の諸相とその価値観』東京教育大学,文学博士,乙第 477 号,1977 年。)
(*)(参考：『15 世紀：戦乱と一揆・明・オスマントルコ・ルネサンス』増補版日本と世界の歴史 12,学習研究社,1977 年。)
(*)(参考：太田秀通「奴隷制概念の再検討」思想 641,1977 年。)
(*)(参考：中村哲『奴隷制・農奴制の理論：マルクス・エンゲルスの歴史理論の再構成』東京大学出版会,1977 年。)
(*)(参考：立田洋司「ヘロドトスの世界(1-10)」三彩 359-364,1977 年/366-369,1978 年。)
(*)(参考：渡辺浩「決断に悩むクセルクセス：ギリシャOR列伝(12)」オペレーションズ・リサーチ：経営の科学22(1),1977年。)
(*)(参考：渡辺浩「アリスアテナイの両雄：アリステイデスとテミストクレス：ギリシャOR列伝(13)」オペレーションズ・リサーチ：経営の科学22(2),1977年。)
(*)(参考：渡辺浩「情報科学の父：エジプトでのヘロドトス：ギリシャ OR 列伝(14)」オペレーションズ・リサーチ：経営の科学 22(3),1977 年。)
(*)(参考：合阪學「コイノン—拡大されたポリス理念」史林 60(1),1977 年。)
(*)(参考：井本栄一他『アレクサンダー大王 99 の謎：日本神話の英雄のモデルか』サンポウ・ブックス 137,サンポウジャーナル,1977 年。)
(*)(参考：土井正興「スパルタクス蜂起 2050 周年記念国際シンポジウムに参加して」現代と思想 30,1977 年。)
(*)(参考：朱雀成子「クレオパトラの《愛》と《名誉》—クレオパトラ論」(梅光女学院大学英米文学会)英米文学研究 13,1977 年。)
(*)(参考：樋口一雄「クレオパトラとジュリエットの恋」近畿大学教養部研究紀要 8(特集英語・英米文学),1977 年。)
(*)(参考：川井万里子「〈研究ノート〉アントニイとクレオパトラ：分裂と非現実の統一」(和歌山信愛女子短期大学)信愛紀要 17,1977 年。)
(*)(参考：大西陸子「アクティウムの海戦再考」史林 60(5),1977 年。)
(*)(参考：太田秀通「奴隷制と奴隷制社会について」歴史学研究 447,1977 年。)
(*)(参考：長谷川博隆「ローマ共和政期の養子縁組と奴隷制」名古屋大学文学部研究論集

71,史学 24,1977 年。)
(*)(参考：米田治泰『ビザンツ帝国』角川書店,1977 年。)
(*)(参考：橋本龍幸「〈論文〉『フランク史』における東ローマ帝国関係の叙述について」愛知学院大学文学部紀要 7,1977 年。)
(*)(参考：Szulc Tad「シュルツ ヨーロッパ報告(10)東地中海に戦争の火ダネ—ギリシャ・トルコの確執続く」世界週報 58(2),1977 年。)
(*)(参考：田中美知太郎編『歴史理論と歴史哲学』人文書院,1977 年。)
(*)海野一隆「漂流民津太夫らの帰国と地図の伝来」(有坂隆道編『日本洋学史の研究 4』所収,創元社,1977 年。)
(*)「文献目録—西洋史 1」史學雑誌 86(2),1977 年。
(*)矢田俊隆「岸田達也著「ドイツ史学思想史研究」」史學雑誌 86(3),1977 年。
(*)後藤篤子「J-R.バランク著久野浩訳「末期ローマ帝国」(文庫クセジュ,白水社)」史學雑誌 86(4),1977 年。
(*)(参考：坂口明「二世紀および三世紀初頭のコロヌスの法的・社会的地位：イタリアを中心に」史學雑誌 86(4),1977 年。)
(*)「史学文献目録—西洋史 2」史學雑誌 86(5),1977 年。
(*)佐藤進「西アジア・北アフリカ：古代オリエント(1976 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 86(5),1977 年。)
(*)湯川武「西アジア・北アフリカ：イスラム時代(1976 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 86(5),1977 年。
(*)清永昭次「ヨーロッパ:古代ギリシア(1976 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雑誌 6(5),1977 年。
(*)松本宣郎「ヨーロッパ:古代ローマ(1976 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雑誌 86(5),1977 年。
(*)木村尚三郎「ヨーロッパ:中世:西欧(1976 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雑誌 86(5),1977 年。
(*)佐藤伊久男「ヨーロッパ：中世：イギリス(1976 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 86(5),1977 年。
(*)田中陽兒「ヨーロッパ:中世:東欧(1976 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雑誌 86(5),1977 年。)
(*)遅塚忠躬「ヨーロッパ:近代:一般(1976 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雑誌 86(5),1977 年。
(*)吉岡昭彦「ヨーロッパ：近代：イギリス(1976 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 86(5),1977 年。
(*)千葉治男「ヨーロッパ：近代：フランス(1976 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 86(5),1977 年。
(*)坂井栄八郎「ヨーロッパ：近代：ドイツ(1976 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 86(5),1977 年。
(*)村上信一郎・林邦夫「ヨーロッパ：近代：南欧(1976 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 86(5),1977 年。
(*)相良匡俊「ヨーロッパ：現代：イギリス・フランス・その他(1976 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 86(5),1977 年。

(*)世良晃志郎「堀米庸三著「ヨーロッパ中世世界の構造」」史學雜誌 86(7),1977 年。
(*)岸田達也「西村貞二著「現代ヨーロッパの歴史家」」史學雜誌 86(9),1977 年。
(*)「史学文献目録—西洋史 3」史學雜誌 86(9),1977 年。
(*)池谷文夫「R.K.サザン著大江・佐藤・平田・渡部共訳「歴史叙述のヨーロッパ的伝統」(創文社)」史學雜誌 86(9),1977 年。
(*)坂井直芳「仲手川良雄著「フルクハルト史学と現代」」史學雜誌 86(12),1977 年。)
(*)(參考：渡部治雄「アインハルト「カール大帝伝」の歴史的意義—とくにその序文をめぐって」東北大学教養部紀要 25,1977 年。)
(*)(參考：岡崎勝世「「初期」フリードリヒ・シュレーゲルの歴史意識—近代文学と古代文学」埼玉大学紀要 13,1977 年。)
(*)(參考：池田宏『古代史学に対する疑問』新樹社,1977 年。)
(*)木全清博「社会科学的認識の発達論的研究—中学校における原始・古代史学習の基礎概念を中心として」大阪教育大学紀要(OxF9C5)教科教育 05 教科教育 26(2),1977 年。
(*)(參考 : 宮内璋「[司会のまとめ]中世哲学におけるプラトニズム—特に善の問題を中心に」中世思想研究 19,1977 年。)
(*)(參考：加藤信朗・松永雄二「質問(中世哲学におけるプラトニズム—特に善の問題を中心にして〈中世哲学会第 25 回大会〉シンポジウム)」中世思想研究 19,1977 年。)
(*)大桑斉「清沢満之の思想形成—東京留学期における(秋季公開講演会要旨)」大谷学報 56(4),1977 年。
(*)山下秀智「不思議を置く—清沢満之の哲学」倫理学年報 26,1977 年。
(*)住谷悦治「井蛙脱皮のエスペラント---転換期の学究者「三瀬周三」の生涯と偉業」日本及日本人 1540,1977 年。
(*)「鈴木成高先生年譜・主要著作目録(鈴木成高先生古稀祝賀記念号)」史観 96,1977 年。
(*)池谷敏忠『西脇順三郎ノート』千種正文館書店,1977 年。
(*)太宰治『走れメロス・新樹の言葉：他 9 篇』旺文社文庫,旺文社,1977 年。
(*)有馬周「カタストロフとしてのエディプスコンプレックス—三島由紀夫の場合」数理科学 15(12),1977 年。
(*)(參考：R.カーペンター/松島道也訳『パルテノンの建築家たち』SD 選書 122,鹿島出版会,1977 年。)
(*)(參考 : ジョン・ジューリアス・ノリッジ編集主幹『大図説世界の建築』小学館,1977 年。)
(*)(參考：木島安史・白石憲二「620 環地中海古代都市の劇場(建築史・建築意匠)」日本建築学会研究報告・九州支部 2,計画系 2,1977 年。)
(*)(參考：堀内清治・伊藤重剛・大森久司「地中海古代都市の研究(1)」日本建築学会研究報告・九州支部 2,計画系 2,1977 年。)
(*)「建築年表([日本建築学会]創立 90 周年記念講演会「近代建築の歩みを聞く」--(論文再録・年表)」建築雑誌 92(1121)。
(*)(參考：野尻抱影『星の神話・伝説』講談社,1977 年(→1985 年,講談社学術文庫)。)
(*)(參考：大林太良・中山茂・平田寛「古代文明と暦(暦,特集)」科学朝日 37(9),1977 年。)
(*)(參考：田中実『原子論の誕生・追放・復活』新日本出版社,新日本文庫,1977 年(←1949 年,三一書房版)。

(*)飯田賢一「日本のグーテンベルグ—「本木昌三」」日本及日本人 1542,1977 年。
(*)田中美知太郎・貝塚茂樹「〈対談〉東洋と西洋—その科学・歴史・生死観」東洋学研究 16(3),昭和 52 年。
(*)村上陽一郎『日本近代科学の歩み(新版)』三省堂選書,三省堂,1977 年。
(*)中山茂『日本人の科学観』創元社,1977 年。
(*)黒田孝郎「西洋数学渡来記」数学セミナー193,1977 年。
(*)近藤基吉「続・明治数学史覚書」蟻塔 23(10-12),1977 年。
(*)齋藤敏夫・佐藤佻・師橋辰夫「明治初期測量史試論—伊能忠敬から近代測量の確立まで(1-4)」地図 15(3),1977 年/16(2,3),1978 年/17(2),1979 年。
(*)(参考：ウォレン・ケントン/矢島文夫訳『占星術：天と地のドラマ』イメージの博物誌 1,平凡社,1977 年。)
(*)(参考:マックス・ジャコブ,クロード・ヴァランス/小浜俊郎訳『占星術の鏡』国文社,1977 年。)
(*)(参考：猪飼聖紀編『星座と占い：万物を支配する宇宙のリズム』産報デラックス 99 の謎,産報ジャーナル,1977 年。)
(*)吉田勝彦「高野長英「星学略記草稿」について」蘭学資料研究会研究報告 302,1977 年。
(*)広瀬秀雄「日本における暦の発達(特集 暦)」言語生活 304,1977 年。
(*)海野一隆「明石市立天文科学館所蔵古地球儀について」科学史研究 1214,1977 年。
(*)「あーと・あらかると 本の紹介 由水常雄著『図説西洋陶磁史』」三彩 361,1977 年。
(*)垣見岳秀「明治維新までの日本化学史—西欧化学の日本への導入」姫路工業大学研究報告(B)27,1977 年。
(*)杉本つとむ「曾槃編『西洋草木韻箋』についての覚書」植物と文化 18,1977 年。
(*)(参考：坂本賢三「青銅器時代エーゲ海の帆船」海事資料館年報 5,1977 年。)
(*)(参考：近藤洋逸「二つのギリシャ数学史—村田全氏の見解に関連して」思想 632,1977 年。)
(*)(参考：矢島祐利「ニコラス・クサーヌスとその時代：15 世紀前半のラテンの科学」科学史研究・第 II 期 16(123),1977 年。)
(*)(参考：矢島祐利『アラビア科学史序説』岩波書店,1977 年。)
(*)(参考:田中一郎「矢島祐利『アラビア科学史序説』岩波書店,1977 年」」史學雑誌 86(10)1977 年。)
(*)坂本賢三「科学思想の移行と土着--伊東俊太郎『文明における科学』」思想 632,1977 年。
(*)(参考：下村寅太郎「「知られざる」ニュートン—錬金術・年代記学者・神学者」日本学士院紀要 35(1),1977 年。)
(*)(参考：A.ケストラー/小尾信彌・木村博共訳『ヨハネス・ケプラー』河出書房新社,1977 年。)
(*)(参考：Lawrence C.McHenry,Jr./豊倉康夫監訳・萬年徹・井上聖啓訳『神経学の歴史：ヒポクラテスから近代まで』医学書院,1977 年。)
(*)(参考:野上素一「ダンテと医学と医師(第 50 集記念号)」聖心女子大学論叢 50,1977 年。)
(*)(参考：川喜多愛郎『近代医学の史的基盤(上)』岩波書店,1977 年。)
(*)(参考：森山徳長「20 ヘレニズム期医歯学の考古学的遺物について(日本歯科医史学会第 5 回学術大会講演抄録)」日本歯科医史学会会誌 5(2),1977 年。)
(*)(参考：外間政太郎・池田交優「古代オリンピアに於けるスタディオンの研究」琉球大学

教育学部紀要・第 2 部 21,1977 年。)
(*)(参考：早川武彦「日本における「クーベルタン像」について」一橋論叢 77(1),1977 年。)
(*)竹内靖雄『イソップ経済学』ゴマブックス,ごま書房,1977 年。
(*)石川三四郎『自叙傳』青土社,石川三四郎著作集 5,1977 年。
(*)石川三四郎『回想』青土社,石川三四郎著作集6,1977年。
(*)平田隆一「H.M.ラースト,鈴木一州譯著「「セルウィウスの改革」(『西洋古代史論集II—古代国家の展開』所収,東京大学出版会)」法制史研究1976(20),1977年。」
(*)(参考：弓削達・伊藤貞夫編『古典古代の社会と国家』東京大学出版会,1977年。)
------弓削達「古典古代の社会と国家」
古山正人「前後五八O/七九年のアルコン：ソロンの改革後のアテナイ」
篠崎三男「古典期アッティカの公的都市所有：賃貸借碑文の検討を中心に」
前沢伸行「紀元前四世紀のアテナイの海上貿易：海上貸付の分析を中心に」
伊藤貞夫「古典期宛てないの鉱山経営者」
桜井万里子「古典期アテナイにおける女性の地位と財産権：Isaios X10の法規を中心に」
毛利晶「ローマ帝政成立期のガリア社会：反ローマの戦いとガリアの民族」
坂口明「servus quasi colonusについて：奴隷制農場経営衰退の一側面」
本村凌二「「クリア」の歴史的性格：帝政期北アフリカ属州史の一側面」
松本宣郎「キリスト教大迫害：四世紀初頭のキリスト教徒とローマ帝国」
(*)(参考：合阪學「コイノン—拡大されたポリス理念」史林60(1),1977年。
(*)(参考：新明正道『政治社会学』(ソフィスト)新明正道著作集7,誠信書房,1977年。)
(*)(参考：ハンス・ケルゼン/長尾龍一訳『ダンテの国家論』木鐸社,1977年。)
(*)(参考：蝋山政道『ヒューマニズムの政治思想』(エラスムス),講談社学術文庫,1977 年(←1938年,岩波書店,政治学叢書3)
(*)(参考:仲手川良雄「ブルクハルトの記者時代(鈴木成高先生古稀祝賀記念号)」史観96,1977年。)
(*)(参考:中山治一「国際政治史における地中海時代の終末」愛知学院大学文学部紀要7,1977年。)
(*)(参考：Tad Szulc「シュルツ ヨーロッパ報告(10)東地中海世界に戦争の火ダネ—ギリシャ・トルコの確執続く」世界週報58(2),1977年。)
(*)(参考：佐々木信「チューダー期イギリス法史学史覚え書(1-4)」(駒澤大学法学会)法学論集12,14,16,18,1977年。)
(*)(参考：中村英郎『民事訴訟におけるローマ法理とゲルマン法理』民事訴訟論集第 1 巻,成文堂,1977 年。)
(*)(参考：佐藤篤士『古代ローマ法の研究』早稲田大学,法学博士,甲第 287 号,1977 年。)

(*)(参考：柄谷行人『マルクスその可能性の中心』講談社,1978 年(→1990 年,講談社学術文庫版)。
(*)「第十回亀井勝一郎賞の決定—柄谷行人「マルクスその可能性の中心」,高田宏「言葉の海へ」」群像 33(12),1978 年。
(*)宮崎市定『東風西雅』岩波書店,1978 年。
(*)柴田實・西村朝日太郎『西田直二郎；日本文化史論,西村眞次；人類学的日本文化史』

日本民俗文化大系 10,講談社,1978 年。
(*)(参考：竹内義宮編『神代の万国史』2 版,皇祖皇太神宮,1978 年。(→1987 年,3 版。→1999 年,4 版。)
(*)(参考 : R.ノーバーゲン/中山喜之訳『オーバーツの謎—消えた先史文明』パシフィカ,1978 年。)
(*)宮岡謙二『異国遍路旅芸人始末書』中公文庫,1978 年。
(*)(参考：一橋大学地中海研究会『地中海島嶼社会の総合的研究』日本評論社,1978 年。)
(*)松平千秋研究代表『古代キリシア人及びローマ人の外来文化に対する態度：抵抗と受容』松平千秋,昭和 51-52 年度科学研究費補助金総合研究(A)研究成果報告書,1978 年。
(*)国際情報社『紺碧の地中海をゆく』すばらしい世界 4,1978 年。)
(*)弓削達「地中海世界とローマ帝国」史学雑誌 87(6),1978 年。)
(*)岩田拓郎「太田秀通著「東地中海世界—古代におけるオリエントとギリシア」」史学雑誌 87(12),1978 年。
(*)(参考：平田寛・八杉龍一訳編『地中海文明と中世(上下)』増補・技術の歴史 3,4,筑摩書房,1978-79 年。)
(*)(参考：筑摩書房編集部編『歴史のあけぼの』新訂版,世界の歴史 1,筑摩書房,1978 年。)
(*)(参考 : 筑摩書房編集部編『古代オリエント文明』新訂版,世界の歴史 2,筑摩書房,1978 年。)
(*)(参考：筑摩書房編集部編『地中海世界』新訂版,世界の歴史 4,筑摩書房,1978 年。)
(*)(参考：筑摩書房編集部編『ヨーロッパ世界の成立』新訂版,世界の歴史 5,筑摩書房,1978 年。)
(*)(参考 : 筑摩書房編集部編『イスラム文化の発展』新訂版,世界の歴史 7,筑摩書房,1978 年。)
(*)堀岡弥寿子「岡倉天心の第一回インド旅行(1)」三彩 372,1978 年。
(*)『小説現代新人賞全作品』(皆川博子「アルカディアの夏」)講談社,1978 年。
(*)並河亮文・並河萬里写真『地中海 神と人の世界』玉川選書,玉川大学出版部,1978 年。
(*)(参考：渡辺金一「エーゲ海島嶼ナクソス・歴史的諸空間の累積—宗教事情ノート(地中海,特集)」一橋論叢 80(6),1978 年。)
(*)(参考：中村喜和「人魚の贈りもの—エーゲ海に浮かぶ島ナクソスのフォークロア」季刊民族学 293),1978 年。)
(*)小川博秀・寺崎ゆり子「発見の旅(41)ギリシア—群青と白のエーゲ海」週刊明星 21(26),1978 年。
(*)中村喜和「フィリティ村の日々 エーゲ海の子守歌と泣き歌」月刊百科 188,1978 年。
(*)『平山郁夫素描展：ナイル河・エーゲ海の旅』日本経済新聞社,1978 年。
(*)(参考：アイリーン・ロットマン/植田俊男訳『愛はエーゲ海に燃ゆ』ヘラルド映画文庫,ヘラルド・エンタープライズ,1978 年。)
(*)(参考：「『愛はエーゲ海に燃ゆ』のジャクリーン・ビセット」映画情報 43(11)[315],1978 年。)
(*)「特別グラビア'79 正月映画特集 アトランティス」キネマ旬報 744,1978 年。
(*)内海陽子「キネ旬試写室 愛はエーゲ海に燃ゆ」キネマ旬報 744,1978 年。
(*)「グラビア 愛はエーゲ海に燃ゆ」キネマ旬報 746,1978 年。
(*)南部圭之助「「愛はエーゲ海に燃ゆ」他,〈私の映画手帖〉小説新潮 32(11),1978 年。
(*)宮内豊「「エーゲ海に捧ぐ」芥川賞の波紋—その文学性(「内向の世代」以後の文学)—(文

学的遺産と新世代の自己主張)」国文学解釈と鑑賞 43(8),1978 年。
(*)山根献「現代文学の環境--「時間」から「エーゲ海に捧ぐ」への変容」(日本民主主義文学会)民主文学 147,1978 年。
(*)「池田満寿夫とエーゲ海と美女—カラー特集」週刊文春 20(38),1978 年。
(*)『加倉井和夫展：わたしのエーゲ海』高島屋,1978 年。
(*)『武田範芳油絵展：エーゲ海に捧ぐ』日本橋三越,1978 年。
(*)末永胤生『私のギリシア・エーゲ海案内』Tomo 選書,主婦の友社, 1978 年。
(*)『平山郁夫素描展：ナイル河・エーゲ海の旅』日本経済新聞社,1978 年。
(*)(参考：三好寿「エーゲ文明滅亡の原因としての津波」東京水産大論集 13,1978 年。)
(*)エラリー・クイーン編『日本文芸推理 12 選&One』(石川喬二「エーゲ海の殺人」)カッパ・ノベルス,光文社,1978 年。)
(*)(参考：渡辺祥子「外国映画批評 愛はエーゲ海に燃ゆ」キネマ旬報 747,1978 年。)
(*)市川勝治『みあ伊太利亜』乙骨書店,1978 年。
(*)小宮豊隆「伊太利日記(29)(遺稿)」心 31(12),1978 年。
(*)向坂寛「ギリシアの女性」日本大学人文科学研究所紀要 20,1978 年。
(*)向坂寛『古代ギリシア歴訪』北樹出版・学文社,1978 年。
(*)『オリンピア』(オリンピア社『オリンピア』1918 年版復刻)ベースボール･マガジン社,1978 年。
(*)『南欧：紀行全集・世界体験 7』(村川堅太郎他)河出書房新社,1978 年。
(*)(参考：村川堅太郎編『ギリシアの神殿』講談社,世界の文化史蹟 431978 年。)
(*)(参考：呉茂一編『ローマとポンペイ』講談社,世界の文化史蹟 4,1978 年。)
(*)サンボウジャーナル『ポンペイの悲劇』デラックス 99 の謎・歴史 6,1978 年。
(*)日野啓三『漂泊・北の火』(ポンペイ等)河出書房新社,1978 年。
(*)(参考：青柳正規「ポンペイの美術--「POMPEII A.D.79」」みすゞ 885,1978 年。)
(*)(参考：日本アート・センター編『古代文明の謎と発見』毎日新聞社,1978 年。)
(*)(参考:パガーニ他解説『プトレマイオス世界地図—大航海時代への序章』岩波書店,1978 年。)
(*)(参考:久志本秀夫「オスティア・アンティカ—古代ローマの外港」相愛女子大学・相愛女子短期大学研究論集,音楽学部篇 25,1978 年。)
(*)(参考:久志本秀夫「ミケロッツィとボンシニューリの東方旅行—特に 1498 年 5 月 18 日付の書簡をめぐって([相愛女子大学・相愛女子短期大学]創立 90 周年記念号)相女子大学･相愛子短期大学研究論集,音楽学部篇 26,1978 年。)
(*)(参考：クリスチャン・グニエル/蒲田耕二訳『星の彼方のアトランティス』角川文庫,角川書店,1978 年。)
(*)(参考：千乃裕子『天国の光の下に：エクソシズム(悪魔払い)からアトランティス大陸の解明』たま出版,1978 年(→1981 年,改訂 2 版。→1988 年,ジェイアイ出版,改訂 4 刷)。)
(*)(参考:竹内均『アトランティスの発見:海底に消えた古代王国』ごま書房,1978 年(→1991 年,徳間文庫))。
(*)(参考：サンポウジャーナル『アトランティス：徹底解明 謎の大陸は実在したか』サンポウジャーナル,産報デラックス 99 の謎,1978 年。)
(*)(参考：日本テレビ放送網株式会社『アトランティス大陸沈没の謎』日本テレビ放送網,

読売新聞社(発売),1978 年。)
(*)(参考：ジャック=イヴ・クストー、フィリップ・クストー監督『アトランティス大陸調査 I・II』ビデオレコード,Imagica(発売),1978 年。)
(*)(参考 : 辻田左右男「「ユートピア」と大航海時代」(アトランティス)奈良大学紀要 7,1978 年。)
(*)近角聡信「イタリア紀行—インターマグに出席して(会議だより)」固体物理 13(8),1978 年。)
(*)(参考：ロゲンドルフ ヨゼフ「ゲーテのキリスト教観--『イタリア紀行』を再読して」ソフィア 27(3),1978 年。)
(*)(参考：エーミール・ルートヴィッヒ/秋山英夫訳『シュリーマン：トロイア発掘者の生涯』白水社,1978 年(→1995 年,新装復刊)。
(*)(参考：『トロイアへの道/迷宮の発掘/ツタンカーメン発掘記/神・墓・学者』(シュリーマン[永川玲二訳],コットレル[高津久美子訳],カーター[酒井傳六・熊川亨訳],ツェーラム[村田数之亮訳]),筑摩書房,世界ノンフィクション,1978 年。)
(*)(参考：M.ロストフツェフ/青柳正規訳『隊商都市』新潮社,新潮選書,1978 年。)
(*)(参考：齋藤忠『図録 東西文化交流史跡』吉川弘文館,1978 年。)
(*)(参考：岩村忍他『文化の交流』毎日新聞社,古代文明の謎と発見 4,1978 年。)
(*)大村次郷「アナトリアの旅撮影日記抄(トルコ・アナトリア)」季刊民族学 2(1),1978 年。)
(*)(参考：松原正毅「トルコ・アナトリア」季刊民族学 2(1),1978 年。)
(*)(参考：大村幸弘「アナトリア考古学の現況」オリエント 21(2),1978 年。)
(*)山口誓子・平山郁夫「わがこころのシルクロード」月刊自由民主 267,1978 年。
(*)(参考：シルクロード研究会編『東西文化の交流』復刻版,創価大学シルクロード研究会,1978 年。)
(*)陳舜臣「西域歴史の旅(シルクロード—その現代史的視点,特集)」朝日アジアレビュー9(1),1978 年。)
(*)古代シシリー展編集委員会企画編集『古代シシリー展：地中海文明の黎明(あけぼの)=Sicillia pre-ellenica e anellenica』美術出版デザインセンター,出版者不明,1978 年。)
(*)(参考：中日新聞社編『古代カルタゴ美術展』中日新聞社,1978 年。)
(*)(参考 : 池田大作「東西結んだ若き戦士アレキサンダー(私の人物観[15])」潮 226,1978 年。)
(*)(参考：友部直「色鮮やかな生活空間」(クノッソス)SD:Space Design 166,1978 年。)
(*)(参考：勝又俊雄「クレタ考古学の編年をめぐる問題」関学西洋史論集 8,1978 年。)
(*)勝又俊雄「小アジアの遺蹟を訪れて—イスタンブールからディディマまで」史泉 52,1978 年。)
(*)(参考：牟田口義郎「神話に覆われた迷宮(クノッソスの王宮跡/クレタ島/ギリシア B.C.1500 頃)」(鹿島出版会)SD166,1978 年。
(*)(参考 : 阿部信雄「J.A.D アングルとヘルクラネウム出土の壁画他(変奏のテクネ—巨匠から巨匠へ」美術手帖 439,1978 年。)
(*)(参考 : F.Jashemski Wilhelmina/黒川直樹訳「ポンペイにおける商業菜園の発見—“ヨーロッパの船の家”の庭園(American Journal of Aechaeology,vol.78,no.4 “7410”)建築雑誌 93(1131),1978 年。」

(*)(参考：青柳正規「ポンペイの美術--「POMPEI A.D.79」展から」みづゑ 885,1978 年。
(*)(参考：M.コリニョン/富永惣一訳『パルテノン』改版第 2 刷,岩波書店,1978 年(←1929 年,初版)。)
(*)(参考：W-H.シューフハルト/水田徹訳『ギリシア美術』西洋美術全史 2,グラフィック社,1978 年。)
(*)(参考：エルンスト・ブシォール/澤柳大五郎譯編『或るアッティカの少女の墓』岩波書店,1978 年。)
(*)(参考：澤柳大五郎「古典期アッティカの墓碑に就いて」エピステメー4(7),1978 年。)
(*)(参考：「〈オフセット〉エーゲ海にてヴィナスバッカス/エンゼル/獅子/立像他」芸術新潮 29(10),1978 年。)
(*)(参考：「〈オフセット〉ローマあちらこちらヴィナス達/眠れるヴィナス/プロセルピーナの掠奪/ナイアディと噴水/フォロ・イタリコの立像群他」芸術新潮 29(10),1978 年。)
(*)(参考：「〈オフセット〉ルーヴルを行くミロのヴィナス/勝利の女神/キューピットとヴィナス/「座す女」三女神/うずくまるヴィナス/少年たち」芸術新潮 29(10),1978 年。)
(*)(参考：柳宗玄・高橋栄一編『ビザンティンの世界』世界の文化史蹟 11,講談社,1978 年。)
(*)(参考：鳥山成人『ビザンツと東欧世界』世界の歴史 19,講談社,1978 年。)
(*)(参考：イルムガルト=フッター/越宏一・福部信敏訳『初期キリスト教美実・ビザンティン美術』西洋美術全史 4,グラフィック社,1978 年。)
(*)(参考：辻田右左男「「ユートピア」と大航海時代」奈良大学紀要 7,1978 年。)
(*)開国百年記念文化事業会編『鎖国時代日本人の海外知識—世界地理・西洋史に関する文献解題』原書房復刻,1978 年。
(*)(参考：松平千秋研究代表『古代ギリシア人及びローマ人の外来文化に対する態度：抵抗と受容』松平千秋,昭和 51-52 年度科学研究費補助金総合研究(A)研究成果報告書,1978 年。)
(*)(参考：山本新『トインビー』人類の知的遺産 74,講談社,1978 年。)
(*)(参考：ヨハン・ホイジンガ/里見元一郎訳『文化史の課題』東海大学出版会,1978 年。)
(*)吉田光邦『両洋の眼—幕末明治の文化接触』朝日新聞社,1978 年。
(*)Ludwich Armbruster「近代ヨーロッパの誕生--下村寅太郎「レオナルド：遠景と近景」」ソフィア 27(3),1978 年。)
(*)(参考：下村寅太郎『レオナルド・ダ・ヴィンチ』愛蔵普及版,集英社,1978 年。)
(*)(参考：杉浦明平『レオナルド・ダ・ヴィンチ：ルネサンス万能の天才』平凡社,1978 年。)
(*)(参考：シャルル・ド・トルナイ/田中英道訳『ミケランジェロ』岩波書店,1978 年。)
(*)(参考：中江彬編『ミケランジェロ』世界の素描 2,講談社,1978 年。)
(*)(参考：平山郁夫,三神弘彦執筆『ボッティチェルリ』世界美術全集 1,小学館,1978 年。)
(*)(参考：Armbruster Ludwig「近代ヨーロッパの誕生—下村寅太郎著「レオナルド 遠景と近景」」ソフィア 27(3),1978 年。)
(*)(参考：キール/竹内均訳『ダ・ヴィンチの芸術と科学』科学・発見のパイオニア,東京図書,1978 年。)
(*)(参考：杉浦明平訳『レオナルド・ダ・ヴィンチ：ルネサンス万能の天才』世界を創った人びと 11,平凡社,1978 年。)

(*)(参考：マンフレート・ヴントラマム/勝國興訳『ルネッサンス美術』西洋美術全集 8,グラフィック社,1978 年。)
(*)(参考：千足伸行『世界の彫刻』世界文化社,世界の美術・カルチュア版 11,1978 年。)
(*)(参考：吉坂隆正『世界の建築』世界文化社,世界の美術・カルチュア版 13,1978 年。)
(*)水野清一樋口隆康編『タレリ：ガンダーラ仏教寺院址の発掘報告書 1963-1967』京都大学イラン･アフガニスタン･パキスタン学術調査報告,同朋舎,1978 年。
(*)高橋文博「和辻哲郎の風土理論」岡山大学教養部紀要 14,1978 年。
(*)西川長夫「旅の思想—森有正における「日本回帰」について」展望 236,1978 年。
(*)(参考：堤彪「〈原報〉比較文明における様式論的アプローチ」共立薬科大学研究年報 22,1978 年。)
(*)勝部真長『王権と道化師』経済往来社,1978 年。
(*)(参考：淮陰生『一月一話読書こぼれ話』岩波書店,昭和 53 年。)
(*)(参考：根本萌騰子編『言語と文学にみる文明』東海大学出版会,1978 年。)
(*)斎藤毅『明治のことば—東から西への架け橋』[学術用語制定]講談社,昭和 53 年。
(*)織田幹雄「日本における世界図の発達(地図,特集)」言語生活 317,1978 年。
(*)(参考：Hermann Kinder,Werner Hilgemann/成瀬浩監修『カラー世界史百科』平凡社,1978 年(→1985 年,増補版)。)
(*)藤澤令夫編『プラトン全集別巻総索引』岩波書店,1978 年。
(*)杉本つとむ「『五国語箋』の小察」解釈 24(2),1978 年。
(*)飛田良文(他)編『哲学字彙訳語総索引』飛田良文,1978 年(→1979 年,飛田良文編『哲学字彙訳語総索引』笠間書院,笠間索引叢刊 72。)
(*)(参考：玉川直重『新約聖書ギリシア語辞典』キリスト新聞社,1978 年。)
(*)(参考：J.ハロルド・グリーンリー/久保田周訳『新約聖書ギリシア語釈義の手引』いのちのことば社,1978 年。)
(*)(参考 : Hermann Kinder,Werner Hilgemann 著/成瀬浩監修『カラー世界史百科』平凡社,1978 年(→1985 年,増補版)
(*)(参考：竹之内安巳『世界地名人名辞典：中日欧対照』国書刊行会,1978 年。)
(*)(参考：三浦一郎編『世界皇帝人名辞典』東京堂出版,1978 年。)
(*)(参考：吉川直『外国語人名について』吉川直,1978 年。)
(*)(参考：松田穣編『比較文学辞典』東京堂出版,1978 年。)
(*)(参考：鈴木幸夫編『英米文学辞典』東京堂出版,1978 年。)
(*)(参考：本多顕彰『世界の名文句引用事典：スピーチに・文章に』自由国民社,1978年。)
(*)(参考：今泉篤男・山田智三郎編『西洋美術辞典』21版,東京堂出版,1978年。)
(*)川崎真治『日本語の起源はメソポタミア』Yomi book,讀賣新聞社,1978年。)
(*)日本英文学会編『日本英文学会五十年小史』,1978年。
(*)川澄哲夫編『資料日本英学史2：英語教育論争史』大修館書店,1978年。
(*)在日本東京朝鮮留學生學友會編『學之光』[ラテン語]太學社(普及處),1978年。
(*)鈴木修次『漢語と日本人』みすず書房,1978年。
(*)岡田袈裟男「「和蘭字彙」とその音訳語の考察」(早稲田大学)国文学研究64,1978年。
(*)和田裕行「會津八一の書誌」私立大学図書館協会会報70,1978年。
(*)高橋睦郎編『呉茂一先生追悼号』書肆林檎屋,1978年。

(*)(参考：西脇順三郎/飯島耕一他編『雑談の夜明け』花曜社,1978年(→1989年,講談社学術文庫)。
(*)高橋新太郎編「三島由紀夫・参考文献案内—三島由紀夫の全体像を索めて(三島由紀夫—その豊饒と不毛)」国文学 解釈と鑑賞43(10),1978年。
(*)(参考：竹島俊之「イーリアスにおけるアスペクトに関する一考察：比喩表現に見出される直説法アオリストについて」(西日本言語学会)ニダバ7,1978年。)
(*)(参考：打田佐太郎「SEPTUAGINTAのギリシア語」外国語研究15,1978年。)
(*)(参考：泉井久之助「タキトゥス『ゲルマーニア』とゲルマン語—比較言語学的研究」言語7(11),1978年。)
(*)(参考：B.スネル著/新井靖一訳『言語・詩学・哲学：三分法による言語の解明』大修館書店,1978年。)
(*)(参考：風間喜代三『言語学の誕生：比較言語小史』岩波新書,1978 年。)
(*)(参考：風間喜代三『印欧語の親族名称の研究』東京大学,文学博士,乙第 4718 号,1978 年。)
(*)(参考：B.スネル/新井靖一訳『言語・詩学・哲学：三分法による言語の解明』大修館書店,1978 年。
(*)(参考：河底尚吾「虚偽の本質—批評と創造について」(SUR の会)時間と空間 7,1978 年。)
(*)(参考：藤井昇「古典の翻訳—ラテン詩の場合(2)」翻訳の世界 8 月号,1978 年。)
(*)(参考：太田強正「Itala と Vulgata 俗ラテン語研究(1,2)」(神奈川大学人文学会)人文研究 71, 1978 年/76,1980 年。)
(*)(参考：土井正興「スパルタクス蜂起関係文献目録(専修大学歴史学会十周年記念号)」専修史学 10,1978 年。)
(*)(参考：H.G.ベック/渡辺金一編訳『ビザンツ世界の思考構造：文学創造の根底にあるもの』岩波書店,1978 年。)
(*)鈴木英夫「幕末明治期における新漢語の造語法--「経国美談」を中心に(日本語の語彙)」国語と国文学 55(5),1978 年。
(*)(参考：許勢常安「上海中国局印行と清議報訳載の「佳人之奇遇」を比較して—特にその名訳と誤植訂正(2)」国士舘大学文学部人文学会紀要 10,1978 年。)
(*)柳父章『翻訳文化を考える』法政大学出版会,1978 年(→2002 年,新装版)。
(*)(参考：草川秀「ギリシア学入門」東京都鷺宮高校紀要 3 月号,1978 年。)
(*)たかはしよいち著・寺島龍一絵『クレタ島のひみつ』(エーゲ海神話・考古学)偕成社の創作文学,偕成社,1978 年。
(*)(参考：福田れい「ルネッサンス期の芸術作品の一考察—作品を中心とした神話の象徴的・寓意的解釈」女子美術大学紀要 8,1978 年。)
(*)(参考：渡辺金一「エーゲ海島嶼ナクソス・歴史的諸空間の累積—宗教事情ノート(地中海,特集)」一橋論叢 80(6),1978 年。)
(*)(参考：引地正俊「ギリシャ神話と変身(物語と神話,特集)」早稲田文学[第 8 次]24,1978 年。)
(*)(参考：竹部琳昌「1930 年代のギリシャ神話劇—クレーネ,オニール,ジロドウ,T.S.エリオット,サルトル,ハウプトマン(近代化過程における民族文化)」(同志社大学人文科学研究所)人文科学 9,1978 年。)
(*)(参考：牟田口義郎「神話に覆われた迷宮(クノッソスの王宮跡/クレタ島,ギリシア BC1500 頃(NICE SPACE)」SD166,1978 年。)

(*)(参考：高橋英夫「神話の森の中で(10・完)再生と継承」文芸 17(7),1978 年。)
(*)(参考：坪井一「プロクロス「プラトン神学」の紹介」図書館学研究報告 11,1978 年。)
(*)(参考：吉岡知哉[紹介]「ドゥニーズ・ルデュク=ファイエット著「ジャン=ジャック・ルソーと古典古代の神話」(Denise Leduc-Fayette,Jan-Jacques Rousseau et le mythe de l'antiquite,1974」國家學會雜誌 91(7・8),1978 年。)
(*)(参考：ミルチア・エリアーデ/楠正弘・池上良正訳『オカルティズム・魔術・文化流行』未来社,1978 年。)
(*)(参考：安倍道子[紹介]「ミルチャ・エリアーデ著堀一郎訳「生と再生—イニシエーションの宗教的意義」文明 23,1978 年。)
(*)(参考：上村邦子「初期マラルメにおける白鳥神話(岸本通人教授退官記念号)」Gallia18,1978 年。)
(*)(参考：赤尾美秀「イロニーの神話—トーマス・マンの「すげかえられた首」について」待兼山論叢(文学篇)12,1978 年。)
(*)(参考：原潔「トーマス・マンのヨゼフ小説—神話と現実」ヨーロッパ文学研究 26,1978 年。)
(*)(参考：水崎野里子「二十世紀のオレステス神話」英文学 48,1978 年。)
(*)(参考：柳谷巌「「貴婦人と一角獣」神話—文化史的考察」論叢 19,1978 年。)
(*)(参考：小林竜一「The Necessity of Atheism における「神」について：シェリー研究(3)」大阪経大論集 123,1978 年。)
(*)(参考：船越清「若きニーチェの宗教観(2)：神話観とキリスト教批判」成城文藝 84,1978 年。)
(*)(参考：竹部琳昌「1930 年代のギリシア神話劇—クレーネク,オニール,ジロドウ,T.S.エリオット,サルトル,ハウプトマン(近代化過程における民族文化)」(同志社大学人文科学研究所)人文科学 9, 1978 年。)
(*)(参考：アポロドーロス/高津春繁訳『ギリシア神話』改版,岩波文庫,岩波書店,1978 年。)
(*)(参考：矢代静一『ギリシア神話』世界の文学 I,世界文化社,1978 年。)
(*)(参考:ブルフィンチ/野上弥生子訳『ギリシア・ローマ神話』改版,岩波文庫,岩波書店,1978 年。)
(*)(参考：「ギリシア神話」ユリイカ 6 月号臨時増刊号,1978 年。-------
山本七平「神話の思想」
齋藤忍随「変化自在」
高橋英夫「聖なる複数の世界」
西尾幹二「ニーチェにおけるアポロ像」
辻邦生・粟津則雄「ギリシア その神話と風景」
大澤正佳「ジョイスのユリシーズ」
神品芳夫「ヘルダーリンにおけるギリシア」
戸張智雄「反ギリシア神話」
内村直也「ギリシャ神話の世界」
饗庭孝男「『永遠』の岸辺に」
中村善也「『神話』『現実』『文学』」
野島秀勝「〈日本回帰〉と〈ギリシア〉」
引地正俊「神話の行方」

矢島文夫「ギリシア神話とエジプト」
澤柳大五郎「ギリシア美術と神話」
草下英明「星座と神話」
渡辺淳「ギリシア悲劇・二つの原点的なもの」
池澤夏樹「トロイゼンからの道」
青柳正規「神話的風景の成立」
木村健治「スカトロギアの諸相」
中務哲郎「『ヘレネの似姿』と『絵姿女房』」
W.B.スタンフォード/水谷智洋訳「ユリシーズを求めて」
(*)(参考：生地竹郎「〈随想〉バッコスの信女」ソフィア 27(1),1978 年。
(*)(参考：山川広司「ピュロス王国におけるポセイドーン崇拝」(北海道教育大学釧路分校)釧路論集 10,1978 年。)
(*)(参考：久保正彰『Ovidiana ギリシア・ローマ神話の周辺』青土社,1978 年。)
(*)(参考：坪井一「プロクロス「プラトン神学」の紹介」図書館学研究報告 11,1978 年。
(*)(参考：水崎野里子「二十世紀のオレステス神話」(早稲田大学)英文学 48,1978 年。)
(*)(参考：金子武蔵編『ギリシア思想とヘブライ思想』以文社(日本倫理学会論集 13),1978 年。)
(*)(参考：足利惇氏他『不死の信仰』古代文明の謎と発見毎日新聞社,1978 年。)
(*)(参考：H.G.ガイヤー/森泰男共訳『現代神学の状況』日本基督教団出版局,1978 年。)
(*)(参考：ウォレス原作/アルチール絵/渡辺和雄・須知徳平文『ベン・ハー』少年少女世界文学全集：国際版 14,小学館,1978 年。)
(*)曽野綾子『私を変えた聖書の言葉』講談社,1978 年(→1982 年,講談社文庫版。→2014 年,海竜社,愛蔵版)。
(*)(参考：ウォルガング・E・バックス/三浦朱門・曽野綾子訳『パウロの歩いた道』学習研究社,図説聖書の世界 3,1978 年。)
(*)(参考：小嶋潤『イエス降誕の物語』福音書物語選択 4,創文社,1978 年。)
(*)(参考：Ｐ.ミルワード/別宮貞則訳『イエスとその弟子』講談社現代新書,1978 年。)
(*)(参考：塚本虎二『ロマ書(1,2)』塚本虎二著作集 9-10,聖書知識社,1978 年。)
(*)(参考：高橋三郎『王としてのイエス：マルコ福音書の使信』教文館,1978 年。)
(*)(参考：フランシスコ会聖書研究所訳注『ローマ人への手紙；ガラテヤ人への手紙：原文校訂による口語訳』聖書,パウロ書簡,中央出版社,1978 年。)
(*)(参考：フランシスコ会聖書研究所訳注『エフェソ人への手紙；フィリピ人への手紙；コロサイ人への手紙；テサロニケ人への第一の手紙；テサロニケ人への第二の手紙；フィレモンへの手紙：原文校訂による口語訳』聖書,パウロ書簡,中央出版社,1978 年。)
(*)(参考：R.V.G.Tasker 編/岩隈直訳註『ルカ福音書(上下)』希和対訳脚註つき新約聖書,山本書店,1978 年。)
(*)(参考：シュラッター/蓮見和男訳『使徒行伝』新約聖書講解,新教出版社,1978 年。)
(*)(参考：白井きく『使徒行伝の読み方』待晨堂,1978 年。)
(*)岡耕三「聖書の読み方をかえてみては：森有正の「経験」によせて」桃山学院大学キリスト教論集 14,1978 年。
(*)(参考：高見澤潤子文/アート・キルコフ絵『せいれいをうけたひ：使徒行伝 2 章』アー

チ・ブック,たのしいせいしょえほん 39,聖文舎,1978 年。)
(*)(參考 : 高見澤潤子文/オバタ・デザイン,アリス・ハウスナー絵『ルステラにきたパウロ : 使徒行伝 14 章 8-20』アーチ・ブック,たのしいせいしょえほん 43,聖文舎,1978 年。)
(*)(參考 : 半田元夫編訳『聖パウロ—民族宗教から世界宗教への伝道者』平凡社,世界を創った人々3,1978 年。)
(*)(參考 : P.デイビス/浜洋訳『死海文書の謎』大陸書房,1978 年。)
(*)(參考 : 土戸清「聖書における言葉と伝承—聖書学論集 12」新約学研究 6,1978 年。)
(*)(參考 : 石原謙『旧・新約聖書』石原謙著作集 2,岩波書店,1978 年。)
(*)(參考 : 日本聖書学研究所編『聖書における行為と解釈』聖書学論集,山本書店,1978 年。)
(*)(參考 : 前田護郎「クリスマスの記事の思想内容」學鐙 75(12),1978 年。)
(*)(參考 : 里野泰昭「共同訳聖書について--「エフェソスの信徒への手紙」と「コロサイの信徒への手紙」の場合」千葉大学教養部研究報告 A-11,1978 年。)
(*)井上洋治『私のなかのキリスト』Tomo 選書,主婦之友社,1978 年(→1990 年,新装版)。)
(*)(參考 : 佐藤吉昭「Lumen Christi—アレクサンドリアのクレメンスの光の表象」基督教學研究 1,1978 年。)
(*)(參考 : 遠藤周作『キリストの誕生』新庁舎,1978 年。)
(*)(參考 : Shusaku Endo(trans.from Japanese by R.A.Schuchert)“A Life of Jesus”,Paulist Press, 1978(→1979,1st Tuttle ed.Tut books1,C.E.Tuttle.).)
(*)久米博「心情的イエス像—遠藤周作「キリストの誕生」」海 10(12),1978 年。
(*)近松門左衛門/藤井乙男校注『近松全集・12 巻』(百合若)思文閣出版,1978 年。
(*)イソップさく/桜井正明ぶん ; 高橋信也・松田辰彦・石森ヒカルえ『イソップどうわ』学研・ひとりよみ名作 9,学習研究社,1978 年。
(*)『はやくよるになあれ : イソップどうわ : かちかちやま』若木書房,1978 年。
(*)イソップ著/寺西武夫訳注『イソップ物語』改訂版,研究社新訳注双書 1,研究社出版,1978 年。
(*)堀尾青史脚本・久保雅勇画『よくばりわんくん』童心社のかみしばい,たのしいイソップ,1978 年。
(*)堀尾青史脚本・二俣英五郎絵『ぱんくがえる ; ぺちゃんこがえる』童心社のかみしばい,たのしいイソップ,1978 年。
(*)川崎大治脚本・西村繁男画『おひさまときたかぜ』童心社のかみしばい,たのしいイソップ,1978 年。
(*)稲葉桂子脚本・長島克夫画『のねずみとまちのねずみ』童心社のかみしばい,たのしいイソップ,1978 年。
(*)上地ちづ子脚本・福田庄助画『しろいからす』童心社のかみしばい,たのしいイソップ,1978 年。
(*)とう・たいりう文・劇団かかし座かげ絵『町のねずみといなかのねずみ』かげ絵イソップ物語 1-1,主婦の友社,1978 年。
(*)とう・たいりう文・劇団かかし座かげ絵『北風と太陽』かげ絵イソップ物語 1-2,主婦の友社,1978 年。
(*)とう・たいりう文・劇団かかし座かげ絵『金のおのと銀のおの』かげ絵イソップ物語 1-3,主婦の友社,1978 年。

(*)とう・たいりう文・劇団かかし座かげ絵『かしこい犬ととんまなおおかみ』かげ絵イソップ物語 1-4,主婦の友社,1978 年。
(*)とう・たいりう文・劇団かかし座かげ絵『ライオンと三びきの牛』かげ絵イソップ物語 1-5,主婦の友社,1978 年。
(*)とう・たいりう文・劇団かかし座かげ絵『おしゃれなカラス』かげ絵イソップ物語 2-6,主婦の友社,1978 年。
(*)とう・たいりう文・劇団かかし座かげ絵『おばあさんとお医者さん』かげ絵イソップ物語 2-7,主婦の友社,1978 年。
(*)とう・たいりう文・劇団かかし座かげ絵『カラスをだましたきつね』かげ絵イソップ物語 2-8,主婦の友社,1978 年。
(*)とう・たいりう文・劇団かかし座かげ絵『塩はこびのロバ』かげ絵イソップ物語 2-9,主婦の友社,1978 年。
(*)とう・たいりう文・劇団かかし座かげ絵『ある年とった漁師のはなし』かげ絵イソップ物語 2-10,主婦の友社,1978 年。
(*)とう・たいりう文・劇団かかし座かげ絵『うさぎとかめのかけくらべ』かげ絵イソップ物語 3-11,主婦の友社,1978 年。
(*)とう・たいりう文・劇団かかし座かげ絵『王さまをほしがったかえる』かげ絵イソップ物語 3-12,主婦の友社,1978 年。
(*)とう・たいりう文・劇団かかし座かげ絵『金のたまごを生むにわとり』かげ絵イソップ物語 3-13,主婦の友社,1978 年。
(*)とう・たいりう文・劇団かかし座かげ絵『のこされた宝もの』かげ絵イソップ物語 3-14,主婦の友社,1978 年。
(*)とう・たいりう文・劇団かかし座かげ絵『ライオンにおわれたシカ』かげ絵イソップ物語 3-15,主婦の友社,1978 年。
(*)Nakagaki Koĵiro“50 fabloj de Ezopo”Japana Esperanta Librokooperativo,1978 年。
(*)(参考：小堀桂一郎「『伊曽保物語』原本考(上下)—シュタインヘーヴェル本「イソップ集」に就て」文学 46(10,12),1978 年。)
(*)(参考：小堀桂一郎『イソップ寓話----その伝承と変容』中公新書,中央公論社,1978 年(→2001 年,講談社学術文庫版)。
(*)三ツ星堅三等著；大学英語研究会編『英米小説と詩：研究と鑑賞』(ロバート・ヘンリソン「イソップ寓話集」)第 1 版 2 刷,創元社,1978 年。
(*)小峰元『イソップの首に鈴をつけろ』講談社,1978 年。
(*)渡辺良智他「パニック--イソップの寓話が甦る日」潮 232,1978 年。
(*)江崎玲於奈『新・日本イソップ物語：一科学者の提言』日刊工業新聞社,1978 年。
(*)大林太郎「百合若伝説と内陸アジア：」フィクロア 3,1978 年。
(*)大久保利謙「幕末英学史における何礼之：とくに何礼之と鹿児島英学との交流」研究年報 6,1978 年。
(*)井田清子「ケンペル『日本誌』のもう一人の著者について—忘れられたオランダ人思想家の視角から」思想 12 月号,1978 年。
(*)佐野正己「国学者の洋学受容—泰西地理学を中心として」歴史公論 4(3),1978 年。
(*)田村百代「小藤文次郎によるドイツ地理学の導入--「地学「雑誌発行ニ付地理学ノ意義ニ解釈ヲ下ス」とその原典」地理学評論 51(5),1978 年。

(*)織田武雄「日本における世界図の発達(特集 地図)」言語生活 317,1978 年。
(*)船越昭生「ウェーク島の登場--『新訂万国全図』原拠図問題との関連において」古地図研究 100,1978 年。
(*)助野健太郎「山村才助と西洋史研究--『西洋雑記』をめぐって」聖心女子大学論叢 51,1978 年。
(*)「「市川文吉送別文集」について—いわゆる幕末洋学者欧文集(日本学士院翻刻)」日本学士院紀要 35(2),1978 年。
(*)中谷一正『幕末明治洋学史』私製,中谷一正,1978 年。
(*)茂住実男「蘭学塾における蘭語教授法とその系譜」拓殖大学論集 114,1978 年。
(*)(參考：石原謙『石原謙著作集 1』岩波書店,1978 年。)
----「キリスト教とギリシャ哲学の交流」
「紀元前後における於ける救済問題及ロゴス論」
「アレキサンドリアのクレメンスと希臘哲学」
「希臘哲学と基督教」
「「ヘレニスムス」時代の宗教思想」
「ビオス・テオレーティコス(bios theôrêtikos)」
「プラトンの対話篇『メノン』に就て」
「ギリシャ人の哲学思想」
(*)(參考：田中美知太郎『思想に強くなること』文藝春秋,1978 年。)
(*)(參考：田中美知太郎『生きることの意味』人生の本,藤森書店,1978 年。)
(*)(參考：田中美知太郎『巻頭随筆』文藝春秋,1978 年(→1984 年,新装版)。)
(*)藤澤令夫「愚かしさからの解放：田中[美知太郎]先生の文化勲章受章に際して」産経新聞夕刊 11/1,1978 年。
(*)「文化勲章,尾崎一雄氏ら 5 人」(田中美知太郎)讀賣新聞夕刊 10/27,1978 年。
(*)「文化勲章,文化功労者 受賞 12 氏の略歴」(田中美知太郎)讀賣新聞夕刊 10/27,1978 年。
(*)「文化勲章 5 氏の胸に」(田中美知太郎)讀賣新聞夕刊 11/4,1978 年。
(*)「“帰化頭脳”に文化勲章(田中美知太郎)」東京朝日新聞夕刊 10/27,1978 年。
(*)「田中美知太郎氏 正攻法を貫く 文化勲章・文化功労者」東京朝日新聞夕刊 10/28,1978 年。
(*)「文化勲章秋晴れに映え 皇居で伝達式文化勲章・文化功労者(田中美知太郎)」東京朝日新聞朝刊 11/4 ,1978 年。
(*)久保正彰・田中美知太郎「呉茂一先生の逝去を悼む」西洋古典學研究 26,1978 年。
(*)「呉茂一先生(1897-1977)(写真)」西洋古典學研究 26,1978 年。
(*)中村光夫・高橋睦郎「呉茂一追悼 弔辞・呉先生の一面」ちくま 107,1978 年。
(*)高橋睦郎「花冠忌とおん忌定めぬ—呉茂一先生を悼む」海 10(3),1978 年。
(*)高橋睦郎編『饗宴 呉茂一先生追悼号 呉茂一先生年譜』臨時増刊 1978・冬,書肆林檎屋,昭和 53 年。
(*)水垣渉「故有賀鐵太郎先生の学問的道程(有賀鐵太郎先生追悼号)」日本の神学 17,1978 年。
(*)武藤一雄「有賀鉄太郎先生追悼」日本の神学 17,1978 年。
(*)松村克己「神田[盾夫]さんという人」神田盾夫著作集(みすず書房)「月報」4,1978 年。
(*)中川秀恭「神田盾夫先生の学風」神田盾夫著作集(みすず書房)「月報」4,1978 年。

(*)川村輝典「神田[盾夫]先生と新約研究」神田盾夫著作集(みすず書房)「月報」4,1978 年。
(*)野田茂徳「羽仁五郎--〈民衆〉を謡うプラトン的愛」現代の眼 19(12),1978 年。
(*)(參考：今道友信・西尾幹二「比較研究の陥穽—その反省と展望(比較研究の反省 特集)」理想 539,1978 年。)
(*)(參考：石山脩平『古代ギリシア教育史』(昭和 9 年,目黒書店刊の復刻版)日本図書センター,1978 年。)
(*)(參考：横尾壮英編『西洋教育史』講座現代教育学 3,福村出版,1978 年。)
----横尾壮英「古代地中海世界の教育」
横尾壮英「中世の教育」
横尾壮英「近初期の教育」
鈴木慎一「イギリスの教育の歴史」
金木茂「ドイツの教育の歴史」
松島均「フランスの教育の歴史」
宮沢康人「アメリカ合衆国の教育の歴史」
森重義彰「ロシア・ソビエトの教育の歴史」
(*)(參考：上山春平「序文(西洋論理思想史の研究)」人文學報 45,1978 年。)
(*)(參考:金子武蔵編『ギリシア思想とヘブライ思想』日本倫理学会論集 13,以文社,1978 年。)
(*)(參考：山下正男「西洋論理学史上に於ける『ポール・ロワイアル』の意味(西洋論理思想史の研究)」人文學報 45,1978 年。)
(*)(參考：木村慎哉「Zenonno 逆接(西洋論理思想史の研究)」人文學報 45,1978 年。)
(*)(參考：左近司祥子「一者・善・美(ギリシア哲学の研究)」哲学雑誌 93(765),1978 年。)
(*)(參考：井筒俊彦・今道友信「東西の哲学」思想 643,1978 年。)
(*)(參考：永井博「ヨーロッパにおける人間観の研究—精神的考察(5)現代人間論の展望」心 3(10,1978 年。)
(*)(參考：井上忠「提題 プラトンの「分有」論からドゥンス・スコトゥスの「このもの性」論へ(存在と分有—トマス・アクィナスとドゥンス・スコトゥスを中心にして〈第 26 回中世哲学会大会シンポジウム報告〉)中世思想研究 20,1978 年。)
(*)(參考：細川董「エロスと現代—プラトンのエロス論に情報理論のメスを適用スレバ(エロスの哲学〈特集〉)」理想 538,1978 年。)
(*)(參考：加藤信朗「『分析論後書』における「普遍(καθολου)の把握について」哲学雑誌 93(765),1978 年。)
(*)(參考:ベーコン著/桂寿一訳『ノヴム・オルガヌム(新機関)』岩波文庫,岩波書店,1978 年。)
(*)(參考：齋藤忍随「第二次大戦後のプラトン研究—新バーネト・テイラー説(1-5)」みすず 219-223,1978 年。)
(*)(參考：清水康子・中川久定・中川信「ルソー,ヴォルテール文献目録(ルソー,ヴォルテール没後 200 年(1))思想 648,1978 年。)
(*)(參考：水野建雄「ギリシアにおける「自然」とヘーゲルの「精神」--西洋における「「自然」の原意と展開」アジア研究所紀要 5,1978 年。)
(*)(參考：M.ハイッデガー「ヘーゲルとギリシア人」(竹市明弘・長澤邦彦訳『弁証法の根本問題』所収,晃洋書房,1978 年。)
(*)(參考：ヒルティ/氷上英廣訳『幸福論(3 巻)』再版,ヒルティ著作集 1-3,白水社,1978 年。)

(*)(参考 : ヒルティ/小池辰雄訳『眠られぬ夜のために』再版,ヒルティ著作集 4-5,白水社,1978 年。)
(*)(参考：高桑純夫・南博・古田光『高校倫理・社会』改訂版,実教出版,1978 年。)
(*)ルイス=で=グラナダ著/海老澤有道編『ヒイデスの導師』限定版南欧所在吉利支丹収録,雄松堂出版,1978 年。
(*)マヌエル・バレト編(海老澤有道編集・南欧所在吉利支丹版集録)『聖教精華』(複製版,限定版。雄松堂書店)1978 年。
(*)海老澤有道・解説『南欧所在吉利支丹版収録』(「基督に倣いて」)雄松堂,1978 年。
(*)海老澤有道「天草キリシタン版書誌」(ICU)アジア文化研究 10,1978 年。
(*)遠藤潤一「バレト写本と新約聖書：ヨハネによる福音書第 4 章」徳島大學學藝紀要・人文科學 28,1978 年。
(*)藤井乙男校注『近松全集(全 12 巻)』(百合若)思文閣出版,1978 年。
(*)永積安明『中世文学の可能性』(百合若)岩波書店,1978 年。
(*)James T.Araki“Yuriwaka and Ulysses,the Homeric Epics at the Court of Ouchi Yoshitaka”, Monumenta Nipponica(spring)1978.
(*)関根文之助『日本人の精神史と宗教』河島書店,1978 年。)
(*)(参考：都田恒太郎『ロバート・モリソンとその周辺：中国語聖書翻訳史』教文館,1978 年。)
(*)牛丸康夫『日本正教史』日本ハリストス正教会教団府主教庁,1978 年。
(*)(参考：氷上英廣訳『ヒルティ著作集 1』(再版,ケーベル)白水社,1978 年。
(*)堀口甚吉「限定版「ケーベル博士の美学について：建築歴史意匠」学術講演梗概集,計画系 53(建築歴史・建築意匠),1978 年。
(*)大久保純一郎「ケーベル先生の美学と漱石の自然及び女性」英語青年 124(7),1978 年。
(*)大久保純一郎「ケーベル先生と漱石(1)(2)(3)(4)---哲学と詩」心 31(12),1978 年//32(11),1979 年//33(12),1980 年//34(4),1981 年。
(*)古川哲史「明治末年の若い精神—魚住影雄と和辻哲郎」信濃教育 1100,1978 年。
(*)吉田精一「評論の系譜(97)安倍能成」国文学 解釈と鑑賞 43(3),1978 年。
(*)吉田精一「評論の系譜(103)中沢臨川」国文学 解釈と鑑賞 43(9),1978 年。
(*)磯野友彦「大西祝における西洋思想と日本的なもの」比較思想研究 5,1978 年。
(*)野口恒樹「過去一世紀のわが国倫理学の歩み—井上哲次郎、西田幾多郎、西晋一郎」芸林 27(6),1978 年。
(*)柏原裕泉「清沢満之」日本仏教史学 13,1978 年。
(*)高橋英夫「学問の臨場感—林達夫」中央公論 93(8),1978 年。
(*)木村毅編『明治初期翻訳文学選』雄松堂書店,1978 年。
(*)藪禎子「『経国美談』の評価」近代文学 3 月号,1978 年。
(*)鈴木英夫「幕末明治期における新漢語の造語法」国語と国文学 5 月号,1978 年。
(*)木村毅「日本近代文学とサッフォ」文林 12,1978 年。
(*)木村毅「新版・上田敏全集—矢野峰人氏のことなど」日本古書通信 43(10),1978 年。
(*)西脇順三郎「厨川文夫氏追悼」英語青年 124(2),1978 年。
(*)越智良二「西脇順三郎「ギリシア的抒情詩」小考」近代文学試論 17,1978 年。
(*)伊藤壽美「西脇順三郎研究：「Ambravalia」を中心に」国語国文学研究 13,1978 年。
(*)伊丹末雄『会津八一の思出』山中高歌叢書 5,北島書店,1978 年。

(*)宮川寅雄『会津八一の世界』文一綜合出版,1978 年。
(*)太宰治『走れメロス』日本の名作文庫,ポプラ社文庫,ポプラ社,1978 年。
(*)広渡常敬「走りつづける『走れメロス』(舞台のロングセラー〈特集〉)」悲劇喜劇 31(6),1978 年。
(*)武田常夫「授業の中の子ども(5)「走れメロス」の授業」現代教育科学 21(9),1978 年。
(*)教芸音楽研究グループ編『走れメロス：混声合唱曲』楽譜(印刷),教育芸術社,1978 年。
(*)佐伯彰一『評伝三島由紀夫』新潮社,1978 年。
(*)茂手木元蔵「去るに臨んで(鈴木三郎教授・茂手木元蔵教授・山口一雄教授退官記念)」横浜市立大学論叢・人文科学系列 29(2・3),1978 年。
(*)(参考：渡辺良智「パニック—イソップの寓話が甦る日」潮 232,1978 年。)
(*)(参考：小堀桂一郎「「伊曽保物語」原本考(上下)シュタインヘーヴェル本「イソップ集」に就いて」文学 46(10,12),1978 年。)
(*)(参考：とう・たいりう文；劇団かかし座かげ絵『かげ絵イソップ物語(1-4 巻)』主婦の友社,1978-79 年。)
(*)(参考：沓掛良彦「古詩逍遙--『ギリシア詞華集』の愉しさ」比較文学研究 34,1978 年。)
(*)(参考：竹部琳昌「1930 年代のギリシャ神話劇—クレーネク,オニール,ジロドウ,T.S.エリオット,サルトル,ハウプトマン(近代化過程における民族文化)」(同志社大学人文科学研究所)人文科学 9,1978 年。)
(*)(参考：市川明「ギリシア悲劇の改作—『オイディプス僭王』」外国演劇研究 1,1978 年。)
(*)(参考：岩瀬孝・佐藤美枝・伊藤洋『フランス演劇史概説』早稲田大学出版部,1978 年(→1995 年,増補版。→1999 年,新装版)。)
(*)(参考：中山恒夫「東洋から西洋へ—ウェルギリウスの場合」地中海学研究 1,1978 年。)
(*)(参考：C.Weber,“Gallus’ Grynium and Vergil’s Cumae” 地中海学研究 1,1978 年。)
(*)(参考：平田公子「聖アウグスティヌスと古代ギリシアの音楽観」福島大学教育学部論集 30(2),1978 年。)
(*)(参考：泉井久之助「タキトゥス『ゲルマーニア』とゲルマン語—比較言語学的研究」言語 7(11),1978 年。)
(*)(参考：齋藤勇『中世のイギリス文学：聖書との接点を求めて』南雲堂,1978 年。)
(*)(参考：篠田浩一郎『中世への旅：歴史の深層をたずねて』朝日選書 118,朝日新聞社,1978 年。)
(*)堀越孝一「ジャック・ルゴフ著柏木英彦・三上朝造訳「中世の知識人—アベラールからエラスムスへ」(岩波書店)」史學雑誌 87(2),1978 年。
(*)(参考：山田晶責任編集『アウグスティヌス』中公バックス,世界の名著,中央公論社,1978 年。)
(*)(参考：山田晶『トマス・アクィナスの〈エッセ〉研究』中世哲学研究 2,創文社,1978 年。)
(*)(参考：山田晶「提題 トマスのイデア論と残された問題(存在と分有—トマス・アクィナスとドゥンス・スコトゥスを中心にして〈第 26 回中世哲学会大会シンポジウム報告〉)」中世思想研究 20,1978 年。)
(*)(参考：大槻真一郎「ディオスクリデス『ウィーン写本』」明治薬科大学研究紀要・人文科学/社会科学 8,1978 年。)
(*)(参考：根占献一「マルシリオ・フィチーノと歴史—プラトニズムとマイネッケの歴史主義」西洋史学 112,1978 年。)

(*)(参考：杉浦明平訳『世界の文学 3—ダンテ・神曲』世界文化社,1978 年。)
(*)(参考：五木寛之他編『世界文学全集 27—ダンテ・ボッカチオ』学習研究社,1978 年。)
(*)(参考：ディルタイ著/西村貞二訳『ルネサンスと宗教改革：15・16 世紀における人間の把握と分析』創文社,1978 年。)
(*)(参考：佐藤三夫『デカルトとユマニストの時代』流通経済大学出版会,1978 年。)
(*)(参考：山田光子「Romantic Nature：人文主義的考察と批判」同志社女子大學學述研究年報 29(1),1978 年。)
(*)(参考：桜庭信之・清水克祐編『イギリス文学グラフィティ』(江野沢一嘉「聖パウロ学校とキリスト教的人文主義」他)愛育社,1978 年。)
(*)(参考：柿木富紀子「シェイクスピアに見るひとつの古典性—ギリシア悲劇と比較して」関西医科大学教養部紀要 7,1978 年。)
(*)(参考：中田靖泰「「トロイラスとクレシダ」試論」(北海道大学)外国語・外国文学研究 24,1978 年。)
(*)(参考：Roggendorf Joseph/別宮貞徳訳「トマス・モアのヒューマニズム(キリスト教的ヒューマニズム：トマス・モア生誕五百年〈特集〉」ソフィア 27(2),1978 年。)
(*)(参考 : P.Milward/生地竹郎訳「トマス・モア生誕五百年を祝う(同上)」ソフィア 27(2),1978 年。)
(*)(参考 : 高柳俊一「キリスト教的ヒューマニズムの背景と未来(同上)」ソフィア 27(2),1978 年。)
(*)(参考：高柳俊一「ルネッサンス・ヒューマニズムの春と冬—沢田昭夫・田村秀夫・P.ミルワード編「トマス・モアとその時代」」ソフィア 27(3),1978 年。)
(*)(参考 : 沢田昭夫・田村秀夫・P.ミルワード編『トマス・モアとその時代』研究社出版,1978 年。)
(*)(参考 : 田村秀夫責任編集『トマス・モア研究』イギリス思想研究叢書,御茶の水書房,1978 年。)
(*)(参考：田村秀夫『ユートピアの成立：トマス・モアの時代』中央大学出版部,1978 年。)
(*)(参考：田村秀夫『増補版・イギリス・ユートウピアの原型—トマス・モアとウィンスタンリ』中央大学出版部,1978 年。)
(*)(参考：トマス・モア/沢田昭夫訳『ユートピア』中公文庫,中央公論社,1978 年。)
(*)(参考 : J.A.Froude/床並滋・井田好治訳『エラスムスとルーテルの時代』旺史社,1978 年。)
(*)(参考：小坂かずみ「フランスのエラスムス研究とブローデル—Fernand Braudel(1902-)」国際関係学研究 5,1978 年。)
(*)(参考：野上素一「フィレンツェと外国人作家(1-4)」實踐英文学 14,1978 年/19,1982 年/22,1982 年/23,1983 年。)
(*)(参考：垣本知子「ヨハネス・フォン・テンプルの死の思想—ペトラルカとの比較において」第一薬科大学研究年報 13(3),1978 年。)
(*)(参考：斎藤泰弘「レオナルドとルイジ・ブルチ：1470 年代のフィレンツェ文化の一側面」イタリア学会誌 26,1978 年。)
(*)(参考：高岡幸一「ペトラルカとフランス・ルネッサンスの詩人達(3)adynata の主題(今川憲次教授退職記念号)」アカデミア 文学・語学編 25,1978 年。)
(*)(参考：枝村吉三「「ボッカチオの園」：晩年の詩人コウルリジ(金田恵光教授古稀記念)」

米英文学論争 4,1978 年。)
(*)(参考：梅田一穂「ボッティチェルリの一作品(いわゆる「春」[プリマヴェーラ])—絵画作品の解釈について」和光大学人文学部紀要 13,1978 年。)
(*)(参考：平山郁夫・三神弘彦『ボッティチェルリ』小学館,世界美術全集 1,1978 年。)
(*)(参考：三神弘彦『レオナルド/ミケランジェロ/ラファエロ/ボッティチェルリ』研秀出版,Fabbri kennshu the world fine arts2,1978 年。)
(*)(参考：柏木英彦「伝ベルナルドゥス・シルベストリス「アエネイス註釈」について」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 10,1978 年。)
(*)(参考：小栗浩『人間ゲーテ』岩波新書,岩波書店,1978 年(→1994 年,岩波新書評伝選)。)
(*)(参考：E.カッシーラ/中村啓・森淑仁・藤原五雄訳『理念と形姿：ゲーテ・シラー・ヘルダーリン・クライスト』三修社,1978 年。)
(*)(参考：伊藤照夫「Zu Goethes“*Iphigenie*”als Epiphanie griechischen Wesens」福井高等専門学校研究紀要：人文・社会科学 12,1978 年。)
(*)(参考：小栗浩「菊池栄一著「唱和の世界—ゲーテ『西東詩集』理解のために」について—菊池栄一先生への書簡」比較文學研究 33,1978 年。)
(*)(参考：菊池栄一「小栗浩教授へのお答え(菊池栄一著「唱和の世界—ゲーテ『西東詩集』理解のために」について—菊池栄一先生への書簡)」比較文學研究 33,1978 年。)
(*)木村直司「ドイツ文学移入期のゲーテ受容」上智大学ドイツ文学論集 15,1978 年。
(*)(参考：木村直司「〈書評〉ゲーテと児童文学」ソフィア 26(4),1978 年。)
(*)(参考：小泉進「〈書評〉現代のレッシング研究」ソフィア 27(3),1978 年。)
(*)(参考：大塚譲「『悲劇の誕生』論：ディオニュソス的生の構造をめぐって(1,2)」ノルデン 15,1978 年/16,1979 年。)
(*)(参考：西尾幹二『ニーチェとの対話：ツァラトゥストラ私評』講談社現代新書,1978 年。)
(*)(参考：氷上英廣「ニーチェと世紀末(特集 世紀末—現代と通底するもの」心 31(11),1978 年。)
(*)(参考：三嶋輝夫「〈論文〉三つのニヒリズム—ニーチェのニヒリズム論についての一考察」倫理學年報 27,1978 年。)
(*)(参考：水野清志「ニーチェの倫理思想(4)「神は死んだ」」紀要 4(1),1978 年。)
(*)(参考：山本実「自由精神とその影：時代批判者としてのニーチェ(3)」言語文化研究 4,1978 年。)
(*)薗田宗人「西尾幹二著「ニーチェ 第一部,第二部」」ドイツ文学 61,1978 年。
(*)平木幸二郎「西尾幹二著「ニーチェ」(第一部,第二部)」実存主義 84,1978 年。
(*)(参考：関塚正嗣「ニーチェにおける「運命愛」(特集 運命)」実存主義 85,1978 年。)
(*)(参考：瀬戸鞏吉「ニーチェの芸術論—予備的考察(2)[成蹊大学法学部開設十周年記念号]」成蹊法学 13,1978 年。)
(*)中村光夫「樗牛とニーチェ」新潮 75(5),1978 年。
(*)(参考：永野藤雄『啓蒙時代のドイツ演劇：レッシングとその時代』東洋出版,1978 年。)
(*)(参考：エルンスト・カッシーラ著/中村啓・森淑仁・藤原五雄訳『理念と形姿：ゲーテ・シラー・ネルダーリン・クライスト』三修社,1978 年。)
(*)(参考：高尾國男『フリードリヒ・ヘルダーリン』関西大学独逸文学会,1978 年。)
(*)(参考：熊谷教子「ヘルダーリン「ヒューペリオン」考—教養小説の本質規定をとうして」

広島大学文学部紀要 38(1),1978 年。)
(*)(参考：高橋克己「ヘルダーリンの『パンとぶどう酒』における〈ギリシア的なるもの〉と〈祖国的なるもの〉について」(独文学会中国四国支部)ドイツ文学論集 11,1978 年。)
(*)(参考：Katsumi Takahashi‘Eine Betrachatung über das “Seelige Greichenland”in Hölderlins “Brot und Wein”,Forschungsbericht der Universität Kochi,vol.27,1978.)
(*)(参考：新田義之「若き杢太郎のホーフマンスタール像(小宮曠三教授退官記念)」外国語科研究紀要 26(1),1978 年。)
(*)(参考：小松原千里「夢のうちなる河アケロン：初期ホーフマンスタールの詩の一面」ドイツ文学論集 7,1978 年。)
(*)(参考：安西徹雄『シェイクスピア—書斎と劇場のあいだ』大修館書店,1978 年。)
(*)(参考：宮下雅年「シェイクスピアの「トロイラスとクレシダ」をつらぬく混沌の意匠」(北海学園大学)学園論集 32,1978 年。)
(*)(参考：松元寛「「トロイラスとクレシダ」について」広島大学文学部紀要 38(1),1978 年。)
(*)(参考：沖浩子「シェイクスピアの女性--クレオパトラ」(別府大学英語・英文学会)英語・英米文学論叢 11,1978 年。)
(*)(参考：横森正彦「「アントニイとクレオパトラ」試論—愛の最高精神」淑徳大学研究紀要 1,1978 年。)
(*)(参考：青木和夫「「アントニーとクレオパトラ」論」成蹊大学一般研究報告 14,1978 年。)
(*)(参考：沙士比亞原著/坪内雄蔵譯『自由太刀餘波鋭峰—該撒奇談』(木村毅編『明治初期翻訳文学選』所収,雄松堂書店,1978 年[東洋舘書店明治 17 年刊の複製]。)
(*)(参考：蜂谷昭雄「シェリーとピンダロス--『エウガネイ連山』をめぐって」(京都大学教養部)英文学評論 39,1978 年。)
(*)(参考：宮川昇「ミルトンと西洋古典学との比較研究(1,2)—セイタンの原型,直喩の形体」(市邨学園短期大学)人文科学論集 23,1978 年/27,1980 年。)
(*)(参考：森谷峰雄『ミルトンの芸術の理論的研究(中)』風間書房,1978 年。)
(*)黒田健二郎編『日本のミルトン文献：資料と解題』(明治-昭和)風間書房,1978-年。
(*)(参考：シェリー/石川重俊訳『縛を解かれたプロミーシュース』岩波書店,昭和 53 年。)
(*)(参考：岡崎祥明『スウィフト研究—諷刺の生成と変容』南雲堂,1978 年。
(*)(参考：田中明子「ジョン・キーツの物語誌：「スペンサーに倣って」から「エンディミオン」へ」研究紀要 17,1978 年。)
(*)(参考：小林竜一「The Necessity of Atheism における「神」について(シェリー研究[3])」大阪経大論集 123,1978 年。)
(*)(参考：都築佑吉「ウォルター・ペイター(II)：日米両国における最近の研究に関連して」群馬大学教育学部紀要・人文社会科学編 28,1978 年。)
(*)(参考：小田原克行「ペイターのプラトン論に関する一試論」人文研究 30(3),1978 年。)
(*)(参考：引地正俊「フォースターとギリシャの絵馬」比較文学年誌 14,1978 年。)
(*)(参考：坂本公延『ヴァージニア・ウルフ：小説の秘密』研究社出版,1978 年。)
(*)(参考：木場瀬卓三『バロックと古典主義：17 世紀フランス文学史の諸問題』白水社,1978 年。)
(*)(参考：堀米庸三・木村尚三郎『世界を創った人びと』平凡社,1978 年。)

(*)(参考：石川光男作・解説；帆足次郎画『トロイのもくば』教育画劇のかみしばい,教育画劇,1978 年。)
(*)(参考：立田洋司「ヘロドトスの世界(7-10)」三彩 366-369,1978 年。)
(*)(参考 : 池田大作「東西結んだ若き戦士アレキサンダー(私の人物観[15])」潮 226,1978 年。)
(*)(参考：大牟田章編訳『アレクサンドロス大王：世界に挑んだ鮮烈な生涯』世界を創った人々1,平凡社,1978 年。)
(*)(参考 : 岩見至「クレオパトラの鼻—哲学と文学の間」(大谷大学哲学会)哲学論叢 25,1978 年。)
(*)佐藤篤士「〈書評〉長谷川博隆著「ローマ共和政期の養子縁組と奴隷制」名古屋大学文学部研究論集 71 号,史学 24 号」1978 年。)
(*)(参考：土井正興「ブルガリアにおけるスパルタクス・シンポジウム」歴史評論 336,1978 年。)
(*)(参考：土井正興「スパルタクス蜂起研究のあらたな前進のために—蜂起 2050 周年記念国際シンポジウムから学んだもの」歴史学研究 453,1978 年。)
(*)(参考：土井正興「スパルタクス蜂起の歴史的意味」専修大学人文論集 20,1978 年。)
(*)(参考：土井正興「イタリアにおけるスパルタクス蜂起の研究について」日伊文化研究 16,1978 年。)
(*)(参考：山本晴樹「スパルタクス反乱の評価をめぐって—特にミシューリン・ウトチュンコ説を中心に」別府大学紀要 19,1978 年。)
(*)(参考：古代学協会編『古典時代の諸相』西洋古代史論集 3,東京大学出版会,1978 年。)
----A.モミリアーノ/秀村欣二訳「キリスト教とローマ帝国の衰亡」
A.H.M.ジョーンズ/杉村貞臣訳「ローマ帝国の衰退」
J.L.ティアル/杉村貞臣訳「ユスティニアヌス帝時代の軍隊における異民族」
H.ダンネンバウアー/石川武訳「カロリング朝の軍隊における自由人」
(*)(参考 : 森祐三「古代末期ヴァンダル族の北アフリカ占拠とキリスト者の対応について—西洋古代史研究の意味づけのために」熊本大学教育学部紀要 人文科学 27,1978 年。)
(*)(参考：中井義明「エーリス戦争とスパルタ—戦争原因とヘゲモニーに関する一考察」文化史学 34,1978 年。)
(*)(参考：木村武雄『ナポレオン』土屋書店,1978 年。)
(*)(参考：金沢誠『ナポレオン』世界伝記文庫,国土社,1978 年。)
(*)(参考：秋吉輝雄『旧約聖書人物の系譜：歴史年表』燦葉出版社,1978 年。)
(*)「文献目録—西洋史 1」史學雑誌 87(1),1978 年。
(*)「史学文献目録—西洋史 1」史學雑誌 87(5),1978 年。
(*)「史学文献目録—西洋史 2」史學雑誌 87(5),1978 年。
(*)「文献目録—西洋史 2」史學雑誌 87(5),1978 年。
(*)渡辺金一「米田治泰著「ビザンツ帝国」」史学雑誌 87(4),1978 年。
(*)「文献目録—西洋史 2」史學雑誌 87(5),1978 年。
(*)清水宏祐「西アジア・北アフリカ・イスラム時代(1977 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雑誌 87(5),1978 年。
(*)清水宏祐「西アジア・北アフリカ：古代オリエント(1977 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雑誌 87(5),1978 年。

(*)山本茂「古代オリエント(1977 年の歴史学界・回顧と展望)--西アジア・北アフリカ」史學雜誌 87(5),1978 年。
(*)馬場恵二「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1977 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 87(5),1978 年。
(*)高橋秀「ヨーロッパ: 古代: ローマ(1977 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 87(5),1978 年。
(*)森本芳樹・山田欣吾「ヨーロッパ：中世：西欧(1977 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 87(5),1978 年。
(*)浜林正夫「ヨーロッパ: 近代・一般(1977 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 87(5),1978 年。
(*)今井宏・青木康・村岡健次「ヨーロッパ：近代・イギリス(1977 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 87(5),1978 年。
(*)吉田靜一「ヨーロッパ：近代・フランス(1977 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 87(5),1978 年。
(*)成瀬治「ヨーロッパ: 近代・ドイツ(1977 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 87(5),1978 年。
(*)森田鉄郎「ヨーロッパ: 近代南欧 (1977 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 87(5),1978 年。
(*)高橋秀「ヨーロッパ：現代：イギリス・フランスその他(1977 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雜誌 87(5),1978 年。
(*)永原慶二「成瀬治著「世界史の意識と理論」」史學雜誌 87(6),1978 年。
(*)成瀬治「樺山紘一著「歴史学」(日本評論社)」史學雜誌 87(6),1978 年。
(*)弓削達「地中海世界とローマ帝国」史學雜誌 87(6),1978 年。
(*)「文献目録—西洋史 2」史學雜誌 87(9),1978 年。
(*)「史学文献目録—西洋史 3」史學雜誌 87(9),1978 年。
(*)本村凌二「M.L.W.レィスナー著長友栄三郎・朝倉文市訳「ローマの歴史家」(みすず書房)」史學雜誌 87(11),1978 年。
(*)(参考 : 関根清三「ヘブライ・ギリシア歴史理解の比較をめぐって」オリエント 21(1),1978 年。)
(*)(參考：R.W.サザン/森岡敬一郎・池上忠弘訳『中世の形成』みすず書房,1978 年。)
(*)助野健太郎「山村才助と西洋史研究--「西洋雑記」をめぐって」聖心女子大学論集 51,.1978 年。)
(*)蘭学資料研究会編『箕作阮甫の研究』思文閣出版,1978 年。)
(*)田中萃一郎「慶應義塾と史学の研究：三田史學會發會記念講演」史学 48(1),1978 年。
(*)佐藤正幸「脱亜論と歴史研究—田中萃一郎「慶應義塾と史学の研究」の解説にかえて」史学48(1),1978年。
(*)野田茂徳「羽仁五郎--〈民衆〉を謡うプラトン的愛」現代の眼19(12),1978年。
(*)(參考：浦辺鎮太郎「ウィトルーウィウス建築書 森田慶一訳注(私の感銘を受けた図書)」建築雑誌93(1142),1978年。)
(*)(參考：堀内清治・牧正洋・白石憲二・田代雄二・松本継二・蓑田淳子・原川裕一・渡辺道治「地中海古代都市の研究(2,3)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部2,計画系4,1978年。)

(*)(参考：坂本賢三「青銅器時代エーゲ海の船について」神戸商船大学紀要・第1類文科論集27,1978年。)
(*)(参考：ジャーク・モンタンドン/山本直文・林憲一郎訳『パンの歴史：歴史と美食』パンニュース,1978年。)
(*)(参考：チャールズ・シンガー他編『技術の歴史』増補版,筑摩書房,1978年。)
(*)(参考：平田寛・大槻真一郎薬『錬金術師：近代化学の創設者たち』人文書院,1978 年。)
(*)(参考:田中実『ルネサンスから産業革命へ(上下)』技術の歴史5-6,増補,筑摩書房,1978年。)
(*)(参考：田中実他『自然科学の古典をたずねて』新日本出版社,1978年。
(*)(参考：田中実『科学教育の原則と方法：ある史的展開』新生出版,1978年。
(*)(参考：田中実『思想としての科学教育』現代の教養,国民文庫,大月書店,1978年。
(*)(参考：青木靖三『ガリレオ：近代科学の創始者』平凡社,1978年。)
(*)(参考：田中節子「メタセオリ的視点とガリレオ・ガリレイ」青山学院大学一般教育部会論集 19,1978 年。)
(*)(参考：前田達郎「近代科学・魔術・宗教—科学革命の思想史的要因」新潟大学教養部研究紀要8,1978年。)
(*)(参考：高橋憲一「矢島祐利『アラビア科学史序説』岩波書店,1977年」」科学史研究・第II期17(125),1978年。
(*)(参考:矢島祐利「アラビア科学研究(研究ノート)(1)」科学史研究・第II期17(127),1978年。)
(*)(参考：國分信英「アラビアの科学I：錬金術と化学」電気通信大学学報28(2),1978年。)
(*)根本順吉「知られざる加茂儀一先生の一面」科学史研究[第II期]17(125),1978年。
(*)会田軍太夫「加茂儀一氏を偲ぶ」科学史研究[第II期]17(125),1978年。
(*)田中実「人間追求の技術史家」科学史研究[第II期]17(125),1978年。
(*)道家達将・石山洋「加茂儀一先生略歴及び主要著書・訳書」科学史研究[第II期]17(125),1978年。
(*)「故加茂儀一教授略歴,著書・訳書目録(故加茂儀一教授追悼号)」経済系：関東学院大学系税経営学会研究論集115,1978年。
(*)清水嘉治「告別式における「追悼の辞」」経済系：関東学院大学系税経営学会研究論集115,1978年。
(*)落合光弘「先生を悼んで(院生ゼミナリステン)」経済系：関東学院大学系税経営学会研究論集115,1978年。
(*)(参考：日本オリンピック委員会編『オリンピック』NHKサービスセンター,1978年。)
(*)(参考：中江利考「世界のチーズ(1-31)」畜産の研究32(2-7,9-12),1978年/33(1-8,10-12)1979年/34(1-7,10-12),1980年。)
(*)(参考:河村昇「医神アスクレピオスとその時代—古代人の健康観をめぐって」女子栄養大学紀要9,1978年。)
(*)(参考：森山徳長「古代ギリシャにおける信仰と医学・歯科医学(1)：アスクレピオス信仰(神殿医学)の確立：発展とその周辺」日本歯学医史学会誌5(4),1978年。)
(*)(参考：森山徳長「古代ギリシャにおける信仰と医学・歯科医学(2)：古典期の病理・診断学,歯科薬物・」治療学と口腔外科学について)」日本歯学医史学会誌6(1),1978年。)
(*)(参考：森山徳長「古代ギリシャにおける信仰と医学・歯科医学(3)：古典期の医学倫理,口腔衛生学,補綴学およびヘレニズム期の歯科医学について」日本歯

学医史学会誌6(2),1978年。)
(*)(参考：国原吉之助・酒井恒『医学ラテン語』南江堂,1978年。)
(*)武井英明「わが国最初の科学論の成立—帆足万里の場合」立正大学教養部紀要12,1978年。
(*)上野益三『博物史散歩』八坂書房,1978年。
(*)山本七平「日本人の科学観(近代日本思想の一系譜[最終回])」Voice 12,1978年。
(*)藤田豊「明治期書誌史上の沼津兵学校」東京電機大学研究報告26,1978年。
(*)川尻信夫「幕末における「数学」意識の形成過程—内田五観の場合」思想643,1978年。
(*)(参考：マルクス・マニリウス/有田忠郎訳『占星術または天の聖なる学』ヘルメス叢書6,白水社,1978年(→1993年,新装版)。)
(*)(参考：アルフレッド・モーリー/有田忠郎・浜文敏訳『魔実と占星術』ヘルメス叢書7,白水社,1978年。)
(*)(参考：『星座と占星術』デラックス99の謎・自然科学,第4巻,サンポウジャーナル,1978年。)
(*)「野尻抱影著書目録(野尻抱影先生追悼)」天文月報 71(2),1978 年。
(*)石田五郎「抱影先生のはがき—聖人窟のことなど(同上)」天文月報 71(2),1978 年。
(*)大崎正次「星の文人—野尻先生追仰(同上)」天文月報 71(2),1978 年。
(*)小森幸正「野尻抱影先生をお偲びして(同上)」天文月報 71(2),1978 年。
(*)原恵「野尻抱影先生追悼(同上)」天文月報 71(2),1978 年。
(*)末元善三郎「野尻抱影先生を悼む(同上)」天文月報71(2),1978年。
(*)藪内清「桁外れ—荒木[俊馬]先生の憶い出」天文月報71(11),1978年。
(*)(参考：合阪學『ギリシア=ポリスの国家理念：その歴史的発展に関する研究』大阪大学,文学博士,乙第2162号,1978年。)
(*)(参考：青木信治「国家財政論の哲学(1)ソフィストとマルクスと」専修経済学論集 13(1),1978 年。)
(*)(参考：伊藤伊久男「開会にあたって(1977 年度共通論題報告・古典古代の社会と国家--弓削達・伊藤貞夫編「古典古代の社会と国家」をめぐって」西洋史研究 7,1978 年。)
(*)(参考：太田秀通「論点開示 ポリス社会の危機(1977 年度共通論題報告・古典古代の社会と国家--弓削達・伊藤貞夫編「古典古代の社会と国家」をめぐって」西洋史研究 7,1978 年。)
(*)(参考：平田隆一「論点開示 ローマ市民共同体をめぐる若干の問題—弓削氏の市民共同体論の検討(1977 年度共通論題報告・古典古代の社会と国家--弓削達・伊藤貞夫編「古典古代の社会と国家」をめぐって」西洋史研究 7,1978 年。)
(*)「論題 権力構造と異端運動—堀米庸三著「西洋中世世界の展開」をめぐって(1974 年度大会共通論題報告)」西洋史研究 4.1978 年。)
(*)(参考：平田隆一『エトルスキ王制の研究(ローマ王制との関連において)』東北大学 1978年,(科研費))1978 年。)
(*)阪本浩「S.ヴァインシュトック「ディウス・ユリウス」(S.Weinstuck：Divus Julius,1971)」西洋史研究 7,1978 年。)
(*)太田秀通「弓削達・伊藤貞夫編「古典古代の社会と国家」」歴史学研究 454,1978 年。
(*)大西陸子「〈紹介〉弓削達・伊藤貞夫編「古典古代の社会と国家」」史林 61(2),1978 年。

(*)新村祐一郎・新田一郎「弓削達・伊藤貞夫編『古典古代の社会と国家』」史學雑誌 87(3),1978年。)
(*)(參考 : 塩野七生講演・齋藤廣編『ある反民主主義政体の話 : 中世のヴィネツイア共和国』日本文化会議月例懇談会収録集 108,日本文化会議,1978 年。)
(*)(參考：西村貞二『マキアヴェリズム』第三文明社,1978 年。)
(*)(參考 : 塚田冨治『トマス・モアの政治思想 : イギリス・ルネサンス期政治思想研究序説』木鐸社,1978年。)
(*)(參考：吉岡知哉「〈紹介〉ドゥニーズ・ルデュク=ファイエット著「ジャン=ジャック・ルソーと古典古代の神話(Denise Leduc-Fayette;Jacques Rousseau et le mythe de l'antiquite,1974)」國家學會雜誌91(7・8),1978年。)
(*)(參考：「政局のカギを握る実力者—イタリア共産党書記長エンリコ・ベルリングエル(世界の顔)(ユーロコミュニズムはトロイの木馬か—西欧共産党の微妙な動向)」世界週報59(5),1978年。)
(*)(參考：石川謙次郎「難航するギリシャの加盟交渉—各国の思惑が複雑に絡む(経済の動き・EC)」世界週報59(49),1978年。)
(*)室謙二他『漂泊の生涯』(石川三四郎)筑摩書房,人物昭和史8,1978年。
(*)(參考：久保正幡先生還暦記念出版準備会編『西洋法制史料選：久保正幡先生還暦記念』創文社,1978年。)
(*)勝田有恒「書評 世良晃志郎著「「良き古き法」と中世的法観念」(「法理学の諸問題」所収,有斐閣)「西洋中世における法と倫理」(法哲学年報1975年所収)」法制史研究44(2),1978年。)

(*)(參考：黒沢惟昭「マルクスの「学位論文」についての一考察--「具体的普遍」を中心に」(神奈川大学人文学研究所)人文学研究所報13,1979年。)
(*)(參考：篠崎武「「自由」の哲学とマルクス(1,2)」(明治大学経営学部人文科学研究室)人文科学論集26,1979年/27,1980年。)
(*)(參考：村上陽一郎『科学と日常性の文脈』[マルクス]海鳴社,1979年。)
(*)川崎真治・鹿島昇著/吾郷清彦解説『シルクロードの倭人：秀真伝』日康,1979年。
(*)吾郷清彦『超古代神学：太占総覧』新人物往来社,1979年。
(*)吾郷清彦『近江高天原の発掘』琵琶湖研究会,1979年。
(*)(參考：水野祐「早稲田史壇と日本民族文化史論」史壇(100),1979年。)
(*)春名徹『にっぽん音吉漂流記』晶文社,1979年。
(*)(參考：森本哲郎『西欧文明の起源』埋もれた古代都市4,集英社,1979年。)
(*)(參考：木村尚三郎「都市文明と下水道」下水道協会誌186,1979年。)
(*)(參考：C/レンフルー/大貫良夫訳『文明の誕生』岩波書店,岩波現代選書32,1979年。)
(*)立川昭二『歴史紀行・死の風景』朝日新聞社,1979年。)
(*)辻邦生「ギリシアの風,ギリシアの雪—映画「旅下芸人の記録」の余白に」世界406,1979年。
(*)黒沢隆「グランド・ツア(聖ヨハネ修道院[パトモス島ギリシア1088年])(NICE SPACE)」SD182,1979年。)
(*)饗庭孝男『ギリシアの秋』小沢書店,1979年(→1992年,小沢コレクション36)。
(*)小宮豊隆『イタリー日記』角川書店,1979年。

(*)(参考 : Research Group for the Mediterranean at Hitoshibatsu University,*Studies in ocio-cultural aspects of the mediterranean islands*, Research Group for the Mediterranean at Hitoshibatsu University,1979.）
(*)(参考：栗原福也・山田欣吾・米川伸一編『ヨーロッパ：経済・社会・文化：増田四郎先生古稀記念論集』創文社,1979年。)
----「増田四郎先生略年譜」・「増田四郎先生著作目録抄」
弓削達「支配・平和・自由：地中海世界とローマ帝国の自己理解」
渡辺金一「歴史記述におけるビザンツ皇帝の虚像と実像：『続テオファネス』第4巻のミハエル三世について」
(*)ブルーガイドブックス編集部編『ギリシア エーゲ海』新装第1版,実業之日本社,1979年。
(*)『Greece Agean sea』世界文化シリーズ：すてきな旅4,世界文化社,1979年。
(*)中尾是正・写真と文『エーゲ海の島 : サントリーニ,デロス,ミコノス』グラフ社,1979年。
(*)下島連『エーゲ海からテムスのほとりへ：西洋古典文学のたのしみ』南窓社,1979年。
(*)(参考：角間太郎『エーゲ海の文明』真文舎,1979年。)
(*)(参考：ジュール・ヴェルヌ/江口清・佐藤功訳『永遠のアダム；エーゲ海燃ゆ』海と空の大ロマン,パシフィカ,1979年。)
(*)(参考：飯野紀雄「クレタ紀行—エーゲ海最南端の島—自然と人間の不思議な魅力」(新日本出版社)文化評論221,1979年。)
(*)村木明「ギリシアでの平山郁夫展とエーゲ海の旅」月刊美術5(6),1979年。
(*)(参考 : 勝又俊雄「A.エヴァンズにおけるクレタの土器の研究—装飾様式と文様を中心として」史泉53,1979年。)
(*)山中恒「ジュディ・オング「道志川からエーゲ海まで(71)現代タレント像」月刊アドバタイジング24(8),1979年。
(*)「“エーゲ海”のテーマ曲をめぐり泥沼の争いが・・・」週刊平凡21(22),1979年。
(*)「「エーゲ海に捧ぐ」のレコード競作」週刊読売38(18),1979年。
(*)高橋秀「新米美術監督記(アート・ニューズ,特集)」」芸術新潮30(1),1979年。
(*)池田満寿夫「監督初体験「映画「エーゲ海に捧ぐ」(アート・ニューズ,特集)」」芸術新潮30(1),1979年。
(*)「5月の映画=紹介と批評 エーゲ海に捧ぐ」シネ・フロント36,1979年。
(*)「特別カラー・グラビア エーゲ海に捧ぐ」キネマ旬報758,1979年。
(*)「グラビア エーゲ海に捧ぐ」キネマ旬報758,1979年。
(*)東宝東和「エーゲ海に捧ぐ」キネマ旬報758,1979年。
(*)池田満寿夫「目の前には白いキャンパスしかなかった(「エーゲ海に捧ぐ」(特集)」キネマ旬報758,1979年。
(*)小畑祐三郎「現代のルネッサンスマン(「エーゲ海に捧ぐ」(特集)」キネマ旬報758,1979年。
(*)すずきまさかつ「エーゲ海の青さを深めるモリコーネの音楽(「エーゲ海に捧ぐ」(特集)」キネマ旬報758,1979年。
(*)河原一郎「ハッピーだったローマでの一週間(「エーゲ海に捧ぐ」(特集)」キネマ旬報758,1979年。
(*)南俊子「感性の光に照らされた華麗な愛の世界(「エーゲ海に捧ぐ」(特集)」キネマ旬報758,1979年。

(*)南俊子「ストーリー「エーゲ海に捧ぐ」(「エーゲ海に捧ぐ」(特集)」キネマ旬報758,1979年。
(*)「外国映画紹介「エーゲ海に捧ぐ」」」キネマ旬報759,1979年。
(*)高橋總「外国映画批評 エーゲ海に捧ぐ」キネマ旬報763,1979年。
(*)「洋画紹介『エーゲ海に捧ぐ』『ビッグ・ウェンズデー』『ディア・ハンター』」映画情報44(4)[復刊320],1979年。
(*)高橋秀撮影『「エーゲ海に捧ぐ」写真集：池田満寿夫映画の魅力をえぐるもうひとつの眼』芳賀書店,1979年。
(*)池田満寿夫原作・脚本『シナリオ・エーゲ海に捧ぐ』角川文庫,角川書店,1979年。
(*)池田満寿夫『エーゲ海に捧ぐ；他2篇』角川文庫,角川書店,1979年。
(*)池田満寿夫『エーゲ海からの手紙』ワコール,1979年。
(*)「アート・ニューズ〈特集〉池田満寿夫の映画「エーゲ海に捧ぐ」反英雄的な青年の愛の遍歴の物語を,高橋秀のフォト・イメージで捉えた全ストーリー」芸術新潮30(1),1979年。
(*)池田満寿夫・高橋秀「〈特集〉池田満寿夫の映画「エーゲ海に捧ぐ」監督初体験 新米美術監督記」芸術新潮30(1),1979年。
(*)(参考：ジュール・ヴェルヌ/江口清・佐藤功訳『永遠のアダム・エーゲ海燃ゆ』海と空の大ロマン,パシフィカ,1979年。)
(*)(参考：アン・ハンプソン/加藤しをり訳『再会のエーゲ海』ハーレクイン・ロマンス,ハーレクイン・エンタープライズ日本支社,1979 年。)
(*)(参考：矢島文夫「地中海に眠っていた古代文明(解読10)」科学朝日39(10),1979年。)
(*)(参考：A.M.コンドラフト/秋田義夫訳『海底考古学—古代文明の謎を探る』白楊社,1979年。)
(*)(参考：ヴァルター・ヴォルフ/友部直訳『オリエント・エーゲ海美術：エジプト・メソポタミア・エーゲ海』西洋美術全史1,グラフィック社,1979年。)
(*)(参考：『古代オリエント・地中海域考古と美術展』大塚巧芸社(制作),1979年。)
(*)(参考：古代オリエント美術館・岡山市立オリエント美術館『シルクロードのコイン：エーゲ海からガンダーラまで』,1979年。)
(*)(参考：西武百貨店商品部美術部編『ヘレニズムの神々展：ギリシア・ローマ~ガンダーラ=HELLENISME GRECE ROME ET GANDHARA』西武百貨店商品部美術部,1979年。)
(*)(参考：澤柳大五郎他『永遠のギリシア』新潮古代美術館4,新潮社, 1979年。)
(*)(参考：澤柳大五郎「ヨーロッパにおける人間観の研究[9]—精神史的考察--古典期アッティカの墓碑浮彫」心 32(2),1979 年。)
(*)(参考：澤柳大五郎「アイギナの青年墓碑とイリッソスの墓碑(小杉一雄教授古稀記念号)」(早稲田大学)美術史研究 16,1979 年。)
(*)(参考：鈴木新一郎訳『ロレンス紀行全集』(エトルリア)不死鳥社,1979年。)
(*)(参考：北海道新聞社編『古代カルタゴ美術展』北海道新聞社,1979年。)
(*)神澤惣一郎「エピクロスの故郷」創文185,1979年。
(*)(参考：森永瀧滋「ヴィンケルマンと彼のギリシア観：彼の古代彫像,特に《ベルベデーレのトルソ》観照に関する一考察」哲學70,1979年。
(*)(参考：勝又俊雄「A.エヴァンズにおけるクレタの土器の研究—装飾様式と文様を中心と

して」史泉53,1979年。)
(*)和久峻三『シュリーマンの財宝』赤かぶ検事奮戦記3,角川文庫,角川書店,1979年。
(*)(参考：伊藤喜三郎「「パルテノンの建築家たち」：著R.カーペンター訳松島道也(私の感銘を受けた図書(3)」建築雑誌94(1146),1979年。)
(*)(参考：横山潤「「アレクサンドリア・カルテット」--補色(瀬下良夫先生・志道保夫先生退職記念論文集)」教養論集51,1979年。)
(*)(参考：青柳正規「古典古代世界のおける「アジア像」」仏教美術126,1979年。)
(*)(参考：青柳正規『パンテオン：遺蹟からの手紙その6』日本オリベッティ,1979年。)
(*)(参考：青柳正規『古代ローマ地誌学の基礎資料と研究課題：遺蹟からの手紙その7』日本オリベッティ,1979年。)
(*)(参考：三浦朱門・辻成史・若山映子『聖都ローマ』世界の聖域12,講談社,1979年。)
(*)(参考：G.E.ライト他/塩野靖雄訳『聖書考古学入門(1,2,3)』聖書の研究シリーズ,教文館,1979年。)
(*)(参考：シリア考古学調査団編『ルメイラ,ミショルフェ付近のヘレニズム期の遺跡調査概報』古代オリエント博物館, 古代オリエント博物館シリア考古学調査団報告書1,1979年。)
(*)和久峻三『シュリーマンの財宝』赤かぶ刑事奮戦記3,角川文庫,角川書店,1979年。
(*)(参考：梅村坦編『中央アジア：1886-1977』東西交渉史文献目録1,シルクロード,1979年。)
(*)(参考：松本清張「カイエ・ダール図説「火の路」--ペルセポリスから飛鳥へ」芸術新潮30(1),1979年。)
(*)上原和『斑鳩の塔に雲流れて：わが聖徳太子』Tomo選書,主婦の友社,1979年(→1994年,中公文庫版)。
(*)高峰秀子・松山善三『旅は道づれガンダーラ』潮出版社,1979年(→1992年,中公文庫版。→2012年,改版。)
(*)(参考：宮治昭,モタメディ遙子編『シルクロード博物館：壮大なる東西文明交流のるつぼ』世界の博物館19,講談社,1979年。)
(*)(参考：榎木一雄『シルクロードの歴史から』研文出版,1979年。)
(*)池田温「榎木一雄「シルクロードの歴史から」(研文出版)」史學雜誌88(10),1979年。
(*)(参考：山本智教「ガンダーラ仏教美術版の遺跡(上下)」密教文化127,128,1979年。)
(*)(参考：古代オリエント博物館『シルクロードのコイン：エーゲ海からガンダーラまで』岡山市立オリエント美術館,1979年。)
(*)(参考：泉岡恵子「シルク・ロードの旅：インダス文明・ガンダーラ美術の故郷を尋ねて」東洋史苑13,1979年。)
(*)(参考：岡崎敬「糸綢之路(シルクロード)のかなた—中国とササン・ペルシアと東ローマ」月刊文化財192,1979年。)
(*)(参考：竹内均・石坂浩二『アトランティスが沈んだ日：地球学講義』Lecture booksカラー版,朝日出版社,1979年。)
(*)(参考：マルセル・F.オメ/小川伸訳『アマゾンのアトランチス』大陸書房,1979年。)
(*)(参考：ダルコ・スーヴィン編/深見弾・関口時正訳『遙かな世界果しなき海』(「アトランティスが沈んだわけは」アントン・ドネフ著)海外SFノヴェルズ,早川書房,1979年。)
(*)(参考：三浦一朗「「アトランティス伝説」について」ソフィア28(1),1979年。)

(*)(参考:矢島文夫「オリエントの知的伝統と東地中世界—星学的知識の西方伝播を中心に」思想661,1979年。)
(*)(参考：矢島文夫「地中海に眠っていた古代文明」(解読[10]))科学朝日39(10),1979年。)
(*)(参考:松永希久夫「ヘブライズムとヘレニズム(1,2—新約聖書研究との関わりにおいて」ペディラヴィウム1(創刊号),2,1979年。)
(*)(参考：矢島文夫「地中海に眠っていた古代文明(解読10)」科学朝日39(10),1979年。)
(*)(参考：下村寅太郎・小川国夫『光があった：地中海文化講義』朝日出版社,1979年。)
(*)(参考：弓削達編『地中海世界』有斐閣,有斐閣新書・西洋史2,1979年。)
(*)(参考：木村重信『永遠回帰の美：アルカイック美術探検ノート』講談社,1979年。)
(*)(参考：ヴァルター=ヴォルフ/友部直訳『オリエント・エーゲ海美術；エジプト・メソポタミア・エーゲ海』西洋美術全史1,グラフィック社,1979年。)
(*)(参考：山田智三郎「新説・西洋美術史—十五の特性による西洋美術史(アート・ニューズ 話題)」芸術新潮30(9),1979年。)
(*)(参考：神吉敬三『スペイン・ポルトガル博物館：地中海文明の精華』世界の博物館16,講談社,1979年。)
(*)山本晴樹「ローマ国立博物館を訪ねて」博物館研究報告3,1979年。
(*)上田穣「日本の博物館のルーツをたずねて」カラーデザイン25(13),1979年。
(*)(参考：田中英道「珠玉のアクロポリス美術館(アート・ニューズコレクション)」芸術新潮30(11),1979年。)
(*)(参考：Stavinsky B.Ya/加藤九祚訳「クシャン朝時代のバクトリア(5,6)その歴史と文化の諸問題」東洋学術研究18(3,4),1979年。)
(*)(参考:井上靖「クシャーン王朝と遺跡の旅(11)古代バクトリアの跡に立ちて」潮247,1979年。)
(*)森岡健二「和魂と洋魂の出会うところ--高柳俊一編「受容の軌跡—西欧思潮と近代日本」を読んで」ソフィア28(2),1979年。
(*)竹原弘「和辻哲郎「風土」についての批判考察」徳山大学論叢14,1979年。
(*)兼子盾夫「和辻哲郎に於ける比較思想の方法：風土論をめぐって」比較思想研究6,1979年。
(*)(参考：ホグベン著/壽岳文章他訳『洞窟絵画から連載漫画へ：人間コミュニケーションの万華鏡』岩波文庫,岩波書店,1979年。)
(*)(参考：平井正編『文化と文明の哲学』現代哲学叢書10,北樹出版,学文社(発売),1979年。)
----平井正「キー・ワードとしての文化・文明意識」
三島憲一「ルネサンスにおける文化意識の成立」
久米博「フランス文明意識の基底と変遷：起源より第二次世界大戦まで」
麻生健「文化の危機意識の系譜：シュペンギラー,ニーチェ,ブルクハルト」
(*)(参考：西村貞二「トレルチ二おける「ドイツと西欧」」西洋史研究8,1979年。)
(*)(参考:蝋山政道責任編集『トインビー』中公バックス,世界の名著73,中央公論社,1979年。)
(*)(参考:A.J.トインビー/山口光朔・増田英夫『人類と母なる大地(1,2)』トインビー著作集・補1,2,社会思想社,1979年。)
(*)(参考:堀米庸三責任編集『ホイジンガ』中公バックス,世界の名著67,中央公論社,1979年。)
(*)(参考：堤彪「〈原報〉ダニレーフスキーの比較文明の基礎理論」共立薬科大学研究年報23,1979年。)

(*)森岡健二「和魂と洋魂の出会うところ—高柳俊一編「受容の軌跡—西欧思潮と近代日本」を読んで」ソフィア28(2),1979年。)
(*)岩生成一編『近世の洋学と海外交渉』巖南堂書店,1979年。
(*)西堀昭『日本とフランス—出会いと交流』三修社,1979年。
(*)原田実「岡倉天心の「日本美術史」について」東京国立博物館紀要15,1979年。
(*)(參考：河底尚吾「ギリシア国民劇場(来日した舞台芸術1979,特集)」悲劇悲劇32(12),1979年。)
(*)(參考：A.ヴァラニャック/蔵持不三也訳『エネルギーの征服：成熟と喪失の文明史』新泉社,1979年。)
(*)清水洋二「成瀬治監修「カラー世界史百科」(平凡社)」史學雜誌88(3),1979年。
(*)(參考：篠田一士編『美食文学大全』楽しみと冒険3,新潮社,1979年。)
(*)(參考：L.ルヌー,J.フィリオザ/山本智教訳『インド学大事典(1-3)』叢書仏教文化の世界,金花社,1979-81年。)
(*)(參考：馬場嘉市編『新聖書大辞典』第4版,キリスト新聞社,1979年。)
(*)(參考：博士・平文[ヘボン],山本秀煌編纂『聖書辞典』ノーベル書房,限定版,1979年。
(*)(參考：B.エヴスリン/小林稔訳『ギリシア神話小事典』現代教養文庫,現代教養文庫,1979年。)
(*)福島邦造・三橋健解題『羅匍日対訳辞書』勉誠社,1979年。
(*)山村昌永『訂正増訳采覧異言』青史社,1979年。
(*)高瀬重雄「山村昌永とその「訂正増訳采覧異言」について—幕末における洋学史の一断面」金沢経済大学論集12(3),1979年。
(*)飛田良文『哲学字彙訳語総索引』笠間書店,昭和54年。
(*)(參考：富松祥郎・大西昇・大槻真一郎編『化学基本用語辞典』9 版,同学社基本用語辞典シリーズ,同学社,1979 年。→1986 年,改訂版。)
(*)(參考：大槻真一郎『科学用語語源辞典ギリシア語ラテン語篇』同学社,1979年(→1984年,5版。)
(*)(參考：加島祥造「ユーモア引用句辞典の話(ユーモア—現代文学のブラック・ホール,特集)」ユリイカ11(12),1979年。)
(*)(參考：岩倉具忠「シチリア派の言語と文体二ついて：Giacomo da Lentini と Guido delle Colonne にみられる」イタリア学会誌 27,1979 年。)
(*)(參考：天野恵「Cortegianoにおける言語論争の背景」イタリア学会誌27,1979年。)
(*)(參考：大城光正「アナトリア語派の方言的諸相」岡山理科大学紀要15,1979年。)
(*)(參考：C.H.ゴードン著/津村俊夫訳『古代文字の謎：オリエント諸語の解読』社会思想社,1979年.)
(*)(參考：矢島文夫「C.H.ゴードン著,津村俊夫訳『古代文字の謎—オリエント諸語の解読』社会思想社,1979年」オリエント22(2),1979年。)
(*)(參考：矢島文夫「出自も不明なエトルリア語(解読8)」科学朝日39(8),1979年。)
(*)(參考：手嶋兼輔「エーゲ海の色とエピテトン—ギリシア語色彩語彙への一考察」札幌商科大学学会論集・人文篇27,1979年。)
(*)(參考：島岡茂「Reichenau Glossary—ラテン語からフランス語へ」人文論集17,1979年。)
(*)(參考：野溝七生子「シルクロード(続)古事記に於ける印欧語族(ギリシア)的のもの--比較文学の一方法による第二(「アジア・アフリカ文化研究所」創立二十

周年記念号)」アジア・アフリカ文化研究所研究年報1979年,1979年。)
(*)河部利夫『外国学ことはじめ』玉川選書94,玉川大学出版部,1979年。)
(*)松村明「蘭学と国語学」文化交流研究施設研究紀要2・3,1979年。
(*)中西啓「「英語箋」のこと」長崎県医師会報400,401,1979年。
(*)沢護「日本におけるフランス語—幕末・明治初年を中心として」千葉敬愛経済大学研究論集16,1979年。
(*)(参考：土岐健治『新約聖書ギリシア語初歩』教文館,1979年。)
(*)(参考：野口誠『やさしい聖書のギリシア語』いのちのことば社,1979年。)
(*)(参考：伊藤利行「ギリシア語旧約聖書におけるπαιδειαについて—聖書における形成の研究(1)」基督教學研究2,1979年。)
(*)(参考：秋吉輝雄「サヌエル記4章5節-8節におけるマソラ=セプトゥアギンタの問題—マソラ本文校訂の資料としてのギリシア語訳写本の検討(2)[立教大学キリスト教学科・新制大学移行30周年・中沢洽樹教授退職記念号」キリスト教学21,1979年。)
(*)松岡洸司「中世期の日本文典,ラテン文法の日本語への適用を巡って」上智大学弘文学論集12,1979年。
(*)杉原丈夫「明治初期以前における西洋哲学用語の形成」岡山大学法文学部学術紀要40,1979年。
(*)川崎真治・鹿島昇/吾郷清彦解説『シルクロードの倭人：秀真伝』日康,1979年。
(*)杉本つとむ『近代語の形成』日本語講座4,桜風社,1979年。
(*)杉本つとむ『蘭語学とその周辺』杉本つとむ日本語講座5,桜楓社,昭和54年。
(*)杉本つとむ「蘭語学と〈博言学〉の萌芽」(同『蘭後学とその周辺』所収,日本語講座5,桜風社,1979年。)
(*)(参考：下村寅太郎『わが書架』北洋社,1979年。)
(*)『門脇[清]文庫目録』山梨英和短期大学,1979年。
(*)(参考：関根透他『人間と思想』北樹出版,1979年。)
(*)(参考：渡部昇一「読中独語(6)嫉妬する神々」諸君11(7),1979年。)
(*)畑山博『オリンポスの娘』文藝春秋,1979年。
(*)村永大和「オイディプスの旅立ち—高橋睦郎「道饗」の世界(現代短歌の問題,特集)」短歌26(3),1979年。
(*)吉田敦彦『ヤマトタケルと大国主—比較神話学の試み3』みすず書房,1979年。
(*)(参考：小貫徹「エジプト宗教のヘレニズム化」埼玉大学紀要[教育学部]人文・社会科学28,1979年。)
(*)(参考：万里村ゆき子「ギリシャ神話は想像力の宝庫(「星のオルフェウス」,特集)」キネマ旬報770,1979年。)
(*)(参考：五十野昭夫「カミュの『シシュポスの神話』について：ルソーの「サヴォワの助任司祭の信仰告白」との比較において」フランス語フランス文学研究35,1979年。)
(*)(参考：上村くに子「ロマン主義詩人に於ける白鳥神話」Gallia19,1979年。)
(*)(参考：藤本黎時「W.B.Yeatsの詩における神話化の過程—復活祭蜂起の英雄像の完成」言語文化研究5,1979年。)
(*)(参考:中村善也・松本仁助・岡道男編『ギリシア・ローマの神と人間』東海大学出版会,1979

年。)
(*)(参考：呉茂一『ギリシア神(上下)』新潮文庫,新潮社,1979年。)
(*)(参考：バーナード・エヴスリン/三浦朱門訳『幻想のオリンポス—ギリシャの神々と英雄』朝日イブニングニュース社,1979年。)
(*)(参考：M.ムニエ/原章二・松田孝江訳『ギリシア神話：神々と英雄の黄金伝説』八坂書房,1979年。)
(*)(参考：久保正彰訳・宇野亜喜良絵/水谷智洋訳・池田竜雄絵『ギリシア・ローマ神話/イソップ物語—少年少女世界の文学1』暁教育図書,1979年。)
(*)(参考：山本治夫「アフロディテー(ヴィーナス)とラクシュミー(吉祥天女)—エロティシズムからの比較文学的試論(福岡大学創立45周年紀年論文集)」福岡大学人文論集11(2),1979年。)
(*)(参考：多田智満子「ヴィーナスの失恋(恋愛小説をもとめて,特集)」早稲田文学[第8次]32,1979年。)
(*)(参考：ハンス・バウマン/関楠夫訳『イーカロスのつばさ』岩波の愛蔵版46,岩波書店,1979年。)
(*)(参考：川島重成「ディオニュソスの顕現--「バッコスの信女たち」論(上下)」文学47(5,6),1979年。)
(*)(参考：Marcel Detienne/及川馥訳「ディオニュソスの殺害」ユリイカ11(6),1979年。)
(*)(参考：吉田敦彦「ディオニュソス」思想661,1979年。)
(*)(参考：小貫徹「エジプト宗教のヘレニズム化」埼玉大学紀要[教育学部]人文・社会科学28,1979年。)
(*)(参考：小川英雄「ミトラス教信者組織の女性的要素」(『オリエント学論集』所収,刀水書房,1979年。)
(*)(参考：山田晴美『ギリシア・ローマ神話と栽培植物の属名』明文書房,1979年。)
(*)(参考：福井憲彦「クリオとタナトス—フランスにおける「死」をテーマとした歴史研究をめぐって(研究動向)(社会史,特集)」思想663,1979年。)
(*)(参考：関根正雄『旧約学論文集(上中下)』関根正雄著作集5-7,新地書房,1979年。)
(*)(参考：土戸清『現代新約聖書入門』新地書房,1979年(→2004年,日本キリスト教団出版部版,オンデマンド版。)
(*)椎名麟三『聖書について』椎名麟三信仰著作集9,教文館,1979年。
(*)(参考：高見澤潤子文/ジム・ロバーツ絵『すくわれたろうばん：使徒行伝 16 章 19-34』アーチ・ブック,たのしいせいしょえほん56,聖文舎,1979年。)
(*)(参考：高見澤潤子文/ドン・クエーカー絵『三がいのまどからおちたひと：使徒行 20 章 7-12』アーチ・ブック,たのしいせいしょえほん 57,聖文舎,1979 年。)
(*)(参考：佐藤陽二『使徒行伝講解』キリスト新聞社,1979 年。)
(*)(参考：塚本虎二『キリスト教十講』13 版,聖書知識文庫 2,聖書知識社,1979 年。)
(*)(参考：H.J.マルクス「古代キリスト論の意味を現代に問う」カトリック研究 36,1979 年。)
(*)(参考：柴田有「プラトン主義とグノーシス—二つの二元論」現代思想7(1),1979年。)
(*)(参考：荒井献「シモン派のグノーシス主義と『魂の解明』」)地中海学研究2,1979年。)
(*)(参考：荒井献「グノーシス主義の本質規定をめぐって」エピステメー5(7),1979年。)
(*)(参考：柴田有「世界拒否としてのグノーシス—ヘルメス文書研究の総括」エピステメー5(7),1979年。)

(*)(参考：石原謙『初期キリスト教研究』石原謙著作集3,岩波書店,1979年。)
(*)(参考：稲富栄次郎『稲富栄次郎著作集3—プロチノス,スピノザ』学苑社,1979年。)
(*)(参考：柴田有「プロティノスとグノーシス」思想660,1979年。)
(*)(参考：荒井献「隠喩としてのマグダラのマリア—グノーシス主義における女性原理とその系譜をめぐって」思想661,1979年。)
(*)(参考：坪井一「「グノーシス—ハンス・ヨーナス献呈論文集」“Gnosis Festschrift fur Hans Jonas”について」図書館学研究報告12,1978年。)
(*)(参考：E.ウィルスン/桂田重利訳『死海写本—発見と論争1947-1969』みすず書房,1979年。)
(*)(参考：小川英雄「第20回大会報告—ローマ帝国への古代オリエント宗教の流入」オリエント22(1),1979年。)
(*)(参考：カルロス・メステルス/佐々木治夫訳『イエススの母マリア』南窓社,1979年。)
(*)(参考：荒井献『イエス・キリスト』講談社,1979年。)
(*)(参考：山岸外史『人間キリスト記---或ひは神に欺かれた男』木耳社,1979年。)
(*)(参考：霜田美樹雄「ユリアヌス小伝」早稲田社会科学研究19,1979年。)
(*)(参考：松本宣郎「キリスト教徒迫害と奴隷—大迫害史料を中心に」(東北大学文学部)研究年報 28,1979 年。)
(*)(参考：豊田浩志「『大迫害』直前のローマ帝国とキリスト教—ラクタンティウス史料を中心として(1,2)」美作女子大学・美作女子大学研究紀要24,1979年/25,1980年。)
(*)(参考：近山金次『アウグスチヌスと歴史的世界』慶應通信,1979年。)
(*)(参考：朝倉文一訳編『聖ベネディクト：西欧的修道院制度の確立者』平凡社,1979年。)
(*)渡部治雄「野口洋二著「グレゴリウス改革の研究」」史學雜誌88(11),1979年。
(*)関口武彦「グレゴリウス改革の研究に関する覚え書き—野口洋二著「グレゴリウス改革の研究」を読んで」西洋史研究8,1979年。
(*)(参考：ポール・ブバール/小波好子訳『バチカン市国』中央出版社,1979年。)
(*)結城了悟『キリシタンのサンタ・マリア』日本二十六聖人記念館,1979年。
(*)向坂寛『和の構造：ギリシア思想との比較において』北樹出版,1979年。
(*)相田武文「遠藤周作著,沈黙を読んで(私の感銘を受けた図書[3])」建築雜誌94(1146),1979年。
(*)(参考：遠藤周作「名画・イエスの生涯—受胎告知」文藝春秋57(1),1979年。)
(*)兵藤正之助「遠藤周作とフランソワ・モーリヤック—カトリシズムと東洋的汎神性の相剋(日本文学と外国文学〈特集〉)」関東学院大学文学部紀要28,1979年。
(*)小林昭「殉教と裏切り—遠藤周作「キリストの誕生」(現代文学をめぐって〈特集〉)」民主文学165,1979年。
(*)丸谷才一・山崎正和・木村尚三郎「遠藤周作「キリストの誕生」(鼎談書評 定説に挑戦した三冊)」文藝春秋57(4),1979年。
(*)遠藤周作「私にとっての神(2)」群像34(10),1979年。
(*)椎名麟三『復活について』椎名麟三信仰著作集7,教文館,1979年。
(*)清水昭三『椎名麟三私論』オリジン出版センター,1979年。
(*)佐藤泰正編『文学における宗教』梅光女学院大学公開講座論集5,笠間選書125,笠間書房,1979年。
(*)福島邦道『サントスの御作業：翻字・研究篇』キリシタン資料集成,勉誠社,1979年。

(*)海老澤有道「キリシタンのコンフラリヤ」(ICU)アジア文化研究11,1979年。
(*)海老澤有道「明治聖書和訳前史(明治のキリスト教と文学[1])」文学47(3),1979年。
(*)『コムテムツス・ムンデ』キリシタン資料集成,勉誠社,1979年。
(*)海老澤有道「イミタチオ・クリスティ和訳史ノート」キリスト教史学33,1979年。
(*)海老澤有道「「イミタチオ・クリスティ」の和訳史」ゑぴすとら 60,1979 年(→1994 年,復刻版)。
(*)海老澤有道・新見宏・照屋善彦[解説]『馬太傳福音書・馬可傳福音書：解説』新教出版社,1979 年。
(*)ベッテルハイム訳『馬太傳福音書：漢和對譯』新教出版社,復刻限定版,1979 年。
(*)ベッテルハイム訳『馬可傳福音書：漢和對譯』新教出版社,復刻限定版,1979 年。
(*)新山茂樹「ギュツラフ訳聖書『約翰福音之伝』『約翰上中下書』原典探求雑感」国文鶴見14,1979年。
(*)木下清「日本人最初の海外伝道者乗松雅休ほか訳『新約聖書羅馬書』」聖書の講解157,1979年。
(*)片子澤千代『日本のプロテスタント：120年のあゆみ』日本YMCA同盟出版部,1979年。
(*)関根文之助『キリストが来た：日本でイエスは何を見たか?』太陽書林,みずうみ書房(発売),1979年。)
(*)小林惣八「漢代楼船考」(貨狄)駒澤史学26,1979年。
(*)(参考:『世界の民話=folktales of the world(第9巻=ギリシア・トルコ・地中海)』研秀出版,1979年。)
(*)関敬吾『日本昔話大成・第一巻』(11.イソップ)角川書店,昭和 54 年。
(*)中田敬義原譯・田中秀改訂『華訳伊蘇普喩言=Aesop’s fables in spoken Chinese=伊索寓言=イソップものがたり』改訂,永和語学社,1979 年。
(*)(参考 : ヨゼフ・ラダえ ; ヤン・ヴラーナぶん ; かなやまみさこやく『きつねとおおかみ』ほるぷ出版,1979 年。)
(*)とう・たいりう文・劇団かかし座かげ絵『きつねの失敗』かげ絵イソップ物語 4-16,主婦の友社,1979 年。
(*)とう・たいりう文・劇団かかし座かげ絵『よくばりな犬』かげ絵イソップ物語 4-17,主婦の友社,1979 年。
(*)とう・たいりう文・劇団かかし座かげ絵『ある旅人の話』かげ絵イソップ物語 4-18,主婦の友社,1979 年。
(*)とう・たいりう文・劇団かかし座かげ絵『年よりライオンの話』かげ絵イソップ物語 4-19,主婦の友社,1979 年。
(*)とう・たいりう文・劇団かかし座かげ絵『わしのまねをしたカラス』かげ絵イソップ物語 4-20,主婦の友社,1979 年。
(*)(参考 : Walter Crane(condensed in rthyme with poratble morals pictorially pointed by) ; Edmund Evans(engraved and printed in colours by)“The baby’s own Aesop”複製世界の絵本館,オズボーン・コレクション,Holp Shuppan,1979 年。
(*)(参考 : William Caxton at Westminster1484（trans.&print.） ; Ichiro Handa(prep)“The History and Fables of Aesop”A facsimiled ed 文部省教育方法等改善プロジェクトによる刊行資料,昭和 53 年東京外国語大学語学研究協議会,1979 年。)
(*)(参考 : L.キャロル原作 ; 立原えりか文『ふしぎの国のアリス』(イソップ原作/リマ絵「イ

ソップのおはなし」)少年少女世界童話全集;国際版 6,小学館,1979 年。)
(*)小峰元『イソップの首に鈴をつけろ』講談社文庫,講談社,1979 年。
(*)木村尚三郎・丸谷才一・山崎正和「小堀桂一郎『イソップ寓話』(鼎談書評 童話と政治と世代論)」文藝春秋 57(2),1979 年。
(*)北垣篤「小堀桂一郎著『イソップ寓話—その伝承と変容』中公新書」(日本比較文学会)比較文学 22,1979 年。
(*)天理圖書館善本叢書和書之部編集委員会編『舞の本：文禄本(上下,47,48 巻)』(百合若)天理圖書館善本和書之部,八木書店(制作発売),1979 年。
(*)荒木繁(他)編注『幸若舞(1-3)』平凡社,東洋文庫,1979-83 年(→2007 年,ワイド版東洋文庫)。
(*)吾郷寅之進編『幸若舞曲研究』(10 巻・別巻)三弥井書店,1979 年。
(*)山口麻太郎『壱岐島民俗誌』歴史図書社,1979 年(→2009 年,日本民俗選集 9,クレス出版。)
(*)市古貞次「増補幸若舞・曲舞年表稿」国文学研究資料館紀要 5,1979 年。
(*)田崎哲郎「洋学論再構成試論—跡見玄山の場合」思想 665,1979 年。
(*)海野一隆「西洋地球説の伝来(1,2)」自然 34(3,6),1979 年。
(*)船越昭生「「新訂万国全図」の主要資料アロウスミスの原図について」史林 62(1),1979 年。
(*)後藤広子「帆足万里の西洋理解と儒教(1,2)」日本大学精神文化研究日本大学教育制度研究所紀要 10,1979 年/12,1981 年。
(*)上村清太郎「仏学の消長とレオン・デュリー」大阪経済法科大学論集 8,1979 年。
(*)木村毅『私の文学回顧録』青蛙選書 57,青蛙書房,1979 年。
(*)高橋邦太郎「追悼」日本古書通信 44(11),1979 年。
(*)野田宇太郎「苦労人的文人—木村毅さんの追悼一端」日本古書通信 44(11),1979 年。
(*)谷沢永一「自由出版協会前後」日本古書通信 44(11),1979 年。
(*)谷沢永一「木村毅著書目録」日本古書通信 44(11),1979 年。
(*)岡野他家夫「木村毅さんを憶う」日本古書通信 44(12),1979 年。
(*)松井幸子『政治小説の論』櫻風社,1979 年。
(*)小川武敏「『経国美談』の構造」(明治大学)文藝研究 41,1979 年。
(*)下村寅太郎『わが書架』北洋社,雁のたより 2,1979 年。
(*)下村寅太郎『明治の日本人』北洋社,雁のたより 3,1979 年。
(*)大久保純一郎「ケーベル先生と漱石(2)—哲学と詩」心 32,1979 年。
(*)渡辺和靖「井上哲次郎における進化論・キリスト教」清泉女子大学人文科学研究所紀要 1,1979 年。
(*)樺俊雄「安倍能成—あけっぴろげな教育者」現代の眼 20(8),1979 年。
(*)樺俊雄「わが青春—西田幾多郎への傾倒」現代の眼 29(4),1979 年。
(*)吉田精一「評論の系譜(112)和辻哲郎」国文学解釈と鑑賞 44(12),1979 年。
(*)「人間邂逅」(村川堅太郎)プレジデント 17(3),1979 年。
(*)立石任夫『菊池寛実伝』大心社,1979 年。
(*)安田保雄「平田禿木とルネッサンスの出会い--「文学界」第二期について」成蹊大学文学部紀要 15,1979 年。
(*)新倉俊一『西脇順三郎：変容の伝統』花曜社,1979 年(→1994 年,増補新版)。
(*)『西脇順三郎』現代詩読本 9,思潮社,1979 年。
(*)飯島耕一『田園に異神あり：西脇順三郎の詩』集英社,1979 年。

(*)渡辺澄子『野上彌生子研究』近代文学研究双書,八木書店,1979 年。
(*)太宰治『走れメロス』新潮文庫,新潮社,1979 年。
(*)(参考：川田熊太郎『文化と宗教』第三文明社,1979 年。)
(*)金田民夫『明治期の美學と芸術思想』金田民夫,1979 年。
(*)(参考：庄子幸男「スパルタ教育“少年の船”(国際児童年,特集)—(子どもを育てるいろいろな運動)」社会教育 34(6),1979 年。)
(*)(参考：渡部昇一「読中独語(1)哲学と哲学者」諸君 11(2),1979 年。)
(*)古在由重「高桑純夫君をしのんで」現代と思想 37,1979 年。
(*)(参考：小野誠二「弁証法の歴史的散見(1)古代哲学の弁証法(1)」(北海学園大学学術研究会)学園論集 35,1979 年。)
(*)(参考：森進一「知と愛の対話について(愛曼陀羅—万有の本源を尋ねて」日本及日本人 1552,1979 年。)
(*)(参考：B.スネル著/新井靖一訳『精神の発見：ギリシア人によるヨーロッパ的思考の発生に関する研究』名著翻訳叢書,創文社,1979 年。)
(*)(参考：廣川洋一・山崎賞選考委員会編『ギリシャ思想の生誕—第 5 回「哲学奨励山崎賞」授賞記念シンポジウム』河出書房新社,1979 年。)
(*)吉増剛造「「初期ギリシア哲学者断片集」[山本光雄訳]—一冊の本」理想 554,1979 年。
(*)(参考：藤田一美‘Problem der Philologie in der Dimention der vergleichenden Philosopie’ Journal of the Faculty of Letters,the University of Tokyo(Aesthetics)4,1979.)
(*)(参考：中野孝次「ヨーロッパにおける人間観の研究(10)精神史的考察：ヘレニズム期の人間観—シノペのジオゲネスの場合」心 32(3),1979 年。)
(*)(参考：内山勝利「開かれた体系—Corpus Aristotelicum の周辺」理想 556,1979 年。)
(*)(参考：井上忠「G.E.L.オーエン」：「個と一般」(1))理想 556,1973 年。)
(*)(参考：藤澤令夫「ギリシャ哲学と現代(1,2)世界観のあり方について」思想 655,656,1979 年。)
(*)(参考：戸塚七郎編『プラトン—ソクラテスの弁明』有斐閣新書—古典入門,有斐閣,1979 年。)
(*)(参考：ハンス・ケルゼン/長尾龍一訳『プラトニック・ラヴ』ケルゼン選集 10,木鐸社,1979 年。)
(*)(参考：田中美知太郎『プラトン I—生涯と著作』岩波書店,1979 年。)
(*)(参考：東千尋「プラトニックラヴについて」國學院雑誌 80(9),1979 年。)
(*)(参考：角田幸彦「プラトンと M.ポンティ—χωρα の存在論と chair の存在論」明治大学教養論集 125,1979 年。)
(*)(参考：佐藤三郎「論理としての言葉と実存のなかの言葉：プラトン思想と旧約聖書思想との比較研究」筑波大学教育学系論集 3,1979 年。)
(*)四方田犬彦「先取られた既視感—金井美恵子「プラトン的恋愛」」海 11(10),1979 年。
(*)(参考：三宅雅明「アリストテレスとThe Oxford English Dictionaryにおけるメタファーの正義とその限界」(大阪府立大学)英米文学 26,1979 年。)
(*)(参考：モーティマーJ.アドラー/下島連・若杉彰訳『アリストテレス・フォー・エブリボディー』日本ブリタニカ,1979 年。)
(*)(参考：D.J.アラン/山本光雄訳『アリストテレスの哲学』以文社,1979 年。)
(*)(参考：山本光雄『ギリシア・ローマ哲学者物語』角川書店,1979 年。)

(*)(参考：中野孝次「ヨーロッパにおける人間観の研究(10)精神史的考察—ヘレニズム期の人間観—シノペのジオゲネスの場合」心 32(3),1979 年。)
(*)(参考:伊東俊太郎「アリストテレスと日本—わが国における西欧的世界像の最初の受容」(東京大学)教養学科紀要 1,1979 年。)
(*)(参考：秀村欣二編訳『アウグスチヌス—古代キリスト教最大の神学者』平凡社,世界を創った人々4,1979 年。)
(*)(参考：近山金次『アウグスチヌスと歴史的世界』慶應通信,1979 年。)
(*)(参考：大谷啓治「〈書評〉神の国と地の国」ソフィア 28(3),1979 年。)
(*)(参考：マヌエル・アモロス「聖アウグスティヌスの『告白』第 11 巻における時間と永遠」(上智大学哲学科)哲学科紀要 5,1979 年。)
(*)(参考：石原謙『石原謙著作集 3—初期キリスト教研究』岩波書店,1979 年。)
(*)(参考：石原謙『石原謙著作集 11—回想・評伝・小論』岩波書店,1979 年。)
---- 「回想 学究生活五十年」/「回想」/「評伝 A.ダンテと現代」/「ヘーゲル百年」記念に際して」/「カール・ヒルティーに就て」/「神学者ヘルマンの訃」/「オイケン教授訪問記」/「アドルフ・フォン・ハルナック」/「教会史家としてのハンス・フォン・シューベルト：その生涯と学業」/「ティベリイス教授の遺著」/「人類の奉仕者シュワイツァー」/「ブルンナー博士の追憶：二十年前の日記から「/「評伝 B.ケーベル先生：調和ある教養を,新しい卒業生への餞けの言葉にかえて」/「齋藤信作君：野の人と希臘語研究」/「植村先生の想ひ出：渡欧日記の中から」/「渡辺荘追想」/「波多野精一先生：その生涯と学業」/「新渡戸稲造先生追想」/「三谷隆正君の追憶」/「岩波茂雄君の想ひ出」/「安井てつ女史のこと」/「阿部次郎君追想：若き日の私たち二人」/「故和辻哲郎会員追悼の辞」/「矢内原忠雄君をしのぶ」/「高橋里美君を偲びて」/高橋穣君をめぐる古き日の思ひ出」/「小論 ナザレの聖者を論ず」/「如何にして基督教は世界的宗教となりしか」/「理想詩人とシルラー」/「基督教濡隠元観」/「基督教倫理学」/「人格的宗教と汎神論：昭和二十一年九月二十二日,日曜日放送」/「愛において生きる自由」/「死よ,なんじの棘は何処にありや：中世カトリシズムにおける罪の意識」
(*)(参考：小林雅夫「「自由学科」概念の起源について(文化交流の諸問題)」史壇(100),1979 年。)
(*)(参考：山田晶『在りて在る者』中世哲学研究 3,創文社,1979 年。)
(*)(参考：柏木英彦「存在の忘却と発見—山田晶『トマス・アクィナスの〈エッセ〉研究』『在りて在るもの』」思想 662,1979 年。)
(*)(参考：稲垣良典『信仰と理性』第三文明社,レグルス文庫 117,1979 年。)
(*)(参考:稲垣良典『トマス・アクイナス』勁草書房,思想学説全書,1979 年(→1996 年,再版。)
(*)(参考：稲垣良典『トマス・アクイナス』講談社,人類の知的遺産 20,1979 年(→1999 年,講談社学術文庫版。)
(*)(参考：内山勝利「開かれた体系へ—Corpus Arisutotelicum の周辺」理想 556,1979 年。)
(*)(参考：山本耕平訳「アリストテレス Perihermeneias へのトマス・アクィナス註解(1,2)」古代哲学研究 11,1979 年/12,1980 年。)
(*)(参考：田中千里「「アヴェロエス研究」--アリストテレアスの作品『生成消滅論』の中

注解について(A)(B)」近畿大学教養部研究紀要 11(1),1979 年//12(1),1980 年。)
(*)(参考：田中千里「「アヴェロエス研究」--中世アラビア思想と西欧」近畿大学教養部研究紀要 11(2),1979 年。)
(*)(参考：田中千里「知性の単一性について—アヴェロエス説とトマスの反駁論」中世思想研究 21,1979 年。)
(*)(参考：野町啓「提題 παιδεια・humanitas と中世ヒューマニズム(中世におけるヒューマニズム—教父時代〈第 27 回中世哲学会大会シンポジウム報告〉」中世思想研究 21,1979 年。)
(*)(参考：水垣渉「提題 教父とヒューマニズム(同上)」中世思想研究 21,1979 年。)
(*)(参考：柏木英彦「中世のヒューマニズム」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 11,1979 年。)
(*)(参考：小林雅夫「「自由学科」概念の起源について」史観 100,1979 年。)
(*)(参考：ジャック・ヴェルジュ/大高順雄訳『中世の大学』みすず書房,1979 年。[→1991 年,4 刷]。)
(*)(参考：今野國雄『西洋中世世界の発展』岩波書店,岩波全書 314,1979 年(→1981 年,2000 年,再版。)
(*)(参考：桂寿一『懐かしの哲学者』東京大学出版会,1979 年。)
(*)(参考：佐藤三夫『古典の祈り』中央出版社,1979 年。)
(*)(参考：野里房代「ヒューマニズムの批判と教育学：テオドールリットによる人文主義の陶冶理想批判の場合」教育研究 23,1979 年。)
(*)(参考：ヒルティ/秋山英夫訳『愛と希望』(再版,ヒルティ著作集 6,白水社,1979 年。)
(*)(参考：ヒルティ/岸田晩節訳『同情と信仰』(再版,ヒルティ著作集 7,白水社,1979 年。)
(*)(参考：ヒルティ/国松孝二他訳『悩みと光』(再版,ヒルティ著作集 8,白水社,1979 年。)
(*)(参考：ヒルティ/高橋三郎訳『人間教育』(再版,ヒルティ著作集 10,白水社,1979 年。)
(*)(参考：ヒルティ/秀村欣二・荒井献訳『永遠の平和』(再版,ヒルティ著作集 11,白水社,1979 年。)
(*)松平千秋「回顧」(京大以文会)以文 22,1979 年(→2005 年,京都大学文学部編『以文会友 京都大学文学部今昔』京都大学学術出版会)。
(*)(参考：『世界文学全集 1(ホメーロス)』(「オデュッセイア」呉茂一訳)集英社,1979 年。)
(*)生地竹郎「日本におけるホメーロス受容」(高柳俊一編『受容の軌跡—西欧思潮と近代日本』所収,南窓社,1979 年。)
(*)生地竹郎「日本におけるホメーロス学」比較文学 22,1979 年。
(*)木村毅「ホーマア漫讀」早稲田大学史紀要 12,1979 年。
(*)(参考：松本仁助『オデュッセイア』研究』京都大学、文学博士,乙第 3782 号,1979 年。)
(*)(参考：サッポー/八木橋正雄訳『サッフォー詩集』私家版,八木橋正雄,1979 年。)
(*)(参考：村永大和「オイディプスの旅立ち—高橋睦郎「道饗」の世界(現代短歌の問題,特集)」短歌 26(3),1979 年。)
(*)(参考：ホラティウス/鈴木一郎訳「詩論—ピソー父子へ」ユリイカ 11(8),1979 年。)
(*)(参考：鈴木一郎訳『テレンティウス』古代ローマ喜劇全集 5,東京大学出版会,1979 年。)
(*)(参考：稲田菊次郎『ウェルギリウス論考—神と人間とその国家の詩想』晃洋書房,1979 年。)
(*)内藤克彦「新関良三先生を偲ぶ」(日本独文学会東海支部)ドイツ文学研究 11,1979 年。

(*)(参考：杉浦明平訳「ルネサンスの暗黒—渡辺一夫「フランス・ルネサンスの人々」」朝日ジャーナル 21(48),1979 年。)
(*)小苅米[ケン]「「ルネッサンス文学の研究」をめぐって—杉浦明平の文学的な原像(杉浦明平・人と文学,特集)」新日本文学 34(5),1979 年。
(*)(参考：筑摩書房編集部編『ルネサンスと宗教改革』新訂版,世界の歴史 9,筑摩書房,1979 年。)
(*)(参考：福原嘉一郎「イタリア人文主義からドイツ宗教改革へ(3)フィレンツェ・アカデミーとロイヒリン,エラスムスの位置—再論(鈴木悌二教授定年退職記念号)」教養諸学研究(58~60),1979 年。)
(*)(参考：石坂尚武「ルネサンス人文主義の課題(1)「市民的人文主義」をめぐって([文化史学会]30 周年記念号)」文化史学 35,1979 年。)
(*)(参考：野上素一「イタリア・ルネサンスの諸相と問題点」實踐英文學 16,1979 年。)
(*)(参考：清水廣一郎訳編『ロレンツォ・デ・メディチ：ルネサンスの擁護者』平凡社,1979 年。)
(*)(参考：J.A.シモンヅ/齋藤祐蔵訳『ルネィサンスの精神』現代の教養 22,南雲堂,1979 年。)
(*)(参考：下村寅太郎「ルネッサンスの人間観--「芸術家」の成立を中心として(ヨーロッパにおける人間観の研究—精神史的考察(11)」心 32(5),1979 年。)
(*)(参考：マネッティ・ジャンノッツォ/佐藤三夫訳「人間の尊厳と優越について」流通経済大学論集 14(2),1979 年。)
(*)(参考：ケネス・クラーク解説・鈴木杜機子・平川祐弘訳『ボッティチェルリ『神曲』素描—ベルリン美術館所蔵の原画による』講談社,1979 年。)
(*)(参考：森田鉄郎編訳『ダンテ—イタリアルネサンス最大の詩人--世界を創った人びと 8』平凡社,1979 年。)
(*)(参考：今野國雄「ダンテとジョアッキーノ・ダ・フィオーレ--『神曲』「天堂篇」第 12 曲について」関東学院大学文学部紀要 29,1979 年。)
(*)(参考：E.N.Tigerstedt/谷口勇「ダンテの先蹤者たち」日伊文化研究 17,1979 年。)
(*)(参考：岩倉具忠「シチリア派の言語と文体二ついて：Giacomo da Lentini と Guido delle Colonne にみられる」イタリア学会誌 27,1979 年。)
(*)(参考：米山喜晟「今年のダンテ学における「定説」の周辺」イタリア学会誌 27,1979 年。)
(*)(参考：天野恵「Cortegiano における言語論争の背景」イタリア学会誌 27,1979 年。)
(*)(参考：根占献一「マルシリオ・フィチーノにおける哲学と宗教の関連づけとその史的発展」イタリア学会誌 27,1979 年。)
(*)(参考：福原嘉一郎「イタリア人文主義からドイツ宗教改革へ(3)フィレンツェ・アカデミーとロイヒリン,エラスムスの位置—再論(鈴木悌二教授諦念退職記念号)」教養諸学研究 58-60,1979 年。)
(*)宮井敬「トマス・モア「ユートピア」の新しい日本語訳」同志社大学英語英文学研究21,1979 年。)
(*)(参考：大谷恒彦訳解説「ラインホルト・シュナイダー：エラスムスの良心(宮川政教授退官記念号)」独仏文学研究 29,1979 年。)
(*)(参考：A.G.ディキンズ/橋本八男訳『ヨーロッパ近世史：ユマニスムと宗教改革の時代』芸立出版,1979 年。)
(*)(参考：栗原福也編訳『エラスムス：ヨーロッパ人文主義の先駆者』世界を創った人びと

12,平凡社,1979 年。)
(*)(参考：永田諒一「エラスムスと宗教改革運動--〈自由意志論争〉をめぐって(1,2)」岡山大学教養部紀要 15,1979 年/16,1980 年。)
(*)(参考：ペトラルカ・フランチェスコ/佐藤三夫訳・註解「ヴァントー山登攀」)流通経大学論集 13(3),1979 年。)
(*)(参考：宮井敏「トマス・モア「ユートピア」の新しい日本語訳」同志社大学英語英文学研究 21,1979 年。)
(*)(参考:J.Nathan/山口俊章編『物語フランス文学史』第三書房,1979 年(→1990 年,改訂新版)。)
(*)(参考：饗庭孝男・朝比奈誼・加藤民男編『フランス文学史』白水社,1979 年(→1992 年,新版)。)
(*)(参考：長谷川泰「アンドレ・シェニエの詩学におけるギリシア・ローマの位置：「アン・バソション」を中心に」千葉大学教養部研究報告 A12,1979 年。)
(*)(参考：荒木昭太郎責任編集『モンテーニュ』世界の名著 24,中央公論社,1979 年。)
(*)加藤節子「17 世紀フランスにおける体育：フェヌロンの女子体育論とサン・シール学院について」日本体育学会大会号 30,1979 年。
(*)(参考：高橋安光『ヴォルテールの世界』未来社,1979 年。)
(*)(参考：ヒュー・H・ヤング「ラシーヌのPhèdreとエウリピデスのHippolytosの比較」(西南学院大学)フランス語フランス文学論集14,1979年。)
(*)(参考：ジャン・ド・ラ・フォンテーヌ/川田靖子訳・馬場檮男版画『ラ・フォンテーヌ寓話(1-3)』玉川大学出版部,1979年。)
(*)(参考：沓掛良彦「ヴァレリー訳の『牧歌』をめぐって」エポス 4,1979 年。)
(*)(参考：五十野昭夫「カミュの『シシュポスの神話』について：ルソーの「サヴォワの助任司祭の信仰告白」との比較において」フランス語フランス文学研究 35,1979 年。)
(*)(参考：冨原真弓「シモーヌ・ヴェイユにおけるプラトンの中の神」上智大学仏語・仏文学論集 13,1979 年。)
(*)(参考：中野幸次『エチカの形成と哲学的世界』東京堂出版,1979 年。)
(*)(参考：岡田朝雄・岡田珠子『ドイツ文学案内』世界文学シリーズ,朝日出版社,1979 年。
(*)(参考：豊福淳一『ヘーゲルとキルケゴール』高文堂出版社（高文堂新書 29）,1979 年。)
(*)(参考：吉田輝雄訳編『ゲーテ：近代ドイツ精神の指導者』平凡社,1979 年。)
(*)(参考：新関良三「ドイツ文学とカーライル—再びゲーテの世界文学理念について」共立女子大学文芸学部紀要 25,1979 年。)
(*)(参考：J.W.v.ゲーテ/桂芳樹訳著『タウリスのイフィゲーニエ—ゲーテと古代への回帰』鹿島出版会,1979 年。)
(*)(参考：緒方純雄「シュライエルマッヘル研究—イングランドにおける受容の問題をめぐって」基督教研究42(2),1979年。)
(*)(参考：武安宥「シュライエルマッヘルの宗教教育論(1)」人文論究29(1),1979年。)
(*)(参考：南大路振一「一つのレッシング像—Christoph Schrempfの場合」ドイツ文学62,1979年。)
(*)(参考：有川貫太郎「日本におけるレッシング研究文献」ドイツ文学62,1979年。)
(*)(参考：秋山卓也「日本におけるヘルダーリン研究文献」ドイツ文学62,1979年。)
(*)(参考：岡崎英輔「ヘーゲルとヘルダーリン」哲学会誌14,1979年。)

(*)(参考：井口正俊「ヘルダーリンとヘーゲル—ドイツ観念論のある側面(特集 ドイツ観念論の研究)」理想54,1979年。)
(*)(参考：岡野安洋「ホーフマンスタールの「ナクソス島のアリアドネー」--演劇的手法より(「北里大学」教養部十周年記念特集)」北里大学教養部紀要13,1979年。)
(*)(参考：岩崎允胤「ショーペンハウエル—ワーグナー—ニーチェ---19 世紀ドイツ的思惟の一断面」人文科学研究 19,1979 年。)
(*)(参考：ニーチェ/浅井真男・西尾幹二訳『悲劇の誕生：あるいはギリシャ精神と悲観論；遺された著作(1870-72 年)』ニーチェ全集 第 1 期第 1 巻,白水社,1979 年。)
(*)(参考：饗庭孝男「ニイチェとモラリスト」理想 557,1979 年
(*)(参考：氷上英廣『大いなる正午・ニーチェ論考』筑摩書房,1979 年。)
(*)(参考：河内信弘「ニーチェと自然(2)：『悲劇の誕生』」城西人文研究 6,1979 年。)
(*)(参考:新田博衛「芸術の誕生—ディオニュソス的世界から(ニーチェ)」理想 557,1979 年。)
(*)(参考：西尾幹二『初期のニーチェ』東京大学,文学博士,乙第 4942 号,1979 年。)
(*)(参考：西尾幹二・渡邊二郎「ニーチェと学問--「悲劇の誕生」の周辺(ニーチェ)」理想 557,1979 年。)
(*)(参考：川畑篤弘「『悲劇の誕生』に於ける「ディオニュソス的なるもの」について」岡山大学教養部紀要 15,1979 年。)
(*)(参考：原田純「悲劇におけるディオニュソスのモチーフ(上下)」文学 47(5,6),1979 年。)
(*)(参考：新田博衛「芸術の誕生--ディオニュソス的世界からの(ニーチェ)」理想 557,1979 年。)
(*)(参考：浅野遼二「キルケゴールとニーチェの歴史哲学」哲学論叢 4,1979 年。)
(*)(参考：児玉正幸「ニヒリズムとニーチェの三概念」哲学論叢 6,1979 年。)
(*)(参考：竹内亨「ニーチェとハイデガーに於ける歴史的世界の自覚の問題」密教文化 127,1979 年。)
(*)(参考：高橋英夫「夢見る人(ニーチェ)」理想 557,1979 年。)
(*)(参考：饗庭孝男「ニーチェとモラリスト(ニーチェ)」理想 557,1979 年。)
(*)(参考：新田博衛「芸術の誕生—ディオニュソス的世界からの(ニーチェ)」理想 557,1979 年。)
(*)(参考：浅井真男「回想のニーチェ(ニーチェ)」理想 557,1979 年。)
(*)(参考：八木誠一「キリスト教道徳とニーチェ(ニーチェ)」理想 557,1979 年。)
(*)(参考：山崎庸佑「現代の歴史理論とニーチェ—再論(ニーチェ)」理想 557,1979 年。)
(*)(参考：谷口茂「ニーチェのルター像(ニーチェ)」理想 557,1979 年。)
(*)(参考：薗田宗人「ニーチェと「文学史」の問題(ニーチェ)」理想 557,1979 年。)
(*)(参考：高松敏男「日本における「ツァラトストイラ」の受容と翻訳史(ニーチェ)」理想 557,1979 年。)
(*)(参考:円増治之「ニーチェにおける価値の転倒とイロニー(ニーチェ)」理想 557,1979 年。)
(*)(参考：毎熊佳彦「観照のディレンマ—初期ニーチェの言語論を中心に(ニーチェ)」理想 557,1979 年。)
(*)(参考：西尾幹二・渡辺二郎「ニーチェと学問(ニーチェ)」理想 557,1979 年。)
(*)小沢静男「日本における初期ニーチェ解釈—特に,吉田静致と長谷川天渓を中心にして」精神科学 18,1979 年。)

(*)高松敏男「日本における「ツァラトゥストラ」の受容と翻訳史(ニーチェ)」理想 557,1979年。)
(*)(参考 : ジョージ・スタイナー/喜志哲雄・蜂谷昭雄訳『悲劇の死』筑摩書房,筑摩叢書 256,1979 年(→1995 年,ちくま学芸文庫版)。)
(*)(参考：高橋康也・樺山紘一『シェイクスピア時代』中公新書,中央公論社,1979年。)
(*)(参考：エドワード・ドウデン/入江和生訳『悲劇論』荒竹出版,1979年。)
(*)(参考：関谷武史『シェイクスピア史劇の研究序説』千城,1979年。)
(*)(参考：山田昭広『本とシェイクスピア時代』東京大学出版会,1979年。)
(*)(参考：渡辺征児「「トロイラスとクリセイデ」に於ける‘Fere’と‘Drede’」天理大学学報121,1979年。)
(*)「俳優座「アントニーとクレオパトラ」--改変の効果は(劇評)」テアトロ437,1979年。
(*)(参考：新井明『ミルトン論考』中教出版,1979年。)
(*)(参考：宮川昇「ミルトンのラテン詩(1-4)」(市邨学園短期大学)人文科学論集24,25,1979年/32,1982年/33,1983年。)
(*)(参考 : 松田実矩「違った観点から見た二つの「失楽園」(Paradise Lost)論：A.J.A.WaldockとG.A.Wilkesの「失楽園」批評について」論集：神戸大学教養部紀要24,1979年。)
(*)(参考 : 酒井幸三『ポウプ前期の詩と詩論研究—ヒロイック・カプレットの言語技法』(京都)あぽろん社,1979年。)
(*)(参考：松浦暢『キーツ：その夢と現実』吾妻書房,昭和54年。)
(*)(参考：小林竜一訳「〈翻訳〉N.I.ホワイト「シェリーと当時の批評家たち」」大阪経大論集 130,1979 年。)
(*)(参考：小林竜一訳「〈翻訳〉文学と文書誹毀罪：シェリーと 1840-42 年の急進主義者たち」大阪経大論集 131,1979 年。)
(*)(参考：都築佑吉「綜合の人ペイター：新しい伝記を読んで」群馬大学教育学部紀要・人文社会科学編 29,1979 年。)
(*)(参考 : 前川祐一「ウォルタ・ペイタ(3,4)アポローンとディオニュソス」英語青年 125(8,9),1979 年。)
(*)(参考：三谷治子「〈第 1 部〉「非個性」の意味：T.S.エリオットの文学論」松阪女子短期大学論叢 15,1979 年。)
(*)(参考：池谷敏忠「T.S.エリオットと小林秀雄：伝統論の対比研究」金城学院大学論集,英米文学編 20,1979 年。)
(*)(参考 : 加藤弘和「ジョイスとヴィーコについて」慶應義塾大学経済学部日吉論集 23,1979年。)
(*)(参考：沓掛良彦「ヴァレリー訳の『牧歌』をめぐって」エポス4,1979年。)
(*)内藤克彦「新関良三先生を偲ぶ」ドイツ文学研究 11,1979 年。
(*)「特集・卒業論文 明治から昭和まで」(泉井久之助等)流動 6 月臨時増刊号,昭和 54 年。
(*)(参考：森祐三「新しい歴史叙述の方法を求めて—古代ギリシアの場合を例に」(熊本大学教育学部)紀要 28,1979 年。)
(*)(参考：石田信彦「「トロイの木馬」覚書」西南学院大学フランス語フランス文学論集 14,1979 年。)
(*)(参考：諏訪正「ルイ・ジュヴェの肖像(6)「トロイ戦争」を前にして」テアトロ 442,1979

年。)
(*)(参考：高橋秀明「ホイ・ホスピタイをめぐる省察—紀元前五世紀のアテナイの国制史を背景として(文化交流の諸問題)」史壇(100),1979 年。)
(*)(参考：長谷川博隆訳編『カエサル：古代ローマの悲劇の英雄』平凡社,1979 年。)
(*)(参考：酒井三郎「G.ギゾーのローマ史の注」立正大学西洋史 2,1979 年。)
(*)(参考：土井正興「ポーランドにおけるスパルタクス・シンポジウム」歴史評論 354,1979 年。)
(*)(参考：カミェニックロマン/土井正興訳「なぜ海賊はスパルタクス軍の輸送を拒否したか」歴史評論 355,1979 年。)
(*)(参考：土井正興「スパルタクス蜂起と古代トラキア」歴學研究 475,1979 年。)
(*)(参考：イワン・エフレーモフ/飯田規和訳『アレクサンドロスの王冠(上下)』創元推理文庫,東京創元社,1979 年。)
(*)(参考：田中穂積「アンティオコス 4 世の都市政策—最近の研究動向について」(『日本オリエント学会創立 25 周年記念・オリエント学論集』所収,刀水書房,1979 年。)
(*)(参考：弓削達「支配・平和・自由—地中海世界とローマ帝国の自己理解」(栗原福也・山田欣吾・米川伸一編『ヨーロッパ：経済・社会・文化：増田四郎先生古稀記念論集』所収,創文社,1979 年。)
(*)(参考：J.ブノワ=メシャン/両角良彦訳『クレオパトラ：消え失せし夢』みすず書房,1979 年(→1994 年,新装版。)
(*)小田島雄志・紀田順一郎・渡部昇一「ブノワ=メシャン/両角良彦訳「クレオパトラ」(鼎談書評 歴史の女・ドラマのおんな)」文藝春秋 57(7),1979 年。
(*)(参考：弓削達「西洋古代史研究における共同体概念の有効性(再び共同体の歴史的意義について—歴史学会大会シンポジウム報告,特集)—(西洋古代史研究における共同体概念の有効性)」史潮 4,1979 年。)
(*)(参考：太田秀通「コメント(再び共同体の歴史的意義について—歴史学会大会シンポジウム報告,特集)—(西洋古代史研究における共同体概念の有効性」史潮 4,1979 年。)
(*)(参考：アンドレ・ガルデラ/中山真彦訳『ナポレオンの生涯』第三書房,1979 年。)
(*)「文献目録—西洋史 1」史學雑誌 88(1),1979 年。
(*)「文献目録—西洋史 2」史學雑誌 88(5),1979 年。
(*)弓削達「総説(1978 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 88(5),1979 年。
(*)樺山紘一「歴史理論(1978 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 88(5),1979 年。
(*)小川英雄「西アジア・北アフリカ・古代オリエント(1978 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 88(5),1979 年。
(*)前沢伸行「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1978 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 88(5),1979 年。
(*)平田隆一「ヨーロッパ:古代:ローマ(1978 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雑誌 88(5),1979 年。
(*)阿部謹也・下野義朗「ヨーロッパ：中世：西欧(1978 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 88(5),1979 年。
(*)坂井栄八郎「ヨーロッパ:近代:一般(1978 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雑誌 88(5),1979

年。
(*)川北稔・川島昭夫「ヨーロッパ：近代：イギリス(1978 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 88(5),1979 年。
(*)中木康夫「ヨーロッパ：近代：フランス(1978 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 88(5),1979 年。
(*)望田幸男「ヨーロッパ:近代:ドイツ(1978 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雜誌 88(5),1979 年。
(*)北原敦「ヨーロッパ：近代南欧(1978 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 88(5),1979 年。
(*)細川滋「古代学協会編「西洋古代史論集 III 古典古代の諸相」(東京大学出版会)」史學雜誌 88(6),1979 年。
(*)(參考：中村純「前 404 年のアテナイ「寡頭派」政権」史學雜誌 88(6),1979 年。)
(*)井上泰男「今野国雄著「西洋中世世界の発展」」史學雜誌 88(6),1979 年。
(*)「文献目録—西洋史 3」史學雜誌 88(9),1979 年。
(*)「史学文献目録—西洋史 3」史學雜誌 88(9),1979 年。
(*)吉村忠典「弓削達著「地中海世界とローマ帝国」」史學雜誌 88(11),1979 年。
(*)大西陸子「〈紹介〉古代学協会編「西洋古代史論集 III 古典古代の諸相」」史林 62(1),1979 年。
(*)(參考 : 坂口明「ローマにおけるアリメンタ制度に関する諸問題」西洋史研究 8,1979 年。)
(*)(參考：西村貞二「トレルチにおける「ドイツと西欧」」西洋史研究 8,1979 年。)
(*)(參考：G.バラクロウ編；木村尚三郎解説；宮島直機訳『新しいヨーロッパ像の試み：中世における東欧と西欧』刀水書房,1979 年。)
(*)(參考：『朝日=タイムズ世界歴史地図』朝日新聞社,1979 年。)
(*)(參考：『世界歴史地図』図説世界の歴史・別巻,学習研究社,1979 年。)
(*)(參考：『世界史資料』3 版,東京法令出版,1979 年。)
(*)(參考：村川堅太郎他著『標準世界史』再訂版,山川出版社,1979 年。)
(*)(參考：村川堅太郎他著『標準世界史：教授資料』再訂版,山川出版社,1979 年。)
(*)(參考：吉岡力・村瀬興雄・木村尚三郎『高等学校世界史』再訂版,学校図書,1979 年。)
(*)(參考：木村尚三郎『人間の歴史』国立・放送教開発センター,1979 年。)
(*)(參考：木村尚三郎『人間の歴史：西ヨーロッパの人と自然』旺文社,1979 年。)
(*)塩野七生「海の都の物語(1-14)」(ヴェニス)海 11(2,4,5,7,9,10),1979 年/12(1,7,9,10,11,12),1980 年/13(1-8),1981 年。)
(*)(參考 : 末川清「西洋史研究入門—歴史研究とヨーロッパ近代」立命館文学(408・409),1979 年。)
(*)武田清子「竹越与三郎の歴史観—研究ノート(歴史学,特集)」国際基督教大学学報,II-B,社会科学ジャーナル 17,1979 年。)
(*)阿部謹也「上原専禄先生を想う」社會經濟史學 45(2),1979 年。
(*)粕谷一希「安岡正篤と林達夫(対比列伝1)」諸君!11(1),1979年。
(*)石原謙『石原謙著作集・第11(回想・評伝・小論)』所収,岩波書店,1979年。
---- 「学究生活五十年」・「ダンテと現代」・「カール・ヒルテについて」・「アドルフ・フォン・ハルナック」・「ケーベル先生—調和ある教養を」・「波

多野精一先生—その生涯と学業」・「故和辻哲郎会員追悼の辞」・「石原謙年譜」(小嶋潤作成)・「石原謙著作目録」(戒能信生作成)
(*)(參考：山野正彦「空間構造の人文主義的解読法：今日の人文地理学の視角」人文地理31(1),1979年。)
(*)(參考：熊本大学環地中海遺跡調査団編『地中海建築：調査と研究(1-3巻、補遺：実地図野帳)』日本学術振興会,1979年。)
(*)(參考：若桑みどり「人間的空間の系譜：人文主義的文化における建築と都市の理論」東京芸術大学音楽学部年誌5,1979年。)
(*)(參考：堀内清治・伊藤重剛「地中海古代都市の研究(4)」日本建築学会研究報告・九州支部2,計画系24,1979年。)
(*)(參考：堀内清治・白石憲二「地中海古代都市の研究(5)」日本建築学会研究報告・九州支部2,計画系24,1979年。)
(*)(參考：堀内清治・田代雄二・渡辺道治「地中海古代都市の研究(6)」日本建築学会研究報告・九州支部2,計画系24,1979年。)
(*)(參考：堀内清治・牧正洋・林田義伸・星子幹子・山浦一郎「地中海古代都市の研究(7)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部2,計画系24,1979年。)
(*)(參考：関口欣也「大陸系建築様式の伝来」(エンタシス。同『日本古寺美術全集・第1巻』所収,集英社,1979年)。)
(*)(參考：伊藤昭好・平松幸三・高木興一・山本剛夫「耳栓の遮音値の簡易測定法に就いて—付・ギリシャ時代の耳栓(蜜蠟)の遮音値測定」日本音響学会研究発表会講演論文集2,1979年。)
(*)(參考：後藤久『ローマンインスラに関する研究：その概念とラテン系町屋の系譜的特質について』早稲田大学,工学博士,甲第385号,1979年。)
(*)(參考：岩崎允胤「現代の物質観—人類の思惟の歴史を展望して(現代の物質観,特集)」季刊科学と思想36,1979年。)
(*)(參考：田中実『原子の発見』ちくま少年図書館43,筑摩書房,1979年。)
(*)(參考：吉仲正和『力学的世界の創造』中公新書,1979年。)
(*)(參考：國分信英「アラビアの科学II：イスラームの教育システムと教育哲学」電気通信大学学報29(2),1979年。)
(*)(參考：藤澤令夫・渡辺慧「科学の知と哲学の知(特集 現代人間学の探究)」中央公論94(9),1979年。)
(*)(參考：伊東明『オリンピック史』セット版新体育学講座9,逍遙書院,1979年。)
(*)(參考：植屋春美「虚構の祭典—近代オリンピアは,果たして,「政治のごまかし」と「ドルの力」から自由でありうるのか」[未完]愛知大学文学論叢62,1979年。)
(*)(參考:森山徳長「聖アポロニア像の新しい表現について」日本歯科医史学会会誌7(1),1979年。)
(*)(參考：立川清『類語対照 医語の語源』国書刊行会,1979年。)
(*)(參考：国原吉之助・酒井恒『医学ラテン語』南江堂,1979年。)
(*)(參考：岩月賢一『医語語源便覧』医学図書出版,1979年。)
(*)石山洋『厚生新編・別巻』(『厚生新編』解題,恒和出版,1979年。)
(*)守屋正「「芝蘭堂新元図会」の異人像について」日本医事新報2864,1979年。
(*)山形敞一「小関三英覚書」日本医史学雑誌25(3),1979年。

(*)杉本勲「近世実学思想史の諸段階とその特色について」(岩生成一編『近世の洋学と海外交渉』所収,巖南堂書店,1979年。
(*)川本亨二「文明開化と科学教育の思想」教育学雑誌13,1979年。
(*)佐藤満洋「窮理通と帆足萬里」(同『大分の歴史9』所収,大分合同新聞社,1979年。)
(*)佐藤通「江戸期における西洋物理学受容の一断面—帆足万里「窮理通」にみる」神戸外国語大学論叢30(2),1979年。
(*)寺畑喜朔「金沢における幕末から明治初期の科学書について—とくに化学書を中心に」化学史研究11,1979年。
(*)千野密芳「「舎密便覧」について」化学史研究11,1979年。
(*)坂口正男「明治前期日本化学史」科学史研究130,1979年。
(*)日本学士院日本科学史刊行会編『明治前日本数学史(5冊)』新訂版,野間科学医学研究資料館,1979年。
(*)(参考：今野武雄「古バビロニアの計算術」文化評論218,1979年。
(*)山下純一「「日本数学史」をふり返える」数学セミナー18(8),1979年。
(*)広政直彦「伊東俊太郎著「近代科学の源流」」文明26,1979年。
(*)寺崎章二「H.バターフィールド著/渡辺正雄訳「近代科学の誕生(上下)」」文明27,1979年。
(*)(参考：藤井清久「「近代科学と宗教」研究覚書」東京工業大学人文論叢5,1979年。)
(*)(参考：矢島文夫「オリエントの知的伝統と東地中海世界—星学的知識の西方伝播を中心に」思想661,1979年。)
(*)広瀬秀雄「本多利明と天文学」蘭学資料研究会研究報告239,1979年。
(*)帆足図南次・井上英明「近世日本の天文学とラランド」日本歴史374,1979年。
(*)有坂隆道「寛政期における麻田流天文家の活動をめぐって--『星学手簡』の紹介」(有坂隆道編『日本洋学史の研究5』所収,創元社,1979年。)
(*)能田忠亮・神田茂・藪内清著/日本学士院編『明治前日本天文学史』新訂版,明治前科学史叢書,野間科学医学研究資料館,1979年。
(*)松崎利雄『江戸時代の測量術』総合科学出版,1979年。
(*)北村四郎「岩崎灌園著『本草図譜』」同朋18,1979年。
(*)(参考：清宮敬「〈紹介〉R.J.ポパー「古典期ギリシアの商工業」」西洋史研究 8,1979 年。)
(*)(参考：坂口明「帝政初期のイタリアにおける都市所有関係：アメリンダ碑文の分析を中心に」史學雑誌 88(4),1979 年。)
(*)(参考：本村凌二「ローマ帝国における貨幣と経済：三世紀「通貨危機」をめぐる研究動向」史學雑誌88(4),1979年。)
(*)(参考：栗原福也・山田欣吾・米川伸一編『ヨーロッパ：経済・社会・文化：増田四郎先生古稀記念論集』創文社,1979年。)
(*)(参考：古山正人「前3世紀後半のスパルタ：土地分配とαναπληρωσι&b.sigmav.」西洋古典學研究27,1979年。)
(*)(参考：G.E.ボワソナード/久野桂一郎訳『経済学者ラ・フォンテーヌ』みすず書房,1979(→2010年,オンデマンド版)。)
(*)(参考：中村弘行「シュライエルマッヘル教育思想における国家の問題--「共同精神」の検討を通して」関東教育学学会紀要6,1979年。)
(*)(参考：田中周友『法学概論』新版,新有堂,1979年。)
(*)(参考：マックス・カーザー/柴田光蔵訳『ローマ私法概説』創文社,1979年。)

(*)(参考：柴田光蔵『ローマ法概説』玄文社,1979年(→1984年,増補版)。)
(*)佐藤能丸(編)「小野梓著作年表」早稲田大学史記要12,1979年。
(*)「法学博士柳沢義男先生略歴・主要著作目録(柳沢義男先生定年退職記念号)」法学新報86(1~3),1979年。
(*)大槻茂「「エーゲ海」食った「魅せられて」の裁判沙汰」週刊読売38(23),1979年。

(*)(参考：鷲田小彌太『哲学史の可能性：一つの若きマルクス論』新泉社,1980年。)
(*)吾郷清彦訳『日本建国史：全訳・ホツマツタヱ』伊勢一宮椿神社東京事務所,昭和55年。
(*)吾郷清彦『古代近江王朝の全貌:琵琶湖周辺の秘境・古跡を探る』琵琶湖研究会,1980年。
(*)川崎真治『日本語のルーツが分った！：縄文の日本に渡来したオリエントの人々』徳間書店,1980年。
(*)川崎真治『謎の邪馬台いろは歌：漢字渡来以前の日本語』徳間書店,1980年。
(*)(参考：高山林次郎著・姉崎正治・笹川種郎編『世界文明史；近世美學』樗牛全集(改訂註釋)5,日本図書センター,1980年。)
(*)(参考：江上波夫他『オリエントの曙光』新潮古代美術館1,新潮社, 1980年。)
(*)(参考：鈴木八司他『ナイルと王のエジプト』新潮古代美術館3,新潮社, 1980年。)
(*)(参考：青柳正規他『ローマと世界帝国』新潮古代美術館5,新潮社,1980年。)
(*)(参考：小川英雄(他)『地中海文明の開花』新潮古代美術館6,新潮社,1980年。)
(*)(参考：中山公男他『地中海世界の優雅な午後』新潮古代美術館7,新潮社,1980年。)
(*)(参考：国立音楽大学楽理学科研究室編『有馬大五郎先生八十歳記念論文集(本編,別冊)』(川端真由美「N.ピッチーニの《オリンピアーデ》の二つの自筆原稿について」)国立音楽大学,1980年。)
(*)(参考：水野潤一『神と母と地中海』白馬出版,1980年。)
(*)(参考：『神話花咲く地中海：イタリア・スペイン・ギリシャ』世界の旅4,趣味と生活：ほるぷ(発売),1980年。)
(*)牟田口義郎『地中海文明の旅』講談社,1980年。
(*)(参考：那谷敏郎『イスタンブール案内』平凡社カラー新書125,平凡社,1980年。)
(*)松本宣郎「弓削達「地中海世界とローマ世界」が提起するもの」歴史学研究476,1980年。
(*)(参考：遠山一行・伊東俊太郎・樺山紘一・高階秀爾「シンポジウム：地中海世界とヨーロッパ」現代思想7月・臨時増刊号,1980年。)
(*)(参考：笹本駿二『ローヌ河歴史紀行：アルプスから地中海へ』岩波新書,岩波書店,1980年。)
(*)(参考：竹内啓一他『地中海地域における集落形成の諸問題：論文集』一橋大学地中海研究会,1980年。)
(*)久保正彰「琥珀の旅」ユリイカ3,1980年。
(*)編集部「小瀧義夫エーゲ海を旅して」月刊美術6(11),1980年。
(*)和田誠『にっぽんほら話』(「伊太利の酔醒」)新装版,講談社,1980年。
(*)ブルーガイド・ブックス編集部編『ギリシア・エーゲ海』新装1版,ブルーガイド海外版,実業之日本社,1980年。)
(*)国立西洋美術館学芸課編『ギリシャ美術の源流：エーゲ海キュクラデス諸島出土：グーランドリス・コレクション』朝日新聞社,1980年。)
(*)『飯島一次巡回展・画集刊行記念フジカワ画廊』(リトグラフ「エーゲ海の旅」第2輯)

フジカワ画廊,1980年。
(*)(参考：関本至訳『現代ギリシア短編小説選集』(イーリアス・ヴェネージス「エーゲ海物語・サロニュコスのひととき」「近代ギリシア文学について」)渓水社,1980年。)
(*)「テレビ映画『エーゲ海に捧ぐ』『事件』『バルジ大作戦』」映画情報45(10)[復刊338],1980年。
(*)石川喬司『エーゲ海の殺人』集英社,1980年。
(*)鷺只雄「池田満寿夫「エーゲ海に捧ぐ」(旅の発見—異国のなかの日本人,特集)—(異国のなかの日本人—小説・戯曲から)」國文學：解釈と教材の研究25(7),1980年。
(*)岡橋葉子「まちかど エーゲ海のひとしずく「ギリシャ・イドラ島」」(誠文堂新光社)商店界61(10),1980年。
(*)村松剛「近代作家の異国体験 三島由紀夫のギリシヤの時間」國文學 : 解釈と教材の研究25(7),1980年。
(*)(参考：河底尚吾「ゲンナディオン図書館」學鐙77(4),1980年。)
(*)(参考：矢島祐利「アレクサンドリア図書館の焼失問題(アラビア科学研究ノート(3))」科学史研究第(OxF9C2)期19(133),1980年。)
(*)浅間山麓埋没村落総合調査会・東京新聞編集局特別報道部共編『嬬恋・日本のポンペイ』東京新聞出版局,,1980年(→1981年,増補版。→1983年,最新増補版。)
(*)(参考：坂本鉄男『ポンペイ：付・エルコラーノ遺跡』Edizioni Stori,1980年。)
(*)(参考：リチャード・ウッドリー/小野章・越智道雄訳『よみがえる海底人間』(アトランティス) 児童図書館・文学の部屋1評論社,1980年。)
(*)(参考：リチャード・ウッドリー/小野章・越智道雄訳『未知の惑星生物』児童図書館・文学の部屋3,アトランティスから来た男,評論社,1980年。)
(*)(参考：リチャード・ウッドリー/小野章・越智道雄訳『地球脱出』児童図書館・文学の部屋4,アトランティスから来た男,評論社,1980年。)
(*)(参考：有光隆司「杢太郎詩とゲーテの『イタリア紀行』」上智大学国文学論集13,1980年。)
(*)村松剛「三島由紀夫のギリシャの時間(旅の発見—異国のなかの日本人 特集)—(近代作家の異国体験)」国文学 解釈と教材の研究25(7),1980年。
(*)(参考：森永龍滋「チチェローネとしてのヴィンケルマン(美学会第31回全国大会報告)」美學31(3),1980年。)
(*)(参考：アーヴィング・ストーン/水上峰雄訳『シュリーマンの生涯』新潮社,1980年。)
(*)(参考：山田耕士(幹郎)訳「シドニー「アルカディア」(初稿)(1-5)」言語文化論集2(1),1980年/3(1),1981年/3(2),4(1),1982年。)
(*)(参考：モラヴィア/河島英昭訳『ローマ物語』集英社文庫,集英社,1980年。)
(*)宍戸修「感性と文明—森有正の文明観をめぐって(上中下)」心33(8,9,10),1980年。
(*)(参考：為本章子「今日,ヨーロッパ的といわれるもの—地中海世界から北へ—5世紀末(ヨーロッパとは何か,特集)」音楽の世界19(11),1980年。)
(*)原田熙史『文明史家ラフカディオ・ハーン：詩的想像力と日本文化論研究』千城,1980年。)
(*)平野幸仁「森有正における〈西欧〉と〈日本〉」横浜国立大学人文紀要,第二類,語学・文学27,1980年。
(*)(参考：ロマノ・ヴルピッタ「西洋文明の危機と日本」京都産業大学世界問題研究所紀要

1,1980年。)
(*)(参考：森本哲郎「思想の原景(11)オズヴァルト・シュペングラー--「歴史の地平を拓いた男」」諸君12(4),1980年。)
(*)(参考：渡邊昌美『巡礼の道：西南ヨーロッパの歴史景観』中公新書,中央公論社,1980年。)
(*)馬場喜敬「イソップ紀行(私のオイコノミクス(3))」(日本女子社会教育会家庭科学研究所)家庭科学83,1980年。
(*)(参考：立田洋司「古代世界にあらわれた風土造形(1)[英文]」静岡女子大学研究紀要14,1980年。)
(*)(参考：H.W.ジャンソン著/木村重信・辻成史訳『美術の歴史』創元社,1980年。)
(*)(参考：朝日新聞社『ギリシャ美術の源流：エーゲ海キュクラデス諸島出土：グーランドリス・コレクション』,1980年。)
(*)(参考：池田正三『エトルリア美術の逍遙』大阪芸術大学出版局,1980年。)
(*)(参考：山田智三郎「大人のための西洋美術史(3)ミノス文化の美術」芸術新潮31(5),1980年。)
(*)(参考：山田智三郎「大人のための西洋美術史(4)ミュケナイ文化の美術」芸術新潮31(6),1980年。)
(*)(参考：山田智三郎「大人のための西洋美術史(5)ギリシャ美術の黎明」芸術新潮31(7),1980年。)
(*)(参考：山田智三郎「大人のための西洋美術史(6,7)ギリシャ美術の黎明と成立」芸術新潮31(9,10),1980年。)
(*)(参考：山田智三郎「大人のための西洋美術史(8-14)ギリシャの古典美術」芸術新潮31(11,12),1980年/32(1-5),1981年。)
(*)酒井傳六「博物館への旅(2)ミロのヴィーナス—ルーブル博物館」芸術新潮31(2),1980年。
(*)酒井傳六「博物館への旅(8)マハディアのアフロディテ像—チェニジア国立バルド博物館」芸術新潮31(8),1980年。
(*)(参考：酒井傳六「博物館への旅(9)エトルスクの戦士像：メトロポリタン美術館」芸術新潮31(9),1980年。)
(*)酒井傳六「博物館への旅(10)エルギン・マーブルス—大英博物館」芸術新潮31(10),1980年。)
(*)(参考：小川明「帝政ローマの造形芸術とキリスト教」上部大学論集 11,1980 年。)
(*)(参考：小玉新次郎『パルミュラ：隊商都市』世界史研究双書 24,近藤出版社,1980 年。)
(*)(参考：吉澤五郎「ビザンツ史の文明論的考察(ビザンツ文明論,特集)」宗教と文化 7,1980年。)
(*)(参考：H.W.ジャンソン/木村重信・辻成史訳『美術の歴史』創元社,1980年。)
(*)(参考：Toru Yuge‘Die Mittelmeerwelt und das rômische Reich：Eine Interpretationsversuch’（東京大学教養部・人文）歴史と文化13,1980年。)
(*)(参考：生田圓・有川治雄編集『イタリア・ルネッサンス美術展』東京新聞,中日新聞,中部日本放送,1980年(→1981年)。)
(*)吉沢忠校訂「日本美術史」(『岡倉天心全集・第4巻』所収,平凡社,1980年。)
(*)樋口隆康『ガンダーラへの道：シルクロード調査紀行』サンケイ出版,1980年(→1982年,旺文社文庫版)。
(*)(参考：加藤九祚「古代バクトリア地域におけるクシャン文化の研究について(昭和55年

度大谷大学春季公開講演会要旨)」大谷学報60(3),1980年。)
(*)板澤武雄・開国百年記念文化事業会編『江戸時代西洋文化の受容』(明治文化史1)原書房,1980年。
(*)田中美知太郎・林健太郎・本間長世「対談 日本文化会議を考える」文化会議9月号,1980年。)
(*)鳥井裕美子「近世ヨーロッパ認識の2つの流れ(東西交渉史,特集)」(別府大学)史学論叢20,1980年。
(*)(参考：増川宏一『賭博』(1-3巻)法政大学出版局,1980年。)
(*)(参考：梅棹忠夫他『食事の文化』世界の民族：ゼミナール,朝日新聞社,1980年。)
(*)(参考：片山英男「ナルキッソスの変容(ナルチシズム—自己をめぐるディスクール〈特集〉」ユリイカ12(9),1980年。)
(*)(参考：田中美知太郎・和達清夫・大竹羊三[司会]「東西対談会」開成会会報48[開成会50年特集号],1980年。)
(*)編集部「藤田忠夫シルクロードの愛しき人々と大地を描く」月刊美術6(11),1980年。
(*)朝日新聞社東京本社企画部編『平山郁夫シルクロード展』朝日新聞社東京本社企画部,昭和55年。
(*)『平山郁夫シルクロード素描集：ローマから大和へ』集英社,1980年。
(*)『平山郁夫欧州写生絵巻(1-3巻)』小学館,1980年。
(*)参考：加藤九祚「シルクロードと文明の交流(学術の動向)」学術月報33(4),1980年。)
(*)(参考：下店静市著・下店静市著作編集委員会編『東洋古代中世美術史研究：芸術史からみた東西文化交流史』講談社,1980年。)
(*)(参考：中江彬「ミケランジェロ作「聖パウロの改宗」の隠された意味」大阪府立大学紀要,人文・社会科学28,1980年。)
(*)(参考：島屋政一『印刷文明史(5巻・別巻)』五月書房,1980年。)
(*)中山太郎編『日本民俗學辭典』名著普及会,1980年(→1987年,「全」, バルトス社。→1998年, 増補合本復刊。)
(*)飛田良文(他)編『三語便覧国語総索引(上)(下)』(村上英俊)飛田良文,1980 年。
(*)(参考：尾鍋輝彦・豊田武・平田嘉三編『歴史教育事典』ぎょうせい,1980 年。)
(*)井上哲次郎(他)・有賀長雄増補『英獨佛和・哲学字彙』名著普及会,覆刻版,1980 年。
(*)飛田良文「『哲学字彙』の成立と改訂について」(井上哲次郎(他)・有賀長雄増補『英獨佛和・哲学字彙』所収,名著普及会,覆刻版,1980年。)
(*)(参考：矢島文夫『解読：古代文字への挑戦』朝日新聞社,1980年。)
(*)(参考：菅田茂昭「イタリア言語学(1939-1979)」イタリア学会誌28,1980年。)
(*)日蘭学会編『江戸幕府旧蔵書総合目録』江戸時代日蘭文化交流支流集,Scientific publicatins of the Japan-Netherlands Insitute 2,日蘭学会,1980年。)
(*)(参考：渡部昇一「読中独語(15)辞書家の伝記から」諸君12(5),1980年。)
(*)(参考：ジョルジョ・ムーナン/伊藤晃他訳『翻訳の理論』朝日出版社,1980年。)
(*)(参考：山口四郎『ドイツ韻律論』三修社,1980年。)
(*)「故辻直四郎先生[含 辻直四郎先生略譜・主要論著目録]」言語研究77,1980年。
(*)河野与一「翻訳と字引」(翻訳 2)文学 48(12),1980 年。
(*)清永昭次「現代ギリシア語と私」学習院大学言語共同研究所紀要 3,1980 年。
(*)(参考：竹島俊之「ホメーロスにおける未完了過去と直説法アオリストの用法に関する一

考察」(西日本言語学会)ニダバ 9,1980 年。)
(*)(參考:長瀬真理「言語統計研究によるプラトン研究」東京女子大学紀要論集 31,1980 年。)
(*)(參考：ハンス・イェーガー/赤松宏訳『ハイデガーと言葉』思想史ライブラリー,木鐸社,1980 年。)
(*)(參考：手嶋兼輔「エーゲ海の色とエピテトン—ギリシア語色彩語彙への一考察」札幌商科大学学会論集 人文編 27,1980 年。)
(*)(參考：信森廣光「イタリア諸方言雑感：地中海との関わり」アジア・アフリカ言語文化研究所通信 39,1980 年。)
(*)長谷川誠一「堀達之助伝研究」酪農学園大学紀要・人文・社会科学編 24(4),1980 年。
(*)杉本つとむ『外国語と日本語』日本語講座 6,桜楓社,1980 年。
------ 「ヨーロッパ語研究の原点」/「江戸時代外国語の受容とその影響」/「翻訳事始」/「訳語の起源を検証」/「訳語は生きている」/「英語学事始」
(*)杉本つとむ「文法用語の翻訳の成立」(『国語学の諸問題』日本語講座 7,桜楓社,1980 年。)
(*)吉田忠「蘭学における訳語の考察」文学と言語研究資料 6,1980 年。
(*)(參考:八木橋正雄他編『ギリシャへのいざない』現代ギリシャ文学選集 1,八木橋正雄,1980 年。)
(*)田熊渭津子「「明治文化研究会事歴」以後—吉野作造・尾佐竹猛著作目録と木村毅と翻訳文学年表」書誌索引展望 4(2),1980 年。
(*)(參考：市倉宏祐・伊吹克己[編]「サルトル著作文献目録(サルトル特集)」理想 567,1980 年。)
(*)(參考：弓削達「第 7 回国際古典学会議[FIEC]に出席して」西洋古典學研究 23,1980 年。
(*)(參考：永見勇「エリアーデ宗教学における聖の象徴」言語文化研究 6,1980 年。)
(*)(參考：中井千之「「新しき神話」のゆくえ(1,2)「アテネウム」時代以後における F.シュレーゲルの神話観(増田和宣教授還暦記念論文集)」上智大学ドイツ文学論集 17,1980 年/18,1981 年。)
(*)(參考:丹羽治男「「ヨゼフと彼の兄弟たち」論—ヘルメース神話とトーマス・マン(3)[2]」)」近畿大学教養部研究紀要 12(2),1980 年。)
(*)(參考:大林太良「助成と水に求める火の起源(「新しい神話学,特集」) 科学朝日 40(7),1980 年。)
(*)(參考:吉田敦彦「ギリシアから日本にいたる道」「新しい神話学」,特集)科学朝日 40(7),1980 年。)
(*)(參考：矢島文夫『性の深層：ヴィーナスの正体』朝日出版社,1980 年。
(*)(參考：吉田敦彦『アタテラスの原像—スキュタイ神話と日本神話』青土社,1980年。)
(*)(參考：吉田敦彦『ギリシア神話』日本ブリタニカ,ブリタニカ叢書,1980年。)
(*)(參考：吉田敦彦「ヘシオドスのプロメテウス神話における火(火の原風景—古代から現代へつらなるもの,特集)」心33(1),1980年。)
(*)(參考：川島重成「「イオン」における神話と現実」人文科学研究14,1980年。)
(*)(參考：高橋英夫「北辺のホモ・ルーデンス(北欧神話,特集)」ユリイカ12(3),1980年。)
(*)(參考：高橋英夫「神話としての現代」新潮77(8),1980年。)
(*)(參考：井村君江「サロメ 月の神話(オスカーワイルド,特集)」ユリイカ12(10),1980年。)
(*)(參考:秋山さと子「影の太母—ギリシャ神話にみる女性と男性の元型」思想676,1980年。)
(*)(參考：高田恵利子「「アシーンの放浪」におけるイェイツの神話性」清泉女子大学紀要

28,1980年。)
(*)(參考：名木田恵子「姫子のギリシア神話—かなしみのエーゲ海」小学六年生33(7),1980年。)
(*)(參考：山田宗睦『ギリシア神話』カラーブックス,保育社,1980年。)
(*)(參考：山室静『ギリシャ神話』社会思想社,1980年。)
(*)(參考：山室静・田代彩子『ギリシア神話』偕成社,1980年。)
(*)(參考：堀口俊一編『ギリシア神話・イソップ物語』出版者不明,1980年。)
(*)(參考：小川正廣「Archaeologia Vergiliana—アエネアス伝説と女神信仰」西洋古典論集1980,1980年。)
(*)(參考：R.Goodman(ann.by Yoshihisa Aizawa)“Classics tales from Greek and Roman Mythology”金星堂,1980。)
(*)(參考：トーマス・インモース「ニーチェのアリアドネ・ロマン」ソフィア29(2),1980年。)
(*)(參考：松田治『ローマ神話の発生・ロムルスとレムスの物語』そしおぶっくす,社会思想社,1980年レッッツラーン・イングリッシュ・シリーズ5,朋友出版,1980年。)
(*)(參考：ガイ・ド・トーリーヌ/植田裕次・大久保敏彦訳『物語ローマ誕生神話』教養文庫1018,社会思想社,1980年。)
(*)(參考：荒井献・柴田有訳『ヘルメス文書』朝日出版社,1980年(→1982年,2版/1995年,5版)。)
(*)(參考：多田智満子「ヘルメスの杖に導かれて—「ヘルメス叢書」全七巻」海12(2),1980年。)
(*)(參考：G.S.カーク/辻村誠三・松田治・吉田敦彦訳『ギリシア神話の本質』法政大学出版局,1980年。)
(*)(參考：R.J.コリンズ/土岐健治訳『サマリヤ人とユダヤ人』教文館,1980年。)
(*)(參考：辻成史責任編集『聖書の女性たち』座右宝刊行会編集5,全集美術のなかの裸婦,集英社,1980年。)
(*)(參考：土岐健治「エッセネ派に関する一考察」(一橋大学語学研究室)言語文化17,1980年。)
(*)松本宣郎「批判と反省—弓削達『地中海世界とローマ帝国』が提起するもの」歴史学研究476,1980年。
(*)(參考：E.Gibbon著/永嶋大典編註“Christianity and fall of the Roman Empire”英文名著選集,開文社,1980年。)
(*)(參考：霜田美樹雄『キリスト教は如何にしてローマに広まったのか』早稲田大学出版部,1980 年。)
(*)(參考：新田一郎『キリスト教とローマ帝国』教育社,教育社歴史新書(西洋史 A-11),1980年(→1989 年,新版。)
(*)(參考：松本宣郎「ルグドゥヌムの迫害再考」西洋史研究 9,1980 年。)
(*)(參考：豊田浩志「ウァレリアヌスのキリスト教迫害—ディオニュシオスのヘルマモン宛書簡をめぐって(1)」(広島大学)西洋史学報 7,1980 年。)
(*)(參考：豊田浩志「Gallienus の所謂『キリスト教寛容令』について」西洋古典學研究 28,1980年。)
(*)(參考：辻成史責任編集『聖書の女性たち』全集美術のなかの裸婦 5,集英社,1980 年。)
(*)(參考：エ・ラゲ譯『我主イエズスキリストの新約聖書』中央出版社,1980 年。)
(*)(參考：松木治三郎『イエスと新約聖書の関係』日本基督教団出版局,1980 年。)

(*)(参考：H.G.ブランド,首藤新藏,乘松雅休訳『新訳聖書：羅馬書：新譯』同信社,1980 年。)
(*)(参考：松本富士男編/下田哲他著『図説・歴史のなかの聖書』増補改訂版,燦葉出版社,1980 年。)
(*)(参考：塚本虎二『聖書の読み方』6 版,聖書知識文庫 3,聖書知識社,1980 年。)
(*)(参考：塚本虎二『ヘブル書講義』3 版,聖書知識文庫 5,聖書知識社,1980 年。)
(*)(参考：酒枝義旗『使徒行伝・サムエル前書講義』酒枝義旗著作集 7,キリスト教図書出版社,1980 年。)
(*)(参考：坪井一「パウロの改心」文化 44(1・2),1980 年。)
(*)(参考：Schmitt Hans-Christoph/坪井一[訳解説]「予言の伝統—イスラエル予言起源史の考察」図書館学研究報告 13,1980 年。)
(*)(参考：高柳俊一「Loachim Dyck「アテネとエルサレム」(Athen und Jerusalem—Die Tradition der argumentativen Verkruphung von Bible und Poesie im 17.und 18 Jahrhundert,1977)」ソフィア 29(3),1980 年。)
(*)(参考：グレニヨン・ド・モンフォール/山下房三郎訳『聖母マリアへのまことの信心』愛心館本部,1980年。)
(*)(参考：ヴィラム/小林珍雄訳『マリア：救いの主の母・同伴者』エンデルレ書店,1980年。)
(*)(参考：柴田有「キリストとカエサル」(第三文明社)第三文明4月号,1980年。)
(*)(参考：高柳俊一「書評 アテネとエルサレム」ソフィア29(3),1980年。)
(*)(参考：鈴木宣明『ローマ教皇史』教育社歴史新書・西洋史 A9,教育社,1980 年(→1986 年,再版)。
(*)(参考：古典共同研究会編『古典共同研究会論集：関屋光彦教授退任記念』古典共同研究会,1980年。)

-----川田殖「プラトンの『饗宴』について」
安部素子「トゥキュディデス断想—歴史記述について」

(*)倉松功「『石原謙著作集』全11巻」」キリスト教史学34,1980年。
(*)(参考：井上洋治『余白の旅：思索のあと』日本基督教団出版局,1980年。)
(*)黒田美保子「遠藤周作・「沈黙」について」駒沢短大国文10,1980年。
(*)遠藤周作「私の文学と聖書(1979年度基督教文化研究所秋季公開講座)」基督教文化研究所研究年報12,1980年。
(*)佐伯晴郎「日本人とイエスの接点—遠藤周作のケーススタディ[含 遠藤周作年譜]」基督教文化研究所年報12,1980年。
(*)高堂要「遠藤周作・道化なる「母」への憧憬—遠藤周作における「母的なるもの」(母性神話の崩壊—母性と文学—崩れゆく神話〈特集〉)—(新しい母性像—現代作家の幻想)」国文学・解釈と鑑賞45(4),1980年。
(*)佐々木啓一『椎名麟三の研究(上下)』桜風社,1980年。
(*)齋藤末弘『椎名麟三の文学』近代の文学11,桜風社,1980年。
(*)(参考：荒井献『西洋古典の叙事詩：説話文学の伝承と継承』荒井献,1980年。)
(*)宮川昇「『平家物語』と西洋古典叙事詩—(1)序歌の機能について(2)直喩について(3)直喩の素材」比較文化研究1,1980年/3,1982年/市邨学園短期大学・人文科学論集31,1980年。
(*)佐藤昌介『洋学史の研究』中央公論社,1980年。
(*)赤木昭夫『蘭学の時代』中公新書,中央公論社,1980年。

(*)鳥井裕美子「渡辺崋山のキリスト教理解」季刊日本思想史15,1980年。
(*)鮎澤信太郎著/室賀信夫解題『鎖国時代の世界地理学』原書房,1980 年。
(*)土田直鎮他「現存古地図の歴史地理学的研究」東京大学史料編纂所報 15,1980 年。
(*)倉本孜「明治における洋学と漢学」歴史公論 6(4),1980 年。
(*)影山昇『日本近代教育の歩み—幕末維新期の教育の展開』学陽書房,1980 年。
(*)(参考：姜在彦『朝鮮の開化思想』岩波書店,1980 年。)
(*)増田和宣『天と地のあわい』(岩下壮一小伝),南窓社,1980 年。
(*)鈴木博「1592 年天草版『ヒイデスの導師』の諸問題(創刊 30 周年記念号)」滋賀大学教育学部紀要,人文科学・社会科学・教育科学 30,1980 年。)
(*)小堀桂一郎「福島邦造著「サントスの御作業 翻字研究篇」」国語と国文学 57(6),1980 年。
(*)エ・ラゲ訳『イエズス・キリストの新約聖書』(復刻)中央出版社,1980 年。
(*)川島第二郎「ゴ・ブル「摩太福音書」の訳出原本及び訳出過程について」キリスト教史学 34,1980 年。
(*)大内三郎「「門脇文庫」についての覚え書」(和訳聖書)山梨英和短期大学紀要 14,1980 年。
(*)小林功芳「横浜—和訳聖書誕生の地(広島英学史特集)」英学史研究 13,1980 年。
(*)関根正雄「聖書翻訳の理論と課題(翻訳 2)」文学 48(12),1980 年。
(*)中川秀恭「キリスト教の本質を求めて—石原謙博士におけるキリスト教史学の成立(公開講演)（第 38 回日本宗教学会・学術大会紀要特集）」宗教研究 53(3),1980 年。
(*)山田芳則「大西祝論」文化史学 36,1980 年。
(*)山崎正一「出隆先生追悼」理想 564,1980 年。
(*)しまねきよし「林達夫論メモ」思想の科学(第 6 次)119,1980 年。
(*)樺俊雄「三木清—戦闘的ヒューマニスト」現代の眼 21(11),1980 年。
(*)小林高四郎「高橋五郎,土井晩翠そして幸徳秋水」日本古書通信 45(6),1980 年。
(*)稲富栄次郎「最終講義(稲富栄次郎先生 7 回忌記念)」上智大学教育学論集 15,1980 年。
(*)高山岩男「京都学派の回想」心 33(7,8,9,10,11),1980/34(2,3),1981 年(→1995 年,『京都哲学の回想：旧師旧友の追想とわが思索の軌跡』一燈園燈影舎(燈影撰書 24)。
(*)(参考：藪内清『歴史はいつ始まったか：年代学入門』中央公論社,1980 年。)
(*)(参考：中村一雄他編『世紀別中学歴史地図・年表』改訂新版,東京法令出版,1980 年。)
(*)(参考：『歴史年表』トリオ,1980 年。)
(*)(参考：亀井高孝『標準世界史地図』15 増訂版,吉川弘文館,1980 年。)
(*)(参考：亀井高孝『世界史地図』新版,21 増訂版,吉川弘文館,1980 年。)
(*)(参考：亀井高孝『標準世界史年表』17 増訂版,吉川弘文館,1980 年。)
(*)(参考：平田俊春『最新歴史年表』改訂増補,朋友出版,1980 年。)
(*)(参考：教育書籍編集部編『中学カラー歴史年表と資料』教育書籍,1980 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『要説世界史』再訂版,山川出版社,1980 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『詳説世界史』再訂版,山川出版社,1980 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『詳説世界史：教授資料』再訂版,山川出版社,1980 年。)
(*)(参考：村川堅太郎責任編集『ヘロドトス；トゥキュデイデス』中公バックス,世界の名著 5,中央公論社,1980 年。)

(*)(参考：マイケル・H.ハート,松原俊二訳『歴史を創った 100 人』開発社,1980 年。)
(*)(参考：服部昌之「欧米における歴史地理学研究の動向」(大阪市立大学文学部)人文研究 32(7),1980年。)
(*)(参考：杉浦康平・海野一隆「古地図を読む—世界図・日本図」みすゞ 908,1980 年。)
(*)太田秀通「古代科学協会編「西洋古代史論集(1~3)」歴史学研究 481,1980 年。
(*)(参考：馬場恵二「古代ギリシア--先史と古典期の問題から」(明治大学))駿台史学 50,1980 年。)
(*)(参考：芳賀重徳訳「中世ヘブライ語版「アレクサンダー大王物語」」秋田経済大学・秋田短期大学論叢 26,1980 年。)
(*)(参考：いいだもも「エコロジーとマルクス主義(22)古代ギリシア奴隷制における科学と技術」技術と人間 9(11),1980 年。)
(*)(参考：秋山太一郎「クレオパトラもびっくり」(高分子学会)高分子 29(4),1980 年。)
(*)(参考：松本宣郎「「ヒストリア・アウグスタ」研究について—A.Momigliano の問題提起(研究ノート)」歴史 54,1980 年。
(*)(参考：平田隆一「市民共同体とローマ国家—ウッチェンコ説の検討を中心に(1,2,3)」古代文化 32(2,4,7),1980 年。)
(*)(参考：古山正人「隷属農民研究の動向と M.H.Jameson 氏の近業」歴史学研究 485,1980 年。)
(*)(参考：山本晴樹「奴隷反乱の宗教的・民族的側面(1)—J.フォークトの奴隷反乱研究を中心として」(別府大学)史学論叢 11,1980 年。)
(*)(参考：土井正興「ルーマニアにおけるスパルタクス蜂起の研究について」専修史学 12,1980 年。)
(*)塩野七生「悪のすすめ—善の無知より悪の狡知に学べ」諸君 12(1),1980 年。
(*)(参考:塩野七生『海の都の物語: ヴェネツィア共和国の一千年(正続)』中央公論社,1980-81 年(→1989 年,中公文庫,1989 年)。)
(*)(参考：渡辺金一『中世ローマ帝国：世界史を見直す』岩波新書,岩波書店,1980 年。)
(*)(参考：木村尚三郎訳編『カール大帝：ヨーロッパ世界の形成者』平凡社,1980 年。)
(*)(参考：福井秀加「ウィリアム・キャクストン「カール大帝」とフランス語原典「フィエラブラ」覚え書き」大手前女子大学論集 14,1980 年。)
(*)「文献目録—西洋史 1」史學雑誌 89(1),1980 年。
(*)「文献目録—西洋史 2」史學雑誌 89(5),1980 年。
(*)「史学文献目録—西洋史 2」史學雑誌 89(5),1980 年。
(*)弓削達「総説(1979 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 89(5),1980 年。
(*)中田一郎「西アジア・北アフリカ・古代オリエント(1979 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 89(5),1980 年。
(*)私市正年「西アジア・北アフリカ・イスラム時代(1979 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 89(5),1980 年。
(*)桜井万里子「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1979 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 89(5),1980 年。
(*)松本宣郎「ヨーロッパ:古代:ローマ(1979 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雑誌 89(5),1980 年。
(*)渡辺昌美・池谷文夫「ヨーロッパ：中世：西欧(1979 年の歴史学界：回顧と展望)」史學

雑誌 89(5),1980 年。
(*)成瀬治「ヨーロッパ：近代：一般(1979 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 89(5),1980 年。
(*)浜林正夫「ヨーロッパ：近代：イギリス(1979 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 89(5),1980 年。
(*)遅塚忠躬「ヨーロッパ：近代：フランス(1979 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 89(5),1980 年。
(*)千代田寛「ヨーロッパ:近代:ドイツ(1979 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雑誌 89(5),1980 年。
(*)上村忠男「近代南欧(1979 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 89(5),1980 年。
(*)「文献目録—西洋史 3」史學雑誌 89(9),1980 年。
(*)「史学文献目録—西洋史」史學雑誌 89(9),1980 年。
(*)太田秀通「Problems in Ancient History 」(東京都立大学)人文学報 141,1980 年。
(*)(参考：太田秀通「現代の歴史学(現代学問のすすめ—自立をめざして〈特集〉)」日本の科学者 15(5),1980 年。)
(*)鬼頭明成他「歴史学・教育・そして人生--「歴史を学ぶ心」著者太田秀通氏を囲んで(歴史学とのであい〈特集〉)」歴史評論 361,1980 年。
(*)鬼頭明成(他)「歴史学・教育そして人生--『歴史を学ぶ心』著者・太田秀通先生を囲んで」歴史評論 361,1980 年。
(*)(参考：弓削達「第 7 回国際古典学会議(FIEC)に出席して」西洋古典學研究 28,1980 年。
(*)(参考：角田文衛『ヨーロッパ古代論考』平凡社,1980 年。)
(*)林原純生「『欧州奇事花柳春話』から『齋武名士経国美談』へ」日本文学 11 月号,1980 年。
(*)岡本勲「『経国美談』の文章」(同『明治諸作家の文体』所収,笠間書院,1980 年。
(*)角田旅人「「走れメロス」材源考」香川大学一般教育 24,1980 年。
(*)太宰治作・小林与志画『走れメロス』フォア文庫,金の星社,1980 年。
(*)(参考：新田博衛『藝術作品：構造と存在』京都大学,文学博士,乙第 4148 号,1980 年。)
(*)(参考：阿部知二他編『ホメロス,アイスキュロス他』河出世界文学大系 1,河出書房新社,1980 年。)
(*)高橋睦郎修辞『王女メディア』(上演用台本：人文書院版,中村善也訳に依拠：固有名詞の普通名詞化)1980-81年。
(*)『ラプンツェル：ほか2へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1980年。
(*)『おやゆびひめ：ほか2へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1980年。
(*)『のろまのハンス：ほか3へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1980年。
(*)イソップ作/ベネット絵；巌谷国士訳『イソップものがたり』フランスの傑作絵本,文化出版局,1980年。
(*)小沢正作；佐々木マキ絵『たぬきのイソップ』カラー版・創作えばなし25,ポプラ社,1980年。
(*)土橋甚二郎訳『しっぽをきられたきつね：イソップ童話集』ゆのき書房,1980年。
(*)イソップ[Aisopos]作/呉茂一訳『北風と太陽』世界のメルヘン1,講談社,1980年。
(*)立原えりかぶん；三井小夜子え『きたかぜとたいよう：イソップ童話集』こどものための世界名作童話25,集英社,1980年。

(*)ポール・ガルドン絵；木島始訳『うさぎとかめ：イソップ寓話より』ポール・ガルドン昔話シリーズ,佑学社,1980年。
(*)蛭川憲男文と写真『チョウとアリのいそっぷ：クロシジミとクロオオアリの助けあい』子ども科学図書館,大日本図書,1980年。
(*)(参考：レオン・バッティスタ・アルベルティ作；ブルーノ・ナルディーニ編・アドリアーナ・S.マッツア絵；渡辺和雄訳；筒井敬介文『新イソップ寓話集：アルベルティの寓話』小学館,1980年。
(*)遠藤潤一「いそぽ物語の研究：Caxton 集と古活字本・天草本」徳島大學學藝紀要・人文學 30,1980 年。
(*)島正三編『天草本伊曽保物語などのこと』文化書房博文社,1980-83 年(→1984 年,補訂版)。
(*)(参考：三浦尤三「「狼と仔羊」の寓話—イソップからレッシングまで—比較文学ノート」順天堂大学文理学紀要 23,1980 年。)
(*)(参考：レオン・バッティスタ・アルベルティ作/ブルーノ・ナルディーニ編/アドリアーナ・S.マッツァ絵/渡辺和雄訳・筒井啓介文『新イソップ寓話集：アルベルティの寓話』小学館,1980 年。)
(*)大野七三「河鍋暁斎」浮世絵芸術 66,1980 年。
(*)麻原美子『幸若舞曲考』新典研究叢書 3,新典社,1980 年。
(*)服部幸造「幸若舞曲研究の現在(口芸：身体芸術研究の現在—中世の視角,特集)」国文学解釈と鑑賞 45(12),1980 年。
(*)川村二郎「語り物の宇宙(1-3)—甲賀三郎」群像 35(1,2,3),1980 年。
(*)(参考：穂積文雄『ユートピア西と東』(「ユートピアは現実の反対でアルということについて：シェイクスピア,フェヌロン,ラブレーをめぐって」,「フェヌロンのユートピア：「テレマックの冒険」の思想史的考察」)法律文化社,1980 年。)
(*)伊藤和也『エピクロスの園』未来工房,フォリオ叢書 1,1980 年。
(*)(参考：臼木淑夫・峰島旭雄編『比較哲学方法論の研究：心源の研究』東京書籍,1980 年。)
(*)(参考：古田光『人間観の形成と変容に関する精神史的比較研究』横浜国立大学(1978年),(科研費)1980 年。)
(*)(参考：安藤孝行『存在の探究—古代中世の存在概念』公論社,1980 年。)
(*)(参考：小野誠二「弁証法の歴史的散見(2)古代哲学の弁証法(2)」(北海学園大学学術研究会)学園論集 36,1980 年。)
(*)(参考：カール・ポパー/藤本隆志・石垣壽郎訳『推測と反駁—科学的知識の発展』(ソクラテス以前の哲学者)ウニベルシタス叢書,法政大学出版局,1980 年。)
(*)(参考：神崎繁「知と不知のあいだ」哲学雑誌 95(767),1980 年。)
(*)(参考：隈元忠敬・西川亮編『哲学者とその思想』協同出版,1980 年。)
(*)(参考：鈴木幹也『エンペドクレス研究』東京大学,文学博士,乙第 5306 号,1980 年。)
(*)(参考：藤澤令夫『ギリシア哲学と現代』岩波新書,1980 年。
(*)(参考：藤澤令夫『イデアと世界—哲学の基本問題』岩波書店,1980 年。)
(*)(参考：廣川洋一『プラトンの学園アカデメイア』岩波書店,1980 年(→1999 年,講談社学術文庫版)。)
(*)(参考：『稲富栄次郎著作集 2—ソクラテス,プラトンの教育思想』学苑社,1980 年。)

(*)(参考：三井浩『プラトン哲学研究―母胎・資料・実存』玉川大学出版部,1980 年。)
(*)(参考：アイリス・マードック/川西瑛子訳『火と太陽―なぜプラトンは芸術家を追放したのか』公論社,1980 年。)
(*)(参考：井上忠「これからプラトンを読むために」理想 570,1980 年。)
(*)(参考：森進一「私たちはどこまで自由なのか―プラトンの思想を背景とした「縁」への一つの考察(縁―この異なもの乙なもの〈特集〉)」日本及日本人 1558,1980 年。)
(*)(参考：左近司祥子「「ソクラテスの死」：「魂不死」をめぐるプラトンとプロチノス」(学習院大学)研究年報 27,1980 年。)
(*)(参考：左近司祥子「Mr.Burnyeat 異聞」学習院大学言語共同研究所紀要 3,1980 年。)
(*)(参考：中川秀恭編『森有正記念論文集：経験の水位から』新地書房,1980 年。)
----川島重成「人間と人間を超えるもの―森有正とギリシアをめぐって」
川田殖「プラトンの『テアイテトス』について―その経験論批判」
(*)(参考：座小田豊「ギリシア的なるものの「再構成」、あるいは理想と現実の架橋―ヘーゲルのイェナ「人倫の哲学」構想におけるアリストテレス哲学の意味について」文化(東北大学文学会)43,1980 年。)
(*)(参考：井上忠「ソクラテスと道元―ギリシア哲学の観点から」(『講座 道元 5 世界思想と道元』所収,春秋社,1980 年。)
(*)(参考：川島重成「人間と人間を超えるもの―森有正とギリシアをめぐって」(『森有正記念論文集―経験の水位から』新地書房,1980 年。)
(*)(参考：藤澤令夫『イデアと世界―哲学の基本問題』岩波書店,1980 年。)
(*)(参考：山田順一郎『イデアとはエネルギーのパターンである―プラトン,アリストテレス研究 I』山田順一郎,1980 年。)
(*)(参考：三宅雅明「アリストテレスと The Oxford English Dictionary におけるメタファ・定義の本質と限界」英米文学 26,1980 年。)
(*)(参考：今道友信『人類の知的遺産 8―アリストテレス』講談社,1980 年。)
(*)(参考：当津武彦『アリストテレス「詩学」の研究』大阪大学,文学博士,乙第 2399 号,1980 年。)
(*)(参考：R.W.サザーン/鈴木利章訳『ヨーロッパとイスラム世界』岩波現代選書,1980 年。)
(*)(参考：持田行雄「キプリアヌス神学の歴史的意義」(秋田大学教育学部)研究紀要 30,1980 年。)
(*)(参考：服部英次郎・藤本雄三『アウグスティヌス告白』有斐閣新書(古典入門),有斐閣,1980 年。)
(*)(参考：服部英次郎『アウグスティヌス』思想学説全書,勁草書房,1980 年。)
(*)(参考：泉治典『アウグスティヌスからアンセルムスへ―知解を求める信仰』創文社,1980 年。)
(*)(参考：高橋亘『アウグスティヌスと第十三世紀の思想』創文社,1980 年。)
(*)(参考：八巻和彦「Artes Liberales における〈目的〉と〈方法〉の緊張―セネカとアウグスティヌスを中心にして」和歌山大学教育学部紀要・人文科学 29,1980 年。)
(*)(参考：山田晶責任編集『トマス・アクィナス』中公バックス,世界の名著,中央公論社,1980 年。)

(*)(参考：今道友信『中世の哲学者たち：中世存在論の系譜』思索社,1980 年。)
(*)(参考：上村忠男「ヴィーコと『新しい学』の応用法」イタリア学会誌 28,1980 年。)
(*)(参考：小倉志祥編『近代人の原像：ルネッサンスの倫理思想』弘文堂,1980 年。)
(*)市川慎一「中川久定著「ディドロ『セネカ論—初版と第 2 版とに表現された著者の意識の構造にかんする考察』」ヨーロッパ文学研究 28,1980 年。
(*)(参考 : 本多修郎「ヘーゲルの思弁的論理とギリシア哲学」東北福祉大学紀要 4,1980 年。)
(*)(参考 : 上野忠士「世界審判としての世界史(3)—ヘーゲルの自由の精神の発展について[ギリシア世界]」大阪教育大学紀要・II 社会科学・生活科学 29(2・3),1980 年。)
(*)(参考：門倉正美「ヘーゲルの懐疑主義論—懐疑主義、批判哲学、弁証法」山口大学教養部紀要・人文科学篇 14,1980 年。)
(*)(参考：栗原隆「懐疑と否定—ヘーゲル「懐疑論論文」の研究」思索 13,1980 年。)
(*)(参考：越前谷悦子「存在とイデア—ハイデッガーのプラトン批判について」國學院雑誌 81(3),1980 年。)
(*)(参考：ヒルティ/氷上英廣・齋藤栄治訳『幸福論(3 巻)』(白水社,1980 年。)
(*)(参考：ヒルティ/小池辰雄訳『眠られぬ夜のために(2 巻)』(白水社,1980 年。)
(*)(参考：ヒルティ/登張正美・小塩節訳『眠られぬ夜のために』(白水社,1980 年。)
(*)松村剛「三島由紀夫のギリシヤの時間(旅の発見—異国のなかの日本人,特集)-(近代作家の異国体験)」国文学解釈と教材の研究(25(7),1980 年。
(*)早稲田大學大学史編集所編『木村毅先生追悼展示会：展示会概要・追悼文・自記略伝・主要著書目録・展示品目録』早稲田大學大学史編集所,1980 年。
(*)谷沢永一他「木村毅著作目録(木村毅先生追悼〈特集〉)」早稲田大学史紀要 13,1980 年。
(*)「木村毅自記略伝(木村毅先生追悼〈特集〉)」早稲田大学史紀要 13,1980 年。
(*)中西敬二郎「ワセダ・マン木村毅先生(木村毅先生追悼〈特集〉)」早稲田大学史紀要 13,1980 年。
(*)時子山常三郎「木村毅先生と大学史編纂研究(木村毅先生追悼〈特集〉)」早稲田大学史紀要 13,1980 年。
(*)木村増夫「木村毅先生の思い出四題(木村毅先生追悼〈特集〉)」早稲田大学史紀要 13,1980 年。
(*)友枝重俊「松蔭女子大学と木村毅先生(木村毅先生追悼〈特集〉)」早稲田大学史紀要 13,1980 年。
(*)野田宇太郎「木村毅と明治村(木村毅先生追悼〈特集〉)」早稲田大学史紀要 13,1980 年。
(*)松本清張「木村毅氏と私(木村毅先生追悼〈特集〉)」早稲田大学史紀要 13,1980 年。
(*)丸本聡明「木村先生と新聞学科(木村毅先生追悼〈特集〉)」早稲田大学史紀要 13,1980 年。
(*)八木福次郎「木村先生の思い出・断片(木村毅先生追悼〈特集〉)」早稲田大学史紀要 13,1980 年。
(*)八木佐吉「木村毅先生と丸善(木村毅先生追悼〈特集〉)」早稲田大学史紀要 13,1980 年。
(*)青山与平「新聞人としての木村毅先生(木村毅先生追悼〈特集〉)」早稲田大学史紀要 13,1980 年。
(*)西田長寿「木村毅先生と私(木村毅先生追悼〈特集〉)」早稲田大学史紀要 13,1980 年。

(*)高橋邦太郎「明治文化研究会の頃(木村毅先生追悼〈特集〉)」早稲田大学史紀要 13,1980 年。
(*)稲村隆一「木村毅さんの追悼(木村毅先生追悼〈特集〉)」早稲田大学史紀要 13,1980 年。
(*)小松芳喬「木村毅博士と「早稲田大学百年史」(木村毅先生追悼〈特集〉)」早稲田大学史紀要 13,1980 年。
(*)金井寅之助「木村毅先生のことども：文林を中心に(木村毅先生追悼〈特集〉)」早稲田大学史紀要 13,1980 年。
(*)岡保男「木村毅さんのこと(追悼文)」日本近代文学 27,1980 年。
(*)杉田弘子「朔太郎とニヒリズム」ユリイカ(特集萩原朔太郎)昭和 55 年。
(*)村田美穂子「西脇順三郎世界」哲学会誌 5,1980 年。
(*)澤正弘「二つの西脇順三郎研究：近藤晴彦・新倉俊一両氏の著書について」日本文学 29(5),1980 年。
(*)松浦暢「西脇順三郎とキーツ」成城文藝 94,1980 年。
(*)池谷敏忠『西脇順三郎の世界』松柏社,1980 年(→1988 年,5 改訂版)。)
(*)「追悼 神谷美恵子」(19 篇,年譜)みすず 22(3)(238),1980 年。
(*)学芸「よみうり抄」(松平千秋)読売新聞夕刊 3 月 5 日付,1980 年。
(*)(参考：古典共同研究会編『古典共同研究会論集：關谷光彦教授退職記念』古典共同研究会,1980 年。)
-----川田殖「プラトンの『饗宴』について」
安倍素子「トゥキュディデス断想---歴史記述について」
(*)高山岩男「京都学派の回想」心 33(7,8,9,10,11),1980 年//34(2,3),1981 年(→1995 年,『京都哲学の回想：旧師旧友の追想とわが思索の軌跡』一燈園燈影舎(燈影撰書 24)。)
(*)(参考：エヴァンズ・アイヴァ/新熊清訳『イギリス演劇史』明治出版,1980 年。)
(*)(参考：Kôichi Tanaka‘Le thème de l’innamoramendo et ses trois variations chez les poètes Anciens et les poètes modernes’(大阪大学言語文化部)言語文化研究 6,1980 年。)
(*)(参考：エルンスト・カッシーラ/佐藤三夫訳「小宇宙の概念と「人間の尊厳」」ジョヴァンニ・ピーコ・デッラ・ミランドラ」流通経済大学論集 15(2),1980 年。)
(*)(参考：伊藤博明「マルシリオ・フィチーノにおける愛の問題—amor celestis と amor vulgaris」哲学 17,1980 年。)
(*)(参考：ダンテ/壽岳文章訳『神曲』世界文学全集 2,』集英社,1980 年。)
(*)(参考：阿部知二他編『ダンテ』河出世界文学大系 3,河出書房新社,1980 年。)
(*)(参考：阿部知二他編『ボッカッチョ』河出世界文学大系 4 河出書房新社,1980 年。)
(*)(参考：清瀬卓「ダンテ「新生」をめぐる一註解の試み：Locus Amoenus というトポス」イタリア学会誌 28,1980 年。)
(*)(参考：阿部知二他編『ラブレー』河出世界文学大系 5,河出書房新社,1980 年。)
(*)(参考：大曽根良衛「初期エラスムスの教育思想：“Devotio moderna”の影響と“Enchiridion militis christiani”の成立」山梨英和短期大学紀要 14,1980 年。)
(*)相沢源七「わが国におけるエラスムス研究—書誌学的に」キリスト教史学 34,1980 年。)
(*)(参考：金子晴勇「初期エラスムスの人間学の特質」研究紀要 15,1980 年。)

(*)(参考：渡邊一夫責任編集『エラスムス；トマス・モア』中公バックス,世界の名著,中央公論社,1980 年。)
(*)(参考：近藤恒一「森の〈孤独〉から都市の〈孤独〉へ：ペトラルカのミラノ居住をめぐって」イタリア学会誌 29,1980 年。)
(*)(参考：新井明・田中浩共編『近世イギリスの文学と社会』金星堂,1980 年。)
(*)(参考：渡部昇一「1.Christian Humanism(Symposia 第一部門「エリザベス朝ルネッサンスとクリスティアン･ヒューマニズム」[日本英文学会第 52 回大会報告])」英文学研究 57(2),年。)
(*)(参考：国原吉之助「ケムブリヂ「歌謡」考」名古屋大学文学部研究論集 76,1980 年。)
(*)(参考：坪内逍遙訳『シェイクスピヤ全集』10 版,新樹社,1980 年。)
(*)(参考：小林清衛『シェイクスピア史劇試論』千葉学術出版会,1980 年。)
(*)(参考：沖浩子「「トロイラスとクレシダ」--クレシダの役割」(別府大学英語英文学会)英語・英米文学論叢 13,1980 年。)
(*)(参考：石原孝哉「「トロイラスとクレシダ」論(1)二元論をめぐって」駒沢大学外国語部論集 12,1980 年。)
(*)(参考：木村輝平「シェイクスピア劇とローマ史の人物像—プルタルコスを中心に(4-6)「アントニーとクレオパトラ」論(1,2,3)アントニウスとクレオパトラの恋」英文学評論 43,1980 年/45,1981 年/48,1983 年。)
(*)(参考：高山吉張「「アントニーとクレオパトラ」管見」甲南女子大学研究紀要 17,1980 年。)
(*)(参考：竹森健夫「「アントニーとクレオパトラ」--イノバーバスの意味するもの」札幌大学教養部・札幌女子短期大学部紀要 17,1980 年。)
(*)(参考:シェイクスピア/中野好夫訳『ジュリアス･シーザー』岩波文庫,岩波書店,1980 年。)
(*)(参考：兵藤雅子「ギリシャ悲劇と「マクベス」」(愛知大学文学会編)Poiesis10,1980 年。)
(*)(参考：新井明『ミルトンの世界—叙事詩性の軌跡』研究社出版,1980 年。)
(*)(参考：齋藤勇『ミルトン』研究社英米文学評伝叢書[昭和 8 年刊の復刊],研究社出版,1980 年。)
(*)(参考：壽岳文章『ブレイク』復刻版,研究社英米文學評傳叢書 31,研究社出版,1980 年。)
(*)(参考：酒井善孝『ポウプ』研究社英米文学評伝叢書,研究社出版,1980 年。)
(*)(参考：竹友㒷雄(藻風)『ドライデン』(昭和 13 年刊の復刊)研究社英米文学評伝叢書,研究社出版,1980 年。)
(*)(参考：平田喜一『スヰフト』研究社英米文学評伝叢書,研究社出版,1980 年。)
(*)(参考：小林裕「ウォルター・ペイターの「レオナルド・ダ・ヴィンチ」について」サピエンチア：英和大学論叢 14,1980 年。)
(*)(参考：都築佑吉「ペイター再考：附・本邦における最近のペイター研究」群馬大学教育学部紀要・人文社会科学編 30,1980 年。)
(*)(参考：柴崎武夫『ドクター・ヂョンソン—その人間と文学』荒竹出版,1980 年。)
(*)(参考：石田憲次・鈴木二郎『ヂョンスン』研究社英米文学評伝叢書 24,研究社出版,1980 年。)
(*)(参考：高橋雄四郎「〈書評〉W.J.Bate：John Keats(Harvard Univ.Press)及び最近の Keats 研究」實踐女子英文学 18,1980 年。)
(*)(参考：永井豊美「「エンディミオン」における映像のあり方」城西人文研究 7,1980 年。)

(*)(参考：小林竜一訳「〈翻訳〉N.I.ホワイト「シェリーと 19 世紀初頭の行動的急進主義者たち」」大阪経大論集 134,1980 年。)
(*)(参考：小林竜一訳「〈翻訳〉クレメント・ダンバー―シェリー研究書誌 1823-1950 年序文」大阪経大論集 137,1979 年。)
(*)(参考：伊藤詔子「Poe の宇宙観に於けるグノーシス的神性について」英語英文学研究 25,1980 年。)
(*)(参考：織田正信『ギッシング』復刻版,研究社英米文學評傳叢書 67,研究社出版,1980 年。)
(*)(参考：中尾セツ子「T.S.エリオットの文芸批評と宗教：『異神を追いて』(After Strange Gods)まで」清泉女子大学人文科学研究所紀要 2,1980 年。)
(*)(参考：田仲勉「T.S.エリオットとキーツの没個性論」大東文化大学英米文学論叢 12,1980 年。)
(*)(参考：大河原清・松原英敏「T.S.エリオットのヒューマニズム」東海大学紀要・沼津教養部 7,1980 年。)
(*)(参考：日本ハウスマン協会編『A.E.ハウスマン研究(4 巻)』日本ハウスマン協会,1980 年。)
(*)(参考：坂本公延『ヴァージニア・ウルフ』現代英米文学セミナー双書 10,山口書店,1980 年。)
(*)(参考：新関良三『ドイツ文学点描』学術図書出版,1980 年。)
(*)(参考：永田諒一「ドイツ・フマニスム研究の視角」史林 63(4),1980 年。)
(*)(参考：阿部知二他編『ゲーテ』河出世界文学大系 11,12,河出書房新社,1980 年。)
(*)(参考：大森道子「アレクサンダー・フォン・フンボルトとゲーテ」モルフォロギア：ゲーテと自然科学1980(2),1980年。)
(*)(参考：宇津井恵正「翻訳の諸相(1)：詩作品と散文作品の翻訳についての問題性」京都教育大學紀要 A 人文・社会 56,1980 年。)
(*)(参考：森本哲郎「思想の原景(18)ヤーコプ・ブルクハルト--「怠け者の巡礼者」を自負した男」諸君 12(11),1980 年。)
(*)(参考：渡邊二郎・西尾幹二編『ニーチェ物語：その源流と多面的世界』有斐閣ブックス,1980 年(→2013 年,『ニーチェを知る事典：その源流と多面的世界』ちくま学芸文庫,2013 年。)
(*)(参考：大庭千尋「現代的伝統としてのロマンティシズム(4)アポローン的とディオニューソス的」椙山女学園大学研究論集 11(1),1980 年。)
(*)(参考：水野清志「ニーチェの倫理思想(6)自己喪失と道徳」紀要 6(1),1980 年。)
(*)(参考：Thomas Immoos/尾崎賢治訳「ニーチェのアリアドネ・ロマン」ソフィア 29(2),1980 年。)
(*)(参考：高橋俊郎「初期ニーチェ(1)「悲劇の誕生」の基礎的部分」東北福祉大学紀要 4(2),1980 年。)
(*)(参考：村岡正明「カミュとニーチェ：『異邦人』と〈神々の死〉」城西人文研究 7,1980 年。)
(*)(参考：恒吉良隆「表現主義におけるニーチェ受容(1)序説」文芸と思想 44,1980 年。)
(*)(参考：国分幸「ニーチェの真理観の転回と解釈学--「ニーチェ全集」(思想と潮流)」朝日ジャーナル 22(8),1980 年。)
(*)(参考：井ノ川清「ニーチェと永劫回帰」Litteatura 1,1980 年。)
(*)(参考：島村教次「メーリンクとニーチェ―マルキシズムからの最初の批判」教養諸学

研究 64・65,1980 年。)
(*)(参考：長谷川武雄「現代中国におけるニーチェ解釈試論」精神科学 19,1980 年。)
(*)手川誠士郎「明治期におけるキルゲゴールとニーチェの思想」立正大学人文科学研究所年報 17,1980 年。)
(*)「新関良三先生略年譜・著作目録」共立女子大学文芸学部紀要 26,1980 年。
(*)手塚富雄「シラー研究者としての新関良三先生」共立女子大学文芸学部紀要 26,1980 年。
(*)田中初夫・小山育子・下村陽子「日本著書目録稿(下)昭和部(新関良三教授追悼号)」共立女子大学文芸学部紀要 26,1980 年。
(*)佐野晴雄「ハインリッヒ・ハイネと生田春月」山口大学独仏文学 2,1980 年。
(*)(参考：大瀬甚太郎解説『シュライエルマッヘル氏教育学』[明治 33 年刊]明治教育古典叢書 第 1 期 11,国書刊行会,1980 年。)
(*)(参考：小川正廣「Archaeologia Vergiliana—アエネアス伝説と女神信仰」西洋古典論集1980,1980 年。)
(*)(参考：竹中康雄「レッシングとアリストテレス：『詩学』第6章(1449b27)の解釈をめぐって」西洋古典論集1980,1980年。)
(*)(参考：渡邊直樹「レッシング寓話論と散文および韻文寓話」芸文研究39,1980年。)
(*)(参考：手塚富雄『ヘルダーリン(上下)』手塚富雄著作集1,2,中央公論社,1980-81年。)
(*)(参考：手塚富雄「ヘルダーリンの「ヒューペリオン」(1,2)」心33(2,4),1980年。)
(*)(参考：ベーダ・アレマン/小磯仁訳『ヘルダーリンとハイデガー』国文社,1980年。)
(*)(参考：三浦尤三「「狼と仔羊」の寓話—イソップからレッシングまで—比較文学ノート」順天堂大学文理学紀要23,1980年。)
(*)(参考：篠沢秀夫『フランス文学案内』世界文学シリーズ,朝日出版社,1980年。
(*)(参考：阿部知二他編『河出世界文学大系5—ラブレー』河出書房新社,1980年。)
(*)(参考：関根秀雄『モンテーニュ逍遙』白水社,1980年。)
(*)(参考：モンテーニュ著/関根秀雄訳『モンテーニュ随想録』限定版,白水社,1980年。)
(*)平岡昇「狂気の乱世を生きぬいた〈真人〉—関根秀雄「モンテーニュとその時代」,「モンテーニュ逍遙」(思想と源流)」朝日ジャーナル22(40),1980年。)
(*)引田稔「関根秀雄著「モンテーニュ逍遙」」経営と経済60(3),1980年。
(*)(参考：原二郎『モンテーニュ—「エセー」の魅力』岩波新書,岩波書店,1980年。)
(*)(参考：田中重弘『女の世紀を旅した男—ルネサンス・ヨーロッパ見聞』(モンテーニュ)北洋社,1980年。)
(*)(参考：ボーモン夫人原作/こわせたまみ文『美女とやじゅう』(ラ・フォンテーヌ原作/ピナルデ絵「ラ・フォンテーヌのおはなし」)少年少女世界童話全集：国際版18,小学館,1980年。)
(*)(参考：中川久定著『ディドロの『セネカ論』--初版と第2版とに表現された著者の意識にかんする考察』岩波書店,1980年。)
(*)市川慎一「中川久定著「ディドロの『セネカ論』」--初版と第2版とに表現された著者の意識にかんする考察」ヨーロッパ文学研究28,1980年。
(*)(参考：澁沢孝輔『バッカスの杖：フランス詩人論』小沢書店,1980年。)
(*)(参考：中尾是正『図説パルテノン』グラフ社,1980年。)
(*)(参考：鈴木博之「わが国における西洋建築史研究：また,建築論との関係(建築史と建築論の間)」建築雑誌 95(1168),1980 年。)

(*)(参考：R.E.ウィッチャーリー/小林文次訳『古代ギリシャの都市構成』相模選書,相模書房,1980年。)
(*)(参考：笠覚暁「ギリシア・アルカイク期神殿建築の空間概念：神殿及び神話に於ける空間概念の相同性(1-3)」日本建築学会論文報告集292,1980年/336,337,1984年。)
(*)(参考：桐敷真次郎「1 メガロンについて(歴史・意匠)」研究報告集,計画系51,1980年。)
(*)(参考：堀内清治・林田義伸・永松洋「地中海古代都市の研究(8)」日本建築学会研究報告・九州支部2,計画系25,1980年。)
(*)(参考：堀内清治・田代雄二・松林幸信「地中海古代都市の研究(9)」日本建築学会研究報告,・九州支部2,計画系25,1980年。)
(*)(参考：堀内清治・渡辺道治・松林幸信・松永洋「地中海古代都市の研究(10)」日本建築学会研究報告,・九州支部2,計画系25,1980年。)
(*)(参考：武田文男「クーベルタンの嘆きの声が聞こえる—政治に振り回されるオリンピック」朝日ジャーナル22(5),1980年。)
(*)(参考：川本信正「オリンピックと政治—オリンピアの火を消すな!憲章の原点にたって」文化評論228,1980年。)
(*)(参考：伊藤公著・日本オリンピック委員会編『オリンピックのはなし』日本体育協会,1980年。)
(*)(参考：鈴木良徳『オリンピック外史(正続)』ベースボール・マガジン社,1980年。)
(*)(参考：伊東明『オリンピック史』新体育学体系9,逍遙書院,1980年。)
(*)加藤節子「17 世紀フランスにおける体育：フェヌロンの女子体育論とサン・シール学院について」上智大学体育 13,1980 年(←1979 年,日本体育学会大会号 30)。)
(*)(参考：佐伯聡夫「崩壊するオリンピック神話—CM とパワーゲームが前面に」エコノミスト 58(10),1980 年。)
(*)(参考：小栗史朗「ヒポクラテス(460-377 年 BC?)(人と業績[4])」公衆衛生 44(10),1980 年。)
(*)(参考：森山徳長「古代ローマ帝国の歯科医学(1)：Aulus Cornrlius Celsus とその De Medicina ついて」日本歯科医学史学会会誌 8(1),1980 年。)
(*)(参考：上野喜一郎『船の世界史(上中下)』船社,1980 年。)
(*)(参考：加茂儀一『騎行・車行の歴史』法政大学出版局,1980 年。)
(*)松尾信一「加茂儀一,『騎行・車行の歴史』東京,法政大学出版局,1980 年」科学史研究[第 II 期]20(138),1980 年。
(*)(参考：新井清「古代染色の化学的研究(10)古代鬱金染について」奈良大学紀要 9,1980 年。)
(*)(参考：村上陽一郎編『科学史の哲学』朝倉書店,1980年。)
(*)村上陽一郎『日本人と近代科学』新曜社,1980年。
(*)(参考：村上陽一郎「科学史の逆遠近法(5)プラトニズム・ルネサンス」自然35(8),1980年。)
(*)角屋重樹「R.S.ウエストフォール著,渡辺正雄・小川真理子訳(1980),「近代科学の形成」みすず書房」日本教科教育学会誌5(3),1980年。
(*)角屋重樹「伊東俊太郎(1978)「近代科学の源流」自然選書,中央公論社」日本教科教育学会誌5(4),1980年。
(*)(参考：児島洋「近代科学の形而上学(現代哲学入門,主題)」思想の科学[第6次]124,1980年。)
(*)(参考：いいだもも「エコロジーとマルクス主義(21)近代科学の危機と古代幾何学の危機」技術と人間9(10),1980年。)
(*)(参考：武隈良一『数学史』培風館,1980年。

(*)(参考：福永正明「インドの人々と占星術」印度學佛教學研究29(1),1980年。)
(*)(参考：村上陽一郎「科学史の遠近法(6)15世紀対抗文化の諸相(1)占星術」自然35(9),1980年。)
(*)(参考：高橋健一「17世紀中頃より19世紀末までのフランスの主要天文文献及びフランス天文学史の概略(1,2)」天界61(665,666),1980年。)
(*)(参考：草下英明『星座の伝説』カラーブックス,保育社,1980年。)
(*)(参考：Shunntaro Ito,*Medieval Latin Translation of the Data of Euclid*,東京大学出版会,1980年。)
(*)(参考：伊東俊太郎「イスラム・ルネサンスの目指すもの」中央公論105(4),1980年。)
(*)(参考：矢島祐利「akhbar al Sin wal Hindについて：アラビア科学研究ノート(2)」科学史研究・第II期18(132),1980年。)
(*)(参考：矢島祐利「アレクサンドリア図書館の焼失問題：アラビア科学研究ノート(3)」科学史研究・第II期19(133),1980年。)
(*)(参考：矢島祐利「学芸の保護者としてのサラディン：アラビア科学研究ノート(4)」科学史研究・第II期19(133),1980年。)
(*)(参考：今野武雄「古バビロニアの計算術(続)ギリシャははたして理論数学の誕生地であったのか」文化評論228,1980年。
(*)黒田孝雄「近藤洋逸先生を憶う」科学史研究・第II期19(133),1980年。)
(*)角屋重樹「伊東俊太郎(1978)「近代科学の源流」自然選書,中央公論社,1980年。」
(*)角屋重樹「R.S.ウエストフォール著,渡辺正雄・小川真理子訳「近代科学の形成」みすず書房」日本教科教育学会誌5(3),1980年。)
(*)(参考：矢島祐利「Akhbar al-Sin wal-Hind(アラビア科学研究ノート(2))」科学史研究[第II期]18(132),1980年。)
(*)(参考：矢島祐利「アレクサンドリア図書館の焼失問題(アラビア科学研究ノート(3))」科学史研究[第II期]19(133),1980年。)
(*)(参考：矢島祐利「学芸の保護者としてのサラディン(アラビア科学研究ノート(4))科学史研究[第II期]19(135),1980年。)
(*)(参考：児島洋「近代科学の形而上学(現代哲学入門〈主題〉)思想の科学[第6次]124,1980年。)
(*)(参考：中西裕一「ハイゼンベルクのプラトン像--『ティマイオス』を中心として」ACADEMEIA 1,1980年。)
(*)森川甫「「厚生新編」の原著者,ノエル・ショメルについて」関西学院大学社会学部紀要40,1980年。
(*)奥野久輝『江戸の化学』玉川選書5,玉川大学出版部,1980年。
(*)矢部一郎他『植物啓原==宇田川榕菴—復刻と訳・注』講談社,1980年。
(*)上野益三・高島春雄・湯浅明著/日本学士院編『明治前日本生物学史2巻』新訂版・明治前日本科学史叢書,野間科学医学研究資料館(臨川書店)1980年。
(*)源了円『近世初期実学思想の研究』創文社,1980年。
(*)片桐一男「阿蘭陀通詞本木良栄の訳業分野—幕府の西洋天文学導入に関連して」日本歴史386,1980年。
(*)(参考：矢島文夫『占星術の誕生』東京新聞出版局,1980年。)
(*)星の手帖編集部「国立科学博物館の江戸時代の天球儀他(星の文化財)」星の手帖9,1980

年。
(*)(參考：アルフォンス・ドプシュ/野崎直治・石川操・中村弘訳『ヨーロッパ文化の経済的社会的基礎：カエサルからカール大帝にいたる時代の』名著翻訳叢書,創文社,1980年。)
(*)(參考：バーキー/友岡敏明訳『ヨーロッパの政治的伝統』晃洋書房,1980 年。)
(*)(參考：加来彰俊「哲人王と法の支配—プラトンの政治思想についての若干の覚書」法政大学文学部紀要 23,1980 年。)
(*)(參考：中村秀吉「全体主義のプラトン・民主主義のソクラテス—カール・R.ポパー「開らかれた社会とその敵」(思想と潮流)」朝日ジャーナル 22(24),1980 年。)
(*)(參考:アリストテレス著/村川堅太郎訳『アテナイ人の国制』岩波文庫,岩波書店,1980 年。)
(*)松本宣郎「E.マイヤー著鈴木一州訳「ローマ人の国家と国家思想」(岩波書店)」史學雜誌 89(5),1980 年。)
(*)(參考：西村貞二『マキアヴェリ』清水書院,1980 年。)
(*)(參考：カール・R.ポパー/内田詔夫・小河原誠訳『開かれた社会とその敵 第 1 部—プラトンの呪文』未来社,1980 年。)
(*)(參考：ジョン・ラスキン/鈴木忠雄訳『ウォルター・リップマン：正義と報道の自由のために』人間の科学社,1980 年(→1996 年,新装普及版)。)
(*)岡満男「ジョン・ラスキン著鈴木忠雄訳『ウォルター・リップマン』--長い記者生活をたんねんに描写」エコノミスト 58(47),1980 年。)
(*)(參考：長塚進吉「グリーンカードはトロイの木馬か(みどりの悪夢)」朝日ジャーナル 22(38),1980 年。)
(*)関嘉彦・辻清明・松本重治「蝋山政道—その人と時代」中央公論 95(10),1980 年。
(*)「法学博士・原田鋼先生略歴・主要著作目録(原田先生古稀記念号)」法学新報 87(3・4),1980 年。
(*)(參考：森進一「立法者の教育：Socratesの命題に戻って」西洋古典學研究28,1980年。)
(*)(參考：中村英郎『民事訴訟におけるローマ法理とゲルマン法理』早稲田大学,法学博士,乙第359号,1980年。)

(*)(參考：山本広太郎「マルクスの「学位論文」について—バウアーの「自己意識」とマルクスの「自己意識」との差異」経済学雑誌 81(6),1981 年。)
(*)(參考：国岡彬一「橋本英吉「マルクスの微笑」をめぐる問題」国文白百合 12,1981 年。)
(*)(參考：『世界謎の超古代史：特集』歴史読本・臨時増刊,新人物往来社,1981 年。)
(*)木村鷹太郎著・八切止夫編『旧約聖書日本史』日本シェル出版印刷,1981 年。
(*)木村鷹太郎著・八切止夫編『海洋渡来日本史』日本シェル出版印刷,1981 年。
(*)(參考：大森達次解説「セーヌと地中海(印象派・光と影の画家たち)」中央公論 96(12),1981 年。)
(*)(參考：坂本仁「『アレクサンドリア四重奏』--鏡と構想」立正大学教養部紀要 15,1981 年。)
(*)(參考：林良一他『栄光の大ペルシア帝国』新潮古代美術館 2,新潮社,1981 年。)
(*)(參考：篠山紀信写真・文『エジプト：ルクソールからアレキサンドリアへ』篠山紀信シルクロード 7,集英社,1981 年。)
(*)しだのぶお[志田信男]『やぱのろぎあ：エピグラム・マールティアリースの倣び：しだ

のぶお詩集』潮流出版,1981 年。
(*)上原和『トロイア幻想：わが古代散歩』PHP 研究所,1981 年(→1989 年,「トロイア幻想：古代憧憬の旅」講談社学術文庫。)
(*)(参考：立田洋司『トルコの旅：栄枯八千年：沈黙の軌跡』六興出版,1981 年。)
(*)(参考：大嶋直政『アナトリア歴史紀行：東西文明の接点・四千年』自由国民社,1981 年。)
(*)小西晴雄「サモスの香り」ペディラヴィウム 10,1981 年。
(*)皆川博子『トマト・ゲーム』(「アルカディアの夏」)講談社,1981 年。
(*)(参考：松村昌家・藤田実編『文学における悪』(桂田重利「ホーソン『大理石の牧神像：アルカディアと死その 2）南雲堂,1981 年。)
(*)吉田倬也『エーゲ海の鉄の城：商社マン戦いの記録』東洋経済新報社,1981 年。
(*)「エーゲ海に浮かぶ白いヨット“ペガサス IV”—三菱下関の舟艇技術の粋(新造船の紹介)」(天然社)船舶 54(9),1981 年。
(*)(参考：『エレクトリックオルガン/オートコードでも弾けるポピュラーソングメモリー全集(「エーゲ海の真珠」)』東京音楽書院,1981 年。)
(*)(参考：『海の気象』(今宿敏貞「エーゲ海~黒海」)海洋気象学会,1981 年。)
(*)(参考：『海：自然読本』河出書房新社,1981 年。)
----小松左京・鈴木秀夫・竹内均・根本順吉・野村雅一「歴史推理 学際座談会 エーゲ海の大噴火」
小江慶雄「海底の古代彫刻」
(*)(参考：『エレクトリックオルガン/オートコードでも弾けるポピュラーソングメモリー全集(「エーゲ海の真珠」)』東京音楽書院,1981 年。)
(*)(参考：清永昭次「「ドーリア」「ロードス」「アッピア」」学習院大学言語共同研究所紀要 4,1981 年。)
(*)田中美知太郎・山崎正和「対談 古代ギリシアを想う」文化会議 150,1981 年。
(*)(参考：上原和『トロイア幻想：わが古代散歩』PHP 研究所,1981 年。)
(*)Benjamin Constant/毛織大順訳「ヨーロッパ文明との関連における征服の精神と簒奪について(1) (古林祐二教授・芳川俊憲教授古稀記念号)」福岡大学法学論叢 25(2~4),1981 年。)
(*)(参考：『古代文明と遺跡の謎 総解説：失われた偉大な過去への知的探究の旅』自由国民社,1981 年(→1982 年,1984 年,再刊。→1990 年,改訂新版,1991 年,1998 年,改訂版。)
(*)(参考：デイビド・ジンク/吉田康彦・山崎康正訳『海底大陸アトランティス：カリブ海に眠る巨石群』白楊社,1981 年。)
(*)(参考：関隆志「パルテノンに関する一考察」西洋古典學研究 29,1981 年。)
(*)(参考：関隆志共著『ギリシア：アクロポリスの丘とエーゲ海美術の旅』主婦の友社,エクラン世界の美術 6,1981 年。)
(*)(参考：村川堅太郎・中山典夫『デルフォイの神域』世界の聖域 3,講談社,1981 年。)
(*)(参考：関隆志共訳『古代ローマ遺跡とヴァチカンの名宝』エクラン世界の美術 7,主婦の友社,1981 年。)
(*)(参考：久志本秀夫「古代イタリアへの道」相愛女子大学・相愛女子短期大学研究論集,音楽学部篇 28,1981 年。)
(*)市川勝治『みあ伊太利亜』乙骨書店,1981 年。

(*)(参考 : フランコ・サケッティ/杉浦明平訳『ルネッサンス巷談集』岩波文庫,岩波書店,1981年。)
(*)立田洋司『トルコの旅：栄枯八千年・沈黙の軌跡』六興出版,1981 年。
(*)大島直政『アナトリア歴史紀行：東西文明の接点・四千年』自由国民社,1981 年。
(*)三輪主彦『トルコとエーゲ海岸を歩く：シルクロードの終着駅』Your guide,ゆう(You)出版局,1981 年(→1986 年,山と渓谷社[発売]改訂新版,1989 年,4 訂新版)。
(*)(参考：ヴォウテルス・ヘルマン/米山俊直・野口武徳・山下諭一訳『南ヨーロッパ』世界の民族と生活 6,ぎょうせい,1981 年。)
(*)岡松和夫・桶谷秀昭「対談時評 成熟への試行—津島佑子「多島海」,高橋昌男「寛永寺の辺り」文學界 35(8),1981 年。
(*)(参考 : ハンス・パルス/関楠生・小川超訳『古代クレタ文明 : エーゲ文明の謎』佑学社,1981年。)
(*)(参考：三浦一郎(他)『エーゲ・ギリシアの古代文明』講談社,1981 年。)
-----三浦一郎「古代ギリシアの歴史と風土」
友部直「エーゲ海の美術」
小川国夫「神々の国」
今道友信「ギリシアの哲人たち」
渡辺守章「ギリシア悲劇と現代」
「エーゲ海文明史・ギリシア史年表」
(*)(参考：木村尚三郎編『西欧と世界』西洋史 4,有斐閣新書,有斐閣,1981 年。)
(*)(参考：木村尚三郎訳『食と料理の世界史』学生社,1981 年。)
(*)辻邦夫「パリ日記抄(11,12)イタリア古寺巡礼」海 13(8,9),1981 年。
(*)堀米庸三『ヨーロッパ歴史紀行』筑摩叢書,筑摩書房,1981 年。
(*)(参考 : ウィリアム・フックス/花野秀男訳『古代人の遺言 : ピラミッド・ミステリー』(アトランティス)白楊社,1981 年。)
(*)(参考：デイビド・ジンク/吉田安彦・山崎康正訳『海底大陸アトランティス：カリブ海に眠る謎の巨石群』白楊社,1981 年。)
(*)講談社出版研究所編『世界の聖域 3』(村川堅太郎)講談社,1981 年。
(*)(参考：『アンデルセン：シュリーマン』少年少女世界伝記全集：国際版 6,小学館,1981年。)
(*)(参考 : C.W.ツェーラム/村田数之亮訳『神・墓・学者：考古学の物語(上下)』中央公論社,増補新版,1981 年(→2004 年,中公文庫)。
(*)(参考：C.W.ツェーラム編/清永昭次訳『古代を甦らせた人々』新潮社,1981 年。)
(*)佐渡谷重信『三島由紀夫における西洋』東書選書 65,東京書籍,1981 年。
(*)篠田浩一郎「パルテノンのわが「中世」--三島由紀夫覚書(三島由紀夫とは何であったか)—(新しい視覚からのアプローチ)」國文学 26(9),1981 年。
(*)(参考：森永龍滋「チチェローネとしてのヴィンケルマン」哲學 72,1981 年。)
(*)(参考：桂芳樹「ローマにおけるゲーテの日々(1-5)」Spazio25-29,1981-1983 年。)
(*)青柳正規「遺跡からの手紙(10)アウグストゥスの広場」Spazio25,1981 年。)
(*)(参考：磯崎新・篠山紀信・青柳正規『逸楽と憂愁のローマ：ヴィッラ・アドリアーナ』六輝社, 磯崎新・篠山紀信建築行脚 3,1981 年。)
(*)(参考 : 山田智三郎「大人のための西洋美術史(15,16)ヘレニズム時代のギリシャ美術(1,2)」

芸術新潮 32(6,7),1981 年。)
(*)(参考：三輪福松「ヴェネツィア画派：ジョルジョーネ,ティツィアーノ(第 12 回全国大会特集号)」日本色彩学会誌 5(1),1981 年。)
(*)(参考：下村寅太郎『精神史の中の芸術塚』筑摩書房,1981 年。)
(*)(参考：町田徳之助『隠蔽の幻惑：ヨーロッパ的知の行方』朝日出版社,1981 年。)
(*)(参考：宍戸修『個人精神の文明史的位置』南窓社,1981 年。)
(*)(参考：川窪啓資「トインビー思想の現代的意義」麗澤大学紀要 31,1981 年。)
(*)(参考：里見元一郎「ヨハン・ホイジンガの歴史観と文明論」文明 31,1981 年。)
(*)(参考：堤彪・吉沢五郎編『比較文明論の試み』論創社,1981 年。)
(*)(参考：草野正名「図書館思考の文化的源流とアレクサンドリア図書館—文化主義による社会学的考察を基調にして」国士舘大学文学部人文学会紀要 13,1981 年。)
(*)(参考：ジクリト・フンケ/高尾利数訳『アラビア文化の遺産』みすず書房,1981年。)
(*)(参考：井筒俊彦・伊東俊太郎「イスラム文明の現代的意義—われわれはその世界とどう関わり合うか」エコノミスト 59(2),1981 年。)
(*)江上波夫解説『ガンダーラとシリアの旅』平山郁夫・シルクロード素描集 3,平凡社,1981 年。
(*)平山郁夫『ガンダーラとモヘンジョダロ：平山郁夫のスケッチブック』平凡社,1981 年。
(*)(参考：Rahman Dar Salfur/桑山正進訳「ガンダーラの「化粧皿」とパーキスタンにおけるヘレニズムの始まり(Journal of Central Asia,vol.2,no.2,Islamabad,1979 掲載)(中央アジアの仏教美術,特集)」仏教美術 137,1981 年。)
(*)(参考：芸能山城組『シルクロード幻唱』録音資料,Invitation,Victor Musical Industries(発売),1981 年。)
(*)(参考：伊瀬仙太郎「漢とローマ(シルクロードのすべて,特集)」知識 21,1981 年。)
(*)(参考：長澤和俊「東西交渉の大動脈と日本文化(シルクロードのすべて,特集)」知識 21,1981 年。)
(*)(参考：前嶋信次「私のシルクロード(シルクロードのすべて,特集)」知識 21,1981 年。)
(*)(参考：岩村忍「学としてのシルクロード—特集によせて(シルクロードのすべて,特集)」知識 21,1981 年。)
(*)(参考：長澤和俊・大葉昇一編「シルクロード研究の動向(シルクロードのすべて,特集)」知識 21,1981 年。)
(*)梅棹忠夫「シルクロード紀行—少数民族をたずねて(講演要旨)」経済人 35(1),1981 年。
(*)(参考：大葉脩編『シルクロードの文化交流：その虚像と実像』同朋舎,1981 年。)
(*)(参考：相馬隆『パルティア見聞録：シルク・ロード古文化吟遊』オリエント選書 7,東京新聞出版局,1981 年。)
(*)(参考：司馬遼太郎責任編集『長城とシルクロードと』人物中国の歴史 4,集英社,1981 年。)
(*)(参考：山本智教『仏教美術の源流(研究篇・図版篇)』東京美術社,1981 年。)
(*)(参考：山本智教「仏教美術史の流れ」密教文化 134,1981 年。)
(*)(参考：羽田亨著/耿世民譯『西域文化史』新疆人民出版社,1981 年。)
(*)(参考：速水敏彦「アジア博物館めぐり(47)トルコ(11)エフェソス」陶説 335,1981 年。)
(*)神田喜一郎「先学を語る—斯波六郎博士[含・略歴]」東方学 61,1981 年。
(*)岡田忠臣『天正遣欧使節の足跡をたずねて：岡田忠臣スケッチ展』[出版社不明],1981 年。

(*)春名徹『世界を見てしまった男たち』文藝春秋,1981 年。
(*)三橋猛雄「「西洋事情」と「輿地誌略」」日本古書通信 46(6),1981 年。
(*)水田徹(Akira Mizuta),‘Corpus Vasorum Antiqorum,Japan 1’(‘Japan：Rotfigurige Vasen in japanischen Sammlungen’)日本学術振興会(Japan Society for the Promotion of Science),丸善(発売)1981.
(*)Akira Mizuta,‘Japan：Rotfigurige Vasen in japanischen Sammlungen’
(*)西堀昭『日仏文化交流史の研究—日本の近代化とフランス人』駿河台出版社,1981 年。
(*)(参考：奥田喜八郎「西洋に於ける「蛙」の文化史的意義(上野景福教授記念号)」武蔵大学人文学会雑誌 12(3),1981 年。)
(*)(参考：中江彬「ミケランジェロ作「パオリーナ礼拝堂壁画」の主題変更について」美術史 31(1),1981 年。)
(*)(参考：木島俊介「モネのに庭(アルカディア)・睡蓮の池・ジヴィルニー(印象派・光と影の画家たち)」中央公論 96(12),1981 年。)
(*)(参考：堀越正雄『水道の文化史』鹿島出版会,1981 年。)
(*)(参考：今泉篤男・山田智三郎編『西洋美術辞典』24 版,東京堂出版,1981 年。)
(*)(参考：日本オリンピック・アカデミー編『オリンピック事典』プレスギムナスチカ,1981 年。)
(*)(参考：小嶋潤『聖書小事典』現代教養文庫,社会思想社,1981 年。)
(*)(参考：T.ヘイエルダール/小川英雄・田中昌太郎訳『聖書考古学大辞典』講談社,1981 年。)
(*)杉本つとむ『江戸時代翻訳日本語辞典』早稲田大學出版部,1981 年。
(*)杉本つとむ「早稲田大学図書館蔵『英和対訳袖珍辞書』の一考察」早稲田大学図書館紀要 21,1981 年。
(*)寺沢芳雄「英語辞書の歴史と展望(特集 英語の辞書)」英語青年 127(1),1981 年。
(*)井田好治「日本の初期英和辞典(特集 英語の辞書)」英語青年 127(1),1981 年。
(*)井之口章次「柳田国男監修「民俗学辞典」の執筆者一覧(上下)」民間伝承 45(2,3),1981 年。
(*)(参考：西田龍雄・松元克己・千野栄一・矢島文夫他『世界の文字』大修館書店,1981 年。)
(*)(参考：塚本虎二『福音書異同一覧：前三福音書共観』3 版,新地書房,1981 年。)
(*)(参考：高階秀爾「美術--アフロディテの贈り物—中古スクーターの次ぎに買った芸術辞典(ブックガイド 81 知の事典)-(ブックガイド—辞書・事典類を中心に)」朝日ジャーナル 23(12),1981 年。)
(*)(参考：松本克己「ギリシア・ラテン・アルファベットの変遷」(大修館「世界の文字」[講座 言語 5],1981 年。)
(*)(参考：竹島俊之「古典ギリシャ語の構造についての一考察—トゥキュディデース「歴史」の分析に基づいて(1)」(広島大学総合科学部)言語文化研究 7,1981 年。)
(*)(参考：犬山桂「ギリシャ神話と学名(1)」ちりぼたん 12(2),1981 年。)
(*)(参考：吉岡治郎「聖書のゴート語訳へのラテン語訳の影響：前置詞の場合」京都産業大学国際言語科学研究所所報 2(2),1981 年。)
(*)向坂寛「恥の構造--「恥」とこれに対応するギリシア語「アイドース(αιδος)(特集 東洋の再発見)」理想 572,1981 年。
(*)泉井久之助「「現識」という語と候文--姉崎正治博士と木下杢太郎先生」言語生活 35,1981 年。

(*)(参考：語学教育研究協議会・半田一郎編『ヨーロッパ語学基礎資料(語彙篇：Greek-English)』東京外国語大学語学教育研究協議会,文部省教育方法等改善プロジェクトによる刊行資料,昭和 56(1981)年。)
(*)(参考：白石晃一「トマス・アーノルドのラグビー校教育についての一考察」筑波大学教育学系論集 5,1981 年。)
(*)(参考：別宮貞徳「翻訳論文献一覧(特集 翻訳と英米文学)」英語青年 127(9),1981 年。)
(*)(参考：ヨゼフ・ロゲンドルフ/別宮貞徳訳「ドイツと日本(1-4)研究自叙伝」諸君!13(8-11),1981 年。)
(*)(参考：戸張智雄「歌舞伎町の快僧ネラン神父」文藝春秋 59(6),1981 年。)
(*)(参考：小野茂『フィロロジーへの道』研究社選書 19,昭和 56 年。)
(*)田ノ倉亮爾「和辻哲郎とフィロロギー(日本人の精神生活[4])」大倉山論集 15,1981 年。
(*)(参考：橋本萬太郎『現代博言学：言語研究の最前線』大修館書店,1981 年。)
(*)佐藤秀夫編『明治前期文部省刊行誌集成・別巻』株式会社歴史文献,1981 年。
(*)三好行雄編「三島由紀夫の作品論事典(三島由紀夫とは何であったか)」國文學 26(9),1981 年。
(*)(参考：内藤克彦「日本におけるシラー研究文献(1)(1912-1979)」(日本独文学会)ドイツ文学 66,1981 年。
(*)(参考：内藤克彦「日本におけるシラー研究文献(2)(1912-1979)」(日本独文学会)ドイツ文学 67,1981 年。
(*)(参考：内藤克彦「日本におけるシラー研究概観」(南山大学)アカデミア,文学・語学編 30,1981 年。
(*)(参考：内藤克彦「日本におけるシラー研究概観(続)」(南山大学)アカデミア,文学・語学編 31,1981 年。
(*)(参考：樺山紘一「系譜学—始源と継承の神話学(新西洋学事情[11])」経済評論 30(5),1981 年。)
(*)(参考：森進一「一つのノート--「輪廻転生」についての」日本及日本人 1563,1981 年。)
(*)(参考：池上良正「エリアーデ宗教論の一考察—その理論的発展に向けて」基督教文化研究所年報 13,1981 年。)
(*)(参考：森本哲郎「思想の原景(20)M.エリアーデ—古代インドと対話し続けた男」諸君 13(1),1981 年。)
(*)(参考：綾部玲子「M.エリアーデを中心とした「比較宗教学」の神学的意義—「型」論による典礼神学的総合の試み」カトリック研究 40,1981 年。)
(*)(参考：幸崎英男「フローベルとサロメ神話--「エロディアス」の周辺」帝塚山学院大学研究論集 16,1981 年。)
(*)(参考：森哲郎「シェリングに於ける神話と世界」基督教学研究 4,1981 年。)
(*)松平千秋「『オデュッセイア』を訳しながら」ももんが 25(12),1981 年。)
(*)(参考：高橋睦郎・原田維夫え『イーリアス物語』古典のおくりもの,ギリシア神話シリーズ 1,三省堂,1981 年。)
(*)(参考：高橋睦郎・原田維夫え『オデュッセイス物語』古典のおくりもの,ギリシア神話シリーズ 2,三省堂,1981 年。)
(*)(参考：高橋睦郎『ギリシア神話 2』三省堂,1981 年。)

(*)(参考：『芸術と宗教』比較芸術学研究 3,美術出版社,1981 年。)
(*)(参考：別宮貞徳「オルペウス考—悲劇の変容」ソフィア 29(49,1981 年。)
(*)(参考：中村善也・中務哲郎『ギリシア神話』岩波ジュニア新書,岩波書店,1981 年。)
(*)(参考：中島孤島編『ギリシア・ローマの神話伝説(1-3)』世界神話伝説大系 35-37,名著普及会,1981 年。)
(*)(参考：ブルフィンチ/野上弥生子訳『ギリシア・ローマ神話(上下)』岩波版ほるぷ名作文庫 38,39,岩波書店,ほるぷ企画(発売),1981 年。)
(*)「松村武雄教授略歴・業績(松村武雄・甲斐弦教授退職記念号)」熊本商大論集 28(1),1981 年。
(*)(参考:阿刀田高『ギリシア神話を知っていますか』新潮社,1981 年(→昭 59 年,新潮文庫)。)
(*)(参考：天野格之助「プロメテウス神話におけるギリシア人の人間観の諸相について」皇學館大學紀要 19,1981 年。)
(*)(参考：遠藤芳江「Light in August—その神話的構造」主流 42,1981 年。)
(*)(参考：E.R.ドッズ/井谷嘉男訳『不安の時代における異教とキリスト教：マークス・アウレーリウス帝からコンスタンティーヌス帝に至るまでの宗教体験の諸相』日本基督教団出版局,1981 年。)
(*)(参考：三小田敏雄「ヘレニズム・ローマ時代における神観念の変遷」東海大学文明研究所紀要 2,1981 年。)
(*)(参考：森進一「一つのノート--「輪廻転生」についての」日本及び日本人 7 月号,1981 年。)
(*)(参考：真岐次郎「サンタクロースの神話」ファイナンス 16(12),1981 年。)
(*)(参考：W.Heising James「神話と精神—キリスト教的物語の背後にある物語(1-4)」アカデミア：人文・自然科学編保健体育編 34,1981 年/35,1982 年/36,37,1983 年。)
(*)(参考：大貫隆「古代文学における『惜別の辞』--『ヨハネ福音書』と『パイドン』を中心に」西洋古典學研究 29,1981 年。)
(*)(参考：大貫隆「ヨハネ福音書の実用的機能について」新約学研究 9,1981 年。)
(*)(参考：小川明「ローマ帝国とキリスト教に関する研究ノート(1)」上部大学論集 12,1981 年。)
(*)(参考：松本卓夫『ピリピ人への手紙に学ぶ』グロリヤ出版,1981 年。)
(*)(参考：塚本虎二『使徒信條講義』再版,聖書知識文庫 6,聖書知識社,1981 年。)
(*)(参考：岡田五作著/田園調布教会編『説教ノート：使徒行伝：エペソ人への手紙』J.B.S.シリーズ 10,日本聖書神学校,1981 年。)
(*)(参考：E.R,ドッズ/井谷嘉男訳『不安の時代における異教とキリスト教』日本基督教団出版局,1981 年。)
(*)(参考：オラシオ・ボホルヘ/長沢トキ訳『聖書に見るマリアのすがた』女子パウロ会,1981 年。)
(*)(参考：フィリップ・ターナー/三浦朱門・曽野綾子訳『聖書物語：オックスフォード版』小学館,1981 年。)
(*)(参考：高橋栄一・辻成史『聖山アトス』世界の聖域 13,講談社,1981 年。)
(*)小林珍雄遺稿・追悼文刊行会『カトリシズムへのかけ橋』(岩下壮一)エンデル書房,昭和 56年。

(*)(参考：新井修『教皇 264 代の系譜』コルベ出版社,コルベ文庫,1981 年。)
(*)(参考：志田信男『やぱのろぎあ II,III,IV—エピグラム・マールティリアーリスの倣び：しだのぶお詩集』潮流出版社,1981 年/1982 年/1984 年。)
(*)(参考：井上洋治『イエスのまなざし：日本人とキリスト教』日本基督教出版局,1981 年(→1993 年,新装版)。)
(*)(参考：井上洋治『愛をみつける：新約聖書のこころ』潮文社,1981 年。)
(*)(参考：速水敏彦「エフェソスの信徒への手紙」にみられる教会観(共同訳聖書講解))」(立教大学キリスト教学会)キリスト教学 23,1981 年。)
(*)(参考：冨原真弓「前存在説について：ロンバルディア地方の異端カタリ派とオリゲネスとの比較研究」Les lettres franÇaises 1,1981 年。)
(*)(参考：山村敬「三位一体のドグマの成立と展開：西洋と西欧の文脈」富山大学人文学部紀要 5,1981 年。)
(*)(参考：Rahman Dar Saifur/桑山正進訳「ガンダーラの「化粧皿」とパキスタンにおけるヘレニズムの始まり(Journal of Central Asia,vol.2,no,2,Islamabad,1979 掲載)(中央アジアに仏教美術〈特集〉)」仏教芸術 137,1981 年。)
(*)(参考：『世界古典文学全集 1：ホメーロス』筑摩書房,1981 年。)
(*)(参考：『世界古典文学全集 9：エウリピデス』筑摩書房,1981 年。)
(*)(参考：内田信次「文学は何のためにあるのか：古代ギリシア・ローマ人の考えから」研究紀要 19,1981 年。)
(*)(参考：アリストパネース作/八木橋正雄訳編『とり—縮約原語翻訳台本』電子複写,八木橋正雄,1981 年。)
(*)(参考：中山恒夫「カトゥルルスの詩論—アレクサンドリア学派の文学理論とローマ的美学(中川努,鵜川義之助両教授戴冠記念)」言語文化研究 8,1981 年。)
(*)(参考：野上素一『ダンテ—人と思想』清水書院,1981 年。)
(*)(参考：Vellutello Alessandro/藤村昌明訳「「ダンテの生涯」--十六世紀の「ダンテ伝」および「神曲」注釈の一例として(十六世紀のイタリア〈特集〉)」日伊文化研究 19,1981 年。)
(*)(参考：伊波和正「ダンテ『神曲』」沖縄国際大学文学部紀要 6(1),1981 年。
(*)(参考：平川祐弘『中世の四季：ダンテ「神曲」とその周辺』河出書房新社,1981 年(→1994 年,再版。→2012 年,復刻新版)。)
(*)(参考：岡戸久吉『ダンテとボッカチオ—岡戸久吉試論』岡戸久吉,1981 年。)
(*)(参考：マドレーヌ・ラザール/篠田勝英・宮下志朗訳『ラブレーとルネサンス』文庫クセジュ 646,白水社,1981 年。)
(*)(参考：金子晴勇「エラスムスのキリスト教ヒューマニズム：「評論・自由意志」の研究」研究紀要 16,1981 年。)
(*)(参考：齋藤美洲『エラスムス』Century Books 人と思想 62,清水書院,1981 年。)
(*)(参考：中森義宗・岩重政敏編『ルネサンスの人間像』近藤出版社,1981 年。)
(*)(参考：J.H.ヘクスター/菊池理夫訳『モアの「ユートピア」--ある思想の伝記』御茶の水書房,1981 年。)
(*)(参考：高柳俊一「ユートピア学事始め」ソフィア 30(4),1981 年。)
(*)(参考：伊東俊太郎「シチリアにおける十二世紀ルネサンスの新局面」(大森荘蔵・伊東

俊太郎編『科学と哲学の界面』所収,朝日出版社,1981 年。)
(*)(参考：佐藤三夫『イタリア・ルネサンスにおける人間の尊厳』有信堂,1981 年。)
(*)(参考：前川誠郎『ひとと自然へのめざめ：ルネサンス』岩波美術館,岩波書店,1984 年。)
(*)(参考：上原和・若桑みどり「フィレンツェの光と影(メディチ家のフィレンツェ)」中央公論 96(9),1981 年。)
(*)(参考：澤井勇「中庸の世界：ペイターのボッティチェルリ論について」実践女子大学文学部記異様 23,1981 年。)
(*)(参考：佐藤三夫「ペトラルカの「ヴァントー山登攀」について」イタリア会誌 30,1981 年。)
(*)(参考：大出哲「提題 ペトラルカとクザーヌスにおけるヒューマニズム(中世におけるヒューマニズム—後期〈第 29 回中世哲学会大会シンポジウム報告〉)」中世思想研究 23,1981 年。)
(*)(参考：オシノフスキー/小山内道子訳『トマス・モア』御茶の水書房,1981 年。)
(*)(参考：飯沼万里子「メランコリーの構造と分析：シェイクスピアの「トロイラスとクレシダ」について」(平安女学院大学)英学 14,1981 年。)
(*)(参考：森道子「「冬物語」と「アンティゴネ」」大手前女子大学論集 15,1981 年。)
(*)(参考：荒木正純「『十二夜』とオウィディウス」文藝言語研究,文藝篇 6,1981 年。)
(*)(参考：茂手木元蔵「フランシス・ベーコンとセネカ」大正大学大学院研究論集 5,1981 年。)
(*)(参考：武村早苗「ラテン語秘書官としてのミルトンの役割」Asphodel 15,1981 年。)
(*)(参考：松田実矩「ミルトンのラテン詩 Epitaphium Damonis における Pastroral convention と personal note」Kobe miscellany 10,1981 年。)
(*)(参考：C.S.ルイス/大日向幻訳『「失楽園」序説』叢文社,1981 年。)
(*)(参考：佐藤勇夫『坪内逍遙におけるドライデン受容の研究—東洋と西洋における比較文学の原点』北星堂書店,1981 年。)
(*)『仮名草子集成・第 2 巻』(イソップ)東京堂出版,1981 年。
(*)中田敬義原譯・田中秀改訂『Aesop’s fables in spoken Chinese=伊索寓言：イソップものがたり』改訂,永和語学社,1981 年。
(*)河野與一編訳『イソップのお話』岩波少年文庫,岩波書店,1981 年。
(*)『しらゆきひめ：ほか 2 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『みにくいアヒルの子：ほか 3 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『白鳥の王子：ほか 2 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『はだかの王さま：ほか 3 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『おかしの家：ほか 2 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『こうのとり：ほか 3 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『おしゃれなからす：ほか 2 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『おやゆびこぞう：ほか 2 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『こびとのおくりもの：ほか 1 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『はいかぶり：ほか 1 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『小クラウスと大クラウス：ほか 1 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『びんのなかのおばけ：ほか 1 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『マルチンのろうそく：ほか 2 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。

(*)『のばらひめ：ほか 1 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『金のおのぎんのおの：ほか 3 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『長ぐつネコくん：ほか 1 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『金のさかな：ほか 3 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『カーレンちゃん：ほか 1 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『イーダちゃんの花：ほか 2 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『しらゆきひめ：ほか 2 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『雪だるま：ほか 1 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『マッチうりの少女：ほか 2 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『にんぎょひめ：ほか 2 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『のねずみ町ねずみ：ほか 3 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『おもちゃのへいたい：ほか 2 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『のろまのハンス：ほか 3 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『金のがちょう：ほか 3 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)『七ひきの子やぎ：ほか 3 へん』(イソップ)世界の童話,国際情報社,1981 年。
(*)エド・ヤング絵；田中とき子訳『ライオンとねずみ：イソップ童話』えほん・ドリームランド 10,岩崎書店,1981 年。
(*)田嶋一夫「「イソホのハブラス」--イソップ伝---説話の分析から(読む)」日本文学 30(5),30(5),1981 年。
(*)畑山博『イソップ風仙人術入門』冬樹社,1981 年。
(*)(参考：福井研介「ソ連版外国児童文学総集篇—ブランディスの「イソップからロダーリまで」(海外児童文学事情)」日本児童文学 27(3),1981 年。)
(*)(參考：ラ・フォンテーヌぶん；ブライアン・ワイルドスミスえ；わたなべしげおやく『うさぎとかめ』らくだ出版,1981 年。)
(*)飯島利種「河鍋暁斎の作品紹介」浮世絵芸術 67,1981 年。
(*)大野七三「河鍋暁斎—生涯と逸話(1-4)」浮世絵芸術 70,1981 年/74,1982 年/75,76,1983 年。
(*)浮世絵太田記念美術館『河鍋暁斎：生誕 150 年記念』浮世絵太田記念美術館,1981 年。
(*)前田淑「百合若説話研究略史：坪内説から金関説まで(〈特集〉井出恒雄教授退官記念)」香椎潟 26,1981 年。
(*)富来隆「「百合若(ゆりわか)大臣」小考(大分県津江地域特集)」大分大学教育学部研究紀要 人文・社会科学 5(6 特集),1981 年。
(*)鹿野政直「永積安明教授沖縄渡航拒否事件」(百合若)沖縄文化研究 8,1981 年。
(*)海老澤有道「若き日の回顧と感謝(学問的自伝)（異質文化の交流—山本達郎・海老沢有道両教授古稀記念）」アジア文化研究 13,1981 年。
(*)鈴木博「『ヒイデスの導師』の諸問題(2)」滋賀大國文 19,1981 年。)
(*)家入敏光「きりしたん版「サントスの御作業」二本」ビブリア：天理図書館報 76,1981 年。
(*)河野純徳『鹿児島における聖書翻訳：ラゲ神父と第七高等学校造士館教授たち』キリシタン文化研究シリーズ 21,キリシタン文化研究会,1981 年。
(*)関根文之助「聖書日本語訳事始」日本文芸論究 41,1981 年。
(*)藤原暹「洋学の歴史思想(特集・日本人の歴史思想)」季刊・日本思想史 16,1981 年。
(*)伊東多三郎『焚書の研究—近世史の研究 1』吉川弘文館,1981 年。

(*)三橋猛雄「「西国立志編」と「学問のすすめ」」日本古書通信 46(4),1981 年。
(*)宮城千鶴子「「泰西勧善訓蒙」に関する一考察—特に原書との比較を中心として」日本の教育史学 24,1981 年。)
(*)藪禎子「『経国美談』論」国語国文研究 65,1981 年。
(*)鮎澤信太郎『地理学史の研究』原書房,1981 年(←1948 年,愛日書院版。)
(*)赤木昭夫『蘭学の時代』中公新書,昭和 55 年。
(*)富田仁『フランス小説移入考』(フェヌロン)東京書籍,1981 年。
(*)高松敏男『ニーチェから日本近代文学へ』幻想社,1981 年。
(*)中村義一『近代日本美術論争史』求龍堂,昭和 56 年。
(*)池田千代吉「ケーベル先生(上下)」かながわ風土記 48,49,1981 年。
(*)生松敬三「雑誌「思潮」解題」復刻版別冊,1981 年。
(*)三好行雄他編『漱石の人と周辺』(講座夏目漱石,ケーベル)有斐閣,1981 年。
(*)竹山道雄「安倍能成先生のこと」ももんが 12 号,昭和 56 年。
(*)湯浅泰雄『和辻哲郎—近代日本哲学の運命』ミネルヴァ書房,1981 年。
(*)森田弘「日本におけるニーチェ—三島由紀夫の場合」(中央大学ドイツ学会)ドイツ文学(31・32),1981 年。
(*)篠田浩一郎「パルテノンのわが「中世」--三島由紀夫覚書(三島由紀夫とは何であったかた)—(新しい視角からのアプローチ)」國文學 26(9),1981 年。
(*)西脇順三郎『Ambarvalia：西脇順三郎詩集』名著復刻詩歌文学館,日本近代文学館,ほるぷ(発売),1981 年。
(*)多井一雄「「経験」と信仰：森有正における日本人とキリスト教の受容(〈特集〉大正・昭和期における西洋思想の受容と反応)」比較思想研究 8,1981 年。
(*)篠田浩一郎「パルテノンのわが「中世」--三島由紀夫覚書(三島由紀夫とは何であったかか)—(新しい視角からのアプローチ)」國文學 26(9),1981 年。
(*)(参考：川田熊太郎他『原典が語る哲学説の歴史』第 3 版,公論社,1981 年。)
(*)岩手大学人文社会科学部アジア(日本学)研究[室]編『歴史と文化』(エピクロス) 岩手大学人文社会科学部アジア(日本学)研究[室],1981 年。
(*)(参考：樺山紘一「古文書学—近代の学知(新西洋学事始[13])」経済評論 30(7),1981 年。)
(*)(参考：樺山紘一「言語学(新西洋学事始[14])」経済評論 30(8),1981 年。)
(*)(参考：樺山紘一「心理学(新西洋学事始[15,16])」経済評論 30(9,10),1981 年。)
(*)(参考：樺山紘一「詩学—真に人間的たるために(新西洋学事始[17・完])」経済評論 30(11),1981 年。)
(*)(参考：稲垣良典他『知ることと信じること』勁草書房,1981 年。)
(*)(参考：稲垣良典『聖書の中の人間』あかし書房,1981 年。)
(*)(参考：稲垣良典『習慣の哲学』創文社,1981 年(→1997 年,再版。)
(*)(参考：E.ジルソン,Ph.ペーナー著/服部英次郎・藤本三郎訳『アウグスティヌスとトマス・アクィナス』みすず書房,1981 年。)
(*)(参考：徳田直宏「アウグスティヌスの修道制の成立(1-3)ローマ・アフリカ文化交流史に関する宗教的一側面」愛知県立芸術大学紀要 11,1981 年/12,1982 年/13,19843 年。)
(*)(参考：今野國雄『修道院：祈り・禁欲・労働の源流』岩波新書,1981 年。)
(*)(参考：海津忠雄『愛の庭—キリスト教美術探究』日本基督教団出版局,1981 年。)

(*)(參考：今野國雄『西洋中世世界の発展』日本放送出版協会,NHK 大学講座,1981 年。)
(*)(參考：今野國雄『修道院：祈り・禁欲・労働の源流』岩波新書,1981 年。)
(*)(參考：冨原マ弓「前存在説について：ロンバルディア地方の異端カタリ派とオリゲネスとの比較研究」Les Lettres fraÇnaises 1,1981 年。)
(*)(參考：伊藤伊久男「開会の辞(1980 年度[西洋史研究会]大会共通論題報告—教会改革とヨーロッパ世界の展開(中世教会史研究会・西洋史研究会共催)」西洋史研究 10,1981 年。)
(*)前沢伸行・大江善男・平田隆一・松本宣雄・渡部治雄・佐藤伊久男共著『文献解説・ヨーロッパの成立』南窓社,1981 年。
(*)(參考：中村元「川田熊太郎博士を偲ぶ」比較思想研究 8,1981 年。)
(*)(參考：小野誠二「弁証法の歴史的散見(3,4)古代哲学の弁証法(3,4)」(北海学園大学学術研究会)学園論集 38,39,1981 年。)
(*)(參考：信州大学人文学部特定研究研究班編『ヨーロッパ精神史における愛の諸相：特定研究報告書』信州大学,1981 年。)
(*)(參考：飯尾都人訳・註解「ヘルモゲネス「プロギュムナスマタ」--ヘレニズム期中等教育史研究への一資料」広島修大学・人文編 22(2),1981 年。)
(*)(參考：北嶋美雪編『田中美知太郎集』現代の随想 7,彌生書房,1981 年。)
(*)(參考：左近司祥子「万屋の広告とパルメニデース,そしておみくじ」学習院大学言語共同研究所紀要 4,1981 年。)
(*)(參考：樅の木刊行発起人会『樅の木：山本光雄先生の思い出』樅の木刊行発起人会,1981 年。)
(*)(參考：山本光雄『ギリシア・ローマ哲学者物語』再版,角川書店,1981 年。)
(*)(參考：田中美知太郎『プラトン 2,3—哲学 1,2』岩波書店,1981-82 年。)
(*)(參考：R.I.ネトルシップ/岩本光悦訳『プラトンの教育論』法律文化社,1981 年。)
(*)(參考：高橋秀明「遍歴の教師,ホイ・ソピスタイ—紀元前五世紀のギリシア精神史の一断面」史観 104,1981 年。)
(*)(參考：大出晁「アリストテレスの知識論再論—牛田論文に関連して」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 13,1981 年。)
(*)(參考：笹谷満「カルネアデス」山形大学紀要,人文科学 9(4),1981 年。)
(*)(參考：冨原眞弓「DE LA DOCTRINE LA PRÉEXISTENCE：ESSAI DE COMPARAISON ENTRE LES CATHARES LOMBARDS ET ORIGÈNE(1)」Les Lettres Françaises1,1981 年。)
(*)(參考：宮谷宣史『人類の知的遺産 15—アウグスティヌス』講談社,1981 年。)
(*)(參考：E.ジルソン,Ph.ベーナー/服部英次郎・藤本雄三訳『アウグスティヌスとトマス・アクイナス』みすず書房,1981 年。)
(*)(參考：徳田直弘「アウグスティヌスの修道制の成立(1,2)ローマ・アフリカ文化交流に関する宗教的一側面」愛知県立芸術大学紀要 11,1981 年/12,1982 年。)
(*)(參考：竹井成美「アニキウス・マンリウス・セベリウス・ボエティウスとその〈音楽論〉(1,2)」研究紀要 18,1981 年/19,1982 年。)
(*)(參考：小林忠秀「ガッサンディの霊魂論(1,2)」白山哲学 14,1981 年/15,1982 年。)
(*)(參考：前之園幸一郎「ジャンバティスタ・ヴィーコの〈Verum〉と〈Factum〉について」青山學院女子短期大學紀要 35,1981 年。)

(*)(参考：堺慎介「ヴィコ小論(大浦敏弘教授退官記念号)」阪大法学 116・117,1981 年。)
(*)(参考：山下俊介「G.B.ヴィーコの美学(1)」長崎大学教養部紀要,人文科学篇 21(2),1981 年。)
(*)(参考：アイザィアー・バーリン/小池銈訳『ヴィーコとヘルダー：理念の歴史：二つの試論』みすず書房,1981 年。)
(*)(参考：井口正俊「新しい西洋学の可能性(西独通信)」理想 575,1981 年。)
(*)(参考：宇津井恵正「ゲーテの思想詩「世界霊」と自然観」」京都教育大學紀要 A 人文・社会 67,1981 年。)
(*)高松敏男『ニーチェから日本近代文学へ』幻想社,1981 年。)
(*)(参考：輪田稔「「ソクラテス主義」--ニーチェの学問批判論」山口大学教養部紀要 人文科学篇 15,1981 年。)
(*)(参考：清水多吉「全西欧によみがえるニーチェ熱(思想と潮流)」朝日ジャーナル 23(47),1981 年。)
(*)(参考：山本実「運命時代(1-5)時代批判者としてのブルクハルトとニーチェ(1-5)」言語文化研究 7,1981 年/9,1983 年/11,1985 年/12,1986 年/15,1989 年。)
(*)(参考：川畑篤弘「「学生ニーチェとショーペンハウアー」：その出逢い」岡山大学教養部紀要 17,1981 年。)
(*)(参考：井ノ川清「ニーチェとディオニュソス」名古屋工業大学学報 33,1981 年。)
(*)(参考：関塚正嗣「〈論文〉ニーチェにおける主体的真理概念」倫理學年報 30,1981 年。)
(*)(参考：手塚耕哉「「運命と歴史」を読む—ギュムナージウム期ニーチェ考察(1,2)」人文論集 19,1981 年/21,1982 年。)
(*)森田弘「日本におけるニーチェ—三島由紀夫の場合」ドイツ文化 31・32,1981 年。
(*)(参考：石原達二「芸術と認識としての力への意志(1,2)ハイデガーのニーチェ解釈をめぐって」美學 31(4),32(1),1981 年。)
(*)(参考：竹内亨「終末論とニーチェ—西洋的史観のキリスト教的背景とその極限形態」密教文化 134,1981 年。)
(*)森田弘「日本におけるニーチェ—三島由紀夫の場合」ドイツ文化（31・32）,1981 年。
(*)(参考：平山敬二「シラー美学における古典的なるもの(美学会第 32 回全国大会報告)」美學 32(3),1981 年。)
(*)(参考：武安宥「シュライエルマッヘルの道徳教育論」人文論究 30(4),1981 年。)
(*)(参考：長井和雄「シュライエルマッヘル教育学の学説史的意義(教育学説史の諸問題〈特集〉」教育学研究 48(2),1981 年。)
(*)(参考：H.ハム「「〈書評〉シュライエルマッハーの解釈学」ソフィア 29(4),1981 年。)
(*)(参考：北畠知量「ヤスパースのソクラテス・プラトン観」([同朋大学]創立 60 周年記念)同朋大学論叢(44・45),1981 年。)
(*)(参考：R.B.Harris/吉田謙二訳「ディーン・イングの新プラトン主義」文化學年報 30,1981 年。)
(*)(参考：岩田聡「ホーフマンスタールの短編小説について：神話的な世界と死の問題」独語独文学科研究年報 7,1981 年。)
(*)(参考：荻野静男「『パンと葡萄酒』におけるカタパシス」早稲田大学大学院文学研究科紀要・別冊 8,1981 年。)
(*)(参考：W.F.オットー/竹部琳昌訳「ヘルダーリンとギリシャ人」同志社大学外国文学研

究 30,1981 年。)
(*)(参考：野村一郎「ヘルダーリン研究と詩人たちの変遷(ヘルダーリン〈特集〉)」理想 574,1981 年。)
(*)(参考：井口正俊「原生地への帰郷—ヘルダーリンの最期期の詩をどう読むか(特集 ヘルダーリン)」理想 574,1981 年。)
(*)(参考：田中雄次「ヘルダーリンにおけるギリシアと「西欧(ヘスペーリエン)」」熊本大学教養部紀要,外国語・外国文学 16,1981 年。)
(*)(参考：佐々木直之輔「日本におけるヘリダーリン受容—その草創期のあり方」ドイツ文学 66,1981 年。)
(*)(参考：高木昌史「ヘルダーリンにおける讃歌文学の成立(中)ディオニューソス」Walpurgis (1981 年度),1981 年。)
(*)(参考：И.Н.オシノフスキー/小山内道子訳『トマス・モア』御茶の水書房,1981 年。)
(*)(参考：G.W.ナイト/石原孝哉・河崎征俊訳『煉獄の火輪—シェイクスピア悲劇の解釈』オセアニア出版,1981 年。)
(*)(参考：ピーター・ミルワード,石井正之助監修/ルネッサンス研究所編『シェイクスピアとその時代』ルネッサンス双書 11,荒竹出版,1981 年。)
(*)(参考：青木啓治『シェイクスピアの歴史劇—問題と追究』(京都)山口書店,1981 年。)
(*)(参考：石原孝哉「「トロイラスとクレシア」論(2)無限と価値をめぐって」駒沢大学外国語部論集 13,1981 年。)
(*)(参考：小嶋信之「多面体の結晶—シェウイクスピアの「アントンニーとクレオパトラ」試論」第一経大論集 11(1),1981 年。)
(*)(参考：井上正名「「ジュリアス・シーザー」試論—ブルータス論をめぐって」京都工芸繊維大学工芸学部研究報告 人文 30,1981 年。)
(*)(参考：J・ボズウェル/中野好之訳『サミュエル・ジョンソン伝 1』みすず書房,1981 年。)
(*)(参考：山田耕士(幹郎)「シドニー「アルカディア」(初稿)」：(1-5))言語文化論集 2(1),1981 年/3(1,2),4(1),1982 年。)
(*)(参考：松浦暢「ジョン・キーツ(研究の現状と課題)」英語青年 127(3),1981 年。)
(*)(参考：福井嘉彦「エリオットの系譜」獨協大学英語研究 19,1981 年。)
(*)(参考：吉村昭男「Marcus Aurelius(1863)論：M.アーノルドの道徳観」島根大学法文学部紀要,文学科編 4(2),1981 年。)
(*)(参考：神谷美恵子『ヴァージニア・ウルフ研究』神谷美恵子著作集 4,みすず書房,1981 年。)
(*)(参考：木島俊介「モネの庭(アルカディア)・睡蓮の池・ジヴェルニー(印象派・光と影の画家たち)」中央公論 96(12),1981 年。)
(*)(参考：マドレーヌ・ラザール/篠田勝英・宮下志朗訳『ラブレーとルネサンス』文庫クセジュ,白水社,1981 年。)
(*)(参考：ピエール・ミシェル/関根秀雄・齋藤広信訳『永遠普遍の人モンテーニュ』白水社,1981 年。)
(*)儀賀精二「関根秀雄訳「モンテーニュ随想録」」老人福祉 58,1981 年。
(*)(参考：ブーテ・ド・モンヴェル画/伊藤比呂美訳『ラ・フォンテーヌ寓話』白泉社,1981 年。)
(*)(参考：坂本勲「「信仰の堕落」について—ラ・ブリュイエール(開学 35 周年記念号)」

北九州大学文学部紀要[北九州大学]開学 35 周年記念号,1981 年。)
(*)(参考：恩蔵昇「ネルヴァルの夢と人生,そして神話」明治大学大学院紀要,文学篇 18,1981 年。)
(*)(参考：幸崎英男「フローベルとサロメ神話--「エロディアス」の周辺」帝塚山学院大学研究論集 16,1981 年。)
(*)(参考：山県熙「劇作家サルトル(2)「トロイアの女たち」をめぐって」神戸大学文学部紀要 9,1981 年。)
(*)(参考：上田友子「サルトルの「トロイアの女達」の実存主義的特徴」帝塚山短期大学紀要,人文・社会科学編 18,1981 年。)
(*)(参考：小田洋「オリュエントスとカルキティケー人」(鹿児島大学)人文学科論集 16,1981 年。)
(*)(参考：奥村三郎「三つのピグマリオン物語―ショーの「ピグマリオン」を中心に」(大阪市立大学文学部)人文研究 33(5),1981 年。)
(*)(参考：水谷智洋「偽ヘーロドロス作「ホメーロス伝」の研究(1)」比較文化研究 20,1981 年。)
(*)(参考：加藤菊雄訳『セァラ・ティーズデール詩集』(「トロイのヘレン」)研友社,1981 年。)
(*)(参考：長島武之「前 5 世紀アテーナイのクレールーキア」西洋史研究 10,1981 年。)
(*)(参考：新保良明「〈紹介〉D.ヘンニッヒ「L.アエリウス セイアヌス―ティベリウスの支配に関する研究(D.Henning：L.Aelius Seanus,Untersuchungen zur Regierung des Tiberis,1975」西洋史研究 10,1981 年。)
(*)(参考：芝川治「ヘロドロスとクレイステネス」大手前女子大学論集 15,1981 年。)
(*)(参考：久野美奈子「ギリシア人とフェニキア人」(青山学院大学)史友 13,1981 年。)
(*)(参考：和田廣「東ローマの世界と西欧」(木村尚三郎編『西欧と世界』所収,有斐閣,1981 年。)
(*)(参考：平田隆一「ポリスとローマ帝国」古代文化 33(7),1981 年。)
(*)(参考：S.アヴェリンツェフ「変わりゆく古代ギリシア観」社会科学 26,1981 年。)
(*)(参考：芳賀重徳訳「中世英散文「アリストテレスに宛てたアレクサンダー大王の書簡」」秋田経済大学・秋田短期大学論叢 28,1981 年。)
(*)(参考：ミチェル・ド・フランス/榊原晃三訳『古代の冒険王：オデュッセウス,アレクサンドロス大王』冒険者他珍世界史：ラルース版・劇画,タイムライフブックス,インターナショナルブックス事業部,1981 年。)
(*)(参考：大牟田章「歴史のなかのアレクサンドロス像：W.W.タアンと F.シャッヘルマイル」(金沢大学文学部・史学科篇)論集 1(創刊号),1981 年。)
(*)(参考：南川高志「ローマ皇帝セプティミウス・セウェールス像の変遷」西洋歴史 122,1981 年。)
(*)(参考：日台敬一「スエトーニウス皇帝列伝の文献的性格に関する若干の問題」(大阪市立大学)人文研究 33(12),1981 年。)
(*)(参考：土井正興「何がローマ共和政を帝政に移行させたか―R.ギュンター『スパルタクスの蜂起』によせて」歴史学研究 488,1981 年。)
(*)(参考：Kamienki Roman/土井正興[訳解説]「スパルタクス蜂起をめぐる諸問題」専修人文論集 26,1981 年。)

(*)(参考：田村孝「古代奴隷制に関する国際シンポジウムに参加して」歴史学研究 490,1981 年。)
(*)(参考：和田廣「東ローマの世界と西欧」(木村尚三郎編『西欧と世界』所収,有斐閣新書・西洋史 4,1981 年。)
(*)(参考：和田広『ビザンツ帝国：東ローマ 1 千年の歴史』教育社新書・西洋史 A17,教育社,1981 年。)
(*)(参考：杉村貞臣『ヘラクレイオス王朝時代の研究』山川出版社,1981 年。)
(*)(参考:近藤二郎「古代エジプト史年表・地図(古代エジプトへの招待)」中央公論 96(6),1981 年。)
(*)(参考：黒羽茂『歴史学史の構想』南窓社,1981 年。)
(*)(参考：中井浩[室長]訳「〈全訳〉抄録の歴史的発展」情報管理 23(12),1981 年。)
(*)(参考：清水廣一郎「ヨーロッパ：近代南欧(1980 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 90(5),1981 年。)
(*)(参考:森洋「ヨーロッパ:中世西欧 (1980 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雜誌 90(5),1981 年。)
(*)(参考：森洋「ヨーロッパ：中世西欧[続] (1980 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 90(5),1981 年。)
(*)(参考：伊藤貞夫「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1980 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 90(5),1981 年。)
(*)(参考：坂口明「ヨーロッパ：古代：ローマ(1980 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 90(5),1981 年。)
(*)(参考：山本実「革命時代(1-5)時代批判者としてのブルクハルトとニーチェ」言語文化研究 7,1981 年,9,1983 年/11,1985 年/12,1986 年/15,1989 年。)
(*)(参考：下村寅太郎「哲学者のセリバシー」理想 576,1981 年。)
(*)(参考：下村寅太郎「私のブルクハルト」(東海大学文明研究所)文明 33,1981 年。)
(*)沼義昭「〈追悼文〉樺俊雄先生を偲んで」社会学評論 32(2),1981 年。
(*)石関敬三「操山大西祝研究序説—大西と明治の哲学」社会科学討究 31,1981 年。
(*)中村元「川田熊太郎博士を偲ぶ(川田熊太郎博士追悼)」比較思想研究 8,1981 年。
(*)(参考：長倉誠一「自己を完遂する懐疑論と哲学者」[ヘーゲル]哲学年誌 14,1981 年。)
(*)(参考：豊田和二「ペルシア王宮造営と東方ギリシア人—資料からみたギリシア人職人の存在とその状況」西洋史学 121,1981 年。)
(*)(参考：関隆志「パルテノンに関する一考察」西洋古典學研究 29,1981 年。)
(*)(参考：堀内清治・渡辺道治・林田義伸「地中海古代都市の研究(11,12)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部2,計画系5,1981年。)
(*)(参考:堀内清治・渡辺道治・林田義伸・今村幸弘・岸川充「地中海古代都市の研究(13,14,15)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部2,計画系5,1981年。)
(*)(参考：桐敷真次郎「メガロンについて(関東支部研究発表会)」建築雑誌,建築年報,大会論文編1981,1981年。)
(*)(参考：篠野志郎「ビザンチン建築の建築職業名称について(1,2)」学術講演梗概集,計画系56(建築歴史・建築意匠),1980,1981年。)
(*)(参考：Paolo Gualdo/渡辺真弓訳「パオロ・グァルドによるアンドレア・パラディオ伝(アンドレア・パラディオ,特集)—(アンドレア・パラディオ関連文献資

料)」SD 196,1981年。)
(*)(參考 : 都築佑吉「ペイターと建築(1,2)」群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編 31,1981年/32,1982 年。)
(*)(參考 : M.アンドロニコス他/成田十次郎・水田徹訳『古代オリンピック : その競技と文化』講談社,1981 年。)
(*)(參考 : 飯田広夫『西洋医学史』金原出版,1981 年。)
(*)(參考 : パラケルスス/大槻真一郎訳『奇蹟の医書 : 五つの病因について』工作舎,1981年(→1986 年,新装版。)
(*)(參考 : 小栗史朗「ヒポクラテス(460-377 年 BC?)(人と業績)」公衆衛生 44(10),1981 年。)
(*)(參考 : 免取慎一郎「『ヒポクラテス集成』をめぐって(3,4,5) ; プログノシスの問題」山梨大學教育學部研究報告,第 1 分冊,人文社会科学系 32,1981 年/33,1982 年/35,1984 年。)
(*)(參考 : 河村昇「ヒポクラテス「食物について」(1)試訳と訳注」女史栄養大学紀要 12,1981年。)
(*)(參考 : 大槻真一郎「ヒポクラテス医学の一考察(4)体液説の問題」明治薬科大学研究紀要,人文科学・社会科学 11,1981 年。)
(*)清水毅「武庫川女子大学体育科のあり方を古典に学ぶ—プラトンの体育・スポーツ観を中心にして」武庫川女子大学紀要,文学部編 29,1981 年。
(*)(參考 : 長尾重武「パラディオのヴィッラ—プラトン的イデアの幾何学(アンドレア・パラディオ〈特集〉)」SD196,1981 年。)
(*)(參考 : G.E.R.ロイド/安西眞訳「アリストテレースと動物分類学」思想 687,1981 年。)
(*)高階秀爾「美術—アフロディテの贈り物—中古スクーターの次に買った芸術辞典(ブックガイド 81 知の事典)—(ブックガイド—辞書・事典類を中心に)」朝日ジャーナル 23(12),1981 年。
(*)(參考 : 豊田和二「ペルシア王宮造営と東方ギリシア人—資料からみたギリシア職人の存在とその状況」西洋史学 121,1981 年。)
(*)(參考 : 田中実『教師のための自然科学概論』新生出版,1981年。)
(*)(參考 : 樺山紘一「占星術—存在の連鎖の解明(新西洋学事始[8])」経済評論30(2),1981年。)
(*)(參考 : 國分信英「アラビア科学(4)占星術と天文学(1,2)」電気通信大学学報31(1,2),1981年。)
(*)(參考 : 矢島祐利「アル・ハーキムとカイロの学園(アラビア科学研究ノート(5))」科学史研究[第II期]19(136),1981年。)
(*)(參考 : 矢島祐利「セルジューク・トルコの科学(アラビア科学研究ノート(6))」科学史研究[第II期]20(139),1981年。)
(*)茂住実男「天文方における外国語学習法—馬場佐十郎を通して」教育研究25,1981年。
(*)「平田寛先生略年譜・主要著作目録」史観 104,1981 年。
(*)水野祐「平田寛先生に捧ぐ」史観104,1981年。
(*)(參考 : 山本義隆『重力と力学的世界』現代数学社,1981年。)
(*)(參考 : 大森道子「アレクサンダー・フォン・フンボルトとゲーテ : 植物学,地質・鉱物学,運河をめぐって(含 アレクサンダー・フォン・フンボルト年表)」立正大学教養部紀要15,1981年。)
(*)(參考 : 石倉恒之「ウエストフォール著渡辺正雄・小川真理子訳『近代科学の形成』」

文明32,1981年。)
(*)(参考：矢島祐利「アル・ハーキムとカイロの学園：アラビア科学研究ノート(5)」科学史研究・第II期19(136),1981年。)
(*)(参考：矢島祐利「セルジューク・トルコの科学：アラビア科学研究ノート(6)」科学史研究・第II期29(136),1981年。)
(*)(参考：藤澤令夫「科学技術文明の未来像(論壇)」世界425,1981年。)
(*)(参考：家島彦一「チェニジア・ガーベス湾をめぐる漁撈文化：地中海世界を考える」アジア・アフィリカ言語文化研究所通信43,1981年。)
(*)(参考：古川堅治「イサイオスの諸演説にみられるアテナイ市民の財産構成と奴隷制」獨協大学教養諸学研究16,1981年。)
(*)(参考：白石正樹「古代世界における社会契約」創価法学11(2),1981年。)
(*)(参考：G.タイセン/荒井献訳『イエス運動の社会学』ヨルダン社,1981年。)
(*)(参考：山内進「〈研究ノート〉新ストア主義研究の新段階：ギュンター・アーベル著『新ストア主義と初期近代』：倫理学と政治学の領域における近代思想の発展史,とくにその「規律化」の分析に関して」成城法学10,1981年。)
(*)(参考：青木隆「エーゲ海大陸棚紛争」季刊海洋時報20,1918年。)
(*)(参考：高柳俊一「ユートピア学事始め」ソフィア30(4),1981年。)
(*)(参考：佐々木毅『近代政治思想の誕生』岩波新書,1981年。)
(*)(参考：弓削達「“Ubi solitudinem faciunt,・・”『ローマの平和』と現代の平和」歴史評論369,1981年。)
(*)(参考：盛節子「ローマ帝国における対キリスト教迫害の法的根拠」キリスト教史学35,1981年。)
(*)(参考：田中美知太郎・竹本忠雄「対談 失われた国家への畏敬」世界日報8月号,1981年。)
(*)(参考：根本長兵衛「変革の夜明けを迎えたエーゲ海—ギリシャ社会党政権(アテネ報告)」朝日ジャーナル23(45),1981年。)
(*)三橋猛雄「仏蘭西法律書と国法汎論」日本古書通信 46(10),1981 年。)
(*)一柳俊夫「書評 古林祐二著「情報化社会における法史学—古代ギリシア法研究第 4 巻」法制史研究 1981(31),1981 年。)
(*)「古林祐二教授略歴・著作目録(古林祐二教授・芳川俊憲教授古稀記念号)」福岡大学法学論叢 25(2~4),1981 年。)
(*)高田桂一「古林祐二先生の古稀を祝して(古林祐二教授・芳川俊憲教授古稀記念号)」福岡大学法学論叢 25(2~4),1981 年。)
(*)「世良晃志郎先生略歴・著作目録」(東北大学法学会)法学 44(5・6),1981 年。)
(*)(參考：黄迪仁『西洋法制史』博英社,1981 年。)

(*)(参考：佐藤有文『地球外文明の遺産：超古代史の謎』新人物往来社,1982年。)
(*)(参考：佐治芳彦『超古代史入門：石炭紀に遡る地球文明の謎』徳間書店,1982年(→1987年,徳間ブックス版)。)
(*)佐治芳彦他『日本列島史抹殺の謎：偽史組織と教科書改竄』新國民社,1982 年。
(*)吾郷清彦訳『秀真伝：大物主家の日本建国史』増補改訂版,歴史と現代社,1982年。
(*)小谷部全一郎『日本及日本國民之起原:古代日本人は希伯来人也(上下)』炎書房,1982年(→→1986年,新版。←1929年,1933年,厚生閣刊。)

(*)北杜夫『マンボウ響躁曲：地中海・南太平洋の旅』文春文庫,文藝春秋,1982年。
(*)(参考：野外歴史地理学研究会編『古代地中海の旅』ナカニシヤ出版,1982年。)
(*)(参考：木村尚三郎『ヨーロッパ文化史散歩』音楽之友社,1982年。)
(*)(参考：ジョルジオ・P.バニーニ原著/ジャパン・エディトリアル・センター編『地中海世界』図説自然と人間の歴史12,小学館,1982年。)
(*)(参考：樺山紘一『地中海の誘惑』ティビーエス・ブリタニカ,1982年。)
(*)塩野七生『イタリア遺聞』新潮社,1982年(→1994年,新潮文庫版)。)
(*)(参考：エーミル・ブルンナー著/川田殖・川田親之訳『キリスト教と文明の諸問題』現代キリスト教倫理双書,新教出版社,1982年。)
(*)結城了悟『ローマを見た 天正少年使節』日本二十六聖人記念館(長崎),1982年。
(*)村松仙太郎「聖地私観」(『光と陰のエルサレム』所収,草思社,1982年。)
(*)(参考：藤岡謙二郎監修『古代地中海の旅』ナカニシヤ出版,1982年。)
(*)桜田精一『桜田精一素描展：アドリア海からブルージュの旅』日動画廊,1982年。
(*)田中隆尚『へらす宵宴(上の巻)』檸檬社,近代文藝社(発売),1982年。
(*)田中隆尚『へらす宵宴(上の巻,下の巻)』乙骨書店,1982年。
(*)三島由紀夫『アポロの杯』新潮文庫,新潮社,1982年。
(*)棚橋紫水『エーゲ海紀行』棚橋紫水,1982年。
(*)守屋多々志・絵と文『イタリア紀行』朝日新聞社,1982年。
(*)(参考:金子史朗『旧約聖書とエーゲ海の大異変』胡桃書房,1982年(→1983年,星雲社[発売])。
(*)楠見千鶴子『エーゲ海の光と罠：私のギリシア紀行』ブロンズ社,1982年。
(*)坂齋まち子『エーゲ海岸の町に暮らして』じゃこめてい出版,1982年。
(*)『武田範芳展：再び、エーゲ海へ』名古屋三越美術部,1982年。
(*)池田満寿夫『エーゲ海に捧ぐ』14版,角川文庫,角川書店,1982年。
(*)『芥川賞全集11』(池田満寿夫「エーゲ海に捧ぐ」)文藝春秋,1982年。
(*)(参考：村田数之亮「エーゲ海文化圏—クレタ・ミケネ・ギリシア文明」史林65(4),1982年。)
(*)釜本実佐子「釜本実佐子の旅(3,4)ギリシア・エーゲ海の旅(1,2)」トランスポート32(1,2),1982年。
(*)児玉義幸「短期連載 エーゲ海の島々を訪ねて(1)クレタ島への長い道のり」(日本離島センター広報課)しま27(2),1982年。
(*)児玉義幸「短期連載 エーゲ海の島々を訪ねて(2)古代と現代の混淆する島クレタ島逸聞」(日本離島センター広報課)しま27(3),1982年。
(*)児玉義幸「短期連載 エーゲ海の島々を訪ねて(3・最終回)歴史に息づく島びとの心を見た」(日本離島センター広報課)しま27(4),1982年。
(*)「日本のエーゲ海」サンデー毎日61(33),1982年。
(*)(参考：Gilbert Murray/岩本光悦子訳「ギリシア文明と現代社会」山口大学教養部紀要,人文科学篇,21,1982年。)
(*)寺山修司『寺山修司全詩集』(塚本邦雄「アルカディアの魔王：寺山修司の世界」)沖積舎,1982年(→1983年,現代佳歌人文庫3,国文社版)。
(*)(参考：太田秀通『ギリシアとオリエント』東京新聞出版局,1982年。)
(*)(参考：カミェニックロマン/土井正興[訳解説]「スパルタクスとシチリア」専修史学14,1982 年。)

(*)北川三晴等編『遙かなるビザンチン：原勲先生を偲んで』(出版社不明),1982年。)
(*)(参考：ゴーチェ/田辺貞之助訳『死霊の恋；ポンペイ夜話；他三篇』岩波文庫,1982年。)
(*)(参考 : 青柳正規「発掘調査の方法(西洋建築史研究の方法論)」建築雑誌97(1200),1982年。)
(*)(参考 : 米倉二郎「北イタリアベネト平野におけるローマケントゥリアの遺構」地図20(3),1982年。)
(*)(参考：並木浩一『旧約聖書における社会と人間：古代イスラエルと東地中海世界』教文館,1982年。)
(*)(参考：金子史朗『アトランティス：失われた楽園伝説』胡桃書房,1982年。)
(*)(参考：マリー・エレン・カーター/自然法研究会訳『エドガー・ケイシーの予言：アトランティスの教訓』たま出版,1982年。)
(*)(参考：スタンダール/臼田紘訳「1817年のローマ・ナポリ・フィレンツェ」跡見学園短期大学紀要・別冊2,1982年。)
(*)(参考：井上義夫「『アレキサンドリア四重奏』の構成」一橋論叢88(6),1982年。)
(*)(参考：『Songs and dances of Greece』民族音楽ライブラリー,Seven Seas,King Record [ditributor],1982年。)
(*)(参考 : 高橋和久「ヴァージニア・ウルフ(研究の現況と課題)」英語青年127(11),1982年。)
(*)(参考：野上素一「フィレンツェと外国人作家」(実践女子大学)実践英文学22,1982年。)
(*)船橋靖雄「フィレンツェの夕暮れ—私のイタリア紀行」世界週報63(3),1982年。
(*)(参考：木島安史・清水亮三・両角光男・堀内清治「926 移動の便利さに着目した古代都市ポンペイの中心について(建築史・建築意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部2,計画系26,1982年。)
(*)(参考：渡辺道治「13 街区割りに用いられた規準尺度：ポンペイ新市街の場合(歴史・意匠)」研究報告集 計画系53,1982年。)
(*)(参考：日高健一郎「コンスタンティノポリスの成立—6世紀までの都市形成史(イスタンブールの都市と建築—ビザンチンからバロックまで)」SD212,1982年。)
(*)(参考：三宅理一「イスタンブール—街と生活(イスタンブールの都市と建築—ビザンチンからバロックまで)」SD212,1982年。)
(*)(参考：Turgut Ovuc/三宅理一訳「イスタンブール—歴史と都市構造(イスタンブールの都市と建築—ビザンチンからバロックまで)」SD212,1982年。)
(*)(参考 :「年表(イスタンブールの都市と建築—ビザンチンからバロックまで)」SD212,1982年。)
(*)(参考 :「[イスタンブール歴史地図](イスタンブールの都市と建築—ビザンチンからバロックまで)」SD212,1982年。)
(*)(参考 :「主要建築[ハギア・ソフィア他11点](イスタンブールの都市と建築—ビザンチンからバロックまで)」SD212,1982年。)
(*)(参考：大村幸弘「アナトリア考古学における行政発掘調査」オリエント25(2),1982年。)
(*)(参考：岩崎巴人「自然への回帰—ボード・ガヤーの古代文明」古美術62,1982年。)
(*)(参考：国信浩洋「『われもまたアルカディアに』：Goethe のGriechentumについての一考察」日本医科大学基礎科学紀要2,1982年。)
(*)松本零士・中正之「わが青春のアルカディア—松本零士インタビュー」キネマ旬報841,1982年。
(*)森敦「月山抄(6)アルカディア」文芸21(11),1982年。

(*)(参考 : 山本力也「文化史と絵画—主にブルクハルトの方法によせて」愛知学院大学論叢・一般教育研究30(1),1982年。)
(*)(参考 : 大村幸弘「アナトリア考古学における行政発掘調査」オリエント25(2),1982年。)
(*)(参考 : ジェームズ・ヘリオット/小沢瑞穂訳,ロバート・J.フィッシュ/本田正訳,ロバート・キンメル・スミス/中野淑子訳,ドロシー・ギルマン/貝瀬千章訳『パパになったヘリオット先生 ; トロイの黄金 ; セイディお婆さんは縁結びの天才 ; わたしは殺される・・・』世界ベストブックス,日本リーダーズダイジェスト社,1982年。)
(*)(参考 : アーノルド・C.ブラックマン/衣笠茂訳『古代への夢 : トロヤに憑かれたた男シュリーマン』社会思想社,1982 年。)
(*)(参考 : 『シュリーマン』まんが偉人物語3,国際情報社,1982年。)
(*)(参考 : フェリックス・コクロー/酒井伝六訳『ナポレオン発掘記』教養選書47,法政大学出版局,1982年。)
(*)(参考 : 前嶋信次『シルクロード史上の群像 : 東西文化交流の諸相』誠文堂新光社,1982年。)
(*)(参考 : 前嶋信次『文化の東西交流 : 東西文化交流の諸相』誠文堂新光社,1982年。)
(*)(参考 : 前嶋信次『東西物産の交流) : 東西文化交流の諸相』誠文堂新光社,1982年。)
(*)(参考 : 前嶋信次『民族・戦争 : 東西文化交流の諸相』誠文堂新光社,1982年。)
(*)(参考 : 相馬隆『絹の道を西へたどる : 安息隊商歴程考』限定版,東京新聞出版局,1982年。)
(*)(参考 : 水田徹「“リアツェのブロンズ”の図像解釈並びに作者比定」東京学芸大学紀要,第2部門,人文科学33,1982年。)
(*)(参考 : 山田智三郎「大人のための西洋美術史(18-21)ローマ美術(1-4)」芸術新潮33(2-5),1982年。)
(*)「美術の流れ/西洋美術史・事典,日本美術史・事典,古代-奈良,平安-鎌倉,室町-江戸,明治-戦前,朝鮮・中国・インド・イスラーム,ギリシア・ローマ,ビザンチン・ロマネスク・ゴシック,ルネサンス,バロック・ロココ,十九世紀・印象派を中心に,アール・ヌーヴォー—象徴主義(美術の本555冊〈特集〉)」美術手帖498,1982年。
(*)(参考 : 杉浦明平・鈴木杜幾子執筆『ボッティチェルリ』カンヴァス世界の大画家4,中央公論社,1982年。)
(*)(参考 : 澤柳大五郎『ギリシア美術襍稿』美術出版社,1982年。)
(*)(参考 : 澤柳大五郎「ギリシアの花瓶」Spazio26,1982年。)
(*)小黒庸光編「澤柳大五郎先生執筆目録鈔」(出版者不明),1982 年。
(*)澤柳[大五郎]先生古稀記念論文集編集委員会編『アガルマ』澤柳先生古稀記念美術論文集』同朋舎出版,1982年。
------ 福部信敏「パルテノン神殿フリーズと本尊台座浮彫との関係」
篠塚千恵子「戦士の遺骸運搬の図」
中山典夫「原作の魅力」
西山重徳「クワットロチェントにおける絵画と彫刻の比較論」
三神弘彦「『アレキサンダー』=レオナルド説序説」
(*)(参考 : 山田智三郎「大人のための西洋美術史(17)エトルスキの美術」芸術新潮33(1),1982年。)
(*)(参考 : 山田智三郎「大人のための西洋美術史(18-22)ローマの美術」芸術新潮33(2-5,9),1982

年。)
(*)(参考:山田智三郎「大人のための西洋美術史(23,24)ビザンティン美術」芸術新潮33(10,11),1982年。)
(*)「美術の流れ/西洋美術史・事典,日本美術史・事典,古代—奈良,平安—鎌倉,室町—江戸,明治—戦前,朝鮮・中国・インド・イスラーム,ギリシア・ローマ,ビザンティン・ロマネスク・ゴシック,ルネサンス,バロック・ロココ,十九世紀・印象派を中心に,アール・ヌーヴォー・象徴主義(美術の本555冊,特集)」美術手帖498,1982年。
(*)森田義之「岡倉天心の「泰西美術史」講義の検討」茨城大学五浦文化研究所報9,1982年。
(*)饗庭孝男「和辻哲郎(2)「古寺巡礼」と「日本古代文化史」」理想592,1982年。
(*)饗庭孝男「和辻哲郎(3)「原始キリスト教の文化史的意義」と「原始仏教の実践的哲学」」理想594,1982年。
(*)饗庭孝男「和辻哲郎(4)「風土」」理想565,1982年。
(*)京都大学中央アジア学術調査隊『ガンダーラ遺跡の調査:1980年度中央アジアの考古学的調査』京都大学中央アジア学術調査隊,1982年。
(*)(参考:岸辺成雄『古代シルクロードの音楽—正倉院・敦煌・高麗をたどって』講談社,1982年。)
(*)(参考:篠山紀信写真・文『トルコ・ギリシア・イタリア;イスタンブールからヴァチカンへ』篠山紀信シルクロード8,集英社,1982年。)
(*)(参考:浅野和生「「マクシミアヌスの司教座」装飾についての一考察:(美学会第33回全国大会報告)」美学33(3),1982年。)
(*)(参考:浅野和生「「マクシミアヌスの司教座」装飾に関する一考察」美学33(4),1982年。)
(*)(参考:吉沢五郎『トインビー』Century books 人と思想69,清水書院,1982年(→2015年,新装版)。)
(*)(参考:奥村家造「トインビーとベルグソン(立命館大学創設80周年記念文学部論集)」立命館文學(439~441),1982年。)
(*)有坂隆道編『日本洋学史1982年。』の研究6』所収,創元社,1982年。
----- 上田穣「洋風文化の受容と伝播」
山崎彰「蘭学成立の思想的前提とその歴史的意義について」
(*)(参考:「アイザィア・バーリン著小池[ケイ]訳「ヴィーコとヘルダー—理念の歴史:二つの試論」(紹介)」史林65(1),1982年。)
(*)(参考:鈴木一郎「比較文明論の主題としての馬の役割」国際関係学研究9,1982年。)
(*)(参考:鯖田豊之『生と死の思想:ヨーロッパ文明の核心』朝日選書,朝日出版社,1982年(→2005年,オンデマンド版,デジタルパブリッシング[発売]。)
(*)(参考:田中英道「自画像と本当の顔—西洋自画像概史(画家の自画像—ウフィツィ美術館秘蔵 特集)」芸術新潮33(3),1982年。)
(*)(参考:中江彬「ミケランジェロ作「聖ペテロの磔刑」の構図について」大阪府立大学紀要,人文・社会科学30,1982年。)
(*)(参考:『シルクロード歴史地図』新時代社,1982年。)
(*)(参考:日本イスラム協会・嶋田襄平・板垣雄三・佐藤次高監修『イスラム事典』平凡社,1982年。)
(*)『近代日本哲学思想家辞典』(「翻訳文献リスト」)東京書籍,1982年。
(*)『原色浮世絵大百科事典・第2巻—浮世絵師』大修館書店,1982年。

(*)松下貞三『漢語「愛」とその複合語・思想から見た国語史』あぽろん社,1982年。
(*)柳父章『翻訳語成立事情』岩波新書,1982年。
(*)阿知波五郎「蘭日辞典の編纂とオランダ語学の躍進—海上随鷗と藤林普山を中心として」(『近代日本の医学』所収,思文閣。)
(*)(参考：モーリス・W.M.ポープ著/唐須教光訳『古代文字解読の物語』新潮社,1984 年。)
(*)(参考：竹部琳昌「イロニーの意味と歴史—古代文献における(1-4)」同志社外国文学研究 31,1982 年/35,36,1983 年/37・38,1984 年。)
(*)(参考：逸身喜一郎「韻律の分類法」教養学科紀要 15,1982 年。)
(*)(参考：青山照男「「部分の形容詞」--古典ラテン語と現代英語を例にとって」(弘前大学教養部)文化紀要 16,1982 年。)
(*)(参考：松岡洸司「中世期におけるラテン語の翻訳—アルバレス・ラテン文典を中心に(ことば・日本語・外国語〈特集〉」ソフィア 31(2),1982 年。)
(*)(参考：松田実矩「Milton の Lycidas 及びラテン語の語末における故人の Apotheosis とその由来」The Albion 28,1982 年。)
(*)(参考：中山恒夫「カトゥルルスの詩論—アレクサンドリア派の文学理論とローマ的美学」(大阪大学言語文化部)言語文化研究 8,1982 年。)
(*)(参考：篠崎三男「アエネアス=タクティクスの「ポリオルケーティカ」をめぐる研究動向」(東海大学)バルカン・小アジア研究 8,1982 年。)
(*)新倉俊一『西脇順三郎全詩引喩集成』筑摩書房,1982 年。
(*)西脇順三郎編『ギリシア語と漢語の比較研究ノート[大学ノートの写真版複製]』西脇順三郎先生の米寿を祝う会,開明書院[発売],1982 年。
(*)三神勲「「ギリシャ語と漢語の比較研究ノート」のこと(西脇順三郎氏追悼)」英語青年 128(7),1982 年。
(*)(参考：緒方富雄『語原ギリシア語法：医学術語の語原の理解と製作に必要なギリシア語法の知識』復刻,医歯薬出版,1982 年。)
(*)(参考：久保正彰他『語学文學論文集(7)』(久保正彰「歴史叙述における偶然的要素『ピュロス戦記』をめぐって」,片山英男「Miscellanea 研究」)東京大學文學部研究報告 7, 東京大學文學部研究報告刊行委員會,1982 年。)
(*)(参考：竹島俊之「古典ギリシア語における主観的語順と客観的語順について」(西日本言語学会)ニダバ 11,1982 年。)
(*)(参考：久保田周『ギリシア語聖句解説百講集』松江協同基督教会,1982 年。)
(*)(参考：久保田周『新約聖書ギリシア語文法』いのちのことば社,1982 年。)
(*)(参考：片岡孝三郎『ラテン語文法』ロマンス語言語学叢書 2,朝日出版社,1982 年。)
(*)(参考：今道友信「修辞学の史的展望(レトリック 特集)」理想 595,1982 年。)
(*)(参考：福本喜之助『フンボルトの言語思想とその後世への影響』関西大学出版局,1982 年。)
(*)(参考：B.スネル著/新井靖一訳『詩と社会：社会意識の起源に対するギリシャ詩人の影響』筑摩書房,1982 年。)
(*)(参考：ポール・リクール/久米博他訳『解釈の革新』白水社,1982 年。)
(*)(参考：エウジェニオ・コセリウ/川島淳夫『文法と論理』(ギリシア語・ラテン語)人間の学としての言語学 3,コセリウ言語学選集,三修社,1982 年。)
(*)(参考：レベッカ・ポズナー風間喜与三訳『ロマンス語入門』大修館書店,1982年。)

(*)(参考 : 壽岳文章『図説 本の歴史』エディター叢書27,日本エディタースクール,1982年。)
(*)徳永康元「本漁りの足あと—南欧の古本屋あるき」日本古書通信47(6),1982年。
(*)京都大学西洋史研究室編『読書会大会五十年の歩み』京都大学西洋史研究室,1982年。
(*)「樺俊雄教授年譜(追悼・樺俊雄教授)」Sociologica6(1),1982 年。
(*)「樺俊雄教授著作目録(追悼・樺俊雄教授)」Sociologica6(1),1982 年。
(*)(参考 : 大島末男「〈論説〉エリアーデの解釈学」同志社アメリカ研究18,1982年。)
(*)(参考 : 高橋誠「D.H.Lawrenceと神話」東京農工大学一般教育部紀要19,1982年。)
(*)(参考 : 戸口日出夫「リルケと神話(1-3)」ドイツ文学33,1982年/(37・38),1984年/(39・40),1985年。)
(*)(参考 : Theo Angehlopoubs・四方田犬彦・出口丈人「英雄神話と映像美学「アレクサンダー大王」--テオ・アンゲロプロスは語る」ユリイカ14(4),1982年。)
(*)(参考 : イヨルゴス・セオトカス/鈴木敦也・八木橋正雄訳『魔神』私家版,1982年。)
(*)豊田有恒『神々の黄昏 : オリンポス・ウォーズ』集英社,1982年。
(*)(参考 : ギラン＆フェリックス/中島健訳『ギリシア神話』青土社,1982年。)
(*)(参考 : 高橋睦郎著・原田維夫絵『イーリアス物語』古典のおくりもの1,ギリシャ神話,三省堂,1982年。)
(*)(参考 : 高橋睦郎著・原田維夫絵『オデュッセイア物語』古典のおくりもの 2,ギリシャ神話,三省堂,1982 年。)
(*)(参考 : 吉田敦彦『ギリシア・ローマの人間 人間に似た神様たち』世界の神話 3,筑摩書房,1982 年。)
(*)(参考 : 吉田敦彦「謎と神話—ギリシャ神話に見る」児童心理 36(4),1982 年。)
(*)(参考 : 木村重信『ヴィーナス以前』中公新書,中央公論社,1982 年。)
(*)杉田繁治「木村重信著『ヴィーナス以前』」民博通信 18,1982 年。
(*)(参考 : 吉田秀和「調和の幻想(7)ヴィーナスの思想」海 14(5),1982 年。)
(*)(参考 : 吉田秀和「調和の幻想(11)ヴィーナスの「終末」」海14(9),1982年。)
(*)(参考 : 中山公男「プーシュ—ヴィーナスの魅惑(特集 ロココの三つの旋律)」季刊・みずゑ923,1982年。)
(*)(参考 : 飯塚信雄「プーシュ展—ヴィーナスに化した女性たち[展覧会]」美術手帖498,1982年。)
(*)(参考 : 立野正裕「ムーサイの神話—祝宴の詩人考」明治大学人文科学研究所紀要・別冊(2),1982年。)
(*)(参考 : 青柳正規「「ポセイドーン・モザイク」について」美術史32(1),1982年。)
(*)(参考 : 伊藤均「〈芸術資料紹介〉アルテミシオンのポセイドン像のレプリカ」筑波大学芸術年報1982,1982年。)
(*)(参考 : 我妻和博「「国家」篇におけるギリシア神話の神観念批判の意図について」思索15,1982年。)
(*)(参考 : 丸野稔「プラトンのダイモーンについて--「政治家」と「法律」におけるクロノス神話の場合(早稲田大学創立100周年記念号)」フィロソフィア70,1982年。)
(*)(参考 : 並木浩一『旧約聖書における社会と人間—古代イスラエルと東地中海世界』教文館,1982年。)
(*)(参考 : E.ペイゲルス/荒井献・湯本和子訳『ナグ・ハマディ写本—初期キリスト教の正統

と異端』白水社,1982年。)
(*)(参考：大貫隆「翻訳と解説「ストラスブール・パピルス」」(日本聖書学研究所編『聖書外典偽典』別巻・補遺II所収,教文館,1982年。)
(*)(参考：広河隆一郎『光と影のエルサレム』「光と影のエルサレム」展実行委員会事務局,草思社(発売),1982年。)
(*)(参考：山形孝夫『聖書物語』岩波ジュニア新書56,岩波書店,1982年。)
(*)(参考：半田元夫『血と十字架』荒地出版社,1982年。)
(*)(参考：高柳俊一「キリスト論の伝統—アロイス・グリルマイアーの著書を契機として(現代神学の動向)」カトリック研究41,1982年。)
(*)(参考：『羅馬とヴァチカン』Plurigraf,1982年。)
(*)(参考：手島郁郎講述『使徒行伝講話』全5巻,キリスト聖書塾,1982年。)
(*)(参考：塚本虎二訳『福音書：新約聖書』岩波クラシックス19,岩波書店,1982年。)
(*)(参考：日本基督教団出版局編『使徒行伝』説教者のための聖書講義：釈義から説教へ,日本基督教団出版局,1982年。)
(*)(参考：井上洋治『新約聖書のイエス像』女子パウロ会,1982年。)
(*)(参考：曽野綾子『聖パウロの世界をゆく』講談社,1982年(→1985年,もんじゅ文庫版)。
(*)戸田義雄編『日本カトリシズムと文学：井上洋治・遠藤周作・高橋たか子』大明堂,1982年。
(*)(参考：マシュー・アーノルド/石田憲次訳『文学とキリスト教義：聖書のより良き理解のための試論』あぽろん社,1982年。)
(*)(参考：並木浩一「ホメロス,ウガリト文学,旧約聖書—視覚表現における古代的特色」(国際キリスト教大学)人文科学研究16,1982年。)
(*)饗庭孝男「和辻哲郎(3)「原始キリスト教の文化史的意義」と「原始仏教の実践哲学」」理想594,1982年。
(*)(参考：柴田有「キリスト教のなかの魔術」中央評論162,1982年。)
(*)(参考：柴田有『グノーシスと古代宇宙論』勁草書房,1982年。)
(*)(参考：川田殖「アレクサンドリアのフィロンにおける聖書と哲学—試論的スケッチ(2)」ペディラヴィウム 12,1982 年。)
(*)(参考：金子晴勇『アウグスティヌスの人間学』創文社,1982 年。)
(*)(参考：山田晶「トマス・アクィナスにおける〈レス〉の規定」中世哲学研究 : Veritas 1,1982年。)
(*)山本俊樹編『聖書と英文学をめぐって；神田盾夫博士傘寿記念論文集』ペディラヴィウム会,1982年。
(*)(参考：辻佐保子『古典世界からキリスト教世界へ—舗床モザイクをめぐる試論』岩波書店,1982 年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編『聖ベネディクトとその修道院文化』上智大学中世思想研究所,中世研究 1(創刊号),1982 年。)
(*)(参考：池上俊一「隠修士の精神：十世紀末から十二世紀におけるその歴史的意義」史学雑誌 91(11),1982 年。)
(*)(参考：橋口倫介『中世のコンスタンチノープル』三省堂,1982 年(→1995 年,講談社学術文庫版)。)
(*)(参考：高柳俊一「書評 キリスト—オメガ点：新約聖学よりのシャルダン研究」キリス

ト教文化研究所紀要 1,1982 年。)
(*)(参考：高柳俊一「無神論者の聖書解釈：エルンスト・ブロッホと旧約聖書」キリスト教文化研究所紀要 1,1982 年。)
(*)笹岡友一編『聖書集』教文館,近代日本キリスト教文学全集 14,1982 年。
(*)遠藤周作「日本人におけるイエス像の変化(1-3)」海 14(10),1982 年/15(3,9),1984 年。
(*)市原克敏「遠藤周作—イエス二部作「死海のほとり」「イエスの生涯」(現代文学地図,特集)－(巨大長篇案内—内容と成立)」国文学解釈と鑑賞 47(2),1982 年。
(*)(参考：潮木守一『ドイツの大学：文化史的考察』講談社学術文庫,1982 年。)
(*)(参考：『国際西洋古典学会連合活動要覧』日本学術会議語学・文学研究連絡委員会,国外史料調査 94,1982 年。)
(*)(参考:A.モミリアーノ/柳沼重剛訳『伝記文学の誕生』東海大学出版会,東海叢書,1982 年。)
(*)(参考:桂寿一『文藝復興期からフランス啓蒙期まで』改版,岩波全書,岩波書店,1982 年。)
(*)(参考：早稲田大学哲学会著作刊行会編『岩崎勉ギリシア哲学思想史(上下)』早稲田大学出版会,1982 年。)
(*)(参考：岩崎勉『哲学における救いの問題』東方出版,1982 年。)
(*)(参考：三小田敏雄編『哲学：問題史の試み』八千代出版,1982 年。)
(*)(参考：田中美知太郎『生きることと考えること』彌生書房,1982 年。)
(*)(参考：古田光編『ヨーロッパにおける人間観の研究』(下村寅太郎喜寿記念論文集)未来社,1982 年。)
----古田光「人間学のの展開：人間観の現代的位相」
藤田健治「西欧の人間観と日本人の人間観：比較文化的研究」
澤柳大五郎「古典期アッティカの墓碑浮彫」
廣川洋一「知性と倫理性：初期ギリシアの人間観における」
中野幸次「ヘレニズム期の人間観：シノペのジオゲネスの場合」
秀村欣二「ローマ共和政貴族の人間観：ローマ人の人間観の基本的様相」
下村寅太郎「ルネッサンスの人間観：「芸術家」の成立を中心として」
(*)(参考：信州大学人文学部特定研究研究班編『東・西の文学・思想における愛と死：特定研究報告書』信州大学,1982 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「Poesie としての愛(エロース)--「ギリシア的愛」恣解(少年愛,特集)」現代詩手帖 25(5),1982 年。)
(*)(参考：原正幸「音楽史上の「ピュタゴラス伝説」--その虚像と実像」現代思想10(5),1982年。)
(*)(参考：小野誠二「弁証法の歴史的散見(5)古代哲学の弁証法(5)」(北海学園大学学術研究会)学園論集 40,1982 年。)
(*)(参考：松永雄二「ソクラテスの現在」現代思想10(5),1982年。)
(*)(参考:M.バーニエット/加藤信朗・神崎繁訳「プラトンにおける知覚の文法」思想694,1982年。)
(*)(参考：小池澄夫「「分割法」考案：プラトン後期対話篇への視点」哲學研究47(3),1982年。)
(*)(参考：梅沢馨「アリストテレス年譜」哲学同人誌441(5),1982年。)
(*)(参考：大出晁「論理における原理的なるもの—アリストテレスの所論をめぐって」哲学研究47(4),1982年。)

(*)(参考 : 岩崎允胤『ヘレニズムの思想家』講談社,人類の知的遺産10,1982年(→2007年,講談社学術文庫版)。)
(*)(参考 : 井上正名「ヘレニズム時代の懐疑論—ある懐疑の根拠」京都工芸繊維大学工芸学部研究報告 人文 31,1982 年。)
(*)(参考 : アウグスティヌス著/服部英次郎・藤本雄三訳『神の国(1-5)』岩波文庫,岩波書店,1982 年。)
(*)(参考 : 平田公子「ボエティウスの音楽観—「哲学の慰め」を中心にして」福島大学教育学部論集,人文科学部門 34,1982 年。)
(*)(参考 : 左近司祥子「Logos と Psyche : フィチーノと儀同三司母」学習院大学言語共同研究所紀要 5,1982 年。)
(*)森岡健二「欧米における事物概念の翻訳」(『翻訳』岩波書店,昭和 57 年。)
(*)向坂寛『恥の構造 : 日本文化の深層』講談社現代新書,1982 年。
(*)来栖ひろみ『ヘボン』ニューライフ出版社,1982 年。
(*)土井忠生『吉利支丹論攷』三省堂,1982 年。
(*)『日本英学史資料—日本近世英学史(増補版),日本英学発達史,日本英語雑誌史(重久篤太郎)』名著普及会,1982 年。
(*)(参考 : 村松仙太郎「伝承文芸考(1,2)」(明星大学)研究紀要・人文学部 18,1982 年/19,1983 年。)
(*)新村出訳『イソップ物語』復刻版,日本児童文庫 27,名著普及会,1982 年。
(*)すみさちこ『イソップばなし : 詩集』山脈文庫,1982 年。
(*)星新一『未来いそっぷ』新潮文庫,新潮社,1982 年。
(*)清水良雄『イソップ寓話』改版新編,ニュー・メソッド英文対訳シリーズ,part2,評論社,1982 年。
(*)渡辺和雄訳『イソップ寓話集(1,2)』小学館,1982 年。
(*)イソップ原作『イソップどうわ』世界名作童話全集 2,小学館,1982 年。
(*)浜田廣介文 ; 岩本康之亮絵『イソップ童話』ひろすけ幼年童話 9,集英社,1982 年。
(*)チャールズ・ロビンソン絵 ; 立原えりか文『イソップ童話集』幻の絵本館,立風書房,1982 年。
(*)Eve Tharlet 著/間所ひさこ訳「せみとあり—イソップ物語より」学研ワールドえほん 129,1982 年。
(*)(参考 : 遠藤潤一「いそぽ物語の原典の系統について(1-3)」奈良大学紀要 11,1982 年/12,1983 年/13,1984 年。)
(*)(参考 : 伊波和正「キャクストン版イソップ物語（翻訳および脚註）」沖縄国際大学文学部紀要・英文学科篇 7(1),1982 年。)
(*)光瀬龍『ロン先生の虫眼鏡』(「イソップの唄」)徳間書店,1982 年。
(*)富永壮彦「新イソップ物語(小沢征爾 VS 若杉弘—徹底比較,特集)」音楽芸術 40(11),1982 年。
(*)島正三「『蘭文伊曽保物語』について」(同『天草本伊曽保物語などのこと 別冊』文化書房博文社,1982 年。)
(*)『仮名草子集成・第 3 巻』(イソップ)東京堂出版,1982 年。
(*)福造泰夫「京大本「百合若—生記」(上下)[資料紹介]」芸能史研究 76,77,1982 年。
(*)ジェームズ・T.アラキ「百合草若の物語の由来」(国文学研究資料館編『国際日本文学研

究集会会議録・第 6 回』所収, 国文学研究資料館,1982 年。)
(*)福田晃「諏訪縁起・甲賀三郎の源流—その話型をめぐって」立命館文学(446・447),1982 年。
(*)伊東多三郎『国学と洋学—近世史の研究 2』吉川弘文館,1982 年。
(*)佐藤昌介「洋学の学問的性格をどう規定するか」日本歴史 412,1982 年。
(*)杉本勲『近世日本の学術—実学の展開を中心に』教養選書 42,法政大学出版局,1982 年。
(*)宮本盛太郎「前期鹿子木員信の基礎的研究(1,2)」政治経済史学 194,195,1982 年。
(*)針生清人「明治の論理学(1,2)—清野勉の論理思想」白山哲学 16,昭和 57 年//20,昭和 61 年。
(*)芹川博通「〈研究例会発表要旨〉高楠順次郎の比較文化論：応理性思想と現観性思想」比較思想研究 9,1982 年。
(*)大内三郎「植村正久と柏井園：植村正久年表から」山梨英和短期大学紀要 15,1982 年。
(*)橋本芳契「暁烏敏序説—金沢大学暁烏敏文庫とその思想史的意義」日本海域研究所報告 14,1982 年。
(*)花田圭介「出隆の場合(戦争をくぐったひとびと 主題)—(このひとは戦争をくぐったひとだな,と感じさせるひとは誰か)」思想の科学(第 7 次)21,1982 年。
(*)出かず子編『回想出隆』回想出隆刊行会,1982 年。
(*)山本光雄『生い立ちの記』山本貞子,1982 年。
(*)沖田行司「「六合雑誌」における井上哲次郎」キリスト教社会問題研究 30,1982 年。
(*)秀村欣二「鈴木俊郎さんの仕事」図書 392,1982 年。
(*)今道友信「岩下壯一師の著作について」図書 394,1982 年。
(*)村川堅太郎「私の読書—黎明漫讀の記」図書 400,1982 年。
(*)(参考：飯塚勝久他編『世界観と哲学の原理』東海大学出版会,1982 年。)
(*)田中美知太郎・鹿内信隆「対談 日本人の生き方を見直そう」サンケイ新聞 1/3,1982 年。
(*)インタビュー「ライフワーク「プラトン」に取り組む 田中美知太郎さん」讀賣新聞夕刊 7/19,1982 年。
(*)本だな「田中美知太郎著「生きること 考えること」」東京朝日新聞朝刊 4/9,1982 年。
(*)饗庭孝男「和辻哲郎(1)ニイチェ研究とゼエレン・キェルケゴール」理想 591,1982 年。
(*)山田晶「追憶・山内得立先生のこと」理想 594,1982 年。
(*)酒井潔「追悼・三宅剛一先生を偲ぶ：京都時代の思い出」理想 594,1982 年。
(*)下村寅太郎『煙霞帖』南窓社,1982 年。
(*)今西錦司・下村寅太郎『学問のこころ』ぺりかん社,1982 年。
(*)(参考：ミハイル・バフチン/川端香男里訳『叙事詩と小説』ミハイル・バフチン著作集 7,新時代社,1982 年。)
(*)富士川英郎「訳詩ものがたり(7)平田禿木「近代英詩選」」海 14(7),1982 年。
(*)富士川英郎「訳詩ものがたり(8)竹友藻風「希臘詞花抄」」海 14(8),1982 年。
(*)佐々木満子「「定本 上田敏全集」の編集に提わって—著作年表作成を中心に(書誌索引事例)」書誌索引展望 6(3),1982 年。
(*)澁沢孝輔「現代性の批評家・上田敏」新潮 79(9),1982 年。
(*)沓掛良彦「上田敏とギリシア詩文学--「サッフォの歌集」を中心に」(東北大学)日本文化研究所研究年報 18,1982 年。
(*)佐野晴雄「生田春月編「泰西名詩名訳集」について(1,2,4)その歴史的意義と問題点」山口大学独仏文学 4,1982 年/5,1983 年/6,1984 年。

(*)「西脇順三郎著書目録」日本古書通信 47(8),1982 年。
(*)吉岡実「西脇順三郎アラベスク(追悼)」新潮 79(8),1982 年。
(*)鍵谷幸信「小伝(西脇順三郎氏追悼)」英語青年 128(7),1982 年。
(*)安東伸介「旅人かへらず—西脇[順三郎]先生の肖像(西脇順三郎氏追悼)」英語青年 128(7),1982 年。
(*)藤井昇「寂寥の人(西脇順三郎氏追悼)」英語青年 128(7),1982 年。
(*)吉田精一「西脇[順三郎]先生の追想(西脇順三郎氏追悼)」英語青年 128(7),1982 年。
(*)太宰治『走れメロス：思ひ出』こころの名作図書館,新学社文庫 15,新学社,1982 年。
(*)太宰治『走れメロス』Large print books シリーズ,埼玉福祉会,1982 年。
(*)森敦「月山抄(6)アルカディア」文芸 21(11),1982 年。
(*)(参考：細井敦子「リュシアス作品古写本について(昭和 56 年度海外研究報告[1])」成蹊大学文学部紀要 18,1982 年。)
(*)(参考：細川眞「Romeo and Juliet の構図：Nemesis としての運命とネオプラトニズム的愛のイニシエーション」中京英文学 2,1982 年。)
(*)(参考：水野浩二「観念の「表現生」の問題—ガッサンディのデカルト批判をめぐって」哲学 32,1982 年。)
(*)(参考：野上素一「イタリア学への道(若き日の人と学との出会い(8))」知識 28,1982 年。)
(*)(参考：澤井繁男「『カルダーノ自伝』の研究」イタリア学会誌 31,1982 年。)
(*)(参考：大沢正佳「ダンテ・・ヴィーコ・・ジョイス・・ベケット—若い芸術家の「ウェイク論」(ベケット—意味の不在 不在の意味,特集)」ユリイカ 14(11),1982 年。)
(*)(参考：伊藤博明「マルシリオ・フィチーノにおける哲学と宗教」基督教学 17,1982 年。)
(*)(参考：ブルーノ/清水純一訳『無限,宇宙および諸世界について』岩波文庫,岩波書店,1982 年。)
(*)(参考：『世界文学全集 3—ダンテ』講談社,1982 年。)
(*)(参考：清瀬卓「『鑑』：中世百科全書研究ノート」(ダンテ)イアタリア学会誌 31,1982 年。)
(*)(参考：岡田渥美「イギリス教育史より見たエラスムスとその「キリスト教的ヒューマニズム」」京都大学教育学部紀要 28,1982 年。)
(*)(参考：ブランカ・ヴィットーレ、西本晃二「一、ペトラルカの現代性(中世からルネサンスへ)」イタリア会誌 31,1982 年。)
(*)(参考：ブランカ・ヴィットーレ、郡史郎、池田廉「二、『デカメロン』初期手稿の挿絵(中世からルネサンスへ)」イタリア会誌 31,1982 年。)
(*)(参考：辻茂「新鮮な衝撃!修復なったボッティチェルリ「春」(アート・ニューズ)」芸術新潮 33(8),1982 年。)
(*)(参考：堺慎介「V.クォコにおけるヴィー思想—F.ブランカート著「ロソルジメントにおけるヴィコ」の翻訳的紹介(1)」阪大法学 128,1982 年。)
(*)(参考：J・ボズウェル/中野好之訳『サミュエル・ジョンソン伝 2』みすず書房,1982 年。)
(*)(参考：小林裕「ウォルター・ペーターの「サンドロ・ボッティチェルリ」について」サピエンチア：英知大学論叢 16,1982 年。)
(*)杉浦康平編集『天上のヴィーナス・地上のヴィーナス=Venus〈Urania・Pandemos〉/サンドロ・ボッティチェルリ[原画]』三浦印刷,1982 年。)

(*)(参考：杉浦明平・鈴木杜幾子『ボッティチェルリ』中央公論社,カンヴァス世界の大画家,1982 年。)
(*)(参考：永井三明「中世およびルネサンスにおける商人と文学(中世からルネサンスへ)」イタリア会誌 31,1982 年。)
(*)(参考：阿部史郎訳「〈特別講演〉ボッカチオとヴェネチア」京都産業大学論集・外国語と外国文学系列 9,1982 年。)
(*)(参考：フェディア・アンツェレフスキー/前川誠郎・勝國興監『デューラー；人と作品』岩波書店,1982 年。)
(*)(参考：R.W.チェンバーズ/門間都喜郎訳『トマス・モアの生涯』大和書房,1982 年。)
(*)(参考：Zavala Silvio/山崎カヲル訳「ヌエバ・エスパーニャのサー・トマス・モア—ルネサンスのあるユートピア的冒険」東京経済大学人文自然科学論集 61,1982 年。)
(*)(参考：田村秀夫「ソヴィエトにおける最近のトマス・モア研究の動向」経済学論纂 23(3),1982 年。
(*)(参考：日本シェイクスピア協会編『シェイクスピアの喜劇』(玉泉八州男「シェイクスピアの地中海,あるいは古典喜劇の受容について」)研究社出版,1982 年。)
(*)(参考：横森正彦『シェイクスピア悲劇の家族』旺史社教科書部,1982 年。)
(*)(参考：M.チュート/三好弘訳『シェイクスピア物語』旺史社,1982 年。)
(*)(参考：武田憲一『シェイクスプア悲劇,史劇考』桐原書店,1982 年(→1985 年,続編)。)
(*)(参考：Shakespeare/澤村寅二郎訳註『ジュウリアス・シーザー』研究社訳註シェイクスピア選集,研究社出版,1982 年(初版：昭和 28 年)。)
(*)(参考：細川眞「Romeo and Juliet の構図：Nemesis としての運命とネオプラトニズム的愛のイニシエイション」中京英文学 2,1982 年。)
(*)(参考：甲斐寛美「「トロイラスとクレシダ」--ジャンル論を顧慮して」(武蔵野女子大学英文学会)武蔵野英米文学 15,1982 年。)
(*)(参考：福島昇「愛と偶像崇拝--トロイラスをめぐって」(日本大学英文学会)英文学論叢 30,1982 年。)
(*)(参考：菊池亘「チョーサー「トロイルスとクレセイデ」--発展の一環として(山川喜久男停年退職記念号)」一橋論叢 88(6),1982 年。)
(*)(参考：星野美賀子・佐倉リン子・近藤貴子「チョーサーの「トロイラスとクレシダ」研究(1,2,3)」津田塾大学紀要 14(2),1982 年/15,1983 年/16,1984 年。)
(*)『The Catalogue of Milton library donated by the late Dr.Mituso Miyanishi(1901-1982)』Library, Doshisha Women’s Collegeof Liberal Arts,1982。
(*)(参考：才野重雄『ミルトンの生涯』研究社選書 23,研究社出版,1982 年。)
(*)(参考：高谷修「18 世紀における古典の翻訳について—ホラティウスのオウド(L.V.)を中心に」The Albion 28,1982 年。)
(*)(参考：小林竜一訳「〈翻訳〉K.N.キャメロン「パーシー・ビッシュ・シェリー」」大阪経大論集 150,1982 年。)
(*)(参考：福井嘉彦「エリオットとルイス—現代西欧の神学的衰退」獨協大学英語研究 21,1982 年。)
(*)(参考：渡辺栄太郎「アーノルドの「新ギリシア史」と他の二つの文学批評論」大東文化大学紀要,人文科学 20,1982 年。)

(*)(参考：渡辺栄太郎「マッシュー・アーノルド詩学教授—オックスフォード大学在職の十年」(早稲田大学英文学会)英文学 58,1982 年。)
(*)(参考：東城真造「近代的憂愁にけむる孤高の詩人--A.E.ハウスマンの場合」四国学院大学論集 52,1982 年。)
(*)(参考：竜野武昌「The Dry-as-Dust—A.E.Housman」明星大学研究紀要人文学部 18,1982 年。)
(*)(参考：深沢俊『ヴァージニア・ウルフ入門』北星堂書店,1982 年。)
(*)(参考：G.Gissing/Sanki Ichikawa(ed.with introduction),*The private papers of Henry Rycroft*,復刻版,研究社英文學叢書 3,研究社出版,1982 年。)
(*)(参考：小栗浩『近代ドイツ文学論集(正続)』東洋出版,1982 年。)
(*)菊池栄一「ゲーテ歿後百五十年」比較文學研究 42,1982 年。)
(*)菊池栄一「ゲーテ歿後百五十年によせて」中央公論 97(5),1982 年。)
(*)菊池栄一「わがゲーテ研究をかえりみて(ゲーテ--歿後 150 年記念,特集)」理想 593,1982 年。)
(*)(参考：野原章雄「ゲーテの世界文学理念について」文教大学教育学部紀要 16,1982 年。)
(*)(参考：Strich Fritzt/芦田弘夫訳「ゲーテの「世界文学」の理念」大阪経済法科大学論集 15,1982 年。)
(*)松本零二・中正之「わが青春のアルカディア—松本零二インタビュー」キネマ旬報 841,1982 年。
(*)(参考：国信浩洋「「われもまたアルカディアに!」：Goethe の Griechentum についての一考察」日本医科大学基礎科学紀要 2,1982 年。)
(*)(参考：水野清志「ニチェの倫理思想(7)」紀要 8(1),1982 年。)
(*)(参考：久山秀貞「ニーチェの「デカダンス」に関する考察について」独仏文学語学研究 11,1982 年。)
(*)(参考：平良信勝「ニーチェにおける永劫回帰の世界」琉球大学哲学論集 3,1982 年。)
(*)森田弘「日本におけるニーチェ(2)小林秀雄の場合」ドイツ文学 33,1982 年。
(*)高松敏男・西尾幹二編『日本人のニーチェ研究譜』白水社,ニーチェ全集別巻,1982 年。
(*)佐野春雄「生田長江と生田春月のニーチェ・日本における受容史より(1-3)」山口大学文学会誌 33,1982 年//34,1983 年/35,1985 年/。
(*)佐野春雄「生田長江と生田春月のニーチェ・日本における受容史より(4,5)」山口大学独仏文学 7,1985 年/8,1986 年。
(*)(参考：秋山英夫『今はなめらかに凪いで：あるニーチェ頌』朝日出版社,1982 年。)
(*)(参考：川瀬志貴郎「ニーチェと抒情詩」東海大学紀要 沼津教養部 9,1982 年。)
(*)(参考：圓増治之「哲学における「勇気」--ニーチェの場合」哲学論集 9,1982 年。)
(*)(参考：小笠原由起夫「道徳批判と生の復権—ニーチェのキリスト教批判をめぐって」宗教研究 56(3),1982 年。)
(*)(参考：輪田稔「ニーチェの形而上学批判」東北大学教養部紀要 37,1982 年。)
(*)(参考：小泉進「初期レッシングのセネカ受容」上智大学ドイツ文学論集 19,1982 年。)
(*)(参考：荻野静男「ヘルダーリンの「詩人・天職」におけるアポローン」ヨーロッパ文学研究 30,1982 年。)
(*)(参考：ピエール・ベルトー/竹部琳昌訳「ヘルダーリンとフランス革命」同志社大学外国文学研究 33・34（合併号）,1982 年。)

(*)(参考 : 竹田英尚「ヴィレーの「エセー」研究に対する一小批評(原亨吉教授退官記念号)」Gallia21・22,1982 年。)
(*)(参考 : 『串田孫一哲学散歩 1—懐疑』(モンテーニュ)筑摩書房,1982 年。)
(*)(参考 : 『モンテーニュ』世界文学全集 5,講談社,1982 年。)
(*)(参考 : モンテーニュ著/関根秀雄訳『モンテーニュ随想録』白水社,1982 年。)
(*)(参考 : 関根秀雄・齋藤広信訳『モンテーニュ全集(1-9)』(随想録,旅日記)白水社,1982 年(→1983 年。)
(*)(参考 : アラン・ニデール/今野一雄訳『ラシーヌと古典悲劇』文庫クセジュ,白水社,1982 年。)
(*)岡谷公二「柳田国男とアナトール・フランス」日本民俗学 141,1982 年。
(*)(参考 : 五十野昭夫「カミュの学士論文『キリスト教形而上学とネオプラトニズム』再考」フランス語フランス文学研究 41,1982 年。)
(*)(参考 : 上智短期大学編『女性像 : 過去と現在 : 上智短期大学創立 10 周年記念論文集』(レッシング等) 上智短期大学,)1983 年。)
(*)別宮貞徳「名誉教授訪問記ヨゼフ・ロゲンドルフ先生」ソフィア 31(1),1982 年。
(*)(参考 : 岡道男研究代表『古典古代における伝統の継承と革新』京都大学文学部西洋古典研究室,科学研究費補助金(総合研究 A)研究成果報告書,1982 年。)
(*)(参考 : 久保正彰他『語學文學論文集』東京大学文学部,東京大學文學部研究報告 7/東京大學文學部研究報告刊行委員会編,昭和 56 年。)
(*)(参考 : 前沢伸行「「アキレウスの盾」解読」西洋史研究 11,1982 年。)
(*)(参考 : 『世界古典文学全集 12 : アリストパス』筑摩書房,1982 年。)
(*)(参考 : 高橋睦郎「Poesie としての愛(エロース)--「ギリシア的愛」恣解(少年愛,特集)」現代詩手帖 25(5),1982 年。)
(*)(参考 : 内藤純郎「愛(エロース)について—サッポーとプラトン」横浜市立大学論叢,人文科学系列 33(1),1982 年。)
(*)(参考 : 津野海太郎「P はプラトンの P—演劇ぎらいの演劇(ギリシア悲劇—言語の悲劇 悲劇の言語〈特集〉)—(ロスト・イン・メモリー--「オウディプス」と能」」ユリイカ 14(8),1982 年。)
(*)(参考 : 土屋恵一郎「ロスト・イン・メモリー--「オイディプス」と能(ギリシャ悲劇,言語の悲劇,悲劇の言語 特集)」ユリイカ 14(8),1982 年。)
(*)(参考 : 小此木啓吾「ギリシャ悲劇とフロイト(ギリシャ悲劇,言語の悲劇,悲劇の言語 特集)」ユリイカ 14(8),1982 年。)
(*)(参考 : 山崎哲「〈神〉喪失時代のギリシャ悲劇(ギリシャ悲劇,言語の悲劇,悲劇の言語 特集)」ユリイカ 14(8),1982 年。)
(*)宇野亜喜良「イメージ・イラスト—GREECOLOGY(ギリシャ悲劇,言語の悲劇,悲劇の言語 特集)」ユリイカ 14(8),1982 年。)
(*)(参考 : 渡辺守章・岩淵達治「対話—ギリシア悲劇と現代(ギリシャ悲劇,言語の悲劇,悲劇の言語 特集)」ユリイカ 14(8),1982 年。)
(*)(参考 : 久保正彰「ギリシア悲劇の恩師たち(ギリシャ悲劇,言語の悲劇,悲劇の言語 特集)」ユリイカ 14(8),1982 年。
(*)秋山さと子「永遠の子どもたち—少女漫画とギリシャ悲劇(ギリシャ悲劇,言語の悲劇,悲劇の言語 特集)」ユリイカ 14(8),1982 年。

(*)(参考：高橋英夫「ディオニューソス私感(ギリシャ悲劇,言語の悲劇,悲劇の言語 特集)」ユリイカ 14(8),1982 年。)
(*)(参考：吉沢伝三郎「内的世界の現象論--「悲劇の誕生」の問題性(ギリシャ悲劇,言語の悲劇,悲劇の言語 特集)」ユリイカ 14(8),1982 年。)
(*)(参考：河村錠一郎「〈意味化〉の虚実—ギリシャ悲劇と今日の演劇(ギリシャ悲劇,言語の悲劇,悲劇の言語 特集)」ユリイカ 14(8),1982 年。)
(*)(参考：利光哲夫「回想のリヴィング・シアター—ギリシア悲劇の現代演出について(ギリシャ悲劇,言語の悲劇,悲劇の言語 特集)」ユリイカ 14(8),1982 年。)
(*)(参考：中村真一郎「ギリシア悲劇とインド劇を巡って—古い伊手帖から(ギリシャ悲劇,言語の悲劇,悲劇の言語 特集)」ユリイカ 14(8),1982 年。)
(*)三島由紀夫『殉教』(「獅子—エウリピデスの悲劇「メーデア」に拠る」)新潮文庫,新潮社,1982 年。
(*)(参考：中山恒夫「カトゥルルスの詩論—アレクサンドリア派の文学理論とローマ的美学(中川努,鵜川義之助両教授体感記念)」(大阪大学言語文化部)言語文化研究 8,1982 年。)
(*)(参考：古澤ゆう子「心に喜びを与えるもの—古代ギリシャ詩人とドイツ近代詩人の自然描写における比較」ペディラヴィウム 12,1982 年。
(*)(参考：八木橋正雄『現代のイサドラへ—アンティゴネー,サッフォー詩集』[アンティゴネー,サッフォー詩集の一部編対訳](横浜)八木橋正雄,1982 年。)
(*)(参考：松田実矩「Milton の Lycidas 及びラテン語の語末における故人の Apotheosis とその由来」The Albion 28,1982 年。)
(*)(参考：高岡幸一「Notes sur l’emploi de l’adjectif laetus chez Virgile」(大阪大学)Gallia21/22,1982 年。)
(*)大竹一彦「織田幹雄：古地図の世界」地学雑誌91(3),1982年。
(*)川村博忠「織田幹雄,古地図の世界,講談社」地理科学 37(3),1982 年。
(*)(参考：R.I.ムーア編/中村英勝訳『世界歴史地図』東京書籍,1982 年。)
(*)(参考：ハンス-エーリヒ=シュティーア他原著；E.シュウオルム改著『帝国書院=ウエスターマン社世界歴史地図』帝国書院,1982 年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男他編『標準世界史年表』19 増訂初版,吉川弘文館,1982 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『世界史』新版,山川出版社,1982 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『世界史：教授資料』新版,山川出版社,1982 年。)
(*)(参考：村川堅太郎責任編集『ギリシアとローマ』中公バックス,世界の歴史 2,中央公論社,1982 年。)
(*)(参考：木村尚三郎・西嶋定生・護雅夫他『世界歴史の基礎知識』合本版,有斐閣,1982 年。)
(*)(参考：加藤章・佐藤照雄・波多野和夫編『歴史教育の理論』(太田秀通「地中海世界の成立とギリシア人の歴史意識の転換」)弘文堂,1982 年。)
(*)太田秀通「都立大学三十年(太田秀通教授記念論文集)」人文學報 154,1982 年。
(*)「太田秀通略歴(1981 年 9 月 9 日現在) (太田秀通教授記念論文集)」人文學報 154,1982 年。
(*)沼義昭「〈追悼文〉樺俊雄先生を偲んで」社会学評論 32(2),1982 年。
(*)中西治「樺俊雄先生のこと(追悼・樺俊雄教授)」Sociologica6(1),1982 年。
(*)阿閑吉男「樺俊雄教授を悼む(追悼・樺俊雄教授)」Sociologica6(1),1982 年。
(*)嶋田襄平・佐藤智雄「元本学[中央大学]教授樺俊雄博士の葬儀における弔辞」中央大学

文学部紀要 101,1982 年。
(*)角田文衛(他)「日本西洋史学会第 32 回大会記」西洋史学 126,1982 年。
(*)(参考：『トロイの木馬』まんが世界昔話 13,国際情報社,1982 年。)
(*)(参考 : 新村祐一郎「紀元前 6 世紀後半期スパルタの対外政策」大谷大学研究年報 34,1982 年。)
(*)(参考 : 池田忠正「前 4 世紀初期のギリシア世界とペルシア(1)スパルタ―ペルシア関係とティモクラテス」愛媛大学教養部紀要 15(2),1982 年。)
(*)(参考 : 古山正人「アギスとクレオメネスの改革 : 前 3 世紀後半のスパルタの諸階層と改革の結果」史学雑誌 91(8),1982 年。)
(*)(参考：中井義明「スパルタの不評とスパルタ帝国」文化史学 38,1982 年。)
(*)(参考 : 河底尚吾「論説 古代ギリシアの私の私役奴隷 : アリストパネェスの奴隷たち(1,2)」横浜経営研究 3(1),1982 年/4(1),1983 年。)
(*)(参考：前沢伸行「古代ギリシャ・ローマの「共同体」と奴隷制」(歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題 II-2』所収,青木書店,1982 年。)
(*)(参考：片山佳子「古代末期におけるキリスト教の殉教者崇敬について」(園田学園女子大学)論文集 17,1982 年。)
(*)(参考：『アレキサンダー大王』まんが偉人物語 52,国際情報社,1982 年。)
(*)(参考：成沢和子「『キャンパスピ』とプルターク『アレクサンダーの生涯』」(信州大学医療技術短期大学部)紀要 7(1),1982 年。)
(*)(参考 : 増村保造「あらゆる映画手法を拒否した詩的情念の世界(「アレクサンダー大王」,特集)」キネマ旬報 832,1982 年。)
(*)(参考：楠見千鶴子「ギリシアなお厳寒の政治季節(「アレクサンダー大王」,特集)」キネマ旬報 832,1982 年。)
(*)(参考：佐藤忠男「静かに見守る二０世紀開幕の瞬間(「アレクサンダー大王」,特集)」キネマ旬報 832,1982 年。)
(*)(参考：Anghelopoulos Theo,池澤夏樹「テオ・アンゲロプロスに聞く--「アレクサンダー大王」の解釈をめぐって(「アレクサンダー大王」,特集)」キネマ旬報 835,1982 年。)
(*)(参考：Anghelopoulos Theo,四方太犬彦,出口丈人「英雄神話と映像美学「アレクサンダー大王」--テオ・アンゲロプロスは語る(「アレクサンダー大王」,特集)」ユリイカ 14(4),1982 年。)
(*)(参考 : 四方田犬彦「エッセ・シネマグラフィック(5)竜を殺した人―アンゲロプロス「アレクサンダー大王」(「アレクサンダー大王」,特集)」ユリイカ 14(5),1982 年。)
(*)(参考 : 武満徹,Anghelopoulos Theo「闇のなかの夢の時(14)映画における音と時間--「アレクサンダー大王」をめぐって(「アレクサンダー大王」,特集)」世界 438,1982 年。)
(*)(参考 : 南川高志「マルクス・アウレリウス帝とマルコマンニー戦争」西洋史学 127,1982 年。)
(*)(参考 : 南川高志「セプティミウス・セウエールスとローマ元首政」史林 65(2),1982 年。)
(*)(参考 : 弓削達「“institutum Neronianum”」(東京大学教養部)人文科学紀要 75,1982 年。)
(*)(参考：土井正興「イタリアにおけるスパルタクス蜂起研究をめぐる最近の動向」日伊文

化研究 20,1982 年。)
(*)(参考：那須辰造『ナポレオン：ライオン皇帝』講談社火の鳥伝記文庫,講談社,1982 年。)
(*)(参考：両角良彦『東方の夢：ボナパルト,エジプトへ征く』講談社,1982 年(→1987 年,講談社文庫版。→1992 年,新版朝日選書,朝日新聞社)。)
(*)(参考：井上浩一『ビザンツ帝国』世界歴史叢書,岩波書店,1982 年。)
(*)(参考：北川三晴等編『遙かなるビザンチオン：原勲先生を偲んで』[不明],1982 年。)
(*)(参考：橋口倫介『中世のコンスタンティノープル』人間の世界歴史 5,三省堂,1982 年。)
(*)渡辺金一「塩野七生「海の都の物語」--地中海世界への無限の興味をそそる(思想と潮流)」朝日ジャーナル 24(15),1982 年。)
(*)(参考：塩野七生『イタリア遺聞』新潮社,1982 年。)
(*)青木富貴子「「恋愛は決闘」という塩野七生さん--「イタリア遺聞」を巡って(BOOK PLAZA)」諸君 14(9),1982 年。)
(*)(参考：増田義男「ブルクハルト断章：ブルクハルトと中世」東京医科歯科大学教養部研究紀要 12,1982 年。)
(*)高橋正「前野蘭化『輿地図編小解』について：サンソンと日本の関わり(1)」大阪大学日本学報 1,1982 年。
(*)(参考：村上陽一郎編著『地図で見る世界』別冊「サイエンス」Science Illustrated 13,日経サイエンス社,1982 年。)
(*)(参考：紫野均「ヨーロッパ：近代南欧(1981 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雑誌 91(5),1982 年。)
(*)(参考：関口武彦「ヨーロッパ：中世西欧(1981 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雑誌 91(5),1982 年。)
(*)(参考：中村純「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1981 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雑誌 91(5),1982 年。)
(*)(参考：中村純「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1981 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雑誌 91(5),1982 年。)
(*)(参考：本村凌二「ヨーロッパ：古代：ローマ(1981 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雑誌91(5),1982年。
(*)(参考：後藤篤子「シドニウス・アポリナーリスにおける「ローマニズム」」史學雑誌 91(10),1982 年。)
(*)(参考：松本宣郎「『ヒストリア・アウグスタ』研究について(2)T.D.Barnes,The Source of the Historia Augusta を中心に」(東北大学)歴史 59,1982 年。)
(*)(参考：「[イスタンブール建築地図](イスタンブールの都市と建築—ビザンチンからバロックまで)」SD212,1982 年。)
(*)(参考：青柳正規「発掘調査の方法(西洋建築史研究の方法論〈主集〉」建築雑誌 97(1200),1982 年。)
(*)(参考：天田起雄「歴史的建造物の保存と修復(西洋建築史研究の方法論〈主集〉」建築雑誌 97(1200),1982 年。)
(*)(参考：陣内秀信「都市史研究の方法論(西洋建築史研究の方法論〈主集〉」建築雑誌 97(1200),1982 年。)
(*)(参考：横山正「庭園史の研究をめぐって(西洋建築史研究の方法論〈主集〉」建築雑誌 97(1200),1982 年。)

(*)(参考：上田篤他「建築家が望む西洋建築史研究のあり方(西洋建築史研究の方法論〈主集〉」建築雑誌 97(1200),1982 年。)
(*)(参考：鈴木博之「古代建築史研究の方法論(西洋建築史研究の方法論〈主集〉」建築雑誌 97(1200),1982 年。)
(*)(参考：鈴木博之「イギリスの建築史研究界(西洋建築史研究の方法論〈主集〉」建築雑誌 97(1200),1982 年。)
(*)(参考：日高健一郎「イタリアにおける最近の建築史研究(西洋建築史研究の方法論〈主集〉」建築雑誌 97(1200),1982 年。)
(*)(参考：山口宏「オランダ建築史研究の特質(西洋建築史研究の方法論〈主集〉」建築雑誌 97(1200),1982 年。)
(*)(参考：杉本俊太「西ドイツ建築史研究の特質(西洋建築史研究の方法論〈主集〉」建築雑誌 97(1200),1982 年。)
(*)(参考：川向正人「オーストラリア―戦後のウィーン学派の動向(西洋建築史研究の方法論〈主集〉」建築雑誌 97(1200),1982 年。)
(*)(参考：三宅理一「フランス建築史の研究動向(西洋建築史研究の方法論〈主集〉」建築雑誌 97(1200),1982 年。)
(*)(参考：青山寿夫・片木篤「アメリカ建築史研究の特質(西洋建築史研究の方法論〈主集〉」建築雑誌 97(1200),1982 年。)
(*)(参考：P.A.ミヒェリス著/ジャン・クシディアス仏訳/吉田鋼市訳『建築美学』南洋堂出版,1982 年。)
(*)(参考：渡辺道治「12 ポンペイ新市街地の格子状街区割りについて(歴史・意匠)」研究報告集,計画系 53,1982 年。)
(*)(参考：渡辺道治「13 街区割りに用いられた基準尺度：ポンペイ新市街地の場合(歴史・意匠)」研究報告集,計画系 53,1982 年。)
(*)(参考：渡辺道治「オリンピアのギムナジウムにおけるプロピロンの平面について(建築歴史・建築意匠)」学術講演梗概集：計画系 57,1982 年。)
(*)(参考：木島安史・清水亮三・両角光男・堀内清治「926 移動の便利さに着目した古代都市ポンペイの中心について(建築史・建築意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部 2,計画系 26,1982 年。)
(*)(参考：堀内清治「927 地中海古代都市の研究(16)オリンピア,ゼウス神殿の基礎寸法と柱割り(建築史・建築意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部2,計画系26,1982年。)
(*)(参考：堀内清治「地中海古代都市の研究(16)ポンペイ：商業施設(建築史・建築意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部2,計画系26,1982年。)
(*)(参考：堀内清治・岸川充・石田知久・岸川宏「地中海古代都市の研究(17)ポンペイ：商業施設(建築史・建築意匠)」ポンペイ：商業施設(建築史・建築意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部2,計画系26,1982年。)
(*)(参考：堀内清治・森下修・秋吉勉・松尾佳治・山中康正「地中海古代都市の研究(18)ポンペイ：商業施設(建築史・建築意匠)」」日本建築学会研究報告,九州支部2,計画系26,1982年。)
(*)(参考：堀内清治・北原宏・内海研二「地中海古代都市の研究(19)ポンペイ：商業施設(建築史・建築意匠)」ポンペイ：商業施設(建築史・建築意匠)」ポンペ

イ：商業施設(建築史・建築意匠)」」日本建築学会研究報告,九州支部2,計画系26,1982年。)
(*)(参考：陣内秀信『ヴェネツィアの都市形成史に関する研究』陣内秀信,1982 年。)
(*)(参考：相川浩「ウィトルーウィウスとアルベルティの建築造形に関する主要概念」日本建築学会論文報告集 318,1982 年。)
(*)前野嘉「用と美の迫間で」(エンタシス,伊東忠太。同『日本の建築—明治大正昭和・第 8 巻』所収,三省堂,1982 年。
(*)(参考：三宅理一「神話の終焉—アルバート・シュペアーと 1930 年代建築(なぜ,古典的造形を追い求めるのか[状況への直言]」新建築 57(1),1982 年。)
(*)(参考：草下英明『星の星座伝説集』現代教養文庫,社会思想社,1982 年(→昭和 57 年,10 刷)。)
(*)(参考：杉森陽男『ゼウスの神話：ゼウスの力能と醸造の工程』杉森陽男,1982 年。)
(*)(参考:ジャン・ルージェ/酒井傳六訳『古代の船と航海』教養選書 46,法政大学出版局,1982 年。)
(*)(参考：J.ケプラー/大槻真一郎・岸本良彦共訳『宇宙の神秘』工作舎,1982 年→1986 年,新装版。→2009 年,新装版。)
(*)(参考：小倉金之助・岡邦雄『自然科學史』復刻版,日本資本主義發達史講座2部,岩波書店,1982年。)
(*)(参考：村上陽一郎『科学史の逆遠近法：ルネサンスの再評価』中央公論社,1982 年（→1995 年,講談社学術文庫版)。
(*)(参考：『ガリレオ・ガリレイ』まんが偉人物語 23,国際情報社,1982 年。)
(*)(参考：『コペルニクス』まんが偉人物語 42,国際情報社,1982 年。)
(*)(参考：中村元・伊東俊太郎「人類共存の思想的基盤を探る—古今東西の思想は何を教えるか」エコノミスト 60(2),1982 年。)
(*)(参考：永井博「自然と人間(自然--我らにとってそれは何か〈特集〉)」日本及日本人 1566,1982 年。)
(*)(参考：國分信英「アラビア科学 VI：地理学」電機通信大学学報 33(1),1982 年。)
(*)(参考：國分信英「アラビア科学 V：自然誌」東京通信大学学報 32(2),1982 年。)
(*)(参考：根占献一「フィチーノにおける占星術の問題」イタリア学会誌 31,1982 年。)
(*)(参考：増本新「欧州の傾斜地農業について」(ヘレニズム)農業土木学会誌 50(11),1982 年。)
(*)(参考:マイヤー・シュタイネック,ズートホフ/小川鼎三他訳『図説医学史』朝倉書店,1982 年。)
(*)(参考：K.パレオロゴス/鈴木良徳訳『古代オリンピア英雄伝』ベースボール・マガジン社,1982 年。)
(*)(参考：根占献一「フィチーノにおける占星術の問題」イタリア学会誌 31,1982 年。)
(*)(参考：川田殖「G.E.R.ロイド博士の紹介」ペディラヴィウム 14,1982 年。)
(*)山形敏一「大槻玄沢と小関三英」医譚 53,1982 年。
(*)日本物理学会編『日本の物理学(上下)』東海大学出版会,1982 年。
(*)鳥井裕美子「『三才窮理書』の研究」日蘭学会会誌 7(1),1982 年。
(*)大久保利謙「洋学史家としての呉秀三先生(呉秀三先生没後満 50 年記念)」日本医史学雑誌 28(4),1982 年。

(*)阿知波五郎『近代日本の医学』所収,思文閣,1982 年。
-----「江戸後期の医家と文華—洋学受容期の日本人の知的抱擁力」/「儒学と洋学との相克—蘭学期の思想的限界」/「蘭学の啓蒙期—大槻玄沢を中心として」/「西欧自然観の理解期」
(*)吉田勝彦「幕末の海軍機関における西洋数学の受容」日蘭学会会誌 7(1),1982 年。
(*)(参考 : 高山進「「近代科学論」の諸問題(科学史のすすめ,特集)」日本の科学者 17(1),1982 年。)
(*)(参考 : McC BROOKS Chandler「人間と科学 : 医科学とその歴史」(ヒポクラテス)産業医科大学雑誌 4(1), 1982 年。)
(*)(参考 : 大槻真一郎「医学の父ヒポクラテスの全集に関する写本資料の考察」明治薬科大学研究紀要,人文科学・社会科学 12,1982 年。)
(*)(参考 : Chandler McC.BROOKS「人間と科学・医科学とその歴史」産業医大誌 4(1),1982 年。)
(*)(参考 : 立川昭二「ヒポクラテスにおける απθατασις をめぐって」北里大学教養部紀要 16,1982 年。)
(*)(参考 : 森山徳長「古代ローマ帝国の歯科医学(2) : Celsus 著 De Medicina 歯科医学的記載の翻訳ついて」日本歯科医学史学会会誌 8(4),1982 年。)
(*)(参考 : 森山徳長「古代ローマ帝国の歯科医学(3) : De Medicina の歯科医学的記載の翻訳補遺」日本歯科医学史学会会誌 8(4),1982 年。)
(*)(参考 : 小林雅夫「古典古代の奴隷医師について」科学史研究 第(OxF9C2)期 21,9182 年。)
(*)(参考 : 緒方富雄『語原ギリシア語法 : 医学術語の語原の理解と製作に必要なギリシア語法の知識』医歯薬出版,復刻,1982 年。
(*)(参考 : 緒方富雄『医学のなかのラテン語あれこれ』医歯薬出版,1982 年。)
(*)(参考 : 立川清編『医語の覚え方』国書刊行会,1982 年。)
(*)(参考 : 野口宏「印欧比較言語学から見た医学英語」杏林医学会雑誌 13(1),1982 年。)
(*)(参考 : 大村敏郎「外科史外伝—ルネッサンスから“外科の夜明け”まで(1)ラテン語医学からの曲がり角」臨床医学 37(1),1982 年。)
(*)(参考 : Chandler McC Brooks「人間と科学 : 医科学とその歴史」産業医科大学雑誌 4(1),1982 年。)
(*)(参考 : スーザン・ゾンターグ/富山太佳夫訳『隠喩としての病い』みすず書房,1982 年。)
(*)「故高橋誠一郎会長の葬儀と御経歴」(高橋誠一郎先生追憶記念)浮世絵芸術 72,1982 年。
(*)(参考 : 関曠野『プラトンと資本主義』北斗出版,1982 年(→1996 年,改訂新版)。)
(*)(参考 : 関幸夫「ヒューマニズムと政治—渡辺一夫とエラスムス(上下)(知識人ノート)」前衛482,485,1982年。)
(*)(参考 : 近藤嘉昭「「ギリシアの政治理論—プラトンとその先達」第一章(抄訳)」長崎県立国際経済大学論集16(1),1982年。)
(*)(参考 : 西野基継「初期ギリシア思想におけるディケ(δικη)の思想—マルチン・ハイデッガーとエーリック・ヴォルフ野所説を中心に(1-4)」愛知大学法経論集・法律篇98,1982年/101,103,1983年/104,1984年。)
(*)(参考 : 東山良三「NATO南翼の不安—エーゲ海に波紋描くギリシャとトルコの確執」国防31(3),1982年。)
(*)(参考 : 平田隆一『エトルスキ国制の研究』東北大学 文学博士 乙第3415号,南窓社,1982

年。)
(*)浅香正「平田隆一著「エトルスキ国制の研究」」西洋史学128,1982年。
(*)秀村欣二「平田隆一著「エトルスキ国制の研究」」西洋史研究11,1982年。)
(*)松本宣郎「平田隆一著「エトルスキ国制の研究」」(東北史学会)歴史59,1982年。
(*)(參考：上山安敏「神話の古層(上下)—バハオーフェンの母権制」思想699,700,1982年。)
(*)(參考：玄勝鐘『ローマ法』一潮閣,1982年。)
(*)(參考：佐藤篤士『ローマ法史(1,2)』敬文堂,1982年。)
(*)(參考：田中周友「世界法史の大系」甲南法学22(1~4),1982年。)

(*)田中美知太郎「マルクスは二度死ぬ」諸君!15(7),1983 年。
(*)(參考：鈴木茂「マルクスにおける人間と歴史」(日本哲学会)哲学 33,1983 年。)
(*)内田弘「マルクス読書案内(マルクス死後百年—昔,マルクスがいた 1?)」現代の眼 24(4),
1983 年。)
(*)(參考：鷲田小彌太『哲学の構想と現実—マルクスの場合』白水社,1983 年。)
(*)吾郷清彦『九鬼神伝全書：中臣神道・熊野修験道』新国民社,神道を考える会(発売),1983
年。
(*)吾郷清彦・鹿島昇編『古史古伝大系：神道・倭人・天皇の歴史』歴史と現代社,1983 年。
(*)佐治芳彦他『倭人大航海の謎：偽史シンジケートの謀略』新國民社,1983 年。
(*)木村鷹太郎『世界的研究に基づける日本太古史』復刻版,八幡書店)1983 年。
(*)戸高一成編『木村鷹太郎伝』八幡書店(木村鷹太郎『世界的研究に基づける日本太古史』
復刻版,別冊付録,八幡書店)1983 年。
(*)(參考：加藤九祚・加藤定子編『カラースライド民族生活文化誌』(地中海編,西欧編)衣生
活研究会編,1983-87 年。)
(*)(參考：露木昭美『地中海物語：露木昭美詩集』日本現代新鋭詩人叢書 13,芸風書院,1983
年。)
(*)(參考：谷岡武雄『地中海の都市を歩く』朝日カルチャーV ブックス,大阪書籍,1983 年。)
(*)(參考：矢島文夫『知の辺境：文化のトポロジー』青土社,1983 年。)
(*)太田信幸「「ローマ都市の起源」エイナル・イエシュタード著/浅木正訳」文化史学 39,1983
年。
(*)(參考 : 本城靖久『グランド・ツアー : 良き時代の良き旅』中公新書,中央公論社,1983 年。)
(*)ブルーガイド・ブックス編集部編『ギリシア・エーゲ海』新装第 3 版,ブルーガイド海外
版 22,,実業之日本社,1983 年。
(*)歌一洋「エーゲ海への旅(1-10,12)」新住宅 428,429,430,431,432,433,434,435,436,437,439,
1983 年。
(*)山田純子「エーゲ海の島々の民家」(新住宅社)新住宅 430,1983 年。
(*)(參考：金子史朗『旧約聖書とエーゲ海の大異変』胡桃書房,星雲社(発売)1983 年。)
(*)(參考：リン・フェアファックス/佐藤いずみ訳『エーゲ海/愛の讃歌』セカンドチャンス
アトラブ 24,日本メール・オーダー,1983 年。)
(*)南條範夫『エーゲ海に死す』徳間文庫,徳間書店,1983 年。)
(*)橋本進・渡辺千恵子『長崎に燃えよ,オリンポスの火：車いすの平和の旅』草木文化,1983
年。
(*)(參考 :「愛のメロディ ポール・モーリア・グランド・オーケストラ(「エーゲ海の真珠」)」

レーザーディスク,パイオニア,1983 年。)
(*)(参考：『ギターソロで弾くポール・モーリアの世界』(「オリーブの首飾り」「エーゲ海の真珠」)中央アート出版,1983 年。)
(*)(参考：リン・フェアファックス著/佐藤いずみ訳『エーゲ海/愛の讃歌』セカンドチャンスアトラブ 24,日本メール・オーダー,1983 年。)
(*)秋山亮二「エーゲ海撮影ツアー作品誌上発表」アサヒカメラ 68(10),1983 年。
(*)富村周平「南欧のバカンス」林業技術 497,1983 年。
(*)池澤夏樹「遙かなる都—アレクサンドリア小誌(1)」現代詩手帖 26(1),1983 年。
(*)池澤夏樹「遙かなる都—アレクサンドリア小誌(2)腫れた打身の灰色」現代詩手帖 26(2),1983 年。
(*)池澤夏樹「遙かなる都—アレクサンドリア小誌(3)」現代詩手帖 26(3),1983 年。
(*)池澤夏樹「遙かなる都—アレクサンドリア小誌(4)クレオパトラ・フィロパトール・フィラデルフェス・フィロパトリスまで」現代詩手帖 26(4),1983 年。
(*)池澤夏樹「遙かなる都—アレクサンドリア小誌(5)しかしそれは暖かい詩的な日のことで」現代詩手帖 26(5),1983 年。
(*)池澤夏樹「遙かなる都—アレクサンドリア小誌(6,7)あまりに遠い神までの距離」現代詩手帖 26(6,7),1983 年。
(*)池澤夏樹「遙かなる都—アレクサンドリア小誌(8)「限りなく口論を続ける肥った鳥ども」現代詩手帖 26(8),1983 年。
(*)池澤夏樹「遙かなる都—アレクサンドリア小誌(9)「科学の諸分野を正しく関係づける体系の存在」現代詩手帖 26(9),1983 年。
(*)池澤夏樹「遙かなる都—アレクサンドリア小誌(10)「水売りが泉の歌をうたい,荷車の車軸のきしみが・・・」現代詩手帖 26(10),1983 年。
(*)池澤夏樹「遙かなる都—アレクサンドリア小誌(11)「針の穴から息をしているようだ」現代詩手帖 26(11),1983 年。
(*)前田正明「タイル巡礼(14)イスタンブールから—アテネ,スパルタ,イスタンブール,イズミック」日本美術工芸 533,1983 年。
(*)(参考：井上浩一「ローマ都市からビザンツ都市へ：エフェソスのっぱい」(大阪市立大学文学部)人文研究 35(5),1983 年。)
(*)(参考：クリストファー・ファッグ/鈴木千歳訳・目白ペンの会編『古代ローマ文明』目で見る世界の古代文明シリーズ 3,佑学社,1983 年。)
(*)(参考：陣内秀信「ヴェネツィアの都市形成史に関する研究(建築歴史・意匠)（学位論文要旨）(研究分野別)」建築雑誌・建築年報・活動篇 1983,1983 年。)
(*)(参考：パウル・フリッシャウアー/関楠生訳『楽園(パラダイス)からポンペイまで』河出書房新社,世界風俗史 1,1983 年(→1993 年,河出文庫版。)
(*)(参考：日本テレビ放送網[青柳正規他]『埋没都市ポンペイ：その日何が起ったか NTV スペシャル』1983 年。)
(*)青柳正規「発掘されたもう一つのポンペイ—エルコラーの惨劇(アート・ニュース)」芸術新潮 34(3),1983 年。)
(*)(参考：Ireli Giuseppina/内田俊秀・武谷みなみ訳「イタリアにおける文化財保護—特にポンペイの現状を中心にして」考古学研究 30(3),1983 年。)
(*)(参考：松本克己「クサントスのトートーオン出土の三言語併用碑文とリュキア語研究の

現状---特にその統語構造を中心に」オリエント 26(2),1983 年。)
(*)(参考：Irelli Giuseppina/内田俊秀・武谷なおみ訳「イタリアにおける文化財保護—特にポンペイの現状を中心にして」考古学研究 30(3),1983 年。)
(*)蜷川幸雄「王女メディアの旅—ギリシアで演じたギリシア悲劇」世界 455,1983 年。
(*)(参考：麦倉達生「ハンス・カロッサの『イタリア紀行』について--「ハンス・カロッサについて」補遺(4)」滋賀大学教育学部紀要 人文科学・社会科学・教育科学 33,1983 年。)
(*)(参考：尾田一正「ヴィンケルマンにおける美的規範と歴史的意義」Stufe3,1983 年。)
(*)(参考：新井靖一編訳『ゲーテ古代芸術論集』早稲田大学出版部,1983 年。)
(*)(参考：国分義司「ゲーテの「植物変態論」と「ウィルヘルム・マイスターの修行時代」--「イタリア紀行」を中心に」Litteratura 4,1983 年。)
(*)(参考：小林惺「『山猫』における生と死の連続と非連続：地中海的死生観の一形態」イタリア学会誌 33,1983 年。)
(*)(参考：石橋哲成『ヨーロッパ教育思想史紀行』玉川大学出版部,1983(→1985 年,3 版)。)
(*)(参考：下村寅太郎『ブルクハルトの世界：美術史家・文化史家・歴史学者』岩波書店,1983 年。)
(*)(参考：クリストファ・ファッグ/金光崇子訳『古代ギリシア文明』目で見る世界の古代文明シリーズ 2,佑学社,1983 年。)
(*)(参考:川島清吉『トルコ・ギリシアの古代文明』ユーラシア文化史叢書 12,吉川弘文館,1983 年。)
(*)佐伯泰英『アルハンブラ：光の迷宮風の回廊』集英社,1983 年(→1989 年,徳間文庫,徳間書店)。
(*)(参考：木村尚三郎『ヨーロッパ文化史：伝統と現代』日本放送協会・日本放送出版協会,1983 年。)
(*)(参考：木村尚三郎『カオールの酒壺：歴史へのひとり旅』講談社,1983 年。)
(*)(参考：下村寅太郎『ヨーロッパ遍歴：聖堂・画廊・広場』再版,未来社,1983 年。)
(*)(参考：河島英昭『氷河と蝶：イタリア旅想』筑摩書房,1983 年。)
(*)(参考：京都市美術館編『フィレンツェの祝祭：ルネサンスからバロックまで』フィレンツェ美術展：イタリア姉妹都市からの贈りもの, 京都市美術館,1983 年。)
(*)(参考：京都市美術館編『フィレンツェ市の美術コレクション』フィレンツェ美術展：イタリア姉妹都市からの贈りもの, 京都市美術館,1983 年。)
(*)(参考：土岐新「シチリアに咲いたビザンチンの華(モンレアーレのサンタ・マリア・ラ・ヌォーヴァ大聖堂—モンレアーレ,イタリア 1174(NICE SPACE)」SD222,1983 年。)
(*)(参考：木下章「ビザンチン美術を訪ねて—ユーゴスラビアのマケドニア地方を中心に—ギリシア・イタリア」京都市立芸術大学美術学部研究紀要 28,1983 年。)
(*)(参考：平山郁夫『シルクロード幻想の旅(1-2 巻)』講談社,1983 年。
(*)(参考：平山郁夫『私のシルクロード』岩波グラフックス 12,岩波書店,1983 年。
(*)(参考：横田禎昭『中国古代文化の東西文化交流』考古学叢書 21,雄山閣出版,1983 年。)
(*)上原和「松本清張と古代ペルシャ文化(松本清張・脱領域の眼)—(松本清張と文学)」国文学 解釈と教材の研究 28(12),1983 年。

(*)吉村怜「止利式佛像の源流(澤柳大五郎教授・太田静六客員教授古稀紀念号)」美術史研究 20,1983 年。
(*)(參考：三輪福松『美の巡礼者』時事通信社,1983 年。)
(*)「澤柳大五郎教授略年譜・著作目録(抄)(沢柳大五郎教授・大田静六教授古稀紀念号)」美術史研究 20,1983 年。
(*)高橋栄一「澤柳大五郎先生の古稀の賀に寄す(沢柳大五郎教授・大田静六教授古稀紀念号)」美術史研究 20,1983 年。
(*)福部信敏「澤柳大五郎著「ギリシャ美術雑稿本」(早稲田大学創立 100 周年記念号)」比較文学年誌 19,1983 年。
(*)(參考：クリストファー・ファッグ/金光崇子訳『古代ギリシア文明』目で見る世界の古代文明シリーズ 2,佑学社,1983 年。)
(*)(參考：クリストファー・ファッグ/鈴木千歳訳・目白ペンの会編集『古代ローマ文明』目で見る世界の古代文明シリーズ 3,佑学社,1983 年。)
(*)(參考：大戸千之「ヘレニズム時代における文化変容(1-3)」立命館文學 457-459,1983 年/485・486,1985 年/500,1987 年。)
(*)(參考：聖心女子大学キリスト教文化研究所編『キリスト教美術の誕生と展開：創設 25 周年記念論文集』宗教文化選書, 聖心女子大学キリスト教文化研究所,1983 年。)
(*)(參考：関隆志「国際パルテノン会議(Internationaler Parthenon-Kongress Basel)に出席して」西洋古典學研究31,1983年。)
(*)(參考：関隆志「アクロポリス(アテネ)に見る文化財保護の問題と責任について」人文研究35(12),1983年。)
(*)(參考:水田徹「パルテノン南メトープ,ケンタウロマキー図の原形と現状」美術史学5,1983年。)
(*)(參考:三浦定俊「神々の遺跡を守る化学者たち—パルテノン神殿彫刻の強化保存処置(文化財を化学の眼でみる)」化学と工業36(3),1983年。)
(*)臼井斌男『中近東シルクロードの旅』コロン・ブックス,三修社,1983年。)
(*)小谷仲男・加藤久晴『遙かなるガンダーラ』ユーラシアシルクロード4,日本テレビ放送網,1983年。)
(*)(參考：山本智教「梵天・帝釈天から弥勒・観音へ—ガンダーラ彫刻の図像の動き」密教文化144,1983年。)
(*)瀬戸内寂聴著・黒田一成写真『印度・乾陀羅』美と愛の旅1,講談社,1983年。
(*)鷺坂正「アジアだより(2)インダス文明とガンダーラの国から」通産ジャーナル15(11),1983年。)
(*)小坂国継「和辻哲郎と比較文化の問題」比較思想研究10,1983年。
(*)伊東俊太郎・江上波夫「文明移転」無限大 no.61,昭和 58 年(→昭和 59 年,中公文庫版)。)
(*)(參考：吉澤五郎「比較文明学の思想と方位」宗教と文化7(9・10),1983年。)
(*)(參考：アーノルド・トインビー/秀村欣二・吉沢五郎編『地球文明への視座：トインビー現代論集』経済往来社,1983年。)
(*)(參考：湯田豊「トインビーと宗教(1,2)」(神奈川大学人文学会)人文研究87,88,1983年。)
(*)(參考：鯖田豊之『水道の文化史：西欧と日本』新潮選書,新潮社,1983年。)
(*)(參考：中江彬「金工家チェッリーニ作「ペルセウス」について」大阪府立大学紀要,

人文・社会科学31,1983年。)
(*)(参考：大橋周治『鉄の文明』岩波グラフィックス13,岩波書店,1983年。)
(*)(参考：社会科学習指導研究会編『社会科歴史事典』新版,講学館,1983年。)
(*)(参考：今泉篤男・山田智三郎編『西洋美術辞典』26版,東京堂出版,1998年。)
(*)(参考：日外アソシエーツ編『西洋人物レファレンス事典』日外アソシエーツ,紀伊國屋書店[発売],1983-84 年。)
(*)武内博『来日西洋人名事典』日外アソシエーツ,1983 年。
(*)(参考：中山茂編『天文学人名辞典：天文学年表』恒星社,現代天文学講座・別巻,1983 年。)
(*)(参考：山本直文他編『最新フランス語大辞典』三笠書房,1983 年。)
(*)(参考：馬場嘉市編『新聖書大辞典』第 1 版 6 刷,キリスト新聞社,1983 年(→1984 年,第 1 版 7 刷)。)
(*)(参考：田中美知太郎・山本七平「対談 東西の古典をめぐって」Voice 8 月号,1983 年。)
(*)(参考：土居琢磨「英語聖書とギリシャ語聖書の言語構造—ラテン語聖書との関連において」北九州大学国語学部紀要 59,1983 年。)
(*)(参考：パンヴェニスト/岸本通夫監訳『一般言語学の諸問題』みすず書房,1983 年。)
(*)(参考：増田渉『雑書雑談』汲古書院,1983 年。)
(*)富田仁『フランス語事始—村上英俊とその時代』NHK ブックス,1983 年。
(*)西田龍雄「泉井久之助先生と言語研究」言語研究 84,1983 年。
(*)堀井令以知「泉井久之助先生(1905-1983)」言語研究 84,1983 年。
(*)(参考：松平千秋・國原吉之助『新ラテン文法』第 4 改訂版,南江堂,1983 年。)
(*)(参考：Mari Nagase,‘The Study of Plato’s Texts by the Use of Computer’(東京女子大学) *Essays &Studies* 24,1983.)
(*)茂手木元蔵「大正大学に栄光あれ：決別の辞に代えて」大正大学学報 53,1983 年。
(*)(参考：佐々木毅「マシュー・アーノルドとドイツの教育」新潟大学教育学部紀要,人文・社会科学編 24(2),1983 年。)
(*)向坂寛「ギリシア・ラテン語教育の現状と今後のあり方(大学における外国語教育についての統合的研究)」日本大学人文科学研究所研究紀要 28,1983 年。
(*)柳父章『翻訳学問批判：日本語の構造,翻訳の責任』翻訳の世界選書,法政大学出版局,1983 年。
(*)大沼敏男「「佳人之奇遇」成立考証序説—慶應義塾図書館蔵稿本と刊行本」文学 51(9),1983 年。
(*)小林信行「「平田禿木全著作目録」について(書誌索引事例)」書誌索引展望 7(1),1983 年。
(*)高橋弘「森有正著作目録」紀要 2,1983 年。
(*)(参考：矢島文夫『神の沈黙：神話と伝承のアラベスク』人文書院,1983 年。)
(*)国際基督教大学アジア文科研究所『アジアにおけるキリスト教比較年表 1792[寛政 4]-1945[昭和 20]』創文社,昭和 58 年。
(*)ロマノ・ヴルビッタ「保田與重郎とミルチャ・エリアーデ：東西に於ける永遠回帰の神話論」京都産業大学世界問題研究所紀要4,1983年。
(*)(参考：桝田隆宏「Willa Carter とO.Pioneers’について(1)：キャザーの素材とその展開(2)作品の内容と構成—ギリシア神話との比較の中で」高知大学学術研究報告,人文科学編31,1983年。)
(*)(参考：幸崎英男「「聖ジュリアン伝」試解釈—フローベルとエディプス神話」帝塚山学

院大学研究論集18,1983年。)
(*)(参考：伊藤真奈美「「魔の山」について—神話的傾向を中心に」ドイツ文学研究15,1983年。)
(*)(参考：ジャン・コクトー『戯曲』ジャン・コクトー全集7,東京創元社,1983年。)
(*)(参考：道体章弘「ボードレールの神話思考」東北福祉大学紀要8(1),1983年。)
(*)(参考：小田切光隆「神話の運命—オイディプスとフランス古典悲劇」上智大学仏語・仏文学論集17,1983年。)
(*)(参考：高松雄一「歴史と神話--「ユリシーズ」覚え書(ジョイス,特集)」英語青年・別冊[1983],1983年。)
(*)(参考：泥谷征人「ヒッポクレネの泉を求めて—英詩とギリシャ神話」四国学院大学論集55,1983年。)
(*)(参考：小山田義文「夢・狂気・神話—想像力の根としての(1,2)」英語英米文学23,1983年/24,1984年。)
(*)(参考：編集部編『ギリシア神話ろまねすく』創元OM事典シリーズ,創元社,1983年。)
(*)(参考：ブルフィンチ/野上弥生子訳『ギリシア・ローマ神話』改訂版,岩波クラシックス24,岩波書店,1983年。)
(*)(参考：辻村誠三「神話と「歴史」との間：ホメーロスと古事記」比較思想研究10,1983年。)
(*)(参考：雄谷徹「神話,このカオスモスなるもの」早稲田文学[第8次]88,1983年。)
(*)(参考：赤井敏夫「神話とアレゴリー」英米文学28(1),1983年。)
(*)永田政章「伊予の窯業民俗(1)伊予陶芸の原点—世界最古のやきものとヴィーナスの誕生」セラミックス18(1),1983年。
(*)(参考：高橋睦郎「オルペウスをめぐって—金子国義の世界」美術手帖520,1983年。)
(*)(参考：伊沢東一「プラトン学院のオルペウス—フィチーノの哲学と宗教」拓殖大学論集145,1983年。)
(*)(参考：古沢ゆう子「アダムの罪とオイディプスの見誤り」(木魂社)エポス 8,1983 年。)
(*)(参考：ロマノ・ヴルピッタ「保田與重郎とミルチャ・エリアーデ：東西に於ける永遠回帰の神話論」京都産業大学世界問題研究所紀要4,1983年。)
(*)(参考：日本聖書協会『新約聖書：大活字(上下)』,1983 年(→1985 年,再版。)
(*)(参考：塚本虎二『主の祈りの研究』11 版,聖書知識社,1983 年。)
(*)(参考：松本卓夫『テサロニケ人への第一の手紙に学ぶ』グロリヤ出版,1983 年。)
(*)(参考：R.R.リューサー/加納孝代訳『マリア：教会における女性像』新教出版社,新教新書 204,1983 年。)
(*)(参考：大貫隆「奇跡物語の「素材探し」と「意味探し」(1,2)」聖書と教会 6,7 月号,1983年。)
(*)(参考：河津千代『運命の人々--暴君ネロと母と師』リプリオ出版,1983 年。)
(*)(参考：土岐健治・土岐正策訳『十字架—その歴史的探究』ヨルダン社,1983 年。)
(*)(参考：中村民男・川島貞雄編『歴史のなかのイエス』新教出版社,1983 年。)
(*)(参考：島田四郎『聖言の霊的意義によるルカ福音書講義』全 5 巻,小羊社,1983-1994 年。)
(*)(参考：R.V.G.Tasker 編/岩隈直訳註『使徒行伝(上下)』希和対訳脚註つき新約聖書,1983年。)
(*)(参考：高橋三郎『新稿ロマ書講義(上下)』山本書店,1983-84 年。)

(*)(参考：J.T.マクネイル/高久眞一訳『キリスト教の伝統形成者』木鐸社,1983 年。)
(*)(参考:水垣渉「アレクサンドリアのフィロンにおける能動と受動の問題《to antipeponthos》の概念を中心に(武藤一雄名誉教授古稀記念特別号)」基督教学研究 6,1983 年。)
(*)(参考：塩谷饒『ルター聖書』大学書林,1983 年。)
(*)(参考：塩野七生『サロメの乳母の話』中央公論社,1983 年(→1986 年,中公文庫版)。)
(*)(参考:金澤良樹「ゼノピア」(木村尚三郎編『歴史を作る女たち I』所収,集英社,1983 年。)
(*)(参考：ハリー・トーマス・フランク/秀村欣二・高橋正雄訳『歴史地図と写真で実証する聖書の世界』東京書籍,1983 年。)
(*)(参考：出村みや子「第 9 回国際宗教学研究集会に出席して」宗教研究 57(3),1983 年。)
(*)(参考:豊田浩志「ヴァレリアヌスのキリスト教迫害—ディオニュシオスのヘルマモン宛て書簡をめぐって(2)」(広島大学)史学研究 158,1983 年。)
(*)(参考：島創平「パウロと奴隷解放の問題」史潮 13,1983 年。)
(*)(参考:M.ヘンゲル/長窪専三訳『ユダヤ教とヘレニズム』日本基督教団出版局,1983 年。)
(*)(参考：高柳俊一「キリスト論—教義の形成—アロイス・グルルマイアーの著書を契機にして」カトリック研究 43,1983 年。)
(*)(参考：高柳俊一「〈書評〉ハンス・ヴァルデンフェルス編『神学：根底と学際的領域』」カトリック研究 44,1983 年。)
(*)(参考：常岡晃「ルナンの「イエス伝」と芥川龍之介の「西方の人」について」文学部論叢 11,1983 年。)
(*)小久保実『遠藤周作の世界』和泉書院,1983 年。
(*)遠藤周作『イエス・キリスト』新潮社,1983 年。
(*)遠藤周作『イエスに邂った女たち』講談社,1983 年。
(*)遠藤周作『私にとって神とは』光文社,1983 年。
(*)(参考：松浪信三郎『死の思索』岩波新書,1983 年。)
(*)(参考：泉治典・渡邉二郎編『西洋における生と死の思想』有斐閣,1983 年。)
(*)(参考：J.I.マクネイル/高久眞一訳『キリスト教の伝統形成者』木鐸舎,1983 年。)
(*)松平千秋「第一教室と松蝉」京大広報 262,1983 年。)
(*)高橋英夫「偉大なる暗闇—岩元禎をめぐる人々」新潮 80(13),1983 年。
(*)門脇清・大柴恒『門脇[清]文庫日本語聖書翻訳史』新教出版社,1983 年。
(*)林田明「写本サントスの御作業と版本について」語文論叢 11,1983 年。
(*)保坂忠信「藤村県政に招かれた永田方正とその著書『西洋教草』・第二課担当城山静一・葡萄醸造所指導官大藤松五郎とその周辺」山梨学院大学一般教育部論集 6,1983 年。
(*)海老澤有道『洋楽伝来史：キリシタンから幕末まで』日本基督教団出版局,1983 年。
(*)大塚光信『キリシタン版エソポのハブラス私注』臨川書店,1983 年。
(*)(参考：山本光雄訳『イソップ寓話集』岩波クラシックス,岩波書店,1983 年。)
(*)二宮フサ訳『イソップ寓話(上下)』偕成社文庫,偕成社,1983 年。
(*)野村純一「『伊曽保物語』の受容」国学院雑誌 84(5),昭和 58 年。
(*)遠藤潤一『邦訳二種伊曽保物語の原典的研究(正編/続編/総説)』風間書房,1983,1984,1987 年。
(*)遠藤潤一「いそぽ物語の原典の系統について(2,3)天草本下巻の成立についての補考」

奈良大学紀要 12,1983 年/13,1984 年。
(*)遠田勝「「イソップ伝」の伝承と変容---「アヒカル物語」から「伊會保物語」まで」比較文學研究 44,1983 年。
(*)(参考：伊波和正「キャクストン版イソップ物語：イソップの生涯(翻刻および脚註)」沖縄国際大学文学部紀要・英文学科篇 8(1),1983 年。)
(*)野村夏治「イソップ物語についての一考察」名古屋女子大学紀要 29,1983 年。
(*)富永壮彦「新イソップ物語(小沢征爾 vs 若杉弘—徹底比較〈特集〉)」音楽芸術 40(11),1983 年。
(*)大野七三「河鍋暁斎略年譜」浮世絵芸術 76,1983 年。
(*)(参考：ギュスターブ・ドレ画『図説 ラ・フォンテーヌ寓話』一橋出版,1983 年。)
(*)村上学「百合若大臣」(大曾根章介他編『研究資料 日本古典文学・第 10 巻』所収,明治書院,1983 年。)
(*)James T.Araki“百合草若の物語の由来(The origin of the story of Yurikusa-waka)”Kokusai nihon bungaku kenkyu shukai kaigiroku 6,1983 年。
(*)福田晃「諏訪縁起の成立と展開—甲賀三郎の成長(上下)」立命館文学(460~462,463~465),1983 年。
(*)今堀太逸「甲賀三郎譚の成立背景について(高野山大学における第 34 回[日本印度学仏教学会]学術大会紀要 1)」印度學佛教學研究 32(1),1983 年。
(*)今堀太逸「甲賀三郎譚の成立背景について」印度學佛教學研究 32(1),1983 年。
(*)石黒吉次郎『中世演劇の諸相』桜楓社,1983 年。
(*)石上智康「「雪頂・高楠順次郎の研究」補遺(1)」武蔵野女子大学紀要 18,1983 年。
(*)峰島旭雄「<研究例会発表要旨>現代の比較思想家：岩崎勉・佐藤賢順・北山淳友」比較思想研究 10,1983 年。
(*)有光隆司「[木下]杢太郎とホフマンスタール」上智大学国文学論集 16,1983 年。
(*)鍵谷幸信『詩人西脇順三郎』筑摩書房,1983 年。
(*)角田旅人「「走れメロス」材源考」香川大学一般教育研究 24,1983 年。
(*)(参考：荻美津夫「能とギリシア悲劇との対比について：野上豊一郎「能の主役一人主義」の場合」東洋音楽研究 1983(48),1983 年。)
(*)佐野晴雄「生田春月編「泰西名詩名訳集」について(3)その歴史的意義と問題点」山口大学教養部紀要・人文科学篇 17,1983 年。
(*)石橋秀雄『ヘボン：日本文化の夜明けとなった人』教会新報社,1983 年。
(*)(参考：久保正彰『オデュッセイアー—伝説と叙事詩』岩波セミナーブックス 3,岩波書店,1983 年。)
(*)(参考：森進一「「アンティゴネ」から学ぶもの—一なる普遍者への畏敬」日本及日本人 1570,1983 年。)
(*)高橋睦郎「メディアの国のメディア—「王女メディア」イタリア・ギリシア公演随行記」テアトロ 488,1983 年。
(*)(参考：林ひろみ「ギリシア悲劇とキリスト教悲劇(上代タノ日本女子大学名誉教授 西脇順三郎日本女子大学名誉教授追悼号)」日本女子大学英米文学研究 18,1983 年。)
(*)(参考：前川清太郎『悲劇：その諸相と人間観』神奈川大学人文学研究叢書 1,神奈川新聞社出版局,1983 年。)

(*)(参考：岩崎允胤「アリストパネスの平和思想」文化評論 273,1983 年。)
(*)(参考：細井敦子「リュシアス作品の初期刊本について(昭和 56 年度海外研究報告書[2])」成蹊大学文学部紀要 19,1983 年。)
(*)(参考：野町啓「ギリシア的混合論とクリストロギー—ボエティウスの Opuscula Sacra 5,cap.4-7 の背景に関する一考察」中世思想研究 25,1983 年。)
(*)(参考：高田康成「中世文学と現代批評(特集 ヨーロッパと中世イギリス文学)」英語青年 133(2),1983 年。)
(*)(参考：橋口倫介編『西洋中世のキリスト教と社会：橋口倫介教授還暦記念論文集』刀水書房,1983 年。)
(*)(参考：山下正男『論理学史』岩波書店,岩波全書,1983 年。)
(*)(参考：P.マクシム・シュル/谷川渥訳『想像力と驚異』白水社,1983 年。)
(*)多木浩二「増成隆士「思考の視角を視る」,P.=M.シュール/谷川渥訳「想像力と驚異」--芸術の始源と想像力の回復をはかる知の組みかえ(本からのメッセージ)」朝日ジャーナル 25(32),1983 年。)
(*)(参考：唯物論研究協会編『哲学を学ぶ人のために』白石書店,1983 年。)
(*)(参考：小林雅夫編『哲学を学ぶ人のために：新しい哲学概論』杉山書店,1983 年。)
(*)(参考：小倉志祥教授還暦記念会編『実存と倫理』(ソフィスト)以文社,1983 年。)
(*)(参考：三枝充悳『仏教と西洋思想』比較思想論集 3,春秋社,1983 年。)
(*)(参考：左近司祥子「テレパシーのこと：またはゴルギアースについて」学習院大学言語共同研究所紀要 6,1983 年。)
(*)(参考：林竹二『若く美しくなったソクラテス』田畑書店,1983 年。)
(*)(参考：G.マルティン/久野昭訳『ソクラテス』新装版,ロココ伝記叢書,理想社,1983 年。)
(*)(参考：齋藤忍随『人類の知的遺産 7—プラトン』講談社,1983 年。)
(*)(参考：W.イェーガー/山野耕治訳「プラトンの歴史的意義」(大阪府立大学人文学会)人文学論集 1,1983 年。)
(*)(参考：福島正雄『プラトンの教育思想』(精神科学叢書 9,藤井書店昭和 9 年刊の復刊)有明会図書部,有明会(発売),1983 年。)
(*)(参考：藤澤令夫「プラトンとホワイトヘッド—プラトン学徒の視点から」思想 709,1983 年。)
(*)(参考：米澤茂「プラトン「テアイテトス」の感覚的知覚説—ガスリー説の批判を通じて」北九州大学外国語学部紀要 50,1983 年。)
(*)(参考：加藤信朗「知と不知への関はり--「カルミデス」篇における知の問題」理想 601,1983 年。)
(*)(参考：加藤信朗「行為の根拠について(1)「ニコマコス倫理学」第 7 巻のアタラクシアの説,および「プロタゴラス」篇の快楽説に即して」(東京都立大学人文学報編集委員会)人文学報 161,1983 年。)
(*)(参考：水垣渉「アレクサンドリアのフィロンにおける能動と受動の問題《to antipeponthos》の概念を中心に(武藤一雄名誉教授古稀記念特別号)」基督教学研究 6,1983 年。)
(*)(参考：山田晶「自存性,可知性,実在性：アリストテレスのウシアを構成する三つの性格」京都大学文学部紀要 22,1983 年。)
(*)(参考：橋口倫介編『西洋中世のキリスト教と社会：橋口倫介教授還暦記念論文集』(出

崎澄男「聖アウグスティヌスとローマ帝国--『神国論』の歴史観と国家観」/国府田武「エラスムスと三言語学寮の設立」)刀水書房,1983 年。)
(*)(参考：山田晶「トマス・アクィナスにおける〈レス〉と〈エッセンチア〉について」哲学研究 47(5),1983 年。)
(*)(参考：山田晶「トマス・アクィナスにおける〈レス〉と〈エッセンチア〉について：『有と本質』第一章による」中世哲学研究：Veritas 2,1983 年。)
(*)(参考：野町啓「ギリシャ的混合論とクリストロギ--ボエティウスの Opsucula Sacra 5. cap.4-7 の背景に関する一考察」中世思想研究 25,1983 年。)
(*)(参考：竹井成美「アニキウス・マンリウス・セベリウス・ボエティウス(480 ころ-524)とその〈音楽論〉(3)ボエティウスの「音楽論」とわが国の現代音楽教育とのかかわりあいについて」宮崎大学教育学部紀要,芸術・保健体育・家政・技術 54,1983 年。)
(*)(参考：式部久『ヒューマニズムの倫理』勁草書房,1983 年。)
(*)(参考：石坂尚武「ルネサンス人文主義における道徳哲学と修辞学：ポッジョの『貪欲について』の解釈をめぐって」イタリア学会誌 32,1983 年。)
(*)(参考：小林忠秀「ガッサンディの時空論(1)」白山哲学 17,1983 年。)
(*)(参考：ヴァッラ・ロレンツォ/佐藤三夫訳「自由意志について」流通経済大学論集 18(1),1983 年。)
(*)澤井繁男「伊藤整とルネサンス思想」比較文学 26,1983 年。
(*)(参考：澤井繁男「カルダーノの知について」イタリア学会誌 31,1983 年。)
(*)(参考：石坂尚武「ルネサンス人文主義における道徳哲学と修辞学：ポッジョの『貪欲について』の解釈をめぐって」イタリア会誌 32,1983 年。)
(*)(参考：久志本秀夫「ダンテ・釈迢空比較論序説」相女子大学・相愛子短期大学研究論集,音楽学部篇 30,1983 年。)
(*)(参考：高柳俊一『ユートピア学事始め』福武書店,1983 年。)
(*)(参考：鈴木宣則「トマス・モアと現代」思想 706,1983 年。)
(*)(参考：渡辺淑子「トマス・モア「ポコ・デラ・ミランドラ伝」について」県立新潟女子短期大学研究紀要 20,1983 年。)
(*)(参考:木ノ脇悦郎「エラスムスとルター:ローマ書五章の注解を中心に」神學研究 31,1983 年。)
(*)(参考：大曽根良衛「エラスムスとルターのキリスト教教育観：両者のカテキズムを中心として」山梨英和短期大学紀要 16,1983 年。)
(*)(参考：石堂常世「エラスムス教育論研究序説」早稲田大学教育学部学術研究 教育・社会教育・教育心理・体育編 32,1983 年。)
(*)(参考：ギュスターブ・ドレ画『図説ラ・フォンテーヌ寓話』一橋出版,1983 年。)
(*)(参考：杉野薫「(翻訳)ディドロ・テレンティウス頌,1769 年」九州産業大学教養部紀要 19(2),1983 年。)
(*)市川慎一「日本におけるディドロ文献目録(1963-1982 年)(歿後 200 年を記念して)(早稲田大学創立 100 周年記念号)」比較文学年誌 19,1983 年。
(*)(参考：大平伍郎「人倫・芸術・哲学—ヘーゲルのギリシャ観」東京経済大学「人文自然科学論集」63(門上秀叡教授退任記念号),1983 年。)
(*)(参考：嘉吉純夫「ソクラテス裁判に関する一考察—ヘーゲルの“Schicksal des Sokrates”

をてがかりとして」精神科学 22,1983 年。)
(*)(參考：山口誠一「ヘーゲルの懐疑的方法について」理想 605,1983 年。)
(*)(參考：K.ローゼンクランツ/中埜肇訳『ヘーゲル伝』みすず書房,1983 年。)
(*)(參考：下村寅太郎『ライプニッツ』みすず書房,1983 年。)
(*)(參考：武安宥「シュライエルマッヘルの学問論(2)」教育学科研究年報 9,1983 年。)
(*)(參考：藤澤令夫「プラトンとホワイトヘッド—プラトン学徒の視点から」思想 709,1983 年。)
(*)(參考：木田元『ハイデガー』岩波書店,20 世紀思想家文庫 4,1983 年(→2001 年,岩波現代文庫。)
(*)(參考：ヒルティ/草間平作・大和邦太郎訳『眠られぬ夜のために(1,2 部)』(岩波クラシックス 36,37,,岩波書店,1980 年。)
(*)亀井秀雄『感性の変革』講談社,1983 年。
(*)村川堅太郎「ケネス・ドーヴァー教授を迎えて—古代ギリシアと日本」学士会会報 758,1983 年。
(*)別宮貞徳「運命の出会い—父なる師を語る(ヨゼフ・ロゲンドルフ師をしのんで・追悼)」ソフィア 32(2),1983 年。
(*)(參考：海野弘『酒場の文化史』(オデュッセウス)TBS ブリタニカ,1983 年(→2009 年,講談社学術文庫版)。)
(*)(參考：田中英道『画家と自画像』日本経済新聞社,1983 年(→2003 年,講談社学術文庫版。)
(*)(參考：田辺秀樹「〈楽屋落ち歌劇〉考—オペラ・パロディの伝統と「ナクソス島のアリアドネ」(〈知〉のパラドックス,特集)」ユリイカ 15(9),1983 年。)
(*)(參考：南大路振一『18 世紀ドイツ文学論集』三修社,1983 年(→2001 年,増補版)。)
(*)(參考：小栗浩『ドイツ古典主義の成立』(ゲーテ)東洋出版,1983 年。)
(*)(參考：木村直司『ドイツ古典主義の一系譜』ゲーテ研究,南窓社,1983 年。)
(*)(參考：新井靖一編訳『ゲーテ古代芸術論集』早稲田大学出版部,1983 年。)
(*)(參考：下村寅太郎「ルネッサンス的人間としてのゲーテ」モルフォロギィア：ゲーテと自然科学 1983(5),1983 年。)
(*)(參考：マルティン・ハイデガー著/柿原篤弥訳『ヘルダーリン論』ハイデガー選集 30,1983 年。)
(*)(參考：ラインホルト・グリム,ヨースト・ヘルマント編/秋山英夫訳『啓蒙主義とロマン派のあいだ：マルクスとニーチェ』朝日出版社,1983 年。)
(*)(參考：W.ミュラー・ラウター/秋山英夫・木戸三良訳『ニーチェ・矛盾の哲学』以文社,1983 年。)
(*)(參考：湯浅弘「〈論文〉ニーチェ思想におけるルサンチマンの意味について」倫理學年報 32,1983 年。)
(*)(參考：水野清志「ニーチェの倫理思想(8)」紀要 9(1),1983 年。)
(*)(參考：栗山次郎「ニーチェのソクラテス評価について」ドイツ文学研究 15,1983 年。)
(*)(參考：倉持三郎「D.H.ロレンスとニーチェ：「アンチクリスト」をめぐって」東京学芸大学紀要,第 2 部門,人文科学 34,1983 年。)
(*)(參考：宮内寿子「ニーチェの道徳批判について」お茶の水女子大学人文科学紀要 36,1983 年。)
(*)手川誠士郎「ニヒリズムに関する一試論：ニーチェ思想の日本移入をめぐって(I.大正期

の思想)」立正大学人文科学研究所年報.別冊 4,1983 年。)
(*)(参考：井上慈子「ニーチェのニヒリズムと生」龍谷大学大学院紀要,文学研究科 4,1983 年。)
(*)(参考：輪田稔「体系的なものと非体系的なもの—ニーチェ哲学の統一的基礎」東北大学教養部紀要 39,1983 年。)
(*)(参考：杉山吉弘「大いなる狩猟—ニーチェの系譜学(人間科学研究[1])」札幌商科大学論集 人文編 34,1983 年。)
(*)(参考：水野清志「ニーチェの倫理思想(9)」紀要 10(1),1983 年。)
(*)(参考：菅野孝彦「ニーチェの形而上学批判」倫理学 2,1983 年。)
(*)高松敏男「「ニーチェ書誌」を編纂して(書誌索引事例)」書誌索引展望 7(2),1983 年。)
(*)笠原賢介「日本人のニーチェ研究譜(ニーチェ全集別巻)」高松敏男,西尾幹二編」比較文學研究 44,1983 年。)
(*)(参考 : 安岡正義「レッシングの「ラオコオン」についての一考察—アダム・スミスの「道徳情操論」との比較において([大分大学]創立 60 周年記念号)」大分大学経済論集 34(4~6),1983 年。)
(*)(参考：マリティン・ハイデッガー/柿原篤弥訳『ヘルダーリン論』ハイデッガー選集 30,理想社,1983 年。)
(*)(参考：エルンスト・ヨーゼフ・ゲルリヒ/清水健次・土屋明人訳『オーストラリア文学史』南江堂,1983 年(→2005 年,清水健次訳。新訳)。)
(*)(参考：藤井治彦『楽園喪失—思想としての空間』研究社選書 26,研究社出版,1983 年。)
(*)(参考：シェイクスピア/小田島雄志訳『トロイラスとクレシダ』白水 U ブックス 24,シェイクスピア全集,白水社,1983 年。)
(*)(参考：チョーサー/苅田元司訳『戀のとりこ：トロイルスとクリセイデ』復刻版,伸光社,1983 年。)
(*)(参考：安東伸介・御輿員三・藤井治彦・野島秀勝「英文学における「トロイラス物語」の系譜(Symposia 第一部門,日本英文学会第 55 回大会報告)」英文学研究 60(2),1983 年。)
(*)(参考：三好弘『シェイクスピアと日本人のこころ』公論社,1983 年。)
(*)(参考：古沢満雄『シェイクスピア悲劇の研究—葛藤・洗礼・融合・谷間・相剋・対峙の世界』大阪教育図書,1983 年。)
(*)(参考：松田実矩「Milton と Virgil：特に Milton の Paradise Lost に見られる Virgil 的な語句や Plot について」論集：神戸大学教養部紀要 31,1983 年。)
(*)(参考：木下薫「ジョン・ダンと理性：アウグスティヌス的認識論との関わりを中心に」英語英文学研究 8(1),1983 年。)
(*)(参考 : 桂田利吉博士傘寿記念論集刊行会編『コウルリッジとその周辺：桂田利吉博士傘寿記念論集』(新プラトン主義)法政大学出版局,1983 年。)
(*)(参考 : J・ボズウェル/中野好之訳『サミュエル・ジョンソン伝 3』みすず書房,1983 年。)
(*)(参考 : J.Boswell/小椋晴次註『The Life of Samuel Jonson,L.L.D.』研究社英文学叢書 85,1983 年。)
(*)(参考：竜野武昌「ふるさとがえり--Walter Pater 覚え書」明星大学研究紀要,人文学部 19,1983 年。)
(*)(参考：松浦暢「キーツ『ギリシア古瓶のオード』：実存への傾斜」成城文藝 103,1983

年。)
(*)(参考：高橋雄四郎「『エンディミオン』研究序説：夢・神話・想像力」実践女子大学文学部紀要 25,1983 年。)
(*)(参考：向山泰子「英文学に於けるギリシア愛の歴史—Lord Byron 研究の一環として」青山学院大学一般教育部会論集 1983 年。)
(*)(参考：貝嶋崇「オスカー・ワイルドと「ギリシア精神」」熊本大学英気英文学 27,1983 年。)
(*)(参考：奥本大三郎「本を枕に(7)孤独な放浪者の夢想—ギッシング「ヘンリ・ライクロフトの私記」」すばる 5(9),1983 年。)
(*)(参考：池谷敏忠「文化と伝統をめぐって：T.S.エリオットと西田幾多郎」金城学院大学論集,英米文学編 24,1983 年。)
(*)(参考：新井皓一「文化史と文学史の間(5)ウルリヒ・フォン・フッテンの「祖国」」言語文化 20,l983 年。)
(*)田中美知太郎「小林秀雄と私(小林秀雄追悼記念号)---わが人生の小林秀雄」新潮 80(5),1983 年。
(*)(参考：引地正俊「ラフカディオ・ハーンと牧歌(早稲田大学創立 100 周年記念号)」比較文学年誌 19,1983 年。)
(*)林達夫「柏木義円研究の現状と課題(研究動向)」歴史評論 402,1983 年。
(*)松木治三郎「山谷省吾先生追悼」新約学研究 11,1983 年。
(*)神田一郎「植村正久：近代日本を作った魂の牧会者」教会新報社,1983 年。
(*)(参考：亀井高孝『標準世界史地図』増補版版,吉川弘文館,1983 年。)
(*)(参考:小林新三・長瀬守・谷畑三郎編『世界史地図:新編』改訂新版,東京学習出版社,1983 年。)
(*)(参考：尾鍋輝彦責任編集『地図・年表・小辞典』中公バックス,世界の歴史 17,中央公論社,1983 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『要説世界史』新版,山川出版社,1983 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『詳説世界史』新版,山川出版社,1983 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『詳説世界史：教授資料』新版,山川出版社,1983 年。)
(*)(参考：『世界を変えた戦争・革命・反乱 総解説：トロイア戦争からイラン革命まで,人類 3000 年の戦いの鳥瞰図』(「地中海世界・西アジアおよびインドにおける戦い」)自由国民社,1983 年。)
(*)(参考：芳賀重徳「中世英国頭韻誌「アレクサンダー大王と婆羅門国のディンディムス王(小沢淳男先生退任記念号)」秋田経済大学・秋田短期大学論叢 31,1983 年。)
(*)(参考：福田千津子「アレクサンドロス伝説」(大学院演習報告)Russitika：東京大学文学部露文研究室年報 3,1983 年。)
(*)(参考：土井正興「スパルタクス蜂起研究の現段階と課題(古代における支配と被支配の諸形態 特集」歴史評論 403,1983 年。)
(*)(参考：二階堂卓也「イタリアン・アクションの誇りと栄光(7)史劇編(6)闘技場の剣闘士たち」キネマ旬報 864,1983 年。)
(*)(参考：二階堂卓也「イタリアン・アクションの誇りと栄光(8,9) 史劇編(7)剣闘士,翔んだPART1,2」キネマ旬報 865,866,1983 年。)

(*)(参考：マルティン・メツガー/山我哲雄訳『古代イスラエル史』新地書房,1983 年。)
(*)(参考：野谷士「七人目のクレオパトラ」滋賀英文学会論集 2,1983 年。)
(*)(参考：栗田伸子「ローマ帝国と「低開発」--Albert Deman の所論を中心に(歴史学の現代的課題,特集)--(世界史における帝国主義)」歴史評論 400,1983 年。)
(*)(参考：伊藤敏樹「ヴィルアルドワンの『コンスタンチノープル征服記』について(1,2)」フランス語フランス文学研究 43,1983 年/47,1985 年。)
(*)(参考：松田道雄責任編集『近代への序曲』中公バックス,世界の歴史 7,中央公論社,1985 年。)
(*)(参考：ジャン・リュカ=デュブルト他/日高達太郎訳『ナポレオン』世界伝記双書,小学館,1983 年。)
(*)(参考：小栗了之『ナポレオン帝国の栄光と没落』荒地出版社,1983 年。)
(*)(参考：S.ランシマン/護雅夫訳『コンスタンティノープル陥落す』新装版,みすず書房,1983 年。)
(*)(参考：塩野七生『コンスタンチノープル陥落』新潮社,1983 年(→1991,2009 年,新潮文庫版)。)
(*)(参考：小林新三・長瀬守・谷畑三郎編『世界史地図：新編』改訂新版,東京学習出版社,1983 年。)
(*)(参考：ハリー・トーマス・フランク/秀村欣二・高橋正男訳『歴史地図と写真で実証する聖書の世界』東京書籍,1983 年。)
(*)弓削達『明日への歴史学』河出書房新社,1983 年。)
(*)(参考：三好甫明,島崎恭祐著；世界史ノート編集部編『世界史研究ノート(上下)』山川出版社,1983 年。)
(*)(参考：伊藤貞夫「歴史理論(1982 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 92(5),1983 年。)
(*)(参考：立石博高「ヨーロッパ：近代南欧(1982 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 92(5),1983 年。)
(*)(参考：渡辺節夫「ヨーロッパ：中世西欧(1982 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 92(5),1983 年。)
(*)(参考：古山正人「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1982 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 92(5),1983 年。)
(*)(参考：松本宣郎「ヨーロッパ：古代：ローマ(1982 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 92(5),1983 年。)
(*)(参考：クロード・ニコレ/田村孝訳「フランスにおける古代史研究の概括と諸傾向」史學雜誌 92(9),1983 年。)
(*)(参考：前沢伸行「世界史のなかの古代ギリシャ＝ローマ(歴史のひろば)」歴史評論 401,1983 年。)
(*)(参考：大戸千之「ポリュビオスと司馬遷の歴史思想」西洋古典學研究 31,1983 年。)
(*)八嶌正治「野々村戒三の学問」国文学研究 81,1983 年。
(*)(参考：F.トリストラム/喜多迅鷹・デルマス柚紀子訳『地球を図った男たち』リブロポート,1983年。)
(*)(参考：末永航「15 ヴァザーリとセルリオ『建築書』(歴史意匠)」研究報告集,計画系54,1983 年。)
(*)(参考：豊田和二「初期ギリシアの石工用具について—鉄製用具導入の観点から」科学史

研究第(0xF9C2)期22(146),1983年。)
(*)(参考 : 渡辺真弓文・鈴木哲威絵『石は語る建築は語る』科学者からの手紙5,ほるぷ出版,1983年。)
(*)(参考 : 三浦定俊「神々の遺跡を守る化学者たち―パルテノン神殿彫刻の強化保存処置(文化財を化学の眼でみる)」化学と工業36(3),1983年。)
(*)(参考 : 桐敷真次郎「14 コリント式柱頭のカウリクルスについて(歴史意匠)」研究報告集,計画系54,1983年。)
(*)(参考 : 三好信治・木島安治・両角光男「古代地中海都市街路網のマイクロコンピューターによる計量分析」学術講演梗概集,計画系58(建築歴史・建築意匠),1983年。)
(*)(参考 : 堀内清治「地中海古代都市の研究(20)ポンペイの住宅タブリヌム(建築史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部2,計画系27,1983年。)
(*)(参考 : 渡辺道治「ポンペイ新市街地の格子状街区割について(歴史・意匠)[関東支部]」建築雑誌,建築年報 大会・論文編 1983,1983 年。)
(*)(参考 : 渡辺道治「街区割に用いられた基準尺度(ポンペイ新市街地の場合)(歴史・意匠)[関東支部]」建築雑誌,建築年報 大会・論文編1983,1983年。)
(*)(参考 : 森下修・堀内清治「地中海古代都市の研究(21)ポンペイの住宅タブリヌム(建築史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部2,計画系27,1983年/建築雑誌・建築年報,大会論文編1983,1983年。)
(*)(参考 : 伊藤重剛「地中海古代都市の研究(22)ポンペイの住宅タブリヌム(建築史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部2,計画系27,1983年建築雑誌・建築年報,大会論文編1983,1983年。)
(*)(参考 : 堀内清治・岸川充・菊池則生「地中海古代都市の研究(23)ポンペイの住宅タブリヌム(建築史・意匠)」」日本建築学会研究報告,九州支部2,計画系27,1983年/建築雑誌・建築年報,大会論文編1983,1983年。)
(*)(参考 : 堀内清治・佐々木祐輔「地中海古代都市の研究(24)ポンペイの住宅タブリヌム(建築史・意匠)」ポンペイの住宅タブリヌム(建築史・意匠)」」日本建築学会研究報告,九州支部2,計画系27,1983年/建築雑誌・建築年報,大会論文編1983,1983年。)
(*)(参考 : 井上浩一「ローマ都市からビザンツ都市へ―エフェソスの場合」(大阪市立大学文学部)人文研究35(5),1983年。)
(*)(参考 : 石川康介「セルリオの建築書におけるウィトルーウィウスと古代ローマの遺構について」近畿大学理工学部研究報告 18,1983 年。)
(*)前川道郎「師,森田慶一先生を悼む」建築雑誌 98(1205),1983 年。
(*)東畑謙三「森田慶一先生の思い出」建築雑誌 98(1205),1983 年。
(*)森忠一(他)「森田慶一先生を偲んで」建築と社会 64(5),1983 年
(*)(参考 : 藤澤令夫『自然・文明・学問―科学の知と哲学の知』紀伊国屋書店,1983 年。)
(*)(参考 : 川島清吉「プラトンの自然観の系譜と歴史的発展」大阪薫英女子短期大学研究報告 18,1983 年。)
(*)(参考 : 鈴木良徳『オリンピックの歴史』改訂スポーツ全集 10,ポプラ社,1983 年。)
(*)(参考 : 関口荘次「古代ギリシャの教育と体育(1)先史時代ホメロスの叙事詩に於ける教育と体育(綱島新哉講師・木村政彦教授退職記念論文集)」拓殖大学論集

143,1983 年。)
(*)(参考：岸本良彦「ヒポクラテスと「コス学派の予後」について」医学哲学・医学倫理 1,1983 年。)
(*)(参考：酒井シヅ「ヒポクラテス全集」医学図書館 30(4),1983 年。)
(*)(参考：池尻茂「3 ヒポクラテスの彫像と誓(第 10 回日本歯科医史学会学術大会講抄録)」日本歯科医史学会会誌 9(4),1983 年。)
(*)(参考：「ヒポクラテスの彫像と誓について(1 月例会,九州歯科学会月例会報告)(タイトルのみ掲載)」九州歯科学会雑誌 37(1),1983 年。)
(*)(参考：二宮陸雄『知られざるヒポクラテス：ギリシャ医学の源流：医学史探訪』篠原出版,1983 年。)
(*)(参考：シンガー/西村顕冶・川名悦郎訳『解剖・生理学小史』白楊社,1983年。)
(*)(参考：松本明和『麻酔科学のパイオニアたち：麻酔科学史研究序説』克誠堂出版,1983 年。)
(*)(参考：岩月賢一『医語語源散策』医学図書出版,1983 年。)
(*)(参考：小川鼎三『医学用語の起り』東京書籍,1983 年。)
(*)(参考：内海滉『薬学向きラテン語入門』南江堂,1983 年。)
(*)(参考：ディオスコリデス/鷲谷いずみ訳『ディオスコリデスの薬物誌』エンタプライズ, 1983 年。)
(*)(参考：大槻真一郎『ディオスコリデス研究』エンタプライズ,1983 年。)
(*)(参考：小森厚『どうぶつ学名散策』東書選書 89,東京書籍,1983 年。)
(*)(参考：末次勲『菜食主義』食の科学叢書10,丸の内出版,1983年。)
(*)高山博子「我が国における体育観の変遷について」白百合女子大学研究紀要19,1983年。)
(*)(参考：E.J.エイトン/渡辺正雄訳『円から楕円へ』共立出版,1983年。)
(*)(参考：豊田和二「初期ギリシアの石工用具について—鉄製用具導入の観点から」科学史研究第(OxF9C2)期22(146),1983年。)
(*)(参考：矢島祐利「サラディンとマイモニデス：アラビア科学研究ノート(8)」科学史研究・第II期22(146),1983年。)
(*)(参考：國分信英「アラビア科学VII：宇宙論と宇宙誌」電機通信大学学報33(2),1983年。)
(*)(参考：Mオズターク,Öセチメン,Gゴルク,近藤勝彦,瀬川道治「トルコ・エーゲ海地域にみられるマッキー要素の生態学的研究」基礎・環境科学研究：広島大学総合科学部紀要48,1983年。)
(*)(参考：野上素一「占星術師ミケレ・スコトとその仲間(キリスト教美術の誕生と展開)—(キリスト教思想の諸相)」宗教と文化(9・10),1983年。)
(*)(参考：北尾浩一「ギリシア—星の神話の旅」天界64(699),1983年。)
(*)(参考：川島清吉「プラトンの自然学の系譜と歴史的発展」大阪薫英女子短期大学研究報告18,1983年。)
(*)(参考：高瀬正仁「プラトン主義者としてのヘルマン・ワイル(1-4)現代数学史のひとこま)」数学セミナー22(6,7,8,9),1983年。)
(*)(参考：伊東俊太郎「科学・東と西：比較科学史の基礎視角」比較思想研究10,1983年。)
(*)「日本の数学百年史」編集委員会編『日本の数学百年史(上)』岩波書店,1983年。
(*)(参考：竹内靖雄「古代・中世の「独占と競争」の話(3)プラトンとアリストテレス」公正取引390,1983年。)

(*)(参考：松本一郎「13世紀アドリア海におけるベネチヤ海上貿易と護衛船について」海事交通研究22,1983年。)
(*)(参考：大淵利男「「経済学者ラ・フォンテーネ」とボアソナードの財政経済論」政経研究20(2),1983年。)
(*)高村象平「高橋誠一郎先生追憶」(高橋誠一郎名誉教授追悼特集号)三田学会雑誌 75(特別号),1983年。
(*)蝋山政道先生追想録刊行会編『蝋山政道先生著作目録』蝋山政道先生追想録刊行会,1983年。
(*)(参考：日本文化会議編『国際誤解と日本人』三修社,1983年。)
(*)(参考：ロイド・ジョンズ/眞方中道・眞方陽子訳『ゼウスの正義—古代ギリシア精神史』岩波書店,1983年。)
(*)(参考：田中美知太郎『市民と国家：田中美知太郎政治論集』サンケイ出版,1983年。)
(*)(参考：中村純「ソクラテス裁判の政治的一側面—告発者アニュトスの意図をめぐって」西洋史研究12,1983年。)
(*)(参考：山本建郎『プラトン『国家論』考—政治理念と形而上学の交錯の一断面』(二ツ井町・秋田県)秋田書房,1983年(→1993年,影書房版)。)
(*)(参考：柴田平三郎「アウグスティヌスの政治観」(慶應義塾大学法学研究会)法學研究：法律・政治・社会56(12),1983年。)
(*)(参考：石坂尚武「ペトラルカの君主論—「国家統治者はいかにあるべきか」」文化史学39,1983年。)
(*)(参考：『世界を変えた戦争・革命・反乱 総解説：トロイア戦争から・イラン革命まで人類3000年の戦いの鳥瞰図:セカイ オ カエタセンソウカウクメイハンランソウカイセツ:トロイアセンソウカライランカクメイマデジンルイ3000ネンノタタカイノチョウカンズ』自由国民社,1983年。)
(*)(参考：清宮敏「ドラコンの殺人法—M.ガガーリンの近著をめぐって」(東北大学)歴史60,1983年。)
(*)(参考：佐藤篤士「HUMANITAS考」早稲田法学58(2),1983年。)
(*)(参考：ジャン・セルヴィエ/朝倉剛・篠田浩一郎訳『ユートピア』文庫クセジュ658,白水社,1983年。)
(*)(参考：山内進「〈論説〉ゲルハルト・エストライヒの「全体史」について：ゲルハルト・エストライヒ著『初期近代の構造をめぐる諸問題』および同著『新ストア主義と初期近代』の発刊に寄せて(三藤正先生喜寿祝賀特別号)」成城法学13,1983年。)
(*)(参考：柴田光蔵『ローマ法と現代』玄文社,1983年。)
(*)阿部恒久・大日向純夫(編)「小野梓関係資料(文献編)ならびに小野梓研究文献目録」早稲田大学史記要16,1983年。
(*)(参考：木寺廉太「古代キリスト教と平和主義(1)キリスト教公認(313年)までの信徒の兵士の実態」(茨城キリスト教大学)紀要 16,1983 年。)
(*)(参考：法学教材編集部『羅馬法：高等学校法学試験用教材』群衆出版社,1983 年。)
(*)前田正治「書評 田中周友著「世界法史の大系」(甲南法学 22 巻第 1~4 合併号)」法制史研究 1983(33),1983 年。
(*)(参考：鈴木伸一「マルクスの卒業論文における哲学的立場」熊本大学法文論集19,1984

年。)
(*)(参考：関戸嘉光「ニーチェとマルクスと—小さなニーチェ論のための序言として」長野大学紀要5(4),1984年。)
(*)(参考：阿部弘「マルクスの“δυναμει”」駒沢大学経済学論集16(3),1984年。)
(*)相沢源七「酒井勝軍の“神州天使国”論について—その日猶主義を中心として(上中下[1,2,3])」東北学院大学東北文化研究所紀要15,1984年/17,1985年/18,1986年/19,1987年/21,1989年。
(*)柞木田竜善『日本超古代史の謎に挑む：日本・ユダヤ同祖論の深層』風涛社,1984年。
(*)佐治芳彦『日本超古代史の謎：神代文字が明かす日本創生の原像』日本文芸社,Rakuda Books,1984年。
(*)吾郷清彦・鹿島昇編『神道理論大系』新国民社,1984年。
(*)須賀敦子「想像するということ」こどもの世界36(1),1984年。
(*)井出文子・柴田三千雄編集・解説『箕作元八・滞欧「箙梅日記」』東京大学出版会,1984年。)
(*)(参考：岡山誠司「E301 人類文明史を考えるときの年代の扱い」年会論文集8,1984年。)
(*)(参考：福井芳男・木村尚三郎『カラーイラスト世界の生活史』東京書籍,1984年。)
(*)(参考：江坂輝彌・大貫良夫『文明の誕生』《ビジュアル版》世界の歴史1,講談社,1984年。)
(*)(参考：小川英雄『古代のオリエント』《ビジュアル版》世界の歴史2,講談社,1984年。
(*)(参考：馬場恵二『ギリシア・ローマの栄光』《ビジュアル版》世界の歴史3,講談社,1984年。
(*)(参考：Hektor Bellioz『Les Troyens』ビデオレコード,Pioneer Artists,1984年。)
(*)鈴木岳人『走れ!アルカディア：高校生自転車でヨーロッパ一人旅』講談社,1984年。)
(*)(参考：本城靖久『海外ひとり旅』講談社現代新書,講談社,1984年(→1993年,改訂増補版。→1997年,改訂増補版20刷)。)
(*)家島彦一・渡辺金一編『海上民』(渡辺金一・松木栄三「エーゲ海コス島の村人たち」)イスラム世界の人々4,東洋経済新報社,1984年。
(*)ブルーガイド・ブックス編集部編『ギリシア・エーゲ海』新装第 4 版,ブルーガイド海外版,実業之日本社,1984 年。
(*)(参考：『ギリシャの民族音楽』小泉文夫の遺産：民族音楽の礎33,Seven Seas,1984年。)
(*)(参考：牟田口義郎『地中海・音楽絵巻』音楽選書37,音楽之友社,1984年。)
(*)(参考：井本三夫「地中海の潮—南部から見たイタリア」民主文学219,1984年。)
(*)(参考：前川誠郎『美神の世界：エーゲ海とギリシア・ローマ』岩波美術館歴史館 3,岩波書店,1984 年(→2002 年,新装版)。)
(*)(参考：シチリアの古代ギリシア展編集委員会編/東京富士美術館編訳『シチリアの古代ギリシア展：地中海の光と影：人類の英知輝く美の源流』東京富士美術館,山梨県立美術館,1984 年。)
(*)(参考：青柳正規「シチリアのギリシア美術(シチリアの古代ギリシア展)」三彩 438,1984年。)
(*)(参考：宮島宗男「地中海の光と影：人類の栄智輝く美の源流(シチリアの古代ギリシア展)」三彩 438,1984 年。)
(*)(参考：柳宗玄「キリスト教美術における花」(上智大学キリスト教文化研究所)キリスト

教文化研究所紀要 3,1984 年。)
(*)(參考：Watanabe Kinichi「Les Hellénes au moyen âge：Un aperÇu leurs relations avec les Arabes」地中海論集,論文集 9,1984 年。)
(*)(參考：金子史朗『アトランティス：失われた大陸の謎』講談社文庫,講談社,1984 年。)
(*)饗庭孝男『西欧と愛』小沢書店,1984 年(→1992 年,小沢コレクション 37)。
(*)(參考：G.ネルヴァル/篠田知和基訳『東方への旅』(全 2 巻)国書刊行会,1984 年。)
(*)(參考：磯崎新・篠山紀信・渡辺真弓『透明な秩序：アクロポリス』磯崎新+篠山紀信建築行脚 2,六曜社,1984 年。)
(*)(參考：澤柳大五郎『パルテノン彫刻の流転：エルギン・マーブルズ』グラフ社,1984 年。)
(*)(參考：澤柳大五郎「白地レキュトスに於ける所謂 Depositio 圖に就いて」古代文化 36(4),1984 年。)
(*)(參考：片岡輝文；滝原章助絵『シュリーマン』チャイルド絵本館・伝記ものがたり,チャイルド本社,1984 年。)
(*)(參考：出淵敬子「ヴァージニア・ウルフとギリシャ・ローマの文化風土」(福田陸太郎教授記念論文集)」日本女子大学英米文学研究 19,1984 年。)
(*)(參考：関隆志「第 12 回国際古典考古学会議 XII に出席して」西洋古典學研究 32,1984 年。)
(*)嶺秀樹「「ブルクハルトの世界」下村寅太郎著」哲学研究 47(7),1984 年。
(*)仲手川良雄「「ブルクハルトの世界」下村寅太郎著」西洋史学 133,1984 年。
(*)齋藤博[紹介]「下村寅太郎著「ブルクハルトの世界」」(東海大学文明研究所)文明 40,1984 年。
(*)(參考：免取慎一郎『古代ギリシアに学ぶ』三愛新書「人間と文化」15,1984 年。)
(*)太田哲男「和辻倫理学における『古寺巡礼』の位置」倫理学年報 33,1984 年。
(*)(參考：『古代オリエントの世界』(アントニオ・インベルニッツィ/田辺勝美訳「東方ヘレニズム世界とササン朝」)図説世界の考古学 2,福武書店,1984 年。)
(*)(參考：小林雅夫共訳『私の古代ギリシア』朝倉書店,1984 年。)
(*)(參考：マウリツィオ・ポニカッティ/森田義之訳『ギリシア/ローマ/ビザンティン』世界の至宝 2,ぎょうせい,1984 年。)
(*)(參考：佐口透『マルコ=ポーロ・東西を結んだ歴史の証人』清水新書,清水書院,1984 年。)
(*)(參考：西村貞二『レオナルド・ダ・ヴィンチ：ルネサンスと万能の人』清水書院,1984 年。)
(*)(參考：『古代地中海世界』図説世界の考古学 4,福武書店,1984 年。)
----ジョヴァンナンジェロ・カンポレアーノ/野上素一ヤク「エトルリア人とイタリアの古代民族」
野上素一「ローマに滅ぼされた古代イタリア半島の先住民族」
ジョルジオ・グァランディ/三浦一郎訳「エーゲ海世界とギリシア文明」
三浦一郎「楽しみながら身につけられるギリシア文化史」
フィリッポ・コアレッリ/青柳正規訳「古代ローマ世界」
青柳正規「古代ローマ都市の成立と展開」
P.テスティーニ,R.ジョルダーニ/柳宗玄訳「キリスト教世界」
柳宗玄「豊富な考古学的史料による新史実」
ステファニア・マッツォーニ/後藤健訳「フェニキアの古代文化」

後藤健「フェニキア人の西方進出」
(*)(参考：W.モンゴメリ・ワット/三木亘訳『地中海世界のイスラム—ヨーロッパとの出会い』筑摩書房,筑摩叢書,1984 年(→2008 年,ちくま学芸文庫版。)
(*)(参考：関隆志「第 12 回国際古典考古学会議 XII に出席して」西洋古典學研究 32,1984 年。)
(*)(参考：谷川徹三・江上波夫「文明と美—東西文明交流の足跡を辿る」三彩 437,1984 年。)
(*)(参考：井上靖他『すべての道はローマに通ず：イスタンブール・ギリシャ・イタリア』シルクロードローマへの道 12,日本放送出版協会,1984 年。)
(*)平田隆一「「ローマ都市の起源」エイナル・イエシュタード著/浅木正訳」法制史研究 34,1984 年。)
(*)平田隆一「〈書評〉エイナル・イエシュタード著/浅木正訳「ローマ都市の起源」みすず書房」史学雑誌 93(1),1984 年。
(*)(参考：大塚清吾他写真『コーカサス・シリア・トルコ・ギリシャ・イタリア』写真集シルクロードローマへの道 6,日本放送出版協会,1984 年。)
(*)NHK 編『ガンダーラの美術:東西文明の出会い』NHK ビデオ,NHK サービスセンター,1984 年。
(*)日本放送協会編『東西文明の接点・ガンダーラ』NHK 市民大学,日本放送出版協会,1984 年。
(*)樋口隆康他編集・執筆『パキスタン・ガンダーラ美術展』日本放送出版協会,1984 年。
(*)『綱谷幸二展：インド・ガンダーラ』西武百貨店,1984 年。
(*)『ガンダーラ彫刻』ギャラリ欧亜,1984 年。
(*)並河萬里写真撮影・宮治昭本文解説『ガンダーラ：並河萬里写真集』岩波書店,1984 年。
(*)林良一『ガンダーラ美術紀行』時事通信社,1984 年。
(*)(参考：オーレル・スタイン/谷口陸男・澤田和夫訳『アレクサンダーの道：ガンダーラ・スワート』白水社,1984 年。)
(*)(参考：田辺勝美『ガンダーラ仏教彫刻騎馬狩猟図考』古代オリエント博物館,1984 年。)
(*)(参考：上原和「ガンダーラの弥勒菩薩をめぐる諸問題(美学会第 35 回全国大会報告)」美学 35(3),1984 年。)
(*)(参考：上原和・平山郁夫「インド・ガンダーラ古代彫刻への招待」芸術新潮 35(4),1984 年。)
(*)伊東照司「すばらしきインドの遺跡(インド古代彫刻展とパキスタン・ガンダーラ美術展〈特集〉」三彩 439,1984 年。
(*)(参考：田辺勝美「ガンダーラ美術の本質と意義—釈尊に対する最大の裏切りと至高の供養(インド古代彫刻とパキスタン・ガンダーラ美術展,特集)」三彩 439,1984 年。)
(*)(参考：小林高四郎『東西文化交流史：シルクロードを中心として』増補版,西田書店,1984 年。)
(*)臼井斌男『トルコ遺跡の旅』コロン・ブックス,三修社,1984 年。
(*)(参考：西義之『ドイツ文学と芸術の旅』コロン・ブックス,三修社,1984 年。)
(*)(参考：西堀昭編『日仏文化交流史年表』日仏関係研究センター,1984 年。)
(*)『高橋邦太郎先生をしのぶ：日仏文化交流史研究の先達』仏蘭西学研究 14,日本仏学史学会,ブルー・フォンセ出版者(発売),1984 年。)

(*)(参考: 久志本秀夫「水の都の図書館--ヴェネツィアと大阪における寄贈文庫について(都市と文化,特集)」都市問題研究 36(1),1984 年。)
(*)浜田敦「先学を語る—浜田耕作博士」東方学 67,1984 年。
(*)(参考：西川正身・平井正穂編『研究社英米文学辞典』研究社出版,3版,限定特装版,1984 年。)
(*)(参考 : アト・ド・フリース/山下主一郎他訳『イメージ・シンボル事典』大修館書店,1984 年。)
(*)樺島・飛田・米川編『明治大正新語俗語辞典』東京堂出版,1984 年。
(*)(参考：松野純孝編『新宗教辞典』東京堂出版,1984 年。)
(*)(参考：三上修平編『世界の歴史人物事典』集英社,1984 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他編『世界史小辞典』2 版,山川出版社,1984 年。)
(*)(参考：M.アヴィ・ヨナ/小川英雄訳『聖書考古学大辞典』講談社,1984 年。)
(*)(参考：『オリンピックの事典：平和と青春の祭典』Sun lexica 11,三省堂,1984 年。)
(*)遠藤周作編『キリスト教の事典 :「聖書」の世界がわかる』三省堂,Sun lexcia 16,1984 年。
(*)日蘭学会編『洋学史事典』日蘭学会学術叢書 6,雄松堂書店,1984 年。
(*)渡辺紳一郎著『西洋古語語典』講談社,1984 年。
(*)学習院女子短期大学図書館編『学習院女子短期大学図書館所蔵・富永惣一文庫目録』学習院女子短期大学図書館,1984 年。
(*)文部省学術国際局監修『研究者・研究課題総覧 1984 人文社会科学編』日本学術振興会,昭和 59 年。
(*)(参考：高田邦彦「個人記念像の歴史的考察：西欧個人主義の文明論的研究(1-6)」中京大学教養論叢 24(4),25(2,4),1984 年/26(2),1985 年/39(1),1988 年/39(3),1999 年。)
(*)川崎真治『古代日本の未解読文字』新人物往来社,1984 年。
(*)高田宏『言葉の海へ』(大槻文彦)新潮文庫,昭和 59 年。
(*)(参考：笠井貴征「新しい英語訳聖書と引用句辞典」明治学院論叢 358-359,1984 年。)
(*)(参考：長野真理「電算機使用によるプラトンの文体研究」東京女子大学紀要論集 35(1),1984 年。)
(*)(参考：逸身喜一郎「メトロン・コーロン・ペリオドス」西洋古典學研究 32,1984 年。)
(*)(参考 : 公平珠躬「B.Russell『ギリシア語練習帳』とテキスト・プロセッシング」Literatura5,1984 年。)
(*)(参考：竹島俊之「古典ギリシア語における未来時制についての一考察」(広島大学総合科学部)言語文化研究 10,1984 年。)
(*)三神勲「「ギリシャ語と漢語の比較研究ノート」のこと」英語青年 128(7),1984 年。
(*)(参考 : 保谷一三「カンタベリ物語」本文の中でチョーサーが初めて使ったラテン語とフランス語の研究(1-7)」紀要 1,1984 年/6,1989 年/7,1990 年/8,1991 年/9,1992 年/ 10,1993 年/11,1994 年/12,1995 年。)
(*)松岡洸司「図書館巡りと文献—キリシタン書籍と周辺」ソフィア 33(3),1984 年。
(*)松岡洸司「キリスト教の伝来と宗教用語：パレト寫本・聖経直解を中心として」キリスト教文化研究所紀要 3,1984 年。
(*)(参考：有田潤『ラテン文法表：インデックス式』白水社,1984 年。)
(*)(参考：サン・スルピス会諸師『ラテン文法』3 訂版,中央出版社,1984 年。)

(*)(参考：フンボルト/亀山健吉訳『言語と精神』法政大学出版局,1984 年。)
(*)(参考：J.B.シルヴェストル著/田中一光構成『文字の博物館』白水社,1984 年。)
(*)(参考：岩波文庫編集部編『ことばの花束：岩波文庫の名句 365』岩波文庫別冊 5,岩波書店,1984 年。)
(*)(参考：シュライエルマッハー/久野昭・天野雅郎訳『解釈学の構想』以文社,1984 年。)
(*)(参考：岡田渥美「トマス・アーノルドの学校改革—その理念と実践」京都大学教育学部紀要 30,1984 年。)
(*)(参考：清水憲男「〈書評〉学術書としての啓蒙」ソフィア 32(4),1984 年。)
(*)井上忠「二冊の「本」(聖書〈特集〉)」理想 619,1984 年。
(*)吉村忠幸「吉田松陰に関する研究文献」札幌大学女子短期大学部紀要 3,1984 年。
(*)杉捷夫「河野与一先生」學燈 81(9),1984 年。
(*)「野上弥生子著書目録」日本古書通信 49(6),1984 年。
(*)「弓削達教授主要業績目録」歴史学研究報告 19,1984 年。
(*)「著作目録(小栗浩)」東北大学史料館 224,1984 年。
(*)井田好治編「重久篤太郎先生略年譜・著書論目録抄」英学史研究 17,1984 年。
(*)(参考：関和明「パラダイスと庭の神話学」SD235,1984 年。)
(*)(参考：関和明「ボタニカ・ネクロフィリア」SD235,1984 年。)
(*)(参考：北野康田「水の科学・水の神話学(「水」の思想,特集)」理想 614,1984 年。)
(*)(参考：Kodama Christine「L'utilisation d'un mythe—le mythe de Sisyphe ,par Camus（神話,特集)」人文科学研究 18,1984 年。)
(*)(参考：夜久正雄「『古事記』とホーマーの英雄叙事詩と『旧約聖書』との類型的対比・試論：神話と英雄叙事詩と歴史との関係について」アジア研究所紀要 11,1984 年。)
(*)(参考：ジョセフ・キャンベル/平田武靖・浅輪幸夫訳『千の顔をもつ英雄(上下)』人文書院1984年(→2004年,再版)。)
(*)(参考：湯田豊『トインビーと宗教』北樹出版,1984 年(→1993 年,増補版)。)
(*)(参考：田中見太郎「様々な神話」哲學 78,1984 年。)
(*)(参考：加藤明「「歯車」論：ギリシア神話の暗号をもとに」日本文学 33(1),1984 年。)
(*)(参考：相良英明「D.H.Lawrence,The Escaped Cocku—死と再生の神話」鶴見大学紀要,第 2 部 外国語・外国文学編 21,1984 年。)
(*)(参考：楠見千鶴子『ギリシア神話の女たち』筑摩書房,1984 年。)
(*)(参考：A.ボナール/戸張智雄・戸張規子訳『ギリシアの神々』人文書院,1984 年。)
(*)(参考：森本哲郎「神のアルバム—わが捜神記(2)ディオニュソスの正体」諸君 16(2),1984 年。)
(*)(参考：森進一『ホメロス物語—イリアス・オデュッセイア』岩波ジュニア新書,岩波書店,1984 年。)
(*)(参考:B.エヴスリン/小林稔訳『オデュッセウス物語』社会思想社,現代教養文庫,1984 年。)
(*)高橋睦郎・金子国義「オルペウスをめぐって—金子国義の世界」美術手帖 520,1984 年。
(*)(参考：Akiko Kiso“The Lost Sophocles”Vantage Press,New York,1984.
(*)(参考：大貫隆『世の光イエス：ヨハネによる福音書』講談社,福音書のイエス・キリスト 4,1984 年(→1996 年,再版)。)
(*)(参考：土戸清「研究フォーラム キリスト論 福音書におけるキリスト論—ヨハネ福音書

を中心に」日本の神学 23,1984 年。)
(*)(参考:大貫隆「福音書研究とテキスト言語学—新約聖書学の最近の一動向」理想 619,1984 年。)
(*)(参考：土岐健治「旧約聖書外典偽典の語るもの」理想 619,1984 年。)
(*)(参考：フランシスコ会聖書研究所訳注『新約聖書』改訂版,サンパウロ,1984 年。)
(*)(参考：土戸清『現代新約聖書講解：聖書への招き 24 講』新地書房,1984 年。)
(*)(参考：落合和昭「キリスト教からヘレニズムへ：直線のイメージとその崩壊」駒澤大學外国語学部研究紀要 13,1984 年。)
(*)(参考：河野純徳『アヴェ・マリア』南窓社,1984 年。)
(*)(参考：荒井献『隠されたイエス—トマスによる福音書』講談社,1984 年。)
(*)(参考：オリゲネース/小高毅訳『ヨハネによる福音書』創文社,1984 年。)
(*)(参考：日本聖書協会『使徒行伝』改訳,点字口語新約聖書 5JC,文字資料(点字),1984 年。)
(*)源高根「「背教者ユリアヌス」辻邦生(現代長編小説の魅力〈特集〉)--(現代長篇小説の世界)」国文学 解釈と鑑賞 49(6),1984 年。
(*)(参考：弓削達『ローマ皇帝崇拝とキリスト教徒迫害』日本基督教団出版局,1984 年。)
(*)(参考：南川高志「ローマ皇帝の哲学者弾圧について」史林 67(1),1984 年。)
(*)(参考：弓削達「ローマ皇帝礼拝と天皇神化」歴史評論 496,1984)年。)
(*)(参考：阪本浩「ゴリシア地方におけるローマ宗教」東北大学日本文化研究所研究報告 20,l984 年。)
(*)(参考:平田隆一「ローマ共和政国家とエトルスキ宗教—研究ノートから」東北大学教養部紀要 41(1),1984 年。)
(*)(参考：ペリ・アンダーソン/高橋秀・青山吉信・尚樹啓太郎訳『古代から封建へ』刀水書房,1984 年。)
(*)(参考：マルチン・ヘンゲル/大島征二訳『ユダヤ人・ギリシア人・バルバロイ：聖書中間時代のユダヤ人の歴史』ヨルダン社,1984 年。)
(*)(参考：フランツ・ティンネフェルト/弓削達訳『初期ビザンツ社会』岩波書店,1984 年。)
(*)(参考:辻佐保子「ウィーン創世記(Codex vindobonensis theol.graecus 31)に関する覚書(上)」名古屋大学文学部研究論集 90,1984 年。)
(*)(参考：遠藤周作「宗教と文学の谷間で(7)ユングの元型・エリアーデの元型」新潮 81(5),1984 年。)
(*)齋藤末弘『椎名麟三(上下)近代文学資料 11,12,桜風社,1984 年。
(*)内田照子『荒野の殉死：椎名麟三の文学と時代』蒼洋社,1984 年。
(*)惣郷正明『洋学の系譜』研究社出版,1984 年。
(*)越智治雄『近代文学成立期の研究』岩波書店,1984 年。
(*)永松知雄「物語と写実—初期政治小説の可能性」日本文学 33(12),1984 年。
(*)三沢裕子「幸若舞曲の構造試論」国文学研究 84,1984 年。
(*)中村忠行「王様の耳は驢馬の耳」(百合若大臣)甲南女子大学研究紀要 20,1984 年。
(*)平塚武二文；長新太画『いろはのいそっぷ』フォア文庫,童心社,1984 年。
(*)イソップ原作/西内ミナミ脚色；小野かおる画『いなかのねずみとまちねずみ』名作民話おはなし広場 5-5,NHK サービスセンター,学習研究社(発売),1984 年。
(*)『Writing sheets』(「イソップの寓話」)複製世界の絵本館,オズボーン・コレクション,ほるぷ出版,1984 年。

(*)Aesop 著/John E.Caldwell(rewrit.) ; 塚本知夫訳注『イソップ物語』日本英語教育協会,1984 年。
(*)オイゲン・ソプコ絵 ; 佐々木元訳『こなひきのおやことろば』フレーベル館,1984 年。
(*)滝田要吉『続・質屋いそっぷ駅前編』あさを社,1984 年。
(*)島正三『天草本伊曽保物語などのこと』補訂版,文化書房博文社,1984 年。
(*)野村純一『昔話伝承の研究』(イソップ)同朋社出版,昭和 59 年。
(*)『戯言養気集』(イソップ。天理図書館善本叢書 64 巻『なぞ 狂歌 咄の本』所収,八木書店,1984 年。)
(*)及川茂・山口静一「河鍋暁斎挿絵本の書目ならびに解題(上下)暁斎の挿絵とデザイン」東京国立博物館研究誌 395,396,1984 年。
(*)飯島虚心『河鍋暁斎翁伝』日本芸術名著選 3,ぺりかん社,1984 年。
(*)ジョサイア・コンダー/山口静一訳・河鍋楠美編『河鍋暁斎 : 本画と画稿』暁斎記念館,1984 年。
(*)落合和吉編『河鍋暁斎：近代日本の鬼才』ふるさと文庫,筑波書林,1984 年。
(*)佐渡屋重信『鷗外と西洋藝術』美術公論社,昭和 59 年。
(*)飛鳥井雅道「民権文学の先見性—過去の文学の再構築の問題(自由・民権・文学〈特集〉)」(佳人之奇遇)日本文学 33(11),1984 年。
(*)『幻影：「西脇順三郎先生を偲ぶ会」会報』西脇順三郎先生を偲ぶ会,1984 年。
(*)『回想の西脇順三郎』慶應義塾三田文学ライブラリー,1984 年。
(*)由良君美「西脇順三郎「Ambarvalia」(詩集とは何か〈特集〉)」国文学 解釈と教材の研究 29(15),1984 年。
(*)助川徳是『野上彌生子と大正期教養派』桜楓社,1984 年。
(*)夏目武子「自主編成の立場に立って：『十五少年漂流記』・『走れメロス』を中心に(〈連載〉国語教育講座：第 3 回)」文学と教育 34(12),1984 年。
(*)太宰治『走れメロス』近代文学名作選 2,創隆社,1984 年。
(*)太宰治・戸田幸四郎画『走れメロス』戸田デザイン研究室,1984 年。
(*)庄子浅水・吉村善太郎『目で見る本の歴史』限定版[175 部発行],出版ニュース社,1984 年。
(*)岩崎攝子『善徳纂[ギュツラフ]「約翰福音之伝」: 本文ならびに総索引』桜楓社,1984 年。
(*)松永伍一『ペトロ岐部』中公新書,昭和 59 年。
(*)西阪保治・河本哲夫・秋山憲兄『日本キリスト教出版史夜話』新教出版者,1984 年。
(*)(參考：川中なほ子「〈書評〉大学の理念」ソフィア 32(4),1984 年。)
(*)鈴木範久「姉崎正治の講座構想」東京大学宗教学年報・別冊 1,1984 年。
(*)小倉竹治「井上円了--人とその教育思想(含・著作総目録)」国士館大学文学部人文学会紀要 16,1984 年。
(*)高橋睦郎修辞『ΣΥΜΠΣΙΟΝ[饗宴] 8,9』書肆・林檎屋,小沢書店,1984 年。
(*)(參考：田中美知太郎『人間であること』文藝春秋,1984 年。)
(*)(參考：田中美知太郎・谷川徹三「対談 幸福論を語る」致知 10 月号,1984 年。)
(*)田中美知太郎「「哲研」に書いたもの」(「哲學研究」第 550 号記念特集号)哲學研究 47(8),1984 年。
(*)新人国記「84(23)哲学を支える人々 田中美知太郎」東京朝日新聞夕刊 2/4,1984 年。
(*)新人国記「84(11)田中美知太郎」東京朝日新聞夕刊 6/30,1984 年。
(*)茂手木元蔵「伊藤吉之助先生の思い出(昭和 57 年度秋季例会講演)」大正大学哲学会報

2,1984 年。
(*)桂寿一「哲学会百年と西洋哲学」哲学雑誌 771,1984 年。
(*)早瀬圭一『長らえしとき』(河野与一)文藝春秋社,昭和 59 年(→1988 年,文春文庫版)。
(*)死亡記事「河野与一」毎日新聞夕刊 7/6,昭和 59 年。
(*)社会欄「河野与一氏（哲学者、翻訳家）死去」読売新聞夕刊 7/6,1984 年。
(*)「天声人語」(河野与一)朝日新聞 7/8,昭和 59 年。
(*)「プルターク英雄伝」「イソップ」など翻訳 河野与一氏死去」朝日新聞 7/8,昭和 59 年。
(*)大江健三郎「＜追悼＞林達夫 弔辞」月刊百科 8(no.262),1984 年。
(*)山口昌男「＜追悼＞林達夫 弔辞」月刊百科 8(no.262),1984 年。
(*)中村雄二郎「＜追悼＞林達夫 弔辞」月刊百科 8(no.262),1984 年。
(*)加藤周一「＜追悼＞林達夫 弔辞」月刊百科 8(no.262),1984 年。
(*)下中邦彦「＜追悼＞林達夫 弔辞」月刊百科 8(no.262),1984 年。
(*)「林達夫年譜」月刊百科 8(no.262),1984 年。
(*)「林達夫著作年譜」月刊百科 8(no.262),1984 年。
(*)本多秋五他「追悼・竹山道雄」新潮 81(8),1984 年。
(*)菊池栄一他「さようなら竹山道雄先生」諸君 16(9),1984 年。
(*)氷上英廣「思い出す事など(特集 東大比較文学会三十年)」比較文學研究 45,1984 年。
(*)(參考 : 左近司祥子「一つの死で二つの生を」学習院大学言語共同研究所紀要 7,1984 年。)
(*)(參考 : 奥貞二「Europeans' View of Happiness」鈴鹿工業高等専門学校紀要 17(1),1984 年。)
(*)(參考：坂本辰朗「教育における性差別と教育モデル：J.R.Martin の諸論文の考察を中心に」哲學 79,1984 年。)
(*)酒井洋「ママにもスパルタ教育を!(教育危機と国民のホンネ)—(教育改革の光と影)」知識 35,1984 年。
(*)戸塚宏「私のスパルタ教育は科学的だ—獄中から訴える」知識 35,1984 年。
(*)(參考：岩崎允胤「古代ギリシア人の知恵(西洋哲学史)」一橋論叢 91(2),1984 年。)
(*)(參考：絹川正吉「〈講演〉ロゴスの時代—ヒュタゴラスの世界と現代」ペディラヴィウム 19,1984 年。)
(*)水野恵理子「六甲のソクラテス先生(清水先生を語る)(清水正徳教授退官記念号)」愛知：φιλοσοφια 1(創刊号),1984 年。)
(*)(參考：向坂寛「プラトンにおける“和”の思想(〈特集〉“和”の思想：東と西)」比較思想研究 11,1984 年。)
(*)(參考：越前谷悦子「アナロジーについて—哲学の端緒からプラトンまで」國學院雑誌 85(7),1984 年。)
(*)(參考：藤澤令夫「“状況”の変化と“もの自身”の変化：プラトン『テアイテトス』(154B~155D)における背丈比べのパラドクスの哲学的意味(第 550 號記念特集號)」哲學研究 47(8),1984 年。)
(*)(參考：田中美知太郎「(第 550 號記念特集號記事)『哲研』に書いたもの(第 550 號記念特集號)」哲學研究 47(8),1984 年。)
(*)(參考：渡辺義治「プラトンの詩論における霊感説と模倣説—詩論の発展の視点から」文明 40,1984 年。)
(*)(參考：ウェルデニウス/渡辺義治訳『ミメーシス—プラトンの芸術模倣説とその現代的意味』未来社,1984 年。)

(*)齋藤忍随・後藤明生『「対話」はいつ,どこででも：プラトン講義』朝日版社,1984年。
(*)(参考：高藤武允「〈論文〉J.M.シングの「聖者の泉」とプラトンの「洞窟の比喩」」実践英米文学14,1984年。)
(*)(参考：山田晶「アリストテレス「詩学」における〈プラグマ〉の意味について」哲学研究 47(8),1984 年。)
(*)(参考：川田殖「アリストテレスの生命論の構想：ひとつのスケッチ」山梨医科大学紀要 1,1984 年。)
(*)(参考：横山れい子「アリストテレスにおける宇宙論的エロースについて：プラトン主義の系譜をさぐって」一橋論叢91(2),1984年。)
(*)(参考：川田殖「フィロン研究の動向と課題—資料と文献の紹介をかねて」ペディラヴィウム 19,1984 年。)
(*)(参考：荒井献「オリエントにおけるパウロの論敵の思想とグノーシス主義の問題再考」新約学研究 12,1984 年。)
(*)(参考:高橋通男「ロドスのアポロニオス(1-5)」金澤大学教養部論集・人文科学篇 22(1),1984 年/23(2),1985 年/24(2),1986 年/26(2),1989 年/32(2),1995 年。)
(*)(参考：藤田一美「〈modus inveniendi と modus proferendi〉研究序説：プラトンとキケロ」研究 2,1984 年。)
(*)(参考：T.F.グラッソン/中道政昭訳『ユダヤ終末論におけるギリシアの影響』新教出版社,1984 年。)
(*)(参考：小林雅夫「ローマの教育」(上智大学中世思想研究所編『ギリシア・ローマの教育思想』所収,東洋館出版社,教育思想史 1,1984 年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編『古代キリスト教の教育思想』(グノーシス,アレクサンドリアのクレメンス,アウグスティヌス,ボエティウス)教育思想史,東洋館出版社,教育思想史 2,1984 年。)
(*)(参考：高柳俊一「〈特集 自然と人間〉自然とキリスト教思想」ソフィア 33(2),1984 年。)
(*)(参考：W.フォン・レーヴェニヒ/宮谷宣史・森泰男訳『アウグスティヌス—生涯と業績』日本基督教団出版局,1984 年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編『ギリシア・ローマの教育思想』東洋館出版社,教育思想史 1,1984 年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編『中世教育思想史(上下)』東洋館出版社,教育思想史 3,4,1984-85 年。)
(*)(参考：石川悦久「ボエティウス「神学論集」第 5 論文における υποστασις について」中世思想研究 26,1984 年。)
(*)(参考：竹井成美「アニキウス・マンリウス・セベリウス・ボエティウス(480 ころ-524)とその〈音楽論〉(4)古代ギリシアの音楽教育観の伝承者としてのボエティウス」宮崎大学教育学部紀要,芸術・保健体育・家政・技術 55,1984 年。)
(*)(参考：竹井成美「アニキウス・マンリウス・セベリウス・ボエティウス(480 ころ-524)とその〈音楽論〉(5)音教育の内容を中心として」宮崎大学教育学部紀要,芸術・保健体育・家政・技術 55,1984 年。)
(*)(参考：三宅晶子「マルシリオ=フィチーノのルネッサンス= プラトン主義とジョン=ダ

ンの『恍惚』について(エズラ=パウンドのための弁護)」論集 31(2),1984 年。）
(*)(参考：福鎌忠恕「ジャン・バッティスタ・ヴィーコ「自叙伝」(1-4)--metafisca,filosofia e filologia」東洋大学社会学部紀要 22(1),1984 年/22(2),1985 年/23(1),1986 年。東洋大学社会学研究所年報 18,1985 年。)
(*)(参考：堺慎介「G.D.ロマニョーンの啓蒙主義的ヴィーコ論--F.ブランカート著「ロソルジメントにおけるヴィコ」の翻訳的紹介(2)」阪大法学 130,1984 年。)
(*)(参考：市川慎一・鷲見洋一・中川久定「ディドロ文献目録(ディドロ—近代のジレンマ—歿後 200 年特集)」思想 724,1984 年。)
(*)(参考：Jacques Choullet/市川慎一訳・解説/森章訳「ディドロ研究の現状」思想 724,1984 年。)
(*)(参考：シュライエルマッハー/久野昭・天野雅郎訳『解釈学の構想』以文社,1984 年。)
(*)(参考：武安宥「シュライエルマッヘルの学問論(3)」人文論究 34(1),1984 年。)
(*)(参考：水垣渉『宗教的探求の問題—古代キリスト教思想序説』創文社,1984 年。)
(*)(参考：W.モンゴメリ・ワット/三木亘訳『地中海世界のイスラム—ヨーロッパとの出会い』筑摩書房,筑摩叢書,1984 年(→2008 年,ちくま学芸文庫版。)
(*)(参考：田中千里「イスラムの神学者アルガゼルと哲学者アヴェロエス(1)習慣 consuetudo と本性 natura について」近畿大学教養部研究紀要 15(3),1984 年。)
(*)(参考：春名純人『哲学と神学』法律文化社,1984 年。)
(*)(参考：ヒルティ/秋山英夫訳編『希望と幸福：ヒルティの言葉』(社会思想社,1980 年(→1992 年,新装版。)
(*)樺山紘一「「知識人」の退場—レーモン・アロン、林達夫氏の訃報に接して」中央公論,99(7),1984 年。
(*)(参考：吉満義彦『中世精神史研究』講談社,1984 年。）
(*)(参考：吉満義彦『近世精神史研究』講談社,1984 年。）
(*)(参考：エウリピデス作/蜷川幸雄演出/平幹二朗主演,東宝制作『王女メディア』東宝(発売),TOHO VIDEO,1984 年。)
(*)(参考：エウリーピデース作/高橋睦郎修辞『王女メディア』小沢書店,1984 年(→1998 年,新装版)。)
(*)(参考:高橋通男「ロドスのアポロニオス(1-4)」金沢大学教養部論集,人文科学篇 22(1),1984 年/23(2),1985 年/24(2),1986 年/26(2),1989 年。)
(*)(参考：藤井昇(改訂増補)『ラテン文学』(樋口勝彦原著)慶應義塾大学通信教育教材,1984 年。)
(*)(参考：根占献一「ルネサンス・ヒューマニズム考：クリステラー,グレイ,ウルマンの説を中心に」イタリア学会誌 33,1984 年。)
(*)(参考：『世界古典文学大系 35—ダンテ』5 刷,筑摩書房,1984 年。)
(*)(参考：ダンテ/岩倉具忠訳『ダンテ俗語詩論』東海大学出版会,1984 年。)
(*)(参考： 矢内原忠雄著/矢内原伊作・藤田若雄編『ダンテ神曲講義』3 冊,新装版,みすず書房,1984 年。)
(*)(参考：近藤恒一『ペトラルカ研究』創文社,1984 年(→2010 年, 新装版,知泉書院,)。)
(*)(参考：佐藤三夫『ルネサンスの人間論：原典翻訳集』有信堂高文社,1984 年。)
(*)(参考：佐藤三夫「ペトラルカとディオニジダ・ボルゴ・サン・セポルクロ：「ヴァンテ

ウー山登攀」をめぐって」千葉大学教養部研究報告 A17(上),1984 年。)
(*)(参考：豊泉尚美「ボッティチェッリの寓意的世界：異教的主題をもつ作品群の思想的背景とその芸術的表現をめぐって」イタリア学会誌 33,1984 年。)
(*)(参考：田村秀夫「〈研究余滴〉トマス・モア生誕 500 年記念とソヴェトのモア研究」経済資料研究 17,1984 年。)
(*)(参考：植村雅彦「変革期とトマス・モア」人間文化：愛知学院大学人間文化研究所紀要 1(創刊号),1984 年。)
(*)(参考：二宮敬『エラスムス』人類の知的遺産 23,講談社,1984 年。)
(*)(参考：ラブレー/渡辺一夫訳『ガルガンチュワ物語・第 1-5 之書』岩波書店,1984 年。)
(*)(参考：『モンテーニュ』3 刷,世界古典文学全集 37,38,筑摩書房,1984 年。)
(*)(参考：竹田英尚『モンテーニュ日常の思想』京都青山社,1984 年。)
(*)(参考：宇京頼三「モリエール I：スカパンの笑い」人文論叢：三重大学人文学部文化学科研究紀要 1,1984 年。)
(*)(参考：為房裕子・中島厚子編『日本におけるシェイクスピア書誌』(上尾)女子聖学院短期大学,1984 年。)
(*)(参考：シェクスピア/日本放送協会編『トロイラスとクレシダ』NHK シェイクスピア劇場,NHK サービスセンター,日本放送出版協会(発売),1984 年。)
(*)(参考：入江和生『シェイクスピア史劇』研究社出版,1984 年。)
(*)(参考：黒川高志『シェイクスピア悲劇の研究—闇と光』慶應義塾大学法学研究会叢書・別冊 6,慶應義塾大学法学研究会,慶應通信(発売),1984 年。)
(*)(参考：デイヴィッド・M.バージェロン/北川重男訳『最近のシェイクスピア研究—参考文献へのアプローチ』三修社,1984 年。)
(*)(参考：Stephen Usherwood/小宮山博・藤木隆義編註『シェイクスピア劇への招待』南雲堂,1984 年。)
(*)(参考：物部清三「シェイクスピア喜劇研究(5)トロイラスとクレシダ小論」(玉川大学文学部)論叢 25,1984 年。)
(*)(参考：西沢康夫「「アントニーとクレオパトラ」における〈場面〉の論理と劇のダイナミズム」岐阜大学教育学部研究紀要・人文科学 32,1984 年。)
(*)(参考：崎山強「「アントニーとクレオパトラ」に於けるシェークスピアのミュージカルヴィジョン」都城工業高等専門学校研究報告 18,1984 年。)
(*)(参考：ジョン・ミルトン/私市元宏・黒田健二郎訳『教育論』未来社,1984 年。)
(*)(参考：細井敦子「リュシアス作品写本整理の試み」地中海学研究 7,1984 年。)
(*)(参考：渡辺昇『ミルトンと聖書』阪南大学叢書 16,開文社出版,1984 年。)
(*)(参考:松田実矩『ミルトン研究—ミルトンと過去の詩聖および伝統』(京都)山口書店,1984 年。)
(*)(参考：高橋雄四郎「キーツとワーヅワス：「幸福論」をめぐって」實踐英文学 25,1984 年。)
(*)(参考:小林竜一訳「〈翻訳〉A..C.ブラッドリー「シェリーの詩観」」大阪経大論集 157,1984 年。)
(*)(参考:小林竜一訳「〈翻訳〉C.B.ジョーダン「シェリー没後 100 年」」大阪経大論集 158,1984 年。)
(*)(参考：都築佑吉「最近の本邦におけるペイター研究(1-9)」群馬大学教育学部紀要 人文

社会科学編 34,1984 年/35,1985 年,36,1987 年/37,1988 年/38,39,1989 年/40,1990 年/41,1991 年/42,1992 年。)
(*)(参考：成沢和子「リリーとシェイクスピア(2)二の愛--『エンディミオン』と『ソネット集』」紀要 10(1),1984 年。)
(*)(参考：引地正俊「ユースティシアはどこから来たか—ハーディとホメロス」英文学 60,1984 年。)
(*)(参考：引地正俊「マルシュアースとアポロン—ワイルドとギリシア(特集・世紀末)(ヨーロッパの世紀末)」比較文学年誌 20,1984 年。)
(*)(参考：高橋規矩「Shelley における androgynos 像」英語英文学研究 29,1984 年。)
(*)(参考:辻昭三「悲劇の群像とわが栄光—回想詩におけるイェイツ(1,2)」英語青年 130(2,3),1984 年。)
(*)(参考：水野進「マリとエリオットの論争を巡って—浪漫的態度と古典主義的態度」白山英米文学 9,1984 年。)
(*)(参考：池谷敏忠「芸術作品の創造と伝統の継承：T.S.エリオット詩論と世阿弥能楽論」金城学院大学論集,英米文学編 25,1984 年。)
(*)(参考：高柳俊一「T.S.Eliot and Renaissannce」英文学と英語学 21,1984 年。)
(*)(参考：渡辺栄太郎「詩人マシュー・アーノルド—その前半生」大東文化大学紀要,人文科学 22,1984 年。)
(*)(参考：モニーク・ナタン/石井康一訳『作品とアルバムのヴァージニア・ウルフ』南雲堂,1984 年。)
(*)(参考：山田泰完「異端としてのフマニスム(2)」人文社会科学研究 24,1984 年。)
(*)(参考：小栗浩教授退官記念論集刊行会編『ドイツ文学論集：小栗浩教授退官記念』東洋出版,1984 年。)
(*)参考：菊池栄一『ゲーテ時代における文学と社会』菊池栄一著作集 2,菊池栄一著作集刊行会,1984 年。)
(*)(参考:波田節夫『初期ゲーテとヴィーラント』大阪大学,文学博士,乙第 3483 号,1984 年。)
(*)(参考：土橋寶『ゲーテ研究：形態学を中心として』東北大学,文学博士,乙第 3673 号,1984 年。)
(*)(参考：半田恭雄他『ゲーテとの邂逅：没後 150 年紀年企画論文集』三修社,1984 年.)
(*)(参考：桂芳樹「ゲーテの造型空間」モルフォルギア：ゲーテと自然科学 6,1984 年。)
(*)(参考：高橋誠「D.H.ロレンスと悲劇(上下)—D.H.ロレンスの「ハーディ研究」と F.ニーチェの「悲劇の誕生」」Walpugis(1984 年度),1984 年/1985 年度,1985 年。)
(*)(参考:内藤克彦「シラーの青年期の作品における自然」(日本独文学会)ドイツ文学 73,1984 年。)
(*)(参考：柴嵜雅子「ニーチェにおける認識の問題：世界生成と認識」年報人間科学 5,1984 年。)
(*)(参考：三浦春奈「文学と音楽—そして歴史—ニーチェ著「悲劇の誕生」をめぐって」武蔵野音楽大学研究紀要 16,1984 年。)
(*)(参考：恒吉良隆「表現主義におけるニーチェ受容(2)シュテルンハイムの『ドンファン』をめぐって」文芸と思想 48,1984 年。)
(*)(参考：西江秀三「「誠実さ」の位相—ニーチェとモンテーニュ」秋田大学教育学部研究紀要 人文科学・社会科学 34,1984 年。)

(*)(参考：森田弘「日本におけるニーチェ(4)「運命愛」について」ドイツ文化 37・38,1984 年。)
(*)(参考：輪田稔「ニーチェのソクラテス像」東北大学教養部紀要 41(1),1984 年。)
(*)(参考：関戸嘉光「ニーチェとマルクス―小さなニーチェ論のための序言として」長野大学紀要 5(4),1984 年。)
(*)(参考：中村憲治「初期のニーチェにおける芸術家について」武蔵大学人文学会雑誌 16(2),1984 年。)
(*)(参考：富岡近雄「ニーチェとゲオルゲ―時代詩「ニーチェ」をめぐって」武蔵大学人文学会雑誌 16(3・4),1984 年。)
(*)(参考：高橋克己「ヘルダーリンの西欧ギリシア論--「至福なるギリシア」[含 独文]」高知大学学術研究報告・人文科学 33,1984 年/34,35,1986 年。)
(*)(参考：倉賀野安英「ホーフマンスタールのアリアドネ」人文論究 34(3),1984 年。)
(*)(参考：三宅新三「ホーフマンスタールにおける太母像と娘像」岡山大学教養部紀要 20,1984 年。)
(*)(参考：好村富士彦監訳『ベンヤミンの肖像』西田書店,1984 年。)
(*)(参考：清水多吉『ベンヤミンの憂鬱』筑摩書房,1984 年。)
(*)(参考：石川康弘「Thomas Hardy の作品に見られるギリシア悲劇の影響―The Return of the Native を中心として(「悲劇」研究 特集)」関東学院大学人文科学研究所報 8,1984 年。)
(*)(参考：古沢ゆう子「古代と近代における悲劇的なるもの：Das Tragische in der Antike und Neuzeuit」(一橋大学)言語文化 23,1984 年。)
(*)(参考：丹下和彦「野望と恋―グリルパルツァー『金羊皮』考」和歌山県立医科大学進学課程紀要 13,1984 年。)
(*)川地美子「追悼 大山俊一氏 エンタシスの柱」英語青年 129(11)(1620),1984 年。
(*)手塚竜麿「重久篤太郎君の急逝を悼む」英学史研究 17,1984 年。
(*)(参考：加藤尚武「空と弁証法--『ヘーゲル懐疑主義論文』をめぐって」理想 610,1984 年。)
(*)(参考：杉田正樹「合理主義思想と懐疑論」[ヘーゲル]哲学雑誌 771(99),1984 年。)
(*)(参考：木村尚三郎『人物世界の歴史』学習研究社,1984 年。)
(*)(参考：ピエール・ミケル著；ピエール・プロプストイラスト/木村尚三郎訳『古代ギリシアの市民たち』東京書籍,1984 年。)
(*)(参考：三浦一郎「古代ギリシアの親子」ソフィア 32(4),1984 年。)
(*)(参考：古山正人「ネオダーモーデイス―ヘイロータイの解放と軍役」西洋史研究13,1984 年。)
(*)(参考：松本仁助「トロイア戦争の人々」大阪大学教養部研究集録,人文・社会科学 32,1984 年。)
(*)(参考：Cretensis Dictyos/水谷智洋訳「「トロイア戦記」第 3 巻第 16 章~第 27 章―ルーキウス・セプティミウスのラテン訳より」(東京大学教養学部外国語科)外国語科研究紀要 42(6),1984 年。)
(*)(参考：大牟田章「フラウィウス・アッリアノス「アレクサンドロス東征記」第 1 巻・訳および訳註」金沢大学文学部論集,史学科編 4,1984 年。)
(*)(参考：芳賀重徳「中世英国頭韻詩―スキート版「マケドニアの覇王アレクサンダー物語」秋田経済法科大学経済学部紀要 1,1984 年。)

(*)(参考：毛利晶「Cornelius Cossius の決闘伝説と Livius」西洋古典學研究 32,1984 年。)
(*)(参考：ピエール・ミケル著,イヴォン・ル・ゴールイラスト/木村尚三郎訳『ローマ帝国をきずいた人々』東京書籍,1984 年。)
(*)(参考：ジョージ・フレデリック・ヘンデル作曲/サー・チャールズ・マッケラス指揮・イングリッシュ・ナショナル・オペラ管弦楽団合唱団『歌劇「ジリアス・シーザー」全曲』ビデオレコード,パイオニア,1984 年。)
(*)(参考 : 長谷川博隆『ハンニバル地中海の覇権をかけて』清水新書 33,清水書院,1984 年。)
(*)土井正興「「スパルタクスの蜂起」への学生諸君の検証から何を学ぶか」専修人文論集 32, 1984 年。
(*)(参考：土井正興『古代奴隷制社会論』青木書店,1984 年。)
(*)(参考：松本宣郎「第 13 回古代奴隷制研究国際グループ・コロクィオに参加して」歴史学研究 529,1984 年。)
(*)(参考 : 志垣嘉夫『ナポレオンの戦争 : 戦争の天才児 その戦略と生涯』世界の戦争 7,1984 年。)
(*)(参考：松田寿男・森鹿三編『アジア歴史地図』新装復刊版,アジア歴史事典・別巻,平凡社,1984 年。)
(*)(参考：中塚次郎「ヨーロッパ：現代南欧(1983 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 93(5),1984 年。)
(*)(参考：紫野均「ヨーロッパ：近代南欧(1983 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 93(5),1984 年。)
(*)(参考：樺山紘一「ヨーロッパ：中世西欧(1983 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 93(5),1984 年。)
(*)(参考：篠崎三男「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1983 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 93(5),1984 年。)
(*)(参考：毛利晶「ヨーロッパ：古代：ローマ(1983 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 93(5),1984 年。)
(*)(参考 : 伊藤貞夫「歴史理論(1983 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雜誌 93(5),1984 年。)
(*)(参考：西村貞二『悪人が歴史をつくる』中央公論社,1984 年。)
(*)「秀村欣二先生年譜と業績(15 周年記念)」青山史学 8,1984 年。
(*)木村尚三郎「弓削達先生を送る」(東京大学教養学部歴史学研究室)歴史学研究報告 9,1984 年。
(*)(参考：村川堅太郎他著『要説世界史：教授資料』新版,山川出版社,1984 年。)
(*)齋藤孝『昭和史学史ノート：歴史学の発想』小学館創造叢 89,小学館,1984 年。
(*)(参考：レオポール・ジェニコ/森本芳樹監修『歴史学の伝統と革新—ベルギー中世史学の寄与』九州大学出版会,1984 年。)
(*)(参考：松本宣郎「第 13 回古代奴隷制研究国際グループ・コロクィオに参加して」歴史学研究 529,1984 年。)
(*)(参考：中山太郎『賣笑三千年史』中山太郎歴史民俗シリーズ 5,バルトス社,1984 年。)
(*)(参考：坂口明「M.I.ロストフツェフ—その生涯と研究の軌跡」Academeia 2,1984 年。)
(*)内田芳明「〈論文〉日本社会諸科学におけるマックス・ヴェーバー：日本におけるマックス・ヴェーバー受容(1905-1978)」エコノミア 81,1984 年。
(*)木村尚三郎「弓削達先生を送る」歴史学研究報告 19,1984 年。

(*)西井克己「〈訃報〉本会顧問 原随園先生を悼む」史林 67(3),1984 年。
(*)弓削達『明日への歴史』河出書房新社,1984 年。)
(*)(參考：外間政太郎・池田交優「エーゲ海を巡る古代スタディオンの研究」琉球大学教育学部紀要・第二部 27,1984。)
(*)(參考：木村俊晃「古代地域計画の原理その 5 続聖山論」日本土木史研究発表会論文集 6,1984 年。)
(*)(參考：伊藤重剛「プリエネ及びマグネシアの3つの神域について--ヘレニズム時代の配置計画の研究(梗概)」日本建築学会論文報告集339,1984年。)
(*)(參考：笠覚暁「ギリシア・古典期—ヘレニズム期神殿建築の空間概念：神殿及び神話並に哲学に於ける空間概念の相同性(1-3)」日本建築学会論文報告集339,342,345,1984年。)
(*)(參考：松井三郎「古代ローマの水道と下水道」日伊文化研究 22,1984 年。)
(*)秋月しのぶ『聖徳太子と法隆寺』(学習よみもの—人物日本の歴史・第 2 巻)(エンタシス)学習研究社,1984 年。
(*)(參考：田中淡「大陸系建築様式の出現」(エンタシス。同『全集・日本の古寺』所収,集英社,1984 年)。)
(*)(參考：白井秀和「高貴なる単純さと古典主義建築」日本建築学会論文報告集 339,1984 年。)
(*)(參考：稲垣栄三「建築における歴史学(建築学研究の原点)」建築雑誌 99(128),1984 年。)
(*)(參考：桐敷真次郎「コリント式柱頭のカウリクルスについて」建築雑誌,建築年報1984,1984年。)
(*)(參考：桐敷真次郎「14 パラーディオ「建築四書」における記述の上の誤りについて(歴史・意匠)」研究報告集,計画系598,1984年。)
(*)(參考：外間政太郎・池田交優「エーゲ海を巡る古代スタディオンの研究」琉球大学教育学部紀要・第二部27,1984年。)
(*)(參考：小林望「南欧諸国の都市環境について(1,2)地誌的一考察」(青山学院大学経営学部)論集25,1984年/26,1985年。)
(*)(參考:近藤□三「海外・街と建築のデザイン(1,10)広場—南欧の光と影」建築界33(11),1984年/35(2),1985年。)
(*)(參考：堀内清治「地中海古代都市の研究(25)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部3,計画系6,1984年/建築雑誌・建築年報 1984,1984年。)
(*)(參考：堀内清治・佐々木祐輔「905地中海古代都市の研究(26)オリンピア,ゼウス神殿オーダーの比例について(建築歴史・建築意匠)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部3,計画系6,1984年/建築雑誌・建築年報 1984,1984年。)
(*)(參考：堀内清治・坂口宏明「地中海古代都市の研究(27)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部3,計画系6,1984年/建築雑誌・建築年報 1984,1984年。)
(*)(參考：伊藤重剛「地中海古代都市の研究(28)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部3,計画系6,1984年/建築雑誌・建築年報 1984,1984年。)
(*)(參考：伊藤重剛「オリンピアのレオニダスの平面計画について(建築歴史・建築意匠)」学術講演梗概集・計画系59,1984年。)
(*)鈴木裕一「伊東忠太の建築思想(3)E.F.フェノロサ,岡倉天心の美術思想の伊東忠太に及ぼせる影響：建築歴史・建築意匠」学術講演梗概集、計画系49,1984年。

(*)(参考：岸井貫「ガラス・琺瑯：粘土型中でのガラス成形：オリンピアのフィディアス工房での熟練した技術」窯業協會誌92(1069),1984年。)
(*)(参考：F.V.ハント/平松幸三訳『音の科学文化史—ピュタゴラスからニュートンまで』海青社,1984 年。)
(*)(参考：ケニス・ブレッヒャー,マイケル・ファイタク/花野秀男訳『古代人の宇宙：考古天文学への招待』白楊社,1984 年。)
(*)(参考：矢島祐利「征服者メフィットと天文学者クーシチー：アラビア科学研究ノート(9)」科学史研究・第II期22(148),1984年。)
(*)黒田孝郎「科学史の意味づけ—矢島祐利における」科学史研究・第 II 期 22(148),1984 年。
(*)(参考：加茂儀一『レオナルド・ダ・ヴィンチ伝：自然探究と創造の生涯』小学館,1984 年。)
(*)(参考：木原武一『ルイス・マンフォード』鹿島出版会,1984 年。)
(*)(参考：國分信英「アラビア科学 IX：数学」電機通信大学学報 34(2),1984 年。)
(*)(参考：ビダル・R.メネンデス/三好準之助訳「〈資料〉西欧へのアラビア科学の導入とスペイン」京都産業大学国際言語科学研究所所報 5(2),1984 年。)
(*)(参考：岸井貫「ガラス：琺瑯・粘土型中でのガラス成形：オリンピアのフィディアス工房での熟練した技術」窯業協會誌 92(1069),1984 年。)
(*)(参考：立川昭二『病気と人間の文化史』新潮選書,1984 年。
(*)(参考：二宮宏之・樺山紘一・福井憲彦責任編集『医と病い』叢書歴史を拓く,アナール論文集 3,新評論,1984 年。)
(*)(参考：日比野進「ヒポクラテスへの回帰」医療 38(3),1984 年。)
(*)(参考：免取慎一郎『古代西洋医学文書の倫理思想史的研究』学術社,1984 年。)
(*)(参考：関口荘次「古代ギリシャの教育と体育(2)スパルタとアテネの教育と体育,古代オリンピア競技とその教育的意義」拓殖大学論集 149,1984 年。)
(*)(参考：広畑成志・阿部忍「002 “オリンピズム”に関する研究：オリンピック憲章(根本原則)と“オリンピズム”(0.体育原理,一般研究)」日本体育学会大会号 35,1984 年。)
(*)(参考：中村大次・加藤元和「クーベルタンの生涯と体育・スポーツ理念に関する研究」日本体育学会大会号 35,1984 年。)
(*)大野芳『オリンポスの使徒：「バロン西」伝説はなぜ生まれたか』文藝春秋,1984 年。
(*)(参考：アンドレアス・シュピーラ/竹部琳昌訳「西洋思想における夢限への欲求と限界の自覚—アリストテレス・ニュッサのグルゴリウス・ゲーテ」同志社大学外国文学研究 39,1984 年。)
(*)(参考：志田信男『医学・薬学ラテン文法教程』東京薬科大学一般教育研究紀要 7,1984 年。)
(*)(参考：川名悦郎他『医学ラテン語のてびき』同学社,1984 年。)
(*)(参考：坪井光雄『実用医学ラテン語』南江堂,1984 年。)
(*)(参考：馬場典明『ローマ大土地所有の研究：古代奴隷制研究序説』九州大学,文学博士,乙第3264号,1984年。)
(*)(参考：F.ティンネンフェルト/弓削達訳『初期ビザンツ社会：構造・矛盾・緊張』岩波書店,1984 年。)

(*)石川三四郎『西洋社会運動史完全版』黒色戦線社,ウニタ書輔[発売],石川三四郎選集 5,1984 年。
(*)(參考 : 勝部真長「職域倫理(5)ヘレニズムとヘブライズム—漱石「坊っちゃん」とドストエフスキー「罪と罰」」警察学論集 37(8),1984 年。)
(*)(參考 : Alvin W.Gouldner/村井忠政訳「反ミノタウロス論—価値自由社会学の神話(資料)」学園論集 48,1984 年。)
(*)(參考 : 南原一博「比較古代政治思想論—世界政治学史の前提(上下)」法学新報 91(1・2),(3・4),1984 年。)
(*)(參考 : 藤原保信「政治哲学の現況(「知」の最前線〈特集〉)」理想 608,1984 年。)
(*)(參考 : 青野透「〈研究ノート〉ソフィストにおける自然法概念の成立 : K-H・イルティングの所説に依拠して」同志社法學 36(4),1984 年。)
(*)田中美知太郎・山本七平「対談 宰相の資質」正論 11 月号,1984 年。
(*)(參考 : 樋口謹一編『モンテスキュー研究』京都大学人文科学研究所報告,白水社,1984 年。)
(*)(參考 : 佐々木毅『プラトンと政治』東京大学出版会,1984 年。)
(*)(參考 : 田中美知太郎『プラトン 4—政治理論』岩波書店,1984 年。)
(*)(參考 : W.イェーガー/山野耕治訳「プラトンの法律(1-5)」(大阪府立大学人文学会)人文学論集 2,1984 年/3,1985 年/4,1986 年/6,1988 年/(9・10),1991 年。)
(*)(參考 : 吉田宣路「ヘレニズムにおける二つの法思想—覚書」名古屋学院大学論集・社会科学篇 2,1984 年。)
(*)(參考 : 平田隆一「ローマ共和政国家とエトルスキ宗教—研究ノートから」東北大学教養部紀要 41(1),1984 年。)
(*)(參考 : 押村高「モンテスキューとローマ共和政—政治的自由論の形成過程(1)」早稲田大学教育学部学術研究 地理学・歴史学・社会科学編 33,1984 年。)
(*)(參考 : 多田真鋤「現代状況への転位と啓示—O.シュペングラーの政治思想概説」日本及日本人 1574,1984 年。)
(*)(參考 : 石本雅男『無過失損害賠償責任原因論 : ローマ法における Culpa levissima の比較法学的研究(1,2)』第 2 版,法律文化社,1984 年。)
(*)(參考 : 林信夫「ローマ法研究における文献史料と考古学史料」(専修大学)法学論集 40,1984 年。)

(*)(參考 : 山路愛山著/石上良平・石上照子編『人生・命耶罪耶[マルクス]』影書房,1985年。)
(*)(參考 : 寺田光雄「青年マルクスの思想性—人間把握の内面性」埼玉大学紀要,社会科学編33,1985年。)
(*)川崎真治『誰も言わなかった古代史の話 : 日本のなかのオリエント』新人物往来社,1985年。
(*)吾郷清彦『世界神学序論』日本神学連盟,改訂再版,1985 年。
(*)(參考 : 信州大学人文学部特定研究研究班編『文化受容とその展開 : 言語・文学・諸相・歴史における』信州大学人文学部,1985 年。)
(*)(參考 : 石田友雄他執筆『古代文明の発展』オリエント史講座 2 巻,学生社,1985 年。)
(*)近藤信行「旅と棄郷と(30)箕作元八のドイツ,フランス」早稲田文学[第 8 次]109,1985 年。
(*)熊谷和則「井出文子・柴田三千雄編集・解説『箕作元八・滞欧「筬梅日記」』東京大学出版会,1984 年」史学雑誌 94(7),1985 年。

(*)木村尚三郎・山崎正和・丸谷才一「『滞欧「箙梅日記」』箕作元八著(鼎談書評)」文藝春秋 63(7),1985 年。
(*)大内宏一「『箕作元八・滞欧「箙梅日記」』井出文子・柴田三千雄編集・解説」比較文学年誌 22,1985 年。
(*)岸恵子「岸恵子アフリカをゆく(2)ネフェルティティとクレオパトラ」文藝春秋 63(12),1985 年。
(*)トルコ共和国文化観光省「海外の旅シリーズ(25)トルコ-イスタンブールとエーゲ海地方」季刊輸送展望(春季)194,1985 年。
(*)森川久美『アルカディアの道』花とゆめ COMICS 656,白泉社,1985 年。)
(*)(参考：L.Blumenthal/大場国彦訳「ゲーテの「タッソー」におけるアルカディア」専修商学論集 40,1985 年。)
(*)(参考：兵頭高夫「桃の東西—桃源郷とアルカディア」武蔵大学人文学会雑誌 17(2),1985 年。)
(*)(参考：ジャック・ペジノ「〈書評〉ブローデルとアナル派の考察」ソフィア 33(4),1985 年。)
(*)(参考：奥村家造「アーノルド・トインビーとホセ・オルテガ・イ・ガセット」(立命館大学外国語科連絡協議会)外国文学研究 65,1985 年。)
(*)(参考：浜林正夫「H.T.バックルの『イングランド文明史』」一橋大学社会科学古典資料センター年報 5,1985 年。)
(*)ブルー・ガイドブックス編集部編『ギリシア・エーゲ海』新装 5 版,ブルーガイド海外版 22,実業之日本社,1985 年。
(*)(参考：エリー・ウィンズロー/直良美樹子訳『エーゲ海のささやき』講談社文庫,講談社,1985 年。)
(*)(参考：「JAL エアロ・サウンド—インターナショナル・エアポート(「エーゲ海の真珠」)録音ディスク,日本クラウン,1985 年。)
(*)(参考：中野和道・高島慶司編『永遠のポップス：Best pop music ベスト 458（「エーゲ海の真珠」）』全音楽譜出版社,1985 年。)
(*)小山智士「日本のエーゲ海「牛窓」」食の科学 86,1985 年。
(*)(参考：樺山紘一『地中海の誘惑』中公文庫,中央公論社,1985 年。)
(*)(参考：山本祥一朗『キプロスに酔う：地中海最後の楽園』竹書房,1985 年。)
(*)安野光雅「キプロスにて(えぶりしんぐ[5])」ユリイカ 17(5),1985 年。
(*)小川熙『地中海美術の旅』新潮選書,新潮社,1985 年。
(*)塩野七生『ヴェネッイアの夜：奈良原一高写真集』岩波書店,1985 年。)
(*)(参考：青柳正規責任編集『文明の曙光：古代エジプト・オリエント』日本放送協会出版,NHK ルーブル美術館 1,1985 年。)
(*)(参考：青柳正規責任編集『地中海世界の輝き：古代ギリシア/ローマ』日本放送協会出版,NHK ルーブル美術館 2,1985 年。)
(*)(参考：石田友雄他『古代文明の発展』(太田秀通「東地中海世界」)オリエント史講座 2,學生社,1985 年。)
(*)(参考：青柳正規「1 万年を見る方法--「トルコ文明展」の場合(アーチニューズ)」芸術新潮 36(5),1985 年。)
(*)(参考：ボリス・B.ビオトロフスキー/加藤九祚・生田圓・青柳正規訳『エルミタージュ

美術館：その歴史とコレクション』岩波書店,1985 年。)
(*)(参考：ギュンター・フライシュハウアー『エトルリアとローマ』音楽之友社,1985 年。)
(*)(参考：M.パロッティーノ他/青柳正規・大槻泉・新喜久子訳『エトルリアの壁画』岩波書店,1985 年。)
(*)(参考：ジョン・アップダイク/大津栄一郎訳『アメリカの家庭生活：短編小説集』(「アトランティス人」)講談社,1985 年。)
(*)(参考：ジョン・ミッチェル/大島有子・南山宏編監修『アトランティスの記憶』国書刊行会,超科学シリーズ 8,1985 年。)
(*)山川偉也「ヘラス讃歌—ギリシア留学記」[「哲学の始原を求めて」「ペルガモンの書庫」「アナクサゴラスの故郷」「サルディス」「エフェソス」「ミレトス」「ディデュマ」「クシャダスからサモスへ」](桃山学院大学総合研究所)総合研究所ニュース,1985 年(→2010 年,『ギリシア思想のオデュッセイア』所収,世界思想社)。
(*)(参考：L.B.ローウラー/小倉重夫訳『古代ギリシアの舞踏文化』未来社,1985 年。)
(*)林礼子『希臘の独り子：私にとっての野溝七生子』林礼子出版事務局,1985 年。
(*)(参考：松村仙太郎「イコンとアラベスク—比較文化のこころみ」ΠΛATEIA8,1985 年。)
(*)(参考：澤柳大五郎「アリステュラの墓碑—握手に就いて」エピステーメーII 1,1985 年。)
(*)(参考：澤柳大五郎「もう一人のフルトヴェングレル」図書 429,1985 年。)
(*)(参考：内田芳明『風景の現象学：ヨーロッパの旅から』中公新書,中央公論社,1985 年。)
(*)(参考:スタイン,アリアーノス/前田竜彦訳『アレクアンドロス古道』同朋舎出版,1985 年。)
(*)(参考：『アレキサンダーの道』遙かなる文明の旅 2,学習研究社,1985 年。)
(*)堀晄・林俊雄『ウラルトゥの美術と工芸』古代オリエント博物館・岡山市立オリエント美術館,1985 年。
(*)弘前大学『インド・パキスタンの仏教図像調査=Iconographical study of Buddist art in India and Pakistan』弘前大学,1985 年。
(*)(参考：杉田英明「「東西文化交流の諸相」前嶋信次(全 4 巻)「アラビア学への道—わが人生のシルクロード」前嶋信次」比較文學研究 48,1985 年。)
(*)古代オリエント博物館編『ガンダーラの貴婦人と化粧皿』古代オリエント博物館,1985 年。
(*)大和文華館編『ガンダーラの彫刻:東洋の古典的人間像の源流:開館 25 周年記念特別展』大和文華館,1985 年。
(*)(参考：西川幸治『仏教文化の源郷をさぐる：インドからガンダーラまで』NHK ブックス 473,日本放送出版協会,1985 年。)
(*)(参考：久野健『仏像のきた道：ガンダーラから慶州まで』NHK ブックス・カラー版,日本放送出版協会,1985 年。)
(*)平山郁夫『平山郁夫展：仏教伝来—大和への道』朝日新聞社東京本社企画第 1 部,1985 年。
(*)平山郁夫他『ふるさとガンダーラ』とんぼの本,新潮社,1985 年。
(*)宮川雄二郎『いつかガンダーラへ』三修社,1985 年。
(*)(参考：上原和研究代表『芸術における異文化接触の諸相』成城大学,1985 年。)
(*)(参考：上原和「ガンダーラの弥勒菩薩をめぐる諸問題」仏教芸術 160,1985 年。)
(*)(参考：『シルクロード歴史読本』歴史読本ワールド,新人物往来社,1985 年。)
(*)(参考：東京国立博物館・大阪市立美術館・日本経済新聞社編『シルクロードの遺宝：古

代・中世の東西文化交流』日本経済新聞社,1985 年。)
(*)(参考 : 高崎譲治「希臘羅馬阿拉伯波斯身毒賽里斯間のシルクロード経済交易と正倉院の『国家珍宝』に関する商業経済史的分析の三極構造 : 価格的金銀粟絹等物質的財貨と非価格的文化宗教芸術技術等精神的財貨の東西交流と「風土の理論」の序説的考察と試論」いわき紀要 1984,1985 年。)
(*)大類伸『キリシタン運動の時代』私家版(日本学士院所蔵),1985 年。
(*)(参考 : 高橋富雄編『文化における受容と変容』角川書店,1985 年。)
(*)(参考 : 山本新著/神川正彦・吉沢五郎編『周辺文明論—欧化と土着』刀水書房,刀水歴史全書 22,1985 年。)
(*)田中美知太郎・西部邁「対談 われわれの生きている時代(1-6)」正論 6,7,8,12 月号,1985 年/1,2 月号,1986 年。
(*)(参考 : 奥村家造「アーノルド・トインビーとホセ・オウレガ・イ・ガセット」(立命館大学外国科連絡協議会)外国文学研究 65,1985 年。)
(*)(参考 : コリングウッド他/大野千登志・菊川忠生辺訳『歴史と進歩』イザラ書房,1985 年。)
----コリングウッド「進歩の哲学」/A.トインビー「人類史に意味はあるか」/ギンズバーグ「道徳に進歩はあるか」/K.ポパー「知による解放」
(*)(参考 : 野田宣雄・遠藤浩一「「教養主義」への信仰がナチズムを招いた(かくしんインタビュー)」かくしん 176,1985 年。)
(*)久米美術館編『特命全権大使『米欧回覧実記』銅版画集』久米美術館,1985 年。
(*)久米美術館編『久米邦武と『米欧回覧実記』展 : 日本を世界に開く岩倉使節団』久米美術館,1985 年。
(*)(参考 : E.Freise(erlät.von K.Yoshida)“Deutschland—Japan : historische Kontakte”Dogakusha, 1985.)
(*)(参考 : 日独文化研究所編『ドイツにおける学術研究の現状 : シンポジウム』国際文化交流フォーラム第 2 回,日独文化研究所,1985 年。)
(*)『現代翻訳者辞典』日外アソシエーツ,昭和 60 年。
(*)土肥耕三編『最新 著者名よみかた辞典(上下)』日外アソシエーツ,1985 年。
(*)坂口博規・木村晟「越谷吾山の辞書『俳諧翌檜』の本文[本巻](2)」北海道駒澤大學研究紀要 20,1985 年。)
(*)(参考 : 泉田昭他編『新聖書辞典』いのちのことば社,1985 年(→2014 年,新装版)。)
(*)(参考 : B.M.メッツガー/土岐健治監修・笠原義久他訳『図説ギリシア語聖書の写本 : ギリシア語古文書入門』教文館,1985 年。)
(*)(参考 : M.アモロス『ギリシア語の学び方(本・別冊)』南窓社,1985 年。)
(*)(参考 : 柴田光蔵『法律ラテン語格言辞典』玄文社,1985 年。)
(*)(参考 : 柴田光蔵『法律ラテン語辞典』日本評論社,1985 年。)
(*)荒木繁「百合若大臣」(日本古典文学大辞典編集委員会『日本古典文学大辞典・第 6 巻』所収,岩波書店,1985 年。)
(*)(参考 : 麻生建『解釈学』世界書院,1985 年。)
(*)(参考 : 林泰三『圖書舘學教育思想史』三光出版社,1985 年。)
(*)松岡洸司「長崎文献めぐり」キリスト教文化研究所紀要 4,1985 年。
(*)(参考 : 谷口幸男他『現代に生きるグリム』(言語学)岩波書店,1985 年。)
(*)(参考 : 長瀬真理「哲学とコンピュータ—テキスト・データベースの現状と展望」理想

630,1985 年。)
(*)(参考：矢島文夫「古代文字を読む—3 種の古代文字をめぐって」言語生活 1985 年。)
(*)(参考：矢島文夫「印欧語とセム語の比較：学史的展望」京都産業大学国際言語科学研究所所報 6(2),1985 年。)
(*)(参考：矢島文夫『失われた古代文字の謎』大和書房,1985 年。)
(*)(参考：中山恒夫「西洋古典世界とことば」(藤田実・平田達治編『ことばの世界』所収,大修館書店,1985 年。)
(*)堀井令以知「泉井久之助先生と印欧学」京都産業大学国際言語科学研究所所報 6(2),1985 年。
(*)渡辺義雄「河野與一先生と外国語」ちくま 171,1985 年。
(*)立命館大学編「原随園先生寄贈図書目録」立命館大学,1985 年。
(*)恵光院白編『中村二柄教授年譜・著作目録』白楽(発売),1985 年。)
(*)大久保久雄・笠原勝朗篇『壽岳文章書誌』特装版,普及版,壽岳文章書誌刊行会,1985 年。
(*)(参考：竹島俊之「古典ギリシア語の人称表現の実体」(広島大学総合科学部)言語文化研究 11,1985 年。)
(*)(参考：江端義夫「言語地図の地図学的考察—マールブルク大学所蔵の世界の言語地図を観て(1,2)」広島大学教育学部紀要,第二部 34,1985 年/35,1986 年。)
(*)(参考：アイザ・ボウマン/河底尚吾『ラテン語入門』泰流社,1985 年(→1992 年,改訂新版)。)
(*)(参考：二宮陸雄『演習ラテン語文法』篠原出版,1985 年。)
(*)(参考：村上勝也「イソップ寓話の動物たちの Gender と Sex—ギリシャ語の通性名詞について」広島文教女子大学紀要 20,1985 年。)
(*)佐野晴雄「生田長江と「ツァラトストラ」テキスト—生田長江文庫のニイチェ文献を通じて」比較文学 28,1985 年。
(*)上妻精・伊吹克己[編]「サルトル関する日本語文献目録(サルトル特集)」実存主義 89,1985 年。
(*)(参考：リュシアン・フェーヴル&アンリ・ジャン・マルタン/関根素子・長谷川輝夫・宮下志朗・月村辰雄訳『書物の出現(上下)』筑摩書房,1985 年(→1998 年,ちくま学芸文庫版)。
(*)(参考：柳沼重剛「第 8 回国際古典学会議[FIEC]に出席して」西洋古典學研究 33,1985 年。
(*)(参考：岩波文庫編集部編『ことばの贈物：岩波文庫の名句 365』岩波文庫別冊 6,岩波書店,1985 年。)
(*)(参考：太田秀通「エンゲルス『起源』における英雄時代」歴史学研究 540,1985 年。)
(*)佐伯有清「柳田国男と J.G.フレイザー」成城文藝 110,1985 年。
(*)(参考：猪股正広「ハインリッヒ・フォン・クライスト「アンフィートリオン」(1807 年)—冥府行神話を中心として」都留文科大学研究紀要 22,1985 年。)
(*)(参考：小山薫「Milton と古典神話—没入から覚醒へ」阪南論集：人文・自然科学編 21(1),1985 年。)
(*)(参考：銭本健二「W.B.イェイツ論(IV,V)：神話の詩法(i,ii)」島根大学教育学部紀要,人文・自然科学 19,1985 年/20,1986 年。)
(*)(参考：渡辺正「ロレンスの「乗車券をどうぞ」--「エロスとプシケ」神話の視点から」名古屋工業大学学報 37,1985 年。)
(*)(参考：ポール・ヴェーヌ/大津真作訳『ギリシア人は神話を信じたか』法政大学出版局,1985

年。)
(*)(参考：丹羽隆子『ギリシア神話：西欧文化の源流へ』大修館書店,1985 年。)
(*)(参考：B.エヴスリン/喜多元子訳『ヘラクレア物語：ギリシャ女戦士伝説』社会思想社,現代教養文庫 1117,1985 年。)
(*)(参考：ケレーニイ/高橋英夫・植田兼義訳『ギリシア神話(神々の時代：英雄の時代)』中公文庫[二分冊]中央公論社,1985 年。)
(*)(参考：中山典夫「ギリシア後期およびローマ時代のアフロディテ(ウェヌス)像の研究」筑波大学芸術年報 1985,1985 年。)
(*)(参考：島田紀夫「モディリアニ展—眠れるヴィナス,目覚める娼婦,そして・・・-モディリアニの裸婦をめぐって(特集)」三彩 455,1985 年。)
(*)(参考：合田正人「ペネロペ—レヴィナスと〈女性〉(25 人の恋人たち〈特集〉)」ユリイカ 17(10),1985 年。)
(*)(参考：橋本隆夫「デメテル神話とオリエント」近代 61,1985 年。)
(*)(参考：高橋雄四郎「アドニスの庭：死・エロス・再生」實踐女子大学文学部紀要 27,1985 年。)
(*)(参考：和田廣“Helen als Seelenverderber in der frühbyzantinischen Gesellschaft ?”byzantina 13(2),1985。)
(*)(参考:太田秀通「A Problem of the Theseus Legends」国際商科大学論叢・教養学部編 31,1985 年。)
(*)(参考：Masaaki Kubo “Sappho-Ovidivus-Renaissance—A Description of the Marginal Notes to Sappho’s Letter in the Parmensis 1477(Bodl.Auct.P.II.2)」”地中海学研究 8,1985 年。)
(*)(参考：川島清吉『ホメロスとギリシア悲劇』公論社,1985 年。)
(*)(参考：松平千秋『ホメロスとヘロドトス：ギリシア文学論考』筑摩書房,1985 年。)
(*)(参考：柳沼重剛「ディオニュシオスのトゥキュディデス文体批評」文藝言語研究,言語篇 10,1985 年。)
(*)(参考：藤井昇『ラテン文学の周辺』わらび書房,1985 年。)
(*)「「地中海学会」の新会長になった村川堅太郎さん」東京朝日新聞朝刊 7/7,1985 年。
(*)(参考：宗教史学研究所編『聖書とオリエント世界』山本書店,1985 年。)
(*)(参考：並木浩一他『ヘレニズムとヘブライズム：合理性と非合理性をめぐって：講義と演習』新地書房,1985 年。)
(*)(参考：B.M.メッツガー/土岐健治監訳・笠原義久他訳『図説ギリシア語聖書の写本：ギリシア語古文書学入門』教文館,1985 年。)
(*)(参考：荒井献「初期キリスト教における『正統』と『異端』」(並木浩一・川島重成・絹川正吉・川田殖・荒井献『ヘブライズムとヘレニズム：合理性と非合理性をめぐって：講義と演習』新地書房,1985 年。)
(*)(参考：秀村欣二「イエスと熱心党についての若干の考察」(『三上次男博士喜寿記念論文集・歴史編』所収,平凡社,1985 年。)
(*)(参考：秀村欣二「現段階におけるユダヤ人研究社者のイエス観—熱心党をめぐる論争を中心として」(『三笠宮電化古稀記念オリエント学論集』所収,1985 年。)
(*)(参考：伊吹雄「ロゴス讃歌について[独文]」成蹊大学一般研究報告 22,1985 年。)

(*)(参考 : 水落健治「アレクサンドリアのフィロンにおける《聖書解釈》の問題」途上 15,1985 年。)
(*)(参考 : 荒井献「ナグ・ハマディ写本と新約聖書」聖書学論集 19,1985 年。)
(*)(参考 : 布川悦子「「ヘブル人への手紙」のディダケーとパイデイア」キリスト教学 27,1985 年。)
(*)(参考 : 蓮見和男『私たちの救い主 : ルカ福音書による』つのぶえ文庫 13,新教出版社,1985 年。)
(*)(参考 : フランシスコ会聖書研究所訳注『ヨハネによる福音書 : 原文校訂による口語訳』改訂新版,聖書,中央出版社,1985 年。)
(*)(参考 : 大貫隆「ルカ神学におけるキリスト論と終末論—J.エルンスト説への批判」(新教出版社)新約学研究 13,1985 年。)
(*)(参考 : 出村みや子「オリゲネス『ケルソス駁論』における復活論の問題—ギリシア思想との対比において」ペディラヴィウム 21,1985 年。)
(*)(参考 : 新田一郎「趣旨説明 報告の位置付け(1984年度[西洋史研究会]大会共通論題報告—ローマ帝国とキリスト教)」西洋史研究14,1985年。)
(*)(参考 : 阪本浩「報告 ローマ皇帝礼拝の諸相—キリスト教徒迫害との関連で(1984年度[西洋史研究会]大会共通論題報告—ローマ帝国とキリスト教)」西洋史研究14,1985年。)
(*)(参考 : 松本宣郎「報告 マルクス・アウレリウス時代のキリスト教徒とローマ社会(1984年度[西洋史研究会]大会共通論題報告—ローマ帝国とキリスト教)」西洋史研究14,1985年。)
(*)(参考 : 豊田浩志「報告 紀元 3 世紀中葉のローマ帝国とキリスト教--「ローマ建国 1 千年祭」と Philippus Arabs(1984 年度[西洋史研究会]大会共通論題報告—ローマ帝国とキリスト教」西洋史研究14,1985年。)
(*)(参考 : 木寺廉太「報告 2~3 世紀の教父にみる戦争・軍隊・平和観—エイレナイオス,ヒッポリュトス,アレクサンドリアのクレメンス(1984 年度[西洋史研究会]大会共通論題報告—ローマ帝国とキリスト教」西洋史研究14,1985 年。)
(*)(参考 : 茂泉昭男他「討論(1984 年度[西洋史研究会]大会共通論題報告—ローマ帝国とキリスト教」西洋史研究 14,1985 年。)
(*)(参考 : 豊田浩志「紀元 3 世紀前半のローマ帝国とキリスト教—エウセビオス「教会史」叙述における」美作女子大学・美作女子短期大学部紀要 30,1985 年。)
(*)(参考 : 豊田浩志「ローマ帝国とキリスト教—古代世界と中世世界の狭間で」(竹内正三・坂田正二編『ローマから中世へ』所収,渓水社,1985 年。)
(*)(参考 : 松本宣郎「ギリシア・ローマと初期キリスト教における寛容政策—P.Garnsey の報告から」東北学院大学キリスト教研究所紀要 3,1985 年。)
(*)(参考 : 土岐健治「ユダヤ人とローマ人」一橋論叢 93(4),1985 年。
(*)(参考 : 秦剛平・L.H.フェルトマン共編『ユセフスとキリスト教』山本書店,1985 年。)
(*)(参考 : 秦剛平・L.H.フェルトマン共編『ユセフス,ヘレニズム,ヘブライズム』山本書店,1985-86 年。)
(*)(参考 : 辻佐保子「Vat.lat.39(新約聖書)挿絵解説」(『ヴァティカン教皇庁立図書館蔵本ファクシミリ版』所収,岩波書店,1985 年。)

(*)曽野綾子『聖パウロの世界を行く』もんじゅ選書,講談社,1985 年。
(*)井戸清市『朝汐橋のキリスト：昭和の使徒行伝』帝塚山キリスト教図書館,1985 年。)
(*)(参考：山口誠一・堀江聡訳・解説「ヘーゲル「霊魂論」翻訳断片」(上妻精・加藤尚武編)「ヘーゲル研究」3,1985 年。)
(*)武田友寿『「沈黙」以後：遠藤周作の世界』女子パウロ会,1985 年。
(*)Luis de Granada 原著/鈴木博編『キリシタン版ヒイデスの導師』清文堂出版,1985 年。
(*)『中村真一郎劇詩集成』(「百合若の勝利」)思索社,1985 年。
(*)小林健二「固定前の幸若舞曲に関する一考察」中世文学 30,1985 年。
(*)徳江元正「幸若舞曲・語り物」中世文学 30,1985 年。
(*)中村真一郎『中村真一郎劇詩集成』(「百合若の勝利」)思潮社,1985 年。
(*)佐藤嗣明「『井伏文学手帖』と私」(百合若)文学と教育 131,1985 年。
(*)村岡花子ぶん；山中冬児え『イソップ童話：イソップ名作選』改訂版カラー版,世界の幼年文学 1,偕成社,1985 年。
(*)平田昭吾企画・構成・文；井上智画『イソップものがたり』世界名作ファンタジー3,ポプラ社,1985 年。
(*)Peter Milward；Shoichi Matsushima(ed.with notes)“Aesop in Japanese clothing”Hokuseido Press,1985 年。
(*)ポール・ガルドン絵；木島始訳『まちのねずみといなかのねずみ：イソップ寓話より』ポール・ガルドン昔話シリーズ,佑学社,1985 年。
(*)河鍋暁斎著・山口静一編『暁斎挿絵』暁斎資料 7,暁斎記念館,1985 年。
(*)河鍋暁斎画・河鍋楠美編『狂斎画譜：全』暁斎資料 9-1,暁斎記念館,1985 年。
(*)惺々暁斎手筆・河鍋楠美編『暁斎画譜：全』暁斎資料 10-3,暁斎記念館,1985 年。
(*)鶴見俊輔『高野長英』朝日選書,1985 年。
(*)木戸昭平『馬場孤蝶』高知市民図書館,1985 年。
(*)木下彪「「佳人之奇遇」の詩と其の作者」文学 43(9),1985 年。
(*)久保忠夫「土井晩翠ところどころ(1)(2)」東北学院大学東北文化研究所紀要 17,1985/18,1986 年。
(*)海老阪武「林達夫の「抵抗」と「躊躇」--一年ののちに」思想 731,1985 年。
(*)記事「河野多麻さん焼死」(河野与一)東京朝日新聞朝刊 1 月 25 日付,1985 年。
(*)桑原則正「上田敏のサッポー」ΠΛATEIA8,1985 年。)
(*)蔵本邦夫「上田敏とイスパニア文学」サピエンチア：英知大学論叢 19,1985 年。)
(*)『西脇順三郎』現代詩読本,思潮社,1985 年。
(*)澤正弘「西脇順三郎詩集『Ambravalia』試論(近代部門,第 5 回研究発表大会・発表要旨)」日本文学 34(6),1985 年。
(*)太宰治『晩年：走れメロス』日本の文学 60,ほるぷ出版,1985 年。
(*)太宰治『走れメロス』40 刷改訳新潮文庫,新潮社,1985 年。
(*)広瀬千賀子『野上弥生子研究』松田静子,1985 年。
(*)『野上弥生子展：その百年の生涯と文学』日本近代文学館,1985 年。
(*)大分県立大分図書館編『野上弥生子先生をしのぶ』大分県立大分図書館,1985 年。
(*)谷川徹三「野上弥生子の文学世界(追悼 野上弥生子先生)」世界 475,1985 年。
(*)久保亮五「宗麟の盃を傾けながら(追悼 野上弥生子先生)」世界 475,1985 年。
(*)大岡昇平「追悼 野上弥生子」新潮 82(6),1985 年。

(*)加賀乙彦「追悼・野上弥生子の新しさ」知識 42,1985 年。
(*)佐多稲子・小田切進・加賀乙彦「追悼 野上弥生子先生」群像 40(6),1985 年。
(*)小田切進「稀な人(追悼 野上弥生子)」中央公論 100(6),1985 年。
(*)野上弥生子・谷川俊太郎「思い出すことども(追悼 野上弥生子)」中央公論 100(6),1985 年。
(*)櫛田ふき「野上弥生子さんを追慕して」文化評論 291,1985 年。
(*)津田孝「野上弥生子さんを偲ぶ」民主文学 235,1985 年。
(*)「野上弥生子追悼」すばる 7(6),1985 年。
(*)「野上弥生子・人と作品〈追悼特集〉」民主文学 236,1985 年。
(*)渡辺澄子「野上弥生子論(野上弥生子,特集)」国文学 解釈と鑑賞 50(10,1985 年。
(*)(参考 : 乾昌幸「薔薇の変容(1)レミ・ド・グルモン,上田敏,大手拓次」埼玉大学紀要 21,1985 年。)
(*)杉本つとむ『日本英語文化史の研究』八坂書房,1985 年。
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編『ルネサンスの教育思想』(上下。東洋館出版社,教育思想史 5,1985 年。)
(*)(参考：H.ベッカー/三島憲一訳「ギムナジウム神話の崩壊—高等教育のあり方をめぐって」世界 482,1985 年。)
(*)(参考：松平千秋『ホメロスとヘロドトス：ギリシア文学論考』筑摩書房,1985 年。)
(*)(参考：四方田犬彦「ルキアノス讃(反=〈旅〉,特集)」現代詩手帖 28(9),1985 年。)
(*)(参考：岩倉具忠他著『イタリア文学史』東京大学出版会,1985 年。)
(*)(参考：澤井繁男「Novellino の意義」イタリア学会誌 34,1985 年。)
(*)(参考：アウレリオ・ロンカーリア/岩倉具忠訳「「シチリア派」生誕七五 0 周年によせて」イタリア学会誌 34,1985 年。)
(*)(参考：イェーニヒ・ディーター/井口正俊・大森淳史訳「美学にとってのヤーコブ・ブルクハルトの意義」フィロカリア 2,1985 年。)
(*)(参考：M.セール/及川馥訳『離脱の神話』法政大学出版局,1985 年。)
(*)丸谷才一・山崎正和・木村尚三郎『三人で本を読む：鼎談書評』文藝春秋,1985 年。
(*)(参考：中山太郎『愛慾三千年史』中山太郎歴史民俗シリーズ 6,バルトス社,1985 年。)
(*)(参考：平田俊春『最新歴史年表』4 訂増補版,朋友出版,1985 年。)
(*)(参考：永井久一郎『希臘史』(明治 11 年刊の復刻,文部省)青史社,1985 年。)
(*)(参考：大井謙吉『羅馬史』(明治 11 年間の復刻,文部省)青史社,1985 年。
(*)(参考：村川堅太郎他著『詳説世界史』改訂版,山川出版社,1985 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『詳説世界史：教授資料』改訂版,山川出版社,1985 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『世界史』改訂版,山川出版社,1985 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『世界史：教授資料』改訂版,山川出版社,1985 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『要説世界史』改訂版,山川出版社,1985 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『要説世界史：教授資料』改訂版,山川出版社,1985 年。)
(*)(参考：金澤良樹「シンポジウム《歴史における支配と差別》：西洋古代史の立場から」史境 10,1985 年。)
(*)(参考：鈴木信義「成長の過程としての「読み」の指導と学生の意識—小学 2 年・「アレクサンダとぜんまいねずみ」を中心に」北海道教育大学紀要,第 1 部 C 教育科学編 35(2),1985 年。)

(*)(参考：大牟田章「フラウィウス・アッリアノス「アレクサンドロス東征記」第 2 巻および第 3 巻訳」金沢大学文学部論集,史学科編 5,1985 年。)
(*)(参考：長澤和俊編『アレクサンダーの戦争：青年王とユーロ・アジア大帝国』世界の戦争 1,講談社,1985 年。)
(*)(参考：吉村忠典編『ローマ人の戦争：名将ハンニバルとカエサルの軍隊』世界の戦争 2,講談社,1985 年。)
(*)(参考：牟田口義郎編『イスラムの戦争：アラブ帝国からコンスタンティーープルの陥落まで』世界の戦争 3,講談社,1985 年。)
(*)(参考：長谷川博隆編『ヨーロッパ：国家・中間権力・民衆』(石川勝二「初期ローマの植民市建設について」/長谷川博隆「古代イタリアにおける移牧と牧人」/土岐正策「「バッリウムについて」とテルトゥリアヌス」)名古屋大学西洋史論集 1,名古屋大学出版会,1985 年。)
(*)(参考：土井正興「スパルタクス蜂起のなかの女性(女性史—家族・親族と女性,特集」歴史評論 419,1985 年。)
(*)(参考：L.H.フェルトマン/秦剛平訳『ヨセフス研究(1,2,3)』山本書店,1985 年。)
(*)(参考：ヴェルナー・H.シュミット/山我哲雄訳『歴史における旧約聖書の信仰』新地書房,1985 年。)
(*)(参考:佐藤育子「カルタゴ史に関する史料:ポエニ碑文の分析を中心にして」史艸 26,1985 年。)
(*)(参考：塩野七生『サロメの乳母の話』中央公論社,1985 年(→1986 年,中公文庫)。)
(*)(参考：塩野七生『ロードス島攻防記』新潮社,1985 年(→1991 年,新潮文庫版)。)
(*)(参考：牟田口義郎『イスラムの戦争：アラブ帝国からコンスタンティノープルの陥落まで』世界の戦争 3,講談社,1985 年。)
(*)(参考：渡辺金一『コンスタンティノープル千年：革命劇場』岩波新書,岩波書店,1985 年。)
(*)(参考：紫野均「ヨーロッパ：現代南欧(1984 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 94(5),1985 年。)
(*)(参考：立石博高「ヨーロッパ：近代南欧(1984 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 94(5),1985 年。)
(*)(参考：服部良久「ヨーロッパ：中世西欧(1984 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 94(5),1985 年。)
(*)(参考：清永昭次「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1984 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 94(5),1985 年。)
(*)(参考：坂口明「ヨーロッパ：古代：ローマ(1984 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 94(5),1985 年。)
(*)(参考：土井正興「The Present Stage of studies on Spartacus' Uprising and its Problem」専修大学人文論集 35,1985 年。)
(*)(参考：土井正興「世界史における発展法則と類気鋭：キルクムケリオーネス運動の歴史的展開」(専修大学)人文科学年報 15,1985 年。)
(*)(参考：E.ル=ロワ=ラデュリー/二宮宏之訳「歴史家の領域—歴史学と人類学の交錯」思想 728,1985 年。)
(*)(参考：柳沼重剛「第 8 回国際古典学会 FIEC に出席して」西洋古典學研究 33,1985 年。)

(*)磯見辰典「三浦一郎先生の古稀をお祝いして(三浦一郎先生古稀記念号)」ソフィア 30, 1985 年。)
(*)杉靖三郎他『若き日の人と学との出会い』思索社,1985 年。
(*)(参考：澤柳大五郎「もう一人のフルトヴェングレル」図書 429,1985 年。)
(*)田中美知太郎「哲学談義とその逸脱(9)上原専禄の場合」新潮 82(4),1985 年。
(*)村川堅太郎「エトルリアと私」図書 432,1985 年。
(*)村川堅太郎「箕作元八先生のこと」UP14(6)(152),1985 年。
(*)村川堅太郎「六十二年前のこと」中央公論 100(12)(1199),1985 年。
(*)森田康之助「わが国史学の伝統—史学史の試み」國學院大學紀要 23,1985 年。
(*)(参考：M.ハイッデガー/辻村公一・H.ブフナー訳「ヘーゲルとギリシア人たち」(『道徳』ハイデッガー全集 9 巻所収)創文社,1985 年。)
(*)「井上忠教授・資料(著作・講演等)」東京大学教養学部人文科学科紀要 83,1985 年。
(*)(参考：東京大学美芸術学研究室編『美学史論叢：今道友信教授還暦記念』勁草書房,1985 年。)

----- 岡部勉「プラトン：「意味」と「理解」」
藤田一美「アリストテレスに於ける作品の美の位相」
松尾大「弁論家とパトス：キケローの decorum 論の一側面」
奥津聖「たわむれのテオリア：解釈者としてのプロティノス」
岡部由紀子「アウグスティヌスの解釈論」
利光功「シラーの「美的教育」について」
眞鍋將「美的伝達の成立：シュライエルマッハーにおける美学と解釈学の接点」
森谷宇一「ニーチェの芸術観の基本的構造」

(*)玉江彦太郎『青萍：末松謙澄の生涯』葦書房,1985 年。
(*)(参考：湯田豊「西洋哲学史の学び方」(神奈川大学)人文研究 92,1985 年。)
(*)田中美知太郎「『哲研』に書いたもの」哲學研究 47(550),昭和 60 年。
(*)「ギリシャ古典哲学の研究 田中美知太郎氏が死去」東京朝日新聞朝刊 12/19,1985 年。
(*)「田中美知太郎氏を悼む(真の自由主義守る・会田雄次京大名誉教授)/(したたかな保守派・哲学者久野収)」東京朝日新聞朝刊 12/19,1985 年。
(*)「田中美知太郎氏を悼む・田中美知太郎氏死去」東京朝日新聞夕刊 12/21,1985 年。
(*)「プラトン研究,幅広い評論 田中美知太郎氏死去」讀賣新聞朝刊 12/19,1985 年。
(*)藤澤令夫「孤高を恐れず善を求める：田中美知太郎先生を悼む」讀賣新聞夕刊 12/20,1985 年。
(*)藤澤令夫「本格を求める姿勢貫く：田中美知太郎先生を悼む」京都新聞夕刊 12/20,1985 年。
(*)(参考：田中美知太郎『古代哲学史』筑摩叢書 297,筑摩書房,1985 年。)
(*)(参考：川田熊太郎『西洋古代哲学(1,2)』川田熊太郎論集 1,2,公論社,1985 年。)
(*)(参考：川田熊太郎『西洋中世哲学』川田熊太郎論集 3,公論社,1985 年。
(*)(参考：川田熊太郎著・三枝充悳編『川田熊太郎比較思想研究』法蔵館,1975 年。)
(*)(参考：中沢新一『雪片曲線論』青土社,昭和 60 年(→昭和 63 年,中公文庫版)。)
(*)(参考：関根透共著『人間と思想の流れ』北樹出版,1985 年。)
(*)(参考：玉城康四郎『仏教と西洋思想』仏教の思想 5,宝蔵館,1985 年。)

(*)(参考 : 齋藤忍随他執筆『哲学の原型と発展』岩波哲学講座「哲学の歴史」1,岩波書店,1985 年。)
(*)(参考：隈元忠敬・西川亮編『西洋哲学の流れ』協同出版,1985 年。)
(*)(参考：浅井茂紀『倫理学要論 1—孟子とソクラテス』高文堂出版社,1985 年(→1986 年,改訂版)。)
(*)(参考：鈴木幹也『エンペドクレス研究』創文社,1985 年。)
(*)(参考：マルシーリオ・フィチーノ左近司祥子訳『恋の形而上学—フィレンツェの人マルシーリオ・フィチーノによる『饗宴』注釈』国土社,1985 年。)
(*)(参考 : 三島輝夫「プロタゴラスと倫理的相対主義」青山学院大学一般教育部会論集 1985 年。)
(*)(参考：篠崎栄『ことばの中での探究—プラトンを読む』勁草書房,1985 年。)
(*)(参考：向坂寛『ロゴスとアレテー』理想社,1985 年。)
(*)(参考：P.-M.シュル/花田圭介訳『プラトン 作品への案内』岩波書店,1985 年。)
(*)(参考 : 川田殖「古代ギリシア人の生命観 : 原初時代からプラトンまで」紀要 2,1985 年。)
(*)(参考：神崎繁「教育の可能性と不可能生 隠喩としてのポリス,隠喩としてのパイデイア」現代思想 11 月号,1985 年。)
(*)(参考：神崎繁「プラトーンな超越的イデア論者か?」東北大学文学部研究紀要 35,1985 年。)
(*)(参考：齋藤忍随「SOPHIA の意味—プラトンの場合(〈特集〉東西の知)」比較思想研究 12,1985 年。)
(*)(参考：川田殖「古代ギリシア人の生命論：原初時代からプラトンまで」山梨医科大学紀要 2,1985 年。)
(*)(参考 : J.L.アクリル/藤沢令夫・山口義久訳『哲学者アリストテレス』紀伊国屋書店,1985 年。)
(*)(参考：岩田靖夫『アリストテレスの倫理思想』岩波書店,1985 年。)
(*)(参考：嘉吉純夫「アリストテレスのソクラテス観について」(日本大学哲学研究室)精神科学 24,1985 年。)
(*)(参考：山本光雄・戸塚七郎編『後期ギリシア哲学者資料集』岩波書店,1985 年。)
(*)(参考：吉田宣路「ヘレニズムにおける懐疑論—覚書」名古屋学院大学論集,人文・社会科学篇 21(2),1985 年。)
(*)(参考 : 水垣渉『宗教的探究の問題 : 古代キリスト教思想序説』京都大学,博士(文学),乙第 5521 号,1985 年。)
(*)(参考：石井雅之「ボエティウス『哲学の慰め』における自己認識の問題：第一巻第六章に着目して」倫理学 3,1985 年。)
(*)(参考：四方田犬彦「ソウル東南門のボエティウス(問われる 80 年代日本のアイデンティティ,特集)」中央公論 100(9),1985 年。)
(*)(参考：竹井成美「アニキウス・マンリウス・セベリウス・ボエティウス(480 ころ-524)とその〈音楽論〉(6)協和の本質に関する教育の内容を中心として」宮崎大学教育学部紀要,芸術・保健体育・家政・技術 57,1985 年。)
(*)(参考：竹井成美「アニキウス・マンリウス・セベリウス・ボエティウス(480 ころ-524)とその〈音楽論〉(7)数理論の内容を中心として」宮崎大学教育学部紀要,芸術・保健体育・家政・技術 58,1985 年。)

(*)(参考：水地宗明「新プラトン派」(『新・岩波哲学講座 14』所収,岩波書店,1985 年。)
(*)(参考 : 長谷川富子「A la Recherche du Temps perdu における共済の探究とキリスト教的プラトン的図式(1)」神戸海星女子学院大学・短期大学研究紀要 24,1985 年。)
(*)(参考 : 米田潔弘「ルネサンスのネオプラトン主義的世界観—マリシリオ・フィチーノ研究の現在(三浦一郎先生古稀記念号)」上智史学 30,1985 年。)
(*)(参考：廣川洋一「〈自由三学科〉の成立」(『新・岩波哲学講座 14』所収,岩波書店,1985 年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編『キリスト教的プラトン主義』創文社,上智大学中世思想研究所紀要中世研究 2,1985 年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編『ルネサンスの教育思想(上下)』東洋館出版社教育思想5,6,1985 -86年。)
(*)(参考：ハスキンズ/野口洋二訳『十二世紀ルネサンス』創文社,1985 年。)
(*)(参考：ルイ=ルネ・ヌジエ著,ピエール・ブロシャールイラスト/福井芳男・木村尚三郎訳『ガリアの民族』東京書籍,1985 年。)
(*)(参考：ピエール・ミケル著,クロード・ミレー,ドゥニーズ・ミレーイラスト/福井芳男・木村尚三郎訳『ルネサンス』東京書籍,1985 年。)
(*)(参考：水野浩二「懐疑論と初期ガッサンディ哲学」哲学 20・21,1985 年。)
(*)(参考：剣持武彦「ダンテとロダン「考える人」」イタリア学会誌 34,1985 年。)
(*)(参考：近藤恒一『ルネサンス論の試み』創文社,昭和 60 年。)
(*)(参考：根占献一「フィチーノ研究翻訳の動向」理想 623,1985 年。)
(*)(参考：澤井繁男「Novellino の意義」イタリア学会誌 34,1985 年。)
(*)(参考：中川久定『ディドロ』人類の知的遺産 41,講談社,1985 年。)
(*)(参考：中川久定「ディドロと日本—ディドロ没後 200 年記念国際シンポジウムから」)中央公論 100(3),1985 年。)
(*)(参考：福鎌忠恕「ヴィーコとル・クレール—Da l'Enciclopedia alla Scienzia Nuova」東洋大学社会学研究所年報 18,1985 年。)
(*)(参考：上村忠男「はじめに怖れありき—ヴィーコと根拠の弁証法(上)」東京外語大学論集 35,1985 年。)
(*)(参考 : 澤井繁男『ユートピアの憂鬱 : カンパネッラ『太陽の都市』の成立』海鳴社,1985 年。)
(*)(参考：武安宥「シュライエルマッヘルの学問論(4)」教育学科研究年報 11,1985 年。)
(*)(参考：向井守「解釈学の運命：シュライエルマッヘルからディルタイへ」愛知：φιλοσοφια2,1985 年。)
(*)(参考 : 水地宗明「カール・ヒルティにおける Gottesnahe の思想と体験」彦根論叢 231,1985 年。)
(*)(参考：谷口勇「ロリエの『比較文學史』再評価のために：芥舟,秋骨その他をめぐって」桃山学院大学人文科学研究 21(1),1985 年。)
(*)(参考：岩倉具忠編『イタリア文学史』東京大学出版会,1985 年。)
(*)(参考：黒田正利著『ダンテ神曲』復刻版,岩波書店,1985 年。)
(*)(参考：林和宏「ペトラルカの“Secretum”について」東京外語大学論集 35,1985 年。)
(*)片山佳子「「ペトラルカ研究」近藤恒一著」西洋史学 137,1985 年。)
(*)(参考：林和宏「ペトラルカの“Secretum”について」東京外国語大学論集 35,1985 年。

(*)(参考：杉本龍太郎・内田能嗣編『教養のためのイギリスの文学』東海大学出版会,1985 年。)
(*)(参考：P.ミルワード/江野沢一嘉注釈『トマス・モア伝』研究社出版,1985 年。)
(*)(参考：江野沢一嘉「トマス・モア：生涯と時代(1-6)」慶應義塾大学日吉紀要 英語英米文学 2,1985 年/3,1986 年/5,7,1987 年/9,1988 年/12,1989 年。)
(*)(参考:上村くにこ「白いヘレネーと黒いヘレネー(1,2)」(大阪大学)Gallia25,1985 年/26,1986 年。)
(*)(参考：関根秀雄訳『モンテーニュ随想録』白水社,1985 年。)
(*)(参考：荒木昭太郎『人類の知的遺産 29—モンテーニュ』講談社,1985 年。)
(*)(参考：ピエール・ヴィレー/飯田年穂訳『モンテーニュの〈エセー〉』木魂社,1985 年。)
(*)(参考：奥村真理子「『エセー』第 1 巻の初版における構成」(モンテェーニュ)フランス語フランス文学研究 47,1985 年。)
(*)(参考：鍛冶義弘「『第三之書』の一つの読み」(ラブレー)フランス語フランス文学研究 47,1985 年。)
(*)(参考：三野博司「「シーシュポスの神話」と「嘔吐」(カミュにおける瞬間と持続[5])」(大阪市立大学文学部)人文研究 37(5),1985 年。)
(*)(参考：島田紀夫「モディアリーニ展—眠れるヴィナス,目覚める娼婦,そして—モディリアーニの裸婦をめぐって」三彩 455,1985 年。)
(*)(参考：合田正人「ペネロペ—レヴィナスと〈女性〉(特集 25 人の恋人たち)」ユリイカ 17(10),1985 年。)
(*)(参考：丹治恒太郎「ニーチェとヴァレリー：ヴァレリーの『ニーチェに関する手帖』から」(関西学院大学)外国語・外国文化研究 6,1985 年。)
(*)(参考：引地正俊「ワイルドとダンテ—世を血の色に染めたもの」比較文学年誌 21,1985 年。)
(*)(参考：鎌井敏和「ケンブリッヂ・プラトニスト文献ノート(ケンブリッヂ・プラトニスト研究 I)」大妻女子大学文学部紀要 17,1985 年。)
(*)(参考:シェイクスピア/小田島雄志訳『シェイクスピア全集(1-5)』愛蔵版,白水社,1985 年。)
(*)(参考：肥田友宏『文学鑑賞とシェイクスピア研究』大阪教育図書,1985 年。)
(*)(参考:安西徹雄『シェイクスピア劇四００年—伝統と革新の姿』日本放送出版協会,1985 年。)
(*)(参考：小津次郎他『シェイクスピアの世界劇場』岩波書店,1985 年。)
(*)(参考：建部真子「『トロイルスとクリセイダ』：二つの視点による解釈」成城英文学 9,1985 年。)
(*)(参考：楠修「トロイラスとクレシダ」広島商船高等専門学校紀要 7,1985 年。)
(*)(参考：後藤信「トロイラスとクレシダについて：その今日的意味を探る」広島商船高等専門学校紀要 7,1985 年。)
(*)(参考：石川富雄「シェイクスピア：「トロイラスとクレシダ」：二律背反を通して」広島商船高等専門学校紀要 7,1985 年。)
(*)(参考：桑田朋広「ことば遊びの翻訳：：ドイツ語訳『トロイラスとクレシダ』」広島商船高等専門学校紀要 7,1985 年。)
(*)(参考：富原芳彰編『文学の受容：現代批評の戦略』(浅川順子「『トロイルスとクリセイデ』の読者」)研究社出版,1985 年。)

(*)(参考：森泉弘次「「アテネのタイモン」試論(その一)：タイモンの幻想について」(和訳聖書)青山學院女子短期大學紀要 39,1985 年。)
(*)(参考：中里寿明「蛇と刀—「アントニーとクレオパトラ」」英文学評論 33,1985 年。)
(*)(参考：圓月勝博「Anti-Sabbatarianisum in Paradise Lost」同志社大学英語英文学研究 39,1985 年。)
(*)(参考：黒田健二郎編『日本のミルトン文献—資料と解題 大正・昭和前期篇(上)』風間書房,1985 年。)
(*)(参考：田中聰子「エレジーの中の笑い：『哀惜詩集』におけるオウィディウスの模倣の意味」中京大学教養論叢 26(2),1985 年。)
(*)(参考：沢井勇「胚胎の原理—W.ペイターのレオナルド・ダ・ヴィンチ論について」実践女子大学文学部紀要 27,1985 年。)
(*)(参考：ウォルター・ペイター/工藤好美訳『享楽主義者マリウス』南雲堂,1985 年。
(*)(参考：三宅晶子「「ガブリエル=ロゼッティの『中世プラトン主義 愛の神秘』とエズラ=パウンドの初期の詩」論集 32(2),1985 年。)
(*)黒田健二郎「学風ということ(ミルトン)」Kobe English Languge Teaching：KELT 1 ,1985 年。
(*)(参考：菅原克也「蒲原有明「可怜小汀」をめぐって：明治文学における「バイロン熱」一斑」山形大学英語英文学研究 29,1985 年。)
(*)(参考：村田辰夫「T.S.エリオットの“Tradition and the Individual Talent”新注—序」梅花女子大学文学部紀要,英語・英米文学編(開学 20 周年記念論文集),1985 年。)
(*)(参考：鈴木富生「Housman との出合い」山形大学英語英文学研究 29,1985 年。)
(*)(参考：木村直司『ゲーテ研究余滴：ドイツ文学とキリスト教的西欧の伝統』南窓社,1985 年。)
(*)(参考：木村直司「ゲーテの遍歴思想」ソフィア 34(1),1985 年。)
(*)(参考：ディーター・イェーニヒ/井口正俊・大森淳史訳「美学にとってのヤーコプ・ブルクハルトの意義」フィロカリア 2,1985 年。)
(*)(参考：岡崎英輔「ブルクハルトと若きディルタイ」文経論叢・人文科学篇 5,1985 年。)
(*)(参考：児玉光弘「ニーチェにおける現存在とディオニュソス的なもの[独文]」麻布大学教養部研究紀要 18,1985 年。)
(*)(参考：高橋吉文「ニーチェのアポロ：ディオニュソスからくり(2)」言語文化部紀要 7,1985 年。)
(*)(参考：菅野孝彦「ニーチェのソクラテス像：『悲劇の誕生』及び『人間的な,あまりに人間的なもの』において」哲学・思想論集 3,1985 年。)
(*)(参考：須藤訓任「ニーチェのプラトン—アポロンのヴェールのかげに」哲学論集 32,1985 年。)
(*)(参考：山中浩司「運命愛—ニーチェの根本問題」経済論叢 135(4),1985 年。)
(*)(参考：水野清志「ニーチェの倫理思想(10)」紀要 11(1),1985 年。)
(*)(参考：菅野孝彦「ニーチェにおけるニヒリズム」倫理学 3,1985 年。)
(*)(参考：谷本慎介「ニーチェの『われら文献学徒』不成立次第」ドイツ文学論集 14,1985 年。)
(*)(参考：久山秀貞「ハイネとニーチェ—ある歴史的文脈」独仏文学語学研究 14,1985 年。)
(*)(参考：船越清「科学とヨーロッパのキリスト教的世界像(1)：19 世紀末のドイツ文学と

ニーチェの宗教観・序」ヨーロッパ文化研究 5,1985 年。)
(*)(参考：丹治恒次郎「ニーチェとヴァレリー：ヴァレリーの『ニーチェに関する手稿』から」外国語・外国文化研究 6,1985 年。)
(*)(参考：堤泰徳「フトゥリズモにおける詩的前衛の可能性について」(ディオニュソス的)イタリア学会誌 34,1985 年。)
(*)(参考：南大路振一「文芸作品における「審美的なもの」と「倫理的なもの」--G.E.レッシングの批評から」思想 736,1985 年。)
(*)(参考：四日谷敬子「報告：観念論か観念論の克服か：ヘルダーリン研究の課題」福井医科大学一般教育紀要 5,1985 年。)
(*)(参考：手塚富雄『ヘルダーリン(上下)』中央公論社,1985 年。)
(*)(参考：クリストフ・ヤメ,オットー・ペゲラー編/久保陽一訳『ヘーゲル,ヘルダーリンとその仲間：ドイツ精神史におけるホンブルク』公論選書,公論社,1985 年。)
(*)(参考：加藤泰義『ハイデガーとヘルダーリン』芸立出版,1985 年。)
(*)(参考：嶺秀樹「ハイデッガーの思索に於ける転回と西洋の形而上学」(神奈川大学)人文論究 35(2),1985 年。)
(*)(参考：添田馨『究極の歌びと：神話主義の系譜 ヘルダーリン・ロマン主義作家からリルケ・エリオットまで』林道舎,1985 年。)
(*)(参考：深田甫「ズゼテ・ゴンタルト夫人―ヘルダーリンにおけるひとつのディオティーマ幻想(25 人の恋人たち〈特集〉)ユリイカ 17(10),1985 年。)
(*)(参考：石橋道大「ヘルダーリンとホラーティウス」独語独文学科研究年報 11,1985 年。)
(*)(参考：三宅新三「ホーフマンスタールにおけるディオニュソス像」岡山大学教養部紀要 21,1985 年。)
(*)(参考：森島吉美「ホーフマンスタールと女性像：『二人の神々』の解釈の試み」オーストラリア文学 1,1985 年。)
(*)(参考：中村昌子「トーマス・マンにとっての“Der Zaubeberg”―フマニテートからフマニスムへ」論集 22,1997 年。)
(*)(参考：S.T,コウルリッジ・竹島俊之共訳「西印度諸島における奴隷の悲惨な境遇」言語文化研究 30,1985 年。)
(*)(参考：堀内清治「良い建物の条件―地中海建築の教訓(建築作品の使命―学会賞作品の残したもの)」建築雑誌 100(1230),1985 年。)
(*)(参考：渡辺丹・松川孝志「2269 ギリシア・パルテノン神殿の耐震補強に関する研究：(1)予備的な調査及び解析」学術講演梗概集,B.構造 I(1985),1985 年。)
(*)(参考：五島利兵衛「パンテオンの周壁求厚図法について―西洋建築史研究」大同工業大学紀要 24,1985 年。)
(*)(参考：五島利兵衛「9030 九・九正方形格子システムによるパルテノン神殿の作図：西洋建築史研究(建築史・建築意匠・建築論)」日本建築学会近畿支部研究報告集,計画系 25,1985 年。)
(*)(参考：堀内清治「地中海古代都市の研究(29)オリンピアのヘラ神殿平面の分析(建築歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部3,計画系28,1985年/建築雑誌・建築年報 1985,1985年。)

(*)(参考：堀内清治・佐々木祐輔「地中海古代都市の研究(30)」日本建築学会研究報告,九州支部3,計画系28,1985年/建築雑誌・建築年報 1985,1985年。)
(*)(参考：伊藤重剛「地中海古代都市の研究(31)」日本建築学会研究報告,九州支部3,計画系28,1985年/建築雑誌・建築年報 1985,1985年。)
(*)(参考：小野育雄「901 古代地中海世界におけるアーチ化リンテルの意味」日本建築学会研究報告,九州支部3,計画系28,1985年/建築雑誌・建築年報 1985,1985年。)
(*)(参考：桐敷真次郎「パラーディオ「建築四書」における記述の上の誤りについて」建築雑誌・建築年報 1985,1985年。)
(*)(参考：桐敷真次郎「20 パラーディオの多面性(建築史・建築意匠)」研究報告集・計画系 56,1985年。)
(*)(参考：桐敷真次郎「21 ゲーテとパラーディオ(建築史・建築意匠)」研究報告集・計画系 56,1985 年。)
(*)(参考：桐敷真次郎「9092 古典オーダーのキュマティウムについて」学術講演梗概集,F,都市計画,建築経済・住宅問題,建築史・建築意匠 1985,1985 年。)
(*)(参考：Mari Nagase“A Computer-Associated Study of Word Order in Plato’s Prose Style” Bulletin of Association for Literary & Linguistic Computing 13, Huddersfield,1985.)
(*)(参考：岩城正夫『原始技術論』新生出版,1985 年。)
(*)(参考：川田殖「古代ギリシア人の生命観：原初時代からプラトンまで」(山梨医科大学)紀要 2,1985 年。)
(*)(参考:大槻真一郎編集・翻訳責任『ヒポクラテス全集(3 巻)』エンタプライズ,1985(→1997 年,新訂版)。)
(*)(参考：永野祐正・奥原希行編『ヒポクラテスの空白：医療園の需要測定法』出版科学総合研究所,1985 年。)
(*)(参考:黒木求「ヒポクラテスの健康観」日本大学理工学部一般教育教室彙報 37,1985 年。)
(*)(参考:免取慎一郎「トゥキュディデスとヒポクラテス(1-6)」山梨大學教育學部研究報告,第 1 冊,人文科学・社会科学 36,1985 年 37,1986 年/38,1987 年/39,1988 年/41,1990 年/42,1991 年。)
(*)(参考：酒井シヅ「ガレノス」医学図書館 32(2),1985 年。)
(*)(参考：平野耿・藤田孝美『医学ラテン語』朝日出版社,1985 年。)
(*)(参考：A.B.ガラソフ他/志田信男訳注「医学・薬学ラテン文法教程」東京薬科大学・一般教育研究紀要 7,1985 年。)
(*)(参考：矢島祐利「マグリブの科学者たち：アラビア科学研究ノート(10)」科学史研究・II期23(152),1985年。)
(*)(参考：矢島祐利「マスマラ・アル・マジョリティーとその弟子たち：アラビア科学研究ノート(11)」科学史研究・II期24(155),1985年。)
(*)(参考：岩城正夫『原始技術論』新生出版,1985年。)
(*)(参考：井塚政義『技術文明史の年輪：英知と技術と位置』六法出版社,1985年。)
(*)(参考：浜下昌弘「「色」の哲学史通覧(1)プラトンからロックまで」多摩芸術学園紀要 11,1985年。)
(*)(参考：荒俣宏『フローラの神殿』リブロポート,1985年(→1999年,加筆改題『アラマタ図

書館4 庭園』小学館文庫版)。)
(*)(參考：酒井友身著・塩浦信太郎絵『乙女座物語』愛のメルヘンギリシャ神話 6,教育出版センター,1985 年。)
(*)(參考：酒井友身著・塩浦信太郎絵『天秤座物語』愛のメルヘンギリシャ神話 7,教育出版センター,1985 年。)
(*)(參考：酒井友身著・塩浦信太郎絵『さそり座物語』愛のメルヘンギリシャ神話 8,教育出版センター,1985年。)
(*)(參考：酒井友身著・塩浦信太郎絵『射手座物語』愛のメルヘンギリシャ神話 9,教育出版センター,1985年。)
(*)(參考：L.B.ローウラー/小倉重夫約『古代ギリシアの舞踊文化』未来社,1985年。)
(*)橋本万平「プリニウスを買う」日本古書通信 50(1),1985 年。)
(*)澁澤龍彦「私のプリニウス(1~22)」ユリイカ 17(1~12),1985 年/18(1~9,11),1986 年。)
(*)(參考：四方田犬彦「ルキアノス讃(反=〈旅〉〈特集〉)」現代詩手帖 28(9),1985 年。)
(*)(參考:南原一博「政治理念史の課題と方法--「比較古代政治思想論」補論」法学新報 92(1・2),1985 年。)
(*)(參考：南原一博『政治哲学の変換：ヘーゲルと西洋近代』未来社,1985 年。)
(*)(參考：仲手川良雄「ヘロドロスにおける〈言論の自由(イセーゴリア)〉」社会科学討究 31(1),1985 年。)
(*)(參考：森進一「政治家の目標—プラトンから」日本及び日本人 1579,1985 年。
(*)(參考：松本宣郎「報告 マルクス・アウレリウス時代のキリスト教徒とローマ社会(1984年度[西洋史研究会]大会共通論題報告---ローマ帝国とキリスト教)」西洋史研究 14,1985 年。)
(*)(參考：柴田平三郎『アウグスティヌスの政治思想--『神国論』研究序説』未来社,1985年。)
(*)(參考：柴田平三郎「アウグスティヌスの政治観」(慶應義塾大学)法学研究 56(12),1985年。)
(*)(參考：木寺廉太「報告 2-3 世紀の教父にみる戦争・軍隊・平和観—エレナイオス,ヒッポリュトス,アレクサンドリアのクレメンス(1984 年[西洋史研究会]大会共通論題報告—ローマ帝国とキリスト教)」西洋史研究 14,1985 年。)
(*)(參考：佐藤育子「カルタゴの国制とスフェース制(第 23 回史学会研究大会報告)」史艸 26,1985 年。)
(*)(參考：清水多吉「ヘレニズム状況下の社会思想(現在の哲学,特集)」理想 620,1985 年。)
(*)(參考：米田利浩「公職者としての元首のプロクラトール」西洋古典學研究 33,1985 年。)
(*)(參考：田村秀夫『ユートピアへの接近—社会思想史的アプローチ』中央大学出版部,1985年(→1992 年,増補版)。)
(*)(參考：長谷川博隆編『ヨーロッパ：国家・中間権力・民衆』名古屋大学西洋史論集 1,名古屋大学出版会,1985 年。)
(*)(參考：山内進『新ストア主義の国家哲学：ユストゥス・リプシウスと初期近代ヨーロッパ』成城大学法学部研究叢書 3,千倉書房,昭和 60 年。)
(*)(參考:白石正樹「近年における契約説:ネットルシップ,E.バーカー」創価法学 14(3/4),1985年。)
(*)溝上泰子「政治哲学者・南原繁と教育」日本教育学会大会発表要項 44,1985 年。

(*)(参考：中薗英助『オリンポスの柱の蔭に：ある外交官の戦い(上下)』[E.H.ノーマン]毎日新聞社,1985 年。)
(*)中井義明「共同体論について—大塚久雄氏のアジア的及び古典古代的諸共同体に関する批判」史朋 21,1985 年。)

(*)(参考：岩淵慶一『初期マルクスの批判哲学』時潮社,1986 年。)
(*)(参考：寺田光雄『内面形成の思想史—マルクスの思想性』未来社,1986 年。)
(*)(参考：田中清助「古代伝説：ヘーゲル,マルクスにおけるその解釈と展開」(大阪大学人間科学部社会学・人間学・人類学研究室)年報人間科学 7,1986 年。)
(*)(参考：L.ラファエル・シロニス「マルクス主義的ヒューマニズムとキリスト教的ヒューマニズムにおける生と死の意義」(上智大学哲学科)哲学科紀要 12,1986 年。)
(*)西川千代子『私の伊太利亜紀行』四季出版,1986 年。
(*)(参考：ジョバンニ・カセリ著イラスト/木村尚三郎訳『古代文明の知恵』東京書籍,1986 年。)
(*)(参考：ジョバンニ・カセリ著イラスト/木村尚三郎・堀越宏一訳『古代と中世のヨーロッパ社会』東京書籍,1986 年。)
(*)(参考：日本テレビ放送網『ローマ都市ポンペイ』NTV ジュニアスペシャル・世界の文明・遺跡の謎,1986 年。)
(*)(参考：ピーター・コノリー著イラスト/木村尚三郎・毛利晶監訳『ポンペイの人々』東京書籍,1986 年。)
(*)(参考：安藤真「ポンペイの赤—ロシアからイタリアへ」28(2),1986 年。)
(*)草場安夫「自由広場便り(3)ポンペイの夏—廃墟に甦る自由」自由 28(11),1986 年。
(*)大石慎三郎『天明三年浅間大噴火：日本のポンペイ鎌原村発掘』角川書店,1986 年。
(*)(参考：宇杉和夫「7102 〈反復的構造の中心をもつ空間〉の位置づけとその事例についての研究：その(1)〈反復的構造〉の意味とプラトンのアトランティス大陸の解釈」学術講演梗概集 F,都市計画,建築経済・住宅問題,建築史・建築意匠 1986,1986 年。)
(*)(参考：ルドルフ・シュタイナー/西川隆範訳『世界史の秘密』(アトランティス)ルドルフ・シュタイナー選集,創林社,1986 年。)
(*)(参考：リチャード・ウッドリー/小野章・越智道雄訳『宇宙からの侵略』児童図書館・文学の部屋 2 アトランティスからきた男,評論社,1986 年。)
(*)(参考：正岡和恵「アーデン・劇場・アルカディア：生成する空間」言語文化論集 8(1),1986 年。)
(*)(参考：渡部定雄「フランク・ノリスのアルカディア—その宗教性について」天理大学学報 151,1986 年。)
(*)(参考：中山勇『石の文明と科学』(「エーゲ海世界」「古典ギリシャの知識人ヘロドトス—エメラルドにまつわる話」「古代人の遺跡」)啓文社,1986 年。)
(*)(参考：永井繁樹「パルテノン神殿」文明 48,1986 年。)
(*)尾崎英二「ギリシャ(希臘)」国際金融 768,1986 年。
(*)(参考：徳橋曜「中世地中海商業と商業通信：14 世紀前半のヴェネツィアの場合」イタリア学会誌 36,1986 年。)

(*)(参考：松本栄三「ノヴゴロドのギリシャ人絵師：オリセイ・グレチンの屋敷の発掘によせて」地中海論集,論文集 10,[昭和 59-60 年度科学研究費補助金(総合研究 A),1986 年。)
(*)(参考：竹内啓一「H.ハルダー：ドゥ・ブロッス議長と 18 世紀のイタリア旅行；E.および R.シュバリエ:イタリア旅行 古代イタリアを発見したフランス旅行者」地中海論集,論文集 10,[昭和 59-60 年度科学研究費補助金(総合研究 A),1986 年。)
(*)二宮正之「夏の日の感想：地中海の光と「東条証言」」言語生活 418,1986 年。
(*)(参考：渡辺敬一郎『地中海：光と影のフィエスタ』三修社,1986 年。)
(*)「今関一馬新作展—地中海の光と海—地中海の自然と歴史と人間に魅せられて(今月の展覧会)」三彩 469,1986 年。)
(*)三重県立美術館『地中海の美術:彩文土器からマイヨリカ陶器まで』三重県立美術館,1986 年。
(*)日本アニメション制作『太陽の季節；オリンポスの果実』ビデオレコード,アニメ文学館 4,日本アニメ企画(発売),毎日 EVR システム(発売),1986 年。)
(*)(参考：日本テレビ放送網『エーゲ・ギリシア文明』NTV ジュニア・スペシァル、世界の文明・遺跡の謎 3,1986 年。)
(*)ブルー・ガイドブックス編集部編『ギリシア・エーゲ海』新装第 5 版 ブルーガイド海外版 22,,実業之日本社,1986 年。
(*)「エーゲ海の船旅」LA international 23(2),1986 年。
(*)「エーゲ海から訪れた 25ft 木造ヨット〈JASON〉」Kazi：ヨット,モーターボートの雑誌 52(16),1986 年。
(*)竹内均「GEOGRAPHIC エーゲ海—輝かしい伝説にいろどられた多島海」Newton=graphic science magazine 6(1),1986 年。
(*)(参考：石川喬司『エーゲ海の殺人』旺文社文庫,旺文社,1986 年。
(*)(参考：宇杉和夫「7102.〈反復的構造の中心をもつ空間〉の位置づけとその事例についての研究：その 1〈反復的構造〉の意味とプラトンのアトランティス大陸の解釈」学術講演梗概集,F.都市計画・建築経済・住宅問題・建築史・建築意匠 1986,1986 年。)
(*)(参考：勝又俊雄「プレ・マリン・スタイル段階の土器におけるイルカの図像学的研究」オリエント 29(1),1986 年。)
(*)(参考：吉岡健二郎「美術と美術史学」研究紀要 7,1986 年。)
(*)鎌沢久也「民族紀行(1)アレキサンダーの道ギリシャ」科学朝日 46(1),1986 年。
(*)鎌沢久也「民族紀行(2)アレキサンダーの道 西トルコ」科学朝日 46(2),1986 年。
(*)鎌沢久也「民族紀行(3)アレキサンダーの道カッパドキア(トルコ)」科学朝日 46(3),1986 年。
(*)鎌沢久也「民族紀行(4)アレキサンダーの道イラン」科学朝日 46(4),1986 年。
(*)鎌沢久也「民族紀行(6･完)アレキサンダーの道タキシラ(パキスタン)」科学朝日 46(6),1986 年。
(*)(参考:陣内秀信『ヴェネツィア:都市のコンテクストを読む』鹿島出版会,SD 選書 200,1986 年。
(*)(参考：大島直政『トルコ歴史紀行：文明の十字路・4000 年のドラマ』自由国民社,1986

年。)
(*)三輪主彦『トルコとエーゲ海岸を歩く：シルコロードの終着駅』改訂新版,山と渓谷社,You 出版局,1986 年(→1989 年,4 訂新版,You guide3)。
(*)(参考：G.ダウニー/小川英雄訳『地中海都市の興亡—アンティオキア千年の歴史』新潮選書,昭和 61 年。)
(*)(参考：木村俊晃「古代地域計画の原理その 5 続聖山論」日本土木史研究発表会論文集 6,1986 年。)
(*)(参考：西沢竜生『史の辺境に向けて—逆光のヨーロッパ』未来社,1986 年。)
(*)(参考：南敏雄「文明開化の再吟味—現代人に問いかける田中正造とブルクハルトの近代批判を素描する」日本及日本人 1581,1986 年。)
(*)(参考：木村公一「「アレキサンドリア・カルテット」にみられる「アレキサンドリア」について」早稲田商学 318,1986 年。)
(*)(参考：ルドルフ・シュタイナー/西川隆範訳『世界史の秘密』ルドルフ・シュタイナー選集,創林社,1986 年。)
(*)(参考：松尾大他『異文化体験のすすめ』朝日カルチャーブックス 62,大阪書籍,1986 年。)
(*)坂部恵『和辻哲郎：異文化共生の形』岩波書店,1986 年(→2000 年,岩波現代文庫)。
(*)木村力雄『異文化遍歴者 森有礼』福村出版,1986 年。
(*)仙北谷晃一「竹山道雄の文化遍歴—ハーンとの関連を中心に」諸君!18(12),1986 年。
(*)(参考：澤柳大五郎「テアノの墓碑」エピステーメー 2(2),1986 年。
(*)(参考：澤柳大五郎「或る少女の墓碑」エピステーメー 2(3),1986 年。)
(*)(参考：木村重信『民族芸術学：その方法序説』日本放送出版協会,1986 年。)
(*)(参考：木村重信『民族芸術への招待』NHK 市民大学,日本放送出版協会,1986 年。)
(*)(参考：木村重信著；講談社第一出版センター編『木村重信著作目録(1-3 集)』講談社第一出版センター,1986 年。)
(*)(参考：Hiroshi Watanabe『マルコ・ポーロ書誌(Marco Polo bibliography)—1477~1983』Toyo bunko,Tokyo,1986.)
(*)(参考：小佐野重利「マルコ・ポーロ「東方旅行」以後の東西交流に関する 2・3 の考察」イタリア学会誌 36,1986 年。)
(*)吉田漱「'86 短歌セミナー(1)名著解題「古寺巡礼」(和辻哲郎著)を読む」短歌研究 43(1),1986 年。
(*)三浦秀春「自然の看護」ということ：1.『風土』における和辻哲郎の着想」弘前大学医療技術短期大学紀要 10,1986 年。
(*)安川定男「長谷川如是閑の日本性格論—和辻哲郎の「風土」との比較」中央大学文学部紀要 118,1986 年。
(*)(参考：樋口隆康『ガンダーラの美神と仏たち：その源流と本質』NHK ブックス・カラー版,日本放送協会出版,1986 年。)
(*)(参考：比留間恒寿『犍駄羅の美』里文閣出版,1986 年。)
(*)京都大学学術調査隊編『Gandhara：ガンダーラ仏教遺跡の総合調査概報』1(1983-84) 2(1986),京都大学学術調査隊,1986-88 年。
(*)(参考：山本智教『中国石窟古寺巡礼』密教文化 151,1986 年。)
(*)(参考：高崎譲治「東北アジアの古代律令国家の経済交易と宗教的交流の諸相に関する序説的一考察：シルクロードの終着点「正倉院」に集積された「国家珍

宝」と大和朝廷の成立を象徴する仏寺・仏像の東漸の系譜」いわき紀要 11,1986 年。)
(*)(参考：ロマノ・ヴルピッタ「ヨーロッパの理念の追求(1-4)」京都産業大学世界問題研究所紀要7,1986年/9,1988年/10,1989年/11,1990年)。)
(*)(参考：關隆志「ハゲサンドロス,ポリュドロス,アタノドロス—ヘレニズム彫刻に関する一試論」人文研究38(10),1986年。)
(*)(参考：藤原裕「ボッティチェルリの方へ--「春(プリマヴェラ)」におけるプルーストの女性像」立正大学教養部紀要20,1986年。
(*)(参考：田中英道「初期イタリア美術史の再検討—ジョット以前」東北大学文学部研究年報361986年。)
(*)(参考：丸谷才一編『文明を批評する』言論は日本を動かす9,講談社,1986年。)
(*)(参考：辻邦生・赤川次郎「精神の空間で遊ぶ—日欧比較文明考(赤川次郎の21世紀対談2)」世界490,1986年。)
(*)(参考：辻邦生責任編集『没落の予感：イタリア・スペイン他』(塩野七生)世紀末の美と夢5,集英社,1986年。)
(*)(参考：アミン・マアルーフ/牟田口義郎・新川雅子訳『アラブが見た十字軍』リブロポート,1986年。)
(*)(参考：村上哲得「「ヨーロッパ中心史観」からの脱却(2)比較(文明)史をめぐって」広島電機大学・広島自動車工業短期大学研究報告19,1986年。)
(*)(参考：廻洋子「地中海クラブ—新しいバカンスの創造」新都市40(7),1986年。)
(*)(参考：正岡和恵「アーデン・劇場・アルカディア：生成する空間」言語文化論集8(1),1986年。)
(*)(参考：原行雄「写真週刊誌は言語の砦を破るトロイの木馬(マスコミ批評,週刊誌)」文化評論309,1986年。）
(*)(参考:森川潤「ドイツ高等専門教育歴史地図」作陽音楽大学・作陽短期大学研究紀要19(1),1986年。)
(*)(参考：『菊池租図書館學論集』菊池租図書館學論集刊行会,1986年。)
(*)惣郷正明・飛田良文編『明治のことば辞典』東京堂出版,1986 年(→1998 年,3 版。)
(*)(参考：教学研究社編集部編『学生のための世界人名辞典』教学研究社,1986 年(→1992 年版,1993 年版)。)
(*)(参考：日本基督教団出版局編『キリスト教人名辞典』日本基督教団出版局,1986 年。)
(*)(参考：剣持恒男他『イタリア・地中海料理百科事典(7 巻)』同朋舎出版,1986-87 年。)
(*)(参考：伊東俊太郎他編『地中海小事典』エナジー小事典 8,エッソ石油広報部,1986 年。)
(*)(参考：鈴木敬信『天文学辞典』地人館,1986 年(→1991 年,改訂増補版。)
(*)佐藤亨『幕末明治初期語彙の研究』桜楓社,1986 年。
(*)柳父章『ゴッドと上帝：歴史のなかの翻訳者』筑摩書房,1986 年。
(*)三橋猛雄『古本と古本屋：雑文集』日本古書通信社,1986 年。
(*)(参考：松本克己「ミノア文字研究の現状：特に線文字 A を中心に」京都産業大学国際言語科学研究所所報 7(2),1986 年。）
(*)(参考：三間昌生“Two s Stages of the Development of Modistic Grammer ”鹿児島純心女子短期大学紀要 16,1986 年。)
(*)(参考：S.Prete/三間昌生訳「マルコ・ポーロの最古の抄録写本」鹿児島純心女子短期大学

紀要 16,1986 年。)
(*)(参考：手嶋兼輔「“Light”(光)の比喩的用法について—ギリシア語・ラテン語との比較を通して」北海道工業大学研究紀要 14,1986 年。)
(*)(参考:蛭沼幸雄「オスク語 eituns—碑文」京都産業大学国際言語科学研究所所報 7(2),1986 年。)
(*)(参考：村上勝也「イソップ寓話の動物たちの Gender と Sex—ギリシャ語の通性名詞について」広島文教女子大学紀要 20,1986 年。)
(*)(参考：竹島俊之「古典ギリシアの ειναι(be 動詞)の用法についての一考察」」(広島大学総合科学部)言語文化研究 12,1986 年。)
(*)(参考：左近司祥子「古典ギリシア語におけるアオリストの Aspect：W.F.Bakker“The Greek Imperative”」学習院大学言語共同研究所紀要 9,1986 年。)
(*)(参考：福富正実[訳]「中世ラテン語文学と民衆文化—3-А.Я.グレヴィッチの著書『中世民衆文化の諸問題』より」阪南論集,人文・自然科学編 22(1),1986 年。)
(*)(参考：藤田輝夫「コメンスキーの『教授学』から『大教授学』への倫論的発展：『ラテン語学習についての教授学論究』を手がかりにして」教育方法学研究：日本教育方法学会紀要 11,1986 年。)
(*)(参考：大沢久人「ラテン語に由来するドイツ語の人物名または職業名」岩手医科大学教養部研究年報 21,1986 年。)
(*)(参考：高橋規矩「Percy B.Shelly とラテン語：Gray：“The Epitaph”のラテン語訳を中心に」英語英文学研究 31,1986 年。)
(*)(参考：志田信男「医学・薬学ラテン文法教程(2)」東京薬科大学一般教育研究紀要 8,1986 年。)
(*)(参考：ドイツ語学文学研究会編『Symposion 1』(特集 翻訳論),1986 年。)
(*)『世界文学全集内容綜覧(上下)』日外アソシエーツ,昭和 61 年。
(*)関東学院大学図書館『加茂儀一文庫目録』関東学院大学図書館,1986 年。
(*)(参考：壽岳文章『書物の共和国』定版,春秋社,1986 年。)
(*)(参考：岩波文庫編集部編『ことばの饗宴：読者が選んだ岩波文庫の名句 365』岩波文庫別冊 7,岩波書店,1986 年。)
(*)(参考：Marquard Odo/井口正俊訳「懐疑としての解釈学—解釈学がそれへの答であるような問への問」西南学院大学国際文化論集 1(2),1986 年。)
(*)(参考：関根文之助『日本人と八百万神：「やまとごころ」と外来思想』広池選書,広池学園出版部,1986 年。)
(*)(参考：K. ルーメル「大学の使命(〈特集〉高等教育のゆくえ」ソフィア 35(4),1986 年。)
(*)(参考：西村貞二「フンボルトの教育理念—没後 150 年に」西洋史研究 15,1986 年。)
(*)(参考：川中なほ子「ニューマンの『大学の理念』(〈特集〉高等教育のゆくえ」ソフィア 35(4),1986 年。)
(*)(参考：山室宗忠「〈随想〉ケンブリッジ大学のカレッジ」ソフィア 35(3),1986 年。)
(*)Kobayashi,Kozue‘Virgil in Japan’Atti Convegno Internationale‘La Fortuna di virgillo’, Giannini Editore,Napoli,1985.
(*)越次倶子「三島由起夫研究の現在—参考文献を紹介しながら(いま三島由紀夫を読む,特集)—(〈小説〉の解読)」国文学 解釈と教材の研究 31(8),1986 年。

(*)中島国彦「デルフィの若者,歌島の若者--「潮騒」への一視点(いま三島由紀夫を読む,特集)—(〈小説〉の解読)」国文学 解釈と教材の研究 31(8),1986 年。
(*)矢本貞幹「河野与一著『学問の曲り角』」英語青年 1644(131-11),1986 年。
(*)「河野先生の思い出」刊行会編『回想河野与一多麻』「河野先生の思い出」刊行会,1986 年。
(*)(参考：天沼春樹「神話概念の変遷 II：翻訳語としての『神話』をめぐって(上)(開学二十周年記念論文集)」城西人文研究 13,1986 年。)
(*)(参考 : エリアーデ/石井忠厚訳『エリアーデ日記 : 旅と思索と人(上下)』未来社,1986 年。)
(*)(参考：荒木美智雄「エリアーデの学問と世界(エリアーデの逝去を悼む)」東洋学術研究 25(1),1986 年。)
(*)(参考：中村元「エリアーデさんの思い出(ミルチア・エリアーデ 特集)」ユリイカ 18(9),1986 年。)
(*)(参考：松枝到「洞窟に帰った旅人(ミルチア・エリアーデ 特集)」ユリイカ 18(9),1986 年。)
(*)(参考 : 井筒俊彦「エリアーデ追悼-- 「インド体験」をめぐって(ミルチア・エリアーデ 特集)」ユリイカ 18(9),1986 年。)
(*)(参考 : 大室幹雄「神話作者エリアーデ(ミルチア・エリアーデ 特集)」ユリイカ 18(9),1986 年。)
(*)(参考 : ミルチア・エリアーデ/中村恭子訳「ヒマラヤ山中の庵(ミルチア・エリアーデ 特集)」ユリイカ 18(9),1986 年。)
(*)(参考 : 久米博「エリアーデにおけるミュトスの探究(ミルチア・エリアーデ 特集)」ユリイカ 18(9),1986 年。)
(*)(参考 : 村上陽一郎「エリアーデの掌の中で(ミルチア・エリアーデ 特集)」ユリイカ 18(9),1986 年。)
(*)(参考：山折哲雄「多神と異教の再生—キルケゴール体験を経てニーチェの先へ(ミルチア・エリアーデ 特集)」ユリイカ 18(9),1986 年。)
(*)(参考：若桑みどり「エリアーデと美術史研究の方法論(ミルチア・エリアーデ 特集)」ユリイカ 18(9),1986 年。)
(*)(参考：岩田慶治「エリアーデの鏡(ミルチア・エリアーデ 特集)」ユリイカ 18(9),1986 年。)
(*)(参考 : 荒木美智雄「新しいヒューマニズムを求めて(ミルチア・エリアーデ 特集)」ユリイカ 18(9),1986 年。)
(*)(参考：Mircea Eliade・Henri Rocquet Claude/荒木美智雄訳「聖なるものの輝きを前にして—歴史と解釈学(ミルチア・エリアーデ 特集)」ユリイカ 18(9),1986 年。)
(*)(参考：中沢新一「反対の一致(ミルチア・エリアーデ 特集)」ユリイカ 18(9),1986 年。)
(*)(参考：Mircea Eliade/鳥井由紀子訳「文学的想像力と宗教的構造(ミルチア・エリアーデ 特集)」ユリイカ 18(9),1986 年。)
(*)(参考：吉田敦彦「エリアーデの地母説と縄文時代中期の土偶および土器(ミルチア・エリアーデ 特集)」ユリイカ 18(9),1986 年。)
(*)(参考：中村恭子「聖ヨハネ祭の夜とシャンバラ(ミルチア・エリアーデ 特集)」ユリイカ 18(9),1986 年。)

(*)(参考：荒木美智雄編「ミルチア・エリアーデの生涯(ミルチア・エリアーデ 特集)」ユリイカ 18(9),1986 年。)
(*)(参考：Mircea Eliade/木村勝彦訳「黎明を待ちつつ―ホモ・ファーベルとホモ・レリギオーススミルチア・エリアーデ 特集)」ユリイカ 18(9),1986 年。)
(*)(参考：青山誠子「Antony and Cleopatra：神話的背景への覚え書き」フェリス女学院大学紀要 21,1986 年。)
(*)(参考：高橋誠四郎「「海底のうた」：ヴィジョン・神話・想像力」実践女子大学文学部紀要 28,1986 年。)
(*)(参考：西前美巳「神話と象徴：テニスンの「ヘスペロスの娘たち」論」鳴門教育大学研究紀要 1,1986 年。)
(*)(参考：平沼孝之「楽園神話のパラドクス(1)：スペンサーとミルトンとブレイクの場所的探究の地平を求めて」清泉女子大学紀要 34,1986 年。)
(*)(参考：猪股正広「〈Amphitryon〉における神話的変容のパロディー」早稲田商学 313,1986 年。)
(*)(参考：冨原真弓「シモーヌ・ヴィーユの「脱・創造神話の」出発点としての「洞窟神話」再解釈(上)」上智大学仏語・仏文学論集 21,1986 年。)
(*)(参考：蔵原惟治「「ペンテジレーア」とギリシャ神話」上智大学ドイツ文学論集 23,1986 年。)
(*)(参考：高橋秀誠と「シェリング「芸術哲学」における神話論について」藝文研究 48, 1986 年。)
(*)(参考：高橋克己「ヘルダーリンの西欧ギリシア論--「至福なるギリシア」[二]古典ギリシアとキリスト教西欧(6)“(7)[三]神話の神(1)”(9,10)：Hellas und Hesperien bei Hölderlin--“Seeliges Griechenland”[II]das klassishe Griechentum und das abendländische Christentum(6)”(7)[III]“Gott der Mythe”(1)”(9,10)」高知大学学術研究報告,人文科科学編 34,35,1986 年。)
(*)(参考：渡部定雄「フランク・ノリスのアルカディア―その宗教性について」天理大学学報 151,1986 年。)
(*)(参考：M.J.フェルマースレン/小川英雄訳『キュベレとアッティス：その神話と祭儀』新地書房,1986 年。)
(*)(参考：曽野綾子・田名部昭/建石修志装画『ギリシアの神々』講談社,1986 年(→1988 年講談社文庫版。)
(*)(参考：Eduard Petiška/小田桐光隆・柳沢文昭『ギリシャ神話：トロイヤ戦争』[別売カセット]第三書房,1986 年。)
(*)(参考：船木裕『ギリシア神話：英雄物語』ちくま文庫,筑摩書房,1986 年。)
(*)(参考：ブルフィンチ/野上弥生子訳『ギリシア・ローマ神話(上下)』改版,岩波少年文庫,岩波書店,1986年。)
(*)(参考：高橋睦郎『ギリシア神話1,2(古典のおくりもの)』三省堂,1986年。)
(*)(参考：多田智満子「ぶどうと蜜と―ギリシャ神話の酒(酒,特集)」言語生活 421,1986 年。)
(*)(参考：「ヴィーナス物語(特集 ヴィーナス 3000 年)」芸術新潮 37(8),1986 年。)
(*)(参考：中山典夫[解説]「美術史ヴィーナス(特集 ヴィーナス 3000 年)」芸術新潮 37(8),1986 年。)

(*)(参考：細井三男「ヴィーナスの誕生」愛知教育大学研究報告・創作編 35,1986 年。)
(*)(参考：ソポクレース作/高橋睦郎修辞『オイディプス王』小沢書店,1986 年。)
(*)(参考：沓掛良彦「パルダラースと異教の終焉」東京外国語大学論集 36,1986 年。)
(*)(参考：M.J.フェルマースレン/小川英雄訳『キュベレとアッティス—その神話と祭儀』新地書房,1986 年。)
(*)(参考：山折哲雄「多神と異教の再生—キルゲゴール体験を経てニーチェの先へ(ミルチア・エリアーデ 特集)」ユリイカ 18(9),1986 年。)
(*)(参考：圓増治之「ニーチェ・コントラ・ハイデッガー—辻村公一先生の論文「最後の神」によせて」長野大学紀要 8(2),1986 年。)
(*)(参考：水落健治「ラビ文献研究の現状(1)」一橋大学研究年報・人文科学研究 25,1986 年。)
(*)(参考：M.ディベリウス著/W.キュンメル補訂；神田盾夫・川田殖訳『イエス』復刊,現代神学双書 55,新教出版社,1986 年。)
(*)(参考：百瀬文晃『イエス・キリストを学ぶ：下からのキリスト論』中央出版社,1986 年。)
(*)(参考：E.S.フィオレンザ編/出村みや子訳『初期キリスト教の軌跡と宣教』ヨルダン社,1986 年。)
(*)(参考：Kenji Doki‘Jews and Romans’Hitotsubashi Journal off arts and Sciences 27(1),1986.)
(*)(参考：秀村欣二「キリスト教迫害と殉教の初期段階—ユダヤ教との関係を中心として」キリスト教史学 40,1986 年。)
(*)(参考:豊田浩志「紀元 3･4 世紀におけるローマ帝国とキリスト教」キリスト教史学 40,1986 年。)
(*)(参考：エウセビオス/秦剛平訳『教会史(1-3)』山本書店,1986-88 年。)
(*)(参考：伊吹雄「ヨハネ福音書と神秘思想」成蹊大学経済学部論集 17(1),1986 年。
(*)(参考：加山久夫『使徒行伝の歴史と文学』ヨルダン社,1986 年。)
(*)(参考：G.W.バワーソック/新田一郎訳『背教者ユリアヌアス』思索社,1986 年。)
(*)後藤篤子「G.W.バワーソック/新田一郎訳『背教者ユリアヌアス』」史学雑誌 95(11),1986 年。
(*)太田信幸「『背教者ユリアヌアス』G.W.Bowersock 著/新田一郎訳」文化史学 42,1986 年。
(*)(参考：ドミートリイ・セルゲーエヴィチ・メレシコーフスキイ/米川正夫訳『背教者ユリアヌス：神々の死』河出書房新社,1986 年。)
(*)(参考：源高根「「背教者ユリアヌス」辻邦生」文化史学 42,1986 年。)
(*)(参考：松永晋一他編『新約聖書と解釈：松本治三郎先生傘寿記念献呈論集』新教出版社,1986 年。)
(*)(参考：出村彰・宮谷宣史編『聖書解釈の歴史：新約聖書から宗教改革まで』日本基督教団出版局,1986 年。)
(*)(参考：辻佐保子「『ヨシュア画巻』に関する覚書」名古屋大学文学部研究紀要 XCVI,1986 年。)
(*)安田貞治『秋田の聖母マリア』聖体奉仕甲斐,1986 年。
(*)(参考：曽野綾子『心に迫るパウロの言葉』聖母の騎士社,1986 年(→1987 年,海竜社版。→1989 年,新潮文庫版)。)
(*)(参考：荒井献『原始キリスト教とグノーシス主義』岩波書店,1986 年。)
(*)(参考：H.ヨナス/秋山さと子・入江良平他訳『グノーシスの宗教』人文書院,1986 年。)
(*)(参考：宮本久雄『キリスト教東方の神秘思想』勁草書房,1986 年。)

(*)(参考:野町啓「〈Philo Latinus〉序説—4,5 世紀ラテン教父とフィロン」中世思想研究 28,1986 年。)
(*)(参考：トマス・ア・ケンピス/永野藤夫訳『イミタチオ・クリスティ：キリストにならいて』エルサレム文庫 9,エルサレム宗教文化研究所,1986 年。)
(*)(参考：小嶋潤『西洋教会史』人間科学叢書 9,刀水書房,1986 年。)
(*)(参考：鈴木宣明『ローマ教皇史』新装版,教育社歴史新書 西洋史A9,教育社,1986年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編『中世の歴史観と歴史記述』創文社,上智大学中世思想研究所紀要中世研究3,1986年。)
(*)上総英郎「遠藤周作と外国文学(遠藤周作〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 51(10),1986 年。
(*)佐古純一郎「カトリック作家の問題(遠藤周作〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 51(10),1986 年。
(*)神谷忠考「「死海のほとり」(遠藤周作〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 51(10),1986 年。
(*)宮内豊「沈黙論(遠藤周作〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 51(10),1986 年。
(*)玉置邦雄「「海と毒薬」--〈神なき人間の悲惨〉の形象をめぐって(遠藤周作〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 51(10),1986 年。
(*)市原克敏「「白い人」「黄色い人」(遠藤周作〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 51(10),1986 年。
(*)高尾利数「イエス・キリスト教・カトリシズム—遠藤周作の場合(遠藤周作〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 51(10),1986 年。
(*)佐藤泰正「遠藤文学における宗教的土壌としての日本—漱石と比較しつつ(遠藤周作〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 51(10),1986 年。
(*)高野斗志美「遠藤文学におけるイエス像(遠藤周作〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 51(10),1986 年。
(*)小久保実「堀辰雄と遠藤周作(遠藤周作〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 51(10),1986 年。
(*)池田純溢「遠藤周作研究案内(遠藤周作〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 51(10),1986 年。
(*)篠田正浩「わたしは「沈黙」をこのように映画化する(遠藤周作〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 51(10),1986 年。
(*)鶴田欣也「「沈黙」の評価—海外における遠藤周作(遠藤周作〈特集〉)」国文学・解釈と鑑賞 51(10),1986 年。
(*)宮尾俊彦「遠藤周作の方法：「黄色い人」ノート」長野県短期大学紀要 41,1986 年。
(*)影山恒男「遠藤周作『沈黙』の語る文化風土論及び人間論」研究紀要 34,1986 年。
(*)(参考：M.フーコー/渡辺守章(I)・田村俶(II・III)訳『性の歴史』新潮社,1986-87 年。)
(*)(参考：片山英男「〈基調報告〉Hexameter 詩の変遷」京都産業大学国際言語科学研究所所報 7(2),1986 年。)
(*)(参考：川島重成『西洋古典文学における内在と超越』新地書房,1986 年。)
(*)(参考:今道友信編『文学と芸術:東西の文学史』放送大学教材,放送大学教育振興会,1986 年。)
(*)(参考：松本仁助『『オデュッセイア』研究』北斗出版,1986 年。)
(*)(参考：Akiko Kiso‘Sophocles’ Lost Play’(J.H.Betts et al.de.,Studies in Honour of T.B.L. Webster,Bristol Cl.Pr.,1986.)
(*)(参考：引地正俊「ビザンチン・ギリシャの「ペリクリーズ」--「テュロスのアポロニオスの物語」の位置をめぐって」比較文学年誌 22,1986 年。)

(*)(参考 : 安西眞「祝勝歌ミュートスの研究—Bundy 理論にもとづいて(1)序章 研究史から」東京大学教養学部教養学科紀要 14,1986 年。)
(*)(参考：ホセ・オルテガ・イ・ガセット/佐々木孝訳『哲学の起源』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,1986 年。)
(*)藤田一美「内向きの形而上学における語ることと聞くこと」東京大学文学部美学部藝術研究室紀要 4,1986 年。
(*)(参考：松岡正剛『遊学—142 人のノマドロジー』大和書房,1986 年(→2003 年,改題『遊学 I・II』中公文庫版)。)
(*)(参考：隈元忠敬・西川亮編『哲学名著解題』協同出版,1986 年。)
(*)(参考：ルチャーノ・デ・クレシェンツォ/谷口勇訳『ソクラテス以前の哲学者たち』物語ギリシャ哲学史,而立書房,1986 年。)
(*)(参考：佐伯啓思「遊戯的知識論—ポスト・モダン時代のソフィストたちへ」中央公論 101(2),1986 年。)
(*)(参考：森本哲郎「戦争と人間(1)教育—スパルタの差」諸君 18(1),1986 年。)
(*)(参考 : 林竹二『林竹ニ著作集 1 : 知識による救い—ソクラテス論考』筑摩書房,1986 年。)
(*)(参考：加藤浩「詩作と哲学：プラトン〈詩学〉構築のために」美學 36(4),1986 年。)
(*)『プラトン全集 附録 月報』岩波書店,1986 年。)
(*)(参考：日本倫理学会編『アリストテレス』慶應通信,1986 年。)
(*)(参考：茂泉昭男『初期キリスト教神学における倫理と形成：アウグスティヌス研究』東北大学,文学博士,乙第4274号,1986年。)
(*)(参考:野町啓「〈Philo Latinus〉序説—4,5 世紀ラテン教父とフィロン」中世思想研究 28,1996 年。)
(*)(参考：日置孝次郎「音象徴について—ピュセイ説をめぐって」思想と文化?,1986 年。)
(*)(参考：熊田陽一郎「新プラトン思想による三位一体論の変容--「神名論」第 2 章の試訳と解説」中央大学文学部紀要 121,1986 年。)
(*)(参考 : 岡野哲士「エピクロスが愛し求めた知—キケロの批判を介しての考察」人文研究 94,1986 年。)
(*)(参考：クラウス・リーゼンフーバー/橋口倫介・鈴木宣明・高祖敏明・木村直司「〈特集 中世の再発見〉新しい中世像を求めて」ソフィア 35(3),1986 年。)
(*)(参考：山田晶『アグスティヌス講話』新地書房,1986 年。)
(*)(参考：山田晶『トマス・アクィナスの〈レス〉研究』中世哲学研究 4,創文社,1986 年。)
(*)(参考：水田英実「トマス『エチカ注解』におけるアヴェロエス説批判：アリストテレス解釈者としてのトマス」中世哲学研究：Veritas 5,1986 年。)
(*)(参考：田中千里「中世における異端論説—アヴェロエス主義研究」近畿大学教養部研究紀要 18(2),1986 年。)
(*)(参考：野町啓「クザーヌスとネオプラトニズム—クザーヌス写本をめぐって」(日本クザーヌス学会編『クザーヌス研究序説』所収,国文社,1986 年。)
(*)(参考：日本クザーヌス学会編『クザーヌス研究序説』国文社,1986 年。)
(*)(参考：角倉一朗編『音楽と音楽学：服部幸三先生還暦記念論文集』(アリストクセノス,ボエティウス)音楽之友社,1986 年。)
(*)(参考：竹井成美「アニキウス・マンリウス・セベリウス・ボエティウス(480 ころ-524)とその〈音楽論〉(8)各種音程の構成及びその計算方法を中心として」

宮崎大学教育学部紀要,芸術・保健体育・家政・技術 59,1986 年。)
(*)(参考：竹井成美「アニキウス・マンリウス・セベリウス・ボエティウス(480 ころ-524)とその〈音楽論〉(9)完全音組織,テトラコルドとジュネラの内容を中心として」宮崎大学教育学部紀要,芸術・保健体育・家政・技術 60,1986 年。)
(*)(参考：柴田有「ヘルメス思想の源流」(『新・岩波講座哲学 8』所収,岩波書店,1986 年。)
(*)(参考：冨原真弓「シモーヌ・ヴェーユにおけるプラトン的二元論あるいは善の超越」上智大学仏語・仏文学論集 20,1986 年。)
(*)(参考：齋藤淳「G.ヴィーコの『イタリア最古の知恵』における認識論的形而上学をめぐって(1,2)」道都大学紀要,教養部 5,1986 年/7,1988 年。
(*)(参考：吉村直治「“ポンペイウス”の死について」人文科学論集 33,1986 年。)
(*)(参考：森井哲二「“Stichomythia”について―殊に古典ギリシア悲劇と所謂「閉ざされた悲劇」に於ける」大谷女子大学紀要 20(2),1986 年。)
(*)(参考：『アリストパネス(上下)』ちくま文庫,ギリシア喜劇,筑摩書房,1986 年。)
----村川堅太郎訳「アカルナイの人々」/松平千秋訳「騎士」/田中美知太郎訳「雲」/高津春繁訳「蜂・平和」/呉茂一訳「鳥」/呉茂一訳「女だけの平和」/高津春繁「蛙」/村川堅太郎訳「女だけの議会・福の神」
(*)(参考：『エウリピデス(上下)』ギリシア悲劇 3,4,ちくま文庫,1986 年。)
---呉茂一訳「上：アルケスティス」
中村善也訳「メディア」
柳沼重剛訳「ヘラクレスの子供たち」
松平千秋訳「ヒョウポリュトス」
高津春繁訳「ヘカペ」
中山恒夫「救いを求める女たち」
川島重成・金井毅訳「ヘラクレス」
松本克己訳「トロイアの女たち」
田中美知太郎訳「下：エレクトラ」
呉茂一訳「タウリケのイピゲネイア」
中村善也訳「ヘレネ」
岡道男訳「フェニキアの女たち」
松本仁助訳「オレステス」
松平千秋訳「バッコスの信女」
呉茂一訳「アウリスのイピゲネイア」
柳沼重剛訳「レソス」
中村善也訳「キュクロプス」
(*)(参考：エウリピデス原作/ジャン・ポール・サルトル翻案/芥川比呂志訳・小林和樹演出『トロイアの女たち=Les Troyennes』劇団芸術劇場,1986 年。)
(*)(参考：高岡幸一「L’aristie chez Homere,Apollonios de Rhodes et Virgile」言語文化研究 12,1986 年。)
(*)(参考：家入敏光(抄訳『ホラティウス風モラル』私家版,1986 年。)
(*)(参考：ウォルター・ペーター/富士川義之訳『ルネサンス：美術と詩の研究』白水社,1986 年(→1993 年,再版。→2004 年,白水ブックス 1069)。)

(*)(参考：樺山紘一『ルネサンス逍遙』六興出版,1986 年(→1993 年,講談社学術文庫版。)
(*)(参考：Vattimo Gianni/佐藤三夫訳「弁証法・差異・弱い思想（イタリアからのメッセージ〈特集〉」現代思想 14(7),1986 年。)
(*)(参考：Eco Umberto/澤井繁男訳「量産性における創造（イタリアからのメッセージ〈特集〉」現代思想 14(7),1986 年。)
(*)(参考：福鎌忠恕「ジャン・バッティスタ・ヴィーコ著「自叙伝」補遺—metafisica,filosofia e filologia（付・「ヴィッラローザ侯爵補記」）」東洋大学社旗学部紀要 23(2),1986 年。)
(*)(参考：福鎌忠恕「思想史における「伝説(legendes)の諸問題—モンテスキューとヴィーコをめぐって」東洋大学社旗学部紀要 23(3),1986 年。)
(*)(参考：海津忠雄『ドイツ美術と人文主義：著述家としてのエラスムスの肖像』慶應義塾大学,文学博士,乙第 1698 号,1986 年。)
(*)(参考：佐藤三夫「ごきげんようイタリア」詩学 41(2),1986 年。)
(*)(参考：佐藤三夫「ウンベルト・エーコ 不在の構造」(未邦訳ブックガイド—現代思想の 22 冊〈特集〉」現代思想 14(4),1986 年。)
(*)(参考：佐藤三夫「ペトラルカの『無知論』について：ヴェネツィアのアリストテレス主義者たちをめぐって」イタリア学会誌 36,1986 年。)
(*)(参考：奥山藤志美「西洋隠棲文学の系譜—モンテーニュとペトラルカの場合」秋田論叢 2,1986 年。)
(*)(参考：ダンテ/原光訳『地獄』サボテン叢書,原光,1986 年。)
(*)(参考:久田健吉「ダンテ「神曲」の精神—心を正せ心を正せ(上下)」哲学と教育 33・34,1986 年/35,1987 年。)
(*)(参考：六反田収「ダンテとチョーサー：ウゴリーノ伯エピソードをめぐって」イタリア学会誌 35,1986 年。)
(*)(参考：池内紀「天使には足があるか?--『神』「天国篇」による考察(ダンテ〈特集〉)」現代詩手帖 29(7),1986 年。)
(*)(参考：須賀敦子「トゥルバドゥールから「神曲」まで--「愛」の概念の変遷(同上)」現代詩手帖 29(7),1986 年。)
(*)(参考：剣持武彦「ダンテ「神曲」と現代(同上)」現代詩手帖 29(7),1986 年。)
(*)平川祐弘「ダンテ「神曲」と謡曲「敦盛」--相互照射による解明の試み(同上)」現代詩手帖 29(7),1986 年。)
(*)(参考：饗庭孝男「ダンテの〈古代〉と「愛」(同上)」現代詩手帖 29(7),1986 年。)
(*)(参考：清瀬卓「ダンテ年譜(同上)」現代詩手帖 29(7),1986 年。
(*)(参考：田村秀夫「トマス・モア研究 1935-1985 : 問題史的系譜と展望」經濟學論纂 27(4),1986 年。)
(*)木ノ脇悦郎・藤原靖也「邦語エラスムス関係文献目録作成のための覚え書き」キリスト教史学 40,1986 年。)
(*)(参考：及川典巳「チョーサーの『トロイルス』の書簡について」(岩手大学人文社会科学)思想と文化?,1986 年。)
(*)(参考：森谷佐三郎『日本におけるシェイクスピア』八潮出版社,1986 年。)
(*)(参考：松元寛『シェイクスピアの全体像—仮面と素顔のあいだ』研究社出版,1986 年。)
(*)(参考：大島芳材「シェイクスピアの詩「ヴィーナスとアドニス」に見る演劇への萌芽」

立正大学人文科学研究所年報 24,1986 年。)
(*)(參考：青山誠子「シェイクスピアとヴィーナス」英語青年 132(2),1986 年。)
(*)(參考：楠明子「「空想に挑む自然の傑作」--クレオパトラと英国ルネサンスの女たち(シェイクスピア—劇場と戯曲)」文学 54(4),1986 年。)
(*)(參考：岩谷智「「楽園喪失」における叙事詩の技法 第一巻のカタログをめぐって」Journal of Humane Studies 1986.)
(*)(參考：松田実矩「ミルトンのラテン詩 Elegia prima,Eloegia Quinta と Ovid」Kobe miscellany 13,1986 年。)
(*)(參考：越智文雄『わがミルトン探訪—研究と随想』(京都)シオン出版,1986 年。)
(*)(參考：越智文雄博士喜寿記念論文集編集委員会編『ミルトン—詩と思想--越智文雄博士喜寿記念論文集』(京都)シオン出版,1986 年。)
(*)黒田健二郎「書誌学史の中の「日本のミルトン文献—資料と解題」(書誌索引事例)書誌索引展望 10(3),1986 年。
(*)(參考：高橋雄四郎「「海底のうた」：ヴィジョン・神話・想像力」實踐女子大学文学部紀要 28,1986 年。)
(*)(參考：猪俣正広「〈Amphitryon〉における神話的変容のパロディー」早稲田商学 313,1986 年。)
(*)(參考：工藤好美『ウォルター・ペイター研究』南雲堂,1986 年。)
(*)(參考：伊藤勲『ペイタア：美の探究者』永田書房,1986 年。)
(*)(參考：舟川一彦「19 世紀アカデミック・ヒューマニズムの発生—コウルリッヂ,ニューマンとアーノルドの学問論」(上智大学英文学会)英文学と英語学 23, 1986 年。)
(*)(參考：Mario Platz,早乙女忠「T.S.エリオットとダンテ（ダンテ,特集）」現代詩手帖 29(7), 1986 年。)
(*)「南大路振一教授略歴・著作目録」(南大路振一教授退任記念)」人文研究 38(1),1986 年。)
(*)(參考：西村貞二「フンボルトの教育理念」西洋史研究 15,1986 年。)
(*)(參考：岸美光「フォン・ベルクのこと—ヴィンケルマンの青年教育」岡山大学文学部紀要 7,1986 年。)
(*)參考：菊池栄一『ゲーテ物語』講談社学術文庫,講談社,1986 年。)
(*)(參考：山本惇二「Schiller と die Idylle—アルカディア的牧歌からエリュシオン的牧歌へ」独逸文学研究 27,1986 年。）
(*)(參考：朝日英夫・河内信弘編『ニーチェの世界』朝日出版社,1986 年。)
(*)(參考：サラ・コフマン/宇田川博訳『ニーチェとメタファー』朝日出版社,1986 年。)
(*)(參考：清水本裕「新しいニーチェ全集について」ドイツ文学 76,1986 年。)
(*)(參考：大石昌史「ニーチェにおける芸術の「形而上学」と「生理学」：「ディオニュソス的」なるものをめぐって(美学会第 37 回全国大会報告)」美學 37(3), 1986 年。)
(*)(參考：平野明彦「ニーチェにおける真理論について--「あらゆる価値の転換」の視点から」精神科学 25,1986 年。)
(*)(參考：渡邊直樹「レッシングの「古代人はいかに死を象ったか」について」宇都宮大学教養部研究報告・第 1 部 19,1986 年。)
(*)(參考：岡本英明「解釈学の立場から」(シュライエルマッヘル)教育哲学研究 53,1986 年。)

(*)(参考 : ハイデッガー著/木下康光,ハインリヒ・トレアチック訳『ヘルダーリンの讃歌『ゲルマーニエン』と『ライン』』ハイデッガー全集 39,創文社,1986 年。)
(*)(参考 : 四日谷敬子「ヘルダーリンに於ける美のイデーとその形態化」福井医科大学一般教養紀要 6,1986 年。)
(*)(参考 : 藤野一夫「ドイツ観念論の伏流 : 思想史のヘルダーリン(1)」研究年報 33,1986 年。)
(*)(参考 : 棚瀬明彦「ヘルダーリンの『エンピドクレースの死』再考 : エンペドクレースの罪はヒュブリスか?」独仏文學研究 36,1986 年。)
(*)(参考 : 松浦暢「The reassesment of Keats's influence on modern Japanese poetry」Seijo English monography23,1986 年。)
(*)(参考 : 田中暁「トーマス・マンにおけるディオニュソス的なもの--「ヴェニスに死す」解釈」言語文化研究 12,1986 年。)
(*)(参考 : Tomoo Tobari‘Un défenseur de Sophocle contra l'Œdipe de Voltaire’(in : Mélanges pour Jacques Scherer,Paris,1986.)
(*)(参考 : 中川久定『ディドロの「現代性」』河合ブックレット,河合文化教育研究所,進学研究社(発売),1986 年。)
(*)(参考 : 寺西暢子「『イタリア年代記』におけるスタンダールの小説世界の形成過程」仏文研究 17,1986 年。)
(*)(参考 : 田中仁彦『ラ・ロシュフーコーと箴言—太陽も死も直視できない』中公新書,中央公論社,1986 年。)
(*)(参考 : ピエール・ルイス/生田耕作訳『ビリチスの唄』(ピエール・ルイス作品集 1,奢灞都館,1986 年。)
(*)海老澤有道「『信心録』覚書」ゑぴすとら 74,1986 年(→1994 年,復刻版)。
(*)(参考 : ロバート・ヘンリスン/鍋島能正訳『イソップ寓話集』弓書房,鷹書房(発売 : 参考文献と辞書類),1986 年。)
(*)飯野純英校訂・小堀桂一郎解説『伊曽保物語—古活字版』大学古典叢書 7,勉誠社,1986 年。)
(*)イソップ原作/トニー・ロス絵 ; 小沢正訳『おおかみがきた!』フレーベル館,1986 年。

(*)イソップさく/からさわみちたかぶん ; 有元健二え『イソップものがたり』せかいの名作ぶんこ 9,金の星社,1986 年。
(*)イソップさく/小野ルミぶん ; 大和田美鈴え『いなかのねずみととかいのねずみ』せかいの名作ぶんこ 49,金の星社,1986 年。
(*)足沢良子文『イソップがいっぱい : 世界の名作 : 100 話』講談社,1986 年。
(*)河野與一編訳『イソップのお話』改版,岩波少年文庫 1009,岩波書店,1986 年。
(*)生越嘉治編『イソップ・劇とミュージカル : クラス全員が出演できるどの子にもセリフがある』あすなろ書房,1986 年。
(*)(参考 : 長野俊一「ラフメートフ考--「特別な人間」のイメジャリー-構成」(イソップ)(岩手大学人文社会学部)思想と文化 403-416,1986 年。)
(*)高島洋典・島津秀雄・友納正裕「ストーリ駆動型アニメーションシステム : システム概要」(イソップ)全国大会講演論文集 33,1986 年。
(*)島津秀雄・友納正裕・高島洋典「ストーリー駆動型アニメーションシステム : 物語り理解部」(イソップ)全国大会講演論文集第 33 回(パターン

処理および人口知能),1215,1986 年。
(*)J.ラウレス編『上智大学・吉利支丹文庫』(新訂 3 版)臨川書店,1986 年(イソップ受容史文献採錄)。
(*)(參考：山森青硯「『影模絵入蘭文伊曽保物語断簡』の欧文筆者について」金沢大学附属図書館報 83,1986 年。)
(*)島正三『Esop とか伊曽保とかのこと(天草版伊曽保物語などのこと〈補訂版〉抄)改題』文化書房博文社,1986 年。
(*)寺山修司『寺山修司全詩歌句』(「わたしのイソップ—初期詩篇」)思潮社,1986 年。
(*)長谷川栄編『デザイナー・河鍋暁斎』双書美術の泉 64,岩崎美術社,1986 年。
(*)高谷道男『(新装版)ヘボン』人物叢書,吉川弘文館,1986 年(→1989 年,同『ドクトル・ヘボン』伝記叢書 69,大空社)。
(*)島津秀雄・友納正裕・高島洋典「ストーリ駆動型アニメーションシステム：物語り理解部/システム概要」全国大会講演論文集・第 33 回昭和 61 年後期 2,1986 年。
(*)今道友信「大塚保信」(ケーベル)日本の美学 8,1986 年。
(*)中西隆紀「短い午睡(1-6)ラファエル・フォン・ケーベルの駿河台生活」本の街 70,71,72,74,75,76,1986 年。
(*)渡辺芳雄「清沢満之における悪」印度學佛教學研究 34(2),1986 年。
(*)斎藤忍随『幾度もソクラテスの名を(I・II)』(ニーチェ等)みすず書房,1986 年。
(*)(參考：野田良之『栄誉考』(ヒュブリス等) みすず書房,1986 年。)
(*)(參考：今井知正「イギリスのギリシャ哲学研究」UP 163,1986 年。)
(*)(參考：中沢新一『野ウサギの走り』思潮社,1986 年(→1989 年,中公文庫版)。)
(*)茅誠司・桑原武夫・田中美知太郎他『碩学に聞く』致知選書,竹井出版,1986 年。
(*)參考：金子武蔵『近代精神史研究：近代の誕生』以文社,1986 年。)
(*)河野与一『続・学問の曲り角』岩波書店,1986 年。
(*)「河野与一先生の思い出」刊行委員会編『回想 河野与一・多麻』「河野与一先生の思い出」刊行委員会,1986 年。
(*)書評「河野与一著「続・学問の曲リ角」」朝日新聞朝刊 9/22,1986 年。
(*)書評「「河野与一先生の思い出」刊行委員会編・発行「回想 河野与一・多麻」」朝日新聞朝刊 9/22,1986 年。
(*)(參考：田中美知太郎『哲学談義とその逸脱』新潮選書,新潮社,1986 年。)
(*)(參考：田中美知太郎『哲学からの考察：自然と人間』岩波書店,1986 年。)
(*)森進一『雲の評定—哲学と文学の間に』(田中美知太郎,「弟子の回想」)筑摩書房,1986 年。
(*)松平千秋「西洋古典の翻訳」読売新聞夕刊 3/7,1986 年。
(*)松平千秋「追悼 田中美知太郎氏—明知とパトスの人」ちくま 179,1986 年。
(*)松平千秋「田中秀央先生と日本の西洋古典学」古代文化 38(8),1986 年。
(*)松平千秋「西洋古典学と私」京都産業大学国際言語科学研究所所報 7(2),1986 年。
(*)松平千秋「弔辞」(田中美知太郎)西洋古典學研究 34,1986 年。
(*)藤澤令夫「田中美知太郎先生の御逝去を悼む」西洋古典學研究 34,1986 年。
(*)藤澤令夫「追悼 田中美知太郎先生」正論 162 号(3 月号),1986 年。
(*)松永雄二「田中美知太郎先生の思い出」(京大以文会)以文 29,1986 年。

(*)森泰三「田中先生の演習(追悼)」新潮 83(3),1986 年。
(*)山本七平「現代に生きたプラトン(追悼 田中美知太郎)」文藝春秋 64(2),1986 年。
(*)林健太郎「田中美知太郎先生のこと(同上)」文藝春秋 64(2),1986 年。
(*)竹之内静雄「田中美知太郎先生をしのんで(田中美知太郎〈追悼〉)」新潮 83(3),1986 年。
(*)丸谷才一編『文明を批評する』(竹之内静雄「田中美知太郎」/岡利郎「三宅雪嶺」/山口昌男「林達夫」)言論は日本を動かす 9,講談社,1986 年。
(*)勲章「[読売文学賞の人]=下 研究・翻訳 菅野昭正/松平千秋(連載)」読売新聞夕刊 2 月 5 日付,1986 年。
(*)花沢秀文「高山岩男に於ける「哲学」の形成過程(上下)」政治経済史学 241,242,1986 年。
(*)同志社大学人文科学研究所編『七一雑報の研究』,1986 年。
(*)島尾永康「『七一雑報』の「理学史伝の概略」」科学史研究 II-25,1986 年。
(*)小西甚一『日本文芸史・第 4 巻』(百合若)講談社,1986 年。
(*)矢代和夫「東北の百合若伝説覚書」文藝論叢 29,1986 年。
(*)三沢裕子「幸若舞曲の構造続論--「信太」「百合若大臣」「大織冠」の場合」国文学研究 88,1986 年。
(*)麻原美子「幸若舞曲(中世語り物,特集)—(語り物の諸相)」国文学解釈と鑑賞 51(4),1986 年。
(*)小林健二「幸若舞曲研究の軌跡と展望(中世語り物,特集)—(語り物の諸相)」国文学解釈と鑑賞 51(4),1986 年。
(*)藤田緑「「佳人之奇遇」にみるアフリカとの連帯」比較文学 29,1986 年。
(*)阿毛久芳「西脇順三郎--『Ambravalia』を「氷島」(萩原朔太郎)の反照として(日本語のレトリック—挑発する言語)」国文学 解釈と教材の研究 31(1),1986 年。
(*)中島国彦「デルフィの若者,歌島の若者--「潮騒」への一視点(いま三島由紀夫を読む,特集)—(小説の解読)」国文学解釈と教材の研究 31(8),1986 年。
(*)太宰治・井伏鱒二『走れメロス・山椒魚』少年少女日本文学館 12,講談社,1986 年。
(*)夏目武子「太宰文学と文学教育：『走れメロス』に即して(〈連載〉国語教育講座・最終回)」文学と教育 135,1986 年。
(*)中島国彦「デルフィの若者,歌島の若者—「潮騒」への一視点(いま三島由紀夫を読む,特集)—(〈小説〉の解読)」国文学 解釈と教材の研究 31(8),1986 年。
(*)「日本の英米文学者—学風と方法 平田禿木(1873-1943)」英語青年 1986(別冊),1986 年。
(*)「別宮貞徳教授略歴・主要論文・主要著書・主要訳書(別宮貞徳教授還暦記念)」英文学と英語学 23,1986 年。
(*)小林正之「煙山専太郎先生(1877-1954)を語る—昭和初年の早大文学部史学教室を中心として」早稲田大学史記要 18,1986 年。
(*)猿渡重達「「吉満義彦全集」垣花秀武ほか編—近代の超克をめざして」ソフィア 34(4),1986 年。
(*)村川堅太郎・弓削達「江戸っ子の西洋史学」図書 442,1986 年。
(*)(参考：弓削達『歴史学入門』東京大学出版会,1986 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『詳説世界史』再訂版,山川出版社,1986 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『標準世界史』再訂版,山川出版社,1986 年。)
(*)(参考 : Eduard Petška,小田桐光隆,柳沢文昭編『トロイア戦争』ギリシャ神話,第三書房,1986 年。)

(*)(参考：中務哲郎「ヘロドロス『歴史』の序文・終章・キュクロス観」西洋古典學研究 34,1986 年。)
(*)(参考：森本哲郎「戦争と人間(4)馬(2)アレキサンダーの巻」諸君 18(4),1986 年。)
(*)(参考 : 岡村一「「アレクサンドロス物語」の帝王学 : Darino 場合」熊本商大論集 32(2),1986 年。)
(*)(参考：大牟田章「フラウィウス・アッリアノス「アレクサンドロス東征記」第 4 巻および第 5 巻訳」金沢大学文学部論集,史学科編 6,1986 年。)
(*)(参考 : B.B.ハルデーエフ/一柳俊夫訳「土井正興の諸労作におけるスパルタクス蜂起の諸問題」歴史評論 429,1986 年。)
(*)(参考：吉村直治「“ポンペイウスの死”について」人文科学論集 33,1986 年。)
(*)(参考：石川勝二「共和政ローマの植民地について—研究史の試み(正続)」愛媛大学教育学部紀要 第 2 部 人文・社会科学 18,1986 年/18,1987 年)。)
(*)(参考：L.H.フェルトマン/秦剛平訳『ヨセフス研究(4)』山本書店,1986 年。)
(*)(参考：和田廣『ビザンツ帝国：東ローマ 1 千年の歴史』教育社歴史新書・西洋史 A17, 教育社,1986 年。)
(*)(参考：塩野七生『男の肖像』(ペリクレス,アレクサンダー大王,大カトー,ユイウス・カエサル)文藝春秋,1986 年(→1992 年,文春文庫版)。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編『中世の歴史観と歴史記述』上智大学中世思想研究所紀要 中世研究 3,創文社,1986 年。)
(*)(参考：北原敦「ヨーロッパ：現代南欧(1985 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 95(5),1986 年。)
(*)(参考：林邦夫「ヨーロッパ：近代南欧(1985 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 95(5),1986 年。)
(*)(参考：堀越孝一「ヨーロッパ：中世西欧(1985 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 95(5),1986 年。)
(*)(参考：金澤良樹「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1985 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 95(5),1986 年。)
(*)(参考：小林雅人「ヨーロッパ：古代：ローマ(1985 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 95(5),1986 年。)
(*)B.B.ハルデーエフ/一柳俊夫訳「土井正興の諸労作におけるスパルタクス蜂起の諸問題」歴史評論 429,1986 年。)
(*)(参考：桜井万里子「歴史学会(第 10 回)参加記」思潮 20,1986 年。)
(*)(参考 : 後藤篤子・柳川平太朗「日本西洋史学会第 34 回大会参加記」歴史学研究 540,1986 年。)
(*)(参考：桜井万里子「古代ギリシア女性史研究—欧米における最近の動向」歴史学研究 552,1986 年。)
(*)(参考：後藤篤子・古山正人「古代世界研究国際シンポジウムを終って」歴史学研究 559,1986 年。)
(*)(参考：吉田晶・阪本浩「古代史部会—矢野建一「律令国家・祭祀と天皇」,古瀬奈津子「平安時代の「儀式」と天皇」,荒木敏夫「古代国家と民間祭祀」,弓削達「ローマ皇帝神話をめぐる祭儀」(1986 年度歴史学研究大会報告批判)」歴史学研究 562,1986 年。)

(*)土井正興「石母田正と西洋古代史研究--「古代末期政治史序説」をとおして(石母田正氏の人と学問,特集)」歴史評論 436,1986 年。
(*)「平泉澄先生略年譜・著述目録(平泉澄先生追悼特集)」藝林 35(1・2),1986 年。
(*)(参考：二宮宏之『全体を見る眼と歴史家たち』木鐸社,1986 年。)
(*)(参考：森谷公俊「「古代世界研究国際シンポジウム」について」歴史評論 429,1986 年。)
(*)(参考：村川堅太郎『古代ギリシアの国家』村川堅太郎古代史論集 1,岩波書店。)
----1.「ギリシア都市に於ける市域とその周囲—特に初期の状態について」
2.「ギリシア人の集落位置選定—紀元前 5,4 世紀の新設 o plis について」
3.「民主政期に於けるアテネとアッテイカ」
4.「スパルタ型国家の農業生産者」
5.「貴族と農民—ヘシオドスを中心に」
6.「ギリシアの衰退について」
7.「原始ギリシア人の競争大敵性格」
8.「デーミウーゴス」
9.「Korete to Porokorete」
10.「「デーウーゴス」25 年の歩み」
(*)山口昌男編『林達夫対談集 世界は舞台』岩波書店,1986 年(←1985 年,季刊「へるめす」3,4)。
(*)渡辺一民「園芸と築城術—林達夫「作庭記」をめぐって(上下)」文学 54(1),1986 年//55(1),1987 年。
(*)渡辺一民「1935 年前後—林達夫の「転向」をめぐって」文学 54(9),1986 年。
(*)渡辺一民「1920 年代論(3)三木清と林達夫」文学 54(3),54(5),1986 年。
(*)海老阪武『雑種文化のアイデンティテイ 林達夫、鶴見俊輔を読む』みすず書房,1986 年。
(*)(参考：宇杉和夫「7102〈反復的構造の中心をもつ空間〉の位置づけとその事例についての研究(1)〈反復的構造〉の意味とプラトンのアトランティス大陸の解釈」学術講演梗概集,F,都市計画,建築経済・住宅問題,建築史・建築意匠(1986),1986 年。)
(*)(参考：パラーディオ原著/桐敷真次郎編著『パラーディオ「建築四書」注解』中央公論美術出版,1986 年。)
(*)(参考：伊藤重剛「コス島の 2 つの神域の平面計画について：ヘレニズム時代の配置計画の研究」日本建築学会計画系論文報告集 363,1985 年。)
(*)(参考：桐敷真次郎「11 アンドレア・パラーディオの建築用語(1,2)(歴史・意匠)」研究報告集,計画系 57,1986 年/58,1987 年。)
(*)(参考：桐敷真次郎「9143 パラーディオ・モチーフの古代的起源」学術講演梗概集,F,都市計画,建築経済・住宅問題,建築史・建築意匠 1986,1986 年。)
(*)(参考：桐敷真次郎「パラーディオの多面性(梗概)」日本建築学会慧悪慧論文報告集 375,1986 年。)
(*)(参考：堀内清治・小笠原研二「地中海古代都市の研究(32)オリンピアン,シキオンの宝庫とメガラ宝庫の平面について(建築歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 29,1986 年。)
(*)(参考：堀内清治・田代浩司「地中海古代都市の研究(33)」日本建築学会研究報告,九州支部3,計画系29,1986年。)

(*)(参考：堀内清治・堀達浩「地中海古代都市の研究(34)」日本建築学会研究報告,九州支部3,計画系29,1986年。)
(*)(参考：伊藤重剛「地中海古代都市の研究(35)」日本建築学会研究報告,九州支部3,計画系29,1986年。)
(*)(参考：村田治郎「エンタシスの源流」(同『法隆寺建築様式論攷』所収,中央公論美術出版,1986 年)。)
(*)(参考：伊藤公『オリンピックの本：希望の祭典を永遠に』サイマル出版,1986 年。)
(*)(参考：高山宏「男爵ピエール・クーベルタンの世紀末—スペクタクル論覚え書(スポーツの人類学,特集)」現代思想 14(5),1986 年。)
(*)(参考：中尾佐助『花と木の文化史』岩波新書,1986 年。)
(*)(参考：相川治子「Love for Love に見る占星術の衰退」専修人文論集 37,1986 年。)
(*)小尾点爾「1 月の星空—ゼウスの化身おうし座」Newton=graphic science magazine 6(1),1986 年。
(*)(参考：種山恭子「星辰は人間に作用を及ぼすか(1,2)：運命と自由,プロティノスの占星術批判(平島達司先生追悼号)」(松蔭女子学院大学学術研究会)キリスト教論藻 19,1986 年/20,1987 年。)
(*)(参考：小原秀雄・岩城正夫『自然「知」の探究：人間科学から人間学へ』人間どう視るか 3,群羊社,1986 年。)
(*)豊田和二「岩城正夫『原始技術論』新生出版」科学史研究第 II 期 25(158),1986 年。
(*)(参考：大槻真一郎「宗教・哲学・科学と錬金術—人間の知恵の本質を求めて」明治薬科大学紀要,人文科学・社会科学 16,1986 年。)
(*)(参考：石渡隆司・小林晶子『医・歯学生のためのラテン語・12 章』岩手医科大学教養部哲学・医学ラテン語研究室,1986 年。)
(*)(参考：二宮陸郎『これだけは知っておきたい医学ラテン語』講談社,1986 年。)
(*)(参考：藤田祐幸「近代科学成立前夜--「力学」と「熱学」のメタフィジーク(1)」慶應義塾大学日吉紀要,自然科学 2,1986 年。)
(*)(参考：山口正春「キリスト教の自然観と近代科学—啓蒙思想との関連において」(日本大学法学会)政経研究 22(3),1986 年。)
(*)(参考：A.G.ディーバス/伊東俊太郎・村上陽一郎・橋本眞理子訳『ルネサンスの自然観：理性主義と神秘主義の相克』サイエンス社,1986 年。)
(*)(参考：ジル・ドゥルーズ著/原田佳彦・丹生谷貴志訳『原子と分身：ルクレティウス/トゥルニエ』哲学書房,1986 年。)
(*)豊田和二「岩城正夫『原始技術論』新生出版」科学史研究第 II 期 25(158),1986 年。
(*)(参考：矢島祐利「スペイン小王国時代の科学者：アラビア科学研究ノート(12)」科学史研究・II期25(158),1986年。)
(*)(参考：酒井友身著・塩浦信太郎絵『山羊座物語』愛のメルヘンギリシャ神話 10,教育出版センター,1986 年。)
(*)(参考：酒井友身著・塩浦信太郎絵『水瓶座物語』愛のメルヘンギリシャ神話 11,教育出版センター,1986 年。)
(*)(参考：酒井友身著・塩浦信太郎絵『魚瓶座物語』愛のメルヘンギリシャ神話 12,教育出版センター,1986 年。)
(*)澁澤龍彦『私のプリニウス』青土社,1986 年(→1993 年,再版。→1996 年,河出書房新社,河

出文庫。→2014 年, 新装版,河出文庫。)
(*)(参考：プリニウス/中野定雄・中野里美・中野美代訳『プリニウスの博物誌(1-3)』雄山閣出版,1986 年。)
(*)(参考：マヌエル・アモロス「平和への訴え：ペロポネソス戦争に対するエウリピデスとアリストパネスの態度」(上智大学哲学科)哲学科紀要 12,1986 年。)
(*)(参考：ロベルト・エスポジト/堺慎介訳『政治の理論と歴史の理論：マキャヴェリとヴィーコ』芸立出版,1986 年。)
(*)(参考：田中美知太郎『今日の政治的関心』文藝春秋,1986 年。)
(*)(参考：柴田平三郎『アウグスティヌスの政治思想』慶應義塾大学,法学博士,乙第1697号,1986年。)
(*)(参考 : Shtaerman,E.M./一柳俊夫訳「古典古代社会—歴史の近代化および歴史的類推(1,2)」宇都宮大学教育学部紀要,第 1 部 36,1986 年/37,1987 年。)
(*)(参考：浦野聡「ローマ帝政期小アジア中西部における「自由村落」成立のための社会的基礎—都市領域内村落の社会的発展」西洋史研究 15,1986 年。)
(*)(参考：勝田吉太郎『(大増補改訂新版)民主主義の幻想』日本教文社,昭和 61 年。)
(*)(参考 : 清永昭次「「ソロンのチュランニスカン」仲手川良雄(学術研究(地理学・歴史学・社会科学編,早大・教育)32 号,「ソロンの政治思想井のオケ流十」仲手川良雄(社会科学討究 86 号),「ヘロドトスにおける〈言論の自由(イセーゴリア)〉」仲手川良雄(社会科学討究 89 号))法制史研究 1986(36),1986年。)
(*)佐藤篤士『小野梓の研究』早稲田大学大学史編集所編、早稲田大学出版部,1986 年。
(*)(参考：片岡輝夫他『古代ローマ法研究と歴史諸科学』創文社,1986 年。)
(*)(参考：G.ヒューズ他著/森村進・石山文彦訳『法思想の層位学』平凡社,1986 年。)
(*)(参考 : Victor Martin/古林祐二訳「パピルスとギリシャ・ローマ時代のエジプト行政区(1,2)」福岡大学法学論叢30(3・4),31(1),1986年。)
(*)(参考：古林祐二「情報化社会から見たギリシャ法概説(1-3)」福岡大学法学論叢30(3・4),31(1),1986年/31(2~4),1987年。)
(*)(参考：小菅芳太郎研究代表『ローマ法とドイツ法(1,2)』北海道大学法学部,1986 年。)

(*)(参考：良知力『ヘーゲル左派と初期マルクス』岩波書店,1987 年。)
(*)近田錠二「「内面形成の思想史—マルクスの思想性」寺田光雄」社会思想史研究 11,1987年。
(*)(参考：山之内靖「マルクスとニーチェ(思想の言葉)」思想 753,1987 年。)
(*)(参考 : 高橋良典編『日本とユダヤ謎の三千年史 : 原典日ユ同祖論』自由国民社,1987 年。)
(*)(参考：チャールズ・J.カズー,スチュワート・D.スコット Jr./志水一夫訳『超古代史の真相』東京書籍,1987 年。)
(*)(参考：木村尚三郎『ヨーロッパ文化の心と形』放送大学教育振興会,1987 年。)
(*)(参考：Threvor-Roper,H.R./赤井彰・古川堅治訳「フェルナン・ブローデル、「アナール」誌と地中海(Journal of Modern History,March-December,1972)」獨協大学教養諸学研究 22,1987 年。)
(*)(参考：フェルナン・ブローデル他/福井憲彦・松本雅弘訳『ブローデル歴史を語る：地中海・資本主義・フランス』新曜社,1987 年。)

(*)(参考：フランソワ・ギゾー/安土正夫訳『ヨーロッパ文明史：ローマ帝国の崩壊よりフランス革命にいたる』みすず書房,1987 年(→2006 年,新装版。→2006 年,新装版再版)。)
(*)(参考：桜井邦朋『太陽黒点が語る文明史：「小氷河期」と近代の成立』中公新書 845,中央公論社,1987 年。)
(*)(参考：ハロルド・A.イニス/久保秀幹訳『メディアの文明史：コミュニケーションの傾向性とその循環』新曜社,1987 年。)
(*)(参考：Oblak Tadeusz 他「知られざるヨーロッパ―バルト海からエーゲ海まで〈シンポジウム〉(東欧の世界,特集)」ソフィア 36(4),1987 年。)
(*)(参考 : 牟田口義郎『旅のバルコニーから』朝日カルチャーV ブックス,大阪書籍,1987 年。)
(*)日本交通公社『イタリア』交通公社のポケットガイド 104,1987 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンド・ビッグ社,1987-88年。
(*)早稲田編集企画室・笠倉出版社(発売)『ギリシア&エーゲ海旅する本』オレンジ・トラベル・プレス no.9,笹倉出版社(発売),1987 年。
(*)池波正太郎『緑のオリンピア』講談社文庫,講談社,1987 年(→2000 年,新装版。)
(*)井出雄太郎『北イタリア紀行：巡礼・観光レポート』中央出版社,1987 年。
(*)中出良一作曲『イタリア紀行=Italian journey：ピアノ小曲集』楽譜,音楽の友社,1987 年。
(*)森本哲郎責任編集『神々とエーゲ海の誘惑：ギリシア』世界知の旅 1,小学館,1987 年。
(*)加藤隆士「アルプスからエーゲ海へ(1,2,3)モーターグライダーの旅」航空情報 507,508,509,1987 年。
(*)森瑤子「創作ノートエーゲ海航海誌」オール讀物 42(11),1987 年。
(*)末兼郁二「エーゲ海で人生を学ぶ」暮らしの手帖第三世紀 86,1987 年。
(*)(参考：アレキサンドラ・セラーズ/入江真奈子訳『エーゲ海で愛して』シルエットスペシャルッディション,ハーレクイン・エンタープライズ日本支社,1987 年。)
(*)Fuminori Takasak「エーゲ海のど真ん中に浮かぶ宝石のような島ミコノスに立ち寄ったクルージング・ポート」Kazi : ヨット,モーターボートの雑誌 53(5),1987 年。
(*)「ポルノ議員は「エーゲ海に捧ぐ」の女優」週刊文春 29(26),1987 年。
(*)(参考：川島重成『古代ギリシアへの招待』国際基督教大学,1987 年。)
(*)(参考：馬場恵二「前 6・5 世紀のエーゲ海北岸のトラキアとギリシア世界(シンポジウム[東欧の世界,特集])」駿台史学 69,1987 年。)
(*)(参考：監修 NHK：企画/制作 NHK サービスセンター『パミールを越えて；覇王の道』NHK 特集：シルクロード第 2 部ローマへの道 1,2,パイオニア,1987 年。)
(*)(参考：監修 NHK：企画/制作 NHK サービスセンター『アジアの果て・絹の町；すべての道はローマに通ず』NHK 特集：シルクロード第 2 部ローマへの道 17,18,パイオニア,1987 年。)
(*)舷燈社編『粟津社子作品集：地中海の光と色』舷燈社,1987 年。
(*)(参考：小川熙「「死の鳥」は地中海にあった(アート・ニューズ)」芸術新潮 38(2),1987 年。)
(*)(参考 : 澤柳大五郎「ピレウスの女人の墓碑--「メランコリア」(一点の小宇宙―ヒューマン・フィギュアを中心に〈特集〉」季刊みずゑ 942,1987 年。)
(*)(参考 : 澤柳大五郎「ギリシア美術史遺珠(1)アリストナウテスの女人の墓碑―この世なら

ぬもの」季刊みずゑ 943,1987 年。)
(*)(参考：澤柳大五郎「ギリシア美術史遺珠(2)ラムヌスの墓碑アテネ 833」季刊みずゑ 944,1987 年。)
(*)(参考：澤柳大五郎「ギリシア美術史遺珠(3)ミュリネ墓標―大理石レキュトス」季刊みずゑ 945,1987 年。)
(*)(参考：澤柳大五郎「ギリシア美術史遺珠(4)レキュトス持つ女人」季刊みずゑ 946,1987 年。)
(*)福部信敏『ギリシア美術紀行』時事通信社,1987 年。
(*)楠見千鶴子『ディオニュソスへの旅』筑摩書房,1987 年。
(*)(参考：篠塚千恵子訳『古代ギリシア・ローマ』メトロポリタン美術全集 2,福武書店, 1987 年。)
(*)(参考：ピエロ・ベントゥーラ絵,ジアン・パオロ・チェゼラーニ文『トロイア』児童図書館・絵本の部屋,探検と発掘シリーズ,評論社,1987 年。)
(*)(参考：玉川学園編『探検・冒険』(「トロヤの城をほりだす」)夢をもとめた人々2,玉川大学出版部,1987 年(→2009 年,オンデマンド版)。)
(*)(参考：ピエロ・ペントゥーラ絵：ジアン・パオロ・チェゼラーニ文『クレタ』児童図書館・絵本の部屋・探検と発掘シリーズ,評論社,1987 年。)
(*)(参考：ピエロ・ペントゥーラ絵：ジアン・パオロ・チェゼラーニ文『ポンペイ』児童図書館・絵本の部屋・探検と発掘シリーズ,評論社,1987 年。)
(*)(参考：鶴田典昭「貝塚は縄文時代のポンペイだ」陸平通信 1987,1987 年。)
(*)(参考：山川偉也『哲学と科学の源流―ギリシア思想家群像』(「あとがきに代えて」)世界思想社,1987 年(→2010 年,『ギリシア思想のオデュッセイア』所収[改題・パルメニデスの故郷],世界思想社。)
(*)ひろなしんいち『ハンニバルと,カルタゴと日本人』ひろなしんいち,黒陶叢書 1,1987 年。
(*)(参考：D.H.ロレンス/奥井潔訳『エトルリアの故地』南雲堂,1987 年。)
(*)(参考：奥井潔「ロレンスの紀行文学--「エトルリアの故地」をめぐって」白山英米文学 12,1987 年。)
(*)(参考：Gilbert Murray/岩本光悦訳「ギリシア文明と現代社会」山口大学教養部紀要,人文科学篇 21,1987 年。)
(*)赤松順太写真・文『アナトリア旅情：トルコ・その自然と人生』泰流社,1987 年。
(*)(参考：中村友博『バルカノ・アナトリア基層文化の遺構面の再検討』山口大学 1987 年,(科研費)1987 年。)
(*)(参考:『古代エーゲ・ギリシアの謎』光文社文庫,グラフィティ・歴史謎事典 2,光文社,1987 年。)
(*)(参考：小川英雄編・講談社写真部(他)撮影『地中海アジアの古都』講談社,世界の大遺跡 3,1987 年。)
(*)(参考：三浦一郎編・講談社写真部(他)撮影『エーゲとギリシアの文明』講談社,世界の大遺跡 5,1987 年。)
(*)(参考:弓削達編・講談社写真部(他)撮影『ローマ帝国の栄光』講談社,世界の大遺跡 6,1987 年。)
(*)NHK 監修企画制作・NHK サービスセンター『アジアの果て・絹の道；すべての道はローマに通ず』NHK 特集 シルクロード；第 2 部ローマへの道 17,18,

パイオニア,1987 年。)
(*)(参考：W.W.ターン/角田有智子・中井義明訳『ヘレニズム文明』思索社,1987 年。)
(*)(参考：崔韶子『東西文化交流史研究：明・清時代西學受容』三英社,1987 年。)
(*)(参考：呉哲男「都市と庭園：家持の花鳥歌を中心に(〈特集〉古代都市と文学)」日本文学 3685),1987 年。)
(*)(参考：内田芳明「課題としての風景」図書10月号,1987年。)
(*)(参考：内田芳明『風景と都市の美学：南北ヨーロッパの旅から』朝日選書340,朝日新聞社,1987年。)
(*)原田熙史「ハーンと和辻哲郎：両者の日本理解」比較思想研究14,1987年。
(*)(参考：ピエロ・ベントゥーラ絵/ジャン・パオロ・チェーゼラーニ文『クレタ』評論社,1987年。)
(*)田中隆尚『へらす宵宴』乙骨書店,1987 年。
(*)(参考：小泉源太郎『失われたアトランチス大文明』大陸書房,1987年。)
(*)(参考：平田俊子『アトランティスは水くさい!』書肆山田,1987年。)
(*)(参考：エドガー・エバンズ・ケイシー/林陽訳『エドガー・ケイシーの大アトランティス大陸：アトランティス沈没期の再来』大陸書房,1987年。)
(*)(参考：玉川学園編『探検・冒険』(シュリーマン)玉川学園出版部,夢をもとめた人びと,1987年(→2009 年,オンデマンド版)。)
(*)(参考：勝又俊雄「クレタの LM1B 期の「マリン・スタイル」--工房/画家の認定への試論」西洋史学 145,1987 年。)
(*)(参考：M.イレッリ/西沢龍生訳「マグナ・グラエキア周辺の古代イタリア文化」史境 14,1987 年。)
(*)(参考：田中英道「ボッティチェルリ「書斎の聖アウグスティヌス」--アウグスティヌス〈告白〉の像(一点の小宇宙―ヒューマン・フィギュアを中心に 特集)」季刊みずゑ 942,1987 年。)
(*)(参考：福井勝義・谷泰編著『牧畜文化の原像：生態・社会・歴史』日本放送出版協会,1987年。)
(*)(参考：レーモン・ウルセン/田辺保訳『中世の巡礼者たち：人と道と聖堂と』みすず書房,1987 年。)
(*)(参考：聖心女子大学キリスト教文化研究所編『巡礼と文明』宗教文明叢書 1,春秋社,1987年。)
(*)(参考：メトロポリタン美術館/越智道雄・糸永光子訳『イタリア・ルネサンス』福武書店,メトロポリタン美術全集 4,1987 年。)
(*)(参考：中江彬「ミケランジェロ作「メディチの聖母」の意義」大阪府立大学紀要,人文・社会科学 35,1987 年。)
(*)(参考：中江彬「メディチ家礼拝堂の「時の四寓意識」と宇宙論」」人文学論集 5,1987年。)
(*)(参考：『ヴァチカンとローマ法王：イタリア宗教美術の宝庫：信仰と芸術のカトリック文化の二千年』毎日グラフ別冊,毎日新聞社,1987 年。)
(*)(参考：吉澤五郎「イスラム史の比較文明論的考察(1,2)」宗教と文化 12,1987 年/13,1989年。)
(*)(参考：山田祥一「文明批評家としての T.S.エリオット(T.S.エリオット,特集)」現代詩

手帖 30(10),1987 年。)
(*)(参考：横山滋「アルノルト・ベックリンのアルカディア風景」武蔵大学人文学会雑誌 18(2),1987 年。)
(*)(参考 : 私市元宏「ミルトンの「アルカディアの人々」」甲南女子大学英文学研究 23,1987 年。)
(*)(参考：三井義和「ミルトンの神とサタン：トインビーの神話を一つの軸として」西日本工業大学紀要,人文社会科学編 3,1987 年。)
(*)(参考：H.R.Trevor-Roper/赤井彰・古川堅治訳「フェルナン=ブローデル,「アナール」誌と地中海(Journal of modern Histoiry,March-December,1972)」獨協大学教養諸学研究 22,1987 年。)
(*)(参考：山本智教『仏教美術の本流』毎日新聞社,1987 年。)
(*)北村暁夫「売春と社会史・売春の社会史」：書評 H.Gibson,Prostitution and the State in Italy 1861-1915」クリオ=Clio 2,1987 年。
(*)(参考：事典編集委員会編『音楽人名辞典=Biographical dictionary of musicians』世光音楽出版社,1987 年。)
(*)(参考：村上重良『世界宗教事典』講談社,1987 年(→2007 年,講談社学術文庫版)。)
(*)(参考：豊国秀夫編『植物学ラテン語辞典』至文堂,1987 年。)
(*)(参考 : 和田廣編『医学ラテン語基本用語辞典』同学社, 基本用語辞典シリーズ,1987 年。)
(*)『近代日本学術用語集成(1-7 巻)』龍渓書舎,1988 年。
(*)森銑三編『(新装版)明治人物逸話辞典(上下)』東京堂出版,1987 年。
(*)崔鐘庫編『法學人名辭典』博英社,1987 年。)
(*)(参考：北村孝一編『世界ことわざ辞典』東京堂出版,1987 年(→1991 年,再版。→1993 年,3 版。)
(*)『岩波文庫総目録(昭和 2 年~昭和 62 年)』岩波書店,昭和 62 年。
(*)立命館大学図書館編「立命館大学図書館蔵原随園博士蔵書目録」立命館大学図書館,1987 年。
(*)佐野晴雄「生田春月所蔵洋書目録(1,2)」山口大学独仏文学 9,1987 年/10,1988 年。
(*)(参考：石塚為雄『友—その生と死の証し』仙台社カガワ印刷,1987 年。)
(*)(参考：アルベルティーン・ガウアー著/矢島文夫・大城光正訳『文字の歴史：起源から現代まで』原書房,1987 年。)
(*)(参考：木曽明子“The lost Sophocles”京都大学,博士(文学),乙第 6281 号,1987 年。)
(*)(参考：Hirozo Nakano(ed.),“Linguistics and philology”no.7,8,9,Kogaku Shuppan,1987.)
(*)(参考：竹島俊之「ギリシャ語の連鎖詞の研究(1)」(広島大学総合科学部)言語文化研究 13,1987 年。)
(*)(参考 : 左近司祥子「プラトンとギリシア語」学習院大学言語共同研究所紀要 10,1987 年。)
(*)(参考：長野真理「コンピューター利用によるプラトンの文体研究」西洋古典學研究 35,1987 年。)
(*)荒井由起夫「パソコンを利用した歴史学のデータベースについて」クリオ=Clio 2,1987 年。
(*)(参考：風間喜与三『ことばの生活誌—インド・ヨーロッパ文化の原像へ』平凡社,1987 年。)
(*)(参考：有光秀行「日本人研究者のための中世ラテン古文書学コースに参加して」クリオ

=Clio 2,1987 年。)
(*)(参考：大槻真一郎「薬学史の文献資料研究を通して見たもの：ギリシャ語・ラテン語などの原典研究の体験から」薬学図書館 32(2),1987 年。)
(*)(参考：中山恒夫『標準ラテン文法』白水社,1987 年。)
(*)(参考：J.M.Kitagawa/保呂篤彦訳「ミルチア・エリアーデ」宗教研究 61(1),1987 年。)
(*)(参考：P.-M.シュール他/野町啓他訳『神話の系譜学』叢書ヒストリー・オブ・アイディアズ 13,平凡社,1987 年。)
(*)(参考：カール・ケレーニイ/円子修平訳『ギリシアの光と神々』叢書ウニベルシタス 214,法政大学出版局,1987 年。)
(*)(参考：藤原聖子「ギリシア人は神話を信じたか：世界を構成する想像力にかんする試論,ポール・ヴェーヌ著,大津真作訳,原題 Les Grecs ont-ils crualeurs mythes? Editions du Seuils,1983.)」東京大学宗教学年報 4,1987 年。)
(*)(参考：天沼春樹「神話概念の変遷 I：Mythos の語史に関して(上)」城西人文研究 15(2),1987 年。)
(*)(参考：クルト・ビューブナー/酒井日出夫訳「神話の真理」明治薬科大学研究紀要,人文科学・社会科学 17,1987 年。)
(*)(参考：常岡晃「ゾラと神話(1,2)：ギリシア神話からカトリシズムまで」文学部論叢 23,1987 年/27,1989 年。)
(*)(参考：吉田敦彦『美女ヘレネをめぐる英雄たち』世界の英雄伝説 8,筑摩書房,1987 年。)
(*)(参考：河村錠一郎「音楽と美術—愛と死と永遠の女性(13)バーン・ジョーンズと「ヴィーナス讃歌」音楽芸術 45(1),1987 年。)
(*)(参考：谷詰則子「A Portrait of the Artist as a Yonug Man における神話的方法について」北海道英語英文学 32,1987 年。)
(*)(参考：中村栄子「プロメテウスの神話とアンドレ・ジード」西南学院大学フランス語フランス文学論集 23,1987 年。)
(*)(参考：常岡晃「ゾラと神話(1,2)：ギリシア神話からカトリシズムまで」文学部論叢 23,1987 年/27,1989 年。)
(*)(参考：濱田吉文「プルーストと神話(1)：神話的イメージの諸相」年報フランス研究 21,1987 年。)
(*)(参考：武田武麿「ベルグソンにおける「静的宗教」としての神話論」大谷学報 67(1),1987 年。)
(*)(参考：奈良和重「ミュトス・グノーシス・プロメテウス：E.トービッチュと L.ヴェセルのイデオロギー批判」(慶應義塾大学法学研究会)法學研究：法律・政治・社会 60(3),1987 年。)
(*)(参考：三井義和「ミルトンの神とサタン：トインビーの神話を一つの軸として」西日本工業大学紀要,人文社会科学編 3,1987 年。)
(*)(参考：中嶋忠宏「アリアドネーの神話領域：ニーチェとホーフマンスタールの場合」言語文化論集 8(2),1987 年。)
(*)(参考：橋本隆夫「ピンダロス『ネメア』第 3 歌におけるヘラクレス神話」西洋古典學研究 35,1987 年。)
(*)(参考：神宮輝夫『ギリシア神話物語(上下)』新書館,1987 年。)
(*)(参考：青島広志・高橋睦郎詩『愛のギリシア神話 I：女声合唱とピアノのための』全音

楽譜出版社,1987 年。)
(*)(參考：齋藤忍随『アポローン：ギリシア文学散歩』岩波書店,1987 年(→2007 年,岩波現代文庫・文芸版。)
(*)(參考：落合忠士「プラトンから新プラトン学派に至る神観の推移」京都学園大学論集 16(1),1987 年。)
(*)(參考：P=M.シュール(他)/野町啓(他)訳『神話の系譜学』平凡社,叢書ヒストリー・オヴ・アイデアズ 13,1987 年。)
(*)(參考：A.モミリアーノ/桜井万里子(他)訳『異端の精神史』平凡社,叢書ヒストリー・オヴ・アイデアズ 18,1987 年。)
(*)(參考：掛川富康「キリスト教神論におけるヘブライズムとヘレニズム—K,バルトの神理解とイデアリズムの問題」(茨城キリスト教大学)人文科学研究 21,1987 年。)
(*)(參考：光文社『聖書の世界』光文社文庫,グラフィティ歴史謎事典 4,1987 年。)
(*)(參考：植田重雄『聖母マリヤ』岩波書店,1987 年。)
(*)(參考：高橋三郎『使徒行伝講義』教文館,1987 年。)
(*)(參考：服部治『聖書とキリスト』キリスト教図書出版,1987 年。)
(*)(參考：井上洋治『キリストを運んだ男：パウロの生涯』講談社,1987 年(→1998 年,日本基督教団出版局版)。)
(*)(參考：蛭沼寿雄『新約本文学史』山本書店,1987 年(→2011 年, 蛭沼寿雄著作集・第 3, 新教出版社)。
(*)(參考：R.L.ウィルケン/阪本浩他訳『ローマ人が見たキリスト教』ヨルダン社,1987 年。)
(*)(參考：白石正樹「モンテスキュー「ローマ人の宗教政策」」創価法学 17(2),1987 年。)
(*)「精緻極め尽くした論文の洪水に閉口---村川堅太郎さん,余白を語る」東京朝日新聞夕刊 9/25,1987 年。
(*)(參考：阪本浩「アエリウス・アリスティデスの皇帝礼拝」西洋古典學研究 35,1987 年。)
(*)(參考：後藤篤子「『ミラノ勅令』をめぐって—クリステンセンの復原を中心に」法政史学39,1987年。)
(*)(參考：土岐健治「古代キリスト教の殉教文学—ユダヤ教殉教文学の遺産(上下)」言語文化24,1987年/25,1988年。)
(*)(參考：辻佐保子「ヴァティカン教皇庁図書館ラテン語39番の新約聖書挿絵に関する二・三の考察」美学・美術史研究論集5,1987年。)
(*)(參考：上智大学中世思想研究所編『中世の人間像』創文社,上智大学中世思想研究所紀要中世研究5,1987年。)
(*)(參考：C.L.Starling「カミュとキリスト教[仏文]」松蔭女子学院大学・松蔭女子学院短期大学学術研究会研究紀要,人文科学・自然科学篇29,1987年。)
(*)(參考：伊吹雄「フッサールの時間分析についてのヨハネ・キリスト論的考察[独文]」成蹊大学一般研究報告23,1987年。)
(*)(參考：ホセ・デベラ「〈書評〉映画『ミッション』に描かれたイエズス会士：キリスト教的楽園と忍び寄る悪」ソフィア36(2),1987年。
(*)山形和美『新しきミューズ：キリスト教文学の可能性』新教出版社,1987年。
(*)和田康一郎「西脇順三郎の初期活動：『あむばるわりあ』論(1)」稿本近代文学10,1987 年。

(*)千田實「太宰治『走れメロス』における一考察：近代文学に現れた古典の世界」武蔵野短期大学研究紀要3,1987年。
(*)狭間久『野上弥生子の道』大分合同新聞社,1987年。
(*)森常治「ひとつの比較文学論—三枝和子作「崩壊告知」とアイスキュロスの「オレステイア」をめぐって」比較文学年誌23,1987年。)
(*)澤柳大五郎『木下杢太郎記』小沢書店,1987年。
(*)勝部真長『青春の和辻哲郎』中公新書,昭和 62 年。
(*)頼住光子「和辻哲郎と解釈学：比較思想的研究」比較思想研究 14,1987 年。
(*)(林達夫)『林達夫著作集・別巻 I』(書簡集)平凡社,1987 年。
(*)伊沢東一「洋学派林達夫の宗教」拓殖大学論集 165,1987 年。
(*)渡辺一民「歴史の暮れ方—戦時下の林達夫をめぐって」文学 55(2),1987 年。
(*)渡辺一民「「戦後」の林達夫(上下)」文学 55(6,9),1987 年。
(*)西尾幹二・入江隆則「日本の知識人—いびつな西洋観の系譜」かくしん 200,1987 年。)
(*)平川祐弘「良き学風を偲ぶ(追悼・菊池栄一・氷上英廣先生)」比較文學研究 51,1987 年。
(*)角田順「弔辞—若き日の氷上[英廣]君(同上)」比較文學研究 51,1987 年。
(*)三嶋憲一「氷上英廣先生を悼む(同上)」比較文學研究 51,1987 年。
(*)杉田弘子「弔辞(同上)」比較文學研究 51,1987 年。
(*)富士川英郎「氷上英廣氏の思い出(同上)」比較文學研究 51,1987 年。
(*)三浦安子「菊池・氷上両先生から頂いたもの(同上)」比較文學研究 51,1987 年。
(*)芳賀徹「さようなら、菊池・氷上[英廣]両先生(同上)」比較文學研究 51,1987 年。
(*)(參考：ドムナック/岩瀬孝訳『悲劇の回帰』中央公論社,1987 年。
(*)(參考：中村善也『ギリシア悲劇研究』岩波書店,1987 年。)
(*)(參考：エウリピデス他原作/ジョン・バートン,ケネス・カヴァンダー編・英訳/吉田美枝訳『グリークス(The Greeks)—10 本のギリシャ劇によるひとつの物語』劇書房,1987 年(→新装版,[東京]構想社(発売)。)
(*)(參考：逸身喜一郎「『オイディプス王』ノート(登張正實教授退職記念号)」ヨーロッパ文化研究 6,1987 年。)
(*)佐藤勇(創作)『追放されたテミストクレス』講談社出版サービスセンター(制作),新ギリシア悲劇物語 1,1987 年。
(*)(參考：D.ヘイ(他)/清水純一・甚野尚志・齋藤泰弘・天野恵・佐々木力訳『ルネサンスと人文主義』平凡社,1987 年。)

------ D.ヘイ「ルネサンス観の変遷」
H.ウェイシンガー「ルネサンスの文学と歴史叙述」
Ch.トリンカサス「ルネサンスにおける〈人間の尊厳〉」
N.アッパニャノ「ルネサンス人文主義」
P.ヘルデ「イタリア人文主義」
W.J.オング「ラムス主義」

(*)(參考：樺山紘一『ルネサンスの人と文化』日本放送出版協会,1987 年(→1993 年,講談社学術文庫版。)
(*)(參考：西本晃二研究代表『15 世紀イタリア人文主義者の書簡・論考の研究』昭和 61 年度科学研究費補助金(一般研究 C)研究成果報告書,1987 年。)
(*)(參考：花田圭介「ヴィーコにとってのヴィーコ--『自伝』を読む」思想 752,1987 年。)

(*)(参考：国際染織美術館編『タピスリー・女神の凱旋：ペトルカの詩・名声を凱旋のテーマに』国際染織美術館,1987 年。)
(*)(参考：高岡幸一「La Description des beautes de Laura dans le Canzoniere de Petrarque—Petrarque et Virgile」言語文化研究 13,1987 年。)
(*)(参考：齋藤正二「教育思想史におけるマニエリスム：エラスムス,モア,ラブレー,モンテーニュ解釈の〈組み替え〉のために」日本教育学会大会研究発表要項 46,1987 年。)
(*)(参考：森井真「思い違いがつくる歴史—エラスムスとカルヴァン(フランス文学特集)」明治学院論叢 411,1987 年。)
(*)(参考：藤代泰三「エレナイオスとエラスムスとルター—日本神学序論「人間論」」基督教研究 49(1),1987 年。)
(*)(参考：高橋亘「倫理と宗教との関係：アウグスチヌス,ルター,エラスムスの場合」カトリック研究 52,1987 年。)
(*)(参考：海津忠雄『肖像画のイコノロジー：エラスムスの肖像の研究』多賀出版,1987 年。)
(*)(参考：高知女子大学文学部一般教育編『ふまにすむす』高知女子大学文学部一般教育,1987 年。)
(*)(参考：荒木昭太郎『モンテーニュ遠近』大修館書店,1987 年。)
(*)(参考：葉狩隆夫「〈展望〉日本人とモンテーニュ」ソフィア 36(3),1987 年。)
(*)(参考：川桝弘子「『アンドロマック』：ラシーヌとエウリピデスの場合」フランス語フランス文学研究 51,1987 年。)
(*)(参考：高田康成「チョーサーとダンテ」英語青年 133(2),1987 年。)
(*)(参考：菅原克也「D.G.ロセッティ訳サッフォー“Beauty”をめぐって：藤村の「落梅」と有明の「さいかし」」山形大学英語英文学研究 31,1987 年。)
(*)(参考：道家弘一郎「ミルトンと霊魂不滅論」宗教と文化 12,1987 年。)
(*)(参考：大日向幻『「失楽園」の世界』(大阪)創元社,1987 年。)
(*)(参考：ダンテ/壽岳文章訳『神曲(天国篇,地獄篇,煉獄篇)』新版,集英社,1987 年。)
(*)(参考：ダンテ/西沢邦輔訳『神曲(上)地獄篇』日本図書刊行会,近代文芸社(発売),1987 年。)
(*)(参考：西沢邦輔「ダンテ『神曲』本文の基本的解釈の問題点：(I.II)煉獄篇」高知医科大学一般教育紀要 3,1987 年/4,1988 年。)
(*)(参考：新倉俊一「ダンテと現代文学—T.S.エリオットをめぐって(現代世界に生きるキリスト教--[明治学院大学キリスト教研究所]創立 20 周年記念号)」明治学院大学キリスト教研究所紀要(19・20),1987 年。)
(*)(参考：中村俊春「ルーベンス「セネカの死」：古典受容の一様相」美學 37(4),1987 年。)
(*)(参考：津上英輔「ジローラモ・メイ De modis—その古文書学的研究」東京大学美学研究室紀要 6,1987 年。)
(*)芳賀守「高野長英の思想と行動(1)」千葉商大紀要 24(4),1987 年。
(*)谷城朗「大瀬甚太郎のドイツ教育学受容—独学史から(1,2)」学苑 566,1987 年//591,1989 年。
(*)(参考：渡辺秀「〈随想〉吉満先生と私」ソフィア 35(4),1987 年。
(*)神田盾夫先生御夫妻記念文集編集委員会編『神田盾夫・多恵子---記念文集』(非売品)ペディラヴィウム会,1987 年。
(*)塚崎幹雄『新訳イソップ寓話集』中公文庫,中央公論社,1987 年。

(*)イソップ作/西本鶏介文；村井香葉絵『イソップ物語』こどもせかい名作童話 7,ポプラ社,1987 年。
(*)イソップ原作/森谷宇一訳；安野光雅絵『きつねがひろったイソップものがたり(1,2)』岩波書店,1987 年。
(*)イソップ原作/西川おさむ絵・文『いなかのねずみととかいのねずみ』ミキハウスの絵本,三起商行,1987 年。
(*)(参考：J.サーバー著/西田実・鳴海四郎訳『空中ブランコに乗る中年男』(「現代イソップ物語」)講談社文庫,講談社,1987 年。
(*)室伏哲郎「イソップ怪談—平和相銀ものがたり(1-3)」世界 504,506,507,1987 年。
(*)原田裕司‘De Latinarum litterarum initiis quea fuerunt in Iaponia’Vox Latina 23,Fasc.87,1987 年。)
(*)鈴木博「「天草版イソップ物語」についての國語学的考察：新村出博士翻字を主たる対象として」滋賀大学教育学部紀要,人文科学・社会科学・教育科学 37,1987 年。
(*)渡辺正「試論 イソップ寓話「亀と兎」の日本化---「通俗伊蘇普物語」を経由して」名古屋工業大学学報 39,1987 年。
(*)田川邦子「晩年の司馬江漢：『春波楼筆記』を中心に」研究年報 31,1987 年。
(*)中村友「「仙人」(大 5)考--「エピクロスの園」における至福者の悲劇を起点として」学苑 565,1987 年。
(*)平川祐弘「ハーンとケーベルの奇妙な関係」諸君!19(10),1987 年。
(*)福鎌忠恕「井上円了と西洋思想---円了における西洋哲学」東洋大学社会学部紀要 24(2),1987 年。
(*)(参考：中村二柄「本学会創立会長・井島勉先生の思い出」美術教育 1987(254),1987 年。)
(*)(参考：バーバラ・W.タックマン/大社淑子訳『愚行の世界史：トロイアからヴェトナムまで』朝日新聞社,1987 年(→2009 年,[上下]中公文庫版)。)
(*)(参考：藤木隆義「『善女列伝』に見られる女性の「愛」について(1,2)」Artes：宝塚造形芸術大学紀要 1,1987 年/2,1988 年。)
(*)(参考：平田隆一『紀元前 7-5 世紀におけるイタリア諸民族間の諸関係の総合的研究—特にエトルスキ,ローマ,ラテイム,ギリシア,カルタゴ間の政治的・軍事的・経済的関係について』東北大学 1986 年,(科研費)1987 年。)
(*)(参考：島田誠「共和制末期から元首制期におけるローマ市民社会における諸階層と労働(職業)観：問題関心と分析概念としての階層区分の関係を中心に」」クリオ=Clio 2,1987 年。)
(*)(参考：厚東洋輔「1860 年代と古典古代像の転換」(大阪大学)年報人間科学 8,1987 年。)
(*)(参考：仲手川良雄「ブルクハルトとギリシア史」史林 70(3),1987 年。)
(*)(参考：西村貞二「ブルクハルト「コンスタンティヌス大帝の時代」を読む—没後 90 年に」西洋史研究 16,1987 年。)
(*)(参考：毛利晶「ガイウス・グラックスの改革とイタリアの同盟者」西洋史研究 16,1987 年。)
(*)(参考：山辺規子「カロル・ギンズブルグ—イタリアの新しい歴史学の流れから」橘女子大学研究紀要 14,1987 年。)
(*)(参考：長谷川岳男「プティアの結婚—ヘレニズム期エペイロスをめぐって」上智史学 32,1987 年。)

(*)(参考：塩野七生『レパントの海戦』新潮社,1987 年(→1991 年,新潮文庫版)。)
(*)(参考：岡田恵美子『アレクアサンダー物語：地中海からインドまで』世界の英雄伝説 6,筑摩書房,1987 年。)
(*)(参考：大牟田章「フラウィウス・アッリアノス「アレクサンドロス東征記」第 6 巻および第 7 巻訳」金沢大学文学部論集,史学科編 7,1987 年。)
(*)(参考：安井俊夫「歴史学と歴史教育のあいだ(6,7)スパルタクスの反乱をめぐる歴史学と歴史教育(上下)」歴史学研究 564,565,1987 年。)
(*)(参考：V.V.Khardeev/土井正興訳「スパルタクス戦争のなかの戦略をめぐる若干の問題」専修人文論集 40,1987 年。)
(*)(参考：土井正興「スパルタクスの最後の戦場はどこか」専修史学 19,1987 年。)
(*)(参考：毛利晶「ガイウス・グラックスの改革とイタリアの同盟者」西洋史研究 16,1987 年。)
(*)(参考：馬場典明「アレティウム・ティラ=ギルラータの終焉：ローマ奴隷制衰退相の再検討」古代文化 39(2),1987 年。)
(*)(参考：石川厚輔「新約聖書における「正義」の一側面：パウロと奴隷制度」(上智大学キリスト教文化研究所)キリスト教文化研究所紀要 6,1987 年。)
(*)(参考：長塚隆二『ナポレオン』読売新聞社,1987 年。)
(*)(参考：大畑正弘「「ナポレオンのエジプト遠征」の記述をめぐって—世界史教育の現場から」歴史評論 451,1987 年。)
(*)(参考：北村暁夫「ヨーロッパ：現代南欧(1986 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 96(5),1987 年。)
(*)(参考：清水廣一郎「ヨーロッパ：近代南欧(1986 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 96(5),1987 年。)
(*)(参考：齋藤絅子・神宝秀夫「ヨーロッパ：中世西欧(1986 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 96(5),1987 年。
(*)(参考：大戸千之「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1986 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 96(5),1987 年。)
(*)(参考：市川雅俊「ヨーロッパ：古代：ローマ(1986 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 96(5),1987 年。)
(*)(参考：山折哲雄「クリオの遺産—いまは亡き歴史家歴史家 D.D.コーサンビーに寄す」宗教学論集 13,1987 年。)
(*)(参考：古山正人他編訳『西洋古代史料』東京大学出版会,1987 年。)
(*)史学会編『日本歴史学界の回顧と展望』山川出版社,1987-88 年。
(*)宮薗衛「上原専禄による世界史像形成への出発：1940 年代後半における「世界史」への取り組み」教育学研究集録 11,1987 年。
(*)(参考：藤澤令夫「Aitia—Causa—Cause--「因果律」とは基本的に何だったのか」理想 634,1987 年。)
(*)(参考：山川偉也「第 3 回国際哲学シンポジウムに出席して(海外哲学展望)」理想 636,1987 年。)
(*)蓮沼啓介『西周における哲学の成立—近代日本における法哲学成立のためのエチュード』有斐閣,神戸法学叢書 20,1987 年。
(*)佐々木満子「底本・上田敏全集の編集に携わって—著作年表作成を中心に」書誌索引展

望 6(3),1987 年。
(*)福原雛恵編『福原麟太郎追悼集』福原麟太郎追悼録刊行会,東久留米市・私家版,1987 年。
(*)加太こうじ「日本画人伝(3)石井柏亭、福沢一郎」思想の科学(第 7 次)93,1987 年。
(*)(参考：山本光雄『愛知と政治：哲学論集』山本貞子,1987 年。)
(*)(参考：川田熊太郎『倫理学』改訂版,公論社,1987 年。
(*)(参考 : 村川堅太郎『古代ギリシア人の思想』村川堅太郎古代史論集 2,岩波書店,1987 年。)
(*)(参考：E.R.ドッズ他/桜井万里子他訳『進歩とユートピア』(ドッズ「古典古代における進歩」)叢書ヒストリー・オブ・アイディアズ 14,平凡社,1987 年。)
(*)(参考：戸田博之[訳解説]「〈資料〉いわゆる「イェーガーの講義録」(1810 年)その全文の紹介」人文学論集 4,1987 年。)
(*)高原信一「神谷美恵子と宗教」福岡大学総合研究所報 91,1987 年。
(*)「戸塚七郎教授略歴・業績(吉沢伝三郎教授・戸塚七郎教授・田島節夫教授退職記念論集)」(東京都立大学)人文学報 188,1987 年。
(*)「笹谷満教授略歴・主なる研究業績」山形大学紀要,人文科学 11(2),1987 年。
(*)(参考：田中美知太郎『生きること考えること』弥生書房,1987 年。)
(*)桝田啓三郎「否定の力」(『増補版・田中美知太郎全集 1 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)松平千秋「田中先生と私」(『増補版・田中美知太郎全集 1 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)岩田義一「先生との 30 年」(『増補版・田中美知太郎全集 1 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)高津春繁「西欧の古典的教養」(『増補版・田中美知太郎全集 1 月報』筑摩書房,1987 年。←第一回田中美知太郎全集の内容見本掲載の推薦文。)
(*)村田数之亮「わが書棚にある田中さんの本」(『増補版・田中美知太郎全集 2 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)山本光雄「我が事のようにうれしい」(『増補版・田中美知太郎全集 2 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)野上素一「田中美知太郎先生」(『増補版・田中美知太郎全集 2 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)池田美恵「揺るぎない精神の強靱さ」(『増補版・田中美知太郎全集 2 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)藤井義夫「田中美知太郎氏と私」(『増補版・田中美知太郎全集 3 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)佐伯彰一「田中美知太郎を読む愉しみ」(『増補版・田中美知太郎全集 3 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)中村善也「田中ファンのひとりとして」(『増補版・田中美知太郎全集 3 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)種山恭子「田中先生と〈演習〉」(『増補版・田中美知太郎全集 3 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)鹿野治助「武蔵のごとき一面」(『増補版・田中美知太郎全集 4 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)平田寛「田中先生との出会い」(『増補版・田中美知太郎全集 4 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)山田晶「哲学者の笑い」(『増補版・田中美知太郎全集 4 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)村川堅太郎「田中先生と私」(『増補版・田中美知太郎全集 5 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)副島民雄「東京ルネッサンスのアルケー」(『増補版・田中美知太郎全集 5 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)山元一郎「古典的な節度」(『増補版・田中美知太郎全集 5 月報』筑摩書房,1987 年。)

(*)森進一「借金」(『増補版・田中美知太郎全集 5 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)青木巌「田中さんと私」(『増補版・田中美知太郎全集 6 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)福田恆存「エイローネイア」(『増補版・田中美知太郎全集 6 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)山本新「意味と科学と道徳と」(『増補版・田中美知太郎全集 6 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)「〈資料〉田中美知太郎・呉茂一対談「古典文学閑談(2)」(『増補版・田中美知太郎全集 6 月報』筑摩書房,1987 年(←1943 年,改造社「文藝」8 月號)。)
(*)石塚為雄「カリレ先生とギリシャ語」(『増補版・田中美知太郎全集 7 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)西義之「アテネの旅」(『増補版・田中美知太郎全集 7 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)本多顕彰「田中美知太郎,戦前・戦後」(『増補版・田中美知太郎全集 7 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)山崎照雄「360 度の展望—田中さんを想う」(『増補版・田中美知太郎全集 7 月報 7』筑摩書房,1987 年。)
(*)清水幾太郎「距離の人」(『増補版・田中美知太郎全集 13 月報』筑摩書房,1987 年（←1986 年,文化会議 4 より再録）。)
(*)柳沼重剛「田中先生の論文を英訳した思い出」(『増補版・田中美知太郎全集 13 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)森進一「観察の人—「追悼文」から」(『増補版・田中美知太郎全集 13 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)竹之内静雄「田中美知太郎訳「テアイテトス」が刊行された頃」(『増補版・田中美知太郎全集 14 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)手塚富雄「「人生論風に」書評二篇(1)」(『増補版・田中美知太郎全集 14 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)高階秀爾「「人生論風に」書評二篇(2)」(『増補版・田中美知太郎全集 14 月報』筑摩書房,1987 年。)
(*)「〈資料〉田中美知太郎・呉茂一対談「古典文学閑談(1)」(『増補版・田中美知太郎全集 14 月報』筑摩書房,1987 年(←1943 年,改造社「文藝」8 月號)。)
(*)(參考：笹谷満「ヘラクレイトスの火」山形大学紀要,人文科学 11(2),1987 年。)
(*)(參考：F.ペレス『存在への問い—哲学の原点に根ざして』創文社,1987 年。)
(*)(參考：加藤信朗「存在論と弁証法—ギリシャにおける「存在の探究」をめぐる覚え書(前)」哲学雑誌 774,1987 年。)
(*)(參考：加藤信朗「徳とは何であるかの問について--「ラケス」篇の場合」(東京都立大学人文学報編集委員会)人文学報 188,1987 年。)
(*)(參考：W.イェーガー/戸田博之訳「いわゆる「イェーガーの講義録」(1810 年)—その全文の紹介」神戸学院経済学論集 18(4),1987 年。)
(*)(參考：W.イェーガー/山野耕治訳「ソクラテス(1)」(大阪府立大学人文学会)人文学論集 5,1987 年。)
(*)(參考：J.フィッシャー(他)/川田殖他訳『プラトン主義の多面体』平凡社,叢書ヒストリー・オヴ・アイデアズ 11,1987 年。)
(*)(參考：松田禎二『アリストテレスの哲学』(京都)行路社,1987 年。)
(*)(參考：土橋茂樹「〈論文紹介〉J.M.クーパー「アリストテレスの友愛論」,C.ド・フォーゲル「プラトンとアリストテレスにおける自己愛およびアリストテレ

ス倫理学の性格」」上智哲学誌 1,1987 年。)
(*)(参考：友村恭子「「ロゴス」の意味：ソフィスト,プラトン,ストア派」文経論叢,人文学科篇 7,1987 年。)
(*)(参考：牛田徳子「Postpraedicamenta に関する研究」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 19,1987 年。)
(*)角田幸彦「西田幾多郎とプラトン,アリストテレス,プロチノスとの対決」明治大学教養論集 201,1987 年。
(*)(参考：岩田靖夫『アリストテレスの倫理思想』東京大学,文学博士,乙第 8487 号,1987 年。)
(*)(参考：今道友信『西洋美学のエッセンス：西洋美学理論の歴史と展開』ぺりかん社,1987 年(→1994 年,再版)。)
(*)(参考：水野有庸「詩人アリトゥネウス・ミズノによるウェルギリウス「アイネーアス」巻 1 の改訂[ラテン語]」大谷大学研究年報 40,1987 年。)
(*)(参考：山崎秋夫「フィロンのパイデイア概念について--「杖」解釈を中心として」阪南論集・人文・自然科学編 22(3),1987 年。)
(*)(参考：山内友三郎「正しいものは幸福か―プラトンとヘア」倫理学研究 17,1987 年。)
(*)(参考：桑子敏雄「テオフラストスの「形而上学」--プラトニズムとアリストテレス思想の対比と批判」アカデミア 人文・社会科学編 45,1987 年。)
(*)(参考：出隆『プロティノスとアウグスティヌスの哲学講義』(「講義--プロティノスとアウグスティヌスの哲学」)新地書房,1987 年。)
(*)(参考：小柏仁鋭『アウグスティヌス人間論の倫理的研究』国立出版,1987 年。)
(*)(参考：茂泉昭男『アウグスティヌス研究―徳・人間・教育』教文館,1987 年。)
(*)(参考：松崎一平「アウグスティヌスと古典文学(1)『告白』第 1 巻を中心に」富山大学教養部紀要：人文・社会科学篇 20(1),1987 年。)
(*)(参考：岡部由紀子「アウグスティヌス『アカデメイア派駁論』--「知」「不知」」中世思想研究 29,1987 年。)
(*)(参考：田中千里「アヴェロエスの「形而上学注解」--アヴェロエス研究」近畿大学教養部研究紀要 19(2),1987 年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究会編『中世の人間像』上智大学中世思想研究所紀要中世研究 5,創文社,1987 年。)
(*)(参考：菊池恵善「ギリシア精神とキリスト教」(加藤尚武篇『ヘーゲル読本』法政大学出版局,1987 年、所収。)
(*)(参考：掛川富康「キリスト教神論におけるヘブライズムとヘレニズム―K.バルトの神理解とイデアリズムの問題」人文科学研究 21,1987 年。)
(*)(参考：津上英輔「ボエーティウスによるギリシャ・トノス理論の誤解と中世旋法理論に対するその影響」同志社女子大學學術研究年報 38(3),1987 年。)
(*)(参考：H.D.バウマン,A.サヒーヒ/谷口勇訳『映画「バラの名前」：その完成までのドキュメント』而立書房,1987 年。)
(*)(参考：合羽惇編『ヴィーコを読む』思想 752,岩波書店,1987 年。)
(*)(参考：ヴィーコ著/上村忠男・佐々木力訳『学問の方法』岩波文庫,岩波書店,1987 年。)
(*)(参考：中村雄二郎「事実と虚構(思想の言葉)（ヴィーコを読む〈特集〉）」思想 752(2 月号),1987 年。)
(*)(参考：上村忠男「ヨーロッパ的諸学の危機におけるヴィーコ―或る出会いのなかから（ヴ

ィーコを読む〈特集〉）」思想 752(2 月号),1987 年。)
(*)(参考：山田貞三「G.ヴィーコの「新しい学」（ヴィーコを読む〈特集〉）」思想 752(2 月号),1987 年。)
(*)(参考 : 菊池理夫「ベーコンとヴィーコ : 二人の「詩学」をめぐって（ヴィーコを読む〈特集〉）」思想 752(2 月号),1987 年。)
(*)(参考：谷川多佳子「デカルトの真理=確実性の連鎖：ヴィーコの反・デカルト理性主義をめぐって（ヴィーコを読む〈特集〉）」思想 752(2 月号),1987 年。)
(*)(参考：花田圭介「ヴィーコにとってのヴィーコ--「自伝」を読む（ヴィーコを読む〈特集〉）」思想 752(2 月号),1987 年。)
(*)(参考 : Croce Beneditto/上村忠男[訳・解説]・押場靖志[訳]「ヴィーコの哲学（ヴィーコを読む〈特集〉）」思想 752(2 月号),1987 年。)
(*)(参考：de Givanni Biagio/広石正和訳「バロック人ヴィーコ（ヴィーコを読む〈特集〉）」思想 752(2 月号),1987 年。)
(*)(参考:岩崎稔「想起をめぐるあるトポス—ヴィーコとヘーゲル（ヴィーコを読む〈特集〉）」思想 752(2 月号),1987 年。)
(*)(参考：Battistini Andrea/石村多門訳「ヴィーコ研究の現状（ヴィーコを読む〈特集〉）」思想 752(2 月号),1987 年。)
(*)(参考：Karl Löwith/上村忠男[訳・解説]・山之内靖[訳・解説]「ヴィーコの基礎命題〈真なるものと作られたものとは置換される〉—その神学的諸前提と世俗的諸帰結」思想 759,1987 年。)
(*)(参考：山崎文雄「キリスト教教育への試論宗教(1) : パイデイアの思想」松山東雲短期大学研究論集 18,1987 年。)
(*)(参考：クーノー・フィッシャー/玉井茂・磯江景孜訳『ヘーゲルの生涯』勁草書房,1987 年。)
(*)(参考：渡部菊郎「人間における真性と真理—ハイデッガー「プラトンの真理の説」解釈の試み」人間学紀要 17,1987 年。)
(*)(参考：清瀬卓「フィレンツェ・プラトニズムの文芸理論 I : C.ランディーノの『神曲』註解を中心として」イタリア学会誌 37,1987 年。)
(*)(参考：田中英道「ボッティチェルリ「書斎の聖アウグスティヌス」--アウグスティヌス〈告白〉の像(一点の宇宙—ヒューマン・フィギュアを中心に〈特集〉)」季刊みずゑ 942,1987 年。)
(*)(参考：野上素一「地下のバシリカ食堂」宗教と文化 12,1987 年。)
(*)(参考 : Mit anmerkungen von Itsuo Fujiwara und Yuzo Matsuyama, “Chemie : grundbegriffe und ihre geschichtliche entwicklung” Sanshusha Velag,1987.）
(*)芳賀徹「さようなら,菊池・氷上両先生(追悼 菊池栄一・氷上英広先生)」比較文學研究 51,1987 年。
(*)小堀桂一郎「菊池栄一先生の思ひ出(追悼 菊池栄一・氷上英広先生)」比較文學研究 51,1987 年。
(*)仙北谷晃一「菊池栄一先生を憶ふ(追悼 菊池栄一・氷上英広先生)」比較文學研究 51,1987 年。
(*)三浦安子「菊池・氷上両先生から頂いたもの(追悼 菊池栄一・氷上英広先生)」比較文學研究 51,1987 年。

(*)富士川英郎「氷上英広氏の思い出(追悼 菊池栄一・氷上英広先生)」比較文學研究 51,1987 年。
(*)杉田弘子「弔辞 (追悼 菊池栄一・氷上英広先生)」比較文學研究 51,1987 年。
(*)三島憲一「氷上英広先生を悼む(追悼 菊池栄一・氷上英広先生)」比較文學研究 51,1987 年。)
(*)角田順「弔辞---若き日の氷上君 (追悼 菊池栄一・氷上英広先生)」比較文學研究 51,1987 年。
(*)平川祐弘「良き学風を学ぶ (追悼 菊池栄一・氷上英広先生)」比較文學研究 51,1987 年。
(*)(參考 : 岸美光「ヴィンケルマンの「学者嫌い」と田舎の学問」岡山大学文学部紀要 8,1987 年。)
(*)(參考 : 岩崎允胤「ヴィンケルマンと古代ギリシア精神の再生—日本からのメッセージ[邦文,独文]」大阪経済法科大学論集 29,1987 年。)
(*)(參考：尾田一正「「古代人の模倣」：ヘルダー,モーリッツにおけるヴィンケルマン批判を中心に」Stufe7,1987 年。)
(*)(參考：小栗浩『『ファウスト』論考：解釈の試み』東洋出版,1987 年。)
(*)(參考：渡辺直樹「レッシングの「ラオコーン」試論—芸術理論的観点から」外国文学 36,1987 年。)
(*)(參考：松山雄三「シラーと喜劇(1)」東北薬科大学研究年報 一般教育関係論集 1(東北薬科大学研究年報 34),1987 年。)
(*)(參考：大石昌史「ニーチェにおける芸術の「形而上学」と「生理学」：「ディオニュソス的」なるものをめぐって」美學 38(2),1987 年。)
(*)(參考：中嶋忠宏「アリアドネーの神話領域：ニーチェとホーフマンスタールの場合」言語文化論集 8(2),1987 年。)
(*)(參考：遠藤孝澄「ニーチェにおける「ギリシア悲劇」」哲学会誌 22,1987 年。)
(*)(參考：新田章「〈論文〉ニーチェ哲学と死の問題」倫理學年報 36,1987 年。)
(*)(參考：水野清志「ニーチェの倫理思想(11)」紀要 13(1),1987 年。)
(*)(參考：西尾幹二「光と断崖—最晩年ニーチェの洞察(甦るニーチェ 特集)」新潮 84(10), 1987 年。)
(*)(參考：河内信弘「ニーチェにおける夕：詩人としてのニーチェ(甦るニーチェ 特集)」新潮 84(10), 1987 年。)
(*)(參考：河内信弘「ニーチェにおける夕：詩人としてのニーチェ(甦るニーチェ 特集)」城西人文研究 15(2),1987 年。)
(*)(參考：永井均「ポスト〈道徳〉的文化の展望—ニーチェ的解釈学とその帰結(法哲学・その包摂とゆらぎ 特集)」理想 637,1987 年。)
(*)(參考：菅野孝彦「エドワルド・フォン・ハルトマンとニーチェ」倫理学 5,1987 年。)
(*)(參考 : 緒方純雄「H.ブレァとシュライエルマッヘル—シュライエルマッヘルの思想形成の一断面(1,2)」基督教研究 48(2),49(1),1987 年。)
(*)(參考：Hans Valhinger/岩永達郎訳「落穂拾い,ニーチェ論(1,2)哲人としてのニーチェ(1902)」明治大学教養論集 201,1987 年/211,1988 年。)
(*)(參考：ハイデッガー著/三木正之,エルマー・ヴァインマイアー訳『ヘルダーリンの讃歌『イスター』』ハイデッガー全集 53,創文社,1987 年。)
(*)(參考：佐藤修司「ヘルダーリンとニーチェのディニュソス」岐阜工業高等専門学校紀要

22,1987 年。)
(*)(参考：ヴォルフガング・シャーデヴァルト/竹部琳昌訳「ヘルダーリンに於ける「離心的軌道のイメージ」」」同志社外国文学研究 47,1987 年。)
(*)(参考：Binder Wolfgang/竹部琳昌訳「ヘルダーリンとソフォクレス」同志社外国文学研究 48,1987 年。)
(*)(参考：Hoischer Uvo/竹部琳昌訳「エムペドクレスとヘルダーリン(1-3)」同志社外国文学研究 49,1987 年/52,53,1988 年。)
(*)(参考：渡邊直樹「レッシングの「ラオコーン」試論—芸術理論的観点から」外国文学 36,1987 年。)
(*)(参考：渡辺哲雄「レッシングのプライトゥス論--「喜劇の意図」と「人生の鏡」」ドイツ文学研究 19,1987 年。)
(*)(参考：G.E.レッシング/谷口郁夫訳『理性とキリスト教：レッシング哲学・神学論文集』新地書房,1987 年。)
(*)(参考：太田隆士「ワイマル時代の知識人：ホーフマンスタールと E.R.クルティウス」駿河台大学論叢 1,1987 年。)
(*)(参考：菅野健「トーマス・マンにおける〈生〉の理念：ゲーテかニーチェか」言語文化論集 21,1987 年。)
(*)(参考：クルスティーヌ・ビシュ=グリュックスマン/杉本紀子訳『バロック的理性と女性原理：ボードレールからバンヤミンへ』バロックコレクション 2,筑摩書房,1987 年。)
(*)(参考：猪俣賢司「ロンサールとオウィディウス：『変身物語』受容の一断面」比較文学・文化論集 5,1987 年。)
(*)(参考：甲南大学総合研究所編『18 世紀ヨーロッパの社会と思想：モンテスキューからレッシングへ』甲南大学総合研究所叢書 7,1987 年。)
(*)(参考：ポール・アザール/小野寺健訳『18 世紀ヨーロッパ思想：モンテスキューからレッシング』行人社,1987 年。)
(*)(参考：ラ・フォンテーヌ著/ドレ画/窪田般弥訳『ドレ画ラ・フォンテーヌの寓話』現代教養文庫,社会思想社,1987 年。)
(*)(参考：ジャン・ド・ラ・フォンテーヌ/三野博司他訳『ラ・フォンテーヌの小話』現代教養文庫,社会思想社,1987 年。)
(*)(参考：藤谷通夫「ネルヴァルとダンテ：『オーレリア』における『新生』と『神曲』(上下)」文学研究論集 2,1987 年//5,1988 年。)
(*)(参考：三野博司「「ケリギュラ」から「正義の人々」へ(カミュにおける瞬間と持続[7])」(大阪市立大学文学部)人文研究 39(5),1987 年。)
(*)(参考：高橋雄四郎「天地(あめつち)のうた」：〈幸福論〉への道」實踐女子大学文学部紀要 29,1987 年。)
(*)(参考：横山滋「アルノルト・ベックリンのアルカディア風景」武蔵大学人文学会雑誌 18(2),1987 年。)
(*)(参考：滝川睦「「水」考--『アントニーとクレオパトラ』研究」岐阜大学教養部研究報告 23,1987 年。)
(*)(参考：私市元宏「ミルトンの「アルカディアの人々」」甲南女子大学英文学研究 23,1987 年。)

(*)(参考：酒井幸三『ポウプと一八世紀の抒情詩—パッションとヒューマーの詩』(京都)あぽろん社,1987 年。)
(*)(参考：R.ゲラン/大宅タカヤス訳『トイレの文化史』筑摩書房,1987 年。)
(*)(参考：豊田和二「アゴラの発掘にみる工人の生活」史観 116,1987 年。)
(*)(参考：豊田和二「古代ギリシア人の技術観—その進歩と停滞への心性」社会科学討究 33(2),1987 年。)
(*)(参考：堀内清治研究代表『地中海古代都市における公共建築の研究』コロニー印刷,1987 年。)
(*)(参考：堀内清治「地中海建築」工業教育 35(2),1987 年。)
(*)(参考：桐敷真次郎「パラーディオ「建築四書」の研究：日本建築学会賞第 1 部(論文)」建築雑誌 102(1261),1987 年。)
(*)(参考：桐敷真次郎「9136 パラーディオ・モチーフのルネサンス的起源」学術講演梗概集,F,都市計画,建築経済・住宅問題,建築歴史・意匠 1987,1987 年。)
(*)(参考：圓光寺和史「地中海古代都市の研究(36)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部3,計画系7,1987年。)
(*)(参考：堀内達治・中村浩樹「地中海古代都市の研究(37)古代碑文におけるエピダウロス,アスクレピオス神殿の建設計画の考察(建築歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部3,計画系7,1987年。)
(*)(参考：伊藤重剛「地中海古代都市の研究(38)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部3,計画系7,1987年。)
(*)(参考：伊藤重剛「バールベックのジュピター神域の平面計画(梗概)：ローマ時代の配置計画の研究」日本建築学会計画系論文報告集377,1987年。)
(*)三島雅博「9026 岡倉天心と伊東忠太の関連について」学術講演梗概集,F.都市計画・住宅問題,建築歴史・意匠,1987,1987年。
(*)(参考：中山茂・石山洋『科学史研究入門』東京大学出版会,1987 年。)
(*)(参考：佐々木力「ヴィーコの近代科学論—デカルト的数学・自然学に抗して(ヴィーコを読む,特集)」思想 752,1987 年。)
(*)(参考：山口正春「ヨーロッパにおける近代科学技術の成立とその思想」政経研究 24(1),1987 年。)
(*)豊田和二「アゴラの発掘にみる工人の生活」史観 116,1987 年。)
(*)豊田和二「古代ギリシア人の技術観—その進歩と停滞への心性」社会科学討究 33(2),1987 年。)
(*)(参考：矢野道雄「インドの占星術・天文学書に見られるギリシア語からの借用語について」京都産業大学国際言語科学研究所所報 8,1987 年。)
(*)(参考：山本一清『星座とその伝説』新装版,恒星社厚生閣,1987 年。)
(*)(参考：免取慎一郎『Corpus Hipporaticum の倫理思想的研究』学術社,科学研究費補助金研究成果報告書,1987 年。)
(*)(参考：東千尋「アスクレピオス,ヒポクラテス,イエス—ヘレニズム世界における医学と宗教の葛藤」比較文明 3,1987 年。)
(*)(参考：ロング/難波紘二郎訳『病理学の歴史』西村書店,1987 年。)
(*)(参考：医の統合を語る会編『医哲学』日本医事新報社出版局,1987 年。)
----川田殖「アリストテレスの動物哲学：その生命把握の一典型」

(*)(参考：鳥海清司,梅村信夫,天野義裕,寺澤健次「053204 古代オリンピック式立幅跳における上肢,体幹,下肢の運動量の分析(5.バイオメカニクス,一般研究 B)」日本体育学会大会号 38B,1987 年。)
(*)(参考：佐々木力「ヴィーコの近代科学論—デカルト的数学・自然学に抗して（ヴィーコを読む〈特集〉）」思想 752(2 月号),1987 年。)
(*)(参考：上村忠男「数学と医学のあいだで：ヴィーコとナポリの自然探究者たち（ヴィーコを読む〈特集〉）」思想 752(2 月号),1987 年。)
(*)(参考：下村寅太郎「ルネッサンス的人間としてのゲーテ」モルフォロギア：ゲーテと自然科学 1983(5),1983 年。)
(*)(参考：下村寅太郎「精神史と科学史の交流」思想 751,1987 年。)
(*)(参考：山口正春「ヨーロッパにおける近代科学技術の成立とその思想」(日本大学法学会)政経研究 24(1),1987 年。)
(*)(参考:矢島祐利「小王国以後イスラム・スペインの科学者:アラビア科学研究ノート(13)」科学史研究・II期25(159),1987年。)
(*)(参考:村川堅太郎『古典古代の社会と経済』村川堅太郎古代史論集3,岩波書店,1987年。)
---第1部 ギリシア・ローマの社会と経済(西洋の起源；polisを繞る問題；マルクスの遺稿における「古典古代」：奴隷制度の古典的形態：奴隷制社会；「エリュトラ海案内記」に見えたる紀元一世紀の南海貿易；「エリュトラ海案内記」後日譚；ポリスを繞る問題—Hasebroek以後の半世紀」
第2部 羅馬大土地所有制(イタリアにおける大土地所有；属州における大土地所有)
(*)(参考：岩田弘「共同体・国家・資本主義(2)アジア的共同体,古典古代的共同体,ゲルマン的共同体」(立正大学経済学会)経済学季報37(3),1987年。)
(*)ジョン・トレイン著/坐古義之訳『金融イソップ物語：“あと一歩”で儲け損なった男たちの話』日本経済新聞社,1987年。
(*)(参考：南川高志「ローマ社会の特質と元首政期政治史研究の課題」古代文化39(5),1987年。)
(*)(参考:塩野七生『わが友マキアヴェッリ：フィレンツェ存亡』中央公論社,1987年(→1992年,中公文庫版)。)
(*)(参考：鈴木宣則「トマス・モアとエラスムスの戦争と平和」鹿児島大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編39,1987年。)
(*)(参考：Amoros Manuel/清水憲男訳「平和の擁護者エラスムス」ソフィア36(2),1987年。)
(*)(参考：トマス・モア/日本トマス・モア協会編/沢田昭夫監修『ユートピアと権力と死—トマス・モア没後450年記念』荒竹出版,1987年。)
(*)(参考:菊地理夫『ユートーピアの政治学—レトリック・トピカ・魔術』新曜社,1987年。)
(*)(参考：白石正樹「モンテスキュー「キケロ論」」創価法学17(1),1987年。)
(*)(参考:木前利秋「トピカと労働の論理:ヴィーコとマルクス」思想 752(2 月号),1987 年。)
(*)(参考：吉武清彦「社会思想家としての A.スミスとプラトン」(小樽商科大学創立 75 周年記念号)商學討究 37(1・2・3),1987 年。)
(*)板垣哲夫「石川三四郎(1876-1956)における思想的出発」歴史 68,1987 年。
(*)大原緑峯『石川三四郎：魂の導師』ロブロポート,シリーズ民間日本学者 11,1987 年。
(*)松井幸子「「佳人之奇遇」に描かれた外交問題—条約改正」山口大学教養部紀要 人文科

学篇 21,1987 年。
(*)田中美知太郎著/加来彰俊・北嶋美雪編・解説『戦後四十年の発言：政治・教育・社会』筑摩書房,1987 年。)
(*)(参考：上林良一「J.デューイの公衆論とW.リップマンの政治思想」関西大学法学論集37(2・3),1987年。)
(*)(参考：橋場弦「古典期アテナイのエイサンゲリア(弾劾裁判)について：その手続きと民主政における意義」史學雑誌96(7),1987年。)
(*)(参考：松坂佐一『プラトンと法律—ギリシア法思想への案内』名古屋大学出版会,1987年。)
(*)(参考：古林祐二「自然法と直接民主制の起源と法源(第1篇第1部)古代ギリシャ法源論(1-4)」福岡大学法学論叢31(2~4),1986年/32(1,2),1987年,32(3・4),1988年。)
(*)(参考：古林祐二「海商法と法廷弁論術の起源と形成—第2期(前850-336年)法源論(1,2)」福岡大学法学論叢32(1,2),1987年/32(3・4),1988年。)
(*)(参考：古林祐二「法廷弁論術の起源と形成(1,2)」福岡大学法学論叢32(2),(3・4),1988年。)
(*)(参考：古林祐二「アリストテレスの哲学体系と自然法思想」福岡大学法学論叢 32(3・4),1988年。)
(*)(参考：古林祐二「弁論術の起源と形成(第 3 部・第 4 部)無名の被告の為の訴答作成弁護人によるアパトゥーリオスに対する特別棄却答弁について(33 巻)」福岡大学法学論叢33(1),1988年。)
(*)(参考：古林祐二「海商法と法廷弁論の起源と形成(4)古代ギリシャ海上冒険消費貸借契約とラークリィトス事件について(35 巻)」福岡大学法学論叢 33(2),1988年。)
(*)(参考：古林祐二「海商法と法廷弁論の起源と形成(5)デモステネスのディオニュソドロスに対する損害賠償請求訴訟について(法廷論の拙訳(56 巻)—アテネ海法から世界国家の海法たるロードス海法(未発見)への推移過程」福岡大学法学論叢 33(2),1988 年。)
(*)(参考：古林祐二「情報化社会から見たギリシャ法概説—計量法学と法情報学の起源と形成」福岡大学法学論叢 33(2),1988 年。)
(*)(参考：A.N.シャーウィン・ホワイト/保坂高殿訳『新約聖書とローマ法・ローマ社会』日本キリスト教団出版局,1987年(→2010年,オンデマンド版))。
(*)(参考：柴田光蔵『比較法文化の場として』玄文社,ローマ法フォーラム,1987年。)
(*)(参考：大木雅夫「法律学の誕生(〈特集〉中世の大学)」ソフィア36(1),1987年。)
(*)(参考：水波朗『トマス主義の法哲学』九州大学出版会,1987年。)
(*)(参考：Gemistus Plethon George,渡辺金一「「法の精神」の祖型：ビザンツ文人のペレストロイカ建白書(1,2)」一橋大学社会科学古典資料センター Study Series14,1987年/22,1990年。)
(*)(参考：堅田剛「ヴィーコと《法の詩学》」思想 752(2 月号),1987 年。)
(*)(参考：井上茂「母なくして生れし子『法の精神』」図書10月号,1987年。)
(*)(参考：吉原達也「バハオーフェンの古代学—モムゼン批判をめぐって」廣島法學10(4),1987年。)
(*)(参考：シュミット昌子(他)『バッハオーフェン墓参記：100年忌記念写真集』家族史研究

会,女性史双書2,1987年。)
(*)(参考:浦野起央『資料体系アジア・アフリカ国際関係政治社会史 3[第 5 分冊 d](中東 5d)』(「トルコ・ギリシャ間の大陸棚事件」)パピルス出版,1987 年。)

(*)佐藤春吉「〈新刊書紹介〉『初期マルクスの批判哲学』岩淵慶一著,1986 年,時潮社」立正大学文学部論叢 87,1988 年。
(*)(参考:岩井欣五『文明史論考』岩井欣五,1988 年。)
(*)(参考:F.W.ウォールバンク/小河陽訳『ヘレニズム世界』教文館,1988 年。)
(*)(参考:ヴァルター・ベンヤミン/小寺昭次郎・野村修訳『子どものための文化史』晶文社,1988 年。)
(*)金田民夫『美學者の旅日記:世界ひとり歩き』出版者不明,協和印刷(発売),1988年。
(*)神奈川県立美術館編『青山義雄展:地中海的感性の詩人』神奈川県立美術館,1988年。
(*)(参考:Mediterranean studies research group at Hitotsubashi University,*Mediterranean Cities : Collected Papers*, Mediterranean studies research group at Hitotsubashi University,1988.)
(*)(参考:木島安史『紺碧の幾何学:東地中海の都市風景』建築巡礼3,丸善,1988年。)
(*)(参考:林泰弘他写真『地中海・ナイル・紅海』写真集NHK海のシルクロード1,日本放送出版協会,1988年。)
(*)(参考:ウンベルト・エコ編/谷口勇訳『エコのイタリア案内』而立書房,1988年。)
(*)(参考:ジョージ・ギッシング/土井治訳;ジョージ・ギッシング/小池慈訳『埋火,イオニア海のほとり』Libraried ed.ギッシング選集4,秀文インターナショナル,1988年。)
(*)横江茂『ギリシア・エーゲ海の旅』エアリアガイド,昭文社,1988年(→1997年,第20版)。
(*)『ギリシア・エーゲ海』改訂9版,交通公社のポケットガイド107,日本交通公社出版事業局,1988年。
(*)地球の歩き方編集室編『トルコ』ダイヤモンドビッグ社,1988-89年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンド・ビッグ社,1988-89年。
(*)地球の歩き方編集室編『ギリシアとエーゲ海の島々』ダイヤモンド・ビッグ社,1988-89年。
(*)水上洋子『エーゲ海で恋のレッスン』角川文庫,角川書店,1988年。
(*)藤岡和賀夫『南太平洋キャンペーン』(「エーゲ海のテーマ『魅せられて』」)藤岡和賀夫全仕事4,PHP研究所,1988年。
(*)中迎隆敏「海洋性芸術団 トルコの海を航く」Kazi:ヨット,モーターボートの雑誌 54(1),1988 年。
(*)「エーゲ海チャーター・クルージングレポート」Kazi:ヨット,モーターボートの雑誌 54(1),1988年。
(*)(参考:鹿毛京子・奥野寛編曲『愛のポール・モーリア:やさしいピアノ独奏(「エーゲ海の真珠」)』中央アート出版,1988年。)
(*)(参考:『海のB.G.M.ラブサウンズ編(「エーゲ海の真珠」「ロードス島のバラ」)』録音ディスク,テイチク/インペリアルレコード,1988年。)
(*)青島広志『Laughter at the Mt.Olympia suite no.1=「オリンポスは笑う」第1組曲』楽譜,Zen-on Music,連弾ピース=piano duet no.54,1988年。

(*)青島広志『Laughter at the Mt.Olympia suite no.2＝「オリンポスは笑う」第2組曲』楽譜,Zen-on Music,連弾ピース=piano duet no.55,1988年。
(*)(参考：田所清克「地中海の光と影：ポルトガルの気候風土と植生」Mare Nostrum 1,1988年。)
(*)(参考：ヴォルフガング・フランク,ベルンハルト・ローゲ/杉野茂訳『海の狩人・アトランティス』航空戦史シリーズ99,朝日ソノラマ,1988年。)
(*)(参考：ジャック・ゴザール,「カダト」グループ/恩蔵昇・滝川広子訳『アトランティスの謎は解けた!』大陸書房,1988年。)
(*)(参考：大川隆法『高橋信次の新ユートピア論：ムー,アトランティス文明の再興』土屋書店,Shinrei Books,1988年。)
(*)(参考：ピーター・スロックモートン/水口志計夫訳『水中考古学の冒険：エーゲ海にアンフォラを引き上げて』筑摩書房,筑摩叢書325,1988年。)
(*)塚本邦雄「書評田中隆尚著『へらす宵宴』上・下ギリシア照射」国文学 解釈と鑑賞679(53[1]),1988年。
(*)(参考：内田郁造「ギッシングとイタリアの旅」京都橘女子大学研究紀要15,1988年。)
(*)(参考：ギッシング/土井治・小池滋訳『埋火・イオニア海のほとり』ジョージ・ギッシング選集4,秀文インターナショナル,1988年。)
(*)(参考：石和田昌利「D.H.ロレンスの「エトルリアの故地」における生と死に関する意識」白山英米文学13,1988年。)
(*)(参考：塩野七生・矢島一夫「ミラノは肉体の目で見る(ミラノ 特集)」すばる10(2),1988年。)
(*)(参考：陣内秀信(大阪彰執筆協力)『都市を読む：イタリア』法政大学出版局,1988年。
(*)(参考：平田隆一研究代表『紀元前7-5世紀におけるイタリア諸民族間の諸関係の総合的研究：特にエトルスキ,ローマ,ラティウム,ギリシア,カルタゴ間の政治的・軍事的・経済的関係について』科学研究費補助金(一般研究C)研究成果方向書 昭和61年度-昭和62年度,1988年。
(*)(参考：ステーファノ・デ・カーロ「ポンペイ,ヘルクラネウム,及びヴェスヴィオス火山周辺の別荘：その内的関連と外部への影響」古代文化40(10),1988年。)
(*)青柳正規「古代ローマの浴場(ヨーロッパ温泉の旅(2))SD285,1988年。
(*)(参考：下村寅太郎『聖堂・画廊・広場：ヨーロッパ遍歴』みすず書房,1988 年。)
(*)(参考：藤原武『ローマの道 遍歴と散策—街道・水道・橋』筑摩書房,1988年。)
(*)(参考：ヘルマン・シュライバー/関楠生訳『古代ローマへの道』河出書房新社,1988年。)
(*)(参考：森本哲郎『神の旅人：パウロの道を行く』新潮社,1988年。)
(*)(参考：森本哲郎編『古代地中海血塗ぬられた神話：驚異の世界史』文春文庫ビジュアル版,文藝春秋,1988年。)
(*)(参考：渡辺真弓『ルネッサンスの黄昏：パラーディオ紀行』建築巡礼6,1988年。)
(*)(参考:E.M.フォースター/中野康司訳『アレクサンドリア』晶文社,双書二十世紀紀行,1988年(→2007年,晶文社オンデマンド叢書,オンデマンド版)。)
(*)(参考：木村尚三郎「世紀末泰西風俗絵巻(14)ミレー—ダフニスとクロエ—ヨーロッパの春」文藝春秋66(4),1988年。)

(*)(参考：木村尚三郎『西欧文明の原像』講談社,1988年。)
(*)(参考：木村尚三郎『ヨーロッパの窓から：随想』講談社,1988年。)
(*)(参考：加藤静雄『エーゲ文明の「道」』ギリシア文明のあけぼの1,サンエイジング,1988年。)
(*)(参考：加藤静雄『ギリシア文明の「道」』ギリシア文明のあけぼの2,サンエイジング,1988年。)
(*)(参考：勝又俊雄「アルハーネスのクソアノン」オリエント31(2),1988年。)
(*)(参考：ボブ・ブライア,ピーター・ドーマン解説『古代エジプトの栄光：ナポレオン「エジプト誌」図録聚英』雄松堂出版,1988年。)
(*)(参考：西川亮・後藤淳『古代オリンピックの旅』協同出版,1988年。)
(*)(参考：国立音楽大学大学院編『創立二十周年記念論文集』(川端真由美「N.ピッチンニの「オリンピアーデ」再考：資料研究の基づく二つの自筆原稿の本来の姿」)国立音楽大学,1988年。)
(*)(参考：橋口倫介「地中海世界と十字軍—心性の東西交渉史(第37回上智大学史学会大会公開講演要旨)(上智大学創立75周年記念号)」上智史学33,1988年。)
(*)(参考：家島彦一「イスラム圏における異文化接触のメカニズム(1-8)」アジア・アフリカ言語文化研究所通信63,1988年/66,67,1989年/70,1990年/72,1991年/75,1992年/89,90,1997年。)
(*)松葉良「イスタンブールにて」文藝論集24,1988年。
(*)(参考：藤縄謙三『ギリシア文化と日本文化 新版—神話・歴史・風土』力富書房,1988年。)
(*)長島要一「初期日本・デンマルク文化交流についての覚書」日本歴史479,1988年。
(*)西堀昭『増訂版日仏文化交流史の研究』駿河台出版社,1988年。
(*)鈴木明『維新前夜—スフィンクスと三四人のサムライ』小学館,1988年(→1992年,小学館ライブラリー版)。)
(*)『並河萬里写真展：はるかなるガンダーラ』はるかなるガンダーラ写真展実行委員会,1988年。
(*)(参考：アルフレド・フーシェ/前田龍彦・前田寿彦訳『ガンダーラ考古游記』同朋舎,1988年。)
(*)(参考：田辺勝美『ガンダーラから正倉院へ』同朋舎出版,1988年。)
(*)(参考：栗田功編『佛伝』(ガンダーラ)ガンダーラ美術,二玄社,1988年。)
(*)高田好胤著・副島泰写真『ガンダーラ大唐西域記の旅』講談社,1988年。)
(*)町田甲一「ガンダーラ菩薩真贋騒動---「鑑定家の失敗は自惚れから来る」児島喜久雄」日本歴史476,1988年。
(*)(参考：ユネスコ・シルクロード総合研究日本セミナー「人類文明史におけるシルクロードの意義」実行委員会編『人類文明史におけるシルクロードの意義：ユネスコ・シルクロード総合研究日本セミナーユネスコ・シルクロード総合研究日本セミナー：プログラム抄録』国立民族学博物館,1988年。)
(*)(参考：奥野義雄「シルクロード・海の道--シリア文物が語りかける東西交流の文化と芸術(シルクロード大文明展,特集)」古美術87,1988年。)
(*)(参考：河田貞「シルクロード・仏教美術伝来の道(シルクロード大文明展,特集)」古美術87,1988年。)
(*)(参考：「大和文華館特別展—古代ギリシアの壺絵—シルクロード文明のあけぼの」陶説

429,1988年。)
(*)(参考：相馬隆「なら・シルクロード博―パルティアを越えて」美術手帖596,1988年。)
(*)(参考：青柳正規「西洋美術史(2)ギリシア美術とローマ美術」美術手帖602,1988年。)
(*)三浦一郎「〈随想〉児島喜久雄先生のこと」(上智大学)ソフィア36(4),1988年。
(*)勝部真長「和辻哲郎と「日本回帰」」かくしん219,1988年。
(*)高取英「寺山修司論(6)その思想(29シュペングラーとオルグレン)」詩学43(2),1988年。
(*)(参考：田中政男「トインビーの歴史観について」明治大学教養論集212,1988年。)
(*)(参考：色摩力夫『オルテガ：現代文明論の先駆者』中公新書,中央公論社,1988年。)
(*)(参考：小川明「移動と歴史(1)」上武大学論集23,1988年。)
(*)(参考：栗田靖之「知と教養の諸側面：谷口シンポジウム「知と教養の比較文明学」をめぐって」民博通信39,1988年。)
(*)(参考：井上順孝「文明の中の宗教：谷口シンポジウム「宗教の比較文明学」から」民博通信41,1988年。)
(*)(参考：吉澤五郎「比較文明の可能性」文明 53,1988 年。)
(*)(参考：神川正彦「比較文明とは何か―方法を通して」文明 54,1988 年。)
(*)(参考：安田喜憲「5000 年前の気候変動と古代文明」科学 58(8),1988 年。)
(*)(参考：瀬川清人「館蔵本オルテリウス世界地図帳」ビブリア天理図書館報 91,1988 年。)
(*)(参考：木村栄寿『イエスの道を行く』聖書地図帖・新約聖書 1,新教出版社,1988 年。)
(*)(参考：志田信男訳『セフェリス詩集』世界現代詩文庫14,土曜美術社,1988年。)
(*)(参考：パトリシア・ハイスミス/榊優子訳『殺意の迷宮』創元推理文庫,東京創元社,1988年。)
(*)(参考：三角美次「カミュと地中海：原点としての空間」Mare Nostrum 1,1988 年。)
(*)(参考：酒井敏雄「アルベール・カミュと海」東洋大学紀要,教養課程篇 27,1988 年。)
(*)(参考：堀川徹「アンカラの戦とヨーロッパ：C.マーロウの作品を手掛かりとして」Mare Nostrum 1,1988年。)
(*)(参考：宮澤一郎「作家と地中海：Gerard de Nervalの場合」Mare Nostrum 1,1988年。)
(*)城戸朱理「戦後詩を滅ぼすために(2)アレクサンドリアの復興」現代詩手帖31(6),1988年。)
(*)堀川徹「シリア・トルコ現地調査報告」Mare Nostrum 1,1988年。
(*)(参考：浅野和生「3点のビザンティン象牙トリプティックのプログラム」美術史37(2),1988年。)
(*)(参考：柳井修一・石渡明・海野進・小沢一仁・荒井章司「キプロス島のトルードス・オフィライト」地學雜誌97(5),1988年。)
(*)(参考：岸田晩節「ゲルマニスティクと比較文明総論」大手前女子大学論集 22,1988 年。)
(*)(参考：中江彬「ミケランジェロ作「メディチの聖母」の意義」大阪府立大学紀要,人文・社会科学35,1988年。)
(*)(参考：中江彬「ミケランジェロ作「ドーニの聖家族」の背景について」大阪府立大学紀要,人文・社会科学 36,1988 年。)
(*)(参考：中江彬「ミケランジェロ作「ミネルヴァのキリスト」の主題について」大阪府立大学紀要,人文・社会科学 37,1988 年。)
(*)(参考：中江彬「禁断の木の実と黄金のリンゴ：ルネサンス美術の場合」人文学論集 6,1988年。)
(*)(参考：中川米造述・日本放送協会編『医療の文明史』NHK 市民大学,日本放送出版協

会,1988 年。)
(*)久米邦武『聖徳太子の研究』久米邦武歴史著作集 1,吉川弘文館,1988 年。
(*)川久保輝興「近世におけるヨーロッパと日本・中国：東西文化交流史の試み(1,2)」大阪教育大学紀要.人文科学 37(2),1988 年/39(1),1990 年。)
(*)(参考：西堀昭『日仏文化交流史の研究：日本の近代化とフランス』増訂版,駿河台出版社,1988 年。)
(*)(参考：井関正昭「日伊文化交流の 25 年—ローマ日本文化会館から見たふたつの文化」日伊文化研究 26,1988 年。)
(*)(参考：タデウス・オブオンク,ルードウィヒ・アルムブルスター,ヤネズ・ミヘルチッチ,山本浩「〈特集 東欧の世界〉知られざるヨーロッパ：バルト海からエーゲ海まで」ソフィア36(4),1988年。)
(*)(参考：三浦一郎「〈随想〉児島喜久雄先生のこと」ソフィア36(4),1988年。)
(*)(参考：三杉隆敏・榊原昭二編『海のシルクロード事典』新潮選書,新潮社,1988 年。)
(*)(参考：ヴォルテール/高橋安光訳『哲学辞典』法政大学出版局,1988年。)
(*)(参考：日本オリンピック・アカデミー編『オリンピックものしり小事典：歴史・選手・競技・種目・会場・しくみ・エピソード』池田書店,1988年。)
(*)(参考：マイケル・グラント,ジョン・ヘイゼル/西田実訳主幹；入江和生他訳：木下亮図版担当『ギリシア・ローマ神話辞典』大修館書店,1988年。)
(*)(参考：バーバラ・G・ウォーカ/山下主一郎他訳『神話・伝承事典—失われた女神たちの復権』大修館書店1988年。)
(*)民俗苑『民俗學辭典』復刻版,1988年。
(*)日本キリスト教歴史大事典編修委員会編『日本キリスト教歴史大事典』教文館,1988年。
(*)日本キリスト教歴史大辞典編集委員会編『日本キリスト教史年表』教文館,1988年。
(*)(参考：『ミケランジェロと巨匠たち：西欧古典素描・版画集：Old master drawings and prints from private collection in Japan』山中西洋古典美術鑑賞振興会,1988年。)
(*)川崎真治『日本最古の文字と女神画像』六興出版,1988年。
(*)(参考 : E.Chambers “Eyclopaedia, or An universal dictionary of arts and sciences” Rinsen Book, 1988.)
(*)東京大学附属図書館編『ダンテ・コレクション(Dante collection)目録』東京大学附属図書館,1988年。)
(*)早稲田大学図書館編『柳田泉文庫目録』早稲田大学図書館文庫目録 12,早稲田大学図書館早稲田大学図書館,1988 年。
(*)(参考：筑波大学中近東・地中海地域文化プロジェクト編『古代オリエント学・聖書学・ユダヴア教学・地中海学関係文献：筑波大学附属図書館所蔵』(第 1 次予備報告書・第 2 次予備報告書) 筑波大学中近東・地中海地域文化プロジェクト,1988 年。)
(*)(参考：藤沢市教育委員会博物館建設準備担当編『高橋コレクション総目録』(地中海) 藤沢市教育委員会博物館建設準備担当,1988-92 年。)
(*)(参考:カーロイ・フェルデシ=パップ著/矢島文夫・佐藤牧夫訳『文字の起源』岩波書店,1988年。)
(*)(参考：ステファヌ・ローッシニ著/矢島文夫訳『古代エジプト文字入門：ヒエログラフ』河出書房新社,1988 年。)

(*)(参考：佐藤育子「カルタゴ史に関する史料：ギリシア・ラテン語文献の分析を中心にして」史艸 29,1988 年。)
(*)望月洋子『ヘボンの生涯と日本語』新潮社,1988 年。
(*)(参考：相馬隆『西洋語源落書帖(正・続)』時事通信社,1988 年。)
(*)松平千秋「関本至著『現代ギリシアの言語と文学』をめぐって」ももんが 32(4),1988 年。
(*)(参考：志田信男「医学・薬学ラテン文法教程(3)」東京薬科大学一般教育研究紀要 9,1988 年。)
(*)(参考：ドライデン/佐藤勇夫訳著『ドライデンと周辺詩人の翻訳論』ニューカレントインターナシナル,1988 年。)
(*)(参考：ステファン・ディルセー/池端次郎訳『大学史：その起源から現代まで(上下)』東洋館出版,1988 年。)
(*)野本和幸「「言語哲学大全(1)」飯田隆」科学哲学 21,1988 年。)
(*)(参考：高田康成「アラン・ブルーム「アメリカ精神の閉塞」の衝撃」英語青年 134(9),1988 年。)
(*)(参考：土井正興「スパルタクス蜂起関係文献目録(1726-1988)」専修人文論集 20,1988 年。)
(*)水戸博之編『西洋古典学文献目録』上智学院,1988 年。
(*)Kawada,Shigeru‘Review Discussion：Classics in Japan’Journal of Hellenic Studies 108,1988.
(*)Faculty of Letters,Kyoto University『Catalogue of the Proffesor Michitaro Tanaka Library=田中美知太郎文庫目録』京都大学文学部,Faculty of Letters,Kyoto University,1988 年。
(*)山野耕治「「田中美知太郎文庫」について」文化会議 232,1988 年。
(*)「「田中美知太郎文庫目録」の刊行」静脩25(1),1988年。
(*)澤正弘[校]「西脇順三郎蔵書目録」花園大学研究紀要 19,1988 年。
(*)「国原吉之助教授略歴・業績目録」名古屋大学文学部研究論集 103,1988 年。
(*)大西良生編『菊池寛著作目録稿』(改訂版)大西良生,1988 年。
(*)(参考：黒田健二郎編『日本のミルトン文献—資料と解題 大正・昭和前期篇(中)』風間書房,1988 年。)
(*)(参考：西田晃「新共同訳聖書に現れたルカ福音書第 7 章 47 節の翻訳について」藍野学院紀要 2,1988 年。)
(*)(参考：谷沢永一『ビジネスマンのための 100 冊の古典』PHP 研究所,1988 年。)
(*)リービ英雄「セイレンの笑い声(三島由紀夫,特集)」新潮 85(1),1988 年。
(*)(参考：北尾宏之「ヨーロッパ人の死生観」Mare Nostrum 1,1988 年。)
(*)(参考：左近司祥子「花にまちがえられた馬」学習院大学言語共同研究所紀要 11,1988 年。)
(*)引地正俊「オルペウスの闇と光—明治期におけるギリシア神話の役割」比較文学年誌 27,1988 年。
(*)(参考：安西眞「祝勝歌ミュートスの研究—Bundyの理論にもとづいて」北海道大学文学部紀要36(1),1988年。)
(*)(参考：村瀬順子「マシュー・アーノルドの宗教観—Culture and AnarchyからLiterazturre and Dogmaへの展開」大谷大学真宗総合研究所紀要5,1988年。)
(*)(参考：恒川隆男「〈神話と近代〉ベンヤミンにおけるミュトス的なもの」(獨逸文學80,1988 年。)
(*)(参考：入野田眞右「〈神話と近代〉ヘルマン・ブロッホの神話論」獨逸文學80,1988年。)

(*)(参考：窪俊一「〈神話と近代〉構成原理としての神話：フロイト,ジョイス,シュミット」獨逸文學80,1988年。)
(*)(参考：伊藤嘉啓「「タンホイザー」と神話」独仏文学22,1988年。)
(*)(参考：秋山卓也「神話と預言—Hölderlin Der Archiperagus」ヨーロッパ文化研究17,1988年。)
(*)(参考：中村栄子「オイディプス神話を読む：ソポクレスからジードまで」西南学院大学フランス語フランス文学論集24,1988年。)
(*)(参考：小田桐光隆「オイディプス神話とジャン・アヌイユ；『オイディプスあるいはびっこの王』について」上智大学仏語・仏文学論集22,1988年。)
(*)(参考：友田和秀「『ヴェニスに死す』について」アッシェンバッハの自己崩壊と神話の形象」HUMANITAS13,1988年。)
(*)(参考：田中実「創唱神話の系譜的深まりとデーモンの登場」宗教学論集14,1988年。)
(*)(参考：マリアン・グリーン/山根郁信訳『初歩からの魔術』魔女の家books,大陸書房,1988年。)
(*)(参考：カルロ・ギンズブルグ/竹山博英訳『神話・寓意・徴候』せりか書房,1988年。)
(*)(参考：戸田仁編『牧神パーンの物語：Two tales of “Pan-motif”』旺史社,1988年。)
(*)(参考：アポロドーロス他/高津春繁・高津久美子訳『ギリシア神話』講談社,1988年。)
(*)(参考：松田治『古代神話の英雄像：ギリシャ・ローマ神話論の試み』関東学院大学人文科学研究所叢書8,八千代出版, 1988年。)
(*)(参考：グスターフ・シュヴァープ/角信雄訳『ギリシア・ローマ神話(1-3)』新装版,白水社,1988年。)
(*)(参考：アシモフ/小幡武・増淵正史編注『ギリシア・ローマ神話と言葉』開文社出版英文叢書460,開文社出版,1988年。)
(*)(参考：森本哲郎編『驚異の世界史 古代地中海・血塗られた神話』文春文庫ビジュアル版,1988年。)
(*)(参考：中村雄二郎・畑中正一「海の底の〈ヴィーナス誕生〉」現代思想16(8),1988年。)
(*)(参考：加茂英臣「感情と行為(1)快(アフロディテ)より配慮(プロメテウス)へ」千葉大学教育学部研究紀要36(第1部),1988年。)
(*)(参考：フリッツ-ヨーアヒム・フォン・リンテレン/河野真・越智貢訳『ディオニュソスからアポロンへ：精神の上昇』以文社,1988年。)
(*)(参考：F.de Coulanges,notes par S.Hirakawa ,“La cite antique”,Hakusuisha,1988.
(*)(参考:秦剛平& L.H.Feldman(ed.)“Josephus,Judaism and Chrisianity”,Wayne State Univ.Press,1988.)
(*)(参考：H.ヤーヘルスマ/石田友雄監修『旧約聖書時代のイスラエル史』山川出版社,1988年。)
(*)(参考：シモーヌ・ヴェーユ/富原眞弓訳『ギリシアの泉』みすず書房,1988年。)
(*)(参考：マリアン・グリーン/山根郁信訳『初歩からの魔術』魔女の家books,大陸書房,1988年。)
(*)(参考：眞方敬道『異教文化とキリスト教の間』南窓社,1988年。)
(*)(参考：野町啓「ヘレニズム・ローマ時代のユダヤ思想」(『岩波講座・東洋思想1』所収,岩波書店,1988年。)
(*)(参考：荒井献『新約聖書の女性観』岩波書店,1988年。)

(*)(参考：荒井献編『新約聖書正典の成立』日本基督教団出版局,1988年。)
(*)(参考：森優『だれにでもできる楽しい聖書研究法：聖書研究の手引き』聖文舎,1988年。)
(*)(参考：J.ヘルジランド,R.J.デイリー,J.R.バーンズ/小阪康治訳『古代のキリスト教と軍隊』教文館,1988年。)
(*)(参考：塚本虎二『誕生から伝道開始まで』イエス伝研究1,聖書知識社,1988年。)
(*)(参考：塚本虎二『奇跡と譬(上下)』イエス伝研究3,聖書知識社,1988年。)
(*)(参考：G.コーンフェルト/岸田俊子訳『歴史の中のイエス』山本書店,1988年。)
(*)(参考：島創平「『イエス・キリストの名』--初期キリスト教と異教世界」東京学芸大学付属高校研究紀要25,1988年。)
(*)(参考：ヨーゼフ・プリンツラー/大貫隆・善野碩之助訳『イエスの裁判』新教出版社,1988年。)
(*)(参考：石井美樹子『聖母マリアの謎』白水社,1988年。)
(*)(参考：J.B.アームブルステル/山下孝子訳『マリアの宣教者』中央出版社,1988年。)
(*)(参考：吉山登『マリアになじめない人へ：新しいマリア像への招待』中央出版社,1988年。)
(*)(参考：池田敏雄『聖母による人間の救い：聖母巡礼地をめぐって』中央出版社,1988年。)
(*)(参考：梶川宏『私たちの母マリア』中央出版社,1988年。)
(*)(参考：松本宣郎「都市の民衆と初期キリスト教徒」東北学院大学キリスト教研究所紀要6,1988年。)
(*)(参考：森朋子「コンスタンティヌス帝の宗教政策と神観念の変遷—書簡による分析」関西学院西洋史論集16,1988年。)
(*)(参考：後藤篤子「キリスト教ローマ帝国における宗教闘争」(弓削達・伊藤貞夫編『ギリシアとローマ—古典古代の比較史的考察』所収,)河出書房新社,1988年。)
(*)(参考：足立広明「聖人と古代末期の社会変動—P.ブラウンの研究を中心に」西洋史学149,1988年。)
(*)(参考：カルロ・マリア・マルティーニ/今道瑤子訳『宣教者をそだてるイエス：ルカ福音書による黙想』女子パウロ会,1988年。)
(*)(参考：上河原立雄編『ルカ福音書説教集(1,2)』聖恵授産所出版部,1988年(→1990年,改訂版。)
(*)(参考：山中雄一郎『ルカ福音書瞑想(上下)』聖恵授産所出版部,1988年。)
(*)(参考：塩野七生『聖マルコ殺人事件』朝日新聞社,1988年(→1993年,朝日文庫版,改題「緋色のヴェネツィア：聖マルコ殺人事件」。)
(*)(参考：野町啓「アレクサンドリアのフィロン『世界の創造』：モーセによる「世界創造」について；第1章第1節～第4章35節」哲学・思想論集6,1988年。)
(*)(参考：豊田浩志「エウセビオス「教会史」叙述の信憑性に関する一考察(1)紀元3世紀におけるアレクサンドリア学派の学統をめぐって(上智大学創立75周年記念号)」上智史学33,1988年。)
(*)(参考：大貫隆訳註「『ヨハネのアポクリュフォン』(ベルリン写本)—[1]翻訳と註」東京女子大学論集39(1),1988年。)

(*)(参考 : 辻佐保子「「偶像の失墜」あるいは「異教の敗北とキリスト教の勝利」--Paris,B.N. gr.510を中心に」名古屋大学文学部研究論集XCVIII,1988年。)
(*)(参考：A.ラウス/水落健治訳『キリスト教神秘思想の源流』教文館,1988年。)
(*)(参考：森谷宇一「聖書と教父たちの美学思想」(当津武彦編『美の変貌：西洋美学史への展望』所収,世界思想社,1988年)。
(*)(参考 : 栗本薫「コンスタンティノープル 330 年 : その実態と伝承の形成」史林 71(2),1988年。)
(*)(参考 : F.ティンネフェルト/和田廣訳「中世末期におけるビザンツと西欧の精神的交流の発展におけるデメトリソウ・キュードネスの意義」東洋英和女学院短期大学研究紀要27,1988年。)
(*)(参考：ヨゼフ・フィルハウス「〈特集 東欧の世界〉東欧におけるキリスト教」ソフィア36(4),1988年。)
(*)(参考：コリン・モリス/石川重俊訳『拝啓パウロ様』ヨルダン社,1988年。)
(*)(参考：戸山靖一『歴代のローマ教皇』戸山靖一,新教出版社(発売),1988年。)
(*)(参考：J.C.ブラウン/永井三明・松本典昭・松本香訳『ルネサンス修道女物語：聖と性のミクロストリア』ミネルヴァ書房,1988年。）
(*)新保祐司「内村鑑三論(2)人間のエンタシス」三田文学67(13),1988年。
(*)(参考：加藤裕子『霊は人を生かす：松本卓夫の生涯』加藤清光,1988 年。)
(*)遠藤周作『沈黙』新潮社,1988年。
(*)遠藤周作他『遠藤周作と語る：日本人とキリスト教』女子パウロ会,1988年。
(*)遠藤周作『私のイエス：日本人のための聖書入門』祥伝社,ノン・ポシェット,1988年(→→同年,祥伝社黄金文庫17)。
(*)(参考：今川憲次『カトリック小説考：ゲレアム・グリーンと遠藤周作を中心に』南雲堂,1988年。)
(*)武田友寿「遠藤周作論—文学原理としての「聖書」[含 論文の構成と主旨]（続・作家論と作品論—論文・レポートの作例とその解説）」国文学・解釈と鑑賞 53(10),1988 年。
(*)小畑進「小説「沈黙」論：遠藤周作著」基督神学 4,1988 年。
(*)川島秀一「遠藤周作ノート(2) :「意味と毒薬」について」山梨英和短期大学紀要 21,1988年。
(*)遠藤周作・武田友寿「「沈黙」の時代を読む(日本示威とキリスト教〈特集〉)」知識 72,1988年。
(*)「みすず」編集部編『読書の現在—読書アンケート1980-1986』みすず書房,1988年。
(*)(参考：村田数之亮『ギリシア美をもとめる』ブレーンセンター,なにわ塾叢書,1988年。)
(*)(参考：中山典夫「ギリシア美術とプラトン(1,2,3)」藝叢：筑波大学芸術学研究誌5,6,1988年/9,1992年。)
(*)(参考：当津武彦「アリストテレスとそれ以後の美と芸術の理論」(当津武彦編『美の変貌：西洋美学史への展望』所収,世界思想社,1988年)。)
(*)(参考：当津武彦「『詩学』の成立」フィロカリア5,1988年。)
(*)(参考：今野國雄『史路遍歴』新地書房,1988年。)
(*)(参考：茂手木元蔵編『思想東西よもやま話：無暦庵閑話』北樹出版,学文社(発売),フマニタス叢書,早稲田大学社会科学研究所企画4,1988年。

(*)川島重成「ホメロスの楽しみ」ペディラヴィウム通信1,1988年。
(*)(参考：西村賀子「ホメロスの叙事詩と古代オリエント」(名古屋経済大学・市邨学園短期大学比較文化研究会)比較文化研究7,1988年。)
(*)(参考：岡道男『ホメロスにおける伝統の継承と創造』創文社,1988年。)
(*)(参考：安野光雅他編『ちくま文学の森5(おかしい話)』筑摩書房,1988年。)
----ロンギノス/呉茂一訳「本当の話(抄)」
(*)(参考：久保正彰『西洋古典学—叙事詩から演劇詩へ』日本放送協会,1988年。)
(*)(参考：八田隆司「ギリシア悲劇と現代」人文科学論集35,1988年。)
(*)(参考：沓掛良彦『サッフォー—詩人と生涯』平凡社,1988年(→2006年,水声社版)。)
(*)(参考：城戸朱理「戦後誌を滅ぼすために(2)アレクサンドリアの復興」現代詩手帖31(6),1988年。)
(*)井上弘「東海散士 柴四朗の「佳人之奇遇」と「東洋之佳人」」静岡女子大学研究紀要21,1988 年。
(*)坂本多加雄『山路愛山』吉川弘文館,1988 年。
(*)宮村治雄『理学者兆民』みすず書房,1988 年。
(*)齋藤繁雄編『井上円了と西洋思想』東洋大学井上円了記念学術振興基金,1988 年。
(*)針生清人「井上円了の足跡」アジア・アフリカ文化研究所研究年報 23,1988 年。
(*)山下美保「伊沢修二における西洋教育学説の受容—渡米前を中心にして」日本の教育史学 31,1988 年。
(*)小林珍雄『岩下[壮一]神父の生涯』(伝記叢書 25)大空社,昭和 63 年。
(*)(参考：柴田隆行「十八世紀末哲学史論争の行方」白山哲学 22,昭和 63 年。)
(*)(参考：木村博「イェナ期ヘーゲルにおける「懐疑主義」について」倫理学年報 37,1988年。)
(*)(参考：クーノー・フィッシャー/玉井茂・堀場正治・篠田暢彦訳『ヘーゲルの哲学史』勁草書房,1988 年。)
(*)(参考：岡崎文明「西洋哲学史研究序説(1,2)：哲学史の時代区分」高知大学学術研究報告・人文科学 36,1988 年。)
(*)(参考：角田幸彦「歴史哲学試論—プラトンとブルクハルトの対話によって」明治大学教養論集 211,1988 年。)
(*)渡辺茂「「昭和」の知識人—吉満義彦をめぐって」六浦論叢 25,1988 年。
(*)小倉志祥「〈弔辞〉追悼 金子武蔵先生」倫理学年報 37,1988 年。
(*)吉澤傳三郎「〈弔辞〉故金子武蔵先生略歴」倫理学年報 37,1988 年。
(*)伊沢東一「非転向の西洋知」--林達夫の場合(上)」拓殖大学論集 171,1988 年。
(*)渡邊一民『林達夫とその時代』岩波書店,1988 年。
(*)勝部真長「和辻哲郎と「日本回帰」」かくしん 219,1988 年。
(*)針生清人「井上円了の足跡」アジア・アフリカ文化研究所研究年報 23,1988 年。
(*)山下美保「伊沢修二における西洋教育学説の受容—渡米前を中心にして」日本の教育史学 31,1988 年。
(*)野坂東作「土井晩翠とその周辺」宮城学院女子大学研究論文集 68,1988 年。
(*)久保忠夫「詩人土井晩翠」宮城学院女子大学研究論文集 68,1988 年。
(*)長沢蓮「「経国美談」の成立」舞鶴工業高等専門学校紀要,人文・社会 3 月号,1988 年。
(*)井上弘「東海散史柴四朗の「佳人之奇遇」と「東洋之佳人」」静岡女子大学研究紀要 21,1988

年。
(*)中西靖忠『菊池寛伝』高松市立図書館,市民文庫シリーズ 15,1988 年。
(*)(参考：城戸朱理「戦後詩を滅ぼすために(2)アレクサンドリアの復興」現代詩手帖 31(6),1988 年。)
(*)和田康一郎「西脇順三郎の沈黙期間と改作動機：『あむばるわりあ』論(2)」稿本近代文学11,1988年。
(*)太宰治原作・奥野健男監修・西田敏行朗読『走れメロス：畜犬談』文芸カセット,日本近代文学シリーズ・太宰治作品集,岩波書店,NHK サービスセンター,1988 年。
(*)太宰治『駆込み訴え・走れメロス』新潮カセットブック 43,新潮社,1988 年。
(*)大西忠治編・薄井道正・都留文科大学大西ゼミ執筆『走れメロス』実践資料 12 か月,主要文学作品教材分析ノート,民衆社,1988 年。
(*)太宰治作・ラルフ・マッカーシー訳『走れメロス』Kodansha English library,講談社,1988 年。
(*)星子静六「教材としての「走れメロス」：授業を通しての一考察」国語国文研究と教育 21,1988 年。
(*)木下ひさし「メロスを教室で読む：読みの教材ととしての『走れメロス』(〈特集〉「対話」をひらく文学教育)」日本文学 37(7),1988 年。
(*)三浦二三夫「教材「走れメロス」の実践で「評論文」を書かせる(なぜ「評論文」なら書けるのか〈特集〉)—(実践・私はこうやって「評論文」を書かせた—中[学校])」現代教育科学 31(6),1988 年。
(*)千田實「教材「走れメロス」の実践で「評論文」を書かせる(なぜ「評論文」なら書けるのか〈特集〉)—(実践・私はこうやって「評論文」を書かせた—中[学校])」現代教育科学 31(6),1988 年。
(*)石垣義昭「道徳と文学教育：「走れメロス」の場合(国語教育部門,第 8 回研究発表大会・発表要旨)」日本文学 37(6),1988 年。
(*)鈴木道子「能弁なりし北設楽の神々：語りと遊びの共演をめぐって」(百合若大臣)聖徳学園岐阜教育大学紀要 16,1988 年。
(*)塙叡「海外所在の日本歴史資料について(1)」(百合若大臣)東京工業大学工学部紀要 人文・社会篇 8,1988 年。
(*)(参考：山崎光子・馬場睦夫訳『ギリシア・ローマ・イタリア篇』(イソップ等,世界童話大系刊行会大正 14 年刊の復刻)名著普及会,1988 年。)
(*)イソップ原作/上地ちづ子脚本；若山憲画；大島第 5 保育園展開指導『おんがえし』童心社のかみしばい,美しい心シリーズ,童心社,1988 年。
(*)八木田宜子脚本；にいざかかずお画『りっぱなつののしか』童心社のかみしばい,たのしいイソップ,1988 年。
(*)角野栄子文；いもとようこ他絵『イソップどうわ』講談社のおはなし絵本館 10,講談社,1988 年。
(*)天理大学附属天理図書館編『欧本イソップ物語』天理大学図書館善本写真集 38,臨川書店,1988 年。
(*)田辺聖子『私本・イソップ物語：おせいさんのイソップ咄』講談社,1988 年。
(*)竹内オサム編『少年漫画集』(横山隆一案；小山内龍画「新イソップ物語」)少年小説

大系・別巻 1,三一書房,1988 年。
(*)(参考：Ralph F.McCarthy(retold)；Kazuyoshi Iino(ill.)“Aesop’s Fables”Kodansha English library 39,Kodansha Internatinal,1988 年。)
(*)(参考：市川美香子「「アーサー・マービン」とナサニエル・ホーソン：アメリカ観念小説の源流」(イソップ)(大阪市立大学文学部)人文研究 49(11),1988 年。)
(*)岡田直之「イソップワールド：思考・行動過程に基づく物語の生成」信学技法 1988 年。
(*)渋谷清視「イソップ寓話についての考え方---出版の現状とそれを子どもにどう体験させるか(「よい子」のしつけ,特集)」児童心理 42(15),1988 年。
(*)(参考：馬場喜敬・中地万理子・川合貞子・加藤優子「日本の寓話,童話,民話,説話等の系譜的綜合的研究:諸外国のそれら(すなわち Fabel,Merchen,Volkssagen u.s.w.)との比較において[第ニ報]」東京家政大学生活科学研究所研究報告 11, 1988 年。)
(*)Tokuoka Hideo“The Juvenile Justice Politics and Background Assumption in Japan”(イソップ物語)関西大学社会学部紀要 19(2),1988 年。
(*)天理大学附属図書館編『欧本イソップ物語』(天理図書館善本写真集)臨川書店,1988 年。
(*)河鍋暁斎著/山口静一・及川茂編『河鍋暁斎戯画集』岩波文庫,岩波書店,1988 年。
(*)佐伯有清『柳田国男と古代史』吉川弘文刊館,1988 年。
(*)川島第二郎「聖書翻訳史における元約・口語訳・新共同訳：旧約聖書特に創世記を中心として」一橋大学研究年報・人文科学研究 27,1988 年。)
(*)西田晃「新共同訳聖書に現われたルカ福音書第 7 章 47 節の翻訳について」藍野学院紀要 2,1988 年。
(*)川島第二郎『ジョナサン・ゴ・ブル研究』新教出版社,日本キリスト教史双書,1988 年。
(*)(参考：「故松本卓夫教授略歴[含 著作]（故松本卓夫教授追悼記念号）」(青山学院大学基督教学会)基督教論集31,1988年。
(*)(参考：Y.アハロニ,M.アヴィ=ヨナ著/池田裕訳『マクミラン聖書歴史地図』原書房,1988 年。)
(*)(参考：アーサー・フェリル/鈴木主税・石原正毅訳『戦争の起源—石器時代からアレクサンドロス大王にいたる戦争の古代史』河出書房新社,1988 年(→1999 年,新装新版)。)
(*)(参考：J.C.ボロック/沢川進訳『トロイの馬』ハヤカワ文庫,早川書房,1988 年。)
(*)(参考：星川清香『トロイの女』築地書館,1988 年。)
(*)(参考：プルタルコス著/村川堅太郎編『プルタルコス英雄伝(上中下)』ちくま文庫,筑摩書房,1988 年。)
(*)(参考：弓削達・伊藤貞夫編『ギリシアとローマ：古典古代の比較史的考察』河出書房新社,1988 年。)
----第一章：総説 日本人の世界史像におけるギリシアとローマ
第二章：ポリスとキウィタス/第一節「ポリスの成立と構造」/第二節「ローマ市民団」
第三章：帝国支配とそのイデオロギー/第一節「ポリス世界の国際関係」/第二節「初期ローマ帝国の支配構造」
第四章：農業と土地制度/第一節「古代ギリシアの土地と農民」/第二節「ローマ帝政前半期の土地と農民」

第五章：政治と軍制/第一節「古典期アテナイの政治と軍事」/第二節「ローマ帝国と軍隊」
第六章：市民の生活と意識/第一節「ポリス社会における家族と女性」/第四節「伝説とローマの歴史記述」
第七章：奴隷制/第一節「古典期アテナイの奴隷」/第二節「ローマの奴隷とアジール」
第八章：宗教/第一節「古典期ギリシアの宗教と政治」/第二節「キリスト教ローマ帝国における宗教闘争」
第九章：周辺地域/第一節「黒海北岸のギリシア世界」/第二節「「ローマの平和」とアフリカ社会」
「あとがき」伊藤貞夫

(*)(参考：新村祐一郎「昭和 62 年度 研究発表要旨：スパルタの対ペルシア策—クレオメネス一世の時代」大谷学報 67(4),1988 年。)
(*)(参考：土井正興「キケロとスパルタクスの蜂起」専修史学 20,1988 年。)
(*)(参考：B.B.ハルデーエフ/土井正興[訳解説]「トラキアの女占い師の予言とスパルタクス蜂起の開始」歴史評論 463,1988 年。)
(*)(参考：本村凌二「ローマ世界における嬰児遺棄と奴隷制—パピルス文書のコプレウスをめぐって」歴史学研究報告 20,1988 年。)
(*)(参考：フィリップ・ファンデンベルク/坂本明美訳『クレオパトラ』佑学社,1988 年。)
(*)(参考：L.N.ラヴォル/榊原晃三訳『クレオパトラの真珠』地中海物語 2,ぎょうせい,1988 年。)
(*)(参考：松谷健二『アレクサンドロスの女』築地書房,1988 年。)
(*)(参考：井上一「ペゼタイロイ再考—フリッポス 2 世,アレクサンドロス 3 世時代のマケドニアの歩兵制についての最近の研究」政治経済史学 261,1988 年。)
(*)(参考：南川高志「憎まれたハドリアヌス—政治史からみた五賢帝時代の実相」史林 71(6),1988 年。)
(*)(参考：平田隆一「ローマ帝国と中世ヨーロッパ—時代区分のための方法論的覚え書き」(片野達郎編『総合研究 中世の文化』所収,角川書店,1988 年。)
(*)(参考：平田隆一・清宮敏「〈学会動向〉ギリシア・ローマにおける支配と従属の諸形態—“Forms of Control and Subordination in the Ancient World”を読む」(東北大学)西洋史研究 17,1988 年。)
(*)(参考：松本宣郎「帝政期ローマの民衆とエリート」西洋史研究 17,1988 年。)
(*)(参考：佐藤育子「カルタゴ史に関する史料：ギリシア・ラテン語文献の分析を中心にして」史艸 29,1988 年。)
(*)(参考：土井正興「古代末期をどうみるか—地中海世界解体期における西ヨーロッパ世界・イスラム世界への移行の分岐点をさぐる」歴史評論 464,1988 年。)
(*)(参考：ジョフロワ・ド・ヴィルアルドゥワン/伊藤敏樹訳『コンスタンチノープル征服記：第四回十字軍』筑摩書房,1988(→2003 年,講談社学術文庫版)。)
(*)(参考：ジョルジュ・ルノトール/大塚幸男訳『ナポレオン秘話』白水社,1988 年。)
(*)(参考：フランソワ・ヴィゴ=ルシヨン/滝川好庸訳『ナポレオン戦線従軍記』中公文庫,中央公論社,1988 年。)
(*)(参考：若松隆「ヨーロッパ：現代南欧(1987 年の歴史学界—回顧と展望)」史学雑誌

97(5),1988 年。)
(*)(参考：村上信一郎「ヨーロッパ：近代南欧(1987 年の歴史学界—回顧と展望)」史学雑誌 97(5),1988 年。)
(*)(参考：佐藤彰一「ヨーロッパ：中世西欧 (1987 年の歴史学界—回顧と展望)」史学雑誌 97(5),1988 年。)
(*)(参考：高畠純夫「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1987 年の歴史学界—回顧と展望)」史学雑誌 97(5),1988 年。)
(*)(参考：平田隆一「ヨーロッパ：古代：ローマ(1987 年の歴史学界—回顧と展望)」史学雑誌 97(5),1988 年。)
(*)師尾晶子「古山正人・中村純・田村孝・毛利晶・本村凌二・後藤篤子編訳『西洋古代史料集』東京大学出版会」史学雑誌 97(5),1988 年。
(*)(参考：田中剛「クリオの変容—歴史家ヘンリー・アダムズをめぐって」東京学芸大学紀要・人文科学 39,1988 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『標準世界史』山川出版社,1988 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『標準世界史：教授資料』山川出版社,1988 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『詳説世界史』再訂版,山川出版社,1988 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『詳説世界史：教授資料』山川出版社,1988 年。)
(*)宮薗衛「上原専禄による世界史論の検討：歴史学と境域との関係について」教育経営理論研究 9,1988 年。
(*)村井淳志「上原専禄の世界史認識論の展開：「民族の自律性」概念を中心に」(東京都立大学教育学研究室)教育科学研究 7,1988 年。
(*)出隆『哲学以前』講談社学術文庫,講談社,1988 年。
(*)(参考：澁澤龍彦『エピクロスの肋骨』福武書店,1988 年(→1991 年,福武文庫版)。)
(*)(参考：ヨゼフ・ピーパー/稲垣良典訳『余暇と祝祭』講談社,講談社学術文庫,1988 年。)
(*)(参考：マヌエル・アモロス「〈展望〉西洋古典ニューマニズムに関する国際会議」ソフィア 37(3),1988 年。)
(*)(参考：米沢茂「イオニア哲学に関する国際会議(国際ギリシア哲学会主催)に出席して」北九州大学外国部学部紀要 64,1988 年。)
(*)(参考：野町啓「第 8 回国際中世哲学会」中世思想研究 30,1988 年。)
(*)(参考：山川偉也「第 3 回国際哲学シンポジウムに出席して」西洋古典學研究 36,1988 年。)
(*)(参考：水戸博之「西洋古典ヒューマニズムに関する国際会議」ソフィア 37(3),1988 年。)
(*)(参考：マヌエル・アモロス「〈展望〉西洋古典ヒューマニズムに関する国際会議」ソフィア37(3),1988年。)
(*)(参考：橋本龍幸「西ゴートの改宗とビザンツ」愛知学院大学人間文化研究所紀 3,1988 年。)
(*)(参考：鈴木照雄『ギリシア思想論攷』大阪市立大学,文学博士,乙第 1241 号,1988 年。)
(*)(参考：名和香薫『ヘラクレイトス—哲学論集 1』(河北町・山形県)安楽寺,1988 年。)
(*)(参考：W.イェーガー/村島義彦訳「ソクラテス(2)」人文学論集 6,1988 年。)
(*)(参考：T.Z.ラビン/宮坂真喜弘訳『西洋思想の歴史(上)—プラトン~ヒュームまで』理想社,1988 年。)
(*)(参考：『村井実著作集 3—ソクラテスの思想と教育・「善さ」の構造』小学館,1988 年。)
(*)(参考：加藤信朗『初期プラトン哲学』東京大学出版会,1988 年。)

(*)(参考：中山典夫「ギリシア美術とプラトン(1,2)」藝叢：筑波大学芸術学研究誌 5,6,1988 年。)
(*)(参考：アラン/森進一訳『プラトンに関する十一章(付・アリストテレス覚書)』筑摩書房,1988 年(→2010 年,ちくま学芸文庫版。)
(*)(参考：Hans-Georg Gadamer/千葉文夫訳「シラクーザのプラトンの用に(ハイデガーとナチズム〈特別企画〉」現代思想 16(5),1988 年。)
(*)(参考：神崎繁「翼の如きイロニー—プラトン的イロニー(キルケゴール—反復とアイロニー〈特集〉」現代思想 16(5),1988 年。)
(*)(参考：道体章弘「ボードレールにおけるプラトン主義(1,2)照応と魂」東北福祉大学紀要 13,1988 年/14,1989 年。)
(*)(参考：井上忠『モイラ言語—アリストテレスを超えて』東京大学出版会,1988 年。)
(*)『アリストテレス全集 月報』(1976-77 年刊の合本再刊)岩波書店,1988 年。
(*)(参考：桑子敏雄「古代アテネの定義論」アカデミア人文・社会科学編 48,1988 年。)
(*)(参考：山川偉也編『人間—その生死の位相』世界思想社,1988 年。)
(*)豊田和二「山川偉也『哲学と科学の源流—ギリシア思想家群像』世界史思想社」科学史研究第 II 期 27(166),1988 年。)
(*)(参考：T.Z.ラビン/宮坂真喜弘訳『西洋思想の歴史』理想社,1988-89 年。)
(*)(参考：T.Z.ラビン/宮坂真喜弘訳『プラトンからヒュームまで』西洋思想の歴史(上),理想社,1988 年。)
(*)(参考：山口義久「内在と超越をめぐって—アリストテレス・プロティノスとイデア論」理想 636,1988 年。)
(*)(参考：中川純男「イデアと観念--アウグスティヌスのイデア論」理想 636,1988 年。)
(*)(参考：大出晁「アリストテレスにおける《回顧的説明》パターン」哲学 87,1988 年。)
(*)(参考：牛田徳子「古代ギリシアにおける σημαινειν の用法—アリストテレスの言語観を中心として」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 20,1988 年。)
(*)(参考：加藤信朗「提題 アリストテレス倫理学の両義性とトマス・アクィナスにおけるその受容と変容—アリストテレスの「賢慮(φρονσις)と「倫理徳(ηθικαι αρεται)」・トマスの「倫理的徳(virtutes morales)」と「神学的愛(virtutes theologicae)」中世思想研究 30,1988 年。)
(*)(参考:加藤信朗「存在論と弁証法—ギリシャにおける「存在の探究」をめぐる覚え書(後)」哲学雑誌 103(775),1988 年。)
(*)(参考:水地宗明「〈翻訳〉訳注マルクス・アウレリウス(第 2 巻)」彦根論叢 248,1988 年。)
(*)(参考：水地宗明「ヘレニズム哲学におけるプロレープシスの問題」彦根論叢(251・252),1988 年.)
(*)(参考：J.ヘッセン/松田禎二訳『アウグスティヌスの哲学』行路社,1988 年。)
(*)鎌田伊知郎「アウグスティヌスとキケロの『ホルテンシウス』(西洋史学,史学専攻,昭和 62 年度修士論文要旨,彙報)」史学 58(1),1988 年。
(*)(参考：出村みや子「オリゲネス「ケルソス駁論」における真理探究の構造—エンキュクリオス・パイデイアの検討を中心にして」中世思想研究 30,1988 年。)
(*)(参考：ウンベルト・エーコ原作/ジャン=ジャク・アノー監督「薔薇の名前」ヘラルド・ネルソン[発売],ビデオレコード,1988 年(→2004 年,ワーナーホームビデオ。))

(*)(参考：K.リーゼンフーバー/酒井一郎訳『中世における自由と超越：人間論と形而上学の接点を求めて』創文社,上智大学中世思想研究所中世思想叢書,1988 年。)
(*)(参考：山本巍「〈こころ〉の位置—アリストテレスとトマス」中世思想研究 29,1988 年。)
(*)(参考：加藤信朗「提題 アリストテレス倫理学の両義性とトマス・アクィナスにおけるその受容と変容—アリストテレスの「賢慮」と「倫理的徳」・トマスの「倫理的徳」と「神学的徳」(中世哲学におけるアイストテリズム—エチカを中心として(シンポジウム)」中世思想研究 30,1988 年。)
(*)(参考：出村みや子「オリゲネス「ケルソス駁論」における心理探究の構造—エンキュクリオス・パイデイアの検討を中心にして」中世思想研究 30,1988 年。)
(*)(参考：竹井成美「アニキウス・マンリウス・セベリウス・ボエティウス(480 ころ-524)とその〈音楽論〉(10)ギリシャ旋法とその記譜法を中心として」宮崎大学教育学部紀要,芸術・保健体育・家政・技術 63,1988 年。)
(*)(参考：柳沢謙次「ヴィーコとディルタイ」浜松医科大学紀要,一般教育 2,1988 年。)
(*)(参考：天野正幸「ト・オン・レゲタイ・ポラコース—ハイデッガーのアリストテレス解釈」創文 285,1988 年。)
(*)(参考：星野勉「「討議」の倫理学か,それとも「賢慮」の倫理学か?—ハーバーマスと新アリストテレス主義」創文 285,1988 年。)
(*)吉澤伝三郎「故金子武蔵先生略歴」倫理学年報 37,1988 年。
(*)小倉志祥「追悼 金子武蔵先生」倫理学年報 37,1988 年。
(*)讃岐和家「追悼文 金子武蔵先生を偲んで」(国際基督教大学)教育研究 30,1988 年。
(*)岡田宗治「半世紀前の田中君」(『増補版・田中美知太郎全集 8 月報』筑摩書房,1988 年。)
(*)今道友信「田中先生のこと」(『増補版・田中美知太郎全集 8 月報』筑摩書房,1988 年。)
(*)齋藤忍随「神の墓」(『増補版・田中美知太郎全集 8 月報』筑摩書房,1988 年。)
(*)高坂正顕「「学問論」を読んで」(『増補版・田中美知太郎全集 8 月報』筑摩書房,1988 年(←サンケイ新聞より。)
(*)増田哲明「高円寺の頃」(『増補版・田中美知太郎全集 9 月報』筑摩書房,1988 年。)
(*)西尾幹二「社会批評の一例」(『増補版・田中美知太郎全集 9 月報』筑摩書房,1988 年。)
(*)石本新「論理学雑感」(『増補版・田中美知太郎全集 9 月報』筑摩書房,1988 年。)
(*)林健太郎「田中美知太郎先生のこと」(『増補版・田中美知太郎全集 9 月報』筑摩書房,1988 年。)
(*)三浦一郎「田中美知太郎先生の顎」(『増補版・田中美知太郎全集 10 月報』筑摩書房,1988 年。)
(*)進藤純孝「自分の呼吸で哲学する」(『増補版・田中美知太郎全集 10 月報』筑摩書房,1988 年。)
(*)杉原丈夫「哲学的人生論」(『増補版・田中美知太郎全集 10 月報』筑摩書房,1988 年。)
(*)鈴木照雄「歳をとらぬ先生」(『増補版・田中美知太郎全集 10 月報』筑摩書房,1988 年。)
(*)二宮信親「現実主義者としての田中先生」(『増補版・田中美知太郎全集 11 月報』筑摩書房,1988 年。)
(*)清水純一「田中美知太郎先生に関する覚書」(『増補版・田中美知太郎全集 11 月報』筑摩書房,1988 年。)
(*)藤縄謙三「田中先生の学風と私」(『増補版・田中美知太郎全集 11 月報』筑摩書房,1988

年。)
(*)川田殖「田中先生の一面—ひとつのヒュポテシス」(『増補版・田中美知太郎全集 11 月報』筑摩書房,1988 年。)
(*)山野耕治「「田中美知太郎文庫」について(1)」(『増補版・田中美知太郎全集 12 月報』筑摩書房,1988 年(←文化会議 232,1988 年)。)
(*)林健太郎「田中美知太郎先生と歴史認識--『ツキュディデスの場合』をめぐって」(『増補版・田中美知太郎全集 12 月報』筑摩書房,1988 年(←文化会議 4 月号,1986 年）。)
(*)田中美知太郎・呉茂一「〈資料〉古典文学閑談(3)」(『増補版・田中美知太郎全集 15 月報』筑摩書房,1988 年(←1943 年,(改造社)文藝 8 月號から再録)。)
(*)粕谷一希「屹立する古木(1)」(『増補版・田中美知太郎全集 15 月報』筑摩書房,1988 年。)
(*)三谷太一郎「歴史主義的歴史観--「時代と私」について」(『増補版・田中美知太郎全集 16 月報』筑摩書房,1988 年。)
(*)山崎正和「「論壇時評」(本全集 11 巻)について」(『増補版・田中美知太郎全集 16 月報』筑摩書房,1988 年(←讀賣新聞より。)
(*)粕谷一希「畸人哲学者の洞察(2)『時代と私』を中心に」(『増補版・田中美知太郎全集 18 月報』筑摩書房,1988 年。)
(*)「〈資料〉田中美知太郎・呉茂一対談「古典文学閑談(4)」(『増補版・田中美知太郎全集 18 月報』筑摩書房,1988 年(←1943 年,改造社「文藝」8 月号)。)
(*)山本夏彦「希代の文章家」(『増補版・田中美知太郎全集 23 月報』筑摩書房,1988 年(←1986 年,文化会議 4 月号。)
(*)森進一「プラトンとの対話」(『増補版・田中美知太郎全集 23 月報』筑摩書房,1988 年(←産経新聞 12/30,1984 年)。)
(*)林健太郎「『プラトン I：生涯と著作』を読む」(『増補版・田中美知太郎全集 23 月報』筑摩書房,1988 年(←1980 年,文化会議 4 月号)。)
(*)田中美知太郎・呉茂一「〈資料〉古典文学閑談(5)」(『増補版・田中美知太郎全集 23 月報 23』筑摩書房,1988 年(←1943 年,文藝(改造社),8 月号)。)
(*)(参考：新井明・鎌井敏和編『信仰と理性—ケンブリッジ・プラトン学派研究序説』御茶の水書房,1988 年。)
(*)(参考：新井明「ケンブリッジ・プラトン学派の系譜：M.アーノルドをめぐって」日本女子大学英米文学研究 23,1988 年。)
(*)(参考：竹下政孝「イスラム哲学における英知論」文明 52,1988 年。)
(*)(参考：上村忠男『ヴィーコの懐疑』みすず書房,1988 年。)
(*)(参考：ジャンバテュイスタ・ヴィーコ/上村忠男訳『イタリア人の太古の知恵』叢書ウニベルシタス 247,法政大学出版局,1988 年。)
(*)(参考：U.エコー他著/谷口勇訳『「バラの名前」探究』而立書房,1988 年。)
(*)(参考：K.イッケルト,U.シック/谷口勇訳『「バラの名前」百科』而立書房,1988 年(→1990 年,増補版)。)
(*)(参考：ピーター・ミルワード,巽豊彦監修『死とルネッサンス』ルネッサンス双書 18,荒竹出版,1988 年。)
(*)(参考：清水純一教授退官記念論文集刊行委員会編『イタリア・ルネサンス文化：知の饗宴』清水純一教授退官記念論文集刊行委員会,1988 年。)

(*)(参考：齋藤昭「ハイデガーの大学論と自己弁明—ナチズムと知識人の問題」三重大学教育学部研究紀要 教育科学 39,1988 年。)
(*)清瀬卓「わたくし流のイタリア文学」Mare Nostrum 1,1988 年。
(*)(参考：ダンテ/西沢邦輔訳『神曲(中)地獄篇』日本図書刊行会,近代文芸社(発売),1988 年。
(*)(参考：岩倉具忠『ダンテ研究：“eloquentia”をめぐる諸問題』京都大学,文学博士,乙第6382 号,1988 年。)
(*)(参考：岩倉具忠『ダンテ研究』創文社,1988 年。)
(*)(参考：吉田東洲『詩聖ダンテの研究』古今評論社,1988 年。)
(*)(参考：栗津則雄『ダンテ地獄篇精読』筑摩書房,1988 年。)
(*)東京大学附属図書館編『ダンテ・コレクション目録(Dante Collection)』東京大学附属図書館,1988 年。
(*)(参考：佐藤三夫「ペトラルカの「ヴァントー山登攀」の一解釈—弟ゲラルドをめぐって」西洋史学 152,1988 年。)
(*)(参考：飯野しのぶ「イタリア・ルネサンスにおける新プラトン主義とヘルメティズム」白山史学 24,1988 年。)
(*)(参考：伊藤博明「ヘルメスとシビュラ：シエナ大聖堂舗床に関する一考察」イタリア学会誌 38,1988 年。)
(*)(参考：浦一章「Vita Nuova：文化と詩の交叉点としての」イタリア学会誌 38,1988 年。)
(*)(参考：金光仁三郎『ラシーヌの悲劇』中央大学学術図書 17,中央大学出版部,1988 年。)
(*)(参考：鎌田博夫『スタンダール：夢想と現実』法政大学出版会,1988 年。)
(*)(参考：小田敦子「The Marble Farml におけるアルカディア的瞬間」人文論集：三重大学人文学部文化学科研究紀要 5,1988 年。)
(*)(参考：丹治恒次郎「ヴァレリーの『ニーチェに関する覚書』」(関西学院大学)外国語・外国文化研究 7,1988 年。)
(*)(参考：岩崎允胤「ヴィンケルマンと古代ギリシア精神の再生—日本からのメッセージ[邦文,独文]」大阪経済法科大学論集 29,1987 年。)
(*)(参考：山口和子「シュライエルマッヘルにおける芸術の自由と宗教性」岡山大学文学部紀要 9,1988 年。)
(*)(参考：マクス・コメレル/新井靖一訳『文学の精神と文字：ゲーテ・シラー・クライスト・ヘルダーリン』国文社,1988 年。)
(*)(参考：宇津井恵正「ゲーテにおける古典主義高潮期の成立(1-7)」京都教育大学紀要.A.人文・社会 72,73,74,75,1989 年/76,1990 年/81,1992 年/86,1995 年。)
(*)(参考:高木昌史「ヘルダーとヴィンケルマン--「批評の森」初期草稿 4 に寄せて」Walpurgis 1988,1988 年。)
(*)(参考：中島国彦「漱石・美術・ドラマ—英訳「ラオコーン」への書き込みから(上下)」文学 56(11),1988 年/57(1),1989 年。)
(*)(参考：内藤克彦「シラーの美的教育の理念について」(南山大学)アカデミア,文学・語学編 44,1988 年。)
(*)(参考：松山雄三「初期シラーと古代--『ある旅するデンマーク人の手紙』を中心に」東北薬科大学研究年報 一般教育関係論集 11,1988 年。)
(*)(参考：松山雄三「シラーと歴史(1-3)」東北薬科大学研究年報 一般教育関係論集 2,3,4(東北薬科大学研究年報 35),1987 年。)

(*)(参考:山口和子「シュライエルマッヘルとドイツ・ロマン主義のイロニー」美學 38(4),1988 年。)
(*)(参考：森田猛「青年ブルクハルトと教養の危機—背景としてのマイケーファーブント」文化史学 44,1988 年。)
(*)(参考:西村貞二「ブルクハルトとニーチェ—往復書簡を通して」(東北史学会)歴史 70,1988 年。)
(*)(参考：氷上英廣『ニーチェとの対話』岩波書店,1988 年。)
(*)(参考：氷上英廣『ニーチェの顔』岩波新書,1988 年。)
(*)(参考：氷上英廣『ニーチェとその周辺』岩波書店,1988 年。)
(*)(参考：笹澤豊「ニーチェの心理学」哲学・思想論集 13,1988 年。)
(*)(参考：水野清志「ニーチェの倫理思想(12)」紀要 1,人文・社会系 14(1),1988 年。)
(*)(参考：菅野孝彦「Positismus と Idealismus の並置にみるニーチェ思想の特質」哲学・思想論集 6,1988 年。)
(*)(参考：柴嵜雅子「ニーチェとキリスト教：人間論をめぐる一考察」年報人間科学 9,1988 年。)
(*)(参考：田中末男「ハイデッガーのニーチェ解釈」名古屋大学文学部研究論集 105,1988 年。)
(*)(参考：土屋明人「アルカディア的風景と暗黒の世界—ドストエフスキー,ニーチェ,トーマアス・マン」愛媛大学法文学部論集 文学科編 31,1988 年。)
(*)(参考：須藤訓任「世界肯定と時間の様相—ニーチェの永劫回帰思想をめぐって」大谷大学研究年報 41,1988 年。)
(*)(参考：新田章「ニーチェとエマーソン」比較文學年誌 24,1988 年。)
(*)(参考：手塚耕哉「少年ニーチェとエマソン(2)少年ニーチェにおける拮抗(アンタゴニズム)(ギムナジウム期ニーチェ考察(4))」人文論集 26,1988 年。)
(*)(参考：圓増治之「哲学に於ける「勇気」--ヘーゲル対ニーチェ」長野大学紀要 9(3),1988 年。)
(*)(参考:小笠原由起夫「生の無垢・生の力—ニーチェの歴史学批判を通して」思想 763,1988 年。)
(*)(参考：平木幸二郎「ニーチェの世界解釈について」信州大学教養部紀要 22,1988 年。)
(*)(参考：恒吉良隆「ニーチェにおける仮面の思想」文芸と思想 52,1988 年。)
(*)(参考:宮武明「ニーチェのアポリアとピュロニズム」中央大学文学部紀要 129,1988 年。)
(*)(参考：三島憲一「ふさわしい時に死ね—ニーチェの死生観をめぐって」ドイツ文化 43,1988 年。)
(*)(参考：薗田勲「ニーチェとドストエフスキー—「アンチクリスト」にみるイエス像をめぐって」中央大学論集 9,1988 年。)
(*)(参考：木内孝「ニーチェと〈ポスト,モデルニスム〉」紀要 15,1988 年。)
(*)(参考：河内信弘「ニーチェにおける高さへの志向」城西大学研究年報 人文社会科学編 12,1988 年。)
(*)(参考：河内信弘「ニーチェにおける第七の孤独」城西大人文研究 16(1),1988 年。)
(*)(参考：圓増治之「ニーチェ,解放されたプロメテウス—ニーチェ哲学に於ける解放力としての「音楽」」長野大学紀要 10(1),1988 年。)
(*)(参考：土屋明人「アルカディア的風景と暗黒の世界—ドストエフスキー,ニーチェ,トー

マス・マン」愛媛大学法文学部論集,文学科編 21,1988 年。)
(*)(参考：嶺秀樹「主体のトポスとトポスの主体―ハイデガーとニーチェの形而上学批判」人文論究 38(2),1988 年。)
(*)(参考：倉田勇治「ヘッセとニーチェ：出会いから『ペーター・カーメンチント』まで(葉賀明教授退官記念論文集)」彦根論叢 251/252,1988 年。)
(*)(参考：井上芳保「ルサンチマンの社会学の構想―ニーチェ的主題の継承をめざして」思想 773,1988 年。)
(*)(参考：有福孝岳「国際大学センター(Inter-University-Ceter)のニーチェ・ゼミナールに参加して」理想 640,1988 年。)
(*)「第 31 回群像新人文学賞発表―小説当選作「アルチュール・エリクソンの素描」石田郁男,評論当選作「零(ゼロ)の力―J.I.ボルヘスをめぐる断章」室井光弘,評論優秀作「三嶋由起夫とニーチェ―悲劇的文化とイロニー」青海健」群像 43(6),1988 年。
(*)(参考：兵頭俊樹「ヘルダーリンの‘Wie wenn am Feiertage・・・’に現れるディオニュソスの形象をめぐって」研究報告 3,1988 年。)
(*)(参考：大谷欣也「フリードリヒ・ヘルダーリン(1,2)：その誕生から死まで」彦根論叢 250,1988 年/257,1989 年。)
(*)(参考：青木誠之「ディオニュソスの肖像：後期ヘルダーリンを中心に」横浜国立大学人文紀要,第 2 類,語学・文学 35,1988 年。)
(*)(参考：藤野一夫「美的観念の源流(1)：思想史のヘルダーリン(2)」哲学会誌 12,1988 年。)
(*)(参考：中嶋秀憲「若きヘーゲル,シェリング,ヘルダーリン：彼らの理想と現実」九州産業大学教養部紀要 24(2),1988 年。)
(*)(参考：宮原朗「ヘルダーリンの学際的研究について」ドイツ文学 80,1988 年。)
(*)(参考：荻野静男「ヘルダーリンの「アンティゴネ訳」におけるバッカス神の機能」教養諸学研究 85,1988 年。)
(*)(参考：マクス・コメレル/新井靖一他訳『文学の精神と文字：ゲーテ・シラー・クライスト・ヘルダーリン』国文社,アウロラ叢書,1988 年。)
(*)(参考：位野木紘一「ホーフマンスタールの「ナクソス島のアリアドネー」における主題と舞台装置について」独仏文学 22,1988 年。)
(*)(参考：武居忠通「オペラ台本とその思想―ホーフマンスタールの「アリアドネー」」京都工芸繊維大学工芸学部研究報告・人文 37,1988 年。)
(*)(参考：大島芳材『シェイクスピア研究：作品の主題を求めて』桐原書店,1988 年。)
(*)(参考：アーネスト・ジョーンズ/栗原裕訳『ハムレットとオイディプス』大修館書店,1988 年。)
(*)(参考：千代田友久「アントニーとクレオパトラ―愛の現実・矛盾・昇華」(立教大学文学部英米文学研究室)英米文学48,1988年。)
(*)(参考：道家弘一郎「ミルトンと至福直観」聖心女子大学論叢 72,1988 年。)
(*)(参考：白鳥正孝「“IL Peaseroso”の背景―再考―ミルトンとネオプラトニズムの一側面」獨協大学英語研究 31,1988 年。)
(*)(参考：轟義昭「悪魔的 Fortune とリッドゲイトのその意識：『トロイの書』と『王侯の没落』との Fortune 描写の比較」Bull.Kagoshima Pref.Jr.College39,1988 年。)
(*)(参考：山村武雄『ドライデンからホプキンズへ―十七世紀と二十世紀の相関関係』(京都)あぽろん社,1988 年。)

(*)(参考：谷口勇「D.G.Rossetti as a Transpirator of Dante to Ezra Pound」桃山学院大学人文科学研究 23(3),1988 年。)
(*)(参考：クリストファー・マーロウ作/永石憲吾訳『カルタゴの女王ダイドウ・フォスタス博士』英潮出版社,1988 年。)
(*)(参考：宮田嘉久「〈論説〉北方ルネサンス美術におけるネオ・プラトニズム：アルベレヒト・デューラーをめぐって」立正大学文学部論叢 88,1988 年。)
(*)(参考：松浦暢「初期キーツ批評の動向について(1-3)」英語青年 134(4-6),1988 年。)
(*)(参考:川村二郎「美しきよき少年―ペイターのプラトン像に即して」文学 56(9),1988 年。)
(*)(参考：舟川一彦「〈書評〉エリオット学事始め」ソフィア 36(4),1988 年。)
(*)(参考：野谷啓二「詩人の憂鬱：T.S.エリオット：Four Quartets の一面」論集：神戸大学教養部紀要 42,1988 年。)
(*)(参考：山田祥一「「荒地」と「ユリシーズ」の相同性(T.S.エリオットと英米作家・詩人,特集)」英語青年 134(8),1988 年。)
(*)(参考：小田敦子「The Marble Farm におけるアルカディア的瞬間」人文論叢：三重大学人文学部文化学科研究紀要 5,1988 年。)
(*)(参考：Debray-Genette Raymonde 著/朝比奈弘治訳「「ヘロディアス」再紹介(ルプレザンタシオン)(ギュスターヴ・フローベル)」文学 56(12),1988 年。)
(*)(参考：内田芳明「風景と社会科学の架橋―M.ウェーバー研究の現在に寄せて(特集 ウェーバー・ルネサンス)」思想 767,1988 年。)
(*)西脇隆俊「地方から見た建設行政―新アルカディア山形をめざして―高速交通網の整備」建設月報 41(6),1988 年。
(*)島村力「地域実力時代をゆく(40)山形県アルカディアに挑む「おしん」の国」知識 81,1988 年。
(*)(参考：伊藤重剛“The site planning of Greece and Rome：theory and practice of architectual planning in the sbctuaries of classical antiquity”東京大学,工学博士,乙第8940 号,1988 年。)
(*)(参考：Theofanipoulos Nikolas,渡辺丹,花里利一「2149 ギリシア・パルテノン神殿の耐震補強に関する研究(2)アクロポリスの丘における入力用模擬地震動の作成」学術講演梗概集,B.構造 I(1988),1988 年。)
(*)(参考：Theofanipoulos Nikolas,渡辺丹,花里利一「2150 ギリシア・パルテノン神殿の耐震補強に関する研究(3)パルテノン神殿の組積柱の地震応答解析」学術講演梗概集,B.構造 I(1988),1988 年。)
(*)(参考：堀内達治・伊藤重剛・森山恵香「地中海古代都市の研究(39)」日本建築学会研究報告,九州支部3,計画系30,1988年。)
(*)(参考：堀内達治・伊藤重剛・黒田芳明「地中海古代都市の研究(40)」日本建築学会研究報告,九州支部3,計画系30,1988年。)
(*)(参考：堀内達治・伊藤重剛・都留崎浩二「603地中海古代都市の研究(41)パルテノン神殿の寸法の精度について(建築歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部3,計画系30,1988年。)
(*)(参考：堀内達治・伊藤重剛・山口博久「地中海古代都市の研究(42)」日本建築学会研究報告,九州支部3,計画系30,1988年。)
(*)(参考：堀内達治・伊藤重剛・中村浩樹「地中海古代都市の研究(43)」日本建築学会研究

報告,九州支部3,計画系30,1988年。)
(*)(参考：柳井修一・石渡明・海野進・小沢一仁・荒井章司「キプロス島のトルードス・オフィオライト」地学雑誌97(5),1988年。)
(*)(参考：岡田温司「ブルネルレスキ建築における“anitico”と“moderro”—ディテールの比較分析を中心に」美學39(1),1988年。)
(*)(参考：テオフラストス/大槻真一郎・月川和雄訳『テオフラストス植物誌』八坂書房,1988年。)
(*)(参考：白幡洋三郎「海外造園史特集にあたって(造園史研究の現在—海外編〈特集〉)」造園雑誌51(3),1988年。)
(*)(参考：R.デズモンド/白幡洋三郎訳「英国造園史研究の現在(造園史研究の現在—海外編〈特集〉)」造園雑誌51(3),1988年。)
(*)(参考：白幡洋三郎「ドイツ造園史研究の現在(造園史研究の現在—海外編〈特集〉)」造園雑誌51(3),1988年。)
(*)(参考：ジョニー・ザルマティー サラ/佐々木邦博訳「フランス造園史研究の現在(造園史研究の現在—海外編〈特集〉)」造園雑誌51(3),1988年。)
(*)(参考：鯖田豊之『都市はいかにつくられたか』朝日選書,朝日新聞社,1988 年。
(*)(参考：ステファン・A.シュウォルシュ/幾島幸子訳『アレクサンドリア・プロジェクト：アレクサンダー大王の謎と古代都市計画』工作舎,1988 年。)
(*)(参考：三宅理一『マニエリスム都市：シュトラスブルクの天文時計』(ウィトルウィウス)平凡社,イメージ・リーディング叢書,1988 年。)
(*)(参考：広畑正志著/多田治良絵『オリンピック物語：燃えつづける聖火』シリーズきみにおくるすばらしいスポーツ 1,汐文社,1988 年。)
(*)(参考：ジョン・J.マラルーン/柴田元幸・菅原克也訳『オリンピックと近代：評伝クーベルタン』平凡社,1988 年。)
(*)(参考：佐野雅之『オリンピックエピソード』リンゴブックス,窓社,1988 年。)
(*)(参考：ジョン・J.マカルーン/柴田元幸・菅原克己訳『オリンピックと近代：評伝クーベルタン』平凡社,1988 年。)
(*)(参考：『オリンピックの歴史：20YEARS OF THE GREATEST FILM MOMENTS』ビデオレコード,ポニーキャニオン,1988 年。)
(*)(参考：稲垣正浩「古代オリンピック盛衰 1000 年史(オリンピックデザイン記録伸ば史,特集)」芸術新潮 39(9),1988 年。)
(*)(参考：清水重勇「スポーツ史の現代的視角(11,15)その虚像と実像(1,2)」体育の科学 38(9),1988 年/39(2),1989 年。)
(*)(参考：八杉龍一「現代進化論の諸問題；世界観と方法論の観点より」科学基礎論研究 18(4),1988 年。)
(*)(参考：柳井修一・石渡明・海野進・小沢一仁・荒井章司「キプロス島のトルードス・オフィオライト」地學雑誌97(6),1988年。)
(*)(参考：アディソン・ギュリック編/渡辺正雄・榎本恵美子訳『貝と十字架：進化論者宣教師 J.T.ギュリックの生涯』東西交流叢書 5,雄松堂出版,1988 年。)
(*)(参考：大槻真一郎「ヒポクラテス医学の人間と技術：この医学派の人間愛と技術愛の意味するもの」医学哲学・医学倫理 6,1988 年。)
(*)(参考：川田殖「ヒポクラテスの「誓い」を読む(1—5)」(山梨医科大学)紀要 2,1988 年/6,1989

年/7,1990 年/8,1991 年/9,1992 年。)
(*)(参考：松田方一「ヒポクラテス集典に見る医師像」医学史研究 62,1988 年。)
(*)谷村孝「〈資料〉近畿大学医学部図書館に掲げられたヒポクラテス像について」近畿大学医学雑誌 13(3),1988 年。)
(*)菅野陽「蘭書「可鹿涅乙吉」と石川大浪の「ヒポクラテス」画像ほか」大和文華 79,昭和63年。
(*)(参考：古川明「日本における医学のシンボル「アスクレピオスの杖」の受容(故中野操先生追悼号)」日本医史学雑誌34(2),1988年。)
(*)(参考：川上為次郎『歯科医学史』科学書院,1988年。)
(*)(参考：下村寅太郎『数理哲学・科学史の哲学』みすず書房,1988 年。)
(*)(参考：下村寅太郎『下村寅太郎著作集』みすず書房,1988 年。)
(*)(参考：菅野礼司他編『東の科学西の科学』(岩崎允胤「インドとギリシアにおける論理的思惟の比較：科学思想の発展との関連で」)東方出版,1988年。)
(*)清水達雄「長沢亀之助—明治期の数学の伝播者」数セミ 27(3),1988 年。
(*)豊田和二「古代ギリシア人にみる技術と社旗の「進歩観」」社会科学討究 34(2),1988 年。)
(*)(参考：脇田重雄・阪口はるみ・常木晃「古代地中海世界のオリーブ油生産：オリヴィエ・カロ著『北シリアの古代搾油施設』をめぐって」古代文化 41(6),1988 年。)
(*)(参考：吉岡知哉『ジャン=ジャック・ルソー論』東京大学出版会,1988 年。)
(*)板垣哲夫「大正期における石川三四郎の思想」山形大学史学論集 8,1988 年。
(*)穂積重行『明治一法学者の出発』(三瀬諸淵[周三]関連)岩波書店,1988 年。
(*)松井幸子「「佳人之奇遇」巻 16 とその政治的背景」山口大学教養部紀要 人文科学篇 22,1988 年。
(*)(参考：藁科勝之「箕作麟祥訳『仏蘭西法律書・刑法』の訳語：新しい概念とその翻訳」弘前大学国語国文 10,1988 年。)
(*)(参考：レオ・シュトラウス/塚崎智・石崎嘉彦訳『自然権と歴史』昭和堂,1988 年。)
(*)(参考：アラン・ブルーム/菅野盾樹訳『アメリカン・マインドの終焉』みすず書房,1988年。)
(*)(参考：Hans-George Gadamer/千葉文夫訳「シラクーザのプラトンのように(ハイデガーとナチズム〈特別企画〉」現代思想 16(5),1988 年。)
(*)(参考：塩野七生『マキアヴェッリ語録』新潮社,1988 年(→1992 年,新潮文庫版)。)
(*)(参考：田中穂積「ヘレニズム時代の王権に関する基本問題」人文論究 37(4),1988 年。)
(*)(参考：村上隆夫『政治的な学としての倫理学—マルクスとアリストテレス』未来社,1988年。)
(*)(参考：亀井裕研究代表『西洋思想における正義論の系譜とその現代的展開』科学研究費補助金(一般研究A)研究成果報告書 昭和61-62年度,1988年。)
(*)(参考：楠田直樹「ローマ共和政盛期における「ノービリタース」と「政治派閥」--その学説史をめぐって(1,2)」創価女子短期大学紀要4,5,1988年。)
(*)(参考：大月康弘「初期ビザンツ社会をどう見るか—ティンネフェルト教授講演会から(移行期の社会と国家—古代から中世へ〈特集〉)歴史評論464,1988年。)
(*)(参考：鈴木宣則「エラスムスの平和思想：その独自性と意義」研究年報経済学50(1),1988年。)

(*)(参考 : クリフォ・ジュリアーノ/児玉寛訳「ヴィーコ,修辞学とローマ法」法政研究55(12),1988年。)
(*)毛利晶「書評 栗田伸子著「ユグルタ戦争前夜におけるヌミディア社会の陣営配置」(「古代ローマ法研究と歴史諸科学」所収)法制史研究 1987(37),1988 年。)
(*)(参考 : 村上裕「ドイツ人文主義と固有法意識の萌芽」一橋論叢107(4),1988年。)
(*)(参考 : Takeuchi Keiuchi「Urban Politics and the Urbanisation Process：A Case Study in Parelmo」地中海論集,論文集11,1988年。)
(*)(参考 : 「Bibliography of Works of Professor Kinichi Watamane,1950-1988」地中海論集,論文集11,1988年。)
(*)(参考 : 古林祐二「アリストテレスの哲学体系と自然法学説」福岡大学法学論叢32(3・4),1988年。)
(*)(参考 : 古林祐二「弁論術の起源と形成(第3・4部)無名の被告の為の訴答作成弁護人によるアパトゥーリオスに対する特別棄却抗弁について(33巻)」福岡大学法学論叢33(1),1988年。)
(*)(参考 : 古林祐二「弁論術の起源と形成(第3・4部)海上冒険消費貸借金に関する原告クリューシッポスの被告フォルミーオンに対する特別棄却答弁への弾劾事件について(34巻)」福岡大学法学論叢33(1),1988年。)
(*)(参考 : 古林祐二「情報化社会から見たギリシャ概説—計量法学と法情報学の起源と形成」福岡大学法学論叢33(2),1988年。)
(*)(参考 : 古林祐二「海商法と法廷弁論術の起源と形成(4)古代ギリシャ海上冒険消費貸借契約とラークリィトス事件について(35巻)」福岡大学法学論叢33(2),1988年。)
(*)(参考 : 古林祐二「海商法と法廷弁論術の起源と形成(5)デモステネスのディオニュソドロスに対する損害賠償請求訴訟事件についての法廷弁論の拙訳(56巻)—アテネ海法から世界国家の海法たるロードス海法(未発見)への推移過程」福岡大学法学論叢33(2),1988年。)
(*)(参考 : 橋場弦「古典期アテナイのドキマシア(資格審査)をめぐる諸問題」法制史研究37,1988年。)
(*)佐藤篤「〈書評〉吉原達也著「バハオーフェンの古代学—モムゼン批判をめぐって(廣島法學第10巻4号)」法制史研究38,1988年。
(*)(参考 : 柴田光蔵『ローマ法フォーラム—比較法文化の場として』玄文社,1988年。)
(*)(参考 : 柴田光蔵「ローマ法ミニミニこぼれ話(7~10)ポンペイ・グラフィティ」時の法令1341,1343,1988年/1345,1347,1989年。)
(*)(参考 : 吉原達也「ローマ法源学説の一問題点—D.ネルの諸説をめぐって」廣島法學11(3/4),1988年。)
(*)(参考 : 西村重雄・吉原達也訳「ローマ法およびローマ法的伝統の意義」廣島法學12(2),1988年。)

(*)小森陽一「「マルクスその可能性の中心」--偏差としての読むこと(柄谷行人—闘争する批評)—(柄谷行人—批評する宇宙)」国文学 : 解釈と教材の研究34(12),1989年。
(*)川崎真治『方舟に乗った日本人：地名の起源を探る』新人物往来社,1989年。
(*)原田実『幻想の超古代史：『竹内文献』と神代史論の源流』批評社,1989年。

(*)(参考：鈴木旭『日本超古代文明の謎：新日猶同祖論 日本は世界文明発祥の地だった』Rakuda Books,日本文芸社,1989年。)
(*)(参考：古田光・泉谷周三郎編『ヨーロッパの文化と思想』木鐸社,1989年。)
(*)(参考：相馬隆『安息隊商歴程考：絹の道を西へたどる』筑波大学,博士(文学),乙第520号,1989年。)
(*)(参考：向山宏『西洋における異文化接触の史的研究』広島大学1988年,(科研費)1989年。)
(*)McCoy Tyner“Atlantis”,Milestone,distributed by Victor,マルストーン CD マスターピース・シリーズ第 I 期録音資料(音楽),1989 年。
(*)(参考：笠原恵美子・河西立雄・高津美絵作『アルカディアへのステップ』Gallary αM.no.13,現在時制展 3,ギャラリーαM,1989 年。)
(*)(参考：共同通信社編『変わる都市』(「アレキサンドリア(エジプト)：海と歴史と女性」「イスタンブール(トルコ)：緒についた近代化」「アテネ(ギリシャ)：文化財保存と観光のはざま」)共同通信社,1989 年。)
(*)河底尚吾『〈詩集〉アテネの春』泰流者,1989 年。)
(*)(参考：ベネット・サイモン/石渡隆司・藤原博・酒井明夫訳『ギリシア文明と狂気』人文書院,1989 年。)
(*)関本至「創刊に寄せて」プロピレア 1,1989 年。)
(*)竹島俊之「〈紀行文〉古代ギリシャの遺跡を歩いて」プロピレア 1,1989 年。)
(*)三輪主彦『トルコとエーゲ海岸を歩く：シルクロードの終着駅』4 訂新版,Your guide 3,You出版局,1989 年。
(*)北見純「最先端をゆくエーゲ海のフローティング・ビラ・バケーション」LA international 26(12),1989 年。
(*)鈴木珠子「エーゲ海クルーズ」新詩人 44(2),1989 年。
(*)滝沢修「SERIES&TOPICS 私の傑作(2)撮りあきることのないエーゲ海の島々」アサヒカメラ 74(2),1989 年。
(*)中嶋隆一編『ギリシア・エーゲ海』改訂 10 版,JTB のポケットガイド,JTB 日本交通公社出版事業局,1989 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンド・ビッグ社,1989-90 年。
(*)大内聰矣『エーゲ海幻想：ギリシャ滞在記』毎日新聞社,1989 年。
(*)新井美樹『エーゲ海のキッス』レディース文庫,双葉社,1989 年。
(*)(参考：フローラ・キッド作・古城裕子訳『エーゲ海の夜』ハーレクイン・クラシックス,ハーレクイン,1989 年。)
(*)岸川恵俊「カメラアイ・世界再発見―エーゲ海クルーズ」石垣：日本商工会議所のビジネス情報誌 4,1989 年。
(*)(参考：『エーゲ海の風 Winds from the Aegean Sea：音楽・藤山明(アンサンブル・パン)』ビデオディスク,ロブ BGV18 自然編,パイオニア LDC,1989 年。)
(*)辻邦生著/堀本洋一写真『美しい夏の行方：イタリア,シチリアの旅』中央公論社,1989 年。
(*)小川国夫『地中海の慰め：旅と物語の思い出』小沢書店,1989 年。
(*)(参考：川島清吉『古代ギリシア植民都市巡礼』吉川弘文館,1989 年。)
(*)(参考：内藤正典「P.ボーモント他『中東：地理学的研究』」地中海論集,論文集 12,昭和62-63 年度科学研究費補助金(総合研究 A),1989 年。)
(*)(参考：竹内啓一「フルヴィオ・フルヴィ著『イタリア地理学史概説,その起源から現在

まで』」地中海論集,論文集 12,昭和 62-63 年度科学研究費補助金(総合研究 A),1989 年。)
(*)加藤典洋「日本風景論(6)風景の影(2)ポンペイの透明人間」群像 44(6),1989 年。
(*)(参考：水田徹「パルテノン・フリーズとアテネ・パルテノス」美術史学 11,1989 年。)
(*)楠見千鶴子『ギリシャ神話の旅』毎日新聞社,1989 年(→1998 年,「エーゲ海 ギリシア神話の旅」講談社文庫)。
(*)(参考：高津道昭「地図で見るアトランティス」(筑波大学)芸術研究報 9,1989 年。)
(*)(参考：江河徹編；宇野亜喜良画『ファンタスティックな恋の話』（ノヴァーリス/畔上司訳「アトランティスの物語」）くもん出版,1989 年。)
(*)(参考:McCoy Tyner“Atlantis”Milestone CD masterpiece series,Milestone,distr.by Victor,1989.)
(*)(参考：F.Bacon;ed.with notes by Terufumi Takeda,Tomio Ishikawa『New Atlantis：西洋精神とユートピア』旺史社,1989 年。)
(*)(参考：T.ヘイエルダール/小川英雄・田中昌太郎訳『ティフリス号探検記：文明の起源を求めて』(上下)ちくま学芸文庫,1989 年。)
(*)(参考：服部厚子「「メタファー」としての「ローマ」：『アントニーとクレオパトラ』をめぐって」名古屋女子大学紀要,人文・社会編 35,1989 年。)
(*)(参考：アミン・マアルーフ/服部伸六訳『レオ・アフリカーヌスの生涯：地中海世界の偉大な旅人』リブロポート,1989 年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(1)バイロンとヴェネツィアの〈自由〉あるいは〈圧制〉」人文研究(105),1989 年。)
(*)(参考：片岡美智「カミュとの交通のきっかけとなった「カミュ講演」の晩の思い出をめぐって：レジスタンスと解放の時代背景を中心にして(特集 地中海文化の新展開に関する研究)」Mare Nostrum2,1989 年。)
(*)(参考：ソーントン 不破直子「われらみな死すべきものにして—ユードラ・ウェルティーの地中海小説」日本女子大学紀要,文学部 39,1989 年。)
(*)(参考：高橋克己「シラーの「散策」とヘルダーリンの「多島海」--市民社会の樹立(含 独文)」高知大学学術研究報告・人文科学 38(1),1989 年。)
(*)(参考：川上公成「アレキサンドリアでの仕事と生活(アレキサンドリア滞在記[1])」鐵と綱：日本鐵鋼協會々誌 75(10),1989 年。)
(*)(参考：川上公成「砂漠の地から見た日本(アレキサンドリア滞在記[2])」鐵と綱：日本鐵鋼協會々誌 75(11),1989 年。)
(*)(参考:護正夫・大村幸弘「アナトリアにおける発掘調査の沿革概要」東方学 78,1989 年。)
(*)角田文衛「ローマに日本の西欧研究所を」中央公論 104(3),1989 年。
(*)日下部吉信「私の留学紀行：ケルンでの思い出」立命館哲学 3,1989 年。
(*)(参考：松本宣郎「地中海世界とキリスト教」基督教文化研究所研究年報 23,1989 年。)
(*)(参考：安酸敏眞「比較文化の神学的考察」比較文化研究年報 1,1989 年。)
(*)(参考：ベネット・サイモン/石渡隆司・藤原博・酒井明夫訳『ギリシ文明と狂気』人文書院,1989 年。)
(*)長谷川岳男「W.W.ターン著/角田有智子・中井義明訳『ヘレニズム文明』思索社」史学雑誌 98(4),1989 年。)
(*)長谷川岳男「F.W.ウォールバンク著/小河陽訳『ヘレニズム世界』教文館」史学雑誌 98(4),1989 年。)

(*)(参考：ヨルゴス・D.フルムジアーデス/谷口勇訳『ギリシャ文化史—古代・ビザンティオン・現代』而立書房,1989 年。)
(*)(参考：G.ボルドリーニ/榊原晃三訳『エトルリアの秘密』地中海物語 4,ぎょうせい,1989 年。)
(*)(参考：小川英雄『イスラエル考古学』山本書店,1989 年。)
(*)(参考：伴義孝「オリンピック博物館(ヨーロッパ便り[1])」体育の科学 39(11),1989 年。)
(*)(参考：ODA 制作『ルーブル美術館(Louvre videodisk)』パイオニア LDC(発売),1989 年。)
(*)(参考：NHK 編集『NHK ルーブル美術館』NHK サービスセンター,東芝 EMI(発売),1989 年。)
(*)(参考：国立西洋美術館編/青柳正規他・カタログ執筆『ヴァチカン美術館特別展：古代ギリシャからルネッサンス,バロックまで』日本テレビ放送網,1989 年。)
(*)(参考：山中己充人解説『西洋古典版画名作展：Old master prints』山中西洋古典美術鑑賞振興会,1989 年-90 年。)
(*)(参考 : 辻成史編『美のパースペクティヴ : 先史岩画面からニュー・ペインティングまで』鹿島出版会,1989 年。)
(*)(参考：水田徹「反論「ギリシャ壺」の正体」文藝春秋 67(5),1989 年。)
(*)(参考：澤柳大五郎『アッティカの墓碑』グラフ社,1989 年。)
(*)(参考：西野嘉章「西洋美術史(3)[中世 1]初期キリスト教・ビザンティン美術・初期中世美術」美術手帖 603,1989 年。)
(*)(参考：高橋達史「西洋美術史(5)イタリア初期ルネサンス美術 15 世紀の北方美術」美術手帖 606,1989 年。)
(*)(参考：高橋裕子「西洋美術史(6)イタリア盛期ルネサンス美術・マニエリスム 北方ルネサンス美術」美術手帖 607,1989 年。)
(*)(参考：鈴木杜幾子「西洋美術史(8)新古典主義美術・ロマン主義美術・写実主義美術」美術手帖 610,1989 年。)
(*)(参考：永井繁樹「西洋美術史講義」文明 56,1989 年。)
(*)(参考：毛利晶「「ベルヴェデーレの祭壇」に関する覚え書き」西洋史学 155,1989 年。)
(*)(参考:ODA 制作『ルーブル美術館』(1.絵画･素描 2,彫刻･工芸 3.古代美術,パイオニア,1989 年。)
(*)宮永孝『文久二年のヨーロッパ報告』新潮選書,1989 年。
(*)内田芳明「〈講演〉マックス・ウェーバーにおける学問と政治(内田芳明教授・宇田川建仁教授退官記念)」エコノミア 40(1),1989 年。
(*)神代和俊「内田芳明教授退官記念」献辞(同上)」エコノミア 40(1),1989 年。
(*)内田芳明「内田芳明教授の経歴・業績・研究歴(同上)」エコノミア 40(1),1989 年。
(*)内田芳明『思索の散歩道：都市風景と文化への散策』(波多野精一)思索社,1989 年。
(*)(参考：小谷幸雄『遠心と求心：私の文學修業』校倉書房,1989 年。
(*)(参考：加藤卓男文・絵『やきもののシルクロード：地中海から正倉院まで』中日新聞本社,1989 年。)
(*)樋口隆康『ガンダーラへの道 : シルクロード調査紀行』レグルス文庫 182,第三文明社,1989 年。
(*)(参考 : 長澤和俊『海のシルクロード史 : 四千年の東西交易史』中公新書,中央公論社,1989

年。)
(*)(参考 : G.セデス/山本智教訳『東南アジア文化史』大蔵出版,1989 年(→2002 年,新装版)。)
(*)(参考 : O.シュペングラー/村松正俊訳『西洋の没落』世界史の形態学の素描』完訳新装版,五月書房,1989 年。)
(*)(参考 : 吉沢五郎・川窪啓資編『人間と文明のゆくえ : トインビー生誕 100 年記念論集』日本評論社,1989 年。)
(*)(参考 : 外村直彦「トインビー論」岡山大学教養部紀要 25,1989 年。)
(*)(参考 : J.ホイジンガ/里見元一郎訳『ホモ・ルーデンス : 文化のもつ遊びの要素についてのある定義づけの試み』新装版,ホイジンガ選集 1,河出書房新社,1989 年。)
(*)(参考 : 兼岩正夫訳『歴史を描くこころ』新装版,ホイジンガ選集 3,河出書房新社,1989 年。)
(*)(参考 : 里見元一郎他訳『ルネサンスとリアリズム』新装版,ホイジンガ選集 4,河出書房新社,1989 年。)
(*)(参考 : 杉田繁治「「比較文明の方法論の研究」」民博通信43,1989年。)
(*)(参考 : 山折哲雄「宗教の比較文明学〈シンポジウム〉」宗教研究63(1),1989年。)
(*)(参考 : 小林多加士「文明の歴史学 : 比較文明論のパースペクティブ」東京国際大学論叢,教養学部編40,1989年。)
(*)(参考 :『民話と風土 : 世界の国々(16巻)』(「1.ギリシア・トルコ・地中海」)学習研究社,1989-90年。)
(*)(参考 : ジャン=フランソワ・ルヴェル/福永淑子・鈴木晶訳『美食の文化史 : ヨーロッパにおける味覚の変遷』筑摩書房,1989年。)
(*)青木和夫「聖徳太子の時代」(『朝日百科・日本の歴史』所収,朝日新聞社,1989年。)
(*)(参考 : 細井将右「「輿地誌略」中の地図と地名」地図27(Suppl.),1989年。)
(*)木田献一「「マクミラン聖書歴史地図」アロハニ,アヴィ・ヨナ著,池田裕訳」(青山学院大学基督教学会)基督教論集32,1989年。
(*)石山洋「鈴木主税訳,ジョン・ノーブル・ウィルフォード,『地図を作った人々 古代から現代にいたる地図作製の偉大な物語』河出書房新社」科学史研究,第II期28(169),1989年。
(*)(参考 : 西村貞二「Handbuch der europaischen Geschichte(1-7)/Thedor Schieder(Hrsg.)(1975-1987)」西洋史研究18,1989年。)
(*)(参考 : 岩田一彦立案・構成『世界の歴史できごと事典』集英社,1989年。)
(*)(参考 : 楠高治他『学習まんが・歴史おもしろ図鑑事典』学習研究社,1989 年。)
(*)(参考 : 谷山茂編『パーソナル人名辞典 : 日本 世界』むさし書房,1989 年。)
(*)(参考 : 『教育人名辞典(上下)』日本図書センター,1989 年。)
(*)(参考 : 佐々木英也監修『オックスフォード西洋美術事典』講談社,1989 年。)
(*)(参考 : 古川晴風編『ギリシャ語辞典』大学書林,1989 年。)
(*)(参考 : 蛭沼幸雄『ギリシア語新約語法』新約研究社,1989 年。)
(*)(参考 : 麻生健他編『羅独-独羅学術語彙辞典』哲学書房,1989 年。)
(*)(参考 : 前島儀一郎『英独仏語・古典語比較文法』大学書林,1989 年。)
(*)(参考 : 旧約新約聖書大事典編集委員会編『旧約新約聖書大事典』教文館,1989 年。)
(*)(参考 : 左近司祥子「辞書というもの」学習院大学言語共同研究所紀要 12,1989 年。)
(*)森本麕「堀達之助編纂「英和対訳袖珍辞書」(文久 2 年江戸開版)をめぐって」名古屋学

院大学論集・社会科学篇 25(4),1989 年。
(*)長沼秀明「「ユーモア」概念導入の背景としての「哲学」受容の問題：「哲学字彙」と井上哲次郎をめぐって」笑い学研究 6,1989 年。
(*)茂住実男『洋語教授法史研究：文法=訳読法の成立と展開を通して』学文社,1989 年。
(*)(参考：杉田英明編『桃花源とユートピア』平凡社,東洋文庫ふしぎの国 5,1989 年。)
(*)(参考：杉田英明編『東方の人・西方の人』平凡社,東洋文庫ふしぎの国 6,1989 年。)
(*)(参考：杉田英明編『動物誌と動物譚』平凡社,東洋文庫ふしぎの国 11,1989 年。)
(*)(参考：上田設夫「今昔物語集〈天竺説話〉のシルクロードの旅—その翻訳の論」文学・語学 121,1989 年。)
(*)(参考：住田育法「異文化接触とポルトガル語：ポルトガル語に見るアラビア文化,インディオ文化,アフリカ文化」(京都外国語大学)研究論集 32,1989 年。)
(*)(参考：住田育法「異文化接触とポルトガル語(特集 地中海文化の新展開に関する研究)」Mare Nostrum2,1989 年。)
(*)(参考：本村寿一郎『新約聖書インターライナー・ローマ人への手紙』聖文舎,1989 年。)
(*)(参考：新共同訳『エズラ記(ギリシア語)—マナセの祈り』旧約続編,文字資料(点字)日本聖書協会,1989 年。)
(*)(参考：新共同訳『トビト記—エステル記(ギリシア語)』旧約続編,文字資料(点字)日本聖書協会,1989 年。)
(*)(参考：竹島俊之「ΠΡΟΠΥΛΑΙΑ について」プロピレア 1,1989 年。)
(*)(参考：鴨瀬昌幸「聖書ギリシア語とゴート語の対照研究に関する一考察」(広島大学教育学部)プロピレア 1,1989 年。)
(*)(参考：志田信男「セフェリスのパイデイア：幼少時代の父と子」プロピレア 1,1989 年。)
(*)(参考：望田幸男「ギムナジウムにおけるラテン語教育の歴史的推移」文化史学 45,1989 年。)
(*)(参考:高橋通男「アポロニオス・ロディオスの非ホメーロス語彙」西洋古典學研究 37,1989 年。)
(*)(参考：小川正廣「オックスフォードの古典学と古典教育」西洋古典論集 6,1989 年。)
(*)(参考：小川正廣「〈帰国報告〉オックスフォード大学の古典学の一側面」京都産業大学国際言語科学研究所所報 10,1989 年。)
(*)Kubo,Masaaki‘Japan：Greek and Latin Philosophy’Atti del Congesso Internationale：La filologia Greca e Latina nel secolo XX,vol.1,Gardini Editori,Pisa,1989.
(*)中西裕一「一般教育としての西洋古典語教育の方法について」一般教育学会誌 11(2),1989 年。
(*)(参考：佐々木毅「マシュー・アーノルドのイタリア教育論をめぐって」新潟大学教育学部紀要,人文・社会科学編 30(2),1989 年。)
(*)(参考：W.v.フンボルト著/C.メンツェ編/K.ーメル・小笠原道雄・江島正子訳『人間形成と言語』以文社,1989 年。)
(*)(参考：セスト・プレテ/三間晶生訳『G.ヤッハマンへの書翰—20 世紀前半の西洋古典学者たち』春苑堂書店(鹿児島市),1989 年。)
(*)(参考：J.B.フィリップス著/佐藤全弘訳『聖書翻訳者の成功と挫折：J・B・フィリップス自伝』教文館,1989 年。)
(*)(参考：蛭沼寿雄『ルカ福音書』新約本文学演習：異文資料の取り扱い方,新約研究社,1989

年。)
(*)(参考：高田康成「中世文学とラテン的伝統(Symposia 第 1 部門「中世文学とラテン的伝統」,日本英文学会第 60 回大会報告)」英文学研究 65(2),1989 年。)
(*)(参考：高田康成「1.Chauser とラテンの伝統：概説に代えて(Symposia 第 1 部門「中世文学とラテン的伝統」,日本英文学会第 60 回大会報告)」英文学研究 65(2),1989 年。)
(*)(参考：住田育法「異文化接触とポルトガル語(特集 地中海文化の新展開に関する研究)」Mare Nostrum2,1989 年。)
(*)(参考：フロレスク・ヴァジレ/谷口勇訳「甦った修辞学」(古代文学)桃山学院大学人文科学研究 24(3),1989 年。)
(*)(参考：岩波文庫編集部編『愛のことば：岩波文庫から』岩波文庫別冊 8,岩波書店,1989 年。)
(*)(参考：麻生建『ドイツ言語哲学の諸相』東京大学出版会,1989 年。)
(*)『明治前期學術雑誌論文記事集成』(全 35 巻)ゆまに書房,1989 年(→1990 年,渡邊正雄編『改訂・明治前期學術雑誌論文記事総覧』,ゆまに書房)。
(*)沢正弘「西脇順三郎蔵書目録(4)津田塾大学所蔵分(2)」福島大学教育学部論集・人文科学部門 45,1989 年。
(*)「松本厚先生略歴・著書・学術論文」広島経済大学研究論集 12(1),1989 年。)
(*)「三島由紀夫著書目録」日本古書通信 54(11),1989 年。
(*)壽岳文章『壽岳文章書物論集成』(特装限定本)沖積舎,1989 年。
(*)(参考：マティ・カリネスク/富山英俊訳『モダンの五つの顔』せりか書房,1989 年。)
(*)(参考：蔵持不三也「「神話・寓意・徴候」カロル・ギンズブルグ著竹山博英訳」思想 775,1989 年。)
(*)(参考：エリアーデ/石井忠厚訳『1907—1937 年の回想：秋分の誓い』エリアーデ回想(上),未来社,1989 年。)
(*)(参考：小倉孝誠「ゾラにおける知・歴史・神話--「壊滅」試解(フランス文学特集)」明治学院論叢 447,1989 年。)
(*)(参考：三瓶憲彦「ヘルマン・ブロッホにおける“神話”のゆくえ--「誘惑者」論」高崎経済大学論集 32(1),1989 年。)
(*)(参考：佐藤正年「フォルトゥーナ神話の影—フェリシテ・ルーゴンの人物像をめぐって」海外事情研究 16(2),1989 年。)
(*)(参考：梅本信介「シェリング後期哲学における神話の意義(1,2)」道都大学紀要：教養部 8,1989 年/10,1991 年。)
(*)(参考：海老久人「1.チョーサーと異教神話：アルセストの謎(研究発表第 10 室,日本英文学会第 60 回大会報告)」英文学研究 65(2),1989 年。)
(*)(参考：海老久人「アルセスト神話の系譜—チョーサー,「オヴィド・モラリセ」,ペルコリウス」英語青年 135(8),1989 年。)
(*)(参考：宮下忠二「近代の神話創造—キーツのオード」一橋論叢 102(3),1989 年。)
(*)(参考：松井みどり「不可解な秩序—T.S.エリオットの「神話的手法」における葛藤(T.S.エリオットを読む—モダニズムの現在)」文学 57(4),1989 年。)
(*)(参考：Roger Cailbis/塚崎幹雄訳「一角獣の神話」ディオゲネス 16,1989 年。)
(*)(参考：クロード・レヴィ=ストロース,江藤淳「神話と歴史の間」諸君 21(1),1989 年。)

(*)(参考：藤原聖子「聖なるものの認識論」東京大学宗教学年報 6,1989 年。)
(*)(参考：坂口昂吉編『地中海世界と宗教』慶應通信,慶應義塾大学地域研究センター,1989 年。)
(*)(参考：野上素一「エトルスキの宗教」宗教と文化 13,1989 年。)
(*)(参考：富士川義之「ヴィーナスの変容(1,2)世紀末的魂と夢(5,6)」ユリイカ 21(6,7),1989 年。)
(*)(参考：金塚貞文「眠る価値—番外-ヴィーナスの眠り(セックスの政治学—男のフェミニズム,特集)」現代思想 17(10),1989 年。)
(*)(参考：柴田竹夫「ヴィーナスの嘆きの唄(訳)」親和女子大学英語英文学 9,1989 年。)
(*)(参考：加藤正明「プリアポスとアフロディテ--「ミスター・ヌーン」をめぐって」芝浦工業大学研究報告・人文系編 23(2),1989 年。)
(*)(参考：中江彬「ミケランジョロ作「最後の審判」に隠されたバッカス祭」人文学論集 7,1989 年。)
(*)(参考：フリードリヒ・ニーチェ/河内信弘訳「ディオニュソス酔歌」城西人文研究 17(1),1989 年。)
(*)(参考：多田智満子『神々の指紋：ギリシア神話選』筑摩書房,1989 年(→1994 年,平凡社ライブラリー64)。)
(*)(参考：B.エブスリン/三浦朱門訳『ギリシヤ神話神々と英雄たち』現代教養文庫,社会思想社,1989 年。)
(*)(参考：井出則雄『オリンポスの神話』筑摩書房,1989 年。)
(*)島田昭男「「オリンポスの果実」〈田中英光〉(近代文学に描かれた青春,特集)」国文学：解釈と鑑賞 54(6),1989 年。
(*)(参考：リヒャルト・シュトラウス作；メトロポリタン歌劇場管弦楽団・合唱団[演奏],ジェイムズ・レヴァイン指揮『歌劇「ナクソス島のアリアドネ(全曲)』Deutsche Grammophon,Universal Misic[発売],ビデオレコード,1989 年。)
(*)内山勝利「意図せざる先駆性--『西洋宗教思想史』のギリシア像」(『波多野精一全集 5』「附録月報」,岩波書店,1989 年。)
(*)松本仁助「和辻哲郎の『ホメーロス批判』について」(1962 年第 1 刷『和辻哲郎全集 6』「月報」,岩波書店,1989 年。)
(*)(参考：T.Bulfinch/大島誠編註“Tales of Ancient Gods and Heroes” 重版,北星堂出版,1989 年。)
(*)野上素一「エトルスキの宗教」(聖心女子大学キリスト教文化研究所)宗教と文化 13,1989 年。
(*)(参考：丹羽隆子『ローマ神話：西欧文化の源流から』大修館書店,1989 年。)
(*)(参考：小川英雄「ミトラスの密儀と地母神崇拝(特集 宗教と女性)」宗教研究 63(1),1989 年。)
(*)(参考：S.ベンコ編/新田一郎訳『原始キリスト教の背景としてのローマ帝国』教文館,1989 年。)
(*)(参考：川島重成「ギリシア・ローマの文学と聖書」(日本聖書協会・聖書図書館「聖書セミナー no.4・1988 『ヘブライズムとヘレニズム』,1989 年。)
(*)(参考：Takashi Onuki“Gnosis und Stoa：eine Untersuchung zum Apokryphon des Lohannes”

Universtätvelag ,vandenhoeck Ruprecht,1989.
(*)(参考：カルロ・ギンズブルグ/竹山博英訳『神話・寓意・徴候』せりか書房,1989 年。)
(*)(参考：足立広明「「聖人伝」に現れる砂漠の苦行僧—古代末期東地中海世界の社会変容におけるその役割」史林 72(5),1989 年。)
(參考：田尻陽一「スペイン地中海沿岸の農業儀礼における死と再生：イエスと聖母マリアをめぐって(特集 地中海文化の新展開に関する研究)」Mare Nostrum 2,1989 年。)
(*)(参考：L.ショットロフ,W.シュテーゲマン/大貫隆訳『ナザレのイエス：貧しい者の希望』日本基督教団出版局,1989 年。)
(*)(参考：ウィリアム・ワイラー監督；サム・ジンバリスト製作『ベン・ハー(1,2)』ビデオレコード,MGM/UA home video,ヘラルド・ポニー(発売),1989 年。)
(*)兼子盾夫「和辻哲郎の「原始キリスト教の文化史的意義」の意義」相模工業大学紀要 23(2),1989 年。
(*)(参考：岡田温司「ヴァザーリ晩年,「マニエラ」と「刷新(リフォルマ)」の狭間--〈聖母を描く福音書記者聖ルカ〉を中心に」岡山大学教養部紀要 25,1989 年。)
(*)(参考：株式会社ミルトス企画・制作『聖書の世界』全 3 巻,ミルトス,教文館(発売),1989 年。)
(*)(参考：茂義樹『新約聖書共同翻訳事業と D.C.グリーン』梅花短期大学 1988 年,(科研費) 1989 年。)
(*)(参考：荒井献「正典外の諸福音書」聖書と教会 6 月号,1989 年。)
(*)(参考：H.ヘスター/永田竹司訳『ヘレニズム時代の歴史・文化・宗教』新しい新約聖書概説(上),新地書房,1989 年。)
(*)(参考：S.サフライ,M.シュテルン/土戸清他訳『総説・ユダヤ人の歴史：キリスト教成立時代のユダヤ的生活の諸相』新地書房,1989-92 年。)
(*)(参考：塚本虎二『山上の説教』イエス伝研究 2,聖書知識社,1989 年。)
(*)(参考：塚本虎二『異邦巡回(上下)』イエス伝研究 4,聖書知識社,1989 年。)
(*)(参考：塚本虎二『ルカの旅行記』イエス伝研究 5,聖書知識社,1989 年。)
(*)(参考：田尻陽一「スペイン地中海沿岸の農耕儀礼における死と再生：イエスと聖母マリアをめぐって(〈特集〉地中海文化の新展開に関する研究)」Mare Nostorum2,1989 年。)
(*)(参考：ピーター・ミルワード/松元たま訳『聖母マリアの福音』中央出版社,1989 年。)
(*)(参考：吉山登『信仰の母マリア：聖書にもとづく信心』女子パウロ会,1989 年。)
(*)(参考：S.ベンコ編/新田一郎訳『原始キリスト教の背景としてのローマ帝国』教文館,1989 年。)
(*)(参考：フィロン他『神秘主義：テクノロジーとカルト』哲学 vol.VIII-4,哲学書房,1989 年。)
(*)(参考：Philo of Alexandria/山崎秋夫訳「アレクサンドリアのフィロン「巨人について」」阪南論集,人文・自然科学編 24(3),1989 年。)
(*)小野忠信「「中世個体論研究」真方敬道,「異教文化とキリスト教の間」真方敬道」日本の神学 28,1989 年。
(*)(参考：大貫隆「グノーシス主義とエイレナイオスの自然観」(上智大学中世思想研究所編『古代の自然観』所収,創文社,1989 年。)

(*)(参考：西村太良「聖バシレイオス伝説の変容」慶應義塾大学地域研究センター「地中海と宗教」所収,1989 年。)
(*)井上洋治・山根道公『風のなかの想い：キリスト教の文化内開化の試み』日本基督教団出版局,1989 年。)
(*)(参考：井上洋治『キリスト教がよくわかる本』New intellect 5,PHP 研究所,1989 年(→1995 年,再版。→1997 年,PHP 文庫版)。)
(*)(参考：徳永守儀「〈書評〉キリスト教的ヒューマニズムの証明」ソフィア38(3),1989年。)
(*)(参考：大崎節郎『カール・バルトのローマ書研究』筑波大学,文学博士,乙第497号,1989 年。)
(*)垣花秀武「吉満義彦頌」ソフィア 38(1),1989 年。
(*)川島秀一「『死海のほとり』論：遠藤周作論ノート(5)」山梨英和短期大学紀要 23,1989 年。
(*)宮坂寛「主題(テーマ)の把握—遠藤周作「沈黙」」国文学・解釈と教材の研究 34(8),1989 年。
(*)齋藤末弘『作品論椎名麟三』桜風社,1989 年。
(*)宮野光男『語りえぬものへのつぶやき：椎名麟三の文学』ヨルダン社,1989 年。
(*)高堂要『椎名麟三論：その作品にみる』新教出版社,1989 年。
(*)関田寛雄「「霊は人を生かす--松本卓夫の生涯」加藤裕子編」(青山学院大学基督教学会)基督教論集 32,1989 年。)
(*)(参考：佐々木健一・研究代表者『ボワロー詩学 美学的・思想史的研究』佐々木健一,1989 年。)
(*)(参考：佐々木健一「作者の誕生：そのアリバイをめぐる近世美学史」美學 40(3),1989 年。)
(*)金田民夫『日本近代美学序説』法律文化社,平成 2 年。
(*)平山洋『大西祝とその時代』日本図書センター,1989 年。
(*)(参考：金子佳司「『クリトン』のソクラテス—ウッズリーの解釈について」(日本大学哲学研究室)精神科学 28,1989 年。)
(*)(参考：Hideya Yamakawa‘Heraclitus and Chang-tzi：A Dialogue on the Unity of Opposites between East and West’(K.J.Boudouris (ed.),Ionian Philosophy, International Association for Greek Philosophy,Atehs,1989.)
(*)井上弘「「佳人之奇遇」巻 16 について」静岡女子大学研究紀要 22,1989 年。
(*)清田文武「上田敏と万物流転の思想—ペイター、マーテルリンク、ベルグソンの影響」文芸研究 121,1989 年。
(*)西脇順三郎・詩/尾形敏幸作曲『五つのギリシャ的抒情詩：混声合唱とピアノのための』若い人たちのためのオリジナル・コーラス,楽譜(印刷),音楽之友社,1989 年。
(*)新潟市美術館編集・構成『永遠の旅人西脇順三郎：詩・絵画・その周辺』新潟市美術館,1989 年。
(*)水川裕雄『くもの糸・走れメロス：水川裕雄短編劇集』青雲書房,1989 年。
(*)太宰治作・吉田純絵『走れメロス』講談社青い鳥文庫,講談社,1989 年。
(*)濱森太郎「勇者の誕生：「走れメロス」小論」人文論叢：三重大学人文学部文化学科研究紀要 6,1989 年。
(*)中村友「「運」--「エピクロスの園」から見た翁と青侍」学苑 590,1989 年。

(*)アーサー・ラッカム絵；田辺佐保子訳『イソップ物語』新書館,1989 年。
(*)イソップ原作/日本アニメーション株式会社アニメ制作・西本鶏介監修『読み聞かせイソップ物語：30 話』一日一話シリーズ,小学館,1989 年。
(*)ハイジ=ホルダー絵；みたむらのぶゆき文『イソップものがたり』偕成社,1989 年。
(*)土家由岐雄編『イソップものがたり』(2 年生)学年別おはなし文庫,偕成社,1989 年。
(*)『にんぎょひめ：花さかじいさん；イソップものがたり』ビデオ絵本なかよしセット 6,ビデオデータ(ビデオカセット),ウオカーズカンパニー,1989 年。
(*)住井すえ『農村イソップ』住井すゑ・初期短編集,冬樹社,1989 年。
(*)(参考 : Kobo Abe : ut het Japans vertaald door Nonko de Vroomen en Marc W.Mooji “Toverkrijt : verhalen”(Isoppuno saiban「イソップの裁判」)Meulenhoff,1989.
(*)渋谷清視「イソップ寓話についての考え方—出版の現状とそれを子どもにどう体験させるか(「よい子」のしつけ,特集)」児童心理 42(15),1989 年。
(*)富田仁「黎明期の海外文学移入の展望(1)「イソップ物語」「ロビンソン・クルーソー漂流記」(明治の夜明け<特集>)」日本古書通信 54(11),1989 年。
(*)遠藤潤一「天理図書館蔵古活字版『伊曽保物語』第二種本について(上下)」東横国文学 21,1989 年//22,1990 年。
(*)(参考：馬場喜敬・中地万理子・川合貞子・加藤優子「日本の寓話,童話,民話,説話等の系譜的綜合的研究 : 諸外国のそれら(すなわち Fabel,Merchen,Volkssagen u.s.w.)との比較において([第三報]」東京家政大学生活科学研究所研究報告 12, 1989 年。)
(*)前坊洋「イソップ、東アジアへ」近代日本研究 6,1989 年。
(*)樋口桂子『動物寓話のテクストと挿絵のレトリック—日本近世のイソップ物語を中心に』大東文化大学 1988 年,(科研費)1989 年。
(*)野口達二『野口達二戯曲集』(「百合若」)演劇出版社,1989 年。
(*)「討論」(百合若) (君島久子編『日本基層文化の探究・日本民間伝承の源流』所収,小学館,1989 年。
(*)福田晃「中世の神話的伝承--『甲賀三郎』『百合若大臣』をめぐって」(君島久子編『日本基層文化の探究・日本民間伝承の源流』所収,小学館,1989 年。
(*)三沢裕子「幸若舞曲の構造と人物」中世文学 34,1989 年。
(*)式部久「松本厚先生のこと(松本厚・三好稔両先生退任記念号)」広島経済大学研究論集 12(1),1989 年。
(*)「松本厚先生略歴・著書・学術論文(同上)」広島経済大学研究論集 12(1),1989 年。
(*)名和弘彦「皇至道先生を偲んで(故皇至道教授追悼号)」日本教育行政学会年報 15,1989 年。
(*)真野宮雄「皇至道代表理事の御逝去を悼む：学会草創期の御功績を讃えて」日本教育行政学会年報 15,1989 年。
(*)森進一「ふたりの正統派—波多野[精一]先生と田中[美知太郎]先生」(『波多野精一全集 3』「月報」,岩波書店,1989 年。)
(*)(参考：久保正彰「第 9 回国際西洋古典学連合会 FIEC 総会および大会に出席して」西洋古典學研究 37,1989 年。)
(*)(参考：山路龍天「〈論文〉緋色の研究：シモニデスの断片詩をめぐって」同志社外国文学研究 53,1989 年。）

(*)(参考：越宏一『挿絵の芸術—古代末期写本画の世界へ』朝日新聞社,1989 年。)
(*)(参考 : 辻成史編『美のパースペクティヴ : 先史岩面画からニュー・ペインティングまで』鹿島出版会,1989 年。)
(*)(参考 : 海老沢敏『ミューズの教え—古代音楽教育思想をたずねる』音楽之友社,1989 年。)
(*)(参考 : 竹山博英「振り子は揺れる,2 つの懐疑の間を--「フーコーの振り子」について(エーコ—ベストセラー「薔薇の名前」はいかにして生まれたか〈特集〉)」ユリイカ 21(6),1989 年。)
(*)(参考：ジョージ・スタイナー/海老根宏・山本史郎訳『アンティゴネーの変貌』みすず書房,1989 年。)
(*)(参考 : 柳沢文昭「ギリシア悲劇とフランス現代劇 : オレステイアをめぐって」比較文化研究年報 1,1989 年。)
(*)(参考 : 廣田稔「Pincher Martin 考(1)ギリシア悲劇との接点」英語英文学論叢 39,1989 年。)
(*)(参考：豊福淳一「ヘーゲルとキルケゴールのアンティゴネ解釈」防衛大学校紀要・人文科学分冊 59,1989 年。)
(*)(参考：谷口勇「薔薇の名前—ダイジェスト(エーコ—ベストセラー「薔薇の名前」はいかにして生まれたか,特集)」ユリイカ 21(6),1989 年。)
(*)(参考：河島英昭「「薔薇の名前」の仕掛け(エーコ—ベストセラー「薔薇の名前」はいかにして生まれたか〈特集〉)」ユリイカ 21(6),1989 年。)
(*)(参考：Umberto Eco,Thomas Stauder/谷口勇訳「「バラの名前」から「フーコーの振り子」へ—U.エーコ最新インタヴュー」ユリイカ 21(14),1989 年。)
(*)(参考:L.マッキアヴェルリ/G.ピアッザ・谷口勇共訳『「バラの名前」後日譚』而立書房,1989 年。)
(*)(参考：Geerblatt Stephen/高田茂樹・高田康成訳「ルネサンスの自己形成(ニューヒストリシズム,特集)」現代思想 17(2),1989 年。)
(*)(参考 : A.シャステル/桂芳樹訳『ルネサンス精神の深層 ; フィチーノと芸術』平凡社,1989 年(→2002 年,ちくま学芸文庫版,改訳)。
(*)(参考：ガイア・セルヴァディオ/桂芳樹訳『ルネサンスのマドンナたち：知・情熱・信仰』平凡社,1989 年。)
(*)(参考：デニス・ゲイ/鳥越輝昭・木宮直仁訳『イタリア・ルネサンスへの招待：その歴史的背景』大修館書店,1989 年。)
(*)(参考：下村寅太郎『ルネサンス研究：ルネサンスの芸術家』みすず書房,1989 年。)
(*)参考：近藤恒一「研究者の魂：清水純一先生のご逝去を悼んで」イタリア学会誌 39,1989 年。)
(*)參考：阿部知二『世界文学の歴史』河出世界文学全集・別巻,河出書房新社,1989 年。)
(*)(参考：ダンテ/平川祐弘訳『河出世界文学全集 1—神曲』河出書房新社,1989 年。)
(*)(参考：ギュスターヴ・ドレ挿画/谷口江里他訳・構成『ダンテ・神曲』JICC 出版局,1989 年。)
(*)(参考：滝沢正彦「神の喜劇から人間の悲劇へ--「神曲」と「失楽園」(ダンテ〈特集〉)」國學院雑誌 90(11),1989 年。)
(*)(参考：佐々木寛「ロシアにおけるダンテ概観--「神曲」を中心に(ダンテ〈特集〉)」國學院雑誌 90(11),1989 年。)
(*)(参考：西沢邦輔「ダンテ『神曲』本文の基本的解釈の問題点：(III)天堂篇(1,2)高知医

科大学一般教育紀要6,1989年/9,1993年。)
(*)(參考：ペトラルカ/近藤恒一訳『ルネサンス書簡集』岩波文庫,岩波書店,1989 年。)
(*)(參考：木村彰一他編『世界文学全集 4—ボッカチオ・ペトラルカ・ミケランジェロ』講談社,1989 年。)
(*)(參考：亀山潔「トマス・モアとルネサンス・ヒューマニズム—ソヴィエトの歴史家 I.N. オシノフスキーを中心として」中央大学経済研究所年報 19(2),1989 年。)
(*)(參考 : 落合忠士「エラスムスの人と思想の近代性」京都学園大学論集 18(1・2),1989 年。)
(*)(參考：金子晴勇・木ノ脇悦郎・片山英男訳『エラスムス』宗教改革著作集 2,教文館,1989 年。)
(*)齋藤征雄「鎌田博夫先生の業績と学風」(東北大学哲学会)文化 51,1989 年。)
(*)(參考 : 佐倉リン子「チョーサーに於ける語りの妙味--「トロイルスとクリセイダ」より(研究ノート)」津田塾大学紀要 21,1989 年。)
(*)(參考：シェークスピア/坪内逍遙訳『ザ・シェイクスピア』第三書館,1989 年。)
(*)(參考：『トロイラスとクレシダ』復刻版,沙翁全集：逍遙訳シェークスピヤ全集 29,名著普及会,1989 年。)
(*)(參考：『シェイクスピアの受容—共同研究』研究叢書 10,共立女子大学芸術研究所,1989 年。)
(*)(參考：安西徹雄編『日本のシェイクスピア 100 年』荒竹出版,1989 年。)
(*)(參考：齋藤栄三郎『シェイクスピアの世界』ヒューマン・ドキュメント社,1989 年。)
(*)(參考：齋藤祐蔵篇訳『英伊比較文学的シェイクスピア研究』イタリア書房,1989 年。)
(*)(參考 : シェークスピヤ/坪内逍遙訳『ジュリヤスシーザー』名著普及会,1989 年(←沙翁全集 5,逍遙譯[早稻田大学出版部・富山房大正 2 年刊の複製]。).
(*)(參考：シェイクスピア/大場建治編訳『ジュリアス・シーザー』大修館シェイクスピア双書,大修館書店,1989 年。)
(*)(參考：F.Bacon；ed.with notes by Terufumi Takeda&Tomio Ishikawa『New Atlantis：西洋精神と科学のユートピア』旺史社,1989 年。)
(*)(參考：清水義和「「シーザーとクレオパトラ」怨恨のない存在としての超人」愛知学院大学教養部紀要 人文・社会編 35,1989 年。)
(*)(參考：佐々木健「F.ベーコンにおける冨と徳：『ニュー・アトランティス』に関する一試論」星薬科大学一般教養論集 7,1989 年。)
(*)(參考：道家弘一郎『ミルトンと近代』研究社出版,1989 年。)
(*)(參考：櫻井雅子「『リア王』とセネカ」名古屋女子大学紀要,人文・社会編 35,1989 年。)
(*)(參考：Fransis Bacon（ed.with notes by Terufumi Takeda,Tomoi Ishikawa）“New Atlantis：西洋精神と科学のユートピア”旺史社,1989 年。)
(*)(參考：高橋雄四郎『ジョン・キーツ：想像力の光と闇』南雲堂,1989 年。)
(*)(參考：横川雄二「キーツと「エピファニー」」英語英文学論叢 39,1989 年。)
(*)(參考 : 当麻一太郎「「ブライズデイル・ロマンス」の一考察—中立地帯とアルカディア」(日本大学英文学会)英文学論叢 37,1989 年。)
(*)(參考：星野英樹「トマス・ハーディの「緑樹の陰で」--アポロンとディオニュソスの音楽」工学院大学研究論叢 27,1989 年。)
(*)(參考：出淵博「「伝統と個人の才能」再訪(T.S.エリオットを読む—モダニズムの現在)」文學 57(4),1989 年。)

(*)(参考：松井みどり「不可能な秩序—T.S.エリオットの「神話的手法」における葛藤((T.S.エリオットを読む—モダニズムの現在)」文學 57(4),1989 年。)
(*)(参考：菱川英一「エリオットの伝統論とパウンド(T.S.エリオットを読む—モダニズムの現在)」文學 57(4),1989 年。)
(*)(参考：Jewel Spears Brooker/東雄一郎訳「抽象概念の喪失—エリオット,フレイザー,そしてモダニズム(T.S.エリオットを読む—モダニズムの現在)」文學 57(4),1989 年。)
(*)(参考：島良夫「「浄罪界」雑感—ダンテとエリオット(ダンテ,特集)」國學院雑誌 90(11),1989 年。)
(*)(参考：須原和男「階段のイメージ—T.S.エリオットとダンテ(ダンテ,特集)」國學院雑誌 90(11),1989 年。)
(*)(参考：原孝一郎「ダンテと T.S.エリオット—現実における目に見えるものと見えないもの(ダンテ,特集)」國學院雑誌 90(11),1989 年。)
(*)(参考：村田辰夫「T.S.エリオットの「伝統論」の支柱—F.H.ブラッドリーの“The Presuppositions of Critical History”と共に読む」梅花女子大学文学部紀要,英語・英米文学編 24,1989 年。)
(*)(参考：当麻一太郎「「ブライズデイル・ロマンス」の一考察—中立地帯とアルカディア」英文学論叢 37.1989 年。)
(*)(参考：廣田稔「Pincher Martin 考(1)ギリシア悲劇との接点」英語英文学論叢 39,1989 年。)
(*)西脇順三郎・詩/尾形敏行・作曲『五つのギリシャ抒情詩：混声音楽とピアノのための』若い人たちのためオリギナルコーラス 音譜(印刷)(スコア),音楽之友社,1989 年。
(*)(参考：渡辺一夫著・二宮敬編『渡辺一夫ラブレー抄』筑摩書房,1989 年。)
(*)(参考：竹田英尚『モンテーニュ—思考と作品の様式とその進化』白水社,1989 年。)
(*)(参考：佐々木孝丸・松村武雄訳『フランス・オランダ篇』(佐々木孝丸訳「ラ・フォンテーヌ寓話集」)世界童話大系 9,名著普及会,1989 年。)
(*)(参考：福鎌忠恕訳『ヴォルテール回想録』大修館書店,1989 年。)
(*)(参考：ヴォルテール/安斎和雄訳『歴史哲学--「諸国民の風俗と精神について」序論』法政大学出版局,1989 年。)
(*)(参考：道体章弘「ボードレールにおけるプラトン主義(2)照応と魂」東北福祉大学紀要 14,1989 年。)
(*)(参考：城戸朱理「戦後詩を滅ぼすために—ラオコーンの断崖(手帖時評[5,6,7])」現代詩手帖 32(7,8,10),1989 年。)
(*)(参考：柴田庄一「ニーチェにおけるディオニュソス的なるもの：創造論への一つの布石」言語文化論集 10(2),1989 年。)
(*)(参考：Gottfried Wagner/岩淵達治訳・構成「ニーチェとヴァグナー—ディオニュソス的芸術家から,過去の解明者への道—一名,リヒャルト・ヴァグナーから離脱するニーチェ(リヒャルト・ヴァグナーとバイトロイト)」音楽芸術 47(4),1989 年。)
(*)(参考：F.ニーチェ/河内信弘訳「ディオニュソス酔歌(翻訳)」城西人文研究 17(1),1989 年。)
(*)(参考：吉沢伝三郎「(1)ニーチェの文献学的心理学に対するヤスパースの関わり(第 2 回国際ヤスパース会議)発表要旨」」コムニカチオン 5(5),1989 年。)

(*)(参考 : 谷上れい子「ロゴスの弁証法(1) : ミルトンからニーチェへ」桃山学院大学人文科学研究 24(2),1989 年。)
(*)(参考 : 川畑篤弘「中断した幸福の国建設計画—ニーチェの講演「我々の教育施設の将来について」をめぐって」岡山大学教養部紀要 25,1989 年。)
(*)(参考 : 峠尚武「W.ブレッカーの「ヨーロッパ学」とニーチェの「ヨーロッパのニヒリズム(1-8)」愛知学院大学教養部紀要 36(2,3),37(1,2),1989 年/38(1,2),1990 年/39(1,2),1991 年。)
(*)(参考 : 平野栄太郎「みうちの絆を超えてディオニュソスの神へ—グロイター版ニーチェ研究」愛知学院大学教養部紀要 36(3),1989 年。)
(*)(参考 : 大谷欣也「フリードリヒ・ヘルダーリン : ディオーティマ(小倉榮一郎教授退官記念論文集)」彦根論叢 255/256,1989 年。)
(*)(参考 : 芝田豊彦「若きヘーゲルにおける「生」の思想—ヘルダーリンとの関連で」独逸文学 33,1989 年。)
(*)(参考 : 海津忠雄「美術史における対象の概念 : ブルクハルトとヴェルフリン,故ヨーゼフ・ガントナーの思い出のために」哲學 88,1989 年。)
(*)(参考 : 高橋克己「シラーの「散歩」とヘルダーリンの「多島海」--市民社会の樹立[含 独文]」高知大学学術研究報告・人文科学 38(1),1989 年。)
(*)(参考 : 四日谷敬子『歴史における詩の機能 : ヘーゲル美学とヘルダーリン』理想社,理想哲学選書,1989 年。)
(*)(参考 : ハイデッガー/三木正之,ハインリッヒ・トレチアック訳『ヘルダーリンの讃歌『回想』』創文社,ハイデッガー全集 52,1989 年。)
(*)(参考 : 有川貫太郎「レッシングの「ホラティウス弁護」」言語文化論集 11(1),1989 年。)
(*)(参考 : 松浦暢「〈水の精〉とロマン派文学--〈人魚〉の系譜を辿って」英語青年 135(5),1989 年。)
(*)(参考 : 松浦暢「超自然の〈水の精〉 : シレーネから人魚へ」成城文藝 126,1989 年。)
(*)上垣外憲一「雨森芳州の比較文明論とヨーロッパ十八世紀の寛容の思想」(レッシング)日本研究 : 国際日本文化研究センター紀要 1,1989 年。)
(*)山梨英和短期大学附属図書館編『聖書さまざまな日本語訳 : 日本語訳聖書の歴史—キリシタン禁制から昭和まで』山梨英和短期大学附属図書館,1989 年。
(*)ジョナサン・ゴ・ブル訳『摩太福音書』[附・解説]明石書店,1989 年。
(*)(参考 : 飯塚勝久・角田幸彦編『哲学の射程』現代思想選書,北樹出版,1989 年。)
(*)(参考 : 角田幸彦『精神史としての哲学史』東信堂,1989 年。)
(*)(参考 : Richard Rorty/新井英永・高田康成訳「あの昔懐かしき哲学(消費される〈大学〉特集)」現代思想 17(8),1989 年。)
(*)鶴見俊輔他編『詩と真実』(田中美知太郎)ちくま哲学の森 6,筑摩書房,1989 年(→2012 年,再版)。)
(*)郡司勝義「田中美知太郎と小林秀雄(1)」(『増補版・田中美知太郎全集 19 月報』筑摩書房,1989 年。)
(*)渡部昇一「田中先生とわれわれ(2)」(『増補版・田中美知太郎全集 19 月報』筑摩書房,1989 年。)
(*)松平千秋他「〈インタヴュー〉西洋古典学会発足の頃(3)田中美知太郎先生に聞く」(『増

補版・田中美知太郎全集 19 月報』筑摩書房,1989 年。)
(*)成田成寿「田中美知太郎先生」(『増補版・田中美知太郎全集 20 月報』筑摩書房,1989 年。)
(*)外山弥生「赤いカーネーション」(『増補版・田中美知太郎全集 20 月報』筑摩書房,1989 年。)
(*)加来彰俊「最初の授業」(『増補版・田中美知太郎全集 20 月報』筑摩書房,1989 年。)
(*)志水速雄「書評再録「思想に強くなること」」(『増補版・田中美知太郎全集 20 月報』筑摩書房,1989 年(←日本経済新聞 1/7,1979 年)。)
(*)高橋英夫「文体と思想」(『増補版・田中美知太郎全集 21 月報』筑摩書房,1989 年。)
(*)粕谷一希「追憶(3)」(『増補版・田中美知太郎全集 21 月報 21』筑摩書房,1989 年。)
(*)松平千秋他「「〈インタヴュー〉西洋古典学会発足の頃(1)田中美知太郎先生に聞く」(『増補版・田中美知太郎全集 21 月報』筑摩書房,1989 年。)
(*)上山春平「初心の姿」(『増補版・田中美知太郎全集 22 月報』筑摩書房,1989 年。)
(*)梅原猛「田中先生のこと」(『増補版・田中美知太郎全集 22 月報』筑摩書房,1989 年。)
(*)和気史郎「二つの涙」(『増補版・田中美知太郎全集 22 月報』筑摩書房,1989 年。)
(*)岩倉具弘「ティボリの茶会」(『増補版・田中美知太郎全集 22 月報』筑摩書房,1989 年。)
(*)田中博明「最後の授業」(『増補版・田中美知太郎全集 24 月報』筑摩書房,1989 年。)
(*)渡部昇一「田中先生とわれわれ(1)」(『増補版・田中美知太郎全集 24 月報』筑摩書房,1989 年。)
(*)松平千秋他「〈インタヴュー〉西洋古典学会発足の頃(2)田中美知太郎先生に聞く」(『増補版・田中美知太郎全集 24 月報』筑摩書房,1989 年。)
(*)鈴木三郎「故金子武蔵顧問(前理事長)追悼」コムニカチオン 5(5),1989 年。
(*)鈴木三郎『故金子武蔵顧問(前理事長)追悼』日本ヤスパース協会,1989 年。
(*)(参考：森進一「「感じる」ことと「考える」こと」日本及日本人 1593,1989 年。)
(*)藤澤令夫「ギリシア哲学と私」立命館哲学 3,1989 年。
(*)式部久「松本厚先生のこと」広島経済大学研究論集 12(1),1989 年。)
(*)(参考：渡邉雅弘「ギリシア精神史の方法に関する一考察(1-4)」社会科学論集 28-32,1988-1992 年。)
(*)(参考：左近司祥子『はじめての哲学』北樹出版,1989 年。)
(*)(参考：北畠知量「ソクラテス以前の哲学者の知について」同朋大学論叢 61,1989 年。)
(*)(参考：飯田隆「偽テアイテトス—あるいは知識のパラドックス(ゲーデルの宇宙,特集)」現代思想 17(13),1989 年。)
(*)(参考：小沢克彦『プラトンの愛の哲学』高文堂出版社,1989 年。)
(*)(参考：友村(種山)恭子「生と力と知性の希求(1)：プラトニズム再考」文経論叢,人文学科篇 9,1989 年。)
(*)(参考：角田幸彦「プラトン哲学の体系的把握とチュービンゲン学派」明治大学教養論集 21,1989 年。)
(*)(参考：牛田徳子「古代ギリシアにおける σημειον.τεκμηριον」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 21,1989 年。)
(*)(参考：加藤信朗「Zur Interpretation des Eingaugskapitales der Nikomachischen Ethik」(東京都立大学人文学報編集委員会)人文学報 204,1989 年。)
(*)(参考：水地宗明「マルクス・アウレリウスの哲学」彦根論叢(260・261),1989 年.)
(*)(参考：堀田彰『エピクロスとストア』Century books 人と思想 83,清水書院,1989 年。)

(*)(参考：金山弥平「古代懐疑主義をめぐって(海外哲学展望)」理想 642,1989 年。)
(*)(参考：野町啓「古代テキストと解釈」早稲田大学大学院文学研究科紀要 哲学・史学篇 35,1989 年。)
(*)(参考：G.フライレ,T.ウルダノス/山根和平,M・アモロス訳『西洋哲学史(中世 1,2,3,4)』新世社,1989-1997 年。)
(*)(参考：山田晶他『アナロギアと神：トマス・アクィナス,今日の』哲学書房,1989 年。)
(*)山田晶編『思い出の母：山田にひ追想集』新地書房,1989 年。
(*)(参考：石井雅之「ボエティウス「イサゴーゲ注解」における普遍の問題—伝統的認識論との関わりについての予備的考察」中世思想研究 31,1989 年。)
(*)(参考：中村友太郎「「西洋中世哲学」(川田熊太郎論集 3)」中世思想研究 31,1989 年。)
(*)(参考：ピーター・ムルワード,巽豊彦監修・ルネッサンス研究所編『ルネッサンスと新世界』荒竹出版,1989 年。)
(*)(参考：福井一光『ヒューマニズムの時代』未来社,1989 年。)
(*)(参考：ハスキンズ/別宮貞徳・朝倉文市訳『十二世紀ルネサンス』みすず書房,1989 年。)
(*)(参考：D.ヘイ/鳥越輝昭・木宮直仁訳『イタリア・ルネサンスへの招待—その歴史的背景』大修館書店,1989 年。)
(*)(参考：澤井繁男『魔術の復権：イタリア・ルネサンスの陰と陽』人文書院,1989 年。)
(*)(参考：K.レーヴィット/上村忠男・山之内靖訳『学問とわれわれの時代の運命：ヴィーコからウェーバーへ』フィロソフィア叢書 26,未来社,1989 年。)
(*)(参考：下村寅太郎『ライプニッツ研究』みすず書房,1989 年。)
(*)(参考：ハンス ブライテンシュタイン「ヤーコプ・ブルクハルトとイエズス会：学者はいかに大衆の偏見に取り組んだか」（上智大学創立 75 周年記念号）ドイツ語圏研究 6,1989 年。)
(*)(参考：藤田一美「パトスとロゴスの間：ニーチェとフィロロギーとフェノメリスムス」研究 7,1989 年。)
(*)(参考：大石紀一郎「ニーチェにおける〈文献学〉—古典文献学の精神からの〈力への意志〉の解釈学の誕生」外国語科研究紀要 37(1),1989 年。)
(*)(参考：柴田庄一「ニーチェにおけるディオニュソス的なもの：創造論への一つの布石」言語文化論集 10(2),1989 年。)
(*)(参考：ゲプハルト・ヴァルター/松山寿一訳「ニーチェとドイツ観念論：芸術・超越と主観性・形而上学の伝統ならびにニーチェの思考における理想化の破壊によせて」立命館哲学 3,1989 年。)
(*)(参考：中川慎二「「芸術家の形而上学(アーティステンメタフィジーク)」試論：ニーチェの言語認識論批判と「美」の生成について」愛知：φιλοσοφια6,1989 年。)
(*)(参考：辻本勝好「ニーチェにおける〈重力の魔〉について—神なき時代の神」藝文研究 56,1989 年。)
(*)(参考：森谷宇一「芸術の本質と意義：ニーチェの芸術観への一展望」待兼山論叢 美学篇 23,1989 年。)
(*)(参考：笹澤豊「ニーチェの自由論」哲学・思想論集 14,1989 年。)
(*)(参考：河上睦子「ニーチェ「道徳の系譜学」における宗教批判の問題」相模女子大学紀要 53,1989 年。)

(*)(参考：永井均「〈論文〉哲学の極限—ニーチェ的解釈とその帰結」倫理學年報 38,1989 年。)
(*)(参考 : 麦倉達生「初期ニーチェの教育観」滋賀大学教育学部紀要 人文科学・社会科学・教育科学 39,1989 年。)
(*)中村憲治「樗牛とニーチェ(1)」文学部紀要 3,1989 年。
(*)(参考 : 藤田一美「パトスとロゴスの間 : ニーチェのフィロロギーとフェノメナリスムス」研究 7,1989 年。)
(*)(参考：小柳美代子「思索の根源—ハイデガーにおける奥義(Geheimnis)」倫理学年報 38,1989 年。)
(*)(参考 : 佐々木健一・研究代表者『ボワロー詩学 美学的・思想史的研究』佐々木健一,1989 年。)
(*)(参考 : 佐々木健一「作者の誕生 : そのアリバイをめぐる近世美学史」美學 40(3),1989 年。)
(*)(参考：尾関忠雄『西洋思想の源流：哲学と倫理学』杉山書店,1989 年。)
(*)(参考 : Dumezil Georges/福井憲彦訳解説「学問と政治—カロル・ギンズブルグへの返答(思想史・再考,特集)」思想 754,1989 年。)
(*)金子伝太郎編『追想金子武蔵』金子伝太郎,1989 年。)
(*)(参考：谷克二『暗号名(コードネーム)はトロイの木馬』徳間書店,1989 年。)
(*)(参考：向山宏「報告 デーモスとトリッテュス—前 508/7 年の改革のオリジナリティをめぐって(1988 年度[西洋史研究部会]大会共通論題報告—ギリシア・ローマにおける家・小共同体と国家」西洋史研究 18,1989 年。)
(*)(参考：伊藤貞夫「報告 フラトリ・ポリス(1988 年度[西洋史研究部会]大会共通論題報告—ギリシア・ローマにおける家・小共同体と国家」西洋史研究 18,1989 年。)
(*)(参考：岩井経男「報告 同盟市戦争後のイタリアをめぐる諸問題—ローマ市民権(要旨)(1988 年度[西洋史研究部会]大会共通論題報告—ギリシア・ローマにおける家・小共同体と国家」西洋史研究 18,1989 年。)
(*)(参考：島田誠「報告 ローマ市民にとっての「国家」--プテオリにおける「国家」と諸集団(1988 年度[西洋史研究部会]大会共通論題報告—ギリシア・ローマにおける家・小共同体と国家」西洋史研究 18,1989 年。)
(*)(参考：向山宏「討論(1988 年度[西洋史研究部会]大会共通論題報告—ギリシア・ローマにおける家・小共同体と国家」西洋史研究 18,1989 年。)
(*)(参考：安井萌「ローマ共和政末期におけるポプラーレースとその政治的手法」西洋史研究 18,1989 年。)
(*)大戸千之・南川高志「弓削達・伊藤貞夫編「ギリシアとローマ—古典古代の比較史的考察」」史学雑誌 98(12),1989 年。
(*)林信夫「〈書評〉弓削達・伊藤貞夫編「ギリシアとローマ—古典古代の比較史的考察」」法制史研究 1989(30),1989 年。
(*)太田秀通「「ギリシアとローマ—古典古代の比較史的考察」弓削達・伊藤貞夫編」歴史学研究 597,1989 年。
(*)(参考：ピーター・コノリー,L.E.ユンケル著；ピーター・コノリーイラスト/福井芳男・木村尚三郎訳『ギリシア軍の歴史』東京書籍,1989 年。)
(*)(参考：ピーター・コノリー,クリスティーヌ・ジョリエ著；ピーター・コノリーイラス

ト/福井芳男・木村尚三郎訳『ローマ軍の歴史』東京書籍,1989 年。)
(*)(参考：ピーター・コノリー,パトリック・レステリーニ著；ピーター・コノリーイラスト/福井芳男・木村尚三郎訳『イエス・キリストの時代』東京書籍,1989 年。)
(*)(参考：キース・アディ著/木村尚三郎・福田素子訳『ナポレオン』西村書店,1989 年。)
(*)(参考：藤縄謙三『歴史の父ヘロドトス』新潮社,1989 年。)
(*)(参考：柳沼重剛「ヘロドトスとトゥキュディデスの記述文と描写文」文藝言語研究・文藝篇 17,1989 年。)
(*)(参考：プルターク著/谷沢永一訳『新・プルターク英雄伝』大修館書店,1989 年。)
(*)(参考：新村祐一郎「スパルタ王クレオメネス 1 世とその時代」大谷学報 69(2),1989 年。)
(*)(参考：後藤田正晴・塩野七生「政治的人間の宿命」中央公論 104(2),1989 年。)
(*)(参考：塩野七生『海の都の物語：ヴェネツィア共和国の一千年(上下)』新潮文庫,1989 年。)
(*)(参考：塩野七生「人間の生きざまを私見を交えずに描きたい(心を語る)」通産ジャーナル 22(3),1989 年。)
(*)(参考：土井正興「スパルタクスの「反乱」唐「イタリア奴隷戦争」へ―スパルタクス蜂起=イタリア奴隷戦争論構築の試み」歴史学研究 590,1989 年。)
(*)(参考：土井正興「スパルタクスの生い立ちとトラキアにおける反ローマ闘争」専修史学 21,1989 年。)
(*)(参考：モンテスキュー/田中治男・栗田伸子訳『ローマ人盛衰原因論』岩波文庫,岩波書店,1989 年。)
(*)(参考：キース・アデ/木村尚三郎・福田素子訳『ナポレオン』River Books,西村書店,1989 年。)
(*)木全清博「万国史教科書の内容分析(1)：明治初期の民間版万国史教科書の内容」滋賀大学教育研究所紀要 22,1989 年。
(*)木全清博「明治初年の万国史教育の実態：小学校世界史教育の展開と挫折」滋賀史学会雑誌 7,1989 年。)
(*)(参考：上原専禄『ドイツ近代歴史学研究』(旧版：「獨逸近代歴史學研究」弘文堂書店,1944 年)新版,評論社,1989 年。)
(*)宮薗衛「上原専禄の世界史論の展開(1)：「民族の自律性」に焦点を当てて」新潟大学教育学部紀要,人文・社会科学編 30(2),1989 年。
(*)(参考：亀井高孝『標準世界史地図』24 増訂版,吉川弘文館,1989 年。)
(*)(参考：亀井高孝『標準世界史年表』26 増訂版,吉川弘文館,1989 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『要説世界史』再訂版,山川出版社,1989 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『要説世界史：教授資料』再訂版,山川出版社,1989 年。)
(*)(参考：柴野均「ヨーロッパ：現代南欧(1988 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 98(5),1989 年。)
(*)(参考：戸田三三冬「ヨーロッパ：近代南欧(1988 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 98(5),1989 年。)
(*)(参考：相澤隆・河原温「ヨーロッパ：中世西欧(1988 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 98(5),1989 年。)
(*)(参考：古山正人「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1988 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 98(5),1989 年。)

(*)(参考：豊田浩志「ヨーロッパ：古代：ローマ(1988 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 98(5),1989 年。)
(*)(参考：渡邉雅弘「ギリシア精神史の方法に関する一考察(2-4)」社会科学論集 29,/1989 年,31,1991 年/32,1992 年。)
(*)入江隆則『敗者の戦後：ナポレオン・ヒトラー・昭和天皇』(古代ローマ)中公叢書,1989 年(→1998 年,徳間書店版,教養シリーズ。→2007 年,筑摩書房,ちくま学芸文庫版)。
(*)(参考：堀内清治研究代表『地中海建築の設計技法の研究』熊本大学工学部,1989 年。)
(*)(参考：ステファン・A.シュウォルツ/幾島幸子訳『アレクサンドリア・プロジェクト：アレクサンダー大王の謎と古代都市計画』工作舎,1989 年。)
(*)(参考：五島利兵衛「9106 パルテノン神殿の設計手順：場内の平面グリッドからの幾何学的展開・グリッドの派生システム」学術講演梗概集 F.都市計画,建築経済・住宅問題,建築歴史・意匠,1989,1989 年。)
(*)(参考：中村裕文・両角光男・木島安史・花島伸幸「605 3 次元グラフィックスによるパルテノン神殿の表現：遺跡復元 3 次元モデリングシテムの開発(3)(建築歴史･意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部,3,計画系 31,1989 年/建築雑誌 建築年報 1989,1989 年。)
(*)(参考：伊藤重剛「地中海古代都市の研究(44)」日本建築学会研究報告,九州支部3,計画系 31,1989年/建築雑誌 建築年報 1989,1989年。)
(*)(参考：羽生修二「西洋建築史研究の現状と未来(建築歴史・意匠部門研究協議会(2)(昭和63年度大会[関東]報告)」建築雑誌 建築年報 1989,1989年。)
(*)(参考 : 加藤邦男「西洋古代における建築家像 : ウィトルウィウス建築書の解釈を通して」日本建築学会計画系論文報告集 396,1989 年。)
(*)(参考：J.サマーソン/鈴木博之訳『古典主義建築の系譜』(ウィトルウィウス)中央公論美術出版部,新装普及版,1989 年(→1992 年,再版)。)
(*)(参考：篠野志郎『初期キリスト教ローマ帝国に於ける集中形式宗教建築の建築構成：内部立面構成に於ける造形理念』東京工業大学,工学博士,乙第1989号,1989年。)
(*)平田隆一「岩井経男著「ローマ都市制度史研究」」(東北史学会)歴史 73,1989 年。
(*)(参考：「Water Burley Griffin—オーストラリアに 3 つのアルカディアを残した流浪の建築家(オーストラリアの都市と建築—静けさの中の祝祭,特集)」SD293,1989 年。)
(*)(参考：三宅理一『エピキュリアンたちの首都』學藝書林,1989 年。)
(*)(参考：木原武一『大人のための偉人伝(正続)』新潮選書,新潮社,1989 年。)
(*)桜井孝三「幕末における本木昌三の書物と活字(1,2)」印刷雑誌 72(1,2),1989 年。
(*)米澤茂「三田先生の思い出(三田博雄先生を偲ぶ)」愛知 φιλοσφια6,1989 年。
(*)眞方忠道「見れども見えず・・・(同上)」愛知 φιλοσφια6,1989 年。
(*)岩見宏「山と三田[博雄]先生(同上)」愛知 φιλοσφια6,1989 年。
(*)清水正徳「追憶三田博雄先生(同上)」愛知 φιλοσφια6,1989 年。
(*)三田美代子「今、思いのままに・・・なき博雄を偲んで(同上)」愛知 φιλοσφια6,1989 年。
(*)太田愛人「われ山にむかいて目をあぐ(同上)」愛知 φιλοσφια6,1989 年。
(*)「三田博雄教授略歴ならびに著作目録(同上)」愛知 φιλοσφια6,1989 年。
(*)(参考：後藤道夫「“近代科学の源流を探る”ヨーロッパ物理の旅(特別講演「ヨーロッ

パ物理の旅で得たもの」1989 年(平成元年)春季第 36 回応用物理学関係 連合講演会 物理教育シンポジウム報告,学会報告)」物理教育 37(3),1989 年。)
(*)(参考：高木秀男『「プリンキピア」への道—力学史に見る近代科学の誕生』しんふくい出版,1989 年。)
(*)川合葉子「高木秀男『「プリンキピア」への道—力学史に見る近代科学の誕生』しんふくい出版」科学史研究[第 II 期]28(171),1989 年。
(*)(参考：長谷川武雄「音楽のささげもの—アラベスク的・ディオニュソス的・イゾルデ的」精神科学 28,1989 年。)
(*)(参考：ジャンバッティスタ・デッラ・ボルタ/澤井繁男訳『自然魔術』青土社,1989 年。)
(*)(参考：野尻抱影著/原惠編『星の文学誌』野尻抱影の本 2,筑摩書房,1989 年。)
(*)(参考：ローレンス・ライト/高島平吾訳『風呂トイレ讃歌』昌文堂,1989 年。)
(*)(参考：豊田和二「永劫回帰の観念と古代ギリシア人の技術—時間論の観点から」社会科学討究 35(2),1989 年。)
(*)西尾敏彦「イソップ物語風農業研究論(1-10)」農業技術 4(8-10,12),1989 年//45(1,3,5),1990 年//46(3,9,10),1991 年//47(6),1992 年。
(*)(参考：脇田重雄・阪口はるみ・常木晃「古代地中海世界のオリーヴ生産：オリヴィエ・カロ著『北シリアの古代搾油施設』をめぐって」古代文化 41(6),1989 年。)
(*)西脇順三郎「ナタ豆の現実」(未発表。同『雑談の夜明け』講談社学術文庫所収,講談社,1989 年。)
(*)(参考：谷栄一郎「西洋古典の動物,植物について—その同定と和名を考える」(奈良県立短期大学商経科)研究紀要 37(2),1989 年。)
(*)(参考：ステュアート・F.スピッカー,酒井明夫「アスクレピオス神殿におけるアポロンの宿：アメリカの医学倫理教育—その現状と将来の課題」医学哲学・医学倫理 7,1989 年。)
(*)(参考：山本徳子『医学史ものがたり』新興医学出版社,1989 年。)
(*)(参考：F.アレクサンダー/赤林朗訳『心身医学の誕生』中央洋書出版部,1989 年。)
(*)宮坂勝彦編『熊谷岱蔵：ヒポクラテス魂を』銀河書房,銀河グラフィティ,信州人物風土社,1989 年。
(*)(参考：伴義孝「オリンピック博物館(ヨーロッパ便り[1])」体育の科学 39(11),1989 年。)
(*)(参考：川合葉子「高木秀男『「プリンキピア」への道：力学史に見る近代科学の誕生』しんふくい出版,1989 年。)
(*)(参考：渡邊直樹「レッシングと科学—18 世紀ドイツ精神史研究への寄与」外国文学 37,1989 年。)
(*)(参考：矢島祐利「ガズナ王マフムードとアル・ビールーニー：アラビア科学研究ノート(14)」科学史研究・II期28(169),1989年。)
(*)(参考：Bette HilLeman/村上徹訳編『プリニウスの迷信：荒れ狂うフッソ論争』續文堂出版,1989 年。)
(*)池澤夏樹『真昼のプリニウス』中央公論社,1989 年(→1993 年,中公文庫版。)
(*)(参考：加藤守通「フィチーノの技術(ars)論」イタリア学会誌 39,1989 年。)

(*)(参考：カルダーノ/青木靖三・榎本恵美子訳『わが人生の書』現代教養文庫 1310,社会思想社,1989 年。)
(*)(参考：佐々木健「F.ベイコンにおける富と徳：『ニュー・アトランティス』に関する一試論」星薬科大学一般教育論集 7,1989 年。)
(*)(参考：玉木俊明「地中海からバルト海へ―1600 年頃ヨーロッパ経済の中心の移動」文化史学 45,1989 年。)
(*)(参考：永沼博未知「地中海から大西洋へ―ジェノヴァ人のイベリア半島植民」関西大学商学論集 34(5),1989 年。)
(*)(参考：藤縄謙三研究代表『西洋各国および日本における国家統合の社会史的,思想史的研究』藤縄謙三,科学研究費補助金総合研究(A)研究成果報告書,昭和 63 年度,1989 年。)
(*)(参考：金沢良樹「ヘレニズム国家の王権理念と支配の構造(1989 年度歴史学研究大会報告―現代天皇制と世界史認識)―(古代史部会―古代における王権と国家(2)[含 討論要旨]」歴史学研究 599,1989 年。)
(*)(参考：本郷真紹・渡辺信一郎・太田秀通「古代史部会―大平聡「天平期の国家と王権」,豊島静英「漢代の校訂崇拝について」,金沢良樹「ヘレニズム国家の王権理念と支配の構造(1989 年度歴史学研究大会報告批判)」歴史学研究 601,1989 年。」
(*)(参考：小川隆雄研究代表『アレクサンドリアのフィロンにおける倫理および政治思想の研究：族長伝とモーセ伝から見た』島根大学,科学研究費補助金(一般研究 C)研究成果報告書,昭和 62 年度,1989 年。)
(*)(参考：鷲田哲夫「Les loisirs en Grece et a Rome/Jean –Marie Andre(1984)―古典古代における「暇」とレジャー」(早稲田大学比較文学研究室)比較文学年誌 25,1989 年。)
(*)(参考：河村将直「古典古代社会の救済思想及び制度の研究」佛教大學大學院研究紀要 17,1989 年。)
(*)(参考：エレーヌ=アルヴェレーレ/尚樹啓太郎訳『ビザンツ帝国の政治的イデオロギー』東海大学出版会,1989 年。)
(*)松井幸子「「佳人之奇遇」巻 16―対露警戒論」山口大学教養部紀要 23,1989 年。
(*)(参考：関曠野「「法」と「学」と「教育」の三位一体―プラトンからトルーマンまで(消費される〈大学〉〈特集〉)」現代思想17(8),1989年。)
(*)(参考：上杉健太郎「A.D.リンゼイの政治理論：信念・道徳・国家」産能大学紀要10(2),1989年。)
(*)(参考：橋場弦「森村進著『ギリシア人の刑罰観』木鐸社,1988」史學雑誌98(6),1989年。)
(*)(参考：橋場弦‘OSTWALD,M.,From Popular Sovereignty to the Sovereignty of Law：Law, Society,and Politics in Fifth-Century Athens.,University of Calofornia Press,1986’西洋古典學研究37,1989年。)
(*)一柳俊夫「書評 橋場弦著「古典期アテナイにエイサンゲリア(弾劾裁判)について―その手続きと民主政における意義」(史学雑誌第96編7号)」法制史研究38,1989年。)
(*)「世良晃志郎先生を偲んで[含略歴・著作目録]」法制史研究39,1989年。)
(*)(参考：小室金之助『法律家シェイクスピア』新潮選書,新潮社,1989年。)

(*)(参考：田口卯吉著・鼎軒田口卯吉全集刊行会編輯『文明史及社会論』復刻・鼎軒田口卯吉全集2,吉川弘文館,1990年。)
(*)(参考：上山春平『受容と創造の軌跡：日本文明史の構想』日本文明史1,角川書店,1990年。)
(*)スティーブン・ニューマン/山村宜子訳『世界一周徒歩旅行』心交社,世界紀行冒険選書3,1990 年。
(*)ロナルド・シンクレア/山村宜子訳『ペルシア冒険紀行』心交社,世界紀行冒険選書 3,1990年。
(*)村上春樹文・松村映三写真『アトス—神様のリアル・ワールド』雨天炎天,新潮社,1990年。
(*)電通 PR センター日本版編集『世界あっちこっち YH ガイドブック』(「1.ヨーロッパ・地中海編」)日本ユース・ホステル協会,1990 年。)
(*)(参考:フェルナン・ブローデル編/神沢栄三訳『空間と歴史』地中海世界 1,みすず書房,1990年。)
(*)池澤寛担当編集『地中海のリゾート』Process：architecture88, プロセスアーキテクチュア,1990 年。)
(*)入江隆則『グローバル・ヘレニズムの出現：世界は「江戸化」する』教文選書,日本教文社,1990 年。
(*)塚本邦雄『伊太利亜逍遙遊』文学・芸術・文化：近畿大学文芸学部論集 1(1),1990 年。
(*)辻邦生『地中海幻想の旅から』レグルス文庫 187,第三文明社,1990 年。
(*)佐伯和子『地中海ふたたび』ちくまブリマーブックス 36,筑摩書房,1990 年。
(*)地中海学会編・牟田口義郎監修『地中海文化の旅(1-3)』河出文庫,河出書房新社,1990 年。
(*)(参考：山道佳子・森枝雄司『バルセローナ：地中海のざわめき』洋泉社,1990 年。)
(*)(参考：金子史朗『レバノン杉のたどった道：地中海文明からのメッセージ』原書房,1990年。)
(*)大村次郷文・写真『地下につくられた町・カッパドキア』月刊たくさんのふしぎ 64,福音館書店,1990 年。
(*)(参考：クリスタソルベ/原田武子訳『エフェソス：栄光の古代都市』Hitit Cobr,1990 年。)
(*)(参考：三橋冨治男『トルコの歴史』世界史研究双書 26,近藤出版社,1990 年。)
(*)岩波書店編集部,岩波映画製作所編,江上波夫写真『地中海の史跡めぐり』岩波写真文庫97,岩波書店,1990 年。
(*)(参考：山川偉也編『古代地中海世界三千年の旅』へるめす書房,1990 年(山川偉也「トロイ物語」「アクラガスのエムペドクレス」「デルフォイのアポロンとその神託」「アテネのアクロポリス」「アテネのアゴラとソクラテス」[→2010 年,『ギリシア思想のオデュッセイア』所収,世界思想社。)
(*)(参考：馬場恵二「パウサニアス『ギリシア案内記』研究—パウサニアスと古代アテネ市内地誌」明治大学人文科学研究所紀要・別冊 10,1990 年。)
(*)(参考：要弘「アルカディアの消滅—The Pastures of Heaven について」英米文学 38,1990年。)
(*)(参考：サー・フィリップ・シドニー「アルカディア(1-5)」コルヌコピア 1(創刊号),1990年/2,1991 年/3,1992 年/5,1994 年/6・7,1997 年。)

(*)(参考：スタンダール/臼田紘訳『イタリア紀行：1817 年のローマ・ナポリ・フィレンツェ』新評論,Shihyouron Selection 39,1990 年。)
(*)(参考：鈴木宜則「ルネサンス 3 つのユートピア--「ユートピア」,「太陽の都」,「新アトランティス」」松山大学論集 285),1990 年。)
(*)『ギリシア・エーゲ海の旅』ビデオデータ,ポリドール(発売・販売),1990 年。
(*)『世界紀行 ギリシア』ビデオデータ,ポリドール(発売・販売),1990 年。
(*)(参考：ブリタニー・ヤング/福島純子訳『エーゲ海へふたたび』シルエットロマンス,ハーレクイン,1990 年。)
(*)(参考：TBS『謎のエーゲ海：アトランティス幻想』パックインミュージック(発売),1990 年。)
(*)TBS：パック・イン・ビデオ(発売)『謎のエーゲ海：アトランティス幻想』新世界旅行,ビデオレコード,1990 年前後。
(*)(参考：佐々木君紀『アトランティス(上下)』リム出版,エーブイエス(発売),1990 年。
(*)畑総一、芝浦工業大学建築工学科畑研究室著/栗原宏光写真/平良敬編『エーゲ海：キクラデスの光と影：ミコノス・サントリーニの住まいと暮らし』建築資料研究社,1990 年。
(*)『ギリシア・エーゲ海の旅』ビデオレコード,ポリドール(発売・販売),1990 年。
(*)『エーゲ海』(細野晴臣・鈴木茂・山下達郎)録音ディスク,ソニーレコード,1990 年。
(*)山崎武敏・撮影「エーゲ海はクルージング・パラダイス」Kazi：ヨット,モーターボートの雑誌 56(11),1990 年。
(*)(参考：畑聡一,芝浦工業大学建築工学科畑研究室・栗原宏光写真・平良敬一編『エーゲ海・キクラデスの光と影：モコノス・サントリーニの住まいと暮らし』建築資料研究社,1990 年。)
(*)(参考：青柳正規・NHK 取材班責任編集『ギリシャ・パルテノンの栄光』日本放送出版会,NHK 大英博物館 3,1990 年。)
(*)(参考：企画・制作 NHK,クラレ『ギリシア・パルテノンの栄光：われ“人間”を刻めり』大英博物館 3,NHK スペシャル,ビデオレコード,ポリスター(発売),1990 年。)
(*)TBS パック・イン・ミュージック(発売)『地中海大紀行 : 幻のカルタゴ』新世界紀行,1990 年前後。
(*)『チェニジア：カルタゴの夢』フロンティア 105,地球の歩き方編集室,ダイヤモンド・ビッグ社 1990 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イスタンブールとトルコの大地』ダイヤモンド・ビッグ社,1990-91 年。
(*)陣内秀信・水谷潤編『トルコ都市巡礼』プロセスアーキテクチュア 93,1990 年。
(*)(参考：安田喜憲『トルコ・ギリシアの気候・植生変遷史と文明の盛衰』国際日本文化研究センター,広島大学 1988 年,(科研費)1990 年。)
(*)(参考：井上俊郎「イスタンブールとペルセポリス」鶴見大学紀要 第 3 部 保育・歯科衛生編 27,1990 年。)
(*)(参考：若山慈『ローマと長安—古代世界帝国の都』講談社現代新書,1990 年。)
(*)(参考：今沢浩二「批評と紹介 ヤシュール=ユジェル『ティムールの中東・アナトリア遠征とその結果(1393-1402)』」東洋学報：東洋文庫和文紀要 71(3・4),

1990 年.)
(*)鈴木康弘「ボスフォラスを超えて(6)アナトリアの旅(上)半乾燥の風景」地理 35(2),1990 年。
(*)鈴木康弘「ボスフォラスを超えて(7)アナトリアの旅(下)古代の遺産」地理 35(4),1990 年。
(*)鈴木康弘「ボスフォラスを越えて(8)魅惑の街イスタンブール」地理 35(5),1990 年。)
(*)饗庭孝男「幻想の都市(2,3)アドリア海との婚姻：ヴェネツィア」新潮 87(3,5),1990 年。
(*)(参考：バリシァ・クレキッチ/田中一生訳『中世都市ドゥブロヴニク：アドリア海の東西交易』叢書東欧 2,彩流社,1990 年。)
(*)ボイド真理子「日本におけるヴァージニア・ウルフ研究」ソフィア 39(1),1990 年。
(*)(参考：田中仁彦「〈書評〉ルネサンス芸術開花の土壌」ソフィア 39(3),1990 年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(2)バイロンと先行の 4 人の文学者」人文研究 106,1990 年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(3)スタンダール,バイロン,そしてヴェネツィアの〈陽気さ〉と〈圧制〉」人文研究 107,1990 年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(4)プロテスタントの「古典学者」トマス・コリヤットの見た 1608 年のヴェネツィア」人文研究 108,1990 年。)
(*)(参考：小西永倫「晩年に向かうロレンス--「エトルリアの遺跡」を中心に」愛媛大学教養部紀要 23(3),1990 年。)
(*)(参考：ヴェルナー・ケラー/坂本明美訳『エトルリア—ローマ帝国に栄光を奪われた民族』佑学社,1990 年。)
(*)(参考：朝日新聞東京本社文化企画部編『エトルリア文明展：最新の発掘と研究による全体像』朝日新聞社,1990 年。)
(*)(参考：勝又俊雄「プレ・マリン・スタイル段階における蛸のモチーフの形成と図像学的発展」待兼山論叢 24(美学),1990 年。)
(*)(参考：辻原康夫『世界の地名つれづれ紀行』朝日新聞社,ミューブックス,1990 年。)
(*)(参考：オギュスタン・ベルク/篠田勝英訳『日本の風景・西欧の景観—そして造景の時代』講談社現代新書,1990 年。)
(*)(参考：佐竹明「古代地中海世界における東西文化交流—ユダヤ人を例として」内海文化研究紀要(18・19),1990 年。)
(*)(参考：村主恵快「ヤバナ(Yavana)—イオニア人(Ionians)：ペルシア人を介した古代インド人とイオニア人植民地との史的関連」東洋文化学科年報 5,1990 年。)
(*)(参考：石川勝二「古代のイタリアにおける異文化接触」(平成元年度科学研究費,総合研究(A)研究成果報告書,「西洋における異文化接触の史的研究」,1990 年。)
(*)(参考：東京都庭園美術館編『古代ギリシヤ美術展：Mind and Body』読売新聞社,1990 年。)
(*)(参考：H.W.ジャンソン著/村田潔訳『美術の歴史(1,2)』5 版,美術出版社,1990 年。)
(*)(参考：高田邦彦「ローマ文明の世界史的意義」(刀水書房)比較文明 6,1990 年。)
(*)(参考：入江隆則『グローバル・ヘレニズムの出現：世界は「江戸化」する』教文選書,日本教文社,1990 年。)
(*)(参考：夜久正雄「比較文明二題(日欧禊神話と日希編年代史)(清水徳蔵教授退任記念号)」アジア研究所紀要 17,1990 年。)
(*)(参考：川久保輝興「近世におけるヨーロッパと日本・中国：東西文化交流史の試み(第ニ報)」大阪教育大学紀要 I,人文科学 39(1),1990 年。)

(*)(参考 : 趙建民「中日両国における外来文化摂取の歴史的考察—近代ヨーロッパの文化摂取を中心として(東西交渉史,特集)」(別府大学)史学論叢 20,1990 年。)
(*)(参考 : 栗田功編『佛陀の世界』古代仏教美術叢刊・ガンダーラ美術,二玄社,1990 年。)
(*)(参考 : 桑山正進『カーピシー=ガンダーラ史研究』京都大學人文科學研究所,1990 年。)
(*)(参考 : 山本智教『インド美術史大観(本文篇・写真篇)』毎日新聞社,1990 年。)
(*)中島国彦「実感・美感・感興—近代文学に描かれたる感受性(20)古寺巡礼の季節—幸雄,哲郎,杢太郎の奈良体験」早稲田文学[第 8 次]173,1990 年。
(*)(参考 : 田中英道『イタリア美術史 : 東洋から見た西洋美術の中心』岩崎美術社,1990 年。)
(*)(参考 : 天野一夫「フェノロサの西洋美術史観(上下)」Lotus : 日本フェノロサ学会機関誌 10,1990 年/24,2004 年。)
(*)(参考 : 西堀昭編『日仏文化交流年表』改訂版,駿河台出版,1990 年。)
(*)山内昶「松浦文書断簡—日欧文化交流史の一齣」甲南大学記紀要,文学編 79,1990 年。)
(*)(参考 : 鯖田豊之『火葬の文化』新潮選書,新潮社,1990 年。)
(*)(参考 : ハンス・ペータ・デュル/三谷尚子他訳『裸体とはじらいの文化史』法政大学出版局,1990 年。)
(*)久米邦武『史学・史学方法論』久米邦武歴史著作集 3,吉川弘文館,1990 年。
(*)(参考 : 高橋正「南蛮世界地図屏風研究小史補論—カエリウス系について」待兼山論叢 24(日本学),1990 年。)
(*)(参考 : フィリップ P.ウィーナー編/荒川幾男ほか日本語版編集『西洋思想大辞典』4 巻+別巻,平凡社,1990 年。)
(*)(参考 : 佐藤直助・平田耿二編『世界人名辞典』(日本編・西洋編・東洋編)東京堂出版,新版増補版,1990-94 年(→1993-98 年,新版増補版 3 版[日本編・西洋編]。→1996 年,新版増補版 3 版[日本編・西洋編]。→2000 年,新版増補版 5 版[日本編・西洋編]。)
(*)(参考 : 江川卓他編『新撰世界文学辞典』新潮社,増補改訂,1990 年。)
(*)『西洋思想大事典』(1-4 巻,別巻)平凡社,1990 年。
(*)池澤夏樹「西洋思想大事典(本巻 4 巻,別巻索引 1 巻)--「西洋思想大辞典」書評 事典の試み」文學界 44(11),1990 年。
(*)朝日新聞社編『現代日本「朝日人物事典」』朝日新聞社,1990 年。)
(*)三浦一郎「〈随想〉書物について」(上智大学)ソフィア 39(1),1990 年。
(*)水野有庸「辞書,文献,詩人」大谷大学図書館報「書香」11,1990 年。)
(*)(参考 : 西村貞二『フンボルト』人と思想 86,清水書院,1990 年(→2015 年,新装版。)
(*)(参考 : ジョルジュ・ジャン著/高橋啓訳『文字の歴史』創元社,1990 年。)
(*)今津藤一「古典ギリシア語と現代日本語のアクセン構造の対照的研究」九州女子大学紀要 人文社会科学編 26(1),1990 年。
(*)(参考 : 伊藤利行「ヘブライズムとギリシア語聖書」基督教学研究 11,1990 年。)
(*)(参考 : 風間喜代三『ことばの身体誌—インド・ヨーロッパ文化の原像へ』平凡社,1990 年。)
(*)(参考 : 小川正廣「アイルランドの古典学の伝統」京都産業大学国際言語科学研究所所報 11,1990 年。)
(*)(参考 : 小川正廣「中世におけるラテン語写本について」京都産業大学国際言語科学研究所所報 11,1990 年。)

(*)(参考：大城光正・吉田和彦『印欧アナトリア諸語概説』大学書林,1990 年。)
(*)(参考：遠山一郎「ラテン言語学と一般言語学」ヨーロッパ文学研究 27,1990 年。)
(*)(参考：山田邦和「シャンポリオンの墓をたずねて」古代文化 42(6),1990 年。)
(*)(参考：島田誠「地中海世界における諸言語」歴史評論 48,1990 年。)
(*)(参考：河底尚吾『ギリシア語入門』秦流社,1990 年(→1997 年,改訂新版。)
(*)(参考：野口誠『聖書ギリシア語入門』改訂新版,いのちのことば社,1990 年。)
(*)(参考：水谷智洋『古典ギリシア語初歩』岩波書店,1990 年。)
(*)(参考：『レオの聖書：ギリシア語旧約聖書』Belser Verlag,岩波書店,1990 年。)
(*)(参考:鴨瀬昌幸「聖書ギリシア語とゴート語の対照研究(1,2)迂言的未来表現について[正続]」(広島大学教育学部)プロピレア 2,1990 年/3,1991 年。)
(*)(参考:志田信男「医学・薬学ラテン文法教程(4)」東京薬科大学一般教育研究紀要 10,1990 年。)
(*)『重山文庫目録』新村出記念財団,1990 年。
(*)山梨英和短期大学付属図書館編『山梨英和短期大学門脇[清]文庫目録：1987 年末現在』山梨英和短期大学,1990 年。
(*)『住谷悦治文庫目録』群馬県図書館,1990 年。
(*)(参考：水地宗明『注解マルクス・アウレリウス『自省録』』法律文化社,1990 年。)
(*)Kobayashi,Kozue(小林標)‘La Cultura Clásica y el Japón’西洋古典論集 7,1990 年。
(*)(参考:片山英男研究代表『西洋古典文学における写本伝承史と本文校訂論の実証的研究』東京大学文学部西洋古典学研究室,1990 年。)
(*)(参考：Sesto Prete/三間晶夫訳「古典文献学の苦い 1 ページ」鹿児島純心短期大学紀要 20,1990 年/22,1992 年/23,1993 年)。)
(*)杉本つとむ『長崎通詞ものがたり』創拓社,1990 年。
(*)佐藤全弘「思想の翻訳・翻訳の思想」近代風土 36,1990 年。
(*)保坂忠信『評伝 永峰秀樹：明治初期翻訳・文化功労者』リーベル出版,1990 年。
(*)「渡部昇一教授略歴・業績(渡部昇一教授還暦記念)」英文学と英語青年 27,1990 年。
(*)道家弘一郎「新井白石『西洋紀聞』--自然神学の可能性について」聖心女子大学論叢 75,1990 年。
(*)(参考：水野信男責任編集『世界宗教・民族宗教編』(大東純子「ギリシャ正教徒(ギリシャ人)の儀礼：オリンポス村を例として」)[藤井知昭・櫻井哲男他編「民族音楽叢書 4」,儀礼と音楽 1,東京書籍,1990 年。)
(*)(参考:エリアーデ/石井忠厚訳『1937—1960 年の回想：冬至の収穫』エリアーデ回想(下),未来社,1990 年。)
(*)(参考：清水憲男「〈書評〉回帰の神話「詩は絵の如く」」ソフィア 38(4),1990 年。)
(*)(参考：村松仙太郎「異教論」いわき明星大学人文学部研究紀要 1(3),1990 年。)
(*)(参考：久保田周「〈書評〉M=L・フォン・フランツ『世界創造の神話』(大阪キリスト教学院 85 年記念号)」神学と人文：大阪基督教学院・大阪基督教短期大学研究論集 30,1990 年。)
(*)(参考：秋山卓也「神話と予言：ヘルダーリンの『故郷』」文学語学論集 4,1990 年。)
(*)(参考：三宅新三「ホーフマンスタールと古代(2)：「エレクトラ」における精神分析学と神話学」岡山大学教養部紀要 281990 年。)
(*)(参考：石川克知「トーマス・マンにおける神話の問題」言語文化部紀要 18,1990 年。)

(*)(参考：前野みち子「アムピュトリオーン神話の転形(前後)：名誉をめぐる広場の考察」言語文化論集 11(2),12(1),1990 年。)
(*)(参考：佐原隆雄「フローベール『サラムボー』に於けるアドニス神話とその展開に就いて」フランス語フランス文学研究 57,1990 年。)
(*)(参考：遠藤文彦「ロラン・バルト 記号と倫理—神話学,その理論的諸問題」文化 54(1・2),1990 年。)
(*)(参考：野村美佐子「『フェードル』--悲劇と神話」八戸大学紀要 9,1990 年。)
(*)(参考：木原謙一「クフーリンの死—イェイツの「ヴィジョン」と神話の崩壊」文学研究 87,1990 年。)
(*)(参考：近藤啓子「The Waste Land の宗教性再考：神話,キリスト教との関わり」日本女子大学紀要,人間社会学部 1,1990 年。)
(*)(参考：高岡幸一「『創世記』に現れる「謎の人物」及び『アエネイス』における「オスティア上陸」をめぐって—比較神話学的一考察」言語文化研究 16,1990 年。)
(*)(参考：大林太良「神話：4300」国立民族学博物館研究報告・別冊 11,1990 年。)
(*)(参考：ブルフィンチ/野上弥生子訳『ギリシア・ローマ神話』特装叛,岩波少年文庫創刊 40 年記念 23,岩波書店,1990 年。)
(*)(参考：岩谷智「『ヘルメス讃歌』における神話テーマと物語の型」西洋古典論集 7,1990 年。)
(*)(参考：富士川義之「アポロンとディオニュソス(1-3)(世紀末的魂と夢)」ユリイカ 22(1,2,3),1990 年。)
(*)(参考：毛利晶「碑文史料から見たローマのウィーコマギステル」史學雑誌 99(8),1991 年。)
(*)(参考：小林利延「ボッティチェリ〈ヴィーナスの誕生〉：〈メラグラーナの聖母〉との関連における視線の意味」文星紀要 2,1990 年。)
(*)(参考：許光俊「「毛皮を着たヴィーナス」とマゾヒズム」人文学報 215,1990 年。)
(*)(参考：B.エヴスリン/喜多元子訳『トロイア戦争物語』現代教養文庫,社会思想社,1990 年。)
(*)(参考：曽野綾子・田名部昭『ギリシアの英雄たち』講談社,1990 年。)
(*)(参考：小川英雄「ミトラス教起源論の諸問題」オリエント 33(1),1990 年。
(*)(参考：高岡幸一「『創世記』に現れる「謎の人物」及び『アエネイス』における「オスティア上陸」をめぐって—比較神話学的考察」言語文化研究 16,1990 年。)
(*)(参考：『レオの聖書：ギリシア語旧訳聖書』岩波書店,Belser Verlag[reproductor],1990 年。)
(*)(参考：伊藤利行「ヘブライズムとギリシア語聖書」基督教学研究 11,1990 年。)
(*)(参考：曽野綾子『聖書の中の友情論』読売新聞社,1990 年(→1994 年,新潮文庫版)。)
(*)(参考：塚本虎二『最後週間』イエス伝研究 6,聖書知識社,1990 年。)
(*)(参考：塚本虎二『受難』イエス伝研究 7,聖書知識社,1990 年。)
(*)(参考：塚本虎二『復活ヨハネ福音書』イエス伝研究 8,聖書知識社,教文館(発売),1990 年。)
(*)(参考：高橋三郎『マタイ福音書講義(上中下)』教文館,1990 年。)
(*)(参考：ハンス・コンツェルマン/小河陽訳『異教徒・ユダヤ教徒・キリスト教徒：ヘレニズム—ローマ時代の文献に現われる論争』新地書房,1990 年。)
(*)(参考：小友聡「〈研究例会発表要旨〉ユダヤ教とヘレニズムの相剋：伝道の書の「空」をめぐって」比較思想研究 17,1990 年。)

(*)(参考 : H.ヘスター/永田竹司訳『初期キリスト教の歴史と文献』新しい新約聖書概説(下),新地書房,1990 年。)
(*)(参考 : 小林稔「ヨハネ教団の宇宙論的視野—序文解釈の変遷(1989 年度聖書講座〈新しい創造と救い〉」世紀 487,1990 年。)
(*)(参考 : 高橋正男『旧約聖書の世界—アブラハムから死海文書まで』時事通信社,1990 年。)
(*)(参考 : 大貫隆「マルコの民衆神学—安炳茂氏との対話」富坂キリスト教センター編『民衆が時代を拓く—民衆神学をめぐる日韓の対話』所収,新教出版社,1990 年。)
(*)(参考 : 保坂高殿「殉教者称号の成立とローマ帝国のキリスト教政策」宗教研究 64(3),1990 年。)
(*)(参考 : 岩波書店編集部編・岩波映画製作所写真『聖母マリア』岩波写真文庫(復刻ワイド版)、岩波書店,1990 年。)
(*)(参考 : ブルス・ベルナルド/池田敏雄訳『巨匠たちのマリア : 12 世紀から 18 世紀における聖母画撰集』中央出版社,1990 年。)
(*)(参考 : 聖グレニヨン・ド・モンフォール/山下房三郎訳『聖母マリアへのまことの信心』第 2 版,愛心館,1990 年。)
(*)(参考 : SMP.ガブリエル/伊達カルメル会訳『聖マリアと聖ヨセフ』聖母文庫,聖母の騎士社,1990 年。)
(*)(参考 : 土岐正策・土岐健治訳『殉教者列伝』教文館,1990 年。)
(*)(参考 : P.ファンデンベルク/平井吉夫訳『ネロ—皇帝にして神,芸術家にして道化師』河出書房新社,1990 年。)
(*)(参考 : ジョン・ボズウェル/大越愛子・下田立行訳『キリスト教と同性愛—1~14 世紀西欧のゲイ・ピープル』国文社,1990 年。)
(*)(参考 : 松本宣郎「古代末期のローマ帝国とキリスト教—コンスタンティヌスからコンスタンティウス 2 世へ」(佐藤伊久男・松本宣郎編『歴史における宗教と国家—ローマ世界からヨーロッパ世界へ』所収,南窓社,1990 年。)
(*)(参考 : 松本宣郎「古代末期地中海世界とキリスト教—心性史的考察の試み」地中海学研究 13,1990 年。)
(*)(参考 : 足立広明「「聖人伝」に現れる捌くの苦行僧—古代末期東地中海世界の社会変容におけるその役割」史林 72(5),1990 年。)
(*)(参考 : Philo of Alexandria/山崎秋夫訳「アレクサンドリアのクレメンス「神の不変性について(1-3)」阪南論集,人文・自然科学編 25(4),26(1),1990 年/26(3),1991 年。)
(*)(参考 : ブルス・ベルナルド/池田敏雄訳『巨匠たちのマリア : 12 世紀から 18 世紀における聖母画撰集』中央出版社,1990 年。)
(*)(参考 : J.ダニエル/上智大学中世思想研究所編訳『初代教会』講談社,キリスト教史 1,1990 年。)
(*)(参考 : H.I.マルー/上智大学中世思想研究所編訳『教父時代』講談社,キリスト教史 42,1990 年。)
(*)(参考 : M.D.ノウルズ他/上智大学中世思想研究所編訳『中世キリスト教の成立』講談社,キリスト教史 3,1990 年。)
(*)(参考 : 辻佐保子『天使の舞いおりるところ』岩波書店,1990 年。)
(*)(参考 : 井上浩一『生き残った帝国ビザンティン』講談社現代新書,1990 年。)

(*)川島秀一「『黄色い人』論：遠藤周作ノート(6)」民主文学 295,1990 年。
(*)上総英郎『十字架を背負ったピエロ：狐狸案庵先生と遠藤周作』朝文社,1990 年。
(*)(參考：S.K.ヘニンガー,Jr./山田耕士他訳『天球の音楽—ピュタゴラス宇宙論とルネサンス詩学』クリテリオン叢書,平凡社,1990 年。)
(*)(參考：西川亮編『時代の課題と哲学者』渓水社,1990 年。)
(*)(參考：廣川洋一『ギリシア人の教育：教養とは何か』岩波新書,1990 年。)
(*)(參考：廣川洋一「〈知の旅〉考：ソクラテス以前の哲学者たちの場合(柳沼重剛先生退職記念号)」文学研究論集 7,1990 年。)
(*)(參考：保坂幸博『仮面をとったソクラテス—哲学者とその妻の不思議』広済堂出版,1990 年。)
(*)(參考：森進一「プラトンの箴言」日本及日本人 1599,1990 年。)
(*)(參考：牛田徳子「アリストテレスにおける「存在」と「一」の概念の考察」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 22,1990 年。)
(*)(參考:水地宗明「自明なるものの追求—古代ギリシア哲学の場合」松山大学論集 2(5),1990 年。)
(*)(參考：藤谷道夫「ルクレティウスにおける ηδονη(柳沼重剛先生退官記念)」(筑波大学比較・理論文学会)文学研究論集 7,1990 年。)
(*)(參考：西川亮『ヘレニズム期における原子論の文献学的研究』広島大学(1988 年),(科研費)1990 年。)
(*)(參考：長谷川博隆『古代ローマの「死」についての的研究』名古屋大学(1989 年),(科研費)1990 年。)
(*)(參考：瀧川好庸「〈展望〉キリスト教ヒューマニズム再考」ソフィア 39(3),1990 年。)
(*)(參考：H-J.カイザー/小坂康治訳『アウグスティヌス—時間と記憶』新地書房,1990 年。)
(*)(參考：家入敏光『キリスト者・聖アウグスティヌス—キリスト教的雄弁家論』エンデルレ書店,1990 年。)
(*)(參考：榎田達美「シュライエルマッヘルにおける「独自性」の問題」神戸女子大学紀要・文学部篇 23(1),1990 年。)
(*)(參考：岡崎文明「『原因論』における善一者,有,知性者—プロクロス及びトマス・アクィナスとの関係において」中世哲学研究 9,1990 年。)
(*)(參考：ジャンバッティスタ・ヴィーコ/福鎌忠恕訳『自叙伝』叢書ウニベルシタス 289,法政大学出版局,1990 年(→2015 年,新装版。)
(*)(參考：福鎌忠恕「「地上の国」の神学—ヴィーコ「新科学」の成立」アジア・アフリカ文化研究所研究年報 25,1990 年。)
(*)(參考：加藤尚武他『ヘーゲル：時代との対話』講座ドイツ観念論 5,弘文堂,1990 年。)
----藤田正勝「ヘーゲルとヘルダーリン」
柴田隆行「哲学史概念の成立」
(*)(參考：久保正彰「第 9 回国際西洋古典学連合会 FIEC 総会および大会に出席して」西洋古典學研究 38,1990 年。)
(*)(參考:山川偉也「第 1 回国際ギリシア哲学会議についての報告」西洋古典學研究 38,1990 年。)
(*)(參考：岡道男「Mommsen-Gesellschaft 第 20 回大会について」西洋古典學研究 38,1990 年。)

(*)(参考：中西進・松村昌家編『日本文学と外国文学：入門比較文学』英宝社,1990 年。)
(*)(参考：沓掛良彦『サッフォー：詩と生涯』東北大学,文学博士,乙第 5380 号,1990 年。)
(*)(参考：三枝和子『男たちのギリシア悲劇』福武書店,1990 年。)
(*)(参考：『集英社ギャラリー「世界の文学」1(古典文学集)』集英社,1990 年。)
(*)(参考：山形治江『古代ギリシャ劇観劇ガイドブック：悲劇 32 編・喜劇 11 編・サチュロス劇 1 編 全作品のあらすじと観劇のポイント』山形治江,1990 年。)
(*)(参考：山形治江「日本のギリシャ悲劇・ギリシャ人のギリシャへ劇—アテネ海外公演劇評報告(比較演劇研究,特集)」演劇学 31,1990 年。)
(*)森進一「Simple is best--『ギリシア悲劇全集』(岩波書店)刊行への期待」文化会議 256,1990 年。)
(*)細井雄介「東京大学ギリシア悲劇研究会」(『ギリシア悲劇全集 5』「月報 1」),1990 年。
(*)中村真一郎「私たちの青春のギリシア悲劇」(『ギリシア悲劇全集 8』「月報 4」),1990 年。
(*)岩田靖夫「ミュケーナイ城の回想」(『ギリシア悲劇全集 8』「月報 4」),1990 年。
(*)大笹吉雄「ギリシア悲劇と歌舞伎」(『ギリシア悲劇全集 8』「月報 4」),1990 年。
(*)(参考：渡辺浩司「アリストテレスの『詩学』における「悲劇に固有の快」」フィロカリア 7,1990 年。)
(*)(参考：松尾力雄「古代ギリシア悲劇について—プラトンとアリストテレス」阪南論集 人文・自然科学編 26(2),1990 年。)
(*)(参考：土田若子「ヘルマン・ヴィークマン「プラトンの詩人批判からポスト・モデルネまで,修辞学及び美学研究(Hermann Wiegmann,Von Platons Dichterkritik zur Postmoderne,Studien zu Rhetorik und Asthetik,Bielfeld,Aisthesis Verlag,1989.)」美學 40(4),1990 年。)
(*)(参考：谷口勇「問題作『バラの名前』の問題訳『薔薇の名前』の問題点：「動ジナイ」訳者ははたして「賢明ナ」のか」国際文化論集 3,1990 年。)
(*)(参考：A.J.ハフト,J.G.ホワイト,R.J.ホワイト/谷口勇共訳『「バラの名前」便覧』而立書房,1990 年。)
(*)(参考：エウジェーニオ・ガレン/近藤恒一訳『ルネサンス人』岩波書店,1990 年。)
(*)(参考：田中仁彦「『ルネサンス精神の深層』アンドレ・シャステル著 桂芳樹訳—ルネサンス芸術開化の土壌」ソフィア 39(3),1990 年。)
(*)(参考：根占献一「ルネサンスの幸福論—フィチーノにおけるフォルトーナとフェリキタース」社会科学討究 36(1),1990 年。)
(*)(参考：鈴木宣則「ルネサンスの 3 つのユートピア--「ユートピア」,「太陽の都」,「新アトランティス」」松山大学論集 2(5),1990 年。)
(*)(参考：河島英昭『叙事詩の精神—バヴェーゼとダンテ』岩波書店,1990 年。)
(*)(参考：藤田啓子「ダンテ『神曲』とその表現(1)：地獄篇五歌」(文化学園大学)研究紀要 21,1990 年。)
(*)(参考：高田康成「イギリス・ルネサンスと「キケロ主義」」英語青年 135(12),1990 年。)
(*)(参考：谷口勇「ダンテの先蹤者たち」日伊文化研究 28,1990 年。)
(*)(参考：武田正實「“ロミオとジュリエット”におけるダ・ポルトのダンテ『神曲』誤解の軌跡：パンディット対シェイクスピア(3)」川村学園女子大学研究紀要 1,1990 年。)

(*)細川正義「藤村詩の形成―ダンテ「神曲」の影響を中心に」日本文藝研究 42(2),1990 年。
(*)(参考：岩倉具忠「ダンテの神秘的言語観：『天国篇』XV をめぐって」イタリア学会誌 40,1990 年。)
(*)(参考：藤谷道夫「『神曲』における光学から詩学への変容：浄罪篇第 15 歌第 1~27 行」イタリア学会誌 40,1990 年。)
(*)(参考：相浦玲子「トマス・モアをめぐる人々と「良心」の座標軸」英学 23,1990 年。)
(*)(参考：門間都喜郎「ルターの信仰義認主義に対するトマス・モアの批判」松山大学論集 2(5),1990 年。)
(*)(参考：宮下良明「エラスムス像は語る」佐伯史談 154,1990 年。)
(*)(参考：畑宏枝「エラスムスの「敬虔」概念の倫理的基礎」基督教学研究 11,1990 年。)
(*)(参考：ホイジンガ/里美元一郎訳『ルネサンスとリアリズム』ホイジンガ選集 4,河出書房新社,1990 年。)
(*)(参考：岩永弘人「スペンサー「アモレッティ」34 番の海と星―ペトラルカから受容したもの」東京農業大学一般教育学術集報 20,1990 年。)
(*)(参考：和田勇一・山田知良・福田昇八「「ベレーの幻」「ペトラルカの幻」訳注」熊本大学教養部紀要・外国語外国文学篇 25,1990 年。)
(*)(参考：リチャード・コックス/厚木淳訳『ボッティチェルリの遺産』東京創元社.創元ノヴェルズ,1990 年。)
(*)(参考：谷口勇「ボッカチオ『アマゾン族について』訳解(上)」桃山学院大学人文科学研究 25(2),1990 年。)
(*)(参考：谷口勇「ボッカチオ『アマゾン族について』訳解(下)」桃山学院大学人間科学・創刊号(1),1990 年。)
(*)(参考：鹿瀬颯枝「ミュッセ劇におけるユートピアの背景：ルネッサンス期のイタリア」聖学院大学論叢 3,1990 年。)
(*)(参考：ウンベルト・エーコ/河島英昭訳『薔薇の名前(上下)』東京創元社,1990 年。)
(*)(参考：ウンベルト・エーコ/河島英昭訳「ウンベルト・エーコ叙述をめぐる戯れ」すばる 12(11),1990 年。)
(*)(参考：松島征「「薔薇の名前」ウンベルト・エーコ著 河島英昭訳―書物をめぐる,書物のための,書物による殺人」文学 1(2),1990 年。)
(*)(参考：丹生谷貴志「「薔薇の名前」ウンベルト・エーコ著 河島英昭訳―知的観光小説」新潮 87(5),1990 年。)
(*)(参考：福井憲彦「ウンベルト・エーコ著 河島英昭訳『薔薇の名前(上下)』東京創元社」史学雑誌 99(7),1990 年。)
(*)(参考：沓掛良彦「ラテン文学の楽しみ」フランス 10 月号,1990 年。)
(*)原田裕司「シオン司教 H 宛てのノカトーの手紙と中世初期に至る翻訳文学の伝統」(大阪大学言語文化部)言語文化研究 16,1990 年。)
(*)(参考：中尾セツ子「C.S.ルイスのラテン語の手紙」清泉女子大学紀要 38,1990 年。)
(*)藤澤令夫「学問の原方向性--「一般」と「専門」の区別をめぐって」一般教育学会誌 12(2),1990 年。)
(*)柳沼重剛「文科系共感からみた―人文の学と語学および英語教育について」筑波フォーラム 28,1990 年。
(*)山口俊子文 ; 岩切美子絵『イソップどうわ』スミセンこども文庫シリーズ 13,住友生命保

険相互会社,1990 年。
(*)川崎洋文；黒井健他絵『イソップどうわ』世界おはなし名作全集 4,小学館,1990 年。
(*)バーナデット絵；やがわすみこ訳『イソップのお話から』西村書店,1990 年。
(*)イソップ原作/リスベート･ツヴェルガー絵;吉田新一訳『イソップ 12 の物語』太平社,1990 年。
(*)塚本邦雄詞；望月通陽絵『新・絵釈夷蘇府』花曜社,1990 年。
(*)「新イソップ物語(ニューヨーク報告)」三菱銀行調査 417,1990 年。
(*)藤掛和美「聖と賤と漂泊と：説経『まつら長者』の位相」(百合若大臣)言語文化研究：中部大学女子短期大学紀要 1,1990 年。
(*)山折哲雄「『阿弥陀の胸割』と『百合若大臣』」(「月報 12」,『和辻哲郎全集・第 12 巻』所収,岩波書店,1990 年。)
(*)大原富枝『メノッキオ』福武書店,1990 年。
(*)柳沢孝子『牧野信一：イデアの猟人』小澤書店,1990 年。
(*)佐久間隆史『西脇順三郎論：詩と故郷の喪失』現代詩人論叢書 1,土曜美術社,1990 年。
(*)金田民夫『日本近代美学序説』法律文化社,1990 年。
(*)「柳沼重剛略歴・業績(柳沼重剛先生退官記念号)」文学研究論集 7,1990 年。
(*)柴田隆行「哲学史概念の成立」(廣松渉・坂部恵・加藤尚武編『講座ドイツ観念論 5・ヘーゲル―時代との対話』所収,弘文堂,平成 2 年。
(*)兵頭高夫「日本におけるショーペンハウアー受容の問題---ケーベルを中心に」武蔵大学人文学会雑誌 21(1・2),1990 年。
(*)坂井栄八郎「ケーベル先生の音楽的遺産とマリー・ハイネ嬢の手紙」外国語科研究紀要 38(1),1990 年。
(*)金森誠也「ケーベル博士のショーペンハウアー観」文化と哲学 8,1990 年。
(*)堀切直人「昭和 10 年代の策略的知性たち(4)最悪にして最上の時代―林達夫と花田清輝」現代詩手帖 33(7),1990 年。
(*)西谷啓治「清澤滿之先生と哲學」(西谷啓治著作集 18 所収,創文社),1990 年。
(*)堀尾孟「追悼 西谷啓治先生」哲学論集 37,1990 年。
(*)木村立子編『哲学者伊藤吉之助先生の思い出』木村勇次郎,1990-1993 年。
(*)酒井直樹「西洋への回帰/東洋への回帰―和辻哲郎の人間学と天皇制(天皇制の深層)」思想 797,1990 年。
(*)港道隆「和辻哲郎―回帰の軌跡」思想 798,1990 年。
(*)(参考：二宮宏之他執筆『規範と統合』(望田幸男「ギムナジウムの社会的・文化的機能」)シリーズ世界史への問い 5,岩波書店,1990 年。)
(*)鶴見俊輔他編『世界を見る』(田中美知太郎)ちくま哲学の森 4,筑摩書房,1990 年(→2011 年,再版)。
(*)本間長世「歴史の中の現在」(『増補版・田中美知太郎全集 17 月報』筑摩書房,1990 年。)
(*)田之頭安彦「哲人・田中美知太郎」(『増補版・田中美知太郎全集 17 月報』筑摩書房,1990 年。)
(*)石川誠一「田中先生から人生の道学ぶ」(『増補版・田中美知太郎全集 17 月報』筑摩書房,1990 年(←1986 年,朝日新聞 1/23,1986 年)。)
(*)兵藤正之助「田中美知太郎先生」(『増補版・田中美知太郎全集 25 月報』筑摩書房,1990 年。)

(*)郡司勝義「田中美知太郎と小林秀雄(2)」(『増補版・田中美知太郎全集 25 月報』筑摩書房,1990 年。)
(*)松平千秋他「「〈インタヴュー〉西洋古典学会発足の頃(4)田中美知太郎先生に聞く」(『増補版・田中美知太郎全集 25 月報』筑摩書房,1990 年。)
(*)山野耕治「田中美知太郎文庫について(2)」(『増補版・田中美知太郎全集 26 月報』筑摩書房,1990 年。)
(*)今村義孝『天草学林とその時代』天草文化出版社,1990 年。
(*)近松洋男編訳『キリシタン版「ヒイデスの導師」の原典的研究』思文閣出版,1990 年。
(*)佐藤義昭「〈研究ノート〉『サントスの御作業』と『ヒイデスの導師』の翻訳原典をめぐって」京都産業大学世界問題研究所紀要 11,1990 年。
(*)茂義樹「「ジョナサン・ゴ・ブル研究」川島第二郎」(摩太福音書)日本の神学 29,1990 年。
(*)吉田寅「善徳纂「約翰福音之傳」の国語学的研究：言語的諸相を中心にして」立正大学文学部論叢 91,1990 年。
(*)荒井献「『聖書新共同訳』(新約部分)評価と要望」日本の神学 29,1990 年。)
(*)(參考：加納孝代『バクマツ・明治初期日本における聖書と讃美歌』19 世紀における外来思想と伝統との基礎,日韓文化交流基金,1990 年。)
(*)(參考：旧約新約聖書大事典編集委員会編『聖書地図』教文館,1990 年。)
(*)(參考：『「世界の戦争・革命・反乱」総解説』改訂新版,自由国民社,1990 年(→1991 年, 改訂新版。→1993 年,改訂版。→1993 年,1994 年,改訂版「総解説シリーズ：知りたい。読みたい」)
(*)(參考:B.エヴスリン/喜多元子訳『トロイア戦争物語』現代教養文庫,社会思想社,1990 年。)
(*)(參考：清永昭次「〈講演〉ポリスの世界：スパルタの場合を中心にして」学習院史学 28,1990 年。)
(*)(參考：河底尚吾「論説 古代ギリシアの職人奴隷：アリストパネェスの奴隷たち」横浜経営研究 11(1),1990 年。)
(*)(參考：Thomas Hobbes/山田園子訳「翻訳 トマス・ホッブズ『トゥーキューデデースの生涯と歴史(上下)』」広島法学 31(2,3),1990 年。)
(*)伊藤貞夫「藤縄謙三著『歴史の父ヘロドトス』新潮社,1988 年。」史学雑誌 99(3),1990 年。)
(*)仲手川良雄「「歴史の父ヘロドトス」藤縄謙三」史林 73(2),1990 年。)
(*)(參考：松原秀一「アレクサンダー大帝の海底旅行」(慶應義塾大学部文学科開設百年記念論文集)芸文研究 58,1990 年。)
(*)(參考：谷上れい子「ロゴスの弁証法(2)〈曼陀羅の華〉クレオパトラ」桃山学院大学人間科学 1,1990 年。)
(*)(參考：古山正人「クレオメネス 3 世からナビスへ：改革のはざまのスパルタ社会」電気通信大学紀要 3(2),1990 年。)
(*)(參考：V.V.Khaldeyev/土井正興訳「スパルタクス蜂起とイタリア人都市」専修人文論集 45,1990 年。)
(*)(參考：V.V.Khaldeyev/土井正興[訳解説]「スパルタクス蜂起の初期の段階における年代をめぐる諸問題」専修人文論集 46,1990 年。)
(*)(參考：本村凌二「ローマ世界における嬰児遺棄と奴隷制(続)小アジアのトゥレプトスを

めぐって」歴史学研究報告 21,1990 年。)
(*)(参考：師尾晶子「カリアスの平和：前 5 世紀のギリシア-ペルシア関係をめぐって」クリオ=Clio4,1990 年。)
(*)(参考：高橋秀「古代ローマ史プロソポイラフィ研究」史苑 50(1),1990 年。)
(*)(参考：植田直樹「ヌマンティア戦争とアッピアノス史料(1,2)」創価女子短期大学紀要 8,9,1990 年。)
(*)(参考：砂田徹「P.クロディウスをめぐる最近の諸研究—ローマ共和政末期の「都市民衆」とのかかわりで」名古屋大学文学部研究論集・史学 36,1990 年。)
(*)(参考：二宮宏之編『深層のヨーロッパ』民族の世界史 9,山川出版社,1990 年。)
(*)(参考：井上浩一『生き残った帝国ビザンティン』講談社現代新書,講談社,1990 年(→2008 年,講談社学術文庫版)。)
(*)(参考：塩野七生『メディチ家殺人事件』朝日新聞社,1990 年(→1993 年,朝日文庫版,改題「銀色のフィレンツェ」)。)
(*)(参考：手塚章「アレクサンダー・フォン・フンボルトの地理学思想」筑波大学人文地理学研究 14,1990 年。)
(*)(参考：佐藤全弘『カント歴史哲学の研究』晃洋書房,1990 年。)
(*)(参考：中塚次郎「ヨーロッパ：現代南欧(1989 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 99(5),1990 年。)
(*)(参考：藤澤房俊「ヨーロッパ：近代南欧(1989 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 99(5),1990 年。)
(*)(参考：江川□「ヨーロッパ：中世西欧(1989 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 99(5),1990 年。)
(*)(参考：森谷公俊「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1989 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 99(5),1990 年。)
(*)(参考：松本宣郎「ヨーロッパ：古代：ローマ(1989 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 99(5),1990 年。)
(*)(参考：岡崎勝世「ドイツ啓蒙主義歴史学研究(1-1,2,3,4,5,6)」埼玉大学紀要 26,1990 年/27,1991 年/29,1993 年/30,1994 年/31(1),1995 年/33(1),1997 年。)
(*)(参考：角田幸彦「歴史哲学試論(2)アリストテレス,ヴィーコ,ハイデッガーの問いかけを巡って」明治大学教養論集 228,1990 年。)
(*)(参考：E.P.トムスン,N.Z.デイビス,C.ギンズブルグ他/近藤和彦・野村達朗編訳『歴史家たち：Visions of History』名古屋大学出版会,1990 年。)
(*)木全清博「万国史教科書の内容分析(2)：明治初期の官版万国史教科書の内容」滋賀大学教育研究所紀要 23,1990 年。
(*)宮薗衛「上原専禄の世界史論の展開(2)：世界史認識における「地域」の意義」新潟大学教育学部紀要,人文・社会科学編 32(1),1990 年。
(*)伊藤伊久男「吉岡昭彦先生の業績と学風」(東北大学)文化 53(3・4),1990 年。
(*)西川正雄「木村尚三郎先生を送る[含 木村尚三郎教授年譜・主要著作目録]」(東京大学教養学部歴史学研究室)歴史学研究報告 21,1990 年。
(*)吉村毅「松田[実矩]さんのこと(松田実矩教授退官記念号)」Kobe miscellany 16,1990 年。
(*)(参考：松田実矩「Paradise と Metamorphoses(同上)」Kobe miscellany 16,1990 年。)
(*)(参考：泉敏夫編『フランスの文学と芸術における自然と人間の発見』行路社,1990 年。)

(*)(参考:池澤克夫「第 1 回ラ・フォンテーヌ国際シンポジウム雑録」言語文化部紀要 17,1990 年。)
(*)(参考 : 池澤克夫「ラ・フォンテーンと「フランソワ先生」(上下)言語文化部紀要 18,1990 年//19,1991 年。)
(*)(参考:オットー・フラーケ/榎本真吉訳『フッテン―ドイツのフマニスト』みすず書房,1990 年。)
(*)(参考 : 廣松渉他編『自然と自由の深淵』講座ドイツ観念論 4,弘文堂,1990 年。)
----松山寿一「ヘルダーリンとシェリング」
河本英夫「シェリングの自然哲学」」
四日谷敬子「同一性と個体性 : シェリングの『人間的自由の本質』
西川富雄「シェリングのイデアリスムスと存在論 : 「こと」=存在論の意義」
山脇直司「シュライエルマッハーの哲学思想と学問体系」
高橋義人「ゲーテと反近代」
(*)(参考 : 高橋義人『形態と象徴 : ゲーテと「緑の自然科学」』慶應義塾大学,文学博士,乙第 2252 号,1990 年。)
(*)(参考 : 国信浩洋「ヴィンケルマンにおける神秘主義的傾向と神化思想(1)」日本医科大学基礎科学紀要 10,1990 年。)
(*)(参考 : 安酸敏眞「歴史の真理と理性の真理 : レッシングの命題について」盛岡大学紀要 9,1990 年。)
(*)片岡豊・小森陽一編『坊ちゃん・草枕』(清水孝純「「草枕」の問題 : 特に「ラオコーン」との関連において」)漱石作品論集成 2,桜風社,1990 年。
(*)(参考 : 小名木栄三郎「ホーフマンスタール : 「アルケスティス」--成立の背景と研究展望」教養論叢 86,1990 年。)Thomas Hobbes・
(*)(参考 : 三宅新三「ホーフマンスタールと古代(1-6)」岡山大学教養部紀要 26,28,1990 年/30,1991 年/31,1992 年/32,1993 年/34,1994 年。)
(*)(参考 : 三浦尤三「トーマス・マン『魔の山』におけるラテン語 : 全用例と註解」活水論文集,家政科・一般教育・音楽科編 33,1990 年。)
(*)(参考 : ヴェルナー・ケーギ/坂井直芳訳『ブルクハルトとヨーロッパ像』(新装版)みすず書房,1990 年。)
(*)(参考 : 三島憲一『ニーチェとその影』未来社,1990 年。)
(*)(参考 : 水野清志「ニーチェの倫理思想(13)」紀要 1,人文・社会系 16(1),1990 年。)
(*)(参考 : 松野正淳「山とニーチェ哲学」愛知 : φιλοσοφια7,1990 年。)
(*)(参考 : 大橋洋「生と認識―初期ニーチェの歴史学批判」哲学論集 37,1990 年。)
(*)(参考 : 永沼更始郎「レーヴィット覚書 : そのニーチェ解釈をめぐって」山形大学紀要人文科學 12(1),1990 年。)
(*)(参考 : 久山秀貞「「デカダンスとニヒリズム」試論 : ニーチェ研究」文学語学論集 4,1990 年。)
(*)(参考:Ernest Benz/桑原草子訳「キリスト教と教会の歴史についてのニーチェの観点(1,2)」学苑 606,613,1990 年。)
(*)(参考 : 川畑篤弘「ニーチェ初期思想に見る罪の意識とその救済への模索―中期思想への転換期の問題点をめぐって」岡山大学教養部紀要 27,1990 年。)
(*)(参考 : Walter Gebhard/酒井潔訳「フランスとドイツにおける最近 20 年間のニーチェの

学術的受容」岡山大学文学部紀要 13,1990 年。)
(*)(参考：和田篤子「ハイデガーにおける形而上学の問題(2)『ニーチェの言葉・「神々は死せり」』を中心に」カンティアーナ 21,1990 年。)
(*)(参考：三ツ木道夫「ベンヤミン研究の一断面--『翻訳者の使命』をめぐって」(上智大学ドイツ文学会)ドイツ文学論集 27,1990 年。)
(*)(参考：星野美賀子・佐倉リン子・近藤貴子「チョーサーの「トロイラスとクリセイダ」研究」津田塾大学紀要 22,1990 年。)
(*)(参考：小町谷尚子「「トロイラスとクレシダ」におけるヒロイズムの欠如」日本女子大学英米文学研究 25,1990 年。)
(*)(参考：池上賀英子「『ソネット集』を序章とするシェイクスピアの審美の変節(1)：ネオプラトニズムの愛の弁証法を背景として」(駒沢女子大学)研究紀要 23,1990 年。
(*)(参考：高月麗子『シェイクスピア熟年期のトポグラフィ』九州大学出版会,1990 年。)
(*)(参考：名著普及会『沙翁復興』1 冊,昭和 8~10 年刊の複製,『新修シェイクスピア全集』別冊付録,中央公論社,1990 年。)
(*)(参考：柏倉俊三『シェイクスピア史劇の古戦場』研究社出版,1900 年。)
(*)(参考：E.A.J.ホニッグマン/川口清泰訳『シェイクスピアの七つの悲劇—劇作家による観客反応の操作 沙翁の秘かな「術」を解く』透土社,丸善(発売),1990 年。)
(*)(参考：東郷公徳「曖昧さの魅力：シェイクスピアの「アントニーとクレオパトラ」」徳島大学教養部紀要,外国語・外国文学 1,1990 年。)
(*)(参考：高田康成「イギリス・ルネサンスの「キケロ主義」」英語青年 135(12),1990 年。)
(*)(参考:松浦暢「〈水の精〉のアーキタイプ:その多面性・両面性(1-3)」成城文藝 130,131,1990 年/149,1995 年。)
(*)(参考:松浦暢「変身した〈水の精〉:キーツ『エンディミオン』第二巻」成城文藝 133,1990 年。)
(*)(参考：高橋雄四郎「キーツの妖精詩：異教主義と児童文学」實踐女子大学文学部紀要 33,1990 年。)
(*)(参考：村山真理子「ジョン・キーツの「秋に寄せて」についての一考察」東北学院大学英語英文学研究所紀要 19,1990 年。)
(*)(参考:野谷啓二「巡礼行としての Four Quartets」論集:神戸大学教養部紀要 46,1990 年。)
(*)(参考：小林竜一「(III)P.B.シェリーの『自由に寄せる歌』と『ナポリに寄せる歌』」大阪経大論集 196,1990 年。)
(*)(参考：小林竜一「モーニング・クロニクル版『ナポリに寄せる歌』をめぐって：シェリー研究(9)」大阪経大論集 198,1990 年。)
(*)(参考：都築佑吉「ペイターの自画像：フロリアン,エメラルド,マリウス」群馬大学教育学部紀要 人文社会科学編 40,1990 年。)
(*)(参考：古舘正三「「Exile」の文学—G.ギッシング 小論(1,2)」富士大学紀要 23(1),1990 年/23(2),1991 年。)
(*)(参考：久永東輝夫「「歴史的覚感」について：T.S.エリオットの古典主義」実践女子大学文学部紀要 33,1990 年。)
(*)(参考：柴田徹士『小説のデザイン：ヴァージニア・ウルフ研究』研究社出版,1990 年。)

(*)(参考：馬渕優子・渡部丹・花里利一「2864 ギリシア・パルテノン神殿の耐震補強に関する研究(4)組積柱の静的加力実験」学術講演梗概集,C.構造 II(1990),1990 年。)
(*)(参考：伊藤重剛「9108 オリンピアのゼウス神域の建物配置に関する試論」学術講演梗概集,F.都市計画,建築経済・住宅問題,建築歴史・意匠(1990),1990 年。)
(*)(参考:五島利兵衛「パルテノン神殿の設計手順」日本建築学会計画系論文報告集 411,1990 年。)
(*)(参考：五島利兵衛「7 場内の平面グリッドの意義について：パルテノン神殿の設計法に関する研究(歴史意匠)」東海支部研究報告集 28,1990 年。)
(*)(参考：五島利兵衛「場内の平面グリッドの意義について：パルテノン神殿の設計法に関する研究：歴史・意匠：東海支部)」建築雑誌.建築年報 1990,1990 年。)
(*)(参考：堀内清治「地中海古代都市の研究(45)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部 3,計画系 8,1990 年/建築雑誌 建築年報 1990,1990 年。)
(*)(参考：三好裕司・堀内清治・伊藤重剛「地中海古代都市の研究(46)パルテノン神殿のスタイロベートのむくりに関する研究(歴史/意匠)」日本建築学会研究報告,中国･九州支部 3,計画系 8,1990 年/建築雑誌 建築年報 1990,1990 年。)
(*)(参考：堀内清治・伊藤重剛・黒田芳明「地中海古代都市の研究(47)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部 3,計画系 8,1990 年/建築雑誌 建築年報 1990,1990 年。)
(*)(参考：海津忠雄「ブルクハルトとヴェルフリン：絵画的建築の問題(文学部創設百周年記念論文集 I)」哲學 91,1990 年。)
(*)岡真琴・岡夏樹『岡邦雄：その生涯と仕事：生誕 100 年に当たって』岡真琴・岡夏樹,1990 年。
(*)(参考：Giulia Sissa/片岡信訳「スペルマの神話―アリストテレスから人工授精まで(出産―胎児とテクノロジー,特集)」現代思想 18(6),1990 年。)
(*)(参考：山崎光夫『ヒポクラテスの暗号』新撰ミステリー倶楽部,新潮社,1990 年。)
(*)(参考：中川米造・加賀乙彦「脳死を考える(10 完)ヒポクラテスの誓いが崩れるとき」世界 542,1990 年。)
(*)(参考：中川米造「ヒポクラテスの誓いが崩れるとき」(加賀乙彦編『脳死と臓器移植を考える』所収,岩波書店,1990 年。)
(*)(参考：木原弘二『痛風：ヒポクラテスの時代から現代まで』中公新書,中央公論社,1990 年。)
(*)(参考:高橋晟「ヘルスケアの視点による大衆薬評価に関する研究(5)ヒポクラテス医学の今日的意義―ヒト機能の調節的統合性と環境に対する生態的適応」薬史学雑誌 25(2),1990 年。)
(*)(参考:G.サンチェ・ギサンデ/林國治訳『西洋医学史概説:南米医学者の史観』林國治,1990 年。)
(*)(参考：岡尾恵市・山本邦夫文/フォート・キシモト写真『オリンピックものがたり：古代オリンピック・近代オリンピック』スポーツ体育ものがたり,岩崎書店,1990 年。)
(*)(参考：真田久「011B09 1870 年のギリシャオリンピックについて」日本体育学会大会号 41A,1990 年。)

(*)(参考 : 真田久「ギリシャのオリンピック運動と日本(1,2)」日本体育学会大会号 41A,1990 年/42A,1991 年。)
(*)(参考 : 真田久「近代ギリシャのオリンピック復興運動」体育の科学 40(5),1990 年。)
(*)(参考 : 片山千佳子「新プラトン主義数論と音程比理論(美学会第 41 回全国大会報告)」美學 41(3),1990 年。)
(*)(参考 : 青木勝敏・清水宏晏「地中海の島シチリアで開かれたアルキメデス・ワークショップに参加して」固体物理 25(9),1990 年。)
(*)(参考 : 齋藤憲『エウクレイデス「原論」における比例論の研究』東京大学,理学博士,甲第 8754 号,1990 年。)
(*)(参考 : 中西裕一「プラトンの『ティマイオス』と近代物理学的世界観」エーゲ海学会誌 4,1990 年。)
(*)(参考 : 高橋憲一「ユークリッドの『反射光学』 : 真作性問題の再検討に向けて—ハイデルク批判」科学史研究 II-29(173),1990 年。)
(*)(参考 : 高橋誠「ルネサンスと近代科学 : 科学と宗教との関連探究」日本教育学会大會研究発表要項 49,1990 年。)
(*)(参考 : 高橋誠「ルネサンスと近代科学 : 科学と宗教との関連探究」日本教育学会大會研究発表要項 49,1990 年。)
(*)家田貴子「藤井清久訳,R.ホーイカース『宗教と近代科学の勃興』すぐ書房」科学史研究 [第 II 期]29(173),1990 年。)
(*)(参考 : ウェザーレッド/中野里美訳『古代へのいざない : プリニウスの博物誌』雄山閣出版,1990 年(→2013 年,雄山閣。))
(*)(参考 : ミヒェル・ヴォルフガング「ウィレム・テン・ライネと日本の医学 : 「図式」」独仏文學研究 40,1990 年。)
(*)(参考 : H.A.ベーテ他/青木薫訳『物理学に生きて : 巨人たちの思索の軌跡』吉岡書店,1990 年(→2008 年,ちくま学芸文庫版)。)
(*)池田清彦『構造主義科学論の冒険』毎日新聞社,1990 年(→1998 年,講談社学術文庫)。
(*)(参考 : 田中実他『自然科学の名著 100 選(上下)』新日本出版社,新日本新書,1990 年。)
(*)(参考 : 笛月織女・安藤由紀「オリンポス占星術」(講談社)Midori1(1),1990 年。)
(*)秦敬一「〈研究ノート〉野尻抱影考 : 星と文学のはざまで」語文と教育 4,1990 年。
(*)(参考 : Bell Thomas M,Gilham Fred E.m.,/十六原隆訳「The World of Cotton(11)南欧の綿花—スペイン・ギリシャ・トルコ」日本紡績月報 523,1990 年。)
(*)(参考 : и.H.オシノフスキー/稲垣敏夫訳・亀山潔監修『トマス・モアとヒューマニズム : 16 世紀イギリスの社会経済と思想』新評論,1990 年。)
(*)(参考 : 加藤一夫『トマス・モアの社会経済思想』未来社,1990 年。)
(*)大黒俊二「バリシァ・クレキッチ著/田中一生訳『中世都市ドゥブリニク : アドリア海のと東西貿易』(叢書東欧[2])彩流社」史学雑誌 99(6),1990 年。
(*)(参考 : パリー・G.ジェームズ/願化孝志訳『トロイの木馬 : 現地生産—日本の戦略』TBS ブリタニカ,1990 年。)
(*)内田芳明『ウェーバー受容と文化のトポロジー』リブロポート,1990 年。
(*)(参考 : 森田猛「青年ブルクハルトと都市バーゼルの危機—伝統的市民社会の解体と文化史学」西洋史学 158,1990 年。)
(*)(参考 : 赤井彰・古川堅治「「アナール」・ブローデル・「社会史」的研究の可能性」

獨協大学教養諸学研究 25,1990 年。)
(*)(參考：伊藤伊久男研究代表『ヨーロッパにおける統合的諸権力の構造と展開』東北大学文学部,科学研究費補助金(綜合研究 A)研究成果報告書 平成元年度,1990 年(→1994 年,創文社刊。)
(*)(參考：橋場弦『古典期アテナイの直接民主政における公職者弾劾制度の研究』東京大学 1989 年,(科研費)1990 年。)
(*)(參考：橋場弦「エイサンゲリア(弾劾裁判)成立史：アテナイ公職者弾劾制度の発生と展開をめぐって」史學雑誌 99(10),1990 年。)
(*)一柳俊夫「書評 橋場弦著「古典期宛てないのエイサンゲリア(弾劾裁判)をめぐる諸問題」(法制史研究第 37 号)「古典期アテナイのドキマシア(資格審査)について—その機能と民主政」(西洋古典學研究第 36 号)」法制史研究 39,1990 年。)
(*)(參考：清永昭次「シュキオンの前期僭主制—その支持層」西洋史研究 19,1990 年。)
(*)(參考：高橋秀樹「ソロンのいわゆる「党争の法」」西洋史研究 19,1990 年。)
(*)(參考：田中穂積「エウネネス 2 世とアンティオコス 4 世(1)前 2 世紀前半におけるヘレニズム君主の立場」関西学院史学 23,1990 年。)
(*)(參考：バッハオーフェン/佐藤信行他訳「母権論アテナイ(1)」(新潟大学教養部)研究紀要 21,1990 年。)
(*)(參考：砂田徹「P.クロディウスをめぐる最近の諸研究：ローマ共和制末期の「都市民衆」とのかかわりで」名古屋大学文学部研究論集 107,1990 年。)
(*)(參考：富沢克「〈古代人-近代人論争〉への一視点—リュック・フェソ『政治哲学』第一巻を読む」同志社法学 42(1),1990 年。)
(*)(參考：笹倉秀夫研究代表『イギリス近代社会思想研究：古典古代的自由と近代市民社会論的自由の緊張をめぐって』笹倉秀夫,1990 年。)
(*)(參考：永岡薫(訳・解説)「A.D.リンゼイ『民主主義の本質：イギリス・デモクラシーとピューリタニズム[ピューリタニズム]』第 2 版の序文」(大阪樟蔭女子大学)文化研究 4,1990 年。)
(*)(參考：岩井昭二「リップマンのデモイクラシー観(1-4)」立正法学論集 23(1-4),1990 年。)
(*)(參考：中野利子『H.ノーマン—あるデモクラットのたどった運命』(N.DeWitt)リブロポート,1990 年(→2001 年,改題『外交官 E.H.ノーマン—その栄光と屈辱の日々1909-57』新潮文庫版。)
(*)林原純生「「佳人之奇遇」の変貌(近代文学における〈他者〉と〈天皇制〉2 特集)」日本文学 39(11),1990 年。
(*)(參考:池上俊一『動物裁判:西欧中世・正義のコスモス』講談社現代新書 1019,講談社,1990 年。)
(*)(參考：平田隆一「Tribuni militum consulari potestate—その成立と展開の歴史的背景」東北大学教養部紀要 54,1990 年。)
(*)(參考：吉村忠典「ローマ帝国と『帝国主義の現代』」(横浜国立大学教育学部)歴史学論集 3 月号,1990 年。)
(*)(參考：加藤栄一「東欧民主化はトロイの木馬(ポスト冷戦に騙されるな,特集)」(彩文社)知識 98,1990 年。)
(*)(參考：中川八洋「東欧解放は“トロイの木馬”か」中央公論 105(4),1990 年。)
(*)(參考：森村進「H.L.A.ハートの『法の概念』」一橋論叢 103(4),1990 年。)

(*)(参考：森村進「プラトン『法律(ノモイ)』への覚書」一橋大学研究年報,法学研究 21,1990 年。)
(*)(参考：一柳俊夫『古代ギリシア法思想史研究』御茶の水書房,1990 年。)
(*)(参考：石川真人『法曹法の歴史的基礎づけ：エールリッヒの法源論』北海道大学,法学博士,甲第 1123 号,1990 年。)
(*)(参考：柴田光蔵「ローマ法グラフィティー(6)古代と現代」時の法令 1379,1990 年。)
(*)(参考：Maffel Domenico/西村重雄訳「中世ローマ法学者と神聖ローマ帝国および教会—チヌス・ダ・ピストイア「コーンスタンティーヌス大帝寄進状」に対する見解」法政研究 56(2),1990 年。)
(*)(参考：高田普久男「近代前夜におけるスコットランド法の形成とローマ法(シンポジウム)」法制史研究 40,1990 年。)
(*)(参考：角田猛之・Caims J.W.「18 世紀スコットランドにおける上級弁護士の費用とローマ(シンポジウム)」法制史研究 40,1990 年。)
(*)(参考：角田猛之・Caims J.W.・高田普久男「質疑応答 近代スコットランド法の形成とローマ法(シンポジウム)」法制史研究 40,1990 年。)
(*)(参考：津野柳一「ローマ法と現代法における所有権の移転」法学新報 96(7/8),1990 年。)

(*)川崎真治『謎の神アラハバキ：騎馬遊牧民族と古代東北王朝』六興出版,ロッコウブックス,1991 年。
(*)小谷部全一郎『日本人のルーツはユダヤ人だ：古代日本建国の真相』たま出版,1991 年。
(*)(参考：鈴木旭『日本超古代遺跡の謎：「日本のピラミッド」が明かす世界文明発祥の謎』Rakuda Books,日本文芸社,1991 年。)
(*)(参考：外村直彦『多言文明史観』勁草書房,1991 年。)
(*)(参考：窪田蔵郎『鉄の文明史』雄山閣出版,1991 年。)
(*)(参考：岡田晋『コミュニケーション環境と環境像の研究』(アリストテレス)筑波大学,博士(学術)乙第 709 号,1991 年。)
(*)(参考:『『地中海』ブックレット』(ブローデル著『地中海(全 5 冊)発刊記念』藤原書店,1991 年。)
(*)(参考：フェルナン・ブローデル/浜名優美訳『地中海』藤原書店,1991-95 年。)
(*)(参考フェルナン・ブローデル/浜名優美訳『環境の役割』地中海世界 1,藤原書店,1991 年。)
(*)(参考：フェルナン・ブローデル,ジョルジュ・デュビ編/神沢栄三訳『人間と遺産』地中海世界 2,みすず書房,1991 年。)
(*)(参考：赤井彰・高橋正雄・古川堅治編訳『ブローデルとブローデルの世界：「アナール派」史学研究のために』刀水書房,1991 年。)
(*)(参考：パウサニアス/馬場恵二訳『ギリシア案内記(上下)』岩波文庫,岩波書店,1991 年。)
(*)(参考：パウサニアス/西村哲訳『ギリシア案内記』西村哲,1991 年。)
(*)(参考：パウサニアス/飯尾都人訳『ギリシア記』(本編・附巻[解説・訳注・索引篇])龍渓書舎,1991 年。)
(*)古山正人「飯尾都人訳編『ギリシア記』龍渓書舎,1991 年」史学雑誌 100(7),1991 年。
(*)(参考：杉野圀明『オリンポスの神々が笑う：現代ギリシア紀行』文理閣,1991 年。)
(*)(参考：野口昌夫『南イタリア小都市紀行：地中海に輝くミクロポリス』建築探訪 7,丸善,1991 年。)

(*)(参考：三輪晃久『地中海紀行：神々の海,神々の大地』知の旅シリーズ,クレオ,1991 年。)
(*)やなせたかし編『霧の海オリーブの丘：西ヨーロッパ』私のナイーブ・アート館 2,学習研究社,1991 年。
(*)新井満『カフカの外灯』(「アルカディアへの旅」)文藝春秋,1991 年。
(*)(参考：奥田敬「ナポリ初期啓蒙における「文明史」の構想―ピエトロ・ジャンノーネ試論」甲南経済学論集 31(4),1991 年。)
(*)マイケル・ミュショウ/吉浦澄子『ローマに遊ぶ：ローマ・アンチガイド』心交社,世界紀行冒険選書 6,1991 年。
(*)マイケル・ベリン/山村宜子訳『80 日間世界一周』心交社,世界紀行冒険選書 7,1991 年。
(*)村上春樹『雨天炎天：ギリシャ・トルコ辺境紀行』新潮文庫,新潮社,1991 年(→2014 年,32 刷改版,新潮文庫版。)
(*)(参考：宝木範義「バルセロナ物語(2)古代地中海の都市として」日本美術工芸 629,1991 年。)
(*)(参考：岸田省吾『バルセロナ：地中海都市の存在証明』建築巡礼 21,丸善,1991 年。)
(*)(参考：バビエル・エルナンデス,ピラール・コメス著/ジョルディ・バロンガイラスト,川添登,木村尚三郎監訳『パルミ：地中海沿岸の都市：紀元前 4 世紀から現代までの変遷史』図説都市の歴史 1,東京書籍,1991 年。)
(*)(参考：『バルセロナ：地中海沿岸の都市：紀元前 4 世紀から現代までの変遷史』
(*)加藤磐雄『中国の旅・印度の旅・イタリアの旅』加藤磐雄,行望游居 3,1991 年。
(*)山田道夫『ロンドン・アテネ』筑摩書房,ニューヨーク・タイムズ・トラベルガイド 1,1991 年。)
(*)(参考：饗庭孝男『ヨーロッパとは何か：文化の重層的空間』小沢書房,1991 年。)
(*)中川久定『ディドロ,18 世紀のヨーロッパと日本』岩波書店,1991 年。
(*)饗庭孝男「幻想の都市(7,8)〈古代〉の新しい春(プリマヴェーラ)フィレンツェ」新潮 88(1)(3),1991 年。
(*)(参考：三上幸治「アテネ大学に留学して」史苑 51(2),1991 年。)
(*)(参考：小西晴雄「ギリシャ文化のはじめ」ペディラヴィウム 33,1991 年。)
(*)(参考：川島重成「見知らぬ神の跡を辿って」ペディラヴィウム 34,1991 年。)
(*)(参考:サー・フィリップ・シドニー「アルカディア(1,2,3)」コルヌコピア 1,2,1991 年/3,1992 年。)
(*)杉野圀明『オリンポスの神々が笑う：現代ギリシア紀行』文理閣,1991 年。
(*)(参考：小滝達郎『Venezia』筑摩書房,1991 年。)
(*)森本哲郎「世紀末の世界を歩く(4)イタリア紀行(1)―アドリア海のほとり」中央公論 106(4), 1991 年。
(*)森本哲郎「世紀末の世界を歩く(5)イタリア紀行(2)―道はローマに通ず」中央公論 106(5), 1991 年。
(*)竹内敏信写真・文『エーゲ海の誘惑：竹内敏信作品集』玄文社 MOOK,42Photo salon,玄光社,1991 年。
(*)Le Grand Orchestre de Paul Mauriat＝演奏ポール・モーリア・グランド・オーケストラ『L'amour est bleu~Penelope＝恋はみずいろ~エーゲ海の真珠』録音資料,The best collection of love themes＝決定版世界のムード音楽大全集 1,Philips, Nippon Phonogram,1991 年。

(*)『ギリシャエーゲ海の誘惑：Greece』ビデオカッセト,文藝春秋,1991 年。
(*)近畿日本ツーリスト『ギリシア・エーゲ海の本』,1991 年(→1992,'95,'96,'97 年,改訂版)。
(*)角川書店『ギリシア : アテネとエーゲ海の島々』カドカワトラベルハンドブック 32,1991 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンド・ビッグ社,1991-92 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ギリシアとエーゲ海の島々』ダイヤモンド・ビッグ社,1991-92 年。
(*)島田敬「体験エーゲ海客船クルーズ」港湾 68(1),1991 年。
(*)山道茂樹「エーゲ海のクルージング(調和への旅立ち)」国際金融 869,1991 年。
(*)「エーゲ海フローティラ・クルージング告知」Kazi：ヨット,モーターボートの雑誌 57(6),1991 年。
(*)「エーゲ海フローティラ・クルージング告知」Kazi：ヨット,モーターボートの雑誌 57(7),1991 年。
(*)(参考：堀川徹「エーゲ海の風」Mare Nostrum 3,1991 年。)
(*)今江祥智・山下明生編『現代童話 4』(「田島征彦「エーゲ海をさぐる」」)福武文庫, 福武書店,1991 年。
(*)(参考 : 三角美次「地中海的まなざし ; カミュにおける「視線」のアプローチ」Mare Nostrum 3,1991 年。)
(*)(参考：丹治竜郎「ロレンシ・ダレル『アレキサンドリア・カルテット』：小説を書くことについての小説というすぐれて現代的な現象について」リーディング 11,1991 年。)
(*)(参考 : 前田良平「豊かさの盲点 : 生命力低下と精神不在 : シュペングラー「西洋の没落」を踏まえて」教育研究所紀要 10,1991 年。)
(*)(参考 : 馬場恵二「スキステ街道(Schiste Hodos),オイディプウス伝説と中部ギリシア内陸・湾岸交通路」(明治大学)駿台史学 81,1991 年。)
(*)(参考：馬場恵二「The SCHISTE HODOS：The Legend of Oedipus and the Traffic in Central Greece」KODAI：Journal of Ancient History 2,1991.)
(*)(参考 : 周藤芳幸「遺跡のトポグラフィに基づくミケーネ社会像の再検討—アルゴス平原の場合」史學雑誌 100(6),1991 年。)
(*)(参考：勝又俊雄「「マリン・スタイル」土器の起源：「海中の構図」形成における「バロック風三枚葉状岩の画家」の役割」女子美術大学紀要 22,1991 年。)
(*)塚辺哲郎「古代文明の史跡を訪ねて(調和への旅立ち)」国際金融 873.1991 年。
(*)(参考：杉田英明『アラブ・ペルシア文学のなかのイスラム美術』東京大学,学術博士, 乙第 10090 号,1991 年。)
(*)(参考：前田正明「西洋陶芸入門(7)エトルリアとローマの陶器」陶説 456,1991 年。)
(*)青柳正規「エトルリア文明展：エトルリア美術について」古美術 98,1991 年。
(*)(参考：豊福知徳「現代美術も驚く!エトルリア文明の不思議な美」芸術新潮 42(5),1991 年。)
(*)三小田敏雄「F.W.ウォールバンク著/小河陽訳『ヘレニズム世界』,W.W.ターン著/角田有智子・中井義明訳『ヘレニズム文明』」文明 61,1991 年。
(*)(参考：リッツォス/中井久夫訳『括弧：リッツォス詩集』(「エーゲ海の光と闇」)みすず書房,1991 年。)

(*)水田徹『CORPUS VASORUM ANTIQUORUM JAPAN FASZIKEL 2』(‘Japan：Schwarz-und Rotfiguruge Vasen in japanischen Sammlungen’)日本学術振興会(Japan Society for the Promotion of Science)(発行),丸善(発売),1991 年。
(*)(参考：猿谷要監修『古代オリエントとギリシア・ローマ文明』世界史大系 1,サン・エデュケーショナル,1991 年。)
(*)(参考：シュリーマン/村田数之亮訳『古代への情熱：シュリーマン自伝』ワイド版岩波文庫,岩波書店,1991 年。)
(*)(参考：岩波書店編集部編集・岩波映画製作所写真『死都ポンペイ』岩波写真文庫(復刻ワイド版)98,1991 年。)
(*)(参考：ロベール・エティエンヌ/阪田由美子・片岡純子訳『ポンペイ・奇跡の町：甦る古代ローマ文明』創元社,「知の再発見」双書 10,1991 年。)
(*)(参考：ジュゼッピーナ・チェルッリ・イレッリ(他)編/青柳正規・篠塚千恵子訳『ポンペイの：ヴェスヴィオ山噴火で埋没した地域の壁画集成』岩波書店,1991 年(→2001 年,普及版)。)
(*)(参考：青柳正規,G.チェルッソ・イレッリ他編『ポンペイの壁画』岩波書店,1991 年。)
(*)(参考：たかはしよいち原作・吉川豊漫画『まぼろしの王国トロイア』まんが世界ふしぎ物語 5,理論社,1991 年。)
(*)(参考：たかはしよいち原作・吉川豊漫画『よみがえる黄金の宝』まんが世界ふしぎ物語 6,理論社,1991 年。)
(*)(参考：河島英昭「神々の足跡」(ローマ)読売新聞 2/18,1991 年。)
(*)(参考：中佐古克一・吉田武士「ハドリアヌスの塁壁の東端」東洋大学紀要・教養課程篇 30,1991 年。)
(*)多田智満子「「ハドリアヌス帝の回想」紀行」中央公論 106(12),1991 年。
(*)(参考：メトロポリタン美術館/篠塚千恵子訳『古代ギリシア・ローマ』福武書店,メトロポリタン美術館全集10,1991年。)
(*)(参考：リュック・ベッソン監督『アトランティス』ビデオレコード,パイオニア,1991年。
(*)(参考：渡辺豊和『発光するアトランティス：失われた文明の呼び声』人文書院,1991年。)
(*)(参考：中原もえ他訳『アン・メイザー選集(4)』(「アトランティスの精」)ハーレクイーン,洋版(発売),1991年。)
(*)(参考：歴史の謎を探る会編『消えた文明の謎 面白すぎる雑学知識：幻のアトランティス大陸からインカ帝国まで』青春ベスト文庫,青春出版社,1991年。)
(*)(参考：竹内均『アトランティスの発見』徳間文庫,徳間書店,1991年。)
(*)(参考：リュック・ベッソン監督『アトランティス』ビデオレコード,パイオニアLDC,1991年。)
(*)(参考：亀谷敬昭「ゲルハルト・ハウプトマンの 2 つの長篇小説--「キリストになった愚者エマヌエル・クイント」と「アトランティス」(1,2)」獨協大学ドイツ学研究26,1992年/28,1992年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(5)シェイクスピア,ジョンソン,コリヤット,モリソンとヴェネツィア」人文研究 109,1991 年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(6)カトリック司祭リチャード・ラセルズと,ヴェネツィアの宗教,政治,そして魅力の衰え」人文研究 110,1991 年。)
(*)(参考：三角美次「地中海的まなざし：カミュにおける「視線」へのアプローチ」Mare

Nostrum3,1991 年。)
(*)(参考:相京邦宏「ケルトとローマの文化的融合とその限界—ミラノ碑文の分析を中心に」社会文化史学27,1991年。)
(*)(参考：高橋保行『東方の光と影』(ビザンチン)春秋社,1991年。)
(*)(参考：齋藤七緒子「イスタンブール見聞録(調和への旅立ち)」国際金融867,1991年。)
(*)(参考：ウムット・アルク/城戸一夫・設楽国広監訳『トルコ：星と三日月の国』NTT メディアスコープ,1991年。)
(*)(参考:岩田弘行「南イタリアにおける鑑賞美術史的調査・研究(1):壁画におけるロマネスク様式とビザンチン様式の重層性の背景」研究紀要8,1991年。)
(*)(参考：サイモン・ジェイムズ/リリーフシステム訳『(大英博物館)古代ローマ』同朋舎出版,1991年。)
(*)(参考：朝日新聞東京本社企画第1部翻訳・編集『ベルリン国立美術館展：古代芸術の顔』朝日新聞東京本社企画第 1 部,1991 年。)
(*)(参考：クルス・スカー編/小川英雄(他)日本語版監修『朝日=タイムズ世界考古学地図：人類の起源から産業革命まで』朝日新聞社,1991 年。)
(*)(参考:田中千里「アヴェロエス派異端における 2 重真理」近畿大学教養部研究紀要 23(2),1991 年。)
(*)(参考:田中千里『イスラム文化と西欧:イブン・ルシド[アヴェロエス]研究』講談社,1991 年。)
(*)(参考：橋本龍幸「ゲルマン部族と初期ビザンツ；フランクを中心とした諸説に関する一覚書」愛知学院大学文学部紀要 21,1991 年。)
(*)(参考：古代オリエント博物館・朝日新聞社編『南ロシア騎馬民族の遺宝展：ヘレニズム文明との出会い』朝日新聞社,1991 年。)
(*)(参考：赤井彰・高橋正男・古川堅次編訳『ブローデルとブローデルの世界：「アナール派史学研究のために』刀水書院,1991 年。)
(*)(参考：松村一男訳「ギリシア・ローマ人から見たケルト人 ユリウス カエサル・ディオドロス・シクロス・ストラボン・アテナイオス・クラウディオス・アイリアノス」ユリイカ 23(3),1991 年。)
(*)(参考：ブルクハルト/新井靖一訳『ギリシア文化史』(全 5 巻)筑摩書房,1991-93 年。)
(*)(参考：芝井敬司「エドワード・ギボンにおける文明と野蛮」関西大学東西学術研究所紀要 24,1991 年。)
(*)(参考：高田邦彦「ローマ文明の世界史的意義 再説(1,2)」中京大学教養論集 31(3),32(1),1991 年。)
(*)(参考：護雅夫・大村幸弘「アナトリア考古学における紀元前 1 千年紀初頭の一問題(海外東方学界消息[80])」東方学 81,1991 年。)
(*)(参考：窪田蔵郎『鉄の文明史』雄山閣出版,1991 年。)
(*)(参考:今野國雄『巡礼と聖地:キリスト教巡礼における心の探究』ペヨトル社,1991 年。)
(*)(参考：田川純三『シルクロードの開拓者：張騫』ちくまライブラリー62,筑摩書房,1991 年。)
(*)(参考：安田礼子『アフガン/ガンダーラ：こころと歴史の旅』影書房,1991 年。)
(*)(参考：「ガンダーラ仏の“診断書”(贋作寸後美術史〈「芸術新潮」創刊 503 号記念大特集〉)--(シルクロードの裏街道)」芸術新潮 42(11),1991 年。)

(*)(参考：Kunio Katakura,Motoko Katakura“Japan and the Middle East”,The Middle East Insutitute of Japan,1991.)
(*)(参考 : 福井勝義『認識と文化 : 色と模様の民族誌』認知科学叢書 21,東京大学出版会,1991 年。)
(*)大河内了「和辻哲郎著「風土」独訳への後書き[独文]」大谷学報 70(2),1991 年。
(*)(参考：小川明「移動と歴史(2)」上武大学商学部紀要 2(2),1991 年。)
(*)(参考：高柳俊一「アメリカの影響力衰退とアメリカ精神の試練」(アウグスティヌス,ギボン,シュペングラー)」アメリカ・カナダ研究 6,1991 年。)
(*)(参考 : 前田良平「豊かさの盲点 : 生命力低下と精神不在 : シュペングラー「西洋の没落」を踏まえて」(追手門学院大学)教育研究所紀要 10,1991 年。)
(*)(参考：田中英道『ミケランジェロ』講談社,1991 年。)
(*)(参考：モスタファ・エル=アバディ/松本慎二訳『古代アレクサンドリア図書館—よみがえる知の宝庫』中公新書,中央公論社,1991 年。)
(*)(参考 : 松本慎二「古代アレクサンドリア図書館復興事業について」国立国会図書館月報 367,1991 年。)
(*)(参考 : 長谷部史彦「オスマン朝時代アレクサンドリア史研究の現状 : サハーラ・アハマド・ハリデー博士の法廷文書研究について」史学 60(1),1991 年。)
(*)(参考 : 近藤勝彦「アーノルド・A.ファン・リュラーにおける「キリスト教的文化の理念」聖学院大学論叢 4(2),1991 年。)
(*)(参考：西村貞二『ブルクハルト』清水書院,1991 年。)
(*)(参考：J.ブルクハルト著/新井靖一訳『ギリシア文化史(1-5 巻)』筑摩書房,1991-93 年。)
(*)久米邦武『日本文化史の研究』久米邦武歴史著作集 5,吉川弘文館,1991 年。
(*)大久保利謙編『久米邦武の研究』久米邦武歴史著作集・別巻,吉川弘文館,1991 年。
(*)久米美術館編『歴史家久米邦武展』久米美術館,1991 年(→1997 年,新訂版)。
(*)玉江彦太郎「末松謙澄在英通信」日本歴史 517,1991 年。
(*)山中由里子「杉田英明氏の博士学位論文公開審査」比較文學研究 60,1991 年。)
(*)(参考：細田将右「「海國圖志」中の地図と地名」地図 29(Suppl.),1991 年。)
(*)(参考：辻原康夫『おもしろくてためになる世界地理の雑学辞典』日本実業出版社,1991 年(→1996 年,最新版)。)
(*)(参考 : 新潮社他共同企画制作『CD-ROM 版世界美術辞典[機械可読データファイル] : NEC パーソナルコンピューターPC-9800 シリーズ』機械可読データファイル,新潮社,1991 年(→1998 年, CD-ROM 版世界美術辞典 for Windows。)
(*)(参考：岩波書店編集部編『岩波西洋人名辞典』増補版,岩波書店,1991 年。)
(*)(参考：テレル・カーヴァー/村上隆夫訳『マルクス事典』未来社,1991 年。)
(*)(参考：水村光男監修『世界史のための人名辞典』山川出版社,1991 年。)
(*)(参考：西村俊一編集代表『国際教育事典』アルク,1991 年。)
(*)祖田浩一編『日本奇人・稀人事典』(岩元禎)東京堂出版,1991 年。
(*)渡辺昭五『芸能文化史辞典・中世篇』(百合若)名著出版,1991 年。
(*)高野繁男「「哲學字彙」の語基と訳語法(1)語基法」人文学研究所報 24,1991 年。
(*)コンスタンディノス・ヴァシス「『プロピレア』に寄せて」プロピレア 3,1991 年。
(*)(参考：Tachibana Takashi“‘Φάρας’in Byzantine Vernacular Literature〈ARTICLES〉”

プロピレア 3,1991 年。)
(*)西岡常博『天草本伊曽保物語イソポが生涯の物語ことば攷：試みの学習ノート』私家版,西岡常博,芸文堂(製作),1991 年。
(*)(参考：土居琢磨「目的節の機能と位置—ギリシア語聖書と英語聖書を中心として」北九州大学外国語学部紀要 73,1991 年。)
(*)(参考：風間喜代三「印欧言語学案内」学習院大学言語共同研究所紀要 14,1991 年。)
(*)(参考：志田信男「医学・薬学ラテン文法教程(5)」東京薬科大学一般教育研究紀要 11,1991 年。)
(*)(参考：B.H.ケネディ著/J.マンフォード改訂,松野道男訳『新修ラテン文法』南雲堂,1991 年。)
(*)猿田知之「漢語研究としての哲学--『純粋理性批判』訳語を中心として」(シオン短期大学)日本文学論叢 16,1991 年。
(*)明治大学図書館編『明治大学図書館所蔵 林達夫文庫目録』明治大学図書館,1991年。
(*)山田恒人「林達夫文庫の成立—図書室のコスモロジー」中央公論 106(8),1991 年。
(*)坂敏弘『野上彌生子参考文献目録・補遺=Nogami Yaeko bibliograhpy』明治大学退学院,1991 年。
(*)木村潔編『辻邦生書誌年譜：1925-1988』湯川書房,1991 年。
(*)千葉宣一「翻訳文学作品年表：室町期・江戸・明治・大正期」帯広畜産大学学術研究報告・人文社会科学論集 8(2),1991 年。
(*)(参考：岩波文庫編集部編『読書のすすめ(1-14)』岩波書店,1991--年。)
(*)(参考：クルト・アーラント&バルバラ・アーラント編/橋本茂男・津村春英訳『ギリシア語新約聖書(第 26 版)・序文』日本聖書協会,1991 年(→1995 年,27 版。)
(*)(参考：加藤武『アウグスティヌスの言語論』創文社,1991 年。)
(*)(参考：松本慎二訳『古代アレクサンドリア図書館』中公新書,1991 年。)
(*)(参考：『近代初期におけるドイツの「前古典的大学」--人文主義的な学者共和国から啓蒙的な国家に奉仕する学校へ』明治大学国際交流基金事業招請外国人研究者講演録 no.4(1990 年度),明治大学国際交流センター,1991 年。)
(*)(参考：永澤越郎「〈随想〉古典の流転」ソフィア 40(1),1991 年。)
(*)(参考：佐藤伊久男・松本宣郎編『歴史における宗教と国家—ローマ世界からヨーロッパ世界へ』キリスト教歴史双書 4」史學雑誌 100(7),1991 年。)
(*)(参考：ミルチア・エリアーデ/荒木美智雄・中村恭子・松村一男訳『世界宗教史 1—石器時代からエレウシスの密儀まで』筑摩書房,1991 年。)
(*)(参考：ミルチア・エリアーデ/島田裕巳・柴田史子訳『世界宗教史 2—ゴータマ・ブッダからキリスト教の興隆まで』筑摩書房,1991 年。)
(*)(参考：ミルチア・エリアーデ/鶴岡賀雄訳『世界宗教史 3—ムハンマドから宗教改革の時代まで』筑摩書房,1991 年。)
(*)(参考：高岡幸一「ムーサイとサラスヴァティー：アウローラとウシャス--「詩の女神」および「曙の女神」をめぐる西欧古典と古代インドの比較神話学的研究」言語文化研究 17,1991 年。)
(*)(参考：川部裕幸「〈論文〉M.エリアーデの宗教シンボル論：その方法論を中心として」常民文化 14,1991 年。)
(*)(参考：奥山倫明「逆説と再統合：エリアーデ宗教理論とその背景」東京大学宗教学年報

8,1991 年。)
(*)(参考：諸岡道比古「シェリングと神話：自然的宗教をめぐって」哲学会誌 26,1991 年。)
(*)(参考：丹治愛「「ユリシーズ」「ネストール」挿話における神話と歴史」外国語科研究紀要 39(2),1991 年。)
(*)(参考：山田泰完「「聖杯伝説」の新しい神話化現象(口承と文芸)」ドイツ文学 86,1991 年。)
(*)(参考： 竹沢尚一朗「神話から歴史へ」哲学年報 50,1991 年。)
(*)(参考：N.J.Girardot/森雅子訳「混沌テーマの類型学—動物始祖,宇宙巨人,原初のカップル神話（タオイズム—世界設計の理気学,特集）」現代思想 19(11),1991 年。)
(*)(参考：E.カッシーラ/木田元訳『シンボル形式の哲学 2[神話的思考]』岩波文庫,岩波書店,1991 年。)
(*)(参考：井口正俊「「近代を問う」ということの意味—解釈学の最後の問題」西南学院大学国際文化論集 5(2),1991 年。)
(*)(参考：亜仁貴シナリオ・石原しゅん作画『オリュンポスの神がみ』まんがギリシア神話 1,ぎょうせい,1991 年。)
(*)(参考：亜仁貴シナリオ・平松修作画『愛の神エロスとプシュケ』まんがギリシア神話 2,ぎょうせい,1991 年。)
(*)(参考：R.L.グリーン/眞方陽子訳『ギリシア神話 テーバイ物語』ちくま文庫,筑摩書房,1991 年。)
(*)(参考：ブルフィンチ/野上弥生子訳『ギリシア・ローマ神話』ワイド叛岩波文庫 29,岩波書店,1991 年。)
(*)(参考：ジェフリー・グリグスン/沓掛良彦他訳『愛の女神—アフロディテの姿を追って』白馬書房,1991 年。)
(*)(参考：ジャン・ド・ラ・フォンテーヌ/三野博司・木谷吉克訳『愛の神(キューピッド)のいたずら』ラ・フォンテーヌの小話 2,現代教養文庫,社会思想社,1991 年。)
(*)(参考：松原秀一「「イールのヴィーナス」と「教父伝」」芸文研究 59,1991 年。)
(*)(参考：サボ-イシュトバーン他「ミーティング・ヴィーナス(特集)」キネマ旬報 1070,1991 年。)
(*)(参考：金子史朗『アルゴー号の冒険とトロイア戦争』Earth watch 1,原書房,1991 年。)
(*)(参考：岩谷智「アポロニオス・ロディオス『アルゴナウティカ』の比喩の特徴」西洋古典論集 9,1991 年。)
(*)(参考：吉田敦彦「知られざる土地,テラ・インコニータ—エジプトとギリシアの怪物」(吉田敦彦他『イメージの解読—怪物』所収,河出書房新社,1991 年。)
(*)(参考：飯野徹雄『フクロウの文化誌—イメージの変貌』中央公論社,1991 年。)
(*)(参考：上村忠男「歴史家と母たち：カルロ・ギンズブルグの『闇の歴史』を読んで(上下)」思想 803,804,1991 年。)
(*)(参考：沓掛良彦・金子美都子編訳『フランス女流詩人詩抄：ミューズの娘たち』木魂社,1991 年。)
(*)(参考：バーン&ボニー・ブーロー『売春の社会史(上下)』筑摩書房,1991 年。)
(*)(参考：細川亮一他『死』岩波講座・現代哲学の冒険 I,1991 年。)
(*)(参考：毛利晶「所謂「アウグストゥスによる祭儀の改革」とローマのウィーコマギステ

ル」史學雑誌 100(3),1991 年。)
(*)(参考：アンリ・ジャンメール/小林真紀子他訳『ディオニューソス：バッコス崇拝の歴史』言叢社,1991 年。)
(*)(参考：オリヴァー・タブリン/岩谷智・太田耕人訳『ギリシア悲劇を上演する』リブロポート,1991 年。)
(*)(参考：新井明・新倉俊一・丹羽隆子共編『ギリシア神話と英米文化』大修館書店,1991 年。)
(*)(参考：中村恒夫「ウェルギリウスの『詩選』第 2 歌：第 1 部(序論)：解釈の動向」文藝言語研究・文藝篇 19,1991 年。
(*)引地正俊「大地を打つ女と投網―文学座アトリエの会「グリークス」を観て」悲劇喜劇 44(3),1991 年。
(*)(参考：松本宣郎「ギリシア・ローマと初期キリスト教における『夢と幻』」(東北学院大学)キリスト教研究所紀要 9,1991 年。)
(*)(参考：小金丸研一「天地創造神話の一考察」千葉商大紀要 29(1),1991 年。)
(*)中村民男「「新しい新訳聖書概説(上)ヘレニズム時代の歴史・文化・宗教」H.ケスター著/井上大衛訳,「「新しい新訳聖書概説(下)キリスト教の歴史と文献」H.ケスター著/井上大衛訳」基督教論集 34,1991 年。
(*)(参考 : 高橋正男『旧約聖書の世界―アブラハムから死海文書まで』時事通信社,1991 年。)
(*)(参考：Kurt Aland 編/川端由喜男編訳『マタイによる福音書』ギリシア語新約聖書,日本語対訳,教文館,1991 年。)
(*)(参考：Kurt Aland 編/川端由喜男編訳『マルコによる福音書』ギリシア語新約聖書,日本語対訳,教文館,1991 年。)
(*)(参考：『ルカ福音書説教集 : 日本同盟基督教団百周年記念出版』日本同盟基督教団,1991 年。)
(*)(参考：ルドルフ・シュタイナー/西川隆範訳『ルカ福音書講義：仏陀とキリスト教』イザラ書房,1991 年。)
(*)(参考：塚本虎二訳『新約聖書福音書』ワイド版岩波文庫,岩波書店,1991 年。)
(*)(参考：大貫隆『福音書研究と文学社会学』岩波書店,1991 年。)
(*)(参考：大貫隆「初期キリスト教における信仰と自然」(日本聖書協会聖書図書館編「聖書セミナー」6,1991 年。)
(*)(参考：荒井献「男も女も―ルカの女性観再考」新約学研究 19,1991 年。)
(*)(参考：秀村欣二「コンスタンティヌスとその時代―異教との対応を中心として」研究紀要 30,1991 年。)
(*)(参考：豊田浩志「ローマ史から見た初代キリスト教(今,なぜキリスト教なのか〈[キリスト教史学会]第 41 回大会シンポジウム〉特集)―[第 2 部 これからのキリスト教史研究はどうあるべきか]」キリスト教史学 45,1991 年。)
(*)(参考：ジョルジュエット・ブラキエール/福岡カルメル会訳『マリアの福音』聖母文庫,聖母の騎士社、1991 年。)
(*)(参考：E.スキレベークス/伊藤庄治訳『救いの協力者聖母マリア』聖母文庫,聖母の騎士,1991 年。)
(*)(参考：ジャン=ミチェル・サルマン/富樫瓔子訳『魔女狩り』「知の再発見」双書 16,創元社,1991 年。)

(*)(参考：松本宣郎『キリスト教大迫害の研究』南窓社,1991 年。)
(*)新田一郎「「キリスト教徒大迫害の研究」松本宣郎」西洋史研究 20,1991 年。
(*)(参考：佐古純一郎・井上洋治『パウロを語る：対談』朝文社,1991 年(→2006 年,新装版)。)
(*)(参考：安酸敏眞「レッシングの神学思想—序説」基督教学研究 12,1991 年。)
(*)(参考：岩井淳「ピューリタニズム研究の変遷：「近代の源流」から千年王国論へ」(静岡大学)人文論集 42,1991 年。)
(*)(参考：石川重俊『文学としての聖書：英語を学ぶ人々のために』創栄出版,1991 年。)
(*)広石廉二『遠藤周作のすべて』朝文社,1991 年。
(*)江藤淳也『遠藤周作』小学館,群像日本の作家 22,1991 年。
(*)陸根和「遠藤周作に生けるイエス像序説：『白い人』『黄色い人』『海と毒薬』を中心に」實踐國文學 40,1991 年。
(*)井上洋治・遠藤周作・安岡章太郎「宗教と風土」群像 46(9),1991 年。
(*)久保田暁一『椎名麟三とアルベイル・カミュの文学：その道程と思想の異質点』白地社,1991 年。
(*)(参考：角田幸彦編『21 世紀への哲学的挑戦』東信堂,1991 年。)
(*)「加藤信朗教授略歴・業績一覧」(東京都立大学人文学報編集委員会)人文学報 221,1991 年。
(*)「神澤惣一郎先生のご定年退職にあたって(含・著書論文)」早稲田商学 344,1991 年。
(*)(参考：大久保正雄「ことばによる戦いの歴史としての哲学史 哲学史講義第1章」(東京法科学院専門学校)法科論集5,1991年。)
(*)(参考：今村武「J.M.R.レンツ『家庭教師もしくは個人教育の長所』：自己同一性喪失の悲劇」Stufe 11,1997年。)
(*)(参考：白石浩一『ソクラテスの生き方』社会思想社,1991年。)
(*)(参考：戸塚七郎「哲学にみる死(1)ソクラテスと死(死を考える,特集)」日本医師会雑誌 105(7),1991年。)
(*)(参考：K.I.ブドゥリス/山川偉也訳『正義・愛・政治』勁草書房,1991年。)
(*)(参考：千葉茂美「アンティオコスとアカデメイア」明治学院大学一般教養部付属研究所紀要15,1991年。)
(*)(参考：エルンスト・カッシーラ/友田孝興・栗花落和彦訳『ゲーテとプラトン』(京都)文栄堂書店,1991年。)
(*)(参考：屋敷紘一「言葉と存在：プラトンと『八千頌般若経』」比較思想研究18,1991年。)
(*)(参考：桑子敏雄「価値の根拠について—アリストテレスと程伊川・朱子」比較思想研究17,1991年。)
(*)(参考：マルクス・アウレーリウス著/神谷美恵子訳『自省録』ワイド岩波文庫,岩波書店,1991年。)
(*)(参考：三浦尤三「キケロ：所謂 Caesariana(1)：マルクス・マルケッスル弁論演説)」(活水女子大学)活水論文集,一般教育・音楽科編 34,1991 年。)
(*)(参考：嘉吉純夫「ピュロンと印度思想」比較思想研究17,1991年。)
(*)(参考：平石善司『フィロン研究』創文社,1991年。)
(*)(参考：牛田徳子「個を感覚することと普遍の感覚」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 23,1991 年。)
(*)(参考：山田望「ペラギウスの排斥—教会観の相違とパラダイムの転換」キリスト教史学

7 月号,1991 年。)
(*)(参考：神崎繁「〈信なき生〉をめぐって―アウグスティーヌスと古代懐疑論」比較思想研究17,1991年。)
(*)(参考：大貫隆「三つのプロノイア―グノーシス主義・ストア・中期プラトン主義の関係をめぐって」(荒井献先生還暦・退職記念献呈論文集『聖書の思想とその展開』所収,教文館,1991年。)
(*)(参考：Takashi Onuki‘Die dreifache Pronoia—Zur Beziehung zwischen Gnosis,Stoa und Mittelplatonismus’(Annual of the Japanese Biblical Institute 17,1991.)
(*)(参考：松田禎治「アウグスティヌスのプラトン派駁論：De civitate Dei,VI-Xを中心に」中世哲学研究：Vertas10,1991年。)
(*)(参考：加藤信朗「アウグスティヌスの三位一体論」中世思想研究33,1991年。)
(*)(参考:Philon/山崎秋夫訳「アレクサンドリアのフィロン律法の大要「十戒について」(1,2)」阪南論集,人文・自然科学編27(2,3),1991年。)
(*)(参考：M.D.ノウルズ他/上智大学中世思想研究所編訳『中世キリスト教の発展』講談社,キリスト教史4,1991年。)
(*)(参考：岡崎文明「「第一者」と「存在者」の分離の思想とプロクロス哲学：クザーヌス研究へ向けて」クザーヌス研究1,1991年。)
(*)(参考：加藤雅人「ガンのヘンリクスとドゥンス・スコトゥスの論争：新アカデメイア派の懐疑論をめぐって」中世哲学研究：Veritas 10,1991年。)
(*)(参考：ボエティウス/チョーサー英訳/樋口昌幸訳『哲学の慰め』渓水社,1991年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編訳・監修『中世の修道制』創文社, 上智大学中世思想研究所紀要中世研究8,1991年。)
(*)(参考：G.ピアッザ・谷口勇共訳『愛の風景：イタリア・ルネサンス』アモルとプシュケ叢書,而立書房,1991 年。)
(*)(参考：E.カッシーラ/薗田坦訳『個と宇宙―ルネサンス精神史』名古屋大学出版会,1991年。)
(*)(参考：ヨアン・P.クリアーノ/桂芳樹訳『ルネサンスのエロスと魔術：想像界の光芒』工作舎,1991年。)
(*)(参考：矢内光一「神学と類同認識説：ケンブリッジ・プラトン主義者ジョン・スミスに一説教について」(平成 2 年度科学研究費補助金(総合研究 A)研究成果報告書「ルネサンス・プラトン主義形成と美の理念」所収,1991年。)
(*)(参考：ヴィーコ/西木晃二訳『ヴィーコ自叙伝』みすず書房,1991年。)
(*)(参考：A.ボルトマン・G.ショーレム・H.コルバン/桂芳樹・市川裕・神谷幹夫訳『一なるものと多なるもの』エラノス叢書6-7,平凡社,1991年。)
(*)(参考：谷口勇・G.ピアッザ共訳『愛の風景：イタリア・ルネサンス』而立書房,アモルとプシュケ叢書,1991年。)
(*)(参考:佐藤三夫「サルターティとブルーニにおけるペトラルカ」イタリア学会誌41,1991年。)
(*)(参考：高岡幸一「サラマンドラのモティーフ：ペトラルカからロンサールへ(赤城昭三教授退官記念号)」(大阪大学)Gallia31,1991年。)
(*)(参考：長沢順治「トマス・モアと「ユートピア」」大東文化大学英米文学論叢22,1991年。)

(*)(参考：木ノ脇悦郎「『自由意志論』の動機：オリゲネス,アウグスティヌスとエラスムス」神學研究38,1991年。)
(*)(参考：畑宏枝「自由意志論争におけるエラスムスとルター」基督教学研究12,1991年。)
(*)(参考：Troll Hermann「エラスムスとルター[独文]」獨協大学ドイツ学研究25,1991年。)
(*)(参考：近藤真弓「新渡戸稲造とカール・ヒルティ：「社会教育者」の視点から」(盛岡大学短期大学部)比較文化研究年報3,1991年。)
(*)(参考：ラブレー/渡辺一夫訳『ガルガンチュワ物語・第1-5之書』ワイド版岩波文庫,岩波書店,1991年。)
(*)(参考：モンテーニュ/原二郎訳『エセー(1-6)』岩波文庫,岩波書店,1991年。)
(*)(参考：堀田義衛『争乱の時代(ミシェル城館の人[1]』集英社,1991年(→2004年,改題『争乱の時代』,集英社文庫「ミシェル城館の人」第1部。)
(*)(参考:池沢克夫「ラ・フォンテーヌとラ・ロシュフゥコ(上下)」言語文化研究部紀要21,1991年。)
(*)(参考：中川久定編『ディドロ,18世紀のヨーロッパと日本』岩波書店,1991年。)
(*)(参考：森川甫『プロヴァンシャルの手紙：ジェジェイットと対決するブレーズ・パスカル』(アウグスチヌス)大阪大学,文学博士,乙第5394号,1991年。)
(*)(参考：A.J.エイヤー/中川信・吉岡真弓訳『ヴォルテール』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,1991年。)
(*)(参考：粕谷一雄「スタンダール『イタリア絵画史』：apprendreするための言葉について」フランス語フランス文学研究59,1991年。)
(*)(参考：日本ドイツ学会編『ドイツ市民文化の光と影』成文堂,1991 年。)
(*)(参考：神林恒道「ヴィンケルマンとドイツ古典主義」フィロカリア 8,1991 年。)
(*)(参考：青木敦子「『美的教育』における「美」の概念」ドイツ文学語学研究 15,1991 年。)
(*)(参考：亀谷敬昭「ゲルハルト・ハウプトマンの 2 つの長篇小説--「キリストになった愚者エマヌエル・クイント」と「アトランティス」(1,2)」獨協大学ドイツ学研究 26,1991 年/28,1992 年。)
(*)(参考：西村貞治『ブルクハルト』Century Books 人と思想 97,清水書院,1991 年。)
(*)(参考：木村博「若きヘーゲルにおける歴史と懐疑主義」社会思想史研究 15,1991 年。)
(*)(参考：山口誠一「ヘーゲルの元素論について」法政大学教養部紀要 78,1991 年。)
(*)(参考：安酸敏眞「バルトのレッシング解釈」盛岡大学紀要 10,1991 年。)
(*)(参考：住吉雅美『マックス・シュティルナーの近代合理主義批判』(ニーチェ)北海道大学,法学博士,甲第 2954 号,1991 年。)
(*)(参考：手塚耕哉「若きニーチェとランゲとの出会い」人文論集 30,1991 年。)
(*)(参考：北岡崇「ニーチェとイエス--「ツァラトストラ」研究のための覚え書」椙山女学園大学研究論集 22(2),1991 年。)
(*)(参考：藤田一美「《das tragische》をめぐって—ニーチェとアリストテレス(美学会第 42 回全国大会報告)」美學 42(3),1991 年。)
(*)(参考：新田章「ニーチェにおける時間の根源への問い」フィロソフィア 79,1991 年。)
(*)(参考：山田貞三「ニーチェと真理の解体」長崎大学教養部紀要 人文科学篇 31(2),1991年。)
(*)(参考：須藤訓任「ニーチェの自然」大谷学報 70(2),1991 年。)
(*)(参考：船越清「若きニーチェの芸術観(1-5)」成城文藝 134,136,137,1991 年/138,140,1992

年。)
(*)(参考：宮澤知江美「ニーチェにおける孤独なる遊戯：ニーチェのニヒリズムの克服についての一考察」人間研究 27,1991 年。)
(*)(参考：宮澤知江美「ニーチェにおける自己教育—学校教育を包括するものとして」関東教育学会紀要 18,1991 年。)
(*)(参考：宮原浩二郎「「超人」のヴィジョン—ニーチェという問題」関西学院大学社会学部紀要 63,1991 年。)
(*)(参考：湯田豊「ニーチェの「偶像のたそがれ」を読む(1)」人文学研究所報 24,1991 年。)
(*)(参考：薗田勲「ニーチェ覚書」中央大学論集 12,1991 年。)
(*)(参考：青木隆嘉「〈論文〉ニーチェ・「芸術家の光学」の射程」人間関係論集 8,1991 年。)
(*)(参考：島村賢一「ハイデッガーの運命論とニーチェの運命論の間の差異—ファシズムとの関連において(前)」久留米大学論集 40(1),1991 年。)
(*)(参考：千代島雅「ニーチェの永劫回帰における時間と自由」東京都立科学技術大学研究報告 5,1991 年。)
(*)奥野政元「中島敦とニーチェ」活水論文集 日本文学科編 34,1991 年。
(*)(参考：小柳美代子「存在の亀裂：ハイデガーにおける真存在の「亀裂」(Zerklüftung)を巡る問題」哲学 41,1991 年。)
(*)(参考：細川亮一『意味・心理・場所：ハイデガーの存在の問い』(ニーチェ)東京大学,文学博士,乙第 10309 号,1991 年。)
(*)(参考：三宅新三「ホーフマンスタールと古代(3)「オイディプスとスフィンクス」における精神分析学と古代学」岡山大学教養部紀要 30,1991 年。)
(*)(参考：高田康成「トロロプとキケロ」英語青年 137(2),1991 年。)
(*)(参考：高田康成「Against the Grain of Tragedy—a Provocation」外国科研究紀要 39(3),1991 年。)
(*)(参考：Heffman,Thomas“Emblem and poetic image in the literature of the later English Renaissance ：the influence of St.Augustine’s figura in Quarles’ emblems and analogues in Donne and Herbert”上智大学,文学博士,乙第66号,1991年。)
(*)(参考：近藤正栄他/神奈川大学人文学研究所編『ロマン主義の諸相』(奥田宏子「エウリピデス,シェイクスピア,ワーズワス：ロマンス劇とロマン派叙情詩のハッピーエンド」)神奈川大学人文研究双書 8,神奈川新聞社出版局,1991 年。)
(*)(参考：S.T.コールリッジ/岡村由美子訳『シェイクスピア批評—シェイクスピアとミルトンについての講演/悲劇作品傍注』こびあん書房,1991 年。)
(*)(参考：岡村俊明『シェイクスピアを読む』朝日選書,朝日新聞社,1991 年。)
(*)佐々木隆編『日本シェイクスピア総覧』エルピス,1991 年。)
(*)(参考：草薙太郎「「トロイラスとクレシダ」と「ソネット集」」富山大学人文学部紀要 17,1991 年。)
(*)(参考：杉井正史「「トロイラスとクレシダ」における衒学趣味について」(大阪市立大学文学部)人文研究 43(8),1991 年。)
(*)(参考：黒田健二郎編『日本のミルトン文献—資料と解題 大正・昭和前期篇(下)』風間書

房,1991 年。)
(*)(参考：渡辺孔二『メービウスの帯—書き手スウィフト』山口書店,1991 年。)
(*)(参考:引地正俊「遠ざかるロセッティ—リゲイアをめぐって」比較文学年誌 27,1991 年。
(*)(参考：中原章雄『ジョンソン伝系譜』研究社出版,1991 年。)
(*)(参考：上杉恵子「バイロンの古典世界「チャイルド・ハロルドの巡礼」第 4 巻における古代ギリシャ・ローマの彫像をめぐって」広島電機大学・広島自動車工業短期大学研究報告 24,1991 年。)
(*)(参考：玉置宏子「ペイターのエピキュリアニズム」聖和大学論集 19,1991 年。)
(*)(参考：山内正一「キーツと「愛の宗教」」英語語英文学論叢 41,1991 年。)
(*)(参考：熊谷園子「“エンディミオン”の主題と構成：不滅性への探究」川村学園女子大学研究紀要 2,1991 年。)
(*)(参考:佐久間紀次『ソネット「エンディミオン』:翅に寄せる十九の詩篇」沖積舎,1991 年。)
(*)(参考：小林竜一「『ナポリに寄せる歌』絶望と希望：シェリー研究(10)」大阪経大論集 199,1991 年。)
(*)(参考：小林竜一訳「〈翻訳〉P.B.シェリー『ヘラス』」大阪経大論集 42(2),1991 年。)
(*)(参考：小林竜一「ふたたび『ナポリに寄せる歌』の改変について：シェリー研究(11)」大阪経大論集 42(4),1991 年。)
(*)(参考：ギッシング/平井正穂訳『ヘンリ・ライクロフトの私記』ワイド版岩波文庫 59,岩波書店,1991 年。)
(*)(参考：島津展子「アイスキュロスのオレステイア 3 部作におけるダイモーンの神秘—エリオット「一族再会」論のための序説」大阪学院大学外国語論集 24,1991 年。)
(*)(参考：丹羽隆子「『幕間』考：異神を求めて,統一と分散と」(エリオット)東京商船大学研究報告・人文科学 42,1991 年。)
(*)(参考：渡辺栄太郎「アーノルド「文学と教義」の解析(1)キリスト教の証明」大東文化大学紀要,人文科学 29,1991 年。)
(*)(参考：吉田良夫『ヴァージニア・ウルフ論：ヴィジョンと表現』葦書房,1991 年(→1999 年,改訂版)。)
(*)(参考：児玉実英「エズラ・パウンドの『世界文学の読み方』」比較文学 33,1991 年。)
(*)亀井秀雄「間作者性と間読者性および文体の問題--「牡丹灯籠」と「経国美談」の場合」国語国文研究 89,1991 年。
(*)齋藤希史「〈小説〉の冒険」(京都大学)人文学報 12 月号,1991 年。
(*)澤正弘「総題「ギリシャ的抒情詩」の最終作品を読む—西脇順三郎におけるモダニズム詩の行方」日本近代文学 44,1991 年。
(*)澤正弘『西脇順三郎の詩と詩論』桜風社,1991 年。
(*)太宰治作・成瀬武史編訳・Bruce M.Wilkerson 英文校閲『走れメロス』英訳日本名作シリーズ 3,日本英語教育協会,1991 年。
(*)太宰治作･広岡球志作画『走れメロス:富嶽百景』文芸まんがシリーズ 25,ぎょうせい,1991 年。
(*)全国国語教育実践研究会編『太宰治作『走れメロス』の教材研究と全授業記録』実践国語研究・別冊 112,明治図書出版,1991 年。

(*)三浦和尚「II-3 中学校における文学教材指導上の問題点「走れメロス」の場合」全国大学国語教育学会発表要旨集 81,1991 年。
(*)守安敏文「牧野信一—イデアの猟人」柳沢孝子」日本近代文学 44,1991 年。
(*)根来司述『木下杢太郎と和辻哲郎』杢太郎会編,杢太郎会シリーズ 7,杢太郎会,1991 年。
(*)和田辰國編『ある碩学のプロフィール：福原麟太郎博士の人間と生活と意見：第一集』福山市：私家版,1991 年。
(*)月川和雄「南方熊楠とギリシアの少年愛」昭和薬科大学紀要 25,1991 年。
(*)(参考：藤田一美「美学会第 42 回全国大会報告書」美學 42(3),1991 年。)
(*)片桐一男(述),望月洋子(述)『シーボルト、ヘボン』ぎょうせい,1991 年。
(*)高村法保・津曲裕次「川田貞治郎の「教育的治療法」における国語教育について」(百合若)特殊教育学研究 28(4),1991 年。
(*)イソップ原作『イソップおはなし絵本』主婦と生活・生活シリーズ 167,親と子で楽しむ本：3~6 歳,主婦と生活社,1991 年。
(*)田辺聖子『私本・イソップ物語』講談社文庫,講談社,1991 年。
(*)アイソポス作/シャンブリ編；箕浦万里子訳；ジャン・フランソワ・バルビエ画『北風とお日さま：完訳イソップどうわ』偕成社世界のどうわ 15,偕成社,1991 年。
(*)アイソポス作/シャンブリ編；箕浦万里子訳；ギュイ・ムラ画『いなかのねずみとまちのねずみ：完訳イソップどうわ』偕成社世界のどうわ 16,偕成社,1991 年。
(*)イソップ原作/平田昭吾著；高橋信也・村野守美画『ありときりぎりす』イソップものがたり,よい子とママのアニメ絵本 3,ブティック社,1991 年。
(*)渡辺守邦「山がら利口の事 東西から出会ったイソップ寓話」実践国文学 39,1991 年。
(*)岡田直之「イソップワールド—思考および行動過程に基づく物語の構造表現と要約」人工知能学会研究会資料,1991 年。
(*)遠藤勉・川上英彦・岡田直之「心のダイナミックスに基づく物語の生成」(イソップ)全国大会講演論文集・第 42 回平成 3 年前期 3,1991 年。
(*)徳田和夫・矢代静一『お伽草子・伊曽保物語』新潮社古典文学アルバム 16,[お伽草子・伊曽保物語略年表, お伽草子・伊曽保物語を読むための本],新潮社,平成 3 年。
(*)小瀧晴子「イソップ寓話の伝来と変容」茨女国文 3,1991 年。
(*)西岡常博『天草本伊曽保物語イソポが生涯の物語ことば攷：試みの学習ノート』西岡常博,芸文堂(私家版),1991 年。
(*)東郷克美「「海南小記」--海上の道への始発(柳田国男の世界,特集)—(作品の世界)」(百合若)国文学解釈と鑑賞 56(12),1991 年。
(*)半谷次郎編『箕作省吾』旺史社,1991 年。
(*)柴田隆行「明治期日本の〈西洋哲学史〉移入史」白山哲学 25,平成 3 年。
(*)柴田隆行「哲学史の統計的研究」國學院雑誌 92-11,平成 3 年。
(*)松田毅一『南蛮太閤記』朝日文庫,1991 年。
(*)海老澤有道校註『長崎版どちなきりしたん』岩波文庫,1991 年。
(*)海老澤有道『キリシタン南蛮文学入門』教文館,1991 年。
(*)佐野晴雄「精神史と類型学(1,2)」山口大学独仏文学 13,1991 年/14,1992 年。
(*)柴田南雄「ケーベル先生リード集」同声会会報 340,1991 年。
(*)坂井栄八郎「ケーベル先生の音楽的遺産とマリー・ハイネ嬢の手紙」外国語科研究紀要

38(1),1991 年。
(*)モニック・原山編『岩下壮一神父 永遠の面影』(岩下壮一,古典語,ケーベル)学苑社,キリストに倣いて[正],1991 年。
(*)戸沢行夫『明六社の人々』築地書館,1991 年。
(*)中川久定「『理学沿革史』から『理学鉤玄』,『続一年有半』へ(初稿)：[中江]兆民の翻訳・補訳・「哲理的所見」」仏文研究 22,1991 年。)
(*)深沢助雄「哲学史家としての清沢満之先生」親鸞教学 58,1991 年。
(*)佐々木徹「西谷啓治における東と西」比較思想研究 18,1991 年。
(*)西沢脩「神沢惣一郎先生のご定年退職にあたって(含/著書・論文)」早稲田商学 344,1991年。
(*)「加藤信朗教授略歴・業績一覧(加藤信朗教授・秋間実教授退職記念論集)」(東京都立大学)人文学報221,1991年。
(*)「今野國雄先生 : 年譜と業績(今野國雄・石田尚豊教授退任記念号)」青山史学12,1991年。
(*)田村晃一「序文(今野國雄・石田尚豊教授退任記念号)」青山史学12,1991年。
(*)(参考：小河陽「様式史研究の現状」キリスト教学33,1991年。)
(*)(参考：鈴木純子「欧米の地図図書館」国立国会図書館月報 361,1991 年。)
(*)(参考：ライオン出版社編/伊藤淑美,いのちのことば社出版部訳『聖書の歴史地図』いのちのことば社,1991 年。)
(*)(参考:ジョルジュ･デュビー監修/木村尚三郎訳『ラルース世界歴史地図』ぎょうせい,1991年。)
(*)(参考：パビエル・エルナンデス,ピラール・コメス著;ジョルディ・パロンガイラスト/川添登・木村尚三郎訳『パルミ：地中海沿岸の都市：紀元前4世紀から現代までの変遷史』東京書籍,1991年。)
(*)(参考：小川英雄「古代(第17回マドリード国際歴史学会議)」歴史学研究618,1991年。)
(*)(参考：たかはしよいち原作・吉川豊漫画『まぼろしの王国トロイア』まんが世界ふしぎ物語5,理論社,1991年。)
(*)(参考：金子史朗『アルゴー号の冒険とトロイア戦争』Earth Watche1,原書房,1991年。)
(*)(参考：シェイエJ.D.コーエン/秦剛平・大島春子訳『ヨセフス―その人と時代』山本書店,1991年。)
(*)(参考:米沢茂「第2回国際ギリシア哲学会に参加して」北九州大学外国語学部紀要71,1991年。)
(*)(参考：三浦一郎編『世界の戦争・革命・反乱：総解説：revolutions & rebellions』改訂版,自由国民社,1991 年。)
(*)死亡記事「村川堅太郎氏死去」中日新聞12/24,1991年。
(*)木全清博「万国史教科書の内容分析(3)：『巴來萬國史』(明治 9 年刊)」滋賀大学教育研究所紀要 24,1991 年。
(*)(参考：高橋秀樹「ヘロドトスにおける στασις―研究ノートから」新潟大学教養部研究紀要 22,1991 年。)
(*)(参考：ツキディデス/真下英信訳注『ツキディデスが伝えるペリクレスの演説』大学書林,1991年。)
(*)(参考：木村尚三郎監修『アレクサンドロス大王の帝国：古代ギリシア・ローマ』第2版,学習漫画世界の歴史2,集英社,1991年。)

(*)(参考：武上純希『オリハルコンの剣：幻説アレクサンドロス』Best fantasy series,ベストセッラーズ,1991年。)
(*)(参考：ピエール・ブリアン/福田素子訳『アレクサンダー大王：未完の世界帝国』「知の再発見」双書11,創元社,1991年。)
(*)(参考：長谷部史彦「オスマン朝時代アレクサンドリア史研究の現状：サハーラ・アハマド・ハリディー博士の法廷文書研究について」史学60(1),1991年。)
(*)(参考：伊藤貞夫「1980 年代の古代ギリシア家族研究」史學雑誌 100(4),1991 年。)
(*)(参考：アラム・ハチャトリアン作曲『スパルタカス：全 3 幕』パイオニア,1991 年。
(*)(参考：島創平「ローマの奴隷制とキリスト教：コロサイ書 3 章 22 節—4 章 1 節の歴史的背景」(東洋英和女学院大学 9 研究紀要 30,1991 年。)
(*)(参考:馬場典明「2,3 世紀のローマ大土地所有に於ける奴隷制の態様と構造--〈Opvs Oliae〉奴隷銘の分析」(九州大学教養部)歴史学・地理学年報 15,1991 年。)
(*)(参考：栗田伸子「ローマ支配下における北アフリカの「民族・地域」構造—紀元前 2 世紀~1 世紀を中心に(1991 年度歴史学研究会大会報告—歴史認識における〈境界〉[2]--（古代史部会—古代における“在地社会”の展開と国家[含・討論要旨]）」歴史学研究 626,1991 年。)
(*)(参考：「古代史部会—関和彦「古代村落の再検討と村落首長」,小林昌二「日本古代の集落形態からみた村落〈共同体〉」,渡辺義浩「漢魏交替期の社会」,栗田伸子「ローマ支配下における北アフリカの「民族・地域」構造(1991 年度歴史学研究会大会報告批判)」歴史学研究 627,1991 年。)
(*)(参考：塩野七生『ロードス島攻防記』新潮文庫,新潮社,1991 年。)
(*)(参考：塩野七生『コンスタンティノープルの陥落』新潮文庫,新潮社,1991 年。)
(*)(参考：塩野七生『レパントの海戦』新潮文庫,新潮社,1991 年。)
(*)(参考：　久志本秀夫「モレア・デスポーテス国小史—イタリア・ルネッサンスとの関連において」愛知県立芸術大学紀要 21,1991 年。)
(*)(参考：土井正興「フランス革命のなかのスパルタクス」専修人文論集 47,1991 年。)
(*)(参考:土井正興「スパルタクス戦争におけるクラッスス問題」専修人文論集 48,1991 年。)
(*)(参考：土井正興「古代奴隷制社会論についての断想([第 25 回歴史科学協議会]大会準備号—世界史認識の再検討)」歴史評論 498,1991 年。)
(*)(参考：両角良彦『反ナポレオン考』朝日選書,朝日新聞社,1991 年(→1998 年,新版・朝日選書)。)
(*)(参考：戸田三三冬「ヨーロッパ：現代南欧(1990 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雑誌 100(4),1991 年。)
(*)(参考：村上信一郎「ヨーロッパ：近代南欧(1990 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雑誌 100(4),1991 年。)
(*)(参考：池上俊一「ヨーロッパ：中世西欧(1990 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雑誌 100(4),1991 年。)
(*)(参考：中村純「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1990 年の歴史学界・回顧と展望)」史學雑誌 100(5),1991 年。)
(*)(参考：嶋田誠「ヨーロッパ：古代：ローマ(1990 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 100(5),1991 年。)
(*)(参考：本村凌二「An Approach towards a Comparative Study of the Roman Empire and the

Ch’in and Han Empires」KODAI：Jourrnal of Ancient History 2,1991)
(*)(参考 : 松本仁助・岡道男・中務哲郎編『ギリシア文学を学ぶ人のために』世界思想社,1991年。)
(*)(参考：川島重成『『イーリアス』ギリシア英雄叙事詩の世界』岩波セミナーブックス37,岩波書店,1991 年。)
(*)(参考 : 小川正廣「叙事詩のエートス—ホメロスとウェルギリウス」名古屋大学文学部研究論集 109,1991 年。)
(*)(参考：山下太郎「『農耕詩』の独創性：「アリスタエウス物語」の解釈をめぐって」西洋古典學研究 39,1991 年。)
(*)(参考：オリヴァー・タブリン/岩谷智・太田耕人訳『ギリシア悲劇を上演する』リブロポート,1991 年。)
(*)西村賀子「男たちのギリシア悲劇批判(三枝和子)」(名古屋経済大学・市邨学園短期大学人文科学研究会)人文科学論集 47,1991 年。
(*)木村健治「ギリシア悲劇をめぐって」(『ギリシア悲劇全集 7』「月報」,岩波書店,1991年。)
(*)木村健治「古代ローマ喜劇研究の現在」地中海学会月報 139,1991 年。)
(*)柳沼重剛『語学者の散歩道』研究社出版,1991年。
(*)(参考：廣川洋一編著『古典・名著の読み方』日本実業出版社,1991年。)
(*)(参考：西村稔『読書人の没落』名古屋大学出版会,1991年。)
(*)(参考 : 澁澤龍彦著/富士川義之編『澁澤龍彦 : 空飛ぶ大納言』(エピクロス)国書刊行会,1991年。)
(*)(参考：澁澤龍彦『澁澤龍彦綺譚集』(エピクロス)日本文芸社,1991年。)
(*)(参考：ルクレチウス著/国文一太郎訳『原子の歌：宇宙をつくるもの』科学入門名著全集1，国土社,1991年。)
(*)(参考：藤原保信『自然観の構造と環境倫理学』御茶の水書房,1991年。)
(*)(参考：阿部謹也『ヨーロッパ中世の宇宙観』講談社学術文庫,1991年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編『中世の自然観』創文社,上智大学中世思想研究所紀要中世研究7,1991年。)
(*)(参考：アレッツォ産業経済振興財団,工芸学会,麻布美術工芸館『イタリア・トスカーナの宝飾：エトルリアからルネサンスまで』アレッツォ産業経済振興財団,1991年。)
(*)(参考：永井博「科学的宇宙論と人間」理想647,1991年。)
(*)(参考：渡辺正雄『文化としての近代科学』丸善,1991年(→2000年,講談社学術文庫版。)
(*)(参考：渡辺正雄「近代科学技術とキリスト教」オフィス・オートメーション12(2),1991年。)
(*)吉本秀之「「宗教と近代科学の勃興」R.ホーイカース著,藤井清久訳」化学史研究18(1),1991年。)
(*)西田周作「近代科学批判の批判—村上陽一郎著「近代科学を越えて」の意味と役割について」季刊科学と思想82,1991年。)
(*)(参考 : 金子務『ガリレオの仕事場—西欧科学文化の航図』ちくまアイブラリー,1991年。)
(*)(参考：北田葉子「ガリレオとイエズス会士 ガリレオ裁判に到る対立をめぐって」イタリア学会誌41,1991年。)

(*)(参考：北田葉子「ガリレオとイエズス会士 ガリレオ裁判に到る対立の本質(平成二年度修士論文要旨,彙報)」史学61(1/2),1991年。)
(*)(参考：豊田和二「科学史入門：ギリシア技術の諸問題」科学史研究II-30(179),1991年。)
(*)(参考：豊田和二「古代ギリシアにおける永劫回帰思想の形成：大歳・大洪水・大火災」古代文化43(8),1991年。)
(*)(参考：中西裕一「科学史におけるプラトン」日本大学生産工学部研究報告 8 文系 24[1],1991年。)
(*)(参考：平野葉一「数学史における古代ギリシア」(東海大学)文明61,1991年。)
(*)藤井貞雄編『三上義夫：和漢数学科学史研究回顧録』藤井貞雄,1991年。
(*)毛利晶「ジョーゼフ・リクワート著/前川道郎・小野育雄訳『〈まち〉のイデア—ローマと古代世界の都市の形の人間学』みすず書房,1991年。
(*)(参考：岡田晋『コミュニケーション環境と環境像の研究』(ギリシア文明)筑波大学,博士(学術),乙第709号,1991年。)
(*)(参考：須田清隆・下川弘・三井宣之・伊藤重剛「21667 パルテノン神殿の柱構造の研究(1)」学術講演梗概集,C.構造II(1991),1991年。)
(*)(参考：伊藤重剛「9124エピダウロスのアスクレピオス神殿建設の会計記録：碑文によるギリシア神殿の施工の研究(建築歴史・意匠)」学術講演梗概集,F.都市計画,建築経済・住宅問題,建築歴史・意匠(1991),1991年。
(*)(参考：渡辺直治「9128 共和政後期から帝政初期のイオニア・コリント式アートキレイヴのファッシアについて：ギリシア以西の地域において(建築歴史・意匠)」学術講演梗概集,F.都市計画,建築経済・住宅問題,建築歴史・意匠(1991),1991年。
(*)(参考：舟生吉宏・高梨淑夫「9172,9173 パルテノン神殿の視角矯正諸事項の整理と検討(第1,2編)(建築歴史・意匠)」学術講演梗概集,F.都市計画,建築経済・住宅問題,建築歴史・意匠(1991),1991年。)
(*)(参考：伊藤重剛「パルテノン(でている)」建築雑誌1311,1991年。)
(*)(参考：桐敷真次郎「イタリア・ルネサンスの建築家たち—その社会的性格」建築雑誌67(788),1991年。)
(*)(参考：堀内清治「地中海古代都市の研究(48)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 32,1991 年。)
(*)(参考：堀内清治「地中海古代都市の研究(48)」建築雑誌 建築年報 1991,1991 年。)
(*)(参考：堀内清治・伊藤重剛・池田明代「地中海古代都市の研究(49)」日本建築学会研究報告,九州支部3,計画系32,1991年。)
(*)(参考：池田明代「地中海古代都市の研究(49)」建築雑誌 建築年報 1991,1991年。)
(*)(参考：堀内清治・伊藤重剛・中野喜一郎「地中海古代都市の研究(50)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 32,1991 年。)
(*)(参考：中野喜十郎「地中海古代都市の研究(50)」建築雑誌 建築年報 1991,1991 年。)
(*)(参考：堀内清治・伊藤重剛・北川雄司「地中海古代都市の研究(51)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 32,1991 年。)
(*)(参考：北川雄司「地中海古代都市の研究(51)」建築雑誌 建築年報 1991,1991 年。)
(*)(参考：堀内清治・伊藤重剛・中原孝輔「地中海古代都市の研究(52)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 32,1991 年。)

(*)(参考：中原孝輔「地中海古代都市の研究(52)」建築雑誌 建築年報 1991,1991 年。)
(*)(参考：堀内清治・伊藤重剛・吉村博「607 地中海古代都市の研究(53)パルテノン神殿の柱の傾きに関する研究(歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 32,1991 年。)
(*)(参考：吉村博「地中海古代都市の研究(53) パルテノン神殿の柱の傾きに関する研究(建築歴史・意匠)(九州支部)(1990 年度支部研究発表梗概)」建築雑誌 建築年報 1991,1991 年。)
(*)(参考：堀内清治・伊藤重剛・曽我部準「地中海古代都市の研究(54)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 32,1991 年。)
(*)(参考：曽我部準「地中海古代都市の研究(54)」建築雑誌 建築年報 1991,1991 年。)
(*)(参考：下川弘・堀内清治・伊藤重剛・須田清隆・安川智「地中海古代都市の研究(55)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 32,1991 年。)
(*)(参考：下川弘・堀内清治・伊藤重剛・須田清隆・安川智「地中海古代都市の研究(55)」建築雑誌 建築年報 1991,1991 年。)
(*)(参考：堀内清治・伊藤重剛・須田清隆・下川弘・安川智輔「地中海古代都市の研究(56)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 32,1991 年。)
(*)(参考：安川智「地中海古代都市の研究(56)」建築雑誌 建築年報 1991,1991 年。)
(*)(参考：伊藤重剛「オリンピアとエピダウロスの二つのペリスタイル建物の平面計画：古代ギリシアの設計法の研究」日本建築学会計画系論文報告集 425,1991 年。)
(*)(参考：渡辺道治「イオニア・コリント式アーキトレイヴのファッシアの特色について：ギリシア・ヘレニズム時代のギリシアとトルコ内都市において(歴史意匠)(関東支部)(1990年支部研究発表梗概)」建築雑誌・建築年報1991,1991年。)
(*)(参考：渡辺道治「3 イオニア・コリント式アーキトレイヴのファッシアの特色について：ギリシア・ヘレニズム時代のギリシアとトルコ内都市において(建築歴史・意匠)」研究報告集・計画系61,1991年。)
(*)藤森照信発言「一世一代のロマンチスト—伊東忠太という男」広告批評6月号,1991年。
(*)(参考：北山晴一『美食の社会史』朝日選書419,朝日新聞社,1991年。)
(*)(参考：福井勝義著・佐伯胖補稿『認識と文化：色と模様の民族誌』認知科学選書21,東京大学出版会,1991年。)
(*)(参考：森田陽子「「音楽」の根源を求めて—ギリシア精神とジョン・ケーギ」文明61,1991年。)
(*)(参考：本間延実「香料史,その周辺(2)ヘレニズムからアラビアまで」香料169,1991年。)
(*)(参考：寒川恒夫『図説スポーツ史』朝倉書店,1991年。)
(*)(参考：加藤元和・田原淳子・桑原良一・真田久・木下秀明「オリンピック運動(ムーブメント)の歴史」日本体育学会大会号42A,1991年。)
(*)(参考：真田久「近代オリンピックの形成におよぼした“ギリシャオリンピック”の影響に関する研究」体育学研究36(2),1991年。)
(*)(参考：小石原美保「20世紀初頭におけるフランスのスポーツ思想に関する研究—クーベルタンとモンテルラン」博士学位論文：内容の要旨及び審査の結果の要旨8,1991年。)

(*)深井人詩「「オリンポスの果実」書誌調査—第10回ロサンゼルス・オリンピック関係記事」早稲田大学図書館紀要34,1991年。
(*)朝倉太郎[他]編『日本人の生涯と医療』(エピクロス等)労働旬報社,講座・日本の保健・医療1,1991年。
(*)(参考:大槻真一郎・橋本信也「ヒポクラテスの医師像(医療における心とことば(5),特集)」日本医師会雑誌105(4),1991年。)
(*)木村利人「日本における医の倫理の問題性とバイオエシックス—仁術とヒポクラテスからの脱却(周産期における医の倫理,特集)」周産期医学21(3),1991年。)
(*)(参考:今井正浩「ポリュボス「人間の本性」(De Natura Hominis)とヒポクラテス医学派—古代ギリシア医学の思想史的考察の試み」科学史研究[第0×F9C2期]30(179),1991年。)
(*)(参考:関根透・相川英三『歯学生のためのラテン語入門』医歯薬出版,1991年。)
(*)(参考:井上清恒『医学史ものがたり』内田老鶴圃,1991年。)
(*)(参考:Malvin E.Ring/谷津三雄他訳『図説歯科医学の歴史』西村書店,1991年。)
(*)(参考:平井正朗「エッサ・デ・ケイロース研究:〈O Primo Basilio〉における文献学的考察」Mare Nostrum 3,1991年。)
(*)(参考:笛月織女・安藤由紀「オリンポス占星術」(講談社)Midori2(1),1991年。)
(*)(参考:笛月織女・安藤由紀「オリンポス占星術」(講談社)Midori2(2),1991年。)
(*)(参考:笛月織女・安藤由紀「オリンポス占星術」(講談社)Midori2(3),1991年。)
(*)(参考:笛月織女・安藤由紀「オリンポス占星術」(講談社)Midori2(4),1991年。)
(*)(参考:笛月織女・安藤由紀「オリンポス占星術」(講談社)Midori2(5),1991年。)
(*)(参考:笛月織女「オリンポス占星術」(講談社)Midori2(6),1991年。)
(*)(参考:笛月織女・安藤由紀「オリンポス占星術」(講談社)Midori2(7),1991年。)
(*)(参考:笛月織女「オリンポス占星術」(講談社)Midori2(9),1991年。)
(*)(参考:笛月織女・安藤由紀「オリンポス占星術」(講談社)Midori2(10),1991年。)
(*)(参考:笛月織女・安藤由紀「オリンポス占星術」(講談社)Midori2(12),1991年。)
(*)(参考:笛月織女・都路知世「オリンポス占星術」(講談社)Midori2(14),1991年。)
(*)(参考:鏡リュウジ『魂(プシュケー)の西洋占星術』学習研究社,1991年。)
(*)(参考:合阪學研究代表『西洋における世界国家の経営と民族問題』科学研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書,平成元,2年度,大阪大学文学部西洋史研究室,1991年。)
(*)(参考:橋場弦『アテナイ公職者弾劾機構の研究』東京大学,博士(文学),甲第9262号,1991年。)
(*)(参考:本村凌二「ローマ社会における避妊と堕胎」西洋史研究20,1991年。)
(*)(参考:鈴木一郎「ローマの『共和制』の起源について」恵泉女学園大学人文学部紀要3,1991年。)
(*)(参考:新保良明「元老院裁判からみ見た元老院の人的構造—ユリウス・クラウディウス朝期を中心に」西洋史研究20,1991年。)
(*)(参考:長谷川岳雄「ヘレニズム期ギリシアの社会問題:人口不足と不穏な大衆」クリオ=Clio 5,1991年。)
(*)(参考:森弘一「エラスムスと政治的現実--「キリスト教君主の教育」の君主と臣民に関する記述から」社会文化史学28,1991年。)

(*)(参考：西村貞二『マキアヴェリズム』講談社,1991年。)
(*)(参考：三井哲夫「〈論説〉古典古代における法の牴触について—ホメロスの時代からヘレニズム終焉まで(荒教授退官記念号)」筑波法政14,1991年。)
(*)橋場弦「「古代ギリシア法思想史研究」一柳俊夫」法制史研究41,1991年。
(*)(参考：仲手川良雄「「エイサンゲリア(弾劾裁判)成立史—アテナイ公職者弾劾制度の発生と展開をめぐって」橋場弦(史学雑誌99編10号)」法制史研究41,1991年。)
(*)(参考：八木鉄男・深田三徳編『法をめぐる人と思想』ミネルヴァ書房,1991年。)
(*)(参考：小菅芳太郎「法学史上の古代末(「死後贈与」前史からの管見)(1)」北海道大学法学論集41(5・6),1991年。)
(*)(参考：柴田光蔵『ローマ法フォーラム--現代・ローマ・ローマ法』(4巻)玄文社,1991-94年。)
(*)山口廸彦「イェーリングと近代日本法学」日本法政学会法政論叢27,1991年。
(*)(参考：J.J.バッハオーフェン/岡道男・河上倫逸訳『母権論I・II』みすず書房,1991-93年。)
(*)(参考：M.I.フィンレイ/柴田平三郎訳『民主主義—古代と現代』刀水書院,刀歴史全書29,1991年。)
(*)ユスティニアヌス帝編纂/江南義之訳『『學說彙纂』の日本語への翻訳』白桃書房,1991-92年(→1992 年,信山社出版,大学図書(発売),1996 年,新装第 1 版)。
(*)(参考：柴田光蔵『現代・ローマ・ローマ法』玄文社,ローマ法フォーラム,1991-94 年。)
(*)「ローマ法・西洋法制史文献目録」(平成 2-18 年)法制史研究 41-57,1991-2007 年。

(*)いとうせいこう「「カール・マルクス」その可能性の中心(柄谷行人&高橋源一郎)」群像47(6),1992年。
(*)(参考：加藤博研究代表『「地中海世界：における環境と人間：景観・文化・人間類型の比較総合的研究』一橋大学,科学研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書,平成 3 年度。)
(*)(参考：櫻井万里子『西洋古代における習俗・文化と社会意識』東京学芸大学 1991 年,(科研費)1992 年。)
(*)(参考：松本宣郎・牟田口義郎『地中海』(ギリシア・ローマから「イスラームの内海」へ)地域からの世界史 10,朝日新聞社,1992 年。)
(*)(参考：佐藤彰一・松村赳『西ヨーロッパ(上下)』地域からの世界史 13,14,朝日新聞社,1992-93 年。)
(*)(参考：樺山紘一『世界史への扉』地域からの世界史 19,朝日新聞社,1992 年。)
(*)(参考：フェルナン・ブローデル,ジョルジュ・デュビ/神沢栄三訳『人間と遺産』地中海世界 2,みすず書房,1992 年。)
(*)(参考:宮本久雄研究代表『古代地中海世界における「女性」の役割と意義』宮本久雄,1992年。)
(*)(参考：青柳正規『古代都市ローマ』東京大学,博士(文学),乙第 10572 号,1992 年。)
(*)吉田桂二『地中海を巡る町と住まいの旅』彰国社,1992 年。)
(*)辻邦生『遙かなる旅への追想』新潮社,1992 年。
(*)西村貞二「小林秀雄ともに—ドイツ・オーストリア・イタリアの旅」新潮 89(5),1992 年。
(*)牛山剛演出；ポリドール企画・製作『ギリシア・エーゲ海の旅：碧い海と白い鳥に誘わ

れて』ビデオレコード,ポリドール(発売・販売),1992 年。
(*)『ギリシア・エーゲ海』初版,ハンディガイド 17,近畿日本ツーリスト,1992 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンド・ビッグ社,1992-93 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ローマ』ダイヤモンド・ビッグ社,1992-93年。
(*)実相寺昭雄「連載 青いエーゲ海 茶色の大平原 コーラーはどこでも黒い 奇想のカデンツィア」音楽現代 22(11),1992 年。
(*)『エーゲ海のヴィーナス Venus of Aegean Sea』ビデオディスク,世界の美女シリーズ,ニホンモニター,日本クラウン,1992 年。)
(*)大東純子録音・解説・写真『エーゲ海のムーサ：ギリシア島嶼部の歌と踊り』地球の音楽：フィールドワーカーによる音の民族誌 28：ギリシア,日本ビクター,1992 年。
(*)「エーゲ海ツアー告知」Kazi：ヨット,モーターボートの雑誌 58(1),1992 年。
(*)「エーゲ海ツアー告知」Kazi：ヨット,モーターボートの雑誌 58(2),1992 年。
(*)「エーゲ海ツアー告知」Kazi：ヨット,モーターボートの雑誌 58(3),1992 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『泊まってみたいヨーロッパのプチホテル：ローマとイタリアのルネッサンス都市』地球の歩き方：旅のライブラリー503,ダイヤモンド・ビッグ社,1992 年。
(*)(参考：森俊偉『地中海のイスラム空間：アラブとベルベル集落への旅』建築探訪 14,丸善,1992 年。)
(*)川島忠雄『ティ・アーモ：地中海を結ぶ愛』地中海叢書,九藝出版,1992 年。)
(*)宮崎市定『東西交渉』宮崎市定全集 19,1992 年。
(*)(参考：Momber Eckhardt「トロヤの木馬：アルトゥール・ケストラーの日本体験記(1959)に関する覚え書き：近く迎える死後 10 周年記念を契機として」京都産業大学論集,外国語と外国文学系列 19,1992 年。)
(*)牛山剛演出；ポリドール企画制作『ギリシア・エーゲ海の旅：海と白い鳥に誘われて』ポリドル「(発売・販売),ビデオレコード,1992 年。
(*)草野和夫『天を見よ：祐天物語』(パルテノン)草野和夫,1992 年。
(*)(参考：竹島俊之「〈報告〉第一回シンポジウム-日本におけるギリシャ文化研究—に出席して」プロピレア 4,1992 年。)
(*)(参考：羽田亨『西域文明史概論・西域文化史』東洋文庫,平凡社,1992年(→2008年,ワイド版東洋文庫。)
(*)(参考：三浦新七著・川副武胤責任編集『希臘・羅馬・猶太及び東洋文明』東西文明史 1,2,三浦新七博士記念会,1992 年。)
(*)山内昶「日本のなかのフランス—鎖国期の日仏文化交流史」甲南大学紀要,文学編 86,1992 年。
(*)(参考：土谷直人・石川達夫「ダニレフスキーの文明史観」東海大学紀要：文学部 57,1992 年。)
(*)(参考：長谷川茂夫「アルカディアのヘレナ」鹿児島大学文科報告,第3分冊独語・独文学・仏語・仏文学篇27,1992年。)
(*)(参考：江口修「アルカディアあるいは遁走するアレゴリー(小樽商科大学創立80周年記念論集)」小樽商科大学人文研究 83,1992 年。)
(*)金井美恵子『金井美恵子全短編』(「アルカディア探し」「プラトン的恋愛」)日本文芸

社,1992 年。
(*)(参考：平川泰司「『アルカディア』における言葉遊び(1)」コルヌコピア 3,1992 年。)
(*)三浦一郎「〈随想〉トリコス遺跡と野の花」(上智大学)ソフィア 41(1),1992 年。
(*)周藤芳幸「国境の考古学—古典期アッティカの辺境をめぐって」クリオ=Clio6,1992 年。
(*)テレビ朝日・テレコムジャパン企画・製作『イギリス鉄道の旅：イングランド・スコットランド・ウェールズ 偉大なる田園風景 ; フランス鉄道の旅 ; パリ発・グルメ,菜の花,地中海---春の旅』世界の車窓から 4,テレビ朝日,ビクター音楽産業(発売),1992 年。)
(*)テレビ朝日・テレコムジャパン企画・製作『フランス鉄道の旅 ; パリ発・グルメ,菜の花,地中海---春の旅』世界の車窓から 12,テレビ朝日,ビクター音楽産業(発売),1992 年。)
(*)(参考：ダンカン・フォーブズ/月村澄江訳『トルコ歴史紀行：小アジアの回廊』心交社,世界紀行冒険選書17,1992年。)
(*)(参考：鈴木董「帝都イスタンブルとオスマン権力(シリーズ・イスラームの都市性(9))」学術月報45(10),1992年。)
(*)(参考：浅野和生「カラジャエレン島(トルコ,リキア地方)の墳墓のフレスコ画に関する様式的考察」愛知教育大学研究報告,芸術・保健体育・家政・技術科学41,1992年。)
(*)(参考：ドアン・ギュムシュ/原田武子訳『エフェソス：史蹟めぐり』Do-Gü Yayinlari,1992年。)
(*)森光洋子『岐かれ道』(ポンペイ)甲陽書房,1992年。
(*)(参考：坂井聰「ポンペイ出土のオスク語碑文：Ve28をめぐる一考察」古代文化44(10),1992年。)
(*)星和夫「医学のルーツを尋ねて：トルコの旅(1)」日本病院会雑誌39(9),1992年。
(*)星和夫「医学のルーツを尋ねて：トルコの旅(3)」日本病院会雑誌39(11),1992年。
(*)(参考：三浦一郎「〈随想〉トリコス遺跡と野の花」ソフィア41(1),1992年。)
(*)(参考：レオナード・コットレル/暮田愛訳『エーゲ文明への道：シュリーマンとエヴァンズの発掘物語』原書房,1992年。)
(*)(参考：佐藤林平「ハインリッヒ・シュリーマンという男」慶應義塾大学日吉紀要・言語・文化・コニュニケーション10,1992年。)
(*)(参考：マグダ・レヴェツ・アレクサンダー/池井望訳『塔の思想：ヨーロッパ文明の鍵』河出書房新社,1992年。)
(*)(参考：ムロタニツネ象まんが『ギリシア文明とペルシア帝国の興亡』学研まんが世界の歴史2,学習研究社,1992年。)
(*)(参考：『アレクサンドロス・カエサル・イエス：西洋の古代文明』ぎょうせい,1992年。)
(*)(参考：『ダンテ,レオナルド・ダ・ヴィンチ,ミケランジェロ：イタリア=ルネサンス』ぎょうせい,1992年。)
(*)(参考：Besson Luc他「アトランティス〈特集〉」キネマ旬報1091,1992年。)
(*)(参考：赤嶺健治「『赤毛布外遊記』・マーク・トウェインのヤヌス的文明批評」言語文化研究紀要1,1992年。)
(*)(参考：ムロタニツネ象まんが『ギリシア文明とペルシア帝国の興亡』学研まんが世界の歴史2,学習研究社,1992年。)

(*)(参考：澤柳大五郎「イタリア所在のギリシア墓碑」Spazio 46,1992年。)
(*)(参考：澤柳大五郎「ヘゲソの鼻」Spazio 47,1992年。)
(*)(参考：熊谷園子「バイロンと「エルギン・マーブルズ」」イギリスロマン派研究 16,1992年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(7)アディソンと〈権略〉の都ヴェネツィアにおける〈美〉の不在,ギボンと〈醜悪〉かつ〈貪欲〉なヴェネツィア」人文研究 113,1992 年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(8)ブロス議長と美醜の混在する快楽の都ヴェネツィア」人文研究 114,1992 年。)
(*)(参考：下村寅太郎『レオナルド研究』みすず書房,1992 年。)
(*)(参考：三角美次「カミュにおける知性のあり方(特集 地中海：知の継承と変遷)」Mare Nostrum4,1992 年。)
(*)(参考：森本智美『偏立姿勢に関する美術解剖学的研究』東京芸術大学,美術博士,甲第 44 号,1992 年。)
(*)(参考：前川誠郎先生記念論集刊行会編『美の司祭と巫女：西洋美術史論集』中央公論美術出版,1992年。)
(*)(参考：中山典夫「ギリシア美術と現代(1)人体美の古典的規範」芸術研究報13,1992年。)
(*)水田徹「本邦所在のギリシア陶器—Corpus Vastorum Antiquorum ：Japan 1,Japan 2の編纂を終えて」学術月報45(1),1992年。
(*)水田徹「学校および美術館における鑑賞教育の研究：「鑑賞教育のための複製美術展」報告」東京学芸大学紀要,第2部門,人文科学43,1992年。
(*)(参考：勝又俊雄「後期ヘラディック3期のビクトリアル・スタイルにおける「戦車構図」の成立とその起(1-3)」女子美術大学紀要22,1992年/24,1993年/25,1995年。)
(*)(参考：東京動物園協会編『古代ローマモザイクの魚』東京動物園協会,1992年。)
(*)(参考：岩城宏之「アドリア海の碧(あお)い空—ジョン・ケージの想い出(ジョン・ケージが遺したもの,特集)」音楽芸術50(10),1992年。)
(*)Antonio Salvadori/陣内秀信・陣内美子共訳『ヴェネツィア』丸善,建築ガイド4,1992年。
(*)陣内秀信『ヴェネツィア：水上の迷宮都市』講談社現代新書,1992年。
(*)須賀敦子「ヴェネツィアに住みたい」Mr.&Mrs.4月号,1992年。
(*)須賀敦子「ローマに住みたい」Mr.&Mrs.10月号,1992年。
(*)須賀敦子「フィレンツェ—急がないで歩く街」太陽5月号,1992年。
(*)須賀敦子「アスフォルディアの野をわたって」文學界7月号,1992年。
(*)(参考：関根秀雄・齋藤広信訳『モンテーニュ旅日記』白水社,1992年。)
(*)(参考：木庭宏「ハイネとイタリア：イタリア紀行文をめぐって」ドイツ文学89,1992年。)
(*)(参考：饗庭孝男『幻想の都市：ヨーロッパ文化の象徴的空間』新潮社,1992年(→1998年,講談社学術文庫版)。)
(*)(参考：佐藤真一「トレルチとシュペングラー」(国立音楽大学)研究紀要27,1992年。)
(*)(参考：『アレクサンドロス・カエサル・イエス：西洋古代文明』学参まんが,世界歴史人物なぜなぜ事典1,ぎょうせい,1992年。)
(*)(参考：ムロタニツネ象まんが『ヘレニズム文明とアレクサンドロス大王の遠征』学研まんが世界の歴史3,学習研究社,1992年。)
(*)(参考：前田耕作『バクトリア王国の興亡：ヘレニズムと仏教の交流の原点』レグルス文

庫198,1992年。)
(*)仲手川良雄「ブルクハルト著/新井靖一訳『ギリシア文化史I』筑摩書房,1991」史學雑誌101(1),1992年。
(*)山中由里子「明治日本人のペルシア体験」比較文学35,1992年。)
(*)牟田口義郎『カイロ』文藝春秋,1992年(→1999年,文春文庫版)。
(*)(參考：丹羽隆子「エジプト幻想：太陽神ラーと冥府の神オシリスの国を旅して(特集 IAIN'91)」航海112,1992年。)
(*)(參考：保坂高殿「小プリニウス「キリスト教書簡」(EP.x.96)の理解のために」駿台史学85,1992年。)
(*)(參考：菅井日人『聖母マリアの奇蹟：メジュゴリエ/ファチマ/ルルド』ヨーロッパ新紀行,グラフィック社,1992年。)
(*)(參考：保坂高殿「ムヌキウス・フンダーヌス宛て,ハドリアヌス返書」武蔵大学人文学会雑誌24(1),1992年。)
(*)西前輝夫「カルタゴ・コンプレックスが生む「国際貢献」強迫症」朝日ジャーナル34(19),1992年。
(*)竹島俊之「第一回シンポジウム—日本におけるギリシヤ文化研究—に出席して〈報告〉」プロピレア4,1992年。)
(*)(參考：清瀬卓「まえがき(特集 地中海：知の継承と変遷)」Mare Nostrum 4,1992年。)
(*)(參考：堀川徹・岡道男・湯川武・澤井繁男・鈴木薫「シンポジウム：地中海の知のかたち(特集 地中海：知の継承と変遷)」Mare Nostrum 4,1992年。)
(*)(參考：岡道男「〈基調報告1〉ギリシアの知の「宝庫」 (特集 地中海：知の継承と変遷)」Mare Nostrum 4,1992年。)
(*)(參考：澤井繁男「〈基調報告3〉知のルネサンス的ひろがり(特集 地中海：知の継承と変遷)」Mare Nostrum 4,1992年。)
(*)(參考：鈴木薫「〈基調報告4〉イスラーム世界の書物と図書館(特集 地中海：知の継承と変遷)」Mare Nostrum 4,1992年。)
(*)(參考：岡部由紀子「16世紀初頭のドイツ美術におけるイタリアとの出会い(特集 地中海：知の継承と変遷)」Mare Nostrum 4,1992年。)
(*)野中夏実「イタカ：オデュッセウスの故郷〈論文〉」プロピレア4,1992年。
(*)(參考：伊達由実「J.ホイジンガにおける遊びと文化の内的連関と現代スポーツ批判の再検討」IBU四天王寺国際仏教大学紀要 文学部25,1992年。)
(*)(參考：前川誠郎先生記念論文集刊行会編『美の司祭と巫女：西洋美術史論叢』中央公論美術出版,1992年。)
(*)(參考：小佐野重利『記憶の中の古代：ルネサンス美術にみられる古代の変容』中央公論美術出版,1992年。)
(*)(參考：Francesco Papafava編/栩木伸明他訳,井藤雅子編『ヴァチカン：美術館・市国・サン・ピエトロ大聖堂』ほるぷ連合・ほるぷ教育開発研究所,1992年。)
(*)(參考：清水睦夫『ビザンティオンの光芒：東欧にみるその文化の遺蹤』立正大学,博士(文学),乙第83号,1992年。)
(*)(參考：岡田温司「洗浄論争とその歴史(1)」研究紀要13,1992年。)
(*)松田毅一『慶長遣欧使節・徳川家康と南蛮人』朝文社,1992年。
(*)(參考：山内昶「日本のなかのフランス—鎖国期の日仏文化交流史」甲南大学紀要,文学

編86,1992年。)
(*)石附実『近代日本の海外留学史』中公文庫,1992 年(←1972 年,ミネルヴァ書房)。
(*)玉江彦太郎『若き日の末松謙澄　在英通信』海鳥社,1992年。
(*)博物館明治村編『久米邦武と久米桂一郎：二代にわたる明治文化のパイオニア』名古屋鉄道,1992年。
(*)今井修「久米邦武研究の課題—研究文献と展望」早稲田大学史紀要24,1992年。
(*)榎本義子「野上弥生子と西欧」フェリス女学院大学文学部紀要27,1992年。
(*)(参考：内田芳明「文化としての都市景観」建築雑誌107(1328),1992年。)
(*)(参考：平山郁夫・小林忠編『大英博物館』講談社,1992-1993年。)
(*)(参考：『ガンダーラ美術：ゴータマ・ブッダの生涯：巻頭特集』三彩社,1992年。)
(*)『見て楽しい作っておいしいギリシア料理：各地の伝統料理を厳選』FORORAMA,1992年。)
(*)(参考：吉沢五郎・川窪啓資編『文明の転換と東アジア：トインビー生誕100年アジア国際フォーラム』藤原書店,1992年。)
(*)(参考：ジャン・ルイ・フランドラン/宮原信訳『性の歴史』藤原書店,1992年。)
(*)(参考：本村凌二「『性の歴史』を想像する」(木村尚三郎編『歴史を旅する』所収,TBSブリタニカ,1992年。)
(*)(参考:周藤芳幸「国境の考古学 古典期アッティカの辺境をめぐって」クリオ=Clio 6,1992年。)
(*)(参考：池田裕「エルサレム」(青山学院大学基督教学会)基督教論集36,1992年。)
(*)(参考：ジョン・ゴス著/ピター・クラーク序/小林章夫訳『ブラウの世界地図：17 世紀の世界』同朋舎出版,1992年。)
(*)寺嶋直子「〈館蔵資料紹介〉オルテリウス「世界地図帳」」香散見草：近畿大学中央図書館報18,1992年。
(*)(参考:下田立行「ギリシア悲劇関連地図」(『ギリシア悲劇全集 別巻』所収,岩波書店,1992年。)
(*)(参考：『世界美術大全集：西洋編別巻,東洋編別巻,総索引』小学館,1992年。)
(*)(参考：鷲田小彌太『哲学がわかる事典：読みこなし使いこなし自由自在』日本実業出版社,1992年。)
(*)(参考:デイヴィッド・クリスタル/佐久間淳一(他)訳『言語学百科事典』大修館書店,1992年。)
(*)(参考：石川敏男編『5ヶ国世界地名-人名表記辞典：英独仏伊西語対照』ジャパンタイムズ,1992年。)
(*)(参考：梶山健編『世界ことわざ辞典：和漢洋対照』明治書院,1992年。)
(*)島村幸一「百合若伝説」(『歴史読本特別増刊・事典シリーズ(第16号)—日本神話・伝説総覧』所収,新人物往来社,1992年。)
(*)北嶋美雪「ギリシア語と私」学習院大学言語共同研究所紀要15,1992年。
(*)左近司祥子「言語と私」学習院大学言語共同研究所紀要15,1992年。
(*)(参考：平川泰司「『アルカディア』における言葉遊び(1)」コルヌコピア3,1992年。)
(*)(参考:石井正人「ドナートス文法に関する覚え書き—言語史史料としての後期古典古代における文法理論」千葉大学教養部研究報告B25,1992年。)
(*)(参考：逸身喜一郎「ホレーショの哲学(日本文化における翻訳〈特集〉)」文学3(1),1992

年。)
(*)(参考：木ノ脇悦郎『エラスムス研究：新約聖書パラフレーズの形成と展開』日本基督教団出版局,1992年。)
(*)(参考：野口誠『聖書ギリシア語四週間』いのちのことば社,1992年。)
(*)(参考：松平千秋・國原吉之助『新ラテン文法』東洋出版,1992 年。)
(*)(参考：松下正幸『医学ラテン語文法必携』栄光堂,1992 年。)
(*)(参考：村山世民「新約聖書の西方型ギリシャ語本文〈論文〉」プロピレア4,1992年。)
(*)(参考：久保田忠利「ギリシア悲劇用語解説」(『ギリシア悲劇全集 別巻』所収,岩波書店,1992年。)
(*)(参考：朝倉文市「修道院文化の形成：「カロリング・ルネサンス」における「礼拝と文化」」清泉女子大学人文科学研究所紀要14,1992年。)
(*)(参考：谷栄一郎「ラテン語は生きているか：現代ラテン語事情」奈良県立商科大学研究季報 3(1/3),1992 年。)
(*)(参考：原田裕司「現代におけるコミュニケーションの言語としてのラテン語」大阪大学言語文化学1,1992年。)
(*)(参考：高津春繁『比較言語学入門』岩波書店,1992年。)
(*)(参考：風間喜代三『印欧語の故郷を探る』岩波新書・新装版,岩波書店,1992年。)
(*)(参考：平井敬之『テキストと実存』講談社,1992年。)
(*)(参考：渡辺和彦「BRITISH LIBRARYの出版活動」情報管理35(2),1992年。)
(*)Kobayashi,Kozue‘L’ÉRUDITION DE L’ANTIQUITÉ CLASSIQUE AU JAPON’Philologus 136(2),1992.
(*)福田秀一「芳賀矢一—西欧理論に拠る日本文献学の樹立(続・古典学者の群像—明治から昭和戦前まで,特集)—(明治期における古典学者)」国文学解釈と鑑賞57(8),1992年。
(*)坂敏弘『野上彌生子参考文献目録・補遺=Nogami Yaeko bibliograhpy』明治大学大学院,1991年。
(*)大西良生編『菊池寛全著作目録』(本編・補遺)大西良生,1992 年(→1993 年,同編『菊池寛著作目録』大西良生)。
(*)田中光二『オリンポスの黄昏』集英社,1992 年。
(*)(参考：伊藤博明『ヘルメスとシュビラのイコノロジー』ありな書房,1992年。)
(*)(参考：マルセル・ドゥティエンヌ/及川馥・吉岡正敞訳『ディオニュソス：大空の下を行く神』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,1992年。)
(*)(参考：三木原浩「ロマン・ロランの『ピエールとリュース』をめぐって(3)：その牧歌的世界(本論)第2章ギリシャ・ローマ神話に牧歌性を訪ねて」論集：神戸大学教養部紀要40,1992年。)
(*)(参考：三神弘子「ジェニファー・ジョンストンの「バビロンまでは何マイル?」--イェイツ神話の解読」教養諸学研究92,1992年。)
(*)(参考：北沢格「「フォータスとヘレンの結婚のために」試論—神話的方法とハート・クレイン」東京農工大学一般教育部紀要29,1992年。)
(*)(参考：田部井世志子「D.H.Lawrenceの中期短編に見られるエデン神話の構図」北九州大学文学部紀要47,1992年。)
(*)(参考:村井翔「フロイトとエディプス神話(フロイト再読[5])」明治大学教養論集243,1992

年。)
(*)(参考：尾崎和彦「キェルケゴールの神話論」キェルケゴール研究22,1992年。)
(*)(参考：大串紀代子「病気と文学—フリッツ・ツォルンの「マルス」をめぐって」獨協大学ドイツ学研究27,1992年。)
(*)(参考：三木原浩「ロマン・ロランの『ピエールとリュース』をめぐって(3)：その牧歌的世界(本論)：第2章,ギリシャ・ローマ神話に牧歌性を訪ねて」論集：神戸大学教養部紀要49,1992年。)
(*)(参考：奥田喜八郎「聖書を踏まえた英詩解釈(1,2)—P.B.Shelly」奈良教育大学教育研究所紀要28,1992年/29,1993年。)
(*)(参考：入江和生「悲劇への道—ギリシア神話とシェイクスピア」共立女子大学文芸学部紀要38,1992年。)
(*)(参考:リリー・カヒール「ギリシア神話の美の競演とオリエント起源」古代文化44(3),1992年。)
(*)(参考：亜仁貴シナリオ・阿部高明画『女神ヘラの怒り』まんがギリシア神話3,ぎょうせい,1992年。)
(*)(参考：亜仁貴シナリオ・石原しゅん作画『英雄ペルセウスの冒険』まんがギリシア神話4,ぎょうせい,1992年。)
(*)(参考：亜仁貴シナリオ・平松修作画『ヘラクレスの12の手がら』まんがギリシア神話5,ぎょうせい,1992年。)
(*)(参考：亜仁貴シナリオ・阿部高明作画『アテナイ王テセウス』まんがギリシア神話6,ぎょうせい,1992年。)
(*)(参考：亜仁貴シナリオ・石原しゅん作画『黄金の羊をめぐる冒険』まんがギリシア神話7,ぎょうせい,1992年。)
(*)(参考：亜仁貴シナリオ・平松修作画『悲劇の王オイディプス』まんがギリシア神話8,ぎょうせい,1992年。)
(*)(参考：亜仁貴シナリオ・阿部高明作画『トロイア戦争』まんがギリシア神話9,ぎょうせい,1992年。)
(*)(参考：亜仁貴シナリオ・石原しゅん作画『二人の冒険家の大航海』まんがギリシア神話10,ぎょうせい,1992年。)
(*)(参考：岡道男・研究代表『ギリシア・ローマ神話の宗教生と文芸性の研究』岡道男,1992年。)
(*)(参考：佐々木理『ギリシア・ローマ神話』講談社学術文庫,講談社,1992年。)
(*)(参考：ピエール・グリマル/高津春繁訳『ギリシア神話』文庫クセジュ,白水社,1992年。)
(*)(参考：M.P.ニルソン/小山宙丸・丸野稔・兼利琢也訳『ギリシア宗教史』創文社,1992年。)
(*)(参考：別役実・加藤典洋・大塚英志「「みんな他人事(ひとごと)」の幸福—「湾岸戦争」から「平成のヴィーナス」まで('91世相座談会)」中央公論107(1),1992年。)
(*)(参考：コレット・エスタン,エレーヌ・ラポルト/田辺希久子訳『ギリシア・ローマ神話ものがたり』創元社,1992年。)
(*)(参考：松田治『ローマ神話の発生：ロムルスとレムスの物語』現代教養文庫1442,社会思想社,1992年。)
(*)(参考：カルロ・ギンズブルグ/竹山博英訳『闇の歴史：サバトの解読』せりか書房,1992

年。)
(*)(参考：石川康輔「「旧約聖書続編」と教会とユダイズム・ヘレニズム(1991年度聖書講座〈教会の伝統と聖書の周辺〉)」世紀506,1992年。)
(*)(参考：A.ジークフリード著/鈴木一郎訳『ユダヤの民と宗教：イスラエルの道』岩波新書,岩波書店,1992年。)
(*)(参考：サム・ジンバリスト監督/ウィリマム・ワイラー監督『ベン・ハー(1,2)』MGM/UA home video,ワーナー・ホーム・ビデオ(発売),1992年。)
(*)(参考：小嶋潤『西洋思想史上のキリスト教』人間科学叢書20,刀水書房,1992年。)
(*)(参考：荒井献『私の聖書研究』ATD・NTD 聖書注解刊行会,1992 年?。
(*)(参考：荒井献「『私は彼女を(天国へ)導く』--トマス福音書の女性観再考」現代思想2月号,1992年。)
(*)(参考：土戸清『ヨハネ福音書における伝承と編集：「人の子」句を含む記事単元の伝承批判的・編集史的研究』京都大学,文学博士,乙第7703号,1992年。)
(*)(参考：秋山学「ヨハネ福音書における女性の役割と意義—ことばの誕生と成立をめぐって」(平成23年度科学研究費補助金一般研究(C)研究成果報告書「古代地中海世界における女性の役割と意義」1992年。)
(*)(参考：田中穂積「ヘレニズム時代における反ユダヤ主義の特徴について」(1991年度科学研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書「西洋史における文化衝突諸相の総合研究」所収,1992年。)
(*)(参考：後藤篤子「ローマ帝国の『キリスト教化』をめぐって—ローマン・アフリカの場合」法政史学44,1992年。)
(*)(参考：保坂高殿「小プリーニウス「キリスト教書簡」(Ep.x.96)の理解のために」駿台史学85,1992年。)
(*)(参考:豊田浩志「『ディオクレティアヌスのキリスト教大迫害』勃発原因をめぐって(1-3)」上智史學37,1992年/38,1993年/41,1996年。)
(*)(参考:ジョナサン・N.タブ/小川英雄訳『聖書の世界』同朋舎出版,ビジュアル博物館,1992年。)
(*)(参考:秀村欣二「使徒パウロ小考:その社会的環境と市民権(史学科開設25周年記念号)」青山史学13,1992年。)
(*)(参考:島創平「ローマの奴隷制とキリスト教」(東洋英和女学院短期大学)研究紀要 30,1992年。)
(*)(参考：ルター/徳善義和訳『ローマ書講義(上下)』[ルター著作集,日本ルーテル神学大学ルター研究所編,第2集第8-9巻]聖書舎,1992-2005年。)
(*)(参考：S.サフライ/有馬七郎訳『イエス時代の背景：ユダヤ文献から見たルカ福音書』ミルトス,1992年。)
(*)(参考：笠原金吾『ルカ福音書講話』横手聖書学舎,1992年。)
(*)(参考：井上洋治『イエスをめぐる女性たち』弥生書房,1992年。)
(*)(参考：土屋博『聖書のなかのマリア：伝承の根底と現代』聖書の研究シリーズ39,教文館,1992年。)
(*)(参考：H.W.アトリッジ/秦剛平訳『キリスト教の起源と発展』エウセビオス研究1,リトン,1992年。)
(*)(参考：H.W.アトリッジ/秦剛平訳『キリスト教の正統と異端』エウセビオス研究2,リト

ン,1992年。)
(*)(参考：H.W.アトリッジ/秦剛平訳『キリスト教とローマ帝国』エウセビオス研究3,リトン,1992年。)
(*)(参考：Philon/山崎秋夫訳「アレクサンドリアのフィロン「観想的生活について」--(「徳について」の第4部)」阪南論集,人文・自然科学編28(1),1992年。)
(*)(参考：H.ヨナス/出村みや子訳「グノーシス現象の射程」現代思想2月号,1992年。)
(*)(参考：H.C.ピュエシュ/赤羽研三訳「〈グノーシス〉を探し求めて」現代思想2月号,1992年。)
(*)(参考：柴田有「造物の意志とアイデンティティ」現代思想2月号,1992年。)
(*)(参考：久米博「反グノーシス的グノーシスとしての原罪概念」現代思想2月号,1992年。)
(*)(参考：彌永信英「閉塞世界とグノーシスの〈光〉」現代思想2月号,1992年。)
(*)(参考：入江良平「ユング心理学とグノーシス」現代思想2月号,1992年。)
(*)(参考：丹生谷貴志「「老い」のグノーシス」現代思想2月号,1992年。)
(*)(参考：二タ村発生「グノーシス主義とシュルレリアリスム」現代思想2月号,1992年。)
(*)(参考：中村雄二郎・湯浅泰雄「〈異教〉のロジック」現代思想2月号,1992年。)
(*)(参考：星名雪子「ディオニシウス偽書「神秘神学」に於ける否定」哲学28,1992年。)
(*)『辻邦生歴史小説集成(1-12巻)』岩波書店,1992-93年。
(*)(参考：池上俊一『狼男伝説』朝日選書463,朝日新聞社,1992年。)
(*)(参考:池上俊一『魔女と聖女:ヨーロッパ中・近世の女たち』講談社現代新書,講談社,1992年(→2015年,増補ちくま学芸文庫版)。)
(*)(参考：岩井淳「ピューリタニズム研究の新展開—常行・今関・梅津氏の3著作をめぐって」歴史学研究629,1992年。)
(*)(参考：塩野七生『法王庁殺人事件』朝日新聞社,1992年(→1995年,朝日文庫版,改題「黄金のローマ：法王庁殺人事件」)。)
(*)高木孝子『キリスト教と日本人の宗教観』南窓社,1992年。
(*)遠藤周作『切支丹時代：殉教と棄教の歴史』小学館,小学館ライブラリー20,1992年。
(*)齋藤末弘『評伝椎名麟三』朝文社,1992年。
(*)阿部泰郎「八幡縁起と中世日本紀—「百合若大臣」の世界から」現代思想 20(4),1992 年。
(*)篠原進「〈百合若〉の変容」青山学院大学文学部紀要 34,1992 年。
(*)徳江元正「奈良絵本「ふくろう」」國學院大學図書館善本解題 IV」(百合若大臣)國學院大學図書館紀要 4,1992 年。
(*)大林太郎「日本の海洋文化とは何か」(百合若)海と列島文化 10,1992 年。
(*)岩崎允胤「司馬江漢とその思想」文化評論 382,1992 年。
(*)秦新二『文政十一年のスパイ合戦』(シーボルト)文藝春秋社,1992 年(→1996 年,文春文庫)。
(*)(参考：波田野節子「獄中豪傑の世界—李光洙の中学時代の読書歴と日本文学」(木村鷹太郎)朝鮮学報 143,1992 年。)
(*)稲村徹元監修(近代作家追悼文集成 28)『吉江喬松・馬場孤蝶』ゆまに書房,1992 年。
(*)亀井秀雄「纂訳と文体」北海道大学文学部紀要 2 月号,1992 年。
(*)大沼敏男「東海散史「佳人之奇遇」(明治長篇小説事典〈特集〉)」国文学解釈と鑑賞 57(4),1992 年。
(*)高田衛・亀井秀雄・小森陽一「《鼎談》同時代と文学研究」季刊・文学 4 月号,1992 年。

(*)菊池寛記念館編『菊池寛伝』改訂版,菊池寛記念館,1992 年。
(*)久野収編『回想の林達夫』日本エディタースクール出版部,1992 年。
(*)木崎さと子「祝福された“シェイクシピアの妹”—野上弥生子小論(作家による作家論,特別企画)」文學界 46(2),1992 年。
(*)筒井清忠「近代日本の教養主義と修養主義—その成立過程の考察」思想 2 月号,1992 年。
(*)小峯和明「和辻哲郎—精神史と古典文学(続・古典学者の群像—明治から昭和戦前まで〈特集〉—(大正期における古典学者)」国文学 解釈と鑑賞 57(8),1992 年。
(*)佐々木昭夫「土井晩翠作「ミロのヱーナス」と西洋詩」比較文学 35,1992 年。
(*)平辰彦「齋藤茂吉の「写生」説とドイツ文芸:ニーチェの影響をめぐって」文藝論叢 29,1993 年。
(*)小川亮彦「遙曳するテクスト:西脇順三郎『Ambavalia』の間言語的側面について」文学研究論集 9,1992 年。
(*)澤正弘「ギリシア的抒情詩より—西脇順三郎(作品別 現代詩を読むための研究事典—詩はどのように読まれてきたか)」国文学 解釈と教材の研究 37(3),1992 年。
(*)三谷憲正「「走れメロス」試論:〈リアリズム〉と〈ロマンチシズム〉の相克をめぐって」稿本近代文学 17,1992 年。
(*)太宰治原作・おおすみ正秋監督・小田和正音楽『走れメロス』新潮 VIDEO,ビデオカセット,朝日新聞社,1992 年。
(*)玉置邦雄「「走れメロス」出典考」日本文藝研究 43(4),1992 年。
(*)大森望「「走れメロス」〈特集〉」キネマ旬報 1087,1992 年。
(*)三浦和尚「中学校における文学教材上の問題点—太宰治「走れメロス」の場合」愛媛大学教育学部紀要 第 1 部 教育科学 39(1),1992 年。
(*)おおすみ正秋「「走れメロス」シナリオ創作・演出ノート[含・作品]」シナリオ 48(9),1992 年。
(*)武田信明「「アポロの杯」--既視の風景(三島由紀夫の世界,特集)—(作品の世界)」国文学:解釈と鑑賞 57(9),1992 年。
(*)村松剛「三島由紀夫:その生涯と文学(第二部)」文学研究論集 9,1992 年。
(*)辻井尚子『野上彌生子』未来社,1992 年。
(*)(参考:『世界の戦争・革命・反乱:総解説:世界地図を塗りかえた世界史像の“解読”大全』改訂版,自由国民社,1992 年。)
(*)(参考:木村尚三郎『歴史を旅する』TBS ブリタニカ,1992 年。)
(*)(参考:木村尚三郎『世界の都市の物語』文藝春秋,1992 年。)
(*)(参考:七瀬カイ『世界の歴史 5000 年:まんが』学習研究社,1992 年。)
(*)(参考:玉置さよ子『西ゴートの君主と法』奈良女子大学,博士(文学),乙第 5807 号,1992 年。)
(*)清永昭次「涙の谷・バカの谷・嘆きの谷」学習院大学言語共同研究所紀要 15,1992 年。
(*)(参考:ロンカミロ・マルセル/小川明訳「『歴史学と地理学』:比較のための基礎概念」上武大学商学部紀要 3(2),1992 年。)
(*)(参考:武末祐子「カルタゴ傭兵の乱とフランス二月革命:フローベルが描いた戦争」西南学院大学フランス語フランス文学論集 28,1992 年。)
(*)(参考:坂口明「ロストフツェフのローマ史像とロシア」史叢 49,1992 年。)
(*)(参考:長谷川博隆編『古典古代とパトロネジ』名古屋大学出版会,1992 年。)

----第 I 部：ギリシア(第 1 章「ポリス社会とパトロネジ」--第 3 章「スパルタにおけるパトロネジ論の有効性」,第 II 部：共和政期ローマ(第 4 章「ローマ共和制初期のパトロネジ」)—第 8 章「クリエンテラ-パトロネジの底にあるもの」),第 III 部：帝政期ローマ(第 9 章「元首政期のパトロキニウム」--第 11 章「ローマ帝政期のパトロネジ」),あとがき(長谷川博隆)

(*)Senshu University Library“The Catalogue of old and rare books in the Senshu University Library”,1992.

(*)遠山茂樹『日本近代史学史』遠山茂樹著作集 8,岩波書店,1992 年。)

(*)(参考：伊藤貞夫「1980 年代のギリシア家族研究」史學雑誌 101(4),1992 年。

(*)伊藤貞夫「村川堅太郎先生を偲ぶ」史學雑誌 101(4),1992 年。

(*)伊藤貞夫「村川堅太郎先生を偲ぶ」西洋古典學研究 40,1992 年。

(*)伊藤貞夫「村川堅太郎先生追悼」西洋古典學研究 40,1992 年。

(*)「村川堅太郎先生(写真)」西洋古典學研究 40,1992 年。

(*)穂積重行「村川堅太郎先生」向陵 4 月号,1992 年。

(*)(参考：『世界の英雄 100 人：特集；世界史を面白くした 100 人の英雄銘々伝!』歴史ワールド読本 15,新人物往来社,1992 年。)

(*)(参考：ヌルテン・セヴィンチ/原田武子訳『トロイア』A Turizm yayinlari,1992 年。)

(*)(参考：武光誠『世界戦史 99 の謎：トロイア戦争から湾岸戦争まで』PHP 文庫,PHP 研究所,1992 年。)

(*)(参考：亜仁真シナリオ・阿部高明作画『トロイア戦争』まんがギリシア神話 9,ぎょうせい,1992 年。)

(*)(参考：橋本一朗訳注『アレクサンドロスの書,アポロニオの書』大学書林,1992 年。)

(*)(参考：山中由里子「都市の誕生と死(上下)アレクサンドロス伝説におけるアレクサンドリアの建設とペルセポリスの破壊」比較文學研究 61,62,1992 年。)

(*)(参考：保坂高殿「ミヌキウス・フンダーヌス宛て,ハドリアヌス返書」武蔵大学人文学会雑誌 24(1),1992 年。)

(*)(参考：塩野七生『ローマは一日にして成らず』ローマ人の物語 1,新潮社,1992 年。)

(*)吉川幸男「歴史教材研究の方法(1)弓削達『永遠のローマ』を読む」教育実践総合センター研究紀要 4,1992 年。

(*)(参考：佐藤育子「紹介」オリエント 35(2),1988 年。)

(*)(参考：池上俊一『歴史としての身体：ヨーロッパ中世の深層を読む』柏書房,1992年(→1997 年,新装版[4 刷])→2001 年,「身体の中世」ちくま学芸文庫版)。)

(*)(参考：出崎澄男「『カール大帝伝』と『アウグストゥス伝』そして『歴代誌：上』」白百合女子大学研究紀要 28,1992 年。)

(*)(参考：桐生尚武「ヨーロッパ：現代南欧(1991 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 101(5),1992 年。)

(*)(参考：立石博高「ヨーロッパ：近代南欧(1991 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 101(5),1992 年。)

(*)(参考：佐藤彰一「ヨーロッパ：中世西欧(1991 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 101(5),1992 年。)

(*)(参考：篠崎三男「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1991 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 101(5),1992 年。)

(*)(参考：後藤篤子「ヨーロッパ：古代：ローマ(1991 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 101(5),1992 年。)
(*)(参考：岸田達也「ブルクハルトの「歴史の研究について」--「新稿」の「序論」の構成を中心として」史叢 48,1992 年。)
(*)(参考：岸田達也「ブルクハルトの「歴史の研究について」--いわゆる「世界史的考察」としての受容の問題」日本大学人文科学研究所研究紀要 43,1992 年。)
(*)(参考：武井邦夫「世界史観の探究—ヘーゲルとマルクス」茨城大学人文学部紀要,社会科学 25,1992 年。)
(*)(参考：西村貞二『世界史物語：ビジュアル版』講談社,1992 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『詳説世界史』3 訂版,山川出版社,1992 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『詳説世界史：教授資料』3 訂版,山川出版社,1992 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『標準世界史』改訂版,山川出版社,1992 年。
(*)(参考：村川堅太郎他著『標準世界史：教授資料』改訂版,山川出版社,1992 年。)
(*)(参考：ジャック・ルゴフ他/二宮宏之訳『歴史・文化・表象：アナール派と歴史人類学』New History,岩波書店,1992 年(→1999 年,岩波モダンクラシックス版)。)
(*)(参考：秋山学「ニュッサのグレゴリオアスにおける聖書解釈の展開—旧約聖書の注解書を中心に」西洋古典學研究 40,1992 年。
(*)(参考：ホメロス：[T.W.アレン校訂]松平千秋訳『イリアス(上下)』岩波文庫,岩波書店,1992 年。)
(*)(参考：山形治江「アイスキュロス作「オレスティア 3 部作」と現代ギリシャ--「オレスティア事件」と英国国立劇場の「オレスティア」公演」演劇研究 16,1992 年。)
(*)(参考：山形治江「古代劇上演にみられる現代ギリシャの葛藤と展望—ラリサ公立地方劇団の「エレクトラ」公演」國學院雑誌 93(3),1992 年。)
(*)(参考：久保正彰『ギリシア・ラテン文学研究—叙述技法を中心に』岩波書店,1992 年。)
(*)(参考：安藤弘『叙事詩の世界』新地書房,1992 年。)
(*)(参考：渡辺浩司「カタルシスと悲劇に固有の快：アリストテレスの『詩学』より」美学 42(4),1992 年。)
(*)(参考：ルキウス・アプレイウス原作・マクス・クリンガー作画/谷口勇訳『アモルとプシュケ』アモルとプシュケ叢書,而立書房,1992 年。)
(*)(参考：岡道男他編『ラテン文学を学ぶ人々のために』世界思想社,1992 年。)
(*)(参考：小川正廣『ウェルギリウス研究』京都大学,文学博士,乙第 7965 号,1992 年。)
(*)(参考：高岡幸一「ウェルギリウスの「アエネイアス」における extradiegetique な要素—叙事詩的文体における主観性の問題」言語文化研究 18,1992 年。)
(*)(参考：ルキウス・アプレイウス原作/マクス・クリンガー作画/谷口勇訳『アモルとプシュケ(附録：「愛と心」戸澤姑射訳述)』アモルとプシュケ叢書,而立書房,1992 年。)
(*)(参考：カール・レーヴィット/中村他訳『ある反時代的考察』(ヴィラモーヴィッツ)法政大学出版局,1992 年。)
(*)(参考：石沢誠一「フロイト=ラカンとオイディプス=アンティゴネ—人間存在とロゴス」女子大文学・外国文学篇 44,1992 年。)
(*)(参考：川島重成「ディオニュソス的なものの諸相--『バッコスの信女』と『ヴェニスに

死す』をめぐって」(小塩節・編集委員会編『ヨーロッパ精神とドイツ—出会いと変容』所収,郁文堂,1992 年。)
(*)多木浩二『眼の隠喩—視線の現象学』青土社,1992 年(→2002 年,新装版。→2008 年,ちくま学芸文庫版。)
(*)(参考:池沢克夫「ラ・フォンテーヌとラ・ロシュフゥコー(上中下)」言語文化部紀要 21,1992 年//33,1998 年//34,1998 年。)
(*)(参考 : 岩井俊一「ギョーム・ビュデ : ヘレニズムとキリスト教」Les Letters FranÇaises12, 1992 年。)
(*)(参考 : 門田守「ギリシアの誘惑 : バイロンとヘレニズムについて」鳥取大学教育学部研究報告・人文社会科学 43(1),1992 年。)
(*)(参考 : 丹羽隆子「『燈台へ』 : 堅固なる実在をめぐる旅,あるいは父殺し母殺しの旅」東京商船大学研究報告・人文科学 43,1992 年。)
(*)(参考 : 添谷育志「L.シュトラウスと A.ブルームの「リベラル・エデュケーション」論」(東北大学)法学(55)6,1992 年。)
(*)(参考:H.G.ガダマー/山口誠一・高山守訳『ヘーゲルの弁証法』[ギリシア哲学]未来社,1992 年。)
(*)Raphael von Koeber,Neun Lieder,nach dem Autograph und Abschriftten herausgegeben von Misako Komatsu =9 つの歌/ラファエル・フォン・ケーベル : 小松美沙子編[楽譜資料],音楽之友社,1992 年。
(*)福永収佑『太宰治論 : キリスト教と愛と義と』(ケーベル)白石書店,1992 年(→2006 年,文芸社。)
(*)中川久定「『理学沿革史』から『理学鉤玄』『続一年有半』初稿 : 兆民の翻訳・補訳・「哲学的所見」」仏文学研究 22,1991 年。)
(*)小松美沙子「ケーベル先生の遺言---ケーベルリート集について」世界 569,1992 年。
(*)小松美沙子「ケーベル・リート集」同声会会報 340,1992 年。
(*)F「明治の哲学者ケーベル博士の『9 つの歌』の楽譜を刊行」音楽の友 50(11),1992 年。
(*)杉本秀太郎編『音楽と生活 兼常清佐随筆集』(ケーベル等)岩波文庫,1992 年。
(*)マーガレット・クラーク編 ; シャーロット・ヴォーク絵 ; ぱくきょんみ訳『イソップ物語』PARCO 出版局,1992 年。
(*)イソップ著/亀山龍樹訳『イソップ寓話集』世界の名作全集 29,国土社,1992 年。
(*)(参考 : ハンス・ボルゲルト著 ; 石井寿子訳『アナウサギ党の戦い : 人間社会のゆがみを描く現代版イソップ物語』山手書房新社,1992 年。)
(*)高橋健「イソップ研究(1)傲慢について」姫路獨協大学一般教育部紀要 3(1),1992 年。
(*)小屋岡剛一・木梨潤也・遠藤勉・岡田直之「テキスト構造を考慮したダイナミックスからの物語情報の抽出」(イソップ)全国大会講演論文集・第 45 回平成 4 年後期 3,1992 年。
(*)(参考 : イソップ作/野口由紀子訳『メディチ家のイソップ物語(The Medici Aesop)』[ギリシャ語原文の複製を含む],安田火災海上保険,1992 年。)
(*)加来耕三『日本外交イソップ物語』世界文化社,1992 年。
(*)福田恆存『福田恆存飜譯全集(1-8)』(第 1 巻,J.サーバー「現代イソップ」,第 6 巻,シェイクスピア「ジュリアス・シーザー」,第 7 巻,シェイクスピア「アントニーとクレオパトラ」,第 8 巻、ソポクレス「オイディプス王」「アンティゴネ」)文藝

春秋,1992-1993 年。
(*)河鍋暁斎画/山口静一・及川茂編『暁斎の戯画』東京書籍,1992 年。
(*)(参考：フランクリン・F.バウマー/鳥越輝昭訳『近現代ヨーロッパの思想：その全体像』大修館書店,1992 年。)
(*)(参考：井上忠『超=言語の探究』法蔵館,1992 年。)
(*)(参考：岩野秀明『時間論のプロブレマーティック』世界書院,1992 年。)
(*)(参考:友村(種山)恭子「生と力と知性の希求(2)ヘレニズムの思想の一断面」文経論叢 27(3),1992 年。)
(*)森本和夫「「神秘哲学」を読んで(「井筒俊彦著作集(1)神秘哲学」(デュアル・クリチック)早稲田文学[第 8 次]190,1992 年。
(*)丹生谷貴志「約束された往還(「井筒俊彦著作集(1)神秘哲学」(デュアル・クリチック)早稲田文学[第 8 次]190,1992 年。
(*)(参考：荻野弘之「古代ギリシアにおける人間観の現代的意義」(上智大学哲学会)哲学論集 21,1992 年。)
(*)(参考：平井啓之・村田全・山川偉也『鼎談・エレアのゼノン,その光と影—西欧思想史上のゼノン』平井啓之教授退職記念,（桃山学院大学）人間科学 3 月号,1992 年。)
(*)(参考:カール・ボルマン/日下部吉信訳『パルメニデス—断片の研究』法政大学出版局,1992 年。)
(*)(参考：神崎繁『プラトンと反遠近法』新書館,1992 年。)
(*)(参考：加藤信朗「ギリシア哲学と身体—哲学と宗教の臨界面」(聖心女子学キリスト教文化研究所)宗教と文化 14,1992 年。)
(*)(参考：加藤信朗「『ポリティコス』篇における「雛型(παραδεγμα)」の論法について」(日本哲学会)哲学 42,1992 年。)
(*)(参考：加来彰俊「いくつかの疑念」(日本哲学会)哲学 42,1992 年。)
(*)(参考：水崎博明『哲学・その古代的なるもの：プラトンとアリストテレスの若干の著作に関する一つの釈義的研究』九州大学,文学博士,乙第 5128 号,1992 年。)
(*)(参考：R.S.ブラック/内山勝利訳『プラトン入門』岩波文庫,岩波書店,1992 年。)
(*)(参考：宮澤知江美「プラトン対ニーチェ」人間研究 28,1992 年。)
(*)(参考：山田登世子「プラトニック・ラヴ—ベンヤミンの手紙(ベンヤミン〈生誕 100 年記念特集〉」現代思想 20(13),1992 年。)
(*) 竹之内静雄『先知先哲』(田中美知太郎追悼「田中美知太郎先生をしのんで(田中美知太郎〈追悼〉」)新潮社,1992 年(→1995 年,講談社文芸文庫版)。
(*)(参考:屋敷紘一「言葉と存在—プラトンと『八千頌般若経』」比較思想研究 18,1992 年。)
(*)(参考：Martin Heidegger/高田珠樹訳「アリストテレスの現象学的解釈—解釈学的状況の提示(新発見未発表草稿)」思想 813,1992 年。)
(*)(参考:G.E.M.アンスコム,P.T.ギーチ/野本和幸・藤澤郁夫訳『哲学の三人：アリストテレス・トマス・フレーゲ』勁草書房,双書プロプレーマタ II-6,1992 年。)
(*)(参考：水崎博明『哲学：その古代的なるもの：プラトンとアリストテレスの若干の著作に関する一つの釈義的研究』九州大学,文学博士,乙第 5128 号,1992 年。)
(*)(参考：高田康成「キケロ学の不成立について(学問の形成と近代文化)」日本文化研究所

研究報告 28,1992 年。)
(*)(参考：奥田敬「犬儒の啓蒙—フランチェスカントニオ・グリマルディの「ディオゲネス伝」をめぐって」甲南経済学論集 33(1),1992 年。)
(*)(参考：神崎繁「知と疑と信—アウグスティーヌスの「アカデミア派論駁」における信憑的なもの probabile について[含・コメント]」中世思想研究 34,1992 年。)
(*)(参考：荒井洋一『アウグスティヌス的な探究の根本構造』九州大学,文学博士,乙第5070号,1992年。)
(*)(参考：中山善樹『エックハルト,ラテン語著作の基本構造』(アウグスティヌス)九州大学,文学博士,乙第5069号,1992年。)
(*)(参考：イーフー・トゥアン/小野有五・阿部一訳『トポフィリア—人間と環境』せりか書房,1992 年(→2008 年,ちくま学芸文庫版。)
(*)(参考：野上素一「蛮族(バルバリ)の功績」宗教と文化 14,1992 年。)
(*)(参考：J.マレンボン/中村治訳『初期中世の哲学』勁草書房,1992 年。)
(*)(参考：ジャック・ルゴフ/池上俊一訳『中世の夢』名古屋大学出版会,1992 年。)
(*)(参考：稲垣良典『トマス・アクイナス』清水書院,人と思想 114,1992 年。)
(*)(参考：江口克彦「トマス・アクィナスと〈形而上学〉の問題(特集 地中海：知の継承と変遷)」Mare Nostrum 4,1992年。)
(*)(参考：牛田徳子「トマス・アクィナスにおけるエンス・コムーネの概念」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 23,1992 年。)
(*)(参考：山内志朗『普遍論争：近代の源流としての』哲学書房,中世哲学への招待,1992 年(→2008 年,平凡社ライブラリー630)。
(*)(参考：八木雄二『スコトゥスの存在理解』創文社,1992 年。)
(*)(参考：K.リーゼンフーバー・山本耕平・谷隆一郎・荒井洋一編『中世における知と超越』,創文社,1992 年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編訳・監修『盛期ギリシア教父』平凡社,中世思想原典集成2,1992年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編訳・監修『カロリング・ルネサンス』平凡社,中世思想原典集成6,1992年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編訳・監修『中世末期の神秘思想』平凡社,中世思想原典集成17,1992年。)
(*)(参考：R.L.シロニス『エリウゲナの思想と中世の新プラトン主義』創文社,上智大学中世思想研究所中世研究叢書,1992 年。)
(*)(参考：岡崎文明「新プラトン主義文書「原因論」の形而上学研究(1)：「原因論」の原理」教科教育研究 28,1992 年。)
(*)(参考：佐々木力『近代学問理念の誕生』岩波書店,1992 年。)
(*)(参考：宮坂真喜弘『西洋思想の系譜』八千代出版,1992 年。)
(*)(参考：江口修「アルカディアあるいは遁走するアレゴリー(小樽商科大学創立 80 周年記念論集)」小樽商科大学人文研究 83,1992 年。)
(*)(参考：ピーター・バーク/森田義之・柴野均訳『イタリア・ルネサンスの文化と社会』New history,岩波書店,1992 年(→2000 年,新版)。)
(*)(参考：家田義隆「イタリア・ルネサンス史をどう捉えるか」東海女子大学紀要 12,1992年。)

(*)(参考：河合成雄「フィチーノの愛の理論における個人の位置づけをめぐって」イタリア学会誌 43,1992 年。)
(*)(参考：桂芳樹「〈研究例会発表要旨〉霊魂の現象学：ヨアン・ペテル・クリアーノの二元論的世界観」比較思想研究 19,1992 年。)
(*)「平川祐弘教授著作目録」比較文化研究 62,1992 年。
(*)(参考：ダンテ/平川祐弘訳『ダンテ・神曲』新装版,河出書房新社,1992 年。)
(*)(参考：ピーター・バーク/岩倉具忠・岩倉翔子訳『ヴィーコ入門』名古屋大学出版会,1992 年。)
(*)(参考：大川洋『エラスムスの『子供の教育について』(1529 年)の成立に関する研究』国際基督教大学,教育学博士,甲第 24 号,1992 年。)
(*)(参考：木ノ脇悦郎『エラスムス研究：新約聖書パラフレーズの形成と展開』関西学院大学,神学博士,乙第 167 号,1992 年。)
(*)(参考：木ノ脇悦郎『エラスムス研究：新約聖書パラフレーズの形成と展開』日本基督教団出版,1992 年。)
(*)(参考：大川洋「エラスムスの子ども観」教育哲学研究：東京教育大学外国教育史研究室年報 21,1992 年。)
(*)(参考：喜名信之「エラスムスにおけるシヴィリテ教育の意味」西洋教育史研究：東京教育大学外国教育史研究室年報 21,1992 年。)
(*)(参考：ピーター・バーク/岩倉具忠・岩倉翔子訳『ヴィーコ入門』名古屋大学出版会,1992 年。)
(*)(参考：堀田義衛『自然理性運命(ミシェル城館の人2)』集英社,1992年(→2004年,改題『自然理性運命』,集英社文庫「ミシェル城館の人」第2部。)
(*)(参考：ロベール・オーロット/荒木昭太郎訳『モンテーニュとエセー』文庫クセジュ,白水社,1992 年。)
(*)(参考：岩井俊一「ギョーム・ビュデ：ヘレニズムとキリスト教」Les Lettres franÇaises 12, 1992 年。)
(*)(参考：三木原浩「ロマン・ロランの『ピエールとリュース』をめぐって(3)その牧歌的世界(本論)：第 2 章,ギリシャ・ローマ神話に牧歌性を訪ねて」論集：神戸大学教養部紀要 49,1992 年。)
(*)(参考：ペトラルカ/池田廉訳『カンツォニエーレ―俗事詩片』名古屋大学出版会古典叢書,名古屋大学出版会,1992 年。)
(*)(参考：高岡幸一「サラナンドラのモティーフ：ペトラルカからロンサールへ(赤木昭三教授退官記念号)」Gallia31, 1992 年。)
(*)(参考：田村秀夫「ペレストロイカとソヴィエトにおけるトマス・モア研究」經濟學論纂 33(1/2),1992 年。)
(*)(参考：鈴木宣則「トマス・モアにおける正統と異端：『ウートピア』と宗教論争書を中心として」研究年報経済学 54(1),1992 年。)
(*)(参考：森田安一「「真理の勝利」：フッテンとルター」史艸 33,1992 年。)
(*)(参考：木原武一『要約世界文学全集』新潮選書,新潮社,1992 年(→2004 年,2 巻,新潮文庫版)。)
(*)(参考：塩見知之「2.中世写本と『トロイラス』の口絵(研究発表第三室,日本英文学会第 63 回大会報告)」英文学研究 68(2),1992 年。)

(*)(参考：小山雅子「トロイラスとクレシダ：一つの problem play として(一般教養)」関西鍼灸短期大学年報 7,1992 年。)
(*)(参考：ファーマーユーナ・エリス/杉本栄司訳「天体の不協和音：『トロイラスとクレシダ』の宇宙」聖学院大学論叢 5(2),1992 年。)
(*)(参考：F.グンドルフ/竹内敏雄訳『シェイクスピアと独逸精神』岩波書店,1992 年。)
(*)(参考：青山誠子・川地美子編『シェイクスピア批評の現在』研究社出版,1992 年。)
(*)(参考：高橋康也研究代表『シェイクスピアの作品の解釈と受容における文化的表象の機能に関する考察』高橋康也,1992 年。)
(*)(参考：M.C.ブラッドブルク/岩崎宗治・稲生幹雄也訳『歴史のなかのシェイクスピア』研究社,1992 年。)
(*)(参考：由井武夫・原田大二郎さしえ『若者たちのシェイクスピア—ヒーロウたちの熱きたたかい』象山社,1992 年。)
(*)(参考：玉泉八州男他編『シェイクスピア全作品論』研究社出版,1992 年。)
(*)(参考：上利政彦『言葉の実在--「失楽園」の思想と文体』英宝社,1992 年。)
(*)(参考：壽岳文章/柳宗悦・橋詰光春編『ブレイク論集』沖積舎,1992 年。)
(*)(参考：齋賀久子「『エンディミオン』：キーツの英雄神話」学習院大学英文会誌 1992,1992 年。)
(*)(参考：奥田喜八郎「聖書を踏まえた英詩評釈(1,2)P.B..Shelly」奈良教育大学教育研究所紀要 28,1992 年/29,1993 年。)
(*)(参考：小林竜一「日本におけるシェリーの自筆原稿をめぐって(1)」大阪経大論集 43(1),1992 年。)
(*)(参考：門田守「ギリシアの誘惑—バイロンのヘレニズムについて」鳥取大学教育学部研究報告,人文・社会科学 43(1),1992 年。)
(*)(参考：泉屋寛『健闘の文豪ジョンソン—明治期『ラセラス』の片影』(広島)渓水社,1992 年。)
(*)(参考：島津展子「エリオットの「一族再会」におけるダイモーンの神秘」大阪学院大学外国語論集 26,1992 年。)
(*)(参考：南井正広「Juvenal を通して Fielding を読む：第 6 諷刺に関する比較文学的考察」同志社大学利語英文学研究 56,1992 年。)
(*)(参考：成惠卿『能と英米文学：パウンドとイェイツの能受容を中心に』(ダンテ)東京大学,博士(学術),甲第 9298 号,1992 年。)
(*)(参考：ヴォルフ・レベニース/小川さくえ訳『十八世紀の文人科学者たち：リンネ,ビュフォン,ヴィンケルマン,G.フォルスター,E.ダーウィン』法政大学出版局,叢書ウニベルシタス 365,1992 年。)
(*)(参考：宇津井恵正「熟年ゲーテの民俗学への志向(1,2)」京都教育大学紀要.A.人文・社会 80,1992 年/82,1993 年。)
(*)(参考：小栗浩「Helmut Pfotenhauer(Hrsg.)：Kunstliteratur als Italiererfahrung」ドイツ文学 89,1992 年。)
(*)(参考：青木敦子「崇高な対象：シラーにおける表象不可能なもの」研究年報 39,1992 年。)
(*)(参考：榎田達美「シュライエルマッヘルにおける「抑制と愛」(1,2,3)」神戸女子大学紀要・文学部篇 25,1992 年/26,1993 年/28(第 2 分冊),1995 年。)
(*)(参考：小泉進「ニーチェとレッシング(〈特集〉ドイツ再発見)」ソフィア：西洋文化な

らびに東西文化交流の研究 41(4),1992 年。)
(*)(參考：岡本裕一郎「〈論文〉ニーチェとポスト・モダン」倫理學年報 41,1992 年。)
(*)(參考：薗田宗人「峰と峰の対話：ゲーテとニーチェ(長峰芙美子教授退任記念号)」人文研究 44(8),1992 年。)
(*)(參考:北岡崇「隣人愛をめぐるニーチェの思想」椙山女学園大学研究論集 23(2),1992 年。)
(*)(參考：村井則夫「ハイデガーのニーチェ解釈をめぐって」現象学年報 8,1992 年。)
(*)(參考：湯田豊「ニーチェ哲学入門」人文研究 113,1992 年。)
(*)(參考：勝道興「生成する自己あるいは悲劇―ニーチェにおける「ヘーゲル的なもの」」関西大学哲学 15,1992 年。)
(*)(參考：藤田一美「実存の藝術としての〈Tragische Philosophie〉：ニーチェとアリストテレス」研究 10,1992 年。)
(*)(參考：島村賢一「ハイデッガーの運命論とニーチェの運命論の間の差異―ファシズムとの関連において(後)」久留米大学文学部紀要 国際文化学科編 1(創刊号),1992 年。)
(*)森田弘「日本におけるニーチェ(5)」ドイツ文学 47,1992 年。
(*)浮田雄一「自覚の問題：鈴木大拙とニーチェ」比較思想研究 19,1992 年。
(*)湯浅弘「ニーチェと三木清：人間存在の歴史性を中心として」比較思想研究 19,1992 年。
(*)(參考：太田伸広「レッシングの文学・芸術論(2,3)」人文論叢：三重大学人文学部文化学科研究紀要 9,1992 年/17,2000 年。)
(*)(參考：南大路振一「第 30 回“Lessing-Tage”(1991)に出席して」ドイツ文学 88,1992 年。)
(*)(參考：高橋克己「“Wiederkehr zum Lichte”―Schillers“reinere Dämonen”und Hölderlins“seelige Götter”--：「光明への復帰」--シラーの「より純粋な諸ダイモーン」とヘルダーリンの「至福なる神々」--：《Retour à la Lumière 》--les 《Démons plus purs》de Schiller et les《Dieux bienheureux》de Hölderlin」高知大学学術研究報告・人文科学編 41,1992 年。)
(*)(參考：高橋克己「PASSIO PURA―ヘルダーリンの「至福なるギリシア」とキーツの「ギリシアの壺[含 独文]」高知大学学術研究報告・人文科学編 41,1992 年。)
(*)(參考：甲斐浩一「ヘルダーリンの『ヒュペーリオン』における理想の問題」独文学報 8, 1992 年。)
(*)(參考：内田正博「エレクトラからアリアドネへ：ホーフマンスタールの『ナクソク島のアリアドネ』」ドイツ文学論集 21,1992 年。)
(*)(參考：松元通介「〈ドイツ文学とイタリア〉ホーフマンスタールの転機・1970 年：『美しき日々の思い出』をめぐって」獨逸文學 89,1992 年。)
(*)(參考：畠中美菜子「20 世紀のエレクトラ―ホフマンスタール劇に見る」東北大学教養部紀要 59,1992 年。)
(*)(參考：中嶋忠宏「ケンタウロスの誘惑：ホーフマンスタールとベックリーンの世紀末」言語文化論集 13(2),1992 年。)
(*)(參考：三宅新三「ホーフマンスタールと古代(4)翻訳「オイディプス王」について」岡山大学教養部紀要 31,1992 年。)
(*)(參考：小名木榮三郎『ホーフマンスタールの青春：夢幻の世界から実在へ』慶應義塾大学法学研究会,慶應通信[発売],慶應義塾大学法学研究会叢書・別冊 9,1992 年。)

(*)(参考：浅野二郎著/浅野二郎教授退官事業会編『造園史：講義録』第 2 版,ワールドグリーン出版,1992 年。)
(*)(参考：村田数之亮『イオニア式建築様式の生成：若干の問題について』村田数之亮,1992 年。)
(*)(参考：堀内清治研究代表『地中海建築の設計技法の研究：全体と部分の対応』熊本工業大学,1992 年。)
(*)(参考：山中由里子「都市の誕生と死(上下)アレクサンドロス伝説におけるアレクサンドリアの建設とペルセポリスの破壊」比較文學研究 61,62,1992 年。)
(*)(参考：伊藤重剛「パルテノン円柱の施行および水平加力実験」建築雑誌 1334,1992 年。)
(*)(参考：伊藤重剛「古代ギリシア神域の配置計画の発展に関する試論」日本建築学会計画系論文報告集 434,1992 年。)
(*)(参考：高梨淑夫「9209 エンタシスの原理の追求(1)」学術講演梗概集,F,都市計画,建築経済・住宅問題,建築歴史・意匠,1992,1992 年。)
(*)(参考：三井宣之・伊藤重剛・江良弘樹・須田清隆・内田雅博・下川弘「21883,21884 パルテノン神殿の柱構造の研究(2,3)：柱ドラム接合面の仕上げ方法」学術講演梗概集,C.構造 II(1992),1992 年。)
(*)(参考：石川康介「セルリオの建築書第 4 書におけるイオニア式,及びコリント式：パラッツォフォサードの構成法について」日本建築学会計画系論文報告集 434,1992 年。)
(*)(参考：堀賀貴「ポンペイにおける中・小規模住宅について(建築史・建築意匠・建築論)」日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系 32,1992 年。)
(*)(参考：三井宣之・伊藤重剛・江良弘樹・須田清隆・内田雅博・下川弘「255 パルテノン神殿の柱構造の研究：柱ドラム接合面の仕上げ方法に関する実験的検討(構造)」日本建築学会研究報告,九州支部 1,構造系 33,1992 年。)
(*)(参考：堀内清治「地中海古代都市の研究(58)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 33,1992 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・宮地弘治「地中海古代都市の研究(58)パルテノン神殿の構成部材について(歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 33,1992 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・北川雄司「地中海古代都市の研究(59)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 33,1992 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・宮地弘治「地中海古代都市の研究(60)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 33,1992 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・近間久美子「地中海古代都市の研究(61)古代ギリシア建築の円柱におけるエンタシスの作図法(建築歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州部 3,計画系 33,1992 年。)
(*)(参考：須田清隆・下川弘・伊藤重剛・山口誠二「地中海古代都市の研究(62)」日本建築学会研究報告,九州部 3,計画系 33,1992 年。)
(*)(参考：須田清隆・下川弘・伊藤重剛・山口誠二「地中海古代都市の研究(63)」日本建築学会研究報告,九州部 3,計画系 33,1992 年。)
(*)(参考：渡辺道治『古代ローマの記念門の研究』東京都立大学,工学博士,乙第 780 号,1992 年。)

(*)林善衛「作品八首 エンタシス」短歌 37(9)(510),1992 年。
(*)(参考：笛月織女・都路知世「オリンポス占星術」(講談社)Midori3(1),1992 年。)
(*)(参考：笛月織女「オリンポス占星術」(講談社)Midori3(2),1992 年。)
(*)(参考：笛月織女・都路知世「オリンポス占星術」(講談社)Midori3(4),1992 年。)
(*)(参考：笛月織女・都路知世「オリンポス占星術」(講談社)Midori3(5),1992 年。)
(*)(参考：笛月織女・都路知世「オリンポス占星術」(講談社)Midori3(6),1992 年。)
(*)(参考：笛月織女・都路知世「オリンポス占星術」(講談社)Midori3(7),1992 年。)
(*)(参考：笛月織女・都路知世「オリンポス占星術」(講談社)Midori3(9),1992 年。)
(*)(参考：笛月織女・都路知世「オリンポス占星術」(講談社)Midori3(11),1992 年。)
(*)(参考：笛月織女・都路知世「オリンポス占星術」(講談社)Midori3(13),1992 年。)
(*)(参考：笛月織女・都路知世「オリンポス占星術」(講談社)Midori3(14),1992 年。)
(*)(参考：笛月織女・都路知世「オリンポス占星術」(講談社)Midori3(16),1992 年。)
(*)(参考：山本啓二「占星術の歴史：古代からルネサンスまで(特集 地中海：知の継承と変遷)」Mare Nostrum 4,1992 年。)
(*)(参考：Charles BURNETT/山本啓二訳「〈研究資料〉バースのアデラードとアラビアの占星術・天文学」京都産業大学国際言語科学研究所所報 14(1),1992 年。)
(*)(参考：坂上務「天文学ものがたり(第 2 部)[3]—占星術と天文学」天界 73(811),1992 年。)
(*)(参考：田中良「プルースト的「気象学」」(ギリシア神話)奈良大学紀要 20,1992 年。)
(*)(参考：クリストファー・ヒッバート/芦原初子・渡辺真弓訳『歴史の都の物語：世界史をいろどった 21 の都市(上下)』原書房,1992 年。)
(*)(参考：免取真一郎『古代ギリシアのエートスと CORPUS HIPPOCRATICUM』文部省科学研究費補助金研究成果報告書,1992 年。)
(*)(参考：横山ふさ子漫画『ヒポクラテス：近代医学を開いた科学の目』OTSUKA 漫画ヘルシー文庫/日本学校保健協会監修 4,伝記編 1,大塚製薬,1992 年。)
(*)小笠原要蔵「ヒポクラテス像について」医学図書館 39(1),1992 年。
(*)門脇弘「ヒポクラテスは泣いている」日本及日本人 1607,1992 年。)
(*)(参考：今井正浩「古代ギリシア医学とその思想史的展開—ヒポクラテス『古来の医術(De Vetere Medicina)』における「哲学論(フィロソフィアー)批判をめぐって」科学史研究[第 II 期]31(183),1992 年。)
(*)(参考：コンスタンス・ジョエル/内村瑠美子訳『医の神(アスクレピオス)の娘たち：語られなかった女医の系譜』メディカ出版,1992 年。)
(*)(参考：内田星美「技術史の原典(1)「周礼考工記」プリニウス「自然誌」ヴィルトヴィルス「建築述」抄訳」東京経大学会誌 174,1992 年。)
(*)瀬川清人「天理図書館蔵プリニウス「博物誌」」ビブリア天理図書館報 98,1992 年。)
(*)(参考：なかのひろたか構成・文・絵『オリンピック』チャイルド絵本館,はじまりの物語 4,チャイルド社,1992 年。)
(*)(参考：池井優『オリンピックの政治学』丸善ライブラリー53,丸善,1992 年。)
(*)(参考：和田浩一「「011 高 B02 P.de クーベルタンのスポーツの分類について」日本体育学会大会号 44A,1992 年。)
(*)田山令史「松山壽一著『ドイツ自然哲学と近代科学』」立命館哲学 5,1992 年。)
(*)(参考：下村寅太郎『近代科学史論』みすず書房,1992 年。)

(*)(参考：澤井繁男『錬金術：宇宙論的生の哲学』講談社現代新書 1128,講談社,1992 年。)
(*)(参考 : 北田葉子「ガリレオとメディチ家—科学者とパトロンの関係」」白山史学 28,1992 年。)
(*)(参考：川田殖「ロイドさんの学風」ペデラヴィウム 35,1992 年。)
(*)(参考：原善四郎「古代アテネの銀貨造幣技術」金属 62(6),1992 年。)
(*)(参考 : 重岡保郎『西洋史における帝国主義とその対抗勢力』愛媛大学 1992 年,(科研費)1992 年。)
(*)(参考 : 白石正樹「クレイステネスによるアテナイの政治的再組織」創価法学 21(2・3),1992 年。)
(*)(参考 : 白石正樹「プラトンの「法律の国」(1,2)」創価法学 22(1),1992 年/(3・4),1993 年。)
(*)(参考：高橋憲雄『自由と権威の相克—道徳・政治哲学の根本問題に対するプラトン的視点からのアプローチ』晃洋書房,1992 年。)
(*)(参考：山川広司「ミュケナイ時代の家と社会(1)線文字 B 文書の語彙からのアプローチ」北海道教育大学紀要・第 1 部,社会科学編 43(1),1992 年。)
(*)(参考：鈴木一郎「紀元前五百年頃までのアテナイの支配体制」恵泉女学園大学人文学部紀要4,1992年。)
(*)(参考：伊藤貞夫『古典期アテナイにおける民主政の成熟と世代間断絶』東京大学1991年,(科研費)1992年。)
(*)(参考：橋場弦「古典期アテナイにおける罪と法—弾劾法(ノモス・エイサンゲルティコス)の性格をめぐって」歴史学研究629,1992年。)
(*)仲手川良雄「書評 橋場弦著「エイサンゲリア(弾劾裁判)成立史—アテナイ公職者弾劾制度の発生と展開をめぐって」(史学雑誌99編10号)」法制史研究41,1992年。
(*)(参考 : 橋場弦「書評 一柳俊夫著「古代ギリシア法思想史研究」」法制史研究41,1992年。)
(*)葛西康徳「(書評)三井哲夫著「古典古代における法の牴触について—ホメロスの時代からヘレニズム終焉まで」筑波法政14号)」法制史研究41,1992年。
(*)(参考 : 前沢伸行「(報告)民会は国制の最高機関か？—アテナイ民主政と民会(1991年度[西洋史部会]大会共通論題報告—古代社会と民会—ギリシア・ローマ・ゲルマン)」西洋史研究21,1992年。)
(*)(参考：平田隆一「(報告)ローマの民会—その特質・形成・展開(1991年度[西洋史部会]大会共通論題報告—古代社会と民会—ギリシア・ローマ・ゲルマン)」西洋史研究21,1992年。)
(*)(参考：三浦弘万「(報告)ゲルマンの民会—その基本的性格と変遷(1991年度[西洋史部会]大会共通論題報告—古代社会と民会—ギリシア・ローマ・ゲルマン)」西洋史研究21,1992年。)
(*)(参考：「(報告)討論(1991年度[西洋史部会]大会共通論題報告—古代社会と民会—ギリシア・ローマ・ゲルマン)」西洋史研究21,1992年。)
(*)(参考：小笠原弘親「グロティウス--『戦争と平和の法』における平和論の構図」日本政治學會年報政治學43,1992年。)
(*)(参考 : 砂田徹「選挙買収禁止法とローマ共和政末期の政治—A.W.リントットの近業にふれて」名古屋大学文学部研究論集 113,1992 年。)
(*)(参考：佐藤育子「碑文にみられるカルタゴの政務職について」史艸 33,1992 年。)
(*)(参考：Otsuki Yasuhiro「Dorations of the Church and the State in the Byzantine Empire：

Legislations in the 5th and 6th centuries」地中海論集 13,平成 1-3 年度科学研究費補助金(総合研究 A),1992 年。)
(*)(参考：イヴェル J./塙紀浩訳「フランス西部の慣習群の基本的特徴：附・西部諸地方へのローマ法の浸透」攝南法學 7,1992 年。)
(*)(参考：山口廸彦「イェーリング・クロノロジー—1818 年~1992 年」企業法研究 4,1992 年。)
(*)(参考：Benjamin Walter/園田尚弘訳「ヨオハン・ヤコブ・バッハオーフェン」長崎大学教養部紀要・人文科学篇 32(2),1992 年。)
(*)(参考：布村一夫(他)『母権論解読：フェミニズムの根拠』世界書院,社会科学叢書,1992 年。)

(*)(参考：ルイ・アルチュセール著フェルナンダ・ナバロ/山崎カヲル訳『不確定な唯物論のために---哲学とマルクス主義についてのの対話』大村書店,1993 年(→2002 年,復刻新版)。)
(*)(参考：島岡光一「永遠の魅力はどこからくるか--「初期マルクス」外伝」埼玉大学紀要[教育学部]人文・社会科学 42(2),1993 年。)
(*)(参考：岩井欣五『文明史断章：日本の美と西洋の美』岩井欣五,1993 年。)
(*)(参考：中川徹『文明史上における科学技術の歩み』青山社,1993 年。)
(*)(参考：ラリー・ゴニック/武者圭子訳『地球の歴史：ビッグバンからアレクサンダー大王まで マンガ版』心交社,1993 年。)
(*)(参考：川合清隆「ルソーの文明史観(上中下)」甲南大学紀要：文学編 89,1993 年/93,1994 年/113,1999 年。)
(*)(参考：武井邦夫「世界史観の探究 再論—唯物史観から文明史観へ」茨城大学人文学部紀要,社会科学 26,1993 年。)
(*)(参考：河底尚吾「文化素としての個性—Holoogia 序説」横浜経営研究 14(3),1993 年。)
(*)(参考：三浦弘万『ヨーロッパ世界の形成過程の研究』東北大学,博士(文学),乙第 6221 号,1993 年。)
(*)川島重成「ミノア紀行—自然・文化・宗教」(国際基督教大学学報)人文科学研究 25,1993 年。
(*)山口昌哉「多島海の航海」生物物理 33(3),1993 年。
(*)谷口俊治「トルコ・ローマ紀行」(北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室)研究紀要 7,1993 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ギリシアとエーゲ海の島々』ダイヤモンド・ビッグ社,1993-94 年。
(*)地球の歩き方編集室編『フィレンツェと中世ルネッサンス都市』ダイヤモンド・ビッグ社,1993-94年。
(*)川島重成「エーゲ海紀行—パロス・ミコノス・デロス」エーゲ海学会誌 7,1993 年。
(*)『宮下実個展：エーゲ海と花』高島屋美術部,1993 年。
(*)中戸川靖「エーゲ海クルージング」ヨーロッパ港湾事情視察報告 4,港湾 70(8),1993 年。
(*)野倉淳「エーゲ海クルーズを体験して」ヨーロッパ港湾事情視察報告 4,港湾 70(8),1993 年。
(*)『エーゲ海 ときめきマリン：映像と音楽』ビデオディスク,ポリドール,1993 年。

(*)「新作映画紹介 エーゲ海の天使」キネマ旬報 1106,1993 年。
(*)田中千世子「新作映画紹介 エーゲ海の天使」キネマ旬報 1107,1993 年。
(*)「新作映画紹介 エーゲ海の天使」キネマ旬報 1108,1993 年。
(*)沢木耕太郎「茄子を切る鶴たち〈エーゲ海の天使〉映画時評」暮らしの手帖・第 3 世紀 44,1993 年。
(*)江口幹『地中海の五月：日本を考える旅』径書房,1993 年。)
(*)(参考：D.H.Lawrence;ed. with notes by Hiroshi Ogawa,Yuji Shimizu,Hisako Kumazaki, “Etruscan Places”南雲堂,1993 年。
(*)(参考：荒木直行「ポンペイ(通称ポナペ)('92)港湾事情」Navigation：日本航海学会誌 115, 1993 年。)
(*)(参考：斎藤敬男「ナポリ・ポンペイ(ヨーロッパ港湾事情視察報告 3)」港湾 70(7),1993 年。)
(*)(参考：力丸厚・山内隆久「ポンペイ遺跡の石組パタンの情報抽出(文化財情報の計測と処理〈特集〉)」写真測量とリモートセンシング 32(4),1993 年。)
(*)飯島千鶴子・飯島操『イタリア』地球の歩き方,成功する留学 1,ダイヤモンド・ビッグ社, ダイヤモンド社(発売),1993 年。
(*)(参考：ジャクリーン・モーリー文,ジョン・ジェイムズ画/桐敷真次郎訳『古代ローマの別荘(ヴィラ)』三省堂図解ライブラリー,三省堂,1993 年。)
(*)T.P.E.社制作；トゥリオ・ポリドーリ原作；ロベルト・メイ撮影監督；原田裕司ナレーター；トゥリオ・ポリドーリ監督『ローマとヴァティカン』最新日本語版,TPE Editore,1993 年。)
(*)(参考：饗庭孝男,陣内秀信(他)『ヴェネツィア：栄光の都市国家』東京書籍,1993 年。)
(*)(参考：河島英昭監修『イタリア 読んで旅する世界の歴史と文化』新潮社,1993 年。)
(*)(参考：斉藤寛海「フィレンツエ史への視角(1992 年度[西洋史研究会]大会共通論題報告—中世後期の地中海都市—ヨーロッパとイスラム世界—もう 1 つの比較史的考察」西洋史研究 22,1993 年。)
(*)(参考：島創平「古代地中海世界の「家庭訓」における主人—奴隷関係について—ペテロ書 2 章 18 節—25 節を手がかりとして」西洋史研究 22,1993 年。)
(*)(参考：高山博『中世地中海世界とシチリア王国』東京大学出版会,1993 年。)
(*)(参考：佐藤次高・鈴木董『都市の文明イスラーム』講談社現代新書,講談社,1993 年。)
(*)(参考：周藤芳幸『ミケーネ社会における集落組織の研究：遺跡の空間分析から』東京大学,博士(文学),甲第 9815 号,1993 年。)
(*)(参考：オギュスタン・ベルク/篠田勝英訳『都市のコスモロジー：日・米・欧都市比較』講談社現代新書,1993 年。)
(*)濱田耕作先生著作集刊行委員会編『西方古典文化とその遺跡』(濱田耕作著作集 6),同朋舎出版,1993 年。(「ローマ考古学」「ローマ彫刻」「南欧游記」「希臘紀行」)
(*)(参考：村川堅太郎訳註『エリュトゥラー海案内記』中公文庫,中央公論社,1993 年。)
(*)岩田拓郎「「ギリシア案内記(上,下)」パウサニアス著 馬場恵二訳」駿台史学 88,1993 年。
(*)(参考：ピエール・レベック/田辺希久子訳『ギリシア文明：神話から都市国家へ』「知の再発見」双書 18,創元社,1993 年。)

(*)勝又俊雄「ギリシアの古代宗教遺跡とその保存」(国史跡「齋宮跡」シンポジウム[三重県明和町]報告書,1993 年。)
(*)(參考：D.H.Lawrence(David Herbert)/大川浩・清水祐次・熊崎久子“Etruscan places”南雲堂,1993 年。)
(*)(參考：荻野アンナ「「モンテーニュ旅日記」ミシェル・エイケム・モンテーニュ「旅日記」旅日記」文學界 47(6),1993 年。)
(*)(參考：神林恒雄『芸術の射程』(ヴィンケルマン)ミネルヴァ書房,1993 年。
(*)(參考：小田部胤久「「高貴なる単純さと静かなる偉大さ」：ヴィンケルマン「絵画と彫刻におけるギリシャの作品の模倣についての考察」の研究」紀要 20,1993 年。)
(*)(參考 : 野末紀之「無垢と官能—「ヴィンケルマン」におけるヘレニズム」人文研究 45(4), 1993 年。)
(*)(參考：岩田聡「ゲーテのイタリア旅行とヴィンケルマン」独語独文科研究年報 20,1993 年。)
(*)(參考：三角美次「まえがき」Mare Nostrum 5,1993 年。)
(*)(參考：三角美次「クーポールとパティオとカミュ的空間」Mare Nostrum 5,1993 年。)
(*)(參考 : 鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(9)モンテスキューのヴェネツィアの劣等な政体ならびに倫理的堕落,そしてゴシック様式への評価」人文研究 115, 1993 年。)
(*)(參考：鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(10)ヴェネツィアに関するゲーテの古典主義性とベックフォードのロマン主義性」」人文研究 117, 1993 年。)
(*)(參考：鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(11)バイロン,シェレー,ラスキン,光,色,教訓」人文研究 118, 1993 年。)
(*)(參考：田所清克「ルーベン・ブラーガ作「地中海の男」に観る地中海世界の心象風景」Mare Nostrum 5,1993 年。)
(*)(參考：ヴァージニア・ウルフ/出淵敬子訳『フラッシュ：或る伝記』(イタリア)みすず書房,1993 年。)
(*)(參考：丹羽隆子「『オーランドー』考：ギリシアへの憧憬：花崗岩と虹の牧歌」ヴァージニア・ウルフ研究 10,1993 年。)
(*)(參考：アルノルト・ネッセルラート/羽田康一訳「ベルヴェデーレの彫刻庭園—場所と歴史」(越川倫明・松浦弘明編『ヴァチカンのレネサンス美術展』所収,日本テレビ,放送網,1993 年。)
(*)(參考：中西裕一「ギリシアの考古学博物館(1)(2)(3)」日本大学生産工学部研究報告8 文系26[1],1993年//29,1996年//32,1999年。)
(*)(參考：本城靖久『馬の文化史』講談社現代新書,講談社,1993年。)
(*)(參考：澤柳大五郎「アキレウスの眼」Spazio 48,1993年。)
(*)(參考：青柳正規他『古代文明と民族の遺産』角川書店,ベルリン美術館3,1993年。)
(*)(參考 : 青柳正規「入門者の基本型(美術の本600冊—もっと読ませろ!!1億総美術愛好家計画〈特集〉」美術手帖677,1993年。)
(*)(參考 : アン・ピアスン/リリーフシステム訳『(大英博物館)古代ギリシア』同朋舎出版,1993 年。)
(*)(參考：長田年弘「後期ヘレニズム美術における構造的変化について(美学会第44回全国

大会報告)」美学44(3),1993年。)
(*)(参考：金子史朗『アトランティスが滅んだ日』朝日新聞社,朝日文庫,1993年。)
(*)(参考:エドガー・エバンズ・ケイシー(他)/吉田恵美訳『エジプトからアトランティスへ：エドガー・ケイシー・リーディングの考古学調査』たま出版,1993 年。)
(*)(参考：花田圭介責任編集『フランシス・ベイコン研究』イギリス思想研究叢書 2,御茶の水書房,1993 年。)
(*)(参考：鈴木董著；大村次郷写真『図説イスタンブル歴史散歩』河出書房新社,1993 年(→1999 年,ふくろうの本,河出書房新社。)
(*)(参考：尚樹啓太郎『ビザンツ東方の旅：トルコ・アルメニア・シリア・イスラエル・エジプト・キプロス』東海大学出版会,1993 年。)
(*)(参考：川又一英『ビザンティン歴史美術紀行』音楽選書 68,音楽之友社,1993 年。
(*)(参考：ミシェル・カプラン/田辺希久子・松田迪子訳『黄金のビザンティン帝国：文明の十字路の 1100 年』「知の再発見双書」28,創元社,1993 年。)
(*)(参考：辻佐保子『ビザンティン美術の表象世界』岩波書店,1993 年。)
(*)(参考:浅野和生「ゲミレル島,カラジャエレン島(トルコ,リキア地方)のビザンティン都市遺跡」フィロカリア 10,1993 年。)
(*)松山巖『うわさの遠近法』(ギリシア起源等)青土社,1993 年(→2003 年,ちくま学芸文庫版。)
(*)松沢弘陽編『近代日本の形成と西洋経験』岩波書店,1993 年。
(*)(参考:木村直司・山本浩編『ソフィアの眼:歴史と文化のシンポジア』南窓社,1993 年。)
(*)(参考：藤縄謙三編『ギリシア文化の遺産』南窓社,1993 年。
----藤縄謙三「世界史の青年期としての古代ギリシア—古典的教養の源泉」
藤縄謙三「近代におけるギリシア文化の復興」
大戸千之「ギリシア文化とヘレニズム文化」
南川高志「ローマ帝国とギリシア文化」)
(*)(参考：大戸千之『ヘレニズムとオリエント—歴史のなかの文化変容』ミネルヴァ書房,1993 年。)
(*)(参考：川島清吉『南フランス古代文明紀行』公論社,1993 年。)
(*)(参考：尾形禎亮・佐藤次高『西アジア(上下)』(アレクサンドロス帝国)地域からの世界史 7,8,朝日新聞社,1993 年。)
(*)(参考：関根謙司『ユダヤ・イスラーム生活誌：地中海世界の比較文化』杉山書店,1993 年。)
(*)(参考：井上章一「法隆寺への精神史(1-10)」文學界 47(1-10),1993 年。)
(*)中村真一郎・新船海三郎「訪問シリーズ(6)中村真一郎—エンタシスと女の髪」民主文学 332,1993 年。
(*)(参考：福部信敏「《フィアーレの画家》の白地レキュトス：(付・J.D.ビズーリ『アッティカの白地レキュトス』の翻訳」(跡見女子大学)美学・美術史学科報 21,1993 年。)
(*)(参考：伊藤博明「記憶の中の古代ルネサンス美術にみられる古代の受容」小佐野重利)」日伊文化研究 31,1993 年。)
(*)(参考：小佐野重利「メディチ家の古代彫刻コレクションにおける古代受容—Imitatio et Aemulatio」日伊文化研究 33,1993 年。)
(*)(参考：田中英道「「光彩の絵画,ミケランジェロのシスティーナ礼拝堂天上画の図像解

釈学的研究」若桑みどり,「記憶の中の古代ルネサンス美術にみられる古代の受容」小佐野重利」美術史学 15,1993 年。)
(*)(参考：古城武司・柳川創造『レオナルド・ダ・ヴィンチ』集英社,1993 年。)
(*)(参考：村川堅太郎『古典古代游記』岩波書店,1993 年。)
(*)(参考：フランシーヌ・ティッソ/前田龍彦・佐野満里子訳『図説・ガンダーラ：異文化交流地域の生活と風俗』東京美術,1993 年。)
(*)(参考:福永弘之「シルクロード史序説(1-8)」神戸文化短期大学研究紀要 17,1993 年/18,1994 年/20,1995 年/21,1997 年/22,1998 年/23,1999 年/26,2002 年/27,2003 年)。)
(*)(参考：菅谷文則「シルクロードの東の終点奈良[含・英文](奈良,そしてトリエンナーレ奈良 1992--「世界建築博覧会 1993 奈良」第 1 回プレイイベント)」新建築 68(別冊),1993 年。)
(*)(参考：第2回福岡国際シンポジウム実行委員会編『シルクロード：文明交流の過去・現在・未来』アイネッケ学術出版,1993年。)
(*)(参考：家島彦一『海が創る文明：インド洋海域世界の歴史』朝日新聞社,1993 年。)
(*)(参考：川久保輝興「あべこべ考：比較文明論の視座を求めて」立命館言語文化研究 4(4),1993 年。)
(*)(参考：フーベルト・カンツィク編『ヴァイマール共和国の宗教史と精神史』（ヘルムート・ファオレンバッハ/細身博志訳「哲学に反映されたヴァイマール時代：特にシュペングラー,ハイデガー,ブロッホにおける哲学,時代分析および政治」)御茶の水書房,1993 年。)
(*)(参考：三宅正樹「時間観念から見た現代ヨーロッパ史学思想の再検討：ランプレヒト,トインビー,ブローデル」(明治大学)政経論叢 61(3・4),1993 年。)
(*)(参考：塩崎弘明「カーティスとトインビーの「神の国」：国際関係研究としての比較文明論」(長崎純心大学・長崎純心大学短期大学部)紀要 30,1993 年。)
(*)(参考：山内進「地中海世界とその周辺—国家・民族・地域(特集)」一橋論叢 110(4),1993 年。)
(*)(参考:鷹木恵子「第 17 回地中海学会大会」アジア・アフリカ言語文化研究所通信 79,1993 年。)
(*)(参考：松岡洸司「〈書評〉ケンペルと鎖国」ソフィア 41(4),1993 年。)
(*)小松原千里「新井白石『西洋記聞』：伴天連始末譚(文化交流論講座研究会報告)」近代 74,1993 年。
(*)(参考：源了円「幕末・維新期における「海国図志」の受容—佐久間象山を中心として」日本研究 9,1993 年。)
(*)(参考：ジェイムズ・B. p リチャード編『新教/タイムズ聖書歴史地図』新教出版社,1993 年。)
(*)(参考:木村宏「京都外国語大学付属図書館所蔵の西洋古刊地図(ヨーロッパ篇)と解説[1]」京都外国語大学研究論叢 41,1993 年。)
(*)(参考:ヘットナー(Hettner,Alfred)「地理学,その歴史 本質および方法(第 V 編地図と図表；第 VI 編言語による呈示；第 VII 編地理学的素養；第 VIII 編初等学校,中等学校における地理学：第 IX 編大学における地理学)」地理学報 29,1993 年。)

(*)(参考：加納香「高田康成教官・三浦篤教官講演会傍聴記」比較文學研究 64,1993 年。)
(*)(参考：スチュアート・ヘンリ『はばかりながら「トイレと文化」考』文春文庫,1993 年。)
(*)(参考：アラン・ブレイ/田口孝夫・山本雅男訳『同性愛の社会史』彩流社,1993 年。)
(*)(参考：本城靖久『馬車の文化史』講談社現代新書,講談社,1993 年。)
(*)(参考：羽田康一「絵画(Andromeda)の歴史」地中海学研究 16,1993 年。)
(*)(参考：青山学院大学総合研究所人文学系研究センター編『死生観の比較文化論的研究』研究叢書 3, 青山学院大学総合研究所人文学系研究センター,1993 年。)
(*)(参考：アン・ピアスン著/リリーフ・システム訳『古代ギリシア』ビジュアル博物館 37, 同朋舎出版,1993 年。)
(*)高信幸男編『難読稀姓事典』日本加除出版,1993 年(→1995 年,新版。→2004 年,3 版。)
(*)(参考：日外アソシエーツ株式会社編『EB西洋文芸人名録』日外アソシエーツ,Electric Book：EBXA機械可読データファイル,1993年。)
(*)(参考：新潮社『新潮日本人名辞典』電子ブック版,1993 年。)
(*)(参考：アーサー・コッテル/左近司祥子他訳『世界神話辞典』柏書房,1993 年。)
(*)(参考：鷲田小彌太『現代思想キイ・ワード辞典』三一書房,1993年。)
(*)(参考：荒井献,H.J.マルクス監修『ギリシア語新約聖書釈義事典(1-3)』(日本語監修)教文館,1993 年。)
(*)平井尚志「考古学の辞典のことなど」郵政考古紀要 20,1993 年。
(*)村井隆之「『蘭学事始』再読：文化交流の視点から(文化交流論講座研究会報告)」近代 74,1993 年。
(*)堀孝彦・谷沢尚一「堀達之助研究ノート(9)英和対訳袖珍辞書と薩摩辞書」名古屋学院大学論集・社会科学篇 29(4),1993 年。
(*)宮永孝『日独文化人物交流史—ドイツ語事始め』三修社,1993 年。
(*)(参考：風間喜代三(他)編『言語学』東京大学出版会,1993 年(→2004 年,第 2 版)。)
(*)(参考：小倉千津子『デヴゲニイの事績：ギリシア語,ロシア語写本の比較研究によるアーキタイプ債権の試み』東京大学,博士(文学),甲第 9779 号,1993 年。)
(*)(参考:川端由喜男編訳『ルカによる福音書』ギリシア語新約聖書 3,日本語対訳[Kurt Aland 編],教文館,1993 年。)
(*)(参考:志田信男「医学・薬学ラテン文法教程(6)」東京薬科大学一般教育研究紀要 12,1993 年。)
(*)(参考：川端康雄「アルカディアの声—ウェルギリウス『牧歌』第七歌での中間態的語法について」十文字学園女子短期大学研究紀要 24,1993 年。)
(*)左近司祥子「言語探究のもう一つの楽しみ：アリストテレスの「資料」」学習院大学言語共同研究所紀要 16,1993 年。
(*)松平千秋「我儘な読書」(岩波文庫編集部編『読書のすすめ 第 2 集』所収,岩波書店,1993 年(→1997 年,岩波文庫『読書のすすめ』所収)。
(*)(参考：齋藤淳「G.ヴィーコの『新しい学』の言語観をめぐって(1)」道都大学紀要,教養部 12,1993 年。)
(*)(参考：田中克佳「アルクインのこと([英]Alcuin(Albinus)Flaccus)〈735?—804〉」慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 36,1993 年。)
(*)(参考：田中利光「言語接触の諸相—大西洋・地中海言語連合」(北海道大学)言語文化部紀要 24,1993 年。)

(*)長島要一『森鷗外の翻訳文学：『即興詩人』から『ペリカン』まで』至文堂,1993 年。
(*)(参考：辻由美『翻訳史のプロムナード』みすず書房,1993 年。)
(*)関栄司「野上豊一郎博士著作目録」能楽研究 17,1993 年。
(*)(参考：竹島俊之「関本至先生追悼」プロピレア 5,1993 年。)
(*)(参考：ジョン・シャーウッド・スミス/吉田敦彦・佐藤由美子訳『海からの花嫁：ギリシア神話研究の手引き』叢書ウニベルシタス,法政大学出版会,1993 年。)
(*)田中英光『オリンポスの果実』52 刷改版 新潮文庫,新潮社,1993 年。
(*)(参考:角田幸彦『アリストテレスにおける神と理性』筑波大学,博士(文学),乙第 845 号,1993 年。)
(*)(参考：カール・ケレーニイ/岡田素之訳『ディオニューソス：破壊されざる根源像』白水社,1993 年(→1999 年,新装復刊)。)
(*)(参考 : 奥山倫明「エリアーデ「神学」の行方—宇宙的キリスト教の示唆」宗教研究 67(2),1993 年。)
(*)(参考：夜久正雄「東西歴史文明成立のパラダイム(総説)：神話・叙事詩・歴史物語・編年体史」アジア研究所紀要 20,1993 年。)
(*)(参考：上杉恵子「ミソロギオンへの道—バイロンとギリシア神話(1-5)」広島電機大学・広島自動車工業短期大学研究報告 26,1993 年/27,1994 年/28,1995 年/29,1996 年/30,1997 年。)
(*)(参考：松家理恵「エンデュミオン神話とキーツ」Kobe miscellany 19,1993 年。)
(*)(参考：齋賀久子「『エンディミオン』：キーツの英雄神話」学習院大学英文学会誌 1992,1993 年。)
(*)(参考 : 小谷野敦「オレステースの悲劇—アメリカの呪縛としての母性神話—あるいは冷戦構造へのノスタルジア(寺山修司—地獄を見た詩人,特集)」ユリイカ 25(13),1993 年。)
(*)(参考：小田原謡子「神話,文学,歴史におけるアマゾーン：古代ギリシアからルネサンス期イタリア,イングランドまで」中京英文学 13,1993 年。)
(*)(参考：入江和生「怪物の棲むところ—ギリシア神話とシェイクスピア」共立女子大学文芸学部紀要 39,1993 年。)

(*)(参考：後藤美映「キーツの詩における神話の再創造」福岡教育大学紀要,第 1 分冊文科編 42,1993 年。)
(*)(参考：小田桐光隆「コメディア・デラルテとオイディプス神話(特集,自然と文化)」ソフィア 42(2),1993 年。)
(*)(参考：ティモシー・ライト「教育素材としての神話」大妻女子大学紀要,社会情報系,社会情報学研究 1,1993 年。)
(*)(参考：菅原潤「前期シェリングにおける神話の問題」文化 56(3・4),1993 年。)
(*)(参考：真方忠道「プロメテウス神話点描—ヘシオドスの世界」哲学雑誌 108(780),1993 年。)
(*)(参考：千葉茂美「補説 ギリシア神話における大地の意味(共同研究「土地と人間」)」明治学院大学一般教育部付属研究所紀要 17,1993 年。)
(*)(参考 : 高橋美矢子「人体のプロポーションに関する美術解剖学的考察—ボッティチェルリの“ヴィーナスの誕生”,デューラーの“アダムとエヴァ”,クラナ

ッハの“ヴィーナス”における女性像について」美術解剖学雑誌 1(1),1993 年。)
(*)(参考：スチュアート・ペローン/中島健訳『ローマ神話』青土社,1993 年。)
(*)(参考：水之江有一『ヨーロッパ文化の源流：聖書・神話の世界から歴史へ』丸善ライブラリー85,丸善,1993 年。)
(*)(参考：F.キュモン/小川英雄訳『ミトラの密儀』平凡社,1993 年。)
(*)(参考：小川英雄『ミトラス教研究』リトン,1993 年。)
(*)(参考：小川英雄「ミトラス崇拝とキュベレ崇拝の関係について」オリエント 36(1),1993 年。)
(*)(参考：ダン・バハト/高橋正男訳『図説 イェルサレムの歴史』東京書籍,1993 年。)
(*)(参考：菊池清勝「ヘレニズムの「中」の研究：雅歌のギリシャ的解釈」立正大学教養部紀要 27,1993 年。)
(*)(参考：月本昭男・長窪専三『歴史のなかの旧約思想・新約思想の外的世界』日本聖書協会,聖書セミナー8,1993 年。)
(*)(参考：月本昭男・竹内整一『宗教と寛容：異宗教・異文化間の対話に向けて』大明堂,宝積比較宗教・文化叢書 1,1993 年。)
(*)(参考：田中穂積「ストラボンのモーセとユダヤ社会に関する叙述について」(関西学院大学文学部)人文論究 1 月号,1993 年。)
(*)(参考：川端香男里「闇の歴史—サバトの解読(カルロ・ギンズブルグ—文化の学の新たな展開：ミクロストリア)」思想 826,1993 年。)
(*)(参考：川島重成「よきサマリア人のたとえ—例話から隠喩へ」(古屋安雄編『中川秀恭 85 才記念論文集 なぜキリスト教か』所収,創文社,1993 年。)
(*)(参考：石井正治郎『御霊われらを導き：使徒行伝講解』聖恵・聖書講解シリーズ 5,聖恵授産所出版部,1993 年。)
(*)(参考：Kurt Aland 編/川端由喜男編訳『ルカによる福音書』ギリシア語新約聖書,日本語対訳,日本聖書協会,1993 年。)
(*)(参考：川村輝典『ヘブル書の研究』日本基督教団出版局,1993 年。)
(*)(参考：笠利尚『キリスト教のお話』全 3 集,ロゴス社,1993 年。)
(*)(参考：井上洋治『イエスへの旅』日本基督教団出版局,1993 年。)
(*)(参考：井上洋治『福音書を読む(上下)』NHK シリーズ,日本放送出版協会,1993-94 年。)
(*)池田裕「「聖書のなかのマリア—伝承の根底と現代」土屋博」オリエント 36(1),1993 年。
(*)(参考：『サンタ・マリア』ヌオボ・クラッシコ・シリーズ,トレヴィル,1993 年。)
(*)(参考：関一敬『聖母の出現：近代フォーク・カトリシズム考』日本エディタースクール出版部,1993 年。)
(*)(参考：パオラ・モレッリ,アンドレア・ガレアッツィ文/石川康輔訳『名画でたどる聖母の生涯』ドン・ボスコ社,1993 年。)
(*)(参考：田中仁彦『黒マリアの謎』岩波書店,1993 年。)
(*)(参考：ボナヴェントゥラ述/関根豊明訳『マリア神学綱要』聖母祝日説教集』エンデルレ書店,1993 年。)
(*)(参考：橋本栄治『聖母の時代：近づく時の終わりをあなたは乗り越えられるか』MBC21,東京経済(発売),1993 年。)
(*)(参考：聖グレニヨン・ド・モンフォール/デルコル神父訳『聖母マリアへのまことの信

心』愛心館,1993 年。)
(*)(参考：大貫隆『隙間だらけの聖書：愛と想像力とことば』教文館,大貫隆奨励・講演集 1,1993 年。)
(*)(参考：大貫隆『神の国とエゴイズム：イエスの笑いと自然観』教文館,大貫隆奨励・講演集 2,1993 年。)
(*)(参考:大貫隆「ヨハネのアポクリュフォン—ナグ･ハマディ写本(2)」比較文化研究 32,1993 年。)
(*)(参考：大貫隆「ヨハネのアポクリュフォン—ナグ・ハマディ写本(3)」東京大学宗教学年報 11,1993 年。)
(*)(参考：三木原浩史「海と羊飼いの娘と聖母マリア：シャンソン『ラ・メール(La Mer)』試論」近代 74,1993 年。)
(*)(参考：江藤一郎「エジプトの聖母マリアの生涯」における“Haber”と“Tener”の用法)天理大学学報 174,1993 年。)
(*)(参考：秋山学「ニュッサのグレゴリウスにおける「神の像」理解の変容」東京大学教養学部外国語科研究紀要 40(6),1993 年。)
(*)(参考：小林稔「グノーシス主義者とヨハネの世界観(1992 年度聖書講座〈聖書における自然と人間〉」世紀 523,1993 年。)
(*)(参考：武邦保「「対話の神学：序説」(1)：『ルカ福音書』の救済論を媒介として」同志社女子大學學術研究年報 44(3),1993 年。)
(*)(参考：秋山学「アレクサンドリアのクレメンスにおける古典学の受容--「オデュッセイア」の解釈に向けて」教養学科紀要 26,1993 年。)
(*)(参考：今道友信「聖書の神学と聖書の哲学(1)：人間について」清泉女子大学キリスト教文化研究所年報 1,1993 年。)
(*)(参考：ジャン・マリニー/中村賢一訳『吸血鬼伝説』「知の再発見」双書 38,創元社,1993 年。)
(*)(参考：土戸清「第 47 回国際新約学会報告」新約学研究 21,1993 年。)
(*)(参考：M.カプラン/井上浩一訳『黄金のビザンティン帝国』創元社,1993 年。)
(*)(参考：辻佐保子『ビザンティオン美術の表象世界』岩波書店,1993 年。)
(*)(参考:R.ディーターズ「神学者としてのガリレオ(〈特集〉中世の終焉)」ソフィア 42(3),1993 年。)
(*)(参考：『ルター・ロヨラ・カルヴァン：宗教改革とローマ教会』ぎょうせい,1993 年。)
(*)鵜沼裕子「植村正久の世界—伝統と信仰をめぐって」日本思想史学 25,1993 年。
(*)細谷博「「留学」--追いつめられた声と渇き(遠藤周作—グローバルな認識〈特集〉)」国文学・解釈と教材の研究 38(10),1993 年。
(*)須波敏子「「意味と毒薬(遠藤周作—グローバルな認識〈特集〉)」国文学・解釈と教材の研究 38(10),1993 年。
(*)高堂要「海外における遠藤文学評価—普遍的で個別的(遠藤周作—グローバルな認識〈特集〉)」国文学・解釈と教材の研究 38(10),1993 年。
(*)縄田一男「遠藤周作の歴史小説(遠藤周作—グローバルな認識〈特集〉)」国文学・解釈と教材の研究 38(10),1993 年。
(*)柘植光彦「イエス像--「遠藤神学」の円環が閉じる時(遠藤周作—グローバルな認識〈特集〉)」国文学・解釈と教材の研究 38(10),1993 年。

(*)高山鉄男「モーリヤックと遠藤周作(遠藤周作—グローバルな認識〈特集〉)」国文学・解釈と教材の研究 38(10),1993 年。
(*)池内輝雄「「沈黙」の方法--「深い河」への行程(遠藤周作—グローバルな認識〈特集〉)」国文学・解釈と教材の研究 38(10),1993 年。
(*)高橋英夫「神とシンクレティズム--「沈黙」について(遠藤周作—グローバルな認識〈特集〉)」国文学・解釈と教材の研究 38(10),1993 年。
(*)川島秀一「遠藤周作参考文献一覧(遠藤周作—グローバルな認識〈特集〉)」国文学・解釈と教材の研究 38(10),1993 年。
(*)宮野光男「「イエス・キリスト(遠藤周作—グローバルな認識〈特集〉)」国文学・解釈と教材の研究 38(10),1993 年。
(*)田口律男「「鉄の足枷」論(遠藤周作—グローバルな認識〈特集〉)」国文学・解釈と教材の研究 38(10),1993 年。
(*)宮坂寛「「死海のほとり」--〈聖書考古学〉・〈あの男〉から〈あなた〉への反転(遠藤周作—グローバルな認識〈特集〉)」国文学・解釈と教材の研究 38(10),1993 年。
(*)(参考：浮田三郎「『プロピレア』ギリシア文学翻訳者協会賞受賞〈報告〉」プロピレア 5,1993 年。)
(*)(参考：中野里美「文明的劣等感,喪失感の作用—フランク・ノリスの『マクティーグ』」明治大学大学院紀要・文学篇 30,1993 年。)
(*)(参考：細井雄介「ギリシア悲劇案内(ギリシア悲劇全集・別巻)」文学 4(1),1993 年。)
(*)(参考：ミヒャエル・フリードリヒ,ハンス・ダイバー/吉安光徳訳『ドイツ演劇史』白水社,1993 年。)
(*)(参考：荒井直「「モネー・エレーモン」アンティゴネーの立っている場所」山梨英和短期大学紀要 27,1993 年。)
(*)(参考：W.J.ペイト/小黒和子訳『古典主義からロマン主義へ』みすず書房,1993 年。)
(*)(参考：真壁伍郎「自由学芸の系譜」新潟大学医療技術短期大学部紀要 5(1),1993 年。)
(*)西野春雄「古今謡曲総覧(上)」(貨狄)能楽研究 17,1993 年。
(*)丸山徹「大航海時代の語学書としてのキリシタン文献」南山国文論集 17,1993 年。
(*)豊島正之「聖書の翻訳から見たキリシタン文献」青山学院女子短期大学綜合文化研究所年報 1,1993 年。
(*)春日昭三「『聖書 新共同訳』(新約)について」神學研究 40,1993 年。
(*)川島第二郎『ジョナサン・ゴ・ブル訳『摩太福音書』の研究』明石書店,1993 年。
(*)梅北道夫『ザビエルを連れてきた男』新潮選書,1993 年。
(*)高瀬弘一郎『キリシタンの世紀』岩波書店,1993 年。
(*)半澤孝麿『近代日本のカトリシズム』(岩下壮一等)みすず書房,1993 年。
(*)高柳俊一「「日本神学史」Yasuo Furuya,Akio Dohi,Toshio Sato,Seiichi Yagi,and Masaya Odagiri」日本の神学 32,1993 年
(*)海老澤有道・井出勝美・岸野久編『キリシタン教理書』教文館,キリシタン文学双書,1993 年。
(*)大久保利謙「海老澤有道君と手塚隆義君の逝去を悼む—お二人の交友の憶い出」史苑 53(2),1993 年。
(*)本田義憲『説話とその周縁：物語・芸能』説話の講座 6,勉誠出版,1993 年。

(*)阿久根治子文・原田維夫絵・宇野亜喜良絵『百合若大臣,ぽん天国』TBS ブリタニカ,日本名作絵本 17,1993 年(1993 年,日本名作絵本 CD10)。
(*)近松門左衛門作・松崎仁(他)校注『近松浄瑠璃集(上下)』(百合若大臣)岩波書店,新日本古典文学大系 91-92,1993-1995 年。
(*)板垣俊一「北越の百合若伝説(上下)：地方における伝説の生成と変容」県立新潟女子短期大学研究紀要 30,1993 年/31,1994 年。
(*)矢代和夫「東北の百合若伝説覚書」(文教大学女子短期大学部)文藝論叢 29,1993 年。
(*)松永昌三『中江兆民 評伝』岩波書店,1993 年。
(*)伊藤雄志「精神主義の覚醒と〈日本への回帰〉—山路愛山と井上哲次郎」日本思想史学 25,1993 年。
(*)林正子『異郷における鴎外—その自己像獲得の試み』近代文芸社,1993 年。
(*)岩倉具忠「「旭江文庫」の生みの親大賀寿吉氏のこと」静脩 29(3),1993 年。
(*)玉木意志太牢「上田敏とペイター：「うづまき」覚書」立命館文學 531,1993 年。
(*)平井照敏「近代南蛮文学の出発：木下杢太郎の位置」青山学院女子短期大学総合文化研究所年報 1,1993 年。
(*)井上忠・渡辺正気編『恩師長沼賢海先生の思い出』鏡山毅,1993 年。
(*)田中実「〈メタ・プロット〉へ--「走れメロス」」都留文科大学研究紀要」38,1993 年。
(*)板垣正一『授業のための教師のよみ「走れメロス」「一塁手の生還」：中学校文学作品』えみーる書房,1993 年。
(*)山中幸三郎『太宰治=走れメロス』文芸研教材研究ハンドブック・中学校 3,明治図書出版,1993 年。
(*)大里光史「會津八一の歌と人(4)廃墟の古典,奈良,大和路の旅」短歌 40(4),1993 年。
(*)中村真一郎・新船海三郎「訪問シリーズ(6)中村真一郎—エンタシスと女の髪」民主文学 332,1993 年。
(*)山沢孝至「エレゲイアにならなかったエレゲイア：韻律法より見た西脇順三郎自作のラテン詩」近代 75,1993 年。
(*)紅野敏郎「逍遙・文学誌(27)椎の木社の「尺牘(せきとく)」(下)—室尾犀星・西脇順三郎・三好達治・春山行夫・丸岡明・宇野浩二」国文學 解釈と教材の研究 38(10),1993 年。
(*)草原昭喜「叡智の文人学者：福原麟太郎先生：第 1~20 章」福山：備後春秋編集部『芸術・随想詩：備後春秋』55~64,66-75,1993~2002 年。
(*)田村直美「野上弥生子と「世界名作大観」(1)『ウィルヘルム・マイステル』上巻」香川大学教育学部研究報告 第 1 部 87,1993 年。
(*)田村直美「野上弥生子と「世界名作大観」(2)『プルターク英雄伝』第 1 巻」香川大学教育学部研究報告 第 1 部 89,1993 年。
(*)有田和臣「初期小林秀雄思想形成序論：ニーチェの影響を中心に」稿本近代文学 18,1993 年。
(*)高橋英夫『偉大なる暗闇・師岩元禎と弟子たち』講談社文芸文庫,1993 年(←1984 年,新潮社刊。)
(*)「ラファエル・フォン・ケーベル 講演と歌曲の夕べ」(公演案内)音楽の友 51(9),1993 年。
(*)「ラファエル・フォン・ケーベル来日 100 年記念--講演と歌曲の夕べ」音楽の友 51(9),1993 年。

(*)中村健之助「宣教師ニコライの日記—日露戦争の日記(10)」窓 86,1993 年。
(*)原田茂生「ケーベル博士の「九つの歌曲」音楽芸術 51(10),1993 年。
(*)増井敬二「ラファエル・フォン・ケーベル来日 100 年記念「講演と歌曲の夕べ」」音楽の友 51(11),1993 年。
(*)増井敬二「ラファエル・フォン・ケーベル来日 100 年記念「講演と歌曲の夕べ」をきいて」音楽の友 51(11),1993 年。
(*)松平千秋「ケーベル先生、ヘクトーのことなど」図書 532,1993 年。
(*)村上陽一郎「私の中に住まうペルソナ」(ケーベル)図書 532,1993 年。
(*)島尻政長「ケーベル先生との出会い」・「ラファエル・フォン・ケーベル年譜」・「「ケーベル先生」文献(1)」ケーベル会誌 1(創刊号),1993 年。
(*)中西隆紀「ミュンヘン府マルストル街 1 番地」(ケーベル) ケーベル会誌 1(創刊号),1993 年。
(*)鈴木重昭「内村鑑三の「大学教授ケーベル氏」」ケーベル会誌 1(創刊号),1993 年。
(*)橋本昌弘「ケーベル先生改宗日の謎」ケーベル会誌 1(創刊号),1993 年。
(*)上原貴子「ケーベル先生という人」ケーベル会誌 1(創刊号),1993 年。
(*)高田美一「〈論説〉宮岡恒次郎とパーシヴァル・ロウエル,エドワード・モース,アーネスト・フェノロサ : 明治東西文化交流の一面」立正大学文学部論叢 97,1993 年。)
(*)三輪政一編『伝記叢書 井上円了先生』大空社,1993 年。
(*)酒井潔「〈研究例会発表要旨〉三宅剛一の哲学:比較思想の観点から」比較思想研究 20,1993 年。
(*)濱田義文研究代表『和辻哲郎の思想と学問に関する基礎的研究』科学研究費補助金(一般研究 B)研究成果報告書,平成 3・4 年度,1993 年。
(*)田中隆尚『呉茂一先生』小沢書店,1993 年(→2006 年,新版『田中隆尚選集 7』展望社)。
(*)(参考 : 古川晴風訳註『嵐とパイエーケス人の国 :『オデュセデイア』より』大学書林,1993 年。)
(*)Clark Timothy,Demon of painting：the art of Kawanabe Kyosai,For the Trustees of the British Museum,British Museum Press,1993.
(*)Hiroko C.Quackenbush(general editor),Yasuji Mori and Kazue Ito(ill.)『イソップどうわ= Animal fables』Kodansha International,1993 年。
(*)イソップ作/呉茂一訳；太田大八絵『北風と太陽：イソップ童話集』講談社青い鳥文庫,講談社,1993 年。
(*)『イソップどうわ』1 さいの本 3 さいの本,3 さいの本 9,講談社,1993 年。
(*)バーナデット絵・もきかずこ訳『きたかぜとたいよう：イソップ童話』西村書店,1993 年。
(*)イソップ作/平田昭吾著；高橋信也・村野守美画『うさぎとかめ』イソップものがたり,よい子とママのアニメ絵本 9,ブティック社,1993 年。
(*)立原えりかぶん；三井小夜子え『北風とたいよう：イソップ童話集』こどものための世界童話の森 11,集英社,1993 年。
(*)五島勉『イソップ物語の謎 : 隠された予言“人類の遺産”が発信する戦慄のメッセージ』ノン・ブック,祥伝社,1993 年。
(*)高橋健「イソップ研究(其の 2,復讐について)」姫路獨協大学一般教育部紀要 1993 年。
(*)桑原三郎「イソップの変容」白百合児童文化 4,1993 年。

(*)小瀧晴子「イソップ寓話の伝来と変容：その II「エソポが生涯の物語」に見える倫理感と滑稽について」茨女国文 5,1993 年。
(*)(参考 : Murakami Katsuya‘La reimpresión de la traducción española de las fabulas de Esopo en 1489(1-3)’広島文教女子大学紀要 28,1993 年/29,1994 年/30,1995 年。)。
(*)遠藤潤一『伊曽保物語第二種本の翻刻と本文研究』風間書房,1993 年。
(*)司馬江漢画「伊曽保物語図」(『司馬江漢全集』第 4 巻,所収,八坂書房,1993 年。)
(*)木梨潤也・香川経夫・遠藤勉・岡田直之「物語生成における文の結合ならびに変形処理」(イソップ)全国大会講演論文集・第 47 回平成 5 年後期 3,1993 年。
(*)(参考：松澤孝男『米国移民二世用英文テキスト(英訳「國語讀本」)全文テキストデータベース化』(イソップ)茨城工業高等専門学校 1993 年,(科研費)1994 年。)
(*)近松門左衛門；松崎仁他校注『近松浄瑠璃集(上下)』(大橋正叔・原道生校注「百合若大臣野守鏡」)新日本古典文学大系 91-92,岩波書店,1993 年。
(*)本田義憲他編『説話とその周縁：物語・芸能』(小林健二「「山鹿物語」と舞曲「信太」「百合若大臣」：説話モチーフの共有制性と構造の比較の考察」)説話の講座 6,勉誠社,1993 年。
(*)阿久根治子文,原田雅夫絵/阿久根治子文,宇野亜喜良絵『百合若大臣,ぽん天国』日本名作絵本 17,ティビーエス・ブリタニカ,1993 年。
(*)阿久根治子文『百合若大臣；ぽん天国』(第 17 巻,「百合若大臣」「幸若舞」)日本名作絵本 CD10,録音資料,TBS ブリタニカ,1993 年。
(*)佐山一郎「インタヴュー・『歴史』という仕事—林屋辰三郎」(百合若)ザ・ビッグマン 6 月号,1993 年。
(*)(参考：岡村敬二「世界書誌の夢—オトレとラ・フォンテーヌの世界宮殿」大阪府立図書館記紀要 29,1993 年。)
(*)(参考：池沢克夫「ルゥソーとラ・フォンテーン」言語文化部紀要 28.1993 年。)
(*)村上學編『義経記；曽我物語』日本文学研究大成,国書刊行会,1993 年。
(*)(参考 : 古川晴風訳注『風とパイエーケス人の国 :『オデュッセイア』より』大学書林,1993 年。)
(*)(参考 : 山形治江『ギリシャ悲劇 : 古代と現代のはざまで』朝日選書 480,朝日新聞社,1993 年。)
(*)(参考：左近司祥子・山口拓夢・内藤純郎「なぜ西洋古典を学ぶのか(特集 西洋古典学への誘い)」Libellis 8,1993 年。)
(*)(参考：伊藤克己「西洋古典学研究の伝統と現状(同上)」Libellis 8,1993 年。)
(*)(参考：左近司祥子「クリュタイムネストラのいる世界(同上)」Libellis 8,1993 年。)
(*)(参考：渡辺浩司「悲劇の第四番目の種類：アリストテレス『詩学』第十八章(1456a2)における欠損部分をめぐって」フィロカリア 10,1993 年。)
(*)(参考：クリシャン・クマー/菊池理夫・有賀誠訳『ユートピアニズム』昭和堂,1993 年。)
(*)(参考：松岡正剛『ルナティックス—月を遊学する』作品社,1993 年(→2005 年,中公文庫版。)
(*)(参考：北岡宏章・中田裕一「〈翻訳〉W.イェーガー著「パイデイア—ギリシア的人間の形成(1,2)」大阪府立工業高等専門学校技術研究紀要 27,1993 年/28,1994 年。)

(*)司馬遼太郎「アラベスク—井筒俊彦氏を悼む」中央公論 108(4),1993 年。
(*)中沢新一「歴史とトランス—井筒俊彦先生のしぐさの記憶」中央公論・文芸特集 10(1),1993 年。
(*)川島重成「新しいギリシア像に向けて」群像 48(2),1993 年。
(*)(參考：角田幸彦『歴史哲学としての倫理学』東信堂,1993 年。)
(*)(參考：小柳茂美『14 世紀無限論の展開：問題史的研究』(アリストテレス)神戸大学,博士(学術),甲第 1287 号,1993 年。)
(*)(參考：河野與一述・渡辺義雄編『哲学講話』岩波書店,1993 年。
(*)(參考：荻野弘之「〈書評〉哲学への新たな誘惑」ソフィア 42(1),1993 年。)
(*)(參考：越前喜六「〈書評〉ヒューマニズムはキリスト教的か」ソフィア 42(3),1993 年。)
(*)(參考：脇條靖弘「“Sachs の Fallacy”についてのいくつかの解釈の方向」古代哲学研究室紀要 1,1993 年。)
(*)(參考：保坂幸博『ソクラテスはなぜ裁かれたか』講談社現代新書,講談社,1993 年。)
(*)(參考：屋敷晃子「ソクラテス以前の哲学者に対する二つの見解」日本獣医畜産大学研究報告 42,1993 年。)
(*)(參考：森俊洋・中畑正志編『プラトン的探究』九州大学出版会,1993 年。)
(*)(參考：松永雄二『知と不知—プラトン哲学研究序説』東京大学出版会,1993 年。)
(*)(參考：伊東斌『プラトン快楽論の研究：善の研究序説』九州大学,博士(文学),乙第 5537 号,1993 年。)
(*)(參考:岡部勉『プラトン研究:行為と価値の哲学』九州大学,博士(文学),乙第 5341 号,1993 年。)
(*)(參考：屋敷紘一「存在と原因をめぐっての初期プラトニズムと中観派：カテゴリー化,構成要素化,普遍化とその否定」比較思想研究 20,1993 年。)
(*)(參考：森進一「プラトン「饗宴」を読む」(増進会出版社)Serio 3~8 月号,1993 年。)
(*)(參考：桑子敏雄編『エネルゲイア—アリストテレス哲学の創造』東京大学出版会,1993 年。)
(*)(參考:角田幸彦『アリストテレスにおける紙と理性』筑波大学,博士(文学),乙第 845 号,1993 年。)
(*)(參考：大出晁「アリストテレスの説明論・再論」創価大学人文論集 5,1993 年。)
(*)(參考：西川亮『エピクロスの断片ならびに学説誌についての研究』広島大学(1992 年),(科研費)1993 年。)
(*)(參考：山口義久「ストア派論理学の歴史的意義について」(大阪府立大学大学院)文化学研究集録 4,1993 年。)
(*)(參考:大久保正雄『理性の微笑み—ことばによる戦いの歴史としての哲学史』巖書房, 理想社,1993 年。)
(*)(參考:岩田靖夫「否定の精神と超越への予感—キルケゴールのソクラテス解釈に関説して」(古屋安雄編『なぜキリスト教か：中川秀恭 85 才記念論文集』所収,創文社,1993 年。)
(*)(參考：加藤信朗「大いなるもの—アウグスティヌスの「告白録」冒頭箇所(1.1.1)逐語訳の試み」(聖心女子大学キリスト教文化研究所)宗教と文化 15,1993 年。)
(*)(參考：加藤信朗「アウグスティヌス『告白録』における場所為表現の存在論上の意味について」聖心女子大学論叢 81,1993 年。)

(*)(参考：矢内原忠雄『アウグスチヌス「告白」講義』講談社学術文庫,講談社,1993 年。)
(*)(参考：松田禎二『アウグスティヌス—その生涯と思想』(京都)行路社,1993 年。)
(*)(参考：H.チャドウィック/金子晴勇訳『アウグスティヌス』コンパクト評伝シリーズ,教文館,1993 年。)
(*)(参考：金子晴男編『アウグスティヌスを学ぶ人のために』世界思想社,1993 年。)
(*)(参考：岡崎文明『プロクロスとトマス・アクィナスにおける善と存在者—西洋哲学史研究序説』晃洋書房,1993 年。)
(*)(参考：水田英美「コメント トマス・アクイナスによるアリストテレス解釈に仕方について—岡崎文明氏の発表に対して[含・討論]」中世哲学研究 35,1993 年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編訳・監修『後期ラテン教父』平凡社,中世思想原典集成 5,1993 年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編訳・監修『後期スコラ学』平凡社,中世思想原典集成 13,1993 年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編訳・監修『トマス・アクィナス』(ボエティウス)平凡社,中世思想原典集成 14,1993 年。)
(*)(参考：ジェフリー・バラクラフ編/上智大学中世思想研究所監修・別宮貞則訳『図説キリスト教文化史』原書房,1993-94 年。)
(*)(参考：Ch.ドーソン/野口洋二・諏訪幸男訳『中世ヨーロッパ文化史：宗教と西方文化の興隆』創文社,1993 年(←1973 年,同『中世ヨーロッパ精神史』創文社。)
(*)(参考：西澤文昭・研究代表『中世ヨーロッパの総合研究』青山学院大学総合研究所人文学系研究センター,研究叢書,1993 年。)
(*)(参考：河崎征俊「ボエティウスとチョーサー」駒澤大學文學部研究紀要 51,1993 年。)
(*)(参考：千阪靖朗「ダキアのボエティスの「世界の永遠性について」--2 重真理の問題」同志社哲学年報 16,1993 年。)
(*)(参考：芳賀重徳「中世ラテン語版「アレクサンドル大王の楽園探訪記」秋田経済法科大学経済学部紀要 17,1993 年。)
(*)(参考：岩田靖夫他『西洋思想のあゆみ：ロゴスの諸相』有斐閣 S シリーズ 50,有斐閣,1993 年。)
(*)(参考：樺山紘一『ルネサンス』講談社学術文庫,1993 年。)
(*)(参考：下村寅太郎『ルネサンスとバロックの人間像』みすず書房,1993 年。)
(*)(参考：井ノ川清「ユートピア論—「太陽の都」」Littertura 15,1993 年。)
(*)(参考：岡田温司「ディレッタントの形成試論—ジリオ・マンチーニを手掛かりに」美學 44(2),1993 年。)
(*)(参考：ヴィーコ/上村忠男・佐々木力訳『学問の方法』岩波文庫,岩波書店,1993 年。)
(*)(参考：E.パノフスキー/木田元訳『〈象徴形式〉としての遠近法』哲学書房,1993 年。)
(*)(参考：P.O.クリステラー/佐藤三夫監訳・根占献一・伊藤博明・伊藤和行共訳『イタリア・ルネサンスの哲学者』みすず書房,1993 年(→2006 年,新装版)。)
(*)(参考：D.P.ウォーカー/田口清一訳『ルネサンスの魔術思想』平凡社,1993 年。)
(*)(参考：菅野カーリン「〈書評〉初期人文主義者モリトリスの生涯」ソフィア 42(2),1993 年。)
(*)(参考：安西徹雄・高祖敏明・高橋裕子・田中仁彦・清水憲男「〈特集 中世の終焉〉ルネサンス再考(シンポジウム)」ソフィア 42(3),1993 年。)

(*)(参考：E.カッシーラ/花田圭介監修・三井礼子訳『ケンブリッジ学派の思想潮流：英国のプラトン・ルネサンス』工作舎,1993 年。)
(*)(参考：伊東俊太郎『十二世紀ルネサンス』岩波書店,1993 年(→2006 年,講談社学術文庫版。)
(*)(参考：西村貞二『ルネサンスと宗教改革』講談社,1993 年。)
(*)(参考：土居満寿美「「アルカディア会」初期の詩人たち—そのペトラルキズモの様相をめぐって」日伊文化研究 31,1993 年。)
(*)(参考：ダンテ/山川丙三郎訳『神曲』[警醒社大正 3-11 年の複製]大空社,1993 年。)
(*)(参考：E・アウエルバッハ/小竹澄栄訳『世俗詩人ダンテ』みすず書房,1993 年。)
(*)(参考：藤澤道郎「パニュルジュ的人間像：『第二の書：パンタグリュエル』についての一考察」国際文化論集 8,1993 年。)
(*)(参考：トマス・モア/沢田昭夫訳『ユートピア』改版,)中公文庫,中央公論社,1993 年。)
(*)(参考：R.A.ラファティ/井上央訳『トマス・モアの大冒険—バスト・マスター』(大阪)青心社,1993 年。)
(*)(参考：福田睦子「エラスムスによる自由意志の役割の容認(1,2)：オリヴェタン訳の聖書を参考にして」明海大学教養論文集 5,1993 年/6,1994 年。)
(*)(参考：齋藤栄一「エラスムスを従える書物たち—デューラーの銅版画「エラスムス」における書物のイメージ」明治学院論叢 510,1993 年。)
(*)(参考：木ノ脇悦郎「〈研究ノート〉宗教改革期におけるエラスムスと同時代人達」キリスト教史学 47,1993 年。)
(*)(参考:渡邊一夫『渡邊一夫:1901-1975』(エラスムス)ちくま日本文学全集 58,筑摩書房,1993 年。)
(*)(参考：小柳茂美『14 世紀無限論の展開：問題史的研究』(アリストテレス)神戸大学,博士(学術),甲第 1287 号,1993 年。)
(*)(参考：中江桂子『「ペルシャ人の手紙」研究：モンテスキューと社会学』法政大学,博士(社会学),甲第 28 号,1993 年。)
(*)(参考：野末紀之「無垢と官能--「ヴィンケルマン」におけるヘレニズム」人文研究 45(4),1993 年。)
(*)(参考：山口誠一「若きヘーゲル概念と全一論」(濱田義文・牧野英二編『近世ドイツ哲学論考』法政大学出版局,1993 年所収。)
(*)(参考：武安有『シュライエルマッハー教育学研究』(プラトン観)関西学院大学,博士(文学),乙第 171 号,1993 年。)
(*)(参考：河井徳治『スピノザ哲学論攷』(アリストテレス)筑波大学,博士(文学),乙第846号,1993年。)
(*)(参考：大石昌史『生起する作品：創造と遊戯をめぐる芸術の存在論的考察』(ニーチェ)東京大学,博士(文学),甲第9818号,1993年。)
(*)(参考：上妻精「ヘーゲルとニーチェ—弁証法的否定とディオニュソス的肯定(ヘー ゲルの思想〈特集〉」現代思想 21(8),1993 年。)
(*)(参考：池田俊彦「ニーチェの真理論(1)初期の一遺稿における」法政大学教養部紀要 86,1993 年。)
(*)(参考：辻本勝好「初期ニーチェの言語観—遺稿「道徳外の意味における真理と虚偽について」を中心に」武蔵大学人文学会雑誌 24(2・3),1993 年。)

(*)(参考 : 永井俊哉「ニーチェにおけるパースペクティヴの地平構造」一橋論叢 109(2),1993 年。)
(*)(参考 : 竹田青嗣「世界観の転換 : ニーチェ・ソシュール・ヴィトゲンシュタイン」フォーラム 11,1993 年。)
(*)(参考 : 藤本啓子「道徳とエゴイズム : ニーチェ研究ノート」愛知 : φιλοσοφια 10,1993 年。)
(*)(参考 : 樋口克己「ニーチェの〈喜ばしき知識〉という認識」哲学誌 35,1993 年。)
(*)(参考 : 水野建雄「ニーチェとディルタイ : 生と歴史をめぐって」哲学・思想論集 11,1993 年。)
(*)(参考 : 石井慎一郎「ニーチェの比喩論 : 1888 年の断想から」文学研究論集 10,1993 年。)
(*)(参考 : 鈴木克成「ニーチェにおける自然の救済(工藤喜作先生退官記念論集)」筑波哲学 4,1993 年。)
(*)(参考 : 鈴木克成「思想の歴史・歴史の思想 : トーマス・マンのニーチェ論」言語文化論集 37,1993 年。)
(*)菅野孝彦「三島由起夫とニーチェ : 言葉への共応,そして超出」日本文化研究 : 筑波大学大学院博士課程日本文化研究学際カリキュラム紀要 4,1993 年。
(*)(参考 : 木田元『ハイデガーの思想』岩波新書,1993 年。)
(*)(参考 : 徳村佑市『モリエールと宗教』欧明社,1993 年。)
(*)(参考 : ヒルティ/草間平作訳『幸福論(1,2,3 部)』(ワイド版岩波文庫,岩波書店 1993 年。)
(*)竹下政孝「井筒俊彦のイスラム学における業績」イスラム世界 48,1993 年。
(*)(参考 : 木原武一『性格の研究 : タイプ論からみた歴史上の人物』メディアファクトリー,1993 年。)
(*)(参考 : 木原武一『名作はなぜ生まれたか : 文豪たちの生涯を読む』アテナ選書 5,同文書院,1993 年(→1997 年,PHP 文庫版,PHP 研究所。)
(*)(参考 : 伊藤博明「記憶の中の古代—ルネサンス美術にみられる古代の受容」日伊文化研究 31,1993 年。)
(*)(参考 : 小川正廣「ウェルギリウス評価の変遷—古代から現代まで」名古屋大学文学部研究論集 115,1993 年。)
(*)(参考 : 池上忠弘・町野啓・細野哲士・春田節子・河崎征俊「文学の伝統と変容 : 中世文学におけるネオプラトニズムをめぐって(Symposia 第 4 部門,日本英文学会第 64 回大会報告)」英文學研究 69(2),1993 年。)
(*)(参考 : 海津忠雄「ヴェルフリンの『古典美術』とブルクハルト(美学会第 44 回全国大会報告)」美學 44(3),1993 年。)
(*)(参考 : 木村直司『ドイツ精神の探究 : ゲーテ研究の精神的文脈』南窓社,1993 年。)
(*)(参考 : 木村直司編『東西におけるファウスト : 独日中韓国際シンポジウム』同学社,1993 年。)
(*)(参考 : 太田伸広「レッシングの寓話論(1,2)」人文論叢 : 三重大学人文学部文化学科研究紀要 10,1993 年/11,1994 年。)
(*)(参考 : 高橋克己「「至福なるギリシア」再考—ヘルダーリン没後 150 年記念[含 独文]」高知大学学術研究報告・人文科学 42,1993 年。)
(*)(参考 : 荻野静男「Hölderlins Dichtertum als Priestertum tragische endend」(早稲田大学政治経済学部)教養諸学研究 93,1993 年。)
(*)(参考 : 高木昌史「ヘルダーリンの文体美学—後期讃歌の研究(1)」(東京都立大学人文学

部)人文学報 95,1993 年。)
(*)(参考：三宅新三「ホーフマンスタールと古代(5)「ギリシアの瞬間」をめぐって」岡山大学教養部紀要 32,1993 年。)
(*)(参考：高橋美矢子「人体のプロポーションに関する美術解剖学的考察—ボッティチェルリの“ヴィーナスの誕生”,デュラーの“アダムとエヴァ”,クラナッハの“ヴィーナス”における女性像について」美術解剖学雑誌 1(1),1993 年。)
(*)(参考：畠中康男・小宮山博著/齋藤勇監修『イギリスの文学：概説と演習』英宝社,1993 年(→1995 年,再版)。)
(*)(参考：吉富栄『英雄の興亡—シェイクスピアのローマ史劇』近代文芸社,1993 年。)
(*)(参考：青山誠子・川地美子編『シェイクスピア批評の現在』研究社出版,1993 年。)
(*)(参考：西沢康夫『シェイクスピアの芸術—分析と鑑賞の試み』近代文芸社,1993 年。)
(*)(参考：木下順二『シェイクスピアの世界』同時代ライブラリー,岩波書店,1993 年。)
(*)(参考：佐藤泰正編『「シェイクスピア」を読む』笠間選書 168—梅光女学院大学公開講座論集 33,笠間書院,1993 年。)
(*)(参考：平林文雄『比較文学—受容鑑賞研究』（大阪）和泉書院,1993 年。)
(*)(参考：如温遊(サミュール・ジョンソン)/新井清(泰之助)・河田清彦訳述『亜比斯尼亜国皇子剌世拉斯史釋講義』(京都)文港堂,1993 年。)
(*)(参考：丹羽隆子「『オーランド』考：ギリシアへの憧憬：花崗岩と虹の牧歌」ヴァージニア・ウルフ研究 10,1993 年。)
(*)(参考：泉屋寛『ジョンソン研究—その人と作品』(広島)渓水社,1993 年。)
(*)(参考：武田光史「西洋精神と実験科学のユートピア『ニュー・アトランティス』(F.ベイコン,1627)」南山大学医療技術短期大学部紀要 3,1993 年。)
(*)(参考：花田圭介責任編集『フランシス・ベーコン研究』イギリス思想研究叢書 2,お茶の水書房,1993 年。)
(*)(参考：奥田喜八郎「聖書を踏まえた英詩評釈(II)—P.B.Shelley」奈良教育大学教育研究所紀要 29,1993 年。)
(*)(参考：上杉恵子「ミソロンギオンへの道(1-5)バイロンとギリシア神話」広島電機大学・広島自動車工業短期大学研究報告 26,1993 年/27,1994 年/28,1995 年/29,1996 年/30,1997 年。)
(*)(参考：Kiyoshi Nishiyama,Keats’s Mind of the Fall—An Interpretention of the Major Poems of Keats in Terms of Myth Making,北星堂,1993 年。)
(*)(参考：伊木和子『キーツの世界：John Keats』研究社出版,1993 年。)
(*)(参考：西山清「「エンディミオン」を読む(4)」ほらいずん 25,1993 年。)
(*)(参考：齋賀久子「物語誌『エンディミオン』の語り手と時間」Kritikos11,1993 年。)
(*)(参考：古賀照雄・吉田真穂・中村俊照「ジョンキーツ『エンディミオン』注解[英文]」千葉大学許容部研究報告 B(26),1993 年。)
(*)(参考：A.E.ハウスマン/鈴木富生他訳『A.E.ハウスマン詩論：詩の名称と本質』八潮出版社,1993 年。)
(*)(参考：相羽愛香「ジョン・キーツにおけるキリスト教思想とギリシア精神[英文]」六浦論叢(29・30),1993 年。)
(*)(参考：小林竜一訳「〈翻訳〉K.N.キャメロン「ヘラス」」大阪経大論集 44(1),1993 年。)

(*)(参考：坂本季詩雄「Wallace Stevens の詩におけるディオニューソス的要素」愛知工業大学研空報告 A,教養関係論文集 28,1993 年。)
(*)(参考：島津展子「T.S.エリオットの「老政治家」におけるダイモーンの神秘」大阪学院大学外国語論集 28,1993 年。)
(*)(参考：リンダル・ゴードン/森静子訳『ヴァージニア・ウルフ：作家の一生』平凡社,1993 年。)
(*)渡邊二郎『芸術の哲学』財団法人放送大学教育振興会,1993 年(→1998 年,ちくま学芸文庫版)。
(*)(参考：イヴォンヌ・ベランジュ/高田勇訳『モンテーニュ精神のための祝祭』白水社,1993 年。)
(*)(参考：ジャン・スタロバンスキー/早水洋太郎訳『モンテーニュは動く』みすず書房,1993 年。)
(*)(参考：ヴォルテール/小寺清一訳『形而上学概論』日本図書刊行会,1993 年。)
(*)(参考：滝川好庸『シャトーブリアンとナポレオン：転んだ仏文学者の覚え書』理想社,1993 年。)
(*)(参考：澁澤龍彦『「エピクロスの肋骨」；サド復活；補遺 1954-59 年』河出書房新社,澁澤龍彦全集 1,1993 年。)
(*)(参考：三好美千代「ランボーにおける絵画と論理と『母音』：プラトニスム変奏よりの出発」フランス語フランス文学研究63,1993年。)
(*)(参考：屋敷宏一「存在と原因をめぐっての初期プラトニズムと中観派―カテゴリー化,構成要素化,普遍化とその否定」比較思想研究 20,1993 年。)
(*)(参考：西勝忠男「ホプキンズのパルメニデース論―“インストレス”から“インスケイプ”へ」(工藤喜作他編『哲学思索と現実の世界』所収,創文社,1993 年。)
(*)(参考：ジェイムズ・A.プリチャード編『新教/タイムズ聖書歴史地図』新教出版社,1993 年。)
(*)(参考：村川堅太郎・長谷川博隆・高橋秀『ギリシア・ローマの盛衰：古典古代の市民たち』講談社学術文庫,講談社,1993 年。)
(*)(参考：伊藤正他編『古代地中海世界：古代ギリシア・ローマ論集：三浦一郎先生傘寿記念論集』清水弘文堂,1993 年。)
----「1.古典期以前のギリシア(ミュケナイ時代の神像に関する一考察：貴族政期アテナイの一側面)」
「2.古典期アテナイの政治と経済(古典期アテナイにおける市民権法と女子の市民資格：古典期アテナイ民会におけるイセゴーリアの行使を巡って：古典期アテナイの公有地賃借人)」
「3.ヘレニズムとローマ(フィリッポス 5 世とフテティア：カルプルニウス法再考；6 世紀後半におけるロマ軍制の危機)」
「4.古代ギリシアの技術(古代ギリシア人のヘウレマタ：ヘーミオリア船の復元)」
(*)(参考：櫻井悠美「ゴルチュンのオイケエス：クレタにおける隷属農民の一形態として」新潟史学 31,1993 年。)
(*)橋場弦「「古代ギリシアの女たち―アテナイの現実と夢」桜井万里子」史潮(33・34),1993 年。

(*)松山巖『うわさの遠近法』(ギリシア起源等)青土社,1993 年(→2003 年,ちくま学芸文庫版。)
(*)(參考:ミレーユ・アダムス=ッルベル/東丸恭子訳『フラウィウス・ヨセフス伝』白水社,1993 年。)
(*)(參考:山中由里子「イランにおけるアレクサンドロス像の変遷:邪悪な破壊者からイスラム的英雄へ」日本中東学会年報 8,1993 年。)
(*)田村道美「野上弥生子と「世界名作大観(2):『プルターク英雄伝』第 1 巻」香川大学教育学部研究報告・第 1 部 89,1993 年。
(*)(參考:塩野七生『ハンニバル戦記』ローマ人の物語 2,新潮社,1993 年。)
(*)(參考:栗田伸子「『ユグルタ戦争』第 17-19 章の分析:北アフリカ民族誌の視点から」西洋古典學研究 41,1993 年。)
(*)(參考:岡田繁雄『パウロと奴隷制』草村舎,1993 年。)
(*)(參考:本村凌二『薄闇のローマ世界:嬰児遺棄と奴隷制』東京大学出版会,1993 年。)
(*)(參考:高山博『中世地中海世界とシチリア王国』東京大学出版会,1993 年。)
(*)(參考:ジョルジュ・タート/池上俊一監修,南條郁子・松田迪子訳『十字軍:ヨーロッパとイスラム・対立の原点』「知の再発見」双書 30,創元社,1993 年。)
(*)(參考:J.ミュシレ/大野一道編訳『世界史入門:ヴィーコから「アナール」へ』藤原書店,1993 年。)
(*)(參考:伊藤貞夫「総説(1992年の歴史学界:回顧と展望)」史學雜誌102(5),1993年。)
(*)(參考:馬場康雄「ヨーロッパ:現代南欧(1992年の歴史学界:回顧と展望)」史學雜誌102(5),1993年。)
(*)(參考:柴野均「ヨーロッパ:近代南欧(1992年の歴史学界:回顧と展望)」史學雜誌102(5),1993年。)
(*)(參考:服部良久「ヨーロッパ:中世南欧(1992年の歴史学界:回顧と展望)」史學雜誌102(5),1993年。)
(*)(參考:橋場弦「ヨーロッパ:古代:ギリシア(1992年の歴史学界:回顧と展望)」史學雜誌102(5),1993年。)
(*)(參考:南川高志「ヨーロッパ:古代:ローマ(1992年の歴史学界:回顧と展望)」史學雜誌102(5),1993年。)
(*)藤縄謙三「村川堅太郎著「古典古代游記」岩波書店」史学雑誌102(11),1993年。
(*)(參考:村川堅太郎『古典古代游記』岩波書店,1993年。)
(*)(參考:村川堅太郎他著『要説世界史』3 訂版,山川出版社,1993 年。)
(*)(參考:村川堅太郎他著『要説世界史:教授資料』3訂版,山川出版社,1993年。)
(*)(參考:亀井高孝・三上次男他編『標準世界史地図』増補28版,吉川弘文館,1993年。)
(*)(參考:亀井高孝・三上次男他編『標準世界史年表』30版,吉川弘文館,1993年。)
(*)(參考:木村尚三郎・岩田一彦・岡本まさあき『世界の歴史年表』集英社,1993年。)
(*)(參考:森谷公俊「古代マケドニア王国死研究の現状」歴史学研究650,1993年。)
(*)(參考:島創平「古代地中海世界の「家庭訓」における主人—奴隷関係について—第一ペテロ書2章18節~25節を手がかりとして」西洋史研究22,1993年。)
(*)(參考:齋藤寛海「フィレンツェ史への視角(1992年度[西洋史研究会]大会共通論題報告—中世後期の地中海都市—ヨーロッパとイスラム世界—もう1つの比較史的考察)」西洋史研究22,1993年。)
(*)(參考:三宅正樹「20世紀の歴史記述と時間意識—進歩の観念と「古代・近代論争」」

明治大学社会科学研究所紀要31(2),1993年。)
(*)(参考：岡崎勝世「ドイツ啓蒙主義歴史学研究(1-3)Johann Christoph Gatterer の世界史叙述における聖書の位置」埼玉大学紀要 29,1993 年。)
(*)(参考：上原専禄『世界史像の新形成』評論社,1993 年。)
(*)(参考：上原専禄『クレタの壺：世界史像形成への試読』評論社,1993 年。
(*)(参考：赤地経夫『もうひとつの地中海建築：ローマ,ペルシャ,イスラムからカタルーニャ』INAX album 15,INAX,1993 年。)
(*)(参考：デイビッド・ワトキン/桐敷真次郎訳『建築史学の興隆』中央公論美術出版,1993年。)
(*)(参考 : 桐敷真次郎・岡田哲史『ピラネージと『カンプス・マルティウス』』本の友社,1993年。)
(*)(参考：桐敷真次郎監修,岡田哲史・西森陸雄編集協力『イタリア建築図面集成(1-5 巻)』本の友社,日本アクティブ(発売),1993-94 年。)
(*)(参考：三井宣之・伊藤重剛・江良弘樹・須田清隆・内田雅博・下川弘「パルテノン神殿柱ドラムの接合部に関する実験的研究」構造工学論文集,B.(39B),1993年。)
(*)(参考：高梨淑夫「10 パルテノン神殿立面各部鑑賞最適視点の範囲の研究(前編)(建築歴史・意匠)」研究報告集,計画系 63,1993 年。)
(*)(参考：渡辺直治「11 エトルリア王時代の古代ローマ市における宗教建築物の配置について(建築歴史・意匠)」研究報告集,計画系 63,1993 年。)
(*)(参考：粂田勲「9032 ギリシャの住まい：ミュケーネ宮殿の神話的空間」学術講演梗概集 F,都市計画,建築経済・住宅問題,建築歴史・意匠 1993,1993 年。)
(*)(参考 : 高梨淑夫「9054 パルテノン神殿各部鑑賞最適視点の範囲の研究(後編)」学術講演梗概集 F,都市計画,建築経済・住宅問題,建築歴史・意匠 1993,1993 年。)
(*)(参考：安川智・伊藤重剛・須田清隆・下川弘「9067 パルテノン神殿の建設過程に関する研究」学術講演梗概集 F,都市計画,建築経済・住宅問題,建築歴史・意匠 1993,1993 年。)
(*)(参考：安川智・伊藤重剛・須田清隆・下川弘「9068 パルテノン神殿の施工費用に関する研究」学術講演梗概集 F,都市計画,建築経済・住宅問題,建築歴史・意匠 1993,1993 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・渡辺道治・井上康孝「地中海古代都市の研究(64)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部 3,計画系 9,1993 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・伊藤好輔「地中海古代都市の研究(65)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部 3,計画系 9,1993 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・森倫子「地中海古代年の研究(66)古代ギリシア建築の円柱におけるエンタシスの作図法(続)(建築歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部 3,計画系 9,1993 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・須田清隆・下川弘・熊谷秀和「地中海古代都市の研究(67,68,71)パルテノン神殿の柱変化に伴う感性的評価(1,2,3)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部 3,計画系 9,1993 年/計画系 34,1994 年。)
(*)(参考：堀内清治「640 オリンピアのゼウス神殿の柱高：地中海古代都市の研究(69)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部 3,計画系 9,1993 年。)

(*)(参考：G.ハーシー/白井秀和訳『古典建築の失われた意味』(ウィトルウィウス)鹿島出版会,SD選書221,1993年。)
(*)(参考：小佐野重利編/小佐野重利・姜雄翻訳・注解・解説『ラッファエロと古代ローマ建築：教皇レオ10世宛書簡に関する研究を中心に』中央公論美術出版,1993年。)
(*)(参考：中村真一郎・新船海三郎「訪問シリーズ(6)中村真一郎―エンタシスと女の髪」民主文学332,1993年。)
(*)(参考：井上章一「法隆寺への精神史(10・完)よみがえるエンタシス」文學界47(10),1993年。)
(*)読売新聞社編『建築巨人 伊東忠太』読売新聞社,1993年。
(*)(参考：市川伸一『ネットワークのソフィストたち：「数学は語りうるか」を語る電子討論』日本評論社,1993年。)
(*)(参考：武田光史「西洋精神と実験科学のユートピア『ニュー・アトランティス』(F.ベイコン,1627年)」岡山大学医療技術短期大学紀要3,1993年。)
(*)西尾敏彦『イソップ風農業研究ものがたり』養賢堂,1993年。
(*)(参考：レイモン・トム著/蔵持不二也訳『スポーツの歴史』新版文庫クセジュ,白水社,1993年。)
(*)(参考：真田久「“ギリシャオリンピック”の成立過程に関する一考察―ドイツとの関わりを中心に」福岡教育大学紀要・第5分冊,芸術・保健体育・家政科編42,1993年。)
(*)(参考：真田久「011 高B01 1859年の第一回“ギリシャオリンピック競技会”の競技規定に関する研究」日本体育学会大会号44A,1993年。)
(*)(参考：中村哲夫「011 高B03 新居格のオリンピック認識」日本体育学会大会号44A,1993年。)
(*)(参考：和田浩一「011 高B02 P.de クーベルタンのスポーツ分類について」日本体育学会大会号44A,1993年。)
(*)(参考：西條敏美「自然科学の古典をどこに求めるか(連載,科学史)」物理教育41(4),1993年。)
(*)(参考：日野英子「(2)アスクレピオス(1993年新年大会)」日本医史学会神奈川地方会だより(1・2),1993年。)
(*)(参考：今井正浩「『エピデミアイ』とヒポクラテス医学派―古代ギリシア医学論考」科学史研究[第II期]32(186),1993年。)
(*)(参考：Marketos Spyros/深瀬泰旦訳「20世紀末におけるヒポクラテス医学と哲学」日本医史学雑誌39(4),1993年。)
(*)(参考：木村正史・山鳥崇「ギリシャ神話由来の医学用語について」神戸大学医療技術短期大学部紀要9,1993年。)
(*)(参考：笛月織女・生田惺「オリンポス占星術」(講談社)Midori4(1),1993年。)
(*)(参考：笛月織女・生田惺「オリンポス占星術」(講談社)Midori4(2),1993年。)
(*)(参考：笛月織女・生田惺「オリンポス占星術」(講談社)Midori4(4),1993年。)
(*)(参考：笛月織女・生田惺「オリンポス占星術」(講談社)Midori4(5),1993年。)
(*)(参考：笛月織女・生田惺「オリンポス占星術」(講談社)Midori4(6),1993年。)
(*)(参考：笛月織女・生田惺「オリンポス占星術」(講談社)Midori4(7),1993年。)

(*)(参考：笛月織女・生田惺「オリンポス占星術」(講談社)Midori4(8),1993年。)
(*)(参考：笛月織女・生田惺「オリンポス占星術」(講談社)Midori4(9),1993年。)
(*)(参考：笛月織女・生田惺「オリンポス占星術」(講談社)Midori4(10),1993年。)
(*)(参考：笛月織女・生田惺「オリンポス占星術」(講談社)Midori4(11),1993年。)
(*)(参考：笛月織女・生田惺「オリンポス占星術」(講談社)Midori4(12),1993年。)
(*)(参考：笛月織女・生田惺「オリンポス占星術」(講談社)Midori4(17),1993年。)
(*)(参考：矢島文夫「古代占星術の意味論—呪術的思考はナンセンスか(占星術—照応と象徴のコスモロジー,特集)」ユリイカ25(6),1993年。)
(*)(参考：矢野道雄「占星術の伝播と変容—インドの場合(占星術—照応と象徴のコスモロジー,特集)」ユリイカ25(6),1993年。
(*)(参考：鏡リュウジ「占星学の近代—アラン・レオから心理占星学へ(占星術—照応と象徴のコスモロジー,特集)」ユリイカ25(6),1993年。)
(*)(参考：Picknett Lynn/関口篤訳「占星術をめぐる7つの断章(占星術—照応と象徴のコスモロジー,特集)」ユリイカ25(6),1993年。)
(*)(参考：Gettings Fred/阿部秀典訳「オカルティストの星の知識(占星術—照応と象徴のコスモロジー,特集)」ユリイカ25(6),1993年。)
(*)(参考：伊藤博明「白羊宮のもとに生まれて—イタリア・ルネサンスの宮廷と占星術(占星術—照応と象徴のコスモロジー,特集)」ユリイカ25(6),1993年。)
(*)(参考：Kollerstorm Nick/大熊昭信訳「ケプラーの占星術信仰(占星術—照応と象徴のコスモロジー,特集)」ユリイカ25(6),1993年。)
(*)(参考：中島達弘「時を数えて砂漠に立つ—実存主義・グノーシス主義と現代占星学(占星術—照応と象徴のコスモロジー,特集)」ユリイカ25(6),1993年。)
(*)(参考：幻齋坊「ミトラの宇宙論(占星術—照応と象徴のコスモロジー,特集)」ユリイカ25(6),1993年。)
(*)(参考：藤澤令夫「ギリシア的宇宙観とその射程(特集 宇宙・世界・環境)」年報・人間文化3,1993年。)
(*)(参考：星和夫『楽しい医学用語ものがたり(正・続)』医歯薬出版,1993-1996年(→2015年,新装復刻版)。)
(*)(参考：今井正浩「古代ギリシア医学とその思想史的展開」科学史研究183,1993年。)
(*)矢島祐利『科学史とともに五十年』中央公論社,1993年。)
(*)(参考：藤澤令夫他著『科学と文化—人間探究の立場から』名古屋大学出版会,1993年。)
(*)(参考：上林昌太郎「自然と人間—アリストテレス『自然学』を主たる手懸かりに」哲學雑誌108(780),1993年。)
(*)(参考：武田光史「西洋精神と実験科学のユートピア『ニュー・アトランティス』(F.ベイコン,1627)」岡山大学医療技術短期大学部紀要3,1993年。)
(*)(参考：Calvino Italo/米塚真治訳「人・宇宙・象—プリニウスの「博物誌」について(幻想の博物誌〈特集〉」ユリイカ25(1),1993年。)
(*)(参考：佐藤三夫研究代表『ルネサンスにおける人文主義的自然観』佐藤三夫,科学研究費補助金(綜合研究A)研究成果報告書,平成4年度,1993年。)
(*)(参考：田村百代「A,von フンボルト『コスモス(第一巻)』における「自然画」の思想」地理学評論Ser.A66(5),1993年。)
(*)(参考：松山寿一『ドイツ自然哲学と近代科学』(アリストテレス)法政大学,博士(文学)

乙第66号,1993年。)
(*)河本英夫「「ドイツ自然哲学と近代科学」松山寿一,「カントの自然科学論」ペーター・プラース著,犬竹正幸,中島義道,松山寿一訳」科学史研究[第OxF9C2]期32(186),1993年。
(*)(参考：渡辺正雄「近代科学とキリスト教」東北学院キリスト教研究所紀要11,1993年。)
(*)(参考：日高晋「近代科学をふり返って」経済志林61(1),1993年。)
(*)(参考：阿内正弘「シュペングラーの技術論」淑徳大学研究紀要27,1993年。)
(*)(参考：有江大介『労働と正義：その経済学史的検討』中央大学,博士(経済学),乙第168号,1993年。)
(*)(参考：林昌鎬『シュライエルマッハーの社交性理論に関する研究：教育学的基礎理論としての社交理論』広島大学,博士(教育学),甲第1185号,1993年。)
(*)(参考：白石正樹「没落期ポリスの政治思想：プラトンの『法律』をめぐって」創価大学比較文化研究11,1993年。)
(*)(参考：加藤信朗「公共性—ギリシャ政治哲学の原点」聖心女子大学論叢80,1993年。)
(*)一柳俊夫「〈書評〉伊藤貞夫著「アテネ人庶子の法的地位をめぐって—古代ギリシア史研究の一動向」「ポリス社会とパトロネジ」(長谷川博隆編「古典古代とパーロネジ」名古屋大学出版会)」法制史研究1993(43).,1993年。
(*)(参考：平田隆一研究代表『古代ギリシア・ローマにおける社会的不正の研究』東北大学,科学研究費補助金総合研究(A),研究成果報告書,1992-1993年,1993年。)
(*)(参考：服部春彦研究代表『西洋および日本における「市民」概念の比較史的研究』服部春彦,1993年。)
(*)(参考：小田川大典「近代・教養・国家(1-3)：マシュー・アーノルドにおける自我と政治」六甲台論集40(3),1993年/40(4),41(2),1994年。)
(*)(参考：中薗英助『オリンポスの柱の蔭に：外交官ハーバート・ノーマンのたたかい』現代教養文庫,社会思想社,1993年。)
(*)(参考：伊藤貞夫・橋場弦『古典期アテネにおける民主政の成熟と世代間断絶』伊藤貞夫1993年。)
(*)(参考：橋場弦『アテナイ公職者弾劾制度の研究』東京大学出版会,1993年。)
(*)橋場弦「書評 宮崎亮著「古典期アテナイのシュコファンテス—アテナイにおける民衆訴追」(史学雑誌102編4号)」法制史研究44,1993年。
(*)(参考：林智良「古代ローマ親族構造論の与える家族法思想史への示唆—マウリツィオ・ベッティーニの議論をめぐって」奈良法学会雑誌6(3),1993年。)
(*)(参考：ゲルハルト・エストライヒ/阪口修平・千葉徳夫・山内進編訳『近代国家の覚醒—新ストア主義・身分制・ポリツァイ』創文社,1993年。)
(*)(参考：山本実「政治記者時代のブルクハルト(1,2)(吉田正勝教授退官記念)」言語文化研究19,1993年/20,1994年。)
(*)(参考：森村進「トレヴァー・J.ソーンダース『プラトンの刑法典』」一橋論叢111(1),1994年。)
(*)(参考：荻原英二「カルプルニウス法再考—J.S.Richardson説をめぐって」(伊藤正他編『地中海世界』所収,清水弘文堂,1993年。)
(*)(参考：長谷川史明「西洋法史におけるガーイウス法理論—古代ローマ社会思想・法思想と提要システム」史境27,1993年。)

(*)(参考：アンクム・ハンス,小川浩三「パピアーヌス,意味不明な法律家か」北大法学論集44(2),1993年。)
(*)(参考：西村稔[紹介]「ジェイムズ.O.ホイットマン著『ドイツ・ロマン主義時代のローマ法の遺産—歴史的光景と法的変動 1990年』(1-2)」岡山大学法学会雑誌43(1),43(3・4),1993年。)
(*)(参考：鈴木繁生「彼は法学を復興した(レーグム・ストゥディア・レスティトウィト) アルドレア・アルチャートの墓像彫刻とルネッサンス・ローマ法学」言語文化論集15(1),1993年。)
(*)(参考：上井長久「フランス法におけるbonne foiの研究—ローマ法のbona fidesとの関係について」明治大学社会科学研究所年報33,1993年。)
(*)(参考：塙浩『フランス中世領主領序論』神戸大学,博士(法学),乙第1782号,1993年。)
(*)(参考：佐伯宣親『近代自然法論の研究』国士舘大学,博士(政治学),乙第5号,1993年。)
(*)(参考：近藤和彦『18世紀イギリスにおける古典的発想と司法』東京大学1993年,(科研費)1993年。)
(*)山口廸彦「イェーリング研究文献目録」社会科学研究 13(2),1993 年。
(*)西村眞次『小野梓伝：伝記・小野梓』伝記叢書 122,大空社,1993 年。)

(*)(参考：黒沢惟昭「具体的・普遍的「自己意識」の展開・再考—マルクス「学位論文」と「ライン新聞」期の接合(特集 ヘーゲル左派と現代)」思想653,1994年。)
(*)『別冊 歴史読本特別増刊 禁断の超「歴史」「科学」』新人物往来社,1994年。
(*)(参考：矢島文夫『ミステリアスな文化史』中央公論社,1994年。)
(*)(参考：矢島文夫『知的な冒険の旅へ』中央公論社,1994年。)
(*)牛山火壱『日本に忍び入るユダヤ：聖徳太子から小沢一郎まで：恐るべき悪魔の計画とは何か』第一企画出版,1994年。)
(*)(参考：松本零士『永遠のアルカディア』秋田文庫3-3,宇宙海賊キャプテン・ハーロック,秋田書店,1994年。)
(*)(参考：三石善吉「〈論説〉アルカディアの誕生・ウェルギリウス」筑波法政17,1994年。)
(*)(参考：亀井一「ジャン・パウル「巨人」論(1)アルカディアのはずれに」名古屋大学文学部研究論集118,1994年。)
(*)(参考：富樫凩一「イタリア文学論(6)1600年代とアルカディア文学」作陽音楽大学・作陽短期大学研究紀要27(2),1994年。)
(*)(参考：大森淳正『西洋文明史略』貝谷学園,1994年。)
(*)沢木耕太郎『深夜特急』(5『トルコ・ギリシャ・地中海』,6『南ヨーロッパ・ロンドン』)新潮文庫,新潮社,1994年(→2020年,新版)。
(*)佐々木伸『夢幻紀行』創元社,1994年。
(*)西村貞二『小林秀雄ともに』求龍堂,1994年。
(*)(参考：本城靖久『グランドツアー：英国貴族の放蕩修学旅行』中公文庫,中央公論社,1994年。)
(*)須賀敦子「フランドルの海」(←原題「フランドルの野」)文藝11月,冬号,1994年。
(*)木戸蓊「マケドニア(クリオ・ライブラリー[28])」世界593,1994年。
(*)古賀博文『ポセイドンの夜：古賀博文詩集』土曜美術社出版販売,1994年。
(*)澁澤幸子『イスタンブール,時はゆるやかに』新潮社,1994年。

(*)澁澤幸子・池澤夏樹『イスタンブール歴史散歩』新潮社,1994年。
(*)『エーゲ海Fantasy of the Aegean Sea』ビデオディスク,日本コロムビア,1994年。
(*)“Greek traditional village music and dance”録音資料(音楽CD),Seven Seas,1994年。
(*)(参考 : 小笠原茂介「ローマの月」火年31,1994年（→2001年,『地中海の月』所収,思潮社）。
(*)(参考：小笠原茂介「ティレニア海の月」亜土17(2次),1994年（→2001年,『地中海の月』所収,思潮社）。
(*)(参考 : 川島重成「クレタ歴史紀行—ミノア時代から現代まで」国際基督教大学学報「人文科学研究」26,1994年。)
(*)(参考 : 川島重成「古代コリントス紀行—シシュフォスの神話から使徒パウロの足跡まで」ペデラヴィウム会通信16,1994年。
(*)坂上博一「小宮豊隆のローマ美術紀行」明治大学人文科学研究所紀要36,1994年。
(*)大木綾子「近代日本における古代ギリシア・ローマ美術の紹介」筑波大学芸術年鑑1994,1994年。
(*)(参考 : フィリッポ・グルマルディ/中村浩子訳「カズのイタリア評判記」文藝春秋72(14),1994年。)
(*)(参考 : ロバート・ヒューズ/田澤耕訳『バルセロナ : ある地中海都市の歴史』新潮社,1994年。)
(*)安岡襄「ぶらり海外旅行ア・ラ・カルト—エーゲ海文明編(1,2,3,4,6)」会計検査資料346,347,348,349,351,1994年。
(*)近藤まさたろ「ギリシャ通信—夏のエーゲ海リゾート日帰りリゾート」月刊消費者10月号,1994年。
(*)平井保雄・片山純子『地中海のリゾートを旅する：伝統と開発の調和』彰国社,1994年。
(*)『ギリシャ・エーゲ海Romntic Greece：Greece,・Agean Sea』ビデオディスク,日本コロムビア,1994年。
(*)Seven Seas『Greek traditional village music and dance』World music library27 : Europe,Greece,録音資料,1994年。
(*)地球の歩き方編集部編『泊まってみたいヨーロッパのプチホテル：ローマとイタリアのルネッサンス都市』改訂 2 版,地球の歩き方,ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社(発売),1994 年。
(*)秋田稔「若き日そして今」ペデラヴィウム会通信17,1994年。
(*)嶋本利彦「アトランティスが滅んだ日,金子史朗著,朝日文庫,1993年」地質學雜誌100(11),1994年。)
(*)(参考：ヤミリ・キリー記『アトランティスのミンダ王女500機のUFO従え「生命の樹」へ』でくのぼう出版,星雲社(発売),1994年。)
(*)(参考 : 武田昭文「プレーブニコフのドラマトゥルギー : 劇的長詩『アトランティスの滅亡』をめぐって」ロシア語ロシア文学研究26,1994年。)
(*)(参考：フランク・アルパー/高柳司訳『アトランティス：超古代文明とクリスタル・ヒーリング』コスモ・テン・パブリケーション,1994年。)
(*)(参考：ジェフリー・アッシュ/船木裕訳『アトランティス伝説：失われた大陸/古代の叡知』平凡社(イメージの博物誌28),1994年。)
(*)(参考：エドガー・エバンズ・ケイシー/林陽訳『アトランティス物語・アトランティス沈没期の再来』心霊科学名著シリーズ33,中央アート出版,1994年。)

(*)(参考：小寺実『大ピラミッドは語る：アトランティス文明を求めて』改訂版,コメット研究所,1994年。)
(*)(参考：武田昭文「フレーブニコフのドラマトゥルギー：劇的長詩『アトランティスの滅亡』をめぐって」ロシア語ロシア文学研究26,1994年。)
(*)(参考：ギッシング/小池滋訳『南イタリア周遊記』岩波文庫,岩波書店,1994年。)
(*)(参考：河島英昭『イタリアをめぐる旅想』平凡社ライブラリー60,平凡社,1994年。)
(*)(参考：池澤夏樹訳『E.M.フォースター著作集7』(アレクサンドリア)みすず書房,1994年。)
(*)(参考：石塚裕子「Gaskell作品に見るMediterranean Passionの描かれ方」国際文化学研究：神戸大学国際文化学部紀要2,1994年。)
(*)(参考：ジャン=ポール・テュイリエ/松田廸子訳『エトルリア文明：古代イタリアの支配者たち』創元社,1994年。)
(*)(参考：佐々木晴人編『エジプト見聞録：ナポレオンと夢のロマン』コスモ出版,1994年。)
(*)(参考：たかしよいち作・おかもととしお絵『死の都ポンペイ』国土社,世界むかしむかし探検3,1994年。)
(*)石井克己・梅沢重昭『黒井峯遺跡：日本のポンペイ』読売新聞社,日本の古代遺跡を掘る4,1994年。
(*)(参考：近野十志夫編著『ポンペイ最後の日：世界の大事件』小峰書店,こどもノンフィクション7,1994年。)
(*)(参考：堀賀貴『古代ローマ都市,ポンペイに関する建築史的研究』堀賀貴,1994年。)
(*)(参考：浅香正「ポンペイ近郊における出土ウィラの一覧表とその研究課題」古代学研究所研究紀要4,1994年。)
(*)(参考：浅香正「カッツァネッロ(タルクイア)のローマ遺跡発掘調査(第二次)中間報告(東京大学文学部文化交流研究施設研究紀要10,1994年。)
(*)(参考：ステファニア・ペリング,ドミニク・ペリング/桐敷真次郎訳『復原透し図世界の遺跡』三省堂,1994年(→1995年,再版)。)
(*)(参考：池田裕「オリーブとテラ・ロサ—北シリアの遺跡調査に参加して」(青山学院大学基督教学会)基督教論集37,1994年。)
(*)Seven Seas『Greek traditional village,music and dance』World music library27,録音資料(音楽),1994年。
(*)(参考：佐々木達夫・岡田保良「報告：西アジア考古学の研究会,1994（金沢）--東方ヘレニズム~イスラーム」ラーフィダーン15,1994年。)
(*)(参考：藤井秀夫・坂本和子「ハトラ彫刻とアッタール染織品におけるヘレニズム意匠について」ラーフィダーン15,1994年。)
(*)(参考：長田年弘「古代ギリシアの戦闘図像—初期ヘレニズム美術に辿るその変遷」オリエント37(2),1994年。)
(*)竹山博英「大岡昇平とコルシカ(大岡昇平の世界)」ユリイカ26(11),1994年。
(*)(参考：澤柳大五郎「石の語る言葉」Spazio 49,1993年。)
(*)(参考：『地中海の歴史と謎：特集』歴史読本ワールド23,新人物往来社,1994年。)
(*)(参考：辻村純代「東地中海のローマン・ランプ」ラーフィダーン15,1994年。)
(*)(参考：脇田宗孝「古今東西やきものの旅(2)地中海の十字路シチリア島・カルタジローネ」日本美術工芸665,1994年。)
(*)(参考：J.プイグ・オリーベス,山中和樹「地中海文化圏の諸問題について：社会学的考察」

新潟産業大学人文学部紀要1(創刊号),1994年。)
(*)(参考：桜井信夫編・かみやしん絵『地中海の名詩』はじめてであう世界の名詩6,あすなろ書房,1994年。)
(*)(参考 : 沢田直「ラモン・リュイと地中海思想(地中海,特別企画)」現代思想22(7),1994年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(12)ダリュー伯爵の貴族政批判」人文研究121,1994年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(13)W.D.ハウエルの見た“喪中”のヴェネツィア」人文研究122,1994年。)
(*)(参考 : 鳥越輝昭『ヴェネツィアの光と影 : ヨーロッパ意識史のこころみ』大修館書店,1994年。)
(*)(参考：ヘンリー・H.ハート/幸田礼雅訳『ヴェネッツイアの冒険家—マルコ・ポーロ伝』新評論,1994年。)
(*)(参考：井上洋治『福音書を読む旅』日本放送出版協会,1994年(→1995年,NHKライブラリー19)。)
(*)(参考：小山宙丸「ヘレニズムとヘブライズムの融合 試論序説」早稲田大学大学院文学研究科研究紀要,哲学・史学篇40,1994年。)
(*)(参考 : 井上俊郎「イスタンブールのビザンチン—モザイクとトルコ西部の古代都市遺跡」鶴見大学紀要 第3部 保育・歯科衛生編31,1994年。)
(*)(参考：小山皓一郎「ヤヒヤ・ケマルの「イスタンブル論」について」北海道大学文学部紀要42(4),1994年。)
(*)(参考：大戸千之『ヘレニズムとオリエント：歴史のなかの文化変容』京都大学,博士(文学),乙第8462号,1994年。)
(*)汎亜細亜文化交流センター編『シルクロード西域文物展：江上波夫コレクション』汎亜細亜文化交流センター,1994年。)
(*)(参考：藤縄謙三『ギリシア文化と日本文化 神話・歴史・風土』平凡社,1994年。)
(*)井上章一『法隆寺への精神史』弘文堂,1994年。
(*)谷沢永一「「法隆寺への精神史」井上章一—練達のチチェローネが描く時代の鼓動」文學界48(4),1994年。
(*)(参考：下村寅太郎『ブルクハルト研究』みすず書房,1994年。)
(*)(参考：加藤静雄『ギリシア美術の「道」』ギリシア文明のあけぼの3,サンエイジング,三修社(発売),1994年。)
(*)(参考：加藤静雄『ギリシアとオリエントの「道」』ギリシア文明のあけぼの4,サンエイジング,三修社(発売),1994年。)
(*)(参考 : 下川弘・須田清隆・伊藤重剛「パルテノンが蘇るとき」可視化情報学会誌14(54),1994年。)
(*)(参考：水田徹研究代表『パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的研究』東京学芸大学,科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書,平成4-5年度,1994年。)
(*)(参考：マージョリ・ケイギル/田邊勝美・篠塚千恵子訳『大英博物館の至宝』ミュージアムトショ,1994 年。ほるぷ総連合・ほるぷ教育開発研究所,1994 年。)
(*)(参考：三神弘彦「レオナルドの初期浮彫《アレキサンダー》(上下)」藝叢：筑波大学芸術学研究誌 11,1994 年/2,2000 年。)

(*)(参考：金井直「柔らかい彫像：カトルメール・ド・カンシーによるノーヴァ,エルギン・マーブル評価をめぐって」(京都大学)研究紀要 15,1994 年。)
(*)(参考：小野坂麻子「大英博物館のなかのギリシア：エルギン・マーブルを考えるにあたって」新潟史学 33,1994 年。)
(*)(参考：デイヴィッド・M..ウィルソン/中尾太郎訳『大英博物館の舞台裏』平凡社,1994年。
(*)(参考：小島英照『ルーヴル：美と権力の物語』丸善ライブラリー111,1994年。
(*)『ミロ展：地中海に咲いた版画芸術：生誕100年記念』毎日新聞社,1994年。)
(*)(参考：Michiaki Koshikawa & Martha J.Mclintock“High renaissance in the Vatican：the age of Julius II and Leo X：Englishi text suppliment”Nippon Television Network,1994.)
(*)(参考：青柳正規「開かれた大学の象徴として—東京大学総合博物館構想(博物館の挑戦〈特集〉」科学朝日54(6),1994年。)
(*)勝又俊雄「ギリシアの大学で学ぼうとする人のために--アテネ大学からの要望」日本ギリシア協会会報67,1994年。
(*)三輪福松『美術のたのしみ：私の美の美』里文出版,1994年。
(*)(参考：木村重信・鐸木道剛責任編集『名画への旅1「美の誕生」』講談社,1994年。)
(*)(参考：木村重信・鐸木道剛責任編集『名画への旅2「光は東方より」』講談社,1994年。)
----勝又俊雄他「古代・中世美術における「母と子」の系譜」「三美神—ヘレニズム起源の美と優雅の女神,ポンペイ,デンタトゥス二の家」「リウィアの別荘の庭園画—田園へのあこがれ,ローマ,プリマ・ポルタ出土」「羊飼いとヨナの物語—誕生期のキリスト教美術—ローマ,サンディ・ピエトロ・エ・マルチェリーノのカタコンベ」「ウィーン創世記—古代絵画の名残をとどめる初期ビザンティン写本」
(*)(参考：『古代地中海美術館』古代地中海美術館,1994年。)
(*)(参考：中村二柄『東西美術史：交流と相反』岩崎美術社,1994年。)
(*)吉田千鶴子「〈資料紹介二〉森鴎外の西洋美術史講義：本保義太郎筆記ノート」五浦論叢：茨城大学五浦美術研究所紀要2,1994年。)
(*)(参考：西川幸治編『ラニガト：1983-1992ガンダーラ仏教遺跡の総合調査：京都大学学術調査隊調査報告書』京都大学学術出版会,1994年。)
(*)谷沢永一「雑書放蕩記(6)「家族,私有財産及び国家の起源」「古寺巡礼」」新潮91(9),1994年。
(*)海津忠雄「美術史家澤木四方吉の都市論」(三田哲學會)哲學96,1994年。
(*)戸田行賢「和辻哲郎「風土」形成期における空間性の問題をめぐる一考察--「草稿」における体験記,シュペングラー,ヘルダー,ハイデガーの取扱い方から見た」津山工業高等専門学校紀要33,1994年。
(*)(参考：若松繁信「マシュー・アーノルドのカルチャア観(上下)」北九州大学外国語学部紀要82,1994年。)
(*)(参考:中江彬「ミケランジェロ作〈最後の審判〉の主題と地獄について」美術史43(2),1994年。)
(*)(参考：松本典昭「16世紀フィレンツェにおけるパトロン・画家・構図助言者—パラッツォ・ヴェッキオの「レオ10世の区画」の場合(イタリア二おけるメチェ

ナティズモ,特集)」日伊文化研究32,1994年。)
(*)(参考：沼田裕之・川田殖編『東西比較は可能か：G.E.R.ロイドとの対話』ペディラヴィウム会,1994年。)
(*)(参考：西部邁「文明と成熟—西欧近代の裏街道を往く(5)ニーチェ—近代に突き刺さった棘」諸君26(8),1994年。)
(*)(参考：西部邁「文明と成熟—西欧近代の裏街道を往く(6)ブルクハルト—進歩への悲観」諸君26(9),1994年。)
(*)(参考：西部邁「文明と成熟—西欧近代の裏街道を往く(9)シュペングラー—文明という名の死」諸君26(12),1994年。)
(*)(参考：聖心女子大学キリスト教文科研究所編『東欧・ロシア：文明の回廊』春秋社,1994年。)
----吉澤五郎「ロシアとヨーロッパ：トインビーの比較文明論」
宮本久雄「ギリシア教父の遺産と現代：V.ロースキィを手がかりにして」
(*)(参考：杉浦恭「余暇文化研究の新しい視点と課題：日本におけるヨハン・ホイジンガ研究の検討をふまえて」教育学研究集録18,1994年。)
(*)(参考：聖心女子大学キリスト教文化研究所編『東欧・ロシア：文明の回廊』春秋社,1994年。)
(*)(参考：浦野起央他「文明と哲学—比較文明学と哲学の対話のこころみ」國學院雑誌95(1),1994年。)
(*) 日本独学史学会論集編集委員会『日独文化交流史研究：日独交流史の軌跡1994年号』日本医科大学ドイツ語教室,1994年。)
(*)三宅正樹「「日独文化人物交流史—ドイツ語事始め」宮永孝」日本歴史558,1994年。
(*)(参考：アン・ミラード,ラッセル・バーネット/山河さら訳『絵でみる古代世界地図』ピクチャーアトラスシリーズ,同朋舎出版,1994年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男・堀米庸三編『標準世界史地図』増補29版,吉川弘文館,1994年。)
(*)(参考：朝日新聞社編『世界史を読む事典』地域からの世界史20,朝日新聞社,1994年。)
(*)(参考：木下文夫『和羅小辞典』国際語学社,1994年。)
(*)(参考：荒井献監修『ギリシア語新約聖書釈義事典』教文館,1994年。)
(*)(参考：日外アソシエーツ編『8万人西洋人名よみ方綴り方辞典』日外アソシエーツ,紀伊国屋書店[発売],Electric Book：EBXA機械可読データファイル,1994年。)
(*)(参考：『学習人名辞典』成美堂出版,1994年。)
(*)(参考：遠藤祐他責任編集『世界日本キリスト教文学事典』教文館,1994年。)
(*)(参考：ジョン・ロナー/鏡リュウジ・宇佐和通訳『天使の事典：バビロニアから現代まで』柏書房,1994年。)
(*)(参考：『架空・伝説の人物ものしり事典』主婦と生活社, 主婦と生活・生活シリーズ262,1994年。)
(*)(参考：松田荘六『ホメーロス辞典』国書刊行会,1994年。)
(*)(参考：水之江有一編『ギリシア・ローマ神話図詳事典：天地創造からローマ建国まで』北星堂書店,1994年。)
(*)(参考：ダイアナ・バウダー編；豊田和二他訳『古代ギリシア人名事典』原書房,1994年。)
(*)(参考：ダイアナ・バウダー編；小田謙爾他訳『古代ローマ人名事典』原書房,1994年。)

(*)(参考：ミルチャ・エリアーデ&ヨアン・P.クリアーノ著/奥山倫明訳『エリアーデ世界宗教事典』せりか書房,1994年。)
(*)(参考：鷲田小彌太『現代思想がわかる事典：読みこなし使いこなし自由自在』日本実業出版社,1994年。)
(*)朝日新聞社編『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社,1994年。)
(*)竹内博編『日本洋学人名事典』柏書房,1994年。
(*)日本聖書協会『日本語聖書蔵書目録 1990年末現在』日本聖書協会図書館,1994年。
(*)法政大学図書館編『法政大学図書館所蔵・和辻哲郎文庫目録』法政大学図書館,1994年。
(*)酒田市立図書館・酒田市立光丘文庫編『大川周明旧蔵書目録：酒田市立光丘文庫所蔵』酒田市立図書館,1994年。
(*)川崎真治『日本語の語源』風涛社,1994年。
(*)近畿大学中央図書館「館蔵インキュナプラ目録(2)」香散見草 : 中央図書館報 21,1994年。
(*)川崎真治『世界最古の文字と日本の神々：全アジア共通の数詞トーテムによる解明』風涛社,1994年。
(*)(参考：井上章一『法隆寺への精神史』弘文堂,1994年。)
(*)谷沢永一「「法隆寺への精神史」井上章一―練達のチチェローネが描く時代の鼓動」文學界48(4),1994年。)
(*)(参考：金井直「柔らかい彫像：カトルメール・ド・カンシーによるノーヴァ、エルギン・マーブルズ評価をめぐって」研究紀要15,1994年。)
(*)(参考：小野坂麻子「大英博物館のなかのギリシア：エルギン・マーブルズを考えるにあたって」新潟史学33,1994年。)
(*)(参考：ルドルフ・ウィトコウアー/池上忠治訳『彫刻：その製作過程と原理』(ヴィンケルマン)中央公論美術出版,1994年。)
(*)(参考：海野弘『書斎の文化史：作家のいる風景』PHP研究所,1994年。)
(*)岩谷智「西洋古典学におけるコンピューター利用」西洋古典論集 11,1994 年。
(*)(参考：ジョルジョ・ジャン著/田辺希久子・矢島文夫訳『記号の歴史』創元社,1994年。)
(*)(参考：竹島俊之「古典ギリシャ語の統語論上および構文上の特性について」プロピレア6,1994 年。)
(*)(参考：水谷智洋「古典ギリシア語表記の変遷」学習院大学言語共同研究所紀要 17,1994年。)
(*)(参考：田中利光『新ギリシャ語入門』大修館書店,1994年。)
(*)(参考：伊藤太吾『ラテン語からスペイン語へ』大学書林,1994年。)
(*)(参考：新井皓士『近世ドイツ言語文化史論--「祖国」と「母語」が意識されゆくころ』近代文芸社,1994年。)
(*)(参考：平田達治研究代表『日本におけるドイツ言語文化受容に関する書誌的総合研究』平田達治,平成5年度文部省科学研究費補助金 総合研究(A)研究成果報告書,平成6年。)
(*)(参考：池端次郎編『西洋教育史：史料』教職科学講座3,福村出版,1994年。)
(*)(参考：川口二三世「明治初期の西洋法律書保翻訳--箕作麟祥訳『仏蘭西法律書』の訳語について」(中央図書出版)国語国文 63(12),1994 年。
(*)(参考：坂本勉「シンポジウム 文明語の比較社会史：漢文・オスマン語・中世ラテン語(1992 年度三田史学会大会)」史学 63(3),1994 年。)

(*)(参考：青山学院大学総合研究所人文学系研究センター編『外国文化の定着過程と言語』研究叢書 4, 青山学院大学総合研究所人文学系研究センター,1994 年。)
(*)(参考：アンタワーヌ・ベルマン/大西雅一郎他訳「翻訳の思弁的理論」(太田出版)批評空間12,1994年。)
(*)鈴木広光「上田万年とW.D.ホイットニー : 近代日本「国語」政策の基底」國語學176,1994年。
(*)花田俊典「稲富栄次郎の言語文化論の眺望」文学論輯39,1994年。
(*)「著作目録(佐藤伊久男)」東北大学史料館 513,1994 年。
(*)「木村直司教授略歴・著述目録」上智大学ドイツ文学論集 31,1994 年。
(*)馬場良二「ロドリゲスの「日本大文典」の成立--「ラテン語学」の与えた影響(1)」熊本女子大学学術紀要46,1994年。)
(*)(参考：陳凱莉譯『中日對照伊索[イソップ]寓言文法解析』建宏日語課外叢書,建宏出版社,1994年。)
(*)(参考：鈴木広光「漢訳聖書に於けるagapeの翻訳に就いて」名古屋大学文学部研究論集・文学40,1994年。)
(*)(参考：鈴木広光「コンテンツス・ムンヂの欧文原典」国語国文63(4),1994年。)
(*)(参考：ジョルジュ・デュピイ,ミシェル・ペロー共同監修/杉村和子・志賀亮一監訳『女の歴史』藤原書店,1994-2001年。)
(*)(参考：OKUDA Hachiro「西洋に於ける「虹」の文化史的義」奈良教育大学教育研究所紀要30,1994年。)
(*)(参考：パラオ・ジオベッティ/鏡リュウジ訳『天使伝説』柏書房,1994年。)
(*)(参考：山川広司「線文字B土地文書にみえる「神の奴隷(te-o-jo-e-ro/do-e-ra)」北海道教育大学紀要・第1部B,社会科学編45(1),1994年。)
(*)(参考：ヘンリエッタ・マッコール/青木薫訳『メソポタミア神話』丸善ブックス,丸善,1994年。)
(*)(参考：アポロドーロス/高津春繁訳『ギリシア神話』岩波文庫,岩波書店,1994年。)
(*)(参考：青木千佳子「前5世紀ギリシアの歴史家と神託」史林77(6),1994年。)
(*)(参考：鈴木威「「ファウスト」の実存—カール・ケレーニイ著「ディオニューソス—破壊されざる生に根源増」の書評をかねて」慶應義塾大学日吉紀要 ドイツ語学・文学18,1994年。)
(*)(参考：赤尾美秀「アポロンの超越—オットー,ケレーニイ,トーマス・マン」西南学院大学国際文化論集9(1),1994年。)
(*)(参考：棚次正和「解釈における創造と発見 : エリアーデとリクール」哲学・思想論集20,1994年。)
(*)(参考：國松萌美「ミルチャ・エリアーデにおける宗教と芸術の関り : 聖の弁証法を中心に」美學・藝術學10,1994年。)
(*)(参考：高橋明彦「アリアドネの名前—ニーチェ「ディオニュソス・ディテュランボス」第7歌の詩法(1)」上智大学ドイツ文学論集31,1994年。)
(*)(参考：ロンゴス/呉茂一訳「ダフニスとクロエ」(鶴見俊輔他編『新・ちくま文学の森1』所収,筑摩書房,1994年[→1999年,日本障害者リハビルテーション協会版]。)
(*)(参考：土屋博「直観と教説—F.マックス・ミュラーの教典論(教典・神話・物語,特集)」

宗教研究68(1),1994年。)
(*)(参考：大平章「『翼ある蛇』の神話的構造について」英文学70,1994年。)
(*)(参考：水野尚「生きた神話—ミッシェル・トゥルニエにおける神話概念について」神戸海星女子学院大学・短期大学研究紀要33,1994年。)
(*)(参考：梁川英俊「言語・科学・神話—ヴァレリーと論理実証主義」鹿児島大学文科報告,第3分冊 独語・独文学・仏語・仏文学篇29,1994年。)
(*)(参考：鈴木雅雄[解説]「神話の転生・転生の神話(いま,アンドレ・ブルトン,特集)—(「透明な巨人」の神話をめぐって)」現代詩手帖37(10),1994年。)
(*)(参考：板井孝一郎「民族宗教と新しい神話—ヘーゲル生命論と宗教」実践哲学研究17,1994年。)
(*)(参考：菅原潤「新しい神話とシェリング」東北哲学会年報10,1994年。)
(*)(参考：熊沢秀哉「リルケと神話(1)」ドイツ文学研究26,1994年。)
(*)(参考：原潔「生きられた神話：ハンス・カストルプの青い花」学苑653,1994年。)
(*)(参考：草野慶子「20世紀小説における神話の解体と再構成—ザミャーチンとカフカをとおして」比較文学年誌30,1994年。)
(*)(参考：チェイス洋子「T.S.エリオットの詩劇におけるディオニューソス神話(英文学科創立60周年記念論文集)」英米文学39(1),1994年。)
(*)(参考：上優二「『知られざる神』を読む：「日常の世界」から「神話の世界」へ」英語英文学研究19(2),1994年。)
(*)(参考：齋賀久子「『ハイピァリアン』：神話における時間と記憶」Kritikos12,1994年。)
(*)(参考：西原克政「樹木神話とエズラ・パウンド」関東学院大学人文科学研究所報18,1994年。)
(*)(参考：Corbin Henry/桂芳樹訳「人と守護天使—秘儀伝授説とイランのヘルメス主義(天使というメディア〈特集〉)現代思想22(12),1994年。)
(*)(参考：城江良和「ティタノマキア神話の起源」IBU四天王寺国際仏教大学紀要,文学部27,1994年。)
(*)(参考：阿刀田高『新トロイア物語』講談社,1994年(→1997年,講談社文庫版)。)
(*)(参考：赤江瀑『ポセイドン変幻』集英社文庫,集英社,1994年。)
(*)(参考：浜下昌宏「二体のアプロディテ(1,2)」女性学評論8,1994年/9,1995年。)
(*)(参考：清水伊津代「ブロンツィーノ『ヴィーナスとキューピッドの寓意』と三つの小説」香散美草：中央図書館報 22,1994 年。)
(*)杉山平一「戦後関西詩壇回想(19)ヴィーナス讃仰詩人庄野英二—佐藤春夫と庄野英二」現代詩手帖37(9),1994年。
(*)(参考：逸身喜一郎「女神と人間のあいだに生まれた子供たち(濱川祥枝教授退職記念号)」ヨーロッパ文化研究13,1994年。)
(*)(参考：Paulette Ghiron-Bistagne：avec la collaboration de Keiko Omoto et de Tomoo Tobari “Gigaku：dionysies noppones ou les avarars de Dionysos sur les routes de la soie” GITA,1994年。)
(*)(参考：藤森誠「プトレマイオス朝エジプトのサラピス崇拝創出を巡る論争史かP.M. Frazerを中心に」(東北大学)歴史83,1994年。)
(*)(参考：上村忠男『歴史家と母たち：カルロ・ギンズブルグ論』未来社,1994年(→2009年,ポイエーシス叢書22,NetLibrary。)

(*)(参考：神谷聡子「初代教会の賛美(4)ヘレニズムの影響に関する一考察とまとめ」礼拝・音楽研究会報13,1994年。)
(*)(参考：土岐健治「イエスと初期ユダヤ思想—黙示文学を中心として」(百瀬文晃編『イエス・キリストの再発見』所収,中央出版社,1994年。)
(*)(参考：土岐健治『初期ユダヤ教と聖書』日本基督教団出版局,1994年。)
(*)(参考：月本昭男著・横山匡写真『目で見る聖書の世界』日本基督教団出版局,1994年(→1995年,再版)。)
(*)(参考：高橋三郎『新約聖書の世界』教文館,1994年。)
(*)(参考：荒井献『トマスの福音書』講談社,1994年。)
(*)(参考：伊吹雄『ヨハネ福音書と新約思想』創文社,1994年。)
(*)(参考：土戸清『ヨハネ福音書研究--「人の子」句を含む記事単元の伝承批判的・編集史的研究』創文社,1994年。)
(*)(参考：M.ヘンゲル/新免貢訳『使徒行伝と原始キリスト教』聖書の研究シリーズ41,教文館,1994年。)
(*)(参考：土戸清『聖書のこころ：その理解24講』教文館,1994年。)
(*)(参考：蛭沼寿雄『新約本文のパピルス』(全 3 巻)大阪キリスト教書店,1994 年。)
(*)(参考：土岐健治「死海(クムラン)写本—発見と研究の経緯」(川島第二郎共同執筆『聖書の世界』所収,自由国民社,1994 年。)
(*)(参考：秋山学「ヨハネのアポクリュフォン(ナグ・ハマディ写本 II)」東京大学教養部紀要「比較文化研究」32,1994 年。)
(*)(参考：小川英雄「フランツ・キュモンのローマ帝国宗教論」松山大学論集 6(4),1994 年。
(*)(参考：E.P.サンダース/土岐健治・太田修司訳『パウロ』教文館,1994 年。)
(*)(参考：豊田浩志『キリスト教の興隆とローマ帝国』南窓社,キリスト教歴史双書 10,1994 年。)
(*)(参考：松本宣郎「煽動家としての司教たち—アタナシウスの場合」(松本宣郎編『支配における正義と不正』所収,南窓社,1994 年。)
(*)(参考：松本宣郎「ローマ皇帝とキリスト教徒」東北学院大学キリスト教研究所紀要 12,1994 年。)
(*)(参考：松本宣郎『ガリラヤからローマへ：地中海世界をかえたキリスト教』山川出版社,1994 年(→2017 年,講談社学術文庫版)。)
(*)(参考：みなもとごろう「ブリュンヒルデと聖母マリアの後裔たち(劇と家族〈特集〉)」テアトロ619,1994年。)
(*)(参考:足立広明「聖テクラ伝承の紀元と変容—古代末期キリスト教における女性の伝統」西洋史学173,1994年。)
(*)(参考：伊藤敏子「Ikonographie des Padagogischen：Zur Abstand-Bereitschsft in der Erzie-hungasvorstellung」奈良女子大学教育学科年報11,1994年。)
(*)(参考：柴田有「二世界論からキリスト教形而上学へ—ユスティノス『トリフォンとの対話』序文の思索」明治学院大学キリスト教研究所紀要27,1994年。)
(*)(参考：新井修『教皇264代の軌跡』フリープレス,星雲社(発売),1994年。)
(*)(参考:渡辺学「個体化過程と〈キリストのまねび〉」(上智大学人間学会)人間学紀要24,1994年。)
(*)(参考：グッドイナフ/野町啓・兼利琢也・田子多津子訳『アレクサンドリアのフィロン

入門』教文館,1994年。)
(*)(参考：野村真理『西欧とユダヤのはざま：近代ドイツ・ユダヤ人問題』一橋大学,博士(社会学),乙第131号,1994年。)
(*)(参考：横山安由美『中世アーサー王物語群におけるアリマタヤのヨセフ像の形成：聖杯と時間』東京大学,博士(文学),甲第10340号,1994年。)
(*)(参考：Inoue Yoji(trans.by Akamatsu Hisako)“The face of Jeaus in Japan”Kindai Bungeisha, 1994.)
(*)高木謙次編『回想黒崎幸吉・光子』新教出版社,1994年。)
(*)金致洪「神の否定の否定：金恩国の「殉教者」と遠藤周作の「沈黙」を中心として(第14 回桃山学院大学・啓明大学校国際学術セミナー)(学院創立 110 周年基記念号)」総合研究所紀要20(1),1994年。
(*)(参考：青江舜二郎『演劇の世界史』精選復刻紀伊国屋新書,紀伊国屋書店,1994年(→2006年,NetLibrary。)
(*)(参考：中村善也『ギリシア悲劇入門』岩波書店,同時代ライブラリー186,1994年。)
(*)(参考：M.J.スメサースト/木曽明子訳『アイスキュロスと世阿弥のドラマトゥルギー：ギリシア悲劇と能の比較研究』大阪大学出版会,1994年。)
(*)(参考：高橋宏幸「死の幻像セネカ『トロイアの女たち』第二合唱歌をめぐって」西洋古典論集11,1994年。)
(*)(参考：Paulette Ghiron Bistagne；avec la colaboration de Keiko Omoto et de Tomoo Tobari “Gigaku：dionysies nippones ou les avatars de Dionysos sur les routes de la soie”,GITA,1994.
(*)(参考：佐藤泰正編『文学における仮面』(ギリシア悲劇)笠間書院,笠間選書170,梅光女学院大学公開講座論集35,1994年。)
(*)(参考：小川正廣『ウェルギリウス研究—ローマ詩人の創造』京都大学学術出版会,1994年。)
(*)(参考：三石善吉「アルカディアの誕生：ウェルギリウス」筑波法政17,1994年。)
(*)(参考：ピエール・グリマル/高田康成訳『キケロ』文庫クセジュ,白水社,1994年。)
(*)(参考：茂手木元蔵『セネカ入門：セネカと私』東海大学出版会,1994年。)
(*)(参考：小林標「《メデアになる》《メデアである》：セネカにおけるメデア劇のメタモリフォーゼ」西洋古典論集 11(岡道男教授退官記念号),1994 年。)
(*)松岡正剛『花鳥風月の科学』淡交社,1994 年(→2004 年,中公文庫版。)
(*)B.M.ボダルト=ベイリー/中直一訳『ケンペルと徳川綱吉』中公新書,1994 年。
(*)麻原美子・北原保雄校注『舞の本』(百合若大臣)岩波書店,新日本文学大系 59,1994 年。
(*)(参考：森良文「蘭学成立の事情について：『西洋記聞』から『蘭学事始』まで(文化交流論講座研究会報告)」近代 76,1994 年。)
(*)山川偉也「西周『致知啓蒙』に見る西洋形式論理学の本邦への導入について(共同研究：ことばと理論[II])総合研究所紀要 19(3),1994 年。
(*)山本夏彦『私の岩波物語』文藝春秋社,1994 年(安倍能成。初出・「室内」1987/1~1993/4 月号→1997 年,文春文庫)
(*)海老澤有道著/海老澤ゼミナール編『ゑぴすとら』キリスト教史学会,1994 年。
(*)海老澤有道編著『スピリツアル修行』教文館,キリシタン文学双書,1994 年。
(*)フェデリコ・バルバロ編『聖福音書：合併版』キリスト教名著普及会,改訂新版,1994 年。

(*)江頭彦造編『受容と創造：比較文学の試み』(サントスの御作業)宝文館出版,1994 年。
(*)林田明「吉利支丹版「マノエルパレト手記」「サントスの御作業」のうち「サンタ・マリアの御作業」と芥川龍之介著「奉教人の死」の関係について」研究紀要 第 1 分冊,人文学部 5,1994 年。
(*)松岡洸司「サントスの御作業にみられる形態と内容」上智大学国文科紀要 11,1994 年。
(*)遠藤潤一「『サントスの御作業』と『黄金伝説』(1-7)」(跡見学園女子大学)国文学科報 22,1994 年/23,1995 年/25,1997 年/26,1998 年/29,2001 年/30,2002 年。
(*)林田明「吉利支丹版「マノエル・バレト手記」「サントスの御作業」のうち「サンタ・マリナの御作業」と芥川龍之介著「奉教人の死」の関係について」研究紀要・第一分冊・人文学部 5,1994 年。
(*)土岐健治「初期日本語訳聖書と中国語訳聖書」(川島第二郎共同執筆『聖書の世界』所収,自由国民社,1994 年。)
(*)土岐健治「聖書翻訳小史」(同上『聖書の世界』所収,自由国民社,1994 年。)
(*)小堀桂一郎編『東西の思想闘争』(ケンペル,ケーベル)中央公論社,叢書比較文学比較文化 4,1994 年。
(*)柴田南雄「私の好きな文庫本ベスト 5」(ケーベル)レテレール別冊,1994 年。
(*)島尻政長「ケーベル先生とハイデルベルク大学」・「Raphael von Koeber—その音楽活動とレパートリー」・「ケーベル先生文献(2)」ケーベル会誌 2,1994 年。
(*)久保勉「『思想』第 23 号・ケーベル先生追悼号(1923 年＝大正 12 年 8 月号)の格執筆者の略歴」ケーベル会誌 2,1994 年。
(*)小松美沙子「ヴォルガの風 : ケーベル「九つの歌」ロシア公演」ケーベル会誌 2,1994 年。
(*)瀬沼哲子「ケーベルとニコライ堂の人々」ケーベル会誌 2,1994 年。
(*)橋本昌弘「ケーベル先生と波多野精一」ケーベル会誌 2,1994 年。
(*)坂由理「ケーベル「9 つの歌」における和声法」ケーベル会誌 2,1994 年。
(*)中西隆紀「「アーネスト・サトウ公使日記」に見るケーベル交友記録」ケーベル会誌 2,1994 年。
(*)庭山勝昭「我が青春の日のケーベル先生」ケーベル会誌 2,1994 年。
(*)竹澤政樹「ラファーエル・フォン・ケーベルについて考える事」ケーベル会誌 2,1994 年。
(*)(参考：巽豊彦「〈随想〉ニューマン・岩下・吉満：復興への軌跡」ソフィア 43(1),1994 年。)
(*)杉田弘子「漱石の「猫」とニーチェ」武蔵大学人文学会雑誌 26(2),1994 年。
(*)海津忠雄「美術史家澤木四方吉の都市論」(慶應義塾大学)哲学 96,1994 年。
(*)有田和臣「初期小林秀雄の思想形成：ニーチェ「力への意志」と「宿命」」稿本近代文学 19,1994 年。)
(*)阪下圭八「〈特集随想〉林達夫先生のこと」日本文学誌要 50,1994 年。
(*)長沼光彦「谷崎潤一郎作品におけるプラトニズムとフェティシズム」新潟大学国語国文会誌 36,1994 年。)
(*)三浦和尚「中学校文学教材学習指導の方法--「走れメロス」の作品素材の取り扱いを中心に」愛媛国文と教育 26,1994 年。
(*)串田孫一『いのちを削る鉋』(エピクロス,オウィディウス等)春秋社,1994 年。
(*)立石祐二「先行方略による読みの活性化：「走れメロス」を「ドラゴンクエスト」で読む試み」国語国文研究と教育 30,1994 年。

(*)工藤美代子『寂しい声；西脇順三郎の生涯』筑摩書房,1994 年。
(*)西脇順三郎先生を偲ぶ会編『幻影の人西脇順三郎を語る』恒文社,1994 年。
(*)西脇順三郎『Ambarvalia：西脇順三郎詩集』復刻版,恒文社,1994 年。
(*)(参考：谷沢永一編『名言の智恵人生の智恵：古今東西の珠玉のことば』PHP 研究所,1994 年。)
(*)(参考：菅野カーリン著/中村朝子訳「ヨーロッパ・ヒューマニズム(〈特集〉西欧近代の精神)」ソフィア 43(1),1994 年。)
(*)左近司祥子「言葉を自由に」学習院大学言語共同研究所紀要 17,1994 年。
(*)(参考：牛田徳子「西洋哲学倫理学史(1)古代・中世哲学」哲学(別冊),1994 年。)
(*)(参考：柳沼重剛『ギリシア・ローマ古代知識人群像』岩波書店,1994 年。)
(*)(参考：左近司祥子『「本当に生きる」ために』学習教養新書 8,学習院総務部広報課,1994 年。)
(*)(参考：クラウス・ヘルト/小川侃訳『現象学の最前線：古代ギリシア哲学・政治・世界と文化』晃洋書房,1994 年。)
(*)(参考：後藤淳『ヘラクレイトスにおける「プシュケー」論への展開』広島大学,博士(文学),乙第 2576 号,1994 年。)
(*)(参考：イジドア・F.ストーン/永田康昭訳『ソクラテス裁判』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,1994 年。)
(*)(参考：T.C.ブリックハウス,N.D.スミス/米澤茂・三島輝雄訳『裁かれたソクラテス』東海大学出版会,1994 年。)
(*)(参考：北畠知量『ソクラテス研究—ギリシャ知の挑戦』高文堂出版社,1994 年。
(*)俊野文雄編『プラトンに学ぶ：田中美知太郎対話集』日本文芸社,1994 年。
(*)(参考：山本光雄『プラトン』新装版,勁草書房,1994 年。)
(*)(参考：関村誠『プラトン『国家』におけるミーメーシス：像の受容と創造の観点から』東京芸術大学,博士(美術),甲第 57 号,1994 年。)
(*)(参考：藤澤令夫「いま「哲学」のギリシア的内実を考える」西洋古典學研究 42,1994 年。)
(*)(参考：水崎博明『哲学・その古代的なるもの—プラトンとアリストテレスの若干の著作に関する一つの釈義的研究』九州大学出版会,1994 年。)
(*)(参考：丸橋裕「愛,知性及び自由(正)—ゲオルグ・ビヒトとともにプラトンの『法律』を読む」理想 654,199 年。)
(*)松平千秋「思い出すままに」(刊行委員会編『追悼 関本至』所収,渓水社,1994 年。)
(*)山野耕治「プラトンとわたし(学問と私)」Artes(宝塚造形芸術大学紀要)8,1994 年。
(*)(参考：友村(種山)恭子「プラトニズム再考(1)」現実の事態・事物との関係で)文経論叢,人文学科編 14,1994 年。)
(*)(参考：加藤信朗「『ピレボス』篇における道徳性の観念」聖心女子大学論叢 83,1994 年。)
(*)(参考：大出晁「アリストテレスにおける条件づき必然性」創価大学人文論集 6,1994 年。)
(*)(参考：篠澤和久「「ゼノンの逆理」とアリストテレス」哲学 44,1994 年。)
(*)清水哲雄「献辞(水地宗明教授退官記念論集)」彦根論叢 287/288,1994 年。
(*)「水地宗明教授略歴及び著作目録(水地宗明教授退官記念論集)」彦根論叢 287/288,1994 年。
(*)「松永雄二教授略歴・業績目録」哲学年報 53,1994 年。
(*)(参考：戸高和弘『アリストテレス「詩学」：その批判的考察』大阪大学,博士(文学),甲第

5115 号,1994 年。)
(*)(参考 : 中才敏郎『心と知識』(アリストテレス)大阪市立大学,博士(文学),乙第 1660 号,1994 年。)
(*)(参考 : 桑子敏雄『エネルゲイア : アリストテレス哲学の創造』東京大学,博士(文学),乙第 11986 号,1994 年。)
(*)(参考 : アリストテレス著/岩崎勉訳『形而上学』講談社学術文庫,講談社,1994 年。)
(*)(参考 : 角田幸彦『アリストテレスにおける神と理性』東信堂,1994 年。)
(*)(参考 : 田子多津子「〈論文〉ディオニュソスの鏡—プロティノスにおける魂の降下と質料のかかわりをめぐって」倫理学年報 43,1994 年。)
(*)(参考 : 左近司祥子「プロティノス哲学における美の役割」(学習院大学)研究年報 41,1994 年。)
(*)(参考 : E.R.グッドナイフ/野町啓・田子多津子・兼利琢也訳『アレクサンドリアのフィロン入門』教文館,1994 年。)
(*)(参考 : ピエール・グリマル/高田康成訳『キケロ』文庫クセジュ,白水社,1994 年。)
(*)(参考 : 岡崎文明「プロクロス,『原因論』,トマス・アクイナスにおける新プラトン主義の基本的体系」中世哲学研究 : Veritas 13,1994 年。)
(*)(参考 : アンリ・I.マロー/長戸路信行訳『聖アウグスティヌス—霊性の大家 思想と生涯』中央出版社,1994 年。)
(*)(参考 : 谷隆一郎『アウグスティヌスの哲学--「神の似像」の探究』創文社,1994 年。)
(*)(参考 : 山田晶『アウグスティヌス講話』教文館,1994 年。)
(*)加藤信朗「「中世における知と超越—思索の原点をたずねて(稲垣良典教授の退官を記念して)」リーゼンフーバー,山本耕平,谷隆一郎,荒井洋一編」中世思想研究 36,1994 年。
(*)(参考 : 高柳俊一「ニューマンの学問論とアウグスティヌスのキリスト教的学問論」英文学と英語学 31,1994 年。)
(*)(参考 : 豊福淳一『キルケゴールの実存思想 : ヘーゲルと対比しつつ』(ソクラテス)関西学院大学,博士(神学),乙第 187 号,1994 年。)
(*)(参考 : 中務哲郎『古代説話研究』京都大学,博士(文学),乙第 8461 号,1994 年。)
(*)西堂行人「「ギリシャ悲劇—古代と現代のはざまで」山形治江」演劇学 35,1994 年。)
(*)(参考 : 秋山学「アレクサンドリアのクレメンスにおける古典学の受容--『アデュッセイア』の解釈に向けて」東京大学教養部教養学科紀要 26,1994 年。)
(*)(参考 : 秋山学「アレクサンドリアのクレメンスにおけるホメロス理解の変容--『イリアス』の解釈に向けて」東京大学教養部外国語科研究紀要 41,1994 年。)
(*)(参考 : 水野有庸『古典ラテン詩の精—本邦からのラテン語叙情詩—Anima Odarum Classicarum –Carmina Lyrica, edita ex Iaponia』近代文藝社,1994 年。)
(*)(参考 : Cretebsis Dictyso 著/水谷智洋訳『トロイア戦記』第 3 巻第 16 章~第 27 章—ルーキウス・セプティミウスのラテン訳より」(東京大学教養学部外国語科)外国語科研究紀要 42(6),1994 年。)
(*)(参考 : 高橋宏幸「死の幻像セネカ『トロイアの女たち』第二合唱歌をめぐって」西洋古典論集 11,1994 年。)
(*)松本仁助「若い頃の岡道男さん」京都大学西洋古典研究会「西洋古典論集」11(岡道男教授退官記念号),1994 年。

(*)小川正廣「岡[道男]先生とラテン文学」京都大学西洋古典研究会「西洋古典論集」11,(同記念号),1994 年。
(*)(参考：徳橋曜「イタリア中世・近世史を研究する上で」クリオ=Clio 8,1994年。)
(*)(参考：谷口勇「『バラの名前』の原型としての『アラーの眼』」立正大学文学部研究紀要 10,1994 年。)
(*)(参考：ウンベルト・エコ/谷口勇訳『「バラの名前」覚書』而立書房 1994 年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男・堀米庸三編『標準世界史地図』増補 29 版,吉川弘文館,1994 年。)
(*)(参考：櫻井悠美「英雄の陣屋の中の女たち」(新潟大学)現代社会文化研究 1,1994 年。)
(*)(参考：Berlioz『Les Troyens』録音資料,London,ポリドール株式会社(発売),1994 年。)
(*)(参考:豊田和二「古代ギリシア人のヘウレマター—ヘロドトスからペリパトス学派まで」社會科學討究 40(1),1994 年。)
(*)(参考：大戸千之「プリュビオス・アリストテレス・トゥキュディデス—歴史学と文学のあいだ」立命館文學 534,1994 年。)
(*)(参考：田中博明「事実と教訓：トゥキューディデース第 7 巻 29-30 章について」西洋古典論集 11,1994 年。)
(*)(参考：大戸千之『ヘレニズムとオリエント：歴史のなかの文化変容』京都大学,博士(文学),乙第 8462 号,1994 年。)
(*)金澤良樹「大戸千之著『ヘレニズムとオリエント：歴史のなかの文化変容』」史学雑誌 103(9),1994 年。
(*)春田晴郎「ヘレニズムとオリエント—歴史のなかの文化変容」大戸千之」史林 77(4),1994 年。
(*)(参考：Tachinaba Takashi「『後期ビザンツ版アレクサンドロス物語』における空間表現の統語構造」ΠΡΟΠΥΛΑΙΑ6,1994 年。)
(*)(参考：田中穂積「ヘレニズム概念と古代史家(1)」人文論究 43(4),1994 年。)
(*)(参考：本村凌二『ローマ世界における嬰児遺棄と奴隷制』東京大学,博士(文学),乙第 11662 号,1994 年。)
(*)(参考：塩野七生『勝者の混迷』ローマ人の物語 3,新潮社,1994 年。)
(*)(参考：Keith Hopkins/永都軍三・高木正朗訳「古代ローマ人と剣闘士--「死と再生」第 1 章 1,2」立命館産業社会論集 82,1994 年。)
(*)(参考：小山雅子「『ジュリアス・シーザー』：実像と虚像(一般教養)」関西鍼灸短期大学年報 9,1994 年。)
(*)(参考：ジョゼフ・L.マンキーウィッツ監督脚本/ウォルター・ウェンジャー制作『クレオパトラ』Foxvideo,パイオニア(発売),1994 年。)
(*)(参考：アズディンヌ・ベシャウシュ.藤崎京子訳『カルタゴの興亡：甦る地中海国家』「知の再発見」双書 41,創元社,1994 年。)
(*)(参考:佐藤育子「カルタゴにおける幼児犠牲:その現状と課題をめぐって」史艸 35,1994 年。)
(*)(参考：石田憲『地中海新ローマ帝国への道：ファシスト・イタリアの対外政策 1935-39』東京大学出版会,1994 年。)
(*)(参考：飯沼二郎『詳説世界史研究』飯沼二郎著作集 1,未来社,1994 年。)
(*)(参考：フレデリック・ドルーシェ総合編集；花上克己訳『ヨーロッパの歴史：欧州共通

教科書』東京書籍,1994 年。)
(*)(参考：毛利晶「紀元前 64 年の元老院決議とコンピターリアの担い手たち」史學雑誌 103(3),1994 年。)
(*)(参考：北村暁夫「ヨーロッパ：近代南欧(1993 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 103(5),1994 年。)
(*)(参考：高山博「ヨーロッパ：中世西欧(1993 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 103(5),1994 年。)
(*)(参考：伊藤正「ヨーロッパ：古代：ギリシヤ(1993 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 103(5),1994 年。)
(*)(参考：栗田伸子「ヨーロッパ：古代：ローマ(1993 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 103(5),1994 年。)
(*)(参考：池田裕「西アジア・北アフリカ：古代オリエント(1993 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 103(5),1994 年。)
(*)目崎徳衛「「古典古代游記」[村川堅太郎]読後(歴史手帖)」日本歴史 552,1994 年。)
(*)(参考：岡崎勝世「ドイツ啓蒙主義歴史学研究(1-4)Johann Christoph Gatterer とエジプト史の問題」埼玉大学紀要 30,1994 年。)
(*)(参考：エドワード・ギボン著/中野好之訳『ギボン自伝』筑摩書房,1994 年。)
(*)松本宣郎「佐藤伊久男教授の業績と学風」文化 57(3・4),1994 年。
(*)麻原美子・北原保雄校注『舞の本』(「百合若大臣」)新日本古典文学大系 59,岩波書店,1994 年。
(*)渡邉朋之「甲賀三郎・全書誌的研究」龍谷大学大学院研究紀要,人文科学 15,1994 年。
(*)バーバラ・ベイダー文,アーサー・ガイサート絵、いずみちほこ訳『イソップ寓話集：19 のおはなしとイソップにまつわる伝説と歴史』セーラー出版,1994 年。
(*)やすいすえこぶん『世界のお話：アンデルセン・イソップ童話他』フレーベル館,1994 年。
(*)北川幸比呂・鬼塚りつ子・木村由利子『こどものための世界の名作：グリム・イソップ・アンデルセン ベスト 30 話』別冊家庭画報,世界文化社,1994 年。
(*)桑原三郎・千葉俊二編『日本児童文学名作集(上下)』(上,「イソップ物語抄」)岩波文庫,岩波書店,1994 年。
(*)小瀧晴子「イソップ寓話の伝来と変容：その III「ESOPO NO FABVLAS」に見える倫理観・「恥」について」茨女国文 6,1994 年。
(*)藤田米春・西島恵介・杉田雅宏「感情における論理」(イソップ)情報処理学会研究報告・人文科学とコンピュータ研究会報告 94(14),1994 年。
(*)木坂基『明治以降『伊蘇普物語』諸本の文章史的研究』広島大学 1994 年,(科研費)1994 年。
(*)河鍋暁斎画/芳賀徹編集『河鍋暁斎画集』限定版,六輝社,1994 年。
(*)河鍋暁斎記念美術館・東京江戸博物館編『河鍋暁斎』河鍋暁斎記念美術館,1994 年。
(*)大野七三『河鍋暁斎：逸話と生涯』日本図書刊行会,近代文藝社(発売),1994 年。
(*)(参考：『関口存男著作集 翻訳・創作篇 10』(ラ・フォンテーヌの寓話等)関口存男生誕 100 周年記念著作集 複製,1994 年。)
(*)(参考：笹谷満『懐疑・言語・真理：ヘレニズム時代の哲学』理想社,1994 年。)
(*)笹谷満他・笹谷満教授遺稿集刊行委員会編『北風神(ボレアス)の如く：笹谷満教授遺稿

追悼文集』笹谷満教授遺稿集刊行委員会,1994 年。
(*)(参考：高橋順一「アーサー・ラヴジョイ--〈ヨーロッパ〉経験の変容（世紀末の異端の思想家たち〈特集〉—(ネオ・プラトニズム)」現代思想 22(2),1994 年。)
(*)(参考：永嶋哲也「アベラルドゥスにおけるいわゆる「プラトニズム」について（世紀末の異端の思想家たち〈特集〉—(ネオ・プラトニズム)」現代思想 22(2),1994 年。)
(*)(参考 : 岩下壮一著/稲垣良典校訂『カトリックの信仰』講談社,講談社学術文庫,1994 年。)
(*)(参考：山田晶「キリスト教的救済について：シンポジウムに寄せて(中世における神秘思想〈シンポジム〉)」中世思想研究 36,1994 年.）
(*)森啓「高田三郎先生とトマス・アクイナス『神学大全』」茨城大学教養部紀要 27,1994 年。
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編訳・監修『後期ギリシア教父・ビザンティン思想』平凡社,中世思想原典集成 3,1994 年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編訳・監修『中世末期の言語・自然観』平凡社,中世思想原典集成 19,1994 年。)
(*)(参考：ハンス・リーベシュッツ/柴田平三郎訳『ソールズベリのジョン：中世人文主義の世界』ヴァールブルクコレクション,平凡社,1994 年。)
(*)(参考：D.P.ウォーカー/榎本武文訳『古代神学—15-18 世紀のキリスト教新プラトン主義研究』ヴァールブルクコレクション,平凡社,1994 年。)
(*)(参考：村松真理子「中世における「三つの指輪」の寓話,変容の系譜：Novellino 第 73 話を中心に」イタリア学会誌 44,1994 年。)
(*)(参考：芳賀重徳[訳解説]「中世ラテン語版ナポリの主席司祭レオ訳「アレクサンドル大王の出世と武勲」」秋田経済法科大学経済学部紀要 19,1994 年。)
(*)(参考：嘉吉純夫・齋藤隆編『西洋思想の要諦周覧』北樹出版,1994 年。)
(*)(参考：清瀬卓「冥界の報告：測地学者ダンテ Dante geodeta 研究史(その 1)ガリレイの場合」京都外国語大学研究論叢 42,1994 年。
(*)(参考：清瀬卓「我らがグヮリーヌス Guarinus noster—初期ルネサンスの人文主義 Umanesimo とパイデイア—L.カルボーネのグヮリーノ追悼演説を中心として」京都外国語大学研究論叢 43,1994 年。)
(*)(参考：清水純一著/近藤恒一編『ルネサンス：人と思想』平凡社,1994 年。)
(*)(参考：石坂尚武『ルネサンス・ヒューマニズムの研究--「市民的人文主義」の歴史理論への疑問と考察』[(エピクロス)同志社大学,博士(文化史学),乙第 116 号,1994 年。]晃洋書房,1994 年。)
(*)(参考：新佐智子「ヴィーコの『新しい学』と美学」成城美学美術史 2,1994 年。)
(*)(参考：浦一郎『ダンテ研究 1—Vita nuova,構造と引用』東信堂,1994 年。)
(*)(参考：平川祐弘『中世の四季—ダンテとその周辺』新装版,河出書房新社,1994 年。)
(*)(参考：清水純一著・近藤恒一編『ルネサンス 人と思想』平凡社,1994 年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ブルクハルトの〈ルネサンス=近代〉観の妥当性--『イタリア・ルネサンスの文化』再読」神奈川大学言語研究 17,1994 年。)
(*)(参考：佐藤三夫『ルネサンスの知の饗宴：ヒューマニズムとプラトン主義』東信堂(ルネサンス叢書 1),1994 年。)

(*)(参考：富樫扇一「イタリア文学論(6)1600 年代とアルカーディア文学」作陽音楽大学・作陽短期大学研究紀要 27(2),1994 年。)
(*)(参考：近藤恒一「旅の詩人ペトラルカと芭蕉：比較文化論の試み」東京学芸大学紀要・第 2 部門・人文科学 45,1994 年。)
(*)(参考：阿部史郎「ペトラルカと 15 世紀イタリア、フランスにおける死の諸相」佛教大学綜合研究所紀要 1,1994 年。)
(*)(参考：林和宏「時間の詩人のペトラルカ」東京外国語大学論集 48,1994 年。)
(*)(参考：アンリ・オヴェット/大久保昭男訳『評伝ボッカチョ：中世と近代の葛藤』新評論,1994 年。)
(*)(参考：D.エラスムス/中城進訳『エラスムス教育論』二瓶社,1994 年。)
(*)(参考：J.マッコニカ/高柳俊一・河口英治訳『エラスムス』コンパクト評伝シリーズ 7 教文館,1994 年。)
(*)(参考：水戸博之「エラスムスとスペインのエラスミスモ：予備的考察」言語文化論集 16(1),1994 年。)
(*)(参考：トマス・モア/平井正穂訳『ユートピア』ワイド版岩波文庫,岩波書店,1994 年。)
(*)(参考：荻野アンナ『ラブレー出帆』Image collection 精神史発掘,岩波書店,1994 年。)
(*)(参考：ミシェル・ラゴン/榊原晃三訳『ロマン・ド・ラブレー』人文書院,1994 年。)
(*)(参考：堀田義衛『精神の祝祭(ミシェル城館の人3)』集英社,1994年(→2004年,改題『精神の祝祭』,集英社文庫「ミシェル城館の人」第3部。)
(*)(参考：原二郎『モンテーニュー『エセー』の魅力』岩波新書評伝選,岩波書店,1994 年。)
(*)(参考：徳永雅「モンテーニュにおける〈vertu〉実践の問題：エピクロス的「快楽」との異同をめぐって」Gallia34,1994 年。)
(*)(参考：関口存男作；関口存男翻訳・翻案『素人演劇の実際,ラ・フォンテーヌの寓話,首相の親友』関口存男著作集 19,生誕 100 周年記念,三修社,1994 年。)
(*)(参考：中川久定『啓蒙の世紀の光のもとで：ディドロと『百科全書』』岩波書店,1994 年。)
(*)(参考：岩崎允胤「夢のなかでの対話—ヴァレリーとプラトン」大阪経済法科大学論集 57,1994 年。)
(*)(参考：Valera Eduardo J.Perez「内面性の世界を探る戦略—サルトル,アウグスティヌス,ロナーガン」(上智大学哲学科)哲学科紀要 20,1994 年。)
(*)(参考：児玉昭人研究代表『ドイツ近代における「古典古代」の理念の生成とその相対化の過程』児玉昭人,1994 年。)
(*)(参考：新田孝彦『カントと自由の問題』北海道大学,博士(文学),乙第 4593 号,1994 年。)
(*)(参考：佐藤淳二『表象と共同体：ルソー『ダランベールへの手紙』における「公的領域」と「私的領域」の構造』東京大学,博士(文学),甲第 19828 号,1994 年。)
(*)(参考：田中穂積「ヘレニズム概念と古代史家(1)」人文論究 43(4),1994 年。)
(*)(参考：前田禮子『白鯨：そのヘレニズムとキリスト教思想』大阪教育図書,1994 年。)
(*)(参考：K.レーヴィット/西尾幹二・瀧内槇男訳『ヤーコプ・ブルクハルト』ちくま学芸文庫,1994 年。)
(*)(参考：塩見知之「チョーサーの「トロイラス」の口絵」大正大學研究紀要,人間學部・文學部 79,1994 年。)
(*)(参考：加藤克彦「「トロイラスとクレシダ」：愛の混迷,訣別の詩」熊本大学英語英文

学 37,1994 年。)
(*)(参考：青木由美子「『トロイラスとクレシダ』にみる「不変なるもの」と「感覚」(英文学科創立 60 周年記念論文集)」(関西学院大学)英米文学 39(1),1994 年。)
(*)(参考：山口和世『シェイクスピア『その崩壊する世界』：『トロイラスとクレシダ』『終わりよければすべてよし』『以尺報尺』試論』泉屋書店,1994 年。)
(*)(参考：フランソワ・ラロック/高野優訳『シェイクスピアの世界』創元社,1994 年。)
(*)(参考：池上賀英子「『ソネット集』を序章とするシェイクスピアの審美への変節：(2)双生のヴィーナスの意味をめぐって」駒澤女子短期大学紀要 27,1994 年。)
(*)(参考：日本シェイクスピア協会編『シェイクスピアの歴史劇』研究社出版,1994 年。)
(*)(参考：エドワード・ダウデン/宮本和恵・宮本正和訳『シェイクスピア—精神と芸術の批評的研究』こぴあん書房,1994 年。)
(*)(参考：高橋康也編『シェイクスピア・ハンドブック』新書館,1994 年。)
(*)(参考：山田由美子研究代表『ベン・ジョンソン再評価：ヒューマニズム芸術の復権に向けて』山田由美子,1994 年。)
(*)(参考：山田由美子『ベン・ジョンソンとセルバンテス：騎士道物語と人文主義文学』(新アリストテレス主義)大阪市立大学,博士(文学),乙第 1640 号,1994 年。)
(*)(参考：室田五郎『神の高き主題—ミルトンの乗りこえたもの』近代文芸社,1994 年。)
(*)(参考：松田実矩「ミルトンのオルペウスへの言及解説：ウェルギリウス「農耕詩」4 巻,オウィウディウス「変身物語」10,11 巻きを主たる典拠にして(上下)」大阪学院大学外国語論集 30,1994 年/31,1995 年。)
(*)(参考：小林龍一「『ヘラス』における自由の精神について：シェリー研究(12)」大阪経大論集 44(5),1994 年。)
(*)(参考：奥田喜八郎「聖書を踏まえた英詩解釈(3)—P.B.Shelly」教育実践研究指導センター研究紀要 3,1994 年。)
(*)(参考：上村仁司「〈論説〉ウォルター・ペイターの「透明性」と「ヴィンケルマン」について」立正大学文学部論叢 100,1994 年。)
(*)(参考：中村美枝子「W.ペイター『エピキュリアンのマリウス』におけるマルクス・アウレリウス像(1,2)」作新学院女子短期大学紀要 18,1994 年/19,1995 年。)
(*)(参考：都築佑吉「日本におけるウォルター・ペイターの受容(ウォルター・ペイター 特集)」英語青年 140(9),1994 年。)
(*)(参考：チェイス洋子「T.S.エリオットの詩劇におけるディオニューソズ神話(英文科創立 60 周年記念論文集)」(関西学院大学)英米文学 39(1),1994 年。)
(*)(参考：津上英輔「ヴィンチェンツォ・ガリレーイと古代楽譜断片：西洋音楽における古典の伝統の一断面」美學 45(1),1994 年。)
(*)田中仁彦「〈書評〉「ドイツ精神の探究—ゲーテ研究の精神史的文脈」木村直司--ドイツ精神のヤヌスの顔」ソフィア 42(4),1994 年。)
(*)波田節夫「「ドイツ精神の探究—ゲーテ研究の精神史的文脈」木村直司」(日本独文学会)ドイツ文學 92,1994 年。
(*)(参考：眞岩啓子「ゲーテ時代における 2 つの古典主義的芸術観：ゲーテと A.ヒルトの「ラオコーン論」」上智大学ドイツ文学論集 31,1994 年。)
(*)(参考：高橋明彦「アリアドネの名前：ニーチェ『ディオニュソス—ディテュランボス』

第七歌の詩法 1」上智大学ドイツ文学論集 31,1994 年。)
(*)(参考：中村典夫「ギリシア美術と現代(2)ヴィンケルマンとラオコオン群像」芸術研究報 15,1994 年。)
(*)(参考：栗花落 和彦「ゲーテにおける宗教と芸術：プラトンの初期対話編『イオン』を巡って」島根医科大学紀要 17,1994 年。)
(*)(参考：青木敦子「虚構と崇高 シラーにおける方法としての「理想主義」」ドイツ文学 92,1994 年。)
(*)(参考：内藤克彦『シラー』清水書院,1994 年。)
(*)(参考：海津忠雄「ヴェルフリンの『古典美術』とブルクハルト」美學 44(4),1994 年。)
(*)(参考：山口誠一「ヘーゲルと観想の幸福」哲学雑誌 781(109),1994 年。)
(*)(参考：海津忠雄「ヤーコプ・ブルクハルト『造型芸術の美学』(Jacob Burckhardt,Aethetik der bildenden kunst,der Text der Vorlesung,Wissenschaftliche Buchgesell schaft,1992」美學 45(2),1994 年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ブルクハルトの〈ルネサンス=近代〉観の妥当性：『イタリア・ルネサンスの文化』再読」神奈川大学言語研究 17,1994 年。)
(*)(参考：増田義男「若きブルクハルトの歴史小説」東京医科歯科大学教養部研究紀要 24,1994 年。)
(*)(参考：下村寅太郎『ブルクハルト研究』下村寅太郎著作集 9,みすず書房,1994 年。)
(*)(参考：カール・レーヴィット/西尾幹二・瀧内槇雄訳『ヤーコプ・ブルクハルト』ちくま学芸文庫,筑摩書房,1994 年。)
(*)(参考：近藤壽良「研究ノート ホイジンガとピレンヌ 一つの交友:ヨハン・ホイジンガ「書簡集」より」高岡法科大学紀要 5,1994 年。)
(*)(参考：ゲオルグ・ジンメル/吉村博次訳『ショーペンハウエアーとニーチェ』白水社,1994 年(→1975 年,ジンメル著作集 5。→1994 年,新装版著作集 5。→2001 年,新装復刊。→2004 年,新装復刊著作集 5)。)
(*)(参考：小野寺郷「テオグニスとニイチェ」(筑波大学哲学・思想学会)哲学・思想論集 132,1994 年。)
(*)(参考：マシュー・ハンリー「ニーチェ『悲劇の誕生』[英文]」言語文化部紀要 251994 年。)
(*)(参考：平木幸二郎「ニーチェの運命愛について(1,2)」信州大学教養部紀要 28,1994 年/29,1995 年。)
(*)(参考：石井慎一郎「ニーチェ,学問そして道徳」外国語教育論集 16,1994 年。)
(*)(参考：山上賢一「ニーチェの思想：ニヒリズムの克服と価値創出面からの考察」龍谷大学社会学論集 14,1994 年。)
(*)(参考：宮内寿子「ニーチェにおける相対主義的言説」人間文化研究年報 18,1994 年。)
(*)中村憲治「ニーチェから日蓮へ：樗牛の場合(前篇)」文学部紀要 8,1994 年。)
(*)有田和臣「初期小林秀雄の思想形成：ニーチェ「力への意志」と「宿命」」稿本近代文学 19,1994 年。)
(*)(参考：有馬知江実「人間形成論的天才論の必要性とその試み：F.W.ニーチェの天才観をよりどころに」日本女子大学紀要 人間社会学部 5,1994 年。)
(*)(参考：阪本恭子「F.ニーチェの教育観--〈Zucht〉の概念を手掛かりにして」待兼山論叢 28(哲学),1994 年。)

(*)(参考：松尾博史「ゲオルゲ・クライスとニーチェ」(木村直史教授還暦記念号))上智大学ドイツ文学論集 31,1994 年。)
(*)(参考：辻本勝好「中期ニーチェの言語観(1)—憶測上の科学としての言語」武蔵大学人文学会雑誌 26(2),1994 年。)
(*)(参考：手川誠士郎「M.ハイデガーの存在論—後期思想への道,ニーチェ講義」立正大学人文科学研究所年報 31,1994 年。)
(*)(参考：中川秀恭「神の死—ハイデッガーのニーチェ解釈をめぐって(第 52 回[日本宗教学会]学術大会紀要特集)」宗教研究 67(4),1994 年。)
(*)(参考：岩田靖夫「内在と超越—ハイデガーの「無」とソクラテスの「ダイモニオン」（シンポジウム 中世における神秘思想[提題]）」中世思想研究 36,1994 年。)
(*)(参考：矢羽々崇「ヘルダーリン受容をめぐる3つのテーゼ」獨協大学ドイツ学研究 32,1994 年。)
(*)(参考：高橋克己「Hallers“Über den Ursprung des Übels”—Unterwegs zu Hölderlins“seelingem Griechenland”und “dürftiger Zeit”：ハラー『悪の根源について』--ヘルダーリンの「至福なるギリシア」への途上」人文科学研究 2,1994 年。)
(*)(参考：四日谷敬子「悲劇と詩：ヘルダーリンのソポクレス翻訳への註解における悲劇論」ドイツ文学研究 39,1994 年。)
(*)(参考：竹部琳昌『ヘルダーリンと古代ギリシア』近代文藝社,1994 年。)
(*)(参考：ベーダ・アレマン/小磯仁訳『詩的なる精神：ヘルダーリン』国文社,1994 年。)
(*)(参考：矢羽々崇『詩作の個人性と社会性：ヘルダーリーンの「追想」』上智大学,博士(文学),甲第 151 号,1994 年。)
(*)(参考：　縄田雄二『生成しつつ滅びゆく近代：フリーリヒ・ヘルダーリーン二おける詩の言表構造分析』東京大学,博士(文学),甲第10304号,1994年.　)
(*)(参考：畠中美菜子「重なり合うぶなの梢と波の音：ホフマンスタールの作品に見るヴェネツィア」国際文化研究科論集 2,1994 年。)
(*)(参考：三宅新三「ホーフマンスタールと古代(6)「ナクソク島のアリアドネ」の成立をめぐって」岡山大学教養部紀要 34,1994 年。)
(*)(参考：道簇泰三「髑髏としての太古の夢：ベンヤミンの「原史(ウアゲシヒテ)」について」京都大学総合人間学部紀要 1,1994 年。)
(*)(参考：ゲルハルト・P・ナップ/滝沢正樹他訳『評伝：エーリッヒ・フロム』(ヴィラモーヴィッツ)新評論,1994 年。)
(*)(参考：中谷彰他著『ドイツ言語文化と社会：作家・思想家たちの軌跡』北樹出版,1994 年。)
(*)(参考：藤田一美「〈象徴主義〉における心理的現実と典型：十字架上の人対ディオニュソス」研究 12,1994 年。)
(*)(参考：G.E.ロイド/金山弥平・金山万里子訳「ギリシアの哲学と科学が古代近東から受け継いだもの」(沼田裕之・川田殖編『東西比較は可能か—G.E.R.ロイドとの会話』ペディラヴィウム会,1994 年。)
(*)(参考：大津忠彦・藤本真由美編『古代中近東の食の歴史をめぐって』中近東文化センター,1994 年。)
(*)(参考：ベルナール・ジャコト/小林淳夫訳『オリーブの木：地中海からの美と健康の贈り物』河出書房新社,1994 年。)

(*)甲賀三郎『緑色の犯罪』(「羅馬の酒器」)探偵クラブ,国書刊行会,1994 年。
(*)(参考：吉田綱市『オーダーの謎と遺産：西洋建築史サブノート』彰国社,1994 年。)
(*)(参考：光吉健次『遺産と創造：もう一つの西洋建築史』海鳥社,1994 年。)
(*)(参考:山本晴樹「ローマの水道橋:ガールの水道橋を中心に」(別府大学)史学論叢 24,1994 年。)
(*)(参考:下川弘･須田清隆･伊藤重剛「パルテノンが蘇るとき」可視化情報学会誌 14(54),1994 年。)
(*)(参考：宮脇勝・西村幸夫「7205 「イタリアの歴史的環境整備に関する研究 2」：ローマの古代アッピア地区の事例」学術講演梗概集,F.都市計画 建築経済・住宅問題,建築歴史・意匠,1994,1994 年。)
(*)(参考：堀賀貴「古代ギリシャ・ローマ都市住宅における上部空間に関する研究」日本建築学会計画系論文集 59(456),1994 年。)
(*)(参考:堀賀貴「9021 ポンペイにおける街区内の住宅立地について(建築歴史･建築意匠･建築論)」日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系 34,1994 年。)
(*)(参考：堀内清治「631 地中海古代都市の研究(70)パルテノン基壇寸法の検討：地中海古代都市の研究(建築歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 34,1994 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・須田清隆・下川弘・熊谷秀和・井上寛「632 地中海古代都市の研究(71)パルテノン神殿の柱変化に伴う感性的評価(3)(建築歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 34,1994 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・吉武健次・北島幸一郎「633,634 地中海古代都市の研究(72,73)パルテノン神殿の施工シミュレーション(1,2)(建築歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 34,1994 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・渡辺道治・山口誠二・望月利男・松井宏彰・穴見栄「地中海古代都市の研究(74,75)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 34,1994 年。)
(*)(参考：宮内達夫「Merimee の建築史理解における古典古代と中世」大阪明浄女子短期大学紀要 8,1994 年。)
(*)(参考：土居義岳「アカデミー第 1 期(1671-1715)におけるイオニア式柱頭に関する議論：フランス王立アカデミー(1671-1793)に関する研究(2)」日本建築学会計画系論文集 59(463),1994 年。)
(*)(参考:オットー･ゼール訳解説/梶田昭訳『フィシオログス』Documenta historiea natulium,博品社,1994 年。)
(*)三輪卓爾「星和夫著『楽しい医学用語ものがたり』」日本医史学雑誌 40(2),1994 年。
(*)児玉昌彦『ヒポクラテスの午睡』文藝春秋,1994 年。)
(*)(参考：喜多村得也「ヒポクラテス ペーターヴィーンヒ編「偉大な医師たち—伝記による医学史」より」昭和大学教養部紀要25,1994年。)
(*)(参考:佐藤素一「ヒポクラテスは今時代に甦えるか」耳鼻咽喉科展望37(Supplement 1))」,1994年。)
(*)(参考：中川定明「東西医学の接点(1)中国伝統医学の機能的「五臓」と西洋医学の構造的「臓器・組織」の対比：東西医学に共通する「医学の基礎」の提唱」日本東洋医学雑誌44(4),1994年。)
(*)(参考：梶原博毅『医学史概観』六法出版社,1994年。)

(*)(参考 : Gabius Hans-Joachim,平林淳「神話世界におけるヤドリギとレクチン研究の結びつき：腫よう学への応用の可能性」Trends in Glycoscience and Glycotechnology 6(29),1994 年。)
(*)(参考：プリニウス大槻真一郎責任編集・岸本良彦太訳『プリニウス博物誌(植物篇,植物薬剤篇)』八坂書房,1994 年(→2009 年,新装版。)
(*)(参考 : 仲川章「アリストテレスの数學観--J.リアの解釈とその周辺」古代哲学研究 26,1994 年。)
(*)(参考 : 速川治郎『科学理論におけるヘーゲル大倫理学批判』早稲田大学,博士(文学),乙第 11986 号,1994 年。)
(*)(参考 : 大出晃「アリストテレスにおける条件づき必然性」創価大学人文論集 6,1994 年。)
(*)(参考：近藤敏夫「G.H.ミードの近代科学批判—科学的方法の形成史から」金沢大学文学部論集,行動科学科篇 14,1994 年。)
(*)(参考：栗林澄夫・関麻由美「ルドルフ・シュタイナーの「神秘劇」について[独文]」大阪教育大学紀要(OxF9C1)人文科学 42(4),1994 年。)
(*)西尾成子・田中一郎「渡辺正雄「科学の歩み 科学との出会い 世界観と近代科学」培風館,1994 年。
(*)(参考：辻村純代「東地中海のローマン・ランプ」ラーフィダーン 15,1994 年。)
(*)(参考：児房幸司「古代ギリシアの天文記録—ヘロドトス,トゥキュディデスの「歴史」」天界 75(828),1994 年。)
(*)(参考：リズ・グリーン/岡本翔子・鏡リュウジ訳『占星学』青土社,1994 年(→2000 年,新装版。→2013 年,新版)。)
(*)(参考 : 松田美作子「Robert Greene,Planetomachina(1585)における占星術とフィクション—“Venus Tragedie”を中心に」日本女子大学英米文学研究 29,1994 年。)
(*)(参考：スターホーク/鏡リュウジ・北川達夫訳『聖魔女術(スパイラル・ダンス)：大いなる女神宗教の復活』魔女たちの世紀 1,国書刊行会,1994 年。)
(*)(参考：小国力「科学技術史に隠された女たち(1,2)神話と古代世界(1,2)」数学セミナー 33(4,5), 1994 年。)
(*)(参考：真田久「1859年の第1回“ギリシャオリンピック競技会”に関する研究」福岡教育大学紀要・第 5 分冊,芸術・保健体育・家政科編 43,1994 年。)
(*)(参考：ジュディス・スワドリング/穂積八洲雄訳『古代オリンピック』日本放送出版協会,1994 年。)
(*)(参考：伴義孝『スポーツ思想の誕生：大島鎌吉の周辺』創文企画,1994 年。)
(*)(参考：『その歴史と精神』オリンピック 1,ビデオレコード,文藝春秋,1994 年。)
(*)(参考 : 豊田和二「古代ギリシア人のヘウレマター—ヘロドトスからペリパトス学派まで」社会科学討究 40(1),1994 年。)
(*)菊池俊彦「平田寛先生を悼む(含/肖像・年譜・業績)」科学史研究第(0xF9C2)期 32(188),1994 年。
(*)(参考 : 遠藤泰「富に関する配慮—セネカ=古ストア主義＋親エピクロス主義=の経済倫理(含質疑応答)[第 18 回社会思想史学会大会記録]—(自由論題)」社会思想史研究 18,1994 年。)
(*)(参考：南原一博『西洋精神史序説：政治観の諸類型』お茶の水書房,1994 年(→1998 年,再版。)

(*)(参考：新田一郎「ギリシア・ヘブライの理想国家とローマ帝国：「ローマの平和」に関する一考察」金沢大学文学部論集・史学科篇 13/14,1994 年。)
(*)(参考：中村純「アテネ民主制と僭主性—ヘロドトス第 3 巻 80-82 章をめぐって」駒澤史学 47,1994 年。)
(*)(参考：星野彰男『市場社会の体系：ヒュームとスミス』(プラトン)一橋大学,博士(社会学),乙第 132 号,1994 年。)
(*)(参考：牛田徳子「「人間は自然によってポリス的動物である」について」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 26,1994 年.)
(*)(参考：石田憲『地中海新ローマ帝国への道：ファシスト・イタリアの対外政策 1935-39』東京大学出版会,1994 年。)
(*)(参考：佐野稔幸「E.バーカーの政治学とギリシャ政治思想—初期の著作から(1,2)」名古屋大学法政論集 156,158,1994 年。)
(*)(参考：立正大学文学部西洋史研究室内木崎良平先生古稀記念論文集編集委員会編『世界史説苑：木崎良平先生古稀記念論文集』(小松進「アウグスティーヌスの正戦論に関する一考察」/西澤龍生「ゼルフィ G.G.と末松謙澄のロンドン」)立正大学文学部西洋史研究室,1994 年。)
(*)(参考：平田隆一研究代表『古代ギリシア・ローマにおける社会的不正の研究』科学研究費補助金総合研究 A 研究成果報告書,平成 4-5 年度,1994 年。)
(*)(参考：中沢新一構成「中国革命のディニュソス(毛沢東,100 年の孤独 特集)」文芸 33(1),1994 年。)
(*)(参考：小笠原幹夫「箕作麟祥の仏学--「国政変転ノ論」を中心に」作陽音楽大学・作陽短期大学研究紀要 26(2),1994 年。)
(*)柳父圀近「天皇制国家とキリスト教—三谷隆正の政治哲学」(東北大学法学会)法學 58(4),1994 年。
(*)苅部直『光の領国：和辻哲郎における「人間」と「政治」』東京大学,博士(文学),甲第 10327 号,1994 年。)
(*)山下重一「ロンドン日本学生会と共存同衆」(馬場辰猪抄訳「羅瑪律要」)日本古書通信 776,1994 年。
(*)山口廸彦「西周「学士=令氏権利争闘論」の公刊(資料)」(イェーリング)企業法研究 6,1994 年。
(*)西村重雄「井上毅とイェーリング：イェーリングへの叙勲と明治期法学(1993 年秋季[第 88 回]大会概要)」九州法学会会報 1993,1994 年。
(*)(参考:大木雅夫「法学におけるルネサンス(〈特集〉西欧近代の精神)」ソフィア 43(1),1994 年。)
(*)(参考：村上裕「目隠しされた正義：セバスチャン・ブラントの阿保船とローマ法継受」関東学院法学 4(2),1994 年。)
(*)(参考：原田俊彦「プーブリウス・フィロー法の歴史的意義」(佐藤篤士先生還暦記念論文集刊行委員会編『歴史における法の諸相』所収,敬文堂,1994 年。)
(*)(参考：千葉治男「(書評)阪口修平・千葉徳夫・山内進(編訳),ゲルハルト・エストライヒ『近代国家の覚醒：新ストア主義・身分制・ポリツァイ』」法制史研究44,1994年。)

(*)(参考：工藤秀明「『デモクリトスとエピクロスの自然哲学の差異』における自然-人間理解(上下)」[K.マルクス]千葉大学経済研究 10(3),1995 年//10(4),1996 年。)
(*)(参考：西川亮『古代ギリシアの原子論』渓水社,1995 年。)
(*)(参考：木原武一『ぼくたちのマルクス』ちくまプリマーブックス 88,筑摩書房,1995 年。)
(*)と学会編『トンデモ本の世界：MONDO TONDEMO』洋泉社,1995 年(→1999 年,宝島文庫版。)
(*)(参考：マット・カーチミル/内田亮子訳『人はなぜ殺すのか：狩猟仮説と動物観の文明史』新曜社,1995 年。)
(*)(参考：小泉格・田中耕司編『海と文明』講座文明と環境 11,朝倉書店,1995 年。)
(*)(参考：河底尚吾「文化素としての類性」横浜経営研究 16(2),1995 年。)
(*)能村登四郎『欧州紀行』(ギリシャ,ローマ,ベニス等)ふらんす堂,1995 年。
(*)(参考：水野潤一『東地中海歴史と文化の旅』カルチャーガイド,大修館書店,1995 年。)
(*)(参考：臼井隆一郎『パンとワインを巡り神話が巡る：古代地中海文化の血と肉』中公新書,中央公論社,1995 年。)
(*)(参考：小島威彦『地中海』百年目に開けた玉手箱 4,創樹社,1995 年。)
(*)(参考：田中瑛也『地中海文明の源流をたずねて』たいせい,1995 年。)
(*)(参考：ジョアン・マヌエル・ジズベルト作/アルフォンソ・ルアーノ絵/宇野和美訳『アドリア海の奇跡』徳間書店,1995 年。)
(*)(参考：加藤卓男文・絵『やきものシルクロード：地中海から正倉院まで』改訂版,中日新聞社,1995 年。)
(*)(参考:樺山紘一･中村雄二郎「回帰する地中海(特集,回帰する地中海)」現代思想 23(6),1995 年。)
(*)(参考：小岸昭・西谷修「マラーノの地中海的ヴィジョン(特集,回帰する地中海)」現代思想 23(6),1995 年。)
(*)(参考：冨原真弓「シモーヌ・ヴェーユのイタリア(1937 年--1943 年)―戯曲「救われたヴェネティア」もしくは「憐れみ」の悲劇(特集,回帰する地中海)」現代思想 23(6),1995 年。)
(*)(参考：平井玄「ブローデルの海/シュミットの岩―地中海音楽への前哨(特集,回帰する地中海)」現代思想 23(6),1995 年。)
(*)(参考：臼杵陽「〈地中海〉の記憶と再生―〈レヴァント〉のユダヤ人(特集,回帰する地中海)」現代思想 23(6),1995 年。)
(*)(参考：Juan Goytisolo/塚本昌則訳「死者たちの街(特集,回帰する地中海)」現代思想 23(6),1995 年。)
(*)(参考：鈴木規夫「地中海世界と〈近代性〉の世界史的長期波動--〈自己〉をめぐる思想と交通(特集,回帰する地中海)」現代思想 23(6),1995 年。)
(*)(参考:Khatibi Abdelkebir/福田育弘訳「他なる思考(特集,回帰する地中海)」現代思想 23(6),1995 年。)
(*)(参考：港千尋「モダニズムの運搬橋(特集,回帰する地中海)」現代思想 23(6),1995 年。)
(*)(参考：天沢退二郎「地中海を囲繞する蛇―トルヴァドール・十字軍・イスラム(特集,回帰する地中海)」現代思想 23(6),1995 年。)
(*)(参考：竹山博英「イスラムとシチリア(特集,回帰する地中海)」現代思想 23(6),1995 年。)

(*)(参考：三石善吉「〈論説〉武陵桃源・アルカディアの系譜」筑波法政 18(2),1995 年。)
(*)(参考：江國滋・阿川佐和子「〈Cogito われ思う(104)〉義塾こそ,わがアルカディア：江國滋君を訪ねて」三田評論 972,1995 年。)
(*)須賀敦子「一九二九年」(←原題「ようちゃん」)文藝 2 月,春号,1995 年。
(*)須賀敦子「砂漠を行くものたち」(←原題「貨物船で」)文藝 5 月,夏号,1995 年。
(*)須賀敦子「皇帝のあとを追って」(←原題「皇帝をたずねて」)文藝 8 月、秋号,1995 年。
(*)須賀敦子「木立の中の神殿」(←原題「白い神殿」)文藝 11 月,冬号,1995 年。
(*)(参考：Spanaki Marianna ‘Japan through Greek Looking Glass：N.Kazantzakis and N.Kasdaglis’ ΠΡΠΥΛΑΙΑ7,1995 年。)
(*)(参考：小笠原茂介「ラヴェッロの冬の薔薇」亜土 17(2 次)1995 年（→2001 年,『地中海の月』所収,思潮社）。
(*)(参考：小笠原茂介「ラヴェッロの月」亜土 18(2 次),1995 年（→2001 年,『地中海の月』所収,思潮社）。
(*)(参考：小笠原茂介「月の髪」亜土 20(2 次),1995 年（→2001 年,『地中海の月』所収,思潮社）。
(*)(参考：小笠原茂介「イスキアの雨」詩と思想12月号,1995年（→2001年,『地中海の月』所収,思潮社）。
(*)(参考：小笠原茂介『地中海の聖母』思潮社,1995 年。
(*)(参考：マルキ・ド・サド/谷口勇訳『イタリア紀行：フィレンツェ・ローマ：1775-1776』ユー・シー・プランニング,1995 年。)
(*)近畿日本ツーリスト『ギリシア・エーゲ海の本』改訂版,旅のガイドムック 29,1995 年(→→1997 年,再版)。
(*)飯島千鶴子他著・地球の歩き方編集室編『イタリア』改訂 2 版,地球の歩き方 205,ダイヤモンド・ビッグ社, ダイヤモンド社(発売),1995 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ローマ』ダイヤモンド・ビッグ社,1995-96 年。
(*)地球の歩き方編集室編『フィレンツェと中世ルネッサンス都市』ダイヤモンド・ビッグ社,1995-96 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ギリシアとエーゲ海の島々』ダイヤモンド・ビッグ社,1995-96 年。
(*)岩合光昭・岩合日出子「グラフィック・スペシャル エーゲ海のネコの島」(天夢人編,新潮社)Sinra：森羅《シンラ》万象：nature&culture 2(5)(17),1995 年。
(*)萩野矢慶記写真・文『エーゲ海だより：魅惑の島々52 の素顔』日本交通公社出版事業局,JTB キャンブックス,1995 年(→2009 年,改題「エーゲ海：青と白が誘う 52 島」)。
(*)村尾勉『エーゲ海に魅せられて：レスボス島,サモス島,コス島,クノドス,ロドス島』紙蔦社,1995 年。
(*)星和夫「医学のルーツを尋ねて：エーゲ海の島々(1-9)」日本病院会雑誌 42(9-11),1995 年/43(1-6),1996 年。
(*)星和夫「医学のルーツを尋ねて」週刊社会保障 49(1841),1995 年。
(*)池田満寿夫『エーゲ海に捧ぐ』中公文庫,中央公論社,1995 年。
(*)(参考：水崎野里子「マリーナー『ペリクリーズ』における海」和洋女子大学英文学会誌 29,1995 年。)

(*)(参考 : 西部邁「文明と成熟—西欧近代の裏街道を往く(13)エリオット—個性を滅却せよ」諸君 27(4),1995 年。)
(*)(参考：若松繁信「T.S.エリオットの文化論ノート」北九州大学外国語学部紀要 85,1995 年。)
(*)源了円「近代日本における伝統観と西田幾多郎—エリオットの伝統論との出会い(西田幾多郎歿後 50 年,特集)」思想 857,1995 年。)
(*)川島重成「オイディプスの道」図書 550,1995 年。
(*)川島重成「クレタ歴史紀行：ミノア時代から現代まで」国際基督教大学学報 IV-B,人文科学研究：キリスト教と文化 26,1995 年。
(*)川島重成『ギリシア旅行案内』岩波同時代ライブラリー,1995 年(→2001 年,岩波現代文庫。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(14)W.C.ハズリット,ブルクハルト,民主政,貴族政」人文研究123,1995年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(15)ゴーティエ,テーヌとヴェネツィアの宗教ならびにバロック建築」人文研究124,1995年。)
(*)(参考：石塚裕子「ホモセクシュアル英国人と地中海：E.M.フォースターの場合」Kobe miscellary 21,1995 年。)
(*)「太陽と肉体にめざめた希臘・羅馬紀行(三島由紀夫の耽美世界〈没後 25 年記念特集〉--（三島由紀夫の「幻想美術館」）芸術新潮 46(12),1995 年。
(*)長田年弘「ヘレニズム都市メッセネの発掘に参加して：S 先生への手紙〈エッセイ〉」プロピレア 7,1995 年。
(*)(参考：エーリッヒ・フォン・デニケン/堀口典子訳『デニケンの超古代史紀行：はるかなる神々の遺産』朝日新聞社,1995 年。)
(*)(参考：岩崎努「「カンパーニア黒像式陶器」--エトルスキ文化の地域受容に関する一側面」文化史学 51,1995 年。)
(*)紅山雪夫『イタリアの古都と街道』トラベルジャーナル,1995 年。
(*)(参考：杉浦明平訳『ミケランジェロの手紙』岩波書店,1995 年。)
(*)(参考：H.W.ジャンソン著/村田潔訳『美術の歴史：絵画彫刻建築』[原著]第 3 版,新装版,美術出版社,1995 年。)
(*)(参考：下村寅太郎『美術史・精神史論考』みすず書房,1995 年。)
(*)裾分一弘教授献呈論文集刊行会編『フィレンツェの秋：裾分一弘教授の古稀に贈る』裾分一弘教授献呈論文集刊行会,1995 年。
(*)(参考：浅香正『ポンペイ：古代ローマ都市の蘇生』芸艸堂,1995 年。)
(*)(参考：金子史朗『ポンペイの滅んだ日：ベスビオをめぐるジオドラマ』中公文庫,1995 年。)
(*)(参考：青柳正規「西暦 79 年 8 月 24 日のポンペイ(天災と闘った美術〈特集〉—(タイムカプセル篇—大噴火で封印された古代都市ポンペイ)」芸術新潮 46(5),1995 年。)
(*)(参考：杉田英明『日本人の中東発見：逆遠近法のなかの比較文化史』東京大学出版会中東イスラム世界 2,1995 年。)
(*)(参考 : 杉田英明「〈走れメロス〉の伝承と地中海・中東世界」比較文学研究 69,1995 年。
(*)岩倉具忠「イタリア人の目から見た日伊関係：岩倉使節団訪伊を中心として」あふひ：aoi：京都産業大学日本文化研究所所報 1,1995 年。

(*)長場紘『回想のイスタンブル』真菜書房,1995 年。
(*)(參考：鈴木董『食はイスタンブルにあり：君府名物考』NTT 出版,1995 年。)
(*)大竹伸郎「大竹伸郎 イスタンブール・スクラップブック―光は鼻からやってきた」芸術新潮 46(6),1995 年。
(*)(參考：ヤミリ・キリー記『アトランティスのミンダ王女 500 機の UFO 従え「生命の樹」へ』でくのぼう出版,星雲社(発売),1995 年。)
(*)(參考：セラハッティン・エルデムギル/万里子・清水・シャルマン訳『エフェソス：遺跡と博物館』Net Turistik Yaninlar,1995 年。)
(*)(參考：赤松章写真・益田朋幸文『ビザンティン美術への旅』平凡社,1995 年。)
(*)(參考：陣内秀信『都市の地中海：光と海のトポスを訪ねて』NTT 出版,1995 年。)
(*)(參考：高山博『神秘の中世王国：ヨーロッパ,ビザンツ,イスラム文化の十字路』中東イスラム世界 4,東京大学出版会,1995 年。)
(*)(參考：住田育法「マカオの文化価値：特にポルトガル語教育について」Cosmica24,1995 年。)
(*)中山典夫「西洋と日本：澤柳大五郎先生追悼」筑波大学芸術年報 1995,1995 年。
(*)(參考：Sichtermann Helmut「ヨーロッパにおける古典古代記をフィールドする研究者の学際的交流」鹿島美術財団年報 13 別冊,1995 年。)
(*)野中夏実「ティヴォリのハドリアヌス帝のヴィラを訪ねて(報告)」プロピレア 7,1995 年。
(*)(參考：津上英輔「古代人の模倣と自然の模倣：ヴィンケルマン『ギリシヤ人の絵画・彫刻作品の模倣についての考察』における自然の概念(上原和教授退任記念)」美學美術史論集 10,1995 年。)
(*)(參考：周藤芳幸「ギリシア暗黒時代の考古学(西洋古代史研究の最前線・特集)」歴史評論 543,1995 年。)
(*)(參考：中川さつき「メタスタジオのオペラセリア：絶対王政下のユートピア」(ハドリアヌス)イタリア学会誌 45,1995 年。)
(*)(參考：エーミール・ルートヴィッヒ/秋山英夫訳『シュリーマン：トロイア発掘者の生涯』新装復刊,白水社,1995 年。)
(*)(參考：H.シュリーマン/池内紀訳・解説『古代への情熱』地球人ライブラリー20,小学館,1995年。)
(*)(參考：勝又俊雄「シュリーマンと 19 世紀ギリシア新古典主義(1-11)」日本ギリシア協会会報 71,72,1995 年/75,76,77,78,1996 年/79,81,82,1997 年/84,85,1998 年)。)
(*)(參考：勝又俊雄(共著)「The Survey of Early Byzantine Sites in Ölüdeniz Area(Lycia,Turkey)」大阪大学文学部紀要 35,1995 年。)
(*)田村道美「野上弥生子とアオドルフ・ミハエリス：「眞知子」と「美術考古學發達史」」香川大学教育学部研究報告・第 1 部 94,1995 年。
(*)(參考：水田徹責任編集『ギリシア・クラシックとヘレニズム』世界美術全集・西洋編 4,小学館,1995 年。)
(*)(參考：川地美子『シェイクスピアと文化交流』成美堂,1995 年。)
(*)(參考：松本典昭「メディチ家のプロパンダ芸術：パラッツォ・ヴェッキオの「レオ 10 世の区画」を読む」文化學年報 44,1995 年。)
(*)(參考：林正則「『旅日記』から『イタリア紀行』へ―ゲーテ「古典主義」の生成をめぐって」独文学報 11,1995 年。)

(*)(参考：小山宙丸「〈研究例会発表要旨〉驚きと畏れ：ヘレニズムとヘブライズムの特性試論」比較思想研究 22,1995 年。)
(*)(参考：西部邁「文明と成熟―西欧近代の裏街道を往く(10)ホイジンガ--「あそび」の小児病化を撃つ」諸君 27(1),1995 年。)
(*)(参考：船尾章子「米をめぐる東地中海紀行(地中海世界)(米の食べ方の世界誌)」国際研究 11,1995 年。)
(*)(参考：平野秀樹・堺正紘「古代都市文明と森林社会に関する考察」九州大学農学部演習林報告 72,1995 年。)
(*)(参考：田尻信一「広域的地域世界としての地中海世界：前近代の地域世界をどう構成するか」筑波大学附属高等学校研究紀要 36,1995 年。)
(*)(参考：服部英二『文明の交差路で考える』講談社現代新書 1256,講談社,1995 年。)
(*)(参考：小島久和「モンテーニュと図像」(ローマ)文芸研究 73,1995 年。)
(*)(参考：饗庭孝男『ヨーロッパ古寺巡礼』新潮社,1995 年。)
(*)(参考：辻原康夫『世界の地名ハンドブック』三省堂,1995 年。)
(*)(参考：磯部久美子(他)『大英博物館』世界文化社,1995 年。)
(*)(参考：川又一英・Léttera 取材班執筆『メトロポリタン美術館』世界文化社,1995 年。)
(*)(参考：ロラン&フランソワ・エティエンヌ/松田迪子訳『古代ギリシア発掘史』創元社,「知の再発見」双書 46,1995 年。)
(*)(参考：田辺勝美「ギリシア美術の日本仏教美術に対する影響―ヘルメス神像と(兜跋)毘沙門天像の羽翼冠の比較(比較文化の方法―アジアの視角から〈特集〉」東洋文化 75,1995 年。)
(*)(参考：村田靖子『仏像の系譜：ガンダーラから日本まで：顔貌表現と華麗な裳懸座の歴史』大日本絵画,1995 年。)
(*)(参考：大谷大学図書館編『文化の発展と伝播』文化交流の道,大谷大学図書館資料展観目録,大谷大学図書館,1995 年。)
(*)平山郁夫『シルクロードをゆく』講談社,1995 年。
(*)久志本秀夫「極東日本のルネサンス―安土桃山文化の起源と展開」愛知県立芸術大学紀要 25,1995 年。)
(*)(参考：井上章一「安土城へ、ユリシーズ(1-28)」諸君 27(9-12),1995 年/28(1-10,12),1996 年/29(1-12),1997 年)。)
(*)高橋睦郎『遠い帆：オペラ支倉常長』小沢書店,1995 年(→1999 年,新装版。→2012 年)。
(*)(参考：井上章一「会告 話題建築を聞く(22)エンタシスの世界史と法隆寺」建築と社会 76(1)(874),1995 年。)
(*)(参考：ピエール・ヴィダル=ナケ編/樺山紘一監訳『三省堂世界歴史地図』三省堂,1995 年。)
(*)(参考：M.アーモンド他編/樺山紘一監訳『ヨーロッパ歴史地図』タイムズアトラス,原書房,1995 年。)
(*)(参考：樋口米蔵「日本における掛地図の変遷の一考察 ジョンストン原著世界大地図を通して」地図 33(Supl.),1995 年。)
(*)(参考：三好唯義「江戸時代の日本へ伝わったオランダ製壁地図」関西大学博物館紀要 1,1995 年。)
(*)(参考：鹿野俊一『骨学ラテン語辞典』医歯薬出版,1995 年。)

(*)(参考 : S.カンドウ/瀬谷幸男解説『羅和字典』南雲堂フェニックス,限定復刻版,1995 年。)
(*)『新共同訳聖書辞典』キリスト新聞社,1995 年(→1997 年,小型版)。
(*)(参考 : ロナルド・ブラウンリッグ『新約聖書人名事典』東洋書林,原書房[発売],1995 年。)
(*)(参考 : 佐々木達・木原研三編『英語学人名辞典』研究社,1995 年。)
(*)(参考 : 大石紀一郎・大貫敦子・木前利秋・高橋順一・三島憲一編『ニーチェ事典』弘文堂,1995 年(→2014 年,縮刷版)。)
(*)(参考 : 生田長江・森田草平・加藤朝鳥編『新文学辞典』近代用語の辞典集成 27,大空社,1995 年。)
(*)(参考 : 日外アソシエーツ編集部編『20 世紀西洋人名事典』』日外アソシエーツ,紀伊国屋書店[発売],1995 年。)
(*)武内博編『来日西洋人名事典』日外アソシエーツ,紀伊国屋書店[発売],1995 年。
(*)森睦彦監修『伝記・評伝執筆者事典』日外アソシエーツ,紀伊国屋書店[発売],増補改訂普及版,1995 年。
(*)富田仁編『事典 近代日本の先駆者』日外アソシエーツ,紀伊国屋書店[発売],1995 年。
(*)(参考 : 風間喜代三「印欧語学の問題点」法政大学教養部紀要93,1995年。)
(*)(参考 : 風間喜代三「バンベニスト『インド・ヨーロッパ諸制度語彙集』と歴史言語学(特集 ことばと意味)-(意味研究の諸相)」国文学 解釈と鑑賞60(1),1995 年。)
(*)(参考 : 伊東泰治「西欧中世における共通語としてのラテン語」国際研究 11,1995 年。)
(*)(参考 : 鈴木広光「漢訳聖書における pneuma の翻訳について」キリスト教史学 49,1995 年。)
(*)岩堀行宏『英和・和英辞典の誕生 : 日欧言語文化交流史』図書出版社,1995 年。
(*)遠藤智夫「『英和対訳袖珍辞書』・『百学連環』・『哲学字彙』に於ける訳語—致度の考察」英学史研究 28,1995 年。
(*)三浦國雄「翻訳語と中国思想—『哲學字彙』を読む」人文研究 47(3),1995 年。
(*)柳父章『翻訳の思想』ちくま学芸文庫,1995 年(←1977 年,平凡社)。
(*)柳父章『一語の辞典—文化』三省堂,1995 年。
(*)(参考 : 岩波文庫編集部編『原文対照古典のことば : 岩波文庫から』岩波文庫別冊 10,岩波書店,1995 年。)
(*)立教大学図書館編『前田護郎文庫目録』(2 巻)新座保存書庫目録 7,立教大学図書館,1995 年。
(*)「浅香正先生略歴及び主要業績」(浅香正先生,永井三明先生,中川勝正先生退職記念論文集)」文化学年報 44,1995 年。)
(*)柴田隆行編『日本の哲学思想史研究文献仮目録—書物篇』(第 3 版)私家版,1995 年。
(*)(参考 : 池田裕「光は北から : テル・ダンと新アラム語碑文の発見」筑波大学地域研究 13,1995 年。)
(*)(参考 : モーリス・ポープ著/唐須教光訳『古代文字の世界 : エジプト象形文字から線文字 B まで』講談社,1995 年。)
(*)(参考 : 高橋英海「失われた環としてのシリア語 : ダマスカスのニコラオス『アリストテレスの哲学概論』シリア語訳を例に」東洋學報 84(3),1995 年。
(*)(参考 : 山本麕「近みの言語—ソクラテスから聖書の言語へ」(水谷智洋研究代表『古代地中海世界における自然理解と宗教観』水谷智洋,1995 年。)

(*)(参考：荒木英世『エクスプレス古典ギリシア語』カセットテープテキスト,白水社,1995年。)
(*)(参考：梅津教孝「カロリング朝におけるラテン語の改革：王文書に見るカロリング=ルネサンス」古代文化 47(9),1995 年。)
(*)(参考：静岡県立大学英米文化研究室編『言語文化研究の新展開』(山本雅男「エラスムスのイングランド往還：エラスムス研究の動向を踏まえて」)英米文化叢書, 静岡県立大学英米文化研究室,1995 年。)
(*)(参考：ウンベルト・ベーコ/上村忠男訳『完全言語の探究』平凡社,1995 年。)
(*)(参考：辻由美『世界の翻訳家たち：異文化接触の最前線を語る』新評論,1995 年(→2008年,再版)。)
(*)(参考：小野茂「フィロロジーの道(10)完=「フィロロジーへの道」から「フィロロジーの道」へ」英語青年 141(3),1995 年。)
(*)(参考：近藤均「A.Vesalius：Epitomeのラテン語原典および独・仏・英語版の特色(1)」日本医史学雑誌 41(1),1995 年。)
(*)(参考：関根応之「ルカによる福音書におけるヘブル語法について—聖書原文・訳文との比較・対照」大東文化大学紀要・人文科学 33,1995 年。)
(*)(参考：土戸清「ヨハネ福音書の「エゴー・エイミ」の訳し方をめぐって」カトリック研究 64,1995 年。)
(*)(参考：酒見紀成「英語におけるギリシア借入語—古代ギリシアの人名を中心として」広島工業大学研究紀要 29,1995 年。)
(*)(参考：川端由喜男訳『ヨハネによる福音書』ギリシア語新約聖書 4,日本語対訳,教文館,1995 年。)
(*)(参考：静岡県立大学英米文化研究室編『言語文化研究の新展開』(エラスムス)英米文化叢書, 静岡県立大学英米文化研究室,1995 年。)
(*)「関本至文庫目録」プロピレア 7,1995 年。
(*)(参考：原田裕司「ゲーテとラテン語訳『ヘルマンとドローテア』」(大阪大学ドイツ文学会)独文学報 11,1995 年。)
(*)(参考：山田昭広『シェイスピアの喜劇及び悲喜劇の古版本書誌学的研究』明星大学人文学部,1995 年。)
(*)(参考：水谷智洋・研究代表『古代地中海世界における自然感情と宗教観』水谷智洋,1995年。)
(*)(参考：V.カースト/高月玲子・佐々木賢一訳『シシュポスの探究』神話と伝説の深層心理,人文書院,1995 年。)
(*)(参考：松原孝俊・松村一男編『比較神話学の展望』青土社,1995 年。)
(*)(参考：鏡リュウジ文・片岡弘道写真『月の魔法』ごま書房,1995 年。)
(*)(参考：Liana Trufasu「エリアーデ氏による「糸と機織りのシンボリズム」と道家思想」東方宗教 86,1995 年。)
(*)(参考：佐藤荘広「聖なる世界から日常生活の世界へ—エリアーデ宗教論の批判的継承に向けて」キリスト教学 37,1995 年。)
(*)(参考：池内紀『幻獣の話』講談社現代新書,1995 年。)
(*)(参考：J.ゴッドウィン/吉村正和訳『図説 古代密儀宗教』平凡社,1995 年。)
(*)(参考：森田典正「「ディオニューソス—破壊されざる生の根源」カール・ケレーニー著

岡田素之訳」人文論集 33,1995 年。)
(*)(参考 : 杉田弘子「性と狂気と陶酔の神ディオニュソス—ニーチェにおける最高の肯定概念(1)」武蔵大学人文学会雑誌 26(4),1995 年。)
(*)(参考 : 沢田真一「Janet Frame の二つの楽園神話」南半球評論 11,1995 年。)
(*)(参考 : 延味能都「P.de Ronsard,神話利用の抑制と語彙への影響—「恋愛詩集」(1552)および「続恋愛詩集」(1555)の神々」岡山大学独仏文学研究 14,1995 年。)
(*)(参考 : 橋本崇「シェリングと W.F.オットーにおける神話の意義について」倫理学研究 25,1995 年。)
(*)(参考 : 松山雄三「船上の神話学者 J.ヘルダー—自然と神話」プロテウス 3,1995 年。)
(*)(参考 : 瀧一郎「ベルグソンにおける想像の問題(3) : 神話または「創話的機能」による虚構」美術科研究 12,1995 年。)
(*)(参考 : 小林浩「〈論文〉ゾラにおける知・歴史・神話 :『壊滅』試解」日本医科大学基礎科学紀要 18,1995 年。)
(*)(参考 : 花尻えりか「「神話」と「歴史」: The Rainbow 批評をめぐって」藝文研究 68,1995 年。)
(*)(参考 : 西山清「約束の地をもとめて—断章の神話「ハイピーリアン」(ジョン・キーツ,特集)」英語青年 141(9),1995 年。)
(*)(参考 : 水之江有一「“Ode to Psyche”の清純なる光輝—古典神話と詩人の自己形成と現代詩人(ジョン・キーツ,特集)—(再考「この一編」)」英語青年 141(9),1995 年。)
(*)(参考 : 加藤彰吾「グリルパルツァーの『金羊皮』について—ギリシア神話と近代主観主義」大阪商業大学論集 103,1995 年。)
(*)(参考 : 安達励人「バタフライ像の変遷—プシュケーの神話から「M.バタフライ」まで(1,2)」美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要 40,1995 年/42,1997 年。)
(*)(参考 : 込田伸夫「ポセイドンとインド・ヨーロッパ語族」地中海学研究 18,1995 年。)
(*)(参考 : 松原孝俊・松村一男編『比較神話学の展望』青土者,1995 年。)
(*)(参考 : トマス・ブルフィンチ/箕浦万里子訳 ; 深沢真由美絵『ギリシア神話』子どものための世界文学の森 28,集英社,1995 年。)
(*)(参考 : T.ブルフィンチ/佐渡重信訳『ギリシア神話と英雄伝説(上下)』講談社,1995 年。)
(*)(参考 : 曽野綾子・田名部昭『ギリシア人の愛と死』講談社,1995 年(→1998 年,講談社文庫版)。)
(*)(参考 : ディクテス・クレーテーンシス/水谷智洋訳「『トロイア戦記』第 4 巻—ルーキウス・セプティミウスのラテン語訳より」(東京大学教養学部外国語科)外国語科紀要 43(6),1995 年。)
(*)(参考 : V.カースト/高月玲子・佐々木賢一訳『シシュポスの探究』神話と伝説の深層心理,人文書院,1995 年。)
(*)(参考 :『ユピテル/変身譚』A Travel book,トレヴィル,リブロポート(発売),1995 年。)
(*)(参考 : 毛利晶「カプア・ミントゥルナエ出土の「マギステル碑文」と共和政期ローマのコンピトゥム祭儀」西洋史学 178,1995 年。)
(*)(参考 : 古澤ゆう子「生と死と再生の円環に見るガイアと魔女とアニマ—古代,近代,現代の女性的なるもの」ペディラヴィウム 41,1995 年。)

(*)(参考 : 千葉恵「エロースとアガペー―ヘレニズムとヘブライズムの絆」北海道大学文学部紀要 44(2),1995 年。)
(*)(参考 : 千葉恵「エロースとアガペー―ヘレニズムとヘブライズムの絆」基督教學 30,1995 年。)
(*)(参考：渡部和雄「ヴィーナス」椙山女学園大学研究論集・人文科学篇 26,1995 年。)
(*)(参考 : 成松洋子「横臥私製における大艦の体幹の形態の解剖学的研究―ティツィアーノのヴィーナスをめぐって」美術解剖学雑誌 3(1),1995 年。)
(*)(参考：羽田康一「イーオ―儀礼・神話・造形」美術史 44(1),1995 年。)
(*)(参考：吉田純子「女英雄誕生の神話―Ursula K.Le Guin の“Earthsea Quartet”」立命館文學 539,1995 年。)
(*)(参考：田島俊郎「ヴォワチュールの神話世界と女性美」言語文化研究 2,1995 年。)
(*)(参考：落合仁司『地中海の無限者：東西キリスト教の神―人間論』勁草書房,1995 年。)
(*)(参考 : 西山清「神話としての聖書解読(1-3)」学術研究,英語・英文学編 44,1995 年/45,1996 年/46,1997 年。)
(*)(参考：小嶋潤『旧約聖書の時代：その語る歴史と宗教』刀水書房,1995 年。)
(*)(参考：足立広明「「ガリラヤからローマへ―地中海世界をかえたキリスト教徒」によせて([キリスト教史学会]第 45 回大会シンポジウム―キリスト教とセクシャリティー)」キリスト教史学 49,1995 年。)
(*)(参考 : 片山佳子「ユダヤ教黙示文学と新約聖書にみる悪魔の概念」園田学園女子大学論文集 30(1),1995 年。)
(*)(参考 : 土戸清「一世紀のユダヤ教とキリスト教―ヨハネ福音書におけるアンティ・セミティズムの問題」東北学院大学論集 教会と神学 27,1995 年。)
(*)(参考：William Wyler(direc. by)/Sam Zimbakist(prod.by)岡本慎二・日本語字幕『Ben-Hur (1,2)』ビデオレコード,ワーナー・ホム・ビデオ,1995 年。)
(*)(参考 : S.サフライ『キリスト教成立の背景としてのユダヤ教世界』サンパウロ,1995 年。)
(*)(参考：Kurt Aland 編/川端由喜男編訳『ヨハネによる福音書』ギリシア語新約聖書,日本語対訳,教文館,1995 年。)
(*)(参考：佐藤研訳『マルコによる福音書・マタイによる福音書』新約聖書翻訳委員会訳 1 岩波書店,1995 年。)
(*)(参考：荒井献・佐藤研訳『ルカ文書・ルカによる福音書使徒行伝』新約聖書翻訳委員会訳 2,岩波書店,1995 年。)
(*)(参考：小林稔・大貫隆訳『ヨハネ文書』新約聖書翻訳委員会訳 3,岩波書店,1995 年。)
(*)(参考：青野太潮訳『パウロ書簡』新約聖書翻訳委員会訳 4,岩波書店,1995 年。)
(*)(参考：保坂高殿・小林稔・小河陽訳『パウロの名による書簡・公同書簡・ヨハネの黙示録』新約聖書翻訳委員会 5,岩波書店,1995 年。)
(*)(参考：山田翔太「ルカ福音書の自分と歴史叙述」敬和学園大学研究紀要 4,1995 年。
(*)(参考：今橋淳『ルカ福音書講話』全 5 巻,キリスト新聞社（製作）,1995-2000 年。)
(*)(参考：山本襄治『ちょっと聖書を：ルカ福音書を読む』女子パウロ会,1995 年。)
(*)(参考：高橋三郎『ガラテア書講義』教文館,1995 年。)
(*)(参考：大貫隆「フィリポによる福音書(ナグ・マハディ写本 2,3)」(東京大学教養学部外国語科)外国語科研究紀要 43(6),1995 年。)
(*)(参考：齋藤泰弘「「岩窟の聖母」の図像の神学的解釈序説：ロンドンの聖母は無原罪の

宿りを表現しているのか否かをめぐって」イタリア学会誌 45,1995 年。)
(*)(参考 : 田尻陽一「聖母マリア被昇天劇研究(1)マリアから聖母マリアへの道のり」龍谷紀要 17(1),1995 年。)
(*)(参考 : 久木田直江「穀物女神の継承者としての聖母マリア—神秘の釜の図像をめぐって」基督教學 30,1995 年。)
(*)(参考 : 石脇慶総「聖母マリアの霊的母性」南山神学 18,1995 年。)
(*)(参考 : シェンキェーヴィチ作/木村彰一訳『クオ・ワディス(上中下)』岩波文庫,岩波書店,1995 年。)
(*)(参考 : 松本宣郎『キリスト教徒大迫害の研究』東京大学,博士(文学),乙第 12106 号,1995 年。)
(*)(参考 : 新田一郎「キリスト教徒迫害研究の新展開--松本宣郎・豊田浩志氏の近業を中心に(西洋古代史研究の最前線〈特集〉)」歴史評論 543,1995 年。
(*)(参考 : 戸田聡「無学な修道者アントニオス? : 初期修道制研究の一動向」オリエント 38(2),1995 年。)
(*)(参考 : ジャン・ヴェルドン/吉田春美訳『図説 夜の中世史』原書房,1995 年。)
(*)(参考 : 土戸清『聖書に聴く : 現代教育の諸問題』日本伝道出版,1995 年。)
(*)牛丸康夫『曙光 : 長司祭牛丸康夫遺稿集』牛丸忍,1995 年。
(*)(参考 : 小鷲直治編『ウィリアム・ブレイクとキリスト教』サンパウロ(発売),1995 年。)
(*)(参考 : 青木茂『ヘーゲルのキリスト論 ; 十字架の哲学』キリスト教歴史双書 12,南窓社,1995 年。)
(*)吉村亨「遠藤周作のイエス像 : ニーチェのツァラトゥストラとの比較において」明石工業高等専門学校研究紀要38,1995年。
(*)兼子盾夫「日本におけるキリスト教受容の問題 : 遠藤の『沈黙』から『深い河』まで」比較思想研究22,1995年。
(*)水崎野里子「矢代静一,田中澄江,遠藤周作の作品に見る : 日本の三つの殉教劇」江戸川女子短期大学紀要 10,1995 年。
(*)(参考 : 青山学院大学総合研究所人文学系研究センター編『日本と西洋における死生観の研究』研究叢書 6, 青山学院大学総合研究所人文学系研究センター,1995 年。)
(*)(参考 : 山本建郎「哲学の歴史性の復権は可能か—書評・マッキンタイア『美徳なき時代』」理想 655,1995 年。)
(*)(参考 : 高橋憲雄『ヘラクレイトス—対話の論理の構築と実践を目指して』晃洋書房,1995 年。)
(*)(参考 : 山川偉也「エレア学派の哲学と現代思想」(村田全編『学問の中の私』所収,玉川大学出版部,1995 年)。)
(*)(参考 : 岡部勉『行為と価値の哲学』九州大学出版会,1995 年。)
(*)(参考 : 田中美知太郎『生きることと考えること』弥生書房,1995 年。)
(*)(参考 : 角田幸彦『プラトンをめぐって—イデア・ことば・人間・宇宙』北樹出版,1995 年。)
(*)(参考 : 伊東斌『プラトン快楽論の研究—善の研究序説』九州大学出版会,1995 年。)
(*)(参考 : 浅野幸治「プラトンのイデア論の不完全術語解釈その後—中畑とホワイト」阪南論集・人文自然科学編 31(1),1995 年。)
(*)(参考 : 三枝和子「いかにして女性の哲学は可能か(第7講)プラトン・本能と哲学」ユリイ

カ 27(12),1995 年。)
(*)(参考：三枝和子「いかにして女性の哲学は可能か(第8講)プラトン・抽象と徳」ユリイカ 27(14),1995年。)
(*)(参考：加藤好光「プラトンおよびプロティノスにおける《ηλιοειδης》概念についての覚書：ゲーテのプロティノス受容との関連から」研究13,1995年。)
(*)(参考：角田幸彦「学としての哲学への道—ギリシアの5人の哲学者,ヘラクレイトス,パルメニデス,ソクラテス,プラトン,アリストテレス(哲学〈特集〉)」明治大学教養論集275,1995年。)
(*)(参考：岡崎文明『プロクロスとトマス・アクィナスにおける善と存在者：西洋哲学史研究序説』京都大学,博士(文学),乙第8815号,1995年。)
(*)(参考：土井健司『神認識とエペクタシス：ニュッサのグレゴリオスによるキリスト教的神認識論の形成』京都大学,博士(文学),乙第8817号,1995年。)
(*)(参考：永嶋哲也「アベラルドゥスにおけるいわゆる「プラトニズム」について」中世思想研究37,1995年。)
(*)「吉川英治文学賞・文学新人賞・文化賞発表—第29回吉川英治文学賞 阿刀田高氏「新トロイア物語」,津本陽氏「夢のまた夢」にたいして[他]」群像50(5),1995年。)
(*)(参考：佐野晴夫「世界文学と世界文学史」山口大学教養部紀要,人文科学篇29,1995年。)
(*)(参考：岡道男『ギリシア悲劇とラテン文学』岩波書店,1995 年。)
(*)(参考：吉田敦彦『オイディプスの謎』青土舎,1995 年。)
(*)中村雄二郎「デルフォイでギリシア悲劇を観る--「シアター・オリンピックス」について」世界 616,1995 年。
(*)(参考：岡本英明「「πολλα τα δεινα,恐るべきものは数あるうちに,人間以上の恐るべきものはない」--ディルタイ,ミッシュ,ボルノウを繋ぐギリシア悲劇の一文」教育哲学研究 71,1995 年。)
(*)(参考：秋山学「奉納行為としてのギリシア悲劇—ギリシア教父によるエウリピデス解釈の試み」教養学科紀要 28,1995 年。)
(*)(参考：オウィディウス/樋口勝彦訳『愛の技法』平凡社ライブラリー97,平凡社,1995 年。)
(*)(参考：オウィディウス/樋口勝彦訳『愛の技法』オンデマンドペーパーバック版,Amazon,1995 年。)
(*)(参考：中山恒夫『ローマ恋愛詩人の詩論—カトルルゥスとプロペルティウスを中心に』東海大学出版会,1995 年。)
(*)(参考：ポール・ヴェーヌ/鎌田博夫訳『古代ローマの恋愛詩：愛と詩と西洋』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,1995 年。)
(*)(参考：宮城徳也『セネカ悲劇集における主題としての Pietas』京都大学,博士(文学),甲第5875 号,1995 年。)
(*)(参考：山田望『キリストの模範：ペラギウス神学における神の義とパイデイア』南山大学,博士(文学),甲第 3 号,1995 年。)
(*)(参考:三石善吉「武陵桃源:アルカディアーの系譜(徳田教授退官記念号)」筑波法政 18(2),1995 年。)
(*)(参考:池澤克夫「ルゥソーとラ・フォンテーヌ(正続)」言語文化部紀要 28,1995 年//34,1998 年。)

(*)山下太郎『明治の文明開化のさきがけ—静岡学問所と沼津兵学校の教授たち』北樹出版,1995 年。
(*)安西敏三『福沢諭吉と西欧思想』名古屋大学出版会,1995 年。
(*)江國滋・阿川佐和子(インタビューアー)「〈Cogito われ思う(104)〉義塾こそ,わがアルカディア：江國滋君を訪ねて」三田評論 972,1995 年。)
(*)鈴木重昭「ケーベル先生と坂田祐先生」ケーベル会誌 3,1995 年。
(*)庭山勝昭「邂逅と別離」(ケーベル)ケーベル会誌 3,1995 年。
(*)巽豊彦「ケーベル的キリスト教について」ケーベル会誌 3,1995 年。
(*)沢田和彦「橘糸重の B.ピウスツキ宛書簡二通[翻刻・解説]」(ケーベル)ケーベル会誌 3,1995 年。
(*)橋本昌弘「岩下壮一神父の遺品」(ケーベル)ケーベル会誌 3,1995 年。
(*)瀬沼哲子「ケーベルと瀬沼夏葉」ケーベル会誌 3,1995 年。
(*)島尻政長「日本美学史とケーベル先生」・「ケーベル先生文献(3)」ケーベル会誌 3,1995 年。
(*)兼子盾夫「日本におけるキリスト教受容の問題：遠藤の『沈黙』から『深い河』まで」比較思想研究 22,1995 年。
(*)山口昌男『敗者の戦後史(上下)』岩波書店,1995 年(→2005 年,岩波現代文庫版。)
(*)小野紀明「教養主義の政治的脆弱性」(和辻哲郎)創文 370,1995 年。
(*)九木幸男『検証・清沢満之批判』法蔵館,1995 年。
(*)樋口章信「清沢満之の文化・文明観」親鸞教学 65,1995 年。
(*)青芳勝久『植村正久伝』(伝記叢書 105)大空社,1995 年。
(*)寺崎暹『比屋根安定』リブロポート、1995 年。
(*)片桐一男『阿蘭陀通詞今村源右衛門英生』丸善ライブラリー145,1995 年(→1997 年,同『阿蘭陀通詞の研究』(2 刷),吉川弘文館//1997 年,同『蘭学事始とその時代』日本放送協会//2000 年,同『出島』集英社新書)。
(*)フライ・ルイス・グラナダ原著/尾原悟編著『ヒイデスの導師』キリシタン文学双書,キリシタン研究 32,教文館,1995 年。
(*)間所ひさこぶん；黒井健え『イソップどうわ』はじめてのおはなし絵本 3,講談社,1995 年。
(*)わらべきみか作『イソップどうわ』あかちゃんめいさく,ひさかたチャイルド,1995 年。
(*)ウィリアム・キャクストン著/伊藤正義訳『イソップ寓話集』岩波ブックサービスセンター,1995 年。
(*)武藤禎夫「翻刻『絵入教訓近道』--イソップの合巻本」共立女子短期大学紀要 38,1995 年。
(*)武藤禎夫「イソップ寓話と咄本」川柳しなの 631,1995 年。
(*)樋口桂子『イソップのレトリック—メタファーからメトニミーへ』勁草書房,1995 年。
(*)(参考：飛鳥井雅道『19 世紀日本における言語文化の変容と異言語接触』(イソップ等)京都大学 1994 年,(科研費)1995 年。
(*)(参考:中務哲郎『アイソポス寓話の発生と寓話の社会的機能の研究』京都大学 1994 年,(科研費)1995 年。
(*)まんが日本昔ばなし『かじ屋のばばあ：百合若大臣：大蔵と天狗どん：蛸薬師』川内彩友美企画・制作,愛木企画センター,1995 年。

(*)甘露純規「もう 1 つの「佳人之奇遇」--あるいはもう 1 つの「通俗佳人之奇遇」」日本文学 44(12),1995 年。
(*)原章二「「谷崎潤一郎」千葉俊二―谷崎流反プラトニズム」国文学研究 116,1995 年。
(*)西脇順三郎『Ambarvalia：旅人かへらず』講談社文芸文庫,講談社,1995 年。
(*)戸松泉「〈走る〉ことの意味 : 太宰治『走れメロス』を読む」相模女子大学紀要 A.人文・社会系 59A,1995 年。)
(*)久村真司「コンピューターを利用した「走れメロス」の授業」国語教育論叢 5,1995 年。)
(*)太宰治・井伏鱒二『走れメロスほか』ポケット日本文学館 3,講談社,1995 年。
(*)玉木意志太牢「平田禿木とウォルター・ペイター：「草掌書影」の成立をめぐって」立命館英米文学 4,1995 年。
(*)江尻美穂子『神谷美恵子』Century books,人と思想 136,清水書院,1995 年(→2015 年,新装版)。
(*)田村直美「野上弥生子とジョージ・ギッシング：『田園春秋「ヘンリ・ライクロイフトの手記』全譯」香川大学教育学部研究報告 第 1 部 93,1995 年。
(*)田村直美「野上弥生子と「世界名作大観」(6)『ウィルヘルム・マイステル』下巻及び「親和力」」香川大学教育学部研究報告 第 1 部 94,1995 年。
(*)田村直美「野上弥生子とアドルフ・ミハエリス：「眞知子」と「美術考古學發達史」」香川大学教育学部研究報告 第 1 部 94,1995 年。
(*)田村直美「野上弥生子とウォルター・ペイター：「文藝復興」」香川大学教育学部研究報告 第 1 部 94,1995 年。
(*)田村道美「野上弥生子と「世界名作大観」(7)『プルターク英雄伝』第 2 巻」香川大学教育学部研究報告 第 1 部 95,1995 年。
(*)安福純子「天稚彦物語と女性の心の発達」(アプレイウス)大阪教育大学紀要 IV・教育科学 43(2),1995 年。
(*)川内彩友美企画・制作,愛企画センター制作『かじ屋(や)のばばあ,百合若大臣(ゆりわかだいじん),大蔵(だいぞう)と天狗(てんぐ)どん,蛸薬師(とこやくし)』[まんが日本昔ばなし]毎日放送(発売),1995 年。
(*)裾分一弘教授献呈論文集刊行会編『フィレンツェの秋：裾分一弘教授の古稀に贈る』裾分一弘教授献呈論文集刊行会,中央公論美術出版(発売),1995 年。
(*)藤澤令夫「大学教育と体育(平成 6 年度大学体育指導者研修会中央研修会)」大学体育 21(3),1995 年。
(*)大塚健洋『大川周明：ある復古革新主義者の思想』中公新書,1995 年。
(*)ロマノ・ヴルピッタ『不敗の条件 : 保田與重郎と世界の思潮』中公叢書,中央公論社,1995 年。)
(*)江尻美穂子『神谷美恵子』清水書院,1995 年。
(*)鵜沼裕子「三谷隆正：その思想と信仰に関する考察」聖学院大学論叢 7(2),1995 年。
(*)「岩田靖夫先生略歴・研究歴(岩田靖夫先生御退官記念号)」思索28,1995年。
(*)橋本能「パリの戸張[智雄]先生(故戸張智雄教授略年譜[含・著作目録])」仏語仏文学研究 27,1995年。
(*)中島昭和「戸張[智雄]君追悼(故戸張智雄教授略年譜[含・著作目録])」仏語仏文学研究 27,1995年。
(*)「故戸張智雄教授略年譜[含・著作目録])」仏語仏文学研究27,1995年。
(*)「故戸張智雄教授略年譜および著作目録」中央大学文学部紀要158,1995年。

(*)「竹部琳昌教授略歴年譜・業績表(竹部琳昌教授退職記念号)」同志社外国文学研究 70,1995 年。)
(*)河野収「竹部さん—ひとつの素描(竹部琳昌教授退職記念号)」同志社外国文学研究 70, 1995 年。)
(*)(参考：山田慶兒,阪上孝編『人文学のアナトミー：現代日本における学問の可能性』岩波書店,1995 年。)
(*)柳沼重剛『西洋古典こぼれ話』岩波同時代ライブラリー,1995 年。
(*)(参考：鈴木規夫「眠れぬ〈エウロペ〉—フィロロジー--〈記憶殺し〉・イスラム(サイド・オリエンタリズム以後〈特集〉」現代思想 23(3),1995 年。)
(*)木田元『反哲学史』講談社,1995 年(→2000 年,講談社学術文庫)。
(*)石上豊「「美しい土草」に賭する倫理,岩田靖夫著『倫理の復権—ロールズ・ソクラテス・レヴィナス』岩波書店,1994 年,初版」創価大学人文論集 7,1995 年。
(*)(参考：岩田靖夫『ソクラテス』勁草書房,1995 年。)
(*)(参考：北畠知量『ソクラテス研究：ギリシャ知の挑戦』名古屋大学,博士(教育学),乙第 4840 号,1995 年。)
(*)(参考：牛田徳子「プシュケーの定義とアクリル」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 27, 1995 年.)
(*)(参考：マルシリオ・フィチーノ/左近司祥子・木村茂訳『『ピレボス』注解：人間の最高善について』アウロラ叢書,国文社,1995 年。)
(*)(参考：山本建郎「〈特集 外国事情〉『プロターゴラース』編におけるシモニデース詩の評釈について—古代ギリシア精神史の一断面」秋田大学総合基礎教育基礎研究紀要 2,1995 年。)
(*)(参考:伊藤功「クラウス・デュージング『プラトンとヘーゲルにおける存在論と弁証法』」ヘーゲル論理学研究 1(創刊号),1995 年。)
(*)(参考：ヘーゲル/山口誠一訳・解説・注「アリストテレス講義(1)(2)」法政大学教養部紀要 93,1995 年/96,1996 年。)
(*)(参考：岡崎文明『プロクロスとトマス・アクィナスにおける善と存在者：西洋哲学史研究序説』京都大学,博士(文学),乙第 8815 号,1995 年。)
(*)(参考：土井健司『神認識とエペクタシス：ニュッサのグレゴリウスによるキリスト教的神認識論の形成』京都大学,博士(文学),乙第 8817 号,1995 年。)
(*)(参考：Spira Andreas/竹部琳昌訳「西洋思想における無限への欲求と限界の自覚—アリストテレス,ニュッサのグレゴリウス,ゲーテ」同志社外国文学研究 39,1995 年。)
(*)(参考：細井敦子「平成 5 年度後期海外研究報告書(1)二つのアルドゥス版『弁論家集』」成蹊大学文学部紀要 30,1995 年。)
(*)(参考：片柳栄一『初期アウグスティヌス哲学の形成—第一の探究する自由』創文社,1995 年。)
(*)(参考：E.ジルソン/藤本雄三訳『『神の国』論—アウグスティヌス,平和と秩序』(京都)行路社,1995 年。)
(*)(参考：岡三郎「聖アウグスティヌスの『神の国』における「トロイ物語」の解釈(「中世」と「近代」)青山学院大学総合研究所人文学系センター研究叢書 5,1995 年。)

(*)(参考：アルバン・イシドア・シュトルツ/藤本雄三訳『聖アウグスティヌスの哲学』キリスト教歴史双書 15,南窓社,1995 年。)
(*)(参考： 谷隆一郎『アウグスティヌスの哲学：「神の似像」の探究』東京大学,博士（文学）,乙第12569号,1995年。)
(*)(参考：山田晶『アウグスティヌス講話』講談社学術文庫,講談社,1995 年。)
(*)(参考：加藤信朗‘Chritianity in the Global Age and St.Augustine’(聖心女子大学キリスト教文化研究所)宗教と文化 17,1995 年。)
(*)(参考 : 水田英実『トマス・アクィナスの知性論』広島大学,博士（文学）,乙第2741号,1995 年。)
(*)(参考：土井健司『神認識とエペクタシス：ニュッサのグレゴリオスによるキリスト教的神認識論の形成』京都大学,博士(文学),乙第 8817 号,1995 年。)
(*)(参考 : 上智大学中世思想研究所編『初期ギリシア教父』平凡社,中世思想原典集成 1,1995 年。)
(*)(参考：樺山紘一編『西洋中世像の革新』刀水書房,1995 年。)
(*)(参考：マヌエル・サンチェス,デル・ポスケ著/マヌエル・アモロス,水戸博之訳『トマスの生命線：近代性の根源からオルテガの「生の哲学」へ』キリスト教歴史双書 14,南窓社,1995 年。)
(*)(参考：K/リーゼンフーバー/村井則夫訳『中世哲学の源流』創文社,上智大学中世思想研究所中世研究叢書,1995 年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編『中世における古代の伝統』創文社, 上智大学中世思想研究所紀要中世研究 4,1995 年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編『中世の学問観』創文社,上智大学中世思想研究所紀要中世研究 9,1995 年。)
(*)(参考 : 出村彰「二つのロマ書注解—カルヴァンとエコランバーディウス」東北学院大学論集 教会と神学 27,1995 年。)
(*)(参考：青山学院大学総合研究所人文学系研究センター編『「中世」と「近代」』研究叢書 5, 青山学院大学総合研究所人文学系研究センター,1995 年。)
(*)(参考：西研『ヘーゲル・大人のなりかた』NHK ブックス,1995 年。)
(*)(参考：松田純『神と国家：ヘーゲル宗教哲学』東北大学,博士(文学),乙第 6807 号,1995 年。)
(*)(参考：瀧一郎『ベルグソン美学研究：直観の概念に即して』東京大学,博士(文学),甲第 11417 号,1995 年。)
(*)野町啓「「感想」の感想—小林秀雄とベルグソンとプロティノス」(特集 小林秀雄(2)) 季刊日本思想史 45,1995 年。
(*)加藤信朗「政治の原点としての哲学—いま日本の哲学にもとめられているもの」哲學雜誌 110(782),1995 年。
(*)(参考 : 井田三夫「パスカルと良寛のことなど—プラトン的二元論と天台本覚的一元論(フォルム・リテラールム特集)」教養論叢 100,1995 年。)
(*)(参考：ヒルティ/齋藤栄治編；氷上英廣他訳『幸福論』新装復刊,白水社,1995 年。)
(*)(参考：ピエール・ヴィダル・ナケ編/樺山紘一監訳『三省堂世界歴史地図』三省堂,1995 年。)
(*)(参考 : F.フェルナンデス=アルメスト編/植松みどり他訳『世界探検歴史地図』タイムズ・

アトラス,原書房,1995 年。)
(*)(参考：M.アーモンド他編/樺山紘一監訳『ヨーロッパ歴史地図』タイムズ・アトラス,原書房,1995 年(→2001 年,第 2 版)。)
(*)(参考：伊藤貞夫編『古典古代史』放送大学教材,放送大学教育振興会,1995 年。)
(*)(参考：櫻井悠美「古代ギリシアにおける女と沈黙」(新潟大学)現代社会文化研究 3,1995 年。)
(*)(参考：Dretensis Dyctyos/水谷智洋訳『『トロイ戦記』第 4 章—ルーキウス・セプティミウスのラテン語訳より』(東京大学教養学部外国語科)外国語科研究科紀要 43(6),1995 年。)
(*)(参考：池上俊一・高山博「西洋中世史研究における2つのパースペクティブ」：池上俊一氏,高山博氏に聞く」クリオ=Clio 9,1995年。)
(*)(参考：上野愼也「前古典期アッティケーのトレイス・スタセイスを考えるために」クリオ=Clio 9,1995年。)
(*)(参考:樋脇博敏『古代ローマの非嫡出子研究』東京大学,博士(文学),甲第11454号,1995年。)
(*)(参考：大野芳材「ジャン・バティスト・グルーズの「セプティス・セヴェルス帝とカラカラ」について：ディドロの美術批評を通して」青山学院女子短期大學紀要 49,1995 年。)
(*)(参考：伊藤功「ヘーゲルと善の問題—ソクラテスの問いをめぐって」ヘーゲル哲学研究 1(創刊号),1995 年。)
(*)(参考：田村孝「日韓西洋古代史シンポジウムに参加して(西洋古代史研究の最前線〈特集〉」歴史評論 543,1995 年。)
(*)(参考：師尾晶子「アケメネス朝ペルシア支配下の小アジア沿岸ギリシア—いわゆる「イオニア僭主」とペルシアの関係を中心に(西洋古代史研究の最前線,特集)」歴史評論 543,1995 年。)
(*)(参考：中村光男「ヒッタイト史研究の現状(西洋古代史研究の最前線・特集)」歴史評論 543,1995 年。)
(*)(参考：長谷川岳男「マケドニアとローマ—その対立の構造(特集 西洋古代史研究の最前線)」歴史評論 543,1995 年。)
(*)(参考：上野慎也「前古典期アッティケーのトレイス・スタセイスを考えるために」クリオ=Clio9,1995 年。)
(*)(参考：広瀬三矢子「アウグストゥスとアレクサンドロス大王—アウグストゥスのポートレート研究を中心として」古代文化 47(8),1995 年。)
(*)(参考：森谷公俊「アレクサンドロスの即位とアッタロス(第 93 回史学会大会報告記事)」史学雑誌 104(12),1995 年。)
(*)(参考：大戸千之「ヘレニズムの理解について—金澤良樹氏の書評を読む」史學雑誌 104(3),1995 年。)
(*)(参考：田中穂積「ヘレニズム概念と古代の歴史家(2)カルディアのジエロニューモス」(関西学院大学文学部)人文論究 44(4),1995 年。)
(*)田村道美「野上弥生子と「世界名作大観」(7)：「プルターク英雄傳」第 2 巻」香川大学教育学部研究報告・第 1 部 95,1995 年。
(*)(参考：塩野七生『ユリウス・カエサル』ローマ人の物語 4,-5,新潮社,1995 年。)
(*)(参考：Cretensis Dictylos/水谷智洋訳「『トロイア戦記』第 4 巻—ルーキス・セプティミ

ウスのラテン訳より」(東京大学教養学部外国語科)外国語科研究紀要 43(6),1995 年。)
(*)(参考：岡三郎「聖アウグスティヌスの『神の国』における「トロイ物語」の解釈(「中世」と「近代」)」青山学院大学総合研究所人文学系研究センター研究叢書 5,1995 年。)
(*)(参考：小林康夫・船曳建夫編『知の論理』(本村凌二「剣闘士のエロティシズム：歴史のなかに要望を読む」)東京大学出版会,1995 年。)
(*)(参考：Keith Hopkins/永都軍三・高木正朗訳「古代ローマ人と剣闘士--「死と再生」第 1 章 3 節」立命館産業社会論集 84,1995 年。)
(*)(参考：Keith Hopkins/永都軍三・高木正朗訳「古代ローマ人と剣闘士--「死と再生」第 1 章 4,5 節(完)」立命館産業社会論集 85,1995 年。)
(*)(参考：岡崎勝世「ドイツ啓蒙主義歴史学研究(1-5)Johann Christoph Gatterer の世界史叙述における古代ギリシア史」埼玉大学紀要 31(1),1995 年。)
(*)(参考：クセノポーン/田中秀央・吉田一次訳/荒木雄豪編,アロイス・ポダイスキー/南大路謙一訳/荒木雄豪編『クセノポーンの馬術・ヨーロッパ馬術小史』恒星社厚生閣,1995 年。)
(*)(参考：松谷健二『ヴァンダル興亡史：地中海制覇の夢』白水社,1995 年。)
(*)(参考：樺山紘一編『西洋中世像の革新』刀水書房,1995 年。)
(*)(参考：ロベール・ド・クラリ/伊藤敏樹訳『コンスタンチノープル遠征記：第四回十字軍』筑摩書房,1995 年。)
(*)(参考：橋口倫介『中世のコンスタンチノープル』講談社学術文庫,講談社,1995 年。)
(*)(参考：ロバート・ブラウニング/金原保夫訳『ビザンツ帝国とブルガリア』東海大学出版会,1995 年。)
(*)(参考：エドワード・ギボン著/中野好夫訳『ローマ帝国衰亡史(1-10)』ちくま学芸文庫,筑摩書房,1995 年。)
(*)(参考：ロイ・ポーター/中野好之・海保真夫・松原慶子訳『ギボン：歴史を創る』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,1995 年。)
(*)(参考：浜田けい子『ナポレオン』新装世界の伝記 31,ぎょうせい,1995 年。)
(*)(参考：山内宏之『文豪シャトーブリアンの見たナポレオン像』近代文芸社,1995 年。)
(*)(参考：西村貞二『リッター』清水書院,1995 年。)
(*)(参考：仲内英三「近代ドイツにおける近代批判の知の系譜—ブルクハルト,ニーチェ,ヴェバーに即して」早稲田政治経済学雑誌 321,1995 年。)
(*)(参考：木下康彦,木村靖二,吉田寅『詳説世界史研究』山川出版社,1995 年（→2004 年,12 刷。)
(*)(参考：木村尚三郎『新世界史年表：地図対照』三省堂,1995 年。)
(*)(参考：亀井高孝『世界史年表・地図』吉川弘文館,1995 年。)
(*)(参考：亀井高孝『標準世界史年表』32 版,吉川弘文館,1995 年。)
(*)(参考：村上信一郎「ヨーロッパ：近代西欧(1994 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 104(5),1995 年。)
(*)(参考：河原温「ヨーロッパ：中世西欧(1994 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 104(5),1995 年。)
(*)(参考：伊東七美男「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1994 年の歴史学界：回顧と展望)」

史學雜誌 104(5),1995 年。)
(*)(参考：岩井経男「ヨーロッパ：古代：ローマ(1994 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 104(5),1995 年。)
(*)(参考：池上俊一・高山博「「西洋中世史研究における 2 つのパースペクティヴ」：池上俊一氏,高山博氏に聞く」クリオ=Clio 9,1995 年。)
(*)(参考：木下康彦・木村靖二・吉田寅『詳説世界史研究』山川出版社,1995 年(→2004 年,12 刷。→2008 年,改訂版)。
(*)(参考：歴史学研究会編『世界史とは何か：多元的世界の接触の転機』講座世界史 1,東京大学出版会,1995 年。)
(*)「二宮宏之略歴・主な研究論文,著書,訳書,その他」ふらんぼー22,1995 年。
(*)西永良成「二宮宏之先生のこと」ふらんぼー22,1995 年。
(*)(参考：二宮宏之『全体を見る眼と歴史家たち』平凡社ライブラリー13,平凡社,1995 年。)
(*)(参考：ロイ・ポーター/中野好之・海保真夫・松原慶子訳『ギボン』法政大学出版会,1995 年。)
(*)(参考：Murakami Katsuya‘La reimpresión de la traducción española de las fabulas de Esopo en 1489(3)’広島文教女子大学紀要 30,1995 年。)
(*)(参考：新潟大学人文学部編『平成 6 年度新潟大学特定研究報告書：西洋文学における民間伝承と伝統形成に関する総合的研究』新潟大学人文学部,1995 年。)
(*)(参考：小川正廣「「西洋の父」ウェルギリウス」地中海学会月報 178,1995 年。)
(*)(参考：山下太郎「『農耕詩』の独創性の問題」京都工芸繊維大学工芸学部研究報告 人文 44,1995 年。)
(*)(参考：岡崎文明「TRANSZENDENTAL の思想の研究(1,2)：思想史的背景」教科教育研究 31,1995 年。)
(*)(参考：上田慎一「セネカと義憤：Contra M.C.Nussbaum1」筑波哲学 6,1995 年。
(*)(参考：秋山学「ホラティウスにおける「アエネイス」理解の試み—神学としての西洋古典学」(東京大学教養学部外国語科)外国語科研究紀要 43(6),1995 年。)
(*)(参考：Cretensis Dictyos/水谷智洋訳「『トロイア戦記』第 4 巻—ルーキウス・セプティミウスのラテン訳より」(東京大学教養学部外国語科)外国語科研究紀要 43(6),1995 年。)
(*)(参考：モーリス・ヴァレンシー/沓掛良彦訳『恋愛礼讃：中世・ルネサンスにおける愛の形』法政大学出版局,1995 年。
(*)(参考：佐々木健一研究代表『美と藝術の価値論的基礎づけ』佐々木健一,1995 年。)
(*)(参考:S.ザンブルスキー/村上陽一郎他訳『言葉と創造』エラノス叢書 9,平凡社,1995 年。)
(*)(参考：M.グリーン他/桂芳樹他訳『エラノスへの招待：回顧と資料』エラノス叢書・別巻,平凡社,1995 年。)
(*)(参考:G.ホームズ/高柳俊一・光用行江訳『ダンテ』教文館,コンパクト評伝シリーズ 9,1995 年。)
(*)(参考：R・ボルヒャルト/小竹澄栄訳『ダンテとヨーロッパ中世』みすず書房,1995 年。)
(*)(参考:中山昌樹訳『ダンテ全集(1-10)』[新生堂大正 14 年刊の複製]日本図書センター,1995 年。)
(*)(参考：中山昌樹『詩聖ダンテ』(復刻版)ダンテ全集 9 日本図書センター,1995 年。)
(*)(参考:中山昌樹『ダンテ神曲の研究』(復刻版)ダンテ全集 10,日本図書センター,1995 年。)

(*)(参考：谷清「『神曲』地獄篇第 5 歌：」パオロとフランチェスカ(日本と西洋における死生観の研究))青山学院大学綜合研究所人文系研究センター研究双書 6,1995 年。)
(*)(参考：中井晟「T.S.エリオット「ダンテ」(1920)読む：寓意と詩」同志社大学英語英文学研究 65,1995 年。)
(*)(参考：山田由美子『ベン・ジョンソンとセルバンテス：騎士道物語と人文主義文学』世界思想社,1995 年。)
(*)(参考：エルンスト・カッシーラ/佐藤三夫他訳『シンボルとスキエンティア：近代ヨーロッパの科学と哲学』ありな書房,1995 年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ラスキンとブルクハルトのルネサンス観の類似性」人文学研究所報 28,1995年。)
(*)(参考：研究代表者・伊藤博明『ルネサンスにおける異教的伝統の再検討』伊藤博明,1995年。)
(*)(参考：ジェローラモ・カルダーノ/清瀬卓・澤井繁男訳『カルダーノ自伝：ルネサンス万能人の生涯』平凡社ライブラリー93,平凡社,1995 年。)
(*)(参考：根占献一「もうひとつのアプローチ--岡田温司著「もうひとつのルネサンス」を読む」ルネサンス研究 3,1996 年。)
(*)(参考：根占献一(他)『イタリア・ルネサンスの霊魂論：フィチーノ・ピコ・ポンポナッツィ・ブルーノ』三元社,1995 年(→2013 年,新装版)。)
(*)(参考：木ノ脇悦郎「エラスムスの Synodus Grammaticorum(1529)について」神學研究 42,1995 年。)
(*)(参考：水戸博之「エラスムスとスペインの神学者たち(1516-1527)：1527 年バジャドリ宗教審問委員会を巡って」言語文化論叢 16(2),1995 年。)
(*)(参考：佐藤三夫『ヒューマニスト・ペトラルカ』東信堂,ルネサンス叢書 2,1995 年。)
(*)古茂田宏「佐藤三夫先生を送る」千葉大学人文研究：人文学部紀要 24,1995 年。
(*)(参考：林和宏「ペトラルカの『勝利』における叙述の視点」東京外国語大学論集 51,1995年。)
(*)(参考：土居満寿美「ペトラルカの女性像：『アフリカ』第 5 巻の場合」イタリア学会誌 44,1995 年。)
(*)(参考：辻茂『遠近法の誕生：ルネサンスの芸術家と科学』朝日新聞社,1995 年。)
(*)(参考：清瀬卓「UNA LETTURA ANALITICA DEL PRIMO TRATTATO DEL CONVIVIO DANTESCO」イタリア学会誌 44,1995 年。)
(*)(参考：清瀬卓「ルネサン文芸理論時節：『異教の神々の系譜』第 14 巻におけるボッカッチョの詩学」イタリア学会誌 45,1995 年。)
(*)(参考：大出晃「想い出のなかの〈人文主義者たち〉」創価大学人文論集 7,1995 年。)
(*)(参考：ラブレー/渡辺一夫訳『ガルガンチュワとパンタグリュエル・第 1-5 之書』新装復刊,白水社 1995 年。)
(*)(参考：関根秀雄訳『モンテーニュ随想録』全訳縮刷版,白水社,1995 年。)
(*)(参考：藤田あゆみ「寓話の、エタモルフォーズ：ラ・フンテーヌ『寓意詩』第 3 集冒頭寓意詩をめぐって」関西日吉紀要:フランス語フランス文学 1,1995年。)

(*)(参考：高山晶「セミとキリギリス—ラ・フォンターネ「寓話詩」初版本の版画をめぐって」慶應義塾大学日吉紀要：フランス語フランス文学 1,1995 年。)
(*)(参考:池沢克夫「ラ・フォンテーヌ没後 300 年記念国際学会遠望」言語文化部紀要 30,1996 年。)
(*)(参考：井上尭裕『ルソーとヴォルテール』世界書院,1995 年。)
(*)(参考：長島律子「ベルナノスの論戦文に表れた古代ローマ観」フランス語フランス文学研究67,1995年。)
(*)(参考：圓子脩平著者代表『カルボス』(ヴィンケルマン)同学社,1995 年。)
(*)(参考：津上英輔「古代人の模倣と自然の模倣：ヴィンケルマン『ギリシャ人の絵画・彫刻作品のの模倣についての考察』における自然の概念(上原和教授退任記念)」美學美術史論集 10,1995 年。)
(*)(参考：宇津井恵正「パラダイムとしての趣味についての一考察：横断的にみた漱石,メングス,ゲーテの趣味論」」京都教育大學紀要 A 人文・社会 87,1995 年。)
(*)(参考：小泉進・白崎嘉昭編『ゲーテ時代の諸相：木村直司教授還暦記念論文集』郁文堂,1995 年。)
(*)(参考：広瀬千一『ドイツ近代劇の発生：シュトルウム・ウント・ドランクの演劇』大阪市立大学,文学博士,乙第 1745 号,1995 年。)
(*)(参考：中井章子『ノヴァーリスと自然神秘思想：自然学から詩学へ』東京大学,文学博士,乙第 12570 号,1995 年。)
(*)(参考：松山雄三「美の感情と崇高の感情：シラーの詩『逍遙』をめぐって」東北薬科大学研究年報 一般教育関係論集 9,1995 年。)
(*)(参考：松山雄三「自然と文化--シラーの詩『逍遙』を中心に」プロテウス 2,1995 年。)
(*)(参考：内藤克彦「シラーと言語的表現の問題--「芸術家」,「散歩」の比喩的表現をめぐって」(南山大学)アカデミア,文学・語学編 58,1995 年。)
(*)(参考：内藤克彦「シラーの文化史詩「散歩」について—マイネッケの解釈をめぐって」(南山大学)アカデミア,文学・語学編 59,1995 年。)
(*)(参考：青木敦子「シラーにおける美的表象の可能性」美學 46(1),1995 年。)
(*)(参考：仲内英三「近代ドイツにおける近代批判の知の系譜：ブルクハルト,ニーチェ,ヴェーバーに関して」早稲田政治経済学雑誌 321,1995 年。)
(*)(参考：杉田弘子「性と狂気と陶酔の神ディオニュソス—ニーチェにおける最高の肯定概念(1)」武蔵大学人文学会雑誌 26(4),1995 年。)
(*)(参考：中島顯治「クメールのアプサラスとニーチェの一神教批判」言語文化論集 40,1995 年。)
(*)(参考：青木純一「ニーチェの「愉しき知識」」哲学世界 18,1995 年。)
(*)(参考：千葉一弥「ニーチェの時間論をめぐる一考察」哲学世界 18,1995 年。)
(*)(参考：阿部卓也「記憶・歴史意識・言説批判—ニーチェ『生に対する歴史の利と害』の歴史性」ヨーロッパ文化研究 24,1995 年。)
(*)(参考：志水真木「初期ニーチェ哲学における「自然の模倣」」東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室論集 14,1995 年。)
(*)(参考：高橋透「〈科学技術と文学〉ニーチェ：孤独への道とその陥穽」獨逸文学 94,1995 年。)
(*)(参考：鉢之原善章「ニーチェの永劫回帰の思想について」福井工業大学研究紀要 第 1

部 25,1995 年。)
(*)(参考：五郎丸仁美「初期ニーチェの『ソクラテス的なもの』再考：ロゴス,芸術,遊戯」調布日本文化 5,1995 年。)
(*)(参考：河内信弘「ニーチェ「日は沈む」」城西大学研究年報 人文・社会科学編 19,1995 年。)
(*)(参考：松田幸子「ニーチェの反時代的考察：ヴァーグナー論をめぐって」紀要 18,1995 年。)
(*)(参考：鈴木克成「F.ニーチェに於ける「自然」概念(第 54 回[日本哲学会]大会一般研究発表要旨)」哲学 45,1995 年。)
(*)(参考：兵頭高夫「白昼に灯火をともす男—ニーチェ,ルーミー,ディオゲネス」武蔵大学人文学会雑誌 26(4),1995 年。)
(*)(参考：辻本勝好「中期ニーチェの言語観(2)—思想の俳諧化としてのアフォリズム」武蔵大学人文学会雑誌 26(4),1995 年。)
(*)(参考：池田晶子「形而上学的一撃(メタフィジカル・パンチ)(8)ニーチェさん」諸君 27(8),1995 年。)
(*)(参考：湯田豊「ニーチェ再検討」人文研究 124,1995 年。)
(*)(参考：Fritz Heinemann/岩永達郎訳編「落穂拾い,ニーチェ論(2)精神と市民的世界に対する反乱「(1929)」明治大学教養論集 279,1995 年。)
(*)(参考：小崎順「「生」の形：ショーペンハウアー,ニーチェと芥川龍之介」言語文化部紀要 28,1995 年。)
(*)(参考：益田勇一「ニーチェ美学の転回点：永遠性の変容(美学会第 46 回全国大会報告)」美學 46(3),1995 年。)
(*)(参考：松崎俊之「初期ニーチェにおける音楽と言語(美学会第 46 回全国大会報告)」美學 46(3),1995 年。)
(*)(参考：稲留憲治「カントとニーチェに於ける道徳性の問題」関西大学哲学 16,1995 年。)
(*)(参考：森一郎「ニーチェから見たハイデガー(上下)：ニーチェ研究ノート(1,2)」東京女子大学紀要論集 45(2),46(1),1995 年。)
(*)菅野孝彦「ニーチェ『この人を見よ』と和辻哲郎」日本文化研究・筑波大学大学院博士課程日本文化研究学際カリキュラム紀要 6,1995 年。
(*)有田和臣「小林秀雄「無常といふ事」と〈力〉の認識論—自由と必然をめぐって」文学研究論集 12,1995 年。)
(*)高松敏男「日本人のニーチェ研究譜—ニーチェ全集 別巻(白水社版)（書誌篇—補遺(1)昭和 54 年(1979)~平成 4 年(1992)）」大阪府立図書館紀要 31,1995 年。
(*)(参考:財津理「ドゥルーズとニーチェ:力の意志あるいは創造のエレメント」思想 85,1995 年。)
(*)(参考：小林英起子「レッシング初中期の喜劇と断片におけるプラウトゥス」大阪産業大学論集・人文科学編 85,1995 年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(14)W.C.ハズリット,ブルクハルト,民主政,貴族政」人文研究 123,1995 年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ラスキンとブルクハルトのルネサンス観の類似性」人文学研究所報 28,1995 年。)
(*)(参考：田野武夫「ヘルダーリンの『ヒュペリオン』における自然」九州ドイツ文学9,1995

年。)
(*)(参考：富田武正「〈随想〉ヘルダーリンと聖イグナチオ」ソフィア 43(4),1995 年。)
(*)(参考：中井章子『ノヴァーリスと自然神秘思想：自然学から詩学へ』(新プラトン主義)東京大学,博士(文学),乙第 12570 号,1995 年。)
(*)(参考：井本晌「ゲオルク・カイザーとギリシャ」横浜国立大学人文紀要,第二類,語学・文学 42,1995 年。)
(*)(参考：丹下和彦「言葉と事物：ホーフマンスタール『エジプトのヘレナ』の場合」人文研究 47(10),1995 年。)
(*)(参考：G.C.ソーンリィ・G.ロバーツ/繁尾久・都留久夫・松田英訳監修『概説イギリスの文学：ロングマン』桐原書店,1995 年。)
(*)(参考:ルイ・マラン/梶野吉郎訳『ユートピア的なもの—空間の遊戯』法政大学出版局,1995 年。)
(*)(参考：A.ケニー/渡辺淑子訳『トマス・モア』教文館,1995 年。)
(*)佐々木隆編『日本シェイクスピア総覧』エルピス,1995 年。
(*)(参考：川地美子『シェイクスピアと文化交流』成美堂,1995 年。)
(*)(参考：山田由美子『ベン・ジョンソンとセルバンテス：騎士道物語と人文主義文学』世界思想社,1995 年。)
(*)(参考:円月勝博他『挑発するミルトン--「パラダイス・ロスト」と現代批評』彩流社,1995 年。)
(*)(参考：新井明『ミルトンとその周辺』彩流社,1995 年。)
(*)(参考:山根正弘「ドライデンの『トロイラスとクレシダ』:改作と原作の関係について」(英米文化学会)英米文化 25,1995 年。)
(*)(参考：干井洋一「ルキアノス諷詩の系譜とダニエル・デフォー(北川弘教授退官記念論文集)」彦根論叢 294,1995 年。)
(*)(参考：松浦暢『水の妖精の系譜：文学と絵画をめぐる異界の文化史』研究社,1995 年。)
(*)(参考：松浦暢「キーツ批評史の節目(ジョン・キーツ特集)」英語青年 141(9),1995 年。)
(*)(参考：高橋雄四郎「『秋のオード』小論：春の光彩・秋の幻華」實踐女子大学文学部紀要 38,1995 年。)
(*)(参考：高橋雄四郎「“Ode to Autum”—問題点をさぐる(ジョン・キーツ,特集)—(再考[この一編]」英語青年 141(9),1995 年。)
(*)(参考：小林竜一「「西風に寄せる歌」--再生への願い：シェリー研究(13)」大阪経大論集 45(6),1995 年。)
(*)(参考:ギッシング/松田銑訳『ヘンリー・ライクロイフトの四季随想』河出書房新社,1995 年。)
(*)田村道美「野上弥生子とジョージ・ギッシング：『田園春秋「ヘンリ・ライクロフトの手記」全譯」香川大学教育学部研究報告・第 1 部 93,1995 年。)
(*)田村道美「野上弥生子とウォルター・ペーター：「文藝復興」」香川大学教育学部研究報告・第 1 部 94,1995 年。
(*)田村道美「野上弥生子と「岩波文庫」(1)：「賢者ナータン」その他」香川大学教育学部研究報告・第 1 部 95,1995 年。
(*)(参考：海野厚『東洋的ロレンス論—即今の形而上学』慶應通信,1995 年。)
(*)(参考：圓月勝博「迷宮のブレイク：『ミルトン』全[1]2 巻を読む」同志社大学英語英文

学研究 65,1995 年。)
(*)(参考：長坂昇「エマソンと重層構造の世界：Representative Men の中で?プラトン」學苑 664,1995 年。)
(*)(参考：中井晟「T.S.エリオット「ダンテ」(1920)を読む(1,2)」同志社大学英語英文学研究 65,1995 年/66,1996 年。)
(*)(参考：高柳俊一「詩と宗教の問題—若き T.S.エリオットの場合(青年と信仰)」ソフィア 44(3),1995 年。)
(*)(参考:小田川大典「アーノルド『教養と無秩序』の生成と構造」イギリス哲学研究 18,1995 年。)
(*)(参考：渡辺栄太郎「アーノルド「文学と教義」の解析(2)イエス・キリスト信仰」大東文化大学紀要,人文科学 33,1995 年。)
(*)(参考：仁木勝治『フォークナーの「世紀末」と「ギリシャ壺」』立正大学,博士(文学),乙第 93 号,1995 年。)
(*)(参考：高原健一郎「〈ノート〉古代アテネのアゴラにおける柱廊建築に関するノート」北海道東海大学紀要,芸術工学部 14,1995 年。)
(*)(参考：関口欣也「1994 年度海外研修旅行：建築の原点を求める地中海世界の旅(活動レポート)」建築雑誌 110(1377),1995 年。)
(*)(参考：堀内清治「613 オリンピア,ゼウス神殿の柱径について：地中海古代都市の研究(76)(建築歴史･意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 35,1995 年。)
(*)(参考:伊藤重剛･林田義伸･伊藤好晴･上原慶久･中川明子「地中海古代都市の研究(77,78)デルフィ」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 35,1995 年。)
(*)(参考:伊藤重剛･森倫子･伊藤好晴･上原慶久･中川明子「地中海古代都市の研究(79,80,81)デルフィ」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 35,1995 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・熊谷秀和・木脇義郎「地中海古代都市の研究(82)オリンピアの神域における配置計画の研究(建築歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 35,1995 年。)
(*)(参考：吉永伸一郎・渡辺道治「地中海古代都市の研究(83)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 35,1995 年。)
(*)(参考：高梨淑夫「17 エンタシスノ原理の追求(2)」研究報告集,計画系 65,1995 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・下川弘・須田清隆「パルテノン神殿の円柱の視覚的効果に関する研究(1)：コンピューターグラフィックスによる視覚実験」日本建築学会計画系論文集 60(472),1995 年。)
(*)(参考：池浩三・大瀧泰「4パルテノンの神室の採光法：ペンテリコン産大理石瓦の透光性に関する実験的考察(歴史･意匠)」東海支部研究報告集33,1995 年。)
(*)(参考:浅香正『古代都市ポンペイの形成と機能に関する総合的調査』(財)古代学協会1993年,(科研費)1995年。)
(*)(参考：堀賀貴「ポンペイにおける集合住宅について：インスラ型住宅に関する考察」日本建築学会計画系論文集 60(469),1995 年。)
(*)(参考:土居義岳「コリント式柱頭に関する議論:フランス王立建築アカデミー(1671-1793)に関する研究(3)」日本建築学会計画系論文集60(469),1995年。)

(*)(参考：堀賀貴『古代ローマ都市,ポンペイに関する建築史的研究』京都大学,博士(工学),甲第6031号,1995年。)
(*)(参考：清瀬卓「IL PLINIO VULGARE考：京都外国語大学揺籃期本『博物誌』(大プリニウス著C.ランディーノ訳)について」(京都外国語大学)研究論叢45,1995年。)
(*)(参考：立川昭二『神の手人の手：逆光の医学史』人文書院,1995年。)
(*)石原理年「西紀町のアスクレピオス像」日本医史学雑誌41(2),1995年。
(*)(参考:佐藤素一,石塚洋一,平山弘三,石川道男「ヒポクラテスは今時代に甦えるか(続報)」耳鼻咽喉科展望38(Supplement 2))」,1995年。)
(*)(参考:真壁伍郎「〈翻訳〉サレルノの養生訓」新潟大学医療技術短期大学部紀要5(3),1995年。)
(*)(参考：S.Nicoll Charles,M.Russell Sharon/長沢弘抄訳「米国における動物権利運動に対する一生理学者の考え(2)モーツァルト,アレキサンダー大王,そして動物権利/開放の理論」畜産の研究49(6),1995年。)
(*)(参考：J.G.ランデルズ/宮城孝仁訳『古代のエンジニアリング：ギリシャ・ローマ時代の技術と文化』地人書館,1995年。)
(*)(参考：上垣渉『ギリシア数学のあけぼの』日本評論社,1995年。)
(*)(参考:アンドレ・ピジュ/山本啓二訳『古代オリエント』科学の誕生(上),せりか書房,1995年。)
(*)(参考：アンドレ・ピジュ/中村清訳『ソクラテス以前のギリシア』科学の誕生(下),せりか書房,1995年。)
(*)(参考：永井博「自然科学の成立根拠(自然科科学〈特集〉)」文明73,1995年。)
(*)(参考：佐々木力『科学革命の歴史構造(上下)』講談社学術文庫,1995年。)
(*)(参考:鬼塚史朗「ガリレオとシンプリチオ:科学と宗教(連載 科学誌)」物理教育43(4),1995年。)
(*)(参考：高田信良「ヨーロッパとキリスト教と—ヨーロッパ・キリスト教・近代(科学,宗教研究)を巡る一試論」龍谷紀要17(1),1995年。)
(*)(参考：S.Nicoll Charles,M.Ressell Sharon/長沢弘抄訳「米国における動物権利運動に対する一生理学者も考え(2)モーツァルト,アレキサンダー大王,そして動物権利/開放の理論」畜産の研究49(6),1995年。)
(*)「平田寛教授略歴・業績目録(平田寛教授退官記念特輯)」哲学年報54,1995年。
(*)澁澤龍彦『うつろ舟；私のプリニウス；フローラ逍遙：補遺1985年』河出書房新社,(巖谷國士編)澁澤龍彦全集21,1995年。
(*)(参考：北村直昭「ヨーロッパ中世の数学とボエティウス」数学史研究147,1995年。)
(*)加藤隆「エコロジーとルカ福音書・使徒行伝の社会思想」新約学研究23,1995年。
(*)(参考：夷谷広政「神話会計学事始—ロゴスからミュトスに辿る会計の道」専修商学論集60,1995年。)
(*)(参考：鈴木秀勇「プラァトォーンにおける・「社会内分業」の〈理論〉と,マルクスによる・それの《致命的誤認》—1.,2-1/-4」(札幌大学)経営と経済26(1,3),1995年。)
(*)(参考:山川広司「ミュケナイ・ギリシア期東地中海世界の交易について」釧路論集27,1995年。)

(*)(参考：杉田房子「東地中海のキプロス島交易とロマンと豊饒に彩られ」IATSS：国際交通安全学会誌21(2),1995年。)
(*)(参考：Bertacchi Luisa,古川上子「古代イタリアと地中海その交易—アクレイアとイストリア半島」鹿島美術財団年報(13別冊),1995年。)
(*)(参考：竹内靖雄『イソップ寓話の経済倫理学：人間と集団をめぐる思考のヒント』PHP研究所,1995年。
(*)(参考：田村秀夫『社会思想史への道』中央大学出版部,1995年。)
(*)(参考：二宮宏之編『結びあうかたち：ソシアビリティ論の射程』山川出版社,1995年。)
(*)(参考：加藤信朗「政治の原点としての哲学—いまの日本に求められているもの」哲学雑誌110(782),1995年。)
(*)「故藤原保信教授年譜および著作目録」早稲田政治経済学雑誌324,1995年。
(*)(参考：古山正人「古代ギリシアにおける権力と不正—ディケ,テュランノスそしてドーラを手掛かりに(1994年度[西洋史研究会]大会共通論題報告—ギリシア・ローマにおける権力と不正)」西洋史研究24,1995年。)
(*)(参考：岩井経男「スッラの体制—ローマ共和政末期の権力者と不正(1994年度[西洋史研究会]大会共通論題報告—ギリシア・ローマにおける権力と不正)」西洋史研究24,1995年。)
(*)(参考：浦野聡「古代末期帝国東部における司教権力—その基盤としての「不正行為」？(1994年度[西洋史研究会]大会共通論題報告—ギリシア・ローマにおける権力と不正)」西洋史研究24,1995年。)
(*)(参考：山川広司「討論(1994年度[西洋史研究会]大会共通論題報告—ギリシア・ローマにおける権力と不正)」西洋史研究24,1995年。)
(*)(参考：岡本仁宏「〈論説〉自由主義とリップマンの「公共哲学」：自由主義の普遍主義的な補完的公共イデオロギーについて」法と政治46(6),1995年。)
(*)(参考：高橋進「「地中海新ローマ帝国への道—ファシスト・イタリアの対外政策1935-39」石田憲」」日伊文化研究33,1995年。)
(*)(参考：三宅昭良「意志の闘技場(アリーナ)—エズラ・パウンドとイタリア・ファシズム(特集,回帰する地中海)」現代思想23(6),1995年。)
(*)(参考：Pisano Laura/阿部一智訳「イタリア・ファシズムの神話としての地中海(特集,回帰する地中海)」現代思想23(6),1995年。)
(*)(参考：伊藤洋典「ハンナ・アレントにおける政治的なものの意味：二十世紀における「救済としての政治」」日本政治學會年報政治學46,1995年。)
(*)(参考：佐藤勝巳「韓国型軽水炉は「トロイの木馬」(焦点・論点)」現代コリア352,1995年。)
(*)一柳俊夫「書評 橋場弦著「アテナイ公職者弾劾制度の研究」」法制史研究44,1995年。
(*)(参考：島田誠「テオドシウス法典とローマ史研究(西洋古代史研究の最前線)」歴史評論543,1995年。)
(*)(参考：中川和彦「ヒスパニアにおけるローマ法の早期継受：ラテンアメリカ法講義覚え書き」成城法学48,1995年。)
(*)加藤恵司「三谷隆正の法思想：相生相活の法哲学を中心として」聖学院大学論叢7(1),1995年。
(*)鵜沼裕子「三谷隆正：その信仰と思想に関する一考察」聖学院大学論叢7(2),1995年。

(*)(参考：北村良和『聖人の社会学：市民社会とローマ法』玄文社,1995年。)
(*)(参考 : 樋脇博敏『古代ローマの非嫡出子研究』東京大学,博士(文学),甲第6215号,1996年。)
(*)西村重雄「イェーリングの明治日本への助言および叙勲：新出資料に基づく再検討」法政研究 61(3-4 上巻),1995 年。

(*)吾郷清彦『日本神代文字研究原典』愛蔵保存版,新人物往来社,1996 年。
(*)石川三四郎・山川均・新村出著『日本国民性の研究』大空社,叢書日本人論11,1996年。
(*)工藤慶三郎『日本の国を作り堅めたのはディオニュソスである』北の街社,1996年。
(*)上杉滋『超古代史の検証：竹内文書』柳七郎,1996年。
(*)長山靖生『偽史冒険世界：カルト本の百年』(木村鷹太郎)筑摩書房,1996年(→2001年,ちくま文庫版。)
(*)(参考：河底尚吾「発展軸における文明と類性—通路から見た都市文明[含・資料]」横浜経営研究16(3),1996年。)
(*)(参考 : フォワニ他著/野沢協・植田祐次訳『啓蒙のユートピア(3巻)』(アルカディア)法政大学出版局, 1996-2008年。
(*)色川大吉・松本栄一「岡倉天心のインドを旅する〈アジアはひとつの夢〉」太陽34(10),1996年。
(*)(参考：山西龍郎『音のアルカディア：角笛の鳴り響くところ』ありな書房,1996年。)
(*)(参考：中央大学人文科学研究所編『現代ヨーロッパ文学の動向：中央と周縁』(小田島恒志「英国性の探究：トム・ストッパード『アルカディア』」研究叢書15,中央大学)出版部,1996年。)
(*)(参考：フォワニ他/野沢協・植田祐次監修『啓蒙のユートピア(1,2,3)』（ベルナルダン・ド・サン=ピエール「アルカディア」）法政大学出版局,1996年。)
(*)(参考：山西龍郎『音のアルカディア：角笛の鳴り響くところ』ありな書房,1996年。)
(*)『文化交流史展 : 日本人のみた西洋・西洋人のみた日本』京都外国語大学付属図書館,1996年。)
(*)(参考：本城靖久『トーマス・クックの旅：近代ツーリズムの誕生』講談社現代新書,講談社,1996年。)
(*)(参考：本城靖久「知られざる有名人トーマス・クック」本21(7),1996年。)
(*)宍戸直『オリンピア：随想集』宍戸直,1996年。
(*)小泉実「イタリアスケッチ紀行(1)イタリアの環境」照明学会誌80(6),1996年。
(*)小泉実「イタリアスケッチ紀行(2)ヴェネチアの都市環境」照明学会誌80(9),1996年。
(*)小泉実「イタリアスケッチ紀行(3)フィレンツェ都市の環境」照明学会誌80(10),1996年。
(*)小泉実「イタリアスケッチ紀行(4)ローマの環境」照明学会誌80(12),1996年。
(*)(参考：山川廣司研究代表『ミュケナイ期東地中海世界における物的および人的移動・交流に関する研究』科学研究費補助金(一般研究C)研究成果報告書,平成5,6,7年度,北海道教育大学教育学部釧路校,1996年。)
(*)(参考：ひろたまさき「文化交流史の課題と方法」大阪大學文學部紀要 36,1996 年。)
(*)(参考 : 本村凌二「この世は恥辱と悪徳に満ち満ちているか—古代地中海社会の世界観モデル」(蓮實重彦・山内昌之編『地中海 終末論の誘惑』所収,UP選書,東京大学出版会,1996年。)
(*)(参考 : Graham Hancock「書想インタビューG.ハンコック「人類はかつて高度に発達した

文明が滅亡した“記憶”を喪失している」(熱血書想倶楽部—滅亡した超古代文明「ミステリー」の魅力)」サピオ8(16),1996年。)
(*)(参考：三浦新七著・國方敬司責任編集『中世基督教的統一 文明ト各国特殊文化ヘノ分岐』東西文明史3,三浦新七博士記念会,1996年。)
(*)(参考：島田加奈絵「古代文明と環境」環太平洋文化12,1996年。)
(*)(参考：奥田宏子他『ヨーロッパの都市と思想』神奈川大学人文学研究叢書12,勁草書房,1996年。)
(*)吉川弘之著者代表『防災』(ポンペイ等)東京大学出版会,東京大学公開講座63,1996年。
(*)(参考：W.イェンゼン,S.フロイト/種村季弘訳『グラディーヴァ：妄想と夢』(ポンペイ)作品社,1996年。)
(*)須賀敦子『ユルスナールの靴』河出書房新社,1996年(→1998年,河出文庫版)。
(*)須賀敦子「死んだこどもの肖像」文藝2月,春号,1996年。
(*)須賀敦子「黒い廃墟」(←原題「しずかな白い家[前半]」)文藝5月,夏号,1996年。
(*)須賀敦子「黒い廃墟」(←原題「しずかな白い家[後半]」)文藝5月,夏号,1996年
(*)須賀敦子「リヴィアの夢---パルテノン」ユリイカ1月号,1996年。
(*)須賀敦子「ヴェネツアの悲しみ」ユリイカ3月号,1996年。
(*)須賀敦子「やはりスカッパーナポリ」ユリイカ5月号,1996年。
(*)須賀敦子「舗石を敷いた道」ユリイカ8月号,1996年。
(*)須賀敦子「図書館の外側と内側」ユリイカ11月号,1996年。
(*)須賀敦子「ユスナールの小さな家」讀賣新聞11/29,1996年。
(*)須賀敦子「月と少女とアンドレア・ザシット」Spazio53,1996年。
(*)(参考：小笠原茂介「ローマの廃墟」亜土22(2次),1996年（→2001年,『地中海の月』所収,思潮社）。
(*)(参考：小笠原茂介「砕ける月」亜土24(2次),1996年（→2001年,『地中海の月』所収,思潮社。)
(*)(参考：臼井隆一郎「地中海の曙光—ニーチェの最後の港」(同上,所収,1996年)。)
(*)陣内秀信『光と陰の迷宮案内：ヴェネツィア』日本放送出版協会,1996年。
(*)(参考：加藤静雄『クレタ文明讃歌』サンエイジング,1996年。)
(*)(参考：堀内文三郎『ギリシャ先史時代の文化：ギリシア教育の源流』北樹出版,学文社(発売),1996年。)
(*)北条文緒「トルコ・クレタ紀行(上中下)」みすず38(8,9,12),1996年。
(*)小竹昭人「アジア雑記帳(22)トルコの近況(アナトリア編)」国際金融973,1996年。
(*)(参考：中村光男「古代アナトリアにおけるメソポタミア文学の受容とその変容」オリエント39(1),1996年。)
(*)益田朋幸文・写真『地中海紀行 ビザンティンでいこう!』東京書籍,1996年。)
(*)宍戸直『オリンピア：随想集』宍戸直,1996年。
(*)橋場弦「ギリシア歴史紀行—ギリシア(古代への旅)(前後)」歴史と地理489,492,1996年。
(*)(参考：K.ヘルト/井上克己・国方栄二他監訳『地中海哲学紀行(上)ミレトスからペラへ』晃洋書房,1996年。)
(*)(参考：K.ヘルト/井上克己・国方栄二他監訳『地中海哲学紀行(下)』晃洋書房,1996—98年。)
(*)(参考：加茂雄三『地中海からカリブ海へ』これからの世界史6,平凡社,1996年。)

(*)(参考：蓮見重彦・山内昌之編『地中海終末論の誘惑』UP選書273,東京大学出版会,1996年。)
----山内昌之「歴史の中の地中海：ブローデルの文明論によせて」
大貫隆「古代黙示文学の終末論：自然科学と終末予言」
池上修一「フィオーレのヨアヒムの千年王国説」
小池寿子「黙示図像の変遷」
秋山学「ビゼンティン思潮における終末論」
杉田英明「天路歴程譚の系譜：イスラーム世界とダンテ」
本村凌二「この世は恥辱と悪徳に満ち満ちているか：古代地中海社会の世界観モデル」
臼井隆一郎「地中海の曙光：ニーチェの最後の港」
宮下志朗「欲望の磁場：新婚旅行という「紋切型」について」
鈴木雅雄「「東方」よ,勝ち誇れる「東方」よ：シュルレアリスムと反=地中海の神話」
(*)高田三郎「回想の記(続・3)ギリシア」音楽の世界35(11),1996年。
(*)岩沢英士「イタリア紀行(1-7)」硫酸と工業49(2-8),1996年。
(*)(参考：川勝平太編『海から見た：ブローデル『地中海』を読む』藤原書店,1996年。)
----プロローグ：海洋史観への船出,ブローデル『地中海』と日本
第I部：ブローデルの「地中海」(基調報告「ブローデルの「地中海」とイスラムの海」としての地中海の視点」
コメント(「「地中海」と歴史学」「「地中海」とイスラム世界」
第II部：海から見た歴史(基調報告「海から見た歴史」
(*)(参考：樺山紘一『ルネサンスと地中海』世界の歴史16,中央公論社,1996年。)
(*)(参考：笹田恭史「スタンダールにおける喜劇と旅：「比較文明論」としての『ローマ,ナポリ,フィレンツェ(1826)』」立命館国際研究9(2),1996年。)
(*)(参考：上村哲彦『ロレンスのイタリア』彩流社,1996年。)
(*)(参考：マーク・トウェイン/飯塚英一訳『ヨーロッパ放浪記(上下)』マーク・トウェインコレクション 8,彩流社,1996年。)
(*)河口湖美術館編集『エトルスク展：壁画の原寸大写真と工芸』河口湖美術館,1996年。)
(*)(参考：大月康弘「イスタンブールのギリシア人：ギリシア-トルコ関係の中の少数集団」一橋論叢116(4),1996年。)
(*)(参考：宝木範義「イスタンブル物語(1-13)」日本美術工芸688-699,1996年/700,1997年。)
(*)(参考：益田朋幸文・写真『地中海紀行ビザンティンでいこう!』東京書籍,1996年。)
(*)(参考：K.ヘルト/國方栄二・井上克人監訳/北尻祥晃・勝道興・後藤博和訳『地中海哲学紀行(上)：ミレトスからペラへ』晃洋書房,1996年。)
(*)(参考：野町啓「アレクサンドリア断章」哲学会誌31,1996年。)
(*)(参考：ヘロドトス/ジャック・ラカリエール解説,幸田礼雅訳『エジプト：ヘロドトスの旅した国』新評論,1996年。)
(*)(参考：関隆志『パルテノンとギリシア陶器』世界美術双書3,東信堂,1996年。)
(*)河口湖美術館『エトルスク展：壁画の原寸大写真と工芸』河口湖美術館,1996年。
(*)(参考：水田徹研究代表[本概報執筆]・[研究分担者]日高健一郎・佐藤達生・河辺康弘他「パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的実地調査：第一次(1994年

度)概報」造形芸術学・演劇学：東京学芸大学造形芸術学・演劇学講座研究紀要1,1996年。)
(*)(参考 : M.コレース,G.A.パネツオス,関隆志編『パルテノン : 建築と保存=O Παρθενων=The Parthenon』ギリシャ文化財団,1996年。)
(*)(参考：福部信敏「[パルテノン研究ノート]ヘファイストス神殿との相互関係(メトープ)」美学・美術史学科報24,1996年。)
(*)(参考：澤柳大五郎撮影編集『アクロポリス』里文出版,1996年。)
(*)(参考：澤柳大五郎『ヘゲソの鼻』みすず書房,1996年。)
(*)シュミット,村木眞寿美「トルコの温泉(4)エーゲ海に温泉が湧き出している「ウルジャ」」(日本温泉協会編)温泉64(2),1996年。
(*)すぎやまこういち作曲；多和田吏編曲『ドラゴンクエストVI : 幻の大地=Dragon quest VI : piano solo album』(「エーゲ海に船出して」「ペガサス」(楽しいバイエルン併用)ドレミ出版出版社,1996年。
(*)ポール・モーリア『アニヴァーサリー・ツアー・コレクション』(Penelope/A.Alguero「エーゲ海の真珠」)録音資料,Canyon Interrnational,1996年。
(*)近畿日本ツーリスト『ギリシア・エーゲ海の本』旅のガイドムック,まめ15,1996年。
(*)『ギリシア・エーゲ海』JTBのポケットガイド107，日本交通公社出版事業部,1996年(→1999年,再版)。
(*)地球の歩き方編集室編『イスタンブールとトルコの大地』ダイヤモンド・ビッグ社,1996-97 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンド・ビッグ社,1996-97 年。
(*)地球の歩き方編集室編『フィレンツェと中世ルネッサンス都市』ダイヤモンド・ビッグ社,1996-97 年。
(*)友部直写真・文『エーゲ海美の旅』ショトル・ミュージアム,小学館,1996年。
(*)米山君江「エーゲ海スケッチ旅行」暮らしの手帖・第三世紀64,1996年。
(*)茶山照予「ジェニーときめきカレンダー エーゲ海の夏休み」小学二年生52(5),1996年。
(*)(参考：周藤芳幸「エーゲ海の都市生活」(金関恕・川西宏幸編『都市と文明』所収,講座文明と環境4,朝倉書店,1996年。)
(*)(参考：『自由が丘美術館：西洋古典素描・古典版画』貝瀬美術コレクション,1996年。)
(*)(参考：石川勝二『古代イタリア半島におけるローマ世界形成の研究』椙山女学園大学,愛媛大学1994年,(科研費)1996年。)
(*)勝又俊雄「古代ギリシア・ローマ,地中海の太陽(特集,太陽)」民族芸術12,1996年。
(*)(参考：蓮実重彦・山内昌之「“地中海”は現代の鏡だ(対談)」中央公論111(3),1996年。)
(*)(参考：秋山聡「デューラーの第2次イタリア滞在における「速筆」の意義」地中海学研究19,1996年。)
(*)(参考：杉田英明「葡萄樹の下に死骸を埋めよ：中東・地中海文学における一詩想」比較文学研究68.1996年。)
(*)(参考：杉田英明「〈走れメロス〉の伝承と地中海・中東世界」比較文学研究69,1996年。)
(*)(参考：川勝平太編『海から見た歴史：ブローデル『地中海』を読む』藤原書店,1996年。)
(*)(参考：ミシェル・モラ・ジュルダン/深沢克己訳『ヨーロッパと海』朝倉書店,1996年。)
(*)(参考：鵜沢隆「地中海をめざして―ル・コルビュジエとイタリア近代(ル・コルビュジエ)」建築文化51(600),1996年。)

(*)(参考:臼杵陽「ユダヤ人/教徒の言説としての「地中海」:序論的考察」一橋論叢116(4),1996年。)
(*)(参考:新原道信「地中海の「ケレオール」生成する“サリディーニャ人”」現代思想24(13),1996年。)
(*)(参考:鈴木規夫「〈多数者の力〉の唯一性 スピノザの地中海(総特集 スピノザ)」現代思想24(14),1996年。)
(*)(参考:鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(16)ヘンリー・ジェイムズ,ラスキンの影響,ヴェネツィア人の素朴性,固定願望」人文研究126,1996年。)
(*)(参考:鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(17)アンリ・ド・レニエの楽園ヴェネツィアへの愛」人文研究127,1996年。)
(*)(参考:鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(18)モーリス・バレスと死の町ヴェネツィア」人文研究128,1996年。)
(*)(参考:ルカ・コルフェライ著/中山悦子訳『図説ヴェネツィア:「水の都」歴史散歩』河出書房新社,1996年。)
(*)(参考:山辺規子『ノルマン騎士の地中海興亡史』白水社,1996年。)
(*)(参考:渡辺修『オルテガ』Century books,人と思想138,清水書院,1996年(→2014年,新装版)。)
(*)(参考:ゲラマヌ・ハンコック/大地舜訳『神々の指紋(上下)』翔永社,1996年(→1999年,小学館文庫版。ワーナーヴィジョンジャパ(発売)。)
(*)(参考:H.ユウム,S.ユコヤ,K.シミズ『「神々の指紋」の超真相』データハウス,1996年。)
(*)(参考:N.F.ジロフ/伊藤清久訳『アトランチス大陸研究原典』愛蔵保存版,新人物往来社,1996年。)
(*)(参考:テレビ東京・富士通提供『エーゲ:アトランティスの遺産』ポニーキャニオン(発売),1996年。)
(*)(参考:南山宏『沈黙の大陸:アトランティス・ミステリー徹底検証で浮かび上がった“伝説の超文明”の実在!!』学研,1996年。)
(*)(参考:ハンス・クナイフェル,クラーク・ダールトン/松谷健二訳『三惑星ゲーム』(アトランティス)ハヤカワ文庫,宇宙英雄ローダン・シリーズ,早川書房,1996年。)
(*)荻野弘之「アトランティスの夢を見たのは誰か:理想国家とコスモロジーの間」聖徳大学総合研究所論叢4,1996年。)
(*)(参考:研究代表者・浅香正『古代都市ポンペイの形成と機能に関する総合的調査』古代学協会・古代学研究所,科学研究費補助(国際学術研究)研究成果報告書 平成7年度,1996年。)
(*)(参考:野中真実「〈論文〉ハドリアヌス帝のヴィラの庭園構成について」杉野女子大学・杉野女子大学短期大学部紀要33,1996年。)
(*)(参考:『シリアの舗床モザイク:古典古代の遺産とキリスト教文明』岡山市立オリエント美術館,1996年。)
(*)(参考:杉原美智久「シリア・パルミラ遺跡の墓制」奈良大学大学院研究年報1,1996年。)
(*)(参考:大石楠娓「〈研究論文〉ミュケナイ美術の工芸:出土金属製品を中心に」宝塚造形芸術大学紀要10,1996年。)
(*)夛田祐子「京都大学文学部博物館所蔵ポルトラノ型地中海図に関する一考察」歴史地理学38(2),1996年。)
(*)(参考:辻佐保子先生献呈論文集刊行会編『美術史における軌跡と波紋』中央公論美術

出版,1996年。)
(*)(参考：シュテファン・ツヴァイク/片山敏彦訳『人類の星の時間』(ビザンチン)みすずライブラリー,みすず書房,1996年。)
(*)(参考：三浦朱門・曽野綾子・河谷龍彦『聖書の土地と人々』新潮社,1996 年(→2001 年,新潮文庫版)。)
(*)(参考：エティエンヌ・シャルパンティエ著/柳下崇子・椎尾匡文訳『旧約聖書の世界への旅』サンパウロ,1996 年。)
(*)(参考：月本昭男・小林稔編『聖書の風土・歴史・社会』日本基督教団出版局,1996年。)
----守屋彰夫「ペルシア時代のユダヤ史」
土岐健治「ヘレニズム・ローマ時代のユダヤ史」
荒井佑造「ローマ時代のユダヤ教」
出村みや子「新約聖書とヘレニズム思潮」
保坂高殿「新約聖書とローマ世界」
塚本明廣「聖書と死海文書」
小河陽「新約聖書とユダヤ教ラビ文献」
笠原義久「一世紀の東地中海世界の社会構造」
月本昭男「聖書時代史と考古学」
月本昭男「旧約聖書の時代：解説」
小林稔「新約聖書の時代：解説」
(*)(参考：エルンスト・フォン・ドプシュッツ/小林泰雄訳『聖書と文明の歴史』エルピス新書,エルピス,1996年。)
(*)(参考：原口貞吉『パウロの歩いた道』日本基督教団出版局,1996年。)
(*)(参考：金澤良樹「ヘレニズム下のエジプトにおける外来支配文化と在来伝統文化(1996年度歴史学研究会大会報告)—(〈特設部会2〉 土着と文化変容)」歴史学研究690,1996年。)
(*)(参考：近畿大学中央図書館編『エジプト誌：ナポレオンの残した文化遺産：近畿大学九州工学部創設30周年記念稀覯書展』近畿大学中央図書館,1996年。)
(*)(参考：渡辺健治「私にとっての「ナポレオンの『エジプト誌』」--本との出会い」びぶろす47(4),1996年。)
(*)(参考：ヘロドトス原著/ジャック・ラカリエール解説/幸田礼雅訳『エジプト—ヘロドトスの旅した国』新評論,1996年。)
(*)中島皆夫「坪井正五郎の人類学と考古学」考古学史研究6,1996年。
(*)(参考：北田葉子「アカデミア・フィオレンティナの誕生：君主国家下におけるフィレンツェ文化の様相」史学65(4),2006年。)
(*)(参考：ルッツ・ホイジンガ/石井元章訳『ミケランジェロ：マニエリスムへの流れ』イタリア・ルネサンスの巨匠たち25,東京書籍,1996年。)
(*)(参考：ウード・クルターマン/勝國興・高阪一治訳『美術史学の歴史』中央公論美術出版,1996年。)
(*)(参考：松居竜五・小山騰・牧田健史『達人たちの大英博物館』講談社メチエ選書,1996年。)
(*)(参考：ひろさちや原作・森村たつお漫画『ガンダーラ物語』仏教コミックス,仏教を伝えた人と道,鈴木出版,1996年。)

(*)(参考：小谷仲男『ガンダーラ美術とクシャン王朝』東洋史研究叢刊51,同朋舎出版,1996年。)
(*)(参考：宮治昭『ガンダーラ仏の不思議』講談社選書メチエ90,講談社,1996年。)
(*)(参考：藤田弘基撮影『ガンダーラの遺宝』ぎょうせい,1996年。)
(*)(参考：伴野朗『反骨列伝』PHP研究所,1996年。)
(*)(参考：塩野七生・岡本行夫「岡本行夫の「日本人を思う」対談(12)ローマ人の誇り日本人の誇り」外交フォーラム9(8),1996年。)
(*)(参考:塩野七生「書想インタビュー 塩野七生「カエサルの改革と日本」」サビオ8(12),1996年。)
(*)(参考:塩野七生・佐々淳行「特別対談後編 すべての日本人よ,今こそ,ルビコン川を渡れ」プレジデント34(8),1996年。)
(*)(参考：平田行雄『私はこうして英語を征服した：18カ国語を独学でマスターしたシュリーマンに学ぶ』ごま書房,1996年。)
(*)野中夏美「エッセイ 西洋古代地名・人名のカタカナ表記をめぐって」プロピレア 8,1996年。
(*)岩倉翔子「イタリア語の資料から見た岩倉使節団：カゼルタ王宮訪問の場合」イタリア学会誌 46,1996 年。
(*)泉三郎『堂々たる日本人—知られざる岩倉使節団』祥伝社,1996年。
(*)小笠原幹夫「津山藩と洋学—津田眞道と箕作麟祥を中心に」作陽音楽大学・作陽短期大学研究紀要29(1),1996年。)
(*)阿刀田高「岩波文庫創刊70年記念—私の三冊[含・書名索引]」図書571,1996年。)
(*)(参考：青木英夫『西洋くらしの文化史』雄山閣,1996年。)
(*)(参考：ペータ・シュトリーダー/勝國興監訳『デューラー』中央公論社,1996年。)
(*)(参考：中江彬「ミケランジェロと《ダヴィデ》」人文学論集14,1996年。)
(*)(参考：ルッツ・ホイジンガ/石井元章訳『ミケランジェロ：マニエリスムへの流れ』イタリア・ルネサンスの巨匠たち25,東京書籍,1996年。)
(*)(参考：森田直子「エリオットの文化論」札幌大学女子短期大学部紀要28,1996年。)
(*)(参考：池内静司「T.S.エリオットの伝統論の変容(1)伝統論の形成とF.H.ブラッドリー」(北海学園大学)学園論集90,1996年。)
(*)(参考：中央大学人文科学研究所編『現代ヨーロッパ文学の動向：中心と周縁』(小田島恒志「英国性の探究：トム・ストッパー『アルカディア』」)研究叢書15,中央大学出版部,1996年。)
(*)(参考:名取四郎「教会堂建造に参加した人々--後期古代のローマ,ラヴェンナ,グラードを例として」キリスト教学38,1996年。)
(*)(参考：ウード・クルターマン/勝國興・高阪一治訳『美術史学の歴史』中央公論美術出版,1996年。)
(*)(参考：安田喜憲・菅原聡編『森と文明』講座文明と環境9,朝倉書店,1996年。)
----安田喜憲「森と文明」/北村昌美「東西の森林観」/安田喜憲「地中海文明の興亡と森林破壊」
(*)(参考：伊東俊太郎・安田喜憲編『地球と文明の画期』講座文明と環境2,朝倉書店,1996年。)
----中井義明「ギリシア文明とその画期」

川窪啓資「トインビーにおける文明の興亡」
(*)(參考：O.シュペングラー/村松正俊訳『西洋の没落』新装縮約普及版,五月書房,1996年。)
(*)(參考:安田喜憲・林俊雄編『文明の危機:民族移動の世紀』講座文明と環境5,朝倉書店,1996年。)
(*)(參考：寺尾誠編『都市と文明』ミネルヴァ書房,1996年。)
(*)(參考:奥田宏子編『ヨーロッパの都市と思想』神奈川大学人文研究叢書12,勁草書房,1996年。)
(*)(參考：山折哲雄・中西進編『宗教と文明』講座文明と環境13,朝倉書店,1996年。)
(*)(參考：吉澤五郎「報告 4 文明と聖なるもの(特集 文明と価値—その転換に向けて)—(シンポジウム 文明とモラル)」比較文明 12,1996 年。)
(*)(參考：松岡正剛監修『情報の歴史：象形文字から人工知能まで』(増補版。「古代世界のデータベース」)NTT出版,1996年。)
(*)(參考：ケン・ウィルバー/大野純一訳『万物の歴史』春秋社,1996 年(→2000 年,新装版)。)
(*)岸野久・村井早苗編『キリシタン史の新発見』雄山閣出版,1996 年。
(*)新城岩夫「堀達之助他編『英和対訳袖珍辞書』の日本英学における役割についての一考察」言語文化研究・中部大学女子短期大学紀要 7,1996 年。
(*)大島智夫『ヘボン「和英語林集成」の背景』明治学院大学キリスト教研究所,1996年。
(*)ことわざ研究会編集『元田作之進・越山平三郎著『和諺英訳集・英和対訳西洋古語格言』(復刻)大空社,続ことわざ研究資料集成,第 8 巻,1996 年。
(*)(參考：小林絢子「ジョンソンの「英語辞書」と英国人の心」英語英文学研究 2,1996 年。)
(*)赤羽根広重『日本太古事典(上下)』出版の月光庵,1996年(→1998年)。
(*)(參考：地中海学会編『地中海事典』三省堂,1996年。)
(*)(參考：ダニエル・フイユー(他)/榊原晃三監訳『聖書文化辞典』本の友社,1996年。)
(*)(參考：ジョアン・コメイ『旧約聖書人名事典』東洋書林,原書房[発売],1996年。)
(*)(參考：上智学院新カトリック大事典編纂委員会編『新カトリック大事典(全4巻,総索引・別巻』研究社,1996年。)
(*)寺沢芳雄「21世紀に備える『新カトリック大事典』」學燈 93(9),1996年。)
(*)(參考：朝倉治彦・三浦一郎編『世界人物逸話大事典』角川書店,1996年。)
(*)(參考：吉田五十穂訳編『伊呂波分西洋人名辞典』大空社,明治期外国人名辞典1,1996年。)
(*)朝倉治彦監修・石山洋他編『江戸文人辞典：国学者・漢学者・洋学者』東京堂出版,1996年。
(*)(參考：ノコラス・デ・ランジュ/板垣雄三監修・長沼宗昭訳『図説世界文化地理大百科ジューイッシュ・ワールド』朝倉書店,1996年。)
(*)(參考：山田武太郎『万国人名辞書』大空社,明治期外国人名辞典2-5,1996年。
(*)(參考：阪本健一編『外国地名人名辞典：増訂』明治期外国人名辞典6,大空社, 1996年。)
(*)(參考：『明治期外国人名辞典』大空社,セット,別冊解説,1996年。)
(*)磯田光一他編『新潮日本文学辞典』新潮社,増補改訂7刷,1996年。
(*)『西洋文学移入史料集成』ナダ書房,1996年。
(*)鈴木徹造『出版人物事典：明治-平成物故出版人』出版ニュース社,1996年。
(*)尾高豊作編『教育人名大事典』東出版,復刻版,辞典叢書13,1996年。
(*)石山洋・鈴木理枝・南敬治編『江戸文人辞典:国学者・漢学者・洋学者』東京堂出版,1996年。)

(*)『澁澤龍彦事典：Encyclopedia Draconia』コロナ・ブックス9,平凡社,1996年。
(*)竹岡友三『医家人名辞書』東出版,復刻版,辞典叢書14,1996年。
(*)(参考：エリザベス・ハラム/鏡リュウジ・宇佐和通訳『聖者の事典』柏書房,1996年。)
(*)(参考：ダイアナ・ブルートン/鏡リュウジ訳『月世界大全：太古の神話から宇宙科学まで』青土社,1996年(→2014年,新装版)。)
(*)(参考：大槻真一郎編『記号・図解錬金術事典』同学社,1996年。)
(*)杉本つとむ『西洋学事始め十講』(エピクロス等)スリーエーネットワーク,1996 年。
(*)平石直昭『一語の辞典—天』三省堂,1996 年。
(*)一海知義『一語の辞典—風』三省堂,1996 年。
(*)(参考：山口幸洋他『言語文化の歴史的発展に果たした辞書の役割に関する特定研究：研究成果報告書』静岡大学人文学部言語文化学科,1996 年。)
(*)齋藤文俊『翻訳書を中心にした明治期漢文訓読体の研究』名古屋大学 1996 年,(科研費)1996 年。
(*)田中隆尚編『呉茂一先生の手紙：野間祐輔宛書簡集』小沢書店,1996 年。)
(*)前田保「滝沢克己と井筒俊彦—その言語哲学の比較」比較思想研究 23,1996 年。
(*)神田記念事業委員会編『神田乃武先生追憶遺稿=Memoires od Naibu Kanda』伝記叢書,大空社,1996年。
(*)佐々木涇「辻邦生著作文献目録(1,2,3,4,5,6,7,8)」長野大学紀要18(3),1996年/18(4),19(1),1997年/20(1),1998年/21(1),1999年/22(1),2000年/23(1),2001年/24(1),2002年/。
(*)「内藤克彦 略歴と業績」(南山大学)アカデミア,文学・語学編60,1996年。
(*)(参考：L.D.レイノルズ,N.G.ウィルソン/西村賀子・吉武純夫訳『古典の継承者たち：ギリシア・ラテン語テクストの伝承にみる文化史』国文社,1996年。)
(*)(参考：ジョン・チャドウィック・ウィック/細井敦子・矢島文夫訳『線文字B：古代地中海の諸文字』大英博物館双書3,失われた文字を読む,学藝書林,1996年。)
(*)(参考：矢島文夫「失われた文字とことばの探究」言語25(8),1996年。)
(*)(参考：矢島文夫『図説エジプト文字入門：ヒエログリフ』河出書房新社,1996年。)
(*)(参考：ヴィヴィアン・デイヴィス著/塚本明廣・矢島文夫訳『エジプト聖刻文字』學藝書林,1996年。)
(*)(参考：ラリッサ・ボンファンテ著/小林標・矢島文夫訳『エトルリア語』學藝書林,1996年。)
(*)(参考：ジョン・ヒーリー著/竹内茂夫・矢島文夫『初期アルファベット』學藝書林,1996年。)
(*)(参考：ヴブライアン・クック著/細井敦子・・矢島文夫訳『エジプト聖刻文字』學藝書林,1996年。)
(*)(参考：風間喜代三「解読の真と偽(特集 失われた言葉の発掘—過去のへのフィールドワーク)」言語25(8),1996年。)
(*)(参考：山沢考至「ヨーロッパ(Europe)とは何の謂か—語源をめぐる小考」(神戸大学)近代80,1996年。)
(*)(参考：小野茂「フィロロジーの愉しみ(1~12)」英語青年142(1~9),1996年/142(10~12),1997年。)
(*)(参考：ラリッサ・ボンファンテ/小林標訳『エトルリア語』大英博物館双書,失われた文字を読む,學藝書林,1996年。)

(*)(参考：ブライアン・クック/細井敦子訳『ギリシア語の銘文』大英博物館双書；失われた文字を読む,學藝書林,1996年。)
(*)(参考：ケネス・S.ウェスト『ギリシア語新約聖書の実用法』ノア書房,1996年。)
(*)(参考：川端由喜男編訳『使徒行伝』ギリシア語新約聖書・日本語対訳5,教文館,1996年。)
(*)(参考:上村忠男「ホメロスのひび割れた台座(1)ヴィコにおけるフィロロジーの改革構想」みすず238(12),1996年。)
(*)(参考：竹島俊之「古典ギリシャ語の構文論研究—ポリュビオス「歴史」における συμβαίνειν」プロピレア8,1996年。)
(*)(参考：田口まゆみ「十字架伝説—英語・アングロ・ノルマン語,ラテン語を比較して」大阪産業大学論集 人文科学編 89,1996 年。)
(*)(参考：和田葉子「ラテン語が読めなかった男達—中世英国における英語の本の意義」関西大学東西学術研究所紀要 29,1996 年。)
(*)吉田聖「Q：ラテン語写本“HORAE”とは?A：『時祷書』即ち『小聖務日課』!—日本唯一の「中世ラテン語写本」“HORAE”(古川美術館所属)の解読研究」南山神学19,1996年。
(*)(参考：逸身喜一郎「ラテン語初歩の初歩(1-5)」言語25(8-11),1996年。)
(*)(参考：サン・スピルス会諸師『ラテン文法演習編：Exercitia latina(上,基礎編)』3訂版,サンパウロ,1996年。)
(*)(参考：平田行雄『私はこうして英語を征服した：18ヶ国語を独学でマスターしたシュリーマンに学ぶ』ごま書房,1996年。)
(*)左近司祥子「語学教育理想論(特集 第二外国語の問題を考える)」学習院大学言語共同研究所紀要20,1996年。
(*)(参考：元田作之進・越山平三郎『和諺英訳集：英和対訳西洋古語格言』続ことわざ研究資料集成8,ことわざ研究会編,大空社,1996年。)
(*)(参考:上村忠男「ホメロスのひび割れた台座(1)ヴィーコにおけるフィロロジーの改革構想」みすず38(12),1996年。)
(*)(参考：河島英昭「イタリア語,イタリア文学,そして私」群像51(4),1996年。)
(*)(参考：ノルベルト・フォン・ゲリングラード/三ツ木道夫訳「ヘルダーリンの翻訳原理：ピンダロス翻訳の芸術的性格」同志社外国文学研究74,1996年。)
(*)(参考：鈴木広光「〈神〉と〈霊〉の中国語訳をめぐるプロテスタント宣教師の論争(1)」文化研究10,1996年。)
(*)(参考：小林絢子「「トロイルスとクレセイデ」写本間の異同と型と語彙の交替」東京家政大学研究紀要36(1),1996年。)
(*)(参考:細井敦子「平成 5 年度後期海外研究報告書(2)リュシアス作品古写本に関する補遺」成蹊大学文学部紀要31,1996年。)
(*)古根村政義「パソコンによるギリシア・ローマ翻訳書誌」(日本図書館協会)現代の図書館 34(2),1996 年。
(*)(参考：山中由里子「国際会議「アラブ世界における比較文学」に参加して」比較文學研究 68,1996 年。)
(*)(参考：齋藤稔「西洋の人文主義と人文学としてのアルス(芸術)(1,2)」山形大學紀要,人文科學 13(3),1996 年/13(4),1997 年。)
(*)(参考：オルテガ・イ・ガセット/井上正訳『大学の使命』玉川大学出版部,1996 年。)

(*)(参考：エミール・バンヴェニスト,グラルド・ニョリ編/前田耕作編訳『ゾロアスター教論考』(田中昌司訳「主要なギリシア語文献に見るペルシア人の宗教」)東洋文庫,平凡社,1996 年。)
(*)(参考：横田理博『ウェーバーのエートス論の倫理学的継承：ウェーバー宗教社会学の基礎概念についての一考察』東京大学,博士(文学),甲第 11582 号,1996 年。)
(*)『荻原英彦・青島宏志・内田勝人』楽譜(青島広志「オリンポスは笑う」)日本の作曲家によるオリジナル作品集,ピアノ連弾名曲シリーズ,ピアノ・デュオ・コレクション,全音楽譜出版社,1996 年。
(*)(参考：西洋史研究会編輯「『ヨーロッパにおける宗教とそのかたち』：古代ギリシアの神殿と中世の修道院：公開講演会」東北大学文学部西洋史研究室,1996 年。)
(*)(参考：三輪福松『西洋美術の主題と物語：ギリシャ神話と聖書から』朝日選書 558,朝日新聞社,1996 年(←1971 年,美術出版社版)。
(*)(参考：藤本雅樹「ロバート・フロスト：ニューハンプシャーとアルカディア：地方神話」追大英文学会論集 5,1996 年。)
(*)(参考：デイヴィッド・ケイヴ/吉永進一・奥山倫明訳『エリアーデ宗教学の世界：新しいヒューマニズムの希望』せりか書房,1996 年。)
(*)(参考：ミルチャ・エリアーデ/住谷春也訳『妖精たちの夜(2 巻)』作品社,1996 年。)
(*)(参考：高橋明彦「賢くあれ,アリアドネ!—ニーチェ「ディオニュソス・ディテュランボス」第7歌の詩法(2)」上智大学ドイツ文学論集33,1996年。)
(*)(参考：藤本啓子「ディオニュソス像の変遷からみたニーチェの〈悲劇〉(向井守教授退官記念号)」愛知：φιλοσφια12/13,1996年。)
(*)(参考：篠塚千恵子「テセウスの舟--「フランソワの甕」再考(2)」地中海学研究19,1996年。)
(*)(参考：古川賢「密儀のディオニュソス—ディオニュソスをめぐるシェリングの思索」哲学雑誌 111(783),1996 年。)
(*)(参考：古川賢「積極哲学としての神話の哲学」東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室論集 15,1996 年。)
(*)(参考：北川れい子・渡辺祥子他「誘惑のアフロディーテ」キネマ旬報 1210,1996 年。)
(*)(参考：後藤卓也「D.レンツェンの〈神話学〉構想と〈関係史〉の接点(第一部『大人と子供の関係史 第一論集』合評会)—(誌上討論会—合評会を承けて)」大人と子供の関係史 2,1996 年。)
(*)(参考：金井英一「H.v.クライスト『アンフィトリオン』序説：その神話と秘儀」東海大学紀要,外国語球威句センター17,1996 年。)
(*)(参考：平野隆文「Pierre de Lancre を読む Collin de Plancy : Dictionnaire Infernal の中の「神話」,「護教」,「文学」」青山フランス文学論集[復刊]5,1996 年。)
(*)(参考：藤原雅子「Endymion における神話エピソードの意味」学術研究,英語・英文学編 45,1996 年。)
(*)(参考：戸田仁『イギリス文学と神話』大学教育出版,1996 年。)
(*)(参考：OKUDA Kihachiro「近代英文学に現われた「虹」の象徴性」奈良教育大学教育研究所紀要 32,1996 年。)
(*)(参考：小出卓二「神話にみる女性」長野女子短期大学研究紀要 8,1996 年。)

(*)(参考：栩木湊「ヴォルテール思想における自然と神性：『エウヘメロス対話』研究I：第 1.第 2 の対話」駒澤女子大学研究紀要 3,1996 年。)
(*)(参考：小田桐光隆「フランス演劇におけるオイディプス神話：その文学的伝統素描」上智大学仏語・仏文学論集 30,1996 年。)
(*)(参考：村山俊一郎「ヴァレリーと「神話」：主題化されざる神話の問題の考察」藝文研究 70,1996 年。)
(*)(参考：上野理恵「M.ヴルーベリ論—デーモン像における自己イメージの神話化」早稲田大学大学院文学研究科紀要,第 2 分冊 42,1996 年。)
(*)(参考：中島智章「9218 太陽神神話の継承：ヴォー=ル=ヴィコント城館がヴェルサイユ宮殿へ及ぼしたアポロン神話の諸主題に関する影響について」学術講演梗概集,F-2,建築歴史・意匠 1996,1996 年。)
(*)(参考：松家理恵「キーツの初期の詩とアポローン」国際文化学研究：神戸大学国際文化学部紀要 6,1996 年。)
(*)(参考：藤本雅樹「ロバート・フロスト：ニューハンプシャーとアルカディア：地方神話」追大英文学会論集 5,1996 年。)
(*)(参考：松山雄三「青年期ヘルダーの神話論について」東北薬科大学研究年報 一般教育関係論集 10,1996 年。)
(*)(参考：菅原潤「なぜ神話が必要なのか—シェリングの哲学的神話論をめぐって(特集,ゲーテとロマン主義哲学)」モルフォルギア(18),1996 年。)
(*)(参考：菅原潤「歴史のアプリオリとアポステリオリ—シェリング神話論の展開(特集,シェリング・哲学と宗教)」理想 657,1996 年。)
(*)(参考：柴野八洲子「シャマーニズムと卵生神話—死と再生への儀式」生活文化史 30,1996 年。)
(*)(参考：「西洋絵画の主題物語(2)神話篇」美術手帖 728,1996 年。)
(*)(参考：佐藤恒敬「神話,伝説,祭儀と文学」明治大学人文科学研究所紀要 39,1996 年。)
(*)(参考：Hartmut Zinger/山田仁史訳「神話の諸理論」現代思想 24(3),1996 年。)
(*)(参考：篠田知和基「I.神話と文学(講演要旨)」日本フランス語フランス文学中部支部研究報告集 20,1996 年。)
(*)(参考：入江和生「ローマ史劇と神話」共立女子大学文芸学部紀要 42,1996 年。)
(*)(参考：小川正広「ミュートスからロゴスへ?ブリストル・コロキアム=ギリシア神話=に出席して」学術の動向 1(9),1996 年。)
(*)(参考：エミール・バンヴェニスト/田中昌司訳「主要なギリシア語文献に見るペルシア人の宗教」(エミール・バンヴェニスト他/前田耕作編・監訳『ゾロアスター教論考』所収,平凡社,東洋文庫,1996年。)
(*)(参考：古川堅司「古代ギリシアの祭典：パルテノン・フリーズとパンアテナイア祭」獨協大学教養諸学研究30(2),1996年。)
(*)(参考:ジェーン･E.ハリソン/佐々木理訳『古代芸術と祭式』ちくま学芸文庫,筑摩書房,1996年。)
(*)(参考：千葉政助『愛と別れと嫉妬と：ギリシア神話気まぐれな神々：千葉政助画文集』中教出版,1996 年。)
(*)(参考：松平千秋「二つの『トロイア戦記』」(中央大学)中央評論 218(48-4),1996 年。)
(*)(参考：四方田犬彦『オデュセウスの帰還』自由国民社,1996 年。)

(*)田村道美「野上弥生子訳「ギリシア・ローマ神話」と「古代ギリシア祭文」」香川大学教育学部研究報告,第 1 部 99,1996 年。)
(*)(参考：北川れい子・渡辺祥子(他)「魅惑のアフロディーテ」キネマ旬報1210,1996年。)
(*)(参考：高橋美矢子「ミロのヴィーナスの体幹の造像に関する一考察」美実解剖学雑誌3(2),1996年。)
(*)(参考：亀田正雄「〈退職記念特別講義〉おしゃべり西洋の美術：ヴィーナスの盛衰(安彦勘吾・亀田正雄教授退職記念号)」日本文化史研究25,1996年。)
(*)(参考：F.キュモン/小川英雄訳『古代ローマの末世観』平凡社,1996年。)
(*)(参考：吉田敦彦他『古代秘教の本』学習研究社,1996年。)
(*)(参考：ミシェル・ヴォヴェル/富樫瓔子訳『死の歴史：死はどのように受け入れられてきたのか』「知の再発見」双書63,創元社,1996年。)
(*)(参考：エレーヌ・ベイゲルス/荒井献・湯本和子訳『ナグ・ハマディ写本：初期キリスト教の正統と異端』白水社,1996 年。)
(*)(参考：月本昭男編『創成神話の研究』リトン,宗教史論叢 6,1996 年。)
(*)(参考：関根清三『旧約における超越と象徴：解釈学的経験の系譜』東京大学,博士(文学),乙第 12759 号,1996 年。)
(*)(参考：戸田聡「キリスト教修道制の生成とマニ教：エジプトとシリアの場合」日本中東学会年報 1,1996 年。)
(*)(参考：小山宙丸「ヘレニズムとヘブライズムの融合試論(2)パウロとソクラテスの場合」早稲田大学大学院文学研究科紀要,第 1 分冊 42,1996 年。)
(*)(参考：武邦保「「使徒パウロの『知』と『信』--ルカ文書に現れたヘレニムズ批判」同志社女子大学学術研究年報 47(3),1996 年。)
(*)(参考：K.パイシュラーク/掛川富康訳『ヘレニズム的ユダヤ教からニカイア公会議まで』キリスト教教義史概説,教文館,1996 年。)
(*)(参考：McLynn Neil「テオドシウス,スペイン,ニケーア信条」西洋史研究 25,1996 年。)
(*)(参考：木幡藤子・青野太潮編『現代聖書講座 2—聖書学の方法と諸問題』日本基督教団出版部,1996 年。)
(*)(参考：J.H.チャールズワース編/山岡健訳『イエスと死海文書』三交社,1996 年。)
(*)J.C.ヘボン訳『新約聖書馬可傳』ゆまに書房,近代邦訳聖書集成 15,1996 年。
(*)(参考：佐藤研・小林稔訳『福音書・新約聖書』岩波書店,1996 年。)
(*)(参考：大貫隆『福音書と伝記文学』岩波書店,1996年。)
(*)(参考：サンドメル・サミュエル/平野知子・河合一充訳『ユダヤ人から見た新約聖書』ミルトス,1996年。)
(*)(参考：久保田周『聖書はなぜ神の言葉か：ギリシア語聖句解説120講』聖燈社,堺キリスト教書店,1996年。)
(*)(参考：飯坂良明『新約聖書に学ぶ—聖句講解90』世界思想社,1996年。)
(*)(参考：青野太潮訳『パウロ書簡』新約聖書4,岩波書店,1996年。)
(*)(参考：アンネ・デ・グラーフ作/ホセ・ペレス・モンテロ絵/竹中弥生約『子どもの聖書物語』サンパウロ,1996年。)
(*)(参考：支倉寿子「訳語の選択—福音書の中のμοιχείαとπορνεία」青山国際政経論集38,1996年。)
(*)(参考：関根応之「『ヨハネ黙示録』の文体的特色—聖書原文・訳文との比較・対照」

大東文化大学紀要・人文科学 34,1996 年。)
(*)(参考：高橋三郎『第一テサロニケ書講義：病床雑感』教文館,1996 年。)
(*)(参考：荒井献「マグダラのマリア小論--〈遊女〉説の起源に寄せて」(J.クラン/福井美津子訳『マグダラのマリア』所収,岩波書店,1996年。)
(*)(参考：シルヴィ・バルネイ/近藤真理訳『マリアの出現』せりか書房,1996年。)
(*)(参考：稲垣良典『天使論序説』講談社学術文庫,講談社,1996年。)
(*)「伊吹雄教授略歴・業績表」人文学報267,1996年。
(*)「春の集会報告—神田[盾夫]先生夫妻と私」ペディラヴィウム会通信20,1996年。
(*)荒井直「祝祭的パイデイアの旅」ペディラヴィウム会通信20,1996年。
(*)(参考：柴田竹夫「チョーサーと聖母マリア(1,2)」神戸親和女子大学英語英文学16,1996年/17,1997年。)
(*)兼子盾夫「遠藤周作における神の問題:『沈黙』と『深い河』」湘南工科大学紀要30(1),1996年。
(*)大平剛「吉満義彦の「近代の超克」論—遠藤周作の初期のテーマを理解するために」国語国文研究103,1996年。
(*)笠原芳光「四人のキリスト者(特集 日本人に宗教はあるか)」--(異文化としての宗教)」仏教35,1996年。
(*)(参考：高際澄雄「トバイアス・スモレット他編『万国史』の構成に関する調査」宇都宮大学国際学部研究論集 2,1996 年。)
(*)片桐一男(代表)『外国文化の受容過程と言語』青山学院大学総合研究所人文学系センター,1996年。
(*)稲田耕治郎「芥川龍之介「侏儒の言葉」とアナトール・フランス「エピクロスの園」との関係について」近代文学研究会会報 17,1996 年。
(*)綱沢満昭「清沢満之試論」近畿大学教養部紀要 28(2),1996 年。
(*)加藤正夫『宗教的改革者 村松介石の思想:東西思想の融合を図る』近代文芸社,1996 年。
(*)神田記念事業委員会編『Memories of Naibu Kanda—神田乃武先生追憶及遺稿』大空社,伝記叢書 214,1996 年。
(*)福西信幸「大正期における谷本富の教育思想」梅花女子大学文学部紀要/人文・社会・自然科学篇 28,1996 年。
(*)鈴木直枝「明治前期の学術書にみる翻訳態度—有賀長雄訳『標註斯氏教育学』をめぐって」国語学研究 35,1996 年。
(*)尼ヶ崎徳一「1950年頃の京大哲学科のこと:附「友情論」の古典について」龍谷哲学23,1996年。
(*)[呉茂一著]田中隆尚編『呉茂一先生の手紙：野間祐輔宛書簡集』小沢書店,1996 年。
(*)池田晶子「形而上学的一撃(9)田中美知太郎さん」諸君!28(8),1996 年。
(*)坪内祐三「戦後論壇の巨人たち(2)田中美知太郎」諸君!28(8),1996 年。
(*)坪内祐三「戦後論壇の巨人たち(4)林達夫」諸君!28(10),1996 年。
(*)澤田助太郎『ロダンと花子』中日出版社,1996 年。
(*)浜本隆志「加納武著『アフォリズムの誕生』」世界文学 84,
(*)(参考：逸身喜一郎『古代ギリシヤ・ローマの文学：韻文の系譜』放送大学教材、放送大学教育振興会,1996 年(→2000 年,再版)。)

(*)(参考：藤縄謙三『[増補版]ホメロスの世界』新潮選書,新潮社,1996 年(←1975 年,角川書店刊。)
(*)(参考：四方田犬彦『オデュッセウスの帰還』自由国民社,1996 年。)
(*)(参考：川島重成『『オイディプース王』を読む』講談社学術文庫,講談社,1996 年。)
(*)(参考：小澤克彦「プラトンとギリシア悲劇」岐阜大学教育学部研究報告・人文科学 44(2),1996 年。)
(*)(参考：古澤ゆう子「ヘーゲルの『アンティゴネー』解釈の批判的考察」ヘーゲル学報 3,1996 年。)
(*)(参考：吉村亨「独裁と民衆のはざまで：ハーゼンクレーバーの『アンティゴネー』への一考察」明石工業高等専門学校研究紀要 39,1996 年。)
(*)(参考：丹下和彦『ギリシア悲劇研究序説』東海大学出版会,1996 年。)
(*)北嶋美雪「ギリシヤ悲劇を「読む」楽しさ」図書 564,1996 年。
(*)(参考：L.D.レイノルズ・N.G.ウィルソン/西村賀子訳『古典の継承者たち：ギリシア・ラテン語テクスト伝承にみる文化史』国文社,1996 年。)
(*)新井美穂・小河陽・金子敬一(他)「座談会 キリスト教学科 50 年—回顧と展望[立教大学キリスト教学科発足 50 周年記念号]」キリスト教学 38,1996 年。
(*)府川源一郎「『小学国語読本』の教材「稲むらの火」をめぐって」(百合若)横浜国立大学教育紀要 36,1996 年。
(*)樋口正明「『神々の微笑』について：中国旅行・外国文学との関連」(百合若)文星紀要 8,1996 年。
(*)河鍋暁斎記念美術館編『ことわざ絵と暁斎=Kotowaza-e and Kyosai』河鍋暁斎記念美術館,1996 年。
(*)河鍋暁斎画・日本アートセンター編『河鍋暁斎』新潮日本美術文庫 24,新潮社,1996 年。
(*)富真洋一,Michael I.Gosmancho『Aesop’s fables for writing practice』金星堂,1996 年。
(*)中川正文やく・長新太え『いそっぷのおはなし』復刻版,こどものとも 92,福音館書店,1996 年。
(*)バッティスタ絵；バッティスタ絵『イソップのお話,ラ・フォンテーヌのお話』世界名作絵本 22,ティービーエス・ブリタニカ,1996 年。
(*)[Browning]“The pied piper of Hamelin.Aesop.La Fontaine”世界名作絵本[英語版 CD]6,TBS ブリタニカ,1996 年。
(*)ブラウニング作,バジレ作,イソップ作『ハーメルンの笛ふき,7 羽のはと,イソップのお話』TBS ブリタニカ,世界名作絵本[CD]14,1996 年。
(*)戸田和代文；尾崎真吾絵『まちのねずみといなかのねずみ：イソップ寓話より』世界名作えほんライブラリー18,フレーベル館,1996 年。
(*)イソップさく/からさわみちたかぶん；時すばるえ『イソップ物語』アニメせかいの名作 8,金の星社,1996 年。
(*)(参考：中務哲郎『イソップ寓話の世界』ちくま新書,筑摩書房,1996 年。)
(*)(参考：Murakami Katsuya‘La reimpresión de la traducción española de las fabulas de Esopo en 1489(La Vida del Ysopo)’広島文教女子大学紀要 31,1996 年。)
(*)村上勝也「『イソップ寓話』変容考--「犬が肉を含んだ事」について(1,2)」広島文教女子大学紀要 31,1996 年//32,1997 年。
(*)大橋敦夫「『イソップ物語』の受容史---書誌・国語史からのアプローチ」キリシタン

文化研究会会誌 108,1996 年。
(*)古賀允洋「イソップ寓話の受容と変容：『イソホのハブラス』の寓話観」(熊本大学文学会)文学部論叢 51,1996 年。
(*)(参考：内田慶市「「イソップの東漸」補遺：--「上海施医院」その他」関西大学中国文学会紀要 17,1996 年。)
(*)(参考：バッティスタ絵『イソップのお話,ラ・フォンテーヌのお話』世界名作絵本 22,ティービーエスブリタニカ,1996 年。)
(*)新井洋二「WWW ソフトの利用による論文の教材化」(「絵入教訓近道」イソップ)全国大会講演論文集 52,1996 年。
(*)宮本貞夫「聖なる狂気—ケーベル先生の人格の秘密を探る」ケーベル会誌 4,1996 年(日本自由キリスト教会教会報 174,1996 年 にも掲載。)
(*)島尻政長「ピアニストとしてのケーベル先生」・「ケーベル先生、文献追加」ケーベル会誌 4,1996 年。
(*)鈴木重昭「いじめ=登校拒否=民族「祖国」の自覚」・「久保勉先生のお形見」・「久保先生へのお詫びの事二つ」(ケーベル) ケーベル会誌 4,1996 年。
(*)庭山勝昭「ケーベルノート」ケーベル会誌 4,1996 年。
(*)高橋英夫「教養、この否定さるべきもの」(ケーベル)ケーベル会誌 4,1996 年。
(*)(参考：井上洋治『イエスに魅せられた：ペトロの生涯』日本基督教団出版局,1996 年。)
(*)中村健介『宣教師ニコライと明治日本』岩波新書,1996 年。
(*)魚木忠一『日本基督教の精神的伝統』大空社,アジア学叢書,16,1996 年。
(*)安形静男『原胤昭(釧路集治監教誨師)とその著作』出版者不明,1996 年。
(*)武本喜代藏・古木虎三郎『澤山保羅傳：傳記・澤山保羅』大空社,伝記叢書 210,1996 年。
(*)笠井貞「『正法眼蔵随聞記』と『イミタチオ・クリスティ』の比較研究」(曹洞宗総合研究センター)宗学研究 38,1996 年。)
(*)高柳俊一・小田淳子「日本おける近代カトリック教会史資料目録」キリスト教文化研究所紀要 15,1996 年。
(*)大平剛「吉満義彦の「近代の超克」論—遠藤周作の初期のテーマを理解するために」国語国文学 103,1996 年。
(*)辻村公一「故下村寅太郎会員追悼の辞」日本学士院紀要 50(2),1996 年。
(*)前川清治『三枝博音と鎌倉アカデミア』(林達夫,三枝博音等)中公新書,1996 年(←1994 年,同『鎌倉アカデミア』サイマル出版会)。
(*)太田邦昌「江戸・明治期進化思想の研究(2)船越[井上]哲次郎および矢野文雄」生物学史研究 60,1996 年。
(*)豊原治郎『會津八一の学風：ひとつの評伝』晃洋書房,1996 年。
(*)堀叢『會津八一：個人主義の軌跡』作家論叢書 18,沖積舎,1996 年。
(*)伊藤勲「ペタリアン西脇順三郎(1-4)透明性と文体の魂」英語青年 142(2,3,4,6),1996 年。
(*)藤一也「藤村とゲーテ「世界文学」をめぐって」島崎藤村研究 24,1996 年。
(*)田村道美「野上弥生子と「海外文學新選：「イスカリオテのユダ」その他」香川大学教育学部研究報告・第 1 部 96,1996 年。
(*)田村道美「野上弥生子と J.W.マッケイル--「古きギリシアの恋の歌」と『ギリシア詞華集』」香川大学教育学部研究報告 第 1 部 98,1996 年。
(*)田村道美「野上弥生子と「世界名作大観」(10)：「椿姫」及び「タイス」」香川大学教

育学部研究報告 第 1 部 98,1996 年。
(*)田村道美「野上弥生子と「世界名作大観」(11) : 「沙翁物語」香川大学教育学部研究報告 第 1 部 99,1996 年。
(*)田村道美「野上弥生子とバーナード・ショー--『シーザーとクレオパトラ』」香川大学教養教育研究 1,1996 年。
(*)野上弥生子著 ; 助川徳是編『野上弥生子』シリーズ人間図書館・作家の自伝 44,日本図書センター,1996 年。
(*)松原洋子「一斉学習を通して,生徒ひとりひとりの関心・意欲・思考を大切にしながら集団で高めあうようにする,場の設定と指導方法の研究(1) :『生き物たちの知恵』『走れメロス』(中 2)の場合(I.古人研究)」研究紀要 32,1996 年。
(*)佐々木秀穂「国語科文学教材研究批評の確立をめざして(2) :『実践国語研究別冊「走れメロス」の教材研究と全授業記録』を素材として」論叢 国語教育学 4,1996 年。
(*)中込重明「身代わりのはなし--『走れメロス』その他」公評 33(6),1996 年。
(*)三森ゆりか「海外の言語技術教育—説明的文章の指導編—ドイツの言語技術教育(5)テキストの登場人物の名前を解釈する—「走れメロス」の人物名の解釈をめぐる批判的検討(特集 説明的文章を使ってどんな言語技術を身につけさせるか)--(第 2 部 言語技術教育は説明的文章をどう位置づけたらいいのか)」言語技術教育 5,1996 年。
(*)結城雅秀「孤独な女の激情を端正に描く(昴・ザ・サードステージ=修道女,ピースユニット=ベンチ,三人芝居=トラブル,東京シェイクスピアカンパニー=お気に召すまま,グローブ座カンパニー=十二夜,日生劇場=走れメロス)（劇評）」テアトロ 647,1996 年。
(*)柳沢孝子「「ギリシャ牧野」への扉(特集 : 牧野信一生誕 100 年)」早稲田文学(第 6 次) 247,1996 年。
(*)谷沢永一「本好き人好き(84)安倍能成の見るところ」国文学・解釈と教材の研究 41, 1996 年。
(*)青柳正規「人文学はいま(10・完)」UP25(10),1996年。
(*)田中隆尚『呉茂一先生の手紙 : 野間祐輔宛書簡集』小沢書店,1996年。
(*)(参考 : 石山洋「レオ・バクロフの地図学史研究」東海大学紀要 課程資格教育センター 6,1996 年。)
(*)赤沢康宏「西洋古地図の修復と保存—実務者の立場から」ビブリア天理図書館報 106,1996 年。
(*)神崎順一「西洋古地図の修復と保存」ビブリア天理図書館報 106,1996 年。
(*)(参考 : リチャード・J.A.タルバート編/野中夏美・小田謙爾訳『ギリシア・ローマ歴史地図』原書房,1996年。
(*)(参考 : 櫻井悠美『戦時下の女性の自己理解 : 古代ギリシャの女性たちの行動を手がかりに』新潟大学,博士(学術),甲第885号,1996年。)
(*)(参考 : 櫻井悠美「ヘロドトス『歴史』の中の女たち : 戦時のおける女性の行動を中心に」新潟史学36,1996年。)
(*)(参考 : 村川堅太郎他地図著,青山吉信他年表著『世界史地図・年表』新版,山川出版社,1996 年。)

(*)(参考：亀井高孝『世界史年表・地図』2版,吉川弘文館,1996年。)
(*)(参考：亀井高孝『標準世界史年表』33 版,吉川弘文館,1996 年。)
(*)(参考：プルタルコス著/村川堅太郎編『プルタルコス英雄伝(上中下)』ちくま学芸文庫,筑摩書房,1996年。)
(*)(参考：ピエール・ブリアン/柴田都志子訳『ペルシア帝国』創元社,「知の再発見」双書57,1996年。)
(*)(参考：師尾晶子「デロス同盟と碑文研究：碑文の刻文年代をめぐるマッテインリ説と近年の学界動向」史學雜誌105(5),1996年。)
(*)(参考：田中穂積「バビロニアとヘレニズム(1)バビロンとアレクサンドロス大王」人文論究45(4),1996年。)
(*)(参考：森谷公俊「フィリッポス二世の暗殺とアレクサンドリア」歴史学研究689,1996年。)
(*)(参考：フラウィウス・アッリアニス/大牟田章訳『アレクサンドロス東征記およびインド誌』東海大学古典叢書,東海大学出版会,1996年。)
(*)(参考：ナポリの主席司祭レオ/芳賀重徳訳『アレクサンドル大王の誕生と勝利』近代文芸社,1996年。)
(*)(参考：武上純希『崑崙の夏：アレクサンドロス異聞』Aspect novels,アスキー,アスペクト(発売),1996年。)
(*)(参考：荒俣宏『幻想皇帝：アレクサンドロス戦記(1-3)』角川春樹事務所,1996年。)
(*)(参考：松村劭『世界の歴史に学ぶ：ローマは一日にして成らず』光人社,1996年。)
(*)(参考：塩野七生・佐々淳行「〈特別対談〉心を掴む指導者の条件 ユリウス・カエサルという男」プレジデント34(7),1996年。)
(*)宮尾登美子『クレオパトラ』朝日新聞社,1996年。)
(*)馬場典明「本村凌二著『薄闇のローァ世界：嬰児遺棄と奴隷制』」史学雑誌105(10),1996年。
(*)(参考：長塚隆二『ナポレオン(上下)』文春文庫,文藝春秋,1996年。)
(*)「河底尚吾先生の経歴と業績(河底尚吾先生退官記念号)」横浜経営研究17(1),1996年。
(*)(参考：五十嵐一成「近代南欧(1995 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雜誌 105(5),1996 年。)
(*)(参考：大嶋誠「中世南欧(ヨーロッパ)(1995 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雜誌 105(5),1996 年。)
(*)(参考：森谷公俊「ギリシア(古代)(ヨーロッパ)(1995 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雜誌 105(5),1996 年。)
(*)(参考：田村孝「ローマ(古代)(ヨーロッパ)(1995 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雜誌 105(5),1996 年。)
(*)(参考：近代日本研究会編『比較の中の神代日本思想』(杉原志啓「竹越三叉[與三郎]とマコーレー：『二千五百年史』と『英国史』」)年報・近代日本研究 18,山川出版社,1996 年。)
(*)(参考：森谷公俊「西洋古代史の講義・試験・添削(小特集・大学における歴史の授業)」歴史評論 557,1996 年。)
(*)(参考：森谷公俊「文献紹介 大学の授業を改善するために(同上)」歴史評論 557,1996 年。)
(*)(参考：高際澄雄「トバイアス・スモレット他編『万国史』の構成に関する調査」宇都宮大学国際学部研究論集 2,1996 年。)

(*)今井修「日本近代史学史研究の構想と方法—その史学史的検討」社會科學討究 41(3),1996年。)
(*)(參考：岡崎勝世『聖書 vs 世界史：キリスト教的歴史観とは何か』講談社現代新書,1996年。)
(*)(參考：市場芳夫訳「カール・レヴィット著『ヤーコプ・ブルクハルト—歴史の中に立つ人間』2(1,2)」東北工業大学紀要 2,人文社会科学編 16,1996 年/17,1997年。)
(*)(參考：森田猛「ブルクハルトと 19 世紀のバーゼル大学—市民教育をめぐって」弘前学院大学・弘前学院短期大学紀要 32,1996 年。)
(*)(參考：Averroes/田中千里訳『(アイガゼルの)哲学的矛盾』近代文芸社,1996 年。)
(*)(參考：佐藤次高『イスラームの「英雄」サラディン：十字軍と戦った男』講談社選書メチエ 75,1996 年(→2011 年,講談社学学術文庫版)。)
(*)(參考：Kannengiesser Charles/出村和彦訳「講演 古代アレクサンドリアにおける古典哲学とキリスト教の釈義との出会」中世思想研究38,1996年。)
(*)(參考：ダイアンア・ウォークスタイン/丹羽隆子・川口昌男訳『七つの愛の物語：「イシスとオシリス」から「トリスタンとイゾルデ」まで』大修館書店,1996年。)
(*)(參考：加藤信朗『ギリシア哲学史』東京大学出版会,1996年。)
(*)清水哲郎「岩田靖夫教授の業績と学風」(東北大学)文化59(3・4),1996年。
(*)「西川亮先生略歴・業績(含 肖像)(西川亮教授御退職記念・追悼特集号)」(広島大学)哲学48,1996年。)
(*)(參考：四方田犬彦『空想旅行の修辞学：『ガリヴァー旅行記論』』(ソフィスト)七月堂,1996年。)
(*)(參考：木原武一『幸福の探究：幸福に生きるための条件とは』Geibun library13,芸文社,1996年。)
(*)(參考：中村雄二郎『人類知抄百家言』朝日新聞社,1996年（→1999年,朝日選書639。）)
(*)(參考：小川正廣「ミュートスからロゴスへ?」(日本学術会議)学術の動向1(9),1996年。)
(*)(參考：山川偉也『ゼノン4つの逆理—アキレスはなぜ亀に追いつけないのか』講談社,1996年。)
(*)(參考：井上忠『パルメニデス』青土社,1996年(→2004年,新装版)。)
(*)(參考：W.D.ロス/田島孝・新海邦治訳『プラトンのイデア論』入間哲書房,1996年。)
(*)(參考：熊田陽一郎『プラトニズムの水脈』世界書院,1996年。)
(*)(參考：吉岡潔『プラトーン小論—世に云うゼノンの謎』近代文芸社,1996年。)
(*)(參考：藤澤令夫「『パイドン』における自然哲学への出発とイデア原因論：反プラトン的解釈の徹底追及を兼ねて」西洋古典學研究44,1996年、)
(*)(參考：山田道夫「プラトンの文芸論とI.マードック」(神戸桜蔭女子学院大学)研究紀要/人文科学・自然科学篇37,1996年。)
(*)(參考：坂田登「プラトンのパルマコン—プラトンの,そしてデリダのエクリチュール論」福井大学教育学部紀要 第1部,人文科学43,1996年。)
(*)(參考：Joseph Jonson「プラトンの課題とチョムスキー(1)」外国語教育論集18,1996年。)
(*)(參考：Furusawa Yuko ‘Idee bei Platon und Benjamin’ Hitotsubashi Journal of Arts and Sciences 37(1),1996年。)

(*)「牛田徳子教授年譜及び研究業績」慶應義塾大学言語文化研究所紀要28,1996年。)
(*)(参考：牛田徳子「アリストテレス『倫理学』における自足性と友の必要性の問題—EE.7 12とEN9 9の比較を通じて」哲学100,1996年。)
(*)(参考：茂手木元蔵『アリストテレス批判』東京大学,博士(文学),乙第13050号,1996年。)
(*)(参考：高橋澪子『ウィルヘルム・ヴントに見る科学的心理学の背景と特色』(アリストテレス)東京大学,博士(心理学),乙第12725号,1996年。)
(*)(参考：茂手木元藏『アリストテレス批判』東京大学,博士(文学),乙第13050号,1996年。)
(*)(参考：坂下浩司『アリストテレスの第一哲学：自然学と倫理学を基礎づけるもの』京都大学,博士(文学),甲第6221号,1996年。)
(*)(参考：四日谷敬子『存在・思惟・個体性：ドイツ観念論とヘーゲル論理学』(アリストテレス)京都大学,博士(文学),乙第9319号,1996年。)
(*)(参考：井上忠「罠にかかったアリストテレス」研究紀要 第1分冊 人文学部7,1996年。)
(*)(参考：今野國雄『ヨーロッパ中世の心』日本放送出版協会,NHKシリーズ,NHK文化セミナー,1996 年(→1997 年,NHK ライブラリー69)。)
(*)(参考：坂口ふみ『〈個〉の誕生—キリスト教教理をつくった人々』岩波書店,1996 年。)
(*)(参考：片柳栄一『初期アウグスティヌス哲学の形成』京都大学,博士(文学),乙第 9075 号,1996 年。)
(*)(参考:岡野昌雄『アウグスティヌス『告白』研究』京都大学,博士（文学）,乙第9352号,1996年。)
(*)(参考：A.ケニー/高柳俊一・藤野正克訳『トマス・アクィナス』教文館,コンパクト評伝シリーズ 16,1996 年。)
(*)(参考：倉松功・並木浩一・近藤克彦編『知と信と大学：古屋安雄古稀記念論文集』ヨルダン社,1996 年。)
(*)(参考：ホセ・ヨンバルト「〈新刊紹介〉中世哲学の源流(リーゼンフーバー,K 編)」ソフィア 44(4),1996 年。)
(*)(参考：Louis Bouyer/上智大学中世思想研究所編訳・監修『教父と東方の霊性』平凡社,キリスト教神秘思想史 1,1996 年。)
(*)(参考：Louis Bouyer/上智大学中世思想研究所編訳・監修『キリスト教神秘思想史』平凡社,1996-98 年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編訳・監修『前期スコラ学』平凡社中世思想原典集成 7,1996 年。)
(*)(参考：ジャン・ダニエルー/上智大学中世思想研究所編訳・監修『教父時代』平凡社,平凡社ライブラリー163,キリスト教史 1,1996 年。)
(*)(参考：H.I.マルー/上智大学中世思想研究所編訳・監修『教父時代』平凡社,平凡社ライブラリー168,キリスト教史 2,1996 年。)
(*)(参考：M.D.ノウルズ他/上智大学中世思想研究所編訳・監修『中世キリスト教の成立』平凡社,平凡社ライブラリー174,キリスト教史 3,1996 年。)
(*)(参考：M.D.ノウルズ他/上智大学中世思想研究所編訳・監修『中世キリスト教の発展』平凡社,平凡社ライブラリー178,キリスト教史4,1996年。)
(*)(参考：トマス・アクィナス/長倉久子訳註『神秘と学知：『ボエティウス「三位一体」に寄せて』南山大学学術叢書,創文社,1996年。)
(*)(参考：山内清海『聖トマス・アクイナス哲学序論』サンパウロ,1996年。)

(*)(参考 : 藤本温『トマス・アクィナスの知覚論』京都大学,博士(文学),甲第6225号,1996年。)
(*)(参考：永嶋哲也「個に於ける普遍と真と実在：ボエティウス『イサゴーゲー第二注解』に於ける普遍論研究」東北哲学会年報12,1996年。)
(*)(参考：西間木真「サン・タマンのフクバルドゥス『音楽論』にみられるボエティウスの影響について」美学47(2),1996年。)
(*)(参考 : 関沢和泉「態様論へのプロレゴメナ : ダキアのボエティウス『表示態様について』概観」中世哲学研究：Veritas 15,1996年。)
(*)(参考：江口克己「アルベルトゥスのボエティウス解釈：善(bonum)と存在(ens)の問題をめぐって」中世哲学研究15,1996年。)
(*)(参考：赤井清晃「アル=キンディーのアリストテレス哲学に対する態度について—初期アリストテレスの思想研究のために」(京都大学)古代哲学研究室紀要6,1996年。)
(*)(参考 : 岡崎文明「プロクロスとヘーゲル(1)—ヘーゲルにおけるプロクロスの「一」解釈」金沢大学教育学部紀要/人文科学・社会科学編45,1996年。)
(*)(参考：水地宗明「新プラトン主義とは何か」皇學館論叢29(3),1996年。)
(*)(参考：尾崎誠「新プラトン主義と田辺哲学」比較思想研究23,1996年。)
(*)(参考：上田慎一「セネカと怒りの治癒：Contra M.C.Nussbaum2」筑波哲学7,1996年。)
(*)(参考：上村忠男「『ヴィーコの懐疑』以後(上下)」みすず38(6,7),1996年。)
(*)(参考：浅野遼二『ベルン時代のヘーゲル』(ソクラテス)大阪大学,博士(文学),乙第6897号,1996年。)
(*)(参考 : 清水真木「危険にして不気味な点—ニーチェと系譜学」東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室論集15,1996年。)
(*)(参考：高田珠樹『ハイデガー：存在の歴史』講談社,現代思想の冒険者たち8,1996年(→2014年,講談社学術文庫版)。)
(*)(参考：冨原真弓「シモーヌ・ヴェーユのギリシア—悩めるプラトン的2元論の再構築」現代思想24(4),1996年。)
(*)(参考：ヒルティ/小池辰雄編『眠られぬ夜のために』新装復刊,白水社,1996年。)
(*)(参考 : 中西幸二編『イギリスの文学と社会背景 : 秩序の崩壊と再構築の中で』北樹出版,学文社(発売),1996年。)
(*)(参考：田村秀夫『トマス・モア』イギリス思想叢書1,研究社出版,1996年。)
(*)(参考：平辰彦『Shakespeare劇における幽霊：その演劇性の比較研究』明星大学,博士(英米文学),甲第19号,1996年。)
(*)(参考 : 清水徹郎「トロイ落城の話を聴くダイドウとハムレット」英語青年142(3),1996年。)
(*)(参考：田中一穂「ドライデンとケンブリッジ・プラトニスト派--『俗人の宗教』」名城大学人文紀要3(2),1996年。)
(*)(参考 : 岡田典之「ハーバート卿の「プラトン的愛」について」神戸英米論叢10,1996年。)
(*)(参考：前川祐一『ウォルター・ペイター：精神のダンディズム』研究社出版,1996年。)
(*)(参考：小野雄一「狂気と恋のエンディミオン—冒険物語の二の前提」早稲田大学大学院文学研究科紀要・第2分冊(42),1996年。)
(*)(参考：白倉克文「J.G.バイロンと T.ムアが 19 世紀ロシア文学に与えた影響について：ロシア・イギリス文化交流史のもうひとつの側面」東京工芸大学芸術学部紀要2,1996年。)

(*)(参考：西山清・田村英之助・伊木和子・石幡直樹「Symposia第三部門「Keats200年の軌跡—詩・手紙・批評(日本英文学会第67回大会報告)」英文学研究72(2),1996年。)
(*)(参考:四方田犬彦『空想旅行の修辞学:『ガリヴァー旅行記』論』(ソフィスト)七月堂,1996年。)
(*)(参考：石川洋至「ロレンス文学におけるニーチェ的要素：アポロ的なものとディオニソス的なもの」旭川英語英文学研究5,1996年。)
(*)(参考：スカヒル・ジョン(Scahill john)「中世英仏文学に於けるラテン語読本の影響」成蹊大学文学部紀要31,1996年。)
(*)(参考：ダンテ原作/ギュスターヴ・ドレ挿画/谷口江里他訳・構成『神曲』アルケニア,(東京)九鬼(発売)[1989年刊の新装改訂版],1996年。)
(*)(参考：川崎準之助「ダンテ『神曲』の「地獄篇」の示唆するもの—一つの詩論構築のための試論」聖徳大学綜合研究所論叢4,1996年。)
(*)(参考：土合文夫「『神曲』における直喩をめぐって」東京女子大学比較文化研究所紀要57,1996年。)
(*)安徳軍一「大江健三郎『懐かしい年への手紙』(1987.10)とダンテ『神曲』との交響—ダンテ的想像力に導かれて(その1)」北九州大学文学部紀要53,1996年。
(*)(参考：辻邦生『春の戴冠』新潮社,1996年(→2008年,4巻,中公文庫,中央公論新社)。)
(*)(参考：中井晟「T.S.エリオット「ダンテ」(1920)読む：哲学と詩」同志社大学英語英文学研究66,1996年。)
(*)(参考：マヌエル・アモロス/水戸博之訳「エラスムスの霊的メッセージと後世へのその影響」(上智大学)カトリック研究65,1996年。)
(*)(参考：ギー・オーグ「海外の教育事情 欧州の高等教育における多国間協力の新時代にあたって—エラスムスからソクラテスへ」留学交流8(11),1996年。)
(*)(参考：木ノ脇悦郎「エラスムスのSenatulus sive Γυναικοσυνεδριον(1529)について」神學研究43,1996年。)
(*)(参考：Manuel Amoros「エラスムスの霊的メッセージと後世へのその影響」カトリック研究65,1996年。)
(*)(参考：宮下志朗『エラスムスはブルゴーニュワインがお好き：ルネサンスつもる話』白水社,1996年。)
(*)(参考：ペトラルカ/近藤恒一訳『わが秘密』岩波文庫,岩波書店,1996年。)
(*)(参考：小島久和「ペトラルカ—恋愛と宗教の狭間で」文芸研究75,1996年。)
(*)(参考：マーリオ・フォルトゥナート/河島英昭訳「世界の新文学・イタリア—在り来たりの場所ここから外へ」群像51(12),1996年。)
(*)(参考：マイケル・A・スクリーチ/荒木昭太郎訳『モンテーニュとメランコリー：『エセー』の英知』みすず書房,1996年。)
(*)(参考：ラ・フォンテーヌ作/コッローディ作『ラ・フォンテーヌのお話,ピノッキオの冒険』世界名作絵本[CD]15,TBSブリタニカ,1996年。)
(*)(参考:池澤克夫「ラ・フォンテーヌ没後 300 年記国際学会遠望」言語文化部紀要 30,1996年。)
(*)(参考：坂本雅彦「会話の精神—ラ・ブリュイエールにおける世俗=社交的コニュミケーションの批判」フランス教育学会紀要8,1996年。)

(*)(参考：松原典子「エル・グレコの芸術理論と《ラオコーン》」美術史研究34,1996年。)
(*)(参考 : 中村典夫「ギリシア美術と現代(3)高貴なる単純と静なる偉大」芸術研究報 17,1996年。)
(*)(参考：今村武「レンツ研究史の新局面—レンツ戯曲への多角的アプローチ」上智大学ドイツ文学論集 33,1996 年。)
(*)(参考：清水純夫『「ヴィルヘルム・マイスター」研究』(ゲーテ古典主義)名古屋大学,文学博士,乙第 5075 号,1996 年。)
(*)(参考：齋藤茂夫「“選ばれし者”—ゲーテの『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』みる特権的装置としての教養理念」富士大学紀要 29(1),1996 年。)
(*)(参考 : 宇津井恵正『ゲーテと視覚の世界：ゲーテの詩と演劇空間・民俗的背景・絵画論の考察』近代文芸社,1996 年。)
(*)(参考：日高美奈子「「ゲーテとある子どもとの往復書簡」におけるペトラルカの受容について」比較文学年誌32,1996年。)
(*)(参考 : 栗花落和彦「ゲーテと愛 : 詩〈クピード〉をめぐって」島根医科大学紀要19,1996年。)
(*)(参考：吉見孝夫「ギヨーテとは俺のことかとゲーテ言ひ」札幌国語研究1,1996年。)
(*)(参考 : 宇津井恵正『ゲーテと視覚の世界：ゲーテの詩と演劇空間・民俗的背景・絵画論の考察』近代文芸社,1996年。)
(*)(参考：内藤克彦「シラーの『優美と尊厳について』」(南山大学)アカデミア,文学・語学編60,1996年。)
(*)(参考：タルモ・クンス/杉田弘子訳『笑うニーチェ』白水社,1996年(→1998年,新装版)。)
(*)(参考：松崎俊之「初期ニーチェにおける音楽と言語」美學47(2),1996年。)
(*)(参考：清水紀子「ニーチェのゲーテ観における二面性」Stufe 16,1996年。)
(*)(参考：神子上惠詳「ニーチェにおける真理の問題」龍谷大学論集449,1996年。)
(*)(参考：鈴木克成「〈論文〉F.ニーチェに於ける「自然」概念」筑波哲学7,1996年。)
(*)(参考：手塚耕哉「「ニーチェの誘惑」G.Bataille著,吉田裕訳」人文論集35,1996年。)
(*)(参考：長谷川武雄「ニーチェ復興」精神科学35,1996年。)
(*)(参考：大森淳史「根源への回帰—ニーチェとドイツ表現主義美術」帝塚山学院大学研究論集31,1996年。)
(*)(参考：樋口克己「ペシミズムの変容の開始—ニーチェにおける「気質」を巡って」哲学誌38,1996年。)
(*)(参考：西川友和「ニーチェの道徳批判についての若干の考察」哲学論集43,1996年。)
(*)(参考：石井慎一郎「ニーチェにおける生と無垢な認識」外国語教育論集18,1996年。)
(*)(参考：清水真木「危険にして不気味な点—ニーチェと系譜学」東京大学大学院人文社会系系研究科哲学研究室論集15,1996年。)
(*)(参考：内藤可夫「ニーチェにおける「生成」の概念」倫理學研究26,1996年。)
(*)(参考：藤野寛「徹底した啓蒙家としてのニーチェ—マックス・ホルクハイマーのニーチェ解釈」倫理學研究26,1996年。)
(*)(参考 : 森一郎「学問の危機と哲学 : ニーチェ研究ノート(3)」東京女子大学紀要論集46(2),1996年。)
(*)(参考：阪本恭子「F.ニーチェにおける子供・道徳・教育(特集 道徳教育の地域・家庭との連携を求めて)」道徳と教育(290・291),1996年。)

(*)(参考:高橋透「デリダにおけるニーチェの影—デリダのニーチェ読解の変遷をめぐって」比較文学年誌32,1996年。)
(*)高松敏男「『ニーチェ全集別巻』(白水社版)「日本人のニーチェ研究譜(書誌篇)補遺(2)」大阪府立図書館紀要32,1996年。)
(*)(参考：ノルベルト・フォン・ヘリングラード/三ッ木道夫抄訳「ヘルダーリンの翻訳原理：ピダロス翻訳の芸術的性格」同志社外国文学研究74,1996年。)
(*)(参考：田野武夫「ヘルダーリンの『エムペドクレスの死』における自然」九州ドイツ文学10,1996年。)
(*)(参考：縄田雄二『ヘルダーリン：予め崩れる十九世紀近代：伊東静雄における受容との関連にて』西田書店,1996年。)
(*)(参考：高橋克己「ヘルダーリンにおける現代性と古典古代性--『パンと葡萄酒』(1800年-1801年)冒頭の都市像に関連して」(高知大学人文学部人文学科)人文科学研究4,1996年。)
(*)(参考：仲正昌樹『〈隠れたる神〉の痕跡：ドイツ近代の成立とヘルダリン』東京大学,博士(文学),甲第11609号,1996年。)
(*)(参考：高橋澪子『ヴィルヘルム・ヴントに見る科学的心理学の背景と特色』東京大学,博士(心理学),乙第12725号,1996年。)
(*)(参考：江栄海「G.ハウプトマンと『デルフィのイフィゲーニェ』：もろ刃の手斧と櫂の奉納」近畿大学教養部紀要28(1),1996年。)
(*)(参考：大井真奈「ホーフマンスタールの『エレクトラ』に関する考察」エウローペー5,1996年。）
(*)(参考：M.スコット・ペック/森英明訳『平気でうそをつく人たち』(ヴィラモーヴィッツ)草思社,1996年。)
(*)(参考：マイケル・A.スクリーチ/荒木昭太郎訳『モンテーニュとメランコリー--『エセー』の英知』みすず書房,1996年。)
(*)(参考：安武真隆「初期モンテスキューにおける古典古代」(九州大学法政学会)法政研究63(3・4),1996年。)
(*)(参考：沓掛良彦「フランスの詩におけるサッフォー—素描」東京外国語大学論集52,1996年。)
(*)(参考：山口裕之「古典古代と近代の相互浸透—ベンヤミンの「ボードレール論」第2部としての『ボードレールにおける第二帝政期のパリ』」(大阪市立大学)人文研究48(13),1996年。)
(*)(参考：岩倉具忠研究代表『イタリア近代社会における知識人の役割：18世紀・啓蒙主義から19世紀前半・ロマン主義への変遷』岩倉具忠,1996年。)
(*)(参考：Fera Vincenzo/清瀬卓訳「ルネサンスにおける大プリニウス(1-9,11,13-17)」(京都外国語大学)研究論叢46,47,1996年/48,49,1997年/50,51,1998年/52,53,54,1999年/56,2000年/57,58,2001年/59,2002年/61,2003年。)
(*)(参考：伊藤博明『神々の再生：ルネサンスの神秘思想』東京書籍,1996年(→2012年,講談社学術文庫)。
(*)(参考：フランシス・イェイツ/高田勇訳『十六世紀フランスのアカデミー』平凡社,1996年。)

(*)(参考：清瀬卓「ルネサンスにおける大プリニウス(1-9,11,13-17)」(京都外交語大学)研究論集46,47,1996年/48,49,1997年/50,51,1998年/52,53,54,1999年/55,56,2000年/57,58,2001年/59,61,2002年。)
(*)(参考：清瀬卓「ルネサンスにおける大プリニウス(10,12)」Cosmica 29,1999年/30,2000年。)
(*)(参考：榎本恵美子「向井先生の励まし(向井先生に贈る)(向井守教授退官記念号)」愛知：φιλοσοφια 12/13,1996年。)
(*)(参考：アントニー・ローリー/富樫瓔子訳『美食の歴史』「知の再発見」双書56,創元社,1996年。)
(*)(参考：長尾重武・星和彦編『ビジュアル版西洋建築史：デザインとスタイル』丸善,1996年。)
(*)(参考：鯖田豊之『水道の思想：都市と水の文化誌』中公新書,中央公論社,1996年。)
(*)(参考：斯波照雄「イギリスおよび我国における都市史研究の動向と現状」明海大学不動産学部論集4,1996年。)
(*)(参考：ジョン・ブライアン・ウォード・バーキンス/桐敷真次郎訳『ローマ建築』図説世界建築史4,本の友社,1996年。)
(*)(参考：池浩三「パルテノンの神室の採光法：ペンテリコン産大理石瓦の透光性に関する実験的考察」建築史学27,1996年。)
(*)(参考：木村公治・渡辺道治「834 イオニア・コリント式オーダーの割り付けについて：古代ギリシア・ヘレニズム時代における(建築歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部 3,計画系 10,1996 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・林田義伸・西村尚之・森本希・倉野尾朋子・中川明子「地中海古代都市の研究(84,85) デルフィ」日本建築学会研究報告,中国・九州支部 3,計画系 10,1996 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・林田義伸・岡田保良・堀内清治・星和彦「地中海古代都市の研究(86,87) デルフィ」日本建築学会研究報告,中国・九州支部 3,計画系 10,1996 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・林田義伸・松尾直樹「地中海古代都市の研究(88)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部 3,計画系 10,1996 年。)
(*)(参考：吉永伸一郎・渡辺道治「地中海古代都市の研究(89)」日本建築学会研究報告,中国・九州支部3,計画系10,1996年。)
(*)(参考：ライナルド・ベルジーニ/伊藤博明・伊藤一行訳『哲学的建築：理想都市と記憶劇場』ありな書房,1996年。)
(*)(参考：市川秀和「ヴァイマール古典主義精神の建築思潮研究(北陸支部奨励研究成果報告)」日本建築学会北陸支部研究報告集39,1996年。)
(*)(参考：市川秀和「ヴァイマール精神と古典主義建築の性格論：ヴァイマール精神の建築思潮研究(1)」日本建築学会計画系論文集482,1996年。)
(*)(参考：田路貴浩『フィリーペ・ド・ロルムの建築論：建築の理念と実践を巡る「良き精神」の様態』京都大学,博士(工学),甲第6215号,1996年。)
(*)(参考：川上貢「「西洋建築史」とのかかわりから」建築雑誌111(1390),1996年。)
(*)(参考：日高健一郎「西洋建築史」のなかのコラボレイション」建築雑誌111(1397),1996年。)
(*)(参考：高崎格「13005 東京帝国大学時代の「西洋建築史」ノートについて：建築家 元

田稔(8)」学術講演梗概集,E-2,建築計画II,住居・住宅地,農村計画,教育 1996,1996年。)
(*)(参考：渡辺真弓「時代と建築と私」建築雑誌111(1386),1996年。)
(*)丸山茂『日本の建築と思想：伊東忠太小論』同文書院,1996年。
(*)(参考：ディーター・ジェッター/山本俊一訳『西洋医学史ハンドブック』朝倉書店,1996年(→2005年,普及版)。)
(*)(参考：R.コールダー/佐久間昭訳『物語人間の医学史』平凡社,1996年。)
(*)(参考：齋藤博『ヒポクラテスの謎』齋藤博,図書印刷(印刷),1996年。)
(*)(参考：ヒポクラテス原典/常石敬一郎訳・解説『ヒポクラテスの西洋医学序説』地球人ライブラリー26,小学館,1996年。)
(*)(参考：勝本謙『菌学ラテン語と命名法』日本菌学会関東支部,1996年。)
(*)(参考：星和夫「ヒポクラテス」医学図書館43(2),1996年。)
(*)(参考：齋藤博「ヒポクラテスと性感染症」日本性感染症学会誌7(1),1996年。)
(*)(参考：金山弥平「ピュロン主義,経験主義,方法主義—ガレノス『入門者のために諸学派を論ずる』(序論および翻訳と訳註)」名古屋大学文学部研究論集126,1996年。)
(*)(参考：土屋睦広訳「ガレノス『魂の能力は身体の混合に依存する』--序論・翻訳・訳注」明治薬科大学研究紀要,人文科学・社会科学26,1996年。)
(*)(参考：「ガレノス：霊魂の解剖学」Jouranal of Cardiology 28(6),1996年。)
(*)(参考：鈴木七美『産婆世界解体のプロセスにおける：出産：「自然」・「人間関係」：19 世紀アメリカの植物治療運動と水治療運動』(擬アリストテレス主義)お茶の水女子大学,博士(学術),甲第 48 号,1996 年。)
(*)(参考：佐藤政樹「オリンピック精神」化学工業60(7),1996年。)
(*)(参考：野々宮徹「近代オリンピックの変容(特集 オリンピックムーブメントとオリンピック競技大会)」スポーツと健康28(7),1996年。)
(*)(参考：真田久「近代オリンピック創設の時代的要因—クーベルタン像の再検討(特集,オリンピック)」体育の科学46(8),1996年。)
(*)(参考：高橋幸一「創られたアマチュアリズム神話—E.N.Gardinerの功罪(特集,オリンピック)」体育の科学46(8),1996年。)
(*)(参考：清水清勇「オリンピズムはなぜ要請されたのか—その歴史と現在(特集,オリンピック)」体育の科学46(8),1996年。)
(*)(参考：和田浩一「スポーツの概念形成過程におけるクーベルタンのスポーツ分類論の意義—四つの分類法とスポーツ各論の分析によって」体育史研究13,1996年。)
(*)(参考：吉谷修訳「翻訳 ピエール・ド・クーベルタン オリンピアのアイデアスピーチと論説(1)」身体運動文化研究6(1),1996年。)
(*)(参考：朝日新聞運動部編『オリンピック百話』朝日文庫,朝日新聞社,1996年。)
(*)(参考：稲垣正浩他著『図説スポーツの史：「世界スポーツ史」へのアプローチ』大修館書店,1996年。)
(*)(参考：黒田健二郎・山本卓也「パピルス」紙パ技協誌50(5),1996年。)
(*)佐藤明達「人物こぼればなし(野尻抱影)」天界(The Haevens)77(854),1996 年。
(*)(参考：鈴木竜雄「ケプラーの宇宙論と「立体」--プラトンを手がかりに」立命館文學543,1996 年。)

(*)(参考：矢野道雄「クーシュヤール・イブン・ラッバーンによる占星術の擁護」京都産業大学国際言語科学研究所所報 17(2),1996 年。)
(*)(参考：三雲昴「東地中海に科学のルーツを訪ねる」国士舘大学教養論集 43,1996 年。)
(*)(参考：ジャンバッティスタ・デッラ・ボルタ/澤井繁男訳『自然魔術：人体篇』青土社,1996年。)
(*)松尾重樹「矢島祐利さんを悼む」科学史研究第II期35(198),1996年。
(*)辻村公一「故下村寅太郎会員追悼の辞」日本學士院紀要50(2),1996年。
(*)増子寛「近代科学の源流を探る,菊池文誠編,東海大学出版会」物理教育44(2),1996年。
(*)(参考：ローレンス・クラウス/青木薫訳『物理の超発想：天才たちの頭をのぞく』講談社,1996年。)
(*)豊田和二「紹介 アンドレ・ピショ『科学の誕生』上(山本啓二訳),下(中村清訳),せりか書房」オリエント39(1),1996年。
(*)(参考：ミッシェル・セール著/豊田彰訳『ルクレティウスのテキストにおける物理学の誕生』叢書ウネベルシタス,法政大学出版局,1996年。)
(*)(参考：久松俊一「「技術」概念に関する思想史的考察」木更津工業高等専門学校紀要29,1996年。)
(*)(参考：塚原東吾「近代科学の「ギリシャ的起源」,技術と覇権,女性の排除と機械論,そして日本人と近代科学」東海大学所持特別図書展「科学・技術の古典」展示目録,1996年。)
(*)(参考：豊田和二「古代ギリシア人の自然観—環境学への糸口として」社会科学討究42(2),1996年。)
(*)(参考：大貫義久「近代科学形成のルネサンス的背景について—科学と宗教の接点を求めて」法政大学教養部紀要96,1996年。)
(*)(参考：渡辺正雄「近代科学とキリスト教—その歴史的・世界観的関連および日本の問題点(キリスト教大学の新たな創造—自然科学とキリスト教をめぐって)キリスト教文化学会年報42,1996年。)
(*)(参考：村上陽一郎『宇宙像の変遷』講談社学術文庫,1996年。)
(*)(参考：中西裕一「ハイゼンベルクとプラトン」比較文化研究32,1996年。)
(*)梶原一明・川本信彦「オデッセイ神話を生んだアジャイルな経営—川本信彦・本田技研工業社長に聞く(カバーストーリー「速い」が一番—変化に対応するスピード経営のススメ)」フォーブス5(11),1996年。
(*)(参考：藤森誠「プトレマイオス朝期の下及び中エジプトにおけるノモス・ストラテーゴス職—プトレマイオス朝の地方行政機構の一考察」西洋史研究25,1996年。)
(*)(参考：荻野弘之「アトランティスの夢を見たのは誰か：理想国家とコスモロジーの間」聖徳大学総合研究所論叢4,1996年。)
(*)(参考：大杉至「プラトンは保守かラディカルか—その社会学的解釈を目指して」大分大学教育学部研究紀要18(1),1996年。)
(*)(参考：三枝和子「いかにして女性の哲学は可能か(第9講)プラトン・法と共同体」ユリイカ28(1),1996年。)
(*)(参考：ジョルジョ・スピーニ/森田義之・松本典昭訳「〈翻訳〉ミケランジェロと政治(1-4)」五浦論叢：茨城大学語五浦美術文化研究所紀要3,1996年/4,1998年/6,1999年/7,2000年。)

(*)(参考：服部文彦「'95マキャヴェリ国際会議報告とマキャヴェリの政治思想の前提について」大同工業大学紀要32,1996年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編『中世の社会思想』創文社,1996 年。)
(*)(参考：山脇直司「書評・近代以前における社会思想の多様性--上智大学中世思想研究所編『中世の社会思想』」創文382,1996年。)
(*)(参考：平田隆一「アテネ僭主政とローマ後期王制(その3)：セルウイウス・トゥリウス王の出自・即位・王権の性格」(東北大学国際文化研究科)国際文化研究科論集4,1996年。)
(*)(参考：仲手川良雄「ゲルハルト・エストライヒ『近代国家の覚醒—新ストア主義・身分制・ポリツァイ』(特集 文明装置としての国家)」比較法史研究5,1996年。)
(*)(参考：厚見恵一郎「ラディカル・デモクラシーと討論の可能性—ウォーリン,リンゼイ,シュミット」早稲田社会科学研究52,1996年。)
(*)(参考：押村高『モンテスキューの政治理論—自由の歴史的位相』早稲田大学出版部,1996年。
(*)(参考：三石善吉「アルカディア—幻想と政治権力」筑波法政19,21,1996年。)
(*)(参考：小林公「自己パターナリズムと法」(オデュッセイア)創文378,1996年。)
(*)(参考：橋場弦「アテナイ民主政における贈収賄の成立—法制的側面から」古代文化48(7),1996年。)
(*)(参考：近藤敦『「外国人」の参政権：デニズンシップの比較研究』九州大学,博士(法学),乙第6323号,1996年。)
(*)堅田剛「『権利のための闘争』と『強者の権利の競争』--加藤弘之のイェーリング解釈をめぐって」獨協法学42,1996年。
(*)(参考：研究代表者・直江眞一「成立期コモン・ローにおける学識(ローマ法・教会法)の影響に関する実証的研究」九州大学,科学研究費補助金(一般研究C)研究成果報告書,平成7年度,1996年。)
(*)(参考：古澤直人「シンポジウム 二十世紀の法史学—日独比較日本近代法史学における「中世」」法制史研究1996(46),1996年。)
(*)(参考：橋場弦「シンポジウム 司法への民衆参加の歴史」法制史研究45,1996年。)
(*)(参考：佐藤篤士・林毅編『司法への民衆参加：西洋における歴史的展開』敬文堂,1996年。)
(*)(参考：山本博「豹は死して皮を残し,ナポレオンは民法を—西欧法文化葡萄酒考(3)」自由と正義47(5),1996年。)
(*)(参考：家族史研究会編『特集 バッハオーフェン「母権論・序説」』共同体社,女性史研究3,1996年。)
(*)(参考：波多野里望・尾崎重義編『国際司法裁判所：判決と意見2』(「ギリシア=トルコ」/尾崎重義「エーゲ海大陸棚事件」)国際書院,1996年。)
(*)(参考：桑山由文「〈論説〉元首政期ローマ帝国における近衛長官職の確立」史林79(2),1996年。)

(*)(参考：佐和隆光「知者を楽しむ(14)カール・マルクス」週刊ダイヤモンド85(32),1997年。)
(*)(参考：高田純「ヘーゲル—マルクス紀行」唯物論42,1997年。)
(*)(参考：W.レイモンド・ドレイク/笠原哲正訳『宇宙人の超古代史』ボーダーランド文庫

14,角川春樹事務所,1997年。)
(*)(参考：マーク・レーナー/林陽訳『「神々の指紋」の謎はすでに解明されていた：エジプト超古代「紀元前一万年前」の驚異の文明がここにある』中央アート出版社,1997 年。)
(*)(参考：グラハム・ハンコック/大地舜訳・村野守英画『神々の指紋：完全コミック版』小池書店,1997 年。)
(*)(参考：ジャン・ルイ・松岡『オーパーツと『神々の指紋』の謎』本の森出版センター,C-books,1997年。)
(*)吾郷清彦『日本超古代秘史研究原典』愛蔵保存版,新人物往来社, 1997年。
(*)(参考：『神々のシンボルと謎の超古代史』新人物往来社,別冊歴史読本20,1997年。)
(*)清水義範『偽史日本伝』集英社,1997年(→2000年,集英社文庫版。)
(*)鳥井礼『日本超古代史が明かす神々の謎：「古史古伝」が告げる日本創生の真相』日本文芸社,1997年。
(*)安田喜憲「超古代文明が日本列島にあった(特別企画 縄文その魅力をたどる)」This is 讀賣7(11),1997年。
(*)大神延夫「熟年「地球の歩き方」初め—ローマ,ヴェネツィアの旅」食糧月報2(3),1997年。
(*)富士通テレビ東京製作『地中海に花開いた文化』世界遺産：時を超える旅2,ポニーキャニオン(発売),ビデオレコード,1997年。)
(*)NHK資材班編『地中海・ナイル・紅海』シルクロード・大黄河・海のシルクロード9,日本放送出版協会,1997年。)
(*)(参考：藤原肇『オリンピアン幻想：地上楽園とオリンピックの裏舞台：Once upon an Olympian time』東明社,1997年。)
(*)(参考：星川清香『糸杉の墓』(「トロイのヘレナ」)築地書館,1997年。)
(*)(参考：エティエンヌ・シャルパンティエ/井上弘子訳『新約聖書の世界への旅』サンパウロ,1997年。)
(*)(参考：嘉納秀郎『文明と民族の十字路：東地中海世界』嘉納秀郎写真集,平凡社,1997年。)
(*)(参考：石川和恵『マルタ島に魅せられて：地中海の小さな国』晶文社,1997年。)
(*)ビッグボーイ編集部『サビッハマルタ：地中海に浮かぶ小さな国：マルタ共和国ガイドブック』楽天舎ブックス,レ楽天舎書房,1997年。
(*)(参考：大内祐子「アゴラ・スペシャル“地中海の十字路”マルタ—謎の巨石神殿と,華麗なる中世の遺産が残る島」Agora：日本航空機内誌7(9),1997年。)
(*)(参考：藤原建蔵編『地域研究法』(竹内啓一「地中海地域の特性と地域研究」/同「イタリア地域研究法」)総見地理学講座2,朝倉書店,1997年。)
(*)(参考：梶野啓「文化システム論ノート(1)日本文化はアプロディテ型である」(奈良女子大学)人間文化研究科年報13,1997年。)
(*)大岡信「マケドニア日記—詩の大海の一となって」文学界51(11),1997年。
(*)(参考：西村孝彦『文明と空間：フランス人文主義地理学』
(*)(参考：土井淑平『都市論：その文明史的考察』三一書房,1997年。)
(*)(参考：大澤正造他『戦争の世界史：「文明史としての戦争の功罪」を探究する』知の探究シリーズ,日本文芸社,1997年。)
(*)(参考：小笠原茂介「アンドロメダ---ローマ・カピトリーノの丘の浮彫《原題・ペルセウスとアンドロメダ》」亜土21(2次),1997年（→2001年,『地中海の月』

所収,思潮社）。
(*)(参考：小笠原茂介「ティボリの水」亜土25(2次),1997年（→2001年,『地中海の月』所収,思潮社）。
(*)(参考：小笠原茂介「パエトーン」亜土26(2次),1997年（→2001年,『地中海の月』所収,思潮社）。
(*)(参考：小笠原茂介「ティボリの水」亜土25(2次),1997年（→2001年,『地中海の月』所収,思潮社）。
(*)(参考：小笠原茂介「イカロスが海に落ちる」亜土27(2次),1997年（→2001年,『地中海の月』所収,思潮社）。
(*)(参考：小笠原茂介「ヴィラ・アドリアーナの石と薔薇」現代詩手帖6月号,1997年（→2001年,『地中海の月』所収,思潮社）。
(*)(参考：アーサー・C.クラーク/仁保真佐子訳『オリンポスの雪：アーサー・C.クラークの火星探検：水と緑の「惑星誕生」ものがたり』徳間書店,1997 年。)
(*)内藤幸雄『アレキサンドリア、わが旅—砂塵と海鳴はざまで』新潮社,1997 年。)
(*)曽野綾子『アレキサンドリア』文藝春秋,1997 年(→2005 年,文春文庫版)。
(*)(参考：マーガレット・ジョージ/浅見淳子訳『エーゲ海の夢』追憶のクレオパトラ 4,青山出版社,1997 年。)
(*)(参考：マーガレット・ジョージ/浅見淳子訳『アレクサンドリアの涙』追憶のクレオパトラ 5,青山出版社,1997 年。)
(*)「世界都市めぐり ルクソール/アレキサンドリア/アスワン」自治体国際化フォーラム 97,1997 年。
(*)(参考：友部直・水田徹責任編集『エーゲ海とギリシア・アルカイック』小学館,世界美術大全集・西洋編 3,1997 年。)
(*)『地中海・町並み紀行：旅の絵本/吉田桂二絵と文』東京堂出版,1997 年。
(*)福田秀一「阿部次郎の留学日記」国際基督教大学学報 III-A,アジア文化研究別冊 7,1997 年。
(*)福田秀一「文人学者の留学日記(大正篇)阿部次郎(続篇)と小宮豊隆」(国際基督教大学キリスト教と文化研究所)人文科学研究 28,1997 年。
(*)(参考：今村文彦・箕浦幸治・高橋智幸「エーゲ海における歴史津波堆積物の関する現地調査」(東北大学災害科学国際研究所)津波工学研究報告 14,1997 年。)
(*)(参考：箕浦幸治・今村文彦・高橋智幸・首藤伸夫「385 地中海文明と津波」日本地質学会学術大会講演要旨1997,1997年。)
(*)(参考：箕浦幸治・今村文彦・高橋智幸他「地中海文明と津波(総特集 最近地質時代の地球環境)」月刊地球19(9),1997年。)
(*)(参考：箕浦幸治・今村文彦・高橋智幸・首藤伸夫「385 地中海文明と津波」日本地質学会学術大会講演要旨1997,1997年。)
(*)(参考：周藤芳幸『図説ギリシア：エーゲ海文明の歴史を訪ねて』河出書房新社,1997年。)
(*)小泉実「エーゲ海スケッチ旅行(1)イスタンブールの都市環境」照明学会雑誌 81(3),1997 年。
(*)小泉実「エーゲ海スケッチ旅行(2)アテネの都市環境とクルージング」照明学会雑誌 81(4),1997 年。

(*)小泉実「エーゲ海スケッチ旅行(3)ペロポンネソス周辺の環境」照明学会雑誌 81(6),1997年。
(*)小泉実「エーゲ海スケッチ旅行(4)南アルバニアの環境」照明学会雑誌 81(7),1997 年。
(*)小泉実「エーゲ海スケッチ旅行(5)イオニア海の周辺環境」照明学会雑誌 81(9),1997 年。
(*)小泉実「エーゲ海スケッチ旅行(6)エーゲ海の周辺」照明学会雑誌 81(10),1997 年。
(*)近畿日本ツーリスト『ギリシア・エーゲ海の本』改訂 2 版,旅のガイドムック 29,1997 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンド・ビッグ社,1997-98 年。
(*)地球の歩き方編集室編『フィレンツェと中世ルネッサンス都市』ダイヤモンド・ビッグ社,1997-98 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ギリシアとエーゲ海の島々&キプロス』ダイヤモンド・ビッグ社,1997-98 年。
(*)昭文社『ギリシア：エーゲ海1998-1999』個人旅行シリーズ33,1997年(→1998-99,1999-00続刊)。
(*)横江茂『ギリシア・エーゲ海』20版,エアリアガイド海外34, 昭文社,1997年。
(*)萩野矢慶記『ギリシア夢紀行』グラフィック社,1997年。
(*)井上猶美『碧きエーゲ海に魅せられて』郁朋舎,1997年。
(*)其阿弥 治「エーゲ海ミニ・クルーズの思い出」調停時報 138,1997 年。
(*)澁澤幸子『イスタンブール,時はゆるやかに』新潮社,1997 年。
(*)澁澤幸子『イスタンブールから船に乗って』新潮社,1997 年。
(*)(参考：石ノ森章太郎著/本城靖久原作/仲倉重郎脚本『グランド・ツアー：英国式大修学旅行』山海堂,1997年(→2006年,角川コミックス,石ノ森章太郎萬画大全集,角川書店。)
(*)星和夫「医学のルーツを尋ねて：イタリアの旅(1-7)」日本病院会雑誌 44(5-7,9-12),1997年。
(*)本城靖久「体験的・世界の都市紀行(7)ヴェネチア「アドリア海の女王」と謳われた海上都市」あさひ銀総研レポート6(4),1997年。
(*)本城靖久「体験的・世界の都市紀行(8)フィレンツェ—ルネッサンスゆかりの「花の都」」あさひ銀総研レポート6(5),1997年。
(*)本城靖久「体験的・世界の都市紀行(9)ローマ—各時代の文化遺産が共存する国際都市」あさひ銀総研レポート6(6),1997年。
(*)本城靖久「体験的・世界の都市紀行(13)アテネ—古代の栄華を残すギリシャの首都」あさひ銀総研レポート6(10),1997年。
(*)本城靖久「体験的・世界の都市紀行(15)コルドバ—スペイン南部の西イスラム抵抗の古都」あさひ銀総研レポート6(12),1997年。
(*)市川勝治『みあ伊太利亜：南の記』小沢書店,1997年。
(*)「シチリアの旅—インドの無花果の食べ方」LA international 34(5),1997年。
(*)(参考：常磐新平『地中海の風に吹かれて：シチリア』世界・わがこころの旅,日本放送出版協会,1997年。)
(*)(参考：青柳正規責任編集『古代地中海とローマ』西洋美術大全集・西洋編5,小学館,1997年。)
(*)(参考：ジョン・ベンブル/秋田淳子・加藤めぐみ・渡辺佳余子訳『地中海への情熱：南方のヴィクトリア=エドワード朝のひとびと』

国文社,1997年。)
(*)(参考：プレドラグ・マトヴェイェーヴィチ/沓掛良彦訳『地中海：ある海の詩的考察』平凡社,1997年。)
(*)テレビ朝日・テレコムジャパン企画・制作『エジプト・チェニジア鉄道の旅：ピラミッド・ナイル・カルタゴ古代文明の旅』テレビ朝日,世界の車窓から,1997年。
(*)(参考：ブレドラグ・マトヴィイェーヴィチ/沓掛良彦・錦織裕之訳『地中海：ある詩的考察』平凡社,1997年。)
(*)堀晄他企画・執筆『地中海のともしび：フェニキア・ローマ・ビザンチンのオイルランプ：中山&オルセッティ・コレクション』古代オリエント博物館,1997年。)
(*)長谷正利『地中海性教員生活：派遣教員の見たローマ・イタリア』日本図書刊行会,近代文芸社(発売),1997年。
(*)南川三治郎撮影･文『イコン(聖像画)の道:ビザンチンの残照を追って』河出書房新社,1997年。)
(*)(参考：宮下志朗『ラブレー周遊記』東京大学出版会,1997年。)
(*)(参考：マーク・トウェイン/吉岡栄一・錦織裕之訳『地中海遊覧記(上下)』マーク・トウェインコレクション10,彩流社,1997年。)
(*)(参考：山川偉也「パルメニデス再訪」桃山学院大学総合研究所紀要22,1997年。)
(*)(参考：西村太良「〈世界の大学街〉(16)夜明けのアテネ」三田評論989,1997年。)
(*)(参考：水田徹研究代表「パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的実地調査」東京学芸大学,科学研究費補助金(国際学術研究・学術調査)研究成果報告書,平成6-8年度,1997年。)
(*)三枝和子「午睡のあとプラトンと(1)アカデメイア再訪」新潮94(1),1997年。
(*)(参考：茂木和行『アカデメイアの学堂』夢譚書房,星雲社(発売),1997年。)
(*)(参考：ライアン・スプレイグ・ディ・キャンプ/小泉源太郎訳『プラトンのアトランティス』角川春樹事務所,ボーダーランド文庫18,1997年。)
(*)(参考：フランク・ジョセフ/宇佐和通訳『アトランティス崩壊の謎：超先進文明：紀元前1198年11月,隕石の激突で大洪水が起こった』日本文芸社,1997年。)
(*)(参考：竹内均『古代文明アトランティスの謎を解く』ひらく,ごま書房,1997年。)
(*)(参考:コリン・ウィルソン/川瀬勝訳『アトランティスの遺産』角川春樹事務所,1997年。)
(*)(参考：エバーハート・ツァンガー/服部研二訳『天からの洪水：アトランティス伝説の解読』新潮社,1997 年。)
(*)(参考：中島邦雄「G.ハウプトマンの小説『アトランティス』にみられる通俗性--早すぎた「古典的現代小説」」上智大学ドイツ文学論集34,1997年。)
(*)(参考：中島邦雄「G.ハウプトマンの小説『アトランティス』における「二重の難破」--その象徴的意味」九州ドイツ文学11,1997年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(19)ヘッセと生ける町ヴェネツィア」人文研究129,1997年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(20)歴史学者ホレイシオ・ブラウンとヴェネツィア」人文研究131,1997年。)
(*)(参考：三石善吉「アルカディアの“トリゴノス”(trigonos)—ロマニストたち」筑波法政22,1997年。)

(*)(参考：三石善吉「「アルカディア」の「トリゴノス」—暴君殺害をめぐって：ガスターフ・ラートブルフとシュテファン・アンドレの場合」筑波法政23,1997年。)
(*)(参考：平川泰司「サー・フィリップ・シドニー—アルカディア(6,7)」(京都光華女子大学)英米文学17,1997年/18,1999年。)
(*)(参考：原研二『オペラ座：「黄金時代(アルカディア)」の幻影劇場』講談社選書メチエ99,講談社,1997年。)
----「牧歌への道：よみがえる古代ギリシア」/「跳梁する運命の女神—ルネサンスの寓意像」/「古代牧歌の戦士—模擬戦としてのカルチョ」/「冥界のオルフェウス：洞窟と豊饒の音楽」
(*)(参考：横浜美術館・福岡市美術館編『ポンペイの壁画展：2000 年の眠りから甦る古代ローマの美』「ポンペイの壁画展」日本展実行委員会,1997 年。)
(*)(参考：「都市生活の快楽(大特集 ポンペイの快楽生活—世紀末のわれらに警鐘をを鳴らすか)」芸術新潮 48(4),1997 年。)
(*)(参考：「性の快楽(大特集 ポンペイの快楽生活—世紀末のわれらに警鐘をを鳴らすか)」芸術新潮 48(4),1997 年。)
(*)(参考：「食の快楽(大特集 ポンペイの快楽生活—世紀末のわれらに警鐘をを鳴らすか)」芸術新潮 48(4),1997 年。)
(*)(参考：「住まいの快楽(大特集 ポンペイの快楽生活—世紀末のわれらに警鐘をを鳴らすか)」芸術新潮 48(4),1997 年。)
(*)(参考：青柳正規「ポンペイの光と影(大特集 ポンペイの快楽生活—世紀末のわれらに警鐘をを鳴らすか)」芸術新潮 48(4),1997 年。)
(*)(参考：「美事拾遺(59)「ポンペイの壁画展」「アルザスとフランスの近代美術の歩み」」美術手帖 741,1997 年。)
(*)(参考：今井桜子「まいもどる歴史の記憶ポンペイの壁画展」美術手帖 742,1997 年。)
(*)(参考：横山卓雄「ポンペイ遺跡の石(1~6)」地学研究 46(2,3),1997 年/47(3),48(3),1999 年/49(1),2000 年。)
(*)(参考：野中真実「ハドリアヌス帝の庭園について」プロピレア 9,1997 年。)
(*)(参考：紅山雪夫「ヨーロッパ歴史街道の今昔(5)古代ローマ街道に沿って(上)旅と物流の歴史をたどる」観光文化 21(2),1997 年。)
(*)(参考：紅山雪夫「ヨーロッパ歴史街道の今昔(6)古代ローマ街道に沿って(下)エトルリアの遺跡や少年使節の行路をたどる」観光文化 21(3),1997 年。)
(*)(参考：坂井總『前 5 世紀のイタリアと都市の起源問題』(財)古代学協会 1995 年,(科研費)1997 年。)
(*)(参考：塩野七生「古代ローマと現代と」新潮 45 16(5),1997 年。)
(*)塩野七生「ローマの街角から(44)」フォーサイト 8(12),1997 年。
(*)(参考：キャロライン・ムアヘッド/芝優子訳『トロイアの秘宝：その運命とシュリーマンの生涯』角川書店,1997 年。)
(*)(参考：喜田みゆき「アルカイク期北エトルリア,ムツロ出土のフリーズに関する一考察：集合図の解釈を中心に」史泉 86,1997 年。)
(*)(参考：奥村晃史「北アナトリア断層のローマ時代以降の活動史：トルコの大地震を発掘する」地理科学 52(2),1997 年。)

(*)(参考：高橋榮一責任編集『ビザンティン美術』世界美術大全集・西洋編 6,小学館,1997年。)
(*)辻成史「小アジア(現トルコ共和国)地中海沿岸におけるビザンチン遺跡」適塾?,1997 年。
(*)(参考：北田葉子「16 世紀半ばのフィレンツェにおける「エトルリア神話」--コジモ 1 世とプロパガンダ」西洋史学 188,1997 年。)
(*)(参考 : Steingraber Stephan「古代地中海圏(ギリシア・ローマ・エトルリア/古代イタリア・エジプト・近東)の美術工芸品を所蔵する日本の美術館及びコレクション(「美術に関する調査研究の助成」研究報告[含 研究者別・主題別索引])」鹿島美術財団年報(15 別冊),1997 年。)
(*)高田一郎「古典を撫でる—ギリシア,パルテノン(特集 わたしの古典)」悲劇喜劇 50(4),1997年。
(*)(参考：大木綾子「眠るマイナス：ギリシア美術における条瀬表現の一側面」筑波大学芸術年報 1997,1997 年。)
(*)西岡文彦・福のり子『美術館ものがたり：その歴史とドラマ』淡交社,1997 年。
(*)(参考：ポール・バロルシキー/中江彬訳『芸術神ミケランジェロ：鼻の神話と隠された自伝』ありな書房,1997 年。)
(*)(参考：高木良男『ナポレオンとタレイラン(上)』中央公論社,1997 年。)
(*)(参考：下重暁子「世界百一話—「ゲリラと神殿」」世界週報 78(13),1997 年。)
(*)(参考 : 周藤芳幸『図説ギリシア : エーゲ海文明の歴史を訪ねて』河出書房新社,1997 年(→2007 年,ふくろうの本,河出書房新社。)
(*)(参考：周藤芳幸『ギリシアの考古学』世界の考古学 3,同成社,1997 年。)
(*)(参考：周藤芳幸「「ドーリア人の侵入」と考古学：Handmade Burnisded Ware を手がかりとして」西洋古典學研究45,1997年。)
(*)(参考：大津忠彦「古代東地中海沿岸地域における土器型式学：考古学的「器形」と文献学資料に記された名称」考古學雑誌82(4),1997年。)
(*)(参考：ナジ・ケスキン/屋代桂子訳『エフェソス』Keskin cobr kartpotalcilk san.ve paz.AS.,日本語版,1997年。)
(*)(参考：フランシス・ウッド/栗野真紀子訳『マルコ・ポーロは本当に中国へ行ったのか』草思社,1997年。)
(*)(参考：石井進『歴史家の夢：新しい博物館をめざして：歴博対談』歴史民族博物館振興会,歴博ブックレット2,1997年。)
(*)(参考：アンナ・マリア・リベラティ,ファビオ・ブルボン/青柳正規監訳『古代ローマ：人類初の世界文明』新潮社,1997年。)
(*)(参考：橋本龍幸『中世成立期の地中海世界：メロヴィング時代のフランクとビザンツ』南窓社,1997年。)
(*)(参考：山辺規子『ノルマン騎士の地中海興亡史』白水社,1997年。)
(*)地中海学会編『地中海学の二十年：地中海学会20周年記念』地中海学会,1997年。
(*)(参考：地中海学会編『スペイン』地中海歴史散歩,河出書房新社,1977年。)
(*)滝口鉄夫『地中海浪漫：イベリア半島からモッコ,チュニジアへ』新評論,1997年。
(*)(参考：シャルル・エマニュエル・デュフルク/芝修身・芝紘子約『イスラーム治下のヨーロッパ：衝突と共存の歴史』藤原書店,1997年。)
(*)(参考：トマス・ケイヒル/森夏樹訳『聖者と学僧の島：文明の灯を守ったアイルランド』

青土社,1997年。)
(*)(参考：高橋朋子「ジョルジョーネ作《ラウラ》の主題の再解釈」地中海学研究20,1997年。)
(*)(参考：椎名正博「ヴァレリーと地中海—いつもいつもの蹴り返し」聖徳大学総合研究所論叢5,1997年?。)
(*)(参考：木原誠「イェイツの「ヴィジョン」とシュペングラーの「西洋の没落」の交響：時代の中の「ヴィジョン」」研究論文集2(1),1997年。)
(*)(参考：杉浦恭「ヨハン・ホイジンガの生涯とその時代：近代文明の社会的背景に関する一考察」愛知教育大学研究報告 人文・社会科学46,1997年。)
(*)(参考：中江彬「「アルブレヒト・デューラー『人体均衡論四書』註解」テアトロ13,1997年。)
(*)田村直美「野上弥生子と「岩波文庫」(3)『エトルリアの壺外五篇』その他」香川大学教育学部研究報告 第1部102,1997年。)
(*)(参考：中江彬「漱石とレオナルド：偶然のイメージ」人間文化学研究集録6,1997年。)
(*)(参考：中江彬「ミケランジェロと漱石：鼻の神話(金子務教授・片倉穣教授定年退官記念号)」人文学論集15,1997年。)
(*)(参考：矢沢利彦『東西文化交渉史』アジア学叢書33,大空社,1997年。)
(*)(参考：史学会編『東西交渉史論(上下)』復刻：昭和14年冨山房発行,大空社,1997年。)
---原随園「波斯戦役の性格」
村川堅太郎「「エリュトラ海案内記」に見えたる紀元一世紀の南海貿易」
岩井大慧「元大代の東西交通」
森谷秀亮「岩倉全権大使の米欧回覧」
三上義夫「東西交渉史上に於ける科學の状態」
(*)(参考：上原和「大和古寺幻想(13)はるかなるユーラシアの彼方より」學燈94(1),1997年。)
(*)松戸市立博物館編『シルクロードとガンダーラ：開館5周年記念特別展=Silk Road & Gandhara：the fifth anniversary of Matsudo Museum special exhibition』松戸市立博物館,1997年。)
(*)大和文華館編『ガンダーラ彫刻特輯』大和文華98,大和文華館,1997年。)
(*)(参考：大橋一章「シルクロードと日本仏教美術(日本・オリエント=シルクロード)—(シルクロードと日本)」季刊考古学61,1997年。)
(*)(参考：杉山二郎「日本のなかの西アジア的要素(日本・オリエント=シルクロード)—(シルクロードと日本)」季刊考古学61,1997年。)
(*)(参考：Stephan Steingraber「古代地中海圏(ギリシア,ローマ,エトルリア/古代イタリア,エジプト,近東)の美術工芸品を所蔵する日本の美術館及びコレクション(「美術に関する調査研究の助成」研究報告[含・研究者別および主題別索引]」鹿島美術財団年報(15別冊),1997年。)
(*)田中久文「和辻哲郎と文化相対主義」日本大学理工学部一般教育教室彙報62,1997年。
(*)(参考：伊東俊太郎編『比較文明学を学ぶために』世界思想社,1997年。)
(*)(参考：米山直俊・吉澤五郎編『比較文明の社会学：新しい知の枠組』放送大学教材,放送大学教育振興会,1997年(→1998年,改訂版。→1999年,4刷)。)
(*)(参考：松岡正剛『情報の歴史を読む：世界情報文化史講義』(「オデュッツセイアから複式簿記へ」)NTT出版,1997年。)

(*)(参考：和田旦「エリオットの《伝統論》を読む」学校法人佐藤栄学園埼玉短期大学研究紀要6,1997年。)
(*)中井晟「西田幾多郎「伝統主義に就て」を読む：戦前のT.S.エリオット理解を背景として」同志社大学英語英文学研究68,1997年。
(*)(参考：立田洋司『唐草模様：世界を駆けめぐる意匠』講談社メチエ94,講談社,1997年。)
(*)(参考：吉澤五郎「トインビーの文明批評—地球文明の道標として」宗教と文化 18,1997年。)
(*)(参考：星川淳「『万物の歴史』--その収穫と疑問(小特集 ウィルバーの『万物の歴史』を読む)」春秋388,1997年。)
(*)(参考：高尾利数「トインビーの期待に答える力作(小特集 ウィルバーの『万物の歴史』を読む)」春秋388,1997年。)
(*)(参考：大野純一「常に既に意味がある(小特集 ウィルバーの『万物の歴史』を読む)」春秋388,1997年。)
(*)(参考：麦倉達生「地中海沿岸ラテン系民族の時間観(1)古代ギリシア人の時間観」滋賀大学教育学部紀要II,人文科学・社会科学47,1997年。)
(*)(参考：麦倉達生「地中海沿岸ラテン系民族の時間観(1)古代ローマ人[古代イタリア人]の時間観」滋賀大学教育学部紀要II,人文科学・社会科学47,1997年。)
(*)(参考：三宅正樹「ヨーロッパとアジアにおける進歩の理念の比較文明論的考察(1,2)」明治大学社会科学研究所年報37,1997年/38,1998年。)
(*)(参考：国立歴史民俗博物館編『動物と人間の文化誌』歴博フォーラム,吉川弘文館,1997年。)
(*)(参考：ジャン・ヴェルドン/池上俊一訳『図説 快楽の中世史』原書房,1997年。)
(*)(参考：原研二『オペラ座：「黄金時代(アルカディア)の幻影劇場』講談社選書メチエ99,講談社,1997年。)
(*)(参考：宮永孝「〈研究ノート〉天正遣欧使節の碑文について」社会労働研究44(1),1997年。)
(*)(参考：小津次郎責任編集『シェイクスピア作品鑑賞事典』南雲堂,1997年。)
(*)(参考：ピーター・ケネル,ハミシュ・ジョンソン/荒木正純訳『シェイクスピア人名事典』東洋書林,1997年。)
(*)(参考：ヒュー・クラウト編/小川洋子(部分訳)・中村英勝(監訳)『ロンドン歴史地図』東京書籍,1997年。)
(*)(参考：『新共同訳聖書コンコルダンス：聖書語句索引』新教出版社,1997年。)
(*)(参考：辻原康夫『民族文化の博学辞典：歴史・地理・風俗』日本実業出版社,1997年。)
(*)(参考:ルネ・マルタン監修/松村一男訳『図説 ギリシア・ローマ神話文化事典』原書房,1997年。)
(*)近代日本社会運動史人物大事典編集委員会編『近代日本社会運動史人物大事典』日外アソシエーツ,紀伊国屋書店[発売],1997年。
(*)(参考：ディヴィッド・クリスタル編『岩波=ケンブリッジ世界人名辞典』岩波書店,1997年(→1998年,CD-ROM版,Iwanami EP CD-ROM。)
(*)堀孝彦「堀達之助研究ノート(14)『英和対訳袖珍辞書』関連資料ほか」名古屋学院大学論集・社会科学篇 34(1),1997 年。
(*)朱京偉「『哲学字彙』(初版)の訳語とその性質」名古屋商科大学論集41(2),1997年。

(*)高橋新吉・前田献吉・前田正名編『和訳英辞書』高城書房出版,1997年。)
(*)宮沢真一『解説：主として日英文化交流史から見た「薩摩辞書」』高橋新吉・前田献吉・前田正名編和訳英辞書,別冊,高城書房出版,1997年。)
(*)岩崎克己『前野蘭化』東洋文庫612,平凡社,1997年。
(*)(參考：岩波文庫の会・岩波文庫編集部編『雑誌『文庫』復刻版』岩波書店,1997 年。)
(*)(參考：岩波文庫編集部編『私と岩波文庫：忘れえぬ一冊』岩波書店,1997 年。)
(*)岩波文庫編集部篇『岩波文庫解説総目録：1927-1996』特装版・岩波文庫版[上中下],岩波書店,1997年。
(*)(參考：高田時雄『イタリアの図書館に所蔵される漢籍の研究』京都大学1995年,(科研費用)1997年。
(*)浅野幸治「ソクラテス・プラトン研究日本語文献目録----1975 年~1995 年(1,2,3)」阪南大学「阪南論集 人文・自然科学編」32(3),33(1,2),1997年。
(*)(參考：大城光正「地中海東部の古代の象形文字」Mare Nostrum 10,1997年。)
(*)(參考：J.チャドウィック著/大城功訳『線文字Bの解読』第2版,みすずライブラリー,みすず書房,1997年。)
(*)犬塚博彦「言語を研究するということ(1)：高津春繁著『言語学概論』におけるテクスト分析を通して」盛岡大学紀要16,1997年。)
(*)(參考：河底尚吾『ギリシア語入門』改訂新版,1997年。)
(*)(參考：奥貞二「ギリシア語便覧」鈴鹿工業高等専門学校紀要30(1),1997年。)
(*)本馬信義「東京基督教神学校におけるギリシャ語の授業風景」プロピレア 9,1997 年。
(*)(參考：松川陽平「詩語としてのギリシャ語への一アプローチ—印欧語比較詩学の視点」プロピレア 9,1997 年。)
(*)(參考：山口喜雄「ギリシアの出版事情」プロピレア 9,1997 年。)
(*)(參考：鈴木敦也「わが愛するギリシャ俚諺百選」プロピレア 9,1997 年。)
(*)(參考：高田一郎「古典を撫でる—ギリシア,パルテノン(特集,続わたしの古典)」悲劇喜劇 50(4),1997 年。)
(*)犬塚博彦「言語を研究するということ(1)：高津春繁著『言語学概論』におけるテクスト分析を通して」盛岡大学紀要 16,1997 年。
(*)(參考：坂部恵『ヨーロッパ精神史入門：カロリング・ルネサンスの残光』岩波書店,1997年(→2012 年,岩波人文書セレクション。→2015 年,オンデマンド岩波オンデマンドブックス。)
(*)(參考：薗田宗人『ニーチェと言語：詩と思索のあいだ』(ソクラテス)大阪市立大学,博士(文学),乙第 1859 号,1997 年。)
(*)愛宕あかり「イスラーム関係講座紹介：四天王寺国際仏教大学文学部言語文化学科アラビア語アラビア文化専攻」イスラム世界48,1997年。)
(*)石山洋他編『西洋文学・語学』皓星社,雑誌記事索引集成,「明治・大正・昭和前期」人文科学編 44 巻,1997 年。
(*)「泉井久之助著書論文目録」(京都大学大学院人間・環境学研究科山口研究室) Dynamis：ことばと文化 1,1997 年。
(*)地中海学会編『地中海学の二十年：地中海学会20周年記念』地中海学会,1997年。)
(*)Yaginuma,Shigetaka‘A Brief History of Classical Studies in Japan’Kleos 2,1997.
(*)(參考：中山恒夫「西洋古典学研究の現状と課題」地中海学会 20 周年記念「地中海学の

二十年」,1997 年。)
(*)中川久定「文学部における「西洋学」の教育・研究—世界市場に参入するために(今月のテーマ《問われる文学部》)」現代の高等教育 390,1997 年。
(*)(参考：曽田長人「18 世紀末期ドイツにおける古典研究の再編成に関する一考察—フリードリヒ・アウグスト・ヴォルフと新人文主義」年報地域文化研究 1,1997 年。)
(*)(参考：弘前大学人文学部西洋文化コース編『ヨーロッパ・学の饗宴：三好迪教授退官記念』弘前大学人文学部,1997 年。)
(*)(参考：東京大学編『学問のアルケオロジー』東京大学出版会,東京大学創立百二十周年記念東京大学展：学問の過去・現在・未来 第 1 部,1997 年。)
(*)(参考：東京大学編『精神のエクスペディシオン』東京大学出版会,東京大学創立百二十周年記念東京大学展：学問の過去・現在・未来 第 2 部,1997 年。)
(*)(参考：荒井献・大口邦雄『リベラルアーツの挑戦』敬和学園大学カレッヂブックレット No.3,1997 年。)
(*)(参考：阿刀田高『ホメロスを楽しむために』新潮社,1997 年(→2000 年,新潮文庫版)。)
(*)阿刀田高「ホメロスを楽しむために」波 31(4),1997 年。
(*)(参考:柴田美々子「トロイア戦争を繰り返さぬために—シモーヌ・ヴェイュにおける『イーリアス』の翻訳の問題」(明治学院大学言語文化研究所)言語文化 14,1997 年。)
(*)(参考：フリードリッヒ・シュライエルマッハー/三ツ木道夫訳「翻訳のさまざまな方法について(1-3)」同志社外国文学研究77,78,79,1997年。)
(*)(参考:岡林洋『シュライエルマッハーの美学と解釈学の研究』大阪大学,博士(文学),乙第7216号,1997年。)
(*)村田菜々子「私とギリシア語のおつきあいのしかた」プロピレア9,1997年。
(*)(参考:斎藤俊雄『英語史研究の軌跡—フィロロジー的研究からコーパス言語学的研究へ』英宝社,1997年。)
(*)土戸清「岩波版新約聖書の訳業に与って」ソフィア46(1),1997年。)
(*)(参考：平井隆「ラテン翻訳とラテン・テクストの異文をめぐって：オウィディウスのバウキスとピレモンの変身譚の場合」英語と英米文学32,1997年。)
(*)(参考：高田博行「ラテン語の鏡に映じたドイツ語：近世における言語の比較と評価」獨逸文學98,1997年。)
(*)(参考：谷井博樹「古オック語の動詞の時制について：聖書翻訳においてラテン語・ギリシャ語を比較・参照して」日本フランス語フランス文学会関東支部論集5,1997年。)
(*)(参考:大谷尚「インターネットは学校教育にとってトロイの木馬か—テクノロジーの教育利用と学校文化」学習評価研究29,1997年。)
(*)(参考：地村彰之研究代表『『トロイラスとクリセイダ』諸刊本のコンピュータによる計量的比較』科学研究費補助金基盤研究(C2)研究成果報告書,平成7年度-平成8年度,1997年。)
(*)(参考：武藤慎一『古代末期シリアの解釈学：ニシビスのエフライミとヨアンネス・クリュソストモス』京都大学,博士(文学),甲第6623号,1997年。)
(*)(参考：小林道憲『宗教とは何か：古代世界の神話と儀礼から』NHKブックス,日本放送

出版協会,1997年。)
(*)(参考：安田喜憲「東西の神話にみる森のこころ」日本研究16,1997年。)
(*)(参考：清水威能子「『サテュロス,あるいは神にされた森の悪魔』について—パロディにおけるイロニーの可能性」文化60(3・4),1997年。)
(*)(参考：佐藤りえこ「セフェリスの中の雲について：『ヘレネー』を中心として〈発表要旨〉」プロピレア9,1997年。)
(*)(参考：V.V.Iwanov,V.N.Toporov/川崎万里訳「〈語彙研究〉インド・ヨーロッパ語族の神話」象徴図研究11,1997年。)
(*)(参考：ウルバンチク・スタニスワフ,長谷見一雄,三浦清美,三好俊介,熊野谷葉子「アレクサンデル・ブリュクネルとその神話学の業績」Slavistika：東京大学大学院人文社会系研究科スラブ語スラブ文学研究室年報12,1997年。)
(*)(参考：井口正俊「「アドニスの園」の言語—J.デリダの『散種』からの接近—プラトンの『パイドロス』篇を読み解く(4)」西南学院大学国際文化論集11(2),1997年。)
(*)(参考:内藤可夫『後期ニーチェの根本思想』京都大学,博士(人間・環境学),甲第6928号,1997年。)
(*)(参考：ウールリッヒ・ガイアー/浜田真訳「神話から虚像へ—ゲーテの「プロメーテウス」頌詩」モルフォロギア19,1997年。)
(*)(参考：大石昌史「自然・芸術・神話—ニーチェにおけるゲーテ的世界観の変容(《ゲーテとニーチェ—その自然観をめぐって》」モルフォロギア19,1997年。)
(*)(参考：洲崎恵三「NUNC STANSと神話—ハントケ,ショウペンハウアー,ボイムラー,バハオーフェン,ブロッホ,フロイトそしてトーマス・マン」言語文化論集44,1997年。)
(*)(参考：高橋透「神なき時代における神話：ハイデガーにおける『神話的なもの』」社會科學討究43(2),1997年。)
(*)(参考：本間邦子「ミノア期におけるディオニューソス信仰：カール・ケレーニイのディオニューソス研究に関する一考察」哲学会誌21,1997年。)
(*)(参考：東馬場郁生「1960年代北米における宗教研究の発展—ミルチャ・エリアーデとシカゴスクール」アメリカ研究2,1997年。)
(*)(参考：林知幸「聖・俗概念の再考：デュルケム・カイヨワ・エリアーデ・シェーラーを中心として」佛教大學大學院紀要25,1997年。)
(*)(参考：松山雄三「船上の神話学者 J.G.ヘルダー—自然と神話」プロテウス 3,1997 年。)
(*)(参考：板井孝一郎「ヘーゲルと「新しい神話」--生命有機体の論理と主体的宗教」倫理学研究 27,1997 年。)
(*)(参考：三枝圭介「トーマス・マンと神話的なもの：『詐欺師フェールクス・クルルの告白』」鳥取大学教育学部研究報告,人文社会科学 48(2),1997 年。)
(*)(参考:松田美作子「ルネサンス神話画のグロテスクな視点—エリザベス朝文学との接点」英語青年 143(7),1997 年。)
(*)(参考：古賀元章「T.S.エリオットの文学批評用語の根本原理--「神話的方法」,「想像力の論理」,「聴覚的想像力」の場合」言語文化学会論集 9,1997 年。)
(*)(参考：阿部美春「起源神話の再創造—近代のパンドラ,メアリー・シェリー」イギリスロマ派研究 21,1997 年。)

(*)(参考:ポール・ジョンソン/高橋照子訳『神の探究;ある歴史家の魂の旅』共同通信社,1997年。)
(*)(参考:高橋清一他編『世界の神話がわかる:「民族の聖なる神と人の物語」を探究する』知の探究シリーズ,日本文芸社,1997年。)
(*)(参考:大戸千之「ヘレニズム時代の地中海沿岸諸地域におけるイシス信仰について(西洋史部会,研究発表)」史学雑誌106(12),1997年。)
(*)(参考:カール・ケレーニイ/岡田素之訳『医神アスクレピオス:生と死をめぐる神話の旅』白水社,1997年(→2012年,新装復刊)。)
(*)(参考:齋藤貴弘「紀元前五世紀後半のアテナイにおける宗教と民衆:アスクレピオス祭儀の導入を中心に」史学雑誌106(12),1997年。)
(*)(参考:小川正廣「「運命の秤」についての一考察—ホメロスとオリエント宗教」名古屋大学文学部研究論集127,1997年。)
(*)(参考:斉藤俊之「神話解釈の前と後—プラトン『政治家』の神話をめぐって」西洋古典研究会論集6,1997年。)
(*)(参考:斉藤俊之「プラトン『政治家』における神話:デミウルゴスと宇宙の魂に注目して」哲学会誌21,1997年。)
(*)(参考:小川正廣「国際ギリシア神話シンポイジウムに出席して」西洋古典學研究45,1997年。)
(*)(参考:大林太良・吉田敦彦「対談 神話の中の女性—大地母神から魔女,聖母まで」現代思想25(8),1997年。)
(*)(参考:大林太良・吉田敦彦「神話の中の海と山」現代思想25(8),1997年。)
(*)(参考:大林太良・吉田敦彦「神話と英雄伝説」現代思想25(13),1997年。)
(*)(参考:大林太良・吉田敦彦「対話 世界の神話をどう読むか(特集世界の神話をどう読むか)」ユリイカ29(2),1997年。)
(*)(参考:吉田敦彦「神話に見る女神の力—大地母神から聖母マリアまで(特集2,神話そして伝説—第13回〈東京の夏〉音楽祭'97を前に)」音楽芸術55(7),1997年。)
(*)(参考:西村賀子「ギリシア神話と「女性嫌悪(ミソギュニア)」--パンドラ神話をめぐって(特集世界の神話をどう読むか)」ユリイカ29(2),1997年。)
(*)(参考:松村一男「女性の神話学(特集世界の神話をどう読むか)」ユリイカ29(2),1997年。)
(*)(参考:松村一男「神話学ガイドブック(特集世界の神話をどう読むか)」ユリイカ29(2),1997年。)
(*)(参考:古川俊英「神話風景と寓意:ニコラ・プサンの《オルペウスとエイリュディケーのいる風景》をめぐって」北海道教育大学紀要,第1部A,人文科学編48(1),1997年。)
(*)(参考:吉田城「神話と寓意の魅惑:ギュスターフ・モローを見るプルースト」京都大學文學部研究紀要36,1997年。)
(*)(参考:高橋秀樹「〈論文〉『神統記』創造神話の双軸性」新潟史学39,1997年。)
(*)(参考:篠田知和基「動物神話—神話形成の謎を解く鍵(特集世界の神話をどう読むか)」ユリイカ29(2),1997年。)
(*)(参考:James Hilman/中島達弘訳「エディプス変奏曲(特集世界の神話をどう読むか)」ユリイカ29(2),1997年。)
(*)(参考:山形直子「ホメーロスと『平家物語』における神の顕現の比較—超自然現象をい

かに読むか」(明治学院大学言語文化研究所)言語文化14,1997年。)
(*)(参考：秋山学「神話から神秘へ：アリストテレス「詩学」における mythos の再評価」Odysseus:東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要1,1997年。)
(*)(参考：古澤ゆう子『牧歌的エロース：近代・古代の自然と神々』木魂社,1997年。)
(*)(参考：宮永美知代「ミロのヴィーナスの顔面の左右差についての研究」美術解剖学雑誌4(1),1997年。)
(*)(参考：松本栄寿「ヴィーナスとランプと照時計と」計測と制御36(10),1997年。)
(*)(参考：中山公男「〈時の話題〉日仏の接点を探して ミロのヴィーナス来日事情」三田評論994,1997年。)
(*)(参考：寺脇研・鬼塚大輔・杏堂礼他「劇場公開映画批評 スワロウテイル/グース/ジングル・オール・ザ・ウェイ/フェティッシュ/誘惑のアフロディーテ/ザ・クラフト/月とキャベツ/カンザス・シティ/ヘルレイザー4」キネマ旬報1216,1997年。)
(*)(参考：瀬谷幸男訳『ケンブリッジ歌謡集：完訳：中世ラテン詞華集』(底本『ウェヌスの宵祭の歌』)南雲堂フェニックス,1997年。)
(*)(参考：ワルター・F.オットー/西澤龍生訳『ディオニューソス：神話と祭儀』論創社,1997年。)
(*)(参考：石井慎一郎「メタファーとしてのアポロンとディオニュソス」外国語教育論集19,1997年。)
(*)(参考：本間邦子「ミノア期におけるディオニューソス信仰—カール・ケレーニイのディオニューソス研究に関する一考察」(学習院大学哲学会)哲学会誌21,1997年。)
(*)(参考：高橋明彦「症例アリアドネ(1,2)—ニーチェ「ディオニュソス・ディテュランボス」第7歌の詩法(3)」上智大学ドイツ文学論集34,1997年/35,1998年。)
(*)(参考：大石昌史「ケンタウロスの生成—ニーチェ『悲劇の誕生』をめぐる成立をめぐる諸問題(1)」芸術学1,1997年。)
(*)(参考：グスターフ・シャルク/角信雄・長谷川洋編『ローマ建国の英雄たち：神話から歴史へ』新装復刊,白水社,1997年。)
(*)(参考：安達秀夫「『ダーバヴィル家のテス』とヤヌスの神話(1)」立正大学文学部研究紀要13,1997年。)
(*)(参考：岩田靖夫編『西洋思想の源流：自由民の思想と虜囚民の思想』放送大学教材,放送大学教育振興会,1997年。)
(*)(参考：ノーマン・コーン/浜林正夫訳『ノアの大洪水：西洋思想史の中の創世記の物語』大月書店,1997年。)
(*)(参考：吉田敦彦「神話に見る神の力—大地母神から聖母マリア,アマテラスまで(特集2神話そして伝説—第13回〈東京の夏〉音楽祭'97を前に)」音楽芸術55(7),1997年。)
(*)(参考：J.ブレンキンソップ/樋口進訳『旧訳預言の歴史：カナン定着からヘレニズム時代まで』教文館,1997年。)
(*)池田裕「D.J.ワイズマン編/池田裕監訳「旧約聖書時代の諸民族」」(青山学院大学基督教学会)基督教論集40,1997年。
(*)(参考：月本昭男・金井美彦・山我哲雄編『古代イスラエル預言者の思想的世界』新教出

版社,1997年。)
(*)(参考：ラシャペル・アンドレ『旧約聖書による人間像』人間と聖書1,サンパウロ,1997年。)
(*)(参考：ラシャペル・アンドレ『新約聖書による人間像』人間と聖書2,サンパウロ,1997年。)
(*)(参考：小嶋潤『新約聖書の世界：原始キリスト教の発足と展開』刀水書房,1997年。)
(*)(参考：ラシャペル・アンドレ『人間と聖書』サンパウロ,1997年。)
(*)(参考：高柳俊一『聖書における諸宗教との出会い』リトン,1997年。)
(*)(参考：マリーナ・ブルース/浅野幸治訳「イエスの世界—古代ユダヤへのタイムトラベル(1-8)」福音と世界1-8月号,1997年。)
(*)(参考：戸田聡「ローマ期エジプトにおけるキリスト教の普及をめぐって」西洋史学187,1997年。)
(*)(参考：堤安紀「2世紀初頭のキリスト教徒とプリニウス書簡—2つの皇帝書簡についての若干の考察」上武大学商学部紀要8(2),1997年。)
(*)(参考：小河陽『イエス・ルネサンス：現代アメリカのイエス研究』教文館,聖書の研究シリーズ49,1997年。)
(*)(参考：小河陽「新約聖書の研究方法(特集 新約聖書とは何か)」言語26(12),1997年。)
(*)(参考：竹内公誠「新約聖書の「常用語訳」の特質—ヘブライ書を中心として」武蔵大学人文学会雑誌28(2),1997年。)
(*)(参考：田川建三『書物としての新約聖書』勁草書房,1997年。)
(*)(参考：マイケル・ドロズニン/木原武一訳『聖書の暗号』新潮社,1997年(→2002年,新潮文庫版)。)
(*)(参考：新田一郎「〈論集〉いかにしてキリスト教は世界宗教となり得たか：世界国家ローマとの関わりにおいて」金沢大学文学部論集,史学・考古学・地理学篇17,1997年。)
(*)(参考：荒井献「聖書における差別と共生-〈よきサマリア人の譬〉によせて」(栗原彬編「講座 差別の社会学」[『現代世界の差別構造3』所収],弘文堂,1997年。)
(*)(参考：松本宣郎「ローマ社会史から見た初期キリスト教」歴史と地理518,1997年。)
(*)(参考：Takashi Onuki“Sammelbericht als Kommunikation : studien zur Erzählung der Evangelien”Neukirchener Verlag,1997.)
(*)(参考：ローン・ジェンセン/長澤育子訳『聖母マリアの出現』天使館,東峰書房(発売),1997年。)
(*)(参考：ジョバンニ・デ・サンティス「〈特集 「個」の論理と倫理〉人の神化：ビザンティン帝国の宗教精神」ソフィア46(1),1997年。)
(*)(参考：西川宏人「ボシュエのマグダラのマリア像」ソフィア 46(4),1997 年。)
(*)(参考：菅原裕二「福音的貧しさ」ソフィア 47(1),1997 年。)
(*)(参考：石井美樹子「ダーム(意中の女性)からノートル・ダーム(聖母マリア)へ」人文研究129,1997年。)
(*)(参考：神原正明『ヒエロニムス・ボスの図像学：阿呆と楽園に見る中世』神戸学院大学人文学部人間文化研究叢書,人文書院,1997年。)
(*)(参考：荒井献・大貫隆・小林稔訳『救済神話』岩波書店,ナグ・ハマディ文書1,1997年。)
(*)(参考：宮本久雄・山本巍・大貫隆『聖書の言語を超えて：ソクラテス・イエス・グノー

シス』東京大学出版会,1997年。)
(*)(参考：由木康『イエス・キリストを語る：ヨハネ伝講解』講談社,1997年。)
(*)(参考：マドレーヌ・スコペロ/入江良平・中野智恵美訳『グノーシスとは何か』せりか書房,1997年。)
(*)(参考：橋本龍幸『中世成立期の地中海世界：メリヴィング時代とフランクとビザンツ』南窓社,1997年。)
(*)(参考：J.A.ユングマン/石井祥裕訳『古代キリスト教典礼史』平凡社,1997年。)
(*)(参考：谷泰『カトリックの文化誌：神・人間・自然をめぐって』NHKブックス791、日本放送出版協会,1997年。)
(*)(参考：佐藤真一『トレルチとその時代：ドイツ近代精神とキリスト教』創文社,1997年。)
(*)河島幸夫「トレルチの全体像を解明した世界的業績—佐藤真一『トレルチとその時代』」創文389,1997年。)
(*)(参考：土戸清『規範なき時代の宗教：聖書と現代』教文館,1997 年。)
(*)宮原安春『神谷美恵子 聖なる声』講談社,1997年(→2001年,文春文庫版).。
(*)三浦朱門『わが友遠藤周作：ある日本的キリスト教徒の生涯』PHP研究所,1997年。
(*)遠藤周作『心のふるさと』文藝春秋,1997年。
(*)遠藤順子著・鈴木秀子聞き手『夫・遠藤周作を語る』文藝春秋,1997年。
(*)玉置邦雄「遠藤周作とキリスト教(キリスト教大学の新たなる創造—人文科学とキリスト教をめぐって)」キリスト教文化学会年報43,1997年。
(*)『遠藤周作の世界』朝日出版社,1997年。
(*)山形和美編『遠藤周作—その文学世界』国研出版社,星雲社(発売),国研叢書3,1997年。
(*)遠藤周作講演『『沈黙』について：日本が初めて西洋と出会った頃』新潮社,新潮カセット講演,1997年。
(*)松本仁助「民話から叙事詩へ：ペネロペイアの再婚問題に関連して」(百合若)西洋古典學研究 45,1997 年。
(*)葛錦正一「近松と西鶴：契約・説得・宙吊り」沖縄国際大学日本語日本文学研究 1(1),1997年。
(*)岩田高明「小関三英訳『鑄人書』の西洋教育情報：江戸時代における西洋教育情報受容の特質」日本の教育史学：教育史学会紀要 40,1997 年。
(*)広岡守穂「東海散士「佳人之奇遇」--自由とナショナリズム」国文学 解釈と鑑賞 57(4),1997年。
(*)大沼敏男「東海散士「佳人之奇遇」」国文学 解釈と鑑賞 57(4),1997 年。
(*)鈴木直枝「明治前期の学術書にみる翻訳—有賀長雄訳『訳註如氏教育学』と高嶺秀夫訳『教育新論』の検討から」国語学研究 36,1997 年。
(*)(参考：大出晃「古代メソポタミアにおける知の系譜：非正統的知識と正統的知識 I(和田博徳教授退任記念号)」創価大学人文論集 9,1997 年。)
(*)(参考：W.Jaeger/村島義彦訳「パイデイア—ギリシア的人間の形成(2-7)]国際教育研究所紀要 6,1997 年/7,1998 年/8,1999 年/9,10,2000 年/11,2001 年。)
(*)(参考：川島重成「『イーリアス』における運命観と生死観--『平家物語』と比較して」(明治学院大学言語文化研究所)言語文化 14,1997 年。)
(*)(参考：黒岩徹『物語 英国の王室：おとぎ話とギリシア悲劇の闇』中公新書,1997 年。)
(*)(参考：山内登美雄『ギリシア悲劇：神々と人間のドラマ』新潮社,1997 年。)

(*)(参考：H.R.ジョリッフ/内村直也訳『ギリシア悲劇物語』白水社,新装版,1997 年。)
(*)(参考：清水正『『オイディプス王』を読む』(我孫子)D 文学研究会,(東京)星雲社(発売),1997 年。)
(*)(参考：富原真弓「工場のアンティゴネー—1933-36 年のシモーヌ・ヴェイユ」思想 875,1997 年。)
(*)田村道美「野上弥生子訳「ギリシア神話」と「古代ギリシヤ祭文」」香川大学教育学部研究報告 第一部 99,1997 年。
(*)田村道美「野上弥生子とアイスキュロス---『コイフォーロイ(御酒を手向ける人たち)』」香川大学教育学部研究報告 第一部 100,1997 年。
(*)田村道美「野上弥生子と「岩波文庫」(3)：「エトルリアの壺外五篇」その他」香川大学教育学部研究報告 第 1 部 102,1997 年。
(*)(参考：中村勝己「片桐薫著『グラムシの 20 世紀の思想家たち』,アルド・ナトーリ著『アンティゴネと囚われ人』,ディヴィッド・フォーガチ編『グラムシ・リーダー』」日伊文化研究 35,1997 年。)
(*)(参考：古澤ゆう子「プラトーンのイデアとベンヤミンのイデー」ペデラヴィウム 45,1997 年(←1996 年,Hitotsubashi Journal of Arts and Sciences 37(1)。)
(*)(参考：高橋秀樹「ソロンの詩篇から見たアルカイック期アテナイの諸叙事詩との関係」西洋史研究 26,1997 年。)
(*)(参考：高橋秀樹「史料としてのソロン詩篇：日本の研究動向と問題点の整理」人文科學研究 94,1997 年。)
(*)(参考：平田松吾『エウリーピデースの民衆像：アテーナイ市民団の自・他認識』国際基督教大学,博士(学術),乙第 4 号,1997 年。)
(*)(参考：高橋通男「ヘレニズムの詩におけるアリュージョンとホメーロス研究(1-8)」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 29,1997 年//30,1998 年//31,1999 年//32,2000 年//33,2001 年//34,2002 年//35,2003 年//36,2005 年//37,2006 年。)
(*)(参考：セネカ/小川正廣他訳『セネカ悲劇集(1,2)』西洋古典叢書,京都大学学術出版会,1997 年。)
(*)「南大路振一教授略歴(本学退職教員の略歴及び業績)」姫路獨協大学外国語学部紀要 10,1997 年。
(*)(参考：加藤浩・研究代表『ユリウス・カエサル・スカリゲル『詩学七巻』の美学史的研究』加藤浩,1997 年。)
(*)(参考：大芝芳弘「『ウェルギリウス研究』をめぐって」西洋古典學研究 45,1997 年。)
(*)(参考：水谷智洋「講読ノート：オウィディウス『転身譜』第 8 巻 637-678 行」年報地域文化研究 1,1997 年。)
(*)(参考：セネカ/小川正廣他訳『セネカ悲劇集(1,2)』西洋古典叢書,京都大学学術出版会,1997 年。)
(*)(参考：ハンス・マイヤー/宇京早苗訳『アウトサイダー：近代ヨーロッパの光と影』講談社,講談社学術文庫,1997 年。)
(*)(参考：Joset Verhaus/今村武訳「人間の尊厳と位格—ロゴスを求めて(特集 「個」の論理と倫理)」ソフィア 46(1),1997 年。)
(*)(参考：岡田温司『ルネサンスの美人論』人文書院,1997 年。)

(*)(参考：根占献一『ロレンツォ・デ・メディチ：ルネサンス期フィレンツェ社会における個人の形成』南窓社,1997 年(→1999 年,第 2 版)。)
(*)(参考：北田葉子「Marcello Fantori：La corte del Grandura Forma e simboli del portere fra mediceo e Seicento ,Roma,Bulzoni,1994」イタリア学会誌 47,1997 年。)
(*)(参考：沓掛良彦「Symposia 第 10 部門「中世・ルネサンス文学における Ovid の受容と変換(日本英文学会第 68 回大会報告)」」英文学研究 73(2),1997 年。)
(*)(参考：ダンテ/西沢邦輔訳『神曲(下)天堂篇』近代文芸社,1997 年[上・中編の出版者：日本図書刊行会]。)
(*)(参考：谷清「ダンテ『神曲』覚え書：ユリシーズの冒険と挫折(東西死生観の現代的展開)」青山学院大学綜合研究所人文学系研究センター研究叢書 8,1997 年。)
(*)(参考：九津礼多加夫『生命ルネサンス人間文学』九津礼多加夫,1997 年。)
(*)(参考：岩倉具忠「言語と自由意志：ダンテの言語思想についての一考察」イタリア学会誌 47,1997 年。)
(*)(参考：野上素一「インタヴユー・野上素一先生に聞く(特別企画 イタロア学会史—50 年の歩み(1))」イタリア学会誌 47,1997 年。)
(*)(参考：吉門牧雄「『ソールデロ』の歴史的背景とダンテの『神曲』」高知大学学術研究報告 46,1997 年。)
(*)(参考：木ノ脇悦郎「〈翻訳〉エラスムスの Exequiae Seraphicae(1531)について」神學研究 44,1997 年。)
(*)(参考：畑宏枝「エラスムスにおける『反野蛮人論』とヒューマニズム」基督教学研究 17,1997 年。)
(*)(参考：Guy Haug/仲野友子訳「研究ノート エラスムスからソクラテスへ(1,2)ヨーロッパにおける大学間協力と流動の新しい動き」現代の高等教育 388,389,1997 年。)
(*)(参考：島田勇「エラスムス主義のゆくえ—ヨハン・グロッパーの場合」共立女子大学文芸学部紀要 43,1997 年。)
(*)(参考：近藤恒一『ペトラルカと対話体文学』創文社,1997 年。)
(*)(参考：山口英男「美しき悲歌(エレジィ)の詩人 Francesco Petrarca(フランチェスコ・ペトラルカ)—その愛と喜びと苦悩」武蔵野英米文学 30,1997 年。)
(*)(参考：林和宏「ペトラルカの『勝利』における時間と永遠」東京外国語大学隣州 54,1997 年。)
(*)(参考：中江彬「ミケランジェロと漱石：鼻の神話」人文学論集 15,1997 年。)
(*)(参考：Cipliani Giavanni/石黒盛久訳「〈学会動向〉メディチ家の政治イデオロギーとエトリリアの「再生」」史泉 35,1997 年。)
(*)(参考：河盛好蔵他『プレシフランス文学史』駿河台出版,1997 年。)
(*)(参考：栩木湊「ヴォルテール思想における霊魂について：『エウヘメロスの対話』研究 II：第 3,4,5 の対話」駒澤女子大学研究紀要 4,1997 年。)
(*)(参考：久保みゆき「『ルキリウスへの手紙』70 番について：セネカと 16 世紀の 2 人の作家との関係：モンテーニュとシャシニェ」フランス語フランス文学研究 71,1997 年。)
(*)(参考：小島久和「モンテーニュ「友情について」を読む」文芸研究 75,1997 年。)

(*)(参考 : ラ・フォンテーヌ/市原豊太訳『ラ・フォンテーヌ寓話』新装復刊,白水社,1997 年。)
(*)(参考 : 小出石敦子「プルタルコスとルソーの『告白』」早稲田フランス語フランス文学論集 4,1997 年。)
(*)(参考 : 井上登「Montaigneの〈自己記述〉と真実性と有効性」早稲田フランス語フランス文学論集4,1997年。)
(*)(参考 : 稲垣直樹「ヴィクトル・ユゴー : その創造の秘密を探る : 「降霊術」,独創的空間『レ・ミゼラブル』」Mare Nostrum 10,1997年。)
(*)(参考 : 井上正名「あるグノーシス論—エレーヌ・ペイゲルスの場合(1)」京都工芸繊維大学工芸学部研究報告 人文 46,1997 年。)
(*)(参考 : 川浪亜弥子「〈論文〉トマス・ヘイウッドとプラウトゥスの喜劇」日本医科大学基礎科学紀要 23,1997 年。)
(*)(参考 : 岩崎允胤「ゲーテの『詩と真実』について」大阪経済法科大学論集 69,1997 年。)
(*)(参考 : 松山雄三「初期シラーと古代 : 『ある旅するデンマーク人の手紙』を中心に」東北薬科大学研究年報 一般教育関係論集 11,1997 年。)
(*)(参考 : 岡林洋『シュライエルマッハーの美学と解釈学の研究』(プラトン)大阪大学,博士(文学),乙第 7216 号,1997 号。)
(*)(参考 : 岩波哲男「キリスト教をめぐるニーチェ」早稲田大学大学院文学研究科紀要 第 1 分冊 43,1997 年。)
(*)(参考 : 薗田宗人『ニーチェと言語 : 詩と思索のあいだ』大阪市立大学,博士(文学),乙第 1859 号,1997 年。)
(*)(参考 : 内藤可夫『後期ニーチェの根本思想』京都大学,博士(人間・環境学),甲第 6928 号,1997 年。)
(*)(参考 : 青木純一「ニーチェにおける永劫回帰思想とその伝達の問題」早稲田大学大学院文学研究科紀要 第 1 分冊 43,1997 年。)
(*)(参考 : 砂原陽一「ニーチェにおける「同じものの永遠回帰」思想の伝達」金沢大学文学部論集 行動科学・哲学篇 17,1997 年。)
(*)(参考 : 水田恭平「美的思考の誕生—美的現象としてのみ存在と世界は永遠に正当化された在ある--ニーチェ」批評空間 2 期 12.1997 年。)
(*)(参考 : 竹田純郎「近さと隔たり—ゲーテとニーチェのあいだ(〈ゲーテとニーチェ—その自然観をめぐって〉)」モルフォロギア 19,1997 年。)
(*)(参考 : 山田忠彰「スタイルの詩学—ニーチェのゲーテ観をめぐって(〈ゲーテとニーチェ—その自然観をめぐって〉)」モルフォロギア 19,1997 年。)
(*)(参考 : 大石昌史「自然・芸術・神話—ニーチェにおけるゲーテ的世界観の変容(〈ゲーテとニーチェ—その自然観をめぐって〉)」モルフォロギア 19,1997 年。)
(*)(参考 : 徳尾貴護訳「〈翻訳〉K.M.ヒギンス『道徳の系譜学』: ニーチェのギフト」龍谷哲学 24,1997 年。)
(*)(参考 : 林湛秀「ニーチェの美学批判について : 『道徳の系譜学』から」DA4,1997 年。)
(*)(参考 : 菊地建至「悲劇的な生と知—ニーチェ的な仮象感覚の意義をめぐって」哲学論叢 24,1997 年。)
(*)(参考 : 松原岳行「改革教育運動におけるニーチェ受容—G.ヴィネケンを中心に」教育学研究紀要 43[第 1 部],1997 年。)

(*)(参考：齋藤直樹「「ディオニュソス的哲学」の射程—ニーチェと「啓蒙の弁証法」」思索 30,1997 年。)
(*)(参考：阿部卓也「ニーチェの「美学」」商學論究 44(4),1997 年。)
(*)(参考：平木幸二郎「運命についての考察」(ニーチェ)人文科学論集 人間情報学科編 31,1997 年。)
(*)(参考：金子光男「ニーチェ的視圏におけるヴェーバー—両者の学問論を中心に」政経論叢 65(5・6),1997 年。)
(*)(参考：神尾和寿「ハイデッガー全集第 50 巻『ニーチェの形而上学/思索と詩作』後半部における問題点を巡って」新居浜工業高等専門学校紀要 33,1997 年。)
(*)鎌倉芳信「[岩野]泡鳴の「神秘的半獣主義」の性格について：自然主義とショーペンハウアー・ニーチェ(特集 日本文学協会第 51 回大会報告[第 2 日目])」日本文学 46(4),1997 年。
(*)(参考：渡部昇一『ヒルティに学ぶ心術：渡部昇一的生き方』Chichi-Select,致知出版社,1997 年。)
(*)(参考：ハイデッガー/濱田恂子,イーリス・ブフマイム訳『ヘルダーリンの詩作の解明』創文社,ハイデッガー全集 4,1997 年。)
(*)(参考：矢羽々崇『詩作の個人性と社会性：ヘルダーリンの詩『追憶』』近代文芸社,1997 年。)
(*)(参考：中島邦雄「G.ハウプトマンの小説『アトランティス』における「二重の難破」--その象徴的意味」九州ドイツ文学 11,1997 年。)
(*)参考：中島邦雄「G.ハウプトマンの『アトランティス』にみられる通俗性—早すぎた「古典的現代小説」」上智大学ドイツ文学論集 34,1997 年。)
(*)(参考：藤木隆義「〈研究論文〉チョーサーの「悲劇」について：「修道僧の話」と『トロイルスとクリセイデ』を中心に」Artes：宝塚造形芸術大学紀要 11,1997 年。)
(*)(参考：稲富健一郎「『トロイラスとクレシダ』エゴイズムから生まれる混沌」香川大学教育学部研究報告,第 1 部 102,1997 年。)
(*)(参考：古宮照雄『英文学史のシェイクスピア』古宮照雄[千葉],1997 年。)
(*)(参考：佐々木隆編『[復刻版]シェイクスピア研究資料集成』(30 巻,別巻 1,2)日本図書センター,1997 年。)
(*)(参考：シェイクスピア原作/山田直道監修・森下麻矢子訳『ジュリアス・シーザー』Newton classics26,ニュートン・プレス,1997 年。)
(*)(参考：加島康彦「セネカとシェイクスピア--『ハムレット』における怒りの実相」安田女子大学紀要 25,1997 年。)
(*)(参考：今西雅章「『マクベス』における血の表象と狂気—セネカの『狂えるヘラクレス』と比較しつつ」帝塚山学院大学研究論集 32,1997 年。)
(*)(参考：藤木隆義「〈研究論文〉チョーサーの「悲劇」について：「修道僧の話」と『トロイルスとクリセイデ』を中心に」(ボエティウス)Artes：宝塚造形芸術大学紀要 11,1997 年。)
(*)(参考： 一氏敦子「『失楽園』における暗示的描写について：ラテン語源がもたらす効果」Asphodel 32,1997 年。)
(*)(参考：辻裕子・佐野弘子編『神,男、そして女—ミルトンの「失楽園」を読む』英宝社,1997

年。)
(*)(参考：新井明『ミルトン』Century Books—人と思想 134,清水書院,1997 年。)
(*)(参考 : 引地正俊「サミュエル・バトラーのホメーロス研究」社會科學討究 43(2),1997 年。)
(*)(参考：松家理恵『John Keats に於けるギリシア・ローマ神話の影響の研究』神戸大学,博士(学術),乙第 2107 号,1997 年。)
(*)(参考：高橋雄四郎「キーツと現代：英知への旅」實踐女子大学文学部紀要 39,1997 年。)
(*)(参考：上村仁司「〈論説〉ウォルター・ペイターと哲学」立正大学文学部論叢 105,1997 年。)
(*)(参考 : 道家弘一郎「「臍を見るな」--ゲーテ・カーライル・内村鑑三」宗教と文化 18,1997 年。)
(*)(参考：山野敬士「テネシー・ウイリアムズの『浄化』におけるディオニュソス的要素」別府大学短期大学部紀要 16,1997 年。)
(*)(参考：平川泰司「サー・フィリップ・シドニ--アルカディア(6,7)」英米文学17,1997年/18,1998年。)
(*)(参考：渡辺栄太郎「アーノルド「文学と教義」の解析(3)神の解釈に向けて」大東文化大学紀要,人文科学35,1997年。)
(*)(参考 : 後藤一美「アーノルドの教養観(2) :『教養と無秩序』当時の社会的背景について」大分県立芸術短期大学研究紀要35,1997年。)
(*)(参考：松浦暢「英詩を愉しむ」學燈 94(12),1997 年。)
(*)(参考：栗原麻子「ポリス社会におけるプライベート・イニシアティヴ：V.J.ハンターとD.コーエンの議論をめぐる覚書」奈良史学 15,1997 年。)
(*)(参考：マンフォード/月森左知訳『ユートピアの思想史的省察』新評論,1997 年。)
(*)(参考：村川堅太郎他著『世界史地図』新版,山川出版社,1997 年。)
(*)(参考：亀井高孝『世界史年表・地図』3 版,吉川弘文館,1997 年。
(*)(参考：櫻井悠美「『オデュッセイア』における王権とジェンダー」歴史学研究 704,1997 年。)
(*)(参考：エーベルハルト・ツァンガー/和泉雅人訳『甦るトロイア戦争』大修館書店,1997 年。)
(*)(参考：後藤玖美子『神々のモノローグ：トロイのカサンドラからイサドラまで』小沢書店,1997 年。)
(*)(参考 : 高宮利行「〈Tresors 秘蔵(115)〉『トロイ歴史集成』初版(1473)」三田評論 997,1997 年。)
(*)(参考 : 脇本由佳「トロイアの主将アイネイアース：イーリアスにおけるアイネイアースとホメーロス以前のアイネイアース」西洋古典學研究 45,1997 年。)
(*)(参考：Cretensis Dictylos/水谷智洋訳「『トロイア戦記』第 4 巻—ルーキス・セプティミウスのラテン訳より」(東京大学教養学部外国語科)外国語科研究紀要 43(6),1995 年。)
(*)(参考：前野弘志「アテナイ帝国主義と植民—イオニア人の母市アテナイ(特集 古代ギリシア軍事史研究の現段階)」軍事史学 33(1),1997 年。)
(*)(参考 : 森谷公俊「フィリポス 2 世の暗殺とアレクサンドロス」歴史学研究 689,1997 年。)
(*)(参考：阿刀田高『獅子王アレクサンドロス』講談社,1997 年(→2000 年,講談社文庫版)。)
(*)(参考：赤羽堯『アレクサンドロス大王征服記』光文社,1997 年。)

(*)(参考：増田義郎『黄金の世界史』(アレクサンダー等)小学館,1997 年（→2010 年,講談社学術文庫版）。)
(*)(参考：ジャン・ブルーノ・ラヴェンニ文；セルジョ絵；そのひかる訳『アレクサンダー大王の遠征』パノラマ・マップ・ストリー,評論社,1997 年。)
(*)(参考：長谷川岳男「ヘレニズム時代の王妃たちはいかに描かれたか―西洋古代における王権とジェンダー研究序説(特集 王権とジェンダー)」歴史学研究 704,1997 年。)
(*)(参考：マーガレット・ジョージ/浅見淳子訳『ナイルの目覚め』[追憶のクレオパトラ 1],青山出版社,1997 年。)
(*)(参考：マーガレット・ジョージ/浅見淳子訳『ローマの宴』[追憶のクレオパトラ 2],青山出版社,1997 年。)
(*)(参考：マーガレット・ジョージ/浅見淳子訳『地中海の出逢い』[追憶のクレオパトラ 3],青山出版社,1997 年。)
(*)(参考：マーガレット・ジョージ/浅見淳子訳『エーゲ海の夢』[追憶のクレオパトラ 4],青山出版社,1997 年。)
(*)(参考：マーガレット・ジョージ/浅見淳子訳『アレクサンドリアの涙』[追憶のクレオパトラ 5],青山出版社,1997 年。)
(*)(参考：P.ファンデンベルク/坂本明美訳『クレオパトラ：世界帝国を夢みた女』古代文明のナゾを追え!2,アリアドネ企画(発行),三修社(発売),1997 年。)
(*)森谷公俊「文化の窓 宮尾登美子『クレオパトラ』を読む」歴史評論 566,1997 年。
(*)(参考：塩野七生『パクス・ロマーナ』ローマ人の物語 6,新潮社,1997 年。)
(*)(参考：市川雅俊「ハドリアヌスの長城とアントニヌスの長城の間で」防衛大学校紀要・人文科学分冊 74,1997 年。)
(*)(参考：楠田直樹『カルタゴ史研究序説』青山社,1997 年。)
(*)(参考:豊田浩志『キリスト教の興隆とローマ帝国』広島大学,博士(文学),乙第 2977 号,1997 年。)
(*)岩井経男「ローマ帝国とは何か―吉村忠典「古代ローマ帝国―その支配の実像」を読む」西洋史研究 26,1997 年。)
(*)(参考：栗田伸子「ローマとアフリカ―脱植民地史学のその後(歴史科学協議会創立 30 周年記念講演会特集)」歴史評論 571,1997 年。)
(*)馬場典明「《SERVI VICARII》再考―ローマ帝政初・中期における奴隷制の構造」別府大学紀要 39,1997 年。)
(*)(参考：ジョゼッペ・クアトリーリオ/真野義人・箕浦万里子訳『シチリアの千年：アラブからブルボンまで』新評論,1997 年。)
(*)(参考：橋本龍幸『中世成立期の地中海世界：メロヴィング時代のフランクとビザンツ』南窓社,1997 年。)
(*)(参考：西村貞二『歴史学の遠近』東北大学出版会,1997 年。)
(*)(参考：亀井高孝『標準世界史地図・年表』3 版,吉川弘文館,1997 年。)
(*)(参考：伊藤貞夫・本村凌二編『西洋古代史研究入門』東京大学出版会,1997 年。
(*)(参考：佐藤彰一・池上俊一『西ヨーロッパ世界の形成』世界の歴史 10,中央公論社,1997 年(→2008 年,中公文庫版)。)
(*)(参考：上原専禄『世界史論考』評論社,1997 年。

(*)(参考：草生久嗣「ビザンツ史研究の道具箱」クリオ=Clio 10,1997年。)
(*)高橋三郎「秀村欣二先生のご逝去を悼む」十字架の言 5 月号,1997 年。
(*)(参考：前沢伸行「リチャード・J.A.タルバート編野中夏美・小田謙爾訳『ギリシア・ローマ歴史地図』原書房」史学雑誌106(3),1997年。
(*)(参考：金澤敬「マテオリッチ世界図の地図投影について」地図35(Suppl.),1997年。)
(*)(参考：小田匡保「ディルケ世界地図帳 四訂版」歴史地理学39(4),1997年。)
(*)(参考：陣内秀信「建築都市史研究と地図」地図 35(4),1997 年。)
(*)(参考：石田憲「近代西欧(1996 年の歴史学界：回顧と展望)(ヨーロッパ)」史學雜誌 106(5),1997 年。)
(*)(参考：渡辺節夫「中世西欧(1996 年の歴史学界：回顧と展望)(ヨーロッパ)」史學雜誌 106(5),1997 年。)
(*)(参考：桜井万里子「古代ギリシア(1996 年の歴史学界：回顧と展望)(ヨーロッパ)」史學雜誌 106(5),1997 年。)
(*)(参考：樋脇博敏「古代ローマ(1996 年の歴史学界：回顧と展望)(ヨーロッパ)」史學雜誌 106(5),1997 年。)
(*)(参考：長谷川岳男「ローマ人のギリシア認識—アイデンティティ形成との関連で(1997 年度歴史学研究会大会報告)—(〈特設部会〉歴史のなかの他者認識)」歴史学研究 703,1997 年。)
(*)(参考：長谷川岳男「ヘレニズム期の王妃たちはいかに描かれたか—西洋古代における王権とジェンダー研究序説(特集 王権とジェンダー)」歴史学研究 704, 1997 年。)
(*)(参考：長谷川岳男「古代ギリシア軍事史研究の新動向」軍事史学 33(1),1997 年。)
(*)(参考：依田泉・戸田聡・医王秀行他「西アジア・北アフリカ(1996 年の歴史学界—回顧と展望)」史学雑誌 106(5),1997 年。)
(*)(参考：戸田聡「西アジア・北アフリカ：古代オリエント(2)(1996 年の歴史学界—回顧と展望)」史学雑誌 106(5),1997 年。)
(*)(参考：森田猛「ブルクハルトと歴史研究の社会的機能：歴史協会擁護論を手がかりとして」西洋史学 187,1997 年。)
(*)(参考：西村孝彦『文明と景観：フランス人文主義地理学』地人書房,1997 年。)
(*)麻原美子「東京国立博物館蔵『百合若物語』絵巻の紹介(図版・翻刻)と、舞の本『百合若大臣』絵巻についての考察」日本女子大学紀要・文学部 47,1997 年。
(*)福田晃『神話の中世』(百合若)三弥井書店,三弥井選書 23,1997 年。
(*)白方勝『伝承の文学』(百合若)風間書房,1997 年。
(*)小柳伸一『教科書では教えない古典と現代の話』(百合若)近代文芸社,1997 年。
(*)服部幸造「打波本幸若舞曲本文考」伝承文学研究 46,1997 年。
(*)冨来隆「別府太郎・次郎および草の「塚」」(百合若)別府史談 11,1997 年。
(*)ポール・ガルドンえ；木島始やく『まちのねずみといなかのねずみ：イソップ物語』童話館出版,1997 年。
(*)武藤禎夫『絵入り伊曽保物語を読む』東京堂出版,1997 年。
(*)渡邉巳三郎「葉山修平の作品『天皇の村』(『異形の群れ』)と『日本イソップ噺』について」部落問題と文芸 9,1997 年。
(*)岩男久仁子「イソップの最期に関わる寓話(第 1 回研究発表 発表要旨)」国際文化論集

16,1997 年。
(*)鈴木博「サイカン(才幹)考：『天草版イソップ物語』の翻字」滋賀大国文 35,1997 年。
(*)村上勝也「La Version espanola de las Fablas de Ysopo en 1546(1,2)」広島文教女子大学紀要 32,1997 年/33,1998 年)。)
(*)村上勝也「『イソップ伝』研究 人名・地名などの異同について」(西日本言語学会) Nidaba26,1997 年。
(*)(参考 : 岩男久仁子「イソップの最期に関わる寓話(第 1 回研究発表会 発表要旨)」国際文化論集 16,1997 年。)
(*)桑原三二『栗本鋤雲』桑原三二,1997 年。
(*)鈴木広光・梅崎光・青木博史「パレト写本所収福音書抄注解(1-3)」文學研究 94,1997 年/95,1998 年/96,1999 年。
(*)佐々木昭夫編『日本近代文学と西欧』翰林書房,1997 年。
(*)林望編『紳士』(ケーベル)作品社,日本の名随筆・別巻 75,1997 年。
(*)角倉一朗・関根和江「ケーベル先生年譜」東京藝術大学音楽部紀要 23,1997 年。
(*)角倉一朗「講演「ケーベル先生とその時代」---1997 年 10 月 7 日奏楽堂」東京藝術大学音楽部紀要 23,1997 年。
(*)関根和江編(台東区芸術歴史協会)『ケーベル先生とその時代』(資料集,奏楽堂復元開館 10 周年記念,奏楽堂秋の特別展)台東区芸術・歴史協会,1997 年。
(*)秋山勇造「末松謙澄—生涯と業績」(神奈川大学人文学会)人文研究 130,1997 年。
(*)柴田隆行『哲学史成立の現場』弘文堂,平成 9 年。
(*)佐藤昌介『高野長英』岩波新書,1997 年。
(*)大久保利謙『津田眞道：研究と伝記』みすず書房,1997 年。
(*)潮木守一『京都帝国大学の挑戦』講談社学術文庫,1997 年（←1984 年,初版,名古屋大学出版会）。
(*)中井晟「西田幾太郎「伝統主義に就て」を読む：戦前の T.S.エリオット理解を背景として」同志社大学英語英文学研究 68,1997 年。
(*)林巾力「西脇順三郎の初期詩篇論「LE MONDE ANCIEN」の詩的世界」日本文学誌要 55, 1997 年。
(*)坪内祐三「戦後論壇の巨人たち(7)—小泉信三」諸君!29(1),1997 年。
(*)坪内祐三「戦後論壇の巨人たち—竹山道雄」諸君!29(9),1997 年。
(*)坪内祐三「戦後論壇の巨人たち(18)—宮崎市定」諸君!29(9),1997 年。
(*)(参考：笠井貞『道元の比較哲学的研究』東洋大学,博士（文学）,乙第90号,1997年。)
(*)(参考：W.イェーガー/武田安史訳「(2)『パイデイア』(1933)」西洋教育史研究：東京教育大学外国教育史研究室年報 26,1997 年。)
(*)(参考 : 今道友信「〈報告〉哲学国際シンポジウム報告」キリスト教文化研究所紀要 13(1), 1997 年。)
(*)(参考 : 池田義昭「西洋的人間存在—近代西洋形而上学の終末時代を生きるわれら」立命館文學 549,1997 年。)
(*)神崎繁「方法と態度—ある日付のある考察」創文 392,1997 年。
(*)(参考：加藤信朗『哲学の道：初期哲学論集』創文社,1997 年。)
(*)(参考 : 加藤信朗「価値語の構造 : 倫理学の基礎」(上智大学哲学会)哲学論集 26,1997 年。)
(*)中畑正志「加藤信朗著『初期プラトン哲学』東京大学出版会,1988」西洋古典學研究 45,1997

年。
(*)中畑正志「「哲学の道」からすこし逸れて—説明の方法へのノート」創文 392,1997 年。
(*)井上忠「加藤信朗氏『哲学の道』に懐う」創文 392,1997 年。
(*)(参考：岩崎允胤「ギリシア・ローマ期の哲学の森に分け入って—反核・平和・民主主義と学問」大阪経済法科大学論集 67,1997 年。)
(*)加来彰俊「またもう一つの大きな礎石」(邦訳「ソクラテス以前哲学者断片集」)図書 573,1997 年。
(*)(参考：角田幸彦「神話から哲学へ—ギリシア的世界観の現代的意義」(明治大学人文科学研究所『神話と現代』所収,風間書房,1997 年。)
(*)(参考：高橋秀樹「史料としてのソロン篇：日本の研究動向と問題点の整理」(新潟大学)人文科學研究 94,1997 年。
(*)(参考：玉井茂『西洋哲学物語：哲学者たちドラマティーク』青木書店,1997 年。)
(*)(参考:竹田宏編『ヒューマニズムの変遷と展望』21 世紀の民族と国家 9,未来社,1997 年。)
(*)(参考：牛田徳子・中川純男・堀江聡「西洋哲学倫理学史(1)古代・中世哲学」哲学(別冊 1996),1997 年。)
(*)(参考：牛田徳子・坂口昂吉・中川純夫編『観想と実践—古代ギリシアからルネサンス期にいたる』慶應義塾大学言語文化研究所,1997 年。)
(*)(参考:ポール・ストラザーン/浅見昇吾訳『90 分でわかるプラトン』青山出版社,1997 年。)
(*)(参考：関村誠『像とミーメーシス—プラトンからの美学』勁草書房,1997 年。)
(*)(参考：齋藤忍随『プラトン』講談社学術文庫,1997 年。)
(*)(参考：名和香薫『プラトン入門』哲学論集 10,（河北町・山形県）安楽寺,1997 年。)
(*)(参考：久保徹『プラトンのエロース論』京都大学,博士(文学),甲第 6633 号,1997 年。)
(*)(参考：今泉智之『プラトン『パイドン』における「原因論」の研究』東北大学,博士(文学),甲第 6132 号,1997 年。)
(*)(参考：高橋雅人『「類似」に関する倫理学的考察：プラトン『国家』篇を中心に』東京大学,博士(文学),甲第 12321 号,1997 年。)
(*)(参考:アラン/渡辺秀訳『イデー—哲学入門』新装復刊,アラン著作集 6,白水社,1997 年。)
(*)(参考：E.A.ハヴロック/村岡晋一訳『プラトン序説』新書館,1997 年。)
(*)尼ヶ崎徳一「哲学者の生き方：プラトンの場合：ストーン「ソクラテス裁判」評を手がかりに」龍谷哲学論集 11,1997 年。
(*)(参考：T.M.Robinson/山川偉也訳「〈翻訳〉実在の自己表現：ヘラクレイトス,プラトン,および第四福音書の著者におけるロゴス(藤間繁義教授退任記念号)」桃山学院大学キリスト教論集 33,1997 年。)
(*)角田幸彦「西田幾多郎の哲学とアリストテレス—自然(ピュシス)・場所(コーラ〈トポス〉・実体(ウーシアー)・共通感覚(コイネー・アイステーシス)」明治大学教養論集 298,1997 年。
(*)岩崎允胤「ギリシア・ローマ期の哲学の森に分け入って」大阪経済法科大学論集 67,1997 年。
(*)(参考：三浦洋『アリストテレスの生命論：『デ・アニマ』における目的論と「現実態」の概念』北海道大学,博士(文学),甲第 4212 号,1997 年。)
(*)(参考：河谷淳『アリストテレスにおける論証とアイディア』東京大学,博士(文学),甲第 12944 号,1997 年。)

(*)(参考：岡本裕一朗『「精神の現象学」の体系構想：アリストテレス哲学の再建』九州大学,博士(文学),乙第 6445 号,1997 年。)
(*)小坂国継『西田哲学の研究』(アリストテレス)早稲田大学,博士(文学),乙第 1312 号,1997 年。)
(*)(参考：清水真木「「逆転したプラトン主義」への道」哲學雑誌 112(784),1997 年。)
(*)(参考：左近司祥子「悪について—プロティノスの場合」哲學雑誌 21,1997 年。)
(*)(参考：岡崎文明「新プラトン主義の影響作用史の研究(1)—西洋哲学における自己認識」金澤大学教育学部紀要 46,1997 年。)
(*)(参考:(研究代表者)水地宗明『西洋哲学史における新プラトン主義の影響作用史の研究：古代から近世に至るまで』(出版社不明),1997 年。)
(*)(参考：土井健司「善きサマリア人のたとえに対するオリゲネスの解釈の再検討—倫理的義務,それとも「キリストの模倣」としての隣人愛?」(神戸松蔭女子大学キリスト文化研究所)キリスト教論叢29,1997年。)
(*)(参考：中村泰英「オリゲネスにおける下降と上昇」エイコーン(東方キリスト教研究)18,1997年。)
(*)(参考：「アモロス業績目録」(上智大学哲学科)哲学論叢 5,1997 年。)
(*)(参考：服部英次郎『アウグスティヌス』勁草書房,1997 年。)
(*)(参考：荒井洋一『アウグスティヌスの探究構造』創文社,1997年。)
(*)(参考：岡野昌雄『アウグスティヌス「告白」の哲学』創文社,1997年。)
(*)(参考：服部英次郎『アウグスティヌス』新装版,勁草書房,1997年。)
(*)(参考：稲垣良典『トマス・アクイナス倫理学の研究』九州大学出版会,1997年。)
(*)(参考：山田晶「トマス・アクィナスの受肉論」創文393,1997年。)
(*)(参考：八木雄二・大野良徳・松山英麿訳『エギディウス・ロマヌス『THEOREMATA DE ET ESSENTIA』(訳)を巡って：中世存在論の一断面』中央学院大学総合科学研究所,1997年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編訳・監修『修道院神学』平凡社,中世思想原典集成 10,1997 年。)
(*)(参考：石井雅之「〈論文〉古代末期における『命題論』第 9 章の「必然性」解釈と神的知識の問題：アンモニオスとボエティウス」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 29,1997 年。)
(*)(参考：永嶋哲也「普遍の存在と普遍語の諸特性：Pophyrius の問いへの Boethius と Abaelardus の解答」(九州大学哲学会)哲学論文集 33,1997 年。)
(*)(参考：土井健司「パレーシア：「自由に語ること」--ニュッサのグレゴリウスにおけるその転換」(関西学院大学神学研究会)神学研究 44,1997 年。)
(*)(参考：バーナード・マッキン/宮本陽子訳『フィオーレのヨアキム：西欧思想と黙示的終末論』平凡社,1997 年。)
(*)(参考：Louis Bouyer/上智大学中世思想研究所編訳・監修『中世の霊性』平凡社,キリスト教神秘思想史 2,1997 年。)
(*)(参考：政井啓子「デカルトの懐疑と真理規準—プラトンの相対主義批判を参考にして」哲学 48,1997 年。)
(*)(参考：岡本由起子『ノエマの現象学：その意味論的射程について』慶應義塾大学,博士(哲学),乙第 3029 号,1997 年。)

(*)(参考：渡辺二郎「ハイデッガー—新訳の試み」ちくま 319,1997 年。)
(*)(参考：久保忠夫「夏目漱石とレッシング『ラオコオン』東北学院大学論集 人間・言語・情報 116,1997 年。)
(*)松木博「矢野龍渓の文学表現をめぐって」大妻女子大学紀要 3 月号,1997 年。
(*)新藤咲子「矢野龍渓の文章と文章観」(『国語論究 6』所収,明治書院,1997 年。
(*)田村道美「野上弥生子と「岩波文庫」(3)：「エトルリアの壺外五篇」その他」香川大学教育学部研究報告 第一部 102,1997 年。
(*)西部邁『ニヒリズムを超えて』(「清浄な魂 田中美知太郎論」「『哲学談義とその逸脱』を読んで」)ハルキ文庫,角川春木事務所,1997 年。
(*)西脇順三郎他編集協力『最終講義』(田中美知太郎他)実業之日本社,1997 年。
(*)澤正弘編『西脇順三郎『Ambarvalia〈アムバルワリア〉』作品論集成』近代文学作品論叢書 18,大空社,1997 年。
(*)林巾力「〈論文〉西脇順三郎の初期詩篇論：「LE MONDE ANCIEN」の詩的世界」日本文學誌要 55,1997 年。
(*)佐々木成行・山畑昭司執筆『「走れメロス」の言語技術教育：2 年』実践言語技術教育シリーズ 4,明治図書出版,1997 年。
(*)太宰治『走れメロス』愛と青春の名作集,旺文社,1997 年。
(*)太宰治作・草野大悟朗読『走れメロス』新潮 CD,録音資料[非音楽],新潮社,1997 年。
(*)久村真司「「走れメロス」：主題解釈と教材性」国語教育論叢 6,1997 年。
(*)野中和泉「「走れメロス」論—作品の読み直しと教材価値の探究」山梨大学国語・国文と国語教育 7,1997 年。
(*)井上光洋・山口好和「武田常夫の「文学の授業」の分析：太宰治『走れメロス』を教材として」大阪大学人間科学部紀要 23,1997 年。
(*)荒木正純・平野陽一・藤谷道夫「[柳沼重剛]先生の思い出」文学研究論集 14,1997 年。
(*)「坂口昂吉先生略歴・主要著作目録」(略歴著書訳書論文共著への寄稿書評研究ノートシンポジウム提題・司会小品学会講演翻訳学会発表)史学 66(3),1997 年。
(*)(参考：久保正彰「国際学士院連合第70回総会報告」日本学士院紀要51(3),1997年。)
(*)(参考：寺脇研・鬼塚大輔・杏堂礼(他)「劇場公開映画評 スワロウテイル/グース/ジングル・オール・ザ・ウェイ/フェティッシュ/魅惑のアフロディーテ/ザ・クラフト/月とキャベツ/カンザス・シティ/ヘルレイザー4」キネマ旬報1210,1997年。)
(*)(参考：中村貴志『建築論の射程：「ディアテシスのイデア」の研究』京都大学,博士(工学),乙第9626号,1997年。)
(*)(参考：熊本大学工学部編『デルフィ古代建築調査1994-1996：中間報告；アテナ・プロナイア神域；マッシリア人の宝庫・ドリス宝庫・トロス』熊本大学デルフィ遺跡調査団,1997年。)
(*)(参考：小山田了三「ポンペイ遺跡に見る壁材料の変遷」山梨学院大学一般教養部論集20,1997年。)
(*)(参考：市川秀和「ヴァイマール精神とフマニスムスの建築思想：建築家C.W.クードレーの人間性と思想をめぐって(十八世紀ドイツ古典主義建築思想研)(北陸支部奨励研究成果報告)」日本建築学会北陸支部研究報告集40,1997

年。)
(*)(参考：市川秀和「9263 ヴァイマール精神とドイツ古典主義建築」学術講演梗概集F-2,建築歴史・意匠,1997年。)
(*)(参考：下川勇「9050 パッラーディオと人文主義精神No.1：パッラーディオの古典観と人文主義精神について(建築史・建築意匠・建築論)」日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系37,1997年。)
(*)(参考：Ottavio Bertotti Scamozzi(raco.ed illustatida)“Le fabbriche e I disegni di Andrea Palladio”,[repri.1-5]Hon-no-tomosha,1997.
(*)(参考：鈴木隆之「巻頭論文 「近代」と「神話」あるいは「回帰」の問題(漂流する風景—現代建築批判)」建築思潮5,1997年。)
(*)(参考：中村貴志『建築論の射程：「ディアテシスのイデア」の研究』京都大学,博士(工学),乙第9626号,1997年。)
(*)(参考：桐敷真次郎「ローマ大火・紀元64年(特集 世界の大火と都市の変貌)」建築/保全18(4),1997年。)
(*)(参考：上原慶久・伊藤重剛・林田義伸・堀内清治・岡田保良・星和彦・中川明子「地中海古代都市の研究(90) デルフィ」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 36,1997 年。)
(*)(参考：上原慶久・伊藤重剛・林田義伸・堀内清治・青木宏幸・渡辺哲次「地中海古代都市の研究(91) デルフィ」日本建築学会研究報告,九州支部3,計画系36,1997年。
(*)(参考：伊藤重剛・林田義伸・堀内清治・岡田保良・星和彦「地中海古代都市の研究(92,93) デルフィ」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 36,1997 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・林田義伸・堀内清治・星和彦「地中海古代都市の研究(94) デルフィ」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 36,1997 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・林田義伸「デルフィのマッシリア人の宝庫の現況：古代ギリシア建築調査 1994(1)」日本建築学会計画系論文集 62(496),1997 年。)
(*)(参考：逸身喜一郎「アラートス・歳差・天球図」(東京都立大学人文学部紀要)人文学報276,1997年。)
(*)(参考：ダービー・コステロ,リンゼー・ラダマーカー/中山茂監修『占星術』紀伊国屋書店,1997年。)
(*)(参考：水谷順「聖書の動物たち(8)—哺乳類(4)その訳語の問題」大阪電気通信大学研究論集/人文・社会科学篇32,1997年。)
(*)(参考:M.カラザース/別宮貞徳訳『記憶術と書物:中世ヨーロッパの情報文化』工作舎,1997年。)
(*)(参考：J.L.ボルヘス他/東雅夫他編『架空の町』(プリニウス)国書刊行会,書物の王国1,1997年。)
(*)(参考：アンドレ・ブルトン他/東雅夫他編『鉱物』(プリニウス)国書刊行会,書物の王国6,1997年。)
(*)(参考：奥村晃史「北アナトリア断層のローマ時代以降の活動史：トルコの大地震を発掘する」地理科学52(2),1997年。)
(*)(参考：堀晄他企画：執筆『地中海のともしび：フェニキア,ローマ,ビザンチンのオイルランプ：中山&オルセッティ・コルクション』古代オリエン

ト博物館,1997年。)
(*)豊田和二「久能孝彦監訳宮城孝仁訳,J.G.ランデルズ『古代のエンジニアリング—ギリシャ・ローマ時代の技術と文化』」科学史研究[第2期]36(201),1997年。
(*)(参考：堤安紀「2世紀初頭のキリスト教とプリニウス書簡—2つの皇帝書簡についての若干の考察」上智大学商学部紀要8(2),1997年。)
(*)(参考：藤原肇『オリンピアン幻想：地上楽園とオリンピックの裏舞台：Once upon an Olympian time』東明社,1997年。)
(*)坂上康博「稲垣正浩・野々宮徹・寒川恒夫・谷釜了正著「図説スポーツの歴史：「世界スポーツ史」へのアプローチ大修館書店,1996年」」史学雑誌106(7),1997年。
(*)(参考：大槻真一郎編集・翻訳責任『新訂ヒポクラテス全集(3巻)』新訂版,エンタプライズ,1997年。)
(*)(参考：山根博愛訳『ヒポクラテース読本：その全集の抄訳と伝記』ライフ社,1997年。)
(*)(参考：関根透「医の倫理の象徴的樹木について—ヒポクラテスの木と孔子の木」鶴見大学紀要,第4部 人文・社会・自然科学編34,1997年。)
(*)(参考：門脇弘「ヒポクラテスへの復帰[健康案内11]」月刊カレント34(11),1997年。)
(*)(参考：五條しおり「バイオエシックス(生命倫理)の誕生：医の倫理の変遷I—古代・中世「ヒポクラテスの誓い」」(聖徳大学)研究紀要,短期大学部30,1997年。)
(*)(参考：清瀬卓訳「ルネサンスにおける大プリニウス：(4,5)ダニエーラ・ムニャーイ・カッラーラ著『ニッコロ・レオニチェーノ小伝[邦訳1,2]』」研究論集49,1997年/50,1998年。)
(*)(参考：榎本恵美子「カルダーノ「わが人生の書」第二部分の考察—ガレノスの影響を「中心に」ルネサンス研究4,1998年。)
(*)(参考：太田外氣晴「酒と古代史と文学：幻の酒アモンティリャードと酒の歴史」東洋文化16,1997年。)
(*)(参考：中山元「エディプス・コンプレックスの発見」ちくま316,1997年。)
(*)(参考：菅野礼司「III.原子論的自然観(連載 自然観)」物理教育45(1),1997年。)
(*)伊藤博明「S.J.テスター「西洋占星術の歴史」(山本啓二訳)」ルネサンス研究4,1997年。
(*)(参考：銭天牛「占星術365日」婦人公論82(4),1997年。)
(*)(参考：徳永弘倫「連載〈神秘からの旅人〉(2)科学の成立をめぐって占星術から宇宙論まで」自由39(11),1997年。)
(*)(参考：三木久巳「中世アラビア科学について」物理教育学会物理教育研究大会予稿集14,1997年。)
(*)(参考：永井博「カントとニュートン—哲学と科学の分離について」日本学士院紀要52(2),1997年。)
(*)(参考：西谷泉「ユークリッド原論について(第2報)」数学教育学会誌,臨時増刊, 数学教育学会発表論文集1997(1),1997年。)
(*)(参考：谷口郁生「数学の哲学とプラトニズム--『論考』以後のウィトゲンシュタイン」研究紀要53,1997年。)
(*)(参考：横田誠「感性哲学と,電子工学の立場からの複雑系について：プラトンと,ウイトゲンシュタインとの関連での,カントの三論系」電子情報通信学会総合大会講演論文集1997年,基礎・境界,1997年。)
(*)(参考：L.プリゴジン/安孫子誠也・谷口佳津宏訳『確実性の終焉：時間と量子論、二つの

パラドクスの解決』(エピクロス)みすず書房,1997年。)
(*)小宮彰「「寒月君」と寺田寅彦—西洋文明としての近代科学」東京女子大学比較文化研究所紀要58,1997年。)
(*)三村泰臣「森の哲学—南方熊楠の学問観の形成」広島工業大学研究紀要31,1997年。
(*)(參考：上田憲嗣・綿引勝美「「力」の解釈学的考察：ニーチェの思想をよりどころにして」日本体育学会大会号48,1997年。)
(*)谷津俊一『株式イソップ物語』日本短波放送,1997年。
(*)(參考：竹内靖雄『賢者と愚者の経済学：イソップ物語に学ぶ新経済学』ごま書房,1997年。)
(*)(參考：竹内靖雄『経済思想の巨人たち』新潮選書,1997年(→平成25年,新潮文庫版)。)
(*)(參考：木庭顕『政治の成立』東京大学出版会,1997年。)
(*)(參考：橋場弦『丘の上の民主政：古代アテネの実験』東京大学出版会,1997年。)
(*)(參考：平田松吾『エウリピデースの民衆像：アテーナイ市民団の自・他認識』国際基督教大学,博士(学術),乙第4号,1997年。)
(*)(參考：高畠純夫「アリストファネス喜劇と世論」西洋史研究26,1997年。)
(*)(參考：本間俊司『プラトンの政治思想』(鶴岡)本間俊司,1997年。)
(*)(參考：大戸千之「ヘレニズム時代の「コスモポリタニズム」について」立命館文學551,1997年。)
(*)(參考：南川高志『ローマ皇帝とその時代：元首制期ローマ帝国政治史の研究』京都大学,博士(文学),乙第9482号,1997年。)
(*)(參考：鈴木朝生「古典古代における〈混合政体論〉：プリュビオスとキケロ」(二松学舎大学)国際政経2,19917年。)
(*)(參考：クリスチャン・ハビヒト/長谷川博隆訳『政治家キケロ』岩波書店,1997年。)
(*)(參考：グラハム・マッドクス/渡邉雅弘訳「〈選評〉A.D.リンゼイにおける信仰と民主主義の構図：附・訳者付論「Maddox論文から見たリンゼイ批評史の回顧と展望」(愛知教育大学社会科学会)社会科学論集36,1997年。)
(*)(參考：佐伯啓思『市民とは誰か』PHP新書,1997年。)
(*)(參考：押村高『モンテスキューの政治理論：自由の歴史的位相』早稲田大学,博士(政治学),乙第1283号,1997年。)
(*)(參考：黄用性『絶対的自由の思想に関する社会思想的考察：アナーキズムと禅を中心として』東京大学,博士(学術),甲第12974号,1997年。)
(*)(參考：岩井経男「ポンペイの選挙」文経論叢 人文科学篇17,1997年。)
(*)(參考：石黒盛久,Cipriani Giovanni「(学界動向)メディチ家の政治イデオロギーとエトルリアの「再生」」史境35,1997年。)
(*)広岡守穂「東海散史「佳人之奇遇」--自由とナショナリズム(特集=続・日本人の見た異国・異国人—明治・大正期)」国文学 解釈と鑑賞62(12),1997年。
(*)永井憲一「蝋山政道の人と学問(覚書)」法学志林94(3),1997年。
(*)(參考：三石善吉「アルカディアーの,トリゴノス(trigonos)—ロマニスト達」筑波法政22,1997年。)
(*)(參考：三石善吉「〈論説〉「アルカディアー」の「トリゴノス」--暴君殺害をめぐって—ガスターフ・ラートブルフとシュテファン・アンドレの場合」

筑波法政23,1997年。)
(*)(参考：志内一興「ガイウス・グラックスの不当取得返還請求に関する常設査問所改革：ローマの支配者意識の形成」クリオ=Clio10,1997 年。)
(*)上山安敏「田中周友先生を偲ぶ」法制史研究 47,1997 年。
(*)田中耕太郎述・柳沢健著『生きてきた道：伝記・田中耕太郎』伝記叢書269,大空社,1997年。
(*)(参考：河上倫逸編『ゆらぎの法律学[第3版]：規範の基層とそのダイナミズム』風行社,思文閣出版(発売),1997年(→1999年,4版改訂。→2001年,4版。→2003年,7版)。)
(*)(参考：五十子敬子『死をめぐる自己決定について：比較法的視座からの考察』(ソクラテス)大東文化大学,博士(法学),甲第16号,1997年。)
(*)(参考：柴田光蔵「法格言はどのようにしてできあがるか―現代とローマ法のあいだ」法律時報69(4),1997年。)
(*)(参考：柴田光蔵「ローマ法学者のコモンセンス(1)(2)現代とローマ法のあいだ」法律時報69(9),69(10),1997年。)
(*)(参考：柴田光蔵『法律ラテン語の世界：ローマ法へのアプローチ』大学教育出版,1977年。)
(*)(参考：山口廸彦‘Filial Peity in Law and Literature in East Asia’,社会科学研究18(1),1997年。)
(*)(参考:赤松秀岳『十九世紀のドイツ私法学の実像』九州大学,博士(法学),乙第 6347 号,1997年。)
(*)(参考：ルドルフ・フォン・イェーリング/山口廸彦訳『大法学者イェーリングの学問と生活』信山社出版,1997年(→2000年,訂正新装版。))
(*)(参考：山口廸彦『イェーリング法思想研究』山口廸彦,限定版,1997年。)
(*)吉原丈司・吉原達也編著『日本ローマ法学四先生略年譜・著作目録：春木一郎博士、原田慶吉教授、田中周友博士、船田享二博士略年譜・著作目録初稿』1997年(→1998年,改訂版,2003年,2訂版,2006年,3訂版)。
(*)吉原丈司編『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴尖輝博士略歴年譜著作目録』(新版・ローマ法・法制史学者著作目録選・第1輯),1997年(→2003年,都筑印書館,新版。→2007年、2訂版)。

(*)(参考：船戸満之「時代を超えた友情―エルンスト・ブロッホ『エピクロスとカール・マルクスあるいは原子の落下における主体的アクター』について」獨協大学ドイツ学研究39,1998年。)
(*)(参考：ブロッホ/船戸満之・野村美紀子訳『マルクス論』作品社,1998年。)
(*)永野由紀子「初期マルクスの市民社会批判と人類史的把握―中川弘著『マルクス・エンゲルスの思想形成』に寄せて」(福島大学)商学論集66(3),1998年。
(*)(参考：工藤秀明『原・経済学批判と自然主義：経済学史と自然認識』京都大学,博士(経済学),乙第9905号,1998年。)
(*)(参考:酒井昌美「K.アクセロスのマルクス・ハイデッガー論」帝京経済学研究32(1),1998年。)
(*)(参考：『不老不死の超古代史：永遠の生命を求めた文明の謎を追う!』新人物往来社,

別冊歴史読本66,1998年。)
(*)小寺小次郎『言霊研究入門』八幡書店,1998年。
(*)(参考：古賀元章「T.S.エリオットのヨーロッパ文化の統一論」比較文化研究40,1998年。)
(*)(参考：三浦新七著・國方敬司責任編集『欧州文明史』東西文明史4,三浦新七博士記念会,1998年。)
(*)有光秀行「三浦新七著/國方敬司責任編集『東西文明史第4巻 欧州文明史』三浦新七博士記念会」史学雑誌107(8),1998年。)
(*)紅山雪夫『ヨーロッパの旅：城と城壁都市』創元社,1998年。
(*)長山靖生『人はなぜ歴史を偽造するのか』新潮社,1998年。
(*)井出雄太郎『南イタリア・シチリア巡礼の旅：ローマ・アッシジ・シチリア・ナポリ・ポンペイ』サンパウロ,1998年。
(*)福田秀一「寺田寅彦の留学日記—文人学者の留学日記(明治篇5)」(国際基督教大学キリスト教と文化研究所)人文科学研究24,1998年。
(*)福田秀一「木下杢太郎(太田正雄)「欧米日記」の成立--文人学者の留学日記(大正篇2)」(国際基督教大学キリスト教と文化研究所)人文科学研究24,1998年。
(*)須賀敦子『時のかけらたち』青土社,1998年。
(*)松本葉『伊太利のコイビト』新潮社,1998年。
(*)(参考：小笠原茂介「アランホエスの冬の太陽」火土39,1998年（→2001年,『地中海の月』所収,思潮社）。
(*)(参考：小笠原茂介「ルッカの公妃」火土 40,1998 年（→2001 年,『地中海の月』所収,思潮社）。
(*)(参考：小笠原茂介「オスティア・アンティーカの月」詩と思想10月号,1998年（→2001年,『地中海の月』所収,思潮社）。
(*)(参考：小笠原茂介「エルー イン」文芸弘前(弘前文芸協会)9,1998年（→2001年,『地中海の月』所収,思潮社）)。
(*)(参考：K.ヘルト/國方栄二・井上克人監訳/北尻祥晃・勝道興・後藤博和訳『地中海哲学紀行(下)：ペルガモンからイスタンブールへ』晃洋書房,1998年。)
(*)池内紀・関川夏央・岸本葉子「鼎談 第13回人はなぜ旅に出るのか—ポール・セロー/中野恵津子訳「大地中海旅行」,色川体吉「シルクロード 遺跡と現代」,野田知佑「ユーコン漂流」」本の話4(7),1998年。)
(*)岡野哲士「ギリシャ綺想録：カストリアの45時間」(創立七十周年記念論文集発行実行委員会編『神奈川大学創立七十周年記念随想集』所収、神奈川大学、1998年。)
(*)新保満「川島[重成]先生と行くギリシャの旅」ペディラヴィウム会通信22,1998年。
(*)川島重成「ヘブライズムとヘレニズムの出会い—ギリシア・ビザンティン紀行」ペディラヴィウム47,1998年。
(*)(参考：ポンペイウス・トログス著/ユニアヌス・ユスティヌス抄録；合阪學訳『地中海世界史』西洋古典叢書,京都大学学術出版会,1998年。)
(*)(参考：デイヴィッド・アッテンボロー/橋爪若子訳『図説地中海物語：楽園の誕生』東洋書林,1998年。)
(*)(参考：ポール・セロー/中野恵津子訳『ポール・セローの大地中海紀行』気球の本,NTT出版,1998年。)
(*)(参考：佐藤彰一他執筆『ヨーロッパの誕生：4-10世紀』岩波講座世界史7,岩波書店,1998

年。)
(*)(参考：ビル・マンリー/古田実・牧人舎訳『古代エジプト』地図で読む世界の歴史,河出書房新社,1998年。)
(*)(参考：ロバート・モアコット/青木桃子・牧人舎訳『古代ギリシア』地図で読む世界の歴史,河出書房新社,1998年。)
(*)(参考：クリス・スカー/矢羽野薫・牧人舎訳『古代ローマ』地図で読む世界の歴史,河出書房新社,1998年(→2105年,「ローマ帝国」新装版。)
(*)楠見千鶴子『ギリシアエーゲ海紀行』TRAJALbooks,タラベルジャーナル,1998年。
(*)星和夫「医学のルーツを尋ねて：イタリアの旅」日本病院会雑誌 45(1-7,9,10),1998 年。
(*)池田満寿夫『エーゲ海に捧ぐ；窓からローマが見える』ケイエスエス,1998年。
(*)「エーゲ海セーリングラリー告知/ケンウッド・カップ・クラブ案内」Kazi：ヨット,モーターボートの雑誌64(6),1998年。
(*)田口ランディ「ギリシャ・エーゲ海紀行(前編)」Kazi：ヨット,モーターボートの雑誌64(15),1998年。
(*)田口ランディ「ギリシャ・エーゲ海紀行(後編)」Kazi：ヨット,モーターボートの雑誌64(17),1998年。
(*)奈良原一高「記憶の鏡 The Aegean Seaエーゲ海」新潮45 17(8),1998年。
(*)『世界わが心の旅』NHKソフトウェア,1998年。
-----瀬戸内寂聴旅人・小六英介語り「Greece：ギリシャ：愛と死のエーゲ海」
-----陣内秀信旅人・萩尾みどり「Italy：ベネチア：光と影の迷宮」
(*)(参考：一橋大学地中海研究会編『地中海という広場』淡交社,1998年。)
(*)(参考：ルイーズ・スティール/五十嵐洋子訳『迷宮のミノア文明：事実になった神話』開かれた封印古代世界の謎16,主婦と生活社,1998年。)
(*)(参考：ドナルド・イーストン/五十嵐洋子訳『トロイ：木馬伝説の古代都市』開かれた封印古代世界の謎18,主婦と生活社,1998年。)
(*)地球の歩き方編集室編『ローマ』ダイヤモンド・ビッグ社,1998-99 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ギリシアとエーゲ海の島々&キプロス』ダイヤモンド・ビッグ社,1998-99年。
(*)『神々のギリシア：アテネとスーニオン岬』ギリシア』週刊地球旅行6,講談社,1998年。
(*)『哀愁のイスタンブール：トルコ』週刊地球旅行15,講談社,1998年。
(*)『白い島ミコノスとエーゲ海クルーズ ギリシア』週刊地球旅行29,講談社,1998年。
(*)『フィレンツェからトスカーナへの小さな旅：イタリア』週刊地球旅行38,講談社,1998年。
(*)(参考：吉村作治他編『エーゲ海文明：ギリシアのあけぼの』Newton ムック,NEWTONアーキオ・ビジュアル考古学3,ニュートンプレス,1998年。)
(*)楠見千鶴子『ギリシアエーゲ海紀行』Trojal books,トラベルジャーナル,1998年。
(*)楠見千鶴子『エーゲ海 ギリシア神話の旅』講談社学術文庫,講談社,1998年。
(*)(参考：吉村作治(編集主幹)『エーゲ文明』NEWTONアーキオ3,ニュートンプレス,1998年。)
(*)「世界の都市めぐり ルクソール/アレキサンドリア/アスワン」自治体国際フォーラム97,1998年。)
(*)(参考：日本テレビ放送網『ファルーク・ホスニ展：現代エジプトを代表する叙情画家：

アレキサンドリアの記憶』目黒区美術館,1998年。)
(*)(参考：篠山紀信写真・文『エジプト：ルクソールからアレキサンドリアへ』篠山紀信シルクドード7,集英社,1998年。)
(*)(参考：渡辺俊男「トルコ紀行(最終回)啓蟄のアナトリア高原」月刊ロアジール22(9),1998年。
(*)関隆志編『都市と文化財：アテネと大阪：大阪市立大学国際学術シンポジウム』東信堂,1998年。
(*)(参考：水田徹「パルテノン・フリーズの図像観察から得た新知見：〈パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的実地調査〉第二次(1995-6年度)概報」造形芸術学・演劇学：東京学芸大学造形芸術学・演劇学講座研究紀要2,1998年。)
(*)(参考：樺山紘一他編『地中海世界と古典文明：前1500年—後4世紀』岩波講世界歴史4,岩波書店,1998年。)

----古山正人・本村凌二「地中海世界と古典文明」
桜井万里子「異形のギリシア世界：シチリア」
平田隆一「ギリシアとローマの狭間：エトルリア」
栗田伸子「アフリカの古代都市：カルタゴ」
周藤芳幸「孤立農場論の射程：もうひとつのポリス市民像をもとめて」
橋場弦「民主制の罪と罰：美徳から犯罪へ」
中村純「舞台の上の民主政」
田村孝「ヘレニズム土着王国の反撃：ポントス国王ミトリダテス六世と土着民の場合」
毛利晶「多神教と個人救済：ローマ共和政期の宗教事情」
樋脇博敏「ローマの家族」
坂口明「支配の果実と代償：ローマ奴隷制社会論」
南川高志「ローマ皇帝政治の進展と貴族社会」

(*)(参考：岩井経男『ローマ時代イタリア都市の研究』東北大学,博士(文学),乙第7485号,1998年。)
(*)KOOLI Fathi「くろすろーど世界は今 カルタゴから日本の筑波に来て」セラミックス33(11),1998年。
(*)森本哲郎,ファンタル・ムハンマド,登誠一郎(他)「特別座談会 カルタゴの滅亡と現代日本」正論305,1998年。
(*)(参考：麦倉達生「地中海沿岸ラテン系民族の時間観(3)ガリア人,イベリア人および中世以降のイタリア人の時間観」滋賀大学教育学部紀要II,人文科学・社会科学48,1998年。)
(*)(参考：芳賀満「プロピュロン—アルカイック時代から紀元後2世紀まで」地中海学研究21,1998年。)
(*)(参考：菅瀬晶子「「緑の男」を追って(2)：東地中海のマール・ジルジス信仰」季刊アラブ84,1998年。)
(*)(参考：堀賀貴「古典期におけるパスタスとヘレニズム期におけるペリスタイル：古代地中海世界における中庭式住宅の類型に関する研究(1)」山口大学工学部研究報告48(2),1998年。)
(*)(参考：Kato Hiroshi「Alexandrian Melancholy : The Light and Shadow of the Modern Mediter-

raean World」地中海論集15,平成7-9年度科学研究費補助金(基礎研究A),1998年。)
(*)(参考：Takeuchi Keiichi「Some Considerations on the Albanian Settlements in Southern Italy」地中海論集15,平成7-9年度科学研究費補助金(基礎研究A),1998年。)
(*)(参考：「Publications by the Mediterranean Studies Group Hitoshibashi University」地中海論集15,平成7-9年度科学研究費補助金(基礎研究A),1998年。)
(*)(参考：「Index to Volumes I-XIIV of Transactions of the Mediterranean Studies Research Group at Hitoshibashi University」地中海論集15,平成7-9年度科学研究費補助金(基礎研究A),1998年。)
(*)井出雄太郎『南イタリア・シチリアの旅：ローナ・アッシジ・シチリア・ナポリ・ポンペイ』サンパウロ,1998年。
(*)(参考：E=R.ラバンド/大高順雄訳『ルネサンスのイタリア』みすず書房,1998年。)
(*)(参考：北田葉子「アカデミア・フィオレンティーナ1542-1553：君主国フィレンツェにおけるアカデミアの機能と役割」イタリア学会誌48,1998年。)
(*)(参考：竹尾敬子「ゲーテの『イタリア紀行』について(平成 9 年度研究報告)」研究紀要 35,1998 年。)
(*)(参考：稲村真実「サルトルの 2 つの“ヴェネチア論”：狂気と幻想」(日本フランス語フランス文学会)フランス語フランス文学研究 73,1998 年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「フェリクス・ジェム--「ヴェネツィアの画家」だったフランス人」人文学研究所報31,1998年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(21)未来派,過去主義者,そしてヴェネツィア」人文研究133,1998年。)
(*)(参考：創立七十周年記念論文集編集発行実行委員会編『神奈川大学創立七十周年記念論文集』(鳥越輝昭「ヴェネツィア像の軌跡：墓場から未来へ」,湯田豊「ニーチェにおける“永遠の回帰”の思想」)神奈川大学,1998年。)
(*)(参考：越智三起子「交感の魔術：『ハドリアヌス帝の回想』における語りの手法をめぐって」(ユリスナール)関西フランス語フランス文学 4,1998 年。)
(*)(参考：名取四郎「〈研究紹介〉ポール・アルベール・フェヴリエの地中海」地中海学研究 21.1998 年。)
(*)上野賢一「Von dem Grau bis zum Bunt(55)イタリア紀行」皮膚科の臨床 40(8),1998 年。
(*)(参考：上野賢一「Von Dem Grau Bis Zum Bunt(58)われもまたアルカディアに」皮膚科の臨床 40(11),1998 年。)
(*)(参考：マーク・トウェイン/濱田政二郎訳『赤毛布外遊記(上中下)』復刻版名作翻訳選集・英米篇,本の友社,1998 年。)
(*)高山博「シチリア紀行」イタリア図書 22,1998 年。)
(*)(参考：小林功「コンスタン 2 世のシチリア進出—7 世紀中盤のビザンツ帝国と中部地中海」史林 81(5),1998 年。)
(*)(参考：飯塚正人・家島彦一「イスラム圏における異文化接触のメカニズム(9)」アジア・アフリカ言語文化研究所通信93,1998年。)
(*)(参考：杉田英明「アストロラーベ—物の交流から見た地中海世界（特集 地中海文明と言語—交錯する物とことば）」言語 27(10),1998 年。)
(*)(参考：川路紗『オリーブ』フレーベル館,1998 年。)

(*)(参考：山口樹々「MALTA—地中海に浮かぶ城塞都市」太陽 36(13),1998 年。)
(*)(参考：P.グリマル著/クリイチ写真/青柳正規・野中夏美訳『都市ローマ』岩波書店.1998年。)
(*)塩野七生「ローマの街角から(55)」フォーサイト 9(11),1998 年。
(*)(参考：ジャンニ・ベレンゴ・ガルディン/平山東子訳『ポンペイ：ジャンニ・ベレンゴ・ガルディン写真集』岩波書店,1998年。)
(*)(参考：篠田皎「ポンペイ,1873年(私の雑記帳2)」地学研究47(1),1998年。)
(*)(参考：小山田了三「ポンペイ遺跡にみる壁材料の変遷」山梨学院大学一般教養部論集20,1998年。)
(*)(参考：佐々木達夫「West Asian Archeaology Coferences,1997-98 Held at Kanazawa,Oxford, London and Sydney[和文]」金沢大学考古学紀要24,1998年。)
(*)(参考：平田隆一「ポンペイの起源--《都市国家》の形成過程」ヨーロッパ研究2,1998年。)
(*)(参考：仁科剛平『超古代史通になる本：人間はそもそもどこから来たのか：謎の失われた世界ガイドブック：ムー,アトランティスからマヤ・インカ縄文まで』オーエス出版,1998年。)
(*)(参考：ランド&ローズ・フレマス/宇佐和通訳『アトランティスは南極大陸だった!!：アインシュタインをも納得させた地殻移動理論が明かす大陸の謎』学習研究社,Mu super mystery books,1998年。)
(*)(参考：高津道昭『アトランティスはここだ!：検証ユカタン半島』新潮選書,1998年。)
(*)(参考：荒巻義雄『アトランティスの仮想世界史：地政学で読む謎の起源』青春出版社,荒巻義雄の人類興亡史ファイル,1998年。)
(*)(参考：ジェニファー・ウエストウッド/五十嵐洋子訳『失われたアトランティス：伝説と謎に満ちた大陸』主婦と生活社,開かれた封印古代世界の謎2,1998年。)
(*)(参考：ケネス・マクビューティ/新美幸子訳『創造主：天地創造とノアの洪水の真実を探る』いのちのことば社,1998年。)
(*)(参考:佐藤一美『シュリーマン:夢を発掘した人』講談社火の鳥伝記文庫107,講談社,1998年。)
(*)(参考：エルヴェ・デュシエーヌ/福田ゆき・藤丘樹美訳『シュリーマン：黄金発掘の夢』創元社,「知の再発見」双書76,1998年。)
(*)(参考：松枝到編『ヴァールブルク学派—文化科学の革新』平凡社, ヴァールブルク・コレクション,1998年。)
(*)(参考：大塚国際美術館他編『西洋絵画300選：大塚国際美術館』有光出版,1998年。)
(*)(参考：岸美光「「古典主義」のための戦術—ヴィンケルマンによるベルヴェデーレの彫像の記述について」人文学報293,1998年。)
(*)(参考：堀幸夫「ヴィーナスとマーブルに魅せられたフィレンツエ」地中海歴史風土研究誌10,1998年。)
(*)(参考：日賀野友子『オーブリー・ヴィンセント・ビアズリー研究：テクストを超える挿絵』筑波大学,博士(芸術学),乙第1421号,1998年。)
(*)(参考：今井桜子『ローマ時代における煉瓦類刻印の研究：エトルリア地方を中心に』東京大学,博士(文学),甲第13875号,1998年。)
(*)(参考：青柳正規「カッツァネッロ(タルクィア)のローマ遺跡発掘調査(第6,7,8,9,11,12,13

次)中間報告」東京大学文学部文化交流研究施設研究紀要14,1998年/15,1999年/16,2000年/17,2001年/19,2006年。)
(*)(参考 : 加藤博研究代表『地中海世界における「ローカル・ノリッジ」の形成の比較研究』加藤博[一橋大学],科学研究費補助金(基礎研究Ａ)研究成果報告書,平成7年度-9年度。)
(*)(参考：ヤーコプ・ブルクハルト/新井靖一訳『ギリシア文化史』(全8巻)ちくま学芸文庫, 筑摩書房, 1998-99年。)
(*)(参考：西川亮『古代オリンピックの旅』協同出版,1998年。)
(*)(参考：『ファルクーク・ホスニ展；現代エジプトを代表する叙情画家：アレクサンドリアの記憶』日本テレビ放送網,目黒美術館,1998年。)
(*)(参考：森村泰昌『踏みはずす美術史：私がモナ・リザになったわけ』講談社現代新書, 講談社,)1998年。)
(*)松野良寅『西洋学の東漸と日本』松野良寅,1998年。
(*)青柳正規「巻頭言　これからの博物館」博物館研究33(6),1998年。
(*)峰島旭雄「異文化受容の問題—明治期の事例に徴して」比較思想研究24別冊,1998年。
(*)角田文衛「濱田耕作博士とギリシア銘辞学」古代学研究所紀要 7,1998 年。
(*)十川信介「十七才の日記—濱田耕作(青陵)日誌」日本古書通信 73(9),1998 年。
(*)中山典夫「西洋と日本：追悼 澤柳大五郎先生」筑波大学芸術年報 1998,1998 年。
(*)(参考：松谷浩尚『イスタンブールを愛した人々』中公新書,中央公論社,1998 年。)
(*)(参考：高橋裕子「聖人のいる美術史--『黄金伝説』の図像学(10)アレクサンドリアの聖カタリナ」月刊百科 427,1998 年。)
(*)NHK 編集『仏像誕生と流転：ガンダーラ・バーミヤン』NHK スペシャル：ブッダ,大いなる旅路,NHK ソフトウェア,1998 年。)
(*)(参考：保坂俊司「日本・パキスタン共同開催「ガンダーラ文明交流国際会議」に参加して」東方 14,1998 年。)
(*)大村次郷「世界の文化遺産は泣いていた」放送文化 44,1998 年。
(*)平子友長「和辻哲郎の風土論における日本認識とオリエンタリズム」共同探究通信 13, 1998 年。
(*)(参考 : Pierre Toubert/佐藤彰一訳「中世地中海世界の人間と自然環境」思想 892,1998 年。)
(*)(参考：葛谷彩「シュペングラー「西洋の没落」再読(1,2)ポスト冷戦から見た「西洋の没落」」法学論叢 143(6),1998 年/145(5),1999 年。)
(*)(参考：山本建郎・渡部育子・熊田亮介他「「比較文明論」の意義」秋田大学総合基礎教育研究紀要 5,1998 年。)
(*)(参考：高島進『アーノルド・トインビー』シリーズ福祉に生きる 1,朝倉書店,1998 年。)
(*)(参考 : Kawakubo Keisuke「Civilization and Religion in Toynbee」比較文明研究 3,1998 年。)
(*)(参考：櫻井圀郎「キリスト教比較文明論の可能性」キリストと世界：東京基督教大学論集 8,1998 年。)
(*)(参考：合田良寛「比較文明学の視点から」土木学会誌 83(4),1998 年。)
(*)(参考：佐々木達夫「海を通して交流した古代文明(通巻第百号記念特集[3]古代と川)」季刊河川レビュー27(102),1998 年。)
(*)(参考：高際澄雄「トバイアス・スモレット他編『万国史』における文明概念」宇都宮大学国際学部研究論集 5,1998 年。)

(*)田中昭三『文士の大和路』Shorter Travel,小学館,1998 年。
(*)(参考：中江彬「漱石の『草枕』におけるミケランジェロ：超人的芸術論の歴史(塚田秀雄教授・福島正彦教授定年退職記念)」人文学論集 16,1998 年。)
(*)(参考：中江彬「漱石の「吾輩は猫である」とミケランジェロ」大阪府立大学紀要,人文・社会科学 46,1998 年。)
(*)(参考:石山洋「海野一隆『地図の文化史—世界と日本』」科学史研究第(OxF9C2)期 37(205),1998 年。)
(*)堀越孝一「地図を書く清永[昭次]先生(清永昭次先生新田英治先生退任記念号)」学習院史学 36,1998 年。
(*)藤本義一「地図の文献：近年の刊行物に拾う」地理教育 27,1998 年。
(*)渡邉伸樹「小学校における「数学の文化史」の教材化について；5 年生における地図作製活動」数学教育学会誌･臨時増刊,数学教育学会発表論文集,1998(2),1998 年。
(*)(参考：岡田温司「だが君,それをどう我々の意味にあてはめるつもりかね」--ヴァザーリのヴェッキオ宮殿神話画装飾と『議論集』」美術史 47(2),1998 年。)
(*)(参考：今泉篤男・山田智三郎編『西洋美術辞典』32 版,東京堂出版,1998 年。)
(*)(参考：アンドリュー・バーネット/新井佑造訳『コインの考古学』大英博物館双書：古代を解き明かす 6,学藝書林,1998 年。)
(*)(参考：皆川達夫先生古稀記念論文集編集委員会編『音楽の宇宙：皆川達夫先生古稀記念論文集』音楽之友社,1998 年。)
----上尾信也「古代・中世・ルネサンスの音楽」
名取四郎「古代ローマ石棺浮彫りにみる奏楽の女性像」
関根和江「ラファエル・ケーベルの日本における音楽活動について」
(*)長井俊夫「日本国際地図学会編「地図学用語辞典〈増補改訂版〉」海洋調査技術 10(2),1998 年。
(*)(参考：河部利夫・中村義編『世界人名辞典』東京堂出版,新版増補再版,1998 年。)
(*)(参考：山口昇監修『エッセンシャル聖書辞典』いのちのことば社,1998年。
(*)(参考：新教出版社編『聖書辞典』新教出版社,増補版,1998年。)
(*)(参考：今泉篤男・山田智三郎編『西洋美術辞典』32版,東京堂出版,1998年。)
(*)阿辻哲次『一語の辞典—文字』三省堂,1998 年。
(*)野崎昭弘『一語の辞典—一』三省堂,1998 年。
(*)朴均轍「『哲学字彙』の訳語に関する一考察--「E の部」を中心に」国語国文研究 110,1998 年。
(*)谷沢永一「本好き人好き(105)新文学百科精講 佐藤義亮編『新文学百科精講』前編・後編」国文学 解釈と教材の研究43(7),1998年。
(*)京都大学大学院人間･環境学研究科山口研究室「泉井久之助著作論文目録補遺」Dynamis : ことばと文化2,1998年。
(*)(参考：平田隆一「失われたエトルリア語を追う(特集 地中海文明と言語)」言語27(10),1998年。)
(*)(参考：平川泰司「『旧アルカディア』から『新アルカディア』へ—修辞的文体の意味するもの」(京都)光華女子大学研究紀要36,1998年。)
(*)(参考：古谷大輔・工藤晶人「西洋史研究者のためのパソコン作法入門」クリオ=Clio 12,1998年。)

(*)(参考：伊吹雄「新約聖書の言語(1,2)」聖心女子大学論叢90,91,1998年。)
(*)(参考：酒見紀成「中世に蘇ったトロイーロス([プロピレア]創刊十周年記念号)—(『プロピレア』創刊十周年記念特集「ギリシア語を学ぶ」)」プロピレア 10,1998 年。
(*)山形直子「私のギリシア語事始め([プロピレア]創刊十周年記念号)—(『プロピレア』創刊十周年記念特集「ギリシア語を学ぶ」)」プロピレア 10,1998 年。
(*)竹島俊之「古典ギリシア語の学び方([プロピレア]創刊十周年記念号)--（『プロピレア』創刊十周年記念号特集「ギリシア語を学ぶ」）」プロピレア 10,1998 年。
(*)近松明彦「ギリシア語を学んだ経験を振り返って([プロピレア]創刊十周年記念号)--（『プロピレア』創刊十周年記念号特集「ギリシア語を学ぶ」）」プロピレア 10,1998 年。
(*)古浦敬生「私のギリシア語学習法([プロピレア]創刊十周年記念号)--（『プロピレア』創刊十周年記念号特集「ギリシア語を学ぶ」）」プロピレア 10,1998 年。
(*)「日本語によるギリシア語学習書リスト(入門書・文法書・会話練習帳・辞書・語彙書・対訳読本・注釈書を含む) ([プロピレア]創刊十周年記念号)--（『プロピレア』創刊十周年記念号特集「ギリシア語を学ぶ」）」プロピレア 10,1998 年。
(*)須山岳彦「ギリシア語メモワール—ある偉大な言語の不実な使徒として([プロピレア]創刊十周年記念号)--（『プロピレア』創刊十周年記念号特集「ギリシア語を学ぶ」）」プロピレア 10,1998 年。
(*)水谷智洋「田中秀央校注『クセンポーン アナバシス』,鳴瀬恒太郎『ギリシア語文法』([プロピレア]創刊十周年記念号)--（『プロピレア』創刊十周年記念号特集「ギリシア語を学ぶ」）」プロピレア 10,1998 年。
(*)(参考：酒見紀成「中世に蘇ったトローロス（『プロピレア』創刊十周年記念号特集「ギリシア語を学ぶ」）」プロピレア 10,1998 年。)
(*)(参考：矢島文夫「地中海の言語の歴史(特集 地中海文明と言語—交錯する物とことば)」言語 27(10),1998 年。)
(*)(参考：細井敦子「地中海と書物の命運—中世のギリシア語写本を中心に（特集 地中海文明と言語—交錯する物とことば）」言語 27(10),1998 年。)
(*)(参考：高山博「中世シチリアの三言語併存状況（特集 地中海文明と言語—交錯する物とことば）」言語 27(10),1998 年。)
(*)(参考：甚野尚志「アリストテレスの翻訳と中世スコラ学（特集 地中海文明と言語—交錯する物とことば）言語 27(10),1998 年。)
(*)(参考：鈴木薫「オスマン帝国の言語問題（特集 地中海文明と言語—交錯する物とことば）」言語 27(10),1998 年。)
(*)(参考：冨盛伸夫「地中海の交易とことば（特集 地中海文明と言語—交錯する物とことば）」言語 27(10),1998 年。)
(*)(参考：平田隆一「失われたエトルリア語を追う（特集 地中海文明と言語—交錯する物とことば）」言語 27(10),1998 年。)
(*)(参考：嶋田誠「ローマ帝国におけるラテン語の通用力（特集 地中海文明と言語—交錯する物とことば）」言語 27(10),1998 年。)
(*)(参考：李征「中国・日本の近代における「文学」という翻訳語の成立—清末上海滞在のイギリス人宣教師エドキンスによる「希臘為西国文学之祖」の執筆をめぐ

って」比較文学 40,1998 年。)
(*)(参考 : 原田裕司『キリシタン司祭後藤ミゲルのラテン語の詩とその印刷者税所ミゲルをめぐって』近代文芸社,1998 年。)
(*)(参考 : 原田裕司『ラテン語が教えるもの』近代文芸社,1998 年。)
(*)(参考 : 工藤進『声 : 記号にとり残されたもの』白水社,1998年。)
(*)「泉井久之助著書論文目録補遺」(京都大学大学院人間・環境学研究科山口研究室) Dynamis : ことばと文化2,1998年。
(*)The Classical Society of Japan(ed.) "FortyYears of the Journal of Classical Studies" Tokyo,1998.
(*)(参考 : 池田黎太郎『古典ギリシア語入門』カセットテープ,白水社,1998年。)
(*)(参考 : 風間喜代三『ラテン語とギリシア語』三省堂,1998年。)
(*)(参考 : 伊藤貞夫「プロソポグラフィイ二題」西洋古典叢書月報10,1998年。)
(*)(参考 : 矢島文夫「地中海の言語の歴史」言語27(10),1998年。)
(*)(参考 : ルイ=ジャン・カルヴェ著/会津洋・前島和也・矢島文夫訳『文字の世界史』河出書房新社,1998年。)
(*)(参考 : 高山博「中世シチリアの三言語併存状況(特集 : 地中海文明と言語—交錯する物とことば)」言語27(10),1998年。)
(*)(参考 : 木村近志「比喩に見ることばと文化の諸相」Mare Nostrum 11,1998年。)
(*)(参考 : 高山博『ハード・アカデミズムの時代』講談社,1998年。)
(*)(参考 : 小野茂『フィロロジーの愉しみ』南雲堂,昭和 1998 年。)
(*)(参考 : 菊地清明「小野茂著『フィロロジーの愉しみ』」英語青年144(5),1998年。)
(*)片桐一男「前野良沢--「解体新書」を訳出した孤高の蘭学者(日本を創った101人)—(限界に挑んだ群像—限界を克服した独創力)」歴史読本43(3),1998年。)
(*)李征「中国・日本の近代における「文学」という翻訳語の成立」比較文学40,1998年。
(*)津田雅夫「解釈学批判をめぐって : 和辻哲郎と三木清」名古屋大学哲学論集4,1998年。
(*)宮永孝『日本史のなかのフランス語 : 幕末明治の日仏文化交流』白水社,1998年。)
(*)(参考 : 工藤進『日本語はどこから生まれたか : 「日本語」・「インド=ヨーロッパ語」同一起源説』KKベストセラーズ,ベスト新書86,1998年。)
(*)柳父章『翻訳語を読む』丸山学芸図書,1998年。
(*)(参考 : 逸身喜一郎「古典ギリシャにおける「説得」」西洋古典学研究連絡委員会の活動から」学術の動向3(10),1998年。)
(*)(参考 : 土居琢磨「「主の祈り」のことば—ギリシャ語原典,ウルガタ訳,英語聖書との比較」梅光女学院大学論集31,1998年。)
(*)(参考 : 山田泰完・村井浩一・日高美奈子他「古典語修得と近代語の語源学的理解のための聖書翻訳—新高ドイツ語への変換の場合(1-5)」人文社会科学研究38,1984年/39,1999年/40,2000年/41,2001年/42,2002年。)
(*)(参考 : メネ・ロラン/伊藤慶枝訳「修辞分析—聖書理解の新しい研究方法」神学ダイジェスト85,1998年。)
(*)鈴木広光「翻訳書としてのキリシタン文献(特集 日本語研究はどのように行われてきたのか)」日本語学17(7),1998年。
(*)丸山真男・加藤周一『翻訳と日本の近代』岩波新書,1998年。
(*)(参考 : 青山学院大学総合研究所人文学系研究センター編『東西の言語・文化の比較研究』研究叢書 10, 青山学院大学総合研究所人文学系研究センター,1998 年。)

(*)(参考：青山学院大学総合研究所人文学系研究センター編『ドラマツルギーの研究』研究叢 12, 青山学院大学総合研究所人文学系研究センター,1998 年。)
(*)(参考：神戸学院大学人文学研究所「古典学の再構築」総括班事務局『古典学の再構築』神戸学院大学人文学研究所,1998-2003年。)
(*)(参考：中山公男「ある美術史家の自伝的回想(10)ボティチェルリの地獄地図」美術の窓17(10),1998年。)
(*)伊藤幹治「柳田国男とJ.G.フレイザーの『金枝篇』(訳書)[〈共同研究〉柳田国男とヨーロッパの民族学・民俗学]」民俗学研究所紀要22別冊,1998年。
(*)(参考：曽田長人「フリードリヒ・アウグスト・ヴォルフの『古代学の叙述』--19世紀ドイツにおける古典研究・精神科学のプログラム」年報地域文化研究2,1998年。)
(*)Yamamoto,Tatsuro‘THE RESEARCH OF ANCIENT GREEK PHILOSOPHY IN CONTEMPORARY JAPAN’ΛΩΛΩΝΗ：ΠΑΝΕΠΙΣΤΗΜΙΟ ΙΩΝΙΑΩΝ,ΦΙΛΟΣΟΦΙΚΗ ΣΧΟΛΗ 27(3),1998.
(*)(参考：小林道憲『宗教を生きるか：仏教とキリスト教の思想から』NHKブックス,日本放送出版協会,1998年。)
(*)(参考：白石正樹「ギリシア人の宗教観とポリス」創価法学28(1),1998年。)
(*)(参考：ロバート・クレイヴス/高杉一郎訳『ギリシア神話』紀伊国屋書店,1998年。)
(*)(参考：青柳正規・平山東子/小川忠博写真『描かれたギリシア神話：写真絵巻』講談社,1998年。)
(*)(参考：千葉政助『ギリシア神話作品集―ヴィーナス：アフロディーテー』中教出版,1998年。)
(*)(参考：さかもと未明『マンガギリシア神話,神々と人間たち』Kodansha sophia books,講談社,1998年。)
(*)(参考：I.P.クリアーヌ,ヘルダー社編/奥山倫明・木塚隆志・深澤英隆訳『世界宗教史4―諸世界の邂逅から現代まで』筑摩書房,1998年。)
(*)(参考：鏡リュウジ・小谷真理「対話 女神・魔女・サイボーグ(特集 女神)」ユリイカ30(15),1998年。)
(*)(参考：鏡リュウジ「女神のいる心理学(特集 女神)」ユリイカ30(15),1998年。)
(*)(参考：Liz Greene/岡本翔子・鏡リュウジ訳「運命と女性(特集 女神)」ユリイカ30(15),1998年。)
(*)(参考：大林太良・吉田敦彦「神話の中の動物たち」現代思想26(1),1998年。)
(*)(参考：大林太良・吉田敦彦「神話研究の現在」現代思想26(2),1998年。)
(*)(参考：渡邉浩司『クレチアン・ド・トロワの物語にみるイロニー：修辞学的研究から神話学的研究へ』名古屋大学,博士(文学9),甲第3383号,1998年。)
(*)(参考：岡宏志「エリアーデ宗教学における人間学的側面について」論集25,1998年。)
(*)(参考：関口和男「人間環境と原始的心性―エリアーデ宗教学を踏まえて」法政大学教養部紀要107,1998年。)
(*)(参考：藤田正幸「ゲーテとホーフマンスタールにおけるギリシア神話の再生：技術時代における人間像を求めて」愛媛大学法文学部論集,人文科学編4,1998年。)
(*)(参考：鎌田学「ハイデガーの思考と神話的世界(1)：『哲学入門』を手がかりに」工学院大学共通過程研究論叢36(2),1998年。)

(*)(参考：前田良三「神話・学問・メディア：ゲオルゲ・クライスをめぐる議論の現在」Aspekt：立教大学ドイツ文学科論集32,19987年。)
(*)(参考：私市元宏「ミルトンの『コウマス』とプロセルピナ神話」甲南女子大学英文学研究34,1998年。)
(*)(参考：Walter Pater/竜野武昌訳「ギリシア研究(3)デーメーテルとペルセポネーの神話(1)」明星大学研究紀要：人文学部34,1998年。)
(*)(参考：高橋雄四郎「キーツ詩におけるアポロ：ギリシア神話的視点」實踐女子大学文学部紀要40,1998年。)
(*)(参考：真砂久晃「イェイツとギリシア神話」専修人文論集62,1998年。)
(*)(参考：桑山孝子「ブレイクの神話における永遠と流失」イリギスロマン派研究22,1998年。)
(*)(参考：北田葉子「16世紀半ばのフィレンツェにおける「エトルリア神話」：コジモ1世とプロパガンダ」西洋史學188,1998年。)
(*)(参考：岡田温司「「だが君,それをどう我々の意味にあてはめるつもりかね」--ヴァザーリのヴェッキオ宮神話画装飾と『議論集』」美術史47(2),1998年。)
(*)(参考：佐藤由美子「イニシエーションの構造に関する比較神話学的研究：デメテル・ペルセポネ神話と天岩戸神話の比較を通して」日本女子大学紀要,人間社会学部9,1998年。)
(*)渡邉浩司「フィリップ・ヴァルテル教授講演会「白鳥の神話」(日本とヨーロッパ)：ユーラシア神話学の視点から」日本フランス語フランス文学会中部支部研究報告集22,1998年。)
(*)(参考：梅原猛『芸術と生命：ディオニュソスに魅せられて』岩波書店,1998年。)
(*)(参考：カフカ/池内紀編訳『カフカ寓話集』(「ポセイドン」/「アレクサンドロス大王」)岩波文庫,岩波書店,1998年。)
(*)(参考：マルシリオ・フィチーノ/水落健治訳「『プラトン神学への誘い』(1)(2)」明治大学キリスト教文化所紀要30,1998年/31,1999年。)
(*)(参考：岩見隆・木下雄介・高田康一・野元晋・堀江聡共訳「〈論文〉アラビア語版『アリストテレスの神学』第2章[翻訳]」慶應義塾大学言語文化研究所紀要30,1998年。)
(*)(参考：堀江聡「〈論文〉アラビア語版『アリストテレスの神学』研究展望」慶應義塾大学言語文化研究所紀要30,1998年。)
(*)(参考：高橋秀樹「『神統記』創造神話成立の歴史的背景」新潟史学41,1998年。
(*)半沢栄一「ギリシャ神話と記紀神話の根本相違—神話の形成期葛藤投影論」古代史の海14,1998年。)
(*)(参考：水谷智洋研究代表『古代地中海世界における神話伝承と自然観』水谷智洋,1998年。)
(*)(参考：北田葉子「16世紀半ばのフィレンツェにおける「エトルリア神話」：コジモ1世とプロパガンダ」西洋史学188,1998年。)
(*)(参考：J.G.フレイザー/神成利男訳「金枝篇：呪術と宗教の研究(第3版)第4部アドニス・アッテイス・オシリス(71-84)」月刊状況と主体273-276,1998年/277-287,1999年。)
(*)(参考：黒田晴之「フーベルト・フィヒテ『わが友ヘロドトス』--あるいは世俗化された

習合宗教について」Waseda Blätter 5,1998年。)
(*)(参考:松田治「アマゾンの女王ペンテンシレイア—スミュルナのクィントスの作品から」Walpurgis1998,1998年。)
(*)(参考:兼武道子「W.H.オーデン「クリオへの讃歌」とアレゴリー」リーディング19,1998年。)
(*)(参考:ポンペイウス・トログス著/ユニアヌス・ユスティヌス抄録/合阪學訳『地中海世界史』京都大学学術出版会,西洋古典叢書,1998年。)
(*)(参考:南川高志『ローマ五賢帝--「輝ける世紀」の虚像と実像』[マルクス・アウレリウス]講談社新書,1998年。)
(*)(参考:越智三起子「交感の魔術:『ハドリアヌス帝の回想』における語りの手法をめぐって」関西フランス語フランス文学4,1998年。)
(*)毛利晶「フランツ・キュモン著/小川英雄訳『古代ローマの来世観』平凡社,1996」史學雑誌105(11),1998年。
(*)(参考:毛利晶「ラウィニウムとローマ共和政期の宗教(1997年度[西洋史研究会]大会共通論題報告—古代ローマにおける宗教と社会)」西洋史研究27,1998年。)
(*)(参考:山本晴樹「元首政期ガリア社会におけるアウグスターレース(1997年度[西洋史研究会]大会共通論題報告—古代ローマにおける宗教と社会)」西洋史研究27,1998年。)
(*)(参考:阪本浩「帝政期イタリア北部の碑文にみる宗教生活(1997年度[西洋史研究会]大会共通論題報告—古代ローマにおける宗教と社会)」西洋史研究27,1998年。)
(*)(参考:「討論(1997年度[西洋史研究会]大会共通論題報告—古代ローマにおける宗教と社会)」西洋史研究27,1998年。)
(*)(参考:大貫隆・佐藤研編『イエス研究史:古代から現代まで』日本基督教団出版局,1998年。)
(*)(参考:高柳俊一「〈書評〉ジョン・ドミニック・クロサン著『史的イエス・地中海周辺に生きたユダヤ人農民』および『イエス・革命的伝記』」キリスト教文化・東洋宗教研究所紀要16,1998年。)
(*)(参考:エチェンヌ・トロクメ/小河陽編『初期キリスト教の諸相』立教大学,立教大学国際学術交流報告書14輯,1998年。)
(*)(参考:土戸清『初期キリスト教とユダヤ教:ヨハネ福音書研究の諸問題』教文館,聖書の研究シリーズ51,1998年。)
(*)(参考:水垣渉・研究代表『古代キリスト教の担い手としての知者の研究』水垣渉,1998年。)
(*)(参考:細井敦子「地中海と書物の命運—中世のギリシア語写本を中心に(特集 地中海文明と言語—交錯する物とことば)」言語 27(10),1998 年。)
(*)(参考:Toda Satoshi「Les disciples dars l'Evangeile selon Thomas : un essai d'analyse litteraire」地中海論集 15,平成 7-9 年度科学研究費補助金(基礎研究 A),1998 年。)
(*)(参考:本多顕彰『だれが聖書を書いたのか』二見書房,1998年。)
(*)(参考:荒井献他訳『福音書』ナグ・ハマディ文書2,岩波書店, 1998年。)
(*)(参考:新井壮四郎『ルカ福音書:その成立と解析』出版者不明,1998年。)
(*)(参考:丹羽鋹之『使徒行伝:丹羽鋹之聖書講解(1-7)』憩のみぎわ社,1998-2009年。
(*)(参考:ヤロスラフ・ペリカン/関口篤訳『聖母マリア』青土社,1998年。)

(*)(参考 : 竹下節子『聖母マリア : 「異端」から「女王」へ』講談社選書メチエ137,講談社,1998年。)
(*)(参考 : 諸川春樹・利倉隆『聖母マリアの美術 : カラー版』美術出版社,1998 年。)
(*)(参考 : 木村閑子『聖母マリアの奇蹟 : 石原吉郎氏に導かれて』菁柿堂,1998 年。)
(*)(参考 : 荒井献・小谷真理「聖書とグノーシス—その女性性をめぐって」現代思想26(5),1998年。)
(*)(参考 : 八木誠一「「言語ゲーム」と日常世界—グノーシス主義の論理構造に関連して」現代思想 26(5),1998 年。)
(*)(参考 : 山口里子「フェミニストの視点から聖書を読む」現代思想26(5),1998年。)
(*)池田敏雄『人物中心の日本カトリック史』サンパウロ,1998年。
(*)(参考 : 土井健司「教父学と「神を知る」」(玉川大学出版部)全人教育 72(3),1998 年。)
(*)「水垣渉名誉教授退官記念号(含 略歴・業績目録)」基督教学研究 18,1998 年。
(*)(参考 : 水垣渉「聖書とグノーシス—その女性性をめぐって」現代思想 26(5),1998 年。)
(*)(参考 : 水垣渉「提題 ギリシャ教父における聖書解釈の前提,方法および意義(シンポジウム 論題 中世における聖書解釈—ギリシャ教父)」中世思想研究 40,1998年。)
(*)(参考 : 戸田聡「『教父たちの金言』とポントスのエウアグリオス」オリエント 41(2),1998年。)
(*)(参考 : 宮下志朗研究代表『フランス中世 : ルネサンスにおける教義・伝説・象徴の歴史的変遷に関する総合的研究』宮下志朗,1998 年。)
(*)(参考 : 竹原創一『ルターの詩篇解釈における言葉と経験』(アウグスティヌス)京都大学,博士(法学),乙第 9732 号,1998 年。)
(*)池田敏雄『人物中心の日本カトリック史』サンパウロ,1998 年。
(*)柿木ヒデ『神谷美恵子 人として美しく : いくつもの生ただ一つの愛』大和書房,1998 年。
(*)宮崎正弘「連載第 9 回 三島由紀夫“以後”—遠藤周作と三島の宗教観」自由 40(11),1998年。
(*)(参考 : 木崎さと子「アジアにとって、イエスとは誰か—遠藤周作の生涯と文学をめぐって(セミナー特集 アジアに生きるキリスト者)」福音と社会 37(4),1998 年。)
(*)栗原浪絵「遠藤周作『沈黙』に託されたもの」 : 「沈黙」のオーケストラ」比較文学・文化論集 15,1998 年。
(*)田中健夫「遠藤周作氏の大胆な憶説—『鉄の足枷—小西行長伝』によせて(特集 歴史の虚像と実像)」日本歴史 600,1998 年。
(*)柘植光彦「「イエス」のメディオロジー—メディエーターとしての遠藤周作」国語と国文学 75(4),1998 年。
(*)(参考 : スティーヴン・カーン/斉藤九一他訳『愛の文化史』法政大学出版局,1998 年。)
(*)(参考 : 伊藤進『怪物のルネサンス』河出書房新社,1998 年。)
(*)(参考 : 澤井繁男『ルネサンスの知と魔術』山川出版社,1998年。)
(*)根占献一『東西ルネサンスの邂逅 : 南蛮と禰寝氏の歴史的世界を求めて』ルネサンス叢書3,東信堂, 1998年。
(*)(参考 : マリーナ・マリエッティ/藤谷道夫訳『ダンテ』文庫クセジュ,白水社,1998年。)
(*)(参考 : 矢内原忠雄『ダンテ神曲1(地獄篇)』新装版,土曜学校講義5,みすず書房,1998年。)

(*)(参考：矢内原忠雄『ダンテ神曲2(煉獄篇)』新装版,土曜学校講義6,みすず書房,1998年。)
(*)(参考：矢内原忠雄『ダンテ神曲3(天国篇)』新装版,土曜学校講義7,みすず書房,1998年。)
(*)(参考：加藤芳子『英文学とイタリア：ペトラルカの伝統』近代文芸社,1998年。)
(*)(参考：市川直子「ジョルジョ・デ・キリコとピエロ・ディ・コジモ」(大阪府立大学大学院)人間文化学研究集録7,1998年。)
(*)(参考：安酸敏眞『レッシングとドイツ啓蒙—レッシング宗教哲学の研究』創文社,1998年。)
(*)(参考：竹下節子『ローマ法王』ちくま新書,1998年。)
(*)(参考：北田葉子「16世紀半ばのフィレンツェにおける「エトルリア神話」：コジモ1世とプロパガンダ」西洋史学188,1998年。)
(*)(参考：ピエール・ルイス/沓掛良彦訳『アフロディテ：古代風俗』平凡社,平凡社ライブラリー230,1998年。)
(*)田村隆一『女神礼讃：ぼくの女性革命』広済堂出版,1998年。)
(*)(参考：沓掛良彦『讃酒詩話』岩波書店,1998年。)
(*)(参考：井波律子『中国的大快楽主義』(エピキュリアン)作品社,1998年。)
(*)參考：大出晁「古代エジプトおよび古代ギリシアにおける知の系譜：非正統的知識と正統的知識II(加藤九祚教授・森岡俊一教授退任記念号)」創価大学人文論集10,1998年。)
(*)(參考：吹田浩「古代エジプト思想とヘブライとヘレニズムの思想における「一者性のテーマ化」--ヤン・アスマンの所説をめぐって」オリエント41(2),1998年。)
(*)(參考：鷲田小彌太『哲学詞華集：いまを深く生きるための名言・名句』PHP研究所,1998年。)
(*)(參考：左近司祥子『哲学するネコ：文学部哲学科教授と25匹のネコの物語』小学館文庫,小学館,1998年。)
(*)(參考：木田元「「哲学」とは何であったか」中央公論113(3),1998年。)
(*)村井則夫「〈新刊紹介〉古代ギリシアの知恵とことば(上下)(荻野弘之著)」ソフィア46(4),1998年。
(*)唯物論研究協会編『教育・共同・平等』青木書店,唯物論研究年誌3,1998年。)
(*)(參考:安江孝司「レジャー理念の原郷—古代ギリシャ哲学にけるスコレー概念について」専修人文論集63,1998年。)
(*)(參考：嘉吉純夫編『哲学の軌跡』北樹出版,学文社[発売],1998年。)
(*)(參考：藤田昇吾『西洋思想の源流と展開』文化書房博文社,1998年(→2009年,改訂版)。)
(*)(參考：渡邊孔二「ソクラテス・ルキアノス・スウィフト」Kobe miscellary 23,1998年。)
(*)(參考：米澤茂『ソクラテス研究序説』筑波大学,博士(文学),乙第1426号,1998年。)
(*)(參考：藤澤令夫『プラトンの哲学』岩波新書,岩波書店,1998年。)
(*)(參考：天野正幸『イデアとエピステーメ—プラトン哲学の発展史的研究』東京大学出版会,1998年。)
(*)(參考：川田殖「リンゼイとプラトン—善のイデア論をめぐって」(永岡薫編『イギリス・デモクラシーの擁護者A.D.リンゼー』所収,聖学院大学出版部,1998年。)
(*)(參考：角田幸彦「プラトンにおける対話編とアカデメイアの教説について—スレザック教授の業績から」明治大学教養論集307,1998年。)
(*)(參考：細川亮一「歴史としての現象学—悟性とプラトン『ソピステス』」(九州大学哲

学会)哲学論集34, 1998年。)
(*)(參考 : 杉田英明「プラトンとイスラム世界」(特集 プラトンと現代)」大航海24,1998年。)
(*)(參考 : 三島憲一「プラトン変貌—ニーチェ,ハイデガー,ガーダマー(特集 プラトンと現代)」大航海24,1998年。)
(*)(參考 : 村岡晋一「メディアとプラトン—[E.A.]ハヴロック『プラトン序説』めぐって(特集 プラトンと現代)」大航海24,1998年。)
(*)(參考 : 小河原誠「ポパーとプラトン(特集 プラトンと現代)」大航海24,1998年。)
(*)(參考 : 辻井喬・木田元「対話 プラトンと現代(特集 プラトンと現代)」大航海24,1998年。)
(*)(參考 : 佐々木毅「「プラトンの呪縛」と「ポパーの呪縛」のあいだ(特集 プラトンと現代)」大航海24,1998年。)
(*)(參考 : 佐々木毅「『プラトンの呪縛』」本23(2),1998年。
(*)(參考 : 佐々木毅『プラトンの呪縛—二十世紀の哲学と政治』講談社,1998年(→2000年講談社学術文庫。)
(*)(參考 : 天野正幸『プラトン哲学の発展史的研究』東京大学,博士(文学),乙第13703号,1998年。)
(*)(參考 : 吉見俊哉「エリック・A・ハヴロック『プラトン序説』」季刊・本とコンピュータ5,1998年。)
(*)(參考 : 赤塚行雄『人文的「教養」とは何か : 複雑系時代の人文学』(「クローン羊の誕生—プラトンの「エロス論」について」)學林書房,1998年。)
(*)田村道美「野上弥生子とプラトン : 『プロタゴラス』」香川大学教育学部研究報告,第 1 部103,1998年。
(*)三枝和子『午睡のあとプラトーンと』新潮社,1998年。
(*)(參考 : 佐藤三夫「ブルーノにおけるコペルニクス : 『灰の水曜日の晩餐』をめぐって」[ルクレティウス]イタリア学会誌48,1998年。)
(*)(參考 : 多田廣子「フリードリッヒ・シュレーゲルの『プラトンの特性描写』について—『饗宴』に象徴されるフリードリッヒ・シュレーゲルの『アテネーウム』時代のプラトン観とパリ時代の『プラトンの特性描写』」洗足論叢27,1998年。)
(*)(參考 : 納富信留「哲学者とその影」哲学雑誌113-785,有斐閣,1998年,10月。)
(*)(參考 : 森良和「アリストテレスの偽書「秘中の秘」--中世の最も有名な書」教育研究 : Tamagawa3,1998年。)
(*)(參考 : 山中由里子「「アリストテレスのアレクサンドロスへの書簡」--アラブ世界への移入」オリエント41(2),1998年。)
(*)(參考 : G.E.R.ロイド著/川田殖訳『アリストテレス : その思想の成長と構造』新装,みすず書房,1998年。)
(*)(參考 : J.O.アームストロング/雨宮健訳『アリストテレス倫理学入門』同時代ライブラリー,岩波書店,1998年。)
(*)(參考 : 渡辺浩司『アリストテレスの「詩学」についての一考察』大阪大学,博士(文学),甲第6116号,1998年。)
(*)(參考 : 國越道貴『自然の探究におけるアリストテレスの学問方法論に関する研究』九州大学,博士(文学),甲第4583号,1998年。)
(*)(參考 : 姜小凌『曹禺劇作論 : 初期作品を中心に』(アリストテレス)神戸大学,博士(学術),

甲第1876号,1998年。)
(*)(参考 : 角田幸彦『アリストテレス実体論研究』明治大学人文科学研究叢書,北樹出版,1998年。)
(*)(参考 : 茂手木元蔵『アリストテレス批判 : 一日本人のギリシア哲学研究』茂手木元蔵,1998年。)
(*)(参考 : 内山勝利「ギリシア哲学鳥瞰—新たな視座を求めて」(同『新・哲学講義[別巻] 哲学に何ができるか』所収,岩波書店,1998年。)
(*)(参考 : 植田康夫・菅野カオル・荻野弘之「ギリシア哲学の光と影(シンポジウム)(特集・ヨーロッパ哲学の源流とギリシア哲学)」ソフィア47(2),1998年。)
(*)(参考 : 角田幸彦「キケロの現代的意義と哲学」明治大学教養論集309,1998年。)
(*)(参考 : 水地宗明・岡崎文明編『新プラトン主義を学ぶ人のために』世界思想社,1998年。)
(*)(参考 : (研究社代表)岡崎文明『西洋中世における新プラトン主義の思想源泉の研究 : プラトンの『パルメニデス篇』をめぐって』科学研究費補助金(基礎研究C)研究成果報告書 平成6-平成8年度,1998年。)
(*)(参考 : 大森正樹「パラマスのエネルゲイア概念とネオプラトニズム」(新プラトン主義協会編・水地宗明監修『ネオプラトニカ—新プラトン主義の影響史』所収,昭和堂,1998 年。)
(*)(参考 : 水地宗明「新プラトン主義とは何か?」(同上)1998 年。)
(*)(参考 : 水地宗明「プロティノスの発出論」(同上)1998 年。)
(*)(参考 : 金沢修「プロティノスの素材—感性界素材を巡って」哲学誌 40,1998 年。)
(*)(参考 : 小浜善信「永遠と時間—プロティノスからトマスまで」(同上)1998年。)
(*)(参考 : 加藤守道「多様なものの統一—クザーヌスの政治・宗教論の限界と可能性」(同上)1998年。)
(*)(参考 : 沼田敦「イスラム哲学における後期新プラトン主義の足跡—ファーラビーンによるプラトンとアリストテレスの調和論」(同上)1998年。)
(*)(参考 : 三宅浩「プロティノスからブレイクへ--『エネアデス』8[6]論文のトマス・イェイラーによる英語訳を介しての文献学的考察の端緒」(同上)1998年。)
(*)加藤信朗「松本正夫先生のご逝去を悼む」中世思想研究40,1998年。
(*)(参考 : 加藤信朗「国際学会報告 第10回国際中世哲学会報告」中世思想研究40,1998年。)
(*)(参考 : 大本伸『中期ニーチェ研究 : 「自由精神」による「確信」からの解放』(ソクラテス)広島大学,博士(文学),甲第1737号,1998年。)
(*)(参考 : 山口誠一「ヘーゲルの新プラトン哲学理解—東西両哲学の融合地点を求めて」(同上)1998年。)
(*)(参考 : 山口義久「プロティノスにおけるストア的概念—ロゴス概念を軸として」(同上)1998年。)
(*)(参考 : E.ジルソン,Ph.ベーナー/服部英次郎・藤本雄三訳『アウグスティヌスとトマス・アクイナス』新装版,みすず書房,1998 年。)
(*)(参考 : 矢内原忠雄『アウグスチヌス告白』新装版,土曜学校講義 1,みすず書房,1998 年。)
(*)(参考 : 矢内原忠雄『アウグスチヌス神の国』新装版,土曜学校講義 2,みすず書房,1998年。)
(*)(参考 : 矢内原忠雄『アウグスチヌス三位一体論』新装版,土曜学校講義 3,みすず書房,1998

年。)
(*)(参考：矢内原忠雄『アウグスチヌス・ペラギウス論争』新装版,土曜学校講義 4,みすず書房,1998 年。)
(*)(参考 : R.A.マーカス/宮谷宣史・土井健司訳『アウグスティヌス神学における歴史と社会』教文館,1998 年。)
(*)(参考：茂泉昭男『輝ける悪徳—アウグスティヌスの深層心理』教文館,1998 年。)
(*)(参考：岡野昌雄「アウグスティヌス「告白」と私」創文 395,1998 年。)
(*)(参考 : 森泰男「『告白』テキストへの徹底的沈潜—岡野昌雄『アウグスティヌス「告白」の哲学』」創文397,1998年。)
(*)(参考：稲垣良典『習慣の哲学』創文社,1998 年。)
(*)(参考：水田英実『トマス・アクィナスの知性論』創文社,1998年。)
(*)(参考：シャトル/山田晶訳『中世の哲学』新装版,西洋哲学の知2,白水社,1998年。)
(*)(参考：加藤雅人『ガンのヘンリクスの哲学』京都大学,博士(文学),乙第9775号,1998年。)
(*)(参考：加藤雅人『ガンのヘンリクスの哲学』創文社,1998年。)
(*)(参考：田中千里「アヴェロエス研究」中世哲学研究：Veritas 17,1998年。)
(*)(参考：鈴木和義「トマス・アクィナスの学問論：『ボエティウス「三位一体論」註解』が占める位置」東北哲学会年報14,1998年。)
(*)(参考：兼平昌昭『中世中期における学的ヒューマニズムの研究』広島大学,博士(文学),乙第3034号,1998年。)
(*)(参考：中村広治郎「イブン=シーナーの創造論」東京大学宗教学年報16,1998年。)
(*)(参考：カミール・パーリア/鈴木晶・富山英俊・栂正行・保坂嘉恵美。葉月陽子訳『性のペルソナ』(上下)河出書房新社,1998年。)
(*)(参考：澤井繁男『ルネサンスの知と魔術』山川出版社,1998 年。)
(*)(参考：上村忠男『バロック人ヴィーコ』みすず書房,1998 年。)
(*)(参考：山邊光宏「シュプランガーの宗教的ヒューマニズム」安田女子大学紀要26,1998年。)
(*)(参考：甲田純生『カント美学の示すもの：カント「判断力批判」をめぐって』(プラトン)大阪大学,博士(文学),甲第6540号,1998年。)
(*)(参考：長谷川宏『ヘーゲルの歴史意識』講談社学術文庫,1998 年。)
(*)(参考：山口誠一『ヘーゲルのギリシア哲学論』創文社,1998年。)
(*)(参考：小川真人『藝術と自由：ヘーゲル美学における悲劇理解の考察』東京藝術大学,博士(美術),甲第187号,1998年。)
(*)福田和也『近代の拘束 日本の宿命』(新プラトン主義)文春文庫,1998年。
(*)(参考：三嶋輝夫「P.C.ボリ教授講演会について」青山史学16,1998年。)
(*)加藤信朗「松本正夫先生のご逝去を悼む(追悼 松本正夫先生)」中世思想研究40,1998年。
(*)(参考：加藤信朗「国際学会報告 第10回国際中世哲学会報告」中世思想研究40,1998年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編訳・監修『聖ベネディクトゥスと修道院文化』創文社,上智大学中世思想研究所紀要中世研究 1,1998 年。)
(*)(参考 : 土戸清『宗教改革とその世界史的影響 : 倉松功先生献呈論文集』教文館,1998 年。)
(*)(参考：池田知久『荘子：「道」の思想とその展開』東京大学,博士(文学),乙第 13913 号,1998 年.)
(*)(参考：本村凌二他執筆『帝国と支配：古代の遺産』岩波講座世界歴史 5,岩波書店,1998

年。)
(*)(参考：亀井高孝『世界史年表・地図』4 版,吉川弘文館,1998 年。)
(*)(参考：櫻井悠美『古代ギリシアにおける女と戦争』近代文芸社,1998 年。)
(*)高橋秀樹「櫻井悠美著『古代ギリシアにおける女と戦争』」新潟史学 41,1998 年。
(*)(参考：岡田泰介「クレタ傭兵の誕生：ヘレニズム期クレタ社会の変容と傭兵制」史学雑誌 107(8),1998 年。)
(*)(参考：黒田晴之「フーベルト・フィヒテ『わが友ヘロドトス』--あるいは世俗化された習合宗教について」Wasada Blätter 5,1998 年。)
(*)(参考：安村典子「『オデュセイア』におけるデーモドコスの第二の歌(8.266-366)」(トロイ)(金沢大学工学部)言語文化論叢 2,1998 年。)
(*)(参考：豊田宣是「語りの偽装：『ユリシーズ』第 1 挿話について」(トロイ)嘉悦女子短期大学研究論集 41(1),1998 年。)
(*)(参考：佐藤昇「ペロポネーソス戦争期における農地への意識」クリオ=Clio 12,1998年。)
(*)(参考：竹島俊之「〈翻訳〉ポリュビオスの「歴史」の世界」プロピレア10,1998年。)
(*)(参考：森谷公俊『王妃オリュンピアス：アレクサンドロス大王の母』ちくま新書,筑摩書房,1998 年。)
(*)(参考：田名部昭『アレクサンドロス大王：超える男,未だ現れず』グラフィティにんげん謎事典,光文社文庫,光文社,1998 年。)
(*)(参考：山中由里子「〈各個別研究メモ〉千の顔を持つ英雄：西アジアにおけるアレクサンドロス・ロマンス」民博通信 82,1998 年。)
(*)(参考：長岡洋幸「アレキサンダーの末裔―ラダックに生きる幻の少数民族」太陽 36(5),1998 年。)
(*)(参考:田中穂積「バビロニアとヘレニズム(2)「ディアドコイ年代記」」人文論究47(4),1998年。)
(*)(参考：小河浩「古典期末からヘレニズム期における傭兵募兵官」史学研究219,1998年。)
(*)(参考：柴野浩樹「ローマ元首政期における退役兵と都市社会―北アフリカの事例から」西洋史研究27,1998年。)
(*)後藤田正晴・亀井正夫・下山敏郎「特集 2 塩野七生ワールド--『ローマ人の物語』にハマッた私」新潮 45 17(1),1998 年。)
(*)(参考：塩野七生「書想インタビュー「パクス(平和)についての日本人の錯覚」サピオ10(1),1998 年。)
(*)(参考：塩野七生「「ローマ帝国」と「大英帝国」」本の話 4(11),1998 年。)
(*)(参考：毛利晶「凱旋式と古代ローマの王権」(水林彪・金子修一・渡辺節夫編『王権のコスモロジー』所収,比較歴史学大系 1,弘文堂,1998 年。)
(*)(参考：越智三起子「交感の魔術：『ハドリアヌス帝の回想』における語りの手法をめぐって」関西フランス文語フランス文学 4,1998 年。)
(*)(参考:平田隆一「ポンペイの起源--《都市国家》の形成過程」ヨーロッパ研究 2,1998 年。)
(*)(参考：堀井優「マムルーク期末期の対フランク関係とアレキサンドリア総督職」オリエント 41(2),1998 年。)
(*)(参考：S.ランシマン/護雅夫訳『コンスタンティノープル陥落す』新版,みすず書房,1998 年。)
(*)(参考：井上浩一・栗生沢猛雄『ビザンツとスラブ』世界の歴史 11,中央公論社,1998 年(→

2009 年,中公文庫版)。)
(*)(參考：佐藤彰一他執筆『ヨーロッパの誕生：4—10 世紀』岩波講座世界歴史 7,岩波書店,1998 年。)
(*)(參考：高山博「ヨーロッパ中世研究と現代世界」大航海 22,1998 年。)
(*)(參考：山栗弓之『ナポレオン その栄光』幻洋社,1998 年。)
(*)(參考：フレデリック・土ルーチェ総合編集：花上克己訳『ヨーロッパの歴史：欧州共通教科書』第 2 版,東京書籍,1998 年。)
(*)(參考：池谷友明「ヨーロッパ：近代南欧(1997 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 107(5),1998 年。)
(*)(參考：相澤隆「ヨーロッパ：中世西欧(1997 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 107(5),1998 年。)
(*)(參考：中井義明「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1997 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 107(5),1998 年。)
(*)(參考：阪本浩「ヨーロッパ：古代：ローマ(1997 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 107(5),1998 年。)
(*)(參考：橋場弦「『宇治拾遺物語』と古代ギリシア史研究」UP27(6),1998 年。)
(*)稲葉宏雄「〈1997 年度教育学特別講義〉谷本富の人教育:明治の教育学者群像」教育 33,1998 年。
(*)外山敏雄「日本英学史と渋江保」學燈 95(9),1998 年。
(*)山内昌之「歴史の交差点--」宮崎市定から「歴史の対立法」へ」週刊ダイヤモンド 86(12),1997 年。
(*)『Raphael von Koeber,Neun Lieder,9 つの歌/ラファエル・フォン・ケーベル[楽譜資料]』音楽之友社,1998 年。
(*)関根和江「ケーベル先生文献(1-3)」東京藝術大学音楽学部紀要 24,1998 年/25,1999 年/26,2000 年。)
(*)中村洪介「ハーンと音楽—ケーベル、チェンバレンとの比較において」国文学 解釈と教材の研究 43(8),1998 年。
(*)泉麻人「池波正太郎」(ケーベル)東京人 13(11)(134),1998 年。
(*)(參考：長田年弘「テレフォス・フリーズ—古代ギリシアの浮彫と写本挿絵」芸術新潮 11,1998 年。)
(*)(參考：高橋道男「ヘレニズムの詩におけるアリュージョンとホメーロス研究(2)コルキスの霧」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 30,1998 年。)
(*)(參考：安村典子「『オデュセイア』におけるデーモドコスの第二の歌(8.266-366)」(金沢大学外国語教育研究センター)言語文化論叢 2,1998 年。)
(*)(參考：ルチャーノ・デ・クレシェンツォ/草皆伸子訳『『オデュッセイア』を楽しく読む』白水社,1998 年。)
(*)(參考：ジェローム・クスマノ「〈巻頭言〉ウェルギリウスと情報ハイウェイ」ソフィア 46(4),1998 年。)
(*)フェヌロン/二宮フサ訳「テレマコスの冒険」(『ユートピア旅行記叢書 4』所収,岩波書店,1998 年。)
(*)谷沢永一「探照灯 桑木厳翼の[高山]樗牛追悼」国文学 解釈と鑑賞 63(8),1998 年。
(*)秋山勇造「馬場孤蝶—西欧文学の開拓者」人文研究 133,1998 年。

(*)表世晩「矢野龍渓の文学改良」国文学研究ノート 11 月号,1998 年。
(*)伊藤勲「ペイタリアン西脇順三郎—その批評主義の成り立ち(1-5)」公評 35(2,3,4,5,6),1998 年。
(*)太宰治『走れメロス』改訳角川文庫クラシックス,角川書店,1998 年。)
(*)菅野圭昭「太宰治「走れメロス」の表現と教材性」親和國文 33,1998 年。
(*)丹藤博文「読むという変形(〈特集〉日本文学協会第 52 回体秋報告[第 1 日目])」日本文学 47(3),1998 年。
(*)近藤真「〈特集〉いま,文学教育にこだわること：今『走れメロス』を読むこと：授業を挑発に,授業を事件に」日本文学 47(8),1998 年。
(*)御手洗実「生徒の読みでつくる文学作品の授業--『走れメロス』の実践を通して」静大国語 10・11,1998 年。
(*)浦崎浩一「心動かされた台詞—日生劇場=辰之助の走れメロス 扉座=三好家の引っ越し 初舞台=終わらない夜 銅鑼=らぶそんぐ(劇評)」テアトロ 674,1998 年。
(*)(参考：澤井繁男『ルネサンスの知と魔術』山川出版社,1998 年。)
(*)(参考:潮江宏三『銅版画師ウィリアム･ブレイク』(ダンテ)大阪大学,博士(文学),甲第 7394 号,1998 年。)
(*)(参考：マリーナ・マリエッティ/藤谷通夫訳『ダンテ』白水社,文庫クセジュ,1998 年。)
(*)(参考：矢内原忠雄『ダンテ神曲 1(地獄篇)・2(煉獄篇)・3(天国篇)』土曜学校講義 5,6,7,新装,みすず書房,1998 年。)
(*)(参考：藤谷通夫「ダンテの思考様式(5)(6)古典世界と聖書世界の融合(2)(3)」イタリア図書 21,22,1998 年。)
(*)岩倉具忠「ダンテ文献のコレクター大賀寿吉」イタリア図書 21,1998 年。
(*)「座談会：イタリア学会 50 年間の歩みをふり返る」イタリア図書 21,1998 年。
(*)「座談会 イタリア学会 50 年の歩みをふり返る」イタリア学会誌 48,1998 年。
(*)(参考：畑宏枝「エラスムス「現世の蔑視」に関する一考察—その執筆動機と思想」基督教学研究 18,1998 年。)
(*)(参考：木ノ脇悦郎「〈翻訳〉エラスムスの Problema(1533)について」神學研究 45,1998 年。)
(*)(参考：ツヴァイク/内垣啓一・藤本惇雄・猿田悳訳『エラスムスの勝利と悲劇』ツヴァイク伝記文学コレクション 6,みすず書房,1998 年。)
(*)(参考：太田治子「絵の中の人生—純愛はこわい ボッティチェルリ」新潮 45 17(7),1998 年。)
(*)(参考：西村美穂「フランソワ・ラブレーの『暦』について」(明治大学大学院)文学研究論集(文学・史学・地理学)9,1998 年。)
(*)(参考：関根秀雄編訳『新撰モンテーニュ随想録』新装復刊,白水社,1998 年。)
(*)(参考：家永道生『モンテーニュにおける反省と自然観・死生観』近代文芸社,1998 年。)
(*)(参考：池沢克夫「ルゥソーとラ・フォンテーヌ(補遺)」言語文化部紀要 34,1998 年。)
(*)(参考：堀田善衛『ラ・ロシェフーコー公爵傳説』集英社,1998 年(→2005 年,集英社文庫版)。)
(*)田村道美「野上弥生子とアンドレ・ジイド(1)：『背徳者』,『プロメテ』及び『日記』」香川大学教育学部研究報告,第 1 部 104,1998 年。
(*)(参考：林學「ナポリのジュリエット：サドの造形したヒロインの一側面」フランス語

フランス文学研究 73,1998 年。)
(*)(参考：稲村真美「サルトルの 2 つの“ヴェネチア論”：狂気と幻想」フランス語フランス文学研究 73,1998 年。)
(*)(参考：中山公男「世紀末のヌード(10)ジャン・デルヴィル「サタンの宝,プラトンの学園,魂の愛」」日経アート 115,1998 年。)
(*)田村道美「野上弥生子とアンドレ・ジイド(1)：『背徳者』,『プロメテ』及び『日記』」香川大学教育学部研究報告,第 1 部 104,1998 年。
(*)(参考：松原典子「エル・グレコ作《ラオコーン》再考(「美術に関する調査研究の助成」研究報告[含 研究者別および研究主題別索引])—(1998 年助成)」鹿島美術財団年報 16 別冊,1998 年。)
(*)(参考：岡野進編『私という記号：ドイツ文学における自我の構造』九州大学出版会,1998 年。)
(*)(参考：今村武「J.M.レンツ『家庭教師』における啓蒙主義批判』」Lingua 9,1998 年。)
(*)(参考：中村典夫「ギリシア美術と現代(5)」芸術研究報 15,1998 年。)
(*)(参考：木村直司「ヴィンケルマンとその時代〈特集 ヨーロッパ思想の源流とギリシア哲学〉」ソフィア 47(2),1998 年。)
(*)(参考：木村直司「Die Anfange der Goethephilologie in Wien」(上智大学ヨーロッパ研究所)ドイツ語圏研究 16,1998 年。)
(*)(参考：ペータ・ハックス/岩淵達治他訳『シュタイン家における不在中のゲーテについての対話』日本ゲーテ協会,1998 年。)
(*)(参考：白尾芳輝「今,「ゲーテを,プラトンを読もう」と呼びかける「アスペン」の思想」Decide16(2),1998 年。)
(*)(参考：八木昭臣「ゲーテと「普遍的世界文学」」熊本学園大学文学・言語学論集 5(1),1998 年。)
(*)(参考：坂本貴志『崇高による自由の理念の救出と歴史哲学：シラーの三部作悲劇『ヴァレンシュタイン』』東京大学,文学博士,甲第 13138 号,1998 年。)
(*)(参考：佐藤拓夫「シラーのバラーデー側面：「人質」と太宰治「走れメロス」との比較的考察」言語文化部研究報告叢書 24,1998 年。)
(*)(参考：松山雄三「シラーの近代賛美について」東北薬科大学一般教育関係論集 12,1998 年。)
(*)(参考：内藤克彦「シラーの思想詩『芸術家』」(南山大学)アカデミア,文学・語学編 64,1998 年。)
(*)(参考：安酸敏真『レッシングとドイツ啓蒙：レッシング宗教哲学の研究』創文社,1998 年。)
(*)(参考：富山太佳夫「歩行と思索 今どきブルクハルト」現代思想 26(12),1998 年。)
(*)(参考：沼田裕之「ブルクハルトと日本—その受容の歴史」東北大学教育学部研究年報 46,1998 年。)
(*)(参考：井口正俊「ニーチェはルビコン河を渡ったか：ブルクハルトに宛てた最後の手紙を読む(総特集 ニーチェの思想)」現代思想 26(14),1998 年。)
(*)(参考：木本伸『中期ニーチェ研究：「自由聖心」による「確信」からの解放』広島大学,博士(文学),甲第 1737 号,1998 年。)
(*)(参考：清水真木『二つのペシミズム間で：ニーチェにおける「自由なる精神」への道』

東京大学,博士(文学),甲第 13130 号,1998 年。)
(*)(参考：菅原潤『シェリングにおける神話と自由の弁証法』東北大学,博士(文学),甲第 6615 号,1998 年。)
(*)(参考：林進「ふたつのニーチェ受容—トーマス・マンと三島由紀夫の場合」大谷女子大学紀要 33(1),1998 年。)
(*)(参考：高橋克己「クロプシュトックの「ホメーロスから溢れた焔」とシラーの「乾いた真実味」,そしてヘルダーリンの「アポローン王国」」高知大学学術研究報告・人文科学 47,1998 年。)
(*)(参考：小松崎直「ホーフマンスタールに於ける自我の問題：『エレクトラ』をめぐって」成城文藝 164,1998 年。)
(*)大野真「訪れる者たち(1)：ホフマンスタールから三島由紀夫へ」大妻女子大学紀要・文系 30,1998 年。)
(*)(参考：岡崎英輔「ヘーゲルと『アンティゴネー』」文経論叢 338#),1998 年。)
(*)(参考：村上靖彦「主観性の現象学的場所論へ向けて：レヴィナス『全体性と無限』とハイデガーの『アンティゴネー』読解」比較文学・文化論集 16,1999 年。)
(*)(参考：四日谷敬子「ハイデガーの言語(ロゴス)論：アリストテレスとヘルダーリンを通して」ドイツ文學研究 43,1998 年。)
(*)(参考：丹羽隆子「『船出』における死について：『アンティゴネ』との関連において」東京商船大学研究報告・人文科学 49,1998 年。)
(*)(参考：加藤芳子『英文学とイタリア—ペトラルカの伝統』近代文芸社,1998 年。)
(*)(参考：鉄村春生『異端の森—樹木から拓く英文学』成美堂,1998 年。)
(*)(参考：酒見紀成「中世に蘇ったトローイロス〈『プロピレア』創刊十周年記念特集「ギリシア語を学ぶ」〉〈古典ギリシア語〉」プロピレア 10,1998 年。)
(*)(参考：永吉須美子「Chauser の語りの技法—Troilus and Criseyde におけるトロイ伝説への言及」関西外国語大学研究論集 67,1998 年。)
(*)(参考：Kobayashi Ayako「写字生によるチョーサー作「トロイルスとクリセイデ」への変更の特性」東京家政大学研究紀要 38(1),1998 年。)
(*)(参考：チョーサー作/苅田元司訳『恋のとりこ：トロイルスとクリセイデ』復刻版,名作翻訳選集・英米編,本の友社,1998 年。)
(*)(参考：森順子「『トロイラスとクレシダ』の稀薄な人間関係」(人間環境大学)人間と環境 1,1998 年。)
(*)(参考：高田康成・河合祥一郎・野田学編『シェイクスピアへの架橋』東京大学出版会,1998 年。)
(*)(参考：矢内原忠雄『ミルトン楽園喪失(1-3)』新装版,土曜学校講義8,9,10,みすず書房,1998 年。)
(*)(参考：長命俊子『三大叙事詩と文体論—失楽園・天地創造・平家物語』リーベル出版,1998 年。)
(*)(参考：海老澤豊「ジョン・フィリップスの『林檎酒』：十八世紀英国における農耕詩の系譜(1)」新潟産業大学人文学部紀要 8,1998 年。)
(*)(参考：村井美代子「Elysium 賛歌：キーツの初期オードと『サイキに寄せるオード』に見る伝統踏襲とその変容」英語英文学論叢 17,1998 年。)
(*)(参考：田中由香「『エンディミオン』における水のイメージ」イギリス・ロマン派研究

22,1998 年。)
(*)(参考：壹岐秦彦「Let’s my ventures move thee--『エンディミオンとフィービー』試論」ヨーロッパ研究 2,1998 年。)
(*)(参考：満松美代子「献辞：キーツと高橋先生(高橋雄四郎教授・J.V.ロプレスティ教授退職記念号)」實踐英文学 3 月臨時増刊号,1998 年。)
(*)(参考：高橋雄四郎「論文：キーツと現代：英知への旅(高橋雄四郎教授・J.V.ロプレスティ教授退職記念号)」實踐英文学 3 月臨時増刊号,1998 年。)
(*)(参考 : 鈴木弘「W.B.イェイツと日本—文化交流(1,2)」教養諸学研究 104,1998 年/106,1999 年。)
(*)清水義和「日本における近代批評研究移入ウオルタァ・ペイタァからオスカア・ワイルドへ : 本間久雄の『明治文學史』を巡って・愛知学院大学教養部紀要 46(1),1998 年。
(*)(参考 : 岡田彩加「ギッシングの Bom in Exile における古典的言及の考察」藝文研究 74,1998 年。)
(*)(参考：イアン・スコット=キルヴァート/丸谷晴康・小幡武・鈴木富生訳『評伝 A.E.ハウスマン』八潮出版社,1998 年。)
(*)(参考 : 渡辺栄太郎「神の解釈と善悪の本質を探って(1)アーノルド「文学と教義」の解析からの展開」大東文化大学紀要,人文科学36,1998年。)
(*)(参考 : 竹長吉正「アーノルド『教養と無秩序』の検討—片山敏彦の教養問題の解明に向けて(1)」埼玉大学紀要[教育学部],人文・社会科学471),1998年。)
(*)(参考：豊田宣是「語りの偽装：『ユリシーズ』第1挿話について」嘉悦女子短期大学研究論集41(1),1998年。)
(*)(参考：引地正俊「研究余滴 失われた髯」英文学 76,1998 年。)
(*)粕谷一希「乏しき時代の読書ノート(1)和辻哲郎再考」創文 395,1998 年。
(*)粕谷一希「乏しき時代の読書ノート(3)波多野精一の体系」創文 397,1998 年。
(*)(参考：根占献一「学問的姿勢と修辞学的対話の発見—近藤恒一『ペトラルカと対話体文学』」創文397,1998年。
(*)(参考：林和宏「ペトラルカの「永遠の勝利」の反語」東京外国語大学論集56,1998年。)
(*)(参考：山口誠一「失われた哲学の眼差しを求めて—拙著『ヘーゲルのギリシア哲学論』上梓に寄せて」創文400,1998年。)
(*)(参考：山内志朗「習慣について—稲垣良典『習慣の哲学』をめぐる随想」創文400,1998年。）
(*)粕谷一希「乏しき時代の読書ノート(6)詩人哲学者・九鬼周造」創文 400,1998 年。
(*)粕谷一希「乏しき時代の読書ノート(7)鈴木成高と歴史的世界」創文 401,1998 年。
(*)粕谷一希「乏しき時代の読書ノート(8)享楽人・木下杢太郎」創文 402,1998 年。
(*)(参考 : 神崎忠昭「夢はこわい—11 世紀ヨーロッパのある年代記から」創文 402,1998 年。)
(*)(参考：川添信介「至福とエッセの間—水田英実『トマス・アクィナスの知性論』を読んで」創文 402,1998 年。
(*)(参考：佐藤三夫「ブルーノにおけるコペルニクス：『灰の水曜日の晩餐』をめぐって」イタリア学会誌 48,1998 年。)
(*)(参考：細川亮一「ヘーゲルの新しい解釈空間を開く—山口誠一『ヘーゲルのギリシア哲学論』」創文 402,1998 年。)

(*)(参考 : 矢田敏子「父との時間—こちらにいることの証し」(西谷啓治)創文 403,1998 年。)
(*)(参考 : 別府昭郎『ドイツにおける大学教授の誕生—職階制の成立を中心に』創文社,1998 年。)
(*)(参考 : 上野正二「二つの「学問のすすめ」 : 福澤諭吉とソクラテス」大分県立芸術文化短期大学研究紀要36,1998年。)
(*)(参考 : 伊藤益「「信」の思想—親鸞とアウグスティヌス」淑徳大学社会学部研究紀要32,1998年。)
(*)(参考 : 笠井貞「竜樹とアウグスティヌス」印度学仏教学研究47-1,1998年。)
(*)谷沢永一「探照灯 桑木厳翼の樗牛追悼」国文学 解釈と鑑賞63(8),1998年。
(*)紅野敏郎「學燈を読む(115)新関良三」學燈 95(9),1998 年。
(*)荘士邦雄『和辻哲郎の実像 : 思想史の視座による和辻全体像の解析』良書普及会,1998 年。
(*)高橋英夫『わが林達夫』小沢書房,1998 年。
(*)(参考 : G.スタイナー/工藤政司訳『G.スタイナー自伝』みすず書房,1998 年。)
(*)星野力・秋山学「私の一冊」つくばね : 筑波大学図書館報 24(2),1998 年。
(*)(参考 : 小川正廣『ギリシア・ローマ叙事詩における民間伝承の研究』名古屋大学 1996 年,(科研費)1998 年。)
(*)(参考 : 丹羽隆子『はじめてのギリシア悲劇』講談社現代新書 1433,1998 年。)
(*)(参考 : 丹羽隆子「『船出』における死について : 『アンティゴネ』との関連において」東京家政大学研究報告・人文科学 49,1998 年。)
(*)(参考 : 友永輝比古「ブレヒトの「ソポクレースのアンティゴネー」について」人文論集 : 三重大学人文学部文化学科研究紀要 15,1998 年。)
(*)(参考 : 岡崎英輔「ヘーゲルと『アンティゴネー』」文経論叢 : 人文科学篇 18,1998 年。)
(*)(参考 : 山形治江「ギリシャ悲劇とローマ悲劇—スペクタクルの問題」(早稲田大学文学部演劇学研究室)演劇学 39,1998 年。)
(*)(参考 : 橘孝治「ビザンツ民衆文学を読むために([プロピレア]創刊十周年記念号)--(『プロピレア』創刊十周年記念号特集「ギリシア語を学ぶ」)」」プロピレア 10,1998 年。)
(*)(参考 : 鈴木敦也「ギリシヤ国立劇場の歩み([プロピレア]創刊十周年記念号)--(『プロピレア』創刊十周年記念号特集「ギリシア語を学ぶ」)」プロピレア 10,1998 年。)
(*)(参考 : 志田信男「特別講演 ギリシャの詩—古典から現代まで([プロピレア]創刊十周年記念号)--(『プロピレア』創刊十周年記念号特集「ギリシア語を学ぶ」)」プロピレア 10,1998 年。)
(*)(参考 : 山形治江「ギリシャ悲劇とローマ悲劇—スペクタクルの問題(特集 西洋演劇研究)」演劇学 39,1998 年。)
(*)(参考 : 山形治江「第 3 の伝統演劇—現代ギリシャ人の古代劇(特集 「南欧の文学」)」世界文学 88,1998 年。)
(*)(参考 : 高田知文「日本におけるイタリア演劇の受容について—明治・大正期を中心に(特集 「南欧の文学」)」世界文学 88,1998 年。)
(*)橋場弦「『宇治拾遺物語』と古代ギリシア史研究」UP 27(6),1998 年。
(*)(参考 : 小川正廣「西洋叙事詩の視点から見た『平家物語』--ホメロスおよびルカヌスと

の比較を通して」(山下宏明編『軍記文学研究叢書第 7 巻・平家物語批評と文化史』所収,汲古書院,1998 年。)
(*)紅野敏郎「「學燈」を読む(114)—呉茂一」學燈 95(8),1998 年。
(*)「式部久教授 略歴・業績(含・肖像)(式部久・川村毅両教授退任記念号)」広島経済大学研究論集 21(2・3),1998 年。
(*)「清永昭次先生著作目録(清永昭次先生、新田英治先生他院人記念号)」学習院史学 36,1998 年。
(*)堀越孝一「地図を書く清永[昭次]先生(同上)」学習院史学 36,1998 年。
(*)黛弘道「惜別の辞(同上)」学習院史学 36,1998 年。
(*)加来彰俊「池田美恵さんを悼む」西洋古典研究会論集 7,1998 年。
(*)石田恒夫「式部久・川村毅両教授退任によせて」広島経済大学研究論集 21(2・3),1998 年。
(*)松田清『洋学の書誌的研究』臨川書店,1998 年。
(*)井上章一『南蛮幻想：ユリシーズ伝説と安土城』文藝春秋,1998 年(→2021 年、[上下]草思社文庫版)。
(*)及川茂『最後の浮世絵師：河鍋暁斎と反骨の美学』NHK ブックス 848,日本放送出版協会,1998 年。
(*)(参考：パエドルス・パブリオス/岩谷智・西村賀子訳『イソップ風寓話集』叢書アレクサンドリア図書館 10,国文社,1998 年。)
(*)宮川俊彦『ウサギとカメ』未知谷,1998 年。
(*)やすいすえこ文 ; 秋里信子画『うさぎとかめ』教育画劇のかみしばい,行事むかしばなし,静止画像(非投影),教育画劇,1998 年。
(*)藤野信行著 ; 東樹美智子イラスト『手話で話そうイソップ物語』福村出版,1998 年。
(*)村上勝也「『イソップ伝』研究--「天草本」編者の翻訳姿勢について」広島文教女子大学紀要 33,1998 年。
(*)村上勝也「『イソップ伝』研究」(西日本言語学会)Nidaba27,1998年。
(*)(參考：松本宣郎「ローマ社会史から見た初期キリスト教」歴史と地理518,1998年。)
(*)(參考：新田一郎「キリスト教の世界宗教化の背景としての世界国家ローマの役割：終末論的立場から見たローマ像」金沢大学文学部論集,史学・考古学・地理学篇18,1998年。)
(*)(參考 : ゲルノート・ベーメ編『われわれは『自然』をどう考えてきたか』どうぶつ社,1998 年。)
(*)三村泰臣「アリストテレスと南方熊楠 : 森の中で生まれた二つの思想」比較思想研究 24,1998 年。
(*)(參考:バルザック他/東雅夫他編集『両性具有』(プリニウス)国書刊行会,書物の王国9,1998 年。)
(*)(參考：小林剛「物体から知性へ—中世の宇宙論(1)」トランスパーソナル学3,1998年。)
(*)(參考：小林剛「トマス・アクイナスにおける天体の質料について：1つの種に1つの古物しかない物体の肯定」中世哲学研究:Veritas17,1998年。)
(*)(參考：清瀬卓訳「ルネサンスにおける大プリニウス：(6,7,8)ヴィットーレ・ブランカ著『15世紀末ヴェネツィアの人文主義：エルモラーオ・バロバロと彼をめぐる人々[邦訳1,2,3]』」研究論集51,1998年/52,53,1999年。)

(*)(参考：清瀬卓訳「ルネサンスにおける大プリニウス：(9)ヴィットーレ・ブランカ著『15世紀末ヴェネツィアの人文主義：エルモラーオ・バロバロと彼をめぐる人々[邦訳4]』」京都外国語大学研究論叢54,1998年。)
(*)(参考：秋山聰「ルネサンス期の美術家にとっての範例集としてのプリニウス『博物誌』--女性画家の場合(「美術に関する調査研究の助成」研究報告—(1999年度助成)」鹿島美術財団年報17,1998年。)
(*)(参考：伊藤亜紀「失われたポルポラ：中世末期イタリアにおける赤の染色と象徴」イタリア学会誌48,1998年。)
(*)(参考：鏡リュウジ「占星術の魂(特集 魂の航海術)」トランスパーソナル学26(13),1998年。)
(*)(参考：鬼塚史朗「金星,火星,木星：ガリレオ,ケプラー,ニュートン(連載,科学史)」物理教育46(6),1998年。)
(*)(参考：守屋彰夫「聖書の自然観—環境問題への視座」東京女子大学紀要論集49(1),1998年。)
(*)(参考：今井桜子「ローマ時代おける煉瓦類印刻の研究：エトルリア地方を中心に」東京大学 博士(文学)甲第13875号,(科研費)1998年。)
(*)(参考：池浩三・大滝泰「パルテノンの採光法：ペンテリ産大理石瓦の透光性に関する実験的研究」日本建築学会計画系論文集504,1998年。)
(*)(参考：ベルトッティ・スカモッツィ/桐敷真次郎訳『『アンドレア・パラーディオの建築と図面』』本の友社,1998年。)
(*)(参考：ピーター・マレー/桐敷真次郎訳『ルネサンス建築』図説世界建築史10,本の友社,1998年。)
(*)(参考：中川明子・伊藤重剛「9116 デルフイのアテナ・プロナイア神域の三つの大理石建築のクランプに関する研究」学術講演梗概集,F-2,建築歴史・意匠1998,1998年。)
(*)(参考：池浩三・大滝秦「パルテノンの採光法：ペンテリ産大理石瓦の透光性に関する実験的研究」日本建築学会計画系論文集63(504),1998年。)
(*)(参考：伊藤重剛・林田義伸「デルフィのマッシリア人の宝庫の設計法：古代ギリシア建築調査1994(2)」日本建築学会計画系論文集63(506),1998年。)
(*)(参考：堀内清治「802地中海古代都市の研究(95)：パルテノンのエンタシス(建築歴史・意匠)」日本建築学会研究報告・九州支部3,計画系37,1998年。)
(*)(参考：中川明子・伊藤重剛・林田義伸・野中利幸「地中海古代都市の研究(96)デルフィ」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 36,1998 年。)
(*)(参考：堀賀貴「古典期におけるバスタスとヘレニズム期におけるペリスタイル古代地中海世界における中庭式住宅の類型に関する研究(1)」山口大学工学部研究報告 48(2),1998 年。)
(*)(参考：土居義岳「イオニア式ペア・コラムに関する議論：フランス王立建築アカデミー(1671-1973)に関する研究(6)」日本建築学会計画系論文集 63(505),1998 年。)
(*)(参考：安永一典「イギリス・ジョージアン期のデザイナー(2)ロバート・アダム」(ヘルクイラネイム,ポンペイ)宝塚造形芸術大学紀要 12,1998 年。)
(*)(参考: 岩井経男『ローマ時代イタリア都市の研究』東北大学,博士(文学),乙第 7485 号,1998年。)

(*)(参考：沢木耕太郎『オリンピア：ナチスの森で』集英社,1998 年(→2007 年,集英社文庫版)。)
(*)「『オリンピア--ナチスの森で』沢木耕太郎」週刊東洋経済 5505,1998 年。
(*)(参考：飯野晃啓『医学史概説』日本写真出版,1998 年。)
(*)(参考：海老沢敏「癒しの神アスクレーピオスはいま蘇る—音楽療法の原点と源流に佇む(特集 音楽における癒しとは—音楽療法の現在)」音楽芸術56(8),1998年。)
(*)(参考:ユリウス・ヒルシュベルク/鮫島夏樹訳『ヒポクラテス医学』北海道医療新聞社,1998年。)
(*)(参考：齋藤博「ラファエロの「アテネの学堂」について：ヒポクラテスは西洋哲学史で、どのように評価されていたか?」埼玉医科大学進学課程紀要 7,1998 年。)
(*)(参考：細見博志「ヒポクラテスの「自然治癒力」をめぐって」金沢大学医学部保健学科紀要22,1998年。)
(*)(参考：大塚公雄・浅井昭成・木村裕一・戸川達男「古代ギリシアにみられるサーモグラフィ類似の体温計測法」医学・生物学サーモロジー18(3),1998年。)
(*)蒲原宏「最近発見したヒポクラテス画像と賛文について」日本医史学雑誌44(2),1998年。)
(*)和田和代史「坪井信道賛—川原慶賀のヒポクラテス画像」日本医学史雑誌44(2),1998年。
(*)(参考：アヴィセンナ/志田信男訳『アヴィセンナ「医学の歌」』草風館,1998年。)
(*)(参考：高橋正雄「ペトラルカのうつ病—『わが秘密』第2巻5より」日本病跡学雑誌56,1998年。)
(*)(参考：上野賢一「Vom Dem Grau Bis Zum Bunt(58)われもまたアルカディアに」皮膚科の臨床40(11),1998年。)
(*)(参考：土屋睦広「ガレノスの自己文献解題『自著について』--序論・翻訳・訳注」明治薬科大学研究紀要,人文科学・社会科学28,1998年。)
(*)(参考：土屋睦広「ガレノスのクラーシス論」科学史研究[第II期]37(208),1998年。)
(*)(参考：月代美代子「W.ハーヴィの精気と「問題」(II)—“Sanguis et spiritus una res”を裁り口として—II.ガレノスの空気由来精気に対して」科学史研究[第II期]37(205),1998年。)
(*)(参考：近内トク子「〈論文〉The Phoenix and the Turtle再考」山野研究紀要6,1998年。)
(*)(参考：浜岡剛「環境倫理へのアリストテレス主義的アプローチ」(京都大学)古代哲学研究紀要8,1998年。)
(*)(参考：平川秀幸「知識政治哲学序論—アルキメデスの視点から状況具象的客観性へ」現代思想26(13),1998年。)
(*)(参考：齋藤博「ラファエロの「アテネの学堂」について：ヒポクラテスは西洋哲学史で,どのように評価されていたか?」埼玉医科大学進学課程紀要7,1998年。)
(*)(参考：アヴィセンナ/志田信男訳『アヴィセンナ「医学の歌」』草風社,1998年。)
(*)(参考：山本徳郎「身体(からだ)の歴史：思想史の立場から」日本体育学会大会号49,1998年。)
(*)(参考：足達薫「パルミジャーノ原作版画『ディオゲネス』と反幾何学,反計測,反プラトン主義：パリ国立図書館所蔵の未発表ヴァージョンを手がかりに(第49回美学会全国大会発表要旨)」美學49(3),1998年。)
(*)(参考：金子洋之「抽象的対象と様相」(プラトニズム)哲学49,1998年。)
(*)(参考：三平正明「フレーゲのプラトニズム」哲学誌40,1998年。)

(*)(参考：近内トク子「The Phoenix and the Turtle再考」山野研究紀要6,1998年。)
(*)(参考：堀井健一『前411年のアテナイの寡頭派政変に関する研究』広島大学,博士(文学),乙第3126号,1998年。)
(*)伊藤貞夫「書評・仲手川良雄『古代ギリシアにおける自由と正義』を読む」創文 404,1998年。)
(*)(参考：北村麻子『古典期アテナイにおけるフィリアと共同体：法廷弁論にみる親族：ヘタイレイア・国家』京都大学,博士(文学),甲第7091号,1998年。)
(*)(参考：橋場弦「贈与(ドーラ)から賄賂(ドーラ)へ」前5世紀における贈収賄罪の成立とアテナイ民主政」史學雑誌107(12),1998年。)
(*)庄子大亮「紹介 橋場弦著「丘の上の民主政—古代アテネの実験」史林81(5),1998年。
(*)中井義明「橋場弦著『丘の上の民主政—古代アテネの実験』」西洋史学191,1998年。
(*)葛西康徳「書評 橋場弦著「丘の上の民主政—古代アテネの実験」」法制史研究48,1998年。
(*)桜井万里子「橋場弦著『丘の上の民主政—古代アテネの実験』東京大学出版会」史学雑誌107(7),1998年。
(*)(参考：仲内英三「ポリス的世界と政治的なるもの--『ギリシア文化史』[ブルクハルト]を中心に」早稲田政治経済学雑誌336,1998年。)
(*)(参考：平田隆一「ポンペイの起源--《都市国家》の形成過程」ヨーロッパ研究2,1998年。)
(*)(参考：山口二郎「政治指導者考—マキャヴェッリと現代日本」図書596,1998年。)
(*)(参考：河島英昭「『君主論』に遺された謎」大航海23,1998年。)
(*)(参考：河島英昭「マキャヴェッリ『君主論』の原テキストをめぐって—20世紀イタリア文献学の基本的成果」文学9(4),1998年。)
(*)(参考：マキァヴェルリ著/池田廉訳者代表『君主論,戦争の技術,カストルッチョ・カストラカーニ伝』マキァヴェルリ全集1,筑摩書房,1998年。)
(*)(参考：野里紳一郎『マキアヴェッリ研究：「君主論」の文体と構造について』東京大学,博士(文学),甲第13808号,1998年。)
(*)(参考：森分大輔「アレントにおける歴史の像」成蹊大学法学政治学研究17,1998年。)
(*)(参考：永岡薫「自由の伝統とA.D.リンゼイの「市民社会論」(シンポジウム「自由の伝統と市民社会」)」聖学院大学総合研究所紀要12,1998年。)
(*)村松晋「三谷隆正における国家への視座--「愛」の自覚と『アウグスチヌス』をめぐって」日本史学集録 21,1998 年。
(*)(参考：加藤節「南原繁と丸山真男—交錯と分岐」思想888,1998年。
(*)(参考：加藤節「南原繁と現代—私的な回想」国際文化会館館報 9(1),1998 年。
(*)(参考：上田慎一「原理と忠告：セネカ書簡集におけるストア派の法規論」哲学・思想論集 16,1998 年。)
(*)(参考：林智良『共和政末期ローマにおける法学者と社会』京都大学,博士(法学),甲第 7099号,1998 年。)
(*)(参考：リッペ『ドイツ政治哲学史：ヘーゲルより第二次世界大戦まで』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,1998 年。)
(*)田中成明「加藤新平先生のご逝去を悼む[含略歴・主要著作目録]」法哲学年報 1998,1998年。
(*)島田正郎「尾佐竹猛・佐伯好郎両先生」法史学研究会会報 3,1998 年。

(*)小池正行「小野梓の生涯とその法思想の軌跡(上中下)」岐阜大学教育学部研究報告・人文科学 46(2),1998 年//47(2),1999 年//48(2),2000 年。
(*)吉原丈司・吉原達也編『日本ローマ法学四先生略年譜・著作目録：春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田亨二博士』吉原丈司,初稿 改訂版,1998年。
(*)山口廸彦「イェーリング研究邦語文献目録」社会科学研究18(2),1998年。
(*)(参考：塙浩訳著『ビザンツ法史断片』塙浩著作集16,信山社出版,1998年。)
(*)(参考：森征一「中世ローマ法学者の法解釈論」法學研究71(3),1998年。)
(*)(参考：F.C.von サヴィニー/小橋一郎訳『現代ローマ法体系3』成文堂,1998年。)

(*)(参考：川村訓史「「『資本論』を読むための文献紹介まずもってこの7冊を--『経済学入門』『共産党宣言』『空想より科学へ』『賃労働と資本』『賃金・価格および利潤』『経済学方法論』『マルクス伝』(『資本論』への挑戦)」(労働大学)まなぶ500,1999年。
(*)(参考：内田弘「マルクス・エピクロス・ヘーゲル」専修経済学論集33(3),1999年。)
(*)(参考：内田弘「マルクスに何が読めるか―「偶然と必然」・要素結合・振動・緩衝装置・「理論と歴史」・「質料根源論」(特集 マルクス・今)」理想662,1999年。)
(*)(参考：石塚正英・内田弘・小林正人他「座談 原(ウア)マルクスからの可能性(特集 マルクス・今)」理想662,1999年。)
(*)(参考：的場昭弘「アルチュセールとマルクス--「沈黙」と「不在」,そして生きられたマルクス」情況[第二期]10(10),1999年。)
(*)西野勉「中川弘著『マルクス・エンゲルスの思想形成―近代社会批判の展開』創風社,1997年」土地制度史学41(3),1999年。
(*)大石高久「中川弘著『マルクス・エンゲルスの思想形成―近代社会批判の展開』(創風社)へのコメント(第13回[マルクス・エンゲルス研究者の会]例会報告)」マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究33,1999年。
(*)永野由紀子「中川弘著『マルクス・エンゲルスの思想形成―近代社会批判の展開』(創風社)へのコメント(第13回[マルクス・エンゲルス研究者の会]例会報告)」マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究33,1999年。
(*)中川弘「永野由紀子氏の論評へのリプライ(第13回[マルクス・エンゲルス研究者の会]例会報告)」マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究33,1999年。
(*)(参考：ウィリアム・H.スタイビングJr./福岡洋一訳『スタイビング教授の超古代文明謎解き講座』太田出版,Sceptic library2,1999年。)
(*)小谷部全一郎『日本及日本國民之起原』八幡書店,復刻版,1999年。
(*)長山靖生『妄想のエキス：予言・偽史・奇想科学を生み出す人びと』洋泉社,1999年。)
(*)(参考：ロデリック・F.ナッシュ/松野弘訳『自然の権利』ちくま学芸文庫,筑摩書房,1999年。)
(*)(参考：Levi=Strauss Claude/川平博一訳「シナ海のヘロドトス」沖縄民俗研究19,1999年。)
(*)(参考：周藤芳幸「鑑としてのペルシア―ヘロドトスの見た東方世界(特集 イラン世界)」文化遺産8,1999年。)
(*)(参考：「彫刻の理想郷イタリア・チェレからの贈り物」展実行委員会『彫刻の理想郷イタリア・チェレからの贈り物」展カタログ』空間造形コンサルタント,1999

年。)
(*)福田秀一「木下杢太郎(太田正雄)の留学日記」国際基督教大学学報 III-A,アジア文化研究 25,1999年。
(*)伊藤公雄「伊太利亜漫遊のころ(新陸人教授退官記念号)」奈良女子大学社会学論集6,1999年。
(*)辻邦生『のちの思いに』(アルカディア)日本経済新聞社,1999年。)
(*)(参考：本城靖久『ちょっと知的な体験的海外紀行』山海堂,1999年。)
(*)(参考：鬼頭宏「トルコ歴史人口学紀行」ソフィア48(1),1999年。)
(*)(参考：小笠原茂介「パレルモの噴水」火土41,1999年（→2001年,『地中海の月』所収,思潮社）。
(*)(参考：小笠原茂介「アラゴンの公女」火土 42,1999 年（→2001 年,『地中海の月』所収,思潮社）。
(*)鹿野章二『世界紀行：私のスケッチ集』日本図書刊行会,1999 年。
(*)森まゆみ「「アンデルセンと鴎外」幻想のイタリア旅行「即興詩人」を歩く(1)バルベリイニ広場」本 24(1),1999 年。
(*)森まゆみ「「アンデルセンと鴎外」幻想のイタリア旅行「即興詩人」を歩く(2)骸骨寺」本 24(2),1999 年。
(*)森まゆみ「「アンデルセンと鴎外」幻想のイタリア旅行「即興詩人」を歩く(3)スパニア石段」本 24(1),1999 年。
(*)森まゆみ「「アンデルセンと鴎外」幻想のイタリア旅行「即興詩人」を歩く(4)エジエリアの泉」本 24(4),1999 年。
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(5)カタコンバ」本 24(5),1999 年。
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(6)古アッピア街道」本 24(6),1999 年。
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(7)アラチエリの階段」本 24(7),1999 年。
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(8)ピアツツア・トレヰイ」本 24(8),1999 年。
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(9)ネミの湖,ヂアナの祠」本 24(9),1999 年。
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(10)ジエンツアノの花祭り」本 24(10),1999 年。
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(11)コリゼエオ」本 24(11),1999 年。
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(12)曠野(あらの)」本 24(12),1999 年。
(*)(参考：山田詠美「偶然を楽しみ尽くすイタリアワイン紀行」新潮 45,18(1),1999 年。)
(*)陣内秀信『南イタリアへ!：地中海都市と文化の旅』講談社現代新書,1999年。
(*)谷口勇「〈研修便り〉ギリシヤ再訪」立正大学文学部論集 110,1999 年。
(*)(参考：山中由里子「〈紀行・たより〉ドイツ便り」民博通信 83,1999 年。)
(*)阿木燿子『ベッドの軋み』(「エーゲ海のように)マガジンハウス,1999 年。
(*)(参考:『ギリシャの民族音楽~エーゲ海の宴』録音ディスク,キングレコーード,1999 年。)
(*)平早勉「グラビア バカンスはエーゲ海がお得!?異文化の旅情誘うギリシア」月刊 times 23(5),1999 年。
(*)YK「食品の広場 エーゲ海クルーズ」食品工業 43(1),1999 年。
(*)小林章男『地中海の風：エーゲ海,アドリア海,クルーズ紀行』東洋出版,1999 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イスタンブールとトルコの大地』ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社,1999-2000 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社,1999-2000

年。
(*)地球の歩き方編集室編『ローマ』ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社,1999-2000 年。
(*)地球の歩き方編集室編『フィレンツェとトスカーナ』ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社,1999-2000 年。
(*)地球の歩き方編集室編『南イタリアとマルタ』ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社,1999-2000 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア個人旅行マニュアル』旅マニュアル,地球の歩き方 273,ダイヤモンド・ビッグ社,1999 年。
(*)近藤まさたろ文・写真『ギリシャ・エーゲ海 光と風の旅』東京書籍,1999 年。
(*)(参考：「「エーゲ海地域」南北に連なる古代の巨大遺跡(特集 トルコ 「文明の十字路」トルコを行く)」 Agora：JAL グループ機内誌 9(1),1999 年。)
(*)楠見千鶴子『癒しの旅 ギリシア・エーゲ海』ちくま新書,筑摩書房,1999年。
(*)(参考：楠見千鶴子『エーゲ海ギリシア神話の旅』講談社学術文庫,講談社,1999年。)
(*)(参考：「「エーゲ海地域」南北に連なる古代の巨大遺跡(特集 トルコ 「文明の十字路」トルコを行く)」 Agora：JAL グループ機内誌 9(1),1999 年。)
(*)(参考：浅野栄市「神話伝説の世界に遊ぶ(4,6,7,8,9,11,12)」地中海歴史風土研究誌 9,1999 年/13,2001 年/15,2002 年/17,2003 年/19,2004 年/23,2006 年/25,2007 年。)
(*)浅野栄市「旅雑記(5,6,7,8,9,10,11,12)」地中海歴史風土研究誌 10,1999 年/12,2000 年/14,2001 年/16,2002 年/18,2003 年/20,2004 年/22,2005 年/24,2006 年。
(*)周藤芳幸「エーゲ海歴史散歩(1)失われた古代都市の島,サントリーニ」Fujitsu 飛翔 35,1999 年。
(*)周藤芳幸「エーゲ海歴史散歩(2)太陽神の島,ロドス」 Fujitsu 飛翔 36,1999 年。
(*)松葉包宜「地中海随想(2-39)」地中海歴史風土研究誌 9,10,1999 年/11,12,2000 年/13,14,2001 年/15,16,2002 年/17,18,2003 年/19,20,2004 年/21,22,2005 年/23,24,2006 年/25,26,2007 年/27,28,2008 年/29,30,2009 年/31,32,2010 年/33,34,2011 年/35,36,2012 年/37,38,2013 年/39,40,2014 年/41,42,2015 年/43,44,2016 年/45,46,2017 年。)
(*)(参考：今村文彦研究代表『エーゲ海における古代文明滅亡に影響した歴史津波の科学的検証』今村文彦 1999 年。)
(*)(参考：青木孝「禍い転じて」地中海歴史風土研究誌 10,1999 年。)
(*)(参考：菊谷忠治「自然収奪型経済と遙かな文明」地中海歴史風土研究誌 10,1999 年。)
(*)(参考：四位誠光「「アルカイック・スマイル」雑考」地中海歴史風土研究誌 10,1999 年。)
(*)(参考：堀幸夫「ヴィーナスとマーブルに魅せられたフィレンツェ」地中海歴史風土研究誌 10,1999 年。)
(*)(参考：三木英治「地中海とパリの墓」詩学 54(5),1999 年。)
(*)(参考：山川偉也「悲劇『メディア』とギリシア人の運命観」日本ギリシア協会報 90,1999 年(→2010 年,『ギリシア思想のオデュッセイア』所収,世界思想社。)
(*)(参考：ドミニック・フェルナンデス/大久保昭男訳『母なる地中海』河出書房新社,1999 年。)
(*)(参考：平不二夫「地中海沿岸に見られる白壁の由来(特集 「白」)」日本色彩学会誌 23(3),1999 年。)

(*)(参考：中井義明「パウサニアス事件」(立命館文學558,立命館大学人文学会編『末川清教授退職記念論集』所収,立命館大学人文学会,1999年。)
(*)(参考:吉村作治(編集主幹)『ギリシア文明:近代文明のみなもと』Newtonムック,NEWTONアーキオ6,ニュートンプレス,1999年。)
(*)(参考：今村文彦研究代表『エーゲ海における古代文明滅亡に影響した歴史津波の科学的検証』科学研究費補助金(国際学会研究・共同研究)研究成果報告書,平成9-10年度,1999年。)
(*)(参考：平田俊子『平田俊子詩集』(「アトランティスは水くさい!」)思潮社,1999年。)
(*)(参考：藤縄謙三「ヘレニズムとヘブライズム—牧畜文化の比較考察」史窓56,1999年。)
(*)(参考：水田徹研究代表『パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的実地調査：パルテノン・フリーズ図像・様式一覧』科学研究費補助金(国際学術研究・学術調査)研究成果報告書,平成6-8年度,1999年。)
(*)(参考：篠塚千恵子「片肌をあらわにした女たち—古代ギリシア美術の女性表現試論」社会科学討究44(2),1999年。)
(*)(参考:神林恒道「グランド・ツアーと「崇高」の発見(特集 ツーリズム)」民族芸術15,1999年。)
(*)藤澤正清・星和夫「旅のお誘い:医学の歴史を巡るイタリアの旅」日本病院会雑誌46(9,10),1999年。
(*)(参考：アネッタ・ラッチェ/大森寿美子訳『エトルリア文明：700年の歴史と文化』遊タイム出版,20021年。)
(*)(参考：吉田清「D.H.ロレンスと故地エトルリア—エトルリア民族の死生観について」九州女子大学紀要 人文・社会科学編35(3),1999年。)
(*)(参考：山本證「ロレンス晩年のイタリア体験」--スポトルノ,フレエンツエ,エトルリアを中心に)武蔵野英米文学32,1999年。)
(*)(参考：林正則『ゲーテのイタリア旅行前後：「古典主義」の生成をめぐって』大阪大学,博士(文学),乙第7753号,1999年。)
(*)(参考：畠中美菜子「美術修行がゲーテにもたらしたもの--『イタリア紀行』再読」東北ドイツ文学研究43,1999年。)
(*)(参考：竹尾敬子「〈研究報告〉ゲーテにとってのイタリア紀行：自己確認のための旅,「復活」のための旅」研究紀要 36,1999 年。)
(*)(参考：加藤芳子「ゲーテの『イタリア紀行』」札幌大学総合論叢 7,1999 年。)
(*)(参考：加藤芳子「ギッシングの『南イタリア周遊記』」札幌大学総合論叢 7,1999 年。)
(*)(参考：中村雄二郎「ゲーテ『イタリア紀行』再読(ゲーテ 自然の現象学)」思想 906,1999年。)
(*)(参考：松本道介「ホフマンスタールとケスラーのギリシアへの旅：「ギリシアの瞬間」の成立史」紀要・文学科 84,1999 年。)
(*)(参考:森まゆみ「「アンデルセンと鴎外」幻想のイタリア紀行「即興詩人」を歩く(1-42)」本 24(1-?)-27(6),1999-2002 年。)
(*)(参考：アンリ・トロワイヤ/尾河直哉訳『バルザック伝』白水社,1999 年。)
(*)(参考：黒川学「サルトルのローマ：もしくはヌーヴェル・ブーヴィル」流通経済大学論集34(1),1999年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ヴェネツィアと文人たち(22)ブロッキーとレニエ」人文研究137,1999

年。)
(*)(参考：「彫刻の理想郷(アルカディア)イタリア・チェレからの贈りもの」展カタログ)「彫刻の理想郷(アルカディア)イタリア・チェレからの贈りもの」展実行委員会,空間造形コンサルタント,1999年。)
(*)辻邦生『のちの思いに』(「アルカディアの夏」)日本経済新聞社,1999年。
(*)辻邦生『美しい夏の行方：イタリア,シチリアの旅』中公文庫,中央公論新社,1999年。
(*)(参考：塩野七生・山田詠美「対談 ローマに酔う」新潮45 18(1),1999年。
(*)(参考：中丸明『海の世界史』講談社現代新書,1999年。)
(*)(参考：堀賀貴「カエレにおけるエトルリア墳墓の視点場に関する研究」日本建築学会計画系論文集64(522),1999年。)
(*)(参考：南川高志「タクトゥスとローマン・ブリテン」(平成8年度~平成10年度科学研究費補助金[基礎研究B(2[)研究成果報告書「古代ギリシア・ローマ文学に現われた危機の思想の研究」,1999年。)
(*)(参考：江谷寛「年代別発掘調査の概要」(江谷寛研究代表『ポンペイ都市の起源と形成過程に関する調査』平成8年度~平成10年度科学研究費補助金(国際学術研究)研究成果報告書,1999年。)
(*)(参考：坂井聡「ポンペイ城壁をめぐる研究の現状」(江谷寛研究代表『ポンペイ都市の起源と形成過程に関する調査』平成8年度~平成10年度科学研究費補助金(国際学術研究)研究成果報告書1999年。)
(*)(参考：丹波佑一「発掘調査の層序的考察」(江谷寛研究代表『ポンペイ都市の起源と形成過程に関する調査』平成8年度~平成10年度科学研究費補助金(国際学術研究)研究成果報告書1999年。)
(*)(参考：堀賀貴「画像データ解析による城壁研究」」(江谷寛研究代表『ポンペイ都市の起源と形成過程に関する調査』平成8年度~平成10年度科学研究費補助金(国際学術研究)研究成果報告書1999年。)
(*)(参考：浅香正「テイトス=スエディウス=クレメンスの石柱」文化史学55,1999年。)
(*)(参考：江谷寛「ポンペイの発掘—ポンペイ都市の起源とその形成過程(特集：遺跡発掘の国際協力)」学術月報52(1),1999年。)
(*)(参考：青柳正規「海外における遺跡調査の現状と展望(特集：遺跡発掘の国際協力)」学術月報52(1),1999年。)
(*)(参考：青柳正規「座談会 海外の遺跡調査—その魅力と問題点(特集：遺跡発掘の国際協力)」学術月報52(1),1999年。)
(*)(参考：青柳正規「カッツァネッロ(タルウィニア)ローマ遺跡発掘調査(第7次,第8次,第9次)中間調査書」東京大学文学部文化交流研究施設研究紀要15,1999年/16,2000年/17,2001年。)
(*)(参考：横山卓雄「A.D.79年のヴェスヴィオス火山噴火と古代ポンペイ都市の壊滅」第四紀研究38(4),1999年。)
(*)(参考：片岡重俊「日本のポンペイ—黒井峯遺跡に立つ(「骨材資源工学会」創立30周年記念21世紀の骨材)」地学研究48(3),1999年。)
(*)(参考：『ポンペイ展：l'archeologia del vulcano quante Pompei sotto il Vesvio?』タクトマー

ケティング,1999年。)
(*)(参考：青柳正規監修『ポンペイの遺産：2000年前のローマ人の暮らし』小学館,アートセレクション,1999年。)
(*)(参考：サルバトーレ・ナッポ/横関裕子訳『ポンペイ：完全復元2000年前の古代都市』ニュートンプレス,1999年。)
(*)(参考：『アレキサンドリア：最後の女王クレオパトラと地中海』ビデオレコード：吉村作治のエジプト文明の旅：ジャパンイメージコミュニケーションズ(発売),1999年。)
(*)(参考：青山友紀・岩淵潤子・小野定康「情報の回廊を逍遙する—知のコンソシアムを目指す「ディジタル・アレキサンドリア」」インターコニュニケーション8(3),1999年。)
(*)(参考：ダニエル・ロンドー/中条省平・中条志穂訳『アレクサンドリア』Bunkamura,1999年。)
(*)(参考：ジャン=イヴ・アンプルール/周藤芳幸(監),吉田春美・花輪照子訳『甦るアレクサンドリア：地中海文明の中心都市』河出書房新社,1999年。)
(*)(参考：L.ジョエル・スワードロウ,スチュアート・フランクリン「アレクサンドリア,コルドバ,ニューヨーク—三都物語 世界都市の興亡(ミレニウム[2000年]特集 世界の文化)」ナショナルジオグラフィック4(8),1999年。)
(*)(参考：ルチャー・カンフォラ/竹山博英訳『アレクサンドリア図書館の謎：古代の知の宝庫を読み解く』工作舎,1999年。)
(*)(参考 : 津島佑「エトルリアの「死者の「家」から(特集 死ぬために「教育」)」新潮45,18(5)1999年.
(*)(参考：吉田清「D.H.ロレンスと故地エトルリア—エトルリア民族の死生観について」九州女子大学紀要、人文・社会科学篇35(3),1999年。)
(*)『トロイとカッパドキア：トルコ』週刊地球旅行52,講談社,1999年。
(*)澁澤幸子『イスタンブールから船に乗って』新潮社,1999年。
(*)(参考：山本證「ロレンス晩年のイタリア体験---スポトルノ・フィレンツェ・エトルリアを中心に」武蔵野英米文学32,1999年。)
(*)(参考：石塚裕子「地中海の彼方のシャーロックホームズ」Kobe miscellary 24,1999 年。)
(*)(参考：芋生裕信「小川国夫作品の身体表現とコミュニケーション--「地中海の漁港」を中心に」高知女子大学紀要,文化学部編48,1999年。)
(*)(参考：マリオ・プラーツ/白崎容子・上村清雄・伊藤博明訳『ローマ百景：建築と芸術と文学と』ありな書房,1999 年(→2006 年,増補改訂版。→2009 年,浦一章訳。)
(*)(参考：家島彦一「海域史に関する試論—地中海からインドまで」アジア・アフリカ言語文化研究 57,1999 年。)
(*)(参考 : Levi=Strauss Claude/川平博一訳「シナ海のヘロドトス」沖縄民俗研究 19,1999 年。)
(*)(参考：周藤芳幸「鏡としてのペルシア—ヘロドトスの見た東方世界(特集 古代イラン世界)」文化遺産 8,1999 年。)
(*)(参考：歴史学研究会編『古代地中海世界の統一と変容』地中海世界史1,青木書店,1999年。)

(*)(参考：歴史学研究会編『地中海世界史 3 ネットワークのなかの地中海』青木書店,1999 年。)
(*)(参考：歴史学研究会編『地中海世界史 4 巡礼と民衆信仰』青木書店,1999 年。)
(*)(参考：羽田亨一・露口哲也「歴史的イラン世界に関する研究」アジア・アフリカ言語文化研究 96,1999 年。)
(*)(参考：家島彦一「海域史に関する試論—地中海からインドまで」アジア・アフリカ言語文化研究97,1999年。)
(*)(参考：研究代表者・今村文彦『エーゲ海における古代文明滅亡に影響した歴史津波の科学的検証』今村文彦,1999 年。)
(*)(参考：吉村作治編『ギリシア文明：近代文明のみなもと』NEWTON ムック,NEWTON アーキオ,ビジュアル考古学,ニュートンプレス,1999 年。)
(*)(参考：高山博『中世シチリア王国』講談社現代新書,講談社,1999 年。)
(*)(参考：高山博「ノルマン・シチリア王国の研究」本 24(10),1999 年。)
(*)(参考：デイヴィッド・トレイル/周藤芳幸・澤田典子・北村陽子訳『シュリーマン—黄金と偽りのトロイ』青木書店,1999 年。)
(*)穴沢和光「デイヴィッド・トレイル著/周藤芳幸・澤田典子・北村陽子共訳『シュリーマン—黄金と偽りのトロイ』」古代文化 51(9),1999 年。
(*)(参考：岩崎努「エトルスキ家族のイメージ--棺・納骨容器からみた家族史」文化史学 55,1999 年。)
(*)(参考：宮崎正弘「グラビア SCOPE’99 消えた帝国カルタゴの末裔たち」政界 21(8),1999 年。)
(*)(参考：塩野七生「日本の難問を解決するカギがローマ帝国の歴史の中にある」サピオ 11(4),1999 年。)
(*)(参考：塩野七生・水木楊・船橋洋一「「リーダーの条件」とは何か—ローマ時代と 21 世紀」フォーサイト 10(6),1999 年。)
(*)(参考：塩野七生・中西輝政「創刊 30 周年ビッグ対談 日本の生きる道—ローマ帝国と大英帝国の興亡」諸君 31(7),1999 年。)
(*)(参考：塩野七生「特別インタビュー ローマから見る現代の日本(上下)—塩野七生氏(作家)」日経ビジネス 1021,1022,1999 年。)
(*)(参考：松本宣郎「イタリア—古代ローマから現代のローマへ(世界の都—その生い立ちと今の課題)」NIRA 制作研究 12(10),1999 年。)
(*)(参考：森田安一編『スイスの歴史と文化』刀水書房,1999 年。)
(*)(参考：前田正明『ギリシアの美術さ・え・ら』日貿出版社,1999 年。)
(*)(参考：千足伸行監修・石鍋真澄他執筆『新西洋美術史』西村書店,1999 年。)
(*)(参考：水田徹研究代表『パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的実地調査：パルテノン・フリーズ図像・様式一覧』東京学芸大学,科学研究費補助金(国際学術研究・学術調査)研究成果報告書 平成 6-8 年度,1999 年。)
(*)(参考：M.Korres,A.Panetcos,T.Seki(ed.)‘Ο Παρθενων：αρφχιτεκτονικη και συντηρηση’2nd ed.revised,HellenisFoundation for Culture：Committee for consavation of the Acropolis monuments,1999.
(*)(参考：辻成史研究代表者『美術史における「アルケオロジー」の諸相』科学研究費補助金(基盤研究 B.2)研究成果報告書,平成 9-10 年度。)

(*)(参考：名古屋ボストン美術館編『古代地中海世界の美術』名古屋ボストン美術館,1999年。)
(*)(参考：グザヴィエ・パラル・イ・アルテ/吉岡健二郎・上村清訳『美術史入門』白水社,文庫クセジュ 821,1999 年。)
(*)篠塚二三男「私にとっての西洋美術史学：反省をこめて」美学・美術史学科報 27,1999年。
(*)(参考：高山啓子「社会文化的にみる都市の自然と公園緑地(2)古代その(1)—大河文明期」緑の読本52,1999年。)
(*)(参考：秋山聰「ルネサンス期の美術家にとっての範例集としてのプリニウス『博物誌』--女性画家の場合(「美術に関する調査研究の助成」研究報告)－(1999年度助成)」鹿島美術財団年報17,1999年。)
(*)(参考：金井直『美術史学における新古典主義彫刻の位置：アントニオ・カノーヴァをめぐって』京都大学,博士(文学),甲第7969号,1999年。)
(*)(参考：佐竹正一「ゲーテの《Uber Laokoon》について：テキストの意味(Sinn)と解釈の一問題」Arets liberalis 64,1999年。)
(*)(参考：「日欧文化交流の源泉—フランシスコ・ザビエル来日450年」月刊ヨーロッパ219,1999年。)
(*)松田毅一『天正遣欧使節』(「史譚・天正遣欧使節」[1977 年],「天正遣欧使節」[1991年]が底本)講談社学術文庫,1999 年。
(*)原田幸吉『大川周明博士の生涯』大川周明顕彰会,改訂版,1999年。
(*)川村博忠「織田武雄,古地図の博物誌,古今書院」地理科学54(1),1999年。
(*)坂戸直輝・今井健三「「地図学用語略語集」の作成について：編集の意義とその構成」地図37(Suppl.),1999年。
(*)(参考：小池寿子『死を見つめる美術史』ポーラ文化研究所,1999 年(→2006 年,ちくま学芸文庫版)。
(*)(参考：小佐野重利「デトロイトの《書斎の聖ヒエロニムス》をめぐる心性史および受容史的な考察(特集 イメージとテキスト)」西洋美術研究1,1999年。)
(*)(参考：池上公平「ピエロ・デッラ・フランチェスカとヴェネツィアの祭壇画」地中海学研究22,1999年。)
(*)(参考：秋山聰「古代ローマの女性画家「マルティア」の誕生—初期近世女性画家にとっての範例(エクゼンプラ)と揺籃期印刷本の影響」地中海学研究22,1999年。)
(*)長島要一「異文化,日本化,超越化鴎外における西洋文学の変容とアイデンティティー(特集 異文化とアイデンティティー)」無限大105,1999年。
(*)(参考：中村るい‘Seeking the Ideal：Greek Canon and Modern Aethetic, Apreliminary Study’,Medicine and The Hisotyr of the Body,1999.)
(*)(参考：山田樹人著・高倉一太写真『ガンダーラ美術の見方』目の眼ハンドブック,里文閣出版,1999年。)
(*)島根県立並河萬里写真財団編『ガンダーラ：並河萬里写真集』島根県立並河萬里写真財団,1999年。)
(*)(参考：平山郁夫『悠遠シルクロード：文明の興亡』日本経済新聞社,1999年。
(*)(参考：平山郁夫『シルクロード幻想：仏教伝来の道』日本経済新聞社,1999年。
(*)(参考：田辺勝美『毘沙門天像の誕生：シルクロードの東西交流』吉川弘文館,1999年。)

(*)(参考:石井元章『ヴェネツィアと日本:美術をめぐる交流』ブリュッケ,星雲社(発売),1999年。)
(*)(参考:高田英樹「マルコ・ポーロ年次考(2)中世ヴェネツィア年代記」大阪国際女子大学紀要25(2),1999年。)
(*)上原和「わが青春と大和古寺」本24(4),1999年。
(*)小山騰『破天荒「明治留学生」列伝:大英帝国に学んだ人々』講談社選書メチエ168,講談社,1999年。
(*)(参考:高橋栄一「大英博物館の誕生とその将来像」大学時報48(268),1999年。)
(*)(参考:中村二柄『美術史小論集:一研究者の足跡』一穂社,1999年。)
(*)(参考:辻成史研究代表『美術史における「アルケオロジー」の諸相』科学研究費補助金(基礎研究B2)研究成果報告書 平成9-10年度,1999年。)
(*)内田芳明「和辻哲郎『風土』についての批判的考察」思想903,1999年。
(*)角田幸彦「景観哲学をめざして(2)和辻哲郎『風土』についての批判的考察」明治大学教養論集320,1999年。
(*)(参考:小佐野重利「〈まえがき〉「イカロスの飛翔」に寄せて(特集 イメージとテキスト)」西洋美術研究1,1999年。)
(*)(参考:佐藤聡明「ローザと武満 映画「ベン・ハー」と「怪談」に聴く映画音楽の愉しみ」レコード芸術48(7),1999年。)
(*)(参考:小佐野重利「デトロイトの《書斎のヒエロニムス》をめぐる心性史および受容史的な考察(特集 イメージとテキスト)」西洋美術研究1,1999年。)
(*)(参考:田中英道「17世紀支倉遣欧使節の旅—日本人の自己発見(特集 ツーリズム)」民族芸術15,1999年。)
(*)(参考:田中英道「イタリアから学ぶ意味(文集 会員が語る50年の歩み)」イタリア学会誌49,1999年。)
(*)(参考:Walter Schweidler/馬淵浩二訳「シュペングラーと現代的文化概念」思索32,1999年。)
(*)(参考:ヴァルター・シュヴァイトラー「シュペングラーと現代的文化概念」東北哲学会年報15,1999年。)
(*)(参考:千田まや「トーマス・マンとシュペングラー(1)「文化」と「文明」を中心に」和歌山大学教育学部紀要 人文科学49,1999年。)
(*)(参考:葛谷彩「シュペングラー『西洋の没落』再読(2・完)ポスト冷戦から見た『西洋の没落』」法学論叢145(5),1999年。)
(*)(参考:神川正彦・川窪啓資編『比較文明学の理論と方法』講座比較文明1,朝倉書店,1999年。)
----神川正彦「比較文明学という学的パラダイムの構築のために」
東千尋「ギリシアにおける哲学の優位と歴史の蔑視:ヘロドトスを見直す」
高橋誠一郎「ヨーロッパ「近代」への危機意識の深化(1)ドストエフスキイの西洋文明観」
中川久嗣「ヨーロッパ「近代」への危機意識の深化(2)ニーチェとフーコー」
三宅正樹「トインビーのルネサンス観をめぐる再検討:中国のルネサンス観と西欧の「古代・近代論争」」
柴田隆行「概念構成の枠組み:文明と文化の統合から」

神川正彦「比較文明学の学的基本性格：知の組み換えのために」
(*)(参考：斉藤稔『人文学としてのアルス：西洋における人文主義的芸術の系譜』大阪大学,博士(文学),乙第7731号,1999年。)
(*)(参考：中江彬研究代表『近代日本におけるミケランジェロの美術史観の受容史』中江彬,1999年。)
(*)(参考：中江彬「高橋由一とミケランジェロ」人文学論集17,1999年。)
(*)(参考：エルンスト・H.ゴンブリッチ/岡田温司・水野千依訳『規範と形式：ルネサンス美術研究』中央公論美術出版,1999年。)
(*)(参考：ルチアーノ・カンフォラ/竹内博英訳『アレクサンドリア図書館の謎：古代の知の宝庫を読み解く』工作舎,1999年。)
(*)(参考:安田喜憲・林俊雄編『文明の危機:民族移動の世紀』講座文明と環境,朝倉書店,1999年。)
(*)(参考：服部英二『出会いの風景：世界の中の日本文化』麗澤大学出版会,広池学園事業部(発売),1999年。)
(*)(参考：米山直俊・吉澤五郎編『比較文明における歴史と地域』講座比較文明2,朝倉書店,1999年。)
(*)(参考：米山直俊・吉澤五郎編『比較文明の社会学：新しい知の枠組み』放送大学教材[第4刷],放送大学教育振興会,1999年。)
(*)(参考：吉澤五郎『世界史の回廊：比較文明の視点』Sekaishiso seminar,世界思想社,1999年。)
(*)(参考：吉澤五郎「巡礼と文明--「聖地」のコスモロジー(特集 文明と宗教—多様な現れと通底するもの)」比較文明 15,1999 年。)
(*)(参考：服部英二「多神教と一神教--「聖戦」の終焉に向けて(特集 文明と宗教—多様な現れと通底するもの)」比較文明 15,1999 年。)
(*)(参考：大島末男「諸宗教と諸文明に通底するもの(特集 文明と宗教—多様な現れと通底するもの)」比較文明 15,1999 年。)
(*)(参考：神川正彦「比較文明的パースペクティブにうつしだされる文明と宗教—宗教的多元主義の立場(特集 文明と宗教—多様な現れと通底するもの)」比較文明 15,1999 年。)
(*)(参考：三宅正樹「ヨーロッパとアジアにおける進歩の理念の比較文明論的考察(3)」明治大学社会科学研究所紀要37(2),1999年。)
(*)(参考：松本健一「比較文明論：欧米とアジア」国際開発研究1(2),1999年。)
(*)(参考：吉村作治『トルコ東西文明交流の地』吉村作治の文明探検4,平凡社,1999年。)
(*)渡邉伸樹「「数学の文化史」の教材構築を目指して：小学校 5 年生における「地図作製活動」の実践」数学教育研究28,1999年。
(*)籠瀬良明「古地図研究の碩学,鮎澤信太郎の人となり」地図37(3),1999年。
(*)(参考：ジュディ・リッジウェイ/寺沢恵美子訳『世界のオリーブオイル百科』小学館,1999年。)
(*)(参考：辻原康夫『おもしろくてためになる世界の地名雑学辞典』日本実業出版社,1999年。)
(*)(参考：パット・ロジャーズ/永嶋大典監訳・日本ジョンソン・クラブ共訳『サミュエル・ジョンソン百科事典』ゆまに書房,1999年。)

(*)(参考：日外アソシエーツ編集部編『外国人物レファレンス事典』日外アソシエーツ,紀伊國屋書店[発売],1999年。)
(*)(参考：日外アソシエーツ編集部編『西洋人著者名レファレンス事典』日外アソシエーツ,紀伊國屋書店[発売],1999年(→2009年,新訂増補版。→2012年,再版)。)
(*)(参考：三省堂編集所編・相田重夫他監修『コンサイス外国人名辞典』三省堂,3版,1999年。)
(*)(参考：山中隆次「『マルクス・カテゴリー事典』を読んで(小特集 マルクス研究の現在—[マルクス・カテゴリー事典編集委員会編]『マルクス・カテゴリー事典』を読む」情況[第二期]10(2),1999年。)
(*)平松勘治『長崎遊学者事典』渓水社,1999年。
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典1』ナダ出版センター,1999年。
----「安倍能成」
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典2』ナダ出版センター,1999年。
----「石田幹之助」「石濱知行」「石原謙」
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典3』ナダ出版センター,1999年。
----「板沢武雄」「市河三喜」「「井筒俊彦」「伊東忠太」「「井上哲次郎」「岩「岩元禎」「巌谷小波」
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典1』ナダ出版センター,1999年。
----「上野直昭」「内山敬二郎」「遠藤周作」「大川周明」「大杉栄」
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典5』ナダ出版センター,1999年。
----「大類伸」「緒方富雄」
(*)(参考：太田次郎監訳者代表『科学・技術大百科事典(上中下)』朝倉書店,1999年。)
(*)(参考：大芝芳弘「Thesaurus Linguae Latinae：一世紀を超えたラテン語辞典編纂—国際共同研究に参加して」学術月報 52(8),1999 年。)
(*)原田裕司「『鎖国論』の訳者志筑忠雄のラテン語辞書」大阪大学言語文化部・言語文化研究所「言語文化研究」25,1999年。
(*)宮田和子「井上哲次郎『訂増英華字典』の典拠---増補訳語を中心に」英学史研究 32,1999 年。
(*)金敬雄「井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の削減についての考察」行政社会論集 11(4),1999 年。
(*)金敬雄「井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察(1-4)」行政社会論集 12(2),1999 年//13(1,2,4),2000 年。
(*)長沢秀明「「ユーモア」概念導入の背景としての「哲学」受容の問題：『哲学字彙』と井上哲次郎をめぐって」笑い学研究 6,1999 年。
(*)伊東俊太郎『一語の辞典—自然』三省堂,1999 年。
(*)青柳正規・阿部博之・井村祐夫「座談会 学術の振興(特集 学術の振興—学術審議会答申

を受けて)」学術月報 52(10・11),1999 年。
(*)(参考：矢島文夫「文字概説(文字シンポジウムから)」学士会会報 4,1999 年。)
(*)(参考：矢島文夫『解読古代文字』筑摩書房,1999 年。)
(*)(参考：田中穂積「アイハヌム遺跡のギリシア語史料について」人文論究 48(4),1999 年。)
(*)(参考：平井隆「ラテン翻訳とラテン・テクストの異文をめぐって—オウィディウスパウキスとピレモンの変身譚の場合」(山口大学文理学部英米文学研究室)英語と英米文学 32,1999 年。)
(*)(参考：Pierre Petitmenngin/月村辰雄訳「ヨーロッパにおけるラテン語写本の伝承」文学 10(4),1999 年。)
(*)(参考：Pierre Petitmenngin,‘La circulation des manuscripts latines en Europe’(東京大学仏語仏文学研究会)仏語仏文学研究 19,1999 年。)
(*)(参考：青木洋一郎「ダンテの言語論におけるラテン語と俗語」イタリア学会誌 49,1999 年。)
(*)(参考：河底尚吾『ラテン文学』理想社,1999年。)
(*)(参考：土岐健治『新約聖書ギリシア語初歩』改訂新版,教文館,1999年。)
(*)(参考：玉川直重『新約聖書ギリシア語独習』改訂新版,キリスト新聞社,1999年。)
(*)(参考：木ノ脇悦郎「世界最初のギリシャ語聖書新約聖書印刷本エラスムスのNovum Instrumentum」時計台68,1999年。)
(*)(参考：ロビン・レイン・フォックス/森夏樹訳『非公認版聖書』青土社,1999年。)
(*)(参考：青山友紀・岩淵潤子・小野定康「情報の回廊を逍遙する—知のコンソーシアムを目ざす「ディジタル・アレキサンドリア」」インターコミュニケーション8(3),1999年。)
(*)(参考：安達一美「英語語彙におけるギリシア語系二重性(1,2)」武庫川女子大学紀要・人文社会科学編47,1999年/48,2000年。)
(*)(参考：古谷大輔「西洋史研究者のためのパソコン活用入門：実践編」クリオ=Clio 13,1999 年。)
(*)(参考：ジュリー・ノールズ/小野茂・小野恭子訳『文化史的にみた英語史』開文社出版,1999 年。)
(*)(参考：アルベルト・マングェル/原田範行訳『読書の歴史—あるいは読者の歴史』柏書房,1999年。)
(*)(参考：G.スタイナー/亀山健吉訳『バベルの後に：言葉と翻訳の諸相(上下)』法政大学出版局,叢書ウニベルシタス,1999-2009年。)
(*)(参考：齋藤淳「G.ヴィーコの詩的知恵論の言語学・修辞学に関する研究：想像的普遍をめぐって」道都大学紀要,教養部18,1999年。)
(*)(参考：三ツ木道夫「翻訳と歴史(1)：ヴィルヘルム・フォン・フンボルトの翻訳論」言語文化1(3),1999年。)
(*)(参考：石原久子「ドライデン 古典翻訳家としての１つの試み」文化女子大学紀要・人文・社会科学研究7,1999年。)
(*)(参考：二宮宏之「コラム 歴史の風 ビブリオテークに風が吹く」史学雑誌108(9),1999年。)
(*)大阪大学『大正・昭和戦前期における日独文化交流に関する書誌的研究』大阪大学,科学研究費補助金(基盤研究B)研究成果報告書,平成8-10年度,1999年。)
(*)宮永孝「辞書のかたる幕末の英学」社会志林46(1),1999年。

(*)宮永孝「幕末明治の英学」社会志林46(2),1999年
(*)佐藤徹夫編『日本におけるドストエフスキー書誌』ド翁文庫,1999 年。
(*)(參考：平子義雄『翻訳の原理』大修館書店,1999年。)
(*)京都大学学術出版会『西洋古典叢書がわかる』1999年。
(*)(參考：高田時雄「フィロロジーと共同研究」学術月報52(8),1999年。)
(*)(參考：村田奈々子「近代ギリシアと「マケドニア」--ギリシア人のアイデンティティとスラブ語話者同化政策」歴史と地理521,1999年。)
(*)中川久定「文学部における「西洋学」の教育・研究—世界市場に参入するために(今月のテーマ《問われる文学部》)」現代の高等教育390,1997年。
(*)中川久定「古典と教養教育—異文化古典間の対話を目指すために(今月のテーマ《教養教育再考》)」現代の高等教育 407,1999 年。
(*)浮田三郎「早稲田大学オープンカレッジ寄付講座 ギリシャ総合講座(日本ギリシャ修好100 年記念事業)〈報告〉」プロピレア 11,1999 年。
(*)(參考：池端次郎「世紀転換期仏エリート大学の形態的変容—パリ大学人の同質化の観点から」広島大学教育学部紀要,第一部教育学 48,1999 年。)
(*)(參考：舟川一彦『十九世紀オックスフォード：人文学の宿命』(「古典人文学理念の構築」「古典人文学理念の分解」)Sophia University Press,信山社,1999 年。)
(*)大塚光信・来田隆編『エソポのハブラス：本文と総索引(2 分冊「本文編」「索引編」)』(Esopono Fabvlas）清文堂出版,1999 年。
(*)鈴木健郎・高橋原「資料・姉崎正治蔵書目録(東京大学所蔵分)」東京大学史紀要 17,1999年。
(*)「阿刀田高 出版図書目録(特集 阿刀田高の不思議な世界)」本の話5(2),1999年。)
(*)明治学院大学図書館編『堀田善衛文庫目録・明治学院大学所蔵』明治学院大学図書館,1999年。
(*)関根和江「ケーベル先生文献(1)」東京藝術大學音楽学部紀要24,1999年。
(*)原田茂夫「ラファエル・フォン・ケーベルの「九つの歌」」図書598,1999年。
(*)(參考：木村重信『美術の始源』木村重信著作集1,思文閣出版,1999年。)
(*)(參考：州崎惠三『トーマス・マン：神話とイロニー』(ニーチェ)筑波大学,博士(文学),乙第 1483 号,1999 年。)
(*)(參考：國松萌美「エリアーデにおける象徴と救済」宗教哲学研究19,1999年。)
(*)(參考：フェルドウスィー/岡田恵美子訳『王書—古代ペルシャの神話・伝説』岩波文庫,岩波書店,1999年。)
(*)(參考：秦政朗・半沢栄一「ヨーロッパの神話論に学ぼう—神武天皇虚構論の現代的構築」古代史の海16,1999年。)
(*)(參考：吉田喜久子『宗教と詩の源泉：直接経験と言語的場』(新プラトン主義)京都大学,博士(文学),乙第10186号,1999年。)
(*)(參考：里中満智子『神々と世界の誕生』マンガ・ギリシア神話1,中央公論新社,1999年。)
(*)(參考：千葉政助『千葉政助ギリシア神話作品集—ヘーラー』中教出版,1999 年。)
(*)(參考：篠井保彦「神託と予測(10)3 つの知能の担い手」地中海歴史風土研究誌 10,1999年。)
(*)(參考：重見晋也責任編集『荒猟師伝承の東西：比較神話学シンポジウム(第１回)』名古屋大学文学部,1999年。)

(*)(参考：重見晋也責任編集『冥界の大母神：比較神話学シンポジウム(第2回)』名古屋大学文学部,1999年。)
(*)(参考：重見晋也責任編集『東西の老賢者：比較神話学シンポジウム(第3回)』名古屋大学文学部,1999年。)
(*)(参考：多田智満子「牛の貌した神々(特集,くだん,ミノタウロス,牛妖伝説)」幻想文学56,1999年。)
(*)(参考：岩見隆・大川京・木下雄介・高田康一・野元晋・堀江聡共訳「アラビア語版『アリストテレスの神学』第4章~第6章」慶應義塾大学言語文化研究所紀要31,1999年。)
(*)(参考：白石正樹「アッティカのデーモスの祭暦」創価法学28(2),1999年。)
(*)(参考：白石正樹「アテナイ・ポリスの祝祭(1,2)」創価法学29(1・2),1999年/29(3),2000年。)
(*)(参考：J.グールド/葛西康徳訳「ギリシア宗教の意味をつかむことについて」思想901,1999年。)
(*)(参考：柳光子「17世紀のフランス芸術におけるアポロン像」Stella 18,1999年。
(*)(参考：エウリピデス原作/ピエル・パオロ・バゾリーニ監督原案脚本音楽『王女メディア』Cinefil imagica,imagica,DVD,1999年。)
(*)(参考：ピエル・パオロ・バゾリーニ監督原案脚本音楽『アポロンの地獄』Cinefil imagica,imagica,DVD,1999年。)
(*)(参考：ロレンス・ダレル/土井亨訳『海のヴィーナスの思い出：ロドス・太陽神の島1945-1947』新評論,1999年。)
(*)(参考：Vidal-Naquet Pierre/金沢良樹訳「伝承・神話・空想社会(ユートピア)における奴隷制度と〈女たちによる支配〉(特集,甦るギリシャ)」現代思想27(9),1999年。)
(*)(参考：野村京子「1.Jude the Obscure；〈ヴィーナス〉に投影されたHardyの女性観(日本英文学会第71回大会報告)」英文學研究76(2),1999年。)
(*)(参考：中村俊春「ルーベンス作《戦争の惨禍》—マルスとヴィーナスに関する説話・寓意・図像表現の伝統からの考察(特集 イメージとテキスト)」西洋美術研究1,1999年。)
(*)(参考：小林利延「川上澄生『初夏(はつなつ)の風(かぜ)』：その構想におけるボッティチェッリ『ヴィーナスの誕生』の位置」文星紀要11,1999年。)
(*)(参考：小川一枝「バッコス記(10)天空の神・牡牛神ディオニュソス」東洋大学紀要 教養課程篇38,1999年。)
(*)(参考：瀬口昌久「ニーチェ・フェミニズム・プラトンのディオニュソス」(名古屋工業大学言語文化教室)Litteratura 20,1999年。)
(*)(参考：上野俊哉「Urban Tribal Studies(4)ディオニュソス・グラフィティ」10+1 16,1999年。)
(*)(参考：楠見千鶴子「ディオニュソスの液体—ワイン,血,秘儀(特集 ワイン,身体,ピュシスの力)」談61,1999年。)
(*)(参考：鏡リュウジ『オルフェウスの卵』実業之日本社,1999年(→2009年,文春文庫版)。)
(*)(参考：ポール・ジョンソン/別宮貞徳訳『キリスト教の2000年(上下)』共同通信社,1999年。)
(*)(参考：秦剛平「聖書とならぶ西欧人の古典—ヨセフスの『ユダヤ古代誌』の文庫化によ

せて」ちくま344,1999年。)
(*)(参考：藤縄謙三「ヘレニズムとヘブライズム—牧畜文化の比較考察」(京都女子大学)史窓56,1999年。)
(*)(参考：鈴木暁「セネカとエジプトの太陽神学」法政大学教養部紀要109,1999年。)
(*)(参考：中西恭子「ユーリアーヌス帝の宗教復興構想のなかの「祭儀」」東京大学宗教学年報17,1999年。)
(*)有田巧「長谷川路可・フレスコ画「アフロディーテ」の移設」早稲田大学會津八一記念博物館研究紀要1,1999年。
(*)松本仁助「西洋古典学(ギリシア神話)の授業実践」金沢大学教養教育機構研究調査部報3,1999年。
(*)(参考：ゴードン・トーマス/柴田都志古・田辺希久子訳『イエスを愛した女：マグダラのマリア』光文社,1999 年。)
(*)(参考：中丸明『聖母マリア伝承』文春新書,文藝春秋,1999 年。)
(*)(参考：秦剛平『旧約聖書続編講義：ヘレニズム・ローマ時代のユダヤ文書を読み解く』リトン,1999 年。)
(*)(参考：小林稔「聖書の人間像—イエスが愛していた弟子たち」婦人之友 93(4),1999 年。)
(*)(参考：ロビン・レイン・フォックス/森夏樹訳『非公認版聖書』青土社,1999 年。)
(*)(参考：ロバート・モリソン訳『使徒行書他』幕末邦訳聖書集成 3,ゆまに書房,1999 年。)
(*)(参考：和田幹男「教皇庁聖書委員会 聖書とキリスト論概説」(英知大学)キリスト教文化研究所紀要 15(1),1999 年。)
(*)(参考：加藤隆『新約聖書はなぜギリシア語で書かれたのか』大修館書店,1999 年。)
(*)(参考：加藤隆『「新約聖書」の誕生』講談社選書メチエ,1999 年。)
(*)(参考：松浦義夫「『新約聖書』のキリスト論—ジェイムズ・デニーと対話しつつ」梅光女学院大学論集 31,1999 年。)
(*)山下次郎『塚本虎二「コリント後書講義」を読む』キリスト教図書出版社,1999 年。
(*)(参考：木ノ脇悦郎「世界最初のギリシャ語新約聖書印刷本 エラスムスの Novum Instrumentum」時計台 68,1999 年。)
(*)(参考：大貫隆『グノーシスの神話』岩波書店,1999 年。)
(*)(参考：大貫隆『終わりから今を生きる：姿勢としての終末論』教文館,1999 年。)
(*)(参考：P.G.マックスウェル スチュアート/月森左知訳『ローマ教皇歴代誌』創元社,1999 年。)
(*)(参考：岡道男「「カルネアデースの板」とキケロー」図書 605,1999 年。)
(*)(参考：打桶啓史「アレクサンドリアのクレメンスにおける聖餐」関西学院大学キリスト教と文化研究 1,1999 年。)
(*)(参考：マリーナ・ブルース/浅野幸治訳『古代ユダヤ教へのタイムトラベル—新約聖書の文化的背景』新教出版社,1999 年。)
(*)(参考：原口尚彰「祝福と呪いの言葉：ガラテア書とヘブライ的レトリック」新約学研究 27,1999 年。)
(*)(参考：塚本博「キリスト降誕図からマードレ・ピアへ：礼拝する聖母マリア図の形成と展開(第 50 回美学会全国大会発表要旨)」美學 50(3),1999 年。)
(*)(参考：福屋利信「1.The Great Gatsby における聖母マリア崇敬(日本英文学会第 71 回大会報告)」英文學研究 76(2),1999 年。)

(*)(参考：中西裕子「ユーリアーヌス帝の宗教復興構想のなかの「祭儀」」東京大学宗教学年報 17,1999 年。)
(*)(参考：秋山学『神話・神秘・解釈：予型論的古典解釈と神秘的変容の諸相』東京大学,博士(学術),乙第 14395 号,1999 年。)
(*)(参考：中城進訳「エラスムス著『幼子イエスについての説教』(翻訳 1,2)」教育科学セミナリー30,1999 年/31,2000 年。)
(*)(参考：森一郎「アレントのイエス論(上)」東京女子大学紀要論集 49(2),1999 年。)
(*)(参考：水垣渉「「神の像」と「人間」--古代キリスト教における思想形成の前提と条件について」哲学研究 568,1999 年//570,2000 年。)
(*)(参考：荒井献「キリスト教史学会 50 周年に寄せて」キリスト教史学 53,1999 年。)
(*)(参考：荒井献「国際新約学会第 53 回大会報告」新約学研究 27,1999 年。)
(*)(参考：ノーマン・ターナー/野谷啓二訳「中世のキリスト教―キリスト教信仰はどこまで義務であったか」国際文化学研究 : 神戸大学国際文化学部紀要 11,1999 年。)
(*)安岡章太郎・井上洋治『我等なぜキリスト教徒となりし乎』光文社,1999 年。
(*)(参考:井上洋治『まことの自分を生きる:イエスと日本人の心』ちくま文庫,筑摩書房,1999 年。)
(*)(参考：渡辺金一「ビザンツ学事始め--『ビザンツ研究年報』との出会い」創文 408,1999 年。)
(*)(参考：P.G.マックスウェル・スチュアート/月森左知・菅沼裕乃訳『ローマ教皇』創元社,1999 年。)
(*)岡屋昭雄「遠藤周作論―シンクレティズムの世界」文学と教育 38,1999 年。
(*)加賀乙彦・木崎さと子「遠藤[周作]文学の通奏低温」波 33(4),1999 年。
(*)兼子盾夫「遠藤周作における文学と宗教 I :『沈黙』再考」横浜女子短期大学研究紀要 14,1999 年。
(*)松本鶴雄『神の懲役人：椎名麟三文学と思想』菁柿堂,星雲社(発売),1999 年。
(*)岩下哲典『江戸のナポレオン伝説』中公新書,1999 年。
(*)尾崎修「小関三英についての考察―三英伝の誤伝について」早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊 7,1999 年。
(*)石川潔『ドクトル・ヘボン関連年表』(自家版),1999 年。
(*)B.J.ベッテルハイム訳『使徒行伝』幕末邦訳聖書集成 21,ゆまに書房,1999 年。
(*)(参考：杉崎泰一郎『12 世紀の修道院と社会』原書房,1999 年。)
(*)(参考:秦剛平「聖書とならぶ西欧人の古典―ヨセフス『ユダヤ古誌』の文庫化によせて」ちくま 344,1999 年。)
(*)永井直治譯語解『新契約聖書：聖使徒等の行為語句解』鷲見昌太郎,1999 年。
(*)(参考：アンネ・デ・グラーフ文/ホセ・ベレス・モンテロ絵/竹中弥生訳『福音：イエスの子ども時代』聖書冒険物語 19,子どもの聖書物語,サンパウロ,1999 年。)
(*)(参考：アンネ・デ・グラーフ文/ホセ・ベレス・モンテロ絵/竹中弥生訳『奇跡：心とからだのいやし』聖書冒険物語 20,子どもの聖書物語,サンパウロ,1999 年。)
(*)(参考：アンネ・デ・グラーフ文/ホセ・ベレス・モンテロ絵/竹中弥生訳『イエス：救い主にしたがって』聖書冒険物語 21,子どもの聖書物語,サンパウロ,1999 年。)

(*)(参考：アンネ・デ・グラーフ文/ホセ・ベレス・モンテロ絵/竹中弥生訳『導き：民衆に触れるイエス』聖書冒険物語 22,子どもの聖書物語,サンパウロ,1999 年。)
(*)(参考：アンネ・デ・グラーフ文/ホセ・ベレス・モンテロ絵/竹中弥生訳『教え：いちばん大切な掟』聖書冒険物語 23,子どもの聖書物語,サンパウロ,1999 年。)
(*)(参考：アンネ・デ・グラーフ文/ホセ・ベレス・モンテロ絵/竹中弥生訳『たとえ話：真理を信じる』聖書冒険物語 24,子どもの聖書物語,サンパウロ,1999 年。)
(*)(参考：アンネ・デ・グラーフ文/ホセ・ベレス・モンテロ絵/竹中弥生訳『裏切り：エルサレムで』聖書冒険物語 25,子どもの聖書物語,サンパウロ,1999 年。)
(*)(参考：アンネ・デ・グラーフ文/ホセ・ベレス・モンテロ絵/竹中弥生訳『死：夜明け前の闇』聖書冒険物語 26,子どもの聖書物語,サンパウロ,1999 年。)
(*)(参考：アンネ・デ・グラーフ文/ホセ・ベレス・モンテロ絵/竹中弥生訳『生きる：新しい世界奇跡：心とからだのいやし』聖書冒険物語 27,子どもの聖書物語,サンパウロ,1999 年。)
(*)(参考：アンネ・デ・グラーフ文/ホセ・ベレス・モンテロ絵/竹中弥生訳『使徒の活動：初期の教会』聖書冒険物語 28,子どもの聖書物語,サンパウロ,1999 年。)
(*)(参考：アンネ・デ・グラーフ文/ホセ・ベレス・モンテロ絵/竹中弥生訳『パウロ：最初の宣教師』聖書冒険物語 29,子どもの聖書物語,サンパウロ,1999 年。)
(*)(参考：アンネ・デ・グラーフ文/ホセ・ベレス・モンテロ絵/竹中弥生訳『使命：昨日と明日』聖書冒険物語 30,子どもの聖書物語,サンパウロ,1999 年。)
(*)尾形利雄「箕作麟祥訳述『泰西勧善訓蒙』(明治 4 年)について」比較文化史研究 1,1999 年。
(*)佐藤敏夫『植村正久』(植村正久とその弟子たち 1）新教出版社,1999 年。
(*)(参考：斉藤稔『人文学としてのアルス：西洋における人文主義的芸術の系譜』大阪大学,博士(文学),乙第 7731 号,1999 年。)
(*)(参考：斉藤稔『人文学としてのアルス：西洋における人文主義的芸術の系譜』中央公論美術出版,1999 年。)
(*)(参考：辻成史研究代表・編『美術史における「アルケオロジー」の諸相』科学研究費補助金基礎研究(B2)研究成果報告書 平成 9-10 年度,1999 年。)
(*)(参考：トマス・ホーヴィング/雨沢泰訳『にせもの美術史―メトロポリタン美術館と贋作者たちの頭脳戦』朝日新聞社,1999 年(→2002 年,朝日文庫)。
(*)福部信敏「或るアプローチへの戸惑い：《ヘゲソの鼻》をめぐって」(澤柳大五郎)(跡見女子大学)美学・美術史学科報27,1999年。
(*)(参考：沓掛良彦『詩林逍遙：枯骨閑人東西詩話』大修館書店,1999 年。)
(*)(参考：矢代梓「E.アウエルバッハ『世界文学の文献学』」みすず 41(1),1999 年。)
(*)(参考：中務哲郎研究代表『古代ギリシア・ラテン文学に現れた危機の思想の研究』中務哲郎,科学研究費補助金(基盤研究 B2)研究成果報告書,平成 8-10 年度,1999 年。)
(*)(参考：筒井清忠編『新しい教養を拓く：文明の違いを超えて』(中務哲郎「古代ギリシアの教養:教育･自由･民主政」)岩波ブウクレット 483,岩波書店,1999 年。)
(*)(参考:高橋秀樹「ヘシオドスの叙事詩における賢者観念の比較文化論的特性とその展開」(新潟大学)人文科学研究 100.1999 年。)

(*)(参考：當津武彦『アリストテレス『詩学』の研究--『詩学』の問題と展開(上)』大阪大学出版会,1999 年。)
(*)(参考：渡辺浩司「アリストテレスの『詩学』についての一考察(平成 9 年度博士論文(課程)要旨)」大阪大學文學部紀要 39,1999 年。)
(*)(参考：渡辺浩司「アリストテレスの好きな悲劇--『詩学』第 13 章と第 14 章を中心に」芸術研究 12,1999 年。)
(*)(参考:鴻英良「寸断されたテキスト—オイディプスを超える企て」早稲田文学 24(3),1999 年。)
(*)(参考:高橋道男「ヘレニズムの詩におけるアリュージョンとホメーロス研究(3)」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 31,1999 年。)
(*)(参考：村上靖彦「主観性の現象学的場所論へ向けて：レヴィナス『全体性と無限』とハイッデガーの『アンティゴネー』読解」比較文学・文化論集 16,1999 年。)
(*)(参考:Nicole Loraux/吉武純夫訳「アンティゴネの手(特集 甦るギリシャ)」現代思想 27(9),1999 年。)
(*)(参考：土屋康範「行動の組織体としての戯曲—ギリシア悲劇『オイディプス王』の場合を例にして」文学研究論集,文学・史学・地理学 10,1999 年。)
(*)(参考：ピエル・パオロ・バゾリーニ監督・原案・脚本・音楽/エウリピデスガン作『王女メディア』ビデオレコード,Cinefil imagica,imagica,1999 年。)
(*)(参考：安達まみ「変貌するシンデレラ—アプレイウスの『黄金のろば』から映画『エバー・アフター』まで(特集 グリム童話)」ユリイカ 31(5),1999 年。)
(*)(参考：日向太郎『ウェルギリウス「アエネーイス」における造形芸術作品描写』東京大学,博士(文学),甲第 14705 号,1999 年。)
(*)青柳正規・阿部博之・井村祐夫「座談会 学術の振興(特集 学術の振興—学術審議会答申を受けて)」学術月報 52(10・11),1999 年。
(*)(参考：清瀬卓訳「ルネサンスにおける大プリニウス：(10,12)ヴィンチェンツォ・フェーラ著『15世紀末考證文献学の仕事場--〈博物誌Naturalis historia〉の場合』同『人文主義者』による古典の受容—その過程と問題点』[邦訳 1,2,]』」Cosmica 29,1999年/30,2000年。)
(*)(参考:久志本秀夫『イタリア人文主義とギリシア古典文化』関西学院大学,博士(歴史学),乙第2431号,1999年。)
(*)(参考:ミルチア・エリアーデ/石井忠厚訳訳『ルネサンス哲学』転換期を読む3,未来社,1999 年。)
(*)(参考：秋山学「バシレイオスと「ルネッサンス」--神学と人文主義の関係をめぐって」地中海学研究22,1999年。)
(*)船山信一『大正哲学史研究』こぶし書房,1999年。
(*)(参考：原基晶訳「神曲 地獄篇 第一歌(特集 「中世の文学」)」世界文学90,1999年。)
(*)(参考：原基晶「新たなダンテ像の確立に向けて(特集 「中世の文学」)世界文学90,1999 年。」
(*)(参考：高田康成研究代表『英文学研究における「近代」の言説に関する表象文化論的考察』高田康成,1999年。)
(*)(参考：成田篤彦研究代表『イギリスの〈自己〉像および〈他者〉像構築の歴史的変遷』

成田篤彦,1999年。)
(*)(参考：藤木隆義「Troilus and Criseydeにおける「夜」と「夜明け」」宝塚造形芸術大学紀要13,1999年。)
(*)(参考：日浅和枝「『トロイラスとクレシダ』--サーサイティーズの視点」実践女子大学文学部紀要41,1999年。)
(*)(参考：シェークスピア/坪内逍遙訳『ザ・シェークスピア：全戯曲(全原文+全訳)全一冊』改訂新版,第三書館,1999年。)
(*)(参考：河島敬藏・小宮山天香訳『羅馬盛衰鑑』：沙吉比亞戯曲』シェイクスピア翻訳文学全集5,大空社,1999年。)
(*)(参考：英米文化会編/小野昌他『シェイクスピアの変容力—先行作と改作』彩流社,1999年。)
(*)(参考：齋藤衛『シェイクスピアと聖なる次元—材源からのアプローチ』北星堂書店,1999年。)
(*)(参考：荒井直「地中海のシェイクスピア：qui pro quo の喜劇：プラウトゥスとシェイクスピア」山梨英和短期大学紀要33,1999年。)
(*)(参考：杉田弘子「偉大なる野蛮人,シェークスピア—アンビヴァレントなニーチェの評価」武蔵大学人文学会雑誌 30(4),1999 年。)
(*)(参考：ウイリアム・ブレイク/壽岳文章訳『無心の歌,有心の歌：ブレイク詩集』角川文庫,角川書店,1999 年。)
(*)(参考：海老澤豊「ウィリアム・サマヴィルの『狩猟』：十八世紀英国における農耕詩の系譜(2)」新潟産業大学人文学部紀要 9,1999 年。)
(*)(参考：ダン・シモンズ/酒井昭伸訳『エンディミオン』海外SFノヴェルズ,早川書房,1999年(→2002年,ハヤカワ文庫版。)
(*)(参考：ダン・シモンズ/酒井昭伸訳『エンディミオンの覚醒』海外SFノヴェルズ,早川書房,1999年(→2002年,ハヤカワ文庫版。)
(*)(参考：浅井雅志「ロレンス対プラトン」京都橘女子大学研究紀要26,1999年。)
(*)(参考：松本真治「T.S.エリオットのバイロン論」英語英文学論叢18,1999年。)
(*)(参考：ジョージ・ハーバート/佐藤忠男監修・村上達夫訳『神殿に向かう司祭—または,田舎牧師その性格と聖なる生活の規範』(仙台)石庵敬神会,1999年。)
(*)(参考：今村武「J.M.R.レンツ『新メノーヴァ』における啓蒙主義」ドイツ文學103,1999年。)
(*)(参考：今村武「「十字架にかけられたプロメトイス」--レンツの「ヴェルテル」論」上智大学ドイツ文学論集36,1999年。)
(*)(参考：田中祐介「ウォルター・ペイター「ヴィンケルマン」における「芸術」の位置」一橋論叢122(3),1999年。)
(*)(参考：松本真治「T.S.エリオットのバイロン論」(龍谷大学)英語英文学論叢18,1999年。)
(*)(参考：岡田俊之輔「個性の滅却—T.S.エリオット論」(早稲田大学英文学会)英文学78,1999年。)
(*)(参考：A.E.ハウスマン/森山泰夫・川口昌男訳『ハウスマン全詩集』妖精文庫3,青土社,1999年。)
(*)(参考：丹羽隆子「『燈台へ』における人間・自然・神—ヴァージニア・ウルフとプラトン」(国際基督教大学キリスト教と文化研究所)人文科学研究30,1999

年。)
(*)(参考：浅井英樹『抑制と逸脱：古典主義期を中心としたゲーテの文学作品について』東京大学,博士(文学),甲第13967号,1999年。)
(*)(参考：木村直司「ゲーテと日本人：比較文学的考察」ソフィア48(4),1999年。)
(*)(参考：佐竹正一「ゲーテの《Uber Laokoon》について—テキストの意味(Sinn)と解釈の一問題」アルテスリベラレス64,1999年。)
(*)(参考：佐竹正一「ゲーテの造形芸術論についての一考察—ゲーテ時代におけるラーオコーン・テキスト論のための下準備」アルテスリベラレス65,1999年。)
(*)(参考：坂本貴志「歴史哲学概念としての崇高：シラーの崇高のもつ「破壊的な力」について」山口大学独仏文学21,1999年。)
(*)(参考：森田猛「ブルクハルト文化史学における感性」文化史学55,1999年。)
(*)(参考：新井靖一「ヤーコプ・ブルクハルト『世界史的考察』における「詩歌の歴史的考察のために」」Waseda Blätter 6,1999年。)
(*)(参考：内藤克彦『シラーの美的教養思想：その形成と展開の軌跡』三修社,1999年。)
(*)(参考：内藤克彦「シラーの古典主義期の思想詩の一考察」(南山大学)アカデミア,文学・語学編67,1999年。)
(*)(参考：松山雄三「青年期シラーの自然観について—自然的記号と恣意的記号(小特集 自然と人間･時代(とき)]」東北薬科大学一般教育関係論集 13,1999 年。)
(*)(参考：松山雄三「神・自然・人間(1-4)」プロテウス 4,1999 年/5,2001 年/6,2003 年/7,2004 年。)
(*)(参考：水野清志『ニーチェを読む』南窓社,1999 年。)
(*)(参考：阪本恭子『ニーチェにおける〈子供〉の生成：〈子供〉の道徳・身体・産出』大阪大学,博士(文学),甲第 6581 号,1999 年。)
(*)(参考：後藤雄太『ニヒリズム研究 : 存在と倫理への問い』広島大学,博士(文学),甲第 1950 号,1999 年。)
(*)(参考：神奈川大学人文学研究所編)/小馬徹他『笑いのコスモロジー』(「ツァラトストラ—ニーチェの笑い」)神奈川大学人文学研究叢書 15,勁草書房,1999 年。)
(*)(参考：平木幸二郎「ニーチェのイエス像の形成をめぐって」人文科学論集 人間情報学科編 33,1999 年。)
(*)(参考：瀬口昌久「ニーチェ･フェミニズム･プラトンのディオニュソス」Litteratura20,1999 年。)
(*)(参考：高橋秀誠「若きヘルダーリンによる古代文芸の修辞学的分析--『ソロモンの《箴言》とヘシオドス《仕事と日々》の類似』をめぐって(2)」帝京大学理工学部研究年報・人文篇9,1999年。)
(*)(参考：保坂直之「Wie—比喩のさまざまな働き—ヘルダーリンの悲歌『ディオーティマを思うメノーンの嘆き』」鹿児島工業高等専門学校研究報告34,1999年。)
(*)(参考：武田竜也「フィリードリヒ・ヘルダーリンの『ピンダロス—断片への注解』」Litteratura20,1999年。)
(*)(参考：高橋克己「シュトルベルク弟フリードリヒの『精選プラトーン対話篇』(1795 年—1796 年)：ゲーテやシラー、そしてヘルダーリンとの関連で」高知大学学術研究報告・人文科学 48,1999 年。)
(*)(参考：荒又雄介「「自然の意志に基づく批評家」フーゴ・フォン・ホーフマンスタール

とウォルター・ペイターの作品」Waseda Blätter6,1999 年。)
(*)(参考：小松崎真「ホーフマンスタールに於ける“変身”について：“ナクソスのアリアドネ”考」成城文藝 167,1999 年。)
(*)(参考：徳永雅「モンテーニュと「ソクラテス問題」」神戸海星女子学院大学・短期大学研究紀要 38,1999 年。)
(*)(参考：野村正人「蝉はどこへ行った：ラ・フォンテーヌ,イソップ寓話の形象化」東京農工大学人間と社会 10,1999 年。)
(*)(参考：小倉博孝「ラシーヌ悲劇の文体研究：新たなアプローチの可能性」ソフィア 48(3),1999 年。)
(*)(参考：柳光子「プレイアッド新版『ラシーヌ全集』」Stella18,1999 年。)
(*)(参考：小田桐光隆「消せない『消しゴム』：アラン・ロブ=グリエとオイディプス神話」ソフィア 48(4),1999 年。)
(*)(参考：清水真木「ポール・ヴァレリーのソクラテスと貝殻の問題」地域文化研究 25,1999 年。)
(*)(参考：森本淳生「「危機」のディスクール―ヴァレリーと「ヨーロッパ精神」の隘路」仏文研究 30,1999 年。)
(*)田村道美「野上弥生子とアナトール・フランス：『迷路』と『聖母と軽業師』」香川大学教育学部研究報告,第 1 部 106,1999 年。
(*)田村道美『野上弥生子と「世界名作大観」--野上弥生子における西欧文学受容の一側面』香川大学教育学部研究叢書 7,香川大学教育学部,平成 11 年。
(*)(参考：大橋絵理「フローベール『ヘロディアス』草稿研究：主人公像の造形について」Stella18,1999 年。)
(*)五之治昌比呂「『走れメロス』とディオニュシオス伝説」西洋古典論集 16,1999 年。
(*)(参考：加須屋弘司「「テイル」表現の日英語比較：「走れメロス」での検証」英語英文学研究 5,1999 年。
(*)太宰治『富嶽百景・走れメロス：他八篇』55 版改訳岩波文庫,岩波書店,1999 年。
(*)太宰治『走れメロス：おしゃれ童子』集英社文庫,集英社,1999 年。
(*)塩田勉「太宰治「走れメロス」」文体論研究 45,1999 年。
(*)添野章夫『福原麟太郎論：叡智の文学』光陽社出版,1999 年。
(*)伊藤勲『ペイタリアン西脇順三郎』小沢書店,1999 年。
(*)西脇順三郎著/和田桂子編『西脇順三郎：パイオニアの仕事』[復刻]コレクション・日本シュールレアリスム 4,本の友社,1999 年。)
(*)(参考：亀井高孝『世界史年表・地図』5 版,吉川弘文館,1999 年。
(*)小林雅夫,‘La cultura classica occidentale nelle universita giapponese’Acume52(1),1999 年。
(*)竹内洋『学歴貴族の栄光と挫折』(近代日本の歴史 12)中央公論新社,1999 年。
(*)小山騰『破天荒 明治留学生/列伝』(菊池大麓,末松謙澄)講談社選書メチエ,1999 年。
(*)井田進也「東海散士『佳人之奇遇』合作の背景―慶応義塾図書館所蔵稿本を読む」国文学 解釈と教材の研究 44(12),1999 年。
(*)西田谷洋「東海散士『佳人之奇遇』試論」自由民権 12,1999 年。
(*)井田進也「東海散史『佳人之奇遇』合作の背景―慶應義塾図書館所蔵稿本を読む(特集 新世紀への課題集―未来へのストラテジー)－(歴史・国家・ネイティブ)」国文学 解釈教材の研究 44(12),1999 年。

(*)紅野敏郎「「學燈」を読む(125)野尻抱影・林髞=木々高太郎」學燈 96(7),1999 年。
(*)「村田数之亮先生を偲ぶ」史林 82(2),1999 年。
(*)宇都木真一「村田数之亮氏(1900-1999)(含・略歴)追憶」山岳 94,1999 年。
(*)小野孝尚「清水橘村年譜試案」(木村鷹太郎)茨女国文 11,1999 年。
(*)清永昭次・片山祐三編『余韻：秀村欣二記念誌』秀村千穂子,1999 年。
(*)(參考：冷泉彰彦『トロイの木馬』角川春樹事務所,1999 年。)
(*)(參考：松田武『「グローバル・ヒストリー」の構築と歴史記述の射程』大阪外国語大学 1997 年,(科研費)1999 年。)
(*)(參考：前野弘志『クレールーキアの研究：アテナイ植民活動にみる人的結合の諸相』広島大学,博士(文学),乙第 3243 号,1999 年。)
(*)(參考：小河浩『紀元前四世紀ギリシア世界における傭兵の研究：ポリス的社会規範からのヘレニズム的秩序へ』広島大学,博士(文学),乙第 3194 号,1999 年。)
(*)清永昭次「〈講演〉スパルタとともに」学習院史学 37,1999 年。
(*)(參考：岩田拓郎「「ラケダイモン人のポリス」の結合と解体--「スパルタの王権」ト「ペリオイコイ」」西洋史研究28,1999年。)
(*)(參考：永尾敬子「こだわりワイン塾 シーザーのガリア征服成功の陰にワインあり」世界週報 80(6),1999 年。)
(*)『20 世紀の歴史家たち②[日本編・下]』刀水書房,1999 年(長谷川博隆「村川堅太郎」)。
(*)(參考：松平千秋「ティッサルペルンスのことなど」京都大学学術出版会・西洋古典叢書/クセノポン著・根本英世訳『ギリシア史 2』月報,1999 年。)
(*)(參考：仲内英三「近代ドイツにおける歴史認識の転換—J.ブルクハルトとドイツ歴史主義」早稲田政治経済学雑誌 339,1999 年。)
(*)(參考：佐藤真一「ランケとツキディデス」研究紀要 34,1999 年。)
(*)(參考：桜井万里子『古代ギリシア社会史研究：宗教・女性・他者』東京大学,博士(文学),乙第 14493 号,1999 年。)
(*)(參考：澤田典子『フィリポス2世とギリシア世界』東京大学,博士(文学),甲第14791号,1999 年。)
(*)岩田靖夫「思想の言葉：市民の概念と人間の平等(古代ギリシア史研究の現在)」思想 901,1999 年。
(*)(參考：岡田泰介「ヘレニズム期クレタに於ける隷属民の軍役について」歴史学研究 720,1999 年。)
(*)(參考：神川正彦・川窪啓資編『比較文明学の理論と方法』(東千尋「ギリシアにおける哲学の優位と歴史の蔑視：ヘロドトスを見直す」,三宅正樹「トインビーのルネサンス論をめぐる再検討：中国のルネサンスと西欧の「古代・近代論争」」)講座比較文明 1,朝倉書店,1999 年。)
(*)(參考：『アレクサンダー戦記：Chronology』ソニー・マガジンズ,1999 年。)
(*)(參考：荒俣宏『神王転生』ハルキ文庫,アレクサンダー戦記 1,角川春樹事務所,1999 年。)
(*)(參考：荒俣宏『覇王狂乱』ハルキ文庫,アレクサンダー戦記 2,角川春樹事務所,1999 年。)
(*)桜井万里子「古代ギリシア史研究の新しい潮流(同上)」思想 901,1999 年。
(*)(參考：吉村作治(編集主幹)『クレオパトラ：古代エジプトの終焉』Newtonムック,NEWTON アーキオ 7,ニュートンプレス,1999 年。)
(*)(參考：塩野七生「古代ローマ人はどうやって危機を克服したか(塩野七生と若き過激派

たち)」新潮 45 18(臨増),1999 年。)
(*)(参考 : 塩野七生「総括 ルビコンを渡る勇気(塩野七生と若き過激派たち)」新潮 45 18(臨増),1999 年。)
(*)(参考 : 「『ローマ人の物語』名言録(塩野七生と若き過激派たち)」新潮 45 18(臨増),1999 年。)
(*)「阿川佐和子のこの人に会いたい—塩野七生 世界史に疑問があって古代ローマ史を書き始めました」週刊文春 41(9),1999 年。)
(*)(参考 : 松本典昭「サント・ステファノ騎士団の創立」阪南論集,人文・自然科学編 34(4),1999 年。)
(*)(参考 : 松本典昭「サント・ステファノ騎士団の船舶」阪南論集,人文・自然科学編 35(1),1999 年。)
(*)(参考 : 松本典昭「サント・ステファノ騎士団とレパント海戦」阪南論集,人文・自然科学編 35(2),1999 年。)
(*)(参考 : 栗田伸子「ドゥッガとヌミディア王権」東京学芸大学紀要,第 3 部門 社会科学 50,1999 年。)
(*)(参考 : エドワード・ギボン著/中野好之訳『ギボン自伝』ちくま学芸文庫,筑摩書房,1994 年。)
(*)(参考 : ティエリー・レンツ/福井憲彦監修・遠藤ゆかり訳『ナポレオンの生涯 : ヨーロッパをわが手に』知の再発見双書 84,創元社,1999 年。)
(*)(参考 : 小谷眞男「ヨーロッパ : 近代南欧(1998 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌 108(5),1999 年。)
(*)(参考 : 宮松浩憲「ヨーロッパ : 中世西欧(1998 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌 108(5),1999 年。)
(*)(参考 : 周藤芳幸「ヨーロッパ : 古代 : ギリシア(1998 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌 108(5),1999 年。)
(*)(参考 : 松本宣郎「ヨーロッパ : 古代 : ローマ(1998 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌 108(5),1999 年。)
(*)(参考 : 山田雅道・佐藤育子・高野太輔他「西アジア・北アフリカ(1998 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌 108(5),1999 年。)
(*)(参考 : 佐藤育子「西アジア・北アフリカ : 古代オリエント 2(1998 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌 108(5),1999 年。)
(*)橋場弦「桜井万里子著,『ソクラテスの隣人たち : アテナイにおける市民と非市民』山川出版社,1997」史學雑誌 108(6),1999 年。
(*)(参考 : 岡崎勝世「キリスト教終末論と歴史(小特集 歴史認識における終末論)」歴史学研究 722,1999 年。)
(*)(参考 : 越宏一「ウィーンの《世界史》(Cod2576)における古典古代神話および古代史のミニアチュール」東京芸術大学美術学部紀要 34(欧文編),1999 年。)
(*)(参考 : 新井靖一「ヤーコプ・ブルクハルト『世界史的考察』における「詩歌の歴史的考察のために」について」Waseda Blätter 6,1999 年。)
(*)(参考 : 岡崎勝世「ドイツ啓蒙主義歴史学研究(2-1)」埼玉大学紀要 35(2),1999 年/
(*)(参考 : 尚樹啓太郎『ビザンツ帝国史』東海大学出版会,1999 年(→第 1 版 2 刷)。)
(*)(参考 : 根津由喜夫『ビザンツ幻影の世界帝国』講談社選書メチエ 154,講談社,1999 年。)

(*)(參考：亀井高孝『標準世界史地図・年表』5 版,吉川弘文館,1999 年。)
(*)(參考：大戸千之「セレウコス朝の研究とプロソポグラフィ」立命館文學 558,1999 年。)
(*)(參考：ブラウン・ピーター/後藤篤子訳「古代から中世へ：ポスト帝国期ヨーロッパにおける中心と周縁」史學雜誌 108(6),1999 年。)
(*)(參考：井上政己「テオドール・ド・ベーズのエラスムス観」キリストと世界：東京基督教大学紀要 9,1999 年。)
(*)(參考：木ノ脇悦郎「〈翻訳〉エラスムスの Epicvrevs(1533)について」神學研究 46,1999 年。)
(*)(參考：西村美穂「ラブレーのエラスムスへの思い」文学研究論集(文学・詩学・地理学)10,1999 年。)
(*)(參考：柳沼正弘「エラスムスの思想形成 異教古典の理解を中心に」創価大学大学院紀要 21,1999 年。)
(*)(參考：高田知文「イタリアの喜劇的伝統—もう一つのヨーロッパ演劇史(特集 民衆と喜劇)」悲劇喜劇 52(11)1999 年。)
(*)(參考：若林雅哉「女たちとエウリピデス一派のインターテクスチュアル・ゲーム—アリストパネス『テスモポリアズーサイ』におけるパロディについて」文芸学研究 2,1999 年。)
(*)引地正俊「坪内逍遙のギリシヤ古典劇研究」比較文学年誌 35,1999 年。
(*)木村健治「日本におけるギリシア・ローマ演劇の受容」平成 8 年度-平成 10 年度科学研究費補助金---基礎研究 B2--- 研究成果報告書「日本をめぐる国際関係と言語文化交流の史的研究」,1999 年。
(*)三枝和子「林真須美に捧げる「悪女」の研究—ギリシア悲劇に見る女子供の犯罪」新潮 45 18(3),1999 年。
(*)木坂先生退官記念論文集編集委員会編『日本語表現法論攷』(木坂基「翻訳体としての『伊蘇普物語』の文体」,木坂基「『通俗伊蘇普物語』の文体成立の一側面」)渓水社,1999 年。
(*)イソップ著/大塚光信・来田隆編『エソポのハプラス：本文と総索引』清文堂出版,1999 年。
(*)イソップ原作/川崎洋文『イソップ物語』小学館世界の名作 18,小学館,1999 年。
(*)(參考：イソップ著/中務哲郎訳『イソップ寓話集』岩波文庫,岩波書店,1999 年。)
(*)イソップ原作/杉田豊絵･森山京文『イソップどうわ』えほん世界のおはなし 9,講談社,1999 年。
(*)五島勉『イソップ物語その恐ろしい真相：「オオカミ少年」「アリとキリギリス」--が暗示する人類の未来』祥伝社文庫,祥伝社,1999 年。
(*)(參考：ジョン・シェスカ文；レイン・スミス絵；青山南訳『イカはいかようにしてもイカだ:イソップが生きていたら話したにちがいない,いやらしいたとえ話(みずみずしい教訓つき)』ほるぷ出版,1999 年。)
(*)(參考：野村正人「蝉はどこへ行った：ラ・フォンテーヌ、イソップ寓話の形象化」東京農工大学人間と社会 10,1999 年。)
(*)六角恒廣『漢語師家伝—中国語教育の先人たち』(中田敬義)東方書店,1999 年。
(*)桂川寛「読書ノート 『最後の浮世絵師河鍋暁斉と反骨の美学』及川茂著—転形期を生きぬいた稀才」社会評論 25(2),1999 年。)

(*)西村賀子「イソップ寓話と日本」比較文化研究 18,1999 年。
(*)(参考：佐藤一好『『イソップ寓話』の受容を視座とする明清寓言の思想史的研究』大阪教育大学 1998 年,(科研費)1999 年。)
(*)(参考：佐藤一好「陳春生『東方伊湖(イソップ)』研究序説—キリスト教的性格を中心に」日本アジア言語文化研究 6,1999 年。)
(*)(参考：田嶋祥子「『意拾喩言』と『伊娑菩喩言』」日本女子大学大学院文学研究科紀要 5,1999 年。)
(*)(参考：内田慶市「イソップ東漸：ロバート・トームと『意拾喩言』」關西大學文學論集 49(1),1999 年。)
(*)(参考：佐藤一好「陳春生『東方伊朔(イソップ)』研究序説---キリスト教的性格を中心に」日本アジア言語文化研究所 6,1999 年。)
(*)工藤慶三郎訳『用明天皇職人鑑ほか』(「百合若大臣野守鏡」)近松時代物現代語訳 1,北の街社,1999 年。
(*)手代木俊一『讃美歌・聖歌と日本の近代』音楽之友社,1999 年。
(*)カール・ギュツラフ訳『約翰福音之伝』ゆまに書房,幕末邦訳聖書集成 17,1999 年。
(*)B.J.ベッテルハイム訳『約翰伝福音書』ゆまに書房,幕末邦訳聖書集成 20,1999 年。
(*)田村喜代治・佐藤全監修『ギュツラフ訳聖書と新共同訳聖書対照復刻版：』ピアソン夫妻とゆかりの深い』ピアソン会,1999 年。)
(*)延岡繁「「心の貧しき者」は「幸い」か：聖書和訳についての一考察」人文学部研究論集 2,1999 年。
(*)雨貝行麿『真理への途上：苦渋に満ちた生涯：田中正造・原胤昭・新渡戸稲造』近代文芸社,1999 年。
(*)佐藤三夫「イタリア学会 50 年史文書編纂に寄せて」イタリア学会誌 49,1999 年。
(*)(参考：野上素一「イタリア学会の発足(文集：会員が語る 50 年の歩み(2))」イタリア学会誌 49,1999 年。)
(*)秋山余思「『イタリア会誌』50 年間におけるイタリア語研究の動向(1)わが国最近 50 年間のイタリア語研究」イタリア学会誌 49,1999 年。
(*)古浦敏生「『イタリア会誌』50 年間におけるイタリア語研究の動向(2)わが国最近 50 年間のイタリア語研究」イタリア学会誌 49,1999 年。
(*)岩倉具忠「『イタリア会誌』50 年間におけるダンテ研究の動向(1)1965 年まで(わが国最近 50 年間のイタリア研究)」イタリア学会誌 49,1999 年。
(*)佐藤康邦・清水正之・田中久文編『甦る和辻哲郎：人文科学の再生に向けて』ナカニシヤ出版,叢書倫理学のフロンティア 5,1999 年。
(*)竹長吉正「近代日本における教養論の一斑・桑木厳翼と石山脩平—片山敏彦の教養問題の解明に向けて」埼玉大学(教育学部)人文・社会科学 48(1-1),1999 年
(*)夏目金之助著/山下浩解題『小品・文鳥・夢十夜・硝子戸の中・他』(ケーベル)漱石新聞小説復刻全集 11,ゆまに書房,1999 年。
(*)竹長吉正「桑木厳翼『明治の哲学界』についての一考察」埼玉大学(教育学部)人文・社会科学 48(2),1999 年。
(*)高草茂「児島喜久雄のレオナルド讃--『白樺』が紹介した芸術家」清春 29,1999 年。
(*)(参考：加藤義信『空間表象の発生的研究』名古屋大学,博士(心理学),乙第 5661 号,1999 年。)

(*)(参考：愛媛大学人文学会編『伝統・逸脱・創造：人文科学への招待』清文堂,1999 年。)
(*)(参考：マルティン・ハイデッガー/左近司祥子,ヴィル・クルンカー訳『古代哲学の根本諸概念』ハイデッガー全集 22,創文社,1999 年。)
(*)(参考：小野真人『マルティン・ハイデッガー研究：死と言葉の思索者』京都大学,博士(文学),甲第 8047 号,1999 年。)
(*)酒井潔「三宅剛一(特集「近代日本と西洋思想の受容」)」比較思想研究23,1999年。
(*)岩田靖夫「思想の言葉：市民概念と人間の平等(古代ギリシア研究の現在)」思想901,1999年。
(*)「下村寅太郎の百年」(下村寅太郎『エッセ・ビオグラフィック』みすず書房,下村寅太郎著作集13所収,1999年。)
(*)參考：大出晁「古典期ギリシアにおける正統的知識論の成立：非正統的知識と正統的知識III」創価大学人文論集11,1999年。)
(*)(參考：中川久定編『比較幸福学』国際高等研究所報告書Report 1999,国際高等研究所,1999年。)
(*)(参考：ジャック・シャロン/田中克佳他訳『死と西洋思想』行人社,1999年。)
(*)(参考：内山勝利「解体する自然のさ中なる生—エンペドクレスの「新断片」発見によせて」現代思想27(9),1999年。)
(*)(参考：神崎繁「ドラーマとパトス—悲劇と哲学との関わりをめぐって(同上)」現代思想27(9),1999年。)
(*)(参考：堀江剛「「ともに考える」ための道具：“Socratic Dialogue”の経験から」臨床哲学のメチエ4,1999年。)
(*)(参考：中畑正志「古代キリシア哲学を真剣に考えるための一つの案内」(同上)」現代思想27(9),1999年。)
(*)(參考：木田元「アリストテレス読みとしてのハイデガー(同上)」現代思想27(9),1999年。)
(*)(参考：田崎英明「哲学者の生について(同上)」現代思想27(9),1999年。)
(*)(参考：鈴木照雄『パルメニデス哲学研究—「ある」,その主語,「あるもの(こと)」をめぐって』東海大学出版会,1999年。)
(*)(参考：村越行雄「ソフィスト再評価について」跡見英文学13,1999年。)
(*)(参考：上田徹『プラトン初期対話篇研究』筑波大学,博士(文学),乙第1472号,1999年。)
(*)(参考：神崎繁『プラトンと反遠近法』新書館,1999年。)
(*)(參考：青木正次「プロトタイプ論 自己表出の史的段階像(4)古典古代性・ギリシャ篇〈自己〉を問い表す文体の両端—プラトン『国家』と『オイディプス王』」藤女子大学・藤女子短期大学紀要,第1部36,1999年。)
(*)(参考：松浦明宏『プラトン「ソフィステース」篇における問答法とその原因に関する一考察』東北大学,博士(文学),甲第6635号,1999年。)
(*)(参考：藤澤令夫・田崎英明(対談)「現代を生きるプラトン(特集 甦るギリシャ)」現代思想27(9),1999年。)
(*)(參考：山川偉也・野家敬一(対談)「始源としてのギリシア(同上)」現代思想27(9),1999年。)
(*)(参考：M.C.ヌスバウム/高橋久一郎訳「幸福な生の傷つきやすさ—生きることとその悲惨さ(同上)」現代思想27(9),1999年。)
(*)(参考：竹田青嗣『プラトン入門』ちくま新書,筑摩書房,1999年。)
(*)西研「なぜ,いまプラトンなのか—竹田青嗣著『プラトン入門』を読む」ちくま338,1999

年。
(*)(参考：村上学『こころと思想：プラトン「ゴルギアス」篇におけるソープロシュネー』九州大学,博士(文学),甲第4933号,1999年。)
(*)(参考：山田晶「プラトン『ティマイオス』における創造のミュトスの三つの解釈：アリストテレス,プロティノス,アウグスティヌス」日本學士院紀要55(1),1999年。)
(*)(参考：丹羽隆子「『燈台へ』における人間・自然・神—ヴァージニア・ウルフとプラトン」人文科学研究30,1999年。)
(*)(参考:高橋克己「シュトルベルク弟フリードリヒの『精選プラトーン対話篇』(1795年-1796年)ゲーテ,シラー,そしてヘルダーリンとの関連で」高知大学学術研究報告、人文科学48,1999年。)
(*)(参考：高橋允昭「プラトンとエクリチュール」(親書館)大航海24,1999年。)
(*)(参考：藤澤令夫(インタヴユー)・田崎英明(聞き手)「現代を生きるプラトン」(特集 甦るギリシャ)」現代思想27(9),1999年。)
(*)(参考：松浦明宏『プラトン「ソフィステース」篇における問答法とその原因に関する一考察』東北大学,博士(文学),甲第6635号,1999年。)
(*)(参考：佐々木毅「プラトンと現代」読売新聞4/26-28,1999年。→2000年,講談社学術文庫版『プラトンの呪縛』所収。)
(*)(参考:天野正幸「相対主義は克服できるか:プラトン的観点から」哲学雑誌114(786),1999年。)
(*)(参考：國越道貴『自然の探究におけるアリストテレスの学問方法論に関する研究』九州大学,博士(文学),甲第4583号,1999年。)
(*)(参考：中畑正志「アリストテレス解釈と心理主義的言語観」(科学研究費基礎研究（C）(2)報告書「行為の文法の成立—因果的世界における合理性と規範性」1999年。)
(*)(参考：山本建郎『アリストクセノス哲学の研究：「ハルモニア原論」を中心として』筑波大学,博士(文学),乙第1470号,1999年。)
(*)(参考：佐藤臣彦『身体論序説：アリストテレスを中心に』筑波大学,博士(文学),乙第1480号,1999年。)
(*)(参考：上田昇『ディグナーガ,論理学とアポーハ論：比較論理学研究』(アリストテレス)東京大学,博士(文学),乙第14379号,1999年。)
(*)(参考：左近司祥子「「一者」との一体化」本24(10),1999年。)
(*)(参考：金沢修「思惟する単位--プロティノス「エンネアス」6-6(34)にみられる「数」を巡って」哲学誌41,1999年。)
(*)(参考：武藤整司「至福考：セネカとデカルト」高知大学学術研究報告・人文科学48,1999年。)
(*)(参考:角田幸彦「キケロとヴィーコ—政治と文化の歴史哲学」明治大学教養論集316,1999年。)
(*)久保正彰「高齢化社会とキケロー」図書600,1999年。
(*)(参考：中務哲郎「キケロと記憶術」図書601,1999年。
(*)(参考：高橋宏幸「キケロと喜劇」図書602,1999年。)
(*)大西英文「キケローと西周」図書603,1999年。
(*)(参考：片山英男「キケローを見失うこと」図書604,1999年。)

(*)(参考：高田康成『キケロ—ヨーロッパの知的伝統』岩波新書,岩波書店,1999年。)
(*)「水地宗明教授略歴及び研究業績」皇學館大学文学部紀要38,1999年。)
(*)須田朗「木田元先生を送る」中央大学文学部紀要178,1999年。
(*)(参考：永井明『聖アウグスティヌス』アルパ文庫,サンパウロ,1999 年。)
(*)(参考：岡部由紀子『アウグスティヌスの懐疑論批判』創文社,1999 年。)
(*)(参考：今井正浩「「ハルモニア」と実体—初期アウグスティヌスにおける「魂」論の思想的典拠」明治学院大学キリスト教研究所紀要 31,1999 年。)
(*)(参考：加藤信朗「「鏡を通して(per speculm),「謎のうちに(in aenigmate)—アウグスティヌス『三位一体』第 15 巻における三一論思考の方法をめぐって」(聖心女子大学キリスト教文化研究所)宗教と文化 19,1999 年。)
(*)(参考：テルトゥリアヌス他著/上智大学中世思想研究所編訳『初期ラテン教父』平凡社,1999 年。)
(*)(参考：池上俊一「柔らかな中世哲学(特集 中世との対話)」創文 412,1999 年。)
(*)(参考：K.リーゼンフーバー「現代に生きる中世(同上)」創文 412,1999 年。)
(*)(参考:川添信介「〈職分〉としての哲学と神学—ラテン・アヴェロエス主義瞥見(特集 時代の危機と精神的価値—(共同討議 2：哲学史の時代区分再考)」哲学 50,1999 年。）
(*)(参考：加藤雅人「照明の形而上学—『ガンのヘンリクスの哲学』」創文410,1999年。
(*)坂口ふみ「明暗の交錯—坂口昂吉『中世の人間観と歴史』を読んで」創文 411,1999 年。
(*)岩田靖雄・加藤信朗・宮内璋「書評会 坂口ふみ著『〈個〉の誕生—キリスト教教理をつくった人びと』(1996 年)(含 著者コメント)」中世思想研究 41,1999 年。
(*)(参考：ジャック・ゴフ/鎌田博夫訳『中世の人間：ヨーロッパ人の精神構造と創造』叢書ウンベルシタス,法政大学出版局,1999 年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編『トマス・アクイナスの倫理思想』創文社,上智大学中世思想研究所紀要中世研究 11,1999 年。)
(*)(参考:山田晶『トマス・アクィナスのキリスト論』長崎純心レクチャーズ 1,創文社,1999年。)
(*)(参考：池上俊一『ロマネスク世界論=Romanesque world』名古屋大学出版会,1999 年。)
(*)(参考：中村友紀「ボエティウスと東ゴート・ルネサンス」青山史学 171999 年。)
(*)(参考：津上英輔「ボエーティウス『音楽教程』における musica の概念」(成城大学)美學美術史論集 12,1999 年。)
(*)(参考：北村直昭「ボエティウス『音楽教程』の写本と読書の痕跡—フランス国立図書館蔵写本を中心に」上智史学 44,1999 年。)
(*)(参考：石井雅之「〈論文〉ボエティウスのストア的認識論批判：『哲学の慰め』第 5 巻第 4 詩における」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 31,1999 年。)
(*)(参考：松田禎二「古代ローマの人間観(7)ボエティウスと摂理(長澤敬之助教授退任記念号)」(浜松大学)経営情報学部論集 12(2),1999 年。)
(*)(参考:E.カッシーラ/末吉孝州訳『ルネサンス哲学における個と宇宙』太陽出版,1999 年。)
(*)(参考:ミルチア・エリアーデ/石井忠厚訳『ルネサンス哲学』転換期を読む 3,未来社,1999年。)
(*)(参考:A.シャスレル/小島久和訳『ルネサンスの危機：1520—1600 年』平凡社,1999 年。)
(*)(参考：ホルスト・アルトハウス/山本尤訳『ヘーゲル伝：哲学の英雄時代』法政大学出

版局,1999 年。)
(*)(参考：石原あえか「ゲーテとルクレティウス—ヨーロッパ自然教訓詩の一系譜」慶応義塾大学日吉紀要/ドイツ語学・文学 29,1999 年。)
(*)(参考：山口誠一「ディオニュソス的絶対者の謎—ヘーゲルから東洋への地下通路を踏み歩く」人文科学 14,1999 年。)
(*)(参考：小野真『マルティン・ハイデッガー研究：死と言葉の思索者』京都大学,博士(文学),甲第 8047 号,1999 年。)
(*)(参考：洲崎惠三『トーマス・マン：神話とイロニー』(ソクラテス)筑波大学,博士(文学),乙第 1483 号,1999 年。)
(*)(参考：バンジャマン・コンスタン/大石明夫訳「近代人の自由と比較された古代人の自由について：1819 年パリ王立アテネ学院における講演」中京法学 33(3/4),1999 年。)
(*)(参考：秋山学「バシレイオスと「ルネッサンス」--神学と人文主義の関係をめぐって」地中海学研究 22,1999 年。)
(*)(参考：角田俊男「啓蒙の趣味論と古典古代の道徳—ヒュームの判断力の射程」成城大学経済研究 147,1999 年。)
(*)岩崎允胤「西周と「美妙学説」」東アジア研究23,1999年。
(*)(参考：林田義伸『古代ギリシアにおける翼付ストアの設計法に関する研究』熊本大学,博士(工学),乙第74号,1999年。)
(*)川道麟太郎・橘寺知子「伊東忠太の「建築進化論」について(1)その由来」日本建築学会計画系論文集64(525),1999年。
(*)(参考:千田嘉博「城郭都市形成過程の比較研究」国立歴史民族博物館1998年,(科研費)1999年。)
(*)(参考：伊藤重剛研究代表『西洋建築史における建築技術の比較研究及び地中海建築情報のインターネット化』伊藤重剛,1999年。)
(*)(参考：中川明子・伊藤重剛「デルフイ,アテナ・プロナイア神域の大理石建築のクランプに関する研究」日本建築学会計画系論文集64(515),1999年。)
(*)(参考：市丸雄基・伊藤重剛・中川明子・松本隆行・武田明純・中城貴史「地中海古代都市の研究(97,98)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 38,1999 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・中川明子「地中海古代都市の研究(99)デルフィ」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 38,1999 年。)
(*)(参考：堀内清治「地中海古代都市の研究(100)デルフィ」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 38,1999 年。)
(*)太田愛人『簡素に生きる：シンプルライフの思想』(ケーベル)信濃毎日新聞社,1999年。
(*)樺旦純『イソップ・サイコロジー』幻冬舎,1999年。
(*)(参考：梅田悦夫「世界百一話 ワインと地中海料理がからだによい理由」世界週報 80(6),1999 年。)
(*)(参考：笠覚暁『工学の曙：世界を変えた書物：解題・年表』増補改訂版,金沢工業大学ライブラリーセンター,1999 年(→2006 年,改訂第 3 版)。)
(*)(参考:Fera Vincenzo/清瀬卓訳「ルネサンスにおける大プリニウス(10,12)」Cosmica 29,1999年/30,2000年。)
(*)(参考：澤井繁男「ルネサンスと大砲」学燈96(2),1999年。)

(*)(参考：照山竜生,国松敦,井出進博「寄稿6.2GFLOPSのマイクロプロセサを開発(特集 ゲーム—PS2はトロイの木馬)」日経エレウトロニクス753,1999年。)
(*)(参考：「青写真2001年,ゲーム機を超える(特集 ゲーム—PS2はトロイの木馬)」日経エレウトロニクス753,1999年。)
(*)(参考:「構造変化 次なる技術牽引役(テクノロジ・ドライバ)に[含インタビュー](特集 ゲーム—PS2はトロイの木馬)」日経エレウトロニクス753,1999年。)
(*)(参考：向川惣一「レオナルドの『人体権衡図』に現れた秩序：古代ギリシャの「人体比例論」とウィトルウィウス的人間像」形の科学会誌14(1),1999年。)
(*)(参考：兼子次夫『速記と情報社会：古代ローマから21世紀へ』中公新書,1999年。)
(*)(参考：森田一敏「森田一敏の建築批評(10)プラトンの光明/光の教会 日曜学校」建築技術597,1999年。)
(*)(参考：広井祐三・上江洲香代子・森政博・新城澄枝・安里龍「栄養学年代史：栄養学上重要語の起源」中村学園研究紀要31,1999年。)
(*)(参考：小林剛「トマス・アクイナスにおける天体の可能態性について」中世哲学研究: Veritas18,1999 年。)
(*)(参考：岡本秀一「冬の星座」地中海歴史風土研究誌 9,1999 年。)
(*)(参考：田中一郎「占星術師ガリレイ再論」科学史研究[第 II 期]38(210),1999 年。)
(*)(参考：マギー・ハイド/鏡リュウジ訳『ユングと占星術』青土社,1999年（→2013年,新装版）。)
(*)(参考：今村文彦「堆積学的アプローチによる歴史津波の科学的検証：古代文明滅亡のナゾに迫る」土木学会誌 84(9),1999 年。)
(*)(参考：秋葉一郎「数学における馴染みなさ(1-4)」地中海歴史風土研究誌 9,10,1999 年/11,12,2000 年。)
(*)(参考：三平正明「フレーゲのプラトニズムと数学の応用可能性」哲學50,1999年。)
(*)(参考：有安和人「アルキメデスと近代科学」関西大学哲学19,1999年。)
(*)(参考：菅野礼司「近代科学がなぜ東洋でなく,西洋で誕生したか」比較文明15,1999年。)
(*)(参考：田中敏明「ガリレオとゲーテ—科学史の中のプラトニズム(ゲーテと自然科学)—ゲーテと近大科学)」モルフォロギア21,1999年。)
(*)(参考：石原あえか「マカーリエと天文学者：『遍歴時代』におけるゲーテ時代の数学と天文学(ゲーテと自然科学)—(ゲーテと近代科学)」モルフォロギア21,1999年。)
(*)(参考：吉谷修訳「翻訳 ピエール・ド・クベルタン オリンピアのアイデア—スピーチと論説(1)」身体運動文化研究6(1),1999年。)
(*)(参考:海老沢敏「音楽の歴史と医療(特集 医療と音楽)」日本医師会雑誌122(7),1999年。)
(*)(参考：佐藤素一・石橋正敏・辻正宣「ヒポクラテスは今時代に甦る科(第III報)」耳鼻咽喉科展望42(Supplement 2),1999年。)
(*)(参考：大浜宏文「植物医療と予防医学—古代からゲーテへ(ゲーテと近代科学)」モルフォロギア21,1999年。)
(*)(参考：平尾真智子「ヨハンニティウス(フナイン・イブン・イスハク)の「ガレノスの小治療学入門」におけるnon-naturalsの概念」日本医史学雑誌45(2),1999年。)
(*)(参考：中村泰人「建築学と医学の関わりの光と影」人間と生活環境7(1),1999年。)

(*)(参考：藤正巌「医学と応用物理」応用物理68(8),1999年。)
(*)(参考：二宮陸雄『医学史探訪：医学を変えた100人』日経BP社,日経BP出版センター(発売),1999年。)
(*)(参考：佐藤文男「1-6 主体的学習を保証する学習の条件：プラトン的数学観を有すると思われる生徒への支援の在り方に関する一考察」日本数学教育学会誌,臨時ゾウカン,総会特集号81,1999年。)
(*)竹内靖雄『イソップ寓話の経済倫理学 : 人間と集団をめぐる思考のヒント』PHP文庫,PHP研究所,1999年。
(*)(参考：長尾龍一「マックス・ウェーバー『職業としての学問』」創文412,1999年。)
(*)(参考：白石正樹「資料 社会契約説序説」創価法学29(1・2),1999年。)
(*)(参考：橋場弦「書評 P.J/ローズ,D.M.ルイス『古代ギリシャの国家決議』」(大阪外国語大学言語社会学会)Ex Oriente 2,1999年。)
(*)(参考：橋場弦「説得と民主政：モノからコトバへ」西洋古典學研究47,1999年。)
(*)(参考：橋場弦『西洋古代における贈収賄罪の成立と贈与文化』大阪外国語大学1997年,(科研費)1999年。)
(*)栗原麻子「書評 橋場弦著『丘の上の民主政—古代アテネの実験』」古代文化51(3),1999年。
(*)葛西康徳「書評 橋場弦著「丘の上の民主政—古代アテネの実験」」法制史研究48,1999年。
(*)長谷川岳男「橋場弦著『丘の上の民主政—古代アテネの実験』」歴史評論591,1999年。
(*)(参考：高橋秀樹『アルカイイク期アテナイの「党争」の基礎的考察：分析のための史料検討を中心として』東北大学,博士(文学),乙第7710号,1999年。)
(*)(参考 : 菊谷忠治「古代ギリシャに因み民主主義を想う」地中海歴史風土研究誌9,1999年。)
(*)(参考：桑山由文『ローマ元首制における政治支配層の受容』京都大学,博士(文学),甲第7606号,1999年。)
(*)松本宣郎「祇園寺信彦著「共和政期ローマの国家と社会」」西洋史研究28,1999年。
(*)澁谷浩「三谷隆正における個人と国家」聖学院大学論叢11(2),1999年。
(*)(参考：山本実「ブルクハルトと民主主義(1)」言語文化研究25,1999年。)
(*)(参考 : 鏑木政彦『啓蒙と歴史 : ディルタイとドイツ政治思想』東京大学,博士(法学),甲第14711号,1999年。)
(*)(参考：河島英昭「今,『君主論』を読む(特集 リーダーレス日本)」This is讀賣9(11),1999年。)
(*)(参考：岡本仁宏「トマス・ホッブスの著作文庫について」時計台68,1999年。)
(*)(参考：篠原久「資料解説--トマス・ホッブスの著作文庫から」時計台68,1999年。
(*)(参考 : 鏑木政彦『啓蒙と歴史 : ディルタイとドイツ政治思想』東京大学,博士(法学),甲第14711号,1999年。)
(*)(参考：岩村太郎「リンゼイのキリスト教倫理」(恵泉女学院大学)研究紀要32,1999年。)
(*)(参考：千葉眞「永岡薫編『イギリス・デモクラシーの擁護者A.D.リンゼイ—その人と思想』」思想904,1999年。)
(*)(参考：浅見清武「〈論説〉E.バーカーの国民国家観に関する一考察」成蹊大学法学政治学研究20,1999年。)
(*)(参考：上野愼也「ポリス=市民団—イデオロギー性の証明」地中海学研究22,1999年。)

(*)(参考：藤澤郁夫研究代表『共同体論から見たアリストテレス『政治学』の研究』藤澤郁夫(上越教育大学),1999年。)
(*)(参考：高村学人「ナポレオン期における中間団体政策の変容--「ポリスの法制度」の視点から」(東京大学社会科学研究所)社会科学研究50(6),1999年。)
(*)高井多佳子「東海散史柴四朗の政治思想—政治小説『佳人之奇遇』発刊以前」史窓56,1999年。
(*)大塚桂『多元的国家論の展開：原田鋼・岩崎卯一をめぐって』法律文化社,1999年。
(*)(参考：辻通男「独裁政権の行方—シュレーダーは「トロイの木馬」か」国際情勢：紀要71,1999年。)
(*)(参考：吉田康彦「(ニッポンのここが間違い)朝鮮有事は米国製の「トロイの木馬」」(政界出版社)政界21(5),1999年。)
(*)宮崎誠「宮崎道三郎のドイツ留学について(補遺)」日本大学史紀要6,1999年。
(*)小笠原幹夫「箕作麟祥とフランス法学」(津山洋学史料館編)一滴7,1999年。
(*)小笠原幹夫「箕作麟祥とフランス法学」明治聖徳記念学会紀要28,1999年。
(*)幸崎英男「明治初期の翻訳語「自由」(1,2)—箕作麟祥『リボルチーノ説』から英文テキスト『On Liberty』へ」大阪学院大学通信30(8,9),1999年。
(*)(参考：柴田光蔵『法律ラテン語格言を読み解く：ローマ法へのアプローチ：最終版』京都ゆうら書院,1999年。)
(*)(参考：田村耕一『所有権留保の基礎的研究』広島大学,博士(法学),甲第1961号,1999年。)
(*)(参考：飛世昭裕「研究ノート クヤキウスのパピニアヌス文(学説彙纂第19巻第5章第1法文)釈義—クヤキウスの訴権論研究(1)」帝塚山法学3,1999年。)
(*)岩野英夫「栗生武夫の「法制史」観について—大正の初めから昭和５年頃までの時代を中心にして」阪大法学49(3・4),1999年。
(*)田中成明「加藤新平先生を偲んで」ジュリスト1162,1999年。
(*)平場安治「故加藤新平会員追悼の辞」日本學士院紀要54(2),1999年。
(*)研究代表者・西村重雄『日本民法典諸規定のローマ法的沿革に関する実証的研究』九州大学,科学研究費補助金(基礎研究A1)研究成果報告書,1999年。)
(*)脇田滋「労働者派遣法改悪のポイント--「トロイの木馬」,遂に本性を現わす('99権利討論集会特集号)-(第三分科会コンビニエンス労働力で雇用が変わる?—派遣自由化の中で労働組合はいかに闘うか)」民主法律236,1999年。)

(*)(参考：山口拓美『マルクス経済学と本質主義』(アリストテレス)東北大学,博士(経済学),甲第7116号,2000年。)
(*)原田実『幻想の多元的古代：万世一系イデオロギー超克』批評社,2000年。
(*)川崎真治『司馬遷の『史記』をこえた日本の史記』風涛社,2000年。
(*)Graham Hancock/岸井成格「グラハム・ハンコックが語る超古代文明「縄文」の指紋」サンデー毎日79(27),2000年。)
(*)『危険な歴史書『古史古伝』：“偽書”と“超古代史”の妖しい魔力に迫る!』新人物往来社,別冊歴史読本54,2000年。
(*)吾郷清彦・松本道弘・深見東州『古神道入門：吾郷清彦・松本道弘・深見東州鼎談集』たちばな出版,2000年。
(*)諏訪和夫『六十歳からの世界紀行』文芸社,2000年。

(*)福田秀一「穂積重遠の「欧米留学日記」と「独英観劇日記」」(国際基督教大学キリスト教と文化研究所)人文科学研究31,2000年。
(*)(参考：村上春樹著/張致斌譯『雨天炎天：希臘・土耳其邊境紀行』藍小説927,村上春樹作品集,時報文化出版,2000年。)
(*)(参考：喜多郎,吉村作治「異才対談 古代文明の調べに魅せられて」婦人公論85(14),2000年。)
(*)(参考：伊東俊太郎・牟田口義郎「第6回 中東を知るセミナー—文明をはぐくむ地中海世界」中東研究467,2000年。)
(*)(参考：大城道則『古代エジプト文化の形成と拡散：ナイル世界と東地中海世界』大城道則,2000 年(→2003 年,ミネルヴァ書房)。)
(*)(参考：富塚俊夫「中東への視点(60)ナポレオンのエジプト遠征(1)ボナパルトの「東方の夢」」石油開発時報 125,2000 年。)
(*)(参考：手嶋兼輔『海の文明ギリシア：「知」の交差点としてのエーゲ海』講談社選書メチエ 185,講談社,2000 年。)
(*)陣内秀信・福井憲彦『地中海都市周遊：カラー版』中央公論社,中公新書,2000年。
(*)勝又俊雄『ギリシア都市の歩き方』角川選書,角川書店,2000年。)
(*)周藤芳幸「エーゲ海歴史散歩(3)神話とレジスタンスの島,クレタ」Fujitsu 飛翔 37, 2000年。
(*)周藤芳幸「エーゲ海歴史散歩(4)松林に浮かぶ神殿の島,エギナ」Fujitsu 飛翔 38,2000 年。
(*)周藤芳幸「エーゲ海歴史散歩(5)アポロン神の島,デロス」Fujitsu 飛翔 39,2000 年。
(*)周藤芳幸「エーゲ海歴史散歩(6)ヘルメス神の島,シロス」Fujitsu 飛翔 40,2000 年。
(*)(参考：井口正俊「パウサニアスからニーチェへ,あるいはその逆—忘却された記憶,書かれた物語」西南学院大学国際文化論集15(1),2000年。)
(*)(参考：林學「サドにおける無神論哲学の形成とその展開--『イタリア紀行』から『司祭と臨終の男との対話』へ」徳島文理大学文学論叢17,2000年。)
(*)(参考：池澤夏樹・Yousry Nasralah「特別対談 地中海アイデンティティーの透視図 池澤夏樹ユースリー・ナスラッラー(地中海映画祭記念企画)」国際交流23(1),2000年。)
(*)(参考：平山弓月「『地中海の感興』再読」Mare Nostrum 13,2000年。)
(*)(参考：石塚祐子「死に至る旅：Gissingと地中海」Mare Nostrum 13,2000年。)
(*)(参考：石塚裕子「死に至る旅：Gissing と地中海」Kobe miscellary 25,2000 年。)
(*)(参考：五十嵐三郎「続・犬の歴史と地中海沿岸」地中海歴史風土研究誌11,2000年。)
(*)(参考：金田[カツ]彦「水の時間」地中海歴史風土研究誌11,2000年。)
(*)(参考：四位誠光「「鼎」のゆくえ—古代ギリシアの伝承から」地中海歴史風土研究誌12,2000年。
(*)(参考：四位誠光「「仮面」の意味するもの(アガメムノンの黄金の仮面と能面)」地中海歴史風土研究誌12,2000年。)
(*)(参考：堀幸夫「黄金・乳香・没薬」地中海歴史風土研究誌12,2000年。)
(*)佐々木伸「港の文化史ワインと港」(日本港湾協会)港湾77(876),2000年。
(*)(参考：渡辺厳太郎「エッセイ 健康マネジメント(77)ヘルクラネウム最後の日」金融財政事情 51(32),2000 年。)
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(13)ボルゲエゼの館」本 25(1),2000 年。

(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(14)ナヲネ広場」本 25(2),2000 年。
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(15)ダンテの葉か」本 25(3),2000 年。
(*)森まゆみ「「アンデルセンと鴎外」幻想のイタリア紀行--「即興詩人」を歩く(16)吾友なる貴公子」本 25(4),2000 年。
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(17)猶太街(ゲットオ)」本 25(5),2000 年。
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(18)恋の毒--猶太(ゆだや)をとめ」本 25(6),2000 年。
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(19)ローマの謝肉祭」本 25(7),2000 年。
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(20)ジエスヰタ派学校」本 25(8),2000 年。
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(22)歌女アヌンチヤタ」本 25(10),2000 年。
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(23)コロンナ広場」本 25(11),2000 年。
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(24)フィレンチエ」本 25(12),2000 年。
(*)(参考：高山啓子「社会文化史にみる都市の自然と公園緑地(3,4)古代地中海世界(ギリシャ,ローマ)」緑の読本 53,55,2000 年。)
(*)(参考：島根県並河萬里写真財団『ローマ文明の栄光：鰐淵寺』季刊・文化遺産 9-春・夏号,創英社/三省堂,2000 年。)
(*)河島英昭『ローマ散策』岩波新書,岩波書店,2000 年。)
(*)(参考：久志本秀夫『イタリア人文主義とギリシア古典文化：ルネサンスの古代憧憬』刀水書房,2000 年。)
(*)(参考：ロマノ・ヴルピッタ「古代ローマ人の血がさわぐ」正論332,2000年。)
(*)(参考：片岡慎泰「ゲーテ『イタリア紀行』に関する若干の覚書」學苑 720,2000 年。)
(*)田村道美「野上弥生子とゲーテ(1)：『伊太利紀行』及び『イフヰゲーニエ』」香川大学教育学部研究報告,第 1 部 109,2000 年。
(*)末兼郁二「エーゲ海で人生を学ぶ」暮らしの手帖・第 3 世紀 86,2000 年。
(*)沓掛良彦「イタリアの小島で暮らして―「イル・ポスティーノ」の島での 3 か月」イタリア図書 25,2000 年。
(*)渋谷さちえ『エーゲ海手作りハネムーン：チープに旅してリッチに過ごしたギリシャ・エーゲ海ハネムーン紀行』文芸社,2000 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イスタンブールとトルコの大地』ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社,2000-01 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社,2000-01 年。
(*)地球の歩き方編集室編『フィレンツェとトスカーナ』ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社,2000-01 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ギリシアとエーゲ海の島々&キプロス』ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社,2000-01 年。
(*)岡崎通「医学の歴史を巡るイタリアの旅に参加して(追記)パドヴァ,ボローニャ」日本病院会雑誌 47(9),2000 年。
(*)藤澤正清・星和夫「旅のお誘い--医学の歴史を巡る旅(2)ギリシャ・エーゲ海」日本病院会雑誌 47(9),2000 年。
(*)(参考：イサム エルシャズリ アリ「エジプト・アレキサンドリア市「ヨーロッパ地区」の劣化について」日本建築学会計画系論文集 65(534),2000 年。)
(*)(参考：浜野佐知「〈国交流基金派遣ファイル〉異文化と喧噪のアレキサンドリアを行く」国際交流 22(3),2000 年。)

(*)(参考 : 牟田口義郎「エジプト沖の「沈める都」--21 世紀のポンペイか」季刊アラブ 94,2000 年。)
(*)(参考 : 浅香正「古代ローマ都市ポンペイとシルクロード(シルクロード文化セミナー『シルクロードの歴史を掘る』)シルクロード学研究叢書 2,2000 年。)
(*)(参考 : 『ドゥオモ広場、ピサ ; ポンペイ、エルコラーノおよびトッレ・アヌンツィアータの遺跡』TBS video,世界遺産,TBS(発売),SPE ビジュアルワークス(販売),2000 年。)
(*)(参考 : 片岡重俊「日本のポンペイ—埋没部落・鎌原を訪ねる」骨材資源 31(124),2000 年。)
(*)(参考 : イレッリ ジュゼッピーナ・チェルッリ「ポンペイ考古学の今—21 世紀に向けての展開」美学・美術史学科報 28,2000 年。)
(*)(参考 : 平田隆一「エトルスキ人の遺産(特集 ローマ文明の栄光)—(ローマにおける政治と社会)」文化遺産 9,2000 年。)
(*)(参考 : 平田隆一「エトルスキとギリシア・ローマ」ヨーロッパ研究 3,2000 年。)
(*)平田隆一「著作目録」東北大学史料館 743,2000 年。
(*)(参考 : 與謝野文子「時と言葉(最終回)アルカディアにあなたも行った」月刊百科 453,2000 年。)
(*)(参考 : 木村正俊「「アルカディア」への危険な旅--『聖者の泉』論」(中央大学人文科学研究所)人文研紀要 38,2000 年。)
(*)(参考 : 岩井経男『ローマ時代イタリア都市の研究』ミネルヴァ書房,2000 年。)
(*)(参考 : 岩井経男「円形闘技場(特集 ローマ文明の栄光)—(ローマにおける政治と社会)」文化遺産 9,2000 年。)
(*)(参考 : 浅香正「ローマ史のあゆみ(特集 ローマ文明の栄光)」文化遺産 9,2000 年。)
(*)(参考 : 岩井経男「劇場(特集 ローマ文明の栄光)—(ローマにおける政治と社会)」文化遺産 9,2000 年。)
(*)(参考 : 岩井経男「公共浴場(特集 ローマ文明の栄光)—(ローマにおける政治と社会)」文化遺産 9,2000 年。)
(*)(参考 : 浅香正「水道(特集 ローマ文明の栄光)—(ローマにおける政治と社会)」文化遺産 9,2000 年。)
(*)(参考 : 坂井聰「ヴェスヴィオ火山の噴火とポンペイの発掘(特集 ローマ文明の栄光)—(甦るローマ都市ポンペイ)」文化遺産 9,2000 年。)
(*)(参考 : 坂井聰「ポンペイ人の生活(特集 ローマ文明の栄光)—(甦るローマ都市ポンペイ)」文化遺産 9,2000 年。)
(*)(参考 : 浅香正「別荘(特集 ローマ文明の栄光)—(甦るローマ都市ポンペイ)」文化遺産 9,2000 年。)
(*)(参考 : 浅香正「絵画とモザイク(特集 ローマ文明の栄光)—(甦るローマ都市ポンペイ)」文化遺産9,2000年。)
(*)(参考 : 浅香正「ローマ文明発祥の地—フォルム・ローマーヌムとパラティヌス丘(特集 ローマ文明の栄光)」文化遺産 9,2000 年。)
(*)(参考 : 高田一郎「巡礼 古代ギリシア劇場(4)エフェソスの大通り」悲劇喜劇 53(7),2000 年。)
(*)種田千加子「『アポロの杯』--流血の聖(サン)セバスチャン(没後 30 年三島由紀夫特集)—(いま,三島由紀夫論)」国文学解釈と教材の研究 45(11),2000 年。

(*)柴田勝二「『アポロの杯』--〈観光〉する眼差し(特集 三島由紀夫の世界)—(作品の世界)」国文学解釈と鑑賞 65(11),2000 年。
(*)(参考：塩野七生「書想倶楽部 皇帝が1年に3人も代わったローマ帝国に21世紀の日本が重なって見える」サピオ12(2),2000年。)
(*)井尻千男「「ローマ人への20の質問」塩野七生—諸行無常観への挑戦状」voice 268,2000年。)
(*)鶴田榮一「イタリア紀行・ポンペイ遺跡「秘儀荘」の「ポンペイ・レッド」について」色材協會誌73(6),2000年。
(*)M.S.「A WORD FROM A SENIORポンペイを旅して」OCAJI 24(6),2000年。
(*)(參考 : 小笠原茂介「ポンペイの朱」火年43,2000年(→2001年,『地中海の月』所収,思潮社)。
(*)(參考 : 小笠原茂介「ポンペイの月」火年44,2000年(→2001年,『地中海の月』所収,思潮社)。
(*)(參考 : 大内祐子「クレタとサントリーニ—ギリシヤ神話とアトランティス伝説の残るエーゲ海の島々」Agora日本航空機内誌10(6),2000年。)
(*)阿部暢夫「Charter Cruising in Aegean Sea「エーゲ海寄港」紀行」Kazi：ヨット,モーターボートの雑誌 66(12),2000 年。
(*)(參考：ポニー・キャニオン『エーゲ・アトランティスの遺産』(失われた文明 3,ビデオテープ),2000年。)
(*)(參考：宮崎琢敬『ニュー・アトランティス・ストーリー』東洋出版,2000年。)
(*)森谷公俊「デイヴィッド・トレイル/周藤芳幸・澤田典子・北村陽子訳『シュリーマン—黄金と偽りのトロイ』青木書店」史学雑誌 109(1),2000 年。
(*)(參考：木村政昭『沖縄海底遺跡の謎：世界最古の巨石文明か!?』(「アトランティスとムー伝説」)第三文明社,2000年。)
(*)浜野佐知「〈国際交流基金派遣ファイル〉異文化と喧噪のアレキサンドリアを行く」国際交流22(3),2000年。)
(*)(參考：エルシャズリ アリ イサム「エジプト・アレキサンドリア市「ヨーロッパ地区」の劣化について」日本建築学会計画系論文集65(534),2000年。)
(*)(參考：野町啓『謎の古代都市アレクサンドリア』講談社現代新書,2000 年(→2009 年,講談社学術文庫版『学術都市アレクサンドリア』改題。)
(*)(參考：福井勝義述『どうして人間は多様性を指向してきたのか：家畜・作物における変異の創出と文化』地球環境シリーズ31，地球環境関西フォーラム 2000年。)
(*)(參考：ナイジェル・スパイヴィ/福部信敏訳『ギリシア美術』岩波世界の美術,岩波書店,2000年。)
(*)(參考：水田徹・小川知二研究代表『パルテノン・フリーズ図像データベース(パイロット・プロジェクト)：研究成果報告書』東京学芸大学,2000年。)
(*)(參考：池浩三「パルテノンの多彩装飾：その意味と体系に関する復原的研究」日本建築学会計画系論文集537,2000年。)
(*)(參考：泉田宗健「阿騎野からパルテノンと唐招提寺」淡交54(12),2000年。)
(*)井上章一「南蛮幻想と天守閣(特集 交流する建築)」国際交流22(3),2000年。
(*)(參考 : 古代オリエント博物館・岡山市立オリエント美術館編『壺絵が語る古代ギリシア：愛と生,そして死』Musaea japonica,山川出版社,2000年。)
(*)(參考：木村重信『美術探検』木村重信著作集3,思文閣出版,2000年。)

(*)(参考：木村重信『民族芸術学』木村重信著作集4,思文閣出版,2000年。)
(*)(参考：三神弘彦「レオナルドの初期浮彫《アレキサンダー》(上)」藝叢：筑波大学芸術学研究誌2,2000年。)
(*)横山匡写真・牛山剛文『ガリラヤの春:イエスの足跡を慕って』小堀グラフィックス,2000年。
(*)阿刀田高「トリノ聖骸布の謎を追って—イギリス,ドイツ,イタリア,フランスへの旅」文藝春秋6月号,2000年。
(*)(参考：ナイジェル・スパイヴィ/福部信敏訳『岩波 世界の美術 ギリシャ美術』岩波書店,2000年。)
(*)(参考：ジョン・ラウデン/増田朋幸訳『初期キリスト教美術・ビザンティン美術』岩波書店,2000年。)
(*)(参考:加藤磨珠枝『ローマのサン・クルソーゴノ聖堂初期中世壁画研究』東京芸術大学,博士(美術),甲第118号,2000年。)
(*)(参考：大槻武雄編・喜多章写真『神聖：初期キリスト教・ビザンティン・ロマネスク』コンフォルトギャラリー「建築と都市の美学イタリア」2,建築資料研究社,2000年。)
(*)(参考:アラン・ブレシ,オリヴィエ・フェールターク/高橋清徳編訳『図説 交易のヨーロパ史：物・人・市場・ルート』東洋書林,2000年。)
(*)福部信敏「跡見を去るに際して」(跡見女子大学)美学・美術史学科報28,2000年。
(*)(参考：小林康夫・松浦寿輝編『表象：構造と出来事』(ヴィンケルマン)表象のディスクール1,東京大学出版会,2000年。)
(*)(参考：ミロナーヴァ・イリーナ・ヴラジーミロヴナ,藤澤祐司編『幻の西洋古典とロシア絵画の珠宝展：ニジニ・ノボゴロド国威立美術館所蔵』九州トーアシステム,2000年。)
(*)(参考：工藤庸子「書評(26)マルク・ブロックからプルーストへ 二宮宏之『マルク・ブロックを読む』マルセル・プルースト/鈴木道彦訳『失われた時を求めて』」UP35(4),2000年。)
(*)(参考:鳥越輝昭「近代化からの「避難所」としてのヴェネツィア--「前近代」都市が「過去主義者」たちに意味したもの」人文学研究所報33,2000年。)
(*)(参考：杉浦恭「ヨハン・ホイジンガ研究の動向(1,2)」愛知教育大学研究報告 人文・社会科学49,2000年/50,2001年。)
(*)(参考：與謝野文子「時と言葉（最終回）：アルカディアにあなたも行った」月刊百科453,2000年。)
(*)(参考:ヤーコプ・ブルクハルト著/新井靖一訳『ブルクハルト文化史講演集』筑摩書房,2000年。)
(*)川窪啓資著『トインビーから比較文明へ』近代文藝社(発売),2000年。)
(*)堤彪「書評 川窪啓資著『トインビーから比較文明へ』」比較文明16,2000年。
(*)(参考:間宮茂樹「シュペングラーの文明論と日本(シンポジウム[集中研究会]新世紀への展望—政治・経済・思想・文化の課題)」世界の窓：京都産業大学世界問題研究所所報16,2000年。)
(*)(参考:間宮茂樹「文明論と日本：シュペングラーとトインビー」世界の窓：京都産業大学世界問題研究所所報19,2000年。)

(*)(参考：千田まや「トーマス・マンとシュペングラー(2)1919-20年のマンの「保守性」について」和歌山大学教育学部紀要 人文科学50,2000年。)
(*)(参考：杉村涼子「イタリア,この不気味なるアルカディア：トーマス・マンのイタリア体験と後期作品へのその影響」京都産業大学論集,人文科学系列27,2000年。)
(*)(参考：安田治夫「O.シュペングラー『西洋の没落』の今日的意義(1,2)」基督教論集43,2000年/44,2001年。)
(*)(参考：Kawakubo Keisuke「The Vistas of the Comparative Study of Civilizations」比較文明研究5,2000年。)
(*)(参考：柳父章「「文明」概念の見直しから(特集,どこへ向かう?現代文明)」比較文明16,2000年。)
(*)(参考：木村直司「世界文化としての世界文学」ドイツ語圏研究17,2000年。)
(*)林正子「桑木厳翼の「文化主義」」岐阜大学国語国文学27,2000年。
(*)坂部恵「〈公開講演〉和辻哲郎とヘルダー：精神史的観点から」比較思想研究27,2000年。
(*)坂部恵『和辻哲郎：異文化共生の形』岩波現代文庫,岩波書店,2000年。
(*)舩橋泰彦「和辻「風土」論の批判的検討のつづき」別府大学短期大学部紀要19,2000年。
(*)高澤秀次「海を越えた知識人たち-近代日本の冒険(21)和辻哲郎(上)前近代と近代以を繋ぐ知の課題」発言者71,2000年。
(*)高澤秀次「海を越えた知識人たち-近代日本の冒険(最終回)和辻哲郎(下)日本精神と民族共同体」発言者72,2000年。
(*)小泉信三「澤木梢君—澤木四方吉追悼」三田文学[第3期]（臨増）,2000年。
(*)(参考：石井紫郎研究代表『日本とヨーロッパとの文化：文明交流の歴史とダイナミクス』科学研究費補助金(基盤研究B2)研究成果報告書,平成9-11年度,2000年。)
(*)(参考：山中由里子「欧州イラン学会第四回大会参加記」民博通信87,2000年。)
(*)(参考：前嶋信次著/杉田英明編『イスラムとヨーロッパ』平凡社,東洋文庫673,2000年。)
(*)(参考：ヤーコプ・ブルクハルト/新井靖一訳『ブルクハルト文化史講演集』筑摩書房,2000年。)
(*)(参考：辛島昇文・大村次郷写真『海のシルクロード：中国・泉州からイスタンブールまで』集英社,2000年。)
(*)(参考：長澤和俊「ガンダーラから新疆へ(特集 シルクロード・シリーズ(3)仏教伝来の道)」文化遺産10,2000年。)
(*)浅野和生「トルコ・ゲミレル島の発掘—地中海に浮かぶビザンチン時代のモザイクで飾られた聖堂(シルクロード文化セミナー『シルクロードの歴史を掘る』)シルクロード学研究叢書2,2000年。
(*)(参考：ゴア・リック「震災が生んだアナトリアの歴史」ナショナルジオグラフィック6(7),2000年。)
(*)大村次郷「グラビア 次世代への遺産(16)誰がライオンを殺めたか(トルコ)」中央公論115(8),2000 年。
(*)(参考：吉村純「〈ノート〉地中海を舞台としたビザンツ・モザイクの展開」北海道東海大学紀要,芸術工学部19,2000年。)
(*)熊田由美子「〈論文〉岡倉天心の古代彫刻論—その年代観・作品観の変遷について」(茨城大学)五浦論叢7,2000年。

(*)(参考：大村幸弘『トルコ』世界歴史の旅,山川出版社,2000年。)
(*)(参考：高田修監修著・大村次郷写真・安田治樹編集構成『アジャンタ壁画(1-3)』日本放送出版協会,2000年。)
(*)(参考：立川武蔵文・大村次郷写真『アジャンタとエローラ：インドデカン高原の岩窟寺院と壁画』アジアをゆく,集英社,2000年。)
(*)(参考：辛島昇文・大村次郷写真・安田治樹編集構成『海のシルクロード：中国・泉州からイスタンブールまで』アジアをゆく,集英社,2000年。)
(*)(参考：鈴木革「隊商都市パルミラ—東西を結んだシルクロードのオアシス」ニュートン20(6),2000年。)
(*)シルクロード学研究センター編『ガンダーラにおける仏教寺院の復原と整備に関する調査研究』シルクロード学研究紀要9,2000年。)
(*)東京藝術大学大学美術館編『ガンダーラとシルクロードの美術：平山郁夫コレクション=Gandahra and Silk Road arts：the Hirayama Ikuo collection』朝日新聞社,2000年(→2002年,再展)。)
(*)根津美術館学芸部編『ガンダーラの彫像：仏・菩薩像と浮彫仏伝図』鑑賞シリーズ4,根津美術館,2000年。)
(*)平山郁夫「平山郁夫と文化財赤十字を考える(14)ガンダーラ仏像の発祥地」美術の窓19(6),2000年。)
(*)(参考：「ガンダーラの位置と歴史(ガンダーラにおける仏教寺院の復元と整備に関する調査研究)—(第1章ガンダーラと仏教文化)」シルクロード研究9,2000年。
(*)(参考：西川幸治「第1章ガンダーラと仏教文化(ガンダーラにおける仏教寺院の復元と整備に関する調査研究)」シルクロード研究9,2000年。)
(*)(参考：「ガンダーラ国(ガンダーラにおける仏教寺院の復元と整備に関する調査研究)—(第2章危機に立つガンダーラ仏教遺跡)」シルクロード研究9,2000年。)
(*)(参考：西川幸治「第2章危機に立つガンダーラ仏教遺跡(ガンダーラにおける仏教寺院の復元と整備に関する調査研究)」シルクロード研究9,2000年。)
(*)(参考：Eiji Hattori(trans.from Japanese by Wallace Gray),“Letters from the silk roads : thinking at the crossroads of civilization”,University Press of America,2000.)
(*)(参考：浅野和生「トルコ・ゲミレル島の発掘—地中海に浮かぶビザンチン時代のモザイクで飾られた聖堂(シルクロード文化セミナー『シルクロードの歴史を掘る』)」シルクロード学研究叢書2,2000年。)
(*)(参考：高田康成「表層の彼方(4,5)桜吹雪の散らせかた(上下)—カール・レーヴィットと日本」UP29(6,7),2000年。)
(*)(参考：フェデリコ・ルイジーニ /岡田温司・水野千依訳『女性の美と徳について』ルネサンスの女性論3,ありな書房,2000年。)
(*)(参考：Mike Storry＆Peter Childs（ed. with notes by Keiji Notani）“British cultural identities”The sign of a good book,Eihosha,2000.）
(*)(参考：鈴木俊幸編『書籍文化史(1-19)』鈴木俊幸,2000年。)
(*)(参考：『工業大辞書・第5巻』(同文館大正2年刊の複製)日本図書センター,2000年。)
(*)(参考：山川浩司『国際薬学史：東と西の医薬文明史』南江堂,2000年。)
(*)(参考：綾部恒雄他編『世界民族事典』弘文堂,2000年。)
(*)(参考：的場昭弘編『新マルクス事典』弘文堂,2000年。)

(*)(参考：キリスト新聞社編『新約聖書ギリシア語逆引辞典』キリスト新聞社,2000年。)
(*)(参考：玉川直重・田主忠信監修『新約聖書ギリシア語辞典』キリスト新聞社,2000年。)
(*)(参考：鷲田小彌太『倫理がわかる事典：読みこなし使いこなし自由自在』日本実業出版社,2000年。)
(*)(参考：梅田修『ヨーロッパ人名語源辞典』大修館書店,2000年。)
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典6』ナダ出版センター,2000年。
----「加藤咄堂」
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典7』ナダ出版センター,2000年。
----「兼常清佐」「鹿子木員信」」「神谷美恵子」「唐木順三」「河合栄治郎」「菅円吉」
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典8』ナダ出版センター,2000年。
----「北昤吉」「木下杢太郎」「紀平正美」「木村亀二」「木村謹治」「木村荘八」
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典9』ナダ出版センター,2000年。
----「呉茂一」「高坂正顕」「高山岩男」「児島喜久雄」
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典10』ナダ出版センター,2000年。
----「小宮豊隆」「三枝博音」「佐伯好郎」「笹川臨風」
(*)(参考：ナダ出版センター編『翻訳と歴史：文学・社会・書誌』ナダ出版センター,2000年。)
(*)(参考：周藤芳幸・村田奈々子『ギリシアを知る事典』東京堂出版,2000年。)
(*)(参考：玉川直重著・田主忠信監修『新約聖書ギリシア語辞典』改訂新版,キリスト新聞社,2000年。)
(*)(参考：キリスト新聞社編『新約聖書ギリシア語逆引辞典』キリスト新聞社,2000年。)
(*)(参考：マシュー・バンソン/長崎恵子・長崎麻子訳『ローマ教皇事典』三交社,2000年。)
(*)(参考：ジェームズ・R.ルイス/鏡リュウジ訳『占星術百科』原書房,2000年。)
(*)朴均轍「『哲学字彙』における漢文注記の訳語」國語學51(2),2000年。
(*)(参考:光延明洋「英語引用句辞典さまざま(特集 辞書をめぐる7つの闘い)」言語29(5),2000年。)
(*)神山重彦「『物語要素事典』の方法(1)」(百合若大臣)愛知学院大学文学部紀要 30,2000年。
(*)(参考：高橋康也他編『研究社シェイクスピア辞典』研究社出版,2000年。)
(*)(参考：R.E.アシャー,クリスファー・モーズレイ編/福井正子訳『世界民族言語地図』東洋書林,2000年。)
(*)(参考：小野茂『フィロロジスト：言葉・歴史・テクスト』南雲堂,2000年。)
(*)北野雅弘「古代ギリシア研究におけるパソコン利用」群馬県立女子大学紀要 21,2000 年。
(*)古谷大輔「西洋史研究者のためのパソコン活用入門：西洋史研究と Windows 2000」クリオ=Clio 14,2000 年。)

(*)(参考：市川三喜・高津春繁他著『研究社世界言語概説』研究社,2000 年。)
(*)(参考：松下正幸『医語の起源とラテン語動詞』榮光堂,2000 年。)
(*)(参考 : 逸身喜一郎『ラテン語のはなし : 通読できるラテン語文法』大修館書店,2000 年。)
(*)(参考：クルト・アーラントギリシア語半監修/荒井献・川島貞雄日本語監修『四福音書対観表・ギリシア語—日本語』日本基督教団出版局,2000 年。)
(*)(参考：橋本滋男『新約聖書ギリシア語入門』出版者不明,2000 年。)
(*)(参考：クルト・アーラントギリシア語版監修；荒井献・川島貞雄日本語版監修『四福音書対観表：ギリシア語—日本語』日本基督教団出版局,2000 年。)
(*)(参考 : 鵜丹谷三千代「「主の祈り」のギリシア語原典に関する一考察—ギリシア語本文決定と聖書の写本の問題を中心に」比較文化研究年報(11・12),2000 年。)
(*)(参考：田中穂積「ファイラカ(クウェート)におけるヘレニズム時代の遺跡とギリシア語碑文」人文論究 49(4),2000 年。)
(*)(参考：岩村清太「カロリング・ルネサンスとアルクインの自由学芸観(1,2)」大東文化大学紀要,社会科学 38,2000 年/39,2001 年。)
(*)(参考：長谷川和子「『トロイラスとクリセイダ』と 17 世紀翻訳本における史的現在の比較研究」大手前大学社会文化学部論集 1,2000 年。)
(*)(参考：村田奈々子「〈研究会講演要旨〉近代ギリシア語とギリシア語：「言葉」に関することわざ」学習院大学言語共同研究所紀要24,2000年。)
(*)(参考：上野貴史「「古典語的合成語」の語形成過程について」イタリア学会誌50,2000 年。)
(*)(参考：亀山健吉『言葉と世界—ヴィルヘルム・フォン・フンボルト研究』法政大学出版局,2000年。)
(*)(参考：青山学院大学総合研究所人文学系研究センター編『言語文化の東と西』研究叢書 14, 青山学院大学総合研究所人文学系研究センター,2000 年。)
(*)(参考 : 池端次郎「世紀転換期仏エリート大学の形態的変容—パリ大学人の内的差異化の観点から」広島大学大学院教育学研究科紀要,教育人間科学関連領域 49, 2000 年。)
(*)(参考：三ツ木道夫「翻訳と歴史(2)：フリードリッヒ・シュライエルマッハーの翻訳論」言語文化2(3),2000年。)
(*)(参考 : Philippe Lacoue-Labarthe/野崎歓・伊藤綾訳「ロマン主義と翻訳 翻訳と歴史(特集 ロマン主義—美と政治)」現代詩手帖43(9),2000年。)
(*)(参考：ロジェ・シャルティエ,グリエルモ・カヴァッロ/田村綾他訳『読むことの歴史：ヨーロッパ読書史』大修館書店,2000年。)
(*)(参考 : G.スタイナー/伊藤誓訳『言葉への情熱』法政大学出版局,叢書ウニベルシタス,2000 年。)
(*)(参考：四方田犬彦『マルコ・ポーロと書物』柵出版社,2000年。)
(*)(参考：米井力也『キリシタンの文学：殉教をうながす声』京都大学,博士（文学）,乙第10610号,2000年。)
(*)中務哲郎「西洋古典学の風景」文学1-4,2000年。
(*)(参考：内山勝利・中務哲郎・南川高志・高橋宏幸『西洋古典叢書がわかる』(非売品) 京都大学学術出版会,2000 年。）

(*)(参考：中谷英明「古典学研究—現代における古典学の役割」(古典学研究 現代における古典学の役割)学術月報 53(11),2000 年。)
(*)(参考：月村辰雄「古典擁護のディスクール」(古典学研究 現代における古典学の役割)学術月報 53(11),2000 年。)
(*)(参考：内山勝利「古代ギリシア・ローマ世界とわれわれ」(古典学研究 現代における古典学の役割)学術月報 53(11),2000 年。)
(*)(参考：木田章義「日本における古典(の受容)」(古典学研究 現代における古典学の役割学術月報 53(11),2000 年。)
(*)(参考：関根清三「古典を解釈するということ—聖書に例を拾いつつ」(古典学研究 現代における古典学の役割学術月報 53(11),2000 年。)
(*)(参考：徳永宗雄「古典学とコンピューター」(古典学研究 現代における古典学の役割学術月報 53(11),2000 年。)
(*)(参考：中島秀人「自然科学における古典学」(古典学研究 現代における古典学の役割学術月報 53(11),2000 年。)
(*)池田知久・石井紫郎・内山勝利・中川久定・中谷英明・吉川弘行「座談会・現代における古典学の役割」(古典学研究 同上)学術月報 53(11),2000 年。
(*)柳沼重剛「[西洋古典]学会設立前後のことども(日本西洋古典学会創立 50 周年特別講演会)」思想 910,2000 年。
(*)藤澤令夫「西洋古典学と、哲学の再生—回顧と展望(日本西洋古典学会創立 50 周年特別講演会)」思想 910,2000年。
(*)原卓也・西永良成編『翻訳百年：外国文学と日本の近代』大修館書店,2000年。)
(*)芳賀徹編『翻訳と日本文化』シリーズ国際交流5,国際文化交流推進協会,山川出版社(発売),2000年．)
(*)(参考：辻由美「『戦後「翻訳」風雲録—翻訳者が神々だった時代』宮田昇—神々とつき合った記録」季刊・本とコンピュータ13,2000年。)
(*)原田祐司「前野良沢『西洋画賛文稿』のラテン語原典」大阪大学言語文化部・言語文化研究所「言語文化研究」26,2000年。
(*)幸田正孝「江馬細香の「蘭化先生伝」」豊田工業高等専門学校研究紀要33,2000年。
(*)李慶国「《佳人之奇遇》原版本的抹消及試訳」清末小説から 56,2000 年。
(*)川戸道昭・榊原貴教編『明治翻訳文学全集—新聞雑誌編 50(イタリア文学集)』大空社,2000年。
(*)安形静男『原胤昭に関する文献目録』出版者不明,2000年。
(*)「渡部昇一教授略歴・主要業績(渡部昇一教授退職記念)」英文学と英語青年37,2000年。
(*)(参考：E.M.Crak「第11回国際古典学会連合[FIEC]に出席して」西洋古典學研究48,2000年。)
(*)中西恭子「松村一男著『神話学講義』」(東京大学比較文学・文化研究会)比較文学・文化論集17,2000年。
(*)(参考：石澤光子「神話の中の草花」地中海歴史風土研究誌11,2000年。)
(*)(参考:篠井保彦「神託と予測(11)存在の耐えられない軽さ」地中海歴史風土研究誌11,2000年。)
(*)(参考：篠井保彦「神託と予測(12)来世について」地中海歴史風土研究誌12,2000年。)
(*)(参考：四位誠光「「鼎」のゆくえ—古代ギリシアの伝承から」地中海歴史風土研究誌

11,2000年。)
(*)(参考：松田紹典「蛙の浄土(10)古典古代ギリシア人の心象の巨川」聖和学園短期大学紀要37,2000年。)
(*)(参考：秋山学『神話・神秘・解釈：予型論的古典解釈と神秘的変容の諸相』東京大学,博士(学術),乙第14395号,2000年。)
(*)(参考：山下秀智『宗教的実存の展開』(プラトン)京都大学,博士(文学),乙第10286号,2000年。)
(*)(参考：共立女子大学総合文化研究所編『西欧における古代神話・文学の伝承と再創造：共同研究』研究叢書18,共立女子大学総合文化研究所,2000年。)
----- 中山恒夫「「ヘルクレースのカークス退治」の予型論的解釈をめぐって」
大島利治「「崇高さ」という文学理念について」
塩川浩子「「捨てられた女」の歌」
鈴木国男「オルフェウスの諸相」
木戸雅子「ビザンティンの月暦画」
池上公平「ヴェネツィア絵画における「風景」」
(*)(参考：小泉紀子「文学にみる障害者像(49)グスターフ・シュヴァーブ,角信雄訳『ギリシア・ローマ神話(2)「トロイヤ戦争」』ノーマライゼーション20(6),2000年。)
(*)(参考：コリーン・マクロウ/高瀬素子訳『トロイアの歌：ギリシア神話物語』日本放送出版協会,2000年。)
(*)(参考：岩見隆・大川京・木下雄介・高田康一・野元晋・堀江聡共訳「アラビア語版『アリストテレスの神学』第7章」人文科学15,2000年。)
(*)(参考：岩見隆・大川京・木下雄介・高田康一・野元晋・堀江聡共訳「アラビア語版『アリストテレスの神学』第8・第9章」慶應義塾大学言語文化研究所紀要32,2000年。)
(*)(参考：鵜丹谷三千代「初期キリスト教史における「主の祈り」の発展をめぐる問題—ディダケー版とマタイ版の「主の祈り」のギリシア語原典本文の異同を中心に」ヨーロッパ文化史研究1,2000年。)
(*)(参考：R.E.アシャー,クリストファー・モーズレイ編/福井正子訳『世界民族言語地図』東洋書林,2000年。)
(*)(参考：福井勝義述『どうして人間は多様性を指向してきたか：家畜・作物における変異の創出と文化』地球環境シリーズ31,地球環境関西フォーラム,2000年。)
(*)(参考：ミルチア・エリアーデ/中村恭子訳『世界宗教史(全8巻)』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2000年。)
(*)(参考：奥山倫明『エリアーデ宗教学の展開：比較・歴史・解釈』南山大学学術叢書,刀水書房,2000年。)
(*)(参考：國松萌美「〈研究速報〉人間,象徴,神話：エリアーデとカッシーラ」姫路人間学研究3(1),2000年。)
(*)(参考：新田一郎「神々と宗教儀礼(特集 ローマ文明の栄光)—(ローマにおける政治と社会)」文化遺産 9,2000 年。)
(*)(参考：佐藤郁之「神話理解における字義通りの意味と象徴表現—パウル・ティリッヒと

ミルチャ・エリアーデの象徴解釈」宗教学・比較思想學論集3,2000年。)
(*)(參考：岡田恵美子・岡田直次編『西アジアの神話』国際理解にやくだつ世界の神話3,ポプラ社, 2000年。)
(*)(參考：小中千昭他/津原泰水監修『十二宮12幻想』エニックス,2000年。)
(*)小泉紀子「文学にみる障害者像(49)グスターフ・シュヴァーブ著,角信雄訳『ギリシア・ローマ神話2』「トロイヤ戦争」」ノーマライゼーション20(6),2000年。)
(*)(參考：吉田敦彦監修・編『ギリシャの神話』国際理解にやくだつ世界の神話4,ポプラ社,2000年。)
(*)(參考：里中満智子『至高神ゼウス』マンガ・ギリシア神話2,中央公論新社,2000年。)
(*)(參考：里中満智子『冥界の王ハデス』マンガ・ギリシア神話3,中央公論新社,2000年。)
(*)(參考：里中満智子『オイディプスの悲劇』マンガ・ギリシア神話4,中央公論新社,2000年。)
(*)(參考：里中満智子『英雄ヘラクレス伝説』マンガ・ギリシア神話5,中央公論新社,2000年。)
(*)(參考：里中満智子『王女メディアの激情』マンガ・ギリシア神6,中央公論新社,2000年。)
(*)(參考：里中満智子『トロイの木馬』マンガ・ギリシア神話7,中央公論新社,2000年。)
(*)(參考：櫻井悠美「古代ギリシアのアマゾン伝説に就いて」新潟史学44,2000年。)
(*)(參考：コリーン・マクロウ/高瀬素子訳『トロイアの歌：ギリシア神話物語』日本放送出版協会,2000年。)
(*)(參考：マイケル・マクローン/甲斐明子・大津哲子訳『ギリシア・ローマ神話』知のカタログ,創元社,2000年。)
(*)(參考：阿刀田高『私のギリシャ神話』日本放送出版協会,2000年。)
(*)(參考：阿刀田高・里中満智子「対談 ギリシャ神話の世界」新刊展望44(4),2000年。)
(*)(參考：清水文子「レーザー冷却と「シジフォス」」ソフィア 49(3),2000 年。)
(*)城戸朱理「都市のオルフェウス—講演・討議を終えて(特集「戦後詩」の彼方へ—田村隆一をいかに超えるか)—(田村隆一と戦後詩)」現代詩手帖43(11),2000年。)
(*)(參考：中山典夫「アフロディテ・パンデモス」藝叢：筑波大学芸術学研究誌3,2000年。)
(*)(參考：「展覧会紹介 創立百周年記念展—ヴィーナスたちの100年(特集 創立百周年を迎えた女子美術大学)」月刊美術26(10),2002年。)
(*)(參考：宮下実「構図で分析!!世界の名画(15)サンドロ・ボッティチェリ「ヴィーナスの誕生」」美術の窓19(10),2000年。)
(*)(參考：浅若みどり「ベラスケスの裸婦《鏡を見るヴィーナス》」名古屋短期大学研究紀要38,2000年。)
(*)村田喜代子『夜のヴィーナス』新潮社,2000年。
(*)(參考：毛利晶「地域統合と伝説：ローマによるラティウム・カンパーニア地域の統合とアエネーアス伝説」(濱下武志・川北稔編『支配の地域史』所収,地域の世界史11,山川出版社,2000年。)
(*)(參考：新名隆志「十字架にかけられた者対ディオニュソス—ニーチェ思想における苦悩の解釈」哲学51,2000年。)
(*)(參考：木村正俊「「アルカディア」への危険な旅--『聖者の泉』論」人文研究紀要38,2000年。)
(*)(參考：渡邉浩司「老賢者の日欧比較—メルランとアルタヒコをめぐって」人文研紀要

39,2000年。)
(*)(参考：鵜丹谷三千代「初期キリスト教史における「主の祈り」の発展をめぐる問題—ディダケー版とマタイ版の「主の祈り」のギリシア語原典本文の異同を中心に」ヨーロッパ文化史研究1,2000年。)
(*)(参考：伊吹雄「パウロにおける自然の神認識(ロマ1,20f)」について)」聖心女子大学論集94,2000年。)
(*)(参考：高橋三郎『ロマ書講義』高橋三郎著作集 6,2000 年。)
(*)(参考：高橋三郎『わが師・わが友』高橋三郎著作集 11,2000 年。)
(*)(参考：Gary W.Barkley「ニカヤ前後のキリスト論考察—コロサイ書 1 章 15 節~20 説を巡るアレキサンドリアとアンテナの釈義を巡って」西南学院大学神学論集 57(2),2000 年。)
(*)(参考：小林康夫責任編集『「光」の解読』宗教への問い,岩波書店,2000 年。)
(*)(参考：大貫隆『グノーシス考』岩波書店,2000年。)
(*)(参考：藤原久仁子「「マリア出現」に見られる物語性(1,2)」地中海歴史風土研究誌12,2000年/13,2001年。)
(*)(参考：山内淳「マグダラのマリア伝説の秘密』」日本大学芸術学部紀要 32,2000 年。)
(*)(参考：西川宏人「涙にくれるマグダラのマリア：詩人・司教 A.ゴドーの「悔悛の女」像」ソフィア 49(1),2000 年。)
(*)(参考：内藤道雄『聖母マリアの系譜』八坂書房,2000 年。)
(*)(参考：クラウス・シュライナー/内藤道雄訳『マリア：処女・母親・女主人』叢書ウニヴェルシタス 700,法政大学出版局,2000 年。)
(*)(参考：小出龍太郎「ウォーレス,「ベン・ハー」の深層構造(1)ベン・ハーとメッサラの対比」浪速短期大学紀要 24,2000 年。)
(*)(参考：サム・ジンバリスト製作/ウィリアム・ワイラー監督/ルー・ウォーレス原作『ベン・ハー』特別版,ワーナー・ホーム・ビデオ(発売),2000 年。)
(*)(参考：中西恭子「ユーリアーヌス帝の宗教復興構想のなかの「祭儀」」東京大学宗教学年報 17,2000 年。)
(*)(参考：ノーマン・ターナー/野谷啓二訳「キリスト教対「異教」?：ヨーロッパ中世について考える」国際文化学研究：神戸大学国際文化学部紀要 14,2000 年。)
(*)(参考：杉村貞臣『ビザンティン帝国皇帝交代問題』杉村節子,2000 年。)
(*)(参考：鈴木範久監修/月本昭男・佐藤研編『聖書と日本人』大明堂,宝積比較宗教・文化叢書 7,2000 年。)
(*)(参考：カルル・クラウスベルク/加藤哲弘訳『〈ウィーン創世記〉：絵で読む聖書の物語』作品とコンテクスト,三元社,2000 年。)
(*)(参考：西岡文彦『名画で見る聖書の世界』講談社,Kodansha sophia books,2000 年。)
(*)(参考：曽野綾子『現代に生きる聖書』日本放送協会,NHK 人間講座 2000,2000 年(→2001年,再版)。)
(*)(参考：井上洋治他『イエス：22 人の証言』日本基督教団出版局,2000 年。)
(*)(参考：K.ベルガー/土岐健治訳『死海写本とイエス』教文館,2000 年。)
(*)(参考：高橋三郎『ロマ書講義』高橋三郎著作集 6,教文館,2000 年。)
(*)(参考：ドナルド・シニア/宮崎起世子訳『ルカ福音書におけるイエスの受難』ドン・

ボスコ社,2000 年。)
(*)(参考 : W.Gary Barkley「ニカヤ前後のキリスト論考察—コロサイ書 1 章 15 節~20 節を巡るアレキサンドリアとアンテナの釈義を巡って」西南学院大学神学論集 57(2),2000 年。)
(*)(参考 : 小林茂男「ギュツラフ訳聖書(新約福音之傳)についての研究 : ピアソン宣教師夫妻とゆかり深い」ピアソン会,2000 年。)
(*)(参考 : ギュツラフ「約翰上中下書」(復刻)新教出版社,2000 年。)
(*)(参考 : ギュツラフ「約翰福音之傳」(復刻)新教出版社,2000 年。
(*)ギュツラフ/秋山憲兄解説『約翰福音之傳約翰上中下書解説』新教出版社,2000 年。
(*)(参考 : 小河陽「聖書解釈をめぐる最近の動向から : 適切な聖書解釈はあり得るのか」キリスト教学 42,2000 年。)
(*)(参考 : 内村公義「神学と心理学との対話 : キリスト教のヘレニズム化をめぐって」長崎ウエスレヤン短期大学紀要 254,2000 年。)
(*)(参考 : 梅本直人「翻訳と註解 アレクサンドリアのフィロン著「フラックス」」基督教論集 43,2000 年。)
(*)(参考 : 秋山学「地中海学の可能性と教父たち--『教父と古典解釈』に寄せて」創文 7,2000 年。)
(*)(参考 : 山邊光宏「シュプランガー宗教思想の基礎研究」安田女子大学大学院文学研究科紀要 教育学専攻 合冊6,2000年。)
(*)(参考 : ノーマン・サイクス/野谷啓二訳『イングランド文化と宗教伝統 : 近代文化形成の原動力となったキリスト教』開文社出版,2000 年。)
(*)松浦勝男「遠藤周作に見る「文化受容」--キリスト教的価値とその土着化について」比較文明 16,2000 年。
(*)荒瀬康成「遠藤周作『沈黙』におけるロドリゴの最期の信仰--「切支丹屋敷役人日記」に描かれた作者の文学的意図」阪神近代文学研究 3,2000 年。
(*)佐伯彰一「『沈黙』への船出(特集 遠藤周作新発見)」新潮 97(6),2000 年。
(*)高山鉄男「〈講演〉モーリヤックと遠藤周作(最終講義)」三田文学 79(61),2000 年。
(*)荒瀬康成「遠藤周作『沈黙』における一典拠について」京都語文 5,2000 年。
(*)兼子盾夫「遠藤周作における文学と宗教 II : 『留学』--新 j の自己を求めて」横浜女子短期大学研究紀要 15,2000 年。
(*)Montero Ascension「遠藤周作の作品--「私にとって神とは」における日本人とキリスト教について」金城学院大学論集・人文科学編33,2000年。
(*)冨吉建周『聖書のイエスと椎名麟三』創言社,2000年(→2005年,増補版)。
(*)(参考 : A.O.ラヴジョイ/内藤健二訳『存在の大いなる連鎖』晶文社,2000年。)
(*)(参考 : 若桑みどり『象徴としての女性像』筑摩書房,2000年。)
(*)(参考 : 小林康夫・松浦寿輝編『表象 : 構造と出来事』(ヴィンケルマン)東京大学出版会,表象のディスクール,2000年。)
(*)イソップ[Aesop]原作『イソップ物語=The fables of Aesop』Ruby books26,講談社インターナショナル,2000年。
(*)イソップ原著/武藤禎夫校注『伊曽保物語 : 万治絵入本』岩波文庫,岩波書店,2000年。
(*)河野與一編訳『イソップのお話』新版,岩波少年文庫20,岩波書店,2000年。
(*)小沢正作 ; 佐々木マキ絵『たぬきのイソップ』改訂,カラー版・創作えばなし8,ポプラ

社,2000年。
(*)にしうちとしおえ『よくばりないぬ：イソップものがたり』はじめてのめいさくしかけえほん21,学習研究社,2000年。
(*)ながさきくにこえ『きたかぜとたいよう：イソップものがたり』はじめてのめいさくしかけえほん23,学習研究社,2000年。
(*)かいちとおるえ『うさぎとかめ：イソップものがたり』はじめてのめいさくしかけえほん24,学習研究社,2000年。
(*)ふじえだりゅうじえ『ありときりぎりす：イソップものがたり』はじめてのめいさくしかけえほん25,学習研究社,2000年。
(*)山本夏彦『完本・文語文』(伊曾保物語)文藝春秋社,2000 年(→2003 年,文春文庫)。
(*)加藤諦三『どう生きるか：イソップ物語がおしえる人間の生き方』大和書房,2000 年。
(*)松原健二「西洋童話の翻訳に見る異文化—「アリとキリギリス」と「シンデレラ物語」を題材として」松商短大論叢 49,2000 年。
(*)武藤禎夫校注『伊曽保物語--万治絵入本』岩波文庫,岩波書店,2000 年。
(*)イソップ/河野与一編訳『イソップのお話』新版,岩波少年文庫,岩波書店,2000 年。)
(*)松村恒「[河鍋]暁斎伊蘇普絵の詞の出典」大妻比較文化：大妻女子大学比較文化学部紀要 1,2000 年。
(*)高良竹美監修・西日本新聞社編『福岡県の昔ばなし：お話の舞台を訪ねて』(百合若)西日本新聞社,2000 年。
(*)江口孝夫「川柳狂句の史伝物(4)ねこかし百合若」公評 37(11),2000 年。
(*)吉見孝夫「二段なぞ資料、狩野文庫蔵『新橋御伽なぞつくし』」(百合若大臣)札幌国語研究 5,2000 年。
(*)(参考：逸見喜一郎『ギリシャ・ローマ文学：韻文の系譜』放送大学教材,放送大学教育振興会,2000 年。)
(*)(参考：松田明『音楽の笑い』大阪芸術大学,博士(芸術文化学),乙第 2,号,2000 年。)
(*)(参考：ジョン・バートン,ケネス・カヴァンダー編・英訳/吉田美枝訳『グリークス：10本のギリシャ劇によるひとつの物語』劇書房,構想社(発売),新装,2000 年。)
(*)(参考：青山学院大学総合研究所人文学系研究センター編『演劇とその成立要素』研究叢書 15, 青山学院大学総合研究所人文学系研究センター,2000 年。)
(*)(参考:カール･マンツィウス/飯塚友一郎訳『世界演劇史(6 巻･別巻)』復刻版,本の友社,2000年。)
(*)(参考：當津武彦『アリストテレス『詩学』の研究—『詩学』の背景と後代』大阪大学出版会,2000 年（←1999 年,同『アリストテレス『詩学』の研究(上)『詩学』の問題と展開』）。
(*)(参考:瀬野晶子「アンティゴネー･モチーフ—ブレヒトの『アンティゴネーモデル 1948』を中心に」独語独文学研究年報 27,2000 年。)
(*)(参考：Ruperti Bonaventura「二つの視点から見た西洋文化と能(1)ギリシア悲劇における素材と能における本説」総合芸術としての能 6,2000 年。
(*)(参考：水崎博明「資料 希臘悲劇各劇の構成と要約—その 1,アイスキュロスの作品」福岡大学人文論叢 31(4),2000 年。)
(*)(参考：水崎博明「資料 希臘悲劇各劇の構成と要約—その 2,ソポクレスの作品」福岡大学人文論叢 32(3),2000 年。)

(*)(参考：日向太郎「ウェルギリウスのキルケ--『アエネーイス』第 7 巻にみられる戦争の潜在的徴候」地中海学研究 23,2000 年。)
(*)(参考：五之治昌比呂『ペトロニウス『サテュリコン』研究』京都大学,博士(文学),甲第 8605 号,2000 年。)
(*)(参考：石原久子「ヴァージルに魅せられた詩人たち—ドライデンとトムソンの場合」上智短期大学紀要 20,2000 年。)
(*)(参考：平井隆「アレグザアンダー・ポープの『牧歌』研究：ウェルギリウスの『牧歌』との比較を中心として」山口県立大学国際文化学部紀要 6,2000 年。)
(*)(参考：山路朝彦「19 世紀におけるアンティゴネー受容」獨協大学ドイツ学研究 44,2000 年。)
(*)岩田高明「山村才助の西洋教育情報」安田女子大学大学院文学研究科紀要・教育学専攻 6,2000 年。
(*)森一貫「〈資料紹介〉高野長英「西洋学師ノ説」」日本文化史研究 32,2000 年。
(*)(参考：岩崎允胤「西周と近代的諸学の体系的摂取」東アジア研究 28,,2000 年。
(*)藤田正勝編『知の座標軸 日本における哲学の形成とその可能性』晃洋書房,2000 年。
(*)(参考：纐纈暢彦『老子・荘子の奥義：西洋哲学と東洋哲学の統一』文芸社,2000 年。)
(*)(参考：有田和夫研究代表『近代中国思想における西洋思想諸概念の受容と変容に関する総合的研究』科学研究補助金基礎研究(B2)研究成果報告書 平成 9-11 年度,有田和夫,2000 年。)
(*)江口孝夫「川柳狂句の史伝物(4)ねこかし百合若」公評 37(11),2000 年。
(*)梅田隆行「曉烏敏の研究」近代仏教 7,2000 年。
(*)森常治「比較文学の行方—上田敏そして島田謹二の仕事からの出発」比較文学年誌 36,2000 年。
(*)九里順子「上田敏における「趣味」と芸術観」日本文学ノート 35,2000 年。
(*)本田康雄「『経国美談』と『京わらんべ』--稗史と戯作」学校法人佐藤栄学園埼玉短期大学研究紀要 9,2000 年。
(*)山田謙次「『文学界』における〈狂〉の意識—戸川秋骨と星野天知の場合」比治山大学現代文化学部紀要 7,2000 年。
(*)向坂ゆき・小島恒久「思い出あれこれ(11)石井柏亭のこと」社会主義 450,2000 年。
(*)小泉信三「追悼・澤木梢君：澤木四方吉追悼」三田文學 2000(臨増),2000 年。
(*)村松晋『三谷隆正の研究』筑波大学,博士(文学),甲第 2221 号,2000 年。)
(*)柴田隆行「哲学館(東洋大學)における哲学史講義」(井上円了)井上円了センター年報 9,2000 年。
(*)(参考：E.M.Craik「The 11th Congress of the FIEC(第 11 回国際西洋古典学会連合 FIEC に出席して)」西洋古典學研究 48,2000 年。）
(*)入江隆則「私の出会った文人たち(1)」(松平千秋)三省堂ブックレット 142,2000 年。
(*)小川正廣「岡道男先生を偲んで」京大以文会「以文」43,2000 年。
(*)小川正廣「岡道男先生と『オイディプス王』」西洋古典論集別冊「岡道男先生追悼録」,2000 年。
(*)中務哲郎「岡道男先生訪問記」西洋古典論集別冊「(同上)」,2000 年。
(*)中務哲郎「岡道男先生と『キケロー選集』」キケロー選集 6 月報,岩波書店,2000 年。
(*)「平田隆一教授略年譜主要業績(壹岐泰彦教授・平田隆一教授退官記念号)」ヨーロッパ

研究 3,2000 年。)
(*)(参考：平田隆一「エトルスキとギリシア・ローマ」ヨーロッパ研究 3,2000 年。)
(*)(参考：平田隆一「エトルスキ人の遺産(特集 ローマ文明の栄光)」文化遺産 9,2000 年。)
(*)(参考：マーク・ドマンソン/浅野敏夫訳『反抗する文学―プラトンからデリダまでの哲学を敵として』法政大学出版局,2000 年。)
(*)柴田勝二「沓掛良彦『文酒閑話』(平凡社,2000 年)[沓掛良彦「モリエールは実はコルネイユか：ピエール・ルイスと「モリエール=コルネイユ」論争]『詩女神(ミューズ)の娘たち：女性詩人、十七人の肖像』」総合文化研究所 4,2000 年。)
(*)沓掛良彦『文酒閑話』平凡社,2000 年。
(*)(参考：沓掛良彦『詩女神(ミューズ)の娘たち：女性詩人,十七の肖像』未知谷,2000 年。)
(*)沓掛良彦「語学春秋」図書 620,2000 年。
(*)(参考：沓掛良彦「ピエール・ルイスと三人の芸術家たち―ヴァレリー、ワイルド、ドビュッシーとの交友をめぐって」すばる 22(7),2000 年。)
(*)(参考：E.ガレン/澤井繁男訳『ルネサンス文化史：ある史的肖像』中央公論新社,2000 年。)
(*)(参考：澤井繁男『魔術と錬金術』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2000 年。)
(*)(参考：澤井繁男「京都大学文学部長への公開質問状―門前払いされた学位論文」諸君 32(3),2000 年。)
(*)(参考：澤井繁男「門前払いされた学位論文--京都大学文学部長への反論」諸君 32(5),2000 年。)
(*)(参考：樺山紘一・高田勇・村上陽一郎編『ノストラダムスとルネサンス』岩波書店,2000 年。)
(*)田村道美「野上弥生子と『ゲスタ・ロマノールム』」香川大学教育学部研究報告,第 1 部 109,2000 年。
(*)(参考：ダンテ/原光訳『神曲地獄』沖積舎,2000 年。)
(*)(参考：平川祐弘『ダンテの地獄を読む』河出書房)新社,2000 年。)
(*)(参考：永井豪『ダンテ「神曲」』永井豪の世界文学講座,講談社,2000 年。)
(*)(参考：ボッカチョ/河島英昭訳『デカメロン』講談社文芸文庫,講談社,2000 年。)
(*)(参考：高橋朋子「ブロンズィーノとティツィアーノ―〈愛のアレゴリー〉と〈ダナエ〉をめぐって」女子美術大学研究紀要 31,2000 年。)
(*)(参考：竹田篤司『フランス的人間―モンテーニュ・デカルト・パスカル』論創社,2000 年。)
(*)(参考：荒木昭太郎『モンテーニュ―初代エッセイストの問いかけ』中公新書,中央公論社,2000 年。)
(*)(参考：徳永雅「『エセー』におけるソクラテス像：モンテーニュの人相学」フランス語フランス文学研究 77,2000 年。)
(*)(参考：杉田弘子「スタンダール・ニーチェ生涯の最も美しき偶然」武蔵大学人文学会雑誌 31(4),2000 年。)
(*)(参考：立川信子「アンドレ・ジッドとヴァレリーの「古典的なるもの」について」Gallia 40,2000 年。)
(*)(参考：金崎春幸「アモル神話と『ボヴァリー夫人』」Gallia 40,2000 年。)
(*)粕谷祐己「スタンダールの『恋愛論』と日本」Gallia 40,2000 年。
(*)(参考：高木信宏「V.デル・リット編『スタンダール総合書誌』」Stella 19,2000 年。)

(*)(参考：柳光子「アドリアン・バイエのラシヌ評」Stella 19,2000 年。)
(*)(参考：惟村宣明「アルベール・カミュの大学卒業論文「キリスト教形而上学とネオ・プラトニズム」について」文明研究 19,2000 年。)
(*)(参考：小川伸子『表現不可能なものの表現：初期ドイツ・ロマン派における哲学・批評・文学』大阪大学,博士(文学),甲第7139号,2000年。)
(*)(参考：佐藤研一『劇作家J.M.R.レンツの研究：啓蒙期ドイツにおける市民的知識人』東北大学,博士(文学),乙第7963号,2000年。)
(*)(参考：喜多村得也・高橋克己・山元惇二・田中周一・石橋道大「I.ゲーテと古典古代：彫琢された形式,かつ生ける自己形成」ドイツ文学 104,2000 年。)
(*)(参考：佐竹正一「レッシングの Helena 論とゲーテの Helena 論について：レッシングとゲーテの場合」Artes liberales y 66,2000 年。)
(*)(参考：佐竹正一「ゲーテ時代の Laokoon テキストの一断面：の Helena 論について：ラーオコーンテキストの関連で」Artes liberales y 67,2000 年。)
(*)(参考：松山雄三「Fr.シラーのカリアス書簡について--「美は現象における自由である」」東北薬科大学一般教育関係論 14,2000 年。)
(*)津田保夫「内藤克彦(著)『シラーの美的教養思想：その形成と展開の軌跡』」(日本独文学会)ドイツ文学 105,2000 年。
(*)(参考：内藤克彦「シラーの詩『喜びに』について」(南山大学)アカデミア,文学・語学編 68,2000 年。)
(*)(参考：渡邊直樹「レッシングとイエルーザレム」外国文学 49,2000 年。)
(*)(参考：山元哲朗「ヘルダーリンの若き日の旅より」大阪産業大学論集・人文科学編 100,2000 年。)
(*)(参考：高橋克己「ヘルダーリンの「ヘラス的アポロ的結晶」」人文科学研究 7,2000 年。)
(*)(参考：小磯仁『ヘルダーリン』清水書院,人と思想 171,2000 年。)
(*)(参考：仲正昌樹『「隠れたる神」の痕跡：ドイツ近代の成立とヘルダリン』世界書院,2000 年。)
(*)(参考：大野真「チャンドスの河：ホフマンスタールから三島由紀夫へ(2)」大妻女子大学紀要・文系 32,2000 年。)
(*)(参考：吉田達「シェリングにおける〈瞬間〉の問題—1792 年 8 月のプラトン研究帖の解読を中心に」ヨーロッパ研究 3,2000 年。)
(*)(参考：森一郎「〈いのち〉のどこが大切なのか?：古代ギリシア人の死生観への一瞥」(ブルクハルト)東京女子大学紀要論集 50(2),2000 年。)
(*)(参考：清水紀子「ニーチェとレトリック」上智大学ドイツ文学論集 37,2000 年。)
(*)(参考：マンフレッド・リーデル/恒吉良隆訳『ニーチェ思想の歪曲：受容をめぐる 100 のドラマ』白水社,2000 年。)
(*)(参考：海老久人「3.英語とナショナリズム：チョーサーのトロイ主義をめぐって(日本英文学会第 72 回大会報告)」英文学研究 77(2),2000 年。)
(*)(参考：内藤亮一「『トロイラスとクレシダ』における価値と自己」富山大学教育学部紀要 54,2000 年。)
(*)(参考：川本真由子『シェイクスピアの作品研究—虚と実の織模様』(京都)行路社,2000 年。)
(*)(参考：今西雅章・尾崎寄春・齋藤衛編『シェイクスピアを学ぶ人のために』世界思想

社,2000 年。)
(*)(参考：阿刀田高『シェイクスピアを楽しむために』新潮社,2000 年。)
(*)福島昇「『ジュリアス・シーザー』の翻訳(その 2)河島敬蔵『羅馬盛衰鑑』について」(日本英語文化学会)異文化の諸相 21,2000 年。
(*)(参考：近藤益世『シェイクスピアの世界』近代文芸社,2000 年。)
(*)(参考：出口典雄監修『一冊でわかるシェイクスピアの作品ガイド 37』成美堂出版,2000 年。)
(*)(参考：高田康成「座談会 英文学におけるチョーサー像の展開(特集,チョーサー没後 600 年。)」英語青年 145(3),2000 年。)
(*)(参考：海老久人「3.英語とナショナリズム：チョーサーのトロイ主義をめぐって(日本英文学会第 72 回大会報告)」英文学研究 77(2),2001 年。)
(*)(参考：狐野利久「ブレイクにとってのゴシック芸術：ギリシャ文化とゴシック文化の対立の中から生まれる晋の芸術」札幌大谷短期大学紀要 31,2000 年。)
(*)(参考：和気節子「S.T.コールリッジと内奥からのプラトン的啓示(1-3)」論集 46(39,47(2),2000 年/48(1),2001 年。)
(*)(参考：石原久子「Wordsworth による古典文学翻訳の試み」英米文学評論 46,2000 年。)
(*)(参考：安川昱『エズラ・パウンドとギリシア悲劇：エズラ・パウンド研究』関西大学出版部,關西大學東西學術研究所研究叢刊 13,2000 年。)
(*)(参考：藤原雅子「『エンディミオン』序文—初稿と第 2 稿をめぐって」イギリス・ロマン派研究 24,2000 年。)
(*)(参考：松家理恵『キーツとアポローン：ジョン・キーツの詩とギリシア・ローマ神話』英宝社,2000 年。)
(*)(参考：片岡由美子・大橋勇「野蛮な寓話：W.B.イェイツの「レダと白鳥」に読む現代」愛知県立看護大学紀要 6,2000 年。)
(*)(参考：内藤満「マシュー・アーノルドの文芸批評：ハイネとバイロン」佛教大學大學院紀要 28,2000 年。)
(*)(参考：池谷敏忠「『本居宣長』における伝統論—小林秀雄と T.S.エリオット」Evergreen 22,2000 年。)
(*)(参考：長澤順治「T.S.エリオット「伝統と個人の才能」の再考(長澤順治教授退任記念号)」大東文化大学英米文学論叢 31,2000 年。)
(*)(参考：Fukunaga Shinntetsu「Dorothea’s Honeymooon in Rome—Abegininng of Her Enlight–ment」ジョージ・エリオット研究 2,2000 年。)
(*)(参考：玉井暲『イギリス世紀末文学におけるテクストと言語：ペイターとワイルド』大阪大学,博士(文学),乙第 7989 号,2000 年。)
(*)伴悦「泡鳴とニーチェ」国文学論輯 21,2000 年。
(*)十枝内康隆「ペイターと三島由紀夫をめぐる比較文学的研究のための序説：三島由紀夫におけるペイター受容の年代的変遷とその特質について」文化と言語：札幌大学外国語学部紀要 53,2000 年。)
(*)江藤正顕「三島由紀夫とペトロニウス—羅馬の悪趣味」(日本近代文学会九州支部)近代文学論集 27,2000 年。
(*)宮崎正弘「三島由紀夫とギリシア—自ら肉体を獲得するや,三島はギリシアから日本へくるりと転換した」日本文化 3,2000 年。

(*)浅田彰「手帖 2000 われもまたアルカディアに—近代建築の「天人五衰」(13)」波 34(10),2000 年.
(*)(参考 : 四方田犬彦「ハイスクール・ブッキッッシュライフ(16,17)ジョウス『ユリシーズ』本(9,10),2000 年。)
(*)工藤美代子『野の人 : 會津八一』新潮社,2000 年。
(*)関川夏央「私のために奔走せよ—工藤美代子『野の人 : 會津八一』を読む」波 34(8),2000 年。
(*)太宰治『斜陽 : 人間失格・桜桃 : 走れメロス : 外七篇』文春文庫,文藝春秋,2000 年。
(*)日置俊次「太宰治試論「走れメロス」をめぐって」東京医科歯科大学教養部研究紀要 30,2000 年。
(*)和田悦子「「走れメロス」論—読みの制度を超えて」文月 5,2000 年。
(*)(参考 : 神崎繁「遠近法の〈神話〉—思想の虚焦点としての」談 64,2000 年。
(*)(参考 : 清瀬卓訳「ルネサンスにおける大プリニウス : (11)ヴィンチェンツォ・フェーラ著『人文主義者』による古典の受容—その過程と問題点』」研究論叢 55,2000 年。)
(*)(参考 : 清瀬卓訳「ルネサンスにおける大プリニウス : (13,14)ジョヴァンニ・ポッツイ著『バルバロと人文主義者たち』[ジョヴァンニ・ポッツイ編]『エルモラーオ・バルバロ校訂大プリニウスならびにポンポーニウス・メラ』第1巻所収[邦訳1,2]」研究論叢56,2000年/57,2001年。)
(*)(参考 : 清瀬卓訳「ルネサンスにおける大プリニウス : (15,16)ヴィンチェンツォ・フェーラ著『ポリツイアーノとバルバロと大プリニウスと』[ミケーラ・マランゴーニ&マンリオ・パストーレ・ストッキ編『バルバロ家の人々--歴史に映じたヴェネツィアの家族』所収][邦訳1,2]」研究論叢58,2000年/59,2001年。)
(*)(参考 : A.シャステル/阿部成樹訳『ルネサンスの神話 : 1420~1520 年』平凡社,2000 年。
(*)(参考 : E.ガレン/澤井繁男訳『ルネサンス文化史』平凡社,2000 年。)
(*)(参考 : 桂芳樹「ルネサンスの宇宙論と占星術」(樺山紘一他編『ノストラダムスとルネサンス』所収,岩波書店,2000 年。)
(*)(参考 : 池上俊一『万能人とメディチ家の世紀』講談社選書メチエ,2000 年(→2007 年,改題『イタリア・ルネサンス再考—花の都とアルベルティ』講談社学術文庫)。
(*)澤井繁男「京都大学文学部長への公開質問状—門前払いされた学位論文」諸君 32(3),2000 年。)
(*)澤井繁男「門前払いされた学位論 京都大学文学部長への反論」諸君 32(5),2000 年。)
(*)(参考 : 藤本恭比古「アンドレ・ブルトンのテイデ山登攀(1)霊的登山の系譜 ペトラルカの場合(詩とイメージ研究)」福岡大学総合研究所報 241,2000 年。)
(*)(参考 : 日向太郎「ジョヴァンニ・ボッカチオ作『フィアンメッタの哀歌』における運命の女神」イタリア学会誌 50,2000 年。)
(*)(参考 : 関三雄「トマス・モアあるいは「文化批判」としてのユートピア思想 : 人類学的思想史とロマン主義の反=汎歴史」山陽学園短期大学紀要 31,2000 年。)
(*)(参考 : 金子晴勇『エラスムスとルター : 16 世紀宗教改革の二つの道』聖学院大学出版部,聖学院大学研究叢書 3,2000 年。)

(*)(参考：倉松功「エラスムスとルターの自由意志論争―その接点と分岐点」ヨーロッパ文化史研究 1,2000 年。)
(*)(参考 : 倉松功「発題 3 エラスムスとルターの自由意志論争(シンポジウム キリスト教史における神学論争)」日本の神学 39,2000 年。)
(*)(参考 : 木ノ脇悦郎「エラスムスの Cyclops sive Evangeliophorus(1529)について」関西学院大学キリスト教と文化研究 2,2000 年。)
(*)(参考：木ノ脇悦郎「クレメンス 7 世とエラスムス([キリスト教史学会]第 50 回大会プログラム･研究発表要旨(於サンリフレ函館))」キリスト教史学 54,2000 年。)
(*)(参考：北原和夫「ヨーロッパにおける教育の実験：「エラスムス」計画」日本物理學会誌 55(8),2000 年。)
(*)(参考：静岡県立大学国際関係学部編『制度と逸脱』(金井寿男「エラスムスとルターの自由意志論争：論叢の背景と展開」)国際関係学双書 17, 静岡県立大学国際関係学部,2000 年。)
(*)(参考：赤塚行雄『人文学のプロレゴメナ』エラスムス叢書 1,風媒社,2000 年。)
(*)(参考：倉持三郎「オットー・グロース伝(2)：ユング,バッハオーフェン,D.H.ロレンスとの関連」東京家政大学研究紀要 1,人文社会科学 40,2000 年。)
(*)(参考：奥田敏広「母権論とロマン主義、あるいは歴史と神話―ボイムラーによるバッハオーフェン受容をめぐって」ドイツ文学研究 45,2000 年。)
(*)(参考 : 左近司祥子「悪なんて知らない,と猫は言う(1-12)」本 25(3-12),2000 年/26(1,2),2001 年。)
(*)(参考：左近司祥子「常識?非常識?(特集 常識を育む)」教育と道徳 48(10),2000 年。)
(*)(参考 : B.チェントローネ/齋藤憲訳『ピュタゴラス派―その生と哲学』岩波書店,2000 年。)
(*)(参考：後藤淳『ヘラクレイトスにおける「プシュケー論」への展開』平成 11 年度文部省助成出版,渓水社,2000 年。)
(*)(参考：山川偉也「パルメニデスとナーガールジュナ(龍樹)」(桃山学院大学総合研究所)国際文化論集 21,2000 年(→2010 年,『ギリシア思想のオデュッセイア』所収,世界思想社。)
(*)(参考 : 高畠純夫研究代表『アンティフォン研究』高畠純夫,科学研究費補助金基盤研究(C2)研究成果報告書,平成 9-11 年度。)
(*)(参考 : 冨田恭彦『科学哲学者柏木達彦の春麗ら(うらら) : 心の哲学,言語哲学,そして生きるということ,の巻』ナカニシヤ出版,2000 年。)
(*)(参考：三嶋輝夫『規範と意味―ソクラテスと現代』東海大学出版部,2000 年。)
(*)(参考：米澤茂『ソクラテス研究序説』東海大学出版会,2000 年。)
(*)(参考：北畠知量『ソクラテス―魂の教育について』高文堂出版社,2000 年。)
(*)(参考：名倉靜一『知恵の探究―ソクラテスが黙秘したこと』人文書院,2000 年。)
(*)(参考：瀬口昌久『プラトンの心身論の展開：反二元論的世界像の探究』京都大学,博士(文学),乙第 10434 号,2000 年。)
(*)(参考：朴一功『プラトンの倫理学』京都大学,博士(文学),乙第 10492 号,2000 年。)
(*)(参考：山田晶「プラトン『ティマイオス』における創造のミュトスの三つの解釈：アリストテレス,プロティノス,アウグスティヌス」日本學士院紀要 55(1),2000 年。)
(*)(参考：横山善裕『2 つの場』(プラトン,アリストテレス)Zhata Iab,2000 年。)

(*)(参考：池田康男『アリストテレスの第一哲学』創文社,2000 年。)
(*)(参考：福田和也「ヘレニズム期としての近未来と精神の危機」発現者 69,2000 年。)
(*)「茂手木元蔵教授略歴ならびに著作(茂手木元蔵教授追悼号)」(大正大学)哲学年誌 7,2000 年。)
(*)「巻頭言(茂手木元蔵教授追悼号)」(大正大学)哲学年誌 7,2000 年。)
(*)峰島旭雄「〈追想〉茂手木元蔵教授を憶う(茂手木元蔵教授追悼号)」(大正大学)哲学年誌 7,2000 年。)
(*)中川榮照「〈追想〉思い出：二題(茂手木元蔵教授追悼号)」(大正大学)哲学年誌 7,2000 年。)
(*)田丸徳善「〈追想〉「茂手木桃蔵居士の面影」(茂手木元蔵教授追悼号)」(大正大学)哲学年誌 7,2000 年。)
(*)宮野升宏「〈追想〉茂手木先生の想い出(茂手木元蔵教授追悼号)」(大正大学)哲学年誌 7,2000 年。)
(*)渡辺明照「〈追想〉茂手木先生の思い出(茂手木元蔵教授追悼号)」(大正大学)哲学年誌 7,2000 年。)
(*)寺田ひろ子「〈追想〉茂手木先生を偲ぶ：アリストテレスとセネカのあいだ(茂手木元蔵教授追悼号)」(大正大学)哲学年誌 7,2000 年。)
(*)司馬春英「〈追想〉茂手木先生の思い出(茂手木元蔵教授追悼号)」(大正大学)哲学年誌 7,2000 年。)
(*)鈴木幹雄「〈追想〉我が生涯の心の師--茂手木元蔵先生の思い出(茂手木元蔵教授追悼号)」(大正大学)哲学年誌 7,2000 年。)
(*)小林美知代「〈追想〉(茂手木元蔵教授追悼号)」(大正大学)哲学年誌 7,2000 年。)
(*)(参考：三宅浩「新プラトン主義の影響史：プロティノスとトマス・テイラ,Enn,VI,9(9)における文献的比較考察」社会環境研究 5,2000 年。)
(*)(参考：金澤修「「量」カテゴリー批判の構造と幾何学的対象の存在—「エンネアス」15-1-3「有るものの類について」1-3(42-449)を巡って」哲学誌 42,2000 年。)
(*)(参考：新プラトン主義協会編・水地宗明監修『新プラトン主義の原型と水脈』昭和堂,ネオプラトニカ 2,2000 年。)
(*)(参考：角田幸彦「キケローのソクラテス観—プラトン観を媒介として」明治大学教養論集 331,2000 年。)
(*)(参考：大出晁「ヘレニズム・ローマ時代の知の系譜(1)：正統的知識と非正統的知識 IV(中山浩二教授退官記念号)」創価大学人文論集 12,2000 年。)
(*)(参考：中川純男『存在と知—アウグスティヌス研究』創文社,2000 年。)
(*)(参考：岡部由紀子『アウグスティヌスの懐疑論批判』慶應義塾大学,博士(哲学),乙第3380 号,2000 年。)
(*)(参考：加藤信朗「(司会)シンポジウム 中世哲学と現代—国家と正義」中世思想研究 42,2000 年。)
(*)(参考：池田康男「アリストテレスの観想について(特集 古典古代からの問い)」創文425,2000 年。)
(*)(参考：葛西康徳「Where is law,if any,in ancient Greece?[和文] (特集 古典古代からの問い)」創文 425,2000 年。)
(*)清水誠「新たな新旧論争のために--中川純男『存在と知—アウグスティヌス研究』を読

んで(特集 古典古代からの問い)」創文 425,2000 年。
(*)(参考：稲垣良典『神学的言語の研究』創文社,2000 年。)
(*)(参考：森本あんり「稲垣良典著『神学的言語の研究』」日本の神学 39,2000 年。)
(*)(参考：稲垣良典『教養の源泉をたずねて：古典との対話』創文社,2000 年。
(*)(参考：佐藤康邦研究代表『西洋思想史の中での生命概念』佐藤康邦,2000 年。)
(*)(参考：大川勇『ムージルの可能性感覚：中欧における精神史的系譜』(エピクロス/ルクレティウス等)京都大学,博士(文学),乙第 10343 号,2000 年。)
(*)(参考：木村尚三郎編『学問への旅：ヨーロッパ中世』山川出版社,2000 年。)
(*)(参考：坂口昂吉『中世の人間観と歴史：フランシスコ・ヨアキム・ボナヴェントゥラー』慶應義塾大学,博士(史学),乙第 3341 号,2000 年。)
(*)(参考：八木雄二『中世哲学への招待—「ヨーロッパ的思考」のはじまりを知るために』平凡社新書,2000 年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編訳・監修『近世のスコラ学』中世思想原典集成 20,平凡社, ,2000 年。)
(*)(参考：関沢和泉「学としての GRAMMATICA—ダキアのボエティウスにおける態様論のプログラム」中世思想研究 42,2000 年。)
(*)(参考：小田川方子『生と知の根源：比較思想論集』理想社,2000年。)
(*)(参考：豊泉清浩『ヤスパース教育哲学の研究』(ソクラテス)青山学院大学,博士(教育学),乙第51号,2000年。)
(*)(参考：吉田格司『ヒルティ哲学六十年：カール・ヒルティと私』吉田格司著作集3,東京布井出版,2000年。)
(*)(参考：『林達夫著作集3』(「古代思想史の課題」「唯物論の課題」)平凡社ライブラリー,平凡社,2000年。)
(*)(参考：マイケル・マクローン/岩坂彰訳『西洋思想』知のカタログ,創元社,2000年。)
(*)(参考：木田元『反哲学史』講談社学術文庫,2000 年。)
(*)(参考：宮本久雄『他者の原トポス—存在と他者をめぐるヘブライ・教父・中世の思索から』創文社,2000 年。)
(*)(参考：宮本久雄「『他者の原トポス』とプネウマ言語」創文 425,2000 年。)
(*)(参考：中山善樹「エックハルト研究余話」創文 417,2000 年。)
(*)(参考：山本道雄「ヴィーコ・ヒューム・カント：制作・虚構・総合」文化學年報 19,2000 年。)
(*)(参考：J.J.Winkelrman/尾田一正訳「『絵画と彫刻におけるギリシア作品の模倣に関する考察』についての公開状』(翻訳)帝京大学外国語外国文学論集 6,2000 年。)
(*)(参考：今村武「レンツとボブロフスキー—シュイトルウム・ウント・ドランク受容史の一側面」Lingua11,2000 年。)
(*)(参考：今村武「クリストフ・ハインツとレンツ—東独におけるレンツ受容の考察」武蔵野音楽大学研究紀要 32,2000 年。)
(*)(参考：佐竹正一「ゲーテ時代の Laokoon テキストの一断面：レッシングとゲーテの場合」Arets libelaris 66,2000 年。)
(*)(参考：小栗浩「ゲーテとシラー—脱神話化の試み」東北ドイツ文学研究 44,2000 年。)
(*)(参考：高橋克己・山本惇二・田中周一・石橋道大「シンポジウム報告 ゲーテと古典古

代—彫琢された形式,かつ生ける自己形成」ドイツ文学 104,2000 年。)
(*)(参考：吉田達「シェリングにおける〈瞬間〉の問題—1792 年 8 月のプラトン研究帖の解読を中心に」ヨーロッパ研究 3,2000 年。)
(*)(参考：青木純一『ニーチェ研究：ディオニュソス的なものと永遠回帰』早稲田大学,博士(文学),甲第 1463 号,2000 年。)
(*)(参考：村井則夫「ニーチェ・解釈学・モナド論—遠近法主義と系譜学(特集 生の哲学--現在に至るまでのその諸相)」理想 664,2000 年。)
(*)(参考：修斌「日本留学期の魯迅に於けるニーチェ」東アジア：歴史と文化 9,2000 年。)
(*)(参考：松本要「漂泊者の魂(1)フリードリヒ・ニーチェと萩原朔太郎」愛媛大学法文学論集 人文科学編 9,2000 年。)
(*)(参考：宮内寿子「ニーチェにおける遠近法主義」茨城キリスト教大学短期大学部研究紀要 40,2000 年。)
(*)(参考：加藤茂「審美主義とニーチェ」東京造形大学研究報 1,2000 年。)
(*)(参考：岸貴介「ニーチェ『アンチクリスト』におけるイエスのタイプ」東京大学大学院人文科学系研究科・文学部哲学研究室論集 19,2000 年。)
(*)(参考：中本幹生「ショーペンハウアー美学におけるカントとプラトン」倫理学年報 49,2000 年。)
(*)(参考：エルンスト W.オルト/川島秀一他訳『フッサール「危機」書の研究』西洋思想叢書,晃洋書房,2000 年。)
(*)(参考：四日谷敬子『感覚とロゴス：ハイデッガーのギリシア的思惟』晃洋書房,2000 年。)
(*)(参考：細川亮一『ハイデガー哲学の射程』創文社,2000 年。)
(*)(参考：細川亮一「ハイデガー哲学の射程--『古代哲学の根本諸概念』から」創文 417,2000 年。)
(*)(参考：齋藤元紀「弁証法から解釈学へ—初期ハイデガーにおける弁証法批判と解釈学の成立」哲学年誌 32,2000 年。)
(*)(参考：齋藤元紀「ハイデガーにおけるピュシス概念の意義—キネーシスの観点から(第 59 回大会一般研究発表要旨)」哲学 51,2000 年。)
(*)(参考：青木英美「K.ポパーのプラトン批判と教育の理念：国家と教育の関係を中心に」中村学園研究紀要 32,2000 年。)
(*)(参考：塚田澄代「20 世紀哲学のの総括(3)ソフィストの潮流—神の死から人間の死へ(1)サルトル」名古屋芸術大学研究紀要 21,2000 年。)
(*)(参考：佐藤竜二「メセナ・ベン・イスラエルのカバラ思想—新プラトン主義との関連において(ユダヤ文化講座'99 より)」ナマール 5,2000 年。)
(*)(参考：青木正次「プロトタイプ論 自己表出の史的段階像(5)古典古代性・ギリシャ篇〈自己〉を問い表す文体の両端—『オイディプス王』」藤女子大学・藤女子短期大学紀要,第1部37,2000年。)
(*)(参考：小野崎康裕「古典古代における「アレーゴリアー」の実際的意味について」川村短期大学研究紀要20,2000年。)
(*)(参考：松田紹典「蛙の浄土(10)古典古代ギリシア人の心象の巨川」聖和学園短期大学紀要 37,2000 年。)
(*)(参考：神崎忠昭「ウェルギリウスに導かれて、女性神秘家たちの許へ」創文 417,2000 年。)

(*)(参考：佐藤牧夫「温かみは流れ落ちて命は風の中へと去って行った dilapsus calor atque in ventos vita recessit—ディドーの死と古典古代・中世の英雄叙事詩に見る死の表現」東北ドイツ文学研究 44,2000 年。)
(*)(参考：葛西康徳「Where is law,if any,in ancient Greece ?」創文 425,2000 年。)
(*)(参考：木村一男「あるヴィクトリアン・リベラルのこと—ゴールドウィン。スミス再考」創文 426,2000 年。)
(*)(参考：アレッサンドロ・ピッコローミニ/岡田温司他訳『女性の良き作法について』ありな書房,2000 年。)
(*)(参考：和泉雅人『迷宮学入門』講談社現代新書,2000 年。)
(*)(参考：安西信一『イギリス風景式庭園の美学：「開かれた庭」のパラドックス』東京大学出版会,2000 年。)
(*)(参考：藤本恭比古「アンドレ・ブルトンのテイデ山登攀(1)霊的登山の系譜 ペトラルカの場合」福岡大学総合研究所所報 241,2000 年。)
(*)(参考：マーティン・ギルバート/池田智訳『ユダヤ人の歴史地図』明石書店,2000 年。)
(*)(参考：川合安「Book Review『羅馬帝国与漢晋帝国衰亡史』梁作杆著—東西古代帝国の比較論」東方 236,2000 年。)
(*)(参考：トゥキュディデス/藤縄謙三訳『歴史(1,2)』西洋古典叢書,京都大学学術出版会,2000 年。)
(*)(参考：竹島俊之「〈翻訳〉ディオドロス「世界史」」プロピレア 12,2000 年。)
(*)(参考：柳沼重剛『トゥキュディデスの文体の研究』岩波書店,2000 年。)
(*)(参考：歴史学研究会編『古代地中海世界の統一と変容』青木書店,地中海世界史 1,2000 年。)
(*)(参考：浅香正「ローマ史のあゆみ(特集 ローマ文明の栄光)—(ローマにおける政治と社会)」文化遺産 9,2000 年。)
(*)(参考：広瀬三矢子「ローマの皇帝たち(特集 ローマ文明の栄光)—(ローマにおける政治と社会)」文化遺産 9,2000 年。)
(*)(参考：デューイ・グラム/大野晶子訳『グラディエーター』ソニーマガジンズ文庫,ソニーマガジンズ,2000 年。)
(*)(参考：リドリー・スコット監督/ダグラス・ウイック他製作/デビッド・フランゾーニ他脚本『グラディエーター：血塗られた実像(1,2)』ビデオレコード, ソニーピクチャーズエンタテイメント(発売),2000 年。)
(*)(参考：杉村貞臣画『ビザンティン帝国皇帝交替問題』杉村節子,2000 年。)
(*)(参考：ブルクハルト/藤田健治訳『世界史的考察』オンデマンド版,二玄社,2000 年。)
(*)(参考：ブルクハルト/新井靖一訳『ブルクハルト文化史講演集』筑摩書房,2000 年。)
(*)(参考：野田宣雄『歴史をいかに学ぶか：ブルクハルトを現代に読む』PHP 新書,PHP 研究所,2000 年。)
(*)ロマノ・ヴルピッタ『ムッソリーニ：一イタリア人の物語』中公叢書,中央公論社,2000 年(→2017 年,ちくま学芸文庫版)。)
(*)(参考：キャロライン・アレキサンダー,L.スタンフォード・ジェイムズ「古代ギリシャ—第 2 部—栄光への道」ナショナルジオグラフィック 6(2),2000 年。)
(*)(参考：ジョン・バートン,ケネス・カヴァンダー編・英訳/吉田美枝訳『グリークス：10 本のギリシャ劇によるひとつの物語』新装,構想社(発売),劇書房,2000 年。)

(*)(参考：亀井高孝『世界史年表・地図』6 版,吉川弘文館,2000 年。)
(*)(参考：亀井高孝『標準世界史年表』37 版,吉川弘文館,2000 年。)
(*)(参考：クントゥス/松田治訳『トロイア戦記』講談社学術文庫,講談社,2000 年。)
(*)(参考：秦剛平『ヨセフス』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2000 年。)
(*)(参考：(アレクサンドリアの)フィロン/秦剛平訳『フラックスへの反論；ガイウスへの使節』西洋古典叢書,京都大学学術出版会,2000 年。)
(*)(参考：橋本資久「ヘレニズム時代初期のアテーナイの顕彰制度(第 98 回史学会大会報告記事)」史学雑誌 109(12),2000 年。)
(*)(参考：Alexander Caroline(キャロライン・アレキサンダー),I.スタンフィールド・ジェームズ「古代ギリシャ(2)栄光への道」ナショナルジオグラフィック 6(2),2000 年。)
(*)(参考：Alexander Caroline「古代ギリシャ(3)世界征服の野望を抱いたアレクサンドロス大王」ナショナルジオグラフィック 6(3),2000 年。)
(*)(参考：マイケル・ウッド/吉野美耶子訳『大遠征アレキサンダーの野望：ギリシャからアジアへの旅』ニュートンプレス,2000 年。)
(*)(参考：柘植久慶『逆撃アレクサンドリア進攻』中公文庫,中央公論新社,2000 年。)
(*)(参考：森谷公俊『王宮炎上：アレクサンドロス大王とペルセポリス』歴史文化ライブラリー88,吉川弘文館,2000 年。)
(*)(参考：森谷公俊『アレクサンドロス大王：「世界征服者」の虚像と実像』講談社選書メチエ 197,講談社,2000 年。)
(*)(参考：森谷公俊「アレクサンドロスへの道」本郷 28,2000 年。)
(*)(参考：新町貴司「『第 672 夜のメルヘン』におけるアレクサンダー大王のモチーフと『母権制』」オーストリア文学 16,2000 年。)
(*)(参考：伝カリステネス/橋本隆夫訳『アレクサンドロス大王物語』叢書アレクサンドリア図書館 7,国文社,2000 年。)
(*)(参考：ヴァレリオ・マッシモ・マンフレディ/草皆伸子『夢の息子』アレクサンドロス大戦記 1,徳間書店,2000 年。)
(*)(参考：ヴァレリオ・マッシモ・マンフレディ/草皆伸子『若き征服者』アレクサンドロス大戦記 2,徳間書店,2000 年。)
(*)(参考：ヴァレリオ・マッシモ・マンフレディ/草皆伸子『永遠の帝国』アレクサンドロス大戦記 3,徳間書店,2000 年。)
(*)(参考：デューイ・グラム/大野晶子訳『グラディエーター』ソニー・マガジンズ文庫,ソニー・マガジンズ,2000 年。)
(*)(参考：リドリー・スコット監督/ダグラス・ウィック他製作/デヴィド・フランゾーニ他脚本『グラディエーターGladiator(1,2)』Deluxe collector’s edition,ソニー・ピクチャーズエンターテイメント(発売),2000 年(→2002 年,2004 年,2011 年,2012 年,発売)
(*)(参考：ロバート・ドレイパー/三川基好訳『ハドリアヌスの長城』文春文庫,文藝春秋,2000 年。)
(*)(参考：砂田徹「共和政期ローマにおける審判人とトリプス：トリプニ・アエラリィの再検討を中心に」(北海道大学文学部西洋史研究室)西洋史論集 3,2000 年。)
(*)(参考：毛利晶「ファビウス・ピクトルとローマにおける歴史記述の始まり」神戸大学

文学部紀要 27,2000 年。)
(*)(参考：エドワード・ギボン著/中倉玄喜編訳『新訳ローマ帝国衰亡史』PHP 研究所,2000 年。)
(*)毛利晶「基調講演 留学体験と私の歴史学研究(特集 シンポジウム留学体験と私の歴史学研究)」神戸大学史学年報 15,2000 年。
(*)(参考：佐藤彰一・池上俊一・高山博編『西洋中世史研究入門』名古屋大学出版会,2000 年(→2005 年,増補改訂版)。)
(*)(参考：木村尚三郎編『学問への旅：ヨーロッパの中世』山川出版社,2000 年。)
(*)(参考：樺山紘一「総説(1999 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 109(5),2000 年。)
(*)(参考：深澤安博「近代南欧(1999 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 109(5),2000 年。)
(*)(参考：甚野尚志「中世西欧(1999 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 109(5),2000 年。)
(*)(参考：師尾晶子「ヨーロッパ：古代：ギリシア(1999 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 109(5),2000 年。)
(*)(参考：浦野聡「ヨーロッパ：古代：ローマ(1999 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 109(5),2000 年。)
(*)(参考：高際澄雄「「万国史現代編まとめ」から「世界各国現況」へ--スモレットの編纂手法に関する一考察」外国文学 49,2000 年。)
(*)(参考：荻原江里子「3.Nathaniel Hawthorne のオセアニア：『パーレー万国史』における世界史観の再構築(日本英文学会第 72 回大会報告)」英文学研究 77(2),2000 年。)
(*)(参考：伊藤貞夫「マックス・ウェーバーと古典古代史研究(日本西洋古典学会創立 50 周年特別講演会)」思想 910,2000 年。)
(*)(参考：西村貞二「学界回顧 大類[伸]先生とブルクハルト」西洋史研究 29,2000 年。)
(*)植村和秀「平泉澄とフリードリヒ･マイネッケ(1-4)」産大法学 33(3/4),34(1/2),2000 年/34(4),2001 年/35(3/4),2002 年。
(*)(参考：岡崎勝世『キリスト教的世界史から科学的世界史へ：ドイツ啓蒙主義歴史学研究』勁草書房,2000 年。)
(*)(参考：土肥恒之『岐路に立つ歴史家たち：20 世紀ロシアの歴史学とその周辺』山川出版社,2000 年。)
(*)(参考：久保正彰「[学士院]会員交流協定にもとづくルーマニア訪問報告」日本学士院紀要 54(3),2000 年。)
(*)(参考：久保正彰「国際学士院連合第 73 回総会報告」日本学士院紀要 54(3),2000 年。)
(*)(参考：萩原江里子「3.Nathaniel Hawthorne のオセアニア：『パーレー万国史』における世界史観の再構築(日本英文学会第 72 回大会報告)」英文学研究 77(2),2000 年。)
(*)(参考：歴史学研究会編『戦後歴史学再考：「国民史」を超えて』シリーズ歴史学の現在,青木書店,2000 年。)
(*)(参考：西村貞二「学界回顧 大類伸先生とブルクハルト」西洋史研究 29,2000 年。
(*)佐伯冨・島田虔次・岩見宏他「座談會 先學を語る—宮崎市定博士[含・年譜・著作目録]」東方学 100,2000 年。
(*)文化論研究会編『文化論のアリーナ』(ケーベル)晃洋書房,2000 年。
(*)関根和江「ケーベル先生文献(3)」,東京藝術大学音楽部紀要 26,2000 年[①3「ケーベル

先生文献(1)(2)」,平成 10,11 年)。
(*)名木田薫「西谷啓治における聖書理解」倉敷芸術科学大学紀要 51,2000 年。
(*)「坂口昂吉君提出学位請求論文審査要旨」(彙報 論文審査の要旨)史学 70(1),2000 年。
(*)(参考：上松佑二「9185 建築イコノロギー研究 XV：アレクサンドリアのクレメンスの『ストロマテイス』に於ける Ecclesia の概念について」学術講演梗概集,F-2,建築歴史・意匠 2000,2000 年。)
(*)(参考：太田明子『古代ギリシア建築における石材接合技術の研究』熊本大学,博士(工学),甲第 117 号,2000 年。)
(*)(参考：中川明子・伊藤重剛「デルフイ,アテナ・プロナイア神域の大理石建築のダボに関する研究」日本建築学会計画系論文集65(535),2000年。)
(*)(参考：伊藤重剛・中川明子・岩淵耕平・星和彦・武田明純・市丸雄基「地中海古代都市の研究(101)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 39,2000 年。)
(*)(参考：市丸雄基・伊藤重剛・岡田保良・林田義伸・中川明子・岩淵耕平・武田明純「地中海古代都市の研究(102)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 39,2000 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・中川明子・岩淵耕平・武田明純・市丸雄基「地中海古代都市の研究(103,104)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 39,2000 年。)
(*)(参考：堀内清治「地中海古代都市の研究(105)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 39,2000 年。)
(*)(参考：浅田彰「手帖 2000 われもまたアルカディアに—近代建築の「天人五衰」(13)」波 34(10),2000 年。)
(*)(参考：谷川渥『芸術をめぐる言葉/1・2』(アリストテレス,ウィトルウィウス等)美術出版社,2000-2006 年。)
(*)島田誠「書評 岩井経男著「ローマ時代イタリア都市の研究」」西洋史研究 29,2000 年。
(*)(参考：黒田泰介『ルッカの古代ローマ円形闘技場遺構の住居化に関する研究』東京芸術大学,博士(美術),甲第 116 号,2000 年。)
(*)(参考：勝又俊雄研究代表『近代ギリシアにおける「ネオ・ビザンチン様式」建築の形成の研究』女子美術大学,2000 年。)
(*)(参考：大槻武志編/喜多章写真『神聖：初期キリスト教・ビザンティン・ロマネスク』コンフォルト・ギャラリィ,建築資料研究社,2000 年。)
(*)(参考：Ruperti Bonaventura「二つの視点から見た西洋文化と能(1)ギリシア悲劇における素材と能における本説」総合芸術としての能 6,2000 年。)
(*)(参考：山田由美子「文学と建築—ベン・ジョンソンのウィトルウィウス解釈をめぐって」(神戸女学院大学)論集 47(2),2000 年。)
(*)日本建築学会伊藤忠太未発表特別研究委員会編『伊東忠太：その実績と資料：伊藤忠太未発表特別研究委員会報告書』特別研究 18,日本建築学会,2000 年。
(*)(参考：都留竜馬「抽象的対象の導入は正当化されるのか」(プラトニズム)科学基礎論研究 95,2000 年。)
(*)(参考：中野俊幸「数学教育の根底にある数学観について—プラトニズム vs 構成主義」高知大学教育学部研究報告 60,2000 年。)
(*)(参考：サイモン・シン/青木薫訳『フェルマーの最終定理：ピュタゴラスに始まり,ワイルズが証明するまで』新潮社,2000 年(→2007 年,新潮文庫。)
(*)(参考：「家庭に忍び込む「トロイの木馬」これから始まるプレステ 2 の 10 年戦争(特集

超人気!プレステの“正体”)」週刊東洋経済 5618,2000 年。)
(*)宮島一彦「故・藪内清先生の業績と略歴(アゴラ)」科学史研究 40(219),2000 年。
(*)(参考 : E.Guidoboni/金子史朗訳「紹介と解説 地中海域の古地震カタログ」地震ジャーナル 29,2000 年。)
(*)(参考 : 辻村純代「古代エジプトにおけるオリーブ油生産」食文化助成研究の報告 11,2000 年。)
(*)(参考 : 矢吹和朗“Association of MICA gene and HLA-B5101 with Bechet’s disease in Greece”横浜市立大学,博士(医学),甲第 527 号,2000 年。)
(*)(参考 : 渡辺厳太郎「エッセイ 健康マネジメント(69)アスクレピオスとヒギエイア」金融財政事情 51(24),2000 年。)
(*)(参考 : 渡辺厳太郎「エッセイ 健康マネジメント(77)ヘルクラネウム最後の日」金融財政事情 51(32),2000 年。)
(*)(参考 : 水田祥代「そして今,アスクレピオスの娘たちは・・・(1,2)」日本臨床麻酔学会誌 20(8),2000 年/21(10),2001 年。)
(*)(参考 : 齋藤博「アテネの疫病はマールブルグ病,またはエボラ熱か?」埼玉医科大学進学課程紀要 8,2000 年。)
(*)(参考 : 石渡隆司「特別講演 ガレノスの精神医学説における理知と病的情念(pathe) : 序論(第 3 回精神医学史学会)」精神医学史研究 3,2000 年。)
(*)(参考 : 大塚耕太郎・酒井明夫・黒澤美枝他「ヒポクラテス集成における μανοια mania について」精神医学史研究 4,2000 年。)
(*)(参考 : 酒井明夫・黒澤美枝・武内克也「古代ギリシアにおける παρανοια paranoia について」精神医学史研究 4,2000 年。)
(*)(参考 : 齋藤博「ヒポクラテス顔貌の色彩検討」埼玉医科大学雑誌 27,2000 年。)
(*)(参考 : 近藤均「緩和医療学 KEY WORD ヒポクラテスの誓い」緩和医療学 2(3),2000 年。)
(*)(参考 : 小泉紀子「文学にみる障害者像(49)グスターフ・シュヴァーブ著,角信雄訳『ギリシア・ローマ神話 2』「トロイヤ戦争」」ノーマライゼーション 20(6),2000 年。)
(*)高橋昭「司馬凌海 生涯と遺跡についての若干の知見」日本医史学雑誌 46(3),2000 年。
(*)(参考 : 酒井シズ『医学史への誘い : 医療の原点から現代まで』診療新社,2000 年。)
(*)(参考 : 原田尚『医学史を飾る人々』メディカル・ジャーナル社,2000 年。)
(*)白井正夫「連載 ニュースウォーク(22)介護保険のイソップ物語」保健婦雑誌 56(1),2000 年。
(*)坂野徹「好事家の政治学—坪井正五郎と明治期人類学の軌跡」思想 907,2000 年。
(*)(参考 : ハイドン・ミドルトン/鈴木出版編集部訳『古代のオリンピック』オリンピックがよくわかる 1,鈴木出版,2000 年。)
(*)(参考 : 浦野真由美「古代オリンピアの祭典競技」(京都橘女子大学史学会)橘史学 15,2000 年。)
(*)(参考 : 神尾正俊「古代オリンピア競技会」武蔵大学人文学会雑誌 31(3),2000 年。)
(*)(参考 : 清水重勇「フランス近代体育史研究」日本体育学会大会号 51,2000 年。)
(*)(参考 : 河口恵里「紙(paper)の歴史」華頂博物館学研究7,2000年。)
(*)(参考 : 貴田庄『西洋の書物工房 : ロゼッタ・ストーンからモロッコ革の本まで』芳賀書店,2000 年(→2014 年, 朝日選書版,朝日新聞出版。)

(*)(参考：矢島文夫『占星術の起源』筑摩書房,2000 年。)
(*)(参考：リズ・グリーン/岡本翔子・鏡リュウジ訳『占星学』青土社,2000 年。)
(*)(参考：鏡リュウジ「占星綺想(7)占星術の魔術と科学」ユリイカ 32(10),2000 年。)
(*)(参考：鏡リュウジ「占星綺想(8)星の観相術」ユリイカ 32(11),2000 年。)
(*)(参考：鏡リュウジ「占星綺想(9)水瓶座時代―星のシンボリズムと宗教の変遷」ユリイカ 32(12),2000 年。)
(*)(参考：鏡リュウジ「占星綺想(11)時選びの占星術」ユリイカ 32(14),2000 年。
(*)(参考：小林剛「トマス・アクイナスにおける天体と知性実体との区別について」中世哲学研究:Veritas19,2000 年。)
(*)(参考：山口拓美『マルクス経済学と本質主義』(アリストテレス)東北大学,博士(経済学),甲第 7116 号,2000 年。)
(*)(参考：弓削達・伊藤貞夫編『古典古代の社会と国家』POD 版,ブッキング,2000 年。)
----弓削達「序：古典古代の社会と国家」
古山正人「前 580/79 年の 10 人のアルコン：ソロンの改革後のアテナイ」
篠崎三男「古典期アッティカの公的都市所有：賃貸借碑文の検討を中心に」
前沢伸行「紀元前四世紀のアテナイの海上貿易：海上貸付の分析を中心に」
伊藤貞夫「古典期アテナイの鉱山経営者」
桜井万里子「古典期アテナイにおける女性の地位と財産権：Isaios,X 10 の法規をを中心に」
毛利晶「ローマ帝政成立期のガリア社会：反ローマの戦いとガリアの民衆」
坂口明「servus quasi colonus について：奴隷制農場経営を衰退の一側面
本村凌二「「クリア」の歴史的性格：帝政期北アフリカ属州史の一断面」
松本宣郎「キリスト教大迫害：四世紀初頭のキリスト教徒とローマ帝国」
(*)(参考：中村友紀「テオデリクスの文化政策と‘civilitas’」西洋史研究 29,2000 年。)
(*)(参考：高山博「ノルマン・シチリア王国の行政機構再考」西洋史研究 29,2000 年。)
(*)(参考：佐藤眞典「L.ブルーニの「美による統治」(1)古代アテネを模倣した都市・市民論：形の美しさ」広島大学大学院教育学研究科紀要,第二部,文化教育開発関連領域 49,2000 年。)
(*)「エーゲ海「六百年目の和睦」--「不倶戴天」ギリシャとトルコが接近」選択 26(12),2000 年。
(*)(参考：白石正樹「社会契約説の哲学」創価法学 29(3),2000 年。)
(*)(参考：小沼進一『アリストテレスの正義論―西欧民主制に活きる法理』勁草書房,2000 年。)
(*)(参考：京谷啓徳『君主称揚のレトリック：ボルソ・デステとスキファノイア宮殿「12ヵ月の間」装飾壁画』東京大学,博士(文学),甲第 14868 号,2000 年。)
(*)(参考：Athusser Loius,福井和美「マキャヴェリの孤独」環 3,2000 年。)
(*)(参考：野田宣雄「政治権力と道徳―マイネッケ,ヴェバー,ブルクハルトを手がかりに(特集 現代社会とキリスト教社会論)」社会と倫理 9,2000 年。)
(*)(参考：中金聡『政治の生理学：必要悪のアートと論理』勁草書房,2000 年。)
(*)(参考：南原一博『ハイデッガーの迷宮』二十世紀の政治思想 1,中央大学出版部,2000 年。)
(*)(参考：早川操「社会的探による「公共的関心」」の形成に関する考察―デューイ―リップマン論争を中心に」日本デューイ学会紀要 41,2000 年。)

(*)(参考：「セキュリティバグレポート(7)「トロイの木馬」プログラム対策の現状」月刊インターロップマガジン 10(1),2000 年。)
(*)(参考：葛生栄二郎『自由社会の自然法論』上智大学,博士(史学),乙第 163 号,2000 年。)
(*)小沢隆司「〈福沢諭吉研究論文〉「在野の法学者」馬場辰猪：「福沢諭吉」の影の下に」福澤諭吉年鑑 27,2000 年。
(*)クレイ・サイモン「日本と西洋の関係における馬場辰猪の生涯と功績について」嘉悦女子短期大学研究論集 43(2),2000 年。
(*)(参考：Franz Wieackers/山口廸彦訳「翻訳 比較法文化と人間—フランツ・ヴィアッカー著『イェーリング論』」比較文化研究 19,2000 年。)
(*)(参考：山口廸彦「元型的思惟のヨーロッパ学的起源—印度・ヨーロッパ人原郷論争史」比較文化研究 19,2000 年。)
(*)(参考：山口廸彦「日本に漂着したエラスムス:母権的ロマン主義の比較思想史的起源」比較文化研究 27 別冊,2000 年。)
(*)(参考：市川英一「社会主義国中国におけるローマ法精神の復興(第 2 回ローマ法,中国法と民法法典化国際会議に参加して)」法律時報72(7),2000年。)
(*)(参考：谷口貴都『ローマ所有権譲渡法の研究』早稲田大学,博士(法学),乙第1516号,2000年。)
(*)(参考：耳野健二『サヴィニーの法思考：ドイツ近代法学における体系の概念』京都大学,博士(法学),乙第10523号,2000年。)
(*)(参考：ルネ・ミュソ=グラール/加納修訳『クローヴィス』文庫クセジュ831,白水社,2000年。)
(*)(参考：葛西康徳「古代ギリシアにおける「紛争」に対する対応の二つの側面について—peitohomai/peithoを手掛かりとして」法制史研究50,2000年。)

(*)(参考：大中一彌「公募論文 偶然性唯物論とマルクス学位論文—クリナーメンの問題圏」社会思想史研究 25,2001 年。)
(*)(参考：的場昭弘「忘れられたマルクス研究家への墓標(7)『マルクス伝』の作者フランツ・メーリング(1846-1919)」神奈川大学評論 38,2001 年。)
(*)(参考：的場昭弘「マルクスの学位論文をめぐって(第 2 特集 マルクスの自由概念、その固有なもの)」情況 第三期 2(8),2001 年。)
(*)(参考：滝口清栄「マルクス「学位論文」の歴史意識—ヘーゲル哲学の内在的克服をめざして(同上)」情況 第三期 2(8),2001 年。)
(*)(参考：村上俊介「B.バウアーとマルクス『学位論文』(同上)」情況 第三期 2(8),2001 年。)
(*)(参考：正木八郎「マルクスにおける実践概念の生成：学位論文と「準備ノート」(同上)」情況 第三期 2(8),2001 年。)
(*)(参考：仲正昌樹「マルクスの学位論文における偶然の問題—柄谷行人がやり残した課題(同上)」情況 第三期 2(8),2001 年。)
(*)(参考：伊吹浩一「主体も目的もない過程としての歴史：アルチュセールのマルクス学位論文の言及をめぐって(同上)」情況 第三期 2(8),2001 年。)
(*)(参考：神崎繁「自由と交換—マルクスと古代哲学(上)エピクロスからアリストテレスへ(同上)」情況 第三期 2(8),2001 年。)
(*)(参考：アネッテ・ラッチェ/大森寿美子訳『エトルリア文明：700 年の歴史と文化』遊

タイム出版,2001 年。)
(*)(参考：ブライアン・フェイガン/東郷えりか訳『歴史を変えた気候大変動』河出書房新社,2001 年。)
(*)(参考：合田良實『土木文明史概論』土木教程選書,鹿島出版会,2001 年。)
(*)(参考：ピーター・バーンスタイン/鈴木主税訳『ゴールド：金と人間の文明史』日本経済新聞社,2001 年(→2005 年,日経ビジネス文庫 269)。)
(*)(参考：イアン・バーンズ,ロバート・ハドソン/武井摩利訳『ヨーロッパ大陸歴史地図』大陸別世界歴史地図,東洋書林,2001 年。)
(*)京都大学附属図書館編『近世の京都図と世界図：大塚京都図コレクションと宮崎市定氏旧蔵地図』京都大学附属図書館,2001 年。
(*)宮崎市定著・礪波護編『東風西雅抄』岩波現代文庫[社会]35,岩波書店,2001 年。
(*)(参考：川村博忠・水野美奈子・黄暁芬・森川展男「温故知新：東西文明を旅する人間(特集 「新しい人間科学の確立に向けて」)」総合人間科学：東亜大学総合人間・文化学部紀要 1(1),2001 年。)
(*)周藤芳幸「エーゲ海歴史散歩(7)聖母マリアの奇蹟の島,ティノス」Fujitsu 飛翔 41,2001 年。
(*)周藤芳幸「エーゲ海歴史散歩(8)輝く大理石の島,パロス」Fujitsu 飛翔 42,2001 年。
(*)周藤芳幸「東地中海歴史散歩(1)シチリアの輝ける都市,シュラクーサイ」Fujitsu 飛翔 43 2001 年。
(*)周藤芳幸「東地中海歴史散歩(2)爛熟するヘレニズム文明の都,アレクサンドリア」Fujitsu 飛翔 44,2001 年。
(*)蔀勇造「辛島昇(文),大村次郷(写真)『海のシルクロード：中国・泉州からイスタンブールまで』集英社,2000」」史學雑誌 110(1),2001 年。)
(*)(参考：周藤芳幸「初期ヘレニズム時代の中エジプトにおける文化変容と考古学(研究発表,西洋史部会,第 99 回史学会大会報告記事)」史學雑誌 110(12),2001 年。)
(*)宮下志朗「ルネサンス日録散歩(11)トマス・プラター2 世の「グランド・ツアー」」ふらんす 76(2),2001 年。
(*)浜名優美・坪井賢一「編集長インタビュー(384)南山大学総合政策学部教授・浜名優美 ブローデルの名著『地中海』が現代日本に与えたインパクト」週刊ダイヤモンド 89(7),2001 年。
(*)(参考：マーク・トウェイン/野川浩美訳『地球紀行』マーク・トウェインコレクション 18,彩流社,2001 年。)
(*)遠藤俊行「BS デジタル開局記念特番「ミレニアム地中海」ハイビジョン中継」映画テレビ技術 582,2001 年。)
(*)鈴木国之・遠藤俊之・真崎俊男・杉山孝生「ハイビジョン・メレニアム中継「地中海」製作報告第一夜「地中海の覇者」/第二夜「紙は海を越えた」/第三夜「海,世界に通ず」」映像情報メディア学会技術報告 25(20),2001 年。
(*)『Aegean Sea,Izu Islands』ビデオレコード,Marine paradise,Universal Polydor,2001 年。
(*)(参考：山口大介『ギリシア：ギリシア語』ここ以外のどこかへ!旅の指さし会話帳,情報センター出版局,2001 年。)
(*)(参考：長屋房夫『ギリシア語：ギリシアを旅する』写真対応トラブラないトラベル会話,三修社,2001 年。)

(*)地球の歩き方編集室編『ギリシアとエーゲ海の島々&キプロス』ダイヤモンド・ビッグ社,2001-02 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ローマ』ダイヤモンド・ビッグ社,2001-02 年。
(*)地球の歩き方編集室編『南イタリアとマルタ』ダイヤモンド・ビッグ社,2001-02 年。
(*)『ギリシア・エーゲ海』ワールドガイド・ヨーロッパ 15,JTB,2001 年。
(*)荻野矢慶記『エーゲ海に誘われて：荻野矢慶記写真集』東方出版,2001 年。
(*)丹羽満写真・近藤誠宏監修『エーゲ海の風』岐阜新聞情報センター,岐阜新聞社,2001 年。
(*)星和夫他「医学の歴史を巡る旅に参加して(各参加者)—ギリシャ・エーゲ海—ギリシャ・エーゲ海・平成 12 年 10 月 1 日(日)~10 月 11 日(水)」日本病院会雑誌 48(1),2001 年。
(*)佐々木巌「MEDICAL ESSAYS ギリシアと地中海ダイエットの旅(1-4)」日本医事新報 4015,4016,4019,4020,2001 年。)
(*)(参考：アン・ハンプソン/加藤しをり訳『再会のエーゲ海』ハーレクイン・クラシックスプレミアム CP5,ハーレクイン,2001 年。)
(*)(参考：すぎやまこういち『交響曲「ドラゴンクエスト」ザ・ベスト』(「エーゲ海に船出して」)録音ディスク,SME・インターメディア,2001年。)
(*)古林佳世「Agora Special(112)地中海の豊かな島に惹かれて シチリアの郷愁」Agora：日本航空機内誌 11(9),2001 年。)
(*)中村聡樹「南欧の街から(13)ギリシア・ミコノス島」論座 72,2001 年。
(*)中村聡樹・和田久士「南欧の街から(14)ギリシア・ロードス島」論座 72,2001 年。
(*)中村聡樹「南欧の街から(17)イタリア・アマルフィ」論座 76,2001 年。
(*)(参考：岡本秀一「ミネルヴァのふくろう」地中海歴史風土研究誌 13,2001 年。)
(*)(参考：堀幸夫「シエナの幻想」地中海歴史風土研究誌 13,2001 年。)
(*)四位誠光「ギリシアの旅つれづれ(1)」地中海歴史風土研究誌 14,2001 年。
(*)野上弥生子『欧米の旅(上中下)』岩波文庫,岩波書店,2001 年。
(*)(参考：エリコ・ロウ『聖なる旅の教え』扶桑社,2001 年。)
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(25)精進日—バチカン」本 26(1),2001 年。
(*)森まゆみ「「アンデルセンと鴎外」幻想のイタリア旅行「即興詩人」を歩く(26)シクストゥス礼拝堂」本 26(2),2001 年。
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(27)モンテ,マリヨの丘—決闘」本 26(3),2001 年。
(*)森まゆみ「「アンデルセンと鴎外」幻想のイタリア旅行「即興詩人」を歩く(28)ツスクルム—山寨」本 26(4),2001 年。
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(29)トレル,ヂ,トレ,ポンテ」本 26(5),2001 年。
(*)森まゆみ「「アンデルセンと鴎外」幻想のイタリア旅行「即興詩人」を歩く(30)キケロの墓—テルラチナ,ガエタ,フオルミエ」本 26(6),2001 年。
(*)森まゆみ「「即興詩人」を歩く(31)フォルミエ,イトリ,サンタガタ」本 26(7),2001 年。
(*)森まゆみ「「アンデルセンと鴎外」幻想のイタリア旅行「即興詩人」を歩く(32)拿破里(ナポリ)トレド街」本 26(8),2001 年。
(*)森まゆみ「「アンデルセンと鴎外」幻想のイタリア旅行「即興詩人」を歩く(33)古市ポムペイ」本 26(9),2001 年。
(*)森まゆみ「「アンデルセンと鴎外」幻想のイタリア旅行「即興詩人」を歩く(34)噴火山エズヰオ」本 26(10),2001 年。

(*)森まゆみ「「アンデルセンと鴎外」幻想のイタリア旅行「即興詩人」を歩く(35)ポジリッポの巌窟」本 26(11),2001 年。
(*)森まゆみ「「アンデルセンと鴎外」幻想のイタリア旅行「即興詩人」を歩く(36)サン,カルロ劇場」本 26(12),2001 年。
(*)(参考：宮下志朗「ルネサンス日録散歩(11)トマス・プラッター2 世の「グランド・ツアー」」ふらんす 76(2),2001 年。)
(*)(参考：岡本秀一「秋の庭」地中海歴史風土研究誌 14,2001 年。)
(*)(参考：齋藤寛海「地中海と地中海世界」信州大学教育学部紀要 104,2001 年。)
(*)(参考：佐藤馨一「アッピア街道の道路標識に立って」建設の機械化 620,2001 年。)
(*)武部健一「巻頭グラビア アッピア街道を行く」道路建設 641,2001 年。
(*)間山正一「巻頭グラビア 地中海文明の十字路・シチリア」道路建設 644,2001 年。)
(*)小笠原茂介『地中海の月』(詩集)思潮社,2001年。
(*)Starrs Roy Anthony「記念講演 ギリシヤとインドの間で—文化的巡礼者としての三島由紀夫」立正法学論集34(2),2001年。
(*)(参考:佐藤康夫「イタリア 変わりゆくイタリア 伝統文化の行方は」世界週報 82(19),2001 年。)
(*)(参考：ルカ・コルフェライ著/中山悦子訳『図説ヴェネツィア：「水の都」歴史散歩』河出書房新社,2001 年。)
(*)紅山雪夫『シチリア・南イタリアとマルタ』トラベルジャーナル,2001 年。
(*)陣内秀信『イタリア都市と建築を読む』講談社,講談社+アルファ文庫,2001 年。
(*)陣内秀信『地中海都市のライフスタイル』日本放送出版教会,2001 年。
(*)『トルコ』2 版,ニューツアーガイド,ゼンリン,2010 年。
(*)澁澤幸子「エーゲ海 島から島へ」青淵 632,2001 年。
(*)澁澤幸子『イスタンブールからバスに乗って』恒文社,2001 年。
(*)澁澤幸子『落日のボスフォラス』集英社,2001 年。
(*)(参考：大村幸弘文・大村次郷写真『カッパドキア：トルコ洞窟修道院と地下都市』アジアをゆく,集英社,2001 年。)
(*)大村次郷「グラビア 次世代への遺産(33)トロイ遺跡 史実を究める再発掘(トルコ)」中央公論 116(12),2001 年。)
(*)蔀勇造「辛島昇(文)・大村次郷(写真)『海のシルクロード：中国・泉州からイスタンブールまで』集英社」史学雑誌 110(1),2001 年。
(*)講談社『カルタゴの考古遺跡：チェニスの旧市街』週間ユネスコ世界遺産 26,チェニジア,2001 年。
(*)『Aegean Sea,Izu Islands』Universal Polydor,ビデオレコード,2001 年。
(*)(参考：内田芳明『風景の発見』朝日選書 675,朝日新聞社,2001 年。)
(*)(参考：澤井繁男『ナポリの肖像』中公新書,中央公論新社,2001 年。)
(*)(参考：藤澤房俊『『第三のローマ』：近現代イタリアの『記憶の場』』早稲田大学,博士(文学),乙第 1626 号,2001 年。)
(*)(参考：大地舜「歴史の闇に埋もれる古代文明を探る「アンダーワールドの旅」(SPECIAL REPORT 危ない世界遺産)」サピオ 13(7),2001 年。)
(*)(参考：石沢治「CG による古代文明の映像再現(特集 21 世紀デジタル映像時代)」技術と経済 410,2001 年。)

(*)(参考 : 東野治之他『考古学の学際的研究』岸和田市 : 岸和田市教育委員会,昭和堂[発売], 濱田青陵賞受賞者記念論文集 1,2001 年。)
(*)嶋田信幸「地方便り 2 日本のポンペイ『自然と歴史の里』子持村」集落排水 65,2001 年。
(*)(参考 : 堀賀貴「9006 ポンペイ,「スタリウス・エロスの家」に関する調査 : ポンペイにおける木造架構(建築歴史・意匠)」学術講演梗概集 F-2, 建築歴史・意匠 2001,2001 年。)
(*)(参考 : 堀賀貴「学界展望 古代ローマ建築史ポンペイを中心として」建築史学 36,2001 年。)
(*)(参考 : 『ポンペイ,エルコラーノ,トッレ・アヌンツィアータの考古地区』週刊ユネスコ世界遺産 no.18「イタリア」,講談社,2001 年(→2010 年,再版,世界遺産 no.10「イタリア」。)
(*)(参考 : 青柳正規・糸井重里『ポンペイに学べ』朝日出版社,ほぼ日ブックス 003,2001 年。)
(*)(参考 : 青柳正規・今井桜子「よみがえった古代都市ポンペイ—2000 年前に埋没した古代ローマの文化」ニュートン 21(9),2001 年。)
(*)(参考 : 『ポンペイ展 : 世界遺産』朝日新聞社,2001 年。)
(*)(参考 : エドワード・ブルワアー・リットン/岡田好憲訳・河口峰子絵『ポンペイ最後の日』講談社,講談社青い鳥文庫,2001 年。)
(*)(参考 : 金子史朗『ポンペイの滅んだ日』東洋書林,2001 年。)
(*)(参考 : 澤井繁男『ナポリの肖像 : 血と知の南イタリア』中公新書 1609,中央公論新社,2001 年。)
(*)青柳正規・竹内誠・小島慶子「座談会 江戸の暮らし,ポンペイの暮らし」東京人 16(11),2001 年。
(*)(参考 : 青柳正規「タルクィニア—エトルリアの風に吹かれて(全一冊 イタリアの歓び—美術でめぐる,とっておきの旅ガイド)」芸術新潮 52(8),2001 年。)
(*)(参考 : 平林敏彦「モノクロ・グラビア ヒューマン・アルバム シュリーマン—古代への夢に生きて偉業を成し遂げた考古学者」潮 506,2001 年。)
(*)(参考 : 渡辺有希訳『アトランティス : 失われた帝国 : 公式ガイドブック』世界文化社,2001 年。)
(*)(参考 : 池谷律代訳『アトランティス/失われた帝国 : フォト&シナリオ・ブック』光文社,2001 年。)
(*)(参考 : ラーラー・バーゲン/橘高弓枝訳『アトランティス : 失われた帝国』偕成社,ディズニーアニメ小説版,2001 年。)
(*)(参考 : 森はるな文『アトランティス失われた帝国』ディズニーアニメブック 5,国際版ディズニー名作コレクション 20,講談社,2001 年。)
(*)(参考 : クライブ・カッスラー/中山善之訳『アトランティスを発見せよ』新潮文庫,新潮社,2001 年。)
(*)(参考 : おかだえみこ「長編アニメの群雄像--ディズニーの新時代とドリームワークスの成立(特別企画 ディズニー「アトランティス 失われた帝国」VS ドリームワークス「シュレック」)」キネマ旬報 1346,2001 年。)
(*)(参考 : 氷川竜介「「アトランティス」「シュレック」作品検証—児童向けアニメーションから踏み出した一歩(特別企画 ディズニー「アトランティス 失われた帝国」VS ドリームワークス「シュレック」)」キネマ旬報 1346,2001

年。)
(*)(参考：ノヴァーリス/齋藤久雄訳『エロスとファーベル：雲の子』(「アトランティスの物語」)北栄社,2001 年。)
(*)(参考：高橋史朗「『新アトランティス』とルネサンス・ユートピアの終焉」八戸工業大学紀要 20,2001 年。)
(*)四方田犬彦『ハスクール・ブッキッシュライフ』(「旅への誘い」アレクサンドリア)講談社,2001 年。
(*)中園英助「遠人近交録(4)アレックスとともにアレキサンドリアへ」世界 690,2001 年。)
(*)(参考：保坂睦・保坂修司「よみがえるアレキサンドリア図書館」季刊・本とコンピューター第 2 期 2,2001 年。)
(*)(参考：本間紀子「ファルネジーナ荘壁画《アレクサンドロス大王とロクサネの結婚》：ラファエッロ,ソドマ,そして注文主アゴスティーノ・キージ」哲学会誌 25,2001 年。)
(*)(参考：吉本堯俊「アレクサンドロスの原像(1)そのオリエント的側面」国際文化研究所論集 12,2001 年。)
(*)(参考：小林謙一「世界の遺跡 ギリシア ロドス島の遺跡」考古学研究 48(1),2001 年。)
(*)(参考：和田久士・中村聡樹「南欧の街から(14)ギリシア ロドス島」論座 73,2001 年。)
(*)(参考：武田明純・伊藤重剛「墓廊 III の遺構概要：古代ギリシア都市メッセネの建築調査(1)」日本建築学会計画系論文集 541,2001 年。)
(*)(参考：武田明純・伊藤重剛「墓廊 III の復元：古代ギリシア都市メッセネの建築調査(2)」日本建築学会計画系論文集 549,2001 年。)
(*)清瀬卓「ルポ・モンタージュ 地中海世界：風俗篇」Mare Nostrum 14,2001 年。
(*)(参考：河島英昭「ローマのユダヤ老人」図書 622,2001 年。)
(*)(参考：青柳正規「ポンペイ発掘事情」図書 631,2001 年。)
(*)牟田口義郎「クレオパトラは招く」文藝春秋 79(7),2001 年。
(*)(参考：石塚裕子「Dickens のジェノヴァ滞在記：催眠術の日々」Kobe miscellary 26,2001 年。)
(*)(参考：栗原詩子「ドビュッシーのポー受容とオペラ《アッシャー家の崩壊》制作過程」地中海学研究 24,2001 年。)
(*)空間造形コンサルタント編『21 世紀のアルカディアとは：自然・歴史・芸術の新たな関係をめざして：むろうアートアルカディア国際フォーラム：室生寺五重塔修復工事落慶記念行事』室生村,2010 年。
(*)(参考：小西章典「何がアルカディアから消されたのか?—ノコラ・プサン『われもまたアリカディアにありき』を読む」南山英文学 25,2001 年。)
(*)(参考：Bircher Martin/森孝明訳「翻訳 ヘルヴェチア(スイス)のアルカディア牧歌における健康と病い」愛媛大学法文学部論集,人文科学編 10,2010 年。)
(*)(参考：山口昌男「二十世紀における「政治と文学」神話学(1)アルカディアへ」新潮 98(10),2001 年。)
(*)(参考：山口昌男「二十世紀における「政治と文学」神話学(2)アルカディアにて」新潮 98(12),2001 年。)
(*)(参考：荒又雄介「シチリアに広がる「現在」ホフマンスタールの紀行文『シチリアと私たち』」オーストリア文学 17,2001 年。)

(*)(参考：マルティン・ハイデッガー/三木正之,ハインリッヒ・トレチアック訳『ヘルダーリンの讃歌『回想』』ハイデッガー全集 52 巻,創文社,2001 年。)
(*)(参考：田中英道「漱石,鴎外,天心とイタリア美術」日本文化 6,2001 年。)
(*)『図録米欧回覧実記：特命全権大使米欧回覧実記』文部科学省国際日本文化研究センター,機械可読データファイル,2001 年。
(*)(参考：小泉武栄『登山の誕生：人はなぜ山に登るようになったのか』中公新書,中央公論新社,2001 年。)
(*)(参考：アーノルド・パーシー/東玲子訳『世界文明における技術の千年史：「生存の技術」との対話に向けて』新評論,2001 年。)
(*)長屋房夫『ギリシア語：ギリシアを旅する』写真対応トラブラないトラベル会話,三修社,2001 年(→2002 年,再版)。
(*)山口大介『ギリシア：ギリシア語』情報センター出版局,ここ以外のどこかへ!旅の指さし会話帳 24,2001 年。
(*)(参考：荻野繁春「大カトの『デ・アグリ・クルトゥラ』とモルタリア文化」日本考古学 8(12),2001 年。)
(*)(参考：岩崎努「図像に現れたエトルスキの伝説—ヴェペンナ兄弟とカークスの場合(上下)」古代文化 53(5,6),2001 年。)
(*)青柳正規「タルクィニア—エトルリアの風に吹かれて(全一冊,イタリアの歓び—美術でめぐる,とっておきの旅ガイド)」芸術新潮 52(8),2001 年。)
(*)(参考：三笠宮崇仁「古代アナトリア文明について」Anatoli news 103,2001 年。)
(*)前嶋信次著/杉田英明編『書物と旅：東西往還』平凡社,東洋文庫 684,2001 年。)
(*)(参考：太田強正「翻訳 エゲリア巡礼記」(神奈川大学人文学会)人文研究 14,2001 年。)
(*)(参考：太田強正「研究の周辺 エゲリア巡礼記—ロマンス語の源流」神奈川大学評論 38,2001 年。)
(*)武内祐二「渡名喜雲南羅馬」イタリア図書 28,2001 年。
(*)田之倉稔「林[達夫]さんとイタリアを旅行したときのこと」イタリア図書 28,2001 年 //31,2004 年。
(*)(参考：宮下規矩朗・中田宏明・小佐野重利「文献リストと解題(特集 美術と身体表現)」西洋美術研究 5,2001 年。)
(*)姫路文学館編『二人のヨーロッパ：辻善之助と和辻哲郎』姫路文学館,2001 年。
(*)(参考：地中海文化を語る会編『ギリシア世界からローマへ』彩流社,2001 年。)
(*)(参考：平田隆一「古典古代における「ヨーロッパ」概念—他者意識と自己意識に関する覚書」ヨーロッパ文化史研究 2,2001 年。)
(*)(参考：塩野七生「書想倶楽部 今ほど日本人が愚かなリーダーに幻滅して賢い指導者を切望している時はない/塩野七生『ローマ人の物語』」サピオ 13(3),2001 年。)
(*)(参考：平林敏彦「モノクロ・グラビア ヒューマン・アルバム シュリーマン—古代への夢に生きて偉業を成し遂げた考古学者」潮 506,2001 年。)
(*)(参考：シュペングラー/村松正俊訳『世界史的展望』定本版・西洋の没落：世界史の形態学の素描 2,五月書房,2001 年(→2007 年,普及版。→2015 年,ニュー・エディション)。)
(*)(参考：Akira Mizuta(ed.),trans.by Martha J.McClintock,*Iconopraphic and stylistic observations*

on the Parthenon frieze : garnt-in-aid for scientific research, Monbusho ,Parthenon Projeckt Japan 1994-1996, Parthenon Projeckt Japan,Maruzen[sold],2001.?)
(*)(参考：関隆志「基調講演 西洋古典考古学と市民---パルテノン神殿研究を例として(特集シンポジウム「歴史と史料—文書と古地図と遺跡(含・討論)」神戸大学史学年報 16,2001 年。)
(*)(参考：関隆志「文化財破壊批判：エルギン卿トーマス・ブルースのパルテノン神殿破壊を例として(飯田収治教授退任記念号)」(大阪市立大学)人文研究 53(2),2001 年。)
(*)(参考：篠塚千恵子「パリテノンフリーズの人物の衣装についての考察—騎士の衣装をめぐって」東北芸術工科大学紀要 8,2001 年。)
(*)(参考：水田徹「パルテノンフリーズ戦車隊・騎馬隊行列における「特異な重切表現」」造形芸術学・演劇学：東京学芸大学造形芸術学・演劇学講座研究紀要 3,2001 年。)
(*)(参考：播繁「私のベストディテール--播繁(播設計室代表)—適材適所のハイブリッド構造」日経アーキテクチュア 704,2001 年。)
(*)(参考：西山清「イギリス・ロマン派とエルギン・マーブル」学燈 98(2),2001 年。)
(*)(参考：アンドレイア・ボナツィ「文化と宗教・どちらが上か? : T.S.エリオットにおける文化と宗教」(聖トマス大学)紀要：人間文化 4,2001 年。)
(*)(参考：岩倉具忠「巻頭随筆 イタリア人が見た明治の日本」外交フォーラム 14(8),2001 年。)
(*)飯嶋裕治「解釈学的方法と所有の人間存在論—和辻哲郎の文化史研究とその存在論的背景」倫理学年報 50,2001 年。
(*)勝又俊雄「大倉精神文化研究所の建築の研究(正・補遺)」大倉山論集 47,2001 年/49,2003 年。)
(*)(参考：Department of Western Art History,the Faculty of Fine Arts,Tokyo National University of Fine Arts and Music“Aspects of problems in Western art history”東京芸術大学美術学部西洋美術史研究室,2001)
(*)(参考：ヨハン・ヨアヒム・ヴィンケルマン/中山典夫訳『古代美術史』中央公論美術出版,2001 年。)
(*)(参考：中村るい「ギリシア美術研究考」(付・ロバートソン「なぜ、ギリシア美術を研究するのか」の翻訳)(跡見女子大学美学美術史学科)美学・美術史学科報 29,2001 年。)
(*)(参考：西岡文彦『図説名画の歴史：鑑賞と理解完全ガイド』河出書房新社,ふくろうの本,2001 年。)
(*)(参考：二宮宏之研究代表『ヨーロッパの基層文化の研究：フランスを中心に=Researches on basic cultures of Europe：with special referennce to France』科学研究費補助金(基礎研究 A2)研究成果報告書 平成 10-12 年度,2001 年。)
(*)(参考：サビーヌ・メルシオール=ボネ,オード・ド・トックヴィル/橋口久子訳『図説 不倫の歴史』原書房,2001 年。)
(*)(参考：吉村貴著/長澤和俊監修『シルクロード歴史地図の歩き方』プレイブックスイン

テリジェンス,青春出版社,2001 年。)
(*)(参考：守川知子「ガージャール朝期旅行史料研究序説」西南アジア研究 55,2001 年。)
(*)(参考：ジャン=ピエール・アンドルヴァン原作/ルネ・ラルー監督脚色『ガンダーラ=Gandahar』パイオニア,imagica,2001 年。)
(*)(参考：シルクロード学研究センター編『シルクロードの文様の世界：シルクロード文化セミナー』シルクロード学研究叢書 4,シルクロード学研究センター,2001 年。)
(*)(参考：ジャン=ピエール・アンドルヴォン原作/ルネ・ラルー監督・脚色『ガンダーラ』Imagica：パイオニア LDC(発売),ビデオレコード,2001 年。)
(*)(参考：関隆志「ギリシア美術に見る文様と意匠—その起源と意味について(シルクロード文化セミナー『シルクロードの文様の世界』)」シルクロード学術研究叢書 4,2001 年。)
(*)(参考：飯島章仁「ギリシア・ローマの舗床モザイクとその文様(シルクロード文化セミナー『シルクロードの文様の世界』)」シルクロード学術研究叢書 4,2001 年。)
(*)(参考：山本忠尚「唐草文様の変遷—シルクロードから飛鳥・天平へ (シルクロード文化セミナー『シルクロードの文様の世界』)」シルクロード学術研究叢書 4,2001 年。)
(*)(参考：浅野和生「ゲミレル島のビザンティン聖堂群の周歩廊—建築技術の東西交流史に関する試論」民族芸術 17,2001 年。)
(*)(参考：浅野和生「イスタンブール,アギア・ソフィア聖堂のナルテックス・モザイク(特集 イコノクラスム)」西洋美術研究 6,2001 年。)
(*)(参考：ルネ・ラルー監督『ガンダーラ=Gandar』Imagica,パイオニア,2001 年。)
(*)(参考：O.シュペングラー/村松正俊訳『形態と現実と』定本西洋の没落：世界史の形態学の素描 1,五月書房,2001 年。)
(*)(参考：O.シュペングラー/村松正俊訳『世界史的展望』定本西洋の没落：世界史の形態学の素描 2,五月書房,2001 年。)
(*)(参考：O.シュペングラー/村松正俊訳『西洋の没落：世界史の形態学の素描』定本版,五月書房,2001 年。)
(*)(参考：里美元一郎『ヨハン・ホイジンガ：その歴史観と文明論』近代文芸新書,近代文芸社,2001 年。)
(*)(参考：岡田温司「イタリア・モダニズムの饗宴：イタリアの根底にあるもの(徹底討論)[含・キーワード解説&ブックガイド]（特集 イタリア）」ユリイカ 33(8),2001 年。)
(*)(参考：清瀬みさを『人文学としての芸術研究』法律文化社,2001 年。)
(*)(参考：小谷幸雄「佛陀現象?ゲーテ『ファウスト』の謎—富永半次郎の比較〈文明〉論的業績(序説)」立正大学大学院紀要 17,2001 年。)
(*)(参考：和泉浩「ウェーバーとニーチェの音楽論」社会学年報30,2001年。)
(*)(参考：西田兼「クリムトとギリシア美術」芸術論究 28,2001 年。)
(*)(参考：石弘之・安田喜憲・湯浅赳男『環境と文明の世界史—人類二十万年の興亡を環境史から学ぶ』洋泉社,2001 年。)
(*)(参考：保坂睦・保坂修司「よみがえるアレキサンドリア図書館」季刊・本とコンピュー

ター[第 2 期]2,2001 年。)
(*)中園英助「遠人近交禄(4)アレックスと共にアレキサンドリアへ」世界 690，2001 年。)
(*)(参考：エルシャズリー アリー「アレキサンドリア(エジプト)と上海(中国)における外国人居留地の時系列的発展の比較研究」日本中東学会年報 17(1),2001 年。)
(*)秋山学「〈研究室だより〉筑波大学と地中海学」筑波フォーラム 60,2001 年。
(*)(参考：紺谷亮一「銅の文明・鉄の文明への新提言—岡山市立オリエント美術館収蔵品・ルリスタン青銅器から」日本西アジア考古学会公開セミナー3,2001 年。)
(*)(参考：本村凌二『馬の文化史』講談社現代新書,2001 年。)
(*)(参考：冨田教代「チーズの文化史」家庭科教育 75(1),2001 年。)
(*)(参考：井上章一「南蛮幻想と天守閣(特集 交流する建築)」国際交流 22(3),2000 年。
(*)宮永孝「日本洋学史—日本人と南蛮語学」社会志林 48(1),2001 年。
(*)清水紘一『織豊政権とキリシタン：日欧交渉の起源と展開』」近世史研究叢書 5,岩田書院,2001 年。
(*)(参考：「Publications by Mediterranean Studies Group Hitoshibashi University」地中海論集 16,平成 10-12 年度科学研究費補助金(基盤研究 A),2001 年。)
(*)(参考：「Index to Volumes I-XV of Transctions of the Mediterranean Studies Research Group at Hitoshibashi University」地中海論集 16,平成 10-12 年度科学研究費補助金(基盤研究 A),2001 年。)
(*)蘆田文庫編纂委員会「前野良沢訳編 輿地圖編小解(翻刻)」明治大学人文科学研究所紀要 49,2001 年。
(*)堀内立三「箕作省吾の意貌山」古地図研究 309,2001 年。
(*)(参考：奥野中彦「地図と歴史学—地図が果たしてきた役割」国士舘史学 9,2001 年。)
(*)(参考：細井将右「欧米の地図学教育事情」地図 39(1),2001 年。)
(*)(参考：金窪敏知「果たして地図の歴史は文字の歴史より古いか?：世界最古の地図」地図 39(3),2001 年。)
(*)(参考：イアン・バーンズ,ロバート・ハドソン/武井摩利訳『ヨーロッパ大陸歴史地図』大陸別世界歴史地図 1,東洋書林,2001 年。)
(*)(参考：秋山憲兄監修『新共同訳聖書聖書辞典』新教出版社,2001 年。)
(*)(参考：E.ディヴァイン/木田元(他)監修『20 世紀思想家事典』誠信書房,2001 年。)
(*)宮崎犀一「書評 的場昭弘・内田弘・石塚正英・柴田隆行編『新マルクス学事典』--今日のマルクス学 新しい事典の誕生に寄せて」アソシエ 5,2001 年。
(*)柳川創造・坂田稔他編『人物事典』集英社,2001 年。
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典11』ナダ出版センター,2001 年。
----「沢田謙三」
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典12』ナダ出版センター,2001年。
----「島村抱月」「下位春吉」「寿岳文章」「新見吉治」「新村出」「吹田順助」
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典13』ナダ出版センター,2001 年。
----「杉浦明平」「高木敏雄」「高野長英」「高橋誠一郎」

(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典14』ナダ出版センター,2001 年。
----「高山樗牛」「竹越与三郎」「竹山道雄」「田中耕太郎」「田中美知太郎」
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典15』ナダ出版センター,2001年。
----「田辺尚雄」「谷川徹三」「辻直四郎」「寺田寅彦」「土居光知」「土井晩翠」
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典16』ナダ出版センター,2001年。
----「登張竹風」「富永惣一」「朝永振一郎」「中江兆民」
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典17』ナダ出版センター,2001年。
----「中西敬二郎」「中村敬宇」
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典18』ナダ出版センター,2001年。
----「南原繁」「新居格」「新関良三」「西周」「仁戸田六三郎」「西脇順三郎」「新渡戸稲造」「野上豊一郎」「野尻抱影」「曙昇夢」
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典19』ナダ出版センター,2001年。
----「波多野鼎」「波多野精一」「羽田享」「林健太郎」「林竹二」「林達夫」「原田慶吉」
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事20』ナダ出版センター,2001年。
----「日夏耿之助」「深瀬基寛」「福原麟太郎」「藤井健次郎」
(*)(參考 : 久保正彰「『古代ラテン語集成』国際協力委員会報告」日本學士院紀要 55(3),2001 年。)
(*)(參考：久保正彰「国際学士院連合第 74 回総会報告」日本學士院紀要 55(3),2001 年。)
(*)(參考：久保正彰「ブリンク教授の蔵書」図書 628,2001 年。)
(*)(參考：辻佐保子「ルネッサンスにおける聖書制作事情」図書 630,2001 年。)
(*)前野弘志「古代ギリシア語碑文研究のメディア〈コラム〉」西洋史学報 28,2001 年。
(*)植田康成『ドイツ語イディオム学習・教授法に関する総合的研究 : 日独イディオム比較・対照研究の視点から』(和辻哲郎)広島大学,博士(文学),乙第 3484 号,2001 年。
(*)(參考 : 谷川政美『ギリシア文字の第一歩 : 読み方・書き方・歴史』国際語学社,2001 年。)
(*)(參考：サイモン・シン/青木薫訳『暗号解読：ロゼッタ・ストーンから量子暗号まで』新潮社,2001 年。)
(*)(參考：ミッシェル・ドヴァシュテール/吉村作治監修・遠藤ゆかり訳『ヒエログリフの謎をとく：天才シャンポリオン、苦闘の生涯』創元社,「知の再発見」双書 97,2001 年。)
(*)(參考：サイモン・シン/青木薫訳『暗号解読：ロゼッタ・ストーンから量子暗号まで』新潮社,2001 年。)
(*)柳父章『一語の辞典—愛』三省堂,2001 年。
(*)(參考：宮脇正孝“James Harris’s Theory of Universal Grammer：A Sybthesis of the Aristo–telian and Platonic Conceptions of Language”上智大学,博士(文学),乙第

179 号,2001 年。)
(*)柳父章『「ゴッド」は神か上帝か』岩波現代文庫 学術 56,岩波書店,2001 年。
(*)奥貞二「ギリシア語由来の外来語(2)」紀要 34,2001 年。
(*)(参考 : 秋山学「タキトゥスの動詞統語法における Grecism」文藝言語研究,言語篇 39,2001 年。)
(*)柴崎文一「PL∧AT_EX2_ε と Babel による日本語・古典ギリシア語混在環境の構築」情報処理学会研究報告・人文科学とコンピューター研究会報告 2001(6),2001 年。
(*)(参考 : 秋山学「地中海世界における書物と書物観」(宮下・丹治編『書物の言語態』所収,東京大学出版会,2001 年。)
(*)(参考 : 樺山紘一・千葉敏之「インタヴュー : 樺山紘一教授に訊く/聞き手 : 千葉敏之 世界を俯瞰する眼」クリオ=Clio 15,2001 年。)
(*)(参考 : 古谷大輔「西洋史研究者のためのパソコン活用入門 : 実践編」クリオ=Clio 13,1999 年。)
(*)(参考 : 桑原俊一「交錯することば : 地中海文明と文字の伝播(特集 共同研究報告 : 欧米各国における多文化の問題と日本の課題[続])」北海学園大学人文論集 19,2001 年。)
(*)(参考 : 土家典生・下谷和幸・今里智晃編『フィロロギア : 渡部昇一先生古稀記念論文集』大修館書店,2001 年。)
---網代敦「羅・独・英の「読む」を表す言葉をめぐって」
稲田茂夫「ミルトンのラテン語文法書」
江藤裕之「19 世紀ドイツフィロローグの究極的関心 : logos から đeos へ」
織田哲司「『クラテュロス』の語源論」
松浪茂「アガペーの前史 : 『イーリアス』における初出例の検証」
宮脇正孝「文法史に見るプラトンとアリストテレス」
(*)(参考 : 宮脇正孝“James harris’s Theory of Universal Grammer : A Sunthesis of the Aristotelian and Platonic Coceptions of Language”上智大学,博士(文学),乙第 179 号,2001 年。)
(*)(参考 : クリスチャン・ジャック著/鳥取絹子・矢島文夫訳『クリスチャン・ジャックのヒエログリフ入門』紀伊国屋書店,2001 年。)
(*)(参考 : ミシェル・ドヴァシュテール/吉村作治監修・遠藤ゆかり訳『ヒエログラフの謎をとく : 天才シャンポリオン,苦闘の生涯』「知の再発見」双書 97,創元社,2001 年。)
(*)(参考 : サイモン・シン/青木薫訳『暗号解読 : ロゼッタストーンから量子暗号まで』新潮社,2001 年(→2007 年,新潮文庫版[上下]。)
(*)(参考 : 谷川政美『ギリシア文字の第一歩 : 読み方,書き方,歴史』国際語学社,2001 年。)
(*)(参考 : 梅津教孝「シャルルマニューの文書に見るラテン語の質—書記ヴィグバルドゥスの検討」(九州西洋史学会)西洋史学論集 39,2001 年。)
(*)(参考 : 千葉敏之「gigantibus,quorum umeris insideo nanus : 中世ラテン語と歴史家のための諸道具」クリオ=Clio15,2001年。)
(*)(参考 : 猪股謙二「ラテン語文法教本Exercitium Puerorum Grammticaleについて」大東文化大学英米文学論叢32,2001年。)
(*)吉野俊彦「書斎閑話 英語学習のしめくくり—齋藤勇著『思潮中心の英文学史』と田中秀央著『新ラテン語文法』」週刊東洋経済 5715,2002 年。

(*)(参考：ジャクリーヌ・ダンジェル/遠山一郎・高田大介訳『ラテン語の歴史』白水社,文庫クセジュ 843,2001 年。)
(*)(参考：マリウス・サラ/伊藤太吾訳『ラテン語からルーマニア語へ：ルーマニア語史』大阪外国語大学学術出版委員会,大阪外国語大学学術研究双書 26,2001 年。)
(*)(参考：九州大学付属図書館ラテン語古刊本書誌作成研修会篇『タイトルページを読む楽しみ：図書館ラテン語入門』九州大学付属図書館,2001 年。)
(*)(参考：井浦伊知郎「書評 ツィツィリス「ギリシア語—あまり知られていないバルカン言語連合の一員」プロピレア 13,2001 年。)
(*)(参考：尚樹啓大郎「わが国におけるビザンツ史研究について：ビザンツ時代のギリシャ語の発音表記をめぐって」史學雑誌 110(4),2001 年。)
(*)もりいずみ「人物科学史江戸時代の医学書『解体新書』翻訳の立役者—前野良沢」ニュートン 21(&),2001 年。)
(*)原田裕司「前野良沢『西洋画賛文稿』のラテン語原典(補遺)」大阪大学言語文化部・言語文化研究所「言語文化研究」27,2001 年。
(*)原田裕司「前野良沢のラテン語辞典と近世日本輸入ラテン語書誌」日蘭学会編「日蘭学会会誌」48,2001 年。
(*)原田裕司「津田真道と箕作麟祥のラテン語学書」(津山洋学史料館編)一滴 9,2001 年。
(*)真田治子「『哲学字彙』改版にあたっての訳語の変動」国文学論考 37,2001 年。
(*)真田治子「明治期学術漢語の一般化の過程：各種メディアの語彙表との比較」國語學 52(3),2001 年。
(*)手島邦夫「西周の訳語の定着とその要因」國語學 52(3),2001 年。
(*)朱京偉「『哲学字彙』再版のと三版の増補訳語について」日本語科学 10,2001 年。
(*)(参考：月村辰雄「偽物から本物へ—ヨーロッパ古文書学の成立(特集 偽書の文化史—贋作のドラマトゥルギー)」言語 30(8),2001 年。)
(*)佐野晴雄「芳賀八一の国学観とドイツ文献学」山口大学独仏文学 23,2001 年。
(*)(参考：宮脇正孝“James Harris’s Theory of Universal Grammer : A Synthesis of the Aristotelian and Platonic Conceptions of Language”上智大学,博士(文学),乙第 179 号,2001 年。)
(*)(参考：網代敦「イギリスの文献学(フィロロジー)と文献学者(フィロロジスト)(1,2,3)」大東文化大学英米文学論叢 32,2001 年/33,2002 年/34,2003 年。)
(*)(参考：小川浩「英語学と言語学の狭間—フィロロジーの立場から(特集 英語学のこれから」)英語青年 147(1),2001 年。)
(*)(参考：高田康成研究代表『英文学における「古典」の言説に関する表象文化論的考察』高田康成,2001 年。)
(*)(参考：小澤喬「オルテガにおける「教養(文化)」の概念」東京理科大学紀要・教養篇 34,2001 年。)
(*)(参考：Christophe Charel/池端次郎訳「十九世紀末ヨーロッパの大学人」教育科學 24,2001 年。)
(*)(参考：綾井桜子「フランス古典中等教育にみる修辞学の再編：エリートの教養としての「書く技術」」教育学研究 68(2),2001 年。)
(*)(参考：綾井桜子「リセにおける教養の思想史的検討—世紀転換期における文学と科学を

めぐる論争から(課題研究報告：フランスにおける教養教育の展開)」フランス教育学会紀要 13,2001 年。)
(*)(参考 : 岩崎大輔「自己保存としての詩芸術 : 初期ヘルダーにおけるヴィーコ的要素の一諸相」Stufe 21,2001 年。)
(*)(参考 : 飯田隆「ウィトゲンシュタインとゲーテ的伝統(特集 ウィトゲンシュタインとゲーテ)」モルフォロギア 23,2001 年。)
(*)梅村恵子「林茂氏旧蔵書について(1) : 附,「林茂氏旧蔵書」別置本仮目録(1)」川村学園女子大学研究紀要 12(1),2001 年。
(*)渡邉雅弘「羅典、羅甸、羅天、拉典、拉甸、剌甸、剌葡、剌斑、らてん、ラテン語(一)」[未完]Katholikos(南山大学図書館カトリック文庫通信)16,2001 年。
(*)川戸道昭・中村良雄・榊原貴教編集『明治翻訳文学全集《新聞雑誌編》/総目次・総索引』(全 50 巻＋別巻)大空社,2001 年。
(*)川戸道昭・中村良雄・榊原貴教編集『明治翻訳文学全集総合年表』(全 50 巻＋別巻)大空社,2001 年。
(*)根岸宗一郎「周作人と H.S.タッカー : 立教大学におけるギリシア語学習とギリシア文学・キリスト教との出会い」中国研究月報 55(4),2001 年。
(*)堀孝彦『英学と堀達之助』雄松堂出版,2001 年。
(*)上村直己『明治期ドイツ語学者の研究』多賀出版,2001 年(→2008 年,島影社)。
(*)(参考 : 久保正彰「ブリンク教授の蔵書」図書 628,2001 年。)
(*)(参考 : 谷口勇「エコ文献解題 : 翻訳を中心地として」立正大学人文科学研究所年報 38,2001 年。)
(*)(参考 : 井上順孝行編『宗教の歴史地図 : 現代世界を読み解く新たな視点』青春出版社,2001 年。)
(*)浅田二郎『姫椿(ひめばき)』（「オリンポスの聖女」） 文藝春秋,2001 年(→2012 年,徳間文庫版)。
(*)(参考 : 新潟大学人文学部編『神話・伝説の成立とその展開の比較研究』新潟大学人文学部,新潟大学基礎的研究プロジェクト報告書・平成 12-13 年度,2001-002 年。)
(*)(参考 : 新町貴司『神話学の変遷と非合理の発見』筑波大学,博士(文学),甲第2478号,2001 年。)
(*)(参考 : 平藤喜久子「明治期の比較神話学―スサノヲ論争をめぐって」宗教研究 75(3),2001 年。)
(*)(参考 : 國松萌美「ミルチャ・エリアーデにおける聖の解釈学と《新しいヒューマニズム》」宗教哲学研究 18,2001 年。)
(*)(参考 : 木村勝彦「旅と聖なる時間・空間 : 旅の宗教学的考察に向けて」長崎国際大学論集 1,2001 年。)
(*)(参考 : 奥山倫明「宗教の「世界史」のために―エリアーデ再読(特集 仏教の可能性)―(世界宗教としての仏教)」仏教 52,2001 年。)
(*)(参考 : 小林雄一郎「ベンヤミンの「神話」概念―ヘルダーリン論をめぐって」(阪神ドイツ文学会)ドイツ文学論攷 43,2001 年。)
(*)(参考 : 篠田知和基『ユーラシア神話の比較研究 : 神話と文学』出版者不明,2001 年。)
(*)(参考 : 松田紹典「蛙の浄土(11)冥王館前の合唱歌」聖和学園短期大学紀要38,2001年。)

(*)(参考 : 太田外氣晴「建築と酒(7,9)ギリシア神話と酒と建築(1,2)」建築の研究 146,148,2001 年。)
(*)(参考 : さかもと未明『マンガギリシア神話,神々と人間たち』講談社+α 文庫,講談社,2001 年。)
(*)(参考 : 里中満智子『オデュッセウスの冒険』マンガ・ギリシア神話 8,中央公論新社,2001 年。)
(*)(参考 : ローズマリ・サトクリフ/山本史郎訳『トロイアの黒い船団』ギリシア神話の物語(上),原書房,2001 年。)
(*)(参考 : 千葉政助『千葉政助ギリシア神話作品集--アルテミス』中教出版,2001 年。)
(*)(参考 : 篠田達明「ドクター・シノダの人物画診断(25)ミロのヴィーナスの妊娠線」芸術新潮 52(10),2001 年。)
(*)(参考 : 森茂太郎「「大いなるかな,エペソスのアルテミス(1)メリメ『イールのヴィーナス』をめぐって」Stella 20,2001 年。)
(*)(参考 : 貫井一義「ベラスケス作《バッカスの勝利》—ボデゴンとの関連性とその制作過程について」地中海学研究 24,2001 年。)
(*)(参考 : 松田浩則「ヴァレリー、あるいはヴィーナスの変貌」紀要 28,2001 年。)
(*)(参考 : ハンス・ヴェルナー・ヘンツェ,岩下眞好「作曲者ハンス・ヴェルナー・ヘンツェ氏に聞く(特集 N 響とオペラ)-(1 月定期演奏会《ヴィーナスとアドニス》を聴く前に)」フィルハーモニー72(4),2001 年。)
(*)(参考 : 柳沢文昭「アルベール・カミュにおけるヘレニスムとキリスト教--《悪》の問題をめぐって」比較文化研究年報 13,2001 年。)
(*)(参考 : 岩下眞好「現代の“オペラ作曲家”ヘンツェ(特集 N 響とオペラ)-(1 月定期演奏会《ヴィーナスとアドニス》を聴く前に)」フィルハーモニー72(4),2001 年。)
(*)(参考 : 金澤百枝「古代地中海の怪物ケートスの系譜とドラゴンの誕生—ジローナ《天地創造の刺繍布》における二匹の海獣に関する一考察」地中海学研究 24,2001 年。)
(*)(参考 : 山下桐子「鳥占考(1-5)」地中海歴史風土研究誌 13,14,2001 年/15,16,2002 年/17,2003 年。)
(*)(参考 : 篠井保彦「神託と予測(13)宗教的なるもの」地中海歴史風土研究誌 13,2001 年。)
(*)(参考 : 篠井保彦「神託と予測(14)分かり合うことについて」地中海歴史風土研究誌 14,2001 年。)
(*)(参考 : □亦牟『老庄[荘]学説与古希腊神話』巴蜀書社,2001 年。)
(*)(参考 : ローズマリ・サトクリフ/山本四郎訳『トロイアの黒い船団』サトクリフ・オリギナル 4,ギリシア神話の物語(上),原書房,2001 年。)
(*)(参考 : 三枝和子『ギリシア神話の悪女たち』集英社新書,集英社,2001 年。)
(*)(参考 : 脇本由佳「美・知・徳を兼ね備えたデウスさま」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。)
(*)(参考 : 岩見隆・大川京・木下雄介・高田康一・野元晋・堀江聡共訳「翻訳 アラビア語版『アリストテレスの神学』第10章」慶應義塾大学言語文化研究所紀要33,2001年。)
(*)(参考 : 山内淳「『煉獄の女神マグダラのマリアー : (続)マグダラのマリア伝説の秘密』」日本大学芸術学部紀要 34,2001 年。)

(*)(参考：五十嵐節子「聖母マリアの死—Dormitio の表現と往生術の挿絵」京都ノートルダム女子大学研究紀要 31,2001 年。)
(*)(参考：シルヴィ・パルネイ/鈴木弘毅監修・遠藤ゆかり訳『聖母マリア』知の再発見双書 95,創元社,2001 年。)
(*)(参考：ホアン・カトレット/須沢香編著『マリアのたとえ話』新世社,2001 年。)
(*)(参考：小出龍太郎「ウォーレス,「ベン・ハー」の深層構造(2)ベン・ハーとエスターの対比」大阪芸術大学短期大学部紀要 25,2001 年。)
(*)(参考：ブルース・マリーナ,リチャード・ロアボー/大貫隆監訳・加藤隆訳『共観福音書の社会科学的注解』新教出版社,2001 年。)
(*)(参考：大貫隆『ロゴスとソフィア：ヨハネ福音書からグノーシスと初期教父への道』教文館,2001 年。)
(*)(参考：大貫隆他編『グノーシス 陰の精神史』岩波書店,2001 年。)
(*)(参考：K.ルドルフ/大貫隆・入江良平・筒井賢治訳『グノーシス—古代末期の一宗教の本質と歴史』岩波書店,2001 年。)
(*)(参考：大貫隆他編『グノーシス 異端と近代』岩波書店,2001 年。)
(*)(参考：大澤武男『ユダヤ人とローマ帝国』講談社新書,2001 年。)
(*)(参考：曽野綾子『狂王ヘロデ』集英社,2001 年(→2004 年,集英社文庫版。)
(*)(参考：半沢栄一「洪水神話の転用と一神教の創出」古代史の海 26,2001 年。)
(*)(参考：川崎昭典『財政と宗教』帝京大学,博士(経済学),乙第 3 号,2001 年。)
(*)(参考：島創平『初期キリスト教とローマ社会』新教出版社,2001 年。)
(*)(参考：アダルベール・アマン/東丸恭子[上]・印出忠夫[下]訳『アウグスティヌス時代の日常生活(上下)』リトン,[上]2001 年/[下]2002 年。)
(*)(参考：戸田聡「古代末期におけるキリスト教修道制の成立(特集 第 51 回[キリスト教史学会]大会シンポジウム『修道制—周縁性と社会性の狭間で』)」キリスト教史学 55,2001 年。)
(*)(参考：川端由喜男編訳『ローマ人への手紙・コリントへの手紙』ギリシア語新約聖書,日本語対訳/[Kurt Aland 編],教文館,2001 年。)
(*)(参考：土戸清『ヨハネ福音書のこころと思想』教文館,2001 年。)
(*)(参考：土戸清『私たちの『使徒行伝』』新教出版社,増補改訂版,つのぶえ文庫,2001 年。)
(*)(参考：梅本直人「翻訳と註解 アレクサンドリアのフィロン著「モーセの見解による宇宙(コスモス)の形成について」基督教論集 44,2001 年。)
(*)(参考：鈴木宣明『図説ローマ教皇』ふくろうの本,河出書房新社,2001 年。)
(*)(参考：小長谷正明『ローマ教皇検死録：ヴァティカンをめぐる医学史』中公新書,中央公論新社,2001 年。)
(*)(参考：塩野七生『神の代理人』塩野七生ルネンサンス著作集 6,新潮社,2001 年。)
(*)井上洋治『法然：イエスの面影をしのばせる人』こころの本,筑摩書房,2001 年。
(*)井上章一『キリスト教と日本人』講談社現代新書,2001 年(→2013 年,角川文庫版)。
(*)加賀乙彦「〈講演〉『沈黙』とその時代(〈特集〉遠藤周作)」三田文学 80(67),2001 年。
(*)本多峰子「遠藤周作試論」母なる神—西洋キリスト教と日本人の宗教観の相克と、宗教多元的解決」二松学舎大學東洋學研究所集刊 31,2001 年。
(*)兼子盾夫「遠藤周作における文学と宗教 III：『死海のほとり』--〈永遠の同伴者イエス〉を求めて」横浜女子短期大学研究紀要 16,2001 年。

(*)宮原安春『神谷美恵子 聖なる声』文春文庫,文藝春秋,2001 年。
(*)(参考：大月康弘「ビザンツ学の新世紀—第 20 回国際ビザンツ学会に参加して」オリエント 44(2),2001 年。)
(*)(参考：秋山学『教父と聖書解釈：予型論的考察』創文社,2001 年。)
(*)(参考:秋山学「地中海学の可能性と教父たち--『教父と古典解釈』に寄せて」創文 433,2001 年。)
(*)(参考：野町啓「古典文献伝承のアポリア—秋山学『教父と古典解釈』を読んで」創文 436,2001 年。)
(*)(参考：馬場紀臣「C.F.マイヤー『尼僧院のプラウトス』における語り手ポッジョ」(徳島大学)言語文化研究8,2001年。)
(*)(参考：桑原直巳「“学”としての神学の可能性—稲垣良典著『神学的言語の研究』を読んで」創文 8 月号.2001 年。)
(*)(参考：ジャック・ドント/飯塚勝久訳『ヘーゲル伝』未来社,2001 年。)
(*)(参考:安酸敏眞フリードリッヒ・ヴィルヘルム・グラーフ/深井智朗・安酸敏眞編訳『トレルチとドイツ文化プロテスタンティズム』聖学院大学出版会,2001 年。)
(*)田村孝‘Hellenistic Studies in Japan---Domination,Subordination and Alexander the Great’,「オリエント」36,2001 年。
(*)(参考：清水真木「友情の脆さについて—一つの概念史」広島大学総合科学部紀要 III,人間文化研究 9,2001 年。)
(*)(参考：『ボルソ・デステの聖書：MS.Lat.422-423=La Bibbia di Borso d’Este』岩波書店,2001-02 年。)
(*)柳父章『ゴッドは神か上帝か』岩波書店,2001 年(←1986 年,『ゴッドと上帝』筑摩書房)。
(*)川口敦子「『バレト写本』の成立とその周辺；飾り模様を手がかりとして」京都大学國文學論叢 6,2001 年。
(*)川口敦子「『サントスの御作業』の稿本：バレト写本の注記より」京都大学國文學論叢 7,2001 年。
(*)宮永孝「日本洋学史：日本人と南蛮語学」社会志林 48(1),2001 年。
(*)(参考：李徳根『カトリック教会と禅道に於ける現存在世界観の比較研究』國學院大学,博士（宗教学）,甲第36号,2001年。)
(*)坂井健「鴎外筆『心理学図表』：毛沢本『西洋哲学史』添付の図表について」京都語文 8,2001 年。)
(*)村松晋『三谷隆正の研究』刀水書房,2001 年。
(*)高橋章「R.ケーベルとキリスト教-- キリスト教の教義とケーベルの理解」国際関係研究 22(2),2001 年。
(*)田中秀臣『沈黙と抵抗---ある知識人の生涯 評伝・住谷悦治』(三瀬諸淵[周三]関連)藤原書店,2001 年。
(*)津田雅夫『和辻哲郎研究：解釈学,国民道徳,社会主義』青木書店,2001 年。
(*)桑子敏雄『感性の哲学』NHK ブックス,2001 年。
(*)高橋昭「司馬凌海：その名古屋時代(明治 9-12 年)」日本医史学雑誌 47(3),2001 年。
(*)松尾博「箕作阮甫略伝」彦根論叢 331,2001 年。
(*)磯崎康彦「長崎遊学後の司馬江漢と蘭書」福島大学教育学部論集・人文科学部門 70,2001

年。
(*)今西順吉「井上哲次郎の開拓者的意義」印度学仏教学研究 49(2),2001 年。
(*)武田清子『植村正久：その思想史的考察』教文館,2001 年。
(*)礒前順一・深澤英隆・高橋原「姉崎正治関連資料の整理及び日本宗教学の成立史的研究」日本女子大学総合研究所紀要 4,2001 年。
(*)深澤英隆「100 年前のドイツ留学--姉崎正治のドイツ留学時代の足跡を訪ねて」日本女子大学総合研究所ニュース 10,2001 年。
(*)礒前順一・春山文枝「ハーバード滞在期の姉崎正治」日本女子大学総合研究所ニュース 10,2001 年。
(*)礒前順一・深澤英隆・高橋原「姉崎正治伝の試み—京都時代」日本女子大学総合研究所ニュース 11,2001 年。
(*)金賛會『本地物語の比較研究：日本と韓国の伝承から』(百合若)三弥井書店,2001 年。
(*)関幸彦『神風の武士像：蒙古合戦の真実』(百合若)吉川弘文館,民俗歴史ライブラリー 120,2001 年。
(*)(参考 : ジャクリーヌ・ド・ロミーイ/有田潤訳『ホメロス』文庫クセジュ,白水社,2001 年。)
(*)(参考：三光洋「世界百一話 生誕 200 年のベリオーズの「トロイアの人々」」世界週報 82(3),2001 年。)
(*)小峯和明『説話の森：中世の天狗からイソップまで』岩波現代文庫,文芸,岩波書店,2001 年。
(*)小堀桂一郎『イソップ寓話：その伝承と変容』講談社学術文庫,講談社,2001 年。
(*)高橋禮子『湖畔のイソップ：歌集』まひる野叢書 184,ながらみ書房,2001 年。
(*)青木和雄作；吉川聡子画『イソップ：True Friends』金の星社,2001 年。
(*)渡部温(訳)/谷川恵一(解説)『通俗伊蘇普物語』東洋文庫,平凡社,2001 年。
(*)三田村信行『イソップどうわ』学年別・新おはなし文庫,偕成社,2001 年。
(*)(参考：Elizabeth Craik &Nakatsukasa Tetsuo(introd. & newly trans.)“Four fables from Aesop” Hayloft Press,2001.
(*)Kenji Kitao,S.Kathleen Kitao『Easy Aesop’s fables』新イージェストシリーズ,開隆堂,2001 年。
(*)あおきひろええ『まちのねずみいなかのねずみ：イソップものがたり』はじめてのめいさくしかけえほん 30,学習研究社,2001 年。
(*)植西聰『ヘタな人生論よりイソップ物語』河出書房新社,2001 年。
(*)遠藤潤一「『エソポのハブラス』考—E.M.サトウの解題をめぐって」国語研究 64,2001 年。
(*)西納春雄[訳]・安藤光史[訳]「翻訳ロバート・ヘンリスン『イソップ寓話集』(1)」言語文化 3(4),2001 年。
(*)中山エイ子「イソップ唱歌について(1)兎と亀」(金沢工業大学日本学研究所)日本学研究 4,2001 年。
(*)(参考：岩男久仁子「イソップとアリストファネス喜劇：寓話『鷲と甲虫』をめぐって」国際文化論集 24,2001 年。)
(*)宮尾與男「笑話本『噺かのこ』の考察—新出本の巻四を中心に」(イソップ)語文 111,2001 年。
(*)(参考：西納春雄・安藤光史「翻訳 ロバート・ヘンリスン作『イソップ寓話集』(1)」

言語文化 3(4),2001 年。)
(*)(参考：木村崇『イソップ寓話のロシア的受容と日本的受容』京都大学 1999 年,(科研費),2001 年。
(*)(参考：高山晶「『寓話撰』--ある日本生まれの版(1)ジャン・ド・ラ・フォンテーヌ」慶應義塾大學日吉紀要 フランス語フランス文学 32,2001 年。)
(*)「四の章：本木昌造と平野富二伝記の解説」Typography journal ヴィネット?,2001 年。
(*)(参考：平田隆一「古典古代における「ヨーロッパ」概念—他者意識と自己認識に関する覚書」ヨーロッパ文化史研究 2,2001 年。)
(*)(参考：佐野好則「ソローンのエレゲイア詩『ムーサイたちへの祈り』(13W)におけるホメーロス的比喩の機能」哲学誌 43,2001 年。)
(*)(参考：中里寿明『演劇の比較文化論』オセアニア出版,2001 年。)
(*)(参考：若林雅哉『編集すること：アリストテレス『詩学』とギリシア文芸にみる「制作」について』京都大学,博士(文学),甲第 9160 号,2001 年。)
(*)(参考：丹下和彦研究代表編『ギリシア悲劇の発展とその変容』大阪市立大学,科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書,平成 11-12 年度。
(*)(参考：平野明彦「悲劇の道徳的意義—ヤスパースの限界状況を手がかりにして」日本大学教育制度研究所紀要 32,2001 年。)
(*)(参考：角田幸彦『キケロ』Century books 人と思想 173,清水書院,2001 年。)
(*)(参考：ピエール・グリマル/鈴木暁訳『セネカ』白水社,文庫クセジュ 835,2001 年。)
(*)(参考：ホラティウス著/鈴木一郎訳『ホラティウス 人と作品』玉川大学出版部,2001 年。)
(*)(参考：鈴木一郎『ホラティウス 人と作品』玉川大学出版部,2001 年。)
(*)(参考：本田毅彦『インド植民地官僚—大英帝国の超エリートたち』講談社,2001 年。)
(*)辻佐保子「日本におけるキリスト教美術研究—「精神の共同体」を信じて」學燈 98(8),2001 年。)
(*)(参考：辻佐保子「ルネッサンスにおける聖書制作の系譜」図書 630,2001 年。)
(*)(参考：桂芳樹「ルネサンスのヘルメス主義とグノーシス主義」(村上陽一郎他編『グノーシス・陰の精神史』所収,岩波書店,2001 年。)
(*)小林健二『中世劇文学の研究：能と幸若舞曲』三弥井書店,2001 年。
(*)表世晩「矢野龍渓『経国美談』の空間特質」国際日本文学研究集会会議録 3 月号,2001 年。
(*)高井多佳子「〈論文〉『佳人之奇遇』を読む：小説と現実の「時差」」史窓 58,2001 年。
(*)谷沢永一「本好き人好き(47)芸術の話・山内房吉『芸術の話』、大町桂月編『和田垣[謙三]博士傑作集』」国文学 解釈と教材の研究 46(14),2001 年。
(*)土戸清「キリスト教大学の教育—その使命と課題を担う教会と大学の役割」キリスト教と諸学 16,2001 年。)
(*)柴田隆行「日本の哲学教育史(上)」井上円了センター年報 10,2001 年。
(*)桶谷秀昭「井上円了とその時代」井上円了センター年報 10,2001 年。
(*)安富信哉「変革期の仏教(3)清沢満之と「精神主義」」大法輪 68(11),2001 年。
(*)(参考：水垣渉「「緊張」について—キリスト教思想研究の方法についての一つの省察」基督教学研究 21,2001 年。)
(*)『アネモネ通信—菅谷愼を偲ぶ会会報』アネモネ会,創刊準備号,2001 年//1,2002 年//2,2004 年//3,2007 年。

(*)「高柳俊一教授・佐藤正司教授主要業績(高柳俊一教授・佐藤正司教授退職記念号)」英文学と英語学 38,2001 年。
(*)京都大学西洋古典研究会編『岡道男先生追悼文集』,2001 年。
(*)根本英世「ドイツの岡[道男]先生」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)橋本隆夫「心残りの記」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)松本仁助「同志社大学在職中の岡道男さん」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)小川正廣「岡[道男]先生と「オイディプス王」」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)岩谷智「岡[道男]先生の不在」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)内田次信「生命の燃焼とヘレニストとしての岡[道男]先生」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)上林健二「岡[道男]先生の論文指導と結実」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)國方栄二「岡[道男]先生の事」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)加藤素明「岡[道男]先生の想い出」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)金山万里子「マインツでお会いした岡[道男]先生」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)金山弥平「岡[道男]先生の思い出(1)」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)沓掛良彦「岡通男先生を偲んで」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)高橋宏幸「岡道男先生の教え」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)高畑時子「岡[道男]先生の教え」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)久保田忠利「岡[道男]先生の通信添削」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)五之治昌比呂「[岡道男]先生の授業の思い出」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)丹下和彦「思い出すこと」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)宮城徳也「岡[道男]先生の思い出(2)」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)吉武純夫「岡道男先生から教わったことの三番目」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)山沢孝至「岡[道男]先生を偲ぶ」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)山下太郎「岡[道男]先生の残された言葉」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)西村賀子「岡道男先生に心からの感謝をこめて」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)中務哲郎「岡道男先生の逝去を悼む」西洋古典學研究 49,2001 年。
(*)南川高志「藤縄謙三先生を悼む」西洋古典學研究 49,2001 年。
(*)吉田敦彦「追悼・大林太良/大林太良先生への感謝」現代思想 29(7),2001 年。
(*)田中正俊「追想、或る書簡にまつわることども : 太田秀通さんを偲ぶ」歴史評論 615,2001 年。
(*)中畑正志「哲学の教育—過去そして現在」アルケー9,2001 年。
(*)今西順吉「井上哲次郎の開拓者的意義」印度学仏教学研究 49(2),2001 年。
(*)渡邉恒雄「出隆「哲学以前」(達人が選んだ「もう一度読みたい」一冊)」文藝春秋 79(8),2001 年。)
(*)渡邊五郎「和魂洋才の二乗」(井上円了)サティア 42,2001 年。
(*)江藤正顕「三島由紀夫とペトロニウス—羅馬の悪趣味」(日本近代文学会九州支部)近代文学論集 27,2001 年。
(*)宮崎正弘「イタリアの三島由紀夫--「豊饒の海」はローマ中の書店で山積み—いまイタリアで何故?--「ローマ憂国忌」報告」諸君 33(8),2001 年。
(*)山内祥史編『太宰治『走れメロス』作品論集』近代文学作品論集成 8,クレス出版,2001 年。

(*)近藤周吾「「走れメロス」の〈話型学〉—典拠・教科書・解釈(前後)」日本近代文学会北海道支部会報 4,2001 年/5,2002 年。
(*)桜井芳雄「国語教育に IT を用いることによる可能性—IT を用いた「走れメロス」の読解授業(IT を利用した教育自薦と教員教育)」日本教育工学会研究報告集 1(5),2001 年。
(*)田井英輝「ディオニスの改心「人質」から「走れメロス」へ」日本言語文化研究 3,2001 年。
(*)安村典子「命ある限り学び続けるという事」西洋古典論集 11(別冊),2001 年。
(*)(参考：四方田犬彦『ハイスクール・ブキッシュライフ』(「ヨハネの黙示録」「ニーチェ「悲劇の誕生」ジョイス「ユリシーズ」)講談社,20021 年。)
(*)(参考：丹下和彦「マルジナリア創作と受容—西洋古典における作品受容の一側面」ドイツ文学論攷 43,2001 年。)
(*)(参考：高橋四朗「『新アトランティス』とルネサンス・ユートピアの終焉」八戸工業大学紀要 20,2001 年。)
(*)(参考：ダンテ/岡戸久吉訳『読ませるダンテの「神曲」』岡戸久吉,2001 年。)
(*)(参考：ホルヘ・ルイス・ボルヘス/竹村文彦訳『ボルヘスの「神曲」講義』国書歓刊行会,2001 年。)
(*)(参考：下館和巳「ダンテ『神曲』における終末のヴィジョン(特集 1 文学における終末意識)」キリスト教文学研究 18,2001 年。)
(*)(参考：池上裕子「ロバート・ラウシェンバーグの不安と内省—ダンテ『神曲』地獄篇のための三十四枚のドローイング」フィロカリア 18,2001 年。)
(*)(参考：「ボッティチェッリの“地獄変”—ダンテ『神曲』を描く(特集 ボッティチェッリ—ある世紀末画家の“光と影”)」藝術新潮 52(3),2001 年。)
(*)(参考：「その節にはお忘れなくこれが全地獄マップです(特集 ボッティチェッリ—ある世紀末画家の“光と影”)—(ボッティチェッリの“地獄変”—ダンテ『神曲』を描く」藝術新潮 52(3),2001 年。)
(*)岩倉具忠「『イタリア会誌』50 年間におけるダンテ研究の動向(2)1966 年から 1988 年まで(〈特別企画〉イタリア学会史・50 年間の歩み[VI])」イタリア学会誌 50,1999 年。
(*)井沢元彦「逆説の日本史(457)第 49 話 天下一統のグランドプラン 2「宗教勢力との大血戦」編(その 10)ダンテの『神曲』と狂言『宗論』に記された「大悪人」への攻撃」週刊ポスト 33(49),2001 年。
(*)(参考：篠田知和基「フランス文学におけるディオニュソス：『トリスタン』からトゥルニェまで」名古屋大学文学部研究論集 文學 47,2001 年。)
(*)(参考：ピーター・バーク/小笠原弘親・宇羽野明子訳『モンテーニュ』晃洋書房,2001 年。)
(*)(参考：小島達雄『モリエールと〈状況のなかの演劇〉』関西学院大学出版会,2001 年。)
(*)(参考：百田みち子「ラ・ブリューエールの社交界」長崎総合大学紀要 42(1・2),2001 年。)
(*)(参考：高山晶「『寓話選』--ある日本生まれの版(1)ジャン・ド・ラ・フォンテーヌ」慶應義塾日吉紀要,フランス語フランス文学 32,2001 年。)
(*)(参考：S.マークス/山形和美訳『シェイクスピアと聖書』日本基督教出版局,2001 年。)
(*)(参考：ディヴィッド・M.バージェロン/北川重男訳『シェイクスピアを学ぶ人のために』三修社,2001 年。)

(*)(参考：北村昌史「「トロイアの木馬」と市民社会における“Unarm”」(東北学院大学大学院英語英文学研究科)東北 35,2001 年。)
(*)(参考：加島康彦「『オセロー』における自己劇化とセネカ的手法」安田女子大学紀要 29,2001 年。)
(*)(参考：白鳥正孝『ミルトンの詩想—「失楽園」を中心に』鷹書房弓プレス,2001 年。)
(*)(参考：泉屋寛編『『ラセラス』受容史の研究』(広島)渓水社,2001 年。)
(*)北條文緒「『ヘンリー・ライクロフトの私記』日本における紹介と翻訳」東京女子大学比較文化研究所紀要 62,2001 年。
(*)(参考：ルース・ウェブ/別宮貞則監修；亀田幸子・日向やよい訳『ヴァージニア・ウルフ』シリーズ作家の生涯,British Library,ミュージアム図書(発売),2001 年。)
(*)(参考：小西章典「何がアルカディアから消されたのか?—ニコラ・プサン『われもまたアルカディアにありき』を読む」南山英文学 25,2001 年。)
(*)(参考：平野恵美子「『牧神の午後』におけるバクストの西欧性」Slavistica：東京大学大学院人文社会系研究科スラヴ語スラヴ文学研究室年報 16/17,2001 年。)
(*)(参考：芳原政弘『ゲーテとフランス革命』関西大学,博士(文学),乙第280号,2001年。)
(*)(参考：佐竹正一「Laokoon—Text 原点」Arets libelaris 69,2001 年。)
(*)(参考：J.J.Winkelrman/尾田一正訳「『絵画と彫刻におけるギリシア作品の模倣に関する考察』についての公開状に対する回答(1,2)』(翻訳)帝京大学外国語外国文学論集 7,2001 年/8,2002 年。)。)
(*)(参考：立石拓也「『金羊皮』と『ニーベルングの指輪』」オーストリア文学 17,2001 年。)
(*)(参考：松山雄三「若いシラーと Chr.ガルヴェーシラーの『哲学的書簡』をめぐって」東北薬科大学一般教育関係論 14,2001 年。
(*)(参考：菅野孝彦・三宅光一「ニーチェのヨーロッパ近代批判：ルターとルソーの場合」東海大学文明研究所紀要 21,2001 年。)
(*)高松敏男「書誌づくり,この厄介なもの—ニーチェ書誌作成体験記(文献探索・書誌・書誌論)」大阪府立図書館紀要 2001,2001 年。)
(*)宮本袈裟雄「序（杉田弘子教授記念号）」武蔵大学人文学会雑誌 32(4),2001 年。
(*)「杉田弘子教授略歴[業績目録]（杉田弘子教授記念号）」武蔵大学人文学会雑誌 32(4),2001 年。
(*)(参考：杉田弘子「マルジナリア 完璧なビブリオグラフィーの作成を目指して—ニーチェ没後百年記念事業」ドイツ文学 106,2001 年。)
(*)(参考：松崎俊之「身振り・音楽・言語—ニーチェ『ディオニュソス的世界観』第 4 節をめぐって(2,3,4,5)」石巻専修大学研究紀要 12,2001 年/14,2003 年/16,2005 年/17,2006 年。)
(*)(参考：四方田犬彦「ハイスクール・ブッキシュライフ(23,24)ニーチェ『悲劇の誕生』」本 26(5,6),2001 年。)
(*)(参考：五郎丸仁美『初期ニーチェ哲学における美的遊戯：カント,シラー美学との連関を中心に』国際基督教大学.,博士(学術),乙第 10 号,2001 年。)
(*)(参考：鈴木伸一「ヘーゲルとギリシア悲劇(1,2)」駿河台大学論叢 22,2001 年/26,2003 年。)
(*)(参考：安酸敏真『歴史と探究：レッシング,トレルチ,ニーバー』聖学院大学出版会,聖学院大学研究叢書 2,2001 年。)

(*)(参考：高橋秀誠・海老坂高「日本におけるフリードリヒ・ヘルダーリン(上下)：翻訳・研究文献」ドイツ文学 106,107,2001 年。)
(*)(参考：高橋克己「Le 《Démiurge des sages grecs》(Schiller《La Légation de Moïse》1790)et le《Dieu suprême》(Hölderlin《Pain et Vin》1800-1801.Vers 23)：「ギリシアの賢者達のデーミウルゴス」(シラー『モーセの使命』1790 年)と「至上の神」(ヘルダーリン『パンと葡萄酒』1800 年-1801 年,第 23 句)：Der 《Demiurgos der griechischen Weisen》(Schiller《Die Sendung Moses》1790)und der《oberste Gott》(Hölderlin《Brod und Wein》1800-1801,V.23)」(「ギリシャの賢者達のデーミウルゴス」(シラー『モーセの使命』(1790 年)と「至福なるギリシャ」(第 55 句)と、そのキリスト像(第 107 句-第 108 句)」高知大学学術研究報告・人文科学篇 50,2001 年。)
(*)(参考：高橋克己「Das《Bilod Gottes》in Hölderlins《Brod und Wein》(1800-1801)—Das《seelige Greichenland》(V.55)mit der Christusgestalt in den V.107-108：ヘルダーリンの『パンと葡萄酒』(1800 年-1801 年)における「神の似姿」--「至福なるギリシア」(第 55 句)と,そのキリスト像(第 107 句-第 108 句)：L'《Image de Dieu》dans 《Pain et Vin 》(1800-1801)de Hölderlin—La《Grèce bienheureuse》(vers 55)avec la forme de Jesus-Christ dans les vers 107-108」(ヘルダーリンの『パンと葡萄酒』(1800 年-1801 年)における「神の似姿」-「至福なるギリシヤ」(第 55 句)と、そのキリスト像(第 107 句-108 句)高知大学学術研究報告・人文科学篇 50,2001 年。)
(*)(参考：古後奈緒子「ホーフマンスタールの舞踏構想：『アモールとプシュケー』読解の試み(第 52 回美学会全国大会発表要旨)」美學 52(3),2001 年。)
(*)(参考：木田元「世紀転換期思想史(14)ホーフマンスタールとフッサール」大航海 38,2001 年。)
(*)(参考：福田覚「J.E.シュレーゲル,ゴットシェートが接した「ソフォクレス」：受容の 2 つの局面から考える詩学史の物語論的再解釈」(大阪大学言語学部,大阪大学大学院言語文化研究科編『ドイツ啓蒙主義研究』所収,言語文化共同研究プロジェクト, 大阪大学言語学部,大阪大学大学院言語文化研究科,2001 年。)
(*)(参考：三宅晶子研究代表『20 世紀ドイツ文化のイメージ研究：ベンヤミン研究の文化史的展開』千葉大学,科学研究費補助金基盤研究 C2 研究成果報告書,平成 9-12 年度,2001 年。)
(*)(参考：三光洋「世界百一話 生誕 200 年のベルリオーズの「トロイアの人々」」世界週報 82(3),2001 年。)
(*)川島重成「自然と文化のかかわりをめぐって」ペデラヴィウム 52,2001 年。
(*)(参考：生田裕「読者の論考(1,2,3)わが魂の遍歴—ヘロドトス,ツキジデス,そして聖書」福音と社会 40(4,5,6),2001 年。)
(*)今道友信『知の光を求めて—哲学者の歩んだ道』中央公論新社,2000 年。
(*)荒井直「〈書評〉新たな西洋学に向けて—高田康成著『キケロ—ヨーロッパの知的伝統』(岩波書店,1999 年 8 月)を読む」ペデラヴィウム 52,2001 年。
(*)(参考：坂井直芳『ブルクハルトとケーギ』《リキエスタ》の会,トランスアート市谷分

室(発売),2001 年。)
(*)(参考：野津寛「最初のヨーロッパ人とヨーロッパ人に関するノート(特集 現代を照射する古典)」言語文化 18,2001 年。)
(*)(参考：樺山紘一「ヨーロッパ像形成への道(特集 ヨーロッパと何か)」學燈 98(3),2001 年。)
(*)(参考：木原武一『こころを養う賢者の言葉』海竜社,2001 年。)
(*)(参考：左近司祥子『悪なんて知らないと猫は言う：悪とヒトの優雅な哲学』講談社,2001 年。)
(*)(参考：左近司祥子「エッセイ 猫と哲学談義(1-6)」学校経営 46(5-10),2001 年。)
(*)(参考：浅野楢英「西洋哲学史談義」Artes：宝塚造形大学紀要 15,2001 年。)
(*)(参考：入不二基義『相対主義の極北』春秋社,2001 年(→2009 年,ちくま学芸文庫版)。)
(*)(参考：ハンス・ブルーメンベルク/忽那敬三訳『理論的好奇心に対する審判のプロセス』法政大学出版局,2001 年。)
(*)(参考：石渡隆司・阿部秀男共編『知られざる神』南窓社,2001 年。)
(*)(参考：荒井洌『名言に学ぶ保育のセンス：ヨーロッパの香り日本の味わい』学文社,2001 年。)
(*)(参考：脇條靖弘「表出主義とミニマリズム真理論」山口大學文学學會誌 51,2001 年。)
(*)(参考：大出晁「ヘレニズム・ローマ時代の知の系譜(2)：正統的知識と非正統的知識 V」創価大学人文論集 13,2001 年。)
(*)(参考：大島末男『人間とは何か：自己を超越する生き方』(ソクラテス,プラトン)麗澤大学出版会,廣池学園事業部(発売),2001 年。)
(*)(参考：コスタス・E.ベイス著/アントニオス・江口カライスコス訳/コスタス・エバンゲラトス画『ソクラテスの裁判』Ant.N.サジュラス出版社,アテネ,2001 年。)
(*)(参考：H.J.クレーマー/岩野秀明訳『プラトンの形而上学(下)』世界書院,2001 年。)
(*)(参考：上田徹『プラトン初期対話篇研究』東海大学出版会,2001 年。)
(*)柳広司『饗宴(シュンポシオン) : ソクラテス最後の事件』ミステリー・リーグ,原書房,2001 年。
(*)(参考：ジョセフ・ジョンソン「〈論文〉プラトンの課題とチョムスキー(2)(綾部裕子教授御退官記念号)」外国語教育論集 23,2001 年。)
(*)(参考：武井英明「「プラトン以前・以後」(平成 12 年度と特別講演要旨)」立正大学人文科学研究所年報 38,2001 年。)
(*)(参考：黒崎政男「観念論―プラトン的「イデア」から意識内「観念」へ(総特集 現代思想を読む 230 冊)―(人文科学を読む)」現代思想 29(15),2001 年。)
(*)和田義浩「プラトンと北村透谷―超越的世界の意味をめぐって」比較思想研究 28,2001 年。)
(*)(参考：山口義久『アリストテレス入門』ちくま新書,筑摩書房,2001 年。)
(*)(参考：若林雅哉『編集すること：アリストテレス『詩学』とギリシア文芸にみる「制作」について』京都大学,博士(文学),甲第 9160 号,2001 年。)
(*)(参考：大森正樹『エネルゲイアと光の神学：グレゴリオス・パラマス研究』京都大学,博士(文学),乙第 10603 号,2001 年。)
(*)(参考：茶谷直人『二元論の克服の試みとしてのアリストテレス哲学』神戸大学,博士(学

術),甲第 2423 号,2001 年。)
(*)(参考：岩田圭一『アリストテレスの実体論における「本質」と「形相」：『形而上学』ZH 巻の構造と「質料」の問題』東京大学,博士(文学),甲第 16685 号,2001 年。)
(*)(参考：三宅浩「1 新プラトン主義の影響史」高岡法科大学紀要 12,2001 年。)
(*)(参考：三宅浩「新プラトン主義の影響史,プロティノスとトマス・テイラー：Enn.V,3[49]における文献的比較考察」社会環境研究 6,2001 年。)
(*)(参考：岩村清太『アウグスティヌスにおける教育』創文社,2001 年。)
(*)(参考：田中龍山「アウグスティヌス『アケデメイア派論駁』における懐疑論批判」中世哲学研究：Veritas 20,2001 年。)
(*)(参考：塩尻和子「プロティノスとアブー・フザイルの「一者論」：新プラトン主義とイスラーム神学」哲学・思想論集 23,2001 年。)
(*)(参考：山田晶「倫理学講義(1)キリスト教的愛について—自分のように人を愛するとは? 三つの愛：エロス,アガペ,愛の交わり」社会と倫理(11・12),2001 年。)
(*)(参考：K.リーゼンフィーバー代表『中世後期アリストテレス哲学受容における知性・霊魂論の発展』上智大学,科学研究費補助金(基礎研究 B2)研究成果報告書,平成 12 年度.2001 年。)
(*)(参考：山内清海『心の哲学：トマス的心理学』サンパウロ,2001 年。)
(*)(参考：水田英美・岩田靖夫・長町裕司「意見」中世思想研究 43,2001 年。)
(*)(参考：神崎繁「提題 「意志」概念の形成と変容(シンポジウム論題：中世哲学と現代)」中世思想研究 43,2001 年。)
(*)(参考：今義博「因果性小考：エウリゲナにおける新プラトン主義的要素の研究」山梨大学教育人間科学部紀要 3(2),2001 年。)
(*)(参考：永嶋哲也「哲学における“如何に問うか”の重要性：アベラルドゥスにおける知と実在の乖離という問題」哲學年報 60,2001 年。)
(*)加藤玄「フィリップ・ヴォルフ著/渡邊昌美訳『ヨーロッパの知的覚醒：中世知識人群像』白水社,2000」史學雑誌 110(1),2001 年。
(*)(参考：堀米庸三・木村尚三郎・今野國雄他編『西欧精神の探究：革新の十二世紀』日本放送出版協会,2001 年。)
(*)(参考：ジャック.ヴェルジェ/野口洋二訳『入門十二世紀ルネサンス』創文社,2001年。
(*)「J.ヴェルジェ/野口洋二訳「入門十二世紀ルネサンス」」創文432,2001年。
(*)デイヴィッド・ラスカム著/鶴島博和・吉武憲司編訳/平田曜子・赤江雄一・将基面貴巳訳『十二世紀ルネサンス：修道士,学者,そしてヨーロッパ精神の形成』慶應義塾大学出版会,2000」史学雑誌110(9),2001年。
(*)(参考：澤井繁男『イタリア・ルネサンス』講談社現代新書,講談社,2001 年。)
(*)(参考：澤井繁男「〈再生(ルネサンス)〉の精神を辿る」本 26(7),2001 年。)
(*)(参考：宇羽野明子「フランス人文主義の友愛観への一考察—ラ・ボエシの『自発的隷従論』をめぐって」(大阪市立大学)法学雑誌 48(1),2001 年。)
(*)(参考：J.ホイジンガ/宮崎信彦訳『エラスムス』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2001 年。)
(*)(参考：金子晴勇『宗教改革の精神：ルターとエラスムスの思想対決』講談社学術文庫 1525,講談社,2001 年。)
(*)(参考：木ノ脇悦郎訳「〈翻訳〉エラスムスの HIPPOPLANUS(1524)について」神學研究

48,2001 年。)
(*)(参考 : 熊谷明子「文化的恣意としての礼儀作法—エラスムスの De civilitate morum puerilium の分析を中心として」関東教育学会紀要 28,2001 年。)
(*)(参考 : 堀田泰司「ヨーロッパのエラスムス(ERASMUS)による高等教育交流制度の実態とその特徴」広島大学留学センター紀要 11,2001 年。)
(*)(参考 : 安岡直「哲学者の教育論(1)知恵なき知識人になるな—ヴィーコ」発言者 87,2001 年。)
(*)(参考 : 内藤純郎「ベルグソンと古代のスピリチュアリズム(春季シンポジウム : フランス・スピリチュリスムスの研究(2)ベルグソン哲学」フランス哲学・思想研究 6,2001 年。)
(*)(参考 : 五郎丸仁美『初期ニーチェ哲学における美的遊戯 : カント,シラー美学との連関を中心に』国際基督教大学,博士(学術),乙第10号,2001年。)
(*)(参考 : 木田元編『ハイデガー本 45 : 西洋哲学のハード・コアを読み解く』平凡社,Best Collection,2001 年。)
(*)(参考 : 木田元編『ハイデガー』作品社,思想読本 3,2001 年。)
(*)(参考 : 鞍田崇『中期ハイデガー研究 : 空間へ』（ニーチェ）京都大学,博士(人間・環境学),甲第9019号,2001年。)
(*)(参考 : 齋藤元紀「ハイデガーにおけるピュシス概念の意義 : キネーシスの観点から」哲学 52,2001 年。)
(*)(参考 : 齋藤元紀「ウーシアの彼方を巡って—ハイデガーの解釈学におけるプラトンの超越的次元」現象学年報 17,2001 年。)
(*)(参考 : 齋藤元紀「瞬間の時間性—アリストテレスとハイデガーにおける運動と時間を巡って」法政大学大学院紀要 47,2001 年。)
(*)(参考 : A.Makkreel Rudolf/齋藤元紀・伊藤重樹訳「ハイデガーの現象学的解釈学の生成と再発見された「アリストテレス序論」」ディルタイ研究 13,2001 年。)
(*)(参考 : 小野紀明「初期ハイデッガーにおけるアリストテレス受容(上)(下)—実践概念の脱構築的解釈」思想 920,921,2001 年。)
(*)(参考 : 塚田澄代「20 世紀哲学の総括(4)ソフィストの潮流—神の死から人間の死へ(2) Derrida デリダ」名古屋芸術大学研究紀要 22,2001 年。)
(*)(参考 : 大辻正晴「フレーゲのプラトン主義について」西日本哲学年報 9,2001 年。)
(*)久保正彰「故関根正雄会員追悼の辞」日本學士院紀要55(3),2001年。
(*)「松永希久夫教授略歴・著作目録(松永希久夫教授・G.D.レーマン教授献呈論文集)」神学63,2001年。
(*)(参考 : ジャネット・L.アブ=ルゴド/佐藤次高他訳『ヨーロッパ覇権以前 : もうひとつのシステム(上下)』岩波書店,2001年(→2014年,岩波人文書セレクション)。)
(*)(参考 : 樺山紘一・千葉敏之「インタヴユー : 樺山紘一教授に訊く/聞き手 : 千葉敏之 : 世界を俯瞰する眼」クリオ=Clio15,2001年。)
(*)(参考 : 松村劭『名将たちの戦争学』文春新書,文藝春秋,2001年。)
(*)(参考 : 高橋秀樹『アルカイック期アテナイと党争 : 分析のための史料検討を中心として』多賀出版,2001年。)
(*)(参考 : 佐藤昇「民主政アテナイにおけるパトロネジ」史学雑誌110(7),2001年。)

(*)(参考：松田治「エチオピアの驍将メムノーン―スミュルナのクイントゥス『トロイア戦記』から」Walburgis : 國學院大學外国語研究室・外国語文化学科紀要2001,2001年。)
(*)(参考：松田治「アキレウスの死--クイントゥス『トロイア戦記』から(特集 照射する古典)」(明治学院大学言語文化研究所)言語文化18,2001年。)
(*)(参考：谷口勇「エクセターのジョーセフ作『トロイア戦争』訳解(2)」立正大学大学院紀要17,2001年。)
(*)(参考：半沢英一「トロイア戦争は史実だったのか」古代史の海25,2001年。)
(*)(参考：白崎昭一郎「トロイア戦争は実在したか」古代史の海26,2001年。)
(*)(参考：ディクテュス,ダーレス/岡三郎訳・解説『ディクテュスとダーレスのトロイア戦争物語：『トロイア戦争日誌』と『トロイア滅亡の歴史物語』』トロイア叢書1,国文社,2001年。)
(*)(参考：内村直也・鈴木力衛編『ジロドゥ戯曲全集(1-6)』(鈴木力衛・寺川博「トロイ戦争は起こらない」)新装復刊,白水社,2001年。)
(*)(参考：オルランド・パターソン/奥田暁子訳『世界の奴隷制の歴史』世界人権問題叢書41,明石書店,2001年。)
(*)(参考：記念論集編集委員会編『ローマと地中海世界の展開：浅香正先生喜寿記念論集』晃洋書房,2001年(→2003年)。)
(*)(参考：小出龍太郎「ウォーレス,「ベン・ハー」の深層構造(1)ベン・ハーとメッサラの対比」浪速短期大学紀要24,2001年。)
(*)(参考：楠田直樹「古代ローマにおける歴史叙述の先駆者たち」関学西洋史論集24,2001年。)
(*)(参考:桑山由文「ローマ帝国東部の発展と王家の記憶―フラウィウス朝から五賢帝期へ」西洋史研究30,2001年。)
(*)(参考：長谷川岳男「ローマ帝国主義研究―回顧と展望(特集 古代ローマ軍事史研究の最前線)」軍事史学37(1),2001年。)
(*)(参考：小林雅夫「ローマの軍隊と軍医制度(特集 古代ローマ軍事史研究の最前線)」軍事史学37(1),2001年。)
(*)(参考：毛利晶「古代ローマにおける戦争と宗教(特集 古代ローマ軍事史研究の最前線)」軍事史学37(1),2001年。)
(*)米山宏史「書評 塩野七生『ローマ人の物語(6)パクス・ローマナ』(特集 古代ローマ軍事史研究の最前線)」軍事史学37(1),2001年。
(*)(参考：塩野七生「インタビュー ローマ帝国の衰退は政治の機能不全から始まった―作家塩野七生(特集 イタリアはかっこいい)」外交フォーラム14(8),2001年。)
(*)(参考：スチュワート・ベローン/暮田愛訳『ローマ皇帝ハドリアヌス』河出書房新社,2001年。)
(*)(参考：井上文則『軍人皇帝時代の研究：3世紀におけるローマ帝国の変容』京都大学,博士(文学),甲第9186号,2001年。)
(*)(参考：J.P.ベルト/瓜生洋一他訳『ナポレオン年代記』日本評論社,2001年。)
(*)(参考：三佐川亮宏「〈論文〉“叙任権闘争”とregnum Teutonicum：“ドイツ”概念の政治的・歴史的地平(上下)」東海大学紀要 文学部75,76,2001年。)
(*)(参考：三佐川亮宏「〈論文〉オットー3世・ローマ帝国の復興・Teutonici」歴史学研究

745,2001年。)
(*)栄田卓弘「西洋史学の開拓者：煙山専太郎(第 1 回早稲田大学史学會連続講演会)」史観145,2001年。
(*)田中正俊追想「或る書簡にまつわることども—太田秀通さんをしのぶ」歴史評論615,2001年。
(*)伊藤貞夫「余滴—比較の効用」歴史と地理541,2001年。)
(*)成田龍一『歴史学のすたいる：史学史とその周辺』校倉書房,2001年。
(*)佐藤能丸「日本近代史学史における早稲田大学日本史学—明治期を中心に」早稲田大学史紀要33,2001年。
(*)(参考 : 生田裕「読者の論考(1) わが魂の遍歴--ヘロドトス,ツキジデス,そして聖書のこと」福音と社会40(4),2001年。)
(*)(参考：生田裕「読者の論考(2)ヘロドトス,ツキジデス,そして聖書に学ぶわが魂の遍歴」福音と社会40(5),2001年。)
(*)(参考 : 生田裕「わが魂の遍歴(3)続 ヘロドトス,ツキジデス,そして聖書に学ぶ」福音と社会40(6),2001年。
(*)(参考：ディクテュス,ダーレス/岡三郎訳・解説『ディクテュスとダーレスのトロイア戦争物語：『トロイア戦争日誌』と『トロイア滅亡の歴史物語』』トロイア叢書1,国文社,2001年。)
(*)(参考：松田治「アキレウスの死—クィントス『トロイア戦記』から(特集 現代を照射する古典)」言語文化18,2001年。)
(*)(参考：ニック・セガンダ著,アンガス・マックブライト彩色画,柊史織訳『アレクサンドロス大王の軍隊：東征軍の実像』オスオウレイ・メンアットアームズ・シリーズ,新紀元社,2001年。)
(*)(参考 : ロビン・レイン・フォックス/森夏樹訳『アレクサンドロス大王(上下)』青土社,2001年。)
(*)(参考：アリアノス/大牟田章訳『アレクサンドロス大王東征記：付インド誌(上下)』岩波文庫,岩波書店,2001年。)
(*)(参考：渡邉健一『大王アレクサンダー—ローマと激突：紀元前330年世界最強をかけて両者は戦う』日本図書刊行会,2001年。)
(*)(参考：Diana Landau編/塚田三千代監修・亀山太一他訳『グラディエーター：リドリー・スコットの世界』スクリーンプレイ出版,2001年。)
(*)(参考：井上文則『軍人皇帝時代の研究：3世紀におけるローマ帝国の変容』京都大学,博士(文学),甲第9186号,2001年。)
(*)(参考：ゲオルグ・オストロゴルスキー/和田廣訳『ビザンツ帝国史』偕文社,2001年。)
(*)(参考：イアン・ヒース著,アンガス・マックプライド彩色画,柊史織訳『ビザンティン帝国の軍隊：886-1118：ローマ帝国の継承者』オスプレイ・メンアットアームズ・シリーズ,新紀元社,2001年。)
(*)(参考：栗田伸子「ナラウアス：最初の「ヌミディア人」」東京学芸大学紀要,第3部門社会科学54, 2001年。)
(*)(参考：五十嵐修「帝国理念の交錯：カール大帝戴冠再考」(東洋英和女学院大学)人文・社会科学論集19,2001年。)
(*)(参考：イアン・バーンズ,ラバート・ハドソン/武井摩利訳『ヨーロッパ大陸歴史地図』

大陸別世界歴史地図1,東洋書林,2001年。)
(*)(參考：ジェレミー・ブラック総監修/牧人舎『世界史アトラス』集英社,2001年。)
(*)(參考：亀井高孝他著『世界史年表・地図』7版,吉川弘文館,2001年。)
(*)(參考：亀井高孝『標準世界史年表』38版,吉川弘文館,2001年。)
(*)(參考：木村靖二「歴史家の歴史,歴史学の歴史」史學雜誌110(1),2001年。)
(*)「文献目録：西洋史1」史學雜誌110(1),2001年。
(*)南川高志「島田誠著『コロッセウムからよむローマ帝国』講談社選書メチエ,講談社,1999」史學雜誌110(2),2001年。
(*)古山正人「新村祐一郎著『古代スパルタ史研究:古典期への道』岩波ブックセンター,2000」史學雜誌110(2),2001年。
(*)志内一興「新保良明著『ローマ帝国愚帝列伝』講談社選書メチエ,講談社,2000」史學雜誌110(3),2001年。
(*)(參考：志内一興「属州ヒスパニアの形成,「ローマ化」とヒスパニア先住民：コントレピア碑文を手がかりに」史學雜誌110(4),2001年。)
(*)「文献目録：西洋史2」史學雜誌110(5),2001年。
(*)樺山紘一「総説(2000 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 110(5),2001 年。
(*)三宅裕「西アジア・北アフリカ：古代オリエント(2000 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 110(5),2001 年。
(*)川崎康司「西アジア・北アフリカ:古代オリエント(2)(2000 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雜誌 110(5),2001 年。
(*)森本一夫「西アジア・北アフリカ：イスラム時代(2000 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 110(5),2001 年。
(*)岡崎敦「中世西欧 (2000 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 110(5),2001 年。
(*)松浦義弘「ヨーロッパ:近代・一般(2000 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雜誌 110(5),2001 年。
(*)指昭博「ヨーロッパ:近代・イギリス(2000 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雜誌 110(5),2001 年。
(*)山根徹也「ヨーロッパ:近代・ドイツ(2000 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雜誌 110(5),2001 年。
(*)山崎耕一「ヨーロッパ:近代・フランス(2000 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雜誌 110(5),2001 年。
(*)北村暁夫「近代南欧(2000 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 110(5),2001 年。
(*)長谷川岳男「ヨーロッパ：古代：ギリシア(2000 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 110(5),2001 年。
(*)砂田徹「ヨーロッパ:古代:ローマ(2000 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雜誌 110(5),2001 年。
(*)(參考：佐藤昇「民主政アテナイにおけるパトロネジ」史學雜誌 110(7),2001 年。
(*)「史学文献目録：西洋史 3」史學雜誌 110(9),2001 年。
(*)長谷川岳男「森谷公俊著『アレクサンドロス大王：「世界征服者」の虚像と実像』講談社選書メチエ 197,講談社」史學雜誌 110(9),2001 年。
(*)丹下栄「佐藤彰一著『ポスト・ローマ期フランク史の研究』岩波書店,2000」史學雜誌 110(10),2001 年。

(*)(参考:高橋裕子「初期鉄器時代におけるアテネとアッティカ」史學雑誌 110(11),2001 年。)
(*)亀長洋子「スチュアアート・ジョーゼフ著/鈴木邦夫訳『イタリア史—700-860』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,2001」史學雑誌 110(12),2001 年。)
(*)(参考：松原俊文「同盟市戦争はいつ終わったのか?：ディオドロス 37-38 巻の構成について(研究発表,西洋史部会,第 99 回史学会大会報告)」史學雑誌 110(12),2001 年。)
(*)野村正雄「〈研究〉西史外傳と蘭書典拠：ナポレオン伝考附」日蘭学会会誌26(1),2001 年。
(*)毛利晶「基調講演 哲学体験と私の歴史学研究」神戸大学史学年報15,2000年。
(*)石川忠司「宮崎市定(1901-1995)“世界史”そのものとか化す,無敵の歴史学(特集 読み継がれよ20世紀日本)」文学界55-1,2001年。
(*)「展示会のお知らせ 企画展『近世の京都図と世界図』--大塚京都図コレクションと宮崎市定旧蔵地図」静脩38-1,2001年。
(*)(参考：天羽康夫「スコットランド啓蒙と古代近代論争([社会思想史学会]第25回大会記録)—(自由論題)」社会思想史研究25,2001年。)
(*)(参考：桐敷真次郎『西洋建築史』建築学の基礎3,共立出版,2001年。)
(*)(参考：ヘンリー・ペトロスキー/中島秀人・綾野博之訳『橋はなぜ落ちたか：設計の失敗学』(ウィトルウィウス)朝日新聞社,朝日選書686,2001年。)
(*)(参考：四位誠光「古代ギリシアの建築様式—主として柱頭について」地中海歴史風土研究誌13,2001年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ヴェネツィア建築と文人たち」人文学研究所報34,2001年。)
(*)(参考：児島塊太郎「サンタ・マリア・デル・フィオーレ」倉敷芸術科学大学紀要6,2001 年。)
(*)(参考：藤本康雄『ヴィラール・ド・オヌクール画帖の研究』(ウィトルウィウス)中央公論美術出版,2001年。)
(*)(参考：伊藤重剛・武田明純「地中海古代都市の研究(106)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 40,2001 年。)
(*)(参考:吉武隆一・伊藤重剛・林田義伸・岩淵耕平・武田明純「地中海古代都市の研究(107)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 40,2001 年。)
(*)(参考：林田義伸・伊藤重剛・富尾佑子・吉武隆一・武田明純・島田啓「地中海古代都市の研究(108)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 39,2001 年。)
(*)(参考：林田義伸「9001 サモトラケの翼付プロピロンの平面設計図」(建築歴史・意匠))学術講演梗概集 F2,建築歴史・意匠 2001,2001 年。)
(*)(参考：吉武隆一・伊藤重剛「古代都市メッセエネのスタディオン地区調査報告(1)：ストディオンの概要」学術講演梗概集 F2,建築歴史・意匠 2001,2001 年。)
(*)勝又俊雄「第二回大倉山地域交流講座 創造と形式—大倉山記念館の建築様式」大倉山講演集 10,2001 年。
(*)勝又俊雄「大倉山精神文化研究所の建築の研究」大倉山論集 47,2001 年。
(*)(参考：寺崎弘昭「養生論の原像とその歴史的射程(特集 新養生論)」日本の科学者 36(7),2001 年。)
(*)(参考：Martin Bircher/森孝明訳「翻訳 ヘルヴェチア(スイス)のアルカディア牧歌における健康と病い」愛媛大学法文学部論集,人文学科編 10,2001 年。)

(*)(参考：片桐英彦『ヒポクラテスの髯を剃る：片桐英彦詩集』ふらんす堂,2001 年。)
(*)(参考：エリザベス・M.クレイク研究代表『体液理論を軸とする「ヒポクラテス全集」成立の研究』エリザベス・M.クレイク,2001 年。)
(*)(参考：沢田祐介『蘇る医神アスクレピオスの物語』医歯薬出版,2001 年。)
(*)(参考：篠田達明「ドクター・シノダの人物診断(27)アレクサンダー大王の筋性斜頸」芸術新潮 52(12),2001 年。)
(*)(参考 : 清水重勇「近代体育とクーベルタン : 体育学の教育思想史」体育学研究 46(3),2001 年。)
(*)(参考 : 野口精一郎「みのまわりの科学(117,18)プロメテウスとパンドラ(1,2)」金属71(5,6),2001年。)
(*)(参考：萩野繁春「Cato the Elfer’s De Agri culutua and the Cultura of Morataria」日本考古学8(12),2001年。
(*)(参考：スー・シェパード/赤根洋子訳『保存食品開発物語』文春文庫,2001年。)
(*)(参考：奥田佳奈子『オリーブオイルのすべてがわかる本』筑摩書房,2001年。)
(*)(参考：日野英子「1.古代アテネ市民の生活用水(日本医史学会9月例会・第71回学術大会合同会)」日本医史学会神奈川地方会だより10,2001年。)
(*)(参考：バーネット・チャールズ「シンボル研究会 ウォーバーグ研究所におけるアラビア科学の研究」東西南北2001,2001年。)
(*)(参考：小林剛「〈研究論文〉トマス・アクイナスの自然学における必然性の根拠について：「第一の道」に即して」中世哲学研究:Veritas43,2001 年。)
(*)(参考 : 研究代表者・伊藤博明『ルネサンスにおける自然観の総合的研究』伊藤博明,2001年。)
(*)(参考：前田義郎「近代自然科学の真理性(1)：科学革命と哲学の課題」産業医科大学雑誌23(4),2001年。)
(*)田島公・小倉慈司・石田実洋「皆川完一編『古代中世史科学研究』上下,吉川弘文館,1998」史學雑誌110(7),2001年。
(*)(参考：アーノルド・パーシー/東玲子訳『世界文明における技術の千年史：「生存の技術」との対話に向けて』新評論,2001年。)
(*)里深文彦「書評 アーノルド・パーシー著 世界文明における技術の千年史--「生存の技術」との対話に向けて」學燈98(11),2001年。
(*)古在由秀「故藪内清会員追悼の辞」日本學士院紀要55(3),2001年。
(*)佐藤明達「藪内清先生の思い出」天界82(914),2001年。
(*)宮島一彦「藪内清先生のご長逝」天界82(914),2001年。
(*)HASHIMOTO Keizo“Professor Kiyoshi YABUUCHI藪内清(12/02/1906-02/06/2000”Historia scientiarum 10(3),2001.
(*)(参考：小瀧千佐子編・小瀧達郎写真『ヴェネツィアンビーズ ; アドリア海の女王と称される小さな輝き凝縮サレタ美の世界』骨董をたのしむ,別冊・太陽39,平凡社,2001年。)
(*)(参考：ジャクリーヌ・ド・ブルゴワン/池上俊一監修・南條郁子訳『暦の歴史』「知の再発見」双書96,創元社,2001年。)
(*)(参考：鏡リュウジ『占星綺想』青土社,2001年(→2007年,増補新版。)

(*)(参考 : 中安一成「占星術的視点から考える『月とアロマテラピー』」Aromatopia10(2),2001年。)
(*)(参考 : 山本啓二「アラビア占星術と医学（特集 イスラム文化の香りとハーブ—中近東を中心に）」 Aromatopia10(5),2001年。)
(*)(参考 : 松本雅美『ガリレオ的自然探究の成立基盤 : 歴史的及び現象学的観点からの考察』京都大学,博士(人間・環境学),甲第9024号,2001年。)
(*)(参考 : 原田稔「アインシュタインと釈迦vs.プラトン(原田稔名誉教授記念号)」小樽商科大学人文研究101,2001年。)
(*)(参考 : 加藤邦宏『「クセノフォンの家政論」を読む』リリック叢書,加藤邦宏事務所,2001年。)
(*)(参考 : 堺雄一「古代社会間交易と保険類似施設 古代地中海世界の交易と危険対策」保険研究53,2001年。)
(*)(参考 : 長田千尋「紀元前5-4世紀のスピナとアドリア海を介した交易活動—エトルリア人の活動を中心として」地中海学研究24,2001年。)
(*)(参考 : 馬場典明「ローマ=ウィラ経済の展開と地中海流通」別府大学大学院紀要3,2001年。)
(*)並木和夫「お手軽 経営の知恵袋(2)金融大国カルタゴの末裔たち」近代企業リサーチ840,2001年。
(*)(参考 : 長谷川三千子『民主主義とは何か』文春新書,文藝春秋,2001年。)
(*)(参考 : 青山学院大学総合研究所人文学系研究センター編『古典に見る「文学と政治」の諸相』研究叢書 16, 青山学院大学総合研究所人文学系研究センター,2001 年。)
(*)(参考 : 田所清克・古畑正富「陸の政治史と地中海 : 海の意味論に関する考察」Mare Nostrum 14,2001年。)
(*)(参考 : 松田安央『プラトン正義論の研究』早稲田大学,博士(政治学),甲第1516号,2001年。)
(*)(参考 : 角田幸彦「プラトンとキケロの政治哲学」明治大学人文科学研究所紀要48,2001年。)
(*)(参考 : 新保良明「ローマ帝政前期における都市参事会員と都市政務官職—参事会の変質を巡って」西洋史研究31,2001年。)
(*)(参考 : 砂田徹「共和政期ローマにおける市民団の拡大とその構成原理 : トリプス制の変遷を軸として」(北海道大学文学部西洋史研究室)西洋史論集4,2001年。)
(*)(参考 : 桑原直巳「トマス・アクィナスにおける正義について : 内的秩序と対他性」倫理学18,2001年。)
(*)櫻井彦「佐藤和彦著『中世社会思想史の試み : 地下の思想と営為』校倉書房,2000」史學雑誌110(3),2001年。
(*)(参考 : 森政稔「ナショナリズムと政治理論」(山脇直司他編『ネイションの軌跡』所収,[ライブラリ相関社会科学7],新世社,2001年。)
(*)(参考 : 塩野七生・ビートたけし「豪華対談 私はマキアヴェッリ」新潮45 20(12),2001年。)
(*)(参考 : 宇羽野明子「モンテェーニュとレトリックの伝統 : 人文主義の「寛容」への一視座」政治思想研究1,2001年。)
(*)(参考 : 山口正樹「歴史の政治学—ホッブズとヴィーコにおける科学と歴史」早稲田政治公法研究68,2001年。)
(*)(参考 : 椙沢栄一「イギリスにおける政治的多元主義の諸相 : E.バーカー,G.D.H.コール,H.J.

ラスキの政治思想を中心に」埼玉女子短期大学研究紀要12,2001年。)
(*)(参考：南原一博『国家の終焉：ヘルマン・ヘラーの軌跡』二十世紀の政治思想2,中央大学出版部,2001年。)
(*)(参考：山口昌男「二十世紀における「政治と文学」の神話学(1)アルカディアへ」新潮98(10),2001年。)
(*)(参考：山口昌男「二十世紀における「政治と文学」の神話学(2)アルカディアにて」新潮98(12),2001年。)
(*)(参考：北村昌史「〈論説〉「トロイアの木馬」と市民社会：1820-31年ベルリン行政と住宅問題」史林84(1),2001年。)
(*)(参考：宮野安治「リット政治教育思想の研究(4)ドイツ精神とキリスト教」大阪教育大学紀要(OxF9C4)教育科学50(1),2001年。)
(*)(参考：組原洋「〈論文〉法の比較文明論的課題」沖縄大学法経学部紀要1,2001年。)
(*)(参考：山口廸彦「資料 母権的ロマン主義紀行—ヨーロッパ世紀転換期対抗文化研究：バハオーフェン,イェーリング,ヴェバー(1859-1920)」名経法学9,2001年。)
(*)(参考：山口廸彦「母権的ロマン主義の対抗文化論的受容史」名経法学120,2001年。)
(*)(参考：山口廸彦「母権的ロマン主義の比較思想的受容史—バハオーフェン,イェーリング,ヴェバー」比較思想研究28,2001年。)
(*)宮本盛太郎・西村稔「森鴎外とルードルフ・フォン・イェーリング」書斎の窓501,2001年。
(*)岩崎允胤「明治・大正期における近代法の継受と法思想の展開—その一側面からの考察」(?)大阪経済法科大学論集79,2001年。
(*)(参考：O.ベーレンツ/河上正二訳『歴史の中の民法：ローマ法との対話：オットー・ペーレンツ教授(Prof.Dr.Okko Berehrends)『ローマ法講義案』(Script zur Vorlesung Römische echtsgeschichite,1999/2000)を基礎に』日本評論社,2001年。)
(*)(参考：Paulus Christoph(パウルス・クリストフ)/篠森大輔訳「ローマの法学者が仮装理由を使用した例か?：ユーリアーヌス・学説彙纂第36巻第1章第26法文序項の検討」法政研究67(4),2001年。)
(*)(参考：船田享二『ローマ法入門』新版,有斐閣,2001年。)
(*)東京大学法学部研究室『ローマ法関係図書寄贈目録』,2001年。

(*)大村泉「高野岩三郎と『日本マルクス主義文献』」マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究39,2002年。)
(*)久保誠二郎「マルクス主義普及史における『日本マルクス主義文献』の位置—関連文献目録との対比検討」マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究39,2002年。)
(*)(参考：クォーク編集部編『海に沈んだ超古代文明=The submerged ancient civilizations』講談社,2002年。)
(*)家島彦一「東洋文庫を読む(番外篇)ヨーロッパが田舎だったころの世界史--『大旅行記』全8巻完結」月刊百科481,2002年。
(*)(参考：貫成人「ヨーロッパ中心主義という誤謬—A.G.フランク『リオリエント』の射程」専修人文論集71,2002年。)

(*)沓掛良彦「鉄笛 ギリシア再訪」大法輪69(8),2002年。
(*)(参考 : 久々湊直子「パロミーノとグランド・ツアー—プレ「スペイン趣味」考(1)」学習院大学文学部研究年報49,2002年。)
(*)ラトクリフ・川政祥子「地中海の島へいこう(1)マルマラ海とドンドルマ」未来426,2002年。
(*)ラトクリフ・川政祥子「地中海の島へいこう(2)チューインガムとテレパシー」未来427,2002年。
(*)ラトクリフ・川政祥子「地中海の島へいこう(3)バイキングの侵略とタマネギ村—ヒオス島からサモス島」未来428,2002年。
(*)ラトクリフ・川政祥子「地中海の島へいこう(4)豪華クルーズの地獄,そして天国—チェシュメからブリンディッジ」未来429,2002年。
(*)ラトクリフ・川政祥子「地中海の島へいこう(5)イタリアン・ブーツと野蛮な魚—ブリンディッジからシラクサ」未来430,2002年。
(*)ラトクリフ・川政祥子「地中海の島へいこう(6)スパイのお仕事とパウロのナンパ—シラクーサからマルタ島」未来431,2002年。
(*)ラトクリフ・川政祥子「地中海の島へいこう(7)スリとグラディエータ—マルタ島からシシリーそしてチュニジア」未来432,2002年。
(*)ラトクリフ・川政祥子「地中海の島へいこう(8)クスクスと王子様の島」未来433,2002年。
(*)(参考 : 藤野秦郎・桑田順治「もうひとつの食文明史(1,2)食文明史序説」食生活研究22(5,6),2002年。)
(*)地球の歩き方編集室編『ギリシアとエーゲ海の島々&キプロス』ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2002-03年。
(*)地球の歩き方編集室編『ローマ』ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2002-03年。
(*)地球の歩き方編集室編『南イタリアとトスカーナ』ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2002-03年。
(*)地球の歩き方編集室編『フィレンツェとトスカーナ』ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2002-03年。
(*)(参考 : 前川誠郎『美神の世界 : エーゲ海とギリシア・ローマ』岩波美術館3,岩波書店,2002年。)
(*)川又一英『エーゲ海の修道士 : 聖山アトスに生きる』集英社,2002年。
(*)阿土波泰人『白い家々への道 : CM撮影日記・エーゲ海』創英社,2002年。
(*)佐々木伸一「新夢幻紀行(13)エーゲ海の灯火(ギリシャ)」観光431,2002年。
(*)安岡襄「ぶらり海外旅行ア・アラ・カルト ヨーロッパ漫遊編(1-4)」会計検査資料444-447 ,2002年。
(*)(参考 : 長屋房夫『ギリシア語 : ギリシアを旅する』トラブラないトラベル会話,三修社,2002年。)
(*)『ギリシヤ・エーゲ海の音楽』録音ディスク, キングレコード,2002年。
----コス島,シミ島,ニシロス島,ロードス島,カルバトス島
(*)(参考 : ブリタニー・ヤング/福島純子訳『エーゲ海へふたたび』ハーレクイン文庫,ハーレクイン,2002年。)

(*)(参考:赤井良平文・柳木昭信写真『ギリシア・エーゲ海:古代文明を生んだ魅力的な島々』日経 BP 社,日経 BP 出版センター(発売),2002 年(→2005 年,第 2 版旅名人編集部,旅名人ブックス 39[→2008 年,第 3 版)。)
(*)(参考：周藤芳幸・樺山紘一・江川温「ヨーロッパ：東地中海 旅する巨人—ヘロドトスと仲間たち 偉大な歴史家ほど旅に出る—暗黒の中世、文献学の歴史にはない歴史観を探る(歴史家の歴史観を訪ねて 歴史認識—つまり何なのか)」諸君 34(6),2002 年。)
(*)金城美智子画集：墨絵/ナリ・カーソン訳『光と影の世界』；沖縄と地中海の島々= Inkbush paintings of Michiko Kinjo：『the world of light and shadow』sumie—Japanese inkbrush Painting：islands of Okinawa and Mediterranean Sea」金城重昭,2002 年。)
(*)(参考：川島重成「死は海から—『オデュッセイア』の旅より」図書637,2002年。)
(*)(参考：周藤芳幸「ワイン色の海を越えて—紀元前2千年紀の東地中海と東西文化交流への一考察(特集：中心と周辺—周辺から見たメソポタミア)」西アジア考古学 3,2002 年。)
(*)高野義郎『古代ギリシアの旅』岩波新書,2002 年。
(*)(参考：太田強正『エゲリア巡礼記』サンパウロ,2002 年。)
(*)(参考：伊藤哲夫「偉大なる自然景観に抱かれる—神託の地デルフィ」国士舘大学工学部紀要 35,2002 年。)
(*)ラトクリフ・川政祥子「地中海の島へ行こう(1-8)」未来427-433,2002年。
(*)中村聡樹「南欧の街から(23)イタリア・キオッジャ」論座82,2002年。
(*)(参考：伊藤貞夫・樺山紘一編『地中海世界の歴史像』放送大学大学院教材,放送大学教育振興会,2002年。)
(*)周藤芳幸「東地中海歴史散歩(3)重層する文明の古都,イスタンブール」Fujitsu飛翔45,2002年。
(*)周藤芳幸「東地中海歴史散歩(4)ギリシアのなかのギリシア,アテネ」Fujitsu飛翔46,2002年。
(*)(参考：寺井精英「シャングリラ物語(7)緑のオリンピア」財界にっぽん34(4),2002年。)
(*)四位誠光「ギリシアの旅(2)」地中海歴史風土研究誌15,2002年。
(*)(参考：浅野栄市「旅雑記(8)オリンピア」地中海歴史風研究誌16,2002年。)
(*)(参考：菊谷忠治「地中海を考える」地中海歴史風研究誌16,2002年。)
(*)(参考：桜川洋子「古代ギリシアの彫刻」地中海歴史風研究誌16,2002年。)
(*)(参考：横堀肇「ちょっと覗いた世界の街と人(68)トルコの住宅事情と古代都市エフェソス」市街地再開発391,2002年。)
(*)東秀紀『東京駅の建築家辰野金吾伝』講談社,2002年。
(*)『福山雅治のイタリア旅行記:Gulliver Special』マガジンハウス,Magazine House mook,2002年。
(*)森まゆみ「「アンデルセンと鴎外」幻想のイタリア旅行「即興詩人」を歩く(37)ソレントへ」本 27(1),2002 年。
(*)森まゆみ「「アンデルセンと鴎外」幻想のイタリア旅行「即興詩人」を歩く(38)古祠ベ

スツム」本 27(2),2002 年。
(*)森まゆみ「「アンデルセンと鴎外」幻想のイタリア旅行「即興詩人」を歩く(39)カプリ,夢幻境」本 27(3),2002 年。
(*)森まゆみ「「アンデルセンと鴎外」幻想のイタリア旅行「即興詩人」を歩く(40)アマルフィイ」本 27(4),2002 年。
(*)森まゆみ「「アンデルセンと鴎外」幻想のイタリア旅行「即興詩人」を歩く(41)チヲリ」本 27(5),2002 年。
(*)森まゆみ「「アンデルセンと鴎外」幻想のイタリア旅行「即興詩人」を歩く(42)水の都エネチア」本 27(6),2002 年。
(*)森まゆみ「寺暮らし(76)イタリアvsデンマーク」みすず44(7),2002年。
(*)笹本正男「イタリア紀行(1-8)」パン49(4-11),2002年。
(*)小久保晴行「海外ざっくばらん(255-258)イタリア紀行」月刊カレント39(8-11),2002年。
(*)『福山雅治のイタリア旅行記：Galliver special』マガジンハウス,2002年。
(*)(参考：佐々木巖「MEDICAL ESSAYS シチリアの旅(1-6)」日本医事新報4088,4089, 4090, 4091,4092,4094,4095,4096,2002年。)
(*)(参考：高橋睦郎「ポンペイ人の形見分け」すばる24(6),2002年。)
(*)(参考：浅香正「上智大学史学会第51回大会公演要旨 古代ローマ都市ポンペイの埋没と蘇生」上智史学47,2002年。)
(*)(参考：浅香正監修『ローマと地中海世界の展開』晃洋書房,2002年。)
(*)(参考：高樹のぶ子『エフェソス白恋』文化出版局,2002(→2004年,講談社文庫版)。)
(*)星和夫「第 3 回医学の歴史を巡るたび：トルコ(報告)」日本病院会雑誌 49(7),2002 年。
(*)(参考：村田宏「地中海の岸辺に—両大戦間における古典的ルネサンス」みすず44(5),2002年。)
(*)中山茂『ギリシアからの手紙』(ソクラテス,悲劇)(清瀬)あっぷる館,2002年。)
(*)(参考：山口昌男「二十世紀における「政治と文学」神話学(完)アルカディアから」新潮99(2),2002 年。)
(*)(参考：高橋明彦「ゲーテのカズイスティク：『イタリア紀行』再読」ソフィア50(4),2002年。)
(*)(参考：河野哲二「〈論文〉D.H.ロレンスとエトルリア：色彩的想像力をめぐって」京都女子大学人文論叢50,2002年。)
(*)(参考：望月規史「ケルト美術史上におけるエトルリア文明の影響について—パルメット・ロータス文の変容を中心として(「美術に関する調査研究の助成」研究報告—2002年度助成)」鹿島美術財団年報20,2002年。)
(*)(参考：青柳正規研究代表『イタリア中部の古代ローマ美術・考古学調査』青柳正規,2002年(→2005年,東京大学大学院人文社会系研究科。)
(*)(参考：越宏一研究代表『古代末期の写本画：古典古代からの伝統と中世への遺産』東京藝術大学美術学部,2002年。)
(*)(参考：北田葉子「フィレンツェ公国における印刷・出版とコジモ1世の文化政策—ロレンツォ・トレンティーノによる公国印刷所(1547-1563)」地中海学研究25,2002年。)
(*)(参考：松本典昭「パラッツォ・ヴェッキオの歴史」阪南論集,人文・自然科学編37(4),2002年。)

(*)(参考 : 岡田温司「ルネサンスと美術史学(特集 ルネサンス再考)」人環フォーラム12,2002年。)
(*)(参考：イヴァン・アルナルディ/松本典昭訳「〈翻訳〉チェッリーニとその時代(1-5)」五浦論叢：茨城大学五浦美術文化研究所紀要9,2002年/10,2003年/11,2004年/12,2005年/14,2007年。)
(*)(参考：陣内秀信『シチリア：「南」の再発見』淡水社,2002年。)
(*)笹本正男「イタリア紀行(2)生チーズを満喫」パン49(5),2002年。
(*)(参考：陣内秀信「建築に見る地中海文化とイスラーム文化(2001年度前期[日本イスラム協会主催]公開講演会：シンポジウム「地中海基層文化とイスラーム」(2001年4月28日、立教大学))イスラム世界59,2002年。)
(*)(参考：浅香正「上智大学史学会第51回大会講演要旨 古代のローマ都市ポンペイの埋没と蘇生」(上智大学文学部史学科60周年記念号)上智史学47,2002年。)
(*)(参考：コリン・ウィルソン,ランド・フレマス/松田和也訳『アトランティス・ブループリント：神々の壮大なる設計図』学習研究社,2002年。)
(*)(参考：ワルター・L・フリードリヒ/郭資敏・栗田敬訳『海の中の炎：サントリーニ火山の自然史とアトランティス伝説』古今書院,2002年。)
(*)(参考：スティーヴン・キング/白石朗訳『アトランティスのこころ(上下)』新潮文庫,新潮社,2002年。)
(*)(参考：ジェイ・ナスバウム/奥村章子訳『アトランティスのイルカ』アーティストハウス,2002年。)
(*)(参考：ゲイリー・トゥルースデイル監督・カーク・ワイズ・ドン・ハーン制作,タブ・マーフ脚本『アトランティス：失われた帝国』ビデオレコード,ブエナビスタホームエンターテイメント(発売),2002年。)
(*)(参考：「特集 「アトランティスのこころ」」キネマ旬報1357,2002年。)
(*)(参考：杉田英明『葡萄樹の見える回廊：中東・地中海文化と東西交渉』岩波書店,2002年。)
(*)牟田口義郎『地中海世界を見た日本人—エリートたちの異文化体験』白水社,2002年。
(*)イアン・ニッシュ編/日英文化交流研究会訳『英国と日本：日英交流人物列伝』博文館新社,2002年。)
(*)(参考：レスリー・アドキンズ,ロイ・アドキンズ/木原武一訳『ロゼッタ・ストーン解読』新潮社,2002年(→2008年,新潮文庫版)。)
(*)(参考：『ナポレオン エジプト誌：完全版』ニュークロッツ・シリーズ,タッシェン・ジャパン,洋版(発売),2002年。)
(*)(参考：中堂幸政「エジプト(2)アレキサンドリア大学(アジア諸民族の生活・文化誌「大学教育・大学生生活物語」)」Asia 21(11),2002年。）
(*)ふくやま文学館編『福原麟太郎のヨーロッパ体験 : 二つの世界大戦間の英国留学』広島：ふくやま文学館,2002年。
(*)(参考：サムル・カスール/向井元子訳『アフリカ大陸歴史地図』大陸別世界歴史地図,東洋書林,2002 年。)
(*)(参考：辻原康夫『世界地図から食の歴史を読む方法 : 料理や食材の伝播に秘められた意外な事実とは?』河出書房新社,KAWADE夢新書,2002年(→2008年,イラスト図解版)。)

(*)(参考：辻原康夫『古地図から幻の国々を読む方法：伝説の島,大陸,楽園・・・は確かに存在した!?』河出書房新社,KAWADE夢新書,2002年。)
(*)(参考:ハインリッヒ･シュリーマン/中島篤巳訳『トロイ遺跡図譜』中島内科外科医院,2002年。)
(*)(参考：スティーブン・ランシマン/榊原勝・藤澤房俊訳『シチリアの晩禱：13世紀後半の地中海世界の歴史』太陽出版,2002年。)
(*)(参考：加藤博研究代表『地中海世界における基層文化と政治・経済・社会変動』加藤博[一橋大学],科学研究費補助金(基盤研究A)研究成果報告書,平成10年・12年。)
(*)(参考：芳賀京子『ロドス島の古代彫刻に関する研究』東京大学,博士(文学),甲第17493号,2002年。)
(*)(参考：中村るい「古代肖像画におけるエンカウスティック技法と表現—フォッグ美術館の作例とプリニウス『博物誌』の検討」(「美術に関する調査研究の助成」研究報告)—(2002年度助成)」鹿島美術財団年報20,2002年。)
(*)(参考：ヨハン・ヨアヒム・ヴィンケルマン/尾田一正訳「『絵画と徴候におけるギリシア作品の模倣に関する考察についての解説ならびにこの考察に関する公開状に対する回答』(2)(翻訳)」帝京大学外国語学外国文学論集8,2002年。)
(*)(参考：小佐野重利研究代表『美術の展開に果たした芸術家による旅行の意義の関する包括的研究』小佐野重利,2002年。)
(*)(参考：飯島章仁「ヘレニズム美術とローマ美術—植物文の継承と展開(日本西アジア考古学会第4回公開セミナー要旨集 ヘレニズムからローマ—西アジアと地中海)」日本西アジア考古学会公開セミナー4,2002年。)
(*)(参考：西藤清秀「パルミラ遺跡東南墓地G号墓の調査(日本西アジア考古学会第4回公開セミナー要旨集 ヘレニズムからローマ—西アジアと地中海)」日本西アジア考古学会公開セミナー4,2002年。)
(*)(参考：泉拓良「レバノン・テュロス郊外遺跡の群集墓—フェニキア・ローマ時代の地下墓群(日本西アジア考古学会第4回公開セミナー要旨集 ヘレニズムからローマ—西アジアと地中海)」日本西アジア考古学会公開セミナー4,2002年。)
(*)(参考：高根沢均「ボレチュの大聖堂複合施設について—ユスティニアヌス帝期のアドリア海沿岸における教会堂」(筑波大学大学院博士課程芸術学研究科・人間総合科学研究科)芸術学研究6,2002年。)
(*)(参考：日野宏「イスラエル国エン・ゲヴ遺跡で発見されたローマ時代の石灰窯(日本西アジア考古学会第4回公開セミナー要旨集 ヘレニズムからローマ—西アジアと地中海)」日本西アジア考古学会公開セミナー4,2002年。)
(*)(参考:牧野久美「ペルシャ時代からヘレニズム時代のエンゲヴ遺跡出土土器について(日本西アジア考古学会第4回公開セミナー要旨集 ヘレニズムからローマ—西アジアと地中海)」日本西アジア考古学会公開セミナー4,2002年。)
(*)(参考：佐藤直樹「皇帝と美術：カロリング朝と神聖ローマ帝国におけるローマ美術の復興」ドイツ語圏研究19,2002年。)
(*)(参考：Francis Haskel/伊藤拓真・小佐野重利訳「講演 ヴェネツィア美術と 17・18 世紀

におけるイギリスのコレクター[含・解説](特集 アートコレクション)」西洋美術研究 8,2002 年。)
(*)(参考：小佐野重利訳「Section2 大塚国際美術館—原寸大の陶板複製絵画のあふれる空間(Art News 複製作品の効用：ファクシミリによるセーヘルス版画展と大塚国際美術館を例に)」西洋美術研究 8,2002 年。)
(*)(参考：ビートたけし『たけしの大英博物館見聞録』新潮社,2002年。)
(*)(参考:鹿島茂「サプライム大景観 古代の夢の再生・アレクサンドリア図書館」宵+ 7,2002年。)
(*)(参考：「CLOSE UP海外 アレクサンドリア図書館[エジプト]現代によみがえる最大の図書館」日経アーキテクチュア717,2002年。)
(*)(参考:東京国立博物館・NHKプロモーション編『パキスタン・ガンダーラ彫刻展:日本・パキスタン国交樹立50周年記念』NHK:NHKプロモーション,2002年。)
(*)(参考：鈴木肇監督・DNP大日本印刷・ユーキャン企画制作『ガンダーラの仏たち』シルクロード7,ビデオレコード,ユーキャン,2002年。)
(*)東京藝術大学大学美術館編『ガンダーラとシルクロードの美術：平山郁夫コレクション=Gandhara and Silk Road arts：Hirayama Ikuo collection』朝日新聞社,2002年。
(*)(参考：浅香正「『エリュトゥーラ海案内記』について(シルクロードの探検家—シルクロード文化セミナー)」シルクロード学術研究叢書 6,2002 年。)
(*)(参考：合阪學「ヘロドトス(シルクロードの探検家—シルクロード文化セミナー)」シルクロード学術研究叢書 6,2002 年。)
(*)(参考：R.Shakir Pidaev/川崎建三訳「翻訳 バクトリア小彫刻における仏像の起源問題」シルクロード研究 3,2002 年。)
(*)(参考：森安孝夫・坂尻彰宏編『シルクロードと世界史=World history reconsidered through the Silk Road』大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文学」編,大阪大学大学院文学研究科・人間科学研究科・言語文化研究科 2002・2003 年度報告書,2002-003 年。)
(*)(参考：相馬隆「シルクロードよもやま話」史境 44,2002 年。)
(*)(参考：長澤和俊「シルクロードの旅と旅人(大特集 シルクロードの旅人—東西文化交流を担いし者たち)」月刊しにか 13(10),2002 年。)
(*)(参考：金子民雄「ヘディン—西域発掘のパイオニア(大特集 シルクロードの旅人—東西文化交流を担いし者たち)」月刊しにか 13(10),2002 年。)
(*)(参考:田辺勝美「アフガニスタンとギリシア文化—グレコ・バクトリア王国のコイン(特集 シルクロード・シリーズ(6)文化の回廊—アフガニスタン)」文化遺産 14,2002 年。)
(*)(参考：Miho Museum 編『古代バクトリア遺宝展図録』Miho Museum,2002 年。)
(*)(参考：Pidaev Shakir V./川崎建三訳「翻訳 バクトリア小彫刻における仏像の起源問題」シルクロード研究 3,2002 年。)
(*)(参考:ハインリッヒ・シュリーマン/中島篤巳訳『トロイ遺跡図譜』中島内科外科医院,2002年。)
(*)萩野矢慶記『トルコ 遙かなる大地：萩野矢慶記写真集』東方出版,2002年。
(*)(参考：野中惠子文・大村次郷写真『イスタンブール歴史の旅：世界遺産』Shorter travel,小学館,2020年。)

(*)「家島彦一教授—略年譜と主な研究業績」アジア・アリカ言語文化研究63,2002年。
(*)大東和重「芸術への巡礼,〈自己〉への巡礼—和辻哲郎『古寺巡礼』と芸術鑑賞」表現学部紀要3,2002年。
(*)(参考:田中英道『法隆寺とパルテノン:西洋美術史の眼で見た新・古寺巡礼』祥伝社,2002年。)
(*)(参考:『国家珍宝帳:遙かなる源流古代ペルシャの美術』(ペルシャ戦争の記念碑,パルテノン神殿)正倉院寶物:シルクロードを探る2,NHK DVD,ポニーキャニオン(発売),2002年。)
(*)(参考:上原和『世界史上の聖徳太子:東洋の愛と智慧』NHKブックス936,日本放送出版協会,2002年。)
(*)(参考:柳橋博之研究代表『イスラムをめぐる文化摩擦に関する総合的研究』柳橋博之,2002年。)
(*)(参考:米山俊直『私の比較文明論』Sekaishisou seminar,世界思想社,2002年。)
(*)(参考:伊東俊太郎・川勝平太「特別対談 比較文明学の現在,そして未来へ—新しい知の希望を語る」比較文明18,2002年。)
(*)(参考:中村明徳「瞑想と試論,あるいは地中海文化考—オルテガの『ドン・キホーテをめぐる省察』について」情況[第3期]3(10),2002年。)
(*)(参考:Kawakubo Keisuke「Toynbee's View of Religion in a Multi-Religious World」比較文明研究7,2002年。)
(*)(参考:秀村欣二『トインビー研究』(秀村欣二選集3)キリスト教図書出版社,2002年。)
(*)堤彪「書評 秀村欣二著 秀村欣二選集第3巻『トインビー研究』」比較文明18,2002年。
(*)(参考:モーリス・エマール「ブローデル以降の歴史学と『地中海』」日仏文化67,2002年。)
(*)(参考:加藤博「地域研究への誘い:地中海世界を材料に」一橋論叢127(4),2002年。)
(*)(参考:津村宏臣・寺村裕史「考古学における“Digital Heritage”の現状と課題:ギリシャ・クレタ島イラクリオンで開催された cAA2002 Conference に参加して」GIS:理論と応用 10(2),2002 年。)
(*)(参考:ホルスト・ブレデカンプ/中江彬訳『ボッティチェリ《プリマヴェーラ》:ヴィーナスの園としてのフィレンツェ』作品とコンテクスト,三元社,2002年。)
(*)(参考:アレッサンドロ・コンティ/岡田温司他訳『修復の鑑:交差する美学と歴史と思想』ありな書房,2002年。)
(*)(参考:鳥越輝昭「詩人レニエとヴェネツィア」人文学研究所報35,2002年。)
(*)(参考:佐々木隆「シェイクスピアと文化交流」異文化の諸相23,2002年。)
(*)(参考:鶴田静『ベジタリアンの文化誌』中公文庫,2002年。)
(*)(参考:太田外氣晴「建築と酒と古代史(10)古代の地中海文明」建築の研究149,2002年。)
(*)(参考:太田外氣晴「建築と酒と古代史(12,13,16)古代の地中海と宗教(1-3)」建築の研究151,152, 2002年/156,2003年。)
(*)(参考:ロレンス・ライト/別宮貞徳(他)訳『ベッドの文化史:寝室・寝具の歴史から眠れぬ夜の過ごしかたまで』八坂書房,2002年。)
(*)(参考:T.S.クロフォード/別宮貞徳,中尾ゆかり,殿村直子訳『アンブレラ:傘の文化史』八坂書房,2002年。)
(*)川村信三「書評と紹介 清水紘一著『織豊政権とキリシタン 日欧交渉の期限と展開』」

日本歴史648,2002年。
(*)村井早苗「書評 清水紘一著『織豊政権とキリシタン』」日本史研究480,2002年。
(*)宮永孝「日本洋学史—蘭学事始」社会志林49(2),2002年。
(*)(参考：滝澤武人「キリスト教(地図・伝播/系統図/図解・教会堂平面(特集 世界宗教ガイド—教えの基本から素朴な疑問まで)」大法輪69(1),2002年。)
(*)(參考：森崎千雅・浅見泰司「イスタンブールにおける街路構造の古地図と現代地図による比較分析」地理情報システム学会講演論文集11,2002年。)
(*)礪波護「宮崎市定コレクション—西洋刊の地理書と古地図」静脩38(4),2002年。
(*)(參考：鈴木純子「世界地図の歴史をたどる(特集 地図をめぐる国際交流)」国際交流24(4),2002年。)
(*)今井健三「『地図学用語多国語辞典』ができるまで(特集 地図をめぐる国際交流)」国際交流24(4), 2002年。
(*)(參考：アンドリュー・エドガー&ピーター・セジウィック/富山太佳夫訳者代表『現代思想芸術事典』青土社,2002年。)
(*)(參考：アルバート・S.ライオンズ/鏡リュウジ監訳『図説世界占術大全：魔術から科学へ』原書房,2002年。)
(*)(參考：大貫隆他編『岩波キリスト教事典』岩波書店,2002年。)
(*)(參考：織田昭編『新約聖書ギリシア語小辞典』教文館,2002年。)
(*)(參考：日本イスラム協会・嶋田襄平・板垣雄三・佐藤次高監修『新イスラム事典』平凡社,2002年。)
(*)(參考：片倉もとこ編集代表『イスラーム世界事典』明石書店,2002年。)
(*)(參考：伊形洋『シェイクスピア作品・人物事典』研究社,2002年。)
(*)(參考：荒井良雄・大場建治・川崎淳之助編集主幹『シェイクスピア大事典』日本図書センター,2002年。)
(*)田中琢・佐原真編集代表『日本考古学事典』三省堂,2002年。
(*)金敬雄『井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の訂増様相の研究』東北大学,博士(国際文化),甲第8620号,2002年。)
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典21』ナダ出版センター,2002年。
----「舟木重信」「船田享二」「星亨」「堀米庸三」「本多顕彰」「前田多聞」「正宗白鳥」
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典23』ナダ出版センター,2002年。
----「箕作阮甫」「南方熊楠」「宮武外骨」
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典24』ナダ出版センター,2002年。
----「矢代幸雄」「鑓田研一」
(*)ドキュメント人と業績大事典編集委員会編『ドキュメント人と業績大事典25』ナダ出版センター,2002年。
----「由良哲次」「吉江喬松」「吉田熊次」「吉田松陰」「渡辺一夫」「和辻哲郎」
(*)真田治子「明治期学術漢語の一般化の過程：『哲学字彙』と各種メディアの語彙表との

対照」日本語科学 11,2002 年。
(*)手島邦夫「西周の訳語の定着：『哲学字彙』から明治中期の英和辞書と中後期の国語辞書へ」文芸研究154,2002年。
(*)「文献案内『暗号解読—ロゼッタストーンから量子暗号まで』サイモン・シン著 青木薫訳」法とコンピューター20,2002年。
(*)沓掛良彦「古典味読を夢想して(特集 読書・この罰せられざる悪徳)」新潮99(4),2002年。
(*)(参考：前野弘志「文字史料とモノ資料の狭間で—古代ギリシア語碑文の場合(シンポジウム 資料論—碑文を中心に)」史学研究236,2002年。)
(*)(参考：中山恒夫「ローマ恋愛詩における奴隷制の言語」共立女子大学総合文化研究所年報8,2020年。)
(*)(参考：山内昌之「歴史の交差点(409)失われた時を求めて—古代文字の解読」週刊ダイヤモンド90(19),2002年。)
(*)(参考：宇都宮芳明『テキスト哲学』丸善プラネット,2002 年。)
(*)(参考：高橋英海「「失われた環」としてのシリア語—ダマスカスのニコラオス『アリストテレス哲学概要』シリア語訳を事例に」東洋学報 84(3),2002 年。)
(*)(参考：引地正俊「ディオゲニス・アクリティス—ビザンチン・ギリシャの物語詩に見る東と西」比較文学年誌 38,2002 年。)
(*)(参考：D.グダス/山本啓一訳『ギリシャ思想とアラビア文化—初期アッバース朝の翻訳運動』勁草書房,2002 年。)
(*)(参考：谷口洋一「〈史料紹介〉ギリシア語とイスラーム時代研究」史窓 59,2002 年。)
(*)(参考：三ッ木道夫「翻訳と歴史意識(3)古典文献学者ヴィラモーヴィッツ・メーレンドルフの翻訳論」言語文化4(3),2002年。)
(*)(参考：犬塚博彦「学問を語る言葉：高津春繁『言語学概論』のテクスト分析から」岩手大学英語教育論集4,2002年。)
(*)(参考：竹島俊之「古典ギリシア語の構文論研究(2)」プロピレア14,2002年。)
(*)(参考：奥貞二『ギリシア語入門』三重大学出版会,2002年。)
(*)(参考：ピリポ聖書研究会編『楽しく学ぶ聖書ギリシア語』ピリポ聖書研究会,2002年。)
(*)(参考：岩隈直・土岐健治『新約聖書ギリシア語構文法』キリスト教図書出版,2002年。)
(*)(参考：秦剛平訳『七十人訳ギリシア語聖書 創世記』河出書房新社,2002年。)
(*)(参考：逸見喜一郎「規範としてのラテン語文法」言語31(4),2002年。)
(*)(参考：小林標「規範としてのラテン語文法」言語31(10),2002年。)
(*)(参考：逸身喜一郎「規範としてのラテン語文法(特集 文法の誕生,文法の探究—ことばが伝わる基盤を探る)」言語31(4),2002年。)
(*)(参考：逸身喜一郎「なぜ他ならぬラテン語か(特集 ラテン語の世界—ヨーロッパ文化の基盤を探る)」言語31(10),2002年。)
(*)(参考：兼子次生「ラテン語速記のパイオニア,ティロ(特集 ラテン語の世界—ヨーロッパ文化の基盤を探る)」言語31(10),2002年。)
(*)(参考：江沢増勤編『教会ラテン語への招き』改訂新版聖書,サンパウロ,2002年。)
(*)(参考：曽田長人『19世紀ドイツにおける古典教育・古典研究の展開と国民形成：テオードール・モムゼンとフリードリヒ・ニーチェを手がかりに』東京大学,博士(学術),甲第17651号,2002年。)
(*)(参考：宿谷良夫「英語表現とその背景(5,6)ギリシャ・ローマ神話の研究(1,2)」東京家政

学院大学紀要 人文社会科学系42,2002年/44,2004年。)
(*)(参考：K.リーゼンフバー/村井則夫訳・上智大学中世思想研究所編訳・監修『中世思想史・総索引』平凡社,中世思想原典集成・別巻,2002年。)
(*)(参考：岩波文庫編集部編『世界名言集』岩波書店,2002 年。)
(*)(参考：岩波文庫編集部編『読書のたのしみ』岩波文庫別冊 15,岩波書店,2002 年。)
(*)(参考：野本和幸・山田友幸編『言語哲学を学ぶ人のために』世界思想社,2002 年。)
(*)犬塚博彦「学問を語る言葉—高津春繁『言語学概論』のテクスト分析から」岩手大学英語教育論集4,2002年。
(*)(参考：三浦晃嗣「厳復の翻訳—西洋思想の中国化と普遍主義」紀尾井史学21,2002年。)
(*)沈國威・内田慶市編『近代啓蒙の足跡：東西文化交流と言語接触『智環啓蒙塾初歩』の研究』關西大學東西學述研究所研究叢刊19,関西大学出版部,2002年。)
(*)関西学院大学図書館編『下村寅太郎蔵書目録』関西学院大学図書館,2002年。
(*)「関隆志名誉教授略歴・著作目録・その他(関隆志名誉教授退任記念号)」人文研究54,2002年。
(*)四方田犬彦「西脇順三郎と完全言語の夢(特集2 西脇順三郎再考)」言語文化19,2002年。
(*)中西亮太「會津八一に関する図書目録」早稲田大学會津八一記念館研究紀要4,2002年。
(*)関西学院大学図書館編『下村寅太郎蔵書目録』関西学院大学図書館,2002年。
(*)川北稔「箕作元八の夢：歴史学の再生と大学改革」適塾35,2002年。
(*)(参考：竹長吉正「ヴィクトリア時代の読書論に関する一考察—カーライル,ラスキン,アーノルド」埼玉大学紀要[教育学部],人文・社会科学51(2),2002年。)
(*)(参考：杉原四郎「マルクス・エンゲルス蔵書目録—在庫調査済み蔵書の注釈付き索引(大特集 新メガの研究—新マルクス・エンゲルス全集)—(新メガによせて)」経済81,2002年。)
(*)池田裕「言葉の春」図書636,2002年。
(*)(参考：情報処理振興事業協会セキュリティーセンター「セキュリティNOW過去3番目の不正アクセスの届出件数 パソコン乗っ取り目的のトロイの木馬にご用心」セキュリティ研究5(4),2002年。)
(*)(参考：小川正廣『ギリスア・ローマ古典文学における神託の概念と機能の変容』名古屋大学(2001年),（科研費）2002年。)
(*)(参考：地中海学会編『地中海の暦と祭り』刀水歴史選書56,刀水書房,2002年。)
(*)(参考：定方晟「〈論文〉パンヴニスト「ペルシアの宗教：主要ギリシア語文献の視点から」試訳」東海大学・文学部77,2002年。)
(*)(参考：宮川敏春「アーノルドとアポロン—Empedocles on Etnaから批評主義へ」高知工業高等専門学校学術紀要47,2002年。)
(*)(参考：松村一男・渡辺和子編『太陽神の研究(上下)』リトン,2002-2003年。)
----西村賀子「古代ギリシア太陽神ヘリオスをめぐって」
小堀馨子「古代ローマの太陽神：帝政期前半を中心に」
中西恭子「帝政後期ローマの皇帝たちと太陽神：ソル・インウィクトゥス信仰を中心に」
小川英雄「ミトラスの密儀と太陽神」
熊田陽一郎「ヨーロッパ思想史における太陽の意味」
植田重雄「ヨーロッパの民間習俗における太陽崇拝」

保田治夫「コペルニクス太陽神神学試論」
(*)(参考：百瀬春生「英語表現とその背景(5)：ギリシャ・ローマ神話の研究(1)」東京家政学院大学紀要,人文・社会科学系42,2002年。)
(*)(参考：土井裕人「宗教的シンボル論と宇宙論—エリアーデを手がかりに」宗教学・比較思想学論集5,2002年。)
(*)平藤喜久子「明治期の比較神話学」宗教研究75(3),2002年。
(*)(参考：吉田敦彦「日本神話と比較神話(シンポジウム 東西文化交流と比較神話)」東西南北：和光大学総合文化研究所年報 2002,2002 年。)
(*)(参考：松村一男「比較神話と文化史--『オデュッセウス』,『ロビンソン・クルーソー』,『ユリシーズ』(シンポジウム 東西文化交流と比較神話)」東西南北：和光大学総合文化研究所年報 2002,2002 年。)
(*)(参考：「ディスカッション(シンポジウム 東西文化交流と比較神話)」東西南北：和光大学総合文化研究所年報 2002,2002 年。)
(*)(参考：和光大学総合文化研究所『東西文化交流と比較神話：シンポジウム』東西南北,和光大学共同研究機構委員会,2002 年。)
(*)(参考：豊田和二監修『ギリシア神話』図解雑学：絵と文章でわかりやすい!,ナツメ社,2002年。)
(*)(参考：篠井保彦「神託と予測(16)山崎正和氏の芸術論をめぐって」地中海歴史風研究誌16,2002年。)
(*)(参考：澤井繁男「一神教内の逆説—南イタリアから見た兄弟宗教の盛衰史」中央公論117(4),2002年。)
(*)(参考：半沢英一「トロイア戦争からアエネアス・ローマ建国神話へ—白崎昭一郎氏と神話の史実性を議論する」古代史の海27,2002年。)
(*)(参考：エリック・ハヴェロック/左近司彩子監修『衣を脱ぐヴィーナス』アルヒーフ,2002年。)
(*)(参考：鴻野わか菜「モスクワ・アート通信(2)ロシアの梟はヴィーナスの夢をみるか—ロシア美術とフェミニズム」窓120,2002年。)
(*)(参考：小長谷正明「MEDICAL ESSAYSフィレンツェのヴィーナスたち」日本医事新報4066,2002年。)
(*)(参考：木名瀬紀子「ポリィツィアーノの詩『マニーフィコ・ジュリアーノ・ディ・デ・メーディチのジョストラのために書き始められたスタンツェ』第1巻99-101節とボッティチェッリの絵画《ヴィーナスの誕生》—その関連性についての比較芸術学的考察」都留文科大学研究紀要57,2002年。)
(*)(参考：高島秀之・今村早苗「ウフィッツィ美術館におけるデジタルアーカイブ化の試み」情報研究27,2002年。)
(*)(参考：小澤克彦「女神アフロディテとアルテミスの葛藤—エウリピデス『ヒッポリュトス』の上演舞台」岐阜大学教育学部研究報告,人文科学50(2),2002年。)
(*)(参考：千葉政助『千葉政助ギリシア神話作品集--アテーナー』中教出版,2002年。)
(*)(参考：北上次郎「家族のプリズム(8)金色のヴィーナス」ちくま372,2002年。)
(*)(参考：岩見隆・大川京・木下雄介・高田康一・野元晋・堀江聡共訳「翻訳 アラビア語版『アリストテレスの神学』序文・問題一覧」人文科学

17,2002年。)
(*)(参考：堀江聡訳「アラビア語版『神学論攷』」人文科学17,2002年。)
(*)(参考:高橋達明『オルペウス,ミュートスの誕生--『農耕歌』第 4 巻 453-527 行』三想社,2002年。)
(*)(参考：チャールズ・シーガル/山口拓夢訳『ディオニュソスの詩学』国文社,2002 年。)
(*)(参考：小川正廣『ウェルギリウス『アエネーイス』--神話が語るヨーロッパ世界の原点』書物誕生 あたらしい古典入門,岩波書店,2002年。)
(*)(参考：田内初義「ヘレニズムとヘブライズム」大東文化大学英米文学論叢33,2002年。)
(*)(参考:R.E.クレメンツ/月本昭男・木田献一訳『古代イスラエルの世界:社会学・人類学・政治学からの展望』リトン,2002年。)
(*)(参考：グレゴリー・J.ライリー/森夏樹訳『神の河キリスト教起源史』青土社,2002年。)
(*)(参考：秦剛平訳『七十人訳ギリシア語聖書』河出書房新社,2002年。)
(*)(参考：大貫隆研究代表『古代地中海世界における欲望と禁欲』大貫隆,2002年。)
(*)豊田浩志「島創平著『初期キリスト教とローマ帝国』新教出版社,2001」史學雑誌111(3),2002年。
(*)(参考：澤井繁男「一神教内の逆説—南イタリアから見た兄弟宗教の盛衰史」中央公論117(4),2002年。)
(*)(参考:荒井献『「訳注」使徒行伝ナグ・ハマディ文書』岩波書店,荒井献著作集・別巻,2002年。)
(*)(参考：松本宣郎「講演 ローマ世界におけるキリスト教受容—2世紀ガリアを中心に」キリスト教文化研究所研究年報36,2002年。)
(*)(参考：保坂高殿「トラヤヌス返書(Ep.10.97)とキリスト教“裁判”—古代キリスト教迫害史の時代区分に寄せて」西洋史研究31,2002年。)
(*)(参考：大月康弘「リウトプランド968年ミッションの目的と齟齬—10世紀キリスト教世界における「ローマ皇帝」問題に向けて」西洋史研究31,2002年。)
(*)(参考：福井和夫「『背教者ユリアヌス』[辻邦生]論：語り手の造形から」兵庫教育大学近代文学雑誌13,2002年。)
(*)(参考：中西恭子「ユリアヌス帝の宗教政策から見た後期ローマ帝国における国家意識(2002年歴史学研究会大会報告 グローバル資本主義と歴史認識)—(合同部会 儀礼と権力)」歴史学研究768,2002年。)
(*)(参考：中西恭子「ユリアヌスの宗教思想における「ヘレニズム」とキリスト教」中世思想研究44,2002年。)
(*)(参考：阿刀田高「聖書 呼びかける言葉 ロゴスの迷い—初めに言(ことば)があった」婦人之友96(1),2002年。)
(*)(参考:R.A.カルペパー/太田修司訳『ルカ福音書』NIB新約聖書註解4,ATD-NTD聖書註解刊行会,2002年。)
(*)(参考：フランシスコ会聖書研究所訳注『ルカによる福音書：原文校訂による口語訳』改訂新版聖書,サンパウロ,2002年。)
(*)(参考：ブライアン・ワイルドスミス絵・文/星野真理訳『こどものための聖母マリア物語』小学館,2002年。)
(*)(参考：大月康弘「リウトプランド968年ミッションの目的と齟齬—10世紀キリスト教世界における「ローマ皇帝」問題に向けて」オリエント31,2002年。)

(*)(参考：宮本久雄『存在の季節―ハヤトロギア(ヘブライ的存在論)の誕生』知泉書院,2002年。)
(*)(参考：中西恭子「ユリアヌスの宗教思想における「ヘレニズム」とキリスト教」中世思想研究44,2002年。)
(*)(参考：中西恭子「ユリアヌス帝の宗教政策から見た後期ローマ帝国における国家祭儀」歴史学研究/増刊(768),2002年。)
(*)(参考：ピーター・ブラウン/宮島直機訳『古代末期の世界―ローマ帝国はなぜキリスト教化したか』改訂増補,刀水書房,2002年。)
(*)(参考：草生久嗣「ビザンツ帝国の異端対策―異端学と対策法規の分析から」地中海学研究25,2002年。)
(*)(参考：瀧澤武人「「オリエント正教会」とマルコ」桃山学院大学キリスト教論集38,2002年。)
(*)(参考：安藤真「アメリカで考えた21世紀の日本(20)アレクサンドリアのキリスト像」自由44(49,2002年。)
(*)(参考：ジョン・コーンウェル/林陽訳『バチカン・ミステリー』徳間書店,2002年。)
(*)(参考：小坂井澄『ローマ法王の権力との闘い』講断社+α新書,講談社,2002年。)
(*)(参考：福田誠二『ヨハネス・ドゥンス・スコトゥスのペルソナ神学：人間の知性とペルソナの理解に関する神学的規定性』サンパウロ,2002年。)
(*)(参考：ヘーラルト・ホロート著/由木康訳『キリストにならいて：イミタチオ・クリスチ』教文館,2002年。)
(*)(参考：ジャン・ヴェルドン/吉田春美訳『図説 笑いの中世史』原書房,2002年。)
(*)(参考：出村和彦「海外研究動向：オーストラリアの教父研究」中世思想研究44,2002年。)
(*)(参考：引地正俊「ディゲニス・アクリティス―ビザンチン・ギリシャの物語詩に見る東と西」比較文学研究38,2002年。)
(*)(参考：横川典古「ビザンティン美術における三位一体と聖母マリア」平安女学院短期大学紀要34,2002年。)
(*)(参考：甲斐規雄「フレーベル教育思想の基層文化―聖母マリア信仰をてがかりに」明星大学教育学研究紀要17,2002年。)
(*)(参考：深谷潤(平安女学院大学短期大学部保育科)「W.イェーガーの「パイデイア・クリスティ」二おけるキリスト教教育の原理に関する一考察」平安女学院大学研究年報3,2020年。)
(*)(参考：小原克博「西洋思想における進化論の変遷―キリスト教の視点から(第47回プリマーテス研究会記録“進化”を考える)―(セッション2 自然観と進化理論)」財団法人日本モンキーセンター年報 2002年度,2002年。)
(*)(参考：K.S.フランク/戸田聡訳『修道院の歴史：砂漠の隠者からテゼ共同体まで』教文館,2002年。)
(*)(参考：Yasukata Toshimasa(安酸敏眞)“Lessing’s philosophy of religion and the German Enlightment：Lessing on christianity and reason”,Oxford UP.,2002。)
(*)阿部曜子「遠藤周作とグレアム・グリーン--『沈黙』と『権力と栄光』における神の位相」四国大学紀要Ser.A人文・社会科学編18,2002年
(*)石内徹編『遠藤周作『沈黙』作品論集』クレス出版,近代文学作品論集成20,2002年。

(*)遠藤周作・遠藤順子著/芸術新潮編集部編『遠藤周作で読むイエスと十二人の弟子』新潮社,とんぼの本,2002年。
(*)藤田尚子編『遠藤周作の愛した長崎 :『沈黙』から『女の一生』まで』遠藤周作文学館,2002年。
(*)金賢善「遠藤周作の『沈黙』論—語り手と構成を中心に」昭和女子大学大学院日本文学紀要13,2002年。
(*)(参考 : ノーマン・デイヴィス/別宮貞徳訳『ヨーロッパ』(古代-現代)共同通信社,2002年。)
(*)(参考 : ピエル・リシェ/岩村清太訳『ヨーロッパ成立期の学校教育と教養』知泉書院,2002年。)
(*)(参考 : 細井敦子「平成 12 年度海外研究(短期)報告書 : リュシアス作品古写本」成蹊大学文学部紀要37,2002年。)
(*)カバッソ・カロリーナ「宣教師シドッティの研究」(神戸女学院大学)論集 49(2),2002 年。
(*)川口敦子「朗読集(Lectionarium)としてのバレト写本所収文書」京都大学國文學論叢 9,2002年。
(*)相ヶ瀬千草「バレト写本の会話文 : 文末表現に見える文法的特徴」上智大学国文学論集35,2002 年。
(*)中村信博「〈研究プロジェクト綜合報告〉翻訳と文化 : 聖書和訳史とその周辺」総合文化研究所紀要 19,2002 年。
(*)(參考 : 鈴木佳秀「聖書翻訳に従事して」ペディラヴィウム 54,2002 年。)
(*)(參考 : 土戸清他「学界の過去と学会の未来」日本の神学41,2002年。)
(*)(參考 : 土戸清「序 : 日本基督教学会の使命と課題」日本の神学 41,2002 年。)
(*)津上恭子「ラファエル・フォン・ケーベルと幸田延・橘糸重」学習院女子部論叢 9,2002 年。
(*)竹田篤司『明治人の教養』(ケーベル)文春新書,平成 14 年。
(*)竹田篤司『物語「京都学派」』(田中美知太郎等)中公選書,2002 年。
(*)『転換期の音楽』編集委員会編『転換期の音楽 : 新世紀の音楽学フォーラム : 角倉一朗先生古稀記念論文集』(ケーベル)音楽之友社,2002 年。
(*)大内三郎・吉馴明子『植村正久 : 生涯と思想』日本キリスト教団出版局,2002 年。
(*)加藤信朗「新渡戸稲造『武士道』について—その多面性と自己相克」宗教と文化 21,2002年。
(*)高橋原「姉崎正治年譜・関係資料目録補遺」東京大学宗教学年報 20,2002 年。
(*)近代語学会編『松村明教授追悼論文集』(和訳聖書,矢野文雄等)武蔵野書院,2002 年。
(*)土戸清・並木浩一・水垣渉・東方敬信・古屋安雄・八木誠一「座談会 学界の過去と[日本基督教]学界の未来」日本の神学 41,2002 年。
(*)篠崎恭久「書評 村松晋著「三谷隆正の研究---信仰・国家・歴史」」史境45,2002年。
(*)高橋輝和『シーボルトと宇田川榕菴』平凡社新書,2002 年。
(*)高島俊男『お言葉ですが③明治タレント教授』(和田垣謙三)文春文庫,2002 年。
(*)宮川昇「『平家物語』と西洋古典叙事詩(4)武者揃について」比較文化研究 21,2002 年。
(*)関敬吾『桃太郎・舌切り雀・花咲か爺』(百合若)岩波書店,ワイド版岩波文庫 2029,日本の昔ばなし 2,2002 年。
(*)江口孝夫『もじりとやじり : 光る批判精神』(百合若)勉誠出版,江戸川柳の美学 3,2002 年。
(*)佐藤彰「人形操法--『百合若大臣野守鏡』に見る人形」国文学 解釈と教材の研究 47(6),2002

年。
(*)金賛會「伝承伝説からみる日本と韓国のかかわり—百合若説話を中心に」ポリグロシア 5,2002 年。
(*)イソップ著/ラッセル・アッシュ,バーナード・ヒットン編著；秋野翔一郎訳『イソップ寓話集：クラシックイラストレーション版』童話館出版,2002 年。
(*)イソップ著/中務哲郎訳『イソップ寓話集』ワイド版岩波文庫,岩波書店,2002 年。
(*)イソップ原作/赤坂三好文・絵『ライオンをたすけたネズミ』読みきかせ・イソップ名作えほん,教育画報,2002 年。
(*)イソップ原作/赤坂三好文・絵『にくをおとしたイヌ』読みきかせ・イソップ名作えほん,教育画報,2002 年。
(*)イソップ原作/赤坂三好文・絵『おろかなカエル』読みきかせ・イソップ名作えほん,教育画報,2002 年。
(*)イソップ原作/赤坂三好文・絵『とりの王さまえらび』読みきかせ・イソップ名作えほん,教育画報,2002 年。
(*)イソップ原作/赤坂三好文・絵『たびびととクマ』読みきかせ・イソップ名作えほん,教育画報,2002 年。
(*)イソップ原作/赤坂三好文・絵『ツルのしかえし』読みきかせ・イソップ名作えほん,教育画報,2002 年。
(*)杉山亮作；佐々木マキ絵『イソップ物語』おはなしめいさくせかいのたび,フレーベル館,2002 年。
(*)(参考：イソップ原作/赤坂三好文・絵『読みきかせ・イソップ名作えほん(1-6)』教育画劇,2002 年。)
(*)樋口桂子『イソップ風動物寓話に偏差として表現された挿絵画像の示す寓話の変容と可塑的本質』大東文化大学 2001 年,(科研費)2020 年。
(*)中山エイ子「イソップ唱歌について(2)蟻とキリギリス」(金沢工業大学日本学研究所)日本学研究 5,2002 年。
(*)菊地章太「イソップと『老子』」東方 258,2002 年。
(*)伊藤宏美「イソホ物語の異本間の類似説話における視点の違い—能力と親疎」群馬大学留学生センター論集 2,2002 年。
(*)(参考：木村崇(研究代表)『イソップ寓話のロシア的受容と日本的受容』木村崇,2002年。
(*)(参考：中務哲郎『ギリシア・ローマ文献の形成・伝承・受容史の研究』京都大学1999年,(科研費)2002年。)
(*)柏木加代子「バルブトー編『ラ・フォンテーヌ寓話抄』の日本画挿絵について」京都市立芸術大学美術学部研究紀要 46,2002 年。)
(*)(参考：藤田あゆみ「ラ・フォンテーヌ寓話におけるオオカミとキツネについての一考察--第 10 巻第 5 の寓話「オオカミと羊飼い」Le loup et le berger をめぐって」Lut(OxFACE)ce30,2002 年。)
(*)(参考：安室可奈子「フランソワ・ジェラール作《プシュケーとアモル》(ルーブル美術館所蔵)について—ラ・フォンテーヌの物語のための挿絵と文学的着想源」美術史 51(2),2002 年。)
(*)中務哲郎『古典学の再構築：調整班研究 B01「伝承と受容(世界)』京都大学 1999 年,(科研費)2002 年。

(*)瀧井敬子「森鴎外訳「オルフェウス」をめぐる一考察」東京藝術大学音楽学部紀要 28,2002 年。
(*)櫻井正一郎「細心精緻—上田敏の学風」The Albion48,2002 年。)
(*)紅野敏郎「逍遙・文学誌(128)—石井柏亭・木下杢太郎・高村光太郎・田中喜作・矢代幸雄ら」国文学 解釈と教材の研究 47(2),2002 年。
(*)紅野敏郎「逍遙・文学誌(133)—高村光太郎・水野紫舟・落合太郎」国文学 解釈と教材の研究 47(8),2002 年。
(*)豊原治郎『学匠・會津八一の生涯』晃洋書房,2004 年。
(*)澤正宏『西脇順三郎のモダニズム：『ギリシア的抒情詩』全篇を読む』双文社出版,2002 年。
(*)太宰治『走れメロス：富嶽百景』岩波少年文庫,岩波書店,2002 年。
(*)太宰治『走れメロス』太宰治文学館,日本ン図書センター,2002 年。
(*)太宰治『走れメロス』偕成社文庫,偕成社,2002 年。
(*)飯田和明「授業「『走れメロス』を読むことによる文学の学び方」」人文科教育研究 29,2002 年。
(*)もちづきみつこ「太宰治『走れメロス』私見」静岡近代文学 17,2002 年。
(*)小川育男「太宰治著『走れメロス』の教材研究」上越教育大学国語研究 16,2002 年。
(*)松本修「「走れメロス」の語り」宇大国語論究 13,2002 年。
(*)谷沢栄一「本好き人好き(158)安永梧郎『馬場辰猪』中村秋人『名媛と筆蹟』」国文学 解釈と教材の研究 47(13),2002 年。
(*)『転換期の音楽：新世紀の音楽学フォーラム：角倉一朗先生古稀記念論文集』(関根和江「日本と欧米：ケーベル先生のまなざし：瀧廉太郎との幸福な出会い」)音楽之友社,2002 年。
(*)卞崇道「特別講演　思想における東洋と西洋の間に---井上哲次郎を中心として」, 中部哲学会年報 35,2002 年。
(*)佐伯彰一「同時代を縦断した二人 石光真清と田中美知太郎」文藝春秋 80(16),2002 年。
(*)池上隆史「村岡典嗣年譜(1-4)」日本思想研究 34,2002 年//35,2003 年//37,2005 年//38,2006 年。
(*)渡邊恒雄「哲学者・出隆(80 人の心に残る鮮やかな日本人)」文藝春秋 80(2),2002 年。
(*)柴田隆行「日本の哲学教育史(中)」井上円了センター年報 11,2002 年。
(*)三浦節夫「井上円了と哲学堂公園」井上円了センター年報 11,2002 年。
(*)末次弘「ソクラテスについて」(井上円了)井上円了センター年報 11,2002 年。
(*)高橋直美「井上円了と清沢満之 其の時代と精神」,井上円了センター年報 11,2002 年。
(*)安富信哉「井上円了と清沢満之の共同研究　清沢満之の人と思想」井上円了センター年報 11,2002 年。
(*)桶谷秀昭「井上円了と清沢満之の共同研究 井上円了とその時代」井上円了センター年報 11,2002 年。
(*)今村仁司「清沢満之と宗教哲学への道(仏教/近代/アジア)」思想 943,2002 年。
(*)川口順也「精神の〈かたち〉—清沢満之の「精神主義」を中心に」文研論集 39,2002 年。
(*)渋谷行成「制欲自戒の生活—清沢満之・依るべき根拠を求めて」大谷大学大学院研究紀要 19,2002 年。
(*)藤田正勝・安富信哉編『清沢満之、その人と思想』法蔵館,2002 年。

(*)森田孟進「教養論覚書—阿部次郎と三木清」大学と生活 456,2002 年。
(*)(参考：共立女子大学総合文化研究所編『東西の仮面劇：共同研究』研究叢書 20,共立女子大学総合文化研究所神田分室,2002 年。)
(*)沓掛良彦「西洋古典を味読して(特集 読書：この罰せざる悪徳)」新潮 99(4),2002 年。
(*)(参考：高柳俊一先生古稀記念論文集刊行委員会編『伝統と革新：高柳俊一先生古稀記念論文集』中世古典原典集成 8,平凡社,2002 年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編訳・監修『シャルトル学派』中世思想原典集成 8,平凡社,2002 年。)
(*)(参考：「特集・成城大学における西洋古典学研究」成城文芸 185,2002 年。)
(*)吉田悦志「笹川臨風(種郎)の位置」(早稲田大學)大学史紀要 7,2002 年。
(*)「古川晴風名誉教授を偲ぶ」英文学 84,2002 年。
(*)嘉吉純一・中西裕一・金子佳司「研究室を築いた人々(9)向坂寛先生の人と業績」精神科学 40,2002 年。
(*)「父・田中秀央の「思ひ出の記」」京都大学大学文書館だより 3,2002 年。
(*)鴨井佳奈「〈史料紹介〉藤縄先生の思い出」(藤縄謙三教授追悼文集)史窓 59,2002 年。
(*)瀧岡沙織「〈史料紹介〉歴史への情熱」」(同上)史窓 59,2002 年。
(*)松本神奈「〈史料紹介〉「森」を見よ」(同上)史窓 59,2002 年。
(*)菅森陽子「〈史料紹介〉藤縄謙三先生を偲んで」(同上)史窓 59,2002 年。
(*)米田瑞穂「〈史料紹介〉ゼミ旅行」(同上)史窓 59,2002 年。
(*)森田洋子「〈史料紹介〉偉大な先生を偲んで」(同上)史窓 59,2002 年。
(*)小山佳子「〈史料紹介〉藤縄先生に感謝の気持ちをこめて」(同上)史窓 59,2002 年。
(*)山添英子「〈史料紹介〉拝啓藤縄謙三先生」(同上)史窓 59,2002 年。
(*)坂口満宏「〈史料紹介〉藤縄先生の‘最後の論説’とその‘歴史意識’」(同上)史窓 59,2002 年。
(*)檀上寛「〈史料紹介〉藤縄先生の思い出」(同上)史窓 59,2002 年。
(*)常松洋「〈史料紹介〉藤縄先生の「ご遺言」」(同上)史窓 59,2002 年。
(*)瀧浪貞子「〈史料紹介〉忘れられない紅茶」(同上)史窓 59,2002 年。
(*)植松正「〈史料紹介〉藤縄先生の眼差し」(同上)史窓 59,2002 年。
(*)中山清「〈史料紹介〉思い出すこと」(同上)史窓 59,2002 年。
(*)永田英正「〈史料紹介〉重い宿題を課せられて」(同上)史窓 59,2002 年。
(*)古賀香里「〈史料紹介〉藤縄謙三先生のこと」(同上)史窓 59,2002 年。
(*)船越昭生「〈史料紹介〉藤縄謙三先生をしのぶ」(同上)史窓 59,2002 年。
(*)林田芳雄「〈史料紹介〉藤縄先生を憶う」(同上)史窓 59,2002 年。
(*)江川良一「〈史料紹介〉畏友・藤縄謙三氏を悼む」(同上)史窓 59,2002 年。
(*)新田一郎「〈史料紹介〉藤縄学兄を偲ぶ」(同上)史窓 59,2002 年。
(*)「藤縄謙三教授追悼録(含・年譜・著作目録)」(同上)史窓 59,2002 年。
(*)「松本仁助教授の略歴・著作目録(松本仁助教授退職記念号)」大阪学院大学国際学論集 13(1),2002 年。
(*)(参考：水田英実研究代表『西洋思想における人間知性論の起源に関する研究』科学研究費補助金(基盤研究 C2)研究成果報告書 平成 12-13 年度,2002 年。)
(*)(参考：神崎繁「経験のうちにとどまる困難さ」創文 443,2002 年。)
(*)酒井潔・加藤宣子「三宅剛一差出・下村寅太郎宛書簡(上下)」人文 1,2002 年/7,2009 年。

(*)多井一雄「藤澤令夫における文化と哲学」人文社会紀要 20(1),2002 年。
(*)(参考：浅井茂紀「〈研究ノート〉倫理学とは何か[1]：西洋倫理学と関連して」千葉商大紀要 40(3),2002 年。)
(*)(参考：ロジャー・フォン・イーク/川崎和子訳『創造力のスイッチを入れろ!』ダイヤモンド社,2002 年。)
(*)(参考：鷲田小彌太『はじめての哲学史講義』PHP新書204,PHP研究所,2002年。)
(*)(参考：ルチャーノ・デ・クレシェンツォ/谷口勇訳『ソクラテスからプロティノスまで』物語ギリシャ哲学史,而立書房,2002 年。)
(*)(参考：八木雄二『古代哲学への招待：パルメニデスとソクラテスから始めよう』平凡社新書 156,平凡社,2002 年。)
(*)(参考：岩間秀幸『ソクラテス研究—ソクラテスの提出した知の整理による,「徳は知である」と自己知の新解釈』コスモヒルズ,2002 年。)
(*)(参考：朴一功「ソクラテスの遺産—魂の世話」アルケー10,2002 年。)
(*)(参考：茂木和行「ソクラテス,女子学生,ハイデガー：対話から読み解く日常性の哲学」研究紀要・第一分冊,人文学部 13,2002 年。)
(*)(参考：金東光「ソクラテス問答法の教育的意味」東京福祉大学研究紀要 1,2002 年。)
(*)(参考：丸野三乗「ヘラクレイトスと「プラトンの大年」について」早稲田大学大学院文学研究科紀要,第 1 分冊 48,2002 年。)
(*)(参考：トーマス・A.スレザーク/内山勝利・丸橋裕・角谷博訳『プラトンを読むために』岩波書店,2002 年。)
(*)(参考：林美茂『限界と可能性：プラトン哲学における人間理解の研究』愛知大学,博士(学術),甲第 11 号,2002 年。)
(*)(参考：上岡宏『プラトン批判期対話篇の研究』北樹出版,2002 年。)
(*)(参考：納富信留『ソフィストと哲学者の間—プラトン『ソフィスト』を読む』名古屋大学出版会,2002 年。)
(*)(参考：納富信留『プラトン--哲学者とは何か』シリーズ・哲学のエッセンス,日本放送出版協会,2002 年。)
(*)(参考：塚田澄代「20 世紀哲学の総括(5)ソフィストの潮流—神の死から人間の死へ(4)総体的結論 ヒューマニズムからニヒリズムへ」名古屋芸術大学研究紀要 23,2002 年。)
(*)(参考：瀬口昌久『魂と世界—プラトンの反二元論的世界像』京都大学出版会,2002 年。)
(*)(参考：Hoffmann Damasclus/堀江聡訳「翻訳 ダマスキオス『第一の諸起源についてのアポリアと解』第 1 巻第 1 部(R.1,1-18)」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 34,2002 年。)
(*)(参考：金澤修「プロティノス Enn.VI-6(34)に於ける「有—知性—生きもの」の順序について」西洋古典學研究 50,2002 年。)
(*)(参考：河波昌「根源(アルケー)と目標(テロス)：新プラトン主義とヤスパース」コムニカチオン 12,2002 年。)
(*)(参考：Werner Jaeger/村島義彦訳「翻訳 プラトンとディオニュシオス—パイデイアの悲劇」立命館文學 576,2002 年。)
(*)(参考：千葉恵『アリストテレスと形而上学の可能性—弁証術と自然哲学の相補的展開』勁草書房,2002 年。)

(*)(参考 : 坂下浩司『アリストテレスの形而上学—自然学と倫理学の基礎』岩波アカデミック叢書,岩波書店,2002 年。)
(*)(参考 : 井上ひさし「笑いについて(2)アリストテレスの笑い」図書 634,2002 年。)
(*)(参考 : 茂木和行「「持つ」の形而上学—フロム,芭蕉,アリストテレス,ハイデガー,レヴィナスをつなぐ点と線」聖徳大学言語文化研究所論叢 10,2002 年。)
(*)(参考 : マーク・フォステイター/池田雅之・高井清子訳『自分の人生に出会うための言葉—皇帝』マルクス・アウレリウスの人生訓』草思社,2002 年。)
(*)(参考 : 外山滋比古『風の音 : エッセイ集』(キケロ)外山滋比古著作集 8,みすず書房,2002 年。)
(*)(参考 : 片山勝茂「教養のレトリック・ヒューマニズム的伝統における公共性・言語・知(コメント論文,レトリックから解釈学へ,Forum2)」近代教育フォーラム 11,2002 年。)
(*)(参考 : 山川偉也「〈報告〉「ギリシア哲学」の視座転換—クリストス・エヴァンゲリウー教授の横顔」桃山学院大学人間科学 23,2002 年。)
(*)(参考 : 三宅浩「プラトン主義者,トーマス・テイラー,編年的文献表(抄)」高岡法科大学紀要 13,2002 年。)
(*)(参考 : 深谷潤「W.イェーガーの「パイデイア・クリスティ」におけるキリスト教教育の原理に関する一考察」平安女学院大学研究年報 3,2002 年。)
(*)(参考 : 秋山学「ギリシア教父と般若思想—東方典礼とアレキサンドリアのクレメンスを手がかりに」文藝言語研究 : 文藝篇 44,2002 年。)
(*)(参考 : 山口正美『ヒッポの司教聖アウグスチノの会則—今日の修道共同体の霊性を求めて』サンパウロ,2002 年。)
(*)(参考 : H.アーレント/千葉眞訳『アウグスティヌスの愛の概念』みすず書房,2002 年。)
(*)(参考 : ギャリーウィルズ/志渡岡理恵訳『アウグスティヌス』ペンギン評伝双書,岩波書店,2002 年。)
(*)(参考 : 兼平昌昭「パリ大学におけるアヴェロエス主義」静岡大学教育学部研究報告・人文・社会科学篇 53,2002 年。)
(*)(参考 : 岡崎文明「序文 : 新プラトン主義研究の基本的視点」新プラトン主義研究 1,2002 年。)
(*)(参考 : Werner Beierwaltes/山口誠一訳「ミュンヘン大学就任講演 像とその鏡像—新プラトン主義的思惟の現在への眺望と、その思惟をめぐる省察」新プラトン主義研究 1,2002 年。)
(*)(参考 : 小浜善信「トマスにおける発出と創造—非有のイデアと創造」新プラトン主義研究 1,2002 年。)
(*)(参考 : 稲垣良典「哲学と神--『問題としての神』再考」創文 446,2002 年。)
(*)(参考 : 浜渦辰二「対話の現象学のために : フッサールとハイデガー」人文論集 52(2),2002 年。)
(*)(参考 : 庄司大亮「古代ギリシア周辺世界における英雄伝説に受容」史林 85(2),2002 年。)
(*)(参考 : 小林信行「プラトン文学論のための覚え書き」哲学論集 38,2002 年。)
(*)(参考 : 片山英男研究代表『古典の伝承 : ミーニュのラテン語教父全集とヨーロッパ中世・ルネサンス文学』片山英男,2002 年。)
(*)(参考 : Cormier Raymond「12 世紀の英雄と軍記物—ホーマーのトロイ,中世日本およびフ

ランスからの交差する文化的な見解」異文化コミュニケーション研究 5,2002 年。)
(*)入江隆則「A 組戦犯の合祀とギリシア悲劇(特集 靖国参拝の何が悪い)」Voice297,2002 年。
(*)(参考：逸身喜一郎研究代表『古典後期エポスの伝統受容ならびに特殊性の研究』逸身喜一郎,2002 年。)
(*)(参考：安西眞『ピンダロス研究(A Study of Pindar)—詩人と祝勝歌の話者』北海道大学文学研究科研究叢書 1, 北海道大学文学研究科,2002 年。)
(*)(参考：平田松吾『エウリピデス悲劇の民衆像—アテナイ市民団の自他認識』岩波アカデミック叢書,岩波書店,2002 年。)
(*)(参考：古澤ゆう子『オイディプースをめぐる悲劇作品と伝説—運命論の展開』日本独文学会研究叢書 12,日本独文学会,2002 年。)
(*)(参考：渡辺浩司「『オイディプス王』と『タウリケのイピゲネイア』--アリストテレス『詩学』第 13 章と 14 章より」文芸学研究 5,2002 年。)
(*)(参考 : 吉武純夫『ギリシア悲劇における死の受容についての研究』出版者不明,2002 年。)
(*)(参考：Eleni Karaindrou『Trojan women』録音資料,ECM New Series,Universal Music,2002.)
(*)(参考：吉成順「古典古代の「饗宴」と音楽--「仮称 音楽体験史」構想のためのデータベスから」音楽研究 14,2002 年。)
(*)(参考：近藤和彦編『西ヨーロッパにおけるルネサンス像の再検討』近藤和彦,2002 年。)
(*)(参考：小澤実「原典資料紹介 シャルルマニューの「遺言」--カロリング・ルネサンスの中の皇帝コレクション[含・解説](特集 アート・コレクション)」西洋美術研究 8,2002 年。)
(*)(参考：ペトラルカ・ボッカッチョ/近藤恒一訳『ペトラルカ=ボッカッチ書簡集』岩波文庫,2002 年。)
(*)(参考：近藤恒一『ペトラルカ：生涯と文学』岩波書店,2002 年。)
(*)(参考：小池寿子「終の棲家—ペトラルカの場合(特集 終わり方の研究—is が was になるとき)」IS 88,2002 年。)
(*)(参考：ダンテ著/ドレ画/平沢弥一郎編訳『絵で読むダンテ「神曲」地獄篇』論創社,2002 年。)
(*)(参考：今道友信『ダンテ『神曲』講義』みすず書房 2002 年(→2004 年,普及版)。)
(*)(参考：Paulilli Anello,谷口勇「16 世紀の埋もれた悲劇作品の解読—アネッロ・パウリッリ『トロイア炎上』(上下)」立正大学大学院紀要 18,2003 年/19,2003 年。)。
(*)(参考：エウジニオ・ガレン/近藤恒一訳『ルネサンスの教育：人間と学芸との革新』知泉書院,2002 年。)
(*)(参考：澤井繁男『ルネサンス』岩波ジュニア新書,岩波書店,2002 年。)
(*)中軽米明子「ジャック・ヴェルジェ著/野口洋二訳『入門十二世紀ルネサンス』創文社, 2001」史學雑誌 111(6),2002 年。
(*)(参考：樺山紘一「2001 年度学術講演会 ルネサンスの二都物語—フィレンツェとヴェネチア」研究紀要 64,2002 年。)
(*)(参考：森弘一「「ドルプ書簡」におけるトマス・モアの人文主義」人間科学 19(2),2002 年。)

(*)(参考：渡辺華月「フィチーノと『要約』『手引き』」龍谷大学哲学論集 16,2002 年。)
(*)(参考：伊藤博明「フィチーノとルネサンス」人環フォーラム 12,2002 年。)
(*)(参考：引地正俊「ディゲニス・アクリティス—ビザンチン・ギリシャの物語詩に見る東と西」比較文学年誌 38,2002 年。)
(*)(参考：細川亮一『ヘーゲル現象学の理念』創文社,2002 年。)
(*)(参考：河野勝彦『死と唯物論』青木書店,シリーズ「現代批判の哲学」,2002 年。)
(*)(参考：船戸満之『表現主義論争とユートピア』情況出版,2002 年。)
(*)(参考：村田誠一『自然との和解の美学—序説：西洋近代美学における芸術と自然』西洋思想叢書,晃洋書房,2002 年。)
(*)(参考：水田英美研究代表『西洋思想における人間知性論の起源に関する研究』水田英美,科学研究費補助金基礎研究(C2)研究成果報告書 平成 12-13 年度,2002 年。)
(*)(参考：大橋弘『新聞論をこえて』(エラスムス)エラスムス叢書 3,風媒社,2002 年。)
(*)(参考：金子晴勇『エラスムスとルター：一六世紀宗教改革の二つの道』聖学院大学出版会,聖学院大学研究叢書 3,2002 年。)
(*)(参考：中城進訳「エラスムス著『キリスト教徒の人間教育』(翻訳・解説)」桜井女子短期大学紀要 24,2002 年。)
(*)(参考：木ノ脇悦郎訳「〈翻訳〉エラスムスの De votis temere susceptis(1522)について(〈特集〉現代イスラームを理解するために)」関西学院大学キリスト教と文化研究 3,2002 年。)
(*)(参考：熊谷明子「エラスムスにおける自己と他者—ルターとの「自由意志論争」における相克を中心として」フランス教育学会紀要 14,2002 年。)
(*)(参考：藤田博子「植物の育成になぞらえた育児論の系譜(2)ヘレニズム・ローマからルネッサンスへ」大阪芸術大学短期大学部紀要 26,2002 年。)
(*)(参考：杉下文子「初期書簡にみるエラスムス--『学習計画』(1512)理解の為の予備的研究」慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 55,2002 年。)
(*)(参考：今村武「アルザスのドイツ協会とシュトルウム・ウント・ドランク研究」上智大学ドイツ文学論集39,2002年。)
(*)(参考：小栗浩「ゲーテとエッカーマン」Norden 39,2002 年。)
(*)(参考：松山雄三「シラーの優美論について--『優美と尊厳について』をめぐって」東北薬科大学一般教育関係論集 16(幕井碩先生還暦記念号),2002 年。)
(*)(参考：ヘルダーリン/武田竜也訳『省察』論創社,2002 年。)
(*)(参考：W.ディルタイ/小牧健夫他訳『体験と創作(上下)』岩波書店,2002 年。)
(*)(参考：高橋克己「ヘルダーリン論その他」高知大学学術研究紀要・人文科学 51,2002 年。)
(*)(参考：加藤敏『創造性の精神分析：ルソー・ヘルダーリン・ハイデガー』新曜社,2002 年。)
(*)(参考：金子祥之「近代の神話としてのギリシャ劇—ホフマンスタールのギリシャ悲劇について」文学研究論集,文学・史学・地理学 18,2002 年。)
(*)(参考：スタール夫人/中村加津・大竹仁子訳『文学と芸術』(ヴィンケルマン)島影社・ロゴス企画部,ドイツ論,2002 年。)
(*)(参考：渡邊直樹『レッシング：啓蒙精神の文芸と批評』同学社,2002 年。)
(*)(参考：高橋克己「レッシングの「ヘン・カイ・パーン」とヘルダーリンの「一にして金」」

高知大学学術研究報告・人文科学 51,2002 年。)
(*)(参考：武居忠通『ホフマンスタール論考』日本図書刊行会,近代文芸社[発売],2002 年。)
(*)(参考：相澤伸幸『ニーチェと人間形成論：近代ドイツの教育学的人間形成論の系譜において』東北大学,博士(教育学),甲第8204号,2002年。)
(*)(参考：修斌『二十世紀初頭におけるニーチェ受容と日本：「近代個人主義」認識を中心に』新潟大学,博士(文学),甲第1926号,2002年。)
(*)(参考：岡崎文明「ニーチェ哲学研究(1)：Jenseits von Gut und Bose,III,52 丹生於ける「未来の哲学」」金沢大学大学教育開放センター紀要 22,2002 年。)
(*)(参考：杉田弘子「愛の死―ニーチェの戯曲『エムペドクレス』プラン」武蔵大学人文学会雑誌 33(4),2002 年。)
(*)湯浅弘「和辻哲郎と生の哲学--『ニイチェ研究』を中心に」比較思想研究 29,2002 年。
(*)(参考：丸橋裕「失われた原像の探求―ワーグナーとギリシア悲劇(特集 神話)」年刊ワーグナー・フォーラム 2002,2002 年。)
(*)木村健治『日本におけるギリシア・ローマ演劇上演史研究』大阪大学[文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書],2002 年(→2004 年)。
(*)(参考：中川久定『転倒の島：18 世紀フランス文学史の諸断面』岩波書店,2002 年。)
(*)(参考:横山安由美･朝比奈美知子編『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房,2002 年。)
(*)(参考：佐藤正樹「シレーノスの筥(はこ)--『ガルガンチュア』のプロローグを読む」早稲田フランス語フランス文学論集,2002 年。)
(*)(参考:モンテーニュ/荒木昭太郎訳『エセー(1-3)』中公クラシックス,中央公論社,2002 年。)
(*)(参考：柏木加代子「バルブドー編『ラ・フォンテーヌ寓話抄』の日本画挿絵について」京都市立芸術大学美術学部研究紀要 46,2002 年。)
(*)(参考:小田桐光隆『ラシーヌの神話力』Sophia University Press 上智大学,(東京)信山社（発売）,2002 年。)
(*)(参考：白須貴志「ドリール訳『農耕詩』について」上智大学仏語・仏文学論集 36,2002 年。)
(*)篠田知和基「梅崎春生『幻化』とネヴァル「オクタヴィ」--火山文学における狂気の表現」広島国際研究 8,2002 年。
(*)(参考：塚田澄代「20 世紀哲学のの総括(5)ソフィストの潮流―神の死から人間の死へ(4)総体的結論 ヒューマニズムからニヒリズムへ」名古屋芸術大学研究紀要 23,2002 年。)
(*)和田義浩「プラトンと北村透谷―世界の二元性と恋愛の問題をめぐって」比較思想研究 29,2002 年。)
(*)尾崎誠「The Tragic Logic of Species : Tanabe’s Philosophy」新プラトン主義研究 1,2002 年。)
(*)(参考：高池久隆「日本におけるハインリッヒ・ハイネ：翻訳・研究文献」ドイツ文学 108,2002 年。)
(*)(参考：細井敦子「平成 12 年度海外研究(短期)報告書：リュシアス作品古写本」成蹊大学文学部紀要 37,2002 年。)
(*)(参考：日本シェイクスピア協会編『シェイクスピア―世紀を超えて』研究社,2002 年。)
(*)(参考:佐々木隆『書誌から見た日本シェイクスピア受容研究』(川崎)佐々木隆,2002 年。)
(*)(参考：シェイクスピア/坪内逍遙訳『ザ・シェイクスピア：全戯曲(全原文+全訳)全一冊』

愛蔵版,第三書館,2002 年。)
(*)(参考 : 福田宏一「『トロイラスとクレシダ』に見るジェンダー表象とセクシュアリティの問題をめぐって」現代と文化 106,2002 年。)
(*)(参考 : 正岡和恵「混淆への誘惑 :『アントニーとクレオパトラ』における身体の政治学」成蹊英語英文学研究 6,2002 年。)
(*)(参考 : 伊達壽曠「Et tu,Brute ?―ブルータスを考える」大谷女子大学英語英文学研究 29,2002 年。)
(*)(参考 : 海老澤豊「ジェイムズ・グレィンジャーの『砂糖黍』: 十八世紀英国における農耕詩の系譜(3)」新潟産業大学人文学部紀要 11,2002 年。)
(*)(参考 : 海老澤豊「十八世紀英国における農耕詩」英米文学 62,2002 年。)
(*)(参考 : 佐藤香苗「ウオルター・ペイターの「サンドロ・ボッティチェルリ」--ヴィクトリア朝イギリスにおける芸術批評家としての彼の位置」東大阪短期大学研究紀要 28,2002 年。)
(*)(参考 : 富士川義之「ウォルター・ペイターの魅力と現代性」ちくま 372,2002 年。)
(*)(参考 : 坂本つや子「楽園の侵入者 : Oscar Wilde の戯曲と童話に見られる「庭」のイメージ」人文論叢 : 三重大学人文学部文化学科研究紀要 19,2002 年。)
(*)(参考 : 高谷修「ドライデンのウェルギリウス翻訳--その政治性について」英文学評論 74,2002 年。)
(*)(参考 : 小池滋「ジョージ・ギッシング(2002 年度[ディケンズ・フェロウシップ日本支部]春季大会)―(特別企画 ディケンズ批評―古典時代・発展の時代)」ディケンズ・フェロウシップ日本支部年報 25,2002 年。)
(*)(参考 : 松岡光治訳「ジェイコブ・コールグ著 ギッシングの生涯と作品(前後)」言語文化論集 24(1,2),2002 年。)
(*)(参考 : ナイジェル・ニコルソン/市川緑訳『ヴァージニア・ウルフ』ペンギン評伝双書,岩波書店,2002 年。)
(*)(参考 : 林利孝『ヴァージニア・ウルフの小説 : 作者のパーウペクティヴ』あぽろん社,2002 年。)
(*)入江隆則「A 級戦犯の合祀とギリシア悲劇(特集 靖国参拝の何が悪い)」Voice 297,2002 年。
(*)伊藤勲「Nishiwaki Junzaburou and Walter Pater : Crystal and Soul in Style」愛知大学文学論叢 126,2002 年。
(*)新倉俊一「私の古典、私と古典(9)西脇順三郎と古典」學燈 99(12),2002 年。
(*)澤正弘『西脇順三郎のモダニズム :「ギリシア的抒情詩」全篇を読む』双文社出版,2002 年。
(*)大沢正善「澤正宏著『西脇順三郎のモダニズム---「ギリシア的抒情詩」全篇を読む』」言文 50,2002 年。
(*)(参考 : 西尾幹二「江戸のダイナミズム―古代と近代の架け橋(4)「東西文献学」の谷間―なぜ、日本の儒教や仏教は「文献学的意識」が永い間、ほとんど認められなかったのか?」諸君!34(1),2002 年。)
(*)(参考 : 西尾幹二「江戸のダイナミズム―古代と近代の架け橋(5)古代テキスト成立時点の闇―ゲーテ以後の「西洋文献学」は単なる科学主義ではなく、古代への愛が基本にあった」諸君!34(5),2002 年。)

(*)西洋思想受容研究会編『西洋思想の日本的展開：福澤諭吉からジョン・ロールズまで』慶應義塾大学出版会,2002 年。)
(*)(参考：古澤ゆう子「III オイディプースをめぐる悲劇作品と伝説：運命論の展開」ドイツ文學 108 別冊,2002 年。)
(*)(参考：古澤ゆう子『オイディプースをめぐる悲劇作品と伝説：運命論の展開』日本独文学会,日本独文学会研究叢書 12,2002 年。)
(*)(参考：島創平「〈書評〉『ギリシア世界からローマへ―転換の諸相』」ペディラヴィウム 53,2002 年。)
(*)(参考：ハモンド・イネス/伏見威蕃訳『トロイの木馬』ヴィレッジブックス,ソニー・マガジンズ 2002 年。)
(*)(参考：三浦一郎他『戦争・革命で読む世界史：総解説』Multi book,自由国民社,2002 年。)
(*)(参考：中井義明「イオニア反乱の原因」(同志社大学人文学会)人文学 172,2002 年。)
(*)(参考：亀井高孝他編『世界史年表・地図』第 8 版,吉川弘文館,2002 年(→2003 年,第 9 版。→2004 年,第 10 版。→2005 年,第 11 版。→2006 年,第 12 版。→2007 年,第 13 版。→2008 年,第 14 版。→2009 年,第 15 版。→2010 年,第 16 版。→2011 年,第 17 版。→2012 年,第 18 版。→2013 年,第 19 版。→2014 年,第 20 版。→2015 年,第 21 版。→2016 年,第 22 版。→2017 年,第 23 版。→2018 年,第 24 版。→2019 年,第 25 版。→2021 年,第 27 版。)
(*)(参考：波多野忠夫シナリオ・井上大助漫画『アレクサンドロス大王とカエサル：古代ギリャとローマ帝国』全面新版,学習漫画世界の歴史 2,集英社,2002 年。)
(*)(参考：有坂純「ヒュダスペス河の戦い：アレクサンドロス大王 vs.インド戦部隊」歴史群像 11(4),2002 年。)
(*)(参考：佐藤一好「ウィグル族のアレクサンドロス伝説--「伊斯堪迪爾的故事」のイスラム教的性格」日本アジア言語文化研究 9,2002 年。)
(*)(参考：勝沼聡「「アレクサンドリアの虐殺」再考」アジア・アフリカ言語文化 63,2002 年。)
(*)塩野七生「お詫び--『ローマ人の物語(10)すべての道はローマに通ず』を読んでくれた人たちへ」波 36(3),2002 年。)
(*)(参考：塩野七生・歳川隆雄「Special interview 現代の国際社会は「普遍帝国」ローマに今こそ学ぶべきだ」週刊東洋経済 5820,2002 年。)
(*)行本康文「税務と企業経営(145)塩野七生著「ローマは一日にして成らず」を読んで」やまぐち経済月報 327,2002 年。
(*)(参考：久保正彰「国際学士院連合第 75 回総会報告」日本学士院紀要 56(3),2002 年。)
(*)(参考：加藤邦宏『「戦史」の雄弁』リリック叢書,加藤邦宏事務所,2002 年。)
(*)(参考：木村雅彦「トラヤヌス帝の碑文が語る」Typography journal ヴィネット 1,2002 年。)
(*)(参考：倉橋良伸他編『躍動する古代ローマ世界：支配と解放運動をめぐって：土井正興先生追悼論文集』理想社,2002 年。)
(*)(参考：リドリー・スコット監督/ダグラス・ウイック,デイヴィッド・フランゾーニ,フランコ・ラスティン製作,デイヴィッド・フランゾーニ,ジョン・ローガン・ウィリアム・ニコルソン脚本『グラディエーター』ビデオレコード,ソニー・ピクチャーズエンタテイメント,2002 年。)

(*)(参考：ステファン・ウィズダム著/アンガス・マックプライド彩色画/斉藤潤子訳『グラディエイター：古代ローマ剣闘士の世界』オスプレイ戦史シリーズ 1,新紀元社,2002 年。)
(*)(参考：『初期傑作集「古代ローマ剣闘士」』スーザ・マーチ原典大全集 2,Crown,2002 年。)
(*)(参考：梶田知志「彙報 西洋史学専修 末期ローマ帝国における剣闘士闘技廃止原因論」史観 147,2002 年。)
(*)(参考：高山博『歴史学未来へのまなざし：中世シチリアからグローバルヒストリーへ』Historia7,山川出版社,2002 年。)
(*)(参考：古山正人他編訳『西洋古代史料集』第 2 版,東京大学出版会,2002 年。)
(*)(参考：天羽康夫「ロバート・ウォーレスとデイヴィッド・ヒューム—スコットランド啓蒙における古代近代論争」(高知大学経済学会)高知論叢 73,2002 年。)
(*)礪波護「宮崎市定コレクション—西洋刊の地理書と古地図」静脩 38-4,2002 年。
(*)(参考：清水義範『ザ・勝負』(「始皇帝 vs.アレキサンダー大王」「レオナルド vs.ダ・ヴィンチ vs.ミケランジェロ」)講談社,2002 年。)
(*)「文献目録：西洋史 1」史學雜誌 111(1),2002 年。
(*)伊藤正「高橋秀樹著『アルカイック期アテナイと党争：分析のための史料検討を中心として』多賀出版,2001」史學雜誌 111(2),2002 年。
(*)福永美和子「ペーター・シェットラー著/木谷勤・小野清美・芝健介訳『ナチズムと歴史家たち』名古屋大学出版会,2001」史學雜誌 111(2),2002 年。
(*)都甲裕文「G.オストロゴルスキー著/和田廣訳『ビザンツ帝国史』恒文社,2001」史學雜誌 111(3),2002 年。
(*)高畠純夫「仲手川良雄著『テミストクレス：古代ギリシア天才政治家の発想と行動』中公叢書,中央公論新社,2001」史學雜誌 111(3),2002 年。
(*)「史学文献目録：西洋史 2」史學雜誌 111(5),2002 年。
(*)小泉龍人「古代オリエント一(西アジア・北アフリカ,2001 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 111(5),2002 年。
(*)山内和也「古代オリエント(西アジア・北アフリカ,2001 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 111(5),2002 年。
(*)佐藤健太郎「イスラム時代(西アジア・北アフリカ,2001 年の歴史学界：回顧と展望)」
(*)草光俊雄「一般(近代ヨーロッパ,2001 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 111(5),2002 年。
(*)勝田俊輔「イギリス(近代)ヨーロッパ(近代・(2001 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 111(5),2002 年。
(*)篠原琢「ドイツ(近代)ヨーロッパ(近代・(2001 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 111(5),2002 年。
(*)上垣豊「フランス(近代)ヨーロッパ(近代・(2001 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 111(5),2002 年。
(*)藤岡寛己「南欧(近代)ヨーロッパ(近代・(2001 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 111(5),2002 年。
(*)古山夕城「ギリシア(古代)ヨーロッパ(2001 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 111(5),2002 年。

(*)毛利晶「ローマ(古代)ヨーロッパ(2001 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌 111(5),2002 年。
(*)橋本資久「P.カートリッジ著/橋場弦訳『古代ギリシア人 : 自己と他者の肖像』白水社,2001」史學雑誌 111(6),2002 年。
(*)「史学文献目録 : 西洋史 3」史學雑誌 111(9),2002 年。
(*)桜井万里子「仲手川良雄著『古代ギリシアの自由と正義 : 思想・心性のあり方から国制・政治の構造へ』創文社,1998」」史學雑誌 111(10),2002 年。
(*)河原温「A.フルヒュルスト著/森本芳樹・藤元太美子・森貴子訳『中世都市の形成 : 北西ヨーロッパ』岩波書店,2001」史學雑誌 111(10),2002 年。
(*)(参考 : 坂本進「ブルクハルトの歴史観に学ぶ—その時代的危機の認識について」ソシオサイエンス 8,2002 年。)
(*)(参考 : ブルクハルト/柴田治三郎訳『イタリア・ルネサンスの文化』中公クラシックス,中央公論新社,2002 年。)
(*)(参考 : 堀井健一「ギリーズ『古代ギリシアの歴史』におけるクレオンの描き方」長崎大学教育学部社会科学論叢 61,2002 年。)
(*)(参考 : 堀井健一「ミトフォード『ギリシア史』におけるクレオンの描き方」長崎大学教育学部紀要・人文科学 64,2002 年。)
(*)(参考 : 安永信二「アルゴリスにおけるポリス成立をめぐって : 学界動向と今後の展開」九州産業大学国際文化学部紀要 22,2002 年。)
(*)(参考 : 菊地良生『傭兵の二千年史』講談社現代新書,2002 年。)
(*)(参考 : 下間頼一,緒方正則「11 鉄道ゲージの起源はローマ時代のチャリオットの轍 : I.ポンペイ,エルコラノ」公開研究会・講演会技術と社会の関連を巡って : 技術史から経緯栄戦略まで : 講演論文集 2002,2002 年。)
(*)「新・舗装談義(40)インフラ整備と舗装—塩野七生著「ローマ人の物語 X」を読んで」道路建設 653,2002 年。
(*)(参考 : 藤田弘夫「都鄙のユートピア—都市主義と「反」都市主義」慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 55,2002 年。)
(*)(参考 : 伊藤重剛編「ギリシア古代都市メッセネのギムナシオンにおける家型墓の建築的研究 : 中間報告=Architectural studies of the three grave monuments in the gymnasium complex at ancient Mesenne : a preliminary report)」熊本大学大学院自然科学研究科伊藤研究室,2002 年。)
(*)(参考 : 吉武隆一・伊藤重剛・林田義伸・島田啓「地中海古代都の研究(109)メッセネのアスクレピオス神域調査 2001(1)ストア遺構の概要」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 41,2002 年。)
(*)(参考 : 吉武隆一・伊藤重剛・林田義伸・島田啓・富岡大「地中海古代都の研究(110)メッセネのアスクレピオス神域調査 2001(1)ストアの各部寸法」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 41,2002 年。)
(*)(参考 : 千代章一郎「ウィトルウィウス2000年(研究協議会/建築歴史・意匠部門(2),2002年度日本建築学会大会(北陸))」建築雑誌117(1497),2002年。)
(*)(参考 : 藤沢(今井)桜子「トリマルキオの邸宅における「ボルティウス」(Sat.29および72)空間とその機能について」地中海学研究25,2002年。)

(*)(参考：横堀肇「ちょっと覗いた世界の街と人(68)トルコの住宅事情と古代都市エフェソス」市街地再開発391,2002年。)
(*)(参考：北川佳子・入江正之「エドアルド・ペルシコの建築批評にみるイタリア合理主義建築の評価について：イタリア合理主義建築に関する研究(2)」日本建築学会計画系論文集67(562),2002年。)
(*)(参考：武田明純『ギリシア古代都市メッセネの墓群に関する研究』熊本大学,博士(工学),甲第168号,2002年。)
(*)(参考：ロス・キング/田辺希久子訳『天才建築家ブルネレスキ・フィレンツェ・花のドームはいかにして建設されたか』東京書籍,2002年。)
(*)(参考：三浦伸夫「さまざまな比較学(2)比較科学史」比較文明18,2002年。)
(*)豊田和二「紹介 林武監訳・東玲子訳,アーノルド・パーシー『世界文明における技術の千年史』」科学史研究 第[0xF9C2]期 41(222),2002年。
(*)片塩二朗「本木昌造の活字づくり」Typography journalヴィネット4,2002年。
(*)(参考：隅川昌範「ハーブの世界史(1-16)植物機能利用の5000年」(プリニウス)農業および園芸77(1-12),2002年/78(1-4),2003年。)
(*)(参考：柏木利恵子「研究資料 ギリシャ民族舞踊に見るトルコとの関係」比較舞踊学研究8(1),2002年。)
(*)(参考：下間頼一・緒方正則「11 鉄道ゲージの起源はローマ時代のチャリオットの轍：I.ポンペイ・エルコラノ」公開研究会・講演会技術と社会の関連を巡って：技術史から経営戦略まで：講演論文集2002,2002年。)
(*)(参考：真田久研究代表『近代オリンピックの教育的意義に関する研究』真田久,2002年。)
(*)(参考：早川武彦「オリンピックの象徴・概念：citius,altius,fortius」研究年報2002,2002年。)
(*)(参考：藤元復礼「II.古代のギリシャ人とスポーツ研究プロジェクト講演会記録(2.オリンピック憲章と人間学,I 研究論文・報告)」茨城大学生涯学習教育研究センター報告5,2004年。)
(*)(参考：和泉ちえ「プラトン(偽書)『エピノミス』における数学的に世界像」千葉大学人文研究：人文学部紀要31,2002年。)
(*)(参考：アミール・D.アクゼル/青木薫訳『「無限」に魅入られた天才数学者たち』早川書房,2002年(→2015年,ハヤカワ文庫版)。)
(*)吉永良正「中公読書室ブックレビュー『「無限」に魅入られた天才数学者たち』アミール・D.アクゼル 青木薫訳—数学で「頭がよくなる」と思っているうちは呑気なものだ」中央公論117(7),2002年。
(*)志村史夫『こわくない物理学—物質・宇宙・生命』新潮社,平成14年(→平成17年,新潮文庫)。
(*)(参考：小林剛「トマス・アクイナスの「第一の道」における運動について」哲学論集31,2002年。)
(*)(参考：トマス・ムーア/鏡リュウジ・青木聡訳『内なる惑星：ルネサンスの心理占星学』青土社,2002年。)
(*)(参考：トンマーゾ・カンパネッラ/澤井繁男訳『ガリレオの弁明』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2002年。)
(*)(参考：平岡隆二「ルネサンスの世界観—共鳴するコスモスと占星術(特集 ルネサンスの

文化とハーブ)」Aromatopia11(4),2002 年。)
(*)(参考：菊地原洋平「秘密の薬草物語--ルネサンスの「徴」の理論,あるいは本草学と占星術の結び目(特集 ルネサンスの文化とハーブ)」Aromatopia11(4),2002 年。)
(*)(参考：平井浩「ルネサンスの種子の理論—中世哲学と近代科学をつなぐミッシング・リンク」思想 944,2002 年。)
(*)門脇武一「農家と企業がIT生産法人を設立—端野町「イソップアグリシステム」農家の友54(9),2002年。
(*)大平和輝・渥美公子「わが家に環境ISOがやってきた!「イソップ計画」をただいま展開中(34530会)」ISOマネジメント3(2),2002年。
(*)(参考：「海外事情(2)古代文明の記録に見る看護史—“A History of Nursing”より」長寿社会レポート23,2002年。)
(*)(参考：陽川昌範「ハーブの世界史(4)植物機能利用の5000年」農業および園芸77(4),2002 年。)
(*)(参考：梅田悦生「MEDICAL ESSAYS ワインが出てくるシーン(6)ヒポクラテスとワイン」日本医事新報4061,2002年。)
(*)(参考：高橋正雄「MEDICAL ESSAYS 精神医学的にみたギリシャ悲劇(1)『アイアス』と『狂えるヘラクレス』」日本医事新報4090,2002年。)
(*)(参考：高橋正雄「MEDICAL ESSAYS 精神医学的にみたギリシャ悲劇(2)ソフォクレスの『ピロクラテス』」日本医事新報4093,2002年。)
(*)(参考：高橋正雄「MEDICAL ESSAYS 精神医学的にみたギリシャ悲劇(3)エウリピデスの『ヒュポリュトス』」日本医事新報4097,2002年。)
(*)(参考：高橋正雄「MEDICAL ESSAYS 精神医学的にみたギリシャ悲劇(4)『オレステイア』『オレステス』」日本医事新報4100,2002年。)
(*)(参考：高橋正雄「MEDICAL ESSAYS 精神医学的にみたギリシャ悲劇(5)『アガメムノン』と『トロイアの女』」日本医事新報4103,2002年。)
(*)(参考：古川明『医学と薬学のシンボル：アスクレピオスの杖とヒギエイア(ハイジア)の杯』医歯薬出版,2002年。)
(*)(参考:酒井明夫・黒澤美枝・星克仁「「愚かさ」と「狂気」--古代ギリシアにおける μανοια mania について」精神医学史研究 6(1),2002 年。)
(*)(参考：今井正浩「医学から「心身」の科学へ—ヒポクラテス『神聖病論』第 14-17 節の解釈を中心に」(弘前大学人文学部)人文社会論叢,人文科学編 7,2002 年。)
(*)(参考:齋藤博「論考 ヒポクラテスと“ラファエロの「アテネの学堂」について(齋藤,1998)”の補注」埼玉医科大学医学基礎部門紀要9,2002年。)
(*)(参考：福生吉裕「ヒポクラテス・プラス,21世紀の誓い(「第3回21世紀食の健康フォーラム)講演集」日本未病システム学会誌8(1),2002年。)
(*)(参考：向井紀二「ライフサイエンスVol.13より再掲『ヒポクラテスの誓い』への再認識」ライフサイエンス13,2002年。)
(*)(参考：Hadji-Minaglou Francis,前田久仁子「ガレノス製剤による入浴剤—薬用植物と精油を用いて(特集 入浴—検証とアロマテラピーへの応用)」Aromatopia11(5),2002年。)
(*)(参考：坂井建雄「ガレノスとヴェサリウスの解剖学の比較研究(1)：筋系を例にとって」

日本医史学雑誌48(3),2002年。)
(*)(参考：坂井建雄「ガレノスとヴェサリウスの解剖学の比較研究：筋系を例にとって(日本歯科医史学会第30回[平成14年度]学術大会一般演題抄録)」日本歯科医史学会会誌24(4),2002年。)
(*)(参考：ジョン・ダフィー/網野豊訳『アメリカ医学の歴史：ヒポクラテスから医科学へ』二瓶社,2002年。)
(*)(参考：春見静子「カリタスと社会福祉」ソフィア50(2),2002年。)
(*)(参考：伊藤正『ギリシア古代の土地事情』東京大学,博士(文学),乙第15453号,2002年。)
(*)(参考：土居丈朗「童話・にほんけいざい アリとキリギリス(Top Story学んで強くなる第1弾 桜の樹の下で学ぶ経済教室 最新日本経済入門)」週刊東洋経済5752,2002年。)
(*)(参考：塚崎公義・小宮山みのり「童話・にほんけいざい アリとキリギリス(Top Story不思議とわかる「からくりチャート」10枚で読む からくり日本経済入門)」週刊東洋経済5784,2002年。)
(*)(参考：周藤芳幸「ミケーネ社会の経済経済構造—宮殿の内と外([西洋史研究会]2001年度大会共通論題尾報告—古代市民の経済生活)」西洋史研究31,2002年。)
(*)(参考:古川堅治「アテナイ国家財政と公共建築事業—前5世紀を中心に([西洋史研究]2001年度大会共通論題尾報告—古代市民の経済生活)」西洋史研究31,2002年。)
(*)(参考：浦野聡「ローマ帝政期,都市の経済生活—歴史人口学などからの一試論([西洋史研究会]2001年度大会共通論題尾報告—古代市民の経済生活)」西洋史研究31,2002年。)
(*)(参考：「討論([西洋史研究会]2001年度大会共通論題尾報告—古代市民の経済生活)」西洋史研究31,2002年。)
(*)(参考：藤澤明寛「都市財政と被解放自由人([西洋史研究会]2001年度大会共通論題尾報告—古代市民の経済生活)」西洋史研究31,2002年。)
(*)(参考：藤澤明寛『ローマ帝政初期のイタリアにおける富裕市民と都市財政：財源確保とoranmenta decurionaiaの賦与』早稲田大学,博士(文学),乙第1737号,2003年。)
(*)(参考：飯坂晃治「ローマ帝期における都市監督官curator rei publicaeとイタリア都市」史學雑誌111(4),2002年。)
(*)(参考：毛利昌「ローマ共和政ラテウム・カンパーニア地方における宗教と政治の変容」神戸大学2001年,(科研費)2002年。)
(*)(参考：波部雄一郎「フォーラム プトレマイオス王朝とギリシア都市—支配の一側面としての君主崇拝」関学西洋史論集25,2002年。
(*)(参考：西尾浩二「(試訳)プロクロス著『プラトン国家篇註解』：第3論文(20.7-27.6)」古代哲学研究室紀要11,2002年。)
(*)(参考：名和賢美「ギリシア民主政思想研究の新視点—ヘーロドトスの「支配権を真ん中に置く」をもとに」一橋論叢128(2),2002年。)
(*)仲手川良雄「真下英信著『伝クセノポン「アテーナイ人の国制」の研究』慶應義塾大学出版会,2001」史學雑誌111(3),2002年。
(*)(参考：将基面貴巳『反「暴君」の思想史』,平凡社新書,2002年。)
(*)(参考:「国際問題文献紹介:トゥキュヂデス—コンストラクティビズムの創始者?Richard

Ned Lebow,Thucydides the Constructivist」国際問題503,2002年。)
(*)(參考：梶田孝道・小倉充夫編『国民国家はどう変わるか』(大庭千恵子「民族の定義と国際関係--「マケドニア人」をてがかりに」)国際社会3,東京大学出版会,2002年。)
(*)(參考：平田隆一「古代ローマにおける命令権と拒否権—“imperium”の成立過程を中心に」東北学院大学論集 歴史学・地理学35,2002年。)
(*)(參考：塩野七生「小泉首相へのメッセージ ローマ人が成し遂げた「構造改革」」週刊新潮47(1),2002年。)
(*)(參考：石黒盛久「ルネサンス後期の「君主論」と政治プロパンガンダ—ヴァザーリ《コジモ一世の戴冠》を解読する」地中海学研究25,2002年。)
(*)(參考：平石耕「初期グレアム・ウォーラスの社会主義論—アリストテレス解釈との関連を中心として」政治思想研究2,2002年。)
(*)(參考：山口正樹「近代政治学と人文主義の技法—ホッブズとヴィーコにおけるレトリックの問題」早稲田政治公法研究70,2002年。)
(*)(參考：山口昌男「二十世紀における「政治と文学」の神話学(3・完)アルカディアから」新潮99(2),2002年。)
(*)(參考：山口正樹「ヴィーコにおけるコナトゥスと自由(1,2)ホッブズとヴィーコにおける自由意志の問題を中心に」早稲田政治公法研究71,2002年/72,2003年。)
(*)(參考：山口廸彦「母権的ロマン主義の〈法と文学〉論的受容—バハオーフェンと井上哲次郎「孝女白菊詩」作用史(1)」名経法学12, 2002年。)
(*)(參考：山口廸彦「母権的ロマン主義受容史の書籍文化論的受容」比較文化研究21,2002年。)
(*)(參考：山口廸彦「母権的ロマン主義の人間学的受容—人間の二重的世界内存在性をめぐるバハオーフェンとカルフ・テニェース・和辻哲郎」(中京大学社会科学研究所)社会科学研究22(1),2002年。)
(*)(參考：山口廸彦「母権的ロマン主義の少年犯罪論的受容—バハオーフェンと神戸事件少年A」(中京大学社会科学研究所)社会科学研究22(2),2002年。)
(*)(參考：樋野芳雄「人文主義平和論の支柱と構成—エラスムスにおける和合の福音」文明21(9),2002年。)
(*)(參考：志内一興「ローマ支配下ヒスパニアの都市法典—法律の中の都市のイメージ」地中海学研究25,2002年。)
(*)(參考:鈴木里奈「アウグストゥスの婚姻法:罰則規定の解釈をめぐる一考察」クリオ=Clio 16,2002 年。)
(*)(參考：西村重雄『ディオキウレティアーヌス帝勅法における古典期ローマ法の受容と変容』九州大学(1999 年),(科研費)2002 年。)
(*)(參考：毛利晶「イマーギネース・マヨールム考」西洋史研究 31,2002 年。)
(*)(參考：ガーイウス/早稲田大学ローマ法研究会訳『法学提要』敬文堂,2002年。)
(*)(參考：井上正一『ローマ法及びフランス法における債権譲渡：仏語版』復刻版,日本立法資料集・別巻,信山社出版, 2002年。)
(*)(參考：林信夫「近時のローマ法・ローマ史間の交流について—Umberto Laffi,Stidi di storia romane e di diritto(Roma 2001),722pp.+tavoleを紹介しつつ」法史学研究会会報7,2002年。)

(*)(参考：藤野奈津子「Prinpeps legibus solutus—ローマ法源とその解釈の歴史的展開(1)特にフランス絶対主義との関連を中心に」早稲田法学 78(1),2002 年。)
(*)(参考：熊野敏三『ローマ法における海商融資制度；フランスの信用紙幣制度；仏語版』復刻版日本立法資料集全集・別巻,信山社出版,2002 年。)
(*)(参考：原田俊彦『ローマ共和政初期立法史論』敬文堂 ,2002 年。)
(*)(参考:西村重雄『ディオクレティアーヌス帝勅法における古典期ローマ法の受容と変容』九州大学(1999 年),(科研費)2002 年。)
(*)青井秀夫「報告(2)加藤[新平]法哲学文庫の学術的意義(第 31 回シンポジウム全体テーマ 加藤[新平]法哲学の現代的射程)」ノモス 13,2002 年。
(*)青井秀夫「加藤[新平]法哲学文庫の学術的意義」ノモス 13,2002 年。
(*)(参考：大沼保昭編『資料で読み解く国際法(上)』東信堂,2002 年。)
----「『ローマ法大全』の『法学提要』(533 年)」
「トマス・アクイナス『神学大全』(1265-73 年)」
「グロティウス『戦争と平和の法』(1625 年)
「エーゲ海大陸棚事件(管轄権)ICJ 判決」(1978 年)」

(*)(参考：『ミステリアス古代文明への旅(9 巻)』コムストック,日本フローラルアート(発売),2003 年。)
(*)布施泰和『封印された超古代史』「竹内文書」の謎を解,成甲書房,2003 年。
(*)(参考：『超古代世界謎の遺跡・遺物』新人物往来社,別冊歴史読本 37,2003 年。)
(*)工藤雅樹「日本人起源論の史学史(特集 「日本人とは何か」)」日本の科学者 38(9),2003 年。
(*)山下洋「中学歴史どこで何を加味するか,古代までの日本で「世界の古代文明」を取り上げる(特集 年間計画：教科書プラスαのモデル例 31)—(教科書プラスαの年間計画)」社会科教育 40(3),2003 年。
(*)見川舜水『さらば,わが青春のアルカディア』文芸社,2003 年。)
(*)(参考：青柳まちこ編『文化交流学を拓く』世界思想社,2003 年。)
(*)(参考：田中紀夫「エネルギー文明史(1-4)」石油・天然ガスレビュー35(6),2003 年/37(1・2),38(1,2),2004 年。)
(*)(参考：田部俊光「19 世紀アメリカ地理教科書と「世界国尽」」人文地理学大会,研究発表要旨 2003,2003 年。)
(*)(参考：比較法史学会編『法生活と文明史』比較法史研究；思想・制度・社会 11,比較法制研究所,未来社(発売),2003 年。)
(*)南里章二『全世界旅行：民族と歴史,そして冒険』ナカニシヤ出版,2003年。
(*)(参考：大村次郷「地母神への旅」母の友 598,2003 年。)
(*)(参考：佐藤幸男「地中海世界と拡大EUのゆくえ：「ヨーロッパの精神と現実」の史的源流を求めて(高柳先男先生追悼論文集)」法學新報110(3/4),2003年。)
(*)(参考：谷川稔編『歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ』(谷川稔「歴史と歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ：記憶の歴史学から；序論」,庄子大亮「古代ギリシアとヨーロッパ・アイデンティティ：ヨーロッパの源流としてのギリシア像再考」,菜南川高志「古代ローマ帝国と近・現代ヨーロッパの自己理解」,井上浩一「ビザンツ帝国と「ヨーロ

ッパ・アイデンティティ」」)山川出版社,2003年。)
(*)(参考：原聖『「民族起源」の精神史：ブルターニュとフランス近代』世界歴史叢書,岩波書店,2003年(→2015年,岩波オンデマンドブックス,世界歴史選書)。)
(*)(参考：浜名優美「『地中海』を読む(特集 「読む」とは何か)—(聖書・古典を読む)」環14,2003年。)
(*)(参考：椎名恒治『地中海五十年史ところどころ』地中海叢書761,ながらみ書房,2003年。)
(*)(参考：本村凌二「読書案内 古代地中海世界—心と精神をめぐって」歴史と地理564,2003年。)
(*)(参考：周藤芳幸編『ギリシア』世界歴史の旅,山川出版社,2003年。)
(*)(参考：デレク・フラワー/柴田和雄訳『知識の灯台：古代アレクサンドリア図書館の物語』柏書房,2003年。)
(*)(参考：周藤芳幸『ロドス産アンフォオラとヘレニズム時代の東地中海』出版者不明,2003年。)
(*)(参考：前田耕作『アジアの原像：歴史はヘロドトスとともに』NHKブックス,日本放送出版協会,2003年。)
(*)(参考：J.M.ロバーツ/月森左知訳・桜井万里子監修『古代ギリシアとアジアの文明』世界の歴史・図説2,創元社,2003年。)
(*)(参考：J.M.ロバーツ/月森左知訳・後藤明監修『ビザンツ帝国とイスラーム文明』世界の歴史・図説4,創元社,2003年。)
(*)(参考：イマニュエル・ウォーラステイン他/尾河直哉訳・浜名優美監修『入門・ブローデル』藤原書店,2003年。)
(*)樋脇博敏「浅香正監修『ローマと地中海世界の展開』晃洋書房,2002」史學雑誌112(6),2003年。
(*)榊原康文「スティーブン・ランシマン著/榊原勝・藤原房俊訳『シチリアの晩鐘—十三世紀後半地中海世界の歴史』太陽出版,2002」史學雑誌112(9),2003年。
(*)石川九楊「羅馬の花・美毛佐の花—河東碧梧桐の書について」文字(創刊準備2),2003年。
(*)大矢雅彦「地中海の船旅(1)ナポリからシシリー島まで」地図ニュース368,370,2003年。
(*)(参考：横堀肇「ちょっと覗いた世界の街と人(8)イギリスの貴族の間で流行った,仏伊への修学旅行グランド・ツアー」市街地再開発401,2003年。)
(*)長場弦「イスタンブル：現代に息吹く郷愁(13)イスタンブル侵略史—ビザンチウムからイスタンブルへ」アナトリアニュース107,2003年。
(*)「イスタンブール エーゲ海・ボスポラス海峡クルーズ」豪華客船世界一周の旅ぱしふいっくびいなす日本発104日間クルーズ9,カラーステレオワイド,テイチクエンタテイメント,ファミリー音楽産業,2003年。
(*)樽本信浩・全国海外女子教育国際理解教育研究協議会監修『ヤーサス!エーゲ海：アテネ日本人学校の子どもたち』国際理解教育選書シリーズ,創友社,2003年。)
(*)安岡襄「ぶらり海外旅行ア・アラ・カルト ヨーロッパ漫遊編 (5-12)」会計検査資料448-455,2003年。
(*)岡野裕子『ギリシアつれづれ旅』文芸社,2003年。
(*)高樹のぶ子他著『エクスタシイ：大人の恋の物語』(阿木燿子「エーゲ海のやうに」)ベストセラーズ,2003年。

(*)『エーゲ海の旅：中西繁作品集』一枚の繪,2003年。
(*)『ギリシア・エーゲ海』ワールドガイド・ヨーロッパ15，JTB,2003年。
(*)村松雪絵写真・文『エーゲ海の猫：happy cats paradise』講談社,2003年。
(*)『ギリシア：エーゲ海』個人旅行,昭文社,2003年。
(*)『サントリーニ島・ミコノス島・クレタ島 エーゲ海クルーズ2』ビデオディスク,ファミリー音楽産業,テイチクエンターテイメント,2003年。
(*)今公三著撮影『これぞ世界遺産BEST99：世界157カ国,世界遺産480カ所を歩いた今公三が厳選：旅のプロが実際に見て,撮って,書き下ろした』地球の歩き方：旅のラーブラリー,ダイヤモンド・ビッグ社,2003年。
(*)『イタリア』地球の歩き方ポケット17,ダイモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2003年。
(*)『ロンドン/パリ/ローマ』地球の歩き方ポケット 17,ダイモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2003 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2003-04年。
(*)地球の歩き方編集室編『ローマ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2003-04年。
(*)地球の歩き方編集室編『南イタリアとマルタ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2003-04 年。
(*)地球の歩き方編集室編『フィレンツェとトスカーナ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2003-04 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ギリシアとエーゲ海の島々&キプロス』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2003-04 年。
(*)(参考：ジェニファー・テイラー/翔野祐梨訳『エーゲ海に魅せられて』ハーレクイン・イマージュ,ハーレクイン,2003年。)
(*)澁澤幸子「エーゲ海の島々にトルコの足跡を訪ねる(1)アイワルクからレスヴォス島とヒオス島へ」アナトリアニュース108，2003年。)
(*)澁澤幸子「エーゲ海の島々にトルコの足跡を訪ねる(2)ヒオス島とサモス島とコス島へ」アナトリアニュース109，2003年。)
(*)澁澤幸子「キプロス島今昔」青淵654,2003年。
(*)「おおぞらをとぶ」(「エーゲ海に船出して」「ペガサス精霊の冠」)交響曲「ドラゴンクエスト」コンプリートCD-BOX、録音ディスク,SMEビジュアルワークス,2003年。
(*)(参考：スネークマンショー『死ぬのは嫌だ,恐い。戦争反対!』（「エーゲ海の真珠」）録音ディスク,Sony Music House,2003年。)
(*)森谷公俊「エッセイ旅行記—アレクサンドロス大王の遠征路をたどる」帝京史学 18,2003年。
(*)Marcus Bensmann「アレキサンダー大王が駆けぬけた中央アジア—野望のままに突き進んだ大遠征の足跡を辿る」ニュートン23(15),2003年。
(*)(参考:『デルフィ遺跡;アテネのアクロポリス』世界遺産;ギリシア編,TBS・DVD,TBS(発売),アニブレックス(販売),2003年。)
(*)(参考：樋口隆康『アフガニスタン：遺跡と秘宝・文明の十字路の五千年』日本放送出版

協会,2003年。)
(*)藤原道夫『私のイタリア紀行：美術・オペラ・医学』考古堂書店,2003年。
(*)(參考：藤原かすみ文・写真「世界の日常食(29)イタリア 地中海に浮かぶ美食の島シチリア」栄養と料理69(5),2003年。)
(*)(參考：横堀肇「ちょっと覗いた世界の街と人(78)イギリスの貴族たちの間で流行った。仏伊への修学旅行グランド・ツアー」市街地再開発401,2003年。)
(*)(參考：ゲーテ/高木久雄訳・登張正實(他)編集『紀行』ゲーテ全集11-12,潮出版,新装普及版,2003年。)
(*)(參考：マルティン・ハイデッガー/三木正之,アルフレード・グッツオーニ訳『ヘルダーリンに寄せて：附・ギリシア紀行』創文社, ハイデッガー全集75,2003年。)
(*)(參考：中村好文/芸術新潮編集部編『イタリアの歓び：美の巡礼』(北部編,中部編)新潮社,とんぼの本,2003年。)
(*)(參考：酒井健「絵画と思想(最終回)サイ・トゥオンブリー—地中海と軽さの美学」大航海47,2003年。)
(*)(參考：奥田宏子『チョーサー 中世イタリアへの旅』御茶の水書房,2003年。)
(*)(參考：白石嘉治「神話,色彩,アルカディア—セズネック『神々は死なず』末尾によせて」上智大学仏語・仏文学論集38,2003年。)
(*)(參考：林正則「アンタイオス、ゲーテとメタモルフォーゼする「風景」：W.ブッシュの『イタリア紀行』をめぐって」大阪大学大学院文学研究科紀要 43,2003年。)
(*)(參考：臼田紘「『ローマ散歩』のテクストをめぐって(論文要旨)」跡見学園女子大学短期大学部紀要39,2003年。)
(*)『イタリア美術と音楽の旅：ヴェニス・フィレンツェ・ローマほか』アートデイズ制作,ビデオレコード,2003年。
(*)(參考：坂本豪士「古代地中海世界のイルカ」金大考古41,2003年。)
(*)もちづき みつこ「杢太郎の南イタリア紀行」静岡近代文学18,2003年。
(*)山本亮介「横光利一『旅愁』試論：病を否定するということ」日本文学52(12),2003年。
(*)森まゆみ「寺暮らし(86)「即興詩人」の忘れ残り」みすず45(6),2003年。
(*)森まゆみ『「即興詩人」のイタリア』講談社,2003年(→2011年.ちくま文庫版)。)
(*)澤井繁男「カンパネッラの旅—ヴェネト地方での一年余(上中下)」春秋451,453,2003年/455,2004年。
(*)(參考：四位誠光「アトランティス伝説について」地中海歴史風土研究誌17,2003年。)
(*)(參考：浅野栄市「旅雑記(9)続オリンピア」地中海歴史風土研究誌18,2003年。)
(*)(參考：ベーコン/川西進訳『ニュー・アトランティス』岩波文庫,岩波書店,2003年。)
(*)渡辺早苗著・渡辺眞幸写真『耳を澄ませば異界の声』(ポンペイ)叢文社,2003年。
(*)(參考：坂上友梨作・坂上直美画『ポンペイ秘密の地下王国』南方新社,2003年。)
(*)(參考：メアリー・ポープ・オズボーン/食野雅子訳『ポンペイ最後の日』メディアファクトリー,マジック・ツリーハウス7,2003年。)
(*)紅山雪夫『ヨーロッパものしり紀行』新潮社,2003年。
(*)紅山雪夫『ギリシアの遺跡と島々』トラベルジャーナル,2003年。
(*)庄司邦昭「東地中海の海事遺蹟調査」Navigayion：日本航海学会誌156,2003年。

(*)(参考：遠藤庫央・中西裕一・大内宏友「9184 古代ギリシア都市アテネのアゴラにおける画像相関による復元的考察 : B.C.300,B.C.150,A.D.100 の画像解析を用いたアゴラ形成プロセスについて(意匠論・形態,建築歴史・意匠)」学術講演梗概集,F-2, 建築歴史・意匠 2003,2003 年。)
(*)(参考：岡田泰介「古典期アルカディアにおける家畜取引：テゲア出土碑文 IG.V.23 の分析を中心に」西洋古典學研究 51,2003 年。)
(*)(参考：見川舜水『さらば,わが青春のアルカディア』文芸社,2003 年。)
(*)(参考 : 関隆志「古代アッティカ陶芸に関する一考察」宝塚造形芸術大学紀要 16,2003 年。)
(*)(参考：平山東子『紀元前 6 世紀前半のアッティカ黒像式陶器の展開：陶画家クレイティアスを中心として』東京大学,博士(文学),甲第 18526 号,2003 年。)
(*)(参考：疋田康隆「〈論説〉古代ガリア社会におけるケルトの伝統：ガロ=ローマ文化の形成」史林 86(4),20013 年。)
(*)(参考：浅野和生『イスタンブールの大聖堂：モザイク画が語るビザンティン帝国』中公新書,中央公論社,2003年。)
(*)橋川裕之「〈紹介〉浅野和生著『イスタンブールの大聖堂：モザイク画が語るビザンティン帝国』」史林86(4),2003年。
(*)(参考：長場弦「イスタンブル：現代に息吹く郷愁(13)イスタンブル略史—ビザンティウムからイスタンブルへ」アナトリアニュース107,2003年。)
(*)東園基政「第2回トルコ共和国古代遺跡巡りの旅」に参加して)」アナトリアニュース108,2003年。
(*)(参考 : 増山栄太郎「東トルコ紀行 ノア伝説とクルドの土地」世界週報 84(29),2003 年。)
(*)(参考 : 大月康弘「ギリシャ正教徒にとってのコンスタンチノープル」アジア遊学49,2003年。)
(*)(参考：もりいずみ「人物科学史 エーゲ海の島に眠る宮殿を発掘し、ミノア文明を発見した—アーサー・エバンズ」ニュートン23(6),2003年。)
(*)(参考：林正剛「アンタイオス・ゲーテとメタフォルモーゼする「風景」：W.ブッシュの『イタリア紀行』論をめぐって」大阪大学大学院文学研究科研究紀要43,2003年。)
(*)(参考：栩木伸明「「多島海」の隠喩が語ること—デレク・ウォルコットと英語圏現代詩(特集 英語作家たち)」英語青年149(9),2003年。)
(*)(参考：篠田知和基「ネルヴァルと地中海世界」広島国際研究9,2003年。)
(*)(参考：水津真美「宮殿出現前夜のクレタ島」古代史年報1,2003年。)
(*)(参考：芳賀京子・伊藤拓真・栗田英法他訳「原典資料紹介 パレルゴンに関する言説—プリニウスからデリダまで(特集 パレルゴン : 美術における付随的なもの)」西洋美術研究 9,2003 年。)
(*)A cura di Piero Corradini“Atti del convegno internationale《cinquicento anni rapporti culturali tra Italia e Giappone》：Sendai-Kawasaki-Tokio 6-9 novembre 2001”国際シンポジウム日伊文化交流の 500 年報告書 : 仙台・川崎・東京 2001/1/6-9,Dimensione Stampa,2003.
(*)(参考：ゴーチェ/小柳保義訳『変化：フランス幻想小説』(ポンペイ)文元社,紀伊國屋書店(発売)、教養ワイドコレクション 59,2003 年。)
(*)(参考：篠田知和基「地中海文化としてのフランス・ルネサンス—ロンサールにおける死

と再生の神話」広島国際研究 10,2003 年。)
(*)(參考：青柳正規「アウグストゥスの別荘(コラム 歴史の風)」史學雑誌 112(9),2003 年。)
(*)(參考：青柳正規「古代ローマ初期の別荘：ナポリ近郊ソンマ・ヴェスヴィアーナの発掘調査から(遺跡漫遊・第 7 回)」建築雑誌 118(1499),2003 年。)
(*)(參考：塚本昌則「ぐるめノート(61)ハドリアヌス帝の食事」世界週報 84(11),2003 年。)
(*)(參考：塩野七生「インタビュー 塩野七生—日本人よ,古代ローマを見習え!」青春と読書 38(1),2003 年。)
(*)(參考：塩野七生「新春ロングインタビュー 衰退の萌芽は繁栄のなかに隠されていた 塩野七生—ローマ,日本そしてアメリカへ」現代 37(2),2003 年。)
(*)(參考：塩野七生「塩野七生(作家）--リーダー必読『ローマ人の物語』(新春特別企画 失わなかった十年—輝き続ける 30 人)」文藝春秋 81(2),2003 年。)
(*)(參考：坂上友梨作/坂上直美画『ポンペイに光の地下王国』(ポンペイ)南方新社,2003 年。)
(*)(參考：河島英昭「イタリア・ユダヤの風景(27)古代の丘と港町」図書 653,2003 年。)
(*)(參考：池上俊一『イタリア』世界の食文化15,農山漁村文化協会,2003年。)
(*)(參考：鳥越輝昭『ヴェネツィア詩文繚乱：文学者を魅了した都市』三和書籍,2003年。)
(*)(參考：マーク・レーナー/林陽訳『古代エジプトの遺産』中央アート出版社,完全改訳新版,エドガー・ケイシー文庫 7,2003 年。)
(*)(參考：千葉茂美「ギリシア精神の光芒—memolabilia」明治学院論叢 691,2003 年。)
(*)(參考：J.J.ポリット/中村るい訳『ギリシャ美術史：芸術と経験』ブリュッケ,星雲社(発売),2003 年。)
(*)(參考：篠塚千恵子「エリー・フォールの『古代美術』誕生—妻に宛てたギリシア・イタリア便り」地中海研究所紀要 1,2003 年。)
(*)(參考：「地中海研究所活動報告」地中海研究所紀要 1,2003 年。)
(*)(參考：Stephan Steingraber「Arthropomorphiserung der Kunst,Ahnenkult und bildliche Darstellungen von Ahnen in etruskischen und unteritaliaischen Grabgemalden aus vorromischer Zeit(Anthoropomorphization of Art,Ancestor Cult and Representation of Ancestors in Pre-roman Tomb Paintings of Etruria and Southern Italy)」地中海研究所紀要 1,2003 年。)
(*)(參考：引地正俊「地中海アザラシとギリシャ人」地中海研究所紀要 1,2003 年。)
(*)(參考：益田朋幸「ゲミレル島遺跡(トルコ,リキア地方)と周辺のビザンティン銘文」地中海研究所紀要 1,2003 年。)
(*)中谷功治「ゲミレル島遺跡の構造について：東地中海の初期キリスト教遺跡調査から」人文論究 53(1),2003 年。
(*)(參考:勝又俊雄「メッセネのヘレニズム時代の墓廟 1 の新発見の彫刻遺物の解釈と年代」女子美術大学研究紀要 33,2003 年。)
(*)(參考：ウィリアム・ライアン,ウォルター・ピットマン/戸田裕之訳『ノアの洪水』集英社,2003 年。)
(*)(參考：芳賀京子・伊藤拓真・栗田英法他訳「原典資料紹介 パレルゴンに関する言説—プリニウスからデリダまで(特集 パレルゴン：美術における付随的なもの)」西洋美術研究 9,2003 年。)
(*)(參考：クリストファー・ウッドワード/森夏樹訳『廃墟論』青土社,2003 年。)

(*)(参考：北田葉子『近世フィレンツェの政治と文化—コジモ 1 世の文化政策(1537-60)』刀水書房,2003 年。)
(*)(参考 : 北田葉子「16 世紀フィレンツェの宮廷 : 宮廷の形成と新エリート層の誕生(第 327 回例会報告 2003 年 4 月 19 日)」比較都市史研究 22(1),2003 年。)
(*)(参考：北田葉子「アカデミア・フィオレンティーナの規約(1547 年) : 16 世紀イタリアのアカデミアの考察のために」文芸と思想 67,2003 年。)
(*)(参考：水野千依「死と蘇生の〈物神(フェティッシュ)〉—サンタ・マリア・デッレ・グラーツエ聖堂奉納像(特集 〈生と死〉と美術)—(西洋美術における〈生と死〉の表象)」美術フォーラム 21,2003 年。)
(*)「なごやの芸術案内エジプト・ギリシャ・ローマ古代地中海時代の美術—名古屋ボストン美術館」中部経済界 40(2),2003 年。)
(*)岩崎正弥「新・市中の山居(47)京都ギリシアローマ美術館の茶室」茶道雑誌67(10),2003 年。
(*)(参考 : Tsuji Shigebumi「Franz Wickhoff a la fin du siecle」大手前大学人文科学部論集 4,2003 年。)
(*)(参考：辻原康夫『服飾の歴史をたどる世界地図：現代のスタイルになった,意外なルーツと変遷とは?』河出書房新社,KAWADE夢新書,2003年。)
(*)(参考：Di Albert Mauro,古川上子「外国人承知 文明の発祥地：古代ローマ帝国と地中海—セプティミウス・セウェルス帝(在位193-211)と息子たち,そして妻 : ローマとレプティス・マグナの間のイメージとセウェルス朝のプロパガンダ(「美術に関する国際交流援助」研究報告2003年度援助)」鹿島美術財団年報21,2003年。)
(*)(参考：小川砌他『世界像・人間像の変遷』彩流社,千葉大学人文科学叢書 2,2003 年。)
(*)(参考：谷川稔編『歴史としてのヨーロッパ・アンデンティティ』山川出版社,2003 年。)
(*)(参考：安田喜憲・小林道憲『対論 文明のこころを問う』麗澤大学出版部,廣池学園事業部(発売),2003 年。)
(*)(参考：吉澤五郎・染谷臣道編『文明間の対話に向けて：共生の比較文明学』世界思想社,2003 年。)
(*)(参考：大川勇「教養の「没落」：ムージルの「シュペングラー・エッセイ」の余白」ドイツ文學研究48,2003年。)
(*)(参考：浅田實「「A.J.トインビーの人生」から学ぶ(1,2,3)」創価大学人文論集15,2003年/16,2004 年/17,2005 年。)
(*)(参考：吉澤五郎「トインビーの文明史学—価値解釈の変更として」宗教と文化 22,2003 年。)
(*)(参考：服部英二『文明間の対話』麗澤大学出版会,広池学園事業部(発売),2003 年。)
(*)(参考：工藤庸子『ヨーロッパ文明批判序説：植民地・共和国・オリエンタリズム』東京大学出版会,2003 年(→2017 年,増補新訂版。))
(*)(参考：紀平英作編『連鎖する地域と文化』京都大学学術出版会,グローバル時代の人文学：対話と寛容の知を求めて：京都大学文学部創立百周年記念論集[上],2003年。)
(*)(参考：小島孝之・小松親次郎編『異文化理解の視座：世界からみた日本,日本からみた世界』東京大学出版会,2003年。)

(*)(参考：高山博[講師]『文明共存の道を求めて：地中海世界から現代をみる』日本放送出版会,NHK人間講座,2003年。)
(*)(参考 : 高山博『「知」とグローバル化 : 中世ヨーロッパから見た現代世界』勁草書房,2003年。)
(*)(参考：大月康弘「歴史の中の私たち：現代の古層・中世の革新・多層の現在」一橋論叢129(4)、2003年。)
(*)本村凌二「読書案内 古代地中海世界—心と精神をめぐって」歴史と地理504,2003年。
(*)(参考：竹内均編『パイオニアとなった挑戦者たち：シャンポリオン/モース/リンドバーグ/張騫』竹内均・知と感銘の世界,ニュートンプレス,2003年。)
(*)田中彰『岩倉使節団の歴史的研究』岩波書店,2003年。
(*)芳賀徹編『岩倉使節団の比較文化史的研究』思文閣出版,2003年。
(*)田中彰『明治維新と西洋文明』岩波新書,2003年。
(*)(参考：中野さやか「ディミトリ・グダス著/山本啓二訳『ギリシア思想とアラビア文化—初期アッバース朝の翻訳運動』勁草書房,2002 年。」史學雑誌112(7),2003 年。)
(*)(参考：三浦伸夫「ディミトリ・グダス『ギリシア思想とアラビア文化』」化学史研究30(3),2003年。)
(*)(参考 : ヴァーノン・ハイド・マイナー/北原惠他訳『美術史の歴史』ブリュッケ,星雲社(発売),2003年。)
(*)大岡淳「辺境のモダニズム(3)ギリシア悲劇とは何だったのか」文学研究論集,文学・史学・地理学20,2003年。
(*)(参考：マージョリ・ケイギル/朝日新聞翻訳センター訳『大英博物館の 250 年』朝日新聞社,2003 年。)
(*)森谷公俊「エッセイ旅行記—アレクサンドロス大王の遠征路をたどる」帝京史学 18,2003年。)
(*)Bensmann Marcus「アレキサンダー大王が駆けぬけた中央アジア—野望のままに突き進んだ大遠征の足跡をたどる旅」ニュートン 23(15),2003 年。
(*)ならシルクロード博記念国際交流財団編『シルクロードを翔(かけ)る：アレクサンドロス大王 : その夢と実像,そしてヘレニズム文化の東漸 : シルクロード・奈良国際シンポジウム』ならシルクロード博記念国際交流財団,2003 年。)
(*)(参考：藪内芳彦・橋本征治松本博之他訳「H.F.トーザ『古代地理学史』(抄訳)：序論,アレクサンドロス大王の東方遠征」關西大學文學論集 53(2),2003 年。)
(*)「歴山大王見参癸未歳葉月上野山—アレクサンドロス大王がやって来る 2003 年八月上野公園東京国立博物館,東京美術館」古代オリエント(?),2003 年。
(*)東京国立博物館,NHK,NHK プロモーション編集『アレクサンドロス大王と東西文明の交流展=Alxander the Great：East-West cultural conntracts from Greece to Japan』NHK：NHK プロモーション,2003 年。)
(*)『アレクサンドロス大王と東西文明：ヨーロッパの文化遺産』(著作権処理済)ビデオレコード,紀伊國屋書店(発売),2003 年。)
(*)『ギリシャの輝き』アレクサンドロス大王と東西文明 1,ビデオレコード,オルタスジャパン,2003 年。)
(*)『ヘレニズムの風』アレクサンドロス大王と東西文明 2,ビデオレコード,オルタスジャパ

ン,2003 年。)
(*)『神々のはるかな旅』アレクサンドロス大王と東西文明 3,ビデオレコード,オルタスジャパン,2003 年。)
(*)NHK スペシャル「文明の道」プロジェクト制作『アレクサンドロス大王 : ペルシャ帝国への挑戦』NHK スペシャル「文明の道」1,ビデオレコード,NHK ソフトウェア,2003 年。
(*)NHK スペシャル「文明の道」プロジェクト制作『アレクサンドロス大王 : ペルシャ帝国への挑戦』NHK スペシャル「文明の道」1,ビデオレコード,NHK ソフトウェア,2003 年。
(*)NHK スペシャル「文明の道」プロジェクト制作『アレクサンドロスの遺産 : 最果てのギリシャ都市』NHK スペシャル「文明の道」2,ビデオレコード,NHK ソフトウェア,2003 年。
(*)NHK スペシャル「文明の道」プロジェクト制作『ガンダーラ : 仏教飛翔の地』NHK スペシャル「文明の道」=Eurasian Empires 3,NHK ソフトウェア,2003 年。
(*)安彦良和,NHK スペシャル「文明の道」プロジェクト著『アレクサンドロス : 世界帝国への夢』,NHK スペシャル「文明の道」1,日本放送出版協会,2003 年。
(*)(参考 : デレク・フラワー/柴田和雄訳『知識の灯台 : 古代アレクサンドリア図書館の物語』柏書房,2003 年。)
(*)(参考 : 戸田敬「書評と紹介 フランク・リー・ホルト『霧のゼウス―ヘレニズム・バクトリアの形成 ヘレニズムの文化と社会 32』」山形大学歴史・地理・人類学論集 4,2003 年。)
(*)(参考 : R.C.フォルツ/常塚聴訳『シルクロードの宗教 : 古代から15世紀までの通商と文化交流』教文館,2003年。)
(*)(参考 : 塚田孝雄「シルクロード東西の食文化―古代地中海世界の交易と奈良(古代奈良の食文化とシルクロード―奈良とシルクロードの語り部たち2002)―(「シルクロードの馳走」解説[特別配布資料])」シルクロード学研究叢書8,2003年。)
(*)(参考 : 塚田孝雄「古代ローマの食卓(古代奈良の食文化とシルクロード―奈良とシルクロードの語り部たち2002)― (「シルクロードの馳走」解説[特別配布資料])」シルクロード学研究叢書8,2003年。)
(*)(参考 : 四方田犬彦「あの人のボナペティ(18)アキビウス古代ローマの饗宴」芸術新潮 54(7),2003年。)
(*)(参考 : 太田外氣晴「建築と酒と古代史(17)シルクロードの旅」建築の研究 157,2003 年。)
(*)(参考 : [editorial and production coorporation by International Cultural Exchange Symposium 2002Commitee]“The culture of Afganistan : internationa cultural exchange and Buddist culture : United Nations Year for Cultural Heritage : International Cultural Exchange Symposium 2002,final report”, International Cultural Exchange Symposium 2002Commitee,2003.)
(*)(参考 : 国際文化交流シンポジウム2002実施委員会編『アフガニスタンの文化 : 東西文化交流遺産年記念 : 国際文化交流シンポジウム2002報告書』国際文化交流シンポジウム 2002 実施委員会,2003 年。)
(*)文化財保存修復学会編『世界に活かす日本の技術』(ガンダーラ)文化財の保存と修復 5,

クバプロ,2003 年。
(*)(参考：シルクロード研究所・朝日新聞社図録編集『ブッダの生涯とガンダーラをめぐる人々：平山郁夫コレクション=Gandahara Buddhist sclupture and the people of the Silk Road：Hirayama Ikuo collection 』朝日新聞社,2003 年。)
(*)(参考:栗田功編『佛伝』改訂増補版古代仏教美術叢刊 1,ガンダーラ美術,二玄社,2003 年。)
(*)(参考：栗田功編『佛陀の世界』改訂増補版,古代仏教美術叢刊 2,ガンダーラ美術,二玄社,2003 年。)
(*)(参考：マキン・ハーン述/小西正捷訳『ガンダーラと奈良における大乗美術の比較』立教大学アジア地域研究所ワーキング・ペーパー・シリーズ 9,立教大学アジア地域研究所,2003 年。)
(*)『世界の文化遺跡』平山郁夫自作を語る,私が歩んだ道,ニッポン放送,2003 年。
(*)小針代助編『平山郁夫信念の道程：東西文化交流の旅路 40 周年記念：ヨーロッパ初留学から現在へ』アート・ポップ臨時増刊号,芸術新聞社,2003 年。)
(*)鈴木廣之「和辻哲郎『古寺巡礼』--偏在する「美」」美術研究 379,2003 年。
(*)花森重行「歴史地理学という場の崩壊―柳田国男・高木敏雄の久米邦武批判から見えるもの([日本思想史研究会会報]20 号記念共同研究 近代史学史の再検討)」日本思想史研究会会報 20,2003 年。
(*)大矢雅彦「地中海の船旅(1)ナポリからシシリー島まで」地図ニュース 368,2003 年。
(*)大矢雅彦「地中海の船旅(2)チュニスからモナコまで」地図ニュース 370,2003 年。
(*)(参考:長岡正利「随想 地図史展観--「地図の歴史」初回として」地図ジャーナル 140,2003 年。)
(*)松山利夫「地図と「地図」--国立民族学博物館所蔵の地図資料(特集 国・公立博物館所蔵の地図)」地図情報 22(4),2003 年。
(*)佐々木利和「東京国立博物館が所蔵する地図(特集 国・公立博物館所蔵の地図)」地図情報 22(4),2003 年。
(*)(参考：田部俊充「19 世紀アメリカ地理教科書と「世界国尽」」人文地理学大会,研究発表要旨 2003,2003 年。)
(*)(参考：上原和「歴史遺産の略奪 現代文明の危機―イラク 7000 年の文化遺産は訴える」世界 716,2003 年。)
(*)(参考：疋田隆康「古代ガリア社会におけるケルトの伝統―ガロ=ローマ文化の形成」史林 86(4),2003 年。)
(*)(参考：芳賀京子「共和政期のローマにおけるギリシア人彫刻家とローマ人注文主」地中海学研究 26,2003 年。)
(*)松本道介研究代表『日独文学・文化交流史に関する総合的研究(本編・資料編)』松本道介,2003 年。)
(*)長谷川勉『日独文化交流の研究序説』日本大学法学部叢書 18,冨山房インターナショナル,2003 年。)
(*)(参考：三浦圭三『日本文学辞典』日本図書センター,文芸資料事典 2：3-4 巻,2003 年。
(*)(参考：辻原康夫編『世界地名情報辞典』東京書籍,2003 年。)
(*)(参考：Ian Ridpath 編『オックスフォード天文学辞典』朝倉書店,2003 年。)
(*)(参考：高木隆司他編『かたちの事典』丸善,2003 年。)

(*)(参考：チャールズ・ハーヴェイ,スージー・ハーヴェイ/鏡リュウジ監訳『月と太陽でわかる性格事典』ソニーマガジンズ,2003 年。)
(*)(参考:松田清「ドゥーフ・ハルマに見る日欧文化交流(特集 日本文化の境界と交通—2001年国際シンポジウムの記録)—(第1セッション異文化交流の諸相)」立教大学日本学研究所年報2,2003年。)
(*)(参考：菊池徹夫『文字の考古学』同成社,2003年。)
(*)(参考：吉成薫「ヒエログラフへの誘い」図書648,2003年。)
(*)(参考：マーティン・セイモア=スミス/BEC,別宮貞徳訳『世界を変えた100冊の本』共同通信社,2003年。)
----『イリアス』『オデュッセイア』(ホメロス)/『戦史』(トゥキュディデス)/『著作集』(ヒポクラテス)/『著作集』(アリストテレス)
(*)(参考：内山勝利「「ステファヌス版」以前以後--『プラトン著作集』の伝承史から」静脩 40(2),2003 年。)
(*)(参考:山野上礼子「資料保存 プラトン全集 Platonis Opera 1578 Stephanus tom I,II,III 修理と修復の経験」静脩 40(2),2003 年。)
(*)(参考：Joseph Johnson“Facing Plato’s Problem in Linguistics：Philosophical issuues of Chomsky’s thought”筑波大学,博士(文学),乙第 1931 号,2003 年。)
(*)(参考：児玉茂昭『ギリシア語ς語幹中世名詞の歴史的研究』京都大学,博士(文学),甲第 9887 号,2003 年。)
(*)(参考：安達一美「英語語彙における二重語の意味の差異化(1,2,3)ギリシャ語起源」Mukogawa Literary Review39,2003 年/40,2004 年/41,2005 年。)
(*)(参考：ベニントン Jr.ランダル・O「The Subjective Mood：An Apparent Misfit In English Grammer」久留米大学外国語教育研究紀要 10,2003 年。)
(*)(参考：沖田瑞穂「印欧語族の豊饒神に共通する諸特徴について」学習院大学人文科学論集 12,2003 年。)
(*)(参考：渡邊浩史「「道化の華」の一つの引用、ダンテの『神曲』「地獄の門」銘文に関する翻訳の問題点」佛教大學大學院紀要 31、2003 年。)
(*)(参考:杉田弘子「ニーチェの文体と言語哲学—ローマ的文体への陶酔と言語不信」武蔵大学人文学会雑誌 34(3),2003 年。)
(*)(参考：小野茂『フィロロジーのすすめ』南雲堂,2003 年。)
(*)小川浩「新刊紹介 小野茂著『フィロロジーのすすめ』」学苑 756,2003 年。
(*)(参考：『聖書：新共同訳：聖地写真入り』福音社,2003 年。)
(*)(参考：織田昭『新約聖書のギリシア語文法(1-3)』教友社,2003 年。)
(*)(参考:竹島俊之「古典ギリシャ語の形容詞の収斂語順と展開的語順について」プロピレア 15,2003 年。)
(*)(参考：荒木英世『CD エクスプレス古典ギリシア語』白水社,2003 年。)
(*)(参考:シャルル・ギロー著/有田潤訳『ギリシア文法』改訳新版,文庫クセジュ,白水社,2003年。)
(*)(参考：秦剛平訳『七十人訳ギリシア語聖書 申命記』河出書房新社,2003 年。)
(*)(参考：秦剛平訳『七十人訳ギリシア語聖書 民数記』河出書房新社,2003 年。)
(*)(参考：秦剛平訳『七十人訳ギリシア語聖書 レビ記』河出書房新社,2003 年。)
(*)(参考：秦剛平訳『七十人訳ギリシア語聖書 出エジプト記』河出書房新社,2003 年。)

(*)(参考：デレク・フラワー/柴田和雄訳『知識の灯台：古代アレクサンドリア図書館の物語』柏書房,2003 年。)
(*)中野さやか「ディミトリ・グダス著/山本啓二訳『ギリシア思想とアラビア文化—初期アッバース朝の翻訳運動』勁草書房,2002」史學雑誌 112(7),2003 年。
(*)丹下栄「ピエール・リシェ著/岩村清太訳『ヨーロッパ成立期の学校教育と教養』知泉書院,2002」史學雑誌 112(9),20203 年。
(*)(参考：村井則夫「起源と歴史—フンボルトにおける媒体としての言語」思想 949,2003 年。)
(*)(参考：平田隆一「ギリシア・ローマのレトリック—語順との関係を中心に(学内研究フォーラム「レトリックと修辞学批評」)」東北学院大学キリスト教文化研究所紀要 21,2003 年。)
(*)(参考：吉田和彦「比較言語学の愉しみ(1)ホメーロスのテキストから」(大修館書店)言語 32(7),2003 年。)
(*)(参考：久保正彰「ヤコブス・ホイエル(Jacobus Goyer,1651-1689)とホメロス研究」日本學士院紀要 57(3),2003 年//61(2),2007 年。)
(*)鞍岡和人編『山本宣治収集フランス語文献:資料目録(『山本宣治資料館』)』鞍岡和人,2003 年。)
(*)竹田篤司「下村寅太郎蔵書について—その生涯と蔵書,目録の紹介」時計台 72,2003 年。
(*)法政大学図書館編『法政大学図書館所蔵・池田美恵文庫目録』法政大学図書館,2003 年。
(*)韮沢賢一「創立者にみる,若き日々に読書：創価大学中央図書館「池田文庫」渉猟」創価教育研究 2,2003 年。
(*)池田裕「青春の日々に—バリンプセストは語る」(青山学院大学基督教学会)基督教論集 47,2003 年。
(*)柳父章『翻訳語の論理：言語にみる日本文化の構造』法政大学出版局,2003 年。
(*)田村道美「日本におけるジェイン・オースティン書誌：翻訳・翻案書目(1-4)」」香川大学教育学部研究報告,第 1 部 120,,2003 年/121,2004 年/127,2007 年/130,2008 年。
(*)(参考：岩波文庫編集部編『読書のすすめ：読者が選んだ「私の好きな岩波文庫 100」』岩波文庫,特別版,岩波書店,2003 年。)
(*)榊原貴教編『西洋文学移入史集成：目録：マイクロフィルム版』ナダ出版センター,2003 年。
(*)(参考：谷口勇「百年間にわたるわが国の翻訳文体変遷史：ボッカチョ『デカメロン』の場合」立正大学文学部紀要 118,2003 年。)
(*)(参考：三ツ木道夫「翻訳と歴史(4)：フリードリッヒ・ニーチェの翻訳論断章」言語文化 5(3),2003年。)
(*)(参考：落合俊郎「「トロイの木馬」としてのLD・ADHD問題：学校支援の実践から(通常の学級において特別な教育的ニーズのある児童生徒への支援)(準備委員会企画シンピジウム2)」教育心理学年報42,2003年。)
(*)岡野哲士「ディオニュソスに憧れるアポロ俊英の徒,湯田豊さん(湯田豊・伊藤喜栄教授退職記念号)」(神奈川大学人文会)人文研究148,2003年。
(*)(参考：地中海学会編『地中海の暦と祭り』刀水書房,2003年。)
(*)亀長洋子「地中海学会編『地中海の暦と祭り』刀水書房,2002」史學雑誌 112 (5),2003

年。
(*)ペーター・ルートウム「柳田国男の「一国民俗学」誕生に関する一考察 : ハインリッヒ・ハイネ著「流謫の神々」の思想的な影響」民俗学研究所紀要27,2003年。
(*)戸部健「狭間直樹編『共同研究 梁啓超 : 西洋近代思想受容と明治日本』みすず書房,2003」史學雑誌112(4),2003年。
(*)西村眞次『日本の神話と宗教思想 ; 神話学概論』神話学明知選集[第1期]3,ゆまに書房,2003年。)
(*)(參考：松村武雄『神話學論考』神話学名著選集[第 1 期][培風館 昭和 4 年刊行の複製]ゆまに書房,2003年。)
(*)(參考：松村武雄『宗教及び神話と環境(1,2)』神話学名著選集[第 1 期][培風館 昭和 19 年刊行の複製]ゆまに書房,2003 年。)
(*)(參考：鈴木佳秀編『神話・伝説の成立とその展開の比較研究』高志書院,2003年。)
(*)(參考：渡邉秀司「聖と俗について：宗教経験,民俗信仰から」(エリアーデ)佛教大學大學院紀要 31,2003 年。)
(*)(參考：土井裕人「エリアーデとプラトニズム—宗教的シンボル論の構造を手がかりに」宗教学・比較思想学論集 6,2003 年。)
(*)(參考：島崎暉久『ゲーテの宗教観』大阪大学,博士(文学),乙第8712号,2003年。)
(*)(參考：A.O.ラヴジョイ/鈴木信雄他訳『観念の歴史』名古屋大学出版会,2003 年。)
(*)(參考：里中満智子『オリュンポスの神々』マンガ・ギリシア神話 1,中公文庫,中央公論新社,2003 年。)
(*)(參考：里中満智子『アポロンの哀しみ』マンガ・ギリシア神話 2,中公文庫,中央公論新社,2003 年。)
(*)(參考：桑原俊一「古代メソポタミア文学における冥界：古代ギリシア・ローマの冥界観を視座に」北海学園大学人文論集 23・24,2003 年。)
(*)(參考：波部雄一郎「〈論文〉プトレマイオス 2 世による祭典行列の年代について：エジプトにおけるディオニュソスの技芸人を中心に」關学西洋史論集 26,2003 年。)
(*)Oguz Baykara「『アフロディテ』の誕生を祭る—谷崎の『少年』におけるシンボリズムを中心に」言語と交流 6,2003 年。
(*)(參考：宮澤麻理「有翼馬の表現にみられる文化交流」金沢考古 41,2003 年。)
(*)(參考 : レナル・ソレル/脇本由佳訳『オルフェウス教』文庫クセジュ 863,白水社,2003 年。)
(*)(參考：藤崎康「核時代の使徒パウロ—J.G.バラード『ヴィーナスの狩人』を読む」慶應義塾大学日吉紀要・フランス語フランス文学 36,2003 年。)
(*)(參考：Baykara Oguz「『アフロディテ』の誕生を祭る—谷崎の『少年』におけるシンボリズムを中心に」言語と交流 6,2003 年。)
(*)(參考：アビ・ヴァリヴルク/富松保文訳『サンドロ・ボッティチェルリの《ウェヌの誕生》と《春》：イタリア初期ルネサンスにおける古代表象のに関する研究』ヴァールブルク著作集 1,ありな書房,2003 年。)
(*)(參考：越川倫明「旧松方コレクションの作者不詳《ウェヌスとクピド》—アレッサンドロ・マッツォーラ・ベードリーへのアロリビューション」国立西洋美術館研究紀要 7,2003 年。)

(*)(参考：百瀬春生「ローマ神話の軍神「マルス」の素顔—火星に生命は存在するか?」地中海歴史風土研究誌 18,2003 年。)
(*)(参考：水谷智洋「エッセイ アイネイアースのトロイア逃亡図と『パーレー氏萬國史』」プロピレア 15,2003 年。)
(*)(参考：渡辺美樹「「エロスとプシケー」から「美女と野獣」へ」児童文学論叢 8,2003 年。)
(*)(参考：堀江聡「『アリストテレスの神学』から古代末期の始原論への遡源」中世思想研究 45,2003 年。)
(*)(参考：NHK「文明の道」プロジェクト他編『ヘレニズムと仏教』NHK スペシャル,文明の道 2,日本放送出版協会,2003 年。)
(*)井尻千男「BOOK STREET ベストセラー最前線 塩野七生『ローマ人の物語(11)』--真性の多神教徒」Voice303,2003 年。
(*)(参考：キース・ホプキンス/小堀馨子・中西恭子・本村凌二訳『神々にあふれる世界：古代ローマ宗教史探訪(上下)』岩波書店,2003 年。)
(*)(参考：小川英雄『ローマ帝国の神々--光はオリエントから』中公新書,2003 年。)
(*)(参考：百瀬春生「ローマ神話の軍神「マルス」の素顔—火星に生命は存在するか?」地中海歴史風土研究誌 18,2003 年。)
(*)(参考：土岐健司『はじめての死海写本』講談社現代新書,2003年。)
(*)(参考：池田裕「オリエント史の中のイスラエル(特集 旧約聖書の世界—律法,契約,預言,智恵・・・)」言語32(12),2003年。)
(*)(参考：菊谷忠治「「民族宗教から世界宗教へ」その条件」地中海歴史風土研究誌17,2003年。)
(*)(参考：瀧口美香「ビザンティン福音書写本に描かれるキリスト伝サイクルについて」地中海学研究26,2003年。)
(*)(参考：シゲ・ナカガワ『切絵で読む聖書物語』美研インターナショナル,星雲社(発売),2003年.)
(*)(参考：大貫隆『イエスという経験』岩波書店,2003 年(→2014 年,岩波現代文庫版)。)
(*)(参考：松本宣郎「古代地中海都市の衰退とキリスト教」西洋史研究(32)(59),2003 年。)
(*)(参考：毛利晶『ローマ共和政期ラティウム・カンパーニア地方における宗教と政治の研究』神戸大学 2001 年,(科研費)2003 年。)
(*)(参考：保坂高殿『ローマ帝政初期のユダヤ・キリスト教迫害』教文館,2003 年(→2006年,2版。)
(*)(参考：ルー・ウォレス/辻本庸子・武田貴子訳『ベン・ハー：キリストの物語』アメリカ古典大衆小説コレクション1,松柏社,2003年。)
(*)(参考：フレッド・ニプロ監督/ケイリー・ウィルソン,ベス・メレディス脚本『ベン・ハー』アイ・ヴィー・シー(発売),ビデオレコード,2003年。)
(*)(参考：杉田弘子「古代ローマとキリスト教—アンチクリスト,ニーチェから見て」武蔵大学人文学会雑誌 34(3),2003 年。)
(*)(参考：長嶋昭「巻頭口絵 キリストの香る街ぶらりぶらり(19)ヴァレッタ(マルタ)地中海文明,聖パウロ,そして心優しき勇者たち」福音と社会 42(6),2003 年。)
(*)(参考：上村忠男他編『歴史の解体と再生』岩波書店,歴史を問う6,2003年。)
(*)(参考：宮本久雄・大貫隆『一神教文明からの問いかけ：東大駒場連続講義』講談社,2003

年。)
(*)(参考：G.タイセン/大貫隆訳『新約聖書：歴史・文学・宗教』教文館,2003年)。
(*)(参考：大貫隆・山内眞監修『総説新約聖書』新版,日本キリスト教団出版局, 2003年。
(*)山内昌之「歴史的思考ということ—二冊の『聖書時代史』を読んで」図書655,2003年。
(*)(参考：土戸清『なぜキリスト教か：規範なき時代のキリスト教』教文館,2003年)。
(*)(参考：土戸清『ヨハネの世界：福音書・手紙・黙示録の歴史と神学思想』日本聖書協会,聖書セミナー11,2003年。)
(*)(参考：ウォルター・ワンゲリン/仲村明子訳『小説「聖書」：使徒行伝(上下)』徳間文庫,徳間書店,2003年。)
(*)(参考：安土礼(アンドレ・V.タニヤアナン)夫津木昇訳『聖ペテロの後継者たち：教皇の逝去と新しい教皇の選出』サンパウロ,2003年。)
(*)(参考：S.F.ブラウン,K.H.アナトリオス/森夏樹訳『カトリック』シリーズ世界の宗教,青土社,2003年。)
(*)(参考：鬼塚五十一『聖母マリアの奇跡：世界中に出現する「キリストの母」からの預言メッセージ』Mu super mystery books,学習研究社,2003年。)
(*)(参考：宮田光雄「エクレシアとシナゴーグ」図書650,2003年。)
(*)(参考：松本宣郎「古代地中海都市の衰退とキリスト教」西洋史研究32,2003年。)
(*)(参考：福屋利信「The Great Gatsbyにおける聖母マリア崇敬」英文学論集12,2003年。)
(*)(参考：秋山学「ギリシア教父と般若思想—東方典礼とアレキサンドリアのクレメンスを手がかりに」文芸言語研究,文芸篇44,2003年。)
(*)(参考：N.P.タナー/野谷啓二訳『教会会議の歴史：ニカイア会議から第2バチカン会議まで』教文館,2003年。)
(*)(参考：田中芳明「紹介 Yitzhak Hen/Matthew Innes(eds.)The Uses of the Past in the Early Middle Ages」西洋史研究32,2003年。)
(*)(参考：豊田浩志編『キリスト教修道制—周縁性と社会性の狭間で』SUP上智大学出版会,ぎょうせい(発売)2003年。)
(*)(参考：西川杉子『ヴァルドの谷へ—近代ヨーロッパを生きぬいた異端者たち』山川出版社,2003年。)
(*)(参考：安土礼[アンドレ・V.タニヤアナン]/夫津木昇訳『聖ペトロの後継者たち：教皇の逝去と新しい教皇の選出』サンパウロ,2003年。)
(*)(参考：S.F.ブラウン,Kh.アナトリオス/森夏樹訳『カトリック』シリーズ世界の宗教,青土社,2003年。)
(*)森一弘企画監修『日本の教会の宣教の光と影：キリシタン時代からの宣教の歴史を振り返る』真生会館シリーズ,サンパウロ,2003年。)
(*)(参考：長命俊子『文学(リズム)の精神分析とパラノイア—フロイド,ラカン,芭蕉,世阿弥,ダニエル(ダンテ)』レーベル出版,2003年。)
(*)(参考：藤本武・鈴木和博・根建心具・寺島滋・M.D.RYAZANTSEVA・A.A.VRUBLEVSKY・A.I.KHANCHUK「マルティン・ゲルベルト著『シュヴァルツヴァルトの歴史(Historia Nigrae Silvae)』に示された自然と人間への三つの視点」(エラスムス)新潟清陵大学紀要3,2003年。)
(*)(参考：木ノ脇悦郎「エラスムスの『校訂版新約聖書』第二版について」時計台72,2003年。)

(*)(参考：木ノ脇悦郎「〈研究報告〉エラスムスのDe capitandis sacerdotis(1522)について」関西学院大学キリスト教と文化研究4,2003年。)
(*)(参考：井上政己「歴史的コンテクストにおけるエラスムス『自由意志論』」キリストと世界：東京基督教大学紀要13,2003年。)
(*)(参考：國府田武「『アウグスティヌス全集』の出版と実証神学—エラスムスからジャンセニウスへ」東海史学38,2003年。)
(*)(参考：土居裕人「エリアーデとプラトニズム—宗教的シンボル論の構造を手がかりに」宗教学・比較思想学論集6,2003年。)
(*)(参考：青地伯水「アイヒの「神学」における魔術的全一世界：ネオ・プラトニズムの影響下にある『ザベト』の考察」ドイツ文学110,2003年。)
(*)野村正雄「『高野長英全集』に載る「蘭文兵学」二編及び「蘭文星学」の原典解明と邦訳調査」日蘭学会会誌28(1),2003年。
(*)竹内洋『教養主義の没落—変わりゆくエリート学生文化』中公新書,中央公論社,2003年。
(*)(参考：小川劭他『世界像・人間像の変遷』千葉大学人文科学叢書2,彩流社,2003年。)
(*)(参考:茂牧人「事実的生を支える神思想」(プラトン,アウグスティヌス等)人文2,2003年。)
(*)高橋英夫「ギリシア--「青春」の思索」(竹山道雄)図書 8 月号,2003 年。
(*)高橋英夫「運命の三つの相」(竹山道雄)図書 9 月号,2003 年。
(*)久保正彰「西洋古典学に再び目覚めて」創文 450,2003 年。
(*)(参考：新井靖一「酒中に真あり(In vino veritas)—ブルーノ・スネル『精神の発見』によせて(特集 知の源流へ)」創文 457,2003 年。)
(*)新村出翻字・堀田善久現代語訳・上中万五郎挿絵『現代語で読む天草本伊曽保物語 : 1593年天草コレジョ版』堀田善久,2003 年。
(*)遠藤潤一「『サントスの御作業』と『黄金伝説』(8)」跡見学園女子大学人文学フォーラム 1,2003 年。
(*)加藤諦三『イソップ物語のおしえ：賢くスッキリ生きる知恵』大和書房,2003 年。
(*)岩男久仁子「<博士論文の要旨および論文審査結果の要旨>G 本と天草本ならびに古活字本との比較を中心とするイソップ伝研究」(桃山学院大学大学院文学研究科博士論文)国際文化論集 28,2003 年。
(*)佐藤一好「『点石斎画報』「火鼠焚居」について—事件の教訓性と『イソップ寓話』との類似性」学大国文 46,2003 年。
(*)府川源一郎「ウサギとカメの教育文化史—教科書の中のイソップ寓話」神奈川県教育文化研究所報 13,2003 年。
(*)前田淑『百合若説話の世界』弦書房,2003 年。
(*)服部幸造「英雄の語り物—幸若舞曲「百合若大臣」を中心に」国文学 解釈と教材の研究 48(11),2003 年。
(*)渡辺保「遠くて近松物語(15)ユリシーズ—百合若大臣野守鏡」新潮 100(8),2003 年。
(*)福田晃「伝承文学の方法—甲賀三郎物語を歩く」国文学論輯 24,2003 年。
(*)川村博忠『近世日本の世界像』ぺりかん社,2003 年。
(*)大沢正善「〈書評〉澤正弘著『西脇順三郎のモダニズム：「ギリシア的抒情詩」全篇を読む』」言文 50,2003 年。
(*)金本宜保「中学校の国語教科書：「走れメロス」「富嶽三十六景」の授業」中等教育研究紀要 43,2003 年。

(*)李在錫「文字言語と映像言語のナラティヴ試論：太宰治『走れメロス』とアミメーション『走れメロス』(比較社会文化学府創立 10 周年記念号)」比較社会文化研究 14,2003 年。
(*)作間慎一「文学作品の具体的な理解—試練,危機,再生の物語としての『走れメロス』を読む」論叢：玉川大学教育学部紀要(2003)2,2003 年。
(*)川谷茂樹「「走れメロス」とカントの定言命法—道徳の存在への問い」倫理学年報 52,2003 年。
(*)金本宜保「中学校の国語教育：小説「走れメロス」「富嶽百景」の授業(第 2 部 教材研究)」中等教育研究紀要 43,2003 年。
(*)上坂信男『太虚へ—辻邦生歴史小説の世界』右文書院,平成 15 年。
(*)大木至「稀書巡礼(11)『羅馬史論』『馬哈獣傳』林董訳—五稜郭戦士のマホメット論」出版ニュース 1959,2003 年。
(*)(参考：岡崎勝世『世界史とヨーロッパ—ヘロドトスからウォーラステインまで』講談社現代新書,2003 年。)
(*)(参考：高田康成研究代表『英文学における「中世」と「ルネサンス」の時代区分に関する表象文化論的考察』高田康成,2003 年。)
(*)中務哲郎『饗宴のはじまり：西洋古典の世界から』(「西洋古典学の風景」)岩波書店,2003 年。
(*)京都大学文学部編『知のたのしみ学のよろこび』(内山勝利「問うことの力：知のあり方をめぐる断章」エリザベス・クレイク「西洋古典学?どうして」)岩波書店,2003 年。
(*)(参考：川島重成研究代表/川島重成・高田康成編『ムーサよ、語れ：古代ギリシア文学への招待』三陸書房,2003 年。)
(*)(参考：辻成史編/武田恒夫・安倍安人・松谷武利著『伝統：その創出と転生』新曜社,2003 年。)
(*)(参考：逸身喜一郎『古代ギリシャ・ローマ研究の方法』多分野交流演習論文集,東京大学大学院人文社会系研究科,2003 年。)
(*)「眞方忠道教授業績一覧(眞方教授退官記念号)」愛知 φιλοσοφια16,2003 年。
(*)加来彰俊「田之頭安彦君の追想と回想」西洋古典研究会論集 12,2003 年。
(*)並木浩一「神田秀一教授と岡野昌雄教授への感謝(含・業績)」人文科学研究 34,2003 年。
(*)中務哲郎編集『論集「伝承と変容(世界)」「古典学の再構築」総括班 科学研究費補助金(特定領域研究(A)研究成果報告書 118.「古典学の再構築」研究成果報告集,2003 年。
(*)(参考：川島重成「土曜自由大学ホメーロスの叙事詩『イーリアス』について」清泉文苑 20,2003 年。)
(*)(参考：安永信二「ホメロスの船団目録とその時代：メッセニアとアルゴリスからの考察」九州産業大学国際文化学部紀要 25,2003 年。)
(*)(参考：吉原ゆかり「一六・一七世紀イングランドの蒐集文化—ジョン・トラデスカント(父)[ホメロス]」(筑波大学文藝・言語学系)文芸言語研究,文芸篇 44,2003 年。)
(*)(参考：田中利光訳「ホメロス「イリアス」第三歌」北星学園大学文学部北星論集 40,2003 年。)

(*)(参考：コルートス,トリビオドーロス/松田治訳『ヘレネー誘拐,トロイア落城』講談社学術文庫,講談社,2003 年。)
(*)(参考：曽田長人「フリードリヒ・アウグスト・ヴォルフの『ホメロスへの序論』と同時代のドイツ文学」(世界文学会)世界文学 97,2003 年。)
(*)(参考：安西眞『ピンダロス研究』北大図書刊行会,2003 年。)
(*)江澤美月「家父長制批判の試み--『ロモラ』におけるオイディプス物語とアンティゴネー物語」人間文化研究年報 27,2003 年。)
(*)(参考：ソフォクレス/山形治江訳『エレクトラ』劇書房,構想社(発売),2003 年。)
(*)川島重成「アンティゴネの死再考：吉武純夫「カロス・タナトス,アンティゴネの目指したもの」をめぐって」大妻比較文化 : 大妻女子大学比較文化学講座紀要 4,2003 年。
(*)(参考：中尾光延「変身の譜,転生の夢：オウィディウスからカフカまで」人間文化研究科年報 19,2003 年。)
(*)内山勝利「古典の挑発力：「西洋古典学」から「ギリシア・ローマ学」へ(シンポジウム「西洋古典学の課題」)西洋古典學研究 51,2003 年。
(*)(参考：桜井万里子「史料としての古典文献」(シンポジウム「西洋古典学の課題」)西洋古典學研究 51,2003 年。)
(*)安西眞「古典的に読むということ(同上)西洋古典學研究 51,2003 年。
(*)(参考：ブルケルト・ヴァルター/葛西康徳訳「ヨーハン・ヤーコプ・ババオーフェン,カール・モイリとスイスの古典学」(同上)西洋古典學研究 51,2003 年。)
(*)西村賀子「西洋古典学の過去・現在・未来」(?)平成 10 年度~14 年度文部科学省科学研究費補助金特定領域研究(A)118「古典学の再構築」研究成果報告書 I「論集 古典学の再構築」,「古典学の再構築」総括班,2003 年。
(*)逸身喜一郎「活動の報告----日本学術会議研究連絡委員会から----西洋古典学の課題：西洋古典学研究連絡委員会から」学術の動向 8(5),2003 年。
(*)(参考:加藤信朗「研究動向 第 11 回国際中世哲学会(於ポルト)報告」中世思想研究 45,2003 年。)
(*)(参考：芝井敬司『近現代西洋史学史の研究』(学位論文) 芝井敬司,2003 年。
(*)大木至「稀書巡礼(11)『羅馬史論』『馬哈默傳 并付錄』林董訳—五稜郭戦士のマホメット論」出版ニュース 1959,2003 年。
(*)(参考：ヤーコプ・.ブルクハルト著/新井靖一訳『コンスタンティヌス大帝の時代：衰微する古典世界からキリスト教中世へ』筑摩書房,2003 年。)
(*)(参考：長谷川岳男「ギリシア「古典期」の創造—ローマ帝政期におけるギリシア人の歴史意識」西洋史研究 32(59),2003 年。)
(*)(参考：田部俊充「19 世紀アメリカ地理教科書と「世界国尽」」人文地理学会大会 研究発表要旨 2003,2003 年。)
(*)中村滋「大学開放の視点(2)公開講座「ギリシア・ローマ世界における他者」を終えて---東京商船大学における公開講座の実践の記録」社会教育 58(1),2003 年。
(*)(参考：森博嗣『虚空の逆マトリクス』(「トロイの木馬」)講談社ノベルズ,講談社,2003 年。)
(*)(参考：コルートス,トリピロードス/松田治訳『ヘレネー誘拐,トロイア落城』講談社学術

文庫,講談社,2003 年。)
(*)(参考：グイド・デッレ・コロンネ/岡三郎訳・解説『トロイア滅亡史』トロイア叢書 2,国文社,2003 年。)
(*)(参考：間瀬幸江「ジャン・ジロドゥ『トロイ戦争は起こらない』試論—1935 年の初演関連資料から」早稲田大学大学院文学研究科紀要,第 3 分冊 49,2003 年。)
(*)(参考：桜川洋子「ヘレニズム所感」地中海歴史風土研究誌 18,2003 年。)
(*)(参考：波部雄一郎「プトレマイオス 2 世による祭典行列の年代について—エジプトにおけるディオニュソスの技芸人を中心に」関学西洋史論集 26,2003 年。)
(*)(参考：田口孝典「ピュロス地域におけるミュケナイ期のトロス墓—エパノエングリアノス周辺の三トロス墓を中心に」関学西洋史論集 26,2003 年。)
(*)(参考：飯坂晃治「ローマ帝政前期イタリアにおける地方裁判官(iurdicus)と都市」関学西洋史論集 26,2003 年。)
(*)(参考：砂田徹「都市トリブスとローマ市民団の周縁：解放奴隷・役者・非嫡出子」(北海道大学文学部西洋史研究室)西洋史論集 26,2003 年。)
(*)(参考：長谷川岳男「ギリシア「古典期」の創造—ローマ帝政期におけるギリシア人の歴史認識」西洋史研究 32,2003 年。)
(*)(参考：小河浩「アケメネス朝ペルシアと前四世紀東地中海世界におけるギリシア人傭兵の活動」史学研究 242,2003 年。)
(*)(参考：合阪學「アンティゴノス・ゴナタスとその時代」宝塚造形芸術大学紀要 16,2003 年。)
(*)(参考：比佐篤『過渡期としての中期共和政ローマ：「都市国家」から「世界帝国」へ』北里大学,博士(文学),甲第 109 号,2003 年。)
(*)(参考：藤井悠子『ガアスに描かれたローマ世界：ローマ社会からキリスト教社会へ』上智大学,博士(史学),甲第 229 号,2003 年。)
(*)(参考：嶋田誠「〈講演〉ローマ共和政史研究の新動向と帝政成立」学習院史学41,2003 年。)
(*)(参考：ポール・ルメルル/西村六郎訳『ビザンツ帝国史』文庫クセジュ 870,白水社,2003 年。)
(*)(参考：クルティウス・ルフス/谷栄一郎・上村健二訳『アレクサンドロス大王伝』西洋古典叢書,京都大学学術出版会,2003 年。)
(*)(参考：ピエール・ブリアン/田村孝訳『アレクサンドロス大王』文庫クセジュ 859,白水社,2003 年。)
(*)(参考：山中由里子「アラブ・ペルシア文学におけるアレクサンドロス大王の神聖化」国立民族博物館研究報告 27(3),2003 年。)
(*)(参考:合阪學「アレクサンドロス大王以後(前 323-281 年)」宝塚造形芸術大学紀要 17,2003 年。)
(*)(参考：佐藤俊之「アレクサンドロスを苦しめた鉄壁の海上都市テュロス攻城戦」歴史群像 12(6),2003 年。)
(*)(参考：大沼由布「「太陽の樹と月の樹」の変遷--『アレクサンダー大王のアリストテレスへの手紙』と『マンデヴィルの旅行記』を中心に」(慶應義塾大学芸文学会)芸文研究 85,2003 年。)

(*)(参考：山中由里子「アラビアンナイトとオートマタ」民博通信 100,2003 年。)
(*)(参考：岡崎勝世『世界史とヨーロッパ：ヘロドトスからウォーラステインまで』講談社現代新書,講談社,2003 年。)
(*)(参考：佐藤賢一「剣闘士スパルタクス(1-12)」中央公論 118(1-12),2003 年。)
(*)古山正人「日本におけるスパルタ史研究---戦後の研究と現状」國學院大学紀要 41,2003 年。
(*)(参考：馬場典明「1 世紀末・2 世紀初のイタリア=ウィラに於ける奴隷制と小作制—プリーニウス(小)『書簡』の検討」別府大学大学院紀要 5,2003 年。)
(*)(参考：塚本昌則「ぐるめノート(61)ハドリアヌス帝の食事」世界週報 84(11),2003 年。)
(*)(参考：ブルクハルト/新井靖一訳『コンスタンティヌス大帝の時代：衰微する古典世界からキリスト教中世へ』筑摩書房,2003 年。)
(*)(参考：比佐篤『過渡期としての中期共和政ローマ：「都市国家」から「世界帝国」へ』関西大学,博士(文学),甲第 109 号,2003 年。)
(*)(参考：大清水裕「3 世紀における帝国統治階層の変容：近衛長官のコンスル就任にみる身分再定義の試み」クリオ=Clio 17,2003 年。)
(*)(参考：成川岳大「汎ヨーロッパ的文脈よりみたクヌース聖王の教会政策：ローマとの関係を中心に」クリオ=Clio 17,2003 年。
(*)(参考：浅香正「創刊の辞—属州研究への道—non fuit in solo Roma peracta die」古代史年報 1,2003 年。)
(*)桜井万里子・佐藤昇「インタヴュー：桜井万里子教授に訊く」クリオ=Clio 17,2003 年。
(*)(参考：草生久嗣「シカゴ大学歴史学科とアメリカのビザンツ学：留学記(2001.9-2003.3)」クリオ=Clio 17,2003 年。)
(*)(参考：小澤実「北欧中世史研究の道具箱《研究入門》」クリオ=Clio 17,2003 年。)
(*)(参考:菊谷忠治「オスマン帝国を通して「歴史」を考える」地中海歴史風土研究誌 18,2003 年。)
(*)(参考：ポール・ルメルル/西村六郎訳『ビザンツ帝国史』文庫クセジュ 870,白水社,2003 年。)
(*)(参考：ポール・ジョンソン/富山芳子訳『ナポレオン』ペンギン評伝双書,岩波書店,2003 年。)
(*)(参考：藤本ひとみ『皇帝ナポレオン(上下)』角川書店,2003 年(→2006 年,角川文庫版。)
(*)(参考:佐藤彰一「コラム 歴史の風 ヨーロッパに国立歴史研究所を」史學雑誌 112(1),2003 年。)
(*)「文献目録：西洋史 1」史學雑誌 112(1),2003 年。
(*)「史学文献目録：西洋史 2」史學雑誌 112(5),2003 年。
(*)紺谷亮一「古代オリエント(西アジア・北アフリカ,2002 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 112(5),2003 年。
(*)堀井優「イスラム時代(西アジア・北アフリカ,2002 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 112(5),2003 年。
(*)山田勝彦「西欧中世(2002 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 112(5),2003 年。
(*)宮崎揚弘「一般(近代ヨーロッパ, 2002 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 112(5),2003 年。
(*)坂下史「ヨーロッパ(近代イギリス, 2002 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雑誌 112(5),2003

年。
(*)藤田苑子「ヨーロッパ(近代フランス, 2002 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌 112(5), 2003 年。
(*)西山暁美「ヨーロッパ(近代ドイツ, 2002 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌 112(5), 2003 年。
(*)宮崎和夫「ヨーロッパ(近代南欧, 2002 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌 112(5), 2003 年。
(*)伊藤貞夫「ギリシア(古代)ヨーロッパ(2002 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌 112(5),2003 年。
(*)井上秀太郎「ローマ(古代)ヨーロッパ(2002 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌 112 (5),2003 年。
(*)志内一興「倉橋良伸・栗田伸子・田村孝・米山宏史編『躍動するこだローマ世界—支配と解放運動をめぐって』理想社,2002」史學雑誌 112 (7),2003 年。
(*)「史学文献目録 : 西洋史 3」史學雑誌 112(9),2003 年。
(*)(参考 : 森谷公俊「ゴルディオンの結び目とミダスの園 : アレクサンドロス神話の形成とその背景(研究発表)(西洋史部会)」史學雑誌 112 (12),2003 年。
(*)(參考 : 歴史学研究会編『多元的世界の展開』青木書店,地中海世界史 2,2003 年。)
(*)(參考 : 山代宏道編『危機をめぐる歴史学 : 西洋史の事例研究』刀水書房,2003 年。)
(*)森谷公俊「講座 2002 年度前期授業の実践報告」帝京史学 18,2003 年。
(*)藤元直樹「師範学校第一期生渋江保 : 「既往の夢(羽化懐旧談)」の再評価に向けて」文化資源学 2,2003 年。
(*)(參考 : 佐藤真一「フーターの近代史学史把握について」(国立音楽大学)研究紀要 38,2003 年。)
(*)(參考 : 水谷智洋「エッセイ アイネイアースのトロイア逃亡図と『パーレー氏萬國史』」プロピレア 15,2003 年。)
(*)(參考 : 安西真『ピンダロス研究 : 詩人と祝勝歌の話者』北海道大学,博士(文学),乙第 6044 号,2003 年。)
(*)(參考 : 内田次信『呼びかけるドラマ : アリストパネスとギリシア劇』京都大学,博士(文学),乙第 11322 号,2003 年。)
(*)(參考 : 根岸宗一郎『周作人とギリシア文学』東京大学,博士(文学),甲第 18530 号,2003 年。)
(*)(參考 : 柏木隆雄他『エクリチュールの冒険 : 新編・フランス文学史』大阪大学出版会,2003 年。)
(*)(參考 : 中尾光延「変身の譜,転生の夢 : オウィディウスからカフカまで」人間文化研究科年報 19,2003 年。)
(*)(參考 : ピエール・ルイス/沓掛良彦訳『ビリティスの歌』水声社,2003 年。)
(*)(參考 : 沓掛良彦『エロスの司祭 : 評伝ピエール・ルイス』水声社,2003 年。)
(*)沓掛良彦・吉野晴夫「今月のひと 沓掛良彦」すばる 25(4),2003 年。
(*)青柳いずみこ「書評掛良彦『エロスの司祭 : 評伝ピエール・ルイス』--忘れられた天才の姿（味読・愛読・文學会図書室）」文學界 57(6),2003 年。
(*)(參考 : 杉本圭子「大聖堂の高みへ : 『イタリア絵画史』の一挿話から『赤と黒』に至る青年像の変遷」フランス語フランス文学研究 83,2003 年。)
(*)(參考 : 河野敦子「「アストレの神殿」に託された理念」フランス語フランス文学研究

83,2003 年。)
(*)(参考：奥村真理子「モンテェーニュの「見ること」：『自然神学』から『エセー』へ」フランス語フランス文学研究 83,2003 年。)
(*)(参考：西尾幹二「江戸のダイナミズム—古代と近代の架け橋(12)宣長とニイチェにおける「自然」」諸君!35(8),2003 年。
(*)川島第二郎「ネーサン・ブラウンのアッサム伝道について」」キリスト教史 57,2003 年。
(*)小西哲郎「聖書和訳史の一断面：口語訳の RSV への依存について」長崎外大論叢 6,2003 年。
(*)押田成人訳『漁師の告白：神のみ手との出会い：ヨハネ福音書』思草社,2003 年。
(*)日下部吉信「西田[幾多郎]とギリシア哲学」立命館人間科学研究 5,2003 年。)
(*)芝一角「電力人脈銘々伝(65)日本の美学史観とヘレニズム—歴史の連続性と責任の掟」政経人 50(6),2003 年。
(*)平川祐弘「西洋にさらされた日本人の自己主張：新渡戸稲造の『武士道』」大手前大学人文科学部論集 4,2003 年。
(*)樋笠勝士「九鬼周三とキリスト教」青山学院女子短期大学総合文化研究所年報 11,2003 年。
(*)不破民由「森有礼・森明・森有正のキリスト教受容史—内村鑑三をめぐって」言語コミュミケーション研究 3,2003 年。
(*)中田重治著/加藤常昭解説『中田重治』日本キリスト教団出版局,日本の説教 4,2003 年。
(*)「児島喜久雄の思い出によせて(特集 児島喜久雄/冬青 小林勇)」清春 33,2003 年。
(*)嘉門安雄・柳宗玄・前川誠郎[他]「座談会 児島喜久雄を語る(特集 児島喜久雄/冬青 小林勇)」清春 33,2003 年。
(*)雪山行二「三役をこなした児島喜久雄(特集 児島喜久雄/冬青 小林勇)」清春 33,2003 年。
(*)市川毅「澤正宏著『西脇順三郎のモダニズム---「ギリシア的抒情詩」全篇を読む』」日本近代文学 68,2003 年。
(*)柴田隆行「日本の哲学教育史(下の 1)」井上円了センター年報 12,2003 年。
(*)森川滝太郎「哲学から宗教までの円了解」井上円了センター年報 12,2003 年。
(*)田村晃祐「井上円了の生涯と思想をめぐって」井上円了センター年報 12,2003 年。
(*)三浦節夫「井上円了と清沢満之—二人のエリートの関係とその資料」井上円了センター年報 12,2003 年。
(*)坪内祐三「戸川秋骨のエッセイについて」図書 646,2003 年。
(*)山折哲雄「清沢満之という生き方」図書 651,2003 年。
(*)神田健次「松本卓夫」関西学院史紀要 9,2003 年。
(*)「平成 14 年度特別報告 シーボルト最期の門人 三瀬諸淵の生涯」一滴 11,2003 年。
(*)村岡功「渋江保の事績」鴎外 72,2003 年。
(*)鈴木一正「山路愛山参考文献目録—昭和 21~平成 14 年」国文学研究資料館紀要 29,2003 年。
(*)川崎司「山路愛山著作目録」聖学院大学論集 15(2),2003 年。
(*)塩出環「蓑田胸喜と原理日本社」国際文化学 9,2003 年。
(*)ロマノ・ヴルピッタ「保田與重郎の「祖国」には日本がないだって!?—看過できない中川八洋氏の“誤読”」正論 372,2003 年。
(*)中川八洋「ヴルピッタ氏への返書と保田與重郎論補足」正論 373,2003 年。)

(*)関口安義「藤岡蔵六論(下)」(アルカディア)文学部紀要 17(1),2003 年。)
(*)Baykara Oguz「『アフロディテ』の誕生を祭る--谷崎[潤一郎]の『少年』におけるシンボリズムを中心に」言語と交流 6,2003 年。
(*)坪内祐三「同時代の宿命—1984 年の「アンティゴネ」と 2003 年の「アンティゴネ」」諸君 35(6),2003 年。
(*)(参考：喜多尾道冬「ムーサの贈り物—絵画・詩・音楽の出会うところ(126)聖女・悪女伝説アンティゴネー」レコード芸術 52(11),2003 年。)
(*)(参考：高原幸子「ジュディス・バトラー『アンティゴネーの主張—問い直される親族間係』」女性・戦争・人種 6,2003 年。)
(*)金沢百枝「伊藤亜紀著『色彩の回廊—ルネサンス文芸における服飾表象について』ありな書房,2002」史學雑誌 112(11),2003 年。
(*)根占献一「ルネサンス史の中の日本—近代初期の西欧とアジアの交流」藝林 52(1),2003 年。
(*)(参考：アビ・ヴァールブルク/加藤哲弘訳『デューラーの古代性とスキファノイア宮の国際的占星術』ありな書房,2003 年。)
(*)(参考：アビ・ヴァールブルク/富松保文訳『サンドロ・ボッティチエリの〈ウエヌスの誕生〉と〈春〉：イタリア初期ルネサンスにおける古代表象に関する研究』ありな書房,2003 年。)
(*)(参考：澤井繁男「カンパネッラへの旅—ヴェネト地方での一年余(上中下)」春秋 451,453,455, 2003 年。)
(*)(参考：ダンテ/壽岳文章訳『神曲 1(地獄篇)・2(煉獄篇)・3(天国篇)』集英社文庫,集英社,2003 年。)
(*)(参考：ダンテ/荒木嘉之訳『ダンテコメディア』文藝書房,2003 年。)
(*)(参考：北田葉子「アカデミア・フィオレンティーナの規約(1547 年)：16 世紀イタリアのアカデミアの考察のために」文芸と思想 67,2003 年。)
(*)(参考：清瀬卓「ルネサンスにおける大プリニウス(17)ダニエーラ・ムーニャイ・カッラーラ著『ニッコロ・レオニチェーノの蔵書：アリストテレスからガレノスまで/ユマニスト乃至家の書物と知的世界』[邦訳 1]」研究論叢 61,2003 年。)
(*)(参考：長命俊子『文学(リズム)の精神分析とパラノイア—フロイド,ラカン.,芭蕉,世阿弥,ダニエル(ダンテ)』リーベル出版,2003 年。)
(*)(参考：疋田隆康「古代ガリア社会におけるケルトの伝統—ガロ=ローマ文化の形成」史林 86(4),2003 年。)
(*)(参考：竹内均編『パイオニアとなった挑戦者たち：シャンポリオン/モース/リンドバーグ/張騫』竹内均・知と感銘の世界,ニュートンプレス,2003 年。)
(*)(参考：宮下実「構図で分析!!（分析 45）エル・グレコ「ラオコーン」」美術の窓 22(5),2003 年.)
(*)(参考：齋藤理「哲学の広場：19 世紀転換期ドイツにおける芸術問題—教養市民層の文化・社会的退行とそのイデオロギー形成の本質的契機」理想 671,2003 年。)
(*)(参考：Tsuji Shigefumi「Franz Wickhoff a la fin du siecle」(ヴィンケルマン)大手前大学人文科学部論集 4,2003 年。)
(*)(参考：Imamura Takeshi“Bibliographie：Sturum und Drabg in Japan”,ドイツ文学 114,2003

年。)
(*)(参考：ゲーテ/小栗浩他編訳『書簡』新装普及版,ゲーテ全集 15,潮出版社,2003 年。)
(*)(参考：南大路振一「ゲーテとヴォルテール—一つの素描(特集 ゲーテと啓蒙思想)」モルフォロギア 25,2003 年。)
(*)(参考：ヴィルヘルム・フォスカンプ/山本賀代訳「ゲーテの「ラオコーンについて」--文学としての知覚の時間化」モルフォロギア 25,2003 年。)
(*)(参考：内藤克彦「移ろいゆくものはすべて比喩にすぎぬ—ゲーテ思想詩研究断章」(南山大学)アカデミア,文学・語学編 73,2003 年。)
(*)(参考:佐竹正一「シラーとゲーテにおける Laokoon-Text について」Artes Liberales 72,2003 年。)
(*)(参考：坂本貴志『崇高による自由の理念の救出と歴史哲学：シラーの三部作『ヴァレンシュタイン』』東京大学大学院人文社会系研究科博士課程ライブラリー, 東京大学大学院人文社会系研究科,2003 年。)
(*)(参考：坂本貴志「ヴァレンシュタインの崇高」山口大学独仏文学 25,2003 年。)
(*)(参考：齋藤直樹『「超人」から「永劫回帰」へ：ニーチェ『ツァラトゥストロラ』をめぐる一考察』東京大学,博士(文学),甲第 17687 号,2003 年。)
(*)(参考:高橋克己「シラーの『芸術家』(1789 年)における「若返りしイオーニアーの精華」」(高知大学人文学部人文学科)人文科学研究 10,2003 年。)
(*)(参考:中江彬「ニーチェの芸術論の余波(1)漱石と子規の暁齋:自然は一幅の大活画なり」(大阪府立大学)人文学論集 21,2003 年。)
(*)(参考:市川直子「ニーチェの芸術論の余波(2)ジョルジョ・デ・キリコとミケランジェロ」(大阪府立大学)人文学論集 21,2003 年。)
(*)(参考：曽田長人「フリードリヒ・ニーチェによる文化改革の構想--『音楽の精神からの悲劇の誕生』を中心に」東北ドイツ文学研究 47,2003 年。)
(*)(参考:木原武一『人生を考えるヒント:ニーチェの言葉から』新潮選書,新潮社,2003 年。)
(*)(参考：四日谷敬子「ハイデッガーのギリシア哲学解釈とホメロス・ギリシア語」(京都大学大学院人間・環境学研究科人間学部「人間存在論」刊行会)人間存在論 9,2003 年。)
(*)(参考:ハイデッガー/三木正之,アルフレッド・グッツォーニ訳『ヘルダーリンに寄せて：付・ギリシア紀行』創文社,ハイデッガー全集 75,2003 年。)
(*)(参考：金子祥之「劇場人ホフマンスタールのギリシア悲劇改作とその演出」文学研究論集,文学・史学・地理学20,2003年。)
(*)(参考:株丹洋一「ホフマンスタール『ギリシア』について」ドイツ文学研究 35,2003 年。)
(*)(参考：曽田長人「フリードリヒ・アウグスト・ヴォルフの『ホメロスへの序論』と同時代の文学」世界文学 97,2003 年。)
(*)(参考:中山徹「『ユリシーズ』あるいは気散じの美学—ベンヤミンから「広告の心理学」へ」(静岡県立大学短期大学部静岡言語文化学会)言語文化研究 2,2003 年。)
(*)(参考：リュシアン・フェーヴル/高橋薫訳『ラブレーの宗教—16 世紀における不信仰の問題』叢書ウニベルシタス 751,法政大学出版局,2003 年。)
(*)(参考：モンテーニュ/宮下志朗訳『モンテーニュエセー抄』みすず書房,2003 年。)
(*)(参考：保苅瑞穂『モンテーニュ私記—よく生き,よく死ぬために』筑摩書房,2003 年。)
(*)(参考：古宮照雄『英文学史のシェイクスピア(続)』(千葉)古宮照雄,2003 年。)

(*)(参考：高田康成研究代表『英文学における「中世」と「ルネサンス」の時代区分に関する表象文化論的考察』高田康成,2003 年。)
(*)(参考：由井敏郎「シェイクスピアと時間(3)問題劇『トロイラスとクレシダ』の場合」愛知学院大学短期大学部研究紀要 11,2003 年。)
(*)(参考：阿刀田高『シェイクスピアを楽しむために』新潮文庫,新潮社,2003 年。)
(*)(参考：戸所宏之『はじめてのシェイクスピア—英文学の最高峰を楽しむ』PHP エディターズ・グループ,2003 年。)
(*)水崎野里子『日本近代文学とシェイクスピア』日本図書センター,2003 年。)
(*)(参考：池田仁『シェイクスピアの世界観』(山口)池田仁,2003 年。)
(*)(参考：キャサリン・ベルシー/高桑陽子訳『シェイクスピアとエデンの喪失—家族の価値の文化史』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,2003 年。)
(*)(参考：デイヴィッド・ニコル・スミス/野口忠昭・五十嵐博久訳『一八世紀のシェイクスピア』大阪教育図書,2003 年。)
(*)(参考：イアン・ウィルソン「〈講演〉劇作家シェイクスピアの出発：歴史家の立場から」ソフィア 51(3),2003 年。)
(*)(参考：庄村哲二『チョーサーの『家扶の話』--伝統に受容と変容』熊本学園大学附属海外事情研究所,2003 年。)
(*)(参考：岡田善明「ミルトンの理性—プラトニズムとキリスト教信仰」英文学論叢 51,2003 年。)
(*)(参考：ベーコン/川西進訳『ニュー・アトランティス』岩波文庫,岩波書店,2003 年。)
(*)(参考：海老澤豊「ジョン・ダイヤーの『羊毛』：十八世紀英国における農耕詩の系譜(4)」新潟産業大学人文学部紀要 15,2003 年。)
(*)(参考：海老澤豊「ジョン・ゲイの『田園の狩り』：十八世紀英国における農耕詩の系譜(5)」新潟産業大学人文学部紀要 15,2003 年。)
(*)(参考：祖父江美穂「ヴィーナスの帯：『妖精の女王』第 4 巻における「友愛」(フレンドシップ)の力」金城学院大学論集・英米文学編 45,2003 年。)
(*)(参考：布施伸之「ウォルター・ペイターの『ルネサンス』における実証主義批判について」信州豊南短期大学紀要 20,2003 年。)
(*)(参考：ジョン・キーツ/西山清訳『エンディミオン：物語詩』原書房,2003 年。
(*)(参考：岩永弘人「ヘンリ・コンスタンブル『ダイアナ』の「鏡」：プラトン的愛の装置」英米文学 63,2003 年。)
(*)(参考：山崎順子「ドライデンによる王政復古記期シェイクスピア改作劇と「序論」--『テンペスト』と『トロイラスとクレシダ』」國學院大學栃木短期大学紀要 38,2003 年。)
(*)(参考：圓月勝博「ドライデン的エポック(6)廃墟の詩神よ冬のカワセミを歌え」英語青年 149(6),2003 年。)
(*)(参考：高谷修「『イリアス』第 6 巻におけるヘクトールとアンドロマケーの別れの場面について—ドライデンとポープの英訳を中心に」英文学評論 75,2003 年。)
(*)(参考：堀井謙一「ギリーズとミルフォードにおけるクレオンの描き方についての一考察」長崎大学教育学部社会科学論叢 63,2003 年。)

(*)(参考：松岡光治「特別記事 ギッシング讃歌—没後百年によせて」英語青年149(9),2003年。)
(*)(参考：松岡光治訳「ピエール・クスティヤス著・没後100年間におけるギッシング批評の進展」言語文化論集25(1),2003年。)
(*)(参考：松岡光治編『ギッシングの世界—全体像の解明をめざして』英宝社,2003年。)
(*)(参考：村田俊一「〈論文〉ケンブリッジ・プラトニストとしてのT.S.エリオット：信仰と理性の調和」(弘前大学)人文社会論叢,人文科学篇9,2003年。)
(*)(参考：増池功「T.S.エリオット『異神を追いて』を読み直すために：「伝統」概念の転回の意義」(関西学院大学英米文学会)英米文学47(1・2),2003年。)
(*)(参考：吉田良夫『ヴァージニア・ウルフの小説研究：ヴィジョンと表現』吉田良夫,2003年。)
(*)(参考：京都大学文学部編『知のたのしみ学のよろこび』岩波書店,2003年。)
(*)(参考：山本光雄『ギリシア・ローマ哲学者物語』講談社学術文庫,講談社,2003年。)
(*)(参考：瀬戸一夫『知識と時間—古代ギリシアの文化相対主義』勁草書房,2003 年。)
(*)(参考：井上善幸「ミクロコスモスの創造—ベケットの『失われたもの』とソクラテス以前の哲学」明治大学教養論集 364,2003 年。)
(*)(参考：左近司祥子『謎の哲学者ピュタゴラス』講談社選書メチエ 280,講談社,2003 年。)
(*)(参考：ジュルベール・ロジェ-デルベ/神崎繁・小野木芳伸訳『ソフィスト列伝』文庫クセジュ,白水社,2003年。)
(*)(参考：納富信留「〈新刊紹介〉荻野弘之著『哲学の饗宴：ソクラテス・プラトン・アリストテレス』」ソフィア51(4),2003年。)
(*)(参考：納富信留「ソクラテスの不知」思想 948,2003 年。
(*)(参考：伊藤潔志「自己生成へと導く教育方法としてのエレンコス—ソクラテスの弁証論を手がかりに(特集 道徳教育と 21 世紀の若者)—(第 61 回[平成 15 年度春季]大会研究発表)」道徳と教育 40(1・2),2003 年。)
(*)(参考：日本放送協会・日本放送出版協会編・三嶋輝夫『古代ギリシアの知恵を今に生かす：汝自身を知れ』日本放送出版協会,2003 年。)
(*)三嶋輝夫「公開講演：ソクラテスと現代、「恐ろしいことと恐ろしくないことについての知」としての勇気について」哲学会誌 38,2003 年。
(*)(参考：金山弥平「知識と懐疑 古代と近現代—ソクラテスとヒュームが自らの心の内に観察したもの」哲学 54,2003 年。)
(*)(参考:山本巍『ロゴスと深淵:ギリシア哲学探究』東京大学,博士(学術),乙第 11557 号,2003年。)
(*)(参考：土橋茂樹「プラトン『リュシス』篇解釈の一詩視角」紀要,哲学科 45,2003 年。)
(*)(参考：脇條靖弘「『テアイテトス』188a-c をめぐって：諸解釈の概観と一つの試み」山口大學文學會誌 53,2003 年。)
(*)(参考：三宅浩訳「トマス・テイラー著『プラトン哲学者の誓い』」高岡法科大学紀要 14,2003 年。)
(*)(参考：田中邦夫「脱構築の経験とイデアの経験—デリダ『法の力』におけるプラトン的哲学の再定位」早稲田正義公法研究 57,2003 年。)
(*)(参考：野津悌『アリストテレス『弁論術』の研究：その哲学的意義をめぐる考察』東京都立大学,博士(哲学),乙第 1115 号,2003 年。)

(*)(参考：金井守也「「人さまざま」を読んで」地中海歴史風土研究誌 17,2003 年。)
(*)(参考：金井守也「「老年の豊かさについて(キケロ著)」を読んで」地中海歴史風土研究誌 18,2003 年。)
(*)(参考：三宅中子『創造と共生：ピュロン・ガッサンディ・マッハ』南窓社,2003 年。)
(*)(参考：ジュルベール・ロメイエ=デルベ/神崎繁・小野木芳伸訳『ソフィスト列伝』文庫クセジュ 862,白水社,2003 年。)
(*)(参考：小野紀明「初期ハイデッガーにおけるアリストテレス受容—技術概念の脱構築的解釈」法學論叢 152(5・6),2003 年。)
(*)日下部吉信「西田[幾多郎]とギリシア哲学」立命館大学人間科学研究所「立命館人間科学研究」5,2003 年
(*)(参考：中野孝次『ローマの哲人セネカの言葉』岩波書店,2003 年。)
(*)(参考：谷沢永一『ローマの賢者セナカの知恵--「人生の使い方」の教訓』講談社,2003 年。)
(*)(参考：加藤信朗「アウグスティヌス『神の国』における二つの国の理念(特別講演)」中世思想研究 45,2003 年。)
(*)(参考：野町啓「提題 Peregrinatio codicorum（シンポジウム 論題 古代末期からカロリング・ルネッサンスへ—地の断絶か連続か」中世思想研究 45,2003 年。)
(*)(参考：兼平昌昭「ラテン・アヴェロエス主義と P.ポンポナッツィ」静岡大学教育学部研究報告・人文・社会科学篇 54,2003 年。)
(*)(参考：米山基「受動知性の一位相—トマス・アクィナスによるアヴェロエス受容」哲学世界 26,2003 年。)
(*)(参考:小林稔研究代表『14 世紀後半から 16 世紀前半における教父の復権』上智大学,2003 年。)
(*)(参考：小林稔研究代表『14 世紀後半から 16 世紀前半における教父思想の復興』上智大学,科学研究費補助金(基礎研究 B2)研究成果報告書,平成 13—14 年度,2003 年。)
(*)(参考：荻野弘之「開かれた中世研究を求めて--『中世思想原典集成』の意義」ソフィア：西洋文化ならびに東西文化交流の研究 51(4),2003 年。)
(*)(参考：村井則夫「思想史のキアロスクーロ—ブルーメンブルクのクザーヌス,ブルーノ解釈をめぐって」ソフィア 51(4),2003 年。)
(*)(参考：菊地伸二「摂理と自由をめぐる問題：アウグスティヌスとボエティウスの場合」平安女学院大学研究年報 3,2003 年。)
(*)(参考：菅野正彦「boethius の De Consolatione Philosophiae(神谷信彦教授退職記念号)」愛知学泉大学コミュニティ政策学部紀要 6,2003 年。)
(*)(参考：澤井繁男『魔術との出会い：いま,再びルネサンスを』Historia14,山川出版社,2003 年。)
(*)木田元『闇屋になりそこねた哲学者』晶文社,2003 年。
(*)(参考：木原武一『あの偉人たちを育てた子供時代の習慣』PHP 研究所,2003 年。)
(*)(参考：小谷野敦編『恋愛論アンソロジー：ソクラテスから井上章一まで』中公文庫,2003 年。)
(*)(参考：深谷潤「W.イェーガーの「パイデイア・クリスティ」におけるキリスト教教育の原理に関する一考察」平安女学院大学研究年報3,2003年。)

(*)(参考：富松保文『アウグスティヌス--〈私〉のはじまり』シリーズ：哲学のエッセンス,日本放送出版協会,2003 年。)
(*)(参考：菊地伸二「アウグスティヌス主義と新プラトン主義--『告白録』第7巻を中心に」新プラトン主義研究2,2003年。)
(*)(参考：久山宗彦「アレクサンドリアのクレメンスの『雑録』に見られるギリシャ哲学・インド哲学」Caritas 37,2003年。)
(*)(参考：秋山学「アレクサンドリアのクレメンスにおける「覚知者(grostikos)」の本質」エイコーン：東方キリスト教研究28,2003年。)
(*)(参考：秋山学「ギリシア教父と般若思想—東方典礼とアレキサンドリアのクレメンスを手がかりに」文藝言語研究,文藝篇442003年。)
(*)(参考：奥田和夫「プラトン『国家』における「善のイデア」をめぐって—現代的解釈とプロティノスの解釈」新プラトン主義研究 2,2003 年。)
(*)(参考：Hoffmann Damasclus/堀江聡訳「翻訳 ダマスキオス『第一の諸起源についてのアポリアと解』第 1 巻第 2 部(R.1,30-41)」人文科学 18,2003 年。)
(*)(参考：Hoffmann Damasclus/堀江聡訳「翻訳 ダマスキオス『第一の諸起源についてのアポリアと解』第 1 巻第 3 部(R.1,41-66)」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 35,2003 年。)
(*)(参考：Annick Charles-Saget/堀江聡訳「新プラトン主義における悪—プロティノスの思想の諸逆説」新プラトン主義研究 2,2003 年。)
(*)甚野尚志「柴田平三郎著『中世の春：ソールズベリのジョンの思想世界』慶應義塾大学出版会,2002」史學雑誌 112(3),2003 年。
(*)(参考：伊藤功「ヘーゲルと一者の形而上学—ヤコービ「ブルーノ抜粋」を通じたヘーゲルと新プラトン主義との出会い」新プラトン主義研究 2,2003 年。)
(*)(参考：高橋陽一郎「ショーペンハウアーにおける「イデー」の形成—プラトン受容から芸術哲学へ(上下)」研究紀要 65,2003 年/68,2004 年。)
(*)(参考：細川亮一「ハイデガー・プラトン・新プラトン主義」新プラトン主義研究 2,2003 年。)
(*)(参考：谷沢永一『ローマの賢者セネカの知恵：「人生の使い方」の教訓』講談社,2003 年。)
(*)(参考：角田幸彦「セネカ—政治家・哲学者・悲劇作家—現代へのセネカの意識(1,2)」明治大学教養論集 363,368,2003 年。)
(*)(参考：修斌「魯迅のニーチェ理解について：高山樗牛との比較検討を通じて(2)」敬和学園大学研究紀要 12,2003 年。)
(*)(参考：岡崎文明「西洋哲学史におけるニーチェと Sacra Scriptura(1,2)」金沢大学大学教育学部紀要/人文科学・社会科学編 52,2003 年。)
(*)(参考：岡崎文明「ニーチェ哲学研究(2)：哲学観と哲学史観」金沢大学大学教育開放センター紀要 23,2003 年。)
(*)(参考：仲正昌樹「プラトン主義としての唯物論—レーニンのマッハ批判の戦略的背景をめぐって」情況 第 3 期 4(4),2003 年。)
(*)(参考：岡崎文明研究代表『西洋哲学史全体の統一的理解の研究』岡崎文明,科学研究費補助金(基盤研究 B1)研究成果報告書,平成 11-14 年度,2003 年。)
(*)(参考：木田元「ハイデガー拾い読み(5)古代存在論は制作的存在論である」大航海 47,2003

年。)
(*)(参考：木田元「ハイデガー拾い読み(6)自然について」大航海 48,2003 年。)
(*)(参考：ヤーコプ・ブルクハルト/新井靖一訳『コンスタンティヌス大帝の時代：衰微する古典世界からキリスト教中世へ』筑摩書房,2003 年。)
(*)(参考:山田俊弘「17 世紀のエチカ―ガッサンディとスピノザの場合(特集 生命倫理:2003 年末の学校報告)」生物学史研究 72,2003 年。)
(*)(参考:チャールズ・B・シュミット,ブライアン・P・コーペンヘイヴァー/榎本武文訳『ルネサンス哲学』平凡社,ヨーロッパ哲学史 3,2003 年。)
(*)(参考：森下直貴『健康への欲望と「安らぎ」：ウェルビカミングの哲学』青木書店,シリーズ「現代批判の哲学」,2003 年。)
(*)原豊『ヘボン塾につらなる人々』明治学院サービス,2003 年。
(*)村上文昭『ヘボン物語』教文館,明治学院,2003 年。
(*)太田愛人『神谷美恵子：若きこころの旅』河出書房新社,2003 年。
(*)ICU 卒業生「武田清子著作年譜」刊行会編『武田清子著作年譜』ICU 卒業生「武田清子著作年譜」刊行会,岩波出版サービスセンター,2003 年。
(*)(参考：西洋建築史研究会編『パラレル：建築史・西東』本の友社,2003 年。)
(*)(参考:Hubert Gillaud「オリエント・地中海世界における泥土建築文化の変遷に関する一考察―その大いなる遺産の未来とは?」ダーフィダーン 24,2003 年。)
(*)(参考：五島利兵衛「無理数とグリッド・シンメトリーに関する考察/西洋建築史研究」大同工業大学紀要 39,2003 年。)
(*)(参考：松島巌「パルテノン神殿の鎹(かすがい)」防錆管理 47(12),2003 年。)
(*)(参考：吉武隆一・伊藤重剛・林田義伸・古賀知博「地中海古代都の研究(111)メッセネのアスクレピオス神域のコリント式柱廊(歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 42,2003 年。)
(*)(参考：中村重陽・伊藤重剛・林田義伸・吉武隆一「地中海古代都の研究(112)3 次元 CG によるメッセネのアスクレピオス神域の景観分析(歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 42,2003 年。)
(*)(参考：市川秀和「啓蒙都市デッサウと古典学者 A.v.ローデ：十八世紀ドイツにおけるウィトルウィウス主義について(1)(歴史・意匠系)」日本建築学会北陸支部研究報告集 46,2003 年。)
(*)(参考：松本靜夫「912 ウィトルウィウスの伝統とイタリア・ルネサンス(歴史・意匠)」日本建築学会中国支部研究報告集 26,2003 年。)
(*)勝又俊雄「大倉山精神文化研究所の建築の研究：補遺」大倉山論集 49,2003 年。
(*)(参考:飯田喜四郎「我が国における西洋建築史学の確立と建築文化財保存の実践に対する貢献(日本建築学会大賞)」建築雑誌 118(1508),2003 年。)
(*)『伊東忠太：幻視の建築巨人』紀伊國屋書店ビデオ評伝シリーズ：学問と情熱：21 世紀に贈る人物評伝 28,紀伊國屋書店,2003 年(→2009 年,個人視聴用ビデオレコード。)。
(*)鈴木博之編『伊東忠太を知っていますか?』王国社,2003 年。
(*)日本建築学会編『伊東忠太資料目録・解説：日本建築学会建築博物館所蔵』日本建築学会,2003 年。
(*)松本八郎「業界動向 日本の近代印刷を紹介--「活字文明開化 本木昌造が築いた近代」

を観て」印刷雑誌 86(12),2003 年。
(*)(参考：田中伸司「哲学の方法としての「臨床」と「対話」--「聴く」ことの力,医療現場に臨む哲学,対話のアポリア」哲学 39,2003 年。)
(*)(参考：田中伸司「他者を問うことをめぐって：古代ギリシャ哲学,とくにプラトンの対話篇から見えてくること」文化と哲学 20,2003 年。)
(*)(参考：丹羽隆子「古代地中海の船—オデュッセウスの舟とアルゴー船」東京商船大学研究報告,人文科学 54,2003 年。)
(*)(参考齋藤真奈美「ヴァールブルクとユング—占星術と錬金術の観点から」中国学園紀要 2,2003 年。)
(*)(参考：R.J.Forbes 著/平田寛・矢島文夫太訳『フォーブズ古代の技術史(上中下)』朝倉書店,2003-11 年。)
(*)(参考：アルフレッド・W・クロスビー/小沢千重子訳『数量化革命—ヨーロッパ覇権をもたらした世界観の誕生』紀伊国屋書店,2003 年。)
(*)(参考：山本義隆『磁力と重力の発見(1-3 巻)』みすず書房,2003 年。)
(*)(参考：木村龍治『自然をつかむ 7 話』(ルクレチウス)岩波ジュニア新書,2003 年。)
(*)(参考：中丸久一「童話—イソップ童話を題材とした物理教育の試み(特集 高等教育のあり方)」(桐蔭横浜大学)桐蔭論叢 10,2003 年。)
(*)(参考:標宣男「自然における変化と法則—西欧近代科学の法則的自然観の源流を訪ねて」キリスト教と諸学 19,2003 年。)
(*)(参考：吉田民人「近代科学のメタパラダイム転換：一つの試論」学術の動向 8(10),2003 年。)
(*)(参考：利根川貞夫「近代科学の特徴について」山口短期大学研究紀要 24,2003 年。)
(*)(参考：劉則渊,李鋒伝,劉志栄他「翻訳 ニーダム(李約瑟)逆説：近代科学はなぜ中国で一番最初に起源しなかったのか(1-3)」九州国際大学経営経済論集 10(1,2),2003 年/10(3),2004 年。)
(*)(参考：ヘイゼル・ディクソン=クーパー/鏡リュウジ訳『悪魔の星占い』角川書店,2003 年。)
(*)(参考：今井辰巳「古代地中海における健康観・体育・スポーツ事象の潮流—古代エジプト~古代ギリシャ,オリンピアへの継承」上智大学体育 37,2003 年。)
(*)(参考：堀口正弘「古代オリンピック」東京経済大学人文自然科学論集 115,2003 年。)
(*)(参考：小原淳「19 世紀~20 世紀初頭ドイツにおける「オリンピック問題」--ドイツ・トゥルネン運動と「オリンピア」イメージの変遷」早稲田大学大学院文学研究科紀要,第 4 分冊 49,2003 年。)
(*)(参考：メアリー・ポープ・オズボーン/食野雅子訳『古代オリンピックの奇跡』マジック・ツリーハウス 1,メディアファクトリー,2003 年。)
(*)上田長生「坪井正五郎と初期人類学会の歴史的位置」日本思想史研究会会報 20,2003 年。
(*)(参考：中松米久『遺伝子の中の神々たち：ギリシャ・ローマ神話から親しむ生命科学』文葉社,2003 年。)
(*)(参考：石田純郎「中央ヨーロッパの薬局の装飾と古代ギリシア神話」薬史学雑誌 38(2),2003 年。)
(*)(参考：野村昭夫「ソクラテスと医神アスクレピオス：魂のセラピーの源流に遡る」日本教育学会大會研究発表要旨 62,2003 年。)

(*)(参考：竹内均編『難病に取り組み医学を発展させた人たち：ヒポクラテス,パスツール,北里柴三郎』竹内均・知と簡明の世界,ニュートンプレス,2003 年。)
(*)(参考：木原志乃「安楽死問題とヒポクラテスの『誓い』(特集 古代哲学と現代)」(京都大学西洋古代哲学史研究室)古代哲学研究室紀要 13,2003 年。)
(*)(参考：中山秀紀・酒井明夫・大塚耕太郎「古代ギリシアにおける δυσθυμια dysthymia について」精神医学史研究 7(2),2003 年。)
(*)(参考：今井正浩「ギリシアの医学思想と人間—ヒポクラテス『医師の誓い』における人間観」セミナー医療と社会 24,2003 年。)
(*)(参考：辻内優子「彷徨い人の狂想曲(10)ヒポクラテスのヒポクラシー」看護管理 13(10),2003 年.)
(*)(参考：荒井綜一「シンポジウム はじめに—“食と健康”のサイエンス」日本調理科学会大会研究発表要旨集 15,2003 年。)
(*)(参考：古川明『医学と薬学のシンボル：アスクレピオスの杖とヒギエイア(ハイシア)の杯』医歯薬出版,2003 年。)
(*)(参考：坂井建雄「ガレノスとヴェサリウスの解剖学の比較研究(2)：筋系を例にとって第三・四対の脳神経を例にとって」日本医史学雑誌49(1),2003年。)
(*)(参考：坂井建雄・池田黎太郎・月澤美代子「ガレノス『神経の解剖について』：ギリシャ語原典からの翻訳と考察」日本医史学雑誌49(3),2003年。)
(*)(参考：Carrara Daniela Mugnai/清瀬卓訳「ルネサンスにおける大プリニウス(17)ダニエーラ・ムニャーイ・カッラーラ著『ニッコロ・レオニチェーノの蔵書—アリストテレスからガレニスまで/ユマニスト刀圭家の書物と知的世界』(邦訳その 1)」京都外国語大学研究論叢 61,2003 年。)
(*)(参考：酒井明夫・中山秀紀・大塚耕太郎「古代ギリシアにおける δυσθυμια dysthymia について」精神医学史研究 7(2),2003 年。)
(*)(参考：酒井明夫・大塚耕太郎・奥山雄「古代ギリシアにおける αλογος alogos について」精神医学史研究 7(2),2003 年。)
(*)(参考：酒井明夫「パトグラフィ(2)精神医学史探訪 1—スパルタ王クレオメネスの自殺」精神科 3(4),2003 年。)
(*)(参考：塚本昌則「ぐるめノート(61)ハドリアヌス帝の食事」世界週報 84(119,2003 年。)
(*)(参考：ロレンス・ライト/別宮貞徳(他)訳『暖房の文化史：火を手なずける知恵と工夫』八坂書房,2003 年。)
(*)(参考：木原志乃『ヘラクレイトス哲学とギリシア医学思想：生命と身体における「対立の一致」』京都大学,博士(文学),甲第 10398 号,2003 年。)
(*)(参考：小林雅夫「ローマ世界のねじれ現象—教師と医師の実態をめぐって」地中海研究所紀要 1,2003 年。)
(*)(参考:矢内賢二「イタリア 解剖学の総本山イタリアに眠る文化財」世界週報 84(29),2003 年。)
(*)(参考：今井豊「古今東西の豚の話(23)ホメロスの養豚団地(ギリシャの豚・ローマの豚)」月刊養豚情報 31(11),2003 年。)
(*)(参考：高橋正雄「MEDICAL ESSAYS 精神医学的にみたギリシャ悲劇(6・完)エウリピデスの『バッコスの信女』」日本医事新報 4108,2003 年。)
(*)(参考：ローズマリ・サトクリフ/山本四郎訳『三つの冠の物語：ヒース,樫(オーク),オリ

ーブ』原書房,2003 年。)
(*)(參考：梅田悦夫「ワインのミニチク(2)古代のワイン」世界週報 84(41),2003 年。)
(*)(參考：梅田悦夫「ワインのミニチク(4)お酒の神さま「バッカス」」世界週報 84(41),2003 年。)
(*)(參考：梅田悦夫「ワインのミニチク(6)最後の晩餐」世界週報 84(48),2003 年。)
(*)(參考：藤井慈子「アレクサンドリア考—ヘレニズム~ローマ初期エジプトのガラス製造をめぐって」日本工芸ガラス学会誌 46,2003 年。)
(*)(參考：大江秀房「科学史発見の旅(30)科学を支えた女性たち(2)アレクサンドリアのヒュパティア」未来科学 3(7),2003 年。)
(*)(參考：佐原秋生「ガストロノミー序説」一般財団法人日本家政学会研究発表要旨集 55,2003 年。)
(*)(參考：松島巖「パルテノン神殿の鎹(かすがい)」防錆管理 47(12),2003 年。)
(*)(參考：レナード・ムロディナウ/青木薫訳『ユークリッドの窓：平行線から超空間にいたる幾何学の物語』日本放送出版協会,2003 年(→2015 年,ちくま学芸文庫版)。)
(*)(參考：定方晟「五輪塔とプラトンの多面体」春秋 454,2003 年。)
(*)(參考：本間正幸「9A-3 多面体を作ろう：プラトン・アルキメデス・オイラーに学ぶ(第 9 分科会 A 総合的な学習,III.高等学校部)」日本数学教育学会誌,臨時増刊,総会特集号 85,2003 年。)
(*)(參考：蟹澤聰史「文学作品の舞台・背景となった地質学(2)ゲーテの『ファウスト』における水成論と花崗岩の成因,ならびに『イタリア紀行』における地質学的観察について」地質ニュース 583,2003 年。)
(*)(參考：岸井貫「「ゲーテ石」または「ゲーテ鉱」--我もまたアルカディアにあり」マテリアルインテグレーション 16(10),2003 年。)
(*)(參考：岡田泰介「古典期アルカディアにおける家畜取引：テゲア出土碑文 IG.V.2.3 の分析を中心に」西洋古典學研究 51,2003 年。)
(*)(參考： 伊藤隆俊「経済を見る眼 白馬のプリンスとトロイの木馬」週刊東洋経済 5811,2003 年。)
(*)(參考：渡辺耕「ヘレニズム期初等におけるシチリア諸ポリスの対外政策の一側面：エンテッラの事例を中心に(研究発表)(西洋史部会)」史學雜誌 112(12),2003 年。)
(*)(參考：名和賢美『デーモクラティアーと公開原理：古代ギリシア文献におけるメソンの用例をもとに』一橋大学,博士(社会学),甲第 190 号,2003 年。)
(*)(參考：鈴木広和・橋場弦『古代ギリシア民主政における説得と合意の文化史的研究』大阪外国語大学 2001 年,(科研費)2003 年。)
(*)(參考：桑山由文「ギリシア世界と元首政期ローマ帝国(研究発表)(西洋史部会)」史學雜誌 112(12),2003 年。)
(*)(參考：的射場敬一「平等概念についての歴史的考察」(古典古代)國士舘大學政經論叢 15(3),2003 年。)
(*)(參考：田所清克・古畑正富「場所 思想化される海—地理的表現としての地中海と政治史的意味」地理 48(10),2003 年。)
(*)北村行伸「書評 『国家』(上・下)プラトン(著)藤沢令夫(訳)岩波文庫」週刊ダイヤモンド

2003(10/11),2003 年。)
(*)(参考：浅野信二郎「プラトンの理想国家と警察(今,警察が取り戻すこと)」季刊現代警察 29(4),2003 年。)
(*)(参考：近藤和貴「プラトン『饗宴』篇の政治哲学的意義に関する一考察(1)(2)エロス讃美に見る知恵と都市の関係について」早稲田政治公法研究 74,2003 年//75,2004 年。)
(*)(参考：Ober Josiah,Manville Brook/森百合子訳「「市民の組織」を実現させるモデル 古代アテネに学ぶ組織民主主義(Feature Articles「学習する組織」のマネジメント)」Diamond ハーバード・ビジネス・レビュー28(3),2003 年。)
(*)(参考：安井もゆる『ノビリタス支配の研究：共和政ローマの寡頭政治体制』東北大学,博士(文学),乙第 8410 号,2003 年。)
(*)(参考：平田隆一「古代ローマにおける王政の崩壊と共和政の成立—『ルクレティア事件』の考察を中心に」東北学院大学論集 歴史学・地理学 36,2003 年。)
(*)(参考：成川岳大「汎ヨーロッパ的文脈よりみたクヌース聖王の教会政策：ローマとの関係を中心に」クリオ=Clio17,2003年。)
(*)(参考：平田隆一「書評 長谷川博隆著『古代ローマの政治と社会』」西洋史学 211,2003 年。)
(*)(参考：本村凌二「歴史の交差点(470)学者としてのM.ウェーバーの人物像と社会背景」週間ダイヤモンド 91(38),2003 年。)
(*)(参考：加藤守道「フーコーの思想における戦争論の位置付け--『社会は防衛しなければいけない』の解釈を中心に」(ソフィスト)東北大学大学院教育学研究科研究年報 51,2003 年。)
(*)「BOOKs 塩野七生著「マキヴェッリ語録」--意匠凝らしたマキャヴェッリ入門書」世界週報 84(46),2003 年。
(*)(参考:澤井繁男『マキャヴェリ,イタリアを奪う』講談社選書メチエ 277,講談社,2003 年。)
(*)(参考：J ジョルジョ・スピーネ/森田義之・松本典昭訳『ミケランジェロと政治：メディチに抵抗した《市民=芸術家》』刀水書房,2003 年。)
(*)(参考：平山晃司『古代ギリシアにおける刑法の起源と発展』京都大学,博士(文学),甲第 9874 号,2003 年。)
(*)(参考：山口廸彦「母権的ロマン主義受容史の書誌学的研究」比較文化研究 22,2003 年。)
(*)(参考：木庭顕『デモクラシーの古典的基礎』東京大学出版会,2003 年。)
(*)高井多佳子「〈論文〉柴史朗[東海散士]の国権論：『佳人之奇遇』における「自由」」史窓 60,2003 年。
(*)首藤信彦「焦点 視点 アメリカの対イラク攻撃とイソップ物語」週間東洋経済 5799,2003 年。)
(*)(参考：新町貴司「アルフレート・ボイムラーによる二つのバハオーフェン論」(筑波大学文藝・言語学系)文藝言語研究 文藝篇 43,2003 年。)
(*)(参考：新町貴司「バハオーフェン,ニーチェそしてボイムラー」(筑波大学文藝・言語学系)文藝言語研究 文藝篇 44,2003 年。)
(*)(参考：フリツツ・シュルツ/眞田芳憲・、森光訳『ローマ法の原理』日本比較法研究所翻訳叢書 51,中央大学出版部,2003 年。)
(*)(参考：ピーター・スタイン/關良徳・藤元幸二訳『ローマ法とヨーロッパ』Minerva21

世紀ライブラリー76,、ミネルヴァ書房,2003 年。)
(*)(参考：佐藤信夫『法律ラテン：ローマ法の基礎解説』国際語学社,2003 年。)
(*)(参考：原田俊彦『ローマ共和政初期立法史論』早稲田大学,博士(法学),乙第 1799 号,2003 年。)
(*)(参考：毛利晶「共和政期ローマのイマギネース・マヨールム：その法的権利に関する考察を中心に」史學雑誌 112(12),2003 年。)
(*)岩井経男「書評 飯坂晃治著「ローマ帝政初期における都市監督官—curator rei publicae とイタリア都市」(史学雑誌 111(4))」法制史研究 53,2003 年。
(*)小田桐忍「法の時空論へのプロレゴーメナ—日本法哲学史の一断面から(特集 法生活と文明史)」比較法史研究 11,2003 年。)
(*)(参考：石本雅男「特別寄稿 ローマ法継受の真相と利益の原則、並びに不法行為責任論」阪大法学 52(6),2003 年。)
(*)河上正二「法科大学院時代の法学教育と「ローマ法」についての一管見」自由と正義 54(6),2003 年。
(*)吉原丈司編『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴尖輝博士略歴年譜著作目録』(新版・ローマ法･法制史学者著作目録選･第 1 輯),2003 年(→2003 年,都筑印書館,新版)。
(*)吉原丈司・吉原達也編『日本ローマ法学四先生略年譜・著作目録：春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士略年譜・著作目録』吉原丈司,ローマ法･法制史学者著作目録選 第 2 輯,2 訂版,2003 年。
(*)(参考：ピーター・スタイン/関良徳・藤本幸二訳『ローマ法とヨーロッパ』ミネルヴァ書房,Minerva21 世紀ライブラリー76,2003 年。)
(*)(参考：富井政章『ローマ法及びフランス法における代金不払による売主の契約解除権：仏語版』信山社出版,復刻版,日本立法資料集/芦部信喜(他)編,別巻 243,2003 年。)
(*)(参考：小田滋「国際司法裁判所 27 年(3)エーゲ海大陸棚事件：ハーグへの定着」ジュリスト 1240,2003 年。)
(*)(参考：小田滋「国際司法裁判所 27 年(4)裁判所新規則の採択とエーゲ海大陸棚事件の申請却下」ジュリスト 1242,2003 年。)

(*)(参考：ジョン・ベラミー・フォスター/渡辺景子訳『マルクスのエコロジー』こぶし書房,こぶしフォーラム 9,2004 年。)
(*)(参考：植村邦彦「重層的決定と偶然性—あるいはアルチュセールの孤独」関西大学経済論集 54(3・4),2004 年。)
(*)(参考：植村邦彦「マルクス研究の現在」経済学史学会年報 45,2004 年。)
(*)(参考：足立眞理子「フェミニズム クレオンの相貌--『アンティゴネー』と退蔵貨幣(総特集 マルクス)」現代思想 32(5),2004 年。)
(*)(参考：宇城輝人「『マルクスのために』Pour Marx(1965)ルイ・アルチュセール(1918-1990)（ブックガイド）」現代思想 32(11),2003 年。)
(*)久野俊彦・時枝務編『偽文書学入門』柏書房,KASHIWA 学術ライブラリー7,2004 年。
(*)(参考：久保有政『オーパーツと天地創造の科学：聖書に隠された超古代文明と幻の超古代文明と恐るべき地球大激変の真相』学研,Mu super mystery books,2004 年。)

(*)(参考：渡邊和彦「フランス出版文化史の本流(上―補遺)ヨーロッパ古代文明史の源流を展望」日仏図書館情報研究 30,2004 年。)
(*)(参考：飛田良文他編『アジアにおける異文化交流：ICU 創立 50 周年記念国際会議』明治書院,2004 年。)
(*)(参考：藤善眞澄編『東と西の文化交流』関西大学出版部,2004 年。)
(*)(参考：安田喜憲編・井上正美太他執筆『魔女の文明史』八坂書房,2004 年。)
(*)(参考:安田喜憲『気候変動の文明史』NTT 出版ライブラリーレゾナント 6,NTT 出版,2004 年。)
(*)(参考：宮原一武『女性主導文明が未来を救う：人類の文明史から』文芸社,2004 年。)
(*)(参考:鶴岡真弓『「装飾」の美術文明史：ヨーロッパ・ケルト・イスラームから日本へ』日本放送出版協会,2004 年。)
(*)(参考：湯浅赳男『文明の中の水：人類最大の資源を目降る一万年史』新評論 2004 年。)
(*)都築響一写真・文；アルフデッロ・バーン・バウム英訳“Raodside Europa”筑摩書房,珍世界紀行ヨーロッパ編,2004 年。
(*)陣内秀信・柳瀬有志編『地中海の聖なる島サルディーニャ』山川出版社,2004 年。
(*)川政祥子『ギリシャ愛と詩の島：12 人が語るギリシャ案内』洋泉社,2004 年。
(*)(参考：古澤ゆう子「エヴァとパンドラ」ペディラヴィウム 56,2004 年。)
(*)(参考：池田裕「アナトリアのレインマン」本 29(11),2004 年。)
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンド･ビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2004-05 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ローマ』ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2004-05 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ギリシアとエーゲ海の島々&キプロス』ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2004-05 年。
(*)『ギリシア・エーゲ海：アテネ,ミコノス島,サントリーニ島,クレタ島』ワールドガイドヨーロッパ 15,[2007 年版],JTB,2004 年。
(*)昭文社『アテネ・エーゲ海』トラベルストーリー44,2004 年。
(*)浅岡恵『Blue・sky・blue エーゲ海からの猫だより：post card book』新風舎文庫,2004 年。
(*)長谷川栄「巻頭グラビア エーゲ海・アテネ,神話の旅―ギリシャ古代文明の余韻を訪ねて」道路建設 698,2004 年。)
(*)萩野矢慶記『ギリシャを知る：世界遺産とエーゲ海』PHP エル新書 83,PHP 研究所,2004 年。
(*)萩野矢慶記『ギリシアを巡る：カラー版』中公新書,中央公論新社,2004 年。
(*)飯田圭織『アヴィニール未来(「エーゲ海に抱かれて」)』録音ディスク,Up-Front Works,Sony Music Distribution(Japan）,2004 年。
(*)三浦憲治『エーゲ海：相田翔子&飯田圭織写真集』キッズネット,角川書店,2004 年。
(*)『エーゲ海』(出演相田翔子&飯田圭織)Zetima,2004 年。
(*)(参考：『エレフセリア すべてはギリシャから』録音ディスク,ユニバーサルミュージック,2014 年。)
----「私のアテネ」「「アテネの廃墟」序曲」「スパルタの英雄クレオメネース」「5 つのギリシャ民謡」「ギリシャの神々」「アテネの歌」「ギリシャ国家(鋭き刃に)」「エーゲ海の真珠」「ミッドナイト・イン・アテネ」

(*)(参考：デプロ『心を癒すピアノ大辞典：やさしいピアノ・ソロ』(「エーゲ海の真珠」)デプロ,2004 年。)
(*)牟田口義郎『地中海歴史回廊』ちくま学芸文庫,2004 年。
(*)(参考：木村尚三郎『ヨーロッパ思索紀行』日本放送出版協会,2004 年。)
(*)加藤碵一『アナトリア地震紀行』愛智出版,2004 年。
(*)高岡豊「シリア訪問雑記(東地中海訪問記)」中東研究 2004・5(2),2004 年。)
(*)金子真夕「トルコ体験記(東地中海訪問記)」中東研究 2004・5(2),2004 年。
(*)アステリ「クレタの白い砂」Mediterranian fountain 2,2004年。
(*)澁澤幸子『エーゲ海ゆらゆら』論創社,2004年。
(*)澁澤幸子「エーゲ海の島々にトルコの足跡を訪ねる(3)コス島~ミコノス島~ パロス島~サントリーニ島~シロス島~ティノス島へ」アナトリアニュース110，2004年。)
(*)澁澤幸子「キプロス島を歩く(1)ギルネ」アナトリアニュース111，2004年。
(*)澁澤幸子「キプロス島を歩く(2)北レフコシヤ」アナトリアニュース112，2004年。
(*)澁澤幸子「オルフェウスの故郷トラキアを訪ねる」青淵663,2004年。
(*)原典久「海外レポート ギリシャ便 オリンピックに向けて」エストレーラ124,2004年。)
(*)東嶋和子「ルポ 五輪を迎えるアテネとエーゲ海の島々」エネルギーレビュー24(7),2004年。
(*)秋山秀一「巻頭グラビア オリンピック発祥の地・ギリシャ—108年ぶりに開催迫るアテネは今」道路建設678,2004年。)
(*)松岡宏「巻頭グラビア 歴史が重層するトルコを往く—イスタンブールからアンカラ,コンヤ,トロイなど」道路建設680,2004年。)
(*)高浜京子『街に恋する旅』(「ポロス in ギリシャ」「アテネの路地 in ギリシャ」)アルカディアシリーズ,アポロンブックス,美研インターナシナル,星雲社(発売),2004年。
(*)亀長洋子「歴史学研究会編『多元的世界の展開』地中海歴史2,青木書店,2003」史學雑誌113(1),2004年。
(*)成川岳大「原野昇・水田英実・山代宏道・地村彰之・四反田想・大野英志著『中世ヨーロッパと多文化共生』渓水社,2003」史學雑誌113(10),2004年。
(*)岡井隆『伊太利亜』書誌山田,2004年。
(*)中井かをり「小休止 会員ひろば ローマ古代遺跡の旅」古代史の海38,2004年。
(*)日経BP社,エイジャ編集『イタリア・フィレンツェからローマへ』日経BP社,日経BP出版センター(発売)、日経BPムック,ルネサンス街道の旅1,2004年。ナショナルジオグラフィック別冊,日経ナショナルジオグラフィック社,2019年。)
(*)(参考：臼田紘「『ローマ,ナポリ,フィレンツェ(第 3 版)』小論」跡見学園女子大学文学部紀要 37,2004 年。)
(*)星和夫・星伊久江他「第 4 回医学の歴史を巡るたび：南イタリア・マルタ(紀行 医学の歴史を巡る旅[第 4 回]の印象記—南イタリア)」日本病院会雑誌 49(7),2004 年。
(*)(参考：塩野七生「新春ロングインタビュー—ローマから見える日本,アメリカ 塩野七生—国家の衰亡とリーダー迷走」現代 38(2),2004 年。)
(*)四位誠光「イタリアへの旅 8 日間」地中海歴史風土研究誌 19,2004 年。

(*)(野町啓)京都大学大学院文学研究科 21 世紀 COE プログラム「グローバル化時代と多元的人文学の拠点形成」編『Academica：学の制度と規範：canone(規範性と多元性の歴史的諸相)』京都大学大学院文学研究科 21 世紀 COE プログラム「グローバル化時代と多元的人文学の拠点形成」,2004 年。
(*)(参考：坂井聰「イタリア・ポンペイ遺跡の発掘調査」大阪商業大学商業史博物館紀要 5,2004 年。)
(*)(参考：坂井聰「古代学研究所 2002 年度のポンペイ発掘調査による新知見」古代史年報 2,2004 年。)
(*)(参考：本村凌二『優雅でみだらなポンペイ』(発掘史)講談社,2004 年(→2010 年,改題『古代ポンペイの日常生活』講談社学術文庫。)
(*)(参考：沼本宏俊「オリンピア遺跡と古代オリエントのスポーツ」体育・スポーツ科学研究 4,2004 年。)
(*)(参考：西村太良「ギリシアの文化政策 オリンピックと文化オリンピアード(特集 文化の力 交流の営み)」(国際交流基金)遠近 1,2004 年。)
(*)(参考：小笠原好彦「アテネとデルフィの遺跡を歩く(特集 外国の文化遺産問題と史跡整備)」明日への文化財 52,2004 年。)
(*)陣内秀信『迷宮都市ヴェネツィアを歩く』角川書店,角川 ONE テーマ 21C-78,2004 年。
(*)(参考：ピーター・デジョング「特集 海洋探検家バラード 黒海と地中海に挑む」ナショナルジオグラフィック 10(5),2004 年。)
(*)(参考：ゴアリック「特集 地中海の覇者フェニキア人」ナショナルジオグラフィック 10(10),2004 年。)
(*)(参考：August Bover「Conflict and Culture in the Mediterranean：Catalonia and the Battle of Lepanto」地中海論集17,平成13-15年度科学研究費補助金(基礎研究A),2004年。)
(*)(参考：「Publications by the Mediterranean Studies Group Hitoshibashi University」地中海論集17,平成13-15年度科学研究費補助金(基礎研究A),2004年。)
(*)(参考：「Index to Volumes I-XVI of Transactions of the Mediterranean Studies Research Group at Hitoshibashi University」地中海論集17,平成13-15年度科学研究費補助金(基礎研究 A),2004 年。)
(*)(参考：ポール・G.バーン/小泉龍人他訳『世界の古代文明』図説世界文化地理大百科・別巻,朝倉書店,2004 年。)
(*)(参考：研究代表者・丹羽隆子『船に見る地中海文明史：ギリシアを中心に古代から現代まで』東京海洋大学,科学研究費補助金基礎研究(C2)研究成果報告書,平成 14 年-15 年度,2004 年。)
(*)(参考：青柳正規「蘇る古代文明の栄華—世界遺産から見る古代ギリシャの歴史と文化(特集 古代ギリシャ—時を超えて受け継がれる人類の叡智)」世界遺産年報 2004,2004 年。)
(*)(参考：クリストファー・ウッドワード/森夏樹訳『廃墟論』青土社,2004 年(→2016 年,新装版)。)
(*)(参考:志村真幸「スイス人チュータボル—ウィリアム・フイッツジェラルドのグランド・ツアーを通して」(京都大学大学院人間・環境学研究科歴史文化社会論

講座)歴史文化社会論講座紀要 1,2004 年。)
(*)(参考 : 安村典子「IT とギリシア・ローマ文化」広報 : Com club public information 27,2004 年。)
(*)(参考 : 新保祐司「音楽手帖(54)国のささやき 我もまたアルカディアに!」発言者 117,2004 年。)
(*)(参考 : 横田順子「キャラクターのアルカディア--『ヒキガエル館のヒキガエル』から「プー」作品を読み解く(特集 クマのプーさん—ビター・スウィート)-(キャラクターとしてのプーさん)」ユリイカ 36(1),2004 年。)
(*)(参考 : 金子亨「特別記事 遙かなるアルカディア」言語 33(4),2004 年。)
(*)(参考 : 羽田正・深沢克己・堀井優「(対談)空間性と時間性のなかのヨーロッパとイスラーム世界 : 地域交流史の諸相から」クリオ=Clio 18,2004 年。)
(*)(参考 : 荒俣宏「世界を眺める旅人フンボルト」図書 660,2004 年。)
(*)(参考 : 河島英昭「イタリア・ユダヤの風景(38)ローマからローマに」図書 664,2004 年。)
(*)澤井繁男「カンパネッラへの旅—数年ぶりの帰郷(上中下)」春秋 458,459,461,2004 年。
(*)澤井繁男「カンパネッラへの旅—革命に向けて(上中下)」春秋 463,2004 年/465,467,2005 年。
(*)(参考 : 根占献一「イタリア・ルネサンスと日本間の文化交流」学習院女子大学紀要 6,2004 年。)
(*)(参考 : Bonazzi Andrea「古代ローマ文明とキリスト教」キリスト教文化研究所紀要 20(1),2004 年。)
(*)(参考 : 藤沢道郎『皇帝ハドリアヌスから画家カラヴァッジョまで』物語イタリアの歴史 2,中公新書,中央公論新社,2004 年。)
(*)(参考 : 竹山博英『ローマの泉の物語』集英社新書,2004 年。)
(*)(参考 : 岩倉具忠「イタリアの図書館めぐり(特集 イタリアの書物とその歴史)」イタリア図書 31,2004 年。
(*)(参考 : ジェヌヴィエーヴ・ブルスク/遠藤ゆかり訳『ルーブル美術館の歴史』創元社,知の再発見双書 115,2004 年。)
(*)(参考 : 朽木ゆり子『パルテノン・スキャンダル : 大英博物館の「略奪美術品」』新潮選書,新潮社,2004 年。)
(*)(参考 : 柳広司『パルテノン : アクロポリスを巡る三つの物語(Παρθενον ; τρεις ιστορριες γυρω απο την Ακροπολη』実業之日本社,2004 年。)
(*)(参考 : 椹木野衣「「悪い場所」にて(5)パルテノンと縄文,そして近代」10+1 35,2004 年。)
(*)(参考 : 伊藤健一郎「エルギン・マーブルとキーツ : 断片としての芸術」早稲田大学大学院教育学研究科紀要・別冊 12(1),2004 年。)
(*)(参考 : 原野昇他『中世ヨーロッパの時空間移動』渓水社,2004 年。)
(*)篠塚知恵子「書評 ヨハン・ヨアヒム・ヴィンケルマン著『古代美術史』中山典夫訳」地中海学研究 27,2004 年。
(*)(参考 : 坂田正治「ゲーテとギリシア」熊本大学社会文化研究 2,2004 年。)
(*)(参考 : 岩崎大輔「ヘルダーのイタリア紀行 : 伝記的研究の一側面」上智大学ドイツ文学論集 41,2004 年。)
(*)(参考 : 高橋明彦「トレポーレまで :『イタリア紀行』におけるゲーテのカズイスティク」上智大学ドイツ文学論集 41,2004 年/44,2007 年。)

(*)(参考：岡村民夫『旅するニーチェ,リゾートの哲学』白水社,2004 年。)
(*)(参考：石塚裕子『ヴィクトリアンの地中海』開文社出版,2004 年。)
(*)(参考：大村次郷「茶店から社会を見る(12)イラク」望星 35(3),2004 年。)
(*)(参考：大村次郷「茶店から社会を見る(18)フィレンツェ」望星 35(9),2004 年。)
(*)(参考：大村次郷「グラビア 市場 社会：世界(9)バグダッド(イラク)」論座 113,2004 年。)
(*)(参考：大村次郷「グラビア 市場 社会：世界(16)フレンツェ(イタリア)」論座 113,2004 年。)
(*)(参考：ヤーコプ・ブルクハルト著/瀧内槇雄訳『チチェローネ：イタリア美術作品享受の案内』(建築篇・絵画篇)中央公論美術出版,2004 年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「L.P.ハートリーとヴェネツィア(1)ヴェネツィアのハートリー」人文研究 153,2004 年。)
(*)(参考：クリトファー・ウッドワード/森夏樹『廃墟論』青土社,2004 年(→2016 年,新装版)。)
(*)(参考：飛ケ谷潤一郎「「プレヴェダーリの版画」に見るエトルリア神殿の廃墟：ブラマンテによる集中式平面の展開と古代建築の解釈について」日本建築学会計画系論文集 69(578),2004 年。)
(*)(参考：飛ケ谷潤一郎「ルネサンスにおけるエトルリア神殿の解釈の変遷」建築史学 42,2004 年。)
(*)(参考：小佐野重利訳「原典資料紹介 イタリアのルネサンス期の複製について(特集 オリジナリティと複製)」西洋美術研究 11,2004 年。)
(*)(参考：小佐野重利・芳賀京子「原典資料紹介 古代における複製とオリジナルの意義(特集 オリジナリティと複製)」西洋美術研究 11,2004 年。)
(*)(参考：加藤磨珠枝「モザイクの華麗な聖堂」(特集 ローマ古寺巡礼)―(四大聖堂と七巡礼聖堂)」文化遺産 17,2004 年。)
(*)(参考：「異教時代の遺構と重層した聖堂」(特集 ローマ古寺巡礼)―(四大聖堂と七巡礼聖堂)」文化遺産 17,2004 年。)
(*)(参考：松本宣郎「サン・パオロ・フオリ・ムーラ聖堂」(特集 ローマ古寺巡礼)―(四大聖堂と七巡礼聖堂)」文化遺産 17,2004 年。)
(*)(参考：豊田浩志「サンタ・マリア・マッジョーレ聖堂」(特集 ローマ古寺巡礼)―(四大聖堂と七巡礼聖堂)」文化遺産 17,2004 年。)
(*)(参考：新田一郎「サン・ジョヴァンニ・ラテラーノ聖堂」(特集 ローマ古寺巡礼)―(四大聖堂と七巡礼聖堂)」文化遺産 17,2004 年。)
(*)(参考：浅香正「サン・ピエトロ大聖堂」(特集 ローマ古寺巡礼)―(四大聖堂と七巡礼聖堂)」文化遺産 17,2004 年。)
(*)(参考：山田順「カタコンベ」(特集 ローマ古寺巡礼)―(四大聖堂と七巡礼聖堂)」文化遺産 17,2004 年。)
(*)(参考：勝國興「サン・ロレンツィオ・フオリ・メーラ聖堂(特集 ローマ古寺巡礼)―(四大聖堂と七巡礼聖堂)」文化遺産 17,2004 年。)
(*)(参考：勝國興「聖堂建築の発展―初期キリスト教時代から中世まで(特集 ローマ古寺巡礼)」文化遺産 17,2004 年。)
(*)(参考：林容子「在日朝鮮文化財問題のアートマネージメントの観点よりの考察(情報表現学特集号)」(エルギン・マーブル)尚美学園大学芸術情報学部紀要 5,2004 年。)

(*)(参考：シュリーマン/関楠生訳『古代への情熱：シュリーマン自伝』35 版改訳・新潮文庫,新潮社,2004 年。)
(*)(参考：關俊彦「シュリーマンと北米の先住民(特集平井尚志先生追悼文集)」郵政考古紀要 34,2004 年。)
(*)(参考：半沢英一「願望の過去としての神話—シュリーマン自伝とトロイア戦争から抽出する真実」古代史の海 35,2004 年。)
(*)(参考：ジャン・ラクチュール/矢島文夫・岩川亮・江原聡子訳『シャンポリオン伝(上下)』河出書房新社,2004 年。)
(*)(参考：瀧口美香「祭礼図像中に組み込まれた福音書記者像について」地中海研究所紀要 2,2004 年。)
(*)(参考：河上眞理「ヴィンチェンツォ・ラグーザ伝の検討—マリオ・オリヴェーリ著『大理石の芸術家』を中心に」地中海研究所紀要 2,2004 年。)
(*)(参考：渡辺耕「史料紹介 シチリア出土の古代新史料—エンテッラ青銅板文書の辿った数奇な運命と刊行の経緯」歴史と地理 571,2004 年。)
(*)(参考：服部英二「デカルトの沈黙」言語と文明：論集 2,2004 年。)
(*)(参考：小林竜一訳「〈翻訳〉シェリー夫妻『6 週間の旅の記録』(1,2)」大阪経大論集 55(2,3),2004 年。)
(*)(参考：渡辺芳雄「現代に生きる統一思想(33)歴史論(1)神と人間による歴史・トインビー史観」世界思想 30(12),2004 年。)
(*)(参考：杉浦恭「ヨハン・ホイジンガの遊戯文化論の特質と社会的・思想的背景—近代社会認識と近代文明批評を手掛かりに」愛知教育大学保健体育講座紀要29,2004年。)
(*)(参考：ゲリー・ボーネル/大野百合子訳『アトランティスの叡智：思考の現実化意識の物質化』徳間書店,「超知」ライブラリー5,2004 年。)
(*)(参考：南山宏作・大矢正和絵『アトランティスの謎』講談社,講談社青い鳥文庫,2004 年。)
(*)(参考：エドガー・エバンズ・ケイシー/林陽訳『アトランティス』中央アート出版者,全面改訳新版, エドガー・ケイシー文庫 18,2004 年。)
(*)(参考：小原泰彦「海洋性コアコンプレックスの形成：IODP Expedition304/305：大西洋中央海嶺・アトランティスマップ」海洋調査技術学会研究成果発表会講演要旨集 16,2004 年。)
(*)(参考：山中由里子「展覧会カタログ評「アレクサンドロス大王と東西文明の交流」展」比較文學研究 84,2004 年。)
(*)(参考：百瀬春生「アレクサンドロス大王の影響とは—恐れ入谷の鬼子母神」地中海歴史風土研究誌 19,2004 年。)
(*)(参考：桜川洋子「古代から中世にかけてのインドの彫刻」地中海歴史風土研究誌 19,2004 年。)
(*)(参考：四位誠光「イタリアへの旅 8 日間」地中海歴史風土研究誌 19,2004 年。)
(*)(参考：望月由美子「アゴスティーノ・キージの寝室におけるイコノグラフィー分析—ヴィッラ・ファルネジーナのアレクサンドロス大王とロクサネの婚礼の間」千葉大学社会文化科学研究 8,2004 年。)
(*)(参考：マシュー・バトルズ/白須英子訳『図書館の興亡：古代アレクサンドリアから現代まで』草思社,2004 年。)

(*)(参考：Eco Umberto/勝貴子訳「アレクサンドリア図書館開館記念講演：名作は書きかえできません」季刊・本とコンピュータ第二期 11,2004 年。)
(*)(参考：るるぶ社海外編集局企画・編集『イスタンブール・トルコ』ワールドガイド,ヨーロッパ 6,JTB,2004 年。)
(*)(参考：益田朋幸『ビザンティン』世界歴史の旅,六燿社,2004 年。)
(*)(参考：磯崎新著・篠山紀信写真『サン・ヴィターレ聖堂：ビザンティン』磯崎新の建築談義 4,六燿社,2004 年。)
(*)(参考：佐藤俊之「砂漠に孤立したフランス精鋭軍ナポレオンのエジプト遠征」歴史群像 13(1),2004 年。)
(*)増山栄太郎「わが老年のシルクロード踏破記(10)ノア伝説の山アララット—古代史の宝庫トルコを旅する(上)」月刊カレント 41(4),2004 年。)
(*)増山栄太郎「わが老年のシルクロード踏破記(15)仏像の故郷ガンダーラ目指して—カラコルム・ハイウェーを行く(承前)」月刊カレント 41(9),2004 年。)
(*)増山栄太郎「わが老年のシルクロード踏破記(16)悲劇の海港,アレキサンドリア—海のシルクロード(3)」月刊カレント 41(10),2004 年。)
(*)(参考：マーティン・バナール/金井和子訳『考古学と文書にみる証拠(上下)』黒いアテナ：古典文明のアフロ・アジア的ルーツ 2,藤原書店,2004 年。)
(*)(参考：若月伸一文・写真『ヨーロッパ聖母マリアの旅』東京書籍,2004 年。)
(*)高橋たか子『巡礼地に立つ：フランスにて』女子パウロ会,2004 年。
(*)(参考：ジャック・ペジノ/田島葉子他訳『利瑪竇(りまとう)：天主の僕として生きたマテオ・リッチ』サンパウロ,2004年。)
(*)三浦信孝編『近代日本と仏蘭西：10 人のフランス体験』大修館書店,2004 年。)
(*)(参考：辻原康夫『早わかり世界の国々』平凡社,2004 年。)
(*)(参考：青柳正規「[報告]世界遺産について(公開シンポジウム「世界遺産と歴史学」)(特集 102 回史学会大会報告)」史學雜誌 113(12),2004 年。)
(*)(参考：青柳正規「よみがえる古代文明の栄華—世界遺産から見る古代ギリシャの歴史と文化(特集 古代ギリシャ—時を超えて受け継がれる人類の叡智)」UNESCO 世界遺産年報 9[ユネスコ世界遺産年報 2004],2004 年。)
(*)(参考：豊田浩志「月例会発表要旨(2004 年 4 月)新入生歓迎記念講演 歴史学と考古学のはざまで—サン・ピエトロ大聖堂地下のマウソレオ M を中心に(同[上智大学史学会第 53 回大会]部会研究発表養子・月例会発表要旨)」上智史學 49,2004 年。)
(*)慶應義塾大学文学部民族学考古学研究室編『時空を超えた対話：慶應義塾大学文学部民族学考古学専攻設立 25 周年記念論集』六一書房,2004 年。
(*)角田文衛「〈学史〉濱田耕作(青陵)先生のことども」古代文化 56(10),2004 年。
(*)西山徳明編『文化資産マネジメントとツーリズムの現状と課題』(ガンダーラ)Senn ethnographical reports 51,国立民族博物館,2004 年。)
(*)(参考：21 世紀研究会編『食の世界地図』文藝春秋社,文春新書,2004 年。)
(*)(参考：矢野道雄『星占いの文化交流史』シリーズ言葉と社会 1,勁草書房,2004 年。)
(*)新谷尚紀『なぜ日本人は賽銭を投げるのか』(死の観念)文春新書,平成 15 年。
(*)(参考：石井辰彦『全人類が老いた夜』書肆山田,2004 年。)
(*)(参考：立木鷹志『接吻の博物誌』青弓社,2004 年。)

(*)樽見博「「古寺巡礼」と飛鳥園」日本古書通信 69(4),2004 年。
(*)中島国彦「「古代美への憧れ」とは何か―堀辰雄・奈良大和路・『古寺巡礼』(特集 近・現代文学―その転換と回帰の諸相)」國學院雑誌 105(11),2004 年。
(*)(参考:高田康成「ナポリから船に乗って神戸に着いた―カール・レーヴィット『1936-1941 の旅の日記から』」UP 33(3),2004 年。)
(*)(参考:八木雄二『生態系存在論序説:自然のふところで誕生した人間と文明の相克』知泉書院,2004 年。)
(*)(参考:八木雄二『生態系倫理学の構築:生きることの「あるべき」かたち』知泉書院,2004 年。)
(*)(参考:新保祐司「音楽手帖(54)国のささやき 我もまたアルカディアに」発言者 117,2004 年。
(*)(参考:金子亨「特別記事 遙かなるアルカディア」言語 33(4),2004 年。)
(*)宮永孝「安土・神学校(セミナリオ)の遺址」社会志林 51(2),2004 年。
(*)(参考:Noburu Koyama(trans.by Ian Ruxton,with an introdution by Sir John Boyd,Japanese Students at Cambridge University in the Meiji Era,1868-19112:pioneers For themodernization of Japan,Lulu,2014.)
(*)(参考:藤田千枝編/小川真理子著『学校の世界地図』くらべてわかる世界地図 2,大月書店,2004 年。)
(*)石山洋「紹介 海野一隆『東西地図文化交渉史研究』」科学史研究[第 2 期]43(230),2004 年。
(*)宮永孝『日本洋学史:葡・羅・蘭・英・独・仏・露語の受容』三修社,2004 年。
(*)勝盛典子「亜欧堂田善と蘭書--『世界四大洲新地図帳』とワインマン『顕花植物図譜』をめぐって」日蘭学会会誌 29(1),2004 年。
(*)島津義昭「『考古學辭典』と『貝塚・考古 NEWS』の素晴らしさ―平井尚志先生を追悼する(特集平井尚志先生追悼文集)」郵政考古紀要 34,2004 年。
(*)(参考:鏡リュウジ・中谷マリ・清水きよみ『星座でわかる運命事典』ブルームブックス,ソニーマガジンズ,2004 年。)
(*)(参考:周藤芳幸・澤田典子『古代ギリシア遺跡事典』東京堂出版,2004 年。)
(*)(参考:長谷川岳男・樋脇博敏編『古代ローマを知る事典』東京堂出版,2004 年。)
(*)(参考:日外アソシエーツ編『外国人別名辞典』日外アソシエーツ,2004 年。)
(*)(参考:世界女性人名事典編集委員会編『世界女性人名事典:歴史の中の女性たち』日外アソシエーツ,紀伊国屋書店,[発売],2004 年。)
(*)(参考:上田和夫編;富士川義之他執筆『イギリス文学辞典』研究社,2004 年。)
(*)(参考:高橋康也編『シェイクスピア・ハンドブック』新装版,新書館,2004 年。)
(*)高野繁男「『哲学字彙』の和製漢語:その語基の生成法・造語法」人文学研究所報 37,2004 年。
(*)江口知秀「雑記帖レファレンス追想―英和対訳袖珍辞書と堀達之助」CE 建設業界 53(11),2004 年。
(*)真田治子「語の長さと使用頻度と古さについての検討-現代日本語に残存する『哲学字彙』の漢語の性質[含 質疑応答・意見交換](計量国語学会第 48 回大会報告)--(研究発表会第二部) 計量国語学 24(7),2004 年。
(*)金敬雄「井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の増設についての考察:底本の

英語に新設した訳語」行政社会論集 17(2),2004 年。
(*)(参考：月村辰雄『古典教育と古典教科書に関する国際比較研究—我国における古典教科書の作成にむけて』東京大学 2003 年,(科研費)2004 年。)
(*)小野米一、アタ ハティジェ・バーヌ、北佳代子、アクドーアン・ブナル、森まどか、孟根達来、安田春子、叶瓊「「北風と太陽」に基づく諸言語の比較対照研究：大学院「教育課題研究(国語科)」の実践から」鳴門教育大学授業実践研究：学部の授業改善をめざして 3,2004 年。
(*)(参考：安村典子「IT と古代ギリシア・ローマ文化」(金沢大学)広報(com.club.public informatiom)27,2004 年。)
(*)(参考：小田洋「トロイアのための形容詞」(鹿児島大学法文学部)人文学科論集 60,2004 年。)
(*)(参考：平田隆一「エトルスキ語の解明をめぐる若干の問題—zilaθ mexl rasnal「エトルスルキ連合長官」の再検討を中心に」ヨーロッパ文化史研究 5,2004 年。)
(*)(参考：平田隆一「アルファベットつてどんな文字?(特集 大解剖!—英語とはどんな言語か!)」英語教育 52(11),2004 年。)
(*)(参考：岩崎務監修『ギリシアの文字とことば』小峰書店,世界の文字とことば入門 8,2004 年。)
(*)(参考：福田千津子「ギリシア語の造語力(特集 現代ギリシア語のことばと文化—歴史を映し出す言語の姿)」言語 33(7),2004 年。)
(*)(参考：橘孝司「現代ギリシア語にとって古代ギリシア語とは何か(特集 現代ギリシア語のことばと文化—歴史を映し出す言語の姿)」言語 33(7),2004 年。)
(*)(参考：荒木英世「ギリシア語の基礎知識(特集 現代ギリシア語のことばと文化—歴史を映し出す言語の姿)」言語 33(7),2004 年。)
(*)(参考：西村太良「ギリシアにおける言語問題(特集 現代ギリシアの言葉と文化)」言語 33(7),2004 年。)
(*)(参考：楠田直樹「「フェニキア」語,あるいは「カルタゴ(ポエニ)」語の出所と広域語への変遷：クラーマルコフの見解を基にしつつ(創立 20 周年記念号)」創価女子短期大学紀要 24,2004 年。)
(*)江田雅一「怠惰な学習者の些細な現代ギリシア語体験—両ギリシア語学習歴とともに」プロピレア 16,2004 年。
(*)(参考：小田洋「トロイアのための形容詞」(鹿児島大学法文学部)人文学科論集 60,2004 年。)
(*)(参考：村田奈々子『ギリシア語のかたち』白水社,2004 年(→2013 年,新版。)
(*)(参考：大貫隆『新約聖書ギリシア語入門』岩波書店,2004 年。)
(*)(参考：岩崎務監修・著『ギリシアの文字と言葉』世界の文字と言葉入門,小峰書店,2004 年。)
(*)(参考：秋山学「ラテン語とフランス語 5：名言・金言による比較言語学」ふらんす 2 月号,2004 年。)
(*)(参考：新約聖書翻訳委員会訳『新約聖書』机上版,岩波書店,2004 年。)
(*)(参考：クルト・アーラント,バルバラ・アーラント編/橋本滋男・津村春英共訳『ギリシア語新約聖書(第 27 版)・序文』オンデマンド版,日本聖書協会,2004 年。)
(*)(参考：江澤増雄『教会ラテン語：事始め』サンパウロ,2004年。)

(*)(参考：三ツ木道夫「翻訳と歴史意識(5)ヴァルター・ベンヤミンの翻訳論(上)」言語文化 6(3),2004 年。)
(*)(参考：渡邊和彦「フランス出版文化史の本流(上―補遺)ヨーロッパ古代文明史上の源流を展望」日仏図書館情報研究 30,2004 年。)
(*)平川祐弘「竹山道雄の年譜と著作年表の補遺」比較文化：福岡女学院大学大学院人文科学研究科紀要(創刊号)1,2004 年。
(*)「木村直司名誉教授略歴・著作目録」上智大学ドイツ文学論集 41,2004 年。
(*)水谷顕一・水谷惟紗及『聖書は動物をどう訳してきたか―日本語訳聖書に見る動物名称の変遷』キリスト新聞社,2004 年。
(*)(参考：内林政夫「西洋諸語の薬局の語原いろいろ」薬史学雑誌 38(2),2004 年。)
(*)李長波「泉井久之助の言語研究―ソシュール受容とフンボルト受容を中心に」デュナミス 8,2004 年。
(*)高野繁男『近代漢語の研究―日本語の造語法・訳語法』明治書院,2004 年。
(*)佐藤喜之「博言学事始め：明治・大正の言語学(1)」學苑 762,2004 年。
(*)マルクス・リュッターマン「日本語修辞の挨拶用語における「恐怖」：礼儀の一面をめぐる史的考察の試み」日本研究：国際日本文化研究センター紀要 28,2004 年。)
(*)(参考：村上陽一郎『あらためて教養とは』(ギリシア語ラテン語)NTT 出版,平成 16 年(→平成 21 年,新潮文庫版)。
(*)佐藤喜之「上田万年とその周辺：明治大正の言語学(2)」学苑 769,2004 年。
(*)(参考：安藤勉「資料 日本独学史学会の軌跡(含 日本独学史学会研究発表会研究題目・『日独文交流史研究』総目次(1994 年号~2002 年号)」桜文論叢 60,2004 年。)
(*)(参考：ペネロペ・ウィルソン/森夏樹訳『聖なる文字ヒエログリフ』青土社,2004 年。)
(*)(参考：ジャン・ラクチュール/矢島文夫・岩川亮・江原聡子訳『シャンポリオン伝(上下)』河出書房新社,2004 年。)
(*)柳父章『近代日本語の思想：翻訳文体成立事情』法政大学出版局,2004 年。
(*)(参考：半沢栄一「願望の過去としての神話―シュリーマン自伝とトロイア戦争から抽出する真実」古代史の海 35,2004 年。)
(*)(参考：島薗進・鶴岡賀雄編『「宗教」再考』(鶴岡賀雄「エリアーデ・レリギオースス：あるいは永劫回帰の宗教史」)ぺりかん社,2004 年。)
(*)(参考：ドナ・ヘネス/真喜志順子訳『月の本』河出書房新社,2004 年。)
(*)(参考：鏡リュウジ『女神の法則』世界文化社,2004 年。)
(*)齋藤貴弘「ジョン・マイケルソン著/箕浦恵了訳『古典期アテナイ民衆の宗教』叢書ウニベルシタス 792,法政大学出版局,2004」史學雑誌 113(119),2004 年。
(*)(参考：泰田伊知朗「Elision and Augument in the Homeric Hymn to Aphrodite」北海道大学大学院文学研究科研究論集 4,2004 年。)
(*)(参考：里中満智子『冥界のオルフェウス』マンガ・ギリシア神話 3,中公文庫,中央公論新社,2004 年。)
(*)(参考：里中満智子『悲劇の王オイディプス』マンガ・ギリシア神話 4,中公文庫,中央公論新社,2004 年。)
(*)(参考:里中満智子『英雄ヘラクレス』マンガ・ギリシア神話 5,中公文庫,中央公論新社,2004 年。)

(*)(参考：里中満智子『激情の王女メディア』マンガ・ギリシア神話 6,中公文庫,中央公論新社,2004 年。)
(*)(参考 : 里中満智子『トロイの木馬』マンガ・ギリシア神話 7,中公文庫,中央公論新社,2004 年。)
(*)(参考：里中満智子『オデュッセウスの航海』マンガ・ギリシア神話 8,中公文庫,中央公論新社,2004 年。)
(*)(参考：トマス・ブルフィンチ/大久保博訳『ギリシア・ローマ神話：完訳』増補改訂版,角川文庫,角川書店,2004 年。)
(*)(参考：クルト・ヒュプナー/神野慧一郎・塩出彰・中才敏郎訳『神話の真理』叢書ウニベルシタス 660,法政大学出版局,2004 年。)
(*)(参考：馬場恵二・三宅立・吉田正彦編『ヨーロッパ 生と死の図像学』明治大学人文科学研究所叢書,東洋書林,2004 年。)
(*)(参考 : 篠田知和基「地中海文化としてのフランス・ルネサンス—ロンサールにおける死と再生の神話」広島国際研究 10,2004 年。)
(*)(参考：矢島文夫「ギルガメッシュ叙事詩(1,2)」季刊子どもと本 97,98,2004 年。)
(*)(参考：松村武雄「ギリシアの神話五篇」季刊子どもと本 99,2004 年。)
(*)(参考 : 織田まゆみ「Earthsea シリーズにおけるドラゴン表象」児童文学研究 37,2004 年。)
(*)(参考：井村君江「妖精、神々の末裔たち」図書 660,2004 年。)
(*)(参考：芳賀満「キリキア地方オルバのゼウス神域」地中海学研究 27,2004 年。)
(*)(参考 : 半沢英一「願望の過去としての神話—シュリーマン自伝とトロイア戦争から抽出する真実」古代史の海 35,2004 年。)
(*)(参考：アガサ・クリスティー/田中一江訳『ヘラクレスの冒険』ハタカワ文庫,クリスティー文庫,早川書房,2004 年。)
(*)(参考：香取義重「新生アポロ&ポセイドン構想」日本リモートセンシング学会誌 24(1),2004 年.)
(*)(参考 : 三浦要研究代表『ソクラテス以前の哲学の展開における神話の意義に関する研究』三浦要,科学研究費補助金(基礎研究(C2)成果報告資料,平成 14-15 年度,2004 年。)
(*)(参考：篠井保彦「神託と予測(19)パルメニデスあるいは存在について」地中海歴史風土研究誌 20,2004 年。)
(*)(参考 : 井口正俊「神話の解体,あるいは神話の転位 : P.ブリューゲルの『イカロスの墜落のある風景』考」西南学院大学国際文化論集 18(2),2004 年。)
(*)(参考：舟川一彦「〈新刊紹介〉ノースロップ・フライ著/ロバート・D.デナム編/高柳俊一訳『神話とメタファ—エッセイ 1974—1988』」ソフィア 52(4),2004 年。)
(*)(参考：齋藤茂夫「エディプス—神話の詩学」文化 68(1・2),2004 年。)
(*)(参考 : 菊地正和「ピランデッロの神話劇 3 部作における地中海的女性像」研究論叢 66,2004 年。)
(*)(参考 : 白石嘉治「神話,色彩,アルカディア : セズネック『神々は死なず』末尾によせて(小田桐光隆教授追悼号)」上智大学仏語・仏文学論集 38,2004 年。)
(*)(参考 : 波部雄一郎「プトレマイオス 2 世とディオニュソスのテクニタイ : アテナイオス第 5 巻 198b を手がかりとして」人文論究 53(4),2004 年。)
(*)(参考 : 小松健一郎「コレッジョ作《ウェヌスとクピドとサテュロス》をめぐる一考察(第

55 回美学大会全国大会発表要旨)」美学 55(3),2004 年。)
(*)(參考：新町貢司「アルフレート・ボイムラーの「ディオニュソス」概念について」文芸言語研究 文芸篇 45,2004 年。)
(*)(參考：宇野邦一「ディオニュソスのエコロジー—書評 リンギス『汝の敵を愛せ』」未来 459,2004 年。)
(*)(參考：中村敦志「The Waste Land におけるヒヤシンス挿話での沈黙」札幌学院大学人文学会紀要 75,2004 年。)
(*)(參考：柘植久慶『アレトゥサの伝説：地中海世界の十字路「シチリア」の物語』中央公論新社,2004 年。)
(*)(參考：加藤智見「大法輪カルチャー講座 世界の信仰(9),宗教共存の可能性 古代ギリシア宗教の信仰」大法輪 71(11),2004 年。)
(*)(參考：井上文則「ミトラス教研究の新動向--「牡牛を殺すミトラス教」の天文学的・占星術的解釈」西洋古代史研究 4,2004 年。)
(*)(參考：毛利晶“Religion und die romische Politik in der mitteleren Republik”The Journal of Classical Studies 14,2004.
(*)池津哲範「小川英雄著『ローマ帝国の神々--光はオリエントより』中公新書 1717,中央公論新社,2003」史學雜誌 113(8),2004 年。
(*)(參考：トマス・ブルフィンチ/大久保博訳『ギリシア・ローマ神話(上下)：完訳』増補改訂版,角川文庫,角川書店,2004 年。)
(*)引地正俊「野上弥生子とギリシャ・ローマ神話—翻訳の時代」比較文学年誌 40,2004 年。
(*)(參考：宿谷良夫「英語表現とその背景(6)—ギリシャ・ローマ神話に関する研究」東京家政学院大学紀要,人文・社会科学系 44,2004 年。)
(*)(參考：高柳俊一「書評 デニス・R.マクドナルド著『ホメロスの叙事詩とマルコ福音書』同著『新約聖書はホメロスを模倣したのか：使徒言行録からの四つの場合』Dennis MacDonald,The Homeric Epics and the Gospel of Mark,Dennis R.MacDonald,The New Testament Imitate Homer?：Four Cases from the Acts of the Gospels」(上智大学)キリスト教文化・東洋宗教研究所紀要 23,2004 年。)
(*)(參考：立田洋司「母なる像の源流を求めて(聖母信仰)」季刊民族学 25(1),2004 年。)
(*)(參考：有賀忍絵と文『ほしのよる：イエスさまのおたんじょうび』サンパウロ,2004年。)
(*)(參考：伊吹雄「イエスの処女降誕について」櫻文論叢 61,2004 年。)
(*)(參考：伊吹雄『ヨハネ福音書註解 1,2,3』知泉書館,2004 年。)
(*)(參考：高橋三郎『使徒行伝講義』オンデマンド版,教文館,2004 年。)
(*)(參考：荒井献『使徒行伝』復刊,現代新約注解全書,新教出版社,2004 年。)
(*)藤巻充『地の果てまで：使徒行伝からのバイブル・リーディング』日本ホーリネス教団,東宣社(発売),2004 年。
(*)(參考：守屋彰夫『聖書の中の聖書解釈：第二神殿時代の聖書思想』聖書セミナー16,日本聖書協会,2004 年。)
(*)(參考：松本宣朗「初期キリスト教における「教会政治」(西洋史部会,第 102 回史学大会報告)」史學雜誌 113(12),2004 年。)
(*)(參考：「ローマ帝国とキリスト教」(特集 ローマ古寺巡礼)—(四大聖堂と七巡礼聖堂)」文化遺産 17,2004 年。)

(*)(参考：浅香正「総論 初期ローマ教会の形成と巡礼」(特集 ローマ古寺巡礼)—(四大聖堂と七巡礼聖堂)」文化遺産 17,2004 年。)
(*)(参考：保坂高殿「ギリシア・ラテン文献における初期キリスト教徒の呼称表記」千葉大学人文研究・人文学部紀要 33,2004 年。)
(*)(参考：アエリウス・スパルティアヌス/南川高志訳『ローマ皇帝群像』[ユリアヌス]京都大学学術出版会,西洋古典叢書 1,2,3,2004 年。)
(*)(参考：中西恭子「ユリアヌスと儀礼：儀礼論・儀礼実践とその受容(第 3 部会,〈特集〉第 62 回学術大会紀要)」宗教研究 77(4),2004 年。)
(*)中西恭子「大貫貫・島薗進・高橋義人・村上陽一郎編『グノーシス蔭の精神史』岩波書店,2001 年。同編『グノーシス異端と近代』岩波書店,2001 年」宗教研究 78(2),2002 年。
(*)(参考：藤沢道郎『皇帝ハドリアヌスから画家カラヴァッジョまで』中公新書,2004 年。)
(*)(参考：W.Jaeger/深谷潤訳「パイデイア クリスティ(Paideia Christi)」理想 673,2004 年。)
(*)(参考：エウセビオス/秦剛平訳『コンスタンティヌスの生涯』京都大学学術出版会,2004 年。)
(*)(参考：木村閑子『石原吉郎・椎名麟三氏に導かれて：聖母マリアの奇蹟』文芸社,2004 年。)
(*)(参考：伊吹雄「イエスの処女降誕について」桜文論叢 61,2004 年。)
(*)(参考：山崎有介『神と人間：イエスの人間性：ウィリアム・ブレイク論文集』近代文芸社,2004 年。)
(*)(参考：石井美樹子『聖母のルネサンス：マリアはどう描かれたか』岩波書店,2004 年。)
(*)(参考：竹下節子『万能の聖母マリアと不可能の聖女リタ』中央公論新社,2004 年。)
(*)(参考：「聖像〈西洋〉聖母マリア(この一冊で世界がわかる 宗教のキーワード集)--（芸術と宗教・西東[にしひがし]）」別冊国文学 57,2004 年。)
(*)(参考：池田直子「ムガル美術における聖母マリア」(千葉大学社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書 67「権力と視覚表象 III」所収,2004 年。)
(*)(参考：足立広明「キリスト教古代末期における助成と禁欲主義(フォーラム[関学西洋史研究会第 6 回年次大会]シンポジウム「権力と儀礼」)関学西洋史論集 27,2004 年。)
(*)(参考：義江彰夫「ゲルマン信仰とキリスト教(コラム歴史の風)」史學雑誌 113(1),2004 年。)
(*)(参考:Takashi Onuki“Heil und Erlösung:zum Neuen Teatament und zur Gnosis”Mohr Siebeck, Wisenschaftliche Untersuchungen zum Neuen Teatament 165,2004.)
(*)(参考：秋山学「アレクサンドリアのクレメンス『パイダゴーゴス』研究—コルプスにおける位置づけをめぐって」文藝文化研究,文藝篇 46,2004 年。)
(*)(参考：久山宗彦「アレクサンドリアのクレメンスに対するプラトンの影響(1,2)」Caritas 38,2004 年/39,2005 年。)
(*)(参考：田子多津子「アレクサンドリアのフィロンの『創世記』解釈について」比較思想研究 3,2004 年。)
(*)(参考：川村信三「十六世紀における教父思想復興の一事例—キュリロス再版を手がけたカニジウスのケースを考える」カトリック研究 73,2004 年。)
(*)高山鉄男「『沈黙』から『侍』へ(シンポジウム 復活する遠藤周作『沈黙』から『侍』

へ—変容するイエス像)」文芸研究 157,2004 年。
(*)笠井秋生「遠藤周作におけるイエス像の変容シンポジウム 復活する遠藤周作『沈黙』から『侍』へ—変容するイエス像)」文芸研究 157,2004 年。
(*)山本泰生「遠藤周作とルドルフ・ブルトマン—その奇跡観をめぐって(シンポジウム報告 復活する遠藤周作『沈黙』から『侍』へ—変容するイエス像」文芸研究 157,2004 年。
(*)小嶋洋輔・加藤隆「遠藤周作訳『テレーズ・デスケルー』：翻訳に見る作家の方法」千葉大学社旗文化科学研究 8,2004 年。
(*)笛木美佳「遠藤周作「海と毒薬」論：勝呂の目遣いと救いの可能性」學苑 760,2004 年。
(*)黒澤政子「ルレー・エッセイ 書物をめぐる旅(10)遠藤周作そしてキリスト教」ソフィア 53(2),2004 年。
(*)天羽美代子「遠藤周作『イエスの生涯』における〈イエス像〉造形過程の一考察—シュタウファー『イエス—その人と歴史』の影響について」高知大国文 35,2004 年。
(*)福田耕介「翻訳者としての遠藤周作--『テレーズ・デスケルー』訳をめぐって」白百合女子大学言語・文学研究センター言語文学研究論集 4,2004 年。
(*)本田有加子「遠藤周作『海と毒薬』論--テレーズ・デスケルーとの比較を中心に」日本比較文学会東京支部研究報告 56(3),2004 年。
(*)グレイ・ロバート「遠藤周作の『イエスの生涯』に見られる日本文化へのユダヤ・キリスト教的解釈」早稲田大学人間科学研究 17(1),2004 年。
(*)(参考：アレクサンドリアのフィロン/土岐健治訳『観想的生活；自由論』ユダヤ古典叢書,教文館,2004 年。)
(*)遠藤周作原作・松村禎三台本/作曲『沈黙：オペラ全 2 幕』おぺら読本出版,2004 年。
(*)(参考：長濱拓磨「韓国における遠藤周作：翻訳・研究論文の現在」無差 11,2004 年。)
(*)佐藤泰正編『遠藤周作を読む』梅光学院大学公開講演論集 52,笠間ライブラリー,笠間書院,2004 年。
(*)中川和明「平田篤胤の国学思想と『西洋雑記』[山村才助]」神道宗教 195,2004 年。
(*)Schmitz Christoph「生誕 200 年にあたって 東アジアにおける最初のヨーロッパ哲学・科学思想史 蘭学者高野長英の『西洋学師ノ説』」日蘭学会会誌 29(1),2004 年。
(*)細野泰代「近代日本における西洋思想受容のあり方」哲学会誌 28,2004 年。
(*)(参考：奥貞二「西洋思想の源流」紀要 37,2004 年。)
(*)(参考：李光来「韓国近代期儒教の知と西洋思想—西学の中の実学・実学の中の西学(特集 東アジアの儒教と近代の「知」)」季刊 日本思想史 66,2004 年。)
(*)(参考：崔在穆「李光来「韓国近代期儒教の知と西洋思想」コメント(特集 東アジアの儒教と近代の「知」)」季刊 日本思想史 66,2004 年。)
(*)高井多佳子「東海散士著『佳人之奇遇』の成立について」京都女子大学大学院文学研究科研究紀要 3,2004 年。
(*)中田耕治「馬場孤蝶を読む」公評 4(1),2004 年。
(*)野崎晃市「谷本富の「宗教と教育」：「耶蘇教駁論」を中心に(第 8 部会：第 62 回学術大会紀要)」宗教研究 77(4),2004 年。
(*)稲葉宏雄「谷本富の人と教育思想—明治の教育学者群像」比較思想研究 31,2004 年。

(*)稲葉宏雄『近代日本の教育学—谷本富と小西重直の教育思想』世界思想社,2004 年。
(*)舩木恵子「小幡篤次郎と J・S・ミルの『宗教三論』(特集小幡篤次郎没後百年)」近代日本研究 21,2004 年。)
(*)田中祐介「思考様式としての大正教養主義---唐木順三による阿部次郎批判の再検討を通じて」アジア文化研究 30,2004 年。
(*)松本健一『大川周明』岩波書店,岩波現代文庫・社会 99,2004 年。
(*)竹内洋「丸山真男と蓑田胸喜」諸君 36(3),2004 年。
(*)「グラビア 日本の顔 木田元・哲学者・中央大学名誉教授」文藝春秋 82(15),2004 年。
(*)(参考：京都大学大学院文学研究科 21 世紀 COE プログラム「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」編『Academica：学の制度と規範：canone(規範性と多元性の歴史的様相)』京都大学大学院文学研究科 21 世紀 COE プログラム「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」,2004 年。)
(*)戸川秋骨著/坪内祐三編『戸川秋骨人物肖像集』(ケーベル先生)みすず書房,大人の本棚,2004 年。
(*)(参考：寇振鋒「『新中国未来記』における「志士」と「佳人」--『経国美談』『佳人之奇遇』からの受容を中心に」多元文化 4,2004 年。)
(*)鈴木一正「山路愛山参考文献目録—明治 23~昭和 18 年」国文学研究資料館紀要 30,2004 年。
(*)久保忠夫「断章—土井晩翠に関する(1)」東北学院大学論集/人間・言語・情報 138,2004 年。
(*)木村時夫「回想の煙山専太郎」早稲田大学史記要 36,2004 年。
(*)佐々木健一・研究代表『日本の近代美学(明治・大正期)』東京大学大学院人文科学系研究所,2004 年。
(*)(参考：西尾幹二「江戸のダイナミズム—古代と近代の架け橋(16)西洋古典文献学と契沖『萬葉代匠記』」諸君!36(4),2004 年。
(*)(参考：西尾幹二「江戸のダイナミズム—古代と近代の架け橋(完)転回点としての孔子とソクラテス」諸君!36(9),2004 年。
(*)宮永孝『日本洋学史』三修社,2004 年。
(*)宮永孝「安土・神学校(セミナリオ)の遺址」社会志林 51(2),2004 年。
(*)相ヶ瀬千草「バレト写本の漢語：「利根」を中心に(平成 14 年度国文学会冬季大会発表要旨)」上智大学国文学論集 37,2004 年。
(*)武田清子『土着と背教：伝統的エトスとプロテスタント』新教出版社,2004 年。
(*)廣瀬敦子『ハルプ神父の生涯：よみがえる明治の宣教師』サンパウロ,2004 年。
(*)新倉俊一『評伝西脇順三郎』慶應義塾大学出版会,2004 年。
(*)紅野敏郎「「學燈」を読む(178)成瀬正勝と沢柳大五郎」學燈 101(2),2004 年。
(*)引地正俊「ドリーム・チルドレン(引地正俊教授を送る)」英文学 87,2004 年。)
(*)太宰治作・日本語多読研究会簡約・井口太陽挿絵『走れメロス』JGR level 4,日本語多読研究会,2004 年。
(*)川島隆太監修『走れメロス：罌栗の中』脳を鍛える大人の名作読本,くもん出版,2004 年。
(*)太宰治『走れメロス』改訳角川文庫,角川書店,2004 年。
(*)太宰治作・萩京子作曲『走れメロス：ひとりかたりオペラ』Run,Melos! : hitorikatari opera/original work by Dazai Osamu : music,Hagi Kyoko,ALM Recordsp,2004.

(*)太宰治『走れメロス』齋藤孝の音読破 2,小学館,2004 年。
(*)井上昌春「太宰治『走れメロス』をめぐって--「人質」との比較を主軸として」日本文学論叢 33,2004 年。
(*)儀保睦美「太宰治『走れメロス』の学習書指導の試み—小説を楽しむ姿勢作りを求めて」沖縄国際大学語文と教育の研究 5,2004 年。
(*)原田清『會津八一：人生と芸術』砂子屋書房,2004 年。
(*)水谷智洋「小金井の力石と古代ギリシアの力石」」プロピレア 16,2004 年。
(*)三好行雄他編『漱石の人と周辺』(大野淳一「ケーベル先生と漱石」)講座夏目漱石 1,オンデマンド版,2004 年。
(*)「私の読書遍歴(7)岩田靖夫」文學界 58(1),2004 年。
(*)木田元「古典を読む(ブックガイド 60)」現代思想 32(11),2004 年。)
(*)川上弘美・木田元・：富山太良夫「座談 引用という文化」図書 663,2004 年。
(*)葛西康徳「Humanities as an Activity」創文 461,2004 年。
(*)(参考：鷲田小彌太『超要約で世界の哲学を読む』PHP 研究所,2004 年。)
(*)(参考：プラトン/山本光雄・田中美知太郎訳『国家,ソクラテスの弁明,クリトン』ワイド版,河出書房新社,2004 年。)
(*)(参考：荒木清『一冊で哲学の名著を読む：『ソクラテスの弁明』から,サルトル『存在と無』まで 17 冊がよくわかる』中経出版,2004 年。)
(*)瀬口昌久「古代哲学は現代的問題にどのような意義をもつか」古代哲学研究室紀要 13,2004 年。
(*)板橋勇仁「日本における哲学の方法：井上哲次郎から西田幾多郎へ」立正大学文学部論叢 119,2004 年。
(*)井上琢智「幕末・明治ロンドン日本人留学生と日本学生会：共存同衆への道」經濟學論叢 58(1),2004 年。
(*)(参考：左近司祥子『自分を知るための哲学：「私」を考え,「私」を変えて,「私」を幸せにするために』ナツッ社,2004 年。)
(*)(参考：左近司祥子『本当に生きるための哲学』岩波現代文庫 93,岩波書店,2004 年。)
(*)(参考：荒木清『一冊で哲学の名著を読む：『ソクラテスの弁明』から,サルトル『存在と無』まで 17 冊がよくわかる!』中経出版,2004 年。)
(*)(参考：大出晁『知識革命の系譜学—古代オリエントから 17 世紀科学革命まで』岩波書店,2004 年。)
(*)(参考：今道友信「知の展開の形而上学的省察(1)：metaphysica から metechnica へ」サピエンチア：英知大学論集 38,2004 年。)
(*)(参考：堀江聡・松本敏郎・Charles Burnett 他「意見(シンポジウム 存在と知性—イスラームから西洋へ)」中世思想研究 46,2004 年。)
(*)(参考：森一郎「デモクリトスとクローンの問題」東京女子大学紀要論集 55(1),2004 年。)
(*)(参考:三浦要「『ソクラテス以前の人々の断片集』Die Fragmente der Vorsokratiker(1951-52)ディール+クランツ(ブックガイド 60)」現代思想 32(11),2004 年。)
(*)(参考：加来彰俊『ソクラテスはなぜ死んだのか』岩波書店,2004 年。)
(*)(参考：中澤務『プラトン初期対話篇におけるソクラテスの倫理問題』北海道大学,博士(文学),乙第 6240 号,2004 年。)
(*)(参考：菊谷忠治「古代ギリシャ哲学の誕生：何故「ギリシャ」だったのか」地中海歴史

風土研究誌 19,2004 年。)
(*)(参考：菊谷忠治「ソクラテスは何故書かなかったか?」地中海歴史風土研究誌 20,2004 年。)
(*)(参考：エルマー・ホーレンシュタイン/丸山徳治訳「ソクラテス：死刑[自死刑]後 2400 年」龍谷哲学論集 18,2004 年。)
(*)(参考 : 内山勝利『対話という思想—プラトンの方法序説』双書現代の哲学,岩波書店,2004 年。)
(*)(参考：ジャック・デリダ/守中高明訳『コーラー—プラトンの場』ポイエーシス叢書 52,未来社,2004 年。)
(*)廣瀬浩司「ブック・レヴュー—ジャック・デリダ『コーラ—プラトンの場』--「場」のおののきを聞く」10+1(35),2004 年。
(*)(参考 : 内藤純郎「善しいものと美しいもの—プラトンとプロティノス」横浜市立大学論叢 人文科学系列 56(3),2004 年。)
(*)(参考：田中龍山『セクストス・エンペイリコスの懐疑主義思想：古代懐疑主義をめぐる批判と回答』龍谷大学,博士(文学),乙第 40 号,2004 年。)
(*)(参考：Michel Fattal/堀江聡訳「プロティノスにおける美と形而上学--《神々から到来するロゴス》の役割」新プラトン主義研究 3,2004 年。)
(*)(参考 : 長谷川宜之『後期ローマ帝国アフリカにおける司教アウグスティヌス』東北大学,博士(文学),甲第 9863 号,2004 年。)
(*)(参考：Hoffmann Damasclus/堀江聡訳「翻訳 ダマスキオス『第一の諸起源についてのアポリアと解』第 1 巻第 4 部(R.1,66-68)」人文科学 19,2004 年。)
(*)(参考 : 岡崎文明「新プラトン主義と西洋哲学史—古代新プラトン主義体系における第二段階の展開」新プラトン主義研究 3,2004 年。)
(*)(参考 : 金澤修「Enn.3-9(13).1 における三つの知性—プロティノス初期の『ティマイオス』解釈を巡って」新プラトン主義研究 3,2004 年。)
(*)(参考：津田謙治「お客さまの小部屋 マルキオンにおける質料と悪—ストア主義,グノーシス,中期プラトン主義の質料観を手がかりに」ムネーモシュネー 7,2004 年。)
(*)(参考：上村直樹『魂の修練による「生」の変容：アウグスティヌス初期著作研究』東京都立大学,博士(文学),乙第 1151 号,2004 年。)
(*)(参考 : 長谷川宜之『後期ローマ帝国アフリカにおける司教アウグスティヌス』東北大学,博士(文学),甲第 9863 号,2004 年。)
(*)(参考 : 久山宗彦「アレクサンドリアのクレンメンスに対するプラトンの影響(1,2)」Caritas 38,2004 年/39,2005 年。)
(*)(参考：田島孝「プラトンの『国家』とカント倫理学」白山哲学 38,2004 年。)
(*)(参考：藤田博子「植物の育成になぞらえた育児論の系譜(4)」(プラトン)大阪芸術大学短期大学部紀要 28,2004 年。)
(*)(参考 : 加茂茂臣「仮言命法とダス・マン：プルーデンス(プロナーシス)の系譜（Ii.人文・社会科学系）」千葉大学教育学部研究紀要 52,2004 年。)
(*)(参考：中野孝次『セネカ現代人への手紙』岩波書店,2004 年。)
(*)(参考：澤田謙治「お客さまの小部屋 マルキオンにおける質料と悪—ストア主義,グノー

シス,中期プラトン主義の質料観を手がかりに」ムネーモシュネー7,2004 年。)
(*)(参考:角田幸彦「キケローとニーチェの人間学」明治大学人文科研究所紀要 54,2004 年。)
(*)(参考：土屋靖明「ベルグソンにおけるネオ・プラトニズム—美の(形)相と直観」新プラトン主義研究 3,2004 年。)
(*)湯浅弘「日本におけるニイチェ受容史瞥見(1)西谷啓治のニヒリズム論をめぐって」川村学園女子大学研究紀要 15(2),2004 年。
(*)(参考：Yannis Constantinides/立木康介訳「人間の地平—ニーチェからみたプラトンおよび人間の未来」人間存在論 10,2004 年。)
(*)廣瀬浩司「ブック・レヴュー—ジャック・デリダ『コーラ—プラトンの場』--「場」のおののきを聞く」10+1(35),2004 年。
(*)(参考：James Risser/濱善昭訳「ガーダマーを心に留めながら：プラトンの『ピレボス』における哲学的言説」人間存在論 10,2004 年。)
(*)(参考：神崎繁「思想の言葉—それぞれの生の形 超越的視点と相対主義に抗して」思想 961,2004 年。)
(*)(参考：金井寿男『西洋思想の源泉と展開：ホメロスからトマス・アクィナスまで』黒船出版,2004 年。)
(*)(参考:東敏徳『アリストテレスと生き方の教育—善く生きる幸せについて』ユージン伝,2004 年。)
(*)(参考：今道友信『アリストテレス』講談社学術文庫,講談社,2004 年。)
(*)(参考：J.O.アームストロング/雨宮健訳『アリストテレス倫理学入門』岩波現代文庫(学術)岩波書店,2004 年。)
(*)(参考:岩田圭一「エーティケー・アレテーの定義:アリストテレス『ニコマコス倫理学』第 2 巻第 5-6 章」地中海研究所紀要 2,2004 年。)
(*)(参考：神崎繁「魂の位置—17 世紀・東アジアにおけるアリストテレス『魂論』の受容と変容」中国：社会と文化 19,2004 年。)
(*)北村行伸「書評 名著再読:現代の経済・社会問題に直結するアリストテレスの洞察:『政治学』アリストテレス著/牛田徳子訳,京都大学学術出版会」週刊ダイヤモンド 2004(3/27),2004 年。
(*)(参考：P.ブラウン/出村和彦訳『アウグスティヌス伝(上下)』教文館,2004 年。)」
(*)(参考：金子晴男『アウグスティヌスとその時代』知泉書院,2004 年。)
(*)(参考：H.チャドウィック/金子晴男訳『アウグスティヌス』教文館,2004 年。)
(*)(参考：宮谷宣史『アウグスティヌス』講談社学術文庫,講談社,2004 年。)
(*)(参考：松田健三郎「「外」ということ：アウグスティヌスとレヴィナスの場合(第 2 部会)(特集 第 62 回学術大会紀要)」宗教研究 77(4),2004 年。)
(*)(参考：米山基「トマス・アクィナスにおける良知 synderesis の新プラトン主義的解釈」早稲田大学大学院文学研究科紀要第 1 分冊 50,2004 年。)
(*)(参考：藤本温「媒体における形象と『原因論』---十三世紀スコラ哲学における知覚論」新プラトン主義 3,2004 年。)
(*)川村信三「十六世紀における教父思想復興の一事例：キュリロス再興を手がけたカニジウスのケースを考える」カトリック研究 73,2004 年。
(*)(参考：八木雄二『「ただ一人」生きる思想：ヨーロッパ思想の源流から』ちくま新書

503,筑摩書房,2004 年。)
(*)(参考：池上俊一『平成 15 年度 国際交流助成成果報告 中世史研究の現代性をめぐる学術交流』財団法人福武学術文化振興財団歴史学・地理学助成報告書 2004 年度,2004 年。
(*)(参考：井上順理・工藤真澄・和田隆筆記『西洋中世倫理：修道院と神秘主義：西晋一郎先生講義』木南卓一,2004 年。)
(*)(参考：三枝充悳『比較思想論』三枝充悳著作集 7,8 巻(初版),法蔵館,2004 年。)
(*)(参考：松田毅「いまなぜライプニッツの認識論を論じるのか?--『ライプニッツの認識論』によせて」創文 461,2004 年。)
(*)(参考：ルチャーノ・デ・クレシェンツォ/谷口伊兵衛,G.ピアッザ訳『クサヌスからガリレイまで』物語近代哲学史 1,而立書房,2004 年。)
(*)(参考：山田弘明「哲学の正統としてのクザーヌス--『クザーヌスと近世哲学』を読んで」創文 461,2004 年。)
(*)(参考：師尾晶子「前 5 世紀アッティカ碑文の成立年代決定法に関する検討」西洋古典學研究 52,2004 年。)
(*)(参考：関隆志「第 16 回国際古典考古学会議 XVI に出席して」西洋古典學研究 52,2004 年。)
(*)(参考：木田元「ハイデガー拾い読み(7)プラトンと哲学の発足」大航海 49,2004 年。)
(*)(参考：木田元「ハイデガー拾い読み(8)「世界内存在」再考」大航海 50,2004 年。)
(*)(参考：木田元「ハイデガー拾い読み(9)専門的常識の誤り」大航海 51,2004 年。)
(*)(参考：木田元「ハイデガー拾い読み(最終回)プラトンとアリストテレス、キルケゴールとニーチェ」大航海 52,2004 年。)
(*)木田元「シリーズ 未来へ 木田元[哲学者]考える力感じる力」第三文明 533,2004 年。
(*)(参考：上野正二「K・ヒルティ『幸福論』における労働と休息」大分県立芸術文化短期大学研究紀要 42,2004 年。)
(*)(参考：津田徹「ギルバート・ハイイットの教育方法理論：ある古典学者による実践的教育方法理論の可能性」教育科学研究年報 30,2004 年。)
(*)(参考：道家弘一郎「マシュウー・アーノルドの宗教論--『聖パウロとプロテスタンティズム』について」聖心女子大学論叢 103,2004 年。）
(*)(参考：疋田隆康「古典学と「ケルト」の表象」洛北史学 6,2004 年。)
(*)(参考：横山義志「劇評 非アリストテレス的ギリシア悲劇の可能性について—デルフィ演劇祭報告」未来 456,2004 年。)
(*)(参考：鈴木忠志演出『トロイアの女』NTSC ビデオレコード,Theather Goers collection,カズモ(発売),2004 年。)
(*)(参考：ソフォクレス/山形治江訳『オイディプス王』劇書房,構想社(発売),2004 年。)
(*)(参考：百瀬春生「雅楽・ギリシア悲劇・能楽とトランスの謎」地中海歴史風土研究誌 20,2004 年。)
(*)(参考：辻成史「瞥見ポスト・イメージ論の美術史学」大手前大学人文科学部論集 5,2004 年。)
(*)(参考：武田恒夫・辻成史・松村昌家編『視覚芸術の比較文化』大手前大学比較文化研究叢書 2,思文閣出版,2004 年。)

(*)(参考：原口貞吉『福音を伝えた道：聖書歴史地図』詳細版,ナザレ出版,2004 年。)
(*)(参考：周藤芳幸『物語古代ギリシア人の歴史：ユートピア史観を問い直す』光文社新書 160,光文社,2004 年。)
(*)(参考：中井義明『古代ギリシア史における帝国と都市』立命館大学,博士(文学),乙第 366 号,2004 年。)
(*)(参考：ヘロドトス原著/青木巌訳著『「歴史」物語』教養ワイドコレクション 19,文元社,紀伊國屋書店(発売),2004 年。)
(*)(参考：ポリュビオス著/竹島俊之訳『世界史』龍溪書舎,2004 年。)
(*)(参考：伊藤貞夫「ギリシア史研究の近況瞥見」史學雜誌 113(5),2004 年。)
(*)(参考：森田純司「ペルシア支配下のイオニア」文化史学 60,2004 年。)
(*)(参考：キャサリン・モーガン「富溢るコリントス」再考」クリオ=Clio18,2004 年。)
(*)(参考：Berlioz『Les Troyens』ビデオレコード,Opus Atre,2004 年。)
(*)(参考：ウォルフガング・ペーゼン監督・製作/デイビッド・ベニオフ脚本『トロイ』ビデオレコード,ワーナー・ホーム・ビデオ(発売),2004 年。)
(*)(参考：Paul Sheehan/小河恵理訳「ブラッド・ピット・インタビュー(巻頭特集「トロイ」)キネマ旬報 1406,2004 年。)
(*)(参考：Paul Sheehan/小河恵理訳「メイキング・オブ「トロイ」(巻頭特集「トロイ」)キネマ旬報 1406,2004 年。)
(*)(参考：馬場喜敬「トロヤ戦争からイラク戦争まで：戦争の哲学?(2003 年第 16 回全国大会シンポジウム戦争の哲学)」ショーペンハウアー研究 9,2004 年。)
(*)(参考：ジョバンニ・ボッカッヨ/岡三郎訳・解説『フィローストラト』トロイア叢書3,国文社,2004年。)
(*)(参考：的皮泰宣「宇宙よもやま話 マラトンの戦いの日付に新説」世界週報 85(31),2004 年。)
(*)(参考：De Galtert Castellione/瀬谷幸男訳「中世ラテン叙事詩「アレクサンドロス大王の歌」北里大学一般教育紀要 9,2004 年。)
(*)(参考：小山茂徳樹「中東の物語—民族・歴史・宗教 7.ギリシア戦争 8.アレクサンドロス大王—光と影」天然ガス 47(6),2004 年。)
(*)(参考：バーサ・ボース/鈴木主税・東郷えりか訳『アレクサンドロス大王：その戦略と戦術』ホーム社,集英社(発売),2004 年。)
(*)(参考:有坂純「アレクサンドロスのペルシア最終決戦ガウガメラの戦い」歴史群像 13(3),2004 年.)
(*)(参考：有坂純「大王の遺産をめぐる仮借なき「後継者戦争（ディアドコイ）」アレクサンドロスを継ぐ者は誰か」歴史群像 13(6),2004 年。)
(*)(参考：合阪學「アレクサンドロス以後(前 323-281 年)」宝塚造形芸術大学紀要 17,2004 年。)
(*)(参考：テオ・アンゲロプロス監督・脚本,ヨルゴス・トリアンダフィルー編集,ニコス・アンゲロプロス製作『アレクサンダー大王』IMAGICA(発売)；紀伊国屋書店(発売),2004 年。)
(*)(参考：テオ・アンゲロプロス/池澤夏樹字幕『テオ・アンゲロプロスシナリオ全集』(池澤夏樹採録「アレクサンダー大王」/桜井美奈採録「ユリシーズの瞳」)愛育社,2004 年。)

(*)(参考：佐藤賢一『剣闘士スパルタクス』中央公論新社,2004 年(→2007 年,中公文庫版)。)
(*)(参考：リドリー・スコット監督/ダグラス・ウイック,デイヴィッド・フランゾーニ,フランコ・ラスティン製作,デイヴィッド・フランゾーニ,ジョン・ローガン・ウィリアム・ニコルソン脚本『グラディエーター』ビデオレコード,ユニバーサル・ピクチャーズ・ジャパン,2004 年。
(*)(参考：アエリウス・スパルティアヌス/南川高志訳『ローマ皇帝群像(4 巻)』西洋古典叢書,京都大学学術出版会,2004-2014 年。)
(*)(参考：藤澤道雄『皇帝ハドリアヌスから画家カラヴァッジョまで』中公新書,中央公論社,2004 年。)
(*)(参考：市川雅俊「ハドリアヌスの長城とアントニヌスの長城との間で：再考」国士舘大学教養論集 55,2004 年。)
(*)(参考：桑山由文「2 世紀ローマ帝国の東方支配」西洋古代史研究 4,2004 年。)
(*)(参考：島田誠「ドムス・アウグスタと成立期ローマ帝政」西洋史研究 33,2004 年。)
(*)(参考：鷲田小彌太『ローマ人の処世術：人生の苦しみに負けない言葉』PHPエディターズ・グループ,PHP研究所(発売),2004年。)
(*)(参考：長谷川岳男「表象の帝国--「ローマ理念」のルーツ(2004 年度歴史学研究会大会報告 グローバル権力としての「帝国」」)―(合同部会「ローマ」概念の 2000 年)」歴史学研究 794,2004 年。)
(*)(参考：塩野七生「書想倶楽部 オールラウンドプレーヤーの不在と戦争しか知らない軍人皇帝が,ローマの衰亡をもたらした『ローマ人の物語(12)迷走する帝国』」サピオ 16(6),2004 年。)
(*)(参考：塩野七生「特別ロングインタビュー日本の危機と世界の対立 塩野七生―改革が衰退に結びつくとき--「寛容」を捨てたローマ帝国は滅亡へと坂道を転がっていった。『ローマ人の物語』の著者が語る危機予感」現代 39(3),2004 年。)
(*)井尻千男「BOOKS STREET ベストセラー最前線 多神教のローマ衰亡論 塩野七生著『ローマ人の物語(12)迷走する帝国』」Voice 315,2004 年。
(*)(参考：エドワード・ギボン著/吉村忠典・後藤篤子訳『図説ローマ帝国衰亡史』東京書籍,2004 年。)
(*)(参考：金森誠也監修『30 ポイントで読み解く「ローマ帝国衰亡史」：E.ギボンの歴史的名著が手にとるようにわかる』PHP 文庫,PHP 研究所,2004 年。)
(*)(参考：甚野尚志・堀越宏一編『中世ヨーロッパを生きる』東京大学出版会,2004年。)
(*)(参考：エミール・ルートヴィッヒ/北澤真木訳『ナポレオン：英雄の野望と苦悩』講談社学術文庫,講談社,2004 年。)
(*)(参考：ナポレオン著/アンドレ・マルロー編/小宮正弘訳『ナポレオン自伝』朝日新聞社,2004 年。)
(*)(参考：ロジェ・デュフレス/安達正勝訳『ナポレオンの生涯』文庫クセジュ,白水社,2004 年。)
(*)「文献目録：西洋史 1」史學雑誌 113(1),2004 年。
(*)「史学文献目録：西洋史 2」史學雑誌 113(5),2004 年。
(*)常木晃「古代オリエント一(2003 年の歴史学界―回顧と展望)」史學雑誌 113(5),2004 年。
(*)徳永里砂「古代オリエント二(西アジア・北アフリカ,2003 年の歴史学界―回顧と展望)」

史學雑誌 113(5),2004 年。
(*)守川知子「イスラム時代(西アジア・北アフリカ,2003 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 113(5),2004 年。
(*)山辺規子「西欧(中世ヨーロッパ)(2003 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 113(5),2004 年。
(*)野々瀬浩司「ドイツ・スイス・ネーデルランド(近代,ヨーロッパ) (2003 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 113(5),2004 年。
(*)松園伸「一般(近代ヨーロッパ) (2003 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 113(5),2004 年。
(*)佐々木真「フランス(近代ヨーロッパ)(2003 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 113(5),2004 年。
(*)菊川麻里「南欧(近代ヨーロッパ)(2003 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 113(5),2004 年。
(*)田村孝「ギリシア(古代)(ヨーロッパ)(2003 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 113(5),2004 年。
(*)島田誠「ローマ(古代)(ヨーロッパ)(2003 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 113(5),2004 年。
(*)毛利晶「吉村忠典著『古代ローマ帝国の研究』岩波書店,2003」史學雑誌 113(8),2004 年。
(*)「文献目録：西洋史 3」史學雑誌 113(9),2004 年。
(*)長谷川岳男「書評 南川高志『海のかなたのローマ帝国—古代ローマとブリテン島』」史學雑誌 113(10),2004 年。
(*)(參考：岡田泰介「前三~二世紀クレタ諸市の領域的展開と海賊活動(西洋史部会,第 102 回史学会大会報告)」史學雑誌 113(12),2004 年。)
(*)(參考 : 大清水裕「ディオクレティアヌス帝治世の curator rei publica とアフリカ都市(西洋史部会,第 102 回史学大会報告)」史學雑誌 113(12),2004 年。)
(*)北田葉子「高橋友子著『路地裏のルネサンス』中公新書 1730,中央公論新社,2004」史學雑誌 113(12),2004 年。
(*)(參考 : 伊藤成彦「ローザ・ルクセンブルクの「古代奴隷制論」」社会主義 505,2004 年。)
(*)(參考：佐藤彰一『歴史書を読む--『歴史十書』のテクスト科学』山川出版社,2004 年。)
(*)(參考：藤井美男・田北廣道編『ヨーロッパ中世世界の動態線：史料と理論の対話：森本芳樹先生古稀記念論集』九州大学出版会,2004 年。)
(*)(參考：益田朋幸『ビザンティン』世界歴史の旅,山川出版社,2004 年。)
(*)(參考：亀井高孝『標準世界史年表』41 版,吉川弘文館,2004 年。)
(*)(參考：宮城美穂「ビザンツ帝国の対十字軍政策—ニケタソ・ユニアテスの『歴史』より西洋史学 213,2004 年。)
(*)(參考：玉井暲・仙葉豊編『病と身体の英米文学』(武内正美「リリバットの国家身体：『ガリバー旅行記』における古代近代論争」)阪大英文学叢書 1,英宝社,2004 年。)
(*)笠井昌昭『日本史学史講義』協和書房,2004 年。
(*)村松晋「近代日本の歴史意識をめぐる一考察—三谷隆正を事例として」東京家政学院筑波女子大学紀要 8,2004 年。
(*)成田龍一「歴史と文学のために(2)史学史の孤独」図書 665,2004 年。

(*)岡田希雄『岡田希雄集』(百合若)説話文学研究叢書 7,クレス出版,2004 年。
(*)河村望『百合若大臣と猫の王』人間の科学新社,2004 年。
(*)たかしよいち文・太田大八絵『百合若大臣』日本の物語絵本 9,ポプラ社, 2004 年。
(*)神山重彦「『ボーディサットヴァ・アヴァダーナ・カルパラター』第 66-67 章への補注」(百合若大臣)人間文化：愛知学院大学人間文化研究所紀要 19,2004 年。
(*)北村行伸「書評 『イソップ寓話集』イソップ著,山本光雄訳,岩波文庫」週刊ダイヤモンド 9/24,2004 年。
(*)すがわらけいこ「ライオンとねずみ―イソップ童話より(めいさくしかけ)」ほっぺ 2,2004 年。
(*)いわきたかし著/ほてはまたかし画『いそっぷ童話集』童話屋,2004 年。
(*)(参考 : Nakagaki Koĵiro ; [komentaris:Aikawa Setuko]『50 fabloj de Ezopo(エスペラント版「イソップ 50 話」』Japana Esperanta Libro-kooperativo Nova reviziita eldono,2004 年。)
(*)グリム,イソップ原作/北川幸比古,鬼塚りつ子責任編集『グリム・イソップ童話集：名作 20 話』心に残るロングセラー,世界文化社,2004 年。
(*)寺谷純一郎『ようこそ,イソップ村へ』文芸社,2004 年。
(*)林房雄『都会双曲線』(「新イソップ物語」)新・プロレタリア文学精選集 9,ゆまに書房,2004 年。
(*)安部公房『水中都市；デンドロカカリヤ』(「イソップの裁判」)新潮文庫,新潮社,2004 年。
(*)内田慶市「『遐邇貫珍』にみえるイソップ物語」(松浦章・内田慶市・沈国威編『『遐邇貫珍』の研究』所収,関西大学出版部,2004 年。)
(*)(参考：森井正史「イソップ寓話の変容：ラ・フォンテーヌの『蝉と蟻』について」京都光華女子大学研究紀要 42,2004 年。
(*)須永和之「海外リポート イソップから e-book へ：第 33 回 IASL 年次大会報告」学校図書館 647,2004 年。
(*)(参考：森井正史「イソップ寓話の変容：ラ・フォンテーヌの「蝉と蟻」について」京都光華女子大学研究紀要 42,2004 年。)
(*)(参考:安藤忠志「イソップを詠うドライデン(1)(2)」帝塚山大学人文科学部紀要 14,15,2004 年。)
(*)北村行伸「書評 『イソップ寓話集』イソップ(著)山本光雄(訳)岩波文庫」週刊ダイヤモンド 2004(9/25),2004 年。)
(*)植西聰『イソップに隠された人間関係の成功法則』PHP エル新書,PHP 研究所,2004 年。
(*)三宅中子「無常と不確実性：吉田兼好とモンテーニュ」人文 3,2004 年。
(*)桜井万里子「論点開示 古代史研究と社会的有用性([西洋史研究会]2003 年度大会共通論題報告「歴史家の仕事」--小田中直樹著『歴史学のアポリア』をもとに)」西洋史研究(33)(60),2004 年。
(*)(参考：角田幸彦「哲学者セネカの悲劇作品の意識―ギリシア悲劇と対比させて」明治大学人文科学研究所紀要 55,2004 年。)
(*)(参考：高田康成「書評(6)ペトラルキスタ近藤恒一の仕事」UP 33(6),2004 年。)
(*)根占献一「イタリア・ルネサンスと日本間の文化交流」学習院女子大学紀要 6,2004 年。
(*)(参考：J.ヴェルジェ/野口洋二訳『ヨーッパ中世末期の学識者』創文社,2004 年。)

(*)(参考：中西由紀子「「謡曲」鑑賞法の構築(下)文芸復興期におけるヒューマニズムと古典美」九大日文 4,2004 年。)
(*)(参考：澤井繁男「カンパネッラの旅—数年ぶりの帰郷(上中下)」春秋 458,459,461,2004 年。)
(*)(参考：澤井繁男「カンパネッラの旅—革命に向けて (上中下)」春秋 463,465,2004 年/467,2005 年。)
(*)(参考：エティエンヌ・バリリエ/桂芳樹訳『蒼穹のかなたに：ポコ・デラ・ミランドラとレネサンスの物語』岩間に書店,2004 年。)
(*)(参考：ダンテ/野上素一訳『神曲物語』教養ワイドコレクション,文元社,紀伊國屋書店(発売)「現代教養文庫」,2004 年。)
(*)(参考：小林利延「「ボッティチェッリの描く《ダンテ神曲》挿絵によるファンタジア」第 14 番」文星紀要 16,2004 年。)
(*)島村ヨハネ「ダンテの、神曲の伊藤さん(イタリア書房創業者 追悼・伊藤基道)」イタリア図書 29,2004 年。
(*)(参考：平川祐弘「ダンテ『神曲』の地獄(特集「地獄を考える」)」大法輪 71(8),2004 年。)
(*)(参考：町田市立国際版画美術館編『ダンテ『神曲』の旅—描かれた地獄・煉獄・天国』町田市立国際版画美術館,2004 年。)
(*)(参考：今道友信『ダンテ「神曲」講義』改訂普及版,みすず書房,2004 年。)
(*)(参考：大岡玲「河辺のダンテ」図書 662,2004 年。)
(*)(参考：エラスムス/大出晁訳『痴愚礼讃』慶應義塾大学出版会,2004 年。)
(*)(参考：木ノ脇悦郎『エラスムスの思想的境地』関西学院大学出版会,2004 年。)
(*)(参考：比留間亮平「「キリスト教人文主義」再考—エラスムス『キリスト教的寡婦論』に関する試論」東京大学宗教学年報 22,2004 年。)
(*)(参考：野々村淑子「近代初期英国の身体観と母親像の展開—エラスムス『新しい母』英訳版を中心に」教育基礎学研究 2,2004 年。)
(*)(参考：柳沼正弘「エラスムスの古典研究擁護におけるヒエロニュムスとアウグスティヌスの引用について：『反蛮族論』Antibarbarorum liber から(藤村潤一郎教授退任記念号)」創価大学人文論集 16,2004 年。)
(*)(参考：柳沼正弘「エラスムスの聖職者批判(1)聖職者エラスムス」東洋哲学研究所紀要 20,2004 年。)
(*)(参考：ペトラルカ/池田廉訳『凱旋』名古屋大学出版会,2004 年。)
(*)(参考：浦一章「ペトラルカ生誕 700 周年に寄せて」UP33(3),2004 年。)
(*)(参考：高田康成「書評(6)ペトラルキスタ近藤恒一の仕事」UP33(7)),2004 年。)
(*)(参考：根岸愛子「サー・フィリップ・シドニーの『アストロフェルとステラ』におけるパトラルカの影響」文化女子大学紀要・人文社会科学研究 12,2004 年。)
(*)(参考：アビ・ヴァールブルク/進藤英樹訳『異教的ルネサンス』ちくま学芸文庫,2004 年。)
(*)(参考：アビ・ヴァールブルク/上村清雄・岡田温司訳『フィレンツェ市民文化における古代世界』ありな書房,2004 年。)
(*)(参考：林久博『ドイツ教養小説研究：ゲーテからトーマス・マンまで』名古屋大学,博士(文学),甲第 6050 号,2004 年。)
(*)(参考：北原博『ゲーテと秘密結社：ヨーロッパ精神史のもうひとつの視点』大阪市立大学,博士(文学),乙第 2283 号,2004 年。)

(*)(参考：Salvatore Settis/芳賀京子訳「ラオコーンの変容」美術史論叢 20,2004 年。)
(*)(参考：今村武「様式概念としてのシュトルウム・ウント・ドランク」研究紀要 39,2004 年。)
(*)(参考：今村武「文学史概念としてのシュトルウム・ウント・ドランク(1,2)」東京理科大学紀要,教養篇 37,2004 年/38,2005 年。)
(*)(参考：今村武「疾風怒濤のジョン・ジョヴァンニ(木村直司名誉教授古稀記念号)」上智大学ドイツ文学論集 41,2004 年。)
(*)(参考：賀来洋子「海外レポート ENO 新シーズンは感動的「トロイ人」と暴力的「ドン・ジョヴァンニ」で開幕,他—イギリス通信」音楽現代 34(12),2004 年。)
(*)(参考：尾田一正「初期フリードリヒ・シュレーゲルのギリシア文学論—Studium—Aufsatz を中心に」帝京大学外国語外国文学論集 11,2004 年。)
(*)(参考：青木敦子“Die Wirkung der＞gotischen Vermischung＜in Schillers Kabate und Liebe”, 研究年報 51,2004 年。)
(*)(参考：松山雄三「シラーの美的人間形成論について：『人間の美的教育について—一連の書簡』を中心に」東北薬科大学一般教育関係論集 17,2004 年。)
(*)(参考：ブルクハルト/瀧内槇雄訳『チチェローネ：イタリア美術作品享受の案内』(建築篇・絵画篇）中央公論美術出版,2004 年。)
(*)(参考：岡田紀子『ニーチェ私論：道化,詩人と自称した哲学者』《思想・多島海》シリーズ、法政大学出版局,2004 年。)
(*)(参考：溝口隆一「ニーチェ晩年の著作における「逆転したプラトニズム」の意義」アルケー12,2004 年。)
(*)(参考：本郷朝香『ニーチェ思想における「力」概念の考察』お茶の水女子大学,博士(人文科学),甲第 328 号,2004 年。)
(*)(参考：榎田達美「F.D.E.シュライエルマッヘルの生涯と初期思想形成(1-5)」神戸女子大学文学部紀要 37,2004 年/38,2005 年/39,2006 年/40,2007 年/41,2008 年。)
(*)(参考：小泉進「レッシング『ラオコーン』における自然模倣と想像力(木村直司名誉教授古稀記念号)」上智大学ドイツ文学論集 41,2004 年。)
(*)(参考：久住崇「ディオニュソス・ザグレウス：『悲劇の誕生』における密儀理論」Stufe 24,2004 年。)
(*)(参考：新町貴司「アルフレート・ボイムラーの「ディオニュソス」概念について」(筑波大学文藝・言語学系)文藝言語研究 文藝篇 45,2004 年。)
(*)(参考:田野武夫『ヘルダーリーンにおける自然概念の変遷』九州大学,博士(文学),甲第6662号,2004年。)
(*)(参考：平野七濤「「さすらい」について：ヘルダーリンにおけるギリシャと故郷」上越教育大学研究紀要 24(1),2004 年。)
(*)(参考：小磯仁『ヘルダーリン愛の肖像：ディオーティマ書簡』岩波書店,2004 年。)
(*)(参考：関根裕子「ホーフマンスタール『エレクトラ』の日本初演をめぐる諸事情—松居松葉のホーフマンスタール宛未発表書簡の翻訳紹介」演劇研究センター紀要 II,早稲田大学 21 世紀 COE プログラム 2,2004 年。)
(*)(参考：加島康彦『シェイクスピアとセネカ—非劇作品におけるセネカ的手法』(広島)安田女子大学言語文化研究所,2004 年。)

(*)(参考：百瀬泉監修『シェイクスピアは世界をめぐる—各国における出会いと再創造』中央大學出版部,2004 年。)
(*)(参考：川戸道昭『明治のシェイクスピア』大空社[ナダ出版センター：共同刊行],2004 年。)
(*)(参考：ショーン・マッケヴォイ/太田一昭・古屋靖二・村里好俊訳『二歩進んだシェイクスピア講義』大阪教育図書,2004 年。)
(*)(参考：村上征勝『シェークスピアは誰ですか?—計量文献学の世界』文藝春秋,2004 年。)
(*)(参考：谷川二郎「『ヴィーナスとアドニス』試論」文学部論叢 83,2004 年。)
(*)(参考：大久保建治「シェイクスピアとホメロスをめぐる十二章」大妻比較文化：大妻女子大学比較文化学部紀要 5,2004 年。)
(*)(参考：堀田三郎「Wallace Stevens の“The Snow Man”(『雪のひと』)とプラトニズム」Aurora 8,2004 年。)
(*)(参考：桑島秀樹「W/ホガース優美論にみる感覚主義あるいは〈悪〉の美学—ヴィーナス・蛇・風景式庭園」心の危機と臨床の知 5,2004 年。)
(*)(参考：加藤芳子「シェリーとその周辺 II」文化と言語：札幌大学外国語学部紀要 61,2004 年。)
(*)(参考：上村盛人「ウォルター・ペイターの審美主義(5)『エピクロス主義者マリウス』」滋賀県立大学国際教育センター研究紀要 9,2004 年。)
(*)(参考：布施伸之「ウォルター・ペイターと『キリストにならいて』について(1)」信州豊南短期大学紀要 21,2004 年。)
(*)(参考：高谷修「ドライデンのホラーティウス翻訳—Episode2 の場合」英文学評論 76,2004 年。)
(*)(参考：友常勉「理論 神々の掟と人間のお掟—ジュディス・バトラー『アンティゴネーの主張』の読みをとおして〈対幻想〉を考える(特集 家族とは何か)」現代思想 32(1),2004 年。)
(*)(参考：土屋靖明「ベルグソンにおけるネオ・プラトニズム—美の(形)相と直観」新プラトン主義研究 3,2004 年。)
(*)(参考：モンテーニュ/関根秀雄訳『随想録』[紀伊國屋書店・発売,現代教養文庫 1968 年刊を底本の OD 版]教養ワイドコレクション,文芸社,2004 年。)
(*)(参考：吉村葉子『わが子を勝ち組にする「ラ・フォンテーヌの童話」』講談社,2004 年。)
(*)(参考：西部由里子「ペギーとアンティゴネー：『政治社会評論』を中心に」現代思想 32(10),2004 年。)
(*)(参考：アルマン・ニヴェル/神林恒道訳『啓蒙主義の美学：ミメーシスからポイエーシスへ』晃洋書房,2004 年、)
(*)(参考：屋敷紘一「ホメロスのにおける論議と卜占(ボクセン)--『イーリアス』第二歌 1-483 の分析」東京国際大学論叢：人間社会学部編 10,2004 年。)
(*)(参考：田中利光訳「ホメロス『イリアス』第十二歌」北星学園大学文学部北星論集 41,2004 年。)
(*)(参考：川島重成「土曜自由大学ホメーロスの叙事詩『オデュッセイア』への招待」清泉文苑 21,2004 年。)
(*)(参考：川島重成『アポロンの光と闇のもとに—ギリシア悲劇『オイディプス王』解釈』三陸書房,2004 年。)

(*)(参考：Berlioz『Les Troyens』Opus Artes,2004 年。)
(*)(参考：鈴木忠志演出『トロイアの女』カズモ,Theater Goers' collection,NTSC ビデオレコード,2004 年。)
(*)百瀬春生「雅楽・ギリシア悲劇・能楽とトランスの謎」地中海歴史風土研究誌 20,2004 年。
(*)横山義志「劇評 非アリストテレス的ギリシア悲劇の可能性について—デルフィ演劇祭報告」未来 456,2004 年。
(*)(参考：江藤裕之「『ヴェニスに死す』の「死」の意味：ニーチェ悲劇論からの解釈」長野県看護大学紀要 6,2004 年。)
(*)(参考：北見愉「ディオニュソスと認識：ヴャチェスラフ・イワノフのニーチェ批判」神戸外大論叢 55(6),2004 年。)
(*)三浦節夫「井上円了と世界」井上円了センター年報 13,2004 年。
(*)三浦節夫「井上円了と著述---井上円了略年譜/井上円了著述目録/『井上円了選集』目次」井上円了センター年報 13,2004 年。
(*)柴田隆行「日本の哲学教育史(下の 2)」井上円了センター年報 13,2004 年。
(*)藤田正勝「日本における西洋哲学の受容—清沢満之と大西祝」現代と親鸞 6,2004 年。
(*)藤田正勝「日本における西洋哲学の受容と清沢満之」親鸞教学 82・83,2004 年。
(*)角田玲子「清沢満之の思想的発環」印度學佛教學研究 52(2),2004 年。
(*)多井一雄「清沢満之と西洋精神」人文社会紀要 22(1),2004 年。
(*)みすず書房編集部編『神谷美恵子の世界』みすず書房,2004 年。
(*)(参考：ダン・ブラウン/越前敏弥訳『ダ・ヴィンチ・コード(上下)』(ウィトルーウィウス)角川書店,2004 年(→2006 年,[上中下]角川文庫)。)
(*)「地中海研究所活動報告」地中海研究所紀要 2,2004 年。
(*)(参考：末松智「146 古代ギリシア建造物の復元画制作(セッション 42 教育システム B(実技)M)」工学・工業教育研究講演会講演論文集 2004,2004 年。)
(*)(参考：野中真美「メディチ家のヴィラの庭園—pojjio＝ア＝カイアノー」埼玉女子短期大学研究紀要 15,2004 年。)
(*)(参考：吉武隆一・林田義一・伊藤重剛「メッセネ,アスクレピオス神域のストアの遺構の概要」」日本建築学会計画系論文集 69(576),2004 年。)
(*)(参考：吉武隆一・林田義一・伊藤重剛「ギリシア古代都市のメッセネのアスクレピオス神域におけるストアの研究：オーダー及び小屋組の復原」日本建築学会計画系論文集 69(585),2004 年。)
(*)(参考：米岡大志・伊藤重剛・林田義伸・吉武隆一「地中海古代都の研究(113)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 43,2004 年。)
(*)(参考：廣岡奈津子・伊藤重剛・林田義伸・吉武隆一「地中海古代都の研究(114)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 43,2004 年。)
(*)(参考：西村確・伊藤重剛・林田義伸・吉武隆一「地中海古代都の研究(115)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 43,2004 年。)
(*)(参考：中村重陽・伊藤重剛・林田義伸・吉武隆一「地中海古代都の研究(116)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 43,2004 年。)
(*)(参考：ジョン・オナイアンズ/河辺泰宏他訳『建築オーダーの意味：古代・中世・ルネサンスの古典オーダー』(ウィトルーウィウス)

中央公論美術出版,2004 年。)
(*)(参考：加嶋章博「「フェリーペ 2 世の勅令」とウィトルーウィウスの『建築十書』における都市計画理念の相違」都市計画・別冊,都市計画論文集 39,2004 年。)
(*)(参考：加嶋章博「9056 フェリーペ 2 世の勅令とウィトルウィウス建築書の比較：スペイン・ルネサンス期の都市計画規範に関する研究(建築史・建築意匠・建築論)」日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系 44,2004 年。
(*)(参考：齋藤理「9032F.A.シュテューラーによるポンペイ様式の受容について：19 世紀建築のポリクロミーに関する研究(10)(建築史・建築意匠・建築論)」日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系 44,2004 年。)
(*)(参考：飛ケ谷潤一郎『15 世紀末から 16 世紀初頭期のローマにおける古代建築の解釈に関する研究：ウィトルウィスの三原則と誤解の系譜を中心に』東京大学,博士(工学),甲第 18927 号,2004 年。)
(*)(参考：飛ケ谷潤一郎「ルネサンスにおけるアッティカ式の解釈について：ラファエロと 5 つのオーダー」日本建築学会計画系論文集 581,2004 年。)
(*)(参考：飛ケ谷潤一郎「『チェザリアーノ版ウィトルウィウス』について—ロヴェッタ校注最新版の紹介を中心に」建築史学 42,2004 年。)
(*)(参考：飛ヶ谷潤一郎「ルネサンスにおけるエトルリア神殿の解釈の変遷—アルベルティからバルバロまで」建築史学 42,2004 年。)
(*)(参考：飛ヶ谷潤一郎「「プレベダーリの版画」に見るエトルリア神殿の廃墟：ブラマンテによる集中式平面の展開と古代建築の解釈について」日本建築学会計画系論文集 6)(578),2004 年。)
(*)(参考：下川勇「ヴィンチェンツォ・スカモッツィにおけるウィトルウィウスの教義の受容について」日本建築学会北陸支部研究報告集 47,2004 年。)
(*)(参考:吉田繁「世界の巨樹 古代文明を支えた巨樹—レバノン」グリーン・パワー306,2004 年。)
(*)(参考：鈴木博之「西洋建築史という神話」建築雑誌 119(1514),2004 年。)
(*)(参考：日高健一郎「西洋建築史小委員会から」建築雑誌 119(1514),2004 年。)
(*)(参考：五島利兵衛「無理数とグリッド・シンメトリーに関する研究：西洋建築史研究」(パルテノン)大同工業大学紀要 39,2004 年。)
(*)(参考：湯浅赳男『文明の中の水：人類最大の資源をめぐる一万年史』新評論,2004 年。)
(*)(参考：金山弘昌「太陽神の宮殿(レギア・ソリス)ベルニーニによるルーヴル宮第 1 計画案の着想源と象徴的意味内容」紀要 3,2004 年。)
(*)(参考：和田俊司・小嶋真理子「古代文明を支えたレバノンスギと近縁種の特技と森の現況—西ヒマラヤより東地中海,北アフリカまで」共立女子大学家政学部紀要 50,2004 年。)
(*)(参考：竹内敬二「環境の話題 トロイ戦争は森林の争奪戦か—神話と歴史と映画の間」(森林文化協会)グリーン・パワー308,2004 年。)
(*)古庄美穂子「世界の専門店 こんな店 あんな店(83)ローマ時代からの伝統を持つ昔ながらの手作り宝飾品カメオ工房—カメオ専門店『ドナディオ』エルコラーノ/伊」専門店 644,2004 年。)
(*)鳥井裕美子「本木良永による「限象観星鏡図」と幕府天文方の測器」洋学13,2004年。
(*)(参考：リズ・グリーン/鏡リュウジ訳『サターン土星の心理占星学』青土社,2004 年。)

(*)(参考：渡辺純正「満州語のユークリッド—東洋文庫所蔵の満文『算法原本』について」満族史研究 3,2004 年。)
(*)(参考：マルコム・E.ラインズ/青木薫訳『物理と数学の不思議な関係：遠くて近い二つの「科学」』ハヤカワ文庫,早川書房,2004 年。)
(*)(参考：池内了「魔術思想と近代科学(特集 円熟の読書生活)—(『磁力と重力の発見』はこう読む)」文學界 58(6),2004 年。)
(*)西條敏美「鬼塚史朗『近代科学の足跡をたどる—ニュートン力学の確立過程を概観する』東京図書出版会」科学史研究[第 II 期]43(232),2004 年。)
(*)(参考：アレクサンダー・ロープ/Kosaka Masayuki 訳『錬金術と神秘主義：ヘルメス学の博物館』タッシェン・クロッツ・シリーズ,タッシェン・ジャパン,2004 年。)
(*)(参考：パラケルスス/大槻真一郎・澤元亙訳『奇蹟の医の書：医学の四つの記棹「哲学・天文学・錬金術・医師倫理」の構想』工作舎,2004 年。)
(*)(参考：小林剛「仮説と不可滅性トマス・アクイナスの天体論」哲学 55,2004 年。)
(*)(参考：小林剛「アルベルトゥス・マグヌスの視覚論」中世哲学研究:Veritas23,2004 年。)
(*)(参考：早瀬茂「地球にやさしいプラトン：プラトン後期思想における自然の価値の理論」古代哲学研究室紀要 13,2004 年。)
(*)(参考：角田幸彦「セネカの『自然研究』(‘Naturales Quaestiones’)について—ギリシアの自然哲学との対決をめぐって」明治大学教養論集 276,2004 年。)
(*)(参考：板倉聖宣『誕生・勝利・追放』仮説社,原子論の歴史,2004 年。)
(*)(参考：カレル・チャペック著/飯島周訳『こまった人たち：チャペック小品集』(「園芸家イソップ」)凡社ライブラリー538,平凡社,2004 年。)
(*)坂野徹「坪井正五郎と日本における人類学研究のはじまり」科学史研究第 II 期 43(229),2004 年。
(*)(参考：伊東俊太郎「アラブ文明圏の科学史と理科教育」科学史研究第 II 期 43(232),2004 年。)
(*)(参考：中嶋健一郎・斎藤憲・東條敏「HPSG を用いたユークリッド『原論』の解析」自然言語処理 11(1),2004 年。)
(*)(参考：齋藤憲「ピュタゴラスたちの真実—数学の証明を発明したのは誰か(5)数学にイデアを見たプラトン」日経サイエンス 34(9),2004 年。)
(*)(参考：山田俊弘「地球論におけるデカルト対ガッサンディ—特にステノとの関係を考慮して」哲学・科学史論叢 6,2004 年。)
(*)(参考：丹羽隆子研究代表『船に見る地中海文明史—ギリシアを中心に古代から現代まで』東京海洋大学,科学研究費補助金基礎研究(C)(2)研究成果報告書,平成 14-15 年度,2004 年。)
(*)(参考：古庄美穂子「世界の専門店拝見 こんな店・あんな店(83)ローマ時代からの伝統を持つ昔ながらの手作り宝飾品カメオ工芸—カメオ専門店『ドナディオ』エルコラーノ/伊」専門店 644,2004 年。)
(*)(参考：山下太郎「『アエネイス』第五巻の「トロイア競技祭」の意義について」西洋古典論集 20,2004 年。)
(*)(参考：桜井万里子・橋場弦編『古代オリンピック』岩波新書,岩波書店,2004 年。)
(*)阿部拓児「紹介桜井万里子・橋場弦編『古代オリンピック』」史林 87(4),2004 年。

(*)(参考：トニー・ベロテット/矢羽野薫訳『驚異の古代オリンピック』河出書房新社,2004年。)
(*)(参考：西川亮・後藤淳『オリンピックのルーツを訪ねて：古代ギリシアの競技大祭』協同出版,2004年。)
(*)(参考：結城和香子『オリンピック物語：古代ギリシャから現代まで』中公新書ラクレ135,中央公論新社,2004年。)
(*)(参考：楠見千鶴子『ギリシアの古代オリンピック』講談社,2004年。)
(*)(参考：中村敏雄『オリンピックの記憶と幻想』現代スポーツ評論10,創文企画,2004年。)
(*)(参考：ギリシャ文明研究会『オリンピックのルーツ』ギリシャ文明研究会,かんぽう(発売),2004年。)
(*)(参考：広畑成志『アテネからアテネへ：オリンピックの軌跡』本の泉社,2004年。)
(*)(参考：西村太良「ギリシアの文化政策 オリンピックと文化オリンピアード(特集 文化の力 交流の営み)」遠近1,2004年。)
(*)(参考:山形治江「ギリシャ EU統合とオリンピックの影響(特集 世界・日本の演劇は今?)」テアトロ755,2004年。)
(*)(参考:桑名令子「アテネ オリンピック(上)女人禁制からはじまった祭典の歴史」女性のひろば306,2004年。)
(*)(参考：「NEWTONSPECIAL オリンピックの前に—古代ギリシア科学誕生の地—科学のはじまりを探し神々の地を旅しよう」ニュートン24(9),2004年。)
(*)(参考:「アテネオリンピック 歴史的コースを再現」ナショナルジオグラフィック10(8),2004年.)
(*)(参考：塚田孝雄「古代ギリシャ・オリンピック選手の食(特集 オリンピックと食—アテネからアテネへ)」食文化誌ヴェスタ55,2004年。)
(*)(参考：『古代のオリンピックとは?:2500年前のアスリート』ビデオレコード,丸善,2004年(→2006年,バイリンガル版,丸善出版事業部映像メディア部。)
(*)(参考：岡本秀一「田舎生活雑記帖(5)アテネ・オリンピックなど」地中海歴史風土研究誌20,2004年。)
(*)(参考：今井辰巳「古代地中海世界における健康観・体育・スポーツ事象の潮流：古代エジプトから古代ギリシャ、オリンピアへの継承」上智大学体育37,2004年。)
(*)(参考：真田久「124D30103 古代アテネのトーチレース(Lampadedromia)に関する一考察(12.スポーツ人類学,一般研究発表)日本体育学会大会号55,2004年。)
(*)(参考：山田久扇子「世界百一話 ミューズに導かれたワイン「TAEMA」」世界週報85(20),2004年。)
(*)北村行伸「書評 『古い医術について 他八篇』ヒポクラテス(著)小川政恭(訳)岩波文庫」週刊ダイヤモンド2004(12/18),2004年。
(*)瀧澤利行「書籍紹介ジョン・ダフィー 網野豊訳『アメリカ医学の歴史 ヒポクラテスから医科学へ』John Duffy,From Humors to Medical Science A History of American Medicine」日本医史学雑誌50(2),2004年。
(*)(参考：Marketos Spyros“Hippocratic Medicine and Philosophy at the End of the 20th Century(2)”日本医史学雑誌50(3),2004年。)
(*)(参考：中島文保『医学の父ヒポクラテスが教える癒す力50』かんき出版,2004年。)

(*)(参考：高橋正雄「MEDICAL ESSAYS 医師の心得(1)『ヒポクラテスの誓い』『医戒』『ユトク伝』」日本医事新報 4203,2004 年。)
(*)(参考：齋藤博「ヒポクラテスの箴言「人生は短く、術のみちは長い」について」埼玉医科大学医学基礎部門紀要 10,2004 年。)
(*)(参考：齋藤博「ヒポクラテスの医学教育」埼玉医科大学雑誌 31,2003 年。)
(*)(参考：木原志乃「[書評論文]古代ギリシアにおける医の倫理と現代医療倫理—S.H.マイルズによるヒッポクラテスの『誓い』解釈について」京都大学文学部哲学研究室紀要：Prospectus 7,2004 年。)
(*)(参考：木原志乃「安楽死問題とヒポクラテスの『誓い』」(京都大学文学部)古代哲学研究室紀要;hypothesis 13,2004 年。)
(*)(参考：童門冬二「官吏意外史 渡辺崋山(35)ヒポクラテスへの思い」地方自治職員研修 37(12),2004 年。)
(*)(参考:酒井明夫「パトグラフィ(4)精神医学史探訪 3—笑うデモクリトス」精神科 4(1),2004 年。)
(*)(参考：酒井明夫「パトグラフィ(5)精神医学史探訪 4—ヘラクレスの泡」精神科 4(3),2004 年。)
(*)(参考：酒井明夫「パトグラフィ(7)精神医学史探訪 6—カリグラの逸脱」精神科 5(1),2004 年。)
(*)(参考：酒井明夫「パトグラフィ(8)精神医学史探訪 7—酩酊するアレクサンドロス大王」精神科 5(3),2004 年。)
(*)(参考：キャサリン・モーガン「「富溢るコリントス」再考」クリオ=Clio 18,2004 年。)
(*)滝澤利行「書籍紹介 ジョン・ダフィー 網野豊訳『アメリカ医学の歴史 ヒポクラテスから医科学へ』John Duffy,From Humors to Medical Science　A History of American Medicine」日本医史学雑誌 50(2),2004 年。)
(*)(参考：吉村和久・山本綾子・中橋博孝・西藤清秀「シリア古代パルミラ人と高フッ素症」日本地球化学会年会要旨集 51,2004 年。)
(*)(参考：坂井建雄「ガレノスとヴェサリウスの解剖学の比較研究(3)：門脈を例にとって」日本医史学雑誌50(1),2004年。)
(*)(参考：本間栄男「『エピクロスへの註釈』(1649 年)におけるガッサンディの生理学」化学史研究31(3),2004年。)
(*)(参考：真壁伍郎「ある医学史家の歩み—シッパゲース教授をしのんで」綜合看護39(1),2004年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐる歴史パノラマ(1)健康の定義」綜合看護39(3),2004年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐる歴史パノラマ(2)先史時代から文明へ」綜合看護39(4),2004 年。)
(*)(参考：田畑賀世子「ローマ教会の富—四世紀から六世紀に至る財産形成とその規模」地中海研究所紀要 2,2004 年。)
(*)(参考：渡邉雅弘「友愛」(古賀敬太編『政治概念の歴史的展開・第 1 巻』所収,晃洋書房,2004 年。)
(*)(参考：齋藤稔「西洋における平和・和合の思想とその造形表現をめぐって」芸術文化 9,2004 年。)
(*)(参考：橋場弦「隠されたコード—アテナイ民主政研究の視点から」創文 461,2004 年。)

(*)(参考：『ギリシア人の「過去の在り方」とポリス社会の構成』東京大学 2020 年,(科研費) 2004 年．)
(*)(参考：丸橋裕『プラトンの政治哲学：対話篇『法律』における哲学の課題』京都大学, 博士(文学),乙第 11501 号,2004 年。)
(*)(参考：榊原健太郎「プラトン『ノモイ』市民教育論原論精読—ポリティケー概念再読のための一出発点」相関社会科学 14,2004 年。)
(*)(参考：荒木勝「アリストテレスにおける「統治(arche アルケー)」の位相—E.バーカー,H.アレントの「統治(アルケー)」理解との対比において」政治思想研究 4, 2004 年。)
(*)(参考：「国際問題文献紹介：トゥキュヂデスとIR David A,Welch, Why International Relations Theorists Should Stop Reading Thucydides」国際問題526,2004年。)
(*)(参考：面一也「ヘーゲル政治思想におけるソフィスト的思考との対決—プラトン批判期対話篇との対照を通して」早稲田政治経済学雑誌55,2004年。)
(*)(参考：サンワル・マーク「プラトン主義の共和国かツキュイディデスが論じる帝国か：レオ・シュトラウス氏の業績にみられる帝国主義について」兵庫県立看護大学紀要11,2004年。)
(*)(参考：長谷川宣之「アウグスティヌスの司教裁判(Epscopalis Audientia)—古代末期ローマ社会における合意形成に関する一考察」」西洋史研究33,2004年。)
(*)(参考：高橋裕子「学界動向 鉄の時代へ—ギリシアの初期鉄器時代に関する研究動向」西洋史研究33,2004年。)
(*)(参考：桜井万里子「論点開示 古代史研究と社会的有用性([西洋史研究会]2003年度大会共通論題報告「歴史家のしごと」の現在—小田中直樹著「歴史学のアポリア」をもとに」西洋史研究33,2004年。)
(*)(参考：「討論([西洋史研究会]2003年度大会共通論題報告「歴史家のしごと」の現在—小田中直樹著「歴史学のアポリア」をもとに」西洋史研究33,2004年。)
(*)岩井経男「書評 飯坂晃治著「ローマ帝政初期における都市監督官—curator rei publicae とイタリア都市」(史學雑誌111-3)」法制史研究2003(53),2004年。
(*)(参考：小山和也「ローマ支配下の属州エジプトにおける統治機構(平成15年度文学研究科修士論文要旨)」愛知学院大学文学部紀要34,2004年。)
(*)(参考：守屋治善「商鞅とマキャヴェリ」(東日本国際大学儒学文化研究所)研究論集儒学文化5,2004年。)
(*)(参考：高瀬暢彦「ニュー・イングランドのネオ・プラトン—O・W・ホームズ判事の人間観(阿部竹松教授古稀記念号 社会科学の課題と展望)」政経研究 41(1),2004年。)
(*)(参考：堅田研一「古典的政治哲学のもつ現代的意義—レオ・シュトラウスと法哲学」愛知学院大学論叢・法学研究45(3),2004年。)
(*)小林孝生「保育運動から見える日本の福祉--「待機児童消」というトロイの木馬と規制緩和・公立保育所の民営化(特集 激変下の21世紀の労働福祉を考える)」未来をひらく教育134,2004年。
(*)(参考：松村介石・大槻文彦『社会改良家列伝・箕作麟祥君伝』復刻版明治後期産業発達史資料732,龍溪書舎,2004年。
(*)(参考：メイン/鳩山和夫訳『緬氏古代法』復刻版日本立法資料全集・別巻,信山社出版,2004

年。)
(*)(参考 : 戸水寛人講述『羅馬法 : 全』復刻版日本立法資料全集・別巻,信山社出版,2004年。)
(*)(参考 : 岡本芳二郎講述『羅馬法講義 : 全』復刻版日本立法資料全集・別巻,信山社出版,2004年。)
(*)(参考 : 南雲泰輔「ユリアヌス帝の意識のなかのローマ皇帝像--『ひげぎらい』における法律意識の分析を中心に」西洋古代史研究6,2004年。)
(*)(参考 : 石村多門研究代表『ヴィーコの社会存在論に関する研究』東京電機大学,科学研究費補助金期棹研究(C2)研究成果報告書,平成14-15年度,2004年。)
(*)(参考 : 福井徹也『近代ヒューマニズムの外へ : 法と正義をめぐる反・西洋思想史』創言社,2004 年。)
(*)(参考 : 篠森大輔「図宇井条件における不成就確定時の繰上げ : 学説彙纂 28 巻 7 章 28 法文（パーピニアーヌス）の再検討」(九州大学法政学会)法政研究 70(4),2004 年。)
(*)(参考 : 森田團「ブック・レヴュー(2)ヨハン・ヤーコプ・バハオーフェン『古代墳墓象徴試論』10+1 37,2004 年。)
(*)(参考 : 吉原達也「バハオーフェン『母権論』とローマ養子法の一側面」法政研究 70(4),2004年。)
(*)吉原丈司(他)編『上山安敏先生略年譜・著作目録』吉原丈司,新版,ローマ法・法制史学者著作目録選・第 3,2004 年(→2006 年,2 訂)。)
(*)吉原丈司編『久保正幡先生・小林宏先生・山崎丹照先生略年譜・著作目録』吉原丈司,都筑印書館,ローマ法・法制史学者著作目録選・第 4,2004 年。
(*)米倉明「献呈の辞(牛山積教授・大須賀明教授・佐藤篤士教授古稀祝賀退職記念号)」早稲田法学 79(3),2004 年。
(*)「佐藤篤士教授略歴・主要業績目録(牛山積教授・大須賀明教授・佐藤篤士教授古稀祝賀退職記念号)」早稲田法学 79(3),2004 年。
(*)佐藤篤士「小野梓とローマ法」早稲田大学史記要 36,2004 年。
(*)(参考 : 岡本芳二郎講述『羅馬法講義 : 完』復刻版,信山社出版,2004 年。)
(*)(参考 : 戸水寛人講述『羅馬法 : 完』復刻版,信山社出版,2004 年。)

(*)(参考 : K.マルクス/中山元(他)訳『デモクリトスの自然哲学とエピクロスの自然哲学の差異 : ヘーゲル法哲学批判 : 序説・ユダヤ人問題に寄せて等』筑摩書房(マルクスコレクション),2005 年。)
(*)(参考 : 山之内靖「私の古典,私と古典(29)経済学・哲学草稿--「初期マルクス」と「後期ハイデガー」」學燈 102(4),2005 年。)
(*)(参考 : 山之内靖「ニューパースペクティブ 受苦者のまなざし--〈マルクスとハイデガー〉をめぐって」大航海 54,2005 年。)
(*)(参考 : 渡辺俊彦「マルクスの思想小考」中央大学論集 26,2005 年。)
(*)(参考 : 日垣隆「マルクスから学んだ七つのこと」新潮 45 24(12),2005 年。)
(*)内田弘「私のマルクス研究の現段階」季刊唯物論研究 92,2005 年。
(*)松田博「マルクス思想の蘇生に向けての鮮烈な提言—田畑稔『マルクスと哲学』を読んで(小特集田畑稔『マルクスと哲学』をめぐって)」季刊唯物論 92,2005 年。
(*)石井信男「再発掘されたマルクス思想の全体像—田畑稔『マルクスと哲学』を読んで(小

特集田畑稔『マルクスと哲学』をめぐって)」季刊唯物論 92,2005 年。
(*)久保誠二郎「大原社会問題研究所『日本マルクス主義文献』(未刊行)の意義—戦前期大原社研の国際交流と内藤赳夫の文献目録への取り組み(特集 戦前期大原社研の国際交流)」大原社会問題研究所雑誌 559,2005 年。
(*)土井全二郎『義経伝説をつくった男：義経ジンギスカン説を唱えた奇骨の人・小谷部全一郎伝』光人社,2005 年。
(*)(参考：学習研究社『神々の遺産：オーパーツの謎：超古代文明は警告する』増補改訂版,Gakkenn mook.ムー謎シリーズ,2005 年。)
(*)(参考：朱鷺田祐介『超古代文明』新紀元社,Truth in Fantasy71,2005 年。)
(*)(参考：奈須紀幸監修『「海底遺跡」超古代文明の謎』講談社,講談社+α文庫,2005 年。)
(*)(参考：酒井三喜「授業の風景(1)4 年生「特講」および 1 年生「文明史」」Lilia candida 35,2005 年。)
(*)(参考：福田耕介「授業紹介—一年生「文明史」」Lilia candida36,2005 年。
(*)(参考：マイケル・クック/千葉喜久枝訳『世界文明一万年の歴史』柏書房,2005 年。)
(*)(参考：生島義之『ヒトは何を為してきたのか：新しい世界の開拓』物質文明の系譜 2,窓映社,2005 年。)
(*)花森重行「『二千五百年史』(1896)竹越与三郎(1865-1950)—文明史と天皇(総特集 ブックガイド 日本の思想)」現代思想 33(7),2005 年。)
(*)(参考：原聖・庄子博史編『ヨーロッパ』(「第 1 部 西・中欧[北欧；イギリス；ドイツ；オランダ；フランス；スペイン；イタリア]」講座世界の先住民族：ファースト・ピープルの現在 6,明石書店,2005 年。)
(*)上垣豊「谷川稔編『歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ』山川出版社,2003」史學雑誌 114(8),2005 年。
(*)『21 世紀のグランドツアー：一生に一度は行きたい世界一周の 80 カ所の旅』日経 BP ムック,日経ナショナルジオグラフィック社,2005 年。)
(*)小泉実「中東視環境紀行(6)オアシスの都市ペトラの非日常的視環境」照明学会雑誌 89(1),2005 年。
(*)小泉実「中東視環境紀行(7)文字の発明と生活行為のあかり」照明学会雑誌 89(9),2005 年。
(*)(参考：井口幻太郎『アルカディアの食事：詩集』摩耶出版社,2005 年。)
(*)土谷徳則・渡邊浩二「伊国見聞録—シチリア島の漁港漁村」(第 40 回海外漁港漁場調査団報告)」漁港 47(1),2005 年。)
(*)(参考：「トロイ—九つの時代が眠る丘—3000 年の栄枯盛衰を今に伝える都市遺跡,土器,黄金の宝物たち」ニュートン 25(1),2005 年。)
(*)(参考：『トロイの古代遺跡；アラム城；古都アレッポ』世界遺産：DVD コレクション 33,ユニバーサルミュージック,デアゴスティーニ・ジャパン,2005 年。)
(*)(参考：ブローデル/尾河直哉他訳『歴史学の野心』ブローデル歴史集成 2,藤原書店,2005 年。)
(*)(参考：二宮宏之『マルク・ブロックを読む』岩波セミナーブックス,岩波書店,2005 年（→2016 年,岩波現代文庫・学術 340,岩波書店。)
(*)(参考：梅田輝世「アラブ・イスラーム世界と地中海(フォーラム[関学西洋史研究会第 7 回年次大会シンポジウム]地中海世界の文化と社会」関学西洋史論集

28,2005 年。)
(*)(参考：川田殖「『いま古代世界を省みる』--ロイド古代学のスケッチ」(国際基督教大学キリスト教と文化研究所)人文科学研究：キリスト教と文化 36,2005 年。)
(*)(参考：田中穂積「地中海世界の文化と社会(久志本秀夫先生追悼号)」関学西洋史論集 28,2005 年。)
(*)(参考：山内進・加藤博・新田一郎編『暴力：比較文明史的考察』東京大学出版会,2005 年。)
(*)(参考：陣内秀信「地中海文明におけるアンダルシア(特集 アンダルシアの光と影—西方イスラーム文化の残照)」文化遺産 19,2005 年。)
(*)(参考：新谷英治「地中海世界の航海技術(技術の文化交流,文化交渉史研究班,研究員の研究梗概)」関西大学東西学術研究所紀要 38,2005 年。)
(*)(参考：久慈力「古代日本はシルクロード渡来人によって建国された!--『シルクロード渡来人が建国した日本』で見えてきたもの」理戦 81,2005 年。)
(*)(参考：増田栄太郎「わが老年のシルクロード(番外編)アドリア海の宝石と戦乱の傷跡と」月刊カレント 42(6),2005 年。)
(*)(参考：トマス・ケイヒル/森夏樹訳『ギリシア人が来た道』青土社,2005 年。)
(*)(参考：清水義範「こぼれ落ちた世界史(11)「ギリシア文明の価値」の巻」エコノミスト 35,2005 年。)
(*)(参考：「ギリシャ・キクラデス諸島—エーゲ海に浮かぶ神話と歴史の島々」暮らしの手帖・第 4 世紀 17,2005 年。)
(*)トライエム制作『ギリシア：アテネ・エーゲ海』ビデオレコード,Tri-m(発売),First Distribution(販売),2005 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ギリシアとエーゲ海の島々&キプロス』ダイアモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2005-06 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイアモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2005-06 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ローマ』ダイアモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2005-06 年。
(*)地球の歩き方編集室編『フィレンツェとトスカナ』ダイアモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2005-06 年。
(*)地球の歩き方編集室編『南イタリアとマルタ』ダイアモンドビッグ社, ダイヤモンド社(発売),2005-06 年。
(*)赤井良平文；柳木昭信写真；旅名人編集室編『ギリシャ・エーゲ海：古代文明を生んだ魅力的な島々』第 2 版,旅名人ブックス 39,日経 BP 企画,日経 BP 出版センター,2005 年。
(*)立花隆＋須田慎太郎(写真)『エーゲ：永遠回廊の海』書籍情報社,2005 年。
(*)(参考：チェン・チャンフー脚本『エーゲ海の恋 台湾ドラマ(1,2,3,4,5,)』ビデオディスク,ハップ,2005 年。
(*)(参考：陳瓊樺/横路啓子『エーゲ海の恋』近代映画社,2005 年。)
(*)(参考：スーザン・スティーヴンス/夏木さやか訳『灼熱のエーゲ海』ハーレクン・ロマンス,ハーレクイン,2005 年。)
(*)(参考:川野美智子「ロレンス・ダレル,ロドスの日々」(佛教大学文学部)文学部論集 89,2005

年。)
(*)(参考：清水義範「こぼれ落ちた世界史(4)「イオニア」の巻」エコノミスト 83(24),2005 年。)
(*)植田ゆかり「カラーグラビア 潮・世界紀行 ギリシャ アテネ—人間が主役のまち」潮 559,2005 年。
(*)井口幻太郎『アルカディアの食事：詩集』摩耶出版社,2005 年。
(*)(参考：賀来正俊「MEDICSAL ESSAYS 私の古代オリンピアまでの道程—実践スポーツ内科学者より」日本医事新報 4228,2005 年。)
(*)中村三春編『競技場』(大日本体育協會編「オリンピア写真集・美と民族の祭典」)コレクション・モダン都市文化,ゆまに書房,2005 年。)
(*)(参考：志村真幸「1700 年 聖年のローマ：グランド・ツアーにおけるカトリック教会と社交界」(京都大学大学院人間・環境学研究科歴史文化社会論講座)歴史文化社会論講座紀要 2,2005 年。)
(*)(参考：『西アジア・東欧の旅』JVC ワールドサウンヅ・スペシアル・ツアー,Victor Entertainment,2005 年。)
(*)澁澤幸子『キプロス島歴史散歩』新潮社,2005 年。
(*)澁澤幸子「キプロス島を歩く(3)ガジマーウサ」アナトリアニュース 113，2005 年。
(*)(参考：名取四郎『地中海都市紀行：古代キリスト教美術を訪ねて』岩波セミナーブックス 57,岩波書店,2005 年。)
(*)粟津則雄「私の空想美術館(21)パルテノン神殿」美術の窓 24(11),2005 年。
(*)(参考：四十九院仁子『ギリシア,ペロポニソス地方におけるローマ期モザイクについての研究』筑波大学,博士(芸術学),甲第 3625 号,2005 年。)
(*)(参考：石井英二「バラエティー ギリシャのサントリーニの火山,デルフィの「へソ石」などについて」水晶 quartz 17(17),2005 年。)
(*)(参考：瓜田澄夫「ヘイドンとエルギン大理石(文化論)」神戸大学海事科学部紀要 2,2005 年。)
(*)百瀬春生「アオクロポリスの丘に雅楽が鳴り響いた!」地中海歴史風土研究誌 21,2005 年。
(*)浅野栄市「旅雑記(11)クレタ島マリア遺跡」地中海歴史風土研究誌 22,2005 年。
(*)(参考：竹田腆「ローマ教皇の領土」地中海歴史風土研究誌 22,2005 年。)
(*)(参考：百瀬春生「エピダウロスは一大医療施設だった」地中海歴史風土研究誌 22,2005 年。)
(*)(参考：平山東子『ギリシアの陶画家クレイティアスの研究：紀元前 6 世紀前半におけるアッティカ黒像式陶器の展開』中央公論美術出版.2005 年。)
(*)(参考：田辺清「ラファエッロの素描—古典古代の起源と東方」東洋研究 157,2005 年。)
(*)(参考：阿部なつ江他「IODP Exp.304/305 掘削結果：大西洋中央海嶺 30°N アロトランティス岩体(24.岩石鉱物一般)」日本地質学会学術大会講演要旨 2005,2005 年。)
(*)(参考：『バチカン市国；ポンペイ,エルコラーノおよびトッレ・アヌンツィアータの遺跡地域；ピサのドゥオモ広場』世界遺産 DVD コレクション 16,ビデオレコード,ユニバーサルミュージック,ディアゴスティーニ・ジャパン(発売),2005 年。)
(*)(参考：ロバート・ハリス/菊地よしみ訳『ポンペイの四日間』早川書房,ハヤカワ文庫,2005 年。)

(*)(参考：P.フリッシャウアー/関楠生訳『先史の楽園からポンペイまで』河出書房新社,河出文庫,世界風俗史 1,2005 年。)
(*)(参考：小野敬「グラビア ワールド・リアリティ 滅亡から蘇った街 1900 年の封印解かれた都市・ポンペイ」世界思想 31(2),2005 年。)
(*)(参考：角川歴彦「ポンペイと大津波」文藝春秋 83(3),2005 年。)
(*)(参考：ヴィトルト・リプチンス/渡辺真弓訳『完璧な家：パラーディオのヴィラをめぐる旅』白水社,2005 年。)
(*)(参考：「JAPAN NEWS イタリアワイン紀行—華麗に芳醇に名酒の故郷を訪ねて—第 1 回 TAURASSI ヴェスブィーオの麓で生まれタ「南の王者」」」(サバイバル出版)決断 22(10),2005 年。)
(*)(参考：「イタリアワイン紀行(2)LACRYMA CHRISTI「ポンペイ最後の日」も食卓を飾っていたのか」(サバイバル出版)決断 22(11),2005 年。)
(*)(参考：「栄華の街 ポンペイの遺産—よみがえった古代ローマの華麗なる世界」ニュートン 25(8),2005 年。)
(*)(参考：石川恒夫「9264W.シュテイアーの「ラウレンツトゥムの別荘案」について：19 世紀ドイツ検知器論の構成に関する研究」「(12)（西洋・近代[1]19 世紀ドイツ・スペイン,建築歴史・意匠)」(ポンペイ)学術講演梗概集,F.2,建築歴史・意匠 2005,2005 年。)
(*)(参考：Florens Felten「Themen makedonischer Grabdenkmaler klassischer Zeit(In：Ancient Macedonia,Fifth International Symposium,vol.1)」地中海研究所紀要 3,2005 年。)
(*)(参考：「地中海研究所活動報告」地中海研究所紀要 3,2005 年。)
(*)(参考：群馬県北群馬郡子持村教育委員会『史跡黒井峯遺跡：日本のポンペイ』2005 年。)
(*)(参考：TDK コア,ボルテックス(発売)『古代ローマ美術とエトルリア美術館：Roman & Etruscan Art In Vatican Museums』,2005 年。
(*)越宏一・越川倫明編『福部信敏先生退任記念論文集=Essays presented to NobutoshiFukube 』東京芸術大学美術学部西洋美術史研究室,Aspects of problems in Westen art history v.6,pt.1,2005 年。
(*)越宏一「福部信敏教授の古代美術史学：研究と教授」Aspects of Problems in Western art History 6(1),2005 年。)
(*)(参考：吉澤五郎『旅の比較文明学：地中海巡礼の風光』世界思想社,2005 年。)
(*)(参考：高橋秀樹『神話から見た古代東地中海沿岸の文化交流』高志書院,2005 年。)
(*)三浦節夫「井上円了『世界旅行記』補遺---第一回欧米視察の旅行日録画」井上円了センター年報 14,2005 年。
(*)(参考：桜井万里子研究代表『ギリシアにおけるポリスの形成と紀元前 8 世紀の東地中海世界』桜井万里子,科学研究費補助金(基盤研究 BX2)研究成果報告書,平成 14-16 年度,2005 年。)
(*)竹内伝史「特別寄稿 新世紀阿房列車の伊太利 4 都めぐり(1,2)」中部開発センター150,151,2005 年.
(*)(参考：吉川宏人「ゴーゴリ『ローマ(断章)』--自伝として,物語として」Спавиана 20,2005 年。)
(*)(参考：北村暁夫『ナポリのマラドーナ：イタリアにおける「南」とは何か』Historia20,

山川出版社,2005 年。)
(*)戸田孝一「海外情報伝言板 地中海及びイタリアの旅(1,2)」航空無線 43,44,2005 年。
(*)國枝金司「私のイタリア紀行：3 回目の「ローマ市内」あちこち」Mobi 21(33),2005 年。
(*)(参考：米田潔弘「チャールズ・バーニーのイタリア紀行：英国人が観察した 18 世紀イタリアの「音の風景」」桐朋学園大学研究紀要 45,2005 年。)
(*)(参考：日本マーク・トウェイン協会編『マーク・トウェインと旅：特集』マーク・トウェイン研究と批評 4,南雲堂,2005 年。)
(*)(参考:内藤高「トポスとしての島」(イタリア紀行)大阪大学大学院文学研究科紀要 45,2005 年。)
(*)藤崎衛「ローザンヌ大学留学記：中世教皇庁研究の一年」クリオ=Clio 19,2005 年。
(*)四位誠光「小泉八雲のこと」地中海歴史風土研究誌 22,2005 年。
(*)(参考：横田伴裕「サドのイタリア紀行」フランス文学 25,2005 年。)
(*)(参考：磯崎康太郎「神話の起源と解放—ゲーテ『イタリア紀行』と紀行文学(特集 紀行の文学)」世界文学 102,2005 年。)
(*)(参考：溝井高志「国外研修 ゲーテ『イタリア紀行』の足跡を訪ねて」阪南大学産業経済研究所年報 34,2005 年。)
(*)(参考：「イタリア紀行書目録(欧米編)(特集 イタリアを知る—イタリアの地誌・紀行)」イタリア図書 32,2005 年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「L.P.ハートリーとヴェネツィア(2)ハートリーの作品のなかのヴェネツィア」人文研究 155,2005 年。)
(*)(参考：伊藤拓真「ジョヴァンニ・ディ・フランチェスコの正体—15 世紀フィレンツェの二人の画家」地中海学研究 28,2005 年。)
(*)「イタリア紀行書目録(日本編)」イタリア図書 33,2005 年。
(*)澤井繁男「カンパネッラへの旅—裁判(上下)」春秋 469,471,2005 年。
(*)澤井繁男「カンパネッラへの旅—真偽(上中下)」春秋 474,476,2005 年/478,2006 年。
(*)(参考：相野洋三「エラスの回帰：ギリシア人・ローマ人・エリネスの呼称をめぐって(久志本秀夫先生追悼号)」関西西洋史論集 28,2005 年。)
(*)(参考：小佐野重利「日伊シンポジウム「フィレンツェ—芸術都市の誕生」Simposio《Firenze : la nascita della capitale delle arti》の報告」美術史論集 21,2005 年。)
(*)(参考：小佐野重利「フィレンツェのルネサンス芸術—神話と歴史のあいだ[含・伊文]」美術史論集 21,2005 年。)
(*)亀長洋子「北田葉子著『近世フィレンツェの政治と文化—コジモ一世の文化政策(1537-60)』刀水書房,2003」史學雑誌 114(3),2005 年。
(*)(参考:川野美智子「ロレンス・ダレル・ロドスの日々」(佛教大学文学部)文学部論集 89,2005 年。)
(*)山本證「ロレンスのイタリア--『イタリアの薄明』の「ガルダ湖畔にて」を中心に(特集 紀行の文学)」世界文学 102,2005 年。)
(*)(参考：松本桂子「ロレンスのラスト・メッセージ：『最後の詩集』『死の船』より」(エトルリア)佛教大學大學院紀要 33,2005 年。)
(*)(参考：春日潤一「A.J.トインビーの国家観に関する解釈をめぐって—第一次世界大戦初期を中心に」創価大学大学院紀要 27,2005 年。)

(*)(参考：菊幸一「ホイジンガを読み直す--『ホモ・ルーデンス』を対象に(特集 子供の遊びと心の発達)」子どもと発育発達 3(3),2005 年。)
(*)(参考：Cesana Andreas/原研二訳「ブルクハルトの目で見る歴史と文化—2005 年 10 月 4 日東北大学での講演」東北大学文学研究科研究年報 55,2005 年。)
(*)(参考：平出隆「進歩のグラフィズム(15)過渡期にあらわれる古代」図書 679,2005 年。)
(*)南大路振一「独文学者のドイツ留学経験--大山定一著『ドイツを歩く』」モルフォロギア 27,2005 年。
(*)(参考：ブライアン・フェイガン/東郷えりか訳『古代文明と気候変動：人類の運命を変えた二万年』河出書房新社,2005 年。)
(*)(参考：ウルフ・エルリンソン/山本四郎訳『アトランティスは沈まなかった：伝説を読み解く考古地理学』原書房,2005 年。)
(*)(参考：高木任之「超古代史ドッキリ講座(34)幻の三大陸(2)アトランティス大陸」近代消防 43(12),2005 年。)
(*)(参考：青柳正規・阿川佐和子「対談：世界遺産とどう付き合いますか(特集 世界遺産は語る)」本の窓 28(8),2005 年。)
(*)(参考:青柳正規「私の生き方(425)アウグストゥスの遺産—古代ローマから現代が見える」公研 43(7),2005 年。)
(*)(参考：青柳正規「「アウグストゥスの別荘」を掘る」文藝春秋 83(8),2005 年。)
(*)青柳正規＋皆川魔鬼子「美の装い,衣の装い」(特集 充(じゅう)—充ち充ちて)」宵＋10,2005 年。)
(*)(参考：宮武久佳「所有の誕生(2)アレクサンドリア図書館の夢」すばる 27(11),2005 年。)
(*)『シルクロードを語る：アレクサンドロス大王：その夢と実像,そしてヘレニズム文明の東漸』シルクロード･奈良国際シンポジウム記録集 7,シルクロード学研究センター,2005 年。)
(*)平山郁夫監修・長澤和俊執筆『アレクサンドロス大王の夢：はるかなる東方への道』図書館用ビデオレコード,講談社 DVD ブック,講談社版新シルクロード歴史と人間 1,講談社,2005 年。)
(*)(参考：福田和也「オバはんでもわかる「アレクサンダー大王遠征」」新潮 45 24(2),2005 年。)
(*)(参考：船橋尚哉「異文化との交流と仏教—アレクサンダー大王,「那先比経」,「維摩経」の梵本など」佛教学セミナー82,2005 年。)
(*)(参考：立花隆「知の巨人が謎に包まれた大王の足跡を読み解く アレキサンダーの悲劇 アメリカの悲劇」現代 39(2),2005 年。)
(*)(参考：田上智「経営セミナービジネスリーダー教養講座—文化を語ろう(最終回)アレキサンダー大王の遺産」ふぎんレポート 84,2005 年。)
(*)(参考：ハッサン・ラガブ「アレクサンドリアの灯台とアラブの改革[含・アラビア語原文]」季刊アラブ 115,2005 年。)
(*)(参考：鎌沢久也『シルクロード全 4 道の旅』めこん,2005 年。)
(*)(参考:戸田敬「鋳造貨幣からみたグレコ･バクトリア王国の成立」山形大学歴史･地理･人類学論集 6,2005 年。)
(*)(参考：阿部拓児「前四世紀小アジアのヘカトムノス朝とカリアの文化—ラブラウンダ

とハリカルナッソスの事例から」史林 88(5),2005 年。)
(*)(参考 : 富田健次「イランのイスラーム統治体制と現代 : 文明の衝突の対立線を求めて(テーマ論文「一神教における対立と対話」)」一神教学際研究 1,2005 年。)
(*)(参考 : 齋藤完「イスタンブールからタクシーに乗って(2,3,4)ムスリム・グリークと呼ばれる人たちの現在(1,2,3)」アナトリアニュース 113,114,115,2005 年。)
(*)(参考 : 大村次郷「口絵 茶店から社会を見る(24)トルコ」望星 36(3),2005 年。)
(*)(参考 : 大村次郷「グラビア 市場 社会 : 世界(22)イスタンブール(トルコ)」論座 119, 2005 年。)
(*)(参考 : 桜井輝昭『ノアの洪水はやって来る : ノストラダムスの大預言深解読書』叢文社,2005 年。)
(*)(参考 : 三光洋「世界百一話 パリの話題作「英雄広場」「ヘラクレス」」世界週報 86(5),2005 年。)
(*)(参考 : 平野秀秋「詩人の追放について : または文明はなぜ腐敗するのか(三溝教授の退職記念号)」社会志林 51(4),2005 年。)
(*)長田年弘(編)「澤柳大五郎蔵書目録」藝叢 22(筑波大学芸術学研究誌),2005 年。
(*)苅部直「和辻哲郎の「古代」--『古寺巡礼』を中心に(小特集 幻視される古代/原郷としての日本)」日本近代文学 72,2005 年。
(*)中島国彦「『古寺巡礼』と『大和路・信濃路』をつなぐもの―堀辰雄「大和路」ノートの検証を中心に(小特集 幻視される古代/原郷としての日本)」日本近代文学 72,2005 年。
(*)(参考 : 天理大学文学部考古学・民俗学研究室,天理大学附属天理参考館考古美術室編『テル・ゼロールの出土遺跡 : 東地中海沿岸の古代遺跡』天理大学,2005 年。)
(*)小川英雄「聖書考古学と私(民族学考古学専攻設立 25 周年)・講演録」史学 73(4),2005 年。
(*)(参考 : 月本昭男監修『図説 地図とあらすじで読む聖地エルサレム』青春出版社,2005 年(→2009 年,青春新書 IntelligencePI-251。)
(*)Victor Entertainment『西アジア・東欧の旅』JVC ワールドサウンズ・スペシャルツアー,録音資料(CD),2005 年。)
(*)(参考 : 上田久利・阿部鉄太郎「造形表現における有翼像の意味」岡山大学教育学部研究集録 130,2005 年。)
(*)(参考 : 出口保夫『物語・大英博物館 : 250 年の軌跡』中公新書,2005 年。)
(*)(参考 : 羽田康一『古代地中海世界の大型ブロンズ彫刻 : 制作技術と意味内容』東京大学,博士(文学),乙第 16213 号,2005 年。)
(*)(参考 : フリッツ・ザスクル,ルドルフ・ウィトカウアー/鯨井秀伸訳『英国美術と地中海世界』勉誠出版,2005 年。)
(*)(参考 : 徳田佳世・逸見陽子編/木下哲夫・森夏樹訳『地中美術館』地中美術館,直島福武美術財団,2005 年。)
(*)(参考 : 『古代ローマ美術とエトルリア美術館=Roman & Etruscan Art in the Vatican Museums』TDK コア,2005 年。)
(*)(参考 : イタリア文化会館『エトルリアの世界』イタリア文化会館,2005 年。)
(*)(参考 : ジュルダ・バルトローニ/大森寿美子企画編集『エトルリア民族 : 歴史と優品の数々』バルビエリ出版,2005 年。)
(*)(参考 : 浅香正「序言 エトルスキ研究の旅」古代史年報 3,2005 年。)

(*)(参考：ヤーコプ・ブルクハルト/高木昌史編訳『美のチチェローネ：イタリア美術案内』青土社,2005 年。)
(*)(参考：チェーザレ・ブランディ/池上英洋・大竹秀実訳『修復の理論』三元社,2005 年。)
(*)(参考：根占献一「ニッコロ・デ・コンティの旅とトスカネッリの地図およびポッジョの『再認されたインディア』」地中海研究所紀要 3,2005 年。)
(*)(参考：東京富士美術館編『大ナポレオン展：文化の光彩と精神の遺産』東京富士美術館,2005 年。)
(*)(参考：五木田聡・谷口勝・小金丸敏夫編『栄光の大ナポレオン展：文化の光彩と人間のロマン』東京富士美術館,2005 年。)
(*)(参考：Shoichi Sato(with the coll.of Yoshiyuki Suto)“Genesis of historical text：text/context=歴史テクストの生成：テクスト/コンテクスト”Graduate School of Nagoya University,Century COE Program International Conference series no.4,2005.)
(*)(参考：辻原康夫『人名の世界史：由来を知れば文化がわかる』平凡社,平凡社新書,2005 年。)
(*)(参考：辻原康夫編『読みたくなる世界史』図解雑学 Q&A：絵と文章でわかりやすい!, ナツメ社,2005 年。)
(*)(参考：真鍋俊照編『仏教美術と歴史文化：真鍋俊照博士還暦記念論集』法蔵館,2005 年。)
(*)(参考：平山郁夫シルクロード美術館『シルクロードの仏たち』平山郁夫シルクロード美術館,2005 年。
(*)(参考：福永弘之「シルクロード史序説(9)」神戸ファッション造形大学神戸文化短期大学研究紀要 30,2005 年。)
(*)(参考：池田碩「Syria Palmyra 石造遺跡群の風化状況」奈良大学紀要 33,2005 年。)
(*)市倉宏祐『和辻哲郎の視圏—古寺巡礼・倫理学・桂離宮』春秋社,2005 年。
(*)(参考：梅田輝世「アラブ・イスラーム世界と地中海 (久志本秀夫先生追悼号)」関西西洋史論集 28,2005 年。)
(*)(参考：池田黎太郎「地中海における古代医学に関する遺跡 アスクレーピオス信仰とヒポクラテース」順天堂医学 51(2),2005 年。)
(*)(参考：森本治子「世界の伝承遊びに見る異文化交流—遊びを通して学ぶ世界の文化」目白大学短期大学部研究紀要 42,2005 年。)
(*)(参考：川久保輝興「古典主義時代から啓蒙の世紀にかけてのフランスおよび日本における文化的近代化(III)」」サピエンチア：英知大学論叢 39,2005 年。)
(*)矢橋透「〈学外からの眼〉〈我〉もまた,アルカディアにあり・・・」筑波フォーラム 70,2005 年。
(*)(参考：磯崎新「巻頭論文 われアルカディアにありき—フィリップ・ジョンソン追悼」新建築 80(4),2005 年。)
(*)木村幸比古『吉田松蔭の実学：世界を見据えた大和魂』PHP 新書,PHP 研究所,2005 年。
(*)久米邦武編・水澤周訳註『特命全権大使米欧回覧実記：現代語訳(1-5,総索引)』慶應義塾大学出版会,2005-2008 年(→2008 年,普及版)。
(*)(参考：藤田千枝編/坂口美佳子著『文化の世界地図』くらべてわかる世界地図 5,大月書店,2005 年。)
(*)(参考：山元高尚「中国古代における地図について」比較文化史研究 7,2005 年。)

(*)(参考：久武哲也「日本および海外の諸機関における外邦図の所在状況とその系譜関係」地図情報 25(3),2005 年。
(*)小林茂「「外邦図」へのアプローチ(特集 外邦図)」地図情報 25(3),2005 年。
(*)(参考：石井清司「ヴェルディ オペラ創“声”期のイタリアの巨匠(7)イタリアの地図—カエサルの辿った道」ニューリーダー18(10),2005 年。)
(*)細井将右「明治初期フランス人地図学教育者ジュルダンとヴィエイヤールについて」地図 43(Suppl.),2005 年。
(*)長岡正利「随想 地図史展観(8)日本が見た世界(1)」地図ジャーナル 148,2005 年。
(*)(参考：上野景文「私の文明地図(1)アミニズム世界の探訪」草思 7(6),2005 年。
(*)(参考：上野景文「私の文明地図(2)一神教的世界との遭遇」草思 7(7),2005 年。
(*)(参考：上野景文「私の文明地図(最終回)アミニズム(相対主義)vs 一神教(非相対主義)」草思 7(8),2005 年。
(*)川村博忠「異国情緒と出版—世界地図を中心に(特集 江戸文学と異国情緒)」江戸文学 32,2005 年。
(*)(参考：トニー・ギボンズ編/トニー・ギボンズ他著/小島敦夫・小林則子訳『船の百科事典：ビジュアル版』東洋書林,2005 年。)
(*)(参考：ジェニファー・アグロウ編纂/竹村和子日本語版監修『世界女性人名事典：マクミラン版』日外アソシエーツ,紀伊国屋書店,[発売],2005 年。)
(*)富田仁編『海を越えた日本人人名辞典』日外アソシエーツ,2005 年。
(*)(参考：アン・ピアソン/豊田和二日本語監修『古代ギリシア』「知」のビジュアル百科 18,あすなろ書房,2005 年(←1993 年,同朋舎出版刊ビジュアル博物館 37 巻。改題改訂版。)
(*)(参考：國原吉之助『古典ラテン語辞典』大学書林,2005 年。)
(*)(参考：ピーター・ジェイムズ,ニック・ソープ著/澤本亘・高橋邦彦訳『「事典」古代の発明：文化生活技術』東洋書林,2005 年。)
(*)(参考：バーナード・エヴスリン/小林稔訳『ギリシア神話物語事典』原書房,2005 年。)
(*)(参考：ロビン・マクノートン他/鏡リュウジ監修『星が教える恋愛事典』ブルームブックス,ヴィレッジブックス,2005 年。)
(*)飛田良文・琴屋清香共著『改訂増補・哲學字彙訳語総索引』港の人,2005 年。
(*)(参考：本村凌二研究代表『地中海における社会変動と識字率』本村凌二,2005 年。)
(*)(参考：大英博物館編/ニール・スペンサー文/クレア・ソーン絵/月森左知訳『ヒエログリフがわかる絵本』創元社,2005 年。)
(*)(参考：岡田泰介「古典古代史科研究(2)木簡・木板文書(wooden tablet)」高千穂論叢 40(1),2005 年。)
(*)(参考：岡田泰介「古典古代史科研究(3)パピルス文書(papyri)」高千穂論叢 40(2),2005 年。)
(*)(参考：奥貞二「研究ノート「ギリシア・ローマ名言集」を読んで」鈴鹿工業高等専門学校紀要 38,2005 年。)
(*)(参考：相野洋三「ヘラスへの回帰—ギリシア人・ローマ人・エリネスの呼称をめぐって(フォーラム[関学西洋史研究会第 7 回年次大会シンポジウム]地中海世界の文化と社会」関学西洋史論集 28,2005 年。)
(*)(参考：橋本滋男『it’s Greek! ちんぷんかんぷん!：聖書ギリシア語おもしろ講座』日本キリスト教団出版局,2005 年。)

(*)(参考：高津春繁『印欧語比較文法』岩波書店,2005 年。)
(*)(参考：小山次郎『ラテン語と英語：より深く英語を理解するために』文芸社,2005 年。)
(*)(参考：風間喜代三『ラテン語：その形と心』三省堂,2005 年。)
(*)(参考：平田隆一「ヒルジ出土「金の薄板」エトルスキ語銘文の解釈と歴史的背景」東北学院大学論集 歴史学・地理学 39,,2005 年。)
(*)(参考：寺尾智史「イタリアの現存ギリシア語圏—言語島の現状と招来」地中海学研究 28,2005 年。)
(*)(参考：ステファヌ・ロッシーニ/矢島文夫訳『図説古代エジプト文字入門：ヒエログリフ』図説版ふくろうの本,河出書房新社,2005 年。)
(*)(参考：ダニエル・メイヤーゾン/藤井留美訳『ナポレオンと言語学者：ロゼッタ・ストーンが導いた天才たちの運命』河出書房新社,2005 年。)
(*)鈴木広光「近代ヨーロッパ人宣教師の言語戦略(西学東漸と言語接触の研究,言語研究班,研究員の研究発表)」関西大学東西学術研究所紀要 38,2005 年。
(*)鈴木広光「「神」の翻訳史」国語国文 74(2),2005 年(←1995 年 7 月,中部日本・日本語学研究会・第 11 回発表要旨[於三重大学])。
(*)金子務「英雄評伝 科学史の風雲児たち(最終回)前野良沢/『解体新書』,影の推進者」歴史読本 50(12),2005 年。
(*)佐藤喜之「初期の博言学科卒業生--明治・大正の言語学(2)」學苑 775,2005 年。
(*)佐藤喜之「博言学事始め：明治・大正の言語学(3)」學苑 775,2005 年。
(*)麻生享志「人生論の哲学と文献研究の学—明治アカデミズム・『哲学雑誌』・「プラグマチズム」論争」国士舘哲学 9,2005 年。
(*)(参考：橋本滋男『It's Greek!ちんぷんかんぷん!：聖書ギリシア語おもしろ講座』日本キリスト教団出版局,2005 年。)
(*)(参考：水崎博明「古典ギリシア語の「戸(テュラー)」の複数の問題：プラトン『饗宴』の読書会を終へる頃に逢着した問ひ」福岡大學人文論叢 37(1),2005 年。)
(*)(参考：高橋英海「古代ギリシア哲学・科学のシリア語における受容(2005 年度歴史学研究会大会報告 イスラームとアメリカ—民主主義という眩惑)(合同部会・ギリシア文化の伝播と受容)」歴史学研究 807,2005 年。)
(*)(参考：泰田伊知朗『アフロディテ讃歌の研究：序文・テキスト・邦訳・注釈』北海道大学 博士(文学)[甲 7067 号],2005 年。)
(*)中村捷(他)編『人文科学ハンドブック：スキルと手法』東北大学出版会,2005 年。
(*)(参考：曽田長人『人文主義と国民形成—19 世紀ドイツの古典教育』知泉書館 2005 年。)
(*)内藤貴「図書紹介 曽田長人著『人文主義と国民形成—19 世紀ドイツの古典教育』」ディルタイ研究 16,2005 年。)
(*)齋藤義彦「書評 曽田長人著『人文主義と国民形成—19 世紀ドイツの古典教育』」世界文学 102,2005 年。
(*)(参考：末松壽「フランスの言語と文化—古典学,1798 年,フランス(語)の教育」広島大学フランス文学研究 10,2005 年。)
(*)中務哲郎「電子ジャーナル時代の文献検索」静脩 41(2・3),2005 年。
(*)森野哲夫・山口巖(監修・解説),泉井久之介『南魚星・古典と現代(泉井久之介名文選)』ゆまに書房,2005 年。
(*)泉井久之助先生生誕百年記念会編『泉井久之助博士著書論文目録』泉井久之助先生生誕

百年記念会,新装復刊,2005 年。
(*)日外アソシエーツ編集部編『日本の思想家・日本の潮流を創った思想家伝記目録』日外アソシエーツ,紀伊国屋書店,2005 年。
(*)(参考：紀田順一郎編・解説『書物愛』(海外篇・日本篇)晶文社,2005 年(→2014 年,創元ライブラリ,東京創元社版)。)
(*)鴻巣友季子『明治大正 翻訳ワンダーランド』(リットン「ポンペイ最後の日」)新潮新書,2005 年。
(*)(参考：G.Gerevini Alessandro「だから翻訳はおもしろい(29)エウリピデエスからばななまで」図書 677,2005 年。)
(*)吉田勝栄「袖珍文庫総目録(稿)」文献探索 2005,2005 年。
(*)「澤柳大五郎蔵書目録」(筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術学研究室)藝叢 22,2005 年。
(*)「平川祐弘教授著作目録(1992 年 4 月~2000 年 3 月)」大手前大学人文学部論集 6,2005 年。
(*)道家弘一郎「平井正穂先生の業績(特集 平井正穂氏追悼)」英語青年 151(4),2005 年。
(*)(参考：ルードルフ・オットー/華園聰麿訳『聖なるもの：神的なるものの観念における非合理的なもの,および合理的なものとそれとの関係について』創元社,2005 年(→2008 年,NetLibrary)。)
(*)(参考：森田團「ブック・レヴュー(4)ルードルフ・オットー『聖なるもの—神的なるものの観念における非合理的なもの,および合理的なものとそれとの関係について(Rudolf Otto, Das Heilige Ueber das Irrationale in der Idec des Gottlichen und sein Verhaltnis zum Rationale』」10+1 39,2005 年。)
(*)(参考：長部育子「ヴェラスケス作「紡ぎ手たち」あるいは「アラクネの寓話」：17 世紀スペインにおける「大芸術」と「小芸術」」千葉大学社会文化研究科研究プロジェクト報告集 8『女性の技芸と労働をめぐる性差構造』所収,2005 年。)
(*)(参考：小野里惠「オランのカミュ；『ミノタウロスあるいはオランの休息』」(明治大学大学院)文学研究論集 23,2005 年。)
(*)(参考：平田重和「A.カミュの『シジフォスの神話』再考」關西大學文學論集 55(3),2005 年。)
(*)(参考：西川宏人「イエスとムルソー—カミュの『異邦人』について」(明治大学大学院)ソフィア 54(3),2005 年。)
(*)(参考：ミルチャ・エリアーデ著/ダイアン・アポストロス=カッパドナ編/奥山倫明訳『象徴と芸術の宗教学』作品社,2005 年。)
(*)(参考：藤原聖子『「聖」概念と近代：批判的比較宗教学に向けて』(オットー)大正大学出版会,2005 年。)
(*)(参考：佐藤慎太郎「エリアーデ宗教学とその学問的営為：聖なるものの探究と西洋近代」宗教研究 79(3),2005 年。)
(*)(参考：華園聰麿「エリアーデ宗教学の人間学的理解—ヒエロファニーのカテゴリー的解釈の試み」論集 32,2005 年。)
(*)(参考：佐々木充『深読みシェークスピア--『真夏の夜の夢』と月のフォークロア』新潟日報事業社,2005 年。)
(*)(参考：松村武雄『神話學原論(上下)』神話学名著選集[第二期] [培風館 昭和 15,16 年刊行

の複製]ゆまに書房,2005 年。)
(*)(参考：松村武雄『古代希臘に於ける宗教的葛藤(1,2)』神話学名著選集[第二期]18,19, [培風館 昭和 23 年刊行の複製]ゆまに書房,2005 年。)
(*)(参考：松村武雄『神話学者の手記』神話学名著選集[第二期][培風館 昭和 24 年刊行の複製]ゆまに書房,2005 年。)
(*)(参考：松村武雄『希臘神話の新検討』神話学名著選集[第二期]24,[培風館 昭和 28 年刊行の複製]ゆまに書房,2005 年。)
(*)(参考：Thomas Bulfinch,adpt.by Roger Ahlberg“The Trojan War：from Bulfinch’s mythology：the age of fable”洋版ラダーシリーズ,Level4,アイビーシパブリッシング,日本洋書販売,2005 年。)
(*)(参考：カレン・アームストロング/武舎るみ訳『神話がわたしたちに語ること』新・世界の神話,角川書店,2005 年。)
(*)(参考：マーガレレット・アトウッド/鴻巣友季子訳『ペネロピアド』新・世界の神話,角川書店,2005 年。)
(*)(参考：西村賀子『ギリシア神話』中公新書,2005 年。)
(*)(参考:ヒュギーヌス/松田治・青山照男訳『ギリシヤ神話集』講談社学術文庫,講談社,2005 年。)
(*)(参考:佐藤育子「報告要旨 フェニキア人と地中海世界—メルカルト(ヘラクレス)崇拝を中心に(第 43 回[日本女子大学]史学研究会大会報告)」史艸 46,2005 年。)
(*)(参考：池津哲範「古典期ギリシアの聖域逃避を成立させる観念と“hiketeia(嘆願)”」地中海学研究 28,2005 年。)
(*)(参考:池津哲範「古代ギリシアの asylia(ασυλια)の実像と「聖域逃避」」史學雑誌 114(11),2005 年。)
(*)(参考：山下桐子「鳥占考(9)カササギ・カッコウ・ワタリガラス」地中海歴史風土研究誌 22,2005 年。)
(*)(参考：福部信敏「パルテノンにおけるアテナ女神の三つの位格：「パンドラ,アテナ・ポリアス,オリーブ=The three hypostases of the goddess Athena in the Parthenon : Pandora,Athena—Polias,Olive」Aspects of problems in Western art history 6(2),2005 年。)
(*)(参考：「ミロのヴィーナス来校」瓜生通信 35,2005 年。)
(*)(参考：飯島勝彦「ヴィーナス伝説」農民文学 269,2005 年。)
(*)(参考：安東能明『ポセイドンの涙』幻冬舎 2005 年。)
(*)(参考：溝井裕一「タンホイザーとゲルマン信仰：「地獄の女神ヴィーナス」の素顔」独逸文学 49,2005 年。)
(*)(参考:三雲岳斗『旧宮殿にて:15 世紀,ミラノ,レオナルドの愉悦』(「ウェヌスの憂鬱」)光文社,2005 年(→2008 年,光文社文庫版)。)
(*)(参考:池上英洋「イヴとパンドラ(1):描かれた女性たち」東京アカデミア 10,2005 年。)
(*)(参考：森達也「新お伽草子(5)パンドラの箱」青春と読書 40(3),2005 年。)
(*)(参考：喜多尾道冬「ムーサの贈り物—絵画・詩・音楽の出会うところ(140)聖女・悪女伝説パンドラ」レコード芸術 54(1),2005 年。)
(*)(参考：マリシリオ・フィチーノ/野村昌章訳「『プラトン神学』の要約」龍谷哲学論集 19,2005 年。)

(*)(参考：マリシリオ・フィチーノ/野村昌章訳「『プラトン神学』の手引き」龍谷哲学論集 19,2005 年。)
(*)(参考：Nicoloa ex Castellanilis Petro/堀江聡訳「翻訳 ペトロス・ニコラウス羅訳『アリストテレス神学』第 3 章第 4 章」人文科学 20,2005 年。)
(*)三田和芳「書評 ジン・リッチズ著/池田裕訳『聖書』」(青山学院大学基督教学会)基督教論集 49,2005 年。
(*)(参考：本村凌二『多神教と一神教』岩波新書,2005 年。)
(*)(参考：澤井繁男「神のプルチネッラ」文學界 59(8),2005 年。)
(*)(参考：ハンス G.キッペンベルク/月本昭男他訳『宗教史の発見：宗教学と現代』岩波書店,2005 年。)
(*)(参考：月本昭男『悲哀をこえて：旧約聖書における歴史と信仰』教文館,2005 年。)
(*)(参考：ルー・ウォーレス原作/ウィリアム・ワイラー監督『Ben-Hur』レンタル専用ビデオレコード,ワーナー・ホームビデオ(発売),2005 年。)
(*)(参考：エレーヌ・ペエイゲルス/松田和也訳『禁じられた福音書・ナグ。ハマディ文書の解明』青土社,2005 年。)
(*)(参考：田桐正彦「ヴィヨンと聖母マリア信仰」女子美術大学研究紀要 35,2005 年。)
(*)(参考：井上洋治『わが師イエスの生涯』日本キリスト教団出版局,2005 年。)
(*)(参考：井上洋治『イエスのまなざし：日本人とキリスト教』オンデマンド版,日本キリスト教団出版局,2005 年。)
(*)(参考：若月伸一『AVE：天使・聖母マリア・イエス』東京書籍,2005 年。)
(*)(参考：ピエール・マラヴァル/大月康弘訳『皇帝ユスティニアヌス』文庫クセジュ 883,白水社, ,2005 年。)
(*)田中創「ピエール・マラヴァル/大月康弘訳『皇帝ユスティニアヌス』文庫クセジュ 883,白水社, ,2005」史學雑誌 114(10),2005 年。
(*)(参考：保坂高殿『ローマ史のなかのクリスマス』異教世界とキリスト教 1,教文館, 2005 年。)
(*)(参考：保坂高殿『多文化空間のなかの古代教会』異教世界とキリスト教 2,教文館,2005 年。)
(*)饒平名尚子「聖書翻訳における省略の取り扱い：新共同訳とリビングバイブルの比較」フェリス女学院大学文学部紀要 40,2005 年。
(*)(参考：M.ヘンゲル/土岐健司・湯川郁子訳『キリスト教聖書としての七十人訳：その前史と正典としての問題』教文館,2005 年。)
(*)(参考：カルヴァン/益田健次訳『使徒行伝(上下)』オンデマンド版,カルヴァン新約聖書註解,2005 年。)
(*)(参考：水垣渉「特別寄稿 聖書的伝統とその周辺における《わたし》と《自己》の問題」基督教学研究 25,2005 年。)
(*)(参考：水垣渉「特別寄稿 基督教の思想的射程—古代キリスト教を中心にして」中世思想研究 47,2005 年。)
(*)(参考：研究代表者・小河陽『原始キリスト教におけるヘレニスト・ユダヤ人キリスト教の研究』小河陽,科学研究費補助金基礎研究 C2 研究成果報告書,平成 14 年度-平成 16 年度,2005 年。)
(*)(参考：小河陽「ヘレニストの選択的迫害説について：迫害はヘレニストにのみ向けられ

ていたか?(キリスト教史特集号)」キリスト教学 47,2005 年。)
(*)(参考：飯塚一朗「キリスト教大迫害に関する一考察(平成 16 年度文学研究科修士論文要旨)」愛知学院大学文学部紀要 35,2005 年。)
(*)(参考：秋山由加「セプティミウス・セウェルス帝治下のキリスト教徒迫害」学習院大学人文科学論集 15,2005 年。)
(*)小澤実「アダルベール・アマン著,東丸恭子(上)・印出忠夫(下)訳『アウグスティヌス時代の日常生活(上下)』リトン 2001,2002」刀水書房,2003」史學雑誌 114(3),2005 年。
(*)(参考：戸田聡「『エジプト人マカリオス伝』をめぐる諸考察：歴史と文学伝承の関係」オリエント 48(1),2005 年。)
(*)(参考：小林玲子「アレクサンドリアのクレメンスによるロゴス解釈」桐朋学園大学研究紀要 3,2005 年。)
(*)(参考：田子多津子「創造における数の意義―アレクサンドリアのフィロンの『創世記』解釈の一断面」比較思想研究 32,2005 年。)
(*)(参考：森道子「ミルトンとローマ・カトリック協会」大手前人文科学部論集 6,2005 年。)
(*)(参考：竹下節子『ローマ法王：二千年二六五代の系譜』中公文庫,2005 年。
(*)砂田徹「書評 関口武彦著「クリュニー修道制の研究」」西洋史研究 34,2005 年。)
(*)上條敏子「M.-H.ヴィケール著/朝倉文市監訳/渡辺隆司・梅津教孝訳『中世修道院の世界―使徒の模倣者たち』八坂書房,2004」史學雑誌 114(10),2005 年。
(*)(参考：(中西恭子)「翻訳 ある異端者の生涯：アンティオケイアのセウェロスの場合」パトリスティカ：教父研究 9,2005 年。)
(*)秋山学「書評 キース・ホプキンス『神々にあふれる世界 古代ローマ宗教史探訪』小堀馨子・中西恭子・本村凌二訳」地中海学研究 28,2005 年。
(*)(参考：『ユリアヌスの宗教復興構想の形成と後期ローマ帝国におけるその変容』東京大学(2003 年),(科研費)2005 年。)
(*)(参考：中西[高久]恭子「ユリアヌスの「敬神」」新プラトン主義研究 5,2005 年。)
(*)都甲裕文「ピーター・ブラウン著/宮島直機訳『古代末期の世界―ローマ帝国はなぜキリスト教化したか?』刀水歴史全書 58,刀水書房,2002」史學雑誌 114(10),2005 年。
(*)(参考：竹部隆昌「西欧中世におけるビザンツ図像の伝播と受容」県立長崎シーボルト大学国際情報学部紀要 6,2005 年。）
(*)曽野綾子『哀歌(上下)』朝日新聞社,2005 年。)
(*)加山久夫「学術講座・賀川豊彦と聖書解釈」東北学院大学キリスト文化研究所紀要 22,2005 年。
(*)(参考：本多峰子「ユダは救われるか―カール・バルト『イスカリオテのユダ』と、遠藤周作『沈黙』による考察」二松学舎大学國際政経論集 11,2005 年。)
(*)管原とよ子「遠藤周作『沈黙』論：作品構図と鎮魂の祈りを柱として」国語国文学研究 40,2005 年。
(*)下野孝文「遠藤周作「母なるもの」論―カクレキリシタンを創る」国語国文薩摩路 49,2005 年。
(*)山田都与「遠藤周作『白い人』の変容」金城学院大学大学院文学研究科論集 11,2005 年。
(*)松野美穂「『テレーズ・デスケルー』と『海と毒薬』における罪―遠藤周作が迫ったテレーズの影」Lilia candida35,2005 年。
(*)田中葵「遠藤周作「白い人」論：その時間設定と主題」松蔭国文学 42,2005 年。

(*)金森誠也「遠藤周作文学のキリスト教」国際文化表現研究 1,2005 年。
(*)新国立劇場・大阪音楽大学『沈黙 : 全 2 幕 : 日本語上演/字幕付(日本語・英語)』2005 年。
(*)山根道公『遠藤周作：その人生と『沈黙』の真実』朝文社,2005 年。
(*)皆川達夫『オラショ紀行：対談と随想』日本基督教出版局,オンデマンド版,2005 年。
(*)(参考：近藤智彦「「堆積の議論(sorites)」について—ディオゲネス・ラエルティウス,ガレノス,キケロ(On vagueness)」哲学研究論集 2,2005 年。)
(*)(参考：高田康成「書評(27)古い奴だとお思いでしょうが キケロー/大西英文訳『弁論家について[全 2 冊]』」UP35(5),2005 年。)
(*)(参考：高田康成「西洋の楽園(特集 楽園—東と西)」アジア遊学 82,2005 年。
(*)石川巧「長崎通詞としての本木昌造(鎖国下の異国譚)」浜松大学研究論集 17(2),2005 年。
(*)野崎晃市「浅田栄次の谷本富批判--「耶蘇教駁論」を中心に」哲学・思想論叢 23,2005 年。
(*)久保忠夫「断章—土井晩翠に関する(2)」東北学院大学教養学部論集 142,2005 年。
(*)(参考：寇振鋒「清末『新小説』における『歴史小説洪水禍』--明治政治小説『経国美談』からの受容を中心に」名古屋大學中國學文學論集 17,2005 年。)
(*)(参考：竹内一博「アッティカ・デーモス研究における一動向」古代史年報 3,2005 年。)
(*)(参考：竹内一博「研究動向 古典期アッティカのデーモスをめぐる研究動向—N.F. と E.E.Cohen の近著を中心に」神戸大学史学年報 20,2005 年。)
(*)(参考 : 師尾晶子「ミレトス決議(IGI321) : 125 年の学説史」千葉商大紀要 43(1),2005 年。)
(*)(参考：師尾晶子「研究フォーラム：デロス同盟研究の今(世界史の研究 203)」歴史と地理 584,2005 年。)
(*)(参考：角田文衛『古代学の展開』山川出版社,2005 年。)
(*)(参考：加藤守通「人間形成の地平(3)人間形成の言語論(2)レトリックの人間形成論」東北大学大学院教育学研究科研究年報 54(1),2005 年。)
(*)(参考：高畑時子「Artes Libeles—リベラル・アーツの源泉」文芸学研究 9,2005 年。)
(*)(参考：海野弘『ホモセクシャルの世界史』文藝春秋社,2005 年(→2008 年,文春文庫)。)
(*)(参考：清水真木『友情を疑う—親しさという牢獄』中公新書,2005 年。)
(*)(参考：磯忍「ヨーロッパの名において—ヴァレリー「精神の危機」を読む」ヨーロッパ研究(-),2005 年。)
(*)(参考：小野紀明「ヌスバウムの思想史方法論と人間学」法學論叢 156(5・6),2005 年。)
(*)宮永孝「西洋哲学伝来考：室町時代末期から明治期まで」社会志林 52(1),2005 年。
(*)柴田隆行「日本の哲学教育史(下の 3)」井上円了センター年報 14,2005 年。
(*)近藤俊太郎「清沢満之の研究(修士論文要旨)」龍谷大学大学院文学研究科紀要 27,2005 年。
(*)(参考：宮山昌治「大正期におけるベルグソンの受容」(学習院)人文 4,2005 年。)
(*)村松晋「後世への最大遺物」キリスト教と諸学：論叢 20,2005 年。
(*)(参考：中畑正志『魂・心・世界：心的基礎概念の歴史的考察』京都大学,博士(文学),乙第 11604 号,2005 年。)
(*)田中伸司「〈特別対談〉岩田靖夫氏のソクラテス像—対話による探究とエンドクサ」(静岡大学人文社会科学部)「ギリシヤ哲学セミナー論集 II」2005 年。
(*)(参考：岩田靖夫「(J.)ロールズ哲学と哲学史講義」みすず 47(11),2005 年。)

(*)(参考：松浦明弘「岩田靖夫先生からのコメントへの応答：古代ギリシア哲学と現代倫理学のページ」http://matsuura05.exblog.jp/930870[2005-06]
(*)内山勝利「追悼・藤澤令夫先生」西洋古典學研究 53,2005 年。
(*)(参考：内山勝利・中畑正志編『イリソスのほとり：藤澤令夫先生献呈論文集』世界思想社,2005 年。)
-----山田道夫「創作と批評の間：『イオン』が読者に告げるもの」
木下昌巳「プロタゴラスと政治の技術：プロメテウスの物語と民主制」
金山弥平「メノンを知ること・メノンのパラドクスと想起説」
中川純男「美しいものは美しい：『パイドン』における同一性命題の意味」
瀬口昌久「徳と技術：『国家』第一巻におけるクラフト・アナロジー」
吉田昌市「「ありかつあらぬ」ということ：『国家』第五巻 476D 以下」
小池澄夫「文字と声：『国家』のミーメーシス論」
久保徹「人を愛するということ：『パイドロス』におけるエロース論の射程」
朴一功「『クラチュロス』におけるプラトンの言語哲学の視座」
山本千洋「『テアイテトス』184B4-186E12 の解釈と位置づけ」
脇條靖弘「『テアイテトス』188A-C のパズルの構造と役割」
高橋憲雄「『ポリティコス』における政治家のパラデイグマ」
國方栄二「アトランティス物語」
丸橋裕「最も美しきドラーマ：『法律』における「第二の国制」」
浅野楢英「プラトンのディレクティケーの方法：その論理構造面」
中畑正志「ロゴス：「理性」からの開放」
内山勝利「プラトン後期著作における対話性」
三浦要「「思わく」の虚構と真実：パルメニデスにおけるコスモロジーの可能性について」
坂下浩司「アクラシアー論：アリストテレスの立場から」
浜岡剛「『ニコマコス倫理学』第三巻における願望と思案」
山口義久「プロティノスのプラトン主義：観想と実践をめぐって」
(*)三嶋輝夫「応答,これから—弁明と展望」古代哲学研究 37,2005 年。
(*)内山勝利「内山勝利教授定年退職記念 愛知(フィロソフィア)言語—タレス,ヘラクレス,プラトンを中心に(内山勝利教授定年退職記念)」古代哲学研究 37,2005 年。
(*)「内山勝利教授 業績年譜(内山勝利教授定年退職記念)」古代哲学研究 37,2005 年。
(*)「内山勝利教授 講義題目(内山勝利教授定年退職記念)」古代哲学研究 37,2005 年。
(*)(参考：三浦要『真理の「こころ」と探究の道：パルメニデスにおける哲学的探究をめぐって』京都大学,博士(文学),乙第 11596 号,2005 年)
(*)(参考：田中伸司『対話とアポリア：ソクラテス的探究の対話としての構造』北海道大学,博士(文学),乙第 6345 号,2005 年。)
(*)(参考：川田殖「「『いま古代を省る』ロイド古代哲学のスケッチ」人文科学研究 36,キリスト教文化研究所,2005 年。)
(*)山田宏一「「山田宏一の「映画教室(1)映画史—前史(1)それはプラトンの「洞窟の比喩」からはじまる」フリースタイル 1,2005 年。
(*)(参考：大草輝政『プラトンの知識論：ソクラテスの探究方法をめぐって』京都大学,博士(文学),甲第 11262 号,2005 年。)

(*)(参考：國方栄二『プラトンのミュートス』京都大学,博士(文学),甲第 11597 号,2005 年。)
(*)(参考：金山弥平『プラトンにおける感覚と考察：『メノン』『パイドン』『テイアイテトス』』京都大学,博士(文学),甲第 11606 号,2005 年。)
(*)(参考：田坂さつき『『テアイテトス』研究：対象認知における「ことば」と「思いなし」の構造』東京都立大学,博士(文学),乙第 1181 号,2005 年。)
(*)(参考：菊谷忠治「実存主義とソクラテス」地中海歴史風土研究誌 22,2005 年。)
(*)納富信留『哲学者の誕生』(第六章「日本に渡ったソクラテス」)ちくま新書,2005 年(→2017 年,ちくま学芸文庫版)。
(*)栗原裕次「記憶と対話----納富信留「哲学者の誕生----ソクラテスをめぐる人々」(ちくま新書,2005 年)を読む」ペデラヴィウム 58,2005 年。
(*)(参考：加藤守道「戦争と教育：フーコーからプラトンへ(特集 戦争と教育)」教育哲学研究 92,2005 年。)
(*)(参考：茂木健一郎「思考の補助線(7)偶有性とプラトン的完全さの間に」ちくま 417,2005 年。)
(*)(参考：荻原理「プラトンのについての二つの博士論文へのコメント—中澤務『プラトン初期対話篇におけるソクラテスの倫理思想』,田中伸司『対話とアポリア—ソクラテツ的探究の対話としての構造』文化 69(1・2),2005 年。)
(*)(参考：高橋久一郎『アリストテレス—何が人間の行為を説明するのか?』シリーズ・哲学のエッセンス,日本放送出版協会,2005 年。)
(*)(参考：左近司祥子『ソクラテスになった猫』勉誠出版,2005 年。)
(*)(参考：マーガレット・ドゥーディ/左近司祥子訳『哲人アリストテレスの殺人推理』講談社,2005 年。)
(*)(参考：神崎繁「生存の技法としての「自己感知」(上)ストア派における「自己保存」と「自己意識」の同根性をめぐって(特集 ストア派の哲学とその遺産)」思想 971,2005 年。)
(*)(参考：神崎繁「生存の技法としての「自己感知」(下)ストア派における「自己保存」と「自己意識」の同根性をめぐって」思想 972,2005 年。
(*)(参考：山内昌之『鬼平とキケロと司馬遷と：歴史と文学の間』グーテンベルクの森,岩波書店,2005 年(→2016 年,中公文庫版)。)
(*)(参考：堀江聡「ダマスキオスの「語りえないもの」」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 36,2005 年。)
(*)(参考：ジョバンニ・デサンティス「単性論論争とキュロスのテオドレトス」ソフィア 53(3),2005 年。)
(*)(参考：ヨハネ・パウロ二世/山口正美訳『ヒッポのアウグスティヌス(Augustimum Hipponensum—教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的書簡』カトリック中央協議会,2005 年。)
(*)(参考:宮谷宣史『アウグスティヌスの神学』関西学院大学研究叢書 109,教文館,2005 年。)
(*)(参考:高橋克己「エックハルトの「偉大な pfaffe プラトーン—叡智(ヌース)νους と離在(コーリス)χωιζ と彼方(エペケイナ)επεκεινα[含・獨文]」人文科学研究 12,2005 年。)
(*)(参考：左近司祥子「哲学の中の美：プロティノスの場合」人文 4,2005 年。)
(*)「巻頭言--新プラトン主義協会創立 10 周年を祝して(新プラトン主義協会創立 10 周年記

念号)」新プラトン主義研究 4,2005 年。)
(*)(参考：金澤修「Enn.5-7(18)『個々のものにもイデアがあるかどうか』を巡って(新プラトン主義協会創立 10 周年記念号)」新プラトン主義研究 4,2005 年。)
(*)(参考：山崎達也「エックハルトにおけるスペキエス論(新プラトン主義協会創立 10 周年記念号)」新プラトン主義研究 4,2005 年。)
(*)(参考：土井裕人「偽ディオニュシオス・アオレキバデスにおける神化の問題--『天上位階論』を手がかりに(新プラトン主義協会創立 10 周年記念号)」新プラトン主義研究 4,2005 年。)
(*)(参考：鈴木順「エヴァグリオス・ポンティコスにおける智慧(ソフィア)と知識(グノーシス) (新プラトン主義協会創立 10 周年記念号)」新プラトン主義研 4,2005 年。)
(*)(参考：太田幸典「John Donne の The Anniversaries について—新プラトン主義に基づく図形的考察」比較文化研究 67,2005 年。)
(*)(参考：山口誠一・伊藤巧著『ヘーゲル(新プラトン哲学)註解：新版『哲学史講義』より』知泉館,2005 年。)
(*)(参考：中畑正志「アリストテレスの心の哲学の変容—新プラトン主義による注解から(新プラトン主義協会創立 10 周年記念号)」新プラトン主義研究 4,2005 年。)
(*)(参考：黒崎宏『純粋仏教—セクストスとナーガルジュナとウィトゲンシュタインの狭間で考える』春秋社,2005 年。)
(*)(参考：植田かおり『プロティノスの魂論：魂と肉体の関係と,それをめぐる言説についての研究』学習院大学,博士(哲学),甲第 135 号,2005 年。)
(*)(参考：水地宗明「プロティノスと ESP(新プラトン主義協会創立 10 周年記念号)」新プラトン主義研究 4,2005 年。)
(*)(参考：鈴木順「エヴァグリオス・ポンティコスにおける知恵(ソフィア)と知識(グノーシス)(新プラトン主義協会創立 10 周年記念号)」新プラトン主義研究 4,2005 年。)
(*)(参考：周藤多紀「ボエティウスにおける思考の語り」アルケー13,2005 年。)
(*)(参考：中川憲次「『神の慰めの書』におけるマイスターエックハルトのカウンセリング」ボエーティウスの『哲学の慰め』との比較において)福岡女学院大学大学院紀要：臨床心理学 2,2005 年。)
(*)(参考：土井裕人「偽ディオニュシオス・アオレパギテスにおける神化の問題—『天上位階論』を手がかりに(新プラトン主義協会創立 10 周年記念号)」新プラトン主義研究 4,2005 年。)
(*)(参考：山崎達也「エックハルトにおけるスペキエス論(新プラトン主義協会創立 10 周年記念号)」新プラトン主義研究 4,2005 年。)
(*)(参考：K.Riesenhuber 研究代表『中世後期からルネサンスに至る「言葉」理解：形而上学から人文主義的へ』科学研究費補助金(基礎研究 B2)研究成果報告書,平成 15,16 年度,2005 年。)
(*)(参考：南川高志・小山哲編『近代ヨーロッパにおける人文主義の継承と変容：政治文化・古典研究・大学=Continuity and change of the humanism in the modern Europa：political culture,classical studies and university』京都大学大学院研究科内「ヨーロッパにおける人文学知形成の歴史的構図」研究

会,2005 年。)
(*)(参考：中川澄夫・加藤雅人編『中世哲学を学ぶ人のために』世界思想社,2005 年。)
(*)(参考：チャールズ・B・シュミット,ブライアン・P・コーペンヘイヴァー/榎本武文訳『ルネサンス哲学』平凡社,2005 年。)
(*)(参考：森田團「ブック・レヴュー(3)アビ・ヴァールブルク『異教的ルネサンス』」10+137,2005 年。)
(*)(参考：中江彬「明治時代のルネサンス概念,天心と樗牛」人文学論集 23,2005 年。)
(*)(参考：田中穂積「久志本秀夫先生(久志本秀夫先生追悼号)」関西西洋史論集 28,2005 年。)
(*)根占献一「ヒューマニズムと現代」創文 472,2005 年。
(*)(参考：根占献一『共和国のプラトン的世界』創文社,2005 年。)
(*)(参考：根占献一『フィレンツェ共和国のヒューマニスト』創文社,2005 年。)
(*)(参考：渡辺華月「フィチーノと『要約』『手引き』」龍谷哲学論集 19,2005 年。)
(*)(参考：澤井繁男「カンパネッラへの旅—裁判(上下)」春秋 469,471,2005 年。)
(*)(参考：澤井繁男「カンパネッラへの旅—真偽(上中下)」春秋 474,2005 年/476,478,2006 年。)
(*)(参考：澤井繁男「「ルネサンス」開講」関西大学文学論集 56(2),2005 年。)
(*)(参考：澤井繁男「魔術師たちの跫音」春秋 482,2005 年。)
(*)(参考：加川順治『近代フランス・イタリアにおける悪の認識と愛：ダンテ,ラ・ロシュフーコー,ヴィーコ,メリメ,レーヴィ』比較文化研究ブックレット no.3,神奈川新聞社,2005 年。)
(*)(参考：ベーコン著/服部英次郎訳者代表『学問の進歩；ノヴム・オルガヌム：他』河出書房新社,2005 年。)
(*)(参考：長尾伸一「19 世紀ブリテンの「世界の複数性」論争」(名古屋大学経済学会)経済科学 53(3),2005 年。)
(*)(参考：ピエトロ・エマヌエーレ/泉典子訳『この哲学者を見よ：名言でたどる西洋哲学史』中央公論新社,2005 年。)
(*)(参考：山田忠彰監修・山田忠彰・尾河直哉訳『エステティカ：イタリアの美学クローチェ&バレイゾン』ナカニシヤ出版,2005 年。)
(*)(参考：掛川富康「K.バルトの教義的神学のキリスト教性：そのイデアリスムス批判を考慮しつつ」(プラトニズム)茨城キリスト教大学紀要 1 人文科学 39,2005 年。)
(*)(参考：渡部昇一『できる人になる生き方の習慣：スイスの哲人ヒルティが教える 97 の処世術』Chichi-Select,致知出版社,2005 年。)
(*)(参考：丹下和彦『悲劇の世紀：前 5 世紀アテナイ精神史としてのギリシア悲劇』京都大学,博士(文学),乙第 11598 号,2005 年。)
(*)遠藤浩一「靖国での『アンティゴネ』が観たい(エッセー特集「靖国」点描)」正論 401,2005 年。)
(*)京都大学文学部編『以文会友 京都大学文学部今昔』京都大学学術出版会,2005 年。)
(*)名古屋大学大学院文学研究科編『名古屋大学大学院文学研究科外部評価ピア・レビュー報告書』名古屋大学大学院文学研究科,第 2,3 回,2005 年。
(*)(参考：小川正廣『西洋古典における民話にもとづく文学創造の研究』出版者不明,2005 年。)
(*)(参考：安村典子研究代表『西洋古典文学における「変身物語」と,近代文学における

その受容』安村典子,科学研究費補助金基盤研究(C2)研究成果報告書,平成 15~16 年度,2005 年。)
(*)静岡県舞台芸術センター『ギリシア悲劇とオウム事件』劇場文化 8,2005 年。
(*)(参考：エウリピデス/山形治江訳『メディア』れんが書房新社,2005 年。)
(*)(参考：ソフォクレス作/蜷川幸雄演出『オイディプス王：アテネ公演』Bunkamura,角川映画(発売),2005 年。)
(*)(参考：山本淳「『オイディプス王』における哲学批判と救済・序論(前後)」世界文学 101,102,2005 年。)
(*)(参考：石田啓「近代ギリシア詩誕生に見るイタリアとギリシアの絆—フォスコロとソロモスにおけるホメロスの意味」東北学院大学教養学部論集 142,2005 年。)
(*)(参考：白百合女子大学言語・文学研究センター編・春田節子責任編集・久保正彰田執筆『口承文学の世界』弘学社,アウリオン叢書 3,2005 年。)
(*)(参考：高橋通男『ヘレニズムの詩とホメーロス—アポローニオス・ロディオス研究』慶應義塾大学言語文化研究所,慶應義塾大学出版会(製作・発売),2005 年。)
(*)(参考：森山康介『『イーリアス』日記』(横浜)春風社,2005 年。)
(*)(参考：長谷部英吾『自修ホメーロス—イーリアス第 22 巻』リーベル出版,2005 年。)
(*)(参考：ガルテールス・デ・カステリオーネ/瀬谷幸男訳『アレクサンドロス大王の歌：中世ラテン叙事詩』南雲堂フェニックス,2005 年。)
(*)谷沢永一「本好き人好き(188)旅役者の群れとその生活—村田栄子『女優生活 妾の半生』桑木厳翼『哲学五流辨及其他』」国文学 解釈と教材の研究 50(5),2005 年。
(*)武市眞弘「『バレト写本』の『われらが主ゼズ・キリストの御受難』のローマ字翻刻(続)」山口県立大学大学院論集 6,2005 年。
(*)海老澤有道『洋楽伝来史：キリシタンから幕末まで』日本キリスト教団出版局,オンデマンド版,2005 年。
(*)海老澤有道『日本の聖書:聖書和訳の歴史』日本キリスト教団出版局,オンデマンド版,2005 年。
(*)大島秀明「「鎖国」の創出 志筑忠雄訳『鎖国論』--「桑木文庫」」九州大学附属図書館 41(1),2005 年。
(*)大島秀明「十九世紀国学者における志筑忠雄訳『鎖国論』の受容と平田国学」日本文藝研究 57(1),2005 年。
(*)大島秀明「近世後期日本における志筑忠雄訳『鎖国論』の受容」洋学 14,2005 年。
(*)磯崎康彦「司馬江漢伝」福島大学人間発達文化学類論集 1,2005 年。
(*)依岡隆児「日独文化交流試論：四国から見た「世界」」(貨狄)言語文化研究 13,2005 年。
(*)井上琢智「明六社・日本学士院と共存同衆・交詢社：福沢諭吉・木幡篤次郎・馬場辰猪」近代日本研究 2,2005 年。
(*)井上琢智「〈研究センター講演録〉明六社・日本学士院と共存同衆・交詢社：福沢諭吉・木幡篤次郎・馬場猪」近代日本研究 2,2005 年。
(*)長島要一『森鴎外—文化の翻訳者』岩波新書,2005 年。
(*)(参考：四位誠光「小泉八雲のこと」地中海歴史風土研究誌 22,2005 年。)
(*)木村健治「日本におけるギリシア・ローマ演劇上演史研究」(平成 14-16 年度科学研費補助金基礎研究(C)(2)成果報告書),2005 年。

(*)井上ひさし著/和田誠絵『イソップ株式会社』中央公論新社,2005 年。
(*)寺谷純一郎『おかえり,イソップ村へ』文芸社,2005 年。
(*)星新一『未来いそっぷ』55 刷改版,新潮社,2005 年。
(*)阿部隆夫「よくばりないぬ—イソップ物語より(めいさくしかけ)」ほっぺ 5,2005 年。
(*)David Oliver(adpt)『Aesop's Fables』アイビーシーパブリッシング,日本洋書販売,2005 年。
(*)イソップ原作/フランシス・バーンズマーフィー編 ; ローワン・バーンズマーフィー絵 : 天野裕訳『イソップ物語』文渓堂,2005 年。
(*)Based on the English translation by G.F.Townsend;Arranged by J.Cobb ; Japanese Translation by Arimasa Kubo : 小分割和英順方式普及会,季想社,23005 年。
(*)伊蘇普著/上田萬年編訳・解説『新譯伊蘇普物語(上下)』世界名作名訳シリーズ 3,4,はる書房,2005 年。
(*)(参考 : ラ・フォンテーヌぶん ; ブライアン・ワイルドスミスえ : わたなべしげおやく『ライオンとネズミ』らくだ出版,2005 年。)
(*)(参考 : イソップ/千葉幹夫編『イソップ童話』よみきかせおはなし名作 1,成美堂出版,2005 年。)
(*)青木稔弥「坪内逍遙『国語読本』とイソップ物語」神戸松蔭女子学院大学文学研究室「文林」39,2005 年。
(*)(参考 : 内田市五郎「西洋の挿絵様々(イソップと西洋文学の挿絵展)」日本古書通信 70(10),2005 年。)
(*)武藤禎夫「日本版イソップ挿絵の様々(イソップと西洋文学の挿絵展)」日本古書通信 70(10),2005 年。
(*)青木稔弥「ゆっくりとおやすみになって下さい : うさぎとかめの話」(大阪市立大学国語国文研究室)文学史研究 45,2005 年。
(*)鳥羽耕史「実践としての寓話—安部公房とイソップ」国文学 解釈と鑑賞 70(11),2005 年。
(*)岩男久仁子「「イソップ寓話」に表われる「自由」の概念」関西英学史研究 1,2005 年。
(*)山川偉也「唱歌「もしもしかめよ」考」」桃山学院大学人間科学 29,2005 年(→2010 年,同『ギリシア思想のオデュツセイア』世界思想社,に再録)。
(*)遠藤潤一「定年退職を迎えて(定年退職なさる先生がたからのメッセージ)」跡見学園女子大学人文学フォーラム 3,2005 年。
(*)原田信之「沖縄・多良間島の平家伝説」(百合若大臣)新見公立短期大学紀要 26,2005 年。
(*)正木ゆみ「近松の俊寛像と『源平盛衰記』」(百合若大臣)女子大国文 137,2005 年。
(*)小林美和「室町時代の祝言と食文化 : 幸若舞曲にみる」(百合若大臣)帝塚山大学現代生活学部紀要 1,2005 年。
(*)河村望『ロビンソン・クルーソーは炭焼小五郎だった』(百合若大臣)人間の科学新社,2005 年。
(*)徳永明子編・松井なつ代さし絵『福岡 : 筑紫ん国のおもしろか話』(百合若)星の環会、ふるさとお話の旅 11,2005 年。
(*)立花隆『天皇と東大 : 大日本帝国の生と死(上下)』文藝春秋,2005 年。
(*)佐藤優「連戦連勝「狂気の論客」蓑田胸喜の生涯」新潮 45 24(10),2005 年。
(*)菅原憲二・飯塚一幸・西山伸『田中秀央 近代西洋学の黎明---『憶い出の記』を中心に』京都大学学術出版会, 2005 年。
(*)水崎博明「「知の理論」講義の一つの試み : 田中美知太郎『人生論風に』所収「自知の

構造」を釈義する形で」福岡大學人文論叢 37(3),2005 年。
(*)(參考：木原武一『大人のための世界の名著必読書 50』海竜社,2005 年。)
(*)(參考：村松茂美他『はじめて学ぶ西洋思想』思想家たちとの対話,ミネルヴァ書房,2005 年。)
(*)輪倉一広「岩下壮一における権威性と民衆性」日本研究：国際日本文化研究センター紀要 31,2005 年。
(*)(參考：池田黎太郎『アイスキュロス研究』筑波大学,博士(文学),乙第 2101 号,2005 年。)
(*)(參考：丹下和彦『悲劇の世紀：前 5 世紀アテナイ精神史としてのギリシア悲劇』京都大学,博士(文学),乙第 11598 号,2005 年。)
(*)岡道男『ぶどう酒色の海—西洋古典小論集』岩波書店,2005 年。
(*)(參考：井浦伊知郎「Ismail Kadare におけるホメーロスの解釈—小説『怪物』に見られる「トロイア陥落」」プロピレア 17,2005 年。)
(*)(參考：榎本武文「アンジェロ・ポリツィアーノの哲学論」創文 482,2005 年。
(*)(參考：平川佳世「研究のトポス「地獄のブリューゲル」--ヤン・ブリューゲル(父)作《トロイア炎上》をめぐって」(近畿大大学院文芸学部研究科)混沌 2,2005 年。)
(*)(參考：加藤守通「人間形成の地平(その 2)人間形成の言語論(1)ヒューマニズムへの道」東北大学大学院教育学研究科研究年報 53(2),2005 年。)
(*)(參考：河島英昭「ダンテ『神曲』への誘い(その 1)同時代の証言」図書 674,2005 年。)
(*)(參考：河島英昭訳「新訳 ダンテ神曲〈地獄篇〉第 1-34 歌(最終回)」図書 674-680,2005 年/681,683-692,2006 年/693,694,696,698-705,2007 年/706-711,2007 年。)
(*)(參考：ダンテ/山川丙三郎訳『神曲・地獄(上下)』フロンティア文庫,フロンティアニセン,2005 年。)
(*)(參考：R.W.B.ルイス/三好みゆき訳『ダンテ』ペンギン評伝双書,岩波書店,2005 年。)
(*)(參考：加川順治『近代文学フランス・イタリアにおける悪の認識と愛—ダンテ,ラ・ロシェフーコー,ヴィーコ,レーヴィ』比較文化研究パンフレット no.3,鶴見大学比較文化研究所企画・編集,神奈川新聞社,2005 年。)
(*)堀竜一「芥川龍之介とダンテ『神曲』--「歯車」における「樹木になつた魂」をめぐって」キリスト教文学研究 22,2005 年。
(*)(參考：金澤正剛「私の古典、私と古典(26)ダンテとペトラルカ」學燈 102(1),2005 年。)
(*)(參考：近藤恒一「思想の言葉 哲学者と弁論家—ペトラルカとセネカをめぐって(ストア派の哲学とその遺産)」思想 971,2005 年。)
(*)(參考：木ノ脇悦郎「エラスムスの ΝΗΦΑΛΙΟΝ ΣΥΜΜΠΟΣΙΟΝ 1529」について(前島宗甫教授退任記念号)」関西学院大学キリスト教と文化研究 6,2005 年。)
(*)(參考：柳沼正弘「エラスムス「ドルピウス宛書簡」執筆の背景(浅田實教授退任記念号)」創価大学人文論集 17,2005 年。)
(*)(參考：熊谷明子「エラスムスの『格言集』が持つ道徳的意味—バフーチン及びフェーブルのエラスムス解釈の分析を中心として」フランス教育学会紀要 17,2005 年。)
(*)(參考：瀬沼克彰「西欧ルネサンスの余暇思想」経営政策論集 5,2005 年。)
(*)(參考：鈴木宣則「ルネサンス二つの代表的政治思想：マキャヴェッリとトマス・モア」鹿児島大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編 56,2005 年。)

(*)(参考：吉田健太郎「「無限」はいかにして認識されるのか--「無限」を巡るデカルトとガッサンディの論争から」名古屋大学哲学論集 7,2005 年。)
(*)(参考：A.A.Long/金沢修訳「哲学的伝統におけるストア主義―スピノザ・リプシウス・バトラー(ストア派の哲学とその遺産)」思想 971,2005 年。)
(*)(参考：ラブレー/宮下志朗訳『ガルガンチュア』(ちくま文庫--「ガルガンチュアとパンタグリュエル 1」)筑摩書房,2005 年。)
(*)(参考：荻野アンナ『ラブレーで元気になる』理想の教室,みすず書房,2005 年。)
(*)(参考：四方田犬彦『ラブレーの子供たち』新潮社,2005 年。)
(*)(参考：黒岩比佐子「書評 「ラブレーの子供たち」四方田犬彦--「食」から知る芸術家の本質」(味読・愛読　文學界図書室)」文學界 59(11),2005 年。)
(*)(参考：松浪信三郎訳『モンテーニュ』[世界の大思想 4,1966 年刊の複製]世界の大思想ワイド版,河出書房新社,2005 年。)
(*)(参考：松浪信三郎訳『モンテーニュ』[世界の大思想 5,1967 年刊の複製]世界の大思想ワイド版,河出書房新社,2005 年。)
(*)(参考：モンテーニュ/宮下志朗訳『エセー(1-4)』白水社,2005 年。)
(*)(参考：三宅中子「本居宣長における実験的実証主義フランス哲学との比較において」(モンテーニュ)(学習院大学)人文 4,2005。)
(*)(参考：清原洋子「ラ・フォンテーヌ寓話『賊とロバ』を読む：ジャーナリスト,ラ・フォンテーヌ」フランス文学論集 40,2005 年。)
(*)(参考：ヴォルテール/中川信・高橋安光訳『哲学書簡　哲学辞典』中央公論新社,2005 年。)
(*)(参考：山中知子『ラシーヌ,二つの顔』人文書院,2005 年。)
(*)(参考：翠川博之「遊び手のいない遊び：ジャン・ポール・サルトル『トロイアの女たち』における「世界」の表象とモラル」フランス語フランス文学研究 87,2005 年。)
(*)(参考：金子祥之「ヘラクレスの変貌」(ヴィラモーヴィッツ)文学研究論集 24,2005 年。)
(*)(参考：ジョージ・L・モッセ/細谷実他訳『男のイメージ：男性性の創造と近代社会』(ヴィンケルマン)作品社,2005 年。)
(*)(参考：平川佳世「研究のトポス「地獄のブリューゲル」--ヤン・ブリューゲル(父)作《トロイア炎上》をめぐって」(近畿大学大学院文芸学研究科)渾沌 2,2005 年。)
(*)(参考：大村直司『ドイツ・ヒューマニズムの原典：欧州連合の精神史的背景』(ヴィンケルマン),南窓社,2005 年。)
(*)(参考：ジョルジュ・ディディ=ユベルマン/竹内孝宏・水野千依訳『残存するイメージ：ヴァールブルクによる美術史と幽霊たちの時間』(ヴィンケルマン)人文書院,2005 年。)
(*)(参考：原研二他『多元的文化の論理：新たな文化学の創生にに向けて』東北大学出版会,2005 年。)
(*)(参考：Wilhelm Hainse/尾田一正訳「アルディンゲロと至福の島々(1-6)」帝京大学外国語外国文学論集 11,2005 年/12,2006 年/13,2007 年/14,2008 年/15,2009 年/16,2010 年。)。)
(*)(参考：木原武一『ゲーテに学ぶ幸福術』新潮選書,新潮社,2005 年。)
(*)(参考：木村直司『ドイツ・ヒューマニズムの原点：欧州連合の精神史的背景』南窓社,2005 年。)

(*)神品芳夫「展望 ゲーテ精神の再構築へ--木村直司著『ドイツ・ヒューマニズムの原点』をめぐって」ソフィア 54(1),2005 年。
(*)(参考:青木敦子『シラーの「非」劇:アナロギアのアポリアと認識論的切断』哲学書院,2005 年。)
(*)(参考：青木敦子『時計仕掛けの世界とマリオネット：前期シラーのエピステーメー』出版者不明,2005 年。)
(*)(参考：松山雄三「シラーの牧歌構想をめぐって—戯曲『メッシーナの花嫁』を中心に」プロテウス 8,2005 年。)
(*)(参考:杉浦忠夫「シラー崇拝とナチズムとイェーナ大学 1933/34」明治大学教養論集 395,2005 年。)
(*)(参考：坂本貴志「デメートリウスの妄想」ドイツ文学 4(5),2005 年。)
(*)(参考：アレクダンダー・ネハマス/湯浅弘・堀邦雄訳『ニーチェ：文学象徴としての生』理想社,2005 年。)
(*)(参考：齋藤直樹「「仮面」としてのディオニュソス—初期ニーチェにおける「ディオニュソス的象徴法」の概念について」倫理学年報 54,2005 年。)
(*)(参考：西章「「ディオニュソス的なもの」と「芸術の声への傾聴」」関西学院哲学研究年報 38,2005 年。)
(*)(参考：齋藤智志「同情論の射程—ショーペンハウアーcontra ニーチェ」ディルタイ研究 16,2005 年。)
(*)(参考:松本敏信「教育者としてのヘルダーリン—ヒュペーリオンを中心に」独文研究室報 20,2005 年。)
(*)(参考:山元哲朗「ヘルダーリンと「近代」」大阪産業大学論集,人文科学編 116,2005 年。)
(*)(参考：三村利恵『ロゴスからポエジーへ：ヘルダーにおけるロゴスの諸相』英知大学,博士（宗教文化）,乙第 6 号,2005 年。)
(*)(参考:関根裕子「新出 鷗外のホーフマンスタール宛書簡--『オイディプスとスフィンクス』と『エレクトラ』をめぐって」文学 6(1),2005 年。)
(*)(参考:岩田美喜「誰が〈殉教〉を殺したか--『寺院の殺人』に組み込稀他中世劇,ギリシア悲劇と探偵小説の重奏構造」川内レヴュー4,2005 年。)
(*)(参考：荒木詳二「教養主義の諸相：日本とドイツにおける教養主義(〈小特集〉日本における情報と「恐れ」,平成 14 年度 社会情報学部総合学科型プロジェクト研究報告)」群馬大学社会情報学部研究論集 12,2005 年。)
(*)(参考:古澤ゆう子「レッシングの悲劇論における「あわれみ」「おそれ」「カタルシス」:アリストテレス『詩学』との関係から(特集 戦慄の美学)」ドイツ文学：Neue Beitrage zur Germanik125,2005 年。)
(*)(参考：イヨルク・トレーガー/永井繁樹・濱西雅子訳「『ルネサンスと宗教—ラファエロの時代における信仰の芸術』」総合教育センター紀要 25,2005 年。)
(*)(参考:今西雅章「『トロイラスとクレシダ』のにがい笑い—言語表象と舞台構図の視点から」関西外国語大学研究論集 81,2005 年。)
(*)(参考：新井基祐『シェイクスピア四大悲劇—虚と実』大阪教育図書,2005 年。)
(*)(参考：福井妙子『シェイクスピアにおける“form”の諸相』金星堂,2005 年。)
(*)(参考：シェイクスピア/福田恆存訳『ジュリアス・シーザー』58 刷改版,新潮文庫,新潮

社,2005 年。)
(*)(参考：シェイクスピア/大場建治編註釈『ジューリアス・シーザー』研究社シェイクスピア選集対訳・註解 6,研究社,2005 年。)
(*)(参考：佐野隆弥「リチャード三世劇の系譜—1580 年代および 90 年代前半におけるセネカ流歴史劇と国家象徴」文藝言語研究・文藝篇 47,2005 年。)
(*)(参考：松田実矩『ミルトン研究—ミルトンと過去の詩聖 ミルトンと(1)Orpheus(2)Homer と Virgil(3)Ovid』(京都)山口書店,2005 年。)
(*)(参考：村里好俊「クリストファー・マーロウ『ヒアロウとリアンダー』訳と注解(吉田徹夫教授退職記念号)」(ヴィーナス)Kasumigaoka Review 11,2005 年。)
(*)(参考：藤井哲編『日本におけるサミュエル・ジョンソンおよびジェイムズ・ボズウェル文献目録(1871-2005)』ナダ出版センター,2005 年。)
(*)(参考：海老澤豊『田園の詩神：十八世紀英国の農耕詩を読む』国文社,2005 年。)
(*)(参考：宮内泰彦「伝統尊重のアイデンティティ—エリオットとモーラス」言語文化研究 4,2005 年。)
(*)(参考：富山太佳夫・加藤文彦・石川慎一郎編『テクストの地平：森晴秀教授古稀記念論文集』(倉持三郎「D.H.ロレンスとホラチウス：ロレンスの『オード』受容」)英宝社,2005 年。)
(*)(参考：家山也寿夫「ジャン・コクトーにおける神話伝説の変容(1)：ジャンルを超えるオルフェウス譚(〈特集 複合文化学〉)」学術研究 外国語・外国文学編 53,2005 年。)
(*)(参考：覚張シルビア「レフ・トルストイの作品における夢と記憶」Slavista：東京大学大学院人文科学系研究科スラブ語スラブ文学研究室年報 20,2005 年。)
(*)中野登志美「『春琴抄』に形象された谷崎の美—谷崎の芸術感覚とプラトンのイデアとの関係性からの考察」阪神近代文学 6,2005 年。
(*)植田重雄『秋艸道人會津八一の學藝』清流出版,2005 年。
(*)伊藤勲「西脇順三郎とギリシア」愛知大学文学論叢 131,2005 年。
(*)連坊公爾「夭逝への憧れ—アポロン的三島由紀夫論」自由 47(8),2005 年。
(*)太宰治『走れメロス』81 刷縮刷版新潮文庫,新潮社,2005 年。
(*)太宰治『走れメロス』ポプラポケット文庫,ポプラ社,2005 年。
(*)太宰治『走れメロス』デカ文字文庫,舵社,2005 年。
(*)太宰治作・西田敏行朗読『走れメロス：畜犬談』太宰治作品集 5,音楽資料(非音楽),NHKサービスセンター,2005 年。
(*)Dazai Osamu：trans.and retold by Michael Brase『Run,Melos,run』アイビーシーパブリッシング,日本ン洋書販売(発売),洋販ラダーシリーズ,Level1,2005 年。
(*)大野とも子「文学と空間：設計手法の研究」(「走れメロス」)日本デザイン学会研究発表大会概要集 52,2005 年。
(*)藤井貞和「メロスはゆうひに追いつくのか(特集 物語の未来へ)」源氏研究 10,2005 年。
(*)岩田英作「『走れメロス』論：小さな勇者」(島根大学)国語教育論叢 14,2005 年。
(*)石田慶幸「「走れメロス」--信実とナルシシズムの機構」(早稲田大学国文学会)国文学研究 146,2005 年。
(*)米田誠・中尾恭三・鷲田睦朗・竹中徹「〈書評〉藤川隆男篇『オーストラリアの歴史：多文化社会の可能性を探る』/岡崎勝世著『世界史とヨーロッパ—ヘロドト

スからウォーラシテインまで』/土岐健治著『はじめての死海写本』/周藤芳幸・澤田典子著『ギリシア遺跡事典』」パブリック・ヒストリー2,2005 年。)
(*)(参考：伊藤貞夫「学界動向：古代ギリシア史研究と奴隷制」法制史研究 55,2005 年。)
(*)(参考：橋場弦「読書案内：問い直されるギリシア史(世界史の研究[202])」歴史と地理 581,2005 年。)
(*)豊田浩志「『上智史學』創刊 50 号に寄せて」上智史學 50,2005 年。)
(*)松本宣郎「史学概論」の今(歴史の風)」史學雑誌 114(5),2005 年。
(*)(参考 : 中井義明『古代ギリシア史における帝国と都市—ペルシア・アテナイ・スパルタ』ミネルヴァ書房,2005 年。)
(*)(参考：秋山学「ヘロドトスの「父性」--「東方予型論」の構築に向けて」文藝言語研究,文藝篇 48,2005 年。)
(*)(参考：井浦伊知郎「Ismail Kadare におけるホメーロスの解釈—小説『怪物』に見られる「トロイア陥落」」プロピレア 17,2005 年。)
(*)(参考:松村劭『名将たちの指揮と戦略:勝つためのリーダー学』PHP 新書,PHP 研究所,2005 年。
(*)(参考：アネッロ・パウリッツ/谷口伊兵衛訳『悲劇トロイア炎上：古えの歴史および話に基づく』而立書房,2005 年。)
(*)(参考:ジェフリー・チョーサー/岡三郎訳・解説『トロイロス』トロイア叢書 4,国文社,2005 年。)
(*)(参考：倉田稔「トロイ戦争」小樽商科大学人文研究 110,2005 年。)
(*)(参考：ランス・カーク/青井倫一訳『アレキサンダー最強の帝王学』三笠書房,2005 年。)
(*)(参考：オリバー・ストーン,クリストファー・カイル,ラエタ・カログリデス脚本/鎌田三平編訳『アレキサンダー』竹書房文庫,竹書房,2005 年。)
(*)(参考：マンフレッド・F.R.ケッツ・ド・ブリース,エリザベト・エンゲラウ/宮島桂子・石原薫訳『アレキサンダーに学ぶ 100 戦 100 勝の成功法則』イースト・プレス,2005 年。)
(*)(参考 : ニコラス・ニカストロ/楡井浩一訳『アレキサンダー大王炎の帝国』清流出版,2005 年。)
(*)(参考：ランス・カーク/青井倫一訳『アレキサンダー最強の帝王学』三笠書房,2005 年。)
(*)(参考:メアリ・ルノー/堀たほ子訳『アレクサンドロスと少年パゴアス』中央公論新社,2005 年。)
(*)(参考：天野恵一「インパクト・レヴューCulture&Critique 映画を「読む」・本を「観る」「帝国」(象徴天皇制)の枠内の批評—「アレキサンダー」・『女性天皇制』」インパクション 146,2005 年。)
(*)(参考：K.ボズレリー・レイチェル/山崎和歌子訳「洋画の話題 アレキサンダー」映画撮影 165,2005 年。)
(*)(参考：「ごらく頁アレキサンダー(提供・配給/松竹・)日本ヘラルド」)漁村 71(1),2005 年。)
(*)(参考：副島隆彦「エコノミスト CINEMA 館アレキサンダー」エコノミスト 83(3),2005 年。)
(*)(参考：「SOCIETY&THE ARTS 映画 観客もぐったり『アレキサンダー』の大遠征」ニューズウィーク 20(6),2005 年。)

(*)(参考：阿部拓児「クセノフォン『キュロスの教育』にみるギリシアの「歴史」叙述(フォーラム [関学西洋史研究会第 7 回年次大会シンポジウム]地中海世界の文化と社会,久志本秀夫先生追悼号)」関学西洋史論集 28,2005 年。)
(*)(参考 : 櫻井悠美「ヘレニズム期の戦時における女の参加」地中海研究所紀要 3,2005 年。)
(*)(参考：長田弘「もし本が蜜蜂の巣箱なら(26)マルクス・アウレリウスの戦争」みすず 4(10),2005 年。)
(*)谷沢永一「本好き人好き(184)問題文藝論議—大住嘯風『クレオパトラの鼻』午後迂人『会社員物語』」国文学 解釈と教材の研究 50(1),2005 年。
(*)(参考：小河陽「「今の時を生きる」ことについて」ペディラヴィウム 57,2005 年。)
(*)(参考：和泉ちえ「〈書評〉古代世界研究の現代的有用性について(G.E.R.Lioyd,Ancient Worlds,Modern Reflections,Oxford University Press,2004)」ディラヴィウム 57,2005 年。)
(*)(参考 : トインビー/秀村欣二訳者代表『ハンニバルの遺産』ワイド版世界の大思想 III-13, 河出書房新社,2005 年。)
(*)(参考：鷲田睦朗「ローマ史研究におけるブランド論の射程」古代史年報 3,2005 年。)
(*)(参考 : 有坂純「戦史検証 古代地中海を揺るがした最大の内乱 ローマ帝国の誕生」歴史群像 14(5),2005 年。)
(*)(参考：島田誠「『神アウグストゥスの業績録』(Res gestae divi Augusi)の性格と目的」(学習院大学)人文 4,2005 年。)
(*)(参考：モムゼン/長谷川博隆訳『ローマの成立(1)』名古屋大学出版会,2005-7 年。)
(*)(参考 : モムゼン/長谷川博隆訳『地中海世界への覇者へ(2)』名古屋大学出版会,2005 年。)
(*)(参考：モムゼン/片岡基訳『ローマ史』片岡基,2005 年。)
(*)(参考：モムゼン/片岡基訳『その古代史・王政廃止からイタリア統一まで』片岡基,2005 年。)
(*)(参考：南川高志「テオドール・モムゼンと古代史研究の確立」(教室レポート、ポルトガルの教育事情)歴史と地理 586,2005 年。)
(*)(参考：南川高志「「生きた研究史」をめざして—ヴェルナー・エック教授の講演に寄せて」西洋古代史研究 5,2005 年。)
(*)(参考：梶田知志「共和政末期における剣闘士(gladiator)の私兵的利用について」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論叢 27,2005 年。)
(*)(参考：平田隆一「ピルジ出土「金の薄板」エトルスキ語銘文の解釈と歴史的背景」東北学院大学論集・歴史と文化 39,2005 年。)
(*)(参考：トーマス・ハインツ/三佐川亮宏・山田欣吾編訳『中世の「ドイツ」：カール大帝からルターまで』創文社,2005 年。)
(*)(参考：ピエール・マラヴァル/大槻康弘訳『皇帝ユスティニアヌス』文庫クセジュ 883, 白水社,2005 年。)
(*)(参考：高山博・池上俊一編『西洋中世学入門』東京大学出版会,2005 年。)
(*)(参考：小澤実「文献紹介 北欧中世史学の到達点：K.Helle(ed.),The Cambridge History of Scandinavia I：Prehistory to 1520」北欧史研究 22,2005 年。)
(*)「史学文献目録 西洋史 1」史學雑誌 114(1),2005 年。
(*)(参考：澤田典子「前 320 年代後半のアテナイの政局—ハルパロス事件を中心に」史學雑誌 114(2),2005 年。)

(*)「史学文献目録 西洋史 2」史學雜誌 114(5),2005 年。
(*)桜井万里子「総説(2004 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 114(5),2005 年。
(*)足立拓朗「一(古代オリエント・西アジア・北アフリカ,2004 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 114(5),2005 年。
(*)三津間康幸「ニ(古代オリエント・西アジア・北アフリカ,2004 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 114(5),2005 年。
(*)西村淳一「イスラム時代(古代オリエント・西アジア・北アフリカ,2004 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 114(5),2005 年。
(*)宮野裕「2004 年の歴史学会：回顧と展望 中世ロシア・ビザンツ」史學雜誌 114(5),2005 年。
(*)長谷川貴彦「ヨーロッパ(近代一般, 2004 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 114(5), 2005 年。
(*)富田理恵「ヨーロッパ(近代イギリス, 2004 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雜誌 114(5), 2005 年。
(*)野村啓介「ヨーロッパ(近代フランス, 2004 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雜誌 114(5), 2005 年。
(*)割田聖史「ヨーロッパ(近代ドイツ・スイス・ネーデルランド,2004 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 114(5),2005 年。
(*)中村勝巳「南欧(近代 : ヨーロッパ : 2004 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雜誌 114(5),2005 年。
(*)杉崎泰一郎「西欧南欧(古代：ヨーロッパ：2004 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 114(5),2005 年。
(*)岡田泰介「ギリシア(古代：ヨーロッパ：2004 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 114(5),2005 年。
(*)桑山由文「ローマ(古代：ヨーロッパ：2004 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 114(5),2005 年。
(*)徳橋曜「永井三明著『ヴェネツィアの歴史—共和国の残照』刀水歴史全書 60,刀水書房,2004」史學雜誌 114(6),2005 年。
(*)「史学文献目録 西洋史 3」史學雜誌 114(9),2005 年。
(*)松本宣郎「「史学概論」の今(歴史の風)」史學雜誌 114(11),2005 年
(*)(參考：師尾晶子「アテナイにおける公的碑文の出現(西洋史部会,第 103 回史学会大会報告)」史學雜誌 114(12),2005 年。)
(*)(參考 : 阪口修平『ヨーロッパ史における軍隊と社会』中央大学 2003 年,(科研費)2005 年。)
(*)(參考：大月康弘『帝国と慈善：ビザンツ』創文社,2005 年。)
(*)(參考：大月康弘「帝王を動かすちから—中世地中海に皇帝事績を追いかけて(特集,歴史の中の宗教)」創文 480,2005 年。)
(*)(參考：和田廣『史料が語るビザンツ世界』山川出版社,2005 年。)
(*)坂部恵「ビザンツ帝国という異境・鏡—大月康弘著『帝国と慈善 ビザンツ』を読んで」創文 482,2005 年。
(*)蓼沼宏一「比較経済システムとしてのビザンツ大月康弘著『帝国と慈善 ビザンツ』を読んで」創文 482,2005 年。
(*)(參考：Wegner Bernd/中田潤・山根徹也訳「フォーラム マルスとクリオの間で—ドイツ

における軍事史の勃興,没落およびルネサンス」クリオ=Clio 19,2005 年。)
(*)瀬下美和「この一冊『クリオの顔—歴史随想集』E.H.ノーマン著」現代の理論 5,2005 年。
(*)有田嘉伸・小畑晃一「上原専禄の世界史理論：世界史の認識方法を中心に(有田嘉伸教授退職記念)」長崎大学教育学部紀要,教科教育学 44,2005 年。
(*)(参考：桜井万里子「ジェンダー史の方法—古代ギリシアの場合」ジェンダー史学 1,2005 年。)
(*)鈴木正弘「本多浅治郎の「西洋史」教授構想と教科書・参考書」総合歴史教育 41,2005 年。
(*)前田勉「蘭学者の国際社会イメージ—世界地理書を中心に」愛知教育大学研究報告 54(人文・社会科学編),2005 年。
(*)(参考：斎藤貴弘・足立弘明・森山央郎(他)「合同部会(2005 年歴史学研究大会報告批判)歴史学研究 809,2005 年。」)
(*)(参考：陣内秀信他『図説西洋建築史』彰国社,2005 年。)
(*)(参考：吉武隆一『ギリシア古代都市メッセネのアスクレピオス神域のストアに関する研究』熊本大学,博士(工学),甲第 264 号,2006 年。)
(*)(参考：土居義岳『アカデミーと建築オーダー』中央公論美術出版,2006 年。)
(*)(参考：中村成春「コンクリート逍遙(5)パルテノン神殿とサグラダファミリア聖堂と耐久性雑感(前中後編)」FINEX 18(107),2005 年/18(108,109),2006 年。)
(*)(参考：竹山博英「イタリア・都市墓地の成立」地中海研究所紀要 3,2005 年。)
(*)(参考：中条潮「「すべての道はローマに通ず」特集に当たって：塩野七生『ローマ人の物語 X』を読んで考えるインフラ整備のありかた」国際交通安全学会誌 30(1),2005 年。)
(*)(参考：高田康成「西洋の楽園(特集 楽園—東と西)」アジア遊学 82,2005 年。)
(*)(参考：吉本尭俊「エンタシス起源少考(1)基層としての草文化の蓋然性」(筑紫女学園大学・筑紫女学園短期大学部国際文化研究所)国際文化研究所論叢 16,2005 年。)
(*)(参考：吉武隆一『ギリシア古代都市メッセネのアスクレピオス神域のストアに関する研究』熊本大学,博士(工学),甲第 264 号,2005 年。)
(*)(参考：中谷礼仁『セヴェラルネス：事物連鎖と人間』(ウィトルウィウス)鹿島出版会,2005 年(→2011 年,増補版『セヴェラルネス＋：事物連鎖と都市・建築・人間』。)
(*)(参考：芳賀京子「古代ローマ世界の「マント式ヘルマ柱」--ローマ人によるギリシア美術のパトロネージュ(「美術に関する調査研究の助成」研究報告)—(2005 年度助成)」鹿島美術財団年報 23,2005 年。)
(*)(参考：西尾盛二「ポンペイ住宅にみる古代ローマ人の生活：アトリウム・ペリストユリウムを中心として(平成 16 年度文学研究科修士論文要旨)」愛知学院大学文学部紀要 35,2005 年。)
(*)(参考：岩出まゆ「9024 古代末期の地中海における大理石による壁面意匠の史的変遷(建築歴史・意匠)」日本建築学会関東支部研究報告集 II(75),2005 年。)
(*)(参考：米岡大志・伊藤重剛・林田義伸・吉武隆一「地中海古代都の研究(117)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 44,2005 年。)

(*)(参考：伊藤重剛・林田義伸・吉武隆一「地中海古代都の研究(118)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 44,2005 年。)
(*)(参考：石川恒夫「9264W.シュテイアーの「ラウレントゥムの別荘案」について：19 世紀ドイツ建築論の構成に関する研究(12)（西洋近代(1)19 世紀ドイツ・スペイン,建築歴史・意匠）」学術講演梗概集 F.2,建築歴史・意匠 2005,2005 年。)
(*)(参考：横手義洋「9209 近代ローマにおける記念建造物保護と都市保全の関係について(保存・保存史・保存論[2],建築歴史・意匠)」学術講演梗概集,F-2,建築歴史・意匠 2005,2005 年。)
(*)(参考：飛ケ谷潤一郎「9250 パラツィオ・ルチェッライのイオニア式戸口について(西洋：ルネサンス・バロック・建築歴史・意匠)」学術講演梗概集,F-2, 建築歴史・意匠 2005,2005 年。)
(*)(参考：飛ケ谷潤一郎「ウィトルウィウスのフィルミタスの用法と中世初期までのその変遷について」日本建築学会計画系論文集 588,2005 年。
(*)(参考：笠原英明「オルドナンスとディスポジシオンについてのクロード・ベローの解釈：ウィトルウィウス『建築十書』註解にみる構成への見解」日本建築学会計画系論文集 591,2005 年。)
(*)(参考：石川清「西洋建築史における〈初期ルネサンス〉の時代概念構築に向けての一考察」愛知産業大学紀要 13,2005 年。)
(*)(参考：磯崎新「巻頭論文 われアルカディアにありき―フィリップ・ジョンソン追悼」新建築 80(4),2005 年。)
(*)(参考：G.Collingwood/村島義彦訳「翻訳 自然はどう眺められてきたか(3)ギリシアの自然観：プラトンの場合」国際教育研究所紀要 15,2005 年。)
(*)(参考：伊藤みどり「ビール酵母の特性とその新しい効用について」ビタミン 79(1),2005 年。)
(*)星和夫「医療の歴史的展望(特集 医療の本質を捉える)」病院 64(1),2005 年。
(*)小林晶「書籍紹介 W.J.ビショップ著/川満富裕訳『外科の歴史』」日本医史學雑誌 51(4),2005 年。
(*)(参考：齋藤博「『ヒポクラテス全集』における排尿障害の記述について」日本泌尿器科学会雑誌 96(3),2005 年。)
(*)(参考：齋藤博「『ヒポクラテス全集』における尿路結石に関する記述について」日本泌尿器科学会雑誌 96(6),2005 年。)
(*)(参考：宇沢弘文「ヒポクラテスの誓いと社会的共通資本としての医療(特集 今,医療に求められるもの)」日本医師会雑誌 134(1),2005 年。)
(*)(参考：今井正浩「ヒポクラテスの医療思想―『エピデミアイ』第 1 巻第 11 章の論述を手がかりに」セミナー医療と社会 27,2005 年。)
(*)(参考：酒井明夫「「ヒポクラテス集成」における狂気治療について(第 8 回精神医学史学会)―(シンポジウム 精神科治療理念の史的展望)」精神医学史研究 9(1),2005 年。)
(*)(参考：鎌谷勇宏・巽典之「全人的医療の思想」医学と生物学)149(8),2005 年。)
(*)(参考：橋本信也「今,医療に求められる「医の心」(特集 医療に求められるもの)」日本医師会雑誌 134(1),2005 年。)

(*)(参考:中本安「MEDICAL ESSAYS「ヒポクラテスの誓い」当世観」日本医事新報 4209,2005 年。)
(*)(参考：板東浩「MEDICAL ESSAYS ヒポクラテス誕生の地で開催された欧州 WONCA」日本医事新報 4255,2005 年。)
(*)(参考：竹中星郎「精神医療の歴史―医療・医学の技術思想をたどる(2)古代ギリシアの医術,そしてヒポクラテス」精神科看護 32(12),2005 年。)
(*)(参考：竹中星郎「精神医療の歴史―医療・医学の技術思想をたどる(3)古代ギリシアと自然哲学―ヒポクラテス医学が生まれる背景」精神科看護 32(11),2005 年。)
(*)(参考：大槻真一郎「アロマの源流をたずねて(3)ヒポクラテス：芳香植物の燻蒸療法」Aromatherapy enviroment38,2005 年。)
(*)(参考：酒井明夫「パトグラフィ(10)精神医学史探訪 9―アンティオコス 1 世の脈拍」精神科 6(1),2005 年。)
(*)(参考：酒井明夫「パトグラフィ(11)精神医学史探訪 10―誇り高きアイアス」精神科 6(5),2005 年。)
(*)(参考:池田黎太郎「地中海における古代医学に関する遺跡アスクレーピオス信仰とヒポクラテース」順天堂医学 51(2),2005 年。)
(*)(参考：近藤智彦「「堆積の議論(sorites)について―ディオゲネス・ラエルティオス,ガレノス,キケロ(On vagueness)」(東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室)哲学研究論集 2,2005 年。)
(*)(参考：山本和利編/札幌医科大学医学部 2003 年度 1 年生著『医学生からみる医学史』診断と治療社,2005 年。)
(*)(参考：加賀谷善教「寒冷療法」(ギリシア,ローマ)理学療法学 32(4),2005 年。)
(*)(参考:真壁伍郎「健康をめぐる歴史パノラマ(3)太古からの病の理解」綜合看護 40(1),2005 年。)
(*)田崎健太「現代の肖像--鏡リュウジ占星術研究家」アエラ 18(42),2005 年。)
(*)(参考：山田耕笹著/鏡リュウジ解説『生まれ月の神秘』有楽出版社,実業之日本社(発売),2005 年。)
(*)(参考：ジュディ・ホール,ヴァンミータ有貴訳/鏡リュウジ監修『前占星術：あなたの前世と出生図を読み解き“今”と未来に生かす』産調出版,2005 年。)
(*)(参考：大槻真一郎「アロマの源流をたずねて(3,4)ヒポクラテス：芳香植物の燻蒸療法」Aromatherapy enviroment 38,2005 年/39,2006 年。)
(*)(参考：放送大学学園制作・著作『外国のスポーツの歴史』放送大学教育振興会,丸善(発売),2005 年。)
(*)(参考:堀口正弘『オリンピア祭:古代オリンピック』近代文芸新書,近代文芸社,2005 年。)
(*)桶谷敏之「書評 『古代オリンピック』(桜井万里子・橋場弦編)」体育史研究 22,2005 年。
(*)(参考：加来正俊「MEDICAL ESSAYS 私の古代オリンピアまでの道程―実践スポーツ内科学者より」日本医事新報 4228,2005 年。)
(*)(参考：ブライアン・フェイガン/東郷えりか訳『古代文明と気候大変動―人類の運命を変えた二万年史』河出書房新社,2005 年。)
(*)(参考:石橋克彦「イタリアの歴史地震研究の紹介(1)イタリアとヨーロッパ・地中海地域における歴史地震研究(総特集 地震史料の校訂とデータベース化―日

本の古代・中世を中心に)」月刊地球 27(11),2005 年。)
(*)(参考：ダウド・サットン/青木薫訳『プラトンとアルキメデスの立体：三次元に浮かびあがる美の世界』ピュタゴラス・ブック,ランダムハウス講談社,2005 年。)
(*)(参考：アンソニー・アシュトン/青木薫訳『ハーモノグラフ：音がおりなす美の世界』ピュタゴラス・ブック,ランダムハウス講談社,2005 年。)
(*)(参考：ジョン・マルティノー/青木薫訳『星たちのダンス：惑星が描き出す美の世界』ピュタゴラス・ブック,ランダムハウス講談社,2005 年。)
(*)(参考：ジョージ・G.スピロー/青木薫訳『ケプラー予想：四百年の難問が解けるまで』新潮社,2005 年(→2014 年,新潮文庫版。)
(*)(参考：ピーター・M.ヒギンズ/富永星訳『想像力で解く数学：幾何の発想をきたえる』白楊社,2005 年。)
(*)(参考：中澤務「古代ギリシアの技術概念：プロメテウス神話の変容とプラトン」関西大学哲学 25,2005 年。)
(*)金子務『江戸人物科学史』(前野良沢,司馬江漢,稲村三伯,大槻玄沢,宇田川榕庵,高野長英等)中公新書,2005 年。
(*)金子務「英雄評伝 科学史の風雲児たち(27)本木昌造(西洋活版印刷術の元祖)」歴史読本 50(3),2005 年。
(*)中岡成文「科学論から 1930 年代を見る—下村寅太郎の思想を中心に(特集[日本思想史学会]2004 年度大会シンポジウム 思想史からにおける 1930 年代—京都学派の位置)」日本思想史学 37,2005 年。
(*)(参考：西和彦「特別レポート IBM パソコン事業売却は中国抑止の「トロイの木馬」」週刊ダイヤモンド 93(3),2005 年。)
(*)新井悠「ワーム,トロイの木馬の進化形の一命令で攻撃が始まる(企業を熱くする指針テクノロジロボット(bot)深刻な被害に政府の動き出す)」日経コミュニケーション 448,2005 年。
(參考：C・ブラックリッジ/藤田真利子訳『ヴァギナ—女性器の文化史』河出書房新社,2005 年（→2011 年,河出文庫版）。)
(*)(参考：エティエンヌ・ソレル/吉川晶造・鎌田博夫訳『乗馬の歴史：起源と馬術論の変遷』恒星社厚生閣,2005 年。)
(*)(参考：雨宮健「講演 古典期アテネの経済思想(高田保馬記念記念講演会—経済思想の源流をさぐる)」経済論叢 175(5・6),2005 年。)
(*)(参考：大黒弘慈「マルクスとアリストテレス—交換における同一性と類似性」社会システム研究 8,2005 年。)
(*)(參考：岡田泰介「古典古代史科研究(1)古銭」高千穂論叢 39(3),2005 年。)
(*)(参考：大黒俊二「中・近世イタリアのユダヤ人金融：対立と共存をこえて(久志本秀夫先生追悼号)」関西西洋史論集 28,2005 年。)
(*)高田京比子「佐藤眞典著『中世イタリア都市国家成立史研究』ミネルヴァ書房,2001」史學雜誌 114(6),2005 年。
(*)(参考：橋場弦「ギリシア演劇とアテナイ民主政(Greek drams and Athemian democracy)」劇場文化(Dramtic Culture)8,2005 年。)
(*)(参考：藤田潤一郎『政治と倫理：共同性を巡るヘブライとギリシアからの問い』京都大学,博士(法学),乙第 11615 号,2005 年。)

(*)(参考 : 櫻井悠美「ヘレニズム期の戦時における女の参加」地中海研究所紀要 3,2005 年。)
(*)静岡県舞台芸術センター『ギリシア悲劇と犯罪：オウム事件以後を考える』劇場文化 8,2005 年。)
(*)(参考：中村純「デーモス,デカゴーグそしてデモクラシー—前 5 世紀後半のアテネ民主政について」西洋史研究 34,2005 年。)
(*)(参考：柴野浩樹『ローマ元首政期における属州総督オフィキウムの成立』東北大学,博士(文学),甲第 9976 号,2005 年。)
(*)砂田徹「書評 安井萌著「共和政ローマの寡頭政治体制—ノビリタス支配の研究」」西洋史研究 34,2005 年。)
(*)(参考：本間俊行「ローマ帝政前期における組合と都市社会：「三つの組合(tria collegia)を手がかりに」史學雑誌 114(7),2005 年。
(*)(参考：ラインハルト・マオラー/永井健晴訳『プラトンの政治哲学—政治的倫理学に関する歴史的・体系的考察』風行社,2005 年。)
(*)(参考 : 赤岩順二「プラトン『法律』篇 845b-857b の一解釈—刑事立法省察の前提」(明治大学大学院)法学研究論集 24,2005 年。)
(*)神谷美恵子『本、そして人』(「『ポリティア(国家)』今昔」・「マルクス・アウレーリウス『自省録』解説」)みすず書房,神谷美恵子コレクション,2005 年。
(*)的場昭弘「『カール・マルクスと西欧政治思想の伝統』を読む—ハンナ・アーレント著,佐藤和夫編・アーレント研究会訳,大月書店(特集 アレントとマルクス)」情況[第三期]6(6),2005 年。
(*)(参考：大月康弘「〈自由な個人〉の揺籃：地中海世界から考える市民社会(1,2)(特集 市民社会を考える)」学際 16,2005 年/17,2006 年。)
(*)(参考：アラン・ブルーム/松岡啓子訳『セイクスピアの政治学』信山社出版,2005 年。)
(*)(参考：森田義之「ジャコモ・マンズ—反ファシスト,キリスト教的ヒューマニスト,地中海的エピキュリアン(特集 二十世紀のイタリア人列伝[3])」日伊文化研究 43,2005 年。)
(*)志村正昭「石川三四郎著訳書目録稿(特集 石川三四郎)」初期社会主義研究 18,2005 年。
(*)大澤正道「石川三四郎年譜(第二版) (特集 石川三四郎)」初期社会主義研究 18,2005 年。
(*)(参考 : 尚樹啓太郎『ビザンツ帝国の政治制度』東海大学文学部叢書,東海大学出版会,2005 年。)
(*)(参考：森田実「森田実の時代を斬る—Q 君への手紙(3)吉川氏の警告 竹中はトロイの木馬だ 従米主義の小泉・竹中政治を否定しなければ日本の未来はない」月刊日本 9(5),2005 年。)
(*)(参考：酒井啓子「分析 イラク新政権—親米化したイスラーム主食いか,革命勢力の「トロイの木馬」か」世界 740,2005 年。)
(*)(参考：山口廸彦「母権的ロマン主義の形成—バハオーフェンにおける芸術と文化」比較文化研究 24,2005 年。)
(*)(参考 : 森田團「象徴の文化史—アルフレート・ボイムラーによるバッハオーフェン解釈の一側面(ヨーロッパとアジアの間)」(東京大学大学院総合文化研究科・教養学部ドイツ・ヨーロッパ研究室)ヨーロッパ研究(-),2005 年。)
(*)山口廸彦「イェーリングと日本法学—日本大学の法学的起源史を中心に」日本大学法科

大学院法務研究 1,2005 年。
(*)(参考：マーク・リラ/佐藤貴史・高田宏史・中金聡訳『シュラクサイの誘惑：現代思想にみる無謀な精神』日本経済評論社,2005 年。)
(*)(参考：西部由里子「ペギーとアンティゴネー：『政治社会評論』を中心に」Cahiers d'études franÇaises Université Keio 10,2005 年。)
(*)(参考：松本潤一郎「『ディアーナの水浴』における「論理」と「神話」の交錯/分岐」立教大学フランス文学 34,2005 年。)
(*)(参考：翠川博之「遊び手のいない遊び：ジャン=ポール・サルトル『トロイアの女たち』における「世界」の表象」フランス語フランス文学研究 87,2005 年。)
(*)(参考：吉田泉「ミュッセとロマン派におけるエディプス・コンプレックス」フランス語フランス文学研究 87,2005 年。)
(*)(参考：大月康弘「〈自由な個人〉の揺籃—地中海世界から考える市民社会(特集 市民社会を考える)」学際 16,2005 年。)
(*)「覆面座談会 問題の核心—彼の人はトロイの木馬?財務省の深慮遠謀」金融ビジネス 239,2005 年。
(*)安永梧郎『馬場辰猪』みすず書房,2005 年(1897 年,私家版→1898 年,増補版→1987 年,みすず書房版)。
(*)(参考：山本一郎「ワールド・ナウ ポルトガル総選挙で脚光浴びる 21 世紀のソクラテス—中・東欧との競争激化で目指すは北欧モデル」世界週報 86(12),2005 年。)
(*)(参考：佐藤信夫『法律羅甸(ラテン)語文法：演習で学ぶローマ法から現代法までの解説と手引きの基礎』国際語学社,2005 年。)
(*)(参考：平野鉄夫『法哲学史綱要』信山社出版,2005 年。)
(*)吉原丈司編『高橋雄財博士・中原英典氏西本顕博士・上山安敏先生(補遺)略年譜・著作目録』吉原丈司,都筑印書館,ローマ法・法制史学者著作目録選・第 5,2005 年。
(*)(参考：Buckland,W.W.&McNair Arnold D./眞田芳憲訳「W.W.バックランド/アーノルド D.マックネアー：ローマ法とコモン・ロー(1-4)」比較法雑誌 39(1,2)2005 年//40(2),2006 年//41(3),2007 年。）

(*)小林宏「書評 『再魔術化する世界—総力戦・〈帝国〉・グローバリゼーション』『受苦者のまなざし—初期マルクス再興』山之内靖著」地域文化研究 9,2006 年。
(*)(参考：小澤光利「西欧マルクス学におけるマルクス—D.マクレランによる」経済志林 73(3),2006 年。)
(*)(参考：高橋美貴「環境史研究の射程：環境文化史と文明史」ESD 環境史延久：持続可能な開発のための教育 5,2006 年。)
(*)田中隆尚『田中隆尚撰集・全 14 巻』(ギリシア紀行,河野與一等)展望社,2006 年。
(*)(参考：木岡伸夫研究代表『比較文明史的アプローチにおける技術と自然の変容過程序説』科学研究費補助金(基盤研究 B)研究成果報告書,平成 16-17 年度,2006 年。)
(*)大貫俊夫「カール・ボールズ著/平城照介・山田欣吾・三宅立監訳『ヨーロッパ社会の成立』東洋書林,2006」史学雑誌 115(1),2006 年。

(*)佐藤彰一「二宮宏之著「マルク・ブロックを読む」(岩波書店)」史學雑誌 115(6),2006 年。
(*)堀越宏一「ロバート・バートレット著/伊藤誓・磯山甚一訳『ヨーロッパの形成—950 年-1350 年における征服・植民・文化変容』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,2003」史學雑誌 115(7),2006 年。
(*)(參考：小林道憲著『文明の交流史観—日本文明のなかの世界文明』MINERVA 歴史・文化ライブラリー8,ミネルヴァ書房,2006 年。)
(*)山下範久「書評 小林道憲著『文明の交流史観—日本文明のなかの世界文明』」比較文明 22,2006 年。
(*)小澤京子「「古代」が召還されるとき—明治 20 年代の日本におけるギリシア幻想」SITE ZERO/ZERO SITE 0(創刊号),2006 年。
(*)渋沢孝輔『渋沢孝輔全詩集(本体,別冊)』思潮社,2006 年。)
(*)(參考：根橋正一「17 世紀グランドツアーの社会的基礎：ワールドシステムとナショナリズム」流通経済大学社会学部論叢 16(2),2006 年。)
(*)(參考：本城靖久原作・仲倉重郎脚本・石ノ森章太郎画『グランドツアー：英国式大修学旅行』角川コミックス,石ノ森章太郎漫画大全集,2006 年。)
(*)カーサブルータス特別編集『安藤忠雄×旅：総集編：21 世紀のグランドツアーは続いていく』マガジンハウス,2006 年。
(*)(參考：中島俊郎「旅文化としてのグランド・ツアー(英語英米文学特集)」甲南大学紀要,文学編 145,2006 年。)
(*)(參考：志村真幸「トマス・グレイの見たコンクラーヴェ—ホレス・ウォルポールのグランド・ツアーから」(京都大学大学院人間・環境学研究科歴史文化社会論講座)歴史文化社会論講座紀 3,2006 年。)
(*)(參考：赤坂憲雄「東アジア内海世界は可能か—網野善彦とブローデル『地中海』をめぐって(特集 網野善彦--「網野史学」と日本歴史学)」神奈川大学評論 53,2006 年。)
(*)(參考：青木真平「都市紹介 地中海都市チェニス—文化の十字路に立って」関西大学西洋史論集 9,2006 年。)
(*)(參考：松本典昭『メディチ君主国と地中海』晃洋書房,2006 年。)
(*)(參考：外山純子著/中島賢一写真『クロアチア/スロヴェニア/ボスニア・ヘルツェゴヴィナ；アドリア海の海洋都市と東西文化の十字路』旅名人ブックス 84,日経 BO 企画,日経 BP 出版センター,2006 年(→2007 年,2 版。→2009 年,3 版)。)
(*)(參考：家島彦一『海域から見た歴史：インド洋と地中海を結ぶ交流史』名古屋大学出版会,2006 年。)
(*)(參考：高津春繁『古典ギリシア』講談社,2006 年。)
(*)(參考：毛利晶『前 4 世紀初頭を中心としたローマと西地中海世界の政治的・文化的関係に関する研究』神戸大学 2004 年,(科研費)2006 年。)
(*)(參考：河野宏文「古代ギリシャ・ローマ文明の崩壊」古代史の海 44,2006 年。)
(*)(參考：河野宏文「小休止 会員ひろば ギリシャ・アルカイック時代」古代史の海 45,2006 年。)
(*)(參考：浅野和生『エーゲ海の島の小都市と聖堂の研究』愛知教育大学(科研費)2006 年.)

(*)長谷川栄「巻頭グラビア エーゲ海・アテネ,神話の旅—ギリシャ古代文明の余韻を訪ねて」道路建設 698,2006 年。
(*)増山栄太郎「古ギリシャ古代文明と島影と紺碧の海と—人気のエーゲ海クルーズ乗船記」世界週報 87(23),2006 年。
(*)上川庄二郎写真と文『クルーズで訪ねたエーゲ海・黒海沿岸の日々』神戸っ子出版,2006 年。
(*)『特集 近藤まさたろとめぐるギリシャ・エーゲ海美しき休日』美術画報 53,アートコミュニケーション,星雲社(発売),2006 年。
(*)高橋サブロー『エーゲ海旅みやげ：詩集』北溟社,2006 年。
(*)『ギリシア・エーゲ海』ワールドガイド・ヨーロッパ 15,JTB パブリッシング,2006 年。
(*)(参考：井上繁弘『悠々,エーゲ文明への旅：歴史を探究しながら旅行を楽しむガイド』イプシロン出版企画,2006 年。)
(*)『世界遺産 50 の旅：おとなの浪漫旅行』地球の歩き方ムック,ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2006 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『ローマ/フィレンツェ』地球の歩き方ポケット 15,ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2006-07 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2006-07 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ローマ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2006-07 年。
(*)地球の歩き方編集室編『フィレンツェとトスカーナ』ダイヤンモドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2006-07 年。
(*)地球の歩き方編集室編『南イタリアとマルタ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2006-07 年。
(*)『エーゲ海・猫たち楽園の島々 Cats of the Aegean Islands』ビデオディスク,シンフォレスト,2006 年。)
(*)「VOYAGE トルコ地中海クルーズ クレオパトラが愛した紺碧の海へ」Courrier Japon=クリエ・ジャポン 2(17),2006 年。
(*)(参考：『海(「Agean Sea ギリシャ-エーゲ海」「Adriatic Sea クロアチア-アドリア海」』ビデオディスク,NHK サービスセンター,BGM ジャパン,2006 年。)
(*)(參考：すぎやまこういち指揮・東京交響楽団演奏『交響曲「ドラゴンクエスト6」幻の大地』(「エーゲ海に船出して」「ペガサス」)録音ディスク,Aniplex,2006年。)
(*)(參考：チェン・チャンフー脚本『エーゲ海の恋 台湾ドラマ(6,7,8,9,10)』ビデオディスク,ハップ,2006 年。
(*)増山栄太郎「シルクロード番外編ギリシア,その栄光と悲惨—アレキサンダー大王の生地を訪ねて」月刊カレント 53(8),2006 年。
(*)中川道夫・写真/池澤夏樹・文『アレキサンドリアの風』岩波書店,2006 年。
(*)小泉実「アレキサンドリアの灯台を考察する(口絵)」照明学会雑誌 90(4),2006 年。
(*)小泉実「アレキサンドリアの灯台を考察する」照明学会雑誌 90(4),2006 年。
(*)菊谷忠治「新たな「パラダイム」を求めて」地中海歴史風土研究誌 23,2006 年。
(*)井上ミツ「ナルキッソスが咲いた」地中海歴史風土研究誌 23,2006 年。
(*)井上ミツ「『ルーブル美術館展』に見る古代ギリシアの世界—その美しき神々と愛しい

人々の日常」地中海歴史風土研究誌 24,2006 年。
(*)大倉雄吉「ワインの旅：イタリアの旅」地中海歴史風土研究誌 24,2006 年。
(*)菊谷忠治「「幸福」に関する断章」地中海歴史風土研究誌 24,2006 年。
(*)(参考：堀幸夫「唐草模様いろいろ」地中海歴史風土研究誌 24,2006 年。)
(*)(参考：百瀬春生「ローマ帝国衰亡史から地球文明衰亡史へ?」地中海歴史風土研究誌 24,2006 年。)
(*)(参考：『ローマ橋と南欧石橋紀行：Italy,France,Spain,Portugal+榊原弘写真集+土井国男編集企画』かたりべ文庫,2006 年。)
(*)(参考：宮下規久朗『イタリア・バロック：美術と建築』世界歴史の旅,山川出版社,2006 年。)
(*)(参考：樺山紘一『地中海—人と町と肖像』岩波新書,2006 年。)
(*)(参考：周藤芳幸『古代ギリシア地中海への展開』学術選書 16,諸文明の起源,京都大学出版会,平成 18 年。)
(*)(参考：家島彦一『海域から見た歴史—インド洋と地中海を結ぶ交流史』名古屋大学出版会,2006 年。)
(*)(参考：丹羽隆子「古代地中海文明と港(特集論文 ウォーターフロントの再生)」新都市 60(12),2006 年。)
(*)(参考：名取四郎『キリスト教美術の源流を訪ねて』教文館,2006 年。)
(*)(参考：ナイジェル・スパイバー,マイケル・スクワイア/小林雅夫・松原俊文監訳『ギリシア・ローマ文化誌百科：ヴィジュアル版(上下)』世界史パノラマシリーズ,原書房,2006-07 年。)
(*)(参考：陣内秀信「第 1 章 古代と住まう(大特集 シチリアの秘密)」芸術新潮 57(1),2006 年。)
(*)佐藤育子「チェニジア紀行—モザイクの国を旅して(上下)」古代オリエント 77,78,2006 年。)
(*)『特集 澁澤幸子が案内するイスタンブール眼福の旅』アートコミュニケーション,星雲社,2006 年。
(*)中井義明「スパルタ台地紀行」古代史年報 4,2006 年。
(*)大久保昭男『故郷の空 イタリアの風』新評論,2006 年。
(*)曽野綾子「私日記(84)イタリアの湯治場」Voice 348,2006 年。
(*)(参考：小栗浩「二つのイタリアの旅—ヘルダー・コントラ・ゲーテ」東北ドイツ文学研究 49,2006 年。)
(*)(参考：岩崎大輔「ヘルダーの「アモルとプシュケー」：イタリア旅行と死の問題」上智大学ドイツ文学論集 43,2006 年。)
(*)(参考：高橋明彦「「これはよい前兆と思えた。」(1,2)：ゲーテ『イタリア紀行』における神話的=占星術的要素」上智大学ドイツ文学論集 43,2006 年/45,2008 年)。)
(*)(参考：野澤督「シャトーブリアンの旅行記述における詩的エクリチュール」日本フランス語フランス文学会関東支部論集 15,2006 年。)
(*)(参考：山下剛「ファニー・メンデルスゾーン＝ヘンゼルのイタリア体験」東北薬科大学一般教育関係論集 19,2006 年。)
(*)(参考：飯塚英一『旅行記作家マーク・トウェイン：知られざる旅人投機の日々』彩流

社,2006 年(→2012 年,増補版)。)
(*)(参考：ポール・ベネット「特集 ローマの地下に眠る[ローマ]帝国時代の遺跡」ナショナルジオグラフィック 12(7),2006 年。)
(*)(参考：「In the memory of　of Prof.Keiichi Takeuchi」地中海論集18,平成16-19年度科学研究費補助金(基礎研究A),2004年。)
(*)(参考：「Biboliogaphy ofWoraks of Professor Keiichi Takeuchi」地中海論集18,平成16-19年度科学研究費補助金(基礎研究A),2004年。)
(*)(参考：「Publications by the Mediterranean Studies Group Hitoshibashi University」地中海論集18,平成16-19年度科学研究費補助金(基礎研究A),2004年。)
(*)(参考：「Index to Volumes I-XVI of Transactions of the Mediterranean Studies Research Group at Hitoshibashi University」地中海論集18,平成16-19年度科学研究費補助金(基礎研究A),2004年。)
(*)(参考：小佐野重利編『旅を糧とする芸術家』三元社,2006 年。)
(*)(参考：市川直子「ジョルジョ・デ・キリコとラッファエッロ・サンツィオ：ラッファエッロ作《聖母マリアの結婚》をめぐって」(大阪府立大学)人文学論集 24,2006 年。)
(*)(参考：石川恒夫「9102W.シュテイアーの「トスカナの別荘案」について：19 世紀ドイツ建築論の構成に関する研究(13)（西洋近代建築史：19 世紀,建築歴史・意匠）」学術講演梗概集 F.2,建築歴史・意匠 2006,2006 年。)
(*)(参考：鶴島久男「花の文(5)西洋編(5)ポンペイの古代都市の遺跡と花の壁画」農耕と園芸 61(6),2006 年。)
(*)(参考：青木正美「古本屋控え帳(246)古本屋の船旅世界一周記(3)パルテノン神殿とポンペイ遺蹟」日本古書通信 71(12),2006 年。)
(*)(参考：藤田一美研究代表『グローバリゼーション状況下における芸術の論理と倫理』(藤田一美「世界文化の論理と倫理：パルテノンをめぐる文化的同一性と文化的多数性」)科学研究費補助金(基盤研究 A)研究成果報告書,平成 14 年度-17 年度,2006 年。)
(*)ハインリッヒ・ハイネ/藤村義介訳『伊太利紀行』オンデマンド版,ゆまに書房,2006 年。
(*)(参考：「イタリアワイン紀行—華麗に芳醇に 名酒の故郷を訪ねて」(サバイバル出版)決断 23(9),2006 年。)
(*)星和夫「医学史の旅—イタリア(1)ミラノ」日本病院会雑誌 53(8),2006 年。
(*)星和夫「医学史の旅—イタリア(2)パヴィアパルマ」日本病院会雑誌 53(9),2006 年。
(*)星和夫「医学史の旅—イタリア(3)ソルフェリーノ」日本病院会雑誌 53(10),2006 年。
(*)星和夫「医学史の旅—イタリア(4)ヴェローナ」日本病院会雑誌 53(11),2006 年。
(*)星和夫「医学史の旅—イタリア(5)パドヴァ」日本病院会雑誌 53(12),2006 年。
(*)(参考：宮下規久朗編『イタリア・バロック：美術と建築』世界歴史の旅,山川出版社, 2006 年。)
(*)(参考：『デルフィの古代遺跡；ミストラ；エピダウロスの古代遺跡』世界遺産 DVD コレクション 38,ユニバーサルミュージック,デアゴスティーニ・ジャパン(発売),2006 年。)
(*)(参考：朝日新聞社編『ポンペイの輝き：古代ローマ都市最後の日』朝日新聞社,2006 年。)
(*)(参考：青柳正規「カッツァネッロ(タルウィニア)ローマ遺跡発掘調査(第11次,第12次,第

13次)中間調査書」東京大学文学部文化交流研究施設研究紀要19,2006年。)
(*)(参考：青柳正規「ヨーロッパ,イタリアの古代壁画の保存状況(特別講演)(シンポジウムの記録 キトラ古墳壁画公開記念シンポジウム 高松塚古墳・キトラ古墳を考える：遺跡保存活用のあり方)」遺跡学：日本遺跡学会誌 3,2006年。)
(*)(参考：杉浦恭「ヨハン・ホイジンガの芸術観に関する一考察(人文科学編)」愛知教育大学研究報告 人文・社会科学 55,2006 年。)
(*)(参考：近畿大学編『ナポレオン・エジプト誌：近畿大学所蔵』3DVD-ROM 版,機械可読データファイル[光ディスク],雄松堂出版,2006 年。)
(*)『古くて新しい国』(アレキサンドリア)飛鳥 II,世界一周クルーズ 1,ジェイコム(発売),2006 年.)
(*)(参考：歴史学研究会編『港町のトポグラフィ』シリーズ港町の世界史 2,青木書店,2006年。)
(*)(参考：ジョナサン・N.タブ/小川英雄日本語版監修『写真で見る聖書の世界』あすなろ書房,「知」のビジュアル百科 31,2006 年。)
(*)(参考：薩摩雅登・島津京・日本テレビ放送網編『ルーブル美術館：古代ギリシア芸術・神々の遺産』日本テレビ放送網,2006 年。)
(*)(参考：井上ミツ「「ルーブル美術館展」に見る古代ギリシアの世界―その美しき神々と愛しい人々の日常」地中海歴史風土研究誌 24,2006 年。)
(*)(参考：NHK エデュケーショナル企画・制作『美の女神たちの誕生：古代ギリシャ・ローマ・エトルリア美術』NHK エンタープライズ,2006 年。)
(*)(参考：リチャード・ブラッドリー,ビル・ロックエグゼクティブ・プロデューサー；アダム・ケンプ,ニール・マクドマルド BBC エグゼクティブ・プロデューサー；マーク・ヘンソン編集；カール・ヒンドマーチ脚本・ディレクター；ライオン・テレビジョン製作『ツタンカーメンの墓とロゼッタストーン』キュービカル・エンタテイメント(発売),世界に衝撃を与えた日 7,2006 年。)
(*)(参考：根占献一「〈記念随想集〉ザビエルとルネサンス(特集 ザビエル生誕 500 年)」ソフィア 54(4),2006 年。)
(*)(参考：五野井隆史「天正遣欧使節―その使命と文化交流における役割(特集 安土桃山ルネッサンス)」國文學 51(11),2006 年。)
(*)岩倉具忠『岩倉具視--『国家』と『家族』--：米欧巡回中の「メモ帳」とその後の家族の歴史』国際高等研究所,高等研選書 21,2006 年。
(*)山崎淳子『岩倉使節団における宗教問題』思文閣出版,2006 年。
(*)(参考：竹部隆昌「ギリシア文化の西欧伝播とビザンツ=後期ウマイヤ朝関係」県立長崎シーボルト大学国際情報学部紀要 7,2006 年。)
(*)(参考：松島巖「アトランティスの腐食屋」防錆管理 50(2),2006 年。)
(*)(参考：山崎徹「統合国際深層掘削計画(IODP)第 306 次航--大西洋アトランティス岩体における海洋コアコンプレックスの形成--参加報告」大分地質学会誌 12,2006 年。)
(*)鶴島久男「花の文化(4)西洋篇(4)クレタ島サントリーニ島の花の壁画」農耕と園芸 61(5),2006 年。
(*)加藤信朗「アナトリアへの旅―ギリシャ哲学・初代キリスト教・古代キリスト教成立の

故地 ntiochia,(Antakya),Tarsos(Tarsus),Miletos,Ephesos(Ephesus),Sardis,Symirna(Izmir),Nicaia(Iznik),Nicomedia(Izmit),Constantinopolis(Isatanbul)などを歴訪する」宗教と文化 24,2006 年。

(*)(参考：西本鶏介編『野口英世,ナイチンゲール,ファーブル他』(「シュリーマン：ほんとうにあったトロイアの都」)心を育てる偉人のお話 1,ポプラポケット文庫,ポプラ社,2006 年。)

(*)(参考：豊田浩志「初期キリスト教考古学とイエズス会—アントニオ・フェッルーア神父追悼に寄せて」ソフィア 55(3),2006 年。)

(*)南川高志「リッチバラとポートチェスター—遺跡から現代が見えるか」西洋古代史研究 6,2006 年。

(*)倉吉博物館編『土偶の美 : 縄文を生きたヴィーナスたち ; 特別展』倉吉博物館,2006 年。)

(*)栩木伸明「書物をめぐる旅『古寺巡礼』がくれたモノサシ」ソフィア 55(2),2006 年。

(*)(参考：井本英一「馬の話」大阪外国語大学論集 33,2006 年。)

(*)(参考：井本英一「ヤコブ伝と日本神話」大阪外国語大学論集 35,2006 年。)

(*)井本英一「イラン文化と日本への流入」イラン研究 2,2006 年。

(*)荒井直「カオス的な異郷を喜び旅するために」ペディラヴィウム 59,2006 年。

(*)(参考：北田葉子「原典資料紹介 史料に見る宮廷の中の芸術家たち—メディチ家の宮廷と芸術家の地位(特集 宮廷と美術)」西洋美術研究 12,2006 年。)

(*)(参考：法政大学大学院エコ地域デザイン研究所編『地中海世界の水の文化：海と川からみる都市空間』法政大学大学院エコ地域デザイン研究所,2006 年。)

(*)「名取四郎教授[略歴・業績目録]」キリスト教学 48,2006 年。

(*)(参考：歴史学研究会編『幻影のローマ：「伝統」と継承とイメージの変容』(ビザンツ)シリーズ歴史学の現在,青木書店,2006 年。)

(*)(参考：株式会社ミルトス企画・制作『聖書の世界』ミルトス(発売),ビデオレコード(ディスク),2006 年。)

(*)(参考：新谷英治研究代表『イスラーム世界としての地中海世界』新谷英治,科学研究費補助金(基礎研究 C)研究成果報告書,平成 15-17 年度,2006 年。)

(*)(参考：今谷明『ビザンツ歴史紀行』書籍工房早山,図書新聞(発売),2006 年。)

(*)(参考：浅野和生『サンタクロースの島：地中海岸ビザンティン遺跡発掘記』東信堂,2006 年。)

(*)(参考：柴宜弘・佐原徹哉編『バルカン学のフロンティア』叢書東欧 10,彩流社,2006 年。)

(*)(参考：パノス・カルネジス/岩元正恵訳『石の葬式』(「消えたカッサンドラ」「古典の勉強」「アトランティスの伝説」)白水社,2006 年。)

(*)(参考：丸善出版事業部映像メディア部『消えたアトランティスへの扉：水底の古代都市ヘリケの謎』バイリンガル版,BBC active,2006 年。)

(*)(参考：香川元太郎作・絵『文明の迷路：古代都市をめぐってアトランティスへ』PHP 研究所,2006 年。)

(*)(参考：倉橋日出夫『夜空に沈んだアトランティス：人類に文明を授けた謎の「水棲神」は宇宙からやってきた異星人だった』学習研究社,Mu super mystery books,2006 年。)

(*)(参考：コリン・ウィルソン/松田和也訳『アトランティスの暗号：10 万年前の失われた叡智を求めて』学研,2006 年。)

(*)(参考：ヴォルフガング・ホールバイン/平井吉夫訳『アトランティスの少女』ノーチラス号の冒険,創元社,2006 年。)
(*)(参考：芳賀京子『ロドス島の古代彫刻』中央公論美術出版,2006 年。)
(*)(参考：「art news 豪奢と素朴 エトルリアの不思議造形力」芸術新潮 57(1),2006 年。)
(*)(参考：サルヴァトーレ・セッティス/芳賀京子・日向太郎訳『ラオコーン：名声と様式』三元社,2006 年。)
(*)(参考：勝又俊雄「デルフォイのアテナ・プロナイア神域の「マッサリア人の宝庫」の彫刻遺物の研究(1,2)」女子美術大学研究紀要 33,2006 年/38,2008 年。)
(*)(参考：勝又俊雄「デルフォイのアテナ・プロナイア神域の「ドーリス式宝庫」の彫刻および浮彫の研究」(大阪大学文学研究科西洋美術史研究室編『若山映子先生ご退職記念論文集』所収,2006 年。)
(*)(参考：林田義伸研究代表『古代ギリシア都市メッセネにおけるアスクレピオス神殿のストアの復元的研究』科学研究費補助金基礎研究(C2)研究成果報告書,平成 15-17 年度, 林田義伸,2006 年。)
(*)(参考：歴史学研究会編：深沢克己責任編集『港町のトポグラフィー』(アレクサンドリア)シリーズ港町のトポグラフィー2,青木書店,2006 年。)
(*)(参考：増川宏一『遊戯：その歴史と研究の歩み』法政大学出版局,2006 年。)
(*)(参考：辻原康夫『大発見!あなたの知らない世界地図』ナツメ社,図解雑学：絵と文章でわかりやすい!,2006 年。)
(*)アルゴ会企画・編集『アルゴナウタイ：福部信敏先生に捧げる論文集』アルゴ会,2006 年。
(*)(参考：西本鶏介編著『野口英世、ナイチンゲール、ファーブル他』(「シュリーマン：ほんとうにあったトロイアの都」)ポプラポケット文庫,ポプラ社,2006 年。)
(*)(参考：Fredrik Cryns/宮田昌明「17 世紀オランダに普及した日本情報―デ・フリース『東西インド奇事詳解』における日本関係記述」(エラスムス)日本研究 33,2006 年。)
(*)(参考：和光大学総合文化研究所・松枝到編『象徴図像研究：動物と象徴』(ガンダーラ)言叢社,2006 年。)
(*)(参考：エドヴァルド・ルトヴェラゼ/帯谷知可訳『アレクサンドロス大王東征を掘る：誰も知らなかった足跡と真実』NHK ブックス,日本放送出版協会,2006 年。)
(*)増山栄太郎「シルクロード番外編 ギリシア,その栄光と悲惨―アレキサンダー大王の生地を訪ねて」月刊カレント 43(8),2006 年。
(*)(参考：大村次郷「口絵 茶店から社会を見る(42)トルコ」望星 37(9),2006 年。)
(*)(参考：舟田詠子「〈展望〉パンの文化をたずねて：Auf der Suche nach der Brotkultur in Europa」ソフィア 54(4),2006 年。)
(*)(参考：栗田功『ブッダの生涯：ガンダーラ美術にみる』二玄社,2006 年。)
(*)(参考：谷岡武雄「人麻呂が歩いた道とカエサルが駆けた道(特集 シルクロード―道をたどる)」地理 51(11),2006 年。)
(*)(参考：増山栄太郎「シルクロード番外編 ギリシア,その栄光と悲惨―アレキサンダー大王の生地を訪ねて」月刊カレント 43(8),2006 年。)
(*)(参考：中西亨「世界三大旅行家たちの旅と私の旅(上下)シルクロードを中心に」史迹と

美術 76(9,10),2006 年。)
(*)(参考：樋口康隆「シルクロードのパイオニア張騫」郵政考古紀要 38,2006 年。)
(*)(参考：和光大学総合研究所,松枝到編『象徴図像研究：動物と象徴』言叢社,2006 年。)
(*)(参考：吉本尭俊「エンタシス起源少考(2)基層としての草文化の蓋然性」筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要 1,2006 年。)
(*)(参考：中澤静男・田淵五十生「奈良における世界遺産教育—シルクロードの文化を中心にして」教育実践総合センター研究紀要 15,2006 年。)
(*)(参考：中江彬「明治時代のミケランジェロ受容年代史」美学芸術学 22,2006 年。)
(*)(参考：青山政雄「鴎外と文化の問題—文化交流の視点から」言語文化研究 5,2006 年。)
(*)(参考：ポール・ズムトール/鎌田博夫訳『世界の尺度—中世における空間の表象』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,2006 年。)
(*)(参考：安田喜憲他『対論 文明の風土を問う：泥の文明・稲作漁撈文明を地球を救う』麗澤大学出版会,広池学園事業部(発売),2006 年。)
(*)(参考：岡田泰介「古典古代史科研究(4)碑文」高千穂論叢 40(5),2006 年。)
(*)(参考：金井直「古典古代彫刻石膏模造像のために(特集 美術史家の価値評価を問う)」美術フォーラム 21,2006 年。)
(*)(参考：浦野聡・深津行徳編『古代文字史料の中心性と周縁性』春風社,2006 年。)
----「総論(古代東アジア史料の世界：古代日本城湯の世界：ローマ帝国における官僚制と文書)」
「慣習と伝統(古代日本からみた東アジアの漢字文化とメンタリティの多様な成り立ち：東方ギリシア碑文における石の上での「公」・「私」の対話：古代世界におけるギリシア人の名前—伝統と革新」
「主題と内容(近年出土した中国古代の法律：東アジア辺境軍事施設経営と統治体制---新羅城山山城木簡を中心に：古代日本における地方社会と文字：後期ローマ抵抗における台帳碑文—その社会的・財政的含意についての若干の考察」
(*)(参考：服部英二・鶴見和子『「対話」の文化：言語・宗教・文明』藤原書店,2006 年。)
(*)(参考：服部英二「特別寄稿 文化の多様性と通底の価値—聖俗の拮抗をめぐる東西対話」環 25,2006 年。)
(*)(参考：服部英二「文化の多様性と通底の価値—聖俗の拮抗をめぐる東西対話」モラロジー研究 58,2006 年。)
(*)(参考：小林道憲『文明の交流史観：日本文明のなかの世界文明』MINERVA 歴史・文化ライブラリー8,ミネルヴァ書房,2006 年。)
(*)(参考：篠田知和基「地中海地域の昔話--「バジルの鉢」から見た地域的文化と風俗」広島国際研究 12,2006 年。)
(*)(参考：Nedjat Hamid/渡邉浩司「ザラスシュトラの教えとペルシア文化への影響—フェルドウスィーの『王書』を例に」仏語仏文学研究 38,2006 年。)
(*)(参考：林俊雄『グリフィンの飛翔：聖獣からみた文化交流』ユーラシア考古学選書,雄山閣,2006 年。)
(*)(参考：松岡正剛『17歳のための世界と日本の見方：セイゴウ先生の人間文化講義』(「異教の知、ルネサンスの幕開け：神秘のヘルメス思想」)春秋社,2006年。)
(*)伊川健二「書評と紹介 清水紘一著『織豊政権とキリシタン』」古文書研究61,2006年。

(*)宮永孝『幕末遣欧使節団』講談社学術文庫,講談社,2006年。
(*)(参考：『花鳥風月：日本とヨーロッパ』ホテルオークラ東京 2006 秘蔵の名品アートコレクション展,第 12 回,2006 年。)
(*)(参考：入江幸二他『ヨーロッパ史への扉』晃洋書房,2006 年。)
(*)岩見隆夫監修『世界を旅する地図：知れば知るほど世界をオモシロイ!』世界地図百科 2007 年版,JTB パブリッシング,2006 年。
(*)細井将右「明治初期フランス人地図学教育者ジュルダンとヴィエイヤールについて」(創価大学教育学会)教育学部論集 57,2006 年。
(*)(参考：東郷吉男・上野信太郎『動植物ことば辞典』東京堂出版,2006 年。)
(*)(参考：水村光男編『世界史のための人名辞典』増補版,山川出版社, 2006 年(→2010 年,新版。→2014 年,新装版)。)
(*)(参考：出石尚三「人名語おもしろ辞典(6)アキレーズ・ヒール(Achilles Heel)」世界週報 87(49),2006 年。)
(*)(参考：山口昇監修『新エッセンシャル聖書辞典』いのちのことば社,2006 年。)
(*)(参考：小島久和「『エセー』と仏和辞典（特集 読書・まず面白くなければ）」文芸研究 99,2006 年。)
(*)(参考 : 井本泰子「『イタリア魔法昔話索引』(Indice fiabe popolari italiane di magia)を読む」Aula Nuova：イタリアの言語と文化 5,2006 年。)
(*)(参考：リンダ・ヒル/鏡リュウジ監訳『サビアンで読み解く運命事典』ブルークブックス,ソニー・マガジンズ,2006 年。
(*)(参考：マリリン・ヤーロム/林ゆう子訳『〈妻〉の歴史』慶應義塾大学出版会,2006 年。)
(*)(参考：保坂高殿「Nomen ipsum」人文研究 35,2006 年。)
(*)(参考：レスリー・ダントン=ダウナー,アラン・ライディング/水谷八也・水谷利美訳『シェイクスピアヴィズアル事典』新樹社,2006 年。)
(*)(参考：高増名代「語源と OED—ジェイムズ・マリー二よる「真の」意味の追究」大阪千代田短期大学紀要 35,2006 年。)
(*)(参考：池田雅之・矢野安剛編『ヨーロッパ世界のことばと文化』成文堂, 世界のことばと文化シリーズ,2006 年。)
(*)(参考：土屋凉一「膵の語源について(5)」胆と膵 27(12),2006 年。)
(*)(参考:佐藤孝「パピルス 古代文字 その起源と解読,記録媒体について」紙パ技協誌 60(12),2006 年。)
(*)内山勝利「連作短歌調『イリアス』--ホメロス定型訳の試み」図書 682,2006 年。
(*)(参考：池田黎太郎『古典ギリシア語入門』新装版,白水社,2006 年。)
(*)(参考：関昌也「第 36 回日本インドネシア学会研究発表論文 能動態・受動態と自然態[含 竹島俊之「古典ギリシア語の人称表現の実体」]」インドネシア言語の文化 12,2006 年。)
(*)浮田三郎「竹島俊之氏のご逝去を悼む」プロピレア 18,2006 年。
(*)古浦敏生「竹島俊之先輩の想い出」プロピレア 18,2006 年。
(*)(参考：石本東生「現代ギリシア語に見るコイネーギリシア語の歴史言語的影響と共通性」明治学院大学キリスト教研究所紀要 38,2006 年。)
(*)青野太潮「玉井忠純氏による土岐健治著『[改訂新版]新訳聖書ギリシア語初歩』(教文館,1999 年)への批判」西南学院大学神学論集 63(1),2006 年。

(*)(参考:小林標『ラテン語の世界:ローマが残した無限の遺産』中央公論新社,中公新書,2006年。)
(*)(参考：ステパノ・フランクリン/豊川慎訳『キリスト教世界観とリベラルアーツ：日本におけるキリスト教大学のアイデンティティ』東京基督教大学,いのちのことば社[発売],2006 年。)
(*)(参考：エーリッヒ・アウエルバッハ/小竹澄栄訳『中世の言語と読者：ラテン語から民衆語へ』八坂書房,2006 年。)
(*)(参考：菅沼惇『英語とラテン語と君と：世は全てエロス』北星堂書店,2006 年。)
(*)(参考：青山照男「ラテン語辞書におけるラテン語順」いわき明星大学大学院人文学研究科紀要 4,2006 年。)
(*)与謝野達『ラテン語と日本語の語源的関係』サンパウロ,2006 年。
(*)(参考：久保正彰「彙報『古代ラテン語集成』国際協力委員会報告」日本学士院紀要 60(3),2006 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「巻頭随筆 和音羅読—日本語でラテン文学散策」一冊の本 11(10),2006年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(1)カエサル『ガリア戦記』」一冊の本 11(11),2006 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(2)カエサル『内乱記』」一冊の本 11(12),2006 年。)
(*)(参考：綾井桜子「現代フランスにみる教養理念の変容と模索について：リセにおける文学の位置づけをめぐって」人間研究 42,2006 年。)
(*)(参考：秋山学・研究代表『東欧・スラブ諸国における西洋古典学の継承と展開』秋山学,科学研究費補助金(基盤研究 C 一般)研究成果報告書,筑波大学,平成 15 年-17 年度,2006 年。)
(*)(参考：上村直己「『独逸故事熟字彙』編者山川幸雄」日独文化交流研究 2006 年号,2006年。)
(*)村瀬勉・早川亜里・田中萬年「百科全書「教導説」の検討—箕作麟祥による「Education」の翻訳」職業能力開発総合大学校紀要 B,人文・教育編 35,2006 年。
(*)(参考：北田葉子「近世イタリアにおける「古典の教養」とメディア(2006 年度歴史学研究会大会報告:いま歴史研究に何ができるか—マルチメディア時代と歴史意識)—(合同部会 前近代におけるメディア)」歴史学研究 820,2006 年。)
(*)フィロロギカ編集委員会編『フィロロギカ：古典文献学のために』2006 年。
(*)(参考：江澤増雄『教会ラテン語文法のあらまし』サンパウロ,2006 年。)
(*)大橋真砂子「ジャン・ルクレール著神崎忠昭・矢内義顕訳「修道院文化入門—学問への愛と神への希求」(知泉書院)」史學雑誌 115(1),2006 年。
(*)(参考：仙葉寛・高岡幸一・細谷行輝編『言語と文化の饗宴：中埜芳之教授退職記念論文集』中埜芳之教授退職記念論文集刊行会,英宝社(発売),2006 年。)
(*)細井敦子・平田眞・成蹊大学図書館「成蹊大学図書館所蔵貴重書解説目録(1)--西洋古典の初期刊本」成蹊大学文学部紀要 41,2006 年。
(*)細井敦子「ルネッサンスの証人—本学図書館の貴重書をめぐって」成蹊大学文学部紀要

41,2006 年。)
(*)山澤考至「天草版「ラテン文典」研究序説/概論的考察」Kobe Miscellany30,2006 年。
(*)川戸道昭・榊原貴教編『児童文学翻訳作品総覧 8—明治大正昭和平成の 135 年翻訳目録』(イソップ)大空社[共同刊行：ナダ出版センター],2006 年。
(*)鳥井裕美子「「天然の奇士：前野良沢」日本医史学雑誌52(1),2006年。
(*)曽野正士「末松謙澄の著作及び研究文献(特集 書誌新人集)」文献探索 2006,2006 年。
(*)小野塚力・金光寛峯・佐藤周他「稲垣足穂著書目録(総特集 稲垣足穂)」ユリイカ 38(11),2006 年。)
(*)杉山正明「思い出の一冊—松平千秋訳『ヘロドトス』」静脩 43(1),2006 年。)
(*)大嶋浩「日本におけるジョージ・エリオット文献書誌 明治・大正期(翻訳・書物編)」兵庫教育大学研究紀要 28,2006 年。)
(*)(参考：石井素子「日本における J.-P.サルトルの受容についての一考察：翻訳・出版史の視点から」京都大学大学院教育学研究科紀要 52,2006 年。)
(*)「谷口勇先生,谷口勇先生略歴」立正大学文学部紀要 123,2006 年。
(*)「高橋通男教授年譜及び研究業績」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 37,2006 年。
(*)田中隆尚『田中隆尚撰集 6』(河野與一,安倍能成)展望社,2006 年。
(*)田中隆尚『田中隆尚撰集 7』(「さざなみのおきな 呉茂一先生」)展望社,2006 年。
(*)中務哲郎「松平千秋先生の文業」(青山社)流域 59,2006 年。
(*)(参考：谷口勇「シャトーブリアンの『失楽園』仏訳」立正大学大学院紀要 22,2006 年。)
(*)(参考：舘昭「海外の教育事情 欧州 COE プログラム,エラスムス・ムンドゥスの意義と展開状況—オスロ大学高等教育研究修士課程を中心に」留学交流 18(6),2006 年。)
(*)(参考：リック・リオーダン作/金原瑞人訳『盗まれた電撃』パーシー・ジャクソンとオリンポスの神々1,ほるぷ出版,2006 年(→2015 年,静山社ペガサス文庫,静山社。)
(*)(参考：リック・リオーダン作/金原瑞人・小林みき訳『魔海の冒険』パーシー・ジャクソンとオリンポスの神々2,ほるぷ出版,2006 年(→2016 年,静山社ペガサス文庫,静山社。)。)
(*)(参考：山形孝夫「学びの周辺 回想の M.エリアーデ--1958 年」東北宗教学 2,2006 年。)
(*)(参考：佐藤慎太郎「宗教学におけるエリアーデの位置(第 1 部会,〈特集〉第 64 回学術大会紀要)」宗教研究 79(4),2006 年。)
(*)(参考：佐藤慎太郎「日本におけるエリアーデ宗教学の意義と貢献」論集 33,2006 年。)
(*)(参考：馬場恵二『癒しの民間信仰—ギリシアの古代と現代』東洋書林,2006 年。)
(*)小澤実「馬場恵二・三宅立・吉田正彦編『ヨーロッパ生と死の図像学』明治大学人文科学研究所研究叢書,東洋書林,2004」史學雑誌 115(8),2006 年。
(*)(参考：関哲行「環地中海世界の聖地巡礼と民衆信仰(新年特集号 共同研究の成果とゆくえ)—(共同研究の現在)」日本歴史 692,2006 年。)
(*)(参考：吉原清人編『東洋における死の思想』(古代ギリシア・ローマ)春秋社,2006 年。)
(*)(参考：高岡幸一『古代インド説話を通じた東西比較説話研究』高岡幸一,2006 年。)
(*)(参考：中村元「クロイツァーの象徴学とインド神話」藝文研究 91,2006 年。)
(*)(参考：半沢栄一「小休止 会員ひろば 『イリアス』による「神話と帝国主義」」古代史の海 46,2006 年。)

(*)(参考：高橋宏幸『ギリシア神話を学ぶ人のために』世界思想社,2006 年。)
(*)(参考：千足伸行監修『すぐわかるギリシア・ローマ神話の絵画』東京美術,2006 年。)
(*)(参考：高岡幸一教授退職記念論文集刊行会編『シュンポジオン：高岡幸一教授退職記念論文集』朝日出版社,2006 年。)
(*)(参考：谷口勇「トロイア伝説と文学--覚書」立正大学人文科学研究所年報 43,2006 年。)
(*)(参考：佐藤吉信「トロイの木馬」日本信頼性学会誌：信頼性 28(8),2006 年。
(*)小野美紀「野上彌生子訳「ギリシア・ローマ神話」論--彌生子文学の源泉」梅花児童文学 14,2006 年。
(*)(参考：百瀬春生「ギリシア神話のキメラ怪獣と生物の進化」地中海歴史風土研究誌 23,2006 年。)
(*)(参考：山下桐子「鳥占考(10)ふくろうとの関連について」地中海歴史風土研究誌 23,2006 年。)
(*)(参考：篠井保彦「神託と予測(21)神の存在について」地中海歴史風土研究誌 24,2006 年。)
(*)(参考：「付論 古代地中海世界における人面鳥と有翼人物」日本の美術 481,2006 年。)
(*)山田修「話題の製品と技術 ルーヴル美術館・ミロのヴィーナスの三次元デジタル化—レーザー計測~コンテンツ制作」画像ラボ 17(8),2006 年。)
(*)後藤誠一「Swingin'Beauties—いかした美女たち(12)姉御肌のヴィーナス」ジャズ批評 131,2006 年。)
(*)(参考：秦田伊知朗「『アフロディテ讃歌』に関する文献学的注釈—136・136a 行を中心に」西洋古典學研究 54,2006 年。)
(*)(参考：小松健一郎「コレッジョ作《ウェヌスとクピドとサテュロス》：：ノコラ・マッフェイのコレクションと「古代風」作品」美学 57(3),2006 年。)
(*)(参考：三上真司「神的な神とその末裔(1)プラトン・ディオニューソス・チャタルホユックの神」横浜市立大学論叢,人文科学系列 58(1・2),2006 年。)
(*)(参考：山口誠一「『ディオニュソス哲学への道』序説--「神の死」理解の転換」法政大学文学部紀要 54,2006 年。)
(*)(参考：安藤礼二「光の思想誌(2)元素のディオニュソス」大航海 60,2006 年。)
(*)(参考：日経映像,テレビ東京企画・製作『ボッティチェリ：フィレンツェのヴィーナス』世界・美の旅 21,日経映像(発売)2006 年。)
(*)(参考：カフカ/池内紀訳『掟の問題』(「プロメテウス」/「ポセイドン」)白水社ブックス 159,カフカコレクション 2,白水社,2006 年。)
(*)(参考：ポール・ギャリコ/高津幸枝訳『ポセイドン(上下)』ハヤカワ文庫,早川書房,2006 年。)
(*)(参考：サルヴァトーレ・セッティス/芳賀京子・日向太郎訳『ラオコーン：名声と様式』三元社,2006 年。)
(*)(参考：マーク L.マックフェラン/米澤茂・脇條靖弘訳『ソクラテスの宗教』叢書ウニベルシタス,法政大学出版会,2006 年。)
(*)(参考：土井裕人『後期著作を中心としたプラトンの宗教思想』筑波大学,博士(文学),甲第3870 号,2006 年。)
(*)(参考：堀江聡訳「ペトルス・ニコラウス羅訳『アリストテレスの神学』第 5・第 6 章」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 37,2006 年。)
(*)(参考：堀江聡訳「翻訳 ペトルス・ニコラウス羅訳『アリストテレスの神学』第 10 章

[45v]-[53r]」人文科学 21,2006 年。)
(*)(參考：沼田敦「イブン・シーナと『アリストテレスの神学』の流失論—イスラム哲学の思想史上の意味」新プラトン主義研 5,2006 年。)
(*)大野由紀「野上彌生子訳「ギリシア・ローマ神話」論--彌生子文学の源泉」梅花児童文学 14,2006 年。)
(*)(參考：池田裕「風のごとく—馬と旧約聖書(特集,馬と車)」西アジア考古学 7,2006 年。)
(*)(參考：大貫隆他編『一神教とは何か：公共哲学からの問い』東京大学出版会,2006 年。)
(*)(參考：佐藤優「本のエッセンス 書評『キリスト教の勝利 ローマ人の物語 14』塩野七生著—一神教と多神教を同格と考える塩野史学の意義」現代 40(5),2006 年。)
(*)(參考：宮本久雄・大貫隆・山本巍編『受難の意味：アブラハム・イエス・パウロ』東京大学出版会,2006 年。)
(*)(參考：Takashi Oniki“Jesus：Geschichte und Gegenwart”Neukirchiner,Biblisch-thoelogosche Studien 82,2006.)
(*)(參考：大貫隆『イエスの時』岩波書店,2006 年。)
(*)(參考：フェルディナント・ハーン/大貫隆・大友陽子訳『新約聖書神学』(1 上,1 下,2 上)日本キリスト教団出版部,2006 年。)
(*)(參考：佐藤陽二『聖書とキリスト教』アンカークロス出版,2006 年。)
(*)(參考：秦剛平『乗っ取られた聖書』(セプタギュンタ)京都大学学術出版会,2006 年。)
(*)(參考：江澤増雄『福音書のラテン語テキストを読む』サンパウロ,2006 年。)
(*)(參考：榊原康夫『ルカ福音書講解』全 6 巻,教文館,2006 年。)
(*)(參考：松木祐三『主に従う者に与えられる祝福の道：ルカ福音書講解説教』いのちのことば社,2006 年。)
(*)(參考：ヨーハン・アルブレヒト・ベンゲル/岡本不二夫訳『グノーモン：新約聖書註解』新教出版社,2006 年。)
(*)(參考：井田琇穂「イエスは神か人間か：英古詩 Andreas の原典研究」言語文化 8(4),2006 年。)
(*)(參考：松原知生「天のオクルスあるいはベッカフーミ作《玉座の聖パウロ》について」地中海学研究 29,2006 年。)
(*)松本宣郎「キリスト教と歴史学：初期キリスト教史研究の立場から(第 16 回日本伝道協議会公開講演)」紀要 9,2006 年。
(*)小俣日登美「佐藤吉昭著「キリスト教における殉教研究(創文社)2004」史學雜誌 115(10),2006 年。
(*)(參考：松本宣郎『キリスト教徒が生きたローマ帝国』日本キリスト教団出版局,2006 年。)
(*)(參考：青野太潮「成果と展望(書評)新約学/小河陽著『パウロとペテロ』」日本の神学 45,2006 年。)
(*)(參考：フレッド・ニプロ監督/ケイリー・ウィルソン,ベス・メレディス脚本『ベン・ハー』コスミック出版,コスミックインターナショナル(発売),2006 年。)
(*)(參考：松本宣郎「論点開示 迫害原因論再考(「西洋史研究」2005 年度大会共通論題報告 ローマ帝政期のキリスト教—保坂高殿『ローマ帝政初期のユダヤ・キリスト教迫害』をめぐって」西洋史研究 35,2006 年。)
(*)(參考：島創平「論点開示 ユダヤ教の一派としての原始キリスト教(「西洋史研究」2005 年度大会共通論題報告 ローマ帝政期のキリスト教—保坂高殿『ローマ帝

政初期のユダヤ・キリスト教迫害』をめぐって」西洋史研究 35,2006 年。)
(*)(参考：豊田浩志「論点開示 4 世紀初頭,キリスト教迫害推進を希求した常民たち(「西洋史研究」2005 年度大会共通論題報告 ローマ帝政期のキリスト教—保坂高殿『ローマ帝政初期のユダヤ・キリスト教迫害』をめぐって」西洋史研究 35,2006 年。)
(*)(参考：「討論(「西洋史研究」2005 年度大会共通論題報告 ローマ帝政期のキリスト教—保坂高殿『ローマ帝政初期のユダヤ・キリスト教迫害』をめぐって」西洋史研究 35,2006 年。)
(*)(参考：保坂高殿「セウェルス朝初期のキリスト教迫害(Historia Augusta SeptSev.17.1)」千葉大学人文研究 35,2006 年。)
(*)(参考：南雲泰輔「ユリアヌス帝の意識のなかのローマ皇帝像--『ひげぎらい』における法律意識の分析を中心に」西洋古代史研究 6,2006 年。)
(*)(参考：野々山真輝帆「アンダルシアの聖母マリア崇拝」青淵 693,2006 年。)
(*)(参考：グレアム・フィリップス/立木勝訳『聖母マリアをめぐる沈黙の陰謀』三交社,2006 年。)
(*)(参考：マリア・グラチア/縷衣香訳『マリア・コード：私体験による聖母マリアの秘号』たま出版,2006 年。)
(*)(参考：市川直子「ジョルジュ・キリコとラッファエロ・サンツィオ：ラッファエロ作《聖母マリアの結婚》をめぐって」人文学論叢 24,2006 年。)
(*)(参考：水垣渉「初期キリスト教における知恵・知者 思想の前提と背景」途上 26,2006 年。)
(*)(参考：出村みや子「オリゲネスの聖書解釈における古代アレクサンドリアの文献学的影響--「マタイ福音書注解」17 巻 29-30 を中心に」教會と神學 43,2006 年。)
(*)(参考：秋山学「書評 Somos Robert,Az alexandriai teologia(ショモシュ・ローベルト『アレクサンドイアの神学』)」中世思想研究 48,2006 年。)
(*)(参考：谷隆一郎訳『フィロカリア(1-9)』新世社,2006 年。)
(*)(参考：ピーター・ブラウン/足立広明訳『古代末期の形成』慶應義塾大学出版会,2006 年。)
(*)杉崎泰一郎「関口武彦著「クリュニー修道制の研究」」史學雜誌 115(2),2006 年。
(*)大橋真紗子「ジャン・ルクレール著/神崎忠昭・矢内義顕訳『修道院文化入門—学への愛 徒神への希求』知泉書院,2004」史学雑誌 115(1),2006 年。
(*)轟木広太郎「J.ル=ゴフチョ/池田健二・菅沼潤訳『中世とは何か』藤原書店,2005」史学雑誌 115(4),2006 年。
(*)(参考：深沢克己・高山博編『他者と信仰：寛容と不寛容のヨーロッパ宗教社会史』東京大学出版会,2006 年。)
(*)太田愛人『「武士道」を読む：新渡戸稲造と「敗者」の精神史』平凡社新書,2006 年。
(*)平田栄一『心の琴線に触れるイエス』井上洋治神父の言葉に出会う 1,聖母文庫,聖母の騎士社,2006 年。
(*)古橋昌尚「遠藤周作の預言者的ヴィジョン：神学の一形態としての文学とその可能性」人間学紀要 36,2006 年。
(*)細川正義「遠藤周作文芸とキリスト教：『沈黙』に至る道」人文論究 56(1),2006 年。
(*)兼子盾夫「象徴と暗喩で読み解く「遠藤文学の世界」：『沈黙』の場合」横浜女子短期

大学研究紀要 21,2006 年。
(*)菅原とよ子「遠藤周作『沈黙』論(2) : 日本人の琴線に触れた文学」国語国文学研究 41,2006 年。
(*)田中葵「遠藤周作『海と毒薬』論—その構成における破綻」阪神近代文学研究 7,2006 年。
(*)田中葵『遠藤周作文学作品論：その文学的特質について』田中葵,2006 年
(*)峰村康広「生体解剖という踏絵—遠藤周作「海と毒薬」を読む(特集 1955 年前後の文学)」近代文学研究 23,2006 年。
(*)山田都与「遠藤周作の信仰と小説—『黄色い人』までを考える」金城学院大学大学院文学研究科論集 12,2006 年。
(*)小嶋洋輔「遠藤周作論 カトリックの変容—1960 年代の転換(特集 第三の新人)」国文学・解釈と鑑賞 71(2),2006 年。
(*)辛承姫「遠藤周作におけるヨーロッパ留学の意味--「ルーアンの夏」と「留学生」を中心に」専修国文 78,2006 年。
(*)遠藤順子・加藤宗哉・高橋千劒破監修『遠藤文学と長崎：西洋と出会った意味』長崎市遠藤周作文学館,2006 年。
(*)岩政伸治・土井良子・福田耕介編『人間観の研究：imago dei の諸相を通して』(遠藤周作)金星堂,2006 年。
(*)太田正紀『祈りとしての文芸：三浦綾子・遠藤周作・山本周五郎・有島武郎』聖恵授産所出版部,日本キリスト改革派西部中会文書委員会,2006 年。
(*)(参考：寇振鋒「清末の漢訳小説『経国美談』と戯曲『前本経国美談新戯』--明治政治小説『経国美談』の導入,受容をめぐって」名古屋大學中國學文學論集 18,2006 年。)
(*)柴田敏「メロスとイエス・キリスト—キリスト教文学としての「走れメロス」と「駆込み訴へ」」紀要 4,2006 年。
(*)高塚雅「『走れメロス』論--〈内的独白〉の考察」中京国文学 25,2005 年。
(*)前嶋深雪・井上明芳「太宰治「走れメロス」論—見覚えのない物語(特集 近代)」解釈 52(1・2),2006 年。
(*)前嶋深雪・井上明芳「太宰治「走れメロス」の授業論の試み—構造の理解によってはじまる授業(特集 国語学・国語教育)」解釈 52(5・6),2007 年。
(*)土肥哲也・菅邦男「生徒の着眼点を生かす指導方法の開発：文学的文章「走れメロス」の場合」宮崎大学教育文化学部紀 教育科学 15,2006 年。
(*)森見登美彦『「新釈」走れメロス：他四篇』祥伝社,2006 年。
(*)杉本徹「月評・詩誌月評 ルナティカ—牧野信一風に」現代詩手帖 49(11),2006 年。
(*)伊藤勝彦『最期のロマンティーク三島由紀夫』新曜社,2006 年。
(*)葉名尻竜一「三島由紀夫と島--『アポロの杯』『潮騒』(特集 島をみる/島からみる)」芸術至上主義文芸 32,2006 年。
(*)岡本綺堂他・赤木かん子編『語られると怖い話』(イソップ著/いわきたかし訳「いそっぷ童話」)ホラーセレクション 2,ポプラ社,2006 年。
(*)イソップ原作/川崎洋文；黒井健・奈良阪智子・中村景児・みやざきひろかず絵『イソップどうわ(1,2)』世界名作おはなし絵本,小学館,2006 年。
(*)イソップ原作/いもとようこ文絵『まちのねずみといなかのねずみ』金の星社,2006 年。
(*)北村すみよ,はせがわゆうじ「北風と太陽—イソップ童話より(おはなしよんで)」ほっぺ

11,2006 年。
(*)岡本綺堂他著/赤木かん子編『語られると怖い話』(イソップ著/いわきたかし訳「いそっぷ童話集」)ホーラーセレクション 2,ポプラ社,2006 年。
(*)『NHK こどもにんぎょう劇場』(イソップ「イソップときつね」)ビデオレコード,NHK エンタープライズ,2006 年。
(*)「1.重点領域研究「音声言語」・試験研究「音声 B」連続音声データベース(PASL-DSR)」(イソップ童話「北風と太陽」)音声資源コンソーシアム,2006 年。
(*)板橋秀一(代表著作権者)「筑波大 多言語音声コーパス(UT-ML)」(イソップ童話「北風と太陽」)音声資源コンソーシアム,2006 年。
(*)板橋秀一(代表著作権者)「重点領域研究「音声言語」・試験研究「音声 DB」連続音声データベース(PASL-DSR)」(イソップ童話「北風と太陽」)筑波大学知能情報生体工学研究室,2006 年。
(*)樺旦純『本当は恐ろしいイソップの教訓：シンプルな物語に潜む,大人への警告』日本文芸社,2006 年。
(*)土橋寿「変容する子どもの読み物―メルヘンの崩壊と子育ての危機」(イソップ)（帝京学園短期大学）研究紀要 14,2006 年。
(*)佐木隆三「漂流・日本社会 学校の授業にイソップ童話を」世界週報 87(49),2006 年。
(*)(参考：岩見明子「雀の比喩と無記説：『倶舎論』と『破我品』の所説に関して(1)」(The Parable of the Sparrow and Avyakata : In the Ninth Chapter of the Abhidharmakosabhasya,イソップ)印度學佛教學研究 55(1),2006 年。)
(*)土橋寿「変容する子どもの読み物：メルヘンの崩壊と子育ての危機」(イソップ)研究紀要 14,2006 年。
(*)ジョサイア・コンドル/山口静一訳『河鍋暁斎』岩波文庫,岩波書店,2006 年。
(*)Buckland Rosina ,Clark Timothy & Shigeru Oikawa,*A Japanese menagerie : animal pictures by Kawanabe Kyousai*,British Museum Press,2006.
(*)(参考：安部薫『ラ・フォンテーヌ寓話』小金井安部薫事務所,2006 年。)
(*)『仮名草子研究叢書 第 1 巻 雑誌論文集成(1)』クレス出版,2006 年。
(*)後藤匡史「伝説百合若大臣」古代朝鮮文化を考える 21,2006 年。
(*)佐々木長生「ユリオケと百合若」民具マンスリー39(9),2006 年。
(*)樋口大祐「海洋と文学」(百合若大臣)Navigation：日本航海学会誌 164,2006 年。
(*)大塚正文『熊本昔むかし』(百合若大臣)熊本出版文化会館,創流出版(発売),2006 年。
(*)高木昌史『柳田国男とヨーロッパ：口承文芸の東西』三交社,2006 年。
(*)書評・中務哲郎「菅原憲二・飯塚一幸・西山伸編『田中秀央 近代西洋学の黎明』京都大学出版会,2005 年」西洋古典學研究 54,2006 年。
(*)フルムジアディス・ニコス/川上穣訳「現代ギリシアの舞台におけるアリストパネスの歩みと私の取り組み(シンポジウム「喜劇の世界―ギリシアと日本の伝統」)」西洋古典學研究 54,2006 年。
(*)チエシュコ・マルティン「ギリシア喜劇のいたずら者と狂言のすっぱ(シンポジウム「喜劇の世界―ギリシアと日本の伝統」)」西洋古典學研究 54,2006 年。
(*)(参考：木村健治「古代ローマ演劇の起源をめぐって：Valerius Maximus の場合」(高岡幸一郎教授退職記念論文集刊行会編『シュンポジオン：高岡幸一郎教

授退職記念論文集』所収,朝日出版,2006 年。)
(*)(参考：藤縄謙三『ホメロスの世界』魁星出版,魁星出版(発売),2006 年。)
(*)(参考：河底尚吾『文学の創造：アルス・ポエティカ』(「ホメーロスと万葉集からの出発」,「『古事記』と『変身物語』が語るもの」,「エロスの表現」)郁朋社,2006 年(→2011 年,改題『文化と文明：幕末の創造と発展』。)
(*)(参考：ホメロス原著/アレッサンドロ・バリッコ著/草偕伸子訳『イリアス：トロイアで戦った英雄たちの物語』白水社,2006 年。)
(*)(参考：谷口勇「トロイア伝説と文学：覚書」立正大学人文科学研究所年報 43,2006 年。)
(*)(参考：宮城聰「〈BeSeTo 演劇祭〉レポート BeSeTo 演劇祭と中国演劇祭と『トロイアの女』」演劇人 22,2006 年。)
(*)(参考：エウリピデス/山形治江訳/蜷川幸雄演出『メディア』ポニーキャニオン,Bunkamura：WOWOW,2006 年。)
(*)(参考：エウリピデス/山形治江訳『オレステス』れんが書房新社,2006 年。)
(*)中務哲郎「だから翻訳はおもしろい、翻訳における不公平について」図書 683,2006 年。
(*)(参考：中務哲郎研究代表『古代小説の発生と展開に関する研究』中務哲郎,2006 年。)
(*)(中務哲郎)『Humaniora Kiotoensia：on the centenary of Kyoto humanities』Graduate School of Letters,Kyoto University,2006。
(*)神林恒道『近代日本「美学」の誕生』(ギリシア,ケーベル等)講談社学術文庫,2006 年(←2002 年,同『美学事始』勁草書房)。
(*)(参考：安田敏朗『「国語」の近代史』中公新書,2006 年。)
(*)(参考：根岸宗一郎「近代中国におけるギリシア文学：周作人と羅念生を中心に：(付・古代ギリシア文学翻訳年表)」慶應義塾大学日吉紀要,言語・文化・コミュニケーション 36,2006 年.)
(*)(参考：逸身喜一郎研究代表『古典古代史の近年の動向に対応したギリシャ・ローマ思想史ならびに文学史の書きかえ』逸身喜一郎,科学研究費補助金(基盤研究 B)研究成果報告書,平成 14-17 年度,2006 年。)
(*)Yonezawa Shigeru,‘Japanese and Greek Culture:A Comparison’(K.Boudouris (ed.),*The Philosophy of Culture*,International Center for Greek Philosophy and Culture,2006)
(*)千葉眞郎編『石橋忍月研究：評伝と考証』八木書店,2006 年。
(*)五之治昌比呂「明治のプラウトス---相良常雄「雙児の邂逅」について」大阪外語大学日本語日本文化教育センター「日本語・日本文化」32,2006 年。
(*)松村公子「戸川秋骨著作目録稿」三田國文 44,2006 年。
(*)松村公子「戸川秋骨年譜稿」三田國文 44,2006 年。
(*)Sooan Yoonb「帝国日本の英文学受容—岡倉由三郎・市河三喜監修『英文学叢書』を中心に[含 論評]」日本教育史研究 25,2006 年。
(*)(参考：平出隆「進歩のグラフィズム(22)プシュケーの羽」図書 688,2006 年。)
(*)(参考：平出隆「進歩のグラフィズム(26)古代・種子・散文」図書 691,2006 年。)
(*)(参考：近藤智彦「決定論と自由意志—古代と現代」UTCP 研究論集 7,2006 年。)
(*)伊藤和行「書評 大出晃著『知識革命の系譜学—古代オリエントから 17 世紀科学革命まで』」科学哲学 39(2),2006 年。
(*)(参考：I.ブルマ,A.マルガリート/堀田江理訳『反・西洋思想』新潮新書,新潮社,2006 年。)

(*)小澤実「馬場恵二・三宅立・吉田正彦編「ヨーロッパ生と死の図像学」(明治大学人文科学研究所叢書,東洋書林)」史學雜誌 115(8),2006 年。
(*)(參考 : 木原武一『老年よ,「我まま」に生きよ : 賢者に学ぶ幸福論』日本経済新聞社,2006 年。)
(*)(參考 : 荻原真『西洋哲学の背骨 : 知っておきたいプラトン,デカルト,カント,サルトル』新曜社,2006 年。)
(*)(參考 : 田中浩『ヨーロッパ 知の巨人たち : 古代ギリシアから現代まで』日本放送協会出版,2006 年。)
(*)(參考 : 日下部吉信『ギリシア哲学と主観性 : 初期ギリシア哲学研究』立命館大学,博士(文学),乙第 405 号,2006 年。)
(*)(參考 : 村田一夫『現代ソフィスト伝 : 公文公は教育に何を見たか』牧歌舎,星雲社(発売),2006 年。)
(*)(參考 : 納富信留『ソフィストとは誰か?』人文書院,2006 年(→2014 年,ちくま学芸文庫版)。)
(*)(參考 : 桜川洋子「ソクラテス的“よき生き方”について」地中海歴史風土研究誌 23,2006 年。)
(*)岡崎満義「田中美知太郎 ソクラテスのように美しく(大特集 鮮やかな「昭和人」50 人 ―ゆかり深き人々のの証言 この見事な生き方を見よ」文藝春秋 84(3),2006 年。
(*)(參考 : 加来彰俊「講演 ソクラテスはなぜ死んだか―ソクラテスの思想の現代的意義」モラロジー研究 57,2006 年。)
(*)(參考 : 米沢茂「ソクラテスと現代」北九州大学外国語学部紀要 116,2006 年。)
(*)(參考 : 田中伸司『対話とアポリア―ソクラテスをめぐる人々』静岡大学人文学部研究叢書 6,知泉書館,2006 年。)
(*)(參考 : 岩田靖夫『三人の求道者―ソクラテス・一遍・レヴィナス』長崎純心レクチャーズ,創文社,2006 年。)
(*)(參考 : 加藤信朗「ソクラテス・徳と快の間 : 『プロタゴラス』篇「快楽論」解釈の一つの試み」(東京都立大学哲学会)哲学誌 48,2006 年。)
(*)(參考 : 茂木和行「小さなソクラテスよ,語れ! : 「知的饗宴の場」としての哲学」研究紀要・第一分冊,人文学部 17,2006 年。)
(*)(參考 : 茂木和行「ソクラテスのカフェ―対話型授業への挑戦」聖徳の教え育む技法 1,2006 年。)
(*)(參考 : 増田靖彦「プラトンから出発してイメージについて考える―研究ノート」交域哲学 1,2006 年。)
(*)(參考 : 土井裕人「異界と知 : プラトンを手がかりに(第 3 部会,〈特集〉第 64 回学術大会紀要)」宗教研究 79(4),2006 年。)
(*)(參考 : 藤田一美「詩論の系譜(1)プラトンとアリストテレスにおける虚構,美,型,模倣,共感の問題」美学芸術学研究 25,2006 年。)
(*)(參考 : 松浦明宏『プラトン形而上学の探究--『ソフィステス』のディアレクティケーと秘教』東北大学出版会,2006 年。)
(*)(參考 : 松井貴英『プラトン知識論の研究 : 『メノン』の想起説に関する考察』名古屋大学,博士（文学）,甲第 6851 号,2006 年。)
(*)(參考 : 高木酉子『中期プラトンにおける二世界論 : 『国家』第五巻 475e3-480a13』名古屋大学,博士（文学）,甲第 7198 号,2006 年。)

(*)(参考：木庭康樹『プラトン哲学における身体論：ソーマ概念の体系的考察を通して』筑波大学,博士(体育科学),乙第 2184 号,2006 年。)
(*)(参考：天野正幸『正義と幸福—プラトンの倫理思想』東京大学出版会,2006 年。)
(*)(参考：望月哲男「ドストエフスキーの中のプラトン(プラトンとロシア)」「スラブとユーラシア学の構築」研究報告集 12,2006 年。)
(*)(参考：杉浦秀一「ロシア・プラトニズムとウラジミール・ソロヴィヨフ(プラトンとロシア)」「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 12,2006 年。)
(*)(参考：根村亮「セルゲイ・トゥルベッコーイのロゴス論(プラトンとロシア)」「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 12,2006 年。)
(*)(参考：北見諭「物とイデア：ヴャチェスラフ・イワーノフの美学とプラトン主義(プラトンとロシア)」「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 12,2006 年。)
(*)(参考：貝澤哉「パーヴェル・フロンレンスキイのプラトン論—身体,視角,美とのかかわりをめぐって(プラトンとロシア)」「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 12,2006 年。)
(*)(参考：大須賀史和「ローセフとプラトン主義--『神話の弁証法』における概念構成をめぐって(プラトンとロシア)」「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 12,2006 年。)「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 12,2006 年。)
(*)(参考：川名隆史「ポーランド・メシアニズムにかんする覚書—ヘーネ=ヴロンスキの「絶対」の哲学(プラトンとロシア)」「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 12,2006 年。)
(*)(参考：研究代表者・山口義久『プラトン主義の受容と変容を通じての古典の普遍性の研究』山口義久,科学研究費補助金(基礎研究 C)研究成果報告書,平成 14 年度-17 年度,2006 年。)
(*)(参考:稲村一隆「アリストテレスのフロネーシス論—行為に関する知性の性質について」(東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻)相関社会科学 16,2006 年。)
(*)小野真「アリストテレスと西谷啓治(第 3 部会,〈特集〉第 64 回学術大会紀要)」宗教研究 79(4),2006 年。)
(*)小野真「アリストテレスと西谷啓治」哲學研究 581,2006 年。
(*)(参考：牛田徳子「アリストテレス『範疇論』の真作性再考—イザァク・フシクの真作論を駁す」哲学 116,2006 年。)
(*)(参考：和田利博『エピクロスの倫理学』京都大学,博士(哲学),甲第 12008 号,2006 年。)
(*)岡部雄三「西谷啓治における西洋神秘主義研究の特徴について」UTCP 研究論集 4,2006 年。
(*)(参考：角田幸彦「ヨーロッパ精神史におけるセネカの位置—哲学・悲劇・書簡から」明治大学人文科研究所紀要 58,2006 年。)
(*)(参考：ルクレティウス著/塚谷肇訳『万物の根源/世界の起源を求めて』近代文芸社,2006 年。)
(*)(参考：エミール・ブレイエ著/江川隆男訳『初期ストアにおける非物体的なものの理論』古典転生 1,2006 年。)
(*)(参考：角田幸彦『セネカ』清水書院,人と思想 186,2006 年(→2014 年,再版)。)

(*)(参考：角田幸彦『キケロー伝の試み—キケローとその時代』北樹出版,2006 年。)
(*)(参考：角田幸彦『キケローにおける哲学と政治—ローマ精神史の中点』北樹出版,2006 年。)
(*)(参考：アントニー・エヴァリエット/高田康成訳『キケロ—もうひとつのローマ史』白水社,2006 年(→2015 年、新装復刊。)
(*)高田康成「書評(27)古い奴だとお思いでしょうが キケロ/大西英文訳『弁論家について』」全 2 冊）」UP35(5),2006 年。)
(*)(参考：聖アウグスティヌス著/服部英次郎訳『告白(上下)』岩波書店,2006 年。)
(*)(参考：金子晴男『アウグスティヌスの恩恵論』知泉書院,2006 年。)
(*)(参考：加藤信朗『アウグスティヌス「告白録」講義』知泉書院,2006 年。)
(*)(参考：関川泰寛『アタナシオスの神学』教文館,2006 年。
(*)(参考：浅井太郎『アウグスティヌスのキリスト論』南山大学,博士(文学),甲第 31 号,2006 年。)
(*)(参考：マージョリ・リーヴス/大橋善之訳『中世の預言とその影響—ヨアキム主義の研究』八坂書房,2006 年。)
(*)竹中徹「ジャック・ヴェルジェ著/野口洋二訳『ヨーロッパ中世末期の学識者』創文社,2004」史學雑誌 115(2),2006 年。
(*)轟木広太郎「J.ル=ゴフ著池田健二・菅沼潤訳「中世とは何か」藤原書店」史學雑誌 115(4),2006 年。
(*)(参考：加藤希理子「エックハルトにおける愛の概念について：アリストテレスの友愛論を手がかりに」宗教学研究室紀要 3,2006 年。)
(*)(参考：今道友信「カトリック神学の基礎としての哲学の再生」キリスト教文化研究所紀要 22(1),2006 年。)
(*)(参考：山口誠一「行為的直観と新プラトン主義—シンポジウムへの案内(特集 新プラトン主義と東洋思想)—(シンポジウム 新プラトン主義と西田哲学)」新プラトン主義研究 6,2006 年。)
(*)(参考：小浜善信「プロティノスと西田幾多郎における心身論—脱我と没我,あるいは身体からの自由と身体の自由(特集 新プラトン主義と東洋思想)—(シンポジウム 新プラトン主義と西田哲学)」新プラトン主義研究 6,2006 年。)
(*)(参考：板橋勇仁「形と形を超えるもの—プロティノスの西田における「一者」(特集 新プラトン主義と東洋思想)—(シンポジウム 新プラトン主義と西田哲学)」新プラトン主義研究 6,2006 年。)
(*)(参考：今義博「西田哲学と中世の新プラトン主義—偽ディオニシオスとエウリゲナ(特集 新プラトン主義と東洋思想)—(シンポジウム 新プラトン主義と西田哲学)」新プラトン主義研究 6,2006 年。)
(*)(参考：尾崎誠「西田・田辺哲学の東洋的背景を探る—プロティノスとの関連に於いて(特集 新プラトン主義と東洋思想)」新プラトン主義研究 6,2006 年。)
(*)(参考：鶴岡賀雄「十字架とヨハネとプロティノスにおける絶対者との「接触」論」(特集 新プラトン主義と東洋思想)」新プラトン主義研究 6,2006 年。)
(*)(参考：岡崎文明「新プラトン主義と東洋思想—その比較研究の地平と方法論的反省(特集 新プラトン主義と東洋思想)」新プラトン主義研究 6,2006 年。)
(*)「水地宗明先生喜寿記念献辞[含・水地宗明先生の略歴,業績目録](水地宗明先生喜寿記念

号)」新プラトン主義研究 6,2006 年。)
(*)(參考 : 周藤多紀「ボエティウスにおける論理と文法」中世哲学研究 : Veritas 25,2006 年。)
(*)(參考 : 澤井繁男「「ルネサンス学」開講」關西大學文學論集 56(2),2006 年。)
(*)(參考 : 澤井繁男「魔術師たちの跫音(あしおと)」春秋 482,2006 年。)
(*)(參考 : 伊藤博明「プラトン・アカデミーから疑え—根占献一『共和国のプラトン的世界』を読む」創文 484,2006 年。)
(*)北田葉子「根占献一著「フィレンツェ共和国のヒューマニスト—イタリア・ルネサンス研究」、「共和国のプラトン的世界—イアタリア・ルネサンス(続)」」(創文社)」史學雜誌 115(11),2006 年。
(*)小山慶子「ピーター・バーク著亀長洋子訳「ルネサンス」(ヨーロッパ史入門,岩波書店)」史學雜誌 115(11),2006 年。
(*)(參考 : 根占献一「ルネサンス研究補遺」創文 484,2006 年。)
(*)(參考 : 根占献一「シンポジウム「中・近世の地中海世界と日本—confraternitas(信心会・兄弟会)を鍵言葉にして」はじめに」地中海研究所紀要 4,2006 年。)
(*)坂口昂吉「研究余滴 伝説と史実」史学 74(3),2006 年。
(*)(參考 : 加藤守道「ジョルダーノ・ブルーノの寛容思想—新大陸の「発見」を巡って」創文 487,2006 年。)
(*)(參考 : 宮山昌治「昭和期におけるベルグソンの受容」(学習院)人文 5,2006 年。)
(*)(參考 : 鈴木由加里「日本におけるジャン・マリー・ギュヨーの受容について」(学習院)人文 5,2006 年。)
(*)(參考 : 木田元「反哲学入門(1-15)」波 40(6,7,8,9,10,11,12),2006 年//41(1,2,3,4,12,13,14,15),2007 年(→平成 16 年,新潮社,。→平成 22 年,新潮文庫版)。
(*)(參考 : 木田元・藤島陽一「私の生き方(432)ハイデガーが読みたくて」公研 44(2),2006 年。)
(參考 : 氣多雅子「事実と事実性—ハイデッガーとアレント」京都大学文学部研究紀要 45,2006 年。)
(*)(參考 : 小野紀明「初期ハイデガーにおける運動概念(上下)アリストテレスの脱構築的解釈をめぐって」思想 985,986,2006 年。)
(*)(參考 : ティモシー・クラーク/高田珠樹訳『マルティン・ハイデガー』青土社,2006 年。)
(*)(參考 : 哲学会編『レヴィナス : ヘブライズムとヘレニズム』哲学雑誌 121(793),有斐閣,2006 年。)
(*)加藤信朗「断想—悲劇と人間 : 川島重成著『アポロンの光と闇のもとに[ギリシア悲劇「オイディプス王」解釈』をアリストテレス『形而上学』、『詩学』との関連で読む」ペディラヴィウム 59,2006 年。
(*)(參考 : 松丸和弘「レヴィナスとギリシャの遺産—幸福 bonheur の概念をめぐって」ペディラヴィウム 59,2006 年。)
(*)佐野好則「精神文化を根源から理解するために」ペディラヴィウム 60,2006 年。
(*)納富信留「哲学者となること—栗原裕次「記憶と対話」への応答」ペディラヴィウム 60,2006 年。
(*)浅香正「序言 水考」古代史年報 4,2006 年。
(*)(參考 : 松村劭『三千年の海戦史』中央公論新社,2006 年(→2010 年,[上下]中央公論新社。)

(*)(参考：佐藤吉信「トロイの木馬」日本信頼性学会誌：信頼性 28(8),2006 年。)
(*)(参考：『トロイの謎：ギリシア伝説の都市の真実』バイリンガル版,ビデオレコード,丸善出版事業部映像メディア部,2006 年。)
(*)(参考：マーク・セラシーニ著/ジョエル・サーナウ&ロバート・コクラン原案/文永優訳『トロイの木馬(上下)』英知文庫,24CTU 機密解除記録,英知出版,2006 年。)
(*)(参考：藤縄謙三『ヘロドトス』新装改訂版,魁星出版,學燈社(発売),2006 年。(←1989 年刊「歴史の父ヘロドトス」,新潮社)。)
(*)杉山正明「想い出の一冊—松平千秋訳『ヘロドトス』」静脩 43,2006 年。
(*)(参考：桜井万里子『ヘロドトスとトゥキュッディデス：歴史学の始まり』Historia23,山川出版社,2006 年。)
(*)南川高志「古代ギリシア・ローマ史研究の発展と東洋人学者の立場」(紀平英作・吉本道雅(編)『京都と北京-----日中を結ぶ知の架橋』所収,角川学芸出版,2006 年。)
(*)西村太良「人文学の新たな可能性と COE プログラム」IDE485,2006 年。
(*)青柳正規「わが国の人文科学の現状と展望」IDE485,2006 年。
(*)桂正人「〈追悼〉三浦一郎先生を偲ぶ」上智史学 51,2006 年。
(*)青柳正規・本村凌二「特別対談 ローマに学ぶ「興亡の世界史」」本 31(12),2006 年。
(*)「地中海研究所活動報告」地中海研究所紀要 4,2006 年。
(*)(参考：松原俊文訳「史料翻訳 ローマ共和政偉人伝 De viris illustribus urbis Romae[含・解題]」地中海研究所紀要 4,2006 年。)
(*)(参考：阿刀田高「プルタークの物語(1-24)」潮 571-574,2006 年/575-586,2007 年/587-594,2008 年。)
(*)(参考：進一男『短篇 クレオパトラの鼻に就いて』本多企画,2006 年。)
(*)(参考：樋脇博敏「研究フォーラム ジェンダーと歴史学教育—古代ローマ史の場合(世界史の研究 208)」歴史と地理 596,2006 年。)
(*)(参考：古山正人「ペリオイコイ研究の現状」國學院大學紀要 44,2006 年。)
(*)(参考：長場紘「内藤智秀—トルコ研究の先達」アナトリアニュース 116,2006 年。)
(*)(参考:中井義明「帝国の終焉:スパルタ帝国の解体と採集のプロセス(3)」社会科学 77,2006 年。)
(*)(参考：ジャック・ル・ゴフ/加納修訳『もうひとつの中世のために：西洋における時間,労働,文化』白水社,2006 年。)
(*)(参考：甲斐慶司『アレクサンドロス大王と経営戦略』東洋出版,2006 年。)
(*)(参考：山中由里子「初期イスラーム時代の歴史認識におけるアレクサンドロス(特輯中東世界)」比較文學研究 87,2006 年。)
(*)(参考：合阪學「アレクサンドロス大王」宝塚造形芸術大学紀要 19,2006 年。)
(*)(参考：砂田徹『共和政ローマとトリブス制：拡大する市民団の編成』北海道大学,博士(文学),乙第 6496 号,2006 年。)
(*)(参考：桶谷敏之「古代ローマにおける剣闘士競技の起源に関する史料の検討」体育史研究 23,2006 年。)
(*)(参考：梶田知志「剣闘士競技(munera galdiatoria)研究百年史—政治・文化史から社会・心性史へ」早稲田大学大学院文学研究科紀要,第 4 分冊 52,2006 年。)
(*)(参考：和田廣『史料が語るビザンツ世界』山川出版社,2006 年。)

(*)(参考：Otsuki Yasuhiro「Towards the Origin of“Empire”：A Perspective on the Study of the Byzantine State」地中海論集 18,平成 16-19 年度化学研究費補助金(基礎研究 A),2006 年。)
(*)(参考：アンドリュー・ラングリー『中世ヨーロッパ入門』「知」のビジュアル百科 25,あすなろ書房,2006 年。)
(*)(参考：松村劭『ナポレオン戦争全史』原書房,2006 年。)
(*)野村正雄「ナポレオン戦記を伝えた舶載蘭書—箕作阮甫『ヘットスコーンフンボルト野戦之記』の原典及び小関三英愛読の「リンデンの書」」一滴 14,2006 年。
(*)(参考：松村劭『ナポレオン戦争全史』原書房,2006 年。)
(*)(参考：福田和也「旅のあとさき第二部,ナポレオン：世界を盗もうとした男(9)ナポレオンが見た夢：ニーチェのテラス」週刊現代 48(40),2006 年。)
(*)(参考：佐藤真一「トレルチのランケ観について」(国立音楽大学)研究紀要 41,2006 年。)
(*)(参考:福本勝清「マルクス主義と奴隷制をめぐる諸問題(1,2)」明治大学教養論集 406,2006 年/422,2007 年。)
(*)岡田俊裕「日本の地理学者,小川琢治(1870-1941)に関する伝記。著作物的研究」高知大学教育学部研究報告 66,2006 年。
(*)吉田千鶴子「岡倉天心の「万国歴史」講義(上下)」（茨城大学）五浦論叢 13,2006 年/14,2007 年。
(*)(参考：大清水裕「ディオクレティアヌス,コンスタンティン帝治世における都市・総督関係：北アフリカにおける都市監督官 curator rei publicae の活動をめぐって」史學雑誌 115(1),2006 年。)
(*)(参考：佐藤彰一「ポスト・ローマ期における fiscus とその変遷」史学雑誌 116(1),2006 年。
(*)(参考：高橋亮介「ローマ期エジプトにおける兄弟姉妹婚：帝国支配のもたらした地方習慣の隆盛」史学雑誌 115(2),2006 年。
(*)「文献目録—西洋史 1」史學雑誌 115(1),2006 年。
(*)小林功「ポール・ルメルル著/西村六郎訳『ビザンツ史』文庫クセジュ,白水社,2003」史學雑誌 115(2),2006 年。
(*)根津由喜夫「大月康弘著『帝国と慈善,ビザンツ』創文社,2005」史學雑誌 115(4),2006 年。
(*)「文献目録—西洋史 2」史學雑誌 115(5),2006 年。
(*)桜井万里子「総説(2005 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 115(5),2006 年。
(*)西本真一「古代オリエント一(西アジア・北アフリカ：2005 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 115(5),2006 年。
(*)長谷川奏「古代オリエント二(西アジア・北アフリカ：2005 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 115(5),2006 年。
(*)渡部良子「イスラーム時代(西アジア・北アフリカ：2005 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 115(5),2006 年。
(*)大黒俊二「西欧南欧(中世：ヨーロッパ：2005 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 115(5),2006 年。
(*)細川滋「ロシ・ビザンツ(中世：ヨーロッパ：2005 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 115(5),2006 年。

(*)阿河雄二郎「一般(近代：ヨーロッパ：2005 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 115(5),2006 年。
(*)和田光弘「北アメリカ(アメリカ,2005 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 115(5),2006 年。
(*)岩井淳「イギリス(近代：ヨーロッパ：2005 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 115(5),2006 年。
(*)竹中幸史「フランス(近代：ヨーロッパ：2005 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 115(5),2006 年。
(*)皆川卓「ドイツ・スイス・ネーデルランド(近代：ヨーロッパ：2005 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 115(5),2006 年。
(*)小山吉亮「南欧(近代：ヨーロッパ：2005 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 115(5),2006 年。
(*)大黒俊二「西欧南欧(中世：ヨーロッパ：2005 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 115(5),2006 年。
(*)澤田典子「ギリシヤ(古代：ヨーロッパ：2005 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 115(5),2006 年。
(*)坂口明「ローマ(古代：ヨーロッパ：2005 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 115(5),2006 年。
(*)堀越宏一「ロバート・バートレット著伊藤誓・磯山甚一訳「ヨーロッパの形成—950 年—1350 年における征服・植民・文化変容」(叢書ウニベルシタス,法政大学出版局)」史學雑誌 115(7),2006 年。
(*)「史学文献目録—西洋史 3」史學雑誌 115(9),2006 年。
(*)(参考：橋本資久「ヘレニズム時代初期アテーナイの顕彰制度の変容：megistai timai をめぐって」史學雑誌 115(10),2006 年。
(*)山辺規子「高山博・池上俊一編「西洋中世学入門」(東京大学出版会)」史學雑誌 115(10),2006 年。
(*)伊藤貞夫「角田文衛著「古代学の展開」(山川出版社)2005」史學雑誌 115(10),2006 年。
(*)岩井経男「長谷川博隆著「古代ローマの政治と社会」,「古代ローマの自由と隷属」(名古屋大学出版会)2001」史學雑誌 115(11),2006 年。
(*)本村凌二「追悼・弓削達先生」史學雑誌 115(12),2006 年。
(*)柴宜弘「桜井万里子編「ギリシア史」(世界各国史 17,山川出版社)史學雑誌 115(12),2006 年。
(*)毛利晶「吉村忠典著『古代ローマ帝国の研究』をめぐる二者討論：吉村先生から頂いたコメントにお答えして」クリオ 20,2006 年。
(*)(参考：三好甫明他著/世界史ノート編集部編『世界史研究ノート：世界史 B「詳説世界史」準拠』山川出版社,2006 年。)
(*)(参考：上野貴律「ローマ帝国における初期キリスト教迫害(平成 17 年度文学研究科修士論文要旨)」愛知学院大学文学部紀要 36,2006 年。)
(*)(参考：小出哲子「南エトルリアにおけるエトルスキ王権の成立と展開(平成 17 年度文学研究科修士論文要旨)」愛知学院大学文学部紀要 36,2006 年。)
(*)川田順造「人類学との深い親和性(二宮宏之氏を悼む)」思想 986,2006 年。)
(*)岸本美緒「「生きた全体性」の追求(二宮宏之氏を悼む)」思想 986,2006 年。)

(*)北原敦「問い直しの歴史学(二宮宏之氏を悼む)」思想 986,2006 年。)
(*)竹岡敬温「二宮宏之さんを悼む」社會經濟史學 72(2),2006 年。)
(*)(參考：モムゼン/長谷川博隆訳『革新と復古(3)』名古屋大学出版会,2006 年。)
(*)(參考：長谷川岳男・中町信孝・徳橋曜「合同部会(2006 年度歴史学研究会大会報告批判)」歴史学研究 822,2006 年。)
(*)「新田一郎教授略年譜・著作目録」史窓 63,2006 年。
(*)(參考：和田廣『史料が語るビザンツ世界』山川出版社,2006 年。)
(*)(參考：奥貞二「哲学誕生」(鈴鹿工業高等専門学校)紀要 39,2006 年。)
(*)辻佐保子「古典的とは何か」創文 483,2006 年。
(*)(參考：山田欣吾「ローマ帝国を担うドイツ人―中世ドイツ人のアイデンティティ問題」創文 483,2006 年。)
(*)(參考：竹下節子『レオナルド・ダヴィンチ伝説の虚実：創られた物語と西洋思想』中央公論新社,2006 年。)
(*)(參考：原田健二朗「ケンブリッジ・プラトニズムにおける「神的理性」と「神への参与」--理性･自由意志･自然法の道徳的探究」法学政治学論究 71,2006 年。)
(*)(參考：池田雅史・羽生修二「9098 ロシア古典主義におけるラテニズムの系譜(西洋建築史：中世・ルネサンス以降(2),建築歴史・意匠)」学術講演梗概集 F-2, 建築歴史・意匠 2006,2006 年。)
(*)(參考：栗田秀法「オウィディウスの挿絵とプッサン--《エコーとナルキッソス》をめぐって」名古屋芸術大学研究紀要 27,2006 年。)
(*)(參考：ウォルター・マップ/瀬谷幸男訳『ジャンキンの悪妻の書―中世のアンティフェミニズム文学伝統』(テオフラストォス,聖ヒエロニムス)南雲堂フェニックス,2006 年。)
(*)(參考：加島康彦「シェイクスピアとセネカ--『夏の夜の夢』における悲喜劇要素」安田女子大学大学院文学研究科紀要,合冊 12,2006 年。)
(*)(參考：塗木桂子「情欲の女神,ヴィーナス：Venus and Adonis の作品から」名古屋外国語大学外国語学部紀要 30,2006 年。)
(*)(參考：水落健治「アプレイウスにおけるアリストテレス論理学とストア論理学」新プラトン主義研究 5,2006 年。)
(*)(參考：岩倉具忠「ゆがめられたダンテ像：ルネサンス期の「国語論争」の場合」(京都外国語大学)研究論叢 67,2006 年。）
(*)(參考：ポール・ジョンソン・富永佐知子訳『ルネサンスを生きた人々』クロノス選書,ランダムハウス講談社,)2006 年。)
(*)古山啓子「ピーター・バーク著/亀長洋子訳『ルネサンス』(ヨーロッパ史入門)岩波書店,2005」史学雑誌 115(11),2006 年。
(*)(參考：横山修一郎「ベアトリーチェの強い輝き：「天国」第 3 歌結末部から第 4 歌冒頭部への話の展開をめぐって」(国立音楽大学)研究紀要 41,2006 年。)
(*)(參考：岡戸久吉『ダンテの分析と周辺物語』岡戸久吉,2006 年。)
(*)(參考：粟津則雄『詩人論』(ダンテ)粟津則雄著作集 1,思潮社,2006 年。)
(*)(參考：米川良夫編『ダンテと現代』沖積舎,2006 年。)
(*)山田耕太「魂のコミュニケーション--「銀河鉄道の夜」とダンテ「神曲」(特集 現代社会におけるコミュニケーションの諸相)」人文社会科学研究所年報 4,2006 年。

(*)剣持武彦「ダンテ『神曲』と兼好法師『つれづれ草』」国際文化表現研究 2,2006 年。
(*)(参考：河島英昭「ダンテ『神曲』への誘い(その 2)ボッカッチョの証言」図書 682,2006 年。)
(*)堀竜一「森鴎外訳『即興詩人』とダンテ『神曲』」新大国語 31,2006 年。
(*)(参考：岩倉具忠「ゆがめられたダンテ像：ルネサンス期の「国語論争」の場合」研究論叢 67,2006 年。)
(*)(参考:鶴島久男「花の文化 西洋編(9)泰西名画に描かれた花(1)ボッティチェルリの「春」」農耕と園芸 61(10),2006 年。)
(*)(参考：近藤恒一訳『ペトラルカ=ボッカチオ往復書簡集』岩波文庫,岩波書店,2006 年。)
(*)(参考：アビ・ヴァールブルク/伊藤博明・岡田温司・加藤哲弘訳『ルネサンスの祝祭的生における古代と近代』ありな書房,2006 年。)
(*)(参考：アビ・ヴァールブルク/富松保文訳『ルターの時代の言葉と図像における異教的=古代的予言』ありな書房,2006 年。)
(*)北田葉子「根占献一著『フィレンツェ共和国のヒューマニスト--イタリア・ルネサンス研究』創文社,2005/根占献一著『共和国のプラトン的世界—イタリア・ルネサンス研究,続』創文社,2005」史学雑誌 115(11),2006 年。
(*)(参考：P.O.クリステラー/根占献一・伊藤博明・伊藤和行共訳『イタリア・ルネサンスの哲学者』みすず書房,2006 年。)
(*)(参考：伊藤直子「スッペ《ボッカッチョ》の成立と受容について」(国立音楽大学)研究紀要 41,2006 年。)
(*)(参考:木ノ脇悦郎「エラスムス教会論の一側面:詩篇 15 篇の講解から」神學研究 53,2006 年。)
(*)(参考：小池順子「楽しい学習に関する思想の検討」(エラスムス)千葉経済論叢 35,2006 年。)
(*)(参考:熊谷明子「エラスムスの『子どもたちに良習と文学とを惜しみなく教えることを出生から直ちに行なう,ということについての主張』にみる「徳」の教育」教育研究 50,2006 年。)
(*)(参考：舘昭「海外の教育事情 欧州の COE プログラム,エラスムス・ムンドゥスの意義と展開情況—オスロ大学高等教育研究修士課程を中心に」留学交流 18(6),2006 年。)
(*)(参考：森弘一「テューダー期初期人文主義をめぐる批判と弁明—トマス・モアの弁明・反論」人間科学 23(2),2006 年。)
(*)(参考:出口典雄監修『一冊でわかるシェイクスピア作品ガイド 37』成美堂出版,2006 年。)
(*)(参考：筒井脩『シェイクスピアにおける“nature”の意味』関西大学出版部,2006 年。)
(*)(参考：加藤克彦『シェイクスピア—変容の世界』学術叢書,学術出版会,2006 年。)
(*)(参考：西原幹子「トロイ物語と商業主義：『トロイラスとクレシダ』における価値の変容について」沖縄国際大学外国語研究 9(1),2006 年。)
(*)(参考：菊池秋夫「戦うバエトンとしてのトロイラス：『トロイラススとクルセイデ』における政治訓」八戸工業高等専門学校紀要 41,2006 年。)
(*)(参考：若狭智子「『トロイラスとクレシダ』の終幕の不安—甲冑とヘクターの死」(日本英文学会)大会 proceedings 78,2006 年。)
(*)(参考：藤田實・入子文子編『図像のちからと言葉のちから：イギリス・ルネッサンスと

アメリカ・ルネッサンス』大阪大学出版会,2006 年。)
----今西雅章「『トロイラスとクレシダ』の戯曲化の技法：言語表象と舞台表象に見る伝統と創造」
山田由美子「文学の言葉と建築の図像：ベン・ジョンソンのウィトルウィス解釈をめぐって」
(*)(参考：G.K.Hunter/岩崎洋一・堀切大史他訳『スタンリー・ウエルズ編『シェイクスピア研究必携』』G.K.ハンター著第 8 章「シェイクスピアと悲劇の伝統」の翻訳」木更津工業高等専門学校紀要 39,,2006 年。
(*)(参考：村井美代子「エンディミオン—エリート神話の再構築」イギリス・ロマン派研究 29・30,2006 年。)
(*)(参考：玉井暉・新野緑共編『「異界」を創造する：英米文学におけるジャンルの変奏』(吉田秦彦「エンディミオン：異界の遍歴」)阪大英文学叢書 3,英宝社,2006 年。)
(*)(参考：山崎有介「Blake’s Dramatic Imagination 戯曲家ウィリアム・ブレイクの想像力」(アリストテレス)長崎ウエスレヤン大学現代社会学部紀要 4(1),2006 年。)
(*)(参考：宮崎隆義「ハーディの『恋の霊』と谷崎の『痴人の愛』：プラトニズムの周辺」言語文化研究 14,2006 年。)
(*)(参考：野谷啓二『イギリスのカトリック文芸復興：体制文化批判者としてのカトリック知識人』南窓社,2006年。)
(*)(参考：幸重美津子『ヴァージニア・ウルフの思想と表現』幸重美津子,2006年。)
(*)(参考：相沢那織子『光を放つ詩人たち：ゲーテ・シラー・ヘルダーリン：エッセイ』近代文芸社叢書,近代文芸社,2006年。)
(*)(参考：『シラノ・ド・ベルシック,イワーノフ,オイディプス王』(エドモン・ロスタン作/辰野隆・鈴木信太郎訳,アントン・チェーホフ作/池田健太郎訳,ロジャー・レイノルズ作曲,ソフォクレス原作/福田恆存,ヘルダーリン翻訳：新国立劇場運営財団営業部編集,新国立劇場運営財,2006年。)
(*)(参考：今村武「疾風怒濤のグループ形成」東京理科大学紀要,教養篇 39,2006 年。)
(*)(参考：鈴木美香子「J.J.ヴィンケルマンとアントン・ラファエル・メングス—美術史・文学史における対立のトポスに関連して」慶應義塾大学独文研究室研究年報 23,2006 年。)
(*)(参考:ビルス ヘンドリク/粂川麻里生訳「世界文学と比較文学への途上で—ゲーテの『西東詩集』」モルフォロギア：ゲーテと自然科学 28,2006 年。)
(*)(参考：松田幸子「ゲーテとエッカーマン」(上田女子短期大学)紀要 29,2006 年。)
(*)(参考：小栗浩『ゲーテとその周辺』近代ドイツ文学論集（続々）,朝日出版社,2006 年。)
(*)(参考：国信浩洋「ラオコーン論争—造形芸術と言語芸術の差異について[含 略歴 研究業績][諦念退職教授記念講演会公演要旨]」日本医科大学医学会雑誌 2(2),2006 年。)
(*)(参考：松山雄三「過去への憧憬と未来への飛翔—シラーの『素朴文学と情感文学について』をめぐって」プロテウス 9,2006 年。)
(*)(参考:三村利恵『ロゴスからポエジーへ:ヘルダーにおけるゴロスの諸相』アテナ社,2006 年。)
(*)(参考：横手征彦「ヤーコプ・ブルクハルト」金城学院大学キリスト教文化研究所紀要

9,2006 年。)
(*)(参考：環栄賢「ニーチェにおけるディオニュソス理解(第 3 部会,〈特集〉第 64 回学術大会紀要)」宗教研究 79(4),2006 年。)
(*)(参考：谷本慎介「ニーチェとオイディプス」国際文化学研究：神戸大学国際文化学部紀要 26,2006 年。)
(*)(参考：杉田弘子「明治文壇を騒がせたニーチェイズム」武蔵大学人文学会雑誌 37(4),2006 年。)
(*)(参考：福田和也「旅のあとさき ナポレオンが見た夢(9)ニーチェのテラス」週刊現代 48(39),2006 年。)
(*)(参考：曽田長人「ニーチェと内村鑑三―日本におけるニーチェの受容と相対化をめぐって」思想史研究 6,2006 年。)
(*)(参考：青地伯水「神託の解体：マッハ,フロイトとホフマンスタールの『エレクトラ』」京都府立大学学術報告,人文・社会 58,2006 年。)
(*)(参考：齋藤茂夫『盛期転換期ドイツの文化と思想：ニーチェ,フロイト,マーラー,トーマス・マンの時代』同学社,2006年。)
(*)(参考：三原芳秋「ニオベーの涙―バトラーとベンヤミンに関するメモランダム(総特集 ジュディス・バトラー―触発する思想)--(触発)」現代思想34(12),2006年。)
(*)(参考：掛川冨康「Th.マンのルター批判：フマニスムとロマンティーク(第 3 部会,〈特集〉第 64 回学術大会紀要)」宗教研究 79(4),2006 年。)
(*)(参考：山邊光宏『シュプランガー教育学の宗教思想的研究』東信堂,2006年。)
(*)(参考：木村三郎研究代表『17 世紀フランスにおけるオウィディウスの挿絵と絵画の関係についての総合的研究』木村三郎,2006 年。)
(*)(参考：ラブレー/宮下志朗訳『ガルガンチュア』(ちくま文庫--「ガルガンチュアとパンタグリュエル 2」)筑摩書房,2006 年。)
(*)(参考：岩田誠一『老境を慈しむ―モンテェーニュと徒然草の老年観』(大坂)浪速社,2006 年。)
(*)(参考：ジャン・ド・ラ・フォンテーヌ/窪田般彌訳『ラ・フォンテーヌの寓話』沖積舎,2006 年。)
(*)(参考：高山晶「浮世絵とラ・フォンテーヌ」ふらんす 81(2),2006 年。)
(*)(参考：森井正史「ラ・フォンテーヌ『寓話集』のフランスにおける受容」京都光華女子大学研究紀要 44,2006 年。)
(*)(参考：ロラン・バルト/渡辺守章訳『ラシーヌ論』みすず書房,2006 年。)
(*)(参考：谷口勇「シャトーブリアンの『失楽園』仏訳」立正大学大学院紀要 22,2006 年。)
(*)(参考：谷口勇「セレンディビティー―愚痴から叡智が---?：U.エコの「ヴァレ神父」を追体験(送別の辞・思い出の記)」立正大学文学部論叢 123,2006 年。)
(*)「谷口勇先生」立正大学文学部論叢 123,2006 年。)
(*)「谷口勇先生略歴」立正大学文学部論叢 123,2006 年。)
(*)(参考：金光仁三郎『愛と死の神話―モリエールの『ドン・ジュアン』』(エピクロス,ルクレチウス)審美社,平成 18 年。)
(*)(参考：畑浩一郎「変遷するトルコ：テオフィル・ゴーチェの『コンスタンチノープル』(研究発表要旨)」フランス語フランス文学研究 89,2006 年。)
(*)(参考：高塚浩由樹「世界との「対峙」と「コミュニオン」--『幸福な死』『異邦人』『シ

ーシポスの神話』」カミュ研究 7,2006 年。)
(*)(参考：高橋通男「古代叙事詩における「恋」の系譜：ナウシカアー・メーディア・ディドー」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 37,2006 年。)
(*)(参考：翠川博之「戯曲『トロイアの女たち』の「再現」における支配を巡る考察」」フランス文学研究 26,2006 年。)
(*)(参考：人見嘉久男「関西劇信 大阪芸大の学生が学外公演で「トロイアの女たち」」悲劇喜劇 59(10),2006 年。)
(*)(参考：逸身喜一郎研究代表『古典古代史の近年の動向に対応したギリシャ・ローマ思想史ならびに文学史の書きかえ』逸身喜一郎,科学研究費補助金(基礎研究 B)研究成果報告書,平成 14-17 年度,2006 年。)
(*)(参考：サッフォー詩/沓掛良彦訳『サッフォー—詩人と生涯』水声社,2006 年。)
(*)(参考：吉本隆明講演・弓立社編集『西欧の文学と思想』吉本隆明全講演 CD 化計画,吉本隆明全講演ライブ集 14,2006 年。)
(*)(参考：安達まみ「文学の地名に見る架空と現実の曖昧な境界—ルキアノスからトールキンまで(特集 地名が生まれるとき—命名の論理と由来をさぐる)」言語 35(8),2006 年。)
(*)(参考：栗田秀法「オウィディウスの挿絵とプッサン--《エコーとナルキッソス》をめぐって」名古屋芸術大学研究紀要 27,2006 年。)
(*)(参考：根岸宗一郎「近代中国におけるギリシア文学--周作人と羅念生を中心に(付・古代ギリシア文学翻訳年表)」慶應義塾大学日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション 36,2006 年。)
(*)高橋英夫『洋燈(らんぷ)の孤影：漱石を読む』(ケーベル)幻戯書房,2006 年。
(*)日沼滉治『露伴九十九章』(ケーベル)未知谷,2006 年。
(*)前川誠郎『美術史家の音楽回廊』(ケーベル)グラフ社,2006 年。
(*)宇野有介「日本におけるイエズス会神学校設立の経緯について：1580 年設立有馬セミナリヨを中心に」二松：大学院紀要 20,2006 年。
(*)坂井信生「九州におけるキリスト教の伝播：とくに文献紹介を中心に」活水論文集：健康生活学部編 49,2006 年。
(*)高橋章編『近代日本のキリスト者たち』(ケーベル)パピルスあい,社会評論社(発売),2006 年。
(*)平川祐弘『天ハ自ラ助クロモノヲ助ク—中村正直と『西国立志編』』名古屋大学出版会,2006 年。
(*)中根隆行「安倍能成と京城帝国大学」(特集<京城>のモダン/近代)朱夏 21,2006 年。
(*)柴田隆行「日本の哲学教育史における「哲学」の外延と内包」井上円了センター年報 15,2006 年。
(*)清水乞「修学期における井上円了の座標」井上円了センター年報 15,2006 年。
(*)森川滝太郎「井上円了の学問観と理学観」井上円了センター年報 15,2006 年。
(*)山崎甲一「井上円了と夏目漱石 裸足のソクラテス」井上円了センター年報 15,2006 年。
(*)中江彬「漱石と超人思想の系譜：ミケランジェロ,バクーニン,ニーチェ」人文学論集 24,2006 年。
(*)コズィラ・アグネシカ「パラドックス論理のニヒリズム：西田[幾多郎]とハイデッガー」日本研究：国際日本文化研究センター紀要 33,2006 年。)

(*)(参考：戸田聡「翻訳か自国語か―東方キリスト教文学の一齣」創文 484,2006 年。)
(*)ギュツラフ訳『ヨハネによる福音書：現代版・語句の解説』日本聖書教会,2006 年。
(*)秋山憲兄『本のはなし：明治期のキリスト教書』新教出版社,2006 年。
(*)楠本史郎「聖書翻訳史上の光と影(上下)」北陸学院短期大学紀要 38,2006 年/40,2008 年。
(*)加藤早苗「現代日本語「天国(てんごく)」の出自から定着まで」岐阜聖徳学園大学国語国文学 25,2006 年。
(*)浜島敏「バレト写本現代訳(1-4)」四国学院論集 121,2006 年/122,123,124,2007 年。
(*)(参考：山田弘明「イエズス会「学事規程」とデカルト」創文 486,2006 年。)
(*)片岡瑠美子「有馬のセミナリヨ―西洋と日本の出会いの場」創文 486,2006 年。
(*)村松晋「波多野精一と敗戦」聖学院大学論集 19(1),2006 年。
(*)原口尚彰「日本新約聖書学史における波多野精一」キリスト教史学 60,2006 年。
(*)村松晋「波多野精一と敗戦」聖学院大学論集 19(1),2006 年。
(*)浮田三郎「竹島俊之先輩の想い出」プリピリア 18,2006 年。
(*)浮田三郎「竹島俊之氏のご逝去を悼む」プリピリア 18,2006 年。
(*)森本あんり「川島重成教授への感謝[含・業績]」(国際基督教大学)人文科学研究 37,2006 年。
(*)桜井万里子「Encounters with Great Scholars」学術の動向 11(4),2006 年。
(*)(参考：伊藤貞夫「ハンガリー学士院を訪ねて」西洋古典學研究 54,2006 年。)
(*)(参考：伊藤貞夫「彙報・ハンガリー科学アカデミー訪問報告」日本学士院紀要 60(2),2006 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・加生祥啓「地中海古代都の研究(119)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 45,2006 年。)
(*)(参考：中村成春「(第 5,6,7 回)パルテノン神殿とサグラダ・ファミリア聖堂と耐久性雑感(前中後編)コンクリート逍遙」Finex18(107,108,109),2006 年。)
(*)ブノア・ジャケ「丹下健三の「伝統」と「創造」の概念に潜むモニュメンタリティの原理：丹下健三の建築言説の形成に関する研究」(パルテノン)日本建築学会計画系論文集 71(601),2006 年。)
(*)(参考：吉本尭俊「エンタシス起源少考(2)基層としての草文化の蓋然性」筑紫女学園大学・筑紫女学園短期大学部紀要 1,2006 年。)
(*)(参考：宮崎興二「「プラトンと五重塔」後日譚」形の文化研究 2(1),2006 年。)
(*)(参考：白幡洋三郎・尼崎博正編『造園史論集』養賢堂,2006 年。)
(*)(参考：小泉実「アレキサンドリアの灯台を考察する」照明学会誌 90(4),2006 年。)
(*)(参考：小泉実「アレキサンドリアの灯台を考察する(口絵)」Bulletin of Sakura no Seibo Junior College 30,2006 年)
(*)(参考：藤本康雄「9091 ゴシック期建築線刻図例に見るローマ尺用法(西洋建築史 中世・ルネサンス以降[1],建築歴史・意匠)」学術講演梗概集,F-2,建築歴史・意匠 2006,2006 年。)
(*)(参考：加嶋章博「9092 「フェリーペ 2 世の勅令」とアルベルティの『建築書』の相違：スペイン・ルネサンス期の都市計画理念に関する比較考察(西洋建築史 中世・ルネサンス以降[1],建築歴史・意匠)」学術講演梗概集,F-2,建築歴史・意匠 2006,2006 年。)
(*)(参考：池田雅史・羽生修二「9098 ロシア古典主義におけるラテニズムの系譜(西洋建築

史 中世・ルネサンス以降[1],建築歴史・意匠)」学術講演梗概集,F-2,建築歴史・意匠 2006,2006 年。)
(*)(参考：市川秀和・佐藤篤「森田慶一の建築論と古典研究の意義：西洋プロポーション理論の受容に関する建築思潮研究(1)(計画系)」日本建築学会北陸支部研究報告集 49,2006 年。)
(*)(参考：林田義伸「839 古代都市メッセネのアスクレピオス神域におけるストアの設計法(歴史・意匠)」日本建築学会研究医報告,九州支部,3,計画系 45,2006 年。)
(*)(参考：林田義伸研究代表『古代都市メッセネにおけるアスクレピオス神域におけるストアの復元的研究』科学研究費補助金基盤研究(C2)研究成果報告書,平成 15-17 年度,2006 年。)
(*)日本建築学会伊東忠太資料整備小委員会編『伊東忠太その資料の保存と公開：伊東忠太資料整備小委員会報告書』日本建築学会,2006 年。)
(*)(参考：J.-L.フランドラン,M.モンタナーリ編/菊地祥子・末吉雄二・鶴田知佳子訳『食の歴史』藤原書店,2006 年。)
(*)(参考：蟹澤聰史「文学作品の舞台・背景となった地質学(7)地中海東部の地質とギリシア神話」地質ニュース 624,2006 年。)
(*)(参考：アルフレッド・W・クロスビー/小沢千重子訳『飛び道具の人類史：火を投げるサルが宇宙を飛ぶまで』紀伊国屋書店,2006 年。)
(*)(参考：高橋明彦「これはよい前兆と思えた。(1,2)--ゲーテ『イタリア紀行』における神話的=占星術的要素」上智大学ドイツ文学論集 43,2006 年/45,2008 年。)
(*)(参考：Buchanan Leigh,O’Connell Andrew,スコフィールド・素子他「古代占星術から複雑系まで 意思決定科学の歴史(Feature Articlea「決断」の科学)」Diamond ハーバード・ビジネス・レビュー31(4),2006 年。)
(*)(参考：勝又俊雄「現代のスポーツサイエンスはどのように女性スポーツをサポートしているか:「アトランタの末裔—裸体性とスポーツ」ギリシャ神話より(特別講演 第 135 回日本体力医学会関東地方会)」体力科學 55(2),2006 年。)
(*)(参考：渡辺賢治「西洋医学と漢方医学(女性医療と漢方医学)—(総論)」産婦人科治療 92,2006 年。)
(*)(参考：杉田暉道「イエスノ治療と釈迦の治療」日本医史学雑誌 52(3),2006 年。
(*)(参考：竹中星郎「精神医療の歴史 医療・医学の技術思想をたどる(4)ヒポクラテスの精神医療」精神科看護 33(1),2006 年。)
(*)(参考：大槻真一郎「宝石療法の歴史(特集 ストーン—秘められた力を探る)」Aromatopia 15(3),2006 年。)
(*)(参考：大槻真一郎「「医学の父」ヒポクラテスの自然療法(特集 食と健康—自然療法の智慧と最新事情)—(伝統医学が唱える食のあり方)」Aromatopia 15(5),2006 年。)
(*)(参考：大槻真一郎「アロマの源流をたずねて(4・最終回)ヒポクラテス：芳香植物の燻蒸療法」Aromatherapy envirorment39,2006 年。)
(*)(参考：酒井シヅ「医の歴史：医学の父ヒポクラテス」日本医師会雑誌 135(1),2006 年。)
(*)(参考：稲松孝思「ヒポクラテスの木：2006：アンケート,現地調査による現状の調査」日本医史學雑誌 52(1),2006 年。)
(*)蒲原宏「書籍紹介 カイブル編酒井シヅ監訳「疾患別医学史 1・2・3」」日本医史學雑誌

52(2),2006 年。
(*)(参考：坂井建雄・池田黎太郎・澤井直訳「ガレノス「静脈と動脈の解剖について」：ギリシャ語原典からの翻訳と考察」日本医史學雑誌 52(2),2006 年。)
(*)(参考：齋藤博「『ヒポクラテス全集』における尿に関する記述について」日本泌尿器科学会雑誌 97(1),2006 年。)
(*)(参考：齋藤博「『ヒポクラテス全集』における治療に関する記述,外科治療,とくに尿路結石の治療について」日本泌尿器科学会雑誌 97(3),2006 年。)
(*)(参考：齋藤博「ヒポクラテスの箴言「人生は短く,術のみちは長い」とゲーテの『ファウスト』について—感嘆詞と感嘆符の計量言語学的検討」埼玉医科大学医学基礎部門紀要 11,2006 年。)
(*)(参考：木原志乃「古代ギリシアにおけるメランコリア—ヒッポクラテス派からペリパトス派への医学史的展開」國學院雑誌 107(12),2006 年。)
(*)(参考：今井正浩「ポリュボス『人間本性論』におけるエンペドクレスの影響：前 5 世紀ギリシアの医学思想における人間理解をめぐって」科学史研究[第 II 期]46(242),2006 年。)
(*)(参考：小笠原正薫「翻訳 ロングリッチ著『ギリシャの理性的医学』(第 7 章)初期アレキサンドリア医学」Bulletin of Sakura no Seibo Junior College 30,2006 年。)
(*)(参考：二宮陸雄『新編医学史探訪：医学を変えた巨人たち』医歯薬出版,2006 年。)
(*)(参考：日高杏子「ジョセフ・プリーストリー「視覚・光・色彩の関する発見の歴史と現状」ロンドン,(J.ジョンソン書店)1772 年,初版,812 頁,他索引」日本色彩学会誌 30(2),2006 年。)
(*)新村拓「書籍紹介 カイブル編/酒井静監訳『疾病別医学誌史(1,2,3)』日本医学史雑誌 52(2),2006 年。
(*)(参考：竹中星郎「精神医療の歴史—医療・医学の技術思想をたどる(5)ローマ時代の医療(1)ギリシア医学の影響」精神科看護 33(2),2006 年。)
(*)(参考：竹中星郎「精神医療の歴史—医療・医学の技術思想をたどる(6)ローマ時代の医療(2)ガレノス,精神医療」精神科看護 33(3),2006 年。
(*)(参考：坂井建雄・池田黎太郎・澤井直訳「ガレノス『静脈と動脈の解剖について』：ギリシャ語原典からの翻訳と考察」日本医史学雑誌 52(2),2006 年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐる歴史パノラマ(7)古代ギリシャの自然哲学者たち」綜合看護 41(1),2006 年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐる歴史パノラマ(8)古代ギリシャの自然哲学から」綜合看護 41(2),2006 年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐる歴史パノラマ(9)アスクレピオス」綜合看護 41(3),2006 年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐる歴史パノラマ(10)ギリシャ医術」綜合看護 41(4),2006 年。)
(*)(参考：上村くに子「ギリシア神話は人間の病気をどう考えていたか」(高岡幸一郎教授退職記念論文集刊行会編『シュンポジオン：高岡幸一郎教授退職記念論文集』所収,朝日出版,2006 年。)
(*)(参考：藤田博子「プラトンの数量図形認識の理論と幼児期の数量図形概念の育成」大阪芸術大学短期大学部紀要 30,2006 年。)
(*)公田蔵「明治前期の日本において教えられ、学ばれた幾何」(ユークリッド)数理解析研

究所講義録 1513,2006 年。
(*)(参考 : 菅野幸子『プロクロス『ユークリッド原論第 1 巻注釈』の哲学と数学』東京大学,博士(学術),甲第 20890 号,2006 年。)
(*)(参考 : 角田光代・鏡リュウジ『12 星座の恋物語』新潮社,2006 年(→2009 年,新潮文庫版)。)
(*)(参考 : 鏡リュウジ『鏡リュウジの月が導く魔法の法則』主婦の友社,2006 年。)
(*)(参考 : 鏡リュウジ『鏡リュウジ星のワークブック : ホロスコープが自分で読める』講談社,2006 年。)
(*)(参考 : 徳田為洪「エジプト,ペルシア,ギリシアの古代の暦についての若干の考察—ヘロドトス『歴史』を中心に」イラン研究 2,2006 年。)
(*)(参考 : 小林剛「色と音声のパラレリズム—アルベルトゥス・マグヌスの聴覚論」哲学研究 581,2006 年。)
(*)(参考 : 武藤功「経済学と《アリストテレス的本質主義》」防衛大学校紀要・社会科学分冊 93,2006 年。)
(*)(参考 : 伊藤誠「価値概念の深化とその歴史的基盤—マルクスのアリストテレスとの対話から」國學院経済学 54(3・4),2006 年。)
(*)(参考 : 中澤信彦「バークとマルサスにおける階層秩序と経済循環 : 「存在の連鎖」受容の一断面」關西大學経済論集 56(3),2006 年。)
(*)(参考 : 石井真一「日米合弁におけるトロイの木馬仮説の検証—日本市場の電機産業の分析」(大阪市立大学経営学会)経営研究 56(4),2006 年。)
(*)(参考 : 西原幹子「トロイ物語と商業主義 : 『トロイラスとクレシダ』における価値の変容について」沖縄国際大学外国語研究 9(2),2006 年。)
(*)(参考 : 大月康弘「〈自由な個人〉の展開—地中海世界から見た市民社会(2)」学際 17,2006 年。)
(*)(参考 : 大月康弘「組織と〈個〉の布置—文明論の構図」創文 493,2006 年。)
(*)(参考 : 海野弘『秘密結社の世界史』平凡社新書,2006 年。)
(*)(参考 : 佐藤昇『紀元前 4 世紀民主政アテーナイの政治文化と賄賂言説』東京大学,博士(文学),甲第 16526 号,2006 年。)
(*)(参考 : 長谷川岳男『古代ギリシア人のコミュニティに対する意識に関する通時的視点からの研究』鎌倉女子大学 2003 年,(科研費) 2006 年。)
(*)(参考 : 砂田徹『共和政ローマとトリブス制 : 拡大する市民団の編成』北海道大学,博士(文学),乙第 6496 号,2006 年。)
(*)(参考 : J.M.Dillon/荻原理訳「プラトン主義と,世界の危機」思想 991,2006 年。)
(*)(参考 : レオ・シュトラウス/石崎嘉彦・飯島昇蔵訳者代表『リベラリズム 古代と近代』ナカニシヤ出版,叢書フロネーシス,2006 年。)
(*)(参考 : レオ・シュトラウス/石崎嘉彦・飯島昇蔵・面一也訳『僭主政治について(上)』現代思潮新社,2006 年(→2007 年,石崎嘉彦・飯島昇蔵・金田耕一他訳『僭主政治について(下)』現代思潮新社)。
(*)(参考 : M.B.Foster/永井健晴訳「プラトンとヘーゲルの政治哲学(1-5)」大東法学 16(1),2006 年//16(2),17(1),2007 年//17(2),18(1),2008 年。→2009 年,白石正樹訳[6]創価法学 38(3)。)
(*)(参考 : 小出哲子「南エトルリアにおけるエトルスキ王権の成立と展開(平成 17 年度文学研究科修士論文要旨)」愛知学院大学文学部紀要 36,2006 年。)

(*)(参考：草野路加「政治思想家としてのブルクハルト」社学研論集 7,2006 年。)
(*)(参考：橋場弦‘Athenian bribery reconsidered：some legal aspects’Proceedings of the Cambridge Phiolosophical Society(Cambridge Classical Journal)52,2006.)
(*)橋場弦「書評 中村純著「デーモス,デマゴーグそしてデモクラシー—前五世紀後半のアテネ民主政について」(西洋史研究[東北大]34 号)」法制史研究 2006(56),2006 年。
(*)(参考：原賢治「ヘレニズム期ロドスにおける社会変容」西洋史研究 35,2006 年。)
(*)(参考：佐藤彰一「ポスト・ローマ期における fiscus とその変遷：西欧中世国家論に寄せて(西洋史部会,第 104 回史学会大会報告)」史学雑誌 116(1),2006 年。)
(*)(参考：宮嵜麻子『ローマ抵抗の食糧供給と統治：共和政から帝政へ』九州大学,博士(文学),乙第 7982 号,2006 年。)
(*)(参考：志内一興『ローマ帝国内の支配・被支配関係におけるコミュニケイションの機能』東京大学,博士(文学),甲第 21930 号,2006 年。)
(*)藤井崇「新刊紹介・安井萌著『共和政ローマの寡頭政治体制—ノビリタス支配の研究』MINERVA 西洋史ライブラリー65,ミネルヴァ書房,2005」史学雑誌 115(3),2006 年。
(*)鴨野洋一郎「藤内哲也著『近世ヴェネツィアの権力と社会--「平穏なる共和国」の虚像と実像』昭和堂,2005」史學雑誌 115(6),2006 年。
(*)(参考：馬原潤二「エルンスト・カッシーラのマキャヴェリ論：「シンボル形式」の哲学の政治思想的「到達点」」同志社法學 58(5),2006 年。)
(*)溝部英章「日本政治史におけるマキャヴェリアン・モーメントの軌跡(1)(香島明雄教授定年退職近年号)」産大法学 39(3/4),2006 年.
(*)(参考：海津淳「エラスムスの君主論--『平和の訴え』に見るエラスムスの君主観,及びマキャヴェリ『君主論』との比較の試み」桜美林論集 33,2006 年。)
(*)(参考：長江弘晃・星昇次郎「永遠平和に関する諸意見と欧州近代初期の戦争・平和論」(エラスムス)佐野短期大学研究紀要 17,2006 年。)
(*)(参考：朱雀成子『愛と性の政治学—シェイクスピアをジェンダーで読む』九州大学出版会,2006 年。)
(*)(参考：加藤幹之「21 世紀のカルタゴ物語(日本の IT 事情)」情報処理 47(3),2006 年。
(*)(参考：Kahn David「情報と戦争の歴史—カルタゴの戦いから対テロ戦争まで」フォーリン・アフェアーズ 2006(11),2006 年。)
(*)(参考：Kahn David「フォーリン・アフェアーズ提携論文 情報と戦争の歴史—カルタゴの戦いから対テロ戦争まで」朝日総研リポート 198,2006 年。)
(*)(参考：福田宏『身体の国民化—多極化するチェコ社会と体操運動』(古代ギリシアモデル,オリンピック)北海道大学出版会,2006 年。)
(*)(参考：小林正嗣『マルティン・ハイデガーの政治思想：『存在と時間』における民族の可能性』出版者不明,2006 年。)
(*)(参考：マックス・ヴェーバー/野島敏郎訳・註解『職業としての学問(圧縮版)』晃洋書房,2006 年。)
(*)内田満「古武士のごとく,ソクラテスのごとく」(関嘉彦)改革者 553,2006 年。
(*)田口富久治「藤原保信教授の学問—十年遅れの追悼文」アリーナ 3,2006 年。)
(*)村松晋「南原繁と丸山真男：「寛容」の視点から(第三部会〈特集〉第六十四回学術大会紀要)」宗教研究 79(4),2006 年。

(*)(参考：辻康夫「グロチウス研究の新展開」政治思想研究 6,2006 年。)
(*)(参考：山口廸彦「母権的ロマン主義受容の論理—バーゼル控訴裁判所判事バハオーフェンの作用史」日本大学法科大学院法務研究 1,2006 年。)
(*)(参考：柴田光蔵「ローマ法の窓(1)「ローマの窓」と「ローマ法の窓」」時の法令 1761,2006 年。)
(*)(参考：アラン・ワトソン/瀧澤栄治・樺島正法訳『ローマ法と比較法』信山社出版,2006 年。)
(*)(参考：駒村幸「西ゴート法の婚姻規定に関する一考察—ローマ法との比較において」Estudios Hispanicos31,2006 年。)
(*)(参考：ワリンハ タモ,西村重雄「ヴィルヘルムス・ドゥ・カプリアーノ「勅法彙纂講義録」(カーススコーディキス)」(エラスムス)法政研究 73(2),2006 年。)
(*)曽野正士「末松謙澄の著作及び研究文献」文献探索 2006,2006 年。
(*)「追悼の辞 佐藤篤士先生を偲ぶ」法制史研究 56,2006 年。
(*)吉原丈司・吉原達也編『日本ローマ法学五先生略年譜・著作目録：春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授略年譜・著作目録』吉原丈司,都筑印書館,ローマ法・法制史学者著作目録選 第 7 輯,3 訂版,2006 年。

(*)(参考：荻原理「学位論文におけるマルクスの方法の一側面」(東北大学文学会)文化 71(1・2),2007 年。)
(*)(参考：内田弘「マルクスのアリストテレス『デ・アニマ』研究の問題像(特集 新メガと 21 世紀のマルクス,エンゲルス研究)」季報唯物論研究 102,2007 年。)
(*)中村行秀・北村実・平子友長・嶋崎隆「座談会 日本における唯物論研究の歴史と東京唯物論研究会」唯物論：東京唯物論研究会会報 81,2007 年。
(*)水野俊平『韓 vs 日「偽史ワールド」』小学館,2007 年。
(*)佐伯修『偽史と奇書の日本史』現代書館,2007 年。)
(*)原田実『トンデモ日本史の真相：と学会的偽史學講義』文芸社 2007 年。
(*)(参考：島野穹子「春夏秋冬 西洋近代・古代をめぐる春夏秋冬」民事法務 298,2007 年。)
(*)(参考：羽田正編『ユーラシアにおける文化の交流と変転』東洋文化研究所叢刊 21,東京大学東洋文化研究所報告,2007 年。)
(*)松井みどり「「グランド・ツアー」の向こう側(特集—一度は行ってみたい,世界の美術館・国際展(ヨーロッパ編)」美術手帖 59(899),2007 年。
(*)橋場弦「アッティカの旅」地中海学会月報 300,2007 年。
(*)(参考：深澤秀男『文化交流史』3 版,求是舎,2007 年。)
(*)(参考：井内敏夫編『ヨーロッパ史のなかのエリート：生成・機能・限界』早稲田大学総合研究機構ヨーロッパ文明史研究所叢書 2,太陽出版,2007 年。)
(*)(参考：江川温編『死者の葬送と記念に関する比較文明史：親族・近隣社会・国家』江川温,2007 年。)
(*)(参考：Atsuhsi Egawa(ed.),“Comparative history of the civilizations concerning funerals and commmemoration of the dead：relatives,neighbouring societies and states”, Atsuhsi Egawa,2007.）

(*)(参考：村上春樹著/林少□譯『雨天炎天：希臘・土耳其边境紀行：』藍小説 927,村上春樹游記系列,上海譯文出版社,2007 年(→2016 年,再版。)
(*)福田秀一『文人学者の留学日記』武蔵野書院,2007 年。
(*)日本聖公会東京教区資料保全委員会編集・元田作之進『元田作之進師洋行日誌』日本聖公会東京教区資料保全委員会,第 3, 東京教区歴史資料シリーズ,2007 年。
(*)(参考：メトロポリタン史学会編『歴史のなかの移動とネットワーク』メトロポリタン史学叢書 1,桜井書店,2007 年。)
(*)大塚修「小谷汪之編『歴史における知の伝統継承』山川出版社,2005」史学雑誌 116(1),2007 年。
(*)加藤玄「歴史研究会編『幻影のローマ〈伝統〉の継承とイメージ(シリーズ歴史学の現在 11)青木書店,2006』史学雑誌 116(9),2007 年。
(*)(参考：田中きく代研究代表『西洋史の諸相における文化的ボーダーランドとマジナリティ』田中きく代,科学研究費補助金(基盤研究 B)研究成果報告書,平成 15-18 年,2007 年。)
(*)(参考：田中きく代・阿河雄二郎編『「道」と境界域：森と海の社会史』昭和堂,2007 年。)
(*)佐藤孝志「ますます高ずる私の古代ギリシア熱中症」青淵 699,2007 年。
(*)(参考：アレキサンドロス・プチナス「[母国紹介]ギリシャ(留学生通信)」日本機械学会誌 110(1060),2007 年。)
(*)齋藤惇夫「絵本と童話の旅(1)ギリシャ」母の友 647,2007 年。
(*)(参考：秋山芳弘「Coffee Time 世界あちこち探訪記(27)地中海岸のアレクサンドリア」日本地下鉄協会報 167,2007 年。)
(*)(参考：「〈書評〉ヘロドトスと歩く〈記憶の旅路〉[リシャルト・カプシチンスキ著『ヘロドトスとの旅』Ryszard Kapuscinski‘Travel with Herodotus’]」ニューズウィーク 22(26),2007 年。)
(*)小泉実「透かし彫りから覗いた天竺(インド)のあかり」照明学会雑誌 91(3),2007 年。
(*)小泉実「シルクロード(中央アジア)オアシスのあかり」照明学会雑誌 91(10),2007 年。
(*)(参考：武田一郎「地理学から見る古代文明の興亡」桃山歴史・地理 42,2007 年。)
(*)(参考：小泉格「気候変動と文明の盛衰」地學雑誌 116(1),2007 年。)
(*)今井重紀「もうひとつの中東—地中海に面した国々」Global angle 19,2007 年。)
(*)(参考：安田憲喜「魚食の文明・肉食の文明」日本研究 35,2007 年。)
(*)丹下和彦『旅の地中海—古代文学周航』京都大学学術出版会,2007 年。
(*)(参考：吉澤五郎『旅の比較文明学：地中海巡礼の風光』世界思想社,2007 年。)
(*)中島吉弘「井伊玄太郎における総合文明学の意義と射程—文明の再生原理と人権思想の交錯」桜美林論集 34,2007 年。)
(*)(参考：中牧弘允・宮原一武・川勝平太「比較文明学会 第 24 回大会シンポジウム 文明史観を考える」比較文明 23,2007 年。)
(*)澁澤幸子「ボスフォラス海峡,想い遙かに」青淵 702,2007 年。
(*)(参考：『るるぶトルコ・イスタンブール』るるぶ愛蔵版,JTB パブリッシング,2007 年。→[2009][2011][2013][2015])。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『ギリシアとエーゲ海の島々&キプロス』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社（発売）,2007-08 年。

(*)地球の歩き方編集室著作編集『イタリア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2007-08 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『ローマ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2007-08 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『フィレンツェとトスカーナ』ダイヤンモドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2007-08 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『南イタリアとマルタ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2007-08 年。
(*)橋本資久「周藤芳幸著「古代ギリシア地中海への展開」(諸文明の起源 7,京都大学学術出版会)」史學雑誌 116(4),2007 年。
(*)加藤玄「歴史研究会編「幻影のローマ〈伝統〉の継承とイメージ」(シリーズ歴史学の現在 11,青木書店)」史學雑誌 116(9),2007 年。
(*)(参考：『古代エーゲ海の隆盛』ナショナルジオグラフィックプレミアムセレクション DVD,TDK コア,2007 年。)
(*)(参考 : 周藤芳幸『図説ギリシア : エーゲ海文明の歴史を訪ねて』河出書房新社,2007 年。)
(*)林恒一郎「世界紀行 エーゲ海のフェニックス」潮 586,2007 年。
(*)真保裕一『エーゲ海の頂に立つ』集英社文庫,集英社,2007 年。
(*)(参考：大津留厚『古代・中世・近現代ヨーロッパ港湾都市の空間構成と社会動態に関する比較史的研究』神戸大学 2005 年,(科研費)2007 年。)
(*)(参考：『古代エーゲ海の隆盛』ナショナルジオグラフィックプレミアムセレクション DVD,ビデオディスク,TDK コア,2007 年。)
(*)(参考：磯崎新・日埜直彦「エーゲ海の都市/見えない都市/霧状のモナド―都市構造とアーバンデザインの方法をめぐって 磯崎新インタヴユー」10+1 47,2007 年。)
(*)(参考：ポール・モーリア『ありがとうポール・モーリア~グレイテスト・ベスト(「エーゲ海の真珠」「窓からローマが見える」)』録音ディスク,ユバーサルミュージック,2007 年。)
(*)藤井信行「世界遺産トロイヤの観光歴史学的考察」河村学園女子大学研究紀要 18(3),2007 年。
(*)(参考：「地中海研究所活動報告」地中海研究所紀要 5,2007 年。)
(*)(参考：HuangYang「Orientalism in the ancient world：Greek and Roman images of the Orient from Homer to Virgil(シンポジウム 古代世界研究会サマーセミナー[日韓中国国際シンポジウム・プレ大会])」地中海研究所紀要 5,2007 年。)
(*)(参考：Kim Kyung –hyun「Multiculturalism and the Roman Empire(シンポジウム 古代世界研究会サマーセミナー[日韓中国国際シンポジウム・プレ大会])」地中海研究所紀要 5,2007 年。)
(*)モンキー・パンチ作『熱いお宝に手を出すな：ルパン逮捕頂上作戦；毒薬と魔術とルパン三世；ゴールドバタフライの復讐；華麗なるチームプレイ作戦；ポンペイの秘宝と毒蛇；ルパンのすべてを盗め；狼は走れブタは転がれ：1980 年モスクワ黙示録；グランドレース消えた大本命；マイアミ銀行襲撃記念日；不二子危機一髪救出作戦』パップ(発売・販売)、ビデオレコード(ディスク),2007 年。

(*)紅山雪夫『イタリアものしり紀行』新潮社,2007 年。
(*)(参考：ホセ・ルイス・サンペドロ原作；渡辺マキ訳：原田裕文脚色『エトルリアの微笑み』NHK FM,2007 年。)
(*)茜ヶ久保徹郎「茜ヶ久保徹郎のシチリア紀行(2)オリーブとシチリア」社会民主 620,2007 年。
(*)高山博「瞑想紀行：シチリアの光と音」紫明 20,2007 年。
(*)佐藤賢一「「アッピア街道」540km を行く(2)ターラント」週刊現代 49(28),2007 年。
(*)佐藤賢一「「アッピア街道」540km を行く(3)ベネベント」週刊現代 49(29),2007 年。
(*)佐藤賢一・高橋恵理「「アッピア街道」540km を行く(4・完)ローマ」週刊現代 49(30),2007 年。
(*)星和夫「医学史の旅―イタリア(6)ヴェネツイア」日本病院会雑誌 54(1),2007 年。
(*)星和夫「医学史の旅―イタリア(7)ヴェネツイア(2)」日本病院会雑誌 54(2),2007 年。
(*)星和夫「医学史の旅―イタリア(8)ボローニャ」日本病院会雑誌 54(3),2007 年。
(*)星和夫「医学史の旅―イタリア(9)フィレンツエ」日本病院会雑誌 54(4),2007 年。
(*)星和夫「医学史の旅―イタリア(10)ピサ」日本病院会雑誌 54(5),2007 年。
(*)星和夫「医学史の旅―イタリア(15)」日本病院会雑誌 54(10),2007 年。
(*)星和夫「医学史の旅―イタリア(17)」日本病院会雑誌 54(12),2007 年。
(*)星和夫「ローマ(1-4)」日本病院会雑誌 54(6-9),2007 年。
(*)星和夫「ナポリとその近郊」日本病院会雑誌 54(11),2007 年。
(*)(参考：陣内秀信『地中海世界の都市と住居』山川出版社,世界史リフレット 73,2007 年。)
(*)(参考：前野弘志『アッティカの碑文文化：政治・宗教・国家』広島大学出版会,2007 年。)
(*)(参考：『オリンピアの古代遺跡；ロードス島の中世都市；パフォス』世界遺産：the world heritage DVD コレクション 71,ユニバーサルミュージック,デアゴスティーニ・ジャパン(発売),2007 年。)
(*)(参考：横山卓雄『世界遺産ポンペイ崩壊の謎を解く：火山災害にどう対処したか：歴史と自然史の接点』京都自然史研究所,三学出版(発売),2007 年。)
(*)(参考：R.リング/堀賀貴訳『ポンペイの歴史と社会』同成社,世界の考古学 13,2007 年。)
(*)(参考：市川直子「ジョルジョ・デ・キリコの「現代性(モデルニタ)」：ポンペイの壁画の影響を中心に(中江彬教授退職記念号)」(大阪府立大学)人文学論集 25,2007 年。)
(*)(参考：細江英公「死の灰―ポンペイ,アウシュビッツ,トリニティ・サイト,ヒロシマ」金曜日 15(25,29),2007 年。)
(*)(参考：細江英公『死の灰：人間写真集』(ポンペイ)窓社,2007 年。
(*)(参考：飯開麻美・堀賀貴「9109 ポンペイの港から中心地区への物流におけるマリーナ門とスタビア門の機能について(西洋古代。初期中世,建築歴史・意匠)」学術講演梗概集 F-2,建築歴史・意匠 2007,2007 年。)
(*)(参考：小池澄夫「エルコラーノのパピルス荘」滋賀大学図書館だより 30,2007 年。)
(*)小野安昭「現代カルタゴ物語―カルタゴ・ハンニバル,そして今」中東研究 2007-8(1),2007 年。
(*)(参考：ホセ・ルイス・サンペドロ/渡辺マキ訳『エトルリアの微笑み』日本放送出版協会,2007 年。)
(*)(参考：天理大学附属天理参考館考古美術室編『テル・ゼロール展：東地中海沿岸の古代

遺跡』天理ギャラリー,第 132 回展,,2007 年。)
(*)とうごうしゅんいちろうスケッチ；とうごうみつこぶん『ボンジョルノふたりでフレンツェ』西田書店,2007 年。
(*)(参考：ヤーコプ・ブルクハルト著/新井靖一訳『イタリア・ルネサンスの文化』筑摩書房,2007 年。)
(*)(参考：小佐野重利『知性の眼：イタリア美術史七講』中央公論美術出版,2007 年。)
(*)(参考：松本典昭『パトロンたちのルネサンス：フィレンツェ美術の舞台裏』NHK ブックス 1083,日本放送出版協会,2007 年。)
(*)(参考 : 鈴木悟史「「ロレンスの生物観 : 動物世界の見直し」佛教大學大學院紀要 35,2007 年。)
(*)(参考：小原俊文「T.S.エリオットの文化論の一考察：文化定義とエリート階層の機能」尚絅学院大学紀要 54,2007 年。)
(*)澁澤龍彦・澁澤龍子・小川熙『澁澤龍彦のイタリア紀行』新潮社,とんぼの本,2007 年。
(*)(参考：ゲーテ/相良守峯訳『イタリア紀行(上中下)』岩波文庫,岩波書店,2007 年。)
(*)(参考：松田幸子「ゲーテの『イタリア紀行』について(旅行記の紹介)」観光文化研究所所報 4/5,2007 年。)
(*)田丸公美子「シモネッタの「本能三昧」イタリア紀行(1-16)」現代 41(10-12),2007 年/42(1-12),2008 年/43(1).2009 年。
(*)(参考 : 松原良輔「未来に埋め込まれた過去—ワーグナーとゼンバーの夢見たギリシアをめぐる一試論(特集 はるかな国へ—地中海へのまなざし)」年刊ワーグナー・フォーラム 2007,2007 年。)
(*)(参考 : 小宮正安「ヴェネツィアの向こう側—ワーグナーとカルデロンの「世界劇場」(特集 はるかな国へ—地中海へのまなざし)」年刊ワーグナー・フォーラム 2007,2007 年。)
(*)(参考：シュリーマン/村田数之亮訳『古代への情熱：シュリーマン自伝』第 81 刷改版・岩波文庫,岩波書店,2007 年。)
(*)(参考：コック・マカーティ『トロイア戦争とシュリーマン』シリーズ絵解き世界史 2,原書房, 2007 年。)
(*)(参考：藤井信行「世界遺産トロイヤの観光歴史学的考察」川村学園女子大学研究紀要 18(3),2007 年。）
(*)(参考 : 勝又俊雄「フィガリアにおけるパウサニアス—汎ギリシア語話者の眼差し」ラーフィダーン33,2007年。)
(*)(参考：田中きく代他編『境界域からみる西洋世界：文化的ボーダーランドとマジナリティ』Miberva 西洋史ライブラリー93,ミネルヴァ書房,2007 年。)
(*)(参考：「書評 ヘロドトスと歩く記憶の旅路[リヒャルト・カプシチンスキ著『ヘロドトスとの旅』Ryszard Kapuscinski ‘Travel with Herodotus’]」ニューズウィーク 22(26),2007 年。)
(*)(参考 : 矢後長純「クレタ島ヴァシペトロ遺跡を訪ねて : ゼウスはミノア文明の終焉をどう見たか?」愛国学園大学人間文化研究紀要 9,2007 年。)
(*)浅野栄市「神話伝説の世界に遊ぶ(2)クレタ島覚書」地中海歴史風土研究誌 25,2007 年。
(*)(参考 : 高橋裕子「M.Thomatos,The Final revival of the Aegean bronze age」地中海学研究 30,2007 年。)

(*)(参考：中江克己『世界一おもしろい海洋博物館：アンモナイトから世界の海賊,アトランティスの伝説まで』PHP 研究所,2007 年。)
(*)(参考：道林克禎他「中央海嶺における海洋プレート下部地殻の高温破壊吸水機構：IODP EXPO 304/305 における大西洋中央海嶺アトランティス海嶺掘削からの一考察(13.岩石・鉱物の破壊と変形,口頭発表,一般講演)」日本地質学会学術大会講演要旨 114,130,2007 年。)
(*)(参考：水落健治「アポロンになったキリスト：ギリシア・オシオス・ルカス修道院滞在記」カルチュール 1(1),2007 年。)
(*)(参考：豊田浩志「初期キリスト教考古学とイエズス会」ソフィア 55(3),2007 年。)
(*)(参考：中西麻澄「馬事往来 《マルクス・アウレリウス帝騎馬像》から《ガッタメラータ騎馬像》まで—西洋美術史における騎馬像の系譜」ヒポファイル 30,2007 年。)
(*)(参考：滝沢未羽「ヴィッラ・アドリアーナのホスピタリアの白黒舗床モザイクについて—床面装飾から辿るハドリアヌス帝の復古主義的側面」芸術学学報 14,2007 年。)
(*)(参考：豊田浩志「2006-07 年度オスティア遺跡調査報告(月例会発表要旨[2007 年 6 月])」上智史學 52,2007 年。)
(*)(参考：横手義洋「9177 グスターヴォ・ジョヴァンノーニによるカンピドリオ地区保全計画について(保存・計画[1],建築歴史・意匠)」学術講演梗概集,F-2,建築歴史・意匠 2007,2007 年。)
(*)(参考：福田和也「旅のあとさき第二部,ナポレオン：世界を盗もうとした男(10)アレクサンドリア,翠色の地中海をブレーキを踏む町」週刊現代 49(27),2007 年。)
(*)(参考：福田和也「旅のあとさき第二部,ナポレオン：世界を盗もうとした男(11)アレクサンドリア,ナポレオンとロンメルの差」週刊現代 49(28),2007 年。)
(*)(参考：福田和也「旅のあとさき第二部,ナポレオン：世界を盗もうとした男(13)エジプト,ナポレオンを追って地中海を越える」週刊現代 49(30),2007 年。)
(*)(参考：福田和也「旅のあとさき第二部,ナポレオン：世界を盗もうとした男(14)ロディ橋,アレクサンドロスとカエサルの後継者」週刊現代 49(31),2007 年。)
(*)(参考：福田和也「旅のあとさき第二部,ナポレオン：世界を盗もうとした男(18)ラバロ・ハンニバルと夫婦の憂鬱」週刊現代 49(35),2007 年。)
(*)(参考：福田和也「旅のあとさき第二部ナポレオン 世界を盗もうとした男(20)サン・ベルナール峠ハンニバルの奇策スタンダールの幸福」週刊現代 49(37),2007 年。)
(*)(参考：福田和也「旅のあとさき第二部ナポレオン 世界を盗もうとした男(24)マントヴァ老将が奮戦するウェルギリウスの村」週刊現代 49(41),2007 年。)
(*)(参考：福田和也「旅のあとさき第二部,ナポレオン：世界を盗もうとした男(25)ヴェローナ,ダンテの挫折とヴェローナの復活祭」週刊現代 49(42),2007 年。)
(*)(参考：福田和也「旅のあとさき第二部,ナポレオン：世界を盗もうとした男(31)ローマ ナポレオンが崇拝したゲーテの言葉」週刊現代 49(48),2007 年。)
(*)(参考：E.M.フォースター/中野康司訳『アレクサンドリア』オンデマンド選書,晶文社,2007 年。)
(*)大林組・周藤芳幸監修「古代アレクサンドリア図書館 CG 復元」季刊大林 50,2007 年。
(*)秋山芳弘「CoffeeTime 世界あちこち探訪記(27)地中海岸のアレキサンドリア」日本地下

鉄協会報 167,2007 年。)
(*)(参考 : ロレンス・ダレル/高松雄一訳『アレクサンドリア四重奏(1-4)』河出書房新社,2007 年。)
(*)(参考 : 平石貴樹編 ; 畔柳和代他訳『しみじみ読むアメリカ文学』(マーク・ドウティ/堀内正規訳・解説「アトランティスそのほか」)現代文学短編作品集, 松柏社,2007 年。)
(*)(参考 : 中江克己『世界一おもしろい海洋博物館 : アンモナイトから世界の海賊,アトランティスの伝説まで』PHP 研究所,2007 年。)
(*)(参考 : 研究代表者・保坂高殿『ヨーロッパ古典古代における伝統主義の変容』千葉大学, 科学研究費補助金(基盤研究 C)研究成果報告書,平成 16 年度 -18 年度,2007 年。)
(*)(参考 : マーティン・バナール『古代ギリシアの捏造 1785-1985』グローバルネットワーク 21 人類再生シリーズ 5 ブラック・アテナ 古代ギリシア文明のアフロ・アジア的ルーツ,新評論,2007 年。)
(*)(参考 : 桜井万里子『いまに生きる古代ギリシア』NHK シリーズ,NHK カルチャーアワー歴史再発見,日本放送出版協会,2007 年。)
(*)(参考 : 近藤裕子研究代表『18 世紀グランドツアーにおけるイギリスからイタリアへの影響に関する研究』科学研究費補助金(基盤研究 C)研究成果報告書,平成 16-18 年度。)
(*)(参考 : 田中英道『支倉常長 : 武士,ローマを行進す』ミネルヴァ書房,2007 年。)
(*)(参考 : 小佐野重利「原典資料紹介 フランシスコ・ホランダ著『古画論』および『ローマでの対話あるいは古画論第二書』[含・解題](特集 芸術家伝説)」西洋美術研究 13,2007 年。)
(*)(参考 : 寺岡和美「修士論文 ヨーロッパとイスラーム—地中海世界から読み解くヨーロッパの礎」文化学研究 16,2007 年。)
(*)(参考 : 深沢克己「港から見えてくるヨーロッパ文明の形成過程 : 沿海岸港と河口内海(特集 舟運気分)」水の文化 25,2007 年。)
(*)(参考 : 長島要一『日本・デンマーク文化交流史 : 1600-1873=Cultural relations between Denmark and Japan : 1600-1873』東海大学出版会,2007 年。)
(*)(参考 : 杉田英明・研究代表『近代東アジアにおける異文化要素の異化と同化 : 科学研究費補助金研究成果報告書』杉田英明,2007 年。)
(*)(参考 : 伊東俊太郎・服部英二・川勝平太「討論(鼎談 文明間に通底する価値を求めて)」環 31,2007 年。)
(*)(参考 : 服部英二「多様性・普遍性・通底(鼎談 文明間に通底する価値を求めて)」環 31,2007 年。)
(*)(参考 : 服部英二監修『文化の多様性と通底の価値 : 聖俗の拮抗をめぐる東西対話』麗澤大学出版会,2007 年。)
(*)(参考 : O.シュペングラー/村松正俊訳『形態と現実と』普及版西洋の没落 : 世界史の形態学の素描 1,五月書房,2007 年(→2015 年,ニュー・エディション)。)
(*)(参考 : O.シュペングラー/村松正俊訳『世界史的展望』普及版西洋の没落 : 世界史の形態学の素描 2,五月書房,2007 年)。)
(*)(参考 : 吉澤五郎「21 世紀の課題とトインビー—現代を読み解く鍵として(改めて読む

トインビー)」第三文明 570,2007 年(→2015 年,ニュー・エディション。)
(*)(参考 : 坂瀬秀之「愛についての歴史家トインビーの解釈—トインビーの宗教思想を通じて」比較文化研究 79,2007 年。)
(*)(参考 : 辻原康夫『世界のうんちく』昭文社,まっぷる選書 3 : なるほど知図 BOOK : 地図屋しか知らない!?,2007 年。
(*)熊田忠雄『そこに日本人がいた！』新潮社,平成 19 年(→平成 22 年,新潮文庫版)。
(*)(参考 : エマヌエル・レーヴィ/細井雄介訳『初期ギリシア芸術における自然表現』中央公論美術出版,2007 年。)
(*)(参考 : NHK 製作・著作『千年の帝国ビザンチン : 砂漠の十字軍に秘められた謎』NHK DVD,NHK エンタープライズ,2007 年。)
(*)(参考 : 森村泰昌『「美しい」ってなんだろう? : 美術のすすめ』よりみちパンセ 26,理論社,2007 年(→2011 年,よりみちパンセ P23,イースト・プレス。)
(*)(参考 : 塚本青史『張騫』講談社文庫,講談社,2007 年。)
(*)芦原伸・大村次郷『シルクロードをゆく : 風街道』ダイヤモンド・ビッグ社,2007 年。
(*)(参考 : なら・シルクロード博記念国際交流財団,シルクロード学研究センター編『シルクロードを拓く : 漢とユーラシア世界』シルクロード・奈良国際シンポジウム記録集 3,なら・シルクロード博記念国際交流財団,シルクロード学研究センター,2007 年。)
(*)(参考 : 田辺勝美編『ガンダーラ仏教美術』平山コレクション,講談社,2007 年。)
(*)(参考 : 宮治昭監修・編『ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展』静岡新聞社・静岡放送事業局,2007 年。)
(*)(参考 : 文化財研究所東京文化財研究所文化遺産国際協力センター編『シルクロードの壁画』文化財の保存および修復に関する国際研究集会 第 2 回「シルクロードの壁画が語る東西文化交流」コロキウム・シンポジウム報告書,文化財研究所東京文化財研究所文化遺産国際協力センター・言叢社,2007 年。)
(*)Hirayama Ikuo Road Museum“Tracing The Silk Road with Ikuo Hirayama : the legacies of east-west cultural; exchange=平山郁夫のシルクロード : 東西文化交流の跡を辿る”,Clark Center for Japanese Art and Culture2007, Hirayama Ikuo Road Museum,2007 年。)
(*)平山郁夫・本江邦夫「平山郁夫—シルクロード・西から東へ たゆまぬ祈りと志 それが拓く未来の道—作家インタビュー」月刊美術 33(10),2007 年。)
(*)(参考 : 東儀秀樹「シルクロードから正倉院へ 遙かなる天平の調べ」婦人公論 92(21),2007 年。)
(*)松井太「森安孝夫著「シルクロードと唐帝国」(興亡の世界史 5,講談社)」史學雜誌 116(12),2007 年。
(*)栩木伸明〈「リレー・エッセイ〉「書物をめぐる旅」--『古寺巡礼』がくれたモノサシ」ソフィア 55(2),2007 年。
(*)中村昇「奈良 和辻哲郎『古寺巡礼』(特集 旅と文学)」国文学 72(4),2007 年。
(*)(参考 : クルト・ワイッツマン著/辻成史訳『古代中世の挿絵芸術 : その起源と展開』中央公論美術出版,2007 年。)
(*)後藤繁雄「美食文体論(10)トリノ,官能への旅—ディオニュソスへの移行」インターコミ

ュニケーション 16(1),2007 年。
(*)(参考：桜川洋子「モネについて」地中海歴史風土研究誌 26,2007 年。)
(*)(参考：堀幸夫「思い出のリスボン」地中海歴史風土研究誌 26,2007 年。)
(*)(参考：百瀬春生「人類は何故虫を食べなくなったのか?」地中海歴史風土研究誌 26,2007 年。)
(*)(参考：「地中海の美しき島・サリディーニャで展開されたクラシックヨットの競演」ナショナルジオグラフィック 13(11),2007 年。)
(*)(参考：紀平英作編『連鎖する地域と文化』(中務哲郎「古代ギリシア人の世界意識と歴史記述」)グローバル化時代の人文学：対話と寛容の知を求めて：京都大学文学部創立百周年記念論集(上),京都大学学術出版会,2007 年。)
(*)(参考：大阪大学大学院言語文化研究科編『想像力としての文化』言語文化共同研究プロジェクト, 大阪大学大学院言語文化研究科,2007 年。)
(*)(参考：ベアット・ヴィース/神原正明訳『ブリューゲル《イアカロスの墜落の風景》人文主義的ペシミズムの絵解き』作品とコンテクスト,三元社, 2007 年。)
(*)久米晶文・中村司「〈溶解〉する言葉と文化(6)堀達之助と『英和対訳袖珍辞書』」歴史読本 52(7),2007 年。
(*)遠藤智夫「若樹文庫本「英和対訳袖珍辞書」初版との邂逅」日本古書通信 72(6),2007 年。
(*)真田治子「井上哲次郎の欧州留学と『哲学字彙』第三版の多言語表記」埼玉学園大学紀要・人間学部篇 7,2007 年。
(*)(参考：出石尚三「人名語おもしろ辞典(7)アドニス(Adonis)」世界週報 87(49),2007 年。)
(*)(参考：出石尚三「人名おもしろ辞典(10)アトラス」世界週報 88(10),2007 年。)
(*)(参考：出石尚三「人名語おもしろ辞典(最終回)アナクレオンティック」世界週報 88(11), 2007 年。)
(*)人名情報研究会編『「人名辞典」大事典(上下)』日本図書センター,2007 年。
(*)大場秀章編『植物文化人物事典：江戸から近現代・植物に魅せられた人々』日外アソシエーツ,2007 年。
(*)日外アソシエーツ(編)『歴史学紀要論文総覧』日外アソシエーツ,2007 年。
(*)児童文学翻訳大事典編集委員会編『図説児童文学翻訳大事典 4』(イソップ)大空社[共同刊行：ナダ出版センター],2007 年。
(*)児童文学翻訳大事典編集委員会編・川戸道昭『図説日本の外国児童文学』大空社[共同刊行：ナダ出版センター],2007 年。
(*)児童文学翻訳大事典編集委員会編・榊原貴教『原作者と作品』大空社[共同刊行：ナダ出版センター],2007 年。
(*)児童文学翻訳大事典編集委員会編『翻訳児童文学研究』大空社[共同刊行：ナダ出版センター],2007 年。
(*)(参考：セルジウス・ゴロウィン,ミルチャ・エリアーデ,ジョセフ・キャンベル/上田浩二・渡辺真理訳『世界の神話文化図鑑』東洋書林,2007 年。)
(*)(参考：鷲田小彌太『哲学がよくわかる事典：人間の極大から極小まで,「なぜ」「どうして」が見えてくる』PHP文庫,PHP研究所,2007年。)
(*)(参考:John Sparls総編集/内田至・日本語版総監修『海洋大図鑑』ネコ・パブリッシング,2007

年。)
(*)(参考：齋藤武生「言語文化研究ノート---「引用」をめぐる問題」(神田外語大学)Scientific approaches to language 6,2007年。)
(*)(参考：田中克彦『エスペラント—異端の言語』岩波新書,2007 年。)
(*)(参考：前田護郎『聖書の思想と言語』前田護郎選集 1,教文館,2007 年。)
(*)(参考：橋内武「地中海小国マルタの言語と言語教育(遠山淳教授退任記念号)」(桃山学院大学文学部)国際文化論集 37,2007 年。)
(*)(参考：小澤実「エーリヒ・アイェルバッハ著/小竹澄訳『中世の言語と読者—ラテン語から民衆語へ』八坂書房,2006」史学雑誌 116(12),2007 年。)
(*)(参考：ジュゼッペ・パトータ/橋本勝雄訳『イタリア語の起源：歴史文法入門』京都大学学術出版会,2007 年。)
(*)(参考：平田隆一「“It’s Greek to me”と“C’est de l’hebreu pour moi”—ヨーロッパ諸語における「チンプンカンカンな言語」とその歴史的由来」東北学院大学論集：歴史と文化 42,2007 年。)
(*)(参考：Nishigami Shin「Un manuscript du Dialogus de musica et de l’Epistola de Guy d’Arezzo legue par Ch.E.de Coussemaker : F.-Pnres.359[12.e s](シンポジウム 古代世界研究会サマーセミナー[日韓中国国際シンポジウム・プレ大会])」地中海研究所紀要 5,2007 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(3)スエトニウス『皇帝伝』」一冊の本 12(1),2007 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(4)タキトゥス『年代記』」一冊の本 12(2),2007 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(5,6)ウェルギリウス『アイネイス』(上下)」一冊の本 12(3,4),2007 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(7)ウェルギリウス『牧歌』」一冊の本 12(5),2007 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(8)スエトニウス『農耕詩』」一冊の本 12(6),2007 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(9,10)ルクレティウス『事物の本性について』(上下)」一冊の本 12(7,8),2007 年。)
(*)(参考:高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(11)オウィディウス『悲しみの歌』」一冊の本 12(9),2007 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(12)オウィディウス『変身物語』」一冊の本 12(10),2007 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(13)オウィディウス『恋の技法』」一冊の本 12(11),2007 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(14)カトゥルス『詩歌集』」一冊の本 12(12),2007 年。)
(*)(参考：川崎桃太『基礎ラテン語文法』国際語学社,2007 年。)
(*)(参考：池田博訳『新約聖書：新和訳』幻冬舎ルネッサンス,2007 年。)
(*)(参考：熊沢昭佳「古代文字の解読(下)」週刊社会保障 61(2446),2007 年。)
(*)(参考：小池寿子「キリスト教美術に見る霊魂観—古代地中海世界からキリスト教中世へ

(特集 日本人の霊魂観と慰霊)」明治聖徳記念学会紀要 44,2007 年。)
(*)(参考：戸田聡訳「『エジプト人マカリオス伝』ギリシア語版校訂・翻訳と注釈」人文・自然研究 1,2007 年。)
(*)(参考：橋川裕之「ガレシオンの修道士アタナシオスとは何者か―パリ・ギリシア語写本八五七番とビザンツの修道院文化」史林 90(4),2007 年。)
(*)(参考：大川なつか「聖パウロ学校 St.Paul School におけるキリスト教的人文主義教育に関する一考察―コレット,エラスムス,リリーの「言葉の教育」の比較を通して」(日本キリスト教教育学会)キリスト教教育論集 15,2007 年。)
(*)(参考：竹下政孝研究代表『近代以前イスラーム社会における権威的テキストの発生：伝播・注釈に関する総合的研究』東京大学大学院人文社会系研究科,科学研究費補助金(基盤研究 C)研究成果報告書,平成 17-18 年度,2007 年。)
(*)(参考：生田守「テクスト・ジャンルと TAM―日・仏・希およびヘブライ語による通言語的分析を通じて」日本言語文化研究会論集 3,2007 年。)
(*)(参考：原島広至『生薬単：語源から覚える植物学・生薬学名単語集：ギリシャ語・ラテン語』エヌ・ティー・エス,2007 年(→2012 年,改訂 2 版)。)
(*)(参考：宮本久雄・金泰昌編『原初のことば=Archaic words』東京大学出版会,シリーズ物語り論 2,2007 年。)
(*)(参考：久保正彰「ヤコブス・ホイエル(1651-1689)とホメロス研究：「船のカタログ」を中心に」西洋古典學研究 55,2007 年。)
(*)(参考：T.V.スムルノワ「ロシア的コトバ=ヒト要素としての先例人名：現代メディア・テクストの見出しを素材として」Japanese Slavic and East European studies 27,2007 年。)
(*)高橋亮介「L.カッソン著新海邦治訳「図書館の誕生―古代オリエントからローマへ」(刀水書房)」史學雑誌 116(11),2007 年。
(*)小澤実「エーリッヒ・アウエルバッハ著小竹澄栄訳「中世の言語と読者―ラテン語から民衆語へ」(八坂書房)」史學雑誌 116(12),2007 年。
(*)(参考：鶴見良次「ラテン語文法訳読と母語教育：ジョン・ブリンズリー『ルードゥス・リテラリウス』と 17 世紀イギリスの英語教育(記念特別号)」成城文藝 200,2007 年。)
(*)細井敦子・平田眞・成蹊大学図書館「成蹊大学図書館所蔵貴重書解説目録(2)―Thorne 文庫の 16 世刊本から」成蹊大学文学部紀要 42,2007 年。
(*)(参考：岩波文庫編集部編『読書という体験』岩波文庫別冊 17,岩波書店,2007 年。)
(*)(参考：岩波文庫編集部編『岩波文庫の 80 年』岩波文庫別冊 18,岩波書店,2007 年。)
(*)(参考:岩波文庫編集部編『岩波文庫解説総目録:1927-2006』80 年版,90 年版,岩波書店,2007 年。)
(*)石垣哲二「『九鬼周三文庫目録』と『九鬼周三全集』の経緯」甲南大学総合研究所叢書 93,2007 年。
(*)大嶋浩「日本におけるジョージ・エリオット文献書誌 明治・大正期(翻訳・書物編「続」)」兵庫教育大学研究紀要 30,2007 年。)
(*)増田靖彦「サルトルは日本でどのように受容されたか：その黎明期を中心として」(学習

院大学)人文 6,2007 年。)
(*)(参考：黒川洋行「ヤスパースとオルテガの大学論—大学の理念,教養概念,授業のあり方についての比較検討」関東学院大学経済経営研究所年報 29,2007 年。)
(*)高木史人「噂と世間話と：世間話研究史の一齣から(特集 古代文学における〈風聞〉)」日本文学 56(5),2007 年。
(*)(参考：金森修「ビオスの本源的装甲(第 10 回日本生命倫理学会年次大会シンポジウム)」生命倫理 17(1),2007 年。)
(*)(参考：増尾伸一郎「比較神話伝説学の黎明—高木俊雄と柳田・南方・津田(アジア遊学 100 号記念 アジア遊学 100 号の提案—これからの研究構想を語る)—(民俗・宗教)」アジア遊学 100,2007 年。)
(*)(参考：半沢栄一「小休止 会員広場 秩序を回復する女神—テティスとアメノウズメ」古代史の海 48,2007 年。)
(*)(参考：庄子大亮『古代ギリシアにおける神話・伝説の創造と機能』京都大学,博士(文学),甲第 12745 号,2007 年。)
(*)(参考：リック・リオーダン作/金原瑞人・小林みき訳『タイタンの呪い』パーシー・ジャクソンとオリンポスの神々3,ほるぷ出版,2007 年(→2016 年,静山社ペガサス文庫,静山社。)。)
(*)(参考：リズ・グリーン,ジュリエット・シャーマンバーグ/真喜志順子訳『神々の物語：心の成長を導く教え』柏書房,2007 年。)
(*)(参考：佐藤慎太郎「日本宗教学におけるエリアーデ受容とその展開(第 1 部会,〈特集〉第 65 回学術大会紀要)」宗教研究 80(4),2007 年。)
(*)(参考：佐藤慎太郎「M.エリアーデにおける homo religiosus 観とその射程」文化 71(1・2),2007 年。)
(*)(参考：奥山史亮「研究発表要旨 「宗教」に対するエリアーデの不安—エリアーデによる天空神論の分析を通して」基督教學 42,2007 年。)
(*)(参考：坂瀬秀之「トインビーの苦悩と宗教思想の深化」言語と文明：論集 5,2007 年。)
(*)(参考：Orion Klautau「教父の源から救いの主へ—宗教学における〈歴史〉の位置付け(第 50 回[印度学宗教学会]学術泰秋記念号)」論集 34,2007 年。)
(*)(参考：青木健「イスラーム文献が伝える多様なゾロアスター教像：六-八世紀のアラビア語資料のゾロアスター教研究への応用」宗教研究 81(3),2007 年。
(*)(参考：栩木伸明「21 世紀の洋書棚 確信犯がこしらえますオデュッセイアテマパーク—Simon Armitagate,Homer’s Oddyssey」英語青年 153(4),2007 年。
(*)千葉市美術館編『鳥居清長：江戸のヴィーナス誕生=Torii Kiyonaga：the birth of venus in Edo』千葉市美術館,2007 年。)
(*)青木和雄監修：吉富多美著『アナザーヴィーナス』金の星社,2007 年。
(*)(参考：Quatroruote 編/松本葉訳『フェラーリ：ヴィーナスの創造：パッション・オート』二玄社,2007 年。)
(*)大滝和子『竹とヴィーナス：歌集』砂子屋書房,2007 年。)
(*)(参考：竹花和晴「中部ヨーロッパにおける後期旧石器時代のヴィーナス様式」人文論究 76,2007 年。)
(*)(参考：植松みどり「マジック・リアリズム(3)マジック・リアリズムを『ブラック・ヴィーナス』に読む」和洋女子大学英文学会誌 41,2007 年。)

(*)(参考：庄子大亮『古代ギリシアにおける神話・伝説の創造と機能』京都大学,博士(文学),甲第 12745 号,2007 年。)
(*)(参考：篠井保彦「神託と予測(22)宗教原理主義と米国社会の変貌」地中海歴史風土研究誌 25,2007 年。)
(*)(参考：山下桐子「鳥占考(12)鳥占いに於けるワシタカ重視—猛禽類の文化史」地中海歴史風土研究誌 25,2007 年。)
(*)(参考：グウェンドリン・トロッテン/伊藤博明・星野徹訳『ウェヌスの子どもたち：ルネサンスにおける美術と占星術』ありな書房,2007 年。)
(*)(参考：喜多尾道冬「ムーサの贈り物—絵画・詩・音楽の出会うところ(166)ヒーローとヒロイン アドニスとヴィーナス」レコード芸術 56(3),2007 年。)
(*)(参考：「図版構成 ビジュアル Question Part(1,2)(特集 アート・クラシック Q&A 西洋美術編—ミロのヴィーナスからカンディンスキーまで」美術手帖 5)(892),2007 年。)
(*)(参考：中村英樹・暮沢剛巳「対談 クラシック談義「古典をナマで味わおう!」(特集 アート・クラシック Q&A 西洋美術編—ミロのヴィーナスからカンディンスキーまで」美術手帖 5)(892),2007 年。)
(*)北川透「高等学校国語教科書教材研究「ミロのヴィーナス」をどう教えるか」日本文学研究 42,2007 年。
(*)(参考：國方栄二『プラトンのミュトス』(Plato’s Myth)京都大学学術出版会,2007 年。)
(*)(参考：堀江聡訳「ペトルス・ニコラウス羅訳『アリストテレスの神学』第 10 章「53[r]-第 11 章」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 38,2007 年。)
(*)(参考：鈴木順「ポルピュリオスの「悪を行うダイモン(daimon kakorergos)」論をめぐって—古代末期宗教史におけるプラトン主義とキリスト教の比較研究のために」西洋古典研究会論集 16,2007 年。)
(*)(参考：松田治『ローマ建国伝説：ロムルスとレムスの物語』講談社学術文庫,講談社,2007 年。)
(*)(参考：スティーブ・メイソン/浅野淳博訳『ヨセフスと新約聖書』リトン,2007 年。)
(*)(参考：増田祐志「イエスとキリスト教」ソフィア 55(3),2007 年。)
(*)(参考：R.マリンズマーク「〈展望〉「西洋の宗教」か「世界の宗教」か：グローバルな文脈における今日のキリスト教研究」ソフィア 55(4),2007 年。)
(*)(参考：岡田温司「西洋美術におけるマグダラのマリア(シンポジウム講演 宮城学院創立 120 周年記念シンポジウム「マグダラのマリアと現代」)」キリスト教文化研究所研究年報 41,2007 年。)
(*)(参考：石澤光子「天使幻像」地中海歴史風土研究誌 25,2007 年。)
(*)(参考：トマス・ケイヒル/森夏樹『中世の秘蹟：科学・女性・都市の興隆』青土社,2007 年。)
(*)(参考：大貫隆編『イスカリオテのユダ』日本キリスト教団出版局,2007 年。)
(*)(参考：ウィリアム・クラッセン/森夏樹訳『ユダの謎解き』青土社,2007 年。)
(*)(参考：J.ファン・デル・フリート/戸田聡訳『解読ユダの福音書』教文館,2007 年。)
(*)(参考：J.M.ロビンソン/戸田聡訳『ユダの秘密：「裏切り者」とその「福音書」をめぐる真実』教文館,2007 年。)
(*)(参考：木村和良「アレクサンドリアのフィロン『観想的生活』におけるテラペウタイの

諸相：入植地の地理的位置,共同体の社会的背景および組織構造を中心に」言語社会 1,2007 年。)
(*)(参考：原口尚彰「アレクサンドリアのフィロンの幸福理解」教會と神學 45,2007 年。)
(*)(参考：戸田聡「シリア語キリスト教最初の著作家,バルダイサン—或いは,人文学の存在意義をめぐって」創文 494,2007 年。)
(*)(参考：P.ミュラー/大貫隆訳『「この男は何者なのか」：マルコ福音書のイエス：物語の語り手・宣教者・教師としてのマルコ』教文館、聖書の研究シリーズ 62,2007 年。)
(*)(参考：森彬『ルカ福音書の集中構造』キリスト新聞社,2007 年。)
(*)(参考：ウィリアム・ニール/宮本あかり訳『使徒言行録』ニューセンチュリー聖書注解,日本キリスト教団出版局,2007 年。)
(*)(参考：神山伸弘「「三百年前の遺跡」としての聖母マリア教会：森鷗外『舞姫』「古寺」考証」跡見学園女子大学人文学フォーラム 5,2007 年。)
(*)(参考：高草茂『「モナ・リザ」は聖母マリア：レオナルド・ダ・ヴィンチの真実』ランダムハウス講談社,2007 年。)
(*)(参考：エドワード・ノーマン/月森左知訳『「図説」ローマ・カトリック教会の歴史』創元社,2007 年。)
(*)(参考：松本宣郎研究代表『古代ローマ史における初期キリスト教の地誌的・政治史的研究』松本宣郎,科学研究費補助金(基礎研究 C)研究成果報告書,平成 18-19 年度,2007—08 年。)
(*)島創平「松本宣郎著『キリスト教徒が生きたローマ帝国』日本キリスト教団出版局,2006」史学雑誌 126(10),2007 年。
(*)(参考：松本宣郎「読書案内：初期キリスト教史をローマ帝国史で読む(世界史の研究[213])」,歴史と地理 609,2007 年。)
(*)(参考：中西恭子「ユリアヌスの「葬儀と墓地に関する勅令」(363 年)にみる死生観(第 3 部会,〈特集〉第 65 回学術大会紀要)」宗教研究 80(4),2007 年。)
(*)(参考：原田智二「社会科教師の基礎教育： 世界史のことば,世界史へのロマン(5)地中海世界(2)古代ギリシア：“暴君”ネロは本当にキリスト教徒を迫害したのか?」社会科教育 44(9),2007 年。)
(*)(参考：保坂高殿「ヴァレリアヌス帝迫害」千葉大学人文研究 36,2007 年。)
(*)(参考：アレクサンドリアのフィロン/野町啓・田子多津子訳『世界の創造』ユダヤ古典叢書,教文館,2007 年。)
(*)(参考:辻佐保子「ビザンティン写本挿絵の魅力--『聖母マリア讃詞集』から(午餐会講演)」学士会会報 2007(2),2007 年。)
(*)(参考：阿部俊大「カタルーニャにおけるグレフォリウス 7 世,ウルバヌス 2 世の政策とその帰結—地中海におけるローマ教会進出の一事例」スペイン史研究 21,2007 年。)
(*)(参考：大野陽子「ヴァラッロのサクロ・モンンテ第 36 礼拝〈カルヴァリオの道〉—予備論図像と「キリストのまねび」の可視化」美術史 57(1),2007 年。)
(*)(参考：田中友三『ビザンチン文学入門』埼玉新聞社,2007 年。)
(*)(参考：ダレン・オルドリッジ寺尾まち子訳『針の上で天使は何人踊れるか：幻想と理性の中世・ルネサンス』柏書房,2007 年。)

(*)(参考：サビン・バリング=グールド/村田綾子・佐藤利恵・内田久美子訳『ヨーロッパをさすらう異形の物語：中世の幻想・神話・伝説(上下)』柏書房,2007 年。)
(*)(参考：水野千依「「健やかなる男児」と「怪物」の誕生—イタリア・ルネサンスの出産装飾にみるイメージの「力」(特集 かざる)」Aube 2,2007 年。)
(*)(参考：水野千依「「徴候」としての怪物—ルネサンスにおける予言文化と図像」京都造形芸術大学紀要 12,2007 年。)
(*)(参考：フリードリッヒ・ヴィルヘルム・グラーフ/近藤正臣・深井智朗訳『ハルナックとトレルチ』聖学院大学大学院講義,聖学院大学出版部,2007 年。)
(*)(参考：笠井秋生「西方の人—ルナンとパピニと」国文学：解釈と鑑賞 72(9),2007 年。)
(*)雨宮栄一『若き植村正久』新教出版社,2007 年。
(*)鶴田一郎「三谷隆正の思想と行動」ホリスティック教育研究 10,2007 年。
(*)鶴田一郎「PEO31 三谷隆正と三人の師：内村鑑三・新渡戸稲造・岩元禎」日本教育心理学会総会発表論文集 49,2007 年。
(*)陳華「遠藤周作「沈黙」の研究：日本的精神風土の象徴 井上筑後守について」文化環境研究 1,2007 年。
(*)辛承姫「遠藤周作の『沈黙』--弱者の典型としてのキチジローの系譜」専修国文 80,2007 年。
(*)笠井秋生「シンポジウム 『侍』をどう読むか—日本におけるキリスト教の土着化の問題(特集 遠藤周作『侍』をめぐって)」キリスト教文学研究 24,2007 年。
(*)岡田久未子「卒業論文 遠藤周作『沈黙』論—長編作品『沈黙』成立に至る過程」滝川国文 23,2007 年。
(*)山根道公「遠藤周作と井上洋治」三田文学[第 3 期]86(88,89,90,91),2007 年。
(*)兼子盾夫『遠藤周作の世界：シンボルとメタファー』教文館,2007 年。
(*)濱崎史朗『遠藤周作私論』青山社,2007 年。
(*)町田市民文学館ことばらんど編『遠藤周作と Paul Endo(ポール・エンドー)：母なるものへの旅 1923-1996 開館一周年記念特別企画展』町田市民文学館ことばらんど,2007 年。
(*)町田市民文学館編『光の序曲』町田市民文学館ことばらんど,町田市民文学館蔵遠藤周作蔵書目録 欧文篇,2007 年。
(*)(参考：佐藤一好「董徳[ヨウ]『可如』小論—呂坤『無如』との関係に注目して」(イソップ)大阪教育大学紀要 1・人文科学 56(1),2007 年。)
(*)大久保利謙『日本近代史学の成立』吉川弘文館,2007 年。
(*)秋山真一『近代知識人の西洋と日本---森口多里の世界』同成社,2007 年。
(*)深澤秀男『文化交流史』3 版,求是舎,2007 年。)
(*)小堀桂一郎『日本に於ける理性の傳統』中公叢書,2007 年。
(*)西尾幹二『江戸のダイナミズム---古代と近代の架け橋』(古典文獻学)文藝春秋社,2007 年。
(*)(参考：松本道介「ヨーロッパとは何か—西尾幹二著『江戸のダイナミズム』を読む」季刊・文科 38,2007 年。)
(*)西尾幹二+長谷川三千子「対談 荻生徂徠と本居宣長—江戸の言語と日本文明のダイナミズム」Voice353,2007 年。
(*)松尾龍之介『長崎蘭学の巨人—志筑忠雄とその時代』弦書房,2007 年。
(*)『蘭学のフロンティア：志筑忠雄の世界：志筑忠雄没後 200 年記念国際シンポジウム報

告書』志筑忠雄没後 200 年記念国際シンポジウム実行委員会,長崎大学「オランダの言語と文化」科目設立記念ライデン大学日本語学科設立 150 年記念国際シンポジウム,2007 年。)
(*)志筑忠雄没後200年記念国際シンポジウム実行委員会,長崎大学「オランダの言語と文化」科目設立記念ライデン大学日本語学科設立 150 年記念国際シンポジウム編『蘭学のフロンティア：志筑忠雄の世界：志筑忠雄没後 200 年記念国際シンポジウム報告書』(イソップ)長崎文献社(製作),2007 年。
(*)セシル・ベルジュ/藤野邦夫訳『世界の名作シネマを読み直す』(イソップ)いそっぷ社,2007 年。
(*)後藤博子・高井恵子執筆・北島新平挿絵『群馬の民話傑作選』(百合若)あかぎ出版,2007 年。
(*)西村聡「〈葵上〉注釈余説」(百合若大臣)金沢大学文学部論集 言語・文学篇 27,2007 年。
(*)田中亮平「明治日本のドイツ文学」(百合若大臣)創価大学外国語学科紀要 17,2007 年。
(*)野口哲也「泉鏡花における語りと変身—アプレイウス「黄金のろば」との対比から」比較文学 50,2007 年。
(*)吉田修作「異国へ巡行した〈みこともち〉神功皇后 : 新羅出兵・蒙古襲来・朝鮮侵略」(百合若大臣)福岡女学院大學紀要 人文学部篇 17,2007 年。
(*)梅溪昇『お雇い外国人』講談社学術文庫,2007 年(←1965 年,日本経済新聞社)。
(*)中村春作「近代の「知」としての哲学史—井上哲次郎を中心に」日本の哲学 8,2007 年。
(*)井上克人「明治期におけるショーペンハウアー---哲学の受容について---井上哲次郎,R.ケーベル,三宅雪嶺に見る本体的一元論の系譜」ショーペンハウアー研究 12,2007 年。
(*)伊東美恵子「教育者としてのラファエル・フォン・ケーベル：東京音楽学校再独立に果たした意味(21-[A]教育史(2),2 一般研究発表 II,発表要旨)」日本教育学会大會研究発表要項 66,2007 年。
(*)関根和江「ケーベル先生の「シエルツ」--明治 31 年の音楽会」東京藝術大学音楽部紀要 33,2007 年。
(*)京都大学西洋古典研究会編『松平千秋先生追悼文集』,2007 年。
(*)中務哲郎「松平千秋先生の逝去を悼む」西洋古典學研究 55,2007 年。
(*)松本仁助「日本西洋古典文学者 松平千秋先生」(京大以文会)以文 50,2007 年。
(*)岡照雄「わたしの卒業論文 Henry Fielding,an Approach」(松平千秋)英語青年 1897,2007 年。
(*)(参考 : 古澤ゆう子「Die Antike in der Neuzeit(特集 近代における古代)」ドイツ文学 : Neue Beitrage zur Germanistik133,2007 年。)
(*)(参考：丸橋裕「海外研究論文選(5)W.シャーデヴァルト「リヒャルト・ワーグナーとギリシア人」」年刊ワーグナー・フォーラム 2007,2007 年。)
(*)(参考：若島正編『エルソド座の怪人』(レイモン・クノー「トロイの馬」)アンソロジー世界篇,異色作家短編集,早川書房,2007 年。)
(*)(参考 : 周藤芳幸『ミケーネ社会からポリス社会への構造転換に関する総合的研究』出版者不明,2007 年。)
(*)(参考 : 松村劭『名将たちの決定的戦術 : 世界の歴史を変えた』PHP 文庫,PHP 研究所,2007 年。
(*)(参考：ヘロドトス/松平千秋訳『歴史(上中下)』改版,岩波文庫,岩波書店,2007 年（→2008

年,ワイド版岩波文庫。)
(*)(参考：大戸千之「歴史叙述における「事実の正確さ」について」立命館文學 597,2007 年。)
(*)(参考：櫻井悠美「古代ギリシアにおける女のイメージ」ジェンダー史学 3,2007 年。)
(*)吉田千鶴子「岡倉天心の「万国歴史」講義(下)」(茨城大学五浦美術文化研究所)五浦論叢 14,2007 年。
(*)(参考：志々見剛「「驚嘆すべきこと」と「真実の話」--アンリ・エチエンヌの『ヘロドトス弁護』」仏語仏文学研究 34,2007 年。)
(*)(参考：小川彩子「詩作と歴史：アイスキュロス『ペルシアの人々』とヘロドトス『歴史』」哲学会誌 31,2007 年。)
(*)(参考：守川知子「ロマンからヒストリアへ：ビーソトゥーン碑文とイランにおける歴史認識(〈特集〉イラン世界とその周辺地域—その形成と展開」上智アジア学 25,2007 年。)
(*)(参考：桜井万里子「古代ギリシア史研究の意義」(東京学芸大学史学会)史海 54,2007 年。)
(*)(参考：松原俊文「Herodotus strikes back the return of storytelling ,or premodernity in a new age?((シンポジウム 古代世界研究会サマーセミナー[日韓中国際シンポジウム・プレ大会])」地中海研究所紀要 5,2007 年。)
(*)(参考：山中由里子『寓意としてのアレクサンドロス：イスラーム古典期の信仰と歴史意識において』東京大学,博士(学術),甲第16838号,2007年。)
(*)(参考：森谷公俊『アレクサンドロスの征服と神話』興亡の世界史 1,講談社,2007 年。)
(*)(参考：難波紘二『だれがアレクサンドロスを殺したか?』岩波書店,2007 年。)
(*)(参考：ニック・マッカティ『アレクサンドロス大王の野望』シリーズ絵解き世界史 1,原書房,2007 年。)
(*)(参考：阿刀田高「プルタークの物語(13)負けないアレクサンドロス」潮 583,2007 年。)
(*)(参考：阿刀田高「プルタークの物語(13)命の短いアレクサンドロス」潮 584,2007 年。
(*)(参考：寺沢精哲監修『「世界の英雄」がよくわかる本：アレクサンドロス,ハンニバルからチンギス・ハーン,ナポレオンまで』PHP 文庫,PHP 研究所,2007 年。)
(*)(参考：阿部拓児訳「翻訳・注釈 フォティオス『文庫』におけるクテシアス『ペルシア史』摘要—キュロスからクセルクセスまで」西洋古代史研究 7,2007 年。)
(*)「特集 『ローマ人の物語』完結記念対談 塩野七生 x 粕谷一希/ローマと日本の神々のご加護で、書き続けられたのかもしれない」」波 41(1),2007 年。
(*)(参考：原田智二「社会科教師の基礎教育： 世界史のことば,世界史へのロマン(4)地中海世界(1)古代ギリシア：クレオパトラの鼻がもう少し短かったら?」社会科教育 44(8),2007 年。)
(*)(参考：佐藤次高・木村靖二・岸本美緒『高校世界史：世界史 B』改訂版,山川出版社,2007 年。)
(*)(参考：佐藤賢一『剣闘士スパルタクス』中央公論新社,2007 年。)
(*)(参考：本村凌二『地中海世界とローマ帝国』講談社,興亡の世界史 4,2007 年。)
(*)(参考：原聖『ケルトの水脈』(「第 3 章 ローマのガリア征服」)興亡の世界史 7,講談社,2007 年(→2016 年,講談社学術文庫版)。)
(*)(参考：モムゼン/長谷川博隆訳『カエサルの時代(4)』名古屋大学出版会,2007 年。)
(*)(参考：モムゼン/片岡基訳『イタリア統一からカルタゴ及びギリシャ諸国征服まで』

片岡基,2007 年。)
(*)(参考：伊藤雅之「古代ローマの対外クリエンテラ：パトロキニウムから見る共和政末期から元首政初期の対外政策」」クリオ=Clio21,2007 年。)
(*)(参考：竹田腆「雑感 王朝の変遷のさまざま：英国とイタリア」地中海歴史風土研究誌 25,2007 年。)
(*)(参考：高山博『ヨーロッパとイスラム世界』世界史リブレット 58,山川出版社,2007 年。)
(*)(参考：アルフレード・ヴィッジャーノ/高田京比子[訳・解題]「地中海の海港都市ヴェネツィア：15-18 世紀の盛衰」海港都市研究 2,2007 年。)
(*)(参考：ノーマン・F.キャンター/朝倉文市・横山竹己・梅津教孝訳『中世の発見—偉大な歴史家たちの伝記』りぶらりあ選書,法政大学出版局,2007 年。)
(*)(参考：小澤実「中世アイスランド史学の新展開」北欧史研究 24,2007 年。)
(*)(参考：石井清司「ドキュメント 新オペラ「創声紀」ヴェルディの時代(1)主役たちの戦国地図—巨星誕生とナポレオンの影」ニューリーダー20(4),2007 年。)
(*)上杉和央「書評 応地利明著『「世界地図」の誕生』」史林 90(4),2007 年。
(*)『世界を旅する地図』世界地図百科,JTB の mook,2008 年版,JTB パブリッシング,2007 年。
(*)久武哲也・鳴海邦匡・堤研二・小林茂「海野一隆先生の研究業績とその地図学史的意義[含・著作目録]」大阪大学大学院文学研究科紀要 47,2007 年。
(*)林信夫「書評 大清水裕「ディオクレティアヌス,コンスタンティヌス帝治世における都市・総督関係—北アフリカにおける都市監督官 curator rei publicae の活動をめぐって」(史学雑誌 115 編 1 号)」法制史研究 57,2007 年。
(*)(参考：田中創「コンスタンティノポリスとアンティオキア：リバニオス書簡にみる都市参事会員(西洋史部会,第 104 回史学会大会報告)」史學雑誌 116(1),2007 年。)
(*)古山夕城「タソスにおける地下資源と国家統合(西洋史部会,第 104 回史学会大会報告)」史学雑誌 116(1),2007 年。)
(*)「文献目録—西洋史 1」史學雑誌 116(1),2007 年。
(*)「文献目録—西洋史 2」史學雑誌 116(1),2007 年。
(*)(参考：毛利晶「古代ローマの municeps：古代の学者が伝える定義の解釈を中心に」史學雑誌 116(2),2007 年。)
(*)師尾晶子「中井義明著「古代ギリシアにおける帝国と都市—ペルシア・アテナイ・スパルタ」(ミネルヴァ書房)」史學雑誌 116(3),2007 年。
(*)「文献目録—西洋史 2」史學雑誌 116(5),2007 年。
(*)須藤寛史「古代オリエント一(西アジア・北アフリカ：2006 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 116(5),2007 年。
(*)芳賀満「古代オリエント二(西アジア・北アフリカ：2006 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 116(5),2007 年。
(*)齋藤久美子「イスラーム時代(西アジア・北アフリカ：2006 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 116(5),2007 年。
(*)高畠純夫「ギリシア(古代,ヨーロッパ：2006 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 116(5),2007 年。
(*)宮嵜麻子「ローマ(古代,ヨーロッパ：2006 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 116(5),2007 年。
(*)櫻井康人「西欧南欧(中世,ヨーロッパ：2006 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌

116(5),2007 年。
(*)井上浩一「ロシア・ビザンツ(中世,ヨーロッパ：2006 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 116(5),2007 年。
(*)山崎耕一「一般(近代,ヨーロッパ:2006 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 116(5),2007 年。
(*)栗田和典「イギリス(近代,ヨーロッパ：2006 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 116(5),2007 年。
(*)浜田道夫「フランス(近代,ヨーロッパ：2006 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 116(5),2007 年。
(*)進藤修一「ドイツ・スイス・ネーデルランド(近代,ヨーロッパ：2006 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 116(5),2007 年。
(*)山道佳子「南欧(近代,ヨーロッパ:2006 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 116(5),2007 年。
(*)澤田典子「森谷公俊著「アレクサンドロスの征服と神話」(興亡の世界史 1,講談社)」史學雑誌 116(6),2007 年。
(*)阿部俊大「服部良久・南川高志・山辺幾子編『大学で学ぶ西洋史(古代・中世 9』ミネルヴァ書房,2006)」史学雑誌 116(7),2007 年。
(*)吉村武彦「さらに古代学の風を:「学際」を乗り越えて(コラム歴史の風)」史学雑誌 116(7),2007 年。
(*)「文献目録—西洋史 3」史學雑誌 116(9),2007 年。
(*)島創平「松本宣郎著「キリスト教徒が生きたローマ帝国」(日本キリスト教団出版局)」史學雑誌 116(10),2007 年。
(*)佐藤宏之「民族考古学という風(コラム歴史の風)」史学雑誌 116(11),2007 年。
(*)(參考：浅野聡之「ローマ共和政末期におけるクリエンテラに関する一考察(平成 18 年度文学研究科修士論文要旨)」愛知学院大学文学部紀要 37,2007 年。)
(*)(參考：本間俊行「帝政期都市ローマにおける消防活動と社会的地位：消防隊とウィクス」(北海道大学文学部西洋史研究室)西洋史論集 10,2007 年。)
(*)秋田宣孝「飯田収治編著,関西学院大学西洋史学研究室編「西洋世界の歴史像を求めて」(田中穂積「セレウコス朝期におけるティグリス河畔のセレウケア—古典文献の叙述を通して)」関学西洋史論集 30,2007 年。
(*)(參考：伊藤貞夫「彙報・ルーマニア・アカデミー訪問報告」日本学士院紀要 61(2),2007 年。)
(*)柴田有年「木村尚三郎先生を偲ぶ」美術教育 290,2007 年。
(*)「二宮宏之 著作一覧」Quadrante：クヴァドランテ：四分儀：地域・文化・位置のための総合雑誌 9,2007 年。)
(*)スイリピエール「偉大な日本の歴史家二宮宏之氏を悼む(〈特集 I〉：歴史家二宮宏之の思想と仕事)」Quadrante：クヴァドランテ：四分儀：地域・文化・位置のための総合雑誌 9,2007 年。)
(*)長井治「二宮宏之先生の思い出(〈特集 I〉：歴史家二宮宏之の思想と仕事)」Quadrante：クヴァドランテ:四分儀:地域・文化・位置のための総合雑誌 9,2007 年。)
(*)中川和夫「キーパーソン(〈特集 I〉：歴史家二宮宏之の思想と仕事)」Quadrante：クヴァドランテ：四分儀：地域・文化・位置のための総合雑誌 9,2007 年。)

(*)工藤光一「二宮宏之先生を語る(〈特集 I〉：歴史家二宮宏之の思想と仕事)」Quadrante：クヴァドランテ：四分儀：地域・文化・位置のための総合雑誌 9,2007 年。)
(*)増谷英樹「二宮さんの体験的思い出(〈特集 I〉:歴史家二宮宏之の思想と仕事)」Quadrante:クヴァドランテ：四分儀：地域・文化・位置のための総合雑誌 9,2007 年。)
(*)上村忠男「系の歴史学から読解の歴史学へ—二宮宏之氏にとってのギンズブルク(〈特集 I〉：歴史家二宮宏之の思想と仕事)」Quadrante：クヴァドランテ：四分儀：地域・文化・位置のための総合雑誌 9,2007 年。)
(*)松村赳「二宮君の思い出(〈特集 I〉：歴史家二宮宏之の思想と仕事)」Quadrante：クヴァドランテ：四分儀：地域・文化・位置のための総合雑誌 9,2007 年。)
(*)戸邉秀明「いま,なお歴史家は愛するにたりるか?」--二宮宏之著『マルク・ブロックを読む』を読む(〈特集 I〉：歴史家二宮宏之の思想と仕事)」Quadrante：クヴァドランテ：四分儀：地域・文化・位置のための総合雑誌 9,2007 年。)
(*)千脇修「二宮,ブロック,カントロヴィッチ—西欧中・近世史における〈公的なるもの〉の概念(〈特集 I〉：歴史家二宮宏之の思想と仕事)」Quadrante：クヴァドランテ：四分儀:地域・文化・位置のための総合雑誌 9,2007 年。)
(*)成田龍一・安丸良夫・山之内靖他「歴史家・二宮宏之を語る(フェリス女学院大学 2006 年 12 月 18 日) (〈特集 I〉：歴史家二宮宏之の思想と仕事)」Quadrante：クヴァドランテ：四分儀：地域・文化・位置のための総合雑誌 9,2007 年。)
(*)(参考：高田邦彦「図像学より見た西洋文明(古代篇・序論：西洋個人主義の文明論的研究(7-9)」中京大学教養論叢 48(1-4),2007 年。)
(*)(参考：高田邦彦「図像学より見た西洋文明(古代篇・西洋個人主義の文明論的研究(10)」国際教養学部論叢 1(1),2008 年。)
(*)(参考：クルト・ワイッツマン/辻成史訳『古代・中世の挿絵芸術：その起源と展開』中央公論新社,2007 年。)
(*)(参考:南川高志編『知と学びのヨーロッパ史:人文学・人文主義の歴史的展開』Minerva 西洋史ライブラリー73,ミネルヴァ書房,2007 年。)
(*)(参考：香田芳樹「ヨーロッパ古代から中世における身体観とハビトゥス(習慣)の変遷」藝文研究 93,2007 年。)
(*)(参考：菊谷忠治「あらためて「自分」を問う」地中海歴史風土研究誌 25,2007 年。)
(*)(参考：菊谷忠治「身体と精神を巡る一考察」地中海歴史風土研究誌 26,2007 年。)
(*)(参考：鷲田小彌太『人生の哲学：哲学的幸福論』海竜社,2007年。)
(*)(参考：左近司祥子『哲学のことば』岩波ジュニア新書557,岩波書店,2007年。)
(*)(参考：金森誠也監修『「西洋の哲学・思想」がよくわかる本：ソクラテスからニーチェ,サルトルまで』PHP文庫,PHP研究所,2007年。)
(*)(参考：ジル・ドゥルーズ/小泉義之訳『意味の論理学(上下)』(エピクロス派)河出文庫,河出書房新社,2007年。)
(*)(参考:中澤務『ソクラテスとフィロソフィア—初期プラトン哲学の展開』ミネルヴァ書房,2007 年。)
(*)(参考:小島和男『プラトンの描いたソクラテス』学習院大学,博士(哲学),甲第 147 号,2007 年。)
(*)(参考：西尾浩二『プラトンの人間論：『国家』論考』京都大学,博士(文学),甲第 12731 号,2007 年。)

(*)(参考：金澤修『プロティノス「エンネアデス」に見られるプラトン解釈の諸相：初期作品から中期作品に於ける知性界瀬織り場面での数の生成論,およびその存在論的役割を中心とした考察』東京都立大学,博士(文学),乙第 1250 号,2007 年。)
(*)(参考：加藤一夫『プラトンの国の先住者たち』桜井書店,2007 年。)
(*)(参考：加藤信朗‘Socrates between Virtue and Pleasure’The Journal of Greco-Roman Studies 30,2007．)
(*)(参考：加藤信朗「プラトンの音楽教育論：それが教えるもの」(東京都立大学哲学会)哲学誌 49,2007 年。)
(*)(参考：田坂さつき『『テアイテトス』研究—対象認知における「ことば」と「思いなし」の構造』知泉書館,2007 年。)
(*)(参考：藤田博子「幼児期の人間形成論—プラトンの思想の流れの中にみるフレーベル」大阪芸術大学短期大学部紀要 31,2007 年。)
(*)(参考：竹田青嗣「時代を読み解く哲学者のキーワード(1)プラトン」みやびブックレット 13,2007 年。)
(*)(参考：白石弘幸「知識の概念的変遷：プラトンからドラッガー迄とそれ以降」金沢大学経済学部論集 28(1),2007 年。)
(*)(参考：小林康夫「UT オデュッセイア(3)プラトン滅びず,あるいは「数」と「次元」」UP36(3),2007 年。)
(*)(参考：山口栄一「プラトンからはじめる教育学入門(Lesson1-12)」養護教育 48(7-12),2007 年/49(2-7),2008 年。)
(*)(参考：リアナ・トルファシュ『シンボル理論と伝統思想—プラトン的キリスト教思想の意味世界』大河書房,2007 年。)
(*)(参考：竹田青嗣「時代を読み解く哲学者のキーワード(2)アリストテレス」みやびブックレット 14,2007 年。)
(*)(参考：Anrea Bonazzi「アリストテレス・トマス的存在論研究へのやさしい導入」キリスト教文化研究所紀要 22(1),2007 年。)
(*)(参考：山川偉也「アリストテレスとディオゲネス」桃山学院大学総合研究所紀要 33(1),2007 年。)
(*)(参考：野中郁次郎「哲学 アリストテレス,マキャヴェリ,ドストエフスキー---人の営みの真理を知る(特集 仕事に役立つ「歴史・古典」入門)—(自分が劇的に変わる!生涯手元に置きたい「本物の読書」のススメ 脱・教養コンプレックス!「必読 100」ガイド)」プレジデント 45(3),2007 年。)
(*)(参考：相澤康隆「知識は情念か奴隷か—アリストテレスのアクラシア論とソクラテスのテーゼ」東京大学大学院人文科学系研究科・文学部哲学研究室論集 26,2007 年。)
(*)(参考：渡辺邦夫「アリストテレスにおける理性と自己知(シンポジウム ヘーゲルとアリストテレス「デ・アニマ」)」ヘーゲル哲学研究 13,2007 年。)
(*)谷隆一郎「加藤信朗著《アウグスティヌス『告白録』講義》を読んで—魂の神への道行き」(聖心女子大学キリスト教文化研究所)宗教と文化 25,2007 年。
(*)(参考：堺正憲「アウグスティヌスの探究における新プラトン主義哲学の影響について—『告白録』・『神国論』・『三位一体論』に基づいての一考察」新プラト

ン主義研究 7,2007 年。)
(*)(参考：ケネス・シェンク/土岐健治・木村和良訳『アレクサンドリアのフィロン—著作・思想・生涯』教文館,2007 年。)
(*)(参考：内山勝利研究代表『哲学の古典的素型とその変容：ヘレニズム的なるものの新視座を求めて』内山勝利,科学研究費補助金研究成果報告書,2007 年。)
(*)(参考：近藤智彦「運命論と決定論—ストア派・ライプニッツ・ラプラス」創文 500,2007 年。)
(*)(参考：角田幸彦『キケローにおける哲学と政治：ローマ精神史の中点』早稲田大学,博士(政治学),乙第 2087 号,2007 年。)
(*)(参考：金澤修『プロティノス「エンネアデス」に見られるプラトン解釈の諸相：初期作品から中期作品に於ける知性界成立場面での数の生成論,およびその存在論的役割を中心とした考察』東京都立大学,博士(文学),乙第 1250 号,2007 年。)
(*)(参考：小林雅夫「シンポジウム 歴史のなかの『ヒューマニズム』—はじめに」地中海研究所紀要 5,2007 年。)
(*)(参考：小林雅夫「ローマ・ヒューマニズムの成立(シンポジウム 歴史のなかの『ヒューマニズム』)」地中海研究所紀要 5,2007 年。)
(*)(参考：根占献一「ルネサンス・ヒューマニズムの意義—特にフランスとドイツの場合(シンポジウム 歴史のなかの『ヒューマニズム』)」地中海研究所紀要 5, 2007 年。)
(*)(参考：曽田長人「近代ドイツのヒューマニズム(シンポジウム 歴史のなかの『ヒューマニズム』)」地中海研究所紀要 5, 2007 年。)
(*)(参考：渡邉浩明・渡邉祐子「ルネサンス期イタリアの女性—その社会状況とパトロネージ」梅光学院大学論集 40,2007 年。)
(*)(参考：和田廣「ビザンツ知識人とヒューマニズム(シンポジウム 歴史のなかの『ヒューマニズム』)」地中海研究所紀要 5,2007 年。)
(*)(参考：曽田長人「近代ドイツとヒューマニズム(シンポジウム 歴史のなかの『ヒューマニズム』)」地中海研究所紀要 5,2007 年。)
(*)(参考：加藤守通「感想—ヒューマニズム「研究」とヒューマニズムの「精神」の遭遇」」地中海研究所紀要 5,2007 年。)
(*)(参考：『ローマの偉人：キケロ その知れざる実像とは?』週刊 古代文明 52,デアゴスティーニ,2007 年。)
(*)(参考：加藤和哉「トマス・アクィナスの至福論とアリストテレス」聖心女子大学論叢 109,2007 年。)
(*)(参考：加藤和哉「トマス・アクィナスの至福論とアリストテレス」創文 504,2007 年。)
(*)(参考：加藤守道「ジョルダーノ・ブルーノにおける新プラトン主義--『英雄的狂気の場合』(シンポジウム 新プラトン主義とルネサンス思想)」新プラトン主義研究 7,2007 年。)
(*)(参考：根占献一「イタリア・ルネサンスにおけるプラトン哲学とキリスト教神学(シンポジウム 新プラトン主義とルネサンス思想)」新プラトン主義研究 7, 2007 年。)

(*)(参考：大貫義久「ジョバンニ・ピーコ・デッラ・ミランドラのプラトン主義--「自然と人間」という観点から(シンポジウム 新プラトン主義とルネサンス思想)」新プラトン主義研究 7,2007 年。)
(*)(参考:坂庭淳史「プラトンと愛智会,シュリング—ヴェネヴィーチフの詩人像を中心に(プラトンとロシア[2])「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 20,2007 年。)
(*)(参考：下里俊行「19 世紀 30-50 年代ロシアのプラトンン解釈—神学的・美学的・社会学的・哲学的読解の交錯(プラトンとロシア[2])「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 20,2007 年。)
(*)(参考：根村亮「二つの『プロタゴラス』論について—B.ソロヴィヨフと C.トゥルベツコーイ(プラトンとロシア[2])「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 20,2007 年。)
(*)(参考：北見諭「持続とイデア—ロースキーの形而上学におけるベルグソンとプラトン」(プラトンとロシア[2])「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 20, 2007 年。)
(*)(参考：大須賀史和「ローセフとプラトン主義(2)—A.ローセフ『神話の弁証法』(1930 年)における宗教哲学(プラトンとロシア[2])「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 20, 2007 年。)
(*)(参考：大久保正健「ピュータニズムとケンブリッジ・プラトン学派：「良心」を巡って(自由論題報告)」ピューリタニズム研究 1(創刊号),2007 年。)
(*)(参考：金森誠也『「西洋の哲学・思想」がよくわかる本：ソクラテスからニーチェ、サルトルまで』PHP 研究所,2007 年。
(*)(参考：金森誠也『世界名言 100 選：ソクラテスからビル・ゲイツまで』PHP 研究所,PHP 文庫,2007 年。)
(*)(参考：金森誠也『人生論からのメッセージ：いかに生きるべきか、真理とは何か』PHP 研究所,2007 年。)
(*)(参考：鷲田小彌太『あの哲学者にでも聞いてみるか：ニートや自殺は悪いことなのか』祥伝社,祥伝社新書 97,2007 年。)
(*)(参考：柳沼重剛『地中海世界を彩った人たち：古典にみる人物像』岩波書店,岩波現代文庫 187,2007 年。)
(*)(参考:内山勝利責任編集『帝国と賢者:地中海世界の叡智』哲学の歴史 2,中央公論社, 2007 年。)
(*)(参考：羽仁進『僕がいちばん願うこと：エピクロス的生活実践』岩波書店,2007 年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編『中世と近世のあいだ：14 世紀におけるスコラ学と神秘思想』知泉書院,中世研究 12,2007 年。)
(*)(参考：稲垣良典「「神学大全」(スンマ)とは何か」創文 494,2007 年。)
(*)(参考：周藤多紀「‘SYMVLON’,‘SEMEION’,‘NOTA’—ボエティウスによる『命題論』(16a3-8)のラテン訳」中世思想研究 49,2007 年。)
(*)(参考：浅香佳子「「ジェフリー・チョーサーの自然観」」国際研究論叢：大阪国際大学紀要 20(3),2007 年。)
(*)(参考：戸田聡「シリア語キリスト教最初の著作家パルダイサン—或いは,人文学の存在意義」創文 494,2007 年。)

(*)(参考：ジャンバッティスタ・ヴィーコ/上村忠男訳『新しい学(1-3)』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,2007-2008 年。)
(*)(参考：根占献一「イタリアのアカデミー」創文 502,2007 年。)
(*)(参考：根占献一「イタリア・ルネサンスにおけるプラトン哲学とキリスト教神学(シンポジウム 新プラトン主義とルネサンス思潮)」新プラトン主義研究 7,2007 年。)
(*)(参考：馬場朗「十八世紀におけるプロメテウス的芸術の帰趨—ディドロと対峙するピュグマリオン・ファルコネ」群馬県立女子大学紀要 28,2007 年。)
(*)郡司良夫「日本におけるベルグソン研究」(英和大学人文科学研究室)紀要：人間文化 10,2007 年。
(*)郡司良夫『ベルグソン書誌』金沢閒圃閣,閒文献類従 10,2007 年。
(*)(参考：磯部悠紀子「ベルグソン哲学の「場所」論--『アリストテレスの場所論』を起点として」聖心女子大学大学院論集 29(2),2007 年。)
(*)(参考：坂本貴志「視霊者の閾：「魂の不死性」を巡るシラー,カントの問い(河中正彦教授追悼号)」山口大学独仏文学 29,2007 年。)
(*)荒木繁他編註『幸若舞(1,2,3)』ワイド版東洋文庫,東洋文庫,2007 年。
(*)後藤博子・高井恵子執筆,北島新平挿絵『群馬の民謡傑作選』(「百合若大臣」)あかぎ出版,2007 年。
(*)石森章太郎『なんなんだ?なんなんだ!』角川コミックス,石森章太郎漫画全集,角川書店,角川グループパブリッシング(発売),2007 年。
(*)『ポール・テリー=Paul Terry』(「イソップの狐とアヒル」)世界アニメーション映画史 15,コロムビアミュージックエンタテイメント(発売),紀伊國屋書店(販売),2007 年。
(*)イソップ原作/すまいるママ絵・文『アリとキリギリス：イソップ物語』にいるぶっくす,すまいるママ,めいさくステッチ,ヴィレッジブックス,ソニー・マガジン(発売),2007 年。
(*)イソップ原作/主婦と生活社編『イソップおはなし絵本』3 歳から親子で楽しむ本,主婦と生活社,2007 年。
(*)イソップ原作/よこたきよし文；飯岡千江子,いたやさとし,武井淑子絵『読み聞かせイソップ 50 話』チャイルド社,2007 年。
(*)植西聰『ヘタの人生論よりイソップ物語：こんなに奥が深い“大人の童話”』河出文庫,河出書房新社,2007 年。
(*)佐木隆三「漂流・日本社会 学校の授業にイソップ童話を」世界週報 87(49),2007 年。
(*)志筑忠雄没後 200 年記念国際シンポジウム実行委員会,長崎「オランダの言語と文化」科目設立記念ライデン大学日本語学科設立 150 年記念国際シンポジウム編『蘭学のフロンティア：志筑忠雄の世界：志筑忠雄没後 200 年シンポジウム報告書』(イフォ・スミッツ「司馬江漢とイソップ寓話」)長崎文献社,2007 年。
(*)(参考：佐藤一好「董徳[ヨウ]『可如』小論—呂坤『無如』との関係に注目して」(イソップ)大阪教育大学紀要 1・人文科学 56(1),2007 年。)
(*)(参考：黄華珍「寓話の魅力を論ず--『荘子』・『百喩経』・『イソップ物語』の寓話を例として」岐阜聖徳学園大学紀要・外国語学部篇 46,2007 年。)
(*)荒木正純「「羅生門」と明治の「蟋蟀」・「鬘」言説—イソップ「蟻と蟋蟀」/謡曲「羅

生門」/柳浪「今戸心中」/鷗外「即興詩人」」(筑波大学)比較文学研究 3,2007 年。
(*)(参考：佐藤茂樹「『かにの本』再考」関東学院大学文学部紀要 112,2007 年。)
(*)(参考:石井洋二郎「近代日本の西洋文学者たち(特集 近代日本の学者 101)」大航海 64,2007 年。)
(*)浅井健二郎編『近代日本文学における「否定生」の契機と働き』日本独文学会, 日本独文学会研究叢書 51,2007 年。
(*)(参考：ホメーロス/小田実訳「イーリアス[第 1 巻]」すばる 29(7),2007 年。)
(*)(参考：小黒康正「水の女をめぐる「翻訳」論：ホメロス『オデュッセイア』とフケー『ウンディーネ』」九州ドイツ文学 21,2007 年。)
(*)(参考：高橋宏幸研究代表『古典古代における書簡文学に関する研究』高橋宏幸,2007 年。)
(*)(参考：西村賀子「西洋古典学におけるジェンダー研究—その歴史と展望(1,2)」和歌山県立医科大学保健看護学部紀要 4,2007 年/5,2008 年。)
(*)(参考：植月恵一郎「農耕詩の諸変奏—序(Symposia 農耕詩の諸変奏)」大会 Proceedings 79,2007 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読 日本語でラテン文学散歩(8)ウェルギリス『農耕詩』」一冊の本 12(6),2007 年。)
(*)(参考：石川健治「ラオコオンとトロヤの木馬(特集 日本国憲法—施行 60 年のいま)」論座 145,2007 年。)
(*)(参考：Quintilianus Marcus Fabius・萬澤正美訳「マールクス・ファビウス・クイーンテリアーヌス「弁論家の教育 第一巻」(翻訳)」(首都大学東京都市教養学部人文・社会系)人文学報 390,2007 年。)
(*)(参考：池上正示「ジャーナル ギリシャ悲劇は現代人に何を訴えるか いま甦る『トロイアの女』」望星 38(1),2007 年。)
(*)沓掛良彦「ギリシア古典がとりもつ縁」(藤原書店)「環」31,2007 年。
(*)中井久夫「私の日本語雑記(7)では古典語はどうなんだろうか」図書 700,2007 年。
(*)(参考：木原武一『大人のための日本の名著必読書 50』海竜社,2007 年。)
(*)村松晋「波多野精一と敗戦 その「明治」認識をめぐって」宗教研究 80(4),2007 年。
(*)村松晋「波多野精一の時代認識」聖学院大学論集 19(2),2007 年。
(*)木田元『反哲学入門』新潮社,平成 19 年(→平成 22 年,新潮文庫版)。
(*)佐藤孝志「ますます高ずる私のギリシャ熱中症」(渋沢栄一記念財団)青淵 699,2007 年。
(*)木村健治「適塾記念講演会：古代ギリシア・ローマの笑い、上方の笑い、喜劇の場合」適塾 40,2007 年。
(*)三浦節夫「明治後期における井上哲次郎と井上円了の思想対立」比較思想研究 34,2007 年。
(*)三浦節夫「井上円了の初期思想---『真理金針』以前」近代仏教 1,2007 年。
(*)清水乞「井上円了における近代西洋哲学研究の原点---『明治十六年秋稿録』とその展開」井上円了センター年報 16,2007 年。
(*)柴田隆行「哲学と<建学の精神>---ドイツの諸大学から学ぶ」井上円了センター年報 16,2007 年。
(*)三浦節夫「井上円了の初期思想(1,2)」井上円了センター年報 16,2007 年。
(*)佐藤優・竹内洋「いまなぜ蓑田胸喜なのか—封印された昭和思想」諸君 39(7),2007 年。
(*)(参考：澤井繁男「真理の探究—ルネサンス期の科学の進歩」関西大学文学論集 57(1),2007

年。)
(*)(参考:ヤーコプ・ブルクハルト/新井靖一訳『イタリア・ルネサンスの文化』筑摩書房,2007年。)
(*)(参考:瀬木慎一「詩人たちの窓—詩と絵画の照応(4)ブルクハルト対ホイジンハ」現代詩手帖 50(4),2007 年。)
(*)(参考:沼田裕之「20 世紀日本から見たブルクハルトとルソー:「ルネサンス」と「子ども」を発見させた原動力(学術研究所主宰講演会記録)」鎌倉女子大学学術研究所報 7,2007 年。)
(*)(参考:K.リーゼンフーバー/鈴木国伸訳「マリシリオ・フィチーノのプラトン主義と教父思想:キリスト教哲学の一展望」カトリック研究 76,2007 年。)
(*)(参考:伊藤博明「提題 知識人からユマニストへ—15 世紀イタリアの知的世界」中世思想研究 49,2007 年。)
(*)(参考:岩崎宗治「『ロミオとジュリエット』におけるダイアロジズム:カーニヴァルとペトラルキズムの混淆」こころとことば 6,2007 年。)
(*)高田康成「書評(37)うしろ指さされても近藤恒一訳『ペトラルカ=ボッカチョ往復書簡集』UP36(3),2007 年。)
(*)伊藤直子「大正期のオペレッタ受容:《ボッカチオ》を例に」(国立音楽大学)研究紀要 42,2007 年。
(*)(参考:グウェンドリン・トロッテン/伊藤博明・星野徹訳『ウェヌスの子どもたち:ルネサンスにおける美術と占星術』ありな書房,2007 年。)
(*)(参考:伊藤博明責任編集『ルネサンス:世界と人間の再発見』中央公論新社,哲学の歴史 4,2007 年。)
(*)(参考:藤谷通夫「ダンテ『神曲』の近年の研究動向」イタリア学会誌 657,2007 年。)
(*)(参考:河島英昭「ダンテ『神曲』への誘い(その 3)地獄のとらえ方」図書 695,2007 年。)
(*)(参考:河島英昭「ダンテ『神曲』への誘い(その 4)盗賊たちの地獄」図書 702,2007 年。)
(*)須賀由紀子「生活文化のための教養教育の探求」(ダンテ)実践女子大学生活科学部紀要 44,2007 年。
(*)稲賀繁美「書評 洋の東西を自在に渉猟した、膨大にして繊細なる知の楕円軌道の集大成—Sukehiro Hirakawa,Japan's Love-Hate Relationship with the West,Global Oriental ,2004,557pp.」(ダンテ)日本研究 35,2007 年。
(*)(参考:木ノ脇悦郎訳「エラスムスによる対話 天国から締め出されたユリウス(1-9)」福音と世界 62(4,5,6,7,8,9,10,11,12),2007 年。)
(*)(参考:大川なつか「聖パウロ学校 St.Paul's School におけるキリスト教的人文主義教育に関する一考察—コレット,エラスムス,リリーの「言葉の教育」の比較を通して」キリスト教教育論集 15,2007 年。)
(*)(参考:海津淳「『エラスムスの勝利と悲劇』に見る S.ツヴァイクのエラスムス観」桜美林論集 34,2007 年。)
(*)(参考:池上英洋「ペトラルカ『凱旋』と凱旋図像」(『イメージとテキスト』所収,ブリュッケ,2007 年。)
(*)高田康成「書評(37)うしろ指さされても 近藤恒一編訳『ペトラルカ=ボッカチオ往復書簡』」UP36(3),2007 年。)

(*)(参考：池上英洋「アンドロギュノスの憂鬱」ユリイカ 3 月号,2007 年。
(*)(参考：池上英洋『血みどろの西洋史』河出書房新社,2007 年。)
(*)(参考：ジン・ガイ/門間都喜郎訳『トマス・モア』晃洋書房,2007 年。)
(*)(参考：鈴木宣則「トマス・モア『ウートピア』の再解釈」鹿児島大学教育学部研究紀要人文社会科学編 59,2007 年。)
(*)(参考：ラブレー/宮下志朗訳『第三之書』(ちくま文庫--「ガルガンチュアとパンタグリュエル 3」)筑摩書房,2007 年。)
(*)(参考：ミハイル・バフチン/杉里直人訳『ミハイル・バフチイ全著作 7—フランソワ・ラブレーの作品と中世・ルネサンスの民衆文化—他』水声社,2007 年。)
(*)(参考：大久保康明『モンテェーニュ』Century books,人と思想 169,清水書院,2007 年。)
(*)(参考：荒木昭太郎『モンテーニュとの対話=Entretien avec Montaigne』春秋社,2007 年。)
(*)(参考：河添剛訳『ラ・フォンテーヌ寓話とペローの昔ばなし：刺繍と編物図案集』カラーフィールド,2007 年。)
(*)(参考：上田督「歌われた言葉 ルソーと『言語起源論—あわせて旋律と音楽的写生について論ず』」フランス文学研究 27,2007 年。)
(*)(参考：ヴィクトール・デル・ソトオ/鎌田博夫・岩本和子訳『スタンダールの生涯』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,2007 年。)
(*)(参考：鳥山定嗣「ポール・ヴァレリーにおける虚実の境--『ナルシス断章』をめぐって」仏文研究 38[含 フランス語文要旨],2007 年。)
(*)(参考：吉井亮雄「ジッド『オイディプス』校訂版をめぐって」Stella 26,2007 年。)
(*)(参考：武藤功「神殺しとしての殺人—カミュ『異邦人』・正義なき正義の寓話」葦牙 33,2007 年。)
(*)(参考：柳光子「ラシーヌのアカデミー演説(訳註)」Stella 26,2007 年。)
(*)(参考：木村三郎「版画家ユベール=フランソワ・グラヴロの挿絵についてのノート」(オウィディウス)日本大学芸術学部紀要 46,2007 年。)
(*)(参考：青山昌文「ディドロ『絵画論断章』訳註：その 7」(オウィディウス)放送大学研究年報 25,2007 年。)
(*)(参考：中川裕美「シンポジウム報告「オウィディウス・挿絵・アーカイブ—デジタル時代の図像学を考える」報告」日仏美術学会会報 27,2007 年。)
(*)(参考：沼田裕之「20 世紀から見たブルクハルトとルソー：「ルネサンス」と「子ども」を発見させた原動力」鎌倉女子大学学術研究所報 7,2007 年。)
(*)(参考：佐藤一好「董徳[ヨウ]『可如』小論—呂坤『無如』との関係に注目して」(イソップ)大阪教育大学紀要 1・人文科学 56(1),2007 年。)
(*)(参考：黄華珍「寓話の魅力を論ず--『荘子』・『百喩経』・『イソップ物語』の寓話を例として」岐阜聖徳学園大学紀要・外国語学部篇 46,2007 年。)
(*)(参考：佐藤茂樹「『かにの本』再考」関東学院大学文学部紀要 112,2007 年。
(*)(参考：武田利勝「〈見えないもの〉への眼差し—ヴィンケルマンと A.W.シュレーゲルにおける〈観察〉と〈記述〉の問題」Waseda Blätter 14,2007 年。)
(*)(参考：井藤元「シラー『美的書簡』における「遊戯衝動」：ゲーテ文学からの解明」研究室紀要 33,2007 年。)
(*)(参考：井藤元「崇高論によるシラー美的教育論再考：『美的書簡』再構築のための布石(19--【A】教育理論・思想・哲学(1),2.一般研究発表 II,発表要旨)」日本

教育学会大会研究発表要項 66,2007 年。)
(*)(参考：松山雄三「Fr.シラーの歴史研究にみる人間形成論」教育思想 34,2007 年。)
(*)(参考：松山雄三「Fr.シラーの人間学思想と表象様式について：自然状態から道徳的状態を経て美的状態へ」東北薬科大学一般教育関係論集 20,2007 年。)
(*)(参考：松山雄三「Fr.シラーの『ヴァレンシュタイン』三部作について：歴史劇の試み」東北薬科大学一般教育関係論集 20,2007 年。)
(*)(参考：鈴木将史「言語の機能しない古代：ハウプトマン『オデュッセウスの弓』と『ドイツ韻律による祝典劇』について〈特集 近代における古代〉」ドイツ文学：Neue Beitrage zur Germanik133,2007 年。)
(*)(参考：松村朋彦「ローマのカーニヴァルとドイツ文学：ゲーテと E.T.A ホフマン」京都大學文學部紀要 46,2007 年。)
(*)(参考：安岡正義「若きレッシングの宗教と学問(1)」大分大学経済論集 58(5),2007 年。)
(*)(参考：坂本貴志「視霊者の閾：「魂の不死性」を巡るシラー,カントの問い(河中正彦教授追悼号)」山口大学独仏文学 29,2007 年。)
(*)(参考：安酸敏眞「アウグスト・ベークと文献学」北海学園大学人文論集 37,2007 年。)
(*)(参考：平野篤司「プロテスタンティズムとしての西洋古典文献学：ヘルダーリンとニーチェ」人文・自然研究 1,2007 年。)
(*)(参考：手塚富雄・浅井真男訳『ヒュペーリオン、エムペドクレス(1,2)』新装版,ヘルダーリン全集 1,2,河出書房新社,2007 年。)
(*)(参考:友田次郎「だが留まるものをうち建てるのは詩人だ—ヘルダーリンとその故郷像」独文学報 23,2007 年。)
(*)(参考：畠山寛『グラマティカ・ポエティカ：後期ヘルダーリーンの詩文法』東京大学,博士(文学),甲第22899号,2007年。)
(*)(参考：勝國興『ニーチェ哲学とその音楽的律動の圏域』関西大学,博士(文学),乙第 376 号,2007 年。)
(*)(参考：山本惠子『芸術の生理学：ニーチェによる生の分節化の試み』早稲田大学,博士(教育学),乙第 2118 号,2007 年。)
(*)(参考：平木幸二郎「客観的世界と人間的生の世界(1,2)」(ニーチェ)人文科学論集 人間情報学科編 41,2007 年/43,2009 年。)
(*)(参考：杉田弘子「新渡戸稲造の「武士道」とニーチェの強者の哲学」武蔵大学人文学会雑誌 38(4),2007 年。)
(*)(参考：水落美也子「初期リルケと新プラトン主義との出会い並びにその展開—創造と芸術の視点をめぐって」新プラトン主義研究 7,2007 年。)
(*)(参考：今道友信「追悼と敬仰の向うの影—ソークラテースの道(ヤン・パトチカのために—チェコの哲学者・生誕 100 年。)」思想 1004,2007 年。)
(*)(参考：伊坂青司・原田哲史編『ドイツ・ロマン主義研究』お茶の水書房,2007 年。)
(*)(参考：浅井健二郎編『ドイツ近代文学における「否定性」の契機とその働き』日本独文学会,日本独文学会研究叢書 51,2007 年。)
(*)(参考：上村盛人「ウォルター・ペイターの審美主義(6)「ヴィンケルマン」論について」滋賀県立大学国際教育センター研究紀要 12,2007 年。)
(*)(参考：武田利勝「〈見えないもの〉への眼差し—ヴィンケルマンと A.W.シュレーゲルにおける〈観察〉と〈記述〉の問題」Waseda Blatter 14,2007 年。)

(*)(参考：高田邦彦「図像学より見た西洋文明(古代篇)(7)：西洋個人主義の文明論的研究」中京大学教養論叢 48(2),2007 年。)
(*)(参考：S.Ramsey David「心の技法—チョサーの『トロイルスとクレセイデ』と書簡術」ノートルダム清心女子大学紀要,外国語・外国文学編 31(1),2007 年。)
(*)(参考：シェークスピア/坪内逍遙訳『ザ・シェークスピア：全戯曲「全原文+全訳」全一冊』愛蔵新版,第三書館,2007 年。)
(*)(参考：Shakespeare/prod.by Jonathan Miller“Troilus&Cressida”ビデオレコード,The Shakespearecollection24,Telesis International[distributor],2007.)
(*)(参考 : 日本シェイクスピア協会編『シェイクスピアとその時代を読む』研究社,2007 年。)
(*)(参考：小田島雄志『シェイクスピアの人間学』新日本出版社,2007 年。)
(*)(参考：川地美子『シェイクスピアの世界』成美堂,2007 年。)
(*)(参考：シェイクスピア/安西徹雄訳『ジュリアス・シーザー』光文社古典新釈文庫,光文社,2007 年。)
(*)(参考 : 由井武夫『私たちのシェイクスピア—ヒーロウたちの熱きたたかい』新水社,2007 年。)
(*)(参考：加島康彦「シェイクスピアとセネカ--『ペリクリーズ』における悲喜劇要素」安田女子大学大学院文学研究科紀要,合冊 13,2007 年。)
(*)(参考：西山正容『一人旅のハムレット』大阪教育図書,2007 年。)
(*)(参考：関永光彦「「天上の戦い」--ミルトン『楽園喪失』より(特集 世界文学に見る戦争)」櫻美林世界文学 3,2007 年。)
(*)(参考 : 能口盾彦「フィールディング劇管見(1) :『親指トム一代記』から『悲劇中の悲劇,親指トム一代記』(同志社大学言語文化教育研究センター)言語文化 10(19),2007 年。)
(*)(参考：山崎有介「ウィリアム・ブレイクの喜劇性」長崎ウエスレヤン大学現代社会学部紀要 5(1),2007 年。)
(*)(参考：鈴木ふさ子「水中のエロスに溺れて—Wilde の“The Fisherman and His Soul”に見られる〈ヘレニズム〉と〈ヘブライズム〉」(日本大学英文学会)英文学論叢 55,2007 年。)
(*)(参考：Laurence Housman/丸谷晴康訳「我が兄 A.E.ハウスマン(1,2)」北里大学一般教育紀要 12,2007 年/13,2008 年。)
(*)(参考：小野俊太郎「英文学教育とアリストテレスの詩学」成蹊英語英文学研究 11,2007 年。)
(*)(参考：山口拓夢「ギリシア悲劇とヨーロッパの古層」人文 6,2007 年。)
(*)(参考：石見衣久子「ディオニューソスとギリシア悲劇」比較宗教思想研究 7,2007 年。)
(*)(参考：吉田敦彦『ギリシァ悲劇を読む—ソポクレス『ピロクテテス』にみる教育劇』青土社,2007 年。)
(*)(参考：北野雅弘「ギリシア悲劇と現代演劇(1)シェクナーの Dionysus in 69」群馬県立女子大学紀要 28,2007 年。)
(*)上村くにこ「ギリシア悲劇と現代日本--「恐い女性」をめぐって」心の危機と臨床の知 8,2007 年。)
(*)(参考：時田浩「ブレヒトのコロス：『アンティゴネー』改作における非音楽劇化」京都産業大学論集・人文科学系列 36,2007 年。)

(*)(参考：山口拓夢「ギリシア悲劇とヨーロッパの古層」人文 6,2007 年。)
(*)(参考：山崎有介「現代社会と喜劇：ギリシア神話から現代喜劇への変遷」長崎ウエスレアン大学地域総合研究所研究紀要 5(1),2007 年。)
(*)(参考：山崎有介「ウィリアム・ブレイクの喜劇性」長崎ウエスレアン大学現代社会学部紀要 5(1),2007 年。)
(*)(参考：安村典子研究代表『ギリシア喜劇の深層と,その今日的意義』安村典子,2007 年。)
(*)(参考：平田隆一「“It’s Greek to me”と“C’est de l’hebreu pour moi”―ヨーロッパ諸語における「チンプンカンな言語」とその由来」東北学院大学論集・歴史と文化 42,2007 年。)
(*)(参考：貝澤哉「対話化されるイデア―バフチンのドストエフスキイ論とロシア・プラトニズムのコンテクスト(特集 ドストエフスキー)」ユリイカ 39(13),2007 年。)
(*)納富信留「哲学の成立―古代ギリシアから現代日本に向けて(特集：哲学とは何か)」哲学 58,2007 年。
(*)湯浅弘「和辻哲郎と生の哲学--「ニイチェ研究」を中心に」比較思想研究 29,2007 年。
(*)王前「洋学派林達夫における思想と政治」思想史研究 7,2007 年。
(*)椎根和『平凡パンチの三島由紀夫』新潮社,2007 年(→平成 21 年,新潮文庫)。
(*)「PORTRAIT(vol.6)『新訳走れメロス 他四篇』が発売中 森見登美彦氏」Web & publishing 編集会議 75,2007 年。)
(*)太宰治『走れメロス』改訳角川文庫,角川グループパブリッシング「(発売),角川書店,2007 年。
(*)太宰治・村上豊画『走れメロス』新装版講談社青い鳥文庫,講談社,2007 年。
(*)秋川雅与「色のイメージを利用して読みを深め、詠みを楽しむ実践報告『走れメロス』,「短歌」創作」愛媛国文と教育 39,2007 年。
(*)「PORTAIT(vol.6)『新訳 走れメロス 他四編』が発売中 森見登美彦氏」Web & pubkishing 編集会議 75,2007 年。
(*)三浦修一「やはり「メロス」はおもしろい：文学的文章で「確かな学力」を育てるために」横浜国大国語教育研究 26,2007 年。)
(*)安野光雅「わたしのこだわり(17)「走れメロス」にこだわる」図書 703,2007 年。
(*)岩崎晴彦「逆転の笑劇(ファルス)「走れメロス」：「神話」を「民話」に再転換する喜劇精神」文学と教育 207,2007 年。
(*)松本修「「走れメロス」の語りに着目した読みの交流」Group Bricolage 1,2007 年。
(*)渡邊澄子『野上彌生子』日本の作家 100 人,人と文学,勉誠出版,2007 年。
(*)(参考：神崎繁＋三浦雅士「大航海インタビュー、翻訳が創造したもの(特集 中世哲学復興)」大航海 62,2007 年。)
(*)神崎繁「「日本哲学史」の可能性(特集 近代日本の学者 101)」大航海 64,2007 年。)
(*)松岡洸司「バレト写本：翻訳と語法(大輪靖宏教授退休記念号)」上智大学国文学科紀要 24,2007 年。
(*)加藤早苗「明治期聖書訳語「よみ」に関する一考察」岐阜聖徳学園大学国語国文学 26,2007 年。
(*)水垣渉「序 日本基督教学会と神学・基督教学」日本の神学 46,2007 年。
(*)神田盾夫「「出会い」について」ペデラヴィウム会通信 29,2007 年。

(*)神田盾夫「イエス・キリストとの出会い--「共同」の底にあるもの」ペデラヴィウム会通信 29,2007 年。
(*)川田殖「私の歩みの中から—神田[盾夫]先生との出会いを中心に」ペデラヴィウム会通信 29,2007 年。
(*)川田殖・佐野好則・小川隆雄(他)「シンポジウム・出会いについて—いままでの歩みから」ペデラヴィウム会通信 29,2007 年。
(*)棟居勇「追悼 松永希久夫さんとの五十年」ペデラヴィウム会通信 29,2007 年。
(*)川田殖「鈴木節子さん、追悼によせて」(「プラトン会」) ペデラヴィウム会通信 29,2007 年。
(*)(参考：川田殖「ロイドさんの大学論」ペデラヴィウム会通信 30,2007 年。)
(*)(参考：松丸和弘「フランスにおける教養教育の危機と 2005 年の社会暴動」ペデラヴィウム会通信 30,2007 年。)
(*)(参考：中井章子「大学について—18 世紀末、イェーナに集まったドイツ初期ロマン派の視点より」ペデラヴィウム会通信 30,2007 年。)
(*)川島重成「哲学講演シリーズの報告」ペデラヴィウム会通信 30,2007 年。)
(*)(参考：松丸和弘「レヴィナスとギリシアの遺産」ペデラヴィウム会通信 30,2007 年。)
(*)(参考:山口誠一「シンポジウム討論状況報告—ヘーゲル・ヌースの響き(シンポジウム ヘーゲルとアリストテレス「デ・アニマ」)」ヘーゲル哲学研究 13,2007 年。)
(*)(参考：伊藤功「ヘーゲルの『デ・アニマ』解釈(シンポジウム ヘーゲルとアリストテレス「デ・アニマ」)」ヘーゲル哲学研究 13,2007 年。)
(*)(参考:五郎丸仁美「悲劇作品としての『ツァラトストラ』」ペデラヴィウム会通信 30,2007 年。)
(*)(参考：田中敦「ハイデッガー。存在の問いとその課題。--哲学的にギリシアに接近するとは?」ペデラヴィウム会通信 30,2007 年。)
(*)(参考：齋藤元紀「ハイデガーとニーチェ--『存在と時間』における〈思考の経験〉をめぐって」国士舘哲学 11,2007 年。)
(*)(参考：齋藤元紀「偶然性の解釈学--ハイデガーと九鬼」比較文化史研究 8,2007 年。)
(*)(参考：『イタリア十五・十六世紀における古代建築の解釈について』東京芸術大学 2005 年,(科研費)2007 年。)
(*)(参考：伊藤重剛研究代表,林田義伸,伊藤重剛,吉武隆一編『ギリシア古代都市メッセネのアスクレオピオス神域の建築及び考古学的国際共同調査：中間報告』熊本大学大学院自然科学研究科伊藤研究室,2007 年。)
(*)(参考：溝口明訓『数と建築：古代建築技術を支えた数の世界』(ウィトルウィウス)鹿島出版会,2007 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・林田義伸・安井伸顕「地中海古代都の研究(120)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 46,2007 年。)
(*)(参考：吉田綱市『西洋建築史』建築学入門シリーズ,森北出版,2007 年。)
(*)(参考:木川弘美「規範としての古典古代—ドイツ近代建築にあらわれたギリシアへの憧憬」横浜美術短期大学教育・研究紀要 3,2007 年)
(*)(参考：金多潔「南欧の建築について(特集 石本正の今)」石見美術 5,2007 年。)
(*)(参考：藤田實・入子文子編『図像のちからと言葉のちから：イギリス・ルネッサンスとアメリカ・ルネッサンス』(ウィトルウィウス)大阪大学出版部,2007 年。)

(*)(参考：飛ケ谷潤一郎『盛期ルネサンスの古代建築の解釈』中央公論美術出版,2007 年。)
(*)(参考：海津忠雄「書評 ヤーコプ・ブルクハルト『チチェローネ―イタリア・美術作品享受の案内[建築編]』瀧内槇雄訳」芸術学 11,2007 年。)
(*)佐高信「佐高信の筆刀両断 知らなかった建築家・伊東忠太」社会民主 631,2007 年。
(*)(参考：平出隆「プリニウスの瓢箪(特集 澁澤龍彦二０年目の航海)」ユリイカ 39(10),2007 年。)
(*)(参考：丹羽隆子「ヘレニズム時代の巨大船 τεσσαρακουτηρης について」地中海学研究 30,2007 年。)
(*)(参考：A.グランストン/榎本恵美子・山本啓二訳『カルダーノのコスモス―ルネサンスの占星術』勁草書房,2007 年。)
(*)上原貞治「稲垣足穂の「星の学者」」天界 88(989),2007 年。
(*)(参考：鏡リュウジ著/荒井良二絵『はじめての占星術』ホーム社,集英社(発売),2007 年。
(*)(参考：エマヌエル・レーヴィ/細井雄介訳『初期ギリシア芸術における自然再現』中央公論美術出版,2007 年。)
(*)(参考：佐々木脩・吉元和浩『医療施設の経営と品質管理：基本と実践：ヒポクラテスから ISO9001-2000 まで』人吉中央出版社,2007 年。)
(*)(参考：酒井明夫『西欧古典に描かれた狂気』時空出版,2007 年。)
(*)(参考：小笠原正薫訳「ロンドリック著『ギリシャの合理的医学』付録―アリストテレス自然学以前の対立の役割」Bulletin of Sakura no Seibo Junior College 31,2007 年。)
(*)(参考：山本洋之「養生訓にみる健康論と理学療法」理学療法学 Supplement2006,2007 年。)
(*)(参考：尾上豊・右京裕子「World report ギリシャ・イタリアより西洋医学・薬学の源流を訪ねて(前編･ギリシャ編)医学の父･ヒポクラテスと古代食」Aromatopia16(6),2007 年。)
(*)(参考：大屋尚文・坂口守男・朝井均「医療と社会規範(6)ヒポクラテスの誓い」大阪教育大学紀要 3,自然科学・応用化学 55(2),2007 年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐる歴史パノラマ(11)ヒポクラテスにみる健康」綜合看護 42(1),2007 年。)
(*)(参考：今井正浩「ヒポクラテス『伝統医学論』第 20 章における反哲学的人間観：前 5 世紀ギリシアの医学思想における人間理解をめぐって」科学史研究[第 II 期]46(242),2007 年。)
(*)(参考：新實紀二「ヒポクラテスの嘆き」通信医学 59(4),2007 年。)
(*)(参考：定方晟「医神アスクレピオスと仏教」春秋 486,2007 年。)
(*)(参考:土井章弘「古代ギリシャ･アスクレーピオス神殿に学ぶ」日本病院会雑誌 54(8),2007 年。)
(*)(参考：高橋正雄「プルタルコスの『健康のしるべ』--古代ローマの養生訓」日本医事新報 4340,2007 年。)
(*)(参考：東孝博「新約聖書のなかにみられる狂気概念について―パラフレニーの語源に関する精神医学史的考察」精神医学史研究 11(2),2007 年。)
(*)(参考:早川智「青い血のカルテ(48)背教者ユリアヌス帝の腹部外傷」産科と婦人科 74(12),2007 年。)
(*)(参考：坂井建雄「ガレノスとヴェサリウスの解剖学の比較研究(5)：骨を例にとって」

日本医史學雑誌 53(1),2007 年。)
(*)(參考：澤井直「シルヴィウス解剖学書の情報源：ガレノスとの解剖学の比較から」日本医史學雑誌 53(1),2007 年。)
(*)(參考：坂井建雄,池田黎太郎「ガレノス「骨について初心者のために」--ギリシャ語原典からの翻訳と考察」日本医史學雑誌 53(3),2007 年。
(*)(參考：多田羅浩三「わが国の PBM 教育の歴史と現状」医学教育 38(2),2007 年。)
(*)(參考：トマス・ケイヒル/森夏樹訳『中世の秘蹟：科学・女性・都市の興隆』青土社,2007 年。)
(*)(參考：E.グラント/小林剛訳『中世における科学の基礎づけ：その宗教的,制度的,知的背景』知泉書館,2007 年。)
(*)(參考:小林剛「アルベルトゥス･マグヌスにおける表象力について」中世哲学研究 49, 2007 年。)
(*)(參考 : 澤井繁男「真理の探究 : ルネサンス期の科学の進歩」関西大學文學論集 57(1),2007 年。)
(*)(參考：William Alan P.「キリスト教神学と近代科学の対話について」福岡女学院大学紀要,人文学部編 17,2007 年。)
(*)合庭惇「明治初年活版断章」(本木昌造)日本研究 35,2007 年。
(*)(參考：澤井直「シルヴィウス解剖学緒の情報源：ガレノスとの比較から」日本医史学雑誌 53(1),2007 年。)
(*)(參考：坂井建雄「ガレノスとヴェサリウスの解剖学の比較研究(5)：骨を例にとって」日本医史学雑誌 53(1),2007 年。)
(*)(參考：坂井建雄・池田黎太郎・澤井直訳「ガレノス『骨について初心者のために』：ギリシャ語原典からの翻訳と考察」日本医史學雑誌 53(3),2007 年。)
(*)(參考：真壁伍郎「健康をめぐる歴史パノラマ(11)ヒポクラテスにみる健康」綜合看護 42(1),2007 年。)
(*)(參考：真壁伍郎「健康をめぐる歴史パノラマ(12)ソクラテスの対話なかでの健康」綜合看護 42(2),2007 年。)
(*)(參考：真壁伍郎「健康をめぐる歴史パノラマ(13)古代ローマ」綜合看護 42(3),2007 年。)
(*)(參考：真壁伍郎「健康をめぐる歴史パノラマ(14)ガレノス」綜合看護 42(4),2007 年。)
(*)(參考 : 和田浩一訳「翻訳 ピエール・ド・クーベルタン「1896 年のオリンピック競技会」」(神戸松蔭女子学院大学)研究紀要・人文科学自然科学篇 48,2007 年。)
(*)(參考 : 木庭康樹「プラトンの運動競技論序説 : スポーツ概念のギリシア的把握に向けて」スポーツ史研究 20,2007 年。)
(*)(參考：寒川恒夫「オリンピック起源論への文化人類学的アプローチ(オリンピック起源論-文化人類学的アプローチと歴史学的アプローチ,体育史･スポーツ人類学合同シンポジウム,体育史,専門分科会企画)」日本体育学会大会予稿集 58,2007 年。)
(*)(參考：木庭康樹「身体論の淵源：古典期ギリシアの身体論—プラトンを中心に(日本体育学会第 58 回大会専門分科会シンポジウム A 報告 身体論への多元的アプローチ(1)身体論の系譜学)」体育哲学研究 38,2007 年。)
(*)門脇武一「農業情報利用現場からイソップアグリシステムのめざす農業」農業情報研究 16(2),2007 年。

(*)(参考:平井隆「プリニウスの瓢箪(特集 澁澤龍彦 二十年目の航海)」ユリイカ 39(10),2007 年。)
(*)(参考：内山勝利「西洋古典世界の植物相、あるいは J.E.レイヴンのこと(1,2)」図書 694, 696,2007 年。)
(*)(参考：「鳥のこぼれ話(1)鳥に関する慣用句三題」地中海歴史風土研究誌 26,2007 年。)
(*)(参考:岡田泰介「ヘレニズム期クレタにおける大規模牧畜の発達—クレタ東部ヒエラピュトゥナを中心に」西洋史研究 36,2007 年。)
(*)(参考：三石善吉「ポルシェ・〈VW〉・ヒトラー 工学のアルカディアと技術のユートピア」筑波学院大学紀要 2,2007 年。)
(*)(参考：下野数彦『連続体の素領域について』岩波ブックセンター(製作),岩波書店,2007 年。)
(*)(参考：田中一之編『集合論とプラトニズム』ゲーデルと 20 世紀の論理学(ロジック)4, 東京大学出版会,2007 年。)
(*)(参考:戸田山和久「「ゲーデルの数学的プラトニズム」とは何か(総特集 ゲーデル)—(数学の哲学)」現代思想 35(3),2007 年。)
(*)(参考:守屋誠司「数学に関する意識の違いの原因を考える(2):近代科学と数学の源流を訪ねて」数学教育学会誌,臨時増刊,数学教育学会発表論文集 2007(1), 2007 年。)
(*)(参考：渡辺金一「両大戦間の二十年(1918-1939)—ドプシュ、ピレンヌ」創文 498,2007 年。)
(*)福岡正夫「高橋誠一郎先生と経済学説史研究」(講演録 高橋誠一郎歿後 25 年記念講演会) 三田評論 1105,2007 年。
(*)服部礼次郎「高橋誠一郎先生の足跡」(同上)三田評論 1105,2007 年。
(*)丸山徹「ご蔵書大磯を去る」(丘の上高橋誠一郎先生の思い出)三田評論 1105,2007 年。
(*)小山光夫「「高橋誠一郎著作集」のこと」(同上)三田評論 1105,2007 年。
(*)(参考:Takeshi Amemiya“Economics and economies of ancient Greece”Routledge explorations in economic history,Routledge,2007.)
(*)(参考：古山夕城「タソスにおける地下資源と国家統合(西洋史部会,第 104 回史学会大会報告)」史學雜誌 116(1),2007 年。)
(*)(参考：高寺貞男「〈論考〉トロイアの木馬とみなされた「真実かつ公正な概観(提示)優先」措置(経営情報学部特集号)」大阪経大論集 57(5),2007 年。)
(*)池田信夫「NGN プロジェクト「再統合」「再独占」に向けた“トロイの木馬”か(2010 年「グループ再統合」の大逆転を狙う NTT の“野望”)」エコノミスト 85(41),2007 年。
(*)(参考：ウィリアムソン・マーレー,マクレガー・ノックス,アルヴィン・バーンスタイン編/歴史と戦争研究会訳『戦略の形成：支配者・国家・戦争』(上下) 中央公論新社,2007 年。)
(*)(参考：Maria Corrao Francesca/恩田麗子,マルチュラ・モルガンテ訳「民主主義の構築—地中海プロジェクトより 人間性と民主主義」東洋学術研究 46(2),2007 年。)
(*)落合信彦「新世界大戦の時代 軽薄なテレビ番組で汚染された「衆愚国家」日本がたどる「カルタゴへ道」」サピオ 19(10),2007 年。

(*)(参考：Miyazaki Makoto「Public coercive power of the Greek polis：on a recent debate(シンポジウム 古代世界研究会サマーセミナー[日韓中国国際シンポジウム・プレ大会])」地中海研究所紀要 5,2007 年。)
(*)(参考：Takabatake Sumio「Co-living(共生 kyousei)with barbaroi：from archaic to classical Greece(シンポジウム 古代世界研究会サマーセミナー[日韓中国国際シンポジウム・プレ大会])」地中海研究所紀要 5,2007 年。)
(*)(参考：竹内一博『前 4 世紀アテナイの政治文化とデーモス』神戸大学,博士(学術),甲第 4268 号,2007 年。)
(*)(参考：サイモン・ブラックバーン/木田元訳『プラトンの『国家』』(Plato's Republic) ポプラ社,2007 年。)
(*)(参考 : 澤大洋「プラトンの政治哲学の現代化」Jounal of IOND University,Japan 5,2007 年。)
(*)(参考：荒木勝「アリストテレス国家論の位相」岡山大学法学会雑誌 57(2),2007 年。)
(*)(参考：高橋広次「アリストテレスは自然法論者か」南山法学 31(1・2),2007 年。)
(*)中井義明「書評 古山正人著「ペリオイコイ研究の現状」(國學院大學紀要・第 44 巻)
同「スパルタ北部地域の動向と国制上の地位 Aigitis,Maleatis, Belbinatis, Skiritis,Karyatis,Skotitas をめぐって(國學院大學大學院紀要—文学研究科・第 37 輯)」法制史研究 57,2007 年。
(*)(参考：佐藤昇「紀元前 4 世紀アテナイの対外交渉と増収賄」地中海学研究 30,2007 年。)
(*)(参考：塩野七生・尾崎真理子「21 世の仕掛け人 新春特別インタビュー—ローマ人は「勝って,譲る」--現代社会が学ぶべき“穏やかな帝国主義”の知恵とは」Voice 350,2007 年。)
(*)安井萌「書評 砂田徹著「共和政ローマとトリブス制」」西洋史研究 36,2007 年。
(*)(参考：飯坂晃治『ローマ帝政前期イタリアにおける皇帝権力と都市：イタリアの「属州化」を中心に』北海道大学,博士(文学),甲第 8315 号,2007 年。)
(*)宮崎雄介「比佐篤著「「帝国」としての中期共和政ローマ」」関学西洋史論集 30,2007 年。
(*)(参考：塩野七生・佐藤ユウコ・池内恵「ローマ滅亡に学ぶ国家の資格--「ローマ人の物語」完結」文藝春秋 85(6),2007 年。)
(*)(参考：塩野七生「インタビュー 塩野七生 ローマとヴェネッイアに学ぶ経済発展の条件」エコノミスト 85(24),2007 年。)
(*)(参考：佐藤彰一「ポスト・ローマ期における fiscus とその変遷：西欧中世国家論に寄せて(西洋史部会,第 104 回史学会大会報告)」史學雑誌 116(1),2007 年。
(*)大西克典「厚見恵一郎著「マキァヴエッリの拡大的共和国—近代の必然性と「歴史解釈の政治学」(木鐸社)2007」史學雑誌 116(10),2007 年。
(*)(参考：三森のぞみ「支配する都市フィレンツェとドゥオーモ(特集 中・近世ヨーロッパ都市の政治と文化—権力・コミュニケーション・プロパダンダ)」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論叢 29,2007 年。)
(*)(参考：E・トレルチ/高野晃兆・帆刈猛訳『中世キリスト教の社会教説』オンデマンド版,教文館,2007 年(→2014 年,高野晃兆訳)。)
(*)(参考：長江弘晃・星昇次郎「西欧 17 世紀の平和のための防衛論--『太陽の都』と『ニュー・アトランティス』を中心に」佐野短期大学研究紀要 18,2007 年。)

(*)(参考：公地宗弘「ヴィルヘルム・モムゼン『ゲーテの政治観』(1-10)」金沢医科大学教養論文集 35,2007 年/36,2008 年/37,2009 年/38,2010 年/39,2011 年/40,2012 年/41,2013 年/42,2014 年/43,2015 年/44,2016 年/

(*)(参考：中金聡「レオ・シュトラウスと「アルキビアデス問題」」(政治哲学研究会)政治哲学 6,2007 年(→2014 年,飯島昇藏・中金聡・太田義器編『「政治哲学」のために』所収,行路社)。

(*)(参考：M.オークショット/中金聡訳『リヴァイアサン序説』法政大学出版局,2007 年。)

(*)南原繁研究会編『宗教は不必要か：南原繁の信仰と学問』to be 出版,2007 年。

(*)鶴田一郎「三谷隆正の思想と行動--「信仰・学問・教育」に生きた生涯から」ホリスティック教育研究 10,2007 年。

(*)村松晋「三谷隆正の思想—他者への視座とその可能性をめぐって」聖学院大学総合研究所紀要 50,2007 年。

(*)鶴田一郎「PEO31 三谷隆正と三人の師—内村鑑三・新渡戸稲造・岩元禎」日本教育心理学会総会発表論文集 49,2007 年。

(*)鶴田一郎「三谷隆正の思想と行動」日本心理学会大会発表論文集 71,2007 年。

(*)(参考：井内敏夫編『ヨーロッパ史のなかのエリート：生成・機能・限界』(豊田和二「民主政期アテナイの富裕者と政治」/千脇修「テキストとしての『ゲルマニア』：農地制度・政治組織・従士制」)早稲田大学総合研究機構ヨーロッパ文明史研究所叢書 2,太陽出版,2007 年。)

(*)(参考：小沢弘明編『近代ヨーロッパに於ける社会関係とその変容』千葉大学文化科学研究科研究プロジェクト報告 138,千葉大学大学院人文社会科学研究科,2007 年。)

(*)(参考：赤岩順二「プラトン『法律』篇 845b-860e の一解釈」法哲学年報 2006,2007 年。)

(*)(参考：森分大輔『ハンナ・アレント研究--〈始まり〉と社会契約』風行社,2007 年。)

(*)(参考：宮川昇「アメリカ合衆国憲法のラテン語の要素」比較文化研究 26,2007 年。)

(*)(参考：田中実「D.11.1.19(パピニアヌス『質疑録』第 8 巻)に対するキュジャースの注解」南山法学 31(1~2),2007 年。)

(*)長尾龍一「宮崎道三郎の法史学」日本大学史紀要 10,2007 年。

(*)桐山孝信「恒藤恭の世界法論と田中耕太郎の『世界法の理論』」大阪市立大學法學雜誌 54(1),2007 年。

(*)(参考：笹倉秀夫『古典古代から宗教改革期まで』東京大学出版会,法思想史講義(上),2007 年。)

(*)(参考：山口廸彦『母権的ロマン主義受容史—バハオーフェンを中心にして』早稲田大学,博士(学術),甲第 2359 号,2007 年。)

(*)(参考：山口廸彦「母権的ロマン主義受容史—バハオーフェンを中心にして」ソシオサイエンス 13,2007 年。)

(*)(参考：高木秀人「福岡大学創立 70 周年記念 DVD 版『ヨーロッパ法コレクション総目録・ローマ法大全ゲバウエル＝シュパンゲンベルク版』について」私立大学図書館協会会報 128,2007 年。)

(*)(参考：木庭顕研究代表『人文主義期ローマ法学及び諸文献における占有理解』木庭顕,2007 年。)

(*)(参考：芹澤悟「用益権に関するユリアヌスの法的判断について(法学部 40 周年記念号)

亜細亜法学=Asia University Law Review41(2),2007 年。)
(*)吉原丈司編『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴炎輝博士・小林宏先生・山崎丹照先生略年譜・著作目録』吉原丈司,2 訂版,ローマ法・法制史学者著作目録選 第 8 輯,2007 年。

(*)(参考：廣松渉『青年マルクス』平凡社ライブラリー654,2008 年。)
(*)(参考：伊藤信也「マルクスの「風土学」?--『風土』の記述をめぐる一考察」関西大学哲学 26,2008 年。)
(*)(参考：美馬孝人「『マルクスの人間主義—その根源性と普遍性』によせて」北海学園大学経済論集 55(4),2008 年。)
(*)岩淵慶一「書評 橋本剛著『マルクスの人間主義—その根源性と普遍性』季刊唯物論研究 106,2008 年。
(*)(参考：超古代文明検証会編『失われた世界の超古代文明：時空の彼方に消えた幻の超古代大陸の謎』日本文芸社,2008 年。)
(*)久米晶文「異説「三種の神器」論 日猶同祖論と「三種の神器」--酒井勝軍の逸脱と安息(特集 三種の神器—天皇のシンボル)」歴史読本 53(6),2008 年。
(*)久米晶文「神々の狂宴—酒井勝軍と酪酊の近代日本史(1~16)」歴史読本 53(7~12),2008 年/54(1~10),2009 年。
(*)原田実『トンデモ偽史の世界』楽工社,2008 年。)
(*)河上眞理「明治の美術界におけるイタリア：画家松岡壽と建築家辰野金吾の場合(特集 国際シンポジウム イタリア観の一世紀：旅と知と美：2 イタリアをまなざす旅と美意識)」立命館言語文化研究 20(2),2008 年。)
(*)三浦新七他著・國方敬司責任編集『三浦新七博士：その人と軌跡』東西文明史・別巻,三浦新七博士記念会,2008 年。)
(*)(参考：羽田亨『西域文明史概論：西域文化史』ワイド版東洋文庫 545,平凡社,2008 年。)
(*)鈴木靖民編『古代日本の異文化交流』勉誠出版,2008 年。)
(*)長崎文献社編『西洋と東洋が出会った長崎居留地』旅する長崎学,近代化ものがたり 3,長崎文献社,2008 年。)
(*)(参考：『特集 文化交流の古代史』東アジアの古代文化 136,大和書房,2008 年。)
(*)(参考：横田冬彦研究代表『女性生活文交流史研究：異文化の文物の流通に着目して』京都橘大学,科学研究費補助金(基盤研究 B2)研究成果報告書,2004-007 年度,2008 年。)
(*)(参考：山崎正和「神話と舞踏—文明史試論(1-6)」アスティオン 69,2008 年/70,71,2009 年/72,73,2010 年/75,2011 年。)
(*)(参考：佐竹弘靖「古代文明の水」専修ネットワーク&インフォメーション 13,2008 年。)
(*)「“素朴主義”の風土が生んだ歴史家宮崎市定の世界像：先生所縁の資料とコレクション古地図で振り返る」長野県井飯山北高等学校桂陰會会,2008 年。)
(*)「オフサイド希臘」O plus E 30(5),2008 年。
(*)沢木耕太郎『冠(コロナ)：廃墟の光』(オリンピック)朝日新聞出版,2008 年。
(*)佐藤拓哉「ヨーロッパ・スケッチの旅(7)：イタリア/ドロミテ,ヴェネツィア,フィレンツェ」圧力技術 46(6),2008 年。
(*)牟田口義郎『地中海のほとり』牟田口義郎,朝日新聞社(発売),2008 年(←1976 年,朝日選書。

←1971 年,朝日新聞社。)。
(*)(参考：フェルナン・ブローデル/尾河直哉訳,ロザリーヌ・アヤラ,ポール・ブローデル校訂『地中海の記憶：先史時代と古代』藤原書店,2008 年。)
(*)(参考：キャロライン・アレキサンダー,リュック・ゴア/井上暁子・伊藤和子訳『古代ギリシャ・フェニキア：地中海に生まれた文明の興亡：ビジュアル保存版』ナショナルジョオグラフィック,日経ナショナルジオグラフィック社,日経 BP 出版センター(発売),2008 年。)
(*)(参考：ホセ・ルイス・サンペドロ原作/渡辺マキ訳；原田裕文脚色『エトルリアの微笑み』シリーズ・現代のスペイン文学,[NHKFM],FM シアター,2008 年。)
(*)(参考：澁澤幸子他『トルコとは何か』藤原書店,2008 年。)
(*)澁澤幸子「瞑想紀行 ボスフォラスよ,永遠なれ」アナトリアニュース 22,2008 年。
(*)鈴村和成「村上春樹のトルコ・ギリシャを行く―「街と,その不確かな壁」から」文學界 62(4),2008 年。
(*)村上春樹文・松村映三写真『雨天炎天：ギリシャ・トルコ辺境紀行』新装版,新潮社,2008 年(→2014 年,32 刷改版,新潮文庫版)。
(*)松村六娘「ゆるやかな時間をさがして(1)エーゲ海の白い宝石」女性のひろば 353,2008 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ローマ/フィレンツェ』地球の歩き方ポケット 15,ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2008 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『ギリシアとエーゲ海の島々&キプロス』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2008-09 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2008-09 年。
(*)地球の歩き方編集室編『南イタリアとマルタ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2008-09 年。
(*)荻野矢慶記写真・文『るるぶギリシア・エーゲ海：アテネ・サントリーニ島・ミコノス島・クレタ島・ロドス島』JTB パブリッシング,2008 年。
(*)山口湖葉文・桑田瑞穂写真『エーゲ海の小さなホテル』東京書籍,2008 年。
(*)(参考：Julie Bindel「エーゲ海に浮かぶレズビアンの聖地」Lesbian World,クーリエ・ジャポン(Courrier Japon),4(10),2008 年。)
(*)『ギリシャ：エーゲ海をめぐる旅』朝日ビジュアルシリーズ,世界の車窓から DVD ブック 13,朝日新聞出版,2008 年。
(*)赤井良平・柳木昭信『ギリシャ・エーゲ海：古代文明を生んだ魅力的な島々』旅名人ブックス 39, 日経 BP 出版センター,2008 年。
(*)伊藤重剛述・熊本大学政策創造研究教育センター企画・編集『エーゲ海のライフスタイル：食と住の今昔』熊本大学ブックレット,知のフロンティア講座 2,熊本日日新聞社,2008 年。
(*)(参考：B.フェイガン/東郷えりか訳『古代文明と気候変動：人類の運命を変えた二万年』河出文庫,河出書房新社,2008 年。)
(*)(参考：梅原猛・伊東俊太郎・安田喜憲『講座「文明と環境」4』朝倉書店,2008 年。)
----川西宏幸「都市と文明」/周藤芳幸「エーゲ海の都市生活」
(*)(参考：高山博「シチリア王国から見た世界史(コメント,公開シンポジウム,「琉球からみ

た世界史」,第 105 回史学会大会報告)」史學雑誌 117(1),2008 年。)
(*)志内一興「本村凌二著「地中海世界とローマ帝国」(興亡の世界史 4,講談社)」史學雑誌 117(3),2008 年。
(*)(参考：高山博「シチリア王国から見た世界史(コメント,公開シンポジウム「琉球からみた世界史」,第 105 回史学会大会報告)」史学雑誌 117(1),2008 年。)
(*)(参考：秋山秀一「世界の道：シチリア観光の魅力—地中海文明の十字路を訪ねる」道路建設 708,2008 年。)
(*)(参考：間山正一「世界の道・クレタの道—イラクリオン,クノッソス,マリア,レシム,そしてハニア」道路建設 710,2008 年。)
(*)小板ひさみ「法務局 OB の頁トロイアにあこがれて」民事法務 307,2008 年。)
(*)(参考：「Port Story シリーズ「ミナトと文化」(6)地中海文明と港」中央公論 123(5),2008 年。)
(*)(参考：Arthur Evans/浅野栄市訳「古代地中海人の強靱な生と死(28)クノッソスのミノスの宮殿(1~5)」地中海歴史風土研究誌 28,2008 年/29,30,2009 年/33,34,2010 年。)
(*)(参考：桜川洋子「「風の塔」のこと」地中海歴史風土研究誌 28,2008 年。)
(*)(参考：高柳俊一「書評 アン・スウィーニー著『ロバート・サウスウエル—アルカディアの雪景色』,ピーター・ディヴィッドソン/アン・スウィーニ共編『聖ロバート・サウスウエル・詩集』」(上智大学キリスト教文化研究所)キリスト教文化研究所紀要 27,2008 年。)
(*)(参考：丹羽隆子「五感が開いた地中海と古代文明(特集「港の五感」を科学する)」港湾 85(1),2008 年。)
(*)(参考：黒木英充研究代表『新たな東地中海地域像の構築：民族・宗派対立と人間移動』黒木英充,科学研究費補助金基盤研究(AX1)研究成果報告書,平成 16-19 年度,2008 年。)
(*)(参考：岡田泰介『東地中海世界のなかの古代ギリシア』世界史リブレット 94,山川出版社,2008 年。)
(*)(参考：田村孝『都市・国家・帝国—東アジアの視点から見た古代地中海世界』千葉大学 2005 年,(科研費)2008 年。)
(*)(参考：H.マイヤー,C.A.ベッティガー/久野昭訳『カッサンドラー掠奪：ある壺絵の研究』(「カッサンドラー掠奪の描かれた古代の土器容器について」「古代の土器容器に描かれたカッサンドラー掠奪について」)南窓社,2008 年。)
(*)(参考：南川高志「コラム：西洋古代史の泉・飯田克己ドイツ地形図コレクション」西洋古代史研究 8,2008 年。)
(*)南川高志「ハンガリーのローマ遺跡—ブタペスト市内の遺跡について」西洋古代史研究 8,2008 年。
(*)(参考:「大人の悠遊 世界遺産 Quiz オリンピアの考古遺跡(ギリシャ)」エコノミスト 86(46),2008 年。)
(*)(参考：星和夫「エルコラーノ,ポンペイ」日本病院会雑誌 55(1),2008 年。)
(*)(参考：坂井聰,Iorio Vinceza「ポンペイ東部地区における道路網形成時に関する一試論—マルクス=フロント一通りの発掘結果の検討から」古代史年報 6,2008 年。)

(*)(参考:ナドーバービー「文化遺産ポンペイ、お貸しします」ニューズウィーク 23(19),2008 年。)
(*)唐川雅爾「史談往来/北からに何から 日本のポンペイ・一乗朝倉氏遺跡」歴史研究 50(11), 2008 年。)
(*)(参考:青柳正規・杉山浩平・松山聡「遺跡の現場から ソンッマ・ヴェスヴィアーナにおける遺跡の発掘調査と学際的研究」遺跡学研究:日本遺跡学会誌 5,2008 年。)
(*)(参考:青柳正規「第 4 回 公開講演会 ヴェスヴィオス山北山麓のローマ時代遺構の発掘--東京大学ソンマ・ヴェスヴィアーナ発掘調査団の活動」星美学園短期大学日伊総合研究所報 4,2008 年。)
(*)橘考古学会編『多知波奈の考古学:上野恵司先生追悼論集』(ポンペイ)[出版者不明],2008 年。
(*)(参考:西山要一「総合研究所特別研究概要報告(平成 18 年度)レバノン共和国ティール郊外ラマリ地区所在ローマ時代壁画地下墓 TJ04 保存修復研究 2006 年度概要報告書」総合研究所所報 16,2008 年。)
(*)(参考:山口廸彦「インド・ヨーロッパ人の起源—イェーリングの問題提起」比較文化研究 27,2008 年。)
(*)(参考:中村勝巳「《概念》の地中海紀行あるいはイタリアにおけるヘーゲル受容の 100 年(1)ベルトランド・スパベンタのヘーゲル解説論文(1851)を中心に」中央大学社会科学研究所年報 13,2008 年。)
(*)(参考:高橋明彦「「これはよい前兆と思えた。」II:ゲーテ『イタリア紀行』における神話的=占星術的要素」上智大学ドイツ文学論集 45,2008 年。)
(*)(参考:岩本裕子「西洋精神の起源をめぐる一考察:映像に描かれた聖書・神話・伝説(こども学部開設『総合福祉』『浦和論叢』統合記念号)」浦和論叢 38,2008 年。)
(*)(参考:大村次郷「茶店から社会を見る(58)トルコ」望星 39(1),2008 年。)
(*)(参考:大村次郷「茶店から社会を見る(64)シリア」望星 39(7),2008 年。)
(*)(参考:吉田大輔『ペルガモンとシルクロード:発掘者カール・フーマンと平山郁夫のまなざし:ヘレニズムの華』中近東文化センター附属博物館,2008 年。)
(*)山田晶「ローマのお墓(山田晶先生追悼記念号)」中世哲学研究 27,2008 年。
(*)(参考:宮下遼「東方旅行における二つの観察潮流とそのトポス—フランス大使ダラモン一行におけるキリスト教古代文化と異文化の取扱い」地中海学研究 31, 2008 年。)
(*)田中一生「2006 年度[東海大学]文学部「知のコスモス」公開セミナー—世界遺産と東地中海世界 世界遺産との付き合い方—ドブロクニクの場合(故田中一生先生を偲ぶ)」東海史学 42,2008 年。)
(*)(参考:和栗珠里「ルネサンス期ヴェネツィアの貴族とスクォーラ・グランデ」地中海学研究 31,2008 年。)
(*)(参考:陣内秀信『イタリア海洋都市の精神』講談社,興亡の世界史,2008 年。)
(*)(参考:齋藤寛海・山辺規子・藤内哲也編『イタリア都市社会史入門:12 世紀から 16 世紀まで』昭和堂,2008 年。)
(*)(参考:田丸公美子「シモネッタの「本能三昧」イタリア紀行(15)無垢なる献身」現代

42(12),2008 年。)
(*)(参考 : 福田和也「旅のあとさき第二部,ナポレオン : 世界を盗もうとした男(32)ローマ “カリオストロの城” からカロリックの総本山へ」週刊現代 50(1),2008 年。)
(*)(参考 : 福田和也「旅のあとさき第二部,ナポレオン : 世界を盗もうとした男(33)ローマ独裁者と皇母の広場フォロ・ロマーノの狭さ」週刊現代 50(2),2008 年。)
(*)(参考 : 福田和也「旅のあとさき第二部,ナポレオン : 世界を盗もうとした男(34)ローマ “ナポレオン 2 世” 愚鈍な兄の使い道」週刊現代 50(3),2008 年。)
(*)(参考 : 福田和也「旅のあとさき第二部,ナポレオン : 世界を盗もうとした男(35)ローマ ナポレオン 贔屓なポーランド人」週刊現代 50(4),2008 年。)
(*)岩倉具忠「コメント「日本人のイタリア観の変遷」(特集 国際シンポジウム イタリア観の一世紀 : 旅と知と美 : 1.イタリア・イメージの形成と交差)」立命館言語文化研究 20(2),2008 年。
(*)岩倉具忠「新村出とイタリア(特集 国際シンポジウム イタリア観の一世紀 : 旅と知と美 : 3.イタリアとの知的遭遇)」立命館言語文化研究 20(2),2008 年。
(*)(参考 : 牧野宣彦「ゲーテ『イタリア紀行』を旅する」集英社新書ヴィジュアル版 2008 年。)
(*)(参考 : 長島要一「『即興詩人』とイタリア : 森鴎外とアンデルセン(特集 国際シンポジウム イタリア観の一世紀 : 旅と知と美 : 1.イタリア・イメージの形成と交差)」立命館言語文化研究 20(2),2008 年。
(*)石井洋二郎「書評(53)砂漠の風に誘われて(工藤庸子『砂漠論』,ロレンス・ダレル/高松雄一訳『アレクサンドリア四重奏 1.フスティーヌ』)」UP37(8),2008 年。
(*)(参考 : 城戸朱理『戦後詩を滅ぼすために : The regenration of Alexadoria』(「アレクサンドリアの復興」)思潮社,2008 年。)
(*)星和夫「医学史の旅—イタリア(18)エルコラーノ,ポンペイ」日本病院会雑誌 55(1),2008 年。
(*)星和夫「医学史の旅—イタリア(19)サレルノ」日本病院会雑誌 55(2),2008 年。
(*)星和夫「医学史の旅—イタリア(20)シチリア島(1,2)」日本病院会雑誌 55(3,4),2008 年。
(*)星和夫「医学史の旅—イタリア(21)マルタ共和国」日本病院会雑誌 55(5),2008 年。
(*)星和夫「医学史の旅—ギリシア(1,2,3)アテネ(1,2,3)」日本病院会雑誌 55(6,7,8),2008 年。
(*)星和夫「医学史の旅—ギリシア(4)コリントス」日本病院会雑誌 55(9),2008 年。
(*)星和夫「医学史の旅—ギリシア(5)アルゴリス地方」日本病院会雑誌 55(10),2008 年。
(*)星和夫「医学史の旅—ギリシア(6)ティルンス・エピダウロス」日本病院会雑誌 55(11),2008 年。
(*)星和夫「医学史の旅—ギリシア(7)スパルタ・ミストラ」日本病院会雑誌 55(12),2008 年。
(*)持田叙子「永井荷風のイタリアとスペイン」東京人 23(8),2008 年。
(*)田之倉稔『林達夫 : 回想のイタリア旅行』イタリア書房,2008 年。
(*)千田剛「林さんのさわやかな思い出—田之倉氏の近著への傍注」イタリヤ図書 39,2008 年。
(*)岩倉翔子「徳富蘆花のイタリア旅行—ブリンディシからコモ湖畔へ,そして戦争と平和(特集 国際シンポジウム イタリア観の一世紀 : 旅と知と美 : イタリアをまなざす旅と美意識)」立命館言語文化研究 20(2),2008 年。
(*)Fessler Susanna「姉崎とイタリア(特集 国際シンポジウム イタリア観の一世紀 : 旅と知

と美：イタリアとの知的遭遇)」立命館言語文化研究 20(2),2008 年。
(*)竹山博英「和辻哲郎と南イタリア(特集 国際シンポジウム イタリア観の一世紀：旅と知と美：4.和辻哲郎のイタリア観)」立命館言語文化研究 20(2),2008 年。
(*)フラットリッロ・オリヴィエーロ「イタリア古寺巡礼：美と思想の遍歴(特集 国際シンポジウム イタリア観の一世紀：旅と知と美：4.和辻哲郎のイタリア観)」立命館言語文化研究 20(2),2008 年。
(*)浅野洋「[コメント]和辻哲郎『イタリア古寺巡礼』特集 国際シンポジウム イタリア観の一世紀:旅と知と美:4.和辻哲郎のイタリア観)」立命館言語文化研究 20(2),2008 年。
(*)(参考：石弘之「名作の中の環境史(4)クリティアス—アトランティスの物語：プラトン著(田之頭安彦訳,岩波書店,「プラトン全集 12」,)プラトンが告発する自然破壊」日経エコロジー112,2008 年。)
(*)(参考：日本推理作家協会編『時間を追いかけろ』(鯨統一郎「アトランティス大陸の秘密」)日本ベストミステリー選集に 6-25,光文社,2008 年。)
(*)(参考：江河徹編・宇野亜喜良画『ザ・ロマンス』(「ノヴァーリス/畔上司訳「アトランティスの物語」)くもん出版,2008 年。)
(*)(参考：庄子大亮「アトランティス物語の意味」西洋古典學研究 56,2008 年。)
(*)(参考：ウルフ・ブラウン作,シュティファニー・ヴェグナー絵,加納教孝訳『アトランティスを救え!』少年探偵団ザ・スリー2,草土文化,2008 年。)
(*)(参考：江河徹編・宇野亜喜良画『ザ・ロマンス』(アトランティス)世界に幻想ミステリー,くもん出版,2008 年。)
(*)(参考：ジョン・ラーナー/野島嘉信・立崎秀和訳『マルコ・ポーロと世界の発見』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,2008 年。)
(*)(参考：D.H.ロレンス/東北 D.H.ロレンス協会編訳『D.H.ロレンス戯曲集：「一触即発」「ダビデ」「ノアの洪水」』リーベル出版,2008 年。)
(*)(参考：青柳正規・木島俊介・小池寿子「八頭身美人はどこから来たのか?鼎談(創刊 700 号記念大特集 永久保存版 芸術新潮が選ぶヴィーナス 100 選)」芸術新潮 59(4),2008 年。)
(*)(参考：小佐野重利「ジュリオ・マンチーニ—絵画収集史および博物館形成学からみたその業績(ジュリオ・マンチーニ『絵画に関する諸考察』第 10 章)」美術史論集 24,2008 年。)
(*)(参考：オットー・ブレンデル/川上幸子・中村るい訳『ローマ美術研究序説』三元社,2008 年。)
(*)(参考：ジョルジョ・ヴァザーリ/森田義之・上田恒夫他訳『ルネサンス彫刻家建築家列伝』新装版,白水社,2008 年。)
(*)(参考：石鍋真澄他編『イタリア美術とナポレオン』アプトインターナショナル,小谷哲哉,2008 年。)
(*)(参考：古田光『レオナルド・ダ・ヴィンチ：人と思想』ブリュッケ,2008 年。)
(*)(参考：西山清『イギリスに花開くヘレニズム：パルテノン・マーブルの光と影』丸善プラネット,丸善株式会社出版事業部(発売),2008 年。)

(*)(参考：池浩三『パルテノンの世界：その建築システムの復元的考察』中央公論美術出版,2008 年。)
(*)(参考：西岡文彦『絶頂美術館：名画に描かれた愛と情熱のクライマックス』(ヴィーナス)マガジンハウス,2008 年。→2011 年,改題『絶頂美術館：名画に隠されたエロス』新潮文庫版。)
(*)(参考：但木敬一「シュリーマンと日本」文藝春秋 86(8),2008 年。)
(*)(参考：池上英洋『恋する西洋美術史』光文社新書,光文社,2008 年。)
(*)(参考：關隆志『古代アッティカ杯―ギリシア美術の比例と装飾の研究』中央公論美術出版,2008 年。)
(*)(参考：天理大学天理参考館考古美術室編『古代ギリシア美術への誘い』企画展 57 回,天理大学出版部,2008 年。)
(*)「地中海研究所活動報告」地中海研究所紀要 6,2008 年。
(*)(参考：篠塚千恵子「ギリシアの「癒しの美術」考―アスクレピオスをめぐるクラシック期アッティカ美術(シンポジウム 古代地中海世界における病・癒し・祈り)」地中海研究所紀要 6,2008 年。)
(*)(参考：鳥山祐介「18 世紀ロシアにおける「ギリシア」表象の史的背景―「古典古代と非古典古代の混淆」と「抵抗の遷移」(文化研究所と越境―19 世紀ロシアを中心に)―(文化表象の政治学)」「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 23,2008 年。)
(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(11)医学のルーツを探るギリシャ紀行(1)ヒポクラテス安息の地と医神アスクレピオスの誕生の地を訪ねて」治療 90(11), 2008 年。)
(*)(参考：井上章一『性欲の文化史』講談社選書メチエ,講談社,2008 年。)
(*)井上章一「ヴィーナスの尻と乳―『性欲の文化史』を刊行するにあたって」本 33(11),2008 年。)
(*)(参考：オットー・ブレンデル/川上幸子・中村るい訳『ローマ美術研究序説』三究社,2008 年。)
(*)(参考：ジャン・ピエール・イスプ/尾澤和幸・藤井留美訳『地図と写真で読む聖書の世界』日経ナショナルジオグラフック社,日経 BP 出版センター(発売),2008 年(→2011 年,コンパクト版)。)
(*)(参考：ブレバトリス/川島慶子訳「エジプト研究所(カイロ学士院 9：ナポレオンとエコール・ポリティーク)化学史研究 35(3),2008 年。)
(*)(参考：Arther Evans/浅野栄市訳「古代地中海人の強靱な生と死(28-50)クノッソスのミノスの宮殿」地中海歴史風土研究誌 28,2008 年/29,30,2009 年/31,32,2010 年/33,34,2011 年/35,36,2012 年/37,38,2013 年/39,40,2014 年/41,42,2015 年/43,44,2016 年/45,46,2017 年/47,48,2018 年/49,50,2019 年。)
(*)(参考：ジョン・ラーナー/野崎嘉信・立崎秀和訳『マルコ・ポーロと世界の発見』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,2008 年。)
(*)(参考：マリーズ・ルースヴェン,アズィーム・ナンジー/中村公則訳『イスラーム歴史文化地図』悠書館,2008 年。)
(*)(参考：ジョン・オナイアンズ編/川野美也子訳『世界美術史アトラス：創造と伝播：紀元前 4 万年~現代』東洋書林,2008 年。)

(*)(参考：木村重信『美術史家地球を行く』ランダムハウス講談社,2008 年。)
(*)(参考：高橋裕子『西洋美術ことば案内』小学館,2008 年。)
(*)廣瀬緑「岡倉天心による「泰西美術史」講義(明治二十九年)についての考察(1,2)」(茨城大学)五浦論叢 15,2008 年/16,2009 年。
(*)(参考：山口博「古代の西域意識と憧憬(特集 文化交流と古代史)」東アジアの古代文化 136,2008 年。)
(*)(参考：栗田功『愛しき仏像：ガンダーラ美術の名品』二玄社,2008 年。)
(*)(参考：京都大学人文科学研究所編『シルクロード発掘 70 年：雲岡石窟からガンダーラまで』臨川書店,2008 年。)
(*)(参考：松原正毅「シルクロードの遊牧民—東西文化交流の背景」人間文化研究所紀要 13,2008 年。)
(*)(参考 : 間野英二「「シルクロード史観」再考—森安孝夫氏の批判に関連して」史林 91(2),2008 年。)
(*)參考 : 加藤九祚「壮大な文明交流の道“シルクロード”に魅せられて」潮 595,2008 年。)
(*)平山郁夫執筆・小宮浩編集『平山郁夫シルクロード展：東西文化交流の架け橋~絲綢之路の軌跡』平山郁夫芸術展実行委員会 2008 年。)
(*)(参考：金子昭「「文化力」再生の処方箋は存在するか—シュペングラー,シュプランガー,シュヴァイツァーの場合」比較思想研究 35,2008 年。)
(*)(参考 : 伊東俊太郎「インタビユー 「文明交流圏」とは何か」環 : 歴史・環境・文明 52,2008 年。)
(*)(参考 : 服部英二「文明システムと倫理—直進型文明から循環型文明へ」モラロジー研究 62,2008 年。)
(*)上野隆志「研究プロジェクト 日本近代化の問題点—大正デモクラシー期の歴史家坂口昂」東西南北 2008,2008 年。
(*)(参考：横手義洋「陣内秀信教授ローマ大学より名誉学士号を授与される(会員フォーラム)」建築雑誌 123(1570),2008 年。)
(*)(参考 : 西村征也「イスラームと西欧の対立の諸相—イスラームとサルトルの人間観の比較から」(国際文化表現学会)国際文化表現研究 4,2008 年。)
(*)(参考：田中英資「「国土」形成の多様性トルコにおける「国土」創出と古代アナトリア文化遺産」日本文化人類学研究大会発表要旨 2008,2008 年。)
(*)(参考：田中英資「トルコ人と古代アナトリア文化遺産--「国土」へのアプローチの多様性と文化遺産」」文化資源学 7,2008 年。)
(*)長場弦「家永豊吉—アナトリア横断の旅」アナトリアニュース 121,2008 年。
(*)(參考 : 大村幸弘「アナトリア考古学研究所からの報告(1,2)カマン考古学博物館建設開始」アナトリアニュース 121,122,2008 年。)
(*)(参考：森山英一「四人の歴史家が見たイスタンブル(1)」アナトリアニュース 122,2008 年。)
(*)(参考：工藤庸子『砂漠論：ヨーロッパ文明の彼方へ』流動する人文学,左右社,2008 年。)
(*)(参考：小林道憲『生命の哲学：「生きる」とは何かということ』人文書院,2008 年。)
(*)(参考：藤巻明・浦野聡・小嶋菜温子編『肖像と個性』(「ローマ皇帝の書かれたポートレイト」)立教大学人文叢書 3,春風社,2008 年。)
(*)(参考：アンケ・ベルナウ/夏目幸子訳『処女の社会史』新潮社,2008 年。)

(*)近藤裕幸「戦前期における田中啓爾の地理教科書」日本地理学会発表要旨 2008,2008 年。
(*)(参考：安達正編『物語古代ギリシア・ローマ人物地名事典』彩流社,2008 年。)
(*)(参考：日本オリンピック・アカデミー「ポケット版オリンピック事典」編集委員会編『オリンピック事典』ポケット版,楽,2008 年。)
(*)森田啓「「ポケット版オリンピック事典」日本オリンピック・アカデミー編(2008)」スポーツ教育学研究 28(1),2008 年。
(*)(参考：クリス・オクスレード,デーヴィッド・ボールハイマー著/成田十次郎訳『オリンピック大百科』「知」のビジュアル百科 45,あすなろ書房,2008 年。)
(*)(参考：岩隈直『新約ギリシア語辞典』増補改訂,教文館,2008 年。)
(*)(参考：P.ディンツェルバッハー,J.L.ホッグ編/石山穂澄他訳『修道院文化史事典』八坂書房,2008 年(→2014 年,普及版)。)
(*)日外アソシエーツ株式会社編『ジャパンスタディ「日本研究」人物事典』日外アソシエーツ,紀伊國屋書店[発売],2008 年。
(*)(参考：遠藤智夫「Medhurst『英漢字典』と『英和対訳袖珍辞』--日中語彙交流の視点から」アジア文化交流研究 3,2007 年。)
(*)遠藤智夫「堀達之助と『英和対訳袖珍辞書』の成立—訳語比較を中心に」英学史研究 41,2008 年。
(*)(参考：戸田聡訳「[研究ノート]〈翻訳〉レヴォン・テル・ペトロシアン『アルメニアの古い翻訳文学』」跡見学園女子大学人文学フォーラム11,2008年。)
(*)(参考：戸田聡訳「〈翻訳〉レヴォン・テル・ペトロシアン『アルメニアの古い翻訳文学』[続]」コミュニケーション文化 7,2008 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(15)ホラティウス『歌章』『書簡詩』」一冊の本 13(1),2008 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(16)ホラティウス『詩論』」一冊の本 13(2),2008 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(17,18)キケロ「書簡集」(上下)」一冊の本 13(3,4),2008 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(19)キケロ「カティリナ弾劾」「マルケッルスについて」」一冊の本 13(5),2008 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(20)キケロ「義務について」」一冊の本 13(6),2008 年。
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(21)小プリニウス『書簡集』」一冊の本 13(7),2008 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(22,23,24)大プリニウス『博物誌』(上中下)」一冊の本 13(8,9,10),2008 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(25)タキトゥス『ゲルマニア』」一冊の本 13(11),2008 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(26)プラウトゥス『アンピトウル』(上)」一冊の本 13(12),2008 年。)
(*)(参考：石渡巧「古代末期シリアの修道制におけるギリシア語とシリア語(研究発表・西洋史部会・第 105 回史学会大会報告)」史學雑誌 117(1),2008 年。)
(*)(参考：益田朋幸「ビザンティン写本研究の現在—はじめに」地中海研究所紀要 6,2008

年。)
(*)(参考 : John Lowden/瀧口美香訳「おおやけにされたことば,可視化されたことば—初期キリスト教写本装丁板に見られる図像について(ビザンティン写本研究の現在)」地中海研究所紀要 6,2008 年。)
(*)(参考 : 辻絵理子「ストゥディオス修道院工房における「キリスト三態」(ビザンティン写本研究の現在)」地中海研究所紀要 6,2008 年。)
(*)(参考 : 櫻井夕里子「『パルマ福音書』研究の現状(ビザンティン写本研究の現在)」地中海研究所紀要 6,2008 年。)
(*)(参考 : 橋川裕之「コンスタンティノープルを遠く離れて—総主教アタナシオスの初期の書簡写本と近年の研究を概観する(ビザンティン写本研究の現在)」地中海研究所紀要 6,2008 年。)
(*)(参考 : 瀧口美香「大英図書館所蔵四福音書写本バーニー19 番について(ビザンティン写本研究の現在)」地中海研究所紀要 6,2008 年。)
(*)(参考 : 益田朋幸「レクショナリー写本の聖者暦(ビザンティン写本研究の現在)」地中海研究所紀要 6,2008 年。)
(*)(参考 : 辻成史「The Moses' picture in Chicago,University library,Codex 965(ビザンティン写本研究の現在)」地中海研究所紀要 6,2008 年。)
(*)(参考 : Laura Sabattori「第二言語・外国語賭してのイタリア語教育におけるラテン語[含・付録 STUDIARE LATINO FA BENE ALLA MENTE(ビザンティン写本研究の現在)」地中海研究所紀要 6,2008 年。)
(*)(参考 : 大越哲仁「ラーネッドとセイヤー・カレッジ」新島研究 99,2008 年。)
(*)(参考 : 土屋凉一「膵の語源について(6,7)」(アリストテレス,アレクサンドリア)胆と膵 29(11),2008 年/31(1),2010 年。)
(*)(参考 : Nakajima Yumi「An Attempt at a Short History of the Macedonian Kiterary Language from the Point of view of the“Role of the individual”」地中海論集 19,2008 年。)
(*)(参考 : 田中創「古代末期における公的教師の社会的役割 : リバニオス書簡集の分析から」史学雑誌 117(2),2008 年。)
(*)(参考 : 池田黎太郎「ギリシア語—現代へとつらなる西欧文化の源流(古典語・古代語の世界—“世界言語遺産”をめぐる旅)」言語 37(12),2008 年。)
(*)(参考 : 玉川直重『新約聖書ギリシア語独習』新装版,改訂新版,キリスト新聞社,2008 年。)
(*)(参考 : 『誰でも聴いて読めるギリシア語聖書 : 新共同訳—ギリシア語インターリニア新約聖書』機械可読データファイル(光ディスク),日本聖書協会,2008 年。)
(*)(参考 : ジェレミー・ダフ著/浅野淳博訳『エレメンツ : 新約聖書ギリシア語教本』新教出版社,2008 年。)
(*)(参考 : エマオ出版『新約聖書 : ギリシア語新約聖書ネストレ第二十七版からの直訳による』エマオ出版,2008 年。)
(*)(参考 : 逸身喜一郎「ラテン語—ヨーロッパ文化の底流をなす共通の知的土壌(特集 古典語・古代語の世界—“世界言語遺産”をめぐる旅)」言語 37(12),2008 年。)
(*)山澤考至「天草版「ラテン文典」研究序説の羅和対訳文について」Kobe Miscellany 31, 2008 年。

(*)(参考：樋口勝彦・藤井昇『Grammtica Latina』新装版,研究社,2008 年。)
(*)(参考：内田慶一「《文學書官話》(1869)の文法論—19 世紀中国語文法研究の金字塔」(ラテン語)(関西大学アジア文化交流研究センター)アジア文化交流研究 3,2008 年。)
(*)Watanabe ,Akihiko‘Classica Japonica : Greece and Rome in the Japanese Acadimia and Popular Literature’ Amphora 7(1),2008.
(*)(参考：ヴァレリア・デッラ・ヴァッレ,ジュゼッペ・パトータ/草皆伸子訳『イタリア語の歴史 : 俗ラテン語から現代まで』白水社,2008 年。)
(*)(参考 : 大東文化大学外国語学部創設三十五周年記念論文集刊行委員会編『大東文化大学外国語学部創設三十五周年記念論文集』(ボエティウス)大東文化大学外国語学部,2008 年。)
(*)(参考：『古典主義の運命とその政治的賭け金—フランス革命期から第三共和制まで』京都大学 2006 年,(科研費)2008 年。)
(*)(参考：小野茂『歴史のなかの英語：English in history』南雲堂,2008 年。)
(*)(参考 : 内山勝利「連作短歌調『イリアス』--ホメーロス定型訳の試み」図書 682,2008 年。)
(*)(参考：瀧章次「プラトン著作中世ビザンツ写本 Parisinus graecus 1807 fol1[r]col.1-fol.14 [r]col1(『クレイトポン』,『国家』第 1 巻)に付されたる疑問符の形態,出所,特質について」城西国際大学紀要 16(2),2008 年。)
(*)(参考：堤美智子「書誌的一調査事項としてのウォーター・マーク—ステファヌス版『プラトン著作集』本文用紙に漉き込まれたウォーター・マークについて」花園大学文学部研究紀要 40,2008 年。)
(*)(参考：齋藤伸治「ゲームとしての言語—ソシュールとウィトゲンシュタインについて」(プラトン)言語と文化・文学の諸相?,2008 年。)
(*)(参考：古澤ゆう子研究代表『EU における言語問題と言語文化』古澤ゆう子(一橋大学),科学研究費補助金(基礎研究 C)研究成果報告書,平成 17-19 年度,2008 年。)
(*)(参考：アントワーヌ・ペルマン/藤田省一訳『他者という試練』みすず書房,2008 年。)
(*)(参考：ゲーテ他/三ツ木道夫編訳『思想としての翻訳：ゲーテからベンヤミン,ブロッホまで』白水社,2008 年。)
(*)(参考：三ツ木道夫「翻訳思想のドイツ的伝統と受容—ゲオルグ・クライスの翻訳論」通訳翻訳研究 8,2008 年。)
(*)大分県立先哲史料館編『前野良沢資料集(全 3 巻)』大分県先哲叢書,大分県教育委員会,2008-2010 年。
(*)(参考：上村直己「ドイツ語学者 吉田謙二郎」日独文化交流研究 2008 年号,2008 年。)
(*)松岡智之「ミステリと『源氏物語』研究：森谷明子『千年の黙(しじま)』から(特集 日本文学協会第 62 回大会二日目文学研究の部〈文学〉の黄泉がえり)」(ドイツ文献学)日本文学 57(4),2008 年。)
(*)(参考：徳永聡子「日吉メディアセンター所蔵の西洋初期刊本—HRP 貴重書展解題再録」慶應義塾大学日吉紀要・英語英米文学 54,2008 年。)
(*)(参考 : 本間栄男「読書して喜ぶベークマン : 独学者の学び」科学史研究・第 II 期 47(247),2008 年。)
(*)新熊清『翻訳文学のあゆみ：イソップからシェイクスピアまで』(切支丹翻訳文学)

世界思想社,2008 年。
(*)(参考：岡田温司「翻訳の人類学,事始め」表象 7,2008 年。)
(*)齋藤美野「森田思軒と文学翻訳—起点テクストの「姿」を再現すること」通訳翻訳研究 8,2008 年。)
(*)細井敦子・平田眞・成蹊大学図書館「成蹊大学図書館所蔵貴重書解説目録(1)(2)補遺」成蹊大学文学部紀要 43,2008 年。
(*)(参考：細井敦子「中国文化学会 平成 19 年度大会 講演会 西洋古典の初期刊本をめぐって」中国文化 66,2008 年。)
(*)鈴木英夫「和訳聖書の植物名—翻訳委員社中から大正改訳へ」白百合女子大学キリスト教文化研究論集 9,2008 年。
(*)野中正孝編『東京外国語学校史：外国語を学んだ人たち』不二出版,2008 年。
(*)(参考：鶴ケ谷真一『書を読んで羊を失う』平凡社ライブラリー644,平凡社,2008 年。)
(*)柳沼重剛『語学者の散歩道』岩波現代文庫,2008 年。
(*)(参考：大芝芳弘・研究代表『西洋古典学における間テクスト解釈理論に基づく実証的作品論研究』首都大学東京都市教養学部, 科学研究費補助金(基礎研究 C)研究成果報告書,平成 17-19 年度,2008 年。)
(*)(参考：安西眞・研究代表『古典期ギリシア語散文の文献学的研究』安西眞,科学研究費補助金(基盤研究 C)研究成果報告書,平成 18-19 年度。)
(*)安西眞「古典文献学とはどういう学問か---人文学の「カタ」」(葛西康徳・鈴木佳秀編『これからの教養教育---「カタ」の効用(未来を拓く人文・社会科学シリーズ 9)』所収,東信堂,2008 年。)
(*)(参考：アウグスト・ベーク/安酸敏眞訳「アウグスト・ベーク『文献学的な諸学問のエンチクロペディーならびに方法論』翻訳・注解(1-6)」北海学園大学人文論集 40,41,2008 年//42,43,44,2009 年//45,2013 年。)
(*)高松敏男「高松敏男略年譜・編著述目録(書誌と書誌ロン)」文献探索 2008,2008 年。)
(*)(参考：リック・リオーダン作/金原瑞人・小林みき訳『迷宮の戦い』パーシー・ジャクソンとオリンポスの神々4,ほるぷ出版,2008 年(→2016 年,静山社ペガサス文庫,静山社。)。)
(*)(参考：岩本裕子「西洋精神の起源をめぐる一考察：映像に描かれた聖書・神話・伝説(こども学部開設『総合福祉』『浦和論叢』統合記念号)」浦和論叢 38,2008 年。)
(*)(参考：熊野純彦・下田正弘編『死と他界が照らす生』死生学 2,東京大学出版会,2008 年。)
(*)(参考：篠井保彦「神託と予測(23)音楽芸術」地中海歴史風土研究誌 27,2008 年。)
(*)(参考：山下桐子「鳥のこぼれ話(2)愛にまつわる鳥の話」地中海歴史風土研究誌 27,2008 年。)
(*)(参考:篠井保彦「神託と予測(24)世界と人間をつなぐ物語」地中海歴史風土研究誌 28,2008 年。)
(*)(参考：深沢克己研究代表『ヨーロッパにおける宗教的・密儀的な団体・結社に関する比較社会史的研究』東京大学大学院人文社会系研究科,科学研究費補助金(基盤研究 B2)研究成果報告書,平成 17-19 年度,2008 年。)
(*)(参考：小佐野重利・木下直之編『死と死後をめぐるイメージと文化』死生学 4,東京大学大学院人文社会系研究科,2008 年。)

(*)(参考：佐藤慎太郎「(研究ノート)ルーマニア期エリアーデ研究の現状と課題」東北宗教学 4,2008 年。)
(*)(参考：佐藤慎太郎「M.エリアーデの人間観とその形成(第 1 部会,〈特集〉第 67 回学術大会紀要)」宗教研究 82(4),2008 年。)
(*)(参考：中久保恭「エリアーデ宗教学のコスモロジーに基づく説話解釈の可能性--「宇宙の全体性」の表象および「周縁」」梅花児童文学 16,2008 年。)
(*)小林祐門「ヴァルター・ブルケルト著/前野佳彦訳「ホモ・ネカーンス—古代ギリシアの犠牲儀礼と神話」(法政大学出版局)」史學雜誌 117(12),2008 年。
(*)(参考：小川正廣『ウェルギリウス『アエネーイス』--神話が語るヨーロッパ世界の原点』書物誕生：あたらしい古典入門,岩波書店,2008 年。)
(*)(参考：穴見恭子「ホタティウスとトロイア神話圏--『カルミナ』を中心に」古典古代学 1,2008 年。)
(*)(参考：尾方一郎「ヘルメス神話とトーマス・マン」ペディラヴィウム 62,2008 年。)
(*)穂村弘・沖ななも・齋藤齋藤「作品季評(第 66 回後半)東直子「シホユ」喜多隆子歌集「系統樹の梢」大滝和子歌集「竹とヴィーナス」」短歌研究 65(5),2008 年。)
(*)(参考：木島俊介・小池寿子「コルセットをしたヴィーナス 対談(創刊 700 号記念大特集 永久保存版 芸術新潮が選ぶヴィーナス 100 選)—(19 世紀篇)」芸術新潮 59(4),2008 年。)
(*)(参考：木島俊介・小池寿子「冷たい肌しか愛せない 対談(創刊 700 号記念大特集 永久保存版 芸術新潮が選ぶヴィーナス 100 選)—(マニエリスム篇)」芸術新潮 59(4),2008 年。)
(*)(参考：木島俊介・小池寿子「ボッティチェッリは生の裸を見たか 対談(創刊 700 号記念大特集 永久保存版 芸術新潮が選ぶヴィーナス 100 選)—(ルネサン篇)」」芸術新潮 59(4),2008 年。)
(*)(参考：「ヴィーナスのひみつ(創刊 700 号記念大特集 永久保存版 芸術新潮が選ぶヴィーナス 100 選)」芸術新潮 59(4),2008 年。)
(*)(参考：小池寿子「おなかぽっこりの謎(創刊 700 号記念大特集 永久保存版 芸術新潮が選ぶヴィーナス 100 選)—(中世・北方篇)」芸術新潮 59(4),2008 年。)
(*)(参考：木島俊介・青柳正規・小池寿子「八頭身美人はどこからきたか?鼎談(創刊 700 号記念大特集 永久保存版 芸術新潮が選ぶヴィーナス 100 選)—(古代篇)」芸術新潮 59(4),2008 年。)
(*)(参考:鈴木繁夫「ヴィーナスとナルキッソス—屈折する感覚と表象」言語文化論集 29(2),2008 年。)
(*)井上章一「ヴィーナスの尻と乳--『性欲の文化史』を刊行するにあたって」本 33(11),2008 年。
(*)(参考:田桐正彦「オルルアン家詩歌帖の世界(1)ヴィーナスの盾—シャルルとヴィヨン『ラテン語をまじえるバラード』注解」女子美術大学研究紀要 38,2008 年。)
(*)(参考：望月典子「政治的寓意としてのノコラ・ブッサン作《ネプトゥヌスの勝利》(《ネプトゥブスとアンフィトリテの勝利》あるいは《ウェヌスの勝利》)」日仏美術会会報 28,2008 年。)
(*)(参考：石見衣久子「ディオニューソス像の再構築に向けて：ノンノス『ディオニューソス譚』を足掛かりとして」比較宗教思想研究 8,2008 年。)

(*)(参考：石見衣久子「ノンノス『ディオニューソス譚』第 7 歌—翻訳と解題(1)」現代社会文化研究 43,2008 年。)
(*)(参考：レイモンド・カーヴァー/村上春樹訳『英雄を謳うまい』(「ポセイドンと仲間」)村上春樹翻訳ライブラリー,中央公論新社,2008 年。)
(*)(参考：小林康夫「UT オデュッセイア(22)ポセイドンの逆襲,あるいはニューロンの詩学」UP 37(10),2008 年。)
(*)(参考：山田望「エフェソス女神「アルテミス」から神の母「テオトコス」へ—地母神崇拝の衰退とマリア崇敬の起源」アカデミア；人文・社会科学編[含・英文要旨]86,2008 年。)
(*)(参考：小島久和訳「マリシリオ・フィチーノ著『プラトン神学 霊魂の不死性について』翻訳(1-19)」文芸研究 106,2008 年/107,108,109,2009 年/110,112,2010 年/113,114,115,2011 年/116,118,2012 年/119,121,2013 年/122,124,2014 年/125,127,2015 年/128,130,2016 年。)
(*)(参考：土井裕人「現代におけるプラトンの宗教思想(第二部会,〈特集〉第 66 回学術大会紀要)」宗教研究 81(4),2008 年。)
(*)(参考：内山勝利『ここにも神はいます』哲学塾 1,岩波書店,2008 年。)
(*)(参考：神崎繁『魂(アニマ)への態度—古代から現代まで』岩波書店,2008 年。)
(*)指昭博「深沢克己・高山博編『新興と他者—寛容と不寛容のヨーロッパ宗教社会史』東京大学出版会,2006」史学雑誌 117(1),2008 年。
(*)(参考：野町啓「アレクサンドリアの神学」(『哲学の歴史』第 3 巻「神との対話」所収,中央公論社,2008 年。)
(*)(参考：ジェーン・ハリソン/齋藤裕訳「ハリソン自伝：ヴィクトリア朝のある女性学者の一生(前後)」流通経済大学論集 42(2・3),2008 年。)
(*)(参考：岩本裕子「西洋精神の起源をめぐる一考察：映像に描かれた聖書・神話・伝説(こども学部開設『総合福祉』『浦和論叢』統合記念号)」浦和論叢 38,2008 年。)
(*)(参考：月本昭男『古典としての旧約聖書』聖公会出版,2008 年。)
(*)(参考：月本昭男他『図説 聖書の世界：壮大な聖書の物語を凝縮した決定版!』学習研究社,2008 年。)
(*)(参考：カトリック京都司教区聖書委員会企画・編集『ルカ福音書を読む：同伴者イエス』聖書講座シリーズ,サンパウロ,2008 年。)
(*)(参考：茂洋『前に向かって進む：「ルカ福音書」の語る主イエスのイメージ』新教出版社,2008 年。)
(*)(参考：ゲルト・タイセン/大貫隆訳『原始キリスト教の心理学：初期キリスト教徒の体験と行動』新教出版社,2008 年。)
(*)(参考：大貫隆『グノーシス「妬み」の政治学』岩波書店,2008 年。)
(*)本村凌二「大貫隆先生を送る」東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要 13,2008 年。
(*)(参考：平林美都子「“The Road from Colonus”における男性性とヘレニズム」愛知淑徳大学論集,文学部・文学研究科篇 33,2008 年。)
(*)(参考:近藤耕人『ミメーシスを超えて:ヨーロッパ文学における身体と言語』水声社,2008 年。)

(*)(参考：阪本浩・鶴島博和・小野善彦共著『ソシアビリテの歴史的位相：古典古代と前近代ヨーロッパ』南窓社(キリスト教歴史双書 21),2008 年。)
(*)(参考：片柳榮一研究代表『古代地中海世界の多元的状況とキリスト教の形成』片柳榮一,2008 年。)
(*)(参考：田中創「古代末期における公的教師の社会的役割：リバニオス書簡集の分析から」史學雜誌 117(2),2008 年。
(*)(参考：前田護郎『聖書の研究』前田護郎選集 2,教文館,2008 年。)
(*)(参考：井上洋治『イエスの福音にたたずむ』日本キリスト教団出版局,2008 年。)
(*)(参考：小林稔『ヨハネ福音書のイエス』岩波書店,2008 稔。)
(*)(参考：和田三造・加藤輝子文『イエスの一生』知泉書院,2008 年。)
(*)阿部仲麻呂「書評 ウィリアム・クラッセン著(森夏樹訳)『ユダの謎解き』」白百合女子大学キリスト教文化研究論集 9,2008 年。
(*)(参考：土戸清『使徒言行録：現代へのメッセージ』日本キリスト教団出版局,2008 年。)
(*)(参考：福田秀雄『使徒言行録』新約聖書注解全集 5,聖書の友社,2008 年。)
(*)(参考：阿部仲麻呂「エフェソス公会議からカルケドン公会議に至るキリスト論の成熟過程をたどる—20 年間にわたる『キリスト論』論争に関して」清泉女子大学キリスト教文化研究所年報 16,2008 年。)
(*)(参考：土井健司「フィランスロピアとキリスト教批判の諸相：最初の四世紀における迫害・受肉・救貧を巡って(〈特集〉宗教批判の諸相)」宗教研究 82(2),2008 年。)
(*)(参考：小河陽「復活信仰についての最近の研究を巡って」キリスト教学 50,2008 年。)
(*)(参考：フィリップ・ヴァルテール/渡邉浩司訳『中世の「キリスト教神話」を求めて：神話・神秘・信仰：公開講演会』人文研ブックレット 23,中央大学人文科学研究所,2008 年。)
(*)(参考：小澤実「批判と反省：ヨーロッパ中世の〈霊性〉概念と宗教運動の対話：池上俊一『ヨーロッパ中世の宗教運動』をめぐって」歴史学研究 845,2008 年。)
(*)(参考：小澤実「イアン・N.ウッド「宣教伝。聖人とヨーロッパのキリスト教化,400 年から 1050 年」」紀要 9,2008 年。)
(*)(参考：百瀬春生「魔女狩りはなぜなくならないのか?」地中海歴史風土研究誌 27,2008 年。)
(*)(参考：益田朋幸「初期ビザンティンにおける「祈り」(シンポジウム 古代地中海世界における病・癒し・祈り)」地中海研究所紀要 6,2008 年。)
(*)(参考：Wolf Gerhard/水野千依訳「真のイメージ—ビザンティウムから西方までのキリストの顔」Aube 3,2008 年。)
(*)(参考：水野千依「「田園の聖母」の幻視—十六世紀イタリアの田園文化と聖母信仰をめぐる一考察」芸術学研究 2,2008 年。)
(*)(参考：松本宣郎編『西洋古代史の諸問題：西洋史研究会共通論題 1977-2005 年』東北大学大学院文学研究科ヨーロッパ史研究室,2008 年。)
(*)佐藤勝則「松本宣郎教授の業績と学風」文化 71(3・4),2008 年。
(*)「業績目録(松本宣郎)」文化 71(3・4),2008 年。
(*)(参考：松本宣郎「ローマ帝国のキリスト教—哲学者とキリスト教徒」東北学院大学キリスト教研究所紀要 26,2008 年。)

(*)(参考 : 出村みや子「初期キリスト教とグノーシス主義諸派の関係をめぐって—オリゲネスの聖書解釈を中心として」東北学院大学キリスト教文化研究所紀要 26,2008 年。)
(*)(参考：保坂高殿『ローマ帝政中期の国家と教会：キリスト教迫害史 193-311 年』教文館,2008 年。)
(*)(参考：荒井献・戸田聡「今「ユダ」を問う意味」福音と世界 63(9),2008 年。)
(*)(参考：戸田聡訳「サミール・ハリル・サミール：「アラブ世界におけるキリスト教徒の文化的役割」」跡見学園女子大学人文学フォーラム 6,2008 年。)
(*)(参考：A.H.M.ジョーンズ/戸田聡訳『ヨーロッパの改宗：コンスタンティヌス《大帝》の生涯』教文館,2008 年。)
(*)(参考：池上俊一『儀礼と象徴の中世』ヨーロッパの中世 8,岩波書店,2008 年。)
(*)(参考：戸田聡『キリスト教修道制の成立』創文社,2008 年。)
(*)(参考：戸田聡「禁欲主義という生き方」創文 511,2008 年。)
(*)(参考：宮本久雄『他者の甦り—アウシュヴィッツからのエクソダス』創文社,2008 年。)
(*)(参考：橋本龍幸『聖ラデグンディスとポスト・ローマ世界』南窓社,2008 年。)
(*)(参考：ケネス・シェンク/土岐健治・木村和良訳『アレクサンドリアのフィロン：著作・思想・生涯』教文館,2008 年。)
(*)片山はるひ「日本近代文学の中のキリスト教(1-3)遠藤周作とベルナノス(1-3)「聖化」の物語」福音と世界 63(12),2008 年/64(1,2),2009 年。
(*)佐藤忠男「一冊の本(2)鵜闇の生体解剖 人間の良心とは何か--『(遠藤周作著)海と毒薬』」ひろばユニオン 560,2008 年。
(*)長濱拓磨「遠藤周作参考文献目録(2000・平成 12 月 1 月~2007 平成 19 年 12 月)」遠藤周作研究 1,2008 年。
(*)久松健一「遠藤周作の読書体験—旧蔵書(仏語文献)を眺めながら」遠藤周作研究 1,2008 年。
(*)兼子盾夫「『留学』第三章における色の象徴と暗喩--「白」「赤」と「ヨーロッパという大河」遠藤周作研究 1,2008 年。
(*)朴賢玉『遠藤周作文学研究：受容から照射される遠藤文学』出版者不明,2008 年。
(*)宅間紘一『文庫で名作再読 :『走れメロス』から『カラマーゾフの兄弟』まで』新泉社,2008 年。)
(*)勝田真由子「王の法と語る身体--「走れメロス」論」阪神近代文学研究 9,2008 年。
(*)齋藤理生「饒舌・沈黙・含羞：「走れメロス」の語りづらさ」月刊国語教育 27(11),2008 年。)
(*)前田角蔵「「走れメロス」論 :「赤面」するメロスと少女の緋のマントの意味」試想 6,2008 年。
(*)太宰治「「名作」は今も輝く太宰治『走れメロス』」月刊自由民主 667,2008 年。
(*)高橋宏宣「王のための物語—太宰治「走れメロス」試考」研究紀要 49,2008 年。
(*)佐々木義登「勇者の条件：太宰治「走れメロス」論(創立 130 周年記念若手研究者入賞論文集,創立 130 周年記念号)」二松：大学院紀要 22,2008 年。
(*)増田富・石上靖芳「カリキュラム開発能力の向上を基盤とした文学作品の教材化に関する実践研究(2)：「走れメロス」と「高瀬舟」における単元評価の分析から」静岡大学挙行く実践総合センター紀要 15,2008 年。

(*)作間慎一「文学作品の謎解き読み—『走れメロス』の謎を読み解く」論叢 2008,2008 年。
(*)齋藤理生「饒舌・沈黙・含羞：「走れメロス」の語りづらさ」月刊国語教育 27(11),2008 年。
(*)西俊六「人間力・言語力を育む国語科教育の一考察—宮古市立第一中学校--「走れメロス」の授業取材を通して」比較文化研究年報 18,2008 年。
(*)池田庸子「文学教材を用いた読解授業の試み：太宰治の「走れメロス」を読む」日本語教育方法研究会誌 15(1),2008 年。
(*)(参考：山田耕太「ギリシア・ローマ時代のパイデイア教育の修辞学の教育(延原時行教授・北嶋美雪教授・Allan Blonde 教授退任記念号)」敬和学園大学研究紀要 17,2008 年。)
(*)(参考：畑潤「ヒューマニティの思想の現代性について—ギリシア的パイデイア—(教養の再生を考える)」教育 58(2),2008 年。)
(*)(参考：高橋美帆「エズラ・パウンドの「悲劇」--パウンド版『トラキスのたち』をめぐる一考察」天理大学学報 60(1),2008 年。)
(*)(参考：安川慶治「エズラ・パウンドの「悲劇」：パウンド版『トラキスのたち』をめぐって」研究論集 88,2008 年。)
(*)(参考：七字英輔「劇評 演劇の「ドラマ」の三つの現れ方—新国立劇場=異人の唄—アンティゴネ,燐光群=ワールド・トレード・センター,Bunkamura=カリギュラ」テオトロ 800,2008 年。)
(*)(参考：丹下和彦『ギリシア悲劇：人間の深奥を見る』中公新書,2008 年。)
(*)(参考：シェイマス・ヒーニー/小沢茂訳『トロイの癒し：ソポクレス『ピロクラテス』の一変奏』国文社,2008 年。)
(*)(参考：井浦伊知郎「トロイアの木馬」異聞—イスマイル・カダレ『怪物』におけるホメーロス解釈)広島文教女子大学紀要 43,2008 年。)
(*)(参考：川島重成「人間と人間を超えるもの—古代ギリシア文学における名誉と報復の正義の問題をめぐって」(国基督教大学キリスト教と文化研究所）人文科学研究(キリスト教と文化)39,2008 年。)
(*)(参考：山本淳『オウディプスのいる町—悲劇『オイディプス王』の分析』松柏社,2008 年。)
(*)(参考：逸身喜一郎『ソフォクレース『オイディプース王』』とエルリーピデース『バッカイ』：ギリシャ悲劇とギリシャ神話』書物誕生：新しい古典入門,岩波書店,2008 年。)
(*)(参考：穴見恭子「ホラティウスとトロイア神話圏—『カルミナ』を中心に」古典古代学 1,2008 年。)
(*)(参考：根岸宗一郎「周作人と『トロイアの女』--羅念生との交流をめぐって」中国研究 1,2008 年。)
(*)(参考：穴見恭子「ホラティウスとトロイア神話圏--『カルミナ』を中心に」古典古代学 1,2008 年。)
(*)(参考：角田幸彦研究代表『魂の救済者セネカのローマ的悲劇の射程』明治大学,科学研究費補助金(基盤研究 C)研究世紀ァ報告書 平成 16 年度-平成 19 年度,2008 年。)
(*)(参考：長町裕司「キリスト教的大学教育と智の理念」ソフィア 56(3),2008 年。)

(*)(参考：畑潤「ヒューマニティの思想の現代性について—ギリシア的パイデイアー(教養)の再生を考える(特集 再検証･全国学力テスト)」(国土社)教育 58(2),2008 年。)
(*)(参考：中村健之介「ドストエフスキー・ノート(5)ゲッペルス,トマス・ア・ケンピス」大妻比較文化 9,2008 年。)
(*)(参考：五野井隆史「講演「イミタティオ・クリスティ」から「こんてむつすむん地」まで—“De imitatione Christi”(『キリストに倣いて』)とイエズス会と日本のキリシタン」(藤女子大学キリスト教文化研究所)紀要 9,2008 年。)
(*)(参考：内山勝利責任編集『哲学誕生』哲学の歴史 1「古代 1」,中央公論新社,2008 年。)
(*)(参考：金子武蔵述/中田知記録『日本の速記百二十五年 西洋倫理学史(NHK ラジオ教養大学講座)』中田知,2008 年。)
(*)(参考：今道友信「〈論文〉思索と言葉：思索の本質的構造に関する思弁哲学的企画」キリスト教文化研究所紀要 14(1),2008 年。)
(*)岩田靖夫『いま哲学とは何か』岩波新書,2008 年。)
(*)(参考：荒木清『文庫 1 冊で読める哲学名著』中経の文庫,中経出版,2008 年。)
(*)(参考：佐藤真理恵「融解する表面：ヘレニズム以前のギリシアにおけるプロソポンの考察(西部会第 266 回研究発表会,例会・研究発表要旨)」美学 59(1),2008 年。)
(*)(参考：佐藤真理恵「融解する表面：ヘレニズム以前のギリシアにおけるプロソポンの考察」美学 59(2),2008 年。)
(*)(参考：知的時間を愉しむ会編『常識としての世界の哲学：ソクラテスからサルトル,フーコーまで』PHP文庫,PHP研究所,2008年。)
(*)(参考：左近司祥子・小島和夫『面白いほどよくわかるギリシャ哲学：ソクラテス,プラトン,アリストテレス—現代生き続ける古典哲学入門』学校で教えない教科書,日本文芸社,2008 年。)
(*)(参考：政井啓子「ゼノンのパラドクスとソフィストの技術と想像の誤り--「アキレウス」についてのデカルトの見解」西洋古典研究論集 17,2008 年。)
(*)(参考：四方田犬彦「スクリーンのなかの子供(12)絵を描く少年--『アキレスと亀』」飛ぶ教室 15,2008 年。
(*)(参考：菊谷忠治「存在と認識を巡る問題」地中海歴史風土研究誌 27,2008 年。)
(*)(参考：山田哲也『ソクラテス以前の哲学にみる古代懐疑主義への道』山田哲也,2008 年。)
(*)(参考：金澤修「二元論の系譜—プルタルコスにおける悪もしくは或る流れを巡って」哲学誌 50,2008 年。)
(*)(参考：波多野知子『ソクラテスと無知の思い：プラトン初期対話篇における「何であるか」の帰趨』上智大学,博士（哲学）,甲第 321 号,2008 年。)
(*)(参考：奥貞二「倫理道徳の必要性と最初の成立現場」(プラトン)紀要 41,2008 年。)
(*)(参考：ジュリア・アナス/大草輝政訳・中畑正志解説『プラトン』1 冊でわかる,岩波書店,2008 年。)
(*)(参考：アルビノス他著/中畑正志編・鎌田雅年/久保徹・國方栄ニ・脇條靖弘・木下昌巳・村上正治訳『プラトン哲学入門』京都大学学術出版会,2008 年。)
(*)(参考：早瀬篤『プラトン後期思想に於ける認識と存在の理論』京都大学,博士(文学),甲第 13465 号,2008 年。)

(*)(参考：池辺義教『哲学の勧め』(京都)青山社,2008 年。)
(*)(参考：小島和男『プラトンの描いたソクラテス—はたしてプラトンはソクラテスの徒であったか』晃洋書房,2008 年。)
(*)(参考：三浦要研究代表『プラトン哲学の基底における構成的要因としてのソクラテス以前哲学について』三浦要,科学研究費補助金(基礎研究 C)研究成果報告書,平成 17 年度-19 年度,2008 年。)
(*)(参考：和田義浩「形而上学の哲学的意義：プラトンとヤスパースの超越的哲学の比較研究(第 6 回国際ヤスパース木阿木報告要旨)」コムニカチオン 15,2008 年。)
(*)(参考：貝澤哉「ウラジミール・エルンのプラトン論--「プラトン最高の解脱」(1917)について(プラトンとロシア[3])」「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 25,2008 年。)
(*)(参考：兎内勇津流「アレクサンドル 1 世期のロシア正教会教育改革とプラトン(プラトンとロシア[3])」「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 25,2008 年。)
(*)(参考:下里俊行「1850 年代のロシアにおける正教的プラトン理解(プラトンとロシア[3])」「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 25,2008 年。)
(*)(参考：坂庭淳史「キレーエフスキー兎シェリング,プラトン—全一性をめぐって(プラトンとロシア[3])」「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 25,2008 年。)
(*)(参考：根村亮「C.トゥリベツコーイの『エウテュデモス』論について(プラトンとロシア[3])」「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 25,2008 年。)
(*)(参考：波多野知子「インパクト・レヴユーCulture＆Critique プラトンと闘うブルース—『ランシエール 新〈音楽の哲学〉』市田良彦著」インパクション 161,2008 年。)
(*)(参考：近藤智彦「アフロディシアスのアレクサンドロスによる運命論批判はアリストテレス的か?(第 57 回大会研究論文発表)」東北哲学会年報 24,2008 年。)
(*)(参考：山本麻衣子『アリストテレス『ニコマコス倫理学』における行為論』お茶の水女子大学,博士(人文科学),乙第 517 号,2008 年。)
(*)(参考：日吉大輔『アリストテレス探究論の研究：『分析論後書』における定義と論証』北海道大学,博士(文学),甲第 8875 号,2008 年。)
(*)(参考：西村正身「「アリストテレスとフィリス」：最古の類話を検証する」作新学院大学紀要 18,2008 年。)
(*)(参考：近藤智彦『ストア派の運命論をめぐって：ヘレニズム・ローマ期の哲学における決定論と自由意志』東京大学,博士(文学),甲第 24050 号,2008 年。)
(*)(参考：渡辺誠「時間論のドクサ—アリストテレスとアウグスティヌスの場合」東京大学大学院人文社会系研究科・文学部哲学研究室論集 27,2008 年。)
(*)(参考：ディック・キング=スミス作；ボブ・グラハム絵：石随じゅん訳『ネコのアリストテレス』児童図書館・文学の部屋,評論社,2008 年。)
(*)(参考：加藤信朗『アウグスティヌス〈告白録〉講義』書評会記録,著者コメント)」パトリスティカ：教父研究 12,2008 年。
(*)(参考：トレルチ/西村貞二訳『アウグスティヌス—キリスト教的古代と中世』復刊,新教

出版社,2008 年。)
(*)(参考 : H.I.マルー/岩村清太訳『アウグスティヌスと古代教養の終焉』知泉書院,2008 年。)
(*)(参考 : 加藤敏「ポストモダンにおけるアウグスティヌスへの回帰現象」精神医学史研究 12(1),2008 年。)
(*)(参考 : 名木田薫『西洋キリスト「教」とパウロ的「信仰」』(岡山)大学教育出版,2008 年。)
(*)(参考 : 岡野利津子『プロティノスの認識論』知泉書院,2008 年。)
(*)(参考 : ケネス・シェンク/土岐健治・木村和良訳『アレクサンドリアのフィロン : 著作・思想・生涯』教文館,2008 年。)
(*)(参考 : 荻野弘之『マルクス・アウレリウス『自省録』--精神の城塞』書物誕生 : 新しい古典入門,岩波書店,2008 年。)
(*)(参考 : 角田幸彦『体系的哲学者キケローの世界—ローマ哲学の真の創設』文化書房博文社,2008 年。)
(*)(参考 : 角田幸彦『キケローにおけるヒューマニズムと哲学 : ブルクハルトとニーチェをもつなげて』文化書房博文社,2008 年。)
(*)(参考 : 米山基「トマス・アクィナスの内部感覚理解について—アヴィケンナとアヴェロエスによる影響の観点から」早稲田大学大学院文学研究科紀要・第 1 分冊 54,2008 年。)
(*)(参考 : リチャード・ルーベンスタイン/小沢千重子訳『中世の覚醒—アリストテレス再発見から知の革命へ』紀伊国屋書店,2008 年。)
(*)(参考 : K.リーゼンフーバー/村井則夫訳『中世における理性と霊性』知泉書館,上智大学中世思想研究所中世研究叢書,2008 年。)
(*)(参考 : 高田康成「書評(52)幻の影を抱いて[山内史朗『普遍論争—近代の源流としての』R.E.ルーベンスタイン/小沢千重子訳『中世の覚醒—アリストテレス再発見から知の革命へ』M.ハイデガー/高田珠樹訳『アリストテレスの現象学的解釈--「存在と時間」への道』」UP37(7),2008 年。)
(*)(参考 : 杉崎泰一郎「中世の修道士と書物」創文 505,2008 年。)
(*)野々村準「上智大学中世思想研究所編『中世と近世のあいだ--14 世紀におけるスコラ学と神秘思想』中世研究 12,知泉書院,2007」史学雑誌 117(4),2008 年。
(*)「追悼 山田晶先生[含・略年譜,主要業績](山田晶先生追悼記念号)」中世哲学研究 27,2008 年。
(*)「山田晶先生譜(追悼 山田晶先生)」創文 509,2008 年。
(*)山本耕平「弔辞(同上)」創文 509,2008 年。
(*)源了圓「山田晶君を悼む(同上)」創文 509,2008 年。
(*)稲垣良典「山田晶教授の中世哲学研究(同上)」創文 509,2008 年。
(*)(参考 : 筒井明子「二つの「死」とその克服への道—ボエティウス『哲学の慰め』を中心に」哲学論文集 44,2008 年。)
(*)(参考 : 中西博之「トマス・アクィナスの判断論の一考察 : 『ボエティウス三位一体論註解』第五問題における抽象理論について」純真紀要 49,2008 年。)
(*)(参考 : 今道友信「基調講演 カトリックの教養教育(特集 いま,カトリックがめざす全人教育[ホリスティックエデュケーション]とは?)」カトリック教育研究 25,2008 年。)

(*)(参考：加茂英臣「僭主の夢—ミメーシス」千葉大学教育学部研究紀要 56,2008 年。)
(*)(参考：野々瀬浩司「エラスムスと人格の自由：「キリスト教の君主の教育」を中心として」史學雑誌 117(2),2008 年。)
(*)(参考：小林裕明「ヘーゲル哲学体系における物体論—プラトンとアリストテレスの統一としてのヘーゲル」現代社会文化研究 41,2008 年。)
(*)(参考：吉川孝「フッサールはどこまでアリストテレス主義者か—ヘイナマー教授の講演に寄せて(特集 革新と現象学的倫理学)」現象学年報 24,2008 年。)
(*)(参考：藪内聰和「教育における真理概念の転換—ハイデガーによるプラトンの「洞窟の」解釈をめぐって」日本文理大学紀要 36(1),2008 年。)
(*)(参考：M.ハイデッガー/高田珠樹訳『アリストテレスの現象学的解釈--『存在と時間』への道』平凡社,2008 年。)
(*)(参考：安里淳「製作と実践の共働と分離—ハイデガーの前期著作におけるアリストテレスの影響」メタフフュシカ 39,2008 年。)
(*)(参考：武井徹也「論理学とアレーテイア—前期ハイデガーにおけるアリストテレスの現象学的解釈と論理学的・存在論的思惟」立正大学哲学会紀要 3,2008 年。)
(*)(参考：岡田道程「有の問いと思索の課題—ハイデッガーにおけるアリストテレスと現象学」哲学・思想論叢 26,2008 年。)
(*)(参考:木田元「読書余滴(6)アリストテレス学徒としてのハイデガー」大航海 67,2008 年。)
(*)(参考：木田元「ハイデガーを読むということ」ライバーズ 30,2008 年。)
(*)鈴木光司・木田元「木田元『反哲学入門』刊行記念 反哲学論議」波 42(1),2008 年。
(*)木田元「著者に聞く 木田元『反哲学入門』」中央公論 123(3),2008 年。
(*)稲垣正浩「文学に見るスポーツ(230,231)『反哲学史』木田元著」月刊体育施設 37(11,13),2008 年。
(*)(参考：藤田博文「M.フーコーにおける「自己への配慮」：〈倫理—政治的〉な自律主体の形成を中心に」社会学評論 59(3),2008 年。)
(*)(参考：秋山学「慈雲と華厳思想—「古典古代学基礎論」にために」古典古代学 1,2008 年。)
(*)(参考：AbuHatimal-Razi/野元晋訳『イスマイール派思想家の新プラトン主義的宇宙論—アブー・ハーティム・ラーズイーの『訂正の書』Kiatab al-Islah 英訳 3-(2)」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 39,2008 年。)
(*)(参考：「シンポジウム 17 世紀哲学とプラトニズム」新プラトン主義研究 8,2008 年。
----- 名須川学「デカルトとルネサンス・プラトニズム」
名須川学「デカルトにおける“mens”概念について」
比留間亮平「ピコ・デラ・ミランドラにおけるプラトン主義理解とその影響」
相馬伸一「コメニウスにおける新プラトン主義的諸相」)
(*)(参考：久山雄甫「ゲーテとフィチーノのスピリトゥス論--『色彩論』教示篇序文の四行詩にみる「新プラトン主義」」モルフォロギア 30,2008 年。)
(*)金沢英之「平安期における竜宮：『三宝絵』精進波羅蜜の例話を中心に」(百合若大臣)比較文化論集：札幌大学文化学部紀要 21,2008 年。
(*)(参考：三上章「研究発表要旨 ラルフ・ラトガースの『庶民院での説教—1647 年 3 月 31

日』ラルフ・ラトガースの説教とケンブリッジ・プラトン学派の精神」基督教學 43,2008 年。)
(*)(參考：馬場智一『倫理の他者：レヴィナスにおける異教概念；語源,概念史,ハイデガー受容の観点から』一橋大学,2008 年(→2012 年,勁草書房版)。)
(*)(參考：アルフレート・シュトゥッキ/国松孝二・伊藤利男訳『ヒルティ伝』新装復刊,白水社,2008 年。)
(*)(參考：ヒルティ/齋藤栄治編・氷上英廣他訳『幸福論』新装版,白水社,2008 年。)
(*)(參考：ヒルティ/小池辰雄編・小池辰夫・登張正実・小塩節訳『眠られぬ夜のために』新装版,白水社,2008 年。)
(*)(參考：曽田長人「日本における人文主義研究の視角」聖学院大学総合研究所紀要 42,2008 年。)
(*)今井秀和「モクリコクリについて」(百合若大臣)日本文学研究 47,2008 年。
(*)夏目漱石『思い出す事など：他七篇』(ケーベル)ワイド岩波文庫,岩波書店,2008 年。
(*)大久保喬樹『洋行の時代』中公新書,2008 年。
(*)大内三郎『植村正久論考』新教出版社,2008 年。
(*)末木文美士「今村仁司氏の清沢満之研究」東京経大学会誌・経済学 259,2008 年。
(*)山本伸裕「学問的真理と宗教的真理の関係や如何—清沢満之の「宗教哲学」を中心に」現代と親鸞 15,2008 年。
(*)田村晃徳「学と信の関係—清沢満之における「宗教と学問」」現代と親鸞 16,2008 年
(*)鈴木明子「「心霊の修養」における清沢満之の信と知(フランス共同ゼミ「パリ・ディドロ(第 7)大学とお茶の水女子大学：日本学の新たな構築の試み」)」大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」活動報告書,平成 19 年度 海外研修事業編,2008 年。
(*)本谷一輝「大瀬甚太郎の教育史学の形成」教育学論集 4,2008 年。
(*)野村正雄「箕作阮甫の西洋史講義訳を巡って—なぜ古代に次ぎナポレオン時代なのかなど」一滴 15,2008 年。)
(*)戸田一郎「蘭学者たちの遺してくれたもの」(杉田玄白・宇田川榕庵・高野長英)物理教育 56(4),2008 年。
(*)田村義也「イタリア古説話との出会い(特集 南方熊楠)」ユリイカ 40(1),2008 年。
(*)鈴木貞美「和辻哲郎の哲学観・生命観・芸術観—「ニイチェ研究」をめぐって」日本研究 38,2008 年。
(*)長濱一真「深田康算をめぐって---ケーベル、和辻哲郎、そして近代」文芸研究 5 月号,2008 年。
(*)富岡幸一郎・片山杜秀・安藤礼二「西田幾多郎から蓑田胸喜まで「昭和思想」の最高峰を辿る(特集 平成 20 年偉大なる昭和の面影)」諸君 40(2),2008 年。
(*)新田義之『東北大学の学風を創った人々』(河野与一)東北大学出版会,2008 年。
(*)浅香正「序言----水再考・浴場：新田一郎氏の死を悼む」属州研究会「古代史年報」6,2008 年。
(*)伊藤貞夫「比較史の視点---外国史教育の意義と方法」日本學士院紀要 62(3),2008 年。
(*)(參考：小島久和「図書館特別資料紹介—ギョーム・ビュデと古典研究について」図書の譜 12,2008 年。)
(*)(參考：久保正彰「人文学のめざめ—ヤコブス・ホイエルのホメロス研究を中心に(日本

学士院･大韓民国学術院学術共同事業 第 2 回日韓学術フォーラム報告)」日本學士院紀要 62(3),2008 年。)
(*)(参考：久保正彰「ヤコブ・ホイエル(1651-1689)とホメロス研究」スピノザーナ 9,2008 年。)
(*)(参考：沓掛良彦「アリストパネス的笑い」図書 713,2008 年。
(*)(参考：池澤夏樹・久保田忠利・中務哲郎「座談会 ギリシア喜劇が進み出てきた」図書 713,2008 年。)
(*)(参考 : 久保正彰「欄外注記という遺産 : ヤコブス・ホイエルの場合(特集 草稿テキスト・研究の現状と将来)」大妻女子大学草稿テキスト研究所研究年報 1,2008 年。)
(*)(参考：三上章「研究発表要旨 ラルフ・カドワースの『庶民院での説教—1647 年 3 月 31 日』--ラルフ・カドワースの説教とケンブリッジ・プラトン学派の精神」基督教学 43,2008 年。)
(*)(参考：亀井高孝他編『標準世界史年表』増補 43 版,吉川弘文館,2008 年。)
(*)(参考：中野京子『危険な世界史([正],運命の女)』角川書店,角川グループパブリッシング(発売),2008 年(→2011 年,角川文庫版。)
(*)(参考：ポウマン K..アラン「ギリシア・ローマ世界の中のエジプト：プトレマイオス王朝からローマ属州へ」クリオ=Clio22,2008 年。)
(*)(参考：Jenifer Neils「Spartan girls and the Athenian gaze(ビザンティン写本研究の現在)」地中海研究所紀要 6,2008 年。)
(*)(参考：松田治『トロイア戦争全史』講談社学術文庫,講談社,2008 年。)
(*)(参考：ピロストラトス/内田次信訳『英雄が語るトロイア戦争』平凡社ライブラリー652,平凡社,2008 年。)
(*)小田切一雄・山下悟・高田正吾「演劇時評(1)東京原子核クラブ 詩人の恋 ミセス・サヴェジ 藪の中から龍之介 ゆらゆら 池袋わが町ハーフライト トロイア戦争は起こらないだろう ゆすり 戸惑いの日曜日 夜の空を翔ける」悲劇喜劇 61(12),2008 年。
(*)(参考：ハリー・サイドボトム/吉村忠典・澤田典子訳『ギリシャ・ローマの戦争』1 冊でわかる,岩波書店,2008 年。)
(*)(参考：阿刀田高/里中満智子「プルタークが描いた英雄たちの魅力」潮 595,2008 年。)
(*)(参考：阿刀田高・内山勝利・丘山新他「座談会 いまこそ発揮される古典の魅力」図書 718,2008 年。)
(*)(参考：澤田典子『アテネ最期の輝き』岩波書店,2008 年。)
(*)(参考 : 安彦良和『アレクサンドロス：世界帝国への夢 : 完全版』日本放送出版協会,2008 年。)
(*)(参考：大高順雄,福井秀和,クリスティーヌ・フェール・ラバン・アッシュ共訳『アレクサンドロス散文物語』BL.,ROY.15.E.VI)』大手前大学交流文化研究所,2008 年。)
(*)(参考：森谷公俊「アレクサンドロスの東方遠征」ニュートン 28(3),2008 年。)
(*)(参考：井上省紀訳「古英語『アリストテレス宛アレクサンドロス大王書翰』への註」岡山商大論集 44(1),2008 年。)
(*)(参考：リウィウス著/毛利晶訳『ローマ建国以来の歴史(1-9)』京都大学学術出版会,2008

年。)
(*)(参考：テオドール・モムゼン/杉山吉朗訳『ローマ史（上）：共和政の成立と地中海諸民族の闘争史』杉山吉朗,2008 年。)
(*)(参考：テオドール・モムゼン/杉山吉朗訳『ローマ史（下）：共和政の権力闘争と君主政への歴史』杉山吉朗,2008 年。)
(*)(参考：エドワード・ギボン著/中倉玄喜編訳『「新訳」ローマ帝国衰亡史(上下)』普及版,PHP 研究所,2008 年。)
(*)(参考：上野慎也「啓蒙の言葉—ギボン,イスラム(ジョン・G.A.ポーコックの仕事—政治思想と歴史)」思想 1007,2008 年。)
(*)(参考：高田康成「書評(55)あとはおぼろ[テオドール・モムゼン/長谷川博隆訳『ローマの歴史 1-4』」UP37(10),2008 年。)
(*)(参考：藤野奈津子「ローマ元首政について：モムゼンの Dyarchie-Theorie(「二重政論」)をめぐる近時の学説から」地研年報 13,2008 年。)
(*)(参考:姜尚中「姜尚中・映画を語る(33)キューブリック『スパルタカス』」第三文明 579,2008 年。)
(*)(参考：古山正人「西欧のアミュレットについて—古代ギリシア・ローマを中心に」国学院大学紀要 46,2008 年。)
(*)(参考：佐藤彰一『中世世界とは何か』ヨーロッパの中世 1,岩波書店,2008 年。)
(*)(参考:三佐川亮宏「歴史家たちのその後—ナチズム期の中世史研究」創文 506,2008 年。)
(*)(参考：納富信留「第 28 回国際古典学会連合(FIFC)に総会に出席して」西洋古典學研究 56,2008 年。)
(*)浅香正「序言 水再考・浴場—新田一郎氏の死を悼む」古代史年報 6,2008 年。
(*)「大戸千之教授略歴業績目録(大戸千之教授退職記念論集)」立命館文學 604,2008 年。
(*)(参考：松本宣郎編『西洋古代史の諸問題：西洋史研究会共通論題 1977 年-2005 年』東北大学大学院文学研究科ヨーロッパ史研究室,2008 年。)
(*)(参考：松本宣郎編『ヨーロッパ古代史論集』東北大学大学院文学研究科ヨーロッパ史研究室,2008 年。)
----長谷川宜之「ヒッポ教会におけるアウグスティヌス」
柴野浩樹「元首政期ローマ軍の新兵補充(リクルート)について」
原賢治「ヘレニズム期ロドスにおける海軍と社会：漕手の分析を中心に」
田中祐輔「ローマ期エジプトにおけるエピクリシス」
大谷哲「初期キリスト教殉教神学の成立の起源」」
矢作綾子「アレクサンドロス帝国におけるバクトリアとソグディアナ：支配構造を中心に」
田辺由美子「アレクサンドロスとギリシア都市」
今野愛「紹介：NathanRosenstein,Rome at war：farms,families and death in the Middle Republic,chapell hill and London,2004」
松本宣郎「ローマ帝国とキリスト教：哲学者とキリスト教」
(*)(参考：佐野光宜「帝政前期ローマにおける剣闘士競技の社会的機能—ガリア・ナルボネンシスの都市ネマウススの事例から」西洋史学 230,2008 年。)
(*)(参考：中村純「シチリア遠征とアテネ民主政(研究発表,西洋史部会,第 105 回史学会大会報告)」史學雜誌 117(1),2008 年。)

(*)「文献目録—西洋史 1」史學雜誌 117(1),2008 年。
(*)上横手雅敬「史学会編「歴史の風」(刀水歴史全書 78,刀水書房)」史學雜誌 117(4),2008 年。
(*)「文献目録—西洋史 2」史學雜誌 117(5),2008 年。
(*)門脇誠二「一(古代オリエント,西アジア・北アフリカ(2007年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 117(5),2008 年。
(*)四角隆二「二(古代オリエント,西アジア・北アフリカ(2007年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 117(5),2008 年。
(*)近藤真美「イスラーム時代(古代オリエント,西アジア・北アフリカ(2007年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌117(5),2008年。
(*)横田貴之「近現代(古代オリエント,西アジア・北アフリカ(2007年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌117(5),2008年。
(*)桜井万里子「ヨーロッパ：古代：ギリシア(2007年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌117(5),2008年。
(*)本村凌二「ヨーロッパ：古代：ローマ(2007年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 117(5),2008年。
(*)丹下栄「ヨーロッパ：中世西欧南欧(2007年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 117(5),2008年。
(*)橋川裕之「ロシア・ビザンツ(中世,ヨーロッパ,2007年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌117(5),2008年。
(*)篠原琢「一般(近代,ヨーロッパ,2007年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌117(5),2008年。
(*)井内太郎「イギリス(近代,ヨーロッパ,2007年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 117(5),2008年。
(*)小林亜子「フランス(近代,ヨーロッパ,2007年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 117(5),2008年。
(*)下田淳「ドイツ・スイス・ネーデルランド(近代,ヨーロッパ,2007年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌117(5),2008年。
(*)倉科岳志「ヨーロッパ：近代南欧 (2007年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌117(5),2008年。
(*)(參考：本村凌二「世界史という歴史叙述(コラム歴史の風)」史學雜誌117(9),2008年。)
(*)「文献目録—西洋史3」史學雜誌117(9),2008年。
(*)(參考：福山佑子「政治手段としてのダムナティオ・メモリアエ--「悪帝」ドミティアヌスの形成」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論叢30,2008年。)
(*)(參考：砂田徹「「グラックス改革」再考—前 133 年の出来事をめぐる近年の研究から」(北海道大学文学部西洋史研究室)西洋史論集11,2008年。)
(*)(參考：砂田徹「古代ローマのイタリア支配と戸口調査(ケンスス)---「ヘラクレアの青銅板」の検討を中心に」西洋史研究37,2008年。)
(*)野村正雄「箕作阮甫の西洋史著訳を巡って—なぜ古代に次ぎナポレオン時代かなど」一滴15,2008年。
(*)(參考：北原敦編『イタリア史』新版世界各国史15,山川出版社,2008年。)
(*)(參考：木下康彦・木村靖二・吉田寅編『詳説世界史研究』特装叛,改訂版,山川出版社,2008年。)

(*)土岐田正勝「酒田出身の哲学者、伊藤吉之助の事績」東北公益文科大学総合研究論集 14,2008 年。
(*)野内良三『偶然を生きる思想--「日本の情」と「西洋の理」』NHK ブックス,2008 年。
(*)菅原光「儒学と西洋思想の受容—荻生徂来と西周(特集 日本思想史の核心)」大航海 67, 2008 年。
(*)Harb Hassen「福沢諭吉とムハンマド・アブドウの教育思想：教育と政治の分立論を巡って(1,2)」日本語・日本文化 34,2008 年/35,2009 年。)
(*)(参考：豊田浩編『神は細部に宿り給う---上智大学西洋古代史の 20 年』南窓社,2008 年。)
----齋藤貴弘「弁論におけるレトリック解釈の可能性：Lys.30 被告ニコマコスの場合」
長谷川岳男「メガロポリスの成立：ポリス再考序論」
志内一興「ラ・グロープサンクの陶工文書：ラテン語とガリア語の接触について」
大清水裕「港湾都市オスティアと食糧長官：ディオクレティアヌス帝治世都市間競争」
豊田浩志「パラティーノの丘「瀆神の落書き」序説：トポグラフィー的知見を中心に」
丸山了「ドナテイスト問題におけるイニシアティブ：カエキリアニズム運動」
(*)(参考：高津春繁『古代ギリシア文学史』岩波書店,2008 年。)
(*)(参考:小池登『ピンダロス祝勝歌研究 4 つの考察』東京大学,博士(文学),甲第 4058 号,2008 年。)
(*)(参考：逸身喜一郎「教訓詩人個々人の系譜的自己規定,ないしジャンル意識」西洋古典學研究 56,2008 年。)
(*)(参考：呉茂一訳詩・新実徳英作曲『二つのギリシャ抒情：無伴奏女声合唱のための』音楽之友社,2008 年。)
(*)(参考：久保田忠利・中務哲郎編『ギリシア喜劇案内』岩波書店, ギリシア喜劇全集・別巻,2008 年。)
(*)池澤夏樹・久保田忠利・中務哲郎「座談会 ギリシア喜劇が進み出てきた」図書 713,2008 年。
(*)阿刀田高・内山勝利・丘山新「座談会・いまこそ発揮される古典の触発力」図書 718,2008 年。
(*)(参考：木村健治「映画の中の古代ギリシア・ローマ：映画「トロイ」を中心に」(木村健治・金崎春幸編『言語文化学への招待』所収,大阪大学出版会,2008 年。)
(*)(参考：中川さつき「『シーロのアキッレ』：女装するバロック・オペラの英雄」京都産業大学論集,人文科学系列 39,2008 年。)
(*)(参考：高橋宏幸『はじめて学ぶラテン文学史』シリーズ・はじめて学ぶ文学史 7,ミネルヴァ書房,2008 年。)
(*)(参考：植月恵一郎・高橋宏幸・圓月勝博・海老澤豊・大石和欣『農耕詩の諸変奏』英宝社ブックレット,英宝社,2008 年。)
(*)(参考：萬澤正美「翻訳 マルクス・ファビウス・クイーンティリアーヌス著「弁論家の教育 第二巻」」首都大学東京都市教養学部人文・社会系)人文学報 405,2008 年。)
(*)安酸敏眞「村岡典嗣と波多野精一」：響応する二つの「学問的精神」」北海学園大学人文論集 39,2008 年。

(*)(参考：岩下壮一「私の敬慕する先生」(ケーベル)図書 712,2008 年。)
(*)森まゆみ「五足の靴(2)木下杢太郎(太田正雄)」一冊の本 13(1),2008 年。
(*)岩佐壮四郎「島村抱月『新美辞学』の検討(1)」関東学院大学文学部紀要 115,2008 年。)
(*)森谷公俊『学生をやる気にさせる歴史の授業』青木書店,2008 年。
(*)佐藤学・葛西康徳・鈴木佳秀述「(鼎談)これからの教養教育」(葛西康徳・鈴木佳秀編『これからの教養教育』同上所収,東信堂,2008 年。)
(*)(参考：久保正彰「ハーバード・カレッジの教養教育」(葛西康徳・鈴木佳秀編『これからの教養教育』同上所収,東信堂,2008 年。)
(*)鶴岡賀雄・加藤和哉・小林剛編『キリスト教をめぐる近代日本の諸相：響鳴と反發』オリエンス宗教研究所 2008 年。)
(*)鶴田一郎「三谷隆正と三人の師—内村鑑三/新渡戸稲造/岩元禎」ホリスティック教育研究 11,2008 年。
(*)前田速夫「異郷遊歴—古典文学の異空間(11)島—辺土の流人『平家物語』『百合若大臣』」国文学：解釈と教材 53(4),2008 年。
(*)入江秀利「炉辺史話 第一話百合若大臣物語：百合若大臣のふるさとは何処か」別府史談 21,2008 年。
(*)金賛會「説話を通じてみた韓・日文化交流—成造クツと百合若説を中心に」全国公共図書館長協力活性化特別講演資料集韓国 2008 号,2008 年。
(*)福永令三『クレヨン王国むかし話』(「百合若大将」)講談社,2008 年。
(*)小野寺龍太「栗本鋤雲の漢学と洋学の修業」斯文 116,2008 年。
(*)井上ひさし著・和田誠絵『イソップ株式会社』中公文庫,中央公論新社,2008 年。
(*)(参考：イソップ著/V.S.ヴァーノン・ジョーンズ訳；Arthur Rackham イラストレーション『イソップ物語』ナビつき洋書,IBC パブリッシング,2008 年。)
(*)イソップ著/デビッド・オリビエ翻案,松澤喜好『Aesop's fables==イソップ物語』IBC オーディオブックス：やさしい英語を聴いて読む,IBC パブリッシング,日本洋書販売[distributor]2008 年。
(*)(参考：吉川斉「「寓話」成立に関する考察：“イソップ寓話”認識の変質」東京大学西洋古典学研究室紀要 4,2008 年。)
(*)(参考：金成陽一「「イソップ寓話」彼是」いわき明星大学人文学部研究紀要 21,2008 年。)
(*)佐藤茂樹「「かにの本」再考」関東学院大学文学部紀要 112,2008 年。
(*)安村敏信監修『河鍋暁斎：奇想の天才絵師』別冊太陽,平凡社,2008 年。
(*)河鍋暁斎筆『暁斎楽画』(set.乾・坤)芸艸堂,2008 年。
(*)(参考：横山由紀子「ギュスターヴ・モロー〈ラ・フォンテーヌの寓話〉連作における画家の新たな試みについて」鹿島美術財団年報 26,2008 年。)
(*)城戸朱理『戦後詩を滅ぼすために：the regeneration of Alexandoria』思潮社,2008 年。
(*)若桑みどり『聖母像の到来』青土社,2008 年。
(*)(参考：鶴岡賀雄・加藤和哉・小林剛編『キリスト教をめぐる近代日本の諸相：響鳴と反發』オリエンス宗教研究所,2008 年。)
(*)五野井隆史「「イミタティオ・クリスティ」から「こんてむつすむん地」まで：“De Imitaione Christi”(『キリストに倣いて』)とイエズス会と日本のキリシタン」(貨狄)紀要 9,2008 年。
(*)篠田茜「奇特と奇瑞：バレト写本福音書抄における日本語訳から」叙説 35,2008 年。

(*)川島第二郎『ネイサン・ブラウンと『志無也久世無志與』[新訳聖書]』]新教出版社,2008年。
(*)鶴岡賀雄「吉満義彦の「近代日本のカトリシズム」」季刊・日本思想史 72,2008 年。
(*)氏家法雄「吉満義彦の人間主義論—近代批判と其の神学的根拠(1)」東洋哲学研究所紀要 24,2008 年。
(*)寺尾寿芳「「近代の超克」論議における道徳的緊張--吉満義彦と西谷啓治の比較考察」比較文明 24,2008 年。
(*)(参考：出村和彦「「貧困」への取り組み始動—ピーター・ブラウンと教父学の現在」創文 511,2008 年。)
(*)(参考：根占献一「神学者エジディオ・ダ・ヴィテルボと画家ラファエッロ—ローマ滞在日録より」創文 515,2008 年。)
(*)(参考：根占献一「カトリック復興期のヒューマニスト フランチェスコ・セルドナーティ」学習院女子大学紀要 10,2008 年。)
(*)(参考：阿刀田高『プルタークの物語(上下)』潮出版社,2008 年(→2011 年,『ローマとギリシャの英雄たち：プルタークの物語』新潮文庫版)。)
(*)村松晋「氷上英廣の近代批判—敗戦直後の論考を中心に」聖学院大学総合研究所紀要 44,2008 年。)
(*)(参考：堤康徳「イタリア文学における非人間中心主義の系譜(特集 新しい世界文学)」ユリイカ 40(3),2008 年。)
(*)(参考：浦一章『光芒の秘密を求めて：ダンテへダンテから』東京大学,博士(文学),乙第17026 号,2008 年。)
(*)(参考：ダンテ/平川祐弘訳『神曲—地獄篇』河出文庫,河出書房新社,2008 年。)
(*)(参考：ダンテ/黒沢竜新訳『リズムで読むダンテの神曲』2 版,GAM 東京分室,2008 年(→2009 年。)
(*)(参考：阿刀田高『やさしいダンテ〈神曲〉』角川書店,2008 年。)
(*)(参考：水野留規編『『神曲』地獄篇—絵と朗読で鑑賞するイタリアの文学作品(本冊)』(名古屋)三恵社,2008 年。)
(*)(参考：矢田順治『さまよえる詩人たち—詩的藤村私論補遺　ダンテ・バイロン・藤村』山口現代詩研究会,2008 年。)
(*)(参考：ダンテ原作『神曲』イースト・プレス,まんがで読破/バラエティ・アートワークス企画・漫画,2008 年。)
(*)(参考：小川正廣「ダンテにおけるウェルギリウス--『神曲』は叙事詩か」名古屋大学文学部研究紀要（文学 54）160,2008 年。)
(*)(参考：山崎有介「ダンテから学ぶブレイクの視点—3 人のマリアを通じて天国と地獄を見る」比較文化研究 82,2008 年。)
(*)(参考：鈴木宣則「トマス・モア『ウートピア』の再解釈」研究論文集—教育系・文系の九州地区国立大学間連携論文集 2(1),2008 年。)
(*)(参考：野々瀬浩司「エラスムスと人格の自由：『キリスト者の君主の教育』を中心として」史学雑誌 117(2),2008 年。)
(*)(参考：柳沼正弘「エラスムスの聖職者批判(2)「アルキビアデスのシレノス」から」東洋哲学研究所紀要 24,2008 年。)
(*)(参考：柳沼正弘訳「エラスムス『格言集』から「ヘラクレスの難業」翻訳と解題」創価

大学人文論集 20,2008 年。)
(*)(参考：菱刈晃夫「情念と教育：ルターとその周辺(報告論文,情念と教育―ルターとその周辺,フォーラム 1)」(エラスムス)近代教育フォーラム 17,2008 年。)
(*)(参考：井ノ口淳三「理性による情念の制御は,どこまで可能か：デカルトとコメニウスの場合(司会論文,情念と教育―ルターとその周辺,フォーラム 1)」(エラスムス)近代教育フォーラム 17,2008 年。)
(*)鶴ケ谷真一『書を読んで羊を失う』(貨狄)増補版,平凡社ライブラリー644,平凡社,2008 年。
(*)(参考：田中佳佑「ペトラルカの文体模倣論とそのキケロー一派論争への寄与」成城文藝 205,2008 年。)
(*)(参考：Del Bravo Cario/甲斐教行訳「翻訳 ペトラルカの肖像画」五浦論叢 15,2008 年。)
(*)(参考：粟津則雄「私の空想美術館(第 56 回)ボッティチェルリと私」美術の窓 27(15),2008 年。)
(*)伊藤由紀「小林愛雄の歌劇翻訳―《ボッカチオ》の方法」比較文学 51,2008 年。)
(*)(参考：三ツ木道夫編訳『思想としての翻訳―ゲーテからベンヤミン,ブロッホまで』白水社,2008 年。)
(*)(参考：セルゲイ・カルプ編『十八世紀研究者の仕事：知的自伝』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,2008 年。)
(*)(参考：尾場瀬一郎他『西洋思想の 16 人』梓出版社,2008 年。)
(*)(参考：松村朋彦「越境と内省―ゲーテと「世界文学」」ゲーテ年鑑 50,2008 年。)
(*)(参考：田中純『政治の美学：権力と表象』(ヴィンケルマン)東京大学出版会,2008 年。)
(*)(参考：角田幸彦「ブルクハルトの 19 世紀ヨーロッパ論」明治大学教養論集 433,2008 年。)
(*)(参考：中谷博幸「ヤーコプ・ブルクハルトの公開講義」香川大学生涯学習教育研究センター研究報告 13,2008 年。)
(*)(参考：坂本貴志「デモーニッシュなる自由―ヘルメス的伝統に則してシラーを読む(特集 デモーニッシュ)(Die daimonische Freiheit ：Eine Untertsuhung uber Scjillers Werden im Zusammenhang mit der hermetischen Traditon)」ドイツ文学 7(2),2008 年。)
(*)(参考：松山雄三「シラーの崇高論をめぐって：美しい魂と崇高な魂を求めて」プロテウス 10,2008 年。)
(*)(参考：井藤元「シラー美的教育論をめぐる諸論の包越に向けて：『美的書簡』批判の四類型」東京大学大学院教育学研究科紀要 47,2008 年。)
(*)(参考：井藤元「崇高論によるシラー美的教育論再考：『美的書簡』再構築のための布石(19--【A-1】教育理論・思想・哲学(3)一般研究発表 II,発表要旨)」日本教育学会大会研究発表要項 67,2008 年。)
(*)(参考：大阪大学大学院言語文化研究所編『想像力としての文化』大阪大学大学院言語文化研究所,言語文化共同研究プロジェクト・「文化」の解読 8,2008 年。)
(*)(参考：井藤元「シュタイナー「ニーチェ論」の思想史的検討―試金石としてのニーチェ」臨床教育人間学 9,2008 年。)
(*)(参考：竹内綱史『ニーチェ哲学研究序説』京都大学,博士(文学),乙第 13519 号,2008 年。)
(*)(参考：西章『ニーチェにおける芸術と歴史：アウシヴィッツ以後のニーチェ哲学の可能性』関西学院大学,博士(哲学),甲第 284 号,2008 年。)
(*)(参考：平野篤司「ニーチェにおけるヘルダーリン受容」人文・自然研究 2,2008 年。)

(*)(参考：谷本愼介「ニーチェとディオニュソス：ニーチェのバッハオーフェン受容」国際文化学研究：神戸大学国際文化学部紀要 31,2008 年。)
(*)(参考：海老澤善一「狂気と絶対知—ヘルダーリンとヘーゲルとの差異」愛知大学文学論叢 138,2008 年。)
(*)(参考：齋藤茂夫「『反時代的考察』およびヴァグナー諸論：批評としてのニーチェの著作」盛岡大学紀要 25,2008 年。)
(*)(参考：ニイチェ/生田長江訳『文語訳ツァラトゥストラかく語りき』書肆心水,2008 年。)
(*)(参考：河崎征俊『チョーサーの詩学—中世ヨーロッパの〈伝統〉とその〈創造〉』開文社出版,2008 年。)
(*)(参考：鈴木宣則「トマス・モア『ウートピア』の再解釈」研究論文集—教育系・文系の九州地区国立大学間連携論文集 2(1),2008 年。)
(*)(参考：海老澤豊「ドライデンのピンダリック・オード—ホラティウスの第 3 巻第 29 オード英訳について」新潟産業大学人文学部紀要 20,2008 年。)
(*)(参考：田中佳佑「ペトラルカの文体模倣論とそのキケロー一派論争への寄与」成城文藝 205,2008 年。)
(*)(参考：Del Bravo Cario/甲斐教行訳「翻訳 ペトラルカの肖像画」五浦論叢 15,2008 年。)
(*)(参考：粟津則雄「私の空想美術館(第 56 回)ビッティチェルリと私」美術の窓 27(15),2008 年。)
(*)伊藤由紀「小林愛雄の歌劇翻訳—《ボッカチオ》の方法」比較文学 51,2008 年。)
(*)(参考：喜志哲雄『シェイクスピアのたくらみ』岩波新書,岩波書店,2008 年。)
(*)(参考：河合洋一郎『謎ときシェイクスピア』新潮選書,新潮社,2008 年。)
(*)(参考：ロブ・グレアム/佐久間康夫訳『シェイクスピアの世界』(越谷)ほんしろ,2008 年。)
(*)(参考：ピーター・アクロイド/河合祥一郎・酒井もえ訳『シェイクスピア伝』白水社,2008 年。)
(*)(参考：ビル・ブライソン/小田島則子・小田島恒訳『シェイクスピアについて僕らが知りえたすべてのこと』日本放送出版協会,2008 年。)
(*)(参考：加島康彦「シェイクスピアとセネカ--『シンベリン』における悲喜劇要素」安田女子大学大学院文学研究科紀要,合冊 14,2008 年。)
(*)(参考：安西徹雄「〈展望〉イギリス人のシェイクスピア発見」ソフィア 56(3),2008 年。)
(*)(参考：室井美稚子・間瀬裕子・古宮照雄訳『スタンリー・ウェルズ編『ケンブリッジ版シェイクスピア研究必携』第 7 章ディヴィッド・ダニエル編「シェイクスピアと喜劇の伝統」の翻訳」木更津工業高等専門学校紀要 41,2008 年。)
(*)(参考：海老澤豊「十八世紀英国の農耕詩を読む：「脱線」を中心として：2006 年度立教英米文学会講演より」英米文学 68,2008 年。)
(*)(参考：辻昭三『イェイツの詩界逍遙』英宝社,2008 年。)
(*)(参考：穴吹章子「キーツにおける共感の力：「痛み」の理解を中心として」兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要 15,2008 年。)
(*)(参考：宮内泰彦「エリオットとマリの論争—外的な精神的権威か心内の声か」言語文化研究 7,2008 年。)
(*)(参考：岡田俊之輔「習慣・傳統・正統—T.S.エリオットと小林秀雄」(早稲田大学英文学会)英文学 94,2008 年。)

(*)(参考：高柳俊一「書評 アン・スウィーニー著『ロバート・サウスウェル—アルカディアの雪景色』,ピーター・デイヴィッドソン/アン・スウィーニー共編『聖ロバート・サウスウェル・詩集』キリスト教文化研究所紀要 27,2008 年。)
(*)(参考：土井悠子『ヴァージニア・ウルフ：変貌する意識と部屋』溪水社,2008 年。)
(*)(参考：マイケル A.スクリーナ/平野隆之訳『ラブレー：笑いと叡智のルネサンス』理想社,2008 年。)
(*)(参考：横山由紀子「ギュスターヴ・モロー《ラ・フォンテーヌの寓話》連作における画家の新たな試みについて(「美術に関する調査研究の助成」研究報告)(2008 年助成)」鹿島美術財団年報 26,2008 年。)
(*)(参考：金光仁三郎『愛と死の神話』(エピクロス,ルクレティウス)審美社,平成 18 年。)
(*)(参考：植田裕志「パエトンの堕落--『寓意オウィディウス』におけるアレゴリーについて」名古屋大学文学部研究論集,文学 54,2008 年。)
(*)(参考：室井麗子「ルソーにおける「死の訓練」について—セネカの「霊操」を手がかりに」教育哲学研究 56,2008 年。)
(*)(参考：小林善彦『「知」の革命家ヴォルテール—卑劣なやつを叩きつぶせ』柘植書房新社,2008 年。)
(*)(参考：レイモンド・モリゾー/熊沢一衛訳『ヴォルテールの現代性』(名古屋)三恵社,2008 年。)
(*)(参考：山井徳行「『異邦人』とエピキュリアニズム」日本フランス語フランス文学会中部支部研究報告集 32,2008 年。)
(*)(参考：池浩三『パルテノンの世界：その建築システムの復元的考察』中央公論美術出版,2008 年。)
(*)(参考：オーギュスト・ショワジー/桐敷真次郎訳『建築史(上下)』中央公論美術出版,2008 年。)
(*)(参考：塩井かおり「9266 プラトン・アカデミーとレオナリド・ダ・ヴィンチ」サン・ピエトロ大聖堂再建事業におけるブラマンテの理論的な影響(4)(西洋・近世,建築歴史・意匠)」学術講演梗概集,F-2, 建築歴史・意匠,2008 年。)
(*)(参考：飛ケ谷潤一郎「9267 カターネオによる古代神殿の平面形式について(西洋：近世,建築歴史,意匠)」学術講演梗概集 F-2, 建築歴史,意匠 2008,2008 年。)
(*)(参考：ヴォルファガング・ロッツ/飛ケ谷潤一郎訳『イタリア・ルネサンス建築研究』中央公論美術出版,2008 年。)
(*)(参考：Micheal Heidleberger/松浦和也・早川正祐訳「講演 生命のないものと生きもの—ネオ・アリストテレス的なアプローチは可能か?」死生学研究 9,2008 年。)
(*)(参考：吉武隆一「ギリシア古代都市ネッセネのアスクレピオス神域におけるコリント式柱頭」ラーフィダーン 29,2008 年。)
(*)(参考：金山弘昌「古代ローマの都の光輝(アンティクワエ・ウルヴィス・スプレンドル)十七世紀ローマにおける古代建築復元図の版画版とそのバロック建築への影響(記念シンポジウム バロック建築研究の射程—バロック研究からみた「西洋建築史」の新たな可能性)—(話題提供[研究方法・成果の紹介])」建築史学 51,2008 年。)

(*)(参考：中島智章「ヴェルサイユ宮殿新城館の国王のアパルトマンと太陽神話—天上画と広間の間取をめぐって(記念シンポジウム バロック建築研究の射程—バロック研究からみた「西洋建築史」の新たな可能性)—(話題提供[研究方法・成果の紹介])」建築史学 51,2008 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・林田義伸・安井伸顕「地中海古代都の研究(121)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 47,2008 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・谷皓司「地中海古代都の研究(122)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 47,2008 年。)
(*)(参考：岡北一孝・西田雅嗣「9001 アルベルティ De re aedificatoria 第十章について：「修復」と題された第十章が「水」についての記述を多く占めるのはなぜか。ウィトルーウィス De archtectura libri decem 第八章との比較を通して(建築史・建築意匠・建築論)」日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系 48,2008 年。)
(*)(参考：井上幸作・中嶋智章「9035 ウィトルウィスの六つの造形原理に通ずる丹下建三の創造姿勢(建築歴史・意匠)」日本建築学会関東支部研究報告集・II,78,2008 年。)
(*)(参考：高松由子「9094 1830 年代のアジア協会員 C.マッソンにおけるアレキサンダーのインド遠征とインド建築：C.マッソンによる[現・パラッパー遺跡]にたいする特徴的な視点(東洋：インド・パキスタン・エジプト,建築歴史・意匠)」学術講演梗概集,F-2,建築歴史・意匠 2008,2008 年。)
(*)(参考：渡辺真弓「16 世紀ヴェネツィア共和国の都市と建築—アンドレア・パラーディオと同時代の建築家たちをめぐって」東京造形大学研究報 9,2008 年。)
(*)(参考：Vidal Merci「ル・コルビュジエと地中海の歴史的・土着的伝統とのあいだ—カタルニャ・デザイン史の一断面」Design discourse Japan3,2008 年。)
(*)(参考：佐々木学『噴水建設の変遷にみるローマ都市史』法政大学,博士(工学),甲第 207 号,2008 年。)
(*)天内大樹「様式と国民の興亡—伊東忠太による「日本建築史」(受容としての「日本思想」)」表象文化論研究 6,2008 年。
(*)浅野伸子・内田青蔵・伊郷吉信「9033 明治 44 年に建てられらた雑司ヶ谷の村川堅固邸について(建築歴史･意匠)」日本建築学会関東支部研究報告集 II(78),2008 年。
(*)青木豊「坪井正五郎博士の博物館学思想」國學院大學博物館學紀要 33,2008 年。
(*)(参考：武田薫『オリンピック全大会：人と時代と夢の物語』朝日選書,朝日新聞社,2008 年。)
(*)(参考：菅原悦子『オリンピック』大空ポケット新書,大空出版,2008 年。)
(*)(参考：滝澤次朗編『オリンピックの秘密：知れば 100 倍楽しめる!』彩図社,2008 年。)
(*)(参考：満薗文博『オリンピック面白雑学：古代から現代までの逸話構成』心交社,2008 年。)
(*)(参考：ジム・パリー,ヴァシル・ギルギノフ著/舛本直文訳・著『オリンピックのすべて：古代の理想から現代の諸問題まで』大修館書店,2008 年。)
(*)(参考：楠戸一彦「開催趣旨(日本体育学会第 58 回大会(神戸大学)体育史専門分科会・スポーツ人類学専門分科会合同シンポジウム報告 オリンピック起源

論：歴史的アプローチ戸文化人類学的アプローチ)」体育史研究 25, 2008 年。)

(*)(参考：高橋幸一「オリンピック起源論への歴史的アプローチ(日本体育学会第 58 回大会(神戸大学)体育史専門分科会･スポーツ人類学専門分科会合同シンポジウム報告 オリンピック起源論：歴史的アプローチ戸文化人類学的アプローチ)」体育史研究 25,2008 年。)

(*)(参考：寒川恒夫「文化人類学におけるオリンピック起源論(日本体育学会第 58 回大会(神戸大学)体育史専門分科会・スポーツ人類学専門分科会合同シンポジウム報告 オリンピック起源論：歴史的アプローチ戸文化人類学的アプローチ)」体育史研究 25,2008 年。)

(*)北野譽「《運動の思想》を読む(27)影山健・岡崎勝・水田洋著『反オリンピック宣言―その神話と犯罪性をつく』」ピープルズ・プラン 42,2008 年。

(*)和田浩一「01-10-154-3 明治前期歴史書に見るオリンピック(体育史 I,01.体育史,一般研究発表抄録)」日本体育学会大会予稿集 59,2008 年。

(*)(参考：釜崎太「01-10-154-2 世紀転換期(19-20 世紀)ドイツにおける文化抗争の対立軸：近代オリンピック大会(体育史 II,01.体育史,一般研究発表抄録)」日本体育学会大会予稿集 59,2008 年。

(*)(参考：田原淳子「オリンピックと教育―オリンピック競技大会誕生の背景とその今日的意義」国士舘大学体育・スポーツ科学研究 8,2008 年。)

(*)坂井建雄「「まんが医学の歴史」茨木保著」臨床泌尿器科 62(8),2008 年。

(*)坂井建雄「茨木保著「まんが医学の歴史」」呼吸と循環 56(7),2008 年。

(*)坂井建雄「まんが医学の歴史」臨床眼科 62(6),2008 年。

(*)(参考：小林雅夫「シンポジウム 古代地中海世界における病・癒し・祈り―はじめに」地中海研究所紀要 6,2008 年。)

(*)(参考：小林雅夫「古典古代の奴隷医師(シンポジウム 古代地中海世界における病･癒し･祈り)」地中海研究所紀要 6,2008 年。)

(*)(参考：吉益文夫「「ヒポクラテスの木」の植樹に想う」関西医療大学紀要 2,2008 年。)

(*)(参考：稲松孝思「“ヒポクラテスの木”2007：コス島の“ヒポクラテスの木”の来歴と現状」日本医学史学雑誌 54(2),2008 年。)

(*)「これがプロの現場(特集 プロフェッショナルの現場―ユーザーに尽くし,ユーザーに信頼される)」日経 systems180,2008 年。

(*)(参考：尾上豊・右京裕子「World report ギリシャ・イタリアより西洋医学・薬学の源流を訪ねて(後編･イタリア編)ヒポクラテスの町サレルノとヨーロッパ最古の薬用植物園」Aromatopia17(1),2008 年。)

(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(1)ヒポクラテス医学との出会い」治療 90(1),2008 年。)

(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(2)「医学の父」と崇められたわけ」治療 90(2),2008 年。)

(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(3)ヒポクラテスが日本医学に与えた影響」治療 90(3),2008 年。)

(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(4)宗教医学から自然医学に与えた影響」治療 90(4),2008 年。)

(*)(参考 : 中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(5)自然哲学から生まれたヒポクラテス医学」治療 90(5),2008 年。)
(*)(参考 : 中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(6)古来の医術」治療 90(6),2008 年。)
(*)(参考 : 中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(7)神聖病」治療 90(7),2008 年。)
(*)(参考 : 中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(8)空気・水・土地」治療 90(8),2008 年。)
(*)(参考 : 中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(9)人間の自然性」治療 90(9), 2008 年。)
(*)(参考 : 中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(10)体液」治療 90(9), 2008 年。)
(*)(参考 : 西條敏美「日本のふるさとを訪ねて 健康問題に取り組んだ西洋人たち(1)ヒポクラテス」心とからだの健康 12(7),2008 年。)
(*)(参考 : 松田博公「鍼灸と自然治癒力の出会いをめぐって : 江戸の養成書『病家須知』が告げるもの」全日本鍼灸学会雑誌 58(2),2008 年。)
(*)(参考 : 宋英徳「実験—ヒポクラテスに叛いた男」悲劇喜劇 61(4),2008 年。)
(*)(参考 : 市野川容孝「ヒポクラテスと現代医療(特集 医療崩壊—生命をめぐるエコノミー)」現代思想 36(29,2008 年。)
(*)(参考 : 藤山正二郎「原因の不在—伝統医学の病因論」福岡県立大学人間社会学部紀要 16(2),2008 年。)
(*)(参考 : 土屋睦廣「ガレノスとアスクレピオス(シンポジウム 古代地中海世界における病・癒し・祈り)」地中海研究所紀要 6,2008 年。)
(*)(参考 : 土屋睦廣「アスクレピオスの「癒しの事情」--古代ギリシアにおける癒しの信仰(特集 病と癒し)」比較思想研究 35,2008 年。)
(*)(参考 : 土屋睦廣「アスクレーピオスの癒しの事跡—エピダウロス碑文の翻訳」明治薬科大学研究紀要,人文科学・社会科学 38,2008 年。)
(*)(参考 : 早川智「青い血のカルテ(51)アレキサンダー大王と西ナイル熱」産科と婦人科 75(3), 2008 年。)
(*)(参考 : 梶原博毅「近代ヨーロッパ医学の科学的基礎 : 古代ギリシアの自然哲学者の果たした役割(学問の周辺と)」人間と科学 : 県立広島大学保健福祉学部誌 8(1),2008 年。)
(*)(参考 : 真壁伍郎「健康をめぐる歴史パノラマ(15)中世アラビアの健康観」綜合看護 43(1), 2008 年。)
(*)(参考 : 本間健「映画に見る医学と医療(8)「ベン・ハー」--ハンセン病」栄養と料理 74(1), 2008 年.)
(*)(参考 : Tobias Bauer,荻野蔵平「『健康の庭』における古代の体液病理説について」熊本大学社会文化研究 6,2008 年。)
(*)高橋正雄「Sweet Spot 文学に見るリハビリテーション『イソップ物語』の「狐と葡萄の房」--すっぱい葡萄と障害受容」総合リハビリテーション 36(4),2008 年。
(*)(参考 : 谷口學「アレクサンドロスはさとうきびを見たか—インドの製糖起源と東西世界への伝播(1)」季刊糖業資源 2008 年度(4),2008 年。)
(*)長沢秀一『イソップ童話を読んでいるうちに算数大好き!』東邦出版,2008 年。

(*)(参考：河野宏文「古代ギリシャの科学―ペルシャ戦争の前」古代史の海 52,2008 年。
(*)(参考：山川偉也「古代ギリシアのコスモロジー：西洋思想史講義ノートより(生瀬克己教授追悼号)」桃山学院大学人間科学 35,2008 年。)
(*)(参考 : 小林剛「アルベルトゥス・マグヌスにおける数量認識について」哲学論集 37,2008 年。)
(*)(参考：中島秀人「技術者の倫理と技術の倫理―ラングドン・ウィナーを出発点として」技術倫理研究 5,2008 年。)
(*)高橋睦郎「和音羅読 日本語でラテン文学散歩(21)小プリニウス『書簡集』」一冊の本 13(7),2008 年。
(*)高橋睦郎「和音羅読 日本語でラテン文学散歩(22~24)大プリニウス『博物誌』(上中下)」一冊の本 13(8,9,10),2008 年。
(*)(参考：中野里美『ローマのプリニウス』光陽出版社,2008 年(→2013 年,改題『プリニウスのローマ：自然と人への賛歌』雄山閣。)
(*)(参考：伊藤亜紀「チェーザレ・リーパの「ポルポラ」」人文科学研究 39,2008 年。)
(*)(参考 : 鏡リュウジ「「モノ」学としての占星術(モノとモノノケとモノガタリ)」モノ学・感覚価値研究 2,2008 年。)
(*)(参考 : 坂本邦暢「「ヘラクレス」を継ぐ者―ピエール・ガッサンディによるケプラー受容」哲学・科学史論叢 10,2008 年。)
(*)(参考：竺覚暁「「工学の曙」原典をひもとく(13)アリストテレス宇宙論を粉砕したガリレオ」新電気 62(1),2008 年。)
(*)(参考 : 竺覚暁「「工学の曙」原典をひもとく(18)近代天文学を準備したレギオモンタス」新電気 62(6),2008 年。)
(*)(参考：竺覚暁「「工学の曙」原典をひもとく(19)“世界を変えたコペルニクス”」新電気 62(7),2008 年。)
(*)(参考：竺覚暁「「工学の曙」原典をひもとく(20)物理天文学を創始したケプラー」新電気 62(8),2008 年。)
(*)(参考 : W.ハイゼンベルク他/青木薫訳『物理学に生きて : 巨人たちが語る思索のあゆみ』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2008 年。)
(*)(参考：伊東俊太郎「比較科学史再考：日本科学史学会 2008 年度会報告」科学史研究 [第 II 期]47(248),2008 年。)
(*)中山茂他「座談會 先學を語る―藪内清博士[含 略年譜,主要著作目録]」東方學 115,2008 年。
(*)(参考：西日本新聞社・福岡市博物館・アートプランニングレイ編『カメオ展：宝石彫の 200 年：アレキサンダーからナポレオン 3 世まで』西日本新聞社,2008 年。)
(*)(参考：大槻真一郎『新錬金術入門』産調出版(発売),ガイアブックス,2008 年。)
(*)(参考：クリエイティブ・スイート編『「錬金術」がよくわかる本：賢者の石からエリクサー,ホムンクルスまで』PHP 文庫,PHP 研究所,2008 年。)
(*)(参考：「シルクロードと奈良(4)奈良時代のワインの話」あかい奈良 40,2008 年。)
(*)(参考：ピエロ・ベヴィラックワ/北村暁夫訳『ヴェネツィアと水：環境と人間の歴史』岩波書店,2008 年。)
(*)(参考：近藤和彦編『歴史的ヨーロッパの政治社会』山川出版社,2008 年。)

(*)(参考：河野宏文「ヨーロッパの歴史に見る「半国家」」古代史の海 54,2008 年。
(*)(参考：山田耕太「ヘレニズムとヘブライズムにおける福祉思想の源流」人文社会科学研究所年報 6,2008 年。)
(*)(参考：長谷川敬「帝政ローマ前期ガリアにおけるナウタ組合：ある河川水運業者組合のパトローヌス選任に見る人的紐帯」史學雜誌 117(10),2008 年。)
(*)(参考：的射場敬一「ギリシアポリスの形成と市民」國士舘大學政經論叢 20(2),2008 年。)
(*)(参考：的射場敬一「戦士と食卓---ギリシアポリスと政治の条件」國士舘大學政經論叢 20(3),2008 年。)
(*)(参考：橋場弦『賄賂とアテナイ民主政：美徳から犯罪へ』山川出版社,2008 年。)
(*)(参考：橋場弦研究代表『古代ギリシアにおける公共圏と民主政コード形成の比較文化史的研究』科学研究費補助金基礎研究(C)研究成果報告書,東京大学大学院人文社会系研究科,平成 17-19 年度,2008 年。)
(*)(参考：加茂英臣「僭主の夢—ミメーシス」(プラトン,アリストテレス)千葉大学教育学部研究紀要 56,2008 年。)
(*)(参考：三嶋輝夫「レオ・シュトラウスのソクラテス解釈--『ソクラテスの弁明』と『クリトン』を中心に」思想 1014,2008 年。)
(*)(参考：中金聡「〈書評〉対話の迷宮と哲学者の友情—レオ・シュトラウスの『僭主政治について』」思想 1014,2008 年。)
(*)(参考：根津由喜夫『ビザンツの国家と社会』世界史リブレット 104,山川出版社,2008 年。)
(*)(参考：竹田胰「彷徨う王冠—Quo vadis,la Corona Ferrea」地中海歴史風土研究誌 27,2008 年。)
(*)(参考：野村秀世『プラトンの正義論』東海大学出版会,2008 年。)
(*)(参考：永井健晴『プラトン政治哲学批判序説—人間と政治』風行社,2008 年。)
(*)(参考：Hans Kelsen/長尾龍一訳「翻訳 アリストテレス政治学の政治的背景—ギリシャ=マケドニア対立の狭間で」日本法学 74(1),2008 年。)
(*)(参考：稲村一隆「アリストテレスにおいて政治的であるとはどのようなことか--「共通の利益」という概念に関する考察」(東京大学教養学部哲学・科学史部会)哲学・科学史論叢 10,2008 年。)
(*)(参考：稲村一隆「分配的正義とアリストテレス国制論の基礎」政治思想研究 8,2008 年。)
(*)(参考：足立聡「懸賞論文入選作 アリストテレスの「国制」とローマ共和制」関西大学法学会誌 53,2008 年。)
(*)(参考：篠原道法「前五世紀後半における国際関係とアウトノミー概念—アテナイとスパルタによるヘゲモニー争いを背景に」立命館文學 604,2008 年。)
(*)(参考：原賢治『ヘレニズム期ロドスにおける社会変容』東北大学,博士(文学),甲第 11969 号,2008 年。)
(*)(参考：新保良明『古代ローマ帝政前期における帝国官僚と都市に関する研究』東北大学,博士(文学),乙第 8885 号,2008 年。)
(*)(参考：毛利晶「エトルーリア人都市カエレのローマ人による併合と civitas sinesuffragio (投票権なき市民権)の起源」史學雜誌 118(4),2008 年。)
(*)葛井義憲「服従の人,三谷隆正」名古屋学院大学研究年報 21,2008 年。
(*)村松晋「教育者としての三谷隆正」(聖学院大学キリスト教センター)キリスト教と諸学：論集 24,2008 年。

(*)鶴田一郎「三谷隆正と三人の師—内村鑑三・新渡戸稲造・岩元禎」ホリスティック教育研究 11,2008 年。
(*)栗原茂幸『戦中・戦後の和辻哲郎：テクストクリティークによる政治思想史的考察』法政大学,博士(政治学),乙第 187 号,2008 年。

(*)(参考：長谷川敬「帝政ローマ前期ガリアにおけるナウタ組合：ある河川水運業者組合のパトローヌス選任に見る人的紐帯」史學雑誌 117(10),2008 年。)
(*)(参考：鷲見誠一・千葉眞編『ヨーロッパにおける政治思想史と精神史の交叉：過去を省み,未来へ進む：政治思想研究会クオ・ヴァディス論文集』慶應義塾大学出版会,2008 年。)
(*)(参考：野田四郎「「エラスムス」とヨーロッパ市民意識の形成」京都ノートルダム女子大学研究紀要 38,2008 年。)
(*)(参考：小田島雄志『シェイクスピアの戦争・平和学』新日本出版社,2008 年。)
(*)(参考：山内進「新ストア主義の倫理とヨーロッパ〈主権国家秩序—情念と暴力の規律化(特集 ヨーロッパ,没落と創造の大陸)〉」メルク 3,2008 年。)
(*)(参考：パトリック.J.ギアリ/鈴木道也・小川知幸・長谷川宜之訳『ネイションという神話—ヨーロッパ諸国家の中世的起源』白水社,2008 年。)
(*)(参考：藤田晋吾「運命論をめぐるソフィズム：「明日の海戦」再論」流通経済大學論叢 43(2),2008 年。)
(*)市川善彦『リーダーのためのイソップ童話の正しい読み方』アスカビジネスカレッジ,2008 年。
(*)(参考：佐々木健「学界動向：古代ローマ法における特示命令に関する研究の一潮流—行政を巡る法制史の一分野として」法制史研究 58,2008 年。)
(*)(参考：ラインハルト・ツィンマーマン/佐々木有司訳『ローマ法・現代法・ヨーロッパ法：シヴィル・ロー的伝統の現在』法学翻訳叢書 1,信山社, ,2008 年。)
(*)大久保健晴「小野梓におけるローマ法学と功利主義(上)(下)」明治大学政治経済研究所「政経論叢」76-3/4・5/6,2008 年。
(*)早稲田大学東アジア法研究所編『岡松参太郎文書』早稲田大学図書館,雄松堂(オンデマンド叛),2008 年。
(*)『岡松参太郎文書目録』早稲田大学図書館所蔵,雄松堂アーカイブズ,2008 年。

(*)(参考：竹田青嗣「時代を読み解く哲学者のキーワード(14)カール・マルクス」みやびブックレット 26,2009 年。)
(*)小野正嗣「森信成『マルクス主義と自由』--“今”を読み解く座右の一冊(特集 この一冊[part1])」季刊唯物論研究 110,2009 年。
(*)田淵隆三『田淵隆三のエジプト：世界美術紀行』世界紀行 no.3,万葉舎,2009 年。
(*)都築響一『珍世界旅行：ヨーロッパ編』筑摩書房,ちくま文庫 2009 年。
(*)(参考：黒川高明『ガラスの文明史』春風社,2009 年。)
(*)(参考：ブライアン・フェイガン/東郷えりか・桃井縁美子訳『歴史を変えた気候大変動』河出文庫,河出書房新社,2009 年。)

(*)(参考:G.E.R.ロイド著/川田殖他訳『古代の世界現代の省察:ギリシアおよび中国の科学・文化への哲学的視座』岩波書店,2009 年。)
(*)(参考:青柳正規『人類文明の黎明と暮れ方』興亡の世界史,講談社,2009 年。)
(*)(参考:服部英二『文明は虹の大河:文明論集』麗澤大学出版会,広池学園事業部(発売),2009 年。)
(*)(参考:伊東俊太郎『比較文明史』伊東俊太郎著作集 9,麗澤大学出版会,広池学園事業部(発売),2009 年。)
(*)(参考:高山博「公開講演録 中世地中海世界と文明の交流」七隈史学 11,2009 年。)
(*)(参考:福田和也『世界を盗もうとした男』講談社,2009 年。)
(*)光原百合『イオニアの風』中央公論新社,2009 年(→2015 年,中公文庫版)。
(*)(参考:前野佳彦『ホモ・アンブランスの誕生』散歩の文化学 1,《思想・多島海》シリーズ 12,法政大学出版局,2009 年。)
(*)ノリコ・エルピーダ・モネンヴァシティ『おにぎりオリーブ赤いバラ:あっという間にギリシャ暮らし 40 年』幻冬舎ルネッサンス,2009 年。
(*)小森谷慶子『シチリア歴史紀行』白水社,2009 年。
(*)武村陽子『イタリア世界遺産と歴史の旅:プロの添乗員と行く』彩図社,2009 年。
(*)ブルーガイド海外版編集部『イタリア=Italy』実業之日本社,2009 年。
(*)『ナポリ・シチリア』JTB パブリッシング,2009 年。
(*)『アマルフィ:世界で一番美しい海岸と南イタリア紀行』扶桑社,2009 年。
(*)日本放送協会(森本健成・古野晶子)『ベネチア・フィレンツェ・北イタリアの旅』NHK エンタープライズ(発行・販売),2009 年。
(*)日本放送協会(森本健成・古野晶子)『ベネチア・フィレンツェ・南イタリアの旅』NHK エンタープライズ(発行・販売),2009 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2009-10 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ローマ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2009-10 年。
(*)地球の歩き方編集室編『フィレンツェとトスカーナ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2009-10 年。
(*)地球の歩き方編集室編『南イタリアとマルタ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2009-10 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ギリシアとエーゲ海の島々&キプロス』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2009-10 年。
(*)萩野矢慶記写真・文『エーゲ海:青と白が誘う 52 島』JTB パブリッシング,2009 年。
(*)Takamasa Kato『碧と白のエーゲ海の島々の旅:加藤高正写真集』加藤高正,2009 年。
(*)(参考:キャサリン・ガーベラ/大田朋子訳『エーゲ海に呼ばれて』ハーレクイン・ディザイア,ハーレクイン,2009年。)
(*)(参考:マーティン・バナール/金井和子訳『『黒いアテナ』批判に答える(上下)』藤原書店,2009 年。)
(*)(参考:北原敦「『山猫』の地シチリア」図書 723,2009 年。)
(*)村田さち子作詩・池辺晋一郎作曲『飯豊山~わが心のアルカディア~混声合唱曲』楽譜(印刷)カワイ出版,2009 年。)

(*)(参考：飯田皆実「田園都市の学び舎―メンデルスゾーン『苦悩のアルカディア』をめぐって」(大阪大学大学院文学研究科)待兼山論叢 43,2009 年。)
(*)(参考：福井亜起「アルカディア南東部の共同体と地域構造」メタプティヒアカ：名古屋大学大学院文学研究科教育研究推進室年報 3,2009 年。)
(*)(参考：吉村伸夫「アルカディアに佇む市民としてのマーヴェル―“The Coronett”を糸口に」(日本英文学会)大会 Proceedings 81,2009 年。)
(*)(参考：アモロソ・フィリッホ「トスカーナ料理のルーツを探る：古代エトルリア人から伝えられた食文化」筑波学院大学紀要 4,2009 年。)
(*)(参考：フォン・ウンガー・シュテルウンベルク/三嶋輝夫共著「ヘシオドスとソロンにおける古代オリエント的なもの」青山史学 27,2009 年。)
(*)(参考：アレックス・パタワース,レイ・ロレンス/大山晶訳『ポンペイ：今も息づく古代都市』中央公論新社,2009 年。)
(*)(参考：浅香正「古代イタリア都市ポンペイの発掘・学術調査 15 年：考古学的資料からみた産業と交易：海のシルクロード」(講演録)史学 77(4),2009 年。)
(*)東映株式会社編『古代カルタゴとローマ展：きらめく地中海文明の至宝：チェニジア世界遺産』東映,2009 年。
(*)佐藤育子「「古代カルタゴとローマ展」に学ぶ」(日本女子大)史艸 50,2009 年。
(*)ミッキー安川・佐藤優・宮崎正弘「ミッキー安川のズバリ勝負!(137)カルタゴの滅亡を教訓にせよ」月刊日本 13(6),2009 年。
(*)田丸公美子「シモネッタの「本能三昧」イタリア紀行(16)聖女クミコ」現代 43(1),2009 年。
(*)田丸公美子『シモネッタの本能三昧イタリア紀行』講談社,2009 年(→2014 年,講談社文庫版)。)
(*)(参考：K.P.モーリッツ著/金澤和雄訳『イングランド旅行記：付イタリア旅行記第一部』金澤和雄,2009 年。)
(*)賀陽濟「アポリジナルな心へ(2)準備の旅,「イタリア紀行」」春秋 506,2009 年。
(*)佐藤拓哉「ヨーロッパ・スケッチの旅(8)：イタリア/ミラノ,ローマ」圧力技術 47(1),2009 年。
(*)安岡襄「ぶらり海外旅行ア・ラ・カルト 幻のフランス・イタリア旅行編(1,2)」会計検査資料：公会計のための受検情報誌 531,2009 年/532,2010 年。
(*)須賀敦子他+芸術新潮編集部『須賀敦子の歩いた道』新潮社,2009 年。
(*)鈴村和成「村上春樹のイタリアを行く―ローマの「眠り」,そしてパレルモ」文學界 63(2),2009 年。
(*)中田好昭「ルネッサンスの扉を開いた「フィレンツェ」(会員旅行 イタリアの旅)」(第一東京弁護士会会報委員会)Ichiben bulletin 441,2009 年。
(*)根本純子「永遠の都「ローマ」とモードの都「ミラノ」の旅の思い出」(会員旅行 イタリアの旅)」(第一東京弁護士会会報委員会)Ichiben bulletin 441,2009 年。
(*)真銅正宏「女性の視線：日本人旅行者の見たイタリア(3)」(同志社大学)人文學 184,2009 年。
(*)倉田保雄「瞑想紀行 地中海に浮かぶ“恋の島”コルシカ」紫明 2,2009 年。
(*)(参考：山辺規子『ノルマン騎士の地中海興亡史』白水社,2009 年。)
(*)(参考：澁澤幸子『だから,イスタンブールはおもしろい：歴史的多民族都市の実感的考

察』藤原書店,2009 年。)
(*)(参考 : 森山英一「四人の歴史家が見たイスタンブル(2)博物館に驚嘆 亀井高孝」Anatolia news 123,2009 年。)
(*)堀井優「読書案内 地中海世界とイスラーム世界[アンリ・ピレンヌ 増田四郎監修,中村宏・佐々木克己訳『ヨーロッパ世界の誕生—マホメットとシャルルマニュー』,フェルマン・ブローデル 浜名優美訳『地中海』,鈴木董『オスマン帝国とイスラム世界』ほか」(世界史の研究[218])」歴史と地理 621,2009 年。)
(*)(参考 : ドミニク・ブリケル/齋藤かぐみ訳『エトルリア人 : ローマの先住民族起源・文明・言語』白水社,2009 年。)
(*)(参考 : Amoroso Filippo「トスカーナ料理のルーツを探る—古代エトルリア人から伝えられた食文化」筑波学院大学紀要 4,2009 年。)
(*)(参考 : ピエール・グリマル/桐村泰次訳『ローマ文明』論創社,2009 年。)
(*)(参考 : 青柳正規・芳賀京子(監修)『古代ローマ帝国の遺産』(国立西洋美術館展覧会カタログ)東京新聞,2009 年。)
(*)(参考 : F.ゼーリ/大橋喜之訳『ローマの遺産—コンスタンティヌス凱旋門を読む』八坂書房,2009 年。)
(*)(参考 : シャイエ文・イラスト・写真/野中夏美訳『永遠の都ローマ物語 : 地図を旅する』西村書店,2009 年。)
(*)(参考 : 池上俊一著/大村次郷写真『イタリア : 建築の精神史』世界歴史の旅,山川出版社,2009 年。)
(*)(参考 : 横手義洋「パレルモの建築文化—異種混合のたくましさ(イタリアの都市と芸術 その魅力)」星美学園短期大学日伊総合研究所報 5,2009 年。)
(*)(参考 : Pompili Marco,Paba Giancarlo『ローマとフィレンツェ : 川沿いの風景の形成とその再生 : Symposium』法政大学大学院エコ地域デザイン研究所,2009 年。)
(*)(参考 : 團名保紀「イタリア都市の歴史的・文化的景観—フィレンツェとピサのつながり(中の続編)市庁舎前広場」(東北芸術文化学会)芸術文化 14,2009 年。)
(*)大西克典「齋藤寛海・山辺規子・藤内哲也編「イタリア都市社会史入門—12 世紀から 16 世紀まで」(昭和堂)」史学雑誌 118(6),2009 年。
(*)佐藤公美「書評 齋藤寛海・山辺規子・藤内哲也編「イタリア都市社会史入門—12 世紀から 16 世紀まで」(昭和堂)」西洋史学 233,,2009 年。
(*)小田秀光「新刊紹介 齋藤寛海・山辺規子・藤内哲也編「イタリア都市社会史入門—12 世紀から 16 世紀まで」(昭和堂)」関西大学西洋史論叢 12,2009 年。
(*)(参考 : 鵜沢隆「驕りの中の首都(ローマ)—イタリア近代建築とその映像空間(特集 記憶の場[4])」日伊文化研究 47,2009 年。)
(*)(参考 : 越川倫明「国際会議開催 東京芸術大学・ボローニャ大学共同シンポジウム 日本とイタリアの歴史的都市—その保存と変容(「美術に関する国際交流援助」研究報告,2009 年度援助)」鹿島美術財団年報・別冊 27,2009 年。)
(*)(参考 : 桑木野幸司「知の編集空間としての初期近代イタリアの庭園」地中海学研究 32,2009 年。)
(*)(参考 : 米山喜晟「モンタペルティ現象はイタリア・ルネサンスにどのように寄与したか」(桃山学院総合研究所)国際文化論集 40,2009 年。)

(*)(参考：池上祐司・渡辺泰成「イタリア・フランス視察記(4)ルーブルと科学産業館視察報告」視覚障害：その研究と情報 254,2009 年。)
(*)(参考：豊田周平「ハドリアヌス」月刊自動車部品 55(7),2009 年。)
(*)(参考：古畑正富「旅人の物語と反復される「故郷喪失者」のイメージ：パラレルワールドの「スペイン人」に関する二つの事例」(ハドリアヌス)京都ラテンアメリカ研究所紀要 9,2009 年。)
(*)月本昭男等編『エン・ゲヴ遺跡：発掘調査報告 1998-2004』リトン,2009 年。
(*)(参考：マリオ・プラーツ著/伊藤博明・浦一章・白崎容子訳『ローマ百景：建築と美術と文学と』ありな書房,2009 年。)
(*)(参考：アロイス・リーグル著/蜷川順子訳『ローマにおけるバロック芸術の成立』中央公論美術出版,2009 年。)
(*)(参考：小澤京子「「起源」病と形態の闘争―ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージによる古代ローマ表象」(東京大学大学院総合文化研究科超越文化科学専攻)超越文化科学紀要 14,2009 年。)
(*)(参考：渡辺真弓『パラーディオの時代のヴェネツィア』中央公論美術出版,2009 年。)
(*)ヤマザキマリ『テルマエ・ロマエ』Beam Comics,エンターブレイン,角川グループパブリッシング(発売),2009-2013 年。
(*)(参考：星近成子「Shakespeare のイタリア―その効果と意義」(岡山英文学会)Perica36,2009 年。)
(*)(参考：高橋明彦「ブルチネッラとプリアポス(1)ゲーテ『イタリア紀行』におけるファロスの表象」上智大学ドイツ文学論集 46,2009 年。)
(*)(参考：山本明美「スタンダールの『ローマ散策』と新義「イタリアニスム」の起点：『バイアーノの修道院』著者考(研究発表要旨)」フランス語フランス文学研究 95,2009 年。)
(*)(参考：石井洋二郎『異郷の誘惑：旅するフランス作家たち』東京大学出版会,2009 年。)
(*)(参考：島田了「ヴィンケルマンが目指したもの--『ギリシア美術模倣論』について」滋賀県立大学国際教育センター研究紀要 12,2009 年。)
(*)青柳正規「敗軍の将,兵を語る 青柳正規氏「国立西洋美術館館長」」日経ビジネス 1511,2009 年。
(*)(参考：青柳正規「イタリアでの発掘 40 年(特集 芸術)」学士会会報 2009(4),2009 年。)
(*)(参考：青柳正規『火山噴火罹災遺跡における生活・文化環境の復元研究』独立行政法人国立美術館国立西洋美術館,東京大学 2004 年,(科研費)2009 年。)
(*)(参考：青柳正規・松山聡・松田陽「2002-2008 年ソンマ・ヴェスヴィアーナ考古発掘略報 イタリア南部ヴェスヴィオ山北麓に位置するローマ時代遺跡発掘調査について」文化交流研究 22,2009 年。)
(*)(参考：青柳正規・松山聡「イタリア南部ヴェスヴィオ山北麓に位置するローマ時代遺跡発掘調査について」文化交流研究 22,2009 年。)
(*)浅香正「講演録 古代イタリア都市ポンペイの発掘・学術調査 15 年―考古学的資料からみた産業と交易―海のシルクロード」(三田史学会)史學 77(4),2009 年。
(*)(参考：向山貴仁「教育方法改善のためのスポーツ資料収集―ギリシャの「古代オリンピック遺跡・競技場及び,博物館」を中心として」九州共立大学スポーツ

学部研究紀要 4,2009 年。)
(*)(参考 : 勝又俊雄「シュリーマンと 19 世紀ギリシア新古典主義(49～51)」日本ギリシャ協会会報 123,2009 年/125,2010 年。)
(*)(参考 : 高橋三千綱「楽天家の人生発(24)シュリーマンの呪縛」月刊テミス 18(7),2009 年。)
(*)矢崎彦太郎「指揮者が行く(5)地中海に向かって」春秋 510,2009 年。)
(*)(参考 : ジョゼッペ・ヴェルディ作曲『アイーダ=Aida』デアゴスティーニ・ジャパン.2009 年。)
(*)(参考 : 桑木野幸司「知の編集空間としての初期近代イタリアの庭園」地中海学研究 32,2009 年。)
(*)(参考 : 河村英和「ピラネージとグランド・ツアー—その英国人交流関係と旅行者顧客たち」地中海学研究 32,2009 年。)
(*)(参考 : 桜川洋子「囲碁周辺」地中海歴史風土研究誌 29,2009 年。)
(*)(参考 : 藤井洋子「アテネの病院で」地中海歴史風土研究誌 29,2009 年。)
(*)(参考 : 百瀬春生「Y の悲劇?—人類はアマゾネスになるのか」地中海歴史風土研究誌 29,2009 年。)
(*)(参考 : 百瀬春生「中欧を抜きにして世界は語れない」地中海歴史風土研究誌 30,2009 年。)
(*)(参考 : D.C.A.ヒルマン/森夏樹訳『麻薬の文化史 : 女神の贈り物』青土社,2009 年。)
(*)(参考 : 堀幸夫「ヴェネツィアン」地中海歴史風土研究誌 30,2009 年。)
(*)星和夫「医学史の旅—ギリシア(8)オリュムピア」日本病院会雑誌 56(1),2009 年。
(*)星和夫「医学史の旅—ギリシア(9)アルカディア地方・イオニア諸島」日本病院会雑誌 56(2),2009 年。
(*)星和夫「医学史の旅—ギリシア(10)デルポイ」日本病院会雑誌 56(3),2009 年。
(*)星和夫「医学史の旅—ギリシア(11)中北部地方」日本病院会雑誌 56(4),2009 年。
(*)星和夫「医学史の旅—ギリシア(12)キクラデス諸島」日本病院会雑誌 56(5),2009 年。
(*)星和夫「医学史の旅—ギリシア(13)クレータ島」日本病院会雑誌 56(6),2009 年。
(*)星和夫「医学史の旅—ギリシア(14)ドーデカニサ諸島」日本病院会雑誌 56(7),2009 年。
(*)星和夫「医学史の旅—ギリシア(15)コス島(1,2)」日本病院会雑誌 56(8,9),2009 年。
(*)星和夫「医学史の旅—ギリシア(16)スポラデス諸島」日本病院会雑誌 56(10),2009 年。
(*)星和夫「医学史の旅—トルコ(1,2)イスタンブール(1,2)」日本病院会雑誌 56(11,12),2009 年。
(*)星和夫『医学史の旅』(イタリア・マルタ,ギリシャ・エーゲ海の島々,トルコ)日本病院共済会出版部日本病院会出版,2009 年。
(*)(参考 : 鳥越輝昭「ディエゴ・ヴァレーリとヴェネツィア」人文研究 169,2009 年。)
(*)Danko Taborosi/中村ゆかり訳「ダンコ・タボロシの地球レポート(14)東地中海の日出ずるところレパント」モーリー20,2009 年。
(*)「地中海研究所活動報告」地中海研究所紀要 7,2009 年。
(*)(参考 : 小林雅夫「シンポジウム 地中海地域の碑文文化—碑文はどこまで歴史を語れるか?—はじめに」地中海研究所紀要 7,2009 年。)
(*)(参考 : 前野弘志「公的碑文?私的碑文?—クライアントの視点から見たアッティカの決議碑文(シンポジウム 地中海地域の碑文文化—碑文はどこまで歴史を語れるか?)」地中海研究所紀要 7,2009 年。)
(*)(参考 : 田中咲子「古代ギリシアの墓碑浮彫りと墓碑銘(シンポジウム 地中海地域の碑文

文化—碑文はどこまで歴史を語れるか?)」地中海研究所紀要 7,2009 年。)
(*)(参考：梶田知志「Homo Pugnans—墓碑銘に見る剣闘士(gladiator)の生と死(シンポジウム 地中海地域の碑文文化—碑文はどこまで歴史を語れるか?)」地中海研究所紀要 7,2009 年。
(*)(参考：藤澤明寛「ローマ帝政期における「破廉恥な」俳優たち—俳優の法的・社会的地位について(シンポジウム 地中海地域の碑文文化—碑文はどこまで歴史を語れるか?)」地中海研究所紀要 7,2009 年。
(*)(参考：杉本さつき「古代装飾・モザイクの製作と素材—イタリア古都ラヴェンナ式技法について」(神奈川大学日本常民文化研究所)民具マンスリー41(11), 2009 年。)
(*)(参考：阿部拓児「クテシアス『ペルシア史』と前四世紀ギリシア語文献におけるペルシア帝国衰退史観」史潮 65,2009 年。)
(*)(参考：古曳正夫『ヘロドトス「歴史」：読書地図帳』東海大学出版会,2009 年。)
(*)(参考:庄子大亮『アトランティス・ミステリー—プラトンは何を伝えたかったのか』PHP 新書,PHP 研究所,2009 年。)
(*)(参考：アラン・ダネレク/北田浩一訳『アトランティスは未来を語る：「失われた文明」から私たちへの警告』成甲書房,2009 年。)
(*)(参考：『幻のアトランティス大陸はどこだ?』週刊世界百不思議 no.5,講談社,2009 年。)
(*)(参考：ディヴィッド・ギビンズ/遠藤宏昭訳『アトランティスを探せ(上下)』扶桑社ミステリー,扶桑社,2009 年。)
(*)鈴木一彦「ベーコン著,川西進訳『ニュー・アトランティス』岩波書店,2003 年 博物館史における位置と学芸員課程の授業での紹介について」博物館学雑誌 35(1),2009 年。）
(*)(参考：鵜飼健史「ジョン・ロックのユートピア：「アトランティス」草稿と政治理論」一橋大学社会科学古典史料センター年報 29,2009 年。)
(*)(参考：芳賀満「俗と聖の接吻—中央ユーラシア新出の「ディオニュソスとアリアドネ」テラコッタを中心として古代地中海世界から中国まで(特集 聖俗のあわい)」西洋美術研究 15,2009 年。)
(*)(参考：木村泰司『西洋美術史から日本が見える』PHP 新書 613,PHP 研究所,2009 年。)
(*)(参考：木村泰司『巨匠たちの迷宮』名画の言い分,集英社,2009 年(→2011 年,「名画の言い分」ちくま文庫版,筑摩書房)。)
(*)(参考：石鍋真澄『ありがとうジョット：イタリア美術への旅』吉川弘文館,2009 年。)
(*)(参考：サラ・エリオット著/森田義之・松浦弘明訳『イタリア・ルネサンス絵画』西村書店,2009 年。)
(*)(参考：ケネス・クラーク著/岡田温司訳『ニューマニズムの芸術：初期イタリア・ルネサンスの巨匠たち』新装復刊,白水社,2009 年。)
(*)(参考：ジョルジョ・ヴァザーリ著/森田義之・上田恒夫他訳『ルネサンス彫刻家建築家列伝』白水社,2009 年。)
(*)(参考：ジョルジョ・ヴァザーリ著/平川祐弘・小谷年司・田中英道訳『ルネサンス画人伝』白水社,2009 年。)
(*)(参考：福本薫編『古代ギリシア美術の私的領域に関する図像の研究=The Greek art in the private sphere』「古代ギリシア美術の私的領域に関する図像の研究」

研究グループ,科学研究費補助金萌芽的研究研究成果報告書,平成 18-20 年度,2009 年。)
(*)(参考：堀川麗子「三つの「ラファエル前派」とイタリア初期ルネサンス美術受容」愛国学園大学人間文化学部研究紀要 11,2009 年。)
(*)(参考:井上浩一『ビザンツ文明の継承と変容』学術選書 43,京都大学学術出版会,2009 年。)
(*)(参考:浅野和生『ヨーロッパの中世美術:大聖堂から写本まで』中公新書,中央公論社,2009 年。)
(*)「家島彦一教授略歴・業績」早稲田大学教育学部学術研究,地理学・歴史学・社会科学編 58,2009 年。
(*)「本年度退職者 家島彦一教授略歴・業績」早稲田大学大学院教育学研究科紀要 20,2009 年。
(*)小田部胤久「「世界的潮流」のなかの日本の芸術—和辻哲郎『古寺巡礼』の文明論によせて」文明と哲学 2,2009 年。
(*)(参考：御手洗昭治「ハンチントンとトインビーの捉える文明論」比較文化論叢：札幌大学文化学部紀要 23,2009 年。)
(*)(参考：奥泉高志「文明と人間—トインビーを中心に(特集 文明化プロセスの再考)」比較文明 25,2009 年。)
(*)(参考：近藤喜重郎「トインビーのロシア観とスラブ観--『歴史の研究』における西欧文明の第一の比較対象として」文明研究 28,2009 年。)
(*)(参考：高橋正雄「病跡学閑話(13)トインビーの『歴史の研究』--その病跡学的な側面」日本医事新報 4467,2009 年。)
(*)児島由理「高濱虚子と横光利一の船旅：『渡仏日記』と『欧州旅行』」実践女子短期大学紀要 30,2009 年。
(*)(参考：川村信三『超領域交流史の試み—ザビエルに続くパイオニアたち』上智大学出版部,2009 年。)
(*)(参考：工藤庸子『異文化の交流と共存』放送大学大学院教材,文化情報学プログイラム,放送大学教育振興会,2009 年。)
(*)(参考：朝日新聞社事業本部文化事業部編『海のエジプト展：海底からよみがえる,古代都市アレクサンドリアの至宝』朝日新聞社,2009 年。)
(*)(参考：時実象一「世界の知識の図書館を目指す Internet Archive 創設者 Brewster Kahle 氏へのインタビュー」情報管理 52(9),2009 年。)
(*)(参考：J.ポラード& H.リード/藤井留美訳『アレクサンドリアの興亡：現代社会の知と科学技術はここから始まった』主婦の友社,2009 年。)
(*)(参考：山田耕治「土木遺産の香(49)ヘレニズムを支えた世界初の百万都市「アレクサンドリア」(エジプト)」Civil enngineering consultant 245,2009 年。)
(*)(参考：塩野七生・堤堯「巻頭インタビュー 歴史を読む愉しみ—ローマ崩壊から 21 世紀を展望する」歴史通 1,2009 年。)
(*)(参考： 塩野七生・堤堯「ローマ史から世界の今を読む」Will 54,2009 年。)
(*)川田殖「書評 加藤信朗監修『和田三造 イエス・キリスト画伝』」福音と世界 64(11),2009 年。
(*)(参考:小澤実・薩摩秀登・林邦夫『辺境のダイナミズム』ヨーロッパの中世 3,岩波書店,2009 年。)

(*)(参考：関哲行『旅する人びと』ヨーロッパの中世 4,岩波書店,2009 年。
(*)(参考：辻原康夫『世界地図から地名の起源を読む方法：イラスト図解版：その地の歴史や文化,人々の営みまでもが見えてくる』河出書房新社,2009 年。)
(*)(参考：澁澤幸子「イスタンブルあちらこちら(4)よみがえった Galata Kube dibi（ガラダ塔の麓）」アナトリアニュース 123,2009 年。)
(*)(参考：森山英一「四人の歴史家が見たイスタンブル(2)博物館に驚嘆 亀井高孝」アナトリアニュース 123,2009 年。)
(*)(参考：森山英一「四人の歴史家が見たイスタンブル(3)四日間の滞在—村川堅太郎」アナトリアニュース 124,2009 年。)
(*)(参考：森山英一「四人の歴史家が見たイスタンブル(4)二度にわたる訪問—堀米庸三(上中」」アナトリアニュース 126,2009 年。)
(*)(参考：江田敦夫「トルコ短信(64)ボスポラス海峡との出会い—イスタンブルの太公望たち」アナトリアニュース 124,2009 年。)
(*)(参考：山下王世「イスタンブル—都市と建築の諸相」アナトリアニュース 125,2009 年。)
(*)「ひと目でわかる!40 年の取材の軌跡(特集 日本がわかり,世界がみえる 平山郁夫のシルクロード展)」月刊美術 35(2),2009 年。)
(*)藤田一人「平山郁夫・シルクロード年表(特集 日本がわかり,世界がみえる 平山郁夫のシルクロード展)」月刊美術 35(2),2009 年。)
(*)「「平山郁夫と大いなるシルクロード」展ダイジェスト(カラー)(特集 日本がわかり,世界がみえる 平山郁夫のシルクロード展)」月刊美術 35(2),2009 年。)
(*)平山郁夫・高階秀爾「対談 平山郁夫×高階秀爾(美術評論家・大原美術館館長)文明の興亡をこえ繋がる文化,その多様な姿への感動(特集 日本がわかり,世界がみえる 平山郁夫のシルクロード展)」月刊美術 35(2),2009 年。)
(*)(参考：長澤和俊「はるかなる隊商の道—シルクロードの歴史と今(特集 道)」紫明 23,2009 年。)
(*)(参考：NHK 制作『仏像誕生と流転：ガンダーラ・バーミヤン』NHK スペシャル：ブッダ,NHK エンタープライズ,2009 年。)
(*)(参考：平山郁夫シルクロード美術館監修・編集・資料解説『ガンダーラ：仏像のふるさと：新館開館記念一周年記念=Gandhara』平山郁夫シルクロード美術館,2009 年。)
(*)畠清次「文明の十字路—シルクロード・ヨルダン・シリア紀行」会誌 8,2009 年。
(*)(参考：「本屋にない本『天馬 シルクロードを翔ける夢の馬 特別展』[奈良国立博物館編]」国立国会図書館月報 579,2009 年。)
(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(12)医学のルーツを探るギリシャ紀行(2)ヒポクラテス生誕の地コス島を訪ねて」治療 91(1), 2009 年。)
(*)(参考：スーザン・A.クレイン編『ミュージアムと記憶：知識の集積/展示の構造学』ありな書房,2009 年。)
(*)辻憲男「〈すずらん抄〉和辻哲郎の哀愁：「菜の花物語」から「古寺巡礼」へ」親和国文 44,2009 年。
(*)小田部胤久「「世界的潮流」のなかの日本の芸術—和辻哲郎『古寺巡礼』の文明論によ

せて」文明と哲学 2,2009 年。
(*)辻井喬・井尻千男「対談 『古寺巡礼』を巡って—皇国少年,左翼的詩人,経営者,そして日本への回帰」新日本学 14,2009 年。
(*)(参考：鷲見洋一『「百科全書」と世界図絵』岩波書店,2009 年。)
(*)(参考：高橋英海「アレクサンドリアからバグダードへ—学知の経由地とイスラーム世界での学知の受容におけるその影響(シンポジウム 制度と学知)」中世思想研究 51,2009 年。)
(*)(参考：守川知子「伝説から史実へ—イラン・イスラーム社会における古代遺跡と歴史認識(2009 年度歴史学研究大会報告 民衆運動研究の新たな視座—新自由主義の時代と現代歴史学の課題(2))—(合同部会 刻まれるメッセージ,読み解かれるメッセージ—歴史資料としての石碑と遺跡)」歴史学研究 859,2009 年。)
(*)(参考：森谷公俊・梶田智史・木村晶子他「合同部会 師尾晶子・古代ギリシアの石碑 中川亜紀 古代ローマのモイニュメントとしての石碑 小澤実 林立するルーン石碑のなかで 守川知子 伝説から史実へ(2009 年度歴史学研究会大会報告批判)」歴史学研究 861,2009 年。)
(*)(参考：小澤実「研究フォーラム ルーン石碑と対話スル—イェリングの二つの石碑(世界史の研究[219])」歴史と地理 624,2009 年。)
(*)(参考：服部英二「講演論文 イスラム文明との対話」モラロジー研究 64,2009 年。)
(*)(参考：河村英和「ピラネージとグランド・ツアー—その英国人交流関係と旅行者顧客たち[含・日本語文要旨]」地中海学研究 32, 2009 年。)
(*)(参考：芳賀満「俗と聖の接吻—中央ユーラシア新出の「ディオニュソスとアリアドネ」テラコッタを中心として古代地中海から中国まで(特集 聖俗のあわい)」西洋美術研究 15,2009 年。)
(*)(参考：林曼麗「東西文化交流の先駆者としてのフェノロサ(特集 フェノロサ没後百周年記念)—(フェノロサ没後百周年記念シンポジウム『東京大学とフェノロサ』)」Lotus29,2009 年。)
(*)(参考：川村信三『超領域交流史の試み—ザビエルに続くパイオニアたち』Sofia University Press 上智大学出版,2009 年。)
(*)下山田禮子『風の円柱(エンタシス)：句集』(佐久)巴書林,2009 年。
(*)(参考：山根一郎「中世ヨーロッパ作法書の作法学的分析(2)エラスムスとデッラ・カーサ」椙山女学園大学研究論集,人文科科学篇 40,2009 年。)
(*)(参考：合田昌史「大航海時代の地図(世界史の研究[220])」歴史と地理 626,2009 年。)
(*)(参考：吉野政治「五大州—鎖国時代の世界地理認識」同志社女子大学学術研究年報 60, 2009 年。)
(*)川合一郎「明治の歴史地理学者・原秀四郎—その伝記書誌的考察」歴史地理学 51(3),2009 年。
(*)堀井美穂「世界史教育における地図活用の取り組み」地図 47(Suppl.),2009 年。
(*)(参考：上村直己「『新訳註解和独辞典』編者小田桐良太郎・ヴォール ファールト」日独文化交流研究 2009 年号,2009 年。)
(*)(参考：朱鳳『モリソンの「華英・英華字典」と東西文化交流』白帝社,2009 年。)

(*)(参考:[改造社調査部編]『最新世界人名辞典』日本図書センター,世界人名資料事典 1,2009 年。)
(*)(参考:[松元竹二編輯]『世界人名辞典』日本図書センター,世界人名資料事典 2,2009 年。)
(*)(参考:[齋藤道太郎編]『現代世界人名辞典』日本図書センター,世界人名資料事典 4,2009 年。)
(*)志村有弘・針原孝之編『日本文化文学人物事典』鼎書房,2009 年。
(*)(参考:遠藤祐他責任編集『世界日本キリスト教文学事典』オンデマンド版,教文館,2009 年。)
(*)(参考:西野嘉章『西洋美術書誌考』東京大学出版会,2009 年。)
(*)(参考:山中元編『英語—日本語—ラテン語語源辞典:英単語の語源を知り語彙を増やすための』国際語学社,2009 年。)
(*)真田治子「明治 24 年版『改正・哲学字彙』の可能性」埼玉学園大学紀要・人間学部篇 9,2009 年。
(*)櫻井豪人編著(茂亭村上義茂著)『三語便覧:初版本影印・索引・解説』港の人,2009 年。
(*)真田治子「明治 24 年版『改正・哲学字彙』の可能性」埼玉学園大学紀要・人間学部篇 9,2009 年。
(*)上村直己「『新訳註解和独辞典』編者小田桐良太郎,ヴォール・ファールト」日独文化交流史研究 2009 年号,2009 年。)
(*)小野崎紀男『日本数学者人名事典』現代数学社,2009 年。
(*)(参考:大槻真一郎・尾崎由紀子『ハーブ学名語源事典』東京堂出版,2009 年。)
(*)(参考:豊国秀夫編『植物学ラテン語辞典』ぎょうせい,復刻・拡大版,2009 年。)
(*)(参考:小野展嗣編『動物学ラテン語辞典』ぎょうせい,至文堂,2009 年。)
(*)(参考:岸本明子『「妖精・天使」眠れないほど面白い事典』知的生きかた文庫,三笠書房,2009 年。)
(*)三宅興子「イソップ寓話における図像の移植とその日本化--『通俗伊蘇普物語』と「金の斧銀の斧」を題材として」図説翻訳文学総合事典 5 巻,2009 年。
(*)川崎真治『古代史は身近にあり:比較言語学で解く「邪馬台国」』東洋書店,2009 年。
(*)(参考:Satoshi Urano &Yukinori Fukatsu,*Centarrlity and marginality of ancient documents*, Seikokai Shuppan,2009.)
(*)森谷公俊「古典を読むための案内を(新年特集 日本史研究に望むこと)」日本歴史 728,2009 年。
(*)(参考:大高順雄「「大トロイアの崩壊」における並列・主従構文」大手前大学論集 10,2009 年。
(*)(参考:小野崎康裕「イオの遍歴(1)オウィディウスへ至る物語継承の一側面」川村学園女子大学研究紀要 20(2),2009 年。)
(*)齋藤真生子「今月の一冊—国立国会図書館の蔵書からオウィディウス『変身物語』(1717) --コーヒー・ハウスの詩人たちによる英訳」国立国会図書館月報 575,2009 年。)
(*)(参考:高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(27)プラウトゥス『アンピトウル』(中)」一冊の本 14(1),2009 年。)
(*)(参考:高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(28)プラウトゥス『捕虜』(下)」

一冊の本 14(2),2009 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(29)テレンティウス『兄弟』」一冊の本 14(3),2009 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(30)セネカ『オエディプス』(1)」一冊の本 14(4),2009 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(31)セネカ『メデア』(2)」一冊の本 14(5),2009 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(32)セネカ『オクタウィア』(3)」一冊の本 14(6),2009 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(33)セネカ『アポコロキュントシス』(4)」一冊の本 14(7),2009 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(34,35)ペトロニウス『サテュリコン』(1,2)」一冊の本 14(8,9),2009 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(36,37)アプレイウス『黄金のろば』(上下)」一冊の本 14(10,11),2009 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(38)『ウルガタ』(1)」一冊の本 14(12),2009 年。)
(*)(参考：野町啓『学術都市アレクサンドリア』講談社学術文庫,講談社,2009 年。)
(*)(参考：植田かおり『古典ギリシア語のしくみ』白水社,2009 年。)
(*)(参考：ウィリアム・バークレー著/滝沢陽一訳『新約聖書のギリシア語』日本キリスト教団出版局,2009 年。)
(*)山川偉也『ギリシア語・日本語版詩集 葡萄酒一滴(ΠΟΙΗΜΑΤΑ ΜΙΑ ΣΤΑΛΑ ΚΡΑΣΙ)』IΩNIA+へるめす書房共同出版,2009 年。
(*)(参考：金山弥平「アルファベットの発明とその影響—プラトン『パイドロス』解釈のための「覚え書」」テクスト布置の解釈学的研究と教育 3(2),2009 年。)
(*)(参考：W.D,エルコック/大高順雄訳『ロマン語：新ラテン語の生成と進化』学術出版会,日本トショセンター(発売)、学術叢書,2009 年。)
(*)(参考：岡本源太「アキタイオンの韻文：ジョルダーノ・ブルーノとペトラルカ主義の伝統(分科会 IV-A「美学史」,研究発表 IV,第 60 回美学会全国大会報告発表要旨)」美学 60(2),2009 年。)
(*)(参考：Jurgen Trabant/齋藤元紀・村井則夫訳「フンボルトのグラマトロジー—言語の本性への斬新な洞察(ドイツ人文主義の諸相—近代的学知の淵源を探って)」思想 1023,2009 年。)
(*)(参考：渡辺学「ヴィルヘルム・フォン・フンボルトの言語論における「古典古代」の意味」学習院大学文学部研究年報 56[含・ドイツ語文要旨],2009 年。)
(*)(参考：和田浩一「01-27-K103-4 オリンピックの用語史：1986 年以前に出版された英和辞典に注目して(01.体育史,一般研究発表抄録,ひろしま発ひとを育む体育・スポーツ)」日本体育学会大会予稿集 60,2009 年。)
(*)徳永聡子「日吉メディアセンター所蔵の西洋初期刊本：HRP2008 貴重書展改題再録」(ギリシア語)慶應義塾大学日吉紀要,英語英米文学 54,2009 年。
(*)(参考：池端次郎『近代フランス大学人の誕生：大学人断章』知泉書館,2009 年。)
(*)(参考：ピーター・バーク/原聖訳『近世ヨーロッパの言語と社会：印刷の発明からフラ

ンス革命まで』(第2章 ラテン語 言語共同体への模索)岩波書店,2009年。)
(*)(参考：小林雅夫「特集に寄せて--「教養」教育に関して(特集 今なぜローマか?—多様化するローマ研究)」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論叢 31,2009 年。)
(*)Minamikawa,Takashi‘The Power of Identity：A Japanese Historical Perspective on the Study of Ancient History’(in：A.Chaniotis,A.Kuhn,C.Kuhn,[edd.]Applied Classics ：Comparisons,Constructs,Controversies,Stuttgart,2009.)
(*)(参考：久保正彰「彙報『古代ラテン語集成』(TLL)国際協力委員会報告」日本学士院紀要 63(3),2009 年。)
(*)王廸「日本における『老子』研究の流転」東洋学研究 46,2009 年。
(*)高木謙次『塚本虎二・黒崎幸吉と三人の学者』高木謙次選集 3,キリスト教図書出版社,2009年。
(*)川田殖「紹介 ネイサン・ブラウン訳『志無也久世無志與』」福音と世界 64(8),2009 年。
(*)加藤早苗「明治初期和訳聖書における聖書用語--「悪魔」と「鬼」」岐阜聖徳学園大学国語国文学 28,2009 年。
(*)井料佐紀子「明治期和訳聖書における〈教会〉訳語」文献探求 47,2009 年。
(*)鈴木英夫「明治初期の和訳聖書《路加伝》の漢語・漢字について」白百合女子大学キリスト教文化研究論集 10,2009 年。
(*)小田三千子「神田乃武—その生涯と異文化の受容のことなど」東北学院大学キリスト教文化研究所紀要 27,2009 年。
(*)瀧井一博「明治国家をつくった人びと(14)箕作麟祥—翻訳者の面目」本 34(9),2009 年。
(*)小谷野敦編『翻訳家列伝(101)』新書館,2009 年。
(*)周防大島文化交流センター,高永茂編『宮本常一文庫目録』広島大学地域連携センター,2009 年。
(*)(参考：ジェレミー・マンディー/鳥飼玖美子監訳『翻訳学入門』みすず書房,2009 年。)
(*)(参考：高橋順一「翻訳と歴史意識(5)ヴァルター・ベンヤミンの翻訳論(上)」言語文化6(3),2009 年。)
(*)(参考：三ツ木道夫「W.ベンヤミンの翻訳思想--「純粋言語」と翻訳」通訳翻訳研究 8,2009年。)
(*)(参考：金南斗・納富信留「韓国における西洋古典学の教育と研究」西洋古典學研究57,2009 年。)
(*)前之園幸一郎「児玉善仁著『イタリアの中世大学：その成立と変容』」教育学研究 76(1),2009 年。
(*)中田恵理子「紹介 児玉善仁著『イタリアの中世大学：その成立と変容』」史林 92(2),2009年。
(*)(参考：フロイト/高田珠樹他訳『ダ・ヴィンチの思い出；症例「シュレーバー」：1910-11年』フロイト全集 11,岩波書店,2209 年。)
(*)(参考：リック・リオーダン作/金原瑞人・小林みき訳『最後の神』パーシー・ジャクソンとオリンポスの神々5,ほるぷ出版,2009 年(→2016 年,静山社ペガサス文庫,静山社。)。)
(*)(参考：深沢克己「趣旨説明 公開シンポジウム「信仰における他者—異宗教・異宗派の受容と排除の比較史(第 106 回史学会大会報告)」史学雑誌 118(1),2009 年。)

(*)(参考：ピエール・イヴ・ボルペール/深沢克己訳『「啓蒙の世紀」とフリーメイソン』YAMAKAWA LECTURES 5,山川出版社,2009 年。)
(*)(参考：ミルチャ・エリアーデ著/クロード=アンリ・ロケ聞き手/住谷春也訳『迷宮の試練：エリアーデ自身を語る』作品社,2009 年。)
(*)(参考：篠井保彦「神託と予測(25)一神教と多神教」地中海歴史風土研究誌 30,2009 年。)
(*)(参考：尾河直哉「「月の病」：ルイージ・ピタンデッロ『一年間の物語』より(2)」流通経済大学社会学部論集 19(2),2009 年。)
(*)(参考：葛西康徳「宗教的情操を考えるいくつかの視点：古代ギリシアとの比較」(宗教的情操教育をめぐる諸問題)宗教研究 82(4),2009 年。
(*)(参考：石見衣久子『ディオニューソス像の再構築：古代ギリシアからヘレニズム,ローマへの系譜とノンノス『ディオニューソス譚』に基づく考察』新潟大学,博士(学術),甲第 3156 号,2009 年。)
(*)(参考：小野耕世「ギリシャ神話のマンガを読む」アナトリアニュース 125,2009 年。)
(*)(参考：齋藤洋文・佐竹美保絵『オリュンポスの書』ギリシア神話,理論社,2009 年。)
(*)(参考：齋藤洋文・佐竹美保絵『ペルセウスの書』ギリシア神話,理論社,2009 年。)
(*)(参考：名古屋ボストン美術館『愛と美の女神ヴィーナス：ギリシア神話から現代へ』名古屋ボストン美術館,2009 年。)
(*)鈴木忠志・宮城聰「〈有度サロン〉公演/鈴木忠志演出『ディオニュソス』アフター・トクより〈集団〉というフィクションの力--鈴木忠志氏に聞く」演劇人 15,2009 年。)
(*)(参考：堀江聡訳「ペトルス・ニコラウス羅訳『アリストテレスの神学』第 12 章「62[v]-「72[r]」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 40,2009 年。)
(*)齋藤貴弘「馬場恵二著「癒しの民間信仰―ギリシアの古代と現代」(東洋書林)」史学雑誌 118(1),2009 年。
(*)丹澤桂「書評 池田裕著『聖書と自然と日本の心』」(青山学院大学基督教学会)基督教論集 52,2009 年。
(*)(参考：秦剛平『異教徒ローマ人に語る聖書―創世記を読む』学術選書 46,京都大学学術出版会,2009 年。)
(*)(参考：松本宣郎編『初期キリスト教～宗教改革』宗教の世界史 8,山川出版社,2009 年。)
(*)(参考：日本聖書学研究所編『経験としての聖書：大貫隆教授献呈論文集』聖書学論集,日本聖書学研究所,リトン(発売) ,2009 年。)
----上村静「大貫「イエス論」考」
本多峰子「イエスにによる病気治癒と悪霊祓いの意味についての一考察：ユダヤ,ヘレニズム的背景との比較を視野に」
廣石望「「神の国」とイエスの譬：関係規定のための解釈学的考察」
山田耕太「福音書は伝記文学か?」
山本康弘「パウロ時代の文献による εργανομου の意味に関する研究」
戸田聡「巨大な地下迷宮?：タティアノスのディアテッサロンをめぐって」
出村みや子「アレクサンドリアの聖書解釈の伝統における貧困と富の理解」
保坂高殿「古代キリスト教における十字架磔刑図像の成立」
(*)(参考：八木雄二『天使はなぜ堕落するのか：中世哲学の興亡』春秋社,2009 年。)
(*)(参考：ヨアン・P.クリアーノ/桂芳樹訳『霊魂離脱(エクスタシス)とグノーシス』岩波書

店,2009 年。)
(*)(参考：田川建三訳『パウロ書簡：その二；擬似パウロ書簡』新訳聖書：訳と註 4、作品社、2009 年。)
(*)(参考:四方田犬彦「四方田犬彦の月に吠える(19)マタイ福音書の余白に」新潮 106(7),2009 年。)
(*)和田三造畫『イエス・キリスト聖画集』知泉書院,私家版,静止画像[非投影]（絵画）2009 年。
(*)加藤信朗監修『和田三造：イエス・キリスト画伝』知泉書院,2009 年。
(*)川田殖「書評 加藤信朗監修『和田三造：イエス・キリスト画伝』」福音と世界 64(11),2009 年。
(*)(参考：岡田温司『キリストの身体—血と肉と愛の傷』中公新書,2009 年。)
(*)(参考:竹田朕「イル･バセット--聖ペテロ大聖堂の抜け穴」地中海歴史風土研究誌 30,2009 年。)
(*)(参考：秦剛平『美術で読み解く聖母マリアとキリスト教伝説』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2009 年。)
(*)(参考：ガブリエル・マリア・ロスキーニ/澤田昭夫監修・内山正幸訳『聖母マリア：マリア・ヴァルトルタによるマドンナの生涯(上下)』天使館,2009 年。)
(*)(参考:鈴木昌世『イタリア人と母—母性愛・教育者・聖母マリア』サンパウロ,2009 年。)
(*)(参考：山崎裕子「アンセルムスにおける聖母マリアの理解(第二部会〈特集〉第 67 回学術大会紀要)」宗教研究 82(4),2009 年。)
(*)(参考：齋藤貴子「ロセッティの描いた人間マリア—(聖母マリアの少女時代)と(エクシ・アンシラ・ドミニ)」ソフィア 58(3),2009 年。)
(*)(参考：保坂高殿『ローマ帝政中期の国家と教会：キリスト教迫害史研究 193-311 年』東京大学,博士(学術),乙第 17246 号,2009 年。)
(*)梶原洋一「戸田聡著「キリスト教修道制の成立」(創文社)」史学雑誌 118(1),2009 年。
(*)加納修「橋本龍幸著聖ラデグンデスとポスト･ローマ世界」(南窓社)」史学雑誌 118(7),2009 年。
(*)(参考：高津美和「16 世紀イタリア宗教史の研究動向—デリオ・カンティモーリを転換点として」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論叢 31,2009 年。)
(*)(参考:高橋晃「ヴィニーの否認?:「オリヴ山」におけるロマン主義的キリストの表象(研究発表要旨)」フランス語フランス文学研究 94,2009 年。)
(*)(参考:G.Fondville「Moise,《Antique et moderne》,mais non 《Puissant et solitaire》:lectures du livers de l'Exode」フランス語フランス文学研究 95,2009 年。)
(*)(参考：太田敬子『ジハードの町タルスース：イスラーム世界とキリスト教世界の狭間』世界史の鏡 都市 3,刀水書房,2009 年。)
(*)(参考：ベルナール・フリューザン/大月泰弘訳『ビザンツ文明：キリスト教ローマ帝国の伝統と変容』文庫クセジュ 937,白水社,2009 年。)
(*)(参考:根津由喜夫『夢想のなかのビザンティウム:中世西欧の「他者」認識』昭和堂,2009 年。)
(*)(参考：バハレイ・ピレハディ「曽野綾子『哀歌』論：聖書のエルサレムの破壊とルワンダ部族戦争」千里山文学論集 82,2009 年。)
(*)(参考：出村みや子「古代アレクサンドリア神学における貧困と冨の理解(1-3)」東北学院

大学キリスト教文化研究所紀要 27,2009 年/28,2010 年/29,2011 年。)
(*)「保坂高殿氏の『ローマ帝政初期のユダヤ・キリスト教迫害』に対する授賞審査要旨(日本学士院第 98 回授賞式記事)」日本學士院紀要 63(2),2009 年。)
(*)(参考：山田耕太「フィロンにおけるパイデイア」敬和学園大学研究紀要 18,2009 年。)
(*)(參考：大月康弘・研究代表『中世キリスト教世界の秩序形成原理とローマ皇帝：世界帝国の理念と現実』大月康弘[一橋大学],科学研究費補助金(基礎研究 C)研究成果報告書,平成 17 年度-平成 19 年,2009 年。)
(*)(參考:竹田朕「イル・バセット—聖ペテロ大聖堂の抜け穴」地中海歴史風土研究誌 30,2009 年。)
(*)(參考：斎藤政信『マルコによる福音書、ヨハネによる福音書にある旧約聖書からの引用句：ヘブライ語原典、ギリシヤ語訳聖書、ラテン語訳聖書(ラテン・ウルガタ)、日本語訳聖書』斎藤政信,2009 年。)
(*)(參考：小河陽「20 世紀新約聖書解釈史における「神の国」(新約聖書学特集号)」キリスト教学 51,2009 年。)
(*)梅澤梅子「小河陽先生をお送りする(同上)」キリスト教学 51,2009 年。
(*)(參考:小澤実・薩摩秀登・林邦夫『辺境のダイナミズム』ヨーロッパの中世,岩波書店,2009 年。)
(*)(參考：秋山学研究代表『古典古代学を基礎とした「東方予型論」の構築と可能性をめぐる研究』秋山学,科学研究費補助金(基礎研究 C 一般)研究成果報告書,平成 18 年-20 年度,2009 年。)
(*)(參考:秋山学「ヘロドトスの射程—普遍史・他者性・予型論」文藝言語研究,文藝篇 56,2009 年。)
(*)高木謙次『塚本虎二・黒崎幸吉と三人の学者』キリスト教図書出版社,2009 年。
(*)兼子盾夫「井上洋治と遠藤周作の「日本人のキリスト教」を求めて—福音の文化内開化文化的受肉の観点から」比較思想研究 36,2009 年。
(*)片山はるひ「遠藤周作の文学におけるキリスト教の「東」と「西」--「深い河」の女神チャームンダーと聖母マリアの比較を通して」キリスト教文化研究所紀要 28,2009 年。
(*)小川あい「遠藤周作文学におけるキリスト教の受け止め方(1)「父」の宗教」久留米大学大学院比較文化研究論集 24,2009 年。
(*)三浦健治「遠藤周作の思想の展開(1-4)」民主文学 521,522,523,524,525,2009 年。
(*)笠井秋生「遠藤周作—同伴者イエスの発見(特集 現代作家と宗教[キリスト教編])—(聖書的世界の展開)」国文学・解釈と鑑賞 74(4),2009 年。
(*)山根道公「遠藤周作における吉満満彦体験—霊性文学の原点」キリスト教文化研究所年報 31,2009 年。
(*)菅原とよ子「ダニエル・ロップスの受容：遠藤周作『イエスの生涯』とダニエル・ロップス『キリストとその時代』」国語国文学研究 44,2009 年。
(*)武子真弓「「弱者」の救済：遠藤周作『沈黙』」恵泉アカデミア 14,2009 年。
(*)小嶋洋輔「2008・平成 20 年遠藤周作参考文献目録及び研究展望」遠藤周作研究 2,2009 年。
(*)篠崎まどか「遠藤周作『死海のほとり』論--「巡礼」の章における〈同伴者イエス〉の

復活」遠藤周作研究 2,2009 年。
(*)田中葵「遠藤周作「黄色い人」論--〈白い人〉と〈黄色い人〉との距離」遠藤周作研究 2,2009 年。
(*)兼子盾夫「遠藤周作とドストエフスキーにおける「象徴」と「神話」について--「蠅」と「蜘蛛」と「キリスト」と」遠藤周作研究 2,2009 年。
(*)芦川進一「ドストエフスキイ住人のと十人の日本人(4)響き合う魂ドストエフスキイと遠藤周作--「母的なるもの」の光と影」福音と世界 64(9),2009 年。
(*)辛承姫『遠藤周作論：母なるイエス』専修大学出版局,2009 年。
(*)B.M.ボダルト=ベイリー/中直一訳『ケンペル』ミネルヴァ書房,2009 年。
(*)片桐一男「志筑忠雄について」洋学史研究 26,2009 年。
(*)川村伸秀編『柳田泉の文学遺産』(第 1,2 巻.明治翻譯文學等)右文書院,2009 年。
(*)高橋文博「西村茂樹における学問と実践」弘道 117(1059),2009 年。
(*)本山幸彦「西村茂樹と文明開化」弘道 117(1059),2009 年。
(*)木村圭三『宮崎湖処子伝—甦る明治の知識人』彩流社,2009 年。
(*)佐々淳行「野営のハンニバル[澤田謙『プルターク英雄伝』]」文藝春秋 87(7),2009 年。
(*)鷲巣力「林達夫と加藤周一--「読む人」と「書く人」」現代思想 37(9),2009 年。
(*)千田剛「林[達夫]さんのさわやかな思い出--田之倉氏の近著への傍註」イタリア図書 39,2009 年。
(*)柳川平太郎「坂口昂と歴史教科書」高知大学教育実践研究 23,2009 年。
(*)佐川美智子「下位春吉とナポリの文芸誌「サクラ」--下位春吉伝(下)」イタリア圖書 40,2009 年。
(*)大内紀彦「イタリアにおける下位春吉の活動—雑誌「サクラ」にによる日本文学紹介を中心に」イタリア圖書 41,2009 年。
(*)菊池有希「日本主義化するバイロニズム—木村鷹太郎のバイロン論」和洋女子大学英文学会誌 43,2009 年。
(*)鈴木貞美「大正生命主義とベルグソン受容：和辻哲郎『ニイチェ研究』を中心に(2009 年春季シンポジウム フランス哲学の日本への受容：フランス的〈生の哲学〉と大正生命主義をめぐって」フランス哲学・思想研究 14,2009 年。
(*)吉田昌志「泉鏡花「年譜」補訂(3)」(木村鷹太郎)學苑 819,2009 年。
(*)阿部志郎(他)『賀川豊彦を知っていますか：人と信仰と思想』教文館,2009 年。
(*)葛井義憲「岡山時代の三谷隆正：自己中心と他者愛」名古屋学院大学研究年報 22,2009 年。
(*)鶴田一郎「三谷隆正の遺著『幸福論』について—処女作『信仰の論理』との対照を中心に」ホリスティック教育研究 12,2009 年。
(*)鶴田一郎「PAO28 三谷隆正の遺著『幸福論』を読む：処女作『信仰の論理』との対照を中心に」日本教育心理学会総会発表論文集 51,2009 年。
(*)島田由紀「岩下壮一「新スコラ哲學」論文における霊と哲学」明治学院大学キリスト教研究所紀要 42,2009 年。
(*)安藤礼二「井筒俊彦の起源—西脇順三郎と折口信夫(特集・井筒俊彦)」三田文学[第 3 期]88(96),2009 年。
(*)神谷幹夫「井筒俊彦の「ことば」とともに—「現実」は一つのテクストだ(特集・井筒俊彦)」三田文学[第 3期]88(96),2009 年。

(*)高橋巖「井筒俊彦先生のこと(特集・井筒俊彦)」三田文学[第 3 期]88(96),2009 年。
(*)松原秀一「井筒さんの渋い顔(特集・井筒俊彦)」三田文学[第 3 期]88(96),2009 年。
(*)湯川豊「井筒「伝説」に魅せられて(特集・井筒俊彦)」三田文学[第 3 期]88(96),2009 年。
(*)高山鉄男「パリの井筒先生(特集・井筒俊彦)」三田文学[第 3 期]88(96),2009 年。
(*)井筒俊彦「語学開眼(特集・井筒俊彦)」三田文学[第 3 期]88(96),2009 年。
(*)若松英輔「井筒俊彦---東洋への道程(イチネラリウム)(特集・井筒俊彦)」三田文学[第 3 期]88(96),2009 年。
(*)若松英輔「井筒俊彦—存在と神秘の形而上学(新連載 1)詩人哲学者の誕生」三田文学[第 3 期]88(97),2009 年。
(*)ヨース・ジョエル「日本の Humanism への一考察—エラスムス,チャップリンと貨狄観音」ふまにすむす 20,2009 年。
(*)高橋雅人「田中美知太郎「イデア」」(熊野純彦編『日本哲学小史—近代 100 年の 20 篇』所収,中公新書,2009 年。)
(*)三浦小太郎「田中美知太郎--世界史から現代の虚妄を見抜く哲人(思想列伝)」諸君! 41(6),2009 年。
(*)(参考：木原武一編『講義のあとで：知の追究者たちが語る学問の入り口とその世界(3 巻)』(田中美知太郎)丸善,2009 年。)
(*)(参考：「桜井万里子・姫岡とし子対談インタヴユー：「ジェンダー史学を語る」」クリオ=Clio23,2009 年。)
(*)(参考：中野京子『歴史が語る恋の嵐』角川文庫,角川書店,角川グループパブリッシング(発売),2009 年。)
(*)(参考：『世界の歴史：漫画版(1-10)』集英社文庫,集英社,2009 年。)
(*)(参考：池上俊一訳『東方の驚異』西洋中世譚集成 2,講談社学術文庫,講談社,2009 年。)
(*)(参考：アダム・ハート=デイヴィス総監修/樺山紘一日本語総監修・鹿沼博史他訳『世界の歴史大図鑑』河出書房新社,2009 年（→三浦嘉治,エス・プロジェクト日本語版編集,増補改訂版)。)
(*)(参考：阿部拓児『ペルシア帝国期小アジアにおける文化・社会・歴史叙述』京都大学,博士(文学),甲第 14294 号,2009 年。)
(*)(参考： ヤーコプ・.ブルクハルト著/新井靖一訳『世界史的考察』筑摩書房,2009 年。)
(*)木本英則「中井義明著『古代ギリシア史における帝国と都市—ペルシア・アテナイ・スパルタ』ミネルヴァ書房,2005 年」関学西洋史論集 32,2009 年。
(*)(参考:秋山学「ヘロドトスの射程—普遍史・他者性・予型論」文藝言語研究,文藝篇 56,2009 年。)
(*)(参考：古曳正夫『ヘロドトス「歴史」：読書地図帳』東海大学出版会,2009年。)
(*)(参考：ジャン・ジロドゥ作/諏訪正訳・浅利慶太演出『トロイ戦争は起こらないだろう』図書館上映用ビデオレコード,NHKエンタープライズ(発行・販売),2009年。)
(*)(参考：内田次信「ディオン・クリュソストモス『トロイア陥落せず』における神話伝承と「真実」の問題：弁論術から歴史フィクションへ(西部会第27回研究発表会,例会,研究発表会要旨)」美学60(2),2009年。)
(*)(参考:松村劭「小が大に勝つ戦略(3)キュロス王の「ディンプラ平原の戦闘」“最後の王”の大博打」(アレクサンドロス)日経トップリーダー297,2009 年。)
(*)(参考：松村劭「小が大に勝つ戦略(6)ミルティアデスの「マラトンの戦い」躊躇せずに行

動する」日経トップリーダー300,2009 年。)
(*)(参考：森谷公俊「ディオドロス・シクロス『歴史叢書』第 17 巻「アレクサンドロス大王の歴史」訳および註(1-4)」帝京史学 24,2009 年/25,2010 年/27,2012 年/31,2016 年。)
(*)(参考：森谷公俊「古典を読むための案内を(新年特集 日本歴史研究に望むこと)」日本歴史 728,2009 年。)
(*)(参考：森谷公俊「シンポジウム報告 大学の授業はどう変わるべきか(特集 歴史研究と歴史教育を問い直す)」史潮 65,2009 年。)
(*)(参考：森谷公俊「シンポジウム・ディスカッション(特集 歴史研究と歴史教育を問い直す)」史潮 65,2009 年。)
(*)(参考：森谷公俊「大学史学科での授業の工夫(特集 困難に立ち向かう授業)」歴史地理教育 749,2009 年。)
(*)(参考：松村劭『世界の名将決定的名言』PHP 文庫,PHP 研究所,2009 年。)
(*)(参考：松村劭「小が大に勝つ戦略(3)キュロス大王の「ディンプラ平原の戦闘」“最強の王”の大博打」日経トップリーダー297,2009 年。)
(*)(参考：松村劭「小が大に勝つ戦略(4)ハンニバルの「カンネの戦い」あえて予備戦力を残す」日経トップリーダー298,2009 年。
(*)(参考：松村劭「小が大に勝つ戦略(6)ミルティアデスの「マラトンの戦い」躊躇せず行動する」日経トップリーダー301,2009 年。
(*)(参考：松村劭「小が大に勝つ戦略(7)テミストクレスの「サラミスの海戦」うそを信じ込ませる」日経トップリーダー301,2009 年。
(*)(参考：竹下キンガ マルクス「フェルドウスィーの『王書』とニザーミーの『アレキサンダー大王物語』における生命の泉と永遠の命の探究のモチーフ」イラン研究 5,2009 年。)
(*)(参考：粟津則雄「私の空想美術館(64)アルトドルファー「アレクサンドロスの戦い」」美術の窓 28(6),2009 年。)
(*)(参考：マルクス 竹下 キンガ「フェルドウスィーの『王書』とニザーミーの『アレキサンダー大王物語』における生命の泉と永遠の命の探究のモチーフ」イラン研究 5,2009 年。)
(*)(参考：フランク・コラール/吉田春美訳『アレクサンドロス大王からリチャード獅子王まで(上)』毒殺の世界史,原書房,2009 年。)
(*)(参考：山中由里子『アレクサンドロス変相—古代から中世イスラームへ』名古屋大学出版会,2009 年。)
(*)三浦伸夫「書評 山中由里子著『アレクサンドロス変相—古代から中世イスラームへ』」比較文明 25,2009 年。)
(*)小村優太「Le Rond—Point 山中由里子氏博士論文審査傍聴記」比較文學研究 93,2009 年。
(*)(参考：山中由里子「寓意としてのアレクサンドロス：イスラーム古典期の信仰と歴史意識において(中東研究博士論文要旨)」日本中東学会年報 25(1),2009 年。)
(*)(参考：波部雄一郎「プトレマイオス 2 世のプトレマイエイア祭典行列—ヘレニズム王権概念の形成」西洋史学 234,2009 年。)
(*)(参考：山中美知「ディオドロス・スィクルスによる古代エジプト史の歴史叙述について」

古典古代学 2,2009 年。)
(*)(参考：Benjamin Lowy「Picture Power 血に飢えた現代によみがえる剣闘士」ニューズウィーク 24(2),2009 年。)
(*)(参考：梶田知志「Homo Pugnus—墓碑銘に見る剣闘士(gladiator)の生と死(シンポジウム地中海地域の碑文文化—碑文はどこまで歴史を語れるか?)」地中海研究所紀要 7,2009 年。)
(*)(参考：塩野七生「塩野七生『ローマ亡き後の地中海世界』刊行記念対談 塩野七生 X 池内恵/「パクス・ロマーナ」が壊れるとは,どういうことなのか」波 43(1),2009 年。)
(*)(参考：塩野七生『イタリア遺聞』28 版改版,新潮社,2009 年。)
(*)(参考：塩野七生『海の都の物語：ヴェネツィア共和国の一千年』新潮社,2009 年。)
(*)(参考： 塩野七生・佐藤賢一「対談 「歴史」を書くということ」青春と読書 44(4),2009 年。)
(*)(参考：ハイラム・W.スミス,竹村富士徳著/フランクリン・コヴィー・ジャパン訳『勝利のタイム・マネジメント：古代ローマのグラディエーターに学ぶ』キングベアー出版,2009 年。)
(*)(参考：内林謙介『プルタルコス『対比列伝』と初期ローマ人』名古屋大学,博士(文学),甲第 8557 号,2009 年。)
(*)(参考：豊田周平「ハドリアヌス」月刊自動車部品 55(7),2009 年。)
(*)渡部昇一「危機の時代に読むべき名著—古代ローマの人生論で自分を磨け」ボイス 52,2009 年。
(*)(参考 : Dalton Trumbo,Haward East ; Kirk Douglas ; Edward Lewis ; Stanley Kubric“Spartacus”ビデオディスク,ジェネオン･ユニバーサル･エンターテイメント,2009 年。)
(*)(参考：Khachaturian,Glazunov“Spartacus；Gayaneh.The seasons”録音資料,Decca Marketed & disrtibuted by Universal Music,2009 年。)
(*)(参考：Khachaturian；commt.Koichi Owa(大輪公壱)“Spartacus；first suite from the ballet”楽譜印刷,Zen-on Music,2009 年。)
(*)(参考 : Khachaturian ; commt.Koichi Owa(大輪公壱)“Spartacus ; second suite from the ballet”楽譜印刷,Zen-on Music,2009 年。)
(*)(参考：Khachaturian；commt.Koichi Owa(大輪公壱)“Spartacus；third suite from the ballet”楽譜印刷,Zen-on Music,2009 年。)
(*)(参考：大輪公壱「ハチャトゥリアン バレエ音楽『スパルタクス』--解説と分析」秋草学園短期大学紀要 26,2009 年。)
(*)(参考：『地方共同体から見たヘレニズム・ローマ期のエジプト社会』名古屋大学 2007 年,(科研費)2009 年。)
(*)(参考：本村凌二・高山博『地中海世界の歴史：古代から近代へ』放送大学教育振興会,放送大学教材,2009 年。)
(*)(参考：佐藤真一『ヨーロッパ史学史：探究の軌跡』(「古代ギリシアの歴史叙述」)知泉書院,2009 年。)
(*)(参考：テオドール・モムゼン/杉山吉朗訳『ローマ史（3）：革命時代』杉山吉朗,2009 年。)
(*)(参考：ハイラム・W.スミス,竹村富士徳著/フランクリン・コヴィー・ジャパン訳『勝利

のタイム・マネジメント：古代ローマのグラディエーターに学ぶ』キングペアー出版,2009 年。)
(*)(参考：大清水裕「ヒスペルツム勅答碑文をめぐる諸問題—コンスタンティヌス帝治世イタリアの州会議と都市参事会員たち」西洋史研究 38,2009 年。)
(*)南川高志「大清水裕著「三世紀後半のイタリア統治の変容と都市社会—コモ出土碑文再考」」法制史研究 58,2009 年。
(*)(参考：栗田伸子・佐藤育子『通商国家カルタゴ』興亡の世界史 3,講談社,2009 年(→2016 年,講談社学術文庫版)。)
(*)(参考：伊藤雅之「第二次マケドニア戦争再考：ローマおよびヘレニズム諸国の軍事・外交の構造(研究発表,西洋史部会,第 106 回史学会大会報告)」史學雑誌 118(1),2009 年。)
(*)(参考：江川陽「エドワード・ギボンの著作における自由と徳(平成 21 年度立正大学史学会大会発表要旨)」立正史学 106,2009 年。)
(*)(参考：片岡大右「隠遁人,野生人,蛮人：シャトーブリアン『歴史研究』におけるギボンの活用(研究論文)」(日本フランス語フランス文学)フランス語フランス文学研究 95,2009 年。)
(*)「史学文献目録—西洋史 1」史學雑誌 118(1),2009 年。
(*)中井義明「堀井健一著「アテナイの前 411 年の寡頭派政変と民主政」(渓水社)」史學雑誌 118(3),2009 年。
(*)(参考：毛利晶「ローマによるカエレ併合と civitas sine suffragio(投票権なき市民権)の起源」史學雑誌 118(4),2009 年。)
(*)「史学文献目録—西洋史 2」史學雑誌 118(5),2009 年。
(*)小高敬寛「一(古代オリエント,西アジア・北アフリカ,2008 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 118(5),2009 年。
(*)有村誠「二(古代オリエント,西アジア・北アフリカ,2008 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 118(5),2009 年。
(*)伊藤隆郎「イスラーム時代(古代オリエント,西アジア・北アフリカ,2008 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 118(5),2009 年。
(*)北澤義之「近現代(古代オリエント,西アジア・北アフリカ,2008 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 118(5),2009 年。
(*)栗原麻子「ギリシア(古代ヨーロッパ,2008 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 118(5),2009 年。
(*)高橋亮介「ローマ(古代ヨーロッパ,2008 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 118(5),2009 年。
(*)加納修「一般(中世,ヨーロッパ,2008 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 118(5),2009 年。
(*)大月康弘「ロシア・ビザンツ(中世,ヨーロッパ,2008 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 118(5),2009 年。
(*)土肥恒之「一般(近代,ヨーロッパ,2008 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 118(5),2009 年。
(*)伊東剛史「イギリス(近代,ヨーロッパ,2008 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 118(5),2009 年。

(*)正本忍「フランス(近代,ヨーロッパ,2008 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 18(5),2009 年。
(*)谷口健治「ドイツ・スイス・ネーデルランド(近代,ヨーロッパ,2008 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 118(5),2009 年。
(*)八十田博人「南欧(近代,ヨーロッパ,2008 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 118(5),2009 年。
(*)加納修「西欧・南欧(中世,ヨーロッパ,2008 年の歴史学界—回顧と展望)」史學雑誌 118(5),2009 年。
(*)北田葉子「北原敦編「イタリア史」(新版世界各国史 15,山川出版社)」史學雑誌 118(7),2009 年。
(*)加納修「橋本龍幸著『聖ラデグンディスとポスト・ローマ世界』南窓社,2008」史學雑誌 118(7),2009 年。
(*)「史学文献目録—西洋史 3」史學雑誌 118(9),2009 年。
(*)(参考：本間俊行「ローマ帝政前期における諸都市の書記(scribae)」(北海道大学文学部西洋史研究室)西洋史論集 12,2009 年。)
(*)大木英則「中井義明著「古代ギリシア史における帝国と都市—ペルシア・アテナイ・スパルタ」」関学西洋史論集 32,2009 年。
(*)(参考：松原俊文「「ローマ人の物語」--誰の物語?(前編)(特集 今なぜローマか?—多様化するローマ研究)」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論叢 31,2009 年。)
(*)(参考：福山佑子「ダムナティオ・メモリアエをめぐって(特集 今なぜローマか?—多様化するローマ研究)」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論叢 31,2009 年。)
(*)(参考：梶田知志「ラニスタ・キルクムフォラヌス(lanista circumfora〈e〉n—その史的実在生の検証と再考(特集 今なぜローマか?—多様化するローマ研究)」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論叢 31,2009 年。)
(*)(参考：千脇修「ピレンヌ・テーゼ肯定論--「マホメットとシャルルマーニュ」再読(特集 今なぜローマか?—多様化するローマ研究)」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論叢 31,2009 年。)
(*)(参考：高橋宏幸『カエサル『ガリア戦記』--歴史を刻む剣とペン』書物誕生：あたらしい古典誕生,岩波書店,2009 年。)
(*)芝川治「ギリシア史の批評をめぐって(1-3)」大手前大学論集 10,2009 年//11,2010 年//12,2011 年。
(*)(参考：橋場弦・師尾晶子・長谷川岳男「フォーラム 第 58 回日本西洋史学会大会シンポジウム報告 ギリシアの「衰退」とは何か：緒言・論点開示」西洋史学 234,2009 年。)
(*)(参考：橋場弦「陶片追放」公研 555,2009 年。)
(*)(参考：Losemann Volker/酒枝徹意訳「翻訳 ナチズムと古代—1933 年にかけての古代史専攻の動向の研究(1,2,3)」四国学院大学論集 129,2009 年/131,132,2010 年。)
(*)(参考：Losemann Volker/酒枝徹意訳「翻訳 ナチズムと古代—研究史論評」四国学院大学論集 130,2009 年。)
(*)高畠純夫「古代ギリシア戦争研究の現状」東洋大学文学部紀要・史学科篇 35,2009 年。
(*)梶田知志「人間学としての歴史研究—古代ローマ史研究の視点から」(早稲田大学文学会)

史観 161,2009 年。
(*)安田萌「高校世界史教科書における西洋古代史—その叙述のあり方」岩手大学文化論叢(7・8),2009 年。)
(*)「角田文衛博士年譜(特輯：角田文衛博士の学問とその業績)」古代文化 60(4),2009 年。
(*)「角田文衛博士著作目録(同上)」古代文化 60(4),2009 年。
(*)山田邦和「角田文衛博士の古代学(同上)」古代文化 60(4),2009 年。
(*)「佐藤彰一教授略歴・業績」名古屋大学文学部研究論集,史学 55,2009 年。)
(*)(参考：今野元『少年期ウェーバー：古代中世史論』岩波書店,2009 年。)
(*)森谷公俊「大学史学科での授業の工夫」(歴史教育者協議会)「歴史地理教育」749,2009 年。
(*)(参考：岡崎勝世「思想の言葉 「世界史」の誕生(ドイツ人文主義の諸相—近代的学知の淵源を探って)」思想 1023,2009 年。)
(*)(参考：青柳正規・安田喜憲「対談 ローマ帝国衰亡の教訓—国立西洋美術館館長・青柳正規×国際日本文化研究センター教授・安田喜憲」公研 47(1),2009 年。)
(*)(参考：左近司祥子『西洋哲学の 10 冊』岩波ジュニア新書 613,岩波書店,2009 年。)
(*)(参考：菊谷忠治「他者について(試論)」地中海歴史風土研究誌 29,2009 年。)
(*)(参考：菊谷忠治「ニヒリズムをどう越えるか」地中海歴史風土研究誌 30,2009 年。)
(*)(参考：渡辺邦夫「いくつかの哲学問題への「アレテー(徳)」の適切性に関する一考察」人文コミュニケーション学科論集 7,2009 年。)
(*)(参考：曽田長人「19 世紀学と新人文主義(特集 19 世紀学とは何か—19 世紀学研究の可能性)」19 世紀学研究 2,2009 年。)
(*)(参考：曽田長人「ドイツ新人文主義の近代性と反近代性—F.A.ヴォルフの古典研究を手がかりに(ドイツ人文主義の諸相—近代的学知の淵源を探って)」思想 1023,2009 年。)
(*)(参考：gaju 造形・イラスト；熊日情報文化センター編集 ；吉村尚子現代語訳；田島巳起子・カイロンパウエル英訳『Esopo：the life of Aesop：the Amakusa editions of Aesop’s fables=イソップの生涯の物語：天草本伊曽保物語より』熊日出版,2009 年。)
(*)(参考：加藤康子『日本・イギリス・フランスにおける絵本の国際比較研究』梅花女子大学 2006 年,(科研費)2009 年。)
(*)イソップ原作/村上勉再話・絵『イソップ絵本館』名作を 1 冊で楽しむ,講談社,2009 年。
(*)イソップ原作/蜂飼耳文・今井彩乃,西村敏雄,ささめやゆきえ,たしろちさと,山福朱美,かわかみたかこ,さこももみ,杉崎貴史,水沢そら,宇野亜喜良絵『イソップえほん(1-10)』岩崎書店,2009-17 年。)
(*)イソップ原作/読みもの作成ワークショップ再話；石川智子挿絵『アリとキリギリス』JGR,lebel 0,日本語多読研究会,2009 年。
(*)イソップ原作/読みもの作成ワークショップ再話;石川智子挿絵『どうしてコウモリは昼、飛ばない?』JGR,lebel 0,日本語多読研究会,2009 年。
(*)イソップ原作/読みもの作成ワークショップ再話；三枝舞子挿絵『風と太陽』JGR,lebel 0,日本語多読研究会,2009 年。
(*)イソップ原作/蜂飼耳文・ささめやゆきえ『オオカミがきた』イソップえほん 1.岩崎書

店,2009 年。
(*)イソップ原作/蜂飼耳文・今井彩乃絵『いなかのネズミとまちのネズミ』イソップえほん 2,岩崎書店,2009 年。
(*)イソップ原作/蜂飼耳文･西村敏雄絵『ライオンとネズミ』イソップえほん 3,岩崎書店,2009 年。
(*)イソップ原作/黒井健絵『うさぎとかめ：イソップ童話より 動きがついた新しい読み聞かせ』ふれあいおひざ絵本,小学館,2009 年。
(*)降矢なな絵・木坂涼再話『いそっぷのおはなし』グランまま社,2009 年。
(*)青島広志『青島広志の楽器のおはなし：しくみから雑学まで』(付属資料 CD「イソップ動物記」)学習研究社,2009 年。
(*)喜岡淳治「ショートショートの授業：「未来いそっぷ」(星新一)から(1)」全国大学国語教育学会国語科教育研究：大会研究発表要旨 116,2009 年。
(*)国松夏紀「献辞(山川偉也教授退任記念号)」国際文化論集 39,2009 年。
(*)岩男久仁子「イソップ伝の「難題問答」(同上)」国際文化論集 39,2009 年。
(*)「山川偉也教授略歴及び著作目録(同上)」国際文化論集 39,2009 年。
(*)戸江雅一「山川偉也先生との思い出(同上)」国際文化論集 39,2009 年。
(*)(参考：伊藤博明「ポッジュ・ブラッチョリーニと『伊曽保物語』--シュタインヘーヴェル編『イソップ寓話集』のスペイン語訳について」埼玉大学紀要 教育学部 45(2),2009 年。)
(*)松村恒「寓話「抜髪男事」の系譜：仏教文献と世俗文献の交渉の更なる一例」(イソップ)印度學仏教學研究 57(2),2009 年。
(*)Scott Johnson/山口静一訳「資料紹介(116)六輝社「河鍋暁斎画集」二巻(平成 6 年刊)イーソップから伊蘇普まで『通俗伊蘇普物語』の形成」暁斉 100,2009 年。
(*)(参考：平井啓之・村田全・山川偉也『エレアのゼノン—鼎談』研究叢書 26,桃山学院大学総合研究所,2009 年。)
(*)(参考：ジョセフ・メイザー/松浦俊輔訳『ゼノンのパラドックス—時間と空間をめぐる 2500 年の謎』白楊社,2009 年。)
(*)(参考：フォン・ウンガーン・シュテルンベルク/三嶋輝夫訳「ヘシオドスとソロンにおける古代オリエント的なもの」青山史学 27,2009 年。)
(*)(参考：畑潤「古代ギリシアにおける教養思想に形成に関する基礎研究—W.イェーガーによるヘーシオドス理解に学ぶ」地域社会研究 19,2009 年。)
(*)(参考：三上章「ソクラテスとイエスにとって死は何を意味したか?---プラトンのソクラテスとヨハネ福音書のイエスの場合」死生學年報 2009,2009 年。)
(*)(参考：村島義彦「いわゆる「バーネット=テイラー説」について：J.バーネット『プラトン哲学』をコメントして」立命館文學 613,2009 年。)
(*)(参考：山田哲也『ソクラテス以前の哲学にみる古代懐疑主義への道』金沢大学,博士(文学),甲第 3193 号,2009 年。)
(*)(参考：W.イェーガー/村島義彦訳「ソクラテス(3)」立命館文學 613,2009 年。)
(*)(参考：眞方忠道『プラトンと共に』南窓社,2009 年。)
(*)(参考:中村健『プラトン後期哲学における知識論の研究』京都大学,博士(文学),甲第 14242 号,2009 年。)
(*)(参考：小川彩子『アリストテレス『詩学』におけるミュートス概念』学習院大学,博士

(哲学),甲第 172 号,2009 年。)
(*)(参考：日吉大輔『アリストテレス探究論の研究：『分析論後書』における定義と論証』北海道大学,博士(文学),甲第 8875 号,2009 年。)
(*)(参考：赤井清晃『アリストテレスにおけるディアレクティケーの研究：初期対話篇から問答法へ』広島大学,博士(文学),乙第 4984 号,2009 年。)
(*)(参考：相澤康隆「アリストテレスのアクラシア論—伝統的解釈とその修正」哲学 60,2009 年。)
(*)(参考：佐良木昌「アナロギア思考の系譜と言語表現の論理：発見の方法としてのアナロギアの構築(アナロジーと言語表現/思考と言語一般)」(アリストテレス)電子情報通信学会技術研究報告,TL,思考と言語 108(427),2009 年。)
(*)(参考：上田悌「G のレチタティーポ(4)アリストテレスはずるい」人事管理 361,2009 年。)
(*)(参考：三浦要「「本意」論の射程—アリストテレスは徳倫理批判にどうこたえるか(北海道哲学会・北大哲学会共催シンポジウム《道徳的評価と行為者》)」哲学年報 56,2009 年。)
(*)(参考：冨田恭彦『科学哲学者柏木達彦のプラトン講義』角川文庫,角川学芸出版,角川グループパブリッシング(発売),2009 年。)
(*)(参考：冨田恭彦『科学哲学者柏木達彦の多忙な夏：科学がわかる哲学入門』角川文庫,角川学芸出版,角川グループパブリッシング(発売),2009 年。)
(*)(参考：鷲田陸朗「「カティリーナ」の近代における受容研究のための覚え書き」(属州研究会)古代史年報 7,2009 年。)
(*)(参考：岡部由紀子「リーメンシュナイダーの手になる近世初期のキリスト哀悼群像(2)」(京都外語大学ドイツ語学科)ブリュッケ 12,2009 年。)
(*)(参考：Porphyry/堀江聡訳「ポルフュリオス『新プラトン主義命題集成センテンチアェ—知性的なものへの跳躍台』第 1-32 章邦訳」慶應義塾大学日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション 41,2009 年。)
(*)(参考：荻野弘之『マルクス・アウレリウス『自省録』：精神の城塞』書物誕生：新しい古典入門,岩波書店,2009 年。)
(*)(参考：水落健治「ギリシア哲学とキリスト教との出会い—ユスティノス『ユダヤ人トリュフォンとの対話』序文を読む(特集 中世哲学)」理想 683,2009 年。)
(*)(参考：長谷川宜之『ローマ帝国とアウグスティヌス—古代末期北アフリカの司教』東北大学出版会,2009 年。)
(*)(参考：水落健治「初期アウグスティヌスとアリストテレス—ひとつの試論として」カルチュール 3(1),2009 年。)
(*)(参考：松崎一平『アウグスティヌス「告白」--〈わたし〉を語ること』書物誕生：新しい古典入門,岩波書店,2009 年。)
(*)(参考：長谷川宜之『ローマ帝国とアウグスティヌス—古代末期北アフリカ社会の司教』東北大学出版会,2009 年。)
(*)戸田聡「書評 長谷川宣之著「ローマ帝国とアウグスティヌス—古代末期北アフリカ社会の司教」」西洋史研究 38,2009 年。
(*)小澤実「H.I.マルー著岩村清太訳「アウグスティヌスと古代教養の終焉」(知泉書館)」史学雑誌 118(2),2009 年。
(*)(参考：稲垣良典『トマス・アクイナス『神学大全』』講談社,講談社選書メチエ 454,2009

年。)
(*)(参考：阿部善彦「マイスター・エックハルトにおけるキリスト教的人間形成について」カトリック教育研究 26,2009 年。)
(*)(参考：阿部善彦「エックハルトの「ドイツ語説教」による共生学的展望へのエチュード—その言葉がひらきむすぶものに向けて(東方ギリシア教父から西方へ)」共生学 1,2009 年。)
(*)辻村公一「彙報 物故会員追悼の辞 故山田晶会員追悼の辞」日本學士院紀要 63(2),2009 年。)
(*)「略年譜・業績一覧(追悼 山田晶先生)」中世思想研究 51,2009 年。)
(*)蒔苗暢夫「垂範(追悼 山田晶先生)」中世思想研究 51,2009 年。)
(*)水田英美「追悼・山田晶先生(追悼 山田晶先生)」中世思想研究 51,2009 年。)
(*)稲垣良典「山田晶教授のアウグスティヌス研究(追悼 山田晶先生)」中世思想研究 51,2009 年。)
(*)中川純男「In memoriam Akira Yamada(1922-2008)(追悼 山田晶先生)」中世思想研究 51,2009 年。)
(*)「(追悼 山田晶先生)」中世思想研究 51,2009 年。)
(*)辻村公一「彙報 物故会員追悼の辞 故山田晶会員追悼の辞」日本學士院紀要 63(2),2009 年。)
(*)「略年譜・業績一覧(追悼 山田晶先生)」中世思想研究 51,2009 年。)
(*)蒔苗暢夫「垂範(追悼 山田晶先生)」中世思想研究 51,2009 年。)
(*)水田英美「追悼・山田晶先生(追悼 山田晶先生)」中世思想研究 51,2009 年。)
(*)稲垣良典「山田晶教授のアウグスティヌス研究(追悼 山田晶先生)」中世思想研究 51,2009 年。)
(*)中川純男「In memoriam Akira Yamada(1922-2008)(追悼 山田晶先生)」中世思想研究 51,2009 年。)
(*)「(追悼 山田晶先生)」中世思想研究 51,2009 年。)
(*)(参考:小澤実・薩摩秀登・林邦夫『辺境のダイナミズム』ヨーロッパの中世 3,岩波書店,2009 年。)
(*)(参考：門屋秀一『絵画で綴る哲学と倫理学：西洋思想のイコノロジー』晃洋書房,2009 年。)
(*)(参考：近藤智彦「「今を生きる」ヘレニズム哲学」」創文 517,2009 年。)
(*)(参考：神崎繁「「対話」から「規制」へ—古典期からヘレニズム期への「理性」概念の変容をめぐって(ヘレニズム哲学)」アルケー17,2009 年。)
(*)(参考：Porphyry/堀江聡・西村洋平訳「ポルフュリオス『新プラトン主義命題集成センテンチアエ—知性的なものへの跳躍台』第 1-32 章邦訳」慶應義塾大学日吉紀要,言語・文化・コミュニケーション 41,2009 年。)
(*)(参考：三宅浩史「トマス・テイラーによるプロティノス受容について—Enn.3,8「30」をめぐって」比較思想研究 36,2009 年。)
(*)(参考：内田智秀「メーテルリンクと新プラトン主義の影響」日本フランス語フランス文学会中部支部研究報告集 33,2009 年。)
(*)(参考：酒井潔「ライプニッツにおける「慈愛」(caritas)の概念」人文 8,2009 年。)
(*)(参考：フォンガロ・エンリーコ「時間と無：文化間の対話におけるカルロ・ミケルシュ

テッターの思想」(プラトニズム)イタリア学会誌 59,2009 年。)
(*)(参考：今村純子「愛について―シモーヌ・ヴェイユの思索をめぐって」(プラトン)慶應義塾大学日吉紀要,フランス語フランス文学(49・50),2009 年。)
(*)(参考 : 安里淳「ウーシアをめぐる二種類のロゴス―ハイデガー哲学におけるアリストテレス解釈から」待兼山論叢 43,2009 年。)
(*)「BOOKS 熟読・斜読・積読 ギリシア人は「ある」ことにただ驚いている『マルティン・ハイデガー』ジョージ・スタイナー著 生松敬三訳(岩波現代文庫)」ベルダ 15(3),2009 年。
(*)狐野利久『イスラームの教えと清沢満之の思想：比較思想の立場から親鸞の思想を考える』探究社,2009 年。
(*)Schulzer Reiner「欧米諸言語文献に見る井上円了研究」井上円了センター年報 18,2009 年。
(*)柴田隆行「井上円了の「哲学観」」井上円了センター年報 18,2009 年。
(*)三浦節夫「井上円了の『真理金針』について(1)」井上円了センター年報 18,2009 年。
(*)三河隆之「山内得立における根拠の問題：言語化の限界,限界の言語化」思想史研究 10,2009 年。
(*)辻朋季「上田萬年との翻訳論争(1895 年)に見るカール・フローレンツの西洋中心主義」論叢 3,2009 年。
(*)太宰治・井伏鱒二『走れメロス・山椒魚』21 世紀版少年少女日本文学館 10,講談社,2009 年。)
(*)森見登美彦『新釈走れメロス：他四篇』祥伝社文庫,祥伝社,2009 年(→2015 年,角川文庫版)。
(*)太宰治『富嶽百景・走れメロス：他八篇』ワイド版岩波文庫,岩波書店,2009 年。
(*)「走れメロス 疾駆する文体の美学(太宰治―生誕 100 年記念)―(名作探訪)」別冊太陽 159,2009 年。
(*)宮下啓三「メロスと友情物語の三段跳び―太宰治『走れメロス』とシラーの詩の関係」三田文学[第 3 期]88(99),2009 年。
(*)洪明嬉「太宰治『走れメロス』論―明るさに胚胎する謙りを中心に」文学・語学 193,2009 年。
(*)迫田好章「『走れメロス』--変化・不変化の諸相」ICU 国語教育 1,2009 年。
(*)高橋晶子「研究ノート・『眞友』と『走れメロス』」ヘカツチ 4,2009 年。
(*)桃原千英子「読みの交流による『走れメロス』の授業実践」全国大学国語教育学会発表要旨集 116,2009 年。
(*)須貝千里「「読むこと」の授業における〈語り〉の問題：「走れメロス」を例として」全国大学国語教育学会発表要旨集 1172009 年。
(*)太田順子「図問研のページ「図書館利用に障害のある人へのサービス」交流のページ マルチメディア DAISY 図書『走れメロス』のご紹介」みんなの図書館 387,2009 年。
(*)「走れメロス 疾駆する文体の美学(太宰治―生誕 100 年記念)―(名作探訪)」別冊太陽 159,2009 年。
(*)狩野美智子『野上弥生子とその時代』ゆまに書房,2009 年。

(*)藪禎子『野上彌生子』女声作家評伝シリーズ 3,新典社,2009 年。
(*)千葉軒士「キリシタン文献・ローマ字写本における~と~について--「バレト写本」を中心に」名古屋大学人文科学研究 38,2009 年。
(*)小峯和明「キリシタン文学と天狗--『サントスの御作業』を中心に(キリシタン文化と日欧交流)—(キリシタンの翻訳と表象)」アジア遊学 127,2009 年。
(*)鈴木進編『J.C.ヘボン訳ローマ字 Mataiden fuku-in sho 草稿：明治学院大学図書館所蔵：Matai den fukuin-sho 原文ヘボン訳『馬太傳福音書』対照：解説・註解・訳語比較表』明治学院大学キリスト教研究所,KS オケイジョナル・ペーパー10,2009 年。
(*)小林健二「織田信長と幸若舞曲「敦盛」(特集 中世芸能研究の視界)—(舞曲の警醒と変容)」国文学 解釈と鑑賞 74(10),2009 年。
(*)金賛會(研究代表)『日韓文化の比較：日本八幡宮総本山：宇佐八幡宮の百合若説経と韓国の成造神話』金賛會,科学研究費補助金(C)研究成果報告書,平成 18-19 年度,2009 年。
(*)金昭賢「浄瑠璃『百合稚高麗軍記』における高麗像—附・百合若の名はどこからきたか」演劇映像学 2009(4),2009 年。
(*)(参考：いいだもも「ホメーロスの『オデュッセイ』の英雄叙事詩の一時代の後を承けて(2008 年度プロジェクト B4 研究報告(8)戦後の農民運動と農村の変容)」立命館言語文化研究 21(1),2009 年。)
(*)(参考：Genung Michael「アンドロマケーの運命--『イーリアス』第 6 巻におけるヘクトールの「告別演説」の別解釈に関するさらなる批評」日本大学生産工学部研究報告 B 文系 42,2009 年。)
(*)(参考：Breal Michel/工藤進訳「ホメーロスをよりよく知るために—ミシェル・ブレアル文学史としての問題」(ヨーロッパ古代とフランス文学)」(明治学院大学言語文化研究所)言語文化 26,2009 年。)
(*)(参考：原田義彦『オデュッセイの智慧—困難の時代を生きぬく』(大津)三学出版,2009 年。)
(*)(参考:四方田犬彦「四方田犬彦の月に吠える(15)われらが後のホメロス」新潮 106(3),2009 年。)
(*)(参考：吉田敦彦著・安彦良和画『オデュッセイウスの冒険』青土社,2009 年。)
(*)(参考：丹下和彦「家庭の悲劇：エウリピデス『アンドロマケ』考」(関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部)研究論集 89,2009 年。)
(*)(参考：久保正彰「アリストファネスへの道」図書 722,2009 年。)
(*)(参考：Kiichiro Itsumi,*Pindaric meter : the 'other half'*,Oxford U.P.,2009.)
(*)(参考：畑潤「古代ギリシアにおける教養思想の形成に関する基礎研究(1)—W.イェーガーによるヘーシオドス理解に学ぶ」(都留文科大学人文学会)地域社会研究 19,2009 年。)
(*)小林雅夫「特集に寄せて---「教養」教育に関して」(早稲田大学西洋史研究会[特集 今なぜローマか-—多様化するローマ研究]) 西洋史論叢 31,2009 年。
(*)森谷公俊「シンポジウム報告 大学の授業はどう変わるべきか(特集 歴史研究と歴史教育を問い直す)」史潮 65,2009 年。
(*)(参考：渡邉顕彦「Apleusi in Meiji Japan：The Golden Ass as an Educational and Reformatory

Novel’,Ramus38(1),2009.
(*)(参考：Chretien de Troyes/天沢退二郎訳「クレティアン・ド・トロワ作(オウィディウスの原作による)『フィメーナ』(1)(特集 ヨーロッパ古代とフランス文学)」言語文化 26,2009 年。)
(*)(参考：久保正彰「アリストファネスへの道」図書 722,2009 年。)
(*)(参考：丹下和彦『ギリシア悲劇ノート』白水社,2009 年。)
(*)(参考：斉藤和也「アンティゴネー像の解釈について」香川大学生涯学習教育研究センター研究報告 14,2009 年。)
(*)(参考：水尾文子「「リズム」と「意味」の両立—ウルフの『アンティゴネー』言及を読み直す」テクスト研究 6,2009 年。)
(*)(参考：逸見喜一郎『ローマの政治・思想・修辞が古典古代の文学に及ぼした影響』東京大学 2006 年,(科研費)2009 年。)
(*)(参考：廣田麻子「健全なる身体に健全なる指針：ユウェナーリスの『風刺詩』第 10 編について」大阪市立大学看護学雑誌 5,2009 年。)
(*)(参考：小川正廣「ウェギリウス『アエネイス』におけるトロイア伝説とその受容」大会 proceedings 81,2009 年。)
(*)(参考：ソポクレス原著/エズラ・パウンド英訳/高橋美帆・安川慶治編訳『トラキスの女たち—エズラ・パウンド版』英宝社,2009 年。)
(*)(参考：坂本邦暢「セネカと折衷主義—ユストゥス・リプシウスにおける悪と宇宙周期」哲学 60,2009 年。)
(*)(参考：要田圭治・大嶋浩・田中孝信編『英文学の地平：テクスト・人間・文化：植木研介先生退職記念論文集』(山田久美子「語りの転回：『ユリシーズ』第七挿話「アイオロス」論」/道木一弘「『ユリシーズ』第十七挿話「イタケ」の語りにおける主観性について」)音羽書房鶴見書店,2009 年。)
(*)(参考：加島康彦「シェイクスピアとセネカ--『冬物語』における悲喜劇要素」安田女子大学大学院文学研究科紀要,合冊 15,2009 年。)
(*)佐々木隆編『日本シェイクスピア研究書誌(平成編・江戸時代編)』イーコン,2009 年。
(*)(参考：結城雅秀『シェイクスピアの生涯』勉誠出版,2009 年。)
(*)(参考：大場建治『シェイクスピアの翻訳』研究社,2009 年。)
(*)(参考：本橋哲也『侵犯するシェイクスピア—境界の身体』青弓社,2009 年。)
(*)(参考：田中實『シェイクスピアの宇宙—英知は時空を超えて』慶應義塾大学出版会,2009 年。)
(*)(参考：鈴木一彦「ベーコン著,川西進訳『ニュー・アトランティス』岩波書店,2003 年 博物館史における位置と学芸員課程の授業での紹介について」博物館学雑誌 35(1),2009 年。)
(*)(参考：寺本明子「G.B.ショー『ピグマリオン』の性格描写について」東京農業大学農学集報 53(4),2009 年。)
(*)栩木伸明「尾島庄太郎のイェイツとその後の学統」(特集 『早稲田大学学術研究史』『英米文学』)英文学 95,2009 年。
(*)(参考：中村博文「バイロンと海：『ドン・ジュアン』と『マゼッパ』を読む」千里金襴大学紀要 40,2009 年。)

(*)(参考:蜂巣泉「ウォルター・ペイターの印象主義:美の受容と表現」川口短大紀要 23,2009 年。)
(*)(参考:藤田實「ペイターの波紋(玉井[アキラ]教授退職記念)」Osaka literary review 48,2009 年。)
(*)(参考:崎山拓郎「ウォルター・ペイターの道徳性について:テリー・イーグルトンとの比較を通じて(齋藤重信教授追悼号)」神戸英米論叢 23,2009 年。)
(*)(参考:川口千富美『William Faulkner の作品における John Keats の足跡:フォークナーが創りあげたギリシアの甕』広島大学,博士(文学),甲第 4833 号,2009 年。)
(*)村松晋「氷上英廣における近代:その「批判」と「超克」をめぐる思索について」聖学院大学論叢 21(2),2009 年。
(*)村松晋「氷上英廣とキリスト教(第 4 部会,特集第 67 回学術大会紀要)」宗教研究 82(4),2009 年。
(*)紅野敏郎「逍遙・文学誌(215)小林政治編纂の小冊子「故中村吉蔵博士追悼」」国文学 解釈と教材の研究 54(7),2009 年。
(*)(参考:サイモン・クッチリー/杉本隆久・國領佳樹訳『哲学者たちの死に方』河出書房新社,2009 年。)
(*)(参考:金森誠也『賢人たちの人生論:プラトン,ゲーテからアインシュタインまで』PHP 研究所,PHP 文庫,2009 年。)
(*)(参考:上村忠男『ヴィーコ—学問の起源へ』中公新書,中央公論社,2009 年。)
(*)(参考:岩崎大輔「学問的トポスとしての「ヘルダーとヴィーコ」--ヘルダーのヴィーコ受容を中心に」上智大学ドイツ文学文学論集 46,2009 年。)
(*)(参考:根占献一「カトリック復興期のヒューマニスト フランチェスコ・セルドナーティ補遺」学習院女子大学紀要 11,2009 年。)
(*)(参考:米山喜晟「モンタペルティ現象はイタリア・ルネサンスにどのように寄与したか」国際文化論集 40,2009 年。)
(*)(参考:榎本武文研究代表『アンジェロ・ポルツィアーノの人文主義・文献に関する基礎的研究』榎本武文[一橋大学],科学研究費補助金(基盤研究 C)研究成果報告書,平成 16-18 年度,2009 年。)
(*)(参考:小島久和「Marcilio Ficino の哲学について」明治大学人文科学研究所紀要 64,2009 年。)
(*)(参考:根占献一『ルネサンス精神への旅—ジョアッキーノ・ダ・フィオーレからカッシーラまで』創文社,2009 年。)
(*)(参考:岡本源太「アクタイオンの韻文:ジョルダーノ・ブルーノとペトラルカ主義の伝統(分科会 IV-A[美学史],研究発表 IV,第 60 回美学会全国大会報告発表要旨)」美學 60(2),2009 年。)
(*)(参考:島田勇「善行は地獄に値する・序説—16 世紀イタリアの思想と社会」共立女子大学文芸学部紀要 55,2009 年。)
(*)(参考:ダンテ/平川祐弘訳『神曲—煉獄篇』河出文庫,河出書房新社,2009 年。)
(*)(参考:ダンテ/平川祐弘訳『神曲—天国篇』河出文庫,河出書房新社,2009 年。)
(*)(参考:ダンテ原著/チェ・スン編/谷島誠・佐藤正人訳『ダンテの死後世界日記—超訳小説で読む『神曲』』(地獄篇,煉獄篇,天国篇)コスモトゥーワン,2009 年。)
(*)(参考:ダンテ原作/谷口江里也訳/ギュスターヴ・ドレ画『ドレの神曲』宝島社,2009 年。)

(*)(参考：ダンテ・アリギエリ原著/山田慶兒著『ダンテは世界をどう描いたか：新訳『神曲地獄篇』と、その解説』編集グループ Sure,2009 年。)
(*)(参考：チェ・スン編著/谷島誠・佐藤正人共訳『ダンテの死後世界日記：小説で読む『神曲』：超訳（天国篇・地獄篇・煉獄篇）』コスモトゥーワン,2009 年。)
(*)(参考：横山修一郎「喜びから生まれる世界：『神曲』の「天国」第 2 歌をめぐって」(国立音楽大学)研究紀要 44,2009 年。)
(*)(参考：藤谷道夫「ダンテ『神曲』の幾何学的構成について」東京大学外国語外国文学論集 15,2009 年。)
(*)ミリオーレ マリア・キアラ「地獄のイメージ：『日本霊異記』とダンテの『神曲』」東方学 118,2009 年。
(*)(参考：Yan-Ch'I Ch'en「老舎『微神』とダンテ『神曲』--イギリス・ロマン主義およびモダニズムを媒介とする影響関係をめぐって」東方学 118,2009 年。)
(*)鎌田浩毅「京大人気 No.1 科学者が読み解く一生モノの古典(第 9 回)ダンテ著『神曲』失意のどん底で構想された地獄めぐりと悔悛の壮大な物語」週刊東洋経済 6235,2009 年。
(*)(参考：安藤重治「トーマス・モアのスコラ哲学批判について—“Letter to Dorp”を中心に」The Albion55,2009 年。)
(*)(参考：勝山貴之「カトリック穏健派とプロテスタント遵法者—アンソニー・マンディと『サー・トマス・モア』」主流 71,2009 年。)
(*)(参考：Erasmus/柳沼正弘訳「エラスムス「セルウァティウス・ロゲルス宛書簡」(1514 年 7 月)翻訳と解題」創価大学人文論集 21,2009 年。)
(*)(参考：金子晴勇訳「エラスムス『対話集』：敬虔な午餐会」聖学院大学総合研究所紀要 45,2009 年。)
(*)(参考：北本正章「ツヴァイク エラスムスの勝利と悲劇(私の一冊/人生を変えた一冊/目からウロコの一冊)」開花宣言 1,2009 年。)
(*)(参考：笠井哲「エラスムスにおける幼児教育論について」研究紀要 50,2009 年。)
(*)(参考：山根一郎「中世ヨーロッパ作法書の作法学的分析(2)エラスムスとデッラ・カーサ」椙山女学園大学研究論集,人文科学篇 40,2009 年。)
(*)ヨース・ジョエル「日本の Humanism への一考察—エラスムス,チャップリンと貨狄観音」ふまにすむす 20,2009 年。
(*)(参考：大歳剛史「ボッカチオの「悦楽の愛」」イタリア圖書 40,2009 年。)
(*)(参考：ラブレー/宮下志朗訳『ガルガンチュアとパンタグリュエル・第 4 之書』(ちくま文庫 4」)筑摩書房,2009 年。)
(*)(参考：折井穂積『パニュルジェの剣—ラブレーとルネサンス文学の秘法』岩波書店,2009 年。)
(*)(参考：マオケル・A.スクリーチ/平野隆文訳『ラブレー笑いと叡智のルネサンス』白水社,2009 年。)
(*)(参考：藤田あゆみ「ヴェルサイユの風景描写について：ラ・フォンテーヌ『プシシェとキュピドンの恋』を中心に(研究発表要旨)」フランス語フランス文学研究 94,2009 年。)
(*)(参考：古澤ゆう子「ルネサンス古典理解から」ペディラヴィウム 64,2009 年。)
(*)(参考：千川哲生監訳『論争家コルネイユ—フランス古典悲劇と演劇理論』早稲田大学出

版部,2009 年。)
(*)(参考：梶谷二郎『Pierre Corneill の作品に見られるキリスト教思想—その演劇理論と 2 人のオランダ人演劇理論家』大阪教育図書,2009 年。)
(*)(参考：保苅瑞穂『ヴォルテールの世紀—精神の自由への軌跡』岩波書店,2009 年。)
(*)(参考：Chretiende Troyes/天沢退二郎「クレティアン・ド・トロワ作(オウィディウスの原作による)『フィロメーナ』(1)（特集 ヨーロッパ古代とフランス文学）」言語生活 26,2009 年。)
(*)(参考：村田真弓「フェヌロンとホメロス」お茶の水女子大学人文科学研究 5,2009 年。)
(*)(参考：橋本由紀子「狭間の世界：フローベル『ヘロディア』におけるヘロデの「不安」(研究発表要旨)」フランス語フランス文学研究 94,2009 年。)
(*)(参考：折橋浩司「ランボーのトロイア詩篇(1)：「Fairy I」「II 戦争」--（研究発表要旨)」フランス語フランス文学研究 94,2009 年。)
(*)(参考：内田次信「ディオン・クリュソストモス『トロイア陥落せず』における神話伝承と「真実」の問題：弁論術から歴史フィクションへ(西部会第 24 回研究発表会例会,研究発表会要旨)」美学 60(2),2009 年。)
(*)(参考：立花史「マラルメにおける言語と神話(研究発表要旨)」フランス語フランス文学研究 94,2009 年。)
(*)(参考：佐藤正樹「「語り手」から「書き手」へ：『パンタグリュエル』とラブレー」フランス語フランス文学研究 95,2009 年。)
(*)(参考：松原陽子「プルーストとラシーヌ悲劇：『フェードル』を中心として(研究論文)」フランス語フランス文学研究 95,2009 年。)
(*)(参考：片岡大右「隠遁者,野生人,蛮人：シャトーブリアン『歴史研究』におけるギボンの活用(研究論文)」フランス語フランス文学研究 95,2009 年。)
(*)(参考：安酸敏眞「アウグスト・ベークの解釈学」(北海学園大学大学院人文科学研究所)年報人文学 6,2009 年。)
(*)(参考：斉藤渉「新人文主義—完結不能なプロジェクト」思想 1023,2009 年。)
(*)(参考：曽田長人「ドイツ新人文主義の近代性と反近代性」思想 1023,2009 年。)
(*)(参考：村井則夫「可能性としての人文主義—グラッシュとアウエルバハにおける修辞学的・文献学的思考」思想 1023,2009 年。)
(*)(参考：今村武「十八世紀のケーニヒスベルクと疾風怒濤」上智大学ドイツ文学論集 56,2009 年。)
(*)(参考：今村武「シュトルウム・ウント・ドランクの萌芽期におけるゲルステンベルクの『ウゴリーノ』と理論的著作」東京理科大学紀要,教養篇 42,2009 年。)
(*)(参考：今村武『シュトルウム・ウント・ドランク研究：レンツの文学と西欧文化史』南窓社,2009 年。)
(*)(参考：武井隆道『ゲーテに至るヨーロッパの身体表象の諸相：舞踏と文学に見るアレゴリーと象徴』筑波大学,博士(文学),乙第 2424 号,2009 年。)
(*)(参考：小谷幸雄「佛教とゲーテ」印度學佛教學研究 57(3),2009 年。)
(*)田村道美「野上弥生子とゲーテ(2)：『ゲーテとの對話』「第一部」「第二部」香川大学教育学部研究報告,第 1 部 131,2009 年。
(*)(参考：松山雄三「Fr.シラーの教育論—道徳的教育と美的教育」プロテウス 11,2009 年。)
(*)(参考：井藤元「シュタイナーのゲーテ『メルヒェン』論—ゲーテ,シラー,シュタイナー

の思想的遍歴」ホリスティック教育研究 12,2009 年。)
(*)(参考：井藤元「シュタイナーとゲーテ『メルヒェン』--『メルヒェン』解釈に秘匿されたシュタイナーの人間形成論【一般 A-1】教育理論・思想・哲学(5),一般研究発表 II,発表要旨)」日本教育学会大会研究発表要項 68,2009 年。)
(*)(参考：井藤元「シュタイナーとゲーテ『メルヒェン』--『メルヒェン』解釈に秘匿されたシュタイナーの人間形成論」臨床教育人間学 10,2009 年。)
(*)(参考：井藤元「「崇高論」によるシラー美的教育論再考—シラー美的教育論再構築への布石」京都大学大学院教育学研究科紀要 55,2009 年。)
(*)(参考：坂本貴志「デモーニッシュなる自由：ヘルメス的伝統に則してシラーを読む(特集 デモーニッシュ)」ドイツ文学：Neue Beitrage zur Germanistik 138,2009 年。)
(*)(参考:坂本貴志“Über die neuplatonich-gnostische Bildung des Menschen,Zur Neuorientierung des Schillerschen Begiriffs der Freigeit”,山口大学独仏文学 31,2009 年。)
(*)(参考：坂本貴志「ドイツ近代におけるイシス幻想について：シラー,ゲーテ,アレクサンダー・フォン・フンボルト」あうろ～ら 27,2009 年。)
(*)(参考：瀧井美保子「シュライアマハーの『大学論』(1)大学の使命を実現する「対話」としての「講義」」」明治大学教養論集 444,2009 年。)
(*)(参考:杉浦忠夫「ベルリン大学創設前後(2)フンボルトとシュライアマハーとのあいだ(その 1)」明治大学教養論集 444,2009 年。)
(*)(参考：伊藤慶郎「シュライアマハー哲学研究の現状と課題(第 3 部会,〈特集〉第 67 回学術大会紀要)」宗教研究 82(4),2009 年。)
(*)(参考：ペータ・ソンディ著/ヘルダーリン研究会訳『ヘルダーリン研究：文献学的認識についての論考を付す』叢書ウニベルシタス 901,法政大学出版局,2009 年。)
(*)(参考：ブルクハルト/新井靖一訳『世界史的考察』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2009 年。)
(*)(参考：森田猛「歴史述としての文化史学—ブルハルト史学における実用主義」紀要 45,2009 年。)
(*)(参考：森田猛「「ランケとブルクハルト」再論—普遍史をめぐって」文化史学 65,2009 年。)
(*)(参考：石澤将人「ヤーコプ・ブルクハルトのギリシア観—ギリシア的苦悩とアゴーン」社会システム研究 12,2009 年。)
(*)(参考：石澤将人「教養の故郷としてのギリシア—ニーチェとブルクハルトの教養理念」ゲルマニスティク京都 10,2009 年。)
(*)(参考：島田了「ヴィンケルマンが目指したもの--『ギリシア美術模倣論』について」言語と文化 20,2009 年。)
(*)(参考：田村久男「18 世紀の女性画家アンゲリカ・カウフマンのドイツ作家たちとの交遊—ヴィンケルマン,ゲーテ,ヘルダーの肖像画を中心に」明治大学教養論集 444,2009 年。)
(*)(参考：木原武一『ゲーテ一日一言』海竜社,2009 年。)
(*)(参考：黒子康弘「波にさらわれた歴史意識—ゲーテの概念「世界文学」の考察」(首都大学東京都市教養学部人文・社会系)人文学報 419,2009 年。)
(*)(参考：小島朋子「王国維の文学普遍論—ゲーテ「世界文学」との比較から」(お茶の水

女子大学大学院人間文化創成科学研究科)人間文化創成科学論叢 12, 2009 年。)
(*)(参考：溝井高志「ゲーテのエントゥジアスムズの悲劇と救済について」同志社哲学年報 32,2009 年。)
(*)(参考：マリア・フィロメナ・モルデール/長尾史郎訳「マリア・フィロメナ・モルデール『ゲーテの形態学的思想』[翻訳・注解]結論(1)」明治大学教養論集 448,2009 年。)
(*)(参考：小田川方子「「神の死」から根源的現象学へ―ニーチェ・ゲーテ・空海(特集 東西思想の根源にあるもの)」トランスパーソナル心理学/精神医学 9(1),2009 年。)
(*)(参考：中井真之「ゲーテにおける「デモーニッシュなもの」：「神性」の理解との関わりにおいて」(特集 デモーニッシュ)」ドイツ文学 138,2009 年。)
(*)(参考：栗落花和彦「翻訳ゲーテの劇『わたしたちがもたらすもの』」島大言語文化：島根大学法文学部紀要言語文化学科編 26,2009 年。)
(*)前田知津子「茂吉とニーチェ―高山樗牛を機縁として」近代文学論集 35,2009 年。
(*)(参考：小野塚正樹「ニーチェの人間形成思想における生肯定の原理--「ディオニュソス」概念を中心に」教育思想 36,2009 年。)
(*)(参考：ニイチエ/生田長江訳『ツァラトゥストラ』ゆまに書房[復刻版],2009 年。)
(*)(参考：松原岳行『教育学におけるニーチェ受容史に関する研究：1890-1920 年代のドイツにおけるニーチェ解釈の変容』広島大学,博士(教育学),甲第 485 号,2009 年。)
(*)(参考：田邊正俊『主観性批判と主観批判をめぐる一考察：ハイデガーの主観性批判, ニーチェの主観批判を手がかりとして』立命館大学,博士(文学),甲第 636 号,2009 年。)
(*)荒波力「よみがえる“知の巨人”生田長江」大法輪 76(11),2009 年。
(*)(参考：「平木幸二郎教授業績一覧」人文科学論集 人間情報学科編 43,2009 年。)
(*)(参考：佐藤研一「J.M.R.レンツの描く異邦人―プラウトゥスの翻案劇『トルコの女奴隷』と『アルジェの人々』をめぐって(特集 十八世紀ドイツ文学の描く非ヨーロッパ像)」東北ドイツ文学研究 52,2009 年。)
(*)(参考：田中周一「悲劇の詩人ヘルダーリン」昭和大学富士吉田教育部紀要 4,2009 年。)
(*)(参考：藤川芳朗「ヘルダーリンの悲歌「パンと葡萄酒」について―最終講義・草稿」横浜市立大学論叢・人文科学系列 60(2),2009 年。)
(*)(参考：ペーター・ソンディ/ヘルダーリン研究会訳『ヘルダーリン研究：文献学的認識についての論考を付す』法政大学出版局,叢書ウニベルシタス 901,2009 年。)
(*)(参考：加賀ラビ「ホフマンスタールの『アルケスティス』について」研究報告 23,2009 年。)
(*)(参考：飯田皆美「田園都市の学び舎―メンデルスゾーン『苦悩のアルカディア』をめぐって」待兼山論叢 43,2009 年。)
(*)(参考：森岡美穂「台本および最近の上演に見るベルリオーズ《トロイ人》の現代性」(中央大学人文科学研究所)人文研紀要 66,2009 年。)
(*)(参考：伊藤勲「ギリシア・エピクロス的世界と日本--英国唯美主義の素地」愛知大学文

学論叢 139,140,2009 年。)
(*)(参考：チェイス(鬼塚)洋子「スーザン・グラスペルの戯曲におけるディオニューソスの詩学」大阪人間科学大学紀要 8,2009 年。)
(*)(参考：合田正人「ディオニュソスの愛?—アントニオ・ネグリにおけるスピノザとニーチェ(特集 思想史のなかのアントニオ・ネグリ)」思想 1024,2009 年。)
(*)(参考：東谷孝一「モンテッソーリ教育の研究(5)」東筑紫短期大学研究紀要 40,2009 年。)
(*)加藤信朗「超越 Surerior summo meo,Interior intimo meo「哲学と神学の共同と一致」--Klaus Reisenhuber 先生の業績を讃えて—感謝のうちに」哲学論集 38,2009 年。
(*)(参考：鷲田睦朗「カティリーナ」の金地における受容研究のための覚え書き」古代史年報 7,2009 年。)
(*)(参考：南雲泰輔「英米学界における「古代末期」研究の展開」西洋古代史研究 9,2009 年。)
(*)(参考：C.H.ハスキンズ/青木靖三・三浦常司訳『大学の起源』八坂書房,2009 年。)
(*)(参考：クリストフ・シャルル,ジャック・ヴェルジェ/岡山茂・谷口清彦訳『大学の歴史』白水社,文庫クセジュ 940,2009 年。)
(*)(参考：鈴木博之先生献呈論文集刊行委員会編『建築史攷』中央公論美術出版,2009 年。)
(*)(参考:横手義洋『イタリア建築の中世主義:交錯する過去と未来』中央公論美術出版,2009 年。)
(*)福田晴虔「横手義洋著『イタリア建築の中世主義—交錯する過去と未来』」建築史学 53,2009 年。
(*)(参考：下川勇「イタリア・ルネサンス期の建築の普遍性に関する考察—16 世紀の建築理論家 V.スカモッツィの思想を通して」福井工業大学研究紀要 39,2009 年。)
(*)(参考：W.H.クルフト/竺覚暁訳『建築論全史 I—古代から現代までの建築論事典』中央公論美術出版,2009 年。)
(*)(参考:伊藤重剛・谷皓司・吉武隆一・林田義伸・中之丸諭志・國武真由美・足立義幸「地中海古代都の研究(123,124)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 48,2009 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・安井伸顕「地中海古代都の研究(126)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 48,2009 年。)
(*)(参考：林田義伸・伊藤重剛「古代ギリシア都市メッセネにおけるアスクレピオス神域の設計法に関する研究」日本建築学会計画系論文集 74(636),2009 年。)
(*)(参考：花里利一・上北恭史・箕輪親宏・中川貴文・富永善啓・西岡聡・松井敏也・小野邦彦・是澤紀子・種市麻衣・飛田ちづる・神田淳子・稲葉信子「23446 海外の地震国における世界遺産組積造建築物の耐震性に関わるモニタリング調査：その 1 ギリシャ・パルテノン神殿都インドネシア・プランパナン寺院の調査概要(選抜梗概,海外の組積等構造物の地震被害とソノ対策 1.オーガナイズドセッション,構造 IV)」学術梗概講演集 C2 構造 IV,鉄筋コンクリート構造,プレストレストコンクリート構造,壁構造・組積構造,2009,2009 年。)
(*)(参考：濱崎一志・石川慎治・西藤清秀「9261 パルミラ遺跡北墓地 129-b 号墓の復元について(西洋:古代・中世,建築歴史・意匠)」学術講演梗概集,F-2,

建築歴史・意匠 2009,2009 年。)
(*)(参考：濱崎一志・石川慎治・西藤清秀「9262 パルミラ遺跡北墓地 129-b 号墓のオーダーについて(西洋：古代・中世,建築歴史・意匠)」学術講演梗概集,F-2,建築歴史・意匠 2009,2009 年。)
(*)(参考：岡北一孝・西田雅嗣「9043 ウルガタ聖書における〈innstaurare〉とアルベルティ(西洋建築史[2]近世,建築歴史・意匠)」学術講演梗概集,F-2,建築歴史・意匠 2009,2008 年。)
(*)市川秀和「森田慶一のウィトルウィウス研究と京都学派の建築論—近代日本における建築論の成立に関する基礎的研究」福井大学地球環境研究教育センター研究紀要：日本海地域の自然と環境 16,2009 年。)
(*)白井秀和研究代表『ウィトルウィウス建築論の受容の関する建築思潮史的研究』白井秀和,科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書 平成 12-14 年度,2009 年。)
(*)(参考：本村凌二『カンパニア地方の都市とヴィッラ集落をめぐる社会史的研究』東京大学 2004 年,(科研費)2009 年。
(*)徳橋曜「ピエロ・ベヴィラックワ著北村暁夫訳「ヴェネツィアと水—環境と人間の歴史」(岩波書店)」史學雑誌 118(7),2009 年。)
(*)(参考：ハンノ=ヴァルター・クルフト/笠覚暁訳『建築論全史：古代から現代までの建築論事典』中央公論美術出版,2009-2010年。)
(*)(参考：安川智子「ブルゴー=デュクドレの万博講演(1878)における〈ギリシア旋法〉とその歴史的意義」地中海学研究32,2009年。)
(*)(参考：佐野大輔「地中海で和魂西才」土木學會誌94(2),2009年。)
(*)(参考：見市雅俊「アンモナイトからアトランティスへ—古事物学テキストとしてのロバート・フックの「地震学講義」を読む」中央大学文学部紀要226,2009年。)
(*)(参考：ジャスティン・ポラード,ハワード・リード/藤井留美訳『アレクサンドリア「の興亡：現代社会の知と科学技術はここから始まった』主婦の友社,2009年。)
(*)八木正自「Bibliotheca Japonica(136)現代活字の源流—カンブルと本木昌造」日本古書通信74(4),2009年。
(*)張秀民・大内田貞郎・鈴木広光他8著『活字印刷の文化史—きりしたん版・古活字版から新常用漢字表まで』勉誠社,2009年。
(*)(参考：宮永郁恵「古代イタリアにおける貴金属工芸—技法・形態・用途」愛知県立芸術大学紀要39,2009年。)
(*)(参考：サイモン・シン/青木薫訳『宇宙創成(上下)』新潮文庫,新潮社,2009年。)
(*)(参考：小林剛「アルベルトゥス・マグヌスにおける数学的量について」紀要 哲学科51,2009年。)
(*)(参考：小林剛「アルベルトゥス・マグヌスの触覚論」中世哲学研究:Veritas28,2009年。)
(*)(参考：鏡リュウジ「ユング心理学と占星術 星から内へ,内から星へ(特集 占星術と自然療法)」Aromatopia 18(5),2009年。)
(*)(参考：志田信男「世界史にみる医学,薬学者と占星術との関係の歴史(特集 占星術と自然療法)」Aromatopia 18(5),2009年。)
(*)(参考：近藤二郎「古代エジプト・メソポタミアの天文学より—星座と神話について(特

集 占星術と自然療法)」Aromatopia 18(5),2009年。)
(*)(参考：右京裕子「ニコラス・カルペパーの人生史と占星術的診断について(特集 占星術と自然療法)」Aromatopia 18(5),2009年。)
(*)(参考：下山田吉成「中国医学と西洋占星術(特集 占星術と自然療法)」Aromatopia 18(5),2009年。)
(*)(参考：伊藤和行「ガリレオの望遠鏡と天体観測」イタリア圖書41,2009年。)
(*)(参考：渡邉浩一「「コペルニクスの仮説」と『純粋理性批判』の方法」アルケー17,2009年。)
(*)粂川麻里生「富永半次郎塾から「ゲーテ自然科学の集い」へ―小谷幸雄氏への取材より(特集 ゲーテ自然科学の集い,その前史)」モルフォロギア31,2009年。)
(*)城阪真治「下村寅太郎の科学的認識論―表現作用としての「実験的認識」について」日本哲学史研究6,2009年。
(*)(参考：原田雅樹「科学と哲学をめぐる公共性と歴史性―下村寅太郎からハンナ・アーレントへ」人間の発達5,2009年。)
(*)(参考：原田雅樹「公共性,歴史,科学の間--下村寅太郎とハンナ・アーレント(共生に向けて―現代的文脈を探る)」共生学1,2009年。)
(*)(参考：高柳俊一「書評 マリアノ・アーティガス,トマス・F.グリック,レイファエル・A.マーティネス共著『ダーウィンへの対応―ヴァティカン,進化論に直面一八七七-一九０ニ』,ダン・オリアリ著『ローマカトリック教会と近代科学』」(上智大学キリスト教文化研究所)キリスト教文化研究所紀要28,2009年。)
(*)(参考：石垣春夫「Archimedes,Fourierに学ぶ教師に必要な数学観」数学教育学会誌50(1-2),2009年．)
(*)(参考：「イタリアの数学史文献の紹介」イタリア圖書40,2009年。
(*)(参考：岡村定矩「近代科学の父ガリレオ・ガリレイ」理科の教育58(7),2009年。)
(*)(参考：作田英成「地中海食と健康」防衛衛生 56(3),2009 年。)
(*)(参考：松本順子・石橋晃「飼料學(60)ムギ類」畜産の研究 63(10),2009 年。)
(*)(参考：Amoroso Filippo「トスカーナ料理のルーツを探る―古代エトルリアから伝えられた食文化」筑波学院大学紀要4,2009年。)
(*)(参考：池口守『古代イタリアの農業立地に関する考古学・経済地理学的分析』別府大学2008年,(科研費)2009年。)
(*)(参考：今井正浩「身体の発見史：身体概念の成立をとおしてみたギリシア的人間観の展開をめぐる一考察」セミナー医療と社会 35,2009 年。)
(*)(参考：関根正美「西洋古典におけるスポーツ哲学」岡山大学大学院教育学研究科研究集録 142,2009 年。)
(*)疋田雅昭・日高佳記・日比嘉高編『スポーツする文学：1920-30 年代の文化詩学』(疋田雅昭「スポーツしない文学者：祭典の熱狂から抜け落ちる「オリンポスの果実」：スポーツ・イベント/逸脱/ボート」)青弓社,2009 年。
(*)(参考：佐竹弘靖『スポーツの源流』文化書房博文社,2009 年。)
(*)(参考：Christina Koulouri“Olympic games,olympism and internationalism：a historical perspective”Hitotsubashi University,2009.
(*)和田浩一『クーベルタン・オリンピズムの日本的解釈の源流』神戸松蔭女子学院大学 2007

年、(科研費)2009 年。)
(*)(参考：関根正美「西洋古典におけるスポーツ哲学」岡山大学大学院教育学研究科研究集録 142,2009 年。)
(*)(参考：D.C.A.ヒルマン/森夏樹『麻薬の文化史：女神の贈り物』青土社,2009 年。)
(*)(参考：ルカ・ノヴェッリ文・絵/関口英子訳『ヒポクラテス：医学を発展させた賢人』天才!?科学者シリーズ,岩崎書店,2009 年。)
(*)(参考：ランドスケープ制作；野中剛編集・監督；日本精神療法振興会企画・製作『ヒポクラテスと蓮の花』ビデオレコード,ランドスケープ(発売),2009 年。)
(*)(参考：松藤泰典「ヒポクラテスの宣誓は悩ましい」コンクリート工学 47(10),2009 年。)
(*)(参考:中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(13)急性病の養生法」治療 91(2), 2009 年。)
(*)(参考:中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(14,15)内科疾患について(1,2)」治療 91(3,4), 2009 年。)
(*)(参考:中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(16,17)流行病(1,2)」治療 91(5,6), 2009 年。)
(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(18,19)食餌法」治療 91(7,8), 2009 年。)
(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(20)夢」治療 91(9), 2009 年。)
(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(21)予後」治療 91(10), 2009 年。)
(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(22)予言」治療 91(11), 2009 年。)
(*)(参考:中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(23)痔・痔瘻」治療 91(12), 2009 年。)
(*)(参考：土屋睦廣「アスクレピオスの癒しの事情：エピダウロスの碑文の分析(第二部, 特集 第 67 回学術大会紀要)」宗教研究 84(2),2009 年。)
(*)(参考:中山泰弘「トルコ国のアスクレピオン神殿とアスクレピオス」ふまにすむ 20,2009 年。)
(*)(参考:真壁伍郎「健康をめぐる歴史パノラマ(19)マイモニデス」綜合看護 44(1), 2009 年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐる歴史パノラマ(21)中世ヨーロッパの僧院医学」綜合看護 44(3), 2009 年。)
(*)(参考:真壁伍郎「健康をめぐる歴史パノラマ(22)アウグスティヌス」綜合看護 44(4), 2009 年。)
(*)(参考：河口明人「健康概念の起源について—古代ギリシャ世界における身体と生命(1) イオニアの精神と哲学の発見」北海道大学大学院教育学研究院紀要 107,2009 年。)
(*)(参考：菅野幸子『日本医療の原典に見る「東洋医学」と史料に基づく古代「西洋医学」との比較文化史的研究』筑波大学,博士(医学),甲第 5122 号,2009 年。)
(*)(参考：石井拓男・渋谷鉱・西巻明彦『スタンダード歯科医学史』学建書院,2009 年（→2011 年,第 1 版第 2 刷）。)
(*)(参考：ルチャーノ・ステルペローネ/小川熙訳『医学の歴史』原書房,2009 年。)
(*)(参考：ヘンリー E.シゲリスト/大津章訳『医学の歴史：医学の夜明けを尋ねて(2 巻)』

三学出版,2009 年。)
(*)(参考 : 木村専太郎『ギリシャ・ローマ神話に隠された医学用語 : ストーリーを楽しもう』梓書院,2009 年。)
(*)(参考 : 平井美津子「医学英語とギリシャ神話に関する基礎的研究」長崎国際大学論叢 9,2009 年。)
(*)石井幸夫「境界の言葉 : 永井潜『医学と哲学』について」ソシオロジスト(武蔵大学武蔵社会学論集)11,2009 年。
(*)(参考 : 野口衛「古代中国と古代ギリシャの薬物を比較する」(FFI ジャーナル編集委員会)食品・食品添加物研究誌 214(2),2009 年。)
(*)(参考 : G.E.R.ロイド/川田殖(他)訳『古代の世界 現代の省察 : ギリシアおよび中国の科学文化への哲学的視座』岩波書店,2009 年。)
(*)(参考 : 藤井慈子『ガラスのなかの古代ローマ—三,四世紀工芸品の図像を読み解く』春風社,2009 年。)
(*)(参考 : 鈴木重昭著/鈴木玲子・鈴木忠信共編『シルク・ロード : 東西技術史の接点』野外調査研究所,国立科学博物館技術の系統化調査報告,国立科学博物館産業技術史料情報センター編,平成 20 年。)
(*)(参考 : 齋藤嘉博『メディアの技術史 : 洞窟画からインターネットへ』NetLibrary,2009 年。)
(*)(参考 : イアン・ホワイトロー/富永星訳『単位の歴史 : 測る・計る・量る』大月書店,2009 年。)
(*)(参考 : U.エーコ/川野美也子訳『醜の歴史』東洋書林,2009 年。)
(*)(参考 : P.セイン編/木下康仁訳『老人の歴史』東洋書林,2009 年。)
(*)(参考 : ルチャーノ・ステルペローネ/小川熙訳『医学の歴史』原書房,2009 年。)
(*)(参考 : G.E.R.ロイド/川田殖他訳『古代の世界 現代の省察 : ギリシャおよび中国の科学・文化への哲学的視座』岩波書店,2009 年。)
(*)(参考 : 見市雅俊「アンモナイトからアトランティスへ : 故事物学テキストとしてのロバート・フックの「地震学講義」を読む」紀要・史学 54,2009 年。)
(*)(参考 : 下村育世「杉浦重剛における伝統と近代科学 : 高島嘉右衛門の易に対する理解をめぐって」一橋社会科学 7,2009 年。
(*)(参考 : 関根正美「西洋古典におけるスポーツ哲学」研究集録 142,2009 年。)
(*)Khurana Rakesh,Nohira Nitin/鈴木泰雄訳「経営者は公益の代理人であるマネジャー叛「ヒポクラテスの誓い」(Feature Article 人を動かすリーダーシップ)」Diamomd ハーバード・ビジネス・レビュー34(2),2009 年。)
(*)(参考 : 海老久人「トロイアから新トロイア—中世イギリスの建国幻想」大会 proceedings 81,2009 年。)
(*)(参考 : 石井真一「トロイの木馬仮説の実証分析に向けた操作仮説の構築」(大阪市立大学経営学会)経営研究60(1),2009年。)
(*)(参考 : 石井真一「トロイの木馬仮説研究の意義と限界」(大阪市立大学経営学会)経営研究 60(2),2009 年。)
(*)(参考 : 石井真一『日本企業の国際合弁行動 : トロイの木馬仮説の実証分析』千倉書房,2009 年。)
(*)(参考 : 高橋亮介「ローマ期エジプト農村部における家族間経済関係 : 二世紀デプテュニ

ス村の土地賃貸･金品貸借契約の分析から(研究発表,西洋史部会,第 106 回史学会大会報告)」史学雑誌 118(1),2009 年。)
(*)(参考：桜井万里子『古代地中海世界における規範と公共性の比較文化史的研究』東京大学 2007 年,(科研費)2009 年。)
(*)(参考:丸亀裕司「金銭分配人に見る共和政末期ローマの選挙(研究発表,西洋史部会,第 106 回史学会大会報告)」史学雑誌 118(1),2009 年。)
(*)(参考：橋場弦「古代ギリシアの裁判員」公研 549,2009 年。)
(*)小林祐門「橋場弦著「賄賂とアテナイ民主政—美徳から犯罪へ」(ヒストリア 28,山川出版社)」史學雑誌 118(11),2009 年。
(*)(参考：的射場敬一「「シティズンシップ」概念の歴史的考察---古代・中世・近代」國士舘大學政經論叢 21(4),2009 年。)
(*)(参考：小川正廣「古代叙事詩における戦争と平和—ホメロスとウェルギリウス」名古屋大学文学部研究論集,文学 55,2009 年。)
(*)(参考：森川輝一「国無き者をめぐって—アンティゴネーと現代政治思想(特集 国家論への寄与)」理想 682,2009 年。)
(*)(参考：澤大洋「アリストテレス政治学の現代的応用」Jounal of IOND University,Japan 7, 2009 年。)
(*)(参考：川本愛「アリストテレス『政治学』における「ポリス的動物」について：二通りの解釈とその問題」哲学世界・別冊 1,2009 年。)
(*)(参考:安井萌「古代ローマの「名乗りの条件」の相続について：その歴史的展開の様相」史學雑誌 118(8),2009 年。)
(*)(参考:白石正樹訳「M.B.フォスター「プラトンとヘーゲルの政治哲学(6)」創価法学 38(3), 2009 年。)
(*)(参考:神崎繁「政治とは何か：内乱の政治学—プラトンとボッブズにおけるアムネスティーマ」ラチオ 6,2009 年。)
(*)(参考：藤澤明寛「ローマ帝政時代における都市参事会(特集 今なぜローマか?—多様化するローマ研究)」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論叢 31,2009 年。)
(*)(参考：面地敦『14 世紀末より 15 世紀にかけてのヴェネツィア共和国のイタリア本土における領土の形成とその防衛についての考察』桃山学院大学 博士(比較文化学)甲第 19 号,2009 年。)
(*)面地敦「〈博士論文の要旨および論文審査喧嘩の要旨〉14 世紀末より 15 世紀にかけてのヴェネツィア共和国のイタリア本土における領土の形成とその防衛についての考察」国際文化論集 41,2009 年。
(*)(参考：大清水裕『ディオクレティアヌス帝治世の地方統治改革と西方諸都市：ラテン碑文に見る帝国支配の継続と変容』東京大学,博士(文学),甲第 24278 号, 2009 年。)
(*)(参考：『古代ローマ帝国元首政期における,皇帝権力と諸階層との関係と考証に関する考察』東京大学 2007 年,(科研費)2009 年。)
(*)(参考：石黒盛久『マキャヴェッリとルネサンス国家：言説・祝祭・権力』風行社,2009 年。)
(*)(参考：石前禎幸「ホッブズの反レトリック--『法学要綱』を中心に」法律論叢 81(6),2009 年。)

(*)(参考：鵜飼健史「ジョン・ロックのユートピア：「アトランティス」草稿と政治理論」一橋大学社会科学古典資料センター年報 29,2009 年。)
(*)(参考：中村逸春「A.D.リンゼイの社会契約論批判とその背景」東北法学 34,2009 年。)
(*)(参考:海老久人「トロイアから新トロイア—中世イギリスの建国幻想」大会 proceedings81,2009 年。)
(*)(参考：Karl Christ/酒枝徹意訳「翻訳 クリオの変貌」--新ヒューマニズムの時代から現代までのドイツの古代史学(1)」四国学院大学論集 128,2009 年。)
(*)(参考：L.Losemann/酒枝徹意訳「翻訳 ナチズムと古代—1933 年から 1945 年にかけての古代史専攻の動向の研究(1-3)」四国学院大学論集 129,2009 年~132,2010 年。)
(*)(参考：L.Losemann/酒枝徹意訳「翻訳 ナチズムと古代—研究史論評」四国学院大学論集 130,2009 年。)
(*)(参考：佐々木博康「カフカの『新しい弁護士』--自由への憧れと諦念」(アレクサンドロス)大分大学教育福祉科学部研究紀要 31(1),2009 年。)
(*)(参考：佐々木博康「カフカの『新しい弁護士』：自由への憧れと諦念」(アレクサンドロス)研究論文集—教育系・文系の九州地区国立大学間連携論文集 3(1),2009 年。)
(*)(参考：杉本彰「19 世紀ドイツにおける市民社会・教養・学問(特集 19 世紀学とは何か--19 世紀学研究の可能性)」19 世紀学研究 2,2009 年。)
(*)七戸克彦「ロー・クラス 現行民法典を創った人びと(5)主査委員(2)箕作麟祥・村田保」法学セミナー54(9),2009 年。
(*)吉原達也「千賀鶴太郎博士述『羅馬法講義』(1-5)」広島法学 32(3),32(4),33(1),33(2),2009 年/33(3),2010 年。
(*)近藤秀行「村上一博編「日本近代法学の巨擘磯部四郎論文集」(信山社出版)」史学雑誌 118(7),2009 年。
(*)(参考：木庭顕『法存立の歴史的基盤』東京大学出版会,2009 年。)
(*)(参考：葛西康徳『裁判過程から見るギリシア・ローマ法の実践的再構成』大妻女子大学 2007 年,(科研費)2009 年。)
(*)(参考：田中実「D.23.3.81.および D.46.3.94(パピニアヌス『質疑録』第 8 巻に対するジャック・キュジャース(1520-1590)の註解—硬貨の所有物取戻訴権について」(南山大学法学会)南山法学 32(3/4),2009 年。)
(*)(参考：藤田貴宏「フランス慣習法学とローマ法--「フランス共通法」とは何か(1)(2)」独協法学 78,79,2009 年。)
(*)(参考：Zimmermann Reinhard/小川浩三訳「ローマ法学とヨーロッパ文化(上下)」法律時報 81(11),81(12),2009 年。)
(*)(参考：柳沢謙次「ストア派の哲学とローマ法」清和法学研究 16(2),2009 年。)
(*)(参考：山口廸彦訳「翻訳 フランツ・ヴィアッカー「イェーリングの遺産」」日本大学法科大学院法務研究 5,2009 年。)
(*)(参考：平田公夫訳「ルードルフ・フォン・イェーリング「法史叙述の課題と方法について」(遺稿)岡山大学法学会雑誌 59(2),2009 年。)
(*)(参考：矢澤久純訳「ルードルフ・フォン・イェーリング「あるロマニストのお喋り—『序論』としての編集部宛の書簡」初出版」北九州市立大学法政論集

37(3),2009 年。)
(*)(参考：宮脇勝「イタリアの文化財と景観の法典(ウルバーニ法典)の展開とその景観計画と景観アセスメントの研究」都市計画論文集 44,2009 年。)

(*)(参考：フランシーヌ・マルコヴィッツ/小井戸光彦訳『エピクロスの園のマルクス』法政大学出版局,2010 年。)
(*)(参考：高橋順一「ブックハンティング 2010 エピクロスの園のマルクス 著フランシーヌ・マルコヴィッツ 訳小井戸光彦」出版ニュース 2220,2010 年。)
(*)捧堅二「エピクロス『エピクロス—教説と手紙』--自由とエチカ(特集 この一冊[Part2])」季報唯物論研究 111,2010 年。)
(*)(参考：竹峰義和「マルクス主義の死後の再生—アレクサンダー・クルーゲ『イデオロギー的な古典古代からのニュース—マルクス-エイゼンシュテイン-資本論』(2008 年)」思想 1032,2010 年。)
(*)植田保二「浜林正夫『カール・マルクス』」学習の友 687,2010 年。
(*)(参考：川上眞理「英国人のグランドツアー：その起源と歴史的発展」京都造形芸実大学紀要 15,2010 年。)
(*)河上眞理「9272 辰野金吾のグランドツアー：『辰野金吾滞欧野帳』(日本近代建築家・資料・建築歴史・意匠)」学術講演梗概集,F-2,建築歴史・意匠 2010,2010 年。)
(*)河上眞理「辰野金吾のグランドツアー：『辰野金吾滞欧野帳』を中心に」京都造形芸術大学紀要 15,2010 年。)
(*)具島美佐子「成島柳北のイタリア体験：追懐の念と将来への模索」国際文化表現研究 6,2010 年。
(*)平川祐弘「竹山道雄と昭和時代(4)西欧遍歴」環：歴史・環境・文明 43,2010 年。
(*)(参考：小林麻衣子『英国人のグランドツアー：その起源と歴史的発展』Booklet 18,慶應義塾大学アート・センター,2010 年。)
(*)(参考:岡田温司『グランドツアー:18 世紀イタリアへの旅』岩波新書,岩波書店,2010 年。)
(*)牟田行秀企画・編集『朝香宮のグランドツアー：東京都庭園美術館建物公開』東京都庭園美術館,2010 年。
(*)(参考：パトリック・シムズ「遺跡 文明史を塗り替える巨大神殿のミステリー」ニューズウィーク 25(11),2010 年。)
(*)(参考：ディビッド・モントゴメリー/片岡夏美訳『土の文明史：ローマ帝国,マヤ文明を滅ぼし,米国,中国を衰退させる土の話』築地書館,2010 年。)
(*)(参考:田屋康『気候文明史:世界を変えた 8 万年の攻防』日本経済新聞出版社,2010 年。)
(*)(参考：水林彪『国制と法の歴史理論：比較文明史の歴史書』創文社,2010 年。)
(*)(参考：ディビッド・モントゴメリー/片岡夏美訳『土の文明史：ローマ帝国・マヤ文明を滅ぼし,米国,中国を衰退させる土の話』築地書館,2010 年。)
(*)(参考：細田衛士『環境と経済の文明史』NTT 出版ライブラリーレアオナント 60,NTT 出版,2010 年。)
(*)田中友三「紀行文 ビザンチン山村カストリア」プロピレア 19,2010 年。
(*)田中總太郎「宇宙から見たユネスコ世界遺産(64)ペトラ」地理 55(2),2010 年。
(*)田中總太郎「宇宙から見たユネスコ世界遺産(67)イスタンブル歴史地区」地理 55(8),2010 年。

(*)田中總太郎「宇宙から見たユネスコ世界遺産(68)バチカン市国」地理 55(10),2010 年。
(*)(参考：竹中克行・山辺規子・周藤芳幸編『地中海ヨーロッパ』朝倉世界地理講座・大地と人間の物語 7,朝倉書店,2010 年。)
(*)(参考 : 橋場弦「二つのアンビヴァレンス?贈与と異民族をめぐる意識変容」(櫻井万里子・師尾晶子編『古代地中海世界のダイナミズム』所収,山川出版社,2010 年。)
(*)(参考：和田葉子編『国境なきヨーロッパ：文学と思想における異文化接触の形』関西大学東西学術研究所国際共同研究シリーズ 8, 関西大学東西学術研究所：関西大学出版部,2010 年。)
(*)大和田聡子『イスタンブール路地裏散歩』ダイヤモンド・ビッグ社,2010 年。
(*)(参考：浜名優美「地中海の港をめぐる三つの話(特集 港)」紫明 26,2010 年。)
(*)(参考 : 古山夕城「エーゲ海北岸域のケーデステス関係—ギリシアにおける異文化婚姻交渉の一例として」駿台史學 140,2010 年。)
(*)(参考：土居通正「エーゲ海青銅器時代終末期の編年に関する一考察：前一三世紀末から前一二世紀初頭の土器の検討から(研究発表,西洋史部会,第 107 回史学会大会報告)」史学雑誌 119(1),2010 年。)
(*)高田眞吾「イタリア滞在記」情報システム学会誌 5(2),2010 年。
(*)真保裕一原作 ; 西谷弘監督『アマルフィ：女神の報酬』Standard edition,フジテレビ(発売),ポニーキャニオン(販売),2010 年。
(*)『イタリア』ビデオデータ,BS JAPAN 製作,ファミリージャパン(販売),ファミリー音楽産業(発売),2010 年。
(*)『イタリアの歩き方 ; ローマ・フレンツェ・ミラノ・ヴェネツィア』地球の歩き方ムック、ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2010 年(→2011 年,2015 年。)
(*)いい旅・街歩き編集部編『イタリア』成美堂出版,2010 年。
(*)『イタリア』昭文社,2010 年。
(*)高木彰彦訳『イタリア・ギリシア』普及版,朝倉書店,2010 年。
(*)金沢百枝・小澤実『イタリア古寺巡礼ミラノ→ヴェネツィア』とんぼの本,新潮社,2010 年。
(*)関口進『海外旅行から思うこと：フランスとイタリアを中心に』関口進,2010 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『トルコ』地球の歩き方 4,ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2010 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『イスタンブールとトルコの大地』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2010-11 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『ギリシアとエーゲ海の島々&キプロス』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2010-11 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2010-11 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ローマ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2010-11 年。
(*)地球の歩き方編集室編『フィレンツェとトスカーナ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2010-11 年。
(*)地球の歩き方編集室編『南イタリアとマルタ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2010-11 年。

(*)地球の歩き方編集室編『チェニジア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発),2010-11年。
(*)三輪主彦「私の薦めるランニングコース(18)エーゲ海岸の遺跡巡りランニング」ランニングの世界 10,2010 年。
(*)安岡襄「ぶらり海外旅行ア・アラ・カルト 幻のフランス旅行・イタリア旅行編(1,2,3,4)」会計検査資料531,532,533,534,2010年。
(*)(参考：同志社大学大学院文学研究科編『古都物語：京都,奈良,ローマ,そしてポンペイ：国際シンポジウム2009報告集』同志社大学大学院文学研究科,2010年。)
(*)(参考：田中純「都市の持続的変容について：ローマと奈良(第二部：論考(1),特集 平城遷都1300年考)」建築雑誌1611,2010年。)
(*)(参考：牧口千夏・池澤茉莉・永田絵理編『Rome 1840-1870 : Travelogues and photography』京都国立近代美術館,2010年。)
(*)(参考：池上英洋『イタリア24の都市の物語』光文社,2010年。)
(*)(参考：ケイト・ヒューイット作・深山千尋訳『エーゲ海の花嫁』ハーレクイン・ロマンス,ハーレクイン,2010 年。)
(*)ヨルゴス・ファカナス『エコーズ』King Records 低音電気 series,King Record,2010 年。
----「トラキア」「エペイロス」「マケドニア」「クレタ島」「テッサリア」「ペロポネソス半島」「ステレア・エラーダ」「エーゲ海」「ドデカネス諸島」
(*)星和夫「医学史の旅—トルコ(3)エディルネ」日本病院会雑誌 57(1),2010 年。
(*)星和夫「医学史の旅—トルコ(4)アナトリア地方」日本病院会雑誌 57(2),2010 年。)
(*)星和夫「医学史の旅—トルコ(5)シヴァス」日本病院会雑誌 57(3),2010 年。
(*)星和夫「医学史の旅—トルコ(6)アマシア」日本病院会雑誌 57(4),2010 年。
(*)星和夫「医学史の旅—トルコ(7)シルクロードとアフィヨン」日本病院会雑誌 57(5),2010年。
(*)星和夫「医学史の旅—エーゲ海地方(1-5)」日本病院会雑誌 57(6-10),2010 年。
(*)星和夫「医学史の旅—トロイア」日本病院会雑誌 57(11),2010 年。
(*)星和夫「医学史の旅—トロイア戦争の英雄たち」日本病院会雑誌 57(12),2010 年。
(*)星和夫『医学史の旅 ギリシャ・エーゲ海の島々』日本病院共済会出版部日本病院会出版,2010 年。
(*)(参考：「Port Story シリーズ「ミナトと文化」(9)古代ローマの暮らしと港」中央公論 125(1),2010 年。)
(*)(参考：大月康弘「時空の交差点」創文 492-537,2010-12 年。)
(*)(参考：フランソワ・シャムー/桐村泰次訳『ギリシア文明』論創社,2010 年。)
(*)(参考：手嶋兼輔『ギリシア文明とは何か』講談社選書メチエ 478,講談社,2010 年。)
(*)(参考：A.И.ザーイツェフ/一柳俊夫訳『古代ギリシアの文化革命』風行社,2010 年。)
(*)(参考：ジョン・ボードマン/西山伸一訳『ノスタルジアの考古学』国書刊行会,2010 年。)
(*)(参考：北政巳「第 8 代エルギン伯爵と大英帝国の世界」創価経済論集 39(1-4),2010 年。)
(*)(参考：柳広司『パルテノン：アクロポリスを巡る三つの物語』実業之日本社文庫,実業之日本社,2010 年。)
(*)(参考:篠塚千恵子「パルテノン神殿東フリーズの行列の女性たちの衣装に関する一考察」武蔵野美術大学研究紀要 41,2010 年。)
(*)(参考：Toko Hirayama“Kleitias：and Attic black-figure vases in the sixth-centriry B.C.”

Chuokoron Bijitsu Shuppan,2010.）
(*)金森邦夫「エジプト・トルコ・ギリシャ紀行」古代史の海 60,2010 年。
(*)伊藤重剛「ギリシア古代都市を掘る」地中海学会月報 331,2010 年。
(*)(参考：木田元「エジプトを旅するプラトン」文學界 64(5),2010 年。)
(*)(參考：澤田典子「シュリーマンとデモステネス」本 35(5),2010 年。)
(*)ヤマザキマリ「風呂と夫とローマと私」文藝春秋 88(11),2010 年。
(*)(參考：レイ・ローレンス/月森左知訳『古代ローマ帝国トラベルガイド』古代トラベルガイド,創元社,2010 年。)
(*)講談社『ポンペイ,エルコラーノ,トッレ・アヌンツィアータの考古地区』週刊世界遺産 no.10・イタリア,2010 年。
(*)ポプラ社『巡』(ゴーチェ/田辺貞之助訳「ポンペイ夜話」,ノヴァーリス/高橋英夫訳「アトランティス物語」)百年文庫 54,ポプラ社,2010 年。
(*)同志社大学大学院文学研究科編『古都物語：京都・奈良・ローマ,そしてポンペイ：国際シンポジウム 2009 報告集』同志社大学大学院文学研究科,2010 年。
(*)日本テレビ放送網,福岡市博物館,横浜美術館編集 ; 坂井聰訳『ポンペイ展 : 世界遺産古代ローマ文明の奇跡』日本テレビ放送網,2010 年。
(*)(參考：青柳正規・松山聡「2009年 ソンマ・ヴェスヴィアーナ考古発掘速報 イタリア南部ヴェスヴィオ山北麓に位置するローマ時代遺跡の発掘調査について(2009,2010)」文化交流研究23,2010年/24,2011年。)
(*)(參考：長尾美里「古代デロス島精機期における祭壇と空間構造についての考察：第2回日欧古代地中海コロキアム出張報告」メタプティヒアカ : 名古屋大学大学院文学研究科教育推進研究室年報4,2010年。)
(*)(參考：川本悠紀子「9075 古代ローマ住宅における饗応空間：メナンドロソスの家と饗応空間を表現する言葉(西洋・小アジア建築史：古代・中世(1),建築歴史・意匠)」学術講演梗概集 F-2,建築歴史・意匠 2010,2010 年。)
(*)藤沢(今井)桜子「『米欧回覧実記』に描かれたポンペイ—挿絵銅版画をめぐって」群馬県立女子大学紀要 31,2010 年。）
(*)浅香正「序言「国際シンポジウム古都物語」と「ポンペイ展」」古代史年報 8,2010 年。
(*)(參考:青柳正規他「ヴェスヴィオス火山北麓で発見されたローマ時代の遺跡の埋没過程:2006-2008 年に新たに発見された 472 年噴火による土石流堆積物のもとづく再構築」東京大学地震研究所彙報 84(4),2010 年。)
(*)(參考：松山聡・青柳正規「イタリア南部ヴェスヴィオ山北麓に位置するローマ時代遺跡発掘調査について(2009)」東京大学文学部次世代人文学開発センター紀要：文化交流研究 23,2010 年。)
(*)(參考：『ミケーネとティリンスの古代遺跡群；ミストラ遺跡；オリンピアの古代遺跡』感動の世界遺産 5：ギリシャ 1,ビデオレコード,キープ(発売),2010 年。)
(*)(參考：『ヴェネツィアとその潟』感動の世界遺産 21：イタリア 2,ビデオレコード,キープ(発売),2010 年。)
(*)(參考：D.モンゴメリー/片岡夏美訳『土の文明史—ローマ帝国、マヤ文明を滅ぼし,米国,中国を衰退させる土の研究』築地書館,2010 年。)
(*)(參考：市川仁「D.H.ロレンスの『エトルリアの遺跡』：古層に見る生のヴィジョン」

中央学院大学人間・自然論叢 31,2010 年。)
(*)(参考：アレッサンドロ・マルツォ・マーニョ著/和栗珠里訳『ゴンドラの文化史：運河を通して見るヴェネツィア』白水社,2010 年。)
(*)金山亮太「書評 チャールズ・ディケンズ著/伊藤弘之,下笠徳次,隈元貞広訳『イタリアのおもかげ』」ディケンズ・フェロウシップ日本支部年報 33,2010 年。
(*)(参考:『20 世紀の文学における空間と「接触」の表現』(エトルリア)東京大学 2009 年,(科研費)2010 年。)
(*)大津忠彦「野上弥生子著『真知子』における考古学像とその背景」筑紫女学園大学・筑紫女学園短期大学部紀要 5,2010 年。
(*)(参考：岩城克洋「イタリア半島中部における Ceramica comune de fuoco/tegame の編年研究」千葉大学人文社会科学研究 20,2010 年。)
(*)(参考:三国宣子「「ルネッサンス」から考察する,異文化交流」湘南短期大学紀要 21,2010 年。)
(*)蔀勇造「歴史の風 エリトリア再訪」史學雑誌119(7),2010年。
(*)森谷公俊「トルコ辺境に残る風変わりな墳墓群—地中海と山に囲まれたリュキアの遺跡をたどる」ニュートン 30(5),2010 年。
(*)(参考:森山英一「四人の歴史家が見たイスタンブル(6)二度にわたる訪問—堀米庸三(下)」アナトリアニュース 127,2010 年。)
(*)(参考：寛仁親王「アナトリア考古学研究所にて」文藝春秋 88(12),2010 年。)
(*)(参考：E.ヤマウチ/野町裕訳『小アジアの古代都市—パウロと黙示録への考古学的探訪』新教出版社,2010 年。)
(*)「地中海研究所活動報告」地中海研究所紀要 8,2010 年。)
(*)(参考:長谷川修一「南レヴァントにおけるオリントス式石臼—東地中海における石臼海上交易の実態と背景」物資文化 88,2010 年。)
(*)(参考：堀江聡「異境探訪—新プラトン主義者の足跡を訪ねて」創文 535,2010 年。)
(*)(参考:南川高志「西洋古代史の泉(3)オータンのローマ遺跡」西洋古代史研究 10,2010 年。)
(*)(参考：坂口明『古代ローマ都市オスティア・アンティカの総合的研究』日本大学 2008 年,(科研費)2010 年。)
(*)(参考：北村暁夫『千のイタリア：多様と豊饒(ほうじょう)の近代』NHK シリーズ,歴史再発見,日本放送出版協会,2010 年。)
(*)(参考：宮下孝晴『メディチ家 12 の至宝をめぐる旅：カラー版』アスキー・メディアワークス,角川グループパブリッシング(販売),2010 年。)
(*)(参考：杉全美帆子『イラストで読むルネサンスの巨匠たち』河出書房新社,2010 年。)
(*)(参考:ピーター・ハンフリー著/高橋朋子訳『ルネサンス・ヴェネツィア絵画』白水社,2010 年。)
(*)(参考:諸川春樹責任編集・松浦弘明他訳『彫刻の解剖学：ドナテッロからカノーヴァへ』ありな書房,2010年。)
(*)(参考：小針由紀隆『ローマが風景になったとき：西欧近代風景画の誕生』春秋社,2010 年。)
(*)(参考：ジェームズ・キャリントン,アンドレア・プルガトーリ脚本；アンジェロ・ロンゴーニ監督『カラヴァッジョ：天才画家の光と影』完全版,ポニーキャニオン(発売・販売),2010 年。)

(*)(参考：ジャン・リュデル著/望月典子訳『イタリア・ルネサンス絵画』白水社,2010 年。)
(*)(参考：遠山公一「ルネサンス絵画の本質—遠近法と陰影法(イタリア文化講座 イタリア—知と美と食の体験)」星美学園短期大学日伊総合研究所報 6,2010 年。)
(*)(参考：市川直子「ジョルジョ・デ・キリコの「メタフィジカ絵画」における三つの型：《ローマの風景》をてがかりに」(大阪府立大学)人文学論集 28,2010 年。)
(*)(参考：山口廸彦「インド・ヨーロッパ学の起源に関する国際関係論的研究—印欧祖族の原郷論争史を中心に」比較文化研究 29,2010 年。)
(*)(参考：山口廸彦「国際関係論としてのインド・ヨーロッパ人原郷」日本情報ディレクトリ学会誌 8,2010 年。)
(*)(参考：ロベルト・ザッペリ著/星野純子訳『ローマの痕跡：ゲーテとそのイタリア』鳥影社・ロゴス企画,2010 年。)
(*)(参考：小塩節「ある秋の日のゲーテ—詩『旅人の夜の歌』の実像に迫る」学士会会報 2010(2),2010 年。)
(*)(参考：ギュイ・ド・プールタレス著/前田信輝訳『運命愛：イタリアでのニーチェ』籠書房,2010 年。)
(*)(参考：加藤由美子「ホフマンスタールにおける「旅」とその変容」オーストラリア文学 26,2010 年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ディエゴ・ヴァレーリとヴェネツィア表象史」人文研究 170,2010 年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「魔界としてのヴェネツィア—『夏の嵐』と『ヴェニスに死す』再読[含・英文要旨]」人文研究 172,2010 年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ディエゴ・ヴァレーリとヴェネツィア表象史」人文研究 170,2010 年。)
(*)(参考：ディケンズ著/伊藤弘之・下笠徳治次・隈元貞広訳『イタリアのおもかげ』岩波文庫,岩波書店,2010 年。)
(*)(参考：『巡』(ノヴァーリス/高橋英夫訳「アトランティス物語」)百年文庫 54,ポプラ社,2010 年。)
(*)(参考：佐野光宣「〈紹介〉庄子大亮著『アトランティス・ミステリー：プラトンは何を伝えたかったのか』」史林 93(3),2010 年。)
(*)(参考：リュック・ベッソン監督,クロード・ベッソン製作総指揮『アトランティス：デジタル・レストア・バージョン』ビデオレコード,角川映画(発売・販売),2010 年。)
(*)(参考：熊谷英憲他「最上部マントル不均質スケール—希ガス同位体からみて」日本地質学会学術大会講演要旨 2010,2010 年。)
(*)(参考：Alexander S. Bradley「深海底のロストシティーが語る生命の起源」日経サイエンス 40(3),2010 年。)
(*)(参考：中澤務「アーサー・エバンズ卿とクノッソス宮殿」(関西大学)Semawy menu 1,2010 年。)
(*)(参考：Arthur Evans/浅野栄市訳「クノッソスのミノスの宮殿(4,5)」地中海歴史風土研究誌 31,32,2010 年。)
(*)(参考：高橋裕子「ギリシアの初期鉄器時代に関する調査および研究動向(2000~2009 年)」地中海学研究 33,2010 年。
(*)(参考：南雲泰輔「「古代末期」研究と考古学をめぐる一動向—Luke Lavan と古代末期考古学」古代史年報 8,2010 年。)

(*)(参考：国立文化財機構東京文化財研究所文化遺産国国際協力センター編『遺跡はなぜ残ってきたか』(パラオ・ヴィルリッジ述「アウグストゥスのパンテオンとハドリアヌスのパンテオン：将来的な保存のための調査,発掘,研究,診断」)国際文化財保存修復研究会報告書 23,国立文化財機構東京文化財研究所文化遺産国際協力センター,2010 年。)
(*)「旧梅原龍三郎コレクションのキュクラデス石偶」国立西洋美術館研究紀要 14,2010 年。
(*)(参考：中務哲郎『ヘロドトス『歴史』--世界の均衡を描く』岩波書店,岩波「書物誕生」--あたらしい古典入門」シリーズ,2010 年。)
(*)(参考：鳥居フミ子『ガンダーラへの道』みやび出版,星雲社(発売),2010 年。)
(*)(参考：芳賀京子「紀元前1世紀におけるギリシア彫刻のつくりかた—ナポリでの3次元ディジタル計画」地中海学会月報330,2010年。)
(*)(参考：鏡リュウジ「対談 鏡リュウジ×木村泰司 西洋美術と宝石の深奥なる関係(特集 鏡リュウジ『星の宝石箱』)」青春と読書45(9),2010年。)
(*)(参考：木村泰治『美女たちの西洋美術史：肖像画は語る』光文社新書493,光文社,2010年。)
(*)(参考：増田千穂「15 世紀初頭のイタリアにおけるシビュラ：オルシーニ邸《12 人のシビュラ》にみる「ローマ」と「女性」(「美術に関する調査研究の助成」研究報告)」鹿島美術財団年報 28,2010 年。)
(*)(参考：阿部真弓「2009年度助成：前衛と古典：20世紀イタリア芸術における「過去の美術」と画家による美術史的奇術に関する研究(「美術に関する調査研究の助成」研究報告)」鹿島美術財団年報28,2010年。)
(*)(参考：栗田秀法「プッサン作《アルカディアの牧人たち》—パノフスキー以後の研究動向」名古屋芸術大学研究紀要31,2010年。)
(*)松山薫「地域資源の発掘・利用—山形とアルカディア」日本地理学会発表要旨2010s,2010年。
(*)(参考：今城八洲子「「比較文化論」の教材としてのギリシア神話」神戸ファッション造形大学・神戸ファッション造形大学短期大学部紀要34,2010年。)
(*)(参考：桜井万里子「古代ギリシアの遺産の継承について--『ブラック・アテナ』の余波の中で考える(特集・シンポジウム 史は誰のものなのか)」メトロポリタン史学6,2010年。)
(*)(参考：川島重成「「大妻比較文化の可能性」ギリシアにおけるオリエントとオクシデント：合理性と非合理性をめぐって(〈特集〉大妻女子大学比較文化学部創設満10年記念講演会)」大妻比較文化：大妻女子大学比較文化学部紀要 11,2010 年。)
(*)本多勝一「貧困なる精神(442)“負傷の弟子”として梅棹忠夫先生を偲ぶ(2)ギリシア時代のソクラテスと学派と連想」金曜日 18(27),2010 年。)
(*)(参考：鎌田浩毅「京大人気 No.1 科学者が読み解く—一生モノの古典(第 13 回)ホイジンガ著『ホモ・ルーデンス』人間の本質は「遊び」にある「まじめ」とのバランスが文化」週刊東洋経済 6240,2010 年。)
(*)(参考：鎌田浩樹「京大 No.1 科学者が読み解く一生モノの古典(21)ブルクハルト著『イタリア・ルネサンスの文化』民衆の価値観や思考を通じて文化の一大転換を解明する」週刊東洋経済 6250,2010 年。)

(*)(参考：鎌田浩毅「京大 No.1 科学者が読み解く―生モノの古典(第 38 回)シュリーマン著『古代への情熱』学者たちの非難をはね返しついにトロヤを発掘」週刊東洋経済 6271,2010 年。)
(*)立川武蔵「立川武蔵[著]/写真=大村次郷『聖なる幻獣』」青春と読書 45(1),2010 年。
(*)(参考：吉澤五郎「「聖なるもの」の普遍性：〈巡礼文明論〉の手帖(1)宗教と文化 27,2010 年。)
(*)(参考：吉澤五郎「アーノルド・トインビーの肖像―歴史学から比較文明学への道」比較文明研究 15,2010 年。)
(*)(参考：川窪啓資「トインビーの高等宗教と廣池千九郎の聖人研究」比較文明研究 15,2010 年。)
(*)(参考：梅木真寿郎「武藤長蔵のアーノルド・トインビー研究：トインビー思想の史的限界と今日的意義」キリスト教社会福祉学研究 43,2010 年。)
(*)(参考：小谷幸雄「東西の邂逅」印度學佛教學研究 58(3),2010 年。)
(*)(参考：Asano Kazuo(ed.),The island of St.Nicholas：excavation and survey of the Gemiler Island Area,Turkey,Osaka Unuversity Press,2010.）
(*)(参考：増川宏一『盤上遊戯の世界史：シルクロード 遊びの伝播』平凡社,2010 年。)
(*)(参考：万明「全体視野からみるシルクロード―14 世紀後半から 15 世紀前半までにおける東西の物産交流を中心に」アジア文化交流研究 5,2010 年。)
(*)松平美和子「日本におけるシルクロード美術展とカタログの変遷」生活文化史 57,2010 年。)
(*)松平美和子「シルクロード美術展とカタログの歩み」横浜美術短期大学教育・研究紀要 5,2010 年。)
(*)(参考：黒田玲「仏教東漸シルクロード参拝の旅」新潟親鸞学会紀要 7,2010 年。)
(*)衣笠榮「日本人の心をとらえた名著逍遙―和辻哲郎から白州正子まで(3 特集 現代日本画で巡る平成の古寺巡礼)」月刊美術 36(11),2010 年。
(*)(参考：森村泰昌『まねぶ美術史』赤々舎,2010 年。)
(*)(参考：樺山紘一他『芸術都市の誕生』(フレンツェ)エンゼル叢書 11,PHP エディターグループ,2010 年。)
(*)(参考：芝紘子『地中海世界の「名誉」観念：スペイン文化の一断章』岩波書店,2010 年。)
(*)(参考：森谷公俊「アレクサンドロスの東征軍とペルシア文化（東西交渉とイラン文化）」アジア遊学 137,2010 年。)
(*)(参考：岡本健一「アレクサンダー伝説の東漸(東西交渉とイラン文化)」アジア遊学 137,2010 年。)
(*)(参考：Dal Borgo Michla「La descrziore del Peloponneso di Andrea Londano alla Repubblica di Venezi(1570)」地中海論集 20,2010 年。)
(*)「Index to Volumes I-XX of Transactions of the Medeterranean Studies Group at Hitostubashi University」地中海論集 20,2010 年。)
(*)(参考：E.M.フォースター/中野康司訳『アレクサンドリア』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2010 年。)
(*)(参考：イアン・F.マクニーリー,ライザ・ウルヴァートン/富永星訳『知はいかにして「再発見」されたか：アレクサンドリア図書館からインターネットまで』日経 BP 社,日経 BP マーケティング(発売),2010 年。)

(*)(参考：相澤彰子・内山清子・池谷瑠絵『からくりインターネット：アレクサンドリア図書館から次世代ウエブ技術まで』情報シリーズ 13,丸善ライブラリー,丸善,2010 年。)
(*)(参考：Serageldin Ismail「パピルスから PDF へ―よみがえるアレクサンドリア「図書館」国立国会図書館館月報 587,2010 年。)
(*)(参考：Serageldin Ismail,Nagao Makoto「国立国会図書館館長対談(14)アレクサンドリア図書館長イスマイル・セラゲルディン氏 技術が支える知の殿堂」国立国会図書館館月報 587,2010 年。)
(*)(参考：新堀雅幸「アレクサンドリアの現在(特集 アレクサンドロスの道)―(アレクサンドロス帝国の実像)」(千里文化財団) 季刊民族学 34(2)[132],2010 年。)
(*)参考：加藤九祚「東からの風―中央アジアのアレクサンドロス余話(特集 アレクサンドロスの道)―(変容するアレクサンドロス像)」(千里文化財団) 季刊民族学 34(2)[132],2010 年。)
(*)(参考：根占献一「書評 川村信三『超領域交流史の試み―ザビエルに続くパイオニアたち』上智大学出版(長谷川輝夫先生退職記念号)」上智史学 55,2010 年。
(*)加藤詔士・吉川卓治編『西洋世界と日本の近代化：教育文化交流史研究』大学教育出版,2010 年。)
(*)辻直人『近代日本海外留学の目的変容：文部省留学生の派遣実態について』東信堂,2010 年。)
(*)『平田隆一教授退任記念号』ヨーロッパ文化史研究 11,2010 年。)
(*)(参考：M.オールドフィールド・ハウイ/真喜志順子訳『猫と魔術と神話事典』柏書房,2010 年。)
(*)(参考：ジョアン・コメイ著/ラヴィナ・コーン・シェルポク改訂・瀧川義人訳『ユダヤ人名事典』東京堂出版,2010 年。)
(*)松原國師『西洋古典学事典』京都大学学術出版会,2010 年。
(*)アウグスチン・シュタウブ編『シュタウブ希和辞典』リトン,2010年。
(*)木下文夫『新版・和羅辞典』国際語学社,2010 年。
(*)水谷智洋編『羅和辞典』研究社,オリジナルフォーマット Windows 版,光ディスク,2010 年。)
(*)(参考：柴田光蔵・林信夫・佐々木健編『ラテン語法格言辞典』慈学社,大学図書（発売）,2010 年。)
(*)(参考：河合祥一郎・小林章夫編『シェイクスピア・ハンドブック』三省堂,2010 年。)
(*)(参考：A.D.カズンズ/荒木正純・田口孝夫監訳『シェイクスピア百科図鑑―生涯と作品』悠書館,2010 年。)
(*)(参考：世界芸術家辞典編集委員会編『世界芸術家辞典=World encyclopedia of artists』エム・エフ・ジー,小池書院[発売],2010 年(→2013 年,改訂増補版)。)
(*)(参考：松浦直美訳『世界の art(アート)図鑑』ポプラ社,2010 年。)
(*)(参考：朝日由紀子他編『マーク・トウェイン文学/文化事典』彩流社,2010 年。)
(*)(参考：神田豊穂『思想家人名辞典』学術出版会,日本図書センター[発売],復刻版,学術アーカイブス,学術辞典叢書 5,2010 年。)
(*)安岡昭男編『幕末維新大人事典(上下)』新人物往来社,2010 年。
(*)(参考：高柳俊一・太田淑子・大橋容一郎・小林康夫「『新カトリック大事典』刊行の意義(特集 新カトリック大事典・シンポジウム)」ソフィア 58(3),2010 年。)

(*)(参考 : 高柳俊一「『新カトリック大事典』のコンテクスト : 百科事典の理念と思想史(特集 新カトリック大事典・シンポジウム)」ソフィア 58(3),2010 年。)
(*)(参考 : 松浦豊「幕末明治期における漢学受容の変容—漢譯西洋書の受容(特集 幕末明治期における日本文学・歴史・思想・藝術の諸相)」アジア文化交流研究 5,2010 年。)
(*)(参考 : 内田慶市「モリソンが元に示した漢訳聖書—新しく発見されたジャン・パセ訳新訳聖書稿本」アジア文化交流研究 5,2010 年。)
(*)真田治子「「哲学字彙」稿本と『英獨佛和・哲学字彙』の成立(口頭発表・午後の部,日本語学会 2010 年度春季大会研究発表会発表要旨)」日本語の研究 6(4),2010 年。
(*)(参考 : 水崎博明「古典ギリシア語文法」福岡大学研究論集 A : 人文科学編 10(2),2010 年。)
(*)(参考 : 増田勝彦・岡本幸治・床井啓太郎著『西洋古典資料の組織的保存のために』一橋大学社会科学古典資料センター,改訂版 Study series no.64,2010 年。)
(*)(参考 : 渡邉顕彦「The New Palladas?—パピルス写本 P.CtYBR 4000 について」西洋古典學研究 58,2010 年。)
(*)(参考 : 張瑞林・村田光司訳「ギリシア語パピルス断片の再構成—ストラスブール大学所蔵ローマ期の徴税関連三巻子本」テクスト布置の解釈学的研究と教育 4(2),2010 年。)
(*)(参考 : 速水敏彦著,北関東教区聖職養成神学塾編『ヨハネ福音書 ; ルカ福音書講義レジュメ ; 聖書ギリシア語の視点』日本聖公会北関東教区,2010 年。)
(*)(参考 : 新島龍美「伝アリストテレス作『大道徳学』のテキスト研究(1)」比較社会文化 16,2010 年。)
(*)(参考 : 木村裕一「古典修辞学体系における「生きた」隠喩と「死んだ」濫喩」学習院大学人文科学論集 19,2010 年。)
(*)(参考 : 渡邉浩司研究代表『古代ローマにおける弁論術の形成と発展』科学研究費補助金(基盤研究 B)研究成果報告書,大阪大学大学院文学研究科,平成 18-21 年度,2010 年。)
(*)(参考 : 山本和子『スパルタにおける教養の思想—プラトーンのテクストを中心に』関西教育学会年報 34,2010 年。)
(*)天野智恵子「前田更子著「私立学校からみる近代フランス—19世紀リヨンのエリート教育」(昭和堂)」史學雜誌119(9),2010年。
(*)(参考 : 伊藤玄吾「フランスの初期人文主義者たちとユダヤ研究 : ギリシア語研究とヘブライ語研究の“危険な関係”」京都ユダヤ思想 1,2010 年。)
(*)(参考 : 酒見紀成「英語におけるギリシア語借入語—古代ギリシアの人名を中心として」広島工業大学研究紀要 29,2010 年。)
(*)(参考 : 土屋凉一「膵の語源について(7)」(アリストテレス)胆と膵 31(1),2010 年。)
(*)(参考 : 前田雅之「反動的な古典との出会い方のすすめ(特集 日本文学協会第 64 回大会[第 2 日目]〈文学〉との出会い方)」日本文学 59(4),2010 年。)
(*)(参考 : 大高順雄「「大トロイアの陥落」における並列・主従構文」大手前大学論集 10,2010 年。)
(*)齋藤偕子「劇評 「人間」,単純か複雑か?—平田オリザ+石黒浩研究室=森の奥ロボット版シーエウティプロデュース,ジェイクリップ=今は亡きヘンリー・モス 文学座

アロリエの会=トロイアの女たち」」テアトロ 840,2010 年。
(*)野田学・内田洋一・今村麻子「演劇時評(1)ヘッダ・カーブレル 表に出ろいっ!聖地イリアス トロイアの女たち ハーバー・リーガン 窓ガラスの葉シダの群れ 櫻の園 現代能楽学集チェーホフペてんばなし 鰯売恋曳網 木の皿 日本人のへそ 奇跡のメロディー 渡辺はま子物語 砂と兵隊」悲劇悲劇 63(12),2010 年。
(*)(参考：神崎忠昭「ラテン語教科書の例文—オウィディウスと先生たち」創文 536,2010 年。)
(*)(参考：安室可奈子「1737 年版オウィディウス挿絵本とアムステルダムの出版事情」愛国学園大学人間文化研究紀要 12,2010 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(39)『ウルガタ』(2)」一冊の本 15(1),2010 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(40,41)『ウルガタ』(3,4)」一冊の本 15(2,3),2010 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(42)アウグスティヌス『告白』」一冊の本 15(4),2010 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「和音羅読—日本語でラテン文学散策(43[最終回])ボエティウス『哲学の慰め』」一冊の本 15(5),2010 年。)
(*)松浦正博「児玉善仁著『イタリアの中世大学—その成立と受容』名古屋大学出版会,2007」日本の教育史学 53,2010 年。
(*)(参考：渡辺学「ヴィルヘルム・フォン・フンボルトの言語観における「古典古代」の意味」(学習院大学文学部)研究年報 56,2010 年。)
(*)(参考：アーサー・コナン・ドイル/深町眞理子訳『回想のシャーロック・ホームズ』(ギリシア語)東京創元社,創元推理文庫,2010 年。)
(*)(参考：逸身喜一郎「編纂者たち」図書 731,2010 年。)
(*)(参考：藤井一亮「社会的合意における「教育の目的」についての一考察—スパルタとアテナイを中心に」甲南大学教職教育センター年報・研究報告書 2009 年度,2010 年。)
(*)鈴木英夫「明治初期の和訳聖書の漢語について--「全国」を中心に」白百合女子大学キリスト教文化研究論集11,2010年。
(*)太田聡「日本の地名のアクセント型とラテン語アクセント規則との不思議な関係について」異文化研究4,2010年。
(*)高増名代「上田万年とマックス・ミュラーの接点「言語有機体説」の受容」大阪千代田短期大学紀要39,2010年。
(*)坂本浩一「明治期日欧言語交流史の一研究--『英語節用集』所収ニ字漢字表記語の永峰秀樹訓訳『華英字典』における収載状況をめぐって」文芸と思想 74,2010 年。
(*)長島要一「「文化の翻訳」の諸相とバイカルチュラルの翻訳者・森鴎外」富大比較文学3,2010年。
(*)後藤嘉宏「三木清の読書論における濫読と精読—次元の相違の議論との関連に着目して」情報メディア研究9(1),2010年。
(*)(参考：宮谷尚美「ハーマンにおける翻訳」研究紀要45,2010年。)
(*)(参考：榊原貴教「デュマ・ペールの翻訳社会史」翻訳と歴史48,2010年。)

(*)(参考：佐藤彰一「哲学的解釈学からテクスト解釈学へ―歴史テクスト論を軸として」テクスト布置の解釈学的研究と教育4(2),2010年。)
(*)(参考：藤元直樹「知られざる明治翻訳小説の宝庫・河北新報」翻訳と歴史52・53,2010年。)
(*)長沼美香子「野上豊一郎の翻訳論」通訳翻訳研究10,2010年。
(*)北村正光「竹島俊之先生とポリュビオス『世界史』(竹島俊之先生追悼)」プロピレア19,2010年。
(*)今田良信「竹島俊之先生を悼む(竹島俊之先生追悼)」プロピレア19,2010年。
(*)「竹島俊之先生略歴(含・主要著作等目録) (竹島俊之先生追悼)」プロピレア19,2010年。
(*)「竹島俊之先生の「最後のことば」(竹島俊之先生追悼)」プロピレア19,2010年。
(*)近松明彦「竹島[俊之]先生からギリシア語を教えて頂いた時代(竹島俊之先生追悼)」プロピレア19,2010年。
(*)橘孝司「忘れられない竹島[俊之]先生の声(竹島俊之先生追悼)」プロピレア19,2010年。
(*)峯正志「竹島[俊之]先生、ありがとうございました(竹島俊之先生追悼)」プロピレア19,2010年。
(*)佐藤りえこ「再会はエルムー通りで(竹島俊之先生追悼)」プロピレア19,2010年。
(*)五之治昌比呂「ラテン語で読むケンペル「鎖国論」--『廻国奇観』所収論文とその翻訳について」京都大学西洋古典研究会「西洋古典論集」22,2010年。
(*)(参考：宮谷尚美「ハーンにおける翻訳」研究紀要45,2010年。)
(*)(参考：榊原貴教「ヴァージニア・ウルフ翻訳作品年表(二十世紀文学特集)」翻訳と歴史(50・51),2010年。)
(*)湯澤質幸『古代日本人と外国語：東アジア異文化交流の言語世界』増補改訂,勉誠出版,2010年.)
(*)(参考:山中由里子「他者の幻想,自己の内観:驚異譚をめぐる比較研究」民博通信131,2010年。)
(*)柳父章・水野的・長沼美香子,コックル浩子他『日本の翻訳論：アンソロジーと解題』法政大学出版局,2010年。
(*)(参考：甲田烈「ケン・ウィルバー著・大野純一訳『万物の歴史』(春秋社)」トランスパーソナル学研究11,2010年。)
(*)(参考：津城寛文「社会的宗教と他界的宗教への序章：ケン・ウィルバー論から(第17部会,特集 第68回学術大会紀要)」宗教研究83(4),2010年。)
(*)若松英輔「井筒俊彦―存在と神秘の形而上学(最終回 6)言語学概論」三田文学[第3期]89(103),2010年。
(*)(参考：深沢克己編『ユーラシア諸宗教の関係史論―他者の受容,他者の排除』勉誠出版,2010年。)
(*)(参考：リック・リオーダン作/金原瑞人・小林みき訳『ハデスの剣』パーシー・ジャクソンとオリンポスの神々 外伝,ほるぷ出版,2010年(→2016年,静山社ペガサス文庫,静山社。)。)
(*)(参考：齋藤洋文・佐竹美保絵『トロイアの書』ギリシア神話,理論社,2010年。)
(*)(参考：深沢克己・桜井万里子編『友愛と秘密のヨーロッパ社会文化史：古代密儀宗教からフリーメイソン団まで』東京大学出版会,2010年。)
(*)(参考：竹沢尚一郎編・川村邦光他執筆『宗教とファシズム』(エリアーデ)水声社,2010

年。)
(*)(参考：奥山史亮「亡命者エリアーデの思想における「宗教」(第 1 部会,〈特集〉第 68 回学術大会紀要)」宗教研究 83(4),2010 年。)
(*)臼杵陽『大川周明：イスラームと天皇のはざまで』青土社,2010 年。
(*)(参考：津上英輔「懐かしさとnostalgia—比較美学から感性史へ」(成城大学大学院文学研究科)美学美術史論集18,2010年。)
(*)(参考：ポリン スカヤ アイリン「共通領域と他所(よそ)の神々：ヘロドトス8巻144節における「共通」の意味に関する覚書」クリ=Clio 24,2010年。)
(*)(参考：辻絵理子「死を呑む鳥—カラドリオスと落語「死神」の淵源」地中海研究所紀要8,2010年。)
(*)(参考：百瀬春生「ギリシア・ローマ神話の神々は姿を変えて今も生きている」地中海歴史風土研究誌31,2010年。)
(*)(参考 : 田中純「セイレーンの誘惑—南イタリア,神話の呪縛圏(1)」SITE ZERO/ZERO SITE 3,2010年。)
(*)(参考 : 世界の神話と伝説研究会編『ギリシヤ神話とオリンポスの神々』竹書房,2010年。)
(*)(参考：アポロドーロス他/高津春繁・高津久美子訳『ギリシア神話』21世紀版少年少女世界文学館1,講談社,2010年。)
(*)(参考：マシュー・ラインハート,ロバート・サブダえ/よしいかずみやく『神々と英雄』しかけえほん,エンサイクロペディア神話の世界2,大日本絵画,2010年。)
(*)(参考：齋藤洋文・佐竹美保絵『トロイアの書』ギリシア神話,理論社,2010年。)
(*)(参考：アイリン・ポリンスカヤ「共通領域と他所の神々：ヘロドトス8巻144節における「共通」の意味に関する覚書」クリオ=Clio24,2010年。)
(*)(参考：百瀬春生「ギリシア・ローマ神話の神々は姿を変え今も生きている」地中海歴史風土研究誌31,2010年。)
(*)(参考：武田佐知子編『着衣する身体：身体と衣服をめぐる表象のジェンダー・ポリティクス：「着衣する身体と女性の周縁化」東京分科会研究成果報告書』(新保純乃「近世イタリア絵画における女性身体の性愛化と裸足/履物のエコノミー：ランフランコ作「音楽の寓意」あるいは「チョビンを履くウェヌス」」科学研究費補助金基盤研究A研究成果報告書,2006-2009年,2010年。)
(*)(参考 : 高橋秀樹「アフロディテ女神をめぐる宗教史の一断面—Ilias 5.311-431からの展望」西洋史研究39,2010年。)
(*)アマーリエ『スピリチュアル美人になるためのヴィーナス(金星)の法』ハギジン出版,2010年。)
(*)(参考：弓場紀知編『女たちのシルクロード：美の東西交流史』(ヴィーナス)平凡社,2010年。)
(*)(参考：浦一郎(他)『ヴィーナス・メタモルフォーシス：国立西洋美術館編「ウルビィーノのヴィーナス展」講演録』三元社,2010年。)
(*)(参考 : 真木武志『ヴィーナスの命題』角川書店,角川グループパブリッシング(発売),2010年。)
(*)出光美術館編『日本美術のヴィーナス ; 浮世絵と近代美人画=“Venus”in Japan art : ukiyo-e and modern Japanese beauty paintings』出光美術館,2010年。)

(*)(参考：「ボッティチェルリ「ヴィーナスの誕生」(構図で楽しむ世界の名画)―(分析図)」美術の窓29(4),2010年。)
(*)(参考：法月ゆり「空腹のヴィーナス」すばる32(8),2010年。)
(*)(参考：渡辺晋輔「謎 髪・香油壺・盃・鳩・犬・蛇--「貴婦人の肖像(アンテア)」「マグダラのマリア」「眠るヴィーナス,キューピッドとサテュロス「眠るヴィーナスとサテュロス」「ヴィーナスとアドニス」「聖アガタの殉教」「聖アガタ」(謎解き名画--イコノグラフィ研究)」美術の窓29(9),2010年。)
(*)(参考：粟津則雄「私の空想美術館(79)―コレッジョ『ヴィーナスとキューピッドとサテュロス』美術の窓29(10),2010年。)
(*)(参考：酒井哲朗「美を訪ねて(93)サルバドール・ダリ《抽き出しのあるミロのヴィーナス》」福島の進路336,2010年。)
(*)(参考：後藤新治「ビビ狩りから黒いヴィーナスへ―ルオーの《植民者ユビュ》をめぐって」西南学院大学国際文化論集25(1),2010年。)
(*)(参考：川村由美「堕ちていくヴィーナス―Dris LessingのLove,Againに見る老いの様相」早稲田大学大学院文学研究科紀要・第2分冊56,2010年。)
(*)(参考：加藤有子「ブルーノ・シュルツ『偶像讃美の書』とザッヘル=マゾッホ『毛皮を着たヴィーナス』--マゾヒストの身振り,あるいは創作の作法」れにくさ2,2010年。)
(*)(参考：前野みち子「ウェヌスとアモルの変容―恋愛と贅沢とモラルをめぐる考察(1,2)古代社会における恋愛と贅沢とモラル」(名古屋大学大学院国際言語文化研究科)言語文化論集31(2),2010年/33(1),2011年。)
(*)(参考：高嶋美穂「アレッサンドロ・ペドリ・マッツォーラ(に帰属)《ヴィーナスとキューピッド》：用いられた材料と技法について」国立西洋美術館研究紀要14,2010年。)
(*)(参考：高嶋美穂「アレッサンドロ・ペドリ・マッツォーラ作「ウェヌスとアモル」(16世紀,イタリア,油絵)の材料と技法に関する考察」文化財保存修復学会誌55,2010年。)
(*)(参考：竹花和晴「東ヨーロッパ大平原に展開した所謂「ヴィーナスの様式」(上下)」人文論究79,80,2010年。)
(*)(参考：高橋宏幸『オウィディウスの神話語り：手違いの詩歌』京都大学,博士(文学),乙第12412号,2010年。)
(*)(参考：平田隆一「古代イタリア・ローマにおけるアエネアス伝説に受容と展開」東北学院大学論集：歴史と文化45,2010年。)
(*)(参考：「平田隆一教授業績一覧(守屋嘉美教授・香坂昌紀教授・平田隆一教授退任記念号」東北学院大学論集：歴史と文化45,2010年。)
(*)(参考：石川潤一「ボーイングP-8海神ポセイドンの誕生」軍事研究45(1),2010年。)
(*)(参考：石見衣久子「ノンノス『ディオニューソス譚』第7歌―翻訳と解題(2)」表現文化研究6,2010年。)
(*)(参考：落合仁司「美のイデアと自然の神学：プラトン,数学(キリスト教思想の新しい可能性--「宗教と科学」の問題圏より―パネル,特集 第68回学術大会)」宗教研究83(4),2010年。)

(*)(参考：齋藤貴子「ロセッティの描いた人間マリア：《聖母マリアの少女時代》と《エクシ・アンシラ・ドミニ》の詩的図像学」ソフィア 58(3),2010 年。)
(*)(参考：伊吹雄『パウロによる愛の賛歌：Iコリント13章について』知泉書館,2010年。
(*)(参考：月本昭男監修『面白くてよくわかる!聖書：モーセの十戒からキリストの復活まで,「聖書」の常識を知る大人の教科書』アスペクト,2010年。)
(*)(参考：月本昭男監修『キリスト教を知りたい：聖地 教会 聖書 聖人』学研パブリッシング,学研マーケッティング(発売),2010年。)
(*)(参考：Toda Satoshi「Poverty and Charity in Early Christianity：Some Preliminary Observations」地中海論集20,2010年。)
(*)(参考：大貫隆『聖書の読み方』岩波新書,2010年。)
(*)(参考：高橋三郎・佐藤全弘・島崎暉久『新約聖書の構造』証言社,2010年。)
(*)(参考：荒井献・大貫貫編訳『グノーシスの受容：ナグ・ハマディ文書・チャコス文書』岩波書店,2010年。)
(*)(参考：L.ショットロフ,W.シュテーゲマン/大貫隆訳『ナザレのイエス：貧しい者の希望』日本キリスト教団出版局,2010年。)
(*)(参考：中野京子『名画と読む：イエス・キリストの物語』大和書房,2010 年→2016 年,文春文庫版)。)
(*)(参考：保坂高殿「コンスタンティヌス大帝の立像碑銘と十字信仰」キリスト教史学65,2010年。)
(*)(参考：辻学「元の文脈を超えて—紀元一世紀におけるパウロ書簡の受容史」ペディラヴィウム65,2010年。)
(*)(参考：川島重成『ロマ書講義』教文館,2010年。)
(*)ヘボン,ブラウン,奥野昌綱共訳：久米三千雄編『新約聖書馬可傳：全』久米三千雄,オンデマンド版,2010年。
(*)(参考：速水敏彦『ヨハネ福音書略解；ルカ福音書講義レジュメ；聖書ギリシア語の視点』北関東教区聖職養成神学塾編集,日本聖公会北関東教区,2010年。)
(*)(参考：山本襄治『ちょっと聖書を：ルカ福音書を読む』聖母文庫,聖母の騎士社,2010年。)
(*)(参考：北森嘉蔵『使徒行伝講話』教文館,2010年。)
(*)(参考：桑原重夫・荒井献・新免貢『「キリスト教者」が良き名前となる為に：“使徒行伝”に歴史のなかの教会を問う』関西神学塾,2010年。)
(*)(参考：黒川知文『西洋史とキリスト教—ローマ帝国からフランス革命まで』教文館,2010年。)
(*)原田晶子「松本宣郎編「キリスト教の歴史1—初期キリスト教~宗教改革」(宗教の世界史8,山川出版社)」史學雜誌119(2),2010年。
(*)(参考：トマス・ア・ケンピス/浅井太郎訳『涙の谷における薔薇の園：キリストに魂の癒しを求めて』アドスリー,丸善株式会社出版事業部(発売),2010年。)
(*)加藤信朗「和田三造画「イエスの一生」二八葉の連作」宗教と文化 27,2010 年。
(*)(参考：塩野七生『キリストの勝利[ローマ人の物語](上中下)』(ユリアヌス)新潮文庫,2010年。)
(*)(参考：増田早苗「聖母マリア崇拝と虚空蔵菩薩信仰との共通項の起源—壁画「マギたちの来訪」をめぐって」宗教と文化 27,2010 年。)
(*)(参考：田辺清「レオナルド・ダ・ヴィンチ「2 点の聖母マリア」について」大東文化大

学紀要・人文科学 48,2010 年。)
(*)(参考：エリザベート・クラヴリ/遠藤ゆかり訳『ルルドの奇跡：聖母の出現と病気の治癒』「知の再発見」双書 146,創元社,2010 年。)
(*)(参考：山形孝夫『聖母マリア崇拝の謎：「見えない宗教」の人類学』河出ブックス 16,河出書房新社,2010 年。)
(*)曽野綾子『聖書から学ぶ人生』新潮社,新潮 CD 講演,録音資料,2010 年。
(*)(参考：曽野綾子『聖書とは愚かな人々の記録である：神から与えられた 37 の知恵の言葉』青萌堂,2010 年。)
(*)(参考：中西恭子「紀元後四-五世紀の歴史叙述における「過てる哲人王」ユリアヌス(第2部,〈特集〉第68回学術大会紀要)」宗教研究83(4),2010年。)
(*)(参考：南川高志「「背教者」ユリアヌス帝登位の背景—紀元 4 世紀中葉のローマ帝国に関する一考察」西洋古代史研究 10,2010 年。)
(*)(参考：出村みや子『聖書解釈者オリゲネス：復活をめぐる論争を中心として』東京大学,博士(文学),乙第 17316 号,2010 年。)
(*)(参考：秋山学訳「アレクサンドリアのクレメンス『プロトレプティコス』(『ギリシア人への勧告』)全訳」文藝言語研究,文藝篇 57,2010 年。)
(*)(参考：秋山学訳「アレクサンドリアのクレメンス『パイダゴーゴス』(『訓導者』)第 3 巻—全訳」古典古代学 3,2010 年。)
(*)(参考：打樋啓史「アレクサンドリアのクレメンス『教導者』1.6 における聖餐の位置--ヨハネ福音書 6.53 の用法をめぐって」神学研究 57,2010 年。)
(*)(参考：エラスムス著/木ノ脇悦郎編訳解説『天国から締め出されたローマ法王の話』新教出版社,2010 年。)
(*)(参考：ブレンダ・ラルフ・ルイス/高尾菜つこ訳『図説・ローマ教皇史』原書房,ダークヒストリー4,2010 年。)
(*)(参考：木川弘美「15 世紀の聖ヒエロニムス図像—アルプス以北とイタリアルネサンス」清心女子大学キリスト教文化研究所年報 18,2010 年。)
(*)(参考：江川純一「イタリア宗教史学派の形成(第一部会,〈特集〉第 68 回学術大会紀要)」宗教研究 83(4),2010 年。)
(*)(参考：梶原洋一「中世後期南フランスにおける大学神学部と托鉢修道会—トゥルーズとモンペリエの事例から」地中海学研究 33,2010 年。)
(*)(参考：ステファヌ・オードギー/遠藤ゆかり訳『モンスターの歴史』「知の再発見」双書 148,創元社,2010 年。)
(*)(参考：『聖史劇を中心としたイタリア・ルネサンスの祝祭文化の基礎的研究』東京大学 2009 年,(科研費)2010 年。)
(*)(参考：秋山学『ハンガリーのギリシア・カトリック教会：伝承と展望』創文社,2010 年。)
(*)(参考：ジュディス・ヘリン/足立広明訳『ビザンツ：驚くべき中世帝国』白水社,2010 年。)
(*)(参考：岡田聡「ヤスパースの聖書的転回とキリスト教」コムニカチオン 17,2010 年。)
(*)阿刀田高「楽しい聖書」紀要 11,2010 年。)
(*)山根道公「遠藤文学とイデオロギー--『沈黙』を中心に(特集 文学とイデオロギー)」キリスト教文学研究 27,2010 年。
(*)越森彦「遠藤周作—空と海,そして神の沈黙」白百合女子大学キリスト教文化研究論集 10,2010 年。

(*)久松健一「遠藤周作がフランス語の書物群から受けた影響—旧蔵書の調査を通じて」明治大学人文科学研究所年報 50,2010 年。
(*)長谷川(間瀬)惠美「遠藤周作の思想「母なるもの」再考(第 4 部会〈特集〉第 68 回学術大会紀要)」宗教研究 83(4),2010 年。
(*)長谷川(間瀬)惠美「遠藤周作とキリスト教の実生化」アジア・キリスト教・多元化 8,2010 年。
(*)李英和「踏絵を踏むロドリゴ,あるいは〈知〉超克—遠藤周作の『沈黙』論」城西国際大学紀要 18(2),2010 年。
(*)小川あい「遠藤周作文学におけるキリスト教の受け止め方(2)「母」の宗教」久留米大学大学院比較文化研究論集 25,2010 年。
(*)小川あい「遠藤周作文学におけるキリスト教の受け止め方(3)汎神論・多神教論」久留米大学大学院比較文化研究論集 26,2010 年。
(*)小嶋洋輔「遠藤周作を研究する—その現状と「遠藤周作研究」創刊」昭和文学研究 60,2010 年。
(*)久松健一「遠藤周作訳『テレーズ・デスケールー』から見えてくるもの(上下)」明治大学教養論集 452,454,2010 年。
(*)並木信明「遠藤周作・キリスト教・切支丹『沈黙』に関する一考察(平戸・天草総合研究特集号)」専修大学人文科学研究所月報 243,2010 年。
(*)笛木美佳「遠藤周作「母なるもの」論--「一つの秘密」が切りひらいた世界」學苑 831,2010 年。
(*)古橋昌尚「遠藤周作『黄色い人』,救いの物語」Humanitas catholica 1,2010 年。
(*)小嶋洋輔「2009・平成 21 年遠藤周作参考文献目録及び研究展望」遠藤周作研究 3,2010 年。
(*)管原とよ子「奇跡という「無力」--遠藤周作『イエスの生涯』と E.シュタウファー『イエス その人と歴史』」遠藤周作研究 3,2010 年。
(*)オラノ・マルセロ「遠藤周作初期キリスト教文学における「弱者」(1)『沈黙』のキチジローへ至る道」福岡大学日本語日本文学 20,2010 年。
(*)佐藤泰正「『沈黙』の終わりをどう読むか—闘う作家遠藤周作をめぐって(特集〈終わり〉を読む—近現代文学篇)——(〈終わり〉を読む)」国文学:解釈と鑑賞 75(9),2010 年。
(*)笠井秋生「遠藤周作『黄金の国』について--『沈黙』と比較しながら」キリスト教文藝 26,2010 年。
(*)齋藤末弘『椎名麟三の文学世界：終末から蘇生へ』椎名麟三研究会,2010 年。
(*)宮永孝「西洋哲学伝来史」社会志林 57(1・2),2010 年。
(*)(参考：黒崎政男「天下無双のヒロウソホ—キリシタン版『デ・アニマ』邦訳の発見」(アリストテレス)東京女子大学紀要論集 61(1),2010 年。)
(*)久津間幸子「キリシタン文献における漢語--『サントスの御作業』を中心として」清泉語文 2,2010 年。
(*)(参考：平岡隆二「「南蛮運気論」の流布と受容」(アリストテレス,プトレマイオス)洋学：洋学史学会研究年報 18,2010 年。)
(*)(参考：水垣渉「有賀鐵太郎のハヤトロギアの構想、特質、及び問題点(特集 ハヤトロギア)基督教学研究 30,2010 年。)

(*)(参考：水垣渉「講演「基督教とは何か」の問いをめぐって」日本の神学?,2010 年。)
(*)(参考：山田庄太郎「ファウストゥスのマニ教理解について—アウグスティヌス時代のマニ教の一側面」宗教研究 83(3),2010 年。
(*)(参考：菊谷忠治「不安を生きる」地中海歴史風土研究誌 31,2010 年。)
(*)(参考：間宮史子・倉住修責任編集,白百合女子大学図書館編『古典に学び,今を生きる』リエゾン企画講演録 1,弘学社,2010 年。)
(*)(参考：畑潤「古代ギリシアにおける教養思想の形成に関する基礎研究—W.イェーガーによるヘーシオドス理解に学ぶ」都留文科大学大学院紀要 15,2010 年。)
(*)(参考：木田元「「精神」捕物帳」本 35(4),2010 年。)
(*)(参考：木田元「哲学散歩(1-6)」文學界 64(7,911),2010 年/65(1,3,5),2011 年。)
(*)柴田真希都「知と信のあわい—哲人・三谷隆正における病と新生の言葉」(東京大学大学院総合文化研究科超越文化科学専攻)超越文化科学紀要 15,2010 年。
(*)三河俊之「出隆における哲学と実践(1)『哲学以前』を中心に」思想史研究 12,2010 年。
(*)「岩崎允胤氏の逝去を悼む[含・岩崎允胤先生の経歴と業績]」(札幌唯物論研究会)唯物論（54・55）,2010 年。)
(*)(参考：山川偉也『ギリシア思想のオデュッセイア』(「付録・日本文化とギリシア文化をめぐるひとつの断章」)世界思想社,2010 年。)
(*)(参考：田中美知太郎『生きることの意味』学術出版会,日本図書センター(発売),2010 年。)
(*)(参考：田中美知太郎『古代哲学史』復刻版アテネ文庫 150,弘文堂,2010 年。)
(*)(参考：柳広司『最初の哲学者』幻冬舎,2010 年。
----「オウディプス」「異郷の王子」「恋」「ダイダロスの息子」「神統記」「狂いの巫女」「アイギナの悲劇」「最初の哲学者」「オリンポスの醜聞」「ソクラテスの妻」「王女メディア」「ヒストリエ」
(*)(参考：大出晁著/野本和幸編・解題『大出晁哲学論文集』慶應義塾大学出版会,2010 年。)
(*)(参考：吉沢一也『プラトンの倫理思想』京都大学,博士(文学),甲第 15706 号,2010 年。)
(*)ドナルド・ローア「プラトンの優れた子孫 加藤周一」図書 731,2010 年。
(*)(参考：納富信留「プラトンを読むこと」図書 733,2010 年。)
(*)(参考：坂下浩司「アリストテレス学と現代分析系/非分析系形而上学との対話--「形而上学再考再興」のために(共同討議 形而上学再考)」哲学 61,2010 年。)
(*)(参考：山橋幸子「日本語から見た言葉と世界の関係—アリストテレスへの疑問」科学哲学 43(1),2010 年。)
(*)(参考：Porphyry/堀江聡訳「ポルフュリオス『新プラトン主義命題集成センテンチアェ—知性的なものへの跳躍台』第 33-44 章邦訳」西洋古典研究会論集 19,2010 年。)
(*)(参考：堀江聡「プロクロス『神学綱要』の活動還帰と実体還帰(シンポジウム プロクロス『神学綱要』とその影響作用史：中世まで)」新プラトン主義研究 10,2010 年。)
(*)(参考：野津悌・坂本頼之・藤井隆道(他)「シンポジウム：徳福不一致に対する思想的応答—ギリシャ哲学･中国思想･インド思想」国士舘哲学 14,2010 年。)
(*)(参考：伊野連『「哲学のオルガノン」についての考察：アリストテレス,カント,シェリング,ヤスパースにおける藝術哲学と形而上学』東洋大学,博士(文学),乙

第 190 号,2010 年。)
(*)(参考：小川彩子『アリストテレス『詩学』におけるミュートス概念』東京キララ社,2010 年。)
(*)(参考：中里壽明「アリストテレス『詩学』と世阿弥の夢幻能」国際文化表現研究 6,2010 年。)
(*)(参考：後藤成美「書評 アリストテレス『詩学』」古典力・対話力論集 1,2010 年。)
(*)(参考：逸身喜一郎・渡部泰明・藤原克己「座談会 和歌とギリシャ・ローマの詩(前)第 1 日目「韻律・韻文の機能」」文学 11(4),2010 年。)
(*)(参考：逸身喜一郎・渡部泰明・藤原克己「座談会 和歌とギリシャ・ローマの詩(後)第 2 日目「韻文を/がつくり出す場」」文学 11(5),2010 年。)
(*)(参考：鬼木光人『賢人キケロに訊け!：こころを軽くする名言こころを強くする名言』イースト・プレレス,2010 年。)
(*)(参考：浅井英樹「贈与の両義性—ゲーテにおけるパンドラの形象について」東京理科大学紀要・教養篇 43,2010 年。)
(*)(参考：スカルパ・マッシミリアノ「ティレシアースの「アンティゴネー」--リリアーナ・カヴァーニの『イ・カンニーバリ』(人食い,1969)」パンダライ 9,2010 年。)
(*)(参考：山口誠一『ニーチェとヘーゲル：ディオニュソス哲学の地下通路』法政大学出版局,2010 年。)
(*)(参考：杉谷恭一訳「リヒャルト・ヴァーグナー『ある降伏—古代の手法による喜劇』」文学部論叢 101,2010 年。)
(*)(参考：内藤可夫「ニーチェのニヒリズム思想へのエピクロスの影響—死への思索の必然性について」人間環境論集 9,2010 年。)
(*)(参考：伊吹裕美「ニーチェのヘレニズム--「ディオニュソス的世界観」をめぐって(シリア・ヨルダン総合研究特集号)」専修大学人文科学研究所月報 245,2010 年。)
(*)(参考：大谷大学西洋哲学倫理学会秋季公開講演会(11/5)「理解と共感—神崎繁先生ご講演を拝聴して—ニーチェとストア哲学」Yahoo 検索,2010 年。)
(*)(参考：朴一功『魂の正義—プラトン倫理学の視座』京都大学学術出版会,2010 年。)
(*)(参考：田端健人「ハイデガーのパイデイア論；プラトン「洞窟の比喩」解釈から」宮城教育大学紀要 45,2010 年。)
(*)(参考：金澤修「時間以前の時間—アッティコスにおける時間理論と『ティマイオス』解釈」哲学誌 52,2010 年。)
(*)(参考：都筑貴博「近代道徳哲学と徳倫理学—ウィリアムズの所論を踏まえて(日本倫理学会第 60 回大会 主題別討議報告)—(「アリストテレスの徳倫理学」に望みはあるか?)」倫理学年報 59,2010 年。)
(*)(参考：土橋茂樹「アリストテレス離れの度合—古典的徳倫理学の受容と変遷(日本倫理学会第 60 回大会 主題別討議報告)—(「アリストテレスの徳倫理学」に望みはあるか?)」倫理学年報 59,2010 年。)
(*)(参考：中畑正志「アリストテレスの言い分—倫理的な知のあり方をめぐって(日本倫理学会第 60 回大会 主題別討議報告)—(「アリストテレスの徳倫理学」に望みはあるか?)」倫理学年報 59,2010 年。)

(*)(参考：中畑正志「アリストテレスの言い分―倫理的な知のあり方をめぐって」古代哲学研究 42,2010 年。)
(*)(参考：吉沢一也『プラトンの倫理思想』京都大学,博士(文学),甲第 15706 号,2010 年。)
(*)(参考:近藤智彦「ストア派の三つの顔(日本倫理学会第 60 回大会 主題別討議報告)―(「アリストテレスの徳倫理学」に望みはあるか?)」倫理学年報 59,2010 年。)
(*)(参考：近藤智彦「自由意志と目的論の帰趨：ストア派とスピノザ」スピノザーナ：スピノザ協会年報 10,2010 年。)
(*)(参考：鎌田浩毅「京大人気 No.1 科学者が読み解く 一生ものの古典(40)マルクス・アウレリウス『自省録』起こる困難を受け止め進むべき道を指し示す」週刊東洋経済 6273,2010 年。)
(*)(参考：瀧一郎「人格の形而上学的問題―プロティノス,ベルグソン,臨済」大阪教育大学紀要 1 人文科学 59(1),2010 年。)
(*)(参考：金澤修「根源者体験とその描写―プロティノスとウパニシャッド比較再考」比較思想研究 37,2010 年。)
(*)(参考：冨田恭彦『科学哲学者柏木達彦の哲学革命講義』角川文庫,角川学芸出版,角川グループパブリッシング(発売),2010 年。)
(*)(参考：岡嵜隆哲『初期アウグスティヌス思想における宗教的探究の問題』同志社大学,博士(哲学),甲第 443 号,2010 年。)
(*)宮永孝「日本におけるオーギュスト・コント」(渋江保)社会志林 56(4),2010 年。
(*)(参考：今道友信『中世の哲学』岩波書店,2010 年。)
(*)(参考:桑原直巳「現代常識人の世俗的人間観に対峙して―稲垣良典著『人格〈ペルソナ〉の哲学』」創文 6 月号,2010 年。)
(*)(参考：山本義久「トマス「人格〈ペルソナ〉」論の挑戦--稲垣良典著『人格〈ペルソナ〉の哲学』」創文 6 月号,2010 年。)
(*)秋山憲兄『キリスト教出版 70 年の歩み』新教出版社,「一本の道」秋山憲兄著[正],2010 年。
(*)倉科岳志「書評『ヴィーコ学問の起源へ』(上村忠男著)世界に学的にかかわるとはどういうことなのか(書物の時空)」環 41,2010 年。
(*)(参考：納富信留「ケムブリッヂ 学問の光と影」創文 527,2010 年。)
(*)(参考：池田喬「初期フライブルク期のハイデガー哲学―1919/20 年冬学期講義『現象学の根本問題』を読む」創文 529,2010 年。)
(*)根占献一「討究の旅―新著『ルネサンス精神への旅』寸描」創文 529,2010 年。
(*)甚野尚志「書評 歴史家の思想史研究--根占献一著『ルネサンス精神への旅―ジョアキーノ・ダ・フィオーレからカッシーラまで』を読む」創文 530,2010 年。)
(*)根占献一「鈴木成高先生との思い出―その著作とともに」創文 534,2010 年。
(*)根占献一「ピエリオ・ヴァレリアーノ著『学者たちの不幸』を読む―ヒューマニストたちの運命」学習院女子大学紀要 12,2010 年。)
(*)(参考：池上俊一監修『原典イタリア・ルネサンス人文主義＝Calolavori dell' umnesimo italiano』名古屋大学出版会,2010 年。)
(*)川西薫「一高校長・新渡戸稲造とその弟子」たち―川西実三の日記を通して」新渡戸稲造の世界 19,2010 年。
(*)三河隆之「出隆における哲学と実践(1)『哲学以前』を中心に」思想史研究 13,2010 年。

(*)(参考：沓掛良彦「友情の軌跡」図書 748,2010 年。)
(*)(参考：木原武一『快楽の哲学：より豊かに生きるために』日本放送出版協会,2010 年。)
(*)(参考：田中伸司「応用の学としての倫理学と古典テクスト：現代の医療にどう向き合うか」21 世紀倫理創生研究 3,2010 年。)
(*)(参考：市田良彦『アルチュセール ある連結の哲学』平凡社,2010 年。)
(*)(参考：瓦盛央『エスの系譜：沈黙の西洋思想史』講談社,2010 年。)
(*)(参考：白取春彦『超訳アリストテレスの恋愛論』サンマーク出版,2010 年。)
(*)(参考：白取春彦『超訳ニーチェの恋愛論』サンマーク出版,2010 年。)
(*)(参考：白取春彦『生きるための哲学：ニーチェ「超」入門』ディスカヴァー・トゥエンティワン,2010 年。)
(*)(参考：白取春彦『哲学の実践ノート：人生の壁にニーチェやアカントがどう応えるか』青春出版社,2010 年。)
(*)(参考：嶋田毅寛「西洋思想における真理観—「--なるもの」とヤスパースの〈包括者論〉(総合仏教研究所研究助成中巻報告)—(法華思想の研究[5])」大正大学総合仏教研究所年報 32,2010 年。)
(*)(参考：中川純男・小川量子・高橋淳友他「彙報 共同研究(2009 年度)A 方式 西洋思想における「個」の概念」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 44,2010 年。)
(*)(参考：岡崎文明「『神学綱要』と中世哲学」新プラトン主義研究 10,2010 年。)
(*)(参考：吉沢一也『プラトンの倫理思想』京都大学,博士(文学),甲第 15706 号,2010 年。)
(*)(参考：和泉ちえ「ペリパトス学派と哲学史の誕生：アリストテレスにおける『形而上学』A 巻のタレス像を巡って」Studis classica 1,2010 年。)
(*)(参考：武井徹也「アレーテイアと存在—前期ハイデガーにおけるアリストテレスの現象学的解釈と論理的・存在論的思惟」立正大学哲学会紀要 5,2010 年。)
(*)塩川千夏「ソフィアンの本棚 荻野弘之著『マルクス・アルレリウス「自省録」--精神の城塞』」ソフィア 59(1),2010 年。
(*)(参考：樋笠勝士「司会報告(特集 中世哲学とストア派倫理学—東西教父からスコラ前夜まで：シンポジウム)」中世思想研究 52,2010 年。)
(*)(参考：樋笠勝士「神の摂理—ストア派と教父思想(同上)」中世思想研究 52,2010 年。)
(*)(参考：荻野弘之「ラテン教父におけるストア派倫理学の受容と変容(同上)」中世思想研究 52,2010 年。)
(*)(参考：山本義久「トマス「人格〈ペルソナ〉」論の挑戦--稲垣良典著『人格〈ペルソナ〉の哲学』」創文6月号,2010年。)
(*)(参考：桑原直巳「現代常識人の世俗的人間観に対峙して—稲垣良典著『人格〈ペルソナ〉の哲学』」創文 6 月号,2010 年。)
(*)(参考：小林剛『アルベルトゥス・マグヌスの感覚論：自然学の基礎づけとして』知泉書館,2010 年。)
(*)(参考：水落健治「特定質問 ユスティノスのストア哲学批判—キリスト教がギリシア哲学を受容する前提をめぐって(同上)」中世思想研究 52,2010 年。)
(*)(参考：土橋茂樹「アパテイアの多義性と「慰めの手紙」--東方教父におけるストア派の両義的影響(同上)」中世思想研究 52,2010 年。)
(*)(参考：掛川富康「K.バルトの神理解とイデアリスムスの問題—とくに中期プラトン主義

のイデア論及びその影響史を視野に入れて」茨城キリスト教大学紀要 I,人文科学 44,2010 年。)
(*)(参考：伊野連『「哲学のオルガノン」についての考察：アリストテレス,カント,シェリング,ヤスパースにおける藝術哲学と形而上学』東洋大学,博士(文学),乙第 190 号,2010 年。)
(*)(参考：カール・ヒルティ/金森誠也訳『心の病を癒す生活術』PHP 研究所,2010 年。)
(*)吉沢一也「教養教育としての初年次教育」リメディアル教育 5(2),2010 年。
(*)岩淵達治「『女の平和』日本初演めぐって」岩波書店「ギリシア喜劇全集」月報 8,2010 年。
(*)片野勧「お雇い外国人と弟子たち(6)ケーベル(5)ヘボン(最終回)ハーン」歴史読本 55(6),2010 年/56(5),56(10),2011 年(→2011 年,同『明治お雇い外国人とその弟子たち』(ケーベル等),新人物往来社)。
(*)岩佐壮四郎「島村抱月「情」の美学の構想(3)」関東学院大学文学部紀要(120・121),2010 年。)
(*)上野賢一「「杢太郎」落ち穂拾い(19)杢太郎と岩元禎」皮膚科の臨床 52(7),2010 年。
(*)宮川昇「鈴木正先生と岩田義道と私(鈴木正教授退職記念号)」比較文化研究 29,2010 年。
(*)Aizu Yaichj Memorial Museum“The Life and works of Aizu Yaichi”,Aizu Yaichj Memorial Museum,2010.
(*)(参考：山下善明「自然と歴史—西尾幹二著『江戸のダイナミズム』からの小考」明星大学研究紀要・日本文化学部,言語文化学報 18,2010 年。)
(*)(参考:山中由里子「他者の幻想,自己の内観:驚異譚をめぐる比較研究」民博通信 131,2010 年。)
(*)西村醇子「私の一冊『岩波少年少女文学全集全 30 巻』」(白百合女子大学児童文化学科児童文学・文化専攻研究室)開化宣言,2010 年。
(*)(参考：山形治江著『ギリシャ劇大全』論創社,2010 年。)
(*)平山令二「書評 生きた芝居としてのギリシャ劇—山形治江著『ギリシャ劇大全』を読む」世界文学 112,2010 年。
(*)西田長夫「いいだもも氏の論考「ホメーロスの『オデュッセイ』の英雄叙事詩の一時代の後を承けて」に寄せられた批評と訂正要求について(2008 年度プロジェクト B4 研究報告(8)戦後の農民運動と農村の変容)」立命館言語文化研究 22(2),2010 年。)
(*)(参考：Hector Berlioz；libretto,Hector Berlioz after Virgil’s Aeneid『The Trojans：opera in five acts』OpusArte,Columbia Music Entertainment,2010 年。)
(*)(参考：保井亜弓「ヴェラール版『変身物語』La bible des poétes 研究」金沢美術工芸大学紀要 54,2010 年。)
(*)(参考：Chretien de Troyes/天沢退二郎訳「クレティアン・ド・トロワ作(オウィディウスの原作による)『フィメーナ』(2)(含・『フィメーナ』小論(訳者解説に代えて))」言語文化 27,2010 年。)
(*)(参考：安室可奈子「1732 年版オウィディウス挿絵本とアムステルダムの出版事情」愛国学園大学人間文化研究紀要 12,2010 年。)
(*)(参考：高畑時子「シラー「ティレニア海の嵐」解説と試訳および注釈：ウェルギリウス「アエネーイス」1.34-156 との比較研究」西洋古典論集 22,2010 年。)

(*)(参考：西村賀子「古典の受容―ルネサンスにおける発見」和歌山県立医科大学看護学部紀要 7,2010 年。)
(*)(参考：原基晶「新たなロレンツオ・デ・メディチ像と『バッコスの歌』--近年のパッツィ家の陰謀とフォルリの乱をめぐる研究成果を受けて」世界文学 112,2010 年。)
(*)(参考：小田中章造「戦争と演劇に関する試論：第一次世界大戦とフランス演劇」表現文化 5,2010 年。)
(*)「木村健治教授の略歴および主要業績(木村健治教授金子元臣教授退職記念号)」(大阪大学大学院言語文化研究科)言語文化研究 36,2010 年。
(*)(参考：高橋宏幸「文字・手紙・文学(シンポジウム 文字の力)」西洋古典學研究 58,2010 年。)
(*)(参考：師尾晶子「文字と社会(シンポジウム 文字の力)」西洋古典學研究 58,2010 年。)
(*)(参考：小川正廣「趣旨と総括(シンポジウム 文字の力)」西洋古典學研究 58,2010 年。)
(*)(参考：金山弥平・周藤芳幸・小川正廣「コメント」西洋古典學研究 58,2010 年。)
(*)(参考：逸身喜一郎「第 13 回国際西洋古典学会(FIEC)大会に出席して」西洋古典學研究 58,2010 年。)
(*)(参考：大芝弘・小池登編『西洋古典学の明日へ：逸身喜一郎教授退職記念論文集』知泉書館,2010 年。)
----逸身喜一郎「韻律学と西洋古典学：私の韻律に関する論文の解説とあとがき」
佐野好則「冥界のヘーラクレース：ミーノース--ヘーラクレース場面(Od.11.565--627)に関する一考察」
小池登「称賛の利得：ピンダロス『イストミア第 2 歌』1―12 行」
小林薫「現実と仮想の狭間：ソポクレース『オイディプース』219-23,255-8 行」
戸部順一「メガラの男の悲哀：Ar.Ach.II.719-816」
中谷彩一郎「フィレータースの物語」
小池和子「キケローとコルニフィキウス：前 44 年--43 年のコルニフィキウス宛書簡から」
大芝好弘「O fons Bandusiae ：Horatius,Carm.3.13」
日向太郎「梟と鹿：オウィディウス『変身物語』第 11 巻 24--27 行の直喩について」
吉田俊一郎「ウェレイユス・パレルクルス・ワレリウス・マクシムスの典拠の利用と文体について」
山田哲子「プテレラースの死とケンタウロスの比喩：Statius,Thebais VII632-639」
納富信留「アリストファネスのプロディコス：喜劇における思想の揶揄への覚え書」
瀧章次「プロクロスのプラトン解釈法：『「アルキビアデス」篇註釈』における推論特定手続きの問題」
近藤智彦「ストア派の「運命」概念の起源を辿る」
神崎繁「道徳的発達と言語行為の相関：ヘレニズム期における「多分野交流」の一事例」
兼利琢也「セネカにおける自由の行為の修辞：『恩恵について』3.20.1ingentia agat をめぐって」

齋藤貴弘「ドロコンの意志殺人法における「永久追放」について」
桜井万里子「メネステウスとメネデオス：ベンディス祭祀のアテナイ到来について」
上野愼也「コースの部族：RO62 箭」
佐藤昇「ヒュポーモシアー：デーモステーネス 18 番 103 節の解釈をめぐって」
島田誠「世紀競技祭 ludi saeculares とアウグストゥス」
田中創「ローマ帝政後期の監獄：リバニオス第四五番弁論再考」
高橋英海「Gregorii Barhebrae carmen“Qoud praestantes in hic mundo odio haberi solent”」
片山英男「ポッジョ写本再考」

(*)松本仁助「中務哲郎さんの思い出」京都大学西洋古典研究会「西洋古典論集」22,2010 年。
(*)「中務哲郎教授略歴・著作目録」西洋古典論集 22,2010 年。
(*)(参考：宮野升宏「華厳思想における理と事：プラトニズムを見る(第 9 部会,〈特集〉第 68 回学術大会紀要)」宗教研究 83(4),2010 年。)
(*)岩田高明「小関三英抄訳『新撰地誌』の西洋教育情報」安田女子大学教育総合研究所年報 6,2010 年。
(*)宮永孝「日本におけるオーギュスト・コント」(渋江保)社会志林 56(4),2010 年。
(*)川西薫「一高校長・新渡戸稲造とその弟子」たち—川西実三の日記を通して」新渡戸稲造の世界 19,2010 年。
(*)山内友三郎「不干ハピアン—キリスト教と対決した最初の日本人思想家」(プラトニズム)大阪教育大学紀要 1 人文科学 59(1),2010 年。
(*)秋山憲兄『キリスト教出版 70 年の歩み』新教出版社,「一本の道」秋山憲兄著[正],2010 年。
(*)山内友三郎「徂来・尊徳・弘之における倫理・政治の三層構造—西洋近代の社会倫理と儒教的環境思想の結合」(プラトニズム)大阪教育大学紀要 1 人文科学 58(2),2010 年。
(*)李海「梁啓超と木村鷹太郎：「哀希臘」をめぐって」中国研究月報 64(4),2010 年。
(*)李海「梁啓超訳「弔希臘」--木村鷹太郎訳の受容をめぐって」名古屋大學中國語學文學論集 22,2010 年。
(*)菊池有希「日本主義化するバイロニズム—木村鷹太郎のバイロン論」和洋女子大学英文学会誌 43,2010 年。)
(*)(参考：李光来著/高坂史朗・柳生真訳『韓国の西洋思想受容史：哲学的オーケストラの実現のために』御茶の水書房,2010 年)
(*)安村典子「退任にあたり—sub specie aerternitatis 永遠の相の下に」(金沢大学)哲学・人間学論集1(創刊号),2010年。
(*)金沢大学哲学・人間学研究会「安村典子教授 略年譜・業績目録」(金沢大学)哲学・人間学論叢1(創刊号),2010年。
(*)(参考:池上俊一編『原典 イタリア・ルネッサンス人文主義(上下)』名古屋大学出版会,2010 年。)
(*)中谷惣「書評 池上俊一監修『原典 イタリア・ルネサンス人文主義』」西洋史学 240,2010 年。

(*)柴田平三郎「甚野尚志著「十二世紀ルネサンスの精神—ソールズベリのジョンの思想構造」(知泉書院)」史學雑誌 119(1),2010 年。
(*)(參考：Erwin Panofsky/澤井繁男訳「芸術家,科学者,天才—「ルネサンスの黎明」小論」関西大学文学論集 60(2),2010 年。)
(*)(參考：根占献一「ピエリオ・ヴァレルアーノ著『学者たちの不幸』を読む—ヒューマニストたちの運命」学習院女子大学紀要 12,2010 年。)
(*)(參考：林和宏「孤独な証言者ペトラルカ」東京外語大学論集 81,2010 年。)
(*)(參考：ペトラルカ/近藤恒一訳『無知について』岩波文庫,岩波書店,2010 年。)
(*)(參考：エラスムス/木ノ脇悦郎編集解説『天国から締め出されたローマ法王の話』新教出版社,2010 年。)
(*)(參考：野村竜仁「エラスムスとセルバンテス—アントニオ・ビラノバをふまえて(村上光昭教授記念号)」神戸外大論叢 61(7),2010 年。)
(*)(參考：柳沼正弘訳「エラスムス『格言集』から「ゆっくり急げ」翻訳と解題」創価大学人文論集 22,2010 年。)
(*)(參考：沓掛良彦「エラスムスとギョーム・ビュデ—奇妙な友情またはユマニストによるARENA での闘い」(中部大学総合学術研究院)アリーナ 8,2010 年。)
(*)(參考：堀田泰司「ボローニャ宣言にみるエラスムスの経験の意義」大学論叢 41,2010 年。)
(*)(參考：鈴木宜則『トマス・モアの思想と行動』風行社,2010 年。)
(*)(參考：岡本源太「アクタイオンの韻文：ジョルダーノ・ブルーノとペトラルカ主義の伝統」美學61(2),2010年。)
(*)(參考：鎌田浩毅「京大人気No.1科学者が読み解く一生モノの古典(22)ヒルティ著『幸福論』(齋藤栄治編)仕事からしか幸福は得られない よい習慣で1日を埋め尽くせ」週刊東洋経済6251,2010年。)
(*)(參考：ジョルジョ・アガンペン著/橋本勝雄・多賀健太郎・前木由紀訳『イタリア的カテゴリー：詩学序説』みすず書房,2010年。)
(*)(參考：ダンテ/ギュスターヴ・ドレ画/平川祐弘訳『神曲—完全版』河出書房新社,2010年。)
(*)(參考：平川祐弘『ダンテ「神曲」講義』河出書房新社,2010年。)
(*)(參考：水野留規著/愛知県立芸術大学・教養教育イタリア語研究室編『ダンテの「神曲」--朗読台本とCDオーディオブック』(名古屋)三恵社,2010年。)
(*)(參考：Pyle Eric Allan「中庸に逆って：ウィリアム・ブレイクによるダンテ『神曲』地獄篇第2歌のための挿画に関する考察」藝術研究23,2010年。)
(*)(參考：小島久和「図書館特別資料紹介 ダンテ『神曲』(1481年刊)の巻頭に位置するクリストフォロ・ランディーノの「解説」について」図書の譜14,2010年。)
(*)橋元志保「夏目漱石『倫敦塔』を読む—ダンテ『神曲』の受容を視座として」(ノースアジア大学綜合研究センター)教養・文化論集5(2),2010年。
(*)(參考：長谷川悠里「ダンテ『神曲』天国篇—天球運動が織り成す調和」イタリア学会誌60,2010年。)
(*)(參考：久保田剛史「註釈からエッセイへ：フアン・ルイス・ビーベス著「『神の国』注解」の読者モンテーニュ(研究論文)」フランス語フランス文学研究96,2010 年。)
(*)(參考：塩川徹也『発見術としての学問—モンテーニュ・デカルト・パスカル』岩波書店,2010 年。)

(*)(参考：シャードルト・ジャヴァン/白井成雄訳『モンテスキューの孤独』フィクションの楽しみ,水声社,2010 年。)
(*)(参考：柴田恵美『ルイ14世のまなざしに抗った時代の反逆児：ラ・ロシェフーコー』駿河台出版,2010 年。)
(*)(参考：友谷知己「ラシーヌに於ける悲劇的人物のコンセプト—中庸・過誤・良さ」演劇映像学 2010(3),2010 年。)
(*)(参考：小倉博孝編『コルネイユの劇世界』上智大学出版,2010 年。)
(*)(参考：Chretiende Troyes/天沢退二郎「クレティアン・ド・トロワ作(オウィディウスの原作による)『フィロメーナ』(2)[含・『フィロメーナ』小論（訳者解説に代えて）」言語生活 27,2010 年。)
(*)(参考：近藤貴盛「マラルメにおける〈自然〉：1870 年代のマネ・印象派論と『古代の神々』を通じて(研究発表要旨)」フランス語フランス文学研究 96,2010 年。)
(*)(参考：岩津航「バンジャマン・フォンダーヌの『ユリシーズ』について(研究発表要旨)」フランス語フランス文学研究 97,2010 年。)
(*)(参考：折橋浩司「ランボーのトロイア詩篇(2)旅のロマンティスム(研究発表要旨)」フランス語フランス文学研究 96,2010 年。)
(*)(参考：田ノ口誠悟「ジャン・ジロドゥ作『トロイ戦争は起こらない』における戦争の表象—戦争を引き起こす「不明瞭な力」を巡る一考察」演劇映像 51,2010 年。)
(*)(参考：内田次信「ディオン・クリュソストモス『トロイア紀陥落せず』--弁論術から歴史フィクションへ」文芸学研究 14,2010 年。)
(*)(参考：小林かおり編『日本のシェイクスピア上演研究の現在』(名古屋)風媒社,2010 年。)
(*)(参考：シェイクスピア/大場建治訳『ジューリアス・シーザー』研究社シェイクスピア・コレクション 6,研究社,2010 年。)
(*)(参考：本橋哲也『思想としてのシェイクスピア—近代世界を読み解くキーワード 50』河出ブックス 20,河出書房新社,2010 年。)
(*)(参考：加島康彦「シェイクスピアとセネカ--『テンペスト』における悲喜劇要素」安田女子大学大学院文学研究科紀要,合冊16,2010年。)
(*)(参考：村松俊子「ヴィーナスの予言--『ヴィーナスとアドニス』から『ソネット詩篇』へ」常磐短期大学研究紀要38,2010年。)
(*)(参考：森道子「名声と流刑：オウィディウスの『トリスティア』とミルトン」大手前大学論集11,2010年。)
(*)(参考：高橋雄四郎「キーツの魅力：想像力と牧歌(第35回[2009年]全国大会てーぶるとーく)」イギリス・ロマン主義研究34,2010年。)
(*)(参考：上村盛人「ウォルター・ペイターの審美主義(7)『ルネサンス』の「序論」について」滋賀県立大学国際教育センター研究紀要15,2010年。)
(*)(参考：崎山拓郎「ウォルター・：ペイターの逆説的ユートピア：『プラトンとプラトニズム』『国家』を中心に」神戸英米論叢24,2010年。)
(*)(参考：水野薫「ワーズワスの「カムバランドの乞食の老人」におけるミルトン的傾向—ケンブリッジ・プラトニズムに着目して」同志社女子大学大学院文学研究科紀要10,2010年。)

(*)(参考：小栗浩『北窓集：一独文学者の感想』同学社,2010年。)
(*)(参考：今村武「Das Baltikurn im Schaffen Herders und Lenzens」ゲーテ年鑑51,2010年。)
(*)(参考：南大路振一「〈Humanismus〉の諸相(特集 現代におけるフマニスム：ゲーテとE.Rクルツィウス)」モルフォロギア：ゲーテと自然科学32,2010年。)
(*)(参考：高橋義人「はたしてゲーテ的人文主義は「時代遅れ」か：ヤスパースとクルティウスの古典主義論争をめぐって(特集 現代におけるフマニスム：ゲーテとE.R.クルティウス)」モルフォロギア：ゲーテと自然科学32,2010年。)
(*)(参考：荒又雄介「「散在する人々」に向けて：ホーフマンスタールとE.R.クルティウスのヨーロッパ概念(特集 現代におけるフマニスム：ゲーテとE.R.クルティウス)」モルフォロギア：ゲーテと自然科学32,2010年。)
(*)(参考：ヴィルヘルム・フォスカンプ/武田利勝訳「教養と知識：今日〈教養〉をどのように理解するか(特集 現代におけるフマニスム：ゲーテとE.Rクルツィウス)」モルフォロギア：ゲーテと自然科学32,2010年。)
(*)(参考：粂川麻里生「W.ベンヤミンはゲーテの不肖の弟子か?：初期ベンヤミンのゲーテ受容について(特集 現代におけるフマニスム：ゲーテとE.Rクルツィウス)」モルフォロギア：ゲーテと自然科学32,2010年。)
(*)(参考：ヴィルヘルム・フォスガンプ/武田利勝訳「教養と知識：今日〈教養〉をどのように理解するか(特集 現代におけるフマニスム：ゲーテとE.R.クルツィウス)」モルフォロギア：ゲーテと自然科学32,2010年。)
(*)(参考：粂川麻里生「アーカイヴとマニエリスム―クルツィウスの「ゲーテの書類作り」をめぐって」藝文研究99,2010年。)
(*)(参考：圓増治之「ゲーテの形態論からニーチェの形態論へ―人間の新たな形態への変容に向けて」人文学論集12,2010年。)
(*)(参考：平松智久「ゲーテ『ファウスト』における「最高の美」：『色彩論』が照らし出す「曇り」としてのヘレナ」九州ドイツ文学24,2010年。)
(*)(参考：中川佳英「ゲーテ『タウリス島のイフィゲニエ』と犠牲」ドイツ文学研究42,2012年。)
(*)(参考：大川映子「ゲーテにおける自然と学び：普遍と特殊の重なるところ」思想史研究12,2010年。)
(*)(参考：Wolfgang Schamoni「世界文学―ゲーテより半世紀も前に初出していた語(特集 十七世紀の文学)」文学11(3),2010年。)
(*)(参考：鎌田浩毅「一生ものの古典(18)エッカーマン著『ゲーテとの対話』30代の若き後輩へ贈る大詩人からの丁寧な助言」週刊東洋経済6246,2010年。)
(*)稲垣孝博「芥川龍之介とゲーテ的自然(特集 芥川龍之介を読み直す)-(比較研究)」国文学解釈と鑑賞75(2),2010年。)
(*)(参考：Manfred Osten/山崎達也訳「特別講演会より ゲーテのなかの日本,日本のなかのゲーテ」東洋学術研究49(1),2010年。)
(*)(参考：大槻裕子『ゲーテとスピノザ主義』大阪大学,博士(文学),乙第 9634 号,2010 年。)
(*)(参考：神田祥子「「草枕」と典拠―レッシング『ラオコーン』との関わりを軸に(近代文学における「典拠」)」国語と国文学87(5),2010年。)
(*)(参考：青木敦子「シラーとは誰?」みすず52(4),2010年。)

(*)(参考：井藤元「ゲーテ=シラーへの複眼的眼差し：人智学の通奏低音としての『美的書簡』」モルフォロギア：ゲーテと自然科学32,2010年。)
(*)(参考：坂本貴志「オルフェウスのバラード―ゲーテ,シラーとヘルメス的伝統(特集 19世紀の再検討―身体論,思想史,比較文化論の立場から)」19世紀学研究4,2010年。)
(*)(参考：坂本貴志「フリードリヒ・シラーとヘルメス的伝統」山口大学文学会誌60,2010年。)
(*)(参考：松山雄三「Fr.シラー―生誕 250 年記念に寄せて」東北薬科大学一般教育関係論集23,2010 年。)
(*)(参考：松山雄三「Fr.シラー―人間形成論の胎動」東北薬科大学一般教育関係論集 23,2010年。)
(*)(参考：濱田真『ヘルダーの Bildung 思想研究：啓蒙主義期の諸思想との関係を中心に』筑波大学,博士（文学）,乙第 2518 号,2010 年。)
(*)(参考：ヘルダーリン著/青木誠之訳『ヒューペリオン：ギリシアの隠者』ちくま文庫,筑摩書房,2010 年。)
(*)(参考：松山雄三「若いシラーの人間学思想の形成について(1)」プロテウス 12,2010 年。)
(*)(参考：桑原俊介「解釈における歴史意識：テンネマンとシュライアマハーによるプラトン解釈をめぐって」」美學芸術学研究 29,2010 年。
(*)(参考：瀧井美保子「シュライアマハーの『大学論』(2)実践から乖離しない知。倫理学講義への一視点として」[含・ドイツ語文要旨]明治大学人文科学研究所紀要 67,2010 年。)
(*)(参考：『史劇大全集(Cosmic Pictures)』コスミック出版,2010 年。)
----フレッド・ニプロ監督「ベン・ハー」
セシル・B.デミル監督「クレオパトラ」
アーネスト・B.シュードサック監督「ポンペイ最後の日」
スチュアート・パージ監督「ジュリアス・シーザー：シェイクスピア名作映画集」
マーヴィン・ルロイ監督「クォ・ヴァディス」
セシル・B デミル監督「サムソンとデリラ」
ジュリアン・デュヴィヴィエ監督「ゴルゴダの丘」
(*)(参考：中谷博幸「ブルクハルトの名誉観」香川大学生涯学習教育研究センター研究報告15,2010 年。)
(*)(参考：森田猛「ブルクハルト史学におけるヨーロッパ的なもの―歴史学教育の観点から」紀要 46,2010 年。)
(*)(参考：菊地惠善「荘子とニーチェ」哲学年報 69,2010 年。)
(*)(参考：岸貴介『ニーチェ哲学研究：「根本的に健康である」ことに基づく,最良の生存の追求』東京大学,博士(文学),甲第 26238 号,2010 年。)
(*)(参考：田野武夫「和辻哲郎とヘルダーリン―ヘルダーの人類史哲学との親和性」人文・自然・人間科学研究23,2010年。)
(*)(参考：太田浩司「18世紀の書簡文化とヘルダーリの小説『ヒュペーリオン』」Aspect：立教大学ドイツ文学科論集44,2010年。)
(*)(参考：加藤由美子「言葉と色彩―ホフマンスタールにおけるゲーテ受容研究の現在」

上智大学ドイツ文学論集47,2010年。)
(*)(参考：青地伯水編/友田和秀・國重裕・恒木健太郎共著『ドイツ保守革命：ホーフマンスタール/トーマス・マン/ハイデッガー/ゾンバルトの場合』松籟社,2010年。)
(*)紅野敏郎「本・人・出版社(136)坪田勝の『トロイの木馬』(街の会刊行)」国文学：解釈と鑑賞75(6),2010年。)
(*)(参考：平山晃司「トロイアの木馬に関する覚え書き」西洋古典論集22,2010年。)
(*)(参考：内田次信「トロイア攻略者オデュッセウスの慟哭と希望」西洋古典論集22,2010年。)
(*)(参考：内田次信「ディオン・クリュソストモス『トロイア陥落せず』：弁論から歴史フィクションへ」文芸学研究14,2010年。)
(*)(参考：田ノ口誠悟「ジャン・ジロドゥ作『トロイ戦争は起こらない』における戦争の表象—戦争を引き起こす「不明瞭なる力」を巡る一考察」演劇映像51,2010年。)
(*)(参考：J.コルタサル,G.バス他著/木村栄一,野谷文昭他訳『短編コレクション=Collected Stories』(レーモン・クノー/塩塚秀一郎訳「トロイの馬」)池澤夏樹編「世界文学全集」,河出書房新社,2010年。)
(*)(参考：星和夫「トロイア」日本病因会雑誌57(11),2010年。)
(*)(参考：星和夫「トロイア戦争の英雄たち」日本病因会雑誌57(12),2010年。)
(*)(参考：喜多尾道冬「DVD発クラシック名作劇場(21)ベルリオーズ：歌劇《トロイ人》すべてが巨大なオペラ—見どころ満載,宝の山」レコード芸術59(9),2010年。)
(*)(参考：亀井高孝他編『標準世界史年表』増補46版,吉川弘文館,2010年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男・堀米庸三編『標準世界史地図』増補第 44 版,吉川弘文館,2010年。)
(*)(参考：飯田国雄・石部勝彦・木村尚三郎『世界歴史』学研ネクスト,2010年。)
(*)村川夏子「講演記録 村川堅固・堅太郎ののこしたもの」(熊本女子大学国文談話会)国文研究55,2010年。
(*)「平田隆一教授退任記念号」ヨーロッパ文化史研究 11,2010 年。
(*)「献呈の辞(守屋嘉美教授・香坂昌紀教授・平田隆一教授退任記念号)」東北学院大学論集・歴史と文化 45,2010 年。
(*)「平田隆一教授業績一覧(守屋嘉美巨樹・香坂昌紀教授・平田隆一教授退任記念号)」東北学院大学論集・歴史と文化 45,2010 年。)
(*)(参考：平田隆一「古代イタリア・ローマ文化におけるアエネアス伝説の受容と展開」東北学院大学論集・歴史と文化 45,2010 年。)
(*)(参考：長谷川岳男「ローマ帝国を捉え直す—古代と現代との対話(特集 ローマ帝国を学び直す)」歴史地理研究 756,2010 年。)
(*)(参考：長谷川岳男「古典期スパルタにおける公と私：ポリス論再考」西洋古典學研究58,2010 年。)
(*)(参考：中川亜希「北イタリアにおける皇帝イメージ—碑文にみられる徳をとおして」(櫻井万里子・師尾晶子編『古代地中海世界のダイナミズム』所収,山川出版社,2010 年。)

(*)(参考：桐澤民雄「古代ローマを揺るがしたスパルタクスの蜂起の授業(特集 ローマ帝国を学び直す)歴史地理教育 756,2010 年。)
(*)(参考：毛利晶「Tauilae Caeritum 考」神戸大学文学部紀要 37,2010 年。)
(*)(参考：毛利晶『リーウィウスとローマ共和政期における伝承および歴史記述の研究』神戸大学 20027 年,(科研費)2010 年。)
(*)(参考：レモン・シュヴァリエ,レミ・ポワニョ/北野徹訳『ハドリアヌス帝：文人皇帝の生涯とその時代』文庫クセフ 945,白水社,2010 年。)
(*)落合信彦「新世界大戦の時代 このままではカルタゴの滅亡の轍を踏む 日本を「死分け」する鳩山友愛政権のハネムーンは終わった」サピオ 22(1),2010 年。
(*)青木真兵「都市紹介カタルヘナ—新たなるカルタゴ」関西大学西洋史論叢 13,2010 年。
(*)(参考：塩野七生『十字軍物語(1-3)』新潮社,2010-11年。)
(*)(参考：ジュディス・ヘリン/足立広明訳『ビザンツ：驚くべき中世帝国』白水社,2010年。)
(*)南川高志編「フォーラム 古代史研究から見た西洋史学の将来(櫻井万里子・師尾晶子編『古代地中海世界のダイナミズム・空間・ネットワーク・文化の交錯』山川出版社刊)を素材として」西洋史学 240,2010 年。
(*)(参考：疋田隆康「好古家の「ケルト」観—ケリュス伯とエドワード・ギボン」西洋古代史研究10,2010年)
(*)(参考：芝井敬司「祖父エドワード・ギボンの遺書を読む」關西大學文學論集60(2),2010年。)
(*)(参考：鎌田浩毅「京大人気No.1科学者が読み解く一生モノの古典(31)ギボン著『ローマ帝国衰亡史』反映の頂点から滅亡の淵へ 敵は内部の堕落と腐敗にある」週刊東洋経済6262,2010年。)
(*)(参考：服部良久・南川高志・小山哲・金澤周作編『人文学への接近法—西洋史を学ぶ』京都大学学術出版会,2010 年。)
(*)(参考：酒井三郎著/青木信家代表編集『酷寒男興亡と歴史家「復刻・解説」』(ギボン「ローマ帝国衰亡史」)北樹出版,2010 年。)
(*)(参考：金悳洙/高橋亮介訳「歴史のひろば 韓国における西洋古代史研究--韓国西洋史学会 50 周年記念によせて」(歴史科学協議会)歴史評論 723,2010 年。)
(*)(参考：晏紹祥/高橋亮介訳「歴史のひろば 中国における西洋古代史研究」(歴史科学協議会)歴史評論 723,2010 年。)
(*)(参考：高橋亮介「歴史のひろば 日韓中西洋古代史学会の交流と動向」(歴史科学協議会)歴史評論 723,2010 年。)
(*)(参考：中務哲郎『ヘロドトス『歴史』：世界の均衡を描く』書物誕生：新しい古典入門,岩波書店,2010 年。)
(*)(参考：松村劭『世界全戦争史』エイチアンドアイ,2010 年。)
(*)(参考：松村劭『三千年の海戦史(上下)』中公文庫,中央公論新社,2010 年。)
(*)(参考：松村劭『名将たちの伝説的戦術：勝利を決めた』PHP 文庫,PHP 研究所,2010 年。)
(*)(参考：松村劭「小が大に勝つ戦略(8)アエティウスの「シャロンの戦闘」完全勝利を目指さない」日経トップリーダー302,2010 年。
(*)(参考：松村劭「小が大に勝つ戦略(9)ベリサリウスの「ダラの戦闘」相手を迷わせる」日経トップリーダー303,2010 年。

(*)(参考：松村劭「小が大に勝つ戦略(10)スーラの「カイロネアの戦闘」力でなく,知恵で戦う」日経トップリーダー304,2010 年。
(*)(参考：森谷公俊「「教養」としての歴史学について」帝京史学 25,2010 年。)
(*)(参考：森谷公俊「アレクサンドロス帝国の実像(特集 アレクサンドロスの道,変容するアレクサンドロスの死)」(千里文化財団)季刊民族学 34(2)[132],2010 年。)
(*)(参考：橋本隆夫「ギリシアからの逸脱--『アレクサンドロス物語』(特集 アレクサンドロスの道,変容するアレクサンドロスの死)」(千里文化財団)季刊民族学 34(2)[132],2010 年。)
(*)(参考：山本由里子「呪われたもの—ゾロアスター教徒のアレクサンドロス観」(千里文化財団) 季刊民族学 34(2)[132],2010 年。)
(*)(参考：山本由里子「中国に伝わったアレクサンドロス伝承」(千里文化財団) 季刊民族学 34(2)[132],2010 年。)
(*)(参考：山本由里子「破壊者から英雄へ—イランにおけるアレクサンドロス伝承」(千里文化財団) 季刊民族学 34(2)[132],2010 年。)
(*)坂井弘紀「書評 山中由里子著『アレクサンドロス変相—古代から中世イスラームへ』」東洋史研究 68(4),2010 年。)
(*)(参考：蔀勇造「イスカンダルとズ・ル・カルナイン—アラビアにおけるアレクサンドロス」(千里文化財団) 季刊民族学 34(2)[132],2010 年。)
(*)(参考：加藤九祚「東からの風—中央アジアのアレクサンドロス余話」(千里文化財団) 季刊民族学 34(2)[132],2010 年。)
(*)(参考：守川知子「「イラン史」の誕生(小特集 近代史学史再考—アジアの事例から)」歴史学研究 863,2010 年。)
(*)(参考：桐澤民雄「古代ローマを揺るがしたスパルタクスの蜂起の授業」(歴史教育者協議会)歴史地理教育 756,2010 年。)
(*)(参考：佐野光宜「帝政期ヒスパニアにおける剣闘士競技：属州パエティカの事例を中心に」西洋古典學研究 58,2010 年。)
(*)(参考：中川亜希「古代ローマ皇帝における皇帝像と名望家像：北イタリアの都市参事会決議に見られる徳を通して」西洋古典學研究 58,2010 年。)
(*)(参考：佐野光宜「皇帝礼拝と剣闘士競技(特輯 ギリシア・ローマ世界における都市と帝国の儀礼(下))」古代文化 62(3),2010 年。)
(*)(参考：梶田知志「ローマ共和政後期における剣闘士養成所の発展過程」史観 163,2010 年。)
(*)(参考：二階堂卓也『剣とサンダルの挽歌：イタリア歴史活劇映画大全』洋泉社,2010 年。)
(*)河阪光「興奮と感動を誘う古代ローマ史の授業」(歴史科学協議会)歴史評論 723, 2010 年。
(*)(参考：Conrad C.Crane「無秩序に備えたクリオとマルス—軍事史から見た複合的平和と戦争の新段階」防衛学研究 42,2010 年。)
(*)森谷公俊「「教養としての歴史学」について」(帝京大学文学部史学科)帝京史学 25, 2010年。
(*)「文献紹介 マルチェッロ・シモネッタ著/熊井ひろ美訳『ロレンツィオ・デ・メディチ暗殺：中世イタリア史を覆す「モンテフェルトロの陰謀」』」(戦略研究学会)戦略研究 8,2010年。

(*)(参考：佐藤彰一「19世紀フランスの歴史学と歴史教育(特集 学問・教養・19世紀)」19世紀学研究4,2010年。)
(*)(参考：酒井三郎著/青木信家代表編集『国家の興亡と歴史家「復刻・解説」』(立正大学西洋史研究会)北樹出版,2010年。)
----・酒井三郎著『国家の興亡と歴史家』並びに「E・ギボン『ローマ帝国衰亡史』叙述のなりたち」の復刻にあたって
・『国家の興亡と歴史家』(イリオスの滅びる日—序にかえて；神の国の没落；世界的国家の興隆)
・E.ギボン『ローマ帝国衰亡史』叙述のなりたち
・今、なぜ酒井三郎か?--『国家の興亡と歴史家』に至る歩みと今日的課題
(*)(参考：中務哲郎『ヘロドトス『歴史』--世界の均衡を描く』書物誕生：あたらしい古典入門,岩波書店,2010年。)
(*)石山洋「海野一隆『地図文化史上の広輿図』(東洋文庫論叢 73)東洋文庫」科学史研究,第II期49(256),2010年。
(*)(参考：土居通正「エーゲ海青銅器時代終末期の編年に関する一考察：前13世紀末から前12世紀初期の土器の検討から(研究発表,西洋史部会,第107回史学会大会報告)」史學雑誌119(1),2010年。
(*)「文献目録—西洋史1」史學雑誌119(1),2010年。
(*)「文献目録—西洋史2」史學雑誌119(5),2010年。
(*)前田修「一(古代オリエント,西アジア・北アフリカ,2009年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌119(5),2010年。
(*)岩井俊平「二(古代オリエント,西アジア・北アフリカ,2009年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌119(5),2010年。
(*)栗山保之「イスラーム時代(古代オリエント,西アジア・北アフリカ,2009年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌119(5),2010年。
(*)菅瀬晶子「近現代(古代オリエント,西アジア・北アフリカ,2009年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌119(5),2010年。
(*)佐藤昇「ヨーロッパ：古代：ギリシア(2009年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌119(5),2010年。
(*)志内一興「ヨーロッパ：古代：ローマ(2009年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌119(5),2010年。
(*)加藤玄「一般(中世,ヨーロッパ(2009年の歴史学界:回顧と展望)」史學雑誌119(5),2010年。
(*)栗山保之「イスラーム時代(古代オリエント,西アジア,北アフリカ)2009年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌119(5),2010年。
(*)根津由喜夫「ロシア・ビザンツ(中世,ヨーロッパ(2009年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌119(5),2010年。
(*)岩間俊彦「イギリス(近代,ヨーロッパ(2009年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌119(5),2010年。
(*)永井敦子「フランス(近代,ヨーロッパ(2009年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌119(5),2010年。
(*)踊共二「ドイツ(近代,ヨーロッパ(2009年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌119(5),2010年。

(*)小田原琳「ヨーロッパ : 近代南欧(2009年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌119(5),2010年。
(*)中村純「澤田典子著「アテネ最期の輝き」」史學雑誌119(7),2010年。
(*)「文献目録—西洋史3」史學雑誌119(9),2010年。
(*)(參考 : 伊藤雅之「ローマ外交と紀元前200年晩秋の開戦 : 第二次マケドニア戦争をめぐって」史學雑誌119(10),2010年。)
(*)(參考 : 田辺由美子「Graham J,Oliver,War,food,and politics in early Hellenistic Athens」西洋史研究 39,2010 年。)
(*)(參考 : 遠藤直子「Kristina Milnor,Gender domesticity,and the age ofAugustus : investing private life」西洋史研究 39,2010 年。)
(*)(參考 : 新保良明「論点開示 ローマ帝国と「3 世紀の危機」--虚像か実,像か(「西洋史研究会」2009 年度大会共通論題報告 3 世紀の「危機」特集)」西洋史研究 39,2010 年。)
(*)(參考 : 井上文則「論点開示 軍人皇帝時代の政治的危機再考(「西洋史研究会」2009 年度大会共通論題報告 3 世紀の「危機」特集)」西洋史研究 39,2010 年。)
(*)(參考 : 大清水裕「論点開示 「危機」の時代の北アフリカ—ガリエヌス帝治世のトゥッガ市を中心に(「西洋史研究会」2009 年度大会共通論題報告 3 世紀の「危機」特集)」西洋史研究 39,2010 年。)
(*)(參考 : 保坂高殿「論点開示 宗教政策私的観点から見た「3 世紀の危機」(「西洋史研究会」2009 年度大会共通論題報告 3 世紀の「危機」特集)」西洋史研究 39,2010 年。)
(*)(參考 : 「討論(「西洋史研究会」2009 年度大会共通論題報告 3 世紀の「危機」特集)」西洋史研究 39,2010 年。)
(*)(參考 : 渡邉雅弘「未来としての過去」(野田裕久編『保守主義とは何か』ナカニシヤ出版,2010 年,所収。)
(*)増田勝彦・床井啓太郎・岡本幸治「西洋古典資料の組織的保存のために」(一橋大学)Study Series64,2010年。
(*)(參考 : 田邊正彰「欧州高等教育圏と質保証」(エラスムス)金沢学院大学紀要 文学・美術・社会学編8,2010年。)
(*)(參考 : C.モーガン/周藤芳幸・長尾美里訳「在アテネ・イギリス研究所と博士課程教育支援」(名古屋大学大学院文学研究科教育研究推進室年報)メタブヒティカ4,2010年。)
(*)金山弥平「満足できるFDに向けて—第34回POD年次大会に出席して」」(名古屋大学大学院文学研究科教育研究推進室年報)メタブヒティカ4,2010年。)
(*)久保正彰「学士会と学士院--百年の星霜を超えて」学士会会報2010(6),2010年。
(*)(參考 : 青柳正規「彙報 国際学士院連合第83回総会報告」日本学士院紀要64(1),2010年。)
(*)(參考 : 伊藤貞夫「史料研究と学説史—古代経済史の場合」日本学士院紀要 64(2),2010年。)
(*)(參考 : 権田アスカ他編『哲学男子』一迅社,2010年。)
(*)小野寺龍太『栗本鋤雲 : 大節を堅持した亡国の遺臣』ミネルヴァ日本評伝選,ミネルヴァ書房,2010年。
(*)阿刀田高『イソップを知っていますか』新潮社,2010年(→2012年,新潮文庫版)。

(*)星新一著；葉薫譯『星新一科幻超短編：未来伊索寓言』正文社出版,2010年。
(*)狩野博幸・河鍋楠美『反骨の画家・河鍋暁斎』とんぼの本,新潮社,2010年。
(*)Scott Johnson,山口静一「資料紹介(116)六耀社『河鍋暁斎画集』二巻(平成6年刊)イーソップから伊蘇普まで『通俗伊蘇普物語』の形成」暁斎100,2010年。
(*)(参考：加藤康子・三宅興子・高岡厚子『日本・イギリス・フランスにおける絵本の国際比較研究：「イソップ寓話」をめぐって』梅花女子大学児童文学科,2010年。)
(*)齋藤孝『親子でやる齋藤式まとめ力をつけながら読むイソップ：文章題もスラスラできるようになる』マガジンハウス,2010年。
(*)日本語多読研究会再話；野村まり子挿絵『風と太陽：イソップ物語より』レベル別日本語多読ライブラリー：にほんごよむよむ文庫,lebel 0vol.2;7アスク出版,2010年。
(*)ジェリー・ピンクニー作；さくまゆみこ訳『ライオンとねずみ：イソップものがたり』光村教育図書,2010年。
(*)イソップ原作/蜂飼耳文・たしろちさと絵『ウサギとカメ』イソップえほん4,岩崎書店,2010年。
(*)イソップ原作/ロベルト・ピウミーニ文,バルバラナッシンペーニ絵,高橋隆子訳『うさぎとかめ：イソップ童話』世界の名作えほん,西村書店東京出版編集部,2010年。
(*)イソップ原作/小出正吾ぶん・三好碩也絵『イソップのおはなし』のら書店,2010年。
(*)イソップ原作『イソップどうわ25話』名作よんでよんで,3さい~6さい親子で楽しむおはなし絵本,学研教育出版,学研マーケティング(発売),2010年。
(*)和泉勇訳 ; 東京イラストレーターズ : ソサエティ,リクルートクリエーションガラリーG8協力『新訳イソップ物語 : 182人のイラストレーターが描く』小学館,2010年。
(*)(参考：伊藤博明「ポッジョ・ブラッチョリーニと『伊曽保物語』：シュタインヘーベル編「イソップ寓話集」のスペイン語版について」埼玉大学紀要 教養学部45(2),2010年。)
(*)濱田幸子「『伊曽保物語』と江戸時代におけるその受容について」佛教大学大学院紀要・文学研究科篇38,2010年。
(*)(参考：宍戸洋子「寓話・童話・物語に登場する動物考—イソップ・アンデルセン・日本昔話の作品を通して」名古屋短期大学研究紀要48,2010年。)
(*)谷田千代子「イソップ寓話の変容と寓意性：明治・大正期出版「犬とその影」をめぐって」仁愛大学研究紀要・人間生活学部篇2,2010年。
(*)宇井十間「詩論の現在(10)(11)預言者はどこにいるのか、フォルムとその語り：(中村)草田男のイソップ」現代詩手帖53(10,11),2010年。
(*)(参考：小鹿原敏夫「横光利一「蠅」におけるラ・フォンテーヌ『寓話』の受容と変容について」京都大學國文學論叢23,2010年。)
(*)ロマノ・ヴルピッタ「折節の記 保田與重郎,日本人としての世界人」正論461,2010年。)
(*)ロマノ・ヴルピッタ「生誕百年,保田與重郎を語ろう」正論465,2010年。)
(*)山田富士郎「評伝會津八一(7)ハーンと八一」歌壇24(10),2010年。
(*)前田知津子「茂吉とニーチェ：「柿本人麻麿私見覚書」における「ディオニュソス的」の意味(1,2)」近代文学論集36,2010年/37,2011年。
(*)太宰治作・藤田香絵『走れメロス：太宰治名作選』角川つばさ文庫,角川グループパブリッシング(発売),アスキー・メディア・ワークス,2010年。

(*)太宰治作・高芝昌子漫画・井沢まさみ漫画『走れメロス：富嶽百景』Manga bungoシリーズ,ホーム社,集英社(発売),2010年。
(*)太宰治作・広岡球志作画『走れメロス : 富嶽百景』文芸まんがシリーズ13,ぎょうせい,2010年。
(*)近藤周吾「太宰治「走れメロス」校訂」富山高等専門学校紀要1,2010年。
(*)日置俊次「太宰治論：「走れメロス」から「津軽」へ」青山語文40,2010年。
(*)奥村淳「太宰治「走れメロス」,もうひとつの可能性」山形大学,人文科學17(1),2010年。
(*)桃原千英子「読みの交流による『走れメロス』の授業実践」臨床教科教育学会誌10(1),2010年。
(*)高橋秀太郎「信と歓喜—昭和5年の善蔵とメロス(特集 太宰治101)」iichiko 107,2010年。
(*)伊藤誠二編『野上弥生子の文学とその周辺』草場書房,2010年。
(*)鳥取県立図書館編集『生田長江』鳥取県立図書館,2010年。
(*)鎌田浩樹「京大 No.1 科学者が読み解く一生モノの古典(19)神谷美恵子著『生きがいについて』試練に直面した夜更けに何度も読み返した名著」週刊東洋経済 6247,2010 年。)
(*)釘宮明美「神谷美恵子の宗教思想：『生きがいについて』の射程(第 4 部会,特集 第 68 回学術大会紀要)」宗教研究 83(4),2010 年。
(*)輪倉一広「岩下壮一の生涯と思想形成(1)」紀要39,2010年。
(*)若松英輔「吉満義彦(新連載)」三田文学[第3期]90(104),2010年
(*)「岩崎允胤氏の逝去を悼む(含 岩崎允胤先生の経歴と業績)」唯物論研究(54・55),2010年。
(*)原口尚彰「日本新約学史における山谷省吾」キリスト教史学64,2010年。
(*)川島重成「「永遠の相の下に」Sub specie aeternitatis--加藤周一と神田盾夫」ペディラヴィウム65,2010年。
(*)(参考：横手義洋「建築史を疾走する」UP 39(1),2010年。)
(*)(参考：田中純『都市の持続的変容について：ローマと奈良(第二部』論考(1),〈特集〉平壌遷都1300年考)」建築雑誌1611,2010年。)
(*)(参考：パオロ・ニコローゾ著/桑木野幸司訳『建築家ムッソリーニ：独裁者が夢見たファシズムの都市』白水社,2010年。)
(*)(参考：斯波照雄編・岩井隆夫他執筆『商業と市場：都市の歴史的変遷と現状』研究叢書29,中央大學出版部,2010年。)
(*)西田雅嗣・吉武隆一・伊藤重剛他「ディスカッション(記念シンプジウム 建築史研究における海外調査)建築史学55,2010年。
(*)(参考：伊藤重剛・吉武隆一「地中海古代都の研究(127)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 49,2010 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・安井伸顕・吉武隆一・岩田千穂・ソクンティーセイン「地中海古代都市の研究(128,129,130)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 49,2010 年。)
(*)(参考：吉武隆一「地中海古代都市の研究(131)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 49,2010 年。)
(*)(参考：渡邉道治「836 ギリシア・ローマ時代の八角形平面をもつ建物について(歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 49,2010 年。)
(*)(参考：福田哲也・堀賀貴「842 ファシズム期ローマにおける建築と古代ローマ遺跡の関

係(歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 49, 2010 年。)
(*)(参考：大村真理子・花里利一・箕輪親宏・中川貴文「23456 海外の地震国における世界遺産組積造建築物の耐震性に関わるモニタリング調査：その 2 常時微動測定によるパルテノン神殿における耐震性の検討(海外の組積造 I,構造 IV)」学術講演梗概集 C2, 構造 IV,鉄筋コンクリート構造,プレストレストコンクリート構造,壁構造・組積構造,2010,2010 年。)
(*)(参考：増永恵・西田雅嗣「9001 聖書の中の〈幕屋〉と〈神殿〉について(建築史・建築意匠・建築論)」日本建築学会近畿支部研究報告集,計画系 50, 2010 年。)
(*)(参考：Kim Minsuk・益田兼房・後藤洋三「ダフニ修道院とオリンピア遺跡における際学復旧工事の理念と手法(文化遺産防災に関わる海外の事例)」歴史都市防災論文集 4,2010 年。)
(*)(参考：市川秀和「ウィトルウィウス美学の受容と京都学派の建築論(第61回美学会全国大会発表要旨)」美學61(2),2010年。)
(*)市川秀和「「京都学派の建築論」とは何か：森田慶一のウィトルウィウス研究を起点にして(建築論・原論・建築歴史・意匠)」学術講演梗概集,F-2, 建築歴史・意匠 2010,2010年。
(*)市川秀和「京都学派の建築論考(1)森田慶一とウィトルウィウス研究」建築史学54,2010年。
(*)(参考：飛ヶ谷潤一郎「学会展望イタリア・ルネサンス建築史：建築書やオーダーに関する研究を中心に」建築史学55,2010年。)
(*)(参考：飛ヶ谷潤一郎「9036 セルリオのイオニア式戸口の解釈：閉口部周辺の渦巻き装飾に着目して(西洋建築史 ルネサンス・バロック, 建築歴史・意匠)」学術講演梗概集,F-2, 建築歴史・意匠2010,2010年。)
(*)田路貴浩「9014アリストテレスによる森田慶一建築論の問題定位(建築史・建築意匠・建築論)」日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系50,2010年。
(*)(参考：高橋裕子「ギリシア初期鉄器時代に関する調査および研究動向2000-2009年」地中海学研究33,2010年。)
(*)(参考：白井秀和研究代表『ル・コルビュジエの建築理論にみるウィトルウィウス的原理への遡及』白井秀和,科学研究費補助金基礎研究(C)(2)研究成果報告書 平成15-17年度,2010年。)
(*)梶原洋一「W.ブラウンフェルス著渡辺鴻訳「図説西欧の修道院建築」(八坂書房)」史學雑誌119(12),2010年。
(*)(参考：高田康成『イタリア建築の精神史』山川出版,2010年。)
(*)(参考：池上俊一『イタリア建築の精神史』山川出版,2010年。)
(*)(参考：長谷川欽一「文明の盛衰と豊かさを支えた技術(豊かさと技術倫理)」技術倫理と社会5,2010年。)
(*)(参考：佐藤英樹「造形芸術による自然再現の際に,記憶機能はいかに作用するのか―エマヌエル・レーヴィ『初期ギリシア芸術における自然再現』における記憶像理論」美術解剖学雑誌14(1),2010年。)

(*)(参考 : 高橋等「アリストテレス的数学観に立つ数学教育学研究の幾つかの方向」上越数学教育研究25,2010年。)
(*)(参考 : 真田久「近代ギリシャのオリンピア競技祭の展開と変容に関する研究」人間科学研究23(2),2010年。)
(*)(参考 : 真田久「近代ギリシャのオリンピア競技祭における芸術競技の変容(キーノートレクチャー,12スポーツ人類学,専門分科会企画)」日本体育学会大会予稿集61,2010年。)
(*)(参考 : 真田久『近代ギリシャのオリンピア競技祭の展開と変容に関する研究』早稲田大学 文学博士(人間科学)乙第2282号,2010年。)
(*)(参考 : 内海和雄「オリンピックと平和」季論21(9),2010年。)
(*)(参考 : 橋場弦「オリンピック 古代と現代」公研559,2020年。)
(*)(参考 : 和田浩一「オリンピズムという思想—新しいオリンピズムの構想への序章(特集,スポーツ思想を学ぶ)—(スポーツ思想の愉しみ)」現代スポーツ評論23,2010年。)
(*)(参考 : 和田浩一「10史-1A-K01 鳥谷部春汀によるクーベルタン・オリンピズムの解釈 ; 「體育界の偉人クベルタン」『中學世界』(1903年11月号)の分析(01.体育史,一般研究発表)」日本体育学会大会予稿集61,2010年。。)
(*)(参考 : 久保千春他『ためになる医学史・年表』光原社,2010年。)
(*)(参考 : 小林剛「アルベルトゥス・マグヌスの生命論 : 『動物論』第16巻第1論考第7章と第11章」紀要 哲学科52(232),2010年。)
(*)(参考 : 高橋正雄「病跡学閑話(15)ヘロドトスの『歴史』--世界最古の病跡学的な記録」日本医事新報4477,2010年。)
(*)(参考 : 木原志乃『流転のロゴス—ヘラクレイトスとギリシア医学』昭和堂,2010年。)
(*)(参考 : 河口明人「健康概念の起源について—古代ギリシャ世界における身体と生命(2)」北海道大学大学院教育学研究院紀要 111,2010 年。)
(*)(参考 : 丸善出版制作/発行『生命体を描いたダイヤグラム : ダ・ヴィンチのウィトルウィウス的人体図/DNAの二重らせん』丸善出版,2010年?
(*)(参考 : P.ダポート,羽田康一「(リアーチェンのブロンズ)化学的調査・ガンマ線,直接法・間接法」アジア鋳造技術史学会研究発表概要集4,2010年。)
(*)(参考 : V.スミス/鈴木実佳訳『清潔の歴史—美・健康・養生』東洋書林,2010年。)
(*)(参考 : 西巻明彦「プラタヌス(ヒポクラテスの木)の受容と新宿御苑」日本歯科医史学会会誌 28(2),2010 年。)
(*)(参考 : 西巻明彦「(6)プラタヌス(ヒポクラテスの木)の受容と新宿御苑(日本歯科医史学会第 37 回(平成 21 年度)学術大会講演事後抄録)」日本歯科医史学会会誌 28(3),2010年。)
(*)(参考 : 豊田剛「医の倫理」Journal of Nara Medical Association61(1-2),2010年。)
(*)(参考 : 磯崎康彦「石川大浪と蘭画(1)」福島大学人間発達文化学類論集12,2010年。)
(*)(参考 : 菅野幸子・本田克也「近代ギリシャにおける『ヒポクラテス全集』の継承」日本醫史学雑誌56(1),2010年。)
(*)(参考 : 吉野靱「ヒポクラテスの切っ先(特集 医療現場への問い—医療・福祉の転換点で)」現代思想38(3),2010年。)

(*)(参考：中井久夫「臨床探訪(1)患者と医師と薬とのヒポクラテス的出会い」みすず52(2), 2010年。)
(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(24)骨の自然性・骨折」治療 92(1), 2010 年。)
(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(25)関節疾患・脱臼」治療 92(2), 2010 年。)
(*)(参考 : 中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(26,27,28)婦人について(1,2,3)」治療 92(3,4,5), 2010 年。)
(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(29)子どもの自然性」治療 92(6), 2010 年。)
(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(30,31)疾病と疾患(1,2)」治療 92(7,8), 2010 年。)
(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(32)風(体内風気)について」治療 92(9), 2010 年。)
(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(33)七について」治療 92(10),2010 年。)
(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(34)分利(病の峠)について」治療 92(11), 2010 年。)
(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(35)腺・肉質について」治療 92(12), 2010 年。)
(*)(参考：内藤健晴「エアロゾル療法に関する研究の歴史と今後の展望」耳鼻咽喉科展望 53(Supplenet2),2010 年。)
(*)(参考：中田力「フィロソフィア・メディカ—複雑系科学入門(8)医療の原点」日本医事新報 4479,2010 年。)
(*)(参考：中田力「フィロソフィア・メディカ—複雑系科学入門(12)神の杖」日本医事新報 4496,2010 年。)
(*)(参考：「マネージャー叛「ヒポクラテスの誓い」(Fearture Articles ハーバード流リーダーシップ講座)—(Moral & Ethics)」Diamond ハーバード・ビジネス・レビュー 35(2),2010 年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐるパノラマ(24)カッシオドルス」綜合看護45(2),2010年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐるパノラマ(25)イシドルス」綜合看護45(3),2010年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐるパノラマ(64)僧院医学からの遺産」綜合看護45(4),2010年。)
(*)(参考：橋場弦「古代の疫病」公研564,2010年。)
(*)(参考：吉次通泰「古代社会における終末期医療の視点：印度,ギリシア,エジプトについて」生命倫理20(1),2010年。)
(*)(参考：平田隆一「ローマ帝国における臓卜師(haruspices)の盛衰の諸原因(特集 帝国の類型)」東北学院大学論集：歴史と文化46,2010年。)
(*)末永和幸「真昼のプリニウス,著者 池澤夏樹著,中公文庫(読書のすすめ)」地学教育と科学運動63,2010年。)
(*)須田真理デザイン・編集『島田忠幸展：プリニウス変貌する犬』渋川市美術館・桑原巨守り彫刻美術館,2010年。

(*)(参考 : 内藤道雄『ワインという名のヨーロッパ—ぶどう酒の文化史』八坂書房,2010年。)
(*)(参考：池口守「古代イタリアにおける肉食の実体と変容—牛肉の生産と消費を中心に」(櫻井万里子・師尾晶子編『古代地中海世界のダイナミズム』所収,山川出版社,2010年。)
(*)(参考：アルトゥーロ・サンガッリ/富永星訳『ピュタゴラスの復讐：数学ミステリー=Pytagoras' revenge：a mathematical mystery』日本評論社,2010年。)
(*)柴山允瑠「書評 『天体力学のパイオニアたち』(上下)F.ディアク・ホームズ著/吉田春男訳」数学通信14(4),2010年。
(*)(参考：菊地原洋平「パラケルススの予言書の位置付け：ルネサンス社会における占星術とキリスト教論理」化学史研究37(3),2010年。)
(*)(参考：澤井繁男『魔術師たちのルネサンス：錬金術からコスモロジーへ』青土社,2010年。)
(*)(参考：畑一成「力としての自然—ゲーテ自然学とシェリング自然哲学から」エコ・フィロソフィ研究4,2010年。)
(*)(参考：十七世紀英文学会編『十七世紀英文学と科学』(新ストア主義等)17世紀英文学研究,金星堂,2010年。)
(*)(参考：アンダーウッド・ダッドリー/森夏樹訳『数秘術大全』青土社,2010年。)
(*)(参考：相澤章子・内山清子・池谷瑠絵『からくりインターネット：アレクサンドリア図書館から次世代ウェブ技術まで』情報研シリーズ11,丸善ライブラリー,丸善,2010年。)
(*)横山茂雄「牛涎的博士—坪井正五郎をめぐって」思想 1030,2010 年。
(*)「義兄が市長選挙落選「管財務相」とイソップ童話(支持率28%!!鳩山政権「墜落警報」)週間新潮55(16),2010年。
(*)瀧沢伯文「国際経済 債権動向から日米関係を分析 いつまで続く日本勢の米国買い—イソップ寓話が暗示するもの」金融財政 business10111,2010 年。
(*)植西聡『転ばぬ先のイソップ物語』経済界,2010 年。
(*)塩澤修平・坂本達哉編『高橋誠一郎---人と学問』慶應義塾大學出版部,2010 年。
(*)飯田裕康「経済学史研究者としての高橋誠一郎」三田学会雑誌102(4),2010年。
(*)倉橋曉「古代ローマの税制と日本」松蔭大学大学院経営管理研究科松蔭論集5,2010年。
(*)(参考：米田昇平「経済学の起源とアウグスチヌス主義：17世紀後半のフランス思想を中心として」経済学研究51(2),2010年。)
(*)(参考：山中敏裕「「貨幣の資本への転化」における「ここがロドスだ、ここで跳べ!」の含意」商学集志80(2),2010年。)
(*)(参考：森原隆編『ヨーロッパ：エリート支配と政治文化』成美堂,2010年。)
-----豊田和二「政治エリートとポリス・アテナイ」
山元大丙「もうひとつの「宗教改革急進派」：「愛の家」と人文主義エリート」
橋川裕之「学びの果て：ビザンティン哲学者の自伝と自負」
(*)(参考：奥貞二「西洋思想研究 古代ギリシア」鈴鹿工業高等専門学校紀要43,2010年。)
(*)大貫俊彦「政治の中の「想起録」---明治二三年、政界引退後の矢野龍溪の「政治的」態度をめぐって」文藝と批評11(1),2010年。
(*)(参考：森谷公俊「講義録--パルテノン神殿の政治学」帝京史学25,2010年。)

(*)(参考：角田幸彦『政治哲学へ向けて：政治・歴史・教養(キケローとプラトン,ヴィーコ,ブルクハルト,アーレント,レオ・シュトラウス)』文化書房博文社,2010年。)
(*)(参考：橋場弦「アテナイ民主政の警察機能と市民」(吉田伸之・伊藤毅編『伝統都市2権力とヘゲモニー』所収,東京大学出版会,2010年。)
(*)橋場弦「「堀井健一「古典期アテナイ民主政に関する論争とプラトン『法律』の一記述に関する問題」法制史研究59,2010年。
(*)佐藤昇「橋場弦『賄賂とアテナイ民主政—美徳から犯罪へ』」法制史研究59,2010年。
(*)栗原麻子「書評 橋場弦『賄賂と民主政—美徳から犯罪へ』」西洋史学238,2010年。
(*)(参考：澤田典子『アテネ民主政：命をかけた八人の政治家』講談社選書メチエ 465,講談社,2010年。)
(*)(参考：加藤信朗『ギリシャ政治哲学の総括的研究』首都大学東京(2007年),(科研費)2010年。)
(*)(参考：加茂英臣「プレオネクシアとメテクシス—自然の正義とゼウスの正義」千葉大学教育学部研究紀要58,2010年。)
(*)(参考：高橋雅人『プラトン『国家』における正義と自由』知泉書館,2010年。)
(*)(参考：M.B.フォスター/永井健晴訳『プラトンとヘーゲルの政治哲学』風行社,2010 年。
(*)(参考：岩田靖夫『アリストテレスの政治思想』岩波書店,2010 年。)
(*)(参考：荒木勝「アリストテレス政治哲学研究の諸前提—伝記的素描,『政治学』の構成,研究の方法」岡山大学法学会雑誌 59(3・4),2010 年。)
(*)(参考：稲村一隆「アリストテレスの政治哲学における応報的平等の意義」社会思想史研究 34,2010 年。)
(*)(参考：田中創『帝国統治と弁論：後期ローマ帝国下の東地中海都市』東京大学,博士(文学),甲第 26493 号,2010 年。)
(*)(参考：毛利晶「古代ローマの市民権とケーンスス(戸口調査)—所謂 ius migrandi に考察の手掛かりを求めて」西洋史研究 39,2010 年。)
(*)(参考：的射場敬一「古代ローマにおける「市民」と「市民権」」国士舘大学政治研究 1,2010 年。)
(*)(参考：内田康太「共和政末期ローマにおける上位公職選挙の性格：『選挙運動備忘録』を中心に」クリオ=Clio24,2010 年。)
(*)(参考：ヘンリック・ムールツィン/高橋亮介・鷲田睦朗訳「民衆・民会の権力：ローマ政体論への新しいアプローチ」パブリック・ヒストリー7,2010 年。)
(*)(参考：須藤祐孝編訳・註解；フィリッポ・ミニーニ協力『ジローラモ・サヴォナローラ「出家」をめぐる詩と手紙：ルネサンス・イタリアにおける「政治的」修道士の胎動』無限社(岡崎),2010 年。)
(*)(参考:竹原創一「ルターとアリストテレス—正義の理解をめぐって(特集 ハヤトロギア)」基督教学研究 30,2010 年)
(*)(参考:高橋広次「アリストテレス—トマスにおける政治的知慮について」南山法学 33(3・4),2010 年。)
(*)(参考：大賀哲「ハンス・モーゲンソーにおける国際政治学と政治学史—二つのアリストテレス講義から」政治研究 57,2010 年。)
(*)(参考：竹峰義和「マルクス主義の死後の生—アレクサンダー・クルーゲ『イデオロギー的な古典古代からのニュース—マルクス-エイゼンシュタイン-資本論』

(2008 年)をめぐるノート」思想 1032,2010 年。)
(*)(参考：柳父圀近『ウェーバーとトレルチ：宗教と支配についての試論』デジタルパブリッシングサービス,オンデマンド版,みすず書房,2010 年。)
(*)(参考：角田幸彦『政治哲学へ向けて：政治・歴史・教養(キケロとプラトン、ヴィーコ、ブルクハルト、アーレント、レオ・シュトラウス)』文化書房博文社,2010 年。)
(*)(参考：中金聡「快楽主義と政治—レオ・シュトラウスのエピクロス主義解釈について」(政治哲学研究会)政治哲学9,2010年(→2015年,西永亮編『シュトラウス政治哲学に向かって』所収,小樽商科大学研究叢書,小樽商科大学出版。)
(*)(参考：角田幸彦『キケロー裁判弁説の精神史的考察』文化書房博文社,2010年。)
(*)(参考：中金聡「カルネアデスの講義：正義をめぐる二つのトポス」国士舘大学政治研究1,2010年。)
(*)(参考：郭峻赫/権南希訳「熱望の正治—マキャヴェッリと古典的共和主義」政治思想研究10,2010年。)
(*)(参考：鹿子生浩輝「マキャヴェッリとイタリア」年報政治学61(2),2010年。)
(*)(参考：面地敦『14 世紀末より 15 世紀にかけてのヴェネツィア共和国のイタリア本土における領土の形成とその防衛についての考察』関西学院大学出版会,2010 年。)
(*)(参考：鎌野多美子「EU市民の理想像：ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ」国際研究論集 大阪国際大学紀要24(1),2010年。)
(*)(参考：植村邦彦「16世紀の「市民社会」：〈civil society〉という語の初出と語義について」關西大學經經濟論集59(4),2010年。)
(*)(参考：北村暁夫・小谷眞男編『イタリア国民国家の形成：自由主義期の国家と社会』日本経済評論社,2010年。)
(*)(参考：森原隆編『ヨーロッパ・エリート支配と政治文化』(豊田和二「政治エリートとポリス・アテナイ」/山本大丙「もうひとつの「宗教改革急進派」：「愛の家」と人文主義エリート」/皆川卓「新ストア主義はエリートの「規律化」に貢献したか」)成文堂,2010年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「『マリーノ・ファリエーロ』と『ヴェツィアの一夜』のなかのヴェネツィア貴族政不信」人文学研究所報44,2010年。)
(*)(参考：豊川慎「A.D.リンゼイのデモクラシー思想とピューリタニズム：日本の戦後民主主義と「リンゼイ・テーゼ」の再検討に向けて」ピューリタニズム研究4,2010年。)
(*)(参考：植村邦彦『市民社会とは何か：基本的概念の系譜』平凡社新書,2010年。)
(*)(参考：古賀敬太『政治思想の源流—ヘレニズムとヘブライズム』風行社,2010年。)
(*)(参考：羽賀賢二「1590年のパリ包囲戦Guillaume Du Vairの『恒心論』--新ストア主義をめぐって」(九州大学)言語文化論究25,2010年。)
(*)平川祐弘「真の自由主義者は戦後日本とどう対峙したのか：「危険な思想家」竹山道雄(1-4)」正論465,2010年/466,467,468,2011年。
(*)(参考：相馬勝「台湾発!現地緊急レポート 馬英九政権が進める「ECFA」にチャイナマネーという「トロイの木馬」を見た」サビオ 22(14),2010 年。)
(*)宮坂渉「書評 田中実著「D.23..3.81 および D.46.3.94(パピニアヌス『質疑録』第 8 巻)に

対するジャック・キュジャース(1520~1590)の注解—硬貨の所有取戻権について」法制史研究 60,2010 年。
(*)堅田剛『独逸法学の受容過程 加藤弘之・穂積陳重・牧野英一』(イェーリング、ローマ法)御茶の水書房,2010年。
(*)吉原丈司・吉原達也編『千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士・池辺義象氏略年譜・著作目録：日本ローマ法学七先生略年譜・著作目録』吉原丈司,千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士限定追加版,ローマ法・法制史学者著作目録選・第9,2010年。
(*)(参考:古山正人「スパルタとペリオイコイの法的軍事的関係」國學院雑誌111(6),2010年。)
(*)(参考：A.N.シャーウィン・ホワイト/保坂高毅訳『新約聖書とローマ法・ローマ社会』日本基督教団出版局,オンデマンド版,2010年。)
(*)(参考:木庭顕『ローマ法案内:現代の法律家のために』羽鳥書店,2010年(→2016年,新版)。)
(*)(参考：石川博康『「契約の本性」の法理論』有斐閣,2010年。
(*)(参考:大熊忠之「中国の歴史過程における儒学礼教論のドグマ化と古代ローマにおける私法の自立化再考—人間の条件(3)」(広島修道大学)修道法学32(2),2010年。)
(*)(参考：H.ムーリツェン/高橋良亮・鷲田陸朗訳「民衆/民会の権力—ローマ政体論への新しいアプローチ」(大阪大学西洋史学会)パブリック・ヒストリー7,2010年。)
(*)毛利晶「佐々木健「「ルーケリア碑文」に見る共和政中期ローマ世界における宗教法制の一断面(法学論叢1-2,完)」法制史研究59,2010年。
(*)森光「英吉利法律学校の羅馬法講義」中央大学史紀要 15,2010 年。

(*)(参考：工藤晃『マルクス「資本論」とアリストテレス、ヘーゲル』新日本出版社,2011年。)
(*)折原裕「古典の読み方--『アリストテレス,アダム・スミス・マルクス』に寄せて」敬愛大学研究論集79,2011年。
(*)(参考：沢田幸治「マルクスの個人観」(神奈川大学経済学会)商経論叢46(4),2011年。)
(*)(参考： 松井暁「マルクスと自由」専修経済学論集46(1),2011年。)
(*)(参考：加納克己「たたかい一生：解題「マルクスの学説と三つの源泉」を読んで」(社会主義協会)社会主義594,2011年。)
(*)「木村鷹太郎“一発大逆転”のエジプト説([歴史読本]2011年4月号特集 ここまでわかった！邪馬台国)—(特集 邪馬台国ブームをつくった男たち)」歴史読本56(4),2011年。
(*)(参考：ロデリック・F.ナッシュ/松野弘訳『自然の権利：環境倫理の文明史』ミネルヴァ書房,2011年。)
(*)(参考：吉野浩司「「亜細亜」という地域の枠組みについて—竹内好を継承する視点」東アジア評論3,2011年。)
(*)(参考：小宮正安『オーケストラの文明史：ヨーロッパ三千年の夢』春秋社,2011年。)
(*)(参考：山崎正和『世界文明史の試み：神話と舞踊』中央公論新社,2011年(→2017年,上下巻,中公文庫版)。)
(*)(参考：竹田腆「ヨーロッパのはざま」地中海歴史風土研究誌33,2011年。)
(*)(参考：竹田腆「ローマ帝国崩壊後の地中海世界」地中海歴史風土研究誌34,2011年。)

(*)池田裕「松本卓夫聖地旅行日記1925」(青山学院大学基督教学会) 基督教学論集54,2011年。
(*)安井収蔵「山村博男—地中海の光と風を描く」月刊美術37(10),2011年。
(*)安岡襄「ぶらり海外旅行ア・アラ・カルト イタリア南部・フランス旅行(1,2,3)」会計検査資料553,554,555,2011年。
(*)(参考：河村英和「ピラネージの英国人交流関係とグランド・ツーリストたち--「古代の壺,燭台,墓標,棺,鼎,ランプ,装飾品」(1778年)の献呈文など(特集 グランド・ツアー)」日伊文化研究49,2011年。)
(*)(参考：中山エツコ「大周遊旅行時代の交友の記録—ルドヴィーコ・ディ・ブレーメの書簡から(特集 グランド・ツアー)」日伊文化研究49,2011年。)
(*)(参考：渡辺真弓「グランド・ツアーと英国のパラーディアニズム(特集 グランド・ツアー)」日伊文化研究49,2011年。)
(*)(参考 : 奥田敬「未遂の亡命—フィレンジェリーの〈グランド・ツアー〉(特集 グランド・ツアー)」日伊文化研究49,2011年。)
(*)(参考 : 加藤尚武「自然主義をたずねて(3)(特集 グランド・ツアー)」日伊文化研究49,2011年。)
(*)橋本龍幸『ヨーロッパ史跡探訪：歴史への誘い』南窓社,2011年。
(*)(参考 : 村川堅太郎訳注『エリュトゥラー海案内記』改版,中公文庫,中央公論新社,2011年。)
(*)(参考：東千尋編訳『現代ギリシア詩集』土曜美術出版販売,2011年。)
(*)(参考：河崎善一郎「アレキサンドリア滞在記(Eygpt Japan University of Science and Technology)」生産と技術 63(2),2011 年。〉
(*)(参考：河崎善一郎「アレキサンドリア滞在記」大気電気学会誌5(1),2011年。)
(*)(参考 : 毛利晶「オスティア : 古代ローマの港町(世界史の研究(228))」歴史と地理643,2011年。)
(*)毛利晶「オスティア：古代ローマの港町」歴史と地理646,2011年。
(*)(参考：鬼海弘雄『アナトリア=Anatolia』クルヴィス,2011年。)
(*)JTBパブリッシング出版事業本部海外情報部『アテネ・エーゲ海 ギリシア』タビトモ,欧州16,JTBパブリッシング,2011年。
(*)(参考：高崎眞弓『エーゲ海とギリシャ人』LISA18(3),2011年。)
(*)(参考：アン・ハンプソン原作・夏目藍子著『エーゲ海の甘い誘惑』ロマンスコミックス,宙出版,2011年。)
(*)(参考：ジョージ・キャサリン/高浜えり訳『エーゲ海に捨てた恋』ハーレクイン・ロマンス,ハーレクイン,2011年。)
(*)(参考：高知尾仁編『人と表象』(原毅彦「失われたアルカディア：世紀末のレドゥクシオン」)悠書館,2011年。
(*)(参考：渋谷光夫『イザベラ・バードの山形路：「アルカディア街道」散策のススメ』無明舎出版,2011年。)
(*)『わが青春のアルカディア：キャプテンハーロックの世界：メモリアル・コレクション』東映アニメーション,復刊ドットコム(発売),2011年。
(*)吉田秋生他『幻想=Fantasy』好きです,この少女まんが4,KC DELUXE 3175,2011年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『イスタンブールとトルコの大地』ダイヤンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2011-12 年。

(*)地球の歩き方編集室著作編集『ギリシアとエーゲ海の島々&キプロス』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2011-12 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『イタリア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2011-12 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『ローマ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2011-12 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『フィレンツェとトスカーナ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2010-11 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『南イタリアとマルタ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2011-12 年。
(*)地球の歩き方編集室編『チェニジア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発),2011-12 年。
(*)石河正夫「イタリア紀行—風景と歴史(1,2)」シンガポール2011(2,3),2011年。
(*)河野穣『南イタリア シチリアの小さな町々 : 碧い海,ギリシア神殿跡,カルタゴ・ローマ・アラブ・ノルマン等々の支配と居住の跡』文芸社,バスによるゆったりとした挑戦の旅5,2011年。
(*)新井佼一「チュニジア紀行—地中海からサハラ砂漠への旅(1,2)」国際観光情報11,20, 2011年。)
(*)奥山輿悦「紀行文 夢の地中海クルーズ」公証162,2011年。
(*)(参考 : すぎやまこういち指揮・東京都交響楽団演奏『交響曲ドロゴンクエストSymphnic suite Dragon quest : 場面別I-X :「ドラゴンクエスト」25周年記念企画disc7 空・海』(「エーゲ海に船出して」)録音ディスク,King Records,2011年。)
(*)富永健一「飛鳥II 世界一周クルージング日記(4)クシャダシからアテネまで」究 : ミネルヴァ通信4,2011年。
(*)藤澤桜子・藤澤明寛「『米欧回覧実記』久米[邦武]手稿--『那不児府ノ記』(ナポリ訪問)の場合[含 『米欧回覧実記』カセルタおよびナポリの挿絵に関する一考察]」群馬県立女子大学紀要32, 2011年。
(*)塩崎勤「南イタリア紀行 オリーブの丘とエメラルドの海」法曹728,2011年。
(*)(参考 : 湯川武「中近世地中海地域のムスリムの旅人たち(シンポジウム 地中海世界の旅人たち—中世から近世へ)」史學80(2・3),2011年。)
(*)(参考 : 関哲行「中近世スペインの旅人たち—ユダヤ人(ユダヤ教徒),キリスト教徒,モリスコを例として(シンポジウム 地中海世界の旅人たち—中世から近世へ)」史學80(2・3),2011年。)
(*)(参考 : 三沢伸夫「コメント1(シンポジウム 地中海世界の旅人たち—中世から近世へ)」史學80(2・3),2011年。)
(*)(参考 : 小澤実「コメント2(シンポジウム 地中海世界の旅人たち—中世から近世へ)」史學80(2・3),2011年。)
(*)(参考 : 佐藤健太郎「コメント3(シンポジウム 地中海世界の旅人たち—中世から近世へ)」史學80(2・3),2011年。)
(*)(参考 : 神崎忠昭「コメント4 (シンポジウム 地中海世界の旅人たち—中世から近世へ)」史學80(2・3),2011年。)

(*)河上眞理・清水重教「9166辰野金吾の見たフランス：『辰野金吾滞欧記帳』解題その2（日本近代建築資料,建築歴史・意匠）」学術講演梗概集F-2, 建築歴史・意匠,2011年。
(*)(参考：高橋明彦「ゲーテ『イタリア紀行』の光と翳」青土社,2011年。)
(*)(参考：平松智久「『我が人生より 第二部』から『第二次ローマ滞在』へ：ゲーテ『イタリア紀行』における叙述不可能なものを叙述する試み」九州ドイツ文学25,2011年。)
(*)(参考：合田正人「「明日の哲学」序説—ヒューム,スピノザ,ニーチェから多島海システムへ(特集,変貌する〈フランス文学〉—その未踏の拡がり)—(フランス文学と他者)」(明治大学文芸研究会)文芸研究114,2011年。)
(*)新井佼一「中部イタリア紀行：世界遺産めぐりの旅(1,2)」国際観光情報2011(12),2011年/2012(1),2012年。
(*)(参考：臼田紘「「ローマ・ナポリ・フィレンツェ」のテクストをめぐって」跡見学園女子大学文学部紀要46,2011年。)
(*)(参考：ジーン・A.ブラッカー/森田義之・松本典昭訳『ルネサンス都市イタリア』岩波書店,2011年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「『旅情』と『カッコーの季節』--異文化交流の不可能な場としてのヴェネツィア「含・英文要旨」」人文研究173,2011年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「レニエ『顔合わせ』とヴェネツィア—二面性の統合と鏡の照応」人文研究174,2011年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「『ホフマン物語』のなかのヴェネツィア：悪魔と鏡」人文学研究所報46,2011年。)
(*)(参考：Mari Yamazaki『Thermae Romae』Edizione Star Comics,2011年(→2012-14年,Yen)。)
(*)(参考：ナドーバービー「CULTURE Heritageポンペイが再び「滅亡」する日」ニューズウィーク26(3),2011年。)
(*)(参考：J.L.ビントリフ/柴田淑枝訳「ライデン大学考古学科の大学教育—構造・目的・批判」メタプティヒアカ(名古屋大学大学院文学研究科教育研究推進室年報)5,2011年。)
(*)(参考：篠塚千恵子「古代ギリシアと地中海世界：“古典古代”の誕生—美術の視点から」地中海学会月報341,2011年。)
(*)(参考：「パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的研究グループ—アジアの視座から見たギリシア美術」研究グループ編『パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的研究パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的研究—アジアの視座から見たギリシア美術：Parthenon project Japan 2007-2009』「パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的研究—アジアの視座から見たギリシア美術」研究グループ,科学研究費補助金(基盤研究A)研究成果報告書,平成19-21年度,2011年。)
(*)(参考：水田徹著・金子亨写真撮影『パルテノン・フリーズ：観察と考察』中央公論美術出版,2011年。)
(*)(参考：スーザン・ウッドフォード/篠塚千恵子・松原純子訳『古代美術とトロイア戦争物語』ミュージアム図書,2011年。)
(*)(参考：『イタリア・ルネサンス美術における「公」「私」概念の再考』京都大学2009年,(科研費)2011年。)

(*)(参考：『ニコラ・プッサンと同時代のローマの画家たち物語画に関する研究』京都大学2009年,(科研費)2011年。)
(*)(参考：ジョン・マイケル・グリア/高橋和子訳『アトランティス：失われた超先進文明：完全ガイド決定版』超スビ22,徳間書店,2011年。)
(*)(参考：関俊彦「クレタ島考古紀行(9)(10)クノッソス遺跡の発掘(1)(2)アーサー・エヴァンスによる」縄文23,2011年/25,2013年。)
(*)(参考：Arthur Evans/篠井保彦訳「クノッソスのミノスの宮殿(6~11)」地中海歴史風土研究誌33,34,2011年/35,36,2012年/37,38,2013年。)
(*)(参考：周藤芳幸「読書案内 エーゲ文明と先史時代の東地中海(世界史の研究226)」歴史と地理641,2011年。)
(*)(参考：周藤芳幸「採石場のヘレニズム—前3世紀エジプト領域部の文化変容をめぐって」名古屋大学文学部研究論集・史学57,2011年。)
(*)(参考：坂田道生「ポンペイとその周辺におけるIararium の図像について(「美術に関する調査研究の助成」研究報告—2011年度助成)」鹿島美術財団年報29,2011年。)
(*)(参考：勝山祐子「プルーストにおける室内装飾：オデットの「折衷主義」とゲルマント公爵夫人の「帝政様式」」(ポンペイ)文化女子大学紀要・人文社会科学研究19,2011年。)
(*)(参考：末松壽「人食いにツイテ—モンテーニュの一章をめぐる覚書」異文化研究5,2011年。)
(*)(参考：青柳正規「ソンマ・ヴェスヴィアーナにおける遺跡調査と学融合的研究(特集 ソンマ・ヴェスヴィアーナにおける遺跡調査の10年。)」遺跡学研究：日本遺跡学会誌8,2011年。)
(*)(参考：浦野聡「トロス司教座教会聖堂の発掘について」史苑71(2),2011年。)
(*)(参考：桑山由文「ハドリアヌス帝のアテナイ「復興」とヘロデス・アッティクス父子」史窓68,2011年。)
(*)(参考：アントニー・エヴァリット/草皆伸子『ハドリアヌス：ローマの栄光と衰退』白水社,2011年。)
(*)(参考：伊藤哲夫『ローマ皇帝ハドリアヌスとの建築的対話』井上書院,2011年。)
(*)(参考：坂田道生『古代ローマの犠牲式図像研究：ローマ共和政からハドリアヌス治世まで』筑波大学,博士(芸術学),甲第5805号,2011年。)
(*)(参考：平田隆一「Pius Aeneasとアウグストゥスの Pietas（特集 光は東方から—古代オリエント文化のギリシア・ローマ文化への影響）」ヨーロッパ文化史研究11,2011年。)
(*)村木厚子「塩野七生『ローマ人の物語』新潮文庫版完結記念インタビュー 拘置所で読んだ『ローマ人の物語』」波45(9),2011年。)
(*)(参考：アレハンドロ・アメナーバル監督,レイチェル・ワイズ他出演『アレクサンドリア』ビデオレコード,ギャガ(発売),松竹(販売),2011年。)
(*)(参考：辻原康夫『世界の古地図に描かれた「幻の国」を追う：語り継がれてきた“伝説の地”の真実に迫る：イラスト図解版』河出書房新社,2011 年。)
(*)(参考：吉野浩司「「亜細亜」という地域の枠組みについて—竹内好を継承する視点」(ヘロドトス,アウグスティヌス等)東アジア評論 3,2011 年。)

(*)(参考：田部井世志子「D.H.ロレンスを通して見る死の教育の必要性—「死」との対峙から「生命の輪」へ」(エトルリア)北九州市立大学文学部紀要80,2011年。)
(*)(参考 : 星和夫「第60回日本病院学会特別講演 : 医の原点—古代ギリシャの医跡を訪ねて」日本病院会雑誌58(1),2011年。)
(*)星和夫「医学史の旅—マルマラ地方」日本病院会雑誌58(1),2011年。
(*)星和夫「医学史の旅—黒海」日本病院会雑誌58(1),2011年。
(*)星和夫『医学史の旅 : トルコ』日本病院共済会出版部日本病院共済会出版,2011 年。
(*)(参考：栗屋利江・松本悠子編『人の移動と文化の交流』ジェンダー叢書7,明石書店,2011年。)
(*)塩出浩之『岡倉天心と大川周明 : 「アジア」を考えた知識人たち』山川出版社,日本史リフレット84,2011年。
(*)(参考：市川直子「ローマにおけるジョルジョ・デ・キリコとメタフィジカ絵画：1918年から1925年までを中心に(「美術に関する調査研究の助成」研究報告)—(2011年度助成)」鹿島美術財団年報29,2011年。)
(*)(参考：落合理恵子「〈フェツラーラ牧人劇〉におけるアルカディアの表出とトルクァート・タッソの『アミンタ』(1573年初演)の舞台」演劇学論集52,2011年。)
(*)(参考：薬本武則「美術教育/より良き美術表現のために(1)」共栄学園短期大学研究紀要27,2011年。)
(*)「ロマノ・ヴルピッタ名誉教授の履歴(ロマノ・ヴルピッタ名誉教授記念号)」京都マネジメント・レビュー19,2011年。)
(*)吉岡一郎「ロマノ・ヴルピッタ先生の名誉教授記念号に寄せて(ロマノ・ヴルピッタ名誉教授記念号)」京都マネジメント・レビュー19,2011年。)
(*)「千足伸行教授略歴(千足伸行教授退任記念)」美學美術史論集19,2011年。
(*)津上英輔「千足伸行,飄々男児(千足伸行教授退任記念)」美學美術史論集19,2011年。
(*)(参考：芳賀京子,国立西洋美術館・朝日新聞社編『大英博物館・古代ギリシャ展：究極の身体,完全なる美』朝日新聞社, NHK,NHKプロモーション,2011年。)
(*)(参考：朝日新聞出版編『大英博物館』朝日新聞出版,2011年。)
(*)(参考：合田正人「「明日の哲学」序説—ニューム,スピノザ,ニーチェから多島海システムへ(特集 変貌する〈フランス文学〉—その未踏の拡がり)—(フランス文学と他者)」文芸研究114,2011年。)
(*)(参考 : 大川勇「シュペングラーにおける「ファウスト的」なるもの」ドイツ文學研究56,2011年。)
(*)直木孝次郎「歴史家の本棚(第2架1)「古寺巡礼」に惹かれて」日本古書通信76(1),2011年。
(*)金澤百枝・小澤実『イタリア古寺巡礼—フレンツェ→アッシジ』とんぼの本,新潮社,2011年。
(*)(参考：西岡文彦『恋愛美術館』朝日出版社,2011 年。)
(*)(参考：西洋美術社サービスセンター編集・製作『西洋美術史』西洋美術社サービスセンタ,2011 年。)
(*)西川幸治編『ラニガト：ガンダーラ仏教遺跡の総合調査 1983-1992：京都大学学術調査隊調査報告書』増補改訂版,京都大学学術出版会,2011 年。

(*)(参考：トマス・ハリソン/藤井留美訳『世界の古代帝国歴史図鑑：大国の覇権と人々の暮らし』柊風舎,2011 年。)
(*)(参考：浅野和生「瞑想紀行 ヴェネツィアでビザンティン帝国をしのぶ」紫明 28,2011 年。)
(*)(参考：益田朋幸『ビザンティンの聖堂美術』中央公論新社,2011 年。)
(*)(参考：『イスタンブール歴史地域；ギョメレ国立公園とカッパドキアの岩窟群』感動の世界遺産 14：トルコ 1,ビデオレコード,キープ(発売),2011 年。)
(*)(参考：『イスタンブール歴史地域』感動の世界遺産 43：トルコ 2,ビデオレコード,キープ(発売),2011 年。)
(*)(参考：『ナポリ歴史地区；シエナ歴史地区；ヴェローナ市；フィレンツェ歴史地区』感動の世界遺産 2：イタリア 1,ビデオレコード,キープ(発売),2011 年。)
(*)(参考：『ナポリ歴史地区；シエナ歴史地区』感動の世界遺産 45：イタリア 3,ビデオレコード,キープ(発売),2011 年。)
(*)(参考：『フィレンツェ歴史地区；ヴェローナ市』感動の世界遺産 46：イタリア 4,ビデオレコード,キープ(発売),2011 年。)
(*)(参考：『ペトラ；アラム城』感動の世界遺産 48：ヨルダン 1,ビデオレコード,キープ(発売),2011 年。)
(*)(参考：ウィルヘルム・ヴェーツォルト/前田信輝訳『ギリシア古代美から：ヴィンケルマン論と訳』龍書房,2011 年。)
(*)(参考：美術出版社サービスセンター編集・制作『西洋美術史』Scope digital data edition, 美術出版社サービスセンター,2011 年。)
(*)(参考：白川昌生『西洋美術史を解体する』水声社,2011 年。)
(*)(参考:中野京子『名画の謎』(ギリシャ神話篇等)中野京子と読み解く,文藝春秋,2011 年(→2015 年,文春文庫版)。)
(*)(参考：長田年弘「アレクサンドロス・モザイク解釈試論：異民族観の検討を中心に」オリエント 53(2),2011 年。)
(*)(参考：山中由里子「ミラビリア」と「アジャーイブ」をつなぐもの：共同研究：驚異譚にみる文化交流の諸相：中東・ヨーロッパを中心に(2010-2013)」民博通信 132,2011 年。)
(*)(参考：高橋秀樹「「話術」と過去—古代エジプトと古代ギリシアの政治文化の一断面(特集 光は東方より—古代オリエント文化のギリシア・ローマ文化への影響)」ヨーロッパ文化史研究 12,2011 年。)
(*)(参考 : Alejandro Amenábar ; written by Alejandro Amenábar,Mateo Gil ; produced by Fernando Bovaira,Álvaro Augustin『Agora』』個人視聴用,レンタル専用,ギャガ(発売),松竹(発売),個人視聴用,2011 年。)
(*)(参考：アレハンドロ・アメナーバル監督；レイチェル・ワイズ他出演『アレクサンドリア』ギャガ(発売),松竹(発売),2011 年。)
(*)(参考：宮坂万喜弘「ヨーロッパ社会の成立基盤—魂への配慮・宗教的精神の重要性について」(アレクサンドリア)情報と社会21,2011年。)
(*)(参考：小川雅子「ヘルメス思想と西洋文明の発展—古代アレクサンドリアから近代イギリスまで」人間幸福学研究 3(1),2011 年。)
(*)(参考：石塚とも「きんようぶんか 映画『アレクサンドリア』」金曜日 19(7),2011 年。)

(*)(参考：木下昌明「映画から見えてくる世界(40)愛さえも切りさく--『サラエボ,希望の街角』『アレクサンドリア』」東京 322,2011 年。)
(*)(参考：木下昌明「映画から見えてくる世界(41)「楕円」を夢みる--『英国王のスピーチ』『アレクサンドリア』」東京 332,2011 年。)
(*)(参考：副島隆彦「シネマ館「アレクサンドリア」」エコノミスト 89(13),2011 年。)
(*)(参考：嶋本裕子「にっぽん図書館紀行—北から南から(13・番外編その[2])古代アレクサンドリア図書館とその甦り」地理 56(7),2011 年。)
(*)(参考：越智道雄「現代アメリカのアレキサンダー,オリヴァー・ストーン(巻頭特集「ウォール・ストリート」アメリカ!アメリカ?)」キネマ旬報 1574,2011 年。)
(*)(参考：本村凌二・池口守他『ラテン語碑文で楽しむ古代ローマ』研究社,2011 年。)
(*)(参考：小澤実「コメント 2(シンポジウム 地中海世界の旅人たち—中世から近世へ)」史學 80(2・3),2011 年。)
(*)(参考：小林道憲「芸術・祝祭・文明」比較文明研究 16,2011 年。)
(*)(参考：平山美知子「長い旅の始まり—シルクロードをともに歩いて(平山郁夫—歩き続けて,描き続けて)—(シルクロードを描く—歴史と文明が交差する路)」部冊太陽 184,2011 年。
(*)(参考：楊共楽/江川式部訳「講演録 初期シルクロードの研究—張騫の西方出遣使とマケドニア楽の中国伝来」明大アジア史論集 15,2011 年。)
(*)(参考：吉澤五郎「「聖なる美」の根源性：〈巡礼文明論〉の手帖(2)」宗教と文化 28,2011 年。)
(*)(参考：水野千依『イメージの地層：ルネサンスの図像文化における奇跡・分身・予言= The strata of images：miracle,substiute and prophecy in Renaissannce imaginary』名古屋大学出版会,2011 年。)
(*)(参考：吉澤五郎『トインビーとの対話：現代への挑戦・希望の書』レグルス文庫 271,第三文明社,2011 年。)
(*)(参考：大川勇「シュペングラーにおける「ファウスト的」なるもの」ドイツ文学研究 56,2011 年。)
(*)(参考：小谷幸雄「ブルーノ・ベッツオルトと富永半次郎の比較文化研究—佛教とゲーテ」印度學佛教學研究 59(3),2011 年。)
(*)久米邦武著・高田誠二・福川知子[解読・解説]『久米邦武：手稿「文明手引草」；解読と解説』久米美術館奇縁級報告 6,久米美術館,2011 年。
(*)ひろたまさき・横田冬彦編『異文化交流史の再検討：日本近代の「経験」とその周辺』平凡社,2011 年。)
(*)浅見雅一「書評 川村信三編『超領域交流史の試み—ザビエルに続くパイオニアたち』」歴史学研究 879,2011 年。
(*)有坂道子「書評 上杉和央著『江戸知識人と地図』」洛北史学 13,2011 年。
(*)渕上皓一郎「書評 上杉和央著『江戸知識人と地図』」教育史フォーラム 6,2011 年。
(*)小野将「書評 上杉和央著『江戸知識人と地図』」史林 94(3),2011 年。
(*)南啓治「書評 上杉和央著『江戸知識人と地図』」鈴屋学会報 28,2011 年。
(*)(参考：ジョージ・フレデリック・クンツ『図説宝石と鉱物の文化誌：伝説・迷信・象徴』原書房,2011 年。)
(*)(参考：小宮正安『オーケストラの文明史：ヨーロッパ三千年の夢』春秋社,2011 年。)

(*)(参考：イタリア文化事典編集委員会編編集『イタリア文化事典』丸善出版,2011 年。)
(*)(参考：『伝説の神獣・魔獣イラスト大事典』別冊・宝島 1747 号,宝島社,2011 年。)
(*)(参考：オットー・ヴィマー/藤代幸一訳『図説 聖人事典』八坂書房,2011年。)
(*)(参考：『架空人名辞典』(欧米編・日本編)日本図書センター,2011年。)
(*)(参考：城南山人編『古代文字字典全集』木耳社,2011年。)
(*)岩下哲典編『江戸時代来日外国人人名辞典』東京堂出版,2011年。
(*)岡田俊裕『日本地理学人物事典』(近世,近代,現代編)原書房,2011年。
(*)(参考：小山貞夫編『英米法律語辞典』研究社,2011年。)
(*)川崎桃太編『基礎羅和辞典=Lexicon fundamentale Lationo-Japonicum』国際語学社,2011年。
(*)細井敦子・平田眞・成蹊大学図書館(他)「成蹊大学図書館所蔵貴重書解説目録(3)ギリシア古典関連の17世紀刊本」成蹊大学文学部紀要46,2011年。
(*)八木正自「Bibliotheca Japonica(164)ロブシャイド『英華字典』から井上哲次郎『訂増英華字典』へ」日本古書通信76(8),2011年。
(*)真田治子(研究代表)『『哲学字彙』にみられる近代学術用語の現代日本語への定着過程の検証=The establishment of scholarly terms of Tetsugaku Jii in modern Japanese』立正大学経済学部,2011年。
(*)渡部昇一「書物ある人生(6)伊藤吉之助編輯『岩波哲學小辭典』郷里の先達からの恩恵」Will 84,2011年。
(*)(参考：生松敬三(他)編『西洋哲学小辞典：概念と歴史がわかる』筑摩書房,ちくま学芸文庫,2011年。)
(*)宮島光志『日本の哲学辞典編纂史に関する研究：三木清編『現代哲学辞典』の批判的検討』福井大学(2010年),(科研費)2011年。
(*)書評・橋本隆夫「松原國師「西洋古典学事典」京都大学学術出版会,2010年」西洋古典學研究59,2011年。
(*)(参考：日外アソシエーツ株式会社編集『西洋古典文学案内：ギリシア・ローマからロマン主義まで』日外アソシエーツ,紀伊國屋書店(発売),2011年。)
(*)原田裕司『キリシタン版『羅葡日辞書』の原典「カレピーヌス」ラテン語辞書の系譜』原田裕司,2011年。
(*)(参考：千葉軒士『キリシタン・ローマ字分権の書記論的研究』名古屋大学,博士(文学),甲第9193号,2011年。)
(*)(参考：津村春英『新約聖書ギリシア語入門：a primary guide to New Testament Greek』改訂新版,いのちのことば社(発売),2011年。)
(*)(参考：蛭沼寿雄『新約本文学演習：ルカ福音書I.；ギリシア語新約語法』蛭沼寿雄著作集2,新教出版社,2011年。)
(*)濱田幸子「『伊會保物語』と書籍目録」京都語文18,2011年。
(*)内田慶市「イソップ東漸—翻訳とは何か」東アジアの言語・文化・芸術127-162,2011年。
(*)(参考：片岡瑠美子『キリシタン墓碑の調査研究—その源流と型式分類のための再調査』(エトルスキ)長崎純心大学2008年,(科研費)2011年。)
(*)鈴木広光「開化の軋み—揺籃期の日本語タイポグラフィ(特集 言資源としての日本語)」文学12(3),2011年。
(*)斎藤文俊『漢文訓読と近代日本語の形成』(和訳聖書)勉誠出版,2011年。
(*)(参考：嵩原英喜「ガダマーの西洋言語思想批判：プラトン,フンボルトを中心に」関西

学院哲学研究年報45,2011年。)
(*)(参考：馬場匡浩「図書館特別資料紹介 古代エジプトの稀覯本—シャンポリオン『エジプトとヌビアの記念物』図書の譜15,2011年。)
(*)(参考：山口敬雄「「自然」のデザイン：シャンポリオンのヒエログリフ解読とソローWalden(特集 デザイン)」アメリカ文学評論22,2011年。)
(*)(参考：吉田和彦「比較対応の幻想—ギリシア語-μαν,ヒッタイト語-(h)hahat(i),リュキア語-xaga(特集 言語の変化)」言語研究140,2011年。)
(*)(参考：住田育法「南蛮からデカセギに至るポルトガル語教育の経験：日本人のまなざし」京都外国語大学研究論叢77,2011年。)
(*)(参考：瀧章次「プラトン『国家』主要写本に付されたる「疑問符」に関する調査」城西国際大学紀要19(2),2011年。)
(*)高橋歩・高橋秀樹「Anxiety in the Ancient languages Classroom」新潟大学言語文化研究16,2011年。
(*)(参考：畑潤「古代ギリシアにおける教養理念に関する研究(1,2)W.イェーガーの『パイデイア』の「序論」から学ぶ」都留文科大学大学院紀要15,2011年/19,2015年。)
(*)(参考：T.S.エリオット/臼井善隆訳『教養の目的とは何か』早稲田大学出版部,2011年。)
(*)(参考：平田隆一「Pius AeneasとアウグストゥスのPietas(特集 光は東方より—古代オリエント文化のギリシア・ローマ文化への影響)」ヨーロッパ文化史研究12,2011年。)
(*)(参考：千葉惠「ギリシア語読みの信仰：アリストテレスとパウロ(第2回)」志学会公開講演会2000.6.20, 志学会報告書4,2011年。)
(*)(参考：A.I.Ivanchik「タフティ・サンギン新出のギリシア語銘文とバクトリアの筆記言語誕生について」Miho Museum研究紀要11,2011年。)
(*)(参考：熊倉庸介「イベリア半島を中心とする翻訳活動に関する歴史年表—13世紀まで」国際短期大学紀要26,2011年。)
(*)(参考：三ツ木道夫『翻訳の思想史：近現代ドイツの翻訳論研究』(W.v.フンボルト,ニーチェ,ヴィラモーヴィッツ=メーレンドルフ,G.クライス)晃洋書房,2011年。)
(*)(参考：高畑時子「小特集 シラーのウェルギリウス翻訳」通訳翻訳研究11,2011年。)
(*)(参考：嶋田洋一郎「小特集 ヘルダーと翻訳」通訳翻訳研究11,2011年。)
(*)長島要一「「文化の翻訳」と先駆者森鴎外考」鴎外88,2011年。
(*)(参考：Kovani Maria『イソップの寓話における翻訳の問題』一橋大学,博士(学術),甲第635号,2011年。)
(*)(参考：吉田薫「康孟卿の翻訳作業とその周辺—戊戌政変から『清議報』刊行までを中心に」中国研究月報65(10),2011年。)
(*)工藤進・生田康夫訳「「幻影の人」西脇順三郎のギリシア語漢語比較」言語文化28,2011年。
(*)(参考：森岡裕一編『西洋文学：理解と鑑賞』共通教育シリーズ,大阪大学出版会,2011年。)
(*)(参考：佐藤道生編『注釈書の古今東西』慶應義塾大学文学部,慶應義塾大学出版会,極東証券寄付講座,平成22年度,文献学の世界,2011年。)
(*)高松敏男『高松敏男書誌選集：ニーチェNietzsche』金沢文圃閣,文献探索人叢書,2011年。
(*)(参考：G.ハイエット/村島義彦訳「パイデイア：ギリシア文化を彩る理想の数々(1-8)」

立命館文學623,2011年/626,627,629,2012年/632,633,2013年/638,639,2014年。)
(*)(參考：畑潤「教育学と教養理念の起源に関する研究—W.イェーガーの『パイデイア』から学ぶ」都留文科大学大学院紀要15,2011年。)
(*)(參考：太田光一「コメニウスのパンパイデイア再読(1-3)」会津大学文化研究センター研究年報18,2011年/19,2012年/20,2013年。)
(*)(參考：綾井桜子「古代ローマの伝統とフランス近代教育(コメント論文,フォーラム 2 霊操としてのルソー「サヴォワ助任司祭の信仰告白」--パレーシア(本当のことを語ること)の視座から)」近代教育フォーラム 20,2011 年。)
(*)(參考：綾井桜子「フイエの「観念力」と教育—国民形成と古典語(コロキウム教育と言語をめぐる思想史)」近代教育フォーラム 20,2011 年。)
(*)(參考：上原秀一・綾井桜子・柴山英樹・渡辺哲男「教育と言語をめぐる思想史(コロキウム 1)」近代教育フォーラム 20,2011 年。)
(*)(參考：熊倉庸介「イベリア半島を中心とする翻訳活動に関する歴史年表：13 世紀まで」国際短期大学紀要 26,2011 年。)
(*)(參考：陰山英男監修『歴史上の人物』辞書びきえほん,ひかりのくに,2011年。)
(*)長谷部宗吉「昇曙夢 著作年譜(稿)[IV]」札幌大学女子短期大学部紀要56・57,2011年。
(*)山下重一「永峰秀樹訳『代議政体』:ミル『代議政治論』の本邦初訳」国學院法学49(2),2011年。
(*)南雲千香子「箕作麟祥訳『仏蘭西法律書・訴訟法』の漢語訳語：法律用語の訳出傾向」(東京大学大学院人文系列)人文10,2011年。
(*)(參考：岩波文庫編集部編『読書のとびら』岩波文庫別冊22,岩波書店,2011年。)
(*)(參考：リック・リオーダン作/金原瑞人・小林みき訳『消えた英雄』オリンポスの神々と 7 人の英雄 1,ほるぷ出版,2011 年。)
(*)鈴木地蔵「眷属の本(18)田中光二「オリンポスの黄昏」」日本古書通信76(6),2011年。
(*)鈴木寛之「一九一０年代の伝説研究と高木敏雄」史境63,2011年。
(*)(參考：宮坂万喜弘「ヨーロッパ社会の成立基盤—魂への配慮・宗教的精神の重要性について」(江戸川大学)情報と社会21,2011年。)
(*)(參考：佐藤慎太郎「エリアーデ宗教学形成期におけるナエ・イヨネスクの影響(エリアーデのHistory of religionsとstoria delle religioni,パネル,〈特集〉第69回学術大会紀要)」宗教研究84(4),2011年。)
(*)(參考：江川純一「イタリア宗教史学はとエリアーデ(エリアーデのHistory of religionsとstoria delle religioni,パネル,〈特集〉第69回学術大会紀要)」宗教研究84(4),2011年。)
(*)(參考：奥山史亮「研究発表要旨 亡命者エリアーデの思想におけるエリアーデ宗教学」基督教學46,2011年。)
(*)(參考：ロバート C.T.パーカー「古代ギリシアの供犠：大問題」クリオ=Clio25,2011 年。)
(*)(參考：高橋達明『オルフェウス,ミュートスの誕生：『農耕歌』第4巻453-527行注釈』知道出版,2011年。)
(*)(參考：James Baldwin/杉谷虎蔵訳『ギリシャ神話』新版,冨山房企畫,2011年。)
(*)(參考：遠藤寛子文・小林系絵『ギリシア神話：オリンポスの神々』講談社青い鳥文庫,講談社、2011年。)

(*)(参考：逸身喜一郎『ギリシャ神話：ルネッサンス・バロック絵画から遡る』NHKカルチャーラジオ,世界の文学,NHK出版,2011年。)
(*)(参考：マルコム・デイ/山崎正浩訳『ギリシア・ローマ神話人物記：絵画と家系図で描く100人の物語：図説』創元社,2011年。)
(*)(参考：ジェームズ・ボールドイン/杉谷代水訳『ギリシャ神話』新版,冨山房企画,冨山房インターナショナル(発売),2011年。)
(*)(参考：たちかわよしひろ『再遊記：トロイのパリス,キリスト,聖徳太子を読む』中央公論事業出版,2011年。)
(*)(参考：森岡裕一編『西洋文学：理解と鑑賞』(橋本順光「ギリシア・ローマ神話」)大阪大学出版会,2011年。)
(*)(参考：山下桐子「鳥のこぼれ話(8)D.H.ロレンスの『2羽の青い鳥』をめぐって」地中海歴史風土研究誌33,2011年。)
(*)(参考：山下桐子「鳥のこぼれ話(9)フタリガラス：神話の主人公,其その生物学的生態」地中海歴史風土研究誌34,2011年。)
(*)(参考：河野孝「劇評 狂気が照射する人間の暗部—SCOT=リア王4ヶ国語版 酒神ディオニュソス」テアトロ845,2011年。)
(*)(参考：石見希久子「古代末期におけるディオニューソス像：ノンノスに基づく考察(第一部,〈特集〉第69回学術大会紀要)」宗教研究84(4),2011年。)
(*)(参考：田澤恵子「学会動向 イシタル・アスタルテ・アフロディテに関する国際会議」オリエント45(2),2011年。)
(*)(参考：越川倫明編；ペット・タリヴァッキア他著/深田麻里亜他訳『ルネサンスのエロティック美術』(ヴィーナス)東京藝術大学出版会,2011年。)
(*)(参考：村上真樹「ヴィーナスとルシファー：ベンヤミンの仮象概念についての一考察(第62回美学会全国大会発表要旨)」美學62(2),2011年。)
(*)(参考：郷原佳以「日常との向き合い方アルベール・カミュ『シーシュポスの神話』(総特集 震災以後を生きるための50冊--〈3・11〉の思想のダイアグラム)—(エステティクス)」現代思想39(9),2011年。)
(*)(参考：喜多尾道冬「ムーサの贈り物—絵画・詩・音楽の出会うところ(215-219)ヒーローとヒロイン ヴィーナスとアドニス(1-4)」レコード芸術60(4,5,6,7,8),2011年。)
(*)(参考：東田舞「『ウルビーノのヴィーナス』における室内空間とヌード—ティツィアーノの作画意図」日本インテリア学会論文報告集21,2011年。)
(*)(参考：アーマンド・スワレス「アテナの生と死：パルテノンのフクロウの子」Asia：社会・経済・文化1,2011年。)
(*)(参考：安酸敏眞「クリオとヘルメース」北海学園大学人文論集48,2011年。)
(*)森香樹「日米欧の近代とヘルメス神繁栄の光：試論--「霊的史観」確立に向けて」人間幸福学研究3(2),2011年。
(*)(参考：アレクサンドル・ファルヌー/遠藤ゆかり訳『ホメロス：史上最高の文学者』知の発見双書151,創元社,2011年。)
(*)岡三郎『阿刀田高『新トロイア物語』を読む』』トロイア叢書5,国文社,2011年。
(*)(参考：平田隆一「Pius Aereas とアウグストゥスの Pietas(特集 光は東方より—古代オリエント文化のギリシア・ローマ文化への影響)」ヨーロッパ文化史

研究 12,2011 年。)
(*)(参考：村山盛葦「第一コリント書におけるパウロの論敵についての一考察：社会的,文化的視点から(特集 光は東方より—古代オリエント文化のギリシア・ローマ文化への影響)」ヨーロッパ文化史研究 12,2011 年。)
(*)(参考：白取春彦『超訳聖書の言葉』幻冬舎,2011年。)
(*)(参考：岡田温司『「聖書」と「神話」の象徴図鑑—西洋美術のシンボルを読み解く』ナツメ社,2011年。)
(*)(参考：長谷川修一『旧約聖書の世界と時代：ヴィジュアルbook』日本キリスト教団出版局,2011年。)
(*)(参考：月本昭男監修『図説 旧約聖書の世界：聖書の壮大な物語をダイジェスト!』学研パブリッシング,学研マーケッティング(発売),2011年。)
(*)(参考：秦剛平・守屋彰夫編『古代世界におけるモーセ五書の伝承』京都大学学術出版会,2011年。)
(*)(参考：ゲザ・ヴェルメシ/守屋彰夫訳『解き明かされた死海文書』青土社,2011年。)
(*)(参考：月本昭男監修『キリスト教をもっと知りたい。：教会美術の名品でひもとくイエスの神話と聖人の伝説』学研パブリッシング,学研マーケッティング(発売),2011年。)
(*)(参考：大貫隆編『イエス・キリストの復活：現代のアンソロジー』日本キリスト教団出版局,2011年。)
(*)(参考：クラウス・シュライナー/内藤道雄訳『マリア：処女・母親・女主人』法政大学出版局,叢書ウニベルシタス700,2011年。)
(*)(参考：岡徹「クヤキウスとアーフリカーヌスとユーリアーヌス(1,2)」関西大学法学論集61(2,3),2011年。)
(*)(参考：中西[高久]恭子『ユリアヌスの宗教復興と〈真の愛智〉：その構想と帰結』東京大学,博士(文学),甲第27311号,2011年。)
(*)中西恭子「日本における「背教者」ユリアヌスの受容に関する考察(第12部,〈特集〉第69回学術大会紀要)」宗教研究84(4),2011年。
(*)(参考：保坂高殿「ローマ帝国—古代教会の生態学的マトリックス(シンポジウム 第61回キリスト教史学会大会)」キリスト教史学65,2011年。)
(*)(参考：保坂高殿「312年天空十字顕現の文学的虚構性とその伝承成立年代：『コンスタンティヌスの生涯』偽書説への一論拠」Studia classica 2,2011年。)
(*)(参考：ネストレ校訂/塚本虎二訳・塚本虎二訳新約聖書刊行会編『塚本虎二訳新約聖書』新教出版社,2011年。)
(*)(参考：蛭沼幸雄『新約本文学演習：ルカ福音書I；ギリシア語新約語法』新教出版社,蛭沼幸雄著作集2,2011年。)
(*)(参考：Takashi Onuki“Neid und Politik：eine neue Lektüre des gnostischen Mythos”vanden-hoeck & Ruprecht,2011.)
(*)(参考：大貫隆訳『グノーシスの神話』岩波書店,岩波人文書セレクション2011年(→2014年,講談社学術文庫版)。)
(*)(参考：出村みや子『聖書解釈者オリゲネスとアレクサンドリア文献学—復活論争を中心として』知泉書館,2011年。)
(*)(参考：テレサ・バーガー/廣瀬和代・廣瀬典生訳『女性たちが創ったキリスト教の伝統：

聖母マリア,マアグダラの聖マリア,ビンゲンのヒルデガルト,アッシジの聖クララ,アビラの聖テレサ,マザー・テレサ・・・』明石書店,2011年。)
(*)(参考 : Ruiz Gomez Letica/久米順子訳「エル・グレコの絵画における聖母マリアの表現(エル・グレコ《聖母戴冠》(プラド美術館所蔵)特別展示記念フォーラム「エル・グレコ—変貌の過去と現在」)」長崎県美術館研究紀要4,2011年。)
(*)(参考：増田早苗「聖母マリアの系譜」宗教と文化28,2011年。)
(*)(参考：川久保輝興「信仰とシステム：文明史観からするマリア信仰(マリオロジー)の進展と信仰体制の確立にからまる問題(山田利秋名誉教授追悼記念号)」サピエンチア：英和大学論集45,2011年。)
(*)(参考：秋山学訳「アレクサンドリアのクレメンス『パイダゴーゴス』(『訓導者』)第1巻--全訳」文藝言語研究.,文藝篇59,2011年。)
(*)(参考：秋山学訳「アレクサンドリアのクレメンス『パイダゴーゴス』(『訓導者』)第2巻--全訳」文藝言語研究.,文藝篇59,2011年。)
(*)(参考：秋山学「『シラ文書』における「知恵」--アレクサンドリアのクレメンスとパウロの神学に照らして」文藝言語研究.,文藝篇60,2011年。)
(*)(参考：秋山学訳「アレクサンドリアのクレメンス『パイダゴーゴス』による理想の教育者像--ヨハネ文書からの視点を基に[含・ハンガリー語文要旨]」筑波大学地域研究32,2011年。)
(*)(参考：山崎裕子「アンセルムスと「聖母マリアへの祈り」--なぜアンセルムスはマリアを「世界の和解者」と称したのか」文教大学国際学部紀要21(2),2011年。)
(*)(参考：坂田道生『古代ローマの犠牲式図像研究：ローマ共和政からハドリアヌス治世まで』筑波大学,博士(芸術学),甲第5805号,2011年。)
(*)(参考：張考鉉「Nestorianism(景教)の東方伝播」文化継承学論集8,2011年。)
(*)(参考:岡本正明「中世を「横断」する—「聖母マリア崇拝」を軸として」人文研紀要71,2011年。)
(*)(参考：ピエトロ・ザンデル/豊田浩志他訳『バチカン：サン・ピエトロ大聖堂下のネクロポリス』SUP上智大学出版,ぎょうせい(発売)2011年。)
(*)(参考：竹下政孝・山内志朗編『イスラーム哲学とキリスト教中世』岩波書店,2011年。)
(*)(参考：Roland H. Baiton/澤井繁男訳「ルネサンス期の,人間,神,そして教会」関西大学文学論集61(1),2011年。)
(*)曽野綾子「いまだから—聖書の読み方」歴史通13,2011年。
(*)曽野綾子『図説いま聖書を学ぶ』ワック,2011年。
(*)阿部博行『黒崎幸吉：生涯とその時代』東北出版企画,2011年。)
(*)高山貞美「遠藤周作と親鸞における「海」--『海と毒薬』と『教行信証』から」カトリック研究80,2011年。
(*)古浦修子「遠藤周作『沈黙』における〈沈黙〉の意味--「神」と「人間」の関係性を視座として」キリスト教文学研究28,2011年。
(*)長濱拓磨「遠藤周作の「歴史小説」の一側面—松田毅一との関連をめぐって」遠藤周作研究4,2011年。

(*)片山はるひ「遠藤周作の文学における「母的なるもの」再考--「かくれキリシタン」とフランスカトリシスムの霊性」遠藤周作研究4,2011年。
(*)野谷啓二「遠藤周作のキリスト教—教会の喪失と神の発見」近代105,2011年。
(*)長谷川(間瀬)惠美「隠れ(Crypto)の信仰・生き方に学ぶ—キリスト教の実生化」遠藤周作研究4,2011年。
(*)「2010・平成22年 遠藤周作参考文献目録及び研究展望」遠藤周作研究4,2011年。
(*)山根道公「遠藤周作『沈黙』論—歴史的素材の再構成をめぐって」遠藤周作研究4,2011年。
(*)ヴァン・C.ゲッセル「西洋のキリスト教圏における遠藤[周作]文学の評価」遠藤周作研究4,2011年。
(*)管原とよ子「「無力」なイエス像形象のための選択—遠藤周作『イエスの生涯』におけるE.シュタウアー『イエス その人と歴史』の引用のあり方」九大日文17,2011年。
(*)管原とよ子「遠藤周作『死海のほとり』論—イエス,ねずみ,そしてもう一つの祈りの旅」九大日文18,2011年。
(*)管原とよ子「遠藤周作『イエスの生涯』論：典拠引用のあり方を主に,「同伴者」という言葉の所在について」近代文学論集37,2011年。
(*)大平剛「「黄色い人」論—家と風の隠喩」帯広大谷短期大学紀要48,2011年。
(*)李英和「インカルチュレーションと遠藤周作の文学：神学と文学の相互作用」城西国際大学紀要19(2),2011年。
(*)船曳紀子「遠藤周作が見た「神」と「人」--『沈黙』キチジローにみる「弱者」の意味」日本文学誌要83,2011年。
(*)小川あい「遠藤周作文学におけるキリスト教の受け止め方(4)サディズム」久留米大大学院比較文化研究論集27,2011年。
(*)清水昭三『椎名麟三の神と太宰治の神』原書房,2011年。
(*)(参考：小柳美代子「〈自己〉への途上：〈自己〉の内なる動きとハイデッガー・プラトン・現代自然科学」フィロソフィア99,2011年。)
(*)(参考：高橋康造・内海隆「教師論の過去と現在(2)ソクラテス」八戸工業大学紀要30,2011年。)
(*)(参考：金子晴勇『エラスムスの人間学：キリスト教人文主義の巨匠』知泉書院,2011年。)
(*)(参考：鈴木正士「結婚と純潔--『ドン・キホーテ正編』14章に見るエラスムスの人間中心思想の影響」琉球大学欧米文化論集55,2011年。)
(*)(参考：慶應義塾大学編『文明のサイエンス：人文・社会科学と古典的教養』慶應義塾大学出版部,2011年。) ------
鷲見洋一「ヨーロッパ文化とは何か」
アラン・マクファーレン「西洋と東洋における「大学」の概念」
大芝芳弘「古典に読む思想 ラテン語辞書学と西洋古典学」
西村太良「コンスタンティノス・シモニデスとその時代」
ニール・マクリン「「文明論」における古代史」
(*)(参考：森本あんり編『人間に固有なものとは何か：人文科学をめぐる連続講演』創文社,2011年。)
(*)(参考：久原みな子「アメリカ合衆国の学士課程教育におけるギリシャ・ローマ古典の読

解—ウィスコンシン大学ILSプログラムの創設から」慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要71,2011年。)
(*)南原繁「日本における人文科学の問題」中央公論63(12),2011年。
(*)久保正彰「教養への道(教養と大学)」IDE 527,2011年。
(*)(參考：青柳正規「彙報 国際学士院連合第84回総会報告」日本學士院紀要66(1),2011年。)
(*)青柳正規「ホーリズムという教養(教養と大学)」IDE527,2011年。
(*)青柳正規・吉田忠治・藤本英子「青柳正規さんに伺いました」土木學會誌96(4),2011年。
(*)青柳正規・佐藤誠「国立西洋美術館青柳正規館長に聞く」映像情報メディア学会誌65(1),2011年。
(*)神田盾夫「「出会い」について」ペディラヴィウム通信29,2011年。
(*)神田盾夫「イエス・キリストとの出会い--「共同体」の底にあるもの」ペディラヴィウム通信 29,2011 年。
(*)川田殖「私の歩みの中から—神田[盾夫]先生との出会いを中心に」ペディラヴィウム通信 29,2011 年。
(*)川田殖・佐野好則・岡崎公子・村山宏治・小川隆雄・古澤香乃・根本豪・佐藤園子「シンポジウム 出会いについて—いままでの歩みの中から」ペディラヴィウム通信 29,2011 年。
(*)棟居勇「追悼 松永希久夫さんとの五十年」ペディラヴィウム通信29,2011年。
(*)太宰治作・藤田香絵『走れメロス：太宰治名作選』角川つばさ文庫,アスキー・メディアワークス,2011年。
(*)夏目漱石・太宰治/齋藤孝編『齋藤孝のイッキに読める!小学生のための夏目漱石×太宰治』(「走れメロス」)講談社,2011年。
(*)江藤正顕「批評『走れメロス』の伴走者—走る太宰,走る三島」(花書院)敍説3(6),2011年。
(*)田中成行「「走れメロス」の昭和15年成立の意義：命を惜しみ赤面して恥らうメロス像の成立(個人研究)」研究紀要47,2011年。
(*)中村哲也「メロスの妹：教材「走れメロス」と〈共依存的〉人間関係」研究紀要47,2011年。
(*)古庄ゆき子著・大分県立先哲史料館編『野上彌生子』ドメス出版,大分県立先哲叢書,大分県教育庁管理部文化課編,大分県教育委員会,2011年。
(*)岩橋邦枝『評伝野上彌生子：迷路を抜けて森へ』新潮社,2011年。
(*)若松英輔「いま,『生きがいについて』を読む[神谷美恵子著]」みすず53(11),2011年。
(*)(參考：沓掛良彦「友情の軌跡」図書748,2011年。)
(*)(參考：アラン・コルバン/尾河直哉『快楽の歴史』藤原書店,2011年。)
(*)(參考：菊谷忠治「「常識」と言うイデオロギー」地中海歴史風土研究誌33,2011年。)
(*)(參考：菊谷忠治「今って何? ; 時間を考察してみる」地中海歴史風土研究誌34,2011年。)
(*)(參考：岩本暁顕他『シャカ ; 孔子 ; ソクラテス』改訂新版,せかい伝記図書館,いずみ書房,2011年。)
(*)(參考：神野慧一郎『イデアの哲学史：啓蒙・言語・歴史認識』ミネルヴァ書房,2011年。)
(*)松原俊文「小林雅夫著「古代ローマ人のヒューマニズム」(原書房)」史學雜誌120(2),2011年。
(*)(參考：中畑正志『魂の変容—心的基礎概念の歴史的構成』岩波書店,2011年。)
(*)(參考：神崎繁・熊野純彦・鈴木泉編『『ある』の衝撃からはじまる』講談社選書メチエ

511,講談社,2011年。)
(*)(参考：神崎繁・熊野純彦・鈴木泉編『「知」の変貌・「信」の階梯』講談社選書メチエ512,講談社,2011年。)
(*)(参考：中川純男・田子山和歌子・金子善彦編『西洋思想における「個」の概念』慶應義塾大学言語文化研究所,慶應義塾大学出版会(発売),2011 年。)
(*)(参考：木原武一『老年の幸福』海竜社,2011 年。)
(*)(参考：白取春彦監修『図解西洋哲学と東洋哲学：図で考えると面白い人生のヒント：はじめてのニーチェはじめての孔子』青春出版社,2011 年。)
(*)(参考：齋藤孝『齋藤孝のざっくり!西洋思想：3つの「山脈」で2500年をひとつかみ』祥伝社,2011年。)
(*)若松英輔「吉満義彦」三田文学[第3期]90(104),2011年。
(*)若松英輔「吉満義彦(2)岩下壮一との邂逅」」三田文学[第3期]90(106),2011年。
(*)三河隆之「出隆における哲学と実践(2)『哲学以前』を中心に」思想史研究14,2011年。
(*)三河隆之「出隆における哲学と実践(2)「ソクラテス」をめぐって」思想史研究14,2011年。
(*)内山勝利「古代哲学史研究仲間として 追悼・中川純男君」慶應義塾大学言語文化研究所紀要42,2011年。
(*)牛田徳子「いまは亡き中川純男を悼む」慶應義塾大学言語文化研究所紀要42,2011年。
(*)牛田徳子「「需要」は必要か?—岩田靖夫氏の場合」古代哲学研究43,2011年。)
(*)「[生老病死の旅路]偶然への対処 幸福が潜む・岩田靖夫さん」讀賣新聞東京夕刊6/13,2011年。
(*)(参考：守津隆・山口誠一「フェノロサ講義「哲学史：ヘーゲル論(清澤満之筆記)(上)」ヘーゲル哲学研究17,2011年。)
(*)(参考：畑潤「教育学と教養理念の起源に関する研究—イェーガーの『パイデイア』から学ぶ」都留文科大学大学院紀要15,2011年。)
(*)(参考：高畠純夫『アンティフォンとその時代：前5世紀アテナイの社会・思想・人間』東海大学出版会,2011年。)
(*)(参考：面一也「ソクラテスとソフィストの区別について—ドゥルーズにおける『ソピステス』解釈の再検討」思想1047,2011年。)
(*)(参考：和田義浩「プラトン哲学の現代的意義(1-4)「現代」の「哲学的」特質について」国士舘大學教養論集69,2011年/71,2012年/73,2013年/78,2015年。)
(*)(参考：阪田祥章「プラトン『クラテュロス』におけるヘラクレイトス像：ヘラクレイトス解釈史研究序説」Studia classica2,2011年。)
(*)(参考：納富信留「プラトン『ポリテイア』の現代的意義(慶應義塾150周年記念—三田哲学会論文集,自省する知—人文・社会科学のアクチュアリティー)—(歴史)」哲学127,2011年。)
(*)納富信留「近代日本におけるプラトン『ポリテイア』の受容、明治から大正へ」,思想1042,2011年。
(*)納富信留「近代日本におけるプラトン『ポリテイア』の受容、戦前から戦後へ」、思想1043,2011年。
(*)納富信留「国際プラトン学会第9回プラトン・シンポジウムの報告」西洋古典學研究59,2011年。)

(*)加藤信朗「基調講演 第9回プラトン・シンポジウムについて(特集 プラトン哲学の現代的意義--『ポリテイア』(国家篇)を中心に)」学術の動向16(1),2011年。
(*)(参考:土橋茂樹「洞窟に降り来った太陽—教父思想への「洞窟の比喩」の影響史(特集 プラトンの「国家」論)理想686,2011年。)
(*)山内友三郎「プラトンと九鬼周造の環境哲学」大阪教育大学紀要第2部門/社会科学・生活科学60,2011年。
(*)(参考:大木崇『アリストテレス哲学の研究:『自然学』をアルケーとして』京都大学,博士(文学),甲第16336号,2011年。)
(*)(参考:武井徹也「アリストテレスにおける存在者の存在の探究についての一解釈:前期ハイデガーにによる現象学的解釈の試み」立正大学哲学会紀要6,2011年。)
(*)(参考:法橋和彦「トルストイとチェーホフの読書におけるソクラテスとマルクス・アウレリウスの意義(チェーホフ生誕150年,トルストイ没後100年記念特集)」(ロシア・ソヴェート文学研究会)むうざ27,2011年。)
(*)(参考:木田元「哲学散歩(5)哲学史のなかのアレクサンドロス大王」文學界65(3),2011年。)
(*)(参考:伊藤春美『プロティノスの幸福論における観照と永遠』大阪府立大学,博士(人間科学),甲第1312号,2011年。)
(*)(参考:神門しのぶ『アウグスティヌス思想における教育の構造』上智大学,博士(教育学),甲第 396 号,2011 年。)
(*)(参考:和泉ちえ「新ピュタゴラス主義の起源を巡って」Studia classica 2,2011年。)
(*)(参考:小林正嗣『マルティン・ハイデガーの哲学と政治—民族における存在の現れ』風行社,2011年。)
(*)(参考:齋藤伸『カッシーラのシンボル哲学:言語・神話・科学に関する考察』知泉書院,2011年。)
(*)(参考:馬原潤二『エルンスト・カッシーラーの哲学と政治—文化の形成と〈啓蒙〉の行方』風行社,2011年。)
(*)(参考:馬原潤二『エルンスト・カッシーラーの政治思想:「シンボル形式」の哲学と「啓蒙」の行方』風行社,2011年。)
(*)(参考:多田圭介「ハイデガーの「メタ存在論」再考:「実存がさらに自然の事実的眼前存在を前提する」という命題をアリストテレス解釈の関係から読み直す」哲学年報58,2011年。)
(*)(参考:武井徹也「時計とアリストテレス:前期ハイデガーにおける時間についての一考察」立正大学人文科学研究所年報49,2011年。)
(*)(参考:村田憲郎「新カント派と経験論との狭間で:F.ブレンターノ『アリストテレスにおける存在者の多様な意味について』に見る存在論」東海大学紀要 文学部96,2011年。)
(*)(参考:出野博志「アリストテレス—無門慧開—西田幾多郎の転成における弁証法的展開の哲学的および仏法真理的考察」人間幸福学研究3(5),2011年。)
(*)(参考:長島隆「知恵と知識:「実践知」あるいは看護知について,アリストテレスとヘーゲルに即して」人間科学研究会生と死12・13,2011年。)
(*)(参考:齋藤暢人「アリストテレス的論理とメレオロジー:「ウカシェヴィチ最期の謎」を解く」論理哲学研究7,2011年。)

(*)(参考：鈴木暁「アリストテレースの読んだ『オイディプース王』」専修人文論集88,2011年。)
(*)(参考：折原裕「古典の読み方--『アリストテレス,アダム・スミス,マルクス』に寄せて」敬愛大学研究論集79,2011年。)
(*)(参考：中畑正志「アリストテレスは「場所の論理」に何か関係があるのか?(西田哲学—その論理基盤を問う)」アルケー19,2011年。)
(*)(参考：新島龍美「古書三語考：伝アリストテレス作『大道徳学』の一断面」比較社会文化九州大学大学院比較社会文化学府紀要17,2011年。)
(*)(参考：森弘一「西欧人文思想の系譜からみた「人間科学」--ヴィーコの思想を契機として」人間科学論究19,2011年。)
(*)(参考：長門祐介「ミメーシスはなぜ要請されるのか：イーザーからリクールへ」エティカ4,2011年。)
(*)(参考：三上章「ケンブリッジ・プラトン学派の祖ベンジャミン・ウイッチコート：そのプラトニズムとキリスト理解」(東洋英和女子大学)人文・社会科学論集28,2011年。)
(*)(参考：木田元「哲学散歩(第7回)プラトニズムとユダヤ思想」文學界65(7),2011年。)
(*)(参考：谷口淳一『聖なる学問,俗なる人生：中世のイスラーム学者』イスラームを知る2,山川出版社,2011年。)
(*)山田春樹編『山田晶：思い出の記』笹気出版印刷所,2011年。
(*)(参考：樋笠勝士「司会報告(特集 中世哲学とストア派倫理学—スコラ学における受容と変容：シンポジウム)」中世思想研究 53,2011 年。)
(*)(参考：山内志朗「ストア主義と中世哲学への影響(同上)」中世思想研究 53,2011 年。)
(*)(参考：桑原直己「トマス・アクィナス『ボエティウス「三位一体」註解』の意義」(筑波大学哲学・思想系)哲学・思想論集 37,2011 年。)
(*)(参考：石川博康「アリストテレスの再発見とボエティウス--『「契約の本性」の法理論』の装画・解題」書斎の窓 601,2011 年。)
(*)竹田青嗣「哲学史を見渡して考えること(特集 哲学っておもしろい)」みやびブックレット 35,2011 年。
(*)(参考：神崎繁「「探究する学」としての「哲学」の歴史」本 36(11),2011 年。)
(*)(参考：神崎繁・熊野純彦・鈴木泉編『「知」の変貌・「信」の階梯』講談社選書メチエ,講談社,2011 年。)
(*)(参考：國分功一郎『暇と退屈の倫理学』朝日出版社,2011 年。)
(*)(参考)：野沢一馬編『「必死」の花々：遺されたことば 99』じゃこめてい出版,2011 年。)
(*)(参考：関西大学東西学術研究所編『創立六十周年記念論文集』関西大学出版部,2011 年。)
-----柴田豊彦「カール・ヒルティ晩年の思想批判的考察：『眠られぬ夜のために第二部』に即して」
(*)(参考：桑田光平『ロラン・バルト—偶発時へのまなざし』(エピクロス)水声社,2011年。)
(*)(参考：逸身喜一郎『ラテン文学を読む：ウェルギリウスとホラーティウス』岩波セミナーブックス,岩波書店,)2011年。)
(*)(参考：コスタンティーノ・マルモ/谷口伊兵衛訳『ウンベルト・エコ作《バラの名前》原典批判：尊重すべき無花果』文化書房博文社,2011年。)
(*)(参考：長江弘晃・星昇次郎「ユートピア展望：ユートピアの原点、そして現在から未来

へ」佐野短期大学研究紀要22,2011年。)
(*)(参考 : E.ガレン/澤井繁男訳『ルネサンス文化史 : ある史的肖像』平凡社ライブラリー724,平凡社,2011 年。)
(*)(参考 : 河島英昭訳「新訳ダンテ神曲〈煉獄篇〉第1-33歌」図書743-754,2011年/755-761,764,766,2012年/769-778,2013年/779,780,2014年。)
(*)(参考 : 阿刀田高『やさしいダンテ「神曲」』(角川文庫),2011年。)
(*)(参考 : 金子晴勇『エラスムスの人間学 : キリスト教人文主義の巨匠』知泉書院,2011年。)
(*)(参考 : 鈴木正士「結婚と純潔--『ドン・キホーテ正編』14章に見るエラスムスの人間中心思想の影響[含・スペイン語文要旨]」琉球大学欧米文化論集55,2011年。)
(*)酒見紀成「『春の戴冠』と「蝉と蟻」」広島工業大学紀要・教育編10,2011年。
(*)(参考 : 中島潤「シャルル・ベロー『比較論』におけるラ・フォンテーヌ」名古屋短期大学研究紀要49,2011年。)
(*)(参考 : 長嶋昭「キリストの風薫る街 : ぶらりぶらり(22)ラヴィエンナ(イタリア)モザイク壁画群画眠る古都でダンテが「神曲」を書いた理由」福音と社会50(1),2011年。)
(*)(参考 : 辻憲男「フランチェスカ挿話批評史稿—禿木、敏から抱月、漱石まで」神戸親和女子大学言語文化研究5,2011年。)
(*)(参考 : 室井麗子「ルソー教育思想の再検討 : 「ペトラルカの受容者ルソー」という観点から」フィロソフィア・イワテ43(1),2011年。)
(*)(参考 : 田中佳佑「読書のルネサンス史 : 印刷術以後の人文主義における認識行為の変容」美學62(2),2011年。)
(*)(参考 : 小谷幸雄「ブルーノ・ペッツオルトと富永半次郎の比較文化研究 : 佛教とゲーテ(最終回)」印度學佛教學研究59(3),2011年。)
(*)(参考 : 『世界文学史年表』日本図書センター,2011年。)
(*)(参考 : 井藤元『シュタイナー人間形成論における「自由」の構図 : 試金石としてのゲーテ,シラー,ニーチェ』京都大学,博士(教育学),甲第15798号,2011年。)
(*)(参考 : 前田信輝訳『ギリシア古代美から : ヴィンケルマン論と訳』龍書房,2011年。)
(*)(参考 : J.J.ヴィンケルマン/尾田一正訳「『ドレスデン絵画館の秀作の記述』一断片」帝京大学外国語外国文学論集17,2011年。)
(*)(参考 : 小田部胤久「歴史家としてのヴィンケルマン—バロックと古典主義の交錯するところ(特集 近代とミュージアムの成立)19世紀学研究5,2011年。)
(*)(参考 : 武井隆道「ゲーテのラオコーン論について : 身体・空間を巡る十八世紀後半のディスクルスの帰結として(特集 身体文化)」ドイツ文学10(2),2011年。)
(*)(参考 : 森淑仁「ゲーテと現代」創価人間学論集4,2011年。)
(*)(参考 : 井戸田総一郎「「誘惑」の文体 : ニーチェとゲーテ(特集 到来することば)」文学12(1),2011年。)
(*)(参考 : 藤田正幸「ゲーテの『メールヒェン』について : 愛と変身のユートピア」人文学論集13,2011年。)
(*)(参考 : 山邊光宏「ゲーテに学ぶ老年期の人間形成思想(1-3)」安田女子大学大学院文学研究科紀要 合冊17,2011年。)
(*)(参考 : 久山雄甫「芸術からみたゲーテの世界 : 第82回ヴァイマール・ゲーテ協会総会に参加して」モルフォロギア : ゲーテと自然科学33,2011年。)

(*)(参考：茂木健一郎「講演録 ゲーテの「偶有性の意味」(特集 感性的学知をめぐって)」モルフォロギア：ゲーテと自然科学33,2011年。)
(*)(参考：ペーター・マトゥセク/平松智久訳「人間がたどりつく至上のもの：ゲーテの〈ひらめき〉(特集 感性的学知をめぐって)」モルフォロギア：ゲーテと自然科学33,2011年。)
(*)(参考：シュタイナー堀郁「ショーペンハウアーのイデア論におけるゲーテ原現象の受容と批判(ショーペンハウアー哲学の最前線)」理想687,2011年。)
(*)(参考：及川晃希「トーマス・マンの「ゲーテのまねび」について--『ワイマールのロッテ』を例に」リュンコイス44,2011年。)
(*)(参考：国分義司「大地の友,ゲーテ(1,2)」地質ニュース677,678,2011年。)
(*)(参考：井藤元「人智学の基盤としてのゲーテ自然科学—自己認識への準備」ホリスティック教育研究14,2011年。)
(*)(参考：井藤元「シュタイナーとニーチェ—ニーチェ論に潜在するゲーテ的自然観」京都大学大学院教育学研究科紀要57,2011年。)
(*)(参考:伊藤博明「フランシス・ベーコンと『古代人の知恵』」科学史研究・第II期50(257),2011年。)
(*)(参考：松山雄三「シラー：ヘルダーとの邂逅」プロテウス 13,2011 年。)
(*)(参考：松山雄三「Fr.シラーの教育思想」東北薬科大学一般教育関係論集 24,2011 年。)
(*)(参考：桑原俊介「シュライアマハー解釈学における「技術的(technisch)解釈」(第 62 回美学大会全国大会発表要旨)」美學 62(2),2011 年。)
(*)(参考：崔弘徳「シュライアマハーに対する波多野精一の宗教哲学的解釈」基督教研究 73(2),2011 年。)
(*)(参考：小田部胤久「歴史家としてのヴィンケルマン—バロックと古典主義の交錯するところ(特集 近代とミュージアム)」19 世紀学研究 5,2011 年。)
(*)(参考：角田幸彦「若きブルクハルト『チェチェローネ』への道』(1)」明治大学教養論集 461,2011 年。)
(*)(参考：角田幸彦「歴史哲学者ブルクハルト—その世界史的展望」明治大学教養論集462,2011年。)
(*)(参考：角田幸彦「若きブルクハルトにおけるキリスト教と神学—バーゼルの宗教的雰囲気とバーゼル大学神学部の二教授の影響」明治大学教養論集469,2011年。)
(*)(参考：小松惠一「公開公演 歴史の空間性と時間性：レーヴィット,ブルクハルト,武田泰淳」フィロソフィア・イワテ43,2011年。)
(*)(参考：森田猛「精神史としてのブルクハルト史学—意識と歴史」紀要47,2011年。)
(*)(参考：守津隆・山口誠一「フェノロサ講義：「哲学史」・ヘーゲル論[清沢満之筆記]」ヘーゲル哲学研究17,2011年。)
(*)(参考：ニーチェ/堀尾耕一訳「フリードリヒ・ニーチェ『古代レトリック講義』」Studia Classica2,2011年。)
(*)(参考:湯浅弘「ニーチェとディオニュソス的なもの(1)」川村学園女子大学研究紀要22(2),2011年。)
(*)(参考:三上真司「「神の死」とディオニューソス」横浜市立大学論叢 人文科学系列62(1),2011年。)

(*)前田知津子「齋藤茂吉写生説の形成：ニーチェの芸術観との関連において」比較文学54,2011年。
(*)(参考：小柳美代子「〈自己〉への途上：「〈自己〉の内なるハイデッガー・プラトン・現代自然科学」フィロソフィア?,2011年。)
(*)(参考：小林哲也「ベンヤミンのギリシア悲劇論：「英雄」の「反抗」と「沈黙」」文明構造論：京都大学大学院人間・環境学研究科現代文明論講座文明構造論分野論集7,2011年。)
(*)(参考：中金聡「エピクロスの帰還：ガッサンディにおける哲学的著述の技法について」国士舘大学政治研究2,2011年。)
(*)(参考：加藤尚武「自然主義をたずねて(8)エピクロスとレオポルド」生活と環境56(8),2011年。)
(*)大島秀明「読書の社会史：近代日本におけるケンペルの読まれ方」(志筑忠雄)文彩7,2011年。
(*)(参考：生田康夫「ホメーロスの声」(明治学院大学言語文化研究所)言語文化28,2011年。)
(*)(参考：氷見野良三『易経入門：孔子がギリシア悲劇を読んだら』文藝春秋,文集新書,2011年。)
(*)(参考：増田真「ルソーとプルタルコス」西洋古典叢書付録月報86,2011年。
(*)内山勝利「「経国美談」の古代ギリシア世界」」西洋古典叢書付録月報,2011年。
(*)(参考：渋谷与文「アナトール・フランスへの批評」学習院大学人文科学論集20,2011年。)
(*)(参考：木戸雅子「イオニア大学からヴァイオス・ヴァイオプロス先生を迎えて」共立国際研究28,2011年。)
(*)(参考：Vaiopoulos Vaios/カライスコス アントニオス訳「古代喜劇の女性たち—総合的な研究(イオニア大学からヴァイオス・ヴァイオプロス先生を迎えて)」共立国際研究28,2011年。)
(*)(参考：小林哲也「ベンヤミンのギリシア悲劇論：「英雄」の「反逆」と「沈黙」」文明構造論：京都大学大学院人間・環境学研究科現代文明論講座文明構造論分野論集7,2011年。)
(*)(参考：リヒャルト・シュトラウス作曲『ナクソス島のアリアドネ=Ariaone auf Naxos』隔週刊『DVDオペア・コレクション』48,デアゴスティーニ・ジャパン,2011年。)
(*)(参考：北野雅弘「ギリシア悲劇の詩学—カタルシスからポリフォニーへ」西洋比較演劇論59,2011年。)
(*)佐藤孝志「古里の皆さんと読んだ『オイディプス王』(渋沢栄一記念財団)青淵743,2011年。
(*)(参考：中里まき子「ジャンヌ・ダルク処刑裁判：文学的創造の源泉」(アンティゴネー)Nord est：日本フランス語フランス文学会東北支部会会報3・4,2011年。)
(*)(参考：齋藤弘崇「ジャック・ラカンのアンティゴネー論をめぐって」文学研究論集35,2011年。)
(*)(参考：逸身喜一郎『ラテン文学を読む：ウェルギリウスとホラーティウス』岩波セミナーブクス,岩波書店.2011年。)
(*)三上真葵・中妻雅彦「「共感」に基づいた授業の実践---安井俊夫「スパルタクスの反乱」の実践に学んで」愛知教育大学教育創造開発機構紀要1,2011年。

(*)月澤美代子「月川和雄さんの遺した西洋古典学, 植物学・薬学史に関する研究」, 生物学史研究85,2011年。
(*)坂元昌樹・西槇偉・福澤清編『越境する漱石文学』(ケーベル)思文閣出版,2011年。
(*)井上克人『西田幾多郎と明治の精神』(ケーベル)関西大学出版部,關西大學東西學術研究所研究叢刊39,2011年。
(*)守津隆・山口誠一「フェノロサ講義：ヘーゲル論(清沢満之筆記)(上)」ヘーゲル哲学研究17,2011年。
(*)『[ベルナルド編]『聖教初学要理：一八六九年(明治二年)』』雄松堂書店,復刻版,プティジャン版集成：本邦キリシタン布教関係資料・第1期13,2011年。
(*)『[ベルナルド編]『聖教初学要理：一八七二年(明治五年)』』雄松堂書店,復刻版,プティジャン版集成：本邦キリシタン布教関係資料・第1期18,2011年。
(*)『プティジャン『後婆通志与：一八七三年(明治六年)』』雄松堂書店,復刻版, プティジャン版集成：本邦キリシタン布教関係資料・第1期21,2011年。
(*)ネイサン・ブラウン訳：久米三千雄編・校注『馬可傳福音書：現代仮名版』信州上田における幕末・明治初期のプロテスタント・キリスト教研究会, オンデマンド版,2011年。
(*)ネイサン・ブラウン訳『新訳全書：現代仮名字体版』[川島第二郎]新居出版社,2011年。
(*)行武宏明「シオラン思想における神秘について—西洋思想と東洋思想の交流」東洋学研究48,2011年。
(*)片岡優子『原胤昭の研究：生涯と事業』関西学院大学出版会,2011年。
(*)輪倉一広「岩下壮一の思想形成と哲学」福井県立大学論集37,2011年。
(*)若松英輔「吉満義彦(新連載)」三田文学[第3期]90(104),2011年。
(*)若松英輔「吉満義彦(1)改宗と回心」三田文学[第3期]90(105),2011年。
(*)若松英輔「吉満義彦(2)洗礼—岩下壮一との邂逅」三田文学[第3期]90(106),2011年。
(*)若松英輔「吉満義彦(3)霊なる人間」三田文学[第3期]90(107),2011年。
(*)渡部昇一「書物ある人生(6)伊藤吉之助編輯『岩波哲学小辞典』郷里の先輩からの恩恵」Will84,2011年。
(*)綾目広治「賀川豊彦論」清心語文13,2011年。
(*)鶴田一郎「三谷隆正の遺著「幸福論」を読む(1-)」ホリスティック教育研究14,2011年//15,2012年//16,2013年/17,2104年。
(*)沓掛良彦「友情の軌跡」思想748,2011年。
(*)中務哲郎「極楽のあまり風(5)---漱石とギリシア奇談」図書753,2011年[(1-18)図書745~778,2011年~2013年。
(*)太宰治：全国SLA集団読書テキスト委員会編『走れメロス』改版集団読書テキストB1, 全国学校図書館協議会,2011年。
(*)佐野晴夫「生田長江と「ツアラトゥストラ」テキスト--生田長江文庫のニイチェを通じて」比較文学28,2011年。
(*)小山修「1911年の生田長江訳「ツアラトゥストラ」と森鴎外・魯迅の関係」石巻専修大学研究紀要22,2011年。
(*)西脇順三郎著/澤正弘編集・解説『西脇順三郎研究資料集・3巻』クロシカルチャー出版, 2011年。
(*)澤正弘「西脇順三郎の詩「ホメロスを読む男」を読む(近代文学特集号)」言文59,2011年。

(*)(参考：平埜一「警察官のためのIT用語講座(11・完)トロイの木馬」月刊警察29(12),2011年。)
(*)(参考：渋谷与文「アナトール・フランスへの批評」(ヴァレリー)学習院大学人文科学論集20,2011年。)
(*)(参考：西尾幹二「ニーチェ研究と私―ニヒリズム論議を超えて」正論477(11月号),2011年。)
(*)日本西洋古典学会“JASCA：Japan Studies in Classical Antiquity 1”The Classical Society of Japan,Kyoto University Press,2011.
(*)(参考：田中晋平「テオ・アンゲロブロス『アレクサンダー大王』における亡霊の考察」映像学87,2011年。)
(*)村木厚子「塩野七生『ローマ人の物語』新潮文庫版完結記念インタビュー 拘置所で読んだ『ローマ人の物語』」波45(9),2011年。
(*)(参考：桑山由文「ハドリアヌス帝のアテナイ「復興」とヘロデス・アッティクス父子」史窓68,2011年。)
(*)(参考：ロビン・オズボン/佐藤昇訳『ギリシアの古代：歴史はどのように創られるのか?』刀水歴史全書81,刀水書房,2011年。)
(*)(参考：ポール・カートレッジ著/新井雅代訳『古代ギリシア：11の都市が語る歴史』白水社,2011年。)
(*)南川高志「思想の言葉：歴史像の構築のために」思想1050,2011年。
(*)伊藤貞夫「村川堅固先生 我国西洋史学の礎」熊本県教育委員会「熊本県の近代化に貢献した人々 功績と人と(平成23年度)」,2011年。
(*)(参考：橋場弦「議長になったソクラテス」公研570,2011年。)
(*)桜井万里子「Face of Center:Kentaro Murakawa」学術の動向16(1),2011年。
(*)桜井万里子「大学に於ける歴史教育の現在とこれから」学術の動向16(10),2011年。
(*)桜井万里子「グローバル化時代の歴史認識：古代ギリシア人の自己認識という視座から考える(報告公開シンポジウム「越境する歴史学と歴史認識」第108回歴史学大会報告)」史學雜誌120(1),2011年。
(*)(参考：桜井万里子「クセノポンとスパルタ史」京都大学学術出版会84,2011年。)
(*)(参考:前野弘志「ある碑文の歴史―いわゆるデルフィの蛇柱碑文の場合(シンポジウム[歴史の中の記憶])」史学研究272,2011年。)
(*)(参考：小坂俊介「シルウァヌス反乱に関する諸史料：古代末期における歴史叙述とアンミアヌスの影響」西洋史研究40,2011年。)
(*)(参考：柴田広志「ヘレニズム時代のアレクサンドロス大王像―ポリュビオス『歴史』を手がかりに」古代文化62(4),2011年。)
(*)(参考：NAITO ayako「時代的趣向としての余韻?：コンラート・ヴュルツブルク『トロイア戦争』,「アルゴ号の航海」における反復の文彩」慶應義塾大学独文学研究室研究年報28,2011年。)
(*)(参考：石井久恵「戦史随想シリーズ(67)神話と史実の狭間で―トロイア戦争」波涛36(5),2011年。)
(*)(参考:山中由里子「研究フォーラム アレクサンドロスは「大王」か?(世界史の研究[227])」歴史と地理644,2011年。)
(*)(参考：Kirk Douglas,Stanley Kubrick,Dlton Trumbo,Howard Fast,Edward Lewis“Spartacus”

ビデオディスク,ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント,2011年。)
(*)三上真葵「「共感」に基づいた授業の提案—安井俊夫「スパルタクスの反乱」の実践に学んで」愛知教育大学教育創造開発機構紀要1,2011年。
(*)(参考：本村凌二『帝国を魅せる剣闘士：血と汗のローマ社会史』歴史のフロンティア,山川出版社,2011年。)
(*)(参考：リドリー・スコット監督/ダグラス・ウイック,デイヴィッド・フランゾーニ,フランコ・ラスティン製作,デイヴィッド・フランゾーニ,ジョン・ローガン・ウィリアム・ニコルソン脚本『Gladiator』ビデオレコード,ジェネオン・ユニバーサル・ユニバーサル・エンターテイメント,2011 年。
(*)(参考：笠原順路「英詩註解：ロマン主義時代の剣闘士詩(1)」(明星大学教育学部)教育学部研究紀要1,2011年。)
(*)(参考:『「碑文習慣」の衰退に見るローマ社会の変容』東京大学2009年,(科研費)2011年。)
(*)(参考：毛利晶「第一章 先史時代から古代末期までのガリア」(佐藤彰一・中野隆生編『フランス史研究入門』山川出版社」2011年。)
(*)(参考：芝井敬司「歴史家エドワード・ギボンの家系とダレル家」関西大学西洋史論集14,2011年。)
(*)(参考：江川陽「スイス滞在期におけるギボンの思想的展開」立正史学109,2011年。)
(*)「文献目録—西洋史 1」史學雜誌 120(1),2011 年。
(*)(参考：佐藤信「問題提起(公開シンポジウム「越境する歴史学と歴史認識」第108回学会大会報告)」史學雜誌120(1),2011年。
(*)(参考：桜井万里子「グローバル化時代の歴史認識：古代ギリシア人の自己認という視座から考える(報告,公開シンポジウム「越境する歴史学と歴史認識」第108回学会大会報告)」史學雜誌120(1),2011年。
(*)(参考：上野愼也「戦後の物語：前四世紀初頭のアテーナイで(研究発表,西洋史部会,第108回学会大会報告)」史學雜誌120(1),2011年。
(*)(参考：大清水裕「マクシミヌス・トラクス政権の崩壊と北アフリカ：テベステ出土碑文から見た「デュスドゥルス革命」の意義(研究発表,西洋史部会,第108回学会大会報告)」史學雜誌120(1),2011年。
(*)齋藤貴弘「澤田典子著「アテネ民衆政—命をかけた八人の政治家」(講談社選書メチエ,講談社)」史學雜誌120(1),2011年。
(*)大塚修「山中由里子著「アレクサンドロス変相—古代から中世イスラームへ」(名古屋大学出版会)」史學雜誌120(4),2011年。
(*)「文献目録—西洋史 2」史學雜誌 120(5),2011 年。
(*)畑守泰子・藤井信之「古代オリエント(1,2)(2010 年の歴史学界：回顧と展望)(西アジア・北アフリカ)」史學雜誌 120(5),2011 年。
(*)中町信孝「イスラーム時代(西アジア・北アフリカ,2010年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌120(5),2011年。
(*)「西アジア・北アフリカ(2010 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 120(5),2011 年。
(*)中谷功治「ロシア・ビザンツ(中世、2010 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雜誌 120(5),2011年。
(*)高澤紀恵「一般(近代,ヨーロッパ,2010 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雜誌 120(5),2011年。

(*)後藤はる美「イギリス(近代、2010 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌 120(5),2011 年。
(*)西願広望「フランス(近代 2010 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 120(5),2011 年。
(*)池谷聡「ドイツ・スイス・ネーデルランド(近代,2010 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 120(5),2011 年。
(*)(參考：渡邊千秋「ヨーロッパ：近代南欧(2010 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 120(5),2011 年。)
(*)(參考：近江吉明「ヨーロッパ：中世西欧南欧(2010 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌120(5),2011年。)
(*)前沢伸行「ヨーロッパ：古代ギリシア(2010 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 120(5),2011 年。
(*)山本晴樹「ヨーロッパ：古代：ローマ(2010年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 120(5),2011年。
(*)「文献目録—西洋史3」史學雑誌120(9),2011年。
(*)橋場弦「佐藤昇著『民主政アテナイの賄賂言説』(山川歴史モノグラフ17,山川出版社)2008」史學雑誌120(9),2011年。
(*)(參考 : 原賢治「ヘレニズム期ロドスにおける市民と外国人 : πληθοσの解釈を手がかりに」西洋史研究40,2011年。)
(*)(參考：小坂俊介「シルウァヌス反乱に関する諸史料：古代末期における歴史叙述とアンミヌスの影響」西洋史研究40,2011年。)
(*)(參考：師尾晶子「フォーラム 古代ギリシア碑文研究の新潮流：碑文習慣をめぐって」西洋史学242,2011年。)
(*)(參考 : 山中由里子「研究フォーラム アレクサンドロスは「大王」か?(世界史の研究[227])」歴史と地理644,2011年。)
(*)(參考：高橋英海「シリア語における『治癒の書』の受容」(小林春夫・阿久津正幸・仁子寿晴・野元晋編『イスラームにおける知の構造と変容---思想史・科学史・社会史の視点から』所収,共同利用・共同拠点イスラーム地域研究拠点研究早稲田大学イスラーム地域研究機構,2011年。)
(*)(參考：根津由喜夫『図説ビザンツ帝国：刻印された千年の記憶』ふくろうの本,河出書房新社,2011年。)
(*)(參考：大川周明『マホメット伝』書肆心水,2011年。)
(*)(參考：太田敬子『十字軍と地中海世界』山川出版社,世界史リブレット107,2011年。)
(*)(參考：新人物往来社編『十字軍全史：聖地をめぐるキリスト教とイスラームの戦い』新人物往来社,ビジュアル叢書,2011年。)
(*)(參考：タミム・アンサーリー/小沢千重子訳『イスラームから見た「世界史」』紀伊国屋書店,2011年。)
(*)(參考：高澤紀恵「高橋・ルフェーブル・二宮--「社会史誕生」の歴史的位相(戦後日本歴史学の流れ—史学史の語り直しのために)」思想1048,2011年。)
(*)高橋英海「本村凌二先生を送る」Odysseus 16,2011年。
(*)「本村凌二先生業績一覧(2012年1月末現在)」Odysseus 16,2011年。
(*)鈴木正弘「日本における「世界史」教育の歩み」世界史研究論叢1,2011年。
(*)石塚正英「国家の興亡に立ち会った歴史家たち：酒井三郎著「国家の興亡と歴史家」の復刻を記念して」世界史研究論叢1,2011年。

(*)(参考 : 西洋比較演劇研究会編『ベスト・プレイズ : 西洋古典戯曲12選』新訂版,論創社,2011年。)
(*)(参考 : 安村典子「コリン・オースティン先生を偲ぶ」岩波書店「ギリシア喜劇全集」月報8,2011年。)
(*)(参考 : 高橋宏幸「喜劇とメタ喜劇」岩波書店「ギリシア喜劇全集」月報9,2011年。)
(*)(参考 : 根占献一「講演 ルネサンス世界—その意義と我々」エクフラシス1,2011年。)
(*)(参考 : 根占献一「コロンナ,ミケランジェロ,ポントルモ—時代と向き合う芸術家たち」学習院女子大学紀要13,2011年。)
(*)(参考 : 銭鐘書著・張新力訳・小栗友一他「翻訳 人生という本の余白に書き込む(続)『写在人生辺上』銭鐘書著」言語と文化25,2011年。)
(*)明治文化研究会編『明治文化全集(15巻)』EBSCO,2011年。
(*)(参考 : 大阪大学大学院言語文化研究科編『時空と認知の言語学』(王周明「《北京官話伊蘇普喩言》成□的多文化因素」)言語文化共同研究プロジェクト2011-2018, 大阪大学大学院言語文化研究科,2011年。
(*)やまちかずひろ,松成真理子「イソップどうわ : ライオンとねずみ」おひさま17(5),2011年。
(*)西本鶏介編『世界のおはなし全30話』(村上勉絵「いなかのネズミと町のねずみ」,土橋とし子絵「イソップのおはなし」,篠崎三朗絵「ライオンとねずみ」,ふりやかよこ絵「北風と太陽」)よみきかせおはなし集ベストチョイス,ポプラ社,2011年。
(*)カトリーン・シェーラー作/関口裕昭訳『とかいのねずみといなかのねずみ : あたらしいイソップのはなし』光村教育図書,2011年。)
(*)イソップ原作/蜂飼耳文・山福朱美絵『きたかぜとたいよう』イソップえほん5,岩崎書店,2011年。
(*)Live ABC編『やさしい英語で読むイソップ物語』改訂版,音読CD,book 1,Jリサーチ出版,2011年。
(*)安部公房『水中都市 ; デンドロカカリヤ』(「イソップの裁判」)35刷改版,新潮文庫,新潮社,2011年。
(*)伊達一啓『イソップの暗号(コード)』無双舎,2011年。
(*)コバニ・マリア[Kovani Maria]『イソップの寓話における翻訳の問題』一橋大学 博士(学術)甲第635号,2011年。
(*)(参考 : 陳筱燕「アンデルセン童話以前にみる無生物の〈擬人行為〉—イソップ寓話にみる無生物の〈擬人行為〉を手掛かりに」白百合女子大学児童文化研究センター研究論文集14,2011年。)
(*)宮川健郎「『イソップ株式会社』--手紙がつくり出もの(特集 井上ひさしと世界)」国文学 解釈と鑑賞76(2),2011年。
(*)吉見孝夫「大山鳴動して鼠一匹—イソップ寓話とことわざ」(北海道教育大学語学文学会)語学文学49,2011年。
(*)吉見孝夫「日本におけるイソップ寓話集略解説—1900まで」「イソップ資料」北海道教育大学札幌校国語第二研究室(吉見孝夫編)創刊号[1],平成23年。
(*)吉見孝夫「日本におけるイソップ寓話集対照表」北海道教育大学札幌校国語第二研究室(吉見孝夫編) 創刊号[1],平成23年。

(*)濱田幸子「『伊會保物語』成立についての一考察：イソポの伝記を中心に」佛教大学大学院紀要・文学研究科篇39,2011年。
(*)安藤信廣「『イソップ物語』受容の一側面：『伊娑菩喩言』の日本における受容について」(吉田松陰)東京女子大学比較文化研究所紀要72,2011年。
(*)谷田千代子「昭和期にみるイソップ寓話「犬とその影」の変容」仁愛大学研究紀要・人間生活学部篇3,2011年。
(*)濱田幸子「『伊曽保物語』成立についての一考察：イソポの伝記を中心にして」佛教大学大学院紀要 文学研究科篇39,2011年。
(*)秦温信『北辰のごとく—関場不二彦伝』(イソップ)北海道出版企画センター,2011年。
(*)金賛會「百合若大臣伝説と韓国の民間伝承」古代朝鮮文化を考える26,2011年。
(*)Keene Donald Lawrence「初めて触れた、江戸期の『百合若大臣野守鑑』に興奮しました(特集 東洋文庫の世界—アジア研究の至宝を一挙公開!)」東京人26(12),2011年。
(*)小澤俊夫監修・再話/小澤ばなし大学再話研究会再話・篠崎三朗絵『花咲かじい』(「百合若ものがたり」)小峰書店,語りつぎたい日本の昔話1,2011年。
(*)(参考：久保昭博『表象の傷：第一次世界大戦からみるフランス文学史』人文書院,2011年。)
(*)(参考：渋谷与文「アナトール・フランスへの批評」(ヴァレリー)学習院大学人文科学論集20,2011年。)
(*)(参考：原野葉子「レーモン・クノー『イカロスの飛行』：空中のメタフィクション」広島大学フランス文学研究30,2011年。)
(*)(参考：落合理恵子「〈フェッラーラ牧人劇〉におけるアルカディアの表出とトルクァート・タッソの『アミンタ』(1573年初演)の舞台」演劇学論集：日本演劇学会紀要52,2011年。
(*)(参考：志々見剛「歴史的範例とその模倣をめぐるモンテーニュの思索：小カトーとエパミノンダアスについて」フランス語フランス文学研究98,2011年。)
(*)(参考：矢橋透「ラ・フォンテーヌ,オペラ,ノスタルジー・・・」岐阜大学教育学部研究報告,人文科学59(2),2011年。)
(*)(参考：中島潤「シャルル・ペロー『比較論』におけるラ=フォンテーヌ」名古屋短期大学研究紀要49,2011年。)
(*)(参考：ジュヌティオ・アラン/小倉博孝訳「ラ・フォンテーヌ『寓話』の詩法(上下)」ソフィア60(1,2),2011年。)
(*)(参考：安永愛「《Gladiator》comme signe intime : La problematique de l’entrainement chez Paul Valery」フランス語フランス文学研究98,2011年。)
(*)(参考：家山也寿夫「ジャン・コクトー「不死鳥学」考：『パラプロゾディ』と『オルフェの遺言』をもとに」早稲田大学大学院文学研究科紀要 第2分冊,2011年。)
(*)(参考：掛川典子「ヘレーネ・シュテッカーの学問修行時代(1892-1901)」(ヴィンケルマン)學苑850,2011年。)
(*)(参考：前田信輝訳『ギリシア古代美から：ヴィンケルマン論と訳』龍書房,2011年。)
(*)(参考：小田部胤久「歴史家としてのヴィンケルマン—バロックと古典主義の交錯するところ(特集 近代とミュージアムの成立)」19世紀学研究5,2011年。)

(*)(参考:角田幸彦「若きブルクハルト『チチロローネ』への道(1)」明治大学教養論集461,2011年。)
(*)(参考:角田幸彦「若きブルクハルト—その世界史的展望」明治大学教養論集461,2011年。)
(*)小山修一「1911年の生田長江全訳「ツァラトゥストラ」と森鷗外・魯迅の関係」石巻専修大学研究紀要22,2011年。
(*)(参考:フリードリヒ・フォン・シラー/小栗孝則訳『人間の美的教育について』叢書ウニベルシタス775,法政大学出版局,2011年。)
(*)(参考:山縣光晶「テーィクの『アブダラ』における隠者とEinsamkeit—ヘルダーリンの『ヒュペーリオン』と対比して」Stufe 30,2011年。)
(*)(参考:畠山寛「ヘルダーリンにおける「ティーターン的なるもの」と意味の生成—断片『ティーターン神族』を読む」聖心女子大学論叢116,2011年。)
(*)(参考:河本英夫「人類の社会実験 ヘルダーリン『エンペードクレス』」現代思想39(9),2011年。)
(*)(参考:加賀ラビ「ホーフマンスタールの「エディプス三部作」について」オーストラリア文学27,2011年。)
(*)(参考:高根広大「『トロイラスとクレシダ』に見る悲劇的世界構築」学習院大学英文学会誌2010,2010年。)
(*)(参考:高谷修「NisusとEuryalusの死—ドライデンのウェルギリウス翻訳の一面」英文学評論83,2011年。)
(*)(参考:伊澤高志「ジョン・ドライデンの生涯と作品(特集 イギリス文学—作家と伝記)」英文学論考37,2011年。)
(*)(参考:加島康彦「『ジュリアス・シーザー』におけるセネカの影響」安田女子大学大学院文学研究科紀要 合冊17, 2011年。)
(*)(参考:森道子「「めでたし,結婚愛よ」:ミルトンの妻像におけるオウィディウスの妻」大手前大学論集12,2011年。)
(*)(参考:清水徹郎「『ヒアロウとレアンダー』の「海を行く婚礼」--ヘレニズム時代の小叙事詩からマーロウと祝祭喜劇の世界へ」大会Proceedigs83,2011年。)
(*)(参考:崎山拓郎「リチャード・ローティとウォルター・ペイター:リベラル・アイロニストとしての『享楽者マリウス』」神戸英米論叢25,2011年。)
(*)(参考:大沼由布『中世後期の英文学における記述法としての「驚異」と古典受容』同志社大学(2020年),(科研費)2011年。)
(*)(参考:G.スタイナー・高田康成「G.スタイナー氏訪問記」図書752,2011年。)
(*)(参考:泉蹇『心理小説研究序説:ヴァージニア・ウルフの作品解釈を中心として』文芸社,2011年。)
(*)(参考:奥山礼子『ヴァージニア・ウルフ再読::芸術・文化・社会からのアプローチ』彩流社,2011年。)
(*)(参考:藤嶋昭編著『時代を支えた科学者の名言』東京書籍,2011年。)
(*)(参考:安井伸顕『ギリシア古代都市メッセネのメッセネ神殿の復元に関する研究』熊本大学,博士(工学),甲第488号,2011年。)
(*)(参考:鳥居徳敏「アルハンブラ宮殿—イスラム世界における同宮殿の位置付け」スペイン・ラテンアメリカ美術史研究12,2011年。)
(*)(参考:伊藤重剛・吉武隆一・中島亮介「地中海古代都の研究(132)」日本建築学会研究報

告,九州支部 3,計画系 50,2011 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・吉武隆一・岩田千穂「地中海古代都の研究(133,134)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 50,2011 年。)
(*)(参考：吉武隆一「地中海古代都の研究(135)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 50,2011 年。)
(*)(参考：小柳津菜都美・大村真理子・花里利一「23460 海外の地震国における世界遺産組積造建築物の耐震性に関わるモニタリング調査：(3)パルテノン神殿における地震動と被害に関する調査(海外の組積造,構造 IV)」学術梗概講演集 C2,構造 IV,鉄筋コンクリート構造,プレストレストコンクリート構造,壁構造・組積構造,2011,2011 年。)
(*)(参考:市川秀和「9363 シュティーグリッツと十八世紀ドイツ建築思想(ヨーロッパ・18-19世紀,建築歴史・意匠)」学術講演梗概集F-2,（建築歴史・意匠）2011,2011 年。)
(*)(参考：田中沙知・加嶋章博「9356 ルネサンス期の「理想都市」と近代都市計画の連続性に関する研究：ウィトルーウィウス,アルベルティのテクスト,スカモツィの都市図を中心として」(ヨーロッパ近世,建築歴史・意匠),学術講演梗概集F-2,（建築歴史・意匠）2011,2011年。)
(*)(参考：下川勇「建築家V.スカモッツィのウィトルウィウスの建築書の受容について」福井工業大学研究紀要41,2011年。)
(*)(参考：ジェフリー・スコット原著/桐敷真次郎編『ヒューマニズムの建築：趣味の歴史の研究：注解』中央公論美術出版,2011年。)
(*)田路貴浩「森田慶一の初期の思想と作品：構立てと生命(建築史・建築意匠・建築論)」日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系51,2011年。
(*)市川秀和「武田五一と京都学派の建築論(建築史・建築意匠・建築論)」日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系51,2011年。
(*)(参考：バトリス・ジェリネ/北村陽子訳『美食の歴史2000年』原書房,2011年。)
(*)(参考：大谷元「チーズの起源と歴史」New Food Industry 48(10),2011年。)
(*)(参考：C.J.S.トンプソン/川満富裕訳『手術器械の歴史』時空出版,2011年。)
(*)(参考：鈴木常元「「馬と御者」の比喩による比較心理療法論の試み：プラトン,ブッダからフロイト,シュルツ,エリクソンまで」駒澤大学心理学論集：KARP13,2011年。)
(*)(参考：坂本邦暢「質料に宿る量と力：フランシス・ベイコンにおける諸学の統一性(〈小特集〉新しいベイコン像を求めて—神学,神話解釈,物質理論)」科学史研究 第II期50(257),2011年。)
(*)(参考：鏡リュウジ「占星術とスピチュアリティ,そしてユング(カウンセリングとスピリチュアリティ)—(ユングとスピリチュアリティ)」現代のエスプリ528,2011年。)
(*)(参考：平林浩「国分一太郎の科学教育・自然教育の想い：ルクレチウスの訳編に寄せて(特集 国分一太郎生誕百年記念)」人権と教育(障害児と親と教師をむすぶ)53,2011年。)

(*)(参考：江川隆男「天才と人災の究極的融合―ルクレティウスと気象学 ルクレティウス「物の本性について」」現代思想39(9),2011年。
(*)(参考：河口明人「健康概念の起源について―古代ギリシャ世界における身体と生命(3) 祭典の思想と生存の意志」北海道大学大学院教育学研究院紀要 112, 2011 年。)
(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(36)視覚・人体の部位」治療 93(1), 2011年。)
(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(37)医術と箴言」治療 93(2), 2011年。)
(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(38)ヒポクラテス医学の本質―誓い・医師の品位と心得」治療 93(3), 2011 年。)
(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(39)医学観・養生訓・診療所」治療 93(4), 2011 年。)
(*)(参考：中島旻保「ヒポクラテスが教える病名のない病理学(40・最終回)ヒポクラテス医学の全体像とその後」治療 93(5), 2011 年。)
(*)(参考：横山真太郎「1-9 「頭寒足熱」：その背景と生理人類学的意味：第 1 輯ヒポクラテスやブールハーフェとの関連を中心として(日本生理人類学会第 63 回大会発表要旨)」日本生理人類学会誌 16(1),2011 年。)
(*)(参考：白鳥早奈英「長寿の掟(1)医聖ヒポクラテスの生涯」月刊カレント 48(1),2011 年。)
(*)(参考：上濵口武・柴田紀之・小林繁「池尻茂学長とヒポクラテスの木について」日本歯科医史学会会誌 29(2),2011 年。)
(*)(参考：佐々木薫「アロマテラピー人物伝(8)人間愛に生きたヒポクラテス」Aromatherapy enviroment61,2011 年。)
(*)(参考：石垣靖子・山本和利「第 6 回ナースよ,ヒポクラテスを超えなさい」日本プライマリ・ケア連合会会誌 34(3),2011 年。)
(*)(参考：駿地眞由美「古代ギリシャにみる「癒しのトポス」と現代の心理療法(1)古代ギリシャのアスクレピオスに関するフィールドワーク」追手門学院大学心理学部紀要 6,2011 年。)
(*)(参考：田代英樹「ヘルメス文書『アスクレピオス』の人間観,科学観」(人間幸福学会)人間幸福学研究 3(5),2011 年。)
(*)(参考：林真理子「アスクレピオスの愛人(1-25)」週刊新潮 56(26-50),2011 年。)
(*)(参考：目崎高広「キマイラ~トロイの木馬~未来戦略(特集 知っておきたいボツンリス菌療法)―(治療のコツと未来への展望)」Modern phisican 31(7),2011 年。)
(*)(参考：徳永哲「1840-50年代におけるナイチンゲールの看護哲学と近代看護の形成」日本赤十字九州国際看護大学紀要10,2011年。)
(*)(参考：西川泰夫「現代心理学成立への道程に関する論考―アリストテレス形而上学,科学革命,そして新心理学へ(西川泰夫先生退官記念特集)」心理学史・心理学論12,2011年。)
(*)(参考：飯野節夫編『世界伝統医学要覧：世界194カ国諸民族の伝統医学&伝統医療法の相互交流を目指す!：伝統医学は現代医学に優る』国際文化交流出版社,2011年。)
(*)(参考：坂井建雄『ガレノス解剖論集』京都大学学術出版会,2011年。)

(*)(参考：坂井建雄・池田黎太郎・澤井直「安西なつめ：ガレノス『身体諸部分の用途について』第1巻の解題と翻訳」日本醫史學雜誌57(4),2011年。)
(*)(参考：金山萬里子「ガレノス『最良の医師はまた哲学者でもあること』」大阪医科大学紀要,人文研究42,2011年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐるパノラマ(27)サレルノの医学校」綜合看護46(1),2011年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐるパノラマ(28)大学の誕生」綜合看護46(2),2011年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐるパノラマ(29)自由学芸のゆくて」綜合看護46(3),2011年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐるパノラマ(30)ディアイタの復権」綜合看護46(4),2011年。)
(*)(参考：海老名卓三郎『世界35ヶ国・花模様：花・草木・生き物のラテン語名由来』近代文芸社,2011年。)
(*)(参考：菅野幸子・本田克也「近代ギリシャの学術雑誌「ヘルメス・オ・ロギオス」に見られる医学研究」日本醫史學雜誌 57(4),2011 年。)
(*)遠藤正治「宇田川榕庵の西洋植物学受容過程について」薬史學雜誌 46(2),2011 年。
(*)(参考：高橋幸一「古代世界における女性とスポーツ」体育学研究56(1),2011年。)
(*)(参考：橋場弦「裸のオリンピック」公研576,2011年。)
(*)(参考：金玉秦「身体観と体育—ヘレニズムとヘブライズムを中心に」教育研究53,2011年。)
(*)(参考：田原淳子・池田延行「スポーツを通しての倫理教育に関する研究—映像教材「ピエール・ド・クーベルタン：過去と現在」の分析」国士舘大学体育研究所報29,2011年。)
(*)(参考：真田久『19世紀のオリンピア競技祭』スポーツ人類学ドクター論文集,明和出版,2011年。)
(*)伊東俊太郎「科学史研究を回顧する」科学史研究第II期50(259),2011年。
(*)(参考：奥野克己『人と動物、駆け引きの民族誌』はる書房、2011年。)
(*)(参考：小川正廣「中国における西洋古典の受容---徐光啓と馬相伯をめぐって」,「名古屋大学グローバルCOEプログラム「テクスト布置の解釈学的研究と教育」,GCOE Newsletter12,2011年。)
(*)(参考：ユークリッド著[I.L.Heiberg編]/中村幸四郎他訳・解説『ユークリッド原論』追補版,共立出版,2011年。)
(*)(参考：小川正廣「中国における西洋古典の受容---徐光啓とユークリド「原論」の漢訳と解釈」[松澤和宏編『テクストの解釈』所収,水声社,2011年。])
(*)佐々木力「江戸のピュタゴラス主義(上下)新井白石から佐久間象山まで」思想1041,1042,2011年。
(*)平岡敏夫「『上海』と『佳人之奇遇』：政治小説の系譜」稿本近代文学36,2011年。
(*)杉山伸也「「経済史」をあるく(8)馬場辰猪再訪」書斎の窓609,2011年。
(*)(参考：宮坂万喜弘「ヨーロッパ社会の成立基盤—魂の配慮・宗教的精神の重要性について」(江戸川大学)情報と社会21,2011年。)
(*)(参考：植草一秀「植草一秀の「月刊経済時評」(13)トロイアの木馬TPPと日本復興の秘策」月刊日本15(11),2011年。)
(*)(参考：八幡(谷口)彩子「古代ギリシアにおける知的探究と家政学：家政思想史研究序説」一般社団法人日本家政学会研究発表要旨集63,2011年。)
(*)(参考：国士舘大学政経学会編『グローバル時代の政治・経済・経営：国士舘大学政経学

部創設50周年記念論文集(政経論叢/政治研究,特別記念)』(的射場敬一「市民と「政治的なるもの」の起源を求めて：古代アテナイのポリスと公共空間」) 国士舘大学政経学会,2011年。)
(*)(参考：丸亀裕司「共和政末期ローマの公職選挙における選挙支援者：Divisorとgratiosusをめぐって」史學雜誌120(2),2011年。
(*)栗原麻子「書評 橋場弦著『賄賂とアテネ民主政』(山川出版社)」西洋史研究238,2011年。
(*)(参考：橋場弦『古代ギリシアにおける紛争解決と公共圏の比較文化史的研究』東京大学2008年,(科研費)2011年。)
(*)(参考：篠原道法『古典期アテナイにおける市民と外国人の社会関係：ポリス社会の実像を巡って』立命館大学,博士(文学),甲第731号,2011年。)
(*)(参考：荒木勝『アリストテレス政治哲学の重層性』創文社,2011年。)
(*)(参考：荒木勝『アリストテレス政治哲学の重層性』国際基督教大学,博士(学術),乙第26号,2011年。)
(*)(参考：高橋広次「アリストテレス以後の「配分的正」観念の展開」南山法学34(2),2011年。)
(*)(参考：岩田靖夫「アリストテレス政治思想の現代的意義―プラトン『国家』の思想との対比において(特集 プラトン哲学の現代的意義--『ポリティア』(国家篇)を中心に)」学術の動向16(1),2011年。)
(*)(参考：菅野英機「事実と幻想(13)小沢一郎氏の「裁判」とアリストテレスの経験哲学―三権分立は多様なシステムの根幹で司法は小沢氏の弁明を聞く必要がある」月刊テーミス20(11),2011年。)
(*)(参考：杜鋼建/鈴木敬夫訳「孔子とアリストテレスの法思想比較(翻訳 中国法思想の潮流(1)何勤華と杜鋼建)」札幌学院法学28(1),2011年。)
(*)(参考：波部雄一郎『ヘレニズム王権イデオロギーとしてのディオニュシズム：プトレマイオス朝史再考』関西学院大学,博士(歴史学),甲第357号,2011年。)
(*)(参考：川口雄一「政治学史・昭和4年度東京帝国大学講義(1)」(南原繁)成蹊大学法学政治学研究37,2011年。)
(*)(参考：比留間亮平「エラスムスの平和思想における宗教間対話の思想とその限界(宗教間対話の思想―その歴史と理論,パネル,〈特集〉第69回学術大会紀要)」宗教研究84(4),2011年。)
(*)(参考：石塚正英編『バッハオーフェン：母権から母方オジ権へ』論創社,2011年。)
(*)(参考：Leo Straus/石崎嘉彦訳「『都市と人間』第一章「アリストテレスについて」」政治哲学10,2011年。)
(*)(参考：レオ・シュトラウス/飯島昇藏・近藤和貴訳「饗宴(レオ・シュトラウス『饗宴』)政治哲学10,2011年。)
(*)(参考：近藤和貴「笑いと哲学：訳者あとがきにかえて(飯島昇藏・近藤和貴訳「饗宴(レオ・シュトラウス『饗宴』)」政治哲学10,2011年。)
(*)(参考：レオ・シュトラウス/飯島昇藏訳「『クセノフォンのソクラテス』付録(飯島昇藏・近藤和貴訳「饗宴(レオ・シュトラウス『饗宴』)」政治哲学10,2011年。)
(*)(参考：稲村一隆「市民的共和主義における政治哲学の基礎づけ―アリストテレスとホッブズとの対比を通して」思想1051,2011年。)
(*)(参考：稲村一隆「アリストテレスの「市民の徳」と市民的共和主義(政治思想学会研究

奨励賞受賞論文)」政治思想研究11,2011年。)
(*)(参考：稲村一隆「アリストテレスの市民的友愛論と其の政治哲学的含意」(日本哲学会)哲学62,2011年。)
(*)(参考：石川博康「アリストテレスの再発見とボエティウス--『契約の本性」の法理論』の装画・解題」書斎の窓601,2011年。
(*)(参考：村越好男「アリストテレスとスミスの正義論：経済を支える法の基底ににあるもの(フォーマルとインフォーマルの間)―(自由論題報告要旨)」経済社会学会年報33,2011年。)
(*)(参考：羽賀賢二「Justus Lipsiusの『恒心論』とストア主義思想」Studies in Languages and Culturers 26,2011年。)
(*)(参考：的射場敬一「共和政ローマとキケロ」国士舘大学政治研究2,2011年。)
(*)(参考：的射場敬一「報告I　：政治学から見た「平等」とは」国士舘大学政治研究2,2011年。)
(*)(参考：的射場敬一「市民と「政治的なるもの」の起源を求めて：古代アテナイのポリスと公共空間」(国士舘大学政経学会編『グローバル時代の政治・経済・経営：国士舘大学政経学部創設50周年記念論文集』所収,政経論叢特別記念号,2011年。)
(*)(参考：中川亜希『古代ローマ帝国元首政期における皇帝とイタリア諸都市の関係についての考察』東京大学2010年,(科研費)2011年。)
(*)(参考：　佐野光宜『古代ローマ社会の結節点：コレギアと見世物を通じた社会史的研究』京都大学,博士(文学),甲第15775号,2011年。)
(*)(参考：武田好著/日本放送協会,NHK出版編集『マキャベリ『君主論』：慎重であるより,果断であれ!』NHKテレビテキスト,100分de名著,NHK出版,2011年。)
(*)(参考：中村逸春「A.D.リンゼイのデモクラシー思想(1,2,3)コングリゲーションの伝統とその再生」(東北大学法学会)法学75(3),2011年/77(3),2013年/79(1),2015年。)
(*)(参考：菊池理夫『共通善の政治学―コミュニティをめぐる政治思想』勁草書房,2011年。)
(*)(参考：小坂俊介「カルケドン裁判考」歴史116,2011年。)
(*)(参考：小坂俊介・黒田祐我・小笠原弘幸「合同部会　田中創ローマ帝政後期の法と実践　櫻井康人12世紀エルサレム王国におけるフランク人とムスリムの政治的コミュニケーション　山口昭彦サファヴィー朝(1501-1722)クルド系諸部族　平田和重16世紀メキシコにおける先住民の精神的征服　岩井淳17世紀紀ブリテンの複合国家と他者意識(2011年度歴史学研究大会報告批判)」歴史学研究887,2011年。)
(*)赤岩順二「強要緊急避難と免責：アリストテレスにおけるαναγκη概念を参照した予備的考察」(明治大学大学院)法学研究論集35,2011年。)
(*)(参考：服部高宏「現代の法思想を支える碩学たち(新連載1)古代ギリシア法思想(1)初期の思想からプラトンへ」法学教室367,2011年。)
(*)(参考：服部高宏「現代の法思想を支える碩学たち(2)古代ギリシア法思想(2)アリストテレスとヘレニズム哲学」法学教室368,2011年。)
(*)(参考：服部高宏「現代の法思想を支える碩学たち(3)古代ローマの法思想―ローマ的なるものとギリシアの影響」法学教室369,2011年。)

(*)(参考：服部高宏「現代の法思想を支える碩学たち(4)キリスト教と法思想(1)原始キリスト教から教父時代まで」法学教室370,2011年。)
(*)(参考：服部高宏「現代の法思想を支える碩学たち(5)キリスト教と法思想(2)トマス・アクイナスの法と正義」法学教室371,2011年。)
(*)(参考：角田幸彦「キケローにおける法思想と法廷活動—ローマ精神史研究」明治大学人文科学研究所紀要69,2011年。)
(*)(参考：耳野健二「サヴィニー『現代ローマ法体系』の草稿に関する基礎研究：Ms,925/11, Bl.184-209の位置づけをめぐって」産大法学44(4),2011年。)
(*)藤野奈津子「岡松参太郎とローマ法研究：『岡松参太郎文書』の手稿からみえてくるもの」千葉商大論争48(2),2011年。
(*)(参考：小田滋『国際司法裁判所』(「エーゲ海大陸棚」)日本評論社,2011年。)
(*)(参考：杉田金之助『羅馬法』復刻版,信山社出版,2011年。)

(*)(参考：石塚正英「『古代史・人類学研究抜粋ノート』(1876~82年)：モーガン・バッハオーフェン・ド=ブロスに学ぶ(特集 マルクスを読む(part1))」季刊唯物論研究120,2012年。)
(*)(参考：高橋順一「革命の〈イエス・パウロ〉的形態をめぐって(追悼 吉本隆明・カール・マルクス論)」情況[第四期]1(7),2012年。)
(*)(参考：情報通信文明史研究会編『情報通信の温故知新：情報通信の文明史』情報通信学会,2012年。)
(*)高橋睦郎「ギリシア的なる求めて：古代イオニア都市城址の旅十九日(特集 ニュートランスレーション：翻訳の詩学)」現代詩手帖55(10),2012年。
(*)『岩合光昭の世界ネコ歩き』(イスタンブール,エーゲ海の島々,シチリア)ビデオレコード,NHK DVD,NHKエンタープライズ,2012年。
(*)「山村博男：南欧,地中海の光とともに」月刊美術38(11),2012年。
(*)(参考：青木恒三郎・南枝醇・荒山正彦『世界旅行萬國名所圖繪』復刻版,エディション・シナプス,2012年。)
(*)(参考：ニール・マクレガー/東郷えりか訳『文明の誕生』100のモノが語る世界の歴史,筑摩書房,2012年。)
(*)(参考：ブライアン・フェイガン/東郷えりか訳『水と人類の1万年史』河出書房新社,2012年。)
(*)青木豊編『明治博物館学基本文献集成』(大岡育造「歐米管見」/朝日新聞社同編「歐米遊覧記」/坪井正五郎「歐米諸國旅行雑話」/黒板勝美「西遊貳年歐米文明記」/青木豊「栗本鋤雲」)雄山閣,2012年。
(*)(参考：シャルロッテ フォン・ヴェアシュア「地中海文明と古代ペルシャ,そして日本の唐物[フェルナン・ブローデル,尾河直哉訳『地中海の記憶：先史時代と古代』,ベルトルト・ラウファー,杉嶺夫訳『古代イランの文明史への中国の貢献：とくに栽培植物と産物の由来について』,エドワード・H.シェーファー,吉田真弓・伊原弘訳『サマルカンドの金の桃：唐代の異国文物の研究』](アジアの〈教養〉を考える：学問のためのブックガイド)」アジア遊学150,2012年。)

(*)前田耕作「私の薦めるアジアを考えるための三冊[ヘロドトス『歴史』,羽田亨『西域文明史概論』,内藤虎次郎『先哲の学問』(アジアの〈教養〉を考える：学問のためのブックガイド)」アジア遊学150,2012年。)
(*)(参考：角田幸彦「ヨーロッパ文化の源泉としてのローマ：ことば磨きと学びの広さ」国際文化表現研究8,2012年。)
(*)(参考：本村凌二「世界の文明史：覇権国家の興隆と衰退の理由 歴史の教訓をどう引き出すか(今読む本—歴史書&雑学編)」エコノミスト90(38),2012年。)
(*)(参考：陣内秀信「サルディーニャ島,ある地中海世界の風景(特集 島)」紫明31,2012年。)
(*)(参考：陣内秀信「イタリア海洋都市とイスラーム世界(特集 地中海)」学士会会報2012(4),2012年。)
(*)(参考:片倉とも子「ひとびとの地中海世界「地中海(特集 地中海)」学士会会報2012(4),2012年。)
(*)(参考：青柳正規「地中海という海(特集 地中海)」学士会会報2012(4),2012年。)
(*)岩合光昭『岩合光昭の世界ネコ歩き』NHKエンタープライズ,12012年。
(*)(参考：野間晴雄「東アジア「地中海」における歴史生態基盤の地域性と文化交渉」東アジア文化交渉研究・別冊8,2012年。)
(*)澁澤幸子「イスタンブルあちらこちら(14・番外編)エーゲ海の小島ポスジャ島で「ホメロスを読む会」に参加して」Anatolia news133,2012年。)
(*)澁澤幸子「トロイ戦争ゆかりの小島ポスジャ島を訪ねる」青淵757,2012年。
(*)塩崎勤「「地中海のへそ」マルタ島への旅」法曹736,2012年。
(*)(参考：「Port Story シリーズ「ミナトと文化」(11)イタリア海洋都市と港」中央公論127(5),2012年。)
(*)(参考：豊田浩志『古代イタリア半島港湾都市の地政学的研究』上智大学2010年,(科研費)2012年。)
(*)ソフトユニオン「アドリア海の美しい都市をめぐる」住宅建築434,2012年。
(*)(参考：レベッカ・ウインターズ/神島菜穂子訳『エーゲ海のプリンス』ハーレクイン・イマージュ,ハーレクイン,2012年。)
(*)『岩合光昭の世界ネコ歩き エーゲ海の島々』ビデオディスク,NHKvideo,NHKエンタープライズ,2012年。)
(*)庄司實『エーゲ海の落日：庄司實歌集』コスモス叢書1012,柊書房,2012年。
(*)(参考：周藤芳幸「初期青銅器時代エーゲ海の瓦と社会：レルナの「瓦屋根の館」を中心として」(早稲田大学考古学会)古代(129・130),2012年。)
(*)『思い出のフォトグラフ』(「飛んでイスタンブール」庄野真代)」「魅せられて—エーゲ海のテーマ(ジュディ・オング)」録音ディスク,Sony Music Direct (Japan) ,2012年。
(*)『永遠の昭和歌謡名曲集』(魅せられて—エーゲ海のテーマ/ジュディ・オング)ザ・プレミアムベスト,録音ディスク2枚,ポニーキャニオン,2012年。
(*)『クライマックスベスト70’sダイアモンドClimax best 70’s diamond』（「魅せられて—エーゲ海のテーマ(ジュディ・オング)」)Sony Music Direct(Japan),2012年。
(*)『昭和ポップス・デラックス Shouwa pops deluxe：決定盤』（「魅せられて—エーゲ海のテーマ(ジュディ・オング)」)録音ディスク,日本コロムビア,2012年。
(*)栗原麻子「書評 桜井万里子・師尾晶子編『古代地中海世界のダイナミズム—空間・ネッ

トワーク・文化の交錯』」史学雑誌121(6),2012年。
(*)師尾晶子「マイアンドロス川に翻弄された町—ミレトス再訪」地中海学会月報346,2012年。)
(*)浅香正『人生の歩み業績レース-ゲスタエ：同志社・留学・ローマ・ポンペイ』思文閣出版,2012年。
(*)陣内秀信・稲益祐太・樋渡彩；都市のしくみとくらし研究所編『イタリアの歴史的地域における文化的景観と生活空間に関するフィールド研究』都市のしくみとくらし研究所,調査研究報告書,2012年。
(*)(参考：石黒盛久「「時はめぐりぬ」(Les temps revient!)：ポッジョ・ア・カイアーノ山荘のフリーズ装飾と15世紀イタリアの君主観」(新プラトン主義)金沢大学歴史言語文化学系論集,史学・考古学篇4,2012年。)
(*)地球の歩き方編集室著作編集『イスタンブールとトルコの大地』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2012-13 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『ギリシアとエーゲ海の島々&キプロス』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2012-13 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2012-13 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ローマ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2012-13 年。
(*)地球の歩き方編集室編『フィレンツェとトスカーナ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2012-13 年。
(*)地球の歩き方編集室編『チェニジア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発),2012-13 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『トルコ』改訂 2 版,地球の歩き方 4,ダイヤンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2012 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『イタリア』地球の歩き方 18,ダイヤンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2012 年。
(*)(参考：大村幸弘「アナトリア考古学研究所からの報告(12)アナトリア博物館案内(1,2)」Anatolia news 132,133,2012年。)
(*)澁澤幸子「イスタンブルあちらこちら(14番街編)エーゲ海の小島ボスジャ島で「ホメロスを読む会」に参加して」Anatolia news 133,2012年。)
(*)(参考 : 春山成子「アレキサンドリア周辺の自然環境調査」日本地理学会発表要旨集2012a,2012年。)
(*)平川祐弘「ゲーテのイタリアと鴎外のイタリア(生誕150年記念号)」鴎外91,2012年。
(*)(参考：ベメゲルノート/久山雄甫訳「ゲーテと近代文明」モルフォルギア：ゲーテと自然科学34,2012年。)
(*)(参考 : 内田涼太郎「カミュと「読書サロン」:「地中海」文化の創造」文学研究論集30,2012年。)
(*)(参考：鳥越輝昭『表層のヴェネツィア：詩と美と悪魔』春風社,2012年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「〈死の町〉ヴェネツィア：「死の潟」と〈ゴンドラ=棺〉」人文研究176,2012年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「『ローマの休日』(?)とバイロン(八久保厚志追悼追悼号)」人文研究

178,2012年。)
(*)(参考：鍛冶俊樹「地中海に消えた飛行作家：アントワーヌ・ド・サン=テグジュペリ(特集 陸海軍航空部隊：全史)ー（特集 評伝 伝説の男たち）」歴史読本57(8),2012年。)
(*)(参考：ルイジ・ビランデッロ/白崎容子・尾河直哉訳『カオス・シチリア物語：ビランデッロ短編集』Exlibris classics,白水社,2012年。)
(*)(参考：山辺規子「スパゲッティは,ダンテを超えた「イタリア文化」(世界を旅するスパゲッティ)—(各国のスパゲッティ)」Vesta86,2012年。)
(*)(参考：根占献一「ローマとルネサンスの世界性：2011年度研究覚え書から」学習院女子大学紀要14,2012年。)
(*)(参考：桑山由文「ハドリアヌス以後のアテネ：ローマ帝国支配下における「復興」とその実態(2012年度歴史学研究会大会報告 変革の扉を押し開くために：新自由主義への対抗構想と運動主体の形成)—(合同部会 時代変転期における都市共同体の再編)」歴史学研究898,2012年。)
(*)坂田道夫・高津秀之・林佳世子「合同部会 桑山由文「ハドリアヌス以後のアテネ 高澤紀江 聖なる都市パリの危機と再編 澤井一彰 1509年のイスタンブル大地震とその後の復興(2012年度歴史学研究会大会報告批判)」歴史学研究900,2012年。)
(*)金沢百枝・小澤実『シチリア→ナポリ』とんぼの本,新潮社,2012年。
(*)(参考：アーサー・ヤング/宮崎揚弘訳『スペイン・イタリア紀行』法政大学出版局・ウニヴェルシタス叢書984,2012年。)
(*)(参考：青柳正規「ソンマーヴェスヴィアーナの所謂「アウグストウスの別荘」に関する考古学的調査(1)」日本學士院紀要66(2),2012年。）
(*)(参考：中尾真理「薔薇の文化史(3)東西の薔薇の出会い」奈良大学紀要40,2012年。)
(*)(参考：田原文子「ナイル水源からエデンの園へ：初期キリスト教教会建築の装飾におけるローマ世界のナイル河図像の受容について」地中海学研究35,2012年。)
(*)(参考：山田順「ドミティッラのカタコンベ暮室39(NR)の巨大人物像：新発見壁画とその新たな考察」地中海学研究35,2012年。)
(*)(参考：菅原裕文「優しさの形：エレウサ型アンナ像の出現とその意義」地中海学研究35,2012年。)
(*)(参考：青木真兵「西方フェニキア都市レプキス・マグナとガラマンテス：研究ノート」神戸山手大学紀要14,2012年。）
(*)(参考：青木真兵「アウグストゥス治世における西地中海世界の変容：フェニキア都市レプキス・マグナへの考察から」関西大学博物館紀要18,2012年。)
(*)久保健昭「防衛駐在官だより：伊海軍「地中海を制した海洋国家の末裔たち」」波涛37(6),2012年.
(*)(参考：周藤芳幸「都市アレクサンドリアと初期ヘレニズム時代の東地中海世界：セーマ・大灯台・図書館(江村治樹教授,春日豊教授退職記念)」名古屋大学文学部研究論集・史学58,2012年。)
(*)(参考：春山成子「アレキサンドリア周辺の自然環境調査」日本地理学会発表要旨集2012a,2012年。)
(*)(参考：河崎善一郎「ひといきアレキサンドリアからの手紙(6)E—JUST：Egypt—Japan

University of Science and Tecnology」Tchno net 557,2012年。)
(*)(参考:河崎善一郎「アレキサンドリア滞在報告(1,2)」大気電気学会誌6(2),2012年/7(1),2013年。)
(*)(参考:出村みや子「古代アレクサンドリアにおけるヘレニズムとヘブライズムの出会いと多文化主義」東北学院大学キリスト教文化研究所紀要30,2012年。)
(*)(参考:歴史学研究会編『古代のオリエントと地中海世界』山川出版社,2012年。)
(*)(参考:勝山祐子「『何も忘れられない,何も破壊されない』:プルーストにおけるポンノペイのモチーフについての試論」文化学園大学紀要・人文社会科学研究20,2012年。)
(*)佐藤和明「NPOとともに(第6回)イタリア上下水道をめぐる旅(2)ローマ,ポンペイの上下水道遺跡」月刊下水道35(14),2012年。
(*)藤澤桜子・藤澤明寛「「米欧回覧実記」と古代ローマ文明:水道に関する記述への注釈と考察」群馬県立女子大学紀要33, 2012年。
(*)(参考:中川亜希「読史会便り ラテン碑文とローマ史」史論65,2012年。)
(*)(参考:松田陽「「現在」に位置づけられる遺跡」遺跡学研究8,2012年。)
(*)(参考:中野京子「美術館で体感するギリシャ神話」文藝春秋90(2),2012年。)
(*)岡雅行「ギリシャ・アテネ アクロポリスのトロッコ」鉄道ピクトリアル62(9),2012年。
(*)(参考:長田年弘「奉納浮彫としてのパルテノン・フリーズ」西洋古典學研究60,2012年。)
(*)(参考:中村るい「パルテノン以前の身体表現」五浦論叢:茨城大学五浦文化研究所紀要19,2012年。)
(*)(参考:中村るい「パルテノン神殿のフリーズ彫刻について(世界史の研究232)」歴史と地理656,2012年。)
(*)(参考:岡部昌幸「古代の遺影:19世紀アテネの原風景:新出の絵画と写真による」帝京大学外国語外国文学論集18,2012年。)
(*)(参考:金原由紀子『イタリアにおける共和制都市国家の美術に関する包括的研究』尚美学園大学2009年,(科研費)2012年。)
(*)(参考:『ローマ帝国の国境線;ストーンヘンジ,エーヴベリーと関連する遺跡群;カンタベリー大聖堂;聖オーガスティン大修道院及び聖マーティン教会;ダラム城と大聖堂』ビデオレコード,感動の世界遺産25,イギリス2,キープ(発売),2012年。)
(*)(参考:『ミストラ遺跡;ミケーネとティリンスの古代遺跡群;オリンピアの古代遺跡;ロードス島の中世都市;アテネのアクロポリス;メテオラ』ビデオレコード,感動の世界遺産26,ギリシャ1,キープ(発売),2012年。)
(*)(参考:『アンコール;パルミラの遺跡;古都ダムスクス』ビデオレコード,感動の世界遺産27,アジア2,キープ(発売),2012年。)
(*)(参考:田口倫那・林田義伸・中川明子・山崎荘太郎「アテネのアクロポリスに或るローマとアウグストゥス神殿に関する研究(1-7)」日本建築学会研究報告・九州支部3,計画系51,2012年/計画系52,2013年/計画系53,2014年。)
(*)(参考:藤森照信・大里智之「対談:大英博物館・パルテノンの色:保存・復原と歴史の見方」新建築87(17),2012年。)
(*)(参考:北政巳「スコットランド第7代エルギン伯爵と大英帝国の時代」創価経済論集41(1-4),2012年。)
(*)森谷公俊「イラン旅行記(1-3)」帝京史学27,2012年/28,2013年/29,2014年。

(*)(参考：『アナトリア文明博物館』朝日ビジュアルシリーズ：一度は行きたい世界の博物館, 朝日新聞出版,2012年。)
(*)(参考：渡辺豊和『失われたアトランティスの魔術：ピラミッドに隠された超常現象の秘密』学研パブリッシング,学研マーケティング(発売),2012年。)
(*)朝比奈宏幸『古事記とアトランティス王国の真実：総ては日本から始まったそして大阪から甦った』ブックコム,2012年。
(*)池田美代子作,尾谷おさむ絵『砂漠のアトランティス』講談社青い鳥文庫,摩訶不思議ネコ・ムスビ,講談社,2012年。)
(*)(参考：アンディ・マクダーモット/棚橋志行訳『アトランティス殲滅計画を阻め!(上下)』SB文庫,ソフトバンククリエイティブ,2012年。)
(*)(参考：「楽園の喪失とその再獲得の試み：E.T.A.ホフマンの『黄金の壺』におけるアトランティスとその役割」欧米文化研究19,2012年。)
(*)(参考：シュリーマン『古代への情熱』まんがで読破/バラエティ・アートワークス企画・漫画MD114,エースト・プレス,2012年。)
(*)(参考：鮎川万(他)『ナイチンゲール；シュリーマン；パスツール』(シュリーマン/有吉忠行文・宮原光絵) 改訂新版せかい伝記図書館/子ども文化研究所監修11,いずみ書房,2012年。)
(*)(参考：吉澤五郎「「聖なる旅」の比較文明学：〈巡礼文明論〉の手帖(3)」宗教と文化29,2012 年。)
(*)(参考：木村重信『世界を巡る美術探検』思文閣出,2012年。
(*)(参考：奥谷博『訪ねた世界遺産：世界遺産条約採択40周年記念』奥谷博-訪ねた世界遺産刊行委員会,2012年。)
(*)(参考：アビ・ヴァールブルク(他)『ムネモシュネ・アトラス』ありな書房,2012年。)
(*)(参考：NHKエンタープライズ『古代ギリシヤ：“白い”文明の真実(大英博物館)』NHK・DVD,2012年。)
(*)(参考：新人物往来社編『大英博物館：比類なき「美と知の殿堂」』新人物往来社,2012年。)
(*)(参考：藤森照信・大里智之「対談 大英博物館・パルテノンの色：保存・復原と歴史の見方」新建築87(17),2012年。)
(*)(参考：スーザン・ラニース、フィリパ・メリマン/小川昭子・八坂ありさ訳『図説・金と銀の文化史：大英博物館』柊風社,2012年。)
(*)(参考：NHK「知られざる大英博物館」プロジェクト編著『古代ギリシヤ』NHK出版,2012年。)
(*)(参考：高田邦彦「イタリアの中都市探訪：小さいことは美しい」国際教養学部論叢5(2),2012年。)
(*)伊豆平成著/ヤマザキマリ原作/武藤将吾脚本『テルマエ・ロマエ』KCG 文庫,エンターブレイン,角川グループパブリッシング(発売),2012年。
(*)ヤマザキマリ原作/武藤将吾脚本/武内英樹監督『テルマエ・ロマエ』[市販用]ビデオレコード,フジテレビジョン,東宝(発売),2012年。
(*)ヤマザキマリ『テルマエ戦記』エンターブレイン,角川グループパブリッシング(発売),2012 年。
(*)ヤマザキマリ,山室真澄,田畑宏司「ヤマザキマリさんに伺いました」土木學會誌97(9),2012

年。
(*)ヤマザキマリ「読後インタヴュー『テルマエ・ロマエ』の作者が語る吐き出すように書く快感(読者ノンフィクション傑作選 婦人公論サスペンス劇場(前編)母という棘（いばら）の道)」婦人公論97(18),2012年。
(*)ヤマザキマリ『ヤマザキマリのリスボン日記：テルマエは一日にして成らず』フリースタイル,2012年(→2015年,朝日文庫版)。
(*)(参考：深谷訓子『ローマの慈愛—「コモンとペロー」の図像表現』京都大学出版会,2012年。)
(*)(参考：米本雅一『共和政末期ローマの政治文化におけるコンティオ』同志社大学,博士(文化史学),甲第556号,2012年。)
(*)小方登「古代都市セレウキア・ピエリアの立地と形態：衛星画像と現地調査を通して(金坂清則先生御退任記念特集号)」地域と環境12,2012年。
(*)(参考：中西麻澄『古代ローマ社会における馬：モニュメント,美術作品から読み解く,ローマ人の馬へのまなざし』東京大学,博士(学術),甲第28583号,2012年。)
(*)(参考：小泉篤士「古代ローマ庭園の美術コレクション—サルスティウス庭園にみる諸問題」(遠山公一・金山弘昌編『美術コレクションを読む』所収,慶應義塾大学出版会,2012年。)
(*)(参考：アーサー・ヤング/宮崎揚弘訳『スペイン・イタリア紀行』叢書ウニヴェルシタス984,法政大学出版局,2012年。)
(*)金澤百枝・小澤実『イタリア古寺巡礼--シチリア→ナポリ』とんぼの本,新潮社,2012年。
(*)(参考：村田奈々子「確実な破滅と不確実な救済のあいだで ギリシャはどれほど「ヨーロッパ」か?」中央公論127(8),2012年。)
(*)(参考：村田奈々子「「ギリシア人」の境界：戦間期サロニカのユダヤ人から考える」言語と文化9,2012年。)
(*)(参考：山中由里子「驚異のトポス：共同研究：驚異譚にみる文化交流の諸相：中東・ヨーロッパを中心に(2010-2013)」民博通信136,2012年。)
(*)久山宗彦「日本人が感じとったイスラム・キリスト教的発想」臨床福祉ジャーナル9,2012年。
(*)(参考:ホルヘ・ルイス・ボルヘス編/酒本雅之他訳『新編バベルの図書館』国書刊行会,2012年。)
(*)加藤元康「國學院大學考古学の創生期：明治時代から昭和初期まで」(坪井正五郎)國學院大學伝統文化リサーチセンター研究紀要4,2012年。
(*)(参考：豊田浩志「第16回キリスト教考古学会国際大会参加記」ソフィア61(1),2012年。)
(*)(参考：ファルソーネ・ジョアキーノ,バダウィ・ハッサン,シクラウィ・ナーデル,スゴンツォ・パオラ,泉拓良,岡田保良,宮坂翔,小方登,辻村純代,佐藤育子「「国際シンポジウム」フェニキア考古学から見た古代オリエント」Asia Japan Jouranal 7,2012年。)
(*)(参考：『仏教歴史地図：シルクロードの聖地』東光書店(発売),2012年。)
(*)(参考：内記理「スワート地方とペシャワール盆地におけるガンダーラ美術様式の年代」仏教芸術325,2012年。)
(*)(参考：泉屋博古館編『ガンダーラの美術とシルクロードの絵画=Artworks of Gandhara and the Silk Road』泉屋博古館,2012年。)

(*)臺信祐爾「特別展「平山郁夫シルクロードの軌跡：人類の遺産をかけた画家の人生」企画者の意図」東声西声：九州国立博物館紀要8,2012年。)
(*)(参考：坂本和子『織物に見るシルクロードの文化交流：トゥルファン出土染織資料—錦綾を中心に』同時代社,2012年。)
(*)大津透「荒川正晴著「ユーラシアの交通・交易と唐帝国」(名古屋大学出版会)」史學雜誌121(3),2012年。
(*)栗原麻子・桑山由文「桜井万里子・師尾晶子編「古代地中海世界のダイナミズム—空間・ネットワーク・文化の交錯」(山川出版社)」史學雜誌121(6),2012年。
(*)(参考：杉田英明「ギリシア人画家と中国人画家の腕比べ：アラブ・ペルシア文学のなかの佛教説話」Odysseus 19,2012年。)
(*)(参考：木村泰治『図解名画の美女：巨匠たちが描いた美女50人』洋泉社mook,洋泉社,2012年。)
(*)(参考：サルヴァトーレ・セッティス/足達薫訳・石井朗企画構成『「古典的なるもの」の未来：明日の世界の形を描くために』ありな書房,2012年。)
(*)(参考：栗田秀法「プッサン作《アルカディアの牧人たち》(ルーブル美術館蔵)：「知恵」と「恒心」のテーマをめぐって」金曜日20(25),2012年。)
(*)(参考：中原淳行,ピーター・バーネット,筧奈雅子編『メトロポリタン美術館：大地・海・空—400年の美への旅：西洋美術における自然』読売新聞東京本社,2012年。)
(*)(参考：柴山桂太「保守の名著(2)歴史の運命[O.シュペングラー『西洋の没落』]」表現者43,2012年。)
(*)山田富士郎「評伝會津八一(37)法隆寺と八一」歌壇26(11),2012年。
(*)(参考：下間瀬一・緒方正則・中辻茂・小沢康美・塩津宣子『技術の文化史』関西大学出版部,2012年。)
(*)(参考：片倉もとこ「ひとびとの地中海世界(特集,地中海)」学士会会報2012(4),2012年。)
(*)(参考：小林道憲「ヨーロッパ圏 ヨーロッパ文明とコスモロジー(比較文明学会 第29回大会公開シンポジウム 文明とコスモロジー：〈いのち〉をめぐって)」比較文明研究28,2012年。)
(*)(参考：服部英二「プロメテウスの運命：3.11と現代文明の危機」比較文明28,2012年。)
(*)(参考：大城道則『古代エジプト文明：世界史の源流』講談社選書メチエ527,講談社,2012年。)
(*)松沢裕作『重野安繹と久米邦武：「正史」を夢みた歴史家』日本史ルブレット人82,山川出版社,2012年。
(*)高橋睦郎脚本・三善晃作曲・新垣隆ピアノリダクション『遠い帆：オペラ支倉常長』全音楽出版社,楽譜(印刷),2012年(←1995年,小沢書店。1999年,新装版)。)
(*)宮永孝「背教者 千々石弥解瑠(ちぢわミゲル)」社会志林59(1),2012年。
(*)宮永孝「マカオの日本人キリシタン」社会志林59(2),2012年。
(*)佐伯泰英『惜櫟荘だより』岩波書店,2012年。
(*)小池淳一「柳田国男における伝説研究の軌跡(特集 柳田没後五十年と口承文学：生前・没後の研究状況)」日本民俗学270,2012年。
(*)(参考：「Index to Volumes I-XXI of Transactions of the Mediterranean Studies at Hitotsubashi University」地中海論集21,2012年。)
(*)(参考：青木恒三郎編輯・南枝醇閲『世界旅行萬圖名所圖繪』復刻版,Modern tourism

library series 5，エディション・シナプス,2012年。)
(*)(参考：フレッチャー著/ダン・クリュックシャンク編/飯田喜四郎監訳『フレッチャー図説世界建築の歴史大事典：建築・美術・デザインの変遷』西村書店東京出版編集部,2012年。)
(*)(参考：子ども文化研究所監修『世界人名事典』いずみ書房,せかい伝記図書館・別巻1,改訂新版,2012年。)
(*)子ども文化研究所監修『日本人名事典』いずみ書房,せかい伝記図書館・別巻2,改訂新版,2012年。
(*)(参考：紬プロジェクト編『紬2012：外国人名対訳辞典』名古屋大学大学院工学研究科電子情報システム専攻 佐藤・駒谷研究室,2012年。)
(*)(参考：岡村定矩代表編者『天文学辞典』日本評論社,シリーズ現代の天文学・別巻,2012年。)
(*)(参考：出雲晶子編『星の文化史事典』白水社,2012年。)
(*)(参考：太田強正『スペイン語語源辞典』春風社,2012年。)
(*)(参考：木村茂光監修/歴史科学協議会編『戦後歴史学用語辞典』東京堂出版,2012年。)
(*)辻本愉「小山貞夫編著「英米法律語辞典」(研究社)」史學雜誌121(9),2012年。
(*)(参考：稲葉満編集者代表『新約ギリシヤ語逆引辞典』増補改訂,教文館,2012年。)
(*)(参考：玉川直重『新約聖書ギリシア語辞典』改訂新版,普及版,キリスト新聞社,2012年。)
(*)(参考：田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門』新装版,岩波書店,2012年。)
(*)(参考：足立昭七郎『聖書のラテン語：創世記・出エジプト記・四福音書を中心に』熊本出版文化会館,創流出版[發売],増補改訂版,2012年。)
(*)(参考：堀口和久「リンディスファーン福音書とラッシュワース福音書の行間注解と拡充形」千葉経済論集47,2012年。)
(*)(参考：佐良木昌「古代ギリシャにおけるテキスト様式と定型文の成立過程(2)イオニア散文とアッティカ散文の発展」電子情報通信学会技術研究報告,TL,思考と言語111(428),2012年。)
(*)山田耕太訳「Q文書(ギリシア語テキスト決定版)の日本語訳(1,2)」敬和学園大学研究紀要21,22,2012年。
(*)(参考：大芝芳弘「彙報「古代ラテン語集成」(TLL)国際協力委員会報告」日本学士院紀要66(3),2012年。)
(*)(参考：山下真吾「在イスタンブル写本コレクションにおける歴史書の位置づけ(研究発表,東洋史部会,第109回学会大会報告)」史學雜誌121(1),2012年。)
(*)五位野政彦「明治時代の局方における「錠」の日本名とラテン名」薬史學雜誌47(2),2012年。
(*)(参考：S.M.マクグレイド編『中世の哲学：ケンブリッジ・コンパニオン』京都大学学術出版会,2012年。)
(*)(参考：スティーヴン・グリーンブラット著/河野純治訳『一四一七年,その一冊がすべてを変えた』(ルクレティウス)柏書房,2012年。)
(*)(参考：小林茂之「古英語版ボエティウス『哲学の慰め』における散文と韻文との言語学的比較：予備的考察」聖学院大学論集24(2),2012年。)
(*)(参考：吉田育馬「ヘロドトス『歴史』第4巻に出て来るスキタイ語の印欧語的分析(川俣優教授追悼記念号)」カルチュール：明治学院大学教養教育センター

紀要6(1),2012年。)
(*)(参考：田中創「読書案内：古代末期(世界史の研究233)」歴史と地理659,2012年。)
(*)(参考：田中創「ローマ帝政後期のギリシア修辞学と法学・ラテン語教育」西洋史研究41,2012年。)
(*)(参考：海津淳「人文主義と教育：西ローマ帝国終焉とヨーロッパへの自由学芸継承」桜美林論考,人文研究3,2012年。)
(*)(参考：上垣豊「古典人文学による知的訓練：19世紀フランスにおける教養論争の一側面」龍谷紀要33(2),2012年。)
(*)(参考：綾井桜子「「知の統一体」という理想と大学：近代の大学理念の批判的検討に向けて(コメント論文、シンポジウム「大学の危機」を思想史が問う)」近代教育フォーラム22,2012年。)
(*)(参考：藤本夕衣『古典を失った大学—近代性の危機と教養の行方』NTT出版,2012年。)
(*)(参考：内田信次「『オデュッセイア』の読まれ方」(1)」大阪大学大学院文学研究科紀要52,2012年。)
(*)(参考：ジュマトルディ・アディル/西脇隆夫訳「翻訳　現代のホメロスに訊く：中国キルギス族の語り手ジュスブ・ママイ訪問談」名古屋学院大学論集,言語・文化篇23(2),2012年。)
(*)(参考：鰍澤千鶴「ロドリゲス『日本大文典』の謎」ソフィア59(4),2012年。)
(*)渡邉顕彦「原マルチノのヴァリニャーニ礼讃演説：古典受容の一例として」大妻比較文化：大妻女子大学比較文化学部紀要13,2012年。
(*)石川洋子「斎藤文俊著『漢文訓読と近代日本語の形成』,2011年2月25日発行,勉誠出版刊,A5版,312ページ,7500円+税)」(和訳聖書)日本語の研究8(4),2012年。
(*)(参考：佐々木隆「日本シェイクスピア書誌の行方(特集　日本における翻訳文学)—(翻訳書誌と研究)」翻訳と歴史60,2012年。)
(*)藤井哲「『福原麟太郎著作目録』ただいま執筆中(特集　日本における翻訳文学)—(翻訳書誌と研究)」翻訳と歴史60,2012年。
(*)宮永孝「翻訳の誤謬」花袋・敏・鷗外」社会志林59(2),2012年。
(*)Yoichi Nagashima“De dansk-japanske kulturelle forbindelser,1873-1903”Museum Tusculanums Forlag : Kǿbenhavns Universtet,2012.
(*)鈴木貞美「野上豊一郎の「創作」的翻訳論をめぐって：翻訳の文化史へ(特集　翻訳の創造力)」文学13(4),2012年。
(*)南奈緒「楠山正雄のアンデルセン翻訳(上)全集の新旧版の比較」富大比較文学5,2012年。
(*)(参考：安酸敏眞『歴史と解釈学：《ベルリン精神》の系譜学』知泉書館,2012年。)
(*)(参考：松澤和宏編・池内敏他執筆『テクストの解釈学：名古屋大学グローバルCOEプログラム』水声社,2012年。)
(*)(参考：Kano Osamu(加納修)(ed.)“Cofiguration du texte hitoire”Global COE program international conference series.no.12,Graduate School of Letters,Nagoya University,2012.)
(*)川田殖「紀要『ペディラヴィウム』誌再読：来し方を顧み,行く手を望む」ペディラヴィウム67,2012年。)
(*)(参考：石田優子・伏見庸介・深川良一・酒匂一成「イタリアにおける「文化財危険地図」の調査および文化財土砂災害リスクマネジメントに関する一考察」

歴史都市防災論文集6,2012年。)
(*)(参考：ジュディスA.マクラウド著/大月敦子訳『世界伝説歴史地図：ヴィジュアル版』原書房,2012年。)
(*)(参考：大川周明『大川周明世界宗教思想史論集』書肆心水,2012年。)
(*)(参考：リック・リオーダン作/金原瑞人・小林みき訳『海神の息子』オリンポスの神々と7人の英雄2,ほるぷ出版,2012年。)
(*)(参考：オットー/久松英二訳『聖なるもの』岩波文庫,岩波書店,2012年。)
(*)山田富士郎「評伝會津八一(26)ヘラスの神」歌壇26(5),2012年。
(*)(参考：佐藤優「池田・トインビー対談から現代を読み解く 激動の世界と日本(15)一神教と汎神教への考察」潮646,2012年。)
(*)槇原茂「深沢克己・桜井万里子編「友愛と秘密のヨーロッパ社会文化史—古代密議宗教からフリーメイソン団まで」(東京大学出版会)2010」史學雜誌121(9),2012年。
(*)(参考：伊藤直「アルベール・カミュ『シーシュポスの神話』における死の問題」青山総合文化政策学4(2),2012年。)
(*)(参考：山内暁子「文献解題 なぜギリシア人は神々を信じたのか：Robert Parker,On Greek Religionにおける「ギリシア宗教」のありかた」西洋古代史研究12,2012年。)
(*)(参考：百瀬春生「古代ギリシアの神々も妖精も人間もウィルスが育ててくれた?」地中海歴史風土研究誌35,2012年。)
(*)(参考：山下桐子「鳥のこぼれ話(10)ライチョウ：ステルン著『雷鳥の森』より」地中海歴史風土研究誌35,2012年。)
(*)(参考：西村賀子『ホメロス『オデュッセイア』：「戦争」を後にした英雄の歌』書物誕生：あたらしい古典入門,岩波書店,2012年。)
(*)(参考：安達正『ホメロス英雄叙事詩とトロイア戦争：『イリアス』と『オデュッセイア』を読む』彩流社,2012年。)
(*)(参考：島崎晋『ギリシャ・ローマの神話がよくわかる本：読みだしたら止まらなくなる：The Greek and Roman Myths』総合法令出版,2012年。)
(*)(参考：奥山史亮『エリアーデの思想と亡命：クリアーヌとの関係において』北海道大学大学院文学研究科研究叢書21,北海道大学出版会,2012年。)
(*)(参考：É.コバスト/小倉孝誠・岩下綾訳『100の神話で身につく一般教養』白水社文庫クセジュ,2012年。)
(*)(参考：ヒュー・ポーデン「名無しの神々：秘儀,神話,儀礼とギリシアポリスの宗教」クリオ=Clio26,2012年。)
(*)(参考：カルターリ/大橋喜之訳『全訳『古人たちの神々の姿について』』西欧古代神話図像大鑑,八坂書房,2012年。)
(*)(参考：芳賀京子・青柳正規「《ディオニュソス》と《ペプロフォロス》：ソンマ・ヴェスヴィア出土の二体の大理石像」美術史学33,2012年。)
(*)(参考：加賀ラビ『ホーフマンスタールのギリシア神話劇』京都大学,博士(文学),甲第16523号,2012年。)
(*)(参考：木村重信「「パンドラの箱」の系譜(特集 神)」紫明30,2012年。)
(*)(参考：武田佐知子編『着衣する身体と女性の周縁化』(新保純乃「近世イタリア絵画におけるエロティックな足先/ランフランコ作「音楽の寓意」あるい

は「チョビンを履くウェヌス」」思文閣出版,2012年。)
(*)(参考：ポオ,ゴーゴリ他/東雅夫編『灰色の美神(ヴィーナス)』世界幻想文学大全,ちくま文庫,筑摩書房,2012年。)
(*)(参考:高原茂『美母神礼賛:ヴィーナス(地母神)から聖母へ美の巡礼』里文出版,2012年。)
(*)(参考：アンドレア・ウルフ/矢羽野薫訳『金星(ヴィーナス)を追いかけて』角川書店,角川グループパブリッシング(発売),2012年。)
(*)(参考：バーバラ・チェイス=リポウ/安保永子・余田愛子訳『ホッテントット・ヴィーナス：ある物語』法政大学出版局,2012年。)
(*)(参考：佐々木悠「人・土地・業績 人型への眼差し」造型美術にみる“肥満”と“痩せ”(1-3)後期旧石器時代「ホーレ・フェルス」のヴィーナス」内分泌・糖尿病・代謝内科35(1,2,3),2012年。)
(*)(参考：村上真樹「ヴィーナスとルシファー：ベンヤミンの仮象概念についての一考察」美學63(1),2012年。)
(*)(参考：河村民部「ヴィーナス・タンホイザー伝説をめぐって」文学・芸術・文化：近畿大学文芸学部論集24(1),2012年。)
(*)(参考：松本三千代「スーザン=ロリ・パークスの『ヴィーナス』再考」東洋学園大学紀要20,2012年。)
(*)(参考：布施英利「ヴィーナスはなぜ服を脱いだのか?：美術のなぜを解剖する」青春と読書47(9),2012年。)
(*)(参考：田澤恵子「イシュタル・アスタルテ・アフロディテに関する国際会議」オリエント54(2),2012年。)
(*)(参考：深田麻里亜「ウェヌスとアモルの王国：ヴィッラ・マダマ装飾における教皇レオ10世の寓意」東京藝術大学美術学部論叢8,2012年。)
(*)(参考：高岸冬詩「水面に浮かぶ言葉：プログレアルバム試論『ポセイドンの航跡』(音楽とその周辺)」ファーズ(Phases)3,2012年。)
(*)(参考：齊藤安繁『プラトン宗教思想研究：哲学的神学の誕生』名古屋大学,博士(文学),甲第9786号,2012年。)
(*)(参考：堀江聡訳「ペトルス・ニコラウス羅訳『アリストテレスの神学』第12章「72[r]」--13章」人文科学27,2012年。)
(*)(参考：堀江聡訳「ペトルス・ニコラウス羅訳『アリストテレスの神学』第14章」西洋古典研究会論集21,2012年。)
(*)(参考：足立広明「よみがえるヒュパティア：ある「異」教女性聖人の実像を(奈良大学史学会三十周年記念号)」奈良史学30,2012年。)
(*)(参考：月本昭男監修『図説 旧約・新約聖書』学研パブリッシング,学研マーケッティング(発売),2012年。)
(*)久山宗彦「日本人が感じ取ったイスラム・キリスト教的発想」臨床福祉ジャーナル9,2012年。)
(*)(参考：小河陽「十字架上のイエスの叫びの解釈をめぐって：批判への応答」ペディラヴィウム67,2012年。)
(*)(参考：ネストレ校訂/塚本虎二訳・塚本虎二訳新約聖書刊行会編『塚本虎二訳新約聖書』第2版,新教出版社,2012年。)
(*)(参考:喜田川信『救済の歴史としての福音:ルカ福音書・使徒言行録解説教』教文館,2012

年。)
(*)(参考 : J.B.グリーン/山田耕太訳『ルカ福音書の神学』叢書新約聖書神学,新教出版社,2012年。)
(*)(参考：瀧口美香『ビザンティン四福音書写本挿絵の研究』創元社,2012年。)
(*)(参考：中野京子『名画と読むイエス・キリストの物語』大和書房,2012年(→2016年,文集文庫版)。)
(*)(参考：大澤真幸他『やっぱりふしぎなキリスト教』左右社,2012年。)
(*)(参考 : 大谷哲『初期キリスト教における殉教者の歴史学的期研究』東北大学,博士(文学),甲第14324号,2012年。)
(*)(参考 : 遠藤雅己「古代地中海社会へのキリスト教拡大 : キリスト教学歴史資料作成の試み」経済文化研究所年報21,2012年。)
(*)(参考 : 出村みや子「古代アレクサンドリアにおけるヘレニズムとヘブライズムの出会いと多文化主義」東北学院大学キリスト教文化研究所紀要30,2012年。)
(*)(参考：Nakanishi Kyoko(中西恭子)「ユリアヌスの死生観における「死者のいる空間」と殉教者崇敬」死生学研究17(1),2012年。)
(*)(参考：ベルトラン・ランソン/大清水裕訳『コンスタンティヌス：その生涯と治世』白水社,文庫クセジュ,2012年。)
(*)(参考：秋山学「アレクサンドリアのクレメンス『ストロマティス』(『綴織』)第3巻：全訳」古典古代学5,2012年。)
(*)(参考：山田耕太『フィロンと新約聖書の修辞学』新教出版社,2012年。)
(*)(参考：津田謙治「アレクサンドリアのフィロンにおける「神的な場所」の問題：「夢」におけるヘレニズム哲学的な視座を中心として」思想1054,2012年。)
(*)(参考：津田謙治「アレクサンドリアのフィロンにおける「二つの力」の問題：ヘレニズム思想との関連性を中心として」京都ユダヤ思想2,2012年。)
(*)(参考：浅野淳博『ガラテア共同体のアイデンティティの形成』創文社,2012年。)
(*)(参考：ピーター・ブラウン/戸田聡訳『貧者を愛する者：古代末期におけるキリスト教的慈善の誕生』教文館,2012年。)
(*)(参考 : 戸田聡「キリスト教にとって修道制とは何を意味するか(特集 動乱の世のただ中の霊性)(1)」福音と世界67(11),2012年。)
(*)(参考 : 戸田聡「翻訳 トマスによる福音書」キリスト教学54,2012年。)
(*)(参考：ヴァルテール・フィリップ/渡邊浩司訳「アイルランド神話のルグとガリア神話のルグスたち：中世の聖人伝に残るケルト神話」ケルティック・フォーラム15,2012年。)
(*)(参考 : 戸田聡「M.ウェーバーにおける「禁欲」「修道制」の概念」キリスト教史学66,2012年。)
(*)(参考：渡部昇一「書物ある人生(15)岩下壮一『カトリックの信仰』：公教要理第一部解説』和辻哲郎を論殺した神父の一撃」Will 95,2012年。)
(*)(参考：渡部昇一「書物ある人生(16)パスカル『パンセ』カトリック入信と「奇跡」の価値は」Will 96,2012年。)
(*)(参考 : 加藤信朗『自然の内に生きる : 神秘主義の原郷を探ねる』宗教と文化29,2012年。)
(*)(参考：上村清雄責任編集；金井直(他)『フレスコ画の身体学：システィーナ礼拝堂の表象空間』ありな書房,2012年。)

(*)(参考：大月康弘「第31回史学会大会特別講演会記録 ビザンツ史から見える世界史の地平：帝国・境界・個人」史友44,2012年。)
(*)(参考：秋山学研究代表『古典古代学を基礎とした「東方予型論」による包括的学問体系の構築』秋山学,科学研究費補助金(基礎研究 C 一般)研究成果報告書,平成21年-23年度,2012年。)
(*)(参考：瀧口美香『ビザンティン四福音書社写本挿絵の研究』創元社,2012年。)
(*)長濱拓磨「遠藤周作『王の挽歌』論：キリシタン文学の可能性(特集 平成23年度全国大会国語国文学会冬季大会シンポジウム：キリスト教と近代文学)」文学語学202,2012年。
(*)尾西康充「遠藤周作『沈黙』と「コンチリサン(痛悔)」：〈神の沈黙〉と〈人間の沈黙〉」人文論集29,2012年。
(*)若松英輔『内村鑑三をよむ』岩波ブウクレット845,岩波書店,2012年。
(*)川田殖「紀要「ペディラヴィウム」誌再読—来し方を顧み、行く手を望む」ペディラヴィウム67,2012年。
(*)小櫃暢太郎「戦後期の児童文学全集における日本古典文学の「再話」目録」(百合若大臣)立教大学大学院日本文学論叢12,2012年。
(*)宮本常一『周防大島昔話』(百合若大臣)河出書房新社,河出文庫,2012年。
(*)まんが日本むかしばなし『百合若大臣,梨とり兄弟,狐の柿の木：岩手県,鼻かけ天狗：山梨県』川内彩友美企画・制作：愛企画センター制作・著作53,2012年。
(*)(参考：宗形賢二「書評『世界文学史はいかにして可能か』木内徹,福島昇,西本あづさ監訳」国際文化表現研究8,2012年。)
(*)(参考：デーネーケ ヴィーブケ「「世界文学」の新しいパラダイムの展開と展望：ラテン文学と古代日本文学を例として「世界古典比較文学」論へ」文学13(4),2012年。)
(*)(参考：川島重成「人の世の移り変りは木の葉のそれと変りがない：『イリアス』第6歌におけるグラウコスとディオメデスの出会いについての一考察 : 特にグラウコスの死生観をめぐって」(国際基督教大学キリスト教と文化研究所紀要)人文科学研究：キリスト教と文化43,2012年。)
(*)(参考：古澤香乃「『イーリアス』に於ける死と遺骸をめぐる叙述構成：サルペードーン,パトロクロス,ヘクトールの死」ペディラヴィウム67,2012年。)
(*)(参考：安藤正『ホメロス英雄叙事詩とトロイア戦争：『イリアス』と『アネリダとアルシーテ』』彩流社,2012年。)
(*)(参考：エウリピデス/山形治江訳『トロイアの女たち』論創社,2012年。)
(*)(参考:エウリピデス/丹下和彦訳『悲劇全集(1-5)』西洋古典叢書,京都大学学術出版会,2012年。)
----「アルケスティス」「メディア」「ヘラクレスの子供たち」「ヒッポリュトス」「アンドロマケ」「ヘカベ」「嘆願する女たち」「エレクトラ」「ヘラクレス」「トロイアの女たち」「タウロイの地のイピゲネイア」「イオン」「ヘレネ」「フェニキアの女たち」「オレステス」「バッコス教の信女たち」「アウリスのイピゲネイア」「レソス」「キュクロプス」
(*)(参考：北野雅弘「アリストテレス『詩学』訳および注釈(1)1-3章」群馬県立女子大学

紀要36,2012年。)
(*)(参考：玉垣あゆ『セネカ悲劇研究：古代ローマにおけるドラマトゥルギー』名古屋大学,博士(文学),甲第9787号,2012年。)
(*)(参考：玉垣あゆ『セネカ悲劇研究：古代ローマにおけるドラマトゥルギー』出版者不明,2012年。)
(*)(参考：桜川洋子「古代詩のオスプレイ」地中海歴史風土研究誌36,2012年。)
(*)(参考：鶴見俊輔・安野光雅他編『ちくま哲学の森7(恋の歌)』筑摩書房,2012年。)
----サフォー/呉茂一訳「紅りんご」/プラトン/森進一訳「ソークラテースの話」
(*)(参考：池澤夏樹「詩のなぐさめ(3)ギリシャの墓碑銘と戦争論」図書760,2012年。)
(*)(参考：池澤夏樹「詩のなぐさめ(4)ローマの諷刺詩と女嫌い」図書761,2012年。)
(*)(参考：日本ペイター協会編『ペイター『ルネサンス』の美学：日本ペイター協会創立五十周年記念論文集』論創社,2012年。)
(*)(参考：加藤浩「ミメーシスからシュンボロンへ：プロクロス〈詩学〉の射程」フィロカリア29,2012年。)
(*)西村賀子・志茂淳子「Les aventures de Télémaqueの本邦初訳をめぐる書誌学的研究」和歌山県立医科大学保健看護学部紀要9,平成25年。(←2012年,西村賀子『ホメロス・オデュッセイア』岩波書店)
(*)(参考：赤池文子「20世紀の詩に及ぼしたダンテの影響」札幌国際大学紀要43,2012年。)
(*)(参考：壬生正博「ダンテ『神曲』のパラダイスに関する写本細密画と記述内容との比較の試み(福岡支部例会 第91回研究大会)」比較思想研究39,2012年。)
(*)(参考：河島英昭「ダンテ『神曲』への誘い(その5)地心から煉獄へ」図書762,2012年。)
(*)(参考：河島英昭「ダンテ『神曲』への誘い(その6)前煉獄(アンティプガトーリオ)での一日」図書763,2012年。)
(*)(参考：平川祐弘『中世の四季：ダンテ『神曲』とその周辺』(復刻新版)河出書房新社,2012年。)
(*)(参考：Ura Kazuaki「Dante e l’invenzione della letteratura “nationale”」イタリア語イタリア文学：東京大学大学院人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要6,2012年。)
(*)(参考：浦一章「「恋愛の苦しみ」(dulo d’amore)をめぐるテンツォーネ：「公証人」からボッカッチョにいたる系譜」イタリア語イタリア文学：東京大学大学院人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要6,2012年。)
(*)(参考：ブラドナー・レスター/澤井繁男訳「ペトラルカからシェイクスピアまで」關西大學文學論集62(2),2012年。)
(*)(参考：石倉和佳「「ボッカチオの庭」への道：庭園とフェミニンな詩人たち(第37回[2011年]全国大会シンポジーアム要旨 庭園史の中のロマン派詩人たち)」イギリスロマン派研究36,2012年。)
(*)(参考：根占献一「ローマとルネサンスの世界性：2011年度研究覚え書から」学習院女子大学紀要14,2012年。)
(*)(参考：チョーサー/笹本長敬訳『『トロイルスとクリセイデ』：付・『アリネダとアルシーテ』』英宝社,2012年。)
(*)(参考：松田美佐子『シェイクスピアとエンブレム：人文主義の文化的基層』慶應義塾大学出版部,2012年。)

(*)(参考：シェイクスピア/松岡和子訳『トロイラスとクレシダ』シェイクスピア全集23,ちくま文庫,筑摩書房,2012年。)
(*)(参考：東郷登志子「『テンペスト』と「恋人の嘆き」におけるホメーロスのエコー」目白大学人文学研究8,2012年。)
(*)(参考：高橋雄四郎『落穂を拾う』[キーツ]音羽書房鶴見書店,2012年。)
(*)(参考：平野順雄「チャールズ・オルソン著『ミュソロゴス』：「詩と真実」について」人間関係学研究10,2012年。)
(*)(参考：南大路振一『18世紀ドイツ文学点描』鳥影社・ロゴス企画,2012年。)
(*)(参考：早川淳子『〈集い〉の歌文化とゲーテ：歌の受容と展開』東京芸術大学,博士(学術),乙甲第599号,2012年。)
(*)(参考：小塩節『旅人の夜の歌：ゲーテとワイマル』岩波書店,2012年。)
(*)(参考：カール・オットー・コンラーディ/三木正之他共訳『ゲーテ：生活と作品(上下)』南窓社,2012年。)
(*)(参考：ゲーテ/適菜収編『超人ゲーテの人生論』ソフトバンククリエイティブ,2012年。)
(*)(参考：柴田翔『晩年の奇蹟：ゲーテの老年期』ノースアジア大学出版センター,PHPパブリッシング(発売),2012年。)
(*)(参考：武井隆造「ゲーテのラオコーン論について：身体・空間を巡る十八世紀後半のディスクルスの帰結として」ドイツ文学：Neue Beitrage zur Germanik144,2012年。)
(*)(参考：杉野隆彦「文化講座より ゲーテとユダヤ文化とのかかわり：「教養」概念浸透の諸相」ナマール17,2012年。)
(*)(参考：田中岩男「プロメテウスの末裔,悲劇,死,そして救い：『第2部』第5章のファウスト」モルフォルギア：ゲーテと自然科学34,2012年。)
(*)(参考：松山雄三「Fr.シラー：ゲーテへの道(1)」東北薬科大学一般教育関係論集25(創刊25号記念号),2012年。)
(*)(参考：小澤萬記「ゲーテの「世界文学」について(特輯 世界文学と国民文学)」(すずさわ書店)比較文學研究97,2012年。)
(*)(参考：白取春彦監修『まんがと図解でわかるニーチェ』宝島SUGO文庫,宝島社,2012年。)
(*)(参考：井藤元『シュタイナー「自由」への遍歴』ゲーテ・シラー・ニーチェとの邂逅』プリミエ・コレクション10,京都大学学術出版会,2012年。)
(*)(参考：田野武夫「ヘリダーリンにおける死の観念(諸文化圏・諸言語圏における生と死)」拓殖大学諸学研究127,2012年。)
(*)(参考：宇野大輔『死の運命とヘルダーリンの美的存在論』宇野大輔,2012年。)
(*)(参考：仲正昌樹『危機の詩学：ヘルダリン,存在と言語』作品社,2012年。)
(*)(参考：久保陽一『ドイツ観念論とは何か：カント・フィヒテ・ヘルダーリンを中心として』筑摩書房,ちくま学芸文庫,2012年。)
(*)(参考：加賀ラビ「20世紀のオペラ・セリア：ホーフマンスタールの『ナクソス島のアリアドネ』について」研究報告25,2012年。)
(*)(参考：榎本恵子「フランスにおけるプラウトス翻案劇『メネクム兄弟』誕生の背景」上智大学仏語・仏文学論集47,2012年。)
(*)(参考：大野晃由「アルフォンス・ド・ラマルティーヌにおける歴史の意味(研究発表要旨)」フランス語フランス文学研究101,2012年。)

(*)(参考 : アラン・ジュヌティオ「ラ・フォンテーヌ『寓話』の詩法(下)」ソフィア60(2),2012年。)
(*)(参考 : ジャン・ド・ラ・フォンテーヌ原作/谷口江里也翻案・解説/ギュスターヴ・ドレ挿画『ドレの寓話集アリとキリギリス(どれのぐうわしゅう・ありときりぎりす)』宝島社,2012年。)
(*)(参考 : 加島康彦「『ハムレット』におけるセネカの影響 : “Seneca cannot be too heavy”から読み取れるもの」安田女子大学大学院文学研究科紀要 合冊18,2012年。)
(*)(参考 : 武藤麻香「フォイボス像から見るチョーサーの「食料仕入れ係の話」--オウィディウス、ガワーとの比較から」(昭和女子大学)Evergreen 33,2012年。)
(*)(参考 : 森道子「名声と流刑 : オウィディウスの『トリスティア』とミルトン」大手前大学論集13,2012年。)
(*)(参考 : 秋富克哉「オイディプスの一つ多過ぎた眼—ハイデッガーのソポクレス解釈(1)」(日独文化研究所)文明と哲学4,2012年。)
(*)(参考 : 齋藤弘崇「『アンティゴネー』をめぐるジャック・ラカンとカール・ヤスパースについての試論(研究発表要旨)」日本フランス語フランス文学会関東支部論集21,2012年。)
(*)マレビトの会「アンティゴネーへの旅の記録とその上演」Theatre Arts : 第3次 : 演劇批評誌 : 劇と批評の変化のために52,2012年。
(*)(参考 : 今村武『近代ドイツ文学の萌芽と展開』南窓社,2012 年。)
(*)(参考 : ゲーテ/和田孝三訳『ファウスト』創英社,三省堂書店(発売),2012年。)
(*)(参考 : エッカーマン/山下肇訳『ゲーテとの対話(上中下)』岩波文庫,岩波書店,2012年。)
(*)(参考 : 渡部昇一『カントも,ゲーテも,ワインを毎日』渡部昇一ブックス3,Anglo-Saxon文明落穂集,広瀬書院,丸善出版(発売),2012年。)
(*)(参考 : 井藤元「『美育書簡』とゲーテ : シュタイナーのゲーテ=シラー論(コメント論文,フォーラム2,あえてシュタイナーのシラー論を語ってみると--「美と教育」再論への一つの試み)」近代教育フォーラム21,2012年。)
(*)(参考 : 小澤萬記「ゲーテの「世界文学」について(特輯 世界文学と国民文学)」比較文学研究97,2012年。)
(*)堂本雅也・山田正行「三木清の人間学におけるデモーニッシュ概念の社会教育的研究(1)ヨハン・ゲーテの「デモーニッシュなもの」との関連に即して」大阪教育大学紀要 第4文門,教育科学61(6),2012年。)
(*)(参考 : 井戸田総一郎「僕は思わずギリシャ語でゲーテに語りかけるところであった! : ヴァイマールの立像とハインリヒ・ハイネ言説(特集 読書の海の航海術)」文芸研究 : 明治大学文学部紀要117,2012年。)
(*)(参考 : 沼野充義「いまどうして世界文学なのか? : ゲーテから池澤夏樹まで(特集 世界文学とは何か?)」文芸51(1),2012年。)
(*)(参考 : 田村道美「野上弥生子とゲーテ(2)『ゲエテとの対話』「第一部」「第二部」」香川大学教育学部研究報告,第1部131,2012年。?)
(*)(参考 : 松山雄三「Fr.シラー : 戯曲創作と人間形成(1-3)」プロテウス 14,2012 年/15,2013年/16,2014 年。)
(*)(参考 : 松山雄三「Fr.シラー—ゲーテへの道(1)」東北薬科大学一般教育関係論集 25(創刊

25 号記念号),2012 年。)
(*)(参考：松山雄三「Fr.シラーの歴史研究と人間形成論」東北薬科大学一般教育関係論集26(石澤淳好先生退職記念号),2012 年。)
(*)(参考：須藤訓任『ニーチェの歴史思想：物語・発生史・系譜学』京都大学,博士(文学),乙第 12700 号,2012 年。)
(*)高松敏男「わが国最初のニーチェ紹介者は誰か。(特集 日本における翻訳文学)—(日本おける翻訳文学研究)」翻訳と歴史 60,2012 年。)
(*)(参考：西研『ツァラトストラ：ニーチェ』NHK,100 分 de 名著ブックス,NHK 出版,2012年。)
(*)(参考：宇野大輔『死の運命と：ヘルダーリーンの美的存在論』同志社大学,博士(哲学),甲第551号,2012年。)
(*)(参考：Takeo Iida“D.H.Lawrence as anit-rationalist：mysticizm,animism,and cosmic life in his works”Aoyama Life Pub.,(sold by 星雲社),2012年。
(*)阿刀田高『イソップを知っていますか』新潮文庫,新潮社,2012年。
(*)田中達三郎『伊蘇普物語』リプリント日本近代文学204,人間文化研究機構国文学研究資料館,平凡社(発売),2012年。
(*)雨谷一菜庵訳『イソップ物語』リプリント日本近代文学205,人間文化研究機構国文学研究資料館,平凡社(発売),2012年。
(*)金信愛『韓国語で物語を読もう!イソップ物語』語研,2012年。
(*)やまちかずひろ,松成真理子「イソップどうわ：ライオンとねずみ」おひさま17(5),2012年。
(*)石井睦美・とりごえまり「イソップどうわ：いなかのネズミとまちのネズミ」おひさま18(1),2012年。
(*)石井睦美・木村法子「イソップどうわ：うそつきひつじかい」おひさま18(2),2012年。
(*)石井睦美･松成真理子｢イソップどうわ:ふえをふくおおかみとこやぎ｣おひさま8(3),2012年。
(*)石井睦美・山本祐司「イソップどうわ：おひゃくしょうさんとワシ」おひさま18(4),2012年。
(*)イソップ作/照沼まりえ脚色・構成,小林ゆかり絵『かあさんぎつね』世界名作アニメ絵本37,永岡書店,2012年。
(*)イソップ原作/いまいあやの文・絵『イソップ物語：13のおはなし』BL出版,2012年。
(*)ポール・カルドンえ・さがの弥生ぶん『うさぎとかめ：イソップ寓話』童話館出版,2012年。
(*)イソップ原作/読みもの作成ワークショップ再話 ; 石川智子挿絵『どうしてコウモリは昼,飛ばない?』2版,JGB,NPO多言語多読,2012年。
(*)イソップ原作/読みもの作成ワークショップ再話 ; 玉木玲子挿絵『田舎のネズミと町のネズミ』2版,JGB,NPO多言語多読,2012年。
(*)読みもの作成会簡約 ; 松山さち子絵『イソップ物語』2版,JGB,NPO多言語多読,2012年。
(*)小川哲哉「古典的寓話の「翻案」教材化に関すス一考察：イソップ寓話の分析を中心に」道徳教育方法研究18,2012年。
(*)谷出千代子「「古典的寓話」翻訳・翻案の特異性：“蟻と蝉の事”の事例検証から」仁愛大学研究紀要 人間生活学部篇4,2012年。

(*)吉見孝夫「河鍋暁斎「伊蘇普物語之内」の刊行形態と新出三図---東山文庫の調査から」河鍋暁斎記念美術館『暁斎』108,2012年。
(*)吉見孝夫・徐曼麗「『Rõmaji Zasshi』に掲載されたイソップ寓話」北海道教育大学札幌校国語第二研究室(吉見孝夫編)2,平成24年。
(*)吉見孝夫・金森亜紀・菊地真由子・曳田美那「ロドリゲス『日本大文典』中のイソップ寓話からの引用--『エソポのハブラス』と『伊曽保物語』との対比」北海道教育大学札幌校国語第二研究室(吉見孝夫編)2,平成24年。
(*)吉見孝夫・金森亜紀・菊地真由子・曳田美那「『日葡辞書』中の、イソップ寓話から採った用例文--『エソポのハブラス』との対比」」北海道教育大学札幌校国語第二研究室(吉見孝夫編)2,平成24年。
(*)飯島半十郎著・河鍋楠美監修 : 二階堂充校訂『河鍋暁斎伝』河鍋暁斎記念美術館,2012年。.
(*)(参考 : 井上幸孝「植民地時代メキシコにおける西洋文化の導入とナワトル語訳『イソップ寓話』人文科学年報42,2012年。)
(*)(参考 : 小林英起子「啓蒙の動物寓話における擬人法(2) : G.E.レッシングの『寓話』と翻訳によるS.リチャードソン作『イソップ寓話』との比較考察」広島大学大学院文学研究科論集72,2012年。
(*)「ラウンジ石巻イソップ物語」内外教育6174,2012年。
(*)濱田幸子「『伊曽保物語』における教訓について」佛教大学大学院紀要・文学研究科篇40,2012年。
(*)杉村安幾子「銭鐘書「イソップ寓話を読む」から見える風景 : イソップを子どもに読ませるな」言語文化論叢16,2012年。
(*)(参考 : 井上幸孝「植民地時代メキシコにおける西洋文化の導入とナワトル語訳『イソップ寓話』」人文科学年報42,2012年。)
(*)府川源一郎『明治期初等国語教科書と子ども読み物に関する研究 : リテラシー形成メディアの教育文化史』東京学芸大学 博士(教育学)乙第62号,2012年。
(*)府川源一郎『明治期初等国語教科書と子ども読み物に関する研究 : リテラシー形成メディアの教育文化史』府川源一郎,2012年。
(*)宮本常一『周防大島昔話集』(百合若)河出文庫,河出書房新社,2012年。
(*)川内彩友美企画製作・愛企画センター製作著作『百合若大臣,梨とり兄弟,狐の柿の木 : 岩手県,鼻かけ天狗 : 山梨県』まんが日本昔ばなし,愛企画センター(発売),毎日放送(発売),東宝(発売),2012年。
(*)(参考 : 角田幸彦「精神史の光の中のブルクハルト : プラトン、ヴィーコ、ヘーゲル、モムゼン、クーグラー、シュナーゼとつなげて」明治大学教養論集477,2012年。)
(*)(参考 : 角田幸彦「私の歴史哲学への道 : ブルクハルトとの対話」明治大学教養論集477,2012年。)
(*)(参考 : 菊谷忠治「改めて啓蒙を問う」地中海歴史風土研究誌35,2012年。)
(*)(参考 : 中村雄二郎『知の百家言』講談社,講談社学術文庫,2012年。)
(*)(参考 : 串田孫一『古典との対話』筑摩書房,ちくま学術文庫,2012年。)
(*)(参考 : 川島秀一『自由の探究』西洋思想叢書,晃洋書房,2012年。)
(*)(参考 : 左近司祥子『なぜねこは幸せに見えるの? : 子どものための哲学のおはなし』

講談社,2012年。)
(*)(参考：プラトン/山本光雄訳『饗宴：恋について』新版,角川学芸出版,2012年。)
(*)(参考：田中美知太郎『ロゴスとイデア』文春学藝ライブラリー,思想8,文藝春秋,2012年。)
(*)(参考：和泉ちえ「「第二の航海」を巡る断章：自然探究を母体とするフィロソフィアの遍歴(野家啓一先生御退職記念号)」思索45,2012年。)
(*)(参考：神崎繁「魂の像/道具としての身体：ヨーロッパ思想史のなかで「魂」はどう捉えられてきたか(特集 魂の承継)」談95,2012年。)
(*)(参考：神崎繁＋熊野純彦「『西洋哲学史』完結特別対談・三たび哲学と哲学史をめぐって」本37(11),2012年。)
(*)(参考：神崎繁・熊野純彦・鈴木泉編『「哲学の現代」への回り道』講談社選書メチエ,講談社,2012年。)
(*)(参考：坂口ふみ『ヘラクレイトスの仲間たち—人でつむぐ思想史(1)(2)』ふねうま舎,2012-13年。)
(*)(参考：甲斐博見『ソクラテスの哲学：プラトン『ソクラテスの弁明』の研究』首都大学東京,博士(文学),乙第37号,2012年。)
(*)(参考：藤田大雪『プラトンのディレクティケー：その成立事情に関する一考察』京都大学,博士(文学),甲第17213号,2012年。)
(*)(参考：宮崎文典『プラトン『ゴルギアス』における正義・善・美』早稲田大学,博士(文学),甲第3642号,2012年。)
(*)(参考：渡辺邦夫『アリストテレス哲学における人間理解の研究』東京大学,博士(学術),甲第17688号,2012年。)
(*)(参考：坂本邦暢『Julius Casar Scaliger, reformer of Renaissance Aristotelianism：A study of Exotericae exercitationes』東京大学,博士(学術),甲第28806号,2012年。)
(*)(参考：立花幸司『Philosophical basis of Aristotle’s theory of moral education in the Nicomachean Ethics』東京大学,博士(学術),甲第27659号,2012年。)
(*)(参考：相澤康隆『アリストテレスのアクラシア論：「自制心のない人」とはどのような人か』東京大学,博士(文学),甲第27701号,2012年。)
(*)角田幸彦「改めて日本におけるローマ哲学の意義について：ローマ精神の深さと広さ(角田幸彦教授退職記念)」明治大学教養論集483,2012年。
(*)(参考：金森誠也「エピクロスについて：エピクロスの現代的意義(同上)」明治大学教養論集483,2012年。)
(*)(参考：茂木和行「モーツァルトァは音楽のソクラテスである」聖徳大学言語文化研究所論叢20,2012年。)
(*)(参考：橋本博「幸福について」上武大学ビジネス情報学部紀要11(2),2012年。)
(*)(参考：筒井賢治「アナクサゴラスにおける「オルフェウス教」伝承」西洋古典學研究60,2012年。)
(*)梅原猛「思うままに—プラトンを読む/あの世を語る哲学者」中日新聞夕刊1/16,東京新聞夕刊1/16,2012年。
(*)(参考：黒木秀房「プラトニズムの転倒と哲学的スタイル：ドゥルーズにおける三つの「仲介者」」立教大学フランス文学41,2012年。)
(*)(参考：相澤康隆『アリストテレスのアクラシア論：「自制心のない人」とはどのような人か』東京大学,博士(文学),甲第27701号,2012年。)

(*)(参考：渡辺邦夫『アリストテレス哲学における人間理解の研究』東海大学出版会,2012年。)
(*)(参考：新島龍美『伝アリストテレス作『大道徳学』の重層的研究』九州大学(2010年),(科研費)2012年。)
(*)(参考：渡部昇一『賢人は人生を教えてくれる：ローマの哲人セネカの人生論』致知出版社,2012年。)
(*)(参考：キケロ・セネカ・アウレリウス/金森誠也・長尾剛訳『「超訳」古代ローマ三賢人の言葉』PHP研究所,2012年。)
(*)(参考：松浦寿夫「〈新刊紹介〉エピクロスの原子のように：桑田光平著『ロラン・バルト—偶発時へのまなざし』」総合文化研究(Trans-Cultural Studies)16,2013年。)
(*)(参考：神崎繁・熊野純彦・鈴木泉編『「ポスト・モダン」のまえに』講談社選書メチエ513,講談社,2012年。)
(*)桜井万里子「歴史家の本棚(20)古代ギリシアの古典、古代ギリシアについての古典」日本古書通信77(8),2012年。
(*)桜井万里子「ジェンダーの可能性：西洋古代史研究の立場から」歴史評論748,2012年。
(*)(参考：周藤多紀「提題 ボエティウスのプラトニズム—アリストテレス注解の視点から(特集 第59回大会シンポジウム 中世におけるプラトニズム 教父時代から12世紀まで)」中世思想研究54,2012年。)
(*)(参考：森哲彦「ソクラテス以前哲学者の解明—DK.断片とカント」名古屋市立大学大学院人間文化研究所人間文化研究18,2012年。)
(*)(参考：多田圭介「ハイデガーのロゴス論I—『存在と時間』序論第7節におけるロゴスの定義をめぐって」北海道大学大学院文学研究科研究論集12,2012年。)
(*)(参考:Tachibana Koji,“How Aristotle’s Theory of Education Has Been Studied in Our Century” Studia Classica 3,2012.)
(*)(参考：A.S.マクグレイド編『中世の哲学』京都大学学術出版会,2012年。)
(*)(参考：水落健治「司会 2011 年度シンポジウムおよび特別報告について(第 59 回大会シンポジウム 特集 中世におけるプラトニズム教父時代から 12 世紀まで)」中世思想研究54,2012年。)
(*)(参考：山内志朗「中世存在論におけるプラトンと超越概念(同上)」中世思想研究54,2012年。)
(*)(参考：山田庄太郎「アウグスティヌス『告白』の時間論が有する諸特徴について：アリストテレス,プロティノスとの比較から(同上)」中世思想研究54,2012年。)
(*)(参考：松崎一平「アウグスティヌスとプラトニズム(同上)」中世思想研究54,2012年。)
(*)(参考:中村秀樹「12世紀のプラトニズム—キリスト教神学の自己確認とプラトニズム(同上)」中世思想研究54,2012年。)
(*)(参考：齋藤環「荒木飛呂彦「スタンド」論：ネオプラトニズムの小さな神々(特集 人間讃歌：謎めく美しき世界 荒木飛呂彦)」美術手帖64(975),2012年。)
(*)(参考：西村洋平「プロクロスの『悪の存立論』とそのキリスト教思想圏への浸透」中世思想研究54,2012年。)
(*)(参考：Notomi Noburu,‘Contemporary Meaning of Reading Plato in Japan and Asia’(in

Études Platoniciennes：Platon aujourd'hui,2012.)
(*)(参考：宮本久雄「『神学大全』完訳の祝祭にあたり」季刊・創文 冬8,2012年。)
(*)(参考：川添信介「『神学大全』を『対異教徒大全』より先に読むことは適切であるか」季刊・創文 冬8,2012年。)
(*)(参考：山本芳久「『神学大全』の完結性と未完結性」季刊・創文 冬8,2012年。)
(*)(参考：稲垣良典「神学と霊性--『神学大全』から学んだこと」季刊・創文 冬8,2012年。)
(*)(参考：八木雄二『神を哲学した中世：ヨーロッパ精神の源流』新潮選書,新潮社,2012年。)
(*)(参考：桑原直己「トマス・アクィナス『ボエティウス「三位一体」註解』における学問方法論」倫理学 28,2012 年。)
(*)(参考：桑原直己「トマス・アクィナス『ボエティウス「三位一体」註解』における学問区分」清泉女子大学キリスト教文化研究所紀要 33,2012 年。)
(*)(参考：周藤多紀「提題ボエティウスのプラトニズム アリストテレス註解の観点から(特集 第 59 回大会シンポジウム中世におけるプラトニズム教父時代から 12 世紀まで)」中世思想研究 54,2012 年。)
(*)(参考：阿部善彦「エックハルトと擬ディオニュソス・アレオパギテースの『神秘神学』：「闇」の宗教思想史的伝統」エクフランス：ヨーロッパ文化研究2,2012年。)
(*)(参考：阿部善彦「ハインリッヒ・ゾイゼにおける「マリア」：中世後期から近世に至る宗教文芸,民衆霊性の展開および神秘思想と宗教芸術の相互関係性について(第8回研究会)」星美学園短期大学日伊総合研究所報8,2012年。)
(*)(参考：阿部善彦「エックハルトの『教導講話』におけるキリスト教的修行論：《模範》に基づく宗教的生の完成と《個人》の多様性の緊張関係」星美学園短期大学研究論集44,2012年。)
(*)(参考：池上英洋「天使的イメージとルネサンス・ネオ・プラトニズム：レオナルドにみる錬金術とグノーシス主義(特集 天使たちの中世)」西洋中世研究4,2012年。)
(*)(参考：黒木秀房「プラトニズムの転倒と哲学的スタイル：ドゥルーズにおける三つの「仲介者」立教大学フランス文学41,2012年。)
(*)(参考：河野雄一「中世の継承者としてのエラスムス：1520年代の論争を通して」西洋中世研究4,2012年。)
(*)(参考：柳沼正弘「若きエラスムスとヒエロニムス：『反蛮族論』における引用をめぐって」エクラシス：ヨーロッパ文化研究2,2012年。)
(*)(参考：柳沼正弘『エラスムスとルネサンス・ヒューマニズム：宗教改革前夜の異教文学』創価大学,博士(人文学),甲第 93 号,2012 年。)
(*)(参考：柳沼正広「エラスムス『格言集』序文に関する一考察：ルネサンス道徳思想の一表現」東洋哲学研究所紀要28,2012年。)
(*)(参考：竹原創一「エラスムスとルター：自由意志論争の前提としての『エンキリディオン』について」キリスト教学54,2012年。)
(*)(参考：井ノ口淳三・大田光一・大川洋「エラスムスとコメニウス：「言葉と事物」の方法をめぐって(ラウンドテーブル1,発表要旨)」日本教育学会大會研究発表要項71,2012年。)
(*)(参考：大川洋「エラスムスの『子どもの教育について』：教育論としての特色とその背景」東京理科大学紀要・教養篇44,2012年。)

(*)(参考 : ウィリアム・J.バウズマ/澤井繁男訳『ルネサンスの秋 : 1550-1640』みすず書房,2012年。)
(*)(参考 : ブラドナー・レスター/澤井繁男訳「ペトラルカからシェイクスピアまで」關西大學文學論集 61(1),2012 年。)
(*)(参考 : 岡本源太『ジョルダーノ・ブルーノの哲学 : 生の多様性へ』古典転生 7,2012 年。)
(*)(参考 : 鹿島茂『パスカル『パンセ』 : 「考える」ことが,すべてだ』NHKテレビテキスト「100分de名著」NHK出版,2012年。)
(*)(参考 : 清眞人『サルトルの誕生 : ニーチェの継承者にして対決者』藤原書店,2012 年。)
(*)(参考 : カール・ヒルティ/氷上英廣訳『ヒルティ幸福論(1,2,3 部)』白水社,2012 年。)
(*)(参考 : ヒルティ/齋藤孝訳・解説『生きる喜びは、仕事とともにあるヒルティの幸福論』知的生きかた文庫,三笠書房,2012 年。)
(*)岡部一興『山本秀煌とその時代 : 伝道者から教会史家へ』教文館,2012年。
(*)瀬口昌久「技術者倫理教育における哲学の役割」三田評論1154,2012年。
(*)(参考 : 鶴岡賀雄・桑原直巳・田畑邦治編『キリスト教と日本の深層』オリエンス宗教研究所,2012年。)
(*)(参考 : 鷲田小彌太『哲学者列伝』日本人の哲学1,言視社,2012年。)
(*)菅原喜重郎『西洋哲学史 : 西洋哲学史要・波多野宗教哲学(時間論)素描』キリスト新聞社出版事業部,2012年(→2016年,東洋出版版。)
(*)北川フラム「足裏の記憶 : 思想家を旅する(5)林達夫×京都大学(京都)×明治大学(東京)」美術手帖64(964),2012年。
(*)若松英輔「詩と哲学の今日性(アクチュアリティ) : 須賀敦子と林達夫」中央公論127(3),2012年。
(*)若松英輔「吉満義彦(4)留学」三田文学[第3期]91(108),2012年。
(*)若松英輔「吉満義彦(5)超越と世界」三田文学[第3期]91(109),2012年。
(*)若松英輔「吉満義彦(6)中世と近代」三田文学[第3期]91(110),2012年。
(*)若松英輔「丘の上 意中の人 : 池田晶子のこと」三田評論1158,2012年。
(*)高木繁光「植物学的世界文学試論 : 林達夫と花田清輝を例として(特輯 世界文学と国民文学)」比較文學研究97,2012年。
(*)(参考 : 沓掛良彦・阿部賢一編『バッカナリア酒と文学の饗宴』成文社,2012年。)
(*)川井陽「ヒューマニズム教育とその今日的意義—言語並びに古典重視による人間形成の可能性」北里大学一般教育紀要17,2012年。
(*)長山靖生「SFのある文学誌(12)虚構の伝記が求めたもの : 『倭字西洋文庫』と『西国立志編』」SFマガジン53(12),2012年。)
(*)太宰治『走れメロス』ハルキ文庫,角川春樹事務所,2012年。
(*)太宰治作・西本陽介脚本・宮本忠夫絵『走れメロス』名作児童文学紙芝居,鈴木出版,2012年。
(*)主婦の友社編『未来へむかう心が育つおはなし』(「走れメロス」)頭のいい子を育てる,主婦の友社,2012年。
(*)角田旅人「「走れメロス」材源考」香川大学一般教育研究24,2012年。
(*)河内昭浩「文学教材における「指導すべき語句」について : 「羅生門」,「走れメロス」を中心に(自由研究発表)」全国大学国語教育学発表要旨集123,2012年。
(*)寺田守「話者の判断や評価の表れる言葉に着目する文学教材の解釈 : 「走れメロス」(太

宰治)の一文を読む(自由研究発表)」全国大学国語教育学発表要旨集123,2012年。
(*)丸山義昭「〈物語〉と〈小説〉の違いを授業に生かす：「走れメロス」「羅生門」「山月記」を例に(自由研究発表)」全国大学国語教育学発表要旨集123,2012年。
(*)岩佐壮四郎・小山内伸「演劇時評(4)劇評エッグ 浮標(ブイ)エゲリア 背水の孤島 ワタシんち,通過。のち,ダイジェスト。そして母はキレイになった クールの誕生 ボクゼン—映画『どん底』より 騒音歌舞伎(ロックミュージカル)ボクの四谷怪談 雷鳴 ミスサイゴン ショックヘッド・ピーター：よいこのえほん かもめ ミリオンダラー・カルテット 走れメロス ダディ・ロング・レッグズ：足ながおじさんより あなた自身のためのレッスン HEAVEN ELEVEN OF THE DEAD 無差別 満月の人よ 阿保の鼻毛で蜻蛉をつなぐ」悲劇喜劇65(12),2012年。
(*)(参考：クロード・シモン/芳川泰久訳『農耕詩』白水社,2012年。)
(*)渡邉顕彦「原マルチノのヴァリニャーノ礼讃演説：古典受容の一例として」大妻比較文化13,2012年。
(*)諫山禎一郎編『海老澤有道「日本聖公会関係資料解題」：立教学院チャペル・ニュース掲載全65回』日本聖公会管区事務所,2012年。
(*)宮永孝「背教者 千々岩弥解瑠(ちぢわミゲル)」社会志林59(1),2012年。
(*)宮永孝「マカオの日本人キリシタン」社会志林59(2),2012年。
(*)Manuel Alvares原著/カルロス・アスンサン,豊島正之翻刻・解説『天草版ラテン文典』八木書店,2012年。)
(*)釘宮明美「キリ研の貴重書(1)プティジャン版集成」Chronica：白百合女子大学キリスト教文化研究所所報27,2012年。)
(*)『[伯爾納訳編]『聖教初学要理：一八六八年(明治元年)』』雄松堂書店,復刻版,プティジャン版集成：本邦キリシタン布教関係資料・第1期3,2012年。
(*)鈴木進編『ローマ字聖書Yokohama no fuku-in：明治学院大学図書館所蔵：Yokohama no fuku-inヘボン,S.R.ブラウン訳『約翰傳福音書』対照：解説・註解』明治学院大学キリスト教研究所,ICKオケイジョナル・ペーパー15,2012年。
(*)加藤早苗『明治和訳聖書の日本語史的研究』(出版者不明),2012年。
(*)吉田新「最古の和訳聖書『ヤコブの手紙』の出現—ソロモン・C・マラン(1853年)について」日本古書通信77(11),2012年。
(*)吉馴明子「植村正久「伝記的スケッチ」：解題・翻刻・翻訳」(国際基督教大学)人文科学研究・キリスト教と文化Christianity and Culture43,2012年。
(*)久保陽一「近代日本哲学における西洋思想と伝統思想との関連について：西周から九鬼周造まで」駒澤大學文化30,2012年。
(*)熊倉敬聡「精神のエコロジー：「西洋」の思想的探究を超えて」慶應義塾大学日吉紀要・言語文化コミュニケーション4,2012年。
(*)Marti-Oroval Bernet「清沢満之の宗教哲学における霊魂滅否論について：西洋思想の影響を中心として」近代仏教19,2012年。
(*)朴一功『フェノロサ「哲学史講義」』出版者不明,2012年。
(*)Marti-Oroval Bernat「清沢満之の宗教哲学における霊魂滅否論について：西洋思想の影響を中心に」近代仏教19,2012年。

(*)川口淳「清沢満之の晩年における「学問研究」の意義の問い直し」眞宗研究：眞宗連合學會研究紀要56,2012年。
(*)柴田隆行「著作を通して見る井上円了の学問」東洋大学史パンフレット5,2012年。
(*)柄谷行人『哲学の起源』岩波書店,2012年。)
(*)澤田謙『[改題]プリュターク英雄伝』[付・澤田謙著作目録・年譜]講談社文芸文庫,2012年(←昭和5年,同『少年プリュターク英雄傳』大日本雄辯會講談社）。
(*)中畑正志「像と類似性 小池澄夫の仕事をめぐる覚書」古代哲学研究44,2012年。
(*)平川祐弘『内と外からの夏目漱石』(「ケーベル、ハーン、漱石の奇妙な関係」)河出書房新社, 2012年。
(*)石井慎一郎「阿部次郎のツアラトゥストラ解釈」外国語教育論集34,2012年。
(*)三河隆之「出立における哲学と実践(3)哲学者の随筆が示すもの」思想史研究14,2012年。
(*)秋富克哉「西谷啓治のニイチェ解釈(特集西谷啓治)—(思索展開の諸場面)」理想689,2012年。
(*)後藤正英「西谷啓治における神秘主義の問題(同上)」理想689,2012年。
(*)小野真「西谷啓治のアリストテレス解釈:「思惟の思惟」を超えて「根源的構想力」へ(同上)」理想689,2012年。
(*)渡部昇一「和辻哲郎を論殺した神父の一撃」(岩下壮一)Will 11月号,2012年。
(*)釘宮明美「神谷美恵子とキリスト教：魂の認識への献身と人間の宗教性」キリスト教文化研究所紀要31,2012年。
(*)村松晋「吉満義彦の思想：「近代の超克」と〈ヒューマニズム〉」聖学院大学論叢24(2),2012年。
(*)村松晋「吉満義彦の人間観：その「近代批判」と「近代超克」をめぐる一考察」聖学院大学総合研究所紀要55,2012年。
(*)(参考：井上忠造「ヒューマニティーとは何か：東西思想に見る人道思想の系譜と共感の精神」人道研究ジャーナル1,2012年。)
(*)(参考：米山宏史「ルーマニアの歴史のルーツをたずねて」歴史教育協議会「歴史地理教育」784,2012年。)
(*)(参考：小坂俊介「アンミアヌス・マルケリヌス『歴史』に関する近年の研究動向」Studia classica 3,2012年。)
(*)(参考：秋山学「フラウィウス・ヨセフスの史観：エレミヤ神学と古典史学史の止揚」筑波大学地域研究33,2012年。)
(*)毛利晶「私の「史学入門」」神戸大学史学年報27,2012年。
(*)(參考：I.Worthington(ed.),Brill New Jacoby,Brill,Leiden/橋場弦‘s.v.Stesikeides(245),Andron(245),Theodoros(346)’オンライン公開,2012.)
(*)(参考：橋場弦「アナーキー」公研582,2012年。)
(*)(参考：橋場弦「ギリシャはどこへ」公研588,2012年。)
(*)(参考:亀井高孝・三上次男・堀米庸三編『標準世界史地図』増補第 45 版,吉川弘文館,2012年。)
(*)(参考:亀井高孝・三上次男・林健太郎編『標準世界史年表』増補第 47 版,吉川弘文館,2012年。)
(*)(参考：橋場弦編『世界史史料1：古代オリエントと地中海世界』岩波書店,2012年。)

(*)(参考：ディオン・クリュソストモス/内田信次訳『トロイア陥落せず』西洋古典叢書「弁論集2」、京都大学学術出版会,2012年。)
(*)菅孝行「演劇批評 社会と演劇の視野(9)現代の〈トロイア〉は演劇によって表現できるか：蜷川作品イスラエル企画に寄せて」テアトロ860,2012年。
(*)(参考：森谷公俊『アレクサンドロスとオリュンピアス：大王の母,光輝と混乱の生涯』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2012年。)
(*)(参考：森谷公俊「新説 アレクサンドロス大王の東方遠征ルート：ペルシア防衛軍vs. 大王軍,首都ペルセポリスをめぐる最終決戦の地を特定」ニュートン32(4),2012年。)
(*)(参考：子ども文化研究所監修・浜祥子他『アレクサンドロス,シーザー,イエス・キリスト』改訂新版,世界伝記図書館2,いずみ書房,2012年。)
(*)(参考：桑山由文「ハドリアヌス以後のアテネ：ローマ帝国支配下における「復興」とその実態(2012年度歴史学研究大会報告 変革の扉を押し開くために：新自由主義への対抗構想と運動主体の形成)—(合同部会 時代転換期における都市共同体の再編)」歴史学研究898,2012年。
(*)(参考：坂田道生・高津秀之・林佳世子「合同部会 桑山由文 ハドリアヌス以後のアテネ 高津紀恵 聖なる都市パリの危機と再編 澤井一彰 1509年のイスタンブル大地震とその後の復興(2012年度歴史学研究大会報告批判」歴史学研究900,2012年。)
(*)(参考：リドリー・スコット監督/ダグラス・ウイック,デイヴィッド・フランゾーニ,フランコ・ラスティン製作,デイヴィッド・フランゾーニ,ジョン・ローガン・ウィリアム・ニコルソン脚本『Gladiator』ビデオレコード,ジェネオン・ユニバーサル・ユニバーサル・エンターテイメント,2012年。
(*)(参考：ティム・クーク/池内恵訳『世界史図鑑：みんなが知らない歴史の秘密』主婦の友社,2012年。)
(*)(参考：井上浩一『私もできる西洋史研究：仮想(バーチャル)大学に学ぶ』人文学のフロンティア：大阪市立大学人文選書3,和泉書院。)
(*)(参考：大戸千之『歴史と事実—ポストモダンの歴史学批判をこえて』学術選書57,京都大学学術出版会,2012年。)
(*)(参考：森谷公俊「新入生のための歴史学入門(特集 歴史学をどう学ぶか)」歴史評論745,2012年。)
(*)(参考：テオドール・モムゼン/杉山吉朗訳『ローマ史（上）：共和政の成立と地中海諸民族の闘争』文芸社,2012年。)
(*)(参考：テオドール・モムゼン/杉山吉朗訳『ローマ史（下）：共和政の権力闘争と君主政への動向』文芸社,2012年。)
(*)(参考：モムゼン/片岡基訳『軍事独裁制の樹立(4)』文芸社,2012年。)
(*)(参考：中川亜希「ガリア・キサルビナとカエサル—碑文に見られるliberalitasを通して」地中海学研究34,2012年。)
(*)(参考：本村凌二『ローマ人に学ぶ』集英社新書,集英社,2012年。)
(*)(参考：本村凌二『古代ローマとの対話：「歴史感」のすすめ』岩波現代文庫,岩波書店,2012年。)
(*)(参考：森谷公俊「新説 アレクサンドロス大王の東方遠征ルート：ペルシア防衛軍vs.大

王軍,首都ペルセポリスをめぐる最終決戦の地を特定」Newton32(4),2012年。)
(*)(参考：勝又泰洋(Katsumata Yasuhiro)「ルーキアノス『ヘーロドトスまたはアエティオーン』におけるヘーロドトス」文芸学研究16,2012年。)
(*)岡田英弘「ヘーロドトスとの出会い,歴史を志す(特集 人生を変えた一冊)」新潮45 31(11),2012年。
(*)前田耕作「私の薦めるアジアを考えるための三冊[ヘロドトス『歴史』,羽田亨『西域文明史概論』,内藤虎次郎『先哲の学問』(アジアの「教養」を考える：学問のためのガイドブック)」アジア遊学150,2012年。)
(*)(参考：渡瀬茂「政治と鏖殺：日本軍記と比較しつつトゥキュデイデスのシケリア派遣アテナイ軍全滅記事を読む」近大姫路大学教育学部紀要5,2012年。)
(*)竹内一博「退官記念トゥーキューデイデース,ディオドーロス,そしてリーウィウス：毛利晶巨樹の退職によせて」神戸大学史学年報27,2012年。)
(*)「毛利晶教授略歴・著作目録」神戸大学史年報27,2012年。
(*)毛利晶「退職記念 私の「史学入門」」神戸大学史年報27,2012年。
(*)(参考：笠原順路「二つの《瀕死の剣闘士》をめぐって：バイロンとラウシャム庭園における心の拡大と縮小(第37回(2011年)全国大会シンポジーアム要旨 庭園史の中のロマン派詩人たち)」イギリスロマン派研究36,2012年。)
(*)(参考：新見肇子・鈴木雅之編『揺るぎなき信念：イギリス・ロマン主義論集』(笠原順路「ロマン主義時代の剣闘士詩における写実と藝術の相克：ヘマンズ「瀕死の剣闘士像」註解」)彩流社,2012年。)
(*)藤井崇「書評 本村凌二『帝国を魅せる剣闘士:血と汗のローマ社会史』」西洋史学245,2012年。
(*)(参考：楠田直樹「グルメントゥム、その歴史を知るための文献史料解題」創価女子短期大学紀要43,2012年。)
(*)(参考：楠田直樹「ポエニ戦争以前のローマ・カルタゴ関係---Babara Scardigliの考え方を基にして」創価女子短期大学紀要44,2012年。)
(*)林正博「カルタゴと日本」比較文明28,2012年。
(*)(参考：OTSUKI Yasuhiro「Pioneer of Byzantine Studies in Japan,Late Prof.Kin-ichi Watanabe’s Works」地中海論集21,2012年。)
(*)(参考：「List of late Professor Kin-ichi WATANANE’s works」地中海論集21,2012年。)
(*)(参考：「List of late Professor Katsumi NAKAZAWA’s works」地中海論集21,2012年。)
(*)(参考：増田芳雄「古代ローマ帝国とフランク王国の盛衰—ヨーロッパにおける聖と俗の関係(3)」(帝塚山大学)人間環境科学21,2012年。)
(*)(参考：青木真平『属州アフリカにおける「ローマ化」と都市発展：アウグストゥス治世フェニキア都市レプキス･マグナを中心に』関西大学,博士(文学),甲第417号,2012年。)
(*)野口悠紀雄「はじめに十字軍ありき：塩野七生『十字軍物語3』」波46(1),2012年。)
(*)伯壬旭「伯壬旭の名著を読み解く(19)塩野七生『ローマ人の物語』から男の「虚栄心」と「野心」を考える」Boss 27(3),2012年。
(*)(参考：塩野七生・佐々木毅「世界史から学ぶ：日本はなぜ改革できないのか」文藝春秋90(10),2012年。)

(*)「文献目録—西洋史1」史學雑誌121(1),2012年。
(*)(參考：橋場弦「討論要旨(公開シンポジウム「歴史のなかの公と私」,第109回史学大会報告)史学雑誌121(1),2012年。)
(*)(參考：阿部衛「碑文上における自由身分剣闘使：「lib.」の解釈を中心に(研究発表,西洋史部会,第109回学会大会報告)」史學雑誌121(1),2012年。)
(*)上野愼也「ロビン・オズボン著佐藤昇訳『ギリシアの歴史はどのように創られるか?』刀水歴史全書81,刀水書房2011」史學雑誌121(2),2012年。
(*)伊東七美男「小河浩著「紀元前4世紀ギリシア世界における傭兵の研究」(渓水社)2010」史學雑誌121(2),2012年。
(*)(參考:大清水裕「マクシミヌス・トラクス政権の崩壊と北アフリカ」史學雑誌121(2),2012年。)
(*)(參考:南川高志「時代区分論と歴史学研究の現在(コラム 歴史の風)」史學雑誌121(3),2012年。)
(*)「文献目録—西洋史2」史學雑誌121(5),2012年。
(*)辻本諭「回顧と展望(近代イギリス)」史學雑誌121(5),2012年。
(*)(參考：宮崎亮「ヨーロッパ：古代：ギリシア(2011 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 121(5),2012 年。
(*)(參考：大清水裕「ヨーロッパ：古代：ローマ(2011 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 121(5),2012 年。
(*)(參考：鈴木道也「ヨーロッパ：西欧南欧 (2011 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 121(5),2012 年。
(*)井上文則「大清水裕著「ディオクレチアヌス時代のローマ帝国—ラテン碑文に見る帝国統治の継続と変容」(山川歴史モノグラフ 25,山川出版社)」史學雑誌 121(7),2012年。
(*)安井萌「宮嵜麻子著「ローマ帝国の食料供給と政治—共和政から帝政へ」(九州大学出版会)2010」史學雑誌121(7),2012年。
(*)「文献目録—西洋史3」史學雑誌121(9),2012年。
(*)(參考：伊藤雅之「紀元前211年のローマ・アイトリア同盟」西洋史研究41,2012年。)
(*)(參考：波部雄一郎「ヘレニズム時代における戦艦建造：プトレマイオス4世の「40の船」Tessarakonteresを中心に」西洋史研究41,2012年。)
(*)(參考：南雲泰輔「ローマ帝国の東西分裂をめぐって：学説の現状と課題」西洋古代史研究12,2012年。)
(*)(參考：南川高志「コラム：西洋古代史の泉(5)マインツ・ライン河岸のローマ都市」西洋古代史研究12,2012年。
(*)樺山紘一「私の生き方(504回)いつの時代もルネサンスはある」公研50(2),2012年。)
(*)(參考：石塚正英「『古代史・人類学研究抜粋ノート』(1876-82年)：モーガン,バッハオーフェン=プロスに学ぶ(特集 マルクスを読む[Part1])」季刊唯物論研究120,2012年。)
(*)(參考：村田奈々子『物語近現代ギリシャの歴史：独立戦争からユーロ危機まで』中公新書,中央公論新社,2012年。)
(*)(參考：北村暁夫・伊藤武編『近代イタリアの歴史：16世紀から現代まで』ミネルヴァ書房,2012年。)

(*)(参考：中野京子「中野京子の名画が語る西洋史(新連載1)決闘 死にゆくピエロ」文藝春秋90(10),2012年。)
(*)(参考：柴宜弘・木村真・奥彩子編『東欧地域研究の現在』山川出版社,2012年。)
(*)南塚信吾「箕作麟祥『万国新史』と東ヨーロッパ」東欧史研究34,2012年。
(*)土肥恒之『西洋史学の先駆者たち』中公叢書,中央公論新社,2012年。
(*)成田龍一「書評(94)土肥恒之『西洋史学の先駆者たち』,あるいは「西洋史」の史学史を論ずることについて」UP41(8),2012年。
(*)(参考：桐敷真次郎「ネロの黄金宮とローマ市改造計画」建築雑誌127(1632),2012年。)
(*)(参考：桐敷真次郎「わが国の西洋建築史学に関する研究・教育および建築評論に対する多大な貢献(2012年 日本建築学会大賞)」建築雑誌127(1635),2012年。)
(*)(参考：坂田道生・高津秀之・林佳世子「合同部会 桑山由文 ハドリアヌス以後のアテネ 高澤紀恵 聖なる都市パリの危機と再編 澤井一彰 1509年のイスタンブル大地震とその後の復興(2012年度歴史学研究会大会報告批判)」歴史学研究900,2012年。)
(*)(参考：岡田光正『空間デザインの原点：建築人間工学』(エンタシス)理工学社,2012年。)
(*)(参考：周藤芳幸「初期青銅器時代エーゲ海の瓦と社会：レルナの「瓦屋根の館」を中心として」古代129,2012年。)
(*)(参考：吉武隆一「サモスのエウバリノスの水道トンネルの現状：デジタル測量技術を用いた実地調査」日本建築学会計画系論文集77(673),2012年。
(*)(参考：岩田千穂・吉武隆一・伊藤重剛「ギリシア古代都市メッセナにおける劇場時代舞台の復原試案」日本建築学会計画系論文集77(673),2012年。)
(*)(参考：大塚和樹・伊藤重剛・吉武隆一・岩田千穂「地中海古代都の研究(136)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 51,2012 年。)
(*)田路貴浩「森田慶一と「エウバリノス」との邂逅」日本建築学会計画系論文集7(680),2012年。
(*)(参考：伊藤重剛・吉武隆一「地中海古代都の研究(137)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 51,2012 年。)
(*)(参考：佐伯春奈・伊藤重剛・吉武隆一「地中海古代都の研究(138)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 51,2012 年。)
(*)(参考：石川巧・中村裕文・林田義伸「751光線追跡法によるパルテノン神殿の景観分析(都市計画)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 51,2012 年。)
(*)(参考：田口倫那・林田義伸・中川明子・山崎荘太郎「827 アテネのアクロポリスにあるローマとアウグストゥス神殿に関する研究(1)2011 年の実測調査の概要(建築歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 51,2012 年。)
(*)(参考：山崎荘太郎・林田義伸・太田明子「828 アテネのアクロポリスにあるローマとアウグストゥス神殿に関する研究(2)3D レーザースキャナーを用いた石材実測手法(建築歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 51,2012 年。)
(*)(参考：藤川大輝・林田義伸・中川明子・山崎荘太郎「829 アテネのアクロポリスにあるローマとアウグストゥス神殿に関する研究(3)石材接合について(建築歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 51,2012

年。)
(*)(参考 : 松田友花・林田義伸「830 パルテノン神殿の平面設計法に関する研究(歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部3,計画系51,2012年。)
(*)(参考：三嶋輝夫「ラファエロ・コード?『アテナイの学堂』とベッサリオンvsゲオレウギオス=トラペズンティオス論争」紀要/青山学院大学文学部54,2012年。)
(*)(参考：大林太朗「ギリシャにおけるオリンピック教育の理論と実践：アテネ大会(2004年)での実施に着目して(スポーツ人類学,口頭発表一般研究発表抄録)」日本体育学会大会予稿集63,2012年。)
(*)(参考 : Y.Hayashida,R.Yshitake,and I.Ito,english trans.by J.Yoneoka“Architechural Study of the stoas of the Asklepieion at Ancient Messena”Kyuushu Uninversity.2013.)
(*)(参考：飛ケ谷潤一郎『セバスティアーノ・セルリオの建築書における古代建築の解釈に関する研究』東北大学2009年,(科研費)2012年。)
(*)(参考：市川秀和「9166 ヴィンケルマンのギリシア建築論(1)シチリアの古代神殿(1759)(西洋：18世紀,建築歴史・意匠,2012年度大会(東海)学術講演会・建築デザイン発表会)」学術講演梗概集2012（建築歴史・意匠）2012年。)
(*)(参考：朽木順綱「アルド・ファン・アイクの建築思想：アテネ回顧展におけるD.ピキオニスへの関心について(建築論・制作論・建築歴史・意匠,2012年度大会(東海)学術講演会・建築デザイン発表会)」学術講演梗概集2012(建築歴史・意匠),2012年。)
(*)(参考：田村央貴「第6回国際建築家会議(1904,マドリッド)「記念建造物の保存と修復」憲章の成立について(保存：その他, 建築歴史・意匠,2012年度大会(東海)学術講演会・建築デザイン発表会)」学術講演梗概集2012(建築歴史・意匠),2012年。)
(*)兼子昭一郎「連載医療随筆 日本とアフリカを結ぶ清らかな刀痕(第34回)アテネの女神とリュディアの織り娘の技比べ」共済新報53(2),2012年。
(*)(参考 : 齋藤武雄「太陽熱利用の歴史 : 古代ギリシャから現代そして未来へ(7)ソーラーエンジンのパイオニア達」太陽エネルギー38(1),2012年。)
(*)(参考：小谷俊介「地震工学の曙(1)古代の地震観から19世紀の工学的調査まで」建築の研究210,2012年。)
(*)(参考：芝崎学「シンポジウム 若手から見た生気象学?生理学分野から?」日本生気象学会雑誌Suppl.,2012年。)
(*)(参考：臼井一晃「トロイの木馬戦略は糖転移酵素阻害に有効?」ファルマシア48(2),2012年。)
(*)(参考：文京ふるさと歴史館編『近代医学のヒポクラテスたち：洪庵,知安,そして鷗外：平成24年度特別展』文京ふるさと歴史館,2012年。)
(*)(参考：上瀉口武・柴田紀之・小林繁「池尻茂学長とヒポクラテスの木について」日本歯科医史学会会誌29(3),2012年。)
(*)(参考：児玉真美「「ポスト・ヒポクラテス医療」が向かう先：カトリーナ“安楽死”事件・“死の自己決定権”・“無益な治療”論に“時代の力動”を探る(特集 尊厳死は誰のものか)」現代思想40(7),2012年。)
(*)(参考：林真理子「アスクレピオスの愛人(26-41・最終回)」週刊新潮57(1-16),2012年。)

(*)(参考：林真理子『アスクレピオスの愛人』新潮社,2012年(→2015年,新潮文庫版)。)
(*)「『アスクレピオスの愛人』刊行記念特集」波46(10),2012年。
(*)(参考：今井正浩「ガレノスと古代ギリシア・ローマ医学史研究の現在：ガレノス『解剖学講義』の刊行によせて」日本醫史學雜誌58(3),2012年。)
(*)岡田晴雄「富士川游先生のこと」日本醫史學雜誌58(4),2012年。)
(*)(参考：遠藤花子「シェイクスピアの宮廷医師：ガレノス医学の実体と限界」実践英文学64,2012年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐるパノラマ(32)中世の死生観から」綜合看護47(2),2012年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐるパノラマ(33)パラケルススその人となり」綜合看護47(3),2012年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐるパノラマ(34)医学史という学問」綜合看護47(4),2012年。)
(*)(参考：池添博彦「生命科学における専門語—ギリシヤ語起源の用語について」帯広大谷短期大学紀要49,2012年。)
(*)(参考：林弘之・木村明彦・飯島博之・足立和隆・成瀬秀夫・五味敏昭『医療系学生に必要な解剖学用語1000：日本語・にほんご・英語・ラテン語・ドイツ語：英語解剖学用語は語源から覚えよう』犀書房,2012年(→2014年,2版)。
(*)(参考：吉田秀樹『オリンピックと平和：文化と政治と宗教』ミニ授業書,仮説社,2012年。)
(*)(参考：内海和雄『オリンピックと平和：課題と方法』広島経済大学研究双書38,不昧堂出版,2012年。)
(*)和田浩一「01史-22-口-0320世紀初頭における近代オリンピック大会の新聞記事とオリンピズム：谷本梨庵「オリンピア競技」(「讀賣新聞1905年2月5日付」)を中心に(体育史,口頭発表,一般研究発表抄録)」日本体育学会大会予稿集63,2012年。
(*)(参考：ジャン=ロベール・ピット/幸田礼雅訳『ワインの世界史：海を渡ったワインの秘密』原書房,2012年。)
(*)(参考：石田圭子「ゴットフリート・ベンとアルフレート・ボイムラー：「占星術的」芸術観とナチズム」(実践女子大学)美学美術史研究26,2012年。)
(*)(参考：鏡リュウジ「カルマと西洋占星術：現代占星術にいたる,東洋と西洋の神秘思想の習合(シンクレティズム)の系譜(特集 業)」Samgha Japan10,2012年。)
(*)(参考:ニコラス・キャンピオン/宇佐和通・水野友美子『世界史と西洋占星術』柏書房,2012年。)
(*)(参考：和泉ちえ「ギガントマキア：ギリシア的宇宙像に基づく心身二元論の政治学(シンポジウム 現代を生きる身体)」哲学63,2012年。)
(*)(参考：いけがみしゅんいち文・せきぐちよしみ絵『カエサルくんとカレンダー：2月はどうしてみじかいの?』福音館書店ン,2012年。)
(*)(参考：神崎繁「魂の像/道具としての身体：ヨーロッパ思想の中で「魂」はどう捉えられてきたのか(特集 魂の承継)」談(speak,talk,and think)95,2012年。)
(*)(参考：中本幹生「エンハンスメント問題に関する,技術哲学の観点からの一考察—F.ベーコン,デカルト,プラトン及びアリストテレスに即して」筑紫女学園大学・短期大学部人間文化研究所年報23,2012年。)
(*)(参考：古山正人「スパルタにおける商業・手工業活動：スパルティアタイとペリオイコイの関与をめぐって」國學院大學紀要50,2012年。)

(*)(参考：下村道子「16世紀の宝石学」宝石学会(日本)講演会要旨34,2012年。
(*)箱根ガラスの森美術館編『煌めくヴェネチアンビーズ：アドリア海の雫；特別展』箱根ガラスの森美術館,2012年。)
(*)(参考：マイク・アスキュー,シーラ・エバット/緑慎也訳『幾何学：ピタゴラスの定理からメビウスの帯まで』大人のためのやり直し講座,創元社,2012年。)
(*)(参考：下村寅太郎『科学史の哲学』みすず書房,2012年。)
(*)柏崎昭文「三上義夫の生涯と業績：三上義夫による日本数学史の近代化：実証史学と文化史学の往還として(数学史の研究)」数理解析研究所講究録1787,2012年。
(*)(参考：安永信二「ギリシア人の算術：ヘロドトスとロギスタイ碑文」九州産業大学国際文化学部紀要51,2012年。)
(*)薩日娜「ユークリッド『原論』全六巻の最初の日本語訳について」東京大学教養学部哲学・科学史部会 鐵が壽・科学史論叢14,平成24年。
(*)(参考:雨宮健「古代ギリシャと古代中国の貨幣経済と経済思想」金融研究31(2),2012年。)
(*)(参考：雨宮健『古代ギリシャと古代中国の貨幣経済と経済思想』IMES discussion paper series,日本銀行金融研究所,2012年。)
(*)(参考：小川光一『知られざるギリシャ：ギリシャ人はそんなに働かないのか』キャラバン,2012年。)
(*)(参考：大谷良雄「国際法方々(13)ユーロ危機：ギリシャは“トロイの木馬”か」時の法令1909,2012年。)
(*)(参考：橋場弦「趣旨説明(公開シンポジウム「歴史の中の公と私」,第109回史学会大会報告)」史学雑誌121(1),2012年。)
(*)(参考：橋場弦「討論要旨(公開シンポジウム「歴史の中の公と私」,第109回史学会大会報告)」史学雑誌121(1),2012年。)
(*)(参考：的射場敬一「プリュタネイオンを探して」國士舘大學政經論叢24(1),2012年。)
(*)(参考:的射場敬一「統治による平等から平等による統治へ---古代アテナイにおける法の支配の確立」国士舘大学政治研究3,2012年。)
(*)稲村一隆「書評『アリストテレスの政治思想』(岩田靖夫著)」社会思想史研究：社会思想史学会年報36,2012年。)
(*)(参考：島田佳代子「「配分的正義(justitia distributiva)」と「共通善(bonum commmune)」：アリストテレスとトマス・アクイナス(上)」カトリック社会福祉研究12,2012年。)
(*)(参考：ジェームズ・カービル「そして今も同じ,政治風景(キケロ兄弟の選挙戦術：現代に生きる古代ローマの知恵と戦術)」Foreign Affairs 2012(6),2012年。)
(*)(参考：丸亀裕司「独裁官カエサルと公職選挙：カエサルの権限とその行使をめぐって」西洋史研究41,2012年。)
(*)(参考：中金聡「城壁の哲学：ローマのエピクロス主義について」国士舘大学政治研究3,2012年。)
(*)(参考：中金聡「心の平静(アタラクシア)から社会の平和へ―ホッブズはどこまでエピクロス主義者か?」(政治哲学研究会)政治哲学12,2012年。)
(*)(参考：石崎嘉彦「ディオニュソス的なものと秘教主義(1)(2)最後の人間たちの世界の超克ために」政治哲学13,2012年//14.2013年。)

(*)(参考：ジュグネル・ベルトラン/中金聡訳「ベルトラン・ジュグネル 知恵と活動：偽アヌキビアデス」(政治哲学研究会)政治哲学13,2012年。)
(*)(参考：島田誠「古代ローマの公と私：市民の公と皇帝の「公」(報告,公開シンポジウム「歴史のなかの公と私」,第109回史学会大会報告)」史學雑誌121(1),2012年。)
(*)(参考：藤木定弘『共和政末期ローマの政治文化におけるコンティオ』同志社大学,博士(文化史学),甲第556号,2012年。)
(*)(参考：本間俊行『ローマ帝政期における都市共同体と社会集団：皇帝礼拝委員,組合,下僚』北海道大学,博士(文学),甲第10253号,2012年。)
(*)(参考：南雲泰輔「宦官エウトロビウスの行政改革：ローマ帝国の東西分裂期における宦官権力の確立」史林95(2),2012年。)
(*)(参考：南雲泰輔『ローマ帝国の東西分裂：ローマ帝国解体期の政治行政史的研究』京都大学,博士(文学),甲第16522号,2012年。)
(*)(参考：内田康太「共和政末期ローマにおけるコンティオ演説再考：民衆の政治的意思決定の一側面(研究発表,西洋史部会,第109回学会大会報告)」史學雑誌121(1),2012年。)
(*)(参考：野々瀬浩司「中世カトリック教会における農奴制肯定論の思想的背景に関する試論的考察：アウグスティヌスとトマス・アクィナスの奴隷制論を例にして」防衛大学紀要,人文科学分冊105,2012年。)
(*)(参考：武田好『君主論：マキャベリ』NHK「100分de名著」ブックス,NHKブックス,2012年。)
(*)(参考：菊谷忠治「「マキアヴェッリ」という難題」地中海歴史風土研究誌36,2012年。)
(*)(参考：澤井繁男「若きマキャヴェリ」文學界66(7),2012年。)
(*)(参考：小林正嗣「ハイデガーからアーレントへ：公的領域の原型としての民族」政治思想研究13,2012年。)
(*)木村俊道「(2011年度書評)政治思想史(欧米)対象 森川輝一「〈始まり〉のアーレント：「出生」の思想の誕生」荒木勝「アリストテレス政治哲学の重層性」井柳美紀「ディドロ多様性の政治学」」年報政治学2012(1),2012年。)
(*)(参考：本間信長「T.H.グリーンの「諸社会の社会」としての国家論と,O.v.ギールケによるアルトジウスの連邦政論の類似性に関するE.バーカーの指摘について」二松学舎大学国際政治論集18,2012年。)
(*)(参考：飯島昇藏「ディビッド・グリーン：ギリシア政治理論 訳者解説 トゥキュディデスは政治哲学者であるか?：職業的学者たちの気づかないもの」(政治哲学研究会)政治哲学15,2012年。)(→2014年,デイヴィッド・グリーン/飯島昇藏・小高康照・近藤和貴・佐々木潤訳『ギリシア政治理論』所収,風行社,2014年。)
(*)(参考：豊川慎「近代民主主義国家と市民社会のプロテスタント政治思想序説：リンゼイ,アルトジウス,カイバー」聖学院大学総合研究所紀要53,2012年。)
(*)(参考：長華子「愛国心の政治哲学的基礎付けを求めて：ケルゼン・アリストテレス・バーク・ヘーゲルの国家観の比較検討」人間幸福研究48(2),2012年。)
(*)(参考：クリス・ソーンヒル/永井健晴・安世舟・安章浩訳『ドイツ政治哲学：法の形而上学』風行社,2012年。)

(*)(参考：森村進「マイケル・サンデルのコミュニタリアン共和主義」一橋法学11(2),2012年。)
(*)山口周三『南原繁の生涯 信仰・思想・業績』教文館,2012年。
(*)葛西康徳「古山正人著「キュテラとキュテロデュケス」/「スパルタとペリオイコイの法的軍事的関係」」法制史研究61,2012年。
(*)(参考：五十君麻里子「ローマ大衆の法知識：プラウトゥス喜劇における「笑源」としての法」法政研究79(3),2012年。)
(*)三田菜穂「『各国刑法比照』をめぐる一考察」(慶應義塾大学大学院法学研究科)法學・政治學論究：法律・政治・社会92,2012年。
(*)(参考：青砥清一「七部法典における時効制度に関する一考察：ローマ法と比較して」国際社会研究(Kanda journal of glaobal and area studies)3,2012年。)
(*)(参考：カイザー・ヴォルフガング/田口正樹訳「中世初期におけるローマ法の発展について：Hs,Berlin Staatsbibl.lat.fol.269を例として」北大法学論集63(2),2012年。)
(*)(参考：菅尾暁『ローマ法における利息制限制度：3つの利息制限規律の検討を通じて』九州大学,博士(法学),甲第10601号,2012年。)
(*)(参考：藤野奈津子「国府台学会経済研究会(第120回)ローマ法研究と現在の課題(伊藤公一先生,内田茂男先生退職記念号)」千葉商大論叢49(2),2012年。)
(*)岩野英夫・原田俊彦・須藤忠臣(他)「聞き書き・わが国における法史学の歩み(9)佐藤篤士先生の法史学を語る」同志社法学64(2),2012年。
(*)(参考：服部高宏「現代の法思想を支える碩学たち(16)分析法理学と歴史法学：オースティンとメイン」法学教室382,2012年。)
(*)(参考：服部高宏「現代の法思想を支える碩学たち(18)パンデクテン法学批判：イェーリングから自由法論へ」法学教室384,2012年。

(*)(参考：長原豊「「あまりにニーチェ的な」マルクス：それはいかに可能か?(特集 ニーチェはこう言った)」現代思想41(2),2013年。)
(*)(参考：堀内隆治「マルクス断章：生涯と思想」自治研やまぐち80,2013年。)
(*)(参考：四方田犬彦『マルクスの三つの顔』亜紀書房,2013年。)
(*)(参考：内田弘「「デモクリトスの自然哲学とエピクロスの自然哲学の差異」(1841年)：『資本論』形成史の出発点(特集：マルクスを読む「Part2」)季報唯物論研究124,2013年。)
(*)玉村豊男「昨日読んだ文庫」(岩波文庫版『エピクロス』)毎日新聞朝刊6/30,2013年。
(*)的場昭弘「研究の現場からマルクス研究の集大成と新たな「マルクス伝」の執筆に向けての準備作業」変革のアソシエ11,2013年。)
(*)須田麻紗子編『完訳超古代史秀真伝(ホツマツタエ)(上下)』須田麻紗子,2013年。
(*)岡三郎『人類史から読む『古事記』の神話：石川三四郎『古事記神話の新研究』(1921-1950)の継承発展のために』国文社,2013年。
(*)渡辺公三「ジャレド・ダイアモンド著『昨日までの世界』(書評小特集 J.ダイアモンドの文明史学をめぐって)」比較文明29,2013年。)
(*)鬼頭宏「ジャレド・ダイアモンド著・倉骨彰訳『昨日までの世界：文明の源流と人類の未来』(書評小特集 J.ダイアモンドの文明史学をめぐって)」比較文明29,2013年。)

(*)小倉紀蔵「文明と「驚きの知覚像」：ジャレド・ダイアモンドを読む(書評小特集 J.ダイアモンドの文明史学をめぐって)」比較文明29,2013年。)
(*)フレデリック・クレインス「〈エッセイ：小特集「これからの日文研,将来の日本研究に向けて」〉文明史研究における外書コレクション：日本資料専門家欧州協会2012年会議を振り返って」日文研51,2013年。)
(*)地球の歩き方編集室著作編集『イスタンブールとトルコの大地』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2013-14 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『ギリシアとエーゲ海の島々&キプロス』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2013-14 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2013-14年。
(*)地球の歩き方編集室編『ローマ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2013-14年。
(*)地球の歩き方編集室編『南イタリアとマルタ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2013-14 年。
(*)ズルディス智子「留学生その後 ギリシャ・ロドス島便り：エーゲ海の東から(1)島へ嫁ぎに」育てる539,2013年。
(*)ズルディス智子「留学生その後 ギリシャ・ロドス島便り：エーゲ海の東から(2)シーズン到来」育てる540,2013年。
(*)ズルディス智子「留学生その後 ギリシャ・ロドス島便り：エーゲ海の東から(3)ギリシャ人気質」育てる541,2013年。
(*)ズルディス智子「留学生その後 ギリシャ・ロドス島便り：エーゲ海の東から(4)ロドス島の伝説」育てる542,2013年。
(*)ズルディス智子「留学生その後 ギリシャ・ロドス島便り：エーゲ海の東から(5)ロドス島の動物たち」育てる543,2013年。
(*)ズルディス智子「留学生その後 ギリシャ・ロドス島便り：エーゲ海の東から(6)冬の愉しみかた」育てる544,2013年。
(*)ズルディス智子「留学生その後 ギリシャ・ロドス島便り：エーゲ海の東から(最終回)ロドス人の暖かさ」育てる545,2013年。
(*)(参考：本村凌二編・井上秀太郎他著『ローマ帝国と地中海文明を歩く』講談社,2013年。)
(*)丸亀裕司「本村凌二著「ローマ帝国と地中海文明を歩く(講談社)2013」史學雑誌122(11),2013年。
(*)藤本強・青柳正規(編),藤澤桜子他(著)『イタリアの世界文化遺産を歩く』同成社,2013年。
(*)(参考：杉浦勢之「フェルナン・ブローデルの『地中海』とその創造性」郵政博物館研究紀要5,2013年。)
(*)赤坂清隆「古典読みかえし 論点がほとんど網羅されている文明論の古典『文明の生態史観』梅棹忠夫著」外交21,2013年。
(*)(参考：石本東生「ギリシャ・エーゲ海地域におけるトラディショナル・セトゥルメンツの復元と持続可能な観光・発展の事例考察：サントリーニ島の現地調査を基に」(奈良県立大学研究会)地域創造学研究＝奈良県立大学研究季報24(1),2013年。)
(*)(参考：石本東生「経済危機下にも好調なエーゲ海・クレタ島における観光力の要因とエ

コツーリズムの展開：トラディショナル・セトウルメントとクレタ式食文化の観光資源化」日本国際観光学会論文集 20,2013 年。)
(*)高橋睦郎「ギリシアなるものを求めて：アテネ周辺とエーゲ海の旅一箇月(上下)」現代詩手帖56(10,11),2013年。
(*)(参考：アン・ハンプソン原作・岡野史佳著『エーゲ海の誘惑』ロマンスコミックス,宙出版,2013年。)
(*)(参考：アリシア・ローガン原作・真木しょうこ著『エーゲ海と琥珀の侯爵』ロマンスコミックス,宙出版,2013年。)
(*)(参考：ティア・エンフィールド原作・桃川春日子著『エーゲ海の天使』ロマンスコミックス,宙出版,2013年。)
(*)三浦総一郎「地中海クルーズの旅」エネルギーレビュー33(2),2013年。
(*)『オールスター80’sベスト All star 80’s best』(「魅せられて—エーゲ海のテーマ(ジュディ・オング)」Sony Music Direct(Japan),2013年。
(*)『エーゲ海The Aegean sea』：music by 細野晴臣・石川鷹彦・松任谷正隆』録音ディスク,Sony Music Direct（Japan）,2013年。
(*)『こころのフォトグラフ』(「魅せられて—エーゲ海のテーマ(ジュディ・オング)」)録音ディスク2枚, Sony Music Direct（Japan）,2013年。
(*)『酒場歌謡』(「魅せられて—エーゲ海のテーマ(ジュディ・オング)」)録音ディスク2枚, ポニーキャニオン,2013年。
(*)(参考：ベルナール・オリヴィエ/内藤伸夫・渡辺純訳『アナトリア横断』ロング・マルシュ長く歩く1,藤原書店,2013年。)
(*)(参考：南雲泰輔「古代地中海世界と日本(特集 西洋古代史の語り方：現代日本社会のために)」古代文化65(1),2013年。)
(*)平川祐弘『竹山道雄とその時代』藤原書店,2013年。
(*)内藤民治『イタリア』大空社,2013年。
(*)(参考：鳥越輝昭「『愛の泉』とその原作(?)のなかのローマ」人文研究180,2013年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「『ローマの哀愁』に無い〈ローマ〉と在る〈ローマ〉」人文研究182,2013年。)
(*)阿刀田高「ささやか奇談(2)ローマへ行こう」Tashimani 19,2013年。)
(*)(参考：中村るい「パルテノン・フリーズの神々：身体・空間・神性の顕現」東京藝術大学美術学部紀要51,2013年。)
(*)(参考：長田年弘「パルテノン・フリーズ：贅美を尽くした捧げ物」藝叢：筑波大学芸術学研究誌28,2013年。)
(*)(参考：長田年弘「「記憶」と「敬虔」の径庭：アクロポリス奉納文化におけるパルテノン・フリーズ」西洋美術研究17,2013年。)
(*)(参考：長田年弘「論点開示 パルテノン・フリーズ浮彫における女性とメトイコイ：「民主政讃歌」説の批判(2012年度大会共通論題報告　歴史家のわかること,わからないこと：西洋古代史学と歴史関連学)」西洋史研究42,2013年。)
(*)(参考：田中英資「文化遺産の返還問題における所有の主張とその根拠：ギリシャ・パルテノン神殿彫刻の返還問題を事例に」福岡女学院大学紀要・人文学部編23,2013年。)
(*)(参考：田中英資「「石ころ」から「守るべき遺産」へ」日本文化人類学会研究大会発表

要旨集2013,2013年。)
(*)原田忠雄『世界は珠の如し』(中村直吉「五大洲探検記」)新潮社,2013年。
(*)(参考：『ローマ歴史地区,教皇領とサン・パオロ・フォーリ・レ・ムーラ大聖堂；サヴォイア王家の王宮群；ポンペイ,エルコラーノ及びトッレ・アヌンツィアータの遺跡地域』ビデオレコード,感動の世界遺産33,イタリア4,キープ(発売),2013年。)
(*)(参考：浦山侑美子・堀賀貴「822ポンペイの住宅(VII,15,6および7)における建築編年に関する調査報告(歴史・意匠)」日本建築学会研究報告・九州支部3・計画系52,2013年。)
(*)(参考：伊吹裕美「ポンペイの「秘儀荘」とディオニュソス信仰(南イタリア・シチリア総合研究旅行特集号)」専修大学人文科学研究所月報266,2013年。)
(*)(参考：原田マハ「絶対絵画：生きているあいだに観るべき24点の作品たち(2)秘儀荘「ディオニュソスの秘儀」作者不明」青春と読書49(7),2013年。)
(*)長野まゆみ「ポンペイのとなり」文學界67(11),2013年。
(*)(参考：大月康弘「ギリシャ文化とコンスタンティノープル」数学文化20,2013年。)
(*)(参考：井上浩一・根津由喜夫編『ビザンツ：交流と共生の千年帝国=Byzanz』昭和堂,2013年。)
(*)岡雅行「アテネの正月・リスボンのクリスマス」地理58(4),2013年。
(*)(参考：佐藤直樹編『ローマ：外国人芸術家の夢の都』西洋近代の都市と芸術1,竹林舎,2013年。)
(*)(参考：オー・ヘンリー/田畑則重英語解説・森安良知訳『英語で読むオー・ヘンリー傑作短編集=The best short stories of O.Henry』(「アルカディアの休日=Transients in Arcadia」)IBC対訳ライブラリー,IBCパブリッシング,2013年。)
(*)(参考：浅川春男(composed by)『エトス=Ethos』(「ロゼッタ=Rosetta」「ホメロス=Hómêros」「アルカディア=Arcadia」)ピアノ連弾曲集3,プリズム,2013年。)
(*)(参考：三石善吉『ナチス時代の国内亡命者とアルカディア：抵抗者たちの桃源郷』世界人権問題叢書85,明石書店,2013年。)
(*)(参考：坂本正雄訳「『ペンブルック伯爵夫人のアルカディア』書評」和歌山大学教育学部紀要,人文科学63,2013年。)
(*)中野京子「はじめてのルーヴル館内マップつき 中野京子著」青春と読書48(7),2013年。
(*)(参考：中野京子「中野京子の名画が語る西洋史(16)イタリア逃避行のゲーテ」文藝春秋91(12),2013年。)
(*)(参考：須磨一彦「ゲーテの山岳紀行」人文研紀要77,2013年。)
(*)(参考：高橋三和子「憧憬と誘惑の地へ：近代初期イギリス人によるイタリア紀行(特集グランド・ツアー：イギリス人の見たイタリア)」イタリア図書49,2013年。)
(*)(参考：松田隆美「イタリアをめぐるガイドブックの旅：15-19世紀のイギリス人向けイタリア旅行案内(特集 グランド・ツアー：イギリス人の見たイタリア)」イタリア図書49, 2013年。)
(*)(参考：平田隆一「イタリア諸民族の言語に対する共和政ローマの対応：カエレとクーマエの事例を中心に(ヨーロピアン・グローバリゼーションの歴史的位相：「自己」と「他者」の関係史)—(ヨーロッパ文化の形成：古代地

中海世界とヨーロッパ文化の形成)」アジア遊学165,2013年。)
(*)(参考：角田幸彦「ブルクハルトにおける旅心,景観美,美術への問い」明治大学教養論集489,2013年。)
(*)(参考：マーク・トウェイン/カリフォルニア大学マーク・トウェインプロジェクト編/和栗了他訳『マーク・トウェイン完全なる自伝(2巻)』柏書房,2013年。)
(*)(参考：陣内秀信・高村雅彦『特集 水都ヴェネツィアの再考察』水都学1,法政大学出版局, ,2013年。)
(*)(参考：丹野義彦「ルネサンスを生んだアカデミーの街 フィレンツェ(1,2)」書斎の窓628,629,2013年。)
(*)(参考：水野千依「「ラファエロの聖母子像」が生まれるまで：キリスト教美術における図像形成(特集 ラファエロ)」美術手帖65(984),2013年。)
(*)藤澤桜子「『米欧回覧実記』「羅馬府ノ記」の古代ローマ文明に関する考察」イタリア会誌63,2013年。
(*)(参考:香川元太郎『文明の迷路:古代都市をめぐってアトランティスへ』大きな絵本,PHP研究所,2013年。)
(*)(参考：ステファヌ・コンポワン文・写真/野中夏美訳『世界の発掘現場と冒険者たち：考古学ふしぎ図鑑』西村書店,2013年。)
(*)(参考：田島元信監修『考える力を育む話』おやすみまえのちいさなちいさなお話90,東京書店,2013年。)
------ 「アトランティス大陸：世界の不思議」
「マラソンの始まり：ギリシャ」
「シュリーマン：ドイツ(伝記)」
「キツネとツル：イソップ寓話」
「クマと旅人：イソップ寓話」
「塩を運ぶロバ：イソップ寓話」
「うそつき少年：イソップ寓話」
「金のオノ銀のオノ：イソップ寓話」
(*)(参考：フロランス・デュカート文；シャンタル・ペタン絵/青柳正規日本語版監修・野坂悦子訳『美術館ってどんなところ?』西村書店,2013年。)
(*)(参考：「世界遺産Qiuzカルタゴの考古遺跡(チェニジア)」エコノミスト91(37),2013年。)
(*)(参考：篠塚千恵子「永久の宴―エトルリアの死生観」墓は語るか 彫刻と呼ばれる 隠された場所1,2013年。)
(*)(参考:加藤九祚『シルクロードの古代都市:アムダリア遺跡の旅』岩波新書,岩波書店,2013年。)
(*)(参考：香川元太郎作・絵『文明の迷路：古代都市をめぐってアトランティスへ』大きな絵本,PHP研究所,2013年。)
(*)(参考：Leclerc Yvan/大鐘敦子訳「イヴァン・ルクレール教授講演会『サラムボー』あるいは『カルタゴ』：歴史とフィクションのあわいに」関東学院教養論集16,2013年。)
(*)(参考：青木真兵「カルタゴ滅亡後の西方フェニキア都市：構造化理論からみる後1世紀のトリポリタニア」関西大学西洋史論叢16,2013年。)
(*)(参考：泉拓良研究代表『フェニキア・カルタゴから見た古代の東地中海』泉拓良,科学

研究)補助金(基盤研究A)研究成果報告遺書,平成21-23年度,2013年。)
(*)(参考：鼓みどり「初期中世ローマに向けられる視線：中世ローマ美術をめぐる近年の動向」富山大学人間発達科学部紀要7(2),2013年。)
(*)川口淳一郎「エコルーツ紀行 ロゼッタ・ストーンと救世主」躍18,2013年。
(*)(参考：浜本隆志「ナポレオンの地中海遠征と「アンピール様式」：パリにおける古代エジプト・ローマ文明」The Journal of Center for theGloabal Study of Cultural Heritage and Culture1,2013年。)
(*)(参考：東京都美術館(他)編『ルーブル美術館：地中海四千年のものがたり』日本経済新聞社,NHK,NHKプロモーション,2013年。)
(*)(参考：中野京子『はじめてのルーヴル』集英社,2013年(→2016年,集英社文庫版)。)
(*)(参考：木村泰治『謎解き西洋絵画』洋泉社,2013年。)
(*)(参考：木村泰治『西洋美術巨匠たちの履歴書』宝島社,2013年。)
(*)(参考：木村泰治『木村泰治の西洋美術史：古代ギリシャからモダンアートまで西洋美術の全潮流を読む』学研パブリッシング,学研マーテッティング(発売),2013年。)
(*)(参考：東京国立博物館編『東洋美術をめぐる旅：東京国立博物館東洋館』コロナ・ブックス189,平凡社,2013年。)
(*)(参考：宮治昭研究代表『ガンダーラ美術の資料集成とその統合的研究』科学研究費補助金(基礎研究A)研究成果報告書,平成20-24年度,2013年。)
(*)(参考：龍谷大学アジア仏教文化研究センター編『トルファンの仏教と美術：ウイグル美術を中心に』国際シンポジウム2012年度第1回,シルクロードの仏教文化, 龍谷大学アジア仏教文化研究センター,2013年。)
(*)(参考：龍谷大学編『ガンダーラ・クチャの仏教と美術』国際シンポジウム2012年度第1回,シルクロードの仏教文化, 龍谷大学,2013年。)
(*)坂詰秀一先生喜寿記念会編『坂詰秀一先生喜寿記念論文集』(ガンダーラ)考古学の諸相3, 坂詰秀一先生喜寿記念会,2013年。)
(*)大橋一章博士古稀記念会編『てらゆきめぐれ：大橋一章博士古稀記念美術史論集』(ガンダーラ)中央公論美術出版,2013年。
(*)(参考：内記理「ガンダーラ彫刻の腕の接合方法」西南アジア研究78,2013年。)
(*)(参考：田辺理『ガンダーラ彫刻に見られる来世観』科研費・特別研究員奨励費,2013→2014年。)
(*)(参考：『シルクロード歴史地図』東光書店,2013年。)
(*)喜多上「古寺巡礼の系譜：和辻哲郎から會津八一へ」書論39,2013年。
(*)北廣麻貴「近代奈良のイメージ形成：和辻哲郎と以後の精神史において」同志社女子大学大学院文学研究科紀要13,2013年。
(*)(参考：阿部拓児「都市紹介 ライデン—オランダ最古の大学都市」関西大学西洋史論叢16,2013年。)
(*)(参考：向井朋生「論点開示 歴史解釈と考古学(2012年度大会共通論題報告 歴史家のわかること,わからないこと)西洋古代史学と歴史関連学)」西洋史研究42,2013年。)
(*)(参考：向井朋生「古代末期におけるキリスト教と異教の併存の一例—イタリア国ソンマ・ヴェスヴィアーナ・在ローマ時代遺跡」国立西洋美術館研究紀要

17,2013年。)
(*)(参考：森谷公俊「アレクサンドロスとウクシオイ人」西洋史学252,2013年。)
(*)(参考：吉田俊一郎『ワレリウス・マクイシムス『著名言行録』の修辞学的側面の研究』東京大学,博士(文学),甲第29966号,2013年。)
(*)(参考：光永光翼「エジプト留学体験記(25)アレクサンドリア図書館」みるとす127,2013年。)
(*)(参考：樋口嘉章「プトレマイオス朝時代のアレクサンドリア港」港湾90(4),2013年。)
(*)(参考：森貴史「プトレマイオス1世による都市アレクサンドリアの文化政策：〈図書館〉とセラピス神をめぐって」Semawy Menu 4,2013年。)
(*)(参考：宮坂朋「キリスト教考古学から古代末期考古学へ―ヴィア・ラティーナ・カタコンベへの新たな視点」西洋中世研究20,2013年。)
(*)(参考：松尾登史子「中央マケドニアの古代都市に関する考古学調査の現状」西アジア考古学14,2013年。)
(*)(参考：村田奈々子「近代ギリシアにおけるヘレニズム概念について」言語と文化10,2013年。)
(*)(参考：山中由里子「驚異を「見る」：共同研究：驚異譚にみる文化交流の諸相：中東・ヨーロッパを中心に(2010-2013)」民博通信 140,2013 年。)
(*)(参考：コンティフルヴィオ/北村暁夫訳「「イタリア」を作ること：統一から統一・五十周年記念にかけてのナショナル・アイデンティティの構築(1861-1911年)(特集 イタリアのナショナル・アイデンティティ)」日伊文化研究51,2013年。)
(*)(参考：アンヌ=マリ・ティエス/齋藤かぐみ訳『国民アイデンティティの創造：十八~十九世紀のヨーロッパ』勁草書房,2013年。)
(*)(参考：齋藤栄一「ヨーロッパ美術におけるキリスト教とギリシア・ローマ神話の三つの出会い」明治学院大学藝術学研究23,2013年。)
(*)(参考：加藤九祚『シルクロードの古代都市―アムダリヤ遺跡の旅』岩波書店,2013年。)
(*)(参考：高橋庸一郎「シルクロード学概論(II)」阪南論集,人文・自然科学編48(2),2013年。)
(*)(参考：服部英二「プロメテウスの運命：3.11と現代文明の危機」比較文明研究18,2013年。)
(*)(参考：服部英二「文明論的視座から見た民主主義：その実態と展望(特集 民主主義：文明論的視座)」比較文明29,2013年。)
(*)(参考：シレン・トーマス(SCHRREN Thomas)「Das entsthung der Romantik aus dem Geiste Der Kritik：Schlegels 《Philosophie der Philologie》als Ursprung der Uneversalpoesie(特集 Das Kriege bewusstsein zur Zeit der Romantik und Utopievorstellung)」19世紀学研究7,2013年。)
(*)(参考：小倉康寛「1855年,万国博覧会の中国展：ヴィンケルマンからボードレールへ」言語社会7,2013年。)
(*)(参考：水野千依編『古代から初期ルネサンスまで』芸術教養シリーズ5,京都造形芸術大学東北芸術医工科大学出版局藝術学舎,幻冬舎(発売),2013年。)
(*)(参考：水野千依編『盛期ルネサンスから十九世紀まで』芸術教養シリーズ6,京都造形芸術大学東北芸術医工科大学出版局藝術学舎,幻冬舎(発売),2013年。)
(*)(参考：田口かおり「近代イタリアの絵画修復における「古色(パティナ)」への一考察：

チェーザレ・ブランディ『修復の理論』を手掛かりに」文化財保存修復学会誌56,2013年。)
(*)(参考：田口かおり「保存修復学における日伊文化交流史：「繪の健康法」から高松塚古墳まで」日伊文化研究51,2013年。)
(*)(参考：若木太一編『ポルトガル時代・オランダ時代』長崎東西文化交渉史の舞台（ステージ）,勉誠出版,2013年。)
(*)(参考：山中由里子「驚異を「見る」：共同研究：驚異譚にみる文化交流の諸相—中東・ヨーロッパを中心に(2010-2013)」民博通信140，2013年。)
(*)小川英雄「書評 鴇田文三郎『チーズのきた道』講談社学術文庫」(三田史学会)史学82(3),2013年。
(*)(参考：浅野卓夫「時の迷路のなかで：蔵島庸二「文明の貝塚」展,および今福龍太との対談「多島海,書物,〈震えの起源〉」の報告」やまかわうみ：自然民族誌8,2013年。)
(*)(参考：松田穣編『比較文学辞典』東京堂出版,2013年。)
(*)(参考：デビッド・ワルチンスキー他/北村京子他訳『ビジュアル教養大事典』日経EPマケティング,日経ナショナルジオグラフィック社,2013年。)
(*)(参考：岩波書店辞書編集部編『岩波世界人名辞典』(第1,2分冊)岩波書店,2013年(→2014年,CD-ROM版)。)
(*)(参考：渡邊二郎『ニーチェを知る事典』筑摩書房,2013年。)
(*)佐藤全弘・藤井茂『新渡戸稲造事典』教文館,2013年。)
(*)日外アソシエーツ株式会社編『出版文化人物事典：江戸から近現代・出版人1600人』日外アソシエーツ,紀伊國屋書店[発売],2013年。
(*)日外アソシエーツ株式会社編『日本人物レファレンス事典』日外アソシエーツ,紀伊國屋書店[発売],2013年。
(*)(参考： Peter.T.Daniels,William Bright編『世界の文字大事典』朝倉書店,2013年。)
(*)(参考：水谷智洋編『ラテン語図解辞典：古代ローマの文化と風俗』研究社,2013年。)
(*)(参考：小俣和一郎『精神医学史人名辞典』論創社,2013年。)
(*)(参考：吉田豊「バクトリア語文書研究の近況と課題」内陸アジア言語の研究28,2013年。)
(*)(参考：水戸博之「スペイン語キリスト教文献における存在表現の他言語との比較に関する考察(1)」スペイン語文法から見たキリスト教哲学」言語文化論集35,2013年。)
(*)(参考：Lo Dico Mauro‘The Latin Library of Hery James：His Roman References in “Daisy Miller”’,麗澤大学紀要97,2013年。)
(*)(参考：平田隆一「イタリア諸民族の言語に対する共和政ローマの対応：カエレとクーマエの事例を中心に(ヨーロピアン・グローバリゼーションの歴史的位相：「自己」と「他者」の関係史)—(ヨーロッパ文化の形成：古代地中海世界とヨーロッパ文化形成)」アジア遊学165,2013年。)
(*)(参考：阿部善彦「エックハルト研究におけるテキスト問題について：Pseudo-Eckhartian textstexts(偽エックハルト文書)の研究意義」日本カトリック神学会誌24,2013年。)
(*)(参考：藤田尚志「耳の約束：ニーチェ『われわれの教養施設の将来について』における制度の問題」(西山雄二編『人文学と制度』所収,未来社,2013年。)

(*)(参考：山中和樹『スペイン語とともに考えるラテン語彙の世界』開拓社,開拓社言語・文化叢書36,2013年。)
(*)(参考：伊東英「巻頭のことば：独学と学校教育：シュリーマンの場合」(岐阜大学)人間教育・ふぞくの歩み54,2013年。)
(*)(参考：古澤ゆう子「二種のねたみ」ペディラヴィウム 68,2013 年。)
(*)(参考：風間喜代三『オウィディウスをラテン語で読む』三省堂,2013年。)
(*)(参考:クルト・アーラント,バルバラ・アーラント編/津村春英訳『ギリシア語新約聖書(第28版)・序文』日本聖書協会,2013年。)
(*)(参考：村田奈々子『ギリシア語のかたち』新版,白水社,2013年。)
(*)(参考:高橋睦郎『和音羅読—詩人が読むラテン文学』幻戯書房,2013年(→2016年,新装版)。)
(*)渡邉顕彦「キリシタン時代の日本セミナリヨによるラテン語作文：西洋古典学,特に西洋古典の受容の視点から」キリシタン文学研究会会報142,2013年。
(*)渡邉顕彦「キリシタン時代日本人のラテン語作文にみられる古典受容：ジョルジュ・ロヨラの1587年12月6日付書簡(ARSI Jap.Sin.10,II,296)と伊東マンショの1592年12月1日付書簡(ARSI Jap.Sin.33.66)」東京大学西洋古典学研究室紀要8,2013年。
(*)(参考：渡邉顕彦「ディエゴ結城の1615年8月2日付クラウディオ・アクアヴィーヴァ宛書簡(ARSI Jap.Sin.)36.245r.-246v.)：ラテン語原文と注解」大妻比較文化14,2013年。)
(*)(参考：横浜開港資料館,明治学院大学図書館,明治学院歴史資料館編『宣教医ヘボン・ロマ学・和英辞書・翻訳聖書のパイオニア』横浜市ふるさと歴史財団,2013年。)
(*)(参考：原沢隆三郎「ラテン語のすすめ」日本工業倶楽部会報243,2013年。)
(*)(参考：平井美津子「学術用語におけるラテン語の影響についての研究」長崎国際大学論叢13,2013年。)
(*)五位野政彦「明治時代の局方における「錠剤」ラテン名の変遷および語原についての一考察」薬史學雑誌48(2),2013年。)
(*)松本仁助「[日本西洋古典]学会設立の頃の松平[千秋]先生と私」Yahoo検索,2013年。
(*)松浦良充「書評 藤本夕衣『古典を失った大学—近代性の危機と教養の行方』」教育哲学研究109,2013年。
(*)工藤進「西脇順三郎の〈〈漢語ギリシャ語比較〉〉とはなにか」Booklet 21,2013年。
(*)杉本つとむ『蘭学と日本語』八坂書房,2013年。
(*)鳥井裕美子著・大分県立先哲史料館編『前野良沢』大分県先哲叢書,大分県教育委員会,2013年(→2015年,新装版,思文閣出版)。
(*)(参考：辻尚子「清朝末年の機関誌『清議報』：その『佳人之奇遇』『経国美談』にみる句読法について」日本言語文化研究18,2013年。)
(*)(参考：廬守助「梁啓超訳『佳人之奇遇』及びその周辺」環日本海研究年報20,2013年。)
(*)(参考：伊東英「巻頭の言葉：独学と学校教育：シュリーマンの場合」人間教育：ふぞくの歩み54,2013年。)
(*)(参考：江藤裕之「Words,words,words 研究と言語：質的研究のために(Words12)認識されたものを認識する：フィロロジーについて」看護研究46(7)2013年。)
(*)(参考：クヴェンツァー・イェルク「ニュー・フィロロジー後：写本文化の再発見(最近の講演会から)—(二重の異文化としての中世：立教大学ドイツ文

学専修創立50周年記念国際会議)」Aspect : 立教大学ドイツ文学論集47,2013年。)
(*)(参考：宇和川雄「文献学と歴史：グリムからベンヤミンへ」(日本独文学会)ドイツ文学146,2013年。)
(*)柳父章『翻訳文化を考える』改装版,法政大学出版局,2013年。
(*)柳父章『未知との出会い：翻訳文化論再説』改装版,法政大学出版局,2013年。
(*)南雲千香子「箕作麟祥訳『仏蘭西法律書・訴訟法』の翻訳の方法：英語系辞書使用の観点から(口頭発表・午前の部,日本語学会2013年度春季大会研究発表発表要旨)」日本語の研究9(4),2013年。
(*)(参考：小林章夫編訳『エロティカ・アンソロジー』英国十八世紀文学叢書6,研究社,2013年。)
(*)高松敏男「高松敏男略年譜」文献探索人?,2013年。)
(*)高松敏男「高松敏男編著述目録」文献探索人?,2013年。)
(*)九内悠水子「比治山大学蔵「三島由紀夫文庫」調査報告(1)」比治山大学現代文化学部紀要 20,2013 年。
(*)木村直司『ソフィアの学窓』南窓社,2013年。)
(*)十重田裕一『岩波茂雄―低く暮らし、高く思う』ミネルヴァ書房,2013年。
(*)(参考：西山雄二編『人文学と制度』(藤田尚志「耳の約束：ニーチェ『われわれの教養施設の将来について』における制度の問題」/熊野純彦「人文学の現状と将来：私見」)未来社,2013年。)
(*)(参考：綾井桜子「フランスの中等教育にみる知的形成の伝統：思考力の形成について」フランス教育学会紀要24,2012年。)
(*)(参考：津澤真代「14-15世紀フレンツェにおける大学の有用性」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論叢35,2013年。)
(*)(参考：藤本夕衣「「大学の物語」と後景と「教養」のまとう影(コメント論文,シンポジウム「大学の危機」を思想史が問う)」近代教育フォーラム22,2013年。)
(*)(参考：藤本夕衣「「大きな物語」を失った大学の質保証：学生のニーズを問い直す(【テーマB4】高等教育改革と質保証,テーマ型研究発表【B】,要旨発表)」日本教育学会大會研究発表要項71,2013年。)
(*)(参考：シレン トーマス(Schirren Thomas)「Die Entstehung der Romantik aus dem Geist der Kritik：Schleges Philosophie der Philologie als Ursprung der Universalpoesie(特集 Das Krisenbewusstsein zur der Romantik und Utopievorstellung)」19世紀学研究7,2013年。)
(*)(参考：リック・リオーダン作/金原瑞人・小林みき訳『アテナの印』オリンポスの神々と7人の英雄3,ほるぷ出版,2013年。)
(*)(参考：E.カッシーラ著/D.P.ヴィリーン編/神野慧一郎訳『象徴・神話・文化』ミネルヴァ・アーカイブズ,ミネルヴァ書房,2013年。)
(*)(参考：菊谷竜太・瀧澤克彦辺『身体的実践としてのシャマニズム』(エリアーデ)東北アジア研究センター報告8,東北大学東北アジア研究センター,2013年。)
(*)(参考：マルセリーノ=アヒース・ビリャベルデ/平田渡訳『ミルチャ・エリアーデ：聖なるものをめぐる哲学』関西大学東西学術研究所訳注シリーズ16,

関西大学出版部,2013年。)
(*)(参考：藤井修平「エリアーデにおける学問と芸術の一体性：美学の観点からの考察(第1部会,研究報告,第71回学術大会)」宗教研究86(4),2013年。)
(*)三浦啓二「11 ミルチャ・エリアーデと日本の民俗学・民族学」国際常民文化研究叢書4,2013年。
(*)(参考 : T.H.カーペンター/眞方陽子訳『図像で読み解くギリシア神話』人文書院,2013年。)
(*)(参考 : 長田年弘「論点開示 パルテノン・フリーズ浮彫における女性とメトイコイ：「民主政讃歌」説の批判(2012年度大会共通論題報告 歴史家のわかること,わからないこと)西洋古代史学と歴史関連学)」西洋史研究42,2013年。)
(*)(参考 : 中澤務「歴史記述とパラダイム：『黒いアテナ』論争をめぐって」Semawy Manu4,2013年。)
(*)(参考 : 玉泉八州男『北のヴィーナス：イギリス中世・ルネサンス文学管見』研究社,2013年。)
(*)(参考：あんびるやすこ作・絵『ローズマリーとヴィーナスの魔法』ポプラ物語館51,魔法の庭物語,ポプラ社,2013年。)
(*)(参考：姜惠彬「芥川龍之介「黒衣聖母」論：メリメ「イールのヴィーナス」との比較分析を通じて」稿本近代文学38,2013年。)
(*)(参考：布施英利「「ミロのヴィーナス」の美に潜む普遍の原理とは?：美術のなぜを解剖する(4)」青春と読書48(9),2013年。)
(*)(参考 : 大崎映晋「海女 : 縄文のヴィーナス『海女のいる風景』より」歴史通25,2013年。)
(*)(参考：藤田一美「ディオニュソス的なるものの変貌：藝術衝動から哲学概念へ(1,2)」藝文攷18,2013年/19,2014年。)
(*)(参考 : 安藤礼二「ディオニュソス頌歌(特集 ニーチェはこう言った)」現代思想41(2),2013年。)
(*)(参考：三宅舞「「中断」そして「ディオニュソス的なもの」としてのリズム：劇団「地点」による上演作品『トカトントン』について」藝文研究106,2013年。)
(*)安藤礼二「ディオニュソスとスサノヲ：西脇順三郎と折口信夫」Booklet 21,2013年。
(*)(参考：百瀬春生「ギリシア神話はインド神話が元だったのか?」地中海歴史風土研究誌37,2013年。)
(*)(参考：杉森陽男『ギリシャ神話の構想力』東洋出版,2013年。)
(*)(参考 : 逸身喜一郎『ギリシア神話は名画でわかる—なぜ神々は好色になったのか』NHK出版新書403,2013年。)
(*)(参考 : T.H.カーペンター/眞方陽子訳『図像で読み解くギリシア神話』人文書院,2013年。)
(*)(参考：金澤修「「ヴェータグー」とトロイの木馬：『ミリンダ王の問い』における内的存在を巡って」比較思想研究 40,2013 年。)
(*)(参考：キャロル・S.ピアソン/鈴木彩織訳『英雄の旅：ヒーローズ・ジャーニー：12 のアーキタイプを知り,人生と世界を変える』実務教育出版,2013 年。)
(*)曽野綾子「人間関係愚痴話(28)プロメテウスは休めない:背景に立つ人々(4)」新潮45 32(9),2013年。
(*)(参考 : 上村くにこ「メディアとは誰か : 太古の「女神」からエウリピデスの「人間の女」へ、そしてセネカの「魔女」へ(David W.Rycroft教授上村くにこ教授退職記念号)(人間科学科)」甲南大学紀要・文学篇163,2013年。)

(*)(参考：碓井和弘「ギリシア神話のヘルメスとマーケッティング教育(鈴木敏彦教授退職記念号)」札幌学院大学経営論集5,2013年。)
(*)(参考：小堀馨子『共和政期ローマにおけるローマ人の宗教についての一考察：religio概念を手がかりとして』東京大学,博士(文学),甲第29687号,2013年。)
(*)(参考：タガ=コヘン アダ「ヒッタイト文化とヘブライ語聖書における神の概念：神の表現(特集 古代イスラエルにおける一神教と神の再定義)」一神教学際研究9,2013年。)
(*)(参考：若松英輔「イエス伝：神のコトバ,コトバである神(1)なぜ,イエスは生まれたのか」中央公論128(5),2013年。)
(*)(参考：若松英輔「イエス伝：神のコトバ,コトバである神(2)誕生イエスはどこで生まれたのか」中央公論128(6),2013年。)
(*)(参考：若松英輔「イエス伝：神のコトバ,コトバである神(3)夢と天使イエスはなぜ,「エジプト」に逃げたのか」中央公論128(7),2013年。)
(*)(参考：若松英輔「イエス伝：神のコトバ,コトバである神(4)イエスは洗礼を受けたのか」中央公論128(8),2013年。)
(*)(参考：若松英輔「イエス伝：神のコトバ,コトバである神(5)預言者の使命なぜイエスはヨハネからの洗礼を受けたのか」中央公論128(9),2013年。)
(*)(参考：若松英輔「イエス伝：神のコトバ,コトバである神(6)試みる者なぜ,イエスはなぜ悪魔の問いに答えないのか」中央公論128(10),2013年。)
(*)(参考：若松英輔「イエス伝：神のコトバ,コトバである神(7)山上の説教イエスはなぜ,奇蹟を行ったのか」中央公論128(11),2013年。)
(*)(参考：若松英輔「イエス伝：神のコトバ,コトバである神(8)祈りイエスはどこで祈るのか」中央公論128(12),2013年。)
(*)(参考：出村みや子「ヘレニズム世界の宗教・文化思想とキリスト教の進展：アレクサンドリアの多文化主義の問題を中心に(ヨーロピアン：グローバリゼーションの歴史的位相：「自己」と「他者」の関係史)ー(ヨーロッパ文化の形成：古代地中海世界とヨロッパ文化の形成)」アジア遊学165,2013年。)
(*)(参考：長谷川宜之「五世紀のローマ帝国とキリスト教：ヒッポのアウグスティヌスを事例にして(ヨーロピアン・グローバリゼーションの歴史的位相：「自己」と「他者」の関係史)—(ヨーロッパ文化の形成：古代地中海世界とヨーロッパ文化形成)」アジア遊学165,2013年。)
(*)(参考：中西恭子「ユリアヌスの宗教観と宗教政策における「宗教の公益性」(第二部会,研究報告,第71回学術大会)」宗教研究86(5),2013年。)
(*)(参考：坂井礼文「コジェーヴ・シュトラウス論争において『ユリアヌス帝とその著述技法』が持つ意義:註述・技法及び無神論をめぐって」人間・環境学22,2013年。)
(*)(参考：角田幸彦「ブルクハルト『コンスタンティヌス大帝の時代』」明治大学教養論集495,2013年。)
(*)(参考：秋山学「アレクサンドリアのクレメンス『ストロマティス』(『綴織』)第1,2巻：全訳」文藝言語研究,文藝篇63,2013年。)
(*)(参考：秋山学「アレクサンドリアのクレメンス『ストロマティス』(『綴織』)第7巻：全

訳」古典古代学6,2013年。)
(*)(参考：坂井礼文「コジェーヴ--シュトラウス論争において『ユリアヌス帝とその著述技法』が持つ意義:註述･技法及び無神論をめぐって」人間･環境学22,2013年。)
(*)(参考：久米三千雄翻字・校訂『新約聖書羅馬書：全』久米三千雄,オンデマンド版,2013年。)
(*)(参考：大貫隆・筒井賢治編訳『新約聖書・ヘレニズム原典資料集』東京大学出版会,2013年。)
(*)(参考：伊吹雄『新約聖書の根本問題：十字架・復活・高挙の神学』知泉書館,2013年。)
(*)(参考：山浦玄嗣訳『ガリラヤのイエシュー：日本語訳新約聖書四福音書』第3版,イー・ピックス出版,2013年。)
(*)(参考：中村うさぎ・佐藤優『聖書を読む』文藝春秋,2013年。)
(*)岡田明[他]『ふしぎで意外なキリスト教』(和訳聖書の謎)学研パブリッシング,2013年。
(*)(参考：月本昭男監修『キリスト教を知りたい。：完全保存版』学研パブリッシング,学研マーケッティング(発売),2013年。)
(*)(参考：淀川長治『スペクタクル映画の金字塔』(「ベン・ハー」)淀川長治映画の世界名作DVDコレクション：週刊TVガイド創刊50周年記念企画vol.26),東京ニュース通信社,2013年。)
(*)(参考：J.H.ニューマン/日本ニューマン協会編訳『聖母マリア：第二のエバ』教友社,2013年。)
(*)(参考：元木淳子「ジェノサイドの起源：スコラスティック・ムカソンガの『ナイルの聖母マリア』を読む」法政大学小金井論集10,2013年。)
(*)(参考：菅谷成子「スペイン領フィリピンにおけるカトリック信仰：中国人と聖母マリア崇敬の興隆」(創刊15周年記念号)」人文学論叢15,2013年。)
(*)(参考：長谷川宜之「五世紀のローマ帝国とキリスト教会：ヒッポのアウグスティヌスを事例にして(ヨーロピアン･グローバリゼーションの歴史的位相:「自己」と「他者」との関係史)―(ヨーロッパ文化の形成：古代地中海世界とヨーロッパ文化の形成)」アジア遊学165,2013年。)
(*)(参考：赤石めぐみ「ギリシア語七十人訳セイショ(LXX)と聖書釈義」改革派神学40,2013年。)
(*)(参考：ブース・ランダル「新約聖書のユダヤ的背景 主の祈り「悪からお救い下さい」：ギリシア語からヘブライ語に翻訳すると」みるとす128,2013年。)
(*)(参考：秋山学「古典古代学と聖書学：『ヨハネ福音書』と共観福音書」筑波大学地域研究34,2013年。)
(*)(参考：ジョナサン・ハリス/井上浩一訳『ビザンツ帝国の最期』白水社,2013年。)
(*)(参考：多ケ谷有子「研究発表要旨 第81回研究発表会 ローマ教会とビザンチン教会：ニカイア公会議から1054年の分裂まで」チョーサー研究会会報1,2013年。)
(*)(参考：N.タナー/野谷啓二訳『新カトリック教会小史』教文館,2013年。)
(*)(参考：アンヌ・ブルノン/山田美明訳『カタリ派：中世ヨーロッパ最大の異端』「知の再発見」双書 160,創元社,2013 年。)
(*)(参考：甚野尚志・踊共二編『中近世ヨーロッパの宗教と政治：キリスト教世界の統一性

と多元性』西洋史ライブラリ100,ミネルヴァ書房,2013年。)
(*)(参考：松本佐保『バチカン近現代史：ローマ教皇たちの「近代」との格闘』中公新書,中央公論新社,2013年。)
(*)(参考：竹田純郎「カミュのキリスト教(1)」金城学院大学論集,人文科学編9(2),2013年。)
(*)ASCENSO ADELINO「遠藤周作の神理解と西欧カトリックの神理解」遠藤周作研究6,2013年。
(*)笛木美佳「2012・平成24年遠藤周作参考文献目録及び研究展望」遠藤周作研究6,2013年。
(*)(参考：S.トンプソン/荒木博之・石原綵子訳『民間説話—世界の昔話とその分類』八坂書房,2103年。)
(*)山折哲雄『さまよえる日本宗教』(『阿弥陀の胸割』と『百合若大臣』)中公文庫,2013年。
(*)竹内瑞穂「探偵小説批評の欲望：甲賀三郎と本格/変格論争」愛知淑徳大学国語国文36,2013年。
(*)みなもとごろう「cirtic劇評マナリズムの諸相と舞台のスタイル：シス・カンパニー【トップドック/アンダードック】Bunkamura&キューブ【祈りと怪物】東京芸術劇場&テルアビブ市立カメリ・シアター【トロイアの女たち】」テアトロ872,2013年。)
(*)菅孝行「演劇時評 社会と演劇の視野(19)誰の平和を祈るのか：『トロイアの女たち』という「共同事業」への疑い」テアロト872,2013年。)
(*)佐藤遊夢,石原広子,太田治子編著委員：飯田明子他朗読『朗読版・児童文学名作選』(セット録音資料CD(非音楽),国書刊行会,2013年。
---第2巻,菅野和子朗読「走れメロス」/第5巻,堀田紀真朗読「イソップ物語」
(*)田島信元監修『ココロを育むお話』おやすみまえのちいさなお話90,東京書店,2013年。
---ギリシャ神話「王様の耳はロバの耳」「エコー」,
イソップ寓話「ウサギとカメ」「ネズミの恩返し」「アリとハト」「町のネズミと田舎のネズミ」「ロバを連れた親子」
太宰治「走れメロス」
(*)石井睦美,及川賢治「イソップどうわ：アリとキリギリス」おひさま18(5),2013年。
(*)石井睦美,かわかみたみこ「イソップどうわ きたかぜとたいよう」おひさま18(6),2013年。
(*)イソップ原作/バーバラ・マクリントック再話・絵 ; 福本友美子訳『イソップのおはなし』岩波書店,2013年。
(*)イソップ原作/ジェリー・ピンクニー作/さくまゆみこ訳『うさぎとかめ：イソップものがたり』光村教育図書,2013年。
(*)イソップ作/照沼まりえ脚色・構成,星光一絵『いたずらぎつね』世界名作アニメ絵本36,永岡書店,2013年。
(*)イソップ作/水端せり脚色・構成,鈴木ひろみ絵『はなよめになったねこ』世界名作アニメ絵本38,永岡書店,2013年。
(*)牧野高吉『英語対訳で読むイソップ寓話：古典にビックリ!今ためになる!』じっぴコンパクト新書152,実業之日本社,2013年。
(*)(参考：IBCパブリッシング編『英語で楽しむ世界名作童話=English masretpieces:classic children's stories』IBCパブリッシング,2013年。)
(*)(参考：陳筱燕「〈論文〉アンデルセン童話以前にみる無生物の〈擬人行為〉：イソップ寓話にみる無生物の〈擬人行為〉を手掛かりに」白百合女子大大学児童

文学研究センター研究論文14,2013年。)
(*)(参考 : 楠木佳子「16世紀の書簡詩に見るイソップ寓話の政治性—Clemont MarotとThomas Wyatt」広島大学英文学会・英語英文學研究57,2013年。)
(*)吉見孝夫「幕末、明治初期の新聞に掲載されたイソップ寓話—『万国新聞(紙)』『中外新聞』『遠近新聞』」北海道教育大学札幌校国語第二研究室(吉見孝夫編)3,平成25年。
(*)吉見孝夫・金森亜紀・菊地真由子・曳田美那「改訂版：ロドリゲス『日本大文典』中のイソップ寓話からの引用--『エソポのハブラス』と『伊曽保物語』との対比」北海道教育大学札幌校国語第二研究室(吉見孝夫編)3,平成25年。
(*)谷出千代子「『イソップ寓話』翻訳・翻案の特異性：“蟻と蝉の事”の事例検証から」仁愛大学研究紀要・人間生活学部篇4,2013年。
(*)谷出千代子「イソップ寓話にみる訓蒙について」仁愛大学研究紀要・人間生活学部篇5,2013年。
(*)濱田幸子「説話と教訓の伝承：『伊曽保物語』「男、二女を持つ事」と『三国伝記』「二人のつまに、かみをぬかれし事」佛教大学大学院木紀要・文学研究科篇41,2013年。
(*)佐々木幸喜「安部公房「プルートーのわな」の素材」(イソップ)人間・環境学22,2013年。
(*)岡田茂「平成25年度日本水産学会春季大会運営後記—珍説イソップ物語「アリとキリギリス」part II」日本水産学会誌79(5),2013年。
(*)渡浩一「イソップ寓話「アリとキリギリス」の日本的変容：『イソポのハブラス』における改変をめぐって(山口仲美巨樹退任記念号)」明治大学国際日本学研究6(1),2013年。
(*)森島忠良(前編)・樗樸道人(後編)『鄙都言種』(イソップ。江戸時代庶民文庫16『和漢詞徳抄 鄙都言種』所収,大空社,2013年。)
(*)(参考 : 伊藤博明『「イソップ寓話集」の流布と変容—イタリア・レネサンスから日本の伝へ』埼玉大学2011年,(科研費)2013年。
(*)狩野博幸『もっと知りたい河鍋暁斎：生涯と作品』アート・ビギナーズ・コレクション,東京美術,2013年。
(*)(参考 : 西口祐子「渋江保訳『西洋妖怪奇談』の挿絵と底本について：挿絵からみた明治期グリム童話翻訳」専修人文論集92,2013年。)
(*)西野厚志「明視と盲目,あるいは視覚の二種の混乱について：谷崎潤一郎のプラトン受容とその映画的表現」近代日本文学88,2013年。
(*)(参考 : 大塚裕未「澁澤龍彦「エピクロスの肋骨」論：浮彫される「黒い髪」について」立教大学日本文学110,2013年。
(*)(参考 : 澤井繁男「トンマーゾ・カンパネッラ著『哲学詩集』についての一考察」関西大学文学論集63(1),2013年。)
(*)(参考 : ダンテの謎研究会『誰も書かなかったダンテ『神曲』の謎』KADOKAWA,中経の文庫,2013年。)
(*)(参考 : 村松真理子『謎と暗号で読み解くダンテ『神曲』の謎』KADOKAWA,角川oneテーマ21 B-169,2013年。)
(*)井出正隆『ダンテの影：アルノ川に沿って』あざみ書房,2013年。
(*)(参考 : 松田隆美篇『書物の来歴、読者の役割=Provenance of the book,role,of the reader』(ダ

ンテ)慶應義塾大学出版会,2013年。)
(*)(参考：前田信剛「『神曲』に描かれる普遍的宗教性：ダンテの人間考察(「煉獄篇」第16~第18歌を中心として)」仏教文化研究57,2013年。)
(*)(参考：河島英昭「ダンテ『神曲』への誘い(その7)煉獄(ブルガトーリオ)(環道七層)での二日間,そして『新生』から」図書767,2013年。)
(*)(参考：河島英昭「ダンテ『神曲』への誘い(その8)山川丙三郎の功績」図書768,2013年。)
(*)下館和巳「『神曲』翻訳の謎：山川[丙三郎]ダンテとのめぐりあい(特集 現代におけるキリスト教文学の〈ミッション〉)」キリスト教文学研究30,2013年。
(*)(参考：田中佳佑「引喩によるキュア：共同記憶としてのペトラルカ『死の凱旋』(第64回美学会全国大会発表要旨)」美學64(2),2013年。)
(*)(参考：永嶋哲也「恋愛抒情詩の伝統における愛の神聖性とキリスト教教義：ダンテとペトラルカに見る恋愛への共感と拒絶」福岡歯科大学学会雑誌39(1),2013年。)
(*)(参考：ニコラ・チンクエッティ文：ピンバ・ランドマン絵/青柳正規監訳『ラファエロ：天使に愛された画家』西村書店東京出版編集部,2013年。)
(*)(参考：小倉康寛「1855年、万国博覧会の中国展：ヴィンケルマンからボードレールへ」言語社会7,2013年。)
(*)(参考：山本巍「アテネとエルサレム—言語と存在をめぐって」共生学7,2013年。)
(*)(参考：Schirren Thomas「Die Entstehung der Romantik aus dem Geiste der Kritik:Schlegels,《Philosoiphie der Philologie》als Ursprung der Universalpoesi」19世紀学研究7,2013年。)
(*)玉村豊男「昨日読んだ文庫」(岩波文庫版『エピクロス』)毎日新聞朝刊6/30,2013年。
(*)夏目漱石著/しみじみ朗読文庫編『過去の回想』「ケーベル先生」「ケーベル先生の告別」)響林社大活字シリーズ,夏目漱石随筆選2,響林社,2013年。
(*)竹村牧男「井上円了の哲学」国際井上円了研究1,2013年。
(*)古川英明「‘φιλοσοφειν’(PL.Ap.28E5)とは何をすることなのか：田中美知太郎訳『弁明』を読む」山形大学人文学部研究年報10,2013年。
(*)塩野七生「日本の知性：小林秀雄と田中美知太郎(創刊90周年記念 文藝春秋90周年完全保存版)—(文藝春秋と私)」文藝春秋91(1),2013年。
(*)若松英輔『池田晶子：不滅の哲学』トランスビュー,2013年。
(*)神谷光信「詩人としての今道友信先生(今道友信先生を偲んで)」ムネーモシュネー：学術的「遊び」の広場20,2013年。
(*)眞鍋恵子「今道先生の想いで(今道友信先生を偲んで)」ムネーモシュネー：学術的「遊び」の広場20,2013年。
(*)大塚明「今道先生と出会って(今道友信先生を偲んで)」ムネーモシュネー：学術的「遊び」の広場20,2013年。
(*)渡邉恒雄・原實・佐藤孝雄「弔辞(今道友信先生を偲んで)」ムネーモシュネー：学術的「遊び」の広場20,2013年。
(*)今道友信「わが哲学を語る：詩と記憶(ポイエーマ・カイ・ムネーモシュネー)(ムネーモシュネーの会 第5回月例会 発表記録 テーマ「詩について」)」ムネーモシュネー：学術的「遊び」の広場20,2013年。
(*)小田部胤久「追悼 今道友信 畏れと怖れ：徒弟として過ごした日々」中央公論128(2),2013

年。)
(*)(参考：法橋和彦「プルタルコス『英雄伝』を読む少年--『戦争と平和』エピローグ第一部の読み方によせて」(ロシア・ソヴェート文学研究会)むうざ28,2013年。)
(*)(参考：古澤ゆう子「二種のねたみ」ペディラヴィウム68,2013年。)
(*)(参考：川島重成・茅野友子・古澤ゆう子編『パストラル：牧歌の源流と展開』ピナケス出版,2013年。
-----安村典子「テオクリトスの『牧歌』とその先駆者たち」
古澤ゆう子「パストラル概観」
佐野好則「ミルトンの『リシダス』『ダモン葬送詩』におけるパストラルの伝統」
小林潤司「シェイクスピアとエクプラシス」
川島重成「ウェルギリウス『牧歌』第四歌における黄金時代—イザヤ書のメシア預言との類似性をめぐって」)
(*)(参考：平田隆一「イタリア諸民族の言語に対する共和政ローマの対応—カエレとクーマエの事例を中心に」アジア遊学165,2013年。)
(*)(参考：伊藤正博「アーテーの彼岸のアンティゴネー：ジャック・ラカン『セミネール第7巻』読解の試み」芸術：大阪芸術大学紀要36,2013年。)
(*)(参考：山田亮太「演劇の時間：『タイム』から『アンティゴネー』への旅の記録とその上演』へ(特集 この小劇場を観よ!2013)」ユリイカ45(1),2013年。)
(*)(参考：秋富克哉「『アンティゴネー』の合唱歌をめぐる一試論：ハイデッガーのソポクレス解釈(2)」(日独文化研究所)文明と哲学5,2013年。)
(*)(参考：上村くに子「メディアとは誰か—太古の「女神」からエウリピデスの「人間の女」へ、そしてセネカの「魔女」へ」甲南大學紀要(文学篇)163,2013年。)
(*)(参考：酒井奨「オウィディウス『名高き女たちの手紙』第9歌におけるデーイアネイレア—ヘラクレースの「名誉」と「不名誉」」2013年度大阪大学大学院文学研究科共同研究成果報告書『ギリシア・ローマ神話のアレゴリー—その表現・解釈・理論に関する研究』所収,2013年。）
(*)(参考：小川正廣「メゼンティウスと日本鬼子(リーベン・クイズ)—ウェルギリウスの叙事詩と日本兵の歴史的体験に関する比較考察」名古屋大学文学部研究論集・文学59,2013年。)
(*)(参考：川瀬和也「フェノロサ講義「哲学史：ヘーゲル論(清澤満之筆記)(中)」ヘーゲル哲学研究19,2013年。)
(*)(参考：鈴木亮三「ヘーゲル哲学におけるオイディプス問題」ヘーゲル哲学研究19,2013年。)
(*)藤田正勝「ヘーゲル哲学の日本における受容」ヘーゲル哲学研究19,2013年。
(*)(参考：小川仁志『絶対幸福になれるたった10の条件』教育評論社,2013年。)
(*)(参考：大城信哉『哲学図鑑：現代人の悩みをすっきり解消する：恋愛やビジネスから人生観まで役立つ』誠文堂新光社,2013年。)
(*)(参考：関谷雄磨「インドにおける「厭世派」と古代ギリシアの快楽主義—快楽主義の思想は人生訓となりえるか」比較思想研究40,2013年。)
(*)Taki Akitsugu,‘The origin of interrogation marks in the medieval manuscrips of of Plato’s

Republic and its significance in the tradition of Palto's dialogues'(in N.Notomi & L.Brisson(eds.), *Dialogues on Plato's Politeia*(*Republic*),Academia Verlag, 2013.

(*)(参考：Notomi Noburu,'A Protagonist of the Sophistic Movement ? Protagoras in Historiography'(in J.M.van Ophuijsen & P.Stork(ed.),*Protagoras of Abdera : The Man,His Measure*,M.van Raalte, Brill,Leiden,2013.)

(*)(参考：渡邉裕一「ジョン・ロックにおける快楽と苦痛の原理：エピクロスとの比較を通じて」学習院大学人文科学論集22,2013年。)

(*)(参考：足立広明「啓蒙主義のヒロインとなった女性哲学者ヒュパティア」地中海学会月報365,2013年。)

(*)沓掛良彦「思想の言葉 詩と哲学の相剋」思想1067,2013年。

(*)渡部昇一「書物ある人生(18)ヒルティの『幸福論』書物がもたらした人生の「幸福」」Will 99,2013年。

(*)小倉斉他編『大学生のための読書案内：入門編』愛知淑徳大学2013—2017,2013年。

(*)(参考：金山弥平「探究のツールとしての映像と文字」名古屋大学教養教育院プロジェクトギャラリー「Clas」アニュアル2012,2013年。)

(*)(参考：加藤信朗『ギリシア哲学史』オンデマンド版,東京大学出版会,2013年。)

(*)(参考：松永雄ニ「最終講義記録 哲学の意味・そのはじまりとしてのギリシア・そして現代とは?」長崎純心比較文化学会会報7,2013年。)

(*)前野弘志「高畠純男著「アンティフォンとその時代—前5世紀アテナイの社会・思想・人間」(東海大学出版会)」史學雑誌122(3),2013年。

(*)(参考：茂木和行「「情念のソクラテス」としての『ドン・ジョヴァンニ』--キルケゴールはモーツァルトに何を見たか」聖徳大学言語分岐ァ研究所論叢21,2013年。)

(*)丸山徳次「われらは皆ソクラテスの弟子:佐藤三千雄先生を悼んで」龍谷哲学論集27,2013年。)

(*)(参考：中村哲平「ソクラテス以前の哲学と「戦い」：ニーチェによる解釈から読み取る「戦い」の倫理」社学研論集22,2013年。)

(*)(参考：YAMAUCHI Tomosaburo「社会・環境倫理から見たプラトニズムと儒教」大阪教育大学紀要・第1部門,人文科学62(1),2013年。)

(*)(参考：納富信留「古代ギリシアと向き合う—最新の歴史・哲学史研究の成果から」太田出版「at プラス：特集『哲学の起源』を読む」15,2013年。)

(*)(参考：納富信留著/日本放送協会,NHK出版事業『プラトン『饗宴』』NHKテレビテキスト「100分de名著」NHK出版,2013年。)

(*)納富信留「「理想」とは何か—プラトンと近代日本」国士舘哲学17,2013年。

(*)(参考：阿部将伸『存在論の解体から構築へ：初期ハイデガーにおけるアリストテレス解釈』京都大学,博士(人間・環境学),甲第17908号,2013年。)

(*)(参考：Karuzis Joseph"Studies on Being in Aristotle's Metaphysics Beta"北海道大学,博士(文学),甲第11057号,2013年。)

(*)(参考：小澤実「公開シンポジウム「人知の営みを歴史に記す—中世・初期近代インテレクチュアル・ヒストリーの挑戦」報告記」史苑73(2),2013年。)

(*)(参考：三宅浩史「新プラトン主義の受容をめぐる比較考察—西谷啓治とトマス・テイラ

ー」北陸宗教文化29,2013年。)
(*)(参考：森一郎「自然的平等について：近代道徳の系譜学のための一覚書」東京女子大学紀要論集63(2),2013年。)
(*)(参考：北岡宏章「キケローの『老年論』(Cato Maior De Senectute)についての一考察：古代ローマの教育観および道徳思想を探る」京都光華女子大学短期大学部研究紀要51,2013年。)
(*)(参考：坂口ふみ『ゴルギアスからキケロへ』人でつむぐ思想史2,ぷねうま舎,2013年。
(*)(参考：金澤修「「ヴェータグー」とトロイの木馬：『ミリンダ王の問い』における内在的存在を巡って」比較思想研究40,2013年。)
(*)(参考：荻原理「トマスの存在理解をめぐる上枝氏の提題に寄せて(特集 第60回大会シンポジウム 中世におけるプラトニズムII：トマス・アクィナスおよびイスラーム」中世思想研究55,2013年。)
(*)(参考：上枝美典「提題 トマスの神はエッセのイデアか(特集 第60回大会シンポジウム 中世におけるプラトニズムII：トマス・アクィナスおよびイスラーム」中世思想研究55,2013年。」中世思想研究55,2013年。)
(*)(参考：松本耿郎「中世のプラトニズム―イスラーム思想と新プラトン思想(特集 第60回大会シンポジウム 中世におけるプラトニズムII：トマス・アクィナスおよびイスラーム」中世思想研究55,2013年。」中世思想研究55,2013年。)
(*)(参考：芝元航平「存在の流入：トマス・アクィナスの「存在」の独自性」ソフィア61(2),2013年。)
(*)(参考：稲垣良典他「〈シンポジウム〉トマス・アクィナス研究」ソフィア61(2),2013年。)
(*)(参考：稲垣良典『トマス・アクィナスの神学』創文社,2013年。)
(*)(参考：稲垣良典『トマス・アクィナス「存在(エッセ)」の形而上学』創文社,2013年。
(*)(参考：稲垣良典『学問と出版：トマス・アクイナス『神学大全』全訳の歩み』熊倉次郎監督,松田善幸企画,森永エンゼル財団制作,ビデオレコード(ディスク),2013年。)
(*)(参考：阿部善彦「「息」の宗教的人間学：心身二元論的人間観を超えた身体的宗教学の可能性に向けて」上智大学短期大学部紀要33,2013年。)
(*)(参考：阿部善彦「エックハルトの思想形成と偽ディオニュソス・アレオパギテースの『神秘神学』：《魂における神の誕生》の思想と《闇》の神秘思想の邂逅」中世思想研究55,2013年。)
(*)(参考：小林剛「アルベルトゥス・マグヌスの能動知性論：『人間論』に即して」哲学論集42,2013年。)
(*)(参考：小林剛「アルベルトゥス・マグヌスの知性論史解釈：『霊魂論』に即して」中世哲学研究：Veritas32,2013年。)
(*)(参考：上智大学中世思想研究会編『中世の信仰と知』知泉書院,中世哲学13,2013年。)
(*)(参考：三上章「ジョン・スミスとプラトニズム：「神知に至る真の道：方法に関する講話」東洋英和大学紀要9,2013年。)
(*)(参考：三上章「ジョン・スミスの哲学的思考の型について：「真の宗教の卓越性・高貴性」について」人文・社会科学論集31,2013年。)
(*)(参考：小林玲子「レヴィナスの「本質の彼方」とプラトンの「善」」京都聖母女学院短

期大学研究紀要42,2013年。)
(*)(参考：加藤美季子「レーモン・クノーとグノーシス主義：《Les Enfants du limon》をめぐって(研究発表要旨)」フランス語フランス文学研究102,2013年。)
(*)(参考：岩田靖夫「人間の絆と「無限」の栄光」創文11,2013年。)
(*)(参考：阿部将伸『存在論の解体から構築へ：初期ハイデガーにおけるアリストテレス解釈』京都大学,博士(人間・環境学),甲第17908号,2013年。)
(*)(参考：根占献一(他)『イタリア・ルネサンスの霊魂論：フィチーノ・ピコ・ポンポナッツィ・ブルーノ』三元社,2013年。)
(*)(参考：ウォーレス・ファーガスン他/澤井繁男訳『ルネサンス：六つの論考』国文社,2013年。)
(*)(参考：大川洋「エラスムスの『子どもの教育ついて』出版の社会的背景とその意義」東京理科大学紀要,教養篇45,2013年。)
(*)(参考：根占献一「エラスムス覚え書：文献紹介と課題」学習院女子大学紀要15,2013年。)
(*)(参考：二階堂玲太「史談往来 北から南からリーフデ号の大砲とエラスムス像」歴史研究55(5),2013年。)
(*)(参考：杉山有紀子「シュテファン・ツヴァイク『ロッテルダムのエラスムスの勝利と悲劇』試論：自由のイデオロギー化とヒューマニズムの問題をめぐって」詩・言語77,2013年。)
(*)(参考：大川洋「エラスムスの『子どもの教育について』出版の社会的背景とその意義」東京理科大学紀要・教養篇45,2013年。)
(*)宇野木めぐみ「書評『ヴォルテールを学ぶ人のために』植田祐次[編]」世界文学117,2013年。
(*)(参考：土屋靖明「ベルグソンにおける〈運〉と〈偶然〉--『道徳と宗教の二源泉』の記述を中心に」(アレクサンドロス)八戸学院大学紀要47,2013年。)
(*)(参考：渡部昇一「書物ある人生(18)ヒルティの『幸福論』書物がもたらした人生の「幸福」」Will 99,2013年。)
(*)若松英輔「吉満義彦(11)詩人の神・哲学者の神」三田文学[第3期]92(115),2013年。
(*)(参考：楠木佳子「16世紀の書簡詩に見るイソップ寓話の政治性：Clement MarotとThomas Wyatt」英語英文学研究57,2013年。)
(*)(参考：Taki Akitsugu,‘Some Modern Editor’s Discrepancies from the Manuscripts in Their apparatus critici of the Platonic Alcibiades I’,城西国際大学紀要16,2013年。)
(*)(参考：Taki Akitsugu,‘Hypotheses of the Textual Interrelations among Some Mediaval Manuscripts of the Platonic *Alcibiades* I’,城西国際大学紀要16,2013年。)
(*)(参考：Taki Akitsugu,‘Varient Readings in the Main Mediaval Manuscrips of the Psedo – Platonic *De virtute*’,城西国際大学紀要21,2013年/22,2014年。)
(*)(参考：三浦國泰「今日の視点から見たゲーテの「世界文学」概念：世界文学の新たなパラダイムを求めて」成蹊大学文学部紀要 48,2013 年。)
(*)(参考：三木正之『ゲーテ詩考：付「文の国」をめぐる考察(続)』南窓社,2013年。)
(*)(参考：山取圭澄「〈研究ノート〉悲劇的牧歌：ゲーテ『ラオコオン論』』STUFE 32,2013年。)
(*)(参考：河野英二「諷刺家としてのゲーテとカール・クラウス：ひとつの精神史的な系譜」

モルフォロギア：ゲーテと自然科学35,2013年。)
(*)(参考：大槻裕子「講演録 フリードリッヒ・シラーの美学論再考：全一性回帰の試み」モルフォロギア：ゲーテと自然科学35,2013年。)
(*)(参考：濱田真「一七八０年代「スピノザ論争」の思想背景：J.G.ヘルダー『神についての対話』を手がかりにして(特集 ゲーテとスピノザ主義)」モルフォロギア：ゲーテと自然科学35,2013年。)
(*)(参考：木村直司「ゲーテ文献頌：ゲルマニスティクに関する反時代的考察(ドイツ文学科百周年記念特別号)」上智大学ドイツ文学論集50,2013年。)
(*)(参考：山本賀代「ゲーテの自伝プロジクト「わが生涯から」：「著者と読者」の関係をめぐって(八木輝明教授退職記念号)」慶應義塾大学日吉紀要 ドイツ語学・文学50,2013年。)
(*)(参考：ツグラッケン・エヴェリン「ゲーテの「自然詩」における生命哲学」創価大学人文論集25,2013年。)
(*)(参考：黒子康弘「「リルケとゲーテ」という主題について：リルケ受容史に関する批判的考察」史艸54,2013年。)
(*)(参考：瀬戸一夫『カントからヘルダーリンへ：ドイツ近代思想の輝きと翳り』成蹊大学アジア太平洋研究センター叢書,東北大学出版会,2013年。)
(*)(参考：フリードリッヒ・フォルハルト/桑原俊介訳「特別講演 ゴトオホルト・エフライム・レッシングの『ラオコーン』：ドイツにおける美学の始まりに寄せて」美学芸術学研究32,2013年。)
(*)山口誠一「日本ヘーゲル研究誌編纂の歩み」法政哲学9,2013年。
(*)(参考：堤田泰成「ショーペンハウアーの悲劇論と人間理解：ヘーゲルの悲劇論を対照として」上智哲学誌25,2013年。)
(*)(参考：シュタイナー堀郁「ショーペンハウアー哲学からみたゲーテ自然思想の可能性」ショーペンハウアー研究18,2013年。)
(*)(参考：喜多尾道冬「ムーサの贈り物(242)ヒーローとヒロイン ユリシーズと彼をめぐるヒロインたち(23)ゲーテも惚れ込んだアンフォッシの《魔術師キルケ》」レコード芸術62(7),2013年。)
(*)(参考：今泉文子「産業化季題と〈宗教〉：ノヴァーリスとゲーテに見る近代開始期の宗教観(守谷良二教授定年退任記念号)」経済学季報62(4),2013年。)
(*)(参考：三浦國泰「今日の視点から見たゲーテの「世界文学」概念：世界文学の新たなパラダイムを求めて」成蹊大学文学部紀要48,2013年。)
(*)(参考：加藤恵哉「ワーグナー『ニーベルングの指輪』における権力と愛—アイスキュロス『オレステイア』との対比から」(上智大学大学院STUFE刊行委員会)STUFE32,2013年。)
(*)(参考：安酸敏眞「レッシングのキリスト教：伝記的考察(片柳榮一名誉教授古稀記念号)」基督教学研究33,2013年。)
(*)(参考：瀬戸一夫『カントからヘルダーリンへ：ドイツ近代思想の輝きと翳り』東北大学出版会,成蹊大学アジア太平洋研究センター叢書,2013年。)
(*)(参考：加賀ラビ「ホーフマンスタールとトロイア戦争」ドイツ文学12(2),2013年。)
(*)(参考：安徳万貴子「ホーフマンスタール『オイディプスとスフィンクス』における名指し」Polyphonia：FLC言語文化研究5,2013年。)

(*)(参考:三宅新三「ホーフマンスタールとR.シュトラウス(1-3)」岡山大学文学部紀要60,2013年/61,62,2014年。)
(*)(参考：栗原裕次「歴史の継承と哲学的跳躍：ヘロドトスを学ぶヘーゲルの「世界史哲学講義」エジプト論」ペディラヴィウム68,2013年。)
(*)(参考：中畑邦夫「悲劇的人間：ヘーゲル悲劇論における人間像の形成」麗澤大学紀要97,2013年。)
(*)(参考：森田猛『ブルクハルト：教育としての歴史』森田猛,2013年。)
(*)(参考：角田幸彦「ブルクハルトの神学から歴史学への道—教会と教条を脱したキリスト教者」明治大学教養論集489,2013年。)
(*)(参考：角田幸彦「ブルクハルトにおける旅心、景観愛、美術への問い」明治大学教養論集489,2013年。)
(*)(参考：角田幸彦「ブルクハルト『コンスタンティヌス大帝の時代』」明治大学教養論集495,2013年。)
(*)(参考：レナーテ・レシュケ/五郎丸仁美訳「もうひとつのパースペクティヴ：『ツァラトゥストラ』における踊るすべを心得た神,ディオニュソスの美学素描(抄)(特集 ニーチェはこう言った)」現代思想41(2),2013年。)
(*)前田知津子「茂吉のニーチェ受容：「古代芸術の讃」を視座に」Comparatio 17,2013年。
(*)(参考：Yasui Michael「チョーサーの『トロイルスとクリセイデ』におけるあいまいさとディスラプション：解釈のミメーティクスの効果」(首都大学東京人文科学研究科)人文学報479,2013年。)
(*)(参考：菊池秋夫「『トロイラス』におけるヘクター：予言者としての人間像」八戸工業高等専門学校紀要48,2013年。)
(*)(参考：山根正弘「ジョージ・ハーバートとヘシオドス—働き蜂と怠け蜂」(創価大学英文学会)英語英文学研究37,2013年。)
(*)(参考：西出良郎「ローマ史劇の方法--『ジュリアス・シーザー』と『セジェイナス』」(京大英文学会)Albion59,2013年。)
(*)(参考：西谷茉莉子「イェイツ注記の恋愛詩の主題と詩型--「幽霊たち」「プロペルティウスから得たひとつの思い」「破れた夢」」(京大英文学会)Albion59,2013年。)
(*)(参考：ギッシング/池央耿訳『ヘンリー・ライクロフトの私記』光文社古典新訳文庫,光文社,2013年。)
(*)(参考：キャンペル久美子「バイロンと朔太郎の詩の世界：アポロ的とディオニュソス的浪漫」研究紀要21,2013年。)
(*)(参考：石川大智「ウォルター・ペイターにおける透明性と学者の使命」(慶應義塾大学藝文学会)藝文研究104,2013年。)
(*)(参考：中上哲夫「『キャントーズ』を読む エズラ・パウンドを求めて(7)アポロン的とディオニュソス的」未来557,2013年。)
(*)(参考：平林美都子「ベデガー言説は超えられるのか：「エンペドクレス館」に見るE.M.フォースターの反ツーリズム」(大石和欣他編『境界線上の文学：名古屋大学英文学会第50回大会記念論集』所収,彩流社,2013年。)
(*)(参考：塚本正雄訳「『ペンブルック伯爵夫人のアルカディア』書評」和歌山大学教育学部紀要,人文科学63,2013年。)

(*)(参考：榎本恵子「17世紀フランスに蘇ったテレンティウスの『宦官』」(中央大学人文科学研究所)人文研究紀要76,2013年。)
(*)(参考：加島康彦「『タイタス・アンドロニカス』におけるセネカの影響：“Sweet mercy is nobility’s true badge”から読み取れるもの」安田女子大学大学院文学研究科紀要 合冊19,2013年。)
(*)(参考:鹿島茂『「悪知恵」のすすめ:ラ・フォンテーヌの寓話に学ぶ処世訓』清流出版,2013年。)
(*)(参考：鹿島茂『パスカル：パンセ』NHK,「100分de名著」ブックス,NHK出版,2013年。)
(*)伊藤直・三野博司「日本におけるカミュ受容(Cetenaire de la naissance d’Albert Camus)」カミュ研究11,2013年。
(*)(参考：桑原俊介「解釈学と論理学：ダンハウアーからシュライアマハーまで(第64回美学会全国大会発表要旨)」美學64(2),2013年。)
(*)(参考：桑原俊介「シュライアマハー解釈学における〈よりよき理解〉：「無意識」概念に即して」美学芸術学29, 2013年。)
(*)(参考：フリードリッヒ・フォルハルト/桑原俊介訳「特別講演 ゴットホルト・エフライム・レッシングの『ラオコーン』：ドイツにおける美学の始まりに寄せて」美学芸術学32,2013年。)
(*)(参考：秋富克哉「『アンティゴネー』の合唱歌をめぐる一試論—ハイデッガーのソポクレス解釈(2)」(日独文化研究所)文明と哲学5,2013年。)
(*)(参考：松浦和也「ベルグソンとアリストテレスの間隙—Quid Aristoteles De Loco Senserit をめぐって」東京大学大学院人文社会系研究科・文学部哲学研究室論集32,2013年。)
(*)(参考：武井徹也「ブレンターノとハイデガーにおけるアリストテレスの解釈と、存在の思惟の可能性」立正大学哲学会紀要8,2013年。)
(*)(参考：土屋靖明「ベルグソンにおける〈運〉と〈偶然〉--『道徳と宗教の二源泉』の記述を中心に」八戸学院大学紀要47,2013年。)
(*)(参考：鹿野祐嗣「ドゥウーズにおけるプラトニズムの反時代的な転倒：シミュラクールの叛乱,出来事としてのIdee」表象・メディア研究3,2013年。)
(*)(参考：緒方洋平「ジル・ドゥルーズ「ルクレティウスとシミュラクル」をめぐって」L’Arche 23,2013年。)
(*)渡部昇一「書物ある人生(17)中村敬宇『西国立志編』簡野道明『論語集註』漢文素読の得難い経験」Will 98,2013年。
(*)渡部昇一「書物のある人生(22)」(長寿吉)Will 8月号,2013年。
(*)渡邉顕彦「古代ギリシアと日本(1)インド・ギリシア王国からキリシタン時代まで」日本ギリシャ協会会報132,2013年。
(*)渡邉顕彦「古代ギリシアと日本(2)「経国美談」からケーベル博士まで」日本ギリシャ協会会報133,2013年。
(*)(参考：郭實獵[ギュツラフ]著/黎子鵬編註『贖罪之道傳：郭實獵基督教小説集』橄欖社華宣出版[発売],漢語基督教教典文庫集成十九世紀篇5,2013年。)
(*)吉田新「和訳聖書翻訳の新事実—ソロモン・C・マラン(1853年)の出現」思想1067,2013年。
(*)中川久定・峯村至津子・秋山伸子・齋藤希史・渡辺喜之校注『翻訳小説集1』(新日本古

典文学大系明治編14)岩波書店,2013年。
(*)(参考：胡屋武志編『「模倣」概念再考：ミメーシス的なものの創造的契機について』日本独文学会,日本独文学会研究叢書89,2013年。)
(*)Dazai Osamu verkis/Konisi Gaku tradukis『Kuru,Melos!』日本エスペラント図書刊行会,2013年。
(*)佐藤遊歩・石原広子・太田治子編集委員：飯田明子他朗読『朗読版：児童文学名作選』(第1-6巻,録音資料(非音楽))」国書刊行会,2013年。
(*)学研教育出版編『もう一度読みたい教科書の泣ける名作』(「走れメロス」等)学研教育マーケティング,学研教育出版,2013年。
(*)田島元信監修『ココロを育むお話』(「走れメロス」等)おやすみまえのちいさなちいさなお話90,東京書店,2013年。
(*)Verkis Dazai Osamu/tradukis Konishi Gaku“Kuru,Melos!”日本エスペラント図書刊行会,2013年。
(*)滝口晴生「太宰治「走れメロス」の原話をたどって」山梨大学教育人間科学部紀要15(22),2013年。
(*)大野木裕明「『走れメロス』(太宰治)の登場人物の心理学的把握：SD法によるイメージ測定と「ジョハリの窓」による内容分析」人間学研究12,2013年。
(*)大國眞希「感性と文化：「走れメロス」の教材力」太宰治スタディーズ別冊1,2013年。
(*)丹藤博文「提案1 教材失格」：『走れメロス』の教材価値論(再検討 青森県出身作家の教材・太宰・寺山・方言詩--,春期学会(第124回弘前大会))」国語科教育74,2013年。
(*)佐藤勝之「教科書は教育的イデオロギーを超えられるか：事例研究『走れメロス』」Proceedings of JASFL 7,2013年。
(*)佐野幹「明治4年から始まるメロスのストーリー：箕作麟祥訳述『泰西勧善訓蒙』を中心に(自由研究発表)」全国大学国語教育学会発表要旨集125,2013年。
(*)勝田光・飯田和明「〈私の読み〉の形成過程に関する事例研究：単元「文学の学び方~『走れメロス』による~」の分析(自由研究発表)」全国大学国語教育学会発表要旨集125,2013年。
(*)佐々木秀穂「戯画と信実：「走れメロス」の教材的価値(自由研究発表)」全国大学国語教育学会発表要旨集125,2013年。
(*)安原杏佳音「太宰治「走れメロス」論：反美談としての読解の試み」近代文学試論51,2013年。
(*)高田知波「“反(アンチ)美談”小説としての『走れメロス』」駒澤國文50,2013年。
(*)近藤周吾「「太陽の,十倍も早く走った」男：「走れメロス」における太宰治のシェイクスピア受容」国語国文学研究48,2013年。
(*)長谷川綾「中学2年国語科 太宰治「走れメロス」について」国語論集10,2013年。
(*)丸山義昭「〈物語〉の〈語り〉,〈小説〉の〈語り〉：『走れメロス』を例に(特集 第67回日本文学協会大会国語教育の部(第1日目)〈第3項〉と〈語り〉：ポスト・モダンと文学教育の課題」日本文学62(3),2013年。
(*)小原俊「新指導要領下における文章教材について：中学校国語教科書に見る「走れメロス」の言語活動(特集 国語教科書の可能性)」早稲田大学国語教育研究33,2013年。
(*)杉山弘・河野孝・今村麻子「演劇時評(1)劇評シラノ100万回生きたねこ 祈りと怪物：ウ

ィルヴィルの三姉物 お嬢さん乾杯 阿修羅のごとく 熱風 イノセント・ピープル：原爆をつくった男たちの65年 心細い日のサングラス 詭弁・走れメロス11人いる!やわらかいヒビ Disk お馬鹿屋敷 地下室 ウェルズロード12番地 三人吉三巴白浪 ピアフNO WORDS,NO TIME：空に落ちた涙 この生命誰のもの 光化門恋歌 ドリームジャンボ宝ぶね:けっしてお咎め下さいますな」悲劇喜劇66(4),2013年。

(*)早川美由紀「藤元芳則著『〈小波お伽〉の輪郭：巌谷小波の児童文学』双文社出版,2013年。

(*)(参考：プルタルコス,ヘラクレイトス著/内田次信訳『古代ホメロス論集』西洋古典叢書,京都大学学術出版会,2013年。)

(*)西村賀子「近代日本におけるギリシア悲劇の受容」和歌山県立医科大学保健看護学部紀要10,平成25年。

(*)岩上はる子「「英文学叢書」と岡倉由三郎:日本の英文学受容について」英学史研究46,2013年。

(*)佐藤智美著・森洋一絵・大分県立先哲史料館編『野上弥生子』ドメス出版,普及版大分県立先哲叢書,大分県教育庁管理部文化課編,大分県教育委員会,2013年。

(*)若松英輔「黎明の詩学：西脇順三郎と井筒俊彦」Booklet 21,2013年。

(*)荒波力『知の巨人：評伝生田長江』白水社,2013年。

(*)(参考:伊藤貞夫「古代ギリシアへの誘いの試み:岩田靖夫『ギリシア思想入門』を読む」UP42(1),2013年。)

(*)(参考：桑原俊介「解釈学と論理学：ダンハウアーからシュライアマハーまで(第 64 回美学会全国大会発表要旨)」美學 64(2),2013 年。

(*)(参考：桑原俊介「シュライアマハー解釈学における〈よりよき理解〉：「無意識」概念に即して」美学芸術学 29,2013 年。

(*)(参考:SCHIRREN Thomas「DieEntstehung der Romantik aus dem Geiste der Kritik : Schlegels《Philosophie derPhilologie》als Ursprung der Universalpoesie（特集 Das Krisenbewusstsein zur Zeit der Romantik und Utopievorstellung」19 世紀学研究 7,2013 年。)

(*)(参考:豊田浩志「北アフリカ、キリスト教からイスラームへ—研究の現状と問題点」(三代川寛子[編]『東方キリスト教諸協教会—基礎データと研究案内(増補版)』所収,上智大学アジア文化研究所イスラーム地域研究機構,2013年。)

(*)(参考：中山太郎『賣笑三千年史』ちくま学芸文庫,筑摩書房,1984年。)

(*)(参考：橋場弦「「ブリル新ヤコービ」のこと」日本西洋古典学会,2013年。)

(*)(参考：橋場弦「学者の仕事」公研594,2013年。)

(*)(参考：橋場弦「道を尋ねる」公研600,2013年。)

(*)(参考：森田猛『ブルクハルト：教育としての歴史』同志社大学,博士(文化史学),乙第302号,2013年。)

(*)(参考:橋場弦『古代ギリシアにおける暴力と社会秩序の比較文化史的研究』東京大学2011年,(科研費)2013年。)

(*)(参考：ジョン・ヘイウッド著/松平俊久他訳『世界の民族：国家興亡歴史地図年表』創元社,2013年。)

(*)(参考：豊田浩志「歴史研究は刷り込みとの闘い—後315年ティキヌム造幣所打刻「記念」

銀貨をめぐって」上智大学文学部史学科[編]『歴史家の窓辺』所収,上智大学出版会,2013年。)
(*)(参考 : 中野京子「中野京子の名画が語る西洋史(9)トロイア戦争」文藝春秋91(4),2013年。)
(*)(参考 : トゥキュディデス/久保正彰訳『戦史』中公クラシックス,中央公論新社,2013年。)
(*)(参考 : ルキアノス/内田信次・戸高和弘・渡邉浩司訳『偽預言者アレクサンドロス』西洋古典叢書4,ルキアノス全集,京都大学学術出版会,2013年。)
(*)(参考 : 澤田典子『アレクサンドロス大王 : 今に生きつづける「偉大なる王」』世界史リブレット人5,山川出版社,2013年。)
(*)(参考 : 森谷公俊著・鈴木革写真『図説アレクサンドロス大王』ふくろうの本,河出書房新社,2013年。)
(*)(参考 : メアリー・ポープ・オズボーン/食野雅子訳『アレクサンダー大王の馬』マジック・ツリーハウス35,KADOKAWA,2013年。)
(*)(参考 : 中村友代「《アレクサンドロス石棺》浮彫の図像解釈に関する考察 : 「大王の戦闘場面」を中心に」西洋古典學研究61,2013年。)
(*)(参考 : 木内英美「中勘助のアレクサンダー大王東征への関心 : 『犬』の人物造形を視軸として」(総合社会科学会)総合社会科学研究3(5),2013年。)
(*)(参考 : 中谷功治「〈シンポジウム〉古代地中海世界における「帝国」支配とその変容」関学西洋史論集36,2013年。)
(*)(参考 : 波部雄一郎「シンポジウム〉エーゲ海域におけるプトレマイオス朝権力の変容 : 「諸島民のコイノン」と外国人判事」関学西洋史論集36,2013年。)
(*)(参考 : ナイジェル・ロジャーズ/田中敦子訳『ローマ帝国大図鑑』ガイアブックス,2013年。)
(*)(参考 : 小坂俊介『後期ローマ帝国の政治と歴史叙述 : アンミヌス・マルケリヌス『歴史』の研究』東北大学,博士(文学),甲第14953号,2013年。)
(*)(参考 : ロナルド・サイム/逸身喜一郎他訳『ローマ革命 : 共和政の崩壊とアウグストゥスの新体制(上下)』岩波書店,2013年。)
(*)(参考 : 砂田徹「スッラの退役兵植民とエトルリアの騒擾 : ファエスラエの事例を中心に」北海道大学文学研究科紀要140,2013年。)
(*)(参考 : ドーリング・キンダースリー編/藤井留美訳『人類の歴史大年表 : ビジュアル版』柊風舎,2013年。)
(*)(参考 : 小林道憲『歴史哲学への招待 : 生命パラダイムから考える』MINERVA歴史・文化ライブラリー22,ミネルヴァ書房,2013年。)
(*)(参考 : 木村靖二他『アナウンサーが読む聞く教科書山川詳説世界歴史』山川出版社,2013年。)
(*)(参考 : 橋場弦他『世界史教授資料研究編』山川出版社,2013年。)
(*)(参考 : 木村靖二・佐藤次高・橋場弦・岸本美緒他『詳説世界史 : 世界史B』山川出版社,2013年。)
(*)(参考 : 浦野聡「趣旨説明（2012 年度大会共通論題報告 歴史家のわかること,わからないこと：西洋古代史研究と歴史関連学）」西洋史研究42,2013年。
(*)(参考 : 浦野聡,新保明,田中創「討論（2012 年度大会共通論題報告 歴史家のわかること,わからないこと：西洋古代史研究と歴史関連学）」西洋史研究 42,2013 年。

(*)大戸千之「歴史学に何ができるか—古代史研究者の考えたこと(特輯 西洋古代史の語り方—現代日本社会のために)」古代文化65(1),2013年。
(*)岸本廣大「今の日本に求められる西洋古代史研究とは何か?—高校世界史からの「需要」を中心に(同上)」(古代学協)古代文化65(1),2013年。
(*)南雲泰輔「特輯に寄せて—現代日本社会において、西洋古代史をどのように語るか(同上)」(古代学協会)古代文化65(1),2013年。
(*)南雲泰輔「古代地中海世界と日本(同上)」(古代学協)古代文化65(1),2013年。
(*)米本雅一「西洋古代史のなかの「実用的な過去」--歴史学の目的と現代性(特輯 西洋古代史の語り方—現代日本社会のために)」古代学協会「古代文化」65(1),2013年。
(*)(参考：北村暁夫「コメント 世界史と地理との連携の可能性(特集 世界の教え方)--(世界史との連携の可能性)」新地理61(1),2013年。)
(*)(参考 : 佐藤彰一「グローバル・コンテキストの中のポスト・ローマ期(特集 グローバル・コンテキストの中のポスト・ローマ期)」西洋中世研究5,2013年。)
(*)(参考：笠原順路「英詩註解：William Sothebyの剣闘士」(明星大学教育学部)教育学部研究紀要3,2013年。)
(*)(参考：ジョナサン・ハリス/井上浩一訳『ビザンツ帝国の最期』白水社,2013年。)
(*)(参考：阿部拓児「サラミス王エウアゴラスのいわゆる「ギリシア化」政策(研究発表,西洋史部会,第110回学会大会報告)」史學雑誌122(1),2013年。)
(*)「文献目録—西洋史1」史學雑誌122(1),2013年。
(*)「文献目録—西洋史2」史學雑誌122(5),2013年。
(*)勝田俊輔「近代イギリス(回顧と展望)」史學雑誌 122(5),2013 年。
(*)高橋圭「回顧と展望(西アジア・北アフリカ：近現代)」史學雑誌 122(5),2013 年。
(*)北村陽子「2012 年歴史学界の回顧と展望：ドイツ・スイス・ネーデルランド史學雑誌 122(5),2013 年。
(*)鈴木道也「ヨーロッパ : 西欧・南欧(2012 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌 122(5),2013 年。
(*)齋藤貴弘「ヨーロッパ：古代ギリシア(2012 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 122(5),2013 年。
(*)田中創「ヨーロッパ : 古代ローマ(2012 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌 122(5),2013 年。
(*)(参考：藤波伸嘉「オスマンとローマ—近代バルカン史学史再考(研究動向)」史學雑誌 122(6),2013 年。)
(*)井上文則「大清水裕著「ディオクレティアヌス時代のローマ帝国—ラテン碑文に見る帝国統治の継続と変容」山川歴史モノグラフ25,山川出版社,2012」史学雑誌 122(7),2013年。
(*)大西克典「北村暁夫・伊藤武編著『近代イタリアの歴史—六世紀から現代まで』ミネルヴァ書房,2012」史学雑誌122(8),2013年。
(*)「文献目録—西洋史2３」史學雑誌122(9),2013年。
(*)(参考：高橋亮介「論点開示 属州エジプトにおける地方文書館と文書の利用(2012年度大会共通論題報告 歴史家のわかること,わからないこと)西洋古代史学と歴史関連学)」西洋史研究42,2013年。)
(*)(参考：「討論(2012年度大会共通論題報告 歴史家のわかること,わからないこと)西洋古

代史学と歴史関連学)」西洋史研究42,2013年。)
(*)(参考 : 比佐篤「ヘレニズム世界の紛争と共和政期ローマの進出」関学西洋史論集36,2013年。)
(*)(参考 : 飯田収治「元首政期ローマ帝国の東方支配 : 浸透と変容」関学西洋史論集36,2013年。)
(*)(参考 : 栗原裕次「歴史の継承と哲学的跳躍 : ヘロドトスを学ぶヘーゲルの「世界史哲学講義」エジプト論」」ペディラヴィウム 68,2013 年。)
(*)南塚信吾「西村茂樹『万国略史』と A.F.タイトラー『一般史』」(熊田泰章編『国際文化研究への道 : 共生と連帯を求めて』所収,彩流社,2013 年。)
(*)南塚信吾「箕作麟祥と『万国新史』の世界」(熊田泰章編『国際文化研究への道 : 共生と連帯を求めて』所収,彩流社,2013 年。)
(*)長谷川貴彦「二宮[宏之]史学との対話 史学史の転換点にあたって(シンポジウム報告歴史唐の問い/歴史への問い)」Quadrante : クヴァドランテ : 四分儀 : 地域・文化・位置のための総合雑誌 15,2013 年。)
(*)吉野浩司「歴史社会学者としての宮崎市定 : 東洋史からアジア史そして世界史へ」東アジア評論 5,2013 年。
(*)高畠純夫「戦後日本におけるギリシア・ローマ史の歴史」東洋大学人間科学総合研究所紀要15,2013年。
(*)(参考 : 本村凌二『勇気,寛容,先見性の51人に学ぶ』世界史の叡智,中公新書,中央公論新社,2013年。)
(*)(参考 : 本村凌二『ゼロからわかるローマ帝国 : 決定版』学研パブリッシング,学研マーケッティング(発売),2013年。)
(*)(参考 : 三佐川亮宏『ドイツ史の始まり : 中世ローマ帝国とドイツ人のエトノス生成』創文社,2013 年。)
(*)(参考 : 藤波伸嘉「オスマンとローマ : 近代バルカン史学史再考(研究動向)」史学雑誌122(6),2013 年。)
(*)(参考 : 青柳正規「彙報 国際学士院連合第85,86回総会報告」日本學士院紀要67(1,3)、2013年。)
(*)村松晋「吉満義彦の時代認識と〈実践〉 :「近代の超克」論への一視角」聖学院大学論叢25(2),2013年。
(*)楠元町子「明治の新聞を活用した歴史の授業 : 明治時代にグローバルに活躍した郷土の偉人・中村直吉」研究論文 実践報告 学び舎 : 教職課程研究8,2013年。
(*)星亮一『井深梶之助』平凡社, 2013年。
(*)中村健之介『ニコライ—価値があるのは他を憐れむ心だけだ』ミネルヴァ書房,2013年。
(*)箕浦恵了『清沢満之と宗教哲学—近代日本の学問形成史小景』法藏館,2013年。
(*)今村仁司『清沢満之と哲学』オンデマンド版, 岩波書店,2013年。
(*)川瀬和也「フェノロサ講義 : ヘーゲル論(清沢満之筆記)(中下)」ヘーゲル哲学研究19,2011年/21,2015年。
(*)清沢満之『フェノロサ「哲学史」講義』(出版者不明),2013年。
(*)山折哲雄『さまよえる日本宗教』(百合若大臣)中央公論新社,2013年。
(*)若松英輔「吉満義彦(11)詩人の神・哲学者の神」三田文学[第3期]92(115),2013年。
(*)(参考 : 岡崎勝世『科学vs キリスト教 : 世界史の転換』講談社現代新書,2013年。)

(*)(参考：ブッツガー原著/コーネルセン社ブッツガー原編/帝国書院編集部編・河合信晴,内田滋訳『ブッツガー歴史地図日本語版』帝国書院,2013年。)
(*)(参考：栗原裕次「歴史の継承と哲学的跳躍—ヘロドトスを学ぶヘーゲルの「世界史哲学講義」エジプト論」」ペディラヴィウム68,2013年。)
(*)(参考：飯郷友康「石臼—聖書と説話学」ペディラヴィウム68,2013年。)
(*)(参考：小柳津菜都美・花里利一「9334海外の地震国における世界遺産組積造建築物の耐震性にモニタリング調査:(4)パルテノン神殿における地震記録と構造解析(保存：地震・耐震・防災,建築歴史・意匠,2013年度日本建築学会大会(北海道)学術講演会・建築デザイン発表会)」建築歴史・意匠2013,2013年。)
(*)(参考：大塚和樹・伊藤重剛・岩田千穂「地中海古代都市の研究(139,140)」日本建築学会研究報告,九州支部編 52,2013 年。)
(*)(参考：浦山侑美子・堀賀貴「822 ポンペイの住宅(VII,15,6 および 7)における建築編年に関する調査(歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部編 52,2013 年。)
(*)(参考：吉武隆一「古代都市メッセネのアスクレピオス神殿のストアにおける建築装飾の様式分析」日本建築学会計画系論文集 78(684),2013 年。)
(*)(参考：吉武隆一「古代都市メッセネの劇場スカエナエ・フロンスにおける建築装飾の様式および建設年代」日本建築学会計画系論文集 78(684),2013 年。)
(*)(参考：吉武隆一「古代都市メッセネのアスクレピオス神域のストアにおける建設技術」日本建築学会計画系論文集 78(685),2013 年。)
(*)(参考：吉武隆一「古代都市メッセネの劇場におけるカエナエ・フロンスの新たな復原案」日本建築学会計画系論文集 78(691),2013 年。)
(*)(参考：川本悠紀子「9370 ウィトルウィウス『建築書』第6書第5章を読み直す(西洋：古代,建築歴史・意匠,2013年度日本建築学会大会(北海道)学術講演会・建築デザイン発表会)」学術講演梗概集2013（建築歴史・意匠）,2013年。)
(*)(参考：島田誠「Iocus celeberrimus：古代ローマにおける記念建造物の設置と元老院決議等の公示について」西洋史研究42,2013年。)
(*)(参考：吉村作治先生古稀紀年論文集編集委員会編『永遠に生きる：吉村作治先生古稀紀年論文集：eternal life』中央公論美術出版,2013年。)
----遠藤孝治「新王国時代とプトレマイオス王朝時代の石切り場に見られる赤線と文字の比較研究」
(*)(参考：佐々木悠「人・土地・業績 人型へのまなざし：造形美術にみる“肥満”と“痩せ”(9)古代ギリシャ「ヘレニズム時代の造形美術(3)」内分泌・糖尿病・代謝内科36(4),2013年。)
(*)(参考：トビー・レスター/宇丹貴代実訳『ダ・ヴィンチ・ゴースト：ウィトルウィウス的人体図の謎』筑摩書房,2013年。)
(*)(参考： 武野純一『ビザンティン建築の謎：世界遺産に潜む都市防衛機能』B&Tブックス,日刊工業新聞社,2013年。)
(*)(参考：桑木野幸司『叡智の建築家：記憶のロクスとしての16-17世紀の庭園・劇場・都市』中央公論美術出版,2013年。)

(*)(参考：ヴァルター・グルビウス/桐敷真次郎訳『建築はどうあるべきか：デモクラシーのアポロン』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2013年。)
(*)平山令二「書評『日本を愛したドイツ人：ケンペルからタウトへ』島谷謙著」世界文学117,2013年。
(*)(参考：フランチェスカ・プリーナ/新保淳乃・飛ヶ谷潤一郎訳『イタリア人が教える日本人の知らない建築の見かた』エクスナレッジ,2013年。)
(*)浅野伸子・伊郷吉信・村川夏子「明治後期から昭和初期までの村川堅固邸及び別荘に関する調査研究」住総研研究論文集 39,2013 年。)
(*)(参考 : 伊藤公『オリンピック裏話 : あなたもこれで五輪雑学博士』ぎょうせい,2013 年。)
(*)(参考：ミヒャエル・ディットリッヒ監督『ピエール・土・クーベルタン：過去,そして現在=Pierre de Coubertin : yesterday and today』ビデオレコード,日本オリンピック・アカデミー,2013 年。)
(*)(参考：土屋靖明「クーベルタン男爵の原点としての英国パブリックスクール・ラグビー校校長のトーマス・アーノルド博士の指導者像：トマス=ヒューズ『トム=ブラウンの学校生活』(1857 年)とバートランド=ラッセル卿『教育論』(1926 年)との着目して」教育思想 40,2013 年。)
(*)(参考：伴義孝『大島鎌吉というスポーツ思想：脱近代化の身体文化論』関西大学出版部,2013 年。)
(*)(参考 : 鏡リュウジ「夢と占星術(特集 快眠へと導く植物のチカラ)」Aromatopia 22(5),2013年。)
(*)(参考：長尾伸一「明治初期の天文学と世界の複数性論」(名古屋大学経済学会)経済科学61(3),2013 年。)
(*)(参考：佐々木悠「人・土地・業績 人型への眼差し：造形美術にみる“肥満”と“痩せ”(6)エーゲ海「キクラデス文明」の石偶」
(*)(参考：高原桐『ヒポクラテスの樹：東大構内の草木と遊ぶ』西田書店,2013 年。)
(*)(参考：本間司「ヒポクラテス書簡に於ける「笑い」について：医師と哲学者の世界観から(永岡健右教授退職記念号)」(日本大学通信教育部通信教育研究所)研究紀要 26,2013 年。)
(*)(参考：菊本智之「ヒポクラテスの健康観と健康プロデュース雑誌」健康プロデュース雑誌 7(1),2013 年。)
(*)(参考：品川信良「現代医療とヒポクラテスの誓い(転職コーナー青森県医師会「論説欄」から)セミナー医療と社会 40,2013 年。)
(*)(参考：坂井建雄・池田黎太郎・澤井直,安西なつめ「ガレノス『身体諸部分の用途について』第 2 巻の解題と翻訳」日本医史學雑誌 59(1),2013 年。)
(*)(参考：澤井直「(24)16 世紀における古代ギリシア解剖学の受容の多様性(一般口演,一般演題抄録,第 41 回日本歯科医史学会・第 114 回日本医史学会合同総会および学術大会)」日本歯科医史学会会誌 30(2),2013 年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐるパノラマ(35)パラケルススの遺産」綜合看護48(1), 2013年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐるパノラマ(36)フーフェラント」綜合看護48(2), 2013年。)
(*)(参考：真壁伍郎「健康をめぐるパノラマ(37)健康・その時代ごとのの姿」綜合看護48(3), 2013年。)

(*)(参考：寺林進「生薬の基原,特に薬用部位および基原植物の学名について」(ラテン語)日本東洋医学雑誌64(2),2013年。)
(*)(参考：千葉恵「博物学者アリストテレスとダーウィン—目的論的自然観と進化論は両立可能か」(池田透編『生物という文化—人と生物の多様な関わり』所収,北海道大学出版会,2013 年。)
(*)(参考：丸橋裕「生命の自然治癒力--V.v.ヴァイツゼッカーの『エス』の概念をめぐって」兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要 20,2013 年。)
(*)(参考：緒方正則・池森寛・堤一郎「S202013 トルコの二輪牛車の実地調査研究：第 1 報；エフェソス博物館[S202-1]機械技術史・工学史(1)](日本機械学会)年次大会 2013,2013 年。)
(*)(参考：久田真「古代ローマ・コンクリートから学べること」日本コンクリート工学会「コンクリート工学」51-1,2013 年。)
(*)(参考：谷甲州『星を創る者たち』(ヴィーナス)NOVA コレクション,河出書房新社,2013年。)
(*)(参考：榎本恵美子『天才カルダーノの肖像・ルネサンスの自叙伝,占星術,夢解釈』bibliotheca hermeteica 叢書,勁草書房,2013 年。)
(*)(参考：榎本恵美子「跳躍するインテレクチュアル・ヒストリー(2)ルネサンスの自叙伝：カルダーノ『わが人生の書』を読み解く」UP42(10),2013 年。)
(*)(参考：山本和人「「自然学」への予備的考察」成安造形大学紀要 4,2013 年。)
(*)(参考：瀬口昌久「西洋哲学の観点からみる日本の技術者倫理—プラトン的アプローチ」電気学会研究会資料 25-38,2013 年。)
(*)(参考：瀬口昌久「自然と技術—プラトン的転回」関西哲学会年報 21,2013 年。)
(*)(参考：青木薫『宇宙はなぜこのような宇宙なのか：人間原理と宇宙論』講談社現代新書,講談社,2013 年。)
(*)(参考：向井朋生「地中海を舞台にした古代ローマ経済のグローバリゼーション(2013 年度歴史学研究会大会報告：変容する地域秩序と境域：蝦夷地と中央ユーラシアの経験から)—(合同部会 歴史のなかの海域：海がつなぐ/隔てる世界)」歴史学研究 911,2013 年。)
(*)(参考：太田孝太郎「「ノモス」と「ピュシス」--古代思想から近代思想へのその展開」広島経済大学研究論集 36,2013 年。)
(*)(参考：森香樹「ソクラテスと現代：古代ギリシャの自由と民主主義と霊性について」人間幸福学研究5(3),2013年。)
(*)稲村一隆「書評『アリストテレス政治哲学の重層性』(荒木勝著)」社会思想史研究：社会思想史学会年報37,2013年。
(*)(参考：トマス・アクィナス/山本耕平訳『アリストテレス：ポリティカ全 8 巻への聖トマス・アクィナスの註解(1,2)』研究所紀要16,2013年/17,2014年。)
(*)(参考：波部雄一郎「〈シンポジウム〉エーゲ海域におけるプトレマイオス朝権力の受容：「諸島民のコイノン」と外国判事」関学西洋史論集36,2014年。)
(*)(参考：西村昌洋『後期ローマ帝国における頌辞と政治文化：言説・統治の技法・ローマ理念』京都大学,博士(文学),甲第17273号,2013年。)
(*)(参考：豊川慎「近代デモクラシーとプロテスタンティズム：A.D.リンゼイのピューリタン・デモクラシー論を手掛かりに(ヨーロピアン・グローバリゼーショ

ンの歴史的位相：「自己」と「他者」の関係史)—(ヨーロッパにおける「ヨーロッパ化」の定着)」アジア遊学165,2014年。)
(*)(参考：長谷川敬・和栗珠里・和田杏子「合同部会 向井明生 地中海を舞台にした古代ローマ経済のグローバリゼーション 高田良太港湾都市カンディアからみた中世後期の東地中海 薩摩真介 海,略奪,法 鈴木英明 インド洋西海域経済世界の可能性(2013年度歴史学研究会大会報告批判)」歴史学研究913,2013年。)
(*)堀和考察「竹越与三郎と『日本経済史』：近代日本史学史の知られざる一面」近代日本研究30,2013年。
(*)(参考：鹿子生浩輝『征服と自由』(マキャヴェッリ)風行社,2013年。)
(*)(参考：澤井繁男『若きマキアヴェリ』東京新聞,2013年。)
(*)(参考：森一郎「自然的平等について：近代道徳の系譜学のための一覚書」東京女子大学紀要論集63(2),2013年。)
(*)(参考：将棋面貴己『ヨーロッパ政治思想の誕生』(アリストテレス)名古屋大学出版会,2013年。)
(*)(参考：ヘルマン・ヘラー/永井健晴訳『ヘーゲルと国民的権力国家思想』風行社,2013年。)
(*)(参考：豊川慎「近代デモクラシーとプロテスタンティズム：A.D.リンゼイのピューリタン・デモクイラシー論を手掛かりに(ヨーロピアン・グローバリゼーションの歴史的位相：「自己」と「他者」の関係史)---(ヨーロッパにおける「ヨーロッパ化」の定着)」アジア遊学165,2013年。)
(*)(参考：上谷修一郎「レオ・シュトラウスにおける哲学と政治の両義性に関する一考察---「『ミノス』について」を手掛かりに」(政治哲学研究会)政治哲学14,2013年。)
(*)(参考：飯島昇藏「レオ・シュトラウス『都市と人間』についての覚え書き—Notes on Leo Strauss,TheCity and Man」」(政治哲学研究会)政治哲学15,2013年。)
(*)(参考：三石善吉『ナチス時代の国内亡命者とアルカディアー：抵抗者たちの桃源郷』世界人権問題叢書85,明石書店,2013年。)
(*)(参考：Yagi Naoko‘Literary Imagination,Ancient and Modern：A Voyage around the Grene Festschrift’(政治哲学研究会)政治哲学15,2013年。)
(*)(参考：パク ポムメ「韓国の論調“従北”マッカーシズム攻勢とトロイの木馬：朴槿恵政権の維新独裁回帰と労働者階級の問題」社会評論175,2013年。)
(*)前野弘志「高畠純夫著『アンティフォンとその時代—前5世紀アテナイの社会・思想・人間』東海大学出版会,2011」史学雑誌122(3),2013年。
(*)(参考：柴田光藏「ラテン語法格言めぐり(38)このことは,なんら,私たちに関係せず,キケローに関係する」時の法令1941,2013年。)
(*)森光「鳩山和夫「羅馬契約法沿革」について」(中央大学学友会学術連盟英米法研究会)英米法学52,2013年。
(*)(参考：波部雄一郎「エーゲ海域におけるプトレマイオス期権力の変容」「諸島民のコイノン」と外国人判事」関学西洋史論集36,2013年。)
(*)川口雄一『和辻哲郎と南原繁：戦時期日本における哲学と政治』成蹊大学,博士(政治学),甲第88号2013年。
(*)(参考：山田到史子「ラインハルト・ツィマーマンにみる歴史比較法学：日本におけるロ

ーマ法を源とするヨーロッパ法継受の意味の検討序論(松浦好治教授退職記念論文集)」名古屋大学法政論集250,2013年。)
(*)(参考：傅德元『丁韙良與近代中西文化交流』基督宗教與東亞研究,國立台灣大學出版中心,2013年。)
(*)(参考：中村敏子「ホッブズの「ファミリー」概念に対するローマ法の影響」北海学園大学法学研究49(1),2013年。)
(*)(参考：アンドレーアス・ヴァッケ/沢田裕治訳「Casum sentit dominus：ローマ法及び現代ドイツ物権法・債権法における偶発的損害に対する責任」山形大学法政論叢56,2013年。)
(*)(参考：粟辻悠『古代ローマ帝政後期における弁護人』京都大学,博士(法学),甲第17302号,2013年。)
(*)(参考：隅谷史人「ローマ法由来の指図(delegato)のドイツ法への継受：原因関係上の既存債務からの独立を中心に」法學政治學論究：法律・政治・社会96,2013年。)
(*)(参考：オイゲン・ヴォールハウプター/堅田剛編訳『ゲーテとサヴィニー』詩人法律家,御茶の水書房,2013年。)
(*)(参考：岡徹「サヴィニーのDe concurus delictorum formaliについて(1-4)」関西大学法学論集63(2),2013年/64(1),2014年。)
(*)吉原丈司・吉原達也編著『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授・千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士・池辺義象氏略年譜・著作目録：日本ローマ法学七先生略年譜・著作目録』新訂版,2013 年。
(*)「『ローマ法・法制史学者著作目録選』第 10 輯(春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授・千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士・池辺義象氏略年譜・著作目録,CD-Rom 版)」国立国会図書館請求番号 YH251-L106,2013 年。
(*)(参考：竹下賢・宇佐見誠編『法思想史の新たな水脈：私法の源流へ』昭和堂,2013 年。)
(*)(参考：山口廸彦「イェーリング学 50 年：著訳書の基本構想」日本大学法科大学院法務研究10,2013年。)

(*)(参考：暉峻衆三「大谷禎之介・平子友長編『マルクス抜粋ノートからマルクスを読む』を読む」季論21：intellectual and creative24,2014年。)
(*)(参考：マルクス/中山元訳『ユダヤ人問題に寄せて：ヘーゲル法哲学批判序説』光文社,光文社古典新訳文庫,2014 年。)
(*)飛鳥昭雄・宝玉麗・島茂人『日本史超どんでん返し：世界文明の玉手箱《沖縄》から飛び出す：琉球は「ヘブライ」なり「平家」なり「マヤ・インカ」なり』ヒカルランド,2014 年。
(*)(参考：山崎正和著/方明生・方祖鴻譯『世界文明史：舞踊与神話』上海訳文出版社,上海世紀出版股份有限公司爰行中心(爰行),2014 年。)
(*)増田修「北米,南欧,北欧を渡り歩いて」視覚の科学 35(3),2014 年。
(*)水木洋子・林綾野図録編集・執筆『安野光雅ヨーロッパ周遊旅行』アートキッチン,2014年。
(*)(参考：石本東生「伝統的集落景観&食文化が織りなす持続可能な観光とアコモデーションビジネス―ギリシャ・エーゲ海地域における事例研究」奈良県立大

学研究季報 24(2),2014 年。)
(*)(参考 : 石本東生「持続可能な観光発展における文化遺産環境の保存・再生とその重要性 : 「エーゲ海・サントリーニ島」における伝統的建造物集落の再生事例から」日本国際観光学会論文集 21,2014 年。)
(*)(参考 : 大村幸弘「アナトリア考古学研究所からの報告(18)真冬のアナトリア高原で春を待つ」Anatolia news 138,2014年。)
(*)(参考 : 大村幸弘著・大村次郷写真『トロイアの真実 : アナトリアの発掘現場からシュリーマンの実像を踏査する』山川出版社,2014年。)
(*)清水重敬・河上眞理『辰野金吾』佐賀偉人伝 8,佐賀県立佐賀城本丸歴史館,2014 年。
(*)大塚菜生『東京駅をつくった男 : 日本の近代建築を切り開いた辰野金吾』くもん出版,2014 年。
(*)(参考 : フランソワ・ギゾー/安土正夫訳『ヨーロッパ文明史 : ローマ帝国の崩壊よりフランス革命にいたる』新装版,みすず書房,2014 年。)
(*)(参考 : 長谷川奏『「図説」地中海文明の考古学 : エジプト・物質文化研究の試み』彩流社,2014 年。)
(*)(参考 : 鈴木董「比較文化史的人類文明史としての「世界史」への展望と文字世界としての文化世界(コラム 歴史の風)」史学雑誌 123(1),2014 年。)
(*)島田竜登「梅棹忠夫『文明の生態史観』とグローバル・ヒストリー : 歴史叙述の新たなパラダイムを求めて(小特集 比較文明学の源流を問う)」比較文明 30,2014 年。
(*)(参考 : 水野朝夫「610 水は文明形成に如何に影響したか : 水と文明の関わり合い(OS12&16-1 技術の伝承/技術と社会(1),Osq12&16 技術の伝承/技術と社会)」東海支部総会講演会講演論文集 2014(63),2014 年。)
(*)(参考 : 水谷千秋「講義「芸術と文明」新しい大学教養科目の試み : 第一講~第四講 人類の進化から古代文明の開花まで」堺女子短期大学紀要 49,2014 年。)
(*)(参考 : ムハメド・ハシヌ=ファンタール/三浦信孝訳「講演論文 地中海文明の起源」比較文明研究 19,2014 年。)
(*)平泉澄/植村和秀[解説・補注]「平泉澄博士の滞欧研究日記(1-8)」藝林 63(1,2),2014 年/64(2),2015 年/65(1,2,),2016 年/66(1,2,),2017 年/67(1),2018 年。
(*)竹長吉正「野上豊一郎,精神世界の批評性 : 著書『西洋見学』を中心に」白鴎大学教育学部論集 8(2),2014 年。
(*)石渡長門「碧い海・青い空と歴史に彩られた港町 : 「ルイス・オリンピア」のエーゲ海クルーズに乗って」世界の艦船 808,2014 年。
(*)『歌姫クロニクル 1966-1984』(「魅せられて—エーゲ海のテーマ(ジュディ・オング)」)録音ディスク,Sony Misic Direct(Japan),2014 年。)
(*)『クライマックス—best 歌謡曲—Climax』(「魅せられて—エーゲ海のテーマ(ジュディ・オング)」録音ディスク 2 枚,Sony Music Direct(Japan),2014 年。
(*)(参考 : キャサリン・ガーベラ原作・佐柄きょうこ訳『エーゲ海に呼ばれて・セレブに恋して I』ハーレクイン・コミックス★キララ,ハーレクイン,2014 年。)
(*)(参考 : サクヤカイシ著・ケイト・ヒューイット原作『エーゲ海の花嫁』ハーレクイン・コミックス★キララ,ハーレクイン,2014 年。)
(*)(参考 : レベッカ・ウインターズ作・後藤美香訳『エーゲ海の独身貴族』ハーレクイーン・イマージュ愛の死者 1,ハーレクイン,2014 年。)

(*)(参考：レベッカ・ウインターズ作・冬木るりか訳『エーゲ海のプリンス』ハーレクイーン・コミックス,,ハーレクイン,2014 年。)
(*)(参考：エリー・ウィンズロー原作・絹野りせ著『エーゲ海のささやき』ロマンスコミックス,宙出版,2014 年。)
(*)(参考：武末祐子「ピラネージの廃墟とグロテスク(1,2)」西南学院大学フランス語フランス文学論集 57,2014 年。)
(*)(参考：島根県立美術館,Bunkamura ザ・ミュージアム編『水辺のアルカディア：ビュヴィス・ド・シャヴァンヌの神話世界=Arcadia by the shore : the myth world of Puvis de Chavannes』島根県立美術館,2014 年。)
(*)(参考：鈴木博之『夢のすむ家：20 世紀をひらいた住宅』白楊社,2014 年。)
(*)(参考：八重野統摩『犯罪者書館アレクサンドリア：殺人鬼はパピルスの森にいる』メディアワークス文庫,KADOKAWA,2014 年。)
(*)中井義明「アクロポリス—近代ギリシアの象徴と記憶」文化学年報 63,2014 年。)
(*)(参考：北政巳「ヴィクトリア期英帝国の繁栄とエルギン伯爵一族の歴史：スコットランド貴族の参画と貢献(堀元教授退職記念号)」創価経済論集 43(1-4),2014 年。)
(*)(参考：村田奈々子「バルカン戦争期のヘレニズム言説」言語と文化 11,2014 年。)
(*)武村陽子『歴史を旅する イタリアの世界遺産』山川出版社,2014 年。
(*)(参考：松田陽『実験パブリックアーケオロジー』同成社,2014 年。)
(*)(参考：立川武蔵著・大村次郷写真『聖なるものの「かたち」：ユーラシア文明を旅する』岩波書店,2014 年。)
(*)(参考：勝又俊雄「二人のスティリアーノス」日本ギリシャ協会会報 135, 2014 年。)
(*)(参考：勝又俊雄「シュリーマンと 19 世紀新古典主義(61,62)」日本ギリシャ協会会報 135, 2014 年/136,2015 年。)
(*)地球の歩き方編集室著作編集『イスタンブールとトルコの大地』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2015-16 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『ギリシアとエーゲ海の島々&キプロス』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2015-16 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2015-16 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ローマ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2015-16 年。
(*)地球の歩き方編集室編『フィレンツェとトスカーナ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2015-16 年。
(*)地球の歩き方編集室編『チェニジア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2015-16 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『トルコ』改訂 3 版,地球の歩き方 5,ダイヤンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2014 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『イタリア』改訂 2 版,ダイヤンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2014 年。
(*)波部雄一郎「都市紹介ボドルム--「歴史の父」の故郷をたずねて」関西大学西洋史論叢 17,2014 年。
(*)青木真兵「都市紹介 カルボニアとサンタンティオコ—サルデーニャ島発掘記」関西大学

西洋史論叢 17,2014 年。
(*)時枝正「ある古い図書館を訪ねて」西洋古代史研究13,2014年。
(*)南川高志「ウィーンのローマ帝国」西洋古代史研究 13,2014 年。
(*)(参考：南川高志「拙著『新・ローマ帝国衰亡史』の参考文献について」西洋古代史研究 13,2014 年。)
(*)(参考：南川高志「アウグスタ・ラウリカ―スイスのローマ都市の衰退について」西洋古代史研究 14,2014 年。)
(*)(参考：マッシモ・パロッティーノ/小川熙訳『エトルリア学』同成社,2014 年。)
(*)(参考：H.G.ベック/戸田聡訳『ビザンツ世界論：ビザンツの千年』知泉書院,2014 年。)
(*)草生久嗣「井上浩一・根津由喜夫編「ビザンツ交流と共生の千年帝国」(昭和堂)」史学雑誌 123(11),2014 年。
(*)波部雄一郎「新刊紹介 井上浩一・根津由喜夫編「ビザンツ：交流と共生の千年王国」」関学西洋史論集 37,2014 年。
(*)北原みのり「メディア仕分け人(93)映画『ポンペイ』を観た。これは日本では流行らない。直視するには厳しすぎる現実が描かれているから。」金曜日 22(24),2014 年。)
(*)(参考：ポール・アンダーソン監督,ジャネット・スコット・バチェラー他脚本『ポンペイ』レンタル専用ビデオレコード,ギャガ(発売,販売),2014 年。)
(*)井上修一「世界遺跡巡り(2)ポンペイ」季刊邪馬台国 120,2014 年。
(*)井上修一「世界遺跡巡り(3)コロッセオ(円形劇場)」季刊邪馬台国 121,2014 年。
(*)井上修一「世界遺跡巡り(5)遙かなるシルクロード：交河古城を中心に」季刊邪馬台国 123,2014 年。
(*)(参考：「Port Story シリーズ「ミナトと文化」(14)イスタンブールの歴史と魅力」中央公論 129(5),2014 年。)
(*)(参考：芳賀満「ガンダーラの出家踰城図における女神デュケーの図像―そのタイプ分類とヘレニズム時代ギリシアの視点からの新解釈」仏教芸術 333,2014 年。)
(*)(参考：内記理「ガンダーラ紀年銘彫刻の製作年代」美術史 63(2),2014 年。)
(*)(参考：長谷部史彦編・関哲行他著『地中海世界の旅人：移動と記述の中近世史』慶應義塾大学言語文化研究所・慶應義塾大学出版会(発売),2014 年。)
(*)(参考：保坂高殿編『古代地中海世界に於ける文化変容の諸断面』千葉大学人文社会科学研究科,千葉大学社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書 269 集,2014 年。)
(*)(参考：高橋謙公「13 世紀後半におけるシチリア王国の地中海政策：シチリアを巡る諸特権を中心に」西洋史論叢 36,2014 年。)
(*)(参考：波部雄一郎『プトレマイオス王朝と東地中海世界―ヘレニズム王権とディオニュシズム』関西学院大学出版会,2014 年。)
(*)(参考：周藤芳幸『ナイル世界のヘレニズム：エジプトとギリシアの遭遇』名古屋大学出版会,2014 年。)
(*)(参考：周藤芳幸「南部エジプト大反乱と東地中海世界」名古屋大学文学部研究論集・史学 60,2014 年。)
(*)(参考：阿部拓児『ペルシア帝国期キュプロスの社会と文化』京都府立大学 2012 年,(科研費)2014 年。)

(*)(参考 : 磯崎新・日埜直彦『磯崎新インタヴューズ』(「エーゲ海の都市」)LIXIL 出版,2014 年。)
(*)田中總太郎「宇宙から見たユネスコ世界遺産(89)エルサレム旧市街とその城壁群」地理 59(4),2014 年。
(*)田中總太郎「宇宙から見たユネスコ世界遺産(92)トロイの考古遺跡」地理 59(10),2014 年。
(*)田中總太郎「宇宙から見たユネスコ世界遺産(93)ミケーネとティリンス古代遺跡群」地理 59(12),2014 年。
(*)(参考 : 大清水薫『プロト・アッティカ式陶器と神話表現 : 葬制における再検討』筑波大学,博士(文学),甲第 6999 号,2014 年。)
(*)(参考 : 堀賀貴「817 レーザースキャニングによるオスティア遺跡の 3D 化について : ポンペイ,オスティア都市・建築研究(1)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 53,2014 年。)
(*)(参考 : 太記祐一・川本智史「822 トロス遺跡のバシリカ聖堂について(歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 53,2014 年。)
(*)(参考 : 中道大樹・堀賀貴「古代ローマ,オスティアにおける鱗(うろこ)模様モザイクの制作過程に関する考察 : ポンペイ,オスティア都市・建築研究(2)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 53,2014 年。)
(*)(参考 : 堀賀貴「オスティア内でのレーザー測量と全体地図の校訂」平成 22-24 年度科研費報告書『古代イタリア半島港湾都市の地政学的研究』(代表 : 豊田浩志)所収,2014 年。)
(*)(参考 : 片山伸也「ルネサンスのパラッツォにおける古代ローマ店舗の開口形状の継承に関する考察」平成 22-24 年度科研費報告書『古代イタリア半島港湾の地政学的研究』(代表 : 豊田浩志)所収,2014 年。)
(*)(参考 : 黒田泰介「ポッツオーリ大聖堂の再生設計競技案に見る古代遺構の再生手法」平成 22-24 年度科研費報告書『古代イタリア半島港湾の地政学的研究』(代表 : 豊田浩志)所収,2014 年。)
(*)(参考 : 黒田泰介「古代遺構の転用による中世都市組織の形成—ルッカ、ローマ、ボルゴ・ディ・オスティア」平成 22-24 年度科研費報告書『古代イタリア半島港湾の地政学的研究』(代表 : 豊田浩志)所収,2014 年。)
(*)(参考 : 毛利晶「ローマ共和政におけるオスティア—2008~2010 年度実施の現地調査に関する報告」平成 22-24 年度科研費報告書『古代イタリア半島港湾の地政学的研究』(代表 : 豊田浩志)所収,2014 年。)
(*)(参考 : 豊田浩志・加藤磨珠枝・藤井悠子「第 16 回キリスト教考古学学会国際大会参加記」ソフィア 241,2014 年。)
(*)(参考 : 坂田道生「《ハドリアヌスの円形浮彫り群》の図像解釈について : 犠牲式と狩猟の図像伝統に照らして」美術史 63(2),2014 年。)
(*)北原みのり「メディア仕分け人(vol.93)映画『ポンペイ』を観た。これは日本では流行らない。直視するには厳しすぎる現実が描かれているから。」金曜日 22(24),2014 年。
(*)(参考 : ヴィルヘルム・イェンゼン作/山本淳訳『グラディーヴァ : ポンペイ空想物語 : 精神分析的解釈と表象分析の試み』松柏社,2014 年。)
(*)(参考 : ヴィルヘルム・イェンゼン著,ジークムント・フロイト著/種村季弘訳『グラディ

ーヴァア：妄想と夢』平凡社,平凡社ライブラリー807,2014 年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「『ローマの女』のローマ性(人文学会創設 60 周年記念号)」人文研究 182,2014 年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「「ヴィットリアーノ」の内と外：ヴィットリオ・エマヌエーレ二世国立記念堂の見る〈ローマ〉」人文研究 184,2014 年。)
(*)伊豆平成著/ヤマザキマリ原作/橋本裕志脚本『テルマエ・ロマエ：小説版』角川文庫, KADOKAWA,2014 年。
(*)ヤマザキマリ原作/武藤将吾脚本/武内英樹監督『テルマエ・ロマエ II』[市販用,セル専用] ビデオレコード,フジテレビジョン,東宝(発売),2014年。
(*)ヤマザキ マリ,とり みき「プリニウスを探してナポリ「炎上」旅行記」新潮 45,33(1),2014 年。
(*)ヤマザキ マリ「インタヴュー 私のフィレンツェ「美術系移民」時代(特集 イタリア・ルネサンスの宝石箱ウフィツィものがたり)芸術新潮 65(10),2014 年。
(*)町田忍・ヤマザキ マリ「対談 日本人もローマ人も夢中だった すべての道は銭湯に通ず(特集 銭湯万歳!)」中央公論 129(3),2014 年。
(*)ヤマザキ マリ「美術に恋して,イタリアを愛して(特集 美術館を“発見”する)—(私と美術館)」Kotoba：多様性を考える言論誌 14,2014 年。
(*)ヤマザキ マリ「インタヴュー 私のフィレンツェ「美術系移民」時代(特集 イタリア・ルネサンスの宝石箱ウフィツェ美術館ものがたり)」芸術新潮 65(10), 2014 年。)
(*)ヤマザキ マリ「時代を拓くコンセプト ローマに学ぶ成熟国家への道」Voice437,2014 年。
(*)(参考：小佐野重利「ウフィツィ美術館で出あう名品中の名品たち(特集 イタリア・ルネサンスの宝石箱 ウフィツィ美術館物語)」芸術新潮 65(10),2014 年。)
(*)(参考：秦明子「ロレンツォ・デ・メディチの宇宙論的自然観：ポッジョ・ア・カイアーノ正面入口フリーズの解釈をめぐって(第65回美学会全国大会発表要旨)」(新プラトン主義)美学65(2),2014年。)
(*)(参考：くろにゃこ他マンガ『「宗教・神話」を描いた画家：ボッティチェリ/ダ・ヴィンチ,ミケランジェロ,ラファエロ/ティツィアーノ/エル・グレコ/ルーベンス』マンガ西洋美術史2,美術出版社,2014年。)
(*)山藤正敏「ペトラ近郊のローマ時代—ヨルダン南部ショウバック北地域における考古学調査」ヘレニズム~イスラム考古学調査 21,2014 年。
(*)宮下佐江子「パルミラ饗宴図像の容器 III——両把手付杯のパルミラでの受容に付いて」ヘレニズム~イスラム考古学調査 21,2014 年。
(*)堀岡晴美「陶工の職域—シュメール語文献史料に基づく調査」」ヘレニズム~イスラム考古学調査 21,2014 年。
(*)春日晴郎「ローマ人と関連する可能性のあるイラン,ウズベキスタンの遺構」ヘレニズム~イスラム考古学調査 21,2014 年。
(*)(参考：内村和至「文芸メディアの冒険：アルゴナウティカの行方(特集,それは何か?〈よむ〉とは)—(イントロダクション)」文芸研究：明治大学文学部紀要 123,2014 年。)
(*)(参考：山中由里子「驚異の体系化：共同研究：驚異譚にみる文化交流の諸相—中東・ヨ

ーロッパを中心に(2010-2013)」民博通信 144,2014 年。)
(*)(参考：長谷部史彦編・関哲彦執筆『地中海世界の旅人：移動と記述の中近世史』慶應義塾大学言語文化研究所,慶應義塾大学出版会(発売),2014 年。)
(*)(参考：ステューヴン・ミズン/赤澤誠・森夏樹訳『渇きの考古学：水をめぐる人類のものがたり』青土社,2014 年。)
(*)(参考：松田陽『実験パブリックアーケオロジー』同成社,2014 年。)
(*)(参考：小原泰彦「低速拡大海嶺のリソスフェアの成長と進化：大西洋アトランティスマシップにおける IODP304/305 掘削(総特集 総合国際深海掘削計画(IODP)：2003 年から 10 年の成果(上巻) –(IODP10 年の成果)」号外地球 64,2014 年。)
(*)石井英夫「今月この一冊 原田忠雄『世界は珠の如し』」Will 1 月号,2014 年。
(*)田中久文「和辻哲郎『風土』」(苅部直他編『岩波講座 日本の思想』所収,岩波書店,2014 年。)
(*)佐藤光友「人間形成と風土：高校教科書にみる和辻哲郎「風土論」を中心にして」北東アジア文化研究 39,2014 年。
(*)(参考：南雲泰輔「古代地中海世界と日本(特輯 西洋古代史の語り方：現代日本社会のために)」古代文化 65(1),2014 年。)
(*)(参考：土屋榮夫『地球と人類の歩み：ノアの洪水(紀元前 6500)からキリスト生誕まで』以文社,2014 年。)
(*)(参考：青木真兵・田中宏幸・大城道則「歴史的考察から得られるギリシア・パルテノン神殿の耐震性能低下の可能性とミュオグラフィによるその評価について」駒澤史学 82,2014 年。)
(*)(参考：Chiran『東京直下地震 3 年以内震度 9：東京を守っていたのは“宇宙の人”たちだった：まもなく始まる宇宙維新と地球大掃除の基礎知識：ノアの洪水の水は月から降ってきた 火星に住む地球人は 20 万人』サンズ,三栄書房(発売),2014年。)
(*)(参考：アジア考古学四学会編『アジアの墓』(周藤芳幸「ギリシアの墓：ミケーネ時代の「王墓」を中心に」)」アジアの考古学2,アジア考古学四学会合同講演会実行委員会,高志書院,2014年。)
(*)(参考：ペン編集部編『美の起源：古代ギリシャ・ローマ』Pen books22,阪急コミュニケーションズ,2014年。)
(*)(参考：パスカル・ポフナー著/ジャン=ピエール・クーデルク編/田中圭訳『ルーヴル美術館の舞台裏：知られざる美の殿堂の歴史』西村書店東京出版部,2014年。)
(*)(参考：くろにゃこ他『「宗教・神話」を描いた画家：ボッティチェリ/ダ・ヴィンチ,ミケランジェロ,ラファエロ/ティッツィアーノ/エル・グレコ/ルーベンス』マンガ西洋美術史2,美術出版社,2014年。)
(*)(参考：木村泰治『名画は嘘をつく(1,2)』ビジュアルだいわ文庫,大和書房,2014年。)
(*)(参考：中野京子『中野京子が語る橋をめぐる物語』河出書房新社,2014年。)
(*)河島思朗「悲しみを癒すもの—福島県いわき市と古代ローマ」ペデラヴィウム会通信 36,2014 年。)
(*)(参考：韓永大『古代韓国のギリシャ渦文と月支国—文化で結ばれた中央アジアと新羅』明石書店,2014 年。)

(*)(参考：田辺勝美「ガンダーラ美術の図像学的研究(10)釈尊は般涅槃後,いずこに赴いたのか?—帝政ローマ期石棺のエロース・ケートス像と釈尊の梵天界往生を予示する涅槃図を巡って」古代オリエント博物館紀要 34,2014 年。)
(*)(参考：磯部武男「ガンダーラのアテナ女神胸像をめぐって」考古学論究 16,2014 年。)
(*)(参考：芳賀満「ガンダーラの出家踰城図における女神テュケーの図像：そのタイプ分類とヘレニズム時代ギリシアの視座からの新解釈(特集 シルクロードの文化交流)」仏教芸術 333,2014 年。)
(*)小林亜紀子「天心の中の日本と西洋：フェノロサ,ハーン,タゴールとの関連からみる東西文化融合のかたち(特集 岡倉天心と異文化交流)」大倉山論集 60,2014 年。
(*)(参考：内記理「ガンダーラ紀年銘彫刻の製作年代」美術史 63(2),2014 年。)
(*)和田誠一「丹沢山麓の渡来人」(アテネ等)山岳文化 15,2014 年。
(*)(参考：スティーヴン・ミズン/赤澤威・森夏樹訳『渇きの考古学：水をめぐる人類の物語』青土社,2014 年。)
(*)(参考：長谷川修一編『考古学からみた聖書の世界』聖公会出版,月本昭男先退職記念献呈論文集 3,2014 年。)
(*)(参考：F.ギゾー/安士正夫訳『ヨーロッパ文明史—ローマ帝国の崩壊よりフランス革命にいたる』[新装版],みすず書房,2014 年。)
(*)(参考：加藤絢子「古代ギリシア・ローマの豆知識」あさひ通信 8 月号,2014 年。)
(*)(参考：G.クラーク/足立弘明訳『古代末期のローマ帝国—多文化の織りなす世界』白水社,2014 年。)
(*)(参考：南雲泰輔「クルスス・プブリクスの統制と運用：後期ローマ帝国下における地中海世界の結合性をめぐって」関学西洋史論集 37,2014 年。)
(*)(参考：D.リヴィングストン/梶雅範・山田俊弘訳『科学の地理学：場所が問題になるとき』法政大学出版局,2014 年。)
(*)(参考：葛谷彩「アーノルド・J.トインビー『歴史の研究』：比較文明学と国際政治学の連関(小特集 比較文明学の源流を問う)」比較文明 30,2014 年。)
(*)(参考：小林道憲「学際知としての比較文明学：ポストモダニズムの後に(特集 学際知としての比較文明学)」比較文明 30,2014 年。)
(*)(参考：服部英二・伊東俊太郎・吉澤五郎・染谷臣道・松本亮三・横山玲子・加藤久典・小川小百合・犬飼孝夫「調和と文明：全体討論(比較文明学会第 31 回大会公開シンポジウム)」比較文明 30,2014 年。)
(*)(参考：横山玲子・伊東俊太郎・吉澤五郎・染谷臣道・松本亮三「調和と文明：比較文明学の使命(比較文明学会第 31 回大会公開シンポジウム)」比較文明 30,2014 年。)
(*)吉澤五郎「旅人・木間瀬精三先生の肖像：「巡礼文明論」の手帖(3)(特集木間瀬精三先生)—(西洋史家としての木間瀬先生)」宗教と文化 30,2014 年。
(*)(参考:根占献一「ヨーロッパ史からみたキリシタン史:ルネサンスとの関連のもとに(「近世化」と日本：「東アジア」の捉え方をめぐって」)--（東アジア」の捉え方」)」アジア遊学 185,2014 年。)
(*)(参考：根占献一「Alessandro Valibnano(1539-1606)between Padus and Japan」学習院女子大学紀要 16,2014 年。)
(*)廣海伸彦「岩佐又兵衛の源氏絵に関する試論：いわゆる「蟻通・貨狄造船屏風」(出光美

術館)を手がかりに」出光美術館研究紀要 20,2014 年。
(*)杉本史子「書評と紹介 上杉和央著『江戸知識人と地図』」日本歴史 795,2014 年。
(*)(參考：森瀬繚『いちばん詳しい「天使」がわかる事典：ミカエル,メタトロンからグノーシスの天使』SB クリエイティブ,2014 年。)
(*)(參考：V.カルターリ・L.ビリニュア/大橋喜之訳『西欧古代神話図像大鑑(続編)—東洋・新世界篇/本文補註/図版一覧』八坂書房,2014 年。)
(*)(參考：ロレイン・ハリソン/上原ゆう子訳『植物ラテン語事典：ヴィジュアル版』原書房,2014 年。)
(*)(參考：デビッド・ワルチンスキー他/北村京子他訳『ビジュアル教養大事典』日経ナショナルジオグラフィック社,日経マーケティング(発売),2014 年。)
(*)(參考：ハンス・モルト/高島市子訳『レクラム版聖書人名辞典』創元社,2014 年。)
(*)越前谷宏・島田昭男他編『田中英光事典』三弥井書店,2014 年。
(*)(參考：PHP 研究所編『オリンピックまるわかり事典：大記録から 2020 年東京開催まで』楽しい調べ学習シリーズ,PHP 研究所,2014 年。)
(*)「原田裕次著『キリシタン版『羅葡日辞書』の原典「カレピーヌス」--ラテン語辞典の系譜』私家版」日本語の研究 10(1),,2011 年。
(*)南雲千香子「箕作麟祥編『仏和辞典(仮称)』の草稿の翻刻と研究(上)」日本語学論集 10, 2014 年。
(*)(參考：J.B.シュルヴェストル著/田中一光構成『文字の博物館』日本図書センター,2014 年。)
(*)(參考：加藤哲弘編『芸術理論古典文献アンソロジー 西洋篇』京都造形芸術大学東北芸術工科大学出版局藝術学舎,2014 年。)
(*)(參考：小杉泰・林佳世子編『イスラーム 書物の歴史』名古屋大学出版会,2014 年。)
(*)(參考：ラウラ・レプリ/柱本元彦訳『書物の夢,印刷の旅：ルネサンス期出版文化の冨と虚栄』青土社,2014 年。)
(*)(參考：麥文彪「最古のインド・ギリシャ系のサンスクリット文献の再考」印度學佛教學研究 62(3),2014 年。)
(*)(參考：中務哲郎「感覚理論とギリシア語表現」岩波書店『アリスオテレス全集 13』月報,2014 年。)
(*)(參考：原口尚彰「ローマ書の書簡論的分析」ヨーロッパ文化史研究 15,2014 年。)
(*)(參考：松本克己『歴史言語学の方法：ギリシア語史とその周辺』三省堂,2014 年。)
(*)(參考：植田かおり『古典ギリシア語のしくみ』新版,白水社,2014 年。)
(*)(參考：逸見喜一郎「悲劇の歌の類型学・序説」フィロロギカ 9,2014 年。)
(*)(參考：高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(1)出会い」図書 779,2014 年。)
(*)(參考：内山勝利「原義に遡行する」図書 779,2014 年。)
(*)(參考：高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(2)神話」図書 780,2014 年。)
(*)(參考：高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(3,4,5)イリアス(1,2,3)」図書 781,782,783,2014 年。)
(*)(參考：高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(6,7)オデュッセイア(1,2)」図書 784,785,2014 年。)
(*)(參考：高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(8)[ヘシオドス]『神統記』『仕事と日』」図書 786,2014 年。)

(*)(参考：高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(9)ホメロス讃歌集」図書 787,2014 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(10)独唱抒情詩」図書 788,2014 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(11)合唱抒情詩」図書 789,2014 年。)
(*)(参考：高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(12)悲劇[1]アイスキュロス」図書 790,2014 年。)
(*)(参考：エルナンド・ジョゼップ/阿部俊大訳「西欧中世における反イスラーム：極めて困難な相互理解 : ラモン・マルティの事例を中心に(上)[エルナンド・ジョゼップ(バルセロナ大学)著]」(ラテン語)言語文化論究 33,2014 年。)
(*)(参考：広松淳「マルティン・ルターによる新約聖書の品訳：ギリシア語 νέκρωσις の訳出をめぐって」九州ドイツ文学 28,2014 年。)
(*)(参考：兵頭俊樹「英語に入ったラテン語の複合動詞—音の変化概略と主要動詞一覧」和歌山大学教育学部紀要・教育科学 64,2014 年。)
(*)(参考：石原覚「古英語 aweccan とラテン語 concitare について」愛知県立大学外国語学部紀要・言語文学編 46,2014 年。)
(*)渡邉顕彦「Neo-Latin in 17th Century Japan：Two Epistles from Japanese Seminarians to the Jusit Superior General(ARST Jap.Sin.33.75.78)」Japan Studies in Clasical Antiquity 2,2014.
(*)高橋歩・高橋秀樹「Learner Anxiety in Latin Class : A Study」新潟大学言語文化研究 19,2014 年。)
(*)(参考：高橋秀樹「史料を精読するということ」日本古書通信 79(1),2014 年。)
(*)(参考：佐藤和弘「ドイツの公立学校における外国語教育：基礎学校における各週の現状と取り組み」(ギリシア語)龍谷紀要 36(1),2014 年。)
(*)(参考：S.リース/松下祥子訳『レトリックの話 話のレトリック—アリストテレス修辞学から大統領スピーチまで』論創社,2014 年。)
(*)崎山理「新 日本語学者列伝（最終回）泉井久之助」日本語学 33(3),2014 年。
(*)(参考：板垣竜太「金壽卿の朝鮮語研究と日本：植民地・解放・越北」(ギリシア語)社会科学 102,2014 年。)
(*)橘孝司「宮沢賢治「よだかの星」のギリシャ語訳」プロピレア 20,2014 年。
(*)金子弘「『西国立志編』3 訳稿に見られる翻訳過程」日本語日本文学 24,2014 年。
(*)中田恵理子「R.D.アンダーソン著/安原義仁・橋本伸也監訳『近代ヨーロッパ大学史—啓蒙期唐 1914 年まで』昭和堂,2012」史学雑誌 123(2),2014 年。
(*)福留東土「書評 藤本夕衣著『古典を失った大学—近代性の危機と教養の行方』」(広島大学)大学論集45,2014年。
(*)仁平政人「書評 藤本夕衣著『古典を失った大学—近代性の危機と教養の行方』」21世紀教育フォーラム9,2014年。
(*)(参考：西村拓生・藤本夕衣・松浦良充「「高等」教育とはなにか：思想史が問う(コロキアム 5)」近代教育フォーラム 23,2014 年。)
(*)西村太良「慶應義塾の西洋古典学と言語文化研究所」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 45,2014 年。
(*)(参考：納富信留「プラトンの近代校訂本—古典文献学への招待」(松田隆美・徳永聡子編『世界を読み解く一冊の本』所収,慶應義塾大学出版会,2014年。)

(*)(参考：杉崎泰一郎「中世の聖遺物礼拝と文書：モワサック修道院の写本をめぐる考察」(松田隆美・徳永聡子編『世界を読み解く一冊の本』所収,慶應義塾大学出版会,2014 年。)
(*)(参考：藤谷通夫「ダンテ『神曲』の世界」(松田隆美・徳永聡子編『世界を読み解く一冊の本』所収,慶應義塾大学出版会,2014 年。)
(*)小川知幸「少しく無秩序のうちに秩序のある：ケーベル文庫とその保存修復について東北大学付属図書館調査研究室年報2,2014年。
(*)渡邉雅弘「三谷隆正の思想研究のために―その著作と關聯・研究文獻書誌」(愛知教育大学社会科学会)社会科学論集52,2014年。
(*)井上健「百年前の翻訳からこの百年の翻訳へ：岩野泡鳴,生田長江の訳業を起点に」文学14(6),2014年。
(*)上村直己「自著を語るドイツ文学から日独文化交流[上村直己『明治期ドイツ語学者の研究』『リヒトホーフェン日本滞在記』」Kumamoto：綜合文化雑誌6,2014年。)
(*)南雲千香子「箕作麟祥訳『仏蘭西法律書・訴訟法』における翻訳の方法：英語系辞書使用の観点から」国語と国文学 91(3),2014 年。
(*)藤井哲編『福原麟太郎著作目録』九州大学出版会,2014 年。
(*)大場高志「神田乃武文庫について」一橋大学附属図書館研究開発室年報 2,2014 年。
(*)九内悠水子「比治山大学蔵「三島由紀夫文庫」調査報告(2,3,4)」比治山大学紀要 22,2014 年/23,2015 年/24,2016 年。
(*)小川知幸「少しく無秩序のうちに秩序のある：ケーベル文庫とその保存修復について」東北大学附属図書館調査研究室年報 2,2014 年。
(*)(参考：田中一嘉・中村美智太郎編『ことばと文化の饗宴：西洋古典の源流と芸術・思想・社会の視座』風間書房,2014 年。)
(*)(參考：安酸敏眞『人文学概論：新しい人文学の地平を求めて』知泉書館,2014 年。)
(*)(參考：A.ベーク/安酸敏真訳『解釈学と批判：古典文献学の精髄』知泉書院,2014年。)
(*)(參考：清水正之「図書紹介 アウグスト・ベーク『解釈学と批判：古典文献学の精髄』(安酸敏真訳)」ディルタイ研究 25,2014 年。)
(*)(參考：リック・リオーダン作/金原瑞人・小林みき訳『ハデスの館』オリンポスの神々と 7 人の英雄 4,ほるぷ出版,2014 年。)
(*)(參考：中西恭子「古代末期地中海世界における夢と幻視の叙述に関する考察(第1部会,特集 第72回学術大会紀要)」宗教研究87(Suppl.),2014年。)
(*)(參考：ミルチャ・エリアーデ/前野佳彦訳『聖と俗：宗教的なるものの本質について』叢書ウニベルシタス14,法政大学出版局,2014年。)
(*)(參考：宮嵜克裕「2012年度在外研究成果報告トロイアのヘレネーと聖女アンナ：美術展随想2010年6月22日パリ」GR：同志社大学グローバル地域文化学会紀要2,2014年。)
(*)(參考：山川廣司「ミュケナイ期ピュロス王国の宗教と王権：ポセイドーン崇拝とポトニア崇拝」愛媛大学法文学部論集：人文学科編36,2014年。)
(*)(參考：山口京一郎「地を割るポセイドン：『エイコネス』14,16,17」ICU比較文化46,2014年。)
(*)(參考：ミルチャ・エリアーデ/前野佳彦訳『加入礼・儀式・秘密結社：神秘の誕生―加入礼の型についての試論』叢書ウニベルシタス1006,

法政大学出版局,2014年。)
(*)(参考：根岸宗一郎「周作人と J.E ハリソン：ギリシア神話とギリシア像を追て」中国研究7,2014年。)
(*)(参考：田中史子（京都文教大学臨床心理学部臨床心理学科）「矛盾,曖昧さ,荒唐無稽さを含んだ物語について—Levy Bruhlの『原始神話学』と臨床心理学的視点」臨床心理学部研究報告6,2014年。)
(*)(参考：グリーン ロジャー・ランスリン/山本まつよ訳「再録 ギリシアの神々の物語」季刊子どもと本139,2014年。)
(*)(参考：アーバスノット メイヒル/青木祥子訳「神話と叙事詩(「子どもと本」第三版より(1)」季刊子どもと本139,2014年。)
(*)(参考：千足伸行監修『すぐわかるギリシア・ローマ神話の絵画』[改訂版],東京美術,2014年。)
(*)(参考：ロバート・R.遠山『世界常識の基礎知識：外国人とのコミュニケーションや国際ビジネスシーンで使える：「世界の大常識」の二大原典『旧訳聖書』『ギリシア・ローマ神話』がよくわかる本』テーマ 3 分間で読める!,滋慶出版/土屋書店,2014 年。)
(*)(参考：島根県立美術館,Bunkamura ザ・ミュージアム編『水辺のアルカディア：ビュヴィス・ド・シャヴァンヌの神話世界』島根県立美術館,2014 年。)
(*)(参考：百瀬春生「音楽の神アポロンは理系頭脳の持ち主?：幼時の音楽教育が豊かな才能を育む」地中海歴史風土研究誌 39,2014 年。)
(*)(参考：坂本貴志『秘儀的伝統とドイツ近代：ヘルメス,オルフェウス,ピュタゴラスの文化史的変奏』ぷねうま舎,2014 年。)
(*)(参考：高階秀爾『ミロのヴィーナスはなぜ傑作か?：ギリシャ・ローマの神話と美術』小学館 101 ビジュアル新書 VO29.Art;13,小学館,2014 年。)
(*)(参考：河村民部『エロスとアガペ饗宴(シンポシオン)の比較文学：ヴィーナス・タンホイザー伝説から川端康成まで』英宝社,2014 年。)
(*)(参考：越智貴雄『切断ヴィーナス』白順社,2014 年。)
(*)(参考：鳥山定嗣「ヴァレリー『旧詩帖』の一篇「ヴィーナスの誕生」を読む：若書きの詩の改変」仏文研究 45,2014 年。)
(*)(参考：玉元陽子[文・写真]「聖なるものが宿る石 アフロディーテの花の石 特集 マンガン鉱物に寄せて マンガンのバラの石(特集 マンガン鉱物 薔薇色の宝石と鉱物)」ミネラ Minera：地球の不思議発見!鉱物・化石・ジェムストーンのミネラル情報誌 30,2014 年。)
(*)(参考：西川しずか「サンドロ・ボッティチェッリ作《ウェヌスとマルス》のウェーヌスにおける《ファルネーゼの盆杯》にイシスの受容と 15 世紀当時のイシスの主題解釈：ロレンツォ・デ・メディチの古代彫玉蒐集を手掛かりに」イタリア学会誌 64,2014 年。)
(*)(参考：高橋朋子「ウェヌス：子孫繁栄あるいは色欲(2013 年度イタリア文化講座)」星美学園短期大学日伊総合研究所報 10,2014 年。)
(*)(参考：高階良子『緋色の悪夢』(「海神(ポセイドン)の島」)高階良子選集 20,秋田書店,2014年。)
(*)(参考：西井奨『オウィデイウス『名高き女たちの手紙』におけるギリシア神話の諸相』

京都大学,博士(文学),甲第 18012 号,2014 年。)
(*)(参考：内田次信『ヘラクレスは繰り返しあらわれる—夢と不安のギリシア神話』大阪大学出版会,2014 年。)
(*)(参考：阿部衛「ローマ帝国北方辺境地域におけるネメシス崇拝」地中海学研究 37,2014 年。)
(*)(参考：マウリツィオ・ベッティーニ/杉山博昭・田口かおり訳「〈講演〉ウェルトゥヌス—様々なアイデンティティを持つローマの神」ディアファネース—芸術と思想 1,2014 年。)
(*)(参考：井上文則「フランツ・キュモンのミトラス教研究」思想 1078,2014 年。)
(*)(参考：エリザベス・シュエル/高山宏訳『オルフェウスの声：詩とナチュラル・ヒストリー』高山宏コレクション〈異説の人文学〉,理想社,2014 年。)
(*)(参考：M.フィチーノ/小島和久訳「翻訳 マルシリオ・フィチーノ著『プラトン神学霊魂の不死性について』(14,15,16)第 12,13,14 巻」(明治大学文学部紀要)文芸研究 122,124,2014 年/125,2015 年。)
(*)(参考：毛利晶「ローマ宗教史研究雑感(コラム 歴史の風)」史學雑誌 123(3),2014 年。)
(*)(参考：庄子大亮「神話と歴史—神話を学ぶ視点」西洋古代史研究 14,2014 年。)
(*)(参考：日向太郎「プロペルティウスとホメロス」慶應義塾大学言語文化研究所紀要 45,2014 年。)
(*)(参考：中務哲郎「ヘシオドス『仕事と日』の魅力」學士院会報 908,2014 年。
(*)(参考：川島重成「ギリシャ思想と福音」無教会研究：聖書と現代 17,2014 年。)
(*)(参考：ジョン・テイラー著/土岐健治訳『西洋古典文学と聖書：歓待と承認』教文館,2014 年。)
(*)(参考：J.M.クッツェー/鴻巣友季子訳「イエスの幼子(おさなご)時代(1,2,3)」早稲田文学[第 10 次]8,9,2014 年/10,2015 年。)
(*)(参考：レザー・アスラン/白須英子訳『イエス・キリストは実在したのか?』文藝春秋,2014 年。)
(*)(参考：水野千依「イメージの歴史人類学に向けて(1)キリストの顔：表象の起源へ」UP 43(2),2014 年。)
(*)(参考：水野千依『キリストの顔：イメージ人類学序説』筑摩選書,筑摩書房,2014 年。)
(*)(参考：ロドニー・スターク/穐田信子訳『キリスト教徒ローマ帝国—小さなメシア運動が帝国に広がった理由』新教出版社,2014 年。)
(*)(参考：塚本虎二訳『新約聖書試訳』聖書知識社,2014 年。)
(*)(参考：若松英輔「イエス伝：神のコトバ,コトバである神(9)祝祭と許し なぜイエスは罪人と食卓を囲むのか」中央公論129(1),2014年。)
(*)(参考：若松英輔「イエス伝：神のコトバ,コトバである神(10)死者とコトバ イエスは死者をどう語ったか」中央公論129(2),2014年。)
(*)(参考：若松英輔「イエス伝：神のコトバ,コトバである神(11)エルサレム入城イエスはなぜ幼子を抱きよせたのか」中央公論129(3),2014年。)
(*)(参考：若松英輔「イエス伝：神のコトバ,コトバである神(12)魂の沈黙イエスはなぜ,神殿で暴れたのか」中央公論129(4),2014年。)
(*)(参考：若松英輔「イエス伝：神のコトバ,コトバである神(13)使徒の裏切り最後の晩餐 イエスはなぜ,ユダを愛したのか」中央公論129(5),2014年。)

(*)(参考：若松英輔「イエス伝：神のコトバ,コトバである神(14)最後の晩餐 なぜ,イエスはわが身を食事に託したのか」中央公論129(6),2014年。)
(*)(参考：若松英輔「イエス伝：神のコトバ,コトバである神(15)逮捕イエスはなぜ,捕らえられたのか」中央公論129(7),2014年。)
(*)(参考：若松英輔「イエス伝：神のコトバ,コトバである神(16)十字架の道行なぜ,イエスは処刑されたのか」中央公論129(8),2014年。)
(*)(参考：若松英輔「イエス伝：神のコトバ,コトバである神(17・最終回)死と復活なぜ,イエスはぶどう酒を飲まなかったのか」中央公論129(9),2014年。)
(*)若松英輔『吉満義彦：詩と天使の形而上学』岩波書店,2014年。
(*)(参考：加藤隆著/日本放送協会,NHK出版事業『旧約聖書』NHKテレビテキスト「100分de名著」NHK出版,2014年。)
(*)(参考：荒井献『使徒行伝(中)』新教出版社,2014 年。)
(*)(参考：増田早苗『聖母マリアの系譜：明星崇拝の東西』創元社,2014 年。)
(*)(参考：太田強正「聖母の奇跡(1-6)」(神奈川大学人文学会)人文研究 183,184,2014 年/186,187,2015 年/188,189,2016 年。)
(*)(参考：日本聖書学研究所編『聖書的宗教とその周辺：佐藤研教授・月本昭男教授・守屋彰夫教授献呈論文集』日本聖書学研究所,リトン(発売),聖書学論集 46,2014 年。)
(*)(参考：戸田聡「The Gospel of Thomas Revised Once More」北海道大学文文学研究科紀要 142,2014 年。)
(*)(参考：中西恭子「ユリアヌスの「ギリシア人の宗教」とナジアゾスのグレゴリウス『ユリアヌス駁論』における「ことば」と「真の叡智」」パトリスティカ：教父研究 17,2014 年。)
(*)(参考：中西恭子「古代末期地中海世界における夢と幻視の叙述に関する考察(第 1 部会,特集 第 72 回学術大会紀要)」宗教研究 87(Suppl.),2014 年。)
(*)(参考：高橋博厚「「ガリラヤ人」という呼称に関する考察：ヨセフスとユリアヌスを中心に」神学研究 61,2014 年。)
(*)(参考：出村みや子「初期キリスト教における男性と女性の理解—古代アレクサンドリアの聖書解釈の伝統を中心に」東北学院大学キリスト教文化研究所紀要 32,2014 年。)
(*)(参考：大谷哲「デキウス迫害期におけるカルタゴ教会の贖宥権紛争：三世紀のキリスト教会における悔悛の検証を通じて(研究発表,西洋史部会,第111回学会大会報告)」史學雑誌123(1),2014年。)
(*)(参考：秋山学「アレクサンドリアのクレメンス『ストロマティス』(『綴織』)第4,6巻：全訳」文藝言語研究,文藝篇 65,2014 年。)
(*)(参考：秋山学「アレクサンドリアのクレメンス『ストロマティス』(『綴織』)第5,8巻：全訳」文藝言語研究,文藝篇 66,2014 年。)
(*)(参考：武富香織「ギリシャ教父の哲学受容とその変容：ニュッサのグレゴリウスにおけるキリスト教的人間観」エティカ 7,2014 年。)
(*)(参考：井ノ口淳三・太田光一「コメニウスのパンパイデイア再読(ラウンドテーブル3,発表要旨)」日本教育学会大会研究発表要項73,2014年。)
(*)(参考：佐野好則「ポンイェオ・ピラトのもとに—ヨハネ会からの報告」ペデラヴィウム

会通信 36,2014 年。)
(*)(参考 : 川島重成「共観福音書とロマ書におけるユダヤ人とギリシヤ人―イエスからパウロへ」ペデラヴィウム会通信 36,2014 年。)
(*)(参考：大谷哲「エウセビオス著「古の殉教集成」の再構成と個人名抹消叙述」科研費,東北大学(2012),2014 年。)
(*)(参考：荒井直「エウリピデース『バッカイ』管見--「異邦人からの神」をどう遇するか」ペデラヴィウム会通信 36,2014 年。)
(*)(参考：佐野正子「礼拝メッセージ「ペテロの夢と異邦人伝道」--使徒言行録 10 章 9-16 節」ペデラヴィウム会通信 36,2014 年。)
(*)(参考：荒井献「「野の花 空の鳥」によせて」思想の広場 25,2014 年。)
(*)(参考：嶺重淑・波部雄一郎編『よくわかるクリスマス』教文館,2014 年。)
(*)(参考：R.L.ウィルケン/土井健司訳『古代キリスト教思想の精神』教文館,2014 年。)
(*)(参考：古瀬徳雄「J.S.Bach のマリアたちへのまなざし」関西福祉大学社会福祉学部研究紀要 17(2),2014 年。)
(*)岡美穂子「歴史手帖 パリへ渡ったキリシタンの聖画：外海の聖母マリアが語るもの」日本歴史 799,2014 年。
(*)(参考：戸田聡「キリスト教修道制におけるしあわせ?(〈特集〉しあわせと宗教)」宗教研究 88(2),2014 年。)
(*)(参考 : 戸田聡「The Gospel of Thomas Revised Once More」北海道大学文学研究科紀要 142,2014 年。)
(*)(参考：ジャイルズ・コンスタブル/小澤実他訳『十二世紀宗教改革：修道制の刷新と西洋中世社会』慶應義塾大学出版会,2014 年。)
(*)曽野綾子『聖書を読むという快楽：「私」に与えられた思索のことば』青萌堂,2014 年。
(*)下野孝文「遠藤周作〈合わない洋服〉：トミズム（Thomism）と「日本的感性(2)」近代文学論集 40,2014 年。
(*)佐藤久仁子「フランソワ・モーリアックと遠藤周作：『テレーズ・デスケルー』翻訳序に現れる「キリスト」をめぐって」Caritas48,2014 年。
(*)福田耕介「遠藤周作と堀辰雄：『テレーズ・デスケルー』をめぐって」白百合女子大学言語・文学研究センター言語文学研究論集 14,2014 年。
(*)小林孝吉『椎名麟三の文学と希望：キリスト教文学の誕生』菁柿堂,星雲社(発売),2014 年。
(*)豊田浩志「『群像』を 2 倍愉しむ方法。または,私の体感的読み方」西洋古典叢書月報 109,2014 年。
(*)若松英輔「生きる哲学(7)神谷美恵子と天来の使者」文學界 68(1),2014 年。
(*)北原みのり『メロスのようには走らない。：女の友情論』K.K.ベストセラーズ,2014 年。)
(*)太宰治著/鈴木達央朗読『走れメロス：朗読 CD 付』海王社文庫,海王社,2014 年。
(*)太宰治『太宰治ヴィジュアル選集』(「走れメロス」)NHK テルコムスタッフ,講談社,2014 年。)
(*)石橋邦俊「太宰治「走れメロス」とシラー「人質」(佐藤教授退職記念号)」九州工業大学大学院情報教育研究院紀要 人間科学篇 27,2014 年。
(*)「爆笑文学史 太宰治,夏目漱石,宮澤賢治,谷崎潤一郎,梶井基次郎：文豪たちの傑作の気になる矛盾「走れメロスは歩いていた」ほか ココがヘンだよ「日本文学」」週刊ポスト

46(10),2014 年。
(*)寺田守「話者の判断や評価の表れる言葉に着目する文学教材：「走れメロス」(太宰治)の一文を読む」京都教育大学紀要 124,2014 年。
(*)西原千博「『走れメロス』試解」札幌国語研究 19,2014 年。
(*)加藤陽一「中学国語教科書を読む(4)アラスカとの出会い(星野道夫)・走れメロス(太宰治)」リベラシオン：人権研究ふくおか 154,2014 年。
(*)勝田光・飯田和明「生徒の読者反応を支援する教師の役割：単元「文学の学び方~『走れメロス』による~」の分析」国語科教育 76,2014 年。
(*)佐野幹「明治四年,メロス型ストーリーの受容 : 箕作麟祥訳述『泰西勧善訓蒙』を中心に」横浜国大国語研究 32,2014 年。
(*)佐野幹「文部省編『高等小学校読本』(明治 21 年)「恩義ヲ知リタル罪人」について(自由研究発表)」全国大学国語教育学会発表要旨集 127,2014 年。
(*)安藤章悟「My アルゴリズムで聞き分け率アップ!ボイス制御マシンにも使える!?ラズベリー・パイでトライ!音声認識：お試しプログラムも用意!(第 3 回)「走れメロス」用データベースをなんとオンボードで!長文聞き取りのためのキー・テクノロジ!言語モデルをつくる(特設コーナ音声信号処理の世界)」インターフェイス=Interface 40(1),2014 年。
(*)(参考 : 田中一嘉・中村美智太郎編『ことばと文化の饗宴 : 西洋古典の源流と芸術・思想・社会の視座』風間書房,2014 年。)
(*)(参考 : サッフォー作・呉茂一訳・高田三郎作曲『婚禮歌 : 女声合唱曲』河合楽器製作所・出版部,2014 年。)
(*)(参考：宮下志朗・井口篤編『ヨーロッパ文学の読み方—古典篇』放送大学教育振興会 2014 年。)
(*)(参考：片桐功「古代ギリシアの音楽理論の視点から見た東洋の音律論」プロピレア 20, 2014 年。)
(*)(参考：高畑時子「キケローの「人格描写」論—アリストテレスとキケローの比較研究」地域創造研究 奈良県立大学県立大学研究季報24,2014年。)
(*)(参考：加藤浩「16 世紀イタリアにおけるアリストテレス『詩学』受容の一局面--「三統一の規則」を中心にして」(2013 年度大阪大学大学院文学研究科共同研究成果報告書『ヨーロッパ芸術におけるギロシア・ローマ神話の水脈に分野横断的研究』所収,2014 年。)
(*)(参考：渡邉浩司・田之頭一知編『弁論術から美学へ：美学成立における古典弁論術の影響』科学研究費補助金(基盤研究 C)研究成果報告書,大阪大学大学院文学研究科,平成 23-25 年度,2014 年。)
(*)M.J.スメサースト著/渡辺浩司・木曽明子訳/野上記念法政大学能楽研究所編『ギリシア悲劇と能における「劇展開」: アリストテレースを手引きに、そして彼を超えて』共同利用・共同研究視点「能楽の国際・学際的研究視点」,能楽研究叢書 2,2014 年。)
(*)(参考：西村賀子「古代ギリシアの演劇と現代日本」文学 14(2),2014 年。)
(*)村田奈々子「再生のための「ギリシア悲劇」を」地中海学会月報 372,2014 年。
(*)(参考：酒見紀成「『トロイア物語』の変容：英雄たちの死をめぐって」Nidaba43,2014 年。)

(*)(参考：山形治江「エウリピデス作『トロイアの女たち』の政治性—制作・上演の現場から」世界文学 119,2014 年。)
(*)(参考：菅孝行「演劇時評 社会と演劇の視野(39)〈世界と渡り合う〉とはどういうことか：『トロイアの女』(SCOT)のことなど」テアトロ 896,2014 年。)
(*)(参考：川島重成「ソポクレス悲劇における〈時〉と人間」(国際基督教大学キリスト教と文化研究所)人文科学研究(キリスト教と文化)45,2014 年。)
(*)(参考：シェイマス・ヒーニー/小沢茂訳『テーベの埋葬—ソポクレス『アンティゴネー』の一変奏』国文社,2014 年。)
(*)福田逸「幻の『アンティゴネ』〈追悼特集 さらば遠藤浩一さん〉」正論 3 月号,2014 年。
(*)山折哲雄・藤原正彦・福田和也他「学問のすすめ オイディプス王 火宅の人 世界遺産に残したい「不滅の名著」百冊」文藝春秋 92(6),2014 年。
(*)中務哲郎訳『アンティゴネー』(イソップ)岩波文庫,2014 年。
(*)中務哲郎『極楽のあまり風：ギリシア文学からの眺め』ピケナス出版,2014 年。
(*)(参考：内村和至「文芸メディアの冒険：アルゴナウティカの行方」文芸研究：明治大学文学部紀要 123,2014 年。)
(*)(参考：藤井崇「国際会議 TheProcesess of Dying in the Ancient World を開催して」西洋古代史研究 14,2014 年。)
(*)(参考：柏木英彦『古典残照—オウィディウスと中世ラテン詩』知泉書院,2014 年。
(*)(参考：野津寛「比較文学としてのラテン文学(1)Aquired Language」信州大学人文科学論集 1,2014 年。)
(*)仁平政人「〈書評〉藤本夕衣著『古典を失った大学—近代性の危機と教養の行方』」21 世紀教育フォーラム 9,2014 年。
(*)(参考：高橋宏幸「馬を馴らす」文学 14(1),2014 年。)
(*)(参考：樺山紘一『歴史の歴史』千倉書房,2014 年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男・堀米庸三編『標準世界史地図』増補第 46 版,吉川弘文館,2014 年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男・堀米庸三編『標準世界史年表』増補第 48 版,吉川弘文館,2014 年。)
(*)(参考：桜井万里子「トゥキュディデスと史料」史苑 74(1),2014 年。)
(*)(参考：デボラ・ポーデカー「歴史家と/としての初期ギリシアの詩人」クリオ=Clio28,2014 年。)
(*)(参考:デボラ・ポーデカー「ヘロドトスにおける僭主のスペクタクル」クリオ=Clio28,2014 年。)
(*)(参考：リウィウス著/毛利晶訳『ローマ建国以来の歴史』京都大学学術出版会,2014 年。)
(*)(参考：毛利晶『カエサル：貴族仲間に嫌われた「英雄」』山川出版社,2014 年。)
(*)(参考：佐野光宜「帝政ローマのフロンティア：「ゾーン」としての辺境と剣闘士競技(2014 年度歴史学研究会大会報告 いま,歴史研究に何ができるか(2)歴史研究という営みを掘り下げる)—(合同部会 フロンティアとアイデンティティ)」歴史学研究 924,2014 年。)
(*)(参考：砂田徹「スッラの「エトルリア処分」をめぐって：ウォラテツラエ,アッレティウム,クルシウム」北海道大学文学研究科紀要 143,2014 年。)
(*)「書評 砂田徹著「スッラの退役兵史区民とエトルリアの騒擾：ファエスラエの事例を中

心に」法制史學會年報 64,2014 年。)
(*)(參考 : デヴィッド・ニコル著/清水和裕訳『イスラーム世界歴史地図』明石書店,2014 年。)
(*)(參考 : 鈴木董「比較文化史的人類文明史としての「世界史」への展望と文字世界としての文化世界(コタム歴史の風)」史學雜誌 123(1),2014 年。)
(*)「史学文献目録—西洋史 2」史學雜誌 123(5),2014 年。
(*)奥野良知「回顧と展望—近代 南欧」史學雜誌 123(5),2014 年。
(*)阿部拓児「ヨーロッパ : 古代ギリシア(2013 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雜誌 123(5),2014 年。
(*)井上文則「ヨーロッパ : 古代ローマ(2013 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雜誌 123(5),2014 年。
(*)鴨野洋一郎「ヨーロッパ : 西欧南欧(2012 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雜誌 123(5),2014 年。
(*)阿部衛「マティアス・ゲルツァー著長谷川博隆訳「ローマ政治家伝 I カエサル」(名古屋大学出版会)2013,マティアス・ゲルツァー著長谷川博隆訳「ローマ政治家伝 II ポンペイウス」(名古屋大学出版会)2013」史學雜誌 123(7),2014 年。
(*)「文献目録—西洋史 3」史學雜誌 123(9),2014 年。
(*)阿部衛「ローズ・マリー・シェルドン著/三津間康幸訳「ローマ人とパルティア—二大帝国の激突三百年」(昭和堂)2013」史學雜誌 123(11),2014 年。
(*)(參考 : 高橋謙公「13 世紀後半におけるシチリア王国の地中海政策 : シチリアを巡る諸特権を中心に」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論叢 36,2014 年。)
(*)(參考 : 南川高志「西洋古代史の泉(7)」西洋古代史研究 14,2014 年。)
(*)(參考 : 三嶋憲一『歴史意識の断層 : 理性批判と批判的理性とのあいだ』岩波書店,2014 年。)
(*)(參考 : 米本雅一「フォーラム 共和制末期ローマに関する古典的研究所邦訳の刊行と現在の研究動向—描かれた共和政ローマ像とその問題点」西洋史学 253,2014 年。)
(*)(參考 : 栗田伸子「サルスティウスにおける歴史の真実と党派性(前)(史海 60 号記念特集「歴史学研究と歴史教育の間」)」史海 61,2014 年。)
(*)(參考 : 加納修「中世史の全体を追い求めること(ジャック・ゴフ追悼)」思想 1083,2014 年。)
(*)(參考 : 三佐川亮宏「研究フォーラム ヨーロッパ中世前期のエスニシティ : 中世ドイツ人のアイデンティティ(世界史の研究[240])」歴史と地理 676,2014 年。)
(*)(參考 : 三浦小太郎「近代の闇 闇の近代(25-27)反近代の英雄としてのナポレオン(上中下) 保田與重郎論(2-4)」月刊日本 18(2,3,5),2014 年。)
(*)(參考 : 伊坂青司「ヘーゲル歴史哲学の原型と変容」思想 1086(10 月号),2014 年。)
(*)千葉功「日本近代史学史研究のための予備的考察」学習院史学 52,2014 年。
(*)馬本勉「『パーレー万国史』独習書に関する研究」英語と英文学と : 田村道美先生退職記念論文集 1,2014 年。
(*)川田殖「追悼・小川隆雄君を偲ぶ」ペデラヴィウム会通信 36,2014 年。)
(*)編集委員会「中村克孝さんを悼む」ペデラヴィウム会通信 36,2014 年。)
(*)田中邦夫「精神の継承について」ペデラヴィウム会通信 36,2014 年。)
(*)中井義明「追悼 浅香正先生のご逝去」古代文化 66(3),2014 年。

(*)「訃報 浅香正先生のご逝去」文化史学 70,2014 年。
(*)足立広明「浅香正先生と文化史学：これまでとこれからを繋ぐ糸(七十周年記念号)—(文化史学会 70 周年記念に寄せて)」文化史学 75,2014 年。
(*)The Classical Society of Japan (ed.)“JASCA：Japan Studies in Classical Antiquity 2”The Classical Society of Japan,Kyoto University Press,2014.
(*)Watanabe Akihiko,‘Neo-Latin in 17th Century in Japan：Two Epistles from Japanese Seminarians to the Jesuit Superior General(ARSI Jap.Sin.33.75.78)’「JASCA」2,2014.
(*)小島康敬編『東アジア世界の「知」と学問：伝統の継承と未来への展望』(小関三英等)勉誠出版,アジア遊学 176,2014 年。
(*)山本四郎『新宮凉庭傳』ミネルヴァ書房,2014 年。
(*)杉原志啓「明治の驚くほどおもしろい「物語」を読もう(14)東海散士『佳人之奇遇』(2)」表現者 55,2014 年。
(*)(参考：戸田徹子「フィラデルフィアにおける柴四朗：日米交流の起点として」山梨国際研究：山梨県立大学国際政策学部紀要 9,2014 年。)
(*)『聖書委員会訳と個人訳』日本聖書協会,聖書セミナー17,2014 年。)
(*)橋元志保「漱石文学の淵叢：『草枕』における地中海芸術の影響」総合研究 2,2014 年。
(*)塚本青史『わが父塚本邦雄』(百合若)白水社,2014 年。
(*)笹沢信『評伝 吉村昭』白水社,2014 年。
(*)春風社編集部篇『[新井]奥邃論集成』(ダンテ)春風社,2014 年。
(*)松田隆美･徳永聡子編『世界を読み解く一冊の本』(ダンテ)慶應義塾大学出版会,2014 年。
(*)石川透･星瑞穂編『舞の本を読む:武将が愛した舞の世界の物語』(百合若)三弥井書店,2014 年。
(*)福島邦男「『甲賀三郎説話』と伝承のあり方」信濃[第 3 次]66(11),2014 年。
(*)府川源一郎『明治初等国語教科書と子ども読み物に関する研究：リテラシー形成メディアの教育文化史』(イソップ)ひつじ書房,2014 年。
(*)NPO 多言語多読簡約・監修『田舎のネズミと町のネズミ：イソップ物語より』にほんご多読ブックス:japanese Graded Readers,lebel 0,NPO 多言語多読,2014 年。
(*)NPO 多言語多読再話；斉藤好和作画『ウサギとカメ：イソップ物語より』レベル別日本語多読ライブラリー：日本語よむよむ文庫,レベル 0,アスク出版,2014 年。
(*)NPO 多言語多読簡約・監修；石川智子挿絵『アリとキリギリス：イソップ物語より』にほんご多読ブックス：japanese Graded Readers,lebel 0,NPO 多言語多読,2014 年。
(*)NPO 多言語多読簡約・監修；石川智子挿絵『どうしてコウモリは昼,飛ばない?：イソップ物語より』にほんご多読ブックス：japanese Graded Readers,lebel 1,NPO 多言語多読,2014 年。
(*)NPO 多言語多読簡約・監修；市川さち子挿絵『「二人の恋人」他 2 話：イソップ物語より』にほんご多読ブックス:japanese Graded Readers,lebel 2,NPO 多言語多読,2014 年。
(*)イソップさく/あきせいじぶん・ゆらふじおえ『きたかぜとたいよう』改訂新版,せかい童話図書館 36,いずみ書房,2014 年。
(*)イソップ原著/川名澄訳・アーサー・ラッカム絵『新編イソップ寓話』風媒者,2014 年。
(*)イソップ原作/千葉好夫著『母と子のおやすみまえの小さな絵本イソップどうわ：珠玉の

100 話』ナツメ社,2014 年。
(*)Æsop 原作/楠山正雄編/武井武雄画『イソップものがたり』最新版,冨山房企画,冨山房インターナショナル(発売),2014 年。
(*)イソップ作/あきせいじぶん・ゆらふじおえ『きたかぜとたいよう』改訂新版,せかい童話図書館 36,いずみ書房,2014 年。
(*)イソップ作/あや秀夫文/神戸ひかり・距路凛・清水義治絵『イソップ物語(1,2)』世界名作アニメ絵本 19,20,永岡書店,2014 年。
(*)(参考：内田慶市「イソップ東漸---中国語イソップ翻訳史」(同『漢訳イソップ集』文化交渉と言語接触研究：資料叢刊3,ユニウス,2014年。)
(*)荻野脩二「Book Review 野心的な資料集 : 内田慶市編著漢訳イソップ 文化交渉と言語接触研究・資料叢刊 3」東方 402,2014 年。
(*)渡浩一「イソップ寓話「アリとキリギリス」の日本的変容—『イソポのハブラス』における改変をめぐって」明治大学国際日本学研究 6(1),2014 年。
(*)奈良真明,岡田雄一「Interview 知っておきたい日本版 ESOP(イソップ)」人事実務 51(1135),2014 年。
(*)井上ひさし『井上ひさし短編中編小説集成(1-12)』(「イソップ株式会社」)岩波書店,2014-2015 年。
(*)北影雄幸『吉田松陰の愛読書を読む』勉誠出版,2014 年。
(*)谷出千代子「イソップ寓話にみる訓蒙について」仁愛大学研究紀要・人間生活学部篇 5,2014 年。
(*)田畑博子「棄老説話(難題型)の源流」(イソップ)口承文藝研究 37,2014 年。
(*)吉見孝夫「第四号に寄せて」・「『絵入朝野新聞』に連載された『伊曽保物語』--解説編・複写編・翻字編」・「随感 『北京官話伊蘇普喩言』の訳者中田敬義に関する覚書」イソップ資料 4,2014 年。
(*)吉見孝夫「「影模絵入蘭文伊曽保物語断簡」考」「新村出の「影模絵入蘭文伊曽保物語断簡」解説原稿」イソップ資料5,2014年。
(*)馬場俊臣「吉見孝夫先生をお送りする」語学文学 53,2014 年。
(*)定村来人「ハーヴァード・イェンチン図書館蔵 河鍋暁斎《伊蘇普物語之内》新出 6 図」暁斎：河鍋暁斎研究誌 114,2014 年。)
(*)石井桃子「河野与一先生のこと」(同『新しいおとな=A New Species of Grown-ups』所収,河出書房新社,2014 年。)
(*)(参考：篠井保彦「神託と予測(27)哲学は人を救えるか(覚書その 1)」地中海歴史風土研究誌 39,2014 年。)
(*)(参考：ジャック・デリダ/藤本一勇訳『プシュケー：他なるものの発明』岩波書店,2014 年。)
(*)(参考：松田毅編,茶谷直人・加藤雅人・H.ブレーガー,稲岡大志・中山康雄・加地大介・長坂一郎・齋藤暢人『部分と全体の哲学—歴史と現在』春秋社,2014 年。)
(*)鶴田一郎「三谷隆正の遺著「幸福論」を読む(5)」ホリスティック教育研究2(1),2014年.
(*)(参考 : 田中一孝『プラトンとミーメーシス』京都大学,博士(文学),甲第 18013 号,2014 年。)
(*)(参考：荻原理「中畑正志『魂の変容—心的基礎概念の歴史的構成』(岩波書店,2011 年) 第 III 章「〈感情〉の理論,理論としての〈感情〉」へのコメント」モラ

リア 20・21,2014 年。)
(*)(参考：伊藤益『自由論--倫理学講義』北樹出版,2014 年。)
(*)(参考：佐藤真理恵「〈論文〉顔を逃れる顔—古代ギリシア世界におけるアプロソホス試論」ディアファネース—芸術と思想 1,2014 年。)
(*)(参考：眞方忠道『人間観をたずねて—哲学入門』南窓社,2014 年。)
(*)(参考：ジョン・バーネット/西川亮訳『初期ギリシア哲学』新装版,以文社,2014 年。)
(*)(参考：知的発見!探検隊編『あらすじとイラストでわかる哲学：古代ギリシア哲学から現代思想までイッキ読み!』文庫ぎんが堂,イーストプレス,2014 年。)
(*)(参考：竹田青嗣『はじめての哲学：賢者たちは何を考えたのか』楽しい調べ学習シリーズ,PHP 研究所,2014 年。)
(*)(参考：木戸口聡子「マルクス・アウレリウスと他者」ペデラヴィウム会通信 36,2014 年。)
(*)(参考：野本和幸「私の中の「異邦人」体験—異文化体験?」ペデラヴィウム会通信 36,2014 年。)
(*)(参考：合田正人『思想史の名脇役たち：知られざる知識人群像』河出ブックス 72,河出書房新社,2014 年。)
(*)(参考：三浦要「死の害悪に関する一考察」哲学・人間学論叢 5,2014 年。)
(*)(参考：本間康司絵と文・越田年彦執筆・監修『覚えておきたい人と思想 100 人：世界の思想家ガイドブック』清水書院,2014 年。)
(*)(参考：T.バトラー=ボードン/大間佐知子訳『世界の哲学 50 の名著：エッセンスを究める』ディスカヴァートゥエンティーワン,2014 年。)
(*)(参考：カンパニョーラ・フランチェスコ「〈論文〉「文芸共和国」の分断—学問の共同体における制度と個人」ディアファネース：芸術と思想 1,1972 年。)
(*)(参考：根占献一「ルネサンス・ヒューマニズムと近代：特にイタリアとドイツの視点から(特集 古代ギリシアとルネサンス)」19 世紀研究 8,2014 年。)
(*)(参考：曽田長人「ヴィエルナー・イェーガーの「第三の人文主義」と、その根源」(東洋大学経済研究会)経済論集 40(1),2014 年。)
(*)(参考：和泉ちえ「古典期アテナイにおける学問伝統の諸展開」千葉大学人文社会科学研究科研究プロジェクト報告書 269,2014 年。)
(*)(参考：川谷茂樹「「徳福一致」という「嘘」(九州大学哲学会創立 50 周年記念)-(創立 50 周年記念論集「今,哲学とは」)」哲学論文集 50,2014 年。)
(*)(参考：藤田尚志「ソフィストの力(アレテー)：大学における哲学教育に関する若干の考察(九州大学哲学会創立第 50 周年記念)」哲学論文集 50,2014 年。)
(*)(参考：納富信留「「ソフィスト思潮」とは何か?」ギリシャ哲学セミナー論集 11,2014 年。)
(*)(参考：茂木和行「ソクラテスの中のハイデガー：哲学的問答法と実存主義の交差」聖徳大学言語文化研究所論叢22, 2014年。)
(*)(参考：桑名晏子『ソフィストたち』やさしく読めるプラトンの世界 2,東洋出版,2014 年。)
(*)(参考：田中一孝『プラトンとミーメーシス』京都大学,博士(文学),甲第 18013 号,2014 年。)
(*)(参考：下園勇磨「プラトン『饗宴』の考察—ガリソンのデューイ主義を手引きに」創価大学人文論集 26,2014 年。)
(*)(参考：藤澤令夫『プラトンの認識論とコシモロジー：人間の世界解釈史を省みて』岩波書店,2014年。)

(*)(参考 : 阪田祥章「プラトンにおけるヘラクレイス像」千葉大学人文社会科学研究科研究プロジェクト報告書 269,2014 年。)
(*)(参考 : 納富信留「プラトン「アカデメイア」の理念から考える」早稲田大学政治経済学部教養諸学研究・特別号,2014 年。)
(*)(参考 : 平瀬篤「『ティマイオス』受容史における素材・物体・態様」古代哲学研究 46,2014 年。)
(*)(参考：清水真木『感情とは何か―プラトンからアーレントまで』筑摩書房,2014 年。)
(*)(参考：内山勝利編『プラトンを学ぶ人のために』世界思想社,2014 年。)
(*)(参考：中畑邦夫「ヘーゲルのソクラテス論：その悲劇性および喜劇性」麗澤学際ジャーナル 22(1),2014 年。)
(*)(参考：太田明「レオナルド・ネルソンと〈理性の自己信頼〉(1-3)」論争：玉川大学文学部紀要 55,2014 年/56,2015 年/57,2016 年。)
(*)(参考：西尾治子「ジョルジュ・サンドの『夢想者の物語』および後期作品におけるプラトンの影響」跡見学園女子大学文学部紀要 49,2014 年。)
(*)(参考 : 小川仁志『仕事・人生に迷ったらアリストテレスに聞いてみろ』KADOKAWA,2014 年。)
(*)(参考：小林剛『アリストテレス知性論の系譜―ギリシア・ローマ,イスラム世界から西欧へ』梓出版社,2014 年。)
(*)(参考 : 菊池肇哉「サー・ジョン・フォーテスキューによるアリストテレス理解 : Dominium politicum et regale の概念を中心として」法政論叢 50(2),2014 年。)
(*)(参考：高畑時子「キケローの「人格描写」論：アリストテレースとキケローの比較研究(谷栄一郎先生記念論文集)」地域創造学研究：奈良県立大学研究季報 24(4),2014 年。)
(*)(参考：古澤ゆう子「善悪の認識：アリストテレスの「倫理学」とニーチェの「悲劇論」(特集 善悪をめぐる対話と省察)」(一橋大学)言語社会 : Gensha8,2014 年。)
(*)(参考：菅沼美久「セネカの思想、その一般的解釈の是非をめぐる検討：『道徳論集』をめぐって」南山大学大学院国際地域文化研究 9,2014 年。)
(*)(参考：角田幸彦『セネカ』Century books,人と思想 186,清水書院,2014 年。)
(*)(参考：納富信留「井筒俊彦とプロティノス」(『道の手帖：井筒俊彦―言語の根源と哲学の発生』所収,河出書房新社,2014 年。)
(*)(参考：水地宗明・山口義久・堀江聡編『新プラトン主義を学ぶ人のために』世界思想社,2014 年。)
(*)(参考：堀江聡「プロティノスからバルザフの入口へ(特集 イスラームとの対話)―(「イスラーム・レクチャー」より)」東洋學術研究 53(2),2014 年。)
(*)(参考 : 近藤智彦・杉山和希訳注「アプロディシアスのアレクサンドロス『運命について』(日本語訳・注)(1-3)北海道大学文学研究科紀要 142,2014 年/145,2015 年/151,2017 年。)
(*)(参考：マリノス/西村洋平・堀江聡訳「翻訳 ネアポリスのマリノス『プロクロス：幸福について』第 1-13 章邦訳」新プラトン主義研究 13,2014 年。)
(*)(参考：高畑時子「キケローの「人格描写」論：アリストテレースとキケローの比較研究(谷栄一郎先生記念論文集)」地域創造学研究：奈良県立大学研究紀要

24(4),2014 年。)
(*)松崎一平「『告白』山田[晶]訳をもつということ」アウグスティヌス/山田晶訳『告白(1)』所収,中公文庫,2014 年。)
(*)(参考：加藤信朗「永遠と時間：アウグスティヌス『告白録』第 11 巻をめぐって」パトリスティカ：教父研究 17,2014 年。)
(*)(参考：阿部善彦「アウグスティヌスの『告白』の物語り性について：はじまりとおわり,生と死の視点から」キリスト教学 56,2014 年。)
(*)(参考：山田庄太郎『アウグスティヌスの時間論：『告白』の統一的主題を巡る研究』筑波大学,博士(文学),甲第 6761 号,2014 年。)
(*)(参考：須藤英幸『アウグスティヌスの聖書解釈学における記号論理と言語理論：De Majistro から De doctorina christiana への展開』京都大学,博士(文学),甲第 18440 号,2014 年。)
(*)(参考：小林剛「アルベルトゥス・マグヌスの可能知性論：『霊魂論』に即して」中央大学文学部紀要 252,2014 年。)
(*)(参考：小林剛「アルベルトゥス・マグヌスの可能知性論：『霊魂論』に即して」紀要哲学科 56(252),2014 年。)
(*)(参考：周藤多紀「補論ボエティウスと自由学芸の伝統(特集 第 62 回大会シンポジウム中世の自由学芸(1)ギリシアから前期スコラの時代へ)」中世思想研究 56,2014 年。)
(*)(参考：永嶋哲也「書評 論理学史のなかで過小評価を排したボエティウス像を描出する：Taki Suo,Boethius on Mind,Grammer and Logic：A Study of Boethius' Commentaries on Peri Hermeneias」西日本哲学年報 22,2014 年。)
(*)(参考：ヒロ・ヒライ& 小澤実編『知のミクロコシモス：中世・ルネサンスのインテレクチュアル・ヒストリー』中央公論新社,2014 年。)
(*)(参考：阿部善彦「西欧キリスト教思想における「偶然」と「必然」--「告白」的文学における「回心」,「出会い」の物語りの視点から(シンポジウム「偶然性と必然性」提題」国士舘哲学 18,2014 年。)
(*)渡部昇一「遅の井の湧水(1)--『神学大全』の翻訳」Will 2 月号,2014 年。
(*)渡部昇一「遅の井の湧水(2)—聖トマスと聖アウグスティヌス」(岩下壮一)Will 3 月号,2014 年。
(*)渡部昇一「遅の井の湧水(3)—祖母の膝の上で聞いた「哲学」」Will 4 月号,2014 年。
(*)(参考：阿部善彦「原典翻訳 フライベルクのディートリッヒ『知性と可知的のものについて』(第 1 部)」国士舘哲学 18,2014 年。)
(*)(参考：桑原直巳「「神学者」トマスの提示—日本のアカデミズムに抗して〈書評・特集稲垣良典『トマス・アクィナスの神学』〉季刊・創文 13,2014 年。)
(*)(参考：森本あんり「修道神学者トマスと今日の神学的実存(同上)」季刊・創文 13,2014 年。)
(*)(参考：山本義久「トマス・アクィナスの再発見—霊性の哲学(同上)」季刊・創文 13,2014 年。)
(*)(参考：柴田平三郎「トマス・アクィナスの現代性」図書 785,2014 年。)
(*)(参考：和田葉子「Harley913 写本に収録されている 2 ヵ国語による作品 Erth について—ラテン語と中英語のスタンザの関係を考える」関西大学外国語学部

紀要 11,2014 年。)
(*)(参考：柏木英彦『ラテン中世の精神風景』知泉書院,2014 年。)
(*)(参考：小林剛「イスラーム哲学における「個人」の問題(特集 イスラームとの対話)—(「イスラーム・レクチャー」より)」東洋学術研究 53(2),2014 年。)
(*)(参考：阿部善彦「ニコラス・クザーヌスの教育思想：ルネサンスとデヴォチオ・モデルナの二つの精神的基盤の接点から見えてくるもの」カトリック教育研究 31,2014 年。)
(*)(参考：小林剛「アルベルトゥス・マグヌスの可能知性論：『霊魂論』に即して」紀要 哲学科 56(252),2014 年。)
(*)(参考：ヒロ・ヒライ,小澤実編『知のミクロコスモス—中世・ルネサンスのインテレクチュアル・ヒストリー』中央公論新社,2014 年。)
(*)(参考：「古代ギリシアとルネサンス」19 世紀学研究 8,2014 年。)
(*)(参考：根占献一「ルネサンス・ヒューマニズムと近代：特にイタリアとドイツの視点から(特集 古代ギリシアとルネサンス)」19 世紀学研究 8,2014 年。)
(*)(参考：竹原創一「ルターの『主張』について：エラスムスとの自由意志論争の背景」基督教学研究 34,2014 年。)
(*)(参考：三倉康博「スペイン・エラスムス主義とオスマン帝国：16 世紀の二つの対話篇に焦点を当てて」広島修大論集 54(2),2014 年。)
(*)(参考：河野雄一「エラスムスにおける「寛恕」と限界：時間的猶予における改善可能性」(慶應義塾大学大学院法学研究科内「法学政治学論究」刊行会)法学政治学論究：法律・政治・社会 100,2014 年。)
(*)(参考：沓掛良彦『エラスムス：人文主義の王者』岩波現代全書 32,岩波書店,2014 年。)
(*)(参考：エラスムス著/沓掛良彦訳『痴愚神礼讃：ラテン語原典訳』中公文庫,中央公論社,2014 年。)
(*)(参考：ロレンツォ・ヴァッラ/近藤恒一訳『快楽について』(ストア派,エピクロス派)岩波文庫,2014 年。)
(*)(参考：河島英昭「ダンテ『神曲』への誘い(その 9,10)地上楽園(上下)第 28-33 歌」図書 781,782,2014 年。)
(*)(参考：中野京子「中野京子の名画が語る西洋史(21)ダンテは許さず」文藝春秋92(5),2014 年。)
(*)(参考：JO Thae-Ho「孤立する騎士の系譜：ボッカチオの『フィロコーロ』とチョーサーの『トロイルスとクリセイダ』」(慶應義塾大學藝文學會)藝文研究 107,2014年。)
(*)(参考：ロベルト エスポジト/佐藤友一郎・池野絢子・多賀健太郎訳「〈講演〉イタリア哲学への回帰—その起源とアクチュアリティ」ディアファネース—芸術と思想 1,2014 年。)
(*)(参考：上村忠男「ヴィーコのゼノン：『形而上学篇』第四章「本質あるいは力について」を読む」思想 1083,2014 年。)
(*)(参考：古賀徹「哲学と教育について：ヴィーコの「創発力」をめぐって(九州大学哲学会創立第 50 周年記念)」哲学論文集 50,2014 年。)
(*)(参考：原田健二朗『ケンブリッジ・プラトン主義—神学と政治の展開』創文社,2014 年。)
(*)(参考：加藤美紀「日常と超越をつなぐスピリチュアリティの育成：ヒルティの思想を手

がかりとして」(東北教育哲学教育史学会)教育思想 41,2014 年。)
(*)(参考：上野愼也「古典教育と黄昏のイギリス帝國」(池田嘉郎編『第一次世界大戦と帝国の遺産』山川出版社,2014 年。)
(*)(参考：Hosoi Atsuko,Takahashi Hidemi et De Leemans Pieter,‘Un manuscript d’*Aristoteles Latinus* à la National Diet Japan’(*Bulletin de philosophie médiévale* 55,2014.)
(*)(参考：内田次信「古典的な地下行神話と H.G.ウェルズ『月世界最初の人間』」(2013 年度大阪大学大学院文学研究科共同研究成果報告書『ヨーロッパ芸術におけるギロシア・ローマ神話の水脈に分野横断的研究』所収,2014 年。)
(*)(参考：近藤直樹「中世ナポリのウェルギリウス伝説--『パルテノペ年代記』より」京都外国語大学国際言語平和研究所「研究論叢」83,2014 年。)
(*)(参考：小林哲也『W・ベンヤミンの思考の展開：内的憧憬と外部空間』京都大学,博士(人間・環境学),甲第 18371 号,2014 年。)
(*)(参考：長尾伸一「18 世紀における天文学的複数性論の普及：天文学者とサイエンス・ライター」(名古屋大学経済学会)経済科学 62(1),2014 年。)
(*)(参考：杉本良明他「シェイクスピアの世界」ソフィア 61(3),2014 年。)
(*)(参考：廣田麻子「『十二夜』にみられるオウィディウスの影響―ナルキッススとエーコー」(小林潤司・杉井正史・廣田麻子・高谷修編『シェイクスピア 古典文学と対話する劇作家』所収,松籟社,2014 年。)
(*)(参考：加島康彦「『アントニーとクレオパトラ』におけるセネカの影響― “I have immortal longings in me”から読み取れるもの」安田女子大学大学院文学研究科紀要・合冊 20,2014 年。)
(*)佐々木隆編『日本シェイクスピア研究書誌(平成編・増補版)』イーコン,2014 年。
(*)(参考：今西雅章「文学講座 外観に眩惑された英雄ヘクター：シェイクスピアの『トロイラスとクレシダ』の一断面」(帝塚山学院大学)こだはら 36,2014 年。)
(*)(参考：酒見紀成「『トロイダスとクレシダ』に見られる反ホメーロス的叙述姿勢」プロピレア 20,2014 年。)
(*)(参考：山根正弘「ウォルトンとセネカ：釣師と哲人の鰌と徳」英語英文学研究 38(2),2014 年。)
(*)(参考：浅井雅志「〈老い〉の錬金術：イェイツ・ゲーテ・三島(ワークショップ報告 イェイツ・老い・想像力：詩の源泉としての〈老い〉)」イェイツ研究 45,2014 年。)
(*)(参考：Yamagata Naoko‘Camila and Tomoe：Female Warriors in Virgil and in Medieval Japan’Proceedings of the Virgil Society 28,2014.)
(*)赤井規晃「山川[丙三郎]訳ダンテの生みの親：忘れられたダンテ学者大賀壽吉について」東北学院英学史年報 35,2014 年。
(*)(参考：中野京子「中野京子の名画が語る西洋史(21)ダンテは許さず」文藝春秋92(5),2014 年。)
(*)(参考：JO Thae-Ho「孤立する騎士の系譜：ボッカチオの『フィローコロ』とチョーサーの『トロイルスとクリセイダ』」(慶應義塾大學藝文學會)藝文研究 107,2014 年。)
(*)(参考：本多崇洋「『トロイルス』における死の役割」(福島工業高等専門学校)研究紀要

55,2014 年。)
(*)大野志「書評 笹本長敬訳『トロイルスとクリセイデ』付・「アリネダとアルシーテ」」Studies in medieval English language and literature29,2014 年。)
(*)(参考：高谷修「『ヴィーナスとアドニス』と古典文学」(小林潤司・杉井正史・廣田麻子・高谷修編『シェイクスピア 古典文学と対話する劇作家』所収,松籟社,2014 年。)
(*)(参考:高谷修『ドライデンとポープ:翻訳詩の研究』大阪大学,博士(文学),乙第9816号,2014年。)
(*)(参考：高谷修『ギリシア・ローマ文学と十八世紀英文学—ドライデンとポープによる翻訳論の研究』世界思想社,2014 年。)
(*)(参考：飯田武郎「コールリッジの直感、ロレンスの直感—キリスト教的感性、古代ギリシア的感性」(久留米大学大学院比較文化研究科)比較文化年報 23,2014年。)
(*)(参考：塚田麻里子「《ウ・フロンティス》という語をめぐって：T.E.ロレンス『知恵の七柱』における“minor”の問題」(ヘロドトス)文芸研究：明治大学文学部紀要 124,2014 年。)
(*)(参考：町本亮大「ヴィクトリア時代におけるキーツ受容と芸術の創造をめぐる有機体論の変遷：アーノルド,ペイター,ワイルドを中心に」年報地域文化研究18,2014 年。)
(*)(参考：井上治「ソーントン・ワイルダーの「酔っ払った運命の三女神」--サイクル劇「人間の七つの大罪」にも収載された理由を探る」近畿大学教養・外国語教育センター紀要 外国語編 5,2014 年。)
(*)(参考：上野由貴「小叙事詩としての「アリスタエウス物語」--二つの物語に見られる対比と連続」(東京都立大学哲学会)哲学誌 56,2014 年。)
(*)(参考：武末祐子「ピラネージュの廃墟とグルテスク I—Grottescchi」西南学院大学フランス語フランス文学論集 57,2014 年。)
(*)(参考：高橋薫「一七世紀初頭の『ラ・フランシヤード』(1)」(トロイア)(中央大学人文科学研究所)人文研紀要 79,2014 年。)
(*)(参考：今橋大輝「古典主義の誕生：ヴィンケルマンの美学に対する批判的検討」法政大学大学院紀要 73,2014 年。)
(*)(参考：リューディガー・ザフランスキー/川島淳夫訳『ゲーテとシラー：ある友情の歴史』IPC 出版センター・ビブロス,2014 年。)
(*)(参考：星野慎一『ゲーテ』Century Books 人と思想 67,清水書院,2014 年。)
(*)(参考：平野篤司『ゲーテからツェーランへ：ドイツ文学における詩と批評』四月社,木魂社(発売),2014 年。)
(*)(参考：平野篤司『ゲーテからベンヤミンへ：ドイツ文学における次第と変奏』四月社,木魂社(発売),2014 年。)
(*)(参考：ゲーテ,カフカ/頭木弘樹訳『希望名人ゲーテと絶望名人カフカの対話』飛鳥新社,2014 年。)
(*)(参考：浅井英樹「ゲーテの文学と自然科学における「見る」こと(特集 見えるものと見えないもの：科学と幻想の間)」理大科学フォーラム 31(12),2014 年。)
(*)(参考：中井章子「ゲーテと「リベラルアーツ」(リベラルアーツの比較研究)」青山学院

女子短期大学総合文化研究所年報 22,2014 年。)
(*)(参考：市川明「世界文学シリーズ 世界市民ゲーテの平和の声：『タウリス島のイフィゲーニェ』を中心に」民主文学 589,2014 年。)
(*)(参考：野口薫「老ゲーテにおける動と静：中央大学最終講義(2012 年 12 月 15 日)をもとに」ドイツ文化 69,2014 年。)
(*)(参考：堀郁「ゲーテの原現象にみる諦念の思想とショーペンハウアーの共苦」関西学院哲学研究年報 48,2014 年。)
(*)(参考：アルネ・クラヴィッター/久山雄甫訳「驚嘆と感興のあいだで：ゲーテとロマン主義におけるパノラマ」モルフォロギア：ゲーテと自然科学 36,2014 年。)
(*)(参考：前田富士男「彫刻の色彩に触れる：ゲーテの体性感覚と美術史(特集 AISTHESIS 知覚とイメージをめぐって)」モルフォロギア：ゲーテと自然科学 36,2014 年。)
(*)(参考：小野あさよ「詩芸術と生の形式：『詩と真実』におけるゲーテの自己像」Aspect：立教大学ドイツ文学論集 48,2014 年。)
(*)(参考：Kumekawa Mario「自然の言語：ゲーテの世界観とグレゴリー・ペイトソンの学問論」藝文研究 107,2014 年。)
(*)(参考：浅井雅志「老いと死の「錬金術」：イェイツとゲーテ」京都橘大学研究紀要 41,2014 年。)
(*)(参考：黒子康弘「若きリルケとゲーテ：愛と彷徨のゼマンティク」日本女子大学紀要文学部 64,2014 年。)
(*)(参考：青木敦子『影像の詩学：シラー『ヴァレンシュタイン』と一義性の思考』古典転生 9,月曜社,2014 年。)
(*)(参考：坂本貴志『秘教的伝統とドイ近代：ヘルメス,オルフェイス,ピュタゴラスの文化史的変奏』ぷねうま舎,2014 年。)
(*)(参考：松山雄三「Fr.シラーと啓蒙の精神」東北薬科大学一般教育関係論集 27,2014 年。)
(*)(参考：北條瞳「フリードリヒ・デュレンマットの喜劇観：ギリシア喜劇と『物理学者たち』」Arts and media 4,2014 年。)
(*)(参考：近藤康裕『読むことの系譜学：ロレンス,ウィリアムズ,レッシング,ファウルズ』港の人,2014 年。)
(*)(参考：高橋克己「歴史上のギリシアとヘルダーリンの『パンと葡萄酒』」(高知大学人文学部人間文化学科)人文科学研究 20,2014 年。)
(*)豊田浩志「『群像』を 2 倍?愉しむ方法,または,私の体感的読み方」西洋古典叢書月報 109,2014 年。
(*)(参考：村井則夫『ニーチェ 仮象の文献学』知泉書館,2014 年。)
(*)(参考：ニイチェ/生田長江訳『文語訳ツァラトゥストラ』書肆心水,2014 年。)
(*)(参考：梅田孝太『ニーチェの力の哲学』上智大学,博士(哲学),甲第 465 号,2014 年。)
(*)(参考：高木昌史『ヘルダーリンと現代』青土社,2014 年。)
(*)(参考：ニーチェ/白須春彦編訳『ニーチェ勇気の言葉』ディスカヴァー・トゥエンティワン,2014 年。)
(*)(参考：高橋薫「十七世紀初頭の『ラ・フランシヤード』(1)」(中央大学人文科学研究所)人文研紀要 79,2014 年。)

(*)(参考：加賀ラビ「ホーフマンスタールとトロイア戦争」(日本独文学会)ドイツ文学 148 2014 年。)
(*)(参考：三宅新三「ホーフマンスタールと R.シュトラウス(2-4)」岡山大学文学部紀要 61, 62,2014 年/63,2015 年。)
(*)(参考：宮嵜克裕「2012 年度在学研究成果報告書 トロイアのヘレネーと聖女アンナ：美術展随想 2012 年 6 月 22 日パリ」GR：同志社大学グローバル地域文化学会紀要 2,2014 年。)
(*)(参考：中谷彩一郎「ピエール・ロジョン『ダフニスとクロエー』の三種の台本について」鹿児島県立短期大学研究年報 45,2014 年。)
(*)(参考：中谷彩一郎「矢野目源一譯『ダフニスとクロエー』」鹿児島県立短期大学「人文」38,2014 年。)
(*)(参考：六川裕子「アナトール・フランスとフォークロア：古典主義者の反古典的一側面」フランス語フランス文学研究 104,2014 年。)
(*)(参考：鳥山定嗣「ヴァレリー『旧詩帖』の一篇「ヴィーナスの誕生」を読む：若書きの詩の改編」仏文研究 45,2014 年。)
(*)(参考：阿部いそみ「アルベール・カミュ『異邦人』における口承性――古代レトリックとプラトン的対話編」東北文教大学・東北文教大学短期大学部紀要 4,2014 年。)
(*)(参考：内田健一「ダヌンツィオとパスコリのオデュッセウス像―詩人と教育者の立場の違い」京都産業大学論集[人文科学系列]47,2014 年。)
(*)(参考：北條瞳「フリードリヒ・デュレンマットの喜劇観：ギリシア悲劇と『物理学者たち』」Arts and media 4,2014 年。)
(*)Takahashi Ayumi & Takahashi Hideki,‘Learner Anxiety in Latin Class’,新潟大学言語文化研究 19,2014 年。
(*)渡邉雅弘「〈資料〉三谷隆正の思想研究のために」(愛知教育大学地域社会システム講座)社会科学論集 52,2014 年。
(*)山本伸裕『清沢満之と日本近現代思想：自力の呪縛から他力思想へ』明石書店,2014 年。
(*)(参考：升信夫「「修養」,「教養」,paideia：清沢満之,新渡戸稲造,ソクラテス」桐蔭法学 21(1),2014 年。)
(*)(参考：岡井隆『木下杢太郎を読む日』幻戯書房,2014 年。)
(*)竹内洋「阿部次郎とその時代(1-14):教養派知識人の運命」ちくま 523-525,2014 年/526-537, 2015 年。
(*)三浦小太郎「近代の闇 闇の近代(25-27)反近代の英雄としてナポレオン(上中下)保田與重郎論(2-4)」月刊・日本 18(2,3,4),2014 年。
(*)三浦小太郎「近代の闇 闇の近代(29-31)日本武尊と「悲劇の誕生」(上中下)保田與重郎論(5-7)」月刊・日本 18(7,9,11),2014 年。
(*)(参考：角田幸彦「ブルクハルトとハイデガー―二人の哲学的思索の近さをめぐって(1)」明治大学教養論集 498,2014 年。)
(*)(参考：角田幸彦『哲学者としての歴史家ブルクハルト―プラトン、オウィディウス、ルーベンス、精神史と共に』文化書房新社,2014 年。)
(*)(参考：森田猛『ブルクハルトの文化史学：市民教育から読み解く』Minerva 西洋史ライブラリー101,ミネルヴァ書房,2014 年。)

(*)中谷猛「書評 ブルクハルトはどのようなタイプの思想家であったか : 森田猛『ブルクハルトの文化史学 : 市民教育から読み解く』を読む」文化史学 70,2014 年。
(*)(参考 : 本村凌二『はじめて読む人のローマ史 1200 年』祥伝社新書,祥伝社,2014 年。)
(*)(参考 : 本村凌二『辣腕,無私,洞察力の 51 人に学ぶ』世界史の叡智,中公新書,中央公論新社,2014 年。)
(*)(参考 : 塩野七生『ローマ亡き後の地中海世界 : 海賊,そして海軍(1-4)』新潮文庫,新潮社,2014 年。)
(*)(参考 : 濱田真『ヘルダーのビルドゥング思想』島影社,2014年。)
(*)(参考 : フリードリッヒ・フォルハルト/桑原俊介訳「特別講演 ゴットホルト・エフライム・レッシングの『ラオコーン』 : ドイツにおける美学の始まりに寄せて」美学藝術学研究32,2013年。)
(*)(参考 : 桑原俊介「解釈学と論理学 : ダンハウアーからシュライアマハーまで」美學 65(1), 2014 年。)
(*)深井智朗「日本で最初のシュライアマハー論 : 三並良著『シュライエルマッヘル』」金城学院大学論集・人文科学編10(2),2014年。)
(*)深井智朗「シュライアマハーの『宗教について』 : 三並良の読み方」春秋549,2014年。)
(*)(参考 : 伊藤慶郎「理解と対話 : シュライアマハーの解釈学と弁証法」宗教哲学研究31,2014年。)
(*)(参考 : ホルスト・ブレーデカンプ/原研二訳『ライプニッツと造園革命』産業図書,2014年。)
(*)(参考 : 松山壽一『悲劇の哲学—シェリング芸術哲学の光芒』(叢書シェリング入門6), 萌書房,2014年。)
(*)(参考 : 中畑邦夫「ヘーゲルのソクラテス論 : その悲劇性および喜劇性」麗澤学際ジュアーナル22(1),2014年。)
(*)(参考 : 永見文雄・三浦信孝・川出良枝編『ルソーと近代—ルソーの回帰・ルソーへの回帰』風行社,2014年。)
(*)(参考 : 塚越健司「フーコーにおけるパレーシアと預言者の真理陳述 : 古代社会における批判的言説の類型と意義」専修人間科学論集・社会学篇4,2014年。)
(*)(参考 : 岩田靖夫「自己への回帰—レヴィナス哲学の底」福音と世界69,2014年。)
(*)(参考 : 船木亨『差異とは何か』世界思想社,2014年。)
(*)(参考 : 木原武一『大人のための日本の名著50』初版・角川文庫,KADOKAWA,2014年。)
(*)(参考 : 木原武一『大人のための世界の名著50』初版・角川文庫,KADOKAWA,2014年。)
(*)長塚英雄責任編集『日露異色の群像30 : 文化・相互理解に尽くした人々』(「哲学・西洋音楽の普及に尽くしたケーベル博士」)東洋書店,2014年。
(*)粕谷一希『歴史散歩』(ケーベル)粕谷一希著作集 2,藤原書店,2014 年。
(*)田中文憲「日本的教養(1)教養主義をめぐって」奈良大学紀要 42,2014 年。)
(*)長尾宗典「ケーベルの哲学講義 : 高山樗牛・姉崎嘲風の思想形成と「ドイツ観念論」」史境68,2014年。
(*)平川祐弘「雑司ヶ谷霊園 : ケーベル,小泉八雲,夏目漱石 日本人の宗教観（特集 墓地を紡ぐ14の物語）」東京人29(4),2014年。
(*)小川知幸「少しく無秩序のうちに秩序のある : ケーベル文庫とその保存修復について」東北大学附属図書館調査研究室年報2,2014年。

(*)(参考：A.G.ヴェルサンジュ/榊原健太郎(訳・解題),下山太郎訳「プラトン対話篇『法律』における《音楽》」帝京科学大学紀要10,2014年。)
(*)(参考：渡邉晶『大工道具の文明史：日本・中国・ヨーロッパの建築技術』歴史文化ライブラリー374,吉川弘文館,2014年。)
(*)(参考：高橋裕子「青銅器時代終末期におけるティリンス：建造物T,「ティリンスの宝物」,クレタ製粗製鎧壺に関する資料紹介」西洋史研究43,2013年。)
(*)(参考：辻成史「エリュデニズ(トルコ共和国ムーラ県フェティエ市)の古代末期・初期ビザンチン遺構と装飾の編年(2)建築―その(1)」ヘレニズム~イスラーム考古学研究21,2014年。)
(*)(参考：岩田千穂『ギリシア古代都市メッセネの劇場の復元に関する研究』熊本大学,博士(学術),甲学術第290号,2014年。)
(*)(参考：田中咲子・大場瞳美・嘉藤稜子「美術教育における石膏像の活用--〈うちの・いえ・ギリシャ〉の活動及び制作記録」新潟大学美術教育研究会紀要 コンコルディア33,2014年。)
(*)(参考：青木真兵・田中宏幸・大城通則他「歴史的考察から得られるギリシア・パルテノン神殿の耐震性低下の可能性とミュオグラフィによるその評価について」駒澤史学82,2014年。)
(*)(参考：山田眞生・鈴木淳一・花里利一「3103 海外の世界遺産組積造建築物に用いられる大理石材料に関する研究：パルテノン神殿に用いられる大理石材料の耐火性能(火害診断・その他,防火,2014年度日本建築学会大会(近畿)学術講演会・建築デザイン発表会)」学術講演梗概集2014(防火),2014年。)
(*)(参考：川津彩可「9397 古代ギリシア神殿の内陣のスパンおよび内部会談について：アルカイック期からクラシック期のドリス式神殿を対象に(西洋建築史古代・中世[1]建築歴史・意匠,2014年度日本建築学会[近畿]学術講演会・建築デザイン発表会)」学術講演梗概集2014(建築歴史・意匠),2014年。)
(*)(参考：池田雅史「9417 バッコスとキュベレー：ミハイロフスキー城東立面のイコノロジー(西洋建築史 近世[2]建築歴史・意匠,2014年度日本建築学会[近畿]学術講演会・建築デザイン発表会)」学術講演梗概集2014(建築歴史・意匠),2014年。)
(*)(参考：堀賀貴「817 レーザースキャニングによるオスティア遺跡の 3D 化について：ポンペイ,オスティア都市・建築研究(1)(歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 53,2014 年。)
(*)(参考：中道大樹・堀賀貴「818 古代ローマ,オスティアにおける鱗(うろこ)模様モザイクの制作過程に関する研究：ポンペイ,オスティア都市・建築研究(2)(歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 53,2014 年。)
(*)(参考：中原桃子・林田義伸・中川明子「825 アテネのアクロポリスにあるローマとアウグストゥス神殿に関する研究(7)オーダーに関する考察(建築歴史・意匠)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 53,2014 年。)
(*)(参考：三宅諒・堀賀貴「埋込アーチからみる古代ローマ時代のアーチ技術の展開に関す

る考察：ポンペイ,オスティア都市・建築研究(3)」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 53,2014 年。)
(*)(参考：加塩啓介・林田義伸「デルフィのトロスの設計法に関する研究」日本建築学会研究報告,九州支部編 53,2014 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・岩田千穂「地中海古代都の研究(141)」日本建築学会研究報告,九州支部編 53,2014 年。)
(*)(参考：伊藤重剛・末次周「地中海古代都の研究(142)」日本建築学会研究報告,九州支部編 53,2014 年。)
(*)(参考：堀賀貴「ポンペイにおける道路交通に関する考察(1)ポンペイ都市機能研究 III」日本建築学会計画系論文集 79(705),2014 年。)
(*)(参考：石井翔大・安藤直見「パルテノン神殿の黄金比による立面構成に関する考察：古典主義建築との比較を通して」大会学術講演論文集 5,2014 年。)
(*)(参考：青木真兵・田中宏幸・大城道則他「歴史的考察から得られるギリシア・パルテノン神殿の耐震性能低下の可能性とミュオグラフィによるその評価」駒澤史学 82,2014 年。)
(*)(参考：山田眞生・鈴木淳一・花里利一「3103 海外の世界遺産組積造建築物に用いられる大理石材料に関する研究 : パルテノン神殿に用いられる大理石材料の耐震性能(火害診断・その他,防火 2014 年度日本建築学会大会(近畿)学術講演会・建築デザイン発表会)」学術講演梗概集 2014(防火),2014 年。)
(*)(参考：武末祐子「ピラネージの廃墟とグロテスク I—Grotteschi」西南学院大学フランス語フランス文学論集 57,2014 年。)
(*)(参考：山沢孝至「紀元 365 年 7 月 21 日,東地中海の大津波：文献史料を中心に(谷英一郎先生記念論文集)」地域創造学研究 : 奈良県立大学研究季報 24(2),2014 年。)
(*)(参考：中央図書館貴重書WG「ウィトルウィウス『建築十書』バロバル版 ヴェネツィア1567年」香散見草：近畿大学中央図書館報46,2014年。)
(*)市川秀和「9281森田慶一のフィルミタスの邦訳について(建築論・日本近代・建築歴史・意匠,2014年度日本建築学会大会(近畿)学術講演会・建築デザイン発表会)」学術講演梗概集2014（建築歴史・意匠）,2014年。)
(*)市川秀和「9051 森田慶一のウィトルウィウス建築書邦訳について(建築史・建築意匠・建築論)」日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系54,2014年。)
(*)市川秀和『「建築論」の京都学派：森田慶一と増田友也を中心として』近代文芸社,近代文芸社新書,2014年。
(*)(参考：益田朋幸『ビザンティン聖堂装飾プログラム論』中央公論美術出版,2014年。)
(*)(参考：デイヴィッド・ワトキン/白井秀和訳『メソポタミアとエジプト建築からバロック建築の発展まで』西洋建築史1,中央公論美術出版,2014年。)
(*)(参考：デイヴィッド・ワトキン/白井秀和訳『18世紀新古典主義から現代建築まで』西洋建築史2,中央公論美術出版,2014年。)
(*)(参考：芳賀満「ガンダーラの出家踰城図における女神テュケーの図像：そのタイプ分類とヘレニズム時代ギリシアの視座からの新解釈(特集 シルクロードの文化交流)」仏教芸術333,2014年。)

(*)(参考：中村友代「古代マケドニアにおけるアレクサンドロス大王の美術について：ヘレニズム時代の葬礼美術への展開とその影響(「美術に関す調査研究の助成」研究報告)--（2014年度助成）」鹿島美術財団年報32,2014年。)
(*)(参考：ラトキン・H.ダレル/菊地重仁訳/小澤実解説「公開講演会 ヨーロッパ史のなかの占星術・中世・ルネサンスから近代へ」史苑74(2),2014年。)
(*)(参考：鏡リュウジ「トランスパーソナルと占星術」トランスパーソナル学研究13,2014年。)
(*)(参考：ヒロ ヒライ「ルネサンスの星辰医学 占星術の変容から普遍医薬の探究へ」学習院女子大学紀要16,2014年。)
(*)踊共二「森田安一著「木版画を読む—占星術・「死の舞踏」そして宗教改革」(山川出版社)」史學雑誌123(8),2014年。
(*)三浦伸夫「榎本美恵子『天才カルダーノの肖像—ルネサンスの自叙伝,占星術,夢判断』勁草書房,2013年。」科学史研究[第III期]53(271),2014年。
(*)(参考：マンリー・P.ホール/大沼忠弘・山田耕士・吉村正和訳『秘密の博物誌』新装版,象徴哲学体系 新版,人文書院,2014年。)
(*)(参考：村山泰弘『科学の中の宗教・宗教の中の科学：誰でも知っているような話の先にある,誰も知らない話』東洋出版,2014年。)
(*)(参考：古田博司『ヨーロッパ思想を読み解く：何が近代科学を生んだか』ちくま新書,筑摩書房,2014年。)
(*)(参考：倉田亮「世界遺産の水環境(47)マルタの文化遺産の水環境：地中海」用水と廃水56(2),2014年。)
(*)(参考：澁澤龍彦『プリニウスと怪物たち』河出書房新社,河出文庫,2014年。)
(*)(参考：ヤマザキ マリ,とり・みき『プリニウス=Plinius』新潮社,2014年。)
(*)(参考：高橋宏幸「馬を馴らす(特集 馬と文学)」文学15(1),2014年。)
(*)(参考：糸隆太「共和政ローマにおける牧畜規制」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論叢36,2014年。)
(*)(参考：田辺悟『磯』(「エーゲ海の海綿採り」「ギリシアの魚介料理」)法政大学出版局,2014年。)
(*)(参考：野村嗣「ノラのパウリヌス Carmen20 における動物の性格描写について」千葉大学人文社会科学研究科研究プロジェクト報告書 269,2014 年。)
(*)(参考：鈴木大地「アリストテレス『動物発生論』の現代生物学：科学哲学的検討(2)第1巻第17章～第2巻第3章」古典古代学7,2014年。)
(*)(参考：佐藤幸正「ハドソンとアリストテレス—鳥と動物記述についての比較」弘前学院大学英米文学38,2014年。)
(*)(参考：山田正行「アイデンティティと歴史の自己教育的研究(1)エディプスコンプレックスの心理歴史的考察」(ヘブライズムとヘレニズム)大阪教育大学紀要・第4部門・教育科学63(1),2014年。)
(*)(参考：森田康裕「望星インタビュー この人の“実感”を聞きたい 森田康裕さん(マサチューセッツ大学アマースト校微生物学科助教)ギリシア悲劇とサイエンス」望星45(11),2014年。)
(*)(参考：齋藤憲『アルキメデスの「謎」を解く』岩波科学ライブラリー,岩波書店,2014年。)
(*)(参考：北條瞳「フリードリヒ・デュレンマットの喜劇観：ギリシア悲劇と『物理学者た

ち』」 Arts and medeia4,2014年。)
(*)青木薫「古代の天動説からビッグバン・モデルに至る壮大な科学史[『宇宙創成』(上・下)サイモン・シン(青木薫訳,新潮文庫)](大著を読む)」エコノミスト92(22),2014年。
(*)(参考：和田浩一「史27-004『少年世界』(1895年)に見られる古代オリンピックの理解：日本の近代体育･スポーツとの接点に注目して(01 体育史,一般研究発表抄録)」日本体育学会大会予稿集65,2014年。)
(*)(参考 : 伴義孝「大島鎌吉のオリンピック運動(1)近代オリンピックの検討」関西大學文學論集64(1),2014年。)
(*)(参考：山本敦之「古代ギリシャ,メソポタミア,エジプトの学問と学者―哲学・数学・医学」吉備国際大学研究紀要・人文社会科学系24,2014年。
(*)(参考：早川智「青い血のカルテ(127)プリニウスとヴェスヴィウス火山」産科と婦人科81(12),2014年。)
(*)(参考：神馬幸一「法的守秘義務に関する倫理的多義性」生命倫理24(1),2014年。)
(*)(参考：坪井康次「グローバルスタンダードと“ヒポクラテスの誓い”」東邦医学会雑誌61(1),2014年。)
(*)(参考：陽捷行「環境を基とした農医連携の科学を求めて」日本統合医療学会誌7(1),2014年。)
(*)(参考：西條敏美「名著に学ぶ「心とからだの健康」(6)プルタルコス著『健康のしるべ』(1世紀末)」心とからだの健康：子どもの生きる力を育む18(3),2014年。)
(*)(参考：西條敏美「名著に学ぶ「心とからだの健康」(7)アヴィセンナ著『医学の歌』(11世紀)」心とからだの健康：子どもの生きる力を育む18(4),2014年。)
(*)(参考：西條敏美「名著に学ぶ「心とからだの健康」(8)『エセー(随想録)』(1580・1588)」心とからだの健康：子どもの生きる力を育む18(5),2014年。)
(*)(参考：西條敏美「名著に学ぶ「心とからだの健康」(10)ヒポクラテス著『健康時の摂生法』(紀元前4世紀)」心とからだの健康：子どもの生きる力を育む18(10),2014年。)
(*)(参考 : 片岡一則・小川明[インタビュアー]「未来技術の旗手たち がん細胞に薬を送り込む「トロイの木馬」ナノミルセ新薬が実用間近に 東京大学大学院工学研究科・医学系研究科教授 片岡一則氏」商工ジャーナル40(3),2014年。)
(*)(参考：樫村愛子「「ネオ精神医学」を生み出した「トロイの木馬」：DSM：アメリカにおける父殺しと科学への倒錯(特集 ポスト・ビッグデータと統計学の時代)」現代思想42(9),2014年．)
(*)(参考 : 島本裕美子「夢類型の比較からみた治療の夢に関する研究」心理臨床学研究32(1),2014年。)
(*)(参考：ヴィルヘルム・イェンゼン著/種村季弘訳,ジークムント・フロイト著/種村季弘訳『グラディーヴァ,妄想と夢』平凡社ライブラリー,平凡社,2014年。)
(*)(参考：ヴィルヘルム・イェンゼン作/山本淳訳『グラディーヴァ：ポンペイ空想物語：精神分析的解釈と表象分析の試み』松伯社,2014年。)
(*)(参考：ヴォルフガング・エッカルト『医学の歴史』東信堂,2014年。)
(*)(参考：アン・ルーニー/立木勝訳『医学は歴史をどう変えてきたか：古代の癒やしから

近代医学の奇跡まで』東京書籍,2014年。)
(*)(参考：スーザン・オールドリッチ/野口正雄訳『図説世界を変えた50の医学』シリーズ知の図書館4,原書房,2014年。)
(*)(参考：末廣謙『医療の歴史』二瓶社,2014年。)
(*)(参考：三木栄『体系・世界医学史』日本図書センター,2014年。)
(*)(参考：今井正浩「展望 新時代の古代ギリシア・ローマ医学史研究(特集 科学史・技術史の現在・過去・未来(2)」科学史研究[第III期],日本科学史学会編53(270),2014年。)
(*)(参考：平井美津子「英語の医学用語の語形成に及ぼすラテン語の影響について」長崎国際大学論叢14,2014年。)
(*)(参考：丸橋裕「生の内なる死—V.v.ヴァイツゼカーの〈医学的人間学〉の可能性」日独文化研究所年報6,2014年。)
(*)(参考：トム・ジャクソン編,リチャード・ビーティー他著/富永星訳『数学：新たな数と理論の発見史』歴史を変えた100の大発見,丸善出版,2014年。)
(*)(参考：スティーヴン・ストロガッツ/富永星訳『Xはたのもしい：魚から無限に至る,数学再発見の旅』早川書房,2014年。)
(*)(参考：グレアム・トービン/上原ゆうこ訳『占星医術とハーブの世界：ホリスティック医学の先駆者カルペパーが説く心と身体と星の理論』原書房,2014年。)
(*)(参考:L.M.Principe/菅谷暁・山田俊弘訳『科学革命』サイエンスパレット19,丸善出版,2014年。)
(*)古田博司「自著を語るBOOK『ヨーロッパ思想を読み解く：何が近代科学を生んだか』筑波大学大学院教授 古田博司 西洋哲学を再構築し,私たちの知性・教養の底上げを」週刊教育資料1319,2014年。)
(*)(参考：笠井哲「下村寅太郎『科学史の哲学』のおける現代的意義」(福島工業高等専門学校)研究紀要55,2014年。)
(*)福谷茂「〈永井博先生を悼む〉永井博先生の思い出」筑波哲学22,2014年。
(*)中戸川孝治「〈永井博先生を悼む〉多様体哲学はポスト・フレーゲ化できるか：タルスキー意味論からローペアー意味論へ(構想の試み)」筑波哲学22,2014年。
(*)八巻和彦「〈永井博先生を悼む〉永井博先生の思い出」筑波哲学22,2014年。
(*)米澤克夫「〈永井博先生を悼む〉永井博先生を偲ぶメタフィロソフィーの構想」筑波哲学22,2014年。
(*)寺中平治「〈永井博先生を悼む〉永井博先生の思い出」筑波哲学22,2014年。
(*)飯塚勝久「〈永井博先生を悼む〉恩師永井博先生を偲ぶ」筑波哲学22,2014年。
(*)栗原靖「〈永井博先生を悼む〉基礎への意志」筑波哲学22,2014年。
(*)齋藤博「〈永井博先生を悼む〉永井先生のこと」筑波哲学22,2014年。
(*)永井淑子「〈永井博先生を悼む〉永井博回想記」筑波哲学22,2014年。
(*)「永井博先生主要業績一覧(永井博先生追悼号)」筑波哲学22,2014年。
(*)(参考：関野新助『「生存権」と国家—西洋国家思想に学ぶ』中央法規出版,2014年。)
(*)(参考：仲手川良雄『古代ギリシアにおける自由と社会』創文社,2014年。
(*)(参考：渡部昇一・本村凌二『国家の盛衰：3000年の歴史に学ぶ』祥伝社新書,祥伝社,2014年。)
(*)(参考：栗原麻子「アッティカ民衆法廷における報復のレトリック：リュクルゴス『レオ

クラテス弾劾』を中心にして」西洋史研究43,2013年。)
(*)(参考：的射場敬一「『イリアス』にみるポリス形成期の社会構造---自由と平等の原風景を求めて」國士舘大學政經論叢26(4),2014年。)
(*)山形治江「エウリピデス作『トロイアの女たち』の政治性：制作・上演の現場から」世界文学119,2014年。
(*)ヤマザキ マリ「時代を拓くコンセプト ローマに学ぶ成熟国家への道」Voice 437,2014年。
(*)(参考：村田奈々子「バルカン戦争時のヘレニズム言説」言語と文化11,2014年。)
(*)(参考:隠岐(須賀)麻衣「プラトン『ポリテイア』における詩と物語」年報政治学2014(1),2014年。)
(*)(参考：橋場弦「アリストテレス」公研612,2014年。)
(*)(参考：橋場弦・國方栄二『翻訳・註釈・解説 アリストテレス全集第19巻アテナイ人の国制著作断片集1』岩波書店,2014年。)
(*)(参考：トマス・アクイナス/山本耕平訳「アリストテレス—ポリティカ全8巻への聖トマス・アクイナスの注解」(聖カタリナ大学キリスト教研究所)研究所紀要17,2014年。)
(*)(参考：マティアス・ゲルツァー/長谷川博隆訳『ローマ政治家伝(3)：キケロ』名古屋大学出版会,2014年。)
(*)内田康太「ロナルド・サイム著/逸見喜一郎・小池和子・上野愼也・小林薫・兼利琢也・小池登訳「ローマ革命—共和政の崩壊とアウグストゥスの新体制(上下)」(岩波書店)2013」史學雜誌123(8),2014年。
(*)(参考：保坂高殿「古代地中海世界における国家と教会の互恵関係：ギリシア・ローマ世界とキリスト教会」千葉大学人文社会科学研究科研究プロジェクト報告書269,2014年。)
(*)(参考：甚野尚志・踊共二編『中近世ヨーロッパの宗教と政治：キリスト教世界の統一性と多元性』西洋史ラーブラリー100,ミネルヴァ書房,2014年。)
(*)(参考：市川明「世界文学シリーズ世界市民ゲーテの平和の声：『タウリスのイフィゲーニエ』を中心に」民主文学589,2014年。)
(*)(参考：田村浩志『集いと語りのデモクラシー：リンゼイとダールの多元主義論』オンデマンド版Keiso c books,勁草書房,2014年。)
(*)(参考：河野雄一「エラスムスにおける「寛恕」」と限界：時間的猶予における改善可能性」法学・政治学論究；法律・政治・社会100,2014年。)
(*)(参考:菊地肇哉「サー・ジョン・フォーテスキューによるアリストテレス理解:Dominium politicum et regaleの概念を中心として」法政論集50(2),2014年。)
(*)(参考：北村暁夫「第10回公開講演会 ガリバルディと現代イタリア」星美学園短期大学日伊綜合研究所報10,2014年。)
(*)(参考：カール・ポパー著/ジェレミー・シアマー,ビアズ・ノーリス・ターナー編『カール・ポパー—社会と政治：「開かれた社会」以後』ミネルヴァ書房,2014年。)
(*)角田幸彦「レオ・シュトラウス,アーレントへ関わらせて私の政治哲学の一端について」明治大学教養論集502,2014年。)
(*)(参考：レオ・シュトラウス/飯島昇藏・石崎嘉彦・近藤和貴・中金聡・西永亮・高田宏

史訳『政治哲学とは何であるか? とその他の諸研究』風行社,2014年。)
(*)(参考：飯島昇藏・中金聡・太田義器編『「政治哲学」のために』所収,行路社,2014年。)
(*)(参考：佐々木潤「『政治哲学の歴史』における H・V・ジャッファと C・ロードのアリストテレス論の比較---「哲学」の位置付けを中心として」(政治哲学研究会)政治哲学16,2014年(→2015年,西永亮編『シュトラウス政治哲学に向かって』所収,小樽商科大学研究叢書,小樽商科大学出版。)
(*)(参考：レオ・シュトラウス/飯島昇藏・近藤和貴他訳「レオ・シュトラウス「クセノフォンのソクラテス」政治哲学16,2014年。)
(*)竹内加奈「「敗者」のナショナリズム：東海散士『佳人之奇遇』を通じて」(同志社大学人文科学研究所)社会科学101,2014年。
(*)渡邉雅弘「実は私、グリーンの孫弟子だったんです!」(D.グリーン『ギリシア政治理論』書評)(風行社)風のたより56号,2014年。)
(*)(参考：内川勇海「古典期アテーナイの合法殺人法廷の権限：僭主殺しとの関連を中心に(研究発表,西洋史部会,第111回学会大会報告)」史學雜誌123(1),2014年。)
(*)(参考：古賀敬太『コスモポリタニズムの挑戦』風行社,2014年。)
(*)(参考：南原繁『国家と宗教：ヨーロッパ精神史の研究』岩波文庫,岩波書店,2014年。)
(*)(参考：石田雅樹「ウォルター・リップマンにおける「世論」と「市民教育」：「世論」向上のための幾つかの処方箋について」宮城教育大学紀要49,2014年。)
(*)(参考：G.ハバート・T.ケイン/久保恵美子訳『なぜ大国は衰退するのか—古代ローマから現代まで』日本経済新聞出版社,2014年。)
(*)(参考：青砥清一「七部法典におけるアルフォンソ10世の王権思想について：ローマ法学とアリストテレス政治学の継受」神田外語大学紀要26,2014年。)
(*)(参考：吉原達也「キケロ『カエキーナ弁護論』における争点に関する一考察」日本法學80(1),2014年。)
(*)(参考:江川陽「ギボンの国家観をたどる:repulicの用法に関する一考察」立正史学116,2014年。)
(*)(参考：吉原達也「『学説彙纂』第50巻第17章第1法文について—ポティエ『新編ユスティニアヌス学説彙纂』レグラエ論序章」日本法學80(2),2014年。)
(*)(参考：葛西康徳「はじめに：海を渡ったローマ法：『法典化の19世紀：(ポスト)コロニアル・パースペクティブ』に寄せて」19世紀学研究8,2014年。)
(*)(参考：米本雅一「共和制末期ローマに関する古典的研究書邦訳の刊行と現在の研究動向—描かれた共和制ローマ像とその問題点」西洋史学 253,2014 年。)
(*)(参考：浦野起央編『資料体系アジア・アフリカ国際関係政治社会 10 38b(アジア・アフリカ便覧 4.2.(第三世界)』(「エーゲ海紛争」)パピルス出版,2014 年。)

(*)(参考：角田修一「マルクス「学位論文」の哲学と思想」立命館経済学64(1),2015年。)
(*)(参考：大黒弘慈「犬儒派マルクス(総特集 柄谷行人の思想)」現代思想42(18),2015年。)
(*)関根猪一郎「書評 大谷禎之介・平子友長編『マルクス抜粋ノートからマルクスを読む：MEGA第IV部門の編集と所収ノートの研究』」(政治経済研究所「政経研究」編集委員会)政経研究104,2015年。
(*)(参考:中野京子「中野京子の名画が語る西洋史(38)ホモルーデンスたち」文藝春秋93(11),2015年。)

(*)(参考：中野京子「中野京子の名画が語る西洋史(40)美の規範」文藝春秋93(14),2015年。)
(*)(参考：藤村シシン『古代ギリシャのリアル』実業之日本社,2015年。)
(*)板倉靖樹『板倉靖樹の軌跡：アルカディアを求めて』Art Box インターナショナル,2015年。)
(*)江波光則『我もまたアルカディアにあり』早川演劇文庫43,早川書房,2015年。)
(*)江波光則・前島賢「ハヤカワ文庫JA『我もまたアルカディアにあり』刊行記念,江波光則インタビュウ」SFマガジン56(5),2015年。)
(*)(参考：高橋健一「アルカディアのポルティコ：ピエル・ヤコポ・マルテッロの理想都市「ポエジロゴポリ」とイタリアの文芸共和国」美術史学36,2015年。)
(*)「日本紀行 日本の理想郷(アルカディア)山形県」潮681,2015年。
(*)(参考：北上次郎「勝手に文庫解説(翻訳篇 第15回)刑務所小説の傑作[『ハドリアヌスの長城』ロバート・ドレイパー 三川好訳]」ハヤカワミステリマガジン60(3),2015年。)
(*)清水重敬・河上眞理『辰野金吾：美術は建築に応用されざるべからず』ミネルヴァ日本評伝選,ミネルヴァ書房,2015年。
(*)川崎晴朗「西園寺公望公の第1回外遊について」筑波学院大学紀要10,2015年。
(*)植村和秀「滞欧研究日記にみる平泉澄博士」藝林64(1),2015年。
(*)森田健一『美しき秘密のイタリアへ：51の世界遺産と小さな村』ダイヤモンド・ビッグ社,2015年。
(*)(参考：吉澤五郎「講演論文 「ヨーロッパ」の起源：地中海巡礼の風光」比較文明研究20,2015年。)
(*)地球の歩き方編集室編『イラン ペルシアの旅』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2016-17 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イスタンブールとトルコの大地』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2016-17 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『ギリシアとエーゲ海の島々&キプロス』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2016-17 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2016-17 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ローマ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2016-17 年。
(*)地球の歩き方編集室編『フィレンツェとトスカーナ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2017-18 年。
(*)地球の歩き方編集室編『南イタリアとマルタ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2016-17 年。
(*)森田健一『美しき秘密のイタリアへ：51 の世界遺産と小さな村』地球の歩き方 Books,ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社,2016 年。
(*)池田匡克・池田愛美『ローマ美食散歩：永遠の都を食べ歩く』地球の歩き方 gem stone65,ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社,2016 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『イタリア』改訂版 3,地球の歩き方 aruco18,ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社,2016 年。
(*)(参考：楊逸「エーゲ海の傷跡(きずあと)(1-18・最終回)」潮678-682,2015年/683-694,2016

年/695,2017年。)
(*)(参考：『大人が弾きたいイージーリスニング名曲選：中級~上級対応』(ポール・モーリア「エーゲ海に真珠」)保存版ピアノ・ソロ,シンコー・ミュージック・エンタテイメント,2015年。)
(*)(参考：『大人が弾きたい70年代に流行したヒットソングあつめました』(「魅せられて—エーゲ海のテーマ[ジュディ・オング] 」ピアノ・ソロ,シンコー・ミュージック・エンタテイメント,2015年。
(*)(参考：『大人の歌謡曲&ポップス大全集200：コード付き歌詞組み決定版!』(「魅せられて—エーゲ海のテーマ[ジュディ・オング] 」シンコー・ミュージック・エンタテイメント,2015年。
(*)富澤一誠編曲『大人の歌謡曲—おんなの熱恋歌』(広瀬倫子「アフロディーテの夜」)「魅せられて—エーゲ海のテーマ[ジュディ・オング]」録音ディスク,ユバーサルミュージック,2015年。
(*)ASUHA『エーゲ海のねこ：シエスタの町から』PHP研究所,2015年。
(*)(参考：リード・ミッシェル/藤原晶訳『エーゲ海にとらわれて』ハーレクインコミックス★キララ,ハーレクイン,2015年。)
(*)(参考：ハンプソン・アン/高樹晶子訳『エーゲ海に散る』ハーレクイン・ロマンス,ハーレクイン,2015年。)
(*)(参考：アン・ハンプソン/加藤しをり訳『再会のエーゲ海』ハーレクイン文庫,ハーパーコリンズ・ジャパン,2015 年。)
(*)(参考：青木真平「サルデーニャ島のフェニキア人と「ローマ化」--都市スルキスの二語併用碑文から」駒澤史学84,2015年。)
(*)沢登佳人『よしと童話集』(「ポンペイの少女」)考古堂書店,2015年。
(*)高樹のぶ子「ポンペイアンレッド」文學界69(10),2015年。
(*)(参考：松浦真理「映画『ポンペイ』から考えるレジリエントな社会」技術史教育会誌16(2),2015年。)
(*)(参考：六田知弘「美の棲むところ(17)イタリア ポンペイ遺跡」美術の窓34(3),2015年。)
(*)(参考：テイム・オーシェイ著,リチャード・S.ウィリアムズ指導/六曜社編集部編訳『ポンペイのひみつ：地中に埋もれたローマの古代都市』世界遺産・考古学ミステリー,Rikuyosha children&Yabooks,六曜社,2015年。)
(*)坂井聰「浅香先生とポンペイ遺跡—メモラビリア」古代史年報9,2015年。)
(*)(参考：Ikeguchi Mamoru「The Production and Consumption of Cereals in Roman Italy and the Provinces」比較文化研究49,2015年。)
(*)咲弥華(Sayaka)「世界紀行 マケドニア共和国」潮673,2015年。
(*)(参考：森谷公俊「古代マケドニア遺跡調査報告(1,2)」帝京史学30,2015)年/31,2016年。)
(*)森谷公俊「古代マケドニア遺跡訪問記」帝京史学30,2015年。
(*)(参考：大月康弘『ヨーロッパ 時空の交差点』創文社,2015年。)
(*)(参考：中澤務「古代ギリシアにおける異文化理解の諸相(2)ヘロドトスとスキュティア」The journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture 3,2015年。)
(*)(参考：勝又俊雄「パウサニアスが伝えるフィガリアのデメテル・メライナ女神像：アントロモポルモフィズム像から夢見を通して神像へ」宝塚造形芸術大学

紀要29,2015年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「『恋愛専科』と〈ローマ〉：保守性,ローマの選択,魔女,ユダヤ性」人文研究 187,2015 年。)
(*)(参考：南川高志『海のかなたのローマ帝国 増補新版—古代ローマとブリテン島』世界歴史選書,岩波書店,2015年。)
(*)(参考：増永理考「都市空間をかたちづくる碑文—ギリシア語碑文の新たな可能性をめぐって」西洋古代史研究15,2015年。)
(*)(参考：竹内均『アトランティスの発見：海底に消えた古代王国』ゴマブックス,ゴマブック,2015年。)
(*)(参考：マーク・アダムス/森夏樹訳『アトランティスへの旅：失われた大陸を求めて』青土社,2015年。)
(*)(参考：勝又俊雄「シュリーマンと19世紀ギリシア新古典主義(63,64)」日本ギリシャ協会会報137,2015年/138,2016年。)
(*)周藤芳幸「天理図書館所蔵シュリーマン自筆書簡をめぐって」ビブリア114,2015年。
(*)(参考：高橋裕子「学界動向 青銅器時代終末期におけるミケーネ」西洋史研究44,2015年。)
(*)(参考：巽善信「ティリンス遺跡報告書原画について—シュリーマンの情熱の筆跡」古代文化66(4),2015年。)
(*)(参考：天理大学附属天理参考館編『ギリシア考古学の父シュリーマン—ティリンス遺跡原画の全貌』Musaea Japonica 13,山川出版社,2015年。)
(*)(参考：天理大学附属天理参考館編『ティリンス遺跡原画：シュリーマンの今日的評価』天理大学出版部,2015年。)
(*)(参考：味岡収・堀賀貴「オシティア遺跡,レギオIII,インスラIXに関する1950年代の記録図面とその制作過程・記録者のフィルタリングおよび不作為による誤り」日本建築学会計画系論文集80(717),2015年。)
(*)(参考：青柳正規「発掘と研究(七月午餐会公演)」學士會会報910[2015(1)],2015年。)
(*)(参考：水田宗子編『外地と表現』(青柳正規「異文化としての日本：ローマ帝国と日本」)城西国際大学比較文化講座〈比較ジェンダー論〉講演集1,城西大学出版会,2015年。)
(*)中村友代「アンフィポリスの大墳墓」地中海学会月報378,2015年。
(*)小森谷慶子「アウグストゥスの家」地中海学会月報381,2015年。
(*)中務哲郎「パルナッソスの春」西洋古典叢書月報113,2015年。
(*)一條和彦「澤木四方吉のヴェルフリン：『美術史の基礎概念』の邦訳とその日本における受容」(三田芸術学会)芸術学19,2015年。
(*)(参考：村田奈々子「理念(idea)としてのヨーロッパ」言語と文化12,2015年。)
(*)(参考：村田奈々子「ギリシャ国民がヨーロッパに突きつけた「NO」(ギリシャ対EU)」中央公論129(4),2015年。)
(*)(参考：服部春彦『文化財の併合：フランス革命とナポレオン』知泉書館,2015年。)
(*)(参考：安藤直見「映画に描かれた古代ローマとビザンチン—形象から空間へ」(日本図学会)大会学術講演論文集2015,2015年。)
(*)(参考：長田年弘『パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的研究—オリエント美術の受容と再創造の検証』筑波大学2011年,(科研費)2015年。)

(*)(参考：伊東喜昌「パルテノン神殿の補修に日本のチタンが活躍」チタンTitanium Japan 63(1), 2015年。)
(*)(参考：愛知県陶器美術館学芸課編『ギリシア陶器「古典」の誕生：アッティカ,ローマからセーヴル,ピカソまで』愛知県陶器美術館,2015年。)
(*)(参考：小笠原尚司『額縁から見る絵画—古代ローマのフレスコ画から』八坂書房,2015年。)
(*)(参考 : 南川高志「西洋古代史の泉(8)石膏模像と古代の復元」西洋古代史研究15,2015年。)
(*)(参考 : 藤澤桜子「ローマ美術のエジプト趣味 : 壁画にみるアウグストゥスのエジプト征服とその影響」群馬県立女子大学紀要36,2015年。)
(*)大貫俊夫「キャサリン・アレン・スミス著井本ニニ・山下陽子訳「中世の戦争と修道院文化の形成」(法政大学出版局)」史學雑誌124(2),2015年。
(*)(参考：田口かおり『保存修復の技法と思想—古代芸術・ルネサンス絵画から現代アートまで』平凡社,2015年。)
(*)(参考：ヤマザキマリ「波音(なみおと)イタリア女性が失った“意志”」潮679,2015年。
(*)(参考：ヤマザキマリ「『ヘウレーカ』とシチリア透視図」ユリイカ46(16),2015年。
(*)(参考：ヤマザキマリ『ヤマザキマリの偏愛ルネサンス美術論』集英社新書,集英社,2015年。)
(*)(参考：秦明子「ロレンツォ・デ・メディチの宇宙論的自然観：ポッジョ・ア・カイアーノ正面入口フリーズの解釈をめぐって」地中海学研究38,2015年。)
(*)(参考：加藤道夫「開かれたイメージの根源=ル・コルビュジェの鏡：アテネのアクロポリスの旅行スケッチをめぐって」大会学術講演論文集,2015年。)
(*)(参考：山口喜雄・新開伸也・天杉健「アテネ(ギリシャ〈Greece〉共和国)における美術教育事情調査報告2014」日本美術教育研究論集48,2015年。)
(*)(参考：九鬼由紀「紀元前三世紀南ドイツ地域におけるケルト世界の宗教的一要素--「祟拝の木」に見るギリシア文化の影響」関学西洋史論叢38,2015年。)
(*)(参考：奈良澤由美「トロス司教座聖堂出土の装飾石材について—2013年度および2014年度の発掘から」史苑75(2),2015年。)
(*)(参考 : 浦野聡「トロス司教座聖堂発掘報告(2014)-考古学・建築以上の知見から」史苑75(2), 2015年。)
(*)(参考：師尾晶子「トロス司教座聖堂出土の装飾石材について—2014年度の発掘から」史苑75(2),2015年。)
(*)(参考 : P.J.ヒルツ「沈没船のお宝を探せ : 海洋考古学の新時代」日経サイエンス45(5),2015年。)
(*)(参考：奥山広規「レバノン共和国ティール市所在アル・バース遺跡のネクロポリスにおける碑文調査」西洋史学報42,2015年。)
(*)(参考：エイチ・アイ・エシスタンブール撮影・編集『イスタンブールスタイル=Istanbul Style』ビジュアルで見る世界の都市と消費市場,日本貿易振興機構(ジェトロ),2015年。)
(*)(参考 : 中野京子「中野京子の名画が語る西洋史(38)ホモルーデンスたち」文藝春秋93(11), 2015年。)
(*)(参考：中野京子「中野京子の名画が語る西洋史(40)美の規範」文藝春秋93(14), 2015年。
(*)(参考：野中恵子『史跡：都市を巡るトルコの歴史』ペレ出版,2015年。)

(*)(参考：福井正明『モザイク画の女たち』(ビザンツ)文芸社,2015年。)
(*)(参考：中野京子『「絶筆」で人間を読む：画家は最後に何を描いたか』(ラオコーン,ヴィーナス,軍神マルス)NHK出版新書,NHK出版,2015年。)
(*)(参考：夏目典子「art news：exhibitionバルテュス,羅馬へ帰る」芸術新潮66(12),2015年。)
(*)ジラルデッリ青木美由紀『明治の建築家・伊東忠太：オスマン帝国をゆく』ウェッジ,2015年。
(*)北九州市立松本清張記念館編集『眩人：松本清張と東西文化交流：平山郁夫原画+ガンダーラ仏：特別企画展』北九州市立松本清張記念館,2015年。
(*)平山東子「美術館だより 平山郁夫シルクロード美術館」学士会会報2015(3),2015年。)
(*)京都造形芸術大学芸術館「江上波夫のシルクロード」京都造形芸術大学紀要19,2015年。
(*)鈴木敏昭「井上靖とシルクロード：藤枝晃先生のことなど」伝書鳩16,2015年。)
(*)(参考：田辺理『ガンダーラ仏教彫刻における生天思想の造形—ディオニュソス神関連図像を中心に』科研費・研究活動スタート支援,2015→2016年。)
(*)(参考：田辺理「イルカを双肩に担ぐトリトーン像の起源と展開：新出ガンダーラ仏教彫刻の図像のモデルをめぐって(特集,シルクロードの文化交流(2))」佛教藝術340,2015年。)
(*)(参考：野口淳,千葉史,横山真,内記理,ザヒル・ムハマンアド,ハーン・ナシール,近藤英夫「パキスタンにおける文化遺産の再記録化プロジェクト：情報化時代における国際協業の枠組み」日本情報考古学会講演論文集15,2015年。)
(*)(参考：宮本亮一「要旨：バクトリア史研究」龍谷大学大学院文学研究科紀要37,2015年。)
(*)(参考：松本典昭『メディチ宮廷のプロパガンダ美術：パラッツォ・ヴェッキオを読み解く』MINERVA歴史叢書クロニカ8,ミネルヴァ書房,2015年。)
(*)石岡通孝『ロバはまだ自転車に乗って：シチリアからアムステルダムまでヨーロッパ縦断自転車四,六〇〇キロの旅』未知谷,2015年。
(*)内田洋子『ミラノの太陽,シチリアの月』小学館文庫,小学館,2015年。
(*)飯野和好『かめ—甕：「カオス・シチリア物語」より』ビリケン出版,2015年。
(*)(参考：渡辺真弓『イタリア建築紀行：ゲーテと旅する7つの都市』平凡社,2015年。)
(*)(参考：山下敦「海の形象：ゲーテがシチリアで見たもの」英文学誌57,2015年。)
(*)(参考：山本有華奈「『地中海遊覧記』におけるマーク・トウェインの文明観」Immaculata 19,2015年。)
(*)(参考：羽生敦子「マーク・トウェインの旅にみる近代アメリカのツーリズムに関する一考察『地中海遊覧記』The innocents Abroadを事例として」白鴎大学論集29(1/2),2015年。)
(*)(参考：高村峰生「触覚的な暗がりの方へ—D.H.ロレンスのSketches of Etruscan Placesにおける古代エトルリアとイタリア・ファシズム」英文学研究92,2015年。)
(*)(参考：河野哲也「風土と旅行者」(和辻哲郎)立教大学教育学科研究年報59,2015年。)
(*)原賢治「書評 波部雄一郎著『プトレマイオス王国と東地中海世界：ヘレニズム王権とディオニュシズム』」ヨーロッパ文化史研究16,2015年。
(*)柴田広志「波部雄一郎著「プトレマイオス王国と東地中海世界：ヘレニズム王権とディオニュシズム」」西洋史研究44,2015年。
(*)(参考：ジリアン・クラーク/足立広明訳『古代末期のローマ帝国：多文化の織りなす世界』白水社,2015年。)

(*)(参考：西洋中世学会『特集 中世のなかのローマ』(知泉書館)西洋中世史研究7,2015年。)
(*)(参考：安藤直見「映画に描かれた古代ローマとビザンチン：形象から空間へ」大会学術講演論文集,2015年。)
(*)三野和憲「林茂生「基督教文明史観(1932-3)」を読む」教育史フォーラム10,2015年。
(*)楠本昌代「『少年園』における西洋文化の受容：『セント・ニコラス』との関係を中心に」大阪国際児童文学振興財団研究紀要28,2015年。
(*)(参考：小林登志子『文明の誕生—メソポタミア,ローマ,そして日本へ』中公新書,中央公論社,2015年。)
(*)(参考：吉澤五郎「「地球文明」の肖像：比較文明学の旅路から(特集 地球文明への道：連続公開講演会より)」東洋学研究54(1),2015年。)
(*)(参考：吉澤五郎「講演論文 「ヨーロッパ」の起源：地中海巡礼の風光」比較文明研究20,2015年。)
(*)(参考：鈴木亮三『『精神現象学』におけるギリシア世界論—労働と祭祀を中心として』東北大学,博士(文学),甲第16562号,2015年。)
(*)(参考：オスヴァルト・シュペングラー/村松正俊訳『形態と現実』ニュー・エディション西洋の没落1,五月書房,2015年。)
(*)(参考：オスヴァルト・シュペングラー/村松正俊訳『世界史的展望』ニュー・エディション西洋の没落2,五月書房,2015年。)
(*)(参考：吉澤五郎『トインビー』人と思想69,清水書院,2015年。)
(*)(参考：藤井透「アーノルド・トインビー研究の歩み」(佛教大学社会学部)社会学部論集61,2015年。)
(*)(参考：三枝守隆「アーノルド・トインビーの『歴史の研究』における「文明の解体」の位置付けをめぐって」比較文明31,2015年。)
(*)高橋直彦「長谷川松治先生の想いで」(トインビー)東北学院英学史年報36,2015年。)
(*)(参考：松本亮三「特別講演 比較文明学とは何か(比較文明学会 第32回大会シンポジウム 文明交流と日本文明)」比較文明31,2015年。)
(*)(参考：染谷臣道「特別講演 文明交流における矛盾をどう生きるか(比較文明学会 第32回大会シンポジウム 文明交流と日本文明)」比較文明31,2015年。)
(*)(参考：Nagumo Taisuke‘[Comment]Late Antiquity and Japanese Perspectives’,(in T.Minamikawa (ed.),New Approaches to the Later Roman Empire(Kyoto), 2015.)
(*)(参考：Tanaka Hajime‘[Comment]Some‘Asian’in the History of the Later Roman Empire’,(in T.Minamikawa (ed.),New Approaches to the Later Roman Empire (Kyoto),2015.)
(*)(参考：宮坂明「ヴィア・ラティーナ・カタコンベのアフリカ的要素」ヘレニズム~イスラム考古学研究22,2015年。)
(*)(参考：Voutloumis Eirine「Picture Power アテネの苦境と過去への憧憬」Newsweek=ニューズウィーク30(5),2015年。)
(*)(参考：中野京子『名画の謎：ギリシャ神話篇』文春文庫,文藝春秋,2015年。)
(*)(参考：秦明子「〈論文〉詩画論再考—15世紀後半のフィレンツェにおける詩と造形芸術についての比較的考察」ディアファネース—芸術と思想2,2015年。)
(*)(参考：阿部拓児『ペルシア帝国と小アジア—ヘレニズム以前の社会と文化』京都大学学

術出版会,2015年。)
(*)(参考：アーレント・インゴ「アテネに学ぶ実験的イベント 第14回ドクメンタ(特集 美術・文化の新動向)」Magazine-Deutschland de：フォーラム政治/文化/経済2015(3),2015年。)
(*)泉邦寿「世界の街から(70)地中海文明を伝えるチェニジアの首都：チュニス」コミュニティ154,2015年。
(*)安達未菜「書評論文 ナショナリズムと文化の多様性：原聖著『〈民族起源〉の精神史：ブルターニュとフランス近代』(岩波書店,2003年)をめぐって」文明研究34,2015年。)
(*)(参考:高山博『中世シチリア王国の研究:異文化が交差する地中海』東京大学出版会,2015年。)
(*)(参考：山中由里子編『〈驚異〉の文化史―中東とヨーロッパを中心に』名古屋大学出版会,2015年。)
(*)(参考：山中由里子「〈驚異〉を媒介する旅人(怪異を媒介するもの)―(辿る・比べる)」アジア遊学187,2015年。)
(*)(参考：細田典明編『旅人交流：旅からみる世界と歴史』北大文学研究科ライブラリー9,北海道大学出版会,2015年。)
(*)(参考:細田典明編『食と文化:時空をこえた食卓から』北大文学研究科ライブラリー10,北海道大学出版会,2015年。)
(*)(参考：野地秩嘉『ヨーロッパ美食紀行』小学館文庫,小学館,)2015年。)
(*)(参考：池田匡克・池田愛美『ローマ美食散歩：永遠の都を食べ歩く』地球の歩き方65,ダイヤモンド・ビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2015年。)
(*)(参考：『ガンダーラ彫刻に見られる来世観』早稲田大学2013年,(科研費)2015年。)
(*)北九州市立松本清張記念館編集『眩人：松本清張と東西文化交流：平山郁夫原画+ガンダーラ仏：特別企画展』北九州市立松本清張記念館,2015年。
(*)西田毅『竹越与三郎：世界的見地より経綸を案出す』ミネルヴァ日本評伝選,ミネルヴァ書房,2015年。)
(*)(参考：佐々木博『最後の博物学者アレクサンダー・フォン・フンボルトの生涯』古今書院,2015年。)
(*)(参考:田代博「世界の地図の変遷(特集 地図を旅する。:古地図からGoogleマップまで)―(地図の歴史)」Kotoba：多様性を考える言論誌21,2015年。)
(*)(参考：こどもくらぶ訳『探検と冒険の歴史大図鑑：イラストレイテッド・アトラス』丸善出版,2015年。)
(*)(参考：日外アソシエーツ編集部編『海洋・海事史事典：トピックス古代2014』日外アソシエーツ,紀伊国屋書店(発売),2015年。)
(*)(参考：稲葉茂勝『辞書・事典の誕生のひみつ』辞書・事典のすべてがわかる本1,あすなろ書房,2015年。)
(*)(参考：松村一男・森雅子・沖田瑞穂編『世界女神大事典=The encyclopedia of the goddes』原書房,2015年。)
(*)(参考:荒井献・H.J.マルクス監修『ギリシア語新約聖書釈義事典(1-3)』縮刷版,教文館,2015年。)
(*)(参考：ベルトラン・オーシュコルヌ,ダニエル・シュラーノ/熊原啓作訳『世界数学者事

典』日本評論社,2015年。)
(*)(参考：『南山堂医学大辞典』第20版,南山堂,2015年。)
(*)(参考 : H.ポーツ,Ｆ．ヴァケ著/池端次郎・田村滋男訳『学問の共和国』知泉書館,2015年。)
(*)(参考：大芝芳弘「ルクレティーウスの序文について」フィロロギカ10,2015年。)
(*)(参考：近松明彦「古典について―その価値と普遍性」プロピレア21,2015年。)
(*)(参考：片岡輝「リレートーク 私を育ててくれた人たち ホメロスの詩集」子どものしあわせと 母と教師を結ぶ雑誌777,2015年。)
(*)(参考：生田康夫「ホメーロスにおける「思い出」--εἴ ποτ' ἐην γε(もしそれがかつてあったことなら)の詩句をめぐって」(明治学院大学言語文化研究所)言語文化32,2015年。)
(*)(参考 : 八木橋正雄「古代ギリシア語から現代ギリシア語への発音の変遷」プロピレア21,2015年。)
(*)(参考：前野弘志「『ギリシア語魔術パピルス』を読む」西洋史学報42,2015年。)
(*)(参考：石黒太郎「オロシウス『異教徒に反駁する歴史』序文のラテン語について」明治大学教養論集504,2015年。)
(*)(参考：本間俊行「五賢帝時代における教養人と都市社会：アプレイスの『弁明』を手がかりに」西洋史研究44,2015年。)
(*)(参考：石原寛「古英語toweropan,ラテン語destruuereとギリシア語κατάγεινについて」愛知県立大学外国語学部紀要(言語・文学編)47,2015年。)
(*)(参考：いけがみしゅんいち文・せきぐちよしみ絵『カエサルと本のはなし』福音館書店,2015年。)
(*)(参考：高津春繁『ギリシア語文法』オンデマンド版,岩波オンデマンドブンクス,岩波書店,2015年。)
(*)(参考：竹下裕子編『広がり続ける英語の世界』（三上章「ティンダルと聖書英語：ギリシア語新約聖書,ラテン語聖書,欽定訳,新改訂標準訳にてらして」）アスク出版,2015年。)
(*)(参考：小倉博行『ラテン語とギリシア語を同時に学ぶ』白水社,2015年。)
(*)(参考：榎本恵子「「ラテン語日常会話の師」,プラウトゥスとテレンティウス―ポール・ロワイヤルの「小さい学校」におけるラテン語教育のなかで」(首都大学東京人文科学研究科「人文学報 フランス文学」511,2015年。)
(*)(参考：ステファヌ・ロッシーニ著/矢島文夫訳『古代エジプト文字ヒエログリフ入門』河出書房新社,2015年。)
(*)鈴木広光「博言集：その系譜と情報源(特集 辞書の世界)」文学16(5),2015年。
(*)今野喜和人「翻訳の倫理と倫理の翻訳：箕作麟祥の訳業をめぐって(翻訳の〈倫理〉をめぐる総合的研究)」翻訳の文化/文化の翻訳・10別冊,2015年。
(*)(参考：星和夫『楽しい医学用語ものがたり』新装復刻版,医歯薬出版,2015年。)
(*)鳥井裕美子『前野良沢：生涯一日のごとく』新装版,思文閣出版,2015年。
(*)大平真理子「書評 鳥井裕美子『前野良沢：生涯一日のごとく』」立命館史学37,2015年。)
(*)鳥井裕美子著・大分県立先哲史料館編『前野良沢：オランダ人のばけものと呼ばれた男』普及版大分県先哲叢書,大分県教育委員会,2015年。
(*)「書評鳥井裕美子著・大分県立先哲史料館編『前野良沢：オランダ人のばけものと呼ばれた男』普及版大分県先哲叢書」日本医史学雑誌61(4),2015年。)

(*)南雲千香子「箕作麟祥訳『仏蘭西法律書』における傍訓付き漢語について」日本語学論集11,2015年。
(*)杉本つとむ『江戸時代翻訳語の世界：近代化を推進した訳語を検証する』八坂書房,2015年。
(*)(参考：Taki Akitsugu,“Hypotheses on the Textual Interrelations of Florentine and Coislian Manuscripts in the Transmission of the Platonic Alcibiades”城西国際大学大学院紀要18,2015年。)
(*)(参考 : Taki Akitsugu,“Hypotheses on the Textual Interrelations of Some Medieval Manuscripts in the Transmission of the Pseudo-Platonic De iusto and De virtutìé”城西国際大学大学院紀要18,2015年。)
(*)(参考：成城大学文芸学部ヨーロッパ文化学科編『西洋古典学のすすめ』シリーズ・ヨーロッパの文化2, 成城大学文芸学部,2015年。)
(*)(参考：アンソニー・グラフトン/ヒロ・ヒライ監訳・解題,福西亮輔訳『テクストの擁護者たち—近代ヨーロッパにおける人文学の誕生』勁草書房,2015年。)
(*)(参考：明星聖子・納富信留編『テクストとは何か—編集文献学入門』慶應義塾大学出版会,2015年。)
----- 納富信留「西洋古典テクストの伝承と校訂—プラトン『ポリテイア(国家)』」
納富信留「結 テクストを読み解く技法」
(*)(参考：伊藤明己「メディアと教育についての予備的考察(1,2)」関東学院大学経済経営研究所年報37,2015年/38,2016年。)
(*)(参考：ベルンハルト・ビショッフ/佐藤彰一・瀬戸直彦訳『西洋写本学』岩波書店,2015年。)
(*)(参考：高柳俊一「書評 ティモシー・マイケル・ロー著『神がギリシャ語を話した時：ギリシャ語70人訳聖書とキリスト教聖書の成立』」(上智大学キリスト教文化研究所)キリスト教文化研究所紀要34,2015年。)
(*)(参考 : 高畑時子「ウルガータ聖書・マルコによる福音書におけるヒエロニムスの翻訳法」(特集 翻訳と文学)」世界文学122,2015年。)
(*)(参考：高畑時子「ヒエロニュムス著「翻訳の最高種について」(書簡57「パンマキウス宛の手紙」)(Hieronymus,Epistla57,Ad Pammachium：De optimo genere oratorum)」近畿大学教養・外国語教育センター紀要 外国語編6,2015年。)
(*)(参考：宮下志朗・伊藤進・平野隆文・江口修他訳『学問と信仰』フランス・ルネサンス文学集1,白水社,2015年)。)
(*)(参考：H.ボーツ,F.ヴァケ/池端次郎・田村滋男訳『学問の共和国』知泉書間,2015年。)
(*)(参考：酒井府「日本におけるドイツ文化の受容・翻訳・翻案と日本文化のドイツへの影響(特集 翻訳と文学)」世界文学122,2015年。)
(*)(参考：西村貞二『フンボルト』清水書院,2015年。)
(*)(参考：西村貞二『ブルクハルト』清水書院,2015年。)
(*)(参考：綾井桜子「『教養』研究の現状と課題--学校化された教養を問うために」教育学研究82(1),2015年。)
(*)(参考：綾井桜子「「教育学の古典」の生成/頻用と教育哲学：規範化と歴史化の織り成す諸相(研究討議「教育学の古典」はいかに創られ,機能してきたのか：

教育哲学のメタヒストリー)」教育哲学研究111,2015年。)
(*)(参考：神崎繁「「思考」を翻訳することは可能か?—訳語としての「幸福」をめぐって」(村上勝三・東洋大学国際哲学研究センター編『越境する哲学—体系と方法を求めて』所収,春風社,2015年。)
(*)中島岳志「私の保守思想 保守と大東亜戦争：田中美知太郎『時代と私』」表現者62,2015年。
(*)鈴木円「〈論文〉日本における「スパルタ教育」理解」(光葉会)學苑892,2015年。
(*)(参考：藤本夕衣「グローバル化のなかの「大学」と「学生」：ポストモダニズム以降の「日本」と「古典」(開催校企画シンポジウム「現代日本の『学び』と『教養』教育」大学教育学会誌37(1),2015年。)
(*)(参考：藤本夕衣「「古典を失った大学」における「教育学の古典」：カノンの相対化と再編のあと(研究討議「教育学の古典」はいかに創られ,機能してきたのか：教育哲学のメタヒストリー)」教育哲学研究111,2015年。)
(*)(参考： 伊藤明己「メディアと教育についての予備的考察(1,2)」(ホメロス,聖書)関東学院大学経済経営研究所年報37,2015年/38,2016年。)
(*)西村賀子「思想の言葉：雲をつかむような話」思想1089,2015年。
(*)河島思朗「物を語ること」地中海学会月報376,2015年。
(*)(参考：高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(13)悲劇[2]ソポクレス」図書791,2015年。)
(*)(参考：高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(14)悲劇[3]エウリピデス」図書792,2015年。)
(*)(参考：高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(15)サチュロス劇」図書793,2015年。)
(*)(参考：高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(16)喜劇[1]アリストパネス」図書794,2015年。)
(*)(参考：高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(17)喜劇[2]メナンドロスへ」図書794,2015年。)
(*)高橋睦郎「家族ゲームまたはみなごろしネロ(特集 高橋睦郎：死者の声,冥府のの力)」現代詩手帖58(6),2015年。
(*)高橋睦郎「言葉の力」西洋古典叢書月報115,2015年。
(*)(参考：安村典子「エレゲイア詩を読む愉しみ」西洋古典叢書月報117,2015年。)
(*)木曽明子「神さまを出せ!」」西洋古典叢書月報111,2015年。
(*)田中英光著・西村賢太編『オリンポスの果実/さようなら：他』田中英光傑作選,角川文庫,KADOKAWA,2015年。
(*)(参考：リック・リオーダン作/金原瑞人・小林みき訳『最後の航海』オリンポスの神々と7人の英雄5,ほるぷ出版,2015年。)
(*)(参考：ミルチャ・エリアーデ,ヨアン・ペトル・クリアーヌ著/テレザ・クリアーヌ=ペトレスク,ダン・ペトレスク編/佐々木啓・奥山史亮訳『エリアーデ=クリアーヌ往復書簡：1972-1986』慶應義塾大学出版会,2015年。)
(*)(参考：横道誠「「マンハルト派の理論」についての史的批判的記述：ドイツ神話学派(ヤーコブ・グリム,ヴィルヘルム・マンハルト)の学問的系譜とJ.G.フレイザー,ケンブリッジ典礼学派,文学的モダニズムの著作におけるその受容(付—カール・ヴィルヘルム・フォン・シードウの講演「マンハルト派の理論,刈り入れ後の薬束,豊作の精霊に対する現代の観点に立った批判」)」京都府立大学学術報告,人文67,2015年。)
(*)(参考：坂本貴志「キルヒャーの古代神学的宇宙論：「普遍的種子」と「シナのイシス」(特集 アタナシウス・キルヒャー)」19世紀学研究9,2015年。)

(*)(参考：岩田真志「神話への回帰：「死者の書」論(2)」現代文学史研究23,2015年。)
(*)(参考：アーバスノット メイ・ヒル/青木祥子訳「神話と叙事詩(「子どもと本」第三版より)(2)」季刊子どもと本140,2015年。)
(*)(参考：山地良造「ワーグナーの歌劇『タンホイザー』とヤーコブ・グリムの『ドイツ神話学』帝京平成大学紀要26(2),2015年。)
(*)(参考：家山也寿夫「異教神 使用法(承前)ピエール・クロソウスキー『ディアーナの水浴』小論」Etudes franÇaises 22,2015年。)
(*)(参考：百田尚樹「覚醒するクラシック(26)惑星：ホルストは描くローマ神話のイメージ」Voice 452,2015年。)
(*)(参考：竹内一郎「オフィスワンダーランド:上演台本アレクサンドル昇天：青木繁・神話の棲み処(すみか)」テアトロ908,2015年。)
(*)(参考：三野博司「繰り返されるもの：カミュとシーシュポス(特集 繰り返されるもの)」學燈112(3),2015年。)
(*)(参考：豊田和二『マンガはじめて読むギリシア神話：スッキリわかる!』ナツメ社,2015年。)
(*)(参考:池上英洋「グラフ好色な神が支配する(‘特集 ギリシャ神話・エロティックガイド)」芸術新潮66(10),2015年。)
(*)(参考：池上英洋「美術でたどる神さまたちの活けない日常(‘特集 ギリシャ神話・エロティックガイド)」芸術新潮66(10),2015年。)
(*)(参考：東ゆみ子「愛欲渦巻くギリシャ神話Q&A(‘特集 ギリシャ神話・エロティックガイド)」芸術新潮66(10),2015年。)
(*)(参考：東ゆみ子・大塚ひかり「炸裂 神話トーク チン切り,クソマル,醜(しこ)パワー(‘特集 ギリシャ神話・エロティックガイド)」芸術新潮66(10),2015年。)
(*)(参考：陽捷行「V-6 世界の神話と土壌(V 土壌と東西の神々,シンポジウム,2015年度京都大会)」日本土壌肥料学会講演要旨集61,2015年。)
(*)(参考：水島陽子「書評 内田信次著『ヘラクレスは繰り返し現れる：夢と不安のギリシア神話』」ペディラヴィウム69,2015年。)
(*)(参考：ジョーセフ・キャンベル/倉本真木・齋藤静代訳『千の顔をもつ英雄(上下)』新訳版,早川文庫,早川書店,2015年。)
(*)(参考：『写真と図解でわかるギリシア神話のすべて：神々誕生の謎からその性格,歴史背景まで徹底解説』別冊・宝島,宝島社,2015年。)
(*)(参考：勝又洋子「仮面と舞踏による物語空間の演出：ディオニューソスの祭からヴェネツイアのカーニバルへ」世界史研究論叢5,2015年。)
(*)(参考：淺野淳博「古代地中海世界の追放儀礼に関する一次文献の分類と解説(関西学院創立25周年記念号)」神学研究62,2015年。)
(*)(参考：近藤裕子・十重田和由・永井典克「ヨーロッパ近現代におけるギリシア・ローマ神話の女性像の変容(2)エウリディケー」東洋大学人間科学総合研究所紀要18,2015年。)
(*)(参考：田中千恵子『『フランケンシュタイン』とヘルメス思想：自然魔術・崇高・ゴシック』水声社,2015年。)
(*)(参考：C.ステッド/関川泰寛・田中従子訳『古代キリスト教と哲学』教文館,2015年。)
(*)(参考：本村凌二『ローマ帝国人物列伝』祥伝社新書,祥伝社,2015年。)

(*)(参考：江川純一・久保田浩編『「呪術」の呪縛(上下)』(毛利晶「古代ローマにおける凱旋の儀式：トリウンプスに関する最近の研究動向を中心に」)宗教史学論叢19,20,2015年。)
(*)(参考：若松英輔『イエス伝』中央公論新社,2015年。)
(*)(参考：絹川久子「イエス誕生の秘話：衝撃の連続」ペディラヴィウム69,2015年。)
(*)(参考：小河陽「古代にみる男女共同参画の試み」ペディラヴィウム69,2015年。)
(*)(参考：江川純一・久保田浩編『「呪術」の呪縛(下)』(毛利晶「古代ローマにおける凱旋の儀式：トリウンブスに関する最近の研究動向を中心に」)宗教史学論集20,リトン,2015年。)
(*)(参考：渡邊浩司「2人の聖ヨハネをめぐる神話学的考察(創立50周年記念号)」中央大学経済研究所年報47,2015年。)
(*)(参考:福山佑子「帝政前期ローマにおける皇帝名の削除と宗教祭司団記録」史観172,2015年。)
(*)杉崎泰一郎「ジャイルズ・コンスタブル著,高山博監修,小澤実,橋川裕之,村上樹司訳「十二世紀宗教改革—修道院の刷新と西洋中世社会」(慶應義塾大学)」史學雑誌124(3),2015年。
(*)櫻井康人「甚野尚志・踊共二編「中近世ヨーロッパの宗教と政治—キリスト教世界の統一性と多元性」(NIMERVA西洋史ライブラリー100, ミネルヴァ書房)」史學雑誌124(4),2015年。
(*)中西恭子「書評会 ハンス・ゲオルグ・ベック,戸田聡訳『ビザンツ世界』」エイコーン：東方キリスト教研究46,2015年。
(*)(参考：中西恭子「ユリアヌスとキリスト教ローマ帝国(ローマ帝国における諸民族と宗教,パネル,特集 第73回学術大会紀要)」宗教研究88(suppl.),2015年。)
(*)(参考：中西恭子「ニカイアからカルケドンへ：古代末期の東方におけるキリスト教論論争と教会政治史」東洋学術研究54(2),2015年。)
(*)(参考：南川高志『ユリアヌス：逸脱のローマ皇帝』世界史リフレット8,山川出版社,2015年。)
(*)(参考：R.S.アスコー/村山盛葦訳『パウロの教会はどう理解されたか』日本基督教団出版局,2015年。)
(*)(参考:戸田聡「読書案内 東方キリスト教をめぐって(世界史の研究243)」歴史と地理684,2015年。)
(*)(参考:秋山学「アレクサンドリアのクレメンス『救われる冨者とは誰であるか』：全訳・改訂版」文藝言語研究,文藝篇68,2015年。)
(*)(参考：秋山学「アレクサンドリアのクレメンス『預言者撰文集』：全訳」文藝言語研究,文藝篇68,2015年。)
(*)(参考：秋山学「アレクサンドリアのクレメンス『テオドトスからの抜粋』：全訳」文藝言語研究,文藝篇68,2015年。)
(*)(参考：ニール・ブロンウェン/土橋恵子訳「シュネシオスと五世紀アレクサンドリアにおける夢解釈：神に近づくこととしての夢見」パトリスティカ：教父研究18,2015年。)
(*)(参考：八木雄二『聖母の博士と神の秩序：ヨハネス・ドゥンス・スコトゥスの世界』春秋社,2015年。)

(*)下山嬢子「大原富枝「メノッキオ」考：そのカトリシズム理解のために」近代文学研究5,2015年。
(*)(参考：杉山博明『ルネサンスの聖史劇』中央公論社,2015年。)
(*)(参考：菊谷忠治「「ハンナ・アーレント」にことよせて：個人主義を考える」地中海歴史風土研究誌41,2015年。)
(*)(参考：中村靖子・和田壽弘他執筆『虚構の形而上学：「あること」と「ないこと」のあいだで』春風社,2015年。)
(*)(参考：香田芳樹『「新しい人間」の設計図：ドイツ文学・哲学から読む』青灯社,2015年。)
(*)(参考：中畑正志「移植・接ぎ木・異種交配--「実体」の迷路へ」(村上勝三・東洋大学国際哲学研究センター編『越境する哲学—体系と方法を求めて』所収,春風社,2015年。)
(*)藤井一亮「公民教育研究：「道徳の教育」について公民科の見地からの考察」甲南大学教職教育センター年報・研究報告書,2015年。
(*)(参考：畑潤「古代ギリシアにおける教養理念に関する研究(2,4,7,10,13,16)W.イェーガーの『パイデイア』の「序論」から学ぶ」都留文科大学大学院紀要19,2015年/20,2016年/21,22,2018年/23,2019年/24,2020年。)
(*)(参考：土橋茂樹編『内在と超越の閾：加藤信朗米寿記念哲学論集』知泉書院,2015年。)
----瀧章次「プラトンをめぐる接近法：「プラトン解釈の問題点」を軸として」
金澤修「「ギリシア哲学」とは何か：『ギリシア哲学史』を出発点として」
荻原理「加藤,プラトン：『初期プラトン哲学』,「白鳥の歌序説」などをめぐって」
田中伸司「決定的な時(カイロス)：『ソクラテスの弁明』論をめぐって」
野村光義「初期プラトンにおける「善悪の知」：『カルミデス』・『ラケス』論をめぐって」
田坂さつき「ダイモニオン的なお仕事：「三一的解釈」プラトン中期から後期」
高橋雅人「後期プラトンにおける神,知性,魂：加藤信朗「プラトンの神学」によせて」
栗原裕次「プラトン・イデア論のダイナミズム：「かた・かたち・すがた」に学ぶ」
神崎繁「美しさのために(καλου ενεκα)：「何かのために」と「誰かのために」を繋ぐもの」
土橋茂樹「観想と受肉：「肉体」「形の現象」を中心に」
出村和彦「自己・肉体・わたしのあること：アウグスティヌス論をめぐって」
千葉恵「アンセルムスCur Deus Homoの「真っ直ぐ」における正義：「人間の完成」への指向」
(*)(参考：P.ジョンソン/中山元訳『ソクラテス—われらが同時代の人』日経BP社,日経BPマーケティング(発売)2015年。)
(*)(参考：佐藤克宣「ソクラテスの神話探究を教材とした高等学校「倫理」の授業実践：「逆向き設計」論とパフォーマンス評価の手法に着目して」上越社会研究30,2015年。)
(*)(参考：中谷ひとみ「ソクラテス的対話法,心理療法,そして文字言語の戦略：Don Delillo,

White Noise(1985)第37章を分析・考察する」岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要40,2015年。)
(*)(参考 : 高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(18)哲学[1]ソクラテス登場」図書796,2015年。)
(*)(参考 : 高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(19)哲学[2]プラトンになる」図書797,2015年。)
(*)(参考 : 高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(20)哲学[3]肉声のプラトン」図書798,2015年。)
(*)(参考 : 高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(21)哲学[4]アリストテレスと詩の復権」図書799,2015年。)
(*)(参考 : 高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(22)哲学[5]クセノポンとは誰か」図書800,2015年。)
(*)(参考 : 川瀬和也「フェノロサ講義「哲学史 : ヘーゲル論(清澤満之筆記)(下)」ヘーゲル哲学研究21,2015年。)
(*)(参考 : M.エルラー/三島輝夫・田中伸司・高橋雅人・茶谷直人訳『知の教科書 プラトン』講談社,2015年。)
(*)(参考 : V.ハート/荻原理・川島彬訳「洞窟の言語」思想1097,2015年。)
(*)(参考 : 荻原理「プラトンらと無限」新プラトン主義研究14,2015年。)
(*)(参考 : 近藤和敬「存在論をおりること,あるいは転倒したプラトニズムの過程的イデア : ポスト・バディウのドゥルーズ(特集 現代思想の新展開2015 : 思弁的実在論と新しい唯物論)」現代思想43(1),2015年。)
(*)(参考 : 舟川一彦「オクスフォードのペイター : 『プラトンとプラトン哲学』を中心に」英文学と英語学52,2015年。)
(*)(参考 : 納富信留『プラトンとの哲学—対話篇を読む』岩波新書,岩波書店,2015年。)
(*)(参考 : 納富信留「ギリシア神秘哲学の可能性—井筒俊彦『神秘哲学』のプラトン論」慶應義塾大学言語文化研究所紀要46,2015年。)
(*)(参考 : Kazutaka Inamura,*Justice and Reciprocity in Aristotole's Political Philosophy*, Cambiridge Uneversity Press,2015.)
(*)(参考 : 納富信留「相対主義再考—古代哲学と現代との対話」(座小田豊・栗原隆編『生の倫理と世界の論理』所収,東北大学出版会,2015年。)
(*)(参考 : 高橋祥吾『アリストテレス「オルガノン」における命題の構造と付帯性の研究』広島大学,博士(文学),乙第4251号,2015年。)
(*)(参考 : 松浦和也『アリストテレスの時空論 : 『自然学』第3巻第4巻の構造と存在論的前提』東京大学,博士(文学),甲第31949号,2015年。)
(*)(参考 : 西村洋平『プロティノス魂論の構造と諸問題(本文)』慶應義塾大学,博士(哲学),乙第4753号,2015年。)
(*)(参考 : H.ヨナス/大貫隆訳『グノーシスと古代末期の精神(第1部)神話的グノーシス』ぷねうま舎,2015年。)
(*)(参考 : H.ヨナス/大貫隆訳『グノーシスと古代末期の精神(第2部)神話論から神秘主義哲学へ』ぷねうま舎,2015年。)
(*)(参考 : 千坂芳覚「カントとグノーシス主義 : ナグ・ハマディ文書の発見を受けて」哲学年誌47,2015年。)
(*)(参考 : ダニエル・G.ラッセル編/立花幸司監訳・相澤康龍,稲村一隆,佐土原茂樹訳『徳倫理学 : ケンブリッジ・コンパニオン』春秋社,2015年。)
(*)(参考 : M.ヌスバウム/渡辺邦夫訳「相対的でない徳」(加藤尚武・児玉聡編・監訳『徳倫

理学基本論文集』所収,勁草書房,2015年。)
(*)(参考：土橋茂樹・納富信留・栗原裕次・金澤修編『内在と超越の閾—加藤信朗米寿記念哲学論文集』所収,知泉書院,2015年。
------ 納富信留「総論 重厚なペプロス—加藤哲学の「三一構造」」
マタタ,ムケンゲシャイ「多民族・諸文化の多元性を超えて—新渡戸稲造『武士道』論をめぐって」
荻原理「加藤,プラトン--『初期プラトン哲学』,「白鳥の歌序説」などをめぐって」
高橋雅人「後期プラトンにおける神,知性,魂—加藤信朗「プラトンの神学」に寄よせて」
瀧章次「プラトンをめぐる接近法--「プラトン解釈の問題点」を軸として」
金澤修「「ギリシア哲学」とは何か--『ギリシア哲学史』を出発点として」
川出良江「初期近代における相互的仁愛論の可能性—平和なる共生のための政治哲学に向けて」
一色裕「美の発見と日常性の美学--「道徳性」の形成における美の役割」
神崎繁「美しさのために〈καλου ενεκα〉--「何かのために」と「誰かのために」を繋ぐもの」)
(*)(参考：Notomi Noburu,‘The Platonic Idea of Ideal and its Reception in East Asia’(in K.Boudouris,C.Dimitracopoulos,E.Protopapadakis(eds.),*Selected Papers from the XXIII World Congress of Philosophy：Philosophy as Inquiry and Way of Life*,2015。)
(*)(参考：金山弥平「プラトンと書かれたテクストの問題」(松澤和宏編「哲学的解釈からテクスト解釈学へ」(名古屋大学グローバルCOEプログラム第13回国際研究集会報告書)所収,2015年。)
(*)小林正『アリストテレスの人生相談』講談社,2015年。
(*)(参考：松浦和也『アリストテレスの時空論：『自然学』第3巻第4巻の構造と存在論的前提』東京大学,博士(文学),甲第31949号,2015年。)
(*)(参考：高橋祥吾『アリストテレス「オルガノン」における命題の構造と付帯性の研究』広島大学,博士(文学),乙第4251号,2015年。)
(*)(参考：トゥオマス・E.タフコ編/加地大介他訳『アリストテレス的形而上学』春秋社,現代哲学への招待,2015年。)
(*)(参考:荻野弘之「不思議の国のアリスとテレス—活字からの贈り物」Aspen Fellow28,2015年。)
(*)(参考：J.アナス,J.バーンズ/金山弥平訳『古代懐疑主義入門：判断保留の十の方式』岩波文庫,岩波書店,2015年。)
(*)(参考：大島春子「アウグスティヌスとドナティスト運動：四,五世紀の北アフリカにおける」ペディラヴィウム69,2015年。)
(*)根占献一「ヒロ・ヒライ/小澤実編『知のミクロコスモス—中世・ルネサンスのインテレクチュアル・ヒストリー』中央公論社,2014」史学雑誌124(2),2015年。
(*)(参考:神谷幹夫「ディオゲネスの読み手としてのアラン」西洋古典叢書月報116,2015年。)
(*)(参考：国清景子「レンブンラント《ホメロスの胸像に手を置くアリストテレス》における主題の分析—触覚に対する画家の関心をめぐって」人文論究(64・65),2015年。)

(*)(参考：宮崎祐助「呼びかけとしての友愛,哀悼としての友愛—ジャック・デリダの友愛論におけるアリストテレス的伝統について」現代思想43,2015年。)
(*)(参考：古牧徳生「なぜ哲学は神学になったのか—人間の認識能力の限界と恵美の神の要請」(名寄市立大学)紀要9,2015年。)
(*)(参考：秋元康隆「カント倫理学におけるアリストテレス的アレテーの役割」倫理学年報64,2015年。)
(*)(参考：内藤可夫「存在概念の由来としての「自信」概念と他者概念：ニーチェ・和辻哲郎による存在批判からの可能性」人間と環境：電子版9,2015年。)
(*)(参考：齋藤智志「普遍性と多元性の出会う場所—ショーペンハウアーにおける全体表象とプラトン的イデー」杏林大学外国語学部紀要27,2015年。)
(*)(参考：森川輝一「アーレントのソポクレス解釈—ハイデガーとの対向のなかで」(京都大学法学会)法学論叢176,2015年。)
(*)(参考：秋富克哉「ハイデッガーとギリシア悲劇—ソポクレス解釈をめぐって」アルケー23,2015年。)
(*)(参考：阿部将伸『存在とロゴス：初期ハイデガーにおけるアリストテレス解釈』古典転生10,月曜社,2015年。)
(*)(参考：宮城徳也「セネカ「オエディプス」の独創性—ピエタスをめぐって」(早稲田大学比較文学研究室)比較文学年誌51,2015年。)
(*)(参考：横山義志「キケロはいかにして疑うのをやめ,俳優の真情を信じるようになったか—感情主義演技論の理論的起源」表象9,2015年。)
(*)(参考：アントニー・エヴァリット/高田康成訳『キケロ：もうひとつのローマ史』新装復刊,白水社,2015年。)
(*)(参考：Glucker,John,“Cicero as Translato and Cicero in Translation”フィロロジカ10,2015年。)
(*)(参考：原田健二朗『ケンブリッジ・プラトン主義—神学と政治の展開』創文社,2015 年。)
(*)犬塚元「リヴィジョニズムのなかのキリスト教政治思想—原田健二朗『ケンブリッジ・プラトン主義』に寄せて」季刊・創文17,2015年。
(*)(参考：三上章「『ケンブリッジ・プラトニストのエピクロス哲学論駁』：ジョン・スミス『無神論に関する短い講話』」人文・社会科学論集32,2015年。)
(*)(参考：古屋弘幸「社会・言語・思想—スコットランド啓蒙の諸相」(キケロ)人文科学研究(キリスト教と文化)46,2015年。)
(*) 根占献一「ヒロ・ヒライ/小澤実編「知のミクロコスモス—中世・ルネサンスのインテレクチュアル・ヒストリー」(中央公論新社)」史學雑誌124(2),2015年。
(*)「ブックハンティング2015 哲学はナチズムとどう関わったか ヒトラーと哲学者 イヴォンヌ・シェラット著 三ッ木道夫・大久保友博訳」出版ニュース2370,2015年。
(*)(参考：荻野弘之「やわらかい合理性」GRAFICATION1,2015年。)
(*)夏目漱石『漱石人生論集』(「ケーベル先生の告別」)講談社学術文庫,講談社,2015年。
(*)三浦節夫『井上円了の研究』東洋大学,博士(文学),乙第216号,2015年。)
(*)鶴田一郎「三谷隆正の遺著『幸福論』を読む：処女作『信仰の論理』との対照を中心に(5,6)」広島国際大学心理学部紀要2(1),3,2015年。)
(*)茂木和行「井上忠とは何者なのか(前篇)根拠と「モイラ」」聖徳大学言語文化研究所論叢23,2015年。

(*)荻野弘之「神々の黄昏—追悼・井上忠」理想695,2015年。
(*)(参考：岩田靖夫「自己への回帰—レヴィナス哲学の底」福音と世界69,2015年。)
(*)松浦明弘「古代ギリシア哲学と現代倫理学のページ：『パルメニデス』篇と岩田靖夫先生」http://matsuura05.explog.jp/21547402/
(*)Taida Ichiro,‘A Pioneer of Classical Studies in Japan,Shigeichi Kure：A Focus on His Trans – lations’,Classical Reception Journal 7,2015.
(*)「2015/01/30：岩田靖夫先生の訃報が届きました」日本西洋古典学会ホームページ1/30,2015年。
(*)「岩田靖夫氏が死去 東北大名誉教授」日本経済新聞2/2,2015年。
(*)「古代ギリシャ哲学 岩田靖夫さん死去」讀賣新聞東京朝刊2/3,2015年。
(*)「岩田靖夫さん死去 文化功労者(宮城県)」朝日新聞朝刊2/3,2015年。
(*)「岩田靖夫さん死去」朝日新聞夕刊2/3,2015年。
(*)盛岡白百合学園高等学校『追悼,岩田靖夫先生』(HP)News Releas 2/5,2015年。
(*)米田彰男「追悼・岩田靖夫 岩田靖夫先生の思い出」ちくま4(529)月号,2015年。
(*)神崎繁「岩田靖夫先生を偲んで」思索48,2015年。
(*)岩田靖夫『(遺稿集)極限の事態と人間の生の意味 大災害の体験から』筑摩書房,筑摩選書,2015年。
(*)(参考：小林道憲『芸術学事始め：宇宙を招くもの』中公叢書,中央公論新社,2015年。)
(*)増池功「ミメーシス,あるいは断片としての記憶の効用—種山恭子先生のひとこと」英米文学59(84),2015年。
(*)Cardi,Luciana,“Ancient Greece and Contemporary Japan in Mishima Yukio’s Theater：Niobe and the Decline and Fall of the Suzaku”大阪大学大学院言語文化科「言語文化研究」41,2015年。)
(*)「憂国の芸術(17)ギリシャと日本の融合：三島由紀夫」正論6月号,2015年。
(*)Cardi Luciana「三島由紀夫の戯曲における古代ギリシャと現代日本：『ニオベ』と『朱雀家の人々』」言語文化研究41,2015年。
(*)菊池有希『近代日本におけるバイロン熱』勉誠出版,2015年。)
(*)阿毛久芳「萩原朔太郎とニーチェの詩：生田長江訳「ニイチエ全集」との関わりから」(都留文科大学国語国文学会)国文学論考51,2015年。
(*)大橋一章『會津八一』中公叢書,中央公論社,2015年。
(*)平川祐弘「安倍能成と竹山道雄(上下)」正論1,2月号,2015年。
(*)鷲巣力「林達夫への精神史的逍遙(1,2)」イタリア圖書52,53,2015年。
(*)飯嶋裕治「大正改元期における和辻哲郎と田中王堂：教養主義・ニーチェ解釈・日本文化研究(特輯 大正改元百年)」比較文學研究100,2015年。
(*)角田幸彦「和辻倫理学をめぐって」明治大学教養論集503,2015年。
(*)角田幸彦「和辻倫理学をめぐって」(ケーベル)明治大学教養論集503,2015年。
(*)角田幸彦「改めて景観哲学を考える」明治大学教養論集503,2015年。
(*)小山文雄「私のケーベル先生：枕頭の一冊」図書791,2015年。
(*)北上次郎「勝手に文庫解説(翻訳篇 第15回)刑務所小説の傑作[『ハドリアヌスの長城』ロバート・ドレイパー/三川基好訳]」ハヤカワミステリマガジン60(3),2015年。
(*)(参考:根占献一「ヨーロッパ史からみたキリシタン史:ルネサンスとの関連のもとに(「近世化」論と日本「東アジア」の捉え方をめぐって)—(「「東アジア」の

捉え方」)アジア遊学185,2015年。)
(*)岡田章雄『キリシタン大名』吉川弘文館,2015年。
(*)(參考 : マイケル・パレンシア=ロス/谷口茂訳「説話的倫理とヒロシマ—トルーマン,ホメロス,アイスキュロス」モラロジー研究75,2015年。)
(*)(參考 : 道家英穂『死者との邂逅—西欧文学は〈死〉をどうとらえたか』作品社,2015年。)
(*)福田晃・金賛會・百田弥英子編『鷹と鍛冶の文化を拓く百合若大臣』伝承文学比較双書,三弥井書店,2015年。
(*)福田晃「「百合若説経」と幸若・説経・古浄瑠璃 : 〈宝競べ〉〈忍び入り〉をめぐって」伝承文学研究64,2015年。
(*)サイダ ハルミル ザエヴァ「『アルポミシュ』と幸若舞曲『百合若大臣』 : 影響関係をめぐる一試論」国際日本学 : 文部科学省21世紀COE採択日本発信の国際日本学の構築研究成果報告集12,2015年。
(*)(參考 : 角田幸彦「ホメロス『イリアス』『オデュッセイア』の精神史的考察—哲学と古典学の間(1)」明治大学教養論集508,2015年。)
(*)(參考 : 川島重成「「戦さは男の仕事」?--『イリアス』第6歌におけるヘクトル像再考」(国際基督教大学キリスト教と文化研究所)人文科学研究〈キリスト教と文化〉46,2015年。)
(*)(參考 : 野津寛「『オデュッセイア』とアプレーユス『変身物語』」信州大学人文科学論集2,2015年。)
(*)(參考 : 本橋哲也「廃車のバラ,勝者のチョコレート : SCOT『トロイアの女』とSPAC『ハムレット』における記憶の詩学と政治学」(東京経済大学コミュニケーション学会)コミュニケーション科学42,2015年。)
(*)江原吉博・渡辺保「演劇時評(1)劇評 ハムレット リア王 三人姉妹マーキュリー・ファー : Mercury Fur狂人なほもて往生をとぐpenalty killingスィトホームベルリンの東ヒトジチ悲しみよ,消えないでくれトロイアの女 メンフィス」悲劇喜劇68(4),2015年。
(*)(參考:吉武純夫『ギリシア劇におけるカロス・タナトス』京都大学,博士(文学),乙第13056号,2015年。)
(*)青井陽治・中井美穂「演劇時評(1)劇評　トロウラスとクレシダ　オイディプス王 : ソフォクレス原作『オイディプス王』より　」悲劇喜劇68(7),2015年。
(*)(參考 : 菅孝行「社会と演劇の視野(46)〈今〉と重なるギリシャ連合とトロイア」テアトロ904,2015年。)
(*)(參考 : 近藤裕子・永井典克・大崎さやの「ヨーロッパ近現代におけるギリシア悲劇の女の変容(1)イーピゲネイア」東洋大学総合科学研究所紀要17,2015年。)
(*)(參考 : 宮坂真衣子「ウェルギリウス『アエネーイス』に描かれる対等な友好関係とfidesについて」ペディラヴィウム70,2015年。)
(*)(參考 : 平野智晴「Sophocles,Antigone465-468における文献学的問題について」フィロギカ10,2015年。)
(*)(參考 : 若林麻希子「Kate Chopin,“Lilacs”精読 : 聖母マリアのモチーフの重要性(特集アメリカ)」Metropolitan 57,2015年。)
(*)(參考 : 井戸田総一郎「鷗外『曾我兄弟』とホーフマンスタール『オイディプス王』 : 改

作による過去と現在の架橋」文芸研究：明治大学文学部紀要125,2015年。)

(*)福田晃・金賛會・百田弥英子編『鷹と鍛冶の文化を拓く百合若大臣』伝承文学比較双書,三弥井書店,2015年。

(*)(参考：吉川斉『「イソップ寓話」の成立と展開に関する一考察』東京大学 博士(文学)甲第32065号,2015年。)

(*)甲斐雄一郎「府川源一郎著『明治期初等国語教科書と子ども読み物に関する研究：リテラシー形成メディアの教育文化史』2014年,ひつじ書房」(全国大学国語教育学会)国語科教育77,2015年。

(*)渡辺哲男「府川源一郎著『明治期初等国語教科書と子ども読み物に関する研究：リテラシー形成メディアの教育文化史』」教育学研究82(2),2015年。

(*)定村来人「河鍋暁斎《伊蘇普物語之内》の制作年代について：イスラエル・ゴールドマン・コレクション蔵の14図から分かること(図像の典拠となった『イソップ物語』挿絵と上野戦争(第38回河鍋暁斎研究会発表)」暁斎：河鍋暁斎研究誌115,2015年。)

(*)新星出版社編集部編『考える力を伸ばす!心を育てる!読み聞かせ366話』新星出版社,2015年。

----イソップ作/中江文一著「ライオンとネズミ」,イソップ作/中江文一著「ウサギとカメ」,イソップ作/中江文一著「ひきょうなコウモリ」,イソップ作/中江文一著「ネズミの会議」,中江文一著「パンドラの箱」,イソップ作/中江文一著「腹のふくれたキツネ」,太宰治作/中江文一著「走れメロス」,イソップ作/中江文一著「カメのこうら」

(*)秋田喜代美監修『こころを育てるおはなし101』高橋書店,2015年。

----イソップ「ウサギとカメ」,イソップ「金の斧銀の斧」,イソップ「町のネズミといなかのネズミ」,「ペルセウスとメドゥーサ」,太宰治作「走れメロス」

(*)イソップ原作/出水田隆文英文解説・宇野葉子翻訳『イソップ物語』IBCライブラリー,IBCパブリッシング,2015年。

(*)兵頭俊樹「『伊曽保物語』下巻26「鳩と狐の事」とスペイン語版イソップと『カリーラとディムナ』」和歌山大学教育学部紀要・人文科学65,2015年。

(*)兵頭俊樹「特集：おはなし会で使える紀元前から語り継がれているイソップ物語」この本読んで15(1),2015年。

(*)吉見孝夫「第六巻に寄せて」「仮名草子『伊曽保物語』を引用,改作する諸書」イソップ資料6,2015年。

(*)今村浩子「戦後の中学校国語教科書におけるイソップ教材」イソップ資料6,2015年。

(*)吉見孝夫「『イソップ資料』第5号・第6号のご案内」日本西洋古典学会公式ホームページ,2015年。

(*)諏訪哲史「古代が懐かしい：西脇順三郎の「永遠=超時間」：講演(西脇順三郎ルネサンス)」現代詩手帖58(4),2015年。

(*)丹羽章「太宰治『走れメロス』の世界：義人メロスの死と再生」四国学院大学論集147,2015年。

(*)田中実「「物語」の重さ,「心」のために：安房直子『きつねの窓』・太宰治『走れメロス』を例にして」都留文科大學研究紀要81,2015年。

(*)下田実「「物語」への「参加」を促す単元の試み：単元『走れメロス』を劇にして味わう」静岡大学教育実践総合センター紀要24,2015年。
(*)幸田国広「「走れメロス」教材史における定番化初期の検討」読書科学56(2),2015年。
(*)齋藤理生「文学作品の輪郭：『大造爺さんと雁』・『走れメロス』・『パンドラの匣』」語学と文学51,2015年。
(*)林修『林修の「今読みたい」日本文学講座』(「走れメロス」)宝島SOGOI文庫,宝島社,2015年。
(*)「特集 おはなし会で使える 紀元前から語り継がれているイソップ物語」この本読んで15(1),2015年。
(*)秋田喜代美監修『こころを育てるおはなし101』(イソップ)高橋書店,2015年。
---イソップ原作「ウサギとカメ」イソップ原作「金の斧銀の斧」イソップ原作「町のネズミといなかのネズミ」「ペツセウスとメドウサ」太宰治「走れメロス」
(*)水木しげる著/水木しげる漫画大全集編集委員会編『『ガロ』掲載作品』』講談社コミッククリエイト,講談社,2015年。
(*)新星出版社編集部編『考える力を伸ばす!心を育てる!読み聞かせ366話』(イソップ)新星出版社,2015年。
(*)(参考：イソップ原作/出水田隆文英語解説・宇野葉子翻訳『イソップ物語』IBC対訳ライブラリー,IBCパブリシング,2015年。)
(*)もりやしげやす,ヨシオミドリ「ひとつぶイソップ ライオンとイノシシ」おひさま21(1),2015年。
(*)もりやしげやす,ヨシオミドリ「ひとつぶイソップよくばりないぬ」おひさま21(3),2015年。
(*)(参考：兵頭俊樹「『伊曽保物語』下巻28「鳩と狐の事」とスペイン語版イソップと『カリーラとディムナ』」和歌山大学教育学部紀要 人文科学65,2015年。)
(*)(参考：吉川斉『「イソップ寓話」の成立と展開に関する一考察』東京大学,博士(文学),甲第32065号,2015年。)
(*)高山秀三「少年期における三島由紀夫のニーチェ体験」京都産業大学論集 人文科学系列48,2015年。
(*)(参考：橋場弦「古典と向き合う」公研618,2015年。)
(*)(参考：柴宜弘編『地図で読む世界史：超図解：五大テーマで理解する教養として知っておきたい世界の歴史』実務教育出版,2015年。)
(*)(参考:中嶋洋平『ヨーロッパとはどこか:統合思想から読む2000年の歴史』吉田書店,2015年。)
(*)(参考：近藤和彦編『ヨーロッパ史講義』(佐藤昇「建国神話と歴史：古代ギリシアの「ポリス」世界)山川出版社,2015年。)
(*)(参考：玉木俊明『ヨーロッパ覇権史』ちくま新書,筑摩書房,2015年。)
(*)(参考：Takashi Minamikawa(ed.)“New approaches to the later Roman Empire”Kyoto University,2015.)
(*)(参考：志々見剛「シャルル・ド・ブルグヴィルによるフリギアのダレス仏訳(1572)：トロイ戦争の歴史的考察,ジャン・ルメール,ド・ベルジュ『ガリアの栄光とトロイの驚異』批判」(日本大学法学部桜文論叢編集委員会)桜文論

叢90,2015年。)
(*)(参考：大谷哲「「歴史」の眼で「見つける」こと--『ヘウレーカ』と『ヒストリエ』(特集 岩田均：『風子のいる店』『寄生獣』から『七夕の国』,そして『ヒストリエ』へ」ユリイカ46(16),2015年。)
(*)(参考：阿部拓児『ペルシア帝国と小アジア：ヘルニズム以前の社会と文化』京都大学学術出版会,2015年。)
(*)(参考：宮下志朗・伊藤進・平野隆文編訳/江口修太訳『学問と信仰と』(アンリ・エチエンヌ/高橋薫訳「ヘロドトス弁護抄」)フランス・ルネサンス文学集,白水社,2015年。)
(*)(参考：高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(23)歴史[1]新叙事詩人ヘロドトス」図書801,2015年。)
(*)(参考：高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(24)歴史[2]トゥキュヂデスとポリス悲劇」図書802,2015年。)
(*)(参考：塩野七生『民主政のはじまり』ギリシア人の物語1,新潮社,2015年。)
(*)(参考：ハチャロゥリアン；大輪公壱解説『《スパルタクス》による交響的絵画(第4,5,9場)』楽譜,全音楽譜出版社,2015年。)
(*)(参考：ダニーラ・コマストリ・モンタナーリ/天野泰明訳『剣闘士に薔薇を』国書刊行会,2015年。)
(*)(参考：本村凌二「講演 剣闘士とポンペイ最後の日」学習院史学53,2015年。)
(*)(参考：阿部衛「剣闘士興業におけるAuctoramentum：ラリヌム決議を中心に」西洋古典學研究63,2015年。)
(*)(参考：佐々木健「砂田徹著「スッラの退役兵植民とエトルリアの騒擾—ファエスラエの事例を中心に」法制史研究64,2015年。)
(*)(参考：アタナシオス・リザキス「ローマ世界の周縁で社会的階梯を上下する：ペロポネソス半島諸都市の場合」クリオ=Clio29,2015年。)
(*)(参考：カエサル/高橋宏幸訳『ガリア戦記』カエサル戦記集,岩波書店,2015年。)
(*)(参考：カエサル/高橋宏幸訳『アレクサンドリア戦記；アフリカ戦記；ヒスパーアニア戦記』カエサル戦記集,岩波書店,2015年。)
(*)(参考：増永理考「ローマ元首政期小アジアにおける見物と都市：アフロディシアスの事例を中心に」史林98(2),2015年。)
(*)(参考：小坂俊介「「鎖の」パウルスとアンミヌス・マルケリヌス『歴史』：その執筆態度と叙述の史料的価値をめぐって」西洋史学258,2015年。)
(*)(参考：北上次郎「勝手に文庫解説(翻訳篇 第15回)刑務所小説の傑作[『ハドリアヌスの長城』ロバート・ドレイパー,三川基好訳]」ハヤカワミステリマガジン60(3),2015年。)
(*)(参考：宮嵜麻子「ローマ共和政における政治問題としての海賊(2)ミトリダテースと海賊問題(淑徳大学創立50周年記念,埼玉キャンパス学開設20周年記念)」国際経営・文化研究20(1),2015年。)
(*)(参考：足立恭平「グラックス改革と民衆—コンティオをめぐる近年の研究から」タリオ29,2015年。)
(*)(参考：山本輿一郎「Μεγαϛ/Magunusとポンペイウス親子」生活文化史57,2015年。)
(*)(参考：大清水裕「1700周年に見るコンスタンティヌス研究の展開」地中海学研究38,2015

年。)
(*)(参考：F.グラセッリ『イタリア「色黒党」列伝—カエサルからムッソリーニまで』文藝春秋,2015年。)
(*)(参考：ダニーラ・コマストリ=モンタナーリ/天野泰明訳『剣闘士に薔薇を』国書刊行会,2015年。)
(*)(参考：藤原健剛『古ゲルマンの社会状態に関する研究：Tacitus,Germaniaを中心として』日本国書刊行会,近代文藝社(発売),2015年。)
(*)「史学文献目録—西洋史1」史學雑誌124(1),2015年。
(*)小林繁子「黒川正剛著「魔女狩り—西欧の三つの近代化」(講談社メチェ,講談社)」史學雑誌124(1),2015年。
(*)仲田公輔「H.G.ベック著戸田聡訳「ビザンツ世界論—ビザンツの千年」(知泉書館)」史學雑誌124(2),2015年。
(*)大貫俊夫「キャサリン・アレン・スミス著/井本□二・山下陽子訳『中世の戦争と修道院文化の形成』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,2014」史学雑誌124(2),2015年。
(*)「史学文献目録—西洋史2」史學雑誌124(5),2015年。
(*)小野賢一「回顧と展望ヨーロッパ中世(一般)」史學雑誌 124(5),2015 年。
(*)小野賢一「回顧と展望ヨーロッパ中世(西欧南欧)」史學雑誌 124(5),2015 年。
(*)踊共二「2014 年の歴史学界 回顧と展望：ヨーロッパ・」近代一般」史學雑誌 124(5),2015年。
(*)岡田泰介「ヨーロッパ：古代ギリシア(2014 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 124(5),2015 年。
(*)井上勇太郎「ヨーロッパ：古代ローマ(2014 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 124(5),2015 年。
(*)小野賢一「ヨーロッパ：西欧南欧(2014 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 124(5),2015 年。
(*)岡田泰介「篠崎三男著「黒海沿岸の古代ギリシア植民市」(東海大学出版部)」史學雑誌 124(7),2015 年。
(*)阿部衛「マティアス・ゲルツアー著/長谷川博隆訳『ローマ政治家伝』III,キケロ,名古屋大学出版会,2014」史学雑誌 124(8),2015 年。
(*)「文献目録—西洋史 3」史學雑誌 124(9),2015 年。
(*)薩摩真介「玉木俊明著「海洋帝国興隆市—ヨーロッパ・海・近代世界システム」(講談社メチエ,講談社)」史學雑誌 124(9),2015 年。
(*)(参考：岡田泰介「前五世紀アテナイの艦隊乗組員：IG.I3 1032(Athenian Naval Catalogue)の分析を中心に」史學雑誌 124(12),2015 年。)
(*)(参考：本村凌二「西ローマ帝国滅亡 476年ローマ帝国滅亡の真犯人(永久保存版,教養で勝大世界史講義）--(大世界史2015—ローマ帝国から「イスラム国」まで)」文藝春秋special 9(3),2015年。)
(*)(参考：プロコピオス/和田廣訳『秘史』(ビザンツ)西洋古典叢書,京都大学学術出版会,2015年。)
(*)(参考：藤原健剛『古ゲルマンの社会状態に関する研究—Tacitus, Germaniaを中心として』近代文藝社,2015年。）
(*)仲手川良雄「ブルクハルトから古代ギリシア史へ—自伝的回想」季刊・創文17,2015年。

(*)伊藤貞夫「一思想史家の古代ギリシア像—仲手川良雄『古代ギリシアにおける自由と社会』を読む」創文19,2015年。)
(*)(参考：西村貞二『リッター』清水書院,2015年。)
(*)井上文則「宮崎市定と西洋古代史研究」西洋古代史研究15,,2015年。)
(*)呂超「宮崎市定における世界史観の形成(東アジアの思想と構造)」東アジア文化交渉研究8,2015年。
(*)犬塚元「リヴィジョニズムのなかのキリスト教政治思想—原田健二朗『ケンブリッジ・プラトン主義』に寄せて」季刊・創文17,2015年。
(*)(参考：角田文衛「西洋古代史(1934年)(6)(最終回)」古代文化67(2),2015年。)
(*)(参考：ロデリッケ・ケイヴ,サラ・アヤド/大山晶訳『世界を変えた100の本の歴史図鑑：古代エジプトのパピルスから電子書籍まで』原書房,2015年。)
(*)南雲泰輔「特集《古典再読》弓削達著『永遠のローマ』再読」西洋史学256,2015年。
(*)(参考：井上浩一「プロコピオス『秘史』--ビザンツ歴史家の苦悩」西洋古典叢書月報118,2015年。)
(*)(参考：伊藤敏樹『十字軍「聖戦」秘譚：対立と融合の真実』原書房,2015年。)
(*)(参考：Hiraoki Adachi‘Hyperia：A ‘Pagan’Holy Woman in the Late Antiiquty’(T. Minamikawa,ed.,*New Approaches to the Later Roman Empire* Kyoto),2015.)
(*)(参考：Hajime Tanaka‘[Commnt]Some‘Asian’Aspects in the History of the Later Roman Empire’(T.Minamikawa,ed.,*New Approaches to the Later Roman Empire*(Kyoto),2015.)
(*)(参考:Taisuke Nagumo‘[Commnt]‘Late Antiquty’and Japanese Perspectives’(T.Minamikawa, ed.,*New Approaches to the Later Roman Empire*(Kyoto),2015.)
(*)(参考:Inoue Fuminori‘Senatorial and Military Aristocracies in the Later Antiquty’,(in T.Minamikawa (ed.),*New Approaches to the Later Roman Empire*(Kyoto),2015.)
(*)(参考：Yamagat Naoko‘From Our Own Corresponndent：Authorial Commentary on the “Spectacles of War”in Homer and the *Tale of the Heike*’(in Anastasia Bakogianni and M.Hope Varelie,eds.,*War as Spectacle : Ancient and Modern Perspectives on the Display of Arned Conflict*,Bloomsbury, 2015.)
(*)(参考：鷲塚奈保「シェイマス・ヒーニーの『サンザシのランタン』における古典題材の使用について」國學院大學紀要53,2015年。)
(*)(参考：川島重成「西洋古典と聖書における「歓待(クセニアー)」：ジョン・テイラー著/土岐健治訳『西洋古典文学と聖書：歓待と承認』(教文館,2014年)に寄せて」ペディラヴィウム70,2015年。)
(*)結城雅秀「critic劇評 クレシダの白いブーツ：世田谷パブリックシアター「トロイラスとクレシダ」東京芸術劇場【COCOON：憧れも,初恋も,爆撃も,死も】Tプロジェクト【堅塁奪取】【愛をこめてあなたを憎む】俳優座劇場【音楽劇 わが町】」テアトロ908,2015年。)
(*)(参考：児玉冨美恵「キーツの『エンディミオン』創作時におけるシェイクスピアとチャタトン：題辞と献辞から読み解く(中国四国英文学研究)」英文学研究支部統合号7,2015年。)

(*)(参考：高畑時子「ワーズワース著『ウェルギリウス「アエネーイス」2巻訳』における翻訳法」日本英文学会・第87回大会Proceedings 2015,2015年。)
(*)(参考:津上英輔『メーイのアリストテレース『詩学』解釈とオペラの誕生』勁草書房,2015年。)
(*)(参考：野谷啓二「T.S.エリオットの三つのペルソナ：新しいイングリッシュネスと自己の創造のために」近代 112,2015 年。)
(*)(参考 : Lo Dico,Mauro,“Seize the Day’s Eye : The Odes of Horace and Henry James’s ‘Daisy Miller’” International Journal of the Classical Tradition 22,2015年。)
(*)ペディラヴィウム会通信37,2015年。----------
I「ペディラヴィウム御殿場」オープニング・パーティー
金澤正剛「神田[盾夫]先生と御殿場の思い出」
楠川寛子「神田先生の愛された御殿場」
橋本信子「「ペディラヴィウム御殿場」の会館に寄せて」
安村典子「思い出を力に変えて、前へ」
II「夏の集会記録」
並木浩一「旧約聖書と批評の精神」
平野佑「これからのペディラヴィウム会に寄せる想い」
浜本裕美「夏の合宿に参加して」
菅谷基「他者を読み解く作法」
寺田吾朗「「わかった気になってはいけない」
III「講演・活動報告など」
水島陽子「春の御殿場「西洋古典研究会」」
石川榮治「開かれた個展、開かれた御殿場」
山口京一郎「御殿場の話とギリシャの話」
小菅奎申「《講演》ケルト文化研究と私」
佐野好典「《公開講演会》ペディラヴィウム会・ICC共催」
笹栗克彦「「笹栗読書会」200回記念in御殿場」
渡辺勝夫「これからの御殿場」
IV「会員消息その他」
栗山昌子「福岡から神田先生へのご報告」
藤澤愛子「あるクリスマスの思い出」
二神史郎「コイノニア—半世紀ぶりの御殿場訪問」
(*)赤井規晃「大賀壽吉のダンテ観と山川丙三郎の評価について」東北学院英学史年報36,2015年。
(*)芝田高太郎「書評「神曲」地獄篇,煉獄篇,天国篇,ダンテ著/原元晶訳」世界文学121,2015年。
(*)(参考：ファウスティーノ・ペリザウリ/谷口伊兵衛訳『痴愚神の勝利--『痴愚神礼讃(エラスムス)原典』』而立書房,2015年。)
(*)(参考：エラスムス、トマス・モア/沓掛良彦・高田康成訳『エラスムス==トマス・モア往復書簡集』岩波文庫,岩波書店,2015年。)
(*)(参考：エラスムス/金子晴勇編訳『エラスムス『格言選集』』知泉書館,2015年。)
(*)(参考：齋藤美洲『エラスムス』Cetury books,人と思想62,清水書院,2015年。)

(*)(参考：澤井繁男『評伝カンパネッラ』人文書院,2015年。)
(*)(参考：大竹稽編『賢者の智慧の書：パスカル/ラ・ロシェフコー/ラ・ブリュイエール』ディスカヴァー・トゥエンティワン,2015年。)
(*)(参考：マーガレット・ワイズ・ブラウン再話/アンドレ・エレ絵/あべきみこ訳『子どものためのラ・フォンテーヌのおはなし』こぐま社,2015年。)
(*)(参考：今村武「18世紀ドイツのシェイクスピア受容」東京理科大学紀要,教養篇47,2015年。)
(*)(参考:ゲーテ/大宮勘一郎編『ゲーテ=Johan Wolfgang von Geothe』集英社文庫,集英社,2015年。)
(*)(参考：木田綾子『ゲーテにおける枠物語：メールヒエン・ノヴェレ・ロマーン』九州大学,博士(文学),甲第12265号,2015年。)
(*)(参考：内藤克彦『シラー』清水書院,2015 年。)
(*)(参考：松山壽一『造形芸術と自然：ヴィンケルマンの世紀とシェリングのミュンヘン講演』法政大学出版局,2015年。)
(*)山本惇二「書評 シェリングの自然哲学と芸術：松山壽一『造形芸術と自然：ヴィンケルマンの世紀とシェリングのミュンヘン講演』」ヘルダー研究21,2015年。
(*)(参考：冨重与志生「ルーモールの『料理術の精神』とヴィンケルマン」文芸研究：明治大学文学部紀要125,2015年。)
(*)(参考：新妻篤『ゲーテ『悲劇ファウスト』を読み直す：人間の存在理由を求めて』島影社,2015年。)
(*)(参考：Goethe/三木正之訳『Faust：Der Tragödie und zweiter Teil』南窓社,2015年。)
(*)(参考：E.M.バトラー/松島渉訳「E.M.バトラー『バイロンとゲーテ：情熱の分析』(序章,第1章,第2章a)」國士館大學教養論集78,2015年/79,2016年/80,2017年。)
(*)(参考：譲原晶子「ゲーテにおけるDramaticの概念」千葉商大紀要53(1),2015年。)
(*)(参考：山内志朗「哲学史の中のモナドロジー：十七世紀と無の形成力(特集 ゲーテとモナドロジー)」モルフォロギア：ゲーテと自然科学37,2015年。)
(*)(参考:井藤元「R.シュタイナー「『ファウスト』によって開示されたゲーテの精神様式」大阪成蹊大学紀要1,2015年。)
(*)(参考：粂川麻里生「ゲーテとベンヤミンの翻訳論と「世界文学」の理念：1970年代日本における受容をめぐって(和泉雅人教授退任記念論文集)」(慶應義塾大學藝文學會)藝文研究109-2,2015年。)
(*)前田雅之「保田與重郎と近代・日本・古典(23,24,25)古典論の展開(8,9,10)ゲーテ・近代・古典(1,2,3)」表現者59,60,61,2015年。)
(*)高橋義人「無私の個人主義：森鴎外とゲーテ」文学16(19,2015年。)
(*)(参考：田野武夫『ヘルダーリンにおける自然概念の変遷』拓殖大学研究叢書,人文科学18,拓殖大学,2015年。)
(*)(参考:田野武夫『ヘルダーリンにおける自然概念の変遷』鳥影社・ロゴス企画,2015年。)
(*)(参考：相原隆夫『シラー小伝』近代文藝社,2015年。)
(*)(参考：内藤克彦『シラー』人と思想41,清水書院,2015年。)
(*)(参考：松山雄三「Fr.シラー—詩的想像力と哲学的精神(1)」東北薬科大学一般教育関係論集 28,2015 年。)
(*)(参考:齋藤成夫「グリルパルツァーのメディア三部作—文化対立の場としての悲劇」(盛

岡大学社会文化学会)比較文化研究 25,2015 年。)
(*)(参考：ニーチェ/白取晴彦編訳『超訳ニーチェの言葉』エッセンシャル版,ディスカヴァー・トゥエンティワン,2015年(→2016年,大活字版)。)
(*)杉田弘子「『猫』とニーチェと漱石と(夏目漱石の世界：大分漱石論が出で申候。もう沢山に候)—(思想の淵源)」別冊・太陽：日本のこころ231,2015年。
(*)飯嶋裕治「大正改元期における和辻哲郎と田中王堂：教養主義・ニーチェ解釈・日本文化研究(特輯 大正改元百年)」比較文學研究100,2015年。
(*)田中裕也『戦後・三島由紀夫文学の生成：その思想性と文学的実践について』(ニーチェ受容)同志社大学,博士(国文学),甲第690号,2015年。)
(*)(参考：井戸田総一郎「文学するニーチェ：詩「ゲーテに寄す」を読む」文学16(3),2015年。)
(*)(参考:井藤元「R.シュタイナー「『ファウスト』によって開示されたゲーテの精神様式」」大阪成蹊大学紀要1,2015年。)
(*)(参考：粂川麻里生「ゲーテとベンヤミンの翻訳論と「世界文学」の理念：1970年代日本における受容をめぐって(和泉雅人教授退任記念論文集)」藝文研究109(2),2015年。)
(*)(参考：齋藤茂夫「グルルバルツァーのメデーア三部作：文化対立の場としての悲劇(特集 多文化主義の現在)」比較文化研究25,2015年。)
(*)(参考：ブレヒト/谷川道子訳『アンティゴネ』光文社古典新訳文庫,2015年。)
(*)鳥越輝昭「書評 菊地有希著『近代日本におけるバイロン熱』」比較文学58,2015年。
(*)「バイロン翻訳詩作品年表」鳴海文庫：fantasy books café：文学・社会・書誌2,2015年。
(*)(参考：本橋哲也「敗者のバラ,勝者のチョコレート：SCOT『トロイアの女』とSPAC『ハムレット』における記憶の詩学と政治学」コミュニケーション科学42,2015年。)
(*)(参考：三好みゆき「イェイツ版オイディプスの意義—古くて新しいドラマ」イェイツ研究46,2015年。)
(*)(参考：伊達直之「イェイツと「オイディプス」の20年代」イェイツ研究46,2015年。)
(*)(参考：高橋雄四郎『キーツの想像力：妖精・牧歌』音羽書房鶴見書店,2015年。)
(*)(参考：石本浩樹「キーツと受容の美学：『エンディミオン』を中心に」早稲田大学大学院教育学研究科紀要・別冊23(1),2015年。)
(*)(参考：山口茜「J.W.ウォーターハウスとイタリア：光と色,自然描写における変化」英語英文学研究21,2015年。)
(*)(参考：高谷修「サミュエル・ガースの『薬局』における古典叙事詩の技法—冥界下りの挿話を中心に」(京都大学大学院人間・環境学研究科英語部会)英文学評論87,2015年。)
(*)(参考：中島恵子『ヴァージニア・ウルフとマーガレット・アトウッドの創造空間：フィクションの構造と語りの技法』英光社,2015年。)
(*)(参考：田中章夫「「大先生」方の思い出」図書792,2015年。)
(*)(参考：Takenaka Koji「モンテェニュと精神のグロテスク」Cahiers d’etudes franÇaises 20,2015年。)
(*)(参考：坂倉裕治「子供に道徳を教えることのむつかしさ：ルソー『エミール』におけるラ・フォンテーヌ『寓話集』批判をてがかりに」早稲田大学大学院教

育学研究科紀要26,2015年。)
(*)(参考：鳥山定嗣「「ナルシス語る」から「ナルシス断章」へ：変貌のかげに潜む連続性」仏文研究46,2015年。)
(*)(参考：鳥山定嗣「ヴァレリー「ナルシス語る」の二つの版：『ラ・コンク』誌版(1891)と『旧詩帖』版(1920)」仏文研究46,2015年。)
(*)(参考：中谷彩一郎「コランセとルソーの『ダフニスとクロエ』」鹿児島県立短期大学「人文」39,2015年。)
(*)(参考：神谷幹夫「ディオゲヌスの読み手としてのアラン」西洋古典叢書月報116,2015年。)
(*)(参考：アニー・コーエン=ソラル/石崎晴己訳『サルトル伝(上下)』藤原書店,2015年。)
(*)(参考：八木橋久美子「ロラン・バルトにおけるオレステイア的狂気：演劇論を中心に(研究発表要旨)」フランス語フランス文学研究106,2015年。)
(*)(参考：ヤマザキマリ『ヤマザキマリの偏愛ルネサンス美術論』集英社新書,集英社,2015年。)
(*)(参考：服部英二「講演論文 ルネサンスの起源」比較文明研究20,2015年。)
(*)(参考：樺山紘一「ルネサンス十五~十六世紀 ルネサンスは魔術の最盛期(永久保存版 教養で勝つ大世界史講義)ー(大世界史2015：ローマ帝国から「イスラム国」まで)」文藝春秋special 9(3),2015年。)
(*)(参考：リーノ ペルティレ/多賀健太郎訳「〈講演〉ダンテ,ペトラルカ,ボッカチオと音楽」ディアファネース—芸術と思想2,2015年。)
(*)(参考：フランチェスコ ツィメイ/多賀健太郎訳「〈講演〉ダンテ,レーヴィ,ヒューマニズム」ディアファネース—芸術と思想2,2015年。)
(*)渡部昇一『渡部昇一 青春の読書』ワック,2015年。
(*)(参考：渡部昇一「遅の井の湧水(18)帝国礼讃か祖国愛か」(ローマ帝国)諸君! 9月号,2015年。)
(*)(参考：伊藤明己「メディアと教育についての予備的考察(1)」(ヘレニズム)関東学院大学経済経営研究所年報37,2015年。)
(*)(参考：加藤守道「教養論の二つの道：パイデイアとレトリック・ヒューマニズム(学協会シンポジウム 教養教育：その歴史と課題)」哲学66,2015年。)
(*)(参考：河野雄一『エラスムスの思想世界：可謬性・規律・改善可能性』慶應義塾大学,博士(法学),甲第4324号,2015年。)
(*)(参考：佐藤優「ベストセラーで読む日本の近現代史(19)歴史哲学講義ヘーゲル」文藝春秋93(5),2015年。)
(*)(参考：日下部吉信『ハイデガーと西洋形而上学：講演集』シリーズ・ギリシア哲学講義・別冊,晃洋書房,2015年。)
(*)(参考：安酸敏眞「人文学を学ぶ意義--「パンのための学問」がもてはやされる現代において」創文・夏18,2015年。)
(*)(参考：藤本夕衣「「古典を失った大学における」「教育学の古典：カノンの相対化と再編のあと(研究討議「教育学の古典」はいかに創られ,機能してきたのか：教育哲学のメタヒストリー)」教育哲学研究111,2015年。)
(*)(参考：安酸敏眞「「永遠の契約」か,それとも「和解」か?：キリスト教信仰と学問研究をめぐるシュライアマハーとヘーゲルの対立(退職記念 井上真蔵 池内靜司教授)」北海学園大学人文論集58,2015年。)

(*)(参考：崔弘徳「韓国におけるシュライアマハー受容に関する一考察：神学類型の視点から」基督教研究77(2),2015年。)
(*)(参考：成城大学文芸学部ヨーロッパ文化学科編『西洋古典のすすめ』成城大学文芸学部,シリーズ・ヨーロッパの文化2,2015年。)
(*)(参考：E.H.ハービソン/大川なつか・高津秀之・高津美和訳『キリスト教的学識者』知泉書院,2015年。)
(*)(参考：矢倉英隆「FORUM：AYUMI ESSAY パリから見えるこの世界(Vol.37)「魂の医者」エピクロス：その哲学と生き方」医学の歩み252(7),2015年。)
(*)(参考：中金聡「偶然のエピクロス主義者モンテーニュ：『エセー』における引用の政治学」国士舘大学政治研究6,2015年。)
(*)(参考：三上章「「ケンブリッジ・プラトニストのエピクロス哲学論駁」：ジョン・スミス『無神論に関する短い講話』」人文・社会科学論集32,2015年。)
(*)(参考：エラスムス＆トマス・モア著/沓掛良彦・高田康成訳『エラスムス=トマス・モア往復書簡集』岩波文庫,岩波書店,2015年。)
(*)(参考：中金聡「ディーセントな自由の探究—添谷育志『近現代英国思想研究,およびその他のエッセイ』刊行に寄せて」(近代エピクロス主義) (風行社)風のたより61,2015年。)
(*)(参考：古屋弘幸「社会,言語,思想—スコットランド啓蒙の諸相」(エピクロス,ストア等)人文科学研究：キリスト教と文化46,2015年。)
(*)(参考：木島泰三「スピノザにおける偶然性の意義：有限者における偶然性と必然性との創造的結合と,その古代および近代エピクロス主義との比較」法政大学文学部紀要72,2015年。)
(*)(参考：鷲田小彌太『ヒルティ老いの幸福術』海竜社,2015年。)
(*)(参考：厚見恵一郎「マキャヴェッリとルクレティウス：ルネサンス・イタリアにおけるエピクロス主義改変の考察に向けて(田村正勝教授・岡澤憲芙教授・辻義昌教授古稀記念号)」早稲田社会科学総合研究16(1),2015年。)
(*)(参考：長尾伸一『複数世界の思想史』名古屋大学出版会,2015年。)
(*)沓掛良彦『人間とは何ぞ—酔翁東西古典詩話』ミネルヴァ書房,2015年。
(*)藤田正勝『清澤満之が歩んだ道：その学問と信仰』法蔵館,2015年。
(*)中島岳志「私の保守思想 保守と大東亜戦争：田中美知太郎『時代と私』」表現者62,2015年。
(*)『Aeraの1000冊』Aera編集部,朝日新聞社,2015年。
(*)ケンペル/志筑忠雄訳/杉本つとむ校注・解説『鎖国論：影印・翻刻・校註』八坂書房,2015年。
(*)(参考：金子晴男編訳『エラスムス『格言選集』』知泉書院,2015年。)
(*)(参考：河野雄一「エラスムスにおける善悪・運命・自由意志」新プラトン主義14,2015年。)
(*)(参考：倉持充希「ブッサン作《聖エラスムスの殉教》に関する考察：サン・ピエトロ聖堂からの指示書の解釈を手掛かりに」日仏美術学会会報35,2015年。)
(*)(参考：伊藤喜昌「パルテノン神殿の補修に日本のチタンが活躍」チタン：Titanium Japan 63(1),2015年。)
(*)(参考：河原伸彦「9185形象以前(建築論モダニティ,建築歴史・意匠,学術講演会・建築

デザイン発表会)」建築歴史・意匠2015,2015年。)
(*)(参考：高橋健一「アルカディアのポルティコ：ピエル・ヤコポ・マルテッロの理想都市「ポエジロゴポリ」とイタリアの文芸共和国」美術史学36,2015年。)
(*)(参考：加塩啓介・林田義伸「827 古代ギリシアにおけるペリプテラル形式のトロスの設計法に関する研究(歴史・意匠)」日本建築学会研究報告 九州支部3,計画系54, 2015年。)
(*)(参考：植田宏「ローマ劇場の構成について---ヴィチルヴィオ著,バルバロ翻訳・註釈『建築十書』についての研究(1)」日本建築学会研究報告 九州支部3,計画系54, 2015年。)
(*)(参考：山田眞生・鈴木淳一・花里利一「3098 海外の世界遺産組積造建築物に用いられる大理石材料に関する研究 : パルテノン神殿に用いられる大理石材料の耐震性能その 2(材料・物品の燃焼性[2],防火,学術講演会・建築デザイン発表会)」学術講演梗概集 2015(防火),2015 年。)
(*)(参考：吉武隆一「9070 メッセネのローマ劇場のロータス・アカンサス式柱頭とその類例(西洋建築史・古代・中世,建築歴史・意匠,学術講演会・建築デザイン発表会)」学術講演梗概集2015(建築歴史・意匠),2015年。)
(*)(参考：植田宏「9077 フロンス・スカエナエの構成について：ヴィトルヴィオ著,バルバロ翻訳・註釈『建築十書』美ついての研究[2](西洋建築史・古代・中世,建築歴史・意匠,学術講演会・建築デザイン発表会)」学術講演梗概集2015(建築歴史・意匠),2015年。)
(*)(参考：南雲泰輔「ウァレンス水道橋—イスタンブールのインフラ遺跡の今」西洋古代史研究15,2015年。)
(*)(参考：鶴田佳子「トルコ西部エーゲ海地域における都市の空間構成について」昭和女子大学大学院生活機構研究科紀要24,2015年。)
(*)(参考：大角恒雄・福島康宏「統計的グリーン関数を用いたAD365年クレタ沖地震動の推定」土木学会論文集A1(構造・地震工学)71(4),2015年。)
(*)(参考：Sengoku-Hara,Kyoko“Japan’s Impassioned Gaze on Greek(in S.Settis,A.Anguissola and D.Gasparroto,eds. Serial/Portable Classic : *The Greek Canon and its Mutations*,Milan,2015.）”
(*)(参考：渡辺真弓「西洋の「宮殿」覚え書き(特集 赤坂離宮の室内装飾)」家具道具室内史：家具道具室内史学会誌7,2015年。)
(*)(参考：横手義洋「ローマ・ヴェネツィア広場：近代ローマと都市の熱狂(特集 2020年東京五輪に向けて 東京祝祭都市構想)」Atプラス：思想と活動25,2015年。)
(*)(参考：大澤昭彦『高層建築物の世界史』(ファロスの灯台)講談社現代新書,2015年。)
(*)河上眞理・清水重教『辰野金吾—美術は建築に応用されざるべからず』ミネルヴァ書房,ミネルヴァ日本評伝選,2015年。
(*)(参考：鏡リュウジ『鏡リュウジの魔女と魔法学』鏡リュウジの占い入門3,説話社,2015年。)
(*)(参考：山本啓二「アリー・イブン・リドエワーンの『テトラビブロス註解』について」京都産業大学総合学術研究所紀要17,2015年。)
(*)(参考：秦明子「ロレンツォ・デ・メディチの宇宙論的自然観：ポッジョ・ア・カイアー

ノ正面入口フィリーズの解釈をめぐって」地中海学研究38,2015年。)
(*)(参考：ディヴィッド・R.モンゴメリー/黒沢令子訳『岩は嘘をつかない：地質学が読み解くノアの洪水と地球の歴史』白楊社,2015年。)
(*)(参考：三富照久「エウクレイデス「原論」と劉徽「九章算術注解」の比較数学史—比較文化の立場から」津田塾大学数学・計算機科学研究所報36,2015年。
(*)(参考：榛葉豊「近代科学はなぜ西欧にのみ興ったのか：一神教の思考と科学の思考」静岡理工科大学紀要23,2015年。)
(*)(参考：ギャビンD.スミス/大間知知子訳『ビールの歴史』原書房,2015年。)
(*)(参考：鈴木俊久「オリーブのすべて(1)オリーブオイルの歴史」油脂68(11),2015年。)
(*)(参考：大岩昌子「イタリア食文化体系におけるチーズの位置：歴史的背景と現状から」名古屋外国語大学外国語学部紀要49,2015年。)
(*)(参考：レベッカ・ラップ/緒川久美子訳『ニンジンでトオリア戦争に勝つ方法：世界を変えた20の野菜の歴史(上下)』(「キャベツ,ディオゲネスを当惑させる」「ニンジン,トロイアに勝利をもたらす」「タマネギ,ヘロドトスの記録によると」)原書房,2015年。)
(*)(参考：「島嶼研だより(69)」(第154回 伊藤正「古代ギリシアの農業：農業用テラス(段々畑)について：エーゲ海島嶼の場合」)島嶼研だより69,2015年。)
(*)(参考：Ikeguchi Mamoru「The Production and Consumption of Cereals in Roman Italyand the Provinces」比較文化研究49,2015年。)
(*)(参考：井上秀太郎「ローマ帝国における織物業と官需(研究発表,西洋史部会第112回史学会大会報告)」史學雑誌124(1),2015年。)
(*)(参考：今井道夫「ダンスと哲学」法政大学スポーツ健康学研究6,2015年。)
(*)(参考：和田浩一「クーベルタンが考えたオリンピズム(歴史学から考えるオリンピック,シンポジウム,01 体育史,専門領域企画2020東京オリンピック・パラリンピックと体育・スポーツ科学研究)」日本体育学会大会予稿集66,2015年。)
(*)(参考：和田浩一「第2回奈良女子大学オリンピック・公開シンポジウム採録「オリンピックの創出とクーベルタンのオリンピズムを問う」」奈良女子大学スポーツ科学研究17,2015年。)
(*)(参考：Ikeguchi Mamoru“The Production and Consumption of Cereals inj Roman Italy and the Provinces”比較文化研究49,2015年。)
(*)(参考：レベッカ・ラップ/緒川久美子訳『ニンジンでトロイア戦争に勝つ方法：世界を変えた20の野菜の歴史(上下)』原書房,2015年。)
(*)(参考：山田静雄「機能性食品を中心とした薬学の発展」ファルマシア51(2),2015年。)
(*)(参考：藤井義博「フーフェラントの長生法における精神力の位置：その現代の健康教育における意義」藤女子大学QOL研究所紀要10(1),2015年。)
(*)(参考：片岡一則・鎌田實「がんばらない&あきらめない対談 今月のゲスト 片岡一則 東京大学大学院工学系研究科教授 x 鎌田實(前編)がん細胞にピンポイントで抗がん薬を投与する「ナノマシン」はがん医療に「革命」を起こせるか 「ナノマシン」は「トロイの木馬」のようなもの」がんサポート13(7),2015年。)
(*)(参考：西條敏美「名著に学ぶ「心とからだの健康」(第13回)プリニウス著『博物誌』

(1世紀)」心とからだの健康：子どもの生きる力を育む19(2),2015年。)
(*)(参考：池田黎太郎「『イリアス』の戦闘場面における身体表現：ガレノスの解剖用語を基にテルシテスとペリクレスの頭の形状を比較する」ペディラヴィウム70,2015年。)
(*)(参考：中山七里『ヒポクラテスの誓い』祥伝社,2015年。)
(*)(参考：本間司『生命倫理と看護哲学：本間司遺稿集』(「古代科学の発生と独自性：エコシステム論的観点から」「ヒポクラテス書簡に於ける「笑い」について：医師と哲学者の世界観から」)幻冬舎メディアコンサルティング,幻冬舎(発売),2015年。)
(*)(参考：飯澤二郎『ヒポクラテスの精神(こころ)を継いで：ある皮膚科医の回想』踏青社,2015年。)
(*)(参考：大北全俊「患者主体の医療へ：「ヒポクラテスの誓い」とインフォームドコンセント」(ナーシング・サプリ編集委員会他編『事例でまなぶケアの倫理』所収,メディカ出版,2015年。)
(*)(参考：吉田敦彦編/GRMC編『依田千百子教授追悼』(篠田知和基「医療の神の神話アスクレピオスの系譜」/吉田敦彦「喜劇『プルトス』に描かれた,アスクレピオスによる治療と,ユートピア的至福状態の現出」/上村くに子「宗教と医療の関係史：古代ギリシアを中心に」)[篠田知和基編『神話・象徴・儀礼 2』]樂瑯書院,2015年。)
(*)(参考：加我君孝『ヒポクラテスを探して：東京大学医学部から東京医療センターへ』医学と看護社,2015年。)
(*)(参考：梶原博毅「医学史 近代ヨーロッパ医学の科学的背景：古代ギリシャの自然(自然哲学)と医学(第2報)古代ギリシャの神殿医療および東イオニア派と西イオニア派の医療(1)古代ギリシャの神殿医療及びクニドス(ミレトス)派とクロトナ(南イタリア)派の医療」広島医学68(9), 2015年。)
(*)(参考：梶原博毅「医学史 近代ヨーロッパ医学の科学的背景：古代ギリシャの自然(自然哲学)と医学(第2報)古代ギリシャの神殿医療および東イオニア派と西イオニア派の医療(2)コス派「ヒポクラテス」の医療」」広島医学68(10),2015年。)
(*)(参考：梶原博毅「医学史 近代ヨーロッパ医学の科学的背景：古代ギリシャの自然(自然哲学)と医学(第3報)ソクラテス,プラトン,アリストテレスの自然学と医学(No.1)」広島医学68(11),2015年。)
(*)(参考：坂井建雄「18世紀以前ヨーロッパにおける医学実地書の系譜：起源から終焉まで」日本医史学雑誌61(3),2015年。
(*)(参考：笠原浩『歯科医学の歴史』MDU出版会,2015年。)
(*)(参考：宮崎揚弘『ペストの歴史』山川出版社,2015年。)
(*)(参考：William Bynum/鈴木晃仁・鈴木実佳訳『医学の歴史』サイエンス・パレット29,丸善出版,2015年。)
(*)(参考：中井久夫『西欧精神医学背景史』新装版,みすず書房,2015年。)
(*)(参考：ダニエル・E.リーバーマン/塩原通緒訳『人体600万年史：科学が明かす進化・健康・疾病(上下)』早川書房,2015年。)
(*)(参考：森岡恭彦『医学の近代史：苦闘の道のりをたどる』NHKブックス,NHK出版,2015

年。)
(*)(参考：新村洋史「アリストテレス『デ・アニマ』から人の味覚の本質を考える—「食に関する指導」の促進を展望して」名古屋芸術大学研究紀要36,2015年。)
(*)(参考：冨重与志生「ルーモールの『料理術の精神』とヴィンケルマン」文芸研究：明治大学文学部紀要125,2015年。)
(*)(参考：『島嶼研だより69』鹿児島大学国際島嶼教育研究センター,2015年。
-----154回 伊藤正「古代ギリシアの農業・農業用テラス(段々畑)について：エーゲ海島嶼の場合」
(*)(参考：木原志乃「古代ギリシア初期医学にみる魂と身体の相関性の問題；De victuとプラトン哲学」人文学論集33,2015年。)
(*)(参考：池田黎太郎「『イリアス』の戦闘場面における身体表現：ガレノスの解剖用語を基にテルシテスとペリクレスの頭の形状を比較する」ペディラヴィウム70,2015年。)
(*)(参考：矢倉英隆「FORUM：AYUMI ESSAY パリから見えるこの世界(37)「魂の医者」エピクロス：その哲学と生き方」医学のあゆみ252(7),2015年。)
(*)伊藤貞夫「永井博会員(大正10年—平成24年)」(日本学士院『学問の山なみ—物故会員追悼集(第8巻)』所収,2015年。
(*)「第22号(永井博先生追悼号)補遺 永井博先生主要業績一覧(改訂版)」筑波哲学23,2015年。
(*)(参考：世界の神話と伝説研究会編『星座と神話がよくわかる本』竹書房,2015年。)
(*)(参考：的射場敬一「ピュリタネイオンで正餐を—祭祀共同体としてのポリスの形成」國士舘大學政經論叢27(3),2015年。)
(*)(参考：菅孝行「社会と演劇の視野(46)〈今〉と重なるギリシャ連合とトロイア」テアトロ904,2015年。)
(*)佐藤昇「書評 『西洋古典叢書 デモステネス弁論集』第1~4巻」クリオ=Clio29,2015年。
(*)(参考：『「エコノミー」概念の思想史：アリストテレスからピケティへ：第1特集；現代ラカン派の理論展開：第2特集』堀之内出版,2015年。)
(*)(参考：黒須純一郎「F.ガリアーニ「トロイ戦争時の貨幣の状態について：『貨幣論』成立前史」中央大学経済研究所年報46,2015年。)
(*)(参考：J.トナー「マネジメント論 ローマ時代の「奴隷の主人」は管理職を目指す人のお手本デス」Courrier Japon 11(6),2015年。)
(*)(参考：塩野七生「対論Reciplocal(vol.30)古代ローマに学ぶグローバル経営術：人材の多様性が生む新たなパワーで安定成長をめざす」日立総研9(4),2015年。)
(*)(参考：ジェイコブ・ソール/村井章子訳『帳簿の世界史』文藝春秋新社,2015年。)
(*)(参考：近藤信彰編『近世イスラーム国家史研究の現在：Studies on early modern Islamic dynasties：the stateod the art』(アレクサンドリア)東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所,2015年。)
(*)(参考：馬路智仁「それゆえコモンウエルスへ身体を捧げた：アルフレッド・ジマーン『ギリシャの共和国』と帝国共和主義」年報政治学2015(1),2015年。)
(*)(参考：近藤和貴「哲学者の英雄化：--プラトン『ソクラテスの弁明』における「脱線」のレトリック」年報政治学2015(2),2015年。)
(*)(参考：小野紀明『西洋政治思想史講義—精神史的考察』岩波書店,2015年。)
(*)(参考：丸亀裕司『公職選挙に見るローマ帝政成立』学習院大学,博士(史学),甲第249号,2015

年。)
(*)(参考 : 山本興一郎『古代ローマ共和政終焉期・帝政草創期の表象と政治 :「故ユリウス・カエサル」の利用を軸に』日本大学,博士(文学),甲第4867号,2015年。)
(*)(参考 : 阿部衛「マティアス・ゲルツアー著長谷川博隆訳「ローマ政治家伝IIIキケロ」(名古屋大学出版会)」史學雑誌124(8),2015年。
(*)(参考 : 河野雄一「エラスムス政治思想における「医術」」(慶應義塾大学大学院法学研究科内「法学政治学論究」刊行会)法学政治学論究 : 法律・政治・社会 104,2015 年。)
(*)(参考 : 河野雄一「エラスムス『リングア』における言語と統治 : 功罪と法律」中世思想研究 57,2015 年。)
(*)(参考 : 熊谷英人「ある政治史の出発 : B.G.ニーブーアのローマ王政論」政治思想研究15,2015年。)
(*)(参考 : 北田葉子『マキァヴェッリ : 激動の転換期を生きぬく』世界史リブレット人49,山川出版社,2015年。)
(*)(参考 : 厚見恵一郎「マキァヴェッリとルクレティウス--ルネサンス・イタリアにおけるエピクロス主義改変の考察に向けて」早稲田大学社会科学総合研究16(1),2015年。)
(*)速水淑子「政治,嘘,物語—アーレントとプラトンから」季刊・創文19,2015年。
(*)(参考 : 西永亮編『シュトラウス政治哲学に向かって』小樽商科大学出版会,小樽商科大学研究叢書,2015年。)
(*)(参考 : 中金聡「快楽主義と政治—シュトラウスのエピクロス主義解釈について」(西永亮編『シュトラウス政治哲学に向かって』所収,小樽商科大学研究叢書,小樽商科大学出版会,2015年。)
(*)(参考 : 加藤守道「荘子vs.プラトン—技術をめぐる教育哲学的考察」理想694,2015年。)
(*)(参考 : 村田玲「『征服と自由』の精読 : その方法と諸論点の検討(行事記録 第49回シンポジウム マキャヴェッリの政治思想とルネサンス・フィレンツェ : 鹿子生浩輝『征服と自由』(風行社,2013年)を読む)」ノモス36,2015年。
(*)(参考 : 石田雅樹「ウォルター・リップマンにおける二つの政治教育論 : 政治知識の向上か,精神の陶冶か」宮城教育大学紀要50,2015年。)
(*)(参考 : 葛西康徳「プラトンの『法律(ノモイ)』における教育について—特にスポーツとジェンダーの視点から」スポーツとジェンダー研究13,2015年。)
(*)(参考 : R.タック/萩原能久監訳『戦争と平和の権利—政治思想と国際秩序 : グロティウスからカントまで』風行社,2015年。)
(*)井崎正敏『吉田松陰 : 幽室の根源的思考』言視社評伝叢書,言視社,2015年。
(*)(参考 : 森村進『法哲学講義』筑摩書房,2015年。)
(*)(参考 : 西尾幹二「ヨーロッパ「正義の法」は神話だった」正論4月号,2015年。
(*)(参考 : 柏達己「アテナイにおけるエイサンゲリア手続きの歴史的変遷 : 弾劾人の役割に着目して(研究発表,西洋史部会,第112回史学会大会報告)」史学雑誌124(1),2015年。)
(*)(参考 : Herrmann Joachim,Kato Katsuyoshi「〈論説〉アテネ学派と比較法」近畿大學法學62(3・4),2015年。)
(*)(参考 : 志内一興「「正義を求める嘆願(Prayer for justice)呪詛板」に起源について : ロー

マ帝国西部の事例を中心に」西洋史研究44,2015年。)
(*)(参考：紺谷由紀「ローマ法におけるユスティニアヌス一世の法典編纂事業をめぐって」史學雑誌125(6),2015年。)
(*)(参考：山本興一郎『古代ローマ共和政終焉期・帝政草創期の表象と政治：「故ユリウス・カエサル」の利用を軸に』日本大学、博士(文学),甲第4867号,2015年。)
(*)(参考：丸亀裕司『公職選挙に見るローマ帝政成立』学習院大学博士(史学),甲第249号,2015年。)
(*)(参考：松本和洋『コモン・ローとローマ・カノン法の接触についての検討：法書「ブラクトン」を題材として』大阪大学,博士(法学),甲第17388号,2015年。)
(*)(参考：加納修「フランク王国における「ローマ法」に関する一考察：書式集の証言を中心として(特集 中世の中のローマ)」西洋中世研究7,2015年。)
(*)吉原丈司他編「上山安敏先生略年譜・著作目録：卒壽記念」3訂版,ローマ法・法制史学者著作目録選11,吉原丈司,2015年。
(*)林信夫「広中俊雄のローマ法研究：歴史の中の社会・国家と法(特集 法における「国家」と「人間」：広中俊雄博士の法学研究)」法律時報87(9),2015年。)
(*)(参考：李鈞・周圓訳「秦末民国期におけるローマ法研究」一橋法学14(2),2015年。)
(*)(参考：李鈞・周圓「翻訳 高所からの放擲物・落下物による損害の責任：ローマ法上の源流と現代民法における発展」東洋法学59(1),2015年。)

(*)(参考：高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(26)哲学(6)エピクロス 市民から個人へ」図書804,2016年。)
(*)(参考：高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(27)哲学(最終回)」ヘラスからヘレニズムへ)」図書805,2016年。)
(*)(参考：加戸友佳子「マルクス学位論文における哲学的主体性の位置について」社会思想史研究40,2016年。)
(*)(参考：加戸友佳子「マルクス学位論文における自然認識」唯物論と現代55,2016年。)
(*)(参考:木島泰三「偶然性としての必然性:スピノザによる必然主義からの目的論批判と、その古代エピクロス主義との親近生」法政哲学12,2016年。)
(*)(参考：山崎行太郎の「月刊・文芸時評」(第139回)マルクスとエンゲルス(第18回)デモクリトスとエピクロス)月刊・日本20(1),2016年。)
(*)(参考：山崎行太郎の「月刊・文芸時評」(第140回)マルクスとエンゲルス(第19回)エピクロスとマルクス)月刊・日本20(2),2016年。)
(*)(参考：山崎行太郎の「月刊・文芸時評」(第141回)マルクスとエンゲルス(第20回)(エピクロス派,ストア派,懐疑派の哲学)」月刊・日本20(3),2016年。)
(*)(参考：山崎行太郎の「月刊・文芸時評」(第142回)マルクスとエンゲルス(第21回)デモクリトスの方法とエピクロスの方法の差異)月刊・日本20(4),2016年。)
(*)(参考：山崎行太郎の「月刊・文芸時評」(第143回)マルクスとエンゲルス(第22回)必然性と偶然性の哲学」月刊・日本20(5),2016年。)
(*)(参考：山崎行太郎の「月刊・文芸時評」(第144回)マルクスとエンゲルス(第23回)古代無神論とエピクロス)月刊・日本20(6),2016年。)
(*)(参考：山崎行太郎の「月刊・文芸時評」(第145回)マルクスとエンゲルス(第24回)青年ヘーゲル派時代のマルクス)」月刊・日本20(6),2016年。)

(*)小澤実「公開シンポジウム「近代日本の偽史言説：その生成・機能・受容」(特集 2015年度公開シンポジウム「近代日本の偽史言説：その生成・機能・受容」)」立教大学日本学研究所年報14/15,2016年。
(*)神谷光信「遠藤周作とパレスチナ：『死海のほとり』新考」(関東学院大学)キリスト教と文化：関東学院大学キリスト教と文化研究所所報14,2016年。
(*)(参考：柑田風太まんが；南房秀久贋作『ギリシア・ローマと地中海世界』学研まんがNEW世界の歴史2,学研プラス,2016年。)
(*)(参考：ブーシュラ・ラムゥニ・ベンヒーダ,ヨゥン・スラウィ/吉田敦訳『文明の交差路としての地中海世界』文庫クセジュ,白水社,2016年。)
(*)(参考：SHALOM VAGATA DANIELA「INNI ALLE GRAZIEの庭で」イタリア学会誌66,2016年。)
(*)(参考：周剣生「世界遺産を撮る(11)メテオラ：ギリシャ複合遺産」週刊ダイヤモンド104(24),2016年。)
(*)(参考：周剣生「世界遺産を撮る(15)ヴェネツィアとその潟：イタリア文化遺産」週刊ダイヤモンド104(28),2016年。)
(*)(参考：松葉包宜「地中海随想(37・38)オリーブ」地中海歴史風土研究誌4,2016年。)
(*)(参考：後藤香織「エーゲ海・黒海・小アジア地域における塩蔵魚生食文化について：現代に残るローマ時代の食文化」新島学園短期大学紀要36,2016年。)
(*)(参考：守川知子『移動と交流の近世アジア史』北海道大学出版会,2016年。)
(*)(参考：長谷川岳男『古代地中海世界における西方ギリシア人のダイナミズム—現地社会からの視座』鎌倉女子大学2011年,(科研費)2016年。)
(*)春香クリスティーン「ギリシャ→ドイツ難民ルート2000キロを行く(1)レスボス島編 難民が押し寄せるエーゲ海島」中央公論130(4),2016年。
(*)杉浦雅子『トルコ旅行記：シニア母さんと反抗期息子のローマ遺跡を巡るトルコふたり旅』中国語版,一粒書房,2016年。
(*)(参考：鳴海涼まんが・南原秀久原作『イスラーム世界とヨーロッパ世界の成立』学研まんがNEW世界の歴史4,学研プラス,2016年。)
(*)大和田道雄『アドリア海の風を追って；余命二カ月の追想録』風媒社,2016年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『イタリア』地球の歩き方Plat,8,ダイヤンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2016年。
(*)(参考：藤内哲也編『はじめて学ぶイタリアの歴史と文化』ミネルヴァ書房,2016年。)
(*)(参考：蔀勇造訳注『エリュトラー海案内記(1,2)』東洋文庫,平凡社,2016年。)
(*)中川智寛「池田満寿夫「エーゲ海に捧ぐ」試論：削除問題,及び芸術の表象」芸術至上主義文芸42,2016年。
(*)椎名誠「おなかがすいたハラペコだ(54)冷やしスイカのエーゲ海的いただきかた」女性のひろば452,2016年。
(*)(参考：関俊彦『エーゲ文明：クレタ島紀行』Archaeology square 6,六一書房,2016年。)
(*)二川幸夫企画・撮影；磯崎新文『エーゲ海の村と街』改訂新版no.1,エーディーエー・エディタ・トーキョー,2016年。
(*)二川幸夫企画・撮影；横山正解説；ウェイン・藤井作図『アドリア海の村と街』改訂新版世界の村と街2,エーディエー・エディタ・トーキョー,2016年。)
(*)(参考：夏羽良幸『エーゲ海のジオラマ』幻冬舎メディアコンサルティング,幻冬舎,2016

年。)
(*)(参考：三好寿「エーゲ海の津波：アトランティスの幻影(総特集 津波研究[6])月刊地球(カラー版)38(4),2016年。)
(*)『艶歌絢爛—歌える男と女の恋歌(魅せられて—エーゲ海のテーマ[ジュディ・オング])』録音ディスク,Sony Music Direct(Japan),2016年。
(*)『昭和40・50年代歌謡曲大全集200：コード付き歌詞組み決定版』(魅せられて—エーゲ海のテーマ[ジュディ・オング])シンコーミュージック・エンタテイメント,2016年。
(*)椎名誠「おなかがすいたらハラペコだ。(54)冷しスイカのエーゲ海的いただきかた」女性のひろば452,2016年。
(*)(参考：J.テュラール/幸田礼雅訳『クレタ島』文庫クセジュ,白水社,2016年。)
(*)(参考：前田毅『聖の大地：旅する[R.]オットー』(第1部「旅するオットー」「最初の本格的な旅「ギリシア旅行」」)国書刊行会,2016年。)
(*)(参考：中野京子「中野京子の名画が語る西洋史(52)グランドツアーで教養を」文藝春秋94(17), 2016年。)
(*)(参考：A.G.リドル/友廣純訳『第二進化(上下)』(アトランティス遺跡)ハヤカワSF文庫,アトランティス・ジーン1,早川書房,2016年。)
(*)(参考：A.G.リドル/友廣純訳『人類再生戦線』(太古のアトランティス)ハヤカワSF文庫,アトランティス・ジーン2,早川書房,2016年。)
(*)(参考：A.G.リドル/友廣純訳『転位宇宙』(太古のアトランティス)ハヤカワSF文庫,アトランティス・ジーン3,早川書房,2016年。)
(*)(参考：三好寿「エーゲ海の津波：アトランティスの幻影(総特集 津波研究(6))」月刊地球(カラー版),38(4),2016年。)
(*)(参考：松田和之「ジャン・コクトーと「左翼の科学」：超古代文明,アトランティス,そして「空飛ぶ円盤」」福井大学教育・人文社会系部門紀要1,2016年。)
(*)(参考：遠山義孝「世界市民的見地より見たシュリーマン：幕末の日本に来訪する迄の足取り」明治大学教養論集519,2016年。)
(*)(参考：阿部なつ江「海洋下部地殻物質のモード組成と岩石物性の関係：大西洋とインド洋における2つの海洋コアコンプレックス比較」(アトランティス)日本地質学会学術大会講演要旨2016,2016年。)
(*)(参考：森下知晃「中央海嶺産海洋ルート深部起源岩石掘削の成果と展望」(アトランティス)」地質学雑誌123(4),2016年。)
(*)(参考：平野みか「前2千年紀におけるエジプトとミケーネの文化交流：円形墳墓Aの黄金製品を例として」関西大学西洋史論叢19,2016年。)
(*)(参考：芳賀京子監修『古代ギリシャ—時空を超えた旅』展示会図録,東京国立博物館,2016.6/21-9/19ほか,朝日新聞社/NHK/NHKプロモーション/東映,2016年。)
(*)(参考：秦明子「〈展評・書評〉「線描」の誘惑：ボッティチェリ展：東京都美術館,2016年1月16日~4月3日」ディアファーネス—芸術と思想3,2016年。)
(*)(参考：師尾晶子「古代ギリシアにおける「他者」の発見と「他者」との境界をめぐる言説の展開—ヨーロッパという境界の策定の歴史的展開と近代における受容をめぐって」国府台経済研究26(1),2016年。)
(*)(参考：勝又俊雄「レウクトラの戦い以降のアルカディアにおける政治不安とフィガリアの囲壁築造：イトーメ/フィガリア囲壁様式の考案」ラーフィダーン

37,2016年。)
(*)(参考：森谷公俊「アレクサンドロス遠征路の実地調査―ペルシア門の闘い」(山田勝久・児島健次郎・森谷公俊編『ユーラシア文明とシルクロード―ペルシア帝国とアレクサンドロス大王の謎』所収,雄山閣,2016年。)
(*)(参考：中野京子「中野京子の名画が語る西洋史(44)アレクサンダー,かく戦えり」文藝春秋94(6),2016年。)
(*)(参考：「Port Storyシリーズ「ミナトと文化」(15)アレクサンダー大王が築いた港町」中央公論130(2),2016年。)
(*)前田信輝『いつも時分の花に』(ヴィンケルマン)龍書房,2016年。)
(*)(参考：山形治江「ギリシャで「ギリシャ劇」をみる：経済破綻が古代劇上演に与えた影響(特集 今も秋,気になる評論(3))」テアトロ925,2016年/926,2017年。)
(*)(参考：クリストファー・ウッドワード/森夏樹訳『廃墟論』新装版,青土社,2016年。)
(*)(参考：ネーモー・ウーティス/沓掛良彦訳「ヘゲソーの墓碑によせて」現代詩手帖9月号,2016年。)
(*)(参考：中澤務「古代ギリシアにおける異文化理解の諸相(3)ヘロドトスとエジプト」The journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture 4,2016年。)
(*)(参考：勝又俊雄「パウサニアスとフィガリアの二つの市門：新発見の「東門」と「北東門」」宝塚造形芸術大学紀要30,2016年。)
(*)(参考：勝又俊雄「レウクトラの戦い以降のアルカディアにおける政治不安とフィガリアの囲壁築造：イトーメ/フィガリア囲壁様式の考案」ラーフィダーン37,2016年。)
(*)(参考：木村三郎「パノフスキー著「プッサン作《アルカディア》論(1936年)の改訂作業(1955年)の方法について：類型分析を行い図像学論を執筆スル,現場の技術的視点から考える」日本大学芸術学部紀要64,2016年。)
(*)山田勝久『パルミュラの光彩―写真資料でよみがえる破壊された世界遺産』雄山閣,2016年。
(*)(参考：松尾登史子「考古学からみた「ミロのヴィーナス」--R.コウサーの近著論文から」古代文化67(3),2016年。)
(*)(参考：周藤芳幸「友の会講演録 シュリーマンとギリシア先史考古学の誕生」Orient：古代オリエント博物館情報誌52,2016年。)
(*)高橋亮介「周藤芳幸著「ナイル世界のヘレニズム：エジプトとギリシアの遭遇」」史学雑誌125(7),2016年。
(*)(参考：高橋裕子「ギリシアの初期鉄器時代に関する調査および研究動向 2010-2014年」史苑76(2),2016年。)
(*)(参考：越宏一『ラヴェンナのモザイク芸術』(ビザンツ)中央公論美術出版,2016年。)
(*)(参考：益田朋幸『聖堂の小宇宙』(ビザンツ)ヨーロッパ中世美術論集4,竹林舎,2016年。)
(*)(参考：加藤磨珠枝・益田朋幸『キリスト教美術の誕生とビザンティン世界』西洋美術の歴史,中央公論新社,2016年。)
(*)(参考：浦野聡「トロス司教座聖堂発掘報告(2015)―考古学・建築上の知見から」史苑76(2),2016年。)
(*)芳賀京子,R.チャルディエッロ責任編集『世界遺産 ポンペイの壁画』(展覧会カタログ,

森アーツセンターギャラリー,4/29-7/3,東京新聞・中日新聞・TBS,2016年。
(*)長野まゆみ『フランダースの帽子』(「ポンペイのとなり」)文藝春秋,2016年。
(*)(参考：坂井聰「ポンペイはいつ埋没したのか―噴火の日付をめぐる論争」(豊田浩志編『モノとヒトの新史科学―古代地中海世界と前近代メディア』所収,勉誠出版,2016年。)
(*)(参考：豊田浩志「自著を語る(81)『モノとヒトの新史科学―古代地中海世界と前近代メディア』」地中海学会月報393,2016年。)
(*)(参考:川本悠紀子「古代ローマの庭園とWihgelmina F.Jashenski」」地中海学会月報395,2016年。)
(*)(参考：奥山広規「オスティア・アンティカ遺跡「七賢人の部屋」の文字調査報告」(豊田浩志編『モノとヒトの新史科学―古代地中海世界と前近代メディア』所収,勉誠出版,2016年。)
(*)(参考:山口京一郎「ローマ期の刊行案内人とプルタルコス「ピュティアの神託について」前半における案内人(ペリエーゲーテース)の役割」ICU比較文化48,2016年。)
(*)(参考：ジム・シェパード/小竹由美子訳『わかっていただけますかねえ』(「ハドリアヌス帝の長城」「俺のアイスキュロス」「エロス7」)白水社,2016年。)
(*)(参考：渡部昇一・本村凌二「ローマは移民グローバリズムで滅んだ」Will 142,2016年。)
(*)(参考:鳥越輝昭「奪い返す「自然」と抗う想像力:ピラネージのローマ表象をめぐって」人文学研究所報 55,2016 年。)
(*)宮崎正弘「三島由紀夫文学紀行 その(1)ヴァチカン」Yahoo検索,2016年。
(*)高階秀爾「竹内栖鳳筆 羅馬之図」國華121(12),2016年。
(*)土居龍二『小説集・ポンペイの夾竹桃』コールサック社,2016年。
(*)(参考：東京新聞編『世界遺産ポンペイの壁画集：日伊国交樹立150年周年記念』TBSテレビ,中日新聞社,東京新聞,2016年。)
(*)(参考：羽田正責任編集『地域史と世界史』(加藤博「アレクサンドリア：文明の交差する地中海近代都市」)MINERVA世界史叢書1,2016年。)
----井坂理穂「ポンペイ：エリート層から見た「世界」」
加藤博「アレクサンドリア：文明の交差する地中海近代都市」
(*)(参考：「翻訳 ホッブスのローマ：タキトゥスとマキャヴェッリの間で」世界史研究論叢6,2016年。)
(*)(参考：澤田直「サルトルとイタリア(1,2)」立教大学フランス文学45,2016年/47,2018年。)
(*)(参考：小黒康正「「アレクサンドリア時代」のトーマス・マン」学士会会報2016(1),2016年。)
(*)(参考：浦上雅司「ジュリオ・マンチーニ著『絵画省察(Considerationi sulla Pittura)』の特質と17世紀初頭ローマ美術における位置」福岡大学人文論叢48(1),2016年。)
(*)(参考：小佐野重利「日本におけるフィレンツェ派の受容小史：特にボッティチェルに言及して」文化交流研究：東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要29,2016年。)
(*)(参考：東京都美術館・朝日新聞社編『ボッティチェリ展』朝日新聞社,2016年。)
(*)(参考：加藤磨珠枝・益田朋幸『キリスト教美術の誕生とビザンティン世界』西洋美術の

歴史中世1,中央公論新社,2016年。)
(*)(参考：小佐野重利・京谷啓徳・水野千依『百花繚乱のイタリア,新たな精神と新たな表現』西洋美術の歴史ルネサンス1,中央公論新社,2016年。)
(*)(参考：小佐野重利・小池寿子・三浦篤編集委員『西洋美術の歴史』中央公論新社,2016年。)
(*)(参考：小西眞由美・中嶌邦子編集・執筆『名画で読む旧約・新約聖書の世界：キリスト,聖母,英雄,預言者,使徒,聖人・聖女—聖書の様々な物語はいかに描かれたのか?』綜合ムック,綜合図書,2016年。)
(*)(参考：小西眞由美編集・執筆『名画で読む!神話とおとぎ話の世界：耽美,官能,幻想,情念—神話&おとぎ話の絵に秘められた物語とは?』綜合ムック,綜合図書,2016年。)
(*)(参考：中野京子「中野京子の名画が語る西洋史(52)グランドツアーで教養を」文藝春秋94(17),2016年。)
(*)(参考：中野京子『はじめてのルーブル』集英社文庫,集英社,2016年。)
(*)藤澤桜子編「群馬県立女子大学 展覧会「石膏像を見に行こう!」」(中村るい「パルテノン・フリーズの神々の立体(3D模型)」)パンフレット,2016年。
(*)(参考：小川英雄先生傘寿記念献呈論文集刊行会編『古代オリエント研究の地平：小川英雄先生傘寿記念献呈論文集』リトン,2016年。)
(*)(参考：仲津真治『古代ギリシアから学ぶこと—その歴史と文明にふれて』ココデ出版,2016年。)
(*)熊谷英人「林達夫のイタリア—ルネサンス論をめぐって」明治学院大学法学研究101（下巻）,2016年。）
(*)(参考：藤内哲也『はじめて学ぶイタリアの歴史と文化』ミネルヴァ書房,2016年。)
(*)(参考：村田奈々子「ギリシャとヨーロッパを隔てるもの：ギリシャ発ユーロ危機を歴史から読み解く」学士会会報2016(1),2016年。)
(*)(参考：井上隆史・狩野麻里子責任編集『アフガニスタン流出文化財報告書：保護から返還へ；素心：バーミヤン大仏天上壁画：流出文化財とともに：東京藝術大学アフガニスタン特別企画展』東京藝術大学アフガニスタン特別企画展実行委員会,東京藝術大学ユーラシア文化交流センター,2016年。)
(*)(参考：宮治昭責任編集『ガンダーラ—東西トルキスタン』仏教美術論集1,中央公論美術出版,2016年。)
(*)(参考：『ガンダーラの仏教遺跡とシルクロードの商人』武庫川女子大学東京センター主宰講演会シリーズ：シルクロードの文化と建築,武庫川女子大学出版部,2016年。)
(*)(参考：内記理『ガンダーラ彫刻と仏教』プリミエコレクション,京都大学学術出版会,2016年。)
(*)平山郁夫シルクロード美術館編『道遙か：平山郁夫自伝的画文集抄』平山郁夫シルクロード美術館,2016年。)
(*)(参考：岩手県立博物館友の会シルクロード同好会編『シルクロードの歴史・文化を訪ねて』セイコー印刷(印刷),2016年。)
(*)(参考：荒了寛『シルクロードの仏たち：仏像伝来の道をたどる：荒了寛画文集』日貿出

版社,2016年。)
(*)(参考：児島建次郎・山田勝久・森谷公俊『ユーラシア文明とシルクロード：ペルシア帝国とアレクサンドロス大王の謎』雄山閣,2016年。)
(*)(参考：ヴァレリー・ハンセン/田口未和訳『図説シルクロード文化史』原書房,2016年。)
(*)荒川正晴・柴田幹夫編『シルクロードと近代日本の邂逅：西域古代資料と日本近代仏教』勉誠出版,2016年。)
(*)(参考：宮治昭『仏像を読み解く：シルクロードの仏教美術』春秋社,2016年。)
(*)岡本正明「ジョン・ラファージの古寺巡礼：京都,奈良を中心に」人文研紀要83,2016年。
(*)(参考：柴田隆行「ヘーゲルの美術館訪問と美術館構想」東洋大学社会学部紀要54(1),2016年。)
(*)金井直「過去と未来の狭間にあり続けること：田口かおり『保存修復の技法と思想：古代芸術・ルネサンス絵画から現代アートまで』書評」表象10,2016年。)
(*)小林竜一「辻潤と三谷隆正：近代日本における〈異質〉文化の影響」(日本比較文化学会)比較文化研究121,2016年。
(*)平川祐弘「竹山道雄とキリスト教的西洋」歴史通42,2016年。
(*)小林竜一「辻潤と三谷隆正：近代日本における〈異質〉文化の影響」比較文化研究121,2016年。
(*)中島岳志「私の保守思想—会田雄次のヒューマニズム批判」表現者68,2016年。
(*)呂超「宮崎市定における「文明論」；「素朴民族」と「文明社会」」関西大学中国文学会紀368,2016年。
(*)(参考：春日潤一「A.J.トインビーとR.G.コリングウッド：「文明」と「歴史」をめぐって」東洋哲学研究所紀要32,2016年。)
(*)(参考：三枝守隆「アーノルド・トインビーの『歴史の研究』の方法：詩,戯曲,聖書,神話の引用について」比較文明32,2016年。)
(*)(参考：柴山桂太「保守の名著(2)歴史の運命[O.シュペングラー『西洋の没落』]」表現者43,2016年。)
(*)(参考：笠原賢介「和辻哲郎『風土』とヘルダー(J.G.ヘルダー：近代の詩的思考)」思想1105,2016年。)
(*)(参考：駒木根聡「環境と歴史：和辻とハイデッガーの解釈学的現象学について」(東洋大学)大学院紀要53[文学(哲学)],2016年。)
(*)(参考：南雲泰輔「クルスス・プブリクスとポイティンガー図：後期ローマ帝国時代の街道とその図示(2016年度歴史学研究会大会報告 人の移動と性をめぐる権力)—(合同部会 3-6世紀における地中海世界を中心とした政治的コミュニケーションの断絶と継受)」歴史学研究950,2016年。)
(*)(参考：津本英利「ヒッタイト帝国のビールとワイン：古代アナトリアの飲酒文化(特集 古代西アジアの酒)」西アジア考古学17,2016年。)
(*)(参考：諸澄邦彦『医療史跡探訪：医学史を歩く』医療科学新書,医療科学社,2016年。)
(*)(参考：ブライアン・フェイガン/東郷えりか訳『人類と家畜の世界史』河出書房新社,2016年。)
(*)佐藤浩「世界図の古地図(地理の研究[194])—(特集 地図・古地図)」歴史と地理693,2016年。
(*)(参考：稲葉茂勝『辞書・事典について調べよう』辞書・事典のすべてがわかる本2,あす

なろ書房,2016年。)
(*)(参考：倉島節尚『知れば知るほどおもしろい辞書・事典』辞書・事典のすべてがわかる本3,あすなろ書房,2016年。)
(*)(参考:稲葉茂勝『辞書・事典の活用術』辞書・事典のすべてがわかる本4,あすなろ書房,2016年。)
(*)(参考:歴史雑学探究倶楽部編『世界の神々と神話事典:ヴィジュアル版』学研プラス,2016年。)
(*)(参考：深澤理郎監修・こどもくらぶ訳『海の大図鑑：イラストレイテッド・アトラス』
----「アトランティス海淵断裂帯I・II」「アドリア海」「イオニア海・イオニア諸島」「エーゲ海」「クレタ・ロードス海嶺・クレタ海・クレタ島」「サモス諸島」「サモトラケ海台・サモトラケ島」「シチリア水道・シチリア島・シチリア/マルタ断崖」「地中海・大西洋」「ヘロドトス海膨・ヘロドトス海盆・ヘロドトス深海平原」「ロードス島・ロードス海盆」
(*)(参考：『絵で見る建設図解事典・8』建築資料研究社,2016年。)
(*)(参考：岡野浩史「英米の引用句辞典：日本語の引用句辞典のために(奥村健二・飯島哲生教授退職記念号)」平成国際大学論集20,2016年。)
(*)神崎宣武・白幡洋三郎・井上章一編『日本文化事典』丸善出版,2016年。
(*)(参考：トビーウィルキンソン/大城道則訳『図説古代エジプト文明』柊風舎,2016年。)
(*)(参考:エドワード・ショーター/下地明友他訳『精神医学歴史事典』みすず書房,2016年。)
(*)(参考：増永理考「言語行為論を通してみる碑文—史料論的一考察」西洋古代史研究16,2016年。)
(*)(参考：庄子大亮「基調報告 古代ギリシアの弁論における「神話」のレトリック：イソクラテスを智維新に(2015年度大会共通論題報告 歴史とレトリック 古代地中海世界における虚構・真実・説得)」西洋史研究(新輯)45,2016年。)
(*)(参考：浦野聡「論点開示(2015年度大会共通論題報告 歴史とレトリック—古代地中海世界における虚構・真実・説得)」西洋史研究(新輯)45,2016年。)
(*)(参考：豊田浩志編『モノとヒトの新史科学—古代地中海世界と前近代メディア』勉誠出版,2016年。)
------ 津本英利「粘土に残された知の宝」
小島浩之「何に記録を残すのか：「紙」の誕生とその伝播」
八木健治「製作者から見る「パピルスと羊皮紙」：その製法と特徴」
齋藤貴弘「西洋古代史研究における電子書籍利用—その現状・課題・展望」
豊田浩志「記念建造物の読み方：コンスタンティヌス帝の二大建築物をめぐって」
大清水裕「石に刻まれたメッセージ:古代ローマの凱旋門とラテン語碑文」
坂田道夫「彫刻というプロパガンダ：トラヤヌス記念柱の意義」
江添誠「ローマ帝国東方属州におけるコインの政治的・経済的役割」
堀賀貴・味岡收「リバースエンジニアリングとしての建築史学：考古学と建築学のあいだで」
坂井聡「ポンペイはいつ埋没したか：噴火の日付をめぐる論争」
向井朋生「時代を証言する土器」

藤井恭子「窓ガラスの誕生と浴場：ローマ帝政初期の考古・文献資料の検討」
四十九院仁子「モザイクの変遷：技術とモチーフ」
奥山広規「オスティア・アンティカ遺跡：「七賢人の部屋」の文字調査報告」
(*)高橋睦郎・沓掛良彦・伊藤比呂美「古典のほうへ、遠く遠く(特集 古典詩への誘い)」現代詩手帖59(9),2016年。
(*)(参考：マルヨ・T.ヌルミネン/日暮雅道訳『才女の歴史：古代から啓蒙時代までの諸学のミューズたち』東洋書林,2016年。)
(*)(参考：上垣豊『規律と教養のフランス近代：教育史から読み直す』Menerva西洋史ライブラリー109,ミネルヴァ書房,2016年。)
(*)(参考：アウグスチン・シュタウブ編『シュタウブギリシア語文法=Grammatica Graeca』リトン,2016年。)
(*)(参考：マルティン・チエシュコ著/平山晃司訳『古典ギリシア語文典』白水社,2016年。)
(*)(参考：Thomas Meyer、Hermann Steinthal編/山口義久監訳/堀川宏・勝又泰洋・太田和則・隠岐-須賀麻衣訳『古代ギリシャ語語彙集—基本語から歴史/哲学/文学/新約聖書まで』大阪公立大学共同出版会,2016年。)
(*)(参考：ジェレミー・ダフ著/浅野淳博訳『エレメンツ：新約聖書ギリシャ語教本』増補改訂版,新教出版社,2016年。)
(*)(参考：山本巍「プラトンとギリシア語」UP 45(10),2016年。)
(*)(参考：田中あや『「名前の正しさ」と名指しの本性的正しさ：プラトン『クラチュロス』研究(本文)』慶應義塾大学,博士(哲学),乙第4819号,2016年。)
(*)(参考：Ioannis Kazazis‘Ancient and Modern Greek：fresh Research and Teaching Oppo - rtunities in a changing World’(日本西洋古典学会第67回大会発表)」(→西洋古典學研究64掲載,2016年。)
(*)(参考：楠田直樹「ポリュビオス写本の伝統について—Moore,J.M.,The manuscript Tradition of Polybios,Cambridge,1965を基にして」創価女子短期大学紀要48,2016年。)
(*)(参考：白水浩信「ラテン語文法書におけるeducareの語釈と用例：ノエウス・マルケッルス『学説集』とエウテュケス『動詞論』を中心に」北海道大学大学院教育学研究科紀要126,2016年。)
(*)(参考：伊藤明己「メディアと教育についての予備的考察(2)」(カロリング・ルネサンス)関東学院大学経済経営研究所年報38,2016年。)
(*)鈴木広光「言語史における翻訳の語り方(特集 翻訳と日本語)」日本語学35(1),2016年。
(*)(参考：Hosoi Atsuko,&Yoshikawa Hitoshi‘Manuscripts de Lysias’in Felipe G.Hernández Muńoz ed.,*Manuscripts griegos en Espańa y su contexto europeo/Greek Manuscripts in Spain and Their European Context*,Dykinson.Madrid,2016.
(*)(参考：三時眞貴子「学問の共和国：《学問の共和国》の破裂と「知」の力(『学問の共和国』を読む：科学史・知識社会学・教育史の視点から[H.ボーツ,F.ヴァケ(田村滋男・池端次郎訳)])科学史研究「第III期」279,2016年。)
(*)(参考：上垣豊「学問の共和国：宗派と国教を越えた学者の共同体は時をも超える(『学

問の共和国』を読む：科学史・知識社会学・教育史の視点から[H.ボーツ,F.ヴァケ(田村滋男・池端次郎訳)]」科学史研究「第III期」279,2016年。)
(*)(参考：隠岐さや香「学問の共和国：科学史研究の観点から(『学問の共和国』を読む：科学史・知識社会学・教育史の視点から[H.ボーツ,F.ヴァケ(田村滋男・池端次郎訳)]」科学史研究「第III期」279,2016年。)
(*)(参考：木下智統「大学論におけるオルテガ」金城学院大学論集・社会科学編13(1),2016年。)
(*)濱千代いづみ『中世近世日本語の語彙と語法:キリシタン資料を中心として』(天草版「エソポのハプラス」古活字版「伊曽保物語」天草版「平家「物語」)研究叢書474,和泉書院,2016年。
(*)松波京子「西洋古典籍調査の一事例：現物で分かること,デジタル・アーカイブで分かること」名古屋大学附属図書館研究年報14,2016年。)
(*)司馬遼太郎他『人間の情景』(吉村昭「前野良沢」)教科書名短篇,中公文庫,中央公論新社,2016年。
(*)「書評 鳥居裕美子著,大分県立先哲史料館編『前野良沢・オランダ人のばけものと呼ばれた男(大分県先哲叢書[普及版]』)日本医史学雑誌61(4),2016年。
(*)九内悠水子「比治山大学蔵『三島由紀夫文庫』調査報告(3)」比治山大学紀要22,2016年。
(*)(参考：中谷功治「モノからみる古代人の信仰世界：ケルト・アナトリア・メソポタミア(シンポジウム モノからみる古代人の信仰世界：ケルト・アナトリア・メソポタミア)」関学西洋史論集39,2016年。)
(*)(参考：渡辺千香子「動物が象徴する古代メソポタミアの精神世界(シンポジウム モノからみる古代人の信仰世界：ケルト・アナトリア・メソポタミア)」関学西洋史論集39,2016年。)
(*)(参考：中務哲郎『増補版 極楽のあまり風』(松平千秋)ピナケス出版,2016年。
(*)(参考：リック・リオーダン作/金原瑞人・小林みき訳『ヘルメスの杖』オリンポスの神々と7人の英雄6,ほるぷ出版,2016年。)
(*)(参考：小林道憲『宗教とは何か：根源的生命への帰一』ミネルヴァ書房,2016年。)
(*)(参考：木村武史「エリアーデの宗教学と文学における霊魂観と最高存在者(東と西における神—霊魂観と最高存在者—パネル,研究報告,〈特集〉第74回学術大会紀要)」宗教研究89(suppl,),2016年。)
(*)(参考：門屋秀一『美術で綴るギリシアの宗教と思想：その永遠不滅志向と日本の中央希構造』晃洋書房,2016年。)
(*)(参考：SUZUKI Hirofumi「Religions et Religion : La théorie compareé des religions chez Louis Ménard」言語情報科学14,2016年。)
(*)(参考：四方田犬彦「アドニス漂泊」すばる38(5),2016年。)
(*)(参考：石光輝子「セイレンの拒絶：カフアにおける声と身体(1)(中山純教授・石光輝子教授退職記念号)」慶應義塾大学日吉紀要,ドイツ語学・文学53,2016年。)
(*)(参考：百瀬春生「パンドラの箱から出た禍はとりあえずペルセウスに頼んで石にするか福に転じその後はヘリオスに頼って生きよ!」地中海歴史風土研究誌44,2016年。)
(*)(参考：中谷彰一郎「ロンゴスのレスボス,レスボスのロンゴス」地中海学会月報393,2016年。)

(*)(参考：平田隆一「『エロイカ』と『プロメテウスの創造物』：文字資料に基づくベートーベンの“英雄”像とその音楽的表出」東北学院大学論集：歴史と文化54,2016年。)
(*)(参考:李平圭太郎訳「モーリス・メルロ=ポンティ「神話学と儀礼の関係」」倫理学32,2916年。)
(*)(参考：冨重与志生「享受者としての芸術家の誕生：モーリッツの『神話学』」ドイツ文学論集49,2016年。)
(*)(参考：齋藤伸「カッシーラの神話論における弁証法的特質：神話的思考から宗教的思考への展開をめぐって」聖学院大学総合研究所紀要62,2016年。)
(*)(参考：清水哲朗「シェリング美的直観と神話の力」東京造形大学研究報17,2016年。)
(*)(参考：佐々木稔「頽廃と神話：ボードレールにおける古代性と現代性」日本フランス語フランス文学会中部支部研究報告書40,2016年。)
(*)(参考:糸川昌成「神話の哲学:生きることと生かされること(特集 生きることについて)」統合失調症のひろば7,2016年。)
(*)(参考：平野順雄「ロゴスと神話：チャールズ・オルソン「人間の宇宙」覚え書き」人間関係学研究14,2016年。)
(*)(参考：中西恭子「夢見る人の物語,醒めたるものの物語—ファンタジーと「宗教的なもの」についての試論」ユリイカ48(18),2016年。)
(*)(参考:陽捷行「世界の神話と主な宗教に見られる土壌と大地」日本土壌肥料学雑誌87(4),2016年。)
(*)(参考:陽捷行「9-2-1 土壌は生きている 実証12:世界の神話と主要な宗教に登場する土壌と大地(9-2文化土壌学,2016年佐賀大会)」日本土壌肥学会講演要旨集62,2016年。)
(*)(参考：庄子大亮「基調報告 古代ギリシアの弁論における「神話」のレトリック：イソクラテスを中心に(2015年度大会共通論題報告 歴史とレトリック：古代地中海世界における虚構・真実・説得)」西洋史研究45,2016年。)
(*)(参考：高橋朋子『ウェヌス：豊饒からエロスへ』悠書館,2016年。)
(*)(参考：村田京子「危険な「ヴィーナス」：ゾラの娼婦像と絵画」女性学講演会19(2),2016年。)
(*)(参考：百瀬春生「パンドラの箱から出た禍はとりあえずペルセウスに頼んで石にするか福に転じその後はヘリオスに頼って生きよ!」地中海歴史風土研究誌44,2016年。)
(*)(参考：上村清雄「ユピテルはどこにいる：ティツアーノとジュリオ・ロマーノ」千葉大学大学院人文科学研究科プロジェクト報告書305,2016年。)
(*)(参考：廣田龍平「カッパはポセイドンである：近世後期における東西妖怪比較試論」世間話研究24,2016年。)
(*)吉見孝夫「ヘルメスから女神へ—イソップ寓話「きこりとヘルメス」の神」イソップ資料8, イソップ資料研究室,2016年。
(*)(参考：中井真之「スピノザの「神」：ヘルダーの『神』,ヤコービ,ゲーテ(J.G.ヘルダー：近代の詩的思考)」思想1105,2016年。)
(*)(参考：エヴェリン・ツグラッゲン「ゲーテの輪廻概念と霊魂不滅思想(モナド,エンテレヒー)について：資料を中心に」創価大学人文論集28,2016年。)

(*)(参考：福本薫「キージの壺：東方化様式期のエトルリア陶器市場における神話表現」西洋美術研究19,2016年。)
(*)(参考：門屋秀一『美術で綴るギリシアの宗教と思想：その永遠不滅志向と日本の中央希薄構造』晃洋書房,2016年。)
(*)(参考：小堀馨子「読書案内 古代ローマの宗教」歴史と地理699,2016年。)
(*)(参考：キャロライン・アレキサンダー「古代ギリシャ 満天の神々」National geographic 22(7),2016年。)
(*)(参考：吉田敦彦『ギリシア神話と人間』青土社,2016年。)
(*)(参考：丹羽隆子『ギリシア神話の森：古代美術が彩る世界』彩流社,2016年。)
(*)(参考：庄子大亮『世界を読み解くためのギリシア・ローマ神話入門』河出ブックス,河出書房新社,2016年。)
(*)(参考：近藤裕子・十重田和由・永井典克「ヨーロッパ近現代におけるギリシア・ローマ神話の女性像の変容(2)」東洋大学人間科学総合研究所紀要18,2016年。)
(*)(参考：角田幸彦「ホメロスとギリシア神話—アポロン,ヘルメス,テティスの神格—精神史的考察」明治大学教養論集521,2016年。)
(*)(参考:西村賀子「もしもホメロスがアラビア語に訳されていたら」現代詩手帖9月号,2016年。)
(*)(参考：小川英雄先生傘寿記念献呈論文集刊行会編『古代オリエント研究の地平：小川英雄先生傘寿記念献呈論文集』リトン,2016年。)
(*)(参考：阿部拓児「サルデイスの「火祭壇」--考古遺物から見るペルシア帝国の宗教政策」関学西洋史論集39,2016年。)
(*)(参考：九鬼由紀「方形土累Viereckschanzenに見るケルト人の宗教的景観の一側面」関学西洋史論集39,2016年。)
(*)河津優司「高楠順次郎と伊東忠太(高楠順次郎とその時代—新資料の紹介を中心に—パネル,研究報告,〈特集〉第74回学術大会紀要)」宗教研究89(suppl.),2016年。
(*)(参考：黒田敦子「葉山修平「時よ 乳母車を押せ」論：「論理的展開力」「オイディプス神話」「現代の悲劇性」などについて」室尾犀星研究39,2016年。)
(*)(参考：角田幸彦「ホメロスとギリシア神話 アポロン,ヘルメス,チティスの神格：精神史的考察」明治大学教養論集518,2016年。)
(*)(参考：松村一男「ギリシア神話の地獄(特集 仏教と世界の《地獄事典》)--(世界の地獄)」大法輪83(7),2016年。)
(*)(参考:浅沼光樹「〈翻訳〉F.W.シェリング「神話の哲学への序論—第22講義」Prolegomena : 西洋近世哲学史研究室紀要7(1),2016年。)
(*)(参考：ポルトース ベレス ハビエル/川瀬佑介訳「〈講演記録〉ヴェラスケスと古典古代の神話」上智ヨーロッパ研究8,2016年。)
(*)(参考：『天満敦子in 無言館』(ホルスト「ジュピター」)録音資料,King Record,2016年。
(*)(参考：齋藤貴弘「読書案内 古代ギリシアの多神教世界」歴史と地理691,2016年。)
(*)(参考:庄子大亮『世界を読み解くためのギリシア・ローマ神話入門』河出書房新社,2016年。)
(*)(参考：庄子大亮「基調報告 古代ギリシアの弁論における「神話」のレトリック：イソクラテスを中心に(2015年度大会共通論題報告 歴史とレトリック：古代地中海世界における虚構・真実・説得)」西洋史研究45,2016年。)

(*)(参考：神保菘「シェリ訳『ヘルメス讃歌』--読むに値する韻文訳」フィロロギカ11,2016年。)
(*)(参考：山口京一郎「ローマ期の観光案内とプルタルコス「ピュティアの神託について」前半における案内人(ペリエーゲーテース)の役割」ICU比較文化48,2016年。)
(*)(参考：小堀馨「読書案内 古代ローマの宗教(世界史の研究[249])」歴史と地理699,2016年。)
(*)(参考：J.M.クッツェー/鴻巣友季子訳『イエスの幼子時代』早川書房,2016年。)
(*)(参考：水野千依「キリスト像のキマイラ的変容：イメージの記憶をめぐる歴史人類学試論(総特集 人類学のゆくえ)」現代思想44(5),2016年。)
(*)(参考：南雲泰輔『ローマ帝国の東西分裂』岩波書店,2016年。)
(*)(参考：加藤隆著『集中講義旧約聖書：「一神教」の根源を見る』教養・文化シリーズ,別冊NHK「100分de名著」NHK出版,2016年。)
(*)(参考：田中健三『パウロの贖罪論の考察：ロマ書を中心として』東京大学,博士(学術),甲第33091号,2016年。)
(*)(参考：荒井献『使徒行伝(下)』新教出版社,2016年。)
(*)(参考:教皇庁聖書委員会著;和田幹男訳『聖書とキリスト論』カトリック中央協議会,2016年。)
(*)(参考：秦剛平訳『七十人訳ギリシア語聖書 イザヤ書』青土社,2016年。)
(*)(参考：小河陽「ルカ福音書：「ケーリュグマ的歴史」の書」ペデラヴィウム71,2016年。)
(*)(参考：カトリック京都司教区聖書委員会企画・編集『パウロの手紙を読む：キリストに捕らえられて』聖書講座シリーズ13,サンパウロ,2016年。)
(*)(参考:葛生栄二郎「「ロマ書」の人間学(1,2)」キリスト教文化研究所年報38,2016年/39,2017年。)
(*)(参考：中西恭子「夢みるひとの物語,醒めたるものの物語：ファンタジーと「宗教的なもの」に就いての試論」ユリイカ48(18),2016年。)
(*)(参考：中西[高久]恭子「叙景と引証とわたし,ある古代末期文学紹介の試み」現代詩手帖59(9),2016年。)
(*)(参考：中西恭子「古代末期の宗教史叙述における「背教者」と災厄のイメージ」宗教研究 別冊89,2016年。)
(*)(参考：中西裕子『ユリアヌスの信仰世界：万華鏡のなかの哲人皇帝』慶應義塾大学出版会,2016年。)
(*)(参考：中西恭子「ユリアヌスとキリスト教ローマ帝国(ローマ帝国における諸民族と宗教,パネル,〈特集〉第73回学術大会紀要)」宗教研究88(suppl.)2016年。)
(*)(参考：添谷育志「ユリアヌス帝の変貌--「背教者」から「哲学者,ローマ皇帝」へ(1)」明治学院大学法学研究100,2016年。)
(*)(参考：田中創「「背教者」ユリアヌス：皇帝書簡と伝承(特集 史料の歴史：権威-権力のアクセシビリティ(1))」歴史学研究951,2016年。)
(*)(参考：太田強正「アポロニオの書(I-VI)」(神奈川大学人文学会)人文研究190,2016年/191,192,193,2017年。)
(*)(参考:戸田聡編訳『砂漠に引きこもった人々--キリスト教聖人伝選集』教文館,2016年。)
(*)(参考：秋山学「アレクサンドリアのクレメンス「断片集」：全訳」文藝言語研究,文藝

篇69,2016年。)
(*)(参考：高畑時子「アレクサンドリアのフィローン著「七十人訳の創造について」(『モーセの生涯』2巻1-58節より)」文芸学研究20,2016年。)
(*)(参考：マルクス・ハンス・ユーゲン「神の母：エフェソス公会議(431年)の決議と調停への最初の試み」南山神学39,2016年。)
(*)(参考：H.キュンク/矢内義顕訳『キリスト教は女性をどう見てきたか―原始教会から現代まで』教文館,2016年。)
(*)(参考:戸田聡「ビザンツ文学余滴―プセロス「まだ幼い孫のために」」プロピレア22,2016年。)
(*)(参考：野口洋二『中世ヨーロッパの異教・迷信・魔術』早稲田大学出版部,2016年。)
(*)(参考：中野智世他編『近代ヨーロッパとキリスト教：カトリシズムの社会史』勁草書房,2016年。)
(*)(参考：神崎忠昭編/野元晋他著『断絶と新生：中近世ヨーロッパとイスラームの信仰・思想・統治』慶應義塾大学言語文化研究所,慶應義塾大学出版会(発売),2016年。)
(*)神谷光信「遠藤周作とパレスチナ：『死海のほとり』新考」キリスト教と文化：関東学院大学キリスト教と文化研究所所報14,2016年。
(*)(参考：池澤夏樹「若い死者たちを巡る詩のことなど」西洋古典叢書月報120,2016年。)
(*)(参考：日下力「東洋と西洋と」西洋古典叢書月報121,2016年。)
(*)(参考:高橋睦郎・沓掛良彦・伊藤比呂美「古典のほうへ,遠く遠く」現代史手帖9月号,2016年。)
(*)(参考：逸身喜一郎・田邊玲子・身崎壽編『古典について,冷静に考えてみました』岩波書店,2016年。)
(*)逸身喜一郎「はじめに―すぐ答えの出ない問い」(逸身喜一郎・田邊玲子・身崎壽編『古典について,冷静に考えてみました』所収,岩波書店,2016年。)
(*)逸身喜一郎「「古典」について冷静に」図書812,2016年。)
(*)(参考：吉武純夫「〈カロスなる生の終り〉と幸福なる者の条件：Hdt.1.325-9について」名古屋大学文学部研究論集.(文学62),2016年。)
(*)(参考：高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(25)弁論デモステネスは勝ったか」図書803,2016年。)
(*)(参考：高橋睦郎『和音羅読 詩人が読むラテン文学』新装版,幻戯書房,2016年。)
(*)(参考：モース・ベッカム/高柳俊一・野谷啓二訳『悲劇のヴィジョンを超えて：一九世紀におけるアイデンティティの探究』SUPモダン・クラシックス叢書,上智大学出版,2016年。)
(*)宮田昇『小尾俊人の戦後:：みすず書房出発の頃』みすず書房,2016年。
(*)松本宣郎「大学論の周辺」大学時報65(366),2016年。
(*)(参考：ロバート・ルイス・ウィルケン/大谷哲他訳『キリスト教一千年史：地域とテーマで読む(上下)』白水社,2016年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男・堀米庸三編『標準世界史年表』第 23 版,吉川弘文館,2016年。)
(*)(参考:亀井高孝・三上次男・堀米庸三編『標準世界史地図』増補第 47 版,吉川弘文館,2016年。)

(*)(参考：亀井高孝他編『世界史年表・地図』第22版,吉川弘文館,2016年(→2017年,23版。→2018年,24版。)
(*)(参考：木村靖二・佐藤次高・岸本美緒『詳説世界史：世界史B』改訂版,山川出版社,2016年。)
(*)(参考:玉木俊明『歴史の見方:西洋史のリバイバル』創元世界史ライブラリー,創元社,2016年。)
(*)(参考：南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵責任編集『新しく学ぶ西洋の歴史：アジアから考える』ミネルヴァ書房,2016年。)
(*)(参考：岡田泰介「前五世紀アテナイの艦隊乗組員：IG.13 1032(Athenian Naval Cataloghue)の分析を中心に」史學雑誌」124(12),2015年。
(*)「書評 岡田泰介著「前五世紀アテナイの艦隊乗組員:IG.13 1032(Athenian Naval Cataloghue)の分析を中心に」史學雑誌」124(12)」法制史研究66,2016年。
(*)(参考：ニタルト/岩村清太訳『カロリング帝国の統一と分裂：ニタルトの『歴史四巻』』知泉書館,2016年。)
(*)(参考:真川明美「カール大帝による「ローマ人のパトリキウス」称号の受容をめぐって」史學 86(3),2016 年。)
(*)(参考：島田誠「古代ローマ史研究雑感」地中海学会月報388,2016年。)
(*)(参考：長谷川兵男『背景からスッキリわかる ローマ史集中講義』パンダ・パブリッシング,2016年。)
(*)(参考:武庫川女子大学トルコ文化研究センター編『武庫川女子大学トルコ文化研究センター研究会講演録』(前田耕作述「新しい多様性の世界を開くヘレニズム」)武庫川女子大学トルコ文化研究センター,2016年。)
(*)(参考：高橋宏幸訳『アレクサンドリア戦記・アフリカ戦記・ヒスパーニア戦記』カエサル戦記集,岩波書店,2016年。)
(*)(参考:A.ゴールズワーシー/阪本浩訳『アントニウスとクレオパトラ(上下)』白水社,2016年。)
(*)(参考：ジム・シェパード/小竹由美子訳『わかっていただけますかねぇ』(ハドリアヌス)ExLibris,白水社,2016年。)
(*)(参考：秦剛平『マカベア戦記(上下)—ユダヤの栄光と凋落』学術選書,京都大学学術出版会,2016年。)
(*)(参考：高橋宏幸訳『アレクサンドリア戦記；アフリカ戦記；ヒスパーニア戦記』カエサル戦記集,岩波書店,2016年。)
(*)(参考：森谷公俊『アレクサンドロスの征服と神話』興亡の世界史,講談社学術文庫,講談社,2016年。)
(*)(参考：高橋克秀「アレクサンドロス大王東征における兵站の問題：未完の帝国のロジスティックス」國學院経済学65(1),2016年。)
(*)(参考：中野京子「中野京子の名画が語る西洋史(44)アレクサンダー,かく戦えり」文藝春秋94(6), 2016年。)
(*)(参考：小坂俊介「紀元後4世紀半ばのアレクサンドリアにおける騒乱と「異教徒」」西洋古典學研究64,2016年。)
(*)(参考：高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア(27[最終回])ヘラスからヘレニズム世界へ」図書805,2016年。)

(*)(参考：松本宣郎「古代は現代に通ず」電気学会誌136(9),2016年。)
(*)(参考：小池登「趣旨と総括(シンポジウム「プルータルコスと指導者像」)」西洋古典學研究64,2016年。)
(*)(参考：ジム・シェパード/小竹由美子訳『わかっていただけますかねえ』(「ハドリアヌス帝の長城」「俺のアイスキュロス」)白水社,2016年。)
(*)「史学文献目録—西洋史1」史學雑誌125(1),2016年。
(*)「史学文献目録—西洋史2」史學雑誌125(5),2016年。
(*)増記隆介「2015年歴史学界—回顧と展望 古代(美術史)」史學雑誌125(2),2016年。
(*)中野耕太郎「2015 年度の歴史学界—回顧と展望:」北アメリカ・後半」史學雑誌 125(5),2016 年。
(*)下釜和也「西アジア・北アフリカ：古代オリエント(2)」史學雑誌 125(5),2016 年。
(*)菊地重仁「2015 年度の歴史学界—回顧と展望：ヨーロッパ/中世/一般」史學雑誌 125(5), 2016 年。
(*)西村直也「回顧と展望：ロシア・ビザンツ」史學雑誌 125(5),2016 年。
(*)中村武司「2015 年の歴史学界—回顧と展望(ヨーロッパ・近代イギリス・後半部)」史學雑誌 125(5), 2016 年。
(*)師尾晶子「ヨーロッパ：古代：ギリシア(2015 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌 125(5),2016 年。
(*)浦野勉「ヨーロッパ:古代:ローマ(2015 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雑誌 125(5),2016 年。
(*)図師宣忠「ヨーロッパ:西欧南欧(2015 年の歴史学界:回顧と展望)」史學雑誌 125(5),2016 年。
(*)千葉敏之「2015年の歴史学界,過去と展望 歴史理論」史學雑誌125(7),2016年。
(*)「史学文献目録—西洋史 3」史學雑誌 125(9),2016 年。
(*)(参考：三浦徹「歴史の風 歴史学のグローバル化」125(11),2016 年。)
(*)(参考：大谷哲「基調報告 初期キリスト教における歴史とレトリック：テルトゥリアヌス著『スカプラへ』(2015年度大会共通論題報告 歴史とレトリック 古代地中海世界における虚構・真実・説得)」西洋史研究45,2016年。)
(*)(参考：浦野聡他「討論(2015年度大会共通論題報告 歴史とレトリック 古代地中海世界における虚構・真実・説得)」西洋史研究 45,2016 年。)
(*)(参考：『歴史家二宮宏之の書棚：2016 年度筑波大学附属図書館特別展』筑波大学附属図書館,2016 年。)
(*)(参考：シリル・P.クタンセ/大塚宏子訳『ヴィジュアル版 海から見た世界史：海洋国家の地政学』原書房,2016 年。)
(*)(参考:羽田正責任編集『地域史と世界史』NIMERVA 世界叢書 1,ミネヴァ書房,2916 年。)
(*)(参考：本村凌二『教養としての「世界史」の読み方』PHP研究所,2016年。)
(*)(参考：本村凌二『一冊でまるごとわかるローマ帝国』だいわ文庫,大和書房,2016年。)
(*)(参考：本村凌二『競馬の世界史：サラブレッド誕生から21世紀の凱旋門賞まで』中公新書,中央公論新社,2016年。)
(*)(参考：本村凌二『世界の国々と祝日：その国は何を祝っているのか』理論社,2016年。)
(*)(参考：南川高志「西洋古代史の泉(9)本を読む,本を買う」西洋古代史研究16,2016年。)
(*)河島思朗「学際的研究の模索--学ぶことを楽しむために」(古代世界研究会)かいほう

127,2106年。
(*)小澤実「序(外国史家が読み解く:近代日本のヒストリオグラフィー)」史苑77(1),2016年。
(*)柳河平太郎「箕作元八と旧制中学西洋史教科書」高知大学教育学部研究報告76,2016年。
(*)前沢伸行「歴史の風 反事実の歴史学」史学雑誌125(7),2016年。
(*)比佐篤「歴史的な事変と小さな事件」西洋古典叢書月報122,2016年。
(*)石上健士郎「書評 豊田浩志編『モノとヒトの新史科学:古代地中海世界と前近代メディア』:高校世界史において古代史が生きのびるために」上智史学61,2016年。)
(*)(参考:カルロ・ギンズブルグ/上村忠男編訳『ミクロストリアと世界史:歴史家の仕事について』みすず書房,2016年。)
(*)(参考:秋田茂他編『「世界史」の世界史』MINERVA世界史叢書,ミネルヴァ書房,2016年。)
(*)(参考:三佐川亮宏『ドイツ: その起源と前史』創文社,2016年。)
(*)岡崎勝世「日本における世界史教育の歴史(1-1)「普遍史型万国史」の時代」埼玉大学紀要,教養学部51(2),2016年。
(*)岡崎勝世「日本における世界史教育の歴史(1-2)「文明史型万国史」の時代」埼玉大学紀要,教養学部52(1,2),2016年。
(*)(参考:岡本隆司「世界史を一望する(1)世界史とは何か:西洋史と東洋史」ちくま549,2016年。)
(*)(参考:秋田茂他編『「世界史」の世界史』MINERVA世界史叢書,ミネルヴァ書房,2016年。)
(*)(参考:トマス・カスリス/高田康成訳『インティマシーあるいはインテグリティー:哲学と文学的差異』叢書ウニベルシタシ,法政大学出版局,2016年。)
(*)(参考:小林道憲『生命パラダウムから歴史と芸術を読む:行為と表現の世界』ミネルヴァ書房,2016年。)
(*)(参考:ボイド・デビッド「書評 アレクサンダー・ビー・クロフト『世界文学の生態学:古代から現代まで』(特集 世界文学の語り方)」文学17(5),2016年。)
(*)(参考:國方栄二『ギリシア・ローマの智恵』未知谷,2016年。)
(*)(参考:野本和幸「知と信:私の遍歴」ペデラヴィウム71,2016年。)
(*)(参考:中務哲郎『[増補版]極楽のあまり風—ギリシア文学からの眺め』(「慈父松平千秋先生」「松平千秋先生の文章」等)ピナケス出版,2016年。)
(*)(参考:中務哲郎「トリスタン・イズー物語とギリシア」流域78,2016年。)
(*)(参考:小川正廣「ホメロスの環は閉じれない—古代叙事詩の再生をめぐって(2)」名古屋大学文学部研究論集・文学62,2016年。)
(*)(参考:西村賀子「もしホメロスがアラビア語に訳されていたら(特集 古典詩への誘い)」現代詩手帖59(9),2016年。)
(*)(参考:角田幸彦「精神史におけるホメロス—バロック,ホメロス,ゲーテ」明治大学教養論集511,2016年。)
(*)(参考:川島重成「オイディプスと復活の朝のマグダラのマリア—「発見」のモティーフをめぐって」ペディラヴィウム会通信38,2016年。)
(*)(参考:山形治江「ギリシャでギリシャ劇」をみる:経済破綻が古代劇上演に与えた影響(特集 今も秋,気になる評論[第3弾])」テアトロ925,2016年。)
(*)(参考:堀川宏『エウリーピデース『ヒッポリュトス』の研究』京都大学,博士(文学),甲第

19438 号,2016 年。)
(*)(参考：柏達己・佐藤昇「ヒュレイデース新断片」クリオ=Clio30,2016年。)
(*)(参考：中村鐵太郎「詩の弁明」現代詩手帖9月号,2016年。)
(*)(参考：古澤ゆう子「牧歌詩人テオクリトス」現代詩手帖9月号,2016年。)
(*)(参考：中西恭子「叙景と引証とわたし,あるいは古代末期文学紹介の試み」現代詩手帖9月号,2016年。)
(*)(参考：秋山学「典礼古典学序説—ホラティウス試論」筑波大学地域研究37,2016年。)
(*)(参考：原基晶「ダンテ批評史(特集 戦後70年と世界文学)」世界文学124,2016年。)
(*)(参考：トンマーゾ・カンパネッラ/澤井繁男訳「『哲学詩集』(1-4)」関西大学文学論集66(1,2),2016年/67(21,2),2017年。)
(*)(参考：クルストフ・ポンセ/ヒロ・ヒスイ監修・豊岡愛美訳『ボッティチェリ《プリマヴェーラの謎》—ルネサンス芸術と知のコスモス』勁草書房,2016年。)
(*)(参考:エラスムス/金子晴勇訳『エラスムス神学著作集』キリスト教古典叢書,教文館,2016年。)
(*)(参考：櫻田美津夫「オランダ史のなかのエラスムス」就美大学史学論集31,2016年。)
(*)(参考:シンハ・ヤコボビッチ,バリー・ウィルゾン/桜の花出版編集部訳『失われた福音：「ダ・ヴィンチ・コード」を裏付ける衝撃の暗号解読』桜の花出版,星雲社(発売),2016年。)
(*)『辻邦生：春の戴冠・嵯峨野明月記』学習院大学史料館,2016年。
(*)(参考：西村智「欲要望と物語：チョーサーの『トロイラスとクリセイデ』の場合」中部大学全学共通教育部紀要2,2016年。)
(*)(参考：シェイクスピア/坪内逍遙訳『ザ・シェイクスピア：全戯曲「全原文+全訳」全一冊』完全新版,第三書館,2026年。)
(*)(参考：日本シェイクスピア協会編『甦るシェイクスピア：没後400年記念論集』研究社,2016年。)
(*)(参考：田代尚路「ヘレニストの条件—キーツの場合」現代詩手帖9月号,2016年。)
(*)(参考：萩原芳子「悲劇の源泉を遡って—ムアワッドとギリシャ悲劇」(明治大学文学部紀要)文芸研究128,2016年。)
(*)(参考：萩原眞一「イェイツとソポクレス--『オイディプス王』『コロノスのオイディプス』を中心に」イェイツ研究46,2016年。)
(*)(参考:E.M.バトラー/松島渉訳「E.M.バトラー『バイロンとゲーテ：情熱の分析』翻訳(第1章)」國士館大學教養論集79,2016年。)
(*)(参考：野谷啓二「コンラッドの眼の下で：T.S.エリオットの見た闇の奥」コンラッド研究 7,2016 年。)
(*)(参考：蜂巣泉「『ルネサンス』と《首吊りの家》：ペイターとセザンヌの美学」川口短大紀要 29,2016 年。)
(*)(参考:南映子「マヌエル・アクーニャ「死体の前で」に見られるルクレティウスの影響：復興共和政期のメキシコにおける思想闘争とルクレティウス」Hispánica 60,2016年。)
(*)(参考：木村直司『ロゴスの彩られた反映』南窓社,2016年。)
(*)(参考：木村三郎「パノフスキー著「ブッサン作《アルカディア》論」(1936年)の改訂作

業(1955年)の方法について : 類型分析を行い図像学論を執筆する,現場の技術的視点から考える」日本大学芸術学部紀要64,2016年。)
(*)(参考 : 前田信輝『いつも時分の花に』(グラルト/前田信輝訳「ヴィンケルマンのドレスデンへの道」)龍書房,2016年。)
(*)(参考 : 武田利勝「眼差しが〈飲み込まれる〉 : ヴィンケルマンにおける彫像観察の失敗とその意義をめぐって(坂本勉教授追悼特輯)」文学研究113,2016年。)
(*)井戸慶治「書評 松山壽一『造形芸術と自然 : ヴィンケルマンの世紀とシェリングのミュンヘン講演』」シェリング年報24,2016年。
(*)前田富士男「受難を生きる近現代芸術活動の予示 : シェリングの芸術哲学[松山壽一『造形芸術と自然 : ヴィンケルマンの世紀とシェリングのミュンヘン講演』」モルフォロギア : ゲーテと自然哲学38,,2016年。
(*)(参考 : 武田利勝「眼差しが〈飲み込まれる〉 : ヴィンケルマンにおける彫像観察の失敗とその意義をめぐって(坂本勉教授追悼特輯)」文学研究113,2016年。)
(*)(参考 : 今村武「J.M.レンツの文壇諷刺劇『ドイツのパンダイモニオン』」東京理科大学紀要,教養篇48,2016年。)
(*)(参考 : ルドルフ・シュタイナー/森省吾訳・解説『ゲーテ的世界観の認識論要綱 : 特にシラーに関連させて同時にキュルシュナー「ドイツ國民文学」中の「ゲーテ自然科学論集」別巻として』イザラ書房,2016年。)
(*)(参考 : 高橋健二編訳『ゲーテ格言集』122刷改版版 新潮文庫,新潮社,2016年。)
(*)(参考 : 森淑仁他訳『ゲーテ=シラー往復書簡集(上下)』潮出版社,2016年。)
(*)(参考 : 前川整洋『巨匠探究 : ゲーテ・ゴッホ・ピカソ』図書新聞,2016年。)
(*)(参考 : 長谷川弘子『「本の町」ライプツィヒとゲーテ : ドイツ市民文学の揺籃期を探る』晃洋書房,2016年。)
(*)(参考 : 久山雄甫「薔薇十字軍的世界史の挫折 : ゲーテの『秘密』と1780年代」DA11,2016年。)
(*)(参考 : 久山雄甫「ゲーテの「現在」の概念 : 『ファウスト第二部』ヘレナ期の解釈のために」ドイツ文学論攷58,2016年。)
(*)(参考 : 高藤大樹「ヘーゲルの芸術哲学における文化「翻訳」的思索 : ゲーテ『西東詩集』受容の再考」美学67(2),2016年。)
(*)(参考 : フリードリヒ・フォン・シラー/高畑時子訳「翻訳 フリードリヒ・フォン・シラー著『トロヤ陥落(1)』ウェリギリウス『アエネーイス』第二歌の八行詩訳」教養・外国語教育センター紀要,外国語編7(1),2016年。)
(*)(参考 : 松山雄三「Fr.シラーと美的教養思想」東北薬科大学一般教育関係論集 29,2016 年。)
(*)(参考 : 小磯仁『ヘルダーリン』新装版,Century book,人と思想 171,清水書院,2016 年。)
(*)(参考 : 三浦小太郎「近代の闇 闇の近代(39)ハイネとナポレオン」月刊日本 20(9),2016年。)
(*)(参考 : 齋藤茂夫『エディプスとドイツ近代小説 : ドイツ的言説にみる神話志向』同学社,2016年。)
(*)(参考 : 齋藤茂夫「シラーの古典演劇『メッシーナの花嫁』 : 近代社会のエディプス劇」比較文化研究26,2016年。)
(*)(参考 : 松川儒「ヴォルフが生み出したドイツ・リートの新領域 : ヴォルフの〈アナクレオンの墓〉の分析を中心に」芸術研究 : 玉川大学芸術学部研究紀要8,2016

年。)
(*)(参考：桑原俊介『シュライアマハーの解釈学：近代解釈学の成立史』御茶の水書房,2016年。)
(*)(参考：松山壽一訳「F.W.シェリング「悲劇について」」大阪学院大学人文自然論叢(71・72),2016年。)
(*)(参考：八木橋正雄「シェリング悲劇論における『オイディプス王』解釈に見る人間的自由の承認--『独断主義と批評主義に関する哲学的書簡』から『芸術の哲学』へ」の展開」美學67(1),2016年。)
(*)(参考：加藤哲弘「ブルクハルトの美術史研究とその反時代性」美学論究31,2016年。)
(*)(参考：薗田坦『無底と意志-形而上学—ヤーコブ・ベーメ研究』(グノーシス主義)創文社,2016年。)
(*)(参考：生島弘子『哲学者は如何にして知を愛したか：後期ニーチェ思想における道徳・身体・知恵』大阪大学,博士(哲学),甲第18303号,2016年。)
(*)(参考：内藤可夫「「概念」の批判的考察—ニーチェの存在概念批判の徹底について」人間と環境7,2016年。)
(*)(参考：竹内綱史「ドイツにおける近年のニーチェ研究動向について(ニーチェ特集[3])」ショーペンハウアー研究・別巻3,2016年。)
(*)(参考：荒木和明「『悲劇の誕生』における「美的学問」(ニーチェ特集[3])」ショーペンハウアー研究・別巻3,2016年。)
(*)(参考：ケン・ジームズ/竹内綱史訳「翻訳 ニーチェの真理批判(ニーチェ特集[3])」ショーペンハウアー研究・別巻3,2016年。)
(*)(参考：谷山弘太「ニーチェ『人間的,あまりに人間的』における歴史哲学(ニーチェ特集[3])」ショーペンハウアー研究・別巻3,2016年。)
(*)(参考：大山真樹「『曙光』の思想圏に見出されるニーチェの哲学的課題：価値形成のメカニズムとしての残虐性と復讐の発現(ニーチェ特集[3])」ショーペンハウアー研究・別巻3,2016年。)
(*)(参考：梅田孝太「ニーチェによる「良心の疚しさ」の再評価：『道徳の系譜』第二論文の構造についての一考察(ニーチェ特集[3])」ショーペンハウアー研究・別巻3,2016年。)
(*)(参考：飯田明日美「「根元的一者」再考：芸術的遊戯としての「根源=一」へ(ニーチェ特集[3])」ショーペンハウアー研究・別巻3,2016年。)
(*)(参考：大西雅一郎「テクネーの問いとギリシア：ハイデガー,ニーチェ,ベンヤミン」成蹊大学経済学部論集47(2),2016年。)
(*)(参考：山本哲哉「文献紹介 ミハイロ・ジュリッチ,ヨーゼフ・ジーモン編集『ニーチェにおける下術と科学』から」メタフシュカ：the journal of philosophy and ethics 47,2016年。)
(*)(参考：谷本愼介「『悲劇の誕生』(F.ニーチェ)の世界観」関西外語大学研究論集104,2016年。)
(*)(参考：仲井幹也「ニーチェの高等教育論について(長崎大学経済学部創立100周年記念論文集)」経営と経済95(3・4),2016年。)
(*)(参考：ルドルフ・シュタイナー/高橋巖訳『ニーチェ：みずからの時代と闘う者』岩波文庫,岩波書店,2016年。)

(*)(参考：那須政玄「哲学的と宗教的(小峰彌彦先生 小山典男先生 古稀記念論文集 転法輪の歩み)」智山学報65,2016年。)
(*)(参考：子安ゆかり『聴くヘルダリーン/聴かれるヘルダーリン：詩作行為における「おと」』東京大学,博士(学術),甲第33089号,2016年。)
(*)(参考：中金聡「エピクロスとニーチェ(三浦信行教授学長退任記念特別記念号)」国士舘大学政治研究7,2016年。)
(*)(参考:中金聡「パスカルにおけるエピキュリアン・モーメント(上下)」政治哲学20,21,2016年。)
(*)(参考：ラ・フォンテーヌ作/ブーテ・ド・モンヴェル絵/大澤千加訳『ラ・フォンテーヌ寓話』洋洋社,ロクリン社(発売),2016年。)
(*)(参考：鹿島茂『「悪知恵」の逆襲：毒か?薬か?ラ・フォンテーヌの寓話』清流出版,2016年。)
(*)(参考：『まんがでわかるニーチェ』nevまんが,宝島社,2016年。)
(*)(参考：木本伸「ニコラオス・ルキデリ著『それが考える』：ニーチェのアフォリズムをめぐる歴史哲学的探究」立命館言語文化研究27(4),2016年。)
(*)(参考：新田誠吾「リヒャルト・デーメルとニーチェ：文学史記述の問題点」法政大学多摩論集32,2016年。)
(*)(参考：戸澤幸作「ジル・ドゥルーズ『差異と反復』第2章の時間論におけるcroyanceの契機：私的思想家ニーチェと永遠回帰」哲学137,2016年。)
(*)(参考：荒木和明「ソクラテスはアポロンに由来するのか：『悲劇の誕生』における歴史哲学」上智哲学誌28,2016年。)
(*)(参考：今川京子「Heart of Darknessにおける「怪物性」と「狂人的利己主義」としてのニーチェ思想」コンラッド研究7,2016年。)
(*)(参考：谷山弘太「ニーチェ『曙光』における「習俗の倫理」の問題」アルケー：関西哲学会年報24,2016年。)
(*)(参考：エルバーフェルト・ロルフ/井西弘樹・谷山弘太訳「学術交流公演 多声的主観とニーチェの文化(Kulturen)概念」文明と哲学：日独文化研究所年報8,2016年。)
(*)(参考：山根雄一郎「カントとニーチェをつなぐもの：試論」大東文化大学紀要,人文科学54,2016年。)
(*)(参考：江藤信暁「行為のための仮象：ニーチェ「生に対する歴史の利害について」における行為と歴史の関係」上智哲学誌28,2016年。)
(*)(参考：馬場朗「「感性」の上演劇と変容する生成期の近代美学：ジャン=ジャック・ルソーのメロドラマ『ピュグマリオン』を巡る一視座(1)」東京女子大学紀要論集66(2),2016年。)
(*)(参考：八木淳「ジャン・ルメール・ド・ベルジュの《パリスの審判》について：『ガリアの顕揚とトロイアの偉傑』第1巻,第33章の翻訳と注釈」L'Arche 26,2016年。)
(*)(参考：B.ゴリヨ/山上浩嗣訳「現代フランス文学におけるギリシア・ラテン文学の遺産」文学17(5),2016年。)
(*)(参考：三野博司『カミュを読む：評伝と全作品』大修館書店,2016年。)
(*)(参考：國方栄二『ギリシア・ローマの智恵』未知谷,2016年。)

(*)(参考：荻野弘之・桑原直巳『西洋哲学の起源』放送大学教材,放送大学教育振興会,2016年。)
(*)野本和幸「知と信：私の遍歴」ペディラヴィウム71,2016年。)
(*)(参考：萩原富夫「徳の諸相：「報徳」の理解に向けて」国際経営フォーラム27,2016年。)
(*)(参考：阿部善彦「知恵の探究が愚者によってはじまるのはなぜか：クザーヌスのidiota de sapientiaから考える」国士舘哲学20,2016年。)
(*)(参考：納富信留「広く深い哲学からはるかな現実を見る 過酷な現実から理論の深みへ降りてくる(特集 時代を知るための120冊)」Journalism 316,2016年。)
(*)(参考：藤田潤一郎『存在と秩序—人間を巡るヘブライとギリシアからの問い』創文社,2016年。)
(*)(参考：窪信一「パライオロゴス朝前後期ビザンツ帝国におけるヘレニズムの変容：ヘシュカズム論争前後の学問観の変化から」地中海学研究39,2016年。)
(*)(参考：Jocelyn Groisard‘Empedcles on Mules’ Sterility：A philological and philosophical Note’,フィロロジカ11,2016年。)
(*)(参考：畑潤「古代ギリシアにおける教養・教育の理念に関する研究(3,5,6,8,9,11,12,14,15,17,18,20,21)W.イェーガーの『パイデイア』に学ぶ」都留文科大学研究紀要83,84,2016年/85,86,2017年/87,88,2018年/89,90,2019年/91,92,2020年93,2021年/94,2021年/95,2022年。)
(*)(参考：畑潤「古代ギリシアにおける教養・教育の理念に関する研究(4,7,10,13,16,19,22)W.イェーガーの『パイデイア』に学ぶ」都留文科大学大学院研究紀要20,2016年/21,2017年/22,2018年/23,2019年/24,2020年/25,2021年/26,2022年。)
(*)(参考：佐藤真理恵『仮象のオリュンポス：古代ギリシアにおけるポロソポン概念とイメージ変奏』京都大学,博士(人間・環境学),甲第20012号,2016年。)
(*)(参考：エリック・ワイナー/関根光宏訳『世界天才紀行：ソクラテスからシティーブ・ジョブズまで』早川書房,2016年。)
(*)(参考：ベルトールト・クラッバート/武田武久編『ソクラテスの死とキリストの死：日本における講演と説教』新教出版社,2016年。)
(*)(参考：納富信留『哲学の誕生：ソクラテスとは何か』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2016年。)
(*)(参考：金子佳司編『プラトン『ソクラテスの弁明』注解』ピケナス出版,2016年。)
(*)多世代文化工房『わがままに生きる哲学：ソクラテスたちの人生相談』はるか書房,2016年。
(*)(参考：高橋國雄『先哲50人の生涯と思想：ソクラテスから和辻哲郎まで』風詠社,星雲社(発売),2016年。)
(*)(参考：藤田大雪『ソクラテスに聞いてみた—人生を自分のものにするための5つの対話』日本実業出版社,2016年。)
(*)(参考：八木雄二『哲学の始源：ソクラテスはほんとうは何を伝えたかったのか』春秋社,2016年。)
(*)(参考：天野正幸『哲学の原点：ソクラテス・プラトン・アリストテレスの知恵の愛求としての哲学』放送大学叢書32,左右社,2016年。)
(*)(参考：「教えてソクラテスお金で悩まない生き方は?(一流の人は知っている 毎日が面白くなる「哲学」入門)-(世界の偉大な哲学者の人生相談：人間関係,仕事,お金,家族—珠玉の言葉を読めば,心がスーッと軽くなる)」プレジデント54(35),2016

年。)
(*)佐藤優「Book Reviews 智を磨く〈読書(第176回)国際人になるための教科書[『世界に通用する公式マナー プロトコールとは何か』寺西千代子『世界天才紀行：ソクラテスからスティーヴ・ジョブズまで』エリック・ワイナー著/関根光宏訳『日本史の謎：なぜこの国で一度だけ革命が成就したのか』大澤真幸著]」週刊ダイヤモンド104(47),2016年。)
(*)(参考：佐藤克宣「ロゴスに従うソクラテスを教材とした高等学校「倫理」の授業開発：クリトンとの対話を題材としたディベート学習を通して」上越社会研究31,2016年。)
(*)(参考：岩間秀幸・星汐美「ソクラテスから考える現代教育の問題(新田義彦教授定年退職記念号)」(日本大学経済学部)研究紀紀要・一般教育・外国語・保健体育81,2016年。)
(*)(参考：加藤典洋「死に臨んで彼が考えたこと：三年後のソクラテス考」新潮113(7),2016年。)
(*)(参考：松平あかね「サティの受難曲：3章からなる交響的ドラマ「ソクラテス」(総特集 エリック・サティの世界)」ユリイカ47(18),2016年。)
(*)(参考：石神豊「21世紀を築く力：ソクラテス,カントの英知に学ぶ(特集 地球文明への道(2)連続航海講演会より)」東洋学術研究55(1),2016年。)
(*)(参考:多鹿雅人「「産婆術」においてソクラテスがいかなる役割であるか」愛知:φιροσοφια 28,2016年。)
(*)(参考：小島和夫「プラトン的生とペイター」哲学会誌40,2016年。)
(*)(参考：北郷彩『アリストテレス『トピカ』A巻における弁証術研究』北海道大学,博士(文学),甲第12379号,2016年。)
(*)(参考：ヴェルナー・イェーガー/佐良土茂樹・三浦太一訳「アリストテレス：その発展史の基礎にあるもの 第九章「原・倫理学」(特集 アリストテレス：その伝統と刷新)」理想696,2016年。)
(*)(参考：相澤康隆「どのような友人をどれくらい作るべきか―アリストテレスの友愛論」(三重大学人文学部哲学・思想学系)論集17,2016年。)
(*)(参考:坂下浩司「選択と同意―T.アーウィンのアリストテレス的/トマス的アクラシアー論」理想696,2016年。)
(*)(参考：ヴェルナー・イェーガー/佐土原茂樹・三浦太一訳「アリストテレス：その発展史の基礎にあるもの 第9章「原・倫理学」(特集 アルストテレス：その伝統と刷新)」理想696,2016年。)
(*)(参考:文景楠『説明理論としての質料形相論』東京大学,博士(学術),甲第32241号,2016年。)
(*)(参考：立花幸司「哲学業界における二つの不在―アリストテレスと現代の教育哲学」理想696,2016年。)
(*)(参考：荻野弘之「岩下壮一師とアウグスティヌス」パトリスティカ：教父研究20,2016年。)
(*)(参考：荻野弘之「対話と思考：誰を相手に,何を語るのか?」(上智大学文学部)哲学科紀要42,2016年。)
(*)山本巍「根拠と言葉の途：井上忠の哲学(根拠・言語・存在)」哲学雑誌131(803),2016年。
(*)神崎繁「井上哲学シンポジウムの司会にあたって(根拠・言語・存在)」哲学雑誌131(803),

2016年。
(*)伊佐敷隆弘「根拠と経験 : 井上忠の哲学を「ギリシア哲学解釈」という枠からはずす」(根拠・言語・存在)」哲学雑誌131(803),2016年。
(*)納富信留「出で遭いへの言葉 : 井上忠との哲学(根拠・言語・存在)」哲学雑誌131(803),2016年。
(*)竹下政孝「イスラム学者としての井筒俊彦」国際哲学研究・別冊7,2016年。
(*)(参考 : 田中龍山「キケロの懐疑主義 : 「真に似たもの」の探究」アルケー : 関西哲学会年報24,2016年。)
(*)(参考 : 畑山浩昭「「老いの言説」による効果 : プラトンの『パイドン』とキケローの『老いについて』(特集 老いと文学)」櫻美林世界文学12,2016年。)
(*)(参考 : 神崎繁「アリストテレス的自然主義の新展開 : 「自然誌的判断」と「行為の性向」の論理形式(特集 アリストテレス : その伝統と刷新)」理想696,2016年。)
(*)(参考 : 平野和歌子「アウグスティヌス『未完のユリアヌス駁論』における自由意志(第3部会,研究報告,特集 第74回学術大会紀要)」宗教研究89(suppl.),2016年。)
(*)(参考 : 小林剛『アルベルトゥス・マグヌスの人間知性論 : 知性単一説をめぐって』知泉書館,2016年。)
(*)(参考 : 南映子「マヌエル・アクーニャ「死体の前で」に見られるルクレティウスの影響 : 復興共和政期のメキシコにおける思想闘争とルクレティウス」Hispãnica 60,2016年。)
(*)(参考 : 阿部善彦「知恵の探究が愚者によって始まるのはなぜか : クザーヌスのIdiota de Sapientiaから考える」国士舘哲学20,2016年。)
(*)(参考 : 加藤尚武「哲学史とは何か(日本ヘーゲル学会十周年記念講演)」ヘーゲル哲学研究22,2016年。)
(*)(参考 : 伊坂青司「ヘーゲル講義録と「世界史の哲学」初回講義」ヘーゲル哲学研究22,2016年。)
(*)(参考 : 奥谷浩一「ハイデガーのヒューマニズム論（杉山吉弘教授退職記念号）」札幌学院大学人文学会紀要99,2016年。)
(*)「訃報 専大教授神崎繁氏」讀賣新聞10/22,2016年。
(*)「専大教授の神崎繁氏死去 西洋古代哲学が専門」朝日デジタル10/22,2016年。
(*)「専修大教授の神崎繁氏が死去―アリストテレス全集を編集」産経ニュース10/22,2016年。
(*)(参考 : J.マクダウェル/荻原理訳「徳と理性」(J.マクダウェル/大庭健編・監訳『徳と理性』所収,勁草書房,2016年。)
(*)(参考 : 河谷淳「「様相の哲学」としての『詩学』」理想696,2016年。)
(*)(参考 : 吉川斉「アリストテレス『弁論術』とテオン『修辞学初等教程』における「イソップの話」(日本西洋古典学会第67回大会発表)」(→西洋古典學研究64掲載。)
(*)(参考 : トンマーゾ・カンパネッラ/澤井繁男訳「『哲学詩集』(1-5)」關西大學文學論集66(1,2),2016年/67(1,2),2017年/68(1),2018年。)
(*)(参考 : 山形直子「ホメーロスと『平家物語』における生死の選択(日本西洋古典学会第67回大会発表)」(→西洋古典學研究64掲載,2016年。)
(*)(参考 : 山形直子「ホメーロスと『平家物語』における戦争の「報復」」ペディラヴィウ

ム71,2016年。)
(*)(参考：小川正廣「ホメロスの復権とアキレウスの盾」図書807,2016年。)
(*)(参考：吉武純夫『ギリシア悲劇におけるカロス・タナトス』京都大学,博士(文学),乙第13056号,2016年。)
(*)(参考：Nakagaki Koĵiro“50 fabloj de Ezopo”Japana Esperanta Librokooperativo.新書集版,2016.)
(*)谷川俊太郎詩・広瀬弦絵『いそっぷ詩(うた)：谷川俊太郎詩集』小学館,2016年。
(*)(参考：いそっぷ作/内田麟太郎文・高畠純絵『イソップ物語』ポプラ世界名作童話19,ポプラ社, 2016年。)
(*)(参考：NPO多言語多読再話・監修；玉木玲子挿絵『田舎のネズミと町のネズミ』にほんご多読ブックス：Taishguukan Japanese readers vol.1-1,大修館書店,2016年。)
(*)(参考：NPO多言語多読再話・監修；市川さち子挿絵『二人の恋人：他2話』にほんご多読ブックス：Taishguukan Japanese readers vol.2-4,大修館書店,2016年。)
(*)李澤珍「明治初期のイソップ寓話受容における『伊曽保物語』の影響について—渡部温編訳『通俗伊蘇普物語』を中心に」(東京大学大学院総合文化研究科超越文化科学専攻)超越文化科学紀要21,2016年。)
(*)定村来人「《暁斎楽画十一号》「或喇叭の者とりこになつて」：図像の典拠となった『イソップ物語』挿絵と上野戦争(第38回河鍋暁斎研究会発表)」暁斎：河鍋暁斎研究誌120,2016年。)
(*)幸阪創平「自分から進んで考えるとは：イソップ童話の活用を通して(公開授業 道徳1年2組)」研究紀要/東京学芸大学附属世田谷小学校48,2016年。
(*)吉見孝夫「第七号に寄せて」イソップ資料7,イソップ資料研究室,2016年。
(*)吉見孝夫「「大久保夢遊,竹村友治郎編『伊曽保物語』の出版」イソップ資料7,イソップ資料研究室,2016年。
(*)吉見孝夫「天理図書館巻子本『伊曽保物語』の基礎的研究」イソップ資料7,イソップ資料研究室,2016年。
(*)吉見孝夫「天理図書館巻子本『伊曽保物語』翻字」イソップ資料7,イソップ資料研究室,2016年。
(*)吉見孝夫「第八号に寄せて」イソップ資料8,イソップ資料研究室,2016年。
(*)吉見孝夫「古活字版『伊曽保物語』無刊記第四種本の基礎的研究」イソップ資料8,イソップ資料研究室,2016年。
(*)吉見孝夫「「天理図書館蔵古活字版『伊曽保物語』無刊記第四種本 翻字」イソップ資料8,イソップ資料研究室,2016年。
(*)松村一男「異界の島への航海神話としての『御曹司島渡』」(百合若)(和光大学)表現学部紀要16,2016年。
(*)(参考：坂井弘紀「中央ユーラシアと日本の民話・伝承比較研究のために」(和光大学)表現学部紀要16,2016年。)
(*)太田弘毅「幸若舞曲『百合若大臣』に記された,海洋への出動遠征譚：蒙古(むくり)国と,「ちくらが沖」での戦闘」政治経済史学598,2016年。
(*)佐々木雷太「鷹伝説の由来と行方：百合若大臣の愛鷹「緑丸」について」日本文学風土学会記事40,2016年。
(*)清野知子「飛鳥の百合若伝説」昔話伝説研究35,2016年。

(*)成實朋子「周作人の「童話」と明治日本の「童話」：高島平三郎・高木敏雄の著作との関連を通じて」学大国文59,2016年。
(*)(参考：高橋健太郎『言葉を「武器」にする技術：ローマの賢人キケローが教える説得術』文響社,2016年。)
(*)鷲巣力「林達夫への精神史的逍遙(4)生い立ちの記(3)第一高等学校時代の放蕩」イタリア図書55,2016年。
(*)二宮英治『歴史と親和の統合に見る木村鷹太郎の「哲学」』二宮英治,2016年。
(*)鷲巣力「林達夫への精神史的逍遙(3,4,)」イタリア圖書54,55,2016年。
(*)小林竜一「辻潤と三谷隆正：近代日本における〈異質〉文化の影響」比較文化研究121,2016年。
(*)中野斉子「井伏鱒二「へんろう宿」の印象の追跡」(「走れメロス」)文学と教育224,2016年。)
(*)西木英里「学習過程の目的に応じた対話的活動に関わる国語科の研究：「走れメロス」の読解における討論の効果」広島大学附属三原学校園研究紀要6,2016年。
(*)木村小夜「森見登美彦『新釈 走れメロス 他四篇』：連作としてのメタフィクション」福井県立大学論集47,2016年。
(*)見田宗介「特別掲載 走れメロス：思考の方法論について」現代思想44(17),2016年。
(*)中村満「わたしの授業(中学校)文学作品「走れメロス」を数学で読む!：一次関数の単元でグラフにかいてある情報を読み取る力をつけるために」数学教室62(7),2016年。
(*)中村佳文「演劇活動による能動的朗読学習の実践的試案：中学校定番小説『走れメロス』を教材として」研究紀要24,2016年。
(*)大原祐治「太宰治「走れメロス」における「村」と「市」」千葉大学大学院人文社会科学研究科プロジェクト報告書297,2016年。
(*)南富鎭「戦後文学拾遺：「夢十夜」「蜜柑」「走れメロス」そして浦島太郎」翻訳の文化/文化の翻訳11,2016年。
(*)山崎裕子「語句・語彙に着目させる指導が学習者の読みに与える影響」(「走れメロス」)島根大学大学院教育学研究科「現職短期1年コース」課題研究成果論集7,2016年。
(*)奥寺榮悦『文化勲章の恋：評伝・野上弥生子』文芸社,2016年。
(*)五之治昌比呂「『吾輩は猫である』の二つの逸話の材料について—アイスキョロスの死とアグノディケー」西洋古典論集24,2016年。)
(*)(参考：齋藤憲「エウクレイデスの“Wrong Text”」UP 519,2016年。)
(*)(参考:豊田浩志「記念建造物の読み方—コンスタンティヌス帝の二大建造物をめぐって」(豊田浩志編『モノとヒトの新史科学—古代地中海世界と前近代メディア』所収,勉誠出,2016年。)
(*)(参考：四十九院仁子「モザイクの変遷—技術とモチーフ」(豊田浩志編『モノとヒトの新史科学—古代地中海世界と前近代メディア』所収,勉誠出,2016年。)
(*)(参考：勝又俊雄「レウクトラの戦い以降のアルカディアにおける政治不安とフィガリアの囲壁築造：イトーメ/フィガリア囲壁様式の考案」ラーフィダーン37,2016年。)
(*)(参考：師尾晶子「古代ギリシアにおける石材・石碑の行く末と再利用」千葉商大紀要53(2),2016年。)

(*)(参考：布野修司「アレクサンドロスの都市」Travese : Kyoto University archtectural journal 17,2016年。)
(*)(参考：友岡真秀「ヴィンチェンツォ・デ・ロッシとボントルモ・フィレンツェ侯爵コジモ1世のための「ヘラクレスの泉」初期構想」地中海学研究39,2016年。)
(*)(参考：アンドリュー・リーチ/横手義洋訳『建築史とは何か?』中央公論美術出版,2016年。)
(*)(参考：味岡収『古代ローマ都市遺跡における3次元計測技術の実践と活用』九州大学,博士(工学),甲第12783号,2016年。)
(*)(参考：山田眞生・鈴木淳一・花里利一「海外の世界遺産組積造建築物に用いられる大理石材料に関する研究：(3)パルテノン神殿の歴史火災による火害のシミュレーション解析」防火 2016,2016 年。)
(*)(参考：吉岡拓実・林田義伸「オリンピアにあるゼウス神殿の平面設計法に関する研究」日本建築学会研究報告,九州支部3,計画系55,2016年。)
(*)(参考：渡邉道治「ヘレニズム期までの古代地中海世界の劇場におけるプロスケニウムへの上り方」日本建築学会研究報告,九州支部3,計画系55,2016年。)
(*)(参考：伊藤重剛・末次周「地中海古代都の研究(143)ギリシア・アルカディア地方の都市城壁の石積み調査報告 2015」日本建築学会研究報告,九州支部 3,計画系 55,2016 年。)
(*)(参考：近藤安統「土木遺産の香(69)古代ローマの水道橋を模した「カリオカ水道橋」ブラジル,リオデジャネイロ」Civli engineering consaltant : 建設コンサルタンツ協会会誌 272,2016 年。)
(*)(参考：堀賀貴・味岡収「リバースエンジニアリングとしての建築史学—考古学と建築学のあいだで」」(豊田浩志編『モノとヒトの新史科学—古代地中海世界と前近代メディア』所収,勉誠出版,2016年。)
(*)(参考：植田宏「フロンス・スカエナエの構成について—ヴィトルヴィオ著,バロバロ翻訳・註釈『建築十書』についての研究(2)」学術講演梗概集2015(建築歴史・意匠),2016年。)
(*)(参考：植田宏「ギリシア劇場の構成とヴィンチェンツォ・スカモッツィのコメントについて—ヴィトルヴィオ著,バロバロ翻訳・註釈『建築十書』についての研究(3)」日本建築学会研究報告 九州支部3,計画系55,2016年。)
(*)(参考：井桁由貴・堀賀貴「轍からみたポンペイ都市内の荷車交通に関する一考察」日本建築学会研究報告 九州支部3,計画系55,2016年。)
(*)(参考：廣川智貴「地質の詩学—ゲーテ,ヘルダーリン,ノヴァーリス」日本地質学会学術大会講演要旨2016,2016年。)
(*)(参考：ヤマザキマリ,とり・みき著/「新潮45」編集部編『プリニウス完全ガイド』Bunch comics 45 premium,新潮社,2016年。)
(*)(参考：八木健治「製作者から見る「パピルスと羊皮紙」--その製法と特徴」(豊田浩志編『モノとヒトの新史科学—古代地中海世界と前近代メディア』所収,勉誠出版,2016年。)
(*)(参考：周藤芳幸「ヘレニズム時代東地中海のワイン交易：エジプトからの視点(特集 古代西アジアの酒)」西アジア考古学17,2016年。)
(*)(参考：VALLTENNE Corinne,丸山有美「Vin et Culture(9)ワインと宗教：ギリシア神話・

ローマ神話」ふらんす91(12),2016年。)
(*)(参考：ファブリーツィア・ランツァ/伊藤綺訳『オリーブの歴史』「食」の図書館,原書房,2016年。)
(*)(参考：小林道憲『生きた自然を探究する：躍動する生命と宇宙』ミネルヴァ書房,2016年。)
(*)(参考：アレクサンダー・ワイルダー/堀江聡訳『新プラトン主義と錬金術：神智学の起源をたずねて』POD版,宇宙パブリッシング,2016年。)
(*)(参考：マーチン・サジェット/おおつかのりこ訳『ガリレオと新しい学問』世界の伝記：科学のパイオニア,玉川大学出版部,2016年。)
(*)(参考：大西雅一郎「テクネーの問いとギリシア：ハイデガー,ニーチェ,ベンヤミン」成蹊大学経済学部論集47(2),2016年。)
(*)(参考：マーチン・サジェット/おおつかのりこ訳『ガリレオと新しい学問』世界の伝記,科学のパイオニア,玉川大学出版部,2016年。)
(*)(参考：田口卓臣『18世紀フランス思想における科学と文学：ディドロの言説戦略の分析を起点として』宇都宮大学(2013年),(科研費)2016年。)
(*)(参考：鏡リュウジ,鶴岡真弓『日月火水木金土：7つの星をめぐる話』平凡社,2016年。)
(*)(参考：沼澤茂美・脇屋奈々代作/中島梨絵絵『12星座とギリシャ神話の本』あすなろ書房,2016年。)
(*)冨田良雄編「第II部 資料編：山本一清先生の著書と論文・記事」第7回天文台アーカイブズプロジェクト報告会集録7,2016年。
(*)(参考：関大輔「占星術とイメージをめぐるヘルメス的考察」Arts and media 6,2016年。)
(*)(参考：ジェフリー・コテック「漢字文化圏の文字における西方占星術の要素：東西文化交流における仏教の役割」駒澤大学仏教文化研究19,2016年。)
(*)(参考：日本オリンピック・アカデミー監修『ほんとうにあったオリンピックストーリーズ』講談社青い鳥文庫,講談社,2016年。)
(*)(参考：日本オリンピック・アカデミー監修『平和の祭典：オリンピック競技大会』オリンピック・パラリンピック大百科2,小峰書店,2016年。)
(*)(参考：日本オリンピック・アカデミー監修『オリンピックの歴史 古代から近代へ』オリンピック・パラリンピック大百科3,小峰書店,2016年。)
(*)(参考：日本オリンピック・アカデミー監修『オリンピックの発展と課題』オリンピック・パラリンピック大百科4,小峰書店,2016年。)
(*)(参考：石出法太・石出みどり『これならわかるオリンピックの歴史Q&A』大月書店,2016年。)
(*)(参考：千野帽子編『オリンピック』角川文庫,kADOKAWA,2016年。)
(*)(参考：ローラント・ナウル『オリンピック教育』大修館書店,2016年。)
(*)(参考：舛本直文「オリンピックの文化イベントの歴史と言語」日本語教育165,2016年。)
(*)(参考：清水愉責任編集・友添秀則編『近代オリンピックにおける文化と芸術：特集』現代スポーツヒョウロン,創文企画,2016年。)
(*)(参考：中京大学社会科学研究所編『学際的アプローチによるオリンピックの探究』社研草書40, 中京大学社会科学研究,2016年。)
(*)(参考：納富信留「精神と身体—オリンピックの哲学」(橋場弦・村田奈々子編『学問としてのオリンピック』所収,山川出版社,2016年。)

(*)(参考：橋場弦・村田奈々子・納富信留他『学問としてのオリンピック』山川出版社,2016年。)
(*)(参考：橋場弦「自著を語る(83)『学問としてのオリンピック』」地中海学会月報395,2016年。)
(*)(参考：橋場弦「オリンピックの余韻」公研637,2016年。)
(*)(参考：橋場弦「講演紹介　春季講演会　古代オリンピック：ギリシア人のこころとからだ」都歴研紀要53,2016年。)
(*)(参考：田中咲子『古代ギリシアの墓碑における運動選手像』筑波大学,博士(芸術学),乙第2773号,2016年。)
(*)(参考：村田奈々子「近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタン：ヨーロッパ的才能のひとつのかたち(特集　子どもの才能と教育)」」子どもと発達教育13(4),2016年。)
(*)(参考：野上玲子「00哲-26-□-13オリンピズムの内在的価値に関する研究「人間の尊厳」に着目して」日本体育学会大会予稿集67,2016年。)
(*)(参考：安藤健太「00哲-26-□-14ピエール・ド・クーベルタンとハーハート・スペンサーの教育論の比較・両者の体育論に着目して」日本体育学会大会予稿集67,2016年。)
(*)(参考：和田浩一「01史-26-□-13 IOC　会長辞任後のピエール・ド・クーベルタンとオリンピズム『万国教育連盟報』第4号(1928-1929)に注目して」日本体育学会大会予稿集67,2016年。)
(*)(参考：和田浩一「クーベルタンが考えたオリンピズム(日本体育学会第66回大会専門領域体育史シンポジウム歴史学から考えるオリンピック)」体育史研究33,2016年。)
(*)(参考：井上洋一・石坂友司・井上俊・坂上康博・和田浩一「第3回奈良女子大学オリンピック・公開シンポジウム採録　嘉納治五郎が構想したオリンピック：日本におけるオリンピズの受容と展開」奈良女子大学スポーツ科学研究18,2016年。
(*)(参考：和田浩一「筋肉と精神の「偉大な結婚」：近代オリンピックにおけるスポーツと芸術の結合(特集　近代オリンピックにおける文化と芸術)」現代スポーツ論35,2016年。)
(*)都筑真「『泰西史鑑』にみる古代オリンピック」日本女子体育大学紀要46,2016年。
(*)伴義孝「大島鎌吉のスポーツ思想に訊く(1)オリンピアードを祝福するという視点において」大阪体育学研究54,2016年。
(*)伴義孝「大島鎌吉のオリンピック運動(3)クーベルタン布石について」關西大學文學論集66(2),2016年。)
(*)(参考：滝口隆司「大島鎌吉が遺したオリンピックの思想」日本体育学会大会予稿集67,2016年。)
(*)(参考：栗崎由貴子・荒木有里「医療技術職養成教育への「ソクラテス的対話」の導入とその意義」国際情報研究13(1),2016年。)
(*)(参考：中山七里『ヒポクラテスの誓い』祥伝社文庫,祥伝社,2016年。)
(*)(参考：中山七里『ヒポクラテスの憂鬱』祥伝社,2016年。)
(*)(参考：スティーブ・パーカー/千葉喜久枝訳『医療の歴史：穿孔開頭術から幹細胞治療

までの1万2千年史』創元社,2016年。)
(*)(参考：土屋睦廣「ガレノスとアスクレピオス」西洋古典叢書月報124,2016年。)
(*)(参考：相原博「人間の尊厳とは何か：看護倫理の領域から考える(シンポジウム「人間の尊厳について」提題)」国士舘哲学20,2016年。)
(*)(参考：土居健司『救貧看護とフランスピィア—古代キリスト教におけるフィランスピィア論の生成』創文社,2016年。
(*)(参考：梶原博毅「医学史 近代ヨーロッパ医学の科学的背景：古代ギリシャの自然(自然哲学)と医学(第3報)ソクラテス,プラトン,アリストテレスの自然学と医学(No.2)」広島医学69(1),2016年。)
(*)(参考：梶原博毅「医学史 近代ヨーロッパ医学の科学的背景：古代ギリシャの自然(自然哲学)と医学(第4報)ヘレニズム時代の自然学と医学(No.1)エピクロス派とストア派の自然学と医学」広島医学69(3),2016年。)
(*)(参考：梶原博毅「医学史 近代ヨーロッパ医学の科学的背景：古代ギリシャの自然(自然哲学)と医学(第4報)ヘレニズム時代の自然学と医学(No.2)アレクサンドリアの数学,幾何学と物理学」広島医学69(5),2016年。)
(*)(参考：藤井義博「クリトフフ・ヴィルヘルム・フーフェラントの長生法におけるculture の特徴：その現代の健康教育における意義」藤女子大学QOL研究所紀要11(1),2016年。)
(*)(参考：谷原秀信・安部郁子「「緑内障」という病名の起源について」日本眼科学会雑誌120(5),2016年。)
(*)(参考：水上仁「今月のいちお押し海外情報(3)離乳子豚の腸管生理：すべての病気は腸から始まる(ヒポクラテス)」ピッグジャーナル：鍛えろ経営力!養豚ビジネス活マガジン19(10),2016年.)
(*)(参考：「目次/ミニ特集にあたって/表紙の説明(ヒポクラテス)」ファルマシア53(4),2016年。)
(*)(参考：VALLIENNE Corrinne,丸山有美「Vine et Culture(9)ワインと宗教：ギリシア神話・ローマ神話」ふらんす91(12),2016年。)
(*)(参考：周藤芳幸「ヘレニズム時代東地中海のワイン交易：エジプトからの視点(特集古代西アジアの酒)」西アジア考古学17,2016年。)
(*)(参考：比佐篤「アウグストス治世初期の貨幣造幣委員：貨幣の図像と委員の経歴の検討を中心に」西洋史研究45,2016年。)
(*)(参考：レミイ・アシュリー,シュミット・クリストファー/辻輪徹訳「古代ローマ人は何を食べていたのか?」パリティ(Parity)：物理科学雑誌31(12),2016年。)
(*)川嶌眞人「臨スポOPINION 前野良沢とパイオニア精神」臨床スポーツ医学33(2),2016年。
(*)「教えてソクラテスお金で悩まない行き方は?(一流の人は知っている毎日が面白くなる「哲学」入門)—(世界の偉大な哲学者の人生相談室：人間関係、仕事、お金、家族—珠玉の言葉を読めば、心がスーッと軽くなる)」プレジデント54(35),2016年。)
(*)宮田拓弥「WEDGE REPORT「ケータイ0円」の次は「クルマ0円」かIoT進化で変わる“稼ぎ方”「トロイの木馬」と化すハード」Wedge28(2),2016年。
(*)犬塚元「(2016年度書評)政治思想史(欧米)対象小野紀明『西洋政治思想史:精神史的考察』」年報政治学2016(1),2016年。)
(*)(参考：橋場弦『民主主義の源流：古代アテネの実験』講談社学術文庫,講談社,2016年。)

(*)(参考：岸本廣大『重層的な古代ギリシアの共同体に関する研究：コイノン・エトノス・ポリス』京都大学,博士(文学),甲第19421号,2016年。)
(*)橋場弦「書評 仲手川良雄著『古代ギリシアにおける自由と社会』」歴史学研究952,2016年。
(*)橋場弦「書評 栗原麻子著『「アッテカ民衆法廷における報復のレトリック―リュクルゴス『レオクラテス弾劾』を中心にして」法制史研究65,2016年。
(*)(参考：的射場敬一「政治闘争と改革：古代アテナイの民主化過程(三浦信行教授学長退任特別記念号)」」国士舘大学政治研究7,2016年。)
(*)(参考：的射場敬一「平等者たちの行進：アテナイ・デモクラシーと重層歩兵」國士舘大學政經論叢2016(3),2016年。)
(*)(参考：新保良明『古代ローマの帝国官僚と行政：小さな政府と都市』Minerva西洋史ライブラリー110,ミネルヴァ書房,2016年。)
(*)大清水裕「書評 飯坂晃治著「ローマ帝国の統治構造：皇帝権力とイタリザ都市」」史學雑誌125(2),2016年。
(*)(参考:J.ロム/志内一興訳『セネカ 哲学する政治家―ネロ帝宮廷の日々』白水社,2016年。)
(*)(参考：本村凌二「ローマ社会における「パンとサーカス」」日伊文化研究54,2016年。)
(*)(参考：マイケル・フォンテーヌ「ローマ史はわれわれに何を問いかける：近代政治への教訓」Foreign AffairsRreport 2016(4),2016年。)
(*)(参考：「新・スパルタ教育」が日本を救う：人材を育てる秘訣はやはり「厳しさ」にある)SAPIO 28(11),2016年。)
(*)(参考：三上章『プラトン『国家』におけるムゥシケー：古典期アテナイにおけるポリス社会とムゥシケーの相互影響史を踏まえて』筑波大学,博士(文学),乙第2779号,2016年。)
(*)(参考：石崎嘉彦「プラトン的民主政論と平和：『国家』第一巻をもとに政治哲学の「ロゴス」について考える」政治哲学21,2016年。)
(*)(参考：ジェイムズ・ロム/志内一興訳『セネカ哲学する政治家：ネロ帝宮廷の日々』白水社,2016年。)
(*)(参考：西村貞二『マキアヴェリ』清水書院,2016年。)
(*)(参考:村田玲『喜劇の誕生:マキャヴェッリの文芸諸作品と政治哲学』風行社,2016年。)
(*)(参考：村田玲「科学の問題：「喜劇の誕生：マキャヴェッリの文芸諸作品と政治哲学」の補遺(上下)」政治哲学20,21,2016年。)
(*)厚見恵一郎「マキャヴェッリ、合理主義、喜劇、そして近代性---村田玲著『喜劇の誕生：マキャヴェッリの文芸諸作品と政治哲学』刊行に寄せて」風のたより64,2016年。
(*)(参考：ダニエラ・コーリ/石黒盛久訳「翻訳 ホッブスのローマ：タキトゥスとマキヴェッリの間で」世界史研究論叢6,2016年。)
(*)(参考：大久保歩「国家の死：ニーチェにおける正統性と主権の問題」メタフシュカ：the journal of philosophy and ethics 47,2016年。)
(*)(参考：小森謙一郎「二十五歳のアーレント：ゲンツ,シュミット,ゲーテ」武蔵大学人文学会雑誌48(1),2016年。)
(*)(参考：菊谷忠治「「生権力」その静かな権力の正体：ミシェル・フーコーの思想を辿りつつ」地中海歴史風土研究誌43,2016年。)

(*)(参考：百瀬春生「ダナエの愛：R.シュトラウスは何を訴えたかったのか?」地中海歴史風土研究誌43,2016年。)
(*)(参考：師尾晶子「まえがき(ヨーロッパ統合に関する総合的研究：その統合の理念,その課題,そして東アジア地域への示唆)」国府台経済研究26(1),2016年。)
(*)(参考：師尾晶子「古代ギリシアにおける「他者」の発見と「他者」との境界をめぐる言説の展開：ヨーロッパという境界の策定の歴史的展開と近代における受容をめぐって(ヨーロッパ統合に関する総合的研究:その統合の理念,その課題,そして東アジア地域への示唆)」国府台経済研究26(1),2016年。)
(*)(参考：佐藤昇「基調報告 前4世紀アテーナイの法廷と修辞(2015年度大会共通論題報告 歴史とレトリック 古代地中海世界における虚構・真実・説得)」西洋史研究45,2016年。)
(*)(参考：吉田俊一郎「基調報告 ローマ帝国初期の模擬弁論と歴史記述 (2015年度大会共通論題報告 歴史とレトリック 古代地中海世界における虚構・真実・説得)」西洋史研究45,2016年。)
(*)(参考：栗辻悠「古代レトリック再考(1,2)ローマ世界における法廷実践の観点から」関西大学法学論集66(4)2016年/67(1),2017年。)
(*)(参考：角田幸彦「キケロー裁判弁説の精神史的考察—政治闘争,正義,ヒューマニズム」明治大学教養論集511,2016年。)
(*)(参考：森村進「マイケル・サンデルの反自由市場コミュニタリアニズム」一橋法学15(1),2016年。)
(*)永石尚也「森村進著『法哲学講義』(筑摩書房,2015年)」一橋法学15(1),2016年。
(*)熊谷英人「笑うエピキュリアン—林達夫における「政治」」明治学院大学法学研究100,2016年。)
(*)熊谷英人「笑うエピキュリアン—林達夫における「政治」の問題」明治学院大学法律科学研究所32,2016年。)
(*)(参考：高橋広次『アリストテレスの法思想—その根底にあるもの』成文堂,2016年。)
(*)(参考：渡邉安積編輯『羅馬法：全』日本立法資料全集・別巻.信山社出版,2016年。)
(*)(参考：高橋英治「ローマ法上の企業形態としてのソキエタスとソキエタス・プブリカノルム：近時のドイツの研究を基礎にして」法学雑誌62(2),2016年。)
(*)「書評：加納修著「フランク王国における「ローマ法」認識に関する一考察：書式集の証言を中心として(『西洋中世研究』7)」法制史研究：法制史学會年報66,2016年。)
(*)(参考：紺谷由紀「ローマ法における去勢：ユスティニアヌス一世の法典編纂事業をめぐって」史學雑誌125(6),2016年。)
(*)(参考：小野上真也「刑法における幇助概念の系譜(1,2,3)：ローマ法およびドイツ法を素材に」清和法学研究21(1,2),2016年/22(1),2017年。)
(*)(参考：アリベラン・ジャン=ルイ/田中実訳「翻訳 ジャン=ルイ・アルベラン ローマ法と現代法」南山法学40(1),2016年。)
(*)(参考：五十嵐清『ヨーロッパ私法への道：現代大陸法への歴史的入門』悠々社,2016年。)
(*)(参考：角田猛之・市原靖久・亀本洋は年『法理論をめぐる現代的書問題：法・道徳・文化の重要性』(亀本洋「ドォオキンの仮想保険に対するローマからの批判」晃洋書房,2016年。)

(*)(参考：渡邉安積編輯『羅馬法：全』復刻版,信山社出版,2016年。)
(*)(参考：田中遜講述『羅馬法：法政大學講義錄』復刻版,信山社出版,2016年。)

(*)(参考：加戸友佳子「マルクスの学位論文における認識論」神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究室紀要11(1),2016年。)
(*)オフィステイクオー『偽史と奇書が描くトンデモ日本史』じっぴコンパクト新書308,実業之日本社,2017年。
(*)小澤実編『近代日本の偽史言説：歴史語りのインテレクチュアル・ヒストリー』(津城寛文「日猶同祖論の射程：旧訳預言から『ダ・ヴィンチ・コード』まで」/庄子大亮「「失われた大陸」言説の系譜：日本にとってのアトランティスとムー大陸」)勉誠出版,2017年。
(*)(参考：下田淳『世界文明史：人類の誕生から産業革命まで』昭和堂,2017年。)
(*)(参考：安田喜憲「講演論文 新しい世界史像：古代文明は四大文明だけだったかどうか」比較文明研究22,2017年。)
(*)(参考：岡本隆司「世界史を一望する(4)古代文明とアジア史の出発」ちくま552,2017年。)
(*)(参考：岡本隆司「世界史を一望する(5)危機の時代：「大移動」と古代文明の解体」ちくま553,2017年。)
(*)(参考：周剣生「世界遺産を撮る(58)フィレンツェ：イタリア文化遺産(1982年登録)」週刊ダイヤモンド105(21),2017年。)
(*)(参考：周剣生「世界遺産を撮る(65)イスタンブール歴史地域：トルコ文化遺産(1985年登録)」週刊ダイヤモンド105(28),2017年。)
(*)(参考:周剣生「世界遺産を撮る(70)ピサのドゥーモ広場:イタリア文化遺産(1987年登録)」週刊ダイヤモンド105(33),2017年。)
(*)(参考：周剣生「世界遺産を撮る(71)ペルセポリス：イラン文化遺産(1979年登録)」週刊ダイヤモンド105(34),2017年。)
(*)(参考：カラリ=ヤナコプール イウリア〈リリアン〉「〈エッセイ〉日文研：ギリシャと日本」日文研59,2017年。)
(*)楊逸『エーゲ海に強がりな月が』潮出版社,2017年。
(*)(参考：カール・マイ/戸叶勝也訳『アドリア海へ』カール・マイ冒険物語；オスマン帝国を行く,朝文社,2017年。)
(*)(参考：吉川徹「多摩ニュータウンと地中海：第40回地中海学会大会 地中海トーキング「ニュータウンの古今東西」解題」」多摩ニュータウン研究19,2017年。)
(*)(参考：J.C.コルヴァン/吉田春美訳『鳥瞰図で見る古代都市の世界—歴史・建築・文化』原書房,2017年。)
(*)(参考：井福剛『ローマ帝国支配期カルタゴ周辺地域における文化と記憶』同志社大学,博士(文化史学),甲第871号,2017年。)
(*)(参考：坂口明・豊田浩志編『古代ローマの港町：オスティア・アンティカ研究の最前線』勉誠出版,2017年。)
(*)(参考：浦野聡「古代地中海聖域の精神的・身体的トポグラフィー」(浦野聡編『古代地中海の聖域と社会』勉誠出版,2017年。)
(*)(参考：浦野聡編『古代地中海の聖域と社会』勉誠出版,2017年。)
----「古代地中海聖域の精神的・身体的トポグラフィー」

「1.古代ギリシア(郊外―古典期アテーナイ：奉納物からみた聖域と社会)」
「2.ヘレニズム(ネットワーク理論と神聖使節団テオリアのネットワーク)」
「3.古代ローマ(古代ローマ西方の聖域と社会：皇帝崇拝と聖域―ローマ帝国東方属州を中心に)」
「4.古代末期以降(後期ローマ帝国における聖域の変容―州民と政府の関係を通じて：キリスト教的空間の成立―南ガリアの都市と例外：東方における聖堂と社会―リキア西部トロス教会主座聖堂をめぐって)

(*)齋藤貴弘「「郊外」(上野愼也「郊外―古典期アテーナイ」(浦野聡編『古代地中海の聖域と社会』勉誠出版)に寄せて―古代ギリシアの「聖-俗」空間についての覚え書」愛媛大学法文学部論集,人文学編48,2017年。

(*)(参考：中澤務「古代ギリシアにおける異文化理解の諸相(3)ヘロドトスとエジプト」(関西大学国際文化財・文化研究センター)The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture 4,2017年。)

(*)(参考：小澤博「海鳴りの消え入るような調べ：『十二夜』とシェイクスピアの地中海(特集,シェイクスピアとイスラム世界)」Sahkespear journal 3,2017年。)

(*)(参考：土井雅之「『あらし』から浮かび上がる西地中海世界(特集,シェイクスピアとイスラム世界)」Sahkespear journal 3,2017年。)

(*)(参考：澤田直「ムルグリット・デュラスと地中海世界：廃墟を透視すること(Autour de Marguerite Duras)」立教大学フランス文学46,2017年。)

(*)山本真紗子「美学者中井宗太郎の渡欧体験(1922-23)―京都市立芸術大学芸術資料館所蔵中井宗太郎史料を中心に」(京都大學人文科學研究所)人文學報110,2017年。

(*)篠井保彦「浅野栄市氏を悼む」地中海歴史風土研究誌46,2017年。

(*)鈴木直人「浅野栄市さんを想う」地中海歴史風土研究誌46,2017年。

(*)百瀬春生「強靱な肉体と精神の持ち主浅野栄市君の思い出」地中海歴史風土研究誌46,2017年。

(*)石澤光子「浅野栄市さんの思い出」地中海歴史風土研究誌46,2017年。

(*)堀幸夫「わが友浅野君の思い出」地中海歴史風土研究誌46,2017年。

(*)上月美青原作・浅見侑著『エーゲ海と買われた花嫁』ハーモニィコミックス,宙出版,2017年。

(*)(参考：ヘレン・ビアンチン,ジュリア・ジェイムズ,サラ・モーガン/山田理香訳『エーゲ海の花嫁たち』ウエディングロマンス,ハーパーコリンズ・ジャパン,2017年。)

(*)篠田節子『「森の人(オランウータン)」が食べるブドウの味』(夢枕獏「アグリツーリズモ」ってなに?山羊とオリーブ エーゲ海という異境 食料自給率百パーセントの底力 地中海の島で知った「日本車」の実力 出たか,出ないかやっぱり出なかった やっぱり冒険家に憧れる!)」小石川書館,2017年。

(*)(参考：横山淳一・金子多喜子・春日千加子・石津裕子・横山貴子「オリーブのすべて(最終回)9.地中海オリーブ食文化と健康」油脂70(10),2017年。)

(*)(参考：平野みか「オリーブ油とブドウ酒からみたミケーネ初期のエジプトとの交流」東海史学51,2107年。)

(*)(参考：深澤朋子・坂本静男「ギリシャワイン発見の旅へ」New food industry=ニューフードインダストリー：食品加工および資材の新知識59(6),2017年。)

(*)(参考：稲葉千晴「戦跡探訪 クレタ島シダ湾(ギリシア)」軍事史学53(1),2017年。)
(*)(参考：吉原努「今月の一冊March国立国会図書館の蔵書から アトランティス：大陸より来る」(ハウプトマン)国立国会図書館月報671,2017年。)
(*)地球の歩き方編集室編『イラン ペルシアの旅』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2017-18 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『ギリシアとエーゲ海の島々&キプロス』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2017-18 年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『南イタリアとマルタ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2017-18 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2017-18年。
(*)地球の歩き方編集室編『ローマ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2017-18年。
(*)地球の歩き方編集室編『フィレンツェとトスカーナ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2017-18 年。
(*)地球の歩き方編集室編『南イタリアとマルタ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2017-18年。
(*)綾辻行人他『妖異』(石川喬司「エーゲ海の殺人」)日本推理作家協会受賞作短編集 4,双葉文庫,双葉社,2017 年。
(*)(参考：咲弥華(Sayaka)「世界紀行 地中海のゆりかご マルタ」潮697,2017年。)
(*)(参考：齋藤貴弘「古代ギリシアの巡礼」地中海学会月報396,2017年。)
(*)(参考：田中英資『文化遺産はだれのものか：トルコ・アナトリア諸文明の遺跡をめぐる所有と保護』春風社,2017年。)
(*)ジラルデッリ青木美由紀「第68回「トルコの夕べ」開催：明治の建築家伊東忠太オスマン帝国をゆく」Anatolia News 144,2017年。
(*)(参考:大村幸弘「アナトリア考古学研究所からの報告(24)仮設を生みだす収蔵庫」Anatolia news 145,2017年。)
(*)(参考：紺谷亮一「アナトリアの都市形成：中央アナトリア高原における前期中期青銅器時代の様相(日本西アジア考古学会20周年記念号)—(特集 西アジア考古学・最新研究の動向)」季刊考古学141,2017年。)
(*)大村次郷「バクトリア,ソグディアナの旅(特集 ウズベキスタン考古学調査と加藤九祚)」ユーラシア研究56,2017年。)
(*)(参考：勝又俊雄「シユリーマンと19世紀ギリシア新古典主義(65,66)」日本ギリシャ協会会報139,140,2017年。)
(*)(参考：勝又俊雄「トリフュリアのサミコンのアクロポリスの囲壁—工匠たちとマニエリスム(前編)」宝塚大学紀要31,2017年。)
(*)(参考：中野京子「中野京子の名画が語る西洋史(61)イージス艦と女神」文藝春秋95(9),2017年。)
(*)(参考：相場春夫『世界の美しい街,優しい街』実業之日本社,2017年。
(*)(参考:篠塚千恵子『古代ギリシアの墓辺図』早稲田大学,博士(文学),乙第5152号,2017年。)
(*)(参考:篠塚千恵子『アフロディテの指先：パルテノン彫刻を読む』国書刊行会,2017年。)

(*)(参考：篠塚千恵子『死者を記念する—古代ギリシアの墓辺図研究』中央公論美術出版,2017年。)
(*)(参考：芳賀京子・芳賀満『古代：ギリシアとローマ,美の曙光』西洋美術の歴史1,中央公論新社,2017年。)
(*)(参考：木村泰治『西洋美術史：世界のビジネスエリートが身につける教養』ダイヤモンド社,2017年。)
(*)(参考：木村泰治『西洋美術を変えた名画50』タツミムック,辰巳出版,2017年。)
(*)(参考：木村泰治『名画は嘘をつく(3)』ビジュアルだいわ文庫,大和書房,2017年。)
(*)(参考：中野京子『運命の絵』中野京子と読み解く,文藝春秋,2017年。)
(*)(参考：中村るい・加藤公太『ギリシャ美術史入門』三元社,2017年。)
(*)(参考：中村るい「プリンストン大学〈ベルリンの画家〉シンポジウム」地中海学会月報405,2017年。)
(*)(参考：大原まゆみ「カール・ロットマンの『ギリシャ風景画』サイクル(4)」明治学院大学藝術学研究27,2017年。)
(*)堀井健一「東京書籍版『新編 新しい社会 歴史』の単元「ギリシャ・ローマの文明」の中の彫刻の例示に関する一考察」教育実践総合センター紀要16,2017年。)
(*)(参考：小佐野重梨・京谷啓徳・水野千依『百花繚乱のイタリア,新たな精神と新たな表現』西洋美術の歴史4,中央公論新社,2017年。)
(*)芳賀京子「「特別展 古代ギリシャ—時空をこえた旅」への長い旅」地中海学会月報395,2017年。
(*)(参考：小野俊夫『アレクサンドリア：グノーシスのカオスと宇宙的生神話を生んだ学問都市・古代アレクサンドリア—そして現代へ』近代文藝社,2017年。)
(*)(参考：稲垣良典他『世界遺産への道標：事例研究・芸術都市フレンツェの経営政策』創文社,2017年。)
(*)(参考：村田奈々子「ギリシアのヨーロッパ(特集 英国のジレンマ,EUの憂鬱)」学際[第3次]3,2017年。)
(*)(参考：南川高志「古代都市ローマ—大帝国の理念と現実が昇華する場」比較文明33,2017年。)
(*)(参考：嶋田義人「ヨーロッパ文明の原像(3)ローマ帝国文化」大法輪84(9),2017年。)
(*)(参考：ヤマザキマリ「世界のすべては古代ローマに通じる：イタリア共和国星勲章コンメンダトーレを受賞して(特集 平成29年回顧 話題の人の「独白録」)新潮45 36(12),2017年。)
(*)(参考：ロマノ・ヴルピッタ「日本とローマ—二つの紀元節」國の防人1,2017年。)
(*)(参考：本村凌二『地中海世界とローマ帝国』興亡の世界史,講談社学術文庫,講談社,2017年。)
(*)(参考：本村凌二・常川幹也「私の生き方(567)ローマ人と日本人は意外と似ている」公研55(5),2017年。)
(*)(参考：澤井繁男『ルネサンス再入門：複数形の文化』平凡社新書859,平凡社,2017年。)
(*)(参考：西村貞二『レオナルド・ダ・ヴィンチ：ルネサンスと万能の人』清水書院,2017年。)
(*)(参考:松本典昭『メディチ家の至宝驚異の工芸コレクション:フルカラー』勉誠出版,2017年。)

(*)(参考 : 佐藤直樹「ローマ : 19世紀のアルカディア : 外国人芸術家たちの活動と交錯(2016年度公開講座 イタリア文化講座)」星美学園短期大学日伊綜合文化研究所報13,2017年。)
(*)(参考 : Oki Sayaka(大木清香)「Idyllishe Extreme : Interpretation von Josef Winkelers römische Novelle Natura morta」GR：同志社大学グローバル地域文化学会紀要9,2017年。)
(*)(参考 : 木村和実「内なる王国・静寂のアルディア : G.F.ケルスティングの室内画の世界」芸術：大阪芸術大学紀要40,2017年。)
(*)(参考 : 倉持充希『ニコラ・プッサンと同時代のローマの画家たちの動物画に関する研究』東北大学,博士(文学),甲第20643号,2017年。)
(*)堀井健一「東京書籍版『新編 新しい社会 歴史』の単元「ギリシャ・ローマ文明」の中の彫刻の例示に関する一考察」教育実践綜合センター紀要16,2017年。)
(*)(参考：田中琢産「ゾラ『ローマ』におけるサン・ピエトロ大聖堂」お茶の水女子大学人文科学研究13,2017年。)
(*)金美齢「朋友相信 憧れのヴェネツィア紀行」will-5月号,2017年。
(*)(参考：小佐野重利『《伊東マンショの肖像》の謎に迫る：1585年のヴェネツィア』三元社,2017年。)
(*)(参考 : 赤松加寿「イタリア建築紀行—ゲーテと旅する七つの都市」史學雜誌 126(8),2017年。)
(*)(参考 : 牧野久実「ヘレニズム・ローマ時代のフタ・パレスティナからの出土例について」西アジア考古学 18,2017 年。)
(*)(参考：高橋裕子「ギリシアにおける初期鉄器時代の遺跡(3)アシネ」マテシス・ウニウェルサリス 19(1),2017 年。)
(*)(参考 : 坂田道生「ピアッツァ・アルメリーナのヴィッラの《小狩猟図》犠牲式場面を中心に」イタリア学会誌 67,2017 年。)
(*)(参考 : Sengoku-Haga,Kyoko,Buseki Sae,Lu Min,Ono Shintaro,Ohishi Takeshi,Masuda Takeshi, and Ikeuchi Katsushi,‘Polykteitos and His Follwers at Work：How the Doryphoros Was Used’(in J.M.Daehner,K.Lapatin,and A.Spinelli(eds.)Artistry in Bronze：The Greek and Their Legacy,XIXth International Congress on Ancient Bronzews,Los Angels,2017.)
(*)(参考：冨原真弓「ポンペイ悠久の時間と諦念の深さを知る」図書815,2017年。)
(*)(参考：吉原努「今月の一冊March 国立国会図書館の蔵書から：アトランティス：大陸より来る」国立国会図書館月報671,2017年。)
(*)藤澤桜子「『米欧回覧実紀』ポンペイ挿絵補遺：ジョルジョ・ゾンマーのステレオ写真」群馬県立女子大学紀要38,2017年。
(*)宇野重規・瀧井一博「明治国家 x 保守主義 対談 伊藤博文はローマで何を見たか(特集 世界史 x 日本史 歴史力で乱世を生き抜く)」中央公論131(4),2017年。)
(*)(参考：渡辺京二『バテレンの世紀—宣教師たちの傲慢とグローバリズム』新潮社,2017年。)
(*)平川祐弘「巨弾連載 昭和の戦後精神史(8)ノーマンの歴史解釈と竹山道雄の歴史解釈」Hanada 12,2017年。)
(*)平川祐弘「講演 小泉八雲と神道の国,日本：ギリシャ的解釈とアイルランド的解釈(第27回国際神道文化研究会 日本・アイルランド外交関係樹立60周年記念講演

小泉八雲のみた神の国,日本)」神園18,2017年。
(*)平山郁夫シルクロード美術館編『平山郁夫シルクロード紀行：ガンダーラ,アフガニスタン,そして文化財保護活動：開館10周年記念特別展』平山郁夫シルクロード美術館,2017年。)
(*)(参考：大村次郷「シルクロード：今に伝わる音楽と祈りの道(特集 シルクロード：交流を復元する)—(シルクロードの現在)」科学87(10),2017年。)
(*)(参考：宮治昭責任編集『ガンダーラ—東西トルキスタン』アジア仏教美術論集1(中央アジア),中央公論美術出版,2017年。)
-----内記理「ガンダーラ彫刻の制作時期について」
田辺理「ガンダーラのグレコ・ローマン系海獣像の仏教的解釈」
小泉恵英「ガンダーラにおける仏陀不表現の図像」
(*)(参考：ナワビ矢麻「GS・衛星画像を用いたガンダーラ仏教寺院の立地に関する基礎的研究—クシャン朝期のハッダ・タキシラを事例として」早稲田大学大学院文学研究科紀要62,2017年。)
(*)(参考：田辺理『ガンダーラの仏教彫刻の来世観とその造形表現・生天思想から極楽思想へ』科研費・特別研究員奨励費,2017→2019年。)
(*)(参考：田辺理『ガンダーラの植物模様の比較美術史的研究---ギリシア・ローマ的モチーフの仏教的受容』科研費・若手研究(B),2017→2019年。)
(*)ジラルデッリ/青木美由紀訳「第68回「トルコの夕べ」開催：明治の建築家伊東忠太のオスマン帝国をゆく」Anatoli News 144,2017年。
(*)(参考：田之頭一知『美と芸術の扉：古代ギリシア,カント,そしてベルグソン』萌書房,2017年。)
(*)(参考：中嶋潤「新旧論争におけるフォントネルとシャルル・ペロー『古代人近代人比較論』」桜花学園大学保育学部研究紀要15,2017年。)
(*)(参考：シュペングラー/村松正俊訳『西洋の没落(1,2)』中公クラシックス,中央公論新社,2017年。)
(*)(参考：小山騰『ケンブリッヂ大学図書館と近代日本研究の歩み：国学から日本学へ』勉誠出版,2017年。)
(*)(参考：小林道憲『文明とは何か：文明の交流と環境』ミネルヴァ書房,2017年。)
(*)(参考：小林道憲『世界史的観点から現代を考察する：二十一世紀への道』ミネルヴァ書房,2017年。)
(*)(参考：シュペングラー/村松正俊訳『西洋の没落(1,2)』中公クラシックス,中央公論新社,2017 年。)
(*)(参考：三枝守隆「偶然と必然を語るときトインビーが語ること：トインビーの比較文明学の哲学的基礎」比較文明33,2017年。)
(*)(参考：吉澤五郎「「黙示録」の旅路と印象：〈巡礼文明論〉の手帖(5)」宗教と文化33,2017年。)
(*)(参考：菅谷文則「シルクロードを支えたソグドと古代奈良(特集 ウズベキスタン考古学調査と加藤九祚)」ユーラシア研究56,2017年。)
(*)(参考：荒木浩,近本謙介,李銘敬編『ひと・もの・知の往来：シルクロードの文化学』アジア遊学208,勉誠出版,2017年。)
(*)神林恒道「『古寺巡礼』再読：和辻哲郎と古都の賛美社者たち(民族芸術学の諸相)」

民族芸術33,2017年。
(*)(参考：小川勝「ホーレ・フェルスのヴィーナス：ドイツ・ドナウ川上流域出土の後期石器時代の小彫像等について」鳴門教育大学研究紀要・鳴門教育大学編32,2017年。)
(*)(参考：小松浩之「〈論文〉“当代のゼウクシス”--「1728年版ルカ・ジョルダーノ伝」におけるベルナルド・デ・ドミニチの批評戦略」ディアファーネス—芸術と思想4,2017年。)
(*)(参考：和田浩一監修『オリンピック大事典=Illustrated book of the Olympic games』金の星社,2017年。)
(*)(参考:『図解看護・医学事典』編集委員会編『図解看護・医学事典』ジェネラリストBOOKS,医学書院,2017年。)
(*)(参考:オフィス宮崎訳/スティーヴ・パーカー監修『医学の歴史大図鑑』河出書房新社,2017年。)
(*)(参考：春日武彦『精神医学事典』私家版,河出書房新社,2017年。)
(*)(参考：和田浩一監修『パラリンピック大事典』金の星社,2017年。)
(*)(参考：和田浩一監修『オリンピック大事典=Illustlated book of the Olympic games』金の星社,2017年。)
(*)(参考：中尾佳行「チョーサーの話法の意味論：『トロイラスとクリセイデ』における話法の多次元構造」(福山大学教育センター)大学教育論叢4,2017年。)
(*)(参考：ZHOU Yue「『トロイルスとクリセイデ』における並列された形容詞について」(福山大学教育センター)大学教育論叢4,2017年。)
(*)(参考：アレクサンダー・モンロー/御舩由美子・加藤晶訳『紙と人との歴史：世界を動かしたメディアの物語』原書房,2017年。)
(*)(参考：アントワーヌ・メイエ/西山教行訳『ヨーロッパの言語』岩波文庫,岩波書店,2017年。)
(*)(参考：ヘルダー/宮谷直実訳『言語起源論』講談社学術文庫,講談社,2017年。)
(*)(参考：小学館辞書編集部編『ギリシャ語練習プリント』小学館,2017年。)
(*)(参考：高橋睦郎『詩人が読む古典ギリシア：和訓欧心』みすず書房,2017年。)
(*)高久[中西]恭子「古典の擁護者 きらめく海に遊ぶ—高橋睦郎「詩人が読む古典ギリシア」」現代詩手帖60(10),2017年。
(*)(参考：中井義明『古典期ギリシアの記憶の場』同志社大学2013年,(科研費)2017年。)
(*)(参考：水谷智洋「古典に見えるギンバイカ」プロピレア23,2017年。)
(*)(参考：生田康夫「皮肉屋?ホメーロス」(明治学院大学言語文化研究所)言語文化34,2017年。)
(*)(参考：橋本資久「エピダウロスのアスクレピオスの治癒碑文」地中海学会月報398,2017年。)
(*)(参考：石原覚「ラテン語deservireの訳語としての古英語begnianについて」愛知県立大学外国語学部紀要,言語・文学編49,2017年。)
(*)(参考：平歩「16世紀の英国におけるラテン語文法教育の一考察—国王認定教科書『リリー文書』を手がかりに」四国大学紀要49,2017年。)
(*)(参考：柿木重宜「近代「言語学」成立事情：言語学者藤岡勝二の役割を中心として」関西外国語大学研究論集105,2017年。)

(*)(参考：高橋健太郎『言葉を武器にする技術：ローマの賢者キケローが教える説得術』文響社,2017年。)
(*)(参考：榎本恵子「『王太子のための古典ラテン文集』に見るプラウトゥスとテレンティウスの価値」首都大学東京人文科学研究科「人文学報・フランス文学」513,2017年。)
(*)(参考：吉川斉「1505年アルドゥス刊行イソップ集におけるラテン語翻訳について：quae ante tralata habebantur,infida admodum erant」東京大学西洋古典学研究室紀要10,2017年。)
(*)(参考：吉田俊一郎『ワレリウス・マクシムス「著名言行録」の修辞学的側面の研究』東海大学出版部,2017年。)
(*)(参考：荻野弘之「レトリックについて：その歴史と構造」哲学科紀要43,2017年。)
(*)(参考：アントワーヌ・メイエ/西山教行訳『ヨーロッパの言語』岩波文庫,岩波書店,2017年。)
(*)(参考：高橋健太郎『言葉を「武器」にする技術：ローマの賢者キケローが教える説得術』文響社,2017年。)
(*)(参考：星野太『崇高の修辞学』月曜社,2017年。)
(*)(参考：本村凌二「「知」の核としての古典--独善や付和雷同を一掃(基本書を読む：宗教・神話・資本論)」エコノミスト95(18),2017年。)
(*)杉山和也「高木敏雄の〈文献学(フィロロギー)〉：近代日本に於ける〈文献学(フィロロギー)〉受容の一側面」日本文学86(2),2017年。
(*)柿木重宜「近代「言語学」成立事情：言語学者藤岡勝二の役割を中心として」関西外国語大学研究論集195,2017年。
(*)滝浦真人・佐藤良明編『異言語との出会い：言語を通して自他を知る』(「翻訳という営み(1)キリシタン版「イソップ」をめぐって」)放送大学大学院教材,人文学プログラム,放送大学教育振興会,2017年。
(*)(参考：成蹊大学文学部学会編/松浦義弘・浜田雄介責任編集『人文学の沃野』(「セイレーンの誘惑—ホメーロスの叙事詩『オデュッセイア』から」)成蹊大学人文叢書13,風間書房,2017年。)
(*)(参考：加藤哲平『ヒエロニムスの「ヘブライ的真理」の研究：その聖書翻訳論と旧約引用理解とを手がかりに』同志社大学,博士(神学),甲第811号,2017年。)
(*)(参考：戸根裕士「『初期三世紀ギリシャ・キリスト教著作家全集』の編集に対するアドルフ・ハルナックの影響について」基督教研究79(1),2017年。)
(*)(参考：「書評 G.スコット・グリーヴス著『イエスはギリシャ語を話すことができたか? 一世紀のパレスティナ地方におけるギリシャ語の優越性を明らかにする証拠』デニス・R.マクドナルド著『ルカとウェルギリウス：ギリシャ古典文学の模倣』ビョング・ソー・セオ著『ルカが描くローマ帝国におけるルカのイエス像とルカ福音書の中の皇帝』」キリスト教文化研究所紀要36,2017年。)
(*)(参考：アンガス・フレッチャー/伊藤哲訳『アレゴリー：ある象徴的モードの理論』(「ダイモン的仲介者」)高山宏セレクション「異貌の人文学」,白水社,2017年。)
(*)(参考：土屋靖明「トマス=ヒューズ『トム・ブラウンの学校生活』(1857年)にみる英国パブリックスクールにおける西洋古典教育の様相について—トマス=

アーノルド校長の姿勢にも着目して」(滋賀短期大学)研究紀要40,2017年。)
(*)中島淑恵「ラフカディオ・ハーン旧蔵書『ギリシア詞華集』仏訳版の書き込みについて：昆虫譚と幽霊妻をめぐって」富山大学人文学部紀要66,2017年。
(*)渡邉顕彦「日本と西洋古典についての覚書(1)：「受容」という視点」東京大学西洋古典学研究室紀要10,2017年。
(*)(参考：堀川宏「古典語教育の可能性」(藤本夕衣・古川雄嗣・渡邊浩一編『反・「大学改革論」--若手からの問題提起』所収,ナカニシヤ出版,2017年。)
(*)(参考：綾井桜子『教養の揺らぎとフランス近代：知の教育をめぐる思想』教育思想双書2-2,勁草書房,2017年。)
(*)(参考：コンラート・パウル・リースマン/齋藤茂夫・齋藤直樹訳『反教養の理念：大学改革の錯誤』叢書ウニベルシタス1061,法政大学出版局,2017年。)
(*)(参考：Patrick SCHWEMMER「ヴァチカン図書館蔵バレト写本の福音書朗読集と幸若舞(秋例会シンポジウム報告 幸若舞曲研究の新地平)」軍記と語り物53,2017年。)
(*)西井奨「内田次信教授を送る」フィロカリア34,2017年。
(*)「「知的生活の方法」渡部昇さん死去」NHKニュース4/18,2017年。
(*)「渡部昇一氏が死去 英語学者 保守派の評論家」日本経済新聞4/18,2017年。
(*)「保守論客の渡部昇一さん死去 「知的生活の方法」」朝日デジタル4/18,2017年。
(*)「渡部昇一さん死去 保守派の論客 田母神俊雄さんがわが師と尊敬」朝日デジタル4/18,2017年。)
(*)「渡部昇一さん死去」朝日デジタル4/19,2017年。
(*)松崎之貞『評伝 渡部昇一：「知の巨人」の人間学』ビジネス社,2017年。
(*)渡部昇一「渡部昇一先生の個人図書館(1)蔵書のはじまり」書物学10,2017年。
(*)佐高信「佐高信の斬人馬剣(23)郷里の恥,渡部昇一の薄学」Verdad 23(6),2017年。
(*)加瀬英明「渡部昇一先生を野辺へ送って」月刊カレント54(6),2017年。
(*)中山理「先生との知的生活を偲んで(渡部昇一追悼特集)」正論548,2017年。
(*)高宮利行「知の巨人,渡部昇一氏逝去：書物人としての教授を偲んで」書物学11,2017年。
(*)中西輝政「渡部昇一先生を偲ぶ：昭和と平成の論壇をリードした「知の巨人」の強靱さ」Voice 475,2017年。
(*)(参考：大江篤「【コメント】日本古代の「神」認識と卜占」西洋古代史研究17,2017年。)
(*)(参考：Athanasios FESTATHOU「Religious Crisis in the Greek Mainland during the Fourth Century B.C. : The Third Sacred War ,Diplomatic Intiatives,Propaganda and Final Settelment」地中海論集23,2017年。)
(*)杉山和也「南方熊楠と高木敏雄の説話学：その特徴と可能性」熊楠研究11,2017年。
(*)(参考：滝澤克彦・芝山豊編『聖書翻訳を通して見るモンゴル：東北アジア宗教文化交流史の文脈から』東北アジア研究センター叢書62,東北大学東北アジア研究センター,2017年。)
(*)(参考：大城道則/伊藤由希子『死者はどこへいくのか：死をめぐる人類5000年の歴史』河出ブックス102,河出書房新社,2017年。)
(*)(参考：山口博「ユーラシア北方文化の中の日本神話(14)八岐大蛇退治神話のルーツをギリシア神話にみる：匈奴所有の銀盤画像から」聖徳大学言語文化研究

所論叢25,2017年。)
(*)(参考：フェルディナン・ド・ソシュール著/金澤忠信訳『伝説・神話研究』古典転生14,月曜社,2017年。)
(*)(参考:月本昭男編『宗教の誕生:宗教の起源・古代の宗教』宗教の世界史1,山川出版社,2017年。)
(*)(参考：松村一男「伝統的言語文化教育における比較神話学からの貢献の可能性」和光大学表現学部紀要18,2017年。)
(*)(参考：小柳敦史「キリスト教と「運命」：プロテスタント神学における『西洋の没落』の残響」宗教研究91(3),2017年。)
(*)(参考：石神豊「トインビー人間学的宗教観」東洋哲学研究所紀要33,2017年。)
(*)(参考:川窪啓資「トインビーと宗教(特集 接続可能な未来と宗教:連続公開講演会より)」東洋学術研究56(1),2017年。)
(*)(参考:浅沼光樹「〈翻訳〉F.W.シェリング「神話の哲学への序論--第23講義」Prolegomena:西洋近世哲学史研究室紀要8(1),2017年。)
(*)(参考：橋元崇「マルクス・ガブリエルの新しい神話学」思想1119,2017年。)
(*)(参考：小林信行「観念論と実在論の双曲線：Fr.シュレーゲル：神話論再考(小林信行教授退職記念号9)人文科学論集63,2017年。)
(*)(参考:酒井健「神話表現論の系譜:ニーチェ,バタイユ,ナンシー」言語と文化14,2017年。)
(*)(参考：ウィリアム・マガイアー/高山宏訳『ボーリンゲン：過去を集める冒険』(ケレーニイ、エリアーデ)高山宏セレクション「異貌の人文学」,白水社,2017年。)
(*)(参考:長谷川敬「南フランス田舎町に残るキュペレ信仰の痕跡—レクトゥール出土タウロポリウム碑文より」地中海学会月報402,2017年。)
(*)(参考：鍛冶哲郎「エルンスト・カッシーラの「表情」概念と文学・芸術の理論—神話的世界の残存をめぐって」鎌倉女子大学学術研究所報17,2017年。)
(*)(参考:藤村シシン「ギリシャ神話 イリアス:欧州文明の曙光誇る最古典(基本書を読む:宗教,神話,資本論)」エコノミスト95(18),2017年。)
(*)(参考：大橋絵理「入浴と神話：古代ギリシャ文学を中心に」長崎大学言語教育センター論集5,2017年。)
(*)(参考：小池寿子責任編集『宗教画：聖なるものへの祈り』Art gallery：テーマで見る世界の名画,集英社,2017年。)
(*)(参考：青柳正規・渡辺晋輔責任編集『ヴィーナス：豊饒なる愛と美の女神』Art gallery：テーマで見る世界の名画,集英社,2017年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「ヴィーナスの表象の変容,付加,消滅—帝政期ローマからルネサンスへ」人文研究193,2017年。)
(*)(参考：李軍「評論「ミロのヴィーナス」指導における絵本の活用(特集 国語教育)」解釈63(5・6),2017年。)
(*)(参考：越智貴雄「切断ヴィーナス」月刊保団連1230,2017年。)
(*)(参考：篠崎亮「パワフルな女と愚かな男たち：ヤン・ホッサールトの《ウェーヌスのクピド》をめぐる一考察」美術史学38,2017年。)
(*)(参考:藤村シシン「ギリシャ神話イリアス:欧州文明の暁光誇る最古典(基本書を読む:宗教,神話,資本論)」エコノミスト95(18),2017年。)

(*)(参考：細井敦子「セイレーンの誘惑―ホメーロスの叙事詩『オデュッセイア』から」(大学文学部学会編『人文学の沃野』[成蹊大学人文叢書13]所収,風間書房,2017年。)
(*)(参考：三浦要「無神論と有神論のはざまで：ソクラテス以前哲学における「神論」の特質をめぐって」哲学・人間学論争3,2017年。)
(*)(参考：馬越洋平「太陽の子アナトール--「太陽神話」としての『アナトールの墓』」早稲田大学大学院文学研究科紀要62,2017年。)
(*)(参考：バルバラ・グラツィオーン/西村賀子監訳・西塔由貴子訳『オリュンポスの神々の歴史』白水社,2017年。)
(*)(参考：杉全美帆子『イラストで読むギリシア神話の神々』河出書房新社,2017年。)
(*)(参考：西森マリー『ギリシア・ローマ神話を知れば英語はもっと上達する』Power English,講談社,2017年。)
(*)(参考：三浦要「無神論と有神論のはざまで：ソクラテス以前哲学における「神論」の特質をめぐって」哲学・人間学論集8,2017年。)
(*)(参考：中村満郎「ホラーティウス『カルミナ』第3巻第4歌における詩人と詩の女神」神話学研究1,2017年。)
(*)(参考：上月翔太「ヴィーダ『キリスト物語』におけるピーラートゥス・エピソード：宗教的相克の物語として」神話学研究1,2017年。)
(*)(参考：勝又泰洋「ピロストラトス『テュアナのアッポローニオス』における語り手の物語介入について」神話学研究1,2017年。)
(*)(参考：別府陽子「トーマス・マンの「基本動機」：ギリシア・ローマ神話および『悲劇の誕生』受容の観点から」神話学研究1,2017年。)
(*)(参考：フェルディナンド・ド・ソシュール/金澤忠信訳『伝説・神話研究』(「身体の始原空,語の場―愛の幻惑をめぐるルクレティーウスの11詩行」)古典転生13,月曜社,2017年。)
(*)(参考：行澤一人「キリスト教の本質を求めて：ヘブライズム・ヘレニズムの相克というテーマ設定はどこまで有効か(1)はじめに」舟の右側48,2017年。)
(*)(参考：マルクス・ハンス・ユーゲン「三章論争へのプレリュード：エフェソス公会議後の新たな抗争の第一期」南山神学40,2017年。)
(*)(参考：秦剛平訳『七十人訳ギリシア語聖書 モーセ五書』講談社学術文庫,2017年。)
(*)(参考：秦剛平訳『七十人訳ギリシア語聖書 十二小予言書』青土社,2017年。)
(*)(参考：秦剛平訳『七十人訳ギリシア語聖書 エゼキエル書』青土社,2017年。)
(*)(参考：秦剛平訳『七十人訳ギリシア語聖書 エレミア書』青土社,2017年。)
(*)(参考：H.J.クラウク/小河陽監訳/吉田忍・山野貴彦訳『初期キリスト教の宗教的背景(上)―古代ギリシア・ローマの宗教世界』日本キリスト教団出版局,2017年。)
(*)(参考：筒井賢治「マルキオン聖書再考―異端反駁文書に書かれないこと」福音と世界72(3),2017年。)
(*)(参考：塚本惠「「ローマの信徒への手紙」に関する様々な解釈と論争について」基督教論集60,2017年。)
(*)(参考：須藤英幸「〈論文〉オリゲネス『ローマ書注解』における自由意志と心の刷新」キリスト教学研究室紀要5,2017年。)

(*)(参考：ヤコブ ライチャーニ「神と人間との協力の可能性について：ローマ書8章16節のSymmartyreoとロマーノ・グァルディーニのmit wirkenを手掛かりに」日本カトリック神学会誌28,2017年。)
(*)本田逸夫「山室軍平の「権威」観―そのローマ書十三章論などについて」政治研究64,2017年。)
(*)(参考：川島重成『福音とヒューマニズム』キリスト教図書出版,2017年。)
(*)(参考：辻邦生『背教者ユリアヌス(4巻)』中公文庫,中央公論新社,2017年。)
(*)(参考：アンミアヌス・マルケリヌス/山沢孝至訳『ローマ帝政の歴史I--ユリアヌス登場』西洋古典叢書,京都大学学術出版会,2017年。)
(*)(参考：添谷育志『背教者の肖像：ローマ皇帝ユリアヌスをめぐる言説の探究』ナカニシヤ出版,2017年。)
(*)(参考：中西恭子「「長い古代末期」の宗教史を書く 諸宗教の変容とローマ帝国の遺産」宗教研究90(別冊),2017年。)
(*)(参考：出村みや子「アウグスティヌスの原罪論におけるオリゲネスの聖書解釈の影響―『罪の報いと赦い』を中心に」人文学と神学12,2017年。)
(*)(参考：アレクサンドリアのクレメンス/秋山学訳『ストロマティス(綴織)』キリスト教教父著作集4/1,教文館,2017年。)
(*)(参考：山田庄太郎「初期キリスト教における「笑い」--ヘレニズム哲学とキリスト教」エイコーン：東方キリスト教研究47,2017年。)
(*)(参考：トマス・ア・ケンピス原著/山内清海訳『キリストを生きる』文芸社,2017年。)
(*)(参考：戸田聡「A Memorandum for the Synopic problem」北海道大学文学研究科紀要152,2017年。)
(*)(参考：オイゲン・エーヴィヒ/瀬原義生訳『カロリング帝国とキリスト教会』文理閣,2017年。)
(*)(参考：岸田菜摘「部会発表要旨 西洋史部会 九世紀のビザンツ教会人から見たローマ教会(2016年度早稲田大学史学会大会報告)」史観176,2017年。)
(*)(参考：上月翔太「ヴィーダ『キリスト物語』におけるピーラートゥス・エピソード：宗教的相克の物語として」神話学研究1,2017年。)
(*)(参考：小柳敦史「キリスト教と「運命」--プロテスタント神学における『西洋の没落』の影響」宗教研究91(3),2017年。)
(*)(参考：W.イェーガー/村島義彦訳「パイデイア：ポリス的教養と汎ギリシア的理想」池坊短期大学紀要38,2017年。)
(*)(参考：角田幸彦「哲学することとホメロス--『イリアス』のアキレウスの怒りをめぐる哲学的考察」明治大学教養論集521,2016年。)
(*)(参考：小坂国継『鑑のなかのギリシア哲学』Minernva21世紀ライブラリー93,ミネルヴァ書房,2017年。)
(*)(参考：左近司祥子『初級者のためのギリシャ哲学の読み方・考え方』だいわ文庫,大和書房,2017年。)
(*)(参考：納富信留「ギリシア哲学史の可能性：複眼的哲学史を書く試み(文化交流茶話会トーク)」文化交流研究：東京大学文学部次世代人文学開発センター紀要30,2017年。)
(*)(参考：納富信留「始まりを問う哲学史：複眼的ギリシア哲学史への試み(シンポジウム

哲学史研究の哲学史的意味とはなにか?)」哲学68,2017年。)
(*)(参考：納富信留「美を観照すること,あるいは,魂の出産(総特集 知のトップランナー50人の美しいセオリー)」現代思想45(5),2017年。)
(*)(参考 : 金澤修「アイハヌム出土パピルス断片における「不動なる第一の原因」について：ギリシア哲学のマージナル」西洋古典學研究65,2017年。)
(*)(参考：山川偉也『ゼノン4つの定理—アキレスはなぜ亀に追いつけないか』講談社学術文庫,講談社,2017年。)
(*)(参考：八木雄二『裸のソクラテス—哲学の祖の実像を追う』春秋社,2017年。)
(*)(参考：堀江剛『ソクラティック・ダイアローグ：対話の哲学に向けて』シリーズ臨床哲学4,大阪大学出版会,2017年。)
(*)(参考：飯田隆『新哲学対話：ソクラテスならどう考える?』筑摩書房,2017年。)
(*)(参考：井本和範「ビブリオ・トーク—私のオススメ：世界天才紀行 ソクラテスからスティーヴ・ジョブズまで」情報処理58(10),2017年。)
(*)(参考：安部日珠沙「ソクラテス「産婆術」に対する一考察」日本教育学会大會研究発表要項75,2017年。)
(*)(参考：田畑稔「「生活の吟味」としての哲学：『ソクラテスの弁明』を読む(特集 哲学入門講義コレクション)」季報唯物論哲学140,2017年。)
(*)(参考：寺下明「教育の原理としての「対話」について」教職研究2016,2017年。)
(*)(参考：竹内久顕「「アクティブ・ラーニングの視点」に立つ多様な教育方法」東京女子大学紀要論集67(2),2017年。)
(*)(参考：野津悌「「矛盾」なき生の意味すること：弁論術,ソクラテス,プラトン(原田覺教授 塩谷政憲教授退職記念)—(シンポジウム『矛盾』を生きる? : 古代ギリシャ,日本,インド：提題)」国士舘哲学21,2017年。)
(*)(参考：早瀬篤「ソクラテスは諸事例にもとづいて定義を獲得すべきだと考えるか?」哲学研究601,2017年。)
(*)(参考：田畑稔「「生活の吟味」としての哲学：『ソクラテスの弁明』を読む(特集 哲学入門講座コレクション)」季刊由物論研究140,2017年。)
(*)(参考 : 古山正人「シュンポシオンと女性 : 近年の研究動向管見」國學院雑誌118(10),2017年。)
(*)(参考：井本和範「ビブリオ・トーク—私のオススメ：世界天才紀行：ソクラテスからスティーブ・ジョブズまで」情報処理58(10),2017年。)
(*)(参考：太田明「レオナルド・ネルソンの「ソクラテス的方法」と知識の問題」日本教育学会大會研究発表要旨75(1),2017年。)
(*)(参考 : 宮崎文典「書評 公私の混同/二分法/調和 : 栗原裕次『プラトンの公と私論概観』」ペディラヴィウム72,2017年。)
(*)(参考：篠澤和久『アリストテレスの時間論』東北大学,博士(文学),乙第9343号,2017年。)
(*)(参考 : 佐良土茂樹『アリストテレス倫理学における「誇り高さ」と「外的な善」の研究』上智大学,博士(哲学),32621甲第531号,2017年。)
(*)(参考：君嶋泰明『初期ハイデガーと哲学史：『存在と時間』への道』(アリストテレス)京都大学,博士(文学),甲第20119号,2017年。)
(*)(参考：安田将訳「アプロディシアスのアレクサンドロス『混合について(De mixtione)』『混和と増大について(Περι χρασεως και αυξησεως)』第1-6章訳注」西洋

古典研究会論集26,2017年。)
(*)(参考 : 三上章「エピクロス哲学に対するエウスビオスの「肯定的」反応について」人文・社会科学論集34,2017年。)
(*)(参考 : エピクテトス/鹿野治助訳『語録 ; 要録』中公クラシックス,中央公論新社,2017年。)
(*)(参考 : 近藤智彦「提題 運と幸福 : ストア派・アンティオコス・キケロ(日本倫理学会第67回大会 主題別討議報告)—(倫理学における運の役割)」倫理学年報66,2017年。)
(*)(参考 : 近藤智彦「運と幸福 : 古代と現代の交錯(特集 運・倫理・政治)」社会と倫理32,2017年。)
(*)(参考 : 平田公威「『意味の論理学』における「表象」と「出来事」の理論」(大阪大学大学院人間科学研究科 社会学・人間学・人類学研究室)年報人間科学38,2017年。)
(*)(参考 : 福田喜一郎「ストア派のゼノンとデカルトにおける同意識の構造」比較思想研究44,2017年。)
(*)(参考 : エティエンヌ・ジルソン,フィロテウス・ベーナー著/服部英次郎・藤本雄三訳『アウグルティヌスとトマス・アクィナス』新装版,みすず書房,2017年。)
(*)(参考 : 文禎顥「『ソリロクィア』における魂の不可死論証の不明瞭さについて」(アウグスティヌス)名古屋学院大学論集,ジンブン・自然科学篇53(2),2017年。)
(*)(参考 : エリザベス・ソーソン/山川仁訳「ケンブリッジ・プラトン主義者と理性の概念(冨田恭彦教授退職記念号)」人間存在論23,2017年。)
(*)(参考 : 南郷継正『哲学・論理学原論新世紀編—ヘーゲル哲学 学形成の認識論的論理学』現代社,2017年。)
(*)(参考 : 小林道憲『ヘーゲル哲学を研究する : 付・断片集,句歌集,評論』ミネルヴァ書房,2017年。)
(*)(参考 : 馬場朗「Sanabilibus aegrotamus malis : ルソー『エミール』のストア主義を巡る一視座(1,2,3)」東京女子大学紀要68(1),2017年/68(2),2018年/69(2),2019年。)
(*)(参考 : 八木雄二『カントが中世から学んだ「直観認識」 : スコトゥスの「想起説」読解』知泉書院,2017年。)
(*)(参考 : 君嶋泰明『初期ハイデガーと哲学史 : 『存在と時間』への道』京都大学,博士(文学),甲第 20119 号,2017 年。)
(*)(参考 : 掛川富康「フマニスムとドイツ・ロマニスティーク : 根源的なものへの回帰と異質なものとの遭遇 ロマニストE.Auerbachの業績を中心に」茨城キリスト教大学紀要1,2017年。)
(*)(参考 : ロマン・ギャリ/須藤哲生訳『ペルーの島 ; 死出の旅』(「ある人文主義者[ユマニスト]」)水声社,2017年。)
(*)(参考 : ヒルティ/秋山英夫訳『幸福論』角川文庫,KADOKAWA,2017年。)
(*)(参考 : 岸見一郎『幸福の条件 : アドラー×古代ギリシアの智慧』講談社現代新書,講談社,2017年。)
(*)(参考 : 岸見一郎『幸福の哲学 : アドラーとギリシア哲学』角川ソフィア文庫,KADOKAWA,2017年.)
(*)夏目金之助『小品』(「ケーベル先生」「ケーベル先生の告別」)定本漱石全集12,岩波書店,2017年。

(*)東野治之「ワーグナー受容事始：ケーベルと姉崎正治」ワーグナーシュンポジオン,東海大学出版会,2017年。
(*)若松英輔・安藤礼二責任編集『井筒俊彦：言語の根源と哲学の発生』増補版,河出書房新社,2017年。)
(*)「神崎繁教授 履歴・業績(石黒吉次郎教授,大庭健教授,菊地健三教授,荒木敏夫教授,鐘ヶ江晴彦教授退職記念号・神崎繁教授追悼号)」専修人文論集100,2017年。)
(*)「追悼の辞(石黒吉次郎教授,大庭健教授,菊地健三教授,荒木敏夫教授,鐘ヶ江晴彦教授退職記念号・神崎繁教授追悼号)」専修人文論集100,2017年。)
(*)(参考：小堀桂一郎『和辻哲郎と昭和の悲劇：伝統精神の破壊に立ちはだかった知の巨人』PHP新書,PHP研究所,2017年。)
(*)鷲巣力「林達夫への精神史的逍遙(5)生い立ちの記(4)第一高等学校休学から中退へ」イタリア図書56,2017年。
(*)鷲巣力「林達夫への精神史的逍遙(6)生い立ちの記(5)京都帝国大学に学ぶ」イタリア図書57,2017年。
(*)渡邉雅弘「三瀬諸淵の「失われた」ソクラテス論の迷宮・私論(1,2)—刑死と不知と「無知の知」文献史からの攷究」(愛知教育大学地域社会システム講座)社会科学論集53,2017年/54,2018年。)
(*)(参考：勝又泰洋「ピロストラトス『ディアナのアッポローニオス』における語り手の物語介入について」神話学研究1,2017年。)
(*)(参考：竹下哲文「『農耕詩』から『アストロノミカ』へ：マーミーリウスの「矛盾」と詩的伝統」神話学研究1,2017年。)
(*)(参考：村山いくみ「『寓意オウィディウス』におけるトロイア戦争の叙述と解釈：「ヘクトルの死」をめぐって」(フェリス女学院大学国交流学部紀要委員会)国際交流研究：国際交流学部紀要19,2017年。)
(*)(参考：星野倫「ダンテにおける《太陽と月の比喩》」地中海学研究40,2017年。)
(*)(参考：河野雄一『エラスムスの思想世界：可謬性・規律・改善可能性』知泉書館,2017年。)
(*)(参考：木ノ脇悦郎『宗教改革の人間群像：エラスムスの往復書簡から』新教出版社,2017年。)
(*)(参考：河野雄一「エラスムス『ヒュペラスピステス』における功績概念」中世思想研究59,2017年。)
(*)(参考：柳沼正弘「若きエラスムスとルネサンス・ヒューマニズム」創価大学人文論集29,2017年。)
(*)(参考：久保田義弘「エラスムスの『エンキリディオン』と彼の人間観ならびにその社会観：知識人の人間観ならびに社会観(1)」札幌学院大学経済論集12,2017年。)
(*)(参考：山崎有介「ウィリアム・ブレイクにおける「煉獄」：Contraryの概念を通してダンテの『神曲』を読む」長崎ウエスレヤン大学現代社会学部紀要15(1),2017年。)
(*)(参考：高橋雄四郎『遙かなる旅路：キーツ・エッセイ・漢詩』音羽書房鶴見書店,2017年。)
(*)(参考：池田景子「P.B.シェリーの『詩の弁護』におけるヒエログリフの比喩：エラズマ

ス・ダーウィンから引き継いだ伝統」イギリスロマン派研究41,2017年。)
(*)(参考：十枝内康隆「ダンディとしてのウォルター・ペイター：序説」北海道教育大学紀要/人文科学・社会科学編67(2),2017年。)
(*)(参考：木村和美「内なる王国・静寂のアルカディア：G.F.ケルスティングの室内画の世界」芸術：大阪芸術大学紀要40,2017年。)
(*)(参考：ジャン・ルメール・ド・ベルジュ/八木淳訳「オイノネーの嘆き：ジャン・ルメール・ド・ベルジュの《パリスの審判》について：『ガリアの顕揚とトロイアの偉傑』第2巻,第13章の翻訳と注釈」L'Arche 27,2017年。)
(*)(参考：ジャン=ポール・オノレ/友谷知己訳「ラ・フォンテーヌ「狼と仔羊」における権力,暴力,レトリック」仏語仏文学43,2017年。)
(*)(参考:Martin RODAN「Camus et l'antiquite:Une source tourjours vivarte」カミュ研究13,2017年。)
(*)(参考：大木清香「Idylische Extreme：Interpretation von Josef Wukelers römische Novelle Natura morta」GR:同志社大学グローバル地域文化学会紀要9,2017年。)
(*)(参考：仲正昌樹『教養としてのゲーテ入門：「ウェルテルの悩み」から「ファウスト」まで』新潮選書,新潮社,2017年。)
(*)(参考:杉本和士「法学者の本棚:エッカーマン ゲーテとの対話(上中下):遠き彼方からのゲーテの言葉」法学セミナー62(9),2017年。)
(*)(参考：平野篤司「受容の創造性あるいはエッカーマンの『ゲーテとの対話』」聖心女子大学論集129,2017年。)
(*)(参考：平野篤司「ゲーテの宇宙あるいは普遍性」成城法学 教養論集27,2017年。)
(*)(参考：山川淳生「ゲーテと占星術,想像力とポエジー」エウローペー24,2017年。)
(*)(参考：一條正雄「書評 ゲーテの『ファウスト』のメッセージをどう読み取るか：中野和朗著『史上最高に面白いファウスト』」世界文学125,2017年。)
(*)(参考：高藤大樹「「世界文学」理念か「像(イメージ)の連鎖」か:ヘーゲルの『西東詩集』受容についての一考察」美学芸術学33,2017年。)
(*)(参考:清水翔太「継起と並列:レッシング『ラオコーン』再考」東北ドイツ文学研究58,2017年。)
(*)(参考:胡屋武志「ドイツロマン主義における異文化理解の方法—初期フリードリヒ・シュレーゲルが構想する古代模倣について」宮崎大学教育学部紀要人文科学89,2017年。)
(*)(参考：フリードリヒ・フォン・シラー/高畑時子訳「翻訳 フリードリヒ・フォン・シラー著『トロヤ陥落(2)』ウェリギリウス『アエネーイス』第二歌の八行詩訳」近畿大学工業高等専門学校研究紀要11,2017年。)
(*)(参考:酒井健「神話表現論の系譜:ニーチェ,バタイユ,ナンシー」言語と文化14,2017年。)
(*)(参考：松橋直方「幽居夜話(17)日本「神話」とニーチェ・禁煙と戦争」道の友787,平成29年。)
(*)(参考：高藤大樹「「世界文学」理念か「像(イメージ)の連鎖」か:ヘーゲルの『西東詩集』受容についての一考察」美学芸術学33,2017年。)
(*)(参考：加藤紫苑「〈講義〉詩と哲学—ノヴァーリスと産出的構想力」Prolegomena：西洋近世哲学史研究室紀要8(1),2017年。)
(*)(参考：別府陽子「トーマス・マンの「基本動機」：ギリシア・ローマ神話および『悲劇

の誕生』受容の観点から」神話学研究1,2017年。)
(*)(参考：高橋陸郎『詩人が読む古典ギリシア：和訓欧心』みすず書房,2017年。)
(*)(参考：山形治江「ギリシャでギリシャ劇」をみる：経済破綻が古代劇上演に与えた影響(特集 今は冬,気になる評論[第3弾])」テアトロ926,2017年。)
(*)(参考：小川正廣「ホメーロスの叙事詩の評価をめぐって—古代から現代までの受容の問題」(中央大学人文科学研究所編『続 英雄詩とは何か』所収,中央大学出版部,2017年。)
(*)(参考：松田紹典著/村上真完・阿部秀男編『仏教者が読む古典ギリシアの文学と神話—松田紹典論集』国書刊行会,2017年。)
(*)(参考：高橋秀樹「平曲における「揃物/カタロゴス」：古代ギリシアの叙事詩との比較から(プロジェクト 特集号)—(〈声〉とテクスト論)」人文科科学研究140,2017年。)
(*)(参考：山形直子「ホメーロスと『平家物語』における生死の選択—英雄美女が死を選ぶ時」西洋古典學研究65,2017年。)
(*)(参考：佐野好則「『オデュッセイア』と『アルゴナウティカ』におけるセイレーン・エピソード」ペディラヴィウム72,2017年。)
(*)(参考：角田幸彦「ホメロス作品世界の精神史的考察：新稿」明治大学教養論集531,2017年。)
(*)(参考：堀川宏「ヒッポリュトスの「有罪性」：彼に罪はあるか?」神話学研究1,2017年。)
(*)(参考：勝又泰洋「ピロストラトス『テュアナのアッポローニオス』における語り手の物語介入について」神話学研究1,2017年。)
(*)(参考：上月翔太「ヴィーダ『キリスト物語』におけるピーラートゥス・エピソード：宗教的相克の物語として」神話学研究1,2017年。)
(*)(参考：竹下哲文「『農耕詩』から『アストロノミカ』へ：マーニリウスの「矛盾」と詩的伝統」神話学研究1,2017年。)
(*)(参考：村山いくみ「『寓意オウィディウス』におけるトロイア戦争の叙述と解釈：「ヘクトルの死」をめぐって」(フェリス女学院大学国際交流学部紀要委員会)国際交流研究：国際交流学部紀要19,2017年。)
(*)(参考：内田次信「ウェルギリウス『農耕詩』第4歌における二箇所のブーゴニア談：蜜蜂の奇跡的再生と変身の神話」神話学研究1,2017年。)
(*)(参考：中村満郎「ホラーティウス『カルミナ』第3巻第4歌における詩人と詩の女神」神話学研究1,2017年。)
(*)(参考：戸田聡「ビザンツ文学余滴(番外編)—アルキダマス「文字で記された言論を書く人々について,或いはソフィストについて」プロピレア23,2017年。)
(*)(参考：柘植久慶『世界全世界戦争史』PHP研究所,2017年。)
(*)(参考：Hasegawa Takeo,‘The Causes of Greek Decline Revised：How should We Consider Them in the 21st Century’(in Minamikawa Takashi(ed.),Decline and Decline-Narratives in the Greek and Roman World：Proceedings of Conference Held at the University of Oxford in March ,Kyoto,2017.)
(*)(参考：Kishimoto Kota,‘Decline behind the Rise of Rome：Decline-Narrative of the Achaean koinon’(in Minamikawa Takashi(ed.),Decline and Decline-Narratives in the Greek and Roman World：Proceedings OF Conference Held at the

University of Oxford in March ,Kyoto,2017.)
(*)(参考：Nishimura Masahiro,‘The Absence of ‘Decline’in Late Roman Discourse’(in Minamikawa Takashi(ed.),Decline and Decline-Narratives in the Greek and Roman World : Proceedings OF Conference Held at the University of Oxford in March ,Kyoto,2017.)
(*)(参考 : Inoue Fuminori,‘A Historiographical Study of the Fall of the Western Roman Empir and the Chinese Empire (Hna.Wei and Jin)’(in Minamikawa Takashi(ed.), Decline and Decline-Narratives in the Greek and Roman World： Proceedings OF Conference Held at the University of Oxford in March, Kyoto,2017.)
(*)(参考：高橋秀樹「三つの没落史観：『労働と日』,古代エジプト第一中間期文芸,『平家物語』」新潟史学75,2017年。)
(*)(参考： ジャン・ジロドゥ作/岩切正一郎訳『トロイ戦争は起こらない』ハヤカワ演劇文庫41,早川書房,2017年。)
(*)(参考： ジャン・ジロドゥ作/岩切正一郎翻訳・栗山民也演出・開場20年周年記念公演：2017/2018 season；平成29年度新国立劇場財団営業部編『トロイ戦争は起こらない』新国立劇場運営財団,2017年。)
(*)鈴木亮平「インタビュー 言葉の裏に隠されているものを掘り起こす:『トロイ戦争は起こらない』への挑戦」悲劇喜劇70(6),2017年。
(*)(参考：上野慎也「読書案内 古代ギリシアの歴史叙述を読む」歴史と地理701,2017年。)
(*)(参考：森谷公俊「古代ギリシアはペルシア帝国に操られていた」文藝春秋special 11(2),2017年．)
(*)(参考 : 桜井万里子・木村凌二『集中講義 : ギリシア・ローマ』ちくま新書,筑摩書房,2017年。)
(*)(参考：塩野七生『民主政の成熟と崩壊』ギリシア人の物語2,新潮社,2017年。
(*)塩野七生「塩野七生『ギリシア人の物語II』刊行!「トランプ時代」の日本の進路(前編)」週刊新潮62(14),2017年。
(*)塩野七生「塩野七生『ギリシア人の物語II』刊行!(後編)もし歴史に「イフ」があったら」週刊新潮62(15),2017年。)
(*)(参考：塩野七生『新しき力』ギリシア人の物語3,新潮社,2017年。)
(*)(参考：塩野七生・伊藤幸人「『ギリシア人の物語III 新しき力』刊行記念特集 インタビュー(前編)私は二千五百年を生きた」波52(1),2017年。)
(*)佐高信「佐高信の斬人斬馬剣(29)オメデタイ作家,塩野七生」Verdad 23(12),2017年。)
(*)(参考：森谷公俊「ペルシア戦争 紀元前490-479年 古代ギリシアはペルシア帝国に操られていた(教科書では教えない入門新世界史)—(教科書に載っていない世界史14)」西洋史学論集54,2017年。)
(*)(参考：森谷公俊『アレクサンドロス大王：東征路の謎を解く』河出書房新社,2017年。)
(*)(参考：森谷公俊『王宮炎上：アレクサンドロス大王とペルセポリス』オンデンマンド版歴史文化ライブラリー88,吉川弘文館,2017年。)
(*)(参考：大牟田章『アレクサンドロス大王：「世界」をめざした巨大な情念』新訂版新・人と歴史拡大版9,清水書院,2017年。)
(*)(参考：プルタルコス/森谷公俊訳『新訳アレクサンドロス大王伝：『プルタルコス英雄伝』より』河出書房新社,2017年。)

(*)(参考：坂本翼「ローマ帝国とノバディア王国：その関係性をめぐる編年学的研究」西アジア考古学18,2017年。)
(*)(参考：長谷川博隆『地中海世界の覇権をかけてハンニバル』新訂版・人と歴史拡大版13,清水書院,2017年。)
(*)(参考：マルクス・シドニウス・ファルクス,J.トナー/北綾子訳『ローマ貴族9つの習慣』太田出版,2017年。)
(*)(参考：キャサリーン M.コールマン/福山祐子訳「古代ローマにおける剣闘士競技と野獣競技—近年の発見と研究動向」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論叢39,2017年。)
(*)(参考：クルト A.ラーフラウプ/高橋亮介訳「講演 ユリウス カエサル：軍を率いた歴史家」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論叢39,2017年。)
(*)(参考：長谷川高生「古代の危機—ローマ衰退に関するオルテガの見解」神戸医療福祉大学紀要18(1),2017年。)
(*)(参考：松本宣郎『ガリラヤからローマへ：地中海世界をかえたキリスト教徒』講談社学術文庫,講談社,2017年。)
(*)(参考：福嶋裕子「古代ローマの奴隷制とコリントの信徒への手紙(西谷幸介先生退職記念号)」青山史学35,2017年。)
(*)(参考：キャサリン .コールマン.M/福山佑子訳「講演 古代ローマにおける剣闘士競技と野獣競技：近年の発見と研究動向」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論叢39,2017年。)
(*)(参考：ラーフラウプ クルト・A./高橋亮介訳「講演 ユリウス・カエサル：軍を率いた歴史家」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論叢39,2017年。)
(*)(参考：足立広明「古代末期とは何か?：現時点でその研究状況をふりかえる」関学西洋史論集40,2017年。)
(*)(参考：福山佑子『帝政前期ローマにおけるダムナティオ・メモリアエ：改変されたローマ皇帝の記憶と記録』早稲田大学,博士(文学),甲第5159号,2017年。)
(*)(参考：南川高志「西洋古代史の泉(10)ローマ皇帝のイメージ」西洋古代史研究17,2017年。)
(*)(参考：高畠純夫「特別企画に寄せて 西洋古代史からのコメント」西洋古代史研究17,2017年。)
(*)(参考：ディーノ・プッツァーティ/長野徹訳『魔法にかかった男』(「剣闘士」)プッツァーティ短編集1,東宣社,2017年。)
(*)(参考：マルクス・シドニウス・ファルクス/北綾子訳『ローマ貴族9つの習慣』太田出版社,2017年。)
(*)(参考：マーク・マゾワー/井上廣美訳『バルカン：「ヨーロッパの火薬庫」の歴史』中公新書,中央公論新社,2017年。)
(*)嶋聡「世界史の学び方 古代ローマを調べてくれ孫正義が歴史から学んだ300年帝国につくり方」文藝春秋special 11(2),2017年。
(*)(参考：出口治明「モンゴル帝国VS五賢帝ローマ：ローマ史上「最高の国」はどこだ?(教科書では教えない 入門世界史)—(教科書に載っていない世界史)」文藝春秋special 11(2),2017年。)
(*)(参考：井上文則「ローマ帝国滅亡後 四七六年ローマ帝国を滅ぼした難民と格差(教科書では教えない 入門世界史)—(教科書に載っていない世界史14)」文藝春

秋special 11(2),2017年。)
(*)(参考：中野剛志「マキャヴェリ『「ローマ史」論』刊行一五三一年衰退の運命に抗したマキャヴェリ(永久保存版学校では学べない世界近現代史入門)—(現在がわかる最重要テーマ24)」文藝春秋special 11(4),2017年。)
(*)(参考 : 押場靖志「幻想のアドリア海 :『そして船は行く』をめぐって(特集 アドリア海)」日伊文化研究55,2017年。)
(*)(参考 : 渋江陽子「ダヌンツィオと“苦いアドリア海”:『イタリア海軍論』を中心に(特集,アドリア海)」日伊文化研究)55.2017年。
(*)(参考：足立広明「古代末期とは何か?—現時点でその研究状況をふりかえる」関学西洋史論集40,2017年。)
(*)(参考：竹部隆昌「オットー三世のローマ政策と対ビザンツ・コンプレックス」研究紀要1,2017年。)
(*)「史学文献目録—西洋史1」史學雑誌126(1),2017年。
(*)「史学文献目録—西洋史2」史學雑誌126(5),2017年。
(*)菊地重仁「2016年の歴史学界—回顧と展望 : ヨーロッパ/中世/一般」史學雑誌126(5),2017年。
(*)小林麻衣子「回顧と展望：ヨーロッパ近代 イギリス(前半)」史學雑誌 126(5),2017 年。
(*)石橋悠人「2016 年の歴史学界：回顧と展望(ヨーロッパ・近代イギリス・後半部」史學雑誌 126(5),2017 年。
(*)澤田典子「ヨーロッパ：古代：ギリシア(2016 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌126(5),2017 年。
(*)長谷川敬「ヨーロッパ：古代：ローマ(2016 年の歴史学界：回顧と展望)」史學雑誌126(5),2017 年。
(*)花房秀一「ヨーロッパ : 西欧南欧(2016 年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌 126(5),2017年。
(*)村田光司「ロシア・ビザンツ(2016 年の歴史学界 : 回顧と展望 ヨーロッパ中世)」史學雑誌 126(5),2017 年。
(*)下釜和也「西アジア・北アフリカ・古代オリエント(2)」史學雑誌 126(5),2017 年。
(*)橋詰潤「2016 年度の歴史学界—回顧と展望—考古—旧石器時代」史學雑誌 126(5),2017年。
(*)「史学文献目録—西洋史 3」史學雑誌 126(9),2017 年。
(*)(参考 : 本村凌二『興亡の世界史—地中海世界とローマ帝国』講談社学術文庫,講談社,2017年。)
(*)(参考：本村凌二『教養としての「世界史」の読み方』PHPエディターズクールズ・グループ,PHP 研究所(発売),2017 年。)
(*)(参考：綿田浩崇監修・Lee Stark 執筆『英語対訳で読む世界の歴史』じっぴコンパクト文庫,実業之日本社,2017 年。)
(*)(参考：尾形勇他『英語で読む高校世界史=Japanese highschool textbook of the WORLD HISTORY』講談社,2017 年。)
(*)(参考：森宜人・石井健編『地域と歴史学：その担い手と実践』(土肥恒之「世界史とは何か：上原専禄の世界史像と地域概念」)晃洋書房,2017 年。)
(*)岡崎勝世「日本における世界史教育の歴史(I-3)：「文明史型万国史」の時代 2.」埼玉大

学紀要・教養学部 52(2),2017 年。
(*)(参考：木村靖二・岸本美緒・小松久男編『詳説世界史研究』山川出版社,2017 年。)
(*)柳川平太郎「万国史から西洋史へ」高知大学教育学部研究報告 77,2017 年。
(*)周艶君「矢野龍渓と『経国美談』について」(関西大学大学院東アジア文化研究科)文化交渉：東アジア文化研究科院生論集 7,2017 年。
(*)(参考：東野治之「ワーグナー受容事始：ケーベルと姉崎正治」ワーグナーシュンポジオン 119,2017 年。)
(*)長山靖生『「修身」教科書に学ぶ偉い人の話』中央公論新社,2017 年。)
(*)加藤孝男・太田昌孝『詩人西脇順三郎：その生涯と作品』エコーする「知」7,クロスカルチャー出版,2017 年。
(*)小堀桂一郎『和辻哲郎と昭和の悲劇：伝統精神の破壊に立ちはだかった知の巨人』PHP 新書,PHP 研究所,2017 年。)
(*)鷲巣力「林達夫への精神史的逍遙(5,6)」イタリア圖書 56,57,2017 年。
(*)兼子盾夫「人間の受苦,神の受難：和辻哲郎の本地もの」における「苦しみ.,蘇る神」とイエス・キリストの受難の対比」人間学紀要 47,2017 年。
(*)西林文子「出隆『哲学以前』を問う(1,2,3,4,5)哲学への道とは何かを知るために」学城：学問への道15,2017年/16,17,2018年/18,2019年/19,2020年。
(*)竹村牧男『井上円了：その哲学・思想』春秋社,2017年。)
(*)竹村牧男「パネリスト報告 東洋大学における井上円了研究の現状(下田歌子研究所シンポジウム 学祖研究の現在)」女性と文化：下田歌子研究所年報 3,2017 年。
(*)(参考：小林秀雄『小林秀雄対話集』(田中美知太郎)講談社文芸文庫,講談社,2017 年。)
(*)「神崎繁先生を偲ぶ会 ご案内—2017年3月19日：於首都大学東京国際交流会館」(発起人：上村直樹・栗原裕次)Yahoo検索,2017年。)
(*)橋元志保「漱石文学の淵源(2)『三四郎』におけるギリシア古典文学の影響」ノースアジア大学総合研究センター「総合研究」5,2017年。
(*)高畠純夫「坂口安吾のしごととその背景—古代ギリシア史専攻者の見た安吾」日本文学文化16,2017年。
(*)太宰治・芥川龍之介原作/楠章子文・脚次郎絵『走れメロス/くもの糸』10歳までに読みたい日本名作3,学研プラス,2017年。
(*)太宰治『走れメロス・富嶽百景ほか』教科書で楽しむ名作,ちくま文庫,筑摩書房,2017年。
(*)太宰治『走れメロス：太宰治短編集』講談社青い鳥文庫,講談社,2017年。
(*)太宰治原著/マイケル・ブレーズ訳『走れメロス=Run,Melos,Run』やさしい英語を聴いて読む,IBCパブリッシング,IBCオーディオブックス,2017年。)
(*)太宰治原作,マリア・サアベドラ訳,桜庭雅子語句解説『太宰治をスペイン語で読む』音声DL BOOK,NHK出版,2017年。
(*)太宰治著/エレナ・ガジゴ・アンドラダ西訳『スペイン語で味わう太宰治短編集：ヴィヨンの妻・走れメロス・他5編』大盛堂書房,2017年。
(*)西東社編集部編『心をはぐくむてのひら名作えほん：全100話』(走れメロス)西東社,2017年。
(*)蒔田敏雄「初日拝見 劇団あとむ『走れメロス』」げき:児童・青少年演劇ジャーナル17,2017年。
(*)二田貴宏・吉川仁子「文学教材の授業はどんな力を養成できるのか：「走れメロス」と

いうテクストと向き合うこと」(奈良女子大学教育システム研究開発センター) 教育システム研究 別冊,2017年。
(*)奥村淳「太宰治「走れメロス」について：日本における〈ダモン話〉の軌跡」山形大学紀要,人文科学18(4),2017年。
(*)西木英里「「走れメロス」の読解における対話的活動の効果：対話的で深い学びを実現する授業とは」広島大学附属三原学校園研究紀要7,2017年。
(*)長沼光彦「小説の読解とアクティブラーニング—太宰治「走れメロス」を読む」言語文化研究5,2017年。
(*)大國眞希「国語科指導における挿絵の活用考：指導書の変遷と「走れメロス」を視座として」太宰治スタディーズ,別冊3,2017年。
(*)三浦和尚「文学を再読する : 高校一年「走れメロス」」(太宰治)(特集 国語科教育研究会)」愛媛国文研究67,2017年。
(*)山田哲久「太宰治『走れメロス』の授業：教室で『走れメロス』を読み直す」同志社国文学87,2017年。
(*)村山正子「全校で活用されるインフラとしての学校図書館(9)広がる教科の活用：＋(プラス)実践「コラボでメロス」」学校図書館804,2017年。)
(*)藤田佑「三島由紀夫『獅子』論」(ギリシア悲劇)日本近代文学97,2017年。
(*)(参考：山形治江「ギリシャで「ギリシャ劇」をみる—経済破綻が古代劇に与えた影響(正続)」テアトロ925,926,2017年。)
(*)大塚光信著/来田隆編『キリシタン版エソポのハブラス』新版,清文堂出版,2017年。
(*)イソップ/かとうむつこ(加藤睦子)和訳・さし絵『いそっぽの物語：天草本』西日本新聞トップクリエ,海鳥社(発売),2017年。
(*)(参考：NPO多言語多読再話・監修：榎本久宰挿絵『キツネとカラス；ネズミの相談：イソップ物語より』にほんご多読ブックス：Translation revizita eldono=新編集版,大修館書店,2017年。)
(*)(参考：イソップ原作/エリック・カール再話・絵/木坂涼訳『エリック・カールのイソップものがたり』偕成社,2017年。)
(*)(参考：イソップ原作/いもとようこ(井本蓉子)文・絵『イソップどうわ』金の星社,2017年。)
(*)(参考：イソップ原作/蜂河耳文・宇野亜喜良絵『きんのおの』イソップえほん6,岩崎書店,2017年。)
(*)(参考:イソップ原作/蜂河耳文・水沢そら絵『アリとハト』イソップえほん7,岩崎書店,2017年。)
(*)(参考：イソップ原作/蜂河耳文・杉崎貴史絵『ずるいコウモリ』イソップえほん8,岩崎書店,2017年。)
(*)(参考：イソップ原作/蜂河耳文・さこももみ絵『キツネとぶどう』イソップえほん9,岩崎書店,2017年。
(*)(参考：イソップ原作/蜂河耳文・かわかみたみこ絵『アリとキリギリス』イソップえほん10,岩崎書店,2017年。)
(*)(参考：イソップ原作/エリック・カール再話・絵,木坂涼訳『エリクック・カールのイソップ物語』偕成社,2017年。
(*)「新連載安野光雅と文 平成二十九年方言版イソップ物語」(平凡社)こころ40,2017年。

(*)岩瀬由佳「『イソップ株式会社』に見る枠物語形式の現代文学的発展」國學院雑誌118(7),2017年。
(*)李澤珍「『伊曽保物語』版本系統の再検討—B系統古活字本の本文比較を中心に」近世文藝106,2017年。
(*)加来耕三「歴史学講座〈中級編〉(第49回)第四章 歴史の同時性(5)イソップに学んだ吉田松陰(1)」歴史研究59(1・2),2017年。
(*)安藤信廣「幕末知識人の対外認識：吉田松陰と『聖武記附録』『伊娑菩喩言』」東京女子大学比較文化研究所附置丸山眞男記念比較思想研究センター報告[別冊]13,2017年。)
(*)堂園徹「中華からの風にのって(165)イソップ寓話を想起させる中国の「強権」」Verdad23(6),2017年。
(*)府川源一郎『「ウサギとカメ」の読書文化史：イソップ寓話の受容と「競争」』勉誠出版,2017年。
(*)毛利猛「府川源一郎著『「ウサギとカメ」の読書文化史:イソップ寓話の受容と「競争」』」教育学研究84(3),2017年。
(*)(五十井美知子)「新刊紹介 「ウサギとカメ」の読書文化史：イソップ寓話の受容と「競争」』月刊国語教育研究543,2017年。
(*)「受贈書紹介『「ウサギとカメ」の読書文化史：イソップ寓話の受容と「競争」』を読んで(府川源一郎著)」鳴海文庫：fantasy books café：文学・社会・書誌6,2017年。
(*)坂本麻裕子『明治期の初等修身教科書に採用された寓話・童話・昔話のエートス分析的研究』早稲田大学2013年,(科研費)2017年。
(*)吉見孝夫「第9号に寄せて」イソップ資料9,イソップ資料研究会,2017年。
(*)吉見孝夫「古活字版『伊曽保物語』無刊記第七種本の基礎的研究」イソップ資料9,イソップ資料研究会,2017年。
(*)吉見孝夫「天理図書館蔵古」活字版『伊曽保物語』無刊記第七種本 翻字」イソップ資料9,イソップ資料研究会,2017年。
(*)吉見孝夫「『遠近新聞』に掲載されたイソップ寓話—花間隆氏の指摘による補訂」イソップ資料9,イソップ資料研究会,2017年。
(*)花間隆・難波博子「意拾喩言 対照表・新伊蘇普物語 対照表(左1)」イソップ資料9,イソップ資料研究会,2017年。
(*)吉見孝夫「第10号に寄せて」イソップ資料10,イソップ資料研究会,2017年。
(*)遠藤潤一「古活字本・天草本イソポ伝についての一つの疑問」イソップ資料10,イソップ資料研究会,2017年。
(*)吉見孝夫「『もとかしわ』所収の古活字版『伊曽保物語』」イソップ資料10,イソップ資料研究会,2017年。
(*)吉見孝夫「古活字版『伊曽保物語』無刊記第三種本の基礎的研究」イソップ資料10,イソップ資料研究会,2017年。
(*)吉見孝夫「重山文庫蔵古活字版『伊曽保物語』無刊記断三種本 翻字」イソップ資料10,イソップ資料研究会,2017年。
(*)(参考：吉川斉「1505年アルドゥス刊行イソップ集におけるラテン語翻訳について---quae ante habebantur,infida adomodum erant---」東京大学西洋古典学研究室紀要

10,2017年。)
(*)福田晃「壹岐・対馬の「百合若説経」」説話・伝承学25,2017年。
(*)清野知子「壱岐島の百合若伝説と鬼伝説」昔話伝説研究36,2017年。
(*)清野知子「百合若伝承と「鷹」」伝承文化研究15,2017年。
(*)杉山和夫「幸若舞曲研究の新地平(秋例会シンポジウム報告 幸若舞曲研究の新地平)」軍記と語り物53,2017年。
(*)Saida KHAL MIGZAEVA「話型〈帰還した夫〉の成立と伝播：『オデュッセイア』から「百合若大臣」まで(秋例会シンポジウム報告 幸若舞曲の新地平)」軍記と語り物53,2017年。
(*)(参考：松枝朗・木村敏浩・大内宏友「11022 古代ギリシャ都市アテネのアゴラにおけるフラクタル次元解析による復元的考察:ヘファイストス神殿の可視領域の解析によるアゴラ空間の秩序化について」情報システム技術2017,2017年。)
(*)(参考:アレクサンダー ヘルダ/佐藤昇訳「ミレトスのタレスとギリシア都市構想(アーバニズム)の誕生：賢人は如何にして都市を創建しただろうか」クリオ31,2017年。)
(*)(参考：高橋亮介「ギリシア・ローマ期ファイユームをいかに捉えるか:環境史研究の一動向(特集 環境・農業生産・記録管理：文書史料に基づくエジプト環境史の構築)」イスラーム地域研究フォーラム9,2017年。)
(*)(参考：吉武隆一「ヘレニズム期のギリシア劇場における移動式舞台建物 メッセネ,スパルタおよびメガロポリスの比較分析」日本建築学会計画系論文集82(733),2017年。)
(*)(参考:吉武隆一「ヘレニズム期のギリシア劇場における舞台収納室と石列に関する考察」日本建築学会計画系論文集82(733),2017年。)
(*)(参考:堀賀貴「ポンペイにおける荷車交通規制に関する考察(2)ポンペイ・都市機能研究(4)」日本建築学会計画系論文集82(741),2017年。)
(*)(参考：山田眞生・鈴木淳一・花里利一「3165 海外の世界遺産組積造建築物の歴史火災による損傷評価に関する研究：パルテノン神殿の歴史火災による火害シミュレーション」防火 2017,2017 年。)
(*)藤森照信『近代日本の建築(開化篇・栄華篇)』(長野宇平治)筑摩書房,2017年。
(*)喜田信代『天主堂建築のパイオニア・鉄川與助：長崎の異才なる大工棟梁の偉業』日貿出版社,2017年。
(*)(参考:加藤耕一『時がつくる建築：リノベーションの西洋建築史』東京大学出版会,2017年。)
(*)(参考：三田村哲哉「地中海宮の誕生：戦間期フランス近代建築の大作」地中海学研究40,2017年。)
(*)(参考：石川恒夫『様式の生成：十九世紀ドイツ建築論における「様式統合」理念に関する研究』中央公論美術出版,2017年。)
(*)(参考：David Reimer/富永星訳『古代エジプトの数学：文明繁栄のアルゴリズム』丸善出版,2017年。)
(*)(参考：三浦伸夫「歴史から見る数学—数学史から見る歴史(27)『ギリシャ詞華集』に見るギリシャ数学」現代数学50(7),2017年。)

(*)「藪内清著作集」編集委員会編『藪内清著作集』臨川書店,2017-20年。
(*)(参考：アレクサンダー・モンロー/御舩由美子・加藤晶訳『紙と人の歴史：世界を動かしたメディアの物語』原書房,2017年。)
(*)(参考：内田杉彦「ニュー・メニア採石場におけるデモティックのグラフィティと情報伝達」HERITEX 2,2017年。)
(*)(参考：吉武隆一「ヘレニズム期のギリシア劇における「舞台収納室と石列に関する考察：メガロポリス,スパルタ,およびメッセネの比較分析」日本建築学会計画系論文集82(733),2017年。)
(*)(参考：山田篤美「「宝石」の王者としての真珠の歴史—真珠がダイヤモンドより高価だった時代」(プリニウス)宝石学会(日本)講演会要旨39,2017年。)
(*)澁澤龍彦著/東雅夫編『澁澤龍彦玉手匣(エクラン)』(プリニウス)河出書房新社,2017年。)
(*)浦野剛司「澁澤龍彦のプリニウス」阪神近代文学研究18,2017年。
(*)(参考：中野里美『プリニウスの系譜--「博物誌」がつなぐ文化・歴史』雄山閣,2017年。)
(*)(参考：山川淳生「ゲーテと占星術,想像力とポエジー」エウローペー24,2017年。)
(*)(参考：関大輔「占星術と古代神学：キージ家礼拝堂クーポラにおける占星術とキリスト教の混淆」Arts and media 7,2017年。)
(*)(参考：八木剛平・滝上紘之『医学思想史：精神科の視点から』金原出版,2017年。)
(*)(参考：荒記俊一『社会医学原論：古代ローマ帝国,産業革命から国際保健へ=Principles of social medicine』ポーリッシュ・ワーク,径書房(発売),2017年。)
(*)(参考：大槻真一郎『中世宝石賛歌と錬金術：神秘的医学の展開』星雲社(発売),コスモス・ライブラリー,2017年。)
(*)(参考：大槻真一郎『ヒルガルトの宝石論：神秘の宝石療法』星雲社(発売),コスモス・ライブラリー,2017年。)
(*)(参考：ジャンバッティスタ・デッラ・ポルタ/澤井繁男訳『自然魔術』講談社学術文庫2431,講談社,2017年。)
(*)(参考：佐藤洋『有徳な状態からみる競技者論：アリストテレスの実践学を導き手として』日本体育大学,博士(体育科学),甲第65号,2017年。)
(*)(参考：池上俊一監修『原典ルネサンス自然学(上下)』名古屋大学出版会,2017年。)
(*)(参考：ヒロ・ヒライ監修/山田俊弘著『ジオコスモスの変容：デカルトからライプニッツまでの地球論』Bibliotheca hermatica叢書,勁草書房,2017年。)
(*)(参考：瀬口昌久『生命を自然観の基礎においた技術哲学の総合的研究』名古屋工業大学(2014年),(科研費)2017年。)
(*)(参考：小沼純一「書評(135)下村寅太郎『数理哲学・科学史の哲学(下村寅太郎著作集1)』UP46(1),2017年。)
(*)(参考：山川淳生「ゲーテと占星術,想像力とポエジー」エウローペー24,2017年。)
(*)(参考：鏡リュウジ『占星術の文化誌』原書房,2017年。)
(*)(参考：佐藤洋『有徳な状態からみる競技者論：アリストテレスの実践学を導き手として』日本体育大学,博士(体育科学),甲第65号,2017年。)
(*)(参考：佐山和夫『オリンピックの真実：それはクーベルタンの発案ではなかった』潮出版社,2017年。)
(*)(参考：鈴村鋼二『マルクスとヒポクラテスの間：鈴村鋼二遺稿集』風媒社,2017年。)
(*)(参考：加我君孝『誰も知らないヒポクラテス』第1版,医学と看護社,2017年。)

(*)(参考：大槻真一郎『『サレルノ養生訓とヒポクラテス：医療の原点』』星雲社(発売),コスモス・ライブラリー,2017年。)
(*)(参考：スーザン・P.マターン/澤井直訳『ガレノス：西洋医学を支配したローマ帝国の医師』白水社,2017年。)
(*)(参考：多田羅浩三『医学の歴史：歩みを担った人たち,そして体制』放送大学叢書39,左右社,2017年。)
(*)(参考：岡田康孝『医療を目指す人・従事する人にためのみんなの医学書：医学史から臨床医学まで』清風堂書店,2017年。)
(*)(参考：平郡隆明「来し道と今後の展望」(ヒポクラテス)日本皮膚科学会雑誌127(8),2017年。)
(*)(参考：前谷俊三「医療における意思決定の古今東西」天理医学紀要20(1),2017年。)
(*)(参考：秋葉悦子「自己決定論を超えて：人格主義倫理学の立場から(特集 核家族,低所得高齢者のケースワーク)」老年精神医学雑誌28(3),2017年。)
(*)(参考：梶原博毅「医学史 近代ヨーロッパ医学の科学的背景：古代ギリシャの自然(自然哲学)と医学(第4報)ヘレニズム時代の自然学と医学(No.3)アレクサンドリアの天文学,地理学と医学」広島医学70(3),2017年。)
(*)(参考:梶原博毅「医学史 近代ヨーロッパ医学の科学的背景:古代ギリシャの自然科学(自然哲学)と医学(5)古代ローマ時代の自然学と医学(no.1)古代ローマ時代のギリシャ医学講義」広島医学70(5),2017年。)
(*)(参考:梶原博毅「医学史 近代ヨーロッパ医学の科学的背景:古代ギリシャの自然科学(自然哲学)と医学(5)古代ローマ時代初期の自然学と医学(no.2)古代ギリシャ医学の集大成8ガレノスの医学)」広島医学70(7),2017年。)
(*)(参考：橋口智親「ハーブの食品素材活用術：食経験から機能性を探る(16)古代の胃腸系ハーブ:冷凍野菜のルーツ キャベツの活用法」Food Style21 21(4),2017年。)
(*)(参考：浅井隆「蘇生の歴史(7,8,9)古代の記載(2,3,4)古代ギリシャ・ローマ時代(1,2,3)」(日本麻酔科学会機関誌)麻酔66(8,9,10),2017年。)
(*)(参考：浅井隆「蘇生の歴史(10)中世の記載(1)中世前期」(日本麻酔科学会機関誌)麻酔66(12),2017年。)
(*)(参考:浅井隆「蘇生の歴史(11)中世の記載(2)アカデミアの復活」(日本麻酔科学会機関誌)麻酔66(12),2017年。)
(*)(参考：早川勢也他「トロイの木馬法による〈sup〉7〈/sup〉Be+nビッグバン元素合成反応の測定」日本物理学会講演概要集72.1,2017年。)
(*)(参考：早川勢也他「トロイの木馬法による〈sup〉7〈/sup〉Be+nビッグバン元素合成反応の測定II」日本物理学会講演概要集72.2,2017年。)
(*)(参考：岡本五十雄『現代医療とギリシャ神話』中西出版,2017年。)
(*)(参考：加我君孝『誰も知らないヒポクラテス』医学と看護社,2017年。)
(*)(参考：S.P.マターン/澤井直訳『ガレノス—西洋医学を支配したローマ帝国の医師』白水社,2017年。)
(*)(参考：津田一郎「〈講義ノート〉心と脳のダイナミクス：数理科学的理解はどこまで進んだか(第61回物性若手夏の学校 講義)」物性研究・電子版6(4),2107年。)
(*)(参考：嘉田勝「不可能性の証明：古代ギリシャから現代まで(特集不可能性の証明)」

数学セミナー56(10),2017年。)
(*)(参考：小林道憲『複雑系を哲学する：「生成」からとらえた「存在」と「認識」』ミネルヴァ書房,2017年。)
(*)(参考：サイモン・バシャー絵/レグ・グラント文/片神貴子訳『われら科学史スーパースター：天才・奇人・パイオニア?すべては科学が語る!』(「1.初期の科学(ピタゴラス,アルストテレス他)」「2.科学の革命(コペルニクス,ガリレイ他)」)玉川大学出版部,2017年。)
(*)(参考：波部雄一郎「初期ヘレニズム時代エジプトにおける体育競技会：「バシレイア競技会優勝者録」碑文を中心に」社会科学46(4),2017年。)
(*)(参考：明石茂生「古代地中海海域における国家,貨幣,銀行：アテナイ,エジプト,ローマを中心に」成城大学経済研究217,2017年。)
(*)(参考：古川顕「アリストテレスの貨幣起源説」甲南経済学論集58(1・2),2017年。)
(*)(参考：高岡義幸「経営学の根底思想の探究：近代ヨーロッパ思想に見る人間の自律意識(中川栄治教授退任記念号)」(古代ギリシャ,プラトン)広島経済大学経済研究論集40(2・3),2017年。)
(*)(参考：飯田巳貴「「近世のヴェネツィア経済とアドリア海(特集 アドリア海)」日伊文化研究55,2017年。)
(*)宮前忠夫『企業別組合は日本の「トロイの木馬」』本の泉社,2017年。(→2019年,増補改訂版)。)
(*)宮前忠夫『企業別組合研究のための文献集』「企業別組合は日本の「トロイの木馬」別冊,本の泉社,2017年。
(*)(参考：安念潤司「平和という困難：古代キリスト教の平和主義・再訪」中央ロー・ジャーナル14(3),2017年。)
(*)(参考：G.E.マッカーシー/樋口辰雄・田上大輔訳『古代ギリシアと社会学―マルクス・ヴェーバー・デュルケム』尚学社,2017年。)
(*)(参考：堂園徹「中華からの風にのって(165)イソップ寓話を想起させる中国の「強権」」Verdad 23(6),2017年。)
(*)村木嵐「夏の坂道：南原繁の日々(1-7)」潮672-679,2017年。
(*)(参考：Oki-Saga,Mai“Political Art as Psychagoia：An Interpretation of Politocal Philosophy of Plato’s Politeia”早稲田大学,博士(政治学),甲第5257号,2017年。)
(*)佐藤克宣「国法に従うソクラテスを教材とした高等学校「倫理」の授業開発：パネルディスカッションの形式を取り入れた事例として」上越社会研究32,2017年。
(*)(参考：石崎嘉彦「民主制と哲学的弁証法：プラトン『国家』第一巻をもとに民主制を考えるなかから」大和大学研究紀要3,2017年。)
(*)石野敬太・川本愛・齋藤拓也・金山準・稲村一隆「アリストテレスの政治哲学における正義と相互性」書評会ノート[稲村一隆Justice and Reprocity in Aristotole’s Political Philosophy]」教養諸学研究143,2017年。
(*)(参考：川本愛『初期ストア派の政治哲学：コスモポリタニズムの起源』京都大学,博士(文学),甲第20596号,2017年。)
(*)(参考：橋場弦「誓う」公研643,2017年。)
(*)(参考：橋場弦『古代ギリシアにおける和解と調停の比較文化史的研究』東京大学2014年,(科研費)2017年。)

(*)(参考 : 石田真衣「ヘレニズム期エジプトにおける嘆願書研究のいま」歴史学研究965,2017年。)
(*)(参考 : 丸亀裕司『公職選挙にみるローマ帝政の成立』山川出版社,2017年。)
(*)(参考 : 土屋光芳「独裁政と法の支配(穴田義孝教授記念論文集)」(キケロ)政経論叢85(3・4),2017年。)
(*)貝原哲生「書評 中谷功治著「デマ反乱とビザンツ帝国 : コンスタンティノープル政府と地方集団」」関学西洋史論集40,2017年。)
(*)(参考 : 加藤哲理「精神史から存在論へ—初期ハイデガーの思索の道から—政治思想史研究における「方法」」政治思想史研究17,2017年。)
(*)(参考 : 近藤和貴「シュトラウスとファーラービーのプラトンから—政治思想史研究における「方法」」政治思想史研究17,2017年。)
(*)杉本延博「西光万吉の思想を読む—戦前・国家社会主義編(6)」(ローマのドミニウム)不二2月號,平成29年。)
(*)(参考 : 澤井繁男『外務官僚マキァヴェリ : 港都ピサ奪還までの十年』未知谷,2017年。)
(*)(参考 : 定森亮「マキャヴェッリ『ディスコルシ』とモンテスキュー『法の精神』における共和政ローマの帝政への歴史的変容 : 共和政の腐敗と富の不平等の増大に関する分析の観点の相違」三田学会雑誌110(1),2017年。)
(*)(参考 : 千葉眞「講演記録 ハンナ・アーレントとヘブライズム」ペディラヴィウム72,2017年。)
(*)(参考 : 曽田長人「市民社会と古典教養 : 公共性の転換」東洋大学人間科学総合研究所紀要19,2017年。)
(*)(参考 : 村山秀太郎『地政学で読み解く,海がつくった世界史』じっぴコンパクト新書324,実業之日本社,2017年。)
(*)(参考 : 角田幸彦「キケローとグロティウスとの精神史的絆—哲学的考察」明治大学教養論集523,2017年。)
(*)(参考 : 木庭顕『新版 ローマ法案内—現代の法律家のために』勁草書房,2017年。)
(*)(参考 : 佐々木健『古代ローマ法における特示命令の研究』京都大学,博士(法学),乙第13117号,2017年。)
(*)(参考 : 野坂佳生・藤井剛「法教育におけるローマ法活用の試み : 法学導入教育への示唆も含めて(櫻井利夫教授退職記念論文集)」金沢法学59(2),2017年。)
(*)(参考 : 耳野健二「関係の規則としての法 : サヴィニー『現代ローマ法体系』に採用されなかった法概念(1,2)(京都産業大学法学会五十周年記念論集)」産大法学51(1,2),2017年。)
(*)(参考 : 藤田貴宏「卑属加入と養子縁組 : 17世紀サントンジュにおける慣習法とローマ法(1)」獨協法学104,2017年。)

(*)(参考 : 田上孝一・本郷朝香編『原子論の可能性 : 近現代哲学における古代的思惟の反響』法政大学出版局,2018年。)
---- 金澤修「古代原子論—デモクリトスとエピクロス,二つの原子論の差異をめぐって」
坂本邦暢「ピエール・ガッサンディの原子論—エピクロス主義,キリスト教,新科学」

青木滋之「ジョン・ロックと近代粒子説—近現代の存在論,認識論への影響」
池田真治「ライプニッツと原子論—〈アトム〉から〈モナド〉へ」
木島泰三「ヒューム『対話』のエピクロス的宇宙—古代原子論とダーウィン主義の間」
小谷英生「コペルニクス的転回と原子論—カントのライプニッツ受容と批判」
田上孝一「マルクスの原子論—現実の理想からの疎外」
本郷朝香「ニーチェと原子論—不可分な自己から可分的な自己へ」
武井徹也「ハイデガーと古代原子論—古代原子論の現象学的解釈の試み」
白井雅人「明治期における実在論の系譜と原子論—「一即多」の哲学の展開」
東克明「素粒子と米粒の自己同一性—量子力学的対象と粒子概念」

(*)(参考：山崎行太郎の「月刊・文芸時評」(167)マルクスとエンゲルス(46)プラトンとデカルトとマルクスの視点(1)」月刊日本22(5),2018年。)

(*)(参考：石河康国「マルクス伝読み比べ(2)・アタリ『世界精神マルクス』/フランシス・ウィーン『カール・マルクスの生涯』」(社会主義協会)科学的社会主義245,2018年。)

(*)成毛眞「Amazonは21世紀のローマ帝国だ」文藝春秋96(11),2018年。

(*)(参考 : 鈴木董『文字と組織の世界史 : 新しい「比較文明史」のスケッチ』山川出版社,2018年。)

(*)(参考：ウンベルト・エーコ/石田聖子他訳『ウンベルト・エーコの世界文明講義』河出書房新社,2018年。)

(*)Key Sato(photo)/Key Sato・Takeshi Komada(text)“Greece”,ライドジアースフォトブック6,エイチエス,2018年。)

(*)(参考 : E.H.クライン/安原和美訳『B.C.1177—古代グローバル文明の崩壊』筑摩書房,2018年。)

(*)周藤芳幸「書評 浦野聡編『古代地中海の聖域と社会』」史學雑誌127(1),2018年。

(*)小泉実『人と環境と歴史に学ぶ：海外スケッチ紀行300』小泉実,2018年。

(*)高橋睦郎『つい昨日のこと：私のギリシア』思潮社,2018年。

(*)(参考：辻邦生『地中海幻想の旅から』中公文庫,中央公論新社,2018年。)

(*)塩野七生『想いの軌跡』(「地中海に生きる」「ローマ、わが愛」)新潮文庫,新潮社,2018年。

(*)(参考：キャサリン・ガーベラ/大田朋子訳『エーゲ海に呼ばれて：ハーレクイン・ディザイア傑作選』ハーレクイン・ディザイア,ハーレクイン,2018年。)

(*)『ザ・ベスト・オブ・ゴールデン☆ベストThe best of golden ☆ベスト歌謡曲』(「魅せられて—エーゲ海のテーマ[ジュデュ・オング])録音ディスク,Sony Music Direct(Japan),2018年。

(*)『昭和世代の歌謡曲・ポップス：初心者でも弾けるアレンジ全60曲ギター・タブ譜+ダイアグラム付き』』(「魅せられて—エーゲ海のテーマ[ジュデュ・オング])大人の初心者ギター弾き語り,シンコーミュージック・エンタテイメント,2018年。

(*)『昭和40・50年代歌謡曲大全集：ピアノ・ソロ：中級』』(「魅せられて—エーゲ海のテーマ[ジュデュ・オング]) シンコーミュージック・エンタテイメント,2018年。

(*)『昭和40・50年代歌謡曲大全集230・コード付き歌詞組み決定版!』(「魅せられて—エーゲ海のテーマ[ジュデュ・オング]) シンコーミュージック・エンタテイメント,2018年。

(*)福耳『シンガーとソングライターCOIL 20th anniversary』(「エーゲ海でお茶を」山崎まさよし)録音ディスク,ユニバーサルミュージック,2018年。
(*)(参考：佐々木邦昭「海外情報 Greece Oil Spillタンカー沈没(ギリシアエーゲ海)」海上防災176,2018年。)
(*)(参考：池田良穂『基礎から学ぶクルーズビジネス』(「地中海クルーズ」「エーゲ海クルーズ」)海文堂出版,2018年。
(*)(参考：周剣生「世界遺産を撮る(97)アマルフィ海岸：イタリア文化遺産(1997年登録)」週刊ダイヤモンド106(11),2018年。)
(*)(参考：周剣生「世界遺産を撮る(119)スプリットの史跡群とディオクレティアヌス宮殿：クロアチア文化遺産(1979年登録)」週刊ダイヤモンド106(33),2018年。)
(*)(参考：六田知弘「美の棲むところ(59)イタリア・ポンペイ壁画」美術の窓37(9),2018年。)
(*)佐伯泰英「惜櫟荘の四季(23)ナポリを見てから死ね：南伊紀行(1)」図書831,2018年。
(*)佐伯泰英「惜櫟荘の四季(24)シチリア人の魂は山にあり：南伊紀行(2)」図書834,2018年。
(*)佐伯泰英「惜櫟荘の四季(25)シチリア追憶感傷旅行：南伊紀行(3)」図書837,2018年。
(*)田中總太郎「宇宙から見たユネスコ世界遺産(116)カルタゴの考古遺跡」地理63(10),2018年。
(*)田中總太郎「宇宙から見たユネスコ世界遺産(117)ビブロス」地理63(12),2018年。
(*)中橋恵・森まゆみ『イタリアの小さな村へ：アルベルゴ・ディフーゾのおもてなし』とんぼの本,新潮社,2018年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『イタリア』改訂4版,地球の歩き方aruco18,ダイヤンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2018年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『南イタリアとマルタ』改訂13版,地球の歩き方,ダイヤンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2018年。
(*)地球の歩き方編集室編『イスタンブールとトルコの大地』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド(発売),2019-20 年。
(*)地球の歩き方編集室編『ギリシアとエーゲ海の島々&キプロス』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2018-19 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イラン ペルシアの旅』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2018-19 年。
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2019-20年。
(*)地球の歩き方編集室編『ローマ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2018-19年。
(*)地球の歩き方編集室編『中部イタリアの美しき村』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2018-19 年。
(*)地球の歩き方編集室編『フェレンツェとトスカーナ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2018-19 年。
(*)地球の歩き方編集室編『南イタリアとマルタ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2018-19 年。
(*)地球の歩き方編集室編『中央アジア：サマルカンドとシルクロードの国々』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2018-19 年。
(*)(参考：川谷理香「ホセ・ルイス・サンペドロ『エオルリアの微笑み』における死生観に

関する一考察」南山大学大学院国際地域文化研究13,2018年。)
(*)(参考：ケネス・グレアム/三宅興子・松下宏子編訳『黄金時代』(「ローマへの道」)翰林書房,2018年。)
(*)(参考：井福剛『古代ローマ帝国期における北アフリカ』関西学院大学出版会,2018年。)
(*)(参考：P.マティザック/安原和美訳『古代ローマ旅行ガイド』ちくま学芸文庫,2018年。)
(*)長谷川敬「書評 坂口明・豊田浩志編「古代ローマの港町：オスティア・アンティカ研究の最前線」」(九州西洋史学会)西洋史学論集55,2018年。
(*)(参考：奥山広規「オスティア・グラフィツティ」(広島西洋史研究会)西洋史学報44,2018年。)
(*)(参考:南川高志「西洋古代史の泉(11)ローマ帝国とグローバル化」西洋古代史研究18,2018年。)
(*)(参考:柴田香葉美「ローマ帝国が遺したもの(1,2)」地中海歴史風土研究誌47,48,2018年。)
(*)(参考：山辺規子「もうひとつのノルマン・コンクエスト―南イタリアのノルマン征服」西洋史学論集55,2018年。)
(*)(参考：田中博明「あるシシリー島の老女のこと」西洋古典叢書月報131,2018年。)
(*)(参考：田中創「不安にさせる歴史家」西洋古典叢書月報131,2018年。)
(*)(参考：大村幸弘『アナトリアの風：考古学と国際貢献』リトン,2018年。)
(*)吉本浩二「これが僕らの日々(4)トルコ旅行：イスタンブールに生活する人と接し,トロイア遺跡でホメロスの詩を聞く」視覚障害：其の研究と情報365,2018年。
(*)玄順恵『トラブゾンの猫：小田実との最後の旅』(ギリシア)岩波書店,2018年。
(*)(参考：歴史学研究会編『古代のオリエントと地中海世界』オンデマンド版岩波オンデマンドブックス1,岩波書店,2018年。)
(*)(参考：宮嵜麻子「変わりゆく地中海」(南川高志編『B.C.220年―帝国と世界史の誕生(歴史の転換期1)』所収,山川出版社,2018年。)
(*)『イタリア建築探訪：辰野金吾のグランドツアー1882-1883 Joe Colombo 1952-1971：永遠のローマ=Esplorazione dell’a chitettura italiana：grand tour di Kingo Tatsuno1882-1883 Joe Colombo1952-1971：Roma città eterna/NICHE(工学院大学建築学部同窓会NICHE出版会)編集著作』Opa Press,丸善出版(発売),2018年。
(*)(参考：高橋裕子「アルゴリスの後期青銅器時代IIIC期における墓制と社会：火葬墓を伴う墳丘墓の資料紹介を中心に」西洋史研究48,2018年。)
(*)(参考：古山夕城「アテネ碑文博物館の銘文印象記」地中海学会月報409,2018年。)
(*)(参考：巽善信「シュリーマンとギリシア神話：ホメロスを信じて」説話・伝承学26,2018年。)
(*)(参考：勝又俊雄「シュリーマンと19世紀ギリシア新古典主義(67)」日本ギリシャ協会会報141,2018年。)
(*)森谷公俊「パキスタンにおけるアレクサンドロス遠征路の実地調査(2016-7年)」帝京史学33,2018年。
(*)(参考：浅野和生『図説 中世ヨーロッパの美術』ふくろうの本,河出書房新社,2018年。)
(*)藤澤桜子・奥西真由子・山崎真一・高橋綾「群馬県立女子大学「石膏像を見に行こう!」展の企画と開催」群馬県立女子大学紀要39,2018年。
(*)(参考：小方登「シチリア島・パレルモにおけるフェニキア時代の遺構について：2017年8月の調査から」地域と環境15,2018年。)

(*)田代かおる「シチリアのパンまつり」暮しの手帖,第4世紀96,2018年。
(*)宮岡千代道「旅の風景 : 高齢バックパッカー 東欧,南欧を行く」産業新潮67(11),2018年。
(*)三浦不二夫監著・鈴木設矢著・平岡忠翻訳『聖アポロニア探訪譚』デンタルダイヤモンド社,2018年。)
(*)(参考 : 長谷川奏「地中海とインド洋を結ぶ—紅海沿岸の港町調査こと始め」地中海学会月報410,2018年。)
(*)(参考 : 庄子大亮『大洪水が神話になるとき—人類と洪水5000年の精神史』河出書房新社,2018年。)
(*)(参考 : デイヴィッド・W.アンソニー/東郷えりか訳『馬・車輪・言語 : 文明はどこで誕生したのか(上下)』筑摩書房,2018年。)
(*)(参考 : M.セットガスト/山本貴光・吉川浩満訳『先史学者プラトン—紀元前一万年—語彙千年の神話と考古学』朝日出版社,2018年。)
(*)吉本浩二「これが僕らの日々(4)トルコ旅行 : イスタンブールに生活する人と接し,トロイア遺跡でホメロスの詩を聞く」視覚障害 : その研究と情報365,2018年。
(*)(参考 : 水野敦子「ホメロス,ジョウス,アナーヤ : 〈チカーノ・ユリシーズ〉に見る環太平洋的想像力」山陽女子短期大学紀要39,2018年。)
(*)(参考:中野京子「中野京子の名画が語る西洋史(72)古代版ハニートラップ」文藝春秋96(8),2018年。)
(*)(参考 : 兵頭俊樹「ヘルダーリンの『多島海』「天空に響く兄弟たちの調べ」からキケロの『スキピオの夢』へ」和歌山大学クロスカル教育機構研究紀要1,2018年。)
(*)(参考 : 芳賀京子「古代ギリシア彫刻の地域流派」美術フォーラム21,37,2018年。)
(*)(参考 : M.ロストフツェフ/青柳正規訳『隊商都市』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2018年。)
(*)(参考 : 齋藤麻理江「紀元前14世紀における古代エジプトと西アジアを中心とした古代東地中海世界の文化交流 : アマルナ文書に記された工芸品と考古学的資料を中心に」駒澤史学90,2018年。)
(*)(参考 : 富士川義之編『ノンフィクションの英米文学』(兼武道子「ヴァージニア・ウルフとギリシア : ギリシア旅行日記と『ジェイコブの部屋』/田中祐介「仮想都市のバイオグラフィー : ウォルター・ペイターのヴェネツィア」)金星堂,2018年。)
(*)篠塚千恵子「自著の余話として」(『アフロディテの指先 : パルテノン彫刻を読む』国書刊行会,2017年)美史研ジャーナル14,2018年。
(*)(参考 : Osada Toshihiro‘Eine neue Interpretationsmöglichkeit des Parthenonfrieses’(in G. Schörner und K.Meinecke(Hg.),Akten des 16 Österreichischen Archäologentages am Institut für Klassische Archäologie der Universtät Wien vom 25,bis 27,Februar 2016,Wien,2018.)
(*)(参考 : 松原幸夫「自然と文化とセルフヘルプ—アルカディアへ」にいがた経済新聞3/10,2018年。)
(*)山崎眞紀子「〈和文エッセイ〉村上春樹とイタリア--『遠い太鼓』ローマ編・『ノルウェイの森』誕生の地探訪記」(京都大学大学院人間・環境学研究科小島基研究室内 村上春樹フォーラム)MURAKAMI REVIEW 0,2018年。
(*)(参考 : 山田忠彰「ローマ,「われもまたアルカディアに」」文化学研究27,2018年。)

(*)(参考：トム・ストッパード/小田島恒志訳『アルカディア』ハヤカワ演劇文庫43,早川書房,2018年。)
(*)小澤実「書評 山中由里子編『〈驚異〉の文化史—中東とヨーロッパを中心に』」西洋史学266,2018年。)
(*)(参考：山中由里子「〈自然〉の内と外：共同研究：驚異と怪異：想像界の比較研究」民博通信160,2018年。)
(*)(参考：中村友代「《ポロス・メダリオン》の図像に関する考察—アレクサンドロス大王の肖像表現を手がかりに」民族芸術34,2018年。)
(*)(参考：Arthur Evans/篠井保彦訳「クノッソスのミノスの宮殿(仮訳20,21)」地中海歴史風土研究誌47,48,2018年。)
(*)(参考：中西裕見子・片桐千亜紀「ギリシャの水中文化遺産保護」考古学研究65(3),2018年。)
(*)(参考：川本悠紀子「古代ローマにおける視覚軸—考古学資料の見地から」(藤井恵介先生献呈論文集編集委員会編『建築の歴史・様式・社会』所収,中央公論美術出版,2018年。)
(*)(参考：R.R.カーギル/真田由美子訳『聖書の成り立ちを語る都市—フェニキアからローマまで』白水社,2018年。)
(*)(参考：服部春彦「〈論説・動向〉フランス革命・ナポレオン期ヨーロッパにおける美術品の移動とその影響」フェネストラ：京大西洋史学報1,2018年。)
(*)(参考：岡本秀一「田舎生活雑記帖(32)」地中海歴史風土研究誌48,2018年。)
(*)畠山茂「沢木四方吉：100年を超えて再び」(福澤諭吉協会)福澤手帖179,2018年。
(*)黄東蘭「田口卯吉「開化史」にみる文明史学の歴史叙述(大野誠先生 松本三枝子先生 退職記念号)」(愛知県立大学外国語学部)紀要：地域研究・国際学編50,2018年。)
(*)(参考：齋藤麻里江「紀元前14世紀における古代エジプトと西アジアを中心とした古代東地中海世界の文化交流：アマルナ文書に記された工芸品と考古学的資料を中心に」駒澤史学90,2018年。)
(*)(参考：藤澤綾乃「紀元2~3世紀の東地中海におけるシナゴーグの建設—考古学的遺構とユダヤ碑文の分析に基づいて」史学87(3),2018年。)
(*)(参考：前野弘志「セト呪詛板の図像分析」西洋史学報44,2018年。)
(*)(参考：宮紀子『モンゴル時代の「知」の東西(上下)』名古屋大学出版会,2018年。)
(*)柏崎諒・田中純一朗「前田青邨《羅馬使節》再考：新寄贈資料の紹介をかねて」早稲田大学會津八一記念博物館研究紀要20,2018年。)
(*)内田慶市「世界図書館巡礼(4)」(バチカン)関西大学図書館フォーラム23,2018年。
(*)(参考：松戸市立博物館編『ガンダーラ：仏教文化の姿と形』市制施行75周年・開館25周年記念特別展』松戸市立博物館,2018年。)
(*)(参考：内記理「研究フォーラム考古学からみたガンダーラ彫刻の成立と展開(世界史の研究257)」歴史と地理719,2018年。)
(*)(参考：岡田泰介「IG I 3 1032再考」高千穂論叢53(1),2018年。)
(*)(参考：レオ・シュトラウス/村田玲訳「イェルサレムとアテナイ—弱冠の予備書省察」（政治哲学研究会）政治哲学研究27,2018年。)
(*)(参考：トインビー/山本新・山口朔光訳『戦争と人間』中公クラシックス,中央公論新社,2018年。)

(*)(参考：三枝守隆「トインビーの比較文明学における復古主義の理論：廃仏毀釈をめぐって」比較文明34,2018年。)
(*)(参考：石上豊「トインビー宗教論と『二十一世紀への対話』：“究極の実在”をめぐる東西精神の対話」(東洋哲学研究所)東洋哲学研究所紀要34,2018年。)
(*)(参考：角田幸彦「ブルクハルト『ギリシア文化史』の哲学的考察：イーニッヒ,ゼードルマイヤー,ヴィラモヴィッツ-メレンドルフ,ブルケルトを介して」明治大学教養論集535,2018年。)
(*)(参考：ヨハン・ホイジンガ/里見元一郎訳『ホモ・ルーデンス：文化のもつ遊びの要素についてのある定義づけの試み』講談社学術文庫,講談社,2018年。)
(*)徳永梨紗・秦明日香・河内浩志「風土における材料について：和辻哲郎の記述をめぐって」日本建築学会中国支部編,日本建築学会中国支部研究報告集41,2018年。
(*)(参考：御厨貴・本村凌二『日本の崩壊』祥伝社新書,2018年。)
(*)鈴木純子「黎明期の近代地図:洋学の遺産と新展開(特集 近代地図事始め)」地図情報38(3),2018年。)
(*)清水靖夫「近代地図の目覚めの頃(特集 近代地図事始め)」地図情報38(3),2018年。
(*)(参考：ナタリア・ペトロフスカイヤ「本を楽しむ：地図を読む：ヨーロッパの世界地図,中世からルネサンスにかけて」書物学13,2018年。)
(*)(参考：瀧本みわ「古代末期の地誌表現の伝統と初期キリスト教美術への継承―ハイドラの舗床モザイク〈地中海の都市と島々〉を出発点に」(越宏一編『中世美術の諸相--ヨーロッパ中世美術論集5』所収,竹林舎,2018年。)
(*)(参考：高津春繁『ギリシア・ローマ神話辞典』オンデマンド版岩波オンデマンドブックス,岩波書店,2018年。)
(*)(参考：ソニア.ダルトゥ/武藤剛史訳『ギリシア神話シンボル事典』文庫クセジュ,白水社,2018年。)
(*)(参考：藤井旭『星の神話・伝説図鑑』青土社,2018年。)
(*)(参考：榊原貴教編『「翻訳詩」辞典』大空社出版,ナダ出版センター,2018年。)
(*)(参考：丹後俊郎・小西貞則編『医学統計学の事典』新装版,朝倉書店.2018年。)
(*)(参考：内田至・日本語版総監修『海洋大図鑑』(「アトランティス断列帯」「アドリア海」「エーゲ海」他)DKブックシリーズ,ネコ・パブリッシング,2018年。)
(*)(参考：桑木野幸司『記憶術全史：メネモシュネの饗宴』講談社選書メチエ,講談社,2018年。)
(*)(参考：クロード・アジェージュ/糟谷啓介・佐野直子訳『共通語の世界史：ヨーロッパ諸言語をめぐる地政学』白水社,2018年。)
(*)(参考：本宮裕示郎「19世紀イギリスにおける教養概念の問い直し：T.H.ハクスリーとM.アーノルドによる論争に着目して」教育方法学研究43,2018年。)
(*)(参考：「基調報告 ハーヴァード大学における人文学と教養教育(集英社高度教養寄付講座第9回講演会記録 高度教養教育の現状と課題)」文化交流研究31,2018年。)
(*)(参考：「基調報告 降りつもる時の涯て：教養教育における人文学の意味(集英社高度教養寄付講座第9回講演会記録 高度教養教育の現状と課題)」文化交流研究31,2018年。)
(*)(参考：早瀬篤「学問の誕生を告知する『パイドロス』」西洋古典叢書月報134,2018年。)

(*)(参考：堀幸夫「「ピラミッド研究最前線」の講演を聴く(1)ピラミッド・タウンと最古のパピルス発見」地中海歴史風土研究誌48,2018年。)
(*)「イタリア関係図書刊行目録」日伊文化研究56,2018年。
(*)(参考：古山夕城「アルカイック期クレタにおける文字の社会的機能—私的銘文の数量分析的考証」(明治大学)駿台史学162,2018年。)
(*)(参考：日向太郎「ペイシストラトスによるホメロス叙事詩の編纂」Language information text 25,2018年。)
(*)(参考：平野智晴「Propertius.3.16.19-20」フィロロギカ13,2018年。)
(*)(参考：池田黎太郎『古典ギリシア語入門』新装復刊,白水社,2018年。)
(*)(参考：早藤史恵「七十人訳聖書におけるkalosの使用法について」一神教世界9,2018年。)
(*)(参考：秦剛平『七十人訳ギリシア語聖書入門』講談社メチエ,講談社,2018年。)
(*)(参考：永井崇弘「関於馬遜与馬士曼所依拠的新約経希臘文本」福井大学教育・人文社会系部門紀要2,2018年。)
(*)(参考：Claudd Hagège/糟谷啓介・佐野直子訳『共通語の世界史：ヨーロッパ諸言語をめぐる地政学』白水社,2018年。)
(*)(参考：沖森卓也『歴史言語学の射程』三省堂,2018年。)
(*)(参考：河島思朗「ギリシア語の方言とラテン語の標準語：共通語・公用語に関する文学の役割(特集 世界の標準語と日本の共通語)」日本語学37(5),2018年。)
(*)(参考：松本隆「1873年刊ローマ版ヨハネ福音書の表記法—ハイフンの用法と音便形の多様性を中心に」清泉女子大学キリスト教文化研究所紀要26,2018年。)
(*)(参考：高橋亮介「パピルス66番：ヨハネ福音書の写本」キリストと世界：東京基督教大学紀要28,2018年。)
(*)(参考：鈴木文治「〈研究論文〉キリスト教におけるインクルージョン教育III：ルカ神学における「貧しき者」の理解」田園調布学園大学紀要12,2018年。)
(*)(参考：ZHOU Yue「『トロイルスとクリセイデ』における並列された形容詞について」(福山大学大学教育センター)大学教育論叢4,2018年。)
(*)(参考：中尾佳行「チョーサーの話法の意味論(2)地の文の現在時制：Tr.5.176-96」(福山大学大学教育センター)大学教育論叢5,2018年。)
(*)(参考：奥本大三郎「ランボーとラテン語」群像73(3),2018年。)
(*)(参考：橋場弦「索引」公研661,2018年。)
(*)(参考：大久保ゆう「古典翻案の継承者H.P.ラヴクラフト—神話サイクルと英国文芸(付・近年のクトゥルー絵本について)」ユリイカ2月号,2018年。)
(*)(参考：久保正彰『西洋古典学入門：叙事詩から演劇詩へ』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2018年。)
(*)原賀可奈子「西洋古典資料保存実務研修受講記」九州大学附属図書館研究開発室年報2017/2018,2018年。
(*)松波京子「名古屋大学附属図書館西洋古典籍デジタルライブラリーの紹介」名古屋大学附属図書館研究紀要16,2018年。
(*)松井健人「大正教養主義とR.v.ケーベル：ケーベル教養論とその歴史的性格の検討」関東教育学会紀要45,2018年。
(*)俊野文雄「田中美知太郎書誌(1)昭和18~21年」日本古書通信83(2),2018年。
(*)俊野文雄「田中美知太郎書誌(2)昭和22年」日本古書通信83(3),2018年。

(*)平川祐弘「巨弾連載 一比較研究者(コンパラティスト)の自伝(5)一高生のころ」Hanada 28,2018年。)
(*)平川祐弘「巨弾連載 一比較研究者(コンパラティスト)の自伝(6)父と私と外国語」Hanada 29,2018年。)
(*)平川祐弘「巨弾連載 一比較研究者(コンパラティスト)の自伝(8)カンドウ神父,前田陽一,市原豊太先生」Hanada 31,2018年。)
(*)(参考:堀忠「古代ギリシャ語医学文献:キリスト教文献におけるレプラとエレファンティアシス」科学史研究[第III期]286,2018年。)
(*)(参考:齋藤憲「ギリシャ語数学文献構文解析における文法の定義および解析作業の現況(第28回数学史シンオジウム(2017))」津田塾大学数学・計算機科学研究所報39,2018年。)
(*)中島淑恵「ラフカディオ・ハーン旧蔵書『ギリシア詞華集』英語版の書き込みについて(1,2)」富山大学人文学部紀要68,69,2018年。
(*)中島淑恵「ヘルン文庫書き込み調査報告:『ギリシャ詞華集』と『ルバイヤート』をつなぐもの」ヘルン研究3,2018年。
(*)渡邉顕彦『ラテン語詩と近世初期日本の交差』大妻女子大学2015年,(科研費)2018年。
(*)(参考:綾井桜子「リセの「哲学」における「深い学び」とは:自律した思考のための教育(フランスの学校教育における「深い学び」を探る)」フランス教育学会紀要30,2018年。)
(*)(参考:「基調報告 フランスにおける古典教育の諸相:ラテン語を学んで何ができるか(集英社高度教養寄付講座第9回講演会記録 高度教養教育の現状と課題)」文化交流研究31,2018年。)
(*)(参考:TAMBA Irène,IDA Naomi「L'invention du genre grammatical au Japon et en Grèce antique Emergence of Grammatical Gender in Japan and Ancient Greece」Inter Faculty8,2018年。)
(*)多田泰紘・岩崎千晶・中沢務「ライティングセンターに寄せられた個別学習相談の分析—学生のニーズと課題の可視化」関西大学高等教育研究9,2018年。)
(*)(参考:塩田幸司「調査研究ノート 放送のレトリック分析の可能性 現場と研究を架橋する方法論として」(ギリシャ時代)放送研究と調査68(5),2018年。)
(*)(参考:田坂さつき「平成二十八年度在外研修(長期)報告 オックスフォード大学在外研究」立正大学文学部論争141,2018年。)
(*)(参考:大草輝政「大学教員の授業担当時間についてのノート—日本,アメリカ等の状況」県立広島大学総合教育センター紀要2,2018年。)
(*)和泉ちえ・鈴木伸国「男女共同参画・若手研究者紫煙ワーキンググループ主催ワークショップ「どう変わる!」日本哲学会—ジェンダー平等推進とGood Practice Scheme」報告」哲学69,2018年。)
(*)(参考:中矢慎子「アンドレア・カミッレーリとその言語について」研究紀要53(1),2018年。)
(*)日外アソシエーツ株式会社編『オリンピックの本3000冊』日外アソシエーツ,紀伊国屋書店(発売),2018年。)
(*)久保正彰「UAIから賜った稀有なる宝物へのささやかなる感謝の言葉」日本學士院紀要72,2018年。)

(*)(参考：川合康三,上野誠,沓掛良彦,マイケル・ワトソン,河野貴美子「座談会 古典のあり方をめぐって」國學院雑誌119(2),2018年。)
(*)石井徹「まんが学術文庫創刊 難しい古典の名著に再チャレンジ!」本43(5),2018年。
(*)(参考：植朗子編・阿部海太絵『はじまりが見える世界の神話』創元社,2018年。)
(*)(参考：馬場綾香「伝統的言語文化教育における比較神話からの貢献の可能性」表現学部紀要18,2018年。)
(*)(参考：堀朋平「クロス討論 神話と音楽；〈ロマン主義的神話観〉とシューベルト：ギリシア神話とプラトンの受容」シェリング年報26,2018年。)
(*)(参考：岩田道子「諸文化圏・諸言語圏における女神研究 イギリス・ルネサンスにおけるヴィーナスの服従：リリーからシェイクスピアへ(飯野昭夫教授退職記念号)」拓殖大学語学研究138,2018年。)
(*)(参考：巽善信「シュリーマンとギリシア神話：ホメロスを信じて」説話・伝承学26,2018年。)
(*)(参考：馬場綾香「「伝説」と「メルヒェン」にみる「神話」：ドイツ神話学派のジャンル定義を通して(「神話」を近現代に問う)-(近代「神話」の展開：「ネイション」と神話を問い直す)」アジア遊学217,2018年。)
(*)(参考：高橋駿仁「啓蒙の神話学—フォントネルの神話論とその文脈」宗教研究92(1),2018年。)
(*)(参考：佐藤真理恵『仮象のオリュンポス：古代ギリシアにおけるプロソポアンの概念とイメージ変奏』古典転生16,月曜社,2018年。)
(*)(参考：E.フラー・トリー/寺町朋子訳『神は,能がつくった：200万年の人類史と脳科学で解読する神と宗教の起源』ダイヤモンド社,2018年。)
(*)(参考：諸川春樹責任編集『神話と物語：創造の玉手箱』Art gallery：テーマで見る世界の名画,集英社,2018年。)
(*)(参考：吉田敦彦『ギリシア神話の光と影—アキレウスとオデュッセウス』青土社,2018年。)
(*)(参考：加藤綾子文・Tob絵『ギリシア神話：知っておきたい神様たちの物語』角川つばさ文庫,KADOKAWA,2018年。)
(*)(参考：楠見千鶴子『ギリシア神話物語』角川ソフィア文庫,2018年。)
(*)(参考：M.フォンタ/遠藤ゆかり訳『100の傑作でよむ読む世界の神話—名画と彫刻でたどる』創元社,2018年。)
(*)(参考：大村次郷「幻獣遊学(12)空と陸の王者である鷲とライオンから生まれたグリフィン」科学88(12),2018年。)
(*)(参考：金沢百枝「写真で読む研究レポート ロマネスク美術と怪物たち：聖堂に息づくギリシャ神話」アステイオン88,2018年。)
(*)(参考：川井万里子『トロイア戦争の三人の英雄たち：アキレウスとアイアスとオデュセウス』春風社,2018年。)
(*)(参考：猪俣無限「神話的思考から身体へ：メルロ：ポンティとカッシーラにおける「表現」」文化交流研究13,2018年。)
(*)(参考：庄子大亮「神話の今を問う試み—ギリシア神話とポップカルチャー」アジア遊学217,2018年。)
(*)(参考：山形治江「映画『聖なる鹿殺し』(ヨルゴス・ランティモス監督2017)：ギリシャ

神話/悲劇の視点から読み解く」世界文学127,2018年。)
(*)(参考：尾上深雪「デルフォイの神託」歴史研究60(1・2),2018年。)
(*)(参考：秋山学「典礼神話学序説：ピンダロスと「勝利の歌」の射程」古典古代学11,2018年。)
(*)(参考：岩田道子「諸文化圏・諸言語圏における女神研究 イギリス・ルネサンスにおけるヴィーナスの服従：リリーからシェイクスピアへ(飯野昭夫教授退職記念号)」拓殖大学語学研究138,2018年。)
(*)(参考：木谷厳「聖愛と俗愛のあわい：シェリーのジェイン論にみられる天上のヴィーナスと知性的エロティシズム」イギリスロマン主義研究42,2018年。)
(*)(参考：梶原将志「文学の慰め：ザッハー=マゾッホ『毛皮を着たヴィーナス』における文学的マゾヒズム」ドイツ文学論集51,2018年。)
(*)(参考：竹内一博「アッティカのデーモスにおけるディオニュソス神官職」西洋古典學研究66,2018年。)
(*)(参考：高橋翔「〈ゲネレオス群像〉におけるヘラの守護—アルカイック期のサモスの奉納彫像と女神崇拝に関する一考察」美術史67(2),2018年。)
(*)(参考：生田康夫「ホメーロスと嘘」言語文化35,2018年。)
(*)(参考：山形治江「映画『聖なる鹿殺し』(ヨルゴス・ランティモス監督2017)：ギリシャ神話/悲劇の視点から読み解く」世界文学127,2018年。)
(*)(参考：ルチャーノ・デ・クレシェンツォ/谷口伊兵衛,ジョバンニ・ピアッザ共訳『現代版ホメロス物語：ヘレネよ,ヘレネ!愛しのきみよ!』而立書房,2018年。)
(*)(参考：有村直輝「ホメロスを聴くオデュッセウス：ホワイトヘッドの芸術論における病理と治癒(小特集「暴力からの人間存在の回復」研究会ワークショップ芸術哲学の可能性：シェリング・ホワイトヘッド・メルロ=ポンティ)」立命館大学人文科学研究所紀要114,2018年。)
(*)(参考：山本樹「ボローニャ,パラッツォ・ラッタ《トロイアから脱出するアエネーアース》：その文献上の典拠に関する一考察」地中海学研究41,2018年。)
(*)(参考：湯浅茉衣「ドラクロワの初期歴史画における技法の問題：《キアス島の虐殺》のギリシア人の肌の表現をめぐって」地中海学研究41,2018年。)
(*)(参考:川合真木子「アルテミジア・ジェンティレスキとナポリのフィレンツェ人の関係」地中海学研究41,2018年。)
(*)(参考：加藤之敬「「ホメロスの競争」における「競争」概念：他者との理想的な関係としてニーチェが考えていたもの」哲学2018(69),2018年。)
(*)(参考：中村友代「《稲妻を持つアレクサンドロス》とエフェソスのアルテミス神殿：肖像表現と設置場所に関する一考察」藝叢：筑波大学芸術学研究誌34,2018年。)
(*)(参考：前野弘志「研究フォーラム 古代地中海世界における呪詛と魔術師(世界史の研究257)」歴史と地理719,2018年。)
(*)(参考：ヴィーデマン・フェーリックス/牟田和男訳「近代における魔女神話：ロマン主義からフェミニズムまで(魔女研究の新潮流9)」思想1125,2018年。)
(*)(参考：山下桐子「鳥のこぼれ話(23)ハヤブサのいる高みへ：猛禽信仰と鷹狩」地中海歴史風土研究誌48,2018年。)
(*)(参考：『越境する中国文学』編集委員会編『越境する中国文学：新たな冒険を求めて』

(根岸宗一郎「周作人とエフタリオーティス：背景としてのテオクリトスとギリシア神話」)東方書店,2018年。)
(*)(参考：青木真兵「古代ローマ帝国下トリポリタニアとガラマンテス：新ポエニ語碑文に見る紀元後1世紀のアンモン神崇拝を中心に」関西大学西洋史論叢20,2018年。)
(*)(参考：秦剛平『七十人訳ギリシア語聖書 ダニエル記』青土社,2018年。)
(*)(参考：秦剛平訳『七十人訳ギリシア語聖書 ヨシュア記』青土社,2018年。)
(*)(参考：荒井直「妹の力：ヘブライズムとヘレニズムの場合」ペディラヴィウム73,2018年。)
(*)(参考：行澤一人「キリスト教の本質を求めて：ヘブライズム・ヘレニズムの相克というテーマ設定はどこまで有効か(2,3)中間時代(上下)」舟の右側49,50,2018年。)
(*)(参考：行澤一人「キリスト教の本質を求めて：ヘブライズム・ヘレニズムの相克というテーマ設定はどこまで有効か(4)キリスト時代」舟の右側51,2018年。)
(*)(参考：行澤一人「キリスト教の本質を求めて：ヘブライズム・ヘレニズムの相克というテーマ設定はどこまで有効か(5-7)パウロ(1-3)」舟の右側52,53,55,2018年。)
(*)(参考：行澤一人「キリスト教の本質を求めて：ヘブライズム・ヘレニズムの相克というテーマ設定はどこまで有効か(8)ヘレニズタイとヘブライオイ」舟の右側56,2018年。)
(*)(参考：行澤一人「キリスト教の本質を求めて：ヘブライズム・ヘレニズムの相克というテーマ設定はどこまで有効か(9)主の兄弟ヤコブとパウロ」舟の右側58,2018年。)
(*)(参考：行澤一人「キリスト教の本質を求めて：ヘブライズム・ヘレニズムの相克というテーマ設定はどこまで有効か(10,最終回)東方教会と西方教会：キリスト受肉論を手掛かりに」舟の右側59,60,2018年。)
(*)(参考：新免貢「愛敵論」(ストア派)(宮城学院女子大学)キリスト教文化研究所研究年報：民族と宗教51,2018年。)
(*)(参考：稲羽太郎『クレオパトラとイエスキリスト』ストーク,2018年。)
(*)(参考：小川陽『ヨハネの黙示録』講談社学術文庫,講談社,2018年。)
(*)(参考：太田強正「アレクサンダーの書(1-8)」(神奈川大学人文学会)人文研究194,195,196,2018年/197,198,199,2019年/200,201,2020年。)
(*)(参考：カトリック京都司教区聖書委員会企画・編集『使徒言行録を読む：聖霊に導かれて』聖書講座シリーズ14,サンパウロ,2018年。)
(*)(参考：J.E.ソールズベリ/後藤篤子監修・田畑賀世子訳『ペルペトゥアの殉教—ローマ帝国に生きた若い女性の死とその記憶』白水社,2018年。)
(*)(参考：中西[高久]恭子「古代末期の新プラトン主義思想における宗教表象と宗教史の回顧」宗教研究(第77回大会紀要号)92(別冊),2018年。)
(*)津田謙治「中西恭子著『ユリアヌスの信仰世界—万華鏡のなかの哲人皇帝』」宗教研究92(1),2018年。
(*)足立広明「書評 中西恭子著『ユリアヌスの信仰世界—万華鏡のなかの哲人皇帝』」西洋史学265,2018年。

(*)「書評 中西恭子著『ユリアヌスの信仰世界—万華鏡のなかの哲人皇帝』」清泉女子大学キリスト教文化研究所年報26,2018年。
(*)(参考：上智大学中世思想研究所編訳・監修『ギリシア教父・ビザンティン思想』中世思想原典集成・精選1,平凡社ライブラリー874,平凡社,2018年。)
(*)(参考：久松英二『古代ギリシア教父の霊性：東方キリスト教修道制と神秘思想の成立』教文館,2018年。)
(*)(参考：アレクサンドリアのクレメンス/秋山学訳『ストロマテイス(綴織)』キリスト教教父著作集4巻1-2,教文館,2018年。)
(*)小野賢一「書評 杉崎泰一郎著「修道院の歴史：聖アントニオスからイエズス会まで」」西洋史学265,2018年。
(*)(参考：和田忠彦著/日本放送協会,NHK出版事業『ウンベルト・エーコ『薔薇の名前』』NHKテキスト「100分de名著」NHK出版,2018年。)
(*)(参考：関根清三「近代日本の哲学と聖書解釈：和辻哲郎と西田幾多郎の場合(特集 sola scriptura?哲学・思想と聖書解釈)」理想701,2018年。)
(*)(参考：磯部武男「初期密教における仏三尊の成立をめぐって：ガンダーラの仏三尊から密教の仏三尊へ(密教研究会設立100周年記念号)」密教文化240,2018年。)
(*)須田悦生『幸若舞の展開：芸能伝承の諸相』三弥井書店,2018年。
(*)楊慧穎「野上弥生子とキリスト教：『キリストと祖父と母』の人物像を通して」世界文学128,2018年。
(*)(参考：『「基礎づけ」概念に基づく形而上学的方法の正当化と,その科学哲学・倫理学への応用』京都大学(2015年),(科研費)2018年。)
(*)納富信留「平成28年度 西田幾多郎講座(2016年10月23日)日本人はギリシア哲学をどう読んできたか：大西祝,西田幾多郎,田中美知太郎」点から線へ67,2018年。
(*)(参考：W.イェーガー/曽田長人訳『パイデイア：ギリシアにおける人間形成(上)』知泉学術叢書3,知泉書館,2018年。)
(*)(参考：リチャード・E.ルーベンスタイン/小沢千重子訳『中世の覚醒：アリストテレス再発見から知の革命へ』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2018年。)
(*)(参考：黒川正剛『魔女・怪物・天変地異：近代的精神はどこから生まれたか』筑摩選書,筑摩書房,2018年。)
(*)(参考：澤田繁男『自然魔術師たちの饗宴：ルネサンス・人文主義・宗教改革の諸相』春秋社,2018年。)
(*)(参考：森村進『幸福とは何か：思考実験で学ぶ倫理学入門』筑摩書房,2018年。)
(*)(参考：齋藤孝『こどもギリシア哲学 汝自身を知れ』草思社,2018年。)
(*)(参考：佐藤康邦『古代ギリシアにおける哲学的知性の目覚め』放送大学叢書41,左右社,2018年。)
(*)(参考：菊谷忠治「中村雄二郎著『臨床の知とは何か』を読み解く」地中海歴史風土研究誌47,2018年。)
(*)河野一典「「道徳教育」の可能性：2015年学習指導要領解説改訂に関する一考察」鹿児島純心女子短期大学研究紀要48,2018年。)
(*)(参考：和泉ちえ「補遺2 ギリシア哲学の視点からハラスメント問題を考える」哲学69,2018年。)
(*)(参考：佐藤真理恵『仮象のオリュンポス：古代ギリシアにおけるプロソポンの概念とイ

メージ変奏』古典転生16,月曜社,2018年。)
(*)三嶋輝夫「書評 佐藤真理恵『仮象のオリュンポス：古代ギリシアにおけるプロソポンの概念とメージ変奏』」ペディラヴィウム73,2018年。
(*)(参考:朴一功「アスクレピオスに鶏を:ソクラテスの最後の言葉について」大谷学報98(1),2018年。)
(*)(參考:鵜殿篤「「対話的な学び」の教育原理的考察:ソクラテスの実践を参考に考える」東京家政大学研究紀要58(12),2018年。)
(*)(參考:田村宜義「物語の連続性とキャラクターの一貫性:プラトンのソクラテスによる人間尺度説批判とその批判的理由」哲学会誌42,2018年。)
(*)(參考:菊谷忠治「「ソフィスト」考」地中海歴史風土研究誌48,2018年。)
(*)(參考:岸見一郎『プラトンソクラテスの弁明』角川選書1002,KADOKAWA,2018年。)
(*)(參考:プラトン著/脇條靖弘訳『パイドロス』西洋古典叢書,京都大学学術出版会,2018年。)
(*)(參考:メアリー・セットガスト著/山本貴光・吉川浩満訳『先史学者プラトン:紀元前一万年—五千年の神話と考古学』朝日出版社,2018年。)
(*)(參考:松浦明宏『プラトン後期的ディアレクティケー:イデアの一性と多性について』晃洋書房,2018年。)
(*)(參考:古川力『プラトン思想のアナロジー:ポパーとロスの解釈をめぐって』学研プラス,2018年。)
(*)(參考:近藤智彦「恋と愛の形而上学:プラトンから考える」(鈴木幸人編『恋する人間:人文学からのアプローチ』所収,北大文学研究科ライブラリー16,北海道大学出版会,2018年。)
(*)(參考:近藤智彦「プラトンをめぐる争い—クリュシュッポスとプルタルコス」西洋古典叢書月報132,2018年。)
(*)(參考:福田宗太郎『中期プラトンにおける認識論』京都大学,博士(文学),甲第20831号,2018年。)
(*)(參考:酒井健太朗『知識と方法:アリストテレス『分析論後書』における論証と探究の観点から』九州大学,博士(文学),甲第13815号,2018年。)
(*)(參考:瀬尾英吉「和泉老耄日記 隠れて生きよ!:エピクロスと道元の言葉」税制研究74,2018年。)
(*)(參考:宮城徳也「『モラリア』翻訳の意義と「エロス談義」」西洋古典叢書月報133,2018年。)
(*)(參考:西村昌洋「「ムーサに仕える輩たち」と後期ローマ帝国—教養知識人と帝国・皇帝体制」史林101(1),2018年。)
(*)(參考:白水浩信「教育言説揺籃期のeducationなき教育論—ジャック・アミヨとプルタルコス『子どもの教育について』」思想1126,2018年。)
(*)(參考:太田明「レオナルド・ネルソンと〈理性の自己信頼〉(4)」玉川大学文学部紀要58,2018年。)
(*)(參考:嶺岸佑亮「ヘーゲルにおけるプラトニズムの問題:再考:イデアを観ること」文化82(1・2),2018年。)
(*)(參考:悠季真理「哲学・論理学研究余滴(6)ヘーゲル『哲学史』をふまえてアリストテレスの矛盾論を考える(1)」学城:学問への道17,2018年。)
(*)(參考:悠季真理「哲学・論理学研究余滴(7)ヘーゲル『哲学史』をふまえてアリストテレ

スの“思弁”への端緒につく過程を考える(1)」学城:学問への道17,2018年。)
(*)(参考:村山盛葦「パウロの倫理思想に関する研究の概観と問題点について」(同志社大学神学部)基督教研究80(2),2018年。)
(*)(参考:アレクサンドル・コイレ/小原拓磨・宮崎祐助訳「アレクサンドル・コイレ フランスにおけるヘーゲル研究の状況報告」知のトポス:世界の視点13,2018年。)
(*)(参考:出村和彦「アウグスティヌスの人物像—古代末期に生きた探究者」學士會報3,2018年。)
(*)(参考:Richard E.Rubenstein/小沢千重子訳『中世の覚醒:アリストテレス再発見から知の革命へ』筑摩書房,2018年。)
(*)(参考:トマス・アクィナス/山本耕平訳『トマス・アクィナスの真理論(上下)』中世思想原典集成・[第2期1-2],平凡社,2018年。)
(*)(参考:田之頭一知「ボエティウス『音楽教程』における音楽観:音楽の三分類と音楽家の規定をめぐって(特集 シアトロクラシー:観客の美学と政治学)」a+a美学研究12,2018年。)
(*)(参考:古舘惠介「『命題論』註解史の中のコプラと現実性:ボエティウスからスコトゥスまで」中世思想研究60,2018年。)
(*)(参考:田島照久・阿部善彦編『テオーシス:東方・西方教会における人間神化思想の伝統』教友社,2018年。)
(*)(参考:黒川正剛『魔女・怪物・天変地異:近代精神はどこから生まれたか』筑摩書房,2018年。)
(*)(参考:アラン・コルバン/小倉孝誠・中川真知子訳『静寂と沈黙の歴史:ルネサンスから現代まで』藤原書店,2018年。)
(*)(参考:日向太郎「プロペルティウスとペトラルカ—2人の恋愛詩人の接点をめぐって」西洋古典學研究66,2018年。)
(*)(参考:土井健司「第414回神学研究会(宗教改革500年記念)報告 竹原創一「エラスムスとルターの自由意思論争:宗教改革の根本問題」(特集 宗教改革500年)」神学研究65,2018年。)
(*)(参考:久保田義弘「人間の「自由意志」についてのエラスムスの見解:知識人の人間観ならびに社会観(4)」札幌学院大学経済論集14, 2018年。)
(*)(参考:伊藤玄吾「シンポジウム報告 エラスムスからラブレーへと至る人文主義の一潮流とユダヤ(第10回学術大会シンポジウム ルネサンス・人文主義・宗教改革とユダヤ:ルター「95箇条の論題」500周年)」京都ユダヤ思想9,2018年。)
(*)(参考:木ノ脇悦郎「討論提題 エラスムスの『対話集』とその改革思想について(宗教改革500年記念特集)—(第68回キリスト教史学会大会)」キリスト教史学72,2018年。)
(*)(参考:ヒルティ/齋藤孝訳・解説『超訳ヒルティの幸福論』三笠書房,2018年。)
(*)(参考:亀井高孝・三上次男・堀米庸三編『標準世界史地図』第 48 版,吉川弘文館,2018年。)
(*)(参考:亀井高孝・三上次男・堀米庸三編『標準世界史年表』第 50 版,吉川弘文館,2018

年。)
(*)日高智彦「書評 秋田茂編「「世界史」の世界史」西洋史学265,2018年。
(*)(参考：荒井淳也『メソポタミアとエジプト：古代オリエントの時代』小学館,2018年。)
(*)(参考：荒井淳也『ギリシアとヘレニズム：古代アテネとアレクサンドロス』小学館,2018年。)
(*)飯坂晃治「書評 南雲泰輔著「ローマ帝国の東西分裂」」(九州西洋史学会)西洋史学論集55,2018年。
(*)(参考：ジョナサン・ハリス/井上浩一訳『ビザンツ帝国：生存戦略の一千年』白水社,2018年。)
(*)藤田風花「書評紹介 ジョナサン・ハリス/井上浩一訳「ビザンツ帝国：生存戦略の一千年」」フェネストラ：京大西洋史学報1,2018年。
(*)(参考：金澤周作「〈西洋史研究室の現在〉西洋史読書会シンポジウム「西洋史における時代区分をめぐって」フェネストラ：京大西洋史学報1,2018年。)
(*)(参考：アーサー・フェリル/鈴木主税・石原正毅訳『戦争の起源：石器時代からアレクサンドロスにいたる戦争の古代史』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2018年。)
(*)(参考：斯波照雄『西洋都市社会史：ドイツ・ヨーロッパ温故知新の旅』学文社,2018年。)
(*)(参考：本村凌二監修・造事務所編『30の「王」からよむ世界史』日経ビジネス文庫,2018年。)
(*)(参考：本村凌二監修『偉人たちにも黒歴史!?世界史100人の履歴書』宝島社,2018年。)
(*)(参考：本村凌二『教養としての「ローマ史」の読み方』PHP研究所,2018年。)
(*)(参考：梶原正将志「ナポレオンからエムペードクレスへ：Trauerspiellに至る詩人ヘルダーリンの道程」言語文化研究37(2),2018年。)
(*)波部雄一郎「書評 森谷公俊著『アレクサンドロス大王 東征路の謎を解く』」西洋史266,2018年。
(*)(参考：箕作麟祥編纂；世界史研究所翻刻・編集『萬國新史』NPO歴史文化交流フォーラム付属世界史研究所,2018年。)
(*)小谷汪之「蘇る萬國新史」図書839,2018年。
(*)佐藤雄基「立教大学図書館大久保利謙文庫とその内覧会：歴史家の蔵書からみる史学史」立教大学日本学研究所年報17,2018年。
(*)井上文則『天を相手にする—評伝 宮崎市定』国書刊行会,2018年。
(*)井上文則「宮崎市定のローマ帝国：『天を相手にする—評伝 宮崎市定』補遺」西洋古代史研究18,2018年。
(*)瀧井敬子『夏目漱石とクラシック音楽』(「ケーベル先生との音楽談義」)毎日新聞出版,2018年。
(*)(参考：酒嶋恭平「古代ギリシア史研究におけるプロソポグラフィーの効用とその意義」西洋古代史研究18,,2018年。)
(*)(参考：藏戸亮太「書評 John Grainger,Great Power Diplomacy in the Hellenistic World」西洋古代史研究18,,2018年。)
(*)(参考：新井淳也まんが『ギリシアとヘレニズム：古代アテネとアレクサンドロス』小学館版学習まんが,世界の歴史2,小学館,2018年。)
(*)(参考：阿部拓児「クテシアスとヘロドトス：ギリシア史学史におけるペルシア史叙述の伝統」洛北史学20,2018年。)

(*)(参考：前野弘志「エトルリアの戦車：その機能の変遷」広島大学大学院文学研究科論集80,2018年。)
(*)藪田貫「粟野頼之祐と「北摂郷土史学運動」：もうひとつの戦後歴史学」Link：地域・大学・文化10,2018年。)
(*)(参考：古山正人「シュンポジオンと女性—近年の研究動向管見」國學院雑誌118(10),2018年。)
(*)(参考：新井淳也まんが「ギリシアとヘレニズム：古代アテネとアレクサンドロス」小学館版学習まんが,世界の歴史2,小学館,2018年。)
(*)(参考：田中英道「世界史の中の日本を語ろう(6)神武東征とアレキサンダー大王東征」日本の息吹6月号,2018年。)
(*)(参考：塩野七生「特別対談 若きアレクサンダー大王にヒントがある 進次郎は総理になれるか」文藝春秋96(2),2018年。)
(*)塩野七生・伊藤幸人「『ギリシア人の物語 III 新しき力(前後)』刊行記念特集 インタビュー(前後編)」波52(1,2),2018年。
(*)塩野七生「『十字軍物語』文庫版完結記念 読者との対話」波53(2),2018年。)
(*)(参考：星野宏美「研究ノート：マネトン『エジプト史』とヘレニズム世界—プトレマイオス朝エジプトにおける歴史認識の変化」史窓75,2018年。)
(*)(参考：D.ゴメス=カストロ/藤井崇訳「ギリシアの「招かれた帝国主義」についての小論—前4世紀初頭の小アジア」関西学院史学45,2018年。)
(*)(参考：南川高志編『B.C.220年—帝国と世界史の誕生(歴史の転換期1)』(南川高志「総論帝国と世界史の誕生」,南川高志「帝国の民となる,帝国に生きる」,藤井崇「消滅するヘレニズム世界」)山川出版社,2018年。)
(*)(参考：南川高志編『378年—失われた古代帝国の秩序(歴史の転換期2)』(南川高志「総論失われた古代帝国の秩序」,南川高志「ローマ的世界秩序の崩壊」,加納修「西ヨーロッパ世界の再編」)山川出版社,2018年。)
(*)(参考：『修士論文要旨(平成28年度)文化研究科 文化財史料学専攻』(森川彰太「ウエーイとの戦争からみたイタリア半島におけるローマとエトルリア」)奈良大学大学院研究年報23,2018年。)
(*)(参考：M.ビアード/宮崎真紀訳『SPQR ローマ帝国史I—共和政の時代』亜希書房,2018年。)
(*)(参考：M.ビアード/宮崎真紀訳『SPQR ローマ帝国史II—皇帝の時代』亜希書房,2018年。)
(*)(参考：大清水裕「ローマ帝政期北アフリカにおける軍隊と社会：ハドリアヌス帝の演説を中心に(特集 古代ローマ軍事史研究の最前線[2])」軍事史学54(2),2018年。)
(*)(参考：大清水裕「北アフリカにおけるローマ皇帝礼拝の展開」滋賀大学教育学部紀要67,2018年。)
(*)(参考T.ワイルダー/志内一興訳『三月十五日 カエサルの最期』みすず書房,2018年。)
(*)(参考：小野智子翻訳『最強の帝国：覇者たちの世界史』ナショナルジオグラフィック別冊,日経ナショナルジオグラフィック社,2018年。)
(*)(参考：高橋亮介「作られる帝国の穀倉」地中海学会月報406,2018年。)
(*)(参考：北原敦「1860年：ガリバルディのシチリア遠征(北村行遠教授・近藤和彦教授退職記念号)」立正史学123,2018年。)

(*)(参考 : 亀井高孝・三上次男・堀米庸三編『標準世界史地図』増補第48編,吉川弘文館,2018年。→2020年,増補49編。)
(*)「史学文献目録—西洋史1」史學雑誌127(1),2018年。
(*)(参考 : 伊藤雅之「共和政中期ローマにおける外国使節への贈物」史學雑誌127(2),2018年。)
(*)黒木真子「新刊紹介 C.キング著/前田弘毅訳『黒海の歴史 ユーラシア地政学の要諦における文明世界』」史學雑誌127(3),2018年。
(*)「回顧と展望 2016年の歴史学界(追加) : ヨーロッパ近代一般」史學雑誌127(4),2018年。
(*)「史学文献目録—西洋史2」史學雑誌127(5),2018年
(*)安岡義文「西アジアと北アフリカ : 古代オリエント(1)」史學雑誌127(5),2018年。
(*)竹内一博「ヨーロッパ : 古代ギリシア(2017年の歴史学界 : 回顧と展望)」史學雑誌127(5),2018年。
(*)勝田由美「2017年の歴史学界 : 回顧と展望 ヨーロッパ・近代(南欧)」史學雑誌127(5),2018年。
(*)(参考 : 古山正人「歴史の風 スパルタ史研究の現在」史學雑誌127(7),2018年。
(*)「史学文献目録—西洋史3」史學雑誌127(9),2018年。
(*)(参考 : 藤井崇「〈シンポジウム〉ヘレニズム史研究の最前線」関学西洋史論集41,2018年。)
(*)(参考 : 柴田広志「近年のセレウコス朝研究の展開とペルガモン王国の動向(シンポジウム ヘレニズム史研究の最前線)」関学西洋史論集41,2018年。)
(*)(参考 : 波部雄一郎「ヘレニズム時代の都市におけるギュムナシオン : 最近の研究動向を中心に(シンポジウム ヘレニズム史研究の最前線)」関学西洋史論集41,2018年。)
(*)(参考 : 長谷川岳男「ヘレニズム世界の歴史的意義について : ギリシアとローマの間で(シンポジウム ヘレニズム史研究の最前線)」関学西洋史論集41,2018年。)
(*)(参考 : 本村凌二「英語での講義と「世界史」教科書」地中海学会月報410,2018年。)
(*)(参考 : 本村凌二「ローマ史 変容する米国,ローマ衰亡史の視座—寛容性喪失で色褪せる大国の権威」エコノミスト96(32),2018年。)
(*)(参考 : 毛利晶「古代ローマのケーンスス : 西洋古代国家と人口把握の試み(特集,人口と権力(2))」歴史学研究978,2018年。)
(*)(参考 : 中川亜希「読書案内 ローマ帝国の都市エリート」歴史と地理714,2018年。)
(*)遠藤直子「漱石とパレオロガス : 日本はいつローマ帝国と出会ったか?(西洋史特集号)」(日本大学史学会)史叢99,2018年。
(*)(参考 : 高草木邦人「ルーマニア王国におけるトラヤヌス帝の「記憶」 : トラヤヌス帝のダキア征服1800年記念を中心に(西洋史特集号)」(日本大学史学会)史叢99,2018年。)
(*)(参考 : 林亮「中世ヨーロッパにおける古代ローマ軍の記憶の継承と受容について : ウェゲティウス『軍事覚書』の検討を中心に(西洋史特集号)」(日本大学史学会)史叢99,2018年。)
(*)(参考 : 金澤周作「〈西洋史研究室の現在〉西洋史読書会シンポジウム「西洋史のおける時代区分をめぐって」フェネヅトラ : 京大西洋史学報1,2018年。)
(*)(参考 : 藤田風花「〈書評・紹介〉ジョナサン・ナリス著(井上浩一訳)「ビザンツ帝国---生存戦力の一千年」フェネヅトラ : 京大西洋史学報1,2018年。

(*)戸田善治「地中海世界における「古代」と「中世」：西洋史学と世界史教育のあいだ」千葉大学教育学部研究紀要66(2),2018年。
(*)(参考：古山夕城「西洋史における破壊・崩壊と構築・創生(特集 西洋史における破壊・崩壊と構築・創生)」(明治大学)駿台史学162,2018年。)
(*)(参考：山崎雅弘「ギリシャと第二次大戦：独伊に狙われた南欧の小国の悲劇」歴史群像27(2),2018年。)
(*)(参考:中野京子「中野京子の名画が語る西洋史(72)古代版ハニートラップ」文藝春秋96(8),2018年。)
(*)(参考：飯坂晃治「高校世界史の授業におけるPower Pointの導入の事例」別府大学紀要59,2018年。)
(*)飯坂晃治「教職をめざすみなさんへ」教職への道38,2018年。
(*)(参考：青柳かおり「大学における西洋史概説の授業改善に関する研究」教育実践総合センター紀要35,2018年。)
(*)(参考：堀井健一「新学習指導要領における中学校社会科歴史的分野の「ギリシャ・ローマ文明」と民主政治の来歴の観点に関する一考察」長崎大学教育学部教育実践研究紀要17,2018年。)
(*)(参考：戸田善治・澤田典子「地中海世界における「古代」と「中世」：西洋史学と世界史教育とのあいだ」千葉大学教育学部研究紀要66(2),2018年。)
(*)(参考：日本ジョンソン協会編『旅,ジェンダー,間テクスト性』(下川舞子「古代近代論叢におけるスウィフトのハイドロロギカル(hydrologocal)な諷刺」)十八世紀イギリス文学研究6,開拓社,2018年。)
(*)(参考：デイヴィッド・アブラフィア/高橋謙公訳「講演 いかに地中海の歴史を書くか」地中海学研究41,2018年。)
(*)(参考：宇和川雄「ヴァルター・ベンヤミンにおける普遍史の理念」(関西学院大学人文学会)人文論究68(1),2018年。)
(*)(参考：吉原秋,小川春美,マーハー・パトリック,鈴木道也,安井萌,小川知幸,畑奈保美,出村伸,津田拓郎,池野健「世界史教育と外国史研究との連携・協働のための予備調査報告—異文化理解と内発的動機づけの観点から」岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集20,2018年。)
(*)(参考：ロンギノス,ディオニュソス著/戸高和弘・木曽明子訳『古代文藝論集』西洋古典叢書,京都大学学術出版会,2018年。)
(*)(参考：水野敦子「ホメロス,ジョイス,アナーヤー(チカーノ・ユリシーズ)に見る環大西洋想像力」山陽女子短期大学紀要39,2018年。)
(*)(参考：ジャン・ルメール・ド・ベルジュ/八木淳訳「パリスの審判の哲学的,歴史的,および道徳的な解釈：『ガリアの顕揚とトロイアの偉傑』第1巻,第35章の翻訳と注釈」L'Arche28,2018年。)
(*)(参考：山本樹「ボローニャ,パラッツォ・ラッタ《トロイアから脱出するアエネーアース》：その文献上の典拠に関する一考察」地中海学研究41,2018年。)
(*)(参考：塚田花恵「ベルリオーズの創作を彩る人々と芸術：《トロイアの人々》をめぐって(特集 1850年年代の音楽・文化・社会)」(春秋社)春秋595,2018年。)
(*)白石加代子「大岡信の詩, 白石加代子インタビュー トロイアの女王が,世界中の舞台で宇宙に向かって語り掛けた詩「咒(じゅ)」」大岡信研究4,2018年。

(*)(参考：前野弘志「ある魔術師のサクセスストーリー：ルキアノス『偽預言者アレクサンドロス』広島大学大学院文学研究科論集78,2018年。)
(*)(参考：勝又泰洋「ラウィーニアの物語は終わらない--『ラウィーニア』と『アエネーイス』をめぐる試論」ユリイカ5月号,2018年。)
(*)(参考：高畠純夫『アイネイアス『攻城論』--解説・翻訳・註解』東洋大学出版会,2018年。)
(*)(参考：宮坂真衣子「『アエネーイス』第4歌におけるディードーの非難と悲劇的皮肉」西洋古典學研究66,2018年。)
(*)(参考：星野倫『天国と政治--ダンテ『帝政論』と『神曲』〈天国篇〉』京都大学,博士(文学),甲第20826号,2018年。)
(*)(参考：原基晶『ダンテ『神曲』と個人の出現』東京外国語大学,博士(学術),乙第25号,2018年。)
(*)(参考：原基晶「フランチェスカ・ダ・リミニとダンテをめぐる研究史」世界文学127,2018年。)
(*)(参考：「主人公で読むG.チョーサー『トロイルスとクリセイデ』(平成29(2017)年度文学部英文学科公開講義「主人公で読む英文学」Proceedings)」東北學院大學論集,英語英文学102,2018年。)
(*)(参考：宮崎かすみ「エドワード・カーペンターの同性愛思想：ジョン・アディントン・シモンズとの関わりから」表現学部紀要18,2018年。)
(*)(参考：鴻巣友季子『翻訳ってなんだろう?：あの名作を訳してみる』(ジョージ・バーナード・ショー『ピグマリオン』—「完璧すぎる英語」を訳すと,「イライザの痛み」がわかる」)ちくまプリマー新書,筑摩書房,2018年。)
(*)(参考：勝山祐子「プルーストとフォルチュニィの交差点：「ビザンチン・ホール」とフォルチュニィの舞台照明」文化学園大学・文化学園大学短期大学部紀要49,2018年。)
(*)(参考：島田了「ヴィンケルマンとドレスデン絵画館—イタリア絵画との出会いと訣別」言語と文化：愛知大学語学教育研究室紀要65(38),2018年。)
(*)(参考：粂川麻里生「詩と学問：ゲーテと西脇におけるギリシャ(中山豊教授退職記念号)」慶應義塾大学日吉紀要,ドイツ語学・文学56,2018年。)
(*)(参考：八幡さくら「人間の自由はいかにして実現可能か?—シェリング芸術哲学から見たギリシア悲劇の示す第三の道」(東洋大学国際哲学センター)国際哲学研究7,2018年。)
(*)古田博司「近代以後(no.48)西尾幹二『ニーチェ』に学ぶ,直観・超越法」正論559,2018年。
(*)(参考：村井洋「アーレントと古典的レトリカ」(島根県立大学総合政策学会)総合政策論叢35,2018年。)
(*)(参考：ヴィンフリート・メニングハウス著/竹峰義和訳『生のなかば：ヘルダーリン詩学にまつわる試論』叢書・エクリチュールの冒険,月曜社,2018年。)
(*)(参考：山崎輝美「ヘルダーリンの『オウディプスへの注解』における悲劇の意味—中間中止の概念を媒介にして」女子大学研究紀要48,2018年。)
(*)(参考：兵頭俊樹「ヘルダーリンの『多島海』「天空に輝く兄弟たちの調べ」からキケロの『スキピオの夢』へ」和歌山大学クロスカル教育機構研究所紀要1,2018年。)
(*)(参考：益敏郎「〈研究ノート〉非讃歌的な讃歌詩人ヘルダーリンを求めて—詩と社会を

めぐる戦後の議論と近代以降のピンダロス受容を手がかりに」(京都大学大学院独文研究室研究報告刊行会)研究報告31,2018年。)
(*)(参考：西山達也「ヘルダーリンの「ソフォクレース註解」における悲劇的なものと歴史の理論」フィロソフィア106,2018年。)
(*)(参考：梶原将志「ナポレオンからエムペドクレスへ：Trauerspielに至る詩人ヘルダーリンの道程」言語文化研究37(2),2018年。)
(*)(参考：塚田花恵「ベルリオーズの創作を彩る人々と芸術：《トロイアの人々》をめぐって(特集 1850年代の音楽・文化・社会)」春秋595,2918年。)
(*)(参考：菊池慶子「サミュエル・ベケット『芝居』と初期ストア派の哲学」東京医科歯科大学教養部研究紀要2018(48),2018年。)
(*)(参考：高畠純夫・齋藤貴弘・竹内一博『図説古代ギリシアの暮らし』ふくろうの本,河出書房新社,2018年。)
(*)(参考：宇田川妙子「すべての道は「食」に通ずる：イタリア(5)地中海料理の過去・現在・未来」Vesta=食文化誌ヴェスタ110,2018年。)
(*)(参考：松葉包宜「地中海随想(40.81)日伊貿易のはじまり」地中海歴史研究風土誌47,2018年。)
(*)(参考：百瀬春夫「人を恨まず愛をもって報いることで世界は変えられるか」地中海歴史研究風土誌47,2018年。)
(*)(参考：日下部吉信『ギリシア哲学30講人類の思索の原初から：「存在の故郷」を求めて(上)』明石書店,2018年。)
(*)関根清三「近代日本の哲学と聖書解釈：和辻哲郎と西田幾多郎の場合(特集：sola scriptura?哲学・思想と聖書解釈)」理想701,2018年。
(*)(参考：ロンギノス,ディオニュソス著/戸松和弘・木曽明子訳『古代文芸論集』西洋古典叢書,京都大学学術出版会,2018年。)
(*)鷲巣力「林達夫への精神史的逍遙(7)」イタリア図書58,2018年。
(*)(参考：逸身喜一郎『ギリシャ・ラテン文学：韻文の系譜をたどる15章』研究社,2018年。)
(*)(参考：ルチャーノ・デ・クレシェンツォ著/谷口伊兵衛,ジョバンニ・ピアッザ訳『現代版ホメロス物語：ヘレネよ,ヘレネ!愛しのきみよ!』而立書房,2018年。)
(*)樋口一葉他『10分間で読める泣ける名作集』(太宰治「走れメロス」)ゴマブックス,2018年。
(*)高根沢紀子・吉田愛理「太宰治「走れメロス」の読まれ方：研究と教育のあいだ」立教女学院短期大学紀要50,2018年。)
(*)三根直美「変化,対比に着目した文学的文章の読み解き方」(メロス)中等教育研究紀要64,2018年。)
(*)山田昇司「「走れメロス」でつくる暗記ゼロの英語学習—語順を学び,「表現よみ」に挑む」朝日大学経営論集32,2018年。)
(*)齋藤理生「初等・中等教育の国語科授業に活用し得る日本近代文学作品の読解の観点：定番教材を中心に(特集 新教職課程にむけて)」(メロス)大阪大学教育学年報23,2018年。
(*)佐野幹「教材「走れメロス」の生成過程」読書科学60(2),2018年。
(*)花部英雄「「走れメロス」の説話世界：『ピュタゴラス伝』から『千一夜物語』まで」昔話伝説研究37,2018年。

(*)木下聡美「国語科授業」(題材名「勇者メロス」)教育研究協議会要項：共に創りあげる授業：「教科ならではの文化」を味わう子供たち(平成30年度),2018年。
(*)藤田佑「三島由紀夫『獅子』論」日本近代文学97,2018年。)
(*)古川日出男「ローマ帝国の三島由紀夫 全一幕」新潮115(10),2018年。
(*)井上章一『南蛮幻想：ユリシーズ伝説と安土城(上下)』草思社文庫,草思社,2018年。
(*)安野光雅と文「平成三十年方言版イソップ物語(下)」(平凡社)こころ42,2018年。
(*)イソップ原作/安野光雅絵・文『方言でたのしむイソップ物語』平凡社,2018年。
(*)イソップ原作/関根榮一文・北田卓史絵『イソップ』第5版,世界の昔話名作選4,チャイルド社,2018年。
(*)イソップ/福島邦光解説『天草版イソホ物語：大英図書館本影印』ニューブック(印刷・製本)オンデマンド版,勉誠出版,2018年。)
(*)(参考：イソップ原作/中脇初枝文,椛島義夫・生野裕子作画『ありときりぎりす』はじめての世界名作えほん8,ポプラ社,2018年。)
(*)(参考：イソップ原作/中脇初枝文・林桂子作画『うさぎとかめ』はじめての世界名作えほん24,ポプラ社,2018年。)
(*)(参考：イソップ原作/関根榮一文・北田卓史絵『イソップ』第5版世界の昔話名作選4,チャイルド社,2018年。)
(*)(参考:瀧靖之監修『脳の専門家が選んだ「賢い子」を育てる100のものがたり』宝島社,2018年。)
----「勇者ペルセウス」/太宰治「走れメロス」/「キリストの誕生」/「イカロスの翼」/「星座になったオリオン」/イソップ「おおかみと少年」/イソップ「北風と太陽」/イソップ「うさぎとかめ」/イソップ「アリとキリギリス」
(*)小田隆拓「《書評》府川源一郎著『「ウサギとカメ」の読書文化史：イソップ寓話の受容と「競争」』」横浜国大国語教育研究43,2018年。
(*)(参考：柳忠熙「近代朝鮮におけるイソップ寓話の翻訳と『ウスンソリ(笑話)』」朝鮮学報246,2018年。)
(*)(参考：兵頭俊樹「インドの説話「心臓と耳がないロバ」とイソップ風寓話「心臓がない鹿」：特に『カター・サリット・サーガラ』KSS.63章125-150節とバブリオスBabrios95番の韻律について」和歌山大学教育学部紀要68(2),2018年。)
(*)吉見孝夫「第11号に寄せて」イソップ資料11,2018年。
(*)吉見孝夫「『経済説略』『生産道案内』『経済要旨』のイソップ寓話」イソップ資料11,2018年。
(*)吉見孝夫「明治期の雑誌に載ったイソップ寓話」イソップ資料11,2018年。
(*)李澤珍「古活字版『伊曽保物語』の出版年代再考」国語国文87(7),2018年。
(*)(参考：伊藤博明「スペイン語版「イソップ寓話集」と国字本『伊曽保物』」埼玉大学紀要,教養学部53(2),2018年。)
(*)(参考：範田明治「9114 ミース・ファン・デル・ローエに生成する古代ギリシャ：ミースに潜在し顕在化した古代ギリシャの理念に関する研究」建築歴史・意匠2018,2018年。)
(*)(参考：松枝朗・木村敏浩・黒岩孝・大内宏友「古代ギリシャ都市アテネのアゴラにおける画像相関及びフラクタル次元解析を用いた建築様式の定量的評価

—B.C.300,B.C.150,A.D.100の3年代における復元的考察」情報(電算)シンポ41,2018年。)
(*)(参考：松枝朗・木村敏浩・大内宏友「11075 古代ギリシャ都市アテネのアゴラにおける画像処理技術相関を用いた復元的考察 : 画像相関及びフラクタル次元解析を用いた建築様式の定量的な評価手法について」情報システム技術2018,2018年。)
(*)(参考 : 實清隆「世界遺産都市ポンペイと「おおさか」もまちづくり」奈良大学紀要46,2018年。)
(*)(参考：川本悠紀子「古代ローマ住宅における視覚軸：考古学資料の見地から」(藤井恵介先生献呈論文集編集委員会編『建築の歴史・様式・社会』所収,中央公論美術出版,2018年。)
(*)(参考：増永理考「ローマ帝政期小アジアにおける公共建築物と都市 : エフェソスの碑文史料とディオン・クリュストモスの弁論を材料に」古代文化70(1),2018年。)
(*)(参考：安田光男・松隈洋・木村博昭「古代ローマ住宅ペリスタイルの列柱についての研究(1,2) : リングらの復元図のCGモデル化によるメナンドロスの家列柱における視覚的効果」芸術工学会誌77,2018年/78,2019年。)
(*)(参考：吉武隆一・山里光季・江藤広樹・高橋宏明・末広美・石津あずさ「地中海古代都市の研究(146)古代マケドニア王国の首都ペラの王宮に関する調査報告」日本建築学会研究報告 九州支部3,計画系,57,2018年。)
(*)(参考：吉武隆一・末広美「地中海古代都市の研究(147)古代ギリシア・ローマにおける図書館に関する研究—平面形式を中心として」日本建築学会研究報告九州支部3,計画系,57,2018年。)
(*)(参考 : 安岡義文「古代地中海文明圏におけるモデュールの技法について：ウィトルーウィスの「建築十書」の記述とエジプトの建築関連資料にみられる設計技術の比較分析を中心に」日本建築学会計画系論文集83(752),2018年。)
(*)「建築巡礼 昭和モダン編1960年代ピンクの壁にたたずんで : アテネ・フランセ(1962年)」日経アーキテクチュア1114,2018年。
(*)(参考：ソーントーン ショーン/鏡リュウジ訳「ユングの鍵概念：元型,能動的想像,そして個性化が心理学的占星術に与えた影響への批判的検討」トランスパーソナル学研究15,2018年。)
(*)(参考：比留間亮平「西洋占星術に見る人の生死と運命(生と死の物語)」(リトン)死生学年報2018年。)
(*)(参考：鏡リュウジ『星座占い=The Book of Horoscope』ハッピーになれる,金の星社,2018年。)
(*)(参考 : 伊勢田哲治『科学哲学の源流をたどる：研究伝統の百年史』叢書・知を究める13,ミネルヴァ書房,2018年。)
(*)(参考 : 三浦伸夫「歴史から見る数学 数学史から見る歴史(32)アマチュアとしてのギリシャ数学史研究：ヒースのギリシャ数学史記述をめぐって」現代数学51(1),2018年。)
(*)(参考：有澤健治「古代ギリシャの数学：平方根問題」経営総合科学108,2018年。)
(*)(参考：雪嶋宏一「1525年バーゼル版プリニウス『博物誌』について」早稲田大学図書館

紀要65,2018年。)
(*)(参考：大槻真一郎『アラビアの鉱物書：鉱物の神秘的薬効』星雲社(発売),コスモス・ライブラリー,2018年。)
(*)(参考：大槻真一郎『西欧中世宝石誌の世界：アルベルトゥス・マグヌス『鉱物書』を読む』八坂書房,2018年。)
(*)(参考：小林日出至郎「00哲-24-ロ-01『オデュッセイア』の運動競技に関する研究：知性と身体力の関係性を中心として」日本体育学会大会予定稿69,2018年。)
(*)(参考：波部雄一郎「ヘレニズム時代の都市におけるギュムナシオン—最近の研究動向を中心に」関学西洋史論集41,2018年。)
(*)伴義孝「大島鎌吉のスポーツ思想に学ぶ(5)理念「オリンピズム」と探究という視点において」人体科学27(1),2018年。)
(*)小路田泰直・井上洋一・石坂友司・和田浩一『「ニッポン」のオリンピック：日本はオリンピズムとどう向き合ってきたのか』青弓社,2018年。)
(*)(参考：日本オリンピック・アカデミー監修『オリンピック・パラリンピックの歴史』オリンピック・パラリンピックで知る世界の国と地域1,小峰書店,2018年。)
(*)(参考：日本オリンピック・アカデミー監修『ヨーロッパ1』オリンピック・パラリンピックで知る世界の国と地域3,小峰書店,2018年。)
(*)(参考：島田哲夫『スポーツ哲学入門：オリンピック・レガシーのために』論創社,2018年。)
(*)(参考：コンデックス情報研究所編『話したくなるオリンピックの歴史』清水書院,2018年。)
(*)(参考：舛本直文『これがオリンピックだ：決定版：オリンピズムがわかる100の真実』講談社,2018年。)
(*)(参考：ディビッド・ゴールドブラット/志村昌子・二木夢子訳『オリンピック全史』原書房,2018年。)
(*)(参考：大野益弘文・しちみ楼絵『クーベルタン：近代オリンピックの父』オリンピック・パラリンピックにつくしたひとびと,小峰書店,2018年。)
(*)(参考：吹浦忠正『オリンピックの101の謎』新潮文庫,新潮社,2018年。)
(*)(参考：和田浩一「01史-25-□-12ピエール・ド・クーベルタンが万国教育連盟で企画・実施した諸会議とオリンピズム」日本体育学会大会予稿集69,2018年。)
(*)伴義孝「大島鎌吉のスポーツ思想に学ぶ運動(5)理念「オリンピズム」の探究という視点において」人体科学27(1),2018年。)
(*)尾崎聖太郎「ウチの図書館お宝紹介!(182)麻布大学附属学術情報センター“医学の父”ヒポクラテス書の大発見&獣医資料館(仮称)設立構想」図書館雑誌112(7),2018年。
(*)(参考：司会：内藤健晴/演者：藤尾均「医療倫理2500年の流れを50分で振り返る~ヒポクラテスの主題による変奏曲とフーガ」日本鼻科学会会誌57(3),2018年。)
(*)(参考：後藤香織「ガレノス著述の古代菓子とトルコ・ギリシャ・イタリア・バルカン諸国に残る小麦食文化の比較考察」新島学園短期大学紀要39,2018年。)
(*)(参考：反田実樹「ローマ帝政前期の製粉・製パン業者：ローマ市の事例から」文化史学74,2018年。)

(*)(参考：糸隆太「都市ローマにおける家畜の屠殺：共和政末期から帝政初期の事例」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論叢40,2018年。)
(*)(参考 : RADDOLPH Michael「不健康な料理の中の美しい果実 :『トロイラスとクレシダ』における食べ物と幻滅」東洋大学人間科学総合研究所紀要20,2018年。)
(*)(参考 : 浅井隆「蘇生の歴史(20)ルネサンス期(7)解剖学の変革(3)Andreas Vesalius : Fabrica」麻酔67(10),2018年。)
(*)(参考 : 浅井隆「蘇生の歴史(21)ルネサンス期(7)解剖学の変革(4)Andreas Vesalius : ガレノス説の衰退」麻酔67(11),2018年。)
(*)「書評・紹介スーザン・P.マターン(澤井直訳)『ガレノス：西洋医学を支配したローマ帝国の医師』白水社」科学史研究[第III期]286,2018年。
(*)増永理考「書評スーザン・P.マターン(澤井直訳)『ガレノス：西洋医学を支配したローマ帝国の医師』」史林101(3),2018年。
(*)(参考：藤井義博「クリストフ・ヴィルヘルム・フーフェラントの医学大系すなわちPhysiatric(自然の癒し)における意思と患者」藤女子大学QOL研究所紀要13(1),2018年。)
(*)(参考：司会・内藤健晴/演者・藤尾均「医療倫理2500年の流れを50分で振り返る~ヒポクラテスに主題による変奏曲とフーガ」日本鼻科学会会誌57(3),2018年。)
(*)(参考：尾崎聖太郎「ウチの図書館お宝紹介!(182)麻布大学附属学術センター“医学の父”ヒポクラテレス書の大発見＆獣医資料館(仮称)設立構想」図書館雑誌112(7),2018年。)
(*)(参考：大場豪「ペンテリコン山の大理石を巡る歴史」地中海学会月報410,2018年。)
(*)(参考：八木健治「オリ博講演録 古代オリエントのモノ語り(11)羊皮紙とパピルス紙：その歴史と製法」Oriente：古代オリエント博物館情報誌57,2018年。)
(*)(参考 : 高橋亮介「ギリシア語パピルス史料から見たプトレマイオス朝エジプトの採石活動」人文学報・歴史学編46,2018年。)
(*)(参考：山田篤美「「宝石」の王者としての真珠の歴史—真珠がダイヤモンドより高価だった時代」(プリニウス)宝石学会誌33(1-4),2018年。)
(*)(参考：糸隆太「都市ローマにおける家畜の屠殺：共和政末期から帝政初期の事例」西洋史論叢40,2018年。)
(*)(参考：雪嶋宏一「1525年バーゼル版プリニウス『博物誌』について」早稲田大学図書館紀要65,2018年。)
(*)(参考：上村幸弘「シェイクピアと農業(1)：エリザベス朝「農書」の系譜」梅花女子大学食文化学部紀要6,2018年。)
(*)(参考：糸隆太「都市ローマにおける家畜の屠殺：：共和政末期から帝政初期の事例」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論叢40,2018年。)
(*)(参考 : 水野勢技子「オリーブ油の歴史,栽培,魅力(特集 食用油の歴史・食文化,と機能性)」Functional food：機能性食品の基礎から臨床へ 12(2),2018年。)
(*)神崎順一「司馬江漢『地球全図』(書写本)について：天理図書館所蔵日欧交渉資料(12)」ビブリア：天理圖書館報149,2018年。
(*)(参考：石田真衣「プトレマイオス朝期エジプトにおける在地勢力の再編--嘆願書を手がかりに」西洋古典學研究66,2018年。)

(*)(参考：名城邦夫「ヨーロッパ古代中世貨幣史：カール大帝の貨幣改革まで」名古屋学院大学論集,社会科学篇55(2),2018年。)
(*)(参考：酒嶋恭平「〈書評〉ロルフ・シュトロートマン(2014)『ヘレニズム帝国における宮廷とエリート：アッカイメネス朝以後(前330-30年)の近東』エディンバラ」東方キリスト教世界研究2,2018年。)
(*)古山正人「歴史の風スパルタ史研究の現在」史学雑誌127(7),2018年。.）
(*)(参考：曽田長人「ドイツ第三帝国における」スパルタの受容)(1,2)」(東洋大学経済研究会)経済論集43(2), 44(1),2018年。)
(*)(参考：長谷川岳男「世界史Q&Aスパルタの国政について教えてください(世界史の研究[256])」歴史と地理716(2018年。)
(*)(参考：大清水裕「ローマ帝政期北アフリカにおける軍隊と社会：ハドリアヌス帝の演説を中心に(特集 古代ローマ軍事史の最前線[2])」軍事史学54(2),2018年。)
(*)(参考：本村凌二「日本産馬が世界を席巻する日」文藝春秋96(7),2018年。)
(*)道脇健之「その土地、何に使っていますか?：ソクラテス問答法による『法人土地・建物基本調査』」Estolera291,2018年。
(*)(参考：伊藤正「ホロイ,ヘクテーモロイおよびセイサクテイア—セイサクテイアは「負債の帳消し」だったか?」西洋史学論集55,2018年。)
(*)(参考：坂口明「ポンペイの組合(西洋史特集号)」(日本大学史学会)史叢99,2018年。)
(*)(参考：池口守「研究フォーラム 食文化からみたローマ経済」歴史と地理711,2018年。)
(*)(参考：名城邦夫「ヨーロッパ古代中世貨幣史：カール大帝の貨幣改革まで(名城邦夫教授退職記念号)」名古屋学院大学論集,社会科学篇55(2),2018年。)
(*)古川日出男「ローマ帝国の三島由紀夫 全一幕」新潮115(10),2018年。
(*)(参考：佐藤昇編・神戸大学文学部史学講座著『歴史の見方・考え方—大学で学ぶ「考える歴史」』(佐藤昇「人が人を処罰するというのはどういうことなのだろう—民主政アテナの裁判と素人主義」)山川出版社,2018年。)
(*)(参考：的射場敬一「蟷螂の斧—古代ギリシア都市国家の民主化とペルシア戦争(上中下)(池田十吾教授大使区記念号)」国士舘大学政治研究9,2018年/11,2020年/12,2021年。)
(*)(参考：堀井健一「新学習指導要領における中学校社会科歴史的分野の「ギリシャ・ローマの文明」と民主政治の来歴の観点に関する一考察」長崎大学教育学部教育実践研究紀要17,2018年。)
(*)飯坂晃治「書評 新保良明著「古代ローマの帝国官僚と行政：小さな政府と都市」」西洋史研究47,2018年。
(*)井上文則「書評 新保良明著「古代ローマの帝国官僚と行政：小さな政府と都市」」西洋史学265,2018年。
(*)(参考：安念潤司「平和の困難：古代キリスト教の平和主義・再訪」中央ロー・ジャーナル14(3),2018年。)
(*)(参考：内田康太「C.ユリウス・カエサルの農地法：共和政末期ローマの立法過程と元老院」史學雑誌127(3),2018年。)
(*)安井萌「書評 丸亀裕司著「公選選挙にみるローア帝政の成立」(山川歴史モノグラフ34)」史學雑誌127(12),2018年。
(*)(参考：久保田義弘「エラスムスの『平和の訴え』とその人間観ならびにその社会観：知

識人の人間観ならびに社会観(2)」札幌学院大学経済論集13, 2018年。
(*)(参考：久保田義弘「エラスムスの『キリスト者の君主』と君主の社会的役割：知識人の人間観ならびに社会観(3)」札幌学院大学経済論集13, 2018年。
(*)(参考：久保田義弘「今日の経済学と「自由意志」--「神の意志」と「人間の「自由意志」のエラスムスの解釈を踏まえて」札幌学院大学経済論集14,2018年。)
(*)(参考：津村記久子「やりなおし世界文学(51)マキャヴェリ『君主論』池田廉訳」波52(8), 2018年．)
(*)(参考：平石耕「〈疎外〉・民主主義・キリスト教：〈危機の時代〉の思想家としてのA.D.リンゼイ(1)(亀嶋庸一教授記念号)」成蹊法学88,2018年。)
(*)(参考：大澤麦「暴政批判のレトリック：ジョン・ストリーター『アリストテレス論』その歴史的文脈」ピューリタニズ研究12,2018年。)
(*)(参考：米本雅一「追悼演説のポリティックス—共和政ローマの政治文化と記憶」文化学年報67,2018年。)
(*)(参考：山本興一郎「三人委員終焉期の表象と政治—表象利用と二人の「カエサル」」桜文論叢96,2018年。)
(*)(参考：塩野七生・小泉進次郎「特別対談 若きアレクサンダー大王にヒントがある 進次郎は総理になれるか」文藝春秋96(2),2018年。）
(*)(参考：マッコール・マイケル,大木聖「米連邦議員からの警鐘 孔子学院は「トロイの木馬」だ(特集 中ロが仕掛ける新秩序戦争 シャープパワーの脅威)」中央公論132(7),2018年。)
(*)(参考:後藤弘州『古典期ローマ相続法における包括承継人』神戸大学,博士(法学),甲第7081号,2018年。)
(*)(参考：ウルリケ・バビュジョー/田中実・佐々木健訳「翻訳 ウルリケ・バビュジョー(トーピクと法学：パピニアヌス『質疑録』(D.35.1.72)における立論の構造」南山法学41(2),2018年。)
(*)(参考:M.T.ヒメネス-カンデーラ/吉原知志訳「ローマ法源の中の動物」龍谷法学50(4),2018年。)
(*)(参考:古山夕城「クレタにおける文字表象とポリスの法—法碑文の数量分析からの考察」明治大学人文科学研究所紀要83,2018年。)
(*)(参考：栗田和彦『シチリア海法序説』関西大学出版部,2018年。)
(*)「特集 牢名主が証言!「タフガイ脱獄囚」が耐えられなかった「スパルタ獄窓記」」週刊新潮63(18),2018年。)
(*)津山洋学資料館編「津山洋学資料館平成28年度秋季企画展 生誕170周年記念 日本近代法学の祖：箕作麟祥」(津山洋学資料館)一滴：洋学研究誌25,2018年。
(*)津山洋学資料館編『津山洋学資料館平成28年度秋季企画展 生誕170周年記念 日本近代法学の祖：箕作麟祥』津山洋学資料館,2018年。

(*)(参考：田上孝一「初期マルクス研究の意義」東京電機大学総合文化研究所17,2019年。)
(*)(参考：若倉伸郎「「若きマルクス研究の方法について」を学習して」新世紀：日本革命的共産主義者同盟革命的マルクス主義派機関誌299,2019年。)
(*)(参考：石河康国「「マルクス伝」物語(上)フランツ・メーリングとリヤザノフ」(社会主義協会)科学的社会主義252,2019年。)

(*)(参考：石河康国「「マルクス伝」物語(下)カウツキー,アドラー,カー,堺・山川」(社会主義協会)科学的社会主義253,2019年。)
(*)(参考：田家康『気候文明史：世界を変えた8万年の攻防』日経ビジネス人文庫,日本経済新聞出版社,2019年。)
(*)(参考：松原庸介編『地中海を旅する62章：歴史と文化の都市探訪』エリア・スタディーズ172,明石書店,2019年。)
(*)(参考：長嶋俊介「エーゲ海文明と日本の世界レガシー：公共民の経営学・現場学(160)」会計検査資料646,2019年。)
(*)日之下あかめ『エーゲ海を渡る花たち=Flowers crossing the Aegean Sea (1,2)』METEOR COMOICS,フレックスコミックス,2019年。
(*)三生康詩『エーゲ海の風となって：詩集』(非売品)文庫シリーズ極上の香り,出版工房Fujiki,2019年。
(*)(参考：レベッカ・ウインターズ原作・ハザマ紅実著『エーゲ海の独身貴族』ハーレクインコミックス,ハーパーコリンズ・ジャパン,2019年。)
(*)(参考：ケイト・ヒューイット作・深山千尋訳『エーゲ海の花嫁』ハーレクインプレゼンツ作家シリーズ別冊,ハーパーコリンズ・ジャパン,2019 年。)
(*)(参考：Yasunari TAKADA「I priviegi culturali di cui godono gli Italiani,forse senza rendersene conto：il punto di vista di uno straniero」名古屋外国語大学論集4,2019年。)
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2020-21年。
(*)地球の歩き方編集室編『チェニジア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発),2020-21年.
(*)地球の歩き方編集室編『南イタリアとシチリア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2020-2021 年。
(*)小谷眞男・横田正顕編『南欧』旬報社,2019 年。
(*)水谷さゆり「世界の街角から：陽光きらめく地中海沿岸の街めぐり：南欧4ヶ国周遊記」InfoCom T&Sworld ternd report：世界の情報通信サービスの情報誌362,2019年。)
(*)(参考:松葉包宜「地中海随想(42・83)タラント市の始まり」地中海歴史風土研究誌49,2019年。)
(*)(参考：松葉包宜「地中海随想(43・84)泉と噴水」地中海歴史風土研究誌50,2019年。)
(*)(参考：周剣生「世界遺産を撮る(148)：ローマ歴史地区,教皇領とサン・パオロ・フォーリ・レ・ムーラ大聖堂：イタリア文化遺産(1980年登録)」週刊ダイヤモンド107(13),2019年。)
(*)(参考：周剣生「世界遺産を撮る(149)：ラヴェンナの初期キリスト教建築群：イタリア文化遺産(1996年登録)」週刊ダイヤモンド107(14),2019年。)
(*)(参考：周剣生「世界遺産を撮る(176)：カルタゴ遺跡：チェニジア文化遺産(1976年登録)」週刊ダイヤモンド107(41),2019年。)
(*)田中總太郎「宇宙から見たユネスコ世界遺産(118)ダマスカスの旧市街」地理64(2),2019年。
(*)田中總太郎「宇宙から見たユネスコ世界遺産(119)ペルセポリス」地理64(4),2019年。

(*)田中總太郎「宇宙から見たユネスコ世界遺産(120)オリンピアの考古遺跡」地理64(6),2019年。
(*)守谷益男「登山四方山(よもやま)話(11)オリンポス山登頂」人権21：調査と研究258,2019年。
(*)(参考：小林功「ローマ帝国の「後継者」になること：七世紀の地中海世界とビザンツ帝国,アラブ(特集 文明)」史林102(1),2019年。)
(*)(参考：森田猛「ブルクハルトの「チチローネ」とドイツ教養層のイタリア旅行：初版索引と併読ハンドブックを手がかりとして」史林102(2),2019年。)
(*)(参考：江口誠「イギリスにおける徒歩文化(1)グランド・ツアーとピクチャレスク」佐賀大学全学教育機構紀要7,2019年。)
(*)(参考：井上典子「イタリアの旅と映像：1900年代初頭のボローニャ都市計画」追手門学院大学地域創造学部紀要5,2019年。)
(*)田所輝夫「ギリシャ・パルノン山(ペロポネソス半島),4月と6月の蝶」バタフライ・サイエンス13,2019年。
(*)(参考：勝又俊雄「アリアドネの糸が紡ぐ古代ヘレニズム・ローマ文化と17世紀オランダ文化：飽食ととめどない雑談」Artes：宝塚大学紀要33,2019年。)
(*)(参考：小後遊二「平成改め令和考現学(163)香港がポンペイになる日」(ポンペイ)Verdad 25(11),2019年。)
(*)(参考：藤沢櫻子「抱擁する男女の神話画：ポンペイ「竪琴弾きの家」の作画」群馬県立大学紀要40,2019年。)
(*)(参考：木村聡「不謹慎な旅(7)“ポンペイ”は二度死す：浅間山噴火と八ッ場ダム」金曜日26(47),2019年。)
(*)(参考：中島淑恵「『恋する女』翻訳をめぐって：ゴーティエ,ハーン,芥川」ヘルン研究4,2019年。)
(*)(参考：ヤコプ・ブルクハルト著/新井靖一訳『イタリア・ルネサンスの文化(上下)』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2019年。)
(*)梶村啓二『ボッティチェッリの裏庭』筑摩書房,2019年。)
(*)(参考：福田耕佑「ギリシアは東か西か,アジアかヨーロッパか：カザンザキスのロシア体験を中心に」プロピレア25,2019年。)
(*)(参考：師尾晶子『小アジアにおけるグローバル文化としてのギリシア文化とその地域性に関する研『』千葉商科大学2016年,(科研費)2019年。)
(*)(参考：堀井優「近世オスマン帝国下のヴェネツィア領事綱(特集 中近世の東地中海世界における曾民族の混淆)」ヨーロッパ文化史研究20,2019年。)
(*)(参考：高田良太「コンスタンチノープルのヴェネツィア人：13世紀のバイロと居留地(特集 中近世の東地中海世界における曾民族の混淆)」ヨーロッパ文化史研究20,2019年。)
(*)(参考：矢内秋生『アドリア海の風：風土的環境観の調査研究』武蔵野大学シリーズ11,武蔵野大学出版会,2019年。)
(*)(参考：フィリップ・マティザック/安原和見訳『古代アテネ旅行ガイド：一日5ドラクマで行く』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2019年。)
(*)(参考：新保博久編『銀幕ミステリー倶楽部：傑作推理小説』(辰野九紫「死都[ポンペイ]の怪人」)光文社文庫,光文社,2019年。)

(*)(参考：藤原房俊『地中海の十字路=シチリアの歴史』講談社選書メチエ703,講談社,2019年。)
(*)(参考：高山博「講演 中世シチリアにおける異文化の併存と対立：ヨーロッパ,イスラム,ビザンツ」学習院史学57,2019年。)
(*)(参考：フセインバシール「アレクサンドリア図書館付属考古学博物館：アレクサンドリアの栄光(文化遺産の発信地としての博物館)」金沢大学文化資源学研究21,2019年。)
(*)小久保真理江「ウンベルト・エーコ著/和田忠彦監訳・石田聖子・小久保真理江・柴田瑞枝・高田和広・横田さやか訳『ウンベルト・エーコの世界文明講義』(東京外国語大学総合文化研究所)総合文化研究22,2019年。
(*)(参考：森谷公俊「パキスタン北部とウズベキスタンにおけるアレクサンドロス遠征路の実地調査(2018年)」帝京史学34,2019年。)
(*)(参考：古山夕城「IFLAアテネ大会へのおさそい(3)ローマ帝政期アテネの二つの図書館遺跡：ハドリアヌスとパンタイノス」図書館雑誌113(6),2019年。)
(*)(参考：牧野久美「パレスティナから出土したヘレニズム・ローマ時代のフタ：特に身との関係から」西アジア考古学20,2019年。)
(*)(参考:有村元春「ミケーネ文化期ギリシャで流通したアイギュプティカに関する一考察」溯航(早稲田大学文研考古誌)37,2019年。)
(*)(参考：増永理考『ローマ帝政前期小アジアにおける都市社会の研究：都市による文化資本運用をめぐって』京都大学,博士(文学),甲第22108号、2019年。)
(*)(参考：山中由里子「「超自然」の再考：共同研究：驚異と怪異：想像界の比較研究」民博通信164,2019年。)
(*)(参考：山中由里子・山田仁史編『この世のキワ：〈自然〉の内と外)』(山中由里子「序章 自然界と想像界のあわいにある驚異と怪異」)アジア遊学239,2019年。)
(*)(参考：山中由里子編『驚異と怪異：想像界の生きものたち==Regnum imaginarium ：realm of the marvelous and uncanny』河出書房新社,2019年。)
(*)(参考：高橋裕子「ギリシアの初期鉄器時代に関する時代名称と編年体系」マテシス・ウニウェルサス20(2),2019年。)
(*)井上満郎「考古学人国記：評伝 戦後日本の考古学を支えた地域研究者(19)日本のシュリーマン・中山修一」古代文化70(4),2019年。
(*)(参考：池口守「動物考古学史料の活用：古代ローマを中心に」西洋史学268,2019年。)
(*)(参考：遠山茂樹『歴史の中の植物：花と樹木のヨーロッパ史』八坂書房,2019年。)
(*)(参考：阿部謹也『西洋中世の愛と人格：「世間」論序説』講談社学術文庫,講談社,2019年。)
(*)(参考：石上豊「トインビーの不可知論の背景と意義」比較文明35,2019年。)
(*)(参考：Arnold Toynbee/鈴木弥栄男訳『新解「トインビー著歴史の研究」』丸善プラネッツ,2019年。)
(*)(参考：越川茂樹「ホイジンガにおける古代ギリシアの競争の理解」釧路論論集：北海道教育大学釧路校研究紀要51,2019年。)
(*)(参考：レオ・シュトラウス/村田玲訳「イェルサレムとアテナイ—弱冠の予備書省察」（政治哲学研究会）政治哲学研究27,2019年。)
(*)新田伸也「浜田先生のアルカディア」天文月報112(5),2019年。

(*)「日本紀行 山形：アルカディア：日本の理想郷」潮720,2019年。
(*)高木純『ロックカフェという生き方：「アルカディア」の40年』揺籃社,2019年。
(*)(参考：吉次聖志「リレー執筆 産業保健スタッフ活躍講座(12)ベーコン『ニュー・アトランティス』への旅」安全と健康70(12),2019年。)
(*)(参考：林崇文「ヨハン・ゲオルク・シュロッサーと封建制の理想」(アトランティス)(慶應義塾大学大学院法学研究科内『法学・政治学論究』刊行会)法学・政治学論究：法律・政治・社会123,2019年。)
(*)(参考：ヤマザキマリ「異文化は発想の宝庫(30周年記念特別号)」Artes munndi4,2019年。)
(*)米欧亜回覧の会,泉三郎編『岩倉使節団の群像：日本近代化のパイオニア』ミネルヴァ書房,2019年。
(*)川村信三「書評 東馬場郁夫著『きりしたん受容史：教えと信仰の実践の諸相』」キリスト教史学 73,2019 年。)
(*)阿曽歩「書評 新居洋子著『イエズス会士と普遍の帝国：在華宣教師による文明の翻訳』(名古屋大学出版会,2017 年)を読む:蘭学・洋学史研究の視点から(書評 特集 蘭学の外側：『近代科学のリロケーション』『イエズス会士と普遍の帝国』を読む)」洋学：洋学史学会研究年報 26,2019 年。
(*)橋本真吾「書評 カピル・ラジ著『近代科学のリロケーション：南アジアとヨーロッパにおける知の循環と構築』を読む：「世界史」としての蘭学・洋学研究への視座(書評 特集 蘭学の外側：『近代科学のリロケーション』『イエズス会士と普遍の帝国』を読む)」洋学：洋学史学会研究年報 26,2019 年。
(*)松方冬子「蘭学の外側：『近代科学のリロケーション』『イエズス会士と普遍の帝国』を読む(書評 特集 蘭学の外側：『近代科学のリロケーション』『イエズス会士と普遍の帝国』を読む)」洋学：洋学史学会研究年報 26,2019 年。
(*)(参考：前橋重二「レオナルド・ダ・ヴィンチ500年目の真実 万能の天才が探していたのは何だったのか(3)レオナルドとデューラー,それぞれの世界地図」MARR：Mergers & acquisitions research report 298,2019年。)
(*)(参考：クラウヂア・カルプ/竹花秀春訳『天才の秘密：驚異的な能力を発揮した人々』ナショナルジオグラフィック別冊,日経ナショナルジオグラフィック社,2019年。)
(*)(参考：『古代史マップ：世界を変えた帝国と文明の興亡』日経BPムック,ナショナルジオグラフィック別冊,日経ナショナルジオグラフィック社,日経BPマーケッティング(発売),2019年。)
(*)(参考：デイビッド・P.バレット著/伊藤暢人訳『コンサイス聖書歴史地図』いのちのことば社,2019年。)
(*)(参考：山口裕之『語源から哲学がわかる事典』日本実業出版社,2019年。)
(*)小山田真帆「新刊紹介 高畠純夫・齋藤貴弘・竹内一博著「図説 古代ギリシアの暮らし」」フェネストラ：京大西洋史学報3,2019年。
(*)(参考：出羽尚「ポウプ著1714年版『髪の略奪』の挿絵：ウェーヌスのイコノグラフィーとの関連」宇都宮大学国際学部研究論集47,2019年。)
(*)(参考：泰田伊知朗「フランシスコ・ザビエルが携わったアジアにおける語学教育」(東洋大学国際観光学部)観光学研究18,2019年。
(*)石川九楊「河東碧梧桐：表現の永続革命(9)ローマの花ミモーザの花其花を手に」文學界

73(2),2019年。)
(*)(参考：高津春繁『印欧語比較文法』オンデマンド版,岩波書店,2019年。)
(*)(参考：ヨハネス・ローマン,阿部ふく子,渡辺京一郎訳「ヨハネス・ローマン 西洋人と言語の関係：言述における意識と無意識的形式(1)」知のトポス：世界の視点14,2019年。)
(*)(参考：平田隆一「エトルスキ語の数詞を巡る諸問題」ヨーロッパ文化史研究20,2019年。)
(*)(参考：中西捷渡「プラトンとアリストテレスにおける「顔(πρόσωπον)の用例研究」プロピレア25,2019年。)
(*)(参考：浮田三郎「日本ギリシア語文学会の歩み：学会創立の背景,三十年にむけて」プロピレア25,2019年。)
(*)(参考：水谷智洋「古典の見えるアカネ」プロピレア25,2019年。)
(*)(参考：堀忠「レプラとエレファンティアシス：ギリシャ語キリスト教文献における名辞上の混同の過程を中心に」神学研究66,2019年。)
(*)(参考：伊奈友梨子「ラ・フォンテーヌ『寓話』第一集におけるmesserの使用について」日本フランス文学会中部支部研究報告集43,2019年。)
(*)(参考：羽田貴史「イギリスにおける一般教育論---J.S.フルトンとA.D.リンゼイ」東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要5,2019年。)
(*)(参考：山田耕太「リベラルアーツ教育の基礎としての作文教育：古代ギリシア・ローマ時代の「プロギュムナスマタ」について」敬和学園大学研究紀要28,2019年。)
(*)(参考：文禎顥「リベラルアーツ理念と向き合うキリスト教授業：アウグスティヌスのorator理解を手掛かりに(葛井義憲教授退職記念号)」名古屋学院大学論集,人文・自然科学篇55(2),2019年。)
(*)(参考：小林標『ロマンスという言語：フランス語は,スペイン語は,イタリア語は,いかにして生まれたか』大阪公立大学共同出版会,2019年。)
(*)(参考：土岐健治『新約聖書ギリシア語初歩』改訂新版,オンデマンド版,教文館,2019年。)
(*)(参考：秦剛平訳『七十人訳ギリシア語聖書 歴代誌』青土社,2019年。)
(*)(参考：秦剛平訳『七十人訳ギリシア語聖書 列王記』青土社,2019年。)
(*)(参考：秦剛平訳『七十人訳ギリシア語聖書 サムエル記』青土社,2019年。)
(*)梅田百合香「ヨーロッパ政治思想 対象 秦剛平『七十人訳ギリシア語聖書入門』講談社,2018」年報政治学2019(1),2019年。
(*)(参考：堀忠「〈論文審査付き〉レプラとエレファンティアシス：ギリシャ語キリスト教文献における名辞上の混同の過程を中心に」(関西学院大学神学研究会)神学研究66,2019年。)
(*)吉野政治「ヘボン訳福音書の訳文の成立：マルコ伝を中心に」同志社女子大学大学院文学研究科紀要19,2019年。
(*)(参考：Harutoshi INADA「Le Mythe de Sisyphe et le probleme de la mort」カミュ研究14,2019年。)
(*)(参考：三宅礼夏他編集・執筆『神話の世界』(西洋近代美術にみる神話の世界)アルティス,2019年。)
(*)(参考：井沢元彦『ギリシア神話と多神教文明の衝突』逆説の世界史3,小学館,2019年。)
(*)(参考：松村一男『はじめてのギリシア神話』ちくまプリマー新書331,筑摩書房,2019年。)

(*)(参考：松村一男「インド=ヨーロッパ語族比較神話学の試み：戦闘と滅び」表現学部紀要19,2019年。)
(*)(参考：村松定史「神話が物語に与えた影響：ギリシア神話から近代文学へ：『オデュッツセイア』と帰還形小説(特集 神話に学ぶ)」児童文芸65(1),2019年。)
(*)(参考：酒井志延・小林めぐみ・鳥山淳子・土屋佳雅里『映画で学ぶ英語の世界：スーパーヒーロー・マザーグース・ギリシャ神話』くろしお出版,2019年。)
(*)(参考：八木橋正雄訳「テオクリトス第12歌「愛される者」」プロピレア25,2019年。)
(*)(参考：高木昌史『ギリシア・ローマ神話と西洋美術：名作は物語から生まれた』三弥井書店,2019年。)
(*)太田靖久「創作アフロディーテの足」群像74(10),2019年。
(*)(参考：長澤法幸「サフォーを読むルネ・ヴィヴィアン「アフロディテへのオード」の解釈について」早稲田大学大学院文学研究科紀要64,2019年。)
(*)(参考：葛西康徳「古代ギリシア教に改宗することはできるか」史友51,2019年。)
(*)(参考：林洋輔「「ロゴスの戯れ」としての対話,会話そして論争：『ホモ：ルーデンス』を基盤として」大阪教育大学紀要,人文社会科学・自然科学67,2019年。)
(*)(参考：「神の愛を説く世界最大の宗教図解：キリスト教(特集 ビジネスマンのための世界史&宗教)--(宗教を知ることは世界を知ること)」週刊東洋経済6895,2019年。)
(*)(参考：「宗教を教養としてどう捉えるか 戒律や神学上の違い―一神教と多神教の差を知る(特集 ビジネスマンのための世界史&宗教)--(宗教を知ることは世界を知ること)」週刊東洋経済6895,2019年。)
(*)(参考：服部弘一郎『銀幕(スクリーン)の中のキリスト教：「ベン・ハー」から「スーパーマン」まで全49作を徹底解説』キリスト教新聞社,2019年。)
(*)(参考：ダニエル・S.レピー/片山美佳子訳『聖母マリア：聖書と遺物から読み解く』ナショナルジオグラフィック別冊,日経ナショナルジオグラフィック社,2019年。)
(*)(参考:中野京子「中野京子の名画が語る西洋史(86)生まれる前のマリア」文藝春秋97(10),2019年。)
(*)(参考：中西恭子「宗教学から見た古代ローマ宗教」極東証券寄付講座慶應義塾大学文学部 日吉設置総合教育科目2018「地中海の魅力」2018年」,2019年。)
(*)(参考：中西恭子「ローマ帝国の「キリスト教化」とユダヤ教：コンスタンティヌス朝からテドシウス朝まで」ユダヤ・イスラエル研究33,2019年。)
(*)(参考：学習院大学史料館編『辻邦生 永遠のアルカディアへ』(津本英利「アナトリアとユリアヌス」)中央公論新社,2019年。)
(*)(参考：井筒俊彦『神秘哲学：ギリシアの部』岩波文庫,岩波書店,2019年。)
(*)秋富克哉「西田幾多郎「希臘倫理学」西田哲学会年報16,2019年。
(*)洞彰一郎「ケーベル先生と漱石のことなど」コールサック：石炭酸：詩の降り注ぐ場所99,2019年。
(*)(参考：下村智典「「静」と「動」における制作：プラトンとトゥキュディデス」政治哲学26,2019年。)
(*)(参考：レオ・シュトラウス/下村智典・金澤洋隆・石崎嘉彦訳「プラトンの『シンポジオンについて(「序文」および「「第一章」」政治哲学研究27,2019年。)
(*)(参考:香久山雨「美と性,知と性(3)古代ギリシャと現代における同性愛の相違について：

プラトン『饗宴』『ソクラテスの弁明』から」(性の健康医学財団)性の健康18(2),2019年。)
(*)(参考：柳広司「『ソクラテスの弁明』プラトン』(『二度読んだ本を三度読む』所収,岩波新書,岩波書店,2019年。)
(*)(参考：橋場弦「ソクラテスの最期」公研673,2019年。)
(*)(参考：西研著『ソクラテスの弁明：西研特別講義』読書の学校,別冊NHK「100分de名著」NHK出版,2019年。)
(*)(参考：野津悌「プラトン著『ソクラテスの弁明』考：弁明の姿をした勧告の書」国士舘文学9,2019年。)
(*)(参考：プラトン著/渡辺邦夫訳『テアイテトス』光文社古典新訳文庫,光文社,2019年。)
(*)(参考：西研『哲学は対話する：プラトン,フッサールの「共通了解をつくる方法」』筑摩選書,筑摩書房,2019年。)
(*)(参考：マリー・ロベール著/山本知子訳『だったら哲学があるじゃない!もうどうしていいかわからない?：カント,ニーチェ,プラトンetc.12人の哲学者に人生相談してみたら』双葉社,2019年。)
(*)(参考：『理想を求めること：ガンディー,吉田松陰,プラトン』伝記世界の思想家から学ぶ：未来を生きる道しるべ,清水書院,2019年。)
(*)(参考:納富信留『プラトン哲学への旅:エロースとは何か』NHK出版新書,NHK出版,2019年。)
(*)(参考:プラトン著/納富信留訳『パイドン:魂について』光文社古典新訳文庫,光文社,2019年。)
(*)(参考:松本卓也『創造と狂気の歴史:プラトンからドゥルーズまで』講談社選書メチエ,講談社,2019年。)
(*)(参考：カルキディウス著.土屋睦廣訳『プラトン『ティマイオス』註解』西洋古典叢書,京都大学学術出版会,2019年。)
(*)(参考：『生きること：シャカ,ソクラテス,神谷美恵子』伝記世界の思想家から学ぶ：未来を生きる道しるべ2,清水書院,2019年。)
(*)(参考：小林淑憲「古典古代とプラトン」北海学園大学経済論集67(1),2019年。)
(*)(参考：加藤喜一『アリストテレスの倫理思想における快楽と苦痛：「二つの快楽論」から〈共生の完全化〉へ』東京大学,博士(情報科学),甲第36598号,2019年。)
(*)(参考：河田真由子『意志概念不在の行為論：アリストテレスにおける欲求と判断』東北大学,博士(哲学),甲第846号,2019年。)
(*)(参考：太田稔『アリストテレス『デ・アニマ』における固有感覚論—感覚の生起における作用の受動の問題』中央大学,博士(哲学),甲第846号,2019年。)
(*)(参考：渡辺邦夫「De Anima III.4における付帯的知覚と「知」」ギリシャ哲学セミナー論集16,2019年。)
(*)(参考：松浦和也「知性の離存性に付いて」ギリシャ哲学セミナー論集16,2019年。)
(*)(参考：平野和歌子『後期アウグスティヌス思想における神と人間の関係論』京都大学,博士(文学),甲第 21485 号,2019 年。)
(*)甚野尚志「B.シンメルペニッヒ(甚野尚志・成川岳大・小林亜沙美訳)「ローマ教皇庁の歴史：古代からルネサンスまで」(刀水書房,2017年刊)合評会に寄せて」(特集合評会「ローマ教皇庁の歴史」を読む)」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論

叢41,2019年。
(*)(参考：トマス・ア・ケンピス/呉茂一・永野藤夫訳『イミタチオ・クリスティ：キリストにならいて』講談社学術文庫,講談社,2019年。)
(*)(参考：菊池理夫・有賀誠・田上孝一編『徳と政治：徳倫理と政治哲学の接点』(渡邉雅弘「古代ギリシアの徳理論」)晃洋書房,2019年。)
(*)(参考：加藤尚武『哲学史』(「ヘレニズムとヘブライズムの地平分離」「私の同時代人アリストテレス」)加藤尚武著作集2,未来社,2019年。)
(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(1)：先見者と詐欺師の実像」Will 8月号(176),2019年。)
(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(2)：預言者ベンサムと対抗預言者ヘーゲル」Will 9月号(177),2019年。)
(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(3)：快楽主義者は有用をみつけ、先見で射抜く」Will10月号(178),2019年。)
(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(4)：ドイツ哲学の迷妄の森から人々を救い出せ」Will11月号(179),2019年。)
(*)(参考:古田博司「たたかうエピクロス(5):ソ連邦滅亡の黙示的預言」Will12月号(180),2019年。)
(*)(参考：中金聡「甦るルクレティウス—原子の〈逸れ〉と現代物理学(上)」(政治哲学研究会)政治哲学研究27,2019年、)
(*)(参考:クルト・マール/若松宣子訳『エピクロス症候群』ハヤカワ文庫,早川書房,2019年。)
(*)(参考：國方栄二『ストア派の哲人たち：ギリシア・ローマ：セネカ,エピクテトス,マルクス・アウレリウス』中央公論新社,2019年。)
(*)(参考：岸見一郎著/日本放送協会,NHK出版事業『マルクス・アウレリウス『自省録』』NHKテキスト「100分de名著」NHK出版,2019年。)
(*)(参考：玉田敦子「ロンギノス『崇高論』再読：初期ストア派の思想をめぐって」(中部大学人文学部)人文学部研究論集42,2019年。)
(*)(参考：堀越孝一『中世ヨーロッパの精神』悠書館,2019年。)
(*)(参考：木島泰三『スピノザ『エチカ』における自然主義的プログラムとコナトゥス論』法政大学,博士(哲学)、乙第238号,2019年。)
(*)(参考：ヒロ・ヒライ監修『ルネサンス・バロックのブックガイド：印刷革命から魔術・錬金術までの知のコスモス』工作舎,2019年。)
(*)(参考：根占献一『ルネサンス文化人の世界：人文主義・宗教改革・カトリック改革』知泉書館,2019年。)
(*)(参考：大原知子「ルネッサンスとラブレーの「時」(特集 歴史と世界文学[1])」世界文学130,2019年。)
(*)(参考：佐藤彰一『歴史探究のヨーロッパ：修道制を駆逐する啓蒙主義』（1.人文主義と宗教論争）)中央公論新社,2019年。)
(*)(参考：曽田長人「人文主義者のナチズムに対する協調：リヒャルト・ハルダーの場合(山谷修作教授退職記念号)」(東洋大学経済研究会)経済論集44(2),2019年。)
(*)(参考：コーテュム ハンス=ヘニング/三佐川亮宏訳「オットー・ブルンナーとナチズム：時代を巧にくぐり抜けて来ました(下)」思想1142,2019年。)

(*)竹下哲文「書評：逸見喜一郎『ギリシャ・ローマ文学—韻文の系譜をたどる15章』研究社,2018」西洋古典學研究67,2019年。
(*)(参考：アリストテレス/三浦洋訳『詩学』光文社,2019年。)
(*)(参考:日向太郎『憧れのホメロス:ローマ恋愛エレゲイア詩人の叙事詩観』知泉書館,2019年。)
(*)(参考：川島重成・古澤ゆう子・小林薫編『ホメロス『イリアス』への招待』ビケナス出版,2019年。)
(*)(参考:佐藤りえこ「訳詩ノート(3)フィヴィ・ヤニシ詩集『ホメロス風詩集』より詩三編」プロピレア25,2019年。)
(*)(参考：河島思朗『オウィディウス『変身物語』における叙事詩の技法：物語相互の内的連関と統一性の原理』首都大学東京,博士(文学),乙第197号,2019年。)
(*)(参考：『マーニーリウス『アストロノミカ』における詩的伝統の研究』京都大学(2017年),(科研費)2019年。)
(*)(参考：戸田聡「ビザンツ文学余滴(3/通産第4回)：コンスタンティノス・マナセスのエクフラシス」プロピレア25,2019年。)
(*)(参考：BUCCERONI Lorenzo,“‘‘The boys are my gods’’：Anacreon’s pederatic poetry and its maoral reception”,Mediterranean world：地中海論集24,2019年。)
(*)(参考：DI ViRGILO Loredana,“Some thoghts on humor and music in Aristophanes’ plays”,Mediterranean world：地中海論集24, 2019年。)
(*)(参考：毛利三彌・細井敦子編『古代ギリシア遙かな呼び声にひかれて：東京大学ギリシア悲劇研究会の活動』論創社,2019年。)
(*)(参考：岩城京子「『バッコスの信女：ホルスタインの雌』戯曲掲載に寄せて ギリシャ悲劇の「対立」を液状化する」悲劇喜劇72(5),2019年。)
(*)(参考：アルベール・カミュ/東浦弘樹訳「悲劇(トラジエデイ)の未来について：1955年4月29日,ギリシャ・アテネでカミュが行なった講演」悲劇喜劇72(6),2019年。)
(*)(参考:山形治江「批評的エッセイ「ギリシャ悲劇」上演の新たな可能性」テアトロ957,2019年。)
(*)(参考：山形治江「critic劇評 現代版ギリシャ劇と演出の難しさ：新国立劇場【オレステイア】清流劇場【アルケスティス異聞】」テアトロ965,2019年。)
(*)濱田元子「アートな時間 舞台 新国立劇場 オレステイア ギリシャ悲劇を大胆に再構成 観客とキャッチボール」エコノミスト97(23),2019年。)
(*)(参考：古川日出男「カリギュラ・サロメ・三島(特集 アルベール・カミュ)」悲劇喜劇72(6),2019年。)
(*)(参考：菅田将暉・濱田元子「狂気の暴君『カリギュラ』に挑む(特集 アルベール・カミュ)」悲劇喜劇72(6),2019年。)
(*)(参考：小林亜紀子「ロッソ・フィオレンティーノとタピスリー：《ラウラの死をめぐるペトラルカの幻影》について」地中海学研究42,2019年。)
(*)(参考：土井雅之「where any honest men resort：『間違いの喜劇』に見る東地中海への興味とそのイメージの変化」Shakespear journal 5,2019年。)
(*)(参考：チョーサー/松下知紀訳『トロイルスとクリデイデ』彩流社,2029年。)

(*)(参考:高根広大“Humanist Rhrtoric in Shakespeare:Flattery,Advice,and Womnaly Persuasion”(「アテネのタイモーン」)学習院大学,博士(英語英米文学),甲第285号,2019年。)
(*)(参考:吉次聖志「リレー執筆 産業保健スタッフ活動講座(12)ベーコン『ニュー・アトランティス』への旅」安全と健康70(12),2019年。)
(*)伊藤勲『ペイター藝術とその変容:ワイルドそして西脇順三郎』論創社,2019年。
(*)(参考:伊澤高志「ジョン・ドライデンの『トロイラスとクレシダ』と諷刺」立正大学人文科学研究所年報57,2019年。)
(*)(参考:千野帽子「幻談の骨法:世界一簡単な幻想・小説論(81)トマス・G.バヴェルの『小説の思考』とヘレニズム小説」ハヤカワミステリマガジン64(4),2019年。)
(*)(参考:子安ゆかり『聴くヘルダーリン/聴かれるヘルダーリン:詩作行為における「おと」』書肆心水,2019年。)
(*)(参考:佐藤研一「「劇場は古代ローマ闘技場にあらず」--レッシング『ラオコーン』にみる古代ギリシャの人間像」東北ドイツ文学研究60,2019年。)
(*)(参考:東谷優希「ニーチェの「ホメロス問題」(別巻ニーチェ特集(4))」ショーペンハウアー研究24,2019年。)
(*)(参考:氷上英廣『ニーチェの顔:他十三篇』岩波文庫,岩波書店,2019年。)
(*)(参考:前川一貴『ニーチェにおける「生理学」:彼の文化的「戦略」として』早稲田大学,博士(文学),甲第5819号,2019年。)
(*)小沢美智恵『メロスの群れ:評伝吉野せい』シングルカット,2019年。
(*)青谷優子,ジュリエット・W・カーペンター『英語朗読で楽しむ日本文学』(太宰治「走れメロス」)アルク,2019年。
(*)吉村敏之「船戸咲子の授業の展開を支えた教材解釈—5年生「走れメロス」」宮城教育大学紀要53,2019年。)
(*)木村功「太宰治「走れメロス」論:「信頼されてゐる」ことをめぐって」(岡山大学大学院教育学研究科)研究集録171,2019年。
(*)佐藤明宏・額田淳子「比較から判断につなぐ国語学習の在り方:「走れメロス」の場合」香川大学国文研究44,2019年。
(*)佐々木敦「戯曲評 朗読と上演:古川日出男『ローマ帝国の三島由紀夫』を読む」悲劇喜劇72(1),2019年。
(*)秋田哲郎「学習者の問いを起点とした『走れメロス』の読みと創作の授業」(人文科教育学会)人文科教育研究46,2019年。
(*)加藤康子・三宅興子・高岡厚子『イソップ絵本はどこからきたのか:日英仏文化の環流』三弥井書店,2019年。
(*)(参考:戸田智弘『読めば読むほど知恵が身につくまほうの寓話』(イソップ)幻冬舎,2019年。)
(*)(参考:佐藤一好「義獣譚集としての馮景「書十義事」」(イソップ)日本アジア言語文化研究13,2019年。)
(*)(参考:吉川斉「19世紀英国における翻訳イソップ集に関する一考察:「蛙と牛」にみる母蛙の怒りを中心として」津田塾大学紀要51,2019年。)
(*)(参考:伊藤博明『「イソップ寓話集」の近代ヨーロッパにおける流布と日本への影響』埼玉大学2106年,(科研費)2019年。)

(*)吉見孝夫「第12号に寄せて」イソップ資料12,2019年。
(*)鈴木潤吉「鈴木三重吉とイソップ」イソップ資料12,2019年。
(*)吉見孝夫「明治期の寓話集等に載ったイソップ寓話」イソップ資料12,2019年。
(*)吉見孝夫「明治期の寓話集等に載ったイソップ寓話 補遺」イソップ資料12,2019年。
(*)定村来人「天理大学附属天理図書館蔵　河鍋暁斎「伊蘇普物語之内」新出二図」暁斎127,2019年。
(*)定村来人「河鍋暁斎とイソップ物語----一八七０年代における新たな試みと展開」浮世絵芸術178,2019年。
(*)池田芙美他編『河鍋暁斎：その手に描けぬものなし』サントリー美術館,2019年。
(*)河鍋暁斎作/村田大輔・西田桐子・山田修平編集『河鍋暁斎：没後130年』兵庫県立美術館,2019年。)
(*)(參考：史學會編/村川堅太郎・山本達郎・林健太郎執筆『世界史概観』復刻版,山川出版社,2019年。)
---第2章「古典文明の生成」/第3章「中世世界の展開」
(*)(參考：橋場弦他『英文詳説世界史：world history for high shool』山川出版社,2019年。)
(*)(參考：ポール・カートレッジ著/橋場弦訳『古代ギリシア人：自己と他者の肖像』新装版,白水社,2019年。)
(*)(參考：ジョン・ハースト/倉嶋雅人訳『超約ヨーロッパの歴史』東京書籍,2019年。)
(*)(參考：小池澄・佐藤昇・木原志乃編『『英雄伝』の挑戦：新たなプルタルコス像に迫る』京都大学学術出版会,2019年。)
(*)(參考：角田幸彦「歴史哲学新稿(1)ヘカタイオス(の歴史学)からプラトン(の歴史哲学)まで」明治大学教養論集544,2019年。)
(*)(參考：角田幸彦「歴史哲学新稿(2ノ1)アウグスティヌスからトレルチ,マイネッケ,レーヴィットまで」明治大学教養論集544,2019年。)
(*)(參考：小河浩「前三五〇年代,トラキアのオドリュサイ王国をめぐる政治・軍事情勢：東王国の王ケルソプレプデスの動向を中心に」史林102(2),2019年。)
(*)(參考：浦野聡「論点開示 歴史は何を伝えたか(2018年度大会共通論題報告 歴史が伝えるもの：古代地中海世界と中世アジア世界における情報発信・伝達メディアとしての「歴史叙述」)」西洋史研究48,2019年。)
(*)(參考：松原俊文「基調報告 記憶(メモリア)と政治：ローマの政治文化における歴史の役割(2018年度大会共通論題報告 歴史が伝えるもの：古代地中海世界と中世アジア世界における情報発信・伝達メディアとしての「歴史叙述」)」西洋史研究48,2019年。)
(*)(參考：田中創「基調報告 教会史の系譜：ローマ帝政期における歴史叙述の伝統と変容(2018年度大会共通論題報告 歴史が伝えるもの：古代地中海世界と中世アジア世界における情報発信・伝達メディアとしての「歴史叙述」)」西洋史研究48,2019年。)
(*)(參考：「討論(2018年度大会共通論題報告 歴史が伝えるもの：古代地中海世界と中世アジア世界における情報発信・伝達メディアとしての「歴史叙述」)」西洋史研究48,2019年。)
(*)(參考：櫻井かおり「ファラオとしてのクレオパトラ：プトレマイオス朝後期以後の五重称号を中心に」関西大学西洋史論叢21,2019年。)

(*)野村雄紀「書評 中平希著「ヴェネツイアの歴史：海と陸の共和国」」西洋史学268,2019年。
(*)(参考:『Troy sonata : Fazil Say plays Say』(「トロイ・ソナタ」)ピアノ・ソロ,録音資料,Avex classics,2019年。)
(*)(参考：関大聡「トロイア戦争は起こらないだろうか?：二十世紀フランス文学・思想におけるカッサンドラたちについての試論(大橋洋一教授退職記念号)」れにくさ：現代文芸論研究室論集9,2019年。)
(*)(参考:竹中愛語『彗星のごとく：アレクサンドロス大王遠征記(上下)』文芸社,2019年。)
(*)(参考:中村友代『アレクサンドロス大王の表象研究：イメージの生成と変遷』筑波大学,博士(芸術学),甲第9158号,2019年。)
(*)(参考：ヒュー・ボーデン/佐藤昇訳『アレクサンドロス大王』刀水歴史全書97,刀水書房,2019年。)
(*)(参考：小川浩「前350年代,トラキアのオドリュサイ王国をめぐる政治・軍事情勢・東王国ケルソブレプテスの動向を中心に」史林102(2),2019年。)
(*)(参考：J.B.Hirst(John Bradley)/福井憲彦・倉嶋雅人訳『超約ヨーロッパの歴史』東京書籍,2019年。)
(*)青柳正規「講談社学術文庫版『興亡の世界史』完結記念インタビュー 世界史から「人類の知の体系」を読む」本44(2),2019年。
(*)海老根量介「新刊紹介 南川高志編「B.C.220年：帝国と世界史の誕生」」(九州西洋史学会)西洋史学論集56,2019年。
(*)長谷川岳男「書評南川高志編「B.C.220年：帝国と世界史の誕生」」西洋史学268,2019年。
(*)(参考：本村凌二「ヨーロッパの神髄ローマ帝国ローマ史は人類の縮図 滅亡の歴史に何を学ぶか(特集 ビジネスマンのための世界史&宗教)--(宗教を知ることは世界を知ること)」週刊東洋経済6895,2019年。)
(*)(参考：安井萌「研究フォーラム 古代ローマに於ける歴史記述の始まり(世界史の研究[261])」歴史と地理728,2019年。)
(*)毛利晶「書評 砂田徹著「共和政ローマの内乱とイタリア統合：退役兵植民への地方都市の対応」(北海道大学大学院文学研究科研究叢書29)」史学雑誌128(11),2019年。
(*)(参考:増永理考『ローマ帝政前期小アジアにおける都市社会の研究：都市による文化資本運用をめぐって』京都大学,博士(文学),甲第22108号,2019年。)
(*)(参考:岸本廣大「読書案内 ヘレニズム史(世界史の研究[259])」歴史と地理724,2019年。)
(*)(参考：エリザベス・ドネリー・カーニー/森谷公俊訳『アルシノエ二世：ヘレニズム世界の王族女婿と結婚』白水社,2019年。)
(*)(参考:『ローマ支配下のギリシアにおける植民市研究—コロントスと周辺地域の関係を中心に』名古屋大学2016年、(科研費)2019年。)
(*)(参考:ハチャトリアン;大輪公壱解説『スパルタクス:第4組曲』楽譜,全音楽譜出版社,2019年。)
(*)(参考：サルスティウス/栗田伸子訳『ユグルタ戦争：カティリーナの陰謀』岩波文庫,岩波書店,2019年。)
(*)(参考：伊藤雅之『第一次マケドニア戦争とローマ・ヘレニズム諸国の外交』山川歴史モノグラフ38,山川出版社,2019年。)
(*)(参考：前田耕作『バクトリア王国の興亡：ヘレニズムと仏教の交流の原点』ちくま学芸

文庫,筑摩書房,2019年。)
(*)(参考：菊池良生『ウィーン包囲：オスマン・トルコと神聖ローマ帝国の激闘』河出書房新社,2019年。)
(*)小山田真帆「新刊紹介 高畠純夫・齋藤貴弘・竹内一博著「図説古代ギリシアの暮らし」」フェネストラ：京大西洋史学報3,2019年。
(*)(参考：「討論(2018年度大会共通論題報告 歴史書が伝えるもの：古代地中海世界と中世西アジア世界における情報発信・伝達メディアとしての「歴史叙述」)」西洋史研究48,2019年。)
(*)「史学文献目録—西洋史1」史学雑誌128(1),2019年。
(*)「2018年の歴史学界：回顧と展望」史学雑誌128(5),2019年。
(*)藤崎新「ヨーロッパ(中世—西欧・南欧)(2018年の歴史学界—回顧と展望)」史学雑誌128(5),2019年。
(*)「史学文献目録—西洋史2」史学雑誌128(5),2019年。
(*)「史学文献目録—西洋史3」史学雑誌128(9),2019年。
(*)毛利晶「書評 砂田徹著「共和政ローマの内乱とイタリア統合：退役兵植民への地方都市の対応(北海道大学大学院文学研究科研究叢書29)」」史学雑誌128(11),2019年。
(*)岡崎勝世「日本における世界史教育の歴史(II-2)：三分科制の時代2.」埼玉大学紀要・教養学部54(2),2019年。
(*)中谷功治「高校世界史教育の探究(シンポジウム高校世界史教育の探究)関学西洋史論集42,2019年。)
(*)濱口忠大「世界に通用する」世界史教育を目指して(シンポジウム高校世界史教育の探究)関学西洋史論集42,2019年。
(*)佐藤信弥「Book Review「宮崎史学」の達成と課題を読み解く[井上文則著 天を相手にする：評伝 宮崎市定]」東方456,2019年。)
(*)鷲巣力「林達夫への精神史的逍遙(8)」イタリア圖書60,2019年。
(*)(参考：大内宏友・松枝朝・宗土淳「11034 古代ギリシャ都市アテネのアゴラにおける画像相関とフラクタル次元解析との関係性による建築様式の類似性に関する定量的評価 B.C.300,B.C.150,A.D.100の3年代における復元的考察」情報システム技術2019,2019年。)
(*)(参考：新津靖・花里利一「21540 ギリシャ・パルテノン神殿の振動モニタリングと地震応答」構造II 2019,2019年。)
(*)(参考：花里利一・加藤心彩「23434 海外の世界遺産組積造建造物の歴史火災による損傷評価 ギリシャ神殿建築の歴史的火災による災害シミュレーション」構造IV 2019,2019年。)
(*)(参考：吉武隆一・山里光季「古代都市メッセネのヘレニズム劇場の舞台建築に関する研究 その推定復元とローな時代の転用材に関する考察」日本建築学会計画系論文集84(775),2019年。)
(*)(参考：松原康介「ダマスクス1968年計画におけるヘレニズム基盤の再構築事業」都市計画論文集54(3),2019年。)
(*)佐々木勝「ギリシャの神殿を連想させる「名古屋市演劇練習館(旧稲葉地配水塔)」：愛知県名古屋市(特集 土木施設の転用)」Civil engineering consultant：建設コンサルタンツ協会会誌282,2019年。

(*)(参考：安田光男・松隈洋・木村博昭「古代ローマ住宅ペリスタイルの列柱についての研究(2)ポンペイ住宅のペリスタイル列柱配置における視角効果の形式とその変遷についての考察」芸術工学会誌78,2019年。)
(*)(参考：福本薫「書評 篠塚千恵子著『死者を記念する：古代ギリシアの墓辺図研究』」地中海学研究42,2019年。)
(*)牧野広義「書評 菅野礼司著『近代科学はなぜ東洋でなく西欧で誕生したか』唯物論と現代61,2019年。
(*)(参考：エドワード・アシュフォード・リー著/クイーブ,遠藤美代子,富山貴子訳『プラトンとナード：人とテクノロジーの創造的パートナーシップ』マイナビ出版,2019年。)
(*)(参考：齋藤憲「古代ギリシャの(巨大)数」現代思想47(15),2019年。)
(*)(参考：三浦伸夫「歴史から見る数学 数学から見る歴史(48)初期アラビアにおけるギリシャ数学の受容：ナイームの場合」現代数学52(10),2019年。)
(*)(参考：遠山茂樹『歴史の中の植物：花と木のヨーロッパ史』八坂書房,2019年。)
(*)(参考：糸隆太「都市ローマにおける家畜の屠殺：共和政末期から帝政初期の事例」(早稲田大学西洋史研究会)西洋史論叢40,2019年。)
(*)(参考：伊藤正『ゲオーポニカ：古代ギリシアの農業事情』刀水書房,2019年。)
(*)(参考：牧みぎわ「古代小麦の再評価におけるシチリア小麦栽培試験研究所」地中海学研究42,2019年。)
(*)(参考：菊地のどか「野心的な陶工たち：プトレマイオス朝時代のファイユーム出土パピルス文書から」古代文化71(3),2019年。)
(*)(参考：古賀邦正「酒の来歴(9)ワインとビール(6)アレクサンドロス大王の登場と古代ローマの台頭」文理シナジー23(6),2019年。)
(*)(参考：松村潔『西洋占星術哲学』説話社,2019年。)
(*)(参考：リズ・グリーン/上原ゆう子訳『占星術とユング心理学：ユング思想の起源としての占星術と魔術』原書房,2019年。)
(*)(参考：信田広晶「ホリスティック医療の観点からみたうつ病治療の可能性：自尊感情の回復を目指して」(ヒポクラテス)国際生命情報科学会誌37(2),2019年。)
(*)(参考：加我君孝「5.50年の時を超えて—50年前の東大闘争と2500年前のヒポクラテス」医学教育50(2),2019年。)
(*)(参考：吉田正雄「ヒポクラテスの誓い」日本健康学会誌85(2),2019年。)
(*)(参考：中山七里『ヒポクラテスの憂鬱』祥伝社文庫,祥伝社,2019年。)
(*)(参考：藤尾均「医療倫理2500年の流れを50分で振り返る—ヒポクラテスの主題による変奏曲とフーガ」日本鼻科学会会誌58(1),2019年。)
(*)(参考：坂井建雄『図説医学の歴史』医学書院,2019年。)
(*)(参考：坂井建雄編『医学教育の歴史：古今と東西』法政大学出版局,2019年。)
(*)北村聖「書評 図説医学の歴史」坂井建雄著」BRAIN and NERVE71(11),2019年。
(*)泉孝英「書評 図説医学の歴史」坂井建雄著」臨床泌尿器科73(11),2019年。
(*)泉孝英「坂井建雄著図説医学の歴史」」リハビリテーション57(9),2019年。
(*)泉孝英「坂井建雄著図説医学の歴史」」Neurlogical Surgery脳神経外科47(9),2019年。
(*)(参考：アンドルー・スカル/三谷武司訳『狂気：文明の中の系譜』東洋書林,2019年。)
(*)(参考：リディア・ケイン,ネイト・ピーダーセン/福井久美子『世にも危険な医療の世界

史』文藝春秋,2019年。)
(*)(参考：中井久夫『患者と医師と薬とのヒポクラテス的出会い』中井久夫全集11,みすず書房,2019年。)
(*)(参考：アルマン・マリー・ルロワ/森夏樹訳『アリストテレス生物学の創造(上下)』みすず書房,2019年。)
(*)(参考：リディア・ケイン,ネイト・ピーダーセン/福井久美子訳『世にも危険な色湯の世界史』文藝春秋,2019年。)
(*)(参考：坂上康博編・くにもとゆかりイラスト『12の問いから始めるオリンピック・パラリンピック研究』かもがわ出版,2019年。)
(*)(参考：ヴォルフガング・ベーリンガー/高木葉子訳『スポーツの文化史：古代オリンピックから21世紀まで』叢書ウニベルシタス,法政大学出版局,2019年。)
(*)(参考：新井博編/井上洋一他執筆『スポーツの歴史と文化』新版,道和書院,2019年。)
(*)(参考：もとじろうマンガ・チームガリレオストリー『古代オリンピックへのタイムワープ』世界史BOOK,歴史漫画タイムワープシリーズ,朝日新聞出版,2019年。)
(*)(参考：入江公康「「古代の廃墟」としての近代：ボイコット2020(特集 現代のバベルの塔：反オリンピック・反万博)」福音と世界74(8),2019年。)
(*)(参考：越川茂樹「スポーツを文化的に享受する機軸：ホイジンガとオルテガの文化論のあわいから」北海道体育学研究54,2019年。)
(*)(参考：玉田敦子「レトリック発祥の地の輝き：紀元前5世紀のシチリアにおける僭主政とオリンピック」人文学部研究論集41,2019年。)
(*)(参考：杉本陽奈子『紀元前4世紀アテナイをとりまく商業活動を支えたメカニズムに関する考察：海上交易と銀行業を中心に』京都大学,博士(文学),甲第21979号,2019年。)
(*)(参考：「ギリシャ時代のローン地獄(特集 漫画・ランキング・図でわかる決算書 給料経済ニュース)—(人類とカネを巡る3800年の旅)」週刊ダイヤモンド107(17),2019年。)
(*)高橋哲郎「文は橘,武は桜,嘉納治五郎：その詩と真実「賢人たちの簡潔で憶えやすい格言に込められている彼らの知恵が,スパルタ精神の賜であることは、誰もが認めることだろう。賢人はデルフィのアポロン神殿に集まり,知恵の最初の果実として、広く人が口にするあの有名な碑文『汝自身を知れ』と『度を超すなかれ』を捧げた」(『プロタゴラス』プラトン)(第5話)講道館道場探し,父治郎作の死,学習院教授」(全国建設業協会)全健ジャーナル58(5),2019年。
(*)(参考：出雲孝「デジタル特有財産に関する一考察：ローマの奴隷制とロボットとの比較から」情報学研究28,2019年。)
(*)(参考：大村大次郎「世界史編 古代ローマ,フランス—有力者から税を徴収できないと国家は衰退する(特集 消費税アップ直前か?「税金」が世界史&日本史を変えた)」歴史街道377,2019年。)
(*)(参考:有村元春「ミケーネ文化期ギリシャで流通したアイギュプティカに関する一考察」溯航 早稲田大学文研考古誌37,2019年。)
(*)(参考：西村道也「ビザンツ貨をめぐる模造と模倣：帝国の貨幣史をてがかりに(特集 中近世の東地中海世界における曾民族の混淆)」ヨーロッパ文化史研究

20,2019年。)
(*)(参考：比佐篤「共和政ローマにおける初期の貨幣に描かれた図像の再解釈(特集 朝治啓三教授退職記念)」関西大学西洋史論叢21,2019年。)
(*)(参考：長嶋俊介「エーゲ海文明と日本の世界レガシー：公共民の経営学・現場学(160)」会計審査資料：公会計のための受検情報誌646,2019年。)
(*)(参考：小河浩「前350年代,トラキアのオドリュサイ王国をめぐる政治・軍事情勢：東王国の王ケルソブレブテスの動向を中心に」史林102(2),2019年。)
(*)(参考：玉田敦子「レトリック発祥の地の輝き：紀元前5世紀の南シチリアにおける僭主政とオリンピック」(中部大学人文学部)人文学部研究論集41,2019年。)
(*)(参考：高畠純夫「古代ギリシア史における「国制」という観念」東洋大学人間科学総合研究所紀要21,2019年。)
(*)(参考：澤田典子「ギリシア世界における権力者崇拝(1)：プラシダス,リュサンドロス,フィリポス2世」千葉大学教育学部研究紀要67,2019年。)
(*)(参考：白石正樹「古代ギリシアにおける政治と宗教」創価法学48(3),2019年。)
(*)(参考：久保田義弘「アリストテレスの『政治学』における共同体と統治—知識人の人間観ならびに社会観(5)」札幌学院大学経済学論集15,2019年。)
(*)(参考：ジャクリーヌ・ド・ロミイ/白石正樹訳「古典期アテナイにおける都市国家と宗教」創価法学48(3),2019年。)
(*)(参考：北野雅弘「ギリシア悲劇における民主政と言論自由」群馬県立女子大学紀要40,2019年。)
(*)(参考：川本愛『コスモポリタニズムの起源：初期ストア派の政治哲学』京都大学学術出版会,2019年。)
(*)川本愛・安田将・稲村一隆・兼利琢也・近藤智彦「書評会ノート 川本愛『コスモポリタニズムの起源：初期ストア派の政治哲学』西洋古典研究会論集28,2019年。)
(*)(参考：中川亜希,本村凌二「ハドリアヌス帝の属州視察の問題」上智史学64,2019年。)
(*)(参考：グレン・ハバード・ティム・ケイン/久保恵美子訳『なぜ大国は衰退するのか：古代ローマから現代まで』日経ビジネス人文庫899,日本経済新聞出版社,2019年。)
(*)(参考：木戸口聡子『紀元後2世紀ローマにおけるアウグスタの政治的役割について：小ファウスティナの肖像が用いられた貨幣の図像から』東京大学,博士(学術),甲第35578号, 2019年。)
(*)(参考：小後遊二「平成改め令和考現学(163)香港がポンペイになる日」Verdad25(11),2019年。)
(*)宮嵜麻子「書評 丸亀裕司著「公職選挙にみるローマ帝政の成立」」(九州西洋史学会)西洋史学論集56,2019年。
(*)安井萌「書評 丸亀裕司著「公職選挙にみるローマ帝政の成立(山川歴史モノグラフ34)」」史学雑誌127(12),2019年。
(*)(参考：丸亀裕司「ローマ共和政末期の政治と弁論：キケロ『ポンペイウスの指揮権について』(前66年)を手がかりに」西洋史研究48,2019年。)
(*)(参考：本村凌二「ローマ人は何事も正攻法を好んだ：いまこそ憲法という「最大の嘘」を正すとき(総力特集 大国日本 百年の計)」Voice 493,2019年。)
(*)(参考：國司航佑「イタリア国家統一運動と文学：ジャコモ・レオパルディの場合(特集

時代と文学[2])」世界文学129,2019年。)
(*)(参考 : 木村正人「10年間でコンテナ取扱量は3倍に 欧州の玄関港を “支配” する中国「トロイの木馬」と化すギリシャ（Wedge Special Report「一帯一路」の衝撃 : 中国に飲み込まれるジプチ・エジプト・ギリシャ）」Wedge3183),2019年。)
(*)(参考 : 結城正秀「critic劇評「湾岸戦争」としてのトロイ戦争 : 新国立劇場【オレステイア】劇団四季【エピータ】新宿梁山泊【蛇姫様,わが心の奈蛇】西瓜糖【ご馳走】劇団球【紫陽花 : 令和】」テアトロ963,2019年。)
(*)(参考 : 石崎嘉彦・厚見恵一郎編『レオ・シュトラウスの政治哲学 : 「自然権と歴史」を読み解く』MINERVA人文・社会科学叢書233,ミネルヴァ書房,2019年。)
-----西永亮「歴史主義と「哲学的倫理」としての自然的正」
中金聡「はじめにコンヴェンショナリズムありき」
高木酉子「エピクロス哲学とレオ・シュトラウス」
関口佐紀「古代への回帰と近代の推進—シュトラウスによるルソー再評価」
(*)菅原健史「矢野龍渓『経国美談』論 : ジャーナリストはいかなるデモクラシーを描いたか」(日本社会文学会)社会文学49,2019年。
(*)(参考 : 曽田長人「人文主義者のナチズムに対する協調—リチャルト・ハルダーの場合(山谷修作教授退職記念)」(東洋大学経済研究会)経済論集45(2),2019年。)
(*)(参考 : ウーリヒ・マンテ/田中実・佐々木健訳「翻訳 ウーリヒ・マンテ「パピニアヌスの『姦通論単巻書』 : その伝承と信憑性)南山法学41(2),2018年。)
(*)(参考 : 内田康太「C.ユリウス・カエサルの農地法 : 共和政末期ローマの立法過程と元老院」史學雑誌128(3),2019年。)
(*)吉原達也「宮崎道三郎博士講述『比較法制史』緒言及び第一部羅馬法制史」日本法學84(4),2019年。)
(*)吉原達也「宮崎道三郎博士講述『比較法制史』第ニ部獨逸法制史」日本法學84(1),2019年。)
(*)吉原達也「宮崎道三郎博士の羅馬法講義について(日本大学法学部創設30周年記念号)」日本法學85(2),2019年。

(*)柄谷行人「『マルクスその可能性の中心』英語版序文」群像75(3),2020年。)
(*)(参考小澤京子「架空都市の地図を描く : 地図と(しての)テクスト(特集 地図の世界 : プトレマイオスから伊能忠敬,GoogleMapsまで)」ユリイカ523(11),2020年。)
(*)(参考 : サリー・クルサード/森夏樹訳『羊の人類史』青土社,2020年。)
(*)垣内宣子『ヨーロッパ紀行 : 垣内宣子水彩画・油彩画作品集』音美衣社,2020年。)
(*)橋本龍幸『ヨーロッパ史跡巡歴 : ローマ文明の周縁を歩く』あるむ,2020年。
(*)(参考 : R.W.サザン/鈴木利明訳『ヨーロッパとイスラム世界』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2020年。)
(*)(参考 : 小林功『生まれくる文明と対峙すること : 7世紀地中海世界の新たな歴史像』Minerva西洋史ライブラリー114,ミネルヴァ書房,2020年。)
(*)(参考 : ハラルド・クラインシュミット/藤原保明訳『中世ヨーロッパの文化』ウニベルシタス叢書,法政大学出版局,2020年。)

(*)(参考：弓削達『地中海世界：ギリシア・ローマの歴史』講談社,2020年。)
(*)齋藤正洋「海外レポート ギリシア・サントリーニ島,パロス島 古代より保養地だったエーゲ海の変化し続けるホテルのスタイルを追う」月刊ホテル旅館57(8),2020年。
(*)(参考：弓削達『地中海世界：ギリシア・ローマの歴史』講談社学術文庫,講談社,2020年。)
(*)(参考：R.W.Southern/鈴木利章訳『ヨーロッパとイスラーム世界』筑摩書房,2020年。)
(*)(参考：Henri Pirenne/佐々木克己・中村宏・増田四郎訳『ヨーロッパの誕生：マホメットとシャルルマーニュ』講談社,2020年。)
(*)藤井洋子「アテナ住まいの思い出,三度目の家へ」地中海歴史風土研究誌51,2020年。
(*)藤井洋子「アテナ住まいの思い出,アテネ狂想曲」地中海歴史風土研究誌52,2020年。
(*)野尻命子「ローマからの手紙：“心”のお茶と60年(大特集 海外から見た茶の湯：本当に求めれているものとは)」なごみ41(7),2020年。
(*)(参考：倉田稔「イタリア・ルネサンスの遠因とサンタ・マリア・ノヴェッラ寺院」小樽商科大学人文研究138,2020年。)
(*)塩野七生「『小説イタリア・ルネサンス』をめぐって(1)外出禁止さえも愉しんで書いた「オトナの男女」」波54(10),2020年。
(*)(参考：根占献一「ルネサンスを旅する日本の若者たち：「天正遣欧使節」に見るグランドツアー」学習院女子大学紀要22,2020年。)
(*)(参考：日下隆平「イギリス人とグランドツアー：G.B.ピラネージュとゴシック・リバイバル」(桃山学院大学総合研究所)人間文化研究12,2020年。)
(*)(参考：中島俊郎『英国流旅の作法：ヅランド・ツアーから庭園文化まで』講談社学術文庫,講談社,2020年。)
(*)(参考：谷本佳子「イタリア旅行と苦い恋の物語：3つのイギリス短編小説をめぐって」(青山学院大学英文学会)英文学思潮93,2020年。)
(*)(参考：松本宣郎「北イタリア古代遺跡紀行」東北学院大学キリスト教文化研究所研究紀要38,2020年。
(*)(参考：坂本優一郎「地中海と近世史(シンポジウム 地中海と近世史)」関学西洋史論集43,2020年。)
(*)(参考：佐藤公美「〈シンポジウム〉海とイタリア同盟：15世紀後半イタリア半島領域国家間システムにおける地中海」関学西洋史論集43,2020年。)
(*)(参考：上村忠夫「意味と島々：カッチャーリの『多島海』を読む(特集 島嶼の政治性：ひとびとと海と抵抗をつなぐ導線)」越境広場：来るべき言葉のための巡航誌7,2020年。)
(*)(参考：青山剛昌,山岸栄一,山浦聡『アトランティス大陸の真実』小学館,2020年。)
(*)(参考：「失われた大陸の謎：ムー大陸,パシフイカ大陸,アトランティス大陸—消えた大陸の伝説はほんとうか」Newton 40(5),2020年。)
(*)日之下あかめ『エーゲ海を渡る花たち=Flowers crossing the Aegean Sea (3)』METEOR COMOICS,フレックスコミックス,2020年。
(*)(参考：レベッカ・ウインターズ作・後藤美香訳『エーゲ海の独身貴族』ハーレクインプレゼンツ作家シリーズ別冊,ハーバーコリンズ・ジャパン,2020年。)
(*)(参考：ミシェル・スマート作・中村美穂訳『エーゲ海の暴君に捧ぐ愛』ハーレクイン・ロッマンス,ハーバコリンズ・ジャパン,2020年。)
(*)地球の歩き方編集室編『イタリア』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2020-21

年。
(*)地球の歩き方編集室編『中部イタリアの美しき村』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2018-19 年
(*)地球の歩き方編集室編『フェレンツェとトスカーナ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2018-19 年・
(*)地球の歩き方編集室編『南イタリアとマルタ』ダイヤモンドビッグ社,ダイヤモンド社(発売),2020-21 年。
(*)(参考 : 周剣生「世界遺産を撮る(196)チュニス旧市街 : チュニジア文化遺産(1979年登録)」週刊ダイアモンド108(12),2020年。)
(*)(参考：周剣生「世界遺産を撮る(205)エトナ山：：イタリア自然遺産(2013年登録)」週刊ダイアモンド108(21),2020年。)
(*)(参考 : 周剣生「世界遺産を撮る(216)フエツラーラ : ルネサンス期の市街とポー川デルタ地帯：イタリア文化遺産(1995年登録)」週刊ダイアモンド108(32),2020年。)
(*)(参考：周剣生「世界遺産を撮る(228)ナポリ歴史地区：イタリア文化遺産(1997年登録)」週刊ダイアモンド108(44),2020年。)
(*)(参考：周剣生「世界遺産を撮る(229)ポンペイ,エルコラーノ及びトッレ・アヌンツィアータの遺跡地域：イタリア文化遺産(1997年登録)」週刊ダイアモンド108(45),2020年。)
(*)(参考 : 周剣生「世界遺産を撮る(230)アグリジェントの遺跡地域 : イタリア文化遺産(1997年登録)」週刊ダイアモンド108(46),2020年。)
(*)(参考：村川堅太郎『オリンピア：遺跡・祭典・競技』(中公新書1963年刊に加筆修正)ちくま学芸文庫,筑摩書房,2020年。)
(*)本田環「世界旅情 トスカーナ(イタリア)」輸入食糧協議会報765,2020年。
(*)中小路葵「特集 イタリア コロナとルネサンス・歴史は繰り返す,されど進む。」国際金融1332,2020年。
(*)(参考：渡邊道治「古代ローマ市のポンペイウス,マルケルス,バルブス劇場の平面について」日本建築学会九州支部研究報告集59,2020年。)
(*)(参考：齋藤正洋「海外レポート ギリシア・サントリーニ島,パロス島 古代より保養地だったエーゲ海の変化し続けるホテルのスタイルを追う」月刊ホテル旅館57(8),2020年。)
(*)(参考 : 齋藤正洋「海外レポート ギリシア・ロードス島 古代から現代まで海上貿易の要であり,戦いと富に彩られた世界遺産の島」月刊ホテル旅館57(9),2020年。)
(*)小口雅史他「在欧美術館・博物館所蔵の日本仏教美術を訪ねて(5)ドイツ・ブレーメン海外博物館の巻(2)ドイツ・ハンブルク美術工芸博物館の巻 ギリシア・コルフ島 アジア美術館の巻」法政史学93,2020年。
(*)(参考：シェルドン・テイルバウム,イマヌエル・ロテム編/中村融也訳『シオンズ・フィクション・イスラエルSF傑作選』(「ケレン・ランズマン/山田順子訳「アレキサンドリアを焼く」」竹書房文庫,竹書房,2020年。)
(*)(参考：アンゲロス・ハニオティス/藤井崇訳「誰も寝てはならぬ!：夜のギリシア」思想1154,2020年。)
(*)(参考：奥山広規「古代末期ディールの墓地と社会：アル=バース・ネクロポリスの分析から」史学研究305,2020年。)

(*)(参考：周藤芳幸「サモスのヘライオン：ギリシアにおける「発掘ポリティクス」の一考察(発掘をめぐるポリティクス[1])」歴史学研究997,2020年。)
(*)(参考：高橋裕子「ギリシアのアルゴリスにおける後期青銅器時代IIIC期から原幾何学文様期にかけての対外関係」西洋史研究49,2020年。)
(*)(参考：全卓樹「ヤーコプ・ブルクハルト『イタリア・ルネサンスの文化』：(時代の黄昏に)過ぎ去った朝の光を振り返る(総特集 コロナ時代を生きるための60冊)」現代思想48(11),2020年。)
(*)「フラ・アンジェリコがいっぱい!修道院を満たす典雅なフレスコ画たち：フィレンツェサン・マルコ美術館(特集 現地を体感!いつか行ける日のために とてつもない絵)—(編集部特選現地で体感したい“とてつもない絵”)芸術新潮71(8),2020年。
(*)「イタリア初期ルネサンスの粋を極めた プロ・デツラ・フランチェスカ聖十字架伝説：アレッツォ サン・フランチェスコ聖堂(特集 現地を体感!いつか行ける日のために とてつもない絵)—(編集部特選現地で体感したい“とてつもない絵”)芸術新潮71(8),2020年。
(*)「「マタイ3部作」で衝撃デビュー ローマでカラヴァッジョを巡礼する(特集 現地を体感!いつか行ける日のために とてつもない絵)—(編集部特選現地で体感したい“とてつもない絵”)芸術新潮71(8),2020年。
(*)(参考：土岐恒二他/吉田朋正編『照応と統合：土岐恒二個人著作集+シンポジウム』小鳥遊書房,2020年。)
----「ワーズワースのオルフェウス的言語宇宙」/「ウォルター・ペイターの印象批評」/「ダンテ/エズラ・パウンド著,土岐恒二訳」/「われ,また,アルカディアにありき—プッサンと哀歌の伝統/E.パノフスキー著, 土岐恒二訳」
(*)(参考：小山琢「ギリシア・ミノア文明における宮殿の諸相：中庭の長短比率の分析を通して」名古屋大学人文学フォーラム3,2020年。)
(*)田中總太郎「宇宙から見たユネスコ世界遺産(129)カイロ歴史地区」地理65(12),2020年。
(*)(参考：小林功『生まれくる文明と対峙すること：7世紀の地中海世界の新たな歴史像』Minerva西洋史ライブラリー114,ミネルヴァ書房,2020年。)
(*)中村茉由子・辻智大「オリンポス山山頂カルデラの形成過程」日本火山学会講演予稿集2020,2020年。
(*)(参考：塩野七生「職員トップセミナー 地中海文明から見た令和の日本」ファイナンス：財務省広報誌55(12),2020年。)
(*)(参考：長田享一『中学生・高校生に贈る古代オリンピックへの旅：遺跡・藝術・神話を訪ねて』悠光堂,2020年。)
(*)(参考：村川堅太郎『オリンピア：遺跡・祭典・競技』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2020年。)
(*)(参考：西田兼「ウィーン美術史美術館階段ホールの壁面装飾—クリムトの《古代エジプト》と《古代ギリシア》を中心に」島大言語文化：島根大学法文学部紀要,言語文化学科編49,2020年。)
(*)(参考：コーリー・スタンパー/鴻巣友季子訳『ウェブスター辞書あるいは英語をめぐる冒険』左右社,2020年。)
(*)(参考：アン・ルーニー著/原田美也子訳『哲学大図鑑：the story』ニュートン・プレス,2020年。)
(*)(参考：須藤健一『おもしろ大発見!世界スゴすぎ事典』池田書店,2020年。)

(*)(参考：オード・ゴミエンヌ著/ダコスタ吉村花子訳『ギリシャ神話キャラクター事典：世界一よくわかる!』グラフィック社,2020年。)
(*)(参考：日本ことわざ文化学会編/時田昌瑞・山口政信監修『世界ことわざ比較辞典』岩波書店,2020年。)
(*)(参考：ジル・デイビーズ/今泉圭訳『ザ・ヒストリー医学大百科』ニュートンプレス,2020年。)
(*)(参考：B.S.エヴェリット/宮原英夫・池田憲昭・鶴田陽和訳『医学統計学辞典』新装版,朝倉書店,2020年。)
(*)(参考：杉本龍彦他『建築用語図鑑』オーム社,2020年。)
(*)(参考：小川徳雄・永坂鉄夫『英語医学用語：その語原をたどる』東京教学社,2020年。)
(*)(参考：加藤哲平「経典の「更新」としての翻訳：ギリシア語とラテン語訳聖書をめぐる諸問題から」(京都・宗教系大学院連合)京都・宗教論叢14,2020年。)
(*)(参考：原島広至『歴単：語原からわかる英単語：ギリシャ語ラテン語』すばる舎,2020年。)
(*)葛西康徳編『久保正彰先生卒寿記念論集=Essays in honour of professor Masaaki Kubo on his ninetieth birthday』藤花のたわむれ：久保正彰先生の卒寿を祝して=Dancing westeria 1, Bibliotheca Wisteriana,2020年。
(*)葛西康徳編『忘れえぬ人びと=Life and works of professor Masaaki Kubo』藤花のたわむれ：久保正彰先生の卒寿を祝して=Dancing westeria 2,Bibliotheca Wisteriana,2020年。
(*)豊島正之『原典資料に基づく,キリシタン語学の根源的再構成』上智大学(2017年),(科研費)2020年。)
(*)(参考：ユルゲン・トラバント/梅田孝太・辻麻衣子訳『人文主義の言語思想：フンボルトの伝統』岩波書店,2020年。)
(*)(参考：シュットラック・ゲオルク著/渡邉裕一訳「修道士ロベール,イタリアの人文主義者たち,クレルモンの宗教会議(1095年)(特集 ルネサンスにおけるテクスト・知識人・政治)」史苑81(1),2020年。)
(*)(参考：山辺規子「講演録 ボローニャ：都市大学の誕生と展開」関学西洋史論集43,2020年。)
(*)(参考：中西恭子「修辞と予型,ほんとうの物語 古代末期地中海世界における偽書的思考」ユリイカ52(15),2020年。)
(*)(参考：宮川創「ローマ・ビザンツ期エジプトのデジタルヒストリー：コプト語著述家・アトリベのシェヌーテを中心に」西洋史学270,2020年。)
(*)(参考：平田隆一「ルーヴル博物館所蔵のエトルスキ語およびイタリック語碑銘文資料：Dominique Briquel,Catalogue des Inscriptions Etruques et Italiques du Musee du Louvre,」Pacard2016ヲ読む)ヨーロッパ文化史研究21,2020年。)
(*)(参考：前野弘志「『ギリシア語魔術パピルス』にみる魔術師たちの自画像」史学研究305,2020年。)
(*)(参考：水谷智洋「古典に見えるセロリ」プロピレア26,2020年。)
(*)ダマソ,フェレイロ「芥川龍之介の蔵書から浮かび上がる古代ギリシャ文学」プロピレア26,2020年。)
(*)宮坂覺「芥川龍之介「歯車」解読：ギリシャ神話「復讐の女神」エリュニスに行き着く

二つのコード」(東海大学日本文学会)湘南文学55,2020年。)
(*)佐藤優「Book Review 知を磨く読書(342)ワイドショーとギリシャ喜劇」週刊ダイヤモンド108(17),2020年。)
(*)(参考：師尾晶子「極右政党「黄金の夜明け」の台頭と極左連合政権下のギリシアにおける古典教育と古代史の定義(特集 発掘をめぐるポルティックス[1])」歴史学研究997,2020年。)
(*)(参考：小川潤「歴史研究における社会ネットワーク分析の活用と可能性：古代史研究における人的ネットワーク分析を事例に」西洋史学269,2020年。)
(*)(参考：Hiroto YOKOYAMA「Proust lycéen dans la période de transition didactique：sur la narration《L'éclipse》」成蹊法学92,2020年。)
(*)松井健一「「大正教養主義の起源」東京帝国大学教師ラファエル・フォン・ケーベルと学生たち：大正教養主義創成期の歴史社会学的考察」ソシオロゴス44,2020年。
(*)冨田ゆり・塩川恵梨香「辻邦生旧蔵書目録：国分寺蔵書(1,2)」学習院大学史料館紀要26,2020年/27,2021年。
(*)(参考：中野京子『中野京子の西洋奇譚』中央公論新社,2020年。)
(*)(参考：吉田拓海・村井源「物語自動生成に向けて物語要素間の関係に着目した神話物語の構造分析」(はこだて未来大学)じんもんこん2020論文集,2020年。)
(*)徳永直彰「『オリンポスの果実』『海の上のピアニスト』『ウォーターボーイズ』：比較研究の一側面」表現学6,2020年。
(*)(参考：桑木野幸司「メディチ家の英知の地図：初期近代イタリアの世界地図ギャラリーと地誌表象としての庭園(特集 地図の世界：プトレマイオスから伊能忠敬,Google Mapsまで」ユリイカ52(7),2020年。)
(*)(参考：高井啓介「エンガストリミュートスのダイモニオンとダイモーンについて」関東学院大学人文学会紀要143,2020年。)
(*)(参考：かゆみ歴史編集部『ゼロからわかる英雄伝説(古代ギリシャ・ローマ編)』文庫ぎんが堂,イースト・プレス,2020年。)
(*)(参考：古川正昭「『ギリシャ詞華集』のギリシャ神話(1)」(八雲会編)へるん57,2020年。)
(*)(参考：有地京子『名画で味わうギリシャ神話の世界：神々・美女・英雄たちの愛の物語』大修館書店,2020年。)
(*)(参考：かゆみ『ゼロからわかる英雄伝説』イースト・プレス,2020年。)
(*)(参考：中村るい・加藤公太『神々と英雄と人間』三元社,2020年。)
(*)(参考：島崎晋『図解眠れなくなるほど面白いギリシャ神話』日本文芸社,2020年。)
(*)(参考：佐藤俊之・山里將樹『マンガでわかるギリシャ神話：個性豊かな神々のおもしろエピソードが満載』誠文堂新光社,2020年。)
(*)(参考：松村一男「東西南北 ギリシア神話とギリシアの風土」青淵857,2020年。)
(*)(参考：八木橋正雄訳「テオクリトス第11歌「キュクロプス」」プロピレア26,2020年。)
(*)(参考：オウィディウス/高橋宏幸訳訳『へーローイデス：女性たちのギリシア神話』平凡社ライブラリー894,平凡社,2020年。)
(*)(参考：松村一男「古代ローマにおける神々の戦争：キリスト教化への過程」東京大学宗教学年報37,2020年。)
(*)(参考：J.M.クッツェー/鴻巣友季子訳『イエスの学校時代』早川書房,2020年。)

(*)(参考：ジャン・ピエール・イスブ/湊麻里訳『聖書の50人：語り継がれる神と人間の物語』ナショナルジオグラフィック別冊,日経ナショナルジオグラフィック社,2020年。)
(*)(参考：フラウィウス・ヨセフス著/秦剛平訳『自伝/アピオーンへの反論』青土社,2020年。)
(*)(参考:松本宣郎「初期キリスト教史研究の軌跡:迫害史から社会史へ」西洋史研究49,2020年。)
(*)(参考:大谷哲『古代末期から初期中世期におけるキリスト教殉教概念変遷史の政治史的解明』東海大学,東北大学2016年,(科研費)2010年。)
(*)(参考：「「マタイ3部作」で衝撃デビュー ローマでカラヴァッジョを巡礼する(特集 現地を体感!いつか行ける日のために とてつもない絵)—(編集部特選 現地で体感したい“とてつもない絵”」芸術新潮71(8),2020年。)
(*)(参考：水草修治「訳語の背後にある思想：ローマ3章22節(特集 ローマ3・22「ピスティス」を考える)」舟の右側76,2020年。)
(*)(参考：谷口和一郎「ローマ3・22を「イエス・キリストの信を媒介に」と訳すことの意味：福音聖書神学校で『信の哲学』の千葉恵氏が特別講義(特集 ローマ3・22「ピスティス」を考える)」舟の右側76,2020年。)
(*)(参考:谷口和一郎「キリストの真実とキリスト者の信仰:聖書協会共同訳セミナーで浅野淳博氏が講演(特集 ローマ3・22「ピスティス」を考える)」舟の右側76,2020年。)
(*)(参考：サイモン・ジェンキンス/森夏樹訳『ヨーロッパ全史』青土社,2020年。)
(*)纓田宗紀「書評 B.シンメルペニッヒ著甚野尚志・成川岳大・小林亜沙美訳『ローマ教皇庁の歴史：古代からルネサンスまで』」西洋史学269,2020年。
(*)田中良彦「太宰治と黒崎幸吉編『新約聖書略註・全』」(埼玉県高等学校国語科教育研究会)研究集録60,2020年。
(*)(参考：土橋茂樹『存在論の再検討』古典転生21,2020年。)
(*)(参考：アルフォンス・ド・ロトマン著/近藤和敬訳『マルティン・ハイデガーの哲学』古典転生22,2020年。)
(*)(参考：田中美知太郎『古代哲学史』講談社,2020年。)
(*)(参考：正村俊之「近代的自由のゆくえ」(大妻女子大学人間生活文化研究所)International Jounal of Human Culture Studies30,2020年。)
(*)(参考：中澤務「古代ギリシャの真理概念—その歴史的変遷をめぐって」『井上克人教授退職記念論文集』1,2020年。)
(*)(参考：柿田秀樹「イソクラテスのキュプロス演説におけるパイデイアと哲学(レトリック)—文字の散種が可能にした助言の哲学(レトリック)」ギリシャ哲学セミナー論集17,2020年。)
(*)(参考：Kawashima Akira“Knowing the Good：Studies in Plato’s Republic”東北大学,博士(文学),甲第19573号,2020年。)
(*)(参考：レオ・シュトラウス/下村智典・金澤洋隆・石崎嘉彦訳「プラトンの『シンポジオンについて(「第二章」」政治哲学研究28,2020年。)
(*)(参考：氏原賢人「ドゥルーズ『差異と反復』における「プラトン主義の転倒」についての一考察：「徴との遭遇」と「初稿のイメージ」から出発して」東京

大学大学院総合文化研究科フランス語系学生論文集11,2020年。)
(*)(参考：田坂さつき「ソクラテスの探究と産婆術--『テアイテトス』導入部(142a1-151d3)の一解釈」(立正大学大学院文学研究科)大学院紀要36,2020年。)
(*)(参考：駒井稔,「光文社古典新訳文庫」編集部『文学こそ最高の教養である』光文社新書,光文社,2010年。)
----納富信留・駒井稔「プラトン『ソクラテスの弁明』：哲学二千年の謎を解く：死の理由,そしてプラトンの戦略とは」
(*)(参考 : 金子佳司編『プラトン『ソクラテスの弁明』註解』新訂版,ピナケス出版,2020年。)
(*)(参考：八木雄二『ソクラテスとイエス：隣人愛と神の論理』春秋社,2020年。)
(*)(参考 : 伊藤克巳『プローテー・ウーシアπρώτη ουσια—アリストテレースにおける「第一の実有」について』立正大学,博士(文学),文博乙第159号,2020年。)
(*)(参考：飯野雅敏「クーザンの戦略：勃興する哲学史における哲学者たちの形象」東京大学大学院総合文化研究科フランス語系学生論文集11,2020年。)
(*)(参考 : 渡辺惟央「シシュポスを殺すことはできるか : ブランシュのカミュ論における「弁証法」」東京大学大学院総合文化研究科フランス語系学生論文集11,2020年。)
(*)(参考 : 古田博司「たたかうエピクロス(6) : 万物は偶然でもぜんぜん大丈夫、必然こそ悪である」Will1月号(181),2020年。)
(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(7)：コリアンライフの快楽と苦痛」Will2月号(182),2020年。)
(*)(参考 : 古田博司「たたかうエピクロス(8) : 不幸な日本型リベラリズムを幸福にする方法」Will3月号(183),2020年。)
(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(9)：直観と超越と論理,あと品格です」Will4月号(184),2020年。)
(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(10)：無知・無明からのがれるのは至難の業だ」Will5月号(185),2020年。)
(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(11)：ホッブズの快楽・スタンダールの快楽」Will6月号(186),2020年。)
(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(12)：フロイトのゆがんだ快楽主義」Will7月号(187),2020年。)
(*)(参考 : 古田博司「たたかうエピクロス(13) : 知識人のレトリックこそ無知・無明のもと」Will8月号(188),2020年。)
(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(14)：ホッブズが教える女にもてるための十二のリスト」Will9月号(189),2020年。)
(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(15)：幸福こそ快楽主義の理想である」Will10月号190),2020年。)
(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(16)：日本に欠けているのは,十七世紀を中心とする西洋事情であった」Will11月号(191),2020年。)
(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(17)：日本女性の快楽主義者のために」Will12月号(192),2020年。)
(*)(参考：小池澄夫・瀬口昌久『ルクレティウス『事物の本性について』：愉しや,嵐の海に』書物誕生：新しい古典入門,岩波書店,2020年。)

(*)(参考：中金聡「甦るルクレティウス：原子の〈逸れ〉と現代物理学(上下)」政治哲学27,28,2020年。)
(*)(参考：ジャン=バティスト・グリナ/川本愛訳『ストア派』文庫クセジュ,白水社,2020年。)
(*)(参考：五十君麻里子「古代ローマにおける扶養に関する和解をめぐる手続について：マルクス・アウレリウス帝演説に基づく公的介入(村上裕章教授退職記念論文集)」(九州大学法政学会)法政研究87(3),2020年。)
(*)(参考：中西恭子「アウグスティヌス「神の国」における「地上の国の宗教」」(勝又・柴田・志田・高井編『一神教世界の中のユダヤ教—市川裕先生献呈論文集』所収,リトン,2020年。)
(*)(参考：岡野利津子『プロティノスと西田：西洋的神秘と東洋的日常の根底』学習院大学研究叢書,学習院大学,2020年。)
(*)(参考：五十嵐沙千子「哲学における幸福論：ヒルティ,アラン,ラッセル(桑原直己教授退職記念論集)」倫理学36,2020年。)
(*)若松英輔『不滅の哲学：池田晶子』亜紀書房,2020年。
(*)(参考：石本東生「エルンスト・カッシーラ(1874-1945)と西田幾多郎(1870-1945)の対話に向けてSteve」西田哲学会年報16,2020年。)
(*)秋富克哉「新資料 西田幾多郎「希臘倫理学(1)」西田哲学会年報16,2020年。
(*)佐藤厚「哲学堂祭100年間(1919-2018)に行われた講演・三宅雄二郎,井上哲次郎,桑木厳翼,出隆ほか」国際井上円了研究8,2020年。
(*)熊谷哲哉「ラファエル・フォン・ケーベルとカール・デュ・プレル：明治期日本に伝わったドイツの心霊主義について」(阪神ドイツ文学会)ドイツ文学論攷62,2020年。
(*)加藤和哉「中世哲学研究事始め(1)ケーベルの「西洋哲学史」」(聖心女子大学キリスト教文化研究所)宗教と文化36,2020年。
(*)(参考：藤井崇他編『論点・西洋史』ミネルヴァ書房,2020年。)
(*)(参考：サイモン・ジェンキンス/森夏樹訳『ヨーロッパ全史』青土社,2020年。)
(*)(参考：アンリ・ピレンヌ/中村宏・佐々木克己訳『ヨーロッパ世界の誕生：マホメットとシャルルマーニュ』講談社学術文庫,講談社,2020年。)
(*)(参考：金澤周作監修・周藤芳幸,師尾晶子,佐藤昇,藤井崇『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房,2020年。)
(*)(参考：祝田秀全監修『地図でスット頭に入る世界史』昭文社,2020年。)
(*)(参考：小澤実「世界史教科書記述と知の歴史：西洋史学の視点(小特集 今日の科学リテラシーとは;ヒストリオグラフィーと教授戦略)」科学史研究[第III期]295,2020年。)
(*)(参考：田尻信壹「安井俊夫の歴史授業に関する研究：「スパルタクスの反乱」実践を事例として」目白大学高等教育研究26,2020年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男・堀米庸三編『標準世界史年表』第 51 版,吉川弘文館,2020年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男・堀米庸三編『標準世界史地図』増補第 49 版,吉川弘文館,2020年。)
(*)(参考：橋場弦『中学歴史：日本と世界』山川出版社,2020年。)
(*)(参考：中野京子「中野京子の名画が語る西洋史(98)英雄,ここにあり」文藝春秋98(10),2020年。)

(*)(参考：北原敦監修『一冊でわかるイタリア史』世界と日本がわかる国ぐにの歴史,河出書房新社,2020年。)
(*)(参考：福井憲彦監修『一冊でわかるフランス史』世界と日本がわかる国ぐにの歴史,河出書房新社,2020年。)
(*)(参考:臼杵陽『「ユダヤ」の世界史:一神教の誕生から民族国家の建設まで』作品社,2020年。)
(*)(参考：大澤真幸「〈世界史〉の哲学(122)近代篇(37)「Anno Domino(主の年)からAD/BC」へ」群像75(1),2020年。)
(*)(参考：本村凌二「東大名誉教授が教えるやばい比較史：古代日本よ古代ローマ(特集 一生役立つ!ビジネス,受験,教養—世界史でわかる日本史)」週刊ダイヤモンド108(7),2020年。)
(*)(参考：江上剛『トロイの木馬』朝日文庫,朝日新聞出版,2020年。)
(*)(参考：エラリー・クイーン/中村有希訳『エラリー・クイーンの新冒険』創元推理文庫,東京創元社,2020年。)
(*)(参考：折原一『模倣密室：連作推理小説』(「トロイの密室」)黒警部シリーズ5,光文社文庫,光文社,2020年。)
(*)(参考：加藤聡一郎「アギスとクレオメネスの改革：スパルタ社会の実像と改革の本質」クリオ=Clio34,2020年。)
(*)(参考:ピーターJ.ローズ「アテナイの民会と500人評議会:継続する諸問題」クリオ=Clio34,2020年。)
(*)(参考：安彦良和「Special Interview ガンダムの漫画家がとらえた英雄の素顔(特集 アレクサンドロス大王：世界史を創った男)」歴史街道381,2020年。)
(*)(参考：島崎晋「マケドニアから世界へ：戦い続けた「軍事の天才」の生涯(特集 アレクサンドロス大王：世界史を創った男)」歴史街道381,2020年。)
(*)(参考：佐藤賢一「ペルシャ,エジプト,そしてインド---その覇業が意味するもの(特集 アレクサンドロス大王：世界史を創った男)」歴史街道381,2020年。)
(*)(参考：伝カリステネス/橋本隆夫訳『アレクサンドロス大王物語』ちくま学芸文庫,筑摩書房,2020年。)
(*)(参考：澤田典子『アレクサンドロス大王』よみがえる天才4,ちくまプリマー新書362,筑摩書房,2020年。)
(*)(参考:池口守「新刊紹介 メアリー・ビアード著宮崎真紀訳『SPQRローマ帝国史(I・II)』」西洋史学論集57,2020年。
(*)(参考：南川高志「〈研究ノート〉ローマ帝国による統合をめぐって」西洋古代史研究20,2020年。)
(*)(参考：南川高志「〈コラム〉西洋古代史の泉13：西洋古代史研究の「貢献」について」西洋古代史研究20,2020年。)
(*)(参考：鷲田睦朗「共和政期ローマにおけるラティフンディウム神話(特集 奴隷制の歴史的考察)」歴史評論846,2020年。)
(*)(参考：中谷功治「七つのポイントでわかるビザンツ帝国：ローマ帝国の継承者がたどった激動の千年」歴史街道390,2020年。)
(*)(参考：エドワード・ギボン著/中倉玄喜編訳『「新訳」ローマ帝国衰亡史』PHP文庫,PHP研究所,2020年。)

(*)(参考:佐野大起「パライゴロス朝初期ビザンツ帝国(1261-1328年)における皇帝称賛演説」西洋史研究49,2020年。)
(*)(参考:竹部隆昌「ビザンツ帝国の東西分断 第一部 中部イタリアのビザンツ帝国からの隔離」広島大学文学部論集80,2020年。)
(*)(参考:荒川佳夫「女王ブーディカの反乱:ローマ帝国に挑んだケルトの英雄」歴史群像29(5),2020年。)
(*)濱口忠大「新刊紹介 北村暁夫著「イタリア史10講」岩波新書,2019」関学西洋史論集43,2020年。
(*)増永理考「書評 砂田徹著「共和政ローマの内乱とイタリア統合:退役兵植民への地方都市の対応」」西洋史学論集57,2020年。
(*)(参考:飯塚晃治「読書案内 ローマ帝国の支配構造(世界史の研究[263])」歴史と地理732,2020年。)
(*)大月康弘「書評 南川高志編「378年失われた古代帝国の秩序」(山川出版社,2018年。)」西洋史学269,2020年。
(*)(参考:鈴木邦男「ハンセイの記(17)えんとこの歌 寝たきり歌人・遠藤滋 洋画なら『ベン・ハー』萌芽なら断然この映画」金曜日28(36),2020年。)
(*)「書評 小池澄・佐藤昇・木原志乃編『『英雄伝』の挑戦:新たなプルタルコス像に迫る』京都大学学術出版会,2019」西洋古典學研究68,2020年。
(*)「史学文献目録—西洋史1」史学雑誌129(1),2020年。
(*)高山博「2019年の歴史学界:総説」史学雑誌129(5),2020年。
(*)「回顧と展望 2019年の歴史学界」史学雑誌129(5),2020年。
(*)「史学文献目録—西洋史2」史学雑誌129(5),2020年。
(*)「史学文献目録—西洋史3」史学雑誌129(9),2020年。
(*)(参考:千野帽子「幻談の骨法:世界一簡単な幻想・小説論(88)ギリシアの理想主義小説,ローマの反理想主義小説」ハヤカワミステリマガジン65(5),2020年。)
(*)佐藤りえこ「三島由紀夫「獅子」におけるアイゲウス」プロピレア26,2020年。
(*)上村健二「『百合若大臣』と『オデュッセイア』の類似性再考:人物,思想,表現の対応」甲子園大学紀要47,2020年。
(*)(参考:イソップ/ニーナ・ウェーグナーリライト『イソップ物語』ステップラダー・シリーズ1,IBCパブリッシング,2020年。)
(*)(参考:牧野高吉『英和対訳で読むイソップ物語:1冊で古典も英語も教訓も学べる!』新版じっぴコンパクト新書381,実業之日本社,2020年。)
(*)(参考:イソップ/岡本一郎文・岩元康之亮絵『イソップのおはなし』一年生のおはなし3,ひかりのくに,2020年。)
(*)(参考:植西聰『迷いがすっきり消えるイソップ人生論』海竜社,2020年。)
(*)(参考:吉川斉『「イソップ寓話」の形成と展開』知泉書館,2020年。)
(*)(参考:イソップ原作/岡本一郎文・岩元康之亮絵『イソップのおはなし』一年生のおはなし3,ひかりのくに,2020年。)
(*)イソップ原作/しもかわらゆみ文・絵『きつねのぶどう:イソップねずみのイソップものがたり』あかね書房,2020年。
(*)(参考:喬昭「イソップにおける「西学東漸」:『伊朔譚評』と『意拾喩言』に対比から」(関西大学大学院東アジア文化研究科)文化交渉:東アジア文化研究科院生論

集10,2020年。)
(*)(参考：陳旭「漢訳イソップにおける方言訳に関する研究：福建方言訳を中心に(中谷伸生教授古稀記念号)」(関西大学文化交渉学教育研究拠点)東アジア文化交渉研究13,2020年。)
(*)(参考：眞下弘子「アラン・ジュヌティオ「ラ・フォンテーヌ『寓話』におけるアレゴリーの詩学」西南学院大学フランス語フランス文学論集63,2020年。)
(*)(参考：大竹聖美「近代朝鮮における〈童話〉の形成過程：方定煥が翻案したイソップ寓話「ソウルねずみと田舎ねずみ」と創作童話「田舎ねずみのソウル見物」の考察」東京純心大学紀要,現代文化学部24,2020年。)
(*)李澤珍「研究発表 大蔵虎明『わらんべ草』の『伊曾保物語』受容」第43回国際日本文学研究集会会議録43,2020年。
(*)濱田幸子「『伊曾保物語』の成立についての再考察」佛教大学総合研究所紀要27,2020年。
(*)(参考：杉山卓郎「イソップ物語『酸っぱい葡萄』には続編がある」産業医学ジャーナル43(3),2020年。)
(*)稲本正法「京都府立盲学校資料室の教材・教具」(「紙製凸字イソップ物語」))畿央大学紀要17(1),2020年。
(*)(参考：松村真理子・横山安由美編『世界文学の古典を読む』放送大学教材,放送大学教育振興会,2020年。)
(*)(参考：市原佐都子『バッコウスの信女—ホルスタインの雌』白水社,2020年。)
(*)(参考：ソポクレス著/河合洋一郎訳『オイディプス王』2刷,光文社,2020年。)
(*)(参考：浜本裕美「講演記録 ヴィクトリア朝英国におけるホメーロス問題」ペディラヴィウム74,2020年。)
(*)(参考：上野由貴「ウェルギリウス『農耕詩』における鳥」清泉女子大学人文科学研究所紀要41,2020年。)
(*)(参考：今野哲也「デンマークの伝承譚詩からゲーテの『ハンノキの王』への発展過程の考察—シューベルト《魔王》D328の総合理解に向けて」玉川大学芸術学部研究紀要11,2020年。)
(*)(参考：瀧川睦「「ヤヌス神にかけ誓って：『オセロー』と古代ローマ喜劇」名古屋大学人文研究論集3,2020年。)
(*)(参考：梶村啓二「古典とケーキ(6)ホメーロスとレモンドゥリズルケーキ」こころ53,2020年。)
(*)(参考：白石治恵「雲雀とギリシャの壺：シエリーのnegative idealismとキーツのnegative capability」シルフェ(Σιλφη)58,2020年。)
(*)太宰治『走れメロス：大活字本』シルバー文庫,ぺんで舎,2020年。
(*)日置俊次「太宰治「走れメロス」論：赤い色について」青山語文50,2020年。
(*)古閑章編『古閑章教授退職記念号；これからの学問のエッジを極める』(長野秀樹「メロスは裸だ：「走れメロス」論」)新薩摩学5,南方新社,2020年。
(*)平田駒『スガリさんの感想文はいつだって斜め上』(太宰治「走れメロス」)5分シリーズ,河出書房新社,2020年。
(*)乗代雄介『ミック・エイヴォリーのアンダーパンツ』(走れメロス)国書刊行会,2020年。
(*)(参考：益敏郎『後期ヘルダーリーンの詩作と悲劇論の研究：詩的多面性の理解に向けて』京都大学,博士(文学),甲第22818号,2020年。)

(*)(参考：関口浩「古代の英雄について：ヘルダーリンと折口信夫」文明と哲学：日独文化研究所年報12,2020年。)
(*)(参考：長谷川岳男「大レトラとタラス建市—古典スパルタ社会の形成について」東洋大学文学部紀要,史学科篇45,2020年。)
(*)(参考：古賀邦正「酒の来歴(10)ワインとビール(その7)古代ローマの発展と衰退」)」(文理シナジー学会)文理ジャーナル24(1),2020年。)
(*)高畠純夫「書評 伊藤正著「ゲオーポニカ：古代ギリシの農業事情」」西洋史学論集57,2020年。
(*)(参考：井上典子「帝政期イタリアにおける家畜生産とローマ市への供給」早稲田大学大学院文学研究科研究紀要65,2020年。)
(*)(参考：古賀徹「イタリア・ルネサンスにおけるデザインの起源：アルベルティ,ヴァザーリ,ツッカリにおける有機論と機械論」(九州大学大学院芸術工学研究院)芸術工芸研究33,2020年。)
(*)下田城玄「田中英光のオリンピック：『オリンポスの果実』『端艇漕手』」民主文学661,2020年。
(*)市橋秀夫「書評 坂上康博・中房敏明・石井昌幸・高嶋航編「スポーツの歴史」」西洋史学270,2020年。
(*)(参考：橋場弦「古代オリンピックの知られざるリアル」淡青40,2020年。)
(*)成瀬厚「日本におけるオリンピック研究」コミュニケーション科学51,2020年。
(*)(参考：泉川寛晃「近代五種とオリンピック精神」表面と真空63(2),2020年。)
(*)(参考：納富信留「浄めとしてのオリンピック：エンペドクレスの奇跡」三田文学[第三期]99(142),2020年。)
(*)(参考：ゲバウアー グンター/遠藤浩介訳「オリンピックの理念をめぐる思索」三田文学[第三期]99(142),2020年。)
(*)(参考：村田奈々子「近代ギリシアとオリンピック(世界史の研究263)—(研究フォーラムスポーツ)」歴史と地理732,2020年。)
(*)(参考：黒須朱莉「近代オリンピックの歴史と意義：国際政治・ナショナリズム・戦争(特集 オリンピックの光と影)」歴史地理教育904,2020年。)
(*)(参考:アミーア・アレクサンダー/松浦俊輔訳『世界は幾何学で作られている』柏書房,2020年。)
(*)(参考：ウィリアム・F.バイナム/藤井美佐子訳『若い読者のための科学史』Yale University Press little histories,すばる舎,2020年。)
-----「はじまり」/「針と数」/「原始と空虚」/「医学の父—ヒポクラテス」/「“知者たちのマエストロ”—アリストテレス」/「皇帝の侍医—ガレノス」
(*)(参考：橋場弦「疫病ふたたび」公研687,2020年。)
(*)(参考：ベン・ハバード/上原ゆうこ訳『「図説」毒と毒殺の歴史』原書房,2020年。)
(*)(参考：見市雅俊『コレラの世界史』晶文社,2020年。)
(*)(参考：Sander L.Gilman/小川公代・小澤央訳『肥満男子の身体表象：アウグスティヌスからベーブ・ルースまで』法政大学出版局,2020年。)
(*)(参考：クリストファー・E.フォース/夏井幸子訳『肥満と脂肪の文化誌』東京堂出版,2020年。)
(*)(参考：坂井建雄『医学全史：西洋から東洋・日本まで』ちくま新書,筑摩書房,2020年。)

(*)「書評 坂井建雄著「医学教育の歴史：古今と東西」」日本医史学雑誌66(1),2020年。
(*)「書評 秋田茂・脇村孝平責任編集『人口と健康の世界史』」日本医史学雑誌66(4),2020年。
(*)北村聖「書評 坂井建雄著図説医学の歴史」臨床外科75(5),2020年。
(*)鈴木晃仁「書評 坂井建雄著図説医学の歴史」Neurological Suregery脳神経外科48(2),2020年。
(*)(参考：サラン・テイラー/本郷尚子訳『医学者：世界をうごかした科学者たち』ほるぷ出版,2020年。)
(*)(参考：木原志乃「ヒッポクラテス医学におけるパイデイア」ギリシャ哲学セミナー論集17,2020年。)
(*)(参考：加我君孝『ヒポクラテスを超えて』医学と看護社,2020年。)
(*)(参考：中山七里『ヒポクラテスの試練』祥伝社,2020年。)
(*)(参考：クリフォード・ピックオーバー/板谷史・樺信介訳『ビジュアル医学全史：魔術師からロボット手術まで』岩波書店,2020年。)
(*)藤井崇「書評 スーザン・P.マターン著,澤井直訳『ガレノス：西洋医学を支配したローマ帝国の医師』」西洋史学269,2020年。
(*)(参考：齋藤憲「科学史入門 証明の発明と発展—ギリシャ数学の創始・発展とその遺産」科学史研究59(296),2020年。)
(*)(参考：「科学の起源「ギリシャ哲学」」Newton=ニュートン40(6),2020年。)
(*)(参考：佐々木力「文化相関的数学哲学のイデーン：古代ギリシャ・古代中国と日本の数学」(中部大学国際人間学研究所編)アリーナ=Arena 特別号,2020年。)
(*)(参考：佐々木力『数学的真理の迷宮：懐疑主義との格闘』北海道大学出版会,2020年。)
(*)(参考：田山令史「ケプラーの円錐曲線論」(佛教大学仏教学部)仏教学部論集104,2020年。)
(*)(参考：竹下哲文『詩の中の宇宙：マールクス・マーニーリウス『アストロノミカ』研究』京都大学,博士8文学),甲第22177号,2020年。)
(*)(参考：酒巻秀明「労働概念の歴史：古典古代から宗教改革まで」東京女子大学社会学年報8,2020年。)
(*)西村航「新刊紹介 比佐篤「貨幣が語るローマ帝国史：権力と図像の千年」中央公論新社(中公新書),2018年」関西大学西洋史論叢22,2020年。
(*)(参考：宮坂渉「〈論説〉ポンペイ近郊出土スルキピウス家文書：金銭消費貸借と倉庫内穀物への担保権設定」筑波法政82,2020年。)
(*)石井真一『日本企業の国際合弁行動：トロイの木馬の仮説の実証分析』増補版,千倉書房,2020年。
(*)(参考：古田博司『旧約聖書の政治史：預言者たちの過酷なサバイバル』春秋社,2020年。)
(*)(参考：高橋秀樹『対話による意思決定と政治社会的体制：古代ギリシア民主制と古代エジプト王制の比較』新潟大学2017年,(科研費)2020年。)
(*)(参考：橋場弦『古代ギリシア民主政における無頭性とリーダーシップの研究』東京大学2017年, (科研費)2020年。)
(*)(参考：久保田義弘「プラトンの『国家』における支配,統治ならびに公共部門—知識人の人間観ならびに社会観(8)」広島国際大学総合教育センター紀要4,2020年。)
(*)(参考：増永理考「〈論説〉「第二のソフィスト」にみる過去と現在—アイリオス・アリ

ステイデスの事例から」西洋古代史研究20,2020年。)
(*)(参考：櫻井康人「研究ノート アンジュー家支配下のラテン・ギリシアに関する一考察—1294年のコルフ住民の嘆願を手がかりに」ヨーロッパ文化史研究21,2020年。)
(*)新保良明「書評 丸亀裕司著「公職選挙にみるローマ帝政の成立」」西洋史学269,2020年。
(*)(参考：本村凌二「「ローマ型独裁制」から学ぶべきもの(感染症と人類の岐路)」Voice 510,2020年。)
(*)(参考：鷲田睦朗「「民衆派」と「閥族派」は滅ぼさねばならない：ローマ共和政後期における政治状況の理解に向けて」パブリック・ヒストリー17,2020年。)
(*)(参考：宮嵜麻子「ローマ帝国形成期における政治問題としての海賊」西洋史学論集57,2020年。)
(*)(参考：厚見恵一郎『人文主義政治思想史における快楽主義の研究：「徳の政治学」の功利的変容』早稲田大学(2016年),(科研費)2020年。)
(*)(参考：海津淳一「「イタリア王国」の成立と残像：中世・ルネサンス期イタリアにおける国家と著作を巡る一断章(特集 文学と国家)」櫻美林世界文学16,2020年。)
(*)(参考：海津淳「エラスムス『平和への訴え』と1517年2月21日付フランソワ1世宛書簡」桜美林論考,人文研究11,2020年。)
(*)(参考：山本順一「public liberty概念についての考察 古代ローマで最初の‘public lberty’を契機として」図書館学117,2020年。)
(*)(参考：横尾祐樹「マキャヴッリの聖書宗教批判：神的な立法者への懐疑とローマ国制への再評価」政治哲学28,2020年。)
(*)(参考：榎本恵子「国王のイメージ戦略(1)」(大妻女子大学人間生活文化研究所)Internatinal Jounal of Human Culture Studies30,2020年。)
(*)(参考：曽田長人「人文主義者のナチズムに対する傍観—ヴェルナー・イェーガーの場合」(東洋大学経済研究会)経済論集45(2),2020年。)
(*)(参考：曽田長人「人文主義者のナチズムに対する抵抗—クルツ・フォン・フィリッツの場合」東洋大学人間科学総合研究所紀要22,2020年。)
(*)(参考：エルギンディ・カリド「World Affairs：MIDDLE EASTトランプ案は「トロイの木馬」：中東和平」Newsweekニューズウィーク35(6),2020年。)
(*)LU,Jianhong『戦後日本における「国民共同体」論：佐々木惣一,話阿辻哲郎,津田左右吉を中心に』立命館大学,博士(文学),甲第1401号,2020年。
(*)(参考：辻博明「代位(Subrogation)に関する一考察：沿革的・比較法的考察(ローマ法・Pothier・Saviny・Buckland)」岡山大学法学会雑誌70(1),2020年。)
(*)(参考：杉本陽奈子「紀元前4世紀アテナイの商業裁判に関する訴訟と証言」西洋史学研究260,2020年。)
(*)(参考：佐々木健「ローマ法の参照例：占有訴権と明文なき物権的請求権(特集 外国法の参照)」法律時報92(4),2020年。)
(*)(参考：内田康太『共和政末期ローマにおける立法過程の研究：法案の帰趨と元老院の意向をめぐって』東京大学,博士(文学),甲第36670号,2020年。)
(*)吉原達也「穂積陳重博士『羅馬法講義』総論及び第一編 羅馬法律史」日本法學85(3),2020年。

(*)吉原達也「宮崎道三郎博士の羅馬法講義について(1)」日本法學85(4),2020年。
(*)吉原達也「穂積陳重博士『羅馬法講義』第二編羅馬法正編第一巻及び第二巻」日本法學86(1),2020年。
(*)「書評 吉原達也編「宮崎道三郎博士述『比較法制史』第二部独逸法制史(「日本法學85-1」同著「宮崎道三郎博士の羅馬法講義について」(「日本法學85-2」)」法制史研究：法制史學會年報70,2020年。
(*)「森村進名誉教授主要研究業績(新しいものからあげる)」一橋法学19(1),2020年。)

(*)(參考：川田潤「英国における原子論の需要：古典の受容とサブライム」福島大学人間発達文化学論集34,2021年。)
(*)(參考：掛川富康「ウォルガンク・シャーデヴァルト 近代技術の世界と古代ギリシャの文化理念(1965年)」茨城キリスト教大学紀要,I 人文科学55,2021年。)
(*)大月康弘「書評 高山博著「中世シチリア王国の研究—異文化が交差する地中海世界（東京大学出版会,2015年刊）」史学雑誌130(1),2021年。
(*)仲田公輔「書評 小林功著「生まれて来る文明と対峙すること：七世紀地中海世界の新たな歴史像」(MINERVA西洋史ライブラリー124)」史學雜誌130(1),2021年。
(*)(參考：飯田清昭「紙が演出した文明史上の交代劇」紙パ技協誌75(9),2021年。)
(*)「橘昌信先生追悼文」(山本晴樹「橘昌信先生との思い出：エーゲ海沿岸古代都市紀行」)(別府大学史学研究会)史学論叢51,2021年。
(*)(參考：ディエゴ・マルティーナ『誤読のイタリア』光文社,2021年。)
(*)中矢慎子・入江たまよ著『私のイタリア=La mia Italia』朝日出版社,2021年。
(*)内田洋子『海をゆくイタリア』小学館,2021年。
(*)内田洋子『十二章のイタリア』東京創元社,2021年。
(*)ARC国別情勢研究会編『イタリア』ARC国別情勢研究会,2021年。
(*)奥本美香『イタリア世界遺産の旅』書肆侃侃房,2021年。
(*)平塚宰史『ヨーロッパ歴史の跡を訪ねて』鳥影社,2021年。
(*)塩野七生『再び,ヴェネツィア』新潮社,2021年。
(*)(參考：布施将夫『欧米の歴史・文化・思想』晃洋書房,2021年。)
(*)(參考：遠藤雅司『食で読むヨーロッパ史2500年』山川出版社,2021年。)
(*)(參考：アラン・コルバン/小倉孝誠・綾部麻美訳『草のみずみずしさ：感情と自然の文化史』藤原書店,2021年。)
(*)(參考：潘岳著/脇屋克仁訳『東西文明比較互鑑』アジア太平洋観光社,星雲社(発売),2021年。)
(*)(參考：カロル・ギンズブルグ著/杉山光信訳『チーズとうじ虫：16世紀の一粉挽屋の世界像』みすず書房,2021年。)
(*)萩原紀世美『きらめきの国ギリシャへ：太陽とエーゲ海に惹かれて』旅のヒントbook,イカロス出版,2021年。
(*)地球の歩き方編集室著作編集『世界197ヵ国の不思議な聖地&パワースポット：神秘の古代遺跡・驚異の大自然・マゾの巨石・祈りと奇跡の地』地球の歩き方,学研(販売),2021年。
(*)(參考：富井義夫「世界遺産：生きている地球(10)メテオラ・ギリシャ」グリーン・パワー：森と人の文化誌513,2021年。)

(*)六田知弘「美の棲むところ(94)ギリシャ ミストラス」美術の窓40(8),2021年。
(*)「アポロンは告げる 神託の地デルポイ：ギリシャ」芸術新潮72(8),2021年。
(*)佐々木柒堂「Interviewギリシャ彫刻に触発されて気づいた禅の本質」マーケッティング・ホライズン756,2021年。)
(*)丹尾安典「黒衣の希臘」一寸78,2021年。
(*)(参考：藤下幸子「ニコス・カザンザキス「エル・グレコへの報告」：序,先祖たち」プロピレア27,2021年。)
(*)(参考：深田孝太朗「「ギリシャの奇跡」は起きたのか?：マルグリット・ユルスナールにおけるユマニスムについて」(日本フランス語フランス文学会)フランス語フランス文学研究118,2021年。)
(*)(参考：布施将夫『欧米の歴史・文化・思想』晃洋書房,2021年。)
(*)(参考：河原温・池上俊一編『都市から見るヨーロッパ史』放送大学教材,放送大学教育振興会,2021年。)
(*)(参考：池上英洋・青野尚子『美術でめぐる西洋史年表』新星出版社,2021年。)
(*)(参考：六田知弘「美の棲むところ(96)イタリア グロピナのサン・ピエトロ教会」美術の窓40(10),2021年。)
(*)「ミケランジェロの夜の家 メディチ家礼拝堂：イタリア(特集 いよいよ行ける日のために とっておきの聖地)—(近世編)」芸術新潮72(8),2021年。
(*)「東ローマモザイク帝国の遺産 ラヴェンナの聖堂：イタリア(特集 いよいよ行ける日のために とっておきの聖地)—(中世編)」芸術新潮72(8),2021年。
(*)「今月の表紙 コロッセオ(イタリア・ローマ)」(建設図書)舗装56(2),2021年。
(*)(参考：芹澤なみき「フィリッポ・リッピ《タルクィニアの聖母》」イタリア学会誌71,2021年。)
(*)松岡和子・森まゆみ「対談 安野光雅と旅の道連れ：イングランド,イタリア,アイルランド,津和野(総特集 安野光雅：1926-2020)」ユリイカ53(7),2021年。
(*)(参考：河村英和「20世紀前半におけるイタリア自然風景の観光絵葉書にみる文学詩引用の流行について：ダンテ,カルドッチ,ダヌンツィオの事」Atomi観光コミュニティ学部紀要6,2021年。)
(*)(参考：山本貴光・吉川浩満著『人文的,あまりに人文的：古代ローマからマルチバースまでガイドブック20講＋α』本の雑誌社,2021年。)
(*)(参考：周剣生「世界遺産を撮る(259)：シエナ歴史地区：イタリア文化遺産(1995年登録)」週刊ダイアモンド109(27),2021年。)
(*)(参考：周剣生「世界遺産を撮る(260)：ピエンツア市街の歴史地区：イタリア文化遺産(1996年登録)」週刊ダイアモンド109(28),2021年。)
(*)(参考：周剣生「世界遺産を撮る(274)：ヘラクレスの塔：スペイン文化遺産(2009年登録)」週刊ダイアモンド109(42),2021年。)
(*)(参考：池上俊一監修『原典イタリア・ルネサンス芸術論』名古屋大学出版会,2021年。)
(*)(参考：ベネット・ヴァルキ著/オスカー・ベッチュマン,トリスタン・ヴェディンゲン編/清瀬みさを,小松原郁訳『パラゴーネ：諸学芸の位階論争』中央公論美術出版,2021年。)
(*)(参考：小針由紀隆『サルヴァトール・ローザ：17世紀イタリアの美術家が追い求めた自由と名声』論創社,2021年。)

(*)(参考：植村実江「スタール夫人『コリンヌあるいはイタリア』におけるオシアン：〈lyre〉から〈harpe〉」Gallia 61,2021年。)
(*)(参考：マルキ・ド・サド著/南美幸訳「マルキ・ド・サド『イタリア紀行』ナポリ篇について(2)絵画館の翻訳と解題」静岡県立美術館紀要37,2021年。)
(*)(参考：ゲーテ著/鈴木芳子訳『イタリア紀行(上下)』光文社,2021年。)
(*)(参考：M.ハイデッガー/三木正之,アルフレード・グッツオーニ訳『ヘルダーリンに寄せて：付 ギリシア紀行』ハイデッガー全集75,東京大学出版会,2021年。)
(*)(参考：川井万里子「盛期英国ルネサンス・牧歌文学の最高峰「サー・フィルップ・シドニー『アーケデイア』について」ペデラヴィウム76,2021年。)
(*)(参考：橋川裕之「ジョージ・エリオットのイタリア紀行—フレンツェ編」早稲田大学高等研究所紀要13,2021年。)
(*)(参考：河野一隆「装飾墓の比較研究序説」考古学雑誌103(2),2021年。)
(*)(参考：デイヴィド・ヴィンセント/山田文訳『孤独の歴史』東京堂出版,2021年。)
(*)(参考：エンリコ・アスカローネ著/渡井葉子訳『メソポタミア文明事典：ビジュアル図解』柊風舎,2021年。)
(*)(参考：渡邉顕彦『羅話辞典420年の歴史(邦題)』Foreign Language Research/外語研究,2021年。)
(*)(参考：堀川宏『しっかり学ぶ初級古典ギリシャ語：文法と練習問題』ベレ出版,2021年。)
(*)(参考：河崎靖「エトルリア語文法の解明に向けて」(エトルリア)ドイツ文學研究66,2021年。)
(*)(参考：泰田伊知朗『東アジアにおける西洋古典の受容—比較史的研究の試み』東洋大学(2019年),(科研費)2021年。)
(*)(参考：アンドレア・モロー著/今井邦彦訳『ことばをめぐる17の視点：人間言語は「雪の結晶」である』所収,大修館書店,2021年。)
---「プラトン—言語の本質は調和にある」/「アリストテレス—言語の「真」と言語の「偽」」/「マルクス・テレンティウス・ウァロー—言語を構成しているのは「類推」か「変則」か」
(*)(参考：遠藤直子「西洋古代史・古典学研究における批判的校訂本シリーズの利用・管理法に関する一考察—The Loeb Classical Library」東北大学附属図書館調査研究室年報8,2021年。)
(*)(参考：山本貴子「ユネスコ「世界の記憶」ヨーロッパ最古の公共図書館の成立：15世紀イタリアとメディチ家図書館」真宗総合研究所研究紀要39,2021年。)
(*)(参考：宮坂真衣子「プラウトゥスRudens の特殊性とfidesにかんする考察」早稲田大学イタリア研究所研究紀要10,2021年。)
(*)(参考：葛西康徳,ヴァネッサ・カッツァート編『古典の挑戦：古代ギリシア・ローマ研究ナビ』知泉書院,2021年。)
----クリストファー・メットカルフ/吉川斉訳「ギリシアは東からやって来た?」
ベルナルド・バッレステロス/風谷勇紀訳「ホメロスを読むことのむずかしさ」
末吉未来「踊る合唱隊」
グンター・マーティン/末吉未来訳「「悲劇」は悲しい劇なのか?」
アデル・C.スカローフ/末吉未来訳「喜劇を真面目に読む」
日向太郎「アウグストゥスと詩人たち」

パトリック・フィングラス/末吉未来訳「古典ができるまで：テクスト批判」
エンリコ・エマヌエル・プロディ/千葉慎太郎訳「蘇るパピルス」
フランソワ・リッサラーグ/野津寛訳「壺絵は語る」
クレシミール・ヴコヴィッチ/友井太郎訳「神話の紡がれかた」
ドメニコ・ジョルダーニ/岡野航星訳「ギリシアを翻訳する：バルバロイの文化への翻訳」
マクシム・ピエール/野津寛訳「古代劇を日本で研究する」
吉川斉「「イソップ」の渡来と帰化」
納富信留「哲学が生まれる」
吉田俊一郎「よく語ること」
オズウイン・マリー/水島顕介訳「歴史を創ること」
葛西康徳,ゲーアハルト・チュール「ギリシア人の法と裁判」
アーネスト・メッツガー/葛西康徳訳「ローマ人の法と法律家」
ロバート・パーカー/葛西康徳訳「ギリシア教」
葛西康徳「妥協するギリシア人」

(*)(参考：浜本裕美・河島思朗編『西洋古典学へのアプローチ：大芝芳弘先生退職記念論集』晃洋書房,2021年。

---- 逸見喜一郎「エポードスとエポーディー」
古澤香乃「『イーリアス』第12巻におけるアカイア勢の防壁をめぐる戦い：「ゼウスの計画」とヘクトールの武功」
河島思朗「物語の連続性と語り手の技巧：オウィディウス『変身物語』第10巻86-209行」
上野由貴「ウェルギリウス『アエネーアス』とフェルデケ『エネアスロマーン』におけるアンナ」
小池登「隣友にして守護者：ピンダロス『ピューティア第8歌』58-60行」
日向太郎「プロペルティウスのアッポロ詣で：プロペルティウス第2巻第31歌」
大芝芳弘「プロペルティウス第3巻の詩作構想：第9,11歌を中心に」
佐野好則「イーオーとプロメーテウスの邂逅：『縛られたプロメーテウス』におけるイーオー像をめぐって」
浜本裕美「エウリーピデス『ヘレネー』と『ヘーラクレース』における帰還と歌舞」
栗原裕次「哲学と文学の対話：プラトン『政治家』篇のミュートス(268d5-274e3)」
金子善彦「アリストテレスのファンタシアー概念と虚偽の現れ」
金澤修「ギリシア哲学の東漸と越境：最果てのヘラスを巡って」
宮原優「ムーサの霊感と表現の構造」
吉田俊一郎「キケロー『プルートス』における実演actioの批評と,後代における其の利用について」

(*)(参考：堀川宏『しっかり学ぶ初級古典ギリシャ語：文法と練習問題』ベレ出版,2021年。)
(*)(参考：中村聡一『教養としてのギリシャ・ローマ：名門コロンビア大学で学んだリベラルアーツの真髄』東洋経済新報社,2021年。)

(*)(参考：原島広至『歴単：語原からわかる英単語集』すばる舎,2021年。)
(*)(参考：河島思朗『おそまつなギリシャ神話事情』すばる舎,2021年。)
(*)(参考：安田香「ギリシャ神話に基づく音楽」(日本音楽表現学会)音楽表現学19,2021年。)
(*)(参考：諸川春樹・小穴晶子「インタビュー ギリシャ・ローマ神話：美術と音楽を巡って」日本チェンバロ協会年報5,2021年。)
(*)(参考：中村圭志『教養として学んでおきたいギリシャ神話』マイナビ出版,2021年。)
(*)手塚治虫『火の鳥』12エジプト編・ギリシャ編・ローマ編,オリジナル版,復刊ドットコム,2021年．)
(*)(参考：根岸宗一郎「周作人におけるヘブライズムとヘレニズム：聖書・イエスの受容をめぐって(長堀祐造教授退休記念号)」慶應義塾大学日吉紀要,中国研究14,2021年。)
(*)(参考：パウエル中西裕一『ギリシャ正教と聖山アトス』幻冬舎,2021年。)
(*)(参考：高橋一「現代に呼びかけるヘブライズムとヘレニズム研究とは：学問研究におけるロゴスとパトス」ペデラヴィウム76,2021年。)
(*)(参考：スーザン・パック=モース/森夏樹訳『西暦一年：「理性」と「信仰」の分断を問い直す』青土社,2021年。)
(*)(参考：田中健三「パウロ書簡に於ける「奴隷」」ペデラヴィウム76,2021年。)
(*)(参考：大清水裕「デロス島出土碑文におけるヌミディア王マシニッサ：ヘレニズム世界から見た前2世紀の北アフリカ」西洋史学271,2021年。)
(*)(参考：大芝芳弘・日向太郎・佐野好則「書評座談会「ホメロス『イリアス』への招待をめぐって」ペデラヴィウム76,2021年。)
(*)(参考：菅野類「アレッサンドロ・ヴェッリの小説『サフォーの冒険』における絵画性と近代性」イタリア学会誌71,2021年。)
(*)(参考：小林淑憲「ヘレニズムとキケロー」ペデラヴィウム76,2021年。)
(*)(参考：谷仲ツナまんが；山浦聡まんが『古代都市ポンペイの真実』CONAN HISTORY COMIC SERIES,小学館,2021年。)
(*)(参考：ルーシー・ジョーンズ/大槻敦子訳『歴史を変えた自然災害：ポンペイから東日本大震災まで』原書房,2021年。)
(*)(参考：「ポンペイは現代の鏡(大特集 これだけは見ておきたい 2022年美術展 Best 25 and More!)—(2022 1 JANUARY)」芸術新潮72(12),2021年。)
(*)(参考：和田浩一郎「海外考古学事情(15)エジプト考古学の現在」月刊考古学ジャーナル749,2021年。)
(*)(参考：山崎好裕「反転するユートピア「アトランティス」：新大陸と近代科学文明の成立」福岡大学経済学論叢65(2),2021年。)
(*)(参考：中村るい「ギリシャ美術の研究：エーゲ海の壁画からパルテノン彫刻まで」東海大学紀要文化社会学部5,2021年。)
(*)石塚正英「高木敏雄・折口信夫・出口米吉・松村武雄・羽仁五郎」頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要6(17),2021年。
(*)(参考：大清水裕「デロス島出土碑文におけるヌミディア王マシニッサ：ヘレニズム世界から見た前2世紀の北アフリカ」西洋史学271,2021年。)
(*)(参考：遠藤颯馬「エジプト新王国時代とエーゲ海：トトメス三世とアメンホテプ三世の治世を中心に」駒澤史学95,2021年。)

(*)(参考：HIRATA Ryuichi「Parecchi problemi sui numerali etruschi」ヨーロッパ文化史研究22,2021年。)
(*)(参考：ダマソ,フェレイロ・ポッセ「初期「ギリシャ研究会」における性と西洋古典の扱いについて」プロピレア27,2021年。)
(*)(参考:堀川宏『しっかり学ぶ初級古典ギリシャ語:文法と練習問題』Basic language learning series,ぺレ出版,2021年。)
(*)(参考：野口誠著・有田貞一編『聖書検定ギリシア語公式テキスト「初級」・「上級」：はじめての聖書のギリシア語』聖書検定協会,2021年。)
(*)(参考:秦剛平『七十人訳ギリシア語聖書 ベン・シラの知恵,ルツ記,哀歌ほか』青土社,2021年。)
(*)(参考：秦剛平『七十人訳ギリシア語聖書 マカベア書』青土社,2021年。)
(*)(参考：安木良博「皮膚疾患名を理解するために必要なラテン語文法の基礎」西日本皮膚科83(2),2021年。)
(*)泰田伊知朗『東アジアにおける西洋古典の受容—比較史的研究の試み』東洋大学(2019年),(科研費)2021年。
(*)(参考：戸田聡「ビザンツ文学余滴(5)(通算6)：ビザンツ末期の文人ブレトンの建白書その一」プロピレア27,2021年。)
(*)(参考：Solnon Jean FranÇois,神田順子,松尾真奈美,田辺希久子『ユスティニアヌスとテオロダラからルイ一六世とマリー・アントワネットまで』原書房,2021年。)
(*)村田光司「西洋史の立場から(書評と紹介河内祥輔.小口雅史,M.メルジオスキ,E.ヴィダー編「儀礼・象徴・意思決定 日欧の古代・中世書字文化」)」法政史学96,2021年。
(*)(参考：安村典子『ゼウスの覇権：反逆のギリシア神話』京都大学学術出版会,2021年。)
(*)(参考：古川正昭「『ギリシャ詞華集』のギリシャ神話(2)」(八雲会編)へるん58,2021年。)
(*)中西[高久]恭子「日本語近現代詩歌における西洋古代宗教とキリスト教の受容史」宗教研究94(別冊),2021年。)
(*)(参考：沓掛良彦『オルフェウス変幻 ヨーロッパ忍学にみる変容と変遷』京都大学学術出版会,2021年。)
(*)(参考：岡村美幸「西地中海におけるメルカルト=ヘラクレス信仰の広がりとハンニバル期カルタゴ」西洋史学論叢58,2021年。)
(*)(参考：グイル・エドワード「後3世紀前半のオデッソスにおけるダルザラス大神信仰の再検討」西洋史学報48,2021年。)
(*)(参考：松原知生『転生するイコン：ルネサンス末期シエナ絵画と政治・宗教抗争』名古屋大学出版会,2021年。)
(*)(参考：アリソン・ブラウン著/石黒盛久・喜田いくみ訳『イタリア・ルネサンスの世界』論創社,2021年。)
(*)(参考：マロ・プラーツ著/伊藤博明他訳『マニエーラ・イタリアーナ：ルネサンス・二人の先駆者・マニエリスム』ありな書房,2021年。)
(*)(参考:副島隆彦『ミケランジェロとメディチ家の真実:隠されたヨーロッパの血の歴史』秀和システム,2021年。)
(*)(参考：久山雄甫『ゲーテにおけるガイスト概念：永遠,時間,メトモルフォーゼ』京都大学,博士(人間・環境学),乙第19573号,2021年。)

(*)(参考：大山真樹『ニーチェの道徳批判を導きの糸にした永遠回帰思想の解明：生きることそのものにおける評価基準と生きることそのものとの原理的な分裂』中央大学,博士(哲学),甲第887号,2021年。)
(*)(参考：亀井高孝他編『標準世界史年表地図』第27版,吉川弘文館,2021年。)
(*)高澤紀恵「戦後・教科『世界史』・西洋史学」法政史学96,2021年。
(*)(参考：橋場弦・桜井英治『中学歴史：日本と世界』山川出版社,2021年。)
(*)(参考：弓削尚子『はじめての西洋ジェンダー史：家族史からグローバル・ヒストリーまで』山川出版社,2021年。)
(*)(参考：池上俊一『ヨーロッパ史入門：原形から近代への胎動』岩波ジュニア版,岩波書店,2021年。)
(*)(参考：岸田菜摘「ラルフ・グラベールの『歴史五巻』に見るキリスト教世界と「ギリシャ人」」(早稲田大学ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所)エクフラシス：ヨーロッパ文化研究11,2021年。)
(*)(参考：松本宣郎編『世界歴史大系イタリア史1—古代・初期中世』第1巻所収,山川出版社,2021年。)
----大月康弘「ビザンツ帝国とイタリア」/大月康弘「東ゴート支配下のイタリア」
(*)(参考：齋藤寛海編『世界歴史大系イタリア史2—中世近世』山川出版社,2021年。)
(*)(参考：パトリシア・ダニエルズ/湊麻里訳『戦争地図：歴史に残る,世界18の戦い』ナショナルジオグラフィック別冊,日経ナショナルジオグラフィック社,2021年。)
(*)(参考：中井義明・堀井優編『記憶と慣行の西洋古代史：エジプトからローマまで』同志社大学人文科学研究所研究叢書59,ミネルヴァ書房,2021年。)
----第2部「ギリシア---記憶と慣行(民主政復興期におけるアテナイ外交—民主派ネットワークと帝国の遺産；古典期宛てないにおける顕彰と業績の「記憶」--「冠の授与」の慣行に注目して；アッティカ史叙述におけるディオニュソス到来の記憶」
第3部「ヘレニズム—記憶の編集(使節の演説における過去の語り—ポリュビオス『歴史』を手がかりに；ペルガモン王国「独立」の記憶の編集---前3~前2世紀の政治動向を手がかりに；ヘレニズム詩におけるアレクサンドロス—名声(kleos)を伝える歌」
第4部「ローマ—記憶と歴史(ポンペイ城壁に刻まれた二つの歴史の記憶—CIL 12.1629を手がかりにして；前44年の偽マリウス事件とユリウス・カエサルの記憶化；「若者殺し」の系譜—ヘレニズム君主の記憶をめぐる帝政期の歴史叙述」
(*)宮本彩芽「新刊紹介 中井義明/堀井優[編]記憶と慣行の西洋古代史：エジプトからローマまで」(広島西洋史学研究会)西洋史学報48,2021年。
(*)(参考：エドワード・J.ワッツ著/中西恭子訳『ヒュパティア：後期ローマ帝国の女性知識人』白水社,2021年。)
(*)(参考：白川太郎「イタリア中世宗教史研究の基本的枠組：宗教運動論の成果と課題」早稲田大学大学院文学研究科研究紀要65,2021年。)
(*)(参考：岡本源太「ルネサンスの宗教論と多様性の問題：ピーコ・デッラ・ミランドラからジョルダーノ・ブルーノまで(主題別討議報告)—(イタリア思想の再

検討)」倫理学年報70,2021年。)
(*)(参考 : 山崎弘之「イェイツの詩 “Meru” における循環史観の表象 : エジプト・ギリシャ・ローマに別れを告げる真意」エール : アイルイランド研究40,2021年。)
(*)(参考 : 金田仁秀「ギリシャから現代へ—John Addington Symondsと同性愛」群馬大学共同教育学部紀要,人文・社会科学編70,2021年。)
(*)(参考 : 安川智子「フランスにおけるワーグナー受容と古代ギリシャ悲劇再創造への道—新たなる音楽劇を求めて」ワーグナーシュンポジオン10,2021年。)
(*)(参考 : 大愛崇晴「理想としての古代ギリシャ・ローマの音楽—ペーリ,タルティーニ,カルリの古代音楽観」日本チェンバロ協会年報5,2021年。)
(*)(参考 : 林英哉「ヘルダーリンのベーレンドルフ宛書簡における古代ギリシャ・近代文学観 : シラーの「素朴文学と情感文学」から「固有なものと異質なもの」へ」(阪神ドイツ文学会)ドイツ文学論攷63,2021年。)
(*)(参考 : ローベルト・ヴァルザー著/新本史斉訳『詩人の生』鳥影社,2021年。)
(*)(参考 : ペータ・ヘルトリング著/富田佐保子『ヘルダーリン : ある小説』鳥影社,2021年。)
(*)(参考 : 祝田秀全『ワケあって滅亡した帝国・王国 : まさかの真因を解き明かす!』(アテネ,フランク王国,イタリア)河出書房新社,2021年。)
(*)(参考 : 堀賀貴編『古代ローマ人の危機管理』九州大学出版会,2021年。)
(*)鷲田睦朗「書評 砂田徹著『共和政ローマの内乱とイタリア統合 : 退役兵植民のへの地方都市の対応』」古代文化73(1),2021年。
(*)(参考 : バリー・ストラウス/森夏樹訳『10人の皇帝たち : 統治者からみるローマ帝国史』青土社,2021年。)
(*)(参考 : J.G.A.ポーコック/田中秀夫訳『エドワード・ギボンの啓蒙』野蛮と宗教1,名古屋大学出版会,2021年。)
(*)(参考 : 竹花秀春『ローマ帝国 : 誕生・絶頂・滅亡の地図』ナショナルジオグラフィック別冊,日経ナショナルジオグラフィック社,2021年。)
(*)(参考 : 山田欣吾『教会から国家へ : 古相のヨーロッパ』オンデマンド版,講談社,2021年。)
(*)貝原哲生「新刊紹介 中谷功治著「ビザンツ帝国 : 千年の興亡と皇帝たち」」関学西洋史論集44,2021年。
(*)(参考 : 藤井崇「新刊紹介 Peter Thonemann ：An Ancient Dream Mnual：Artemidorus’ The Interpretation of Dream」関学西洋史論集44,20210年。
(*)小雲立也「書評 Jorg Rupke,pAntheon：A New History of Roman Religion」西洋古代史研究21,2021年。
(*)藤井崇「書評 岸本廣大著「古代ギリシアの連邦 : ポリスを超えた共同体」」西洋古代史研究21.2021年。
(*)海野ますみ「食からみる古代史ゼミ,あるいは南川先生との思い出(京都大学南川ゼミの28年：1993年~2021年)」西洋古代史研究21.2021年。
(*)大野普希「学問の味わい(京都大学南川ゼミの28年：1993年~2021年)」西洋古代史研究21.2021年。
(*)栗原麻子「はじめのころ(京都大学南川ゼミの28年：1993年~2021年)」西洋古代史研究21.2021年。
(*)酒嶋恭平「南川ゼミで過ごした8年間(京都大学南川ゼミの28年：1993年~2021年)」西洋古代史研究21.2021年。

(*)西村昌洋「南川ゼミの思い出(京都大学南川ゼミの28年：1993年~2021年)」西洋古代史研究21.2021年。
(*)疋田康隆「南川ゼミの思い出(京都大学南川ゼミの28年：1993年~2021年)」西洋古代史研究21.2021年。
(*)増永理考「積み重なっていくもの(京都大学南川ゼミの28年：1993年~2021年)」西洋古代史研究21.2021年。
(*)「古代史研究会の記録：2002年3月~2021年3月」西洋古代史研究21,2021年。
(*)「史学文献目録—西洋史1」史学雑誌130(1),2021年。
(*)仲田公輔「書評 小林功著「生まれてくる文明と対峙するすること：七世紀地中海世界の新たな歴史像」(MINERVA西洋史ライブラリー114)」史學雑誌130(2),2021年。
(*)「史学文献目録—西洋史2」史学雑誌130(5),2021年。
(*)「史学文献目録—西洋史3」史学雑誌130(9),2021年。
(*)(參考：前野弘志「エトルリアの戦車：その機能の変遷」広島大学文学部論集80,2021年。)
(*)(參考：エリック・H.クライン/西村賀子訳『トロイア戦争：歴史・文学・考古学』白水社,2021年。)
(*)(參考：南雲泰輔『後期ローマ帝国時代における世界認識の構造にかんする研究』科研費(2017),2021年。)
(*)(參考：南雲泰輔「後期ローマ帝国時代のコンスタンティノープルにおける水の利用とその制限(特集 「ヨーロッパ史における水の資源化とその管理・統制」)」西洋史学論集58,2021年。)
(*)南雲泰輔「(書評) 小林功著「生まれてくる文明と対峙するすること：七世紀地中海世界の新たな歴史像」(ミネルヴァ書房,2020年)」西洋史学論集58,2021年。
(*)松原俊文「書評 プルタルコス著,森谷公俊訳・注『新釈アレクサンドロス大王伝：「プルタルコス英雄伝」より』西洋史学271,2021年。
(*)森谷公俊「新刊紹介 ヒュー・ボーデン著佐藤昇訳『アレクサンドロス大王』」西洋史学論集58,2021年。
(*)(參考：アントニオ・スクラーティ著/栗原俊秀訳『小説ムッソリーニ：世紀の落とし子』河出書房新社,2021年。)
(*)(參考：舛添要一『ムッソリーニの正体：ヒトラーが師と仰いだ男』小学館,2021年。)
(*)「箕作家の歴史研究：西洋史はどう伝わったか：令和元年度夏季企画展」一滴：洋学研究誌28,2021年。
(*)篠原道法「書評 篠塚千恵子著『死者を記念する：古代ギリシアの墓辺図研究』」西洋史学271,2021年。
(*)(參考：中野京子「作家・中野京子が選ぶ 見るべき西洋美術10作(緩和マネーで爆騰!アートとお金)—(教養編)」週刊東洋経済6971,2021年。)
(*)(參考：中野京子「中野京子の名画が語る西洋史(110)マタイはどちら?」文藝春秋99(10),2021年。)
(*)(參考：大川なつか「トマス・モアの教育思想研究序説」(湘北短期大学)湘北紀要42,2021年。)
(*)(參考：ポルピュリオス著/山田道夫訳『ピタゴラス伝：マルケラへの手紙；ガウロス宛書簡』西洋古典叢書,京都大学学術出版会,2021年。)
(*)(參考：八木雄二『「神」と「わたし」の哲学：キリスト教とギリシア哲学が織りなす

中世』春秋社,2021年。)
(*)(参考 : 中畑正志『はじめてのプラトン : 批判と変革の哲学』講談社現代新書,講談社,2021年。)
(*)(参考 : 岡部勉『プラトン『国家』を読み解く : 人間・正義・哲学とは何か』勁草書房,2021年。)
(*)(参考 : 瀬口昌久『「完熟」の老いの探究 : プラトン,アリストテレス,キケロも悶絶』さくら舎,2021年。)
(*)長谷川貴陽史「法学者の本棚 原始の落下運動と偏倚(クリナメン)[エピクロス : 教説と手紙 出隆・岩崎允胤訳]」法学セミナー66(5),2021年。
(*)(参考 : 古田博司「たたかうエピクロス(18) : 新しい時代にふさわしい心構えを作ろう」Will1月号(193),2021年。)
(*)(参考 : 古田博司「たたかうエピクロス(19) : エルヴェシウスの快楽,ディドロの憤怒」Will2月号(194),2021年。)
(*)(参考 : 古田博司「たたかうエピクロス(20) : 数理学者パスカルこそ社会科学の祖だった」Will3月号(195),2021年。)
(*)(参考 : 古田博司「たたかうエピクロス(21) : 近代の固定観念を打破しよう」Will4月号(196),2021年。)
(*)(参考 : 古田博司「たたかうエピクロス(22) : 反エピクロス派は宗教改革者だった」Will5月号(197),2021年。)
(*)(参考 : 古田博司「たたかうエピクロス(23) : 長谷川三千子先生の「超越」をもう一回超越して見る」」Will6月号(198),2021年。)
(*)(参考 : 古田博司「たたかうエピクロス(24) : 西洋思想ってもっと面白いのです」Will7月号(199),2021年。)
(*)(参考 : 古田博司「たたかうエピクロス(25) : 近代の禍をのがれて男も女も幸せになろう」Will8月号(200),2021年。)
(*)(参考 : 古田博司「たたかうエピクロス(26) : 不幸だったインテレクチュアル名鑑」Will9月号(201),2021年。)
(*)(参考 : 古田博司「たたかうエピクロス(27) : 神学者の直観とイデオロギーの終焉」Will10月号(202),2021年。)
(*)(参考 : 古田博司「たたかうエピクロス(28) : 宗教の深いところをサラッと語ろう」Will11月号(203),2021年。)
(*)(参考 : 古田博司「たたかうエピクロス(29) : 近代の固定観念を打破しよう」Will12月号(204),2021年。)
(*)(参考 : 川田潤「英国における原子論の受容 : 古典の受容とサブライム」福島大学人間発達文化学類論集34,2021年。)
(*)(参考 : 瀬口昌久『ルクレティウス『自然の本性について』の総合的研究』名古屋工業大学(2018年),(科研費)2021年。)
(*)(参考 : 原田健次朗『ケンブリッジ・プラトン主義 : 神学と政治の連関』ニューブック,オンデマンド版,講談社,2021年。)
(*)(参考 : 丹下和彦『ギリシア悲劇入門』未知谷,2021年。)
(*)(参考 : 金子晴勇『エラスムスと教養世界』キリスト教思想史の諸時代4,YOBEL新書,YOBEL,2021年。)

(*)『朗読喫茶噺の龍：あらすじで聴く文学全集』(下野紘郎朗読「走れメロス」)Hanashi RECORD(録音資料,発売・販売),2021年。
(*)花部英雄『桃太郎の発生：世界との比較からみる日本の昔話,説話』(「イソップ寓話と「鳥獣合戦」」「「走れメロス」の説話世界」)三弥井書店,2021年。
(*)彩図社文芸部編纂『大きな文字でもう一度読みたい文豪の名作短編』(走れメロス)彩図社,2021年。
(*)萩中菜穂美編『「走れメロス」の授業』対話的な学びで一人一人を育てる中学校国語授業2,東洋館出版,2021年。
(*)佐野幹「「メロスの伝説」の中の「走れメロス」」読書科学62(3-4),2021年。
(*)三浦和尚「文学を再読する意味：大学生「走れメロス」(太宰治)の場合」愛媛国文と教育53,2021年。
(*)桐生直代・東茂美「読解力育成のために—国語教育におけるアダプテーションの教材としての可能性」(走れメロス)福岡女学院大学大学院紀要・発達教育学5,2021年。
(*)井上功太郎「読みの交流における描出表現の〈闘い〉の可能性：「走れメロス」の語りの分析に基づいて」国語科学習デザイン5(1),2021年。)
(*)今井悠太・八木雄一郎「対話が生まれる国語学習の構想と実践--「走れメロス」(中学校第2学年)を教材として」信州大学教育学部研究論集15,2021年。
(*)福田晃『英雄伝承の誕生：蒙古襲来の時代』(百合若)三弥井書店,2021年。
(*)井上章一『南蛮幻想：ユリシーズ伝説と安土城(上下)』(百合若)草思社文庫,草思社,2021年。
(*)清野知子「蒋山万寿寺と百合若大臣塚・万寿姫伝承」伝承文化研究18,2021年。
(*)(参考：陳旭『漢訳イソップに関する研究：『意拾喩言』とその周縁からのアプローチ』関西大学,博士(文化交渉学),甲第833号,2021年。)
(*)(参考：吉川斉『近世ヨーロッパにおける教育と「イソップ集」展開に関する文献学的総合研究』東京大学2018年,(科研費)2021年。)
(*)林芙美子『新撰林芙美子童話集』(「新イソップ」「新日本イソップ狐物語」「新日本イソップ鶴の笛」「新日本イソップ亀さん」)論創社,2021年。
(*)(参考：喬昭「陳春生『伊朔譚評』に見られる宗教性の諸相」(関西大学大学院東アジア文化研究科)文化交渉:東アジア文化研究科院生論集11,2021年。)
(*)渡浩一「欲張りは天罰に値するか--『伊會保物語』所載イソップ寓話「肉をくわえた犬」の教訓をめぐって」明治大学教養論集554,2021年。
(*)濱田幸子「『伊會保物語』伝記部に見られる矛盾についての考察」佛教大学総合研究所紀要28,2021年。
(*)岩瀬正司「校長談話(585)「温故知新」故きを温めて新しきを知る(2)イソップ物語から学ぶ」週刊教育資料1606,2021年。
(*)花部英雄「[談話室]イソップに学ぶ昔話研究」國學院雑誌122(2),2021年。
(*)花部英雄『桃太郎の発生：世界との比較からみる日本の昔話,説話』(「イソップ寓話と「鳥獣合戦」」「「走れメロス」の説話世界」)三弥井書店,2021年。
(*)吉見孝夫「第13号に寄せて」イソップ資料13,2021年。
(*)ローレンス・マルソー「【自著紹介】『絵入巻子本伊曽保物語---翻刻・解題・図版解説』」

イソップ資料13,2021年。
(*)花間隆・難波博子「鈴木三重吉とイソップについて」イソップ資料13,2021年。
(*)吉見孝夫「明治期のイソップ寓話集類---概要」イソップ資料13,2021年。
(*)吉見孝夫「明治期のイソップ寓話集類---タイトル・原拠・同定」イソップ資料13,2021年。
(*)吉見孝夫「明治期のイソップ寓話集類---対照表」イソップ資料13,2021年。
(*)(参考：堀賀貴族『古代ローマ人の都市管理』九州大学出版部,2021年。)
(*)(参考：清水廣一郎『中世イタリアの都市と商人』講談社,)2021年。)
(*)(参考：石本東生・岡村祐・江口久美「サントリーニ島イアにおける伝統的集落特別保護令による観光形成」都市計画論文集55(2),2021年。)
(*)(参考：加来正俊編著『古代オリンピックの真意と全貌：人類の精神と叡智』エイプラット,2021年。)
(*)(参考：ヤマザキ・マリ『オリンピア・キュクロス』集英社,2021年。)
(*)(参考：沢木耕太郎『ナチスの森で：オリンピア1936』新潮文庫,新潮社,2021年。)
(*)(参考：沢木耕太郎『冠(コロナ)「廃墟の光」：オリンピア1996』新潮文庫,新潮社,2021年。)
(*)(参考：石田慈洪「オリンピックの今昔」(日本文化社会学会)文化社会学研究10,2021年。)
(*)(参考：寒川恒夫「オリンピックの文明論」現代スポーツ評論44,2021年。)
(*)「書評 坂井建雄著「医学全史：西洋から東洋・日本まで」」日本医史学雑誌67(1),2021年。
(*)(参考：澤井直「西洋の古代からルネサンスまでの感染症について(座談会医史学から展望するCOVID-19パンデミック」日本医史学雑誌67(3),2021年。)
(*)(参考：岡田靖雄「医学史学と私」日本医史学雑誌67(3),2021年。)
(*)(参考：坂井建雄「ヒポクラテス集典Corpus Hippocraticum」日本医史学雑誌67(3),2021年。)
(*)(参考：坂井建雄「ガレノスGalen『全集Opera omnia』」日本医史学雑誌67(4),2021年。)
(*)(参考：岡村穣「爽快特別講演 古代エジプト・ギリシャ・インド・北魏・隋・初唐のSacred Grove(神聖な木立),遣隋使の役割及び疫病流行への対応について」(社叢学会)社叢学研究19,2021年。)
(*)(参考：遠藤雅司『食で読むヨーロッパ史2500年』山川出版社,2021年。)
(*)(参考：ステン・オデンワルド著/今田マーサ訳『量子論がゼロからわかる：古代ギリシャの原子論カラ最新の量子重力理論まで』ニュートンプレス,2021年。)
(*)(参考：金山弥平・金山万里子他監修「科学の起源 ギリシャ哲学」別冊Newtonニュートン 哲学科学を生んだ人類の思考,2021年。)
(*)(参考：齋藤憲「照明の発明と発展：ギリシャ数学の創始・発展とその遺産」科学史研究[第III期]296,2021年。)
(*)(参考：鳥山剛「ヘレニズム期カリュムナの負債をめぐる仲裁裁判：カリュムナのアポロン神殿出土碑文の分析」西洋史学報48,2021年。)
(*)(参考：カネヴァロ・ミルコ「アテナイ民会における民主的熟議：正当性を得るための手続きと行動」クリオ34,2021年。)
(*)(参考:ローズ・ピーター・J.「アテナイ民会と500人評議会:継続する諸問題」クリオ34,2021年。)
(*)(参考：橋場弦「『直接民主政=衆愚政』は方便 古代ギリシアが射抜く本質」月刊ジャーナリズム368,2021年。)

(*)(参考 : 佐藤昇『民主政アテナイの演説文化 : 法廷における実践的修辞戦略に関する研究』神戸大学2017年,(科研費)2021年。)
(*)(参考 : 梅津淳「エラスムス『平和への訴え』をめぐって : イタリア戦争,およびもうひとつの背景としてのブルゴーニュ公国(特集 文学と歴史)」櫻美林世界文学17,2021年。)
(*)(参考 : 倉科岳志「パジーレの政治思想 : 『ペンタメローネ』における運命,徳,正義」早稲田大学イタリア研究所研究紀要10,2021年。)
(*)(参考 : 曽田長人『スパルタを夢みた第三帝国 : 二０世紀ドイツの人文主義』講談社選書メチエ,講談社,2021年。)
(*)(参考 : 下條慎一『政治学史の展開 : 立憲主義の源流と市民社会の萌芽』武蔵野大学出版会,2021年。)
----第1部 古代・中世(プラトンとアリストテレス ; アウグスティヌスとトマス)
(*)(参考 : 森村進『自由と正義と幸福と』信山社,2021年。)
(*)(参考 : ノコラ・レイシー著/中谷竜一・森村進・森村たまき訳『法哲学者L.A.ハートの生涯 : 悪夢,そして高貴な夢(上下)』岩波書店,2021年。)
(*)(参考 : 葛西康徳『法学提要(Institutes)に対する比較法学史的総合研究』東京大学2017年,(科研費)2021年。)

(*)(参考 : 川田潤『永井18世紀における原子論の影響による主体 : 共同体言説の多様性に関する学際的研究』福島大学(2019),(科研費)2022年。)
(*)(参考 : アラン・コルバン/小倉孝誠他訳『雨,太陽,風 : 天候にたいする感性の歴史』藤原書店,2022年。)
(*)「イタリア・カプリ島」月刊ホテル旅館59(4,5),2022年。
(*)細井敦子『船の旅本の旅』書肆アルス,2022年。
(*)(参考 : NOSY CROW編集部文 ; ファッティ・バーク絵 ; 山根玲子訳『トムをみつけよう! 古代ギリシア』BL出版,2022年。)
(*)(参考 : 村田奈々子「ギリシア人の見た1935年の日本 : ニコス・カザンツアキスの眼差し」東洋大学文学部紀要,史料科篇47,2022年。)
(*)(参考 : 海老澤哲雄『十三世紀東西交流史研究』開文社出版,2022年。)
(*)藤井厚二著/安田徹也翻刻・注釈『翻刻藤井厚二欧米視察日記 ; 藤井厚二欧米視察関係資料』(イタリア)ゆまに書房,2022年。
(*)(参考 : 法政大学江戸東京研究センター編『水都としての東京とヴェネツィア : 過去の記憶と未来への展望』法制大学出版局,2022年。)
(*)(参考 : 堀井優『近世東地中海の形成 : マムルーク朝・オスマン帝国とヴェネツィア人= The formation of the early modern Eastern Mediterranean』名古屋大学出版会,2022年。)
(*)(参考 : 寒川恒夫「世界武術紀行 : その歴史と文化を訪ねて(5)古代ローマの剣闘士(1)闘技の実際」(日本武道館編)武道660,2022年。)
(*)(参考 : 寒川恒夫「世界武術紀行 : その歴史と文化を訪ねて(6)古代ローマの剣闘士(1)闘技のルーツ」(日本武道館編)武道661,2022年。)
(*)(参考 : 寒川恒夫「世界武術紀行 : その歴史と文化を訪ねて(7)古代ギリシャ(1)武器武術」(日本武道館編)武道662,2022年。)

(*)(参考：寒川恒夫「世界武術紀行：その歴史と文化を訪ねて(8)古代ギリシャ(2)素手格闘技」(日本武道館編)武道663,2022年。)
(*)「西にローマ,東に漢王朝 安定が崩れて群雄割拠に」週刊ダイヤモンド110(23),2022年。
(*)(参考：森佳三「アルトゥーロ・マルティーニ著「ミケランジェロのトリック」の「三次元」と「新次元」」千葉大学人文公共学研究論集44,2022年。)
(*)(参考：滝沢朋子「ロラン・バルトのギリシア：官能の果実」ヨーロッパ文化研究41,2022年。)
(*)(参考：鳥越輝昭「アントニオーニの映画の中のローマとローマ人」(神奈川大学人文学研究所)人文学研究所報67,2022年。)
(*)(参考：百合草真理子『コレッジョの天上画：北イタリアにおけるルネサンス美術と宗教改革』三元社,2022年。)
(*)(参考：加藤哲弘「言葉が伝えるルネサンスの芸術世界」日伊文化研究60,2022年。)
(*)(参考：根占献一「ルネサンス芸術・文化の精髄翻訳選」日伊文化研究60,2022年。)
(*)(参考：栗田秀法「王立絵画彫刻アカデミーとラファエッロ：ローマ大賞を受賞作品を手掛かりに」名古屋大学人文学研究論集5,2022年。)
(*)(参考：増子美穂「ジェームズ・「アテナイ人」・スチュアートのガーデンハウス—18世紀英国風景式庭園とギリシャ趣味」(東洋大学国際観光学部)観光学研究21,2022年。)
(*)(参考：東京国立博物館,朝日新聞社『特別展ポンペイ』NHKプロモーション,NHK,朝日新聞社,2022年。)
(*)(参考：伊藤怜「ナポリのサンタ・マリア・アッスンタ司教座聖堂ミヌートロ礼拝堂壁画--「ペテロの磔刑」場面再考」早稲田大学イタリア研究所研究紀要11,2022年。)
(*)(参考：エーミール・ルードヴィヒ/秋山英夫訳『シュリーマン：トロイア発掘者の生涯』新装版,白水社,2022年。)
(*)(参考：深谷訓子「【研究ノート】イタリアで活動した外国人美術家たち—1550-1650」(京都市立芸術大学美術学部)研究紀要66,2022年。)
(*)(参考：山本貴子「ユネスコ「世界の記憶」ヨーロッパ最古の公立図書館の成立：15世紀イタリアとメディチ家図書館」大谷大学真宗総合研究所研究紀要39,2022年。)
(*)(参考：ドリンダ・ウートラム/北本正章訳・解説『図説啓蒙時代百科』原書房,2022年。)
(*)(参考：カロル・ギンズブルグ著/上村忠男編訳『恥のきずな：新しい文献学のために』みすず書房,2022年。)
(*)(参考：Akitsugu,Taki“Hypotheses on the Textual Transmission of Plato’s Menexenus”城西国際大学大学院紀要25,2022年。)
(*)(参考：ハン・ドンイル著/岡崎陽子訳『教養としての「ラテン語の授業」：古代ローマに学ぶリベラルアーツ之源流』ダイヤモンド社,2022年。)
(*)渡邉顕彦『日本関係』の近世ラテン語文学—成立の文脈と未校訂写本の研究』大妻女子大学(2019年),(科研費)2022年。)
(*)岸本惠美・白井純編『キリシタン語学入門』八木書店出版部,八木書店(発売),2022年。
(*)泰田伊知朗「ラテン語受容史における切支丹屋敷」観光学研究21,2022年。
(*)(参考：主濱祐二「リベラルアーツにおける文法と論理：古代ギリシャから現代のAI社会

まで」(敬和学園大学)人文社会科学研究所年報20,2022年。)
(*)(参考：安田賢人「音読の習慣と黙読：古代ギリシャ・ローマを中心とした文化的背景としての黙読の研究」(和光大学表現学部)表現学部紀要22,2022年。)
(*)下園知弥「西南学院大学博物館所蔵「12世紀ラテン語書写本『ローマの信徒への手紙』西南学院大学博物館研究紀要10,2022年。
(*)(参考：藤原豊樹「目からウロコの新約聖書(4,5)現代ギリシア語で読む新約聖書(1,2,3)」みるとす：イスラエル・ユダヤ・中東がわかる隔月刊雑誌181,182,183,2022年。)
(*)(参考：辻絵里子「ヴァティカン図書館所蔵ギリシア語詩篇写本1927番第12-24葉に関する記述」埼玉大学紀要,教養学部,2022年。)
(*)Salis Faliero「SUGETA SHIGEAKI菅田茂昭,サルジニア語・ラテン語の面影残す地中海の島ことば(早稲田大学出版部,2021)」早稲田大学イタリア研究所研究紀要11,2022年。)
(*)(参考：ジョン・ミルトン著/野呂有子・金子千香訳『ジョン・ミルトンのラテン語詩全訳集=A Japanese translation o John Milton’s Latin poetry with a copmparative Study on the texts his 1645poems and 1673 poems』金星堂,2022年。)
(*)(参考：加藤守通『マルシリオ・フィチーノの教育論におけるパイデイアの変容過程に関する研究』東北大学,上智大学(2019年),(科研費)2022年。)
(*)(参考：畑潤「古代ギリシアにおける教養・教育の理念に関する研究(21)：W.イエーガーの『パイデイア』に学ぶ」都留文科大学研究紀要95,2022年。)
(*)(参考：畑潤「古代ギリシアにおける教養・教育の理念に関する研究(22)：W.イエーガーの『パイデイア』に学ぶ」都留文科大学大学院紀要26,2022年。)
(*)(参考：清川祥恵・南郷晃子・植朗子編・野谷啓二著『人はなぜ神話「ミュトス」を語るのか：拡大する世界と「地」の物語』文学通信,2022年。)
----清川祥恵「はじめに：「人はなぜ神話「ミュトス」を語るのか」総論
野谷啓二「真理は西へと向かう：古典古代とキリスト教世界の結節点に立つウェルギリウス」
上月翔太「統合される複数の伝統：聖書叙事詩の成立と展開」
里中俊介「木村鷹太郎とプラトンの神話：「日本主義者プラトン」の発見と翻訳」
横道誠「それぞれの神話を生きること：ゲオルグ・フォルスター,アレクサンダー・フォン・フンボルト,エルンスト・ヘッケルの「統一と多様性」」
庄子大亮「世界認識の拡大と「失われた大陸」：アトランティスからレムリア,ムー大陸へ」
(*)(参考：中西悠喜「エッセイ・レヴュー：アラビア・イスラム文化圏におけるヘルメス関連文書とヘルメス観の歴史」慶應義塾大学言語文化研究所紀要53,2022年。)
(*)(参考：松村一男「古代地中海世界の宗教研究をめぐる動向：リュプケ『パンテオン』を中心に」(和光大学表現学部)表現学部紀要22,2022年。
(*)(参考：古川正昭「『ギリシャ詞華集』のギリシャ神話(3)」(八雲会編)へるん59,2022年。)
(*)(参考：中谷彩一郎『「ダフニスとクロエー」の世界像：古代ギリシアの恋物語』慶應義塾大学教養研究センター,2022年。)

(*)(参考：庄子大亮『世界の見方が変わるギリシア・ローマ神話』[「世界を読み解くためのギリシア・ローマ神話入門」2016年刊に加筆・訂正]河出書房新社,2022年。)
(*)(参考：宮元啓一訳著『新訳ミリンダ王の問い：ギリシア人国王とインド人仏教僧との対論』花伝社,共栄書房(発売),2022年。)
(*)中西恭子「エドワード・J.ワッツ著,中西恭子訳『ヒュパティア：後期ローマ帝国の女性知識人』(白水社,2021年)紹介と翻訳記」クロニカ：白百合女子大学キリスト教文化研究所所報47,2022年。
(*)(参考：鈴木悠理「初期近代イングランドを中心とした同性間の欲望の表象」(未来の人類研究センター)コモンズ2022(1),2022年。)
(*)(参考：西村貞二『1冊で読む世界の歴史』KADOKAWA,2022年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男・堀米庸三編『標準世界史年表』第 52 版,吉川弘文館,2022年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男・堀米庸三編『標準世界史年表』増補第 50 版,吉川弘文館,2022年。)
(*)(参考：文部省『中等歴史：東亜及び世界篇「東洋史・西洋史」』復刻版,ハート出版,2022年。)
(*)橋場弦「伊藤貞夫先生のご逝去を悼む」西洋古典學研究69,2022年。
(*)橋場弦「追悼文 伊藤貞夫先生を偲ぶ」史学雑誌131(6),2022年。
(*)安井萌「中学校歴史教科書におけるギリシア・ローマ史」岩手大学文化論叢11,2022年。
(*)塚原義央「書評 松本宣郎編『世界歴史大系 イタリア1—古代・初期中世』山川出版社,2021」ローマ法雑誌3,2022年。
(*)安井萌「書評 砂田徹著『共和政ローマの内乱とイタリア統合：退役兵植民への地方都市の対応』」西洋史学272,2022年。
(*)「BOOKS 熟読・斜読・積読 自然災害の歴史から防災・減災を考える[『歴史を変えた自然災害：ポンペイから東日本大震災まで』ルーシー・ジョーンズ著/大槻敦子訳]」Verdad28(1),2022年。
(*)(参考：フランチェスカ・トリヴェッラート著/玉木俊明訳『世界をつくった貿易承認：地中海経済と交易ディアスポラ』筑摩書房,2022年。)
(*)(参考：中金聡「Traduttore,traditore?：思想史研究における誤訳について」国士舘大学政治研究13,2022年。)
(*)「的射場敬一教授 略歴と業績」国士舘大学政治研究13,2022年。
(*)(参考：富田爽子『エリザベス朝の戯曲本におけるイタリア的要素の実証的研究』拓殖大学2017年,(科研費)2022年。)
(*)(参考：梶村哲矢「ソポクレス『オイディプス王』におけるオイディプスと「知」：エウリピデス『バッカイ』を参考にして」名古屋大学人文学フォーラム5,2022年。)
(*)田島充士「丹下和彦氏講演会「精神史としてのギリシア悲劇：前5世紀アテナイの知的状況」報告「古代ギリシア悲劇から学ぶ現代社会を生き抜くための対話力」(東京外国語大学総合文化研究所)総合文化研究25,2022年。)
(*)(参考：安川奈那「ギリシャ劇における女性蔑視表現と現代上演におけるその解決：令和二年度「学部学生による自主研究奨励事業」優秀賞受賞研究」(大阪大

学文学部演劇学研究室)演劇学論叢21,2022年。)
(*)(参考：矢越藍子「嘆願劇における「憐れみ」と登場人物の行動の関わり」名古屋大学人文学フォーラム5,2022年。)
(*)(参考：シラー著/内垣啓一・岩淵達治・石川実・野島正城訳『シラー名作集』新装版,白水社,2022年。)
(*)(参考：田端信廣『哲学的思惟と詩的思惟のインターフェイス：フィヒテvsヘルダーリン,イヴァーリス,Fr.シュレーゲル』晃洋書房,2022年。)
(*)(参考：小磯仁・寄川条路『ヘルダーリンとヘーゲル：学問の自由と自由の思想』社会評論社,2022年。)
(*)アーサー・ビナード再話/スズキコージ絵『ポチャッポチョッイソップ：カエルのくにについたわるおはなし』世界のむかしのおはなし,玉川大学出版部,2022年。)
(*)イソップ著/田野崎アンドレーア嵐・和爾桃子編訳；アーサー・ラッカム挿絵『夜ふけに読みたいはじまりのイソップ物語』平凡社,2022年。
(*)(参考：喬昭「『伊朔譚評』と『東方伊朔』の対比研究：拡張と解読をめぐって」(関西大学大学院東アジア文化研究科)東アジア文化交渉研究15,2022年。)
(*)(参考：石井道子「シュタインヘーヴェル版イソップ寓話集の利瑪竇『畸人十篇』に与えた影響」環日本海研究年報27,2022年。)
(*)「書評 吉川斉『イソップ寓話』の形成と展開：古代ギリシアから近代日本へ」知泉書館,2020」西洋古典學研究69,2022年。
(*)吉見孝夫「第14号に寄せて」イソップ資料14,2022年。
(*)府川源一郎「【自著紹介】『「ウサギとカメ」の読書文化史―イソップ寓話の受容と「競争」』」イソップ資料14,2022年。
(*)今村浩子「戦後の小学校国語教科書におけるイソップ教材」イソップ資料14,2022年。
(*)(参考：川島彬「イタリアにおける研究評価をめぐる議論の概要」(大阪大学社会技術共創研究センター)ELSI NOTE16,2022年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男・堀米庸三編『標準世界史地図』増補50版,吉川弘文館,2022年。)
(*)(参考：亀井高孝・三上次男・林健太郎編『標準世界史地年表』52版,吉川弘文館,2022年。)
(*)(参考：長谷川岳男・村田奈々子監修『一冊でわかるギリシャ史』河出書房新社,2022年。)
(*)(参考：中尾信一「政治的アレゴリーとしての映画--「スパルタクス」に賭けるられたもの」秋田大学教育文化学部研究紀要,人文科学・社会科学77,2022年。)
(*)「史学文献目録：西洋史(1)」史学雑誌131(1),2022年。
(*)高畠純夫「書評 栗原麻子著「互酬性と古代民主制：アテナイ民衆法廷における「友愛」「敵意」」史学雑誌131(2),2022年。
(*)(参考：小山田真帆「古代ギリシアからのコメント」女性とジェンダーの歴史9,2022年。)
(*)(参考：中澤務『紀元前5世紀ギリシアにおける哲学倫理思想の総合的解明―ソフィスト思想とその影響』関西大学(2017年),(科研費)2022年。)
(*)(参考：内山勝利『変貌するギリシア哲学』岩波書店,2022年。)
---「創造的発見の場徒手ての古典」/「古典の挑発力」/「英知と学知のあいだ」/「変貌する哲学史」/「プラトン的対話について」/「哲学の始点における断片的対話」/「ギリシア・コスモポリタン列伝」/「宇宙誌の文体」/「人の語りとしてのロゴス」/「解体する自然のさ中なる生」/「西洋古典世界の植物相,あるい

はJ.E.レヴンの事」/「失われたテクストを求めて」/「古代著作の再発見」/「連作短歌調『イリアス』」/「乱調する言葉の群れ」/「寺田寅彦とルクレティウス」/「『経国美談』と古代ギリシア精神」/「ガレノス覚書」/「「賢者」プルタルコス」

(*)(参考：シャルル・ペパン著/永田千奈訳『フランスの高校生が学んでいる10人の哲学者』(プラトン,アリストテレス,ニーチェ)草思社,2022年。)

(*)(参考：石塚正英『歴史知の百学連関：文明を支える原初性』社会評論社,2022年。)

----「先史の精神あるいはプラトンの相対化」/「神話の三類型」/「プシュケーという幻想態度」

(*)(参考：プラトン著/中澤務訳『ゴリギアス』光文社古典新訳文庫,光文社,2022年。)

(*)(参考：納富信留『西洋哲学の根源』放送大学教育振興会,2022年。)

(*)(参考：瀬口昌久「すべての知覚は真であるのか? ; ルクレティウスの「錯覚・幻覚・夢」」古代哲学研究54,2022年。)

(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(30)：日本神道の危機はまず回避された：小室圭さんと眞子様の結婚」Will1月号(205),2022年。)

(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(31)：惜しみなく愛は奪与ふ、ふたたび」Will2月号(206),2022年。)

(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(32)：知は概念の広がりであり、普遍ではない」Will3月号(207),2022年。)

(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(33)：日本インテクチュアルズ崩壊の後塵を祓う」Will4月号(208),2022年。)

(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(34)：「ジェンダー」とは女性快楽主義者の墓標であった」Will5月号(209),2022年。)

(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(35)：ヘーゲル弁証法のフェイクからJ.バトラーのインチキまで」Will6月号(210),2022年。)

(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(36)：マルクス主義 フェミニストの蹉跌」Will7月号(210),2022年。)

(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(37)：いったい誰が「野蛮人」なのか?マルクスか,プーチンか,アタリか,男たちか」Will8月号(211),2022年。)

(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(38)： 日本フェミニズムの崩壊」Will9月号(212),2022年。)

(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(39)：宗教は自然科学の神でよいではないか」Will10月号(214),2022年。)

(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(40)：シモーヌ・ヴェイユは死の間際エピキュリアンとなっていた」Will11月号(215),2022年。)

(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(41)：ヘーゲル・マルクスの弁証法を徹底的に破壊する」Will12月号(216),2022年。)

(*)(参考：松浦和也「人間並みだが知性から離れたところにある幸せ—古典期ギリシアのエウダイモニア観より」(東洋大学国際哲学研究センター)国際哲学研究11,2022年。)

(*)(参考：飯田清昭「紙が演出した文明史上の交代劇」紙パ技協誌76(2),2022年。)

(*)(参考：小川拓郎『ヘレニズム及び古代ローマの建築物・建築材料・測量道具における

歪みの可視化とその応用：オスティア・ポンペイ・ヘルクラネウムを中心としたレーザー実測及び分析』九州大学,博士(工学),甲第15850号,2022年。)
(*)(参考：デイヴィッド・ルーニー/東郷えりか訳『世界を変えた12の時計：時間と人間の1万年』河出書房新社,2022年。)
(*)(参考：T.フリース「古代ギリシヤの天文計算機アンティキテラの機械」日経サイエンス52(5),2022年。)
(*)(参考：大井万紀人「ガリレオの物理：(1)アルキメデスとアリストテレスからの影響」専修自然科学紀要53,2022年。)
(*)(参考：谷川多佳子『メランコリーの文化史：古代ギリシアから現代精神医学へ』講談社,2022年。)
(*)(参考：ガレノス著/今井正浩「ガレノス『胚子の形成について』--古典ギリシア語原典からの翻訳と注解」(弘前大学人文社会学部)人文社会科学論叢12,2022年。)
(*)(参考：ガレノス著/今井正浩「ガレノス『精液について』--古典ギリシア語原典からの翻訳と注解」(弘前大学人文社会学部)人文社会科学論叢13,2022年。)
(*)(参考：佐藤猛・佐々木千佳編『ペストの古今東西：感染の恐怖,終息への祈り』秋田文化出版(発売),2022年。)
(*)(参考：児島秀樹「経済史から見た法制度の変遷：古代初期(紀元前1130—前501)」明星大学経済学研究紀要53(1-2),2022年。
(*)(参考:児島秀樹「経済史から見た法制度の変遷:古代中期(紀元前500年—後130年):Middle Ancient World,BCE500-CE130」明星大学経済学研究紀要54(1),2022年。)
(*)師尾晶子「書評 岸本廣大著『古代ギリシアの連邦：ポリスを超えた共同体』」西洋史学論集59,2022年。
(*)(参考:永井裕子『模倣から再創造へ—ルネサンス期イタリアの工房制作とその後世までの批評・受容』日本女子大学2020年,(科研費)2022年。)
(*)(参考：井上秀太郎「ナポリとオリンピア：ローマ帝国における二つの祭典競技」史海68,2022年。)
(*)(参考：納富信留「ソフィストたちのオリンピック：文化・政治・哲学談義」西洋古典學研究69,2022年。)
(*)(参考：阿部衛「ローマ帝政前期における競技文化」西洋古典學研究69,2022年。)
(*)(参考：宮城徳也「ローマ文学に見られるオリンピア競技会のイメージ」西洋古典學研究69,2022年。)
(*)(参考：佐藤昇「体育競技への眼差しと軍事：変わりゆくギリシア世界の中で」西洋古典學研究69,2022年。)
(*)(参考：木原志乃「報告コメント」西洋古典學研究69,2022年。)
(*)(参考：小池昇「報告コメント」西洋古典學研究69,2022年。)
(*)(参考：橋場弦「趣旨説明」西洋古典學研究68,2022年。)
(*)(参考：寒川恒夫「オリンピックの文明論」現代スポーツ評論44,2022年。)
(*)(参考：鈴村裕輔「オリンピック研究が国際文化に果たす役割」インターカルチュラル：日本国際文化学年報20,2022年。)

(*)(参考：春日芳美「オリンピックとオリーブ冠：勝者に「月桂冠」が与えられるという誤解について」大東文化大学紀要.人文科学60,2022年。)
(*)(参考：ムタファ・ケスス著/芦立一義訳『オリンピック100話』文庫クセジュ,白水社,2022年。)
(*)(参考：橋場弦『古代ギリシアの民主政』岩波新書,岩波書店,2022年。)
(*)(参考：橋場弦「賄賂研究の射程」歴史評論861,2022年。)
(*)橋場弦「書評 栗原麻子著『互酬性と古代民主政治—アテナイ民衆法廷における「友愛」と「敵意」』」史林104(2),2022年。
(*)師尾晶子「書評 岸本廣大著『古代ギリシアの連邦：ポリスを超えた共同体』」西洋史学論集59,2022年。
(*)(参考：加藤英一「古代ギリシヤの正義論」横浜商大論集55(2),2022年。)
(*)(参考：デモステネス著/栗原友子・吉武純夫・木曽明子訳『デモステネス弁論集』京都大学学術出版会,2022年。)
(*)(参考：谷本純一「特権から自由への発展についての考察：アレントの賤民論とグラムシのサバルタン論の関連と差異を中心に」福岡教育大学紀要,第二分冊・社会科編71,2022年。)
(*)(参考：藤井崇『ヘレニズム期における小アジアのポリスとローマ帝国主義に関する総合的研究』関西学院大学2018年，(科研費)2022年。)
(*)(参考：メアリー・ビアード/森夏樹訳『12人の皇帝たち：古代から現代までの権力のイメージの変遷をたどる』青土社,2022年。)
(*)(参考：毛利晶『一つの市民権と二つの祖国：ローマ共和政下イタリア市民』京都大学学術出版会,2022年。)
(*)(参考：井上尚英「世界の片隅で(23,24)イタリア再興をめざしたムッソリーニの栄光と挫折(上下)」臨牀と研究99(4,5),2022年。)
(*)(参考：カーラ・クーニー/梅田智世訳『エジプトの女王：6人の支配者で知る新しい古代史』ナショナルジオグラフィック別冊,日経ナショナルジオグラフィック社,2022年。)
(*)丸亀裕司「書評 福山裕子著『ダムナティオ・メモリアエ：つくり変えられたローマ皇帝の記憶』」西洋史学論集59,2022年。)
(*)辻隆太郎「「新世界秩序」陰謀論と「第三のローマ」としてのロシア」現代思想50(6),2022年。
(*)(参考：曽田長人『人文主義者とナチズム—その抵抗・傍観・協力の類型をめぐる考察』東洋大学2017年,(科研費)2022年。)
(*)(参考：「古代ギリシアの大国の攻防が示す：力のロシア・中国に日米欧が「負ける」?」週刊ダイヤモンド110(23),2022年。
(*)(参考：土井邦雄「民主主義の歴史を持つギリシャと神秘的な印度」(日本医学物理学会)医学物理42(2),2022年。)
(*)(参考：大西広「国家奴隷制,家父長制的奴隷制と国家農奴制,封建農奴制：古代ギリシャ・ローマとの関わりでの中村(1977)再読」新しい歴史学のために300,2022年。)
(*)(参考：後藤弘州「ローマ共和政期における搾取行為遺言及び死因贈与に関する素描」四天王寺大学紀要70,2022年。)

(*)(参考：菅尾暁「〈査読付き論文〉家子の組合契約に基づく債権の相殺可否と追認担保について：D.16,2,9(Paul.32 ad ed.)」ローマ法雑誌3,2022年。)
(*)(参考：佐々木健「〈学会動向〉スベッロ便り2021」ローマ法雑誌3,2022年。)
(*)(参考：「〈学会動向〉第5回大会(日本ローマ法研究会)報告要旨集」ローマ法雑誌3,2022年。)
(*)(参考：林智良「〈学会動向〉「国際古代法史学会(SIHDA)の友による学術集会(Recnotre Scientifiques des amis de la SIHDA」ローマ法雑誌3,2022年。)
(*)宮坂渉「書評 清水悠「買主としての使用取得」の研究—usucapio pro emptore--」ローマ法雑誌3,2022年。
(*)松本和弘「〈学会動向〉日本ローマ法研究会第5回大会を終えて--報告者・聴講者としての所感」ローマ法雑誌3,2022年。
(*)佐藤団「西本顕と黎明期の西洋法制史(1)」法学論叢190(4),2022年。
(*)吉原丈司他編「上山安敏先生略年譜・著作目録：上山安敏先生追悼」5訂版,都筑印書館(制作),2022年。

(*)(参考：古田博司「たたかうエピクロス(42)：ヘーゲル弁証法の暴力性とゲルマンの呪文」Will1月号(217),2023年。)
(*)(参考：山川偉也『パルメニデス−錯乱の女神の頂上を越えて』講談社選書メチエ,講談社,2023年。)
(*)(参考：周藤芳幸『古代地中海世界における知の動態と文化的記憶』名古屋大学(2018年),(科研費)2023年。)
(*)(参考：樋渡彩『イタリア北部のアドリア海沿岸及びその周辺における地域形成史に関する研究』近畿大学(2020年),(科研費)2023年。)
(*)(参考：金沢文緒『旅行者の娯楽としての風景画制作—18世紀グランド・ツアーにおけるアルカディア体験』岩手大学(2020年),(科研費)2023年。)
(*)(参考：『中世フランス語版セネカ『倫理書簡集』の文献学的研究』京都大学(2021年),(科研費)2023年。)
(*)(参考：吉武純夫『ギリシア悲劇とその時代におけるカロスの概念』埼玉大学(2020年),(科研費)2023年。)
(*)(参考：奈良澤由『15-16世紀ヴェネツイアにおける「東西教会合一」を象徴する視覚イメージ』の研究)』国際ファッシン専門職大学(2020)年,(科研費).2023年。
(*)(参考：高橋秀樹『古代東地中海沿岸域における民主政型言論文化と王政型言論文化の往還とその中継文化』新潟大学(2020年),2023年(科研費)。
(*)(参考：橋場弦『古代ギリシアにおける「民主政の技法」とその伝播に関する政治文化史的研究』東京大学(2020年),(科研費)2023年。)
(*)(参考：吉武隆一『古代ヘレニズム建築の展開に関する研究 I：ペラ王宮建築の成立過程の解明』熊本大学(2020年),(科研費)2023年。)
(*)(参考：安田光男『古代ローマ住宅ペリスタイル列柱における視角効果による空間演出の手法についての研究』京都美術工芸大学2023年。

(*)参考：金澤百合枝『エトルリアを機軸とした文化的連続性とその研究流域の確立』多摩

美術大学(2021年),(科研費)2024年。)
(*)參考：松浦高志『碑文資料を用いたギリシア語初期叙事詩の言語研究の書き換え』東京大学(2022年),(科研費)2024年。)
(*)(參考：金澤修『ヘレニズム辺境のギリシア思想の東漸とインド思想からの還流,相互応酬の統合的復元』東京都立大学(2021年),(科研費)2024年。)
(*)(參考：波部雄一郎『ヘレニズム・ローマ時代のギリシア都市における青年市民層の研究』大阪大学(2021年),(科研費)2024年。)
(*)(參考：飯坂晃治『古代ローマのアリメンタ制度(子弟養育制度)に関する研究』別府大学(2020年),(科研費)2024年。)
(*)(參考：松原庸介『中東・北アフリカ地域におけるヘレニズム基盤の継承に関する都市文献史的研究』筑波大学(2021年),(科研費)2024年。)
(*)(參考：小坂俊介『古代末期西方セナトール貴族のローマ支配離脱過程—内戦の分析を通して』名古屋大学(2021年),(科研費)2024年。
(*)(參考：吉川斉『西洋金星「イソップ物語」の諸相および伝播に関する文献学的研究』東京大学(2021年),(科研費)2024年。)
(*)(參考：『古代ギリシアにおける球面幾何学とその天文学への応用の天文学史上の位置付け』東京大学(2022年),(科研費)2024年。

(*)(參考：高橋美帆『グランドツアー期以降の英国女性作家とイタリアをめぐる「移動・移住」の諸相の研究』関西大学(2022年),(科研費)2025年。)
(*)(參考：田中咲子『統計分析に基づく古代ギリシア墓碑体系の再構築』新潟大学(2022年),(科研費)2025年。)
(*)(參考：倉持光希『17世紀イタリアにおける共同制作絵画に関する包括的研究』神戸学院大学(2022年),(科研費)2025年。)
(*)(參考：渡邉顕彦『ギリシア神話に回収されるキリシタン：近世擬古典ラテン語文学における日本の受容』大妻女子大学(2022年),(科研費)2025年。)
(*)(參考：三浦あゆみ『ウィクルフ訳聖書に見る,ラテン語からの翻訳に基づく語彙・文法とその歴史的意義』大阪大学(2022年),(科研費)2025年。)
(*)泰田伊知朗『日本と中華圏における西洋古典の受容』東洋大学2020年,(科研費)2025年。
(*)(參考：中谷彩一郎『日本における西洋古典受容に関する包括的・学際的な国際共同研究』慶應義塾大学(2021年),(科研費)2025年。)
(*)(參考：桑山由文『ローマ・ビザンツ期の西地中海島嶼部—「周縁」のローマ人意識と帝国支配』京都女子大学(2022年),(科研費)2025年。)
(*)(參考：近藤智彦『ストア派におけるプラトンとアリストテレス：受容研究にもとづく哲学史刷新の試み』北海道大学(2021年),(科研費)2025年。)
(*)(參考：高木眞佐子『キャクストン版『イソップ物語』成立と継承の系譜』杏林大学(2022年),(科研費)2025年。)
(*)内田慶一『イソップ東漸の総合的研究—文化交渉学の視点から』関西大学2022年,(科研費)2025年。
(*)(參考：堀賀貴『ウィトルウィウス後の古代ローマの庶民建築』九州大学(2022年),(科研費)2025年。)
(*)(參考：三村太郎『アッバース朝でのギリシア科学への関心の勃興とは：ハバシュのズィ

ージュを手掛かりに』東京大学(2022年),(科研費)2025年。)

(*)(参考：南雲泰輔『ローマ帝国時代におけるヘレニズム的世界認識の継承と変容の研究』山口大学(2021年),(科研費)2026年。)
(*)(参考：久保佑馬『16世紀南ドイツ対抗宗教改革とヴェネツィア派の芸術家たち』東京大学(2021年),(科研費)2026年。)
(*)(参考：小黒康正『近現代ドイツ野文学・思想における「第三の国」--成立・展開・変容』九州大学(2021年),(科研費)2026年。)
(*)(参考：林智良『世界的文脈から見た日本のローマ法研究受容と発展とに関する総合的比較研究』大阪大学(2022年),(科研費)2026年。)

【出版年不明】

[不明] 『グラディエーター：血塗られた実像』BBCドキュメンタリ特選：歴史・心理学編,Maruzen audiovisual library
[不明] 『トロイの木馬；でこしろ；海へ行った湖の魚；空をおよぐさかな』ビデオレコード,まんが世界昔話32,TDKコア
[1--] 与田準一訳『イソップ童話集』点字版,[日本ライトハウス]
[18--] 地図資料「ホメロス時代のギリシアと隣接諸国」(1895年頃制作か。出版者不明)
[19--] 池田大作『ヨーロッパの印象記：トインビー博士との5日間』創価学会。
[199--?] TBSパック・イン・ビデオ製作著作『古代地中海伝説』謎と不思議の旅,TBS(発売)。
[19--] 三谷隆正「政治・法律」社會經濟體系10,日本評論社。
[192--] 三谷隆正『宗教と法律』出版者不明。
[19--] 『古代オリエントとギリシア・ローマ文明』(世界史大系1,アポロンビデオ,アポロン)
[19--?] 『古代エーゲ海域の秘宝』(出版者不明)
[19--] 三輪福松『古代エトルリア美術の探究』シネ・アート(制作)
[19--] ギリシア政府観光局『GREECE』
[19--] 教育図書出版・山田書院編『イタリア・ギリシア』(教育図書出版・山田書院)
[19--] ディレクターズ・ハウス制作『ギリシャ：エーゲ海・アテネ』ビデオデータ,ポリドール(販売)
[19--] NHKサービスセンター『ビーナスの微笑：古代ギリシア』(NHKルーブル美術館3)
[19--] NHKサービスセンター『皇帝たちの光芒：古代ローマ』NHKルーブル美術館4)
[19--] NHKサービスセンター『海底からの出発：地中海沈没の壺・アンフォラ』(NHK海のシルクロード,ポニーキャニオン(発売)。)
[19--] 『ギリシア芸術展』(開催年不明,西部百貨店)
[19--] 小笠原茂介「イスキアの月」(→詩集『地中海の月』所収,2001年。)
[19--] 小笠原茂介「アプロディテの白い泡」(→詩集『地中海の月』所収,2001年。)
[19--] 伊藤健三註解『ギリシア神話』(直読直解アトム英文双書15,學生社)
[19--] 伊東好次郎編『イソップ物語』(教学研究社)

[19--?] 太宰治原作/廣瀬常敏脚本・演出「走れメロス」東京演劇アンサンブル公演(出版者不明)
[19--?] 木下恵介監修「走れメロス・春を告げる鳥」赤い鳥のこころ 日本名作童話シリーズ2,日本コロムビア(発売)
[19--?] 有島武郎「ローマにて思つたこと」(『現代人生論全集・第12(人生論語録集』所収,雪華社,1966年。)
[199-] フレッド・ニプロ監督/ルー・ウォーレス原作/ケイリー・ウィルソン,ベス・メレディス脚本『ベン・ハー(上下)』淀川長治監修,Classic film colletion,アイ・ヴィー・シー(発売)
[19--?] サム・ジンバリスト製作・ウィリアム・ワイラー監督『ベン・ハー=Ben=Hur』MGM/UA,ビデオレコード。
[19--?] 佐々木英也解說『ポンペイの遺跡』(美術出版社,イタリア美術：Scala slides)
[19--?] ジョヴァンナ・マージ/むらたいざ訳『ポンペイのすべて：蘇生した都』(ポネキ出版社)
[19--?] A.デ フランチシス・文『ポンペイその文明と美術：オプロンティス・エルコラーノ・スタービアエ』(インテルディプレス)
[出版年不明]BBC(英国放送協会)『グラディエーター：血塗られた実像』Maruzen audiovisual library,BBC education & Training,BBCドキュメンタリー特選,バイリンガル版,丸善。
[19--] サム・ジンバリスト製作；ウィリアム・ワイラー監督『ベン・ハー=Ben-Hur』(ビデオレコード,MGM/UA)
[19--] 今泉篤男編『世界の美術：古代より現代へ』(光村図書)
[19--] 高山十一・今堀誠二『世界史』(改訂,修文館出版)
[19--?] 『古代ギリシア文明』(Gemco video library,文明のおこりシリーズ,ジェムコ出版)
[19--?] 『古代ローマ文明』(Gemco video library,文明のおこりシリーズ,ジェムコ出版)
[19--?] 『アレクサンドロス大王とヘレニズム時代』(Gemco video library,文明のおこりシリーズ,ジェムコ出版)
[19--] テオ・アンゲロプロス監督・脚本；ペトロス・マルカリス脚本協力；ニコス・アンゲロブロス製作『アレクサンダー大王』Sony Video Software Internatuonal)
[1990前後] 『エジプトからエジプトへ』新世界紀行,パック・イン・ビデオ製作著作,歴史街道編,アレキサンダー大王の道1,TBS；パック・イン・ミュージック(発売)
[1990前後] 『エジプトからインダスへ』新世界紀行,パック・イン・ビデオ製作著作,歴史街道編,アレキサンダー大王の道2,TBS；パック・イン・ミュージック(発売)
[19--] 鈴木良徳『古代オリンピア祭』(日本オリンピック委員会)
[19--] 朝鮮體育協會『歴史深き半島のオリンピアード：綜合競技プログラム』
[19--] Fontc『泰西名画によるピアノ曲：青島広志ピアノ作品集』(「オリンポスは笑う」)
[19--] 『日本の作曲家によるオリジナル作品集(1-5)』(青島広志「オリンポスは笑う」)(東芝EMI)
[19--] 小泉源太郎『アトランチス大陸』(ムーブックス,大陸書房)
[1900年前後]『謎のエーゲ海：アトランティス幻想』ビデオデータ,TBS：パック・イン・ビデオ(発売),
[19--] 宇井あきら作曲『宇井あきら作曲によるシャンソン曲集』(津田誠「エーゲ海の

かもめ」)(全音楽譜出版社)

[19--?] 『エーゲ海の誘惑ギリシャ』(文藝春秋発売,Bunshun travel・Video visits,ビデオレコード

[19--] 『スペインとエーゲ海クルーズ』(文藝春秋発売・販売,ビデオデータ)

[19--] 『カルタゴとサハラ・地中海リゾート』(文藝春秋社発売・販売,ビデオレコード)

[19--] 『エーゲ海：MUSIC BY 細野晴臣・石川鷹彦・松任谷正隆』(録音ディスク,CBSソニー)

[19--] 『エーゲ海』(録音ディスク,CBSソニー)

[19--] 『エーゲ海に捧ぐ』(録音ディスク,ポリドール)

[19--] 『エーゲ海に捧ぐ』』(録音ディスク,ワーナー・パイオニア)

[19--] 『エーゲ海に捧ぐ；エーゲ海のリーザ』』(録音ディスク,コロムビア)

[19--] 『エーゲ海のリーザ』』(録音ディスク,RVC)

[19--] 『エーゲ海に捧ぐ/最新スクリーンのすべて』』(録音ディスク,ビクター)

[19--] 『エーゲ海の真珠/青春の嵐』』(録音ディスク,ポリドール)

[19--] 『エーゲ海の旅：恋ごころ』』(録音ディスク,ビクター)

[19--] 『エーゲ海の旅・かもめはかもめ』』(録音ディスク2枚,クラウン)

[19--] 『エーゲ海のタビ；夢追い列車』』(録音ディスク,テイチク)

[19--] 『恋のアランフェス・エーゲ海の真珠―魅力のヒットポップスベスト32』(録音ディスク2枚,クラウン)

[19--] 『エーゲ海に捧ぐ/ハリケーン；愛の映画音楽全曲集 愛のロードシアター,Screen Theme Double Deluxe』(録音ディスク,ポリドール)

[199--] 『ギリシア・エーゲ海の旅 碧い海と白い島に誘われて：映像と音楽』(ビデオディスク,ポリドール)

[199--] 深見青山作曲『エーゲ海の夕陽』(録音カセット,パワフルコスモメイト）

[19--] 松屋銀座美術部『ガンダーラ彫刻展』

[196-] 御茶の水女子大学編『ギリシア・ローマ文化：一般教育総合コース』

[199-] 放送大学学園・メディア教育開発センター制作『古代ギリシアと「新しい考古学」』(放送大学ビデオ教材,放送大学教育振興会)

[19--?] 放送大学学園・メディア教育開発センター制作『ガンダーラ：文化の受信と発信』(放送大学ビデオ教材,放送大学球威句振興会)

[19--?] 『シルクロード：文明交流の過去・現在・未来：第2回福岡国際シンポジウム公演要旨集』(第2回福岡国際シンポジウム事務局)

[19--] 『ビザンチンの栄光：聖なる世界ロマネスク』ビデオディスク,ヨーロッパ美術史, NHKソフトウェア）

[19--] フリドリッヒ・ヒルト著/矢野仁一講述・高桑駒吉譯『清朝史,大秦國考=支那及羅馬東領(China and the Roman Orient)』(早稲田大學出版部)

[19--] 武田清子『An Essay on Kagawa Toyohiko : the place of man in his theory』Internatinal Christian University.

[19--] 塚本虎二訳『福音書・使徒1-2』(教会無き人々のための口語新約聖書,聖書知識社)

[19--] アナトリア文明博物館執筆・編集『アナトリア文明博物館』(Dönmez Offset)

[19--] 竹内健「日本的狂気の淵源を探る」(木村鷹太郎等)「パイデイア」12
[19--] 西尾幹二『初期のニーチェ』(第1,2分冊,出版者不明)
[19--] 宮西光雄『ミルトン文献手帖』(宮西光雄自筆)
[19--] 佐藤勇『新ギリシア悲劇物語』(佐藤勇)
[19--] 大野真一『エウリピデス『バッカイ』(バッカスの女達)試論』(出版者不明)
[19--] 水田洋『イタリア思想史論集(1,2,3)』(水田洋)
[19--] 池田榮「マルクス・アウレーリウス『反省録』」法學論叢43-3
[19--?] 市河三喜・山口武美共編『日本シェイクスピア書誌(第1-16)』(1冊,研究社)
[1990前後]『地中海大紀行 : 幻のカルタゴ』新世界紀行,失われた文明編,TBSパック・イン・ビデオ。謎と不思議の旅編,TBS(発売),ビデオレコード。
[1990前後]『古代地中海伝説』新世界紀行, 謎と不思議の旅編,TBS(発売),ビデオレコード。
[19--] A.デフランシス・文『ポンペイその文明と美術：オプロンティス・エルコラーノ・スタービアエ』インテルディプレス)
[200-] 『アトランティス：帝国最後の謎』(ブエナビスタホームエンターテイメント(発売),レンタル専用ビデオレコード)
[20-] W.シェイクスピア/小田島雄志訳『トロイラスとクレシダ』(リモートファイル,白水Uブックス24,シェイクスピア全集,EBSCO)
[20-] スコット・ヒックス監督,ウィリアム・ゴールドマン脚本,スティーヴン・キング原作『アトランティスのこころ』(ワーナー・ホームビデオ)
[20--?] 『ガンダーラの仏たち』シルクロード,ユーキャン企画・制作7,ユーキャン,ビデオレコード。
[20--?] 『シチリアの古代ローマ美術・考古学調査』(第1,2次。筑波大学芸術学系)
[20--?] 北田和広『ヨーロッパ浪漫紀行：北田和広画文集』(中国新聞社)
[20--] 橋本滋男『新約聖書ギリシア語入門』(出版者不明)
[20--?] NHK取材班編『写真集シルクロード：ローマへの道』(日本放送出版協会)
[20--] 美術出版社『ポンペイの遺跡』(イタリア美術・佐々木英也解説3[静止画像])
[20--] アートウエア・コミュニケーションズ制作『ポンペイの遺跡；ヴェネツィアの潟』キープ(発売)。)
[200?--] 『ローマ：芸術・歴史・考古学：ローマ・ヴァティカン市国 システィーナ礼拝堂 ヴィラ・デステ・ハドリアヌス邸宅』Lozzi Roma)
[20--] G.E.ボワソナード/久野桂一郎訳『経済学者ラ・フォンテーヌ』electronic bk.機械可読データファイル,EBSCO)
[?] 加藤輝雄『ギリシア文明のあけぼの』(サンエイジング)
[?] 山川偉也「A.Szaboのギリシア演繹数学=エレア起源説をめぐる若干の問題」科学史研究18(129)

●著譯者版元關聯・邦人名

［あ］IN生④230大1.B/
あ、ひ①77明28.C/
あ、ま③67明28.C/
相内武千雄④540昭11.D/
④636昭16.D/
愛花仙史④384大15.D/
合川太郎②158昭12.C/

相川春喜②28昭10.E/
②116昭16.F//④519昭10.E/
愛契 → 巖本善治
愛軒居士（小林）①52明22.D//
③34明22.A//④78明22.D/
④96明26.B/④101明27.B/
相澤秀一④576昭13.E/
相澤孝友①368昭8.E//
②88昭14.E//④479昭8.E/
逢澤武夫①348昭7.C/
④443昭6.C/④457昭7.C/
相澤佛典③255昭5.D//
④434昭5.D/
相澤友④608昭15.C/
愛山→ 山路愛山
愛山逸民 → 山路愛山
愛山生→ 山路愛山
山路愛山②192明25.E/
②195明26.D//③87明31.B/
愛史生①91明32.C/
相島龜三郎①146明43.B/
①159明45.D/
愛書趣味社④395昭2.D/
愛眞理生③72明29.B/
愛清子②181明22.E/
會津八一④719[大9]/
④771[昭16]/
會田愛三郎①26明11.B/
①34明16.C//③20明16.C/
會田梅太郎①283昭2.F//
②30昭10.F//④578昭13.F/
會田倉吉④579昭14.A/
會田軍太夫④598昭14.F/
會田慶司②11昭10.B/
②54昭12.B/
會田剛④23[24933]/
會田範治①297昭3.E/
①311昭4.E/
會田由②118昭17.B//
④655昭18.A/
會田雄次②95昭15.B//
④575昭13.D/④613昭15.C/
④636昭16.D/④653昭17.E/
④661昭18.C/
相田隆太郎④728[昭1]/
愛讀生④217明44.B/④225大1.B/
④231大1.B/
相葉伸④491昭9.C/④498昭9.E/
愛楳課餘②179明22.B/
②183明23.B/
愛楳仙士②177明21.F/
②179明22.B/②183明23.B
相原④649昭17.C/
相原一郎介④260大3.B/
相原生③142明40.B/
④173明40.A/
相原信作①314昭5.B//
②108昭16.C/
相原俊雄②267昭5.E/
愛萩居士②171明19.C/
愛民生②218明36.C/
愛柳子④88明24.D/
愛隣生④34明11.B/
阿呿子②218明36.C/
青木（助教授）②242大7.A/
青木巖［學士］①270大15.D/
①274昭2.B/①275昭2.B/
①277昭2.B/①288昭3.B/
①302昭4.B/①323昭5.E/
①327昭6.B/①342昭7.B/
①344昭7.B//②12昭10.B/
②15昭10.B/②48昭11.E/
②59昭12.C/②64昭12.E/
②65昭12.E/②69昭13.B/
②75昭13.E/②94昭15.B/
②97昭15.C/②98昭15.C/
②106昭16.B/②108昭16.C/
②110昭16.C/②113昭16.E/
②121昭17.C/②122昭17.C/
②129昭17.F/②133昭18.C/
②134昭18.C/②141昭19.B/
②142昭19.B/②142昭19.C/
②143昭19.C//③238昭2.B/

③283昭10.E/③316昭16.C/
③317昭16.E//④389昭2.B/
④563昭12.E/④566昭13.B/
④571昭13.C/④587昭14.B/
④634昭16.C/④635昭16.D/
④638昭16.E/④646昭17.C/
④647昭17.C/④648昭17.C/
④653昭17.E/④660昭18.C/
④667昭19.C/④732[昭3]/
④736[昭4]/④742[昭7]/
④755[昭11]/④772[昭17]/
④807[昭17]/
青木榮次郎④782[明15]/
青木鶴川②221明37.D//
③130明37.D/
青木健一④619昭15.D/
④765[昭14]/④773[昭17]/
青木健作④282大4.D/
青木恒三郎④686[明18]/
青木幸太郎④692[明23]/
青木佐次郎④313大7.B/
④316大7.B/
青木茂男④725[大13]/
青木重臣②253大14.E
青木昌吉①263大15.A//
③241昭2.D//④310大7.A/
④311大.A/④327大8.D/
④350大12.A/④370大14.D/
④372大14.D/④462昭7.D/
青木庄藏④363大14.A/
④490昭9.B/
青木萃一④752[昭10]/
青木輔清［ダイヤモンド英和掌中字典］①16明6.C/
①37明17.G//②155明6.G//
③4明6.G/③10明9.G/
③24明18.G//④29明6.G/
④782[明7]/
青木進④247大4.A/
青木生④285大5.A/
青木精一①19明8.E/
青木征次郎④376大15.B/
青木先孝④676[明6]/
青木隆④190明41.G/
④310大6.G
青木武壽④691[明20]/
青木匡①29明12.E/
青木孝義①267大15.B/
①271大15.E//④375大15.B/
青木恒三郎④782[明17]/
④783[明20]/
青木律彦④701[明35]/
青木武助①108明36.D/
①109明36.D//③124明36.D/
青木兒①367昭8.D/
青木碧水①85明31.B/
青木富士④690[明20]/
青木操①70明26.B/
青木利七④388昭2.B/
④391昭2.B/
青木良吉②29昭10.F/
青江義民①26明11.A/
青田錄郎③210大8.D/
青地林宗①9［132］//
④25[24978]/
青野季吉①272大15.E/
①275昭2.B/①309昭4.E//
④553昭12.B/④730[昭2]/
④772[昭17]/
青野敏夫②251大14.B/
青野友三郎①91明32.D/
青葉山人④708[明42]/
④709[明43]/④710[明44]/
④713[大3]/④718[大7]/
青葉生④418昭4.C/
青柳善吾②44昭11.D//
④537昭11.D/
青柳高鞆④43明14.D/
青柳猛（有美、有美狂生、善魔の子有美）①79明29.B/
①95明33.D/①369昭8.F//
③87明31.B/③88明31.C/
③89明31.D/③92明32.B/
③94明32.C/③96明32.D/

③100明33.B/③103明33.D/
③106明34.B/③117明36.B/
③268昭7.F//④137明35.B/
④452昭7.B/④480昭8.F/
青柳正廣④575昭13.D/
青山新③270昭8.B/
青山學院神學部④588昭14.C/
青山萬馬④111明29.B/
青山清松②103昭15.G/
青山武雄④773[昭17]/
青山胤通②181明22.F//
③39明22.F/
青山爲吉①248大13.D/
青山超三③21明17.B/
青山傳導師④427昭5.B/
青山督太郎③241昭2.D/
青山秀夫③282昭10.E/
青山昌樹②250大13.D/
青山政德④338大10.B/
青山正治②133昭18.C/
青山正文①283昭2.F/
青山道夫①386昭9.E//
②285昭9.C/
青芳勝久①246大13.C//
④348大11.D/④360大13.C/
④370大14.D/④426昭5.B/
赤井米吉②254大15.A//
④363大14.A/
赤池濃④748[昭9]/
赤池芳雄②249大12.E/
赤石捨四郎④351大12.B/
④354大12.D/
赤石[司]④136明35.B/
赤岩榮④554昭12.C/
④601昭15.B/
赤尾藤市④757[昭12]/
④761[昭13]/
赤木格堂①152明44.C/
赤城和彦②83昭14.B/
赤城啓④528昭11.B/
赤木健介②97昭15.C/
②117昭17.A/④778[昭19]/
赤木桁平③208大7.D/
赤木俊②123昭17.C/
②146昭19.F//④646昭17.C/
④669昭19.F/
赤木俊雄④409昭3.E/
赤坂龜次郎④70明20.D/
赤坂助次郎④220明44.C/
赤坂新二①308昭4.D/
赤坂藤太①26明11.B/
赤坂萬踐舘④238大1.D/
赤坂□①27明11.E/
明石朝霧①58明23.F//
④85明23.F/
明石朝幹④28明5.G/
明石[の]浦人/④313大7.B/
④323大8.B/
明石居士④102明27.C/
赤司繁太郎(嚼花)
① 95明33.D/①99明35.B/
①115明37.D/①136明41.B//
③66明28.B/③113明35.B/
③117明36.B//④137明35.B/
④155明37D/④223明44.G/
④206明43.B/④218明44.B/
④699[明32]/
明石志津摩(朝幹)④675[明5]/
赤司新三郎③28明20.C//
④68明20.C/
明石染人①272大15.F/
明石鐵也④753[昭10]/
赤司裕④389昭2.B/
赤司麗粹③62明27.C/
③69明28.D//④113明29.D/
④116明30.C/
赤澤義人③150明42.B/
赤土正眞②127昭17.E/
我妻榮②67昭12.G/②78昭13.G//
③300昭13.G/
赤とんぼ③143明40.C/
③157明43.D/
赤沼月山 → 赤沼金三郎
赤沼金三郎(月山、天心)

①99明35.B//③113明35.B//
④138明35.B/④143明36.B/
赤羽尚志②123昭17.C//
④648昭17.C/
赤羽萬二郎④53明16.D/
④55明36.B/
赤林行平③186大3.D/
赤帽子①223大10.B/
赤星定儀②258昭2.E/
赤星仙太④250大2.C/
④306大6.C/
赤松要①329昭6.B/
赤松月船④408昭3.D/
赤松生④35明11.E/
赤松秀景①328昭6.B/
赤松大勵④169明39.B/
赤松智城①146明43.B/
①196大6.B/①229大11.B/
①230大11.B//②277昭8.B//
③233大15.B//④346大11.B/
赤松正章④749[昭9]/
赤水長(玄珠)④780[天保15]/
④780[寛政8]/④780[嘉永3]/
赤水長玄④674［明治初期］/
秋岡武次郎①347昭7.C//
④790[19-]/
晃子①290昭3.B/
秋川早男②275昭7.D/
秋川彌助③291昭12.D/
秋草實②73昭13.C/
秋澤修二②13昭10.B/
②14昭10.B/②43昭11.C/
②53昭12.B/②56昭12.B/
②57昭12.B/②58昭12.B/
②138昭18.E//④549昭12.B/
秋鹿見橘①73明27.B//
④99明27.B/
秋田雨雀①224大10.D//
④34明11.D/④334大9.D/
秋田縣立圖書舘①314昭5.B//
④426昭5.B/
秋田滋②24昭10.D/②111昭16.D/
②277昭8.B/
秋田忠義④798[昭5]/
秋田兵一③169明45.D/
秋田六郎①263大15.A/
秋谷房子③255昭5.D/
秋津學人④676[明7]/
秋月すみ子③90明31.D//
④121明31.D/
秋中三雄④514昭10.C/
秋茄子③84明30.D/
秋野繁吉①91明32.D/
秋野東馬④402昭3.B/
秋野優①162大2.B/①167大2.D/
秋葉修②100昭15.E//
秋保保治④810[19-]/
秋庭清太郎④686[明18]/
秋庭俊彦①252大14.A/
④318大7.D/
秋庭楓山→ 秋庭濱太郎
秋庭濱太郎(楓山)④59明18.C/
秋保孝藏④752[昭10]/
秋滿慶三郎④435昭5.D/
秋元［子爵］③107明34.B/
秋元喜久雄→ 秋元蘆風
秋元政④692[明23]/④693[明24]/
④694[明25]/
秋元房治郎①39明19.A/
秋元蘆風（喜久雄）②62昭12.D//
③134明38.D/③139明39.D/
③140明39.D/③143明40.D//
④163明38.D/④251大2.D/
秋守常太郎④411昭4.A/
秋山④265大3.C/
秋山賢之④560昭12.D/
秋山謙藏④476昭8.C/
④642昭17.A/
秋山五郎②249大12.E/
秋山正藏②159昭13.E/
秋山武④652昭17.E/
秋山鐵太郎③104明33.F/
秋山憲兄④770[昭16]/

秋山博愛④661昭18.C/
秋山英夫②63昭12.D/
②70昭13.B/②81昭14.B/
②106昭16.B/②107昭16.B/
②123昭17.C/②133昭18.B//
④552昭12.B/④560昭12.D/
④583昭14.B/
秋山範二②120昭17.B/
秋山政篤①16明6.C/
秋山雅之介③116明35.E/
秋山義雄①254大14.B//
④365大14.B/
秋山六郎兵衛②136昭18.D//
③305昭14.D//④652昭17.D/
芥川龍之介④727[昭1]/
曉烏武雄①342昭7.B/
①373昭9.B/
曉烏敏①373昭9.B//
②215明35.B//④152明37.B/
④359大13.B/
明比甫④361大13.D/
朱谷③258昭6.C/
赤穂義士④448昭6.E/
あさ女①55明23.B/
淺井清信②49昭11.E/
②100昭15.E/②258昭2.E/
淺井淺一④639昭16.F/
淺井乕八郎④85明24.A/
淺井武③267昭7.D//④446昭6.D/
淺井治平②130昭18.A//
③300昭14.A/
淺井豐久②197明27.B//
③61明27.B//④100明27.B/
④104明28.A/
淺井眞男②12昭10.B/
②93昭15.B/②96昭15.B/
②105昭16.B//④508昭10.B/
④511昭10.B/④517昭10.D/
④601昭15.B/④602昭15.B/
④604昭15.B/④627昭16.B/
④635昭16.D/④773[昭17]/
④775[昭18]/
淺井了意①6［43］//④668昭19.D/
朝夷六郎③28明20.D//
④66明20.B/
朝枝俊輔④597昭14.E/
淺香正孝①383昭9.D/
②25昭10.D/
朝河貫一①69明26.B//
③91明31.E//④95明26.B/
淺川治平④616昭15.C/
淺川淑彦④508昭10.B/
麻木米次郎②74昭13.D/
淺倉清④798[昭5]/
朝倉季雄②99昭15.D//
③328昭［不明］C//
④553昭12.B/④559昭12.D/
朝倉外茂鐵①52明22.E/
①62明24.E/
朝倉保平④560昭12.D/
淺子勝二郎①380昭9.C//
④552昭12.B/
淺田勇②24昭10.D/②44昭11.D/
淺田岩重③314昭16.B/
淺田榮次④103明27.D/
④695[明25]/
淺田空花①87明31.C/
淺田すま④326大8.C/
④333大9.C/
淺田清造④353大12.C/
淺田宗伯④54明16.F/
淺田和②257昭2.D/
淺田一②86昭14.D/②99昭15.D/
②237大3.B/
淺地昇①301昭4.B//②261昭4.B/
朝月參伍①292昭3.C//
④406昭3.C/
淺野晃②108昭16.C//
④577昭13.E/④777[昭19]/
淺野乾①23明10.C/①29明12.D/
①29明13.A/①29明13.B//
③8明9.C/③10明10.B//
④42明14.B/
淺野長内②195明26.C/

淺野華川①145明43.A/
淺野研眞①359昭8.B/
淺野秋平④778[昭19]/
淺野順一④588昭14.C/
淺野正一①215大9.B/
①314昭5.B/
淺野馮虛①122明38.D/
①133明40.C//③109明34.D//
④134明34.D/④159明38.B/
朝野貞次郎④401昭3.B/
淺野浩④541昭11.D/
朝野房 → 舊雨樓
淺野明道④680[明10]/
④685[明16]/④782[明12]/
④782[明16]/
淺野彌太郎④598昭14.G/
淺野猶三郎④405昭3.C/
淺野利三郎①147明43.C/
①154明44.E/①157明45.B/
①228大11.B/①305昭4.C/
①307昭4.C/①317昭5.C/
①318昭5.C/①319昭5.C//
④474昭4.B/④795[大15]/
淺野和三郎①128明39.D/
①134明40.D/①158明45.C//
④179明40.D/④181明40.D/
④704[明38]/
淺原鏡村①244大13.B/
旭山人①152明44.B/
旭昇③8明9.B/
旭正秀①357昭8.A/
朝日新聞社①224大10.D/
①236大12.B//④734[昭4]/
朝日賞④519昭19.E/
朝日融溪①231大11.C/
①246大13.C/①319昭5.C/
①331昭6.C/①333昭6.C/
①360昭8.B//②270昭6.C/
②279昭8.E//③226大13.C/
③258昭6.C//④373大14.E/
④414昭4.B/④418昭4.C/
④420昭4.D/④428昭5.B/
④473昭5.B/④519昭10.E/
朝比奈知泉③45明24.C//
③91明31.D//④60明18.D/
朝比奈貞一④771[昭16]/
朝比奈泰彥①272大15.G//
④740[昭6]/
麻布閑人②188明24.D/
朝吹磯子②15昭10.B/
朝吹三吉②104昭16.A/
淺海④445昭6.C/
淺見正三③265昭7.C/
淺見忠雅④31明8.E/
淺見隆英②245大9.E/
淺見隆平①233大11.E/
①242大12.E/
淺見倫太郎④349大11.E/
足利衍④220明44.C/
足利惇②93昭15.B/②105昭16.B/
②108昭16.B/②110昭16.C/
②120昭17.B/②141昭19.A//
④529昭11.B/④551昭12.B/
④590昭14.C/④631昭16.B/
蘆川忠雄③205大6.D//
④730[昭2]/
蘆澤常三②24昭10.D/
蘆田伊人④459昭7.C/
④744[昭7]/④746[昭8]/
④764[昭14]/④765[昭15]/
蘆田［慶治?］④223大1.B/
蘆田慶治①174大3.B/
①291昭3.C//④144明36.B/
④148明36.E/④151明37.B/
④177明40.B/④188明41.D/
④196明42.B/④260大3.B/
④283大4.E/④285大5.A/
④290大5.B/④303大6.B/
④311大7.A/④357大13.B/
④359昭13.B/④382大15.C/
④405昭3.C/④760[昭12]/
④759[昭12]/
蘆田束雄①43明20.C/
①51明22.C/

蘆田均④592昭14.C/
④626昭16.A/
蘆谷重常（蘆谷蘆村、蘆村、蘆村漁郎）
①135明41.B/①141明42.B/
①153明44.D/①170大3.B/
①215大9.B/①216大9.B/
①232大11.D/①241大12.D/
①248大13.D/①255大14.B/
①290昭3.C//②12昭10.B/
②24昭10.D/②44昭11.D/
②258昭2.E//④292大5.C/
④385大15.D/④445昭6.D/
④725[大13]/④726[大14]/
蘆谷蘆村 → 蘆谷重常
蘆中の人②183明23.B/
②184明23.C/
蘆原英了④773[昭17]/
蘆村 → 蘆谷蘆村
蘆村漁郎 → 蘆谷蘆村
亞洲生 → 川（河）村竹治
網代絢子③267昭7.D//
④446昭6.D/
畔上啓策①38明18.E/
畔上賢造①291昭3.C//
③137明39.B/③139明39.B/
③143明40.D/③144明40.D/
④167明39.B/④180明40.D/
④278大4.B/④302大6.B/
④347大11.C/④362大13.D/
④375大15.B/④432昭5.D/
④443昭6.C/④477昭8.D/
④483昭9.B/④525昭11.B/
④554昭12.C/④730[昭2]/
④756[昭11]/④759[昭12]/
④770[昭16]/
畔上賢造著作集刊行會
④608昭15.C/④617昭15.D/
④627昭16.B/④632昭16.C/
阿蘇三郎④765[昭14]/
麻生霞城④215明44.B/
④298大5.E/
麻生三郎③323昭18.A//
④775[昭18]/
麻生繁雄④94明26.B/
麻生種衛④460昭7.D/
④594昭14.D/
麻生正藏④586昭14.B/
麻生隆義①363昭8.C//
④471昭8.C/④494昭9.C/
④592昭14.D/
麻生義①259大14.D//
④370大14.D/
麻生久④328大8.G/
麻生路郎①239大12.C//
④723[大12]/
麻生義輝①337昭6.D/
①374昭9.B/①376昭9.B//
②282昭9.B//③241昭2.D/
③276昭9.B/③320昭17.B//
④469昭8.B/④478昭8.D/
④486昭9.B/④489昭9.B/
④772[昭17]/
安宅①56明23.C/
安宅虎雄③258昭6.C/
③286昭11.D/
足立喜六④579昭14.A/
足立源一郎①269大15.D/
①308昭4.D//②124昭17.D/
安達二郎①90明32.C/
足立震太郎③59明26.F/
足立信順②190明25.B/
足立正修①26明11.C/
①27明11.C/
足立琢④65明19.D/④74明21.D/
足立武夫④469昭8.B/
安達久①254大14.B//
③229大14.B//④365大14.B/
足立栗園②194明26.B//
④137明35.B/
新慧海②38昭11.B/
新しき村出版部①244大13.B/
新規矩男④667昭19.C/
新八代③325昭18.E/

東新④319大7.D/④718[大7]/
東譲三郎①323昭5.E/
東晉太郎①226大10.E/
①261大14.E/①384昭9.E//
④519昭10.E/
東日出雄②68昭13.A/
安津素彦②141昭19.A/
篤④195明42.B/
熱田俊貞④554昭12.C/
④601昭15.B/
吾妻耕一①128明39.D/
①144明42.D//④172明39.D/
④199明42.D/
吾妻兵治④285大5.B/
④288大5.B/
吾妻光俊②146昭19.E
渥美契綠③5明8.B/
渥美昌②252大14.C/
渥美清太郎④616昭15.C/
IT生④231大1.B/
アテネ・フランセ②136昭18.D/
阿刀田冷造①210大8.C/
①230大11.C/①256大14.C/
①290昭3.C/①294昭3.Ｄ/
①337昭6.D//②252大14.C//
④474昭8.C/④754[昭11]/
阿閉吉雄②130昭18.A/
②140昭18.F//④663昭18.F/
アトリエ社①320昭5.D/
穴原榮三郎①363昭8.C/
①368昭8.E/①385昭9.E//
②64昭12.E/②84昭14.C/
②85昭14.C/④472昭8.C/
④479昭8.E/④499昭9.E/
④596昭14.E/④608昭15.C/
姉崎邦臣②63昭12.D/
姉崎嘲風 → 姉崎正治
姉崎正治(嘲風)①80明29.D/
①86明31.B/①89明32.B/
①97明34.B/①109明37.A/
①118明38.A/①129明40.A/
①141明42.A/①157明45.B/
①165大2.C/①167大2.D/
①192大5.E/①216大9.B/
①221大10.B/①227大10.F/
①238大12.B/①271大15.D/
①322昭5.D//②205明31.B/
②233明44.D/②236大2.B/
②243大8.B/②266昭5.D//
③68明28.D/③74明29.B/
③76明29.D/③106明34.B/
③139明39.C/③142明40.B/
③149明42.A/③150明42.B/
③152明42.D/③154明43.B/
③163明45.A/③178大2.D/
③215大10.B/③223大12.B/
③272昭8.D//④107明28.B/
④110明29.B/④119明31.B/
④130明34.B/④137明35.B/
④140明35.D/④154明37.C/
④164明38.D/④174明40.A/
④179明40.C/④190明42.A/
④193明42.B/④195明42.B/
④199明42.D/④204明43.B/
④215明44.B/④222明44.D/
④248大2.C/④257大3.B/
④262大3.B/④266大3.D/
④310大7.A/④331大9.B/
④337大10.A/④343大11.A/
④418昭4.C/④419昭4.D/
④424昭5.A/④441昭6.B/
④478昭8.D/④496昭9.D/
④542昭11.E/④556昭12.C/
④573昭13.C/④674昭20.E/
④710[明44]/④712[大2]/
④743[昭7]/④789[18-]/
④806[昭16]/
阿野忠章②258昭2.E/
安孫子鵠④532昭11.B/
安孫子貞治郎③98明32.E/
安部磯雄①87明31.C/
①93明33.B/①101明35.B//

③139明39.D//④127明33.B/
④131明34.B/④138明41.B/
阿部市五郎②114昭16.E//
④638昭16.E/
阿部岩尾④499昭9.E/
阿部治③237大15.E/
阿部穩司①38明18.C/
阿部學士①171大3.B/
①183大4.C//③178大2.D/
③192大4.C/
阿部龜彦①109明37.A/
安部清見①258大14.D/
阿部邦彦④741[昭6]/
阿部啓吉②205明31.A/
②210明33.C/
阿部佐一郎④483昭9.B/
阿部惠定②181明22.F/
阿部重孝②78昭13.G//
④426昭5.B/④438昭6.B/
④544昭11.G/
安倍晴之助③169明45.D/
阿部莊二①105明36.B//
④243明36.B/
阿部秀助①116明37.D//
④140明35.D/④153明37.C/
④188明41.C/④331大9.B//
④418昭4.C/④473昭8.C/
④715[大4]/④723[大12]/
安部(倍)叔吾③132明38.B/
③138明39.B/
阿部次郎①176大3.D/
①177大3.D/①180大4.B/
①211大8.D/①221大10.B/
①222大10.B/①226大10./
①233大11.D/①253大14.B/
①309昭4.D/①337昭6.D/
①353昭7.D/①362昭8.B/
①366昭8.D/①371昭9.A/
①373昭9.B/①374昭9.B/
①377昭9.B//②14昭10.B
②241大6.B/②242大7.B
②243大7.D/②243大8.B/
②244大8.D//③143明40.B/
③162明44.D/③183大3.B/
③201大6.B/③206大7.B/
③210大8.B/③283昭10.E/
③287昭12.A//④238大1.D/
④297大5.D/④309大6.D/
④313大7.B/④314大7.B/
④319大7.D/④324大8.B/
④325大8.B/④326大8.D/
④348大11.D/④383大15.D/
④420昭4.D/④424昭5.A/
④454昭7.B/④465昭8.A/
④481昭9.A/④489昭9.B/
④553昭12.B/④565昭13.A/
④607昭15.B/④627昭16.B/
④719[大8]/④722[大11]/
④740[昭6]/④767[昭15]/
阿部峙樓④200明42.D/
伊藤政之助④773[昭17]/
安倍清造④120明31.C/
安倍清藏④152明37.B/
④154明37.C/④160明38.B/
④163明38.D/④187明41.C/
④207明43.B/④236大1.D/
④262大3.B/④278大4.C/
④290大5.B/④303大6.B/
④304大6.B/④341大10.D/
④787[明44]/
阿部漸④129明33.G/
阿部善三④559昭12.D/
阿部全鼎②230明42.C//
③151明42.C/
阿部泰藏④36明12.B/
④782[明7]/
安倍正②101昭15.E/
阿部保①357昭8.A//
②107昭16.B/
阿部知二②278昭8.D//
④517昭10.D/④539昭11.D/
④559昭12.D/④574昭13.D/
④619昭15.D/④636昭16.D/
阿部虎之助②203明29.E//

③78明29.E//④83明23.C/
阿部秀夫③269昭8.B/
③274昭9.B/
阿部秀吉(蟠溪仙史)
④73明21.C/
阿部弘國①21明9.D/
①24明10.D//③9明9.D/
③13明11.D/
安倍浩①252大14.A/
①253大14.B/①255大14.B/
①271大15.E//③229大14.B//
④367大14.B/④415昭4.B/
阿部賓夫④182明40.G/
④190明41.G/
阿部眞琴①356昭7.F/
①365昭8.C/①369昭8.F//
②41昭11.B//④746[昭8]/
④752[昭10]/④754[昭11]/
④773[昭17]/
阿部正廉①267大15.B/
安(阿)部光槌(原田光槌)
①253大14.B/①266大15.B/
①275 昭2.B/①283昭2.F/
①285昭3.B/①287昭3.B/
①290昭3.B/①302昭4.B/
①314昭5.B/①343昭7.B/
①345昭7.B/①354昭7.E//
②55昭12.B/②79昭14.B/
②93昭15.B/②104昭16.B/
②138昭18.E/②259昭3.B/
②261昭4.B/②279昭8.E//
③242昭3.B/③308昭15.B//
④169明39.B/④366大14.B/
④375大15.B/④401昭3.B/
④403昭3.B/④583昭14.B/
④601昭15.B/④742[昭7]/
④763[昭14]/
阿部餘四男②140昭18.F/
阿部喜任④780[天保9]
安倍能成①155明45.B/
①156明45.B/①157明45.B/
①162大2.B/①165大2.B/
①171大3.B/①171大3.B/
①174大3.B/①181大4.B/
①186大5.B/①188大5.B/
①189大5.B/①194大6.B/
①196大6.B/①201大7.A/
①214大9.A/①222大10.B/
①237大12.B/①238大12.B/
①241大12.D/①273昭2.A/
①286昭3.B/①289昭3.B/
①303昭4.B/①314昭5.B/
①325昭6.A/①357昭8.A/
①359昭8.B/①360昭8.B/
①371昭9.A/①377昭9.B//
②10昭10.A/②11昭10.A/
②32昭11.A/②41昭11.B/
②83昭14.B/②93昭15.B/
②95昭15.B/②104昭16.A/
②106昭16.B/②149昭24.
［補遺］/②241大6.B/
②278昭8.B//③160明 44.B/
③174大2.B/③184大3.B/
③190大4.B/③191大4.B/
③192大4.B/③201大6.B/
③205大7.B/③211大8.D/
③211大8.E/③213大9.D/
③214大10.B/③218大11.B/
③219大11.B/③222大12.B/
③225大13.B/③229大14.B/
③267昭7.D/③273昭9.A/
③274昭9.B/③288昭12.A/
③292昭12.D/③293昭13.A/
③294昭13.B/③297昭13.D/
③299昭13.D/③325昭19.A//
④171明39.C/④210明43.C/
④225大1.B/④228大1.B/
④230大1.B/④233大1.B/
④241大2.B/④246大2.B/
④247大2.B/④248大2.B/
④255大3.B/④257大3.B/
④272大4.B/④274大4.B/
④276大4.B/④278大4.B/
④289大5.B/④291大5.B/

④291大5.C/④298大5.E/
④305大6.B/④314大7.B/
④328大9.A/④338大10.B/
④364大14.B/④400昭3.B/
④414昭4.B/④429昭5.B/
④441昭6.B/④452昭7.B/
④454昭7.B/④481昭9.A/
④482昭9.A/④489昭9.B/
④511昭10.B/④524昭11.A/
④545昭12.A/④568昭13.B/
④570昭13.B/④586昭14.B/
④604昭15.B/④626昭16.A/
④707[明41]/④716[大5]/
④720[大10]/④724[大13]/
④777[昭19]/
阿部義宗①213大8.E//
④223明44.G/④327大8.E//
④645昭17.B/
阿部陸三③208大7.D/
安部隆一②122昭17.C/
阿部六郎①373昭9.B/
①376昭9.B//②24昭10.D/
②57昭12.B/②75昭13.D/
②80昭14.B/②105昭16.B/
②119昭17.B/②141昭19.B//
③305昭14.D//④396昭2.D/
④484昭9.B/④515昭10.D/
安部井武雄③15明12.E/
安保常治①321昭5.D//
③255昭5.D//④433昭5.D/
阿保市藏②255大15.E/
甘粕正彦③223大12.B/
甘粕石介①351昭7.D/
①376昭9.B/①383昭9.D//
②12昭10.B/②14昭10.B/
②15昭10.B/②34昭11.B/
②75昭13.D/②80昭14.B//
④570昭13.B/④760[昭13]/
天城居士②175明21.A//
③29明21.A/
天草學林版①4[5,6,7,9,10]/
①14明3.G/
尼子止①342昭7.B/
天知子①64明25.B/①65明25.B/
天稚彦④210明43.D/
天沼俊一④733[昭3]/
天沼匏村④235大1.C/
天野一雄③248昭4.B/
天野景治③7明9.A/
天野敬太郎③278昭9.D//
④497昭9.D/
天野鎭三郎①60明24.C//
②183明 23.C/②187明24.C//
③45明24.C//④82明23.C/
天野爲之①39明18.G/
①43明20.C/①44明20.G//
②162明16.B/②166明18.B/
②174明20.E/②181明22.E/
②202明29.C//③28明20.C/
③32明21.C/③34明22.A//
④95明26.B/
天野貞祐②70昭13.B//
④258大3.B/④529昭11.B/
④583昭14.B/④602昭15.B/
④760[昭13]/④762[昭14]/
④766[昭15]/④770[昭16]/
④778[昭19]/
天野御民④33明10.E/
天野みち③156明43.B/
天野芳次郎④29明6.G/
天谷一雄②145昭19.E/
②146昭19.E/
天谷小史②212明34.A/
雨倉子城④62明19.B/
雨のや生④148明36.D/
④168明39.B/
雨谷氏③102明33.C/
雨谷一菜庵[幹一]①133明40.D/
雨宮力①353昭7.D/
網代水①175大3.C/
雨森隱士 → 菊池孝順
綾川武治①215大9.B/
①216大9.B//④330大9.B/
綾部乙松④690[明20]/

あやめ①59明24.B//④86明24.B/
あやめ社若之助④164明38.D/
鮎澤信太郎④459昭7.C/
④572昭13.C/④614昭15.C/
④633昭16.C/④648昭17.C/
④669昭19.F/④745[昭8]/
④765[昭15]/④767[昭15]/
④768[昭16]/④772[昭17]/
④775[昭18]/④803[昭11]/
荒井郁（開拓使）①15明5.G//
④28明5.G/
荒井郁之助④52明16.C/
④689[明20]/
荒井霞外①130明40.B/
①151明44.B/
新井和臣④806[昭16]/
荒井克成④712[大2]/
新井きく子④83明23.C/
新井清④98明26.D/
新井清彦①82明30.C/
新井虎南②194明26.B/
新井小八郎④31明9.D/
新井正平④133明34.D/
新井隆存④678[明9]/
新井白石①6［50,52,53］/
①143明42.C/①247大13.C/
①318昭5.C//②199明27.D//
③63明27.D//④23[24930]/
④43明14.D/④48明15.D/
④95明26.B/④198明42.C/
④356大13.A/④362大13.D/
④371大14.D/④495昭9.D/
④535昭11.C/④708[明42]/
④768[昭16]/
荒井泰治③24明18.E//
④53明16.E/④57明17.E/
荒井武雄②133昭18.C/
新井豐太郎①255大14.B/
荒（新）井不鳴①125明39.B//
③137明39.B//④167明39.B/
新井眞章①20明9.A/
新井誠夫③218大11.B/
荒井道太郎①288昭3.B/
新井龍峰①246大13.C/
荒井亮①379昭9.C//②270昭6.C//
③259昭6.C//④446昭6.D/
④492昭9.C/
荒川生④160明38.B/
荒川漁郎 → 平田禿木
荒川邦藏③20明16.D//
④49明15.E/
荒川秋陽①78明29.B/
荒川惣兵衛③278昭9.D//
④744[昭7]/④771[昭16]/
荒川龍彦①362昭8.B//
②124昭17.D//④539昭11.D/
④635昭16.D/④645昭17.B/
④651昭17.D/④658昭18.B/
④662昭18.D/
荒川海太郎②258昭2.E/
荒木市太郎④683[明12]/
④683[明13]/
荒木伊兵衛④447昭6.D/
④740[昭6]/
荒城和一④209明43.C/
新城計藏④464昭7.F/
荒木幸太郎①252大14.A//
④363大14.A/④726[大16]/
荒木貞雄④148明36.E/
荒木茂②260昭3.C//④409昭3.E/
荒木俊馬②78昭13.F//
④399昭2.F/④623昭15.F/
④777[昭18]/
新城新藏②248大11.F/
②249大12.C/
荒城季夫①265大15.B//
②136昭18.D//③321昭17.D/
③324昭18.D//④595昭14.D/
④637昭16.D/
荒木千里④725[大14]/
荒木卓爾④677[明7]/
荒木眞③28明20.B/
荒木又右衛門④718[大7]/
荒木良雄④773[昭17]/

④776[昭18]/
荒田新吾①369昭8.E/
①381昭9.C/
新舘教授④561昭12.E/
荒波（浪）市平①65明25.B/
①71明26.D//②202明29.C//
④91明25.B/④93明25.D/
④98明26.D/④115明30.B/
④120明31.B/
荒波平治郎①63明25.B/
荒野文雄①33明15.B/
荒野浪人④292大5.C/
荒畑勝三④543昭11.F/
荒畑寒村①338昭6.E//
②272昭6.E/
荒又秀夫②128昭17.F/
新屋敷幸繁①384昭9.D/
有賀鐵太郎①283昭2.E/
①303昭4.B/①306昭4.C/
①347昭7.B/①350昭7.C/
①371昭9.A/①378昭9.C/
①379昭9.C/①383昭9.D//
②22昭10.C/②41昭11.C/
②56昭12.B/②96昭15.B/
②97昭15.C/②103昭16.A/
②110昭16.C/②120昭17.B/
②131昭18.B/②147昭20.B/
②285昭9.C//④382大15.C/
④404昭3.B/④426昭5.B/
④469昭8.B/④476昭8.C/
④478昭8.D/④483昭9.B/
④490昭9.B/④515昭10.C/
④548昭12.A/④566昭13.A/
④584昭14.B/④602昭15.B/
④623昭16.A/④626昭16.A/
④632昭16.C/④647昭17.C/
④677昭20.E/④741[昭和]/
④749[昭9]/④776[昭18]/
④779[昭20]/
有賀長雄（坊寧）［哲學字彙］
①34明16.B/
①36明17.E/①36明17.G/
①49明21.E/①157明45.C//
②170明19.B/②181明22.E//
③21明17.B/③22明17.E/
③22明17.G/③22明18.B/
③23明18.B/③24明18.E/
③24明18.G/③27明19.G/
③33明21.G/③82明30.C/
③94明32.C/③167明45.C/
③168明45.C//④55明17.B/
④58明18.B/④61明18.E/
④62明19.B/④71明20.E/
④116明30.C/④118明31.B/
④119明31.B/④186明41.B/
④235大1.C/④236大1.C/
④686[明17]/
有賀信靜①69明26.B/
①73明27.B//④95明26.B/
④100明27.B/
有賀春雄（夫）①284昭3.A/
①318昭5.C/①357昭8.A/
①365昭8.C//④465昭8.A/
④472昭8.C/④504昭10.A/
④566昭13.A/④738[昭5]/
④761[昭13]/
有賀坊寧→有賀長雄
有川治介④199明42.D/
有坂與太郎①355昭7.F/
①386昭9.F/
有澤廣巳②269昭6.B/
有島生馬①150明44.A/
①186大5.A//③227大13.D/
③287昭12.A/③293昭13.A/
③321昭17.D//④212明44.A/
④310大7.A/④343大11.A/
④433昭5.D/④546昭12.A/
④626昭16.A/④711[大2]/
④715[大4]/④797[昭3]/
④799[昭7]/
有馬源次①164大2.B/
有島次郎（雄）③267昭7.D//
④446昭6.D/
有馬祐教②219明37.B//

④150明37.B/
有馬祐政③118明36.B//
④172明39.D/
有馬純清①104明36.A//
④191明42.B
有島武郎①195大6.B/
①216大9.B/①230大11.B//
③156明43.C/③162明44.D/
③210大8.D/③212大9.B/
③232大14.D/③256昭5.D//
④327大8.D/④333大9.B/
有島貞一④427昭5.B/
有栖川二品親王④685[明16]/
有田音松④332大9.B/
有田四郎③195大5.B/
(在原)業平[中將]①95明33.D//
④711[大1]/
有地海軍小將②184明23.C/
有富虎之助④178明40.B/
④179明49.C/
有永弘人④772[昭17]/
有馬私學校④29明6.G/
啞流魔漢①98明34.C//
③101明33.C//④128明33.C/
有山昌造④469昭8.B/
有山崧③302昭14.B/
R.E.③107明34.B/③110明34.E/
RS(生)①215大9.B//②238大3.D/
④296大5.D/
主原正夫③314昭16.B/
③320昭17.B//④643昭17.B/
アルス兒童文庫④407昭3.D/
アルパ社編輯部④494昭9.D/
④749[昭9]/
淡島蠡舟①90明32.C/
粟田賢三[粟田]①300昭4.B/
①304昭4.B/①330昭6.B/
①339昭6.D//③258昭6.B//
④439昭6.B/④474昭8.C/
④579昭13.G/④587昭14.B/
粟田三吾④434昭5.D/
粟野主幹④321大8.A/
粟野得一郎④40明14.B/
④45明15.B/
淡野安三郎①287昭3.B/
淡野安太郎④577昭13.E/
粟野頼之祐①363昭8.C/
①365昭8.C/①378昭9.C/
①380昭9.C/①383昭9.D//
②21昭10.C/②41昭11.C/
②42昭11.C/②61昭12.C/
②76昭13.E/②85昭14.C/
②101昭15.E/②103昭15.G/
②105昭16.B/②106昭16.B/
②122昭17.C/②134昭18.C/
②137昭18.D//④513昭10.C/
④534昭11.C/④536昭11.C/
④555昭1.C/④589昭14.C/
④647昭17.C/④659昭18.C/
④666昭19.C/
安居院敏慶③151明42.C/
安成生①131明40.B//
③142明40.B/
安齋保①368昭8.E/
安知生①84明30.D/①86明31.B/
①87明31.C//③85明30.E/
安藤①352昭7.D/
安藤一太郎④53明16.E/
安藤一郎①65明25.C//
④63明19.C/④743[昭7]/
安藤勝任③11明10.C/
③12明10.E/
安藤喜一郎①185大4.F/
安東清人②158昭11.F/
安藤現慶①181大4.B/
安藤孝行②93昭15.B/
②106昭16.B/②119昭17.B/
②132昭18.B//④526昭11.B/
安藤五郎②81昭14.B/
安藤州一①126明39.B/
①142明42.B/①146明43.B/
①151明44.B/①156明45.B/
①161大2.B//②217明36.B/
②225明39.E/②228明41.B/

②229明42.B/②231明43.B/
②243大8.B//④168明39.B/
④192明42.B/④203明43.B/
④214明44.B/④225大1.B/
④241大2.B/④322大8.B/
安藤正次①279昭2.D//
④746[昭8]/
安藤堯雄①374昭9.B//
④499昭9.E/④564昭13.A/
安藤忠義③183大3.B//
④282大2. D/
安藤俊雄①211大8.C/
①223大10.C/①231大11.C/
①233大11.E/①242大12.F/
①247大13.C/①292昭3.C//
③220大11.E//④339大10.C/
④340大10.C/④347大11.C/
④350大12.B/④358大13.B/
④360大13.C/④673昭20.E/
④701[明35]/④722[大11]/
安東壽郎①262大14.F/
安藤春雄②272昭6.E/
安藤弘③217大10.D/
安中花子①195大6.B/
安樂潤二④424昭4.F/
安樂庵策傳①5［24］/
［い］い、と③76明29.D/
E.D.T.①204大7.C/
E.S.①90明32.B/
E.S.④578昭13.F/
井伊玄太郎①346昭7.B//
②82昭14.B//④494昭9.C/
④504昭10.A/④532昭11.B/
④570昭13.B/④592昭14.C/
④622昭15.E/④763[昭14]/
井伊松藏③214大10.B/
飯尾朋央④31明9.C//④677[明8]/
④782[明8]/
飯尾企③303昭14.B/
飯牛歌人④703[明37]/
飯倉千足③204大6.D/
飯島英太郎②275昭7.D/
飯島獲之④46明15.B/
飯島花月①281昭2.D/
①293昭3.D/①294昭3.D/
①295昭3.D/
飯島廣三郎②52昭11.G/
②103昭15.G/②116昭16.G/
②272昭6.G/
飯島忠夫①220大10.A/
①317昭5.C/①324昭5.F//
②246大10.A/②247大11.C//
③235大15.C/③240昭2.C//
④437昭5.F/
飯島幡司①199大6.E/
飯島政之助④121明31.F/
飯田堯一④181明40.E/
④185明41.B/
飯田忠雄①354昭7.E/
飯田忠純①228大11.A/
①234大11.E/①274昭2.B/
①363昭8.C//②62昭12.D/
②75昭13.D//③211大9.A//
④369大14.C/④375大15.B/
④463昭7.E/④473昭8.C/
④514昭10.C/④558昭12.D/
④560昭12.D/④576昭13.D/
④595昭14.D/
飯田晁三④476昭8.C/
飯田定一①28明12.C/
飯田敏雄④245大2.B/
飯田正宣④31明9.D/
飯田安④462昭7.D/④755[昭11]/
飯田綠行④133明34.D/
飯塚啓④545昭11.G/
飯塚浩二②60昭12.C//
④655昭18.A/
飯塚二瓶④798[昭5]/
飯塚八百太③11明10.B/
飯塚友一郎①320昭5.D//
④650昭17.D/
飯塚陽平④211明43.D/
④282大4.D/
飯塚羚兒④798[昭5]/

飯野謹市(一)①66明25.E/
①72明26.E/
飯野文三④793[大11]/
飯本信之②60昭12.C/
②97昭15.C/②98昭15.C/
井内忠義③294昭13.B/
伊内太郎①59明24.B//
④87明24.B/
家永講師②195明26.C/
家永豐吉④92明25.C/
④674[明治]/④704[明治]/
④810[19-]/
遣歐日本使節④748[昭9]/
五百旗頭眞治郎②14昭10.B/
②58昭12.B/②66昭12.E//
④411昭4.A/
いが生③125明36.G/
伊賀駒吉③107明34.B/
伊賀駒吉郎①133明40.C/
①139明41.C/①146明43.B//
③143明40.C/
伊賀駒太郎④132明34.B/
猪飼麻二郎①19明8.C/
猪飼麻太郎④35明11.E/
猪飼春紅④723[大12]/
猪飼齊③250昭4.D/
伊笠碩哉①133明40.C/
五十嵐明②132昭18.B//
④657昭18.B/
五十嵐昂④422昭4.E/
五十嵐七五郎②263昭4.E/
五十嵐省吾④750[昭9]/
五十嵐二郎③250昭4.D//
④421昭4.D/
五十嵐生④463昭7.E/
五十嵐喬④637昭16.E/
五十嵐達六郎②81昭14.B/
②115昭16.F/②119昭17.B/
②123昭17.C/②141昭19.B//
④778[昭19]/
五十嵐力①84明30.D/
①93明33.B/①144明42.D/
①267大15.B//②100昭15.E//
④117明30.D/④521昭10.G/
五十嵐豐作②66昭12.E/
五十嵐治孝④323大8.B/
五十嵐仁④511昭10.C/
五十嵐松朗②109昭16.C//
④647昭17.C/
猪狩幸之助②205明30.F/
猪狩史山①147明43.C/
①152明44.C//④719[大8]/
井狩克②106昭16.B//
④602昭15.B/④628昭16.B/
猪狩又藏②44昭11.D/
猪狩良臣②255大15.E/
井川英一③289昭12.B/
飯河四郎④559昭11.C/
井川恭①164大2.B/①206大7.E//
④309大6.E/
伊木壽一④535昭11.C/
英吉利法律學校③29明21.A/
③34明22.A/
生江孝之③137明39.B/
③155明43.B/
生島廣次郎④355大12.E/
生島遼一④626昭16.A/
育成會(石川榮代表)
①93明33.B/①139明41.D//
④141明35.G/④159明38.B/
育成社弘道閣④649昭17.D/
生田葵③195大5.B/
生田花世①183大4.C/
生田弘治(二)③141明40.A//
④172明39.D/④175明40.B/
生田俊夫①357昭8.A/
①371昭9.A//④481昭9.A/
生田春月①205大7.D/
①208大8.B①269大15.D//
③205大7.B/③211大9.B/
③236大15.D/③241昭2.D/
③261昭6.D//④325大8.B/
④719[大8]/
生田勉③324昭18.D/

生田長江①128明39.D/
①130明40.B/①133明40.D/
①139明41.D/①140明41.D/
①142明42.B/①151明44.B/
①172大3.B/①176大3.D/
①177大3.D/①179大4.B/
①180大4.B/①182大4.B/
①187大5.B/①188大5.B/
①195大6.B/①195大6.B/
①196大6.B/①202大7.B/
①203大7.B/①209大8.B/
①215大9.B/①216大9.B/
①218大9.E/①231大11.D/
①232大11.D/①236大12.B/
①247大13.D/①248大13.D/
①265大15.B/①301昭4.B/
①307昭4.D/①313昭5.B/
①316昭5.B//②12昭10.B/
②16昭10.B/②23昭10.D/
②24昭10.D/②34昭11.B/
②36昭11.B/②44昭11.D/
②47昭11.D/②227明40.D/
②228明41.B/②266昭5.B//
③146明41.B/③155明43.B/
③160明44.B/③183大3.B/
③186大3.D/③191大4.B/
③192大4.B/③196大5.B/
③197大5.B/③201大6.B/
③202大6.B/③206大7.B//
④189明41.D/④193明42.B/
④211明43.D/④215明44.B/
④267大3.D/④268大3.D/
④274大4.B/④278大4.B/
④281大4.D/④288大5.B/
④291大5.B/④302大6.B/
④310大6.B/④314大7.B/
④316大7.B/④320大7.G/
④357大13.B/④409昭3.D/
④419昭4.D/④434昭5.D/
④466昭8.A/④495昭9.D/
④518昭10.D/④541昭11.D/
④710[明44]/④715[大4]/
④717[大5]/④718[大6,7]/
④721[大10]/④732[昭3]/
④735[昭4]/④736[昭4]/
④738[昭5]/④744[昭7]/
④751[昭10]/④756[昭11]/
④758[昭12]/
井口あくり③141明39.F/
井口一郎②122昭17.C//
④646昭17.C/④652昭17.E/
井口正之④153明37.C/
井口彌壽男④219明44.C/
郁文舎①117明37.G/
①262大14.G//②230明42.G//
③141明39.G//④156明37G/
④166明38.G/
井汲越次②54昭12.B/
/④772[昭17]/
井汲清治①205大7.D/
①266大15.B//②71昭13.B//
③314昭16.B//④307大6.D/
④308大6.D/④319大7.D/
④327大8.D/④335大9.D/
④338大10.B/④361大13.D/
④493昭9.C/④575昭13.D/
④657昭18.B/
井汲卓一②252大14.D/
池誠恭②70昭13.B/
池内俊春④559昭12.D/
池上謙三①346昭7.B//
②41昭11.B/②70昭13.B/
②82昭14.B/②142昭19.B/
池上周二②100昭15.D/
池島重信①330昭6.B/
①353昭7.D//②37昭11.B//
④624昭16.A/
池島信平②79昭14.A//
③273昭8.E/
池田榮一郎①369昭8.F/
池田薫②93昭15.B/
②105昭16.B//④618昭15.D/
④627昭16.B/④769[昭16]/
池田鶴堂①59明24.B/

池田龜藏④689[明19]/
④691[明21]/
池田義一郎（Ikeda Giichiro）
①289昭3.B//③253昭5.B/
池田菊代③261昭6.E//
④435昭5.E/
池田龜鑑②111昭16.D//
④774[昭18]/
池田榮②95昭15.B/
池田鹿之助④698[明30]/
④785[明31]/
池田紫峰④476昭8.C/
池田進②72昭13.B/
②118昭17.B//④529昭11.B/
④569昭13.B/④642昭17.B/
池田政造②253大14.E/
池田哲郎①348昭7.C/
①371昭9.A//④456昭7.C/
④459昭7.C/④476昭8.C/
④493昭9.C/④514昭10.C/
④536昭11.C/④556昭12.C/
④566昭13.A/④572昭13.C/
池田壽夫②270昭6.D/
池田俊彦①284昭3.A//
④411昭4.A/
池田平三郎④94明26.B/
池田正彦①74明27.C/
池田守吉①94明33.C/
池田來①318昭5.C/①380昭9.C/
池田陸喜④540昭11.D/
池田林儀④364大14.A/
井桁貞敏①335昭6.D/
池畑秀之①63明25.B/
池原憲臣①223大10.C/
池邊秀人③233大15.B/
池邊義象(藤園)④135明35.A/
池本吉治④73明21.B/
④76明22.B/
池谷生②250大13.D/
伊國チネス會社④279大4.C/
生駒佳平①355昭7.F/
生駒藤太郎③19明15.E/
③19明16.A/
生駒恭人③22明18.B/
伊佐早梅子③156明43.B/
伊澤孝平②253大14.E/
伊澤修二①133明40.C//
③290昭12.B//④56明17.D/
④93明25.D/
伊澤信三郎③19明16.B/
③20明16.D/③237大15.D//
④53明16.D/④34明11.D/
④515昭10.D/
伊澤富二郎④61明18.F/
伊澤凡人③287昭11.F/
井澤實①322昭5.D/
伊澤蘭奢④797[昭4]/
石三次郎④551昭12.B/
石井卯三郎④709[明43]/
石井敬吉④696[明26]/
④783[明25]/④783[明26]/
④784[明27]/
石井健吉③255昭5.D//
④434昭5.D/
石井建次④755［昭11］/
石井研堂③242昭2.G//
④177明40.B/④600昭15.A/
④731[昭2]/④766[昭15]/
④777[昭19]/
石井茂樹①250大13.E//
②249大12.E/
石井重美①273昭2.A/
石井眞峰③200大5.D/
石井梢風③142明40.B/
石井晟一④111明29.B/
石井民治③141明40.B/
石井友幸②29昭10.F//
③290昭12.B/
石井直三郎①191大5.D/
①320昭5.D/
石井柏亭①159明45.D/
①179大4.B/①252大14.A/
①294昭3.D /①296昭3.D /
①383昭9.D//②62昭12.D/

②237大2.D/②263昭4.D//
③171大2.A/③178大2.D/
③201大5.G/③250昭4.D/
④213明44.A/④224大1.A/
④267大3.D/④268大3.D/
④270大3.G/④493昭9.C/
④714[大3]/④725[大14]/
④756[昭12]/④766[昭15]/
石井誠①271大15.D//
④382大15.D/④729[昭1]/
石井正雄④441昭6.B/
石井道男②110昭16.C/
石井滿④753[昭10]/
石井光躬①100明35.B//
③111明35.B/③155明43.B/
③181大3.B//④136明35.B/
石井涌二④111明29.B/
石井蓉年①258大14.D//
④370大14.D/
石井良助②267昭5.E/
石浦居士③19明16.A/
石躍信夫②23昭10.D/
石垣勝三郎④558昭12.D/
石神［文］學士①202大7.B//
④225大1.A/
石神德藏④315大7.B/
石龜自談太 → 石龜福壽
石神總門①214大9.A/
石龜福壽（自談太）①20明9.A/
①20明9.B//③8明9.B/
③10明10.B/③11明10.B/
石川巖④395昭2.D/
石川暎作②161明15.E/
石川會平④395昭2.D/
石川和子④646昭17.C/
石川縣學校④29明6.G/
石川主計③255昭5.D/
石川戲庵③152明42.D/
③177大2.D/③206大7.B/
石川喜三郎③35明22.B/
③60明27.B/③117明36.B/
石川錦一郎②148昭20.E［不明］/
石川欽一郎③217大11.A/
③221大12.A/
石川帛水 → 石川宰三
石川謙①254大14.B/
①255大14.B/①267大15.B//
②80昭14.B//③226大13.B//
④367大14.B/
石川健治③261昭6.D/
④435昭5.D/
石川鴻齋④27[25012]/
④28明4.F/④46明15.B/
石川宏作④650昭17.D/
石川興二④543昭11.E/
④798[昭5]/
石川弘三①52明22.C/
石川興三①322昭5.E/
①346昭7.B/①364昭8.C//
④452昭7.B/
石川宰三（帛水）①174大3.C//
③193大4.C/
石川榮（育成社）①93明33.B/
石川三四郎①168大2.E/
①283昭2.E/①310昭4.E/
①365昭8.C/①368昭8.E/
①384昭9.E//②27昭10.E/
②130昭18.A/②237大2.E//
③151明42.D/③163明45.B/
③179大2.E/③231大14.D/
③281昭10.B/③285昭11.B/
③292昭12.E/③308昭15.B//
④253大2.B/④398昭2.E/
④471昭8.C/④705[明39]/
④712[大2]/④720[大10]
④723[大12]/④725[大14]/
石川靜子④616昭15.D/
④667昭19.D/
石川松溪①195大6.B/
石川淳①248大13.D//
②100昭15.D/②277昭8.B//
④488昭9.B/
石川準吉②273昭7.B//
③264昭7.B//④455昭7.B/

石川準十郎①384昭9.E/
石川舜臺①50明21.G//
②157明10.B//③7明8.F/
③7明9.B/
石川純平④401昭3.B/
石川進④419昭4.D/
石川精三③255昭5.D//
④434昭5.D/
石川大浪①7［85,86,88］/
①9［129,135, 156］/
石川剛①244大13.B/
石川千代松②20昭10.C/
②164明16.F/②186明23.F/
②199明27.F/②250大12.F/
石川傳吉①260大14.E/
①261大14.E/
石川利之③20明16.C/
③23明18.C/④52明16.C/
④59明18.C/
石川寅吉①279昭2.D//
④731[昭2]/④734[昭3]/
石川彝（寧靜學人）［西洋夜話］
①14明4.C/①21明9.C//
②154明5.B//④34明11.C/
④34明11.C/④55明17.B/
④72明21.B/
石川弘④212明43.D/
④219明44.C/
石川平吉④245大2.B/
石川滿壽④434昭5.D/
石川安次郎②214明34.E/
石川湧①371昭9.A//②32昭11.A/
②63昭12.D/②93昭15.B//
④522昭11.A/④552昭12.B/
④553昭12.B/④559昭12.D/
④625昭16.A/
石川義勝③255昭5.D//
④434昭5.D/
石川利三郎③265昭7.C/
石川林四郎②78昭13.G/
②244大8.G/②250大12.G/
石川鍊④497昭9.D/
石川鍊次②109昭16.C/
②121昭17.C//④645昭17.C/
④778[昭19]/
石倉三郎④627昭16.B/
石倉小三郎①121明38.D/
①122明38.D//④143明36.B/
④164明38D/
石黑定美①107明36.C/
石黑忠篤④54明16.F/
④704[明39]/
石黑魯平①335昭6.D//
④461昭7.D/④477昭8.D/
④541昭11.E/
石坂龜治④85明23.A/
石坂養平①163大2.B//
④244大2.B/④257大3.B/
④264大3.C/
石崎愛民④81明23.B/
石崎喜代治④568昭13.B/
石崎達二②46昭11.D/
②266昭5.D//③245昭3.D/
③255昭5.D/
石澤要①377昭9.B/
石澤三郎③281昭10.B/
石島潔④548昭12.B/
石島三郎④430昭5.C/
④516昭10.D/④566昭13.B/
④616昭15.D/④803[昭12]/
④805[昭14]/
石關敬三④628昭16.B/
石田英一郎③310昭15.C/
石田學士①211大8.C/
石田賢應③205大7.B/
③212大9.B/
石田憲次①199大6.D/
①206大7.D/①212大8.D/
①246大13.B/①366昭8.D/
①367昭8.D//②24昭10.D/
②144昭19.D/②145昭19.E/
②272昭6.G//③214大10.B/
③224大12.D/③244昭3.D//

④462昭7.D/④463昭7.D/
④476昭8.C/④717[大5]/
石田憲三①229大11.B/
石田幸太郎③250昭4.D/
石田三眺③142明40.B/
石田繁②45昭11.D/②47昭11.D/
石田茂①305昭4.C/
石田春風 → 石田元季
石田次郎④339大10.B/
④355大12.E/
石田新太郎①146明43.B/
①155明45.B/
石田毅④779[昭20]/
石田傳吉④43明14.E/
④373大14.E/
石田昇②224明39.B/
石田祐安④78明22.D/
石田仁②277昭8.B//④453昭7.B/
④469昭8.B/
石田文次郎①283昭2.E/
①323昭5.E/①385昭9.E/
石田幹之助①185大4.E/
①307昭4.D//③266昭7.D//
④374大15.A/④459昭7.C/
④481昭9.A/④501昭10.A/
④522昭11.A/④640昭17.A/
④748[昭9]/
石田三治④293大5.C/
石田元季(春風)①99明35.B/
①115明37.D //③113明35.B//
④155明37.D/④699[明32]/
石田谷吉④166明38.F/
石田羊一郎④97明26.C/
石田義則④559昭12.D/
石田芳穂②276昭7.E/
石田約翰④55明17.C/
石谷信保①377昭9.B/
伊地知英太郎①39明18.G//
③24明18.G//④61明18.G/
伊地知眞馨(恒庵)④41明14.B/
伊地知純正②46昭11.D/
石津作次郎①252大14.A/
石津照璽①303昭4.B/
①329昭6.B/①350昭7.C//
②142昭19.B/②265昭5.B/
②266昭5.C/②269昭6.B/
②271昭6.D/
石津可輔①30明13.E//
④39明13.E/
石塚揆一③276昭9.C/
石塚壽夫②276昭7.E/
石塚爲雄②132昭18.B/
石中象治②25昭10.D/
②45昭11.D/②70昭13.B/
②74昭13.D/②86昭14.D/
②99昭15.D/②125昭17.D/
②131昭18.B//③287昭11.D/
③311昭15.D//④575昭13.D/
④619昭15.D/
石貫鐵心④719[大8]/
石野逸羊④149明37.A/
石野隆③256昭6.A/
石野爲之助④186明41.B/
④120明31.B/
石野悌①246大13.C/
石橋臥波②227明40.D/
②232明44.B/
石橋五郎④800[昭8]/
石橋奎③36明22.C/
石橋幸次郎④516昭10.D/
石橋茂五郎④328大8.F/
石橋爲之助④699[明31]/
石橋湛山③150明42.B/
③164明45.B/③168明45.D/
③180大3.B/③184大3.C/
③185大3.C/③186大3.D/
③187大3.E/③188大3.F/
③189大4.B/③190大4.B/
③194大4.E/③248昭4.C/
石橋哲郎③261昭6.D//
④434昭5.D/
石橋智信①239大12.C/
①267大15.B/①269大15.C/
①378昭9.C//②41昭11.C/

②43昭11.C/②84昭14.C/
②97昭15.C/②120昭17.B/
②255大15.C//③219大11.C//
④236大1.D/④338大10.B/
④346大11.B/④377大15.B/
石橋忍月（友吉、忍月居士）
①49明21.D/①52明22.D/
①54明23.B//②185明23.D//
③32明21.D/③34明22.A/
③37明22.D/
石橋博士④745[昭8]/
石橋孫一郎④618昭15.D/
石橋政方④26[25007]/
石橋豐②51昭11.F/
石橋友吉 → 石橋忍月
石濱知行①272大15.E/
①296昭3.E/①306昭4.C/
①310昭4.E/①327昭6.B/
①331昭6.C/①332昭6.C//
②248大11.E/②263昭4.E/
②266昭5.C//③256昭5.E//
④422昭4.E/④448昭6.E/
④740[昭6]/
石原清隆④43明14.E/
石原謙（KI生、K.I.?）［助教授］
①136明41.B/①146明43.B/
①152明44.C/①156明45.B/
①163大2.B/①170大3.B/
①174大3.B/①181大4.B/
①184大4.D/①189大5.B/
①195大6.B/①196大6.C/
①197大6.C/①202大7.B/
①204大7.C/①205大7.C/
①206大7.D/①209大8.B/
①210大8.B/①215大9.B/
①225大10.D/①230大11.B/
①245大13.B/①250大13.E/
①254大14.B/①264大15.B/
①266大15.B/①285昭3.B/
①290昭3.B/①303昭4.B/
①304昭4.B/①328昭6.B/
①376昭9.B/①382昭9.D//
②20昭10.B/②22昭10.C/
②32昭11.A/②54昭12.B/
②69昭13.B/②70昭13.B/
②71昭13.B/②75昭13.E/
②83昭14.B/②95昭15.B/
②97昭15.C/②98昭15.C/
②139昭18.E/②243大8.B//
③143明40.B/③146明41.B/
③161明44.C/③181大3.B/
③187大3.D/③190大4.B/
③191大4.B/③195大5.B/
③201大6.B/③202大6.B/
③203大6.C/③204大6.D/
③205大7.A/③206大7.C/
③207大7.D/③215大10.B/
③216大10.D/③217大10.D/
③217大11.A/③221大12.A/
③223大12.B/③227大13.D/
③228大13.E/③229大14.B/
③230大14.B/③230大14.C/
③243昭3.B/③248昭4.B/
③252昭5.B/③257昭6.B/
③264昭7.B/③271昭8.B/
③275昭9.B/③278昭9.D/
③281昭10.B/③281昭10.C/
③294昭13.B/③295昭13.B/
③303昭14.B/③306昭14.D/
③308昭15.B/③314昭16.B/
③323昭18.B//④145明36.C/
④214明44.B/④245大2.B/
④260大3.B/④289大5.B/
④290大5.B/④297大5.D/
④301大6.B/④302大6.B/
④313大7.B/④316大7.C/
④317大7.C/④330大9.B/
④414昭4.B/④452昭7.B/
④454昭7.B/④468昭8.B/
④490昭9.C/④510昭10.B/
④514昭10.C/④524昭11.A/
④557昭12.D/④586昭14.B/
④626昭16.A/④657昭18.B/
④665昭19.B/④667昭19.C/

④762[昭13]/④766[昭15]/
石原憲治③231大14.D/
石原健三④85明23.E/
石原純［石原、西洋人名辭典］
①272大15.F/①356昭7.F/
①370昭8.G//②115昭16.F/
②124昭17.D/②272昭7.A/
②280昭8.G/②280昭9.A//
③245昭3.F/③273昭8.G//
④365大14.B/④434昭5.D/
④449昭7.A/④464昭7.F/
④465昭7.G/④481昭8.G/
④500昭9.F/④598昭14.F/
④549昭12.B/④579昭13.F/
④741[昭6]/④773[昭17]/
④800[昭8]/
石原助教授 → 石原謙
石原辰郎②29昭10.F/
②78昭13.F/④564昭12.F/
石原延③260昭6.D/
石原益治①176大3.D/
①293昭3.D//③187大3.D//
④268大3.D/
石原和三郎④699[明33]/
井島勉②44昭11.D/②45昭11.D/
②74昭13.D/②112昭16.D/
②144昭19.D/②275昭7.D//
④462昭7.D/④469昭8.B/
④496昭8.B/④539昭11.D/
④540昭11.D/④635昭16.D/
④662昭18.D/
石巻良夫①142明42.B//
②232明44.B//③147明41.B//
④188明41.C/④192明42.B/
④212明43.E/④228大2.B/
④257大3.B/④268大3.E/
石丸淺雄③255昭5.D//
④434昭5.D/
石丸梧平②14昭10.B/
②53昭12.B/
石丸敏一④703[明38]/
④704[明38]/④705[明39]/
石峰④119明31.B/
石村幸四郎②124昭17.D//
石村貞一①36明17.B/
石母田正④613昭15.C/
石本筈④251大2.D/
石本三十郎④76明22.B/
石本清四郎④436昭5.E/
石本雅男①338昭6.E//
②27昭10.E/②28昭10.E/
②76昭13.E/②77昭13.E//
④519昭10.E/
石本巳四雄①369昭8.F//
④480昭8.F/
石山幹二④353大12.C/
石山脩平①289昭3.B/
①315昭5.B/①328昭6.B/
①343昭7.B/①344昭7.B/
①360昭8.B/①374昭9.B/
①375昭9.B/①382昭9.D//
②11昭10.B/②14昭10.B/
②15昭10.B/②33昭11.B/
②36昭11.B/②55昭12.B/
②56昭12.B/②61昭12.D/
②69昭13.B/②70昭13.B/
②79昭14.B/②81昭14.B/
②83昭14.B/②99昭15.D/
②259昭3.B/②282昭9.B//
③290昭12.B//④427昭5.B/
④483昭9.B/④486昭9.B/
④496昭9.D/④525昭11.B/
④527昭11.B/④549昭12.B/
④566昭13.B/④602昭15.B/
④627昭16.B/④665昭19.B/
④809[昭19]/
石山生②218明36.B/
石山徹郎④717[大5]/
伊集院哲③323昭18.C/
伊集院齋①352昭7.D/
意匠美術寫眞類聚刊行會
④726[大14]/
石渡春雄 → 隅田春雄
伊豆公夫②22昭10.C/

②60昭12.C//④755[昭11]/
泉井久之助①293昭3.D/
①296昭3.D/①308昭4.D/
①317昭5.C/①318昭5.C/
①336昭6.D/①347昭7.C/
①365昭8.C/①382昭9.D/
①383昭9.D//②61昭12.D/
②86昭14.D/②87昭14.D/
②108昭16.C/②144昭19.D//
③245昭3.D/③260昭6.D/
③298昭13.D//④408昭3.D/
④424昭5.A/④518昭10.D/
④575昭13.D/④640昭17.A/
④647昭17.C/④753[昭10]/
④758[昭12]/④760[昭13]/
④764[昭14]/④810[19-]/
和泉きん子④370大14.D/
泉定③272昭8.C/
泉哲①261大14.E/
泉節二③328昭22/
飯泉規矩三①99明35.A//
③65明28.A/
泉幸次郎④709[明43]/
④744[昭7]/
和泉武④392昭2.C/④416昭4.C/
和泉秀夫①338昭6.E/
和泉彌六④99明27.B/
④105明28.B/④108明28.C/
泉谷氏一④600昭15.A/
伊勢專太郎①308昭4.D/
伊勢時雄②173明20.B/
②176明21.B//③31明21.C/
③32明21.C//④36明12.B
④38明12.F/④46明15.B/
④69明20.D/④76明22.B/
④78明22.D/④685[明16]/
伊勢本一郎③64明27.E/
醫專生④259大3.B/
磯千鳥①156明45.B/
礒不道人①24明10.D/
礒萍水④172明39.D/
磯川治一③267昭7.D//
④447昭6.D/
五十里幸太郎①259大14.D/
磯田崇①49明21.D/
磯田良［學士、講師］①65明25.C//
②191明25.C/②274昭7.C//
③99明33.A/③108明34.C//
④188明41.C/④198明42.C/
④202明43.A/④458昭7.C/
④701[明35]/④791[大2]/
磯谷幸次郎①58明23.E/
磯西忠吉④765[昭15]/
磯野駿②265昭5.B/②267昭5.E/
磯野定次郎④114明30.A/
磯野德三郎（無腸道人）
②159昭14.F//④684[明13]/
磯部淸亮②221明 37.G/
磯部幸一②274昭7.D/
磯部紫外子①163大2.B/
磯部四郎①46明21.A//
③26明19.E//④66明19.E/
④66明20.B/④689[明19]/
④691[明21]/
磯部泰治①179大4.B/
①189大5.B//③191大4.B/
③197大5.B//④274大4.B/
④285大5.B/④291大5.B/
磯部忠正②131昭18.B//
③271昭8.B//④488昭9.B/
磯部濤一郎④534昭11.C/
磯部武者五郎（武者五郎）
①89明32.B/①93明33.B/
①96明34.B//④100明27.B/
磯部（邊）彌一郎③51明25.D//
④92明25.C/④145明36.C/
④147明36.D/
磯村英一①378昭9.C/
磯山松①77明28.D//
③327明［不明］D/
井田實之②160昭15.C//
④48明15.F/
板尾雄［確］太郎②177明21.E//
④71明20.E/

板垣鷹穂①231大11.D/
①232大11.D/①233大11.D/
①237大12.B/①240大12.D/
①247大13.D/①248大13.D/
①263大15.A/①295昭3.D/
①309昭4.D/①337昭6.D//
②74昭13.D/②104昭16.A/
②124昭17.D/②130昭18.A/
②136昭18.D/②137昭18.D/
②263昭4.D//③225大13.B/
③249昭4.D/③318昭17.A/
③322昭17.D/③324昭18.D//
④374大15.A/④397昭2.D/
④474昭8.C/④541昭11.D/
④636昭16.D/④650昭17.D/
④651昭17.D/④654昭17.E/
④662昭18.D/④670昭20.D/
④798[昭5]/
板倉勝朝②249大12.E/
板倉勝正③299昭13.D/
③304昭14.C//④575昭13.D/
④613昭15.C/④660昭18.C/
板倉銀之助④672［明治］/
④689[明治]/
板倉謙二③308昭15.B/
板倉卓造①249大13.E/
①262大14.E/①368昭8.E//
②41昭11.C/②65昭12.E/
板倉天耳①102明35.C//
③115明35.D/③120明36.C/
潮來逸民①62明24.E/
潮來散民②188明24.D/
板坂三郎①180大4.B/
板澤→板澤武雄
板澤武雄[板澤]④306大6.C/
④410昭4.A/④437昭6.A/
④450昭7.A/④465昭7.G/
④466昭8.A/④598昭14.G/
④617昭15.D/④619昭15.D/
④624昭16.A/④636昭16.D/
④640昭16.F/④641昭17.A/
④652昭17.D/④742[昭7]/
④746[昭8]/④762[昭13]/
④763[昭14]/④764[昭14]/
④765[昭15]/④771[昭16]/
板野長八④577昭143.F/
板橋倫行③237大15.D/
板橋勉①348昭7.C/①378昭9.C/
①379昭9.C//②21昭10.C/
②274昭7.C//④443昭6.C/
④457昭7.C/
伊丹①365昭8.C/
板本郁郎②249大12.E/
板屋確太郎②174明20.E/
イタリアの會④640昭17.A/
伊太利博物舘①102明35.D/
一愛讀者①216大9.B/
一愛讀生④275大4.B/
一氏義良①169大3.A/
①177大3.D/①196大6.C/
①204大7.C/①232大11.D/
①243大13.A/①263大15.A/
①269大15.D/①271大15.E/
①280昭2.D/①290昭3.C/
①294昭3.D/①307昭4.D/
①308昭4.D/①320昭5.D/
①321昭5.D/①331昭6.C/
①338昭6.D/①352昭7.D//
②46昭11.D//③241昭2.D//
④374大15.A/④537昭11.D/
④728[昭1]/④729[昭2]/
一外散史②189明25.A/
市川勇④426昭5.A/
市川一郎①169大3.B/
①222大10.B/①244大13.B/
市川億次郎(溫海)④142明36.B/
市川岳山①7［74］/
市川勝弘②146昭19.F/
市川兼恭④778[昭19]/
市川虛山①169大3.B//
③180大3.B/③181大3.B/
③184大3.B//④258大3.B/
市川恭二④602昭15.B/
市川源三①96明34.B//

④465昭7.G/
市河三喜(Sanki,Ichikiawa)
①204大7.C/
①223大10.B/①238大12.B/
①279昭2.D/①281昭2.D/
①320昭5.D/①321昭5.D/
①325昭6.A//②52昭11.G/
②103昭15.G/②116昭16.G/
②272昭6.G//③278昭9.G/
③296昭13.C//④448昭6.D/
④560昭12.D/④564昭12.G/
④738[昭5]/④740[昭6]/
市川承八郎②123昭17.C/
②132昭18.B//④656昭18.B/
市川泰次(治)郎④423昭4.E/
④432昭5.C/
市川忠男③283昭10.G/
市川團藏④137明35.B/
市川任太郎②270昭6.D//
④434昭5.D/
市河晴子①325昭6.A/
①341昭7.A//③268昭8.A/
③287昭12.A/
市川溫海 → 市川億次郎
市川秀雄②139昭18.E/
②146昭19.E//③292昭12.E/
③299昭13.E/③312昭15.E//
④638昭16.E/
市川文藏①317昭5.C/
①319昭5.C/①339昭6.D//
②43昭11.C/②137昭18.E/
②139昭18.E//④448昭6.E/
④534昭11.C/
市川又藏②235明45.D/
市川又彦①205大7.D//
③164明45.B/③328昭21/
市川義夫[英和和英字彙大全]
①38明18.G/①49明21.G//
②172明19.G/②174明20.G/
②177明21.G//③25明18.G//
④61明18.G/④66明19.G/
④71明20.G/
一寒生③22明17.C/
猗竹生 → 菅井猗竹
市來帝二③211大8.D/
一記者②224明 39.B//
③168明45.C/③170明45.G/
③171大2.B/③184大3.B/
一木文④416昭4.B/
一旗茂助④466昭8.A/
一木老人④75明21.E/
市古貞次④754[昭11]/
市澤彌一④176明40.B/
④205明43.B/
一日庵主人④115明30.B/
市島謙吉(春城學人)
②167明18.B/②168明18.F/
②169明19.B//④57明17.E/
④66明19.D/
一社友③143明40.C/
一書生[京都]④42明14.C/
一女教師②130昭18.A//
④655昭18.A/
一條愛策③16明13.B/
一條成美②211明33.D//
③104明33.D/
一條忠衛①222大10.B//
④338大10.B/
一信徒[京都]④43明14.C/
一素讀生④198明42.C/
市瀨齋①259大14.D/
市瀨保三③51明25.C/
一宣教師④237大1.D/
一藏書家①94明33.C/
一戸櫻外④188明41.D/
一戸直藏①207大7.F/
①219大9.F//④269大3.F/
④271大4.A/④320大7.F/
④335大9.F/
市野彌三郎①96明34.B//
③49明25.B/
一ノ瀨長治①369昭8.E//
④479昭8.E/
一ノ瀨雅史①352昭7.D/

市場直治郎③266昭7.D/
市橋京一②263昭4.E/
市橋久二郎④680[明10]/
一旗茂助①341昭7.A/
市原董④275大4.B/
市原盛宏④59明18.B/
市原勇六①76明28.C/
一畝庵主人④108明28.D/
市東謙吉②174明20.E/
一又正雄②101昭15.E//
③326昭19.E/
一宮榮④295大5.D/
市村英輔③264昭7.B/
市村惠吾④649昭17.D/
④663昭18.D/④775[昭18]/
市村今朝藏③245昭3.E/
市村瓚次郎②181明22.D/
②185明23.D//③40明23.C//
④131明34.B/
市村甚三郎④474昭8.C/
市村塘①109明36.G/
市村光惠①109明36.E/
①168大2.E//③124明36.E//
④335大9.E/
市村與一①292昭3.C//
④143明36.B/④265大3.C/
一理學部生④500昭9.F/
④520昭10.F/
一力五郎④385大15.E/
五來欣造①92明32.E/
①309昭4.E/
逸木盛照②231明43.B/
齋田喬②285昭9.D/
齋田訥於①25明10.G/
齋田禮門②48昭11.E/
②75昭13.E/
一志茂樹④327大8.D/
④335大9.D/④342大10.D/
一色生①234大11.F/
一笑尊者④122明32.A/
一聿生④91明25.B/
一星④229大1.B/
一足菴④673[江戸末期]/
一瓢居士①48明21.C/
一禮[豐]齋國信④672[文政]/
出石誠彦②265昭5.B//
④766[昭15]/
井筒俊彦②87昭14.D//
③314昭16.B//④628昭16.B/
④644昭17.B/
出野靑煙④241大2.B/
逸名子①118明38.A//
③58明26.D/
逸見梅榮③297昭13.D//
④517昭10.D/
逸見廣②69昭13.B//
④566昭13.B/
出雲路善尊①250大13.E//
②244大9.B/
井出猪之助④677[明8]/
④782[明8]/④782[明10]/
④782[明11]/
井出原太郎③260昭6.D/
井出德太郎①42明20.A//
③25明19.A//④62明19.A/
出隆①229大11.B/①237大12.B/
①238大12.B/①244大13.B/
①245大13.B/①254大14.B/
①255大14.B/①259大14.D/
①265大15.B/①287昭3.B/
①299昭4.A/①300昭4.B/
①302昭4.B/①304昭4.B/
①305昭4.B/①327昭6.B/
①328昭6.B/①344昭7.B/
①360昭8.B//②11昭10.B/
②13昭10.B/②35昭11.B/
②36昭11.B/②54昭12.B/
②65昭12.E/②69昭13.B/
②70昭13.B/②71昭13.B/
②80昭14.B/②81昭14.B/
②90昭14.F/②92昭15.B/
②94昭15.B/②104昭16.B/
②105昭16.B/②106昭16.B/
②107昭16.B/②118昭17.B/

②119昭17.B/②120昭17.B/
②131昭18.B/②132昭18.B/
②132昭18.B/②139昭18.E/
②142昭19.B/②146昭20.B/
②148昭22.［補遺］/
②252大14. B/②259昭3.B//
③214大10.B/③222大12.B/
③225大13.A/③225大13.B/
③243昭3.B/③248昭4.B/
③257昭6.B/③274昭9.B/
③275昭9.B/③279昭10.B/
③285昭11.B/③289昭12.B/
③295昭13.B/③302昭14.B/
③306昭14.F/③308昭15.B/
③313昭16.B/③314昭16.B/
③320昭17.B/③325昭19.B/
③326昭19.B//④301大6.B/
④338大10.B/④351大12.B/
④366大14.B/④371大14.D/
④401昭3.B/④410昭4.A/
④413昭4.B/④415昭4.B/
④429昭5.B/④441昭6.B/
④451昭7.B/④454昭7.B/
④484昭9.B/④488昭9.B/
④504昭10.B/④525昭11.B/
④530昭11.B/④548昭12.B/
④561昭12.E/④567昭13.B/
④579昭13.G/④587昭14.B/
④628昭16.B/④647昭17.C/
④653昭17.E/④658昭18.B/
④665昭19.B/④724[大13]/
④725[大13]/④757[昭12]/
④760[昭13]/④762[昭13]/
④763[昭14]/④774[昭18]/
④777[昭19]/④803[昭12]/
井出英夫④518昭10.D/
井出賁夫④591昭14.C/
④618昭15.D/④636昭16.D/
井出正孝②245大9.E/
出井高晏②69昭13.B/
出井盛之①310昭4.E//
④421昭4.E/
井出彌門①298昭3.F//
②139昭18.F//④410昭3.F/
井出利一（Y.Ide）①307昭4.D/
井出義行④802[昭10]/
出田水鶏子④420昭4.D/
伊藤愛山③8明9.C/
伊東尾四郎④785[明36]/
伊藤惟一③282昭10.D/
伊藤公澄①175大3.C//
④264大3.C/
伊藤吉之助［教授］①238大12.B/
①274昭2.B/②84昭14.C//
③165明45.B/③166明45.B/
③248昭4.B/③325昭19.B//
④375昭15.B/④413昭4.B/
④488昭9.B/④653昭17.E/
④664昭19.A/
伊藤教授 → 伊藤吉之助
伊藤銀月（銀二）④170明39.C/
④171明39.C/④184明41.B/
伊藤欣二④800[昭7]/
伊藤欽二①340昭6.G/
伊藤銀二 → 伊藤銀月
伊藤琴三②186明23.F/
伊藤粂藏④540昭11.D/
伊藤惠①229大11.B/
①239大12.B/①245大13.B/
②12昭10.B/
伊藤圭介②150［14498,14502］//
②174明20.F/②177明21.F/
②182明22.F/②186明23.F/
②189明24.F/②192明25.F/
②196明26.F/②201明28.F/
②205明30.F/②207明31.F/
②214明34.F//③110明34.F/
③111明34.F//④25[24989]/
④54明16.G/④134明34.F/
④399昭2.F/
伊藤謙②235明45.G//
④54明16.G/④676[明7]/
伊藤源一郎①362昭8.B/
②14昭10.B/

伊東研齋①291昭3.C//
③244昭3.C/
伊藤源作④171明39.C/
伊藤謙藏①51明22.C/
井東憲法④451昭7.A/
伊藤孝一④738[昭5]/
伊藤功一④383大15.D/
伊藤庚午郎②216明35.C/
②222明38.B/
伊東好次郎④796[*昭和]/
伊藤高造③208大7.F/
伊藤香象②245大9.E/
伊藤重信①219大9.F/
伊藤秀一④365大14.B/
伊藤秀五郎①298昭3.F/
伊藤尚①153明44.C/
①180大4.B//④221明41.C/
④714[大4]/
伊藤重吉④102明27.C/
伊藤證信①135明41.B/
①138明41.B//④361大13.C/
④367大14.B/
伊藤至郎②78昭13.F//
④773[昭17]/
伊藤庄治郎④644昭17.B/
伊藤小翠④705[明40]/
④706[明41]/④707[明41,42]/
④709[明43]/
(伊藤)仁齋②194明26.B/
伊藤新太郎②173明20.C/
伊藤生①163大2.B//
③160明44.B/
伊藤整①335昭6.D/①352昭7.D/
①353昭7.D//②99昭15.D//
④539昭11.D/④743[昭7]/
伊藤政之助②41昭11.C/
②84昭14.C//③264昭7.C//
④730[昭2]/
伊藤泰助①143明42.C/
伊藤大八③27明19.G/
伊藤貴麿④800[昭7]/
伊藤卓治④447昭6.D/
伊藤卓三①17明7.C/
伊藤大八④691[明20]/
伊藤武雄①228大11.A/
①232大11.D/①240大12.D/
伊藤武雄[卒論]②270昭6.D//
④478昭8.D/
伊藤雄①366昭8.D/
伊藤武壽③45明24.B/
伊東多三郎④522昭11.A//
④752[昭10]/④757[昭12]/
④763[昭14]/④774[昭18]/
伊藤智源①276昭2.B/
伊藤千眞三②264昭4.F//
④423昭4.E/
伊東忠太①118明38.A/
①124明39.A/①294昭3.D/
①308昭4.D/①321昭5.D//
②98昭15.D/②266昭5.D//
③76明29.D/③83明30.D/
③130明37.D/③137明39.A/
③147明41.C/③220大11.D/
③306昭14.D/③322昭17.D//
④270大3.G/④71明21.A//
④381大15.C/④549昭14.D/
④694[明24]/④696[明26,27]/
④698[明31]/④765[昭15]/
④780[昭20]/④783[明26]/
④784[明29]/④784[明30]/
④784[明31]/④785[明31]/
④787[明42]/
伊藤長六②183明23.C/
伊藤鶴松①181大4.B//
③190大4.B/
伊藤悌治①52明22.E/
①62明24.E//
②148昭20.B[不明]/
②196明26.E/
伊藤哲英②213明34.B/
伊藤道學②276昭7.E/
伊藤豐十①122明38.F/
伊藤(東)篤太郎②207明31.F//
②248大11.C//④714[大4]/

伊藤俊夫②49昭11.E/
伊藤徳男④483昭9.B/
伊藤秀夫④603昭15.B/
伊藤鏢三郎④672[明治]/
④696[明26]/
伊藤(博文)伯①52明22.C//
④79明22E/
伊藤轡帆①303昭4.B/
伊東平藏①31明14.B//
③149明42.A/
伊東本支③10明9.G/
伊藤允美④785[明36]/
伊藤政寛①385昭9.E//
②27昭10.E/
伊藤松雄②108昭16.C//
④372大14.D/
伊藤光雄①117明37.F/
伊藤猷典①196大6.B/
①285昭3.A//②281昭9.B/
伊藤靖①283昭2.G/
伊東保次郎④650昭17.D/
伊藤好太郎①279昭2.D//
④397昭2.D/
伊藤芳松④132明34.C/
伊東勇太郎①259大14.D/
伊藤有隣④681[明11]/
伊藤隆治②42昭11.C//
④535昭11.C/
伊藤廉②117昭17.A/
②130昭18.A//③293昭13.A//
④655昭18.A/
伊藤緑良②252大14.D/
糸屋市兵衛④671［江戸中期］/
猪名一郎②107昭16.B/
伊那鼎④652昭17.D/
伊奈信男①270大15.D/
①353昭7.D//④347大11.C/
稲井廣吉④585昭14.B/
④604昭15.B/
伊中敬三①321昭5.D//
④433昭5.D/
稲垣蝸堂④708[明42]/
稲垣銀次①16明6.C/①23明10.C/
①24明10.C/①27明11.C/
①31明14.C//③13明11.C/
稲垣子□④745[昭8]/
稲垣末松①147明43.B/
①164大2.B/①173大3.B//
②235明45.D//④274大4.B/
④288大5.B/④371大14.D/
稲垣達郎④517昭10.D/
稲垣足穂④779[昭19]/
稲垣千代橘④59明18.C//
④686[明18]/
稲垣信④39明13.B/
稲垣滿次郎③47明24.E/
稲垣陽一④365大15.B/
④601昭15.B/
稲垣陽一郎④202明43.B/
④203明43.B/④225大1.B/
④339大10.C/
稲垣了俊②21昭10.C/
②42昭11.C/
稲木勝彦②121昭17.C/
稲坂謙吉①149明43.F/
稲澤謙一④155明37.D/
④233大1.C/
稲澤史④505昭10.B/
稲田佐兵衛④48明15.D/
稲田周之助①226大10.E//
②237大2.E//③251昭4.E//
④672[明治]/④689[明治]/
稲田辰男②255大15.E/
稲田太郎③272昭8.D/
稲田昌植②29昭10.F//
④753[昭10]/
稲田林廣①11［208］/
稲冨榮次郎①313昭5.B/
①327昭6.B/①328昭6.B/
①345昭7.B/①359昭8.B/
①360昭8.B/①374昭9.B//
②34昭11.B/②35昭11.B/
②54昭12.B/②69昭13.B/
②79昭14.B/②80昭14.B/

②82昭14.B/②95昭15.B/
②101昭15.E/②120昭17.B/
②268昭6.B//③280昭10.B//
④451昭7.B/④454昭7.B/
④525昭11.B/④587昭14.B/
④601昭15.B/④605昭15.B/
井波他次郎①39明18.G//
②172明19.G/
因幡健造②258昭2.E/
稲葉昌丸①110明37.B/
①112明37.B/①131明40.B/
①132明40.B/①141明42.B//
②220明 37.B/②226明40.B/
②228明41.B//③126明37.B/
③127明37.B/③146明41.B//
④150明37.B/④194明42.B/
稲葉眞悟③223大12.B/
稲葉翠浪（隣作）①153明44.D//
④788[明44]/
稲葉秀雄②272昭6.E/
稲葉英文④538昭11.D/
稲葉三男②115昭16.F//
④654昭17.F/
稲葉稔④409昭3.E/
稲葉隣作 → 稲葉翠浪
稲光一夫②263昭4.E/
稲森縫之助①259大14.D/
稲村三伯①7[77]//②235明45.G/
稲村露園①195大6.B/
稲毛金七 → 稲毛詛風
稲毛詛風（金七、詛風生）
①162大2.B/①163大2.B/
①165大2.B/①169大3.B/
①173大3.B/①173大3.B/
①179大4.B/①180大4.B/
①181大4.B/①188大5.B/
①316昭5.B/①327昭6.B//
②105昭16.B//③174大2.B/
③180大3.B/③181大3.B/
③183大3.B/③184大3.B/
③191大4.B/③192大4.B/
③314昭16.B//④245大2.B/
④248大2.B/④258大3.B/
④263大3.B/④274大4.B/
④277大4.B/④307大6.D/
④309大6.E/④357大13.B/
④454昭7.B/④551昭12.B/
④629昭16.B/④732[昭3]/
乾信一郎③316昭16.D/
乾孝②124昭17.D/
乾立夫①30明13.C/①30明13.D//
④39明13.B/
乾政彦①98明34.E/
犬養健④736[昭4]/
犬養毅④36明12.B/④39明13.E/
井野正人②129昭17.G/
井上 → 井上圓了
井上勇①258大14.D//
④370大14.D/
井上右近②238大3.B/
②239大4.B//③180大3.B/
井上浦造③44明24.B/
井上圓了（甫水）①39明19.B/
①42明20.B/①43明20.B/
①59明24.B/①63 明25.B/
①73明27.B/①75明28.B/
①93明33.B/①132明40.B/
①141明42.B/①194大6.B//
②160昭15.B/②164明17.B/
②165明17.B/②165明17.E/
②167明18.B/②200明28.B/
②220明37.C//③26明19.B/
③35明22.B/③40明23.B/
③44明24.B/③209大8.B//
④66明20.B/④67明20.B/
④75明22.B/④80明23.B/
④86明24.B/④94明26.B/
④99明27.B/④106明28.B/
④106明28.D/④107明28.B/
④110明29.B/④114明30.B/
④119明31.B/④122明32.B/
④150明37.B/④175明40.B/

④185明41.B/④228大1.B/
④244大2.B/④300大6.B/
④323大8.B/④672昭20.E/
④689[明治]/
井上音松①346昭7.B//
④452昭7.B/
井上和雄④750[昭10]/
井上一之①259大14.D//
④726[大14]/
井上勝五郎④785[明34]/
井上活泉④180明40.D/
井上寛一④113明29.E/
井上喜一良④685[明16]/
井上幸一④700[明34]/
井上幸治④535昭11.C/
井上小左衛門④671[正保]/
井上五七①268大15.C/
井上五郎③267昭7.D/
井上克己①242大12.F/
井上桂④740[昭6]/
井上恭逸④596昭14.E/
井上清④750[昭10]/④761[昭13]/
④764[昭14]/
井上忻一①361昭8.B/
井上忻治①202大7.B/
①208大8.A//②131昭18.B/
②258昭2.E//③270昭8.B//
④322大8.A/④316大7.B/
④398昭2.E/④455昭7.B/
④470昭8.B/④741[昭6]/
井上玄一④345大11.B/
井上謙二④457昭7.C/
井上源次郎④498昭9.D/
④511昭10.B/
井上小吉①47明21.C/
井上小左衛門④810[*]/
井上五郎④446昭6.D/
④461昭7.D/
井上参議①31明14.B/
井上壽一④512昭10.C/
井上十吉［英和大辭典］
②230明42.G/②233明44.G/
②240大4.G/②244大8.G/
②246大10.G/②253大14.G//
③195大4.G/③201大5.G//
④283大4.G/④298大5.G/
④342大10.G/
井上周三①338昭6.E/
①368昭8.E//②249大12.E//
④398昭2.E/
井上修理③3［17491］/
井上正次③290昭12.B//
④531昭11.B/
井上次郎①52明22.D/
井上仁作②256昭2.B//
③239昭2.B/
井上助太郎①343昭7.B/
井上生①226大10.D/
井上靜一②129昭17.G//
④409昭3.E/
井上政次(治)②12昭10.B/
②36昭11.B/②144昭19.D//
④526昭11.B/
井上巽軒 → 井上哲次郎
井上忠④764[昭14]/④766[昭15]/
井上宗衛④252大2.D/
井上辰五郎②192明25.E/
井上智勇①297昭3.E/
①318昭5.C/①332昭6.C/
①348昭7.C/①349昭7.C/
①363昭8.C/①379昭9.C//
②22昭10.C/②60昭12.C/
②85昭14.C/②97昭15.C/
②108昭16.B/②109昭16.C/
②122昭17.C/②123昭17.C/
②126昭17.E/②127昭17.E/
②133昭18.C/②134昭18.C/
②135昭18.C/②142昭19.B/
②142昭19.C/②147昭20.E/
②149昭22.［補遺］//
④493昭9.C/④513昭10.C/
④555昭12.C/④589昭14.C/
④590昭14.C/④591昭14.C/

④603昭15.B/④608昭15.C/
④609昭15.C/④631昭16.B/
④633昭16.C/④647昭17.C/
④659昭18.C/④661昭18.C/
④666昭19.C/④667昭19.C/
④799[昭6]/④799[昭7]/
井上勤③25明18.G//④48明15.E/
④53明16.E/④60明18.D/
④684[明14]/④687[明18]/
④691[明20]/
井上經重①40明19.C/
井上貞藏①296昭3.E/
井上哲次［二］郎（巽軒）［哲學字彙、博士］
①32明14.E/①32明14.G/
①34明16.B/①34明16.B/
①37明17.G/①63明25.B/
①64明25.B/①72明26.G/
①83明30.C/①113明37.B/
①151明44.B/①154明44.G/
①160明45.G/①162大2.B/
①170大3.B/①171大3.B/
①172大3.B/①173大3.B/
①174大3.B/①216大9.B/
①229大11.B/①238大12.B/
①245大13.B/①267大15.B/
①330昭6.B/①343昭7.B//
②72昭13.B/②142昭19.B/
②158昭13.B/②159昭14.B/
②160昭15.B/②162明16.B/
②167明18.B/②170明19.B/
②171明19.C/②183明23.B/
②183明23.C/②187明24.B/
②188明24.D/②194明26.B/
②195明26.C/②198明27.D/
②209明32.G/②242大7.B//
③18明14.G/③18明15.B/
③19明15.E/③19明16.B/
③20明16.B/③21明16.G/
③21明17.B/③22明17.G/
③23明18.B/③24明18.G/
③27明19.G/③30明21.B/
③33明21.G/③44明24.B/
③45明24.C/③47明24.D/
③49明25.B/③50明25.C/
③55明26.B/③56明26.C/
③56明26.D/③59明27.A/
③63明27.D/③64明27.D/
③64明27.G/③66明28.B/
③69明28.D/③70明28.G/
③76明29.D/③79明29.G/
③81明30.B/③86明30.G/
③91明31.G/③100明33.B/
③101明33.B/③106明34.B/
③107明34.B/③142明40.B/
③151明42.B/③155明43.B/
③164明45.B/③170明45.G/
③180大3.B/③188大3.F/
③209大8.B/③211大9.A/
③213大9.E/③217大11.A/
③218大11.B/③225大13.A/
③225大13.B/③226大13.B/
③230大14.B/③233大15.B/
③264昭7.B/③323昭18.B//
④44明14.G/④50明16.B/
④51明16.B/④54明16.G/
④55明17.B/④58明18.B/
④95明26.B/④96明26.B/
④100明27.B/④106明28.B/
④107明28.B/④114明30.B/
④118明31.A/④119明31.B/
④131明34.B/④132明34.B/
④144明36.B/④154明37.C/
④156明38.A/④159明38.B/
④193明42.B/④207明43.B/
④229大1.B/④231大1.B/
④234大1.C/④239大1.G/
④244大2.B/④253大2.G/
④260大3.B/④274大4.B/
④275大4.B④288大5.B/
④300大6.B/④330大9.A/
④389昭2.B/④466昭8.A/
④488昭9.B/④509昭10.B/
④530昭11.B/④552昭12.B/

④586昭14.B/④587昭14.B/
④606昭15.B/④621昭15.E/
④631昭16.B/④645昭17.B/
④667昭19.C/④683[明13]/
④686[明17]/④701[明35]/
④702[明36]/④711[大1]/
④738[昭5]/④739[昭6]/
④740[昭6]/④742[昭7]/
④746[昭8]/④749[昭9]/
井上敏夫③42明24.A/
井上德定②195明26.D//
④98明26.D/
井上豐光④672[明治]/
④689[明治]/
井上肇②123昭17.C//
④633昭16.C/④648昭17.C/
井上秀夫③189大4.B/
井上秀子③221大12.A//
④540昭11.D/
井上文滋郎④124明32.C/
井上甫水 → 井上圓了
井上雅男④440昭6.B/
井上雅二①114明37.C/
①115明37.C/
井上增次郎①255大14.B/
①270大15.D/①335昭6.D/
①365昭8.D//④383大15.D/
④497昭9.D/④581昭14.A/
④608昭15.C/④616昭15.C/
井上滿①275昭2.B/
井上萬太郎④581昭14.A/
④608昭15.C/
井上操④33明10.E/④44明14.E/
井上義衛③267昭7.D/
井上良雄①321昭5.D/
井上芳夫①341昭7.A/
井上芳郎（朗）①277昭2.C/
①278昭2.C//②41昭11.C/
②129昭17.F//④439昭6.B/
④521昭10.F/④589昭14.C/
④669昭19.E/
井上賴圀③88明31.C/
井野邊茂雄④714[大4]/
④721[大11]/
猪間驥一②252大14.B/
猪間収三郎④787[明42]/
猪又賢三郎④221明44.D/
伊庭(氏) → 伊庭孝
伊庭菊次郎②207明32.B//
④123明32.B/
伊庭孝［伊庭］①366昭8.D//
③177大2.D//④267大3.D/
④476昭8.C/④544昭11.G/
④699[明32]/
伊波普猷④719[大8]/
蔽白生②190明25.B/
②195明26.C/②198明27.C/
位原覺②245大9.E/
井原左門 → 保田與重郎
伊原青々園④297大5.D/
井原糺④587昭14.B/
伊原敏郎④371大14.D/
茨木治郎④44明14.E/
茨木宗太郎②172明20.B/
茨木宗之②190明25.C/
②195明26.C/
井平鐵處②240大5.C/
井深梶之助①57明23.D/
①83明30.C/①124明39.A//
②202明29.C/②208明32.C//
③41明23.C//④42明14.B/
④56明17.C/④56明17.D/
④59明18.B/④62明19.A/
④62明19.B/④72明21.B/
④73明21.C/④77明22.C/
④78明22.D/④93明25.D/
④170明39.B/④354大12.D/
④368昭14.C/④690[明20]/
④699[明31]/
伊吹武彦②132昭18.B//
③299昭13.D//④488昭9.B/
④618昭15.D/
伊吹山德司④90明25.B/
伊福部吉隆①379昭9.C//

②34昭11.B/②54昭12.B//
④491昭9.C/④524昭11.B/
井伏鱒二①322昭5.D/
井蔑節三①218大9.E/
今井學士 → 今井登志喜
今井勝太郎①314昭5.B//
④427昭5.B/
今井穀積②260昭3.C/
②266昭5.C/②274昭7.C//
④514昭10.C/④535昭11.C/
今井三郎②280昭9.A//
④300大6.B/④304大6.B/
④398昭2.E/④401昭3.B/
④410昭3.E/
今井繁三郎③301昭14.B/
今井史仙［訂正］→今井史山
今井史山（今井元雄）①14明3.D/
①16明6.D//④675[明3]/
④676[明6]/
今井新太郎③302昭14.B/
③325昭19.B//④351大12.B/
④352大12.B/④367大14.B/
④375大15.B/④378大15.B/
④404昭3.B/④416昭4.B/
④438昭6.A/④442昭6.B/
④490昭9.B/④566昭13.A/
④570昭13.B/④747[昭8]/
今井仙一②71昭13.B/
②129昭17.F//③294昭13.B/
③308昭15.B/
今井登志喜［學士、助教授］
①159明45.C/①182大4.C/
①190大5.C/①197大6.C/
①274昭2.A/①332昭6.C/
①347昭7.C/①378昭9.C//
②41昭11.C/②121昭17.C//
③210大8.C/③216大10.C/
③235大15.C/③254昭5.C/
③300昭14.A/③303昭14.C//
④176明40.B/④249大2.C/
④291大5.C/④422昭4.E/
④443昭6.C/④474昭8.C/
④475昭8.C/④534昭11.C/
④554昭12.C/④590昭14.C/
④735[昭4]/④743[昭7]/
④804[昭12]/④804[昭13]/
今井壽道④82明23.C/
④85明23.E/④86明24.B/
④278大4.C/④319大7.D/
今井助教授 → 今井登志喜
今井冨次①255大14.B/
今井恒郎①74明27.C//
②200明28.C//③68明28.C//
④94明26.B/
今井白楊④713[大3]/
④721[大10]/
今井白嶺④348大11.D/
今井正篤④678[明9]/
④680[明10]/④681[明11]/
今泉④511昭10.B//④639昭16.E/
今泉篤男③291昭12.D/
今泉浦太郎①229大11.B/
今泉源吉④477昭8.D/
今泉孝太郎④500昭9.E/
④577昭13.E/④618昭15.D/
今泉三良①328昭6.B/
①345昭7.B/①360昭8.B//
②269昭6.B/②281昭9.B//
③257昭6.B/③280昭10.B/
③302昭14.B/③314昭16.B/
③323昭18.B//④439昭6.B/
④484昭9.B/④657昭18.B/
④666昭19.B/
今泉忠厚②41昭11.C//
④533昭11.C/④557昭12.C/
今泉眞幸①256大14.C//
④171明39.C/④206明43.B/
④225大1.B/④304大6.B/
④317大7.C/④352大12.B/
④360大13.B/④472昭8.C/
④632昭16.B/④716[大5]/
④755[昭11]/
今岡眞一④162明38.C/
今岡信一④198明42.C/

今岡信一良①174大3.B//
④318大7.D/
今川鎭夫①177大3.D/
①184大4.D//④266大3.D/
今川一④181明40.F/
今來恭本④32明10.B/
今來陸郎④613昭15.C/
今澤慈海②234明45.B/
今田竹千代①334昭6.C//
②272昭6.E//④416昭4.C/
④454昭7.B/④474昭8.C/
④614昭15.C/
今田健美④548昭12.B/
今立吐醉①36明17.B/
今中次麿①212大8.E/
①218大9.E/①227大10.E/
①261大14.E/①282昭2.E/
①283昭2.E/②296昭3.E/
①385昭9.E//②258昭2.E//
③208大7.E/③245昭3.E/
③261昭6.E/③299昭13.E/
今西正雄②130昭18.A/
今福忍①105明36.B/
①146明43.B/①157明45.B//
②228明41.B//③127明37.B/
③159明44.B/③223大12.B//
④206明43.B/④216明44.B/
④259大3.B/
今宮新①306昭4.C/①318昭5.C/
①322昭5.D/①333昭6.C/
①371昭9.A//④474昭8.C/
④576昭13.D/
今村英生④23[24930]/
④311大7.A/
今村恭太郎④398昭2.E/
今村文夫④653昭17.E/
今村文英①349昭7.C/
①354昭7.E/①364昭8.C/
①371昭9.A/①378昭9.C//
②142昭19.C//③281昭10.C/
③303昭14.C/
今村武夫④769[昭16]/
今村學部④797[昭4]/
今村嘉雄①311昭4.F//
②29昭10.F//④520昭10.F/
今村了庵④54明16.F/
彌永昌吉②146昭19.F//
④669昭19.F/
いよ生④198明42.C/
衣籟生①255大14.B/
入江依德［英和玉篇］
①41明19.G//③25明18.G/
③27明19.G/
入江祝衛②227明40.G/
②235明45.G/②237大2.G//
③170明45.G//④253大2.G/
入江俊郎①271大15.E//
②249大12.E/
入江陳重 → 穗積陳重
入澤宗壽①164大2.B/
①209大8.B/①244大13.B/
①265大15.B/①275昭2.B/
①286昭3.B/①286昭3.B/
①301昭4.B/①305昭4.B/
①356昭7.G//②69昭13.B/
②141昭19.B/②236大2.B//
③225大13.B/③226大13.B//
④403昭3.B/④412昭4.B/
④415昭4.B/④519昭10.E/
④537昭11.C/④569昭13.B/
入澤達吉①72明26.F/
①298昭3.F//②191明25.C//
④739[昭5]/④746[昭8]/
入澤民政④753[昭10]/
入濱掬泉④133明34.C/
入交好脩②280昭9.A/
井樓④170明39.C/
いるまん・ろれんそ④795[19-]/
色川猷次④471昭8.B/
岩井順一④248大2.C/
④794[大13]/
岩井大慧①334昭6.C//
③318昭17.A//④430昭5.C/
④644昭17.B/

岩井尊人①184大4.D/
岩井義郎③295昭13.B/
岩垣三枝子①165大2.C/
岩門正二郎②110昭16.C/
岩川友太郎②159昭13.F/
②159昭14.F//④58明17.G/
④79明22.F/④685[明17]/
Iwakawa,T. → 岩川友太郎
岩城準太郎①280昭2.D/
岩城生(忠四郎?)④327大8.D/
④341大10.D/
岩生成一①296昭3.D//
④388昭2.A/④565昭13.A/
④745[昭8]/
岩城忠四郎(岩城生?)
④318大7.D/④325大8.C/
④448昭6.D/
岩熊哲②115昭16.F/
②129昭17.F//③317昭16.F//
④639昭16.F/
岩倉男爵③154明43.A/
岩倉具實(Iwakura Tomizane)
②274昭7.D//④755[昭11]/
岩佐聖華①211大8.D//
③210大8.D/
岩佐三男④512昭10.C/
岩崎卯一④363大14.A/
岩崎克己②74昭13.D/
②87昭14.D//③300昭13.G/
③305昭14.D//④576昭13.D/
④593昭14.D/④633昭16.C/
④720[大9]/④751[昭10]/
④765[昭15]/④768[昭16]/
④771[昭16]/
岩崎喜一②56昭12.B//
④550昭12.B/
岩崎家④132明34.B/
岩崎重三④698[明30]/
④785[明31]/
池田鹿之助
小宮山綏介編 前野良澤
岩崎純孝④434昭5.D/
④655昭18.A/
岩崎武夫④438昭6.B/
④801[昭9]/
岩崎武雄③285昭11.B/
岩崎昶④362大13.D/
岩崎繼生(男)②272昭6.E/
②276昭7.E//④448昭6.E/
岩崎勉[學士]①270大15.D/
①275昭2.B/①277昭2.B/
①286昭3.B/①287昭3.B/
①288昭3.B/①300昭4.B/
①302昭4.B/①303昭4.B/
①304昭4.B/①314昭5.B/
①316昭5.B/①327昭6.B/
①330昭6.B/①344昭7.B/
①358昭8.B//②11昭10.B/
②33昭11.B/②35昭11.B/
②55昭12.B/②94昭15.B/
②118昭17.B/②133昭18.B/
②269昭6.B/②273昭7.B//
③233大15.B/③264昭7.B//
④378大15.B/④383大15.D/
④389昭2.B/④401昭3.B/
④453昭7.B/④484昭9.B/
④528昭11.B/④585昭14.B/
④586昭14.B/④618昭15.D/
④647昭17.C/
岩崎二雄②265昭5.B/
岩崎眞澄①252大14.A//
②10昭10.A/②243大7.D//
③208大7.D/③210大8.D//
④318大7.D/④335大9.D/
岩崎民平②116昭16.G/
岩崎行親②199明27.F/
②203明29.G/②211明33.G/
岩崎良三①353昭7.D//
②110昭16.D/②112昭16.D/
②124昭17.D/②125昭17.D/
②126昭17.D/②130昭18.B/
②133昭18.B/②137昭18.D/
②144昭19.D/③326昭19.D//
④460昭7.D/④468昭8.B/

④478昭8.D/④508昭10.B/
④594昭14.D/④635昭16.D/
④647昭17.C/④650昭17.D/
④658昭18.B/④662昭18.D/
岩崎練②90昭14.F//④597昭14.F/
岩貞謙吉①50明21.G/
岩澤亞爾子④47明15.C/
岩澤清三郎④479昭8.E/
④499昭9.E/
岩澤豪彦④650昭17.D/
岩澤丙吉①189大5.B/
岩下壯一①328昭6.B//
②11昭10.B/②82昭14.B/
②120昭17.B//③163明45.B/
③166明45.B/③253昭5.B/
③315昭16.B//④231大1.B/
④301大6.B/④374大15.A/
④376大15.B/④385大15.E/
④386大15.E/④389昭2.B/
④396昭2.D/④402昭3.B/
④414昭4.B/④418昭4.C/
④426昭5.B/④431昭5.C/
④433昭5.D/④435昭5.E/
④440昭6.B/④468昭8.B/
④484昭9.B/④528昭11.B/
④568昭13.B/④580昭14.A/
④585昭14.B/④586昭14.B/
④589昭14.C/④599昭15.A/
④605昭15.B/④627昭16.B/
④629昭16.B/④630昭16.B/
④635昭16.D/④644昭17.B/
④658昭18.B/④660昭18.C/
④665昭19.B/④766[昭15]/
④770[昭16]/④778[昭19]/
岩田巖次郎④109明29.B/
岩田奇禪②257昭2.D/
岩田耕作④372大14.E/
岩田古保藏③123明36.D/
③129明37.D/
岩田茂穗④55明17.C/
岩田靜夫①100明35.B/
岩田新①323昭5.E/①338昭6.E//
②272昭6.E/
岩田泰巖④128明33.C/
④700[明33]/
岩田豐生②106昭16.B/
岩田豐雄④553昭12.B/
岩田德義④73明21.C/
岩田久吉②128昭17.F/
岩田博藏②132昭18.B/
岩谷英太郎③142明40.B/
岩谷建三④526昭11.B/
岩月太刀男④758[昭12]/
岩坪美實②57昭12.B/
②71昭13.B//③302昭14.B/
岩永博④613昭15.C/
岩波茂雄①135明41.B/
岩波書店②280昭8.G/
岩波書店編輯部④753[昭10]/
巖根智昭①277昭2.C/
岩根保重④750[昭9]/
④751[昭10]/
岩野抱鳴①128明39.D/
①149明43.D/①195大6.B//
③45明24.C/③54明26.B/
③117明36.B/③127明37.B/
③134明38.D/③137明39.B/
③138明39.B/③144明40.D/
③155明43.B/③206大7.B/
③213大9.D/
③327明［不明］B//
④88明24.C/④171明39.D/
④172明39.D/④272大4.B/
④305大6.B/④495昭9.D/
岩橋五郎③251昭5.A/
岩橋武雄④490昭9.C/
④745[昭8]/
岩間松太郎④463昭7.E/
岩松五良②249大12.E/
岩見鑑三［造］①24明10.D//
④33明10.D/④679[明10]/
盤峰樵史④693[明23]/
岩村伍一郎①343昭7.B/

岩村忍②141昭19.A//
④646昭17.C/
岩村信二③328昭21//
④632昭16.B/
岩村清四郎④388昭2.B/
岩村透①115明37.D/
①116明37.D/①118明38.A//
③129明37.D/③130明37.D//
④156明37.D/④213明44.A/
④250大2.D/④284大5.A/
④699[明31]/
巖本愛契 → 巖本善治
岩本憲④639昭16.F/
岩本伍一(香夢樓主人)
④68明20.C//④77明22.C/
岩元將④538昭11.D/
巖本善治(愛契、月の舎しのぶ)
①55明23.B/①64明25.B/
岩元禎②142昭19.B//
③60明27.B/③61明27.B/
③325昭19.B//④100明27.B/
④659昭18.B/④720[大10]/
④744[昭7]/④770[昭16]/
④770[昭16]/④773[昭17]/
④778[昭19]/
岩本能武太郎①161大2.A/
岩谷英太郎③54明26.B/
巖谷小波(小波、漣山人)
①107明36.D/①133明40.D/
①135明41.B/①137明41.B/
①139明41.D/①153明44.D/
①184大4.D/①232大11.D/
①365昭8.D/①381昭9.D//
②206明31.D//③90明31.D/
③92明32.B/③102明33.C/
③126明37.B//④129明33.C/
④222明44.D/④698[明30]/
④702[明37]/④704[明38]/
④767[昭15]/
巖谷季雄④715[大4]/
巖谷秀雄④78明22.D/
④84明23.D/
岩谷北陰③100明33.B/
岩根保重④790[19-]/
印泰植②263昭4.E/
尹亨重④469昭8.B/
員外郎①95明33.D/
印刷文明史刊行會①363昭8.C/
筠莊居士④81明23.B/
印度神話④729[昭2]/
犬童信三④452昭7.B/
[う]う、まさお④87明24.B/
宇井伯壽[學士]①151明44.B//
③159明44.B/③179大3.A/
迂一居士①23明10.A/
植木枝盛①20明9.B/①21明9.C//
③7明9.B/③10明10.B/
③12明10.E/③13明11.B/
③15明12.E/③16明13.C/
③18明14.E/③19明15.E/
③28明20.C/③34明22.A//
④53明16.E/
植木錬之助④595昭14.D/
上澤謙二(治)④515昭10.C/
④716[大5]/④733[昭3]/
④736[昭4]/④741[昭6]/
④742[昭和]/④747[昭8]/
④752[昭10]/④755[昭11]/
④767[昭15]/④770[昭16]/
④773[昭17]/
上杉愼吉①96明34.A/
①109明36.E/①116明37.E/
①168大2.E/①260大14.E//
②138昭18.E/
上杉文秀①54明23.B/
上田秋夫②260昭3.D/
上田解牛④185明41.B/
上田萬年①133明40.D/
①140明41.D/①151明44.B/
①205大7.D//②199明27.D/
②219明36.G/②227明40.D/
②237大2.G//③36明22.C/
③59明27.A/③63明27.D//

③195大4.G//④104明27.D/
④121明31.D/④155明37.D/
④159明38.B/④181明40.D/
④189明41.D/④270大3.G/
④283大4.G/④702[明37]/
上田恭輔②211明33.G/
②213明34.B/
上田謙二④293大5.C/
Ueda,K.&B.④712[大2]/
植田榮①40明19.C//
②171明19.C/
上田作一④398昭2.E/
上田貞嘉④36明12.B/
上田質問生④258大3.B/
上田修一郎②85昭14.C/
上田將④42明14.C/④53明16.D/
④92明25.D/④103明27.D/
④221明44.D/④691[明21]/
④692[明22]/④693[明23]/
④694[明24]/④695[明26]/
④696[明27]/④697[明29]/
④783[明25]/④784[明29]/
上田捨吉①40明19.C/
植田生①142明42.B//193明42.B/
植田清次①361昭8.B//
②79昭14.A/②118昭17.B//
③300昭14.A//④657昭18.B/
上田文庫聖書舘④766[昭15]/
植田節郎④560昭12.D/
上田大助④469昭8.B/
植田高史②135昭18.C//
④661昭18.C/
上田忠雄①288昭3.B//
②24昭10.D/②62昭12.D/
上田辰之助①373昭9.B/
①385昭9.E/①386昭9.E//
②15昭10.B/②16昭10.B/
②19昭10.B/②28昭10.E/
②48昭11.E/②76昭13.E/
②88昭14.E//③287昭11.E//
④479昭8.E/④480昭8.E/
④511昭10.B/④519昭10.E/
④543昭11.E/④563昭12.E/
④639昭16.E/④654昭17.E/
④802[昭10]/
上田保③250昭4.D//④421昭4.D/
上田勤③305昭14.D/
上田勉①308昭4.D/
上田貞治郎④571昭13.C/
④762[昭13]/④766[昭15]/
④783[明24]/
上田貞次郎④79明22.G/
上田藤十郎②270昭6.C//
④422昭4.E/④435昭5.E/
④436昭5.E/
植田壽義④541昭11.D/
植田壽藏①167大2.D/
①206大7.D//③327昭20.D//
④295大5.D/④334大9.D/
④461昭7.D/④473昭8.C/
上田勤④748[昭9]/
植田輝夫④559昭12.D/
植田敏郎②63昭12.D/
上田仲之助①105明36.B/
上田秀成②159昭14.A/
上田敏(柳村、敏、みをつくし)[南蠻繪更紗]
①66明25.D/①74明27.D/
①75明27.D/①75明28.A/
①76明28.B/①77明28.D/
①78明29.B/①79明29.D/
①80明29.D/①80明29.D/
①84明30.D/①97明34.B/
①98明34.D/①103明35.D/
①108明36.D/①119明38.B/
①122明38.D/①128明39.D/
①130明40.B/①147明43.B/
①152明44.C/①154明44.D/
①156明45.B/①159明45.D/
①172大3.B/①176大3.D/
①179大4.B/①192大5.D/
①205大7.D/①206大7.D/
①225大10.D/①295昭3.D/

①296昭3.D//②203明29.D/
②204明30.D/②209明33.B/
②216明35.D/②219明36.G/
②220明37.D/②221明37.D/
②223明38.D/②234明45.B/
②237大2.G/②238大3.D/
②240大5.D/②249大12.D//
③42明23.D/③45明24.B/
③46明24.D/③47明24.D/
③52明25.D/③56明26.B/
③58明26.D/③64明27.D/
③66明28.B/③68明28.D/
③69明28.D/③75明29.C/
③75明29.D/③78明29.D/
③79明30.A/③82明30.B/
③83明30.D/③84明30.D/
③85明30.E/③88明31.B/
③90明31.D/③94明32.C/
③96明32.D/③101明33.B/
③106明34.B/③109明34.D/
③110明34.D/③115明35.D/
③123明36.D/③129明37.D/
③130明37.D/③135明38.D/
③140明39.D/③141明39.E/
③143明40.D/③144明40.D/
③146明41.A/③148明41.D/
③149明42.A/③152明42.D/
③160明44.B/③162明44.D/
③164明45.B/③171大2.B/
③177大2.D/③183大3.B/
③186大3.D/③193大4.D/
③194大4.D/③201大6.B/
③207大7.D/③231大14.D/
③237大15.D/③245昭3.D/
③256昭6.A//④97明26.C/
④108明28.D/④112明29.D/
④117明30.D/④121明31.D/
④124明32.C/④131明34.B/
④134明34.D/④140明35.D/
④142明36.B/④147明36.D/
④155明37.D/④156明37.D/
④163明38.D/④164明38.D/
④165明38.D/④170明39.C/
④172明39.C/④180明40.D/
④181明40.D/④214明44.B/
④221明44.D/④238大1.D/
④252大2.D/④267大3.D/
④270大3.G/④274大4.B/
④281大4.D/④282大4.D/
④293大5.C/④294大5.D/
④295大5.D/④296大5.D/
④307大6.D/④318大7.D/
④319大7.D/④338大10.B/
④342大10.D/④354大12.D/
④371大12.D/④409昭3.D/
④447昭6.D/④560昭12.D/
④576昭13.D/④672[明治]/
④673[明治]/④689[明治]/
④704[明38]/④705[明39]/
④706[明40]/④709[明43]/
④715[大4]/④717[大5]/
④717[大6]/④748[昭9]/
Ueda,M.&B.④702[明36]/
上田正夫④493昭9.C/
上田正紀④518昭10.D/
④539昭11.D/
上田馬太④55明17.B/
植田友市①143明42.B//
④193明42.B/
植田保之助①143明42.C/
上田義雄④346大11.B/
上田充③20明16.B/
上田柳村 → 上田敏
上田良吉①205大7.D//
④318大7.D/
上田瑠璃子②245大9.D/
上野伊三郎①320昭5.D/
上野岩太郎②199明27.E/
上野竈太郎④296大5.D/
上野清①134明40.F//
③11明10.C/
上野景福④808[昭18]/
上野貞正③125明36.G/
上野照三②103昭15.F/

上野益三④764[昭14]/
上野眞正①27明11.G/
上野隆誠②118昭17.B/
②120昭17.B/②265昭5.B//
④645昭17.B/
上野直昭①177大3.D/
①191大5.D/①220大10.A/
①234大11.G/①238大12.B/
①357昭8.A//②45昭11.D/
②62昭12.D//③181大3.B//
④560昭12.D/
上野直藏④769[昭16]/
上野眞正④141明35.G/
上野巳熊④53明16.D/
上野陽一［文學士］①136明41.B/
①156明45.B/①173大3.B//
②231明43.G//③146明41.B//
④223明44.G/④274大4.B/
④331大9.B/
植林子盛③31明21.C/
上原塢一郎③3［17493］/
植原悦二郎①177大3.E/
上原敬二②253大14.F//
④728[昭1]/
上原謙治④674昭20.E/
④712[大3]/.
上原好咲①271大15.E/
上原專祿②27昭10.E/
②76昭13.E/②101昭15.E/
②113昭16.E/②122昭17.C/
②128昭17.E/②134昭18.C/
②139昭18.E/②144昭19.C/
②147昭20.C//③327昭20.C//
④425昭5.A/④448昭6.E/
④464昭7.E/④500昭9.E/
④616昭15.C/④634昭16.C/
④653昭17.E/④660昭18.C/
④807[昭16]/④807[昭17]/
④809[昭19]/
上原ヌキ子③267昭7.D//
④447昭6.D/
植原路郎③206大7.C/
上原六四郎①84明30. D/
植松孝昭②233明45.A/
上松又男④108明28.D/
④113明29.D/④120明31.C/
植村榮一④334大9.C/
上村邦彦④262大3.B/
④290大5.B/④378大15.B/
④711[大1]/
植村氏④32明10.B/
植村俊平①44明20.E/
植村晉六①289昭3.B/
植村清二④541昭11.D/
植村清之助①191大5.C/
①194大6.A/①197大6.C/
①201大7.A/①204大7.C/
①209大8.B/①211大8.C/
①215大9.B/①217大9.C/
①239大12.C/①247大13.C/
①292昭3.C/①312昭5.A/
①319昭5.C//②243大8.C/
②266昭5.C//③259昭6.C/
③287昭11.D//④306大6.C/
④321大8.A/④322大8.B/
④325大8.C/④329大9.A/
④339大10.C/④340大10.C/
④342大10.E/④360大13.C/
④380大15.C/④406昭3.C/
④407昭3.C/④431昭5.C/
④432昭5.C/④473昭8.C/
④474昭8.C/④672[明治]/
④673[明治]/④715[大4]
④792[大6]/④796[昭3]/
植村［正久］全集刊行會
④439昭6.B/④451昭7.B/
植村琢①253大14.B//
②140昭18.F//④364大14.B/
植村長三郎④654昭17.G/
上村哲彌①277昭2.B//
②257昭2.B/
植村敏太②117昭17.A/
植村雅彦④658昭18.B/
④665昭19.B/

植村正久（謙堂逸人、無名氏、白井）
①33明15.D/
①43明20.B/①62明24.D/
①65明25.C/①180大4.B//
②170明19.B//③67明28.C/
③189大4.B/③293昭12.G/
③300昭13.G//④4815.D/
④51明16.B/④55明17.B/
④58明18.B/④63明19.B/
④67明20.B/④86明24.B/
④88明24.C/④91明25.B/
④94明25.G/④96明26.B/
④99明27.A/④144明36.B/
④154明37.C/④184明41.B/
④185明41.B/④207明43.B/
④234大1.C/④368大14.B/
④710[明44]/
植本吾一①270大15.D/
上山柑翁④386昭2.A/
魚木忠一①378昭9.C//
②265昭5.B/②285昭9.C//
④426昭5.B/④483昭9.B/
④490昭9.B/④555昭12.C/
④627昭16.B/④763[昭14]/
④773[昭17]/④776[昭18]/
魚住折蘆（折蘆生、影雄、文學士）
①149明43.D/①170大3.B/
①181大4.B//③156明43.C/
③190大4.B//④162明38.C/
④209明43.C/④212明43.D/
④323大8.B/④334大9.D/
魚住影雄 → 魚住折蘆
宇尾野潔②41昭11.C/
羽化仙史④150明37.B/
④705[明39]/
鵜飼悦爾④86明24.B/
鵜飼猛③156明43.C/
浮田和民（小田和民）
①29明13.B/①34明16.B/
①34明16.C/①36明17.B/
①38明18.E/①51明22.B/
①54明23.B/①63明25.B/
①75明28.B/①79明29.B/
①90明32.C/①101明35.C/
①120明38.C/①128明39.E/
①134明40.E/①150明44.A/
①333昭6.C//②140昭18.F/
②212明34.A/②227明40.E/
②235大2.A//③44明24.B/
③48明25.B/③55明26.B/
③61明27.C/③81明30.B/
③86明31.A/③108明34.C/
③110明34.E/③114明35.C/
③116明35.E/③117明36.B/
③144明40.D/③149明42.A/
③150明42.B/③151明42.B/
③164明45.B/③208大7.E//
④36明12.B/④38明13.B/
④40明14.B/④62明19.A/
④72明21.B/④76明22.B/
④81明23.B/④86明24.B/
④123明32.B/④153明37.C/
④162明38.C/④175明40.B/
④181明40.E/④191明42.B/
④192明42.B/④214明44.B/
④240大2.A/④246大2.B/
④254大3.A/④262大3.B/
④265大3.C/④271大4.A/
④351大12.B/④393昭2.C/
④473昭8.C/④490昭9.B/
④671[明治]/④689[明治]/
迂侠②234明45.B/
宇佐生④222明44.E/
鵜崎庚午郎③155明43.B/
宇佐見英治③320昭17.B/
宇佐見勝夫④728[昭1]/
宇佐見敬三①80明29.E/
①84明30.E/
宇佐見山③8明9.B/
鵜澤總明①368昭8.E/
①369昭8.E//④223明44.E/
氏家安信④783[明26]/

牛尾一郎④409昭3.E/
潮田江次①385昭9.E//
②286昭9.E/
牛込生④176明40.B/
牛澤耕貫①331昭6.C/
牛場麟一③182大3.B/
うしほ①110明37.B/
①119明38.B/①125明39.B/
①130明40.B/①141明42.B/
牛間の客①109明37.A/
牛山鶴堂④70明20.D/
牛山充①322昭5.D/
牛山良助①43明20.C/
④690[明20]/
後凋③123明36.D/③130明37.D/
牛若丸④296大5.D/④729[昭2]/
臼井勝喜代④410昭3.F/
臼井喜代松②198明27.C/
臼井二尚②131昭18.B/
②141昭19.B/
臼井弘①100明35.B/
臼井房雄④512昭10.C/
薄水文雄②194明26.B/
薄井祐二①332昭6.C/
芋坂陳人②213明34.D/
芋洗(高桑駒吉、芋洗生?)
①95明33.D/
芋洗生(芋洗?)①149明43.D/
宇田(多)五郎①241大12.D/
①336昭6.D/①337昭6.D/
宇田尚③318昭17.A/
右田政夫②101昭15.E/
宇田川鈞④797[昭3]/
宇田川玄眞④24[24958]/
④23[24947]/④23[24948]/
④24[24958]/④25[24974]/
歌川國貞④781[江戸期]/
④789[18-]/
歌川貞重④672[天保]/
歌川弋④710[明44]/
宇田川榛齋②150［14494,14499］/
宇田川榕菴(庵)①8［124,125］/
①9［126,127,138,147,148,151］//
②150［14494,14505］/
②152［14532,14533］//
④25[24974]/④25[24981]/
④27[25016]/④104明28.A/
④320大7.F/④598昭14.F/
④671[江戸期]/
歌川若葉（女史）④306大6.C/
内浦漁郎①73明27.B/
うちがさき → 内ヶ崎作三郎
内ヶ崎作三郎(うちがさき)
①157明45.B/①161大2.A/
①163大2.B/①164大2.B/
①167大2.D/①172大3.B/
①178大3.E/①189大5.B/
①199大6.E/①208大8.A/
①291昭3.C/①305昭4.C//
②228明41.C/②261昭4.A//
③136明38.D/③136明38.E/
③148明41.C/③160明44.B//
④156明37.D/④192明42.B/
④214明44.A/④222明44.D/
④226大1.B/④232大1.B/
④236大1.D/④239大2.A/
④240大2.A/④243大2.B/
④246大2.B/④249大2.C/
④251大2.D/④252大2.E/
④254大3.A/④271大4.A/
④272大4.B/④273大4.B/
④282大4.B/④286大5.B/
④289大5.B/④297大5.D/
④316大7.B/④327大8.E/
④331大9.B/④351大12.B/
内ヶ崎愛夫④165明38.D/
内田旭②226明40.B//
④169明39.B/④175明40.B/
内田遠湖(居士) → 内田周平
内田嘉一③20明16.D/
内田寛一④793[大9]/④801[昭9]/
内田銀藏［文學士］①166大2.C/
①203大7.B/①230大11.C//

③98明32.E/③126明37.A//
④473昭8.C/
内田五顴④25[24983]/
内田佐久五郎④477昭8.D/
内田繁隆①210大8.B/
①213大8.E//④322大8.B/
④621昭15.E/
内田周平(遠湖居士)
①33明15.B/①33明15.C/
①48明21.D/①56明23.C//
②160昭15.B//③25明19.B/
③26明19.C/③32明21.D/
③37明22.D/③44明24.B/
③46明24.D//④143明36.B/
内田正一④391昭2.B/
内田晉齋④28明4.G/
内多精一①184大4.D/
①233大11.D//④348大11.D/
Uchida,C.④802[昭11]/
内田傳一④420昭4.D/
内田不知庵 → 内田魯庵
内田秀雄④590昭14.C/
内田文雄④493昭9.C/
④556昭12.C/
内田芳夢④160明38.B/
④186明41.B/
内田正雄①15明4.C//
④160明38.B/④780[出版年不明]/④789[18-]/
内田彌一②174明20.D/
内田彌八④68明20.C/
④69明20.C/
打田幸夫③296昭13.B/
内田力藏②139昭18.E/
①145昭19.E/
内田魯庵(内田不知庵、科斗子、魯庵主人、失名氏、無名氏、藏風子、貢)
①48明21.C/①57明23.D/
①66明25.D/①77明28.C/
①159明45.D/①212大8.D/
①295昭3.D//②182明23.B//
③46明24.D/③57明26.D/
③96明32.D/③112明35.B/
③244昭3.D//④237大1.D/
④447昭6.D/
内舘忠藏①314昭5.B/
①326昭6.B/①327昭6.B/
①338昭6.E/①343昭7.B/
①346昭7.B//④455昭7.B/
内野淸④422昭4.E/
内野美郎②264昭4.F/
内堀維文④469昭8.B/
内村鋭之④87明24.B/
内村鑑三[内村先生]
①62明24.D/①76明28.C/
①78明29.A/①84明30.D/
①86明31.B/①90明32.B/
①90明32.C/①91明32.D/
①93明33.A/①135明41.A/
①141明42.B/①143明42.C/
①195大6.B/①197大6.C/
①278昭2.C//②198明27.C/
②206明31.D/②210明33.C/
②216明35.C/②266昭5.D//
③59明27.A/③61明27.C/
③63明27.D/③68明28.D/
③80明30.B/③88明31.B/
③89明31.C/③89明31.D/
③90明31.D/③96明32.C/
③97明32.D/③97明32.E/
③98明33.A/③102明33.C/
③103明33.C/③110明34.E/
③112明35.B/③115明35.D/
③120明36.C/③128明37.C/
③132明38.B/③133明38.C/
③138明39.B/③140明39.D/
③141明39.F//④89明24.D/
④91明25.B/④92明25.C/
④94明26.B/④113明29.D/
④120明31.B/④121明31.D/
④125明32.D/④126明33.A/
④129明33.E/④132明34.B/

④138明35.B/④175明40.B/
④212明43.F/④248大2.C/
④300大6.B/④302大6.B/
④304大6.B/④312大7.B/
④313大7.B/④315大7.B/
④330大9.B/④337大10.B/
④334大11.B/④360大13.C/
④363大14.A/④368大14.C/
④375大15.B/④388昭2.B/
④451昭7.B/④483昭9.B/
④485昭9.B/④571昭13.C/
④766[昭15]/
打村鑲三①242大12.E//
②49昭11.E//③287昭11.E/
内村達三郎①115明37.D/
①116明37.D/①133明40.D/
①139明41.D/①140明41.D//
②93昭15.B/②179明22.B//
③93明32.B//④163明38.D/
④165明38.D/④189明41.D/
④451昭7.B/④601昭15.B/
④706[明40]/④732[昭3]/
④733[昭3]/④755[昭11]/
④766[昭15]/
内山敬二郎②110昭16.D/
②126昭17.D/②135昭18.D//
④647昭17.C/④652昭17.D/
内山賢次①242大12.F/
①253大14.B/①269大15.D/
①293昭3.Ｄ/①320昭5.D//
②99昭15.D/②100昭15.D/
②146昭20.A/②251大14.B/
内山孝一②26昭10.D//
④580昭14.A/④686昭23.F/
内山敏④656昭18.B/
④775[昭18]/
内山眞三郎④538昭11.D/
④551昭12.B/④594昭14.D/
内山醒酔①180大4.B//
④302大6.B/
内山省三①195大6.B/
内山生③195大5.B/
内山善一③315昭16.B//
④358大13.B/④365大14.B/
④376大15.B/④414昭4.B/
④453昭7.B/④469昭8.B/
④476昭8.C/④641昭17.A/
④764[昭14]/④769[昭16]/
内山貞三郎①245大13.B/
①248大13.D//②57昭12.B/
②75昭13.D//④575昭13.D/
④651昭17.D/
内山貞三③321昭17.D/
内山昇④317大7.B/
内山彼得[ペテロ]④221明44.D/
内山名政④51明16.B/
宇都宮庫太郎②183明23.B/
宇都宮鑲之進②151［14530］/
宇都宮五郎③64明27.E//
④99明26.E/
宇都宮房綱③9明9.E/
宇都宮允④645昭17.B/
うづまき①179大4.B//
③192大4.B/
内海健兄①340昭6.F/
内海信之③129明37.D/
ウェーランド/
有獨論④676［明6]/
宇野圓空①170大3.B/
①180大4.B/①229大11.B/
①230大11.B/②236大2.B/
②243大8.B/②244大9.B//
③189大4.B/③238昭2.B//
④346大11.B/
宇野浩二③304昭14.D//
④335大9.D/
宇野作彌④41明14.B/
④45明15.B/④46明15.B/
宇野鎭夫①369昭8.E//
④495昭9.D/
宇野卓夫②69昭13.B//
④566昭13.B/
羽比仙人④126明33.B/
碓氷山人①58明23.D/

生方敏郎①184大4.D/
①222大10.B//②120昭17.B//
③152明42.D/③187大3.D//
④193明42.B/④266大3.D/
④268大3.D/④708[明43]/
宇部富五郎④104明27.E/
梅［博士］③116明35.G/
梅尾忠造④421昭4.D/
楳垣實④481昭8.G/④539昭11.D/
④662昭18.D/④746[昭8]/
梅北末初①234大11.E//
④722[大11]/
梅崎延太郎④773[昭17]/
梅澤晴源①82明30.B/
梅澤和軒①128明39.D//
③139明39.D//④142明36.B/
④172明39.D/
梅溪樵夫①56明23.C/
梅津清行④587昭14.B/
梅津八三①344昭7.B/
梅根悟④508昭10.B/
梅林信夫④518昭10.D/
梅林正明④509昭10.B/
梅原義一③255昭5.D//
④434昭5.D/
梅原薫山①94明33.B/
梅原末治①239大12.C//
①247大13.C/①257大14.C/
①268大15.C//②147昭20.C//
③246昭4.A//④792[大7]/
梅原北明④735[昭4]/
梅原龍三郎③171大2.A/
③213大9.D/③293昭13.A/
梅村守①41明19.G//③25明18.G/
吁夢子②207明32.B/
宇宿健④763[昭14]/
烏有仙士[先生]④123明32.B/
④175明40.B/④700[明34]/
浦江④189明41.D/
浦上后三郎④539昭11.D/
浦井鍠一郎（浦井氏）
①86明31.C//③95明32.C/
③102明33.C//④120明31.C/
④124明32.C/
浦井氏 → 浦井鍠一郎
浦川砌④291大5.C/④301大6.B/
浦川嘉郎③255昭5.D//
④434昭5.D/
浦川和三郎①239大12.B/
①361昭8.B//④207明43.C/
④270大4.A/④333大9.C/
④354大12.D/④376昭15.B/
④386昭2.A/④399昭2.F/
④443昭6.C/④465昭8.A/
④469昭8.B/④471昭8.C/
④554昭12.C/④557昭12.C/
④571昭13.C/④572昭13.C/
④589昭14.C/④597昭14.F/
④600昭15.A/④655昭18.A/
④738[昭5]/
卜里老猿④96明26.B/
浦瀬七太郎 → 浦瀬白雨
浦瀬白雨（七太郎）
①121明38.D//②225明39.D//
③88明31.C/③94明32.C//
④172明39.D/
浦口教授 → 浦口文治
浦口文治［教授］①254大14.B/
①255大14.B//④372大14.D/
④385大15.D/
浦中生②197明27.B/
占部精一④676[明7]/④782[明7]/
卜部楢男①204大7.C/
占部百太郎①94明33.C/
①204大7.C/①246大13.C/
①312昭5.A/①325昭6.A//
②210明33.C/③102明33.C/
③103明33.C//④437昭6.A/
④540昭11.D/④726[大14]/
④749[昭9]/
卜部喜太郎②211明33.E/
浦本政三郎①298昭3.F//
④654昭17.F/

瓜生寅①32明14.F/
瓜生盤翠①175大3.C/
瓜生政和④29明6.A/
漆間眞學①33明15.E//
③20明16.C//④688[明19]/
上羽雅人④286大5.B/
雲影子①118明38.B//
④102明27.C/
雲外居士 → 雲外生
雲外散士②175明21.B/
雲外生(居士)①57明23.D/
①61明24.D/
雲溪春④788[明治期]/
雲溪生④318大7.D/
雲舟生(松本雲舟?)③192大4.C/
雲城(生) → 煙山專太郎
雲突坊④172明39.D/
海野詮敎③78明29.D/
海野力太郎②168明18.F//
③25明19.B//④61明18.F/
④62明19.B/
雲峯(峰)生(子)①57明23.D/
①62明24.D//④194明42.B/
［え］A生③244昭3.B/
A.B.生②187明24.B//
④144明36.B/
A.K.氏②199明27.D/
A.K.T.④439昭6.B/
AS①162大2.B//②236大2.B/
A.S.③179大2.F/
A.S.生①104明36.A/
①105明36.B/①181大4.B/
①188大4.B/
AT生①81明29.E/①84明30.E/
A.T.生④504昭10.B/
A.V.②228明41.B/
A.Y.④190明41.F/
衛三畏①13明2.G/
頴川泰淸①5明15.G/
英子③85明30.D//④117明30.D/
英語敎育研究會②225明39.G/
英語研究會③170明45.G/
③179大2.G//④239大1.G/
英語研究社①146明43.B//
④221明44.D/
英國聖書會社④179明40.D/
④221明44.D/④354大12.D/
④702[明36]/④719[大8]/
④731[昭2]/④793[大10]/
英國聖書協會④794[大14]/
④796[昭2]/
榮三②255大15.E/
衛生新報社編輯部④191明42.B/
英泰憲②273昭7.B/
永代靜雄(須磨子)①174大3.C/
①175大3.C//③185大3.C//
④265大3.C/④266大3.C/
H生④406昭3.C/
H.H.生 → 樋口秀雄
H.H.生①122明38.F/
H.K②223明38.F/
H.M.生④324大8.B/
H.Y.生④381大15.C/
H.Y.T.生③96明32.C/
永年①91明32.D/
江上波夫①380昭9.C/
江頭①386昭9.E/
江川英一②45昭11.D/
江川勝信④47明15.C/
江川和彦③216大10.D/
③310昭15.D//④539昭11.D/
④559昭12.D/④563昭12.D/
④572昭13.C/
江川榮④417昭4.C/
江川太郎左右衛門英龍
①9［149］/
江木修一③302昭14.B/
江川衷④60明18.E/
江木冷灰③192大4.C/
江草斧太郎①91明32.D/
江口①334昭6.C/
江口渙②15昭10.B//③270昭8.B//
④510昭10.B/
江口邦記①18明8.C/①22明9.E/

江口三省②189明25.A/
江口虎之輔①39明18.G/
①45明20.G/④61明18.G/
江口良吉①325昭6.A/
江崎悌三④744[昭7]/
江崎誠④699[明32]/
江澤譲爾②97昭15.C/
②114昭16.E/②116昭16.F/
②274昭7.C//③259昭6.C//
④438昭6.B/④448昭6.D/
④548昭12.A/④749[昭9]/
④769[昭16]/④805[昭14]/
江澤慶信④379大15.C/
江島靜一①361昭8.B/
江島武夫①291昭3.C/
江尻陽洋③189大4.A/
惠心②246大10.D/
S.④754[昭11]/
S.A.生①99明35.A/
S.H.(音樂)③52明25.D//
④93明25.D/
S.H.(哲學史)①70明26.B/
S.H.生④481昭8.G/
S.I.③278昭9.D/
S.K.①71明26.D//③63明27.D/
S.K.生④230大1.B/④255大3.B/
S.L.④119明31.B/
S.M.④364大14.A/④369大14.C/
④371大14.D/
S.M.生④428昭5.B/④429昭5.B/
S.O.生①353昭7.D/
S.S.②188明24.C/
S.S.①90明32.B//③97明32.D/
S.S.②248大11.D/
S.S.④544昭11.G/
S.S.生④532昭11.B/
S.S.生②187明24.B/②196明26.E/
S.S.生②125昭17.D/
S.S.S.②179明22.B/
②185明23.D//④79明22/D/
S.S.S.生①157明45.B/
S.T.②196明26.E//③44明24.B/
S.T生④445昭6.C/④549昭12.B/
ST生①148明43.C/
S.Y.③81明30.B/
S.Y.生③251昭4.F/
S.Y.生④182明40.F/
枝貞彦④103明27.D/
越山堂①253大14.B/
越仙生④88明24.C/
越嶺 → 前田越嶺
X生①103明35.D/①121明38.D/
XYZ④172明39.D/
江藤貞夫④447昭6.D/
江藤太郎②257昭2.B//
④605昭15.B/④618昭15.D/
④753[昭10]/
衛藤東田④222明44.D/
衛藤利夫①159明45.D/
江南哲夫①20明9.B/
江南友次郎④416昭4.C/
榎昌①159明45.E/
榎本修④403昭3.B/
榎本秋村①162大2.B/
①165大2.C/①167大2.D//
③176大2.C/③207大7.D//
④712[大2]/④735[昭4]/
榎本菊雄④632昭16.C/
榎本九②253大14.E/
N.K④758[昭12]/
n..n.①66明25.D/
ＮS生①139明41.D/
ＮＹ生④286大5.B/④325大8.B/
江花恒與④386大15.G/
江原小彌太①255大14.B//
④339大10.C/
江原素六②199明27.E/
②225明39.B//③150明42.B/
海老澤有道④569昭13.B/
④593昭14.D/④626昭16.A/
④640昭17.A/④651昭17.D/
④662昭18.D/④711[大1]/
④757[昭12]/④766[昭15]/
④773[昭17]/④778[昭19]/

④795[19-]/
海老澤亮④210明43.D/
④292大5.C/④349大11.E//
④372大14.D/④459昭7.C/
④622昭15.E/
海老名一雄④213明44.A/
④222明44.E/
海老名晉①26明11.C//
③26明19.C/
海老名彈正①74明27.C/
①79明29.C/①80明29.E/
①84明30.E/①93明33.B/
①100明35.B/①163大2.B/
①225大10.D//②147昭20.B/
②177明21.F/②218明36.C//
③109明34.D/③111明35.B/
③117明36.B/③156明43.C/
③175大2.C/③189大4.B/
③201大6.B/③206大7.C/
③280昭10.B/③281昭10.B/
③327明［不明］B//
④50明16.B/④69明20.B/
④70明20.D/④89明24.B/
④111明29.B/④112明29.C/
④113明29.E/④114明30.A/
④115明30.B/④117明30.E/
④120明31.B/④124明32.B/
④128明33.C/④131明34.B/
④136明35.B/④142明36.B/
④144明36.B/④145明36.C/
④146明36.C/④151明37.B/
④168明39.B/④171明39.C/
④175明40.B/④177明40.B/
④178明40.B/④178明40.C/
④183明41.A/④185明41.B/
④195明42.B/④196明42.B/
④202明43.B/④206明43.B/
④207明43.B/④217明44.B/
④234大1.C/④236大1.C/
④247大2.B/④260大3.B/
④269大3.E/④276大4.B/
④278大4.C/④280大4.C/
④289大5.B/④303大6.B/
④315大7.B/④321大8.A/
④330大9.A/④353大12.C/
④362大13.E.④367大14.B/
④373大14.E/④403昭3.B/
④426昭5.B/④449昭7.A/
④490昭9.B/④513昭10.C/
④525昭11.B/④553昭12.B/
④600昭15.A/④607昭15.B/
④779[昭20]/④785[明36]/
蛯原八郎④497昭9.D/
江部淳夫①141明42.A//
③154明43.A//④200明43.A/
④473昭8.C/
江部鴨村②254大15.B/
F生④217明44.B/
F.I.生②224明39.B/②225明40.A/
②226明40.B/②227明40.E/
②227明40.F/②234明45.B//
④228大1.B/
F.J.②234明45.B/
愛媛縣師範學校附屬小學校第四研究部①255大14.B/
江間岩太④173明39.G/
江馬春禧④684[明14]/
江馬元齢①12［223］/
江馬務①171大3.B/
江間道助②96昭15.B/
④585昭14.B/④602昭15.B/
④604昭15. B/
永見淸①281昭2.D/④370大14.D/
④383大15.D/
永見健一②255大15.F//
④795[大15[/
永見達②24昭10.D/
惠美東臺④298大6.A/
永見德太郎④374大15.A/
エ・ム④340大10.C/
エム生④316大7.B/
M.D.生④607昭15.B/
M.E.④521昭10.F/
M.E.生①116明37.D/

M.K.②224明39.B/②229明41.F/
MK生①357昭8.A/
M.Kubo　→ 久保勉
M.M.①220大10.A/①224大10.C/
①225大10.D/①230大11.B//
②236大2.B//④429昭8.C/
m.n.o.①87明31.D//③83明30.D/
MS生③171大2.B/
M.T.④743[昭7]/
MU①55明23.B/
江村昶①44昭7.B/
江村寛一①190大5.C/
①363昭8.C//③180大3.B//
④471昭8.C/
江村五郎④794[大14]/
演劇史學會④742[昭7]/
遠湖居士 → 内田周平
燕處生④142明36.B/
遠田天藾④26[24999]/
圓地與四松②271昭6.D//
④495昭.D/④749[昭9]/
遠藤愛造②167明18.B/
遠藤一郎①331昭6.C/
遠藤金英④790[19-]/
遠藤吉三郎④298大6.A/
遠藤作衛④404昭3.B/
④585昭14.B/
遠藤佐々喜④544昭11.F/
遠藤信吉②256昭2.B//
③239昭2.B/
近藤千吉④696[明26]/
遠藤泰助④527昭11.B/
遠藤利貞④697[明29]/
④718[大7]/
遠藤貞吉①230大11.B/
①237大12.B/①245大13.B/
①301昭4.B/①343昭7.B//
②55昭12.B/
遠藤早泉①256大14.C//
④402昭3.B/
遠藤博士①381昭9.D/
遠藤宏③227大13.D//
④541昭11.D/④651昭17.D/
遠藤正義①297昭3.E/
遠藤無水④323大8.B/
遠藤茂吉④29明6.F/
遠藤元男①380昭9.C//
②41昭11.C//④533昭11.C/
④536昭11.C/
遠藤能定④368大14.C/
④370大14.C/④379昭大15.C/
遠藤喜英④403昭3.B/
遠藤義光④686昭23.E/
遠藤隆吉①118明38.B/
①125明39.B/①216大9.B/
①233大11.E/①249大13.E/
①265大15.B/①314昭5.B//
③131明37.E/③147明41.B//
④166明38.E/④170明39.B/
④205明43.B/④270大4.A//
④510昭10.B/④521昭10.F/
④530昭11.B/④552昭12.B/
④586昭14.B/④606昭15.B/
④631昭16.B/④642昭17.A/
園乃果①69明26.B/
[お]お、は③42明23.G/
及川儀右衛門①363昭8.C/
①380昭9.C//④493昭9.C/
④800[昭7]/④805[昭14]/
及川清④510昭10.B/
老川居士①57明23.D/
及川泰治④786[明41]/
及川ふみ④796[昭1]/
黄彰輝③289昭12.B/
歐亞學會②211明33.D/
鷗外 → 森林太郎
櫻外生④695[明26]/
鷗外全集刊行會①244大13.B/
鷗外漁史 → 森林太郎
黃鶴山樵③37明22.D/
櫻溪居士③40明23.C/
櫻溪子④134明34.D/
櫻鄉學人②219明 37.B/

②220明37.C/②220明37.D//
④114明30.B/④123明32.B/
④152明37.C/④155明37.D/
甕江 → 甕江散史
甕江散史(甕江)④234大1.C/
④249大2.C/④250大2.D/
④273大4.B/④306大6.C/
④320大8.A/④339大10.C/
澳國博覧會事務局③5明8.B/
奥州一迂生③14明12.A/
押州則吉③18明14.F/
櫻洲山人(中井貞)②157明10.A//
④681[明11]/④781[江戸期]/
歐洲人某③28明20.D/
王秋林④134明34.D/
鷗村(子) → 櫻井鷗村
櫻臺子①102明35.C/
櫻痴 → 福地源一郎
櫻池寒生④789[1-]/
鷗波①91明32.D/
歐文學院④163明38.D/
旺文社②103昭15.G/
鷗浦生②217明36.B/
碧海康溫③146明41.B/
③147明41.B/④800[昭8]/
淡海散士①49明21.E//
④73明21.C/④96明26.C/
淡海處士①54明23.B/
淡海漁夫④119明31.B/
近江谷晉作①275昭2.B//
④363大14.B/
鶯林學人④63明19.C/
大井④49明15.G/
大井一郎②38昭11.B//
④291大5.C/④539昭11.D/
大井健二②249大12.E/
大井鎌[謙]吉①16明6.C/
①21明9.C//③18明14.G//
④38明12.G/
大井憲太郎①35明16.E/
①51明22.C//④37明12.E/
大井次三郎④760[昭12]/
大井修平①26明11.A/
大井正②57昭12.B/②71昭13.B//
③290昭12.B/③294昭13.B/
大池國男④533昭11.C/
大石育三③9明9.D/
大石繞石①209大8.B/
大石俊一③177大2.D/
大石誠之助③153明42.E/
大石高德④68明20.C/
大石武一④362大13.F/
大石正己④47明15.C/
④54明16.E/
大石峯雄①356昭7.F//
②35昭11.B/②55昭12.B/
②70昭13.B//④543昭11.F/
④568昭13.B/
大石好武④550昭12.B/
大泉黑石④364大14.B/
大泉重治④505昭10.B/
大泉孝④627昭16.B/
大岩誠②29昭10.E/
②108昭16.C//④542昭11.E/
④638昭16.E/④684昭23.C/
大内有恒①145明43.A/
大内青巒①125明39.B//
②217明36.B//③15明12.C//
④35明12.C/
大内哲雄①113明37.B/
大浦佐助④85明23.E/
大江小波④700[明34]/
④701[明36]/④705[明40]/
④707[明41]/④708[明43]/
④713[大3]/
大江新太郎①121明38.C/
①128明39.D/
大江卓①58明23.E/
大江精一①275昭2.B/
①280昭2.D/①286昭3.B/
①288昭3.B/①289昭3.B/
①316昭5.B//②265昭5.B//
④426昭5.B/④454昭7.B/
大江精志郎①327昭6.B/

①330昭6.B/①346昭7.B/
①361昭8.B//②37昭11.B/
②133昭18.B/②273昭7.B/
②278昭8.B//③264昭7.B/
③276昭9.B//④438昭6.B/
④453昭7.B/④644昭17.B/
大江精三②120昭17.B/
大江專一②30昭10.G/
大江孝之①48明21.C//③8明9.C/
大江武男①145明42.F/
大江直④35明11.E/
大江文城④127明33.B/
大岡實①351昭7.D/
大野愼④764[昭14]/
大賀旭江 → 大賀壽吉
大賀旭江子 → 大賀壽吉
大賀壽吉（大賀、旭江、旭江子、旭江漁史）①199大6.D/
①206大7.D/①225大10.D/
①226大10.D/ ①241大12.D/
①249大13.D/①259大14.D/
①260大14.D/①270大15.D/
①295昭3.D/①296昭3.D/
①308昭4.D/①321昭5.D//
②270昭6.D//③177大2.D/
③194大4.D/③200大5.D/
③204大6.D③211大8.D//
④156明37.D/④268大3.D/
④277大4.B/④282大4.D/
④296大5.D/④297大5.D/
④335大9.D/④341大10.D/
④342大10.D//④355大12.D/
④371大14.D/④419昭4.D/
④447昭6.D/④561昭12.D/
大賀生③175大2.C/
大上茂喬①154明44.F/
大川幸平③290昭12.B/
大川周明①215大9.B//
①274昭2.B//③138明39.B/
③301昭14.B//④263大3.B/
④357大13.D/④764[昭14]/
④771[昭17]/④774[昭18]/
④777[昭19]/
大川錠吉④70明20.D/
大木惇夫④360大13.C/
④794[大13]/④797[昭3]/
④798[昭5]/
大木晃一④517昭10.D/
大木りよ③250昭4.D//
④421昭4.D/
小木曾公③237大15.E/
大城戸忠①242大12.E/
大儀見元一郎④460昭7.D/
④463昭7.D/
大草實④804[昭13]/
④805[昭14]/
大口義夫③255昭5.D//
④434昭5.D/
大久保一峰①191大5.C/
大久保勘三郎③19明15.D/
③237大15.D//④48明15.D/
大久保幸次④564昭13.A/
大久保三郎④169明39.B/
④170明39.B/
大久保純一郎④560昭12.D/
大久保周八④736[昭4]/
大久保昌南②197明27.B/
大久保忠利④634昭16.D/
④650昭17.D/
大久保常吉（夢遊）①38明18.D/
①40明19.D/①44明20.D//
③237大15.D//④59明18.D/
④64明19.D/④69明20.D/
④688[明18]/
大久保恒次④777[昭18]/
大久保利謙③312昭16.A/
③323昭18.B//④580昭14.A/
④660昭18.C/④670昭20.B/
④766[昭15]/④776[昭18]/
大久保春野④682[明12]/
大久保洋①343昭7.B/
大久保泡景④274大4.B/
大久保泰②124昭17.D//

③310昭15.D/③311昭15.D/
③317昭16.D//
大久保龍①286昭3.B/
大久保夢遊 → 大久保常吉
大熊氏廣③152明42.D/
大隈重信①235大12.A//
③214大10.A//④241大2.A/
大熊信行①281昭2.D//
②102昭15.E//③216大10.D/
③217大10.E/③220大11.D//
④398昭2.E/
大熊春吉①15明5.E/
大熊喜郎①259大14.D/
大倉喜八郎①83明30.C/
大倉三郎④408昭3.D/
④420昭4.D/④447昭6.D/
大倉書店②246大10.G/
②277昭7.G/
大倉本澄①65明25.C//
③56明26.C//92明25.C/
④97明26.C/④126明33.B/
大藏將英①32明14.E/
大藏虎明①6[37]/
大河内定雄①279昭2.D//
④397昭2.D/
大河内幸雄②255大15.E/
大阪朝日新聞社④333大9.C/
④407昭3.D/
大阪朝日新聞社調査部
④792[大8]/
大阪商科大學經濟研究所
①324昭5.G/②64昭12.E/
大阪集書堂④790[19-]/
大阪同志社④66明19.G/
大阪博物館①212大8.E/
大阪日盛舘④71明20.G/
大阪毎日新聞社④373大14.G/
④399昭3.A/④400昭3.B/
④407昭3.D/④728[昭1]/
大崎正次④777[昭18]/
大崎治郎④448昭6.D/
④521昭10.F/
大窄政吉④539昭11.D/
大澤章①282昭2.E//④727[昭1]/
④756[昭11]/
大澤貞藏④723[大12]/
大澤定吉③176大2.D/
③200大5.D//④255大3.B/
大澤三之助①280昭2.D/
①294昭3.D/
大澤衛②63昭12.D/②112昭16.D/
大鹽明次郎①239大12.C/
大鹽中齋 → 大鹽平八郎
大鹽龜雄①231大11.C//
④574昭13.C/
大鹽廣太②158明11.C/
大鹽平八郎(中齋)③49明25.B//
④110明29.B/
巨鹿山人②201明29.B/
大島功(Ooshima・Isao)
②270昭6.D//④755[昭11]/
大島清②97昭15.C/
大島國千代④98明26.D/
④111明29.C/
大島本櫟①122明38.G/
①129明39.G//④166明38.G/
大島貞益①38明18.C//
③24明18.F//④30明8.A/
④61明18.F/④672[明治]/
④678[明8]/④688[明18]/
大嶋秀蘭③133明38.C//
④161明38.C/④168明39.B/
大島鎭冶②29昭10.F/
大島生①164大2.B/
大島宗治④719[大7]/
大島庸夫②274昭7.D/
大島直治①130明40.B/
①132明40.B/①142明42.B//
②226明40.B//③143明40.B//
④176明40.B/④206明43.B/
④216明44.B/④217明44.B/
④229大1.B/④230大1.B/
大島博光②86昭14.D//
③304昭14.D/

大島細吉④782[明9]/
大島正德①136明41.B/
①156明45.B/①208大8.A/
①229大11.B/①290昭3.B/
①358昭8.B//②269昭6.B//
③155明43.B/③182大3.B/
③183大3.B/③196大5.B/
③234大15.B//④259大3.B/
④288大5.B/④289大5.B/
④290大5.B/④324大8.B/
④378大15.B/④645昭17.B/
大島正滿②97昭15.C//
③276昭9.C//④454昭7.B
④515昭10.C
大島巳之助①333昭6.C/
①348昭7.C//④456昭7.C/
④457昭7.C/
大島康正①187大5.B/
①188大5.B//②99昭15.D/
②144昭19.C//④617昭15.D/
④628昭16.B/④644昭17.B/
大島豐①374昭9.B/①377昭9.B/
②12昭10.B//②19昭10.B/
②28昭10.E/②37昭11.B/
②49昭11.E/②93昭15.B//
④528昭11.B/④604昭15.B/
④607昭15.B/④658昭18.B/
大島義脩③61明27.B/
大島蘭三郎④639昭16.F/
櫻洲山人 → 中井貞
大城鶴翩④158明38.B/
④176明40.B/④179明40.D/
④215明44.B/
大杉榮①130明40.B/①163大2.B/
①170大3.B/①181大4.B/
①188大5.B/①190大5.C/
①196大6.B/①215大9.B/
①236大12.B/①244大13.B//
②248大11.F//③197大5.B/
③218大11.B//④715[大4]/
大杉謹一①220大10.A/
①267大15.B/①276昭2.B//
④724[大13]/
大住嘯風①187大5.B/
①188大5.B/①189大5.B/
①190大5.B/①196大6.B/
①197大6.C//②236大2.B/
②238大3.B//③152明42.D/
③163明45.B/③171大2.B/
③173大2.B/③203大6.C//
④243大2.B/④277大4.B/
④291大5.B/④302大6.B/
④307大6.C/④792[大6]/
大住舜②230明42.D//
③141明40.B/146明41.B/
③148明41.D/③149明42.B//
④247大2.B/
大隅爲三①162大2.B/
①167大2.D/①170大3.B/
①177大3.D/①179大4.B/
①180大4.B/①184大4.D/
①185大4.D/①188大5.B/
①191大5.D/①197大6.C/
①224大10.D/①267大5.C/
①277昭2.C/①280昭2.D/
①281昭2.D/①284昭3.A/
①294昭3.D/①295昭3.D /
①296昭3.D/①305昭4.C/
①308昭4.D/①317昭5.C/
①321昭5.D/①336昭6.D/
①366昭8.D//③199大5.D/
③220大11.D//④267大3.D/
④282大4.D/④307大6.D/
④407昭3.C/④730[昭2]/
大瀨甚太郎①93明33.B/
①96明34.B/①110明37.B/
①125明39.B/①222大10.B/
①254大14.B//②11昭10.B/
②254大15.B//③143明40.B/
③225大13.B/③281昭10.B//
④123明32.B/④167明39.B/
④194明42.B/④216明44.B/
④217明44.B/④229大1.B/
④508昭10.B/④694[明25]/

大關將一①267大15.B//
②254大15.B//③234大15.B//
④454昭7.B/
大副公生④470昭8.B/
鷗村子→ 櫻井鷗村
太大法師④741[昭6]/
Ota,Akira④771[昭17]/
太田稻造 → 新渡戸稻造
太田英次郎④223明44.G/
太田和彦①315昭5.B//
④427昭5.B/
太田兼四郎②116昭16.G
太田孝吉④86明24.B/
大田耕士②92昭15.A/
大田才次郎④104明27.G/
太田咲太郎②80昭14.B/
太田三郎①265大15.B/
①294昭3.D /①295昭3.D /
①301昭4.B/①307昭4.D/
①308昭4.D/①327昭6.B/
①383昭9.D//③168明45.D/
③257昭6.B/③272昭8.D//
④236大1.D/④493昭9.C/
④494昭9.D/④799[昭6]/
太田資時①62明24.E//
②196明26.E/
太田全齋①6［40］/
太田玉茗③84明30.D/
③96明32.D//④117明30.D/
④125明32.D/
太田千鶴夫②50昭11.F/
太田聽南④726[大14]/
太田綱①46明21.B/
太田鶴夫④806[昭16]/
太田南畝（蜀山人）①8［122］/
④569昭13.B/
太田一④500昭9.E/
太田秀穂①87明31.E//
③90明31.D/
太田秀通②119昭17.B/
④643昭17.B/
太田廣②21昭10.C/
太田正雄（地下一尺生、木下杢太郎、林圭太郎）
①167大2.D/①235大12.A/
①273昭2.A/①322昭5.D/
①338昭6.D/①341昭7.A//
②30昭10.F/②51昭11.F/
②90昭14.F/②136昭18.D/
②237大2.D/③178大2.D/
③216大10.D/③224大12.D/
③229大14.A/③231大14.D/
③250昭4.D/③255昭5.D/
③283昭10.F/③286昭11.D/
③287昭11.D/③297昭13.D/
③298昭13.D/③328昭21//
④363大14.A/④399昭3.A/
④419昭4.D/④424昭5.A/
④521昭10.F/④595昭14.D/
④670昭20.D/④726[大16]/
④738[昭5]/④746[昭8]/
④758[昭12]/
太田正孝④350大12.A/
④385大15.D/
太田水穗①144明42.D/
太田美濃里②155明7.F//
④30明7.F/
太田善男④212明43.D/
④318大7.D/④553昭12.B/
太田可夫④574昭13.C/
太田義隆①199大6.E/
太田代唯六④269大3.F/
太田黑元雄①322昭5.D/
①351昭7.D//②74昭13.D/
②86昭14.D//④432昭5.D/
④756[昭11]/
太田原在文④729[昭1]/
太田黑克彦④729[昭1]/
大武和三郎②67昭12.G/
②261昭3.G/
大竹龜之助(←大平龜之助)
④685[明16]/
大舘崇憲①263大15.A/
①331昭6.B/

大舘利一④74明21.D/
④691[明21]/④693[明24]/
大谷繞石→大谷正信
大谷光瑞③232大15.A//
④374大15.A/
大谷庄治③182大3.B//256大3.B/
④257大3.B/
大溪專②201明29.B/
大谷善治①306昭4.C/
大谷堯雄③243昭3.B/
大谷武一①262大14.F/
①298昭3.F/
大谷正信（繞石）①112明37.B/
①126明39.B/①130明40.B/
①132明40.B//②217明36.B/
②218明36.B/②226明40.B//
③142明40.B//④142明36.B/
④143明36.B/
大谷良雄①63明25.B/
①69明26.B//②190明25.B/
②194明26.B/
大谷美隆①214大9.A/①282昭2.E/
①291昭3.C//④417昭4.C/
④663昭18.E/
大津當一①369昭8.E/
大津康①209大8.B//④251大2.D/
④274大4.B/④308大6.D/
大塚敬節②102昭15.F/
大塚金之助②26昭10.D/
②275昭7.D/②278昭8.D//
④477昭8.D/④733[昭3]/
④791[19-]/
大塚楠男③152明42.D/
大塚健一②73昭13.C/
大塚小一郎③189大4.B/
大塚高信②112昭16.D//
④768[昭16]/
大塚節治④467昭8.B/
④504昭10.B/④588昭14.C/
④760[昭12]/
大塚武松④735[昭4]/
大塚奈緒子②214明34.D/
大塚範治④316大7.B/
大塚久雄①386昭9.E//
④480昭8.E/④563昭12.E/
大塚秀雄②258昭2.E/
大塚不二④461昭7.D/
大塚振武②255大15.E/
大塚駉太郎②51昭11.F/
大塚三七雄②56昭12.B//
③323昭18.B//④550昭12.B/
④568昭13.B/
大塚素③160明44.B//④749[昭9]/
大塚室也②136昭18.D/
大塚保治［博士］①328昭6.B/
①336昭6.D/①337昭6.D/
①366昭8.D//②279昭8.D//
③181大3.B/③258昭6.C//
④712[大3]/④740[昭6]/
④748[昭9]/
大塚彌平④624昭16.A/
大塚幸雄②270昭6.D/②285昭9.D/
大槻快尊④259大3.B/
大槻憲二①232大11.D/
①243大13.A/①247大13.D/
①269大15.D/①299昭4.A/
①366昭8.D//③208大7.D//
④395昭2.D/④398昭2.E/
④730[昭2]/
大槻玄澤（磐水）
①7［73,75,82,86,87］/
① 8［93,97,98,99,102,107,109,
119］/①9［131,150］//
②150［14484,14491］//
③305昭14.D//④201明43.A/
④24[24970]/
大槻茂雄④183明41.A/
大槻主幹②150［14491］/
（大槻）修二 → 大槻如電
大槻瑞卿（西磐）①11［188,189］/
大槻生③145明40.F/
大槻誠之（東陽）③5明7.E//
④30明7.E/
大槻清修 → 大槻如電

大月清準②150［14488］/
（大槻）西磐 → 大槻瑞卿
大月隆①73明27.B/①74明27.B/
①89明32.B//③62明27.D/
大月隆仗①303昭4.B/
大槻茂雄④183明41.A/
大槻正二④183明41.A/
大槻清三④183明41.A/
大槻東陽 → 大槻誠之
大槻如電（修二、白念坊、清修）
①12［228］/①23明10.A/
①47明21.C/①149明43.D/
①263大15.A/①273昭2.A//
③15明12.C/③88明31.C/
③157明43.D/③241昭2.D//
④174明40.A/④183明41.A/
④211明43.D/④375大15.A/
④388昭2.A/④696[明27]/
④703[明37]/④708[明43]/
大槻磐溪①12［212］/①21明9.D//
④25[24988]/④26[24996]/
④673[元治]/④675[明5]/
（大槻）磐水 → 大槻玄澤
大槻磐里①8［113］/
大槻文彦［清復、復軒、文學士］
①16明7.C/①17明7.C//
②165明17.D//③46明24.D/
③90明31.D/③110明34.F//
④173明39.G/④31明9.D/
④43明14.D/④48明15.D/
④183明41.A/④672[明治]/
④677[明8]/④679[明9]/
④680[明10]/④698[明31]/
④701[明35]/④704[明治]/
④705[明40]/④714[大4]/
④781[明7]/④782[明8]/
大槻茂質①8［106］/
大槻磐水 → 大槻玄澤
オオツボアイセキ④64明19.D/
オオツボイチロウ④65明19.D/
大坪草二郎①253大14.B/
①257大14.C/
大都留溫④601昭15.A/
大戸微誠④736[昭4]/
大戸敏（綠野散史）②63昭12.D/
大友③258昭6.B/
大智勝觀④426昭5.A/
大伴金道忠孝④672[嘉永]/
大友芳雄③289昭12.B/
大伴旅人（楊子）①102明35.D/
大智勝觀③251昭5.A/
大鳥圭介①63明25.B//
②154明6.C/②174明20.C/
②202明29.B/
大成龍雄③245昭3.D/
大西②90昭14.F/
大西猪之介①208大8.A/
①282昭2.E//④793[大9]/
大西操山 →大西祝
大西確郎②262昭4.B/
大西克禮①184大4.D/
①198大6.D/①229大11.B/
①314昭5.B/①328昭6.B/
①336昭6.D/①337昭6.D/
①360昭8.B//③178大2.D//
④281大4.D/④282大4.D/
④285大5.A/④305大6.B/
④324大8.B/④740[昭6]/
大西菅治④74明21.D/
大西邦敏③267昭7.E/
大西貞一④428昭5.B/
大西昇②23昭10.D/②56昭12.B/
②63昭12.D/②107昭16.B//
③282昭10.D//④594昭14.D/
④658昭18.B/
大西祝［操山, 博士, 哲學変遷史］
①42明20.B/①46明21.B/
①48明21.D/①49明21.D/
①50明22.B/①55明23.B/
①57明23.D/①63明25.B/
①68明26.B/①73明27.B/
①74明27.B/①75明28.B/
①76明28.B/①78明29.B/

①80明29.D/①104明36.B/
①105明36.B/①112明37.B/
①112明37.B/①113明37.B/
①116明37.D/①120明38.B/
①170大3.B//②178明22.B/
②199明28.B/②202明29.B/
②214明34.D//③34明22.A/
③40明23.B/③44明24.B/
③46明24.D/③49明25.B/
③55明26.B/③60明27.B/
③61明27.B/③65明28.B/
③72明29.B/③80明30.B/
③106明34.B/③155明43.B/
③156明43.B/③181大3.B//
④46明15.B/④47明15.C/
④68明20.B/④70明20.D/
④72明21.B/④74明21.D/
④91明25.B/④95明26.B/
④105明28.B/④106明28.B/
④107明28.B/④114明30.B/
④115明30.B/④119明31.B/
④130明34.B/④137明35.B/
④142明36.B/④143明36.B/
④144明36.B/④151明37.B/
④170明39.B/④194明42.B/
④196明42.B/④216明44.B/
④255大3.B/④314大7.B/
④389昭2.B/④429昭5.B/
④441昭6.B/④455昭7.B/
④604昭15.B/④689[明治]/
④700[明33]/④708[明43]/
④712[大3]/④740[昭6]/
西正雄②174明20.G/
大西雅雄①382昭9.D/
大西友太①230大11.B/
大貫晶川①138明41.C/
大沼秧山④39明13.B/
大沼十郎太①250大13.F/
大沼文哉①67明25.F/
大野雲譚④50明16.B/
大野禧一①122明38.F/
大野金三郎②158昭12.F/
大野酒竹④117明30.D/
大野俊一②136昭18.D/
②143昭19.C//③322昭17.D//
④634昭16.D/④686昭23.D/
大野純一①368昭8.E//
②286昭9.E//④499昭9.E/
大野信三郎①241大12.E/
大野信三②26昭10.E//
④355大12.E/
大野醉亭②150［14492,14493］/
大野辰見④372大14.E/
④474昭8.C/
大野達也④643昭17.B/
大野太衛①33明15.A/
大野廷太郎④430昭5.C/
大野豐茂④538昭11.D/
大野隆德③217大11.A/
大野九十九④675[明4]/
大野法瑞①252大14.A//
④325大8.C/④743[昭7]/
大野有翼②262昭4.C/
大野芳雄①38明18.C/
大野芳宣①289昭3.B/
大野原一松④680[明10]/
④782[明10]/
大庭征露①315昭5.B/
①375昭9.B//②38昭11.B/
②82昭14.B//④426昭5.B/
④452昭7.B/④508昭10.B/
④528昭11.B/④657昭18.B/
大場忠義④653昭17.E/
大庭千尋②63昭12.D/
②75昭13.D/
大庭米治郎①233大11.D/
①238大12.B/①258大14.D//
②262昭4.D//④342大10.D/
④720[大9]/
大橋孝吉②147昭20.D/
④744[昭7]/
大橋小太郎④77明22.C/
大橋正吉④430昭5.C/
大橋新太郎①89明32.B//

④783[明24]/
大橋素六郎①23明10.B//
④66明19.E④75明21.E/
④679[明10]/
大橋勉①300昭4.B//②265昭5.B//
④428昭5.B/
大畠清②84昭14.C/②121昭17.C/
大畑末吉②100昭15.D//
④636昭16.D/④655昭18.A/
④758[昭12]/
大林生④419昭4.D/
大林宗嗣④335大9.D/
大原嘉吉②187 明 24.B/
②194明26.B//③61明27.C//
④102明27.C/
大原國延①10［159］/
大原祥一②205明30.E/
大原三八雄②75昭13.D/
大東猛吉①351昭7.D/
①360昭8.B/
大日向勝③243昭3.B//
④598昭15.A/
大平章②44昭11.D/②46昭11.D/
大平龜之助［訂正］①34明16.B/
→大竹龜之助
大平美隆④436昭5.E/
大部憲兒④476昭8.C/
大淵彰三②113昭16.E/
②122昭17.C/②134昭18.C//
④660昭18.C/
鳳辯生④351大12.B/
大町 → 大町桂月
大町桂月［大町］①90明32.C
①91明32.C/①182大4.C//
③193大4.C//④124明32.C/
④272大4.B/④278大4.C/
④279大4.C/④371大14.D/
④715[大4]/④724[大13]/
大町芳文①250大13.F/
大溝惟一①202大7.B//
④312大7.B/
大宮健太郎④494昭9.D/
大宮季貞④163明38.D/
④171明39.D/④172明39.D/
④178明40.C/④179明40.D/
④188明41.D/④198明42.D/
④207明43.C/④210明43.D/
④305大6.C/④407昭3.C/
④416昭4.C/④445昭6.D/
④722[大正]/
大村西崖（無名氏）①86明31.B/
①87明31.D/①91明32.D/
①155明45.B//③89明31.D/
③96明32.D/③97明32.D//
④125明32.D/④688[明31]/
④699[明33]/
桑木嚴翼アイスレル
大村晴雄②36昭11.B/
②85昭14.C//③285昭11.B/
③321昭17.C/
大村益荒①98明34.C/
①102明35.C//③80明30.B/
③88明31.C//④788[明45]/
大村雄治②29昭10.F/
②43昭11.D/②62昭12.D//
④520昭10.F/④537昭11.D/
④558昭12.D/④686昭23.D/
大村嘉彦④385大15.E/
大室貞一郎③222大12.B/
大元茂市（一）郎①148明43.C/
①187大5.B//④786[明41]
大森英治郎①296昭3.E/
大森英太郎①362昭8.B//
②263昭4.E/
大森馨④558昭12.D/
大森洪太②271昭6.E/
大森十五④538昭11.D/
大森愼次①213大8.F/
大森房吉④190明42.A/
大屋佐一④352大12.C
④430昭5.C/
大宅壯一①292昭3.C//
④518昭10.D/
大屋愷欵①17明7.G//④781[明6]/

大屋天藾④150明37.B/
大家八十八郎④97明26.C/
大山篤郎④629昭16.B/
大山郁夫①185大4.E/
①207大7.E//③208大7.E//
④271大4.A/④279大4.C/
④283大4.E/
大山柏①292昭3.C/①319昭5.C/
①332昭6.C//④474昭8.C/
大山定一②99昭15.D/
②112昭16.D//③305昭14.D/
③324昭18.D/③327昭20.D//
④617昭15.D/④635昭16.D/
④670昭20.D/
大山生④302大6.B/
大山千代雄①158明45.C/
①165大2.C/①166大2.C//
④250大2.C/
大山久子①217大9.C//
④333大9.C/
大山廣光①313昭5.B/
①324昭5.F//④359大13.B/
大山芳子③267昭7.D//
④447昭6.D/
大山由朗②239大4.C//
③180大3.B/
巴樂愼一④639昭16.F/
大類伸［學士、博士］
①143明42.C/①175大3.C/
①177大3.E/①179大4.A/
①191大5.C/①201大7.A/
①204大7.C/①210大8.C/
①215大9.B/①227大10.E/
①228大11.A/①230大11.C/
①235大12.A/①247大13.C/
①248大13.D/①249大13.D/
①256大14.C/①263大15.A/
①265大15.B/①269大15.C/
①276昭2.B/①280昭2.D/
①284昭3.A/①289昭3.B/
①292昭3.C/①303昭4.B/
①317昭5.C/①318昭5.C/
①331昭6.C/①333昭6.C/
①347昭7.C/①349昭7.C/
①352昭7.D/①363昭8.C/
①363昭8.C/①364昭8.C/
①365昭8.C/①376昭9.B/
①377昭9.C/①379昭9.C/
①381昭9.C//②21昭10.C/
②23昭10.C/②32昭11.A/
②41昭11.C/②43昭11.C/
②50昭11.E/②73昭13.C/
②134昭18.C/②135昭18.C/
②142昭19.C/②143昭19.C//
②237大2.C/②252大14.C/
②252大14.C/②254大15.B/
②257昭2.D/②274昭7.C/
②278昭8.C/②285昭9.C//
③199大5.C/③213大9.D/
③223大12.D/③224大12.D/
③230大14.C/③231大14.C/
③235大15.B/③241昭2.D/
③265昭7.C/③272昭8.C/
③276昭9.C/③281昭10.C/
③286昭11.D/③296昭13.C/
③302昭14.B/③303昭14.C/
③304昭14.C/③316昭16.D/
③324昭18.C//249大2.C/
④265大3.C/④270大4.C/
④279大4.C/④281大4.D/
④291大5.C/④293大5.C/
④310大7.A/④326大8.C/
④328大8.E/④330大9.B/
④335大9.D/④361大13.D/
④384大15.D/④388昭2.A/
④393昭2.C/④394昭2.C/
④395昭2.C/④408昭3.D/
④414昭4.B/④422昭4.E/
④423昭4.E/④433昭5.D/
④449昭7.A/④456昭7.C/
④458昭7.C/④459昭7.C/
④471昭8.C/④473昭8.C/
④474昭8.C/④475昭8.C/
④476昭8.C/④491昭9.C/

④493昭9.C/④512昭10.C/
④514昭10.C/④515昭10.C/
④519昭10.E/④524昭11.A/
④534昭11.C/④537昭11.C/
④543昭11.E/④555昭12.C/
④556昭12.C/④572昭13.C/
④573昭13.C/④590昭14.C/
④613昭15.C/④626昭16.A/
④648昭17.C/④656昭18.A/
④659昭18.C/④660昭18.C
④661昭18.C/④④667昭19.C/
④668昭19.D/④708[明42]/
④713[大3]/④715[大4]/
④724[大13]/④728[昭1]/
④730[昭2]/④756[昭11]/
④758[昭12]/④761[昭13]/
④775[昭18]/④793[大10]/
④794[大15]/④800[昭7]/
④801[昭9]/④803[昭11]/
④804[昭12]/④804[昭13]/
④795[大15]/
大和久伊平④237大1.D/
大和田越山②225明 39.C/
大和田敬時④128明33.C/
④236大1.D/
大和田建樹①74明27.C//
③64明27.D//④65明19.D/
④99明27.A/④104明27.D/
④696[明27]/
丘淺次郎②168明18.F//
③202大6.B/
岡一男②63昭12.D//
④618昭15.D/
岡要生③145明40.F/
岡邦雄①242大12.F/①311昭4.F/
①324昭5.F/①387昭9.F//
②30昭10.F/②50昭11.F/
②51昭11.F//④505昭10.B/
④520昭10.F/④521昭10.F/
④739[昭5]/④741[昭6]/
④757[昭12]/④762[昭13]/
④794[大12]/④798[昭5]/
④799[昭6]/④800[昭7]/
④801[昭8]/④802[昭10]/
④803[昭11]/
岡次郎①361昭8.B//②278昭8.D/
③154明43.A/
岡成志①316昭5.B/①330昭6.B/
①346昭7.B//②143昭19.C/
岡正③311昭15.D/
岡千仞①36明17.C/①40明19.C//
④56明17.C/④782[明17]/
岡悌治①206大7.E/
岡正雄③243昭3.B/
丘松子②198明27.C/
岡無理彌③222大12.B/
岡義武②89昭14.E/
岡上尚儀②182明22.G/
岡上守道 → 黑田禮二
岡倉覺三 → 岡倉天心
岡倉秋水④103明27.D/
岡倉天心（岡倉覺三）
③41明23.D/③116明36.A/
③123明36.D//④576昭13.D/
岡倉由三郎②52昭11.G/
②103昭15.G/②129昭17.G/
②258昭2.G/②264昭4.G/
②280昭8.G/③56明26.D/
③251昭5.A/④461昭7.D/
④692[明23]/④696[明26]/
④783[明23]/④785[明34]/
④801[昭8]/
小笠原④739[昭6]/
小笠原長幹②240大5.C/
小笠原菊根 → 小笠原豐太郎
小笠原利孝④691[明21]/
小笠原秀實①157明45.B/
①313昭5.B/①325昭6.B//
③321昭17.D/
小笠原長次郎①43明20.C/
①49明21.G/
小笠原豐太郎（菊根）
①93明33.B/①96明34.B/
①101明35.B//④102明27.B/

④127明33.B/④130明34.B/
④131明34.B/
小笠原義勝④765[昭15]/
岡崎賢次②172明19.E/
岡崎左喜介④781[明7]/
岡崎雪聲②216明35.D/
岡崎俊雄④477昭8.D/
岡崎文彬②90昭14.F//
④592昭14.D/④617昭15.D/
④768[昭15]/④805[昭14]/
岡崎文規②51昭11.F/
②66昭12.E/
岡崎義惠④576昭13.D/
岡島狂花③157明43.D/
③200大5.D//④210明43.D/
岡島敬治④709[明43]/
岡島眞七①41明19.G/
岡島誠太郎①293昭3.C/
①331昭6.C/①347昭7.C/
①348昭7.C/①363昭8.C/
①365昭8.C/①378昭9.C//
②41昭11.C/②70昭13.B/
②73昭13.C/②107昭16.B//
④431昭5.C/④567昭13.B/
④775[昭18]/④805[昭15]
岡島竹三郎①69明26.B/
岡島誘④167明39.B/
④169明39.B/
岡田章雄④563昭12.F/
④632昭16.B/④640昭17.A/
岡田朝太郎①256大14.C//
③78明29.F/③79明29.F/
③107明34.B/
岡田梅夫④62明19.A/
岡田希雄④730[昭2]/④732[昭3]/
岡田黌④47明15.C/
岡田怡川①264大15.B/
①275昭2.B/①276昭2.B/
①309昭4.E/①328昭6.B/
①343昭7.B/①344昭7.B//
②80昭14.B/②261昭4.B//
④388昭2.B/
岡田建治②113昭16.E/
岡田五作①347昭7.C/
①350昭7.C//④632昭16.B/
岡田五兎①96明34.B/
岡田五郎④459昭7.C/
岡田甲之助①180大4.B/
岡田定信④623昭16.A/
岡田三郎①243大13.A/
①276昭2.B/①348昭7.C//
③227大13.D//④356大13.A/
④358大13.B/④389昭2.B/
岡田三郎助③131明38.B/
③260昭6.D//④223明44.F/
岡田紫櫻④161明38.B/
岡田重賢④196明42.B/
岡田重尚④324大8.B/
岡田七藏④729[昭1]/
岡田實麿①244大13.B/
岡田醜藏③12明10.F/
岡田純二②16昭10.B//
③276昭9.B/
岡田春燈齋④780[安政5]/
岡田正三①351昭7.D/
①358昭8.B/①362昭8.B//
②32昭11.A/②35昭11.B/
②37昭11.B/②53昭12.B/
②55昭12.B/②92昭15.B/
②118昭17.B/②120昭17.B/
②133昭18.B/②282昭9.B//
④460昭7.D/④468昭8.B/
④470昭8.B/④477昭8.D/
④484昭9.B/④486昭9.B/
④528昭11.B/④568昭13.B/
④643昭17.B/④657昭18.B/
④659昭18.B/④772[昭17]/
④777[昭19]/
岡田正藏①334昭6.C/
岡田信一郎①153明44.D//
②237大2.D//③157明43.D/
岡田誠一①227大10.E/
①242大12.E//②26昭10.E/
岡田峻①378昭9.C/

岡田惣兵衛④781[明7]/
岡田大尉②21昭10.C/
岡田武松①371昭9.A//
②98昭15.C/
岡田辰二郎②194明26.C/
岡田太郎①305昭4.C//
④422昭4.E/
岡田忠一④421昭4.E/
岡田哲藏①86明31.B/
①167大2.D/①204大7.C/
①266大15.B//④118明31.B/
④238大1.D/④243大2.B/
④254大3.A/④277大4.B/
④285大5.B/④286大5.B/
④295大5.D/④378大15.B/
④381大15.C/④384大15.D/
④401昭3.B/④413昭4.B/
④414昭4.B/④416昭4.B/
④418昭4.C/④433昭5.D/
④470昭8.B/④472昭8.C/
④484昭9.B/④498昭9.D/
④626昭16.A/④658昭18.B/
④669昭20.B/④720[大10]/
岡田平八郎④753[昭10]/
岡田松之助④560昭12.D/
岡田光雄②278昭8.D//
④460昭7.D/④616昭15.C/
岡田彌一郎③300昭13.G/
岡田良夫②114昭16.E/
岡田隆平①373昭9.B//
④484昭9.B/④806[昭16]/
岡田良平①54明23.B/
①55明23.B/①59明24.B//
③33明21.E//④768[昭16]/
緒方洪庵①10［170］/
緒方維嶽（維岳、流水）［シルレル傳］
①120明38.C//②202明29.D/
②203明29.D/②218明36.C//
③78明29.D/④112明29.D/
④113明29.D/④124明32.C/
④139明35.C/④158明38.B/
緒方氏 → 緒方冨雄
緒方生①80明29.D//③77明29.D/
小形青村①161大2.A/
緒方武光④519昭10.E/
緒方潮外④107明28.B/
緒方冨雄［緒方氏］①307昭4.D//
②102昭15.F/②129昭17.F/
②268昭5.F//④771[昭17]/
緒方正清②233明44.F/
小方庸正①314昭5.B//
②253大14.D/
尾形良典③267昭7.D/
緒方流水 → 緒方維嶽
岡高熊雄③135明38.D/
岡登貞治②10昭10.A/
②45昭11.D/
岡野馨④413昭4.B/
岡野君①187大5.B/
丘野繁雄①295昭3.Ｄ/
岡野他家夫②144昭19.D//
④668昭19.D/④734[昭4]/
岡野辰之介②245大9.F/
岡野養之助④136明36.B/
岡野留次郎①301昭4.B/
岡橋厚一③250昭4.D//
④421昭4.D/
岡橋保④583昭14.B/
岡藤丑彦④755[昭11]/
岡部［學士］③108明34.C/
岡部清一④133明34.C/
岡部卓次①232大11.D/
岡部平太①272大15.F/
①275昭2.B/①283昭2.F/
岡部彌太郎②83昭14.B/
②89昭14.E/
岡松甕谷④680[明10]/
④683[明12]/
岡松參太郎①75明27.E/
①109明36.E//②201明28.E/
岡見愼一郎①213大8.E/
岡見愼二④327大8.E/
岡村愛藏①78明29.B//

④159明38.B/④169明39.B/
④177明40.B/④187明41.B/
④152明37.B/④219明44.C/
岡村玄治④212明43.E/
岡村庄兵衛①159明45.D/
①166大2.D//③286昭11.D/
岡村司①109明36.E/
①131明40.B/①149明43.E//
④183明41.B/
岡村輝彦②209明32.E/
岡村博士④225大1.B/
岡本威溪②44昭11.D/
岡本榮之助②216明35.C/
岡本延平①119明38.B/
岡本修①111明37.B/
岡本覺亮①54明23.B/
岡本監輔①28明12.C//
④683[明12]/④780[出版年不明]/④789[18-]/
岡本貫瑩①351昭7.D/
②24昭10.D//④661昭18.D/
岡本熊男④373大14.F/
岡本瓊二①256大14.C/
岡本恒治②42昭11.C/
④518昭10.D/④535昭11.C/
④634昭16.C/
岡本講中①17明7.E/
岡本昆石④697[明29]/
岡本茂武②255大15.F/
②267昭5.F//④728[昭1]/
岡本修助①270大15.D/
岡本峻④444昭6.C/
岡本照南④172明39.D/
岡本正三④437昭5.G/
岡本清逸①164大2.B/
岡本則錄④38明12.F/
岡本日亭④711[大1]/
岡本利器③18明14.E/
岡本直吉④52明16.C/
岡本仁三郎①361昭8.B/
岡本春彦①202大7.B/
①203大7.B/①210大8.B//
③206大7.B//④301大6.B/
④314大7.B/④316大7.B/
岡本昌夫①367昭8.D/
岡本政治263大3.C/
岡本信①38明18.C/
岡本正義①350昭7.C/
岡本保孝④728[昭1]/
④781［江戸期］/
岡本芳二郎①109明36.E/
①122明38.E/①128明39.E/
④790[1-]/④795[19-]/
岡本良知②41昭11.C//
④374大15.A/④424昭5.A/
④656昭18.B/④657昭18.B/
④665昭18.B/④728[昭1]/
④750[昭10]/④761[昭13]/
岡本六郎④440昭6.B/
岡谷四郎④531昭11.B/
④540昭11.D/
岡山兼吉②163明16.E/
岡山俊雄④518昭10.D/
小川市太郎④372大14.E/
小川煙村①228大11.A/
①235大12.A//④156明37.D/
小川和夫②25昭10.D//
④592昭1.D/
小川清澄②54昭12.B/
②70昭13.B//④368大14.B/
小川清彦③188大3.F//
④225大1.B/
ポゴスロフスキー④697[明29]/
小川教授 → 小川琢治
小川銀次郎①86明31.C/
①121明38.D//③41明23.C/
④785[明35]/④786[明38]/
④786[明41]/④787[明41]/
④788[明44]/④788[明45]/
④791[大2]/④796[昭2]/
小川劍三郎①154明44.F//
②230明42.F/
小川孝吉(Ogawa)④690[明20]/

④691[明21]/④697[明30]/
小川慈次郎①140明41.G/
小川二郎②99昭15.D/
②120昭17.B//④518昭10.D/
④631昭16.B/
小川信一③246昭4.A/
小川季明④433昭5.D/
④434昭5.D/④435昭5.D/
小川生④405昭3.C/
小川倩葭④494昭9.D/
小川多一郎①373昭9.B/
小川琢治［小川教授、斗南狂生］
①52明22.C/①162大2.B/
①190大5.C/①191大5.C/
①222大10.B/①224大10.C/
①225大10.D/①227大10.F/
①247大13.C/①290昭3.C/
①292昭3.C//②230明42.C//
③168明45.C/③249昭4.C//
④77明22.C/④235大1.C/
④340大10.C/④341大10.D/
④363大13.F/④381大15.C/
④793[大9]/④794[大13]/
④794[大14]/④795[19-]/
小川竹男④197明42.C/
④521昭10.G/
小川爲治④29明6.B/④40明14.A/
小川太郎②274昭7.C/
小川團次④331大9.B/
小川力④559昭12.D/
小川千甕①217大9.D//
④253大3.A/
小川長成④668昭19.D/
小川豐吉④693[明23]/
小川寅松①91明32.D/
小川肇②269昭6.B/
小川晴彦③237大15.D/
小川久喜④333大9.C/
小川秀雄①233大11.E//
④349大11.E/
小川正之④793[大12]/
小川政修［博士］①185大4.F/
①193大5.F/①200大6.F/
①339昭6.F//②139昭18.F/
②272昭6.F//③292昭12.F//
④283大4.F/④310大6.F/
④480昭8.F/④808[昭18]/
小川政彦①311昭4.F/
小川正行①106明36.B//
③221大12.B//④499昭9.E/
小川政恭①365昭8.D//
②109昭16.C/②123昭17.D/
②144昭19.D//④647昭17.C/
④768[昭16]/
小川無極④359大13.B/
小川義章①209大8.B/
①236大12.B/①238大12.B//
②148昭20.B［不明］//
③214大10.A//④322大8.B/
小川秀雄②250大13.B/
小川季明③261昭6.D/
小川隆四郎①223大10.C/
小川亮①23明10.C//④680[明10]/
小川漁史④89明24.D/
④37明12.D/
荻窪村人①257大14.C/
沖崎猷之介①345昭7.B/
荻須高徳②103昭16.A/
小北皎次郎④392昭2.C/
④403昭3.B/
沖田武雄①301昭4.B/
沖田一①321昭5.D//
③255昭5.D//④434昭5.D/
荻田庄五郎②36昭11.B/
②87昭14.D//③298昭13.D//
④662昭18.D/
興地實英①383昭9.D/
興津磐①122明38.G//166明38.G/
興津記一郎④61明18.G/
沖中恒幸②126昭17.E//
④479昭8.E/④652昭17.E/
沖野岩三郎④318大7.D/
荻野しのぶ②206明31.B/
沖野舜二④764[昭14]/

荻野仲三郎④786[明38]/
荻野博②62昭12.D/②78昭13.F/
②109昭16.C//④567昭13.B/
荻野芳雄②244大9.B/
荻原晃④330大9.B/④337大10.B/
④424昭5.A/④793[大9]/
④802[昭10]/④809[昭19]/
荻原朝之助③48明25.B/
③50明25.B//④86明24.B/
④90明25.B/④92明25.B/
荻原井泉水①149明43.D//
③148明41.D/③152明42.D/
③157明43.D//④210明43.D/
④211明43.D/
荻原雲來②197明27.B/
荻原善太郎④71明21.A/
荻原朔太郎④560昭1.D/
萩原絹涯 → 荻原民吉
荻原民吉(絹涯)④104明27.E/
④696[明27]/
荻原博④571昭13.C/
荻原擴①264大15.B//
③212大9.B//④331大9.B/
④338大10.B/④378大15.B/
荻原守衛③148明41.D/
③152明42.D/③162明44.D//
④221明44.D/④329大9.A/
荻原彌彦④485昭9.B/
④526昭11.B/
荻村段山①64明25.B/
荻生徂徠④100明27.B/
④106明28.B/④653昭17.E/
奥斬定 → 三上七十郎
奥泰資(小羊子)④97明27.C/
④98明26.D/
奥むめお①256大14.C/
奥井教授④409昭3.E/
奥井復太郎③224大12.E/
③228大13.D/③228大13.E/
奥田幾治郎①318昭5.C/
奥田功④435昭5.E/
奥田正造③147明41.B/
奥田唯輔②138昭18.E/
奥田榮世①26明11.C/
奥田復太郎③221大11.E//
④361大13.D/
奥田義人①260大14.E/
奥平武彦④408昭3.D/
④733[昭3]/④736[昭4]/
奥平浩④74明21.D/
奥平昌高④24[24962]/
小口優①335昭6.D//②15昭10.B/
②93昭15.B/②96昭15.B/
②111昭16.D/②112昭16.D/
②117昭17.A/②124昭17.D/
②136昭18.D//④508昭10.B/
④517昭10.D/④539昭11.D/
④585昭14.B/④601昭15.B/
④602昭15.B/④604昭15.B/
④618昭15.D/④635昭16.D/
④643昭17.B/④801[昭9]/
④807[昭17]/
奥津彦重①296昭3.D/
①353昭7.D/①356昭7.F/
①376昭9.B/②23昭10.D//
②26昭10.E//③327昭［不明］D//④384大15.D/
④384大15.D/④564昭12.G/
④686昭23.D/④809[昭20]/
奥津芳郎③320昭17.B/
奥野庄太郎③240昭2.C/
奥野信太郎④489昭9.B/
奥野昌綱④46明15.B/
④53明16.D/④55明17.B/
④73明21.C/④675[明5]/
④676[明6]/④683[明13]/
④789[18-]/
小熊捍③242昭3.A/
小熊秀雄③286昭11.D/
小熊虎之助①234大11.G//
③209大8.B//④323大8.B/
④324大8.B/
奥蒔多藏③230大14.B/
奥村綾子①366昭8.D/

奥村信太郎①87明31.D/
奥村洞麟①111明37.B/
奥村梅皐④147明36.D/
奥村不染③90明31.D/
奥村友之助②253大14.E/
奥山［公使］②254大15.C/
奥山虎章①15明5.G//
②155明6.G//④676[明6]/
小倉兼秋①359昭8.B/
小倉金之助①298昭3.F/
①355昭7.F/①356昭7.F//
②29昭10.F/②103昭15.F/
②139昭18.F/②146昭19.F/
②287昭9.F//④298大5.F/
④410昭3.F/④464昭7.F/
④480昭8.F/④520昭10.F/
④543昭11.F/④544昭11.F/
④622昭15.F/④739[昭5]/
④800[昭7]/④801[昭8]/
小倉志貴④314大7.B/
④323大8.B/
小倉進午②24昭10.D/
小倉進平③299昭13.D/
小倉生③237大15.F/
小倉松夫②185明23.E/
小倉虞人①315昭5.B/
小倉井出④424昭4.F/
小栗銀三②258昭2.E/
小栗孝則②34昭11.B/
②124昭17.D/
小栗襄三②59昭12.C//
④557昭12.C/
小栗貞雄(空々生)④63明19.C/
④68明20.C/④77明22.C/
小栗孝則④558昭12.D/
小栗（上野）判官①259大14.D/
小栗浩④809[19-]/
小栗又一①322昭5.D/
小栗要逸④710[明44]/
小栗栖國道①212大8.E/
小栗栖香平［獨和字典大全］
③24明18.G/③27明19.G//
④50明16.B/④61明18.G/
④126明32.G/
小栗田壽秀④537昭11.C/
小黒康正④330大9.B/
小河内美男④501昭9.G/
④750[昭9]/
小此木松子③156明43.C/
③163明45.B//④225大1.B/
小此木眞三（郎）③309昭15.C/
④616昭15.C/
刑部正②101昭15.E/
尾崎咢堂 → 尾崎行雄
尾崎清巳②263昭4.E/
尾崎賢三郎③273昭8.E//
④747[昭8]/
尾崎憲三④768[昭16]/
尾崎紅葉（紅葉山人、紅葉、德太郎、十千萬）
③68明28.D/③78明29.D/
③84明30.D/③90明31.D/
③152明42.D/③236大15.D//
④108明28.D/④117明30.D/
④135明35.B/④146明36.C/
尾崎士郎①213大8.E/
尾崎庸夫①44明20.E//
④60明18.D④384大16.D/
尾崎太郎④635昭16.D/
尾崎行雄（咢堂）①24明10.E//
④39明13.C/④45明15.B/
④46明15.B/④68明20.C/
④384大15.D/
尾崎行隆④68明20.C/
尾崎義夫④737[昭4]/
尾崎嘉太郎①36明17.E/
長田三郎①278昭2.C/
長田秋濤（忠一）②206明31.C//
③115明35.D//④699[明32]/
長田新①239大12.B/①301昭4.B/
①345昭7.B//④452昭7.B/
④548昭12.B/
長田忠一 → 長田秋濤

長田偶得②204明30.B//
④122明32.B/④672[明治]/
④698[明30]/
尾佐竹猛［蒙］③302昭14.B//
④735[昭4]/④744[昭7]/
④795[19-]/
長本三千藏④778[昭19]/
小山内薫（なでしこ）
①108明36.D/①116月37.D/
①217大9.D/
①272大15.C［不明］//
③129明37.D/③167明45.B//
④301大6.B/④369大6.B/
長場悌治③260昭6.D/
③267昭7.D/
長本未千藏④685昭23.C/
大佛衛②232明44.B/
小澤愛圀①178大3.F//
③245昭3.F//④251大2.D/
④283大4.F/
小澤榮一④648昭17.C/
小澤錦十郎①111明37.B/
小澤三郎②63昭12.D/
②100昭15.D/②104昭16.A//
③322昭17.D/③325昭18.D//
④558昭12.D/④574昭13.D/
④592昭14.D/④664昭19.A/
④757[昭12]/④762[昭13]/
④765[昭15]/
小澤恒吉③12明10.E/
小澤俊夫④810[19-]/
小澤敏夫②102昭15.F//
④622昭15.F/
小澤龍三④39明13.C/
押川方義①222大10.B/
押川春浪④708[明43]/
④711[大1]/
尾島正太郎④651昭17.D/
尾島庄太郎②103昭15.F//
④731[昭2]/
尾島眞治④278大4.C/
④516昭10.D/
尾島精六④679[明9]/
尾島碩心①367昭8.D/
尾瀬敬止①230大11.B/
小關紹夫④752[昭10]/
尾關岩二①231大11.D/
①240大12.D//④361大13.D/
④627昭16.B/④730[昭2]/
④797[昭3]/
小關三英④672[弘化]/
④673[安政]/④781[江戸期]/
尾關春三②190明25.C/
織田①352昭7.D/
小田②250大13.D/
小田和民 → 浮田和民
小田清①288昭3.B/①302昭4.B//
②34昭11.B/②282昭9.B//
④486昭9.B/
小田源一郎②216明35.D/
織田源吉③282昭10.D/
小田貢士④759[昭12]/
織田小覺①35明16.E/
織田信麻②183明23.B/
織田昌太郎①332昭6.C//
④443昭6.C/
織田純一郎（丹羽純一郎）［リトン、花柳春話］①27明11.D/
①28明12.D/①29明12.D/
①30明13.D/①36明17.D/
①290昭3.C/①294昭3.D//
②252大14.D//③14明11.D/
③15明12.D/③16明13.C/
③17明14.C/③20明16.D/
③231大14.C/③237大15.D//
④515昭10.D/④777[昭19]/
織田人覺④57明17.E/
小田信夫④597昭14.F/
小田信士②286昭9.E/
小田春雄②249大12.E/
小田秀人④361大13.D/
④495昭9.D/
小田丙午郎④586昭14.B/

織田正信④641昭17.A/
④743[昭7]/④746[昭8]/
④773[昭17]/
小田律①238大12.B/
織田萬①116明37.E//
④600昭15.A/④720[大9]/
織田安子④799[昭6]/
小高吉三郎②148昭20.F［不明］/
尾高朝雄②66昭12.E/
②77昭13.E/②102昭15.E/
②113昭16.E/②126昭17.E/
②128昭17.E/②145昭19.E/
②279昭8.E/
尾高豐作④544昭11.G/
小田垣光之輔①272大15.E/
小田切德治④338大10.B/
小田切孫一③280昭10.B/
小田切良太郎①100明35.B//
②220明37.B/
小田内通敏④190明42.A/
小田野聲②222明 38.B/
②224明 39.A/
小立鉦四郎④692[明23]/
越智文雄(Ochi Fumio)
②112昭16.D//
Ochi Fumio → 越智文雄
落合泰藏④54明16.F/
落合太郎①260大14.D//
②54昭12.B/②67昭12.G/
②78昭13.G//④371大14.D/
④420昭4.D/④488昭9.B/
④496昭9.D/④564昭12.G/
④579昭13.G/④803[昭11]/
落合貞三郎①270大15.D/
①382昭9.D//②54昭12.B/
小津茂郎②253大14.E/
小辻節三④522昭11.A/
乙骨兼三①23明10.B/
①24明10.D/
乙骨三郎②23昭10.D//
④540昭11.D/④541昭11.D/
④756[昭11]/④758[昭12]/
乙骨太郎②157明10.C/
音吉[漂民]④672[天保]/
音川龍①84明30. D/
乙竹岩造①105明36.B/
①142明42.B/①155明45.B/
①218大9.D/①267大15.B/
②15昭10.B/②254大15.B//
④184明41.B/④375大15.B/
④774[昭18]/
尾鍋輝彦①332昭6.C/
①386昭9.E//②110昭16.C//
③261昭6.E/③272昭8.C/
小沼勝衛②68昭13.A/
小野①352昭7.D/
小野愛圀④234大1.C/
小野梓（東洋學人）①22明9.E//
②163明16.E//③9明9.E/
③15明12.C/③16明13.E/
③22明17.E/③73明29.B//
④66明19.E/④753[昭10]/
小野一郎①29明13.B/
①40明19.E/
小野衛門太④53明16.E/
小野勝次②140昭18.F/
小野清④373大14.F/
小野玄妙①191大5.D/
①198大6.D/①199大6.D/
①206大7.D//②246大10.D//
③204大6.D/③205大6.D/
③207大7.D/③208大7.D/
③224大12.D/③298昭13.D//
④280大4.D/④308大6.D/
④318大7.D/④319大7.D/
④341大10.D/④348大11.D/
④354大12.D/④559昭12.D/
④594昭14.D/④723[大12]/
小野職慤④676[明5]/
小野清一郎①282昭2.E/
①310昭4.E//②28昭10.E/
②76昭13.E/②261昭3.E//
③278昭9.D//④763[昭14]/
小野成籌 → 小野彼得[ペテロ]

小野忠重④669昭19.F/
④775[昭18]/
小野松塘①50明22.A/
小野武雄②124昭17.D/
小野健人④743[昭7]/
小野辰三郎（筑山）①48明21.D/
①87明31.D//④74明21.D/
④121明31.D/
小野筑山 → 小野辰三郎
小野長一郎④280大4.C/
小野鐵二①331昭6.C/
①347昭7.C//②41昭11.C//
④347大77.C/④511昭10.C/
④790[19-]/
小野俊郎②36昭11.B
小野德太郎④53明16.E/
小野豐明④630昭16.B/
小野二楞（二楞學人）
③146明41.B/③157明43.D/
小野久④525昭11.B/
小野秀雄①167大2.D/
①183大4.D//④292大5.C/
小野宏④579昭13.G/
小野浩④531昭11.B/
小野不二雄①158明45.C/
小野文雄①386昭9.F/
小野彼得[ペテロ](成籌)
④56明17.D/④59明18.C/
④94明26.B/④686[明17]/
④695[明26]/
小野ベトル④34明11.C/
小野敎④588昭14.C/
小野正康①264大15.B/
①276昭2.B/①343昭7.B/
①358昭8.B/①360昭8.B/
①373昭9.B//②259昭3.B//
③228大14.A/③253昭5.B//
④390昭2.B/④403昭3.B/
④429昭5.B/④441昭6.B/
④470昭8.B/④489昭9.B/
④510昭10.B/
小野增次郎③13明11.C/
小野實④345大11.B/
④351大12.B/
小野盛雄④429昭5.B/
小野安成①304昭4.B/
小野澤百八④794[大14]/
尾上紫舟④135明35.B/
④158明38.B/
小野江爲直④650昭17.D/
小野澤頼明④122明32.B/
小野田喜十郎④344大11.B/
小野田萬壽④340大10.C//
④473昭8.C/
小野塚喜平次①233大11.E//
②245大9.C/②245大9.D/
②245大9.E/②245大9.F/
②245大9.G//③125明36.E/
③131明37.E/
小野寺眞人④635昭16.D/
小野寺通典①380昭9.C//
②60昭12.C/②143昭19.C//
③290昭12.C//④554昭12.C/
小野村林藏④241大2.B/
④247大2.B/④254大3.B/
④255大3.B/④276大4.B/
小畑久五郎④312大7.B/
小幡甚三郎①14明3.B/
小畑靜子③255昭5.D/
小畠元雄②263昭4.D/
小花清泉②237大2.D/
小原克己④592昭14.D/
小原國芳①290昭3.C/
① 301昭4.B/①307昭4.D/
①310昭4.E//④436昭5.F/
小原敬士②73昭13.C//
④519昭10.E/④535昭11.C/
④537昭11.C/④613昭15.C/
小原敬二②43昭11.C/
小原三郎①216大9.B/
小原重哉④79明22.E/
小原度正④649昭17.D/
小原福治④661昭18.D/

尾原無絃(要藏)④167明39.B/
④172明39.D/
尾原要藏 → 尾原無絃
尾原亮太郎①206大7.E/
①212大8.E//④91明25.B/
小尾範治①146明43.B/
①157明45.C/①162大2.B/
①182大4.C//②131昭18.B//
③160明44.B/③165明45.B/
③169明45.D/③197大5.B/
③218大11.B//④499昭9.E/
④552昭12.B/④631昭16.B/
④656昭18.A/④658昭18.B/
④659昭18.B/
小彦名命④744[昭7]/
小櫃守衛④692[明23]/
④693[明24]/④694[明24]/
於保不二雄②267昭5.E/
澤潟久敬④645昭17.B/
表町健壽④457昭7.C/
尾持昌次④760[昭12]/
尾本國太郎①39明18.G/
①45明20.G//④61明18.G/
オリンピア社④792[大7]/
小山田劍南②210明33.C/
折蘆生 → 魚住折蘆
織笠繁藏④250大2.D/
折口教授①277昭2.B/
折口信夫④735[昭4]/④738[昭5]/
折竹蓼峯①134明40.D//
④180明40.D/
織戸正滿①144明42.D/
①157明45.C/
尾張捨吉郎③44明24.B/
遠賀生①299昭4.A//④412昭4.A/
音樂世界社④753[昭10]/
溫故庵主人④369大14.C/
恩田和子③232大15.A/
恩田重信②212明33.G//
④141明35.G/
［か］禾周正④544昭11.G/
何進善④43明14.D/
何初彦③304昭14.D/
何禮之［萬法精理］①14明4.E/
①19明8.E/①22明9.E/
①24明10.E/①25明10.E/
①29明12.E/①29明12.G/
①30明13.E//②258昭2.E//
③6明8.E/③10明9.E/
③12明10.E/③14明11.E/
③15明12.E/③16明12.E/
③17明13.E/③131明37.E/
③237大15.E/
畫傳子①190大5.C/
甲斐一二①262 大14.G/
甲斐二朗②253大14.D/
下位春吉①256大14.C//
②109昭16.C/②255大15.D/
甲斐ひさ③188大3.F/
懷郷生③37明22.D/
外教生③60明27.B/③61明27.C/
海軍醫務局③20明16.C/
海軍兵學校③17明14.C/
開元英語夜學校③25明19.A/
回顧子④286大5.B/
海後宗臣①265大15.B/
①276昭2.B/①305昭4.B//
③239昭2.B/③298昭13.D//
④529昭11.B/
介山生③156明43.C/
芥舟漁郎③72明29.B/
③78明29.D③111明35.A//
④135明35.A/
海上隨歐④210明43.A/
貝瀬汎夫③255昭5.D/
開成舘編輯所④791[大2]/
開成所④26[25011]/④776[昭18]/
改造社調査部④465昭7.G/
④744[昭7]/④790[1-]/
④796[1-]/④809[19-]/
改造社版①324昭5.G/
①340昭6.G/
慨癡道人③3［17499］/
開拓使 → 荒井郁

開拓者編輯局④178明40.C/
④706[明40]/
回天迂生②165明17.C/
開堂主人②155明8.B/
貝原益軒③299昭13.D//
④143明36.B/
戒能通孝②114昭16.E/
②127昭17.E/
外務省④803[昭11]/
外務省情報部④804[昭13]/
外遊生①85明31.A/
海府翁①196大6.C/
花園綠人③200大5.D/
火焔劒主人④310大6.F/
薫①58明23.D/
加賀秀一②174明20.F/
花崖③198大5.C/
課外讀物刊行會①256大14.C//
④726[大14]/
呵々翁③62明27.D/
科學教育叢書刊行會
①196大6.C/①198大6.D//
④718[大7]/
加々美南樹④447昭6.D/
加々美南嶺③267昭7.D/
鏡淵稔②115昭16.F/
香川④286大5.B/④303大6.B/
香川怪菴①101明35.B/
香川錦藏④324大8.B/
香川縣立圖書舘④758[昭12]/
加川航三郎①222大10.B/
①310昭4.E/
賀川哲夫①149明43.F/
①154明44.F//②52昭11.G/
賀川豐彦①188大5.B/
①198大6.C/①202大7.B/
①209大8.B/①210大8.B/
①215大9.B/①222大10.B/
①263大15.A/①276昭2.B/
①284昭3.A/①301昭4.B/
①313昭5.B/①330昭6.B/
①346昭7.B/①359昭8.B//
②53昭12.A/②54昭12.B/
②70昭13.B/②95昭15.B//
③217大11.A/③219大11.C/
③232大15.A/③257昭6.B/
③265昭7.C/③278昭10.A/
③289昭12.B/③290昭12.C/
③294昭13.B//④248大2.C/
④260大3.B/④300大6.B/
④309大6.E/④320大7.E/
④322大8.B/④323大8.B/
④326大8.C/④332大9.B/
④333大9.C/④337大10.B/
④343大11.A/④344大11.B/
④345大11.B/④346大11.B/
④347大11.C/④349大11.E/
④350大12.A/④350大12.B/
④351大12.B/④352大12.C/
④353大12.C/④356大13.A/
④357大13.B/④358大13.B/
④359大13.B/360大13.C/
④363大14.A/④364大14.A/
④366大14.B/④369大14.C/
④373大14.F/④377大15.B/
④378大15.B/④380大15.C/
④382大15.C/④386大15.E/
④388昭2.A/④390昭2.B/
④394昭2.C/④397昭2.D/
④435昭5.E/④448昭6.D/
④459昭7.C/④460昭7.D/
④554昭12.C/④555昭12.C/
④570昭13.B/④601昭15.B/
④607昭15.B/④642昭17.B/
④644昭17.B/④722[大正]/
④731[昭2]/④733[昭3]/
④741[昭和]/
賀川英夫①354昭7.E//
④656昭18.B/④657昭18.B/
香川義昌③280昭10.B/
香川義丸②14昭10.B/
我觀生②230明42.B//
③149明42.B/③160明44.B/
③171大2.B/③180大3.B/

垣内純朗(國木田哲夫[獨歩]［兩
カトー］①79明29.C//
③75明29.C/③214大10.B/
垣内松三①382昭9.D/
鍵川有司②263昭4.D/
垣上綠④55明17.C/
蠣崎富三郎④706[明40]/
垣下清一郎②15昭10.B/
餓鬼堂④64明19.C/
柿沼介①296昭3.D/
柿沼太郎①270大15.D//
②111昭16.D//④634昭16.D/
柿花啓正④499昭9.E/
④543昭11.E/④561昭12.E/
④563昭12.E/
柿村重松①105明36.B/
①110明37.B/
柿村龍二①270大15.D/
柿山清①101明35.C/
臥牛樓 → 佐野尚重
可行生③37明22.D/
瓦金生④334大9.D/
鶴溪泉①112明37.B/
賀來孝夫④408昭3.D/
架空道人④70明20.D/
④74明21.D/④78明22.D/
角信雄④769[昭16]/
學藝子①219大9.F/
鶴洲④672[天保]/
學習院③26明19.C/③28明20.C/
③31明21.C//④741[昭6]/
學術研究會①134明40.G/
鶴城居士②183明23.C/
鶴川漁史④698[明31]/
鰐川(生)④291大5.C/
④307大6.D/
角田浩々歌客(K.K.K.)
①142明42.B/
角田三郎④565昭13.A/
罌堂→ 尾崎行雄
格堂④202明43.A/
確堂散史②186明23.F/
覺非齋主人①39明19.B/
學部編輯局④697[明28]/
學文路圭民①346昭7.B//
④453昭7.B/
鶴翩→ 大城鶴翩
鶴峰山人①48明21.C/
格麿義明③3［17500］/
學友舘編輯部④96明26.C/
學羊社②154明5.G/
筧克彦［教授］①142明42.B/
①159明45.E/①168大2.E/
①384昭9.E//③184大3.B/
③211大9.B//④262大3.B/
筧教授 → 筧克彦
筧昇三①29明12.F//③16明12.F/
筧光顯④456昭7.C/
梯秀明④528昭11.B/
陰山庄司②14昭10.B/
影山濤④204明43.B/
景山哲夫④808[昭18]/
④808[昭19]/
景山直治③286昭11.D/
加古悠子①252大14.A/
加古祐二郎②276昭7.E/
葛西勝頼(彌?)①324昭5.F//
④432昭5.D/
笠井鳳齋④705[明40]/
④706[明41]/④707[明41,42]/
④708[明42]/④709[明43]/
④710[明44]/④713[大3]/
④718[大7]/
葛西又次郎④714[大3]/
笠井義夫③247昭4.B/
笠原研壽②157明10.B/
笠原義雄④654昭17.E/
風間鶴壽②88昭14.E/
笠間杲④504昭10.A/
風間禮助④135明35.B/
風祭甚三郎②164明16.G//
④49明15.G/④54明16.G/
笠森仙之助②242大7.B/
華山 → 茅原廉太郎

華山 → 神山五郎
霞山子④701[明35]/
華山生③196大5.B/
鍛冶喜八郎③267昭7.D//
④447昭6.D/
梶康郎①251大13.G//
④355大12.G/④365昭13.G/
加治千三郎①324昭5.F/
加地爲也④676[明6]/
嘉治隆一①223大10.B/
①254大14.B/①350昭7.C//
②92昭15.A//④574昭11.G/
嘉冶瑠璃子②32昭11.A//
④501昭10.A/④521昭11.A/
梶光之助④562昭12.E/
鹿地亘④477昭8.D/
樫尾沽泉③120明36.C/
樫尾太刀太郎④130明34.B/
梶島二郎③166明45.B/
梶田半吉④103明27.D/
④108明28.D/
梶田羊古①133明40.D/
梶原長八郎③203大6.C//
④305大6.C/
鹿島櫻巷④131明34.B/
加島斌①96明34.B/
①100明35.B//③109明34.D//
④146明36.D/
鹿島仁①363昭8.C//④472昭8.C/
鹿島碧水③150明42.B/
樫村義雄④561昭12.E/
鹿洲生③53明25.F/③78明29.D//
④104明27.E/
霞城山人②180明22.D/
樫山欽四郎②270昭6.C//
④445昭6.C/④474昭8.C/
④643昭17.B/④652昭17.D/
柏井園［柏井氏］①128明39.D/
①156明45.B/①174大3.C/
①176大3.C/①180大4.B/
①189大5.B/①204大7.C//
②84昭14.C/②223明38.D/
②225明39.D//③138明39.B/
③139明39.D/③140明39.D/
③184大3.C/③185大3.C/
③213大9.D/③309昭15.C//
④132明34.C/④145明36.C/
④165明38.D/④173明39.D/
④188明41.D/④197明42.C/
④202明43.B/④214明44.D/
④218明44.B/④221明44.D/
④236大1.C/④247大2.B/
④265大3.C/④266大3.C/
④283大4.E/④291大5.C/
④306大6.C/④339大10.C/
④347大11.C/④368大14.B/
④388昭2.B/④483昭9.B/
④494昭9.C/④511昭10.B/
④533昭11.C/④537昭11.C/
④722[大正]/④723[大正]/
④752[昭10]/
柏井氏 → 柏井園
柏井光藏④537昭11.C//
④749[昭9]/
柏木義圓③50明25.C/
③56明26.C/③192大4.C/
③218大11.B/③327明［不明］B//④114明30.A/
④116明30.C/④160明38.B/
④191明42.B/④285大5.B/
④334大9.D/④357大13.B/
④401昭3.B/
柏木寅二郎①303昭4.B//
④413昭4.B/
柏熊達生④772[昭17]/
④805[昭15]/④806[昭16]/
④808[昭18]/
柏倉俊三④752[昭10]/
柏原學而①17明7.F/
柏原政次郎①41明19.G/
柏原祐泉④573昭13.C/
華水③88明31.C/
火水風人天民②181明22.D/
春日俊吉①268大15.C/

春日政治③244昭3.D/
春日局④709[明43]/
糟川潤三④28明5.F/
數野虎次④153明37.C/
かすみ①52明22.C/①64明25.B/
香澄迂郎③11明10.C/
かすみの浦人②188明24.D/
霞柳郎①100明35.B//
③126明37.B/
加須屋壽賀藏④117明30.D/
加瀬生④394昭2.C/
風早徹①315昭5.B//④427昭5.B/
風祭甚三郎③21明16.G/
華川生④168明39.B/
霞村生①120明38.B/
加田教授 → 加田哲二
加太邦憲④790[19-]/
加太藤林④66明19.G/
加田哲二［教授］①296昭3.E/
①297昭3.E/①299昭4.A/
①310昭4.E/①323昭5.E/
①325昭6.A/①360昭8.B//
②65昭12.E//④433昭5.D/
④435昭5.E/④489昭9.B/
④529昭11.B/④626昭16.A/
④807[昭16]/
堅井善信④552昭12.B/
片岡鐵兵②143昭19.C/
片岡碧光③35明22.B/
片岡彌吉④593昭14.D/
片岡義雄④663昭18.E/
片上伸（天絃）①142明42.B/
①176大3.D//③124明36.D/
③191大4.B/③192大4.B/
③213大9.E//④163明38.D/
④148明36.D/④240大2.A/
④254大3.A/④267大3.D/
④271大4.A/
片上天絃 → 片上伸
片岸清③289昭12.B/
③308昭15.B/
片桐教授④352大12.B/
片田一徹④361大13.D/
片野金藏②249大12.E/
片庭壬子夫④512昭10.C/
片山顕一④508昭10.B/
片山金章④638昭16.E/
カタヤマキンイチロウ
④65明19.D/
片山國嘉④58明17.G/
片山孤村 → 片山敏彦
片山淳吉④36明12.C/
④37明12.C/④680[明10]/
片山清太郎②170明19.B/
片山潜①87明31.C//③83明30.D/
③85明30.E//④112明29.C/
④113明29.E/④120明31.C/
④148明36.E/
片山［早大教授］②237大2.D/
片山尊子④368大14.B/
片山强②258昭2.E/
片山春帆④701[明36]/
片山敏彦（孤村）①133明40.C/
①167大2.D/①361昭8.B//
②12昭10.B/②47昭11.D/
②53昭12.A/②63昭12.D/
②92昭15.A/②106昭16.B/
②120昭17.B/②253大14.D/
③306昭14.D//④211明43.D/
④251大2.D/④399昭2.G/
④518昭10.D/④559昭12.D/
④594昭14.D/④599昭15.A/.
④650昭17.D/④651昭17.D/
④657昭18.B/
片山正雄(M.Katayama)
①101明35.B//②67昭12.G/
②91昭14.G/②116昭16.G/
②129昭17.G/②258昭2.G/
②264昭4.G//④164明38.D/
④370大14.D/④793[大10]/
④793[大11]/
片山正直②82昭14.B//
④586昭14.B/
片山松治郎③191大4.B/

片山綠兒④162明38.C/
片山彌三郎④402昭3.B/
片山善之②285昭9.D/
④487昭9.B/
片山亘④457昭7.C/
加地爲也④29明6.C/
勝安房(海舟、麟太郎、國司平炉句)
①25明10.G/①51明22.C//
④33明10.G/④39明13.B/
勝海舟 → 勝安房
學海居士③30明21.B/
學海指針社④785[明34]/
勝麟太郎→ 勝安房
加津佐學林版①4[3]/
月山 → 赤沼金三郎
月山 → 高橋作衛
勝田勝年④514昭10.C/
勝田圭三①191大5.C/
勝田守一④453昭7.B/
④476昭8.C/
勝部謙造①173大3.B/
①210大8.B/①223大10.B/
①244大13.B/①266大15.B/
①267大15.B/①287昭3.B/
①330昭6.B//③222大12.B/
③225大13.B//④454昭7.B
勝部重治③290昭12.B/
勝俣銓吉郎②219明36.G/
②235明45.G//③238大15.G/
③282昭10.D//④139明35.D/
④728[昭1]/④761[昭13]/
④765[昭14]/④766[昭15]/
④771[昭17]/
勝見勝③266昭7.D/
勝水瓊泉③142明40.B/
勝本英治④374大15.A/
④478昭8.D/
勝本鼎④553昭12.B/
④760[昭12]/
勝本正晃①281昭2.D/
①323昭5.E/①325昭6.A//
②245大9.E/
勝屋英造③188大3.G/
③189大3.G//④270大3.G/
勝山安太郎④570昭13.B/
④571昭13.B/④588昭14.B/
④607昭15.B/④766[昭15]/
桂近平①367昭8.D/
桂兼太郎④142明36.B/
桂夫人④82明23.B/
桂井當之助①157明45.B/
①162大2.B/①165大2.B/
①172大3.B//③171大2.B/
③174大2.B/③175大2.B/
③183大3.B//④271大4.A/
④454昭7.B/
桂川國興 → 桂川甫周
桂川國寧 → 桂川甫賢
桂川甫賢（國寧）
①8[99,114,119]/
①9[128,130,150]/
①10[157]//③59明26.F/
④24[24936]/
桂川甫粲(齋） → 森島忠良
桂川甫撰①6[44]/
桂川甫周(國興、國瑞)
①11[194]//
②235明45.G//
④26[24997]/④26[25002]/
④775[昭18]/
桂川桂林 → 森島二卽
葛城秀夫③204大6.D/
桂亭主人(工藤應之)
④700[明34]/
桂川彦藏④682[明11]/
佳天生②259昭3.B/
角井貞淑②249大12.E/
稼堂②188明24.D/
加藤朝鳥①274昭2.B//
③194大4.D/③245昭3.D//
④310大6.G/④320大7.G/
④272大4.B/④361大13.D/

④370大14.D/④413昭4.B/
④532昭11.B/④717[大5]/
④735[昭4]/④798[昭5]/
加藤篤①47明21.C/
加藤一朗②137昭18.D//
④662昭18.D/
加藤卯一郎②120昭17.B/
加藤英二④398昭2.E/
加藤一男③230大14.C/
③233大15.B/
加藤一夫①221大10.B/
①325昭6.A//④236大1.D/
④339大10.C/④449昭7.A/
④533昭11.C/④678[昭和]/
④686昭23.D/④759[昭12]/
加藤一雄④508昭10.B/
加藤勝壽④194明42.B/
加藤勝也④568昭13.B/
加藤熊一郎 → 加藤咄堂
加藤玄智①93明33.B/
①96明34.B/①104明36.B/
①118明38.B/①244大13.B//
②120昭17.B/②210明33.B/
②213明34.B/②215明35.B/
②220明37.B/②226明40.B/
②232明44.B/②234明45.B/
②269昭6.B//③99明33.B/
③100明33.B/③106明34.B/
③107明34.B/③111明35.B/
③112明35.B/③150明42.B/
③247昭4.B//④126明32.G/
④127明33.B/④130明34.B/
④131明34.B/④135明35.B/
④136明35.B/④143明36.B/
④158明38.B/④184明41.B/
④233大1.B/④645昭17.B/
④699[明32]/
加藤憲市④765[昭14]/
④776[昭18]/
加藤弘藏④27[25104]/
加藤覺④72明21.B/④78明22.C/
④82明23.C/
科斗子 → 内田魯庵
加藤成之②124昭17.D/
②145昭19.D/
加藤繁①322昭5.E/①368昭8.E//
④422昭4.E/
加藤漆花③144明40.D//
④180明40.D/
加藤紫芳④133明34.D/
加藤十四郎④82明23.C/
加藤仁平④728[昭1]/④745[昭8]/
加藤信也②12昭10.B/
②16昭10.B//④477昭8.D/
④508昭10.B/
加藤澄藏②59昭12.C/
加藤政之助①28明12.C/
①30明13.C//④60明18.E/
④71明21.A/
加藤猛夫④530昭11.B/
④534昭11.C/
加藤正②115昭16.F//
③318昭16.F//④639昭16.F/
④640昭16.F/
加藤辰三郎④709[明43]/
加藤咄堂(熊一郎)①63明25.B/
①68明26.B/①113明37.B/
①135明41.B/①141明42.B/
①142明42.B/①145明43.A/
①161大2.A/①236大12.B//
②11昭10.A/②191明25.D/
②192明25.E/②217明36.B/
②219明37.B/②228明41.B/
②229明42.B//③126明37.B/
③132明38.B/③147明41.C/
③150明42.B/③151明42.B/
③154明43.A/③171大2.A//
④122明32.B/④149明37.B/
④157明38.B/④187明41.B/
④188明41.C/④191明42.B/
④200明43.A/④201明43.A/
④206明43.B/④272大4.B/
加藤照麿①59明24.B/
加藤とし②51昭11.F/

加藤時次郎①38明18.C//
③23明18.C/
加藤時也①178大3.F/
加藤直士①124明39.A/
①174大3.B//③140明39.D/
③143明40.C//④158明38.B/
④166明39.A/④175明40.B/
④180明40.D/186明41.B/
④189明41.D/④191明42.A/
④195明42.B/④196明42.B/
④197明42.C/④202明43.B/
④206明43.B/④207明43.B/
④214明44.B/④218明44.B/
④219明44.C/④221明44.D/
④221明44.D/④232大1.B/
④235大1.C/④241大2.B/
④246大2.B/④247大2.B/
④260大3.B/④261大3.B/
④632昭16.C/④706[明40]/
加藤信正①143明42.C/
加東秀三郎④677[明8]/
加藤弘之［博士］①14明3.E/
①19明8.E/①22明9.E/
①25明10.E/①27明11.E/
①46明21.A/①59明24.B/
①111明37.B//②152明1.E/
②154明6.E/②156明9.A/
②157明10.E/②159昭13.D/
②159昭14.D/②160昭15.A/
②164明16.E/②165明17.C/
②165明17.E/②167明18.B/
②172明20.A/②173明20.B/
②179明22.B/②181明22.E/
②183明23.B/②184明23.C/
②201明28.E//③10明9.E/
③12明10.E/③14明11.E/
③17明14.C/③21明17.C/
③22明17.C/③33明21.E/
③42明23.F/③47明24.E/
③59明26.E/③60明27.B/
③64明27.E/③70明28.E/
③116明36.A/③136明38.E/
③142明40.B//④28明5.E/
④31明9.E/④44明14.E/
④49明15.E/④57明17.E/
④99明26.E/④100明27.B/
④104明27.E/④105明28.B/
④106明28.B/④109明28.E/
④110明29.B/④181明40.E/
④259大3.B/④274大4.B/
④283大4.E/
④697[明28,29]/
④703[明37,38]/④708[明42]/
加藤博士 → 加藤弘之
加藤扶桑③139明39.B/
加藤正治①109明36.E/
①168大2.E//③153明42.E/
加藤正之②156明8.E/
加藤將之③243昭3.B//
④454昭7.B/
加藤增雄③149明42.A/
加藤幹雄④34明11.D/
④74明21.D/④89明24.D/
加藤三雄④131明34.B/
④169明39.B/
加藤みどり①183大4.C/
加藤黙仙①106明36.B/
加藤元彦④461昭7.D/
④498昭9.D/
加藤勇次郎①36明17.B//
④69明20.D/
加藤行信①229大11.B//
④345大11.B/
加藤美雄④776[昭18]/
加藤美侖①262 大14.G/
加藤栗泉④305大6.C/
加藤龍太郎②120昭17.B/
②137昭18.D/
香取家蓮④409昭3.E/
香取春介④128明33.C/
香取ちよ④467昭8.B/
カトリック出版物委員
④521昭10.G/

カトリック新報社④649昭17.D/
カトリック大辭典編輯所
④804[昭12]/
カトリック中央出版部
④438昭6.B/
門脇清④518昭10.D/
④742[昭和]/④752[昭10]/
④762[昭13]/④763[昭14]/
門脇伯水③147明41.B/
金井英一③321昭17.D/
金井延②192明25.E//
③58明26.E/
金井煥④782[明10]/
金井啓一(柴舟居士、桑原啓一)
①52明22.E/①53明22.E//
④132明34.C/
金井爲一郎④442昭6.B/
金井望(古志學人)④80明31.B/
④118明31.B/221明44.D/
嘉内持長④223明43.F/
金生喜造(三)①181大4.B/
①200大6.F/①241大12.D/
①245大13.B//③202大6.B//
④269大3.E/④357大13.B/
④365大14.B/④714[大3]/
假名垣魯文①14明3.D/
①28明12.D//④28明3.D/
④28明5.C/④675[明5]/
④676[明6]/
金栗四三①234大11.F//
④719[大8]/
金指正三④655昭18.A/
金澤庄三郎①128明39.D/
①133明40.D//②227明40.D//
③195大4.G//④121明31.D/
④147明36.D/④180明40.D/
④181明40.D/④182明40.G/
④283大4.G/④373大14.G/
金澤常雄①359昭8.B//
②58昭12.B/②277昭8.B//
④515昭10.D/
金澤久②242大6.G/②248大11.G/
②256大15.G//④355大12.G/
金澤誠②96昭15.B/②110昭16.C/
②128昭17.E//③314昭16.B/
③315昭16.B/③326昭19.C//
④603昭15.B/④617昭15.D/
④660昭18.C/④665昭19.B/
金澤理康②128昭17.E/
②139昭18.E//④541昭11.E/
④774[昭17]/
金浦正弘②173明20.B/
鼎 → 渡邊鼎
金口約翰[ヨハネ]④45明15.B/
④139明35.D/
金見善次郎①82明30.B/
金松賢諒③296昭13.B/
金森西俊②72昭13.B/
金森通倫③44明24.B//
④82明23.B/④86明24.B/
④88明24.D/④91明25.B/
金谷昭①34明16.E//
②160昭15.C/②163明16.C/
金谷熊四郎④784[明30]/
金谷重義②97昭15.C//
③310昭15.C//④608昭15.C/
金山賢照②281昭9.B//
③276昭9.B/③282昭10.C/
金山龍重①254大14.B//
③230大14.B/
金山龍作④377大15.B/
可兒德①227大10.F//
③141明39.F//④212明43.F/
④328大8.F/
蟹江 → 蟹江義丸
蟹江義丸①89明32.B/
①90明32.B/①112明37.B/
①142明42.B//②210明33.B//
③81明30.B/③92明32.B/
③94明32.B/③126明37.B/
③127明37.B//④118明31.B/
④121明31.D/④123明32.B/
④127明33.B/④132明34.B/

④137明35.B/④176明40.B/
④193明42.B/④203明43.B/
④206明43.B/④216明44.B/
④229大1.B/④230大1.B/
④231大1.B/④258大3.B/
④259大3.B/④275大4.B/
④314大7.B/
兼井聯④460昭7.D/
兼岩正夫②139昭18.E//
④633昭16.C/④667昭19.C/
金倉英一①364昭8.C//
②143昭19.C//④463昭7.E/
④543昭11.E/
金子卯吉④290大5.B/
金子馬治(筑水、白夢)
①71明26.D/①75明28.B/
①137明41.B/①162大2.B/
①163大2.B/①164大2.B/
①165大2.B/①174大3.B/
①183大4.D/①184大4.D/
①185大4.D/①201大7.A/
①203大7.B/①208大8.B/
①215大9.B/①216大9.B/
①222大10.B/①229大11.B/
①238大12.B/①245大13.B/
①246大13.B/①248大13.D/
①274昭2.B/①289昭3.B/
①327昭6.B/①346昭7.B//
②36昭11.B/②56昭12.B/
②69昭13.B/②269昭6.B//
③144明40.D/③155明43.B/
③171大2.B/③174大2.B/
③175大2.B/③179大2.F/
③179大3.A/③183大3.B/
③191大4.B/③204大6.D/
③214大10.B/③217大10.D/
③222大12.B/③225大13.B/
③290昭12.B/③327明[不明]B//④98明26.D/
④189明41.D/④191明42.B/
④240大2.A/④246大2.B/
④247大2.B/④254大3.A/
④271大4.A/④275大4.B/
④282大4.D/④328大8.E/
④329大9.A/④330大9.A/
④331大9.B/④332大9.B/
④339大10.B/④346大11.B/
④351大12.B/④352大12.B/
④368大14.B/④376大15.B/
④378大15.B/④379昭15.B/
④388昭2.B/ ④391昭2.B/
④400昭3.A/④441昭6.B/
④442昭6.B/④454昭7.B/
④463昭7.D/④494昭9.C/
④551昭12.B/④568昭13.B/
④569昭13.B/④631昭16.B/
④729[昭1]/
金子幹太①268大15.C//
②255大15.C//④381大15.C/
④393昭2.C/④601昭15.A/
金子憲③261昭6.D/④434昭5.D/
金子玄④532昭11.B/
金子健二①293昭3.D/
①316昭5.B/①320昭5.D/
①336昭6.D/①347昭7.B//
②130昭18.A//③244昭3.B/
③266昭7.D//④344大11.A/
④400昭3.B/④407昭3.D/
④432昭5.D/④743[昭7]/
金子堅太郎③75明29.D/
④42明14.C/④77明22.B/
金子光介①318昭5.C/
①322昭5.D/①364昭8.C/
②22昭10.C//④431昭5.C/
④445昭6.C/④474昭8.C/
④476昭8.C/
金子笹下庵④117明30.D/
金子敏④643昭17.B/
金子紫艸(範二)①127明39.C/
①133明40.D/
金子鷹之助①290昭3.C/
①293昭3.C/①309昭4.E//
②260昭3.C//④407昭3.C/
④489昭9.B/④500昭9.E

金子武藏①328昭6.B/
①361昭8.B/①377昭9.B/
①379昭9.C//②11昭10.B/
②14昭10.B/②27昭10.E/
②36昭11.B/②37昭11.B/
②81昭14.B/②95昭15.B/
②100昭15.E/②142昭19.B/
②259昭3.B//③243昭3.B/
③294昭13.B/③295昭13.B/
③326昭19.E//④505昭10.B/
④569昭13.B/④583昭14.B/
④630昭16.B/④660昭18.C/
④803[昭12]/
金子爲一郎④438昭6.B/
金子筑水 → 金子馬治
金子直衛①347昭7.C/
①379昭9.C/
金子直一①268大15.C/
金子直壽④97明26.C/
金子直行③24明18.G/
③27明19.G/
金子範二 → 金子紫艸
金子白夢 → 金子馬治
兼子一②258昭2.E/
金子凡鳥子②221明 37.E/
金子誠①273昭2.A//④388昭2.A/
金子孫市(一)④585昭14.B/
④669昭20.B/
金子光晴③203大6.D/
金坂天園④391昭2.B/
金關文夫④354大12.D/
金田鬼一④461昭7.D/
金田楢太郎④88明24.C/
金田廉①258大14.D/
①259大14.D//②134昭18.C//
③316昭16.C//④342大10.D/
④372大14.D/
金高探龍③264昭7.B/
兼常清佐①146明43.B/
①151明44.B/①277昭2.B/
①295昭3.D/①307昭4.D//
③241昭2.D//④214明44.B/
④752[昭10]/
金巻賢宇③258昭6.B/
③264昭7.B//④475昭8.C/
加納三郎②262昭4.D/
嘉納治五郎①59明24.B/
鹿野治助①275昭2.B/
①342昭7.B/①374昭9.B//
②79昭14.B/②95昭15.B/
②99昭15.D/②132昭18.B//
④388昭2.B/④605昭15.B/
可野亮④26[25000]/
嘉納恒三郎①90明32.B/
狩野友信④103明27.D/
④108明28.D/
加納秀夫②120昭17.B/
狩野力治③154明43.B/
狩野了吉②273昭7.B//
③70明28.F/
鹿子木員信①162大2.B/
①170大3.B/①179大4.B/
①188大5.B/①189大5.B/
①202大7.B/①215大9.B/
①218大9.E/①222大10.B/
①229大11.B/①230大11.B/
①237大12.B//②130昭18.A/
②131昭18.B//③181大3.B/
③201大6.B/③202大6.B/
③213大9.E/③218大11.B/
③219大11.C/③320昭17.B//
④250大2.C/④258大3.B/
④260大3.B/④288大5.B/
④290大5.B/④293大5.C/
④309大6.E/④313大7.B/
④320大7.E/④332大9.B/
④337大10.B/④342大10.E/
④456昭7.C/④484昭9.B/
④553昭12.B/④659昭18.B/
加畑德治郎①209大8.B/
香原一勢(香原生)①203大7.B/
①208大8.B/①370昭8.G//
③225大13.B/③233大15.B//

④451昭7.B/④470昭8.B/
④645昭17.B/④669昭19.E/
香原生 → 香原一勢
鏑木芳之①368昭8.E/
蚊文士②212明34.B/
②213明34.B/②214明34.F/
②215明35.B/②217明35.E/
蒲蘆居士葛質④672[寛政]/
釜崖漁夫②186明23.E/
鎌倉一隠士②205明31.B/
鎌倉芳太郎②266昭5.D/
鎌田榮吉③86明31.A/
③145明40.E//④144明36.B/
[黄薇]鎌田淵海④694[明25]/
鎌田亥四郎③66明28.B/
鎌田生④459昭7.C/
釜田達玄②36昭11.B/
鎌田武夫④605昭15.B/
鎌田辰郎④121明31.D/
鎌田正雄②271昭6.E/
上笙一郎④719[大8]/
上石保敎①173大3.B/
①203大7.B//④356大13.A/
上伊那哲學會④756[昭11]/
神川彦松②257昭2.D/
神木鷗津①153明44.D/
神藏芳太郎③260昭6.C//
④432昭5.C/
神作淳吉③36明22.C//
④77明22.C/
神坂生③96明32.D/
上里朝秀①252大14.A//
④393昭2.C/
上澤謙二④731[昭2]/
上澤健二④405昭3.C/
上條青巒④140明35.D/
上條憲太郎③241昭2.D/
上条秀介④740[昭6]/
神代峻男①287昭3.B/
神代峻通④344大11.A/
神代岐通②33昭11.B/
神近市子①371昭9.A//
④356大13.A/④370大14.D/
④456昭7.C/④794[大13]/
神長橿①230大11.B/
神畑勇④758[昭12]/
上林彌四郎④756[昭11]/
神間修二④435昭5.D/
上村高道（直?）①267大15.B/
上村清延①164大2.B/
①342昭7.B//②47昭11.D/
②130昭18.A/②136昭18.D//
③317昭16.D//④540昭11.D/
上村左川③90明31.D/
神谷信行①254大14.B/
神谷元④344大11.B/
神谷齊④77明22.C/
神谷弘④592昭14.D/
上山不二男①377昭9.B/
加村春齋④686[明18]/
禿徹①339昭6.D/①366昭8.D/
禿木祐祥①318昭5.C/
龜井 → 龜井高孝
龜井勝一郎②10昭10.A/
②15昭10.B/②32昭11.A/
②53昭12.A/②55昭12.B/
②62昭12./②63昭12.D/
②75昭13.D//③287昭11.D/
③288昭12.A/③290昭12.B/
③298昭13.D/③305昭14.D//
④522昭11.A/④594昭14.D/
龜井高孝［龜井、西洋人名辭典］
①216大9.C/①217大9.C/
①333 昭 6.C/①356 昭 7.G/
①369 昭 8.G/①370 昭 8.G//
②117 昭 17.A/②122 昭 17.C/
②274 昭 7.C/②280 昭 8.G//
③151 明 42.C/③273 昭 8.G//
④198 明 42.C/④381 大 15.C/
④392 昭 2.C/④394 昭 2.C/
④458 昭 7.C/④465 昭 7.G/
④481 昭 8.G/④501 昭 10.A/
④684 昭 23.C/④754[昭 11]/
④795[大15]/④800[昭7]/

④800[昭8]/
龜井虛無郎①291昭3.C/
龜井忠一④787[明42]/
龜井常藏④461昭7.D/
龜井秀雄②258昭2.E/
龜井藤太郎①307昭4.D//
④418昭4.D/④722[大11]/
④792[大6]/
龜尾英四郎①231大11.D/
①232大11.D/①279昭2.D//
②99昭15.D/②111昭16.D/
②136昭18.D/②141昭19.D//
③220 大 11.D/③224 大 12.D/
④348 大 11.D/
龜倉順一郎①231大11.C/
龜田次郎①159明45.D//
③246昭3.G//④724[大12]/
龜谷天尊 → 天尊龜谷聖馨
龜谷長輝④756[昭11]/
龜德正臣①229大11.B//
④534昭11.C/④753[昭10]/
龜山伯多祿④414昭4.B/
加茂儀一①345昭7.B//
②66昭12.F/②67昭12.F/
②68昭13.A/②116昭16.F/
②140昭18.F//③292昭12.F/
③301昭14.A/③305昭4.D/
③312昭15.F/③325昭18.F//
④485昭9.B/④594昭14.D/
④637昭16.D/④640昭16.F/
④654昭17.F/④669昭19.E/
④500昭9.E/④564昭12.F/
④749[昭9]/
鴨祐神④359大13.B/
嘉門安雄③316昭16.D/
萱場今朝治①96明34.B/
萱場寅治③15明12.C/
夏山繁樹④473昭8.C/
茅原華山 → 茅原廉太郎
茅原高村→ 茅原正道
茅原正道(高村)④122明32.B/
茅原廉太郎(華山)①59明24.A/
①118明38.A/①174大3.C//
④156明38.A/④162明38.C/
④244大2.B/
加山宗二②45昭11.D/
夏山茂樹④293大5.C/
樾本龜次郎②143昭19.C/
②147昭20.C/
樾本寬則②154明5.G/
峨洋逸人(田村左衛士、南洋)
④84明23.D/④92明25.C/
唐木順三①276昭2.B//
④390昭2.B/④461昭7.D/
我樂多庵主人④77明22.B/
唐澤富太郎②55昭12.B/
②56昭12.B/②120昭17.B//
④566昭13.B/④629昭16.B/
辛島重義④572昭13.C/
からたちのや④136明35.B/
苅田益二④620昭15.E/
刈田元司④643昭17.B/
④644昭17.B/④808[昭18]/
苅部百合子④650昭17.D/
刈谷虎之助④85明23.D/
刈谷他人次郎④190明41.F/
刈生俊三①321昭5.D/
加留部光運③250昭4.D//
④421昭4.D/
川人①379昭9.C/
河合勇②90昭14.F//
④537昭11.C/
河合榮治郎①241大12.E/
①314昭5.B/①316昭5.B/
①330昭6.B//②12昭10.B/
②27昭10.E/②29昭10.E/
②37昭11.B/②48昭11.E/
②75昭13.E/②93昭15.B/
②97昭15.C/②265昭5.B/
②269昭6.B/②284昭9.B//
③289昭12.B/③290昭12.B/
③291昭12.D/③308昭15.B/
③309昭15.C//④430昭5.B/
④441昭6.B/④542昭11.E/

④543昭11.E/④626昭16.A/
④627昭16.B/④757[昭12]/
④767[昭15]/
川井銀之助③292昭12.D/
川井寫眞舘①87明31.D/
川井信水④392昭2.C/
④490昭9.C/
河井醉茗③245昭3.D/
河井咀華④181明40.D/
河合辰太郎②189明24.E/
川合貞一①230大11.B/
①256大14.C/①286昭3.B/
①289昭3.B/①301昭4.B/
①336昭6.D/①342昭7.B/
①347昭7.C/①363昭8.C/
①364昭8.C//②107昭16.B/
②234明45.B/②238大3.B/
②239大4.B/②278昭8.C//
③171大2.B/③190大4.B//
④244大2.B/④330大9.A/
④346大11.B/④400昭3.B/
④423昭4.E/④440昭6.B/
④469昭8.B/④474昭8.C/
④609昭15.C/④614昭15.C/
④656昭18.A/④794[大12]/
河合毅像③19明15.C/
河合亨①384昭9.D//
④559昭12.D/
河合昇②121昭17.C//
④772[昭17]/
河合弘道④531昭11.B/
河合譲①203大7.B/①255大14.B
①287昭3.B/①316昭5.B//
②251大14.B//③229大4.B/
③239昭2.B/④377大15.B/
④391昭2.B/④454昭7.B/
川合義信②79昭14.B//
④755[昭11]/
河内清④758[昭12]/
川内唯彦②265昭5.B/
②266昭5.B/
河岡潮風①143明42.C/
①152明44.C/
川勝鐵彌(Kawakatsu,T.)
④679[明9]/④696[明27]/
河上清(翠陵)①93明33.B//
③88明31.C//④128明33.C/
④138明35.B/④141明35.E/
川上喜代四③327昭20.A/
川(河)上謹一②158昭12.E//
④60明18.E/④672[明治]/
④688[明18]/
河上敬逸②114昭16.E/
②127昭17.E/
川上五平③98明33.A/
河上翠陵 → 河上清
川上澄生③310昭15.D/
川上爲次郎④799[昭6]/
河上徹太郎①312昭5.A/
①373昭9.B/①375昭9.B//
②33昭11.B/②111昭16.D//
③311昭15.D//④489昭9.B/
④585昭14.B/④607昭15.B/
④636昭16.D/④637昭16.D/
川上冬崖①11[202,203]/
河上肇④323大8.B/
川上繁界②269昭6.B/
川上峨山④701[明35]/
川北朝鄰①19明8.F//
④578昭13.F/④678[明8]/
川口篤④420昭4.D/
川口卯吉④319大7.D/
河口杏齋①11[200]/
河口眞一②249大12.D/
②252大14.D/
川口尚輝①223大10.B//
④349大11.D/
川口浩①309昭4.D/①335昭6.D//
②263昭4.D//④407昭3.D/
④419昭4.D/
河口正子③184大3.C/
河口劉二③282昭10.D/
川久保浩①231大11.D/
川越正雄④383大15.D/

④396昭2.D/
川崎市藏④208明43.C/
河崎珪一④462昭7.D/
川崎備寛②115昭16.F//
④639昭16.F/④722[大11]/
④770[昭16]/
川崎巳之太郎③79明30.A/
河崎芳隆④594昭14.D/
④595昭14.D/
川路柳紅③245昭3.D/
③252昭5.B/④379大15.C/
川下江村④163明38.D/
川島金五郎①141 明 42.B/
①146 明 43.B//②236 大 2.B//
③150 明 42.B/③151 明 42.B//
④193 明 42.B/
河島敬藏①34 明 16.C/
①102 明 35.D/①107 明 36.D/
①148 明 43.D//③20 明 16.C/
③244 昭 3.C//④52 明 16.C/
④720[大10]/
河島鶯林①40明19.C/
川島清吉④772[昭17]/
河島淳①58明23.E/
川島信太郎④735[昭4]/
川島武宜②127昭17.E/
川(河)島保④352大12.C/
④416昭4.C/④418昭4.C/
川島風骨（凡骨?）①144明42.D/
川島凡骨（風骨?）③152明42.D//
④245大2.B/
河島元成①8［121］/
川島理一郎④641昭17.A/
川尻藤三郎④681[明11]/
河瀬寛次①276昭2.B/
川副嘉一郎④792[大5]/
川添清知④686[明18]/
④783[明18]/
川添萬壽得①184大4.D//
④222明44.D/④304大6.C/
川瀬光順③222大12.B/
川瀬元九郎③141明39.F/
河田清彦④98明26.D/
川田熊太郎①289昭3.B/
①360昭8.B/①374昭9.B//
②13昭10.B/②14昭10.B/
②55昭12.B/②69昭13.B/
②93昭15.B/②94昭15.B/
②106昭16.B/②118昭17.B/
②131昭18.B/②132昭18.B/
②142昭19.B/
②148昭21.［補遺］/
②262昭4.B//③243昭3.B/
③271昭8.B/③274昭9.B/
③275昭9.B/③281昭10.B/
③285昭11.B/③289昭12.B/
③294昭13.B/③314昭16.B/
③325昭19.B//④508昭10.B/
④628昭16.B/④806[昭16]/
川田殖④670[訂正]/
河田泰之助④92明25.C/
川田鐵彌④189明41.D/
川田德二郎④47明15.C/
④48明15.E/④49明15.E/
川田正毅③176大2.C/
河智義雄①331昭6.B/
河津暹①260大14.E/
河津祐之 → 河津孫四郎
河津孫四郎（祐之）①13明2.B/
①36明17.B//②154明6.B//
④27明2.B/④31明9.C/
④675[明3]/④676[明6]/
④758[昭12]/
河出書房②121昭17.C/
河出孝雄④650昭17.D/
④662昭18.D/
川中勘之助④297大7.D/
河鍋曉齋①24明10.D/
①49明21.F//④30明8.D/
④674[明治初期]/
河鍋曉水④103明27.D/
川西實三④809[昭19]/
河西太一郎①348昭7.C/
川西正鑑①260大14.E/

河野秋平②143昭19.C/
河野清丸③218大11.B/
③222大12.B/③223大12.C//
④3321大9.D/
河野君④362大13.E/
河野健二④638昭16.E/
河野省三④757[昭12]/
河野元三①277昭2.C/
①290昭3.C//④178明40.C/
④672[明治]/④700[明3]/
河野紫雲④140明35.D/
河野桐谷①167大2.D/
①176大3.D/①198大6.D/
①199大6.D/①366昭8.D//
③216大10.D//④308大6.D/
④309大6.D/④386大15.F/
④714[大3]/
河野房江②112昭16.D/
河野通勢①352昭7.D/
河野通一④215明44.B/
河野通文④453昭7.B/
河野義博①184大4.D/
河畑立詮①209大8.B/
川端康成③227大13.D/
河原英吉④66明19.G/
河原喜太郎①217大9.C/
川原②42昭11.C/②49昭11.E/
②66昭12.E/②76昭13.E/
②77昭13.E/
河原吉次郎④747[昭8]/
川原慶賀①9[133]/
川原廣三②270昭6.C/
川原次郎吉②189明24.E/
②258昭2.E//④386大15.E/
④750[昭9]/
河原恒男④138明35.C/
河原政勝②29昭10.E/
河原萬吉①278昭2.D//
④395昭2.D/④727[昭1]/
④730[昭2]/
河原義之③281昭10.B/
河東涓①264大15.B//
②68昭13.B/②106昭16.B//
③230大14.B/③314昭16.B/
③326昭19.B//④454昭7.B/
河東碧梧桐①214大9.A/
①220大10.A/①235大12.A/
川人④481昭9.A/
川邊久吉④755[昭11]/
河邊利夫④591昭14.C/
川(河)邊滿甕④380大15.C/
④471昭8.C/
川俣義一④736[昭4]/
川又昇②145昭19.E//
④604昭15.B/
川俣英夫③39明22.F//
④79明22.F/
河村巖①230大11.B/
川村喜久冶②32昭11.A//
④586昭14.B/④529昭1.B/
河村掬水②196明26.F/
川村五峰③193大4.D/
河村定雄①197大6.C/
①198大6.D/
川村茂久③283昭11.A/
河村重固④35明11.F/
河村重治郎②91昭14.G//
③328昭21/
川村十二郎①151明44.B//
③149明42.B/
河村信一①298昭3.F/
河村只雄②88昭14.E/
川(河)村竹治(亞洲生)
①76明28.B//③71明29.B/
③80明30.B/③91明31.E//
④109明29.B/④112明29.D/
河村竹二郎①82明30.B/
川村擔應③149明42.B/
川村貞山④161明38.C/
河村天授④69明20.D/
川村楢三郎③261昭6.D//
④435昭5.D/
川村兵治④102明27.B/
川村正治①75明27.G/

川村三千雄③325昭19.B/
川村豐郎④391昭2.B/
河村善益①35明16.E//
④57明17.E/
河面仙四郎②79昭14.A/
川本敦夫④568昭13.B/
川本宇之助①180大4.B//
④272大4.B/④289大5.B/
河本龜之助④297大5.D/
河本喜與之②253大14.E/
川本幸民④771[昭16]/
川本三郎①287昭3.B/
川本淸一①38明18.C//
③26明19.G/
川本爲郎①266大15.B/
①287昭3.B/①302昭4.B/
①328昭6.B/
河本俊彦②263昭4.E/
川本信正④754[昭11]/
河盛好藏③317昭16.D//
④488昭9.B/④605昭15.B/
④631昭16.B/
菅圓吉①211大8.C/①245大13.B/
①246大13.B/①286昭3.B//
②95昭15.B/②141昭19.B//
③242昭3.B/③328昭［不明］
B//④351大12.B/
④358大13.B/④409昭3.D/
④463昭7.E/④727[昭1]/
④733[昭3]/④744[昭7]/
④796[19-]/
菅菊太郎①386昭9.F/
菅厚太郎①336昭6.D//
②112昭16.D/
菅小琴①12［222］/
菅しな子①315昭5.B//
②259昭3.B/
姜大良④631昭16.B/
菅寅吉④161明38.C/
④207明43.C/
菅波三郎④669昭19.E/
菅博雄②44昭11.D/
菅了法（霧南居士）
①42明20.B/①43明20.B/
①44明20.D/①46明21.B//
②173明20.B/②175明21.B//
③28明20.B/③30明21.B/
③82明30.B//④70明20.D/
④119明31.B/
貫宇居士②177明21.E/
閑々學人③132明38.B/
③139明39.B/
神吉三郎④686昭23.D/
④769[昭16]/
巖穴仙史②213明34.B/
②215明35.B/
簡齋①8［120］/
神崎一作④95明26.B/
④101明27.B/
神澤其村④93明25.D/
甘蔗生規矩③239昭2.B/
巖生①108明36.D/
神田喜一郎④371大14.D/
神田琴月③156明43.B/
③158明43.D//④203明43.B/
神田熊千代①65明25.C//
④77明22.C/
神田孝平（唐通居士）①11［198］/
①13明1.D/①13明1.E//
②152明1.C//③3［17497］//
④673[慶應]/
神田佐一郎①99明35.A/
①125明39.B/②194明26.B/
②197明27.B//④114明30.B/
④116明30.D/④130明34.B/
④141明36.A/④158明38.B/
④202明43.B/
神田左京①118明38.B/
①125明39.B/①130明40.B//
②226明40.B//③147明41.B//
④175明40.B/④178明40.B/
④185明41.B/
神田選吉④121明31.F/
神田盾夫①279昭2.D/

①383昭9.D//②13昭10.B/
②21昭10.C/②24昭10.D/
②45昭11.D/②67昭12.G/
②86昭14.D/②88昭14.D/
②97昭15.C/②98昭15.C/
②109昭16.C/②120昭17.B/
②134昭18.C/②137昭18.D/
②257昭2.D//③317昭16.D//
④397昭2.D/④448昭6.D/
④516昭10.D/④538昭11.D/
④652昭17.D/④668昭19.D/
④746[昭8]/④752[昭10]/
④755[昭11]/④759[昭12]/
④762[昭13]/④766[昭15]/
神田乃武②180明22.C/
②184明23.D/②189明24.G/
②217明35.G/②233明44.G/
②241大5.G/②242大6.G/
②244大8.G/②248大11.G/
②256大15.G//③36明22.C/
③42明23.D/③50明25.C/
③53明26.A//④89明24.G/
④355大12.G/
神田豐穂①320昭5.D/
①341昭7.A//④734[昭3]/
④737[昭4]/④739[昭5]/
神田龍一④753[昭10]/
觀潮生④233大1.B/
觀堂學人①108明36.D//
②211明33.D//③100明33.B/
③104明33.D/
菅野村人④337大10.A/
菅野大洲 → 菅野虎太
菅野德助④178明40.C/
④210明43.D/④219明44.C/
菅野虎太（大洲）①18明8.C/
①21明9.C/①25明10.G//
③16明12.G/③17明13.G//
④30明8.C/④31明9.C/
④33明10.G/④38明12.G/
④677[明7]/
簡野政明④559昭12.D/
澗畔釣士①83明30.C/
①86明31.C/③88明31.C/
樺俊雄①300昭4.B/①313昭5.B/
①316昭5.B/①318昭5.C/
①329昭6.B/①347昭7.C/
①361昭8.B//②32昭11.A/
②33昭11.B/②35昭11.B/
②56昭12.B/②60昭12.C/
②70昭13.B/②90昭14.F/
②107昭16.B/②109昭16.C/
②110昭16.C/②116昭16.F/
②121昭17.C/②123昭17.C/
②131昭18.B/②134昭18.C//
③243昭3.B/③282昭10.C/
③292昭12.F/③310昭15.C/
③314昭16.B/③318昭16.F/
③323昭18.C//④475昭8.C/
④513昭10.C/④531昭11.B/
④556昭12.C/④557昭12.C/
④568昭13.B/④592昭14.D/
④613昭15.C/④614昭15.C/
④622昭15.E/④633昭16.C/
④634昭16.C/④660昭18.C/
④667昭19.C/④758[昭12]/
④803[昭12]/④808[昭18]/
上林曉③292昭12.F/
③314昭16.B/
上林彌四郎②30昭10.F//
④480昭8.F/
蒲原有明②218明 36.D//
③123明36.D/
神原甚造④730[昭2]/
神原一④477昭8.D/
神原泰①272大15.F/
神原守文④102明27.C/
神間修二③261昭6.D/
［き］魏根宣④479昭8.D/
紀波雄①270大15.D/
紀弘①22明9.E/
紀淑雄①271大15.D//
③58明26.D//④98明26.D/
④271大4.A/

木内重四郎①38明18.C/
木内喜右衛門③126明37.B/
木内打魚①269大15.D//
④395昭2.D/
紀尾井松堤①138明41.C/
①143明42.C/
祇園寺信彦①364昭8.C/
①369昭8.E//②20昭10.C/
②21昭10.C/②43昭11.C/
②57昭12.B/②60昭12.C/
②73昭13.C/②85昭14.C/
②95昭15.B/②97昭15.C/
②109昭16.C/②122昭17.C/
②127昭17.E/②134昭18.C/
②135昭18.C/②143昭19.C//
④513昭10.C/④536昭11.C/
④562昭12.E/④572昭13.C/
④591昭14.C/④609昭15.C/
④621昭15.E/④647昭17.C/
④660昭19.C/
氣賀重躬①347昭7.C//
②66昭12.E//③120明36.C//
④375大15.B/④456昭7.C/
④459昭7.C/④500昭9.E/
④588昭14.C/④602昭15.B/
④753[昭10]/④776[昭18]/
木方庸助(介)①209大8.B//
②244大9.B/②246大10.B/
奇々田子②192明25.E/
掬月庵ましら②201明28.D/
掬泉子④123明32.B/
④124明32.C/
菊池榮一②24昭10.D/
②136昭18.D//③291昭12.D//
④497昭9.D/④521昭10.F/
④558昭12.D/④598昭14.F/
④640昭16.F/④654昭17.F/
④775[昭18]/
菊池薫④541昭11.D/
菊池寛①279昭2.D/①300昭4.B/
①307昭4.D/①370昭8.G//
④296大5.D/④443昭6.C/
④727[昭1]/④730[昭2]/
④732[昭3]/④737[昭5]/
④740[昭6]/④758[昭12]/
菊地侃③328昭22//
菊池慧一郎①243大13.B/
①253大14.B/①265大15.B/
①274昭2.B/①275昭2.B/
①290昭3.B/①320昭5.D/
①335昭6.D//②80昭14.B/
②95昭15.B//④454昭7.B/
④730[昭2]/
菊池謙一④593昭14.D/
菊池研介④191明42.A/
菊池熊太郎①46明21.B/
①53明22.E/①76明28.C/
①90明32.C//②200明28.C/
菊池恒次②190明25.B/
菊池廣治①25明10.E//
④36明12.B/④37明12.D/
菊池孝順④98明26.D/
菊地駒次(六)①250大13.E//
④362大13.E/
菊池重五郎①325昭6.A/
菊池重三④438昭6.A/
菊池眞一③310昭15.C/
菊池松堂③130明37.E/
菊池季夫④462昭7.D/
菊池大麓(大麓居士、箕作大六)
①28明12.A/①77明28.F/
①127明39.C//②153明4.D/
②164明16.F/②170明19.C/
②177明21.F/②203明29.F/
②229明41.D/②235明45.D/
②239大4.C/②240大4.F//
③12明10.D/③14明12.B/
③22明17.F/③196大5.B//
④35明12.A/④118明30.F/
④170明39.C/④189明41.D/
菊池武夫①75明27.E//
②221明 37.E/
菊池武一①293昭3.D/
①296昭3.D/

菊池武信④149明37.B/
木口敏郎④769[昭16]/
菊池忠四郎④211明43.D/
菊池勇夫②273昭7.B/
②286昭9.E/
菊池比呂士④264大3.C/
菊池安郎③249昭4.C//
④417昭4.C/
菊池雄一④471昭8.B/
④532昭11.B/④742[昭和]/
菊池義郎④307大6.D/
菊亭④384大15.D/
菊亭靜 → 近藤東之助
掬汀生④181明40.D/
菊根 → 小笠原豊太郎
菊原政次④559昭12.D/
菊森永造④231大1.B/
晞賢子①26明11.B/
木崎瀧巳①333昭6.C/
木崎龍尾④796[昭3]/
木澤展④776[昭18]/
箕山③131明37.E/
貴山生②195明26.D/
岸小三郎①72明26.E//
②168明18.E/②192明25.E/
岸成章①10［171］/
岸繁一③321昭17.B/
岸清一②276昭7.F/
岸大五③7明9.A/
岸千年④471昭8.B/
④489昭9.B/④601昭15.B/
岸英雄①247大13.D//
④460昭7.D/
岸上操①61明24.D/①79明29.C/
岸田貫一郎④509昭10.B/
岸田吟香①16明6.G//③8明9.C/
岸田耕讀④357大13.B/
④413昭4.B④555昭12.C/
④741[昭和]/
岸田國士②46昭11.D//
④529昭11.B/④531昭11.B/
岸田生④490昭9.B/
岸田正④604昭15.B/
岸田日出刀②92昭15.A/
②260昭3.D//④780[昭20]/
岸邊福雄④200明42.C/
貴島克己①226大10.E//
④721[大10]/
來島繁男④544昭11.G/
岸村（本?）戒善③250昭4.D/
岸本戒善③267昭7.D/
岸本重郎④541昭11.E/
岸本誠一郎④436昭5.E/
岸本能武太①74明27.B/
①78明29.B/①96明33.B//
③107明34.B//④110明29.B/
④130明34.B/④135明35.B/
④224大1.A/④791[大1]/
岸本牧師④524昭11.A/
記者③106明34.B/③117明36.B/
岸山三平②123昭17.C/
稀書複製會①258大14.D/
木代（生）④425昭5.A/
④437昭6.A/④445昭6.C/
木代修一④400昭3.A/
④405昭3.C/④732[昭3]/
木代修二②45昭11.D/
淇水②46昭11.D/
儀助①225大10.D/
北一輝③141明39.E/③258昭6.C/
北企忠②196明26.F/
北氏 → 北吟吉
喜多精一②266昭5.C/
喜多壯一郎①323昭5.E//
②102昭15.F//④358大13.B/
④482昭9.A/
Kita,T.④727[昭1]/
木田武佳④769[昭16]/
喜多秀義②56昭12.B//
④550昭12.B/
北吟吉［北氏］①169大3.B/
①169大3.B/①172大3.B/
①202大7.B/①253大14.B/
①255大14.B/①267大15.B/

①290昭3.B/①294昭3.Ｄ//
②14昭10.B/②251大14.B/
②254大15.B/②273昭7.B//
③180大3.B/③206大7.B//
④240大2.A/④258大3.B/
④259大3.B/④263大3.B/
④271大4.A/④314大7.B/
④315大7.B/④316大7.B/
④367大14.B/④375昭15.B/
④377昭15.B/④389昭2.B/
④400昭3.B/④429昭5.B/
④454昭7.B/
紀太藤一①176大3.D/
①182大4.C/①198大6.D/
①203大7.C/①268大15.C//
④200明43.A/
北井敏之①346昭7.B/
北英國聖書會社④675［明治期］/
④681[明10]/④682[明11]/
④684[明14]/④685[明16]/
④789[18-]/
北尾精造④593昭14.D/
北尾次郎④68明20.C/
北風飛燕生①350昭7.C//
②274昭7.C//④458昭7.C/
北岡保定①58明23.E/
北川憲三②101昭15.E/
北川三郎①228大11.A/
①299昭4.A/①357昭8.A//
④343大11.A/④386昭2.A/
北川淳一郎①218大9.E/
北川振一①276昭2.B//
④389昭2.B/
北川博愛④152明37.B/
北川萬三郎④788[明治初]/
北川桃雄④774[昭18]/
木瀧清類②109昭16.C/
北澤新次郎①233大11.E/
①249大13.E/①272大15.E/
①282昭2.E//②75昭13.E/
②276昭7.E//④355大12.E/
④637昭16.E/
北澤定吉①118明38.B/
①124明39.B/①125明39.B/
①126明39.B/①126明39.B/
①130明40.B/①132明40.B/
①135明41.B/①137明41.B/
①143明42.B/①147明43.B//
②225明39.C//③112明35.B/
③138明39.B/③139明39.C/
③143明40.B/③147明41.B/
③151明42.B/③155明43.B//
④138明35.B/④152明37.B/
④159明38.B/④167明39.B/
④170明39.B/④171明39.C/
④175明40.B/④178明40.C/
④183明41.B/④186明41.B/
④187明41.B/④193明42.B/
④194明42.B/④195明42.B/
④205明43.B/④206明43.B/
④216明44.B/④217明44.B/
④229大1.B/④230大1.B/
④235大1.C/④258大3.B/
④259大3.B/④324大8.B/
北澤滿雄④761[昭13]/
北島春石④714[大3]/
北嶋忠夫④752[昭10]/
北條愛國②200明28.B/
北條秀雄④668昭19.D/
北田宏蔵②51昭11.F/
北出一雄①365昭8.C//
②278昭8.C//④458昭7.C/
喜多野精一①305昭4.C//
④416昭4.C/
北野藤治郎②30昭10.F/
北野浩②272昭6.F/
北畠路夫④45明15.B/
北畠道龍②168明19.A/
北畠魯道④39明13.B/
北原安獲④234大1.C/
北原鐵雄④741[昭6]/
④799[昭6]/
北原白秋③207大7.D/
北原義雄④728[昭1]/

北淵陳夫④35明11.E/
北島見信①6[57]//③194大4.F//
④23[24934]/④283大4.F/
北見葭江④214明4.B/
北見落葉③135明38.D/
北村包直④786[明37]/
④787[明42]/
北村喜八④460昭7.D/
④652昭17.D/④751[昭10]/
北村喜八郎④795[19-]/
北村包直④138明36.C/
北村敎巖①125明39.B/
北村五良②126昭17.E/
北村三郎①54明23.B/
①68明26.B/①70明26.C//
②183明23.C/②269昭6.B//
③41明23.C/③258昭6.B/
北村四郎④747[昭8]/
北村忠夫②144昭19.C//
④666昭19.C/
北村達三④538昭11.D/
北村常夫④601昭15.B/
④745[昭8]/
北村透谷(透谷[隠者、子])
①66明25.D/①71明26.C/
①73明27.B/①335昭6.D//
②198明27.D//③49明25.B//
④98明26.D/
北村壽夫④759[昭12]/
北村直躬②46昭11.D/
北村則善②198明27.C/
北村初雄①209大8.B/
北村松之助③153明42.G//
④190明41.G/④200明42.G/
北村實③290昭12.B/
北村門太郎②198明27.B/
北山淳友①361昭8.B/
①362昭8.B//④468昭8.B/
北山初太郎④68明20.C/
吉堂生①259大14.D/
橘文叔④533昭12.C/
橘園耕夫①40明19.D//
②171明19.D/
菊花生①56明23.C/
橘村③156明43.C/③158明43.E/
③160明44.B/
橘田清五郎①350昭7.D/
橘田東聲④715[大4]/
橘高倫一④366大14.B/
橘高林助④774[昭17]/
橘邨居士 → 關直彦
木寺柳次郎①114明37.C/
窺天居士③53明25.F/
木戸堅次①312昭5.A/
城戸武之①360昭8.B/
木戸忠太郎①296昭3.D//
④86明24.B/
城戸幡太郎①267大15.B//
②51昭11.G/②54昭12.B/
②56昭12.B/②58昭12.B/
②78昭13.G//299大6.A/
④345大11.B/④369大14.C/
④378大15.B/④440昭6.B/
④551昭12.B/④628昭16.B/
④772[昭17]/
鬼頭英一①347昭7.C//
②36昭11.B/②81昭14.B/
②107昭16.B//③253昭5.B/
③314昭16.B/③317昭16.E/
③326昭19.B//④471昭8.C/
④475昭8.C/④614昭15.C/
④626昭16.A/④801[昭8]/
鬼頭道秦④782[明12]/
奇島山人④111明29.B/
木東生③179大2.F/
忌無④330大9.B/
衣が浦人164明38.D/
絹川漁夫④78明22.C/
衣笠梅二郎④478昭8.D/
④539昭11.D/
鬼沼英士②119昭17.B/
杵築ふく①43明20.C/
紀伊國屋書店④790[19-]/
木野崎吉辰④105明28.B/

木下快淳①195大6.B//
③203大6.C/
木下一男①290昭3.C/
木下一雄①332昭6.C/
①344昭7.B/①358昭8.B/
①360昭8.B//④461昭7.D/
④489昭9.B/
木下堅次④420昭4.D/
木下正路①320昭5.D/
①332昭6.C/①345昭7.B/
①365昭8.D//②86昭14.D//
④615昭15.C/
木下四郎一③196大5.B/
③197大5.B//④286大5.B/
④289大5.B/④290大5.B/
木下角一④456昭7.B/
木下常太郎④478昭8.D/
④481昭9.A/④496昭9.D/
④517昭10.D/
木下哲太郎④471昭8.C/
木下東作①298昭3.G/
木下尚江①151明44.B//
③126明37.B/③229大14.B/
木下半治③325昭18.E/
木下杢太郎 → 太田正雄
木下義雄④681[明11]/
紀好弼④684[明14]/
木場學士(木場了平?)
③189大4.B/
木場集藏②37昭11.B/
②38昭11.B//③285昭11.B/
木場深定②93昭15.B/
木場了平(木場學士?)
①179大4.B//②238大3.B//
④255大3.B/④272大4.B/
木原季四郎④693[明24]/
木原利武①154明44.F/
吉備の舍主人①75明27.D/
吉備黑旄①21明9.C/
木平愛二①22明10.A/
紀平正美[文學士、博士]
①131明40.B/①146明43.B/
①156明45.B/①162大2.B/
①170大3.B/①187大5.B/
①192大5.D/①236大12.B/
①238大12.B/①245大13.B/
①329昭6.B//②16昭10.B/
②107昭16.B/②224明 39.B/
②232明44.B/②251大14.B/
②256昭2.B/②257昭2.B//
③100明33.B/③138明39.B/
③143明40.B/③150明42.B/
③151明42.B/③154明43.B/
③196大5.B/③226大13.B/
③234大15.B/③239昭2.B/
③276昭9.B/③278昭9.D//
④159明38.B/④169明39.B/
④176明40.B/④185明41.B/
④203明43.B/④205明43.B/
④206明43.B/④222明44.B/
④223明44.B/④224大1.A/
④244大2.B/④257大3.B/
④258大3.B/④259大3.B/
④275大4.B/④276大4.B/
④286大5.B/④288大5.B/
④289大5.B/④291大5.B/
④302大6.B/④324大8.B/
④331大9.B/④337大10.B/
④338大10.B/④359大13.B/
④388昭2.A/④453昭7.B/
④454昭7.B/④605昭15.B/
④666昭19.B/
岐峯(峰)生 → 棟居(岐峯生)
木村愛子④594昭14.D/
木村伊勢雄②251大14.B//
③230大14.B/
木村一郎①275昭2.B//
④729[昭2]/
木村卯之②244大9.B/
木村一歩①26明11.C/
①29明13.B/①33明15.B/
①39明18.G/①60明24.C/
①72明26.F//③25明18.G/

木村龜二①283昭2.E/
①297昭3.E/①299昭4.A/
①323昭5.E/①338昭6.E//
②28昭10.E/②65昭12.E/
②66昭12.E/②135昭18.C/
②271昭6.E/②286昭9.E//
④399昭3.A/④410昭4.A/
④563昭12.E/④622昭15.E/
④733[昭3]/
木村幹①270大15.D//
④35明11.D/
木村毅①236大12.B/
①244大13.B/①257大14.C/
①258大14.D/①259大14.D/
①270大15.D/①278昭2.C/
①281昭2.D/①290昭3.C/
①292昭3.C/①337昭6.D/
①366昭8.D//②24昭10.D/
②26昭10.D/②278昭8.D//
③232大14.D/③286昭11.D//
④362大13.D/④392昭2.C/
④394昭2.C/④405昭3.C/
④407昭3.C/④461昭7.D/
④518昭10.D/④561昭12.E/
④637昭16.E/④724[大13]/
④726[大14]/④728[昭1]/
④732[昭3]/④750[昭9]/
④752[昭10]/④754[昭11]/
④762[昭13]/
木村清松④375大15.A/
木村金三郎②262昭4.B/
木村謹治①345昭7.B/
①357昭8.A/①383昭9.D//
②46昭11.D/②54昭12.B/
②112昭16.D/②116昭16.G/
②255大15.D/②271昭6.D/
②275昭7.D/②278昭8.D/
②285昭9.D//③292昭12.G/
③305昭14.D/③317昭16.D//
④423昭4.E/④460昭7.D/
④461昭7.D/④477昭8.D/
④478昭8.D/④497昭9.D/
④516昭10.D/④518昭10.D/
④558昭12.D/④560昭12.D/
④564昭12.G/④586昭14.B/
④594昭14.D/④636昭16.D/
④668昭19.D/④751[昭10]/
④756[昭11]/
木村熊二②166明18.A/
木村兼葭堂 → 木村遊齋
木村廣平④709[明43]/
木村佐次郎④407昭3.C/
木村修一④417昭4.C/
木村幸一郎④726[大14]/
木村孝太郎③17明14.C/
木村重次④188明41.C/
木村重成④709[明43]/
木村重治①190大5.C//
③199大5.C/③216大10.D//
④294大5.C/④716[大5]/
木村駿吉②186明23.F//
④85明23.F/
木村荘五③211大8.D/
③218大11.B/③224大12.D//
④529昭11.B/
木村荘太①222大10.B/
①241大12.D//④795[大15]/
木村荘八①176大3.D/
①177大3.D/①224大10.D/
①280昭2.D/①284昭3.A/
①294昭3.D/①321昭5.D//
③177大2.D/③186大3.D/
③187大3.D/③200大5.D/
③208大7.D/③227大13.D//
④267大3.D/④268大3.D/
④295大5.D/④297大5.D/
④319大7.D/④348大11.D//
④361大13.D/④382大15.D/
④714[大4]/
木村生④577昭13.F/
木村先生④711[明治-大正]/
木村泰賢①170大3.B/
木村鷹太郎［文界之魔王］

①78明29.B/①79明29.D/
①82明30.C/①85明31.B/
①86明31.B/①86明31.C/
①91明32.E/①96明34.B/
①102明35.D/①103明35.D/
①104明36.B/①105明36.B/
①106明36.B/①110明37.B/
①112明37.B/①117明37.E/
①120明38.B/①120明38.C/
①124明39.B/①126明39.B/
①127明39.B/①130明40.B/
①134明40.D/①137明41.B/
①138明41.B/①142明42.B/
①143明42.B/①145明43.A/
①146明43.B/①147明43.B/
①163大2.B/①171大3.B/
①174大3.C/①198大6.D/
①199大6.E/①202大7.B/
①209大8.B/①212大8.E/
①213大8.E/①215大9.B/
①229大11.B/①240大12.D/
①243大13.B/①245大13.B/
①248大13.D/①255大14.B/
①286昭3.B/①290昭3.B//
②205明31.B/
②214明34.D/②216明35.D/
②217明35.D/②218明36.D/
②222明38.B/②222明38.C/
②223明38.D/②224明39.B/
②231明44.A/②236大2.B//
③61明27.B/③67明28.B/
③69明28.D/③73明29.B/
③75明29.C/③76明29.D/
③78明29.D/③79明30.A/
③81明30.B/③109明34.D/
③115明35.D/③117明36.B/
③119明36.B/③124明36.D/
③129明37.D/③135明38.D/
③136明38.D/③139明39.B/
③142明40.B/③144明40.D/
③145明40.D/③147明41.B/
③155明43.B/③156明43.B/
③156明43.C/③158明43.E/
③161明44.B/③167明45.C/
③175大2.C/③191大4.B/
③193大4.D/③222大12.B/
③229大14.B//④101明27.B/
④106明28.B/④119明31.B/
④133明34.D/④137明35.B/
④139明35.D/④140明35.D/
④143明36.B/④144明3.B/
④146明36.D/④157明38.B/
④158明38.B/④163明38.D/
④164明38.D/④165明38.D/
④169明39.B/④177明40.B/
④178明40.C/④179明40.D/
④180明40.D/④181明40.D/
④189明41.D/④193明42.B/
④194明42.B/④197明42.C/
④203明43.B/④204明43.B/
④206明43.B/④214明44.B/
④215明44.B/④216明44.B/
④219明44.B/④219明44.C/
④225大1.B/④228大1.B/
④229大1.B/④230大1.B/
④258大3.B/④259大3.B/
④266大3.C/④274大4.B/
④286大5.B/④292大5.C/
④307大6.D/④312大7.B/
④316大7.B/④318大7.D/
④330大9.B/④351大12.B/
④359大13.B/④366大14.B/
④367大14.B/④393昭2.C/
④454昭7.B/④698[明31]/
④699[明33]/④701[明35]/
④702[明36]/④703[明38]/
④706[明40]/④707[明41]/
④710[明44]/④711[大1]/
④712[大2]/④713[大3]/
④715[大4]/④716[大5]/
④717[大6]/④718[大7]/
④719[大8,9]/④720[大10]/
④721[大10]/④721[大11]/
④723[大12]/④724[大13]/

④725[大13]/④728[昭1]/
④732[昭3]/④734[昭4]/
④739[昭6]/④789[1-]/
木村瀧①43明20.C/
木村太郎④565昭13.A/
木村潮月③142明40.B/
木村恒③266昭7.D
木村恒夫④643昭17.B/
木村常信③256昭5.E/
木村鐵三郎①36明17.E//
④57明17.E/
木村德藏④437昭5.F/
木村信卿④685[明16]/
木村久一④259大3.B/
木村彦右衛門④744[昭7]/
木村秀夫④428昭5.B/
木村秀男①277昭2.C/
①291昭3.C//③240昭2.C//
④393昭2.C/④407昭3.C/
木村秀吉④403昭3.B/
木村房吉④758[昭12]/
木村卯之④408昭3.D/
木村正直④469昭8.B/
木村益荒④236大1.D/
木村滿三②98昭15.D/
②110昭16.D//④635昭16.D/
木村素衛①325昭6.B/
①337昭6.D//②131昭18.B/
②141昭19.B//③290昭12.B/
③296昭13.C//④582昭14.A/
④586昭14.B/
木村雄吉②140昭18.F/
木村遊齋（兼葭堂）
②150［14483］/
木村雄山②268昭6.B/
②273昭7.B/
木村嘉次④497昭9.D/
④636昭16.D/
木村慶和④248大2.C/
木村嘉次①295昭3.D//
③245昭3.D/③250昭4.D/
③324昭18.D/
木村**梁一**③175大2.B/
木村良平②178明21.G//
④75明21.G/
木村禮祐①168大2.E/
肝付兼太①58明23.F/
①83明30.C/
木本茂三郎④455昭7.B/
④763[昭14]/
木屋信③272昭8.C/
喜安生①204大7.C/
木山實④430昭5.B/
木山熊次郎④163明38.D/
④267大3.D/④723[大正]/
木山巖太郎④77明22.C/
歸山信賴［順］③125明36.F/
③131明37.F//④148明36.F/
木山實①313昭5.B//②260昭3.D/
Q.P.②66昭12.E/②71昭13.B/
杞憂道人①54明23.B//
④28明2.B/
槍騎兵④766[昭15]/
舊雨樓（朝野房）①153明44.D//
④221明4.D/
牛骨④147明36.D/
九皐學人①158明45.C/
①165大2.C/
九翠 → 藤田茂吉
牛南坊③68明28.C/
居易生④149明37.A/
崎陽好樹(堂)④49明15.G/
椐シマ④269大3.F/
峽庵主④143明36.B/
玉禎壽④650昭17.D/
玉露女③184大3.C/
清澤先生 → 清澤滿之
清澤滿之（德永滿之）［德永、滿之、清澤先生］
①38明18.B/①39明19.B/
①42明20.B/①50明22.B/
①54明23.B/①78明29.B/
①93明33.B/①126明39.B/
①130明40.B/①136明41.B//

②12昭10.B/②133昭18.B/
②194明26.B/②209明33.B/
②217明36.B/②228明41.B/
②231明43.B//③30明21.B//
④62明19.B/④71明21.B/
④105明28.B/④106明28.B/
④126明33.B/④130明34.B/
④175明40.B/④191明42.B/
④688[明19]/④689[明治]/
清澤洌②68昭13.A//③242昭3.B/
③245昭3.E/③248昭4.C/
清瀬一郎③306昭14.E/
清田靜子①225大10.D/
清野謙次③292昭12.D/
清野耕治①200大6.F/
清野恒太郎②10昭10.A/
清野重郎④354大12.C/
清野勉①78明29.B/①79明29.B//
②165明17.C//③33明21.G/
③35明22.B/③39明23.A/
③42明24.A/③72明29.B//
④50明16.B/④75明21.G/
④76明22.B/④80明23.B/
④106明28.B/④142明36.B/
④183明41.A/④199明42.D/
④672[明治]/④689[明治]/
清野暢一郎①337昭6.D//
②92昭15.A/
清原學士①183大4.C/
清原教授④503昭10.A/
清原貞雄④418昭4.C/
④474昭8.C/④475昭8.C/
④504昭10.A/④731[昭3]/
④732[昭3]/
清復文彦④183明41.A/
清見陸郎④199明42.D/
清宮兼堂④60明18.D/
清宮秀堅①11［186］/
①65明25.C//④28明4.C/
④39明13.C/④63明19.C/
④120明31.C/
教育學術研室④604昭15.B/
教育學術研究會①109明36.G/
①170大3.B//④142明36.B/
教育資料研究會④161明38.C/
教育新思潮研究會①237大12.B/
教育大辭書編輯部①140明41.G/
共益商社④223明44.G/
教學研續和佛教會④202明43.B/
教學子②178明22.B/
京口元吉①246大13.C//
③226大13.C//④360大13.C/
④473昭8.C/④508昭10.B/
④579昭14.A/
京極高光③275昭9.B/
崎陽好樹堂④675［明4］/
狂史生④154明37.C/
京兒生④289大5.B/
行田重治①283昭2.F/
協調會①282昭2.E//②258昭2.E//
④398昭2.E/
仰天樓主人④410昭3.F/
京都史學研究會④333大9.C/
京都帝國大學文學部史學科
②109昭16.C/②111昭16.D/
②113昭16.E/
京都帝國大學文學部考古學研究室④588昭14.C/
京都帝國大學文學部西洋史研究室②109昭16.C/②119昭17.B/
②121昭17.C/②134昭18.C/
②142昭19.B/②144昭19.C//
④667昭19.C/
京都文學會①224大10.D//
④341大10.D/
京都文科大學［文科大學］
①184大4.D/①190大5.C/
京都町版①5［19］/
教堂小史④709[明43]/
行德永孝②186明23.G/
教文舘編輯部④219明44.C/
④405昭3.C/④710[明44]/
如牛生④163明38.D/
曲浦（生）①80明29.D//

③86明31.B/
局外生③123明36.D/
③158明43.E/
清口悅次④250大2.C/
旭山人④215明44.B/
去水生①84明30.E/①87明31.E/
旭光③177大2.D/
旭江(生) → 大賀壽吉
旭江子→ 大賀壽吉
旭江女史①26明11.C/
旭江漁史→ 大賀壽吉
玉兎生④243大2.B/
玉茗③236大15.D/
吉良弘①381昭9.C//④482昭9.A/
桐生悠々(悠々庵)①377昭9.B//
④483昭9.B/
桐生悠々庵→ 桐生悠々
桐野③11明10.C/
桐の舍④111明29.B/
桐谷信太郎③253昭5.B/
基督敎女子靑年會日本同盟宗敎部④799[昭6]/
去來山人②152明1.C/
去來生③117明36.A/
金英俊③255昭5.D//④434昭5.D/
菫花園主人④80明23.B/
④87明24.C/
金河植④593昭14.D/
金學燁②55昭12.B//
④549昭12.B/
金言姬④710[明44]/
錦巷會④796[昭2]/
金彦炳④635昭16.D/
金三道④567昭13.B/
金錫嘏③275昭9.B/③281昭10.B/
金炳模②41昭11.C/
金與濟③206大7.B/
金龍煥③255昭5.D/④434昭5.D/
銀月①103明35.D/
錦江學人②207明31.E/
金港堂①100明35.B/
①108明36.D//④178明40.C/
④85明23.E/④170明39.C/
金港堂書籍會社編輯所
④696[明26]/④783[明26]/
④784[明27]/
金星堂④747[昭8]/④751[昭19]/
金城居士③18明15.B/
銀城生①142明42.B/
金城朝永④640昭16.G/
帛水 → 石川宰三
金太郎①232大11.D/
近代學術研究會①218大9.D/
近代劇協會④252大2.D/
金田一京助①341昭7.A//
③168明45.D/③170明45.D/
近代社④395昭2.D/④735[昭4]/
近代社世界戲曲全集刊行部
④392昭2.C/④395昭2.D/
錦朝樓芳虎④675[明5]/
掀天居士②202明29.C/
銀塘主人④119明31.B/
金の星社④402昭3.B/
④494昭9.D/④724[大13]/
④725[大14]/④735[昭4]/
④737[昭5]/
金の星社編輯部④368大14.C/
金原三郎④545昭11.G/
金原敬②267昭5.E/
金兵衛③218大11.B/
金風生④124明32.B/
[く]く、げ③106明34.B/
く、よ①90明32.C/
喰代驥④598昭15.A/
空々生 → 小栗貞雄
空霓④178明40.B/
久尾啓一②253大14.E/
陸羯南(實)②204明30.D//
③24明18.E/③33明21.E/
③41明23.C/③45明24.C/
③47明24.E/③61明27.C/
③64明27.E/③88明31.C/

③110明34.E/③136明38.E/
③139明39.C/
陸實 → 陸羯南
久川武三④638昭16.E/
九鬼周造②11昭10.B/
②107昭16.B/②108昭16.B//
③166明45.B/③247昭4.B//
④629昭16.B/④630昭16.B/
④754[昭11]/④762[昭14]/
④778[昭19]/④800[昭7]/
九鬼氏 → 九鬼隆一
九岐哲(長洲樵史)①16明6.C/
九鬼隆一[九鬼氏]②180明22.D//
③38明22.D/
久木田隊五(伍)①193大5.F//
④298大5.F/
栩々生①64明25.B//
②197明27.B/②199明27.D/
日下痴龍②165明17.B/
日下鐵④30明7.C/
日下生隆一①224大10.C//
④340大10.C/
日下部四郎太[理學博士]
③179大2.F/③188大3.F/
③194大4.F/
日下部博士(隆一?)④279大4.C/
日下部鳴鶴④59明18.B/
久崎章④480昭8.F/
Kusazima,T.④768[昭15]/
草薙正夫②44昭11.D/
②131昭18.B//④570昭13.B/
④666昭19.B/
草野牛郎④305大6.C/
草野貞之①266大15.B/
①288昭3.B/①301昭4.B/
①304昭4.B/①315昭5.B//
③270昭8.B/
草野茂松[一語千金]
③39明23.B/③92明32.B/
③94明32.B//④88明24.D/
草野柴二①142明42.B//
③152明42.D//④204明43.B/
草野宜隆(丈山居士)④65明19.D/
草野牧人④276大4.C/
草葉つゆる①61明24.D/
草場弘①254大14.B/①300昭4.B/
草間生④117明30.E/
草間時福①30明13.E//
④43明14.C/
草間平作①301昭4.B/
②12昭10.B//④525昭11.B/
久佐美子考①7[89]/
草光信成①199大6.D/
①205大7.D//④318大7.D/
草迷宮①158明45.C/
久司先生①318昭5.C/
櫛引(田)友三郎②240大5.B//
④289大5.B/
串田孫一(初見靖一)
②71昭13.B/②83昭14.B/
②107昭16.B/②120昭17.B/
②142昭19.B//③306昭14.F/
③317昭16.F//④776[昭18]/
久代外治④107明28.C/
くすお①153明44.C/
葛岡英彦③260昭6.D/
葛川篤①353昭7.D/
楠潜龍③5明7.E/
久世久④693[明24]/
久世勇三①217大9.D/
楠瀬一貫④84明23.B/④88明2.D/
④92明25D/④93明25.D/
④98明26.D/④695[明25]/
④695[明25]/
楠正行④709[明43]/
楠葉西忍④220明44.C/
葛見村夫①90明32.C//
④122明32.B/
楠山多鶴馬③244昭3.C/
③244昭3.D/
楠山正雄①172大3.B/
①174大3.C/①191大5.D/
①192大5.D/①198大6.D/
①205大7.D/①216大9.C/

①217大9.D/①222大10.B/
①223大10.C/①247大13.D/
①293昭3.Ｄ/①347昭7.C//
③186大3.D/③200大5.D/
③328昭22//④263大3.C/
④294大5.D/④295大5.D/
④477昭8.D/④494昭9.D/
④726[大14]/④745[昭8]/
④792[大7]/
朽木昌綱④23[24945]/④780[寛政1]/
口村佶郎④798[昭5]/
久津見息忠 → 久津見蕨村
久津見蕨村(息忠)①86明31.B/
①106明36.B/①126明39.B/
①129明39.E/①136明41.B/
①169大3.B/①172大3.B/
①174大3.B/①245大13.B//
②210明33.B/②213明34.C/
②236大2.B/②238大3.B//
③89明31.D/③93明32.B/
③132明38.B/③138明39.B/
③180大3.B/③181大3.B/
③182大3.B/③183大3.B//
④115明30.B/④121明31.E/
④258大3.B/④261大3.B/
④262大3.B/④263大3.B/
④285大5.B/④302大6.B/
④696[明27]/④718[大6]/
九傳十起生④299大6.A/
工藤應之 → 桂亭主人
工藤勝市③235大15.C/
工藤貞夫③267昭7.D/
工藤肅④752[昭10]/
工藤信一良④408昭3.D/
工藤助作②176明21.C/
④73明21.C/④692[明22]/
工藤精一④61明18.G/
工藤精三郎④447昭6.D/
工藤直太郎①219大9.E//
②61昭12.D/②63昭12.D//
④335大9.E/④513昭10.C/
④617昭15.D/
工藤元②76昭13.E/
工藤友惠②249大12.E/
工藤美代子④719[大9]/
工藤好美①246大13.B/
①274昭2.B/①314昭5.B/
①330昭6.B//③244昭3.B//
④361大13.D/④428昭5.B/
④595昭14.D/④724[大13]/
④729[昭1]/④733[昭3]/
④743[昭7]/④745[昭8]/
愚德④204明43.B/
宮内省舊御藏版①317昭5.C/
宮内省原板③38明22.E/
國井半三④352大12.C/
④361大13.C/
國枝儀六①96明34.B/
國枝史郎④219明44.C/
國枝俊文①181大4.B/
國岡大樹④432昭5.D/
國木直樹②122昭17.C/
國木田哲夫(獨歩)(→ 垣内純朗)
③77明29.D/③214大10.A//
④495昭9.D/
國木田獨歩 →國木田哲夫
國子勳③261昭6.D/
國定彌平④705[明39]/
國島和彦④650昭17.D/
國友忠夫①256大14.C//
④382大15.C/
國廣宗次①136明41.B/
國松甕谷④187明41.B/
國松定惠②225明 39.B/
國松孝二②74昭13.D/
②266昭5.D//③297昭13.D/
國松久彌①318昭5.C//
④430昭5.C/④515昭10.C/
④805[昭15]/
國元東九郎①298昭3.F//
④734[昭3]/
くぬぎ生③106明34.B/

功刀孝太郎④781[明7]/
櫟川道人③214大10.B/
久野収④485昭9.B/
久野眞吉④296大.D/
久野敏郎①361昭8.B/
久原躬弦②158昭11.F/
久布白落實③202大6.B/
九布白直勝④277大4.B/
愚佛庵主人 → 藤井健(次)治郎
愚佛生 → 藤井健(次)治郎
久保生④209明43.C/
久保ゐ之吉 → 久保猪之吉
久保猪之吉(ゐ之吉)
①178大3.F//②235明45.F/
②238大3.F//③96明32.D/
久保勘三郎①194大6.A/
①216大9.B/①229大11.B/
①239大12.C//③201大6.B//
④282大4.D/④293大5.C/
④294大5.D/④330大9.B/
④807[昭17]/
久保孝三②252大14.D/
久保榮②47昭11.D//
③282昭10.D/③287昭11.D/
③304昭14.D/③305昭14.D/
久保青濤①210大8.C/
④334大9.C/
久保貞次郎③307昭15.A/
久保天隨(得二)①93明33.B/
①94明33.B//④128明33.B/
久保得二 → 久保天隨
久保扶桑①18明8.C//
③11明10.C/
久保忠夫①250大13.F/
①262大14.F/①283昭2.F/
久保正夫③203大6.D/
④295大5.D/④354大12.D/
久保萬里 → 平野萬里
久保正幡②66昭12.E/
②101昭15.E/②126昭17.E/
②127昭17.E/②128昭17.E//
③322昭17.E//④561昭12.E/
④595昭14.E/④619昭15.E/
④653昭17.E/④663昭18.E/
④667昭19.C/
久保勉(M.Kubo)[ケーベル博士小品集]①156明45.B/
①209大8.B/①221大10.B/
①222大10.B/①236大12.B/
①237大12.B/①238大12.B/
①242大12.E/①253大14.B/
①284昭3.A/①286昭3.B/
①325昭6.B/①332昭6.C/
①362昭8.B/①373昭9.B/
①374昭9.B/①377昭9.B//
②12昭10.B/②14昭10.B/
②26昭10.E/②33昭11.B/
②80昭14.B/②83昭14.B/
②86昭14.D/②89昭14.E/
②95昭15.B/②127昭17.E//
③166明45.B/③205大7.B/
③209大8.B/③214大10.B/
③225大13.B/③229大14.B/
③257昭6.B/③292昭12.D/
③315昭16.B/③318昭17.A/
③321昭17.B/④231大1.B/
④454昭7.B/④489昭9.B/
④524昭11.B/④629昭16.B/
④630昭16.B/④719[大9]/
④730[昭2]/④767[昭15]/
久保徹④392昭2.C/④405昭3.C/
久保虎賀壽 → 土井虎賀壽
久保弘道④676[明5]/
久保良英①157明45.B//
④241大2.B/④319大7.D/
④359大13.B/
久望子③96明32.D/
窪川鶴次郎②71昭13.B//
④498昭9.D/
久保田榮吉④637昭16.E/
久保田貫一③14明11.E/
久保田金仙④707[明41]/
窪田忠彦④464昭7.F/
窪田鐵太郎(久保田鐵太郎?)

①62明24.E/
久保田鐵太郎（窪田鐵太郎?)
①52明22.E/
久保田桃水④108明28.D/
久保田富次郎④83明23.C/
久保田萬太郎④340大10.C/
久保寺十四夫①355昭7.F/
窪見昌保①154明44.F/
熊井一郎④757[昭12]/
熊岡美彦③242昭3.A/
熊谷五郎①100明35.B/
①125明39.B//③99明33.B//
④119明31.B/
熊谷從吾(篁村農夫)④82明23.C/
熊谷主膳①189大5.B/
①250大13.F/
熊谷政喜④467昭8.B/
隈川生②236大2.B/
隈崎渡②48昭11.E/②49昭11.E/
②126昭17.E/②128昭17.E//
④518昭10.E/④652昭17.E/
熊野與④74明21.D/
④78明22.D/
熊野達六郎①344昭7.B/
①374昭9.B/
熊澤復六②44昭11.D
熊野義孝②71昭13.B/
②79昭14.A//④379大15.C/
④525昭11.B/④526昭11.B/
④583昭14.B/④602昭15.B/
④628昭16.B/④778[昭19]/
熊野雄七④74明21.D/
④78明22.D/④89明24.F/
隈部逸人②23昭10.D/
隈部慈明①170大3.B/
①180大4.B/
熊本謙二郎②238大3.G/
②250大12.G/②256大15.G//
③189大3.G//④184明41.B/
④270大3.G/④328大8.G/
熊本德次郎③267昭7.D/
隈本有尚①121明38.C/
①136明41.B//④388昭2.A/
④391昭2.B/④399昭3.A/
④445昭6.C/
組合教會教育部④404昭3.B/
久米邦武①159明45.C//
③56明26.C//④116明30.C/
④321大8.A/④682[明11]/
④698[明30]/④701[明36]/
④703[明38]/④706[明41]/
④719[大8]/④747[昭9]/
久米桂一郎①80明29.D/
①108明36.D/①121明38.C/
①150明44.A/①155明45.B//
②200明28.D/②201明28.D/
②221明37.D//③76明29.D/
③131明38.A/③137明39.A/
③152明42.D//④112明29.D/
④156明38.A/④213明44.A/
④270大3.G/④473昭8.C/
④699[明31]/
久米元一①350昭7.D//
③304昭14.D//④477昭8.D/
久米成次④400昭3.A/
④412昭4.A/
久米正雄①246大13.C//
③185大3.C//④263大3.C/
④717[大5]/④721[大10]/
雲井龍雄①52明22.D//
②181明22.D/
雲井春香①67明25.E/
①69明26.B/①71明26.D/
雲英晃輝②179明22.B//
③40明23.B/
久門明慶②219明 37.B/
倉石精一③323昭18.B/
倉内文枝③253昭5.B/
椋木市世（蓮花）③137明39.A/
椋木蓮花 → 椋木市世
倉澤剛④479昭8.E/
倉田有武③261昭6.D/
倉田倉吉②83昭14.B/
倉田繁太郎④46明15.C/

藏田周忠①353昭7.D/
倉田眞造②100昭15.E/
倉田生②174明20.D/
倉田百三①252大14.A/
②104昭16.A//④377大15.B/
藏田屋清右衛門②153明2.G//
④28明3.G/
倉長巍①187大5.B/①201大7.A//
④111明29.B/④285大5.B/
倉橋惣三①316昭5.B/
倉橋文雄④585昭14.B/
④590昭14.C/④597昭14.F/
④613昭15.C/
藏原惟人①125明39.B/
①126明39.B/①309昭4.D/
①322昭5.D//④461昭7.D/
倉開二六①175大3.C/
倉持高雄①366昭8.D//
②86昭14.D//④494昭9.D/
栗岩水澁②222明 38.C/
栗島狹衣③152明42.D/
栗木辰助④25[24989]/
栗田④454昭7.B/
栗田(元次?)④279大4.C/
栗田三吾④511昭10.C/
栗田眞造③312昭15.E//
④621昭15.E/
栗田元次④249大2.C/
④418昭4.C/④519昭10.E/
④557昭12.C/④745[昭8]/
④761[昭13]/
栗野齋次郎④630昭16.B/
④635昭16.D/
栗野忠雄①38明18.C/
①39明18.G/①43明20.C/
①84明30.D//④61明18.G/
④68明20.C/
栗林茂①301昭4.B/①303昭4.B//
③253昭5.B//④736[昭4]/
栗原③214大10.B/
栗原英之助(介)③73明29.B//
④324大8.B/④359大13.B/
栗原嘉名芽④410昭3.F/
栗原元吉①162大2.B/
①205大7.D/①223大10.C/
栗原古城［文學士］①187大5.B/
①198大6.D/①247大13.D/
①250大13.E/①274昭2.B/
①286昭3.B//②144昭19.C/
②246大10.B//③174大2.B/
③175大2.B/③175大2.C//
④252大2.D/④253大2.E/
④279大4.C/④285大5.B/
④312大7.B/④319大7.D/
④461昭7.D/④714[大3]/
④715[大4]/④720[大9]/
④730[昭2]/
栗原佑②44昭11.D/②62昭12.D/
②63昭12.D//④558昭12.D/
栗原忠三③250昭4.D/
栗原登①320昭5.D/①339昭6.F/
栗原信晁④780[天保9]/
④780[嘉永年間]/
栗原秀吉④538昭11.D/
栗原兵吾④539昭11.D/
栗原寛②267昭5.E/
栗原百壽①315昭5.B/
栗原基［文學士］①129明40.A/
①149明43.D//④207明43.C/
④209明43.C/④240大2.A/
④277大4.B/④289大5.B/
④290大5.B/④304大6.B/
④319大7.E/④331大9.B/
④332大9.B/④367大14.B/
④370大14.C/④426昭5.B/
栗原陽一④584昭14.B/
栗原亮一②192明25.F//
③15明12.C//④37明12.C/
④43明14.E/④53明16.E/
栗宮④352大12.B/
栗本鋤雲①11［192］/12［227］/
④44明14.E/④673[慶應]/
④693[明24]/④711[大1]/
④729[昭1]/④768[昭16]/

栗本鯤撲④54明17.A/
栗本長質④98明26.D/
厨川白村（文夫）①154明44.D/
①176大3.D/①177大3.D/
①202大7.B/①225大10.D//
②90昭14.E/②126昭17.D/
②137昭18.D/②246大10.D//
③169明45.D/③187大3.D//
④199明42.D/④211明43.D/
④238大1.D/④267大3.D/
④268大3.D/④282大4.D/
④308大6.D/④333大9.B/
④341大10.D/④397昭2.D/
④435昭5.D/④650昭17.D/
④721[大10]/④724[大13]/
厨川文夫 → 厨川白村
栗山茂②226明40.C/
栗山次郎①203大7.B/
久留天豪①183大4.C/
久留間鮫造③225大13.B//
④359大13.B/
栗生武夫①206大7.E/
①227大10.E/①233大11.E/
①261大14.E/①271大15.E/
①272大15.E/①282昭2.E/
①296昭3.E/①297昭3.E/
① 310昭4.E/①311昭4.E/
① 323昭5.E/①384昭9.E/
①385昭9.E//②64昭12.E/
② 65昭12.E/②77昭13.E/
② 84昭14.C/②101昭15.E/
②102昭15.E/②245大9.E/
②267昭5.E/②271昭6.E/
②286昭9.E//③285昭11.C/
③292昭12.E/④398昭2.E/
④480昭8.E/④562昭12.E/
④577昭13.E/④597昭14.E/
④609昭15.C/④619昭15.E/
④774[昭17]/④798[昭4]/
栗栖赳夫①241大12.E/
栗栖弘臣④603昭15.B/
呉茂一①258大14.D/①321昭5.D/
①351昭7.D/①366昭8.D//
②45昭11.D/②62昭12.D/
②70昭13.B/②74昭13.D/
②86昭14.D/②92昭15.A/
②94昭15.B/②98昭15.D/
②104昭16.A/②104昭16.B/
②111昭16.D/②112昭16.D/
②119昭17.B/②123昭17.D/
②124昭17.D/②125昭17.D/
②127昭17.E/②130昭18.A/
②132昭18.B/②133昭18.B/
②135昭18.D/②136昭18.D/
②137昭18.D/②142昭19.B/
②144昭19.D/②145昭19.D/
②147昭20.D/②149昭22.［補遺］/②252大14.D//
③262昭7.A/③321昭17.D/
③322昭17.D//④477昭8.D/
④567昭13.B/④595昭14.D/
④629昭16.B/④647昭17.C/
④649昭17.D/④650昭17.D/
④655昭18.A/④658昭18.B/
④660昭18.C/④662昭18.D/
④668昭19.D/④738[昭5]/
④766[昭15]/④772[昭17]/
④775[昭18]/④806[昭15]/
④806[昭16]/④807[昭17]/
④807[昭18]/④808[昭19]/
呉秀三①178大3.F/
①340昭6.F//②181明22.F/
②244大8.C//③47明24.F/
③53明25.F/③69明28.D/
③184大3.C/③185大3.C/
④714[大3]/④734[昭4]/
くれがし → 田山花袋
呉野潮音②239大4.C/
黒貞輔③264昭7.B/
黒石源太郎②136昭18.D/
黒板勝美［博士］①145明43.A/
①150明44.A/①165大2.C/
①285昭3.A//②231明44.A/
②252大14.C//③153明43.A/

③158明44.A/③161明44.C/
③204大6.D/③206大7.C/
③207大7.C//④198明42.C/
④213明44.A/④223明44.F/
④224大1.A/④270大3.G/
④305大6.C/④318大7.D/
④327大8.D/④493昭9.C/
黒板禎二①252大14.A/
②10昭10.A/
黒板博士 → 黒板勝美
黒岩周六 → 黒岩涙香
黒岩大→ 黒岩涙香
黒岩涙香（大、周六、黒岩生）
①33明15.C/①33明15.E/
① 83明30.C/①172大3.B//②218明36.B/②236大2.B//③119明36.B/③126明37.B/③127明37.B//④46明15.C/④47明15.C/④57明17.E/
② ④142明36.B/④241大2.B/④262大3.B/
黒岩生 → 黒岩涙香
黒岩信雄③298昭13.D/
黒川謙吉①95明33.F/
黒川誠一郎①40明19.E/
黒川善一④412昭4.A/
黒川實司②172明19.E/
黒川眞頼④103明27.D/
黒木重也③188大3.G/
黒木洲尋④214明44.B/
黒木安雄②180明22.D/
黒坂禎次④794[大14]/
黒崎義介②98昭15.D//
④758[昭12]/④759[昭12]/
黒崎幸吉①350昭7.D//
④348大11.D/④401昭3.B/
④404昭3.B/④405昭3.C/
④418昭4.D/④432昭5.D/
④445昭6.D/④467昭8.B/
④515昭10.D/④554昭12.C/
④574昭13.D/④592昭14.D/
④661昭18.D/④770[昭16]/
④800[昭7]/④801[昭9]/
④802[昭10]/④802[昭11]/
④804[昭13]/④806[昭16]/
④807[昭17]/
黒澤翁滿①7[91]//④24[24957]/
④25[24994]/
黒澤幹一④266大3.C/
④268大3.D/
黒澤惟則④58明17.F/
黒澤隆朝①280昭2.D/
黒潮浪客②217明35.D/
黒須龍太郎①209大8.B/
黒瀬保郎④755[昭11]/
黒田一郎②133昭18.B//
④658昭18.B/
黒田巖②267昭5.E//③241昭2.E/
黒田英一②54昭12.B/
黒田榮一郎②69昭13.B/
黒田幹一④713[大3]/
黒田清隆③17明14.C/
黒田清輝①95明33.D//
③76明29.D/
黒田啓次①199大6.F/
①200大6.F//③205大6.F//
④309大6.F/④310大6.F
黒田謙一②274昭7.C/
黒田麹蘆④27[25017]/
④27[25019]/
黒田惟信④278大4.C/
黒田覺②249大12.E/
黒田四郎①363昭8.C//
④467昭8.B/
黒田孝郎②78昭13.F/
黒田辰男①332昭6.C/
①337昭6.D//②44昭11.D//
④668昭19.D/
黒田庭泉④348大11.D/
黒田鵬心④270大3.G/
④714[大3]/

黒田誠③177大2.D//④252大2.D/
黒田正利(Kuroda,M.)
①210大8.B/
①212大8.D/①218大9.D/
①224大10.D/①225大10.D/
①236大12.B/①241大12.D/
①245大13.B/①249大13.D/
①255大14.B/①259大14.D/
①260大14.D/①266大15.B/
①269大15.D/①270大15.D/
①275昭2.B/①276昭2.B/
①279昭2.D/①280昭2.D/
①281昭2.D/①287昭3.B/
①293昭3.Ｄ/①295昭3.Ｄ/
①296昭3.Ｄ/①301昭4.B/
①303昭4.B/①308昭4.D/
①321昭5.D/①322昭5.D/
①328昭6.B/①332昭6.C/
①375昭9.B/①382昭9.D//
②23昭10.D/②86昭14.D/
②87昭14.D/②88昭14.D/
②99昭15.D/②117昭17.A/
②122昭17.C/②137昭18.D/
②246大10.D/②248大11.D//
③233大15.B/③245昭3.D/
③321昭17.D/③326昭19.D//
④341大10.D/④371大14.D/
④461昭7.D/④538昭11.D/
④542昭11.E/④593昭14.D/
④595昭14.D/④609昭15.C/
④617昭15.D/④636昭16.D/
④651昭17.D/④655昭18.A/
④668昭19.D/④669昭19.E/
④737[昭5]/④753[昭10]/
④767[昭15]/④769[昭16]/
④772[昭17]/④794[大13]/
④795[大15]/④796[昭2]/
④797[昭3]/④798[昭5]/
④801[昭8]/④802[昭10]/
④805[昭14]/④805[昭15]
④808[昭18]/
黒田行元④782[明7]/
黒田亮②58昭12.B/②62昭12.D//
④296大5.D/
黒田禮二(岡上守道)
①209大8.B//②68昭13.A//
③209大8.B/
黒谷了太郎②50昭11.E/
②51昭11.F/
黒羽茂②133昭18.C/
黒髯中尉①278昭2.C/
黒部峰三①84明30.D/
黒正巖①355昭7.E//③241昭2.E//
④422昭4.E/
黒見五道③81明30.B/
畔柳都太郎②52昭11.G/
②103昭15.G/②116昭16.G/
②272昭6.G//④222明44.D/
畔柳芥舟①99明35.A//
④180明40.B/
黒百合姫④710[明44]/
桑木彧雄①200大6.F/
①262大14.F/①272大15.F/
①361昭8.B/①375昭9.B//
②30昭10.F/②36昭11.B/
②146昭19.F/②231明43.B/
②253大14.F/②255大15.F/
②258昭2.F/②264昭4.F/
②280昭8.F//③158明43.F/
③317昭16.F//④521昭10.F/
④669昭19.F/④731[昭2]/
④766[昭15]/
桑木嚴翼[博士]①78明29.B/
①86明31.B/①93明33.B/
①96明34.B/①97明34.B/
①99明35.B/①99明35.B/
①101明35.B/①106明36.B/
①106明36.B/①120明38.B/
①126明39.B/①147明43.B/
①156明45.B/①157明45.B/
①162大2.B/①162大2.B/
①163大2.B/①164大2.B/
①169大3.B/①182大4.B/
①196大6.C/①209大8.B/

①223大10.B/①237大12.B/
①238大12.B/①244大13.B/
①328昭6.B/①345昭7.B/
①370昭8.G//②11昭10.B/
②14昭10.B/②19昭10.B/
②33昭11.B/②40昭11.B/
②41昭11.B/②68昭13.B/
②71昭13.B/②75昭13.D/
②80昭14.B/②82昭14.B/
②107昭16.B/②131昭18.B/
②212明34.B/②226明40.B/
②249大12.D/②250大13.B/
②251大14.B/②269昭6.B//
③74明29.B/③81明30.B/
③99明33.B/③101明33.B/
③103明33.D/③105明34.B/
③106明34.B/③112明35.B/
③113明35.B/③140明39.D/
③142明40.B/③143明40.B/
③145明41.A/③146明41.A/
③163明45.B/③173大2.B/
③174大2.B/③182大3.B/
③183大3.B/③190大4.B/
③191大4.B/③196大5.B/
③197大5.B/③201大6.B/
③202大6.B/③205大7.B/
③209大8.B/③211大9.A/
③212大9.B/③212大9.C/
③213大10.A/③215大10.B/
③216大10.C/③218大11.B/
③223大12.B/③226大13.B/
③230大14.B/③233大15.B/
③238昭2.A/③240昭2.B/
③258昭6.B/③285昭11.B/
③294昭13.B/③309昭15.B/
③314昭16.B/③320昭17.B/
③323昭18.B//④88明24.C/
④110明29.B/④126明33.B/
④127明33.B/④132明34.B/
④135明35.B/④136明35.B/
④137明35.B/④142明36.B/
④150明37.B/④168明39.B/
④182明40.F/④195明42.B/
④203明43.B/④206明43.B/
④216明44.B/④218明44.B/
④229大1.B/④230大1.B/
④231大1.B/④243大2.B/
④244大2.B/④245大2.B/
④247大2.B/④248大2.B/
④257大3.B/④258大3.B/
④259大3.B/④261大3.B/
④275大4.B/④277大4.B/
④288大5.B/④291大5.B/
④295大5.D/④296大5.D/
④304大6.B/④314大7.B/
④315大7.B/④319大7.D/
④321大8.A/④331大9.B/
④338大10.B/④359大13.B/
④364大14.B/④369大14.C/
④377大15.B/④390昭2.B/
④426昭5.B/④437昭6.A/
④441昭6.B/④451昭7.B/
④454昭7.B/④473昭8.C/
④482昭9.A/④484昭9.B/
④488昭9.B/④489昭9.B/
④501昭9.C/④508昭10.B/
④509昭10.B/④510昭10.B/
④511昭10.B/④517昭10.D/
④530昭11.B/④531昭11.B/
④547昭12.A/④552昭12.B/
④569昭13.B/④570昭13.B/
④586昭14.B/④587昭14.B/
④600昭15.A/④605昭15.B/
④606昭15.B/④622昭15.F/
④629昭16.B/④631昭16.B/
④645昭17.B/④653昭17.E/
④656昭18.A/④656昭18.B/
④659昭18.B/④661昭18.C/
④664昭19.A/④666昭19.B/
④668昭19.D/④669昭19.F/
④670昭20.C/④700[明34]/
④708[明42]/④711[明45]/
④723[大正,大12]/
④736[昭4]/④737[昭5]/

④740[昭6]/④755[昭11]/
④756[昭11]/④767[昭15]/
④774[昭18]/④791[大3]/
④794[大14]/④809[19-]/
桑木博士 → 桑木嚴翼
桑田一藏③145明40.F/
桑田學士 → 桑田芳藏
桑田繁太郎④221明44.D/
桑田秀延①230大11.B//
④455昭7.B/④456昭7.C/
④525昭11.B/④608昭15.C/
④628昭16.B/④725[大13]/
桑田芳藏［學士］①195大6.B/
①235大12.A/①273昭2.A//
③154明43.A/③163明45.A/
③189大4.A/③195大5.A/
③238昭2.A//④240大2.A/
④248大2.C/④289大5.B/
④312大7.A/④316大7.B/
④320大7.E/④330大9.A/
④350大12.A/④388昭2.A/
桑田禮治①87明31.C/
桑田立齋①11［181］/
桑田六郎③324昭18.C/
桑名德藏②246大10.C/
桑野俊介④770[昭16]/
桑野禮治②207明31.E//
④124明32.C/
桑原啓一（紫舟居士、金井啓一）
①70明26.C/①71明26.C/
①76明28.C//②180明22.D/
②194明26.C/②195明26.C/
②198明27.C//③38明22.E/
③56明26.C/③62明27.C//
④97明26.C/
桑原弦月③177大2.D/
桑原重矩④355大12.E/
④362大13.E/
桑原（隲藏）［博士］③258昭6.C//
④116明30.C/④119明31.B/
④321大8.A/④747[昭9]/
④798[昭5]/
桑原武夫①366昭8.D//
②14昭10.B/②86昭14.D/
②95昭15.B/②111昭16.D//
③311昭15.D/③317昭16.D/
③326昭19.D//④635昭16.D/
④645昭17.B/④772[昭17]/
桑原武②263昭4.D/
桑原親通①305昭4.C/
①307昭4.C/
桑山益①175大3.C/
董齋 → 田中貞純
軍司義雄①83明30.C/
群檮生④632昭16.C/
［け］け、うさき①52明22.D/
K生④369大14.C/
K.A.③63明27.D/
KAM①173大3.B/
K.H.④572昭13.C/
K.I.④702[明37]/
K.I.（石原謙?）①75明27.D/
①104明36.A//③118明36.B/
③120明36.C/③127明37.B/
③166明45.B/
KI生 → 石原謙
ケ・エ・ヌ生④77明22.B/
K.K.②191明25.D//③52明25.D/
K.K.生③157明43.C/
K.K.生①142明42.B/
K.K.生④86明24.B/
K.K.K. → 角田浩々歌客
（K.K.K.）
K.M.②172明19.G/
KM生①225大10.D//④288大2.B
④341大10.D/
K.N.②56昭12.B/
K. O③215大10.C/
K.O.②267昭5.F/
KO生①190大4.B/
K.S.①71明26.D/
K.S.④655昭17.G/
K.S.生④442昭6.B/
K.T.③69明28.D/

K.Y.②224明 39.B/②228明41.C/
②229明41.F/
K.Y.④416昭4.B/④471昭8.B/
④482昭9.A/④483昭9.A/
④511昭10.B/④553昭12.B/
④557昭12.C/④570昭13.B/
④583昭14.A/④588昭14.B/
④589昭14.C/④597昭14.E/
④607昭15.B/④626昭16.A/
④632昭16.B/④766[昭15]/
K.Y.生④763[昭14]/
慶應義塾④703[明37]/
慶應義塾大學部③42明24.A/
景峨子①100明35.B/
①102明35.D/①108明36.D//
④135明35.B/④139明35.D/
④146明36.D/
桂花書屋主人②216明35.D/
敬業社③36明22.C//④92明5.C/
醢鷄學人①245大13.B/
啓成社[編輯所]④788[明44]/
④788[明45]/④792[大4]/
經濟雜誌社①77明28.E//
③58明26.E/③62明27.C//
④297大5.E/
桂樹庵主人③152明42.D/
藝術的遺産研究會④517昭10.D/
鷄聲子②206明31.B/
警世社④197明42.C/
繼體天皇④723[大12]/
桂亭 → 桂亭逸
桂亭逸人③187大3.D//
④132明34.C/④138明35.C/
④159明38.B/④167明39.B/
④243大2.B/
啓明會④735[昭4]/
桂陵(生)①82明30.C/
桂林庵主人②230明42.D/
勁林園主人④127明33.B/
溪鹿生④113明29.D/
④185明41.B/
鴃舌子①64明25.B/
月城(生)④172明39.D/
④182明40.F/④249大2.C/
④712[大2]/
煙山專太郎(雲城、雲城生)
①161大2.A/①165大2.C/
①197大6.C/①269大15.C/
①334昭6.C//②143昭19.C/
②206明31.C/②207明31.D//
③175大2.C/③176大2.C//
④138明35.B/④240大2.A/
④254大3.A/④271大4.A/
④350大12.A/④399昭3.A/
④796[昭3]/
絢海 → 中桐先生
兼葭堂 → 木村遊齋
毛谷村六助④709[明43]/
研究社(辭書部)②78昭13.G/
②243大7.G/②258昭2.G/
②261昭3.G/②264昭4.G/
狷狂齋④55明17.B/④58明17.E/
源信和尚②216明35.D/
現代詩講座編輯部④747[昭8]/
現代哲學研究會①262大14.G/
建築學會建築學參考圖刊行委員會(建築學參考圖刊行委員會)
①335昭6.D//④741[昭6]/
建築研究會④771[昭16]/
謙堂逸人→ 植村正久
顯道居士 → 松田甚左右衛門
顯堂主人①52明22.C/
蒹堂主人②241大6.C/
狷堂野史②211明33.E/
幻堂居士①59明24.B/
劒南③191大4.B/
玄白 → 杉田玄白
劍菱 → 正宗白鳥
劒峯②204明30.B/
劍郎④209明43.C/
［こ］こ、ま①82明30.B/
古博士④153明37.C/
呉文炳④328大8.E/

辜鴻銘②250大13.A/
辜尚賢①151明44.B/
護堅壽②285昭9.C/
小池一郎②53昭12.A/
小池覺惇②105昭16.B/
小池寛次①305昭4.C/
小池清④693[明24]/
小池秋草②50昭11.E//
④211明43.D/
小池靖一①22明9.E/
小池民治①46明21.B/
小池元①276昭2.B/
小池春水④538昭11.D/
小池政美④360大13.C/
小池隆一①261大14.E/
①271大15.E/
小石元瑞①10［171］/
小石川醫學生①109明36.D/
小泉功①384昭9.E//②48昭11.E/
②71昭13.B/②88昭14.E/
②113昭16.E//④647昭17.C/
小泉一雄④497昭9.D/
小泉小介①265大15.B/
小泉信三③170明45.E//
④409昭3.E/④439昭6.B/
④447昭6.D/④448昭6.E/
④720[大9]/④734[昭4]/
④762[昭14]/
小泉丹①369昭8.F//②81昭14.B//
④564昭12.F/④776[昭18]/
④777[昭18]/
小泉鐵①187大5.B/
①271大15.E//③160明44.B/
③199大5.D//④686昭23.E/
小泉鐵夫④215明44.B/
小泉某①260大14.E
小泉又一［小泉氏］①110明37.B/
①137明41.B/
小泉八雲（ハーン、ラフカディオ、ヘルン、ラフカヂオ）①116明37.D/
①177大3.D/①184大4.D/
①270大15.D/①280昭2.D/
①382昭9.D//②54昭12.B/
②84昭14.C/②86昭14.D/
②227明40.D//③67明28.C/
③193大4.D/③257昭6.B/
③291昭12.D/③294昭13.B//
④497昭9.D/
小泉融①240大12.D/
小出正吾④571昭13.C/
④601昭15.B/④761[昭13]/
小出拙藏③27明19.G//
④691[明20]/
小出楢出（重）③283昭11.A//
④522昭11.A/
高臣人生④72明21.B/
高良二②156明8.B//③24明18.G/
③26明19.G/③27明19.G//
④66明19.G/④71明20.G/
光一生④374大15.A/
郷登之助③271昭8.B/
甲蔭 → 坂口昂
紅雨亭一枝①46明21.B/
耕雲翁④113明29.D/
こうえふ③63明27.D//
④104明27.D/
浩鷗生①107明36.C/
浩歌生③175大2.B/
甲賀宣（宜）政①207大7.E//
③161明44.C//④220明44.C/
笊吾七③316昭16.D/
洪輝勳③243昭3.B/
甲賀三郎④705[明39]/
工學協會④66明19.G/
④688[明19]/
好學士④217明44.B/
好華堂野亭主 → 山田意齋
浩氣洞④361大13.C/
鴻業(畠山?)④176明40.B/
甲溪學人①119明38.B/
江湖①62明24.D//②224明39.A/
倥々齋 → 森田思軒
浩浩洞②213明34.B/

高娯蘆主人④73明21.B/
咬菜處士④120明30.C/
香坂俊亮③197大5.B/
高坂正顯①240大12.C/
①259大14.D/①361昭8.B//
②14昭10.B/②59昭12.C/
②70昭13.B/②93昭15.B/
②94昭15.B/②95昭15.B/
②107昭16.B/②108昭16.B/
②131昭18.B/②141昭19.B//
③296昭13.C/③309昭15.C//
④529昭11.B/④534昭11.C/
④554昭12.C/④556昭12.C/
④567昭13.B/④570昭13.B/
④574昭13.C/④591昭14.C/
④604昭15.B/④631昭16.B/
高阪(坂)筆吉①329昭6.B//
④479昭8.E/
光山①128明39.D/①129明40.A/
晃山子②185明23.D/
紅兒④165明38.D/
郷司愷爾①317昭5.C//
②266昭5.C/②285昭9.C//
③281昭10.C//④364大14.A/
④515昭10.C/④522昭11.A/
④537昭11.C/④574昭13.C/
④752[昭10]/
好史生①122明38.D//
④153明37.C/④208明43.C/
麹町F.M.④66明19.E/
紅芍園主人→ 森田思軒
好樹堂②153明4.G/
攻珠璃 → 山下芳一
弘城生④187明41.C/
黄城居士(→ 無能生)
①73明27.B/
鴻島生①70明26.C/
廣水生④108明28.D/
耕晴生④376大15.B/
紅雪、紅雪山人 → 前田健次郎
江村(學人)①128明39.D//
②227明40.D//③123明36.D//
④146明36.D/④147明36.D/
江村學人 → 江村
國府田邦一④297大5.D/
幸田成友①94明33.C/
①273昭2.A//②204明30.C//
③74明29.B/③74明29.C/
③108明34.C/③316昭16.D//
④133明34.C/④138明35.C/
④411昭4.A/④437昭6.A/
④545昭12.A/④574昭13.D/
④579昭14.A/④595昭14.D/
④623昭16.A/④626昭16.A/
④634昭16.D/④640昭17.A/
④641昭17.A/④642昭17.A/
④652昭17.D/④655昭18.A/
④656昭18.A/④670昭20.D/
④757[昭12]/
國府田新作④75明22.A/
④99明27.B/
古宇田實①211大8.D/
幸田芳雄④538昭11.D/
幸田露伴①257大14.C/
①277昭2.C//④504昭10.B/
④705[明39]/
講談社①335昭6.D/
湟東④161明38.C/
浩蕩生④212明43.G/
幸德秋水(傳次郎)[基督抹殺論]
①129明39.E/①151明44.B/
①152明44.B//②16昭10.B/
②211明33.D/②236大2.B//
③98明33.A/③101明33.C/
③102明33.C/③104明33.E/
③109明34.D/③110明34.E/
③124明36.E/③125明36.E/
③127明37.B/③160明44.B//
④215明44.B/④217明44.B/
④218明44.B/
幸德傳次郎 → 幸德秋水
高津春繁(Haruishige Kodze)
②62昭12.D/

②74昭13.D/②86昭14.D/
②87昭14.D/②95昭15.B/
②98昭15.C/②99昭15.D/
②110昭16.D/②112昭16.D/
②124昭17.D/②135昭18.D/
②137昭18.D//④592昭14.D/
④593昭14.D/④605昭15.B/
④634昭16.D/④636昭16.D/
④647昭17.C/④649昭17.D/
④650昭17.D/④662昭18.D/
④668昭19.D/④670[訂正]
④764[昭14]/④767[昭15]/
④771[昭16]/④803[昭12]/
④805[昭15]/
皇典講究所④783[明23]/
廣堂君②163明16.B/
河野伊三郎②29昭10.F/
②139昭18.F//④664昭18.F/
④780[昭20]/
甲野哲之助④307大6.D/
幸野花咲④710[明44]/
河野正通①304昭4.B/
①307昭4.C//②36昭11.B/
②43昭11.C/②72昭13.C/
②134昭18.C//③309昭15.B//
④416昭4.C/④422昭4.E/
④454昭7.B/④474昭8.C/
④530昭11.B/④556昭12.C/
④571昭13.C/④659昭18.C/
④752[昭10]/④760[昭13]/
河野密①249大13.E/
①309昭4.D//③231大14.D//
④372大14.D/
河野與一①286昭3.B/
①300昭4.B/①302昭4.B/
①305昭4.B/①345昭7.B//
②188明24.D//③215大10.B/
③248昭4.B//④364大14.B/
④413昭4.B/④414昭4.B/
④454昭7.B/④525昭11.B/
④726[大16]/④742[昭7]/
廣畔隱士④216明44.B/
興風學舘④784[明28]/
浩風樓主人④361大13.C/
幸福散史 → 澁江保
弘文社④792[大3]/
浩文社編輯部④483昭9.B/
神戸高等商業學校商業研究會
①282昭2.E/①338昭6.E/
甲浦學人(野本・甲浦學人?)
④285大5.A/
④286大5.B/④289大5.B/
④300大6.B/④303大6.B/
④313大7.B/④315大7.B/
鴻峰生①70明26.C/①93明33.A/
弘法(大師)②229明41.D/
興亡史論刊行會①203大7.B/
江北①140明41.F/
江北迂人④561昭12.E/
亦隹生①65明25.C/
光明皇后③156明43.C/
光妙寺三郎③34明22.A/
光明社④479昭8.E/
香村宜園①130明40.B/
香夢樓主人→ 岩本伍一
高山岩男(高山氏)①299昭4.A/
①329昭6.B/①353昭7.D/
①361昭8.B//②14昭10.B/
②42昭11.C/②79昭14.A/
②103昭16.A/②131昭18.B/
②141昭19.B//③295昭13.B/
③323昭18.C/③324昭18.C//
④437昭5.G/④469昭8.B/
④475昭8.C/④508昭10.B/
④531昭11.B/④534昭11.C/
④565昭13.A/④567昭13.B/
④568昭13.B/④569昭13.B/
④570昭13.B/④580昭14.A/
④600昭15.A/④608昭15.C/
④616昭15.C/④624昭16.A/
④626昭16.A/④642昭17.A/
④645昭17.C/④646昭17.C/
④648昭17.C/④649昭17.C/
④661昭18.C/④755[昭11]/

神山華山 → 神山五郎
神山五郎(華山)②160昭15.C/
高山氏 → 高山岩男
香山洛陽教會牧師④292大5.C/
幸堂得知④705[明39]/
向陽學人①162大2.B/
①163大2.B/
紅葉山人 → 尾崎紅葉
向陵社④307大6.D/
小面孝作②80昭14.B/
②82昭14.B/
小檜恩①309昭4.D/
郡山④493昭9.C/
郡山源四郎①317昭5.C//
④430昭5.C/
郡山澄雄④540昭11.D/
郡山千冬④649昭17.D/
幸若舞④729[昭2]/④732[昭3]/
④776[昭18]/④791[19-]/
古賀圓藏④180明40.D/
古閑潔④394昭2.C/
古賀重利②262昭4.B/
古賀十二郎③242昭3.B/
③243昭3.B//④600昭15.A/
古賀昇一④598昭14.F/
古賀武夫②88昭14.E/
古賀筑後守④714[大4]/
古賀鶴松②126昭17.E//
④663昭18.E/
湖涯子④122明32.B/
④123明32.B/④124明32.B/
孤行子②187明24.C/
國學院③39明23.A/
國學院大學國語研究會
③311昭15.D/
國畫創作協會同人④350大12.A/
黑眼兒④140明35.D/
國語研究會①247大13.C/
國際ヘーゲル聯盟①325昭6.B/
①330昭6.B//④455昭7.B/
國際ヘーゲル聯盟日本
④441昭6.B/
國司平六[炉句] → 勝安房
國書刊行會①166大2.D//
④705[明39]/④713[大3]/
木口浩一②121昭17.C//
④646昭17.C/
國府犀東(→ 犀東居士)
②203明29.D/②204明30.C/
②204明30.D/②205明30.D/
②218明36.B//③84明30.D//
④133明34.C/④134明34.D/
黑風白兩樓主人④159明38.B/
國分敬二②120昭17.B/
②135昭18.D//④643昭17.B/
④769[昭16]/
國分米三③204大6.D/
國分寺新作①50明22.B/
①73明27.B//③34明22.A//
④689[明19]/
國民教育叢書研究會
④363大13.G/
國民道德會①359昭8.B/
國民文庫刊行會①195大6.B/
①257大14.C/①278 昭2.C/
黑瀧④204明43.B/
木暮浪夫④588昭14.C/
④752[昭10]/
木暮春雄④364大14.B/
虎溪居士②196明26.E/
孤劍生③138明39.B/
③139明39.C/
五湖散史③40明23.B/
御國寺[文相]①86明31.B/
古在學②92昭15.A//
③301昭14.A/
古在由重(松原宏)[古在]
①300昭4.B/①304昭4.B/
①330昭6.B//②34昭11.B/
②36昭11.B/②37昭11.B/
②125昭17.D//③258昭6.B//
④439昭6.B/④459昭7.B/
④529昭11.B/
小坂潔①279昭2.D/

小坂狷二④720[大10]/
小坂生③171大2.B/
小坂正行①339昭6.F/
①340昭6.F//④464昭7.F/
小酒井恭二③266昭7.D/
小酒井光次 → 小酒井不木
小酒井不木（光次、不木軒）
①250大13.F/①262大14.F//
②247大11.C//③251昭4.F//
④362大13.E/
小酒井不木軒 → 小酒井不木
小崎弘道②172明20.B/
②175明21.B/②176明21.B/
②180明22.C//③17明14.B/
③25明19.B/③34明22.B/
③54明26.B/③117明36.B/
③150明42.B/③159明44.B/
③171大2.B/③174大2.B/
③238昭2.A/③258昭6.B//
④32明10.B/④36明12.B/
④55明17.B/④63明19.B/
④67明20.B/④68明20.B/
④72明21.B/④76明22.B/
④77明22.C/④78明22.C/
④86明24.B/④94明26.A/
④94明26.B/④96明26.B/
④97明26.C/④116明30.B/
④120明31.B/④122明32.B/
④124明32.B/④141明36.A/
④151明37.B/④154明37.C/
④177明40.B/④185明41.B/
④186明41.B/④187明41.C/
④202明43.B/④206明43.B/
④231大1.B/④233大1.B/
④253大2.E/④261大3.B/
④276大4.B/④293大5.C/
④303大6.B/④304大6.B/
④315大7.B/④330大9.A/
④382大15.D/④458昭7.C/
④500昭9.E/④511昭10.B/
小崎道雄④337大10.A/
古志學人→ 金井望
小鹿旗之進④72明21.B/
越川文之助④68明20.C/
④82明23.C/
越川彌作①143明42.C/
越原富雄④257大3.B/
小島氏④741[昭6]/
小嶋今四郎④78明22.D/
小島榮次②84昭14.C//
③303昭14.C/
小嶋烏水③150明42.B/
③155明43.B/③157明43.D//
④165明38.D/
兒島喜久雄①153明44.D/
①281昭2.D/①295昭3.D/
①309昭4.D/①322昭5.D/
①335昭6.D//②47昭11.D/
②73昭13.D/②74昭13.D/
②99昭15.D/②106昭16.B/
②113昭16.D/②124昭17.D/
②279昭8.D//③178大2.D/
③204大6.D/③297昭13.D/
③298昭13.D/③306昭14.D/
③321昭17.D//④280大4.D/
④374大15.A/④420昭4.D/
④433昭5.D/④447昭6.D/
④473昭8.C/④541昭11.D/
④558昭12.D/④574昭13.D/
④575昭13.D/④576昭13.D/
④594昭14.D/④595昭14.D/
④753[昭10]/④756[昭11]/
④767[昭15]/④778[昭19]/
小島軍造②256昭2.B/
兒島玄石①98明34.C/
①101明35.C/
小島公一郎④539昭11.D/
小島幸治①305昭4.C//
②47昭11.E/②77昭13.E/
②285昭9.C//③296昭13.C//
④542昭11.E/④546昭12.A/
④797[昭4]/
小島幸治郎④577昭13.E/
小島孤舟③159明44.B/

小島洒風④156明37.D/
小島氏④677[昭和]/
小島茂雄①221大10.B/
①230大11.B/①236大12.B/
①238大12.B//④312大7.B/
④323大8.B/④350大12.B/
④359大13.B/④454昭7.B/
兒島時十①181大4.B/
小島準治④37明12.D/
④683[明12]/④683[明13]/
兒島彰二②157明10.C/
小島章太郎④479昭8.E/
小島善太郎③251昭5.A/
小島卓介③302昭14.B/
③303昭14.B/
小島威彦①287昭3.B/
①288昭3.B/①302昭4.B/
①314昭5.B/①315昭5.B/
①316昭5.B//②14昭10.B/
②34昭11.B/②37昭11.B/
②57昭12.B/②98昭15.C//
③243昭3.B/③276昭9.B//
④401昭3.B/④528昭11.B/
④529昭11.B/④532昭11.B/
④583昭14.B/④600昭15.A/
小島次男④583昭14.B/
小島貞介④560昭12.D/
④763[昭14]/
小島鐵三郎①17明7.C/
小島德彌④343大11.A/
小島文八②218明36.D/
小島政二(次)郎①259大14.D/
④390昭2.B/④402昭3.B/
小島政吉④786[明38]/
④787[明42]/
兒嶋昌憲④109明29.A/
五洲逸人③45明24.C/
五姓田芳柳③169明45.D/
古處軒①90明32.B/
湖處子 → 宮崎湖處子
古城文雄②55昭12.B/
越山信吉②13昭10.B/
②14昭10.B/②35昭11.B/
②37昭11.B/②56昭12.B/
越山平三郎①96明34.B/
①97明34.B/
姑射良④288大5.B/
小城生②163明16.C/
小杉青林④239大2.A/
小杉乃帆流③147明41.B/
小杉放庵①169大3.A/
小杉嵐翠④402昭3.B/
小瀬正吉②55昭12.B//
③289昭12.B/③292昭12.E/
瞽聾外史③3[17498]/
吾醒蘆主人③37明22.D/
古關潔②254大15.C/
小關三英④25[24986]/
④26[25004]/④361大13.D/
④381大15.C/
虎石惠實②208明32.B/
②212明34.B//④150明37.B/
吾曹先生②159昭14.E/
古川道人④91明25.B/
④92明25.C/④93明25.D/
小會木恩④421昭4.D/
孤村 → 片山敏彦
古代妄僧②236大2.B/
小宅忠愛②252大14.C/
小平高明①125明39.B/
①130明40.B/
小平國雄[牧師]④324大8.B/
④345大11.B/④435昭5.E/
④448昭6.E/④472昭8.C/
④490昭9.C/④773[昭17]/
小平牧師 → 小平國雄
木瀧清類④52明16.C/
小谷精一④498昭9.D/
小谷誠一④372大14.D/
小谷栗村①126明39.B/
兒玉花外(傳八)①143明42.C/
①190大5.C//③186大3.D/
③201大6.B//④180明40.D/
④728[昭1]/

兒玉光榮④260大3.B/
兒玉才三④354大12.D/
兒玉實用②100昭15.D/
兒玉修治③146明41.B/
③147明41.C/
兒玉敬②45昭11.D/
兒玉達童①244大13.B/
①290昭3.B/①303昭4.B/
①345昭7.B/①346昭7.B//
②273昭7.B//③234大15.B//
④338大10.B/④366大14.B/
④457昭7.B/
兒玉帶刀④464昭7.F/
兒玉傳八→ 兒玉花外
兒玉三男①346昭7.B/
兒玉元吉④709[明43]/
小蝶山人④709[明43]/
古塚正治④722[大11]/
小塚新一郎②35昭11.B/
②56昭12.B/
五辻惠敬(敎)②37昭11.B//
③285昭11.B/
Kotsuji, S.③299昭13.D/
鼓亭鑾士①127明39.C
小寺謙吉①233大11.E/
小寺健二④490昭9.C/
④568昭13.B/
小寺弘士④26[25010]/
小寺小次郎④774[昭18]/
小寺駿吉④516昭10.D/
小寺融吉①294昭3.D//
④357大13.B/
小寺柳次郎③75明29.C/
小寺黎二②80昭14.B/
古典文學會④307大6.D/
古典文學會同人③203大6.D/
古典文學研究會④294大5.D/
④308大6.D/④720[大9]/
古典文學研究會同人④742[昭7]/
孤島 → 中島孤島
孤島生①168大2.F/
梧堂(生) → 渡部溫?
古洞(生)①91明32.D//
④229大1.B/
梧堂生②178明22.B/
古堂生②190明25.B/
後藤朝太郎①128明39.D/
①133明40.D//②227明40.D//
④180明40.D/④181明40.D/
後藤一民②37昭11.B/
後藤淸②28昭10.E/②249大12.E/
後藤慶二④266大3.D//
④370大14.D/
後藤七郎衛門④63明19.C/
後藤重助④71明20.F/
後藤末雄①276昭2.B//
②21昭10.C/②35昭11.B//
③162明44.D//④318大7.D/
④713[大3]/④771[昭16]/
後藤祐信③272昭8.D/
後藤成一①333昭6.C/
五島淸太郎④89明24.F/
後藤孝弟①302昭4.B/
①328昭6.B/①342昭7.B//
②33昭11.B/②33昭11.B/
②37昭11.B/②79昭14.B//
④528昭11.B/④531昭11.B/
④758[昭12]/
後藤男(爵)④309大6.E/
古藤重光④368大14.C/
後藤七郎右衛門④783[明19]/
後藤新平④407昭3.C/
後藤末雄④515昭10.C/
④544昭11.F/④640昭16.F/
後藤寅之助④473昭8.C/
後藤宙外①102明35.C//
④129明33.D/④134明34.D/
④139明35.C/
後藤敏衛②35昭11.B/
後藤信夫①254大14.B/
後藤博見②161明15.E/
後藤壽夫②250大13.B/
後藤牧太②225明 39.F/
後藤正明②253大14.E/

後藤守一①223大10.C/
①278昭2.C/①379昭9.C//
③216大10.C//④721[大10]/
後藤安雄③243昭3.B/
後藤泰一②140昭18.F/
後藤嘉之①156明45.B/
後藤亮一①236大12.B/
古桐軒主人→ 田山花袋
小中村清矩①46明21.B/
①63明25.B//②177明21.D//
④74明21.D/
小西④406昭3.C/
小西英一①242大12.F/
小西干比古④774[昭18]/
小西海南④212明43.F/
小西重直[博士]①130明40.B/
①151明44.B/①180大4.B/
①188大5.B/①196大6.B/
①204大7.C/①209大8.B/
①215大9.B/①237大12.B/
①248大13.D/①258大14.D//
②15昭10.B//③107明34.B/
③159明44.B//④286大5.B/
④317大7.C/④370大14.D/
④544昭11.G/
小西誠一④447昭6.D/
小西虎雄①201大7.A/
小西增太郎①74明27.B/
①79明29.B//③60明27.B/
③61明27.B//④100明27.B/
④110明29.B/④117明30.D/
④240大2.A/
狐野一③6明8.E/
小長谷亮策④484昭9.B/
木庭孫彦④158明38.B/
④234大1.C/
湖幡辰之助①67明25.G/
木幡篤次郎④27明1.G/
④29明6.E/④674[明3]/
④681[明10]/
木幡甚三郎④27明1.G/
小早川欣吾④463昭7.E/
小林愛圀④224大1.A/
小林篤演④633昭16.C/
小林淳男①375昭9.B//
④763[昭14]/
小林淳夫②86昭14.D/
小林郁③117明36.A/
小林市太郎①281昭2.D/
①361昭8.B/①367昭8.D/
②24昭10.D/②107昭16.B//
④516昭10.D/④579昭14.A/
④599昭15.A/④629昭16.B/
④630昭16.B/
小林一郎①93明33.B/
①96明34.A/①100明35.B/
①105明36.B/①110明37.B/
①118明38.B/①124明39.B/
①125明39.B/①126明39.B/
①127明39.B/①130明40.B/
①131明40.B/①132明40.B/
①156明45.B/①198大6.D//
②224明39.B//③112明35.B/
③113明35.B/③137明39.B/
③139明39.B/③142明40.B/
③149明42.A/③163明45.A//
④141明36.A/④169明39.B/
④176明40.B/④185明41.B/
④190明42.A/④318大7.D/
④319大7.D/④702[明37]/
④703[明38]/
小林丑三郎①168大2.E//
④673[明治]/④674[明治]/
④700[明34]/④709[明43]/
小林榮子④720[大10]/
小林榮三郎②29昭10.F/
②98昭15.C/②110昭16.C/
②142昭19.B/②263昭4.E//
③304昭14.C//④572昭13.C/
④594昭14.D/④633昭16.C/
④668昭19.D/④764[昭14]/
小林榮太郎②64昭12.E/
小林鶯里①252大14.A/

①254大14.B/①256大14.C//
②255大15.C//④356大13.A/
④356大13.B/④365昭14.B/
④368大14.C/④375昭15.B/
④379昭15.C/④736[昭4]/
小林魁郎①129明39.E/
小林龜太郎④348大11.D/
小林龜之進①39明18.G/
小林喜一②36昭11.B/
小林儀秀①18明8.B//
②156明8.B/
小林謙一郎④45明15.B/
小林謙吉④30明7.D/
小林好日①98明34. D/
小林光助③182大3.B/
③183大3.B/
小林弧村④473昭8.C/
小林小太郎①26明11.B/
①29明12.G/①39明18.G//
②157明11.B/
小林紺珠②187明24.B/
②189明24.E/
小林愛雄①139明41.D/
①144明42.D/①149明43.D/
①167大2.D/①192大5.D/
①218大9.D//④189明41.D
④222明44.D/268大3.D/
④334大9.D/④713[大3]/
④725[大13]/
小林三郎②50昭11.F/
小林佐平①355昭7.F/
①387昭9.F//④480昭8.F/
④742[昭7]/
小林三季③241昭2.D/
小林茂理④130明34.B
小林珍雄①339昭6.D//
②141昭19.B/②257昭2.B//
④440昭6.B/④453昭7.B/
④467昭8.B/④469昭8.B/
④528昭11.B/④532昭11.B/
④562昭12.E/④623昭15.G/
④635昭16.D/④658昭18.B/
④665昭19.B/④669昭19.E/
④757[昭12]/④760[昭12]/
④769[昭16]/④804[昭12]/
小林秀南①112明37.B/
小林杖吉②219明36.G/
小林商店②29昭10.F/
小林四郎②275昭7.D/
小林清三郎④379大15.C/
小林善八①244大13.B/
小林太一②274昭7.B/
小林高紀②76昭13.E/
小林多喜二③217大10.E/
小林健夫④497昭9.D/
小林正②125昭17.D//
④626昭16.A/
小林龍雄①246大13.B//
③227大13.D//④358大13.B/
小林辰尾④650昭17.D/
小林澄兄(→乳木生)
①142明42.B/①163大2.B/
①267大15.B/①374昭9.B/
①376昭9.B//②234明45.B/
②238大3.B/②239大4.B//
③155明43.B/③171大2.B/
③218大11.B//④243大2.B/
④358大13.B/④545昭1.G/
④722[大11]/④762[昭13]/
小林富次郎③251昭4.F/
小林虎五郎④585昭14.B/
④603昭15.B/
小林直吉④375大15.A/
小林元②143昭19.C//
④565昭13.A/④667昭19.C/
小林ハル子③250昭4.D//
④421昭4.D/
小林英雄③289昭12.B/
小林英夫②99昭15.D/
②111昭16.D/②137昭18.D//
④408昭3.D/
小林秀雄[史家]①284昭3.A/

①291昭3.C/①292昭3.C/
①312昭5.A/①341昭7.A//
②82昭14.B/②85昭14.C/
②98昭15.C/②103昭16.A/
②110昭16.C/②117昭17.A//
④408昭3.D/④418昭4.C/
④422昭4.E/④426昭5.A/
④432昭5.C/④437昭6.A/
④459昭7.C/④474昭8.C/
④476昭8.C/④514昭10.C/
④581昭14.A/④609昭15.C/
④616昭15.C/④622昭15.E/
④633昭16.C/④646昭17.C/
④731[昭3]/④765[昭15]/
小林秀雄［文藝評論家］
①327昭6.B//③307昭15.A/
③309昭15.C/③316昭16.D/
③321昭17.C//④553昭12.B/
④588昭14.B/
小林博①256大14.C//
②274昭7.C/②278昭8.C//
③231大14.C//④381大15.C/
④393昭2.C/④394昭2.C/
④458昭7.C/
小林房太郎①356昭7.G//
②31昭10.G//④718[大6]/
小林文夫④538昭11.D/
小林正和①286昭3.B/
小林正之①354昭7.E//
④633昭16.C/
小林萬吾①224大10.D//
②237大3.A/
小林巳智次②76昭13.E/
小林光茂④102明27.C/
小林宗重④230大1.B/
小林基④464昭7.F/
小林雄七郎①22明9.E/
①383昭9.D//④31明9.E/
④32明10.C/④491昭9.C/
④683[明13]/
小林有方④440昭6.B/
小林行雄②21昭10.C/
小林善雄④512昭10.C/
小林義直④675[明5]/
小林義則④683[明13]/
④684[明15]/④691[明22]/
小林良正②140昭18.F//
④807[昭16]/
小早川欣吾①354昭7.E/
小早川彦一①193大5.F/
小日向隠士②182明23.B/
小日向是因→ 小日向定次郎
小日向薹一④318大7.D/
小日向定次郎（是因）
②93昭15.B/②94昭15.B//
④125明32.D/④724[大13]/
小日向恒夫②285昭9.D//
③261昭6.D//④435昭5.D/
④478昭8.D/
小藤文次郎②172明19.F//
③24明18.F//④783[明23]/
古茅逸史①83明30.C//
③69明28.D/③77明29.D/
孤峯生④314大7.B/
五峯生③159明44.B/
湖北散士①180大4.B/
駒井和愛④590昭14.C/
小牧健夫①248大13.D/
①347昭7.B/①353昭7.D/
①367昭8.D//②32昭11.A/
②62昭12.D/②71昭13.B/
②83昭14.B/②111昭16.D//
③217大10.D/③250昭4.D/
③311昭15.D//④560昭12.D/
④775[昭18]/④809[昭20]/
小牧喬定①86明31.C/
小牧實繁①223大10.C/
小牧六郎④782[明11]/
木間瀬精三④528昭11.B/
駒込山人①77明28.D/
小町谷操三①310昭4.E//
②258昭2.E/②261昭3.E/
②266昭5.E/②267昭5.E//

③256昭5.E/③261昭6.E//
④422昭4.E/
小松②42昭11.C/②49昭11.E/
②66 昭12.E/②77昭13.E/
小松玉巖①176大3.D/
小松月陵(小松武治?)
③141明40.B//④181明40.D/
④702[明37]/④706[明40]/
小松謙①290昭3.C/①292昭3.C./
小松謙次郎①40明19.E/
小松堅太郎②130昭18.A/
小松公峯④789[1-]/
小松俊次②159昭14.E/
小松耕輔①335昭6.D//
②44昭11.D//④460昭7.D/
小松師④605昭15.B/
小松周吉④593昭14.D/
小松攝郎①329昭6.B/
①361昭8.B/①376昭9.B//
②40昭11.B/②41昭11.B/
②71昭13.B/②107昭16.B/
②281昭9.B/②284昭9.B//
③272昭8.D/③275昭9.B/
③290昭12.B/③323昭18.C//
④631昭16.B/
小松武治(小松月陵?)
①162大2.B/①181大4.B/
①195大6.B/①240大12.D//
③158明44.A/③158明44.A/
③185大3.C/③191大4.B/
③228大13.D//④155明37.D/
④196明42.B/④255大3.B/
④263大3.B/④263大3.C/
④272大4.B/④274大4.B/
④276大4.B/④308大6.D/
④722[大11]/
小松房三①367昭8.D/
小松芳喬④774[昭18]/
小松綠①79明29.C//③70明28.E/
③88明31.C/
小松原英太郎①26明11.C/
①27明11.C/①27明11.E/
駒崎林三④82明23.C/
駒野正和④109明28.G/
五味尚二郎④39明1.B/
小峯正意①43明20.C/
①82明30.C/
小宮豐隆①167大2.D/
①328昭6.B/①352昭7.D/
①353昭7.D/①382昭9.D//
②145昭19.D/②149昭22.
［補遺］//③273昭9.A/
③292昭12.D/③328昭22//
④272大4.B/④363大14.A/
④374大15.A/④461昭7.D/
④498昭9.D/④541昭11.D/
④560昭12.D/④560昭12.D/
小宮山壽海④445昭6.D/
小宮山綏介④104明28.A/
④698[明30]/
小宮山天香①40明19.C//
④52明16.C/
小村孝③312昭15.E/
小室信藏①211大8.D/
薦田久規①308昭4.D/
菰田萬一郎④415昭4.B/
小森桃塢［義啓］①8［118,123］/
①9［139］//④25[24975]/
④27[25018]/④671[江戸期]/
小森隆夫④604昭15.B/
小森辰登①296昭3.E/
小森德治①143明42.C/
小森啓④810[19-]/
小森三好①232大11.D/
小森義啓 → 小森桃塢
小森谷太吉①171大3.B/
小安三平②13昭10.B/
子安峻［英和字彙］①16明6.G/
①34明15.G/①39明18.G/
①41明19.G/①44明20.G/
①50明21.G//②155明6.G/
②162明15.G/②182明22.G//
③4明6.G/③18明14.G/
③19明15.G/③21明16.G/

③22明17.G/③25明18.G//
④33明10.D/
子安善之助④153明37.C/
小柳司氣太①125明39.B//
③ 118明36.B//④101明27.B/
④106明28.B/④193明42.B/
④194明4.B/④388昭2.A/
④489昭9.B/
小柳市(一)藏①205大7.D//
④318大7.D/
小谷部全一郎④735[昭4]/
④745[昭8]/
小谷野敬三④88明24.C/
小山篤敍①38明18.G//
③24明18.G//④61明18.G/
小山市太郎①260大14.E/
小山榮三①363昭8.C//
④422昭4.E/④474昭8.C/
兒山敬一①375昭9.B//
④577昭13.F/④578昭13.F/
小山甫文④508昭10.B/
④528昭11.B/④604昭15.B/
小山鼎補①165大2.C/
①167大2.D//④246大2.B/
④248大2.C/④261大3.B/
小山精一郎④793[大9]/
小山東助④265大3.C/
④300大6.A/
小山鞆繪①188大5.B/
①238大12.B/①329昭6.B/
①345昭7.B/①376昭9.B//
③160明44.B/③173大2.B/
③217大10.D//④257大3.B/
④417昭4.C/④452昭7.B/
④484昭9.B/
小山正武②221明38.A/
小山松吉④563昭12.E/
是石辰二郎④55明17.C/
是常正美④604昭15.B/
御老末太②248大11.D/
古老樹④571昭13.C/
五郎政宗④708[明42]/
今外三郎①49明21.F//
②176明21.C/②181明22.F/
今日出海④579昭14.A/
今裕①324昭5.F/①339昭6.F/
昆祐三①347昭7.C/①364昭8.C//
④460昭7.D/
今了④430昭5.B/
今和次郎①248大13.D/
①294昭3.D//④593昭14.D/
昏雨生④203明43.B/
混世②220明37.C/②222明38.B/
②222明38.C/②223明38.D/
權田保之助①199大6.E/
①226大10.E//④342大10.E/
④721[大10]/
近藤逸五郎①104明36.B/
近藤英吉②249大12.E/
近藤淸③316昭16.C/
近藤京爾③199大5.C//
④716[大5]/
近藤圭三④111明29.C/
近藤圭造④680[明10]/
④782[明9]/
近藤啓二④380大15.C/
④407昭3.D/④516昭10.D/
④533昭11.C/④539昭11.D/
④556昭12.C/④575昭13.D/
④593昭14.D/
近藤賢三①36明17.A//
②165明17.B//③21明17.B//
④55明17.B/④784[明28]/
近藤堅三①48明21.D/
①49明21.G/
近藤浩一路③217大11.A/
近藤榮③250昭4.D/
近藤丈二②127昭17.E/
近藤俊二④740[昭6]/
近藤書店④780[昭20]/
近藤鎭三①19明8.C/①20明9.B/
①23明10.B/①34明16.B/
近藤晴卿④118明31.B/
近藤正齋 → 近藤守重

近藤千吉④99明26.E/
④672[明治]/
近藤哲雄④338大10.B/
近藤東之助（菊亭静）
③28明20.D/③237大15.D//
④70明20.D/④688[明19]/
近藤兵庫①346昭7.B//
②273昭7.B//④625昭16.A/
④645昭17.B/④656昭18.A/
近藤宗男①290昭3.C/
①305昭4.C//②260昭3.C//
④405昭3.C/④422昭4.E/
近藤守重（正齋）①6［55］/
近藤洋逸②129昭17.F/
②130昭18.A//④654昭17.F/
④663昭18.F/
近藤良男④618昭15.D/
近藤芳樹④673[文久]/
近藤良薫④261大3.B/
④262大3.B/④574昭13.D/
近藤倫二②76昭13.E/
②88昭14.E/
今日堂主人④64明19.C/
今野一英①36明17.B//
④58明18.B/
今野武雄②90昭14.F/
②102昭15.F/②124昭17.D/
②128昭17.F/②146昭19.F//
④577昭13.F/④578昭13.F/
④622昭15.F/④805[昭14]/
權守操一③328昭［不明］D//
④553昭12.B/④559昭12.D/
こんろん山人④134明34.F/
崑崙山④140明35.D/
［さ］崔載瑞③261昭6.D//④435昭8.B/
祭東鮮④361大13.D/
崔鳳守③255昭5.D//④434昭5.D/
在一居士 → 高橋五郎
菜花園主人①60明24.C/
在慶應義塾某④694[明24]/
齋木延二郎 → 齋木仙酔
祭屬近②251大14.B/
齋木仙酔（延二［次］郎）
①104明36.B/
①105明36.B/①110明37.B/
①171大3.B/①175大3.C/
①179大4.B/①180大4.B/
①195大6.B/①198大6.D/
①206大7.E//③189大4.B/
③191大4.B/③194大4.D/
③195大5.B/③201大6.B//
④139明35.D/④149明37.A/
④150明37.B/④157明38.B/
④175明40.B/④255大3.B/
④257大3.B/④262大3.B/
④282大4.D/④286大5.B/
④300大6.B/④470昭8.B/
齋木薫②56昭12.B/
西京二住ム一書生④33明11.B/
細香生→ 堺利彦
西郷隆盛（南洲）③11明10.C//
③44明24.B/
西郷南洲 → 西郷隆盛
才山人①142明42.B/
彩處生④169明39.B/
稅所篤二①280昭2.D/
①294昭3.D/①321昭5.D//
③255昭5.D/
西城獨星①268大15.C/
西條八十④771[昭16]/
齋田巽④78明22.D/
齋田訥於④33明10.G/
齋田禮門④543昭11.E/
犀東（居士） → 國府犀東
さいとう④132明34.C/
齋藤阿具①232大11.D/
①277昭2.C//③123明36.D/
④707[明41]/④770[昭16]/
齋藤磯雄④755[昭11]/
④769[昭16]/
齋藤要①264大15.B/
①267大15.B/
齋藤き江③155明43.B/
齋藤清②263昭4.D//④762[昭13]/

齋藤狂簡子①166大2.C//
④239大2.A/
齋藤庫三③223大12.C/
齋藤謙④708[明43]/
齋藤謙作④784[明29]/
齋藤健之允④28明3.G/
齋藤响①266大15.B//
②33昭11.B/②40昭11.B/
②69昭13.B//④378大1.B/
④454昭7.B/④566昭13.B/
④586昭14.B/④772[昭17]/
齋藤恒太郎④66明19.G/
齋藤茂三郎①211大8.D//
④272大4.B/
齋藤重治①39明18.G//
②168明18.G//③24明18.G/
齋藤茂①174大3.C/①188大5.B/
①268大15.C//④288大5.B/
④515昭10.C/④800[昭7]/
齋藤靜②146昭19.G//
④746[昭8]/④777[昭18]/
齋藤志摩②136昭18.D/
齋藤秀一②63昭12.D/
齋藤修一郎①31明14.E/
①33明15.E/
齋藤昌三①366昭8.D//
③237大15.D//④371大14.D/
④384大15.D/④461昭7.D/
齋藤二郎①368昭8.E/
①369昭8.E//②143昭19.C/
齋藤信一④769[昭16]/
齋藤信策①122明38.D//
③148明41.D/③150明42.B//
④248大2.C/④257大3.B/
④712[大2]/
齋藤信治（次）②36昭11.B/
②82昭14.B//③297昭13.D//
④531昭11.B/④557昭12.C/
④560昭12.D/④573昭13.C/
④760[昭13]/
齋藤進①288昭3.B//②260昭3.C/
齋藤成一①348昭7.C//
④456昭7.C/④457昭7.C/
④460昭7.D/
齋藤清衛①294昭3.D//
②62昭12.D//③287昭12.A//
④541昭11.D/
齋藤清太郎①258大14.D/
①331昭6.C//②252大14.C/
②274昭7.C/②278昭8.C//
③202大6.C/③203大6.C//
④317大7.C/④381大15.C/
④393昭2.C/④394昭2.C/
④458昭7.C/④533昭11.C/
④790[19-]/④791[大2]/
④792[大6]/④794[大13]/
④798[昭5]/④801[昭9]/
④802[昭10]/④803[昭11]/
④804[昭12]/④804[昭13]/
齋藤善太郎①257大14.C/
齋藤惣一④805[昭13]/
齋藤孝和④573昭13.C/
齋藤勇（Takeshi Saito）
①182大4.C/①243大13.A/
①363昭8.C//②46昭11.D/
②52昭11.G/②266昭5.D//
③199大5.C/③208大7.D/
③297昭13.D/③305昭14.D//
④255大3.B/④293大5.C/
④320大7.E/④354大12.D/
④583昭14.B/④601昭15.B/
④715[大4]/④717[大5]/
④720[大9]/④722[大11]/
④723[大12]/④731[昭2]/
④733[昭3]/④736[昭4]/
④738[昭5]/④745[昭8]/
④749[昭9]/④758[昭12]/
④761[昭13]/④764[昭1]/
④766[昭15]/④773[昭17]/
④778[昭19]/④796[昭2]/
④797[昭3]/④797[昭4]/
西洞たみの④184明41.B/
齋藤爲三郎②76昭13.E/
②89昭14.E/②125昭17.D/

②130昭18.B/②132昭18.B/
齋藤竹堂(→ 茫洋子)
①10［175］
齋藤常三郎③311昭15.E/
齋藤貞藏③26明19.G/
齋藤哲雄①276昭2.B//
④390昭2.B/
齋藤德平④579昭14.A/
齋藤時之助④784[明28]/
齋藤時秦④681[明11]/
齋藤敏夫④388昭2.B/
④554昭12.C/④
齋藤壽雄③192大4.C/
齋藤博士②126昭17.E/
齋藤白鷺生①311昭4.F/
齋藤久雄④497昭9.D/
齋藤斐章①100明35.B/
①158明45.C/①194大6.A/
①201大7.A/①231大11.C/
①239大12.C/①290昭3.C/
①317昭5.C/①318昭5.C/
①319昭5.C/①320昭5.C//
②230明42.C/②252大14.C/
②274昭7.C//③261昭7.A/
③265昭7.C/③267昭7.E//
④179明40.C/④235大1.C/
④300大6.A/④311大7.A/
④352大12.C/④381大15.C/
④425昭5.A/④458昭7.C/
④574昭13.C/④794[大14]/
④798[昭5]/④802[昭10]/
④803[昭11]/
齋藤秀夫④650昭17.D/
齋藤秀三郎②52昭11.G/
②240大4.F/②248大11.G/
②280昭8.G//④481昭8.G/
齋藤文藏①195大6.B//
③203大6.C/
齋藤茫洋子 → 齋藤竹堂
齋藤木④91明25.B/
齋藤信③287昭11.D/
齋藤正謙(津藩)④672[嘉永]/
齋藤正直②112昭16.D/
齋藤美澄①38明18.E/
齋藤茂吉①263大15.A/
②11昭10.A//③221大12.A//
④245大2.B/④373大15.A/
④377大15.B/④387昭2.A/
④411昭4.A/
齋藤芳造②15昭10.B/
齋藤吉史④779[昭20]/
齋藤與四郎①28明12.C/
齋藤龍太郎①223大10.B/
①275昭2.B/①298昭3.G//
②54昭12.B/②57昭12.B//
③218大11.B//④410昭3.G/
④553昭12.B/④737[昭5]/
才本義一④434昭5.D/
佐伯三郎②27昭10.E/
②42昭11.C/
佐伯正③155明43.B/
佐伯復堂④365大14.B/
佐伯好郎①233大11.E/
①260大14.E/①282昭2.E//
②47昭11.E/②64昭12.E/
②88昭14.E/②100昭15.E/
②113昭16.E//④187明41.C/
④214明44.B/④451昭7.B/
④504昭10.B/④541昭11.E/
④553昭12.B/④561昭12.E/
④706[明41]/④754[昭11]/
三枝十一④313大7.B/
三枝茂智②53昭12.A/
三枝博音(戸弘柯三)
①246大13.B/
①329昭6.B//②11昭10.B/
②115昭16.F/②116昭16.F/
②269昭6.B/②280昭9.B//
③303昭14.B//④350大12.A//
④389昭2.B/④488昭9.B/
④489昭9.B/④532昭11.B/
④568昭13.B/④579昭13.F/
④664昭18.F/④669昭19.F/
④748[昭9]/④752[昭10]/

④764[昭14]/④765[昭15]/
④768[昭15]/④779[昭19]/
三枝義夫②37昭11.B/
②51昭11.F/②260昭3.C/
②265昭5.B/②272昭7.A//
③235大15.B/③235大15.C//
④743[昭7]/④744[昭7]/
早乙女龍雄②23昭10.D//
④515昭10.D/
嵯峨正作①47明21.C/
酒井厚②255大15.E/
酒井逸雄②90昭14.F/
坂井貫二③323昭18.B/
酒井校[教授]④750[昭9]/
酒井皐次④369大14.C/
堺枯川→ 堺利彦
酒井三郎①349昭7.C/
①364昭8.C//②134昭18.C/
②143昭19.C/②144昭19.C//
③278昭9.D/③289昭12.B//
④393昭2.C/④456昭7.C/
④475昭8.C/④479昭8.E/
④522昭11.A/④540昭11.D/
④547昭12.A/④634昭16.C/
④643昭17.B/④648昭17.C/
④667昭19.C/④774[昭18]/
④808[昭18]/
酒井勝軍④405昭3.C/
④737[昭5]/
酒井祥州②241大5.G/
酒井四郎④514昭10.C/
酒井捨彦④59明18.C/
阪井貞一②245大9.E/
坂井德三②86昭14.D/
堺利彦（枯川、細香生）
①107明36.D/①108明36.D/
①119明38.B/①121明38.C/
①126明39.B/①129明39.E/
①137明41.B/①162大2.B/
①164大2.B/①189大5.B/
①196大6.B/①209大8.B/
①210大8.B/①219大9.E/
①313昭5.B/①316昭5.B//
③130明37.E/③148明41.E/
③149明41.E/③163明45.B/
③171大2.B/③172大2.B/
③174大2.B/③180大3.B/
③181大3.B/③190大4.B/
③195大5.B/③201大6.B/
③205大7.B/③209大8.B/
③211大9.B/③213大9.E/
③327大［不明］C//
④155明37.D/④244大2.B/
④246大2.B/④248大2.B/
④323大8.B/④325大8.B/
④328大8.E/
酒井朝彦②46昭11.D//
④537昭11.D/
酒井勉②177明21.G//
④75明21.G/
酒井眞人④354大12.D/
境全信④618昭15.D/
坂井義三郎［畫聖ラファエル］
①102明35.D/①103明35.D//
②216明35.D/
酒井雄三郎①34明16.E/
①36明17.E//③20明16.E/
③52明25.E/③64明27.E//
④57明17.E/
酒井壌①303昭4.B/
境野剛②113昭16.E//
④647昭17.C/
境野黄洋③111明35.B/
③142明40.B/③155明43.B/
③159明44.B//④99明27.B/
境野周次郎④208明43.C/
境野正④714[大3]/
境野哲④168明39.B/
境野哲梅②197明27.B/
酒井瞭吉④665昭19.B/
坂牛支良④65明19.D/
酒枝義旗②82昭14.B/
坂上一郎①198大6.D/
坂上絢一郎①286昭3.B/

①288昭3.B/
坂(阪)上槇[愼]太郎[幽花?]
①76明28.B//③65明28.B//
④108明28.D/④111明29.B/
坂上生④107明28.B/
④108明28.C/④109明28.D/
坂上幽花 → 坂上槇[愼]太郎
榊[教授]②243大8.A/
④406昭3.C/
榊信一郎④692[明23]/
④693[明24]/
榊俶②181明22.F/
榊亮三郎①158明45.C/
①207大7.E/①208大8.A/
榊原巖④463昭7.E/④480昭8.E/
榊原彌②231明43.G//
④212明43.G/
榊原鐵④575昭13.D/
榊原誠④755[昭11]/
榊原友吉①65明25.C/
①178大3.F/
榊原悠二④772[昭17]/
坂口二郎④343大11.A/
坂口昂(甲蔭)[博士]
①141明42.A//①150明44.A/
①158明45.C/①158明45.C/
①164大2.B/①165大2.C/
①166大2.C/①173大3.B/
①175大3.C/①178大3.E/
①186大5.A/①190大5.C/
①191大5.C/①194大6.A/
①196大6.C/①197大6.C/
①201大7.A/①202大7.B/
①203大7.B/①204大7.C/
①208大8.A/①210大8.C/
①214大9.A/①217大9.C/
①219大9.E/①223大10.C/
①224大10.C/①225大10.D/
①226大10.D/①231大11.C/
①232大11.D/①235大12.A/
①239大12.C/①245大13.B/
①247大13.C/①252大14.A/
①273昭2.A/①278昭2.C/
①291昭3.C/①292昭3.C/
①293昭3.C/①317昭5.C/
①319昭5.C/①331昭6.C/
①333昭6.C/①334昭6.C/
①334昭6.C/①347昭7.C/
①349昭7.C/①350昭7.C/
①365昭8.C//②20昭10.C/
②228明41.C/②249大12.C/
②252大14.C/②266昭5.C/
②274昭7.C/②278昭8.C//
③192大4.C/③195大5.A/
③212大9.C/③236大15.C/
③244昭3.C/③265昭7.C//
④265大3.C/④279大4.C/
④284大5.A/④300大6.B/
④305大6.C/④310大7.A/
④329大9.A/④341大10.D/
④347大11.C/④349大12.A/
④380大15.C/④381大15.C/
④388昭2.A/④393昭2.C/
④402昭3.B/④406昭3.C/
④431昭5.C/④432昭5.C/
④445昭6.C/④458昭7.C/
④459昭7.C/④459昭7.C/
④473昭8.C/④474昭8.C/
④511昭10.C/④573昭13.C/
④614昭15.C/④615昭15.C/
④661昭18.C/④740[昭6]/
④743[昭7]/④745[昭8]/
④792[大6]/④792[大7]/
④797[昭3]/④797[昭4]/
④799[昭6]/
坂口榮①70明26.C/
阪口佐吉②158昭12.E/
坂口正司④569昭13.B/
阪倉篤太郎④410昭4.A/
坂崎侃④724[大13]/④779[昭20]/
坂崎坦①280昭2.D/
酒竹君③84明30.D/
坂田氏③102明33.C/

阪田厚英④413昭4.B/
坂田志郎④653昭17.E/
阪田捨一④626昭16.A/
坂田貞之助④94明26.B/
坂田德男②34昭11.B/
②68昭13.B/②71昭13.B/
②126昭17.D//④428昭5.B/
④454昭7.B/④549昭12.B/
④570昭13.B/④586昭14.B/
④598昭14.F/④630昭16.B/
④655昭18.A/
坂(阪)田芳衛②266昭5.C//
③252昭5.B/③253昭5.C/
坂野龍雄④451昭7.B/
坂野つる④451昭7.B/
嵯峨の家主人(おむろ)
④695[明 26]/
阪谷素②155明7.C/
阪谷芳郎①44明20.E//
③34明22.A/③38明22.E/
坂西侃①265大15.B/
坂西博士④609昭15.C/
坂西由藏①260大14.E/
①368昭8.E//②84昭14.C/
坂部生②205明30.D/
酒巻芳男①228大11.A/
①256大14.C/
坂牧善辰③61明27.B/
酒見俊夫①344昭7.B/
相模三郎③231大14.C/
③232大14.D/
坂本春吉④602昭15.B/
坂本榮一②267昭5.E/
坂本榮吉→ 坂本大風
阪本越郎①352昭7.D/
坂本嘉治馬①91明32.D/
阪本勝次②43昭11.D/
坂(阪)本健一①97明34.C/
①107明36.C/①109明36.G/
①113明37.C/①114明37.C/
①147明43.C/①148明43.C/
①174大3.C/①175大3.C/
①196大6.C/①203大7.C/
①210大8.C/①211大8.C/
①216大9.C/①362昭8.C//
②215明35.C/②252大14.C//
③114明35.C/③125明36.G/
③185大3.C/③207大7.C//
④145明36.C/④149明36.G/
④207明43.C/④208明43.C/
④209明43.C/④210明43.C/
④265大3.C/④305大6.C/
④316大7.C/④318大7.C/
④326大8.C/④443昭6.C.
④699[明32]/④701[明35]/
④702[明36]/④708[明43]/
④718[大6,7]/④785[明36]/
坂本廣太郎③208大7.D/
坂本大風(榮吉)④199明42.D/
坂本都留吉①345昭7.B/
坂本德松①359昭8.B/
坂本知明②263昭4.E/
坂本文學士②207明31.D//
③90明31.D/
阪本文泉子①172大3.B/
坂本正義④566昭13.B/
④761[昭13]/
阪本勝①294昭3.D//②69昭13.B//
④775[昭18]/
相良一郎介④286大5.B/
相良次郎④745[昭8]/
相良常雄(春煙小史)
①48明21.D//④75明21.D/
④86明24.B/
相良德三①281昭2.D/
①294昭3.D/①308昭4.D//
②23昭10.D/②46昭11.D/
②47昭11.D/②148昭20.D
［不明］//③216大10.D//
④407昭3.D/④460昭7.D/
④438昭6.A/④517昭10.D/
④537昭11.D/④540昭11.D/
④758[昭12]/④810[19-]/
相良尚辰③15明12.C//

④36明12.C/
相良守峯②24昭10.D/
②31昭10.G/②32昭11.A/
②44昭11.D/②103昭16.A/
②109昭16.C/②116昭16.G/
②117昭17.A/②145昭19.D//
③291昭12.D/③317昭16.D/
③324昭18.D/④497昭9.D/
④655昭18.A/
相良守次④430昭5.B/
さ、き、生④210明43.D/
沙木菴④180明40.D/
先井清三郎①98明34.C/
向坂逸郎②133昭18.C/
②269昭6.B//③266昭7.D/
③321昭17.D/③324昭18.C//
④548昭12.A/④655昭18.A/
向坂道治①324昭5.F/
佐喜眞興英②245大9.E/
崎村茂樹②64昭12.E/
崎山正毅①375昭9.B/
佐久是爲①24明10.C/
佐久達雄①363昭8.C/
①378昭9.C/①380昭9.C//
④490昭9.C/
佐久川惠①370昭8.G/
佐久田肇③289昭12.B/
佐久間鼎④274大4.B/
④319大7.D/④327大8.D/
佐久間嘉七④697[明29]/
佐久間舜一郎④783[明18]/
佐久間政一①164大2.B/
①221大10.B/①236大12.B/
①248大13.D/①274昭2.B/
①286昭3.B/①359昭8.B//
②118昭17.B/②141昭19.A/
②279昭8.D//③215大10.C/
③227大13.D//④796[昭3]/
④798[昭5]/④803[昭12]/
④807[昭17]/④809[昭19]/
佐久間象山④25[24993]/
④696[明26]/④708[明43]/
④710[明44]/④716[大5]/
④734[昭4]/④739[昭5]/
④742[昭7]/④745[昭8]/
④748[昭9]/
佐久間正④681[明11]/
佐久間信恭②230明42.G/
佐久間紀彦③308昭15.B/
佐久間秀雄④727[昭1]/
佐久間松之助④139明35.D/
さくら③119明36.B/
櫻井④445昭6.C/
櫻井鷗村（鷗村子）①82明30.B/
①106明36.C//③89明31.D/
③132明38.C/③139明39.C/
③146明41.B//④118明31.B/
④162明38.C/④183明41.B/
④714[大3]/④724[大13]/
④774[昭18]/
櫻井和市④497昭9.D/
櫻井溪三③20明16.D/
櫻井鎌造①43明20.C/
櫻井熊太郎①98明34.E//
④134明34.E/
櫻井庄吉④368大14.C/
櫻井小太郎①71明26.D/
①75明27.D/
櫻井成明④126明32.G/
④263大3.C/
櫻井錠二①315昭5.B//
②200明28.B/②215明35.B/
②222明38.C/②223明38.G//
③65明28.B//④144明36.B/
櫻井佐②253大14.D/
櫻井正路①24明10.C/
櫻井庄吉①117明37.G/
櫻井匡①373昭9.B//②268昭6.B//
④465昭8.A/
櫻井忠溫①356昭7.G/
櫻井ちか子②187明24.B/
櫻井天檀（天壇?）③125明37.A/
③131明38.A/③135明38.D//
④156明38.A/④163明38.D/

櫻井恒太郎④78明22.C/
櫻井猶二郎②93昭15.B/
②95昭15.B/
櫻井投④754[昭11]/
Sakurai,H.④138明35.C/
④710[明44]/
櫻井ふき子①70明26.C//
④96明26.C/
櫻井房記④99明26.F/
櫻井正隆①241大12.D//
④159明38.B/④164明38.D/
④211明43.D/④498昭9.D/
櫻井明石①70明26.C//
③56明26.C//④97明26.C/
櫻井勇作④675[明5]/
櫻井義雄④407昭3.C/
櫻井吉松④95明26.B/
櫻木丘④376大15.B/
櫻園中道③11明10.B/
櫻田助作②194明26.B/
②201明28.E//④672昭20.E/
④696[明26]/
櫻田總①335昭6.D/
櫻田常久④636昭16.D/
櫻根孝之進④801[昭9]/
櫻庭經緯③44明24.B/
作樂戸痴鶯（山内德三郎）
①16明6.C//②154明6.C//
③4明5.C/③4明6.C//
④675[明3]/④679[明9]/
④681[明11]/
作山美山①126明39.B/
柵山茂三郎①242大12.F/
さこん①94明33.C//
②210明33.C//④473昭8.C/
左近氏④222明4.D/
左近義弼④179明40.D/
④263大3.C/④325大8.C/
④646昭17.C/④707[明41]/
④712[大3]/④719[大8]/
笹井準一④709[明43]/
笹井貞七④334大9.C/
笹尾鐵三郎④102明27.C/
笹岡民次郎③88明31.B/
笹川種郎→笹川臨風
笹川臨風（種郎、松軒學人）
①116明37.D/①120明38.B/
①121明38.D/①198大6.D/
①205大7.D//②203明29.E//
③78明29.E/③157明43.D//
④163明38.D/④717[大5]/
④742[昭7]/
佐々木巖①322昭5.E//
④435昭5.E/
佐々木梅治④149明37.B/
佐々木嘉一③173大2.B/
佐々木基一②137昭18.D/
佐々木吉之助①100明35.B/
佐々木恭一④800[昭7]/
佐々木邦④248大2.C//
④640昭16.G/
佐々木月樵②216明35.D/
佐々木元俊④673[安政]/
佐々木忍④499昭9.E/
④519昭10.E/
佐々木好母④209明43.C/
佐々木秀一①358昭8.B//
②78昭13.G//④484昭9.B/
④603昭15.B/
佐々木修一郎④381大15.C/
佐々木鎭次①246大13.B
佐々木俊次②143昭19.C//
④665昭19.A/
佐々木笑受郎④82明23.C/
④98明26.D/
佐々木次郎④538昭11.D/
佐々木眞一郎④368大14.C/
佐々木信造④579昭13.G/
佐々木清之丞②11昭10.B//
③281昭10.B/
佐々木惣一②102昭15.E/
佐々木隆彦②81昭14.B/
佐々木孝丸①269大15.D//
④720[大9]/④728[昭1]/

④740[昭6]/④749[昭9]/
佐々木竹柏園①258大14.D/
佐々城佑④305大6.C/
佐々木孜④440昭6.B/
佐々木恒清①114明37.C//
③123明36.D/④334大9.D/
佐々木徹雄③197大5.B/
佐々木達②32昭11.A/
佐々木亨②273昭7.B//
③264昭7.B/
佐々木信綱④294大5.D/
④296大5.D//④370大14.D/
④385大15.D/
佐々木[信綱]博士還暦記念會
④744[昭7]/
佐々木隼士④79明22.G/
佐々木久③209大8.B/
佐々木英夫①313昭5.B/
①316昭5.B//②93昭15.B/
佐々木文蔚④58明17.F/
佐々木元俊④26[25004]
佐々木雪子②237大2.D//
④250大2.D/
佐々木庸德①38明18.G//
②168明18.G/
佐々木理②55昭12.B/
②81昭14.B/②94昭15.B/
②105昭16.B/②107昭16.B/
②118昭17.B/②120昭17.B/
②126昭17.D/②130昭18.B/
②132昭18.B/②137昭18.D/
②141昭19.B//④526昭11.B/
④549昭12.B/④602昭15.B/
④645昭17.B/④657昭18.B/
佐々木了順②129昭17.F/
笹倉新治①85明31.B//
②190明25.B/
笹倉彌吉④130明34.B/
笹子修三①347昭7.C/
笹島吉太郎②157明9.E/
笹塚竹雄④424昭5.A/
小波①94明33.C/
小波 → 巖谷小波
小波遠三④189明41.D/
笹波萍二③5明8.A/
漣山人①76明28.B//④89明24.D/
笹野堅④776[昭18]/
ささの舎みどり → 森林太郎
（鷗外）
笹本祖淳④110明29.B/
笹本泰②156明9.C/②157明9.D/
笹森宇一郎④170明39.B/
笹谷道雄④599昭15.A/
④618昭15.D/④623昭15.G/
④640昭16.G/
佐澤太郎④676[明6]/
佐治克己①233大11.E/
佐治實然②193明26.B/
②197明27.B/②199明28.B/
佐治良三④747[昭8]/
佐田介石②158昭12.E/
佐多忠隆①331昭6.C/
佐多芳久③238昭2.B/
③242昭2.F/
定金右源二①256大14.C/
①325昭6.A//②22昭10.C/
②30昭10.F/②66昭12.F/
②140昭18.F//③287昭11.F/
④437昭6.A/④513昭10.C/
④543昭11.F/④571昭13.C/
佐竹昭雄①289昭3.B/
①340昭6.G/
佐竹觀海④127明33.B/
佐竹滋③276昭9.B/
佐竹秋雨②198明27.C/
②198明27.D/②199明27.E/
佐竹時之助②169明19.B/
佐竹大通③311昭15.D/
佐竹元二①246大13.C//
②252大14.C/
佐竹直重④337大10.A/
④371大14.D/④382大15.D/
④383大15.D/④385大15.D/
④443昭6.C/④445昭6.C/

貞松修藏④465昭7.G/
④501昭9.G/④564昭12.G/
④744[昭7]/④748[昭9]/
④750[昭10]/④754[昭11]/
④757[昭12]/④761[昭13]/
さち④150明37.B/④151明37.B/
佐々謙自③328昭[不明]D/
佐々醒雪③207大7.D/
佐々久②42昭11.C/
④514昭10.C/④533昭1.C/
④534昭11.C/
佐々弘雄①310昭4.E/
①344昭7.B//②264昭4.E/
②274昭7.C/
定宗數松④757[昭12]/
薩埵生①153明44.D/
薩道先生④412昭4.A/
札幌農學校③31明21.C/
③31明21.C/
薩摩辭書④763[昭14]/
佐藤顯理②183明23.C/
佐藤彰美④716[大4]/
佐藤明①343昭7.B/①366昭8.D//
④460昭7.D/④470昭8.B/
佐藤安八④636昭16.D/
佐藤功④497昭9.D/
佐藤郁二郎④66明20.B/
佐藤岩之進③261昭6.D//
④435昭5.D/
佐藤丑次郎②88昭14.E//
④596昭14.E/
佐藤一雄①308昭4.D//
③250昭4.D//④421昭4.D/
佐藤教授④609昭15.C/
佐藤清勝①323昭5.E/
①384昭9.E//②113昭16.E//
④652昭17.E/
佐藤潔①133明40.D/
①293昭3.D/④474昭8.C/
佐藤清①191大5.D/①217大9.D/
①240大12.D/①241大12.D//
②67昭12.F//③216大10.D/
③227大13.D//④218明44.B/
④335大9.D/④723[大12]/
佐藤熊次[治]郎②24昭10.D//
④793[大12]/
佐藤藏太郎④157明38.B/
佐藤慶二②33昭11.B/
②80昭14.B/②131昭18.B//
④513昭10.C/
佐藤藝峯④165明38.D/
佐藤憲一②119昭17.B/
佐藤賢顯①309昭4.D/
佐藤賢順①345昭7.B//
②107昭16.B/
佐藤堅司[西洋文化史講話]
①268大15.C/①273昭2.A/
①280昭2.D/①284昭3.A/
①285昭3.A/①379昭9.C/
①381昭9.C//②260昭3.C//
③259昭6.C//④400昭3.A/
④402昭3.B/④408昭3.D/
④444昭6.C/④474昭8.C/
④536昭11.C/④557昭12.C/
④745[昭8]/④755[昭11]/
④777[昭19]/
佐藤源二郎①46明21.B/
佐藤功一①177大3.D/
①280昭2.D/①294昭3.D//
④763[昭14]/
佐藤幸吉②245大9.E/
佐藤敬太郎④674[明治前期]/
佐藤江南①205大7.C//
④317大7.C/
佐藤紅綠(洽六)②121昭17.C/
佐藤洽六 → 佐藤紅綠
佐藤朔④488昭9.B/
④618昭15.D/
佐藤定吉④362大13.F/
④404昭3.B/
佐藤重紀③39明23.A//
④79明23.A/
佐藤繁彦①236大12.B/

①317昭5.C//④312大7.B/
④315大7.B/④330大9.B/
④375大15.B/④382大15.C/
④401昭3.B/④404昭3.B/
④407昭3.B/④413昭4.B/
④426昭5.B/④445昭6.D/
④467昭8.B/④801[昭8]/
④801[昭9]/
佐藤忍④130明34.A/
佐藤叔治③71明29.B/
佐藤舜吉④67明20.B/
佐藤昌②252大14.B/
佐藤正一④592昭14.D/
佐藤荘一④778[昭19]/
佐藤昌介②29昭10.F//
③70明28.E/③78明29.E//
④753[昭10]/④768[昭16]/
佐藤庄兵衛④291大5.C/
④292大5.C/
佐藤次郎［訂正］→佐藤治郎
佐藤治郎③51明25.D//
④694[明25]/
佐藤次郎吉（流楊子）
①65明25.D/
佐藤新一②68昭13.A//
④619昭15.D/
佐藤左熊③36明22.C/
佐藤生①238大12.B//
④170明39.B/④182明41.A/
佐藤政次④399昭2.F/
佐藤清太郎①329昭6.B//
④440昭6.B/④480昭8.F/
佐藤政養(庄内)④673[文久]/
佐藤大四郎④428昭5.B/
佐藤敬③308昭15.B/
佐藤赳夫③320昭17.B/
佐藤健男④472昭8.C/
④632昭16.B/
佐藤武①369昭8.F//③239昭2.B/
③241昭2.D//④375大15.B/
④727[昭1]/
佐藤種信④405昭3.C/
佐藤太郎②154明6.B/
佐藤長生③328昭22/
佐藤定介④692[明23]/
佐藤輝夫（雄）②80昭14.B/
②95昭15.B/②96昭15.B//
③317昭16.D//④607昭15.B/
④629昭16.B/④635昭16.D/
④749[昭9]/④772[昭17]/
佐藤傳藏④787[明42]/
佐藤天風（天風）①102明35.C/
①106明36.B/①107明36.C//
③116明35.F//④138明35.C/
④145明36.C/④146明36.C/
佐藤藤太①141明42.B/
佐藤得二①237大12.B/
佐藤塗山④205明43.B/
佐藤俊雄④536昭11.C/
佐藤富三郎④29明6.B/
佐藤直助④641昭17.A/
佐藤信衛①345昭7.B/
①361昭8.B//②274昭7.B//
③273昭8.E/③275昭9.B/
③300昭13.F//④517昭10.D/
④553昭12.B/④631昭16.B/
佐藤信淵①8［100］/
佐藤信綱④435昭5.D/
佐藤端彦④397昭2.D/
佐藤八郎①270大15.D/
佐藤春夫①299昭4.A//
③171大2.B/③186大3.D/
③189大4.B/③224大12.D/
③228大13.D/③236大15.D/
③260昭6.D/③292昭12.D//
④361大13.D/④397昭2.D/
佐藤弘②246大10.C//
④405昭3.C/
佐藤秀男②59昭12.C//
③281昭10.C/③296昭13.C//
④280大4.C/
佐藤兵藏③170明45.E/
佐藤某氏④351大12.B/
佐藤牧師④125明32.D/

Sato,M.④732[昭3]/
佐藤正彰④477昭8.D/
④617昭15.D/④618昭15.D/
④758[昭12]/④768[昭15]/
④777[昭19]/④795[19-]/
④807[昭17]/
佐藤正治（M.Sato）④738[昭5]/
④755[昭11]/④797[昭3]/
佐藤全弘①312昭5.A/
佐藤未足④37明12.C/
佐藤通二④795[大15]/
佐藤通次②116昭16.G/
②120昭17.B/②133昭18.B//
③292昭12.G//④544昭11.G/
④545昭11.G/④748[昭9]/
④808[昭19]/
佐藤迷羊①87明31.D//
③84明30.D/③89明31.C/
③89明31.D/③91明31.D/
③97明32.D/③98明32.E/
佐藤基②245大9.E/
佐藤雪夫④460昭7.D/
佐藤由巳夫②35昭11.B/
佐藤揺影④165明38.D/
佐藤良雄④467昭8.B/
④471昭8.C/④562昭11.B/
佐藤叔治③44明24.B/
佐藤義詮①381昭9.D//
②44昭11.D/
佐藤義亮①176大3.D/
①336昭6.D//④420昭4.D/
④433昭5.D/④445昭6.D/
佐藤芳三④564昭12.F/
雜華學人①111明37.B/
①116明37.D//
里脇淺二（次）郎②58昭12.B//
④550昭12.B/④551昭12.B/
讃井鐵男②22昭10.C/
②109昭16.C/②135昭18.C//
③281昭10.C/③321昭17.C/
③324昭18.C//④493昭9.C/
④633昭16.C/④634昭16.C/
④648昭17.C/④649昭17.C/
④667昭19.C/
眞田直見④319大7.D/
眞田永淸①132明40.B//
④206明43.B/
眞田幸憲④721[大11]/
佐成謙太郎④348大11.D/
讃井鐵男④771[昭17]/
實方正雄④480昭8.E/
實藤惠秀②105昭16.B/
實吉捷郎①357昭8.A//
②54昭12.B//④775[昭18]/
佐野朝男②262昭4.B/
②268昭6.B//④439昭6.B/
④452昭7.B/
佐野英造④368大14.B/
佐野一彦①378昭9.C//
②34昭11.B//④564昭13.A/
④599昭15.A/
佐野勝也①229大11.B/
①240大12.C/①268大15.C/
①375昭9.B//②16昭10.B/
②19昭10.B/②37昭11.B/
②92昭15.B//④365大14.B/
④379大15.C/④337大10.B/
④345大11.B/④477昭8.D/
④504昭10.B/④508昭10.B/
④511昭10.B/④525昭11.B/
④678[昭和]/④551昭12.B/
④756[昭11]/④759[昭12]/
④762[昭和]/
佐野如雪②238大3.B/
佐野成太郎①33明15.C/
佐野次郎③324昭18.D/
佐野利器②223明 38.D/
佐野尚（臥牛樓）②171明19.D//
③26明19.C/③237大15.D//
④65明19.D/
佐野文夫④228大1.B//
④244大2.B/
佐野學①213大8.E/①217大9.C/

①227大10.E/①228大11.A/
①252大14.A//③252昭5.B//
④343大11.A/
佐野安麿③30明21.B/
佐野利一①380昭9.C/
鯖江小漁③30明21.B//
④74明21.C/
佐原信雄②54昭12.B/
さみどり①175大3.C/
寒川入道③3［17488］/
佐村八郎①73明27.B//
③59明27.A/
鮫島晉②158昭12.F//
③19明15.E/
更級教育會④747[昭8]/
更級矢雄④43明14.C/
猿橋重雄①237大12.B/
左山貞雄④777[昭19]/
澤弋②51昭11.F/
澤鑑之丞③323昭18.A/
澤京次郎③268昭7.F/
佐波銀次郎④780[文久2]/
佐波亘③293昭12.G/
③300昭13.G/
澤井梵平④676［明6]/
澤内健③287昭11.D/
澤上漁夫④41明14.B/
澤木梢（四方吉）①142明42.B/
①179大4.A/①186大5.A/
①194大6.A/①198大6.D/
①212大8.D/①217大9.C/
①229大11.B/①271大15.D/
①281昭2.D/①308昭4.D/
①335昭6.D/①337昭6.D//
②124昭17.D/②231明43.B//
③195大5.A/③203大6.D/
③204大6.D/③208大7.D/
③209大8.A/③260昭6.D//
④284大5.A/④307大6.D/
④308大6.D/④309大6.D/
④319大7.D/④329大9.A/
④447昭6.D/④740[昭6]/
④799[昭6]/
澤木四方吉 → 澤木梢
澤崎堅造③312昭15.E//
④507昭14.E/④597昭14.E/
④620昭15.E/
澤田愛作②170明19.B/
澤田慶輔②53昭12.A/
②68昭13.A/
澤田謙［廉］①266大15.B/
①298昭3.F//④438昭6.B/
澤田吾一④732[昭3]/
澤田三郎②263昭4.D/
澤田氏 → 澤田謙
澤田清之輔②200明28.C/
澤田忠治④325大8.C/
澤田平三郎④40明14.B/
澤田藤十①165大2.C/
澤田直溫①27明11.C/
澤田謙［廉］①317昭5.C//
②117昭17.A//④409昭3.E/
④733[昭3]/④754[昭11]/
澤西健②84昭14.C/
澤野章之助①146明43.B/
澤野政太郎③124明36.D/
澤野祖天③114明35.C/
澤野忠庵①5［34］//④600昭15.A/
澤邊悌太郎②178明22.B/
②179明22.B/
澤水澄兄③213大9.D/
澤村五郎④368大14.C/
④798[昭5]/
澤村專太郎④461昭7.D/
澤村寅二郎①167大2.D/
①212大8.D/①218大9.D/
①220大10.A/①363昭8.C/
①365昭8.C//②262昭4.C//
③179大2.D/③191大4.B//
④268大3.D/④283大4.D/
④476昭8.C/④746[昭8]/
澤柳政太郎①59明24.B/
①141明42.A/①146明43.B//
③44明24.B/③47明25.A/

③48明25.A/③65明28.B/
③116明35.E/③155明43.B/
③212大9.B//④61明18.E/
④126明33.A/④176明40.B/
④182明41.A/④190明42.A/
④191明42.A/④502昭10.A/
④560昭12.D/④576昭13.D/
澤柳大五郎②136昭18.D//
③321昭17.D//④775[昭18]/
澤山保羅④709[明43]/
斬雲 → 薄田斬雲
三右衛門・壽庵(ジョゼッペ・キアラ、岡本三右衛門、ヂョセイフ三右衛門)
①5[33]/
殘花生 → 戸川殘花
三驚迂史 → 高見澤茂
山月子①65明25.B/
三才笹吉②263昭4.D/
賛止淨教③248昭4.B/
三而生①102明35.C/
山水④141明35.E/
山水曉明④449昭7.A/
三省堂[編輯部(所)]
①140明41.G/
①223大10.C/①256大14.C/
①277昭2.C//②31昭10.G/
②230明42.G/②233明44.G/
②241大5.F/②242大6.G/
②244大8.G/②248大11.G/
②250大12.G/②252大14.C/
②256大15.G/②261昭3.G/
②264昭4.G/②280昭8.G/
②287昭9.G//③40明23.B/
③153明42.G/③162明44.G/
③205大6.G/④170明39.C/
④198明42.C/④223明44.C/
④248大2.C/④298大5.G/
④339大10.C/④381大15.C/
④393昭2.C/④394昭2.C/
④787[明42]/④787[明44]/
④788[明45]/④790[19-]/
④793[大11]/④796[昭2]/
④800[昭8]/④804[昭12]/
④805[昭13]/④806[昭15]/
三省堂百科辭書編輯部
④449昭6.G/
三大寺活堂④366大14.B/
三丹子②220明 37.B/
山東生②185明23.D//
④98明26.D/
山東野人①68明26.B/
山王山下の木葉天狗
③23明18.D//④60明18.D/
斬風生④169明39.B/
三峰生①131明40.B/
參謀本部④684[明14]/
散木生②262昭4.B/
殘夢②200明28.B/
三餘學寮④182明40.G/
山六山人④230大1.B/
④241大2.B/
[し]C.H.生①51明22.B/
C.K.生①204大7.C/
G生④345大11.B/
G.D.生①101明35.B/
G.I.生④403昭3.B/
GU生③82明30.C/
爾庵②213明34.B/
椎崎法藏②11昭10.A/
椎名其二①245大13.B/
椎野銕太郎④710[明44]/
J.T.T.②227明41.A/
紫影①260大14.D//
④142明36.B/④371大14.D/
慈圓(愚管抄)④645昭17.B/
斯禹生①156明45.B/
鹽入龜輔①351昭7.D/
鹽入太輔(鹽太)④61明18.E/
④62明19.B/
鹽釜伊兵衛①117明37.F/
①129明39.F/
鹽釜天颪④709[明43]/
鹽釜白潮④166明39.A/

鹽崎玄仁④159明38.B/
鹽澤昌貞①227大10.E//
④218明44.B/
鹽澤孝寛④355大12.F/
鹽島仁吉①59明24.B/
①79明29.C/①90明32.C/
①94明33.C/①102明35.C/
①107明36.C//②233明44.E//
③52明25.E//④695[明25]/
鹽太 → 鹽入太輔
潮田江次④750[昭9]/
潮田教授④652昭17.E/
鹽田義秋④636昭16.D/
塩田良平④461昭7.D/
塩津貫一郎④782[明8]/
塩津誠作④448昭6.E/
鹽月倫④551昭12.B/
塩見薫④631昭16.B/
塩見エッサー④724[大13]/
塩見清④724[大13]/
鹽見森之助④757[昭12]/
鹽見高年①350昭7.C//
②79昭14.A/②95昭15.B/
②130昭18.A//③272昭8.D/
③311昭15.D/④600昭15.A/
④617昭15.D/④618昭15.D/
④624昭16.A/④633昭16.C/
④651昭17.D/④661昭18.C/
④665昭19.B/④670昭20.C/
鹽見孫太郎③248昭4.B//
志賀重昂①46明21.A/
①97明34.C/①138明41.C/
①263大15.A//②175明21.A//
③32明21.C/③94明32.C/
③161明44.C//④73明21.C/
④173明39.G/④182明41.A/
滋賀重利④810[19-]/
志賀重列①154明44.D//
④222明44.D/④238大1.D/
志賀矧川（矧川生）②201明28.D/
②202明29.C/②208明32.D/
志賀悌輔②252大14.D/
志賀英雄②81昭14.B/
④588昭14.B/
滋賀貞①143明42.C/
志賀勝②92昭15.A/
芝海漁客④34明11.C/
史學會②85昭14.C//
③303昭14.C//④270大3.G/
④581昭14.A/④582昭14.A/
④590昭14.C/④734[昭4]/
④763[昭14]/
史學研究會①175大3.C/
①177大3.D//④411昭4.A/
鹿田等②155明7.G/
鹿田文一郎①281昭2.D/
刺客略志①51明22.B/
志鎌一之②258昭2.E/
式部尚二①8［115］/
時雨③259昭6.C/③265昭7.C//
④443昭6.C/④456昭7.C/
茂義太郎④549昭12.B/
④555昭12.C/
重石祐三②164明16.E/
重岡薫五郎②201明28.E/
重越生③118明 36.B/
重田勘次郎①143明42.C/
①147明43.C/①148明43.C//
④209明43.C/
重田勘三郎④198明42.C/
思月生④91明25.B/
重德來助④331大9.B/
重德泗水①182大4.B/
①246大13.B/
重野威齋③123明36.C//
④41明14.B/
繁野天來（政璃→ 天來→ 天來歌客）
①80明29.D/①108明36.D/
①116明37.D//②53昭12.B/
②58昭12.B/②72昭13.B/
②220明37.D/②256昭2.B/
②257昭2.D/②259昭3.B/
②259昭3.C/②261昭4.A/

②261昭4.A/②262昭4.D/
②265昭5.B/②268昭6.B/
②270昭6.D/②274昭7.D/
②277昭8.B/②278昭8.D/
②279昭8.E//③130明37.D//
④75明21.E/112明29.D/
④146明36.D/④147明36.D/
④172明39.D/④266大3.D/
④419昭4.D/④421昭4.D/
④433昭5.D/④440昭6.B/
④549昭12.B/④702[明36]/
④736[昭4]/④743[昭7]/
④746[昭8]/④761[昭13]/
繁野政璃 → 繁野天來
重野安繹①101明35.C//
②180明22.D//③5明7.E//
④30明7.E/④110明29.B/
重久篤太郎①337昭6.D//
②24昭10.D/②111昭16.D//
③245昭3.D//④421昭4.D/
④446昭6.D/④447昭6.D/
④478昭8.D/④481昭9.A/
④634昭16.D/④635昭16.D/
④751[昭10]/④762[昭13]/
④776[昭18]/
重松俊章③203大6.C//
④624昭16.A/
思軒 → 森田思軒
思軒居士 → 森田思軒
宍倉保④214明44.B/
宍戸儀一①367昭8.D/
②12昭10.B//④774[昭17]/
宍戸義知①33明15.E//
③19明15.E//④49明15.E/
時々夢齋①11[180]/
時習軒主人④29明6.D/
自笑居士①50明22.B/
①63明25.B//④75明22.B/
四如軒④419昭4.D/
四條輝雄②255大15.E/
紫舟居士 → 桑原啓一, 金井啓一
時心子①113明37.B/
自信(不動)生③117明36.B/
③132明38.B/
靜村總②209明32.F/
鎭目眞一郎③42明23.E/
四聖堂④185明41.B//
至誠堂②240大4.G/②246大10.G/
②253大14.G//④272大4.B/
志田鉀太郎①140明41.G/
志田素琴③168明45.D/
志田麓③298昭13.D/
自他樂房①71明26.D/
下程勇吉④642昭17.A/
自談太 → 石龜福壽
持地六三郎②196明26.E/
自潮子④161明38.C/
七里公章②259昭3.B/
しづか①73明27.A/
志筑忠雄①7[81,91]/①8[113]//
③70明28.F//④23[24941]/
④24[24953]/④24[24957]/
④25[24994]/④320大7.F/
④578昭13.F/④777[昭18]/
實業之日本社①124明39.A//
②237大2.G//③137明39.A/
四手井綱正②133昭18.C/
幣原擔②251大14.B/
志津野又郎①126明39.B/
失名氏 → 内田魯庵
失名氏(中尾傘瀬)
①134明40.D//④245大2.B/
④441昭6.B/
頴原退藏④558昭12.D/
士戸久夫②270昭6.D/
兒童文學研究會④477昭8.D/
品田太吉①43明20.C/
①47明21.C//④691[明21]/
信濃太郎④53明16.C/
白念坊 → 大槻如電
篠井英夫②15昭10.B/
篠崎彰④655昭18.A/
篠崎敬親④452昭7.B/

篠崎長之②267昭5.F/
篠崎昌夫①327昭6.B/
①344昭7.B//④452昭7.B/
篠澤正②108昭16.B/
篠島勇吉④161明38.C/
篠田一人①289昭3.B//
④583昭14.B/④588昭14.B/
篠田周之④674[明治]/
④711[明45]/
篠田英雄④592昭14.D/
④595昭14.D/
篠遠喜人①324昭5.F//
②115昭16.F//③256昭5.F//
④640昭16.F/④654昭17.F/
篠原久介③316昭16.D/
篠原二郎④446昭6.D/
篠原助市①223大10.B/
①229大11.B/①230大11.B/
①234大11.G/①286昭3.B//
②30昭10.G/②78昭13.G/
②80昭14.B/②254大15.B//
③221大11.G//④452昭7.B/
④468昭8.B/④793[大12]/
篠原善太郎③282昭10.D/
篠原雄②90昭14.F/②102昭15.F/
②146昭19.F/
篠原無然④241大2.B/
篠原流泉①122明38.D//
④164明38.D/
しのぶ①52明22.C/①55明23.B/
志乃武①126明39.B//
③135明38.D//④162明38.C/
④164明38.D/
信夫淳平④673[明治]/
④701[明35]/
四宮兼之④604昭15.B/
四宮生③206大7.B/
志波一富④636昭16.D/
斯波淳六郎③38明22.E/
斯波生 → 斯波義慧
斯波義慧(斯波生)①289昭3.B/
①301昭4.B/①302昭4.B/
①315昭5.B/①327昭6.B//
②250大13.B/②265昭5.B//
③225大13.B/③226大13.B/
③234大15.B/③238昭2.B/
③240昭2.B/③244昭3.C/
③247昭4.B/③252昭5.B/
③295昭13.B//④666昭19.B/
④732[昭3]/
柴謙太郎④719[大8]/
司馬こう④70明20.D/
司馬江漢(無言道人)
①8[95,104,111,117]/
①9[139]/①12[230]//
④649昭17.D/④23[24949]/
④24[24950]/④24[24965]/
④24[24971]/④202明43.A/
④385大15.D/④464昭7.F/
④514昭10.C/④535昭11.C/
④572昭13.C/④672[文化]/
④692[明23]/④696[明27]/
④738[昭5]/④810[*]/
芝定詮④416昭4.C/
柴四朗 → 東海散士
司馬僧正④204明43.B/
柴東海 → 東海散士
司馬盈之 → 司馬凌海
司馬凌海[少博士, 盈之]
③4明5.G//④28明5.G/
④560昭12.D/④673[文久]/
④674[明1]/④675[明4,明5]/
④685[明15]/④701[明35]/
④704[明39]/④739[昭5]/
④746[昭8]/④772[昭17]/
司馬亨太郎④733[昭3]/
芝崎路可④456昭7.C/
柴田一能①87明31.E/
柴田勝衛①230大11.B//
④794[大13]/
柴田勝央④61明18.F/
柴田勝文①51明22.C/
柴田賢一②97昭15.C/
柴田甲四郎②279昭8.E/

②286昭9.E/
柴田治三郎②147昭20.D//
④540昭11.D/④577昭13.E/
新發田収藏(耘)[柴田収藏]
④672[嘉永]/④780[嘉永5]/
④780[安政2]/
柴田収藏→新發田収藏(耘)
芝田清吾④301大6.B/
柴田瞬太郎①286昭3.B/
柴田昌吉〔英和字彙〕①16明6.G/
①34明15.G/①39明18.G/
①41明19.G/①44明20.G/
①50明21.G//②155明6.G/
②162明15.G/②182明22.G//
③4明6.G/③18明14.G/
③19明15.G/③21明16.G/
③22明17.G/③25明18.G//
④751[昭10]/
柴田承桂③27明19.G//
④34明11.C/④54明16.G/
柴田親雄①230大11.C/
①363昭8.C//④394昭2.C/
柴田正章①41明19.G/
柴田資良④773[昭17]/
柴田六郎④68明20.C/
芝野六郎④163明38.D/
柴山英一①339昭6.D//
④555昭112.C//④596昭14.E/
④638昭16.E/
芝山正路④49明15.E/
柴山雄三郎④511昭10.C/
師範學校①16明7.C/
①26明11.C//
④677[明7,明8]/
④678[明9]/
④679[明9,明10]/
④680[明10]/④681[明11]/
④682[明12]/④683[明12]/
④683[明13]/
④684[明14,15]/
④685[明15,16]/
④686[明17]/④686[明18]/
④688[明19]/④788[18-]/
④789[18-]/④789[1-]/
師範大學講座編輯部
①343昭7.B/①346昭7.B/
時評子④180明40.D/
澁井羽化 → 澁江保
澁井二夫④373大14.F/
澁江保（幸福散史、羽化、羽化仙人、府南隠士）
①61明24.D/①62明24.D/
①71明26.D/①73明27.A/
①73明27.B/①79明29.C/
①89明32.C/①106明36.C/
①151明44.B//②161明15.E//
③123明36.C/③160明44.B//
④86明24.B/④93明25.D/
④94明26.A/④97明26.C/
④98明26.D/④99明27.B/
④178明40.C/④192明42.B/
④218明44.B/④473昭8.C/
④696[明27]/
澁川玄耳④708[明43]/
④714[大4]/
澁川驍④763[昭14]/
澁澤榮一④732[昭3]/
澁澤敬三④465昭8.A/
澁澤篤次郎④732[昭3]/
澁谷榮一④376大15.B/
④732[昭3]/
澁谷修④725[大13]/
澁谷治①228大11.A/
①235大12.A//④342大10.E/
④599昭15.A/④622昭15.F/
④651昭17.D/
澁谷清③227大13.D/
澁谷啓藏①23明10.B/
澁谷愷爾①38明18.E/
①52明22.E/
澁谷三郎②184明23.D/
澁谷正太郎④142明36.B/
澁谷義夫①223大10.B/
①230大11.B/①266大15.B/

史癖生③50明25.C/
司法省④54明16.G/
司法省藏板③12明10.E/
③14明11.E/
芝峯③135明38.D/
紫峰生②200明28.B/
島一德④29明6.D/
島影盟②92昭15.A/
島華水①223大10.C//
④295大5.D/
志滿山人④672[文政]/
嶋次三郎 → 島一德
島大藏②55昭12.B/
島爲男①255大14.B/
①265大15.B/①329昭6.B//
②254大15.B//③233大15.B/
島文次郎①86明31.C//
③217大11.A/
島滿翠①136明41.B/
島芳夫②94昭15.B/②108昭16.B/
②131昭18.B//④445昭6.C/
④474昭8.C/④657昭18.B/
島尾岩三郎④69明20.C/
島尾岩太郎④68明20.C/
島尾小彌太③30明21.B/
島尾子爵③40明23.B/
島尾政一①363昭8.C/
①364昭8.C/①381昭9.C//
②285昭9.C//④482昭9.A/
島尾得庵居士②173明20.B/
島崎藤村(春樹、無名氏)
①77明28.D/①80明29.D/
①84明30.D/①142明42.B/
①194大6.A/①201大7.A/
①216大9.B/①226大10.D/
①341昭7.A//③96明32.D/
③99明33.B/③205大7.A/
③224大12.D//④90明25.B/
④110明29.B/④189明41.D/
島崎春樹 → 島崎藤村
島嵜湊④68明20.C/
嶋田一郎③16明13.C/
島田謹二④497昭9.D/
④517昭10.D/④617昭15.D/
④748[昭9]/
島田啓三④800[昭8]/
島田耕一①139明41.D/
①191大5.D//④792[大5]/
島田三郎［英和和英字彙大全］
①27明11.E/①29明12.E/
①36明17.E/①48明21.C/
①83明30.C//②171明19.C/
②179明22.B/②195明26.C//
③25明18.G/③28明20.B/
③30明21.B/③36明22.C/
③46明24.D/③111明35.B/
③225大13.B/③229大14.B//
④37明12.E/④38明12.E/
④57明17.E/④62明19.A/
④66明19.G/④78明22.C/
④286大5.B/
島田徐行 → 島田弟丸
島田全④538昭11.D/
島田弟丸(徐行)②182明22.G/
②212明33.G/
島田武夫④398昭2.E/
島田武雄④559昭12.D/
島田胤則①15明5.G/
島田久吉①261大14.E/
①369昭8.E/①385昭9.E/
②20昭10.C//④513昭10.C/
④537昭11.C/
島田增平①182大4.C/
①204大7.C//③193大4.C//
④278大4.C/④279大4.C/
④293大5.C/④381大15.C/
④394昭2.C/
島田雄次郎①360昭8.B/
①383昭9.D//②75昭13.D/
②110昭16.C//③278昭9.D/
③292昭12.D/③295昭13.B/
③299昭13.D/③306昭14.D//
④546昭12.A/④551昭12.B/
④558昭12.D/④569昭13.B/

④572昭13.C/④594昭14.D/
④595昭14.D/④619昭15.D/
④631昭16.B/④761[昭13]/
④768[昭16]/④774[昭18]/
島(嶌)田豐①49明21.G//
②182明22.G/②189明24.G/
②193明25.G/②207明31.G/
②212明33.G/②221明37.G//
③39明22.G/③91明31.G//
④71明20.G/④104明27.G/
④118明30.G/④166明38.G/
島谷俊三④451昭7.B/
島地縮堂③5明7.D/③5明7.E/
③5明8.B/③6明8.C/
島地大等②229明42.B/
島地雷夢①157明45.B/
島地嘿雷②171明19.C/
島冨榮③206大7.B/
島津圭齋①10[161]/
島津傳道②225明39.B/
②232明44.B/②234明45.B/
島津久基①294昭3.D//
③324昭18.D//④296大5.D/
④729[昭2]/④731[昭3]/
④745[昭8]/④751[昭10]/
④754[昭11]/④802[昭10]/
島中翠湖③138明39.B/
嶋中雄作①332昭6.C/
①335昭6.D/④478昭8.D/
島原逸三②65昭12.E//
③212大9.B/④304大6.B/
④337大10.A/④353大12.C/
④368大14.B/④532昭11.B/
④563昭12.E/
島村嘉一①164大2.B/
①171大3.B/①173大3.B/
島村盛助(茎三)①147明43.C//
②52昭11.G//③156明43.C//
④203明43.B/④208明43.C/
④209明43.C/
島村瀧太郎 → 島村抱月
島村民藏①210大8.C/
①218大9.D/①223大10.C/
①240大12.C//②260昭3.D//
④250大2.D/④327大8.D/
④345大11.B/④358大13.B/
④462昭7.D/
島村茎三 → 島村盛助
島村抱月(瀧太郎、抱月(生))
①102明35.D/①103明35.D/
①128明39.D/①144明42.D/
①159明45.D/①160明45.[不明]/①170大3.B/
①174大3.C/①175大3.C/
①176大3.D/①180大4.B/
①210大8.C//②216明35.D/
②218明36.D/②233明44.D//
③84明30.D/③109明34.D/
③113明35.C/③130明37.D/
③136明38.D/③139明39.D/
③140明39.D/③141明39.D/
③144明40.D/③148明41.D/
③152明42.D/③183大3.B/
③184大3.C/③185大3.C/
③187大3.D/③193大4.C/
③200大5.D/③208大7.D/
③327明[不明]B//
④134明34.D/④147明36.D/
④156明37.D/④167明39.A/
④200明42.D/④211明43.D/
④240大2.A/④254大3.B/
④255大3.B/④265大3.C/
④266大3.C/④294大5.C/
④297大5.D/④301大6.B/
④407昭3.D/④495昭9.D/
④714[大4]/④790[1-]/
④791[大3]/
嶋(島)村利助①30明13.F//
③17明13.F/
島本愛之助①157明45.B/
①189大5.B/①209大8.B/
①210大8.B//④359大1.B/
④378大15.B/④388昭2.A/
島本大受②152[14536,14537]/

島本鳥歌②177明21.E/
清水④392昭2.C/
清水勇②270昭6.D//
③266昭7.D//④446昭6.D/
清水幾太郎①329昭6.B//
②36昭11.B/②115昭16.F//
④423昭4.E/④500昭9.E/
④529昭11.B/④580昭14.A/
④582昭14.A/④607昭15.B/
④640昭16.G/
清水市次郎①47明21.C//
④691[明21]/
清水市太郎④690[明20]/
④783[明23]/
清水一繼③267昭7.D//
④446昭6.D/
清水英一①272大15.F/
①355昭7.F//②102昭15.F/
②103昭15.F//④464昭7.F/
④480昭8.F/④481昭8.F/
④483昭9.B/④622昭15.F/
④806[昭15]/
清水喜一①385昭9.E//
④498昭9.E/
清水橘村①163大2.B//
②236大2.B//③171大2.B/
③180大3.B/③207大7.D/
③210大8.D/③216大10.D//
④241大2.B/
清水清④454昭7.B/④744[昭7]/
清水曉昇①196大6.B/
清水澄①140明41.G//
④182明40.G/
清水滋②258昭2.E/
清水如水④182明40.G/
④190明41.G/
清水二郎①291昭3.C/
①379昭9.C//②41昭11.C//
③286昭11.C/
清水純雄②183明23.B/
清水政二③326昭19.D/
清水宣②99昭15.D/
清水大樹①94明33.C/
清水泰次①204大7.C//
③207大7.C/
清水戴四郎④157明38.B/
④704[明38]/
清水孝敎②236大2.B//
③176大2.D/③177大2.D/
清水武②47昭11.E/
②139昭18.E//④471昭8.B/
④663昭18.E/
清水忠治③223大12.B/
清水藤八郎④753[昭10]/
清水直三郎①298昭3.F/
①301昭4.B/①311昭4.F//
②67昭12.F/
清水英夫①374昭9.B/
清水藤太郎①272大15.G/
①355昭7.F//②29昭10.F/
②128昭17.F//④464昭7.F/
④740[昭6]/
清水博④635昭16.D/
④648昭17.C/④653昭17.E/
④755[昭11]/
清水益溪③6明8.E/
清水友次郎①142明42.B/
①143明42.B//③74明29.B/
③117明36.B/③126明37.B//
④110明29.B/④191明42.B/
④193明42.B/
清水友輔④80明23.B/
清水正雄③250昭4.D//
④421昭4.D/
清水正己④724[大13]/
清水安三④416昭4.B/
④511昭10.B/
清水義樹②34昭11.B//
④532昭11.B//④549昭12.B/
④553昭12.B/④742[昭和]/
清水利一④514昭10.C/
思無耶④143明36.B/
四迷生④397昭2.D/
下位英一④434昭5.D/

下位春吉④308大6.D/
④632昭16.C/④646昭17.C/
④728[昭1]/
下里彌生④68明20.C/
下澤瑞世①215大9.B/
①325昭6.A//②239大4.B//
③208大8.A//④225大1.B/
④228大1.B/④257大3.B/
④264大3.C/④265大3.C/
④278大4.C/④282大4.D/
④300大6.B/④302大6.B/
④306大6.C/④311大7.A/
④312大7.B/④319大7.D/
④321大8.A/④323大8.B/
④326大8.C/④337大10.A/
④344大11.A/④350大12.A/
④356大13.A/④364大14.A/
④374大15.A/④381大15.C/
④450昭7.A/④451昭7.A/
④474昭8.C/
下條信敏④296大5.D/
下條正雄③109明34.D/
下條雄三②127昭17.E//
④636昭16/D/
霜田史光④490昭9.C/
下田次郎①104明36.B/
①252大14.A//②204明30.B/
②221明38.B//③82明30.B/
③118明36.B/③126明37.B/
③229大14.A//④110明29.B/
④173明39.G/④175明40.B/
④346大11.B/④510昭10.B/
④542昭11.E.④557昭12.C/
④573昭13.C/
霜田靜志①232大11.D/
下田理三郎④765[昭15]/
下田禮左④797[昭4]/
下地寛令④480昭8.E.
下出隼吉②256昭2.A/
②256昭2.B/
下中芳岳③140明39.D/
下中彌三郎④579昭13.G/
④730[昭2]/④796[昭3]/
下野哲四郎①169大3.B/
霜廼舍主人①116明37.D/
下村海南④501昭9.G/
④599昭14.A/
下村孝太郎①34明16.B/
④723[大正]/
下村寅太郎①387昭9.F//
②90昭14.F/②92昭15.A/
②102昭15.F/②108昭16.B/
②115昭16.F/②116昭16.F/
②129昭17.F/②140昭18.F/
②146昭19.F//③307昭14.F/
③318昭16.F//④464昭7.F/
④566昭13.B/④570昭13.B/
④577昭13.F/④583昭14.B/
④602昭15.B/④629昭16.B/
④639昭16.F/④640昭16.F/
④643昭17.B/④654昭17.F/
④669昭19.F/④681昭2.B/
④747[昭8]/④756[昭11]/
④762[昭13]/④765[昭14]/
④779[昭20]/④807[昭17]/
下村三四吉④761[昭13]/
④785[明35]/④786[明39]/
④787[明42]/
下村房次郎①39明19.B//
③11明10.B/
④737[昭5]/
下山寛一郎①51明22.C/
①56明23.C/①60明24.C/
①74明27.C/②184明23.C//
③41明23.C//④473昭8.C/
思問子④94明25.F/
謝衛樓①36明17.C/
赭丘生④338大10.B/
囁花生→ 赤司繁太郎
社會經濟史學會②109昭16.C/
社會思想社(改造社版)
①324昭5.G/①356昭7.G/
鵲巢①92明32.F/
寫眞版印刷所①87明31.D/

社陵碌郎②210明33.B/
洒落齋主人①57明23.D/
上海商務印書舘④342大10.G/
周再賜④355大12.B/
秀史生④330大9.B/④337大10.B/
首藤新藏④142明36.B/
④158明38.B/
周文哲④604昭15.B/
周洋生④314大7.B/
十千萬 → 尾崎紅葉
岫雲外史①70明26.C/
十一村生①159明45.D/
宗敎史實研究會④416昭4.C/
螽湖漁史 → 山縣五十雄
秋江 → 德田秋江
秋骨 → 戸川秋骨
十八公子 → 松居松葉
周六 → 黑岩涙香
壽岳文章［Jugaku,Bunsho］
①295昭3.D/①306昭4.C//
②92昭15.A//④419昭4.D/
④432昭5.D/④482昭9.A/
守隨憲治④649昭17.D/
主文舘編輯所④338大10.B/
叔桑生④127明33.B/
酒顚童子①232大11.D/
首藤新藏④699[明32]/
秀湖生③142明40.B/
秋骨 → 戸川秋骨
重山子①201大7.A/①203大7.B/
①206大7.D/
秋聲主人②173明20.C/
修文舘編輯部④785[明33]/
修文書院④690[明20]/
十二文學士③150明42.B/
嘯天生③72明29.B/
春烟小史 → 赤司新三郎
春煙小史 → 相良常雄
准淵生②183明23.B/
順記生④409昭3.D/
春桂生③42明23.D/
春畊野人②184明23.D/
春秋社①246大13.C/
①257大14.C/①286昭3.B/
①298昭3.G/①311昭4.F/
①340昭6.G/①356昭7.G//
②20昭10.C//④725[大13]/
春城學人 → 市島謙吉
春潮②218明36.D/
春汀③161明44.D/
春邨迂人 → 莊司秀鷹
春風社①15明5.G//③4明5.G//
④675[明4]/
春帆①91明32.D/
春陽堂②204明30.C//
④116明30.C/
春鈴生①175大3.C/
巡禮子②259昭3.C/
徐行 → 島田弟丸
如安道人④101明27.B/
如山學人④81明23.B/
④87明24.B/
如々庵②194明26.B/
如水生②219明37.B/
②221明38.B/
如風生③200大5.D/
笙 → 笙東生
庄又三郎④759[昭12]/
省庵居士 → 森田思軒
正印居士②190明25.B/
松筠居士④32明10.B/
蕉雨樓主人①170大3.B//
③184大3.B//④266大3.C/
松影山人①175大3.C/
硝煙外史①83明30.C/
小學生全集編輯部①286昭3.B/
①311昭4.F//④735[昭4]/
照顔道人④244大2.B/
照顔風簷主人③63明27.D/
③68明28.D/
省己遊人①16明6.D/
上宮太子 → 聖德太子
尚古出版社④791[大3]/
松湖漁史（山田郁治）

④48明15.D/④76明22.B/
尚今居士 → 矢田部良吉
松軒學人 → 笹川臨風(種郎)
書香會④806[昭15]/
彰考舘②152［14539］/
笑殺生③88明31.C/
丈山居士 → 草野宜隆
聖山生③171大2.B/
莊司華水④134明34.D/
小史公①56明23.C/
莊司秋次郎②236大2.B/
②237大2.F/②237大3.B/
②239大4.B/
莊司秋白①298昭3.F/
庄治淺水(喜藏)①305昭4.C/
①306昭4.C//②41昭11.C//
④437昭6.A/④445昭6.C/
庄治初郎①383昭9.D/
莊司秀鷹(春邨迂人)
②180明22.C/
庄治喜藏 → 庄治淺水
晶川④189明41.D/
松莊舘④28明2.G/
莊田文學士④166明39.A/
上智カトリック・インフォメーシオン④465昭8.A/
襄蜘生④113明29.D/
上智大學③312昭15.G/
③318昭16.G//④623昭15.G/
④669昭19.G/
上智大學外國語専修學校
②263昭4.D/②270昭6.D/
②275昭7.D/②278昭8.D/
上智室泉④292大5.C/
笙東生(笙)①188大5.B/
①211大8.D/
聖德太子(上宮太子)
②126昭17.E//④701[明36]/
④703[明38]/④719[大8]/
小楠 → 横井小楠
城南子①154明44.F//
③158明43.F/③162明44.F/
少年子①63明25.B/
少年通俗教育會①205大7.D//
④319大7.D/
莊の主人①112明37.B/
松柏隠士①46明21.B/
鐘美堂①107明36.D//
②231明43.G/
尚武①81明29.F/
嘯風子③96明32.D/
賞文舘②227明 40.G/
城北隠士④141明35.F/
蕉門隠士②191明25.D/
上毛山人④101明27.B/
笑門福集軒主人④225大1.B/
小羊子 → 奥泰資
小羊子 → 坪内逍遙
逍遙旅人 → 坪内逍遙
昭和高等商業學校②97昭15.C/
蜀山人 → 太田南畝
白井菊也④117明30.D/
白井光太郎①53明22.F/
①122明38.F/
白井俊明②115昭16.F//
④640昭16.F/
白井敬夫②249大12.E/
白井胤祿③150明42.B/
白井寅男①308昭4.D/
白井成允①162大2.B/
①180大4.B/①185大4.E/
①202大7.B/①359昭8.B//
④275大4.B/
白井政夫④677[明7]/
白井政民②258昭2.E/
白石早出雄②139昭18.F/
②140昭18.F//④563昭12.F/
④567昭13.B/
白石時康①36明17.E//
②164明16.E//④57明17.E/
白石直治②173明20.C/
白石喜之助④241大2.B/
④405昭3.C/
白川巖②128昭17.F//

④640昭16.F/④654昭17.F/
白河次郎①151明44.B/
白河龍太郎①163大2.B/
白川(河)鯉洋④214明44.B/
④219明44.B/
白川龍太郎④264大3.C/
白木不二雄②51昭11.F//
④543昭11.F/
白菊女史④102明27.B/
④105明28.B/
白杉庄一郎①368昭8.E/
白勢和一良③11明10.C/
白戸八郎④364大14.A/
白鳥庫吉①76明28.C/
①106明36.C//②109昭16.C/
②147昭20.B//③82明30.C/
③128明37.C/③129明37.C/
③136明38.D/③144明40.D/
③176大2.C/③192大4.C/
③195大4.G/③232大14.D/
③244昭3.C/③258昭6.C/
③259昭6.C/③265昭7.C/
③298昭13.D/③316昭16.C/
③326昭19.C//④283大4.G/
④305大6.C/
白鳥省吾①176大3.D//
③187大3.D//④268大3.D/
④727[昭1]/
白鳥宗司④738［昭5]/
白根孝之①313昭5.B/
①358昭8.B//②15昭10.B/
②32昭11.A/②33昭11.B/
②37昭11.B/②54昭12.B/
②56昭12.B/②94昭15.B/
②123昭17.C//④429昭5.B/
④508昭10.B/④551昭12.B/
④595昭14.D/④737[昭5]/
不知火生①84明30.D//
②204明30.C//③84明30.D/
調須磨②265昭5.B/
紫嵐④172明39.D/
志朗學人①60明24.C/
紫榔（生）①225大10.D//
④341大10.D/
白松南山③143明40.B/
③155明43.B//④708[明43]/
白柳秀湖③137明39.B/
白山俊齋②164明17.B/
城井悔庵③25明19.B/
城崎祥藏①294昭3.D/
①309昭4.D/
城田皓一①299昭4.A/
城谷謙④31明8.D/④686[明17]/
④690[明20]/
城月嘯郎①183大4.C/
白畑政子③267昭7.D/
城間正雄④810[19-]/
神貞三①131明40.B/
塵外④161明38.C/
新墾里子①321昭5.D/
新開長英①301昭4.B/
①314昭5.B/①333昭6.C/
①377昭9.B//②131昭18.B/
②265昭5.B//④604昭15.B/
④648昭17.C/
新カント派①260大14.E/
新敎出版社④681昭22.C/
信州松本公會信徒①30明13.C/
蜃氣樓主人④693[明 24]/
新宮誠二③7明9.B/
神宮敎院④104明27.E/
神宮德壽(Jungu,T.)
①248大13.D/
①259大14.D/①270大15.D/
①279昭2.D//②74昭13.D//
③190大4.B//④635昭16.D/
④758[昭12]/
新宮義正・新宮義健④673[安政]/
新宮涼園①39明18.G//
③24明18.G/③27明19.G//
④61明18.G/
新宮涼庭①11［182］/
新宿浪人④181明40.D/
新庄珠生④398昭2.E/

新庄嘉章①375昭9.B//
②80昭14.B//④585昭14.B/
新庄了應③180大3.B/
壬壬子④249大2.C
人生哲學研究會①253大14.B/
①254大14.B/①257大14.C//
④365大14.B/
新生堂編輯部②61昭12.D//
④554昭12.C/④557昭12.D/
④558昭12.D/④758[昭12]/
眞青年生④341大10.D/
矧川生 → 志賀矧川
新谷虎之助②62昭12.D/
壬丑④265大3.C/
新潮社①387昭9.G//④809[19-]/
新潮文庫②105昭16.B/
新獨逸國家大系刊行會
②109昭16.C//
④807[昭16]/
進藤健三①383昭9.D/
神藤才一④671[明治]/
④689[明治]/
進藤篤一②50昭11.F/
進藤よね③155明43.B/
③156明43.C/③157明43.D/
潯(濤?)傳生①287昭3.B/
①301昭4.B/①314昭5.B/
①327昭6.B/
新日本教文④790[19-]/
新日本圖書株式會社創立事務所
④668昭19.D/
椹野細溪④358大13.B/
新原洪奎④644昭17.B/
人文社編輯部④790[19-]/
深甫②232明44.B/②237大2.D/
神保格①279昭2.D/①321昭5.D/
①335昭6.D//③261昭7.A/
③262昭7.A//④795[19-]/
新保磐次①114明37.C//
④673[明治]/④704[明治]/
④785[明34]/④786[明36]/
④786[明39]/
神保謙吾④587昭14.B/
神保小虎④701[明35]/
新保德壽④176明40.B/
神保永夫③261昭6.D//
④435昭5.D/
神保規一③315昭16.C/
神保光太郎②44昭11.D/
②80昭14.B//③281昭10.B/
③287昭11.D/③298昭13.D/
③301昭14.B//④575昭13.D/
神武帝④715[大4]/
新村出①148明43.D/
①149明43.D/①150明44.A/
①153明44.D/①159明45.D/
①178大3.F/①179大4.A/
①192大5.D/①199大6.D/
①206大7.D/①225大10.D/
①232大11.D/①234大11.G/
①241大12.D/①260大14.D/
①267大15.B/①271大15.D/
①273昭2.A/①288昭3.B/
①293昭3.D/①294昭3.D/
①295昭3.D/①307昭4.D/
①309昭4.D/①322昭5.D/
①331昭6.B/①335昭6.D/
①351昭7.D/①357昭8.A/
①381昭9.D//②73昭13.D/
②126昭17.D/②135昭18.D/
②137昭18.D/②214明34.D/
②240大5.D/②241大6.D/
②252大14.D/②258昭2.F//
③110明34.D/③140明39.D/
③207大7.D/③232大14.D/
③233大15.B/③240昭2.B/
③243昭3.B/③244昭3.D/
③245昭3.D/③250昭4.D/
③277昭9.D/③282昭10.D/
③286昭11.D/③297昭13.D/
③304昭14.D/③305昭14.D/
③311昭15.D/③316昭16.D/
③324昭18.D/③327昭[不明]B/③328昭22//

④129明33.D/④134明34.D/
④180明40.D/182明40.G/
④210明43.D/④211明43.D/
④222明44.D/④237大1.D/
④238大1.D/④239大1.F/
④278大4.B/④282大4.D/
④288大5.B/④295大5.D/
④296大5.D/④297大5.D/
④307大6.D/④310大7.A/
④312大7.B/④318大7.D/
④323大8.B/④327昭8.D/
④329大9.A/④341大10.D
④343大11.A/④350大12.A/
④354大12.C/④355大12.F/
④356大13.A/④362大13.D/
④363大14.A/④369大14.C/
④371大14.D/④372大14.D/
④374大15.A/④381大15.C/
④383大15.D/④384大15.D/
④385大15.D/④389昭2.B/
④397昭2.D/④399昭2.F/
④399昭2.G/④399昭3.A/
④406昭3.C/④409昭3.D/
④411昭4.A/④412昭4.A/
④419昭4.D/④420昭4.D/
④424昭4.F/④426昭5.B/
④432昭5.D/④433昭5.D/
④437昭6.A/④438昭6.A/
④445昭6.D/④447昭6.D/
④451昭7.A/④462昭7.D/
④465昭7.G/④471昭8.C/
④473昭8.C/④477昭8.D/
④481昭9.A/④494昭9.D/
④495昭9.D/④496昭9.D/
④497昭9.D/④498昭9.D/
④501昭9.G/④501昭10.A/
④516昭10.D/④518昭10.D/
④521昭10.G/④522昭11.A/
④541昭11.D/④544昭11.F/
④544昭11.G/④545昭12.A/
④560昭12.D/④564昭12.F/
④564昭12.G/④573昭13.C.
④574昭13.D/④575昭13.D/
④576昭13.D/④591昭14.C/
④592昭14.D/④595昭14.D/
④598昭14.G/④619昭15.D/
④623昭16.A/④624昭16.A/
④625昭16.A/④626昭16.A/
④635昭16.D/④649昭17.D/
④650昭17.D/④651昭17.D/
④652昭17.D/④654昭17.F/
④654昭17.G/④662昭18.D/
④663昭18.D/④663昭18.F/
④670昭20.B/
④671[慶長]/④714[大4]/
④716[大5]/④722[大11]/
④727[昭1]/④732[昭3]/
④738[昭5]/④740[昭6]/
④746[昭8]/④757[昭12]/
④768[昭16]/④773[昭17]/
④778[昭19]/④779[昭20]/
④804[昭13]/④805[昭14]/
新村淳庵①25明10.F/
①30明13.F/
深明道人③3[17500]/
新明正道①226大10.E/
①234大11.E/①272大15.E/
①303昭4.B/①311昭4.E/
①359昭8.B/①362昭8.B/
①376昭9.B//②146昭19.G/
②258昭2.E//④343大11.A/
④349大11.E/④543昭11.E/
④598昭15.A/
申樂生①128明39.C/
親鸞[上人]④160明38.B/
④530昭11.B/
神力甚一郎②56昭12.B//
④550昭12.B/④568昭13.B/
④598昭15.A/
心理學研究會④245大2.B/
④330大9.A/
心靈不干子④123明32.B/
[す]垂宇學人③148明41.C/
醉雲居士④43明14.C/

翠化生④711[大2]/
翠堂彭④780[嘉永5]/
水鷄子④384大15.D/
翠子④291大5.C/
水西居士②174明20.E/
水仙女①175大3.C/
翠水①183大4.C//③198大5.C/
吹田順助(蘆風、虛風)
①164大2.B/
①183大4.D/①184大4.D/
①192大5.D/①198大6.D/
①248大13.D/①252大14.A/
①301昭4.B/①337昭6.D/
①352昭7.D//②46昭11.D/
②47昭11.D/②86昭14.D/
②95昭15.B/②100昭15.D/
②103昭16.A/②117昭17.A/
②130昭18.A/②130昭18.B/
②143昭19.C/②145昭19.D/
②242大7.B//③245昭3.D/
③305昭14.D/③317昭16.D/
③324昭18.D//④204明43.B/
④211明43.D/④268大3.D/
④282大4.D/④295大5.D/
④335大9.D/④337大10.B/
④354大12.D/④384大15.D/
④413昭4.B/④421昭4.D/
④435昭5.D/④448昭6.D/
④455昭7.B/④462昭7.D/
④546昭12.A/④574昭13.D/
④585昭14.B/④587昭14.B
④637昭16.D/④664昭19.A/
④741[昭6]/④749[昭9]/
④770[昭16]/④775[昭18]/
④795[大15]/④796[昭2]/
④803[昭12]/④805[昭14]/
④805[昭15]
吹田草牧③238昭2.A/
吹田虛風 → 吹田順助
吹田蘆風 → 吹田順助
水天生③58明26.D/
水木子④205明43.B/
翠嵐 → 藤田茂吉
翠嵐生(藤田茂吉?)④52明16.C/
翠陵 → 河上清
崇山堂④790[19-]/
末岡章④322大8.B/
末岡精一①58明23.E/
①62明24.E//②177明21.G/
末包留三良④541昭11.E/
末川博[博士]①261大14.E/
①297昭3.E/①311昭4.E/
①323昭5.E//②67昭12.G/
②78昭13.G//③300昭13.G/
③326昭19.E//④423昭4.E/
④544昭11.F/④577昭13.E/
末綱恕一②128昭17.F/
②146昭19.F//④669昭19.F/
末永祥守④25[24972]/
末廣巖太郎②287昭9.G/
末廣重恭(末廣鐵腸)
①29明12.D/
①29明13.A/①30明13.C/
①31明14.C/①33明15.C//
④61明18.E/④40明14.A/
④46明15.C/④47明15.C/
④718[大7]/
末廣鐵腸 → 末廣重恭
末松謙澄(青萍)[奨學品、奨學費]①19明8.C/
①31明14.D/①34明16.B/
①59明24.B/①80明29.D/
①168大2.E/①185大4.E/
①192大5.E/①199大6.E/
①206大7.E/①249大13.E/
①384昭9.E//②33昭11.B/
②173明20.B/②176明21.B/
②186明23.G/②190明25.B/
②226明40.A/②245大9.E/
②249大12.E//③5明8.A/
③6明8.C/③23明18.D/
③37明22.D/③42明23.G/
③48明25.B/③49明25.B/

③82明30.C/③144明40.D/
③194大4.E//④37明12.D/
④44明14.E/④48明15.D/
④51明16.B/④65明19.D/
④66明20.A/④67明20.B/
④85明23.G/④269大3.E/
④283大4.E/④297大5.E/
④298大5.E/④309大6.E/
④335大9.E/④473昭8.C/
④634昭16.C/④677[明8]/
④689[明19]/④720[大10]/
④752[昭10]/④759[昭12]/
末松生子②245大9.E/
②249大12.E/②253大14.E/
②255大15.E/②258昭2.E/
②263昭4.E/②267昭5.E//
④720[大10]/
末松青萍 → 末松謙澄
末吉悌吉④639昭16.F/
須賀女生④481昭9.A/
須賀精一①227大10.F/
①250大13.F/
須賀祐子③255昭5.D//
④434昭5.D/
菅井猗竹(菅井生)④159明38.B/
④167明39.B/④172明39.D/
④173明39.F/
菅井準一②30昭10.F/
②82昭14.B//④623昭15.F/
④654昭17.F/④741[昭6]/
菅井生 → 菅井猗竹
須貝清一④533昭11.C/
須貝正③190大4.B/③206大7.C//
④274大4.B/④301大6.B/
④317大7.C/④512昭10.C/
須貝止④548昭12.B/④730[昭2]/
④799[昭6]/
菅沼清次郎②226明40.B/
菅沼享④518昭10.D/
菅野德助①153明44.D/
菅野和太郎①296昭3.E/
菅原菊三④378大15.B/
④430昭5.B/④471昭8.B/
④597昭14.E/
菅原敎造(生)①197大6.C/
①207大7.F//③223大12.C//
④221明44.D/④297大5.D/
④308大6.D/④311大7.A/
④320大7.F/④325大8.C/
④326大8.C/④328大8.F/
④335大9.F/④349大11.E/
菅原數造③162明44.D/
菅原謙(憲)①257大14.C/
①297昭3.E/①312昭5.A/
①341昭7.A/①387昭9.F//
②261昭4.A/③246昭4.A//
④361大13.C/④406昭3.C/
④446昭6.D/④578昭13.F/
④734[昭4]/
菅原太郎②47昭11.D//
③255昭5.D/
菅原俊雄④788[明治初]/
菅原道眞④709[明43]/
巢鴨村人③198大5.C/
菅谷恒德④558昭12.D/
杉 → 杉勇
杉勇[杉、杉學士]①317昭5.C/
①333昭6.C/①360昭8.B/
①362昭8.C//②84昭14.C//
③235大15.C/③259昭6.C
③260昭6.D/③296昭13.C//
④430昭5.C/④556昭12.C/
④641昭17.A/④646昭17.C/
④806[昭15]/
杉基一②130昭18.A/
杉亨二①15明5.E/①17明7.E/
①18明8.C/①24明10.C/
①25明10.E/①82明30.C/
①86明31.B/①86明31.C/
①90明32.C/①94明33.C/
①104明36.A//②154明6.C/
②186明23.E/②204明30.C/
②206明31.C//③4明6.E/
③5明7.E/③15明12.E/

③82明30.C//④718[大7]/
杉象水④522昭11.A/
杉捷夫①293昭3.D/①325昭6.B//
②274昭7.B/②275昭7.D/
②285昭9.D//③320昭17.B//
④488昭9.B/④634昭16.C/
④772[昭17]/
杉正俊①302昭4.B/①344昭7.B/
杉井善雄②29昭10.F/
②128昭17.F/
杉浦儀一郎④353大12.C/
④357大13.B/
杉浦重剛①42明20.B/
①47明21.C/①47明21.C//
②44昭11.D/②178明22.B//
④71明20.G/④532昭11.B/
④542昭11.E/④553昭12.B/
杉浦四郎④518昭10.D/
椙浦善次④779[昭20]/
杉浦爲光④85明23.F/
杉浦貞二郎④290大5.B/
杉浦伯④253大2.G/
杉浦政康①177大3.D//
③176大2.C/
杉浦明平②123昭17.C//
③324昭18.D//④686昭23.D/
杉江輔人②175明21.A/
杉園喜代男④556昭12.C/
杉田潮④186明41.B/
杉田英一郎②61昭12.C//
④485昭9.B/④573昭13.C/
杉田龜久夫④766[昭15]/
杉田金四郎①84明30.E/
杉田金之助①92明32.E/
①95明33.E/①212大8.E/
①260大14.E//②27昭10.E/
杉田玄瑞①10［172］//
②162明16.B/②165明17.E/
杉田玄白（玄白）①6［65］/
①7［73］/①227大10.F//
④23[24938]/④24[24970]/
④201明43.A/④617昭15.D/
④619昭15.D/④686昭23.F/
④809[1-]/
杉田成卿①11［199］//
②152［14540,14541］//
④26[24998]/
杉田友英④571昭13.C/
杉田直樹②272昭6.F/
杉田平四郎①65明25.C/
杉田未來④372大14.D/
杉田元宜②140昭18.F/
杉田立④26[24998]/
杉田立卿②235明45.G//
杉田六一①257大14.C/
杉谷代水（虎藏）①141明42.B/
①142明42.B/①209大8.B//
②231明43.B//③151明42.B//
④147明36.D/④197明42.B/
④266大3.D/④393昭2.C/
④702[明36]/
杉谷虎藏 → 杉谷代水
杉葉榮重②64昭12.E/
杉原圭三①289昭3.B//
④474昭8.C/
杉原三郎④777[昭18]/
杉原文陣①18明8.C/
杉本厚①344昭7.B/
杉本勲④748[昭9]/④765[昭15]/
杉本淸胤②177明21.E//
③33明21.E//④66明19.E/
④688[明19]/
杉本光年④241大2.B/
杉本良吉②63昭12.D/
杉村一枝④498昭9.E/
④554昭12.C/
椙村居士①57明23.D/
杉村章三郎①384昭9.E/
杉村正治郎②60昭12.C//
④554昭12.C/④555昭12.C/
杉村楚人冠（楚人冠、楚特派）
①183大4.C/④182明41.A/
④270大4.A/④280大4.C/

杉森孝次郎①311昭4.G/
①324昭5.G/①355昭7.E//
②79昭14.A//④240大2.A/
④254大3.A/④415昭4.B/
④424昭4.G/④463昭7.E/
④542昭11.E/④594昭14.D/
壽喜家滿④40明14.B/
杉山②90昭14.F/
杉山元治郎（南海）④210明43.D/
杉山玄二①239大12.C/
杉山榮①315昭5.B/①353昭7.D//
④372大14.D/④375大15.A/
④518昭10.D/
杉山教授④653昭17.E/
杉山産七④462昭7.D/
杉山繁記①18明8.A/
杉山重範①136明41.B/
杉山重義①105明36.B//
③116明35.E//④82明23.B/
④87明24.B/④87明24.C/
④88明24.C/④94明26.B/
④128明33.C/④673[明治]/
④701[明35]/
杉山繁④34明11.C/④35明11.E/
杉山茂④401昭3.B/
杉山定香①236大12.B/
杉山泰山①146明43.B/
杉山玉朗④559昭12.D/
杉山親順④781[江戸後期]/
杉山忠二郎②205明30.E/
杉山藤次郎④690[明20]/
杉山直治郎②28昭10.E/
②254大15.A/
杉山南海 → 杉山元治郎
杉山藤次（治）郎①33明15.E//
④48明15.E/④52明16.C/
④53明16.E/④54明16.E/
杉山英樹②56昭12.B/
杉山文悟①42明20.B/
杉山平助④428昭5.B/
④649昭17.C/
杉山某③6明8.C/
杉山孫之助①148明43.D//
④708[明43]/
杉山雄一郎④766[昭15]/
杉山良保①132明40.B/
村主岩吉①209大8.B/
助川眞三①317昭5.C/
①332昭6.C//④430昭5.C/
④443昭6.C/
須郷佻太郎②262昭4.B/
菅生泰三④35明12.A/
④38明13.A/④682[明12]/
④686[明17]/
雛合鳥生④144明36.B/
須崎芳三郎④785[明32]/
諏澤太郎②275昭7.D/
②278昭8.D//④461昭7.D/
崇神天皇①145明43.A/
鈴置倉次（二）郎④68明20.C/
④69明20.C/
鈴鹿正一④183明41.B/
鈴木④649昭17.C/
鈴木④763[昭14]/
鈴木④789[1-]/
鈴木④809[1-]/
鈴木明子①322昭5.E/
鈴木章弘④477昭8.D/
鈴木哲④375大15.A/
鈴木章②146昭19.F/
鈴木厚①263大15.A/①371昭9.A/
④373大15.A/④481昭9.A/
鈴木衣水①70明26.C//
②196明26.E/
鈴木榮太郎④362大13.E/
鈴木榮之丞①18明8.C/
鈴木榮之亮②115昭16.F/
鈴木於菟平②280昭8.G/
鈴木一男②253大14.E/
鈴木規矩一①229大11.B/
鈴木清②105昭16.B//
③280昭10.B/
鈴木金次郎④690[明20]/
鈴木慧醇①24明10.E/

鈴木啓介④654昭17.F/
鈴木桂太郎④544昭11.G/
鈴木兼吉④720[大10]/
鈴木源四郎④710[明44]/
鈴木げん子①60明24.B/
鈴木券太郎①47明21.C/
①281昭2.D//②177明21.E/
②182明23.A//④436昭5.E/
④727[昭1]/
鈴木賢之進④484昭9.B/
鈴木康一③289昭12.B/
鈴木江淵④50明16.B/
鈴木口吉④379大15.C/
鈴木浩二④290大5.B/
④304大6.B/④315大7.B/
④588昭14.B/
鈴木弘太④32明10.B/
鈴木教授 → 鈴木權三郎
鈴木權三郎［教授］①303昭4.B/
①330昭6.B/①330昭6.B/
①363昭8.C/①364昭8.C/
①383昭9.D//②120昭17.B//
③276昭9.B//④455昭7.B/
④475昭8.C/④609昭15.C/
④649昭17.C/④743[昭7]/
④775[昭18]/
鈴木三郎②57昭12.B//
④381大15.C/
鈴木重夫①265大15.B//
④376大15.B/
鈴木重一③294昭13.B/
鈴木重武④754[昭11]/
④756[昭11]/
鈴木重貞①383昭9.D//
④491昭9.C/④497昭9.D/
④750[昭9]/
鈴木重陽①39明18.G/
①44明20.G/①45明20.G/
鈴木士求①47明21.C/
鱸正太郎①320昭5.D/
①330昭6.B/
鈴木鍬一①255大14.B/
鈴木習之①240大12.C//
④331大9.B/④347大11.C/
④350大12.A/④365大14.B/
④381大15.C/④383大15.D/
鈴木俊②41昭11.C/②121昭17.C/
②143昭19.C//③296昭13.C//
④533昭11.C/④535昭11.C/
④536昭11.C/
鈴木淳④392昭2.C/
鈴木春浦②220明37.D/
鈴木正三④76明22.B/
④95明26.B/④671[寛文]/
鈴木錠一郎①171大3.B/
鈴木錠太郎①230大11.C/
鈴木錠之助①229大11.B/
①231大11.C/①237大12.B/
①240大12.C/①247大13.C//
④473昭8.C/④345大11.B/
④713[大3]/④794[大12]/
鈴木二郎④407昭3.D/
鈴木純一郎①82明30.B/
①86明31.B/
鈴木信太郎①236大12.B//
②136昭18.D//③209大8.B//
④775[昭18]/
鈴木信六郎④323大8.B/
鈴木生④388昭2.A/④390昭2.B/
④393昭2.C/④397昭2.D/
鈴木青湲 → 鈴木常松
鈴木成高［歴史的國家の理念］
①291昭3.C/①306昭4.C/
①312昭5.A/①332昭6.C/
①332昭6.C/①334昭6.C/
①350昭7.C//②22昭10.C/
②55昭12.B/②60昭12.C/
②108昭16.C/②109昭16.C/
②117昭17.A/②123昭17.C/
②141昭19.A/②143昭19.C/
③309昭15.C/③310昭15.C/
③328昭22//④514昭10.C/
④515昭10.C/④572昭13.C/
④590昭14.C/④597昭14.E/

④613昭15.C/④614昭15.C/
④633昭16.C/④648昭17.C/
④653昭17.E/
鈴木關造④68明20.C/
鈴木善太郎①351昭7.D//
②104昭16.A/
鈴木宗言④76明22.B/
鈴木宗奕③157明43.D/
③172大2.B//④240大2.A/
鈴木大拙②206明31.D//
③109明34.D/③117明36.B/
③152明42.D/
鈴木泰平②133昭18.C/
鈴木敬信③283昭10.F/
鈴木武夫③255昭5.D/
鈴木健郎②277昭8.B/
鈴木正④593昭14.D/
鈴木唯一［彌堅外史。律例精義、
律例精義大意］①18明8.B/
①19明8.E/①22明9.E/
①28明12.B//②152明1.C/
②152明1.D/②253大14.E//
④27明1.D/
鈴木忠篤④46明15.B/
鈴木忠孝①47明21.C/
①54明23.B/
鈴木忠五②262昭4.B/
鈴木忠藏①16明6.B/
鈴木千代松④632昭16.B/
鈴木常吉②275昭7.E/
鈴木常松（青溪・散史）
①65明25.D/①87明31.D/
①91明32.D/①121明38.D/
①144明42.D//④124明32.D/
鈴木力①39明19.B/①42明20.B/
①43明20.B/①50明22.B//
③26明19.B/
鈴木恒彌②111昭16.D/
鈴木悌②224明 39.A/
鈴木禎二①198大6.D//
③193大4.D//④282大4.D/
④296大5.D/
鈴木貞次郎④678[明9]/
④685[明15]/
鈴木利貞④754[昭11]/
鈴木東馬③98明33.A/
鈴木德輔①34明16.D/
鈴木俊行①189大5.B//
③196大5.B/
鈴木俊郎④652昭17.D/
④762[昭13]/
鈴木富生④517昭10.D/
鈴木豐次郎①324昭5.F/
鈴木二浩④400昭3.A/
鈴木旗雄③217大10.E/
鈴木八郎①305昭4.C//
④422昭4.E/
鈴木初宣④447昭6.D/
鈴木玄孝①110明37.B/
鈴木弘②16昭10.B/②281昭9.B/
鈴木文治①177大3.E/
①261大14.E//②274昭7.B/
②284昭9.B/
鈴木文太郎④704[明38]/
鈴木正士①148明43.D//
④712[大2]/
鈴木正久③302昭14.B/
鈴木雅也②125昭17.D//
④649昭17.D/
鈴木三重吉④333大9.C/
④353大12.C/④392昭2.C/
④399昭2.F/④410昭3.F/
鈴木美代子④453昭7.B/
鈴木光武③276昭9.C/
③306昭14.E/
鈴木安藏④765[昭14]/
鈴木柔①17明7.C/
鈴木幸夫②75昭13.D/
鈴木康雄①239大12.C/
鈴木義男①339昭6.D//
④448昭6.E/④759[昭12]/
鈴木良德②30昭10.F/
②51昭11.F//④795[19-]/
鈴木義宗③14明11.E/

鈴木力衛④626昭16.A/
鈴木龍司①189大5.B/
①374昭9.B//④375大15.B/
鈴木龍六①48明21.D//
②191明25.D/
薄田泣菫③140明39.D//
④156明37.D/
薄田斬雲（斬雲）①187大5.B/
①190大5.C/①256大14.C/
①277昭2.C//③195大5.B/
③198大5.C/③199大5.C/
③200大5.D//④285大5.B/
④294大5.C/④369大14.C/
④379大15.C/
墨上漁史①26明11.A/
須田國太郎①382昭9.D//
③316昭16.D/
須田豐太郎①359昭8.B//
③295昭13.B/
須田道雄②35昭11.B/
春田能爲②251大14.A/
須田井(生) →須田井飛燕
須田井飛燕④273大4.B/
④285大5.B/④301大6.B/
④328大8.F/④341大10.D/
④358大13.B/④369大14.C/
④402昭3.B/
須藤鬼一④167明39.B/
須藤敎民④323大8.B/
④335大9.E/④338大10.B/
④411昭4.A/
須藤新吉①265大15.B//
④330大9.A/④715[大4]/
須藤助四郎④537昭11.C/
須藤飛雨④309大6.E/
須藤武一郎④478昭8.D/
須藤利一②128昭17.F/
②258昭2.F/
春藤與市郎①268大15.C/
①278昭2.C/①278昭2.C/
①349昭7.C//④407昭3.C/
首藤和四郎④156明37.E/
ストレイ・シイプ → 山本迷羊
捨井洗④395昭2.D/
須永克己①270大15.D/
①352昭7.D//②255大15.C/
砂崎宏①377昭9.B/
春原一勢④501昭9.G/
春原生(春原一勢?)④510昭10.B/
須磨子 → 永代靜雄
砂原茂一④664昭18.F/
角氏②162明16.B/
鷲見照雄②258昭2.E/
角英和④772[昭17]/
角英祐②124昭17.D/
角信雄②111昭16.D/
②252大14.D/
澄川深④517昭10.D/
澄子①222大10.B/
住田吉太郎④89明24.D/
墨田生 → 墨田庭泉
墨(隅)田庭泉④257大3.B/
④287大5.B/④301大6.B/
④323大8.B/④347大11.C/
④351大12.B/
隅田春雄（石渡春雄）
③209大8.B/
住田頼之④68明20.C/
すみのや杣人②256昭2.B/
住谷悦治①234大11.E/
①250大13.E/①339昭6.D//
④657昭18.B/④746[昭8]/
④748[昭9]/④765[昭14]/
④774[昭17]/
住谷天來（八朔）①144明42.D//
②210明33.C//③102明33.C/
③103明33.C/③109明34.D/
③117明36.B/③138明39.B/
③152明42.D/③257昭6.B//
④128明33.C/④196明42.B/
④199明42.D/④378大15.B/
④504昭10.B/
住谷八朔 →住谷天來
住谷穆②63昭12.D//

④358大13.B/
住谷牧師③227大13.D/
隅谷巳三郎③111明35.A/
住吉喬六①303昭4.B/
皇至道①344昭7.B/①358昭8.B//
②54昭12.B/②82昭14.B/
②131昭18.B//③264昭7.B/
③270昭8.B/③281昭10.B/
③285昭11.B/③289昭12.B/
③290昭12.B//④451昭7.B/
④452昭7.B/④508昭10.B/
④656昭18.B/④665昭19.B/
④809[昭19]/
春山育次郎②199明28.C/
須山一郎④273大4.B/
春山作衛④150明37.B/
春山作樹④479昭8.E/
④482昭9.A/④489昭9.B/
須山二郎(飛雨)④323大8.B/
④331大9.B/④345大11.B/
④349大11.F/④351大12.B/
④365昭14.B/
春山武松③216大10.D/
③219大11.D/
陶山務①293昭3.C./①316昭5.B/
①337昭6.D/①376昭9.B//
②24昭10.D/②33昭11.B/
②34昭11.B/②54昭12.B/
②80昭14.B/②93昭15.B/
②95昭15.B/②105昭16.B/
②281昭9.B//③276昭9.B//
④445昭6.D/④467昭8.B/
④469昭8.B/④470昭8.B/
④518昭10.D/④525昭11.B/
④549昭12.B/④583昭14.B/
④601昭15.B/④604昭15.B/
④607昭15.B/④627昭16.B/
④752[昭10]/④806[昭15]/
④807[昭16]/
須山飛雨 → 須山二郎
春山行夫④453昭7.B/
④461昭7.D/④497昭9.D/
諏訪熊太郎④443昭6.C/
諏訪德太郎②41昭11.C/
春和野④159明38.B/
駿臺隱士③111明35.A//
④135明35.A/
［せ］青鹿夢骨④140明35.D/
霽月堂主人 → 松尾音次郎
是空子①60明24.B/
瀬口子②195明26.D/
政一①223大10.C/
清蔭小史①130明40.B/
①136明41.B/
青雨 → 橋本青雨
青湲 → 鈴木常松
青湲散史 → 鈴木常松
靜淵生 → 布川靜淵
西海散史①70明26.C/
西海枝靜③72明29.B/
西海堂主人④93明25.D/
生活社③314昭16.B/
青眼生③133明38.C//
④169明39.B/
青眼少年②167明18.D/
青眼道人④151明37.B/
靜觀子①82明30.B/
靜觀堂主人③156明43.B/
正教會④46明15.C/
政教社出版部④672[明治]/
④689[明治]/
成蹊高等學校文化史年表研究會
①386昭9.F//③278昭9.F//
④750[昭9]/
青溪散史①47明21.D/
①65明25.D/①121明38.D/
西溪生③58明26.D/③63明27.D/
靜軒逸人(學人?)①71明26.C/
靜軒學人(逸人?)④107明28.B/
④115明30.B/
成光舘出版部④579昭13.G/
④750[昭9]/
星湖③143明40.B/
西光萬吉①261大14.E/

西山逸士①49明21.D/
青山居士②186明24.B/
聖山生③150明42.B//
④218明44.B/④339大10.B/
靜思生④276大4.B/④277大4.B/
④282大4.D/
淸修如電 → 大槻如電
聖書改譯委員④710[明44]/
聖書改譯委員社中④39明13.D/
聖書協會④789[1-]/
淸少納言③42明23.D/
靑々園①166大2.C//
②204明30.D//③175大2.C/
③177大2.D/
靑川②217明36.B/
靜汀①191大5.D/
西堂居士③32明21.D/
西東書房③125明36.G/
西南生②188明24.C/
靑年文學會の雜兵②187明24.C/
淸白①108明36.D/
靑楓④154明37.C/
誠文堂編輯部(所)①328昭6.B/
①340昭6.G/
靑萍 → 末松謙澄
靑峰④274大4.B/
西洋學人②166明18.B/
西洋史研究會②134昭18.C/
②135昭18.C//④659昭18.C/
④667昭19.C/
西洋史部會④590昭14.C/
西洋天狗②166明18.B/
晴嵐生③91明31.D/
靑笠小史①47明21.C/
靑龍軒雲岳①175大3.C/
靑陵生①158明45.C/
聖若瑟教育院④714[大3]/
世界樂社②23昭10.D/
世界戲曲全集刊行會
④416昭4.C/④460昭7.D/
④737[昭5]/
世界文庫刊行會①236大12.B/
世界歷史大辭典編輯委員會
④481昭8.G/
瀨川規一①321昭5.D/
瀨川三郎①371昭9.A//
②10昭10.A/②13昭10.B/
②35昭11.B/②51昭11.F/
②67昭12.F/②130昭18.A//
③221大12.A/③316昭16.D//
④751[昭10]/
背川生④212明43.E/
瀨川淺④59明18.C/④72明21.B/
④73明21.C/④74明21.D/
瀨川四郎④325大8.C/
瀨川博士 → 瀨川秀雄
瀨川秀雄[博士]①111明37.B/
①135明41.A/①139明41.C/
①147明43.C/①148明43.C/
①158明45.C/①182大4.C/
①190大5.C/①191大5.C/
①256大14.C/①268大15.C//
②20昭10.C/②124昭17.D/
②252大14.C//③129明37.C/
③143明40.C/③156明43.C/
③157明43.C/③199大5.C/
③235大15.C/③322昭17.D//
④154明37.C/④209明43.C/
④210明43.C/④236大1.C/
④293大5.C/④381大15.C/
④393昭2.C/④394昭2.C/
④458昭7.C/④793[大10]/
④797[昭3]/④797[昭4]/
④798[昭5]/④802[昭10]/
④803[昭12]/④804[昭13]/
④806[昭16]/④808[昭18]/
瀨川昌耆④58明17.F/
瀨川光行④71明20.E/
瀨川杢四郎②50昭11.E//
④525昭11.B/④542昭11.E/
瀨川賴太郎①304昭4.B//
④655昭17.G/
關榮吉①247大13.C//

②285昭9.C//④362大13.E/
④473昭8.C/
關榮三郎④188明41.C/
關一男④361大1.D/
關貫道④427昭5.B/
關貢米(くめ)④786[明37]/
關敬吾③281昭10.B/
關秀華①377昭9.B/
關信三郎④32明10.C/
關信三③13明11.C/
尺振八①53明22.G//
②161明15.E/②168明18.G/
②182明22.G//③22明17.G//
④38明13.B/④72明21.B/
關息定④31明9.C//④677[明8]/
④782[明8]/
關泰祐②112昭16.D//
③309昭15.B/③311昭15.D/
關竹三郎①187大5.B/
①188大5.B/①189大5.B//
③196大5.B/③197大5.B//
④289大5.B/④291大5.B/
瀬木健②277昭8.B/
關忠孝①269大15.D/
關常吉(哲王)④167明39.B
關哲夫④604昭15.B/
關哲王 → 關常吉
關直彦(橘郁居士)③21明16.E/
③21明17.B/③28明20.D/
③29明21.A/③32明21.D/
③33明21.E/③38明22.D//
④55明17.B/④685[明17]/
關如來③129明37.D/
③135明38.D/
關信男③17明14.C/
尺秀三郎④158明38.B/
④168明39.B/
關寛之①209大8.B//④326大8.C/
關衛①258大14.D//
③237大15.D//④477昭8.D/
④478昭8.D/
關未巳榮④473昭8.C/
關未代策①226大10.E/
①233大11.E/①296昭3.E//
②286昭9.E//④435昭5.E/
關保之助③158明43.D/
關與三郎④271大4.A/
關吉孝①17明7.G/
關露香④134明34.D/
釋尾秀一②258昭2.E/
磧川生①94明33.C//
②210明33.C//④128明33.C/
④473昭8.C/
隻眼子②224明39.B/
關口英太郎④801[昭9]/
關口榮④198明42.D/
關口十九郎④383大15.D/
關口俊吾②104昭16.A//
④625昭16.A/
關口存男①327昭6.B/
①335昭6.D/①336昭6.D/
①382昭9.D//②270昭6.D//
④741[昭和]/
關口登久彌②253大14.D/
石舟散人 → 幡泥散人
赤松子④51明16.B/
石城生①56明23.C/
石心生④115明30.B/
石心鐵腸子①48明21.D//
④690[明20]/
磧々子②223明38.D/
積善舘編輯所④796[昭2]/
積田俊夫④637昭16.D/
關戸嘉光②142昭19.B/
關藤成緒①32明14.F/
③38明18.C/①47明21.C//
③22明17.C/③23明18.C//
④48明15.D/
關根政路④54明17.A/
關根文之助④747[昭8]/
④760[昭13]/④778[昭19]/
④791[19-]/
關根秀雄①271大15.D//
②16昭10.B/②26昭10.D/

②34昭11.B/②37昭11.B/
②46昭11.D/②54昭12.B/
②80昭14.B/②141昭19.B//
③303昭14.B/③320昭17.B//
④420昭4.D/④488昭9.B/
④504昭10.B/④511昭10.B/
④525昭11.B/④529昭11.B/
④531昭11.B/④532昭11.B/
④552昭12.B/④553昭12.B/
④585昭14.B/④587昭14.B/
④588昭14.B/④603昭15.B/
④670昭20.B/④772[昭17]/
④778[昭19]/
關根正直①149明43.D//
③52明25.D/③241昭2.D//
④726[大14]/④728[昭1]/
④789[1-]/④790[1-]/
關根元哉③47明24.E/
關野貞①321昭5.D//
③115明35.D/
關野紀稔④559昭12.D/
關場不二彦①369昭8.F//
④480昭8.F/④693[明23]/
關谷謹之助①330昭6.B/
②16昭10.B/②19昭10.B//
③253昭5.B//④441昭6.B/
④455昭7.B/
關谷鹽之助②265昭5.B/
關谷書店④512昭10.C/
關谷正美①366昭8.D/
關屋光彦③279昭10.B/
③280昭10.B/
關山富④126明33.B/
④135明35.B/
石樂道人②202明29.D/
赤龍散人③83明30.D/
世古成④680[明10]/
④782[明10]/
瀨田峨(峩)谷④361大13.C/
④424昭4.F/
勢多左武郎③200大5.E/
世田三郎③286昭11.C/
世田雄一②51昭11.F/
石華先生 → 石華陳人
石華陳人[先生]②186明23.F//
③20明16.D/
石冠生②191明25.C/
雪庵學人②202明29.B/
②203明29.D/
咄堂 → 加藤咄堂(熊一郎)
Z.N.生④216明44.B/
雪嶺閑人 → 三宅雪嶺
瀨戸山太郎太①359昭8.B/
錢希明子(遠甫)④780[寛政8]/
瀨沼茂樹①350昭7.D/
①358昭8.B//④475昭8.C/
瀨沼夏葉③148明41.D//
④135明35.B/
妹尾韶夫①266大15.B//
④777[昭19]/
瀨之口隆敬④29明6.G/
瀨下良夫④593昭14.D/
瀨谷正二①30明13.C/
征矢野晃雄①187大5.B/
①195大6.B/①196大6.B/
①301昭4.B/①376昭9.B//
③190大4.B/③197大5.B/
③205大7.B/③218大11.B/
③248昭4.B/③253昭5.B//
④290大5.B/④337大10.B/
④376大15.B/④389昭2.B/
④416昭4.B/④428昭5.B/
世良晃志郎②126昭17.E/
②127昭17.E/②128昭17.E//
④653昭17.E/④684昭23.C/
世良壽男④358大13.B/
世良田進④248大2.C/
世良田良①83明30.C/
芹澤常三④516昭10.D/
芹野④571昭13.C/④574昭13.C/
④608昭15.B/
芹野與太郎④553昭12.B/
善德纂④634昭16.D/
蟾魄生④263大3.C/

千賀彰①382昭9.D//
②112昭16.D//④637昭16.D/
千賀鶴太郎①33明15.B/
①33明15.D/①226大10.E/
①233大11.E/①241大12.E/
扇玉閲雄④678[昭和]/
千家元麿④508昭10.B/
巽軒會④739[昭6]/
善賢寺徹吉④278大4.C/
千石喜文②273昭7.B/
全國教育圖書④790[19-]/
千山萬水樓主人③61明27.C/
專修學校③25明19.A/
③27明20.A/③31明21.C/
③48明25.A/
專修學校生徒④686[明17]/
淺水 → 庄治淺水
淺水生(庄治淺水?)③37明22.D/
然々否々生④285大5.A/
④290大5.B/④303大6.B/
④306大6.C/
千田是也④541昭11.D/
④593昭14.D/
千田時次郎④119明31.B/
千田萱夫①210大8.B/
仙臺名士④111明29.B/
千谷利三④762[昭13]/
千朶木屋主①118明38.B/
千朶書屋主③132明38.B/
③136明38.D/
千八 → 森林太郎(鷗外)
船峰生①147明43.B/
善魔の子有美 → 青柳猛(有美)
千里生④143明36.B/
洗麟①91明32.D/
潛龍生①77明28.E/
[そ]曹圭善④435昭5.D/
桑陰外史②187明24.B/
草雲雀①116明37.D/
蒼涯生①56明23.D//
②165明17.B//③38明22.D/
藪柑子④201明43.A/
叢菊野史 → 仁田桂次郎
曹圭善③261昭6.D/
草月生①146明43.B/
創元社編輯部①262 大14.G/
蒼古子①377昭9.C/
捜虎野史④101明27.B/
艸豪生③29明20.E/
藪紫影④164明38.D/
痩松學人②168明18.D/
漱石 → 夏目漱石
帚雪山人④179明40.C/
痩々亭骨皮道人④693[明24]/
左右田一平(生)④362大13.D/
④410昭3.E/
左右田喜一郎④793[大9]/
左右田生 → 左右田一平
早大出版部④393昭2.C/
蒼瓶④211明43.D/
藏風子 → 内田魯庵
相馬明次郎①239大12.C//
④168明39.B/
相馬御風①116明37.D/
①176大3.D/①180大4.B/
①181大4.B/①182大4.B/
①224大10.D//③197大5.B//
④155明37.D/④182明41.A/
④717[大5]/
相馬氏④653昭17.E/
相馬昌治④240大2.A/
④254大3.A/
相馬生 → 相馬祐次
相馬泰三④279大4.C/
④280大4.C/④792[大6]/
相馬勇二④298大5.E/
相馬祐次(生)④339大10.B/
④352大12.B/④359大13.B/
④372大14.D/④382大15.C/
④394昭2.C/④397昭2.D/
④532昭11.B/
竈馬樓①369昭8.F/①387昭9.F/
桑里①95明34.A/
滄浪堂主人④151明37.B/

副島義一①140明41.E/
①241大12.E//②272昭6.E//
④223明44.E/
副島種臣④46明15.B/
副島民雄①302昭4.B/
①328昭6.B/①373昭9.B//
②34昭11.B/②35昭11.B/
②79昭14.B/②82昭14.B/
②94昭15.B/②106昭16.B/
②130昭18.B/②131昭18.B/
②256昭2.B/②273昭7.B//
③269昭8.B/③274昭9.B/
③279昭10.B/③285昭11.B/
添田壽一①49明21.E//
③47明24.E//④50明16.B/
曾我廼家五郎(和田久一)
④725[大14]/
曾我休自①6［38］/
曾我兄弟④708[明42]/
曾我重郎④471昭8.C/
素岳②222明 38.C/
曾木銀次郎④177明40.B/
④277大4.B/④304大6.B/
素行軒主人①97明34.B/
①101明35.B/
素軒逸史 → 村田勤
素軒［學人］ → 村田勤
十河佑（祐）貞①381昭9.C//
②22昭10.C/②43昭11.C/
②110昭16.C/②144昭19.C//
④632昭16.C/④667昭19.C/
素山①86明31.C//③88明31.C/
曾山生④168明39.B/
④208明43.C/④307大6.D/
④501昭10.A/
素人①194大6.A/①226大10.D/
楚人冠 → 杉村楚人冠
咀眞堂主人④55明17.B/
曾水漁民（→ 曾水生?）
②206明31.C/
曾水生①85明31.A//
②206明31.C/②210明33.C/
蘇泉生③150明42.B/
速記競技會員④156明38.A/
速記社社員②201明28.E/
②202明29.B/②203明29.E/
②205明30.E//④707[明41]/
其笑・瑞笑④671［寶曆］/
曾堂④181明40.D/
楚特派→ 杉村楚人冠
外松謙④105明28.B/
④697[明28]/
蘇内學人④59明18.B/
曾根暁彦④608昭15.C/
曾根一郎③238昭2.B/
曾禰達藏①60明24.C/
曾根廣①290昭3.C/
薗川四郎①287昭3.B/
①341昭7.A//④361大13.D/
④376大15.B/④378大15.B/
④392昭2.B/④442昭6.B/
園田英一①304昭4.B/
薗田香勳②111昭16.D/
②263昭4.D//④640昭17.A/
④732[昭3]/
薗田香助（勳?）①342昭7.B
園田重賢④195明42.B/
④196明42.B/④198明42.C/
薗田宗惠②190明25.B/
②194明26.B//③204大6.D/
園田庸次郎①239大12.C/
園部五郎②124昭17.D/
園部三郎④649昭17.D/
曾槃②152［14538］/
蘇峯（峰）生 → 德冨健次郎
詛風生 → 稻毛詛風（金七）
杣人②260昭3.C/
ソヴェート文學研究會
①320昭5.D/①335昭6.D/
それ雅史④149明37.B/
曾呂利新左衛門④364大14.B/
④705[明40]/
孫明絃④526昭11.B/
存崖居士③29明21.B/

巽軒 → 井上哲次郎
遜堂逸史②173明20.C/
［た］た、ち生④101明27.B/
臺尚通③13明11.A/③14明11.E/
臺凌雲④297大5.D/
第一高等學校③31明21.C/
③32明21.D/
第一高等學校文藝部
④295大5.D/
第一書房編輯部②129昭17.G/
大英國北英國聖書會社
④155明37.D/④318大7.D/
④382大15.D/④703[明37]/
④704[明38]/④793[大11]/
大英國聖書會社④684[明14]/
④685[明15]/④788[明治期]/
④793[大10]/
大華山人①59明24.B/
大塊生 → 森田思軒
大學々生②204明30.D/
大學評論社①203大7.B/
大觀樓主人②218明36.B/
大魚生②217明35.D/
耐軒居士④81明23.B/
泰治③175大2.C/
大洲 → 菅野虎太
大修舘②264昭4.G/
大條虎介②178明22.B/
大進社①157明45.C/
代水 → 杉谷代水（虎藏）
袋惠須生④182明40.F/
大中書局④790[19-]/
大成龍雄②260昭3.D/
泰西人九慮③3明5.B/
泰西人某③3明5.B/
太拙居士③21明16.E/
大俗中樓主人②252大14.D/
大童信三①346昭7.B/
大道百夫②257昭2.D/
大東出版社①357昭8.A//
②124昭17.D/②130昭18.A/
②136昭18.D/②137昭18.D/
大東亞文化協會②119昭17.B/
②121昭17.C//④643昭17.B/
④646昭17.C/
大燈閣編輯部④349大11.G/
大東生④399昭3.A/
大東萍士 → 土田泰藏
大日本學術協會②33昭11.B//
③285昭11.B//④426昭5.B/
大日本教育會④105明28.B/
大日本聖書舘④124明32.D/
④125明32.D/④129明33.D/
④133明34.D/④139明35.D/
④146明36.D/④696[明27]/
④698[明30]/④699[明32]/
④700[明34]/
大日本體育協會②51昭11.F//
④543昭11.F/④754[昭11]/
④806[昭15]/
大日本帝國陸地測量部
④790[19-]/
大日本圖書會社
（Dai-Nippon-Tosho-Kwaisha）
④791[大3]/④796[昭2]/
大日本百科辭書編輯局（部）
①123明38.G/①149明43.G/
①154明44.G/①242大12.G//
④212明43.G/
大日本文學會④753[昭10]/
大日本文明協會①148明43.D/
①159明45.D/①169大3.B/
①172大3.B/①180大4.B/
①182大4.B/①187大5.B/
①208大8.A/①221大10.B/
①226大10.E/①235大12.A/
①236大12.B/①245大13.B//
③154明43.B/③191大4.B/
③194大4.D//④219明44.B/
④274大.B/④274大4.B/
④280大4.D/④291大5.B/
④711[大2]/④715[大4]/
④791[大1]/
大日本雄辨會①191大5.C/

①196大6.C/②11昭10.B//
④265大3.C/④305大6.C/
第二早稻田高等學院歷史科
②121昭17.C/
臺北帝國大學理農學部附屬植物園
④747[昭8]/
大尾②157明10.C/
大夢居士③56明26.C/
太陽出版社編輯局④725[大13]/
平貞藏①384昭9.E/①386昭9.E/
大陸文化研究會④775[昭18]/
臺麓學人 → 森林太郎（鷗外）
大麓居士 → 菊池大麓
岱麓樵夫 → 乘竹孝太郎
臺灣總督府殖産局②50昭11.F/
田尾一一②273昭7.B/
田岡嶺雲②201明28.D/
②202明29.C//③133明38.C//
④117明30.D/④162明38.C/
④168明39.B/
多惠文雄①248大13.D/
多賀瑞心②13昭10.B/
②141昭19.B/②142昭19.B//
③326昭19.B//④665昭19.B/
多賀幹彦④616昭15.C/
多賀義憲②140昭18.F//
④777[昭18]/
多賀善彦②97昭15.C//
③309昭15.C//④621昭15.E/
④622昭15.E/④767[昭15]/
高井篤①276昭2.B/
高井俊①26明11.A/①27明11.C//
④43明14.C/④46明15.B/
④47明15.C/
高井清一④328大8.G/
高井俊郎①23明10.A/
高石眞五郎④411昭4.A/
高市慶雄③244昭3.C/
④379大15.C/④388昭2.A/
④414昭4.B/④673[明治]/
④799[昭6]/
高尾國男④384大15.D/
高尾常磐①154明44.E/
①159明45.E//③179大2.E/
高岡今平④511昭10.C/
高沖陽造①362昭8.B/
①374昭9.B/①383昭9.D//
②12昭10.B/②15昭10.B/
②16昭10.B/②20昭10.B/
②24昭10.D/②25昭10.D/
②44昭11.D/②47昭11.D/
②63昭12.D/②137昭18.E/
②278昭8.D/②279昭8.D/
②286昭9.D//④489昭9.B/
④496昭9.D/④508昭10.B/
④509昭10.B/④510昭10.B/
④511昭10.B/④517昭10.D/
④518昭10.D/④559昭12.D/
④576昭13.D/④753[昭10]/
高垣勳次郎①256大14.C//
④382大15.C/
高木伊作①71明26.D/
①71明26.D//②195明26.D//
③58明26.D/
高城運七④386大15.G/
高木菊三郎④732[昭3]/
高木耕三④760[昭12]/
高木貞男④650昭17.D/
高木繁孝④635昭16.D/
高木壽一①242大12.E/
高木秋浦④68明20.C/
高木俊一①110明37.B/
高木眞助②97昭15.C/
高木甚平②207明31.G/
高木怡莊④680[明10]/
④683[明12]/
高木武④732[昭3]/
高木武夫①355昭7.F/
高木武之介①347昭7.C//
④457昭7.C/
高木敏雄①110明37.B/
①159明45.D/①169大3.A/
①176大3.D/①254大14.B/

①259大14.D/①275昭2.B//
②234明45.B//③179大3.A/
③230大14.B//④122明32.B/
④134明34.D/④136明35.B/
④142明36.B/④150明37.B/
④238大1.D/④253大3.A/
④268大3.D/④698[明30]/
④702[明37]/④711[大1,2]/
④716[大5]/④717[大6]/
④726[大14]/④729[昭2]/
高木豐三④57明17.E/
高木友三郎②97昭15.C/
高木壬太郎①147明43.B/
①157明45.B//③160明44.B//
④144明36.B/④183明41.B/
④186明41.B/④223明44.G/
④227大1.B/④254大3.A/
④501昭9.G/
高木暢哉②126昭17.E/
②139昭18.E//③325昭18.E//
④663昭18.E/
高木八太郎①255大14.B/
①373昭9.B//④364大14.B/
高木斐川①179大4.B/
①185大4.F//④373大14.G/
④386大15.G/
高木元豁④738[昭5]/
高木佑一郎②141昭19.A/
高木慶雄①351昭7.D//
②274昭7.C//③259昭6.C//
④514昭10.C/
田垣壽平①112明37.B/
高楠順次郎①87明31.D/
①93明33.B/①97明34.B/
①99明35.B/①100明35.B/
①114明37.C/①116明37.D/
①155明45.B/①167大2.D/
①170大3.B//②129昭17.F/
②209明33.B/②211明33.G/
②214明34.D/②216明35.D/
②220明37.B/②223明38.G/
②225明40.A//③107明34.B/
③110明34.D/③113明35.B/
③171大2.A/③178大2.D/
③195大4.G/③309昭15.B//
④131明34.B/④139明35.C/
④143明36.B/④148明36.D/
④266大3.D/④283大4.G/
④467昭8.B/④496昭9.D/
高倉輝（テル）①216大9.B//
④565昭13.A/
高倉テル → 高倉輝
高倉德太郎④363大14.A/
④525昭11.B/
高桑芋仙 → 高桑駒吉
高桑駒吉（芋仙）[文學士]
①106明36.C/①114明37.C/
①122明38.E/①133明40.C/
①138明41.C/①139明41.C/
①239大12.C/①277昭2.C//
②252大14.C//③94明32.C/
③108明34.C/③114明35.C/
③143明40.C/③168明45.C/
③210大8.C/③235大15.C/
④145明36.C/④154明37.C/
④178明40.C/④179明40.C/
④188明41.C/④193明42.B/
④210明43.C/④220明44.C/
④235大1.C/④271大4.A/
④342大10.D/④787[明42]/
高桑純夫①328昭6.B/
①344昭7.B/①373昭9.B//
②105昭16.B/②269昭6.B//
③257昭6.B/③280昭10.B/
③320昭17.B/③323昭18.B//
④440昭6.B/④504昭10.B/
④507昭10.B/④602昭15.B/
④627昭16.B/④629昭16.B/
④631昭16.B/④643昭17.B/
④644昭17.B/④645昭17.B/
④657昭18.B/④658昭18.B/
④659昭18.B/④665昭19.B/
④803[昭11]/
たか子③198大5.C/

高崎能樹④360大13.C/
高崎力造④479昭8.E/
高里良恭①284昭3.A/
①375昭9.B//③275昭9.B/
高階順治①316昭5.B//
②80昭14.B//③289昭12.B/
③322昭17.F//④426昭5.B/
④654昭17.F/
高階哲三①202大7.B/
高階柳蔭④155明37.D/
④702[明37]/④704[明38]/
高柴金一郎①148明43.C/
高島敦④26[25010]/
高島華宵③241昭2.D//
④384大15.D/④397昭2.D/
高島恭之助①272大15.F/
高島祐啓④673[慶應]/
高島佐一①282昭2.E/
高島善哉②145昭19.E/
高島得三④94明26.A/
高島北海④784[明26]/
高島平三郎①131明40.B/
①160明45.［不明］/
①264大15.B//②226明40.B//
③131明37.F/③141明39.F/
③162明44.D/③208大7.F//
④137明35.B/④156明37.F/
④205明43.B/④214明44.B/
④218明44.B/④222明44.D/
④238大1.D/④247大2.B/
④322大8.B/④324大8.D/
④325大8.B/④397昭2.D/
④412昭4.A/④483昭9.B/
④510昭10.B/④587昭14.B/
④598昭14.F/④674[明治]/
④704[明治]/
高島米峰（峯）①151明44.B//
②236大2.B//③253昭5.B/
高島政雄④512昭10.C/
高須五湖①62明24.E/
高須梅溪（芳次郎、梅溪生）
①146明43.B/①183大4.C/
①224大10.D/①382昭9.D//
④131明34.B/④133明34.D/
④134明34.D/④146明36.C/
④147明36.D/④175明40.B/
④530昭11.B/
高須治輔②174明20.D//
②203明29.G/
高須鶴三郎③315昭16.B//
④577昭13.F/
高須芳次郎 → 高須梅溪
高杉燜④509昭10.B/
高杉三郎③286昭11.C/
高椙（杉）東一①50明21.G//
②177明21.G/
高瀬重雄①371昭9.A//
④481昭9.A/
高瀬慎吾④763[昭14]/]
高瀬俊郎④307大6.D/
高瀬久太郎②131昭18.B/
高瀬無絃④394昭2.C/
④727[大/昭]/
高田堯夫②121昭17.C/
高田修②270昭6.D//③260昭6.D/
③272昭8.D/
高田義一郎①212大8.E//
②254大15.A/
高田君 → 高田早苗
高田早苗（高田君）［文學士］
①52明22.D/
①160明45.［年代不詳］/
①206大7.D/①280昭2.D//
②162明16.B/②166明18.B/
②168明19.A/②171明19.C/
②177明21.D/②180明22.D//
③70明28.E/③108明34.C/
③110明34.E/③114明35.C/
③200大5.E//④57明17.D/
④57明17.E/④59明18.B/
④78明22.C/④271大4.A/
高田三郎①276昭2.B/
①288昭3.B/①298昭3.F/

①374昭9.B//②68昭13.B/
②71昭13.B/②75昭13.E/
②82昭14.B/②95昭15.B/
②106昭16.B/②282昭9.B//
③248昭4.B/③295昭13.B//
④389昭2.B/④486昭9.B/
④585昭14.B/④762[昭14]/
④809[19-]/④810[19-]/
高田重助④61明18.G/
高田眞治③275昭9.B/
高田二郎④618昭15.D/
高田生④228大1.B/
高田武四郎②81昭14.B/
②142昭19.B//③301昭14.B//
④588昭14.B/④667昭19.C/
高田春彦①312昭5.A/
①319昭5.C/
高田幸④447昭6.D/
高田保馬①149明43.E/
①157明45.B//②123昭17.C//
④801[昭9]/
高田義甫④30明7.E/
高田儀光③113明35.B/
高田梨雨②225明39.D//
③139明39.D/③148明41.D/
高田力藏③310昭15.D//
④599昭15.A/
高谷信一②61昭12.D//
③325昭18.D/
高谷道男①252大14.A//
②26昭10.E/②286昭9.E//
③283昭10.E//④347大11.C/
④480昭8.E/④752[昭10]/
高千穂中學校④214明44.B/
高津重雄③292昭12.E/
高鋭一甫④54明17.A/
高月藹之助①183大4.D//
④283大4.D/
高槻未知生④235大1.C/
④253大3.A/④270大4.A/
④320大7.F/④343大11.A/
高根虎松①59明24.B//
③44明24.B/
高根義人①107明36.C/
高野一助①167大2.D//
③178大2.D//④252大2.D/
高野岩三郎④718[大7]/
高野重三③175大2.C/
高野忠雄①261大14.E/
高野辰之①134明40.D//
④729[昭2]/
高野長運①187大5.B/
①287昭3.B/
高野長英［西洋學師ノ說（本邦初の西洋哲學史・古代、三兵答古知幾］
①9［140,141］/①10［165］/
①12［229］/①187大5.B/
①347昭7.B//②70昭13.B/
②82昭14.B/②204明30.B//
③96明32.D/③259昭6.C//
④58明18.A/④104明28.A/
④122明32.B/④152明37.B/
④178明40.B/④201明43.A/
④444昭6.C/④495昭9.D/
④605昭15.B/④631昭16.B/
④672[嘉永]/④675[明治]/
④698[明30]/④771[昭16]/
高野恒男④439昭6.B/
高野正治安①254大14.B/
鷹羽司④797[昭4]/
高橋 → 高橋健二
高橋章雄③287昭11.D/
高橋章臣①68明26.B/
高橋幾次郎④690[明20]/
高橋一郎②249大12.E/
高橋勇①265大15.B/①313昭5.B/
高橋イネ②51昭11.F/
高橋卯三郎③132明38.B//
④151明37.B/④160明38.B/
④305大6.C/④717[大6]/
高橋乙治①331昭6.C//
④400昭3.B/④445昭6.C/
高橋景保④24[24964]/

④633昭16.C/
④672[文化,安政]/
④675[明4]/④768[昭16]/
④780[文化6,7]/④781[明4]/
高橋學而④734[昭3]/
高橋一男①363昭8.C//
④467昭8.B/
高橋月山 → 高橋作衛
高橋龜吉①370昭8.G/
高橋基一①31明14.C//
④43明14.C/④44明14.E/
高橋公男②255大15.E/
高橋清①301昭4.B/
高橋金一郎①87明31.D//
②43昭11.D/②248大11.D/
高橋欣二①158明45.C//
④219明44.C/④234大1.C/
高橋金也④493昭9.C/
④514昭10.C/④596昭14.E/
④620昭15.E/④621昭15.E/
高橋邦枝[學士]①204大7.C/
①211大8.C/①211大8.C/
①231大11.C/①240大12.C/
①247大13.C//③207大7.C/
③216大10.D/③217大10.E/
③218大11.A/③219大11.B/
③219大11.C/③220大11.D/
③221大11.E/③226大13.C//
④325大8.C/④326大8.C/
④336大10.A/
高橋邦三④229大1.B/
高橋熊太郎③26明19.G/
高橋謙③202大6.B/
高橋謙策④697[明28]/
高橋虔④512昭10.C/
④516昭10.D/
高橋健三④782[明16]/
高橋憲一④644昭17.B/
高橋元一郎③261昭7.A//
④472昭8.C/
高橋健二(高橋)①269大15.D/
①359昭8.B//②111昭16.D/
②122昭17.C/②253大14.D/
②287昭9.F//③291昭12.D/
③299昭13.D//④455昭7.B/
④497昭9.D/④518昭10.D/
④568昭13.B/④570昭13.B/
④586昭14.B/④607昭15.B/
④632昭16.C/④650昭17.D/
④769[昭16]/
高橋健自③128明37.C/
高橋源次②45昭11.D//
④419昭4.D/④435昭5.D/
④463昭7.D/
高橋健三①33明15.E/
高橋鴻助④364大14.A/
高橋皐三④346大11.B/
④472昭8.C/④484昭9.B/
高橋幸太②250大13.B/
高橋是清④711[大1]/
高橋吾良→ 高橋五郎
高橋五郎(吾良、在一居士)
①29明13.B/①31明14.B/
①36明17.C/①38明18.C/
①43明20.B/①49明21.G/
①50明21.G/①51明22.B/
①62明24.D/①69明26.B/
①74明27.B/①104明36.B/
①134明40.D/①136明41.B/
①155明45.A/①155明45.B/
①156明45.B/①161大2.B/
①163大2.B/①167大2.D/
①174大3.C/①182大4.C/
①202大7.B/①209大8.B/
①256大14.C/①257大14.C/
①267大15.C/①274昭2.B/
①277昭2.C/①286昭3.B/
①316昭5.C//②174明20.G/
②177明21.G/②182明22.G/
②182明23.B/②188明24.D/
②209明32.G/②221明37.G//
③35明22.B/③39明22.F/
③54明26.B/③60明27.B/

③68明28.D/③83明30.D/
③84明30.D/③85明30.D/
③119明36.B/③129明37.D/
③130明37.D/③153明42.D/
③156明43.B/③162明45.A/
③167明45.B/③167明45.C/
③169明45.D/③174大2.B/
③175大2.B/③178大2.D/
③179大2.D/③185大3.C/
③193大4.C/③250昭4.D/
③324昭18.D//④42明14.B/
④51明16.B/④53明16.C/
④56明17.C/④61明18.G/
④63明19.C/④64明19.C/
④71明20.G/④72明21.B/
④73明21.C/④76明22.B/
④78明22.D/④79明23.A/
④80明23.B/④89明24.D/
④95明26.B/④96明26.B/
④98明26.D/④99明27.B/
④79明23.A/④80明23.B/
④89明24.D/④102明27.C/
④104明28.A/④108明28.D/
④109明29.B/④116明30.D/
④121明31.D/④142明36.B/
④148明36.E/④149明37.B/
④154明37.C/④184明41.B/
④189明41/D/④202明43.B/
④219明44.C/④221明44.D/
④224大1.A/④233大1.B/
④237大1.D/④248大2.B/
④252大2.D/④266大3.C/
④280大4.C/④375大15.B/
④432昭5.C/④497昭9.D/
④511昭10.B/④636昭16.D/
④691[明21]/④697[明28]/
④703[明37]/④712[大2]/
④730[昭2]/
高橋作衛（月山）①99明35.B/
①160明45.E//②205明30.E/
②218明36.D//③113明35.B/
③124明36.E/③131明37.E//
④148明36.E/④238大1.E/
④711[大1]/
高橋里美［學士］①181大4.B/
①238大12.B/①329昭6.B/
①344昭7.B//②81昭14.B//
③155明43.B/③183大3.B/
③190大4.B/③248昭4.B//
④413昭4.B/④454昭7.B/
④455昭7.B/④743[昭7]/
④797[昭4]/
高橋七郎①46明21.B/
①51明22.B/
高橋至時①7［80］/
高橋正次郎④109明29.B/
④110明29.B/
高橋松川①320昭5.D/
高橋淳①184大4.D/①332昭6.C/
①348昭7.C/
高橋順治①342昭7.B//
469昭8.B/
高橋眞一③290昭12.B/
高橋信一④490昭9.B/
高橋新吉［薩州版・和譯英辭書］
②153明2.G//③7明8.G/
高橋信太郎④300大6.B/
④347大11.C/
高橋誠一郎①206大7.E/
①218大9.E/①219大9.E/
①226大10.E/①242大12.E/
①246大13.C/①248大13.D/
①249大13.E/①250大13.E/
①260大14.E/①268大15.C/
①271大15.E/①282昭2.E/
①295昭3.D/①297昭3.E/
①310昭4.E/①368昭8.E/
①384昭9.E/①385昭9.E//
②15昭10.B/②50昭11.E/
②65昭12.E/②66昭12.E/
②88昭14.E/②98昭15.C/
②100昭15.E/②102昭15.E/

②122昭17.C/②137昭18.E/
②145昭19.E//③283昭10.E/
③299昭13.E//④335大9.D/
④355大12.E/④342大10.E/
④349大11.E/④398昭2.E/
④399昭2.E/④409昭3.E/
④419昭4.D/④422昭4.E/
④423昭4.E/④435昭5.E/
④513昭10.C/④557昭12.C/
④596昭14.E/④616昭15.C/
④621昭15.E/④726[大14]/
④734[昭3]/
高橋清吾①226大10.E/
①227大10.E/①241大12.E/
①261大14.E/①296昭3.E/
①353昭7.E//②27昭10.E/
②47昭11.E/②49昭11.E/
②65昭12.E/②66昭12.E//
④362大13.E/
高橋堆治①231大11.C/
高橋敬視①253大14.B/
①300昭4.B/①329昭6.B/
①373昭9.B//②14昭10.B/
②33昭11.B//④438昭6.B/
④777[昭19]/
高橋鷹藏④154明37.C/
④160明38.B/
高橋龍雄①139明41.D//
④189明41.D/
高橋達郎①30明13.E//
③16明13.C//④688[明18]/
高橋立吉④333大9.C/
高橋胤彦④53明16.E/
高橋保①268大15.C/①290昭3.C/
④405昭3.C/
高橋竹葉①140明41.F//
③144明40.D/③149明41.F/
高橋長太郎②57昭12.B/
②81昭14.B/②95昭15.B//
③295昭13.B//④427昭5.B/
④438昭6.A/④808[昭18]/
高橋禎二①266大15.B//
②131昭18.B//④348大11.D/
④382大15.D/④776[昭18]/
高橋礦一④579昭14.A/
高橋俊乘①202大7.B//
④313大7.B/④440昭6.B/
高橋亨②55昭12.B/
高橋直一①357昭8.A/
高橋廣江①281昭2.D/
①357昭8.A//④390昭2.B/
④488昭9.B/
高橋久②25昭10.D/
高橋正雄①135明41.B/
①136明41.B/①137明41.B/
①143明42.B//④187明41.B/
④194明42.B/④229大1.B/
高橋政男①249大13.E/
①271大15.E/
高橋正熊①173大3.B//
④214明44.B/④365大14.B/
高橋正春①183大4.C/
高橋正道④397昭2.D/
④516昭10.D/④542昭11.E/
④548昭12.A/④553昭12.B/
高橋箕作①107明36.C/
高橋光威①60明24.C//
③48明25.B/
高橋實②258昭2.E/
高橋易直④32明9.G/④678[明9]/
④679[明9]/
高橋由一④671[明治]/
④689[明治]/
高橋穰①194大6.B/①196大6.B/
①234大11.G/①374昭9.B//
②123昭17.C//③182大3.B/
高橋良昭［薩摩辭書、和譯英辭林］①13明2.G/
①14明4.G/①39明18.G/
①41明19.G/①45明20.G//
③25明18.G/③27明19.G/
高橋義雄②260昭3.D/
高橋義孝②111昭16.D/

②120昭17.B/②124昭17.D//
③317昭16.D//④637昭16.D/
④649昭17.D/
高橋六郎②53昭12.B/
高橋亘②82昭14.B/
②106昭16.B//④631昭16.B/
高畑彦四郎③246昭4.A/
③251昭5.A/③262昭7.A/
高畠華宵②257昭2.D/
高畠素之①204大7.C/
①210大8.C/①218大9.E/
①226大10.E/①249大13.E/
①262大14.G/①296昭3.E//
③168明45.C//④409昭3.E/
④721[大10]/
高畠由輝③267昭7.D/
高濱廣江④179明40.C/
高原徹也④677[明8]/
④681[明11]/④683[明13]/
④782[明13]/
高原美文②252大14.D/
高比良喜一③253昭5.B//
④434昭5.D/
高部齊④538昭11.D/
高松孝治②13昭10.B/
②134昭18.C//③239昭2.B/
高松太喜次①75明27.E/
高松元吉①60明24.C/
田上操峯③130明37.D/
田上元德①335昭6.D//
④745[昭8]/④749[昭9]/
高見健一②240大4.F/
高見順②103昭15.F/
高見照陽①36明17.B/
高見豐④622昭15.F/
高見澤茂（三驚迂史）
①16明6.C/
高見澤忠雄④725[大13]/
高見澤榮壽①286昭3.B//
③252昭5.B/③269昭8.B/
③274昭9.B/④414昭4.B/
④415昭4.B/④452昭7.B/
④455昭7.B/
高峯一愚②71昭13.B/
鷹嶺弘②240大4.F/
高峰元稜①11［184］/
高宮篤②124昭17.D/
高宮儀助④282大4.D/
高村乙丸①73明27.B//
④99明27.B/
高村一之④651昭17.D/
④662昭18.D/
高村光太郎①116明37.D/
①155明45.A/①191大5.D/
①205大7.D/①212大8.D/
①275昭2.B/①277昭2.B//
②233明45.A/②257昭2.D//
③204大6.D/③207大7.D/
③210大8.D/③213大9.D/
③306昭14.D//④191明42.A/
④294大5.D/④308大6.D/
④419昭4.D/
高村象平①365昭8.C//
②65昭12.E/②113昭16.E/
②114昭16.E/②116昭16.F//
③283昭11.A//④475昭8.C/
④591昭14.C/④655昭18.A/
④656昭18.A/④745[昭8]/
④765[昭15]/
篁村農夫 → 熊谷從吾
高村英夫②30昭10.F/
②37昭11.B/
高村茅村③99明33.B/
高村眞夫③203大6.D//
③205大6.D//④308大6.D/
④309大6.D/
篁實④568昭13.B/
高眼太夫②192明25.E/
高盛義雄④552昭12.B/
高安月郊①145明43.A/
①191大5.D/①307昭4.D//

③199大5.D/③200大5.D//
④222明44.D/④296大5.D/
高柳伊三郎①267大15.B/
①279昭2.D//②54昭12.B/
②257昭2.D//③241昭2.D//
④248大2.C/④379大15.C/
④397昭2.D/④433昭5.D/
④460昭7.D/④498昭9.E/
④512昭10.C/④553昭12.B/
④554昭12.C/
高柳教授 → 高柳賢三
高柳賢三［教授］①338昭6.E//
②28昭10.E/②29昭10.E/
②77昭13.E/②267昭5.E/
②272昭6.E//③245昭3.E/
③251昭4.E/③292昭12.E//
④342大10.E/④436昭5.E/
④653昭17.E/
高柳松一郎①84明30.E/
高藪良二④739[昭5]/
高山一十①364昭8.C//
②98昭15.C/②134昭18.C//
④563昭12.E/④588昭14.C/
④613昭15.C/
高山紀齋③12明10.F/
高山謹一④335大10.A/
高山茂①375昭9.B/①376昭9.B/
高山峻③309昭15.B//
④474昭8.C/④488昭9.B/
高山擔三②115昭16.F//
③325昭18.F/
高山樗牛（林次郎）［文學士］
①78明29.A/①79明29.B/
①80明29.D/①80明29.D/
①85明31.A/①89明32.A/
①91明32.D/①93明33.A/
①95明34.A/①101明35.B/
①176大3.D//②205明31.A//
③61明27.B/③69 明28.D/
③73明29.B/③77明29.D/
③79明30.A/③81明30.B/
③82明30.C/③83明30.C/
③86明31.A/③94明32.C/
③96明32.D/③106明34.B/
③123明36.D/③138明39.B/
③156明43.B/③168明45.C/
③208大7.D//④110明29.B/
④118明31.A/④118明31.B/
④134明34.D/④137明35.B/
④140明35.D/④144明36.B/
④147明36.D/④148明36.D/
④247大2.B/④306大6.C/
④307大6.D/④495昭9.D/
④530昭11.B/④701[明34]/
④710[明44]/
高山彦九郎④710[明44]/
高山正夫④482昭9.A/
高山洋吉②64昭12.E/
②102昭15.F/
高山林次郎 → 高山樗牛
財部靜治①196大6.B/
田川大吉郎④113明29.E/
④404昭3.B/④799[昭6]/
瀧興治②192明25.E/
瀧七藏［先生］①38明18.G//
③24明18.G/
瀧清一（節庵）①149明43.D/
①198大6.D//③84明30.D/
③200大5.D/③204大6.D/
④210明43.D/④266大3.D/
④307大6.D/④668昭19.D/
瀧節庵 → 瀧清一
瀧先生 → 瀧七藏
瀧内秀綱④322大8.B/
瀧浦文彌①147明43.B//
③156明43.C/
瀧口①352昭7.D/
瀧口直太郎④743[昭7]/
瀧川龜太郎②176明21.B/
瀧川規一④295大5.D/
④465昭8.A/④797[昭4]/
④798[昭5]/④799[昭6]/
④799[昭7]/④800[昭8]
瀧川三郎②263昭4.E/

瀧川幸辰①213大8.E/
①368昭8.E//③232大14.E/
③272昭8.E//④371大14.D/
④542昭11.E/
瀧迫辰巳④390昭2.B/
瀧澤秋暁④140明35.D/
瀧澤又一(市)①182大4.C//
③51明25.C/
瀧澤眞弓①315昭5.B/
①351昭7.D/①367昭8.D//
④496昭9.D/④516昭10.D/
④754[昭11]/
瀧澤喜子雄①322昭5.E/
④448昭6.E/
瀧田貞治④517昭10.D/
田北耕也④764[昭14]/
瀧村斐男④205明43.B/
瀧邨鶴雄④672[明治]/
④681[明10]/
瀧本教授 → 瀧本誠一
瀧本二郎①277昭2.C/
①319昭5.C/
瀧本誠一①282昭2.E/
①338昭6.E/①354昭7.E/
①355昭7.E//③265昭7.C//
④379大15.C/④422昭4.E/
④473昭8.C/
瀧山德三①291昭3.C/
拓喬生④92明25.C/
多久乾一郎①26明11.B/
田口卯吉①70明26.C//
②209明32.E/②210明33.C/
②213明34.D/②214明34.D/
②219明37.B//③21明16.E/
③21明17.A/③25明19.B/
③26明19.D/③48明25.A/
③97明32.E/③104明33.E/
③109明34.D/③110明34.D//
④140明35.D/④729[昭2]/
田口健三④528昭11.B/
④529昭11.B/
田口重良④532昭11.B/
④589昭14.C/
田口康信①271大15.E/
田口芳五郎①267大15.B//
④358大13.B/④365大14.B/
④376大15.B/④389昭2.B/
④463昭7.E/④467昭8.B/
④485昭9.B/④546昭12.A/
④550昭12.B/④551昭12.B/
④604昭15.B/④665昭19.B/
④728[昭1]/④733[昭3]/
田久保四郎平③87明31.B/
武昌吉③27明19.G/
竹井靜人③315昭16.C/
武井大助②237大2.D/
武井武雄③328昭21//
④375大15.B/④634昭16.D/
④726[大14]/
竹井義夫①300昭4.B/
武井亮吉①337昭6.D//
④735[昭4]/
竹内愛二④490昭9.B/
竹内文④97明26.C/
竹内逸③210大8.B/③212大9.B/
竹内英之助②25昭10.D/
②36昭11.B/
竹内勝太郎③196大5.B/
竹内淸④463昭7.D/
竹内楠三①125明39.B//
②199明28.B//③93明32.B/
③177大2.D/③178大2.D//
④125明32.E/④138明35.C/
④712[大2]/
竹内謙二①339昭6.D/
竹内廣業④78明22.D/
④79明22.G/④692[明22]/
竹内稱①113明37.B/
武内省三[文學士?]①288昭3.B/
①300昭4.B//②120昭17.B//
④368大14.C/
竹内栖鳳④141明36.A/
竹内節雄②255大15.E/
武内大造③202大6.C/

竹内常行①365昭8.C/
竹内富子④805[昭14]/
④805[昭14]/
竹内亨①369昭8.E/
竹内時男①262大14.F//
②29昭10.F/②129昭17.G//
④480昭8.F/④767[昭15]/
竹内波次郎①109明37.A/
竹内端三①298昭3.F/
竹内仁①223大10.B/
竹内廣業④688[明19]/
武内文學士(武内省三?)
③200大5.F/
竹内信④607昭15.B/
竹内正夫①303昭4.B/
竹内正志④39明13.B/
④40明13.E/
竹内道之助①268大15.C/
①320昭5.D//④741[昭6]/
竹内芳衛②79昭14.A/
武雄兄弟④709[明43]/
竹岡勝也④802[昭11]/
武笠春風①104明36.B/
竹越 → 竹越與三郎
竹越和夫①362昭8.B//
②84昭14.C/
竹越與三郎①43明20.C/
①94明33.C//③21明17.B/
③56明26.C/③67明28.C/
③179大3.A//④55明17.B/
④63明19.B/④69明20.C/
④74明21.C/④84明23.C/
④87明24.B/④97明26.C/
④697[明29]/
竹重德郎②275昭7.D/
竹下直之①288昭3.B/
①303昭4.B/①316昭5.B/
①323昭5.E/①329昭6.B/
①347昭7.C/①358昭8.B//
②37昭11.B/②41昭11.B/
②76昭13.E/②107昭16.B/
②278昭8.B/②284昭9.B//
③271昭8.B//④453昭7.B/
④475昭8.C/④484昭9.B/
竹島常三郎②28昭10.E/
武島泰③276昭9.C/
竹添源太郎①47明21.C/
竹末悌四郎①84明30.D/
武田粲③213大9.D/
武田櫻桃①211大8.D/
武田和夫①268大15.C//
③240昭2.C/
武田勝藏①296昭3.D/
①333昭6.C/
武田勘治①286昭3.B/
①289昭3.B//③242昭3.B//
④401昭3.B/
武田五一①149明43.F/
竹田公平④512昭10.C/
武田信一①313昭5.B//
③229大14.B/③274昭9.B/
③326昭19.B/
武田武志②74昭13.D/
竹田太郎司④86明24.B/
④90明25.B/
竹田忠哉②46昭11.D//
④497昭9.D/
武田豐四郎②231明43.F//
③207大7.C//④187明41.B/
武田文學士①153明44.D/
武田牧師④192明42.B/
竹田義夫④559昭12.D/
武田龍一③278昭9.D/
竹田龍治④771[昭16]/
武田良三④528昭11.B/
④531昭11.B/④587昭14.B/
武田良再①346昭7.B/
武市健人①373昭9.B/
①377昭9.B//②70昭13.B/
②105昭16.B/②134昭18.C/
②147昭20.B//③276昭9.B/
③314昭16.B//④531昭11.B/
④552昭12.B/④645昭17.B/

④743[昭7]/
武市春男②27昭10.E/
高市慶雄④701[明35]/
④742[昭7/
竹友藻風①158明45.C/
①220大10.A/①225大10.D/
①226大10.D/①240大12.D/
①247大13.D/①269大15.D/
①307昭4.D/①321昭5.D/
①351昭7.D/①381昭9.D//
②144昭19.D/②235明45.D/
②248大11.D//③228大13.D/
③231大14.D/③245昭3.D/
③298昭13.D/③305昭14.D//
④251大2.D/④296大5.D/
④323大8.B/④327大8.D/
④341大10.D/④342大10.D/
④383大15.D/④420昭4.D/
④432昭5.D/④461昭7.D/
④651昭17.D/④662昭18.D/
④668昭19.D/④686昭23.D/
④712[大2]/④723[大12]/
④748[昭9]/④756[昭11]/
④791[19-]/
竹中 → 竹中勝男
竹中生②116昭16.F/
竹中歌吉①225大10.D/
竹中勝男④394昭2.C/
④398昭2.E/④426昭5.A/
④435昭5.E/④439昭6.B/
④448昭6.E/④476昭8.C/
④479昭8.E/④480昭8.E/
④563昭12.E/
竹中靖一②267昭5.E/
②271昭6.E/
竹中多計③287昭11.E/
竹浪治郎②254大15.B/
②255大15.D/
竹貫佳水③158明44.A/
竹之下休藏②51昭11.F/
②67昭12.F//④544昭11.F/
④564昭12.F/
武信由太郎②243大7.G//
④320大7.G/
竹の屋主人①166大2.C/
竹林修③137明39.B//
④167明39.B/
竹林拙三④246大2.B/
④711[大1]/
竹林熊藏④515昭10.C/
竹林熊彦①205大7.D/
①239大12.C/①260大14.E/
①317昭5.C/①320昭5.C//
③210大8.D//④444昭6.C/
④457昭7.C/
武林無想庵①166大2.D/
①167大2.D/①293昭3.D/
①382昭9.D//③196大5.B//
④319大7.D/
竹原常太②251大13.G/
②264昭4.G/
武部欽一④449昭6.G/
建部遯吾[文學士]①78明29.B/
①85明31.B/①86明31.B//
②206明31.B/②219明37.B//
③78明29.E/③105明34.A/
③106明34.B/③111明35.B//
④141明36.A/④150明37.B/
④473昭8.C/
建部文學士 → 建部遯吾
武邊松衛①272大15.F/
武部游子藝甫④672[文政]/
武政國藏④602昭15.B/
武政太郎①275昭2.B//
②79昭14.B//④426昭5.B/
竹見猛彌②69昭13.B/
竹村修④302大6.B/
竹村兼十①122明38.F/
竹村淸①373昭9.B//②269昭6.B//
③294昭13.B//④426昭5.B/
④438昭6.B/④442昭6.B/
④451昭7.B/④456昭7.B/
④470昭8.B/④553昭12.B/
④583昭14.B/④737[昭5]/

竹村覺③272昭8.D/③278昭9.D//
④748[昭9]/
竹村潤④649昭17.D/
竹村誠一郎④554昭12.C/
竹村文一②28昭10.E/
竹本眞手雄④732[昭3]/
竹村友治郎①48明21.D//
④74明21.D/
武本功④533昭11.C/
④554昭12.C/
武本喜代治④124明32.C/
武本喜代藏④170明39.B/
④202明43.B/④247大2.B/
④254大3.A/④262大3.B/
④278大4.C/④289大5.B/
④290大5.B/④315大7.B/
④709[明43]/
武元四郎④512昭10.C/
武本生④226大1.B/
竹本正文④181明40.F/
竹森滿佐一④526昭11.B/
竹谷源太郎②249大12.E/
武山魁芳④441昭6.B/
竹山生①114明37.C/
竹山道雄②26昭10.D/
②32昭11.A/②53昭12.A//
③305昭14.D//④636昭16.D/
④751[昭10]/④753昭11]/
④757[昭12]/④763[昭14]/
④808[昭19]/
武由宗俊④651昭17.D/
田庫逸史①56明23.D/
多胡雨絃①197大6.C/
①198大6.C/①199大6.D//
④305大6.C/④306大6.C/
田子奨②267昭5.E/
太宰治④608昭15.C/
④766[昭15]/
太宰施門①184大4.D/
①260大14.D/①273昭2.A//
②130昭18.A/②240大5.D//
④280大4.D/④296大5.D/
④308大6.D/④310大7.A/
④311大7.A/④488昭9.B/
④772[昭17]/
田崎健作④570昭13.B/
田崎仁義①301昭4.B/
①368昭8.E//④398昭2.E/
山車慶二郎④485昭9.B/
田島應親④700[明34]/
田島錦治①62明24.E//
②205明30.E//④89明24.E/
田島象二①42明20.B//
④30明7.C/④30明8.C/
④42明14.C/④63明19.C/
④95明26.B/④676[明7]/
④678[明8]/
田島進④365大14.B/
田島生①65明25.C//
③102明33.C/
田島達策④53明16.E/
田島柳卿④780[天保11]/
太政官飜譯係③13明11.D//
④33明11.A/④38明13.A/
④240大2.A/④363大14.A/
④696[明27]/
太政官本局飜譯係④335大10.A/
田尻稻次郎④48明15.E/
④671[明治]/④673[明治]/
④685[明15]/④686[明17]/
④700[明34]/
田尻常雄①192大5.E/
田代元彌④649昭17.D/
田代安子②10昭10.A/
田代秀德③230大14.C/
田代秀穗②252大14.C/
田代義德③156明43.C/
田代信德④744[昭7]/
田代倫①291昭3.C/
打水山人④579昭13.G/
田制佐重①236大12.B/
①249大13.E/①253大14.B/
①275昭2.B/①283昭2.E/
①287昭3.B/②11昭10.B//

③229大14.B//④364大14.B/
④397昭2.E/④764[昭14]/
④773[昭17]/④777[昭18]/
たそがれ山人④82明23.B/
田草川宏④769[昭16]/
蛇足堂②206明31.C/
多田淳政④542昭11.E/
多田榮次②87昭14.D/
多田鼎②217明36.B/
多田齋二④282大4.D/
多田雄①142明42.B//
④205明43.B/④222明44.E/
多田利男①316昭5.B//
②263昭4.D/
多田素④86明24.B/
只野三男④498昭9.E/
城夏子①345昭7.B/
田地匡③192大4.C/
太刀雄④224大1.A/
舘岡剛①347昭7.C/①350昭7.C//
④459昭7.C/④467昭8.B/
④471昭8.B/④494昭9.D/
④498昭9.D/
田近憲三②147昭20.D//
③318昭16.F/
立柄敎俊①157明45.B//
③148明41.C//④178明40.C/
④473昭8.C/④786[明41]
立木俊夫①157明45.B//
③166明45.B/
立澤剛①216大9.B/①309昭4.D/
①320昭5.D//②34昭11.B/
②62昭12.D/②257昭2.D/
②269昭6.B/②271昭6.D/
②284昭9.B//④189大41.D/
④414昭4.B/④428昭5.B/
④429昭5.B/④630昭16.B/
④738[昭5]/
立澤新六③267昭7.D//
④446昭6.D/
たちばな③213大9.D/
橘糸重①237大12.B/①277昭2.B/
橘御風③117明36.B/
立花國三郎②23昭10.D//
③234大15.B/
橘惠勝④473昭8.C/
立花銑三郎③55明26.B/
橘忠衛②20昭10.C/②59昭12.C/
②72昭13.C/②112昭16.D//
④531昭11.B/④554昭12.C/
④778[昭19]/
橘超妙③151明42.C/
橘利雄①301昭4.B/
立花時鳥④357大13.B/
立花政美④366大14.B/
立花勝③264昭7.B/③320昭17.B/
立原翠軒①7［84］/
立原道造④540昭11.D/
龍口直太郎②63昭12.D/
辰野金吾④318大7.D/
④727[昭1]/
龍野健次郎①329昭6.B/
①373昭9.B/
龍野元四①109明36.G/
辰野隆①255大14.B/
①270大15.D//②26昭10.D/
②136昭18.D/②278昭8.B//
④231大1.B/④430昭5.B/
④442昭6.B/④461昭7.D/
④544昭11.F/④763[昭14]/
辰巳經世①257大14.C/
①305昭4.C//②21昭10.C/
②285昭9.C//④416昭4.C/
④421昭4.E/④422昭4.E/
辰巳小二（次）郎①42明20.A/
①43明20.C/①49明21.E/
①52明22.C/①53明22.E//
②174明20.E/②177明21.E/
②186明24.A/②193明25.G/
②249大12.C//④66明20.B/
④67明20.B/④68明20.C/
④785[明32]
辰巳塵蘆①158明45.C//
③175大2.C//④235大1.C/

辰巳正清②166明17.F/
巽來次郎②208明32.D/
龍村孟雄②263昭4.D/
龍山義亮(→龍山學人?)
①301昭4.B/
伊達源一郎①106明36.B/
①169大3.B//③183大3.B/
③192大4.B//④143明36.B/
④144明36.B/④257大3.B/
④259大3.B/④263大3.B/
④277大4.B/④791[大3]/
伊達四郎②107昭16.B/
伊達虎一④129明34.A/
伊達ハル④711[明治-大正]/
伊達英夫②263昭4.E/
伊達保美①286昭3.B/
①304昭4.B/①305昭4.B//
②262昭4.B/
伊達豐①350昭7.D/
伊達龍藏④800[昭7]/
立石美和②61昭12.D//
④257大3.B/④273大4.B/
楯岡先①17明7.C/
楯岡良知①15明5.C/
蓼倉廣②266昭5.D/
立松晴塘②219明37.B/
建松花市②245大9.D/
田所輝明①370昭8.G//
②268昭5.G/
田中(耕太郎?)①235大12.A/
田中 → 田中秀央
田中 → 田中美知太郎
田中阿歌麻呂(麿)③108明34.C/
③318昭17.A/
田中□泰②275昭7.D/
田中晃②68昭13.B/②81昭14.B/
②105昭16.B/②138昭18.E/
②141昭19.B/②142昭19.B/
②147昭20.B//④599昭15.A/
④670昭20.B/④809[昭19]/
田中彰④682[明11]/
田中敦④193明42.B/
④205明43.B/
田中一松③224大12.D/
田中梅吉①232大11.D/
田中榮太郎③286昭11.C/
田中英光④806[昭15]/
田中悅平①360昭8.B//
④468昭8.B/
田中王堂①171大3.B/
①196大6.B/①210大8.B/
①221大10.B/①265大15.B/
①316昭5.B//②240大5.B/
②244大9.B//③165明45.B/
③166明45.B//④205明43.B/
④217明44.B/④226大1.B/
④227明45.B/④228明45.B/
④257大3.B/④286大5.B/
④296大5.D/④300大6.B/
④301大6.B/④322大8.B/
④330大9.B/④337大10.B/
④375大15.B/④427昭5.B/
田中興哉①256大14.C/
田中鹿洲①99明35.A/
田中一貞①95明34.A/
①161大2.A//④240大2.A/
田中克己②10昭10.A/
②70昭13.B/②73昭13.C/
②84昭14.C/②108昭16.C/
②123昭17.C//③321昭17.C/
田中鼎④685[明15]/
田中龜之助④369大14.C/
④456昭7.C/
田中寬一①343昭7.B/
①346昭7.B/①356昭7.F/
田中喜一①96明34.B//
③147明41.B/③150明42.B/
③154明43.A//④189明41.D/
④192明42.B/
田中菊雄②52昭11.G//
④626昭16.A/
田中喜四郎②132昭18.B/
田中九一①296昭3.E/
田中邦次郎②128昭17.F//

④654昭17.F/④773[昭17]/
田中邦三③217大10.D/
田中董齋 → 田中貞純
田中啓爾④790[19-]/
田中經太郎①135明41.B/
田中荊三④574昭13.C/
田中建三郎①40明19.C//
②180明22.C/
田中健士④691[明20]/
田中光次④569昭13.B/
田中剛二④494昭9.D/
田中耕造①17明7.E//
②161明15.E/②162明16.B/
②164明16.E//③4明5.E/
③5明7.E//④30明7.E/
④676[明6]/
田中耕太郎①220大10.A/
①272大15.E/①386昭9.E//
②27昭10.E/②28昭10.E/
②53昭12.A/②66昭12.E/
②126昭17.E/②128昭17.E/
②139昭18.E/②263昭4.E/
②276昭7.E/②286昭9.E/
②287昭9.G//③290昭12.B//
④376大15.B/④386大15.E/
④414昭4.B/④423昭4.E/
④435昭5.E/④464昭7.E/
④479昭8.E/④480昭8.E/
④498昭9.E/④499昭9.E/
④500昭9.E/④519昭10.E/
④542昭11.E/④546昭12.A/
④548昭12.A/④624昭16.A/
④630昭16.B/④638昭16.E/
④644昭17.B/④652昭17.E/
④653昭17.E/④659昭18.B/
④670昭20.E/④730[昭2]/
④735[昭4]/④749[昭9]/
④798[昭4]/
田中貞純(董齋)
②150［14492,14493］/
田中氏③91明32.A//
④369大14.C/
田中茂一④603昭15.B/
田中重穗④753[昭10]/
田中修一②13昭10.B/
田中秀作②41昭11.C/
②41昭11.C/②43昭11.C/
②59昭12.C//④513昭10.C/
田中周友①317昭5.C/
①322昭5.E/①338昭6.E/
①339昭6.D/①354昭7.E/
①355昭7.E/①369昭8.E/
①385昭9.E//②27昭10.E/
②28昭10.E/②64昭12.E/
②65昭12.E/②75昭13.E/
②88昭14.E/②100昭15.E/
②113昭16.E/②126昭17.E/
②127昭17.E/②138昭18.E/
②249大12.E/②253大14.E/
②286昭9.E//④564昭12.G/
④609昭15.C/④790[1-]/
④807[昭17]/④809[昭19]/
④810[19-]/
田中饒④803[昭12]/
田中準②88昭14.D/
田中純③197大5.B//
田中俊吉②260昭3.D//
③245昭3.D/
田中正平①115明37.D/
①116明37.D//③129明37.D/
田中眞三郎④749[昭9]/
田中震二④545昭12.A/
田中萃一郎(瓢雪)①140明41.E/
①143明42.C/①144明42.E/
①149明43.E/①183大4.C/
①198大6.D/①213大8.E/
①217大9.C/①217大9.D/
①223大10.C/①226大10.E/
①239大12.C/①240大12.C/
①347昭7.C/①347昭7.C/
①349昭7.C/①350昭7.C/
①363昭8.C/①364昭8.C/
①365昭8.C//②274昭7.C/

②278昭8.C//④82明23.C/
④330大9.B/④458昭7.C/
④473昭8.C/④475昭8.C/
④476昭8.C/④609昭15.C/
④614昭15.C/④708[明43]/
④725[大13]/④794[大12]/
田中誠二③237大15.E/
田中清一④727[昭1]/④728[昭1]/
田中精一④577昭13.E/
田中善治郎②114昭16.E/
②138昭18.E/
田中左右吉④480昭8.E/
田中遜①109明36.E/
①128明39.E/
田中忠雄①231大11.C/
田中正④722[大11]/
田中達①216大9.B//③48明25.B/
③195大5.B/③205大7.B//
④167明39.B/④86明24.B/
④91明25.B/④94明26.B/
④116明30.D/④170明39.C/
④171明39.C/④175明40.B/
④214明44.B/④218明44.B/
④235大1.C/④370大14.D/
田中龍夫①283昭2.F//
④403昭3.B/
田中達三郎①43明20.D//
④69明20.D/④74明21.D/
田中致知④680[明10]/
田中千代松④428昭5.B/
田中治六④99明27.B/
①100明35.B//③106明34.B/
③117明36.B/③126明37.B/
③137明39.B/③142明40.B//
④130明34.B/④143明36.B/
④158明38.B/④390昭2.B/
④627昭20.B/④689[明治]/
田中稲城②159昭14.B/
田中登作④90明25.B/
田中德藏④491昭9.C/
田中豐次④742[昭和]/
田中敏史③316昭16.D/
田中知四郎②193明26.B//
④107明28.C/
田中豐藏②68昭13.A//
④564昭13.A/④775[昭18]/
田中豐松①138明41.C/
田中宜太郎①287昭3.B/
①322昭5.E/①378昭9.C/
①387昭9.F//②259昭3.B/
②265昭5.B//④427昭5.B/
田中秀央（Hidenaka,Tanaka）
①183大4.D/
①191大5.D/①195大6.B/
①202大7.B/①208大8.A/
①211大8.D/①235大12.A/
①258大14.D/①269大15.D/
①279昭2.D/①281昭2.D/
①295昭3.D/①307昭4.D/
①308昭4.D/①309昭4.D/
①347昭7.C/①349昭7.C/
①351昭7.D/①365昭8.C/
①365昭8.D//②43昭11.D/
②51昭11.G/②64昭12.E/
②65昭12.E/②67昭12.G/
②75昭13.E/②78昭13.G/
②86昭14.D/②87昭14.D/
②88昭14.D/②92昭15.A/
②98昭15.D/②103昭16.A/
②104昭16.A/②108昭16.C/
②110昭16.D/②111昭16.D/
②113昭16.E/②122昭17.C/
②124昭17.D/②126昭17.D/
②135昭18.D/②136昭18.D/
②137昭18.D/②142昭19.C/
②271昭6.D/②274昭7.C//
③231大14.D/③262昭7.A/
③268昭8.A//④266大3.D/
④282大4.D/④283大4.E/
④297大5.E/④309大6.E/
④383大15.D/④386大15.G/
④406昭3.C/④418昭4.D/
④477昭8.D/④497昭9.D/
④564昭12.G/④575昭13.D/

④579昭13.G/④593昭14.D/
④595昭14.D/④599昭15.A/
④609昭15.C/④616昭15.C/
④617昭15.D/④623昭16.A/
④635昭16.D/④640昭17.A/
④647昭17.C/④652昭17.D/
④661昭18.D/④662昭18.D/
④715[大4]/④720[大10]/
④729[昭1]/④731[昭2]/
④736[昭4]/④764[昭14]/
④770[昭16]/④792[大3]/
④792[大5]/④796[昭2]/
④797[昭3]/④798[昭5]/
田中宏明④530昭11.B/
田中博②41昭11.C/②43昭11.C/
田中弘義④33明10.E/
田中眞弓④149明36.G/
田中正義②41昭11.C/
②61昭12.C//③261昭6.E//
④533昭11.C/④536昭11.C/
④555昭12.C/
田中政義②88昭14.E/
田中松太郎③150明42.B/
田中三喜藏④370大14.D/
田中美知太郎①244大13.B/
①255大14.B/①265大15.B/
①288昭3.B/①302昭4.B/
①303昭4.B/①304昭4.B/
①327昭6.B/①335昭6.D/
①336昭6.D//②13昭10.B/
②35昭11.B/②68昭13.B/
②69昭13.B/②70昭13.B/
②71昭13.B/②81昭14.B/
②82昭14.B/②83昭14.B/
②86昭14.D/②92昭15.A/
②94昭15.B/②95昭15.B/
②97昭15.C/②100昭15.D/
②101昭15.E/②104昭16.A/
②104昭16.B/②106昭16.B/
②107昭16.B/②108昭16.B/
②109昭16.C/②111昭16.D/
②116昭16.F/②117昭17.A/
②119昭17.B/②122昭17.C/
②125昭17.D/②126昭17.D/
②126昭17.E/②129昭17.F/
②129昭17.F/②132昭18.B/
②133昭18.B/②134昭18.C/
②136昭18.D/②141昭19.B/
②142昭19.B/②144昭19.D/
②146昭19.F/②147昭20.D/
②282昭9.B//③295昭13.B/
③321昭17.D//④366大14.B/
④376大15.B/④486昭9.B/
④568昭13.B/④570昭13.B/
④584昭14.B/④588昭14.B/
④626昭16.A/④642昭17.B/
④647昭17.C/④651昭17.D/
④657昭18.B/④725[大13]/
④726[大14]/④728[昭1]/
④760[昭13]/④763[昭14]/
④766[昭15]/④772[昭17]/
④775[昭18]/④779[昭20]/
④805[昭14]/④807[昭17]/
田中峰子（みね子）④522昭11.A/
④545昭12.A/④565昭13.A/
④579昭14.A/
田中みね子 → 田中峰子
田中實④774[昭17]/
田中無髯③105明34.B/
田中恭麻呂④99明27.B/
田中祐吉①250大13.F//
③180大3.B/
田中嘉③206大7.C/
田中芳男②155明7.F//
④676[明5]/
田中芳五郎④456昭7.C/
田中義能①135明41.B/
①137明41.B/①359昭8.B//
③147明41.B/③239昭2.B/
③240昭2.B//④184明41.B/
④391昭2.B/④470昭8.B/
田中義廉①16明6.D/①18明8.C/
①21明9.C/①30明13.C//
③8明9.C//④677[明8]/

④683[明13]/④782[明8]/
田中錬太郎①95明33.E/
田中舘秀三①257大14.C//
②32昭11.A//④320大7.F/
④424昭4.F/④524昭11.A/
田名瀬昇藏④783[明20]/
棚橋一郎①39明18.G/
①43明20.C/①45明20.G/
①50明21.G/①56明23.C/
①59明24.A/①73明27.B/
①74明27.B/①74明27.C/
①86明31.C//②179明22.B/
②182明22.G/②186明23.G/
②189明24.G/②197明27.B/
②203明29.G//③25明18.G/
③26明19.G/③42明23.G//
④66明19.G/④85明23.C/
④106明28.B/④121明31.G/
棚橋竹莊②179明22.B/
田邊至③255昭5.D/③293昭13.A/
田邊勝正②276昭7.E/
田邊孝次①198大6.D/
①280昭2.D/①284昭3.A/
①294昭3.Ｄ/①308昭4.D//
②266昭5.D/
田邊興道④613昭15.C/
④629昭16.B/
田邊重陽②255大15.E/
田邊貞之助②141昭19.B/
田邊時寛③261昭6.D/
田邊信雄②262昭4.D/
田邊博士 → 田邊元
田邊元［博士］①185大4.F/
①193大5.F/①196大6.B/
①203大7.B/①329昭6.B/
①342昭7.B/①345昭7.B/
①362昭8.B//②14昭10.B/
②22昭10.C/②29昭10.F/
②30昭10.F/②50昭11.F/
②66昭12.F/②78昭13.F/
②106昭16.B/②107昭16.B/
②273昭7.B/②284昭9.B//
③147明41.B/③248昭4.B/
③258昭6.B/③263昭7.B/
③292昭12.F/③300昭13.F/
③328昭21.[補遺・II]/
④298大5.F/④386大15.F/
④413昭4.B/④439昭6.B/
④453昭7.B/④454昭7.B/
④455昭7.B/④498昭9.E/
④521昭10.F/④529昭11.B/
④578昭13.F/④579昭13.F/
④596昭14.E/④604昭15.B/
④608昭15.B/④614昭15.C/
④628昭16.B/
田邊尚雄①153明44.D/
①176大3.D/①184大4.D/
①321昭5.D/①351昭7.D//
②230明42.D//③152明42.D/
③187大3.D/③199大5.D/
③200大5.D//④296大5.D/
④354大12.D/④636昭16.D/
④721[大11]/
田邊壽利③217大10.E/
田邊文琦①12［217］/
田邊泰①280昭2.D/①294昭3.D/
①308昭4.D/①321昭5.D//
④723[大12]/
田邊慶彌④141明35.G/
谷義助③208大7.D/
谷次④747[昭9]/
谷朱冠①125明39.B/
谷譲次④747[昭9]/
谷信一④775[昭18]/
谷新太郎①44明20.E/
谷洗馬①133明40.D//
④708[明43]/
谷喬④678[明9]/④680[明10]/
谷輝哲④193明42.B/
④205明43.B/
谷久彌①364昭8.C/
谷井元次郎③4明5.E/
谷井類助①357昭8.A/
谷内松之助①174大3.C/

谷岡勝美④233大1.B/
④246大2.B/④252大2.D/
④260大3.B/④261大3.B/
④267大3.D/④283大4.E/
谷岡焦明①56明23.C/
谷川磐雄④727[昭1]/
谷川茂次郎④371大14.D/
谷川徹三①230大11.B/
①273昭2.A/①279昭2.D/
①281昭2.D/①351昭7.D/
①377昭9.B//②15昭10.B/
②32昭11.A/②44昭11.D/
②45昭11.D/②47昭11.D/
②79昭14.B/②105昭16.B/
②111昭16.D/②130昭18.A/
②136昭18.D/②137昭18.D/
②273昭7.B/②275昭7.D/
②279昭8.D//③260昭6.D/
③264昭7.B//④344大11.B/
④354大12.D/④357大13.B/
④361大13.D/④442昭6.B/
④467昭8.B/④468昭8.B/
④481昭9.A/④504昭10.A/
④529昭11.B/④545昭11.G/
④587昭14.B/④588昭14.B/
④595昭14.D/
谷川元長④45明15.B/
渓口一藏①21明9.B/
谷口一吉④477昭8.D/
④482昭9.A/
谷口闐電②202明29.B/
谷口左紀雄②267昭5.E/
谷口茂壽④608昭15.C/
谷口武①290昭3.C/①292昭3.C//
④456昭7.C/④477昭8.D/
谷口鐵雄②281昭9.B/
谷口初意④466昭8.A/
谷口秀太郎④126明32.G/
谷口政德④692[明23]/
谷口政穂①106明36.C/
④690[明20]/
谷口彌五郎①242大12.E/
①249大13.E/①250大13.E/
谷口吉郎②124昭17.D/
②125昭17.D/②129昭17.F/
谷崎潤一郎③198大5.C/
③241昭2.D/
谷崎伸②46昭11.D//④494昭9.D/
④751[昭10]/
谷崎精二①176大3.D//
③187大3.D/④268大3.D/
④763[昭14]/
谷島勝太郎①210大8.B/
谷田④623昭15.G/
谷田專治④639昭16.F/
谷村滿智子③328昭22/
谷本瑛②165明17.C//
③21明17.C/③28明20.D/
谷本冨①46明21.B/①51明22.B/
①55明23.B/①70明26.C/
①86明31.B/①89明32.B/
①170大3.B/①180大4.B/
①181大4.B/①190大5.B//
②164明17.B/②165明17.E/
②173明20.B/②178明22.B/
②197明27.B/②239大4.B/
②248大12.B/②262昭4.D//
③32明21.D/③33明21.F/
③35明22.B/③44明24.B/
③53明25.F/③59明26.E/
③123明36.C/③171大2.A/
③191大4.B//④101明27.B/
④119明31.B/④213明44.A/
④274大4.B/④275大4.B/
④276大4.B/④712[大2]/
谷本弘④540昭11.D/
谷本梨庵④150明37.B/
④294大5.D/
谷山樓④27[25014]/
田沼 → 田沼利男
田沼東三②252大14.C//
④381大15.C/
田沼利男④396昭2.D/
④624昭16.A/④641昭17.A/

種村三松①63明25.B/
田之助④617昭15.D/
田能邨梅士①92明32.E/
①95明33.E/
田畑三四郎①353昭7.E//
②275昭7.E/
田端茂穂③287昭11.F/
田端の里人①125明39.B/
田花爲雄①315昭5.B//
④427昭5.B/
田原榮②170明19.B/
田原定保④671[元祿]/
田原秀毅③18明14.E/
田淵正範①330昭6.B//
②269昭6.B/
旅びと④155明37.D/
W.S.④584昭14.B/
田部重治①179大4.B/
①187大5.B/①232大11.D/
①280昭2.D/①286昭3.B/
①313昭5.B/①316昭5.B/
①331昭6.C/①333昭6.C/
①336昭6.D/①337昭6.D/
①350昭7.D/①365昭8.D/
①367昭8.D/①373昭9.B/
①382昭9.D//②54昭12.B/
②93昭15.B/②278昭8.D//
③194大4.D/③282昭10.D/
③291昭12.D/③318昭17.A/
③321昭17.B//④282大4.D/
④283大4.D/④296大5.D/
④302大6.B/④319大7.D/
④335大9.D/④351大12.B/
④354大12.D/④358大13.B/
④366大14.B/④371大14.D/
④372大14.D/④397昭2.D/
④433昭5.D/④445昭6.D/
④478昭8.D/④744[昭7]/
④758[昭12]/
田部隆次①176大3.D/
①177大3.D//④301大6.B/
④642昭17.B/
田保橋潔④493昭9.C/
玉井海嶠①218大9.D/
玉井茂①271大15.E//
③321昭17.B/
玉尾六郎①21明9.C/
玉岡卓(章?)①344昭7.B//
④452昭7.B/
玉川學園出版部④623昭15.G/
玉川直重①366昭8.D//
④497昭9.D/④652昭17.D/
玉生道經②32昭11.A//
④754[昭11]/
玉城肇①268大15.C/①278昭2.C/
①291昭3.C/①306昭4.C/
①376昭9.B/①378昭9.C//
②30昭10.F/②59昭12.C/
②136昭18.D/②144昭19.D/
②262昭4.C/②266昭5.C//
④418昭4.C/④490昭9.C/
④563昭12.F/④574昭13.C/
玉置邁①159明45.C//
③169明45.D//④238大1.D/
玉置登臨④250大2.D/
④282大4.D/
玉置良翰①23明10.B/
玉川教育研究所③328昭22/
玉島孝之介①111明37.B/
玉田啓一郎④48明15.E/
④49明15.E/
玉乃世履公③29明20.G/
田丸卓郎①206大7.D/
玉蟲文一①253大14.B//
④364大14.B/
玉水文瀾堂④617[江戸中期]/
民子④308大6.D/
爲永春水①10［160］//
④672[天保]/
爲永太郎兵衛④671[寛保]/
田村□④372大14.E/
田村一郎④403昭3.B/
④439昭6.B/④468昭8.B/
④509昭10.B/④526昭11.B/

田村英太郎④784[明28]/
田村謙(譲)二③267昭7.D//
④446昭6.D/
田村左衛士 → 峨洋逸人
田村貞一④584昭14.B/
田村武治①52明22.D//
④84明23.D/
田村武敏②62昭12.D//
④477昭8.D/
田村南洋 → 峨洋逸人
田村初太郎①314昭5.B/
田村道有②275昭7.D//
④462昭7.D/
田村直臣④84明23.D/
④85明23.E/④85明23.G/
④88明24.D/④313大7.B/
④430昭5.C/④443昭6.C/
④694[明24]/④723[大正]/
田村文學士④322大8.B/
田村實②73昭13.C/
②143昭19.C//④576昭13.E/
④778[昭19]/
田山花袋(古桐軒主人、くれがし)①95明33.D//
③139明39.D//④163明38.D/
④165明38.D/④179明40.C/
④495昭9.D/④674[明治]/
④704[明治]/
田山停雲④788[明44]/
垂井信四郎②251大14.B//
③230大14.B/③230大14.C/
太郎坊③139明39.C/
③141明39.F/
田原藤太②240大5.B/
田和博雄②249大12.E/
團伊能①235大12.A/①280昭2.D/
①289昭3.B/①294昭3.Ｄ/
①295昭3.D/①308昭4.D/
①312昭5.A/①320昭5.D/
①321昭5.D/①335昭6.D/
①336昭6.D/①338昭6.D//
②257昭2.D/②260昭3.D/
②266昭5.D//③286昭11.D/
③327昭[不明]D/
④350大12.A/④354大12.D/
④356大13.A/④364大14.A/
④420昭4.D/④462昭7.D/
④793[大11]/④802[昭10]/
段德洋②253大14.E/
澹庵居士④81明23.B/
淡淵②182明23.B/
談古樓主人④369大14.C/
淡齋學史①51明22.B/
團十郎④147明36.D/
旦堂④177明40.B/
檀野敎雄④408昭3.D/
[ち]千磐屏山①190大5.C/
地下一尺生 → 太田正雄
近澤孤村①238大12.B/
近重眞澄①213大8.F/
近角常觀②202明29.B/
②219明37.B/
近松秋江 → 德田秋江
近松守太郎④129明33.D/
近松門左衛門[近松]①6[51]/
①280昭2.D//④93明25.D/
④408昭3.D/
④671[江戸前期]/
④695[明25]/④720[大10]/
④726[大14]/④728[昭1]/
④781[江戸前期]/
千頭淸臣(德馬)[瑣克拉的]
①54明23.A/①68明26.B/
①70明26.B/①152明44.C/
①156明45.B/①157明45.C/
①162大2.B//②159昭14.B/
②161明15.F/②162明16.B/
②181明22.E/②182明23.A/
②256昭2.B//③39明23.B/
③54明26.B/③133明38.C/
③174大2.B/③176大2.C/
④71明21.B/④80明23.B/
④99明27.B/④219明44.C/
④718[大6]/

近山金次（治）①309昭4.D/
①348昭7.C/①349昭7.C/
①355昭7.E/①363昭8.C/
①365昭8.C/①371昭9.A/
①379昭9.C//②21昭10.C/
②59昭12.C/②60昭12.C/
②65昭12.E/②73昭13.C/
②84昭14.C/②85昭14.C/
②98昭15.C/②110昭16.C/
②121昭17.C/②122昭17.C/
②126昭17.D/②134昭18.C//
③291昭12.C//④456昭7.C/
④463昭7.E/④490昭9.C/
④515昭10.C/④557昭12.C/
④563昭12.E/④572昭13.C/
④589昭14.C/④590昭14.C/
④633昭16.C/④646昭17.C/
④648昭17.C/④659昭18.C/
④666昭19.C/④667昭19.C/
④803[昭11]/
筑蔭④243大2.B/
竹雨病人 → 箕作阮甫
筑山 → 小野辰三郎
竹紫處樓主人①61明24.C/
筑紫三郎①187大5.B/
筑紫次郎①165大2.C//
④184明41.B/
筑水 → 金子馬治
智齋居士②174明20.E/
知新舘①15明5.G//②154明5.G/
知新舘社員④［明5]/
知新生④149明37.B/
地圖出版社④790[19-]/
地塘學人④70明20.D/
乳木生 → 小林澄兄
千々和眞①338昭6.E/
知的協力會議③323昭18.A/
痴堂②183明23.B/
茅野 → 茅野蕭々
茅野蕭々①144明42.D/
①230大11.B/①232大11.D/
①241大12.D/①259大14.D/
①271大15.D/①381昭9.C/
①383昭9.D//②15昭10.B/
②44昭11.D/②47昭11.D/
②63昭12.D/②112昭16.D/
②136昭18.D//③233大15.B/
③272昭8.D/③292昭12.D/
③293昭13.A//④295大5.D/
④342大10.D/④384大15.D/
④431昭5.C/④460昭7.D/
④462昭7.D/④478昭8.D/
④518昭10.D/④537昭11.D/
④560昭12.D/④618昭15.D/
④619昭15.D/④637昭16.D/
④641昭17.A/④661昭18.D/
④663昭18.D/
茅野晁④668昭19.D/
千輪清①179大4.B/
千輪浩④344大11.A/
千葉一樹④453昭7.B/
千葉龜雄①248大13.D//
④348大11.D/④490昭9.C/
④749[昭9]/
千葉掬香①176大3.C//
②74昭13.D//③165明45.B/
③174大2.B/③176大2.D//
④489昭9.B/④547昭12.A/
④575昭13.D/④586昭14.B/
千葉幸之輔③219大11.B/
千葉鑛藏（臨川）①94明33.B/
①98明4.E/①102明35.D/
①103明35.D/①113明37.B/
①122明38.D/①129明39.E/
①155明45.B/①164大2.B/
①169大3.A//②247大11.A//
③167明45.B/③171大2.B/
③173大2.B/③174大2.B/
③175大2.B/③177大2.D//
④135明35.B/④136明35.B/
④226大1.B/④228大1.B/
④229大1.B/④233大1.B/

④239大2.A/④240大2.A/
④242大2.B/④244大2.B/
④245大2.B/④247大2.B/
④248大2.B/④344大11.A/
千葉江東④172明39.D/
千葉征露③233大15.B/
③234大15.B/
千葉蓁一③221大11.E//
④349大11.E/
千葉大樹④599昭15.A/
千葉武雄④138明35.C/
千葉忠雄④196明42.B/
千葉梅園①66明25.D/
千葉秀浦①122明38.D//
④165明38.D/
千葉昌雄④526昭11.B/
千葉松雄①24明10.C//
④33明11.A/
千葉命吉①255大14.B//
③238昭2.B//④375大15.B/
千葉勇五郎①277昭2.C//
②41昭11.C//④197明42.C/
④347大11.C/④360大13.C/
④533昭11.C/④557昭12.C/
④646昭17.C/④755[昭11]/
千葉雄次郎③220大11.E/
千葉臨川 → 千葉鑛藏
千葉廉④94明26.B/
千原圓一③189大4.B/
池峰學人③42明23.D/
中央生④109明29.A/
中央聖書研究會④759[昭12]/
中央大學教務科④518昭10.E/
中齋③84明30.D/
中城學士④333大9.C/
中將姬④708[明42]/
中申生①106明36.C/
謫天情仙①79明29.D/
鑄鐵生④784[明26]/
中等教育會①246大13.C/
忠僕直助④709[明43]/
楮村學人①84明30.D/
長 → 長壽吉
釣月生①105明36.B/
張厚永②267昭5.E/
長壽吉(長)①139明41.D/
①205大7.D/①291昭3.C/
①292昭3.C/①378昭9.C//
②97昭15.C/②107昭16.B/
②113昭16.E/②123昭17.C/
②128昭17.E/②133昭18.C/
②235明45.C//③317昭16.E//
④417昭4.C/④421昭4.D/
④475昭8.C/④580昭14.A/
④600昭15.A/④653昭17.E/
④718[大6]/④756[昭11]/
④795[大15]/④801[昭8]/
趙義卨②73昭13.C//
④571昭13.C/
張耀堂④433昭5.D/
趙如光①36明17.C/
長洲樵史 → 九岐哲
鳥仙①71明26.C/
蝶驛平民②156明8.D/
蝶人生①144明42.D/
長年長目④384大15.D/
千代田 → 千代田謙
千代田謙(千代田)①318昭5.C/
①333昭6.C/①348昭7.C/
①349昭7.C/①360昭8.B/
①364昭8.C/①364昭8.C/
①380昭9.C//②20昭10.C/
②22昭10.C/②23昭10.C/
②43昭11.C/②90昭14.F/
②98昭15.C/②121昭17.C/
②147昭20.C//③265昭7.C/
③286昭11.C/③296昭13.C/
③316昭16.C//④422昭4.E/
④445昭6.C/④474昭8.C/
④475昭8.C/④514昭10.C/
④536昭11.C/④547昭12.A/
④572昭13.C/④614昭15.C/
④615昭15.C/④633昭16.C/

④634昭16.C/④648昭17.C/
④660昭18.C/④743[昭7]/
④806[昭16]/
嘲風 → 姉崎正治
朝野房 → 舊雨樓
中學書院③86明31.A/
砧秀生②188明24.D/
樗牛 → 高山樗牛(林次郎)
猪間生④698[明30]
樗樸道人④672[享和]/
穉林生③188大3.F/
地學研究會④786[明37]/
地理學同攻會④798[昭5]/
地理研究會④786[明37]/
④791[大2]/④792 [大3]/
陳雨農④65明19.D/
陳堯成②254大15.B//
③233大15.B/
陳紹聲④543昭11.E/
鎭西八郎爲朝④709[明43]/
珍田捨己③8明9.C/
沈冥子④124明32.C/
④125明32.D/
沈黙生④72明21.B/
[つ]追古生④370大14.D/
通高嗣子 → 那珂通世
通俗教育普及會①183大4.D/
津荷環山①181大4.B//
③180大3.B//④272大4.B/
④273大4.B/④290大5.B/
津荷輔①163大2.B//
④356大13.A/
都河龍①125明39.B/
①127明39.B//④168明39.B/
④169明39.B/
塚越生④432昭5.C/
塚越(腰)千代巳①328昭6.B//
④439昭6.B/
塚越芳太郎③38明22.E/
塚崎榮智②246大10.D/
塚田大願①333昭6.C/
津金馨①167大2.D/
栂尾澄人②240大5.B/
塚原[文學士]③116明36.A/
塚原要④607昭15.B/
塚原耕山 → 塚原直
塚原政次④127明33.B/
④130明34.B/④330大9.A/
塚原冨衛②143昭19.C/
塚原直(耕山)①17明7.E/
塚本明毅③5明7.E//④30明7.E/
塚本三吉②271昭6.E/
塚本愼三④596昭14.E/
塚本豐次郎①226大10.E/
塚本虎二②281昭9.B//
④443昭6.C/④512昭10.C/
④532昭11.B/④741[昭6]/
④744[昭7]/④759[昭12]/
④778[昭19]/④797[昭4]/
④798[昭5]/④799[昭6]/
④802[昭11]/④804[昭13]/
④806[昭16]/④809[昭19]/
塚本弘①174大3.B//③182大3.B/
塚本靖[教授]①108明36.D/
①116明37.D/①122明38.D/
①134明40.D/①153明44.D/
①239大12.C/①321昭5.D//
③160明44.B/③168明45.D/
③169明45.D/③204大6.D/
③211大8.D/
津輕純夫①104明36.B/
①106明36.B//④138明35.B/
津川生④361大13.C/
築田岩雄②253大14.E/
月の人④199明42.D/
月の舍しのぶ → 巖本善治
津久井龍雄①260大14.E//
④757[昭12]/
佃與二郎④78明22.C/
筑波二峰③10明10.A/
九十九洋外史 → 銕兜學人
柘植④623昭15.G/
柘植君續②150[14497,14503]/
辻章從(蘭室)①8[108]/

①9[136]/①178大3.F//
②150[14496]//④25[24982]
辻岩雄④90明25.B/④695[明25]/
辻永③224大13.A/
辻繡江①62明24.D/
辻清明②76昭13.E/
辻幸三郎①288昭3.B//
③244昭3.B//④364大14.B/
④400昭3.B/
辻潤①169大3.B/①181大4.B/
①189大5.B/①229大11.B/
①301昭4.B/
辻新次(男爵)③291昭12.D/
辻善之助①196大6.C/
①318昭5.C//③254昭5.C//
④299大6.A/④393昭2.C/
④426昭5.A/
辻壯一④370大14.D/
辻恒彦①248大13.D//
②263昭4.D/
辻博士③201大6.B//④309大6.F/
辻治之助①56明23.C/
辻正次④464昭7.F/
辻密太郎④103明22.G/
④103明27.D/
辻安禰④785[明34]/
辻蘭室 → 辻章從
辻良藏③150明42.B/
辻野①352昭7.D/①353昭7.D/
辻野久憲④497昭9.D/
④743[昭7]/④755[昭11]/
④759[昭12]/
津島壽一①154明44.E/
辻村正吾④628昭16.B/
④647昭17.C/④751[昭10]/
辻村太郎①371昭9.A/
津田 → 津田仙
津田口④399昭3.A/
津田巖①285昭3.A/
津田梅子①125明39.B/
津田欽一郎①122明38.E/
都田恒太郎④677[昭和]/
津田元德(藏)①105明36.B/
津田左右吉①66明25.D//
④297大5.D/④617昭15.D/
④726[大5]/
津田次郎④115明30.B/
津田純一③16明13.E/
津田眞一郎 → 津田眞道
津田甚三郎①56明23.C//
③19明15.C/
津田仙①30明13.F//③18明14.G//
④38明12.G/④49明15.G/
④788[明治期]/
津田東太郎②249大12.E/
津田昇④559昭12.D/
津田法學士④173明39.E/
津田眞道(眞一郎)①12[216]/
①13明1.E/①18明8.B/
①22明9.E/①78明29.B//
②128昭17.E/②200明28.B//
③10明9.E/③14明11.E/
③54明26.B/③60明27.B/
③64明27.E//④766[昭15]/
津田道治④766[昭15]/
津田好雄①280昭2.D/
津田敬武①314昭5.B//
③224大12.D/
津田穰④648昭17.C/
④770[昭16]/
傳田恒夫①319昭5.C/
土子金四郎①44明20.E//
②174明20.D/
土田杏村①267大15.B/
①277昭2.B/①309昭4.E//
④422昭4.E/④467昭8.B/
④468昭8.B/
土田誠一①187大5.B//
③242昭2.E/③245昭3.E/
土田泰藏(大東萍士)
④690[明20]/
土橋淸①273昭2.A/①359昭8.B/
土橋氏④253大2.G/
土水士精(勤)②150[14503]/

土屋光司②121昭17.C//
④660昭18.C/
槌屋古典④618昭15.D/
④636昭16.D/
土屋清一④388昭2.B/
土屋政朗④694[明24]/
土屋大次郎④693[明23]/
土屋大夢③238昭2.B/
土屋喬雄③312昭15.F/
土屋忠①324昭5.F/①340昭6.F//
④436昭5.F/④448昭6.F/
土屋巴①229大11.B/
土屋特派員③170明45.E//
④238大1.E/④238大1.F/
土屋文明④307大6.D/
④717[大5]/
土屋政朝②163明16.C/
土屋幸正①236大12.B/
①254大14.B//③219大11.B//
④345大11.B/
土屋良遵①118明38.B/
土屋康雄③211大8.D/
土屋柳平①55明23.C//
②183明23.C/
土屋廉藏④327大8.D/
筒井明俊④61明18.E/
筒井一男④427昭5.B/
④430昭5.C/
筒井民次郎④92明25.C/
都築文學士③52明25.E/
都築東作②269昭6.C/
都築洋次郎②124昭17.D/
堤克久②58昭12.B/
鼓響谷 → 鼓常良
堤殼士志④674[明1]/
堤紫苑④372大14.E/
堤它山④25[24976]/
鼓常良(響谷)①220大10.A/
①232大11.D/①269大15.D//
②99昭15.D/②126昭17.D//
③231大14.D//④250大2.D/
④358大13.B/④371大14.D/
④504昭10.A/④544昭11.F/
④617昭15.D/④618昭15.D/
④619昭15.D/④721[大10]/
④772[昭17]/
堤正勝④41明14.B/
綱引③200大5.D/
綱島 → 綱島梁川
綱島榮一郎 → 綱島梁川
綱島佳吉④73明21.C/
④75明22.A/④152明37.B/
④177明40.B/④206明43.B/
④276大4.B/④325大8.B/
④368大14.B/
綱島梁川(榮一郎)①75明28.B/
①82明30.B/①85明31.B/
①90明32.B/①96明34.B/
①99明35.B/①101明35.B/
①106明36.B/①110明37.B/
①112明37.B/①113明37.B/
①119明38.B/①120明38.B/
①132明40.B/①133明40.B/
①141明42.B/①142明42.B/
①147明43.B/①221大10.B/
①236大12.B//②212明34.B/
②215明35.B//③117明36.B/
③131明38.B/③132明38.B/
③154明43.B//④128明33.C/
④150明37.B/④157明38.B/
④159明38.B/④176明40.B/
④193明42.B/④206明43.B/
④216明44.B/④229大1.B/
④230大1.B/④258大3.B/
④259大3.B/④291大5.C/
④324大8.B/④455昭7.B/
④707[明41]/④708[明43]/
④716[大5]/④720[大10]/
恒藤恭①212大8.E/①218大9.E/
①233大11.E/①249大13.E/
①360昭8.B/①386昭9.E//
②32昭11.A/②65昭12.E/
②66昭12.E/②75昭13.E/
②104昭16.A//③220大11.E/

③292昭12.E//④355大12.E/
④423昭4.E/④500昭9.E/
④542昭11.E/④561昭12.E/
④563昭12.E/④626昭16.A/
恒森悠久①253大14.B/
角田俊②124昭17.D/
角田文衛①382昭9.D//
②42昭11.C/②59昭12.C/
②60昭12.C/②98昭15.C/
②135昭18.C/②143昭19.C//
④554昭12.C/④642昭17.A/
④661昭18.C/④806[昭15]/
角田柳作①100明35.B/
①110明37.B/①112明37.B/
①120明38.B/①142明42.B//
②220明37.B//④135明35.B/
④142明36.B/④193明42.B/
④206明43.B/④229大1.B/
④230大1.B/④258大3.B/
④259大3.B/
角筈生③139明39.C/
圓谷弘①261大14.E/
①334昭6.C//④570昭13.B/
坪井 → 坪井正五郎
坪井→ 坪井九馬三
坪井九馬三[文學士、博士、坪井]
①40明19.C/①76明28.C/
①90明32.C/①94明33.C/
①97明34.C/①101明35.C/
①102明35.C/①106月36.C/
①107明36.C/①114明37.C/
①120明38.C/①148明43.C/
①182大4.C/①317昭5.C/
①319昭5.C//②200明28.C/
②218明36.C/②220明37.C//
③50明25.C/③61明27.B/
③67明28.C/③69明28.D/
③92明32.A/③95明32.C/
③96明32.D/③99明33.A/
③102明33.C/③108明34.C/
③114明35.C/③120明36.C/
③121明36.C/③122明36.C/
③168明45.C/③236大15.C/
③286昭11.C//④50明16.B/
④51明16.B/④59明18.B/
④66明20.B/④86明24.B/
④108明28.D/④145明36.C/
④146明36.C/④153明37.C/
④154明37.C/④171明39.C/
④224大1.A/④235大1.C/
④236大1.C/④305大6.C/
④473昭8.C/④474昭8.C/
④535昭11.C/④672[明治]/
④673[明治]/④674[明治]/
④696[明27]/④697[明28]/
④699[明31]/④702[明36]/
④703[明37]/④706[明40]/
④715[大4]/④786[明37]/
壺井繁治②87昭14.D/
坪井祥④783[明24]/
坪井正五郎[博士、坪井]
①70明26.C/
①74明27.C/①79明29.C/
①114明37.C/①121明38.C//
②183明23.C/②184明23.D/
②186明23.F/②195明26.C/
②215明35.C//③62明27.C/
③67明28.C/③70明28.F/
③78明29.F/③83明30.D/
③108明34.C/③114明35.C/
③133明38.C/③140明39.D//
④209明43.C/④235大1.C/
坪井仙次郎①26明11.B/
①31明14.D//④783[明19]/
坪井爲春④31明9.D/
坪井信道①10[154,156,159]/
①49明21.F/
坪井博士 → 坪井九馬三
坪井博士 → 坪井正五郎
坪井玄道③141明39.F//
④212明43.F/
坪井守麿④518昭10.D/
坪井良平②143昭19.C/
②147昭20.C/

坪内章②109昭16.C//
④632昭16.C/
坪内逍遙（雄藏、小羊子、逍遙旅人）
①36明17.C/①40明19.C/
①71明26.D/①84明30.D/
①90明32.B/①93明33.B/
①97明34.B/①97明34.C/
①104明36.B/①106明36.B/
①128明39.D/①134明40.D/
①138明41.C/①139明41.C/
①139明41.D/①165大2.C/
①166大2.C/①175大3.C/
①182大4.C/①183大4.C/
①229大11.B/①230大11.C/
①232大11.D/①239大12.C/
①265大15.B/①267大15.B/
①277昭2.C/①280昭2.D/
①290昭3.C/①331昭6.C/
①378昭9.C/①383昭9.D//
②83昭14.B/②165明17.C/
②167明18.D/②170明19.B/
②171明19.C/②171明19.D/
②173明20.C/②174明20.D/
②181明22.D/②184明23.D/
②188明24.D/②213明34.D//
③22明17.C/③23明18.C/
③26明19.C/③36明22.C/
③42明24.A/③52明25.D/
③56明26.C/③57明26.D/
③162明44.D/③175大2.B/
③176大2.C/③192大4.C/
③193大4.C/③199大5.C/
③206大7.C/③219大11.C//
④59明18.C/④84明23.D/
④97明26.C/④111明29.C/
④112明29.D/④122明32.B/
④138明35.C/④139明35.D/
④143明36.B/④146明36.D/
④154明37.C/④163明38.D/
④170明39.C/④198明42.D/
④240大2.A/④248大2.B/
④250大2.C④254大3.A/
④266大3.D/④267大3.D/
④279大4.C/④280大4.C/
④293大5.C/④294大5.C/
④369大14.C/④394大15.D/
④385大15.D/④478昭8.D/
④490昭9.C/④497昭9.D/
④695[明26]/④700[明34]/
④701[明35]/④708[明42]/
④711[大2]/④727[昭1]/
④731[昭2]/④733[昭3]/
④749[昭9]/④752[昭10]/
④789[1-]/④796[昭2]/
④801[昭9]/
坪内士行②240大5.C/
坪内鋭雄③123明36.D//
④266大3.D/
坪内雄藏 → 坪内逍遙
坪谷善四郎③49明25.B/
③61明27.B/
坪谷水哉①135明41.A//
③145明41.A/③149明42.A//
④190明42.A/
坪根久松②217明35.E/
妻木忠太①216大9.C/
①230大11.C//④333大9.C/
④347大11.C/
罪の子④176明40.B/
津谷不識生④111明29.B/
露無文治④183明41.B/
④260大3.B/④316大7.B/
④326大8.C/
都留仙次④477昭8.D/
鶴田眞次郎③280昭10.B/
③283昭10.F/③285昭11.B/
③289昭12.B/③290昭12.B//
④462昭7.D/④507昭10.B/
鶴田喜一郎①65明25.D/
①71明26.D//③57明26.D//
④93明25.D/④98明25.D/
鶴田賢次②211明33.F//
④196明42.B/

鶴田烝④165明38.E/
鶴田雅二④778[昭19]/
④809[昭19]/
鶴田理學博士④177明40.B/
④187明41.B/
鶴の屋主人②187明24.B/
鶴原定吉③98明33.A/
鶴見④801[昭9]/
鶴見祐輔①286昭3.B/
①290昭3.C/①377昭9.C//
②16昭10.B/②33昭11.B/
②41昭11.C/②108昭16.C/
②120昭17.C//④298大5.E/
④518昭10.D/④740[昭6]/
鶴峯戊申②150［14501］/
［て］D.H.③244昭3.B/
T.A.③93明32.B/
庭泉 → 墨田庭泉
TE生①138明41.C/
T.H.④603昭15.B/
T.H.生②216明35.C//
③171大2.B/④230大1.B/
T.I(生)①61明24.C//④88明24.C/
T.K.④83明23.C/
T.K①135明41.A/
T.K.(生)②224明39.B/
②225明40.A/②227明40.D/
②228明41.B/②228明41.C/
②228明41.D/②231明44.A/
T.K.M.①352昭7.D/
T.K.S.④743[昭7]/
D.M.④553昭12.B/
T.M.③266昭7.D/
TM生①101明35.C/
T.Mitani → 三谷隆正
T. N.生①61明24.D//④262大3.B/
て、に、生①56明23.C/
T.O.③52明25.D//④90明25.A/
T.S.②259昭3.B/②260昭3.D/
②277昭8.B/
T.S.生④152明37.B/
T.T.①69明26.B//②224明39.B//
③35明22.B/
TW生③181大3.B/
鄭愛生①74明27.C/
鄭渙生③55明26.B/③56明26.C/
③63明27.D/
鄭君哲①359昭8.B/
鄭隈生④98明26.D/
帝國教育編輯同人①289昭3.B/
帝國書院編輯部④800[昭8]/
④803[昭12]/
帝國軍人教育會④161明38.C/
帝國軍人協會①156明45.B/
帝國大學新聞社(出版部)
②27昭10.E/②53昭12.A//
④497昭9.D/④500昭9.F/
鄭駿膜③261昭6.D/
鼎浦生②218明36.D/
②223明38.D/
堤坡生④123明32.B/
出浦力雄①29明13.B/
出川一男④663昭18.E/
笛仙子③58明26.D//④695[明26]/
適流生④185明41.B/
④196明42.B/
狄嶺①195大6.B//④300大6.B/
出口勇藏④648昭17.C/
出口林次郎①283昭2.F/
手塚①291昭3.C/
手塚壽郎④752[昭10]/
手塚良道①288昭3.B/
手塚律藏①11［197］//
④780[文久2]/
手塚麟一①174大3.B/
哲學舘③34明22.A/
哲學講座編輯所④741[昭6]/
銕兜學人(九十九洋外史)
①72明26.E/
鐵擧居士①55明23.B//
②183明23.B/
鐵耕塾同人④190明42.A/
④198明42.C/
鐵心 → 水原寛

徹心生④86明24.B/
哲人生④230大1.B/
鐵田登羅太④678[明9]/
④679[明9]/
鐵腸生②217明36.B/
鐵塔書院［ギリシア・ラテン講座］②271昭6.D/
出村實④758[昭12]/
寺内章②177明21.G/
寺内頴①173大3.B/
寺内章明④675[明4]/
寺尾熊三②198明27.C//
④93明25.E/
寺尾謙二①295昭3.D/
寺尾國平④706[明40]/
寺尾靜香②261昭4.B//
④413昭4.B/
寺尾壽②168明18.F/
②179明22.C/②220明37.B/
②222明38.C/③131明37.F//
④156明37.F/
寺尾純吉①325昭6.B//
④438昭6.B/④440昭6.B/
④798[昭5]/
寺尾元彦④760[昭13]/
寺岡英吉①298昭3.G//
④328大8.F/
寺岡峰夫②96昭15.B/
寺門咲平④734[昭4]/
寺越生①80明29.D/①83明30.C/
寺崎武男①226大10.D//
③204大6.D/③205大7.A/
③217大11.A/③242昭3.A/
③244昭3.D//④327大8.D/
寺澤精一④80明23.B/
寺澤全眞③158明44.A/
寺澤智了①254大14.B/
寺澤恒信③326昭19.E/
寺澤保之（土井澤保之?）
①270大15.D/①278昭2.C/
①288昭3.B/①319昭5.C/
①332昭6.C/①351昭7.D//
③266昭7.D/③272昭8.C//
④383大15.D/
寺島一夫④750[昭9]/
寺島征史②129昭17.F/
④757[昭12]/④777[昭18]/
寺島鐵治④469昭8.B/
寺田瑛③242昭2.F/
寺田上人（寺田四郎?）
③64明27.E/
寺田四郎（寺田上人?）
①185大4.E/①217大9.C/
①226大10.E/①227大10.E/
①310昭4.E//②28昭10.E/
②77昭13.E/②89昭14.E/
②102昭15.E/②109昭16.C/
②232明44.C/②248大11.E/
②267昭5.E/②286昭9.E//
③311昭15.E//④329大9.A/
④409昭3.E/④436昭5.E/
④614昭15.C/
寺田精一④320大7.E/
寺田政治②111昭16.D/
寺田善次①365昭8.C/
寺田貞次④725[大14]/
寺田寅（虎）彦（吉村冬彦）［博士］
①96明43.A/①214大9.A/
①220大10.A/①238大12.B/
①311昭4.F//①356昭7.F/
①371昭9.A/①387昭9.F//
②146昭19.F/②278昭8.B//
③149明42.A/③222大12.B/
③244昭3.D/③258昭6.B/
③273昭9.A/③275昭9.B/
③278昭9.D//④191明42.A/
④410昭3.F/④423昭4.F/
④444昭6.C/④481昭9.A/
④483昭9.B/④500昭9.F/
④529昭11.B/④544昭11.F/
④724[大13]/
寺田博士 → 寺田寅（虎）彦
寺田彌吉①328昭6.B/

①345昭7.B/①358昭8.B//
②126昭17.E//④412昭4.A/
④530昭11.B/
寺田勇吉②196明26.G//
③24明18.G/③26明19.G/
③27明19.G/③43明24.A//
④66明19.G/④71明20.G/
④86明24.B/
寺西武夫(Takeo Teranishi)
①381昭9.D//④771[昭17]/
④797[昭4]/
寺西鐵雄③303昭14.B/
寺本婉雅④167明39.B/
寺本菅三④650昭17.D/
寺本彦①377昭9.B/
寺山啓之助②167明18.B/
照井豐①352昭7.D/①363昭8.C/
①364昭8.C/①378昭9.C/
①379昭9.C/①380昭9.C/
①381昭9.C//②49昭11.E/
②143昭19.C//④472昭8.C/
④513昭10.C/④555昭12.C/
照井善信②56昭12.B//
④550昭12.B/
照岡祐兼③190大4.B/
暉峻義等③306昭14.F//
④598昭14.F/
照山正順②24昭10.D/
天外逸史①44明20.E/
天涯孤客生④301大6.B/
④313大7.B/
天外道人②172明20.B/
②175明21.B/
天空子④197明42.C/
天桂子④211明43.D/
天嶽居士③143明40.C/
天香逸史③237大15.D/
④63明19.C/④371大14.D/
天香齋主人④29明6.E/
電氣舘寫眞帖出版部④791[大3]/
天主教教會④126明33.B/
④214明44.B/④234大1.C/
④379大15.C/④
天春生①128明39.D/
天正遣歐使節③32明21.D//
④799[昭7]/
天尊龜谷聖馨(龜谷天尊)
①170大3.B/
①177大3.D/
傳田恒夫④431昭5.C/
④432昭5.C/
天壇(櫻井天壇?)①109明37.A/
①116明37.D/①122明38.D/
天藤正藤④663昭18.F/
天風 → 佐藤天風
天峰居士③28明20.D/
天來 → 繁野天來
天來歌客 → 繁野天來
天籟山人④710[明44]/
天藾子④103明27.C/
天藾生④312大7.B/
天龍生④146明36.C/
[と]土居寛申①177大3.E/
土井久壽彦③79明30.A/
土居言太郎[羅馬盛衰記]
①34明16.C/①36明17.E//
③244昭3.D/
土居光華①33明15.E//
④32明10.A/④35明12.A/
④38明13.A/④50明16.A/
④54明16.E/④682[明12]/
④685[明15,16]/
④686[明17]/④688[明19]/
土居光知(Kochi,Doi)
①170大3.B/①173大3.B/
①189大5.B/①191大5.D/
①192大5.D/①196大6.B
①216大9.B/①225大10.D/
①230大11.B/①232大11.D/
①246大13.B/①279昭2.D//
②24昭10.D/②52昭11.G/
②87昭14.D/③213大9.D/
③250昭4.D//④335大9.D/

④354大12.D/④396昭2.D/
④418昭4.C/④460昭7.D/
④722[大11]/④738[昭5]/
土肥慶藏②258昭2.F/
土井壯良①184大4.D//
④280大4.D/
土井忠生①352昭7.D/
①367昭8.D//②126昭17.D//
③277昭9.D//④460昭7.D/
④618昭15.D/④649昭17.D/
④651昭17.D/④652昭17.D/
④668昭19.D/
土井虎賀壽(久保虎賀壽)
①329昭6.B/①345昭7.B/
①346昭7.B//②34昭11.B/
②57昭12.B/②80昭14.B/
②82昭14.B/②119昭17.B/
②125昭17.D/②132昭18.B/
②137昭18.D//③299昭13.D/
③309昭15.B//④454昭7.B/
④529昭11.B/④551昭12.B/
④552昭12.B/④553昭12.B/
④568昭13.B/④587昭14.B/
④602昭15.B/④631昭16.B/
④633昭16.C/④757[昭12]/
土井晩翠(つちい?、林吉、晩翠禪史)
①108明36.D/①166大2.D/
①176大3.D/①183大4.D/
①218大9.D/①277昭2.B/
①292昭3.C//②23昭10.D/
②51昭11.F/②61昭12.D/
②98昭15.D/②110昭16.D/
②135昭18.D/②137昭18.D/
②206明31.C/②223明38.D/
②250大13.D/②257昭2.D/
②275昭7.D/②286昭9.D//
③88明31.C/③131明38.A/
③277昭9.D/③317昭16.D//
④120明31.C/④134明34.D/
④139明35.D/④149明37.A/
④165明38.D/④172明39.D/
④191明42.B/④334大9.D/
④496昭9.D/④637昭16.D/
④662昭18.D/④695[明26]/
④701[明34]/④707[明41]/
④717[大6]/④741[昭和]/
④748[昭9]/④751[昭10]/
④767[昭15]/
土井眞倫④602昭15.B/
土肥冬男①356昭7.F/
土井友次郎④440昭6.B/
土井林吉 → 土井晩翠
土井澤保之(寺澤保之?)
③266昭7.D/
獨逸學協會學校③39明23.A/
獨逸ヘルデル辭典編纂部
③318昭16.G/
道一①33明15.C/
東亞學藝協會①325昭6.B/
東亞史研究會②141昭19.A//
④664昭19.A/
桃華生③185大3.C/
東華堂②229明41.G/
東花坊①64明25.B/
東海散士(柴四朗、柴東海)[佳人之奇遇]①38明18.D/
①40明19.D/①49明21.D/
①294昭3.D/①322昭5.D/
①337昭6.D/①384昭9.D//
②25昭10.D/②171明19.D/
②177明21.D/②188明24.D/
②204明30.D/②205明30.D/
②206明31.D//③23明18.D/
③26明19.D/③32明21.D/
③51明25.D/③63明27.D/
③83明30.D/③84明30.D/
③85明30.D/③90明31.D/
③168明45.D/③286昭11.D//
④60明18.D/④64明19.C/
④74明21.D/④88明24.C/
④117明30.C/④120明31.C/
④575昭13.D/④686[明18]/
④688[明19]/④726[大16]/

④791[19-]/
東海生②201明28.D/
東儀鐵笛③139明39.D/
道簱泰誠④451昭7.B/
東京朝日新聞學藝部
③327昭[不明]B/
東京醫事新誌局①109明36.G/
東京逸民④198明42.C/
東京音樂學校③249昭4.D/
東京偕行社④711[大1]/
東京外國語學校④798[昭5]/
東京開成學校③4明7.C/
③6明8.C/③8明9.C/
東京開成舘編輯所①246大13.C//
④410昭3.F/④794[大13]/
④796[昭2]/
東京化學會④694[明24]/
東京科學博物舘④748[昭9]/
東京學半(生)社①15明5.G//
③4明5.G/
東京河出書房④486昭9.B/
東京基督教青年會④797[昭3]/
東京高等師範學校附屬中學校内
英語研究會④798[昭5]/
東京高等師範學校附屬中學校國
語漢文研究會④732[昭3]/
東京高等師範學校附屬中學(
Fuzoku-Chugaku-
Tokyo-higer-normal-school)
④718[大7]/④798[昭5]/
東京商科大學一橋新聞部
②27昭10.E/②113昭16.E//
④417昭4.C/
東京政治學校④672[明治]/
④689[明治]/
東京青年會一員④56明17.C/
東京專門學校③34明22.A/
③39明23.A/③43明24.A/
③48明25.A/
東京大學三學部③18明14.G/
東京大學法學部別課
③20明16.C/③22明17.C/
東京大學豫備門③11明10.C/
③13明11.C/③15明12.C/
③17明14.C/③19明15.C/
③20明16.C/③22明17.C/
東京帝國大學宗教學講座記念會
②265昭5.B/
東京帝國大學文學部
③248昭4.C/
東京帝國大學文學部教育研究室
④394昭2.C/
東京帝室博物館④705[明39]/
東京天文臺②264昭4.F//
④423昭4.F/
東京日々新聞社④599昭15.A/
東京の一市民③32明21.D/
東京府師範學校③10明10.A/
東京文科大學英文學會
④155明37.D/
東京文理科大學教育學會
④527昭11.B/
東京法學院③39明23.A/
東京寶文舘編輯所④788[明44]/
東京盲學校鍼按科
②148昭20.C[不明]/
東京ヰリアム・モリス研究會
④495昭9.D/
とうくわ②203明30.B/
②204明30.B/②204明30.C/
道家齋一郎①305昭4.C/
道家忠道②270昭6.D/
東擊生④146明36.D/
東皐散人①205大7.D/
東向生③71明29.B/
東郷實①223大10.C/
①268大15.C/
透谷(隠者、子) → 北村透谷
董齋 → 田中貞純
東山學人②180明22.D/
桃樹園三宅①11[201]/
同志社一寒生④41明14.B/
同志社一書生④33明11.B/
同志社庶務部④762[昭13]/

同志社哲學會④588昭14.C/
東洲散史①48明21.D/
同情生④401昭3.B/
東城鉦太郎④701[明35]/
東條種家④70明20.D/
同人③104明33.D/
同信舘④214明44.B/
東大史學會③303昭14.C/
東大法學部綠會書籍部
④790[19-]/
當都宮五郎②199明27.E/
藤堂卓④111明29.C/
藤堂高紹②78昭13.G/
藤堂融④121明31.E/
唐通居士 → 神田孝平
侗然居士②185明23.D/
茎三 → 島村盛助
桐南居士④384大15.D/
東芙生①54明23.B/①58明23.E//
②182明23.B/
湯武居士 → 湯本武比古
同文舘（編輯部）②223明38.G/
②225明39.G/②233明44.G/
②241大5.G//③141明39.G/
③145明40.G/③149明41.G/
③153明42.G/③158明43.G/
③162明44.G/③170明45.G/
③189大3.G//④173明39.G/
④182明40.G/④190明41.G/
④200明42.G/④239大1.G/
④298大5.G/④324大8.B/
④464昭7.G/④791[大2]/
藤峰①49明21.D/
東方浪人②218明36.C/
東北の寒生④41明14.B/
東北山人②190明25.B/
東北帝國大學圖書舘
③323昭18.B/
遠海春夫④462昭7.D/
東溟④168明39.B/
同盟舎③24明18.G/
遠山雪子②205明30.E/
東洋學人 → 小野梓
東洋舘書店④54明16.G/
東洋漁人④68明20.C/
東洋經濟新報社④617昭15.D/
燈籟社③189大4.B/
道理愛人②168明18.D/
東嶺野史①60明24.C/
童話研究會①258大14.D/
①264大15.B/①269大15.D/
①307昭4.D//③282昭10.D/
童話二葉會①381昭9.D/
戸川安宅 → 戸川殘花
戸川殘花（安宅、殘花生、百合
園主人）①59明24.B/
①62明24.D/①66明25.D/
①83明30.C/①257大14.C//
③70明28.G/③164明45.B/
③168明45.D//④84明23.C/
戸川秋骨（明三,Shuukotsu
Togawa)①78明29.B/
①83明30.C/①156明45.B/
①194大6.B/①203大7.B/
①221大10.B/①238大12.B//
②202明29.D/②218明36.D/
②240大5.D/②248大11.D//
③58明26.D/③78明29.D/
③84明30.D/③115明35.D/
③146明41.A/③160明44.B/
③164明45.B/③167明45.B/
③194大4.D/③249昭4.D/
③282昭10.D//④113明29.D/
④136明35.B/④140明35.D/
④182明41.A/④198明42.C/
④210明43.D/④212明43.D/
④218明44.B/④233大1.B/
④296大5.D/④297大5.D/
④301大6.B/④305大6.B/
④317大7.C/④395昭2.D/
④461昭7.D/④488昭9.B/
④576昭13.D/④715[大4]/
④717[大5]/④720[大9]/
④723[大12]/④765[昭14]/

外川大③24明18.G/
戸川明三 → 戸川秋骨
戸川靈俊②277昭8.B/
十龜豐一郎②65昭12.E/
外狩素心菴(庵)②116昭16.F//
③283昭10.F/③317昭16.F/
吐奇③126明37.B/
トキ④324大8.B/
土岐哀果 → 土岐善麿
土岐玄①57明23.D//④81明23.B/
土岐儀①44明20.E/
土岐善麿(哀果)①299昭4.A//
③193大4.D//④730[昭2]/
土岐篁村④63明19.B/
土岐林三④512昭10.C/
時枝伊太郎④512昭10.C/
時枝誠記④778[昭19]/
時田龍雄②251大14.A/
戸鞠雅彦②65昭12.E/
時野谷常三郎①284昭3.A/
①299昭4.A/①312昭5.A/
①364昭8.C//②105昭16.B/
②109昭16.C/②113昭16.E/
④802[昭10]/④804[昭12]/
④805[昭13]/④806[昭16]/
④808[昭18]/
常磐御前④709[明43]/
常盤大定②203明29.D//
④664昭19.A/
②213明34.B/②217明36.B/
常盤敏太②77昭13.E//
④448昭6.E/
常磐井堯獻②214明34.F/
德憲義④504昭10.B/
得一居士④408昭3.D/
禿氏祐祥④318大7.D/
德川氏④711[大1]/
德川義寬②124昭17.D/
②144昭19.D/
德澤龍潭④660昭18.C/
讀史生②200明28.B//
③91明31.D//④212明43.E/
德重淺吉①278昭2.C/
②20昭10.C//③286昭11.C//
④748[昭9]/
讀書會①210大8.B/①212大8.E/
讀書生③98明33.A/
③104明33.F//④144明36.B/
獨醉庵主人②181明22.D//
④78明22.D/
獨醒子 → 森田思軒
德田浩司 → 德田秋江
德田秋聲③89明31.D/
德田秋江(浩司、近松秋江)
①108明36.D/①116明37.D/
①142明42.B//②230明42.D//
③130明37.D/③140明39.D/
③141明39.D/
德田是水①100明35.B/
德谷豐之助①123明38.G/
德冨愛子①169大3.A/
德冨猪一郎(蘆花)①169大3.A/
①195大6.B/①347昭7.B/
①353昭7.D//③59明27.A/
③89明31.D/③105明34.B/
③107明34.C/③183大3.B/
③213大10.A//④120明31.C/
④495昭9.D/④717[大6]/
德冨健次郎(蘇峯[峰]生、六里生)
①66明25.D/①138明41.C//
②195明26.D/②197明27.B/
②198明27.C/②200明28.C/
②226明40.B//③50明25.C/
③58明26.D//④68明20.B/
④93明25.D/④164明38.D/
④370大14.C/④386大15.E/
④450昭7.A/④462昭7.D/
④465昭7.G/④471昭8.C/
④481昭8.G/
德冨蘇峯[峰]生 → 德冨健次郎
德冨蘆花 → 德冨猪一郎
德冨六里生 → 德冨健次郎

ドクトル・オブ・フイロソフイ
一某④81明23.B/
徳永鶴泉③139明39.D/
③144明40.D/③148明41.D/
徳永壽美子③206大7.C//
④317大7.C/
徳永滿之［徳永］ → 清澤滿之
徳永康元③325昭18.D/
徳永郁介①382昭9.D//
②12昭10.B/②46昭11.D//
④390昭2.B/④504昭10.B/
④575昭13.D/
得能文①162大2.B/①170大3.B/
①173大3.B/①237大12.B/
①290昭3.B/①300昭4.B/
①313昭5.B/①325昭6.B/
①342昭7.B/①361昭8.B//
②14昭10.B/②36昭11.B//
③174大2.B/③180大3.B/
③181大3.B/③184大3.B/
③240昭2.B/③244昭3.B/
③253昭5.B/③270昭8.B//
④205明43.B/④216明44.B/
④228大1.B/④229大1.B/
④244大2.B/④258大3.B/
④260昭3.B/④274大4.B/
④288大5.B/④350大12.B/
④391昭2.B/④400昭3.B/
④414昭4.B/④429昭5.B/
④440昭6.B/④454昭7.B/
④455昭7.B/④469昭8.B/
④470昭8.B/④489昭9.B/
④510昭10.B/④530昭11.B/
④552昭12.B/④774[昭18]/
徳久昭④808[昭18]/
徳廣萬①145明43.B/
禿木 → 平田禿木
徳增榮太郎①310昭4.E//
④423昭4.E/
①354昭7.E//②48昭11.E//
④422昭4.E/④423昭4.E/
匿名隠士④160明38.B/
獨有②202明29.C/
戸倉廣①310昭4.E/①368昭8.E/
①385昭9.E//②27昭10.E/
②28昭10.E/②48昭11.E/
②49昭11.E/②64昭12.E/
②65昭12.E/②97昭15.C/
②100昭15.E/②113昭16.E/
②126昭17.E/②127昭17.E/
②138昭18.E/②139昭18.E//
③312昭15.E/③318昭17.A//
④409昭3.E/④422昭4.E/
④498昭9.E/④519昭10.E/
④647昭17.C/④663昭18.E/
④774[昭17]/
土愚流文④497昭9.D/
獨立生③98明33.A/③104明33.D/
所勇②24昭10.D/
所一郎④467昭8.B/④470昭8.B/
戸坂潤①267大15.B/①315昭5.B/
①374昭9.B/①376昭9.B/
①377昭9.B//②12昭10.B/
②15昭10.B/②37昭11.B/
②52昭11.G/②56昭12.B/
②58昭12.B/②60昭12.C//
④386大15.F/④470昭8.B/
④489昭9.B/④511昭10.B/
④552昭12.B/④737[昭4]/
④761[昭13]/
戸澤正眞①26明11.C/
戸澤姑射（正保、藐姑射山人）
①122明38.D/①133明40.C/
①158明45.C//②212明34.B//
③109明34.D//④130明34.B/
④159明38.B/④179明40.B/
④700[明34]/④704[明38]/
戸澤鐵彦①233大11.E/
①260大14.E/①322昭5.E/
①323昭5.E//④372大14.E/
戸澤正保 → 戸澤姑射
利光洋一④660昭18.C/
豐島直通④190明41.G/
豐島與志雄③292昭12.D/

戸田旭山①6［61］/
戸代光大①38明18.C//
③23明18.C//④686[明18]/
④690[明20]/
都田恒太郎④676[昭和]/
戸田欽堂④36明12.B/
④62明19.B/④
戸田三郎①267大15.B/
①276昭2.B//②12昭10.B/
②54昭12.B//④390昭2.B/
④428昭5.B/④454昭7.B/
④508昭10.B/
戸田忠厚④74明21.D/
戸田直秀①40明19.C//
②186明23.G/
戸田路聨④738[昭5]/
橡川一朗④659昭18.C/
④666昭19.C/
栃原敬(敏)房②274昭7.C//
③265昭7.C//④459昭7.C/
戸塚村人①190大5.C/
戸塚哲郎④517昭10.D/
戸塚文卿①315昭5.C/
①317昭5.C/①318昭5.C//
②259昭3.B/②269昭6.C//
④253大2.F/④331大9.B/
④388昭2.B/④390昭2.B/
④402昭3.B/④404昭3.B/
④414昭4.B/④423昭4.E/
④440昭6.B/④485昭9.B/
④646昭17.C/④657昭18.B/
④665昭19.B/④738[昭5]/
④808[昭18]/
十束浪人③175大2.B/
十時彌①97明34.C//
④531昭11.B/
蠹魚④159明38.B/
咄々小史④57明17.E/
斗南狂生 → 小川琢治
刀根宗二郎①23明10.C/
①24明10.C/①27明11.C/
都禰邱羊①114明37.C/
刀根良詮④210明43.D/
利根川東洋③320昭17.B/
舎英一④650昭17.D/
登張竹風(信一郎)①97明34.B/
①99明35.B/①102明35.D/
②83昭14.B/②215明35.B/
②244大8.G/②280昭8.G//
③112明35.B/③113明35.B/
③125明37.A/③134明38.D/
③138明39.B/③208大7.D/
③288昭12.A//④131明34.B/
④134明34.D/④143明36.B/
④149明37.A/④155明37.D/
④156明37.D/④159明38.B/
④163明38.D/④164明38.D/
④169明39.B/④173明39.D/
④197明42.B/④239大1.G/
④481昭8.G/④483昭9.B/
④699[明33]/④700[明34]/
④701[明35]/④704[明39]/
④716[大4]/④748[昭9]/
④750[昭9]/④756[昭11]/
登張信一郎 → 登張竹風
菟原八郎④588昭14.C/
飛石初次②120昭17.B/
②133昭18.B/
飛世伊七④229大1.B/
飛松正④754[昭11]/
戸弘柯三 → 三枝博音
多燃[トマス]生④179明40.C/
飛松正④450昭7.A/
苫米地一男②268昭6.B/
トミー・遠藤①273昭2.A/
富井 → 冨井政章
冨井教授 → 冨井政章?
冨井政章(冨井教授?)
①206大7.E//
②174明20.E/②196明26.E//
④448昭6.E/
冨井政憲①214大9.A/
冨尾不知佳①191大5.D/
冨岡③276昭9.C/

冨岡甲子郎①202大7.B/
冨岡鐵齋①251大13.F/
冨岡益五郎①288昭3.B/
①359昭8.B/
冨小路文光①308昭4.D/
富澤有爲男④803[昭12]/
戸水寛人(碧洋)①75明27.E/
①82明30.B/①84明30.E/
①85明31.B/①86明31.B/
①95明33.E/①109明36.E/
①116明37.E/①117明37.E/
①128明39.E/①130明40.B/
①137明41.B/①140明41.E/
①144明42.E//②77昭13.E/
②211明33.E//③80明30.B/
③85明30.E//④148明36.E/
④652昭17.E/④702[明36]/
戸水碧洋 → 戸水寛人
富田軍二④750[昭9]/
富田生④431昭5.C/
富田政④352大12.B/
④368大14.B/
冨田義介①359昭8.B/
冨田潔③305昭14.D/
冨田石心④115明30.B/
④120明31.B/
富田精④253大2.F/
冨田竹三郎②94昭15.B//
④568昭13.B/④602昭15/B/
富田文雄④497昭9.D/
富田靖③179大2.F/
冨田幸①335昭6.D/
冨田勇太郎③130明37.E/
冨田六郎②249大12.E/
富永蕃生④164明38.D/
冨永次郎③307昭14.G/
冨永惣一①336昭6.D/
①367昭8.D//②86昭14.D//
③291昭12.D/③324昭18.D/
④735[昭4]/
富永孟④797[昭3]/
富永德藏④233明45.B/
富永德麿③223大12.C//
④232大1.B/④261大3.B/
④2大9B/④443昭6.C/
④451昭7.B/④471昭8.C/
冨永北州③195大5.B/
冨永義彦②107昭16.B/
冨成喜馬平②103昭15.F/
②116昭16.F//③318昭16.F//
④636昭16.F/④663昭18.F/
④757[昭12]/④764[昭14]/
④768[昭15]/④777[昭18]/
④779[昭19]/
冨成喜成④623昭15.F/
冨野敬邦②105昭16.B//
④637昭16.D/④649昭17.D/
冨野敬照②89昭14.E//
③299昭13.E//④583昭14.B/
④596昭14.E/
冨原正義④758[昭12]/
富森京次④344大11.A/
④367大14.B/④369大14.C/
④388昭2.A/④403昭3.B/
④407昭3.D/④512昭10.C/
④749[昭9]/
富本定雄④448昭6.E/
留岡幸助②197明27.B//
③82明30.C/③156明43.C//
④111明29.B/④119明31.B/
④121明31.D/④196明42.B/
冨安虎太③277昭9.D/
富山淳道④49明15.F/
冨山孟①298昭3.F/
富山單治①134明40.E/
①140明41.E/①144明42.E/
①154明44.E/①159明45.E//
④297大5.E/
友枝高彦①125明39.B/
①150明44.A/①346昭7.B//
②273昭7.B//③218大11.B//
④150明37.B/④298大5.E/
④415昭4.B/④480昭8.E/

④542昭11.E/④621昭15.E/
④645昭17.B/
友枝照雄④295大5.D/
伴山三郎④692[明22]/
④789[1-]/
外村完二①244大13.B//
④357大13.B/
外村史郎①309昭4.D/
①320昭5.D/①335昭6.D//
②62昭12.D/②86昭14.D/
②270昭6.D/
戸村生④621昭15.E/
巴昆弄④95明26.B/
具島兼三郎②49昭11.E/
朝永三十郎［博士、學士、朝永先生］①106明36.B/
①117明37.G/①118明38.A/
①119明38.B/①123明38.G/
①124明39.A/①125明39.B/
①127明39.B/①130明40.B/
①131明40.B/①136明41.B/
①138明41.B/①150明44.A/
①151明44.B/①173大3.B/
①174大3.B/①181大4.B/
①187大5.B/①188大5.B/
①189大5.B/①195大6.B/
①205大7.D/①251大13.G/
①330昭6.B//②208明32.B/
②210明33.B/②217明36.B/
②219明37.B/②221明38.B/
②223明38.G/②224明39.B/
②230明42.B/②278昭8.C//
③113明35.B/③118明36.B/
③136明38.G/③137明38.G/
③138明39.B/③143明40.B/
③195大5.B/③196大5.B/
③197大5.B/③258昭6.B//
④135明35.B/④143明36.B/
④166明38.G/④176明40.B/
④184明41.B/④187明41.B/
④193明42.B/④194明42.B/
④195明42.B/④206明44.B/
④216明44.B/④217明44.B/
④231大1.B/④239大1.G/
④257大3.B/④258大3.B/
④259大3.B/④260大3.B/
④261大3.B/④275大4.B/
④286大5.B/④288大5.B/
④289大5.B/④290大5.B/
④307大6.D/④315大7.B/
④324大8.B/④346大11.B/
④451昭7.B/④454昭7.B/
④464昭7.G/④706[明40]/
④792[大7]/
朝永先生 → 朝永三十郎
朝永博士 → 朝永三十郎
友納友次郎①256大14.C/
友納養德②53昭12.A/
伴山三郎①62明24.E/
土門晃③238昭2.B/
外山齋④594昭14.D/
外山卯三郎①294昭3.D/
①307昭4.D/①337昭6.D//
②121昭17.C/②122昭17.C/
②123昭17.C/②143昭19.C//
④460昭7.D/④475昭8.C/
④646昭17.C/④664昭19.A/
④759[昭12]/④773[昭17]/
外山完二④357大13.B/
都山觀瀾子③8明9.B/
外山定男④539昭11.D/
④805[昭14]/
外山正一［博士、ゝ山仙士、Toyama.M?］
②161明15.E/②163明16.D/
②173明20.B/②173明20.C/
②184明23.D/②206明31.B//
④51明16.B/④66明19.E/
④118明31.B/④353大12.C/
吐山尚明②258昭2.E/
外山楢夫①237大12.B/
外山楢吉①244大13.B//
④357大13.B/
外山博士 → 外山正一

外山華③11明10.C/
Toyama.M.(外山正一?)
④59明18.D/
外山義文②199明27.D/
豐浦生②165明17.B/
豐川昇①336昭6.D//②37昭11.B/
②107昭16.B/②149昭22.[補遺]/④489昭9.B/
豐川玄雄③250昭4.D//
④421昭4.D/
豐國生③74明29.C/
豐崎善之助(介)①89明32.B/
①92明32.E/①96明34.B//
②218明36.C/②249大12.C//
④116明30.B/④117明30.E/
④122明32.B/④125明32.E/
④127明33.B/④129明33.D/
④129明33.E/
豐島要三郎③147明41.B/
豐田堯②123昭17.C/
②127昭17.E//④653昭17.E/
④661昭18.C/
豐田枯青③128明37.C/
豐田三郎④560昭12.D/
豐田精一郎③107明34.C/
豐田武治①289昭3.B/
豐田千速①50明21.G//
②178明21.G/
豐田實②52昭11.G//③256昭5.G/
③305昭14.D//④478昭8.D/
④481昭8.G/④541昭11.D/
④592昭14.D/④617昭15.D/
④740[昭6]/④776[昭18]/
豐田八千代①141明42.B/
①146明43.B/
豐臣生④63明19.B/④67明20.B/
豐永喜之②57昭12.B/
②103昭16.A/②117昭17.A//
④551昭12.B/
鳥居赫雄③292昭12.D/
鳥居清信④780[寶永年間]
鳥井光太郎①353昭7.D/
鳥居幸子①280昭2.D/
鳥居忱①39明19.B//④67明20.B/
鳥居締次郎②211明33.E/
鳥居直光④156明37.D/
鳥井博郎③275昭9.B/
③281昭10.B//④511昭10.B/
④751[昭10]/
鳥居清信④671[寶永]/
鳥居龍藏③56明26.C/
鳥海一郎④551昭12.B/
④575昭13.D/
鳥海鎭雄①317昭5.C/
鳥川演①98明34.C/
鳥山喜一①325昭6.A/
鳥山啓①16明6.D/
屠龍④153明37.C/
トルストイ全集刊行會
①257大14.C/
とろや山人①121明38.D/
豚骨生①107明36.C/
①114明37.C/
嫩梅生①128明39.D/
ドン・ボスコ社(大分)
②285昭9.D/
[な]ないとう→ 内藤水翟
内藤水翟(内藤濯?)
①134明40.D//④180明40.D/
④236大1.D/④241大2.B/
④243大2.B/
内藤濯(内藤水翟?)
①159明45.D/①164大2.B/
①182大4.B//③183大3.B//
④259大3.B/④421昭4.D/
④566昭13.A/④587昭14.B/
内藤馬藏③97明32.D/
内藤吉之助①233大11.E//
④362大13.E/
内藤湖南 → 内藤虎二(次)郎
内藤午朗④501昭9.G/
内藤赳夫②267昭5.E//
③247昭4.B//④415昭4.B/
内藤民治①186大5.A//

④792[大4]/
内藤智秀①183大4.C/
①204大7.C/①347昭7.C/
①362昭8.C/①363昭8.C/
①378昭9.C//②20昭10.C/
②21昭10.C/②43昭11.C//
③291昭12.C/③307昭15.A/
④493昭9.C/④494昭9.C/
④504昭10.A/④515昭10.C/
④534昭11.C/④574昭13.C/
④613昭15.C/④642昭17.A/
④758[昭12]/④800[昭8]/
④801[昭9]/④804[昭12]/
内藤哲樹④565昭13.A/
内藤傳右衛門(萬壽)[西哲格言抄]①28明12.B//
③15明12.B/
内藤豐吉③216大10.D/
内藤虎二(次)郎 (湖南、[博士])
①60明24.C/①263大15.A//
④374大15.A/④737[昭5]/
内藤博士 → 内藤虎二(次)郎(湖南)？
内藤萬壽 → 内藤傳右衛門
内遞天①121明38.C/
内務省④232大1.B/
内務省衛生局①49明21.F/
苗村丈伯④671[寛文]/
名尾玄乘①260大14.E/
直井武夫④519昭10.E/
直江正陽①378昭9.C/
直木三十五①317昭5.C/
直熊④671[天明]/
直田昌孝②263昭4.E/
中生④393昭2.C/
中利通④92明25.C/
那珂通世(通高嗣子)①21明9.D/
①22明9.F/①31明14.C//
②155明7.A/②157明9.D//
④31明9.D/④32明10.B/
中井厚②150[14487]/
長井氏**聂**③168明45.D//
④222明44.D/
中井修①248大13.D//
④304大6.B/④761[昭13]/
永井修②251大14.B//
③230大14.B/
永井一孝①307昭4.D/
④516昭10.D/
永井葛助④501昭9.G/
永井荷風①135明41.A//
③207大7.D/
永井一夫①335昭6.D/
②23昭10.D//④445昭6.D/
長井喜三郎④511昭10.C/
永井久一郎①16明6.C/
永井謙藏①28明12.C/
①30明13.C//③15明12.C/
③16明13.C/
中井浩水②224明39.B//
④167明39.B/
永井惟直④671[明治]/
④6869[明治]/
中居重四郎④543昭11.F/
永井修平②171明19.E/
②177明21.E//③33明21.E//
④689[明19]/
中井駿二④651昭17.D/
中井正一①295昭3.D/
①352昭7.D//④453昭7.B/
④800[昭8]/
長井青岑②214明34.D/
永井潛①134明40.F/①168大2.F/
①193大5.F/①234大11.F/
①265大15.B/①311昭4.F/
①369昭8.F//②221明38.B/
②227明40.D/②227明40.F/
②229明42.B/②230明42.D/
②231明43.D/②233明44.F/
②239大4.F//③188大3.F/
③199大5.D/③201大5.F/
③203大6.D/③221大11.F/
③234大15.B//④298大5.F/
④504昭10.B/④544昭11.F/

④728[昭1]/
中井宗太郎②129昭17.F//
③210大8.B/③212大9.B//
③726[大14]/
永井則④780[弘化3]/
永井太三郎②241大5.G/
永井隆④533昭11/C/
永井爲武②139昭18.F/
中井貞③3［17496］//④673[慶應]/
④674[明3]/
中井貞→櫻洲山人
永井徹④57明17.D/④686[明17]/
永井亨①282昭2.E//
③232大15.A/③233大15.B/
永井直二④570昭13.B/
永井直治④732[昭3]/④738[昭5]/
④747[昭8]/④789[1-]/
④809[1-]/
永井尚行①39明18.G//
③25明18.G/③27明19.G/
長井博士④189明41.D/
永井一④561昭12.E/
中井半次郎①189大5.B/
長井眞琴②260昭3.D/
②268昭5.G/
永井正巳③267昭7.D//
④447昭6.D/
永井萬助④545昭11.G/
中井守一④491昭9.C/
永井柳太郎①291昭3.C//
④254大3.A/④407昭3.D/
中井良太郎②144昭19.C/
中江汪氏④59明18.B/
長江邦四郎④776[昭18]/
中江兆民（篤介）①39明19.B//
②172明19.G/②176明21.C/
②212明34.B//③18明14.E/
③25明19.B//④48明15.E/
④50明16.B/④53明16.E/
④57明17.E/④62明19.B/
④106明28.B/④119明31.B/
④132明34.B/④659昭18.B/
④685[明16]/④691[明20]/
中江篤介 → 中江兆民
永江爲政①21明9.D/
永廻藤一郎④142明36.B/
中尾氏就④42明14.C/
④43明14.D/
中尾榮之助①47明21.C/
長尾喜一①358昭8.B//
③234大15.B//④390昭2.B/
④525昭11.B/
長尾行介④502昭10.A/
中尾傘瀬（失名氏)①134明40.D//
④705[明40]/④706[明40]/
中尾敬嚴④127明33.B/
(大阪)中尾松泉堂④733[昭3]/
中尾保④477昭8.D/④747[昭8]/
長尾久敬②81昭14.B/
②94昭15.B//④584昭14.B/
長尾雄治①302昭4.B/
①375昭9.B/
長尾陽三④783[明18]/
中岡宏夫④770[昭16]/
長岡保太郎①354昭7.E/
長岡道謙④681[明11]/
長岡護美③15明12.E/
中岡彌高④795[19-]/
中金正衡①16明6.E/①24明10.E/
中上友三郎④327大8.E/
中上義行④646昭17.C/
中川④759[昭12]/
中川逢吉①355昭7.F/
中川垣二郎④48明15.E/
中川重④412昭4.B/④504昭10.B/
④583昭14.B/④752[昭10]/
中川霞城④384大15.D/
中川一男①231大11.C/
①246大13.C/①247大13.C/
①314昭5.B/①333昭6.C/
①348昭7.C/①381昭9.C//
②60昭12.C/②61昭12.C/
②95昭15.B/②121昭17.C//
③269昭8.A/③281昭10.C/

③308昭15.B/③314昭16.B/
③321昭17.C/
③328昭［不明］C//
④394昭2.C/④459昭7.C/
④536昭11.C/④554昭12.C/
④571昭13.C/④588昭14.B/
④594昭14.D/④605昭15.B/
④660昭18.C/④661昭18.C/
④663昭18.E/④667昭19.C/
④755[昭11]/④764[昭14]/
④764[昭14]/④804[昭12]/
④804[昭13]/④806[昭16]/
④808[昭18]/
中川喜一郎③197大5.B/
中川教授 → 中川善之助
中川清①359昭8.B//②36昭11.B/
②54昭12.B/②67昭12.F/
②70昭13.B/②74昭13.D/
②79昭14.A/②81昭14.B/
②94昭15.B/②131昭18.B//
③269昭8.B/③274昭9.B/
③279昭10.B/③295昭13.B//
④371大14.D/④579昭14.A/
④774[昭18]/
中川景輝②254大15.B//
④312大7.B/④359大13.B/
④430昭5.C/
中側紅果④726[大14]/
中川重麗①38明18.B//
②166明18.B//③23明18.B//
④58明18.B/
中川淳庵④23[24938]/
中川愼一②285昭9.C/
中川信一③250昭4.D//
④421昭4.D/
中川生④412昭4.A/④418昭4.C/
④425昭5.A/④432昭5.C/
④474昭8.C/
中川銓吉④212明43.F/
中川善之助［教授］①101明35.B/
①236大12.B/①261大14.E/
①272大15.E/①275昭2.B/
①276昭2.B//②267昭5.E/
②271昭6.E//④596昭14.E/
④779[昭19]/
中川恒次郎①36明17.E/
①38明18.E//②168明18.E/
中川得立①203大7.B/
中川紀元①307昭4.D/
中川元②165明17.B/
中川八郎①104明36.A/
中川秀恭②131昭18.B//
④569昭13.B/④606昭15.B/
④631昭16.B/④645昭17.B/
④657昭18.B/
中川博①308昭4.D/
中川昌夫④661昭18.D/
中川正信①85明31.B//
④118明31.B/
中川將行③6明8.C/
中河與一③297昭13.D//
④437昭6.A/④544昭11.G/
④558昭12.D/④566昭13.A/
④607昭15.B/
中川良夫③324昭18.D/
中川芳太郎②136昭18.D/
②145昭19.D/
中川柳涯①148明43.D/
①153明44.D/④708[明42]/
④709[明43]/④710[明44]/
中桐 → 中桐確太郎
中桐先生（絢海）③7明8.F//
④31明8.F/
中桐確太郎①265大15.B//
④167明39.B/④240大2.A/
④254大3.A/④271大4.A/
④376大15.B/④389昭2.B/
長久保赤水④781[江戸後期]/
仲小路彰②66昭12.F/
②72昭13.C//③303昭14.C//
④474昭8.C/④557昭12.C/
中込本次（治）郎①250大13.E//
③206大7.B/③213大9.D//
④314大7.B/

長坂鑒(鍳)次郎④325大8.B/
④376大15.B/④378大15.B/
④388昭2.B/④406昭3.C/
④471昭8.B/
長坂端午①346昭7.B/
長坂毅④74明21.D/④78明22.D/
④103明27.D/④672[明治]/
④691[明21]/④696[明26]/
永坂秀親④42明14.C/
長坂雄二郎②128昭17.F/
②136昭18.D/②139昭18.F/
長崎英造④223明44.G/
長崎學林版①4[12,14,15]/
①5[17]/
長崎茂次①379昭9.C/
①380昭9.C//②42昭11.C/
②43昭11.C//④475昭8.C/
④493昭9.C/④514昭10.C/
④536昭11.C/④557昭12.C/
④573昭13.C/④749[昭9]/
長崎時通詞④23[24930]/
長崎師範學校③6明8.C/
③8明9.C/
長崎市役所④374大15.A/
長崎惣一①241大12.E/
長崎玄勝②261昭3.E/
長崎奉行所④26[25006]/
中里顯孝④63明19.C/
中里介山④418昭4.D/
中里次郎④737[昭4]/
長澤市藏①65明25.C//
②162明16.B/②195明26.C//
③50明25.C//④784[明30]/
長澤英一郎①359昭8.B//
④400昭3.B/
長澤龜之助①36明17.F/
①49明21.F/①122明38.G//
③158明43.F/③179大2.G//
④212明43.F/
長澤健藏①296昭3.D/
④408昭3.D/
中澤重雄 → 中澤臨川
中澤順三④70明20.D/
長澤尚②255大15.E
中澤澄夫(男)②205明30.G//
③240昭2.C//④311大7.A/
④718[大7]/
長澤說 → 別天樓(別天樓主人)
②199明27.E//④693[明23]/
長澤俊雄②281昭9.B/
中澤宣一郎④538昭11.D/
長澤信壽①265大15.B/
①325昭6.B//②13昭10.B/
②30昭10.F/②33昭11.B/
②67昭12.F/②69昭13.B/
②70昭13.B/②95昭15.B/
②115昭16.F/②117昭17.A/
④130昭18.B/②141昭19.B/
②142昭19.B/
②148昭21.[補遺]/
②246大10.D/②257昭2.B//
④376大15.B/④452昭7.B/
④585昭14.B/④604昭15.B/
④626昭16.A/④643昭17.B/
④657昭18.B/④665昭19.B/
中澤文三郎④129明33.G/
中澤辯次郎④759[昭12]/
長澤正毅(せいき?まさたけ?)
①27明11.D//④34明1.D/
④515昭10.D/
中澤臨川(重雄)①170大3.B/
①172大3.B/①174大3.B/
①179大4.B/①180大4.B//
②239大4.B//③150明42.B/
③174大2.B/③184大3.B/
③197大5.B//④211明43.D/
④245大2.B/④254大3.B/
④257大3.B/④259大3.B/
④263大3.B/④267大3.D/
④288大5.B/④291大5.B/
④298大5.F/④357大13.B/
④715[大4]/④720[大9]/
中澤慶之助①261大14.E/
①272大15.E/

長塩軍治④93明25.D/
④695[明25]/
永嶋（島）今四郎②180明22.D//
③37明22.D//④79明22.D/
中島 → 中島德藏
中島 → 中島力造
中島③211大8.F/③214大10.B//
④231大1.B/
中島彰④780[嘉永6]/
中島市平④39明13.C/
中島榮次郎①375昭9.B/
①382昭9.D/①383昭9.D/
中島悦次①275昭2.B/
①277昭2.B//②118昭17.B/
②257昭2.B/
中島圓諦④684[明14]/
中島海①272大15.F/
中島一男③9明9.D/
中島萬朶④440昭6.B/
中島義一①289昭3.B/
④400昭3.B/
中島清①254大14.B/
①258大14.D/①293昭3.D//
②285昭9.D//③250昭4.D//
④395昭2.D/④477昭8.D/
④479昭8.D/
中島近治①233大11.E/
中島桂藏①202大7.B/
中島健一②88昭14.E/
②101昭15.E/②114昭16.E/
②145昭19.E//④620昭15.E/
④633昭16.C/④663昭18.E/
④667昭19.C/④668昭19.E/
④770[昭16]/
中島健藏②112昭16.D//
④587昭14.B/④604昭15.B/
中島弧月①214大9.A/
中島孤島（茂一）①97明34.B/
①162大2.B/①172大3.B/
①182大4.C/①209大8.B/
①221大10.B/①222大10.B/
①244大13.B/①263大15.A/
①274昭2.B/①317昭5.C/
①331昭6.C/①359昭8.B/
①378昭9.C//③192大4.C/
③199大5.C//④133明34.C/
④148明36.D/④241大2.B/
④294大5.C/④335大10.A/
④337大10.B/④375大15.A/
④384大15.D/④451昭7.B/
④456昭7.C/④702[明36]/
④721[大10]/④745[昭8]/
④751[昭10]/
中島三郎②263昭4.E/
中島重①233大11.E//
④398昭2.E/④410昭3.E/
④422昭4.E/④430昭5.B/
④436昭5.E/④499昭9.E/
④548昭12.B/④638昭16.E/
中島茂一 → 中島孤島
中島愼一①220大10.A//
②145昭19.E/
中島振二④434昭5.D/
長島生②184明23.D/
中島生①111明37.B/
①120明38.B/
中島精一①187大5.B//
③195大5.B/③209大8.B//
④286大5.B/
中島精二②245大9.E/
長島赤二②57昭12.B/
②82昭14.B/②95昭15.B//
④526昭11.B/④528昭11.B/
④568昭13.B/④585昭14.B/
中島清之助④753[昭10]/
中島宗治④386大15.F/
永島孝雄④573昭13.C/
中島泰成閣④800[昭7]/
中島泰藏④715[大4]/
長島卓二郎①382昭9.D/
永島忠重④725[大13]/
長島徹映②216明35.D/
中島德藏（三） ①74明27.B/

①76明28.B/①79明29.B/
①89明32.B/①93明33.B/
①96明34.B/①97明34.B/
①106明36.B/①111明37.B/
①112明37.B/①118明38.B/
①118明38.B/①119明38.B/
①125明39.B/①131明40.B/
①135明41.B/①137明41.B/
①138明41.B/①141明42.A/
①142明42.B/①172大3.B/
①229大11.B//②207明32.B/
②215明35.B/②219明37.B//
③99明33.B/③182大3.B/
③215大10.B//④119明31.B/
④122明32.B/④123明32.B/
④125明32.B/④127明33.B/
④137明33.B/④150明37.B/
④158明38.B/④177明40.B/
④191明42.A/④192明42.B/
④193明42.B/④205明43.B/
④206明43.B/④216明44.B/
④225大1.B/④229大1.B/
④230大1.B/④244大2.B/
④257大3.B/④258大3.B/
④259大3.B/④260大3.B/
④275大4.B/④338大10.B/
④345大11.B/④387昭2.A/
④403昭3.B/④606昭15.B/
④631昭16.B/④702[明36]/
中島俊教②281昭9.B//
④470昭8.B/
中島廣太郎③25明19.B/
中島廣足④722[大11]/
④742[昭7]/
中島直人①352昭7.D/
中島博士 → 中島力造
中島半次郎①100明35.B/
①110明37.B/①195大6.B/
①209大8.B/①221大10.B/
①237大12.B/①267大15.B//
③160明44.B/③309昭15.B//
④240大2.A/④254大3.A/
④271大4.A/④305大6.B/
④391昭2.B/
長嶋正義④57明17.E/
中島勝④497昭9.D/
中島萬次郎①118明38.B/
①281昭2.D//③112明35.B//
④138明35.B/④263大3.B/
④396昭2.D/
中島祐神①228大11.B/
①230大11.B//④344大11.B/
中島力造[博士]①51明22.B/
①55明23.B/①59明24.B/
①63明25.B/①65明25.B/
①68明26.B/①73明27.B/
①76明28.B/①78明29.B/
①85明31.B/①86明31.B/
①112明37.B/①113明37.B/
①120明38.B/①126明39.B/
①130明40.B/①131明40.B/
①132明40.B/①134明40.E/
①137明41.B/①141明42.B/
①142明42.B/①142明42.B/
①151明44.B/①152明44.B/
①154明44.G/①155明45.B/
①156明45.B/①157明45.B/
①163大2.B/①164大2.B/
①170大3.B/①171大3.B/
①180大4.B/①196大6.B/
①210大8.B/①212大8.E//
②197明27.B/②226明40.B/
②234明45.B/②241大6.B//
③44明24.B/③53明25.F/
③54明26.B/③65明28.B/
③67明28.C/③94明32.C/
③105明34.B/③107明34.B/
③141明40.B/③143明40.B/
③147明41.B/③160明44.B/
③165明45.B/③170明45.G/
③181大3.B/③209大8.B//
④76明22.B/④87明24.B/
④91明25.B/④93明25.D/
④95明26.B/④119明31.B/

④123明32.B/④130明34.B/
④137明35.B/④168明39.B/
④175明40.B/④177明40.B/
④184明41.B/④193明42.B/
④194明42.B/④206明43.B/
④216明44.B/④217明44.B/
④228大1.B/④229大1.B/
④230大1.B/④231大1.B/
④239大1.G/④253大2.G/
④258大3.B/④259大3.B/
④260大3.B/④267大3.D/
④275大4.B/④288大5.B/
④302大6.B/④303大6.B/
④314大7.B/④320大7.E/
④324大8.B/④352大12.B/
④455昭7.B/④496昭9.D/
④586昭14.B/④711[大1]/
中城陟［學士］①182大4.C//
③212大9.C//④278大4.C/
中洲學人③116明35.F/
③125明36.F//
永瀬一郎③73明29.B/
長瀬寛二④681[明11]/
永瀬清子②117昭17.A/
長瀬先生①30明13.F/
長瀬武郎③321昭17.D/
長瀬時衛③59明26.F/
永瀬平一②80昭14.B/
長瀬鳳輔①203大7.C/
①211大8.C/①347昭7.C//
④316大7.C/④318大7.C/
④326大8.C/④379大15.C/
④443昭6.C/④712[大2]/
④714[大3]/④717[大5]/
④718[大7]/④719[大8]/
④793[大9]/
中瀬古六郎①250大13.F//
②129昭17.F//③287昭11.F//
④276大4.B/④654昭17.F/
④722[大正]/④741[昭6]/
④777[昭18]/
中田薫①129明39.E/
①250大13.E//④422昭4.E/
仲田勝之助①226大10.D//
④251大2.D/
永田久右衛門③206大7.B/
永田清②64昭12.E/②65昭12.E//
④640昭16.G/
永田健助①26明11.C/
①80明29.E//③26明19.C/
③78明29.E//④673[明治]/
④697[明29]/④699[明32]/
中田幸治④365大14.B/
中田重治(Nakada,Juji)
④705[明39]/
④718[大6]/④738[昭5]/
④741[昭6]/④742[昭7]/
④746[昭8]/④747[昭8]/
④749[昭9]/④752[昭10]/
永田稠④792[大6]/
中田淳一②138昭18.E/
中田精一②130昭18.A/
②141昭19.A//④664昭19.A/
永田善治④537昭11.C/
④548昭12.B/
永田大二郎②267昭5.E/
中田敬義①28明12.D/
永田龍雄①248大13.D/
中田千畝①294昭3.Ｄ/
仲田定之助③266昭7.D/
長田知儀④29明6.G/
中田直哉①34明16.A/
中田信彦④640昭16.F/
永田寛定①305昭4.B/
①336昭6.D//④434昭5.D/
④523昭11.A/④798[昭5]/
永田寛①266大15.B/
永田廣志②15昭10.B//
④532昭11.B/
永田方正④30明8.B/④31明8.G/
④32明10.C//④676[明6]/
④677[明8]/④678[明8,明9]/
永田政雄②250大13.B/
②252大14.B/②259昭3.B/

②262昭4.B//③230大14.B/
中田義孝①338昭6.E/
中田米藏④398昭2.E/
永田陸郎④593昭14.D/
永田留六郎③91明32.A/
永瀧久③39明23.B/
中舘昌行②28昭10.E/
永積安明④777[昭19]/
中津海炳也④60明18.D/
中谷延治①96明34.B/
中谷敬壽②127昭17.E/
中谷孝雄②263昭4.D/
中谷太郎②259昭3.B//
③243昭3.B/③248昭4.B/
永戸俊雄③286昭11.D//
④529昭11.B/
長富雅二④350大12.A/
中西伊之助①253大14.B/
①255大14.B/
中西牛郎②197明27.B/
中西敬二郎①387昭9.F//
②53昭12.A/②81昭14.B/
②85昭14.C//④591昭14.C/
④608昭15.C/
中西貞雄④368大14.C//
④762[昭14]/
NAKANISHI, T.②25昭10.D/
中西半郎③36明22.C/
中西副松①101明35.C/
中西芳朗④767[昭15]/
長沼熊太郎④676[明6]/
長沼賢海①320昭5.D/
①322昭5.D//④419昭4.D/
④433昭5.D/④735[昭4]/
④759[昭12]/
長沼擔②267昭5.E/
長沼直兄④767[昭15]/
中根環堂①175大3.C//
③164明45.B/③171大2.B/
中根振二③255昭5.D/
中根重一①33明15.E//
③19明15.E//④48明15.E/
中根肅治③60明27.B/
長根禪堤④131明34.B/
永野④623昭15.G/
長野兼一郎①338昭6.E//
②276昭7.E/
中の里人①150明44.A/
中野遠慧②226明40.B/
②228明41.B//④136明35.B/
中野長寛④538昭11.D/
長野一枝③22明17.G/
④58明17.G/
長野潔②258昭2.E/
中野啓藏④782[明7]/
中野賢明④517昭10.D/
中野秀三②180明22.D/
中野正④663昭18.E/
中野徹②119昭17.B//
④643昭17.B/
永野八郎②232明44.C//
④212明43.E/
中野廣②115昭16.F//
④807[昭16]/④809[昭19]/
永野尚武④640昭16.F/
中野正雄④252大2.D/
中野雅郎③30明21.B/
中野正臣②88昭14.E/
中野正武①63明25.B/
中野正直②84昭14.C/
中野峰史②245大9.E/
中野康存②147昭20.D//
④569昭13.B/④587昭14.B/
④649昭17.C/④809[昭20]/
仲野彌壽治②22昭10.C/
中野好夫①353昭7.D//
③311昭15.D//④592昭14.D/
④594昭14.D/
永野芳夫①275昭2.B/
①361昭8.B/②12昭10.B/
永野芳太郎①253大14.B/
中野禮四郎①93明33.B//
②210明33.B/
中野柳園①8［105］//

④598昭14.F/
中橋一夫④619昭15.D/
④770[昭16]/
永橋卓介②80昭14.B/
②133昭18.C/②143昭19.C//
④504昭10.B/④659昭18.C/
④666昭19.C/
中林嘉太郎②285昭9.C/
長原止水②213明34.D/
中原考③321昭17.D/
③322昭17.D/③324昭18.D/
中原淳藏①30明13.C/
①30明13.D//④39明13.B/
中原武八郎①85明31.A/
中原貞七①54明23.B/
①65明25.C//③50明25.C/
中原中也①367昭8.D//
④549昭12.B/④555昭12.C/
④558昭12.D/④741[昭和]/
中原稔生④408昭3.D/
中原實③227大13.D/
中原與茂九郎①270大15.D/
①293昭3.C/①344昭7.B/
①348昭7.C//③240昭2.C/
中平章④347大11.C/
長廣敏雄②74昭13.D/
②86昭14.D//④539昭11.D/
④651昭17.D/
仲摩照久①262　大14.G/
①284昭3.A//④373大14.G/
永松①352昭7.D/①353昭7.D/
永松讓一②24昭10.D/
②270昭6.D//④516昭10.D/
④662昭18.D/④668昭19.D/
④808[昭19]/
永松定①321昭5.D//④743[昭7]/
永松東海④54明16.F/
中丸精十郎③144明40.D/
長嶺昊源④400昭3.A/
④405昭3.C/④409昭3.E.
永峰光名④392昭2.C/
④394昭2.C/
永峰秀樹①16明7.A/①18明8.A/
①20明9.A/①22明10.A/
①23明10.A/①26明11.A/
①31明14.A//③4明7.A/
③7明9.A//④30明8.A/
④44明14.G/④682[明11]/
中村榮次郎③151明42.C/
中村克己③234大15.B//
④658昭18.B/
中村淸④447昭6.D/
中村吉藏①159明45.D/
①167大2.D/①176大3.D/
①191大5.C/①211大8.D/
①217大9.D/①224大10.D/
①231大11.D/①232大11.D/
①247大13.D/①336昭6.D//
④240大2.A/④254大3.A/
④271大4.A/④335大9.D/
④360大13.C/④363大14.A/
④407昭3.D/④575昭13.D/
④705[明39]/④708[明43]/
④724[大13]/④737[昭5]/
中村喜代三④728[昭1]/
中村久四郎①256大14.C//
③212大9.C//④279大4.C/
④291大5.C/④309大6.E/
④394昭2.C/④787[明44]/
中村國二郎③33明21.G/
中村國太郎①53明22.G//
②182明22.G
中村經一②143昭19.C/
中村(邨)敬宇 → 中村(邨)正直
中村慶造④485昭9.B/
中村(邨)敬太郎 → 中村(邨)正直
中村愿①34明16.C//②155明6.F//
④29明6.F/
中村研一③256昭6.A/
中村健一郎②214明34.D/
中村健次郎①296昭3.D/
④408昭3.D/
中村弧月④168明39.B/

中村小治郎④511昭10.B/
④532昭11.B/
中村小十郎③40明23.B//
④80明23.B/
中村午郎①85明31.B/
中村吾郎④516昭10.D/
中村佐一④423昭4.E/
中村思孝①17明7.C/
中村獅雄④511昭10.B/
④548昭12.B/④566昭13.B/
④742[昭和]/
中村士德③128明37.C//
④153明37.C/
中村順一②123昭17.C/
中村春雨③177大2.D//
④172明39.D/④200明43.A/
④252大2.D/④266大3.D/
④702[明36]/④706[明40]/
中村順平②144昭19.D/
中村順郎④788[明治初]/
中村詳一①214大9.A/
①220大10.A/①222大10.B/
①239大12.C/①299昭4.A/
①301昭4.B//②59昭12.C//
④337大10.B/④353大12.C/
中村鎭①280昭2.D/①294昭3.D/
①321昭5.D/
中村進午①109明36.E/
①260大14.E//③123明36.C//
④148明36.E/
中村信三郎④691[明20]/
中村鈴子③250昭4.D//
④421昭4.D/
中村星湖①252大14.A/
②24昭10.D//④635昭16.D/
中村清二②247大11.A/
中村政路④278大4.C/
④313大7.B/④369大14.C/
中村善太郎①105明36.B/
①292昭3.C/
中村宗太郎④649昭17.D/
中村臺④677[明7]/
中村孝也①314昭5.B/
①318昭5.C//④326大8.C/
④748[昭9]/
中村大素④173明39.E/
中村達太郎①61明24.D/
①144明42.D//③152明42.D/
中村忠雄①44明20.E//
②174明20.E/
中村爲治④748[昭9]/
中村知子太④136明35.D/
中村長太郎④206明43.B/
中村長之助①135明41.A/
①141明42.B/①157明45.B//
③132明38.B/③147明41.C/
③196大5.B/③209大8.B//
④207明43.B/④286大5.B/
中村勤①352昭7.D/
中村恒雄②270昭6.D/
中村恒夫②75昭13.D//
④579昭14.A/
中村惕齋③3〔17490〕/
中村臺④781[明7]/
中村哲④639昭16.E/
④653昭17.E/
中村德助①144明42.D//
③167明45.B//④210明43.D/
中村友平①349昭7.C/
④458昭7.C/
中村尚樹③35明22.B/
中村直吉④708[明43]/
④711[大1]/④714[大4]/
中村玄雄②273昭7.B//
③264昭7.B/
中村光④773[昭17]/
中村秀穗②197明26.G/
中村英勝②122昭17.C//
④646昭17.C/
中村拓④768[昭16]/④775[昭18]/
④810[*]/
中村博④408昭3.D/
中村福助④125明32.D/
中村不折③135明38.D//

④124明32,C/④672[明治]/
④689[明治]/④698[明31]/
④700[明34]/④701[明34]/
中村文夫②271昭6.E/
中村牧師④153明37.C/
中村牧郎②165明17.C//
③22明17.C/
中村正雄②119昭17.B/
中村(邨)正直(敬宇、敬太郎)[西國立志篇、西洋品行論]①14明4.A/
①15明5.B/①16明7.B/
①20明9.A/①20明9.B/
①21明9.B/①22明10.A/
①23明10.A/①23明10.B/
①26明11.B/①28明12.B/
①29明13.B/①30明13.C/
①30明13.D/①30明13.F/
①39明19.A/①102明35.C/
①113明37.B/①160明45.[不明]//②153明5.A/
②156明8.D/②165明17.B/
②173明20.C/②178明22.B/
②183明23.B/②188明24.D/
②226明40.B//③8明9.B/
③11明10.B/③13明11.B/
③15明12.B/③15明12.C/
③16明13.B/③17明14.B/
③17明14.C/③18明14.G/
③19明16.B/③34明22.A/
③44明24.B/③141明40.B/
③155明43.B/③194大4.D//
④28明5.B/④29明6.C/
④29明6.E/④30明8.B/
④32明10.B/④36明12.B/
④38明12.G/④39明13.B/
④44明15.A/④49明15.G/
④50明16.B/④54明17.A/
④87明24.B/④104明28.A/
④177明40.B/④277大4.B/
④570昭13.B/④588昭14.B/
④606昭15.B/④607昭15.B/
④683[明13]/④780[出版年不明]/④789[18-]/
中村愈④549昭12.B/
中村萬吉①233大11.E/
中村巳喜人④627昭16.B/
④639昭16.E/
中村箕洲①51明22.B/
中村通介②124昭17.D//
④626昭16.B//④627昭16.B/
④769[昭16]/④772[昭17]/
中村光夫③324昭18.D//
④662昭18.D/
中村翠④29明6.A/
中村宗雄④362大13.E/
④632昭16.C/
中村安之助①149明43.E/
①170大3.B//③158明43.E/
中村勇太郎④330大9.B/
中村可雄④133明34.D/
中村嘉太郎④493昭9.C/
中村亮平①366昭8.D/
中村冷露①85明31.B//
③87明31.B/
中村六藏③44明24.B/
中邨六郎③35明22.B/
中村和之雄③287昭11.F/
中目尚義②20昭10.C/
中目覺④465昭7.G/
長本三千雄④809[昭19]/
中谷宇吉郎④598昭14.F/
半谷清壽③38明22.F/
中山④803[昭12]/
中山一郎①38明18.C//
③23明18.C/
中山伊知郎④640昭16.G/
中山克己①31明14.C/
中山寛六郎③7明9.A/③9明9.E/
③10明9.E/
中山作三郎④25[24973]/
中山庄一郎①98明34.C/
中山節郎①217大9.C//
④340大10.C/

中山省三郎①295昭3.D//
④489昭9.B/
中山治一②123昭17.C/
②142昭19.B//④661昭18.C/
④667昭19.C/
中山松湍①20明9.B/
中山太郎①277昭2.C//
③266昭7.D/③277昭9.D/
③286昭11.C//④730[昭2]/
④740[昭6]/④744[昭7]/
④745[昭8]/④751[昭10]/
長山樗園（貫）①10［168］/
中山巍③287昭12.A/
③288昭12.A/
中山啓①218大9.E/
中山平次郎④321大8.A/
④334大9.D/④719[大8]/
永山信①346昭7.B/
中山正夫③213大9.F/
中山（井上?）昌樹①198大6.D/
①199大6.D/①216大9.B/
①218大9.D/①224大10.D/
①226大10.D/①248大13.D/
①258大14.D/①260大14.E/
①269大15.D/①300昭4.B/
①342昭7.B/①343昭7.B/
①345昭7.B/①347昭7.B/
①350昭7.D/①364昭8.C//
②14昭10.B/②44昭11.D/
②271昭6.D//③200大5.D/
③204大6.D/③205大6.D/
③231大14.D/③233大15.B/
③245昭3.D/③269昭8.B/
③270昭8.B//④280大4.D/
④297大5.D/④307大6.D/
④308大6.D/④309大6.D/
④322大8.B/④330大9.B/
④338大10.B/④343大11.A/
④348大11.D/④356大13.B/
④357大13.B/④359大13.B/
④370大14.D/④372大14.D/
④373大14.E/④382大15.D/
④385大15.D/④395昭2.D/
④407昭3.D/④451昭7.B/
④460昭7.D/④483昭9.B/
④485昭9.B/④512昭10.C/
④576昭13.D/④594昭14.D/
④608昭15.B/④634昭16.D/
④683[明13]/④717[大6]/
④725[大13]/④726[大14]/
④727[昭1]/④744[昭7]/
④746[昭8]/④767[昭15]/
中山理久②251大14.B//
長與專齋①49明21.F//
④701[明35]/
長與善郎①172大3.B/
①245大13.B/①275昭2.B//
②141昭19.A//④391昭2.B/
④628昭16.B/
半井分次郎④99明27.B/
半谷清壽④79明22.F/
南木山笑楚滿人①7［83］/
名倉（生）①352昭7.D//
④263大3.B/④266大3.C/
奈倉次郎④210明43.D/
名倉聞一①166大2.C/
①216大9.B/
奈佐忠行④784[明28]/
名須川良①241大12.D/
①248大13.D/①259大14.D/
難木元成①20明9.B/
夏目金之助（漱石、夏目君、夏目先生、金之助）
①71明26.D/①151明44.B/
①172大3.B/①194大6.A//
③184大3.B/③210大8.D/
③213大9.D/③274昭9.B/
③287昭11.D/③292昭12.D/
③297昭13.D//④165明38.D/
④215明44.B/④245大2.B/
④256大3.B/④272大4.B/
④282大4.D/④290大5.B/
④722[大11]/④729[昭2]/
④732[昭3]/④753[昭10]/

夏目漱石 → 夏目金之助
夏目君 → 夏目金之助
夏目先生 → 夏目金之助
なでしこ→小山内薫
名取堯①320昭5.D//
②117昭17.A/
名取廣作②32昭11.A/
名取順一④551昭12.B/
七十二橋外史①75明27.E/
なにがし④181明40.D/
難波田龍起②55昭12.B//
③289昭12.B/
難波田春夫①377昭9.B//
②75昭13.E//③299昭13.E//
④464昭7.E/④485昭9.B/
④577昭13.E/
難波に住む一信徒
④634昭16.C/
那波大吉①25明10.G//
④33明10.G/
那波利貞④406昭3.C/
名橋隆明②83昭14.B/
②103昭15.F/②108昭16.B/
名原廣三郎④461昭7.D/
④478昭8.D/④743[昭7]/
鍋島貞親①316昭5.B/
鍋島信太郎②139昭18.F//
④520昭10.F/
鍋島寛之④754[昭11]/
鍋島能弘①381昭9.D//
②144昭19.D/
並川義隆②245大9.E/
並樹蕭三②270昭6.C/
なみ女①94明33.C/
奈良次郎①153明44.D//
④178明40.C/
奈良善雄①98明34.F/
奈良岡茂雄④436昭5.E/
習田達夫②139昭18.E/
楢崎淺太郎①203大7.B/
①210大8.B/①255大14.B/
①266大15.B//④330大9.A/
楢崎勤③247昭4.B/
楢橋渡②49昭11.E/②65昭12.E/
楢林高見①8[112]//
④25[24972]/
楢林(重兵衛)高廣④24[24956]/
④395昭2.D/
成川熊雄③83明30.D/
成田衡平①100明35.B/
成田重郎①337昭6.D//
③324昭18.D/
成田シモ①346昭7.B/
成田節男④535昭11.C/
成田成壽②56昭12.B/
②111昭16.D/②126昭17.D//
③267昭7.D//④447昭6.D/
④752[昭10]/④758[昭12]/
成田喜英②104昭16.A/
②109昭16.C/②113昭16.E/
②121昭17.C//④624昭16.A/
④625昭16.A/④648昭17.C/
④654昭17.F/
鳴澤寡慾④296大5.D/
成澤理平②55昭12.B/
②70昭13.B/②81昭14.B/
成島柳北②157明10.A/
②159昭14.A/
成瀬淸①154明44.D/①192大5.D/
①260大14.D//④295大5.D/
④371大14.D/
鳴瀬恒太郎①366昭8.D//
②278昭8.D//④389昭2.B/
④746[昭8]/
成瀬正一④488昭9.B/
成瀬仁藏①181大4.B//
④246大2.B/
成瀬正弘①124明39.B//
③138明39.B//③143明40.B/
成瀬無極①199大6.D/
①206大7.D/①228大11.A/
①346昭7.B/①353昭7.D//
②44昭11.D/②262昭4.D/
②266昭5.D//③207大7.D//

④308大6.D/④348大11.D/
④419昭4.D/④518昭10.D/
成富非仙 → 成富正義
成富正義(非仙)①64明25.B/
①76明28.B//②206明31.B/
②210明33.B/
業平 → (在原)業平
名和永年④705[明40]/
④707[明41]/
南音子③177大2.D/
南海生①59明24.B/
南紀一郎①239大12.C/
南光社④337大10.B/
南山師④363大14.A/
南條文雄①39明19.B/
①41明19.G/①74明27.D/
①163大2.B//②157明10.B/
②165明17.D/②170明19.B/
②171明19.D/②189明24.G/
②203明29.G/②211明33.G//
③40明23.B//④103明27.D/
南荘漁史②171明19.D/
②174明20.D/
南石福二郎④394昭2.C/
④570昭13.B/
南筑生④115明30.B/
南亭生④129明33.B/
難波憲④327大8.D/
難波浩①315昭5.B//④427昭5.B/
④774[昭18]/
南八尊者①69明26.B/
南原繁①322昭5.E//②48昭11.E/
②49昭11.E/②64昭12.E/
②126昭17.E/②139昭18.E//
③306昭14.E/③325昭18.E//
④577昭13.E/④663昭18.E/
④741[昭6]/④747[昭8]/
④752[昭10]/④761[昭13]/
④770[昭16]/④774[昭18]/
南原福次郎④162明38.C/
南日重治①170大3.B/
南日恒太郎①134明40.D/
①154明44.D//②238大3.G/
②250大12.G/②256大15.G//
③189大3.G//④270大3.G/
④328大8.G/
南部木九夫④379大15.C/
南風子④103明27.D/
南方十字星③216大10.D/
(京都)南溟生④50明16.B/
南陽逸人③49明25.B/
南陽學人④169明39.B/
南陽生④186明41.B/
④207明43.B/④247大2.B/
[に]仁井宗八①238大12.B/
新居格②41昭11.C/②51昭11.F/
②97昭15.C/②117昭17.A//
③250昭4.D//④543昭11.F/
④594昭14.D/④640昭17.A/
④794[大13]/
新島襄④82明23.B/
④114明30.B/④490昭9.B/
新島繁(野上巖)②12昭10.B/
②15昭10.B/②16昭10.B/
②41昭11.B//③250昭4.D//
④504昭10.B/④510昭10.B/
④517昭10.D/④531昭11.B/
④747[昭9]/
新關良三①232大11.D/
①241大12.D/①258大14.D/
①294昭3.D/①321昭5.D/
①335昭6.D/①336昭6.D/
①350昭7.D/①351昭7.D/
①383昭9.D//②23昭10.D/
②24昭10.D/②26昭10.E/
②45昭11.D/②111昭16.D/
②112昭16.D/②113昭16.D/
②120昭17.B/②136昭18.D/
②137昭18.D/②144昭19.D/
②147昭20.D/②257昭2.D/
②260昭3.D/②275昭7.D/
②285昭9.D//③299昭13.D/
③305昭14.D/③317昭16.D/
③322昭17.D/③326昭19.D//

④282大4.D/④294大5.D/
④297大5.D/④497昭9.D/
④517昭10.D/④617昭15.D/
④619昭15.D/④635昭16.D/
④637昭16.D/④662昭18.D/
④751[昭10]/④779[昭20]/
④807[昭16]/
新里文八郎①309昭4.D/
①384昭9.D/
仁井田陞①354昭7.E//
③267昭7.E/
仁井田六三郎 → 仁戸田六三郎
新舘正國②103昭16.A/
②107昭16.B/
新津米造④724[大13]/
新妻利久①344昭7.B/
新見 → 新見吉治
新海竹二郎①108明36.D/
新海竹太郎③129明37.D/
③134明38.D/
新見吉治①101明35.C/
①299昭4.A/①305昭4.C/
①306昭4.C/①380昭9.C//
③108明34.C/③114明35.C/
③148明41.C//④305大6.C/
④519昭10.E/④704[明38]/
④718[大6]/④800[昭8]/
新見吉太郎①56明23.C/
丹生瀬川①78明29.B/
Niemura, Z.③306昭14.F/
二階源市④386大15.F/
二階堂トクヨ①207大7.F/
二階堂眞壽①220大10.A//
③213大10.A//④335大10.A/
④356大13.B/
仁木秋雄③322昭17.D/
二(仁)木謙三①266大15.B/
①358昭8.B//④375大15.B/
二木保幾①303昭4.B/
二木保藏②275昭7.E/
西 → 西晉一郎
西周①11［209］/①13明1.E/
①13明2.B/①14明3.B/
①16明6.B/①16明7.B/
①20明9.B/①23明10.B/
①24明10.E/①29明12.E/
①49明21.E/①91明32.D/
①374昭9.B/①376昭9.B//
②23昭10.D/②154明6.B/
②155明7.B/②155明7.D/
②156明8.B/②159昭14.D/
②205明30.D/②282昭9.B//
③30明21.B/③142明40.B/
③276昭9.B/③302昭14.B/
③323昭18.B//④26[25009]/
④28明2.B/④30明7.B/
④30明7.D/④36明12.B/
④39明13.B/④40明14.B/
④49明15.G/④114明30.B/
④469昭8.B/④478昭8.D/
④486昭9.B/④489昭9.B/
④510昭10.B/④606昭15.B/
④670昭20.B/
④674[明治初期]/
④677[明7]/④678[明8]/
④679[明10]/④728[昭1]/
西成量(吉兵衛)④26[24995]/
西吉兵衛 → 西成量
西晉一郎［西］①96明34.B/
①97明34.B/①100明35.B/
①101明35.B/①113明37.B/
①120明38.B/①142明42.B/
①179大4.B/①238大12.B//
②254大15.B//③93明32.B/
③112明35.B/③127明37.B/
③191大4.B/③226大13.B//
④229大1.B/④230大1.B/
④258大3.B/④351大12.B/
④137明35.B/④206明43.B/
④216明44.B/④217明44.B/
④367大14.B/④666昭19.B/
西善三郎④23[24935]/
西雅男①192大5.E/①236大12.B/

①239大12.B/①260大14.E/
①272大15.E/①282昭2.E/
①353昭7.E/①378昭9.C/
①380昭9.C//②59昭12.C/
②60昭12.C/②248大12.B/
②268昭6.B/②275昭7.E//
③237大15.E/③291昭12.C/
西正行②56昭12.B/
西井克己②116昭16.F//
④619昭15.D/④640昭16.F/
④648昭17.C/④805[昭15]
西依一六②200明28.B/
西入野德②73昭13.C/
②85昭14.C/②97昭15.C/
西内天行④160明38.D/
④170明39.B/④515昭10.C/
西内藤男④156明37.D/
西岡宗太郎③250昭4.D/
西岡虎造④752[昭10]/
西岡虎之助④754[昭11]/
西奥洋泉②109昭16.C/
西垣堯則①153明44.D/
①211大8.D/①224大10.D/
西片寒川①153明44.D/
①205大7.D/①224大10.D//
④318大7.D/
西川光次郎（西川生）
①100明35.B/①101明35.B//
③112明35.B/③127明37.B/
③187大3.E/③188大3.F/
③189大4.B/③191大4.B/
③192大4.C/③195大5.B/
③200大5.F/③327明［不明］C/④136明35.B/
④749[昭9]/
西川光太郎④148明36.E/
西川如見②150［14477,14478］/
②209明32.F/②258昭2.F//
④590昭14.C/④699[明32]/
西川生 → 西川光次郎
西川忠亮④699[明32]/
西川辰次郎③162明44.F/
西川文子③180大3.B/
西川正身④570昭13.B/
西川融④435昭5.D/
西川義雄④591昭14.C/
錦織くら子④315大7.B/
④342大10.D/④355大12.D/
④362大13.D/④365大14.B/
④392昭2.C/④406昭3.C/
錦織貞夫④316大7.B/
④370大14.C/④395昭2.C/
④404昭3.B/④413昭4.B/
錦織精之進④31明9.F/
錦田義富①342昭7.B//
③171大2.B/③173大2.B/
③174大2.B//④229大1.B/
④243大2.B/④246大2.B/
④248大2.B/④711[明45]/
西腰松丘④648昭17.C/
西坂保治④521昭10.G/
西崎一郎①382昭9.D//
②84昭14.C/②86昭14.D/
西島冨壽③155明43.B/
③157明43.D/
西島治彦④344大11.A/
西島彌太郎①272大15.E/
西嶋樂峰①324昭5.F/
西田 → 西田幾多郎
西田市郎④522昭11.A/
西田幾多郎［西田、博士］
①76明28.B/
①147明43.B/①152明44.B/
①177大3.D/①189大5.B/
①195大6.B/①210大8.B/
①238大12.B/①245大13.B/
①267大15.B/①288昭3.B/
①302昭4.B/①327昭6.B/
①337昭6.D/①360昭8.B/
①371昭9.A//②34昭11.B/
②55昭12.B/②67昭12.G/
②74昭13.D/②94昭15.B/
②107昭16.B/②111昭16.D/
②120昭17.B/②242大7.B//

③190大4.B/③290昭12.B//
④105明28.B/④247大2.B/
④277大4.B/④322大8.B/
④324大8.B/④413昭4.B/
④439昭6.B/④565昭13.A/
④582昭14.A/④608昭15.C/
④784[明29]/
西田健一②258昭2.E/
西田光二郎①257大14.C/
西田榮①355昭7.E/①386昭9.E//
④499昭9.E/
西田壽次(治)郎①42明20.B/
①44明20.F/①78明29.B//
③33明21.F/
西田直二郎①150明44.A/
①247大13.C/①347昭7.C/
①349昭7.C//④474昭8.C/
西田敎道②225明39.B/
西田天香④533昭11.C/
西田博士 → 西田幾多郎
西田宏紹①202大7.B/
①209大8.B//④315大7.B/
④316大7.B/
西田廣①167大2.D/
西田宏①317昭5.C/①318昭5.C/
①331昭6.C/①334昭6.C//
③179大2.D/③186大3.D//
④267大3.D/④422昭4.E/
④444昭6.C/
西田博太郎①283昭2.F/
西田正秋①369昭8.F//
③311昭15.D/
西谷 → 西谷啓治
西谷啓治(西谷)①288昭3.B/
①300昭4.B/①344昭7.B/
①360昭8.B/①377昭9.B//
②13昭10.B/②71昭13.B/
②105昭16.B/②106昭16.B/
②107昭16.B/②108昭16.B/
②109昭16.C/②131昭18.B/
②141昭19.B/③309昭15.B/
③314昭16.B/④549昭12.B/
④585昭14.B/④604昭15.B/
④628昭16.B/④629昭16.B/
④644昭17.B/
西谷講堂①302昭4.B/
仁科武光④767[昭15]/
西成甫④710[明44]/
西野古海④677[明8]/
西野錦治①304昭4.B/
①330昭6.B//④412昭4.B/
西野散木②254大15.B/
西野正勝④693[明24]/
④694[明25]/
虹之助④300大6.B/
西原勇④632昭16.B/
西原謙二③267昭7.D/
西原慶一④477昭8.D/
西原功一②122昭17.C/
西原讓二④446昭6.D/
西原達三①181大4.B//
③190大4.B//④272大4.B/
西淵峻①210大8.B//④323大8.B/
西宮藤朝①235大12.A/
①244大13.B/①245大13.B/
①335昭6.D//④241大2.B/
④307大6.D/④356大13.B/
④454昭7.B/
西村朝日太郎②85昭14.C//
④589昭14.C/
西村鼎①43明20.C/
西村遠里④772[昭17]/
西村鼎重 → 西村茂樹
西村玄道①31明14.C//
④40明14.A/④43明14.C/
西村兼文①17明7.C/
西村孝次②83昭14.B/
②92昭15.A/②100昭15.D/
②103昭16.A/②107昭16.B/
②112昭16.D/②121昭17.C/
②125昭17.D/②133昭18.B//
③307昭15.A/
西邨 → 西村茂樹
西村茂樹(鼎重、西邨、泊

翁)［萬國史略］
①12［218］/①13明2.C/
①14明4.C/①15明5.C/
①16明6.C/①18明8.A/
①18明8.B/①19明8.E/
①28明12.A/①28明12.B/
①28明12.C/①31明14.B/
①33明15.B/①34明16.B/
①36明17.D/①39明19.B/
①39明19.B/①42明20.B/
①46明21.B/①48明21.D/
①50明22.A/①50明22.B/
①52明22.C/①54明23.B/
①59明24.B/①60明24.C/
①65明25.C/①68明26.B/
①73明27.B/①75明27.E/
①78明29.B/①82明30.B/
①85明31.B/①89明32.B/
①89明32.B/①93明33.B/
①96明34.B/①96明34.B/
①100明35.B/
①160明45.［不明］/
①160明45.［年代不詳］//
②153明5.B/②155明7.D/
②156明8.C/②162明16.B/
②170明19.B/②178明22.B/
②183明23.B//③13明11.C/
③17明14.B/③20明16.B/
③23明18.B/③26明19.C/
③28明20.B/③30明21.B/
③35明22.B/③53明26.A//
④28明4.C/④30明8.B/
④30明8.C/④31明9.F/
④46明15.B/④50明16.B/
④58明18.B/④63明19.B/
④67明20.B/④100明27.B/
④131明34.B/④132明34.B/
④138明35.B/④676[明7]/
④678[明9]/④682[明12]/
④747[昭8]/
西村茂④635昭16.D/
西村稠（S. Nishimura）
②36昭11.B/②68昭13.B/
②85昭14.C/
西村正三郎①68明26.B/
①82明30.B//③59明27.B/
西村二郎①235大12.A//
④349大12.A/
西村眞次［教授、醉夢、Shinji Nishimura］
①102明35.D/①107明36.D
①273昭2.A/①275昭2.B/
①325昭6.A/①341昭7.A/
①357昭8.A//②264昭5.A//
③169明45.D/③243昭3.B//
④172明39.D/④371大14.D/
④373大15.A/④437昭6.A/
④475昭8.C/④533昭11.C/
④555昭12.C/④626昭16.A/
④674[明治]/④700[明34]/
④701[明35]/④704[明治]/
④710[明44]/④716[大5]/
④721[大11]/④723[大12]/
④724[大13]/④727[昭1]/
④730[昭2]/④731[昭3]/
④737[昭5]/④739[昭6]/
④747[昭9]/④753[昭10]/
④754[昭11]/④756[昭12]/
④760[昭13]/④762[昭14]/
④765[昭15]/④768[昭16]/
④771[昭17]/④774[昭18]/
④795[19-]/
西村醉夢 → 西村眞次
西村［茂樹］先生傳記編纂會
④467昭8.B/
西村善作④788[明治初]/
西村爲之助④323大8.B/
西村恒方①15明5.C/
西村貞①78明29.B/
①259大14.D//②160昭15.B//
③236大15.D/
西村貞二②61昭12.C/
②63昭12.D/②75昭13.D/
②95昭15.B/②98昭15.C/

②107昭16.B/②115昭16.E/
②117昭17.A/②128昭17.E//
③315昭16.B//④558昭12.D/
④562昭12.E/④572昭13.C/
④613昭15.C/④621昭15.E/
④633昭16.C/④638昭16.E/
④642昭17.A/④663昭18.E/
④808[昭18]/
西村寅二郎④694[明25]/
④697[明29]/
西村信橘④363大14.A/
西村泊翁 → 西村茂樹
西村文則①99明35.A//
③111明35.A/
西村卯④154明37.C/
西村楠亭①8［118］/
西村雄三②26昭10.E/
西村嘉三郎①288昭3.B/
西村嘉彦④569昭13.B/
④651昭17.D/
西村龍三④80明23.B/
西村良三④25[24989]/
西本顕①310昭4.E/①323昭5.E//
②48昭11.E/②49昭11.E/
②64昭12.E/②65昭12.E/
②66昭12.E/④542昭11.E/
④641昭17.A/
西元龜太郎③220大11.E/
西本翠蔭（波太）③138明39.B/
西本波太 → 西本翠蔭
西山鬼治④159明38.B/
西山績①91明32.C/
西山榮久③125明36.G/
西山政雄①340昭6.F/
西山庸平①274昭2.B/
①325昭6.B/
西山義行①34明16.C/
①37明17.G/①38明18.C/
①45明20.G//③33明21.G//
④58明17.G/
日就社①150明44.A//
②155明6.G//③25明18.G/
西脇 → 西脇順三郎
西脇玉峰④106明28.B/
④110明29.B/④123明32.B/
④125明32.D/④137明35.B/
西脇貞夫④447昭6.D/
西脇秋水④143明36.B/
西脇順三郎［教授］①309昭4.D/
①337昭6.D/①366昭8.D/
①367昭8.D//②46昭11.D/
②117昭17.A/②137昭18.D/
③298昭13.D//④342大10.D/
④383大15.D/④397昭2.D/
④433昭5.D/④461昭7.D/
④478昭8.D/④496昭9.D/
④497昭9.D/④521昭10.G/
④560昭12.D/④584昭14.B/
④588昭14.B/④593昭14.D/
④594昭14.D/④618昭15.D/
④745[昭8]/
西脇得三郎③237大15.D/
西脇信雄④341大10.D/
仁田桂三郎③29明21.B/
仁田桂次郎（叢菊野史）
④65明19.D/④73明21.C/
④78明22.C/
日英社②240大4.G/②248大11.G/
日漸生④127明33.B/
日獨文化協會④460昭7.D/
④462昭7.D/④558昭12.D/
④619昭15.D/④761[昭13]/
日佛會舘④433昭5.D/
日曜世界社①251大13.G//
④363大13.G/④481昭8.G/
④521昭10.G/
日曜世界社日曜學校研究部
④792[大7]/
日曜世界社編輯部④738[昭5]/
日蘭協會編輯局④713[大3]/
日新堂②155明6.G/
新田溪村③150明42.B/
新田芳①135明41.B/
日南居士①56明23.C//

②206明31.C/②208明32.D/
日蓮①110明37.B/
新渡戸稲造（太田稲造）
①46明21.B/①146明43.B/
①156明45.B/①312昭5.A/
①326昭6.B/①359昭8.B//
②223明38.G/②231明43.D/
②262昭4.D//③123明36.D/
③145明40.F/③146明41.B/
③157明43.D//④118明31.B/
④150明37.B/④151明37.B/
④157明38.A/④174明40.A/
④178明40.B/④183明41.B/
④210明43.D/④211明43.D/
④277大4.B/④315大7.B/
④482昭9.A/④512昭10.C/
④566昭13.A/
蜷川新④141明35.E/
④254大3.A/④715［大4］/
二宮源平②69昭13.B/
②269昭6.B//③258昭6.B//
④746[昭8]/
二宮尊徳③229大14.B/
二宮文右衛門①386昭9.F/
二宮義夫④660昭18.C/
仁戸田 → 仁戸田六三郎
仁戸田六三郎［仁井田六三郎は誤記］
①340昭6.F/①351昭7.D//
②34昭11.B/②45昭11.D/
②121昭17.C/②132昭18.B//
④585昭14.B/④647昭17.C/
④806[昭16]/
仁保龜松①122明38.E/
①185大4.E//③136明38.E//
④672[明治]/④689[明治]/
④695[明25]/
日本一信徒④178明40.C/
日本一の牧師④232大1.B/
日本科學哲學會④681昭22.B/
日本カトリック新聞社
④545昭12.A/
日本基督教會大會編纂委員會
④114明30.A/
日本基督教興文協會
④294大5.D/④370大14.D/
日本組合基督教會教育部
④388昭2.B/④755[昭11]/
日本ゲーテ協會④462昭7.D/
日本辭書出版社編輯部
④747[昭8]/
日本宗教學會②277昭8.B/
日本シェイクスピア協會
④745[昭8]/
日本書院④790[19-]/
日本神學校④449昭7.A/
日本正教會④133明34.D/
日本聖公會アポクリファ飜譯委員譯
④749[昭9]/
日本聖公會出版部④346大11.C/
日本赤十字社①355昭7.F/
日本聖書協會④558昭12.D/
④634昭16.D/
日本電信通信社④804[昭13]/
日本童謡協會④558昭12.D/
日本童話協會②24昭10.D//
日本童話研究會①279昭2.D/
①334昭6.D/
日本圖書舘協會④756[昭11]/
④758[昭12]/
日本内科學會④771[昭16]/
日本南緯聖會④682[明11]/
日本日曜學校協會④234大1.C/
日本日曜學校協會文學委員
④731[昭2]/
日本美術院③189大3.G/
日本美術協會③189大3.G/
日本放送協會②120昭17.B/
日本法律學校③39明23.A/
日本名著全集刊行會
④728[昭1]/
日本郵船株式會社④794[大14]/
④797[昭4]/

日本郵船株式會社船客課
④756[昭12]/
二瓶東泉④294大5.D/
二瓶要藏④339大10.C/
④346大11.C/④351大12.B/
④378大15.B/④549昭12.B/
④570昭13.B/
二楞學人 → 小野二楞
如是閑 → 長谷川萬次郎
二六新報讀書廼栞記者
③116明36.A/
丹羽正義①239大12.C//
④473昭8.C/
丹羽清次郎④96明26.B/
丹羽悳①10[161]/
丹羽純一郎 → 織田純一郎
丹羽適齋④680[明10]/
忍月居士 → 石橋忍月
仁徳天皇④715[大4]/
任天社④30明7.C/④162明38.C/
[ぬ]額賀(生) → 額賀鹿之助
額賀鹿之助(額賀[生])
①151明44.B/①156明45.B/
①157明45.B/①163大2.B/
①164大2.B/①171大3.B/
①173大3.B/①174大3.B//
②54昭12.B//③160明44.B/
③167明45.B/③233大15.B//
④241大2.B/④246大2.B/
④260大3.B/④261大3.B/
④262大3.B/④352大12.B/
④368大14.B/④391昭2.B/
④553昭12.B/
額田晉②102昭15.F//
④806[昭15]/④807[昭16]/
抜井光三②258昭2.E/
布川靜淵(靜淵生)②199明28.A/
②225明40.A//④344大11.A/
④386大15.E/④391昭2.B/
④403昭3.B/④410昭3.E/
④412昭4.A/④482昭9.A/
④489昭9.B/④502昭10.A/
④562昭12.E/④569昭13.B/
④614昭15.C/④634昭16.C/
沼田次郎④565昭13.A/
④761[昭13]/
沼田德重②273昭7.B/
沼田安草③9明9.E/
沼津兵學校④753[昭10]/
沼波瓊音③144明40.D/
沼間守一①28明12.C/
①30明13.C/①31明14.C//
③15明12.B//④39明13.C/
沼田一雅①128明39.D/
[ね]根井久吾③112明35.B/
寧海居士④30明7.B/
寧靜學人 → 石川彝
寧樂生②161昭15.E/
根生誠④774[昭17]/
根岸逸人①56明23.C//
④83明23.C/
根岸橘三郎④189明41.D/
根岸機峯 → 根岸道
根岸榮之③229大14.B/
根岸道(機峯)④188明41.D/
根岸福禰①69明26.B/
根來旭惠①174大3.B//
③182大3.B/
根來可敏④173明39.G/
猫尾道人①17明7.D/
根津憲三②100昭15.D/
②103昭15.G//④420昭4.D/
④530昭11.B/④748[昭9]/
禰津正志②27昭10.E//
④556昭12.C/
根本十郎②115昭16.F//
④563昭12.F/
根本四郎③267昭7.D/
根本剛④743[昭7]/
根本正③103明33.D/
根本雅記②106昭16.B/
[の]野明生④209明43.C/
直方敏②12昭10.B/
納所辨次郎④699[明33]/

納富重雄①353昭7.E/
野上(豐一郎?)③260昭6.D//
④481昭8.G/
野上巖(新島繁)①313昭5.B//
②15昭10.B/②47昭11.D/
②69昭13.B/②119昭17.B/
②266昭5.B//③286昭11.D//
④539昭11.D/④738[昭5]/
野上臼川 → 野上豐一郎
野上啓之助①99明35.A//
④133明34.C/④135明35.A/
野上素一③277昭9.D/
野上俊夫①173大3.B/
①244大13.B//②264昭5.A//
③138明39.B//④142明36.B/
④381大15.C/④425昭5.A/
野上敏一③241昭2.D/
野上豐一郎(臼川)[Toyoichiro Nogami、西洋人名辭典]①259大14.D/
①295昭3.D/①302昭4.B/
①316昭5.B/①328昭6.B/
①335昭6.D/①336昭6.D/
①337昭6.D/①351昭7.D/
①369昭8.G/①370昭8.G/
①383昭9.D//②45昭11.D/
②74昭13.D/②92昭15.A/
②103昭16.A/②109昭16.C/
②280昭8.G//③217大10.D/
③246昭4.A/③273昭8.G/
③293昭13.A/③308昭15.A/
③326昭19.D//④413昭4.B/
④460昭7.D/④461昭7.D/
④465昭7.G/④468昭8.B/
④575昭13.D/④599昭15.A/
④608昭15.C/④720[大9]/
④731[昭2]/④743[昭7]/
④749[昭9]/④761[昭13]/
④768[昭16]/④769[昭16]/
④777[昭19]/④800[昭8]/
④806[昭15]/
野上彌生子①161大2.B/
①222大10.B/①229大11.B/
①237大12.B/①245大13.B/
①275昭2.B/①386昭9.F//
②34昭11.B/②73昭13.B/
②79昭14.A/②92昭15.A/
②92昭15.A/②103昭16.A/
②118昭17.B//③318昭17.A//
④393昭2.C/④461昭7.D/
④483昭9.B/④599昭15.A/
④729[昭2]/④743[昭7]/
④754[昭11]/
野上豐②71昭13.B/
野川郡鳳④490昭9.B/
野木善太④653昭17.E/
野際馨④784[明27]/
野口援太郎①96明34.B/
①97明34.B/①232大11.D//
②212明34.B//③107明34.B/
③150明42.B//④132明34.B/
野口啓祐②143昭19.C//
③326昭19.C//④667昭19.C/
野口源三郎①243大13.A/
①252大14.A/①356昭7.F//
②51昭11.F//④522昭11.A/
④754[昭11]/
野口重之②267昭5.E/
野口周作①139明41.D/
野口末彦④212明43.G/
野口竹次郎①51明22.C/
①54明23.B/
野口恒樹②119昭17.B/
②132昭18.B/
野口鶴④725[大14]/
野口牧師④186明41.B/
野口征夫①171大3.B/
野口保興③34明22.A//
④786[明39]/
野口彌太郎③283昭11.A/
野口米次(二)郎②227明40.D//
③135明38.D/③257昭6.B//
④155明37.D/④296大5.D/
④365大14.B/

野口米彦④160明38.B/
野崎乙巳郎③253昭5.B/
野崎靜江①142明42.B//
④193明42.B/
野澤郁太④735[昭4]/
野澤武之助①93明33.A//
④148明36.E/④810[19-]/
野澤悌三③207大7.D/
野澤正夫④577昭13.E/
野島市三郎④692[明23]/
野島忠太郎①358昭8.B//
④548昭12.B/
野尻精一④330大9.A/
野尻抱影（正英）①340昭6.F/
①369昭8.F/①386昭9.F//
②102昭15.F//④158明38.B/
④170明39.C/④370大14.D/
④598昭14.F/④602昭15.B/
④619昭15.D/④727[大14]/
④729[昭1]/④731[昭2]/
④733[昭3]/④750[昭9]/
④762[昭13]/④763[昭14]/
④777[昭18]/④779[昭19]/
④799[昭6]/
野尻正英 → 野尻抱影
能勢和之④74明21.C/
能勢榮①73明27.B//
②176明21.C//③25明19.B//
④99明27.B/
能勢陽三④755[昭11]/
のぞきめがね④150明37.B/
野田卯一（水田明）①269大15.D/
野田桂華④722[大11]/
野田五郎助③138明39.B/
野田達助④677[明8]/
④681[明11]/④683[明13]/
④782[明13]/
野田時助①315昭5.B//
④605昭15.B/
野田俊彦②254大15.A/
野田登代美①152明44.C/
野田豐實①157明45.C//
③164明45.B/
野田文之助④120明31.C/
野田保興④701[明35]/
野田まづま③124明36.E//
④140明35.D/
野田義夫③98明32.F//
④97明26.C/④126明33.B/
④274大4.B/④517昭10.D/
④606昭15.B/④666昭19.B/
野中 → 野中正夫
野中正夫（野中）②23昭10.D/
②93昭15.B/②96昭15.B/
②136昭18.D//④601昭15.B/
④602昭15.B/④604昭15.B/
野田又夫②133昭18.B/
能智修彌④750[昭9]/
野中誠之 → まさいち
野中義正④585昭14.B/
野々口精一④210明43.D/
野の花①147明43.B/
野の人④176明40.B/
野々宮三夫①338昭6.E/
野々村運一（市）①272大15.F//
②254大15.B/
野々村戒三（蘆舟）①216大9.C/
①216大9.C/①217大9.C/
①229大11.B/①256大14.C/
①305昭4.C/①306昭4.C/
①333昭6.C/①348昭7.C//
②72昭13.C/②73昭13.C/
②257昭2.C/②260昭3.C//
③212大9.C/③249昭4.C//
④293大5.C/④333大9.C/
④334大9.C/④340大10.C/
④360大13.B/④382大15.C/
④388昭2.A/④394昭2.C/
④405昭3.C/④418昭4.C/
④422昭4.E/④424昭5.A/
④437昭6.A/④443昭6.C/
④450昭7.A/④472昭8.C/
④474昭8.C/④573昭13.C/
④661昭18.C/④753[昭10]/

④802[昭10]/
野々村金五郎④697[明27]/
野々村直太郎③155明43.B/
野々村梅所③171大2.B/
野々村蘆舟 → 野々村戒三
納武津①218大9.E/
野波福太郎④537昭11.C/
野原四郎③303昭14.C/
野原伸司①362昭8.C/
信岡雄太郎④75明21.E/
野邊地天馬④316大7.C/
④352大12.C/④723[大正]/
昇曙夢③156明43.C/
③213大9.E//③287昭11.D/
④142明36.B/
延川新秋(次)②225明39.D//
③140明39.D/③143明40.B/
延川直臣①162大2.B/
①170大3.B/①206大7.D/
野間清治①295昭3.D//
③242昭3.B/③244昭3.C/
③245昭3.E/③247昭4.B/
③248昭4.C/③249昭4.D/
野間正檣②225明 39.G/
野町二②87昭14.D/
野見國造④249大2.C/
野見山溫②75昭13.E/
野村 → 野村兼太郎
野村敎授④416昭4.C/
野村隈畔①164大2.B/
①170大3.B/①174大3.B/
①182大4.B/①196大6.B//
③180大3.B/③182大3.B//
④243大2.B/④257大3.B/
④259大3.B/④260大3.B/
④272大4.B/④301大6.B/
④321大8.A/
野村兼太郎(野村)①219大9.E/
①271大15.E/①310昭4.E/
①319昭5.C//②100昭15.E/
②266昭5.C/②267昭5.E//
④349大11.E/④385大15.E/
④392昭2.C/④398昭2.E/
④422昭4.E/④432昭5.C/
④436昭5.E/④443昭6.C/
④720[大10]/④739[昭6]/
④760[昭13]/
野村廣吉①374昭9.B//
④483昭9.B/
野村佐一郎①171大3.B//
②20昭10.C/②79昭14.B/
②111昭16.D/
野村純孝④551昭12.B/
野村生①181大4.B/
野村善兵衛①156明45.B/
①157明45.B/
野村泰①250大13.F/
野村泰亨②161明15.E/
②163明16.E/②164明16.E/
②172明19.G/②244大8.G//
③27明19.G//④50明16.B/
④129明33.G/④691[明20]/
野村琢一③298昭13.D/
野村直壯④421昭4.D/
野村良雄②125昭17.D//
④644昭17.B/④658昭18.B/
④665昭19.B/
野村吉哉①244大13.B/
野本甲浦(學人、甲浦學人?)
④325大8.B/④326大8.C/
野本生④271大4.A/
野本稔幸④286大5.B/
④290大5.B/
宣十三郎①183大4.C/
乘田實④330大9.B/
乘竹孝太郎(岱麓樵夫)
①39明19.B/①42明20.B/
①44明20.E/①44明20.F/
法月歌客(法月俊郎?)
①258大14.D/
法月俊郎(法月歌客?)
③235大15.B/
乘松雅休④699[明32]/
野呂元丈(實夫)①6[59]/

野呂實夫 → 野呂元丈
ノンキ山人③94明32.C/
［は］は、う①54明22.B/
ハ、ウ③97明32.D/
は、せ③99明33.B/
梅花道人②218明 36.D/
俳諧堂③75明29.C/
梅溪生 → 高須梅溪
倍償義雄①254大14.B/
①315昭5.B/
拝天（生）④140明35.D/
④143明36.B/
灰野庄平①224大10.D/
①231大11.D/①320昭5.D//
④407昭3.D/
賣文社①198大6.D/
楳嶺④150明37.B/④153明37.C/
④170明39.C/④175明40.B/
覇王樹①175大3.C/
芳賀檀①294昭3.D/①376昭9.B/
①382昭9.D//②26昭10.D/
②32昭11.A/②44昭11.D/
②55昭12.B/②62昭12.D/
②70昭13.B/②71昭13.B/
②74昭13.D/②75昭13.D/
②80昭14.B/②125昭17.D/
②130昭18.A/②132昭18.B/
②137昭18.D/②278昭8.D/
②285昭9.D//③285昭11.B/
③287昭11.D/③290昭12.B/
③292昭12.D/③294昭13.B//
④495昭9.D/④497昭9.D/
④529昭11.B/④531昭11.B/
④560昭12.D/④575昭13.D/
④576昭13.D.④586昭14.B/
④594昭14.D/④595昭14.D/
④642昭17.A/④644昭17.B/
芳賀檀④732[昭3]/
芳賀博士 → 芳賀矢一
芳賀政宣④680[明10]/
芳賀矢一［博士］①115明37.D/
①116明37.D/①116明37.D/
①128明39.D/①193大5.G/
①294昭3.D//②61昭12.D/
②191明25.D/②211明33.D/
②227明40.D/②257昭2.D/
②263昭4.D//③145明40.D/
③241昭2.D/③291昭12.D/
③292昭12.D//④93明25.D/
④164明38.D/④182明41.A/
④263大3.C/④265大3.C/
④298大5.G/④317大7.C/
④413昭4.B/④541昭11.D/
④560昭12.D/④703[明37]/
④732[昭3]/
芳賀八彌③56明26.C/
葉上照澄①304昭4.B/
①315昭5.B/①327昭6.B/
①373昭9.B//②14昭10.B/
②35昭11.B/②55昭12.B//
④317大7.C/④757[昭12]/
袴田吉藏④293大5.C/
簸川生④126明33.A/
④132明34.B/④137明35.B/
萩原乙彦①27明11.E/
萩原吉太郎①338昭6.E//
④385大15.E/
萩原恭次郎①353昭7.D/
萩原厚生④354大12.D/
萩原朔太郎②63昭12.D//
③218大11.B/③247昭4.B/
③282昭10.D/③285昭11.B//
④617昭15.D/
萩原幸子③278昭10.A/
萩原淸次郎③202大6.B//
④300大6.B/
萩原增雄①359昭8.B/
②13昭10.B//③275昭9.B/
③281昭10.B/
萩原蘿月④560昭12.D/
萩原賴平①173大3.B/
萩原碌水④196明42.B/
白旗信②275昭7.D/

馬琴(瀧澤、曲亭)④69明20.C/
博育堂②235明45.G/
柏陰清露主人④121明31.D/
白雲生①98明34.C/①101明35.C/
①121明38.C//④700[明34]/
④704[明38]/
白雲山人④77明22.B/
泊翁 → 西村茂樹
白櫻生①87明31.D/
白極潔④48明15.D/④56明17.D/
④685[明15]/④686[明17]/
莫愁生②222明38.B/
②222明38.C/②223明38.E/
はくすい → 三浦白水(郎)
白水郎 → 三浦白水(郎)
白鷹生④269大3.F/
白峯山人④276大4.B/
白鳥 → 正宗白鳥
白汀生④229大1.B/
白念坊 → 大槻如電
白微生①136明41.B/
博文舘①50明22.B/①51明22.C//
③102明33.C/③113明35.B//
④97明26.C/
博文社①40明19.C/
白夢(生) → 金子馬治
白楊社②268昭5.G/
柏葉生④215明44.B/
罵賢子①54明23.A//
②182明23.A/
馬骨先生④701[明35]/
幡溪仙史→ 阿部秀吉
は、こ④342大10.D/
箱田保顯[大全英和辭書]
①41明19.G//②168明18.G/
②174明20.G//③24明18.G/
③27明19.G//④71明20.G/
間重富①7[80]//④24[24955]/
④777[昭18]/
橋孝吉①351昭7.D/
葉柴降雪②263昭4.E/
箸尾寅之助①45明20.G/
橋田次郎④523昭11.A/
④534昭11.C/
橋田東聲①180大4.B/
①187大5.B/
橋爪生①257大14.C/
橋爪貫一④34明11.C/
④37明12.D/④781[明4]/
橋爪檳榔郎(檳榔子)
②248大11.F/②248大12.B/
橋詰隆治①43明20.C/
①94明33.C//④690[明20]/
橋寺太郎①222大10.B//
④337大10.B/
橋本勳④650昭17.D/
橋本一雄①125明39.B/
橋本鑑②95昭15.B//
④608昭15.C/
橋本玉蘭④789[1-]/
橋本教授④643昭17.B/
橋本正三④301大6.B/
④456昭7.C/④512昭10.C/
橋本進吉①294昭3.D/
①295昭3.D//②260昭3.D/
②263昭4.D//③250昭4.D/
橋本靑雨(忠夫)
①121明38.D/①122明38.D/
①134明40.D//②223明38.D/
②227明40.D//③134明38.D//
④157明38.B/④163明38.D/
④181明40.D/④668昭19.D/
④769[昭16]/
橋本節齋④727[大14]/
④734[昭3]/
橋本宗吉②150[14486]//
④24[24951]/④672[文政]/
④764[昭14]/④765[昭15]/
橋本孝①237大12.B//
④346大11.B/④350大12.B/
④439昭6.B/④473昭8.C/
④475昭8.C/
橋本武①63明25.B/
①222大10.B//④90明25.B/

橋本忠夫 → 橋本青雨
橋本辰彦①269大15.C//
③235大15.C//④333大9.C/
④379大15.C/④393昭2.C/
④420昭4.D/④427昭5.B/
④474昭8.C/④795[大15]/
橋本玉造③328昭21/
橋本直政(伯敏)④780[寛政8]/
橋本文夫①382昭9.D/
①384昭9.E//②103昭15.F/
②286昭9.E//③278昭9.D/
③282昭10.D//④494昭9.D/
橋本彦一④539昭11.D/
橋本增吉②134昭18.C//
③300昭13.F//④577昭13.F/
橋本宗範④494昭9.D/
橋本八年④181明40.F/
橋本吉郎④731[昭2]/
(松尾)芭蕉④462昭7.D/
羽白幸雄④807[昭17]/
琶水生④401昭3.B/④404昭3.B/
蓮沼磐雄①69明26.B//
②193明26.B//④105明28.B/
④109明29.B/
蓮沼彌七③7明9.A/
蓮實重康④558昭12.D/
蓮元啓文②256昭2.B/
②266昭5.B//③238昭2.B/
長谷安生④540昭11.D/
長谷井武人④360大13.C/
長谷川郁馬①47明21.C//
③31明21.C/
長谷川猪三郎①246大13.C/
長谷川和美④440昭6.B/
長谷川玖一②131昭18.B/
長谷川慶三郎①253大14.B/
①255大14.B/
長谷川元吉④198明42.D/
④210明43.D/
長谷川幸一④540昭11.D/
長谷川胡蓮①133明40.C/
長谷川才次④443昭6.C/
長谷川三郎③274昭9.B/
長谷川時雨②243大8.B//
④325大8.C/
長谷川春④48明15.E/
葉瀬川進①297昭3.E/
長谷川進②93昭15.B/
②286昭9.E/
長谷川生④334大9.D/
④339大10.B/④340大10.C/
④347大11.C/
長谷川誠也 → 長谷川天溪
長谷川宗儀②150［14491］/
長谷川敞④359大13.B/
長谷川健夫②267昭5.E/
長谷川武敏④653昭17.E/
長谷川辰二郎①41明19.G/
①66明25.D//③29明20.G/
③33明21.G/
長谷川辰之助（二葉亭四迷）［浮雲］①48明21.D/
①49明21.D/①350昭7.D//
③37明22.D//④120明31.C/
④495昭9.D/
長谷川千秋④637昭16.D/
長谷川長四郎④496昭9.D/
④557昭12.C/
長谷川次潔④682[明12]/
長谷川天溪（誠也）①87明31.C/
①90明32.B/①97明34.B/
①100明35.B/①108明36.D/
①238大12.B//②224明39.B//
③103明33.D/③191大4.B//
④164明38.D/④271大4.A/
④287大5.B/④714[大4]/
④726[大14]/④761[昭13]/
長谷川寅雄②38昭11.B/
長谷川直吉④262大3.B/
④277大4.B/④306大6.C/
④346大11.B/④347大11.C/
④448昭6.E/④472昭8.C/
④532昭11.B/
長谷川如是閑 → 長谷川萬次郎

長谷川萬丈②219明36.G/
長谷川久一②126昭17.E//
④462昭7.D/
長谷川福平①108明36.D/
①116明37.D//②218明36.D//
④147明36.D/
長谷川萬次郎（如是閑）
①208大8.A/①214大9.A/
①228大11.A/①235大12.A/
①237大12.B/①266大15.B/
①370昭8.G/①387昭9.G//
②64昭12.E/②130昭18.A/
③189大4.B/③210大8.C/
③213大9.F/③218大11.B/
③219大11.C/③225大13.B//
④173明40.A/④201明43.A/
④271大4.B/④321大8.A/
④329大9.A/④343大11.A/
④355大12.E/④437昭5.F/
④500昭9.G/④504昭10.B/
④541昭11.D/④552昭12.B/
④556昭12.C/④564昭12.F/
長谷川八州④636昭16.D/
長谷川八郎④527昭11.B/
長谷川文一④429昭5.B/
長谷川康④199明42.D/
④211明43.D/
長谷川路可④424昭5.A/
支倉常長④410昭4.A/
長谷部隆諦③148明41.D/
長谷部文雄①313昭5.B//
②79昭14.A//④581昭14.A/
長谷山八郎②15昭10.B//
④528昭11.B/④530昭11.B/
羽太鋭治①298昭3.F/
畑一枝④268大3.D/
畑正吉①280昭2.D/①294昭3.D/
①321昭5.D/
秦政治郎④111明29.C/
④693[明24]/
羽田亨①238大12.B/
①333昭6.C//③258昭6.C/
③260昭6.D//④351大12.B/
④354大12.D/④437昭6.A/
④438昭6.A/④625昭16.A/
④739[昭6]/④747[昭9]/
秦敏之①56明23.C//
②200明28.C/
秦豐吉①248大13.D//
④241大2.B/④419昭4.D/
④420昭4.D/
秦實②269昭6.B/
傍木哲二郎①38明18.G//
②168明18.G//③22明17.G/
③24明18.G//④61明18.G/
畠山花城④436昭5.F/
畠山機知②157明10.B/
畠山健④692[明23]/
畠山鴻業④176明40.B/
畠山古瓶③89明31.D/
畑中伊三郎④497昭9.D/
④651昭17.D/
畠中尚志②68昭13.B//
④583昭14.B/
畠中博④332大9.B/
④368大14.B/④378大15.B/
④403昭3.B/
羽溪了諦①147明43.B/
①254大14.B//②32昭11.A/
波多野鼎①282昭2.E/
①296昭3.E//④343大11.A/
波多野完治②34昭11.B/
②82昭14.B//④585昭14.B/
④586昭14.B/
畠野圭右④767[昭15]/
波多野承五郎④39明13.B/
波多野精一［博士］①82明30.B/
①90明32.B/①96明34.B/
①100明35.B/①101明35.B/
①113明37.B/①130明40.B/
①138明41.C/①139明41.C/
①157明45.B/①162大2.B/
①163大2.B/①164大2.B/

①165大2.B/①203大7.B/
①209大8.B/①221大10.B/
①222大10.B/①237大12.B/
①239大12.C/①240大12.C/
①254大14.B/①265大15.B//
②69昭13.B/②71昭13.B/
②75昭13.E/②83昭14.B/
②95昭15.B/②98昭15.C/
②212明34.B/②215明35.B/
②243大8.B/②284昭9.B//
③93明32.B/③106明34.B/
③142明40.B/③214大10.B//
④136明35.B/④137明35.B/
④138明35.B/④175明40.A/
④175明40.B/④183明41.A/
④188明41.C/④197明42.C/
④198明42.C/④206明43.B/
④216明44.B/④225大1.B/
④235大1.C/④240大2.A/
④245大2.B/④254大3.A/
④259大3.B/④271大4.A/
④314大7.B/④324大8.B/
④330大9.B/④338大10.B/
④390昭2.B/④417昭4.C/
④429昭5.B/④439昭6.B/
④454昭7.B/④473昭8.C/
④486昭9.B/④508昭10.B/
④551昭12.B/④586昭14.B/
④604昭15.B/④706[明40]/
④762[昭13]/④793[大12]/
波多野傳三郎②182明22.G//
④57明17.E/④62明19.B/
波多野培根④254大3.A/
波多野博士 → 波多野精一
波多野通敏①289昭3.B/
①326昭6.B/①330昭6.B/
①331昭6.B/①342昭7.B/
①360昭8.B/①375昭9.B//
②13昭10.B/②93昭15.B/
②115昭16.F//③270昭8.B/
③302昭14.B//④740[昭6]/
葉玉キミエ③267昭7.D//
④447昭6.D/
幡谷正雄①279昭2.D/
蜂屋可秀④98明26.D/
八文字屋其笑①6[60]/
八巻顕男④637昭16.D/
羽塚隆成④416昭4.C/
白華生①164大2.B/①173大3.B/
珀蹊生①114明37.C//
④703[明37]/
八太永次郎①68明26.A//
②193明26.A
八田三喜④523昭11.A/
④631昭16.B/④645昭17.B/
八太石鼓①61明24.C/
八太舟三①277昭2.B/
①286昭3.B/①290昭3.B/
①359昭8.B/①366昭8.D/
八太德三郎④99明27.A/
發田久德④650昭17.D/
八波則吉④758[昭12]/
④759[昭12]/
鳩山和夫(三浦)①38明18.E/
①109明36.E//③24明18.E//
④53明16.E/④61明18.E/
④686昭23.E/
鳩山春子③111明35.A/
鳩山秀夫①199大6.E/
藐姑射山人→戸澤姑射
服部綾太郎④108明28.D/
服部宇之吉①59明24.B/
①68明26.B/①193大5.G//
④149明37.B/④298大5.G/
服部英次(治)郎①287昭3.B/
①288昭3.B/①375昭9.B/
①376昭9.B//②13昭10.B/
②40昭11.B/②93昭15.B/
②118昭17.B/②124昭17.D/
②281昭9.B/②282昭9.B/
②283昭9.B/②284昭9.B/
②285昭9.D//④401昭3.B/
④428昭5.B/④484昭9.B/
④485昭9.B/④488昭9.B/

④492昭9.C/④493昭9.C/
④496昭9.D/④509昭10.B/
④514昭10.C/④548昭12.B/
④601昭15.B/④602昭15.B/
④604昭15.B/④642昭17.B/
④643昭17.B/④644昭17.B/
④658昭18.B/④665昭19.B/
④777[昭19]/
服部英太郎①215大9.B/
①276昭2.B/
服部悦次郎④785[明31]/
服部纘④402昭3.B/
服部之総④622昭15.F/
服部四郎④522昭11.A/
服部誠一①29明12.D/
①30明13.D/①52明22.D//
④48明15.D/④60[明20]/
服部他助③202大6.C/
服部他之助①301昭4.B//
④392昭2.C/
服部保④223明44.G/
服部豐次①297昭3.E/
服部春之助①134明40.F/
服部博①324昭5.F//②116昭16.F/
服部辨之助①301昭4.B//
④765[昭14].
服部正巳①353昭7.D/
①367昭8.D/①383昭9.D/
②24昭10.D/
服部豐④794[大13]/
服部敬雄④369大14.C/
服部嘉香③177大2.D//
④559昭12.D/
服部龍太郎①280昭2.D//
②62昭12.D//④383大15.G/
④801[昭9]/
服部良一④608昭15.C/
八波則吉③291昭12.D/
初見靖一 → 串田孫一
初見八郎④691[明20]/
花井卓藏［博士］①384昭9.E//
②203 明29.E/
花井博士 → 花井卓藏
鼻岡鐵郎①377昭9.B/
華岡良舜②277昭8.B//
③270昭8.B/
花子③205大7.B/
花澤武夫①331昭6.C/
花澤亨④472昭8.C/
花園兼定④763[昭4]/
花田清輝②82昭14.B//
③316昭16.D/③324昭18.D/
花田鐵太郎②12昭10.B/
②20昭10.C/②23昭10.D/
花園兼定④617昭15.D/
④668昭19.D/]
花野冨藏④754[昭11]/
花森安治③291昭12.D/
塙喜美造④652昭17.E/
塙金吉③31明21.C/
羽仁 → 羽仁五郎
羽仁五郎（羽仁）①268大15.C/
①303昭4.B//②85昭14.C/
②254大15.C//③236大15.C/
③306昭14.D/③309昭15.C//
④394昭2.C/④395昭2.C/
④422昭4.E/④423昭4.E/
④431昭5.C/④436昭5.E/
④474昭8.C/④475昭8.C/
④563昭1.E/④593昭14.D/
④595昭14.D/④609昭15.C/
④613昭15.C/④765[昭14]/
④765[昭15]/
羽石弘志④759[昭12]/
羽塚隆成④797[昭4]/
馬場明男④510昭10.B/
④543昭11.E/
馬場英一④386昭15.E/
馬場嘉市④598昭14.G/
④765[昭14]/
羽場千代治③247昭4.B/
馬場和光①272大15.F/
馬場勝彌 → 馬場孤蝶
馬場久治②32昭11.A/

②36昭11.B/②63昭12.D/
②68昭13.A/②80昭14.B//
③291昭12.D/③294昭13.B//
④522昭11.A/④524昭11.A/
④548昭12.A/④569昭13.B/
④602昭15.B/④758[昭12]/
馬場啓之助②15昭10.B/
馬場孤蝶(勝彌)①183大4.D/
①246大13.B/①280昭2.D/
①293昭3.D/①320昭5.D//
②170明19.C//③193大4.D/
③228大13.E//④140明35.D/
④199明42.D/④211明43.D/
④297大5.D/④307大6.D/
④322大8.B/④326大8.D/
④461昭7.D/④618昭15.D/
馬場佐十郎 → 馬場貞由
馬場貞由(佐十郎)①8[106]/
①11[185]//②151[14506]//
④24[24959]/④24[24960]/
④24[24969]/
馬場貞歷④25[24972]/
馬場辰猪①29明12.E/
①30明13.E/①35明16.E/
①36明17.E//②176明21.C/
②259昭3.C/②266昭5.C//
③14明12.B/③26明19.C/
③145明40.E/③228大13.E//
④37明12.E/④53明16.E/
④57明17.E/④59明18.C/
馬場剛③222大12.B/
③225大13.B/③229大14.B/
③239昭2.B/③242昭3.A/
馬場悌治④434昭5.D/
④446昭6.D/
馬場直美①148明43.D//
④709[明43]/④726[大14]/
馬場久成④379大15.B/
馬場文翁①246大13.B/
①286昭3.B//②69昭13.B/
②105昭16.B//④390昭2.B/
④441昭6.B/④442昭6.B/
④452昭7.B/④645昭17.B/
馬場睦夫④281大4.D//
④281大4.D/
ハピアン[妙貞問答]
②208大7.D/
土生滋集②270昭6.C/
バプテスト共同傳道會社
④129明33.D/
濱田潔夫②245大9.E/
濱田紅於①116明37.D/
濱田耕作 → 濱田青陵
濱田三峰③230大14.C/
濱田俊吉②56昭12.B/
濱田青陵(耕作)[講師、博士]
①114明37.C/①128明39.D/
①129明40.A/①149明43.D/
①152明44.C/①158明45.C/
①158明45.C/①169大3.A/
①179大4.A/①186大5.A/
①190大5.C/①191大5.C/
①192大5.D/①194大6.A/
①197大6.C/①197大6.C/
①198大6.C/①198大6.D/
①199大6.D/①201大7.A/
①204大7.C/①205大7.D/
①208大8.A/①211大8.C/
①212大8.D/①214大9.A/
①216大9.C/①217大9.C/
①218大9.D/①220大10.A/
①223大10.C/①231大11.C/
①231大11.C/①239大12.C/
①240大12.C/①247大13.C/
①248大13.D/①257大14.C/
①259大14.D/①260大14.D/
①268大15.C/①269大15.D/
①277昭2.C/①278昭2.C/
①280昭2.D/①285昭3.A/
①292昭3.C/①308昭4.D/
①317昭5.C/①322昭5.D/
①335昭6.D/①338昭6.D/

①349昭7.C/①352昭7.D/
①364昭8.C/①378昭9.C//
②26昭10.D/②53昭12.A/
②73昭13.C/②86 昭14.D/
②104昭16.A/②133昭18.C/
②233明44.C/②241大6.D/
②243大7.C//③134明38.D/
③178大2.D/③195大5.A/
③198大5.C/③202大6.C/
③203大6.C/③219大11.C/
③236大15.D/③260昭6.D/
③272昭8.C/③296昭13.C/
③303昭14.C/④294大5.D/
④295大5.D/④299大5.D/
④306大6.C/④311大7.A/
④318大7.D/④321大8.A/
④325大8.C/④329大9.A/
④334大9.D/④341大10.D/
④350大12.A/④371大14.D/
④392昭2.C/④④393昭2.C/
④395昭2.C/④396昭2.C/
④411昭4.A/④424昭5.A/
④437昭6.A/④438昭6.A/
④445昭6.D/④447昭6.D/
④456昭7.C/④459昭7.C/
④477昭8.D/④536昭11.C/
④556昭12.C/④573昭13.C/
④588昭14.C/④590昭14.C/
④591昭14.C/④592昭14.C/
④617昭15.D/④640昭17.A/
④719[大8]/④725[大14]/
④747[昭8]/④760[昭13]/
④765[昭14]/④792[大7]/
濱田佳澄③84明30.D//
④129明33.D/
濱田覺太郎④74明21.C/
濱田健二(次)郎③64明27.E//
④70明20.D/
濱田政二郎③255昭5.D//
④434昭5.D/
濱田重國④593昭14.D/
濱田定之助④443昭6.C/
濱田博士 → 濱田青陵(耕作)
濱田廣介①258大14.D//
③227大13.D/③231大14.D//
④634昭16.D/
濱田本悠③206大7.C/
濱田與助④442昭6.B/
④455昭7.B/
濱野修④541昭11.D/
④602昭15.B/
濱林生之助①334昭6.D//
③266昭7.D/
I.Hamabayashi④801[昭8]/
早川漁郎③69明28.D/
早川二郎①347昭7.C/
①350昭7.C/①383昭9.D//
②40昭11.B/②47昭11.E/
②60昭12.C//④537昭11.C/
④752[昭10]/
早川榮④588昭14.C/
④592昭14.C/
早川忠雄②13昭10.B/
②35昭11.B//④526昭11.B/
早坂一郎③306昭14.F/
早坂二郎②250大13.D//
④755[昭11]/
早坂千三郎④90明25.B/
早坂二郎④755[昭11]/
早坂信④293大5.C/
早崎八洲③299昭13.E/
林 → 林董
林亞仁子④430昭5.C/
林格④61明18.E/
林一郎④138明35.B/
林巖④550昭12.B/
林惠海①283昭2.E/
林圓應①265大15.B/
林學士 → 林博太郎
林包明①39明19.B//④49明15.E/
林かねを③175大2.B//
④241大2.B/
林鎌次郎④356大13.B/
林龜藏①100明35.B/

林癸未夫①229大11.B/
①253大14.B/①323昭5.E/
①323昭5.E/①355昭7.E/
①371昭9.A/①386昭9.E//
④735[昭4]/④742[昭7]/
林圭太郎（木下杢太郎）→ 太田正雄
林謙次郎②251大14.B/
林健太郎②73昭13.C//
③309昭15.C/③317昭16.D/
③317昭16.E//④460昭7.D/
④513昭10.C./④514昭10.C/
④556昭12.C/④571昭13.C/
④613昭15.C/④614昭15.C/
④653昭17.E/④660昭18.C/
林公一④86明24.B/
林廣次③33明21.E/
林茂淳②179明22.C//
③28明20.D//④66明19.E/
④708[明43]/
林茂雄①29明12.E//④38明12.E/
林子平②235明45.G/
林壽太郎④114明30.B/
④119明31.B/④128明33.B/
④133明34.C/④699[明32]/
林十治郎（朴堂居士）
①47明21.C//④691[明21]/
林澄遠②229明42.B/
林靜太③185大3.D/
③327明［不明］B//
④255大3.B/④272大4.B/
④307大6.D/
林韺④597昭14.F/④654昭17.F/
林外生③140明39.D/
③144明40.D/
林曾登吉③53明25.E//
④99明26.E/④672[明治]/
④695[明25]/
林多一郎④31明9.C/④678[明9]/
④679[明9]/
林武雄①278昭2.C/①310昭4.E/
①332昭6.C/①348昭7.C/
①378昭9.C/①379昭9.C//
②254大15.B//③259昭6.C//
④422昭4.E/④805[昭14]/
林竹二（矢板竹二）①374昭9.B//
②13昭10.B/②69昭13.B/
②105昭16.B/
②148昭21.［補遺］/
林竹次郎③137明39.B/
③146明41.B/
林董（林）①127明39.B/
①180大4.B/①182大4.C//
④171明39.C/④179明40.C/
④685[明16]/
林達夫①232大11.D/①275昭2.B/
①281昭2.D/①289昭3.B/
①316昭5.B/①336昭6.D/
①359昭8.B/①373昭9.B/
①376昭9.B/①381昭9.C/
①381昭9.D//②41昭11.B/
②57昭12.B/②63昭12.D/
②80昭14.B/②83昭14.B/
②88昭14.E/②107昭16.B//
④318大7.D/④352大12.C/
④371大14.D/④384大15.D/
④433昭5.D/④479昭8.E/
④497昭9.D/④498昭9.D/
④511昭10.B/④545昭11.G/
④551昭12.B/④583昭14.B/
④587昭14.B/④763[昭14]/
④772[昭17]/
林常信①120明38.C/
林鶴一①160明45.F/①192大5.F/
①272大15.F/①383昭9.D//
③145明40.F/③201大5.F//
④298昭5.F/④500昭9.F/
林信廣④784[明28]/
林久男①281昭2.D/①309昭4.D//
④372大14.D/④384大15.D/
④396昭2.D/④407昭3.D/
④460昭7.D/④462昭7.D/
林久太郎①248大13.D/
林弘之④98明26.D/

林廣介③27明19.G/
林博太郎［學士］①152明44.B//
③147明41.B/③221大11.E//
④350大12.A/④473昭8.C/
④666昭19.B/
林不可止②103昭15.G//
④453昭7.B/
林房雄③248昭4.C//
④382大15.D/
林文夫①329昭6.B/
林扶美子③268昭8.A/
林文三郎④408昭3.D/
林忘我②213明34.C/
林朴堂 → 林十治郎
林正明①16明6.B/①18明8.E/
林正樹①306昭4.C//②259昭3.B//
③248昭4.C/
林政文④696[明26]/
林道倫①163大2.B//④245大2.B/
林茂吉②155明7.A/
林守清③20明16.B//④45明15.B/
林祐三④385大15.E/
林與一①256大14.C/①331昭6.C/
林庸介②160昭15.E/
②163明16.E/
林龍太郎④360大13.C/
林良齋①234大11.F/
林禮二②119昭17.B/
林田龜太郎①203大7.C//
③58明26.E/
林田春潮④714[大3]/
早田玄洞①99明35.B/
早田文藏②245大9.F/
葉山萬次郎①132明40.B//
④164明38.D/
葉山葉太郎④356大13.A/
速水 → 速水滉
速水岩吉④782[明9]/
速水博士②44昭11.D/
②62昭12.D/
速水滉①187大5.B/①189大5.B//
③148明41.D/③196大5.B//
④288大5.B/④289大5.B/
④329大9.A/④337大10.A/
④560昭12.D/
速水敬二①361昭8.B/
①362昭8.B//②68昭13.B/
②80昭14.B/②83昭14.B/
②118昭17.B/②262昭4.B//
④428昭5.B/④570昭13.B/
④642昭17.B/④803[昭11]/
早見純一郎①38明18.G//
③22明17.G//④58明17.G/
速水琢巖(巖)④74明21.D/
④77明22.C/④78明22.D/
④102明27.C/④691[明21]/
早見忍龍④59明18.C/
羽陽散史①52明22.C/
①91明32.D/
原勲②77昭13.E/
原一郎④749[昭9]/
原戊吉④368大14.C/
④382大15.C/
原學士（原隨園?）③212大9.B/
原勝郎③259昭6.C//④443昭6.C/
④717[大5]/
原貫山④674[明2]/
原憲④225明45.B/
原久一郎②94昭15.B/
原弘二郎①268大15.C//
④369大14.C/
原弘毅③148明41.D//
④809[19-]/
原浩三①335昭6.D/
原定一④422昭4.E/
原隨園（原學士?）①204大7.C/
①239大12.C/①246大13.C/
①256大14.C/①257大14.C/
①268大15.C/①275昭2.B/
①283昭2.E/①290昭3.C/
①291昭3.C/①292昭3.C/
①296昭3.E/①297昭3.E/
①299昭4.A/①306昭4.C/

①323昭5.E/①327昭6.B/
①337昭6.D/①339昭6.D/
①340昭6.F/①343昭7.B/
①348昭7.C/①360昭8.B/
①363昭8.C/①364昭8.C/
①371昭9.A/①378昭9.C/
①379昭9.C//②20昭10.C/
②21昭10.C/②22昭10.C/
②23昭10.C/②34昭11.B/
②41昭11.C/②42昭11.C/
②43昭11.C/②59昭12.C/
②68昭13.A/②70昭13.B/
②73昭13.C/②74昭13.D/
②84昭14.C/②93昭15.B/
②94昭15.B/②95昭15.B/
②99昭15.D/②104昭16.A/
②106昭16.B/②109昭16.C/
②110昭16.C/②113昭16.E/
②117昭17.A/②121昭17.C/
②122昭17.C/②123昭17.C/
②124昭17.D/②133昭18.C/
②134昭18.C/②135昭18.C/
②137昭18.E/②138昭18.E/
②139昭18.E/②143昭19.C/
②147昭20.C/②147昭20.E/
②148昭21.［補遺］/
②252大14.C/②270昭6.D//
③213大9.E/③226大13.C/
③265昭7.C/③296昭13.C/
③308昭15.B/③315昭16.C/
③317昭16.E//④405昭3.C/
④457昭7.C/④473昭8.C/
④474昭8.C/④513昭10.C/
④514昭10.C/④515昭10.C/
④534昭11.C/④555昭12.C/
④558昭12.D/④575昭13.D/
④577昭13.E/④589昭14.C/
④608昭15.C/④609昭15.C/
④611昭15.C/④626昭16.A/
④628昭16.B/④633昭16.C/
④638昭16.E/④640昭16.G/
④646昭17.C/④647昭17.C/
④648昭17.C/④659昭18.C/
④660昭18.C/④661昭18.C/
④663昭18.E/④665昭19.B/
④666昭19.C/④753[昭10]/
④805[昭14]/④805[昭15]
破羅生②205明31.A/
原精一（山形縣）④679[明10]/
原大象子②207明31.E/
原胤昭④681[明10]/④684[明14]/
原種行①340昭6.F/①387昭9.F//
②14昭10.B/②23昭10.C/
②41昭11.C/②56昭12.B/
②78昭13.F/②102昭15.F/
②103昭15.F//③306昭14.F//
④449昭6.F/④464昭7.F/
④500昭9.F/④533昭11.C/
④536昭11.C/④549昭12.B/
④556昭12.C/④577昭13.F/
④578昭13.F/④622昭15.F/
④754[昭11]/④806[昭15]/
④808[昭18]/
原千代③139明39.D/
原敏夫④657昭18.B/
原俊行②44昭11.D/
原抱一庵（主人）（抱一庵［主人］、原餘三郎）
①63明25.B/①106明36.C/
①107明36.C//②202明29.D//
③76明29.D/③78明29.D/
③119明36.C/③120明36.C//
④84明23.C/④113明29.D/
④145明36.C/④693[明24]/
④694[明25]/
原安馬①110明37.B/
原勝郎①178大3.F/
原善平①276昭2.B/
原敬④40明13.F/
原武夫④630昭16.B/
原忠美④167明39.B/
④207明43.C/
原哲雄④760[昭13]/
原信子④481昭9.A/

原平三④642昭17.A/
④649昭17.D/④754[昭11]/
④772[昭17]/④776[昭18]/
④778[昭19]/
原マルチノ③260昭6.D/
原光雄③323昭17.F/
原彌市(一)郎④49明15.E/
④56明17.D/
原勇六［原氏］①90明32.C//
③75明29.C/③96明32.C/
③102明33.C/
原餘三郎 → 原抱一庵
原義男④363大13.F/
原亮三郎①78明29.B/
原口榮③282昭10.D/
原澤東吾①351昭7.D//
②97昭15.C/
原島重作④259大3.B/
原島進①369昭8.F//
④750[昭9]/
原田 → 原田助
原田アントニオ④671[慶長］/
原田邦夫②135昭18.C//
④661昭18.C/
原田慶吉①233大11.E/
①297昭3.E/①310昭4.E/
①322昭5.E/①323昭5.E/
①339昭6.D/①354昭7.E/
①367昭8.E/①368昭8.E/
①384昭9.E/①385昭9.E//
②27昭10.E/②28昭10.E/
②75昭13.E/②76昭13.E/
②88昭14.E/②89昭14.E/
②100昭15.E/②113昭16.E/
②127昭17.E/②128昭17.E/
②139昭18.E/②145昭19.E/
②253大14.E/②255大15.E/
②271昭6.E/②272昭6.E/
②287昭9.G//③322昭17.E//
④423昭4.E/④595昭14.E/
④647昭17.C/④731[昭2]/
④741[昭和]/④790[19-]/
④796[昭2]/④802[昭10]/
④805[昭13]/
原田謙次④420昭4.D/
④805[昭14]/
原田鋼②100昭15.E/
②113昭16.E/②114昭16.E//
④663昭18.E/④807[昭17]/
原田耕三郎②86昭14.C/
原田眞一①47明21.C//
④79明22.E/
原田季夫④449昭7.A/
原田潛④53明16.E/
原田漸④637昭16.D/
原田善太郎①11［207］/
原田助（原田）①64明25.B/
①69明26.B/①73明27.B//
④68明20.B/④72明21.B/
④91明25.B/④93明25.E/
④95明26.B/④96明26.B/
④100明27.B/④105明28.B/
④107明28.B/④108明28.C/
④112明29.C/④144明36.B/
④178明40.C/④188明41.C//
④197明42.C/④200明42.D/
④218昭44.B/④277大4.B/
④289大5.B/④297大5.D/
④698[明31]/
原田種夫①305昭4.C//
④407昭3.D/④419昭4.D/
原田瓊夫④570昭13.B/
④571昭13.C/④762[昭和]/
原田東吾②84昭14.C/
原田敏明①328昭6.B/
原田豐吉④783[明26]/
原田信夫④480昭8.E/
④490昭9.B/
原田秀雄①354昭7.E//
④463昭7.E/
原田英夫①265大15.B/
①270大15.D/
原田文穂④641昭17.A/
原田三夫②20昭10.C//

④543昭11.F/
原田光槌 → 安(阿)部光槌
原田實①252大14.A/①315昭5.B/
原田淑人②255大15.D//
③200大5.D/③225大13.A/
③228大13.F//④395昭2.C/
④592昭14.C/
原田來吉④423昭4.E/
原田和三郎②253大14.D/
原野太郎②128昭17.F//
④773[昭17]/
原野俊雄③241昭2.D/
原野彦太郎④111明29.C/
針ヶ谷鐘吉②62昭12.D/
④806[昭16]/④807[昭17]/
播磨屋九頭②158昭11.E/
巴陵宣祐①339昭6.F/
①347昭7.C//②78昭13.F/
②102昭15.F/②115昭16.F/
②116昭16.F/②129昭17.F//
③287昭11.F//④577昭13.E/
④639昭16.F/④654昭17.F/
④741[昭6]/④744[昭7]/
④762[昭13]/
春江宣政④635昭16.D/
玄川生④74明21.D/
春木一郎[先生]①109明36.E/
①116明37.E/①129明39.E/
①133明40.C/①134明40.E/
①140明41.E/①144明42.E/
①149明43.E/①152明44.C/
①154明44.E/①159明45.E/
①177大3.E/①185大4.E/
①192大5.E/①199大6.E/
①206大7.E/①212大8.E/
①226大10.E/①242大12.E/
①261大14.E/①271大15.E/
①281昭2.E/①282昭2.E/
①283昭2.E/①309昭4.E/
①322昭5.E/①353昭7.E/
①355昭7.E//②75昭13.E/
②77昭13.E/②78昭13.E/
②89昭14.E/②113昭16.E/
②127昭17.E/②257昭2.C/
②267昭5.E/②271昭6.E//
③91明31.E/③145明40.E/
③162明44.E/③215大10.C/
③237大15.E/③242昭2.E/
③245昭3.E//④189明41.E/
④190明41.E/④222明44.E/
④283大4.E/④340大10.C/
④385大15.E/④397昭2.E/
④409昭3.E/④576昭13.E/
④634昭16.C/④731[昭2]/
春城學人 → 市島謙吉
春木先生 → 春木一郎
春路義郎④432昭5.C/
春田正治④585昭14.B/
春庭泉④369大14.C
春の屋主人→ 坪内逍遙
春海熊藏 → 三尾邦三
春邨迂人 → 荘司秀鷹
春山武松①199大6.D/
ハーン、ラフカディオ → 小泉八雲
伴新三郎④62明19.B/
坂丈緒②124昭17.D//
④652昭17.D/
坂千秋①212大8.E/
伴痴齋①38明18.E/
伴輝吉①73明27.B/①76明28.B/
伴直之助①48明21.C//
④77明22.B/
伴房次郎①109明36.E//
③131明37.E/
伴頼三④263大3.C/
皤溪仙史→ 阿部秀吉
萬古生④320大7.E/
半澤尚三④177明40.B/
半山生②213明34.C/
範二 → 金子紫艸
蕃書調所④772[昭17]/
④776[昭18]/
番匠谷英一②24昭10.D/

②44昭11.D/
晩翠 → 土井晩翠
晩翠會②61昭12.D/
晩翠小史①77明28.F/
晩翠禪史 → 土井晩翠
半田研吉④105明28.B/
半田内藏吉①255大14.B/
半田眞平④281大4.D/
半田孝海①215大9.B//
④331大9.B/
半田盛保③8明9.B/
半田良平①177大3.D/
磐梯山人④358大13.B/
④379大15.C/
晩潮生④181明40.D/
幡泥(石舟)散人①10[174]/
坂東省①295昭3.D//
④370大14.D/④383大15.D/
④396昭2.D/④420昭4.D/
板東太郎④337大10.B/
阪野嘉一④82明23.B/
半峰(峯)居士①40明19.D//
②167明18.B/②171明19.D//
④66明19.D/
萬理 → 帆足萬理
斑龍生④291大5.C/
[ひ]P.N.生④483昭9.B/
PQR生①138明41.C/
非磯齋生②218明36.B/
飛燕(生)①143明42.C//
④229大1.B/④285大5.B/
日置岩吉④691[明21]/
日置茂治①288昭3.B//
④401昭3.B/
日置政治郎④538昭11.D/
日沖憲郎④770[昭16]/
檜垣駒太郎④480昭8.F/
東櫻所③6明8.D/
干河岸貫一①146明43.B/
①147明43.B//③7明9.B/
③8明9.B/③8明9.C/
③18明15.B/③154明43.A//
④202明43.B/④204明43.B/
④678[明8]/
東直之助①26明11.C/
東一三市五郎③212大9.B/
東三條公恭①40明19.E/
東井金平①250大13.E/
東伏見邦英④574昭13.D/
東又清④649昭17.C/
④661昭18.C/
東山魁夷(新吉)③273昭9.A/
東山新吉 → 東山魁夷
東山正芳④607昭15.B/
東山松男②273昭7.B//
③264昭7.B//④452昭7.B/
氷川心作②117昭17.A/
引田重夫②249大12.E/
日暮小太夫①6[39]/
樋口功④244大2.B/
樋口勝彦①336昭6.D/
①352昭7.D/①358昭8.B//
②86昭14.D/②94昭15.B/
②125昭17.D/②137昭18.D//
④636昭16.D/④662昭18.D/
樋口勘次郎①130明40.B/
樋口忠子④102明27.C/
樋口辰助②235明45.F/
樋口長市①100明35.B/
樋口長衛①161大2.A/
①165大2.C//④712[大2]/
樋口楢次郎④455昭7.B/
樋口秀雄(H.H生)①100明35.B/
①105明36.B/①162大2.B//
②215明35.B//③118明36.B/
③148明41.D/③153明42.E/
④223明44.E/④247明45.B/
樋口龍峡①164大2.B//
④132明34.B/④161明38.C/
④244大2.B/④245大2.B/
④247大2.B/④248大2.B/
樋口龍溪②228明41.C/

②229明41.D//③147明41.C/
③148明41.D/③172大2.B/
美軒小史④87明24.B/
④145明36.C/
肥後和男④604昭15.B/
肥後吉秀④616昭15.D/
彦次①184大4.D/
美哉生④208明43.C/
ひさ子(久子)①94明33.B//
③92明32.B/③100明33.B//
④127明33.B/
久子 → ひさ子
久冨貢④748[昭9]/
久松貞明①215大9.B/
①222大10.B//④337大10.B/
久松定弘①44明20.D/
①48明21.C/①68明26.B//
②176明21.D//④38明13.A/
久松眞一①265大15.B/
①302昭4.B//④413昭4.B/
④631昭16.B/
久松濳一②47昭11.D/
②257昭2.D/
久松義典①28明12.C/
①30明13.C/①33明15.C/
①59明24.B//③15明12.B/
③16明12.F/③17明14.C/
③19明15.C/③291昭12.C//
④38明12.F/④39明13.C/
④40明14.B/④52明16.C/
④63明19.C/④64明19.C/
久村信子①147明43.C/
土方成美④655昭18.A/
土方辰三①304昭4.B/
①360昭8.B//④575昭13.D/
土方定一①346昭7.B/
①351昭7.D/①361昭8.B/
①369昭8.F//②100昭15.D/
②271昭6.D//③255昭5.D/
③298昭13.D//④460昭7.D/
④570昭13.B/④743[昭7]/
④748[昭9]/
土方敏③112明35.B/
土方寧[土方敎授]①36明17.E/
①199大6.E//②193明26.A//
③22明17.E/
土方幸勝④681[明11]/
土方善賢④683[明13]/
菱川師宣④671[元祿5]/
菱沼東洲①66明25.E/
菱本與吉③156明43.C/
菱山修三④488昭9.B/
毘沙門天④768[昭16]/
美術史研究用圖譜刊行會
①279昭2.D/
美術文化研究會①387昭9.G/
肥田芥山③22明17.D/
飛田僞道①18明8.B/
火田一枝④266大3.D/
日田節次郎④577昭13.F/
④578昭13.F/
飛田穗洲④543昭11.F/
氷高見太郎②157明10.C/
日高③264昭7.B/③265昭7.C/
③268昭7.F/
日高猪兵衛④491昭9.C/
④607昭15.B/
日高昂①92明32.G/
日高昌造④782[明13]/
日高善一①224大10.D/
①277昭2.C//③236大15.D/
③240昭2.C//④202明43.B/
④219明44.C/④347大11.C/
④357大13.C/④392昭2.C/
④395昭2.D/④634昭16.D/
④723[大12]/④797[昭4]/
日高只一①125明39.B//
②87昭14.D//③138明39.B//
④169明39.B/④194明42.B/
④216明44.B/④217明44.B/
④221明44.C/④229大1.B/
④478昭8.D/
日高一二三①329昭6.B//
②269昭6.B/

日高眞實②164明17.A//
③21明17.A/③47明25.A/
日高涼臺④25[24977]/
ヒダリ④430昭5.B/
比通文②43昭11.C/
英男 → 吉川英男
秀島家良②172明19.E/
秀村欣二①379昭9.C//
②20昭10.C/②42昭11.C/
②43昭11.C/②48昭11.E/
②56昭12.B/②59昭12.C/
②60昭12.C/②110昭16.C/
②113昭16.E/②114昭16.E/
②115昭16.E/②121昭17.C/
②122昭17.C/②125昭17.D/
②137昭18.D/②146昭19.E/
③290昭12.C/③316昭16.C/
③321昭17.C/③325昭18.E/
③327昭20.C//④533昭11.C/
④549昭12.B/④554昭12.C/
④555昭12.C/④632昭16.C/
④637昭16.E/④643昭17.B/
④646昭17.C/④648昭17.C/
④657昭18.B/④659昭18.C/
④660昭18.C/④741[昭6]/
肥塚龍①43明20.C//
②158昭12.E/②159昭13.E//
④29明6.E/④43明14.E/
肥塚龍重①31明14.E/
筆山樵夫④88明24.C/
ヒト生④194明42.B/
人見東明③177大2.D/
人見秀明④196明42.B/
尾藤道春④782[明11]/
火野葦平③306昭14.F/
日野巖①333昭6.C/①355昭7.F/
日野月明③169明45.D//
④551昭12.B/
日野講師 → 日野眞澄
日野眞澄［講師］①157明45.B/
①180大4.B/①188大5.B//
②244 大9.B//④158明38.B/
④160明38.B/④172明39.D/
④186明41.B/④195明42.B/
④218明44.B/④232大1.B/
④260大3.B/④261大3.B/
④262大3.B/④272大4.B/
④277大4.B/④285大5.A/
④286大5.B/④289大5.B/
④290大5.B/④300大6.B/
④303大6.B/④316大7.B/
④317大7.C/④322大8.B/
④323大8.B/④324大8.B/
④325大8.B/④341大10.D/
④353大12.C/④378大15.B/
④537昭11.C/
日夏耿之助①191大5.D//
②74昭13.D//③228大13.D//
④408昭3.D/④419昭4.D/
④433昭5.D/④634昭16.D/
④641昭17.A/
日原昌造④677[明8]/
④681[明11]/④683[明13]/
樋畑正太郎③158明44.A/
樋畑雪湖③220大11.D/
一二三舘④90明25.B/
薇峯樵夫④82明23.B/
美妙齋主人（山田美妙、山田武太郎）
①114明37.C/②185明23.D/
②188明24.D//③32明21.D/
③59明26.G/
姫野勝武②258昭2.E/
白衣禪③139明39.B/
百足②216明35.D/
比屋根安定①202大7.B/
①229大11.B/①267大15.B/
①327昭6.B/①330昭6.B//
②266昭5.D//④375大15.B/
④384大15.D/④449昭7.A/
④462昭7.D/④465昭8.A/
④481昭9.A/④528昭11.B/
④545昭12.A/④548昭12.A/

④564昭13.A/④579昭14.A/
④580昭14.A/④583昭14.A/
④588昭14.C/④605昭15.B/
④763[昭14]/④769[昭16]/
④794[大15]/④801[昭9]/
④806[昭16]/④795[大15]/
萍雨③131明38.B/
白蓮庵主人→ 森田思軒
憑攸④798[昭5]/
病閑生②256昭2.B/②261昭4.B/
瓢雪 → 田中萃一郎
兵野繁夫③244昭3.C/
平井儀平②20昭10.C/
平井金三①98明34.D//
③145明40.D//④126明33.A/
④689[明治]/ ④672[明治]/
平井廣五郎④84明23.D/
④255大3.B/
平井知加夫③243昭3.B/
平井肇③273昭9.A//④802[昭11]/
④803[昭12]/
平居均④498昭9.D/
平井昌夫②71昭13.B/
平井黙堂④131明34.B/
平石嘉久太②180明22.D//
④78明22.D/
平泉澄③236大15.C/
③290昭12.B//④525昭11.B/
④532昭11.B/④552昭12.B/
④743[昭7]/
平泉良三④209明43.C/
平岩愃保④42明14.B/
④59明18.B/
平岩小宜保③195大5.B/
平尾不狐④266大3.D/
平岡德次郎④490昭9.B/
平岡昇④758[昭12]/
河内清 田部重治 N.K
平岡八郎③279昭10.B/
③280昭10.B/
平岡壽①308昭4.D/
平岡希久④94明26.B/
④97明26.C/
平賀源内②150［14479,14480］/
②152［14542,14543,14544］/
④202明43.A/
平賀光司④619昭15.D/
平賀輝男④729[昭2]/
平賀德藏(造、三)④379大15.B/
④583昭14.A/④645昭17.B/
平川央①283昭2.E/
平川芝峰③168明45.C/
平川眞澄①362昭8.B/
平木白星②216明35.D//
③104明33.D/
平木忠夫③328昭21/
平栗要三①228大11.A/
①228大11.B/①236大12.B/
①239大12.C/①244大13.B/
①246大13.C/
平子鐸嶺④267大3.D/
④268大3.D/
平子君④193明42.B/
平澤平作④509昭10.B/
平敷安貞③261昭6.D//
④435昭5.D/
平下欣一④586昭14.B/
平瀬龍吉③139明39.D/
③145明41.A/③160明44.B//
④112明29.C/④120明3.B/
④148明36.D/④170明39.B/
④171明39.C/④177明40.B/
④181明40.D/
平田②76昭13.E/
平田生③62明27.D/
平田 → 平田元吉
平田 → 平田禿木
平田篤胤①8［96］/
平田喜一 → 平田禿木
平田喜一郎①342昭7.B/
平田喜代治④588昭14.B/
平田内藏吉②115昭16.F//
④639昭16.F/
平田次三郎④808[昭19]/

平田八郎(風來子)④698[明30]/
④698[明31]/
平田元吉（平田）①162大2.B/
①221大10.B/①229大11.B/
①274昭2.B//④258大3.B/
④322大8.B/④330大9.B/
④332大9.B/
平田譲衛④98明26.E/
平田晉作①302昭4.B/
平田宗敬①15明5.C/①17明7.C//
④676[明6]/④679[明9]/
平田巧①242大12.F//
③328昭［不明］F//
④449昭6.F/
平田東助①31明14.E/
平田禿木（禿木、荒川漁郎、松茶菴、喜一、平田）
①75明27.D/①77明28.D/
①80明29.D/①106明36.C/
①154明44.D/①159明45.D/
①192大5.D/①194大6.B/
①211大8.C/①330昭6.B/
①363昭8.C//②46昭11.D/
②202明29.D/②216明35.D//
③69明28.D/③77明29.D/
③78明29.D/③83明30.D/
③84明30.D/③96明32.C//
④93明25.D/④104明27.D/
④108明28.D/④113明29.D//
④116明30.D/④117明30.D/
④125明32.D/④140明35.D/
④198明42.C/④199明42.D/
④304大6.B/④305大6.B/
④307大6.D/④342大10.D/
④361大13.D/④432昭5.C/
④451昭7.B/④462昭7.D/
④476昭8.C/④488昭9.B/
④516昭10.D/④539昭11.D/
④558昭12.D/④646昭17.C/
④649昭17.D/④706[明40]/
④731[昭2]/④776[昭18]/
平田央②27昭10.E/②245大9.E/
平田八郎④116明30.D/
平田東①65明25.C/
平田久③50明25.C//④92明25.C/
④784[明26]/
平田福壽①137明41.B/
平田寛②30昭10.F/②51昭11.F/
②67昭12.F/②90昭14.F/
②102昭15.F/②103昭15.F/
②115昭16.F/②116昭16.F/
②129昭17.F/②140昭18.F/
③312昭15.F//④457昭7.C/
④543昭11.F/④622昭15.F/
④639昭16.F/④640昭16.F/
④654昭17.F/④770[昭16]/
④776[昭18]/
平田義道④160明38.B/
平竹傳三①347昭7.C//
③265昭7.C//④458昭7.C/
平舘利雄②47昭11.E/
平塚博①341昭7.A/①352昭7.D/
①363昭8.C/①375昭9.B/
①381昭9.C/①386昭9.E//
②21昭10.C/②94昭15.B/
②108昭16.B/②128昭17.E/
③276昭9.C/③315昭16.B/
③317昭16.D//④514昭10.C/
④517昭10.D/④531昭11.B/
④572昭13.C/④589昭14.C/
④614昭15.C/④616昭15.C/
④636昭16.D/④637昭16.D/
④648昭17.C/④649昭17.C/
④758[昭12]/④801[昭9]/
平塚益德②94昭15.B//
③269昭8.B/③275昭9.B//
④545昭12.A/
平塚勇之助④155明37.D/
平塚義角④408昭3.D/
平出鏗二郎④708[明42]/
平出謙吉①98明34.F/
平出サダコ①383昭9.D/
平出英夫④803[昭12]/
④804[昭13]/

平沼淑郎①165大2.C/
①227大10.E/①323昭5.E//
④62明19.B/④86明24/B/
④240大2.A/④254大3.A/
④271大4.A/④283大4.E/
④747[昭8]/④760[昭13]/
平沼良①340昭6.F/①356昭7.F/
①369昭8.F/①387昭9.F//
②30昭10.F/
平野岩夫②80昭14.B/
平野一貫①103明35.G//
④141明35.G/
平野威馬男①229大11.B//
④345大11.B/
平野久太郎④30明8.B/
平野啓司③306昭14.F/
平野孝一①301昭4.B/
平野次郎④770[昭16]/
平野千惠子③217大11.A/
④343大11.A/
平野常治④799[昭6]/
平野德三郎①272大15.E/
平野學①370昭8.G//④500昭9.G/
④750[昭9]/
平野萬里(久保)①220大10.A//
④199明42.D/
平野勇左ヱ門②249大12.E/
平野義太郎①249大13.E/
①250大13.E/①260大14.E//
②36昭11.B/②75昭13.E//
③300昭13.G/③306昭14.E/
③325昭18.E//④366大14.B/
④583昭14.B/④627昭16.B/
平林淡水樓③205大7.B/
平林肇①363昭8.C/
平林初之輔①225大10.D/
①246大13.B//③219大11.C/
③225大13.B//④372大14.E/
平林治德③286昭11.C/
平林松雄①275昭2.B//
④729[昭2]/
平松實馬④471昭8.C/
平本直次④718[大6]/
平山榮一②61昭12.C//
④582昭14.A/④763[昭14]/
平山高次②34昭11.B/
②37昭11.B②54昭12.B//
③285昭11.B/
平山成信④708[明43]/
④716[大5]/
平山松治④182明40.G/
④190明41.G/
平山誠一郎③5明8.B//
④30明8.B/
平山清次①387昭9.F//
④253大2.F/④480昭8.F/
④500昭9.F/
平山果①23明10.B//④679[明10]/
平山平次④613昭15.C/
平山良吉①229大11.B/
肥龍②171明19.D/
廣井塵蘆 → 廣井辰太郎
廣井生④111明29.B/
廣井辰太郎(塵蘆)①89明32.B/
①93明33.B/①105明36.B/
①110明37.B/①112明37.B/
①135明41.A/①345昭7.B//
③111明35.B/③144明40.D//
④122明32.B/④123明32.B/
④127明33.B/④142明36.B/
④143明36.B/④158明38.B/
④175明40.B/④184明41.B/
④346大11.B/④505昭10.B/
④742[昭7]/
廣江直三①119明38.B/
廣岡淺子④315大7.B/
廣岡亮藏②125昭17.D//
④649昭17.D/
廣兼米藏①196大6.B/
廣川生④437昭6.A/
廣川晴軒④714[大4]/
廣崎喬吾④663昭18.E/
廣崎清郎①243大13.A/
廣澤恭造①299昭4.A/

①305昭4.C/
廣澤吉平②255大15.E/
廣島鋭夫④337大10.B/
廣島定吉①313昭5.B//
②12昭10.B/②34昭11.B/
②36昭11.B/②37昭11.B/
②67昭12.G/②84昭14.C/
②108昭16.C/②118昭17.B/
②133昭18.C//④484昭9.B/
④531昭11.B/④609昭15.C/
廣島史學研究會②79昭14.A/
廣島師範學校③6明8.C/
廣島中學校英語研究部
④298大5.G/
廣島德四郎②73昭13.D/
②75昭13.D/②86昭14.D/
廣島文理科大學廣島高等師範學
校精神科學會
④769[昭16]/
廣瀬彬④54明17.A/
廣瀬渉④727[大14]/
廣瀬謙三②78昭13.F//
④760[昭12]/
廣瀬乘信③15明12.C//
④36明12.C/
廣瀬雄②230明42.G/
廣瀬哲士①164大2.B/
①165大2.C/①166大2.C/
①199大6.E/①270大15.D//
②68昭13.A/②70昭13.B/
②72昭13.C/②85昭14.C/
②234明45.B/②235明45.D/
②236大2.B//③171大2.B/
③176大2.C/③181大3.B/
③190大4.B/③237大15.E/
③310昭15.C//④231大1.B/
④243大2.B/④249大2.C/
④250大2.C/④248大3.B/
④273大4.B/④306大6.C/
④309大6.E/④347大11.C/
④353大12.C/④361代13.D/
④379大15.C/④383大15.D/
④559昭12.D/④583昭14.B/
④590昭14.C/④591昭14.C/
④682昭2.C/④755[昭11]/
④758[昭12]/
廣瀬和④643昭17.B/
廣瀬文豪①374昭9.B//
②34昭11.B/
廣瀬又治④43明14.D/
廣瀬元恭①10［176］/
廣瀬渡④29明6.G/
廣田一乘②202明29.B/
弘田瀧之進④419昭4.D/
廣田直三郎④785[明33]/
廣田憲寛④26[25003]/
廣田又一郎④303大6.B/
廣津弘信①16明6.E/
弘中春雄④635昭16.D/
廣野③318昭16.F/
廣野生②160昭15.E/
廣野范治③18明15.B/
廣濱嘉雄②78昭13.G/
②88昭14.E/②139昭18.E/
②245大9.E/②271昭6.E/
②276昭7.E//④639昭16.E/
④596昭14.E/④597昭14.E/
廣政法夫③157明43.D//
④251大2.D/
敏 → 上田敏
檳榔子 → 橋爪檳榔郎
［ふ］無遠慮子④132明34.B/
ふ、き③189大3.G/
フ、シ生①76明28.C/
風聞子③245昭3.D/
楓葉③78明29.D/
深井生③64明27.E/
深井英五②276昭7.E/
深井渙二④443昭6.C/
深尾須磨子②117昭17.A//
③307昭15.A//④579昭14.A/
深作 → 深作安文
深作安文（深作）①112明37.B/

①119明38.B/①137明41.B/
①142明42.B//③100明33.B/
③151明42.B/③190大4.B/
④193明42.B/④203明43.B/
④205明43.B/④206明43.B/
④216明44.B/④229大1.B/
④230大1.B/④275大4.B/
④373大14.E/④442昭6.B/
④470昭8.B/④532昭1.B/
④542昭11.E/④566昭13.A/
④586昭14.B/④605昭15.B/
④606昭15.B/④631昭16.B/
④666昭19.B/
深澤家治②249大12.E/
深澤正策②135昭18.C/
深澤博士④166明38.G/
深澤由次郎④252大2.D/
深澤由之助①301昭4.B/
深澤理三郎④661昭18.C/
深澤錬(鏸)吉①133明40.C//
③136明38.G/
不可思議生②198明27.B/
深瀬基寛②25昭10.D/
深田憲次①253大14.B/
深田康算①96明34.A/
①154明44.D/①159明45.D/
①164大2.B/①167大2.D/
①177大3.D/①180大4.B/
①187大5.B/①188大5.B/
①192大5.D/①209大8.B/
①210大8.B/①218大9.D/
①224大10.D/①225大10.D/
①232大11.D/①237大12.B/
①238大12.B/①248大13.D/
①294昭3.Ｄ/①295昭3.Ｄ/
①325昭6.B/①336昭6.D//
②225明39.B/②243大7.D/
②248大11.D/②249大12.D/
②250大13.D/②252大14.D//
③115明35.D/③127明37.B/
③138明39.B/③144明40.D/
③168明45.D/③186大3.D/
③257昭6.B/③287昭11.D//
④138明35.B/④142明36.B/
④159明38.B/④164明38.D/
④185明41.B/④222明44.D/
④238大1.D/④295大5.D/
④296大5.D/④307大6.D/
④319大7.D/④334大9.D/
④341大10.D/④362大13.D/
④384大15.D/④395昭2.D/
④473昭8.C/
深田壽①344昭7.B/
深田久彌②26昭10.D/
深堀信一④529昭11.B/
深見秋之助①71明26.D//
②196明26.D//④98明26.D/
深水正策③305昭14.D/
深谷賢太郎①313昭5.B/
①329昭6.B/
府川功④408昭3.D/
府川功績①289昭3.B/
府川哲雄①293昭3.D/
不干ハピアン①5[18]/
不木軒 → 小酒井不木
普及舎②203明30.B//
③22明18.B/③27明19.G//
④71明20.G/
普及舎編輯部④785[明36]/
福井③249昭4.C/
福井英一郎④729[昭2]/
福井榮次郎②253大14.E/
福井久藏④740[昭6]/
福井邦藏④396昭2.D/
④416昭4.B/
福井晉太郎①163大2.B//
③172大2.B/
福井永頼④225大1.B/
福井美靜④112明29.C/
福井博③310昭15.C/
福井弘實③290昭12.B/
福井文學士①149明43.D/
①153明44.D/
福井康雄①339昭6.D/

福井有④84明23.D/
福井勇三郎②267昭5.E/
福井勇二郎②114昭16.E/
福井利吉郎①159明45.D//
④153明37.C/④295大5.D/
福音社編輯部①347昭7.C/
負嵎庵①78明29.B/
福江弘①317昭5.C//④436昭5.E/
福岡英一④629昭16.B/
福岡三郎②16昭10.B/
福岡重政①155明45.B/
福鎌達夫③320昭17.B/
福來友吉②222明38.B/
福澤 → 福澤諭吉
福澤一太郎②174明20.E//
③104明33.F/
福澤一郎③291昭12.D/
福澤英之助（本名。和田愼次郎）
①16明6.D//④29明6.D/
福澤詩磨子④516昭10.D/
福澤正雄④451昭7.A/
④468昭8.B/④470昭8.B/
福澤諭吉（諭吉）①15明5.D//
②183明23.B//④49明15.E/
④781[明7]/
福澤利喜太郎③34明22.A/
福島覺三郎③267昭7.D/
福島重雄①261大14.E/
福島靜齋②203明29.D/
福島直四郎③299昭13.D//
④764[昭14]/
福島鳳一郎②182明22.G/
福島政雄①245大13.B/
①273昭2.A/①313昭5.B/
①314昭5.B/①325昭6.A/
①330昭6.B/①343昭7.B/
①359昭8.B/①374昭9.B//
②93昭15.B/②131昭18.B/
②141昭19.B/②261昭4.B//
③263昭7.B/
Fukuda.G④147明36.D/
福田吉藏①190大5.C/
①195大6.B/①195大6.B//
③205大6.D//④293大5.C/
福澤君子④456昭7.C/
福田久造①366昭8.D/
福田琴月①146明43.B/
福田滋次郎①279昭2.D/
福田茂①296昭3.E/
福田邦三①279昭2.D/
①320昭5.D/①382昭9.D//
④808[昭18]/
福田武②258昭2.E/
福田常彦③261昭6.D/
④435昭5.D/
福田德三①177大3.E/
①282昭2.E/①296昭3.E/
①297昭3.E//③194大4.D//
④190明41.E/④307大6.C/
④320大7.E/④386大15.E/
④391昭2.B/④398昭2.E/
④722[大11]/④793[大9]/
福田久道①229大11.B/
①236大12.B//④350大12.B/
福田英男④795[19-]/④809[19-]/
福田穗積④568昭13.B/
福田正夫③245昭3.D/
福地櫻痴 → 福地源一郎
福地萬世④28明2.C/
福地源一郎（櫻痴）①13明2.G/
①22明10.A//②184明23.C/
②203明29.D//③34明22.A//
④709[明44]/
福地復④70明20.D/
福冨一郎②82昭14.B/
福冨淡水④27明1.G/
④674[明治初期]/
福冨啓泰④512昭10.C/
④747[昭8]/
福冨文雄③250昭4.D//
④421昭4.D/
福永和利③255昭5.D/
福永恭助④484昭9.B/
福永文之助④89明24.E/

④693[明24]/
福羽美靜①79明29.C//
③87明31.B/
福原濬次郎③213大9.D/
福原武①237大12.B/
福原麟太郎(Rintaro,Fukuhara)
①371昭9.A//
②112昭16.D/②126昭17.D//
③278昭10.A/③311昭15.D/
③312昭16.A//④361大13.D/
④465昭8.A/④560昭12.D/
④617昭15.D/④624昭16.A/
④637昭16.D/④721[大10]/
④722[大11]/④723[大12]/
④724[大13]/④726[大14]/
④729[昭1]/④731[昭2]/
④733[昭3]/④736[昭4]/
④739[昭6]/④743[昭7]/
④746[昭8]/④748[昭9]/
④753[昭10]/④761[昭13]/
④765[昭14]/④766[昭15]/
④768[昭16]/④773[昭17]/
④776[昭18]/④778[昭19]/
福見尚賢［獨和字典大全］
③24明18.G/③27明19.G//
④126明32.G/
福光家慶②126昭17.E/
福村幹男②255大15.E/
覆面論士④156明37.D/
福元多世①317昭5.C/
福元利之助④426昭5.B/
福本日南④233大1.C/
福本正人③273昭8.F/
福本誠①152明44.C//
②220明37.C/
福山昇②258昭2.E/
福良竹亭①325昭6.A/
不語軒主人 → 森田思軒
冨山房①167大2.D//②67昭12.G/
②237大2.G/②272昭6.G//
③94明32.C//④190明41.G/
④268大3.D/④460昭7.D/
④784[明26]/④785[明36]/
冨山房百科辭典編纂部
②52昭11.G/
冨山房編輯部[局]④711[大2]/
④793[大9]/④794[大14]/
④800[昭7]/④803[昭11]/
④804[昭12]/
冨士德治郎④787[明44]/
④788[明45]/④791[大2]/
藤東田④293大5.C/
藤井④203明43.B/④206明43.B/
④216明44.B/
藤井 → 藤井健次（治）郎
藤井章①244大13.B/
④414昭4.B/④455昭7.B/
④586昭14.B/④622昭15.F/
④631昭16.B/
藤井昭①258大14.D/
①259大14.D/
藤井溢②79昭14.A/②85昭14.C//
④589昭14.C/
藤井圓順①89明32.B//
④122明32.B/
藤井乙男①125明39.B/
①218大9.D/①280昭2.D//
④172明39.D/④478昭8.D/
藤井咸齋②150［14495］/
藤井源一④461昭7.D/
藤井健次（治）郎（愚佛庵主人、愚佛生）［文學士］
①93明33.B/①105明36.B/
①111明37.B/①112明37.B/
①119明38.B/①130明40.A/
①135明41.B/①136明41.B/
①142明42.B/①159明45.E/
①169大3.B/①170大3.B/
①171大3.B/①172大3.B/
①185大4.E/①191大5.C/
①191大5.C/①192大5.E/
①199大6.E/①206大7.E/
①209大8.B/①216大9.B/
①242大12.E/①331昭6.B/

①345昭7.B//②241大6.E//
③93明32.B/③107明34.B/
③146明41.B/③160明44.B/
③165明45.B/③166明45.B/
③180大3.B/③184大3.B/
③194大4.E/③258昭6.B//
④97明26.C/④121明31.D/
④142明36.B/④151明37.B/
④152明37.B/④184明41.B/
④185明41.B/④193明42.B/
④194明42.B/④205明43.B/
④206明43.B/④228大1.B/
④229大1.B/④230大1.B/
④240大2.A/④244大2.B/
④245大2.B/④247大2.B/
④254大3.A/④258大3.B/
④263大3.B/④269大3.E/
④275大4.B/④283大4.E/
④309大6.E/④429昭5.B/
④440昭6.B/④463昭7.E/
④510昭10.B/
藤井謙介①290昭3.C/
藤井謙三①321昭5.D/
①351昭7.D/
藤井浩祐①308昭4.D//
④319大7.D/
藤井惟勉④677[明8]/
藤井三郎④675[明5]/
藤井紫影④168明39.B//
④295大5.D/
藤井繁一①185大4.F/
藤井二郎③288昭12.A/
藤井新一②64昭12.E/
②66昭12.E/②77昭13.E//
④562昭12.E/
藤井信吉②229明41.G//
③205大6.G//④310大6.G/
④711[大1]/
藤井新助④782[明8]/
藤井生④173明40.A/
藤井生（兩衣生?）④158明38.B/
④159明38.B/④167明39.B/
④173明39.E/④176明40.B/
④192明42.B/④204明43.B/
④221明44.D/④222明44.D/
④291大5.C/
藤井專隨①299昭4.A//
④415昭4.B/
藤井外興①309昭4.D//
④662昭18.D/
藤井武③223大12.D/
③233大15.B/③238昭2.B/
③247昭4.B/③248昭4.C//
④176明40.B/④285大5.B/
④368大14.C/④383昭1.D/
④414昭4.B/④717[大6]/
④731[昭2]/④761[昭13]/
藤井種太郎①255大14.B/
①266大15.B/①276昭2.B/
①288昭3.B/
藤井悌①331昭6.C//④796[昭2]/
藤井照③224大12.D/
藤井寅一④160明38.B/
④169明39.B/
藤井尚久②115昭16.F/
②129昭17.F/
藤井則民④158明38.B/
藤井伯民④278大4.C/
④338大10.B/
藤井泓①368昭8.E/①384昭9.E//
④472昭8.C/④491昭9.C/
藤井春吉①381昭9.D//
②81昭14.B/②125昭17.D/
藤井普山②150［14489,14490］/
藤井信④481昭9.A/④748[昭9]/
藤井眞透②109昭16.C/
藤井黙花④203明43.B/
藤井黙慧①148明43.C/
藤井義夫①313昭5.B/
①316昭5.B/①360昭8.B/
①374昭9.B/①375昭9.B/
①377昭9.B//②35昭11.B/
②55昭12.B/②70昭13.B/
②71昭13.B/②81昭14.B/

②82昭14.B/②93昭15.B/
②94昭15.B/②95昭15.B/
②106昭16.B/②108昭16.B/
②108昭16.B/②119昭17.B/
②131昭18.B/②133昭18.B/
②142昭19.B/②147昭20.B/
②282昭9.B//③314昭16.B/
③326昭19.B//④486昭9.B/
④570昭13.B/④587昭14.B/
④608昭15.C/④628昭16.B/
④638昭16.E/④645昭17.B/
④657昭18.B/④665昭19.B/
④670昭20.B/④763[昭14]/
藤井兩衣 → 藤井生(兩衣生?)
藤井和七郎①14明4.C/
藤岡(勝二)[博士(言語學)]
①383昭9.D/②24昭10.D//
②31昭10.G/②74昭13.D/
②246大10.D/②277昭7.G/
②278昭8.D//④114明29.G/
④129明33.D/④387昭2.A/
④521昭10.G/④794[大12]/
④796[昭2]/④804[昭13]/
④807[昭17]/
藤岡謙二郎①379昭9.C//
③324昭18.C/
藤岡作太郎④706[明41]/
藤岡博士 → 藤岡(勝二)
藤懸靜也③242昭3.A/
藤川香巖③321昭17.B/
藤川生④259大3.B/
藤川淡水③207大7.D/
藤川眞一①384昭9.D/
富士川子長②236大2.B/
富士川孝雄②256昭2.B/
富士川好雄③239昭2.B/
富士川游①149明43.F/
①154明44.F/①193大5.F/
①298昭3.F//②224明 39.B/
②227明40.D/②228明41.B/
②230明42.F/②235明45.F/
②238大3.C//③162明44.F/
③188大3.F//④24[24970]/
④190明41.F/④212明43.F/
④283大4.E/④559昭12.D/
④578昭13.F/④751[昭10]/
藤川勇造③274昭9.B/
藤木顯久②56昭12.B//
④527昭11.B/④550昭12.B/
不識生④177明40.B/
④178明40.B/
藤崎俊哉①228大11.A/
藤澤基一①290昭3.C/
②20昭10.C//④404昭3.C/
藤澤剛一④445昭6.C/
藤澤小雪④142明36.B/
藤澤孝夫①280昭2.D/
藤澤直枝③121明36.C//
④145明36.C/
藤澤梅南①15明5.D/
藤澤文秀③302昭14.B/
藤澤保太郎②113昭16.E/
藤澤衛彦④740[昭6]/
藤澤利喜太郎④504昭10.B/
藤島亥治郎①320昭5.D/
①338昭6.D//②24昭10.D/
②104昭16.A/②261昭4.A//
③286昭11.C/③322昭17.D//
④600昭15.A/
藤島孝平④339大10.C/
藤島武二[畫伯]②214明34.D/
②260昭3.D//③109明34.D/
③241昭2.D/③311昭15.D//
④133明34.D/
藤島利郎②255大15.E/
藤島了隱②182明23.B/
藤代 → 藤代禎輔
藤代講師 → 藤代禎輔
藤代素人③177大2.D/
藤代禎輔[藤代、講師]
①76明28.B/①149明43.D/
①154明44.D/①159明45.D/
①164大2.B/①176大3.D/
①177大3.D//②201明29.B/

②215明35.A/②262昭4.D//
③59明27.A/③69明28.D/
③186大3.D/③207大7.D//
④164明38.D/④238大1.D/
④252大2.D/
藤田伊吉④807[昭17]/
藤田一郎③42明23.E/
藤田勝美④184明41.B/
藤田喜三郎④35明12.A/
④682[明12]/
藤田健治②80昭14.B/
②131昭18.B//③325昭19.B//
④740[昭6]/④778[昭19]/
藤田靜②164明16.E/
藤田秋三①147明43.B/
①150明44.A/
藤田四郎①35明16.E/
藤田淳①327昭6.B/①331昭6.B//
④443昭6.C/
藤田季莊①140明41.F/
①142明42.B//④209明43.C/
藤田男爵［羅馬法奨學費］
②249大12.E/②253大14.E/
②255大15.E/②258昭2.E/
②267昭5.E/
藤田嗣治④754[昭11]/
藤田祐眞②155明8.A/
藤田捨松①74明27.D/
藤田親雄①387昭9.F/
藤田貞次④396昭2.D/
藤田乕雄④681[明11]/
藤田東一郎④768[昭16]/
藤田德太郎③241昭2.D/
藤田豐八①292昭3.C/
③65明28.B//④101明27.B/
④114明30.B/
藤田白村④163明38.D/
藤田治明①43明20.C//690[明20]/
藤田鳴鶴 → 藤田茂吉
藤田孫太郎④483昭9.B/
④525昭11.B/④532昭11.B/
④627昭16.B/④634昭16.D/
④755[昭11]/④770[昭16]/
藤田守④782[明11]/
藤田茂吉［鳴鶴、鳴鶴山史、翠嵐生、九翠］①36明17.A//
③21明17.A/③22明18.A/
③141明40.A//④39明13.C/
④44明14.E/④53明16.D/
④60明18.D/④62明19.A/
④64明19.C/④85明23.E/
④90明25.A/
藤田元春④739[昭6]/④744[昭7]/
④772[昭17]/④804[昭12]/
藤田亮策③203大6.C/
藤谷深勵③151明42.C//
④197明42.C/
藤谷光之助①206大7.E//
④319大7.E/④718[大7]/
藤谷兒童文庫①307昭4.D/
藤溪證健①261大14.E/
藤戸正二④619昭15.D/
撫象子①52明22.D/①62明24.D/
藤波一如②216明35.D//
③123明36.D//④172明39.D/
藤波鑑③125明36.F/
藤浪剛一①157明45.C/
①333昭6.C//②143昭19.C/
④443昭6.C/
藤浪水處①212大8.D//
④296大5.D/
藤野古雪①122明38.D/
藤浪由之④723[大12]/
藤野滋①248大13.D/①307昭4.D/
藤野渉②119昭17.B/
藤の屋主人①52明22.D/
富士原清一②133昭18.C/
藤原あき③307昭15.A/
藤原治②87昭14.D//④764[昭14]/
藤原音松①217大9.C/
①223大10.C//④333大9.C/
藤原正①238大12.B//
③146明41.B/
藤原生④799[昭7]/

藤原董子①217大9.C/
藤原定①361昭8.B/①376昭9.B//
②119昭17.B/
藤原肇②136昭18.D//
④408昭3.D/④661昭18.D/
藤原藤男④659昭18.C/
④808[昭18]/
藤原正幸②60昭12.C//
④554昭12.C/
藤原松三郎④578昭13.F/
④777[昭18]/
藤原安(保)治郎①339昭6.F/
①369昭8.F//④464昭7.F/
④639昭16.F/
藤原龍甫①305昭4.C/
藤原義江④387昭2.A/
藤林淳道④730[昭2]/
藤林泰輔②235明45.G/
④672[文化]/
藤林文輔①230大11.C/
藤平武雄①313昭5.B/
①361昭8.B/②14昭10.B/
②53昭12.B/②56昭12.B/
②93昭15.B//④570昭13.B/
藤巻卯三郎④148明36.F/
伏見猛彌④476昭8.C/
藤村義介①357昭8.A/
藤村才次郎④402昭3.B/
藤村新三④530昭11.B/
藤村信次①242大12.F/
藤村作①363昭8.C//④465昭7.G/
④750[昭9]/
藤本 → 藤本慶祐
藤本學士 → 藤本慶祐
藤本節夫①364昭8.C//
②143昭19.C/
藤本武④90明25.B/
藤本民雄①236大12.B/
藤本直①238大12.B/
①260大14.E/①368昭8.E//
④372大14.E/
藤本慶祐[學士]①126明39.B/
①126明39.B/①169大3.B/
①171大3.B/①172大3.B/
①230大11.C/①231大11.C//
③184大3.B/③219大11.C//
④223明44.G/④263大3.B/
④347大11.C/④381大15.C/
④393昭2.C/④394昭2.C/
④429昭5.B/④458昭7.C/
④510昭10.B/
藤本季登③234大15.B/
藤本治義③300昭13.G/
藤本範夫④468昭8.B/
藤本了泰④322大8.B/
④719[大8]/
藤森きよし④433昭5.D/
藤森成吉④296大5.D/
④643昭17.B/
藤山嘉道③285昭11.B/
藤吉喜一④707[明41]/
藤吉利男④585昭14.B/
藤分法賢①54明23.B/
布施一夫①308昭4.D//
④421昭4.D/
不折①91明32.D/
總生寛①14明3.D//④28明3.D/
④30明7.C/
不息道人②188明24.C/
二ヶ島白菊④329大9.A/
二葉亭四迷 → 長谷川辰之助
二神輝一郎④440昭6.B/
二村領次郎④707[明41]/
二荒芳德②109昭16.C/
淵定②28昭10.E/②28昭10.E/
②49昭11.E/②50昭11.E/
②66昭12.E/②114昭16.E/
②286昭9.E//④501昭10.A/
④519昭10.E/④542昭11.E/
④562昭12.E/④577昭13.E/
不知庵主人 → 内田不知庵
淵田忠良②43昭11.D/
普通學講習會②227明40.G/
普通教育研究會③108明34.C//

④161明38.C/
佛學舍④694[明24]/
佛學塾④71明20.G/
富津麟太郎④345大11.B/
物理學譯語會④691[明21]/
舟河原柳吉①187大5.B/
舟木氏 → 舟木重信
舟木重信（舟木氏）①240大12.D/
①241大12.D/①280昭2.D//
②20昭10.B/②44昭11.D/
②124昭17.D//③216大10.D/
③220大11.D/③291昭12.D/
③298昭13.D/③305昭14.D//
④318大7.D/④327大8.D/
④384大15.D/④462昭7.D/
④537昭11.D/④539昭11.D/
④545昭11.G/④558昭12.D/
④560昭12.D/④594昭14.D/
④635昭16.D/④668昭19.D/
④807[昭17]/④808[昭18]/
船越煙波④707[明41]/
舟越康壽②145昭19.E/
②146昭19.E//④573昭13.C/
④591昭14.C/
船田享二［教授］①233大11.E/
①242大12.E/①246大13.C/
①250大13.E/①261大14.E/
①271大15.E/①282昭2.E/
①283昭2.E/①297昭3.E/
①310昭4.E/①322昭5.E/
①323昭5.E/①338昭6.E/
①339昭6.D/①353昭7.E/
①355昭7.E/①367昭8.E/
①368昭8.E/①385昭9.E/
①386昭9.E//②26昭10.E/
②28昭10.E/②47昭11.E/
②48昭11.E/②49昭11.E/
②64昭12.E/②65昭12.E/
②66昭12.E/②76昭13.E/
②78昭13.E/②100昭15.E/
②101昭15.E/②102昭15.E/
②113昭16.E/②114昭16.E/
②122昭17.C/②126昭17.E/
②127昭17.E/②128昭17.E/
②137昭18.E/②138昭18.E/
②139昭18.E/②145昭19.E/
②146昭19.E/②245大9.E/
②267昭5.E//③278昭9.D//
④355大12.E/④398昭2.E/
④413昭4.B/④422昭4.E/
④463昭7.E/④513昭10.C/
④543昭11.E/④562昭12.E/
④563昭12.E/④637昭16.E/
④663昭18.E/④774[昭17]/
④804[昭13]/④805[昭14]/
船田教授 → 船田享二
船田三郎①257大14.C/
①349昭7.C/①365昭8.C//
②42昭11.C.//④369大14.C/
④469昭8.B/④556昭12.C/
④557昭12.C/
船橋周市②122昭17.C//
③322昭17.E/
船橋雄④433昭5.D/④759[昭12]/
④624昭16.A/
船橋虎五郎③290昭12.B/
③294昭13.B/
船山信一①329昭6.B/
①346昭7.B/②12昭10.B/
②14昭10.B/②80昭14.B/
②93昭15.B//③280昭10.B/
③300昭13.F//④453昭7.B/
④474昭8.C/④578昭13.F/
府南隱士 → 澁江保
文岩有洙④650昭17.D/
ふみ子④692[明23]/④693[明24]/
文雄 → 矢野龍溪
冬山雪雄①308昭4.D/
芙蓉隱士②201明29.B/
プラトン・アリストテレス學會
①332昭6.C//④441昭6.B/
British and Foreign Bible Society
④710[明44]/
古河翁③8明9.B/

古川修③264昭7.B/
古川晴風④650昭17.D/
古川竹二②276昭7.F//
④448昭6.F/
古川哲史④551昭12.B/
古河當一郎②219明 36.G/
古川晴男④761[昭13]/
古川正雄③5明7.C//④30明7.C/
④197明42.C/④781[明6]/
古川洋三②141昭19.B/
古川龍城①250大13.F//
④363大13.F/
古河老川②195明26.C/
古川良輔④678[明9]/④679[明9]/
古木慶吉④233大1.B/
古木茂淳②173明20.B/
古木寅(虎)三郎④101明27.B/
④107明28.B/④151明37.B/
④709[明43]/
古荘三郎④78明22.D/
古田晁②265昭5.B/
古田良一①313昭5.B/
古野清人②265昭5.B/
②273昭7.B/④546昭12.A./
④630昭16.B/④760[昭12]/
古橋直樹②110昭16.C//
④631昭16.B/
古松貞一④637昭16.D/
古谷巖②158明11.C/
古谷榮一①181大4.B//
③181大3.B/③183大3.B/
③184大3.B//④257大3.B/
④259大3.B/④260大3.B/
④274大4.B/④278大4.B/
④278大4.B/④372大14.D/
降矢潔①337昭6.D/
古屋新太郎④309大6.E/
古屋 → 古屋芳雄
古屋生④340大10.C/
古屋太郎④365大14.B/
古谷春峰①143明42.C//
④198明42.C/④708[明42]/
古屋芳雄(古屋)①259大14.D//
②250大13.D//③231大14.D//
④372大14.D/④540昭11.D
古屋美貞②26昭10.E/
②47昭11.E/
古山昌雄①73明27.B//
③60明27.B/
不破信一郎③64明27.E/
不破祐俊①261大14.E/
①297昭3.E/①310昭4.E/
①342昭7.B//②28昭10.E//
③269昭8.B//④372大14.E/
④385大15.E/④436昭5.E/
④729[昭1]/④738[昭5]/
不破彦藏①128明39.E/
文苑月雨樓主人①80明29.D/
文廻家主人④88明24.D/
文學界書店④108明28.D/
文學研究會④737[昭5]/
文學思想研究會①261大14.E/
文學社(編輯所)①86明31.C//
②174明20.G/
文藝協會①166大2.C//
④183明41.B/
文藝家協會③292昭12.D/
文藝社(編輯部)①300昭4.B//
④416昭4.C/
文檢(受驗)研究會①236大12.B/
①244大13.B/
文獻書院①236大12.B/
ポント子③135明38.D/
文明協會(編輯部)②134昭18.C//
④204明43.B/④270大4.A/
[へ]萍雨④158明38.B/
閉花溪樓主人④532昭11.B/
米溪④145明36.C/
米國遣傳教師事務局
④681[明10]/④683[明12]/
④688[明18]/
米國聖教書類會社④55明17.C/
④685[明15]/④686[明17]/
④688[明19]/④699[明32]/

米國聖教會社横濱④684[明14]/
米國聖教書類出版會社
④46明15.C/
米國聖書會社④236大1.D/
④250大2.D/④266大3.D/
④341大10.D/④348大11.D/
④675[明5]/④676[明6]/
④681[明10]/④682[明11]/
④683[明12]/④684[明14]/
④703[明37]/④714[大3]/
④715[大4]/④782[明8]/
④789[18-]/④791[大2]/
米國聖書協會④395昭2.D/
④407昭3.D/④416昭4.C/
④430昭5.C/④494昭9.D
④443昭6.C/④728[昭1]/
米國派遣宣教師事務局
④692[明22]/
平氏③177大2.D/
兵士會④331大9.B/
兵事雜誌社③108明34.C/
萍水③187大3.D/
蔽日生③51明25.D/
閉戸齋主人④781[明5]/
平凡子④137明35.B/
平凡社②67昭12.G//
④760[昭12]/
へうそん①130明40.B/
辟有愚夫①120明38.B/
碧山④154明37.C/
碧落外史④697[明29]/
經田清瑞③280昭10.B/
別所梅之助③116明35.F/
③239昭2.B//④208明43.C/
④221明44.D/④307大6.D/
④338大10.B/④339大10.B/
④472昭8.C/
別所冨貴②177明21.G/
①73明27.A//②195明26.C/
②199明27.D//④693[明23]/
蛇口三郎①357昭8.A/
別府駿介①384昭9.E/
篦節三④322大8.B/
ヘルン、ラフカヂオ → 小泉八雲
扁舟生④172明39.D/
[ほ]帆足萬理(萬理)①9[133,142]/
③323昭18.C//④598昭14.F/
④764[昭14]/
帆足理一郎①171大3.B/
①189大5.B/①202大7.B/
①203大7.B/①206大7.D/
①209大8.B/①210大8.B/
①210大8.B/①213大8.E/
①216大9.B/①218大9.D/
①223大10.B/①225大10.D/
①244大13.B/①316昭5.B/
①337昭6.D//②14昭10.B/
②261昭3.E//③171大2.B/
③180大3.B//④247大2.B/
④286大5.B/④313大7.B/
④314大7.B/④315大7.B/
④316大7.B/④334大9.D/
④338大10.B/④342大10.D/
④355大12.E/④426昭5.B/
④428昭5.B/④429昭5.B/
④454昭7.B/④528昭11/B/
④542昭11.E/④552昭12.B/
④586昭14.B/④587昭14.B/
④604昭15.B/④642昭17.A/
④645昭17.B/④656昭18.A/
④659昭18.B/④727[昭1]/
④730[昭2]/④747[昭8]/
抱一庵(主人) → 原抱一庵(主人)
法印ヴィセンテ①4[3]/
抱花生④189明41.D/
芳亥生④229大1.B/
望岳樓主人④128明33.B/
方眼生①103明35.D/
①108明36.D/
法貴慶次郎①99明35.A/

①100明35.B/①104明36.B/
①106明36.B//③118明36.B//
④143明36.B/
鳳氣至洪雄②211明33.F/
犛牛④154明37.C/④155明37.D/
放吟子①100明35.B//
④135明35.B/
望湖樓④115明30.B/
方濟閣主人④347大11.C/
④352大12.C/
抱膝生④141明36.B/
芳洲散士[史]④92明25.C/
④695[明25]/
北條龍山④782[明10]/
芳水④202明43.A/
房内幸成①343昭7.B//
④497昭9.D/④563昭12.F/
④564昭1.F/④578昭13.F/
④656昭18.B/
茫々學人④153明37.C/
芳溪居士②185明23.D/
抱月（生） → 島村抱月（瀧太郎）
忘言子①64明25.B/
忘事子①64明25.B/①67明25.F/
芳春閣主人③159明44.B/
報知子③40明23.B/
朋鳥影子①121明38.C/
法天①153明44.D/
法典質疑會③116明35.G/
寶文舘（編輯［修］所）
①160明45.G/①221大10.B/
①222大10.B//②251大13.G//
③215大10.B//④239大1.G/
④787[明42]/
芳明②242大7.C/
茫洋子 → 齋藤竹堂
望洋隱士①54明23.B/
寶來新④544昭11.G
芳流生③28明20.C/
帆刈芳之助④438昭6.B/
朴泳孝②198明27.C/
朴永仁①382昭9.D/
朴賢煥①206大7.E/
朴忠集③250昭4.D//④421昭4.D/
北舟子①161大2.B/
北水生④697[明28]/
墨水老漁④351大12.B/
ほくそん生④424昭5.A/
ほくと②215明35.B/
撲堂④156明37.D/
朴堂居士 → 林十治郎
牧童住友生①171大3.B/
牧羊（東基吉）①108明36.D/
①115明37.D/①121明38.D//
③123明36.D//④139明35.D/
④146明36.D/④703[明38]/
④704[明38]/④705[明40]/
北洋學人④54明16.F/
北陸散史④75明21.E/
④79明22.E/
北嶺④134明34.D/
保志嘉十郎③128明37.C//
④153明37.C/
星亨①15明5.B//④35明11.E/
④124明32.C/
保志虎吉②196明26.G/
②207明31.G//③170明45.G//
④126明32.G/④699[明32]/
星加敏秀④528昭11.B/
星川逸人①57明23.D/
星子長②154明6.C//④32明10.C/
星子武敏④447昭6.D/
保科孝一①122明38.D//
②208明32.D/②211明33.D/
②214明34.D//③104明33.D/
③193大4.D//④125明32.D/
④129明33.D/④139明35.D/
④148明36.D/
星野郁①21明9.C/
星野和子④791[19-]/
星野光多①68明26.B//
④82明23.B/④94明26.B/
④101明27.B/④103明27.D/
④169明39.B/④175明40.B/

④183明41.B/④375大15.B/
④383大15.D/④696[明27]/
④697[明28]/④706[明40]/
④707[明41]/④710[明44]/
④717[大5]/
星野重顯①265大15.B/
①327昭6.B/①359昭8.B//
②34昭11.B/②54昭12.B/
②81昭14.B/
星野德治④157明38.B/
星野力③250昭4.D/
星野通①218大9.E/
星野久成③65明28.A//
④691[明20]/
星野三雄④589昭14.C/
④607昭15.B/④635昭16.D/
慕秋生②181明22.D/
甫水 → 井上圓了
細井廣澤④671［亨保]/
細井次郎②25昭10.D//
④568昭13.B/
細井淙④753[昭10]/
細江橋星①196大6.B/
細貝邦太郎④191明42.B/
④197明42.C/
細貝正邦①227大10.E/
細川龜市（龜弋、細川生）
②49昭11.E/②65昭12.E/
②90昭14.E/②101昭15.E/
細川龜弋 → 細川龜市
細川ガラシャ③250昭4.D/
細川高等師範學校長
③52明25.D/
細川潤次郎②162明16.B/
②176明21.D/②184明23.C/
②186明23.E/②189明24.E/
②209明32.F//③53明25.G//
④35明11.E/④189明41.E/
細川生 → 細川龜市
細川忠興の妻③115明35.D/
細川恒夫②69昭13.B/
細川瀏③15明12.C//④80明23.B/
細田鼎①381昭9.C/
細田枯萍①144明42.D/
①153明44.D//④295大5.D/
細田秀造④717[大5]/
細見正直④381大15.C/
細谷恒夫②83昭14.B//
③276昭9.C//④570昭13.B/
④665昭19.B/
細谷德三郎①359昭8.B//
④749[昭9]/
暮村隠士③189大4.B/
北海漁史④40明14.A/
北邙散士①51明22.B/
穂積重威①310昭4.E//
②138昭18.E/
穂積重遠①199大6.E/
①322昭5.E//③312昭15.E//
④328大8.E/④342大10.E/
④372大14.E/④386大15.E/
④719[大8]/
穂積博士④269大3.E/
穂積陳重（入江陳重）
①32明14.E/①36明17.E/
①44明20.E/①49明21.E/
①98明34.E/①128明39.E/
①144明42.E/①185大4.E/
①207大7.E/①249大13.E/
①261大14.E/①262大14.F/
①268大15.C/①309昭4.E/
①354昭7.E/①384昭9.E//
②66昭12.E/②181明22.E/
②185明23.E/②214明34.E/
②233明44.E/②261昭3.E/
②267昭5.E/②271昭6.E//
③153明42.E/③211大8.E//
④125明32.E/④134明34.E/
④190明41.E/④200明42.E/
④330大9.B/④323大8.B/
④362大13.E/④379大15.C/
④398昭2.E/④409昭3.E/
④422昭4.E/④597昭14.E/
④789[1-]/④795[明,大,昭]/

穂積八束①144明42.E/
①309昭4.E/①310昭4.E//
②138昭18.E/②192明25.E/
②209明32.E//③98明32.E/
③170明45.E//④212明43.E/
穂亭主人①10［177］/
洞富雄④774[昭18]/
堀喜望④596昭14.E/
④614昭15.C/
堀維文④214明44.A/
堀謙德①142明42.B/
①147明43.B//②232明44.B//
④211明43.D/④674[明治]/
④707[明41]/
堀經夫④597昭14.E/
堀達之助①11［205］/
①12［219,220］//
②153明2.G/②205明30.D/
②235明45.G/
堀常次郎①87明31.C/
堀貞④694[明25]/
堀豐三郎④433昭5.D/
堀豐彦①385昭9.E//
②138昭18.E/②139昭18.E//
④774[昭18]/
堀秀彦④607昭15.B/
堀眞琴①322昭5.E/
堀三友①91明32.D/
堀佳篤①7［89］/
堀由藏④189明41.D/
堀米次①345昭7.B/
堀内敬三①351昭7.D/
堀内採用④552昭12.B/
堀内信水④745[昭8]/
堀内素堂①11［183］/
堀内文次郎［中將］
③202大6.C//④306大6.C/
堀内幹夫②115昭16.F/
堀江景宣④138明35.C/
④686[明18]/
堀江議作④187明41.C/
堀江齋太郎②22昭10.C/
堀江朔③178大2.D//④323大8.B/
堀江專一郎②248大11.E/
堀江正③18明14.E/
堀江復(薩瓦)④31明9.D/
④66明19.E/④678[明9]/
④692[明22]/④697[明28]/
堀江保藏②270昭6.C//
④422昭4.E/④435昭5.E/
④436昭5.E/
堀川弘通③311昭15.D/
堀越龜之助①12［219,220］//
②153明2.G/
堀口九万一④403昭3.B/
堀口正次郎④433昭5.D/
堀口大學①246大13.C/
①287昭3.B/①288昭3.B//
②277昭8.B//④296大5.D/
④317大7.C/④401昭3.B/
④537昭11.D/
堀口昇①19明8.E/①33明15.C/
①35明16.E/①355昭7.E//
③6明8.E//④46明15.C/
④47明15.C/④48明15.C/
④54明16.E/④59明18.C/
堀越岩松（晩翠）②211明33.D/
堀越晩翠 → 堀越岩松
堀米江處③146明41.B/
堀米庸三②85昭14.C/
②95昭15.B/②101昭15.E/
②146昭19.F//③296昭13.C/
③310昭15.C/③312昭15.E//
④577昭13.E/④589昭14.C/
④613昭15.C/
堀田熊男④602昭15.B/
堀田周一①324昭5.F/
堀田相爾①137明41.B//
②253大14.G//④184明41.B/
堀田達治④116明30.C/
④116明30.D/④120明31.C/
④130明34.B/④699[明31]/
堀田信直④787[明42]/
堀部春晃①303昭4.B/

奔漢子①89明32.B/
本郷K.Y.③28明20.D/
本郷新②124昭17.D/
本郷U.S.③29明20.F/
本庄榮治郎①296昭3.E//
②68昭13.A/④71明21.A/
④772[昭17]/④774[昭17]/
本庄(荘)太一郎③40明23.B//
④76明22.B/④81明23.B/
本莽生②215明35.C/
本荘可宗①329昭6.B/
①357昭8.A//③269昭8.A/
本城直彦②267昭5.E/
本條正男④④510昭10.B/
本多 → 本多(田)淺治郎
本田秋郎②90昭14.F/
本多顯彰①308昭4.D/
①378昭9.C/①382昭9.D//
②47昭11.D//④234大1.C/
④498昭9.D/④541昭11.D/
④651昭17.D/④668昭19.D/
④742[昭7]/④748[昭9]/
④750[昭9]/④778[昭19]/
④802[昭10]/④807[昭16]/
本多(田)淺治郎
①101明35.C/①203大7.C/
①290昭3.C//②11昭10.A/
②20昭10.C/②252大14.C/
②274昭7.C//③95明32.C/
③102明33.C//④128明33.C/
④386昭2.A/④393昭2.C/
④394昭2.C/④394昭2.C/
④404昭3.C/④458昭7.C/
④511昭10.C/④672[明治]/
④700[明33]/
本田喜代治①387昭9.F//
④763[昭14]/
本多謙三①314昭5.B/
①315昭5.B/①329昭6.B/
①344昭7.B//④442昭6.B/
本多光太郎④94明25.F/
本多三七③255昭5.D//
④434昭5.D/
本多修郎②67昭12.F//
④564昭12.F/
本田親二①250大13.F//
④200明42.F/④298大5.F/
④741[昭6]/
本多清三郎①40明19.C/
本田正一④430昭5.C/
本田壽男③243昭3.B/
本多常橘①39明18.G/
本田信敎③44明24.B//
④135明35.B/
本田文學士 → 本田增次郎
本田增次郎[文學士]
①86明31.B//③113明35.C
③158明43.D//④118明31.B/
④139明35.C/④145明36.C/
④153明37.C/④161明38.C/
本多庸一④108明28.C/
④108明28.D/④109明29.A/
④710[明44]/
本田義英①202大7.B/
本多利明(魯鈍齋)④24[24952]/
④71明21.A/④213明44.A/
④222明44.E/
本間英子②237大2.D/
本間俊平④170明39.B/
④171明39.C/④289大5.B/
④304大6.B/
本間立也②24昭10.D/
本間恒男①250大13.E/
本間童慶④59明18.B/
本間久雄①176大3.D/
①177大3.D/①218大9.E/
①259大14.D/①279昭2.D/
①281昭2.D/①299昭4.A/
①335昭6.D/①337昭6.D/
①366昭8.D//②23昭10.D/
②144昭19.D//③187大3.D/
③193大4.D/③246昭4.A/
③282昭10.D//④268大3.D/
④284大5.A/④559昭12.D/

④568昭13.B/④419昭4.D/
④424昭5.A/④634昭16.D/
④718[大7]/④761[昭13]/
本間誠④639昭16.F/
凡天學士①165大2.C/
飜譯委員社中④31明9.D/
④681[明10]/④682[明11]/
飜譯局④678[明8]/
奔雷空人①75明27.D/
［ま］馬道食①7［76］/
舞出長五郎①199大6.E/
①249大13.E//③299昭13.E//
④597昭14.E/
牧健二①217大9.C/①283昭2.E/
牧羚羊①290昭3.C/①292昭3.C./
枚田水石①11［199］/
前川龜次郎①39明19.B//
②171明19.E/
前川勘夫①316昭5.B/
①346昭7.B/
前川善兵衛④676[明6]/
前川太郎②197明27.B/
前川貞次郎②85昭14.C/
②123昭17.C//④556昭12.C/
④613昭15.C/④614昭15.C/
④648昭17.C/④660昭18.C/
④661昭18.C/
前川普佐二郎④70明20.E/
前川萬次郎③148明41.D/
前島潔④263大3.C/④490昭9.C/
④494昭9.C/
前島茂次郎④559昭12.D/
前島信次②121昭17.C/
②122昭17.C/
前田晃①252大14.A/
①357昭8.A//③201大6.B//
④363大14.A/④375大15.A/
④443昭6.C/④624昭16.A/
④640昭17.A/
前田一良④748[昭9]/
前田越嶺（越嶺、長太、Etsurei Maeda)
①93明33.A/①104明36.B/
①105明36.B/①112明37.B/
①121明38.D/①155明45.B/
①170大3.B/①174大3.B/
①258大14.D/①262大14.G/
①265大15.B/①358昭8.B/
①382昭9.D//②34昭11.B/
②74昭13.D/②217明36.B/
②221明37.D//③80明30.B/
③101明33.B/③106明34.B/
③110明34.D/③113明35.B/
③119明36.B/③137明39.B/
③151明42.C/③167明45.B//
④109明29.B/④111明29.C/
④117明30.E/④210明43.C/
④121明31.D/④122明32.B/
④129明33.E/④130明34.B/
④131明34.B/④143明36.B/
④144明36.B/④184明41.B/
④225大1.B/④250大2.C/
④477昭8.D/④584昭14.B/
④697[明29]/④698[明30]/
④699[明32]/④707[明41]/
④711[明45,大1]/④739[昭5]/
④754[昭11]/
前田凱彦③5明8.A
前田儀作（林外）①87明31.D/
①110明37.B//②183明23.C//
④82明23.C/
前田獻吉［薩州版・和譯英辭書］
②153明2.G//③7明8.G/
前田健次郎（紅雪、紅雪山人）
①40明19.D/①44明20.D//
④64明19.D/④69明20.D/
④687[明18]/
Maeda Goro④795[19-]/
前田秀一郎②16昭10.B/
③281昭10.B/
前田松韻①184大4.D/
前田正名［薩州版・和譯英辭書］
②153明2.G//③7明8.G/
前田順三②106昭16.B/

前田眞二郎①163大2.B/
前田宗一①49明21.G/
前田鷹衛①359昭8.B//
②12昭10.B/②54昭12.B/
②68昭13.B/②106昭16.B/
②119昭17.B/
前田多門③180大3.A/
前田太郎①152明44.C/
①169大3.A/①232大11.D//
④271大4.A/④674[明治]/
④710[明44]/④715[大4]/
前田長太 → 前田越嶺
前田甫吉④63明19.C/
前田鐵之助③245昭3.D/
前田傳五郎③45明24.C//
④87明24.C/
前田利道④686昭23.D/
前田利謙③220大11.D/
前田博③299昭13.D//
④644昭17.B/
前田偉男④659昭18.C/
前田正毅［薩摩辭書、和譯英辭林］①13明2.G/
①14明4.G/①39明18.G/
①41明19.G/①45明20.G//
③25明18.G/③27明19.G/
前田三男①241大12.D/
①248大13.D//④725[大13]/
前田元敏①38明18.G//
③24明18.G/③27明19.G/
前田盛江③53明25.E/
前田泰一④30明8.A.
前田雄二①362昭8.B/
前田陽一①359昭8.B/
前田隆一②140昭18.F/
前田林外 → 前田儀作
前田河廣一郎①239大12.C/
①291昭3.C//②32昭11.A/
②105昭16.B/②108昭16.C/
②115昭16.F//④627昭16.B/
④797[昭4]/
前埜熹 → 前野蘭化
前野蘭化（良澤, 前埜熹[良澤］）
①7［67,68］/①294昭3.D/
①383昭9.D//④23[24936]/
④23[24938]/④24[24970]/
④104明28.A/④396昭2.D/
④559昭12.D/④593昭14.D/
④576昭13.D/④671[天明]/
④672[寛政]/④696[明27]/
④698[明30]/④712[大2]/
④732[昭3]/④778[昭19]/
④781[江戸期]/
前野良澤 → 前野蘭化
前橋孝義①38明18.E//
④189明41.E/④783[明22]/
前原光雄①310昭4.E/
①323昭5.E/①385昭9.E//
④500昭9.E/
前山銈吉①289昭3.B/
曲川漁夫①31明14.E/
曲木如長④31明9.B/
牧一④745[昭8]/
槇教授 → 槇智雄
牧健二②126昭17.E/
牧壽雄①280昭2.D/
牧天穆④672[弘化]/
牧浩③243昭3.B/
槇智雄(教授)④398昭2.E/
④448昭6.E/④596昭14.E/
④743[昭7]/
牧口常三郎③119明36.C/
牧田忠藏④278大4.C//
④792[大4]/
牧田宗太郎④584昭14.B/
牧野③318昭16.F/
牧野英一①96明34.A/
①185大4.E/①212大8.E/
①220大10.A/①249大13.E/
①250大13.E/①273昭2.A//
②28昭10.E/②49昭11.E/
②65昭12.E/②76昭13.E/
②77昭13.E/②89昭14.E/
②101昭15.E/②102昭15.E/

②114昭16.E/②128昭17.E/
②146昭19.E/②147昭20.E/
②221明37.E/②254大15.A/
②267昭5.E/②271昭6.E//
③325昭18.E//④399大3.A/
④523昭11.A/
牧野君①148明43.C/
マキノ君①312昭5.A/
牧野信一①327昭6.B//
④427昭5.B/
牧野信之助①377昭9.B//
②254大15.B//③237大15.D//
④415昭4.B/④420昭4.D/
④429昭5.B/④462昭7.D/
④734[昭4]/④737[昭5]/
牧野體山②254大15.B//
④376大13.B/
牧野孝②163明16.E/
牧野都宇②160昭15.B/
牧野登美夫④357大13.B
④365大14.B/
牧野富太郎④564昭12.F/
④753[昭10]/
牧野虎次④115明30.B/
④178明40.C/④188明41.D/
④311大7.A/
牧野虎次郎④234大1.C/
牧野牧師④191明42.A/
槇野喜藏④446昭6.D/
牧野義智①226大10.E/
牧野田竹南①85明31.B/
槇原德治④597昭14.F/
槇村浩②45昭11.D/
槇山榮次①100明35.B//
④786[明41]
牧山耕平[パーレー]①21明9.C/
①23明10.C/①24明10.C/
①26明11.C//③12明10.C/
③13明11.C/③16明13.C//
④679[明9]/④680[明10]/
④682[明11]/④688[明19]/
孫田秀春③237大15.E//
④362大13.E/
誠靜怡④404昭3.B/
正井順吉③188大3.G/
政池仁④583昭14.B/
まさいち(野中誠之)
①280昭2.D/
まさお④107明28.B/
正岡藝陽①103明35.D/
①117明37.F//②218明36.D/
②223明38.D//④131明34.B/
④134明34.B/④134明34.D/
④135明35.B/④140明35.D/
④148明36.D/④165明38.D/
④189明41.D/
正岡子規③62明27.D//
③68明28.D/
雅川滉④670昭20.B/
まさき → 皆川眞禧
眞折→ 皆川眞禧
正木杲④658昭18.B/
④664昭18.F/
正木照藏④187明41.C/
まさきひろし④557昭12.D/
④567昭13.B/
正木直彦①308昭4.D//
②266昭5.D/
眞木勝①230大11.C/
間崎萬里①233大11.D/
①240大12.C/①256大14.C/
①284昭3.A/①292昭3.C/
①293昭3.C/①299昭4.A/
①306昭4.C/①307昭4.D/
①312昭5.A/①318昭5.C/
①334昭6.C/①337昭6.D/
①348昭7.C/①349昭7.C/
①357昭8.A/①365昭8.C/
①371昭9.A//②42昭11.C/
②73昭13.C/②98昭15.C/
②110昭16.C/②252大14.C//
③274昭9.A//④399昭3.A/
④411昭4.A/④452昭7.B/
④456昭7.C/④465昭8.A/

④473昭8.C/④481昭9.A/
④504昭10.A/④515昭10.C/
④537昭11.C/④566昭13.A/
④574昭13.C/④616昭15.C/
④634昭16.C/④648昭17.C/
④655昭18.A/④719[大9]/
④722[大11]/④735昭4]/
④740[昭6]/④741[昭6]/
④747[昭8]/④756[昭11]/
④761[昭13]/④799[昭6]/
正谷亮三郎④158明38.B/
正人①202大7.B/
正富汪洋［由太郎?］①190大5.C/
①279昭2.D/①364昭8.C//
④335大9.D/④341大10.D/
正富由太郎［汪洋?］
②239大4.D//③193大4.D//
④253大3.A/④257大3.B/
眞徳志摩④377大15.B/
正本屋平兵衛④671[正徳]/
正本屋若四郎・正本屋仁兵衛
④671［江戸中期］/
正宗劍菱 → 正宗白鳥
正宗得三郎①252大14.A//
④350大12.A/④655昭18.A/
正宗白鳥（劍菱、正宗劍菱、白鳥, 忠夫）①108明36.D/
①122明38.D/①205大7.D/
①281昭2.D/①348昭7.C/
①367昭8.D/①376昭9.B//
②111昭16.D//③130明37.D/
③272昭8.D/③281昭10.B/
③287昭11.D/③298昭13.D/
③322昭17.D//④137明35.B/
④139明35.C/④147明36.D/
④266大3.D/④461昭7.D/
④478昭8.D/
政璃 → 繁野天來
眞下信一②105昭16.B//
間島定雄②262昭4.D/
眞島隆輔①283昭2.F/
①311昭4.F//②66昭12.F/
②78昭13.F/
眞島利行③221大11.F/
眞島寛④683[明12]/④782[明12]/
滿壽治④252大2.D/
桝居伍六①297昭3.E/
增井生④247大2.B/
增井芳雄④533昭11.C/
摩壽意（增井?）善郎
③305昭14.D/③312昭16.A//
④772[昭17]/
增澤淑④739[昭5]/
增澤健美①308昭4.D/
增澤仁吉④93明25.E/
增島六一郎②192明25.E//
③15明12.C/③38明22.E/
增田④324大8.B/
增田篤夫②277昭8.B/
益田克德③23明18.C/
增田義一②196明26.E//
③180大3.B/
增田惟茂④311大7.A/
增田重光③324昭18.C//
④651昭17.D/④653昭17.E/
④655昭18.A/
增田四郎①360昭8.B//
②122昭17.C/②133昭18.C//
④467昭8.B/④483昭9.B/
④526昭11.B/④579昭14.A/
④582昭14.A/④601昭15.A/
④616昭15.C/④766[昭15]/
增田哲明④779[昭20]/
增田鐵太郎④82明23.B/
增田藤之助①159明45.D/
①167大2.D//②237大2.G//
④89明24.D/④111明29.C/
④112明29.D/④218明44.B/
④253大2④269大3.G/
④740[昭6]/
增田寅雄④308大6.D/
增田八風④177明40.B/
④187明41.B/

增田抱村②126昭17.E//
④360大13.C/④367大14.B/
④370大14.C/
増田貢[岳陽]④718[大6]/
増田良二③317昭16.D/
③321昭17.B//④635昭16.D/
④766[昭15]/④769[昭16]/
増田廉吉②16昭10.B//
④732[昭3]/④750[昭10]/
増谷達之輔①297昭3.E/
増谷文雄①314昭5.B/
①315昭5.B//②265昭5.B/
益冨源次③10明9.E/
増富平藏①162大2.B/
①176大3.D/①177大3.D/
①259大14.D/①269大15.D/
①279昭2.D//③186大3.D//
④268大3.D/④454昭7.B/
④714[大3]/
益田苦良①283昭2.F/
増野悦興④101明27.B/
増淵龍夫④653昭17.E/
桝本清①125明39.B/
益本重雄④445昭6.C/
④533昭11.C/④554昭12.C/
④737[昭5]/④752[昭10]/
④799[昭6]/
桝本セツ②78昭13.F/
②78昭13.F//④757[昭12]/
④762[昭13]/
桝本芳郎①328昭6.B/
又井盛治①237大12.B/
斑目文雄④652昭17.E/
町井正路③168明45.D//
④252大2.D/④711[明45]/
町田幾堂①60明24.C/
町田梓樓②252大14.D/
町田實秀①384昭9.E//
②88昭14.E//④760[昭13]/
町田辰治④325大8.B/
町田文夫④657昭18.B/
町野靜雄①353昭7.D//
②136昭18.D//④574昭13.D/
松井明夫④599昭15.A/
松井君平①60明24.C/
松井圭子①337昭6.D/
松井恕助④38明13.B/
松井重男④585昭14.B/
松井正一④193明42.B/
松居松翁→ 松居松葉
松井須磨子③185大3.C//
④263大3.B/
松居駿河町人①166大2.C/
松井冨吉③17明14.D/
松井直吉①34明16.B/
松井直誠①35明16.E/
松井等①333昭6.C//②41昭11.C//
③265昭7.C/
松井廣吉④107明28.C/
④784[明28]/
松井文彌④152明37.B/
④162明38.C/④170明39.B/
④202明43.B/④391昭2.B/
松居眞玄 → 松居松葉
松居松葉（松翁、十八公子、眞玄）
①166大2.C/①167大2.D/
①167大2.D//②278昭8.D//
③130明37.D/③177大2.D/
③178大2.D/③200大5.D/
③235大15.C//④250大2.D/
④252大2.D/
松井まん子①52明22.C/
松井壽郎④41明14.B/
松井米太郎④250大2.D/
松浦勇①254大14.B/
松浦嘉一①177大3.D/
①232大11.D/①241大12.D/
①247大13.D/①248大13.D/
①259大14.D/①270大15.D/
①295昭3.D/①321昭5.D//
②86昭14.D/②87昭14.D/
②98昭15.D/②112昭16.D//
④296大5.D/④383大15.D/
④461昭7.D/④595昭14.D/

④725[大13]/④797[昭3]/
(平戸藩主)松浦家④26[25005]/
松浦謙吉④34明11.C/
松浦重吉④86明24.B/
松浦松胤④105明28.B/
(平戸藩主)松浦靜山
④27[25020]/④23[24940]/
松浦伯④270大3.G/
松浦一③262昭7.A//
④155明37.D/
松浦政泰①167大2.D//
③179大2.D/③192大4.C//
④188明41.C/
松枝德麿④293大5.C/
松尾卯一①321昭5.D/
松尾音次郎(霽月堂主人)
④87明24.B/④88明24.C/
④97明26.C/④101明27.B/
④102明27.C/④109明29.B/
④116明30.C/
松尾久太郎①47明21.C/
①51明22.C/
松尾孝輔①229大11.B/
松尾武④483昭9.B/④490昭9.B/
松尾太郎①68明26.B/
松尾貞次郎①68明26.B/
松尾利信①280昭2.D/
松尾正夫④436昭5.F/
松尾正秀④332大9.B/
松岡映丘③251昭5.A/
松岡權④673[安政]/
Matsuoka,K④683[明13]/
松岡听洲①165大2.C/
松岡子誠①177大3.D/
松岡敏幸②62昭12.D/
②263昭4.D//④462昭7.D/
松岡壽④641昭17.A/
松岡弘②273昭7.B/
Matsuoka,B.④754[昭11]/
松岡文太郎①77明28.F//
③70明28.F/
松岡平市②249大12.E/
松岡正雄④554昭12.C/
松岡義和①257大14.C/
松岡佳文④248大2.C/
松岡義正①92明32.E/
①95明33.E/
松岡励子③309昭15.C/
松垣裕④669昭20.B/
松川生①198大6.D/
松川直水 → 松川半山
松川半山(直水)④32明10.C/
松木孝次郎④127明33.B/
松木治三郎④627昭16.B/
④686昭23.E/
松木喬④642昭17.A/
④645昭17.B/
松口道雄③290昭12.B/
松坂佐一①323昭5.E/
①354昭7.E//②138昭18.E/
松崎功②121昭17.C/
松崎藏之助④271大4.A/
松崎槇二②252大14.D/
松崎生①138明41.B/
松崎敏太郎②37昭11.B//
④531昭11.B/
松崎實①271大15.D/
松崎宗雄④508昭10.B/
松澤一鶴②280昭8.F/
松澤兼人④737[昭5]/
松澤宥②104昭16.A/
松下丈吉②177明21.E/
②186明23.E/
松下績雄①304昭4.B//
④468昭8.B/④533昭11.C/
松下佐吉④453昭7.B/
松下舜孝④288大5.B/
松下岱川①114明37.C//
④153明37.C/
松下武雄①366昭8.D/
①382昭9.D//②24昭10.D/
②45昭11.D/②62昭12.D/
②74昭13.D/②78昭13.F//
④539昭11.D/

松下桃蹊④175明40.B/
松下芳男④386大15.E/
④513昭10.C/
松島篤④171明39.D/
松島剛①35明16.E/①36明17.E/
①40明19.C/①42明20.B/
①48明21.C/①63明25.B/
①74明27.C//②159昭14.E/
②207明31.D//③18明14.E/
③90明31.D//④90明25.B/
④784[明26]/
松島烈雄③292昭12.E//
④747[昭8]/
松島錬之助①40明19.C/
松荘舘①13明2［249］/
松代公會信徒④39明13.C/
末世之福音社編輯部
④248大2.C/④405昭3.C/
松田明三郎④404昭3.B/
松田解子②71昭13.B/
松田謹②268昭6.B/
松田艮四郎①173大3.B//
④255大3.B/④257大3.B/
松田承久④122明32.B/
④198明42.D/④699[明32]/
④705[明39]/④715[大4]/
④720[大10]/④725[大13]/
松田甚左右衛門④694[明25]/
松田信太郎④302大6.B/
松田壽美子③159明44.B/
松田爲常④29明6.G/
松田智英④206明43.B/
松田壽男③316昭16.D//
④565昭13.A/
松田福松③299昭13.E//
④504昭10.A/
松田牧之助②259昭3.B
松田正典④113明29.F/
④697[明29]/
松田政久④39明13.B/
松田道一④624昭16.A/
松田友吉①286昭3.B/
①316昭5.B/
松田義治④398昭2.E/
杢田與惣之助①275昭2.B/
松田緑山④781[明4]/
松林英司③280昭10.B/
③281昭10.B/
松平貴平③261昭6.D/
松平定信④23[24946]/
松平齋光①316昭5.B/
①346昭7.B//②267昭5.E/
松平健④536昭11.C/
松平千秋②88昭14.D//
④617昭15.D/
松平道夫②104昭16.A//
④597昭14.F/④757[昭12]/
松平康國②181明22.E/
②194明26.C/②195明26.C//
④97明26.C/
松岳謙一③230大14.B/
③243昭3.B//④743[昭7]/
松岳譲一②252大14.B/
松谷義範④440昭6.B/
④616昭15.D/④634昭16.D/
④661昭18.D/④667昭19.D/
④770[昭16]/
松茶庵（菴）→ 平田禿木
松永材①230大11.B/
①245大13.B/①265大15.B/
①286昭3.B//④364大14.B/
④376大15.B/④389昭2.B/
④454昭7.B/
松永貞德①5［29］/
松永生④231大1.B/
松永德次郎④471昭8.C/
④512昭10.C/
松永文雄(夫?)④214明44.B/
④265大3.C/
松浪信三郎②54昭12.B//
④526昭11.B/④568昭13.B/
④577昭13.E/④643昭17.B/
松濤泰巖①359昭8.B//
③147明41.B/

松濤泰藏③238昭2.B/
松濤阪智④675[明治期]/
松根宗一④343大11.A/
松野永太郎①23明10.C/
①24明10.C/
松野菊太郎④102明27.C/
松野茂④608昭15.C/
俟野時中②167明18.C/
松野眞一郎①62明24.E/
松野貞一郎①58明23.E/
松野翠②214明34.E/
松野吉松②50昭11.F/
②140昭18.F/
松の家主人④111明29.B/
松葉卓爾④68明20.C/
④73明21.C/
松林伯圓④58明18.A/
松原巖④348大11.D/
松原英一④225大1.B/
④234大1.C/
松原一雄①261大14.E/
①262大14.E/
松原寛（松原生）①264大15.B/
①67大15.B/①304昭4.B/
①306昭4.C/①310昭4.E/
①327昭6.B/①329昭6.B/
①330昭6.B/①330昭6.B/
①331昭6.C/①334昭6.C/
①345昭7.B/①350昭7.C//
②34昭11.B/②80昭14.B/
②254大15.B/②257昭2.B/
②260昭3.C/②265昭5.B//
④412昭4.B/④454昭7.B/
④474昭8.C/④483昭9.B/
④490昭9.B/④607昭15.B/
④615昭15.C/④748[昭9]/
松原寛平①203大7.B//
②241大6.B/
松原至文④211明43.D/
松原秀治④559昭12.D/
松原生 → 松原寛
松原大八④339大10.B/
④368大14.B/④471昭8.B/
④494昭9.C/④553昭12.B/
④570昭13.B/
松原致遠①263大15.A/
松原晩香④654昭17.F/
松原宏（→ 古在由重）
②34昭11.B/②37昭11.B/
松原道雄①355昭7.E/
松原露風生④314大7.B/
松間希三③18明14.F/
馬誥秀三③151明42.C/
松扉記③258昭6.B/
松丸無聲①145明43.A//
④200明43.A/
松宮春一郎①150明44.A//
④319大7.E/
松宮彌平④368大14.C/
④716[大5]/
松村→ 松村介石
松村介石①55明23.B/
①64明25.B/①65明25.C/
①65明25.C/①89明32.B/
①101明35.C/①102明35.C/
①104明36.B/①106明36.B/
①110明37.B/①112明37.B/
①211大8.C/①375昭9.B//
②190明25.B/②191明25.C/
②202明29.B/②204明30.C/
②216明35.C/②217明36.B/
②218明36.B//③49明25.B/
③50明25.C/③60明27.B/
③91明32.A/③105明34.B/
③111明35.B/③115明35.C//
④84明23.C/④92明25.B/
④92明25.C/④111明29.B/
④115明30.B/④116明30.C/
④123明32.B/④131明34.B/
④138明35.C/④139明35.C/
④143明36.B/④144明36.B/
④148明36.D/④286大5.B/
④700[明33,34]/④701[明34]/
④704[明治]/④727[大/昭]

④728[昭1]/④784[明30]/
松村一人②79昭14.B/
②83昭14.B//④584昭14.B/
④587昭14.B/
松村克己②42昭11.C/
②54昭12.B/②56昭12.B//
④467昭8.B/④468大8.B/
④509昭10.B/④549昭12.B/
④553昭12.B/④626昭16.A/
④770[昭16]/
松村三之助④604昭15.B/
松村精一郎④682[明12]/
④684[明14]/④685[明15]/
④689[明20]/
松村正一①135明41.B/
①136明41.B/①138明41.B/
①141明42.B/①195大6.B//
④132明34.B/④183明41.B/
④184明41.B/④185明41.B/
④216明44.B/④274大4.B/
松村翠濤②187明24.B/
松村武雄①215大9.B/
①215大9.B①222大10.B/
①229大11.B/①232大11.D/
①237大12.B/①266大15.B/
①275昭2.B/①287昭3.B/
①300昭4.B/①301昭4.B/
①304昭4.B/①314昭5.B/
①316昭5.B/①336昭6.D/
①344昭7.B/①347昭7.B/
①374昭9.B//②82昭14.B/
②93昭15.B/②105昭16.B/
②118昭17.B/②120昭17.B/
②141昭19.B/②147昭20.B/
②248大12.B/②260昭3.C/
②273昭7.B/②280昭9.B/
②281昭9.B//③159明44.B/
③220大11.D/③238昭2.B/
③244昭3.B/③279昭10.B/
③281昭10.B/③323昭18.B/
③328昭21//④263大3.B/
④280大4.D/④281大4.D/
④330大9.B/④337大10.B/
④377大15.B/④393昭2.C/
④412昭4.B/④461昭7.D/
④508昭10.B/④510昭10.B/
④511昭10.B/④728[昭1]/
④756[昭11]/④767[昭15]/
松村爲亮①43明20.C/
①45明20.G//④690[明20]/
松村敏夫④373大14.E/
松村任三②218明36.D/
②227明40.C//③21明16.G/
③22明17.G/③135明38.D//
④58明17.G/④66明19.F/
④710[明44]/
松邑孫吉④111明29.C/
松村松年③224大12.F//
④705[明39]/④707[明41]/
松村みね子①197大6.C//
②241大6.C/②242大7.C/
松村元綱④23[24940]/
松室重行④770[昭16]/
松室隆文③296昭13.B/
松本③247昭4.B//④445昭6.C/
松本厚②13昭10.B/②116昭16.F/
②129昭17.F/②132昭18.B//
③280昭10.B/③289昭12.B/
③306昭14.F/③325昭19.B/
松本雲舟(赳)①127明39.B//
②123昭17.C/②239大4.C//
③161明44.D/③162明44.D/
③192大4.C/③193大4.C/
③197大5.C/③199大5.D//
④184明41.B/④187明41.C/
④188明41.C/④197明42.C/
④210明43.D/④219明44.C/
④220明44.C/④221明44.C/
④238大1.D/④249大2.C/
④279大4.C/④280大4.C/
④294大5.C/④297大5.D/
④352大12.C/④649昭17.C/
松本一男①304昭4.B/
松本一成②258昭2.E/

松本勝喜代④753[昭10]/
松本教授 → 松本文三郎
松本苦味①188大5.B//
④318大7.D/④325大8.C/
④335大9.D/④353大12.C/
松本玉蘭④809[1-]/
松本君平①83明30.C/
①85明31.A/①97明34.C/
①138明41.C//②202明29.B/
②203明29.E/②206明31.C/
②213明34.C/②220明37.C//
③50明25.C//④164明38.D/
④671[明治]/④689[明治]/
④693[明24]/
松本圭亮②280昭8.G/
松本賢治④545昭12.A/
松本源二郎④72明21.B/
松本源太郎①75明27.D/
①77明28.D//②183明23.C//
③62明27.D//④103明27.D/
松本廣吉③216大10.D/
松本悟朗①172大3.B/
①228大11.B//④255大3.B/
松本定②255大15.E
松本貞夫④515昭10.C/
松本繁吉①246大13.C/
松本重治①355昭7.E/
松本重彦①199大6.F/
①305昭4.C//②46昭11.D//
④331大9.B/
松本七郎④577昭13.E/
松本正一②113昭16.E/
松本十堂 → 松本高太郎
松本丞治③187大3.E/
松本順[先生]①75明27.F/
①30明13.F/
松本潤一郎①324昭5.G/
①339昭6.D//④386大15.E/
松本信次④562昭12.E/
松本青石③210大8.D/
松本宗吉④385大15.D/
松本高太郎(十堂)④138明35.C/
④167明39.B/
松本卓夫②20昭10.C//
④392昭2.C/④407昭3.D/
④416昭4.C/④437昭6.A/
④445昭6.D/④470昭8.B/
④490昭9.C/④494昭9.C/
④512昭10.C/④515昭10.D/
④588昭14.C/④736[昭4]/
④797[昭3]/④801[昭9]/
④804[昭13]/④806[昭15]/
松本赳 → 松本雲舟
松元竹二①307昭4.D/
①370昭8.G//④500昭9.G/
④750[昭9]/④762[昭13]/
松本忠太郎④508昭10.B/
④509昭10.B/
松本貞一①27明11.E/
松本轍①132明40.B/
松本仁吉④783[明22]/
松本信廣①341昭7.A/
①383昭9.D//④418昭4.C/
④722[大11]/④753[昭10]/
松本博士 → 松本文三郎
松本彦次郎①165大2.C/
①166大2.C/①210大8.B/
①211大8.C/①224大10.C//
③176大2.C/③265昭7.C//
④249大2.C/④250大2.C/
④340大10.C/
松本風外①162大2.B/
①181大4.B/
松本不動①85明31.B/
松本文夫(雄)③138明39.B//
④248大2.C/
松本文則③250昭4.D//
④421昭4.D/
松本文學博士 → 松本文三郎
松本文三郎[博士、教授]
①72明26.E/①87明31.E/
①191大5.D/①205大7.D/
①206大7.D/①214大9.A/
①218大9.D/①220大10.A/

①231大11.C/①232大11.D//
②242大7.A/②243大7.D/
②245大9.D/②266昭5.D//
③54明26.B/③55明26.B/
③72明29.B/③81明30.B/
③105明34.B/③213大9.D/
③219大11.D/③255昭5.D//
④99明27.B/④100明27.B/
④114明30.B/④118明31.B/
④119明31.B/④122明32.B/
④126明33.B/④141明36.A/
④143明36.B/④177明40.B/
④294大5.D/④327大8.D/
④720[大9]/
松本文之丞②100昭15.D/
②112昭16.D//④540昭11.D/
松本正夫②12昭10.B/
②34昭11.B/②94昭15.B/
②105昭16.B/②132昭18.B//
④469昭8.B/④658昭18.B/
④670昭20.B/
松本仁吉①65明25.C/
松本益吉③180大3.B//
④160明38.B/④175明40.B/
④183明41.B/④241大2.B/
④304大6.B/④357大13.B/
松本又太郎②54昭12.B/
松本亦太郎①74明27.B/
①77明28.E/①104明36.B/
①105明36.B/①106明36.B/
①112明37.B/①184大4.D/
①253大14.B/①320昭5.D//
③119明36.B/③227大13.D//
④95明26.B/④100明27.B/
④103明27.D/④109明28.E/
④143明36.B/④144明36.B/
④158明38.B/④311大7.A/
④330大9.A/④504昭10.B/
④752[昭10]/
松本萬年①22明10.A/
松本巳義④430昭5.B/
松本義雄④484昭9.B/
松本芳夫①231大11.C/
①235大12.A/①240大12.C/
①243大13.A/①247大13.C/
①252大14.A/①271大15.D/
①325昭6.A/①365昭8.C//
④347大11.C/④472昭8.C/
④721[大11]/④725[大14]/
④727[昭1]/④731[昭3]/
④794[大12]/
松本芳景①342昭7.B/
松本良彦④736[昭4]/
松本良順①12［225］/
松屋友次①348昭7.C/
松山高吉①44明20.D//
④63明19.B/④248大2.C/
④727[昭1]/
松山厚三②131昭18.B/
②143昭19.C//④778[昭19]/
松山敏④727[昭1]/
松山思水①176大3.D/
①177大3.D//③187大3.D//
④267大3.D/
松山賤吉④736[昭4]/
松山武夫③298昭13.D//
④654昭17.F/
松山棟菴①16明7.C/①18明8.C/
①19明8.F/
松山文雄①320昭5.D/
眞流堅④643昭17.B/
馬奈木文助③156明43.C/
眞鍋嘉一郎①238大12.B/
眞鍋定造④85明23.G/
眞鍋義雄②63昭12.D/
眞野觀我①31明14.C/
眞野善一郎②144昭19.D//
④667昭19.D/④779[昭19]/
眞野紀太郎③221大12.A/
眞野秀雄①34明16.C//
③20明16.C/③23明18.C//
④685[明16]/
眞野文二④784[明27]/
馬淵茂①363昭8.C//④479昭8.E/

眞ふぢの舍主人④159明38.B/
黛三平④593昭14.D/
瑪理亞會④717[大6]/
丸川仁夫②73昭13.D//
③323昭18.B//④471昭8.C/
④761[昭13]/④805[昭14]/
丸山仁史①276昭2.B/
丸善（丸屋善七）①34明16.C/
①41明19.G//②237大2.G//
③17明13.F/
丸善株式會社④799[昭7]/
丸善出版④765[昭14]/
丸善店員④305大6.B/
丸田潤二郎②36昭11.B//
④530昭11.B/
丸田實④508昭10.B/
丸茂武重②133昭18.B/
丸屋善七 → 丸善
丸山岩吉①243大13.A/
①316昭5.B/
丸山國雄④741[昭6]/
④751[昭10]/④761[昭13]/
④771[昭16]/④776[昭18]/
丸山健策①122明38.D/
丸山小羊④241大2.B/
丸山俊明④597昭14.F/
丸山長渡④125明32.B/
丸山時夫④748[昭9]/
丸山通一①52明22.D//
④697[明29]/
丸山仁夫④525昭11.B/
④571昭13.C/④574昭13.D/
④576昭13.D/④583昭14.B/
④619昭15.E/④760[昭13]/
丸山眞男②76昭13.E/
②114昭16.E//④772[昭17]/
漫言子③42明24.A/
滿之 → 清澤滿之
［み］み、よ①69明26.B/
み、志生④103明27.C/
三浦 →三浦周行
三浦 →三浦新七
三浦一郎②87昭14.D/
②99昭15.D/②100昭15.D/
②101昭15.E/②110昭16.C/
②111昭16.D/②123昭17.C/
②132昭18.B/②142昭19.B//
③303昭14.C/③316昭16.C/
③324昭18.C//④592昭14.D/
④593昭14.D/④613昭15.C/
④617昭15.D/④620昭15.E/
④634昭16.D/④648昭17.C/
④657昭18.B/④666昭19.C
三浦逸雄②87昭14.D/
三浦吉兵衛①240大12.D//
③321昭17.D//④164明38.D//
④284大5.A/④297大5.D/
④328大8.G/
三浦けい子④92明25.C/
三浦圭三①293昭3.D/
三浦廣吉④485昭9.B/
三浦周行（三浦）①240大12.C/
①247大13.C/①257大14.C//
④398昭2.E/④431昭5.C/
三浦俊三郎④742[昭7]/
三浦新七（三浦）①260大14.E//
②32昭11.A/②48昭11.E//
③283昭11.A//④400昭3.A/
④417昭4.C/④504昭10.A/
④548昭12.A/④579昭14.A/
④757[昭12]/④764[昭14]/
④764[昭14]/
三浦生④459昭7.C/
三浦成作①257大14.C/
三浦關造④236明45.D/
④368大14.C/
三浦岱榮④663昭18.F/
三浦常夫①379昭9.C//
②45昭11.D/②56昭12.B/
②123昭17.C/
三浦貞治①327昭6.B/
①343昭7.B/
三浦藤作①221大10.B/

①244大13.B/①255大14.B/
①264大15.B/①266大15.B/
①300昭4.B/①301昭4.B/
①342昭7.B/①343昭7.B/
①378昭9.C//②21昭10.C//
④352大12.B/
三浦徹④60明18.D/
④73明21.C/④75明21.F/
④77明22.B/④116明30.C/
④155明37.D/④167明39.B/
④199明42.D/④202明43.B/
④370大14.D/
三浦哲郎①170大3.B/
三浦範之(三)①145明43.B//
③161明44.B//④169明39.B/
④215明44.B/
三浦梅園①7[70]/
三浦白砂①162大2.B/
三浦白水(郎)(はくすい、白水郎)
①130明40.B/①134明40.D/
①151明44.B/①164大2.B//
②225明 39.D/②227明40.D/
②228明41.B/②229明41.D/
②231明43.B/②233明45.B//
③115明35.D/③146明41.B/
③175大2.B/③184大3.B//
④140明35.D/④175明40.B/
④180明40.D/④215明44.B/
④244大2.B/④247大2.B/
④248大2.B/④262大3.B/
三浦梅園④23[24939]/
三浦英彦①286昭3.B/
三浦やう子③250昭4.D//
④421昭4.D/
三浦義方①28明12.D/
見尾勝馬①287昭3.B/
①293昭3.D/①302昭4.B//
③244昭3.B/
三尾邦三(春海熊藏)
①241大12.D/
三河尻長三郎④512昭10.C/
三神英子④197明42.C/
三上奥斯定(七十郎)
④693[明23]/
三上於菟吉③282昭10.D//
④512昭10.C/
御老末太②248大11.D/
三上參次[文學士]①52明22.C//
③40明23.B//④459昭7.C/
三上節造②277昭7.G//
④295大5.D/④296大5.D/
三上次男③316昭16.C/
三上文學士 → 三上參次
三上正毅①154明44.E//
③170明45.E//④674[明治]/
④711[明45]/④712[大2]/
三上七十郎(奥斬定)
④69明20.D/
三上義夫①283昭2.F/
①298昭3.F/①356昭7.F//
②139昭18.F/②232明44.B/
②232明44.C/②236大2.B/
②237大3.B//③188大3.F/
③196大5.B/③201大5.F/
③238大15.F//④141明35.F/
④166明38.F/④173明39.F/
④190明41.F/④20042.F/
④311大7.A/④318大7.D/
④328大8.F/④335大9.F/
④399昭2.F/④410昭3.F/
④713[大3]/④714[大4]/
④718[大7]/④746[昭8]/
④756[昭11]/④793[大11]/
三守守④104明27.F/
④109明28.F/④253大2.F/
④269大3.F/
三川通夫①302昭4.B/
箕城教會臨時謄寫部
④715[大4]/
三木鬼外②88昭14.D/
②284昭9.C/
三木清①224大10.C/

①254大14.B/①302昭4.B/
①304昭4.B/①306昭4.B/
①314昭5.B/①329昭6.B/
①335昭6.D/①353昭7.D/
①359昭8.B/①360昭8.B/
①362昭8.B/①365昭8.C/
①367昭8.D/①368昭8.E/
①376昭9.B//①11昭10.B/
②15昭10.B/②41昭11.B/
②46昭11.D/②52昭11.G/
②56昭12.B/②62昭12.D/
②69昭13.B/②70昭13.B/
②71昭13.B/②74昭13.D/
②79昭14.B/②81昭14.B/
②82昭14.B/②105昭16.B/
②107昭16.B/②148昭20.D
［不明］/②259昭3.A/
②266昭5.B/②269昭6.B//
③281昭10.B/③300昭13.E/
③314昭16.B//④365大14.B/
④366大14.B/④390昭2.B/
④402昭3.B/④413昭4.B/
④414昭4.B/④422昭4.E/
④428昭5.B/④442昭6.B/
④454昭7.B/④456昭7.C/
④469昭8.B/④474昭8.C/
④475昭8.C/④478昭8.D/
④485昭9.B/④529昭11.B/
④541昭11.D/④544昭11.G/
④630昭16.B/④640昭16.G/
④761[昭13]/
三木重長②90昭14.F/
②139昭18.F//④61明18.F/
④500昭9.F/④597昭14.F/
三木紫朗②254大15.B/
三木竹二（篤次郎）②188明24.D/
三木篤次郎 → 三木竹二
三木信近①74明27.C/
三木春雄①278昭2.C//
④392昭2.C/④405昭3.C/
三木露風①170大3.B/
①293昭3.D/①294昭3.D//
②148昭20.B［不明］//
④255大3.B/④357大13.B/
④375大15.B/④411昭4.A/
三木川清①24明10.C/
三喜田熊藏①223大10.B/
①292昭3.C//②121昭17.C/
②133昭18.C/②134昭18.C//
④539昭11.D/
御木本隆三①232大11.D/
①248大13.D/①269大15.D/
①327昭6.B/①329昭6.B/
①335昭6.D/①337昭6.D/
①342昭7.B//②46昭11.D/
②259昭3.B//③241昭2.D/
③257昭6.B/③266昭7.D//
④385大15.D/④437昭6.A/
彌堅外史②152明1.C/
②152明1.D//④27明1.D/
三雲祥之助③286昭11.D/
薇倉道人④77明22.B/
御子柴廣之④593昭14.D/
三坂泰夫②255大15.E/
岬北斗②217明35.E/
三崎嘯輔宣②152明2.F/
三澤力太郎③125明36.F/
③131明37.F/
三品薫④288大5.B/
三品彰英④529昭11.B/
三島敦雄④730[昭2]/
三島一雄①47明21.C/
三島彊④122明32.B/
④198明42.D/④699[明32]/
④705[明39]/④715[大4]/
④720[大10]/④725[大13]/
三島中洲①30明13.C/
①30明13.D//④39明13.B/
三島通良①41明19.F/
三島復①216大9.B/
三島良忠①39明19.B//
④62明19.B/
三須秀三②120昭17.B/
三隅貞吉④745[昭8]/

水川溫二①332昭6.C/
①363昭8.C//②109昭16.C//
④443昭6.C/④571昭13.C/
④647昭17.C/
水垣進③267昭7.E/
水木謙次郎④809[19-]/
水木梢④732[昭3]/
水澤郁①43明20.C/
水島浩平①238大12.B/
水島行揚④122明32.B/
④124明32.C/④130明34.B/
④132明34.C/④133明34.D/
④183明41.B/④202明43.B/
④219明44.C/
水島愼次郎④202明43.B/
水島正之④583昭14.B/
みすずのや（主人）③58明26.D/
③63明27.D/
水田明 → 野田卯一
水田恭太郎①301昭4.B/
①307昭4.D/
水田文雄①371昭9.A//
④481昭9.A/
水田文平①140明41.F/
水谷 → 水谷九郎
水谷九郎（水谷)②78昭13.G/
②104昭16.B//④629昭16.B/
④647昭17.C/
水谷鐵也①176大3.D/
①177大3.D/①205大7.D//
②258昭2.F//③185大3.D/
③186大3.D/
水谷秀雄②245大9.E/
水谷不倒（弓彦）①79明29.D/
①84明30.D/①102明35.D/
①211大8.D/①307昭4.D//
④326大8.D/④420昭4.D/
④629昭16.B/④719[大8]/
水谷守一③261昭6.D//
④435昭5.D/
水谷八重子④478昭8.D/
水谷弓彦 → 水谷不倒
水谷良一②249大12.E/
水野恭介④512昭10.C/
④598昭15.A/
水野康治①315昭5.B/
水野成夫④570昭13.B/
④577昭13.E//④629昭16.B/
水野清一④760[昭13]/
水野清太郎①270大15.D/
①281昭2.D/①295昭3.D/
①382昭9.D//④370大14.D/
④383大15.D/④396昭2.D/
④750[昭9]/④757[昭12]/
水野繁太郎①108明36.D/
①143明42.C//④139明35.D/
④402昭3.B/④786[明36]/
④787[明41]/
水野泰治④427昭5.B/
水野忠丸④117明30.E/
水野常吉①287昭3.B/
水野葉舟③223大12.D/
水野鉚子④252大2.D/
水野龍介④408昭3.D/
水野錬太郎④199明42.D/
水野和一①179大4.B/
①182大4.B//③157明43.D/
③191大4.B/③194大4.D//
④274大4.B/④277大4.B/
水原寛（鐵心）④26[25010]/
水原鐵心 → 水原寛
未成④250明45.C/
瑞穂主人①66明25.D/
水町清②265昭5.B/②268昭6.B/
水町龍男④640昭16.F/
三瀬周三(諸淵)④643昭17.B/
④656昭18.B/④657昭18.B/
④674[明2,明治]/
④774 [昭17]/
三瀬貞幹①23明10.C/
①24明10.C//④680[明10]/
三瀬諸淵 → 三瀬周三
溝上泰子④527昭11.B/
④550昭12.B/

溝口③220大11.D/
溝口悦次④233大1.C/
溝口駒造④737[昭5]/
溝口彈一④208明43.C/
④456昭7.C/
溝口靖夫④479昭8.E/
④480昭8.E/④601昭15.A/
④623昭16.A/④632昭16.B/
溝淵進馬①76明28.B/
三田史學會①364昭8.C/
三田利德④686[明17]/
④690[明20]/
箕田甲之④785[明36]/
三田元鑛④512昭10.C/
三田博雄④549昭12.B/
三田文學會④618昭15.D/
海岳散人①117明37.E/
三谷久太郎④97明26.C/
三谷耕作②129昭17.F//
④664昭18.F/
三谷昇二④748[昭9]/
三谷隆正(T.Mitani)①277昭2.B/
①281昭2.D/①302昭4.B/
①315昭5.B/①341昭7.A/
①376昭9.B//②28昭10.E/
②38昭11.B/②54昭12.B/
②55昭12.B/②94昭15.B/
②108昭16.B/②120昭17.B/
②127昭17.E/②139昭18.E/
②141昭19.B/②142昭19.B/
②263昭4.E//③273昭8.E/
③295昭13.B//④351大12.B/
④375大15.B/④389昭2.B/
④412昭4.B/④421昭4.E/
④450昭7.A/④453昭7.B/
④467昭8.B/④483昭9.B/
④485昭9.B/④518昭10.E/
④519昭10.E/④526昭11.B/
④548昭12.B/④602昭15.B/
④606昭15.B/④627昭16.B/
④645昭17.B/④719[大8]/
④731[昭2]/④735[昭4]/
④744[昭7]/④746[昭8]/
④756[昭11]/④759[昭12]/
④766[昭15]/④770[昭16]/
④773[昭17]/④774[昭18]/
④778[昭19]/④799[昭6]/
④809[昭19]/
三谷種吉④392昭2.C/
三谷民子③200大5.D/
三谷眞來④331大9.B/
三谷友三郎④295大5.D/
三田村熊之助(半學)④95明26.B/
三田村半學 → 三田村熊之助
三田谷啓②240大4.F/
(在英ケムブリッヂ大學)未知生
④62明19.A/
三井卯三男②108昭16.B/
三井浩[教授]①315昭5.B//
②13昭10.B/②106昭16.B/
②119昭17.B//③315昭16.B//
④427昭5.B/④643昭17.B/
三井教授 → 三井浩
三井甲之(甲之助)①163大2.B/
①180大4.B//④181明40.D/
④224大1.A/④293大5.C/
④483昭9.B/④510昭10.B/
④561昭12.E/
三井甲之助 → 三井甲之
滿井信太郎④147明36.D/
三井光彌①266大15.B/
①269大15.D//④382大15.D/
④460昭7.D/④462昭7.D/
三井高陽①277昭2.C//
②85昭14.C//④471昭8.C/
④476昭8.C/④545昭12.A/
④553昭12.C/④571昭13.C/
④572昭13.C/④588昭14.C/
④632昭16.C/
三井西面④40明14.B/
④45明15.B/④47明15.C/
三井信衛①244大13.B/
①268大15.C/
三井道郎②175明21.B/

②179明22.B/
三井北川③188大3.F/
三井三一郎③190大4.B/
三井芳太郎①163大2.B//
③171大2.B//④232大1.B/
④467昭8.B/④471昭8.B/
三石寅吉①73明27.B/
滿江巖②68昭13.A/
光岡安藝①129明39.E/
箕作 → 箕作元八
箕作佳吉②209明32.D//
③22明17.F/
箕作虔儒 → 箕作阮甫
箕作阮甫(虔儒, 痒西, 竹雨病人)
①9[143,145]/①10[158,163,166,173,178]/①11[]179,190]/①12[210]//②150[14504]//③157明43.C/
③161明44.C/③185大3.C//
④25[24992]/④220明44.C/
④672[嘉永]/④673[蔓延]/
④708[明43]/④714[大3]/
④780[嘉永4]/④780[萬延1]/
④781[元治1]/
④781[江戸期]/④781[明4]/
箕作作州④25[24990]/
④25[24991]/
箕作秋坪④48明15.D/
箕作省吾①10[162,164]//
④780[弘化1,2,4]/
箕作大六 → 菊池大麓
箕作竹雨病人→ 箕作阮甫
箕作元八①74明27.C/
①79明29.C/①90明32.C/
①91明32.C/①101明35.C/
①114明37.C/①116明37.D/
①133明40.C/①138明41.C/
①143明42.C/①147明43.C/
①148明43.C/①152明44.C/
①153明44.C/①154明44.F/
①157明45.C/①158明45.C/
①159明45.C/①160明45.F/
①165大2.C/①165大2.C/
①166大2.C/①174大3.C/
①175大3.C/①182大4.C/
①182大4.C/①183大4.C/
①190大5.C/①197大6.C/
①204大7.C/①210大8.C/
①211大8.C/①239大12.C/
①240大12.C/①256大14.C/
①317昭5.C/①334昭6.C//
②108昭16.C/②241大6.C/
②244大8.C/②252大14.C/
②274昭7.C/②278昭8.C//
③56明26.C/③74明29.C//
③75明29.C/③89明31.C/
③95明32.C/③102明33.C/
③113明35.C/③121明36.C/
③128明37.C/③147明41.C/
③161明44.C/③167明45.C/
③168明45.C/③176大2.C/
③184大3.C/③207大7.C/
③208大7.E/③220大11.E//
④96明26.B/④124明32.C/
④128明33.C/④135明35.A/
④145明36.C/④161明38.C/
④198明42.C/④201明43.A/
④209明43.C/④210明43.C/
④220明44.C/④221明44.C/
④235大1.C/④236大1.C/
④249大2.C/④250大2.C/
④263大3.C/④279大4.C/
④280大4.C/④291大5.C/
④298大5.F/④306大6.C/
④309大6.F/④310大7.A/
④317大7.C/④325大8.C/
④326大8.C/④333大9.C/
④353大12.C/④381大14.C/
④382大15.C/④393昭2.C/
④394昭2.C/④444昭6.C/
④458昭7.C/④616昭15.C/
④632昭16.C/
④674[江戸末期]/

④701[明35]/④704[明38]/
④708[明43]/
④673[明治]/④716[大5]/
④722[大11]/④723[大13]/
④785[明36]/④786[明37]/
④793[大10]/④804[昭13]/
箕作逢谷④28明4.C/
箕作麟祥［勸善訓蒙］①14明4.C/
①16明6.C/①17明7.C/
①17明7.E/①18明8.C/
①21明9.C//②153明4.C/
②154明6.B/②154明6.C/
②154明6.E/②155明6.E/
②205明30.D//③4明6.B/
③4明6.C/③4明6.E/
③7明8.E/③8明9.C//
④30明7.E/④37明12.E/
④674[明3]/④676[明6]/
④677[明7,8]/④678[明8]/
④704[明治]/④705[明40]/
④788[18-]/
満田源作②15昭10.B/
みつち④350大12.B/
三野來④361大13.D/
三留久雄①382昭9.D/
三巴漁人①197大6.C/
①198大6.D/①199大6.D/
三橋④788[明治期]/
三橋麻太郎①189大5.B/
三橋四郎①116明37.D/
①117明37.F/①259大14.D/
三橋直喜④797[昭3]/
三汊漁郎②190明25.B//
④73明21.C/
三本重長①369昭8.F/
①386昭9.F/
満谷國四郎④707[明41]/
三屋大五郎①64明25.B//
③48明25.B/③54明26.B/
三屋恕①146明43.B/
①147明43.B/①151明44.B/
①156明45.B/
水戸居直①67明25.F/
三土興三①241大12.D//
④357大13.B/
水戸彰孝舘④25[24978]/
水戸俊雄①238大12.B/
三戸壽①385昭9.E//②50昭11.E/
②65昭12.E/②66昭12.E/
②88昭14.E/②102昭15.E//
④519昭10.E/
三留虎雄④748[昭9]/
みどり①183大4.C//
②201明28.F//④154明37.C/
綠野散史 → 大戸敏
藥袋邦介①291昭3.C/
海内果③9明9.E/③10明9.E/
③11明10.B/③12明10.E/
③14明11.E/③15明12.B/
③15明12.C/③15明12.E/
③16明12.E/
南方熊楠①139明41.D/
①153明44.D//②30昭10.F/
②45昭11.D/②227明40.D/
②227明40.D/②227明40.F/
②228明41.C/②229明41.D/
②230明42.B/②231明43.B/
②232明44.B/②233明45.B/
②234明45.B/②234明45.B/
②236大2.B/②238大3.B/
②238大3.F/②239大4.B/
②239大4.D/②240大5.B/
②240大5.F/②241大6.B/
②242大6.F/②242大7.B/
②243大7.C/②243大8.B/
②244大8.F/②244大9.B/
②245大9.B/②246大10.B/
②246大10.C/②247大11.B/
②248大12.B/②249大12.B/
②251大14.B/②253大14.F/
②255大15.F/②256大15.F/
②259昭3.B/②264昭4.F/
②266昭5.B/②269昭6.B/
②272昭6.F/②274昭7.B/

②278昭8.B/②286昭9.D//
③145明40.F/③171大2.B/
③186大3.D/③189大4.B/
③195大5.B/③205大7.B//
④180明40.D/④496昭9.D/
④706[明41]/④710[明44]/
水上久太郎①139明41.C/
水上清亂①216大9.B//
③212大9.B/
水上瀧太郎①335昭6.D//
②238大3.D//③260昭6.D/
水上夕波①133明40.D//
②228明41.D/②231明43.D//
④147明36.D/
皆川梅子③255昭5.D//
④434昭5.D/
皆川圭一③204大6.D/
皆川眞禧(眞折、まさき)
①110明37.B/①112明37.B/
①119明38.B/①125明39.B//
④150明37.B/
南木生②180明22.C
皆田篤實(董花)④145明36.C/
④225大1.B/④292大5.C/
④712[大2]/
皆田董花 → 皆田篤實
湊謙治③201大6.B/③202大6.B//
④285大5.B/④300大6.B/
④301大6.B/④302大6.B/
④304大6.B/
湊川孟弼④427昭5.B/
南久太郎④479昭8.E/
南薫造①167大2.D//
③158明44.A/③249昭4.D//
④271大4.A/
南枝醇④686[明18]/
南亮三郎①282昭2.E/
①285昭3.B/①323昭5.E//
③285昭11.B/
三並良①87明31.C/①107明36.C/
①110明37.B/①143明42.C/
①145明42.F/①149明43.D/
①152明44.B/①157明45.B/
①164大2.B/①165大2.B/
①169大3.B/①171大3.B/
①172大3.B/①173大3.B/
①174大3.B/①174大3.B/
①196大6.B/①204大7.C/
①215大9.B/①264大15.B/
①266大15.B//②239大4.B/
②257昭2.B/②259昭3.B//
③130明37.D/③183大3.B/
③184大3.B/③202大6.B/
③205大7.B/③212大9.B/
③290昭12.B//④130明34.B/
④157明38.B/④176明40.B/
④179明40.D/④200明42.F/
④203明43.B/④215明44.B/
④227大1.B/④228明45.B/
④236大1.D/④246大2.B/
④251大2.D/④259大3.B/
④261大3.B/④262大3.B/
④279大4.C/④284大5.A/
④287大5.B/④301大6.B/
④694[明24]/④695[明25]/
④698[明31]/④699[明32]/
④700[明33]/④701[明35]/
④704[明38]/④706[明40]/
本南小柿洲吉④39明13.B/
南里有鄰(佐賀藩和學寮)
④673[安政]/
南滿洲鐵道株式會社東亞經濟調査局
②261昭3.G/②280昭8.G/
源綱紀③38明22.D/
源時信①299昭4.A/①306昭4.C/
源豐宗①269大15.D/
源秀飛①8[123]//④25[24975]/
④810[19-]/
源良澄④121明31.D/
源良英②232明44.B/
峯堅雅①156明45.B/
峰是三郎④109明29.B/
嶺田楓江④780[嘉永2]/

箕浦勝人①18明8.C/
蓑田胸喜②93昭15.B/
②115昭16.F//③299昭13.E//
④768[昭15]/
美濃部達吉①109明36.E//
②221明37.E/②227明40.E//
③251昭4.E/
峰是三郎③28明20.D/
峰(峯)岸治三①233大11.E/
①250大13.E/①369昭8.E/
①385昭9.E/①386昭9.E/
峯(峰)岸米造①90明32.C/
①91明32.C/①101明35.C//
③95明32.C/③102明33.C/
③121明36.C/③253昭5.C//
④124明32.C/④145明36.C/
④785[明36]/④792[大7]/
④794[大14]/
ミネノキヨシ④750[昭9]/
峯(峰)村光郎②28昭10.E//
④500昭9.E/
美濃口時次郎④399昭2.E/
蓑田胸喜④293大5.C/
④346大11.B/④347大11.C/
④367大14.B/④384大15.D/
④400昭3.A/④400昭3.B/
④403昭3.B/④412昭4.A/
④412昭4.B/④423昭4.E/
④426昭5.B/④427昭5.B/
④467昭8.B/④561昭12.E/
④566昭13.B/④601昭15.B/
④606昭15.B/④627昭16.B/
④637昭16.E/④659昭18.B/
④768[昭16]/
三原是眞①290昭3.C/
見馬勝馬③215大10.B/
耳野卯三郎④459昭7.D/
耳袋生④217明44.B/
三村清三郎④424昭5.A/
三村立人①249大13.E//
④697[明27]/④716[大4]/
宮規子④78明22.D/
宮入慶之助①311昭4.F/
宮川 → 宮川經輝
宮川菊芳①334昭6.C/
宮川經輝①68明26.B//
④36明12.B/④41明14.B/
④55明17.B/④74明21.D/
④86明24.B/④99明27.B/
④111明29.B/④144明36.B/
④145明36.C/④150明37.B/
④151明37.B/④152明37.B/
④153明37.C/④154明37.C/
④160明38.B/④169明39.B/
④171明39.D/④179明40.C/
④186命41.B/④187明41.C/
④196明42.B/④198明42.D/
④207明43.B/④208明43.C/
④218明44.B/④246大2.B/
④247大2.B/④260大3.B/
④261大3.B/④262大3.B/
④263大3.C/④265大3.C/
④272大4.B/④276大4.B/
④277大4.B/④278大4.C/
④289大5.B/④303大6.B/
④306大6.C/④316大7.B/
④322大8.B/④332大9.B/
④337大10.B/④339大10.B/
④532昭11.B/
宮川憲士③289昭12.B/
宮川巳作①101明35.C/
①102明35.C//②216明35.C//
③107明34.C/③112明35.B/
③113明35.C/③115明35.C/
③117明36.B/③120明 36.C/
③128明37.C/
③327明[不明]C//
④124明32.C/④138明35.C/
④178明40.C/④305大6.C/
④405昭3.C/④426昭5.B/
宮川貞一郎②47昭11.E/
②75昭13.E//④633昭16.C/
宮川鐵次郎①56明23.C/
①63明25.A/①71明26.D//

③47明25.A/
宮川孫次郎②178明22.B/
②179明22.B/②179明22.B/
宮川保全④70明20.D/
宮川善立②178明22.B/
宮城浩藏④70明20.E/
④79明22.E/
宮城春江③252昭5.B/
③328昭[不明]B/
宮城良造④472昭8.C/
④535昭11.C/
三宅 → 三宅雪嶺
三宅一郎②249大12.E/
三宅溫岳(謙吉)④142明36.B/
三宅驥一②79昭14.A//
④289大5.B/
三宅克己③323昭18.A//
④213明44.A/
三宅花塘④707[明42]/
三宅謙吉 → 三宅溫岳
三宅剛一①360昭8.B//
②93昭15.B/②107昭16.B/
②108昭16.B/②141昭19.B//
④578昭13.F/④586昭14.B/
④628昭16.B/④629昭16.B/
④631昭16.B/
三宅荒毅④50明16.B/
④82明23.B/④87明24.C/
④88明24.C/④90明25.B/
④91明25.B/
三宅幸治④561昭12.E/
三宅茂①270大15.D//
②90昭14.F/②95昭15.B/
②107昭16.B//③223大12.B/
③230大14.B/③234大15.B/
③314昭16.B//④628昭16.B/
三宅秀②196明26.E//
③64明27.F//④104明27.G/
三宅秀一④678[明9]/
④682[明11]/
三宅雪嶺(雄二[次]郎)[哲學狷滴]
①50明22.B/
①51明22.B/①55明23.B/
①56明23.C/①59明24.B/
①60明24.B/①63明25.B/
①64明25.B/①65明25.C/
①86明31.B/①89明32.B/
①131明40.B/①171大3.B/
①203大7.C//②170明19.B/
②176明21.C/②178明22.B/
②179明22.B/②183明23.B/
②187明24.B/②193明26.A/
②198明27.C/②205明31.B/
②224明39.B//③35明22.B/
③44明24.B/③80明30.B/
③87明31.B/③139明39.C/
③173大2.B/③181大3.B/
③253昭5.B/③271昭8.B/
③276昭9.B//④63明19.C/
④72明21.B/④76明22.B/
④80明23.B/④119明31.B/
④122明32.B/④126明33.B/
④131明34.B/④132明34.B/
④159明38.B/④174明40.A/
④207明43.C/④209明43.C/
④216明44.B④231大1.B/
④245大2.B/④260大3.B/
④313大3.B/④318大7.C/
④325大8.C/④345大11.B/
④428昭5.B/④455昭7.B/
④463昭7.E/④468昭8.B/
④510昭10.B/④530昭11.B/
④547昭12.A/④605昭15.B/
④690[明20]/④711[明45]/
④712[大2]/④742[昭7]/
④754[昭11]/④762[昭14]/
三宅泰三①47明21.C/
三宅禎一郎①134明40.F//
③141明39.F/
三宅政毅①63明25.B/
三宅實②255大15.D/
三宅雄次(二)郎 → 三宅雪嶺
三宅米吉①94明33.C//

②199明27.F//③51明25.C/
③101明33.C/③107明34.C/
③115明35.D/③203大6.C/
③253昭5.C/③254昭5.C//
④473昭8.C/④692[明23]/
④734[昭4]/
みや子②208明32.C/
都仙人①200大6.F/
都田恒太郎④732[昭3]/
④738[昭5]/
宮崎晃②93昭15.B/
宮崎市定①263大15.A//
④589昭14.C/④619昭15.D/
④636昭16.D/④747[昭9]/
④760[昭13]/④768[昭16]/
④795[19-]/
宮崎國嘉④37明12.C/
宮崎孝治郎④758[昭12]/
宮崎幸三②11昭10.B/
②104昭16.B/②107昭16.B//
④504昭10.B/
宮崎湖處子（湖處子、八百吉）
①60明24.C/①132明40.B//
②187明24.C/②191明25.C/
②191明25.D/②198明27.D//
③36明22.C/③52明25.D/
③62明27.D/③90明31.D//
③136明38.E/③138明39.B/
③145明40.D/③147明41.B/
③155明43.B/③157明43.C//
④93明25.D/④121明31.D/
④143明36.B/④175明40.B/
④183明41.B/④185明41.B/
④188明41.D/④197明42.C/
④204明43.B④207明43.C/
④302大6.B/④322大8.B/
④696[明26]/④705[明39]/
④706[明40]/④707[明42]/
④709[明43]/
宮崎小八郎④278大4.C/
④280大4.C/
宮崎晴瀾［瑣克拉的］
①68明26.B/①70明26.B/
宮崎三昧道③37明22.D/
宮崎錠太郎②184明23.C//
③41明23.C//④82明23.C/
宮崎虎之助①118明38.B/
①120明38.B//④178明40.C/
宮崎信彦①380昭9.C/
①386昭9.E//②121昭17.C/
②143昭19.C//④499昭9.E/
④510昭10.B/④518昭10.D/
④540昭11.D/④809[昭20]/
宮崎寬①326昭6.B//④455昭7.B/
宮崎道三郎①52明22.E/
①62明24.E/①72明26.E/
①168大2.E/①185大4.E/
①192大5.E/①199大6.E/
①249大13.E//②193明26.A//
③110明34.E/③194大4.E//
④283大4.E/④297大5.E/
④309大6.E/④422昭4.E/
宮崎道正②158昭11.F/
宮崎八百吉 →宮崎湖處子（湖處子）
宮崎友愛①265大15.B//
②94昭15.B//④648昭17.C/
宮崎力藏④327大8.E/
④719[大8,9]/
宮崎柳城④31明9.C/④782[明7]/
宮里正靜④[明7]/
宮澤俊義①311昭4.E/
①322昭5.E//②49昭11.E/
②67昭12.G/②76昭13.E/
②78昭13.G/②128昭17.E/
②258昭2.E/②267昭5.E//
③300昭13.G//④423昭4.E/
④436昭5.E/④579昭13.G/
宮澤六郎④391昭2.B/
宮地巖夫④263大3.C/
宮地猛男①132明40.B//
③143明40.B/
宮下孝吉②29昭10.E/

②49昭11.E/②84昭14.C/
②135昭18.C//④609昭15.C/
④659昭18.C/
宮下孝雄①241大12.D/
①280昭2.D/①294昭3.D/
①306昭4.C/
宮島克一①314昭5.B/
宮島貞克④476昭8.C/
宮島貞次④725[大14]/
宮島眞一①366昭8.D/
①367昭8.D//②118昭17.B/
②131昭18.B//③253昭5.B/
宮島新三郎①281昭2.D/
①307昭4.D/①351昭7.D/
①366昭8.D//②257昭2.C/
②278昭8.D//④724[大13]/
④728[昭1]/
宮島鋭夫①222大10.B//
③214大10.B/
宮島肇②60昭12.C/②70昭13.B/
②82昭14.B/②97昭15.C/
②107昭16.B/②136昭18.D//
③291昭12.C/③311昭15.D/
③323昭18.C//④779[昭20]/
宮島春松［フェネロン・哲烈禍福譚］」①28明12.D//
②257昭2.D//③237大15.D/
③244昭3.D//④34明11.D/
④515昭10.D/
宮田脩①100明35.B/
①111明37.B/①125明39.B/
①135明41.B/①137明41.B/
①186大5.A/①190大5.C/
①236大12.B//③155明43.B/
③184大3.C/③192大4.C/
③195大5.B//④204明43.B/
④258大3.B/④270大4.A/
④278大4.C/④292昭5.C/
④322大8.A/④530昭11.B/
宮田木佛②206明31.D/
宮田齏①280昭2.D/①321昭5.D//
④396昭2.D/
宮田幸 → 宮田幸一と訂正
宮田先年①116明37.E/
宮田幸一②99昭15.D/
②112昭16.D//④768[昭15,16]/
宮田十三③298昭13.D/
宮田忠男④162明38.C/
宮田南北④672[嘉永]/
宮田政④116明30.B/
宮武外骨②204明30.C/
②205明30.F//③241昭2.D//
④338大10.B/④344大11.B/
④349大11.B/④379大15.C/
④395昭2.D/
宮武正道④776[昭18]/
宮地君④401昭3.B/
宮地猛男④175明40.B/
宮地良治①75明27.G/
宮津榮太郎③206大7.B//
④314大7.B/
宮道馨①283昭2.F//④399昭2.F/
④597昭14.F/
宮西光雄②36昭11.B/
宮野ハルエ④435昭5.D/
宮原治②66昭12.F/
②104昭16.A//④760[昭12]/
宮原晃一郎①210大8.C/
①236大12.B//④344大11.B/
④350大12.A/④511昭10.B/
④548昭12.B/④733[昭3]/
宮部中學校③4明5.G/
宮村一之②120昭17.B/
②132昭18.B/
宮本①386昭9.E/
宮本淑①75明27.F//
④141明35.G/
宮本新太郎④366大14.B/
宮本（生） → 宮本和吉
宮本潮來①84明30.D/
宮本武之助④483昭9.B/
④489昭9.B/④526昭11.B/
宮本英雄①242大12.E/
宮本冬次④161明38.C/

宮本平九郎②185明23.D/
②192明25.D/②196明26.D/
宮本又次②66昭12.E/
②86昭14.C/②271昭6.E/
宮本仲④742[昭7]/
宮本和吉(生)①162大2.B/
①164大2.B/①165大2.B/
①171大3.B/①173大3.B/
①181大4.B/①187大5.B/
①188大5.B/①189大5.B/
①234大11.G/①251大13.G/
①377昭9.B//③165明45.B/
③166明45.B/③170明45.G/
③172大2.B/③174大2.B/
③181大3.B/③196大5.B/
③197大5.B//④159明38.B/
④171明39.C/④227大1.B/
④245大2.B/④288大5.B/
④324大8.B/④454昭7.B/
宮森京次④548昭12.B/
宮森麻太郎④384大15.D/
④408昭3.D/
三餘學寮②227明40.G/
三好愛吉②200明28.B/
三好十郎①269大15.D/
①307昭4.D//③236大15.D/
三好想山③294昭13.B/
三好朋十④494昭9.D/
三好甫④333大9.C/
三好文太①54明23.B/
①63明25.B/①64明25.B//
③40明23.B/
三好學②209明32.F/
三芳野亮順②232明44.B/
明神生④229大1.B/
明珍恒男④539昭11.D/
名利[博士]②185明23.E//
④689[明治]/　④672[明治]/
三輪桓一郎④109明28.F/
三輪源造④303大6.B/
三輪青谷④696[明26]/
三輪鶴松②189明24.E/
三輪德三①121明38.C//
③114明35.C/
三輪知雄③300昭13.G/
三輪文夫②13昭10.B/
三輪田元造④205明43.B/
④206明43.B/
三輪田元道④519昭10.E/
④536昭11.C/④569昭13.B/
三輪田眞佐子④192明42.B/
みをつくし → 上田敏
民聲社④274大4.B/
民友社①68明26.B/①174大3.B//
②182明23.B/②196明26.E/
②197明27.B//③61明27.B/
③75明29.C//④112明29.C/
④130明34.B/
[む]む、け生③95明32.C//
④124明32.C/
無位眞人②167明18.C/
無一生①73明27.B/
無烟外史①114明37.C/
向井章①234大11.E/①338昭6.E/
①354昭7.E/①355昭7.E//
②22昭10.C/②65昭12.E/
②286昭9.E/
向井英一①365昭8.C/
向軍治(次)③177大2.D//
④218明44.B/④295大5.D/
④306大6.C/
向井兼哲①10[155]/
向井元升①5[34]/
無懷子①11[187]/
夢廻家のあるじさむる
④88明24.D/
無何有生①80明29.D//
②203明29.D//③77明29.D/
無記庵③110明34.D/
無極生①152明44.B/①196大6.B/
無繫生③154明43.A/
無絃道人①57明23.D/
無口主人②154明6.C/
無黄道士③37明22.D/

無言道人→ 司馬江漢
武者五郎 → 磯部武者五郎
武者金吉④799[昭6]/
④802[昭10]/
武者小路實篤②32昭11.A/
②104昭16.A//③183大3.B/
③186大3.D/③278昭10.A/
③283昭11.A/③288昭12.A/
③293昭13.A/③316昭16.D/
③321昭17.D//④211明43.D/
④333大9.C/④379大15.C/
④522昭11.A/④545昭12.A/
④569昭13.B/④575昭13.D/
④636昭16.D/
武者小路實光①314昭5.B//
無盡藏(書)齋主人 → 渡部溫
無盡燈社③106明34.B/
無是公子①10[167]/
無聲迂人④107明28.B/
務臺理作②12昭10.B/
②14昭10.B/②15昭10.B/
②21昭10.C/②281昭9.B//
③290昭12.B/③324昭18.C//
④514昭10.C/④570昭13.B/
④779[昭20]/
牟田口亘④535昭11.C/
無適生①112明37.B/
①116明37.D/
夢蝶生②203明29.D/
無腸道人 → 磯野德三郎
陸奥宗光③19明15.E/
武藤勝彦②121昭17.C/
武藤金太②109昭16.C//
④650昭17.D/
武藤健④300大6.B/
武藤正平②73昭13.C/
武藤俊一④530昭11.B/
武藤醇吉①381昭9.C//
④539昭11.D/
武藤眞一①240大12.C/
武藤長藏③243昭3.B//
④716[大5]/④746[昭8]/
武藤貞一④801[昭9]/
武藤智雄①384昭9.E/
①385昭9.E//②28昭10.E/
②48昭11.E/②57昭12.B/
②65昭12.E/②76昭13.E/
②77昭13.E/②98昭15.C/
②138昭18.E/②253大14.E//
③276昭9.C/③283昭10.E/
③290昭12.C/③299昭13.E//
④493昭9.C/④499昭9.E/
④541昭11.E/④551昭12.B/
④613昭15.C/④753[昭10]/
④760[昭13]/④795[19-]/
武藤富雄④799[昭6]/
武藤直治②124昭17.D//
④342大10.D/
武藤長義①368昭8.E/
武藤壽④682[明12]/
武藤光朗②139昭18.E/
宗方三餘③21明17.B/
宗像誠也④476昭8.C/
棟方文雄④608昭15.B/
宗方文三②168明18.E/
霧南居士 → 菅了法
宗川保③202大6.B/
棟居(岐峯生)①58明23.E/
①59明24.B//④87明24.B/
棟近勇②258昭2.E/
無方子④188明41.C/
宗宮信次①310昭4.E/
無能生 → 黄城居士
無風生①174大3.C//③185大3.C/
無物庵主人②208明32.C/
無無無生④786[明40]/
無名子③103明33.D//
④707[明42]/
無名氏④307大6.D/
無名氏 → 植村正久
無名氏 → 上田敏
無名氏 → 島崎藤村
無名氏(森鷗外、大村西崖)
→森鷗外、大村西崖

無名氏 → 山川均
無名氏①98明34.E//
④306大6.C/
夢遊道人 → 山村才助
村敎三②64昭12.E/
村井觀亮④427昭5.B/
村井淸③9明9.D//④31明9.D/
村井順一郎④651昭17.D/
村井純之助④54明16.G/
④697[明29]/
村井生①111明37.B/
村井政助①26明11.C/
村井東仙④418昭4.C/
村井知至①86明31.B/
①90明32.B①171大3.B//
③180大3.B//④101明27.B/
④102明27.C/④103明27.D/
④108明28.C/④118明31.B/
④122明32.B/④215明44.B/
④255大3.B/④278大4.C/
④279大4.C/
村井樂地淸①68明26.B/
村井長平②81昭14.B/
村井道明④643昭17.B/
村井物來④313大7.B/
村尾昇一①249大13.E//
④372大14.D/④416昭4.C/
④426昭5.B/
村岡晢④519昭10.E/
④557昭12.C/④576昭13.D/
④613昭15.C/④614昭15.C/
④642昭17.A/④649昭17.C/
④758[昭12]/④775[昭18]/
村岡朝日②270昭6.D//
③260昭6.D//④434昭5.D/
村岡勇②62昭12.D/②86昭14.D//
④560昭12.D/
村岡一郎①366昭8.D/
村岡景夫②69昭13.B//
③297昭13.D/③301昭14.B//
④742[昭7]/④757[昭12]/
村岡玄②103昭15.G/
村岡省吾郎④346大11.B/
④356大13.B/
村岡たま③201大6.B/
村岡範爲馳①23明10.B/
①71明26.D//③58明26.D/
村岡述②15昭10.B/
村岡典嗣①294昭3.D//
②149昭36.[補遺]//
③190大4.B/③237大15.D//
④255大3.B/④276大4.B/
④315大7.B/④385大15.D/
④454昭7.B/④464昭7.F/
④738[昭5]/④778[昭19]/
村岡花子①365昭8.D//
②98昭15.D//④745[昭8]/
村上愛麿①34明16.C/
村上一郎③309昭15.C/
村上瑛子④35明11.G/
村上英俊(茂重, 義茂, 茂俊)
①11[196]/①12[213]/
①13明2.C/①14明3.C//
②205明30.D/②235明45.G//
③3[17491]/③3[17493]/
③291昭12.D//④26[24995]/
④61明18.G/④517昭10.D/
④672[安政]/④673[元治]/
④694[明24]/
村上越堂①296昭3.E/
村上治④392昭2.C/
村上外國語學校長④223明44.G/
村上寬逸①295昭3.D/
村上計二郎①256大14.C/
村上慈海③248昭4.B/
村上茂重 → 村上英俊
村上至孝②68昭13.A/
②133昭18.C/②135昭18.D/
②144昭19.C//④659昭18.C/
④661昭18.D/④666昭19.C/
村上靜人①198大6.D//
④268大3.D/④279大4.C/
④280大4.C/
村上司馬④74明21.D/

村上春一④161明38.C/
村上專精②190明25.B/
②222明38.B//③131明38.B/
村上忠敬①370昭8.G//
③325昭18.F//④747[昭8]/
④777[昭18]/
村上辰午郎①105明36.B/
村上直次郎①267大15.B/
①281昭2.D//③67明28.C/
③124明36.D/③195大4.G/
③240昭2.C//④108明28.C/
④173明40.A/④213明44.A/
④270大4.A/④283大4.G/
④383大15.D/④396大2.D/
④640昭17.A/④673[明治]/
④674[明治]/④697[明29]/
④702[明36,37]/④703[明37]/
④705[明39]/
村上南洋鐵（昇雲齋）
④674[明治初期]/
村上濱吉④558昭12.D/
④759[昭12]/
村上博輔④122明32.A/
④160明38.B/
村上福三郎①305昭4.C/
村上平一②273昭7.B/
村上茅海④165明38.E/
村上正雄①209大8.B//
④325大8.B/
村上明堂 → 村上義德
村上豐①208大8.A/
村上義德（明堂）①14明3.C/
村川 → 村川堅固
村川堅固［教授、博士、世界史進講?］
①90明32.C/①129明40.A/
①133明40.C/①135明41.A/
①138明41.C/①139明41.C/
①143明42.C/①148明43.C/
①165大2.C/①171大3.B/
①175大3.C/①182大4.C/
①190大5.C/①197大6.C/
①203大7.C/①204大7.C/
①206大7.E/①230大11.C/
①231大11.C/①247大13.C/
①251大13.F/①256大14.C/
①257大14.C/①274昭2.A/
①317昭5.C/①331昭6.C/
①334昭6.C/①371昭9.A//
②104昭16.A/②117昭17.A/
②133昭18.C/②143昭19.C/
②252大14.C/②260昭3.C/
②274昭7.C/②278昭8.C//
③139明39.C/③167明45.C/
③168明45.D/③184大3.C/
③188大3.F/③189大4.B/
③192大4.C/③194大4.F/
③195大5.A/③198大5.C/
③202大6.C/③207大7.C/
③216大10.C/③219大11.C/
③226大13.B/③249昭4.C/
③279昭10.A/③291昭12.C/
③327昭20.C//④188明41.C/
④187明41.C/④188明41.C/
④197明42.C/④198明42.C/
④206明43.B/④253大3.A/
④279大4.C/④294大5.C/
④305大6.C/④307大6.D/
④310大7.A/④326大8.C/
④347大11.C/④381大15.C/
④393昭2.C/④394昭2.C/
④445昭6.C/④458昭7.C/
④473昭8.C/④493昭9.C/
④522昭11.A/④609昭15.C/
④616昭15.C/④670昭20.C/
④672[明治]/④698[明30]/
④705[明39,40]/④786[明41]/
④788[明44]/④792[大4]/
④795[大15]/④800[昭8]
村川教授 → 村川堅固
村川堅太郎①289昭3.B/
①291昭3.C/①292昭3.C/
①297昭3.E/①306昭4.C/
①312昭5.A/①316昭5.B/

①317昭5.C/①319昭5.C/
①334昭6.C/①338昭6.E/
①349昭7.C/①355昭7.E/
①365昭8.C/①379昭9.C/
①386昭9.E//②20昭10.C/
②42昭11.C/②59昭12.C/
②60昭12.C/②73昭13.C/
②84昭14.C/②85昭14.C/
②88昭14.E/②89昭14.E/
②97昭15.C/②98昭15.C/
②100昭15.D/②101昭15.E/
②109昭16.C/②110昭16.C/
②121昭17.C/②122昭17.C/
②123昭17.C/②144昭19.C//
③244昭3.C/③248昭4.C/
③249昭4.C/③251昭4.E/
③254昭5.C/③256昭5.E/
③259昭6.C/③260昭6.C/
③261昭6.E/③267昭7.E/
③276昭9.C/③279昭10.A/
③282昭10.C/③283昭10.E/
③291昭12.C/③296昭13.C/
③310昭15.C/③323昭18.C/
③327昭19.F//④417昭4.C/
④431昭5.C/④472昭8.C/
④491昭9.C/④513昭10.C/
④514昭10.C/④554昭12.C/
④571昭13.C/④573昭13.C/
④589昭14.C/④590昭14.C/
④609昭15.C/④611昭15.C/
④620昭15.E/④632昭16.C/
④633昭16.C/④634昭16.C/
④646昭17.C/④647昭17.C/
④660昭18.C/④667昭19.C/
④744[昭7]/④771[昭16]/
④790[19-]/④799[昭6]/
④807[昭16]/

村川博士 → 村川堅固

村木經策④88明24.C/
村岸清彦④553昭12.B/
村越銘④70明20.D/
村崎義雄①147明43.B/
紫野賀一③310昭15.C/
村澤喜代人①195大6.B/
村島靖雄①256大14.C//
④794[大14]/
村勢秋夫④667昭19.C/
村瀬武比古①218大9.E/
①241大12.E/①260大14.E/
①309昭4.E/①355昭7.E//
③232大14.E//④355大12.E/
④373大14.E/④719[大9]/
村田生④393昭2.C/
村田岩次郎④473昭8.C/
村田數之亮(講師?)①277昭2.C/
①303昭4.B/①309昭4.D/
①338昭6.E/①348昭7.C/
①354昭7.E/①378昭9.C/
①379昭9.C//②62昭12.D/
②79昭14.A/②92昭15.A/
②98昭15.C/②98昭15.D/
②99昭15.D/②100昭15.D/
②104昭16.A/②105昭16.B/
②111昭16.D/②112昭16.D/
②117昭17.A/②119昭17.B/
②121昭17.C/②124昭17.D/
②125昭17.D/②134昭18.C/
②144昭19.D/②145昭19.D/
③311昭15.D/③319昭17.A/
③324昭18.C//④463昭7.E/
④513昭10.C/④592昭14.D/
④613昭15.C/④617昭15.D/
④618昭15.D/④619昭15.D/
④624昭16.A/④636昭16.D/
④645昭17.C/④646昭17.C/
④647昭17.C/④648昭17.C/
④651昭17.D/④659昭18.C/
④660昭18.C/④668昭19.D/
④771[昭17]/④801[昭9]/
④805[昭15]
村田奇禪③237大15.D/
村田潔②74昭13.D/②86昭14.D/
②124昭17.D/②125昭17.D/
②129昭17.F/②137昭18.D/

②144昭19.D/②145昭19.D//
③326昭19.D//④574昭13.D/
④668昭19.D/
村田講師(數之亮?)
②147昭20.B/
村田貞一②255大15.E/
村田重高①383昭9.D/
村田四郎①363昭8.C//
④348大11.D/④370大14.D/
④467昭8.B/④470昭8.B/
④471昭8.B/④532昭11.B/
④567昭13.B/④588昭14.C/
村田泰志②133昭18.C/
②147昭20.C/
村田尚志③4明7.C/
村田武雄②75昭13.D//
④595昭14.D/
村田勤(素軒逸史、素軒[學人])
①148明43.C//②183明23.B/
②232明44.C//③112明35.B/
③151明42.C/③156明43.C//
④76明22.B/④80明23.B/
④87明24.C/④88明24.C/
④92明25.C/④97明26.C/
④101明27.B/④102明27.B/
④114明30.B/④122明32.B/
④151明37.B/④191明42.B/
④196明42.B/④200明43.A/
④209明43.C/④235大1.C/
④300大6.B/④313大7.B/
④345大11.B/
村田豐秋①221大10.B/
①222大10.B//④344大11.B/
村田寛③8明9.B/③10明9.E/
村[邨]田文夫②153明5.F//
④674[明2]/④781[明7]/
村田平三郎④167明39.B/
村田良策①248大13.D/
①367昭8.D//②279昭8.D/
邨田良知①36明17.D/
村治能就③289昭12.B//
村野外牧④295大5.D/
村部元之助③12明10.E/
村松吉太郎④315大7.B/
村松經春④29明6.G/
村松繁樹④790[19-]/
村松梢風④618昭15.D/
村松恒一郎①331昭6.C//
②80昭14.B//③259昭6.C//
④411昭4.A/④740[昭6]/
④800[昭8]/
村松民治郎①173大3.B/
①181大4.B/
村松正俊①218大9.D/
①220大10.A/①223大10.B/
①229大11.B/①232大11.D/
①257大14.D/①258大14.D/
①274昭2.B/①278昭2.D/
①279昭2.D/①280昭2.D/
①286昭3.B/①287昭3.B/
①293昭3.D/①305昭4.B/
①320昭5.D/①321昭5.D/
①336昭6.D/①368昭8.E//
②43昭11.D/②46昭11.D/
②74昭13.D/②93昭15.B/
②117昭17.A//③230大14.C//
④345大11.B/④348大11.D/
④374大15.A/④395昭2.D/
④432昭5.D/④454昭7.B/
④474昭8.C/④498昭9.E/
④537昭11.D/④541昭11.D/
④576昭13.D/④604昭15.B/
④634昭16.D/④727[昭1]/
④733[昭3]/④777[昭19]/
村松守義④71明20.G/
村山①352昭7.D/
村山一郎④497昭9.D/
村山英太郎④743[昭7]/
村山淸②36昭11.B/
村山鄕太郎④125明32.D/
村山駒之助①66明25.D/
村上靜人④713[大3]/
村上俊吉④674[明治]/
村山知義①277昭2.C/

①305昭4.C//④740[昭6]/
④749[昭9]/
村山任情居士③41明23.C/
村山廣道④226大1.B/
村山文子①294昭3.D/
村山勇三①274昭2.B//
②84昭14.C//④609昭15.C/
④746[昭8]/
村山義行③16明12.F/
村山芳郎③308昭15.B/
室岡東洋③3[17493]/
室田小一郎③157明43.D/
室田充美①15明5.C//③6明8.C//
④30明8.A/
室伏高信①210大8.B/
①212大8.E/①213大8.E/
①296昭3.E//②33昭11.B//
③226大13.C//④438昭6.A/
④463昭7.E/
室谷謙次(治)郎①338昭6.E//
②75昭13.E/②88昭14.E//
④577昭13.E/
室山輝長④447昭6.D/
[め]鳴鶴 → 藤田茂吉
鳴鶴散人(藤田茂吉?)
②156明8.C/
鳴鶴山史 → 藤田茂吉
明治學院③39明23.A/
明治義塾③18明15.A/
明治史講座刊行會④741[昭6]/
明治大學出版部④239大1.G/
明治文化研究會③246昭4.A/
冥土の忠より③218大11.B/
瞑鵬隠士②230明42.E/
迷羊 → 佐藤迷羊
明覧小史④139明35.C/
④153明37.C/④161明38.C/
目加田種太郎④791[19-]/
巡政民②112昭16.D//
③275昭9.B/
目黒禧一②285昭9.C/
滅々子④101明27.B/
④102明27.B
滅々亭長④84明23.C/
[も]蒙阿生①64明25.B/
孟庵④150明37.B/
孟庵散士[ルモアヌ]
④132明34.C/④138明35.C/
眞岡湛海①84明31.A/
妄想子②191明25.C/
毛内千古④106明28.B/
④110明29.B/
毛剃九右衛門④318大7.D/
毛利福太郎③145明40.F/
毛利元就①134明40.D/
①139明41.D//③322昭17.D//
④188明41.D/④541昭11.D/
④705[明40]/④706[明40]/
毛利可久③188大3.G
盲浪子③64明27.D/
最上智之④446昭6.D/
最江漁史②192明25.E/
杢助③148明41.C/
藻鹽生④243大2.B/
望月桂林③88明31.C/
望月小三郎①83明30.C/
望月小太郎①86明31.B//
②180明22.D//③37明22.D/
③47明24.E/③65明28.B//
④79明22.D/④80明23.A/
望月常①81明29.F/
望月信成④790[19-]/
望月誠④781[明6]/
望月亮④782[明9]/
望月亮觀④111明29.C/
望月百合子④357大13.B/
④359大13.B/
物集高量①151明44.B/
物集高見④696[明27]/
茂木威一③282昭10.D/
茂手木元藏②101昭15.E/
②112昭16.D/②146昭20.A//
③289昭12.B/③294昭13.B/
茂手木丈一③261昭6.D/

茂木麟太郎④434昭5.D/
本位田祥男①273昭2.A/
①322昭5.E//③251昭4.E//
④386昭2.A/④436昭5.E/
④480昭8.E/④483昭9.B/
④561昭12.E/④621昭15.E/
④747[昭8]/
本内文次郎④107明28.C/
本尾小二郎③211大8.D//
④327大8.D/
(本居)宣長①294昭3.D//
④103明27.D/④778[昭19]/
本川惟敬④219明44.C/
本木榮之進④23[24942]/
本木正榮①8[112]//
④24[24966]/④24[24967]/
④24[24968]/④25[24972]/
本木莊左衛門②235明45.G/
本木昌造④26[25008]/
④673[蔓延]/
本木笑三①16明7.C/
木良永①6[66]/①7[69]//
②150[14481,14482]//
④23[24937]/④27[25023]/
④672[寛政]/
元木貞雄①52明22.D/
①95明33.D/①128明39.D/
①139明41.D//③46明24.D/
本崎瀧巳④453昭7.B/
元田 → 元田作之進
元田永孚④137明35.B/
元田作之進(元田)①135明41.B/
①136明41.B/①137明41.B/
①143明42.B//③147明41.B//
④120明31.B/④128明33.C/
④132明34.C/④169明39.B/
④186明41.B/④187明41.B/
④194明42.B/④229大1.B/
④241大2.B/④375大15.B/
④699[明31,32]/
④700[明33]/④704[明38]/
④713[大3]/④714[大4]/
④729[昭1]/
元田竹溪 → 元田彝
元田彝(竹溪)①12[217]/
元田直(南豐)①12[217]/
①26明11.C/①27明11.C/
元田傳①58明23.F/
元田南豐 → 元田直
本野(一郎)④320大7.E/
本宮彌兵衛④346大11.B/
④352大12.B/④357大13.B/
④361大13.C/④380大15.C/
④382大15.C/④602昭15.B/
本山桂三④740[昭6]/
本吉武之③82明30.C/
元良 → 元良勇次(二)郎
元良勇次(二)郎[博士]
①51明22.B/①55明23.B/
①60明24.B/①63明25.B/
①65明25.C/①73明27.B/
①83明30.C/①90明32.B/
①119明38.B/①136明41.B/
①146明43.B/①154明44.G//
②180明22.C/②182明23.B/
②187明24.B/②215明35.B/
②226明40.B/②228明41.B//
③40明23.B/③45明24.C/
③47明24.E/③49明25.B/
③50明25.B/③50明25.C/
③54明26.B/③55明26.B/
③64明27.E/③109明34.D/
③145明40.F/③151明42.B/
③170明45.G/③171大2.B//
④50明16.B/④51明16.B/
④74明21.C/④76明22.B/
④81明23.B/④86明24.B/
④92明25.C/④100明27.B/
④114明30.B/④125明32.E/
④137明35.B/④143明36.B/
④144明36.B/④196明42.B/
④198明42.C/④239大1.G/
④245大2.B/④253大2.G/
④699[明33]/④711[大1]/

元良博士 → 元良勇次(二)郎
物井常五郎④432昭5.C/
もみぢ①56明23.C/①57明23.D/
籾山仁三郎③161明44.D/
百島操(冷泉)①139明41.D//
④146明36.D/④179明40.D/
百島冷泉 → 百島操
百瀬轟③120明36.C/
百瀬二郎①226大10.E//
③233大15.B/
百田宗治③245昭3.D//
④437昭5.G/④739[昭5]/
桃太郎④664昭19.A/④738[昭5]/
森明④346大11.B/
森昭④629昭16.B/
森有正④583昭14.A/
森有禮①52明22.C//
③21明17.A//④29明6.B/
森雲心③126明37.B/
森鷗外 → 森林太郎
森皚峰 → 森晉太郎
森凱雄①226大10.E/
①233大11.E/
森馨①333昭6.C//②73昭13.C/
②84昭14.C/②88昭14.E//
③283昭11.A//④574昭13.C/
④589昭14.C/④596昭14.E/
森喜一④364大14.B/
森清②87昭14.D//③278昭9.D//
④593昭14.D/
森琴石④680[明10]/
森桂園①133明40.C/
森悟一④489昭9.B/
森宏一②11昭10.B/②15昭10.B/
②37昭11.B/②56昭12.B//
④484昭9.B/
森衡二郎②263昭4.E/
森五郎①304昭4.B/
森茂④742[昭7]/
森七郎①322昭5.D/
森儁郎②93昭15.B/②96昭15.B/
②136昭18.D//④145明36.C/
④154明37.C/④162明38.C/
④376大15.B/④537昭11.D/
④560昭12.D/④601昭15.B/
④602昭15.B/④604昭15.B/
森信三①265大15.B/①358昭8.B/
森晉太郎(皚峰)①113明37.C/
①115明37.C/①121明38.C/
①125明39.B/①128明39.C/
①143明42.C/①180大4.B//
②220明37.C/②222明38.C//
③128明37.C/③129明37.C/
③134明38.C/③137明39.B//
④154明37.C/④171明39.C/
森仙吉①33明15.E/
森銑三③294昭13.B/
③296昭13.D/③305昭14.D//
④399昭2.F/④577昭13.F/
④640昭16.F/
森信胤④807[昭16]/
森敬之①362昭8.B//
②274昭7.C/②277昭8.B//
④470昭8.B/④471昭8.B/
森健志②124昭17.D/
森斌④70明20.D/
森博士 → 森林太郎
森半吾①160明45.F/
森文三郎④340大10.C/
森前②252大14.C/
森雅子④439昭6.B/
森正俊②30昭10.F/
森優④764[昭和14]/
森瑞樹④573昭13.C/
森實④479昭8.E/④508昭10.B/
森優②29昭10.F/②50昭11.F/
森義宣②89昭14.E/②95昭15.B/
②100昭15.E/②101昭15.E/
②102昭15.E/②114昭16.E/
②139昭18.E/③306昭14.E//
④596昭14.E/④620昭15.E/
④621昭15.E/④638昭16.E/
④765[昭15]/

森義則④121明31.G/
④129明33.G/
森與重④522昭11.A/
④599昭15.A/
森林太郎(鷗外、鷗外漁史、無名氏、なにがし、ささの舎みどり、千八、臺麓學人、りんたろう)[博士、卽興詩人]
①52明22.D/
①53明22.F/①54明23.A/
①57明23.D/①62明24.D/
①66明25.D/①86明31.B/
①87明31.D/①91明32.D/
①94明33.C/①95明33.D/
①96明34.B/①97明34.B/
①98明34.C/①128明39.D/
①133明40.D/①135明41.B/
①146明43.B/①147明43.C/
①155明45.B/①156明45.B/
①162大2.B/①167大2.D/
①170大3.B/①171大3.B/
①184大4.D/①237大12.B/
①244大13.B/①343昭7.B/
①350昭7.D//②69昭13.B/
②80昭14.B/②181明22.D/
②182明23.A/②184明23.D/
②185明23.D/②187明24.C/
②188明24.D/②194明26.B/
②195明26.C/②195明26.D/
②196明26.D/②217明35.D/
②237大2.D/②238大3.D//
③35明22.B/③37明22.D/
③45明24.C/③46明24.D/
③52明25.D/③83明30.D/
③89明31.D/③96明32.D/
③97明32.D/③101明33.C/
③103明33.D/③104明33.D/
③109明34.D/③115明35.D/
③123明36.D/③125明36.F/
③168明45.D/③177大2.D/
③178大2.D/③179大2.D/
③186大3.D/③241昭2.D/
③291昭12.D/③328昭21//
④79明23.A/④88明24.C/
④93明25.D/④117明30.D/
④125明32.D/④134明34.D/
④136明35.B/④140明35.D/
④199明42.D/④202明43.B/
④250大2.D/④254大3.A/
④266大3.D/④267大3.D/
④309大6.D/④698[明31]/
④699[明31,33]/④701[明35]/
④704[明39]/④711[大1]/
森六郎③253昭5.B/
森井慶太郎②78昭13.F/
森内政昌②210明33.B/
森岡清之②260昭3.D/
②262昭4.D//③250昭4.D//
④421昭4.D/
森上哲太郎④476昭8.C/
森川一閑生①51明22.B/
森川憲之助①224大10.D/
森川智德①274昭2.B/
①288昭3.B//④391昭2.B/
森河博①332昭6.C//③261昭6.E//
④457昭7.C/
森川正雄④357大13.B/
森口繁一④520昭10.E/
森口繁治①199大6.E/
①206大7.E/①218大9.E//
④335大9.E/
森口多里①184大4.D/
①270大15.D/①280昭2.D/
①308昭4.D/①321昭5.D//
②45昭11.D/②47昭11.D/
②99昭15.D/②125昭17.D/
②126昭17.D//③200大5.D/
③208大7.D/③291昭12.D/
③299昭13.D/③316昭16.D//
④363大14.A/④538昭11.D/
④572昭13.C/④619昭15.D/
④650昭17.D//④667昭19.C/
④714[大3]/④723[大12]/

④726[大14]/④775[昭18]/
森下龜太郎④694[明25]/
森島二卽（桂川桂林）
②152［14534,14535］/
森島忠良（桂川甫粲［齋］）
①7［71,78］//②150［14485］//
④23[24944]/④24[24954]/
④672[寛政]/
④673[江戸末期]/
森島恒雄②90昭14.F/
②128昭17.F/②129昭17.F//
④598昭14.F/④623昭15.F/
④654昭17.F/④663昭18.F/
モリス誕生百年記念協會
④497昭9.D/
森田 → 森田鐵三郎
森田龜之助①294昭3.D/
①307昭4.D/①308昭4.D/
①309昭4.D/①312昭5.A/
①321昭5.D//②125昭17.D/
②263昭4.D//③157明43.D/
③250昭4.D/③291昭12.D/
③293昭13.A//④222明44.D/
④629昭16.B/
森田久万人①28明12.B/
①42明20.B/①69明26.B//
④36明12.B/④41明14.B/
④45明15.B/④67明20.B/
④④95明26.B/④106明28.B/
森田慶一①320昭5.D/
①334昭6.D/①337昭6.D/
①351昭7.D//②112昭16.D/
②135昭18.D/②145昭19.D//
④397昭2.D/④407昭3.D/
④419昭4.D/④481昭9.A/
④501昭10.A/④744[昭7]/
④802[昭9]/
森田洪④318大7.D/
森田幸吉③250昭4.D/
守田五郎④446昭6.D/
森田思軒（文藏、不語軒主人、
紅芍園主人、省庵居士、
大塊生、獨醒子、白蓮
庵主人、羊角山人、悾
々齋①43明20.D/
①44明20.D/①61明24.D/
①82明30.C/①95明34.A//
③47明24.E//④54明17.A/
④58明18.A/④65明19.D/
④70明20.D/④73明21.C/
④74明21.D/④78明22.D/
④88明24.D/④93明25.D/
④172明39.D/④515昭10.D/
④692[明23]/④785[明34]/
森田修作④723[大正]/
森田節齋①12［222］/
森田千庵④26[25005]/
森田草平①176大3.D/
①177大3.D/①281昭2.D/
①351昭7.D/①352昭7.D//
②275昭7.D//③186大3.D/
③193大4.D/③194大4.D/
③266昭7.D/③324昭18.D//
④267大3.D/④281大4.D/
④282大4.D/④310大6.G/
④319大7.D/④320大7.G/
④396昭2.D/④397昭2.D/
④419昭4.D/④434昭5.D/
④445昭6.D/④477昭8.D/
④713[大3]/④715[大4]/
④717[大5]/④738[昭5]/
④743[昭7]/
森田隆智①35明16.E/
森田千庵①11［195］/
森田鐵三郎①162大2.B/
④265大3.C//④197明42.C/
森田鐵次②22昭10.C/
森田俊彦②66昭12.F//
④760[昭12]/
森田寶丹①72明26.E/
森田直記②258昭2.E/
森田文藏 → 森田思軒
森田保留④47明15.C/
森田亮②176明21.B/

守田有秋①265大15.B//
④266大3.C/④375大15.B/
④714[大3]/④735[昭4]/
守田義廣②260昭3.D/
森瀧市郎①315昭5.B//
④427昭5.B/
守谷英次①287昭3.B/
森谷重次郎④38明13.A/
森谷延雄①241大12.D/
①258大14.D/①271大15.D/
守谷榮夫③228大14.A/
森近運平③148明41.E/
森戸辰男①189大5.B/
①233大11.E/①255大14.B/
①370昭8.G/②16昭10.B//
③193大4.D//④335大9.E/
④391昭2.B/
守永彌六④48明15.D/
④76明22.B/
森の子④277大4.B/
森村市佐衛門①171大3.B/
森本介石④41明14.B/
④72明21.B/
森本厚吉④329大9.A/
森本孝治①181大4.B//
③190大4.B/
森本駿②197明27.B/
森本生①113明37.B/
森本太助④781[明7]/
森本芳雄④484昭9.B/
④505昭10.B/④549昭12.B/
④602昭15.B/④628昭16.B/
④763[昭14]/④764[昭14]/
守谷荒美雄④793[大10]/
④799[昭6]/
守谷英次④401昭3.B/
④467昭8.B
守屋貫教②93昭15.B//
③161明44.D/③162明44.D/
③199大5.D/③229大14.B//
④297大5.D/
守屋謙二①336昭6.D/
①377昭9.B//②44昭11.D//
④420昭4.D/④489昭9.B/
④540昭11.D/④541昭11.D/
④750[昭9]/
森屋獻六①135明41.B/
守屋榮夫①183大4.C/
守谷美智雄④806[昭15]/
守屋善輝②267昭5.E/
守屋元々③118明36.B//
④143明36.B/
森安延衛④566昭13.B/
森安延衍④571昭13.B/
守宿捷④598昭14.G/
森山哲④498昭9.D/
森山英造④533昭11.B/
④554昭12.C/④759[昭12]/
森山啓②23昭10.D//③270昭8.B//
④510昭10.B/
森山君②226明40.B/
森山武市郎①261大14.E/
①272大15.E//④398昭2.E/
森山信規④104明27.E/
森吉義旭④639昭16.E/
森脇貞二①364昭8.C/
①380昭9.C//②21昭10.C/
②143昭19.C/
森脇白夜③194大4.D//
④219明44.C/
諸井清彦④650昭17.D/
兩角克夫②117昭17.A//
④660昭18.C/
諸星寅一①141明42.B/
①144明42.D//③152明42.D/
門外漢④140明35.D/
門内漢④162明38.C/
文覺上人①48明21.C/
文部省①14明4.G/①15明5.C/
①21明9.C/①29明12.F/
①29明13.B/①38明18.E//
④28明4.G/④38明13.B/
④72明21.B/④676[明7]/
④677[明8]/④682[明11]/

④683[明12]/④685[明16]/
④686[明17]/④781[明7]/
④782[明8]/
文部省(御)藏板(書目)
③8明9.C/③16明13.C//
④39明13.B/
文部省編輯局②163明16.E/
②174明20.G//④44明14.E/
門馬紫苑④352大12.C/
門馬直衛②23昭10.D/
②44昭11.D/②99昭15.D/
[や]箭内③219大11.C/
矢板竹二 → 林竹二
八尾直三郎②62昭12.D/
八百清顯①337昭6.D//
④462昭7.D/
矢追富夫④453昭7.B/
八尾直三郎④558昭12.D/
野外堂主人②188明24.D/
谷神②213明34.D/
矢川德光②90昭14.F/
八木一男④749[昭9]/
八木靜一郎②78昭13.F/
八木毅②126昭17.D/
八木日出雄①259大14.D/
野生司香雪③211大8.D/
柳下土興①16明6.G/
八木沼源八①207大7.F/
矢口茂雄④539昭11.D/
矢口達(透?) ①183大4.C/
①277昭2.C/①317昭5.C/
①332昭6.C//③187大3.D/
③194大4.D//④714[大3]/
亦無三學人 → 幸德秋水
八雲 → 小泉八雲
彌堅外史→鈴木唯一
矢崎彈[技術文化史]
②115昭16.F/②116昭16.F/
②123昭17.C//④654昭17.F/
④664昭18.F/
矢崎探美②196明26.D/
矢崎秀雄③280昭10.B/
矢崎美盛①360昭8.B//
③209大8.B//④377大15.B/
④388昭2.B/④428昭5.B/
④454昭7.B/④670昭20.D/
矢澤淨④618昭15.D/
谷澤武夫③237大15.D/
矢澤米三郎③116明35.F/
矢島音次①334昭6.C/
矢島錦藏①55明23.B/
①82明30.B/①86明31.B//
③72明29.B/③87明31.B/
矢島敬二④416昭4.C/
矢島玄四郎④682[明12]/
④701[明35]/④758[昭12]/
矢島象二④384大15.D/
矢島祐利②261昭3.E/
②264昭4.F//③268昭7.F//
④409昭3.E/④410昭3.F/
④448昭6.F/④529昭11.B/
④669昭19.F/④741[昭6]/
④771[昭16]/④773[昭17]/
④777[昭18]/④779[昭19]/
矢島半②129昭17.F/
矢島文雄①311昭4.F/
八島正雄①369昭8.F/
矢島嘉久④435昭7.B/
矢島羊吉②69昭13.B/
屋代健士②161明15.E/
八代代治③183大3.B/
八代斌助④471昭8.C/
④797[昭3]/④801[昭8]/
④804[昭13]/
矢代幸雄①196大6.C/
①218大9.D/①225大10.D/
①232大11.D/①263大15.A/
①279昭2.D/①325昭6.A/
①341昭7.A//②92昭15.A//
③207大7.D/③250昭4.D//
④252大2.D/④341大10.D/
④372大14.D/④397昭2.D/
④420昭4.D/④461昭7.D/
④771[昭16]/④779[昭20]/

ヤジロウ④600昭15.A/
④766[昭15]/
安井源治④665昭19.B/
安井小太郎①193大5.G//
④298大5.G/
安井琢磨③325昭18.E/
安井辰衛①163大2.B/
①174大3.B/①221大10.B//
③181大3.B/③183大3.B//
④257大3.B/④258大3.B/
安江仙弘④749[昭9]/
安岡正篤①342昭7.B/
①346昭7.B//④470昭8.B/
④737[昭5]/
安岡雄吉④68明20.C/
安川伊三①283昭2.F/
安川亨④43明14.D/④684[明14]/
安島健①236大12.B/
①244大13.B/
八杉貞利［文學士］
①335昭6.D//②116昭16.G/
②211明33.D/②214明34.D/
②214明35.A/②280昭8.G//
③306昭14.D//④133明34.D/
④134明34.D/
八杉文學士 → 八杉貞利
安田晃④522昭11.A/
安田一郎④517昭10.D/
安田倉三④70明20.D/
安田敬齋④680[明10]/
④782[明10]/
保田東潛②152明2.F/
安田德太郎②115昭16.F//
③318昭16.F//④639昭16.F/
④640昭16.F/
安田春夫②128昭17.F//
④654昭17.F/
保田久成④782[明9]/
安田良和③314昭16.B/
保田與重郎（井原左門）
①345昭7.B/①360昭8.B/
①366昭8.D/①375昭9.B/
①383昭9.D//②60昭12.C//
③278昭9.D/③291昭12.D//
④455昭7.B/④496昭9.D/
④497昭9.D/④531昭11.B/
④540昭11.D/④558昭12.D/
④576昭13.D/④652昭17.D/
安田裸花①269大15.D/
安田（若望）生④243大2.B/
安竹金治④736[昭4]/
安谷寬一④744[昭7]/
安永不二男④387昭2.A/
安成貞雄①163大2.B/
①177大3.D/①198大6.D//
③201大6.B/③204大6.D/
八住利雄②117昭17.A//
④661昭18.C/
八住俊雄④727[昭1]/
安原太郎④371大14.D/
安村善當③103明33.D/
安村義煌④643昭17.B/
(日本)耶蘇會④757[昭12]/
谷田閱次①375昭9.B//
③272昭8.D/③278昭9.D/
③282昭10.D/
谷田專治②116昭16.F/
矢田一男①338昭6.E/
①385昭9.E//②26昭10.E/
②28昭10.E/②47昭11.E/
②64昭12.E/②75昭13.E/
②77昭13.E/②88昭14.E/
②89昭14.E/②102昭15.E/
②127昭17.E/②253大14.E/
④765[昭14]/
矢田掘鴻④44明14.G/
④684[明14]/④686[明17]/
矢田俊隆②98昭15.C/
②133昭18.C//③299昭13.D//
④575昭13.D/④585昭14.B/
④608昭15.C/④613昭15.C/
矢田部助教授 → 矢田部達郎
矢田部達郎［助教授］

①307昭4.D/①309昭4.D//
②118昭17.B//③323昭18.B//
④627昭16.B/④809[昭19]/
矢田部良吉（尚今居士）
②172明19.G/②183明23.B//
③19明15.C/③36明22.C//
④58明17.G/
矢津昌永③38明22.F/
③82明30.C//④697[明29]/
④698[明30]/
谷津直秀①324昭5.F/
①356昭7.F//②241大6.C/
②242大7.A//③153明42.F//
④253大2.F/④655昭18.A/
八濱徳三郎④169明39.B/
彌富濱[破摩]雄④722[大11]/
④742[昭7]/
柳内蝦州④133明34.D/
柳井絅齋(碌太郎)④111明29.C/
柳井和助①243大13.A//
④344大11.B/④794[大13]/
矢内原忠雄①304昭4.B//
②106昭16.B/②131昭18.B//
④118明31.B/④561昭12.E/
④566昭13.B/④632昭16.C/
④767[昭15]/
柳河梅次郎①41明19.G/
柳川春三（尾張）①13明2.F//
②151［14528,14529］//
④25[24989]/④27[25014]/
④673[安政]/
柳川如安④585昭14.B/
柳川徳次（治）郎①315昭5.B/
①328昭6.B//②55昭12.B/
②70昭13.B//④496昭9.D/
柳川隆之介④264大3.C/
やなぎ①79明29.B/
柳茂安④136明35.B/
④153明37.C/④159明38.B/
④168明39.B/④173明39.F/
④176明40.B/④179明40.C/
④181明40.F/④184明41.B/
④193明42.B/④204明43.B/
④208明43.C/④210明43.D/
④221明44.D/④428昭5.B/
④673[明治]/④704[明39]/
柳舜三④560昭12.D/
柳宗悦①281昭2.D//
②119昭17.B/②125昭17.D//
③223大12.B//④353大12.C/
④398昭2.E/
柳祐信②176明21.B/
柳亮②62昭12.D//③298昭13.D//
④756[昭12]/④759[昭12]/
④762[昭13]/
柳澤（信大?）④49明15.G/
柳澤 → 柳澤健
柳澤英輔①189大5.B//
③191大4.B/
柳澤健［柳澤］①228大11.A/
①235大12.A//④209明43.C/
④350大12.A/④406昭3.C/
④412昭4.A/④482昭9.A/
④599昭15.A/④651昭17.D/
④754[昭11]/
柳澤しさつ①98明34.C/
柳澤愼之助①262大14.E/
柳澤泰爾①242大12.E/
①250大13.E/①261大14.E/
①271大15.E/①278昭2.C//
④385大15.E/④474昭8.C/
柳澤信大（柳澤?）①13明2.G//
③5明7.E/③18明14.G//
④28明2.G/④38明12.G/
柳澤仁志③273昭8.E/
③278昭9.D//④464昭7.E/
柳澤正樹②133昭18.C/
柳澤義男②101昭15.E/
②113昭16.E/②145昭19.E/
柳田泉①228大11.B/
①231大11.D/①236大12.B/
①256大14.C/①259大14.D/
①269大15.D/①279昭2.D/
①286昭3.B//②11昭10.B/

②23昭10.D/②25昭10.D/
②26昭10.D/②74昭13.D/
②86昭14.D/②99昭15.D/
②111昭16.D/②126昭17.D/
②146昭20.B/②247大11.A//
③208大7.D/③245昭3.D/
③291昭12.C/③298昭13.D/
③328昭［不明］D//
④34明11.D/④346大11.C/
④384大15.D/④385大15.D/
④395昭2.D/④467昭8.B/
④476昭8.C/④478昭8.D/
④497昭9.D/④515昭10.D/
④517昭10.D/④518昭10.D/
④530昭11.B/④539昭11.D/
④540昭11.D/④569昭13.B/
④576昭13.D/④627昭16.B/
④646昭17.C/④669昭20.B/
④733[昭3]/④753[昭10]/
柳田加藤次④795[大15]/
柳田國男（柳田君）①235大12.A//
②232明44.B/②234明45.B//
④400昭3.A/④451昭7.B/
④519昭10.E/④713[大3]/
④726[大14]/④738[昭5]/
④741[昭和]/
柳田君 → 柳田國男
柳田謙十郎②34昭11.B/
②70昭13.B/②105昭16.B/
②131昭18.B/②141昭19.B//
④567昭13.B/④586昭14.B/
柳原吉次①227大10.F/
①283昭2.F/①311昭4.F//
④190明41.F/④399昭2.F/
④423昭4.F/④771[昭17]/
柳原新一郎①51明22.C/
柳原豐太郎④75明21.E/
④79明22.E/
柳原政登①43明20.C/
柳原正義③239昭2.B/
柳原豐②184明23.C/
柳本知至④239大1.G/
柳谷武夫②46昭11.D/
②63昭12.D/②75昭13.D//
④657昭18.B/④665昭19.B/
柳瀬勁介②214明34.E/
梁瀬勝吾③65明28.B/
矢野一雄④421昭4.D/
矢野禾積 → 矢野峰人
矢野鶴藏①26明11.C/
矢野君 → 矢野龍溪
矢野貞雄④49明15.E/
矢野道也①165大2.C/
①280昭2.D//④392昭2.C/
④399昭2.F/
矢野葩痩①210大8.B/
矢野文雄 → 矢野龍溪
矢野仁一④329大9.A/
矢野峰人（禾積）①233大11.D/
①241大12.D/①248大13.D/
①249大13.D/①259大14.D/
①260大14.D/①308昭4.D//
②25昭10.D/②46昭11.D//
③326昭19.D//④371大14.D/
④433昭5.D/④447昭6.D/
④497昭9.D/④776[昭18]/
④779[昭20]/
矢野良曉④296大5.D/
矢野由次郎③30明21.B//
④96明26.B/
矢野龍溪（文雄、矢野君）［經國美談］①16明7.B/
①21明9.C/①34明16.A/
①34明16.D/①39明19.A/
①49明21.D/①57明23.D/
①124明39.A/①134明40.D/
①185大4.D/①294昭3.D/
①322昭5.D//②23昭10.D/
②169明19.A/②204明30.D/
②208明32.C/②271昭6.D/
②275昭7.D//③19明16.A/
③20明16.D/③22明17.D/
③23明18.D/③25明19.A/
③26明19.D/③63明27.D/

③68明28.D/③91明31.D/
③140明39.D/③157明43.D/
③161明44.C//④50明16.A/
④53明16.D/④60明18.D/
④62明19.A/④65明19.D/
④73明21.C/④80明23.B/
④82明23.B/④83明23.C/
④84明23.C/④84明23.D/
④85明23.D/④85明23.F/
④85明24.A/④113明29.E/
④148明36.E/④154明37.C/
④172明39.D/④180明40.D/
④517昭10.D/④676[明7]/
④693[明24]/
矢野目源一①243大13.A/
①253大14.B/①258大14.D/
①268大15.C/①305昭4.C//
③248昭4.C/
③328昭［不明］C//
④358大13.B/④371大14.D/
④416昭4.C/
彌彦④705[明39]/
矢橋譲吉④493昭9.C/
八濱掬泉①98明34.C/
八濱督郎④123明32.B/
矢作榮藏①177大3.E/
八尋華亭①105明36.B/
八尋正也④513昭10.C/
藪内清②128昭17.F//
藪内靜雄②270昭6.D/
矢吹慶輝③209大8.B/
③212大9.B/
藪野椋十④191明42.A/
④708[明43]/④714[大4]/
矢部五洲②184明23.C/
②185明23.D//④85明23.E/
④89明24.D/
矢部周藏②20昭10.C/
矢部貞治②89昭14.E/
矢間久智④371大14.D/
山内 → 山内得立
山内員川④64明19.C/
山内光二④548昭12.A/
山内晉④96明26.B/④114明30.B/
山内晉卿④89明24.D/
山内常太④196明42.B/
山内德三郎 → 作樂戸痴鶯
山内得立(山内)①276昭2.B/
①303昭4.B/①329昭6.B/
①344昭7.B/①359昭8.B/
①374昭9.B//②13昭10.B/
②80昭14.B/②81昭14.B/
②82昭14.B/②83昭14.B/
②94昭15.B/②105昭16.B/
②119昭17.B/②121昭17.C/
②132昭18.B/②141昭19.B/
②142昭19.B/②147昭20.B/
②282昭9.B//③243昭3.B/
③248昭4.B/③326昭19.B//
④374大15.A/④413昭4.B/
④416昭4.B/④427昭5.B/
④430昭5.B/④438昭6.A/
④453昭7.B/④454昭7.B/
④467昭8.B/④486昭9.B/
④551昭12.B/④587昭14.B/
④647昭17.C/④665昭19.B/
④670昭20.B/④798[昭5]/
山内俊雄②131昭18.B/
②274昭7.C//④459昭7.C/
山内朝資①224大10.D/
山内房吉②117昭17.A//
③285昭11.B//④640昭17.A/
山内文太郎①54明23.B/
山内政男④511昭10.B/
山内正瞭①114明37.C/
山内正道①82明30.B//
④114明30.B/
山内芳雄(夫)②74昭13.D/
②87昭14.D/
山内義雄②277昭8.B//
④776[昭18]/
山内義俊③4明6.B/
山岡新②86昭14.D/
山岡望①283昭2.F/

山岡要人④408昭3.D/
山岡龍次②258昭2.E/
山岡亮一②142昭19.C/
山鹿生 → 山口鹿三
山鹿旗之進④132明34.C/
④188明41.D/
山鹿義教④320大7.E/
④328大8.E/
山縣五十雄(蠡湖漁史)
①106明36.C/①107明36.C/
①129明39.E//②218明36.C//
③115明35.D//④145明36.C/
④146明36.C/④161明38.C/
山縣雄社三④210明43.D/
④219明44.C/
山縣昌藏④473昭8.C/
④673[明治]/④703[明37]/
山縣武夫②122昭17.C/
山縣悌三郎①42明20.B//
③27明20.B/③29明20.F/
③164明45.B/③167明45.B//
④228大1.B/④233大1.B/
山縣天主教會④456昭7.C/
山形東根④391昭2.B/
山縣(有朋)伯③41明23.C/
山上正太郎②134昭18.C//
③322昭17.D/③326昭19.C//
④648昭17.C/④659昭18.C/
山上德信①277昭2.C/
①311昭4.F//②84昭14.C//
④394昭2.C/④405昭3.C/
山上萬次郎①138明41.C//
④178明40.C/④783[明26]/
④785[明34]/④787[明42]/
④789[1-]/④793[大11]/
山川健一郎③16明12.E/
山川健次郎②177明21.F/
山川大平④509昭10.B/
山川智應④156明38.A/
山川敏夫②121昭17.C/
②134昭18.C//④646昭17.C/
④660昭18.C/
山川均(無名氏)①189大5.B/
①212大8.E/①219大9.E//
③208大7.E/③211大8.E/
③230大14.C/③256昭5.E/
③282昭10.E/③292昭12.F//
④543昭11.F/
山川丙三郎①176大3.D/
①181大4.B/①199大6.D/
①225大10.D//③194大4.D//
④268大3.D/④272大4.B/
④280大4.D/④307大6.D/
④308大6.D/④341大10.D/
④421昭4.D/④485昭9.B/
④717[大6]/④722[大11]/
④735[昭4]/④791[19-]/
山川幸雄④705[明39]/
④708[明42]/
山川義弘③198大5.C/
山岸荷華④156明37.D/
山岸外史②265昭5.B//
③252昭5.B/③316昭16.D//
④571昭13.C/④804[昭13]/
④806[昭16]/
山岸求園③135明38.D/
山岸辰藏②37昭11.B/
山岸博士 → 山岸光宣
山岸光宣[博士]①226大10.D/
①241大12.D/①259大14.D/
①271大15.D/①353昭7.D//
②112昭16.D/②248大11.D//
③200大5.D/③228大13.D/
③231大14.D/③236大15.D/
③298昭13.D//④164明38.D/
④240大2.A/④250大2.D/
④254大3.A/④308大6.D/
④310大7.A/④361大13.D/
④362大13.D/④372大14.D/
④382大15.D/④383大15.D/
④395昭2.D/④462昭7.D/
④478昭8.D/④517昭10.D/
④537昭11.D/④544昭11.G/
④560昭12.D/④594昭14.D/

④595昭14.D/④599昭15.A/
④618昭15.D/④635昭16.D/
④716[大5]/④724[大13]/
④731[昭2]/④738[昭5]/
④757[昭12]/④764[昭14]/
④765[昭15]/
山岸藪鶯①83明30.C/
山北多喜彦④448昭6.E/
山極眞樹①286昭3.B/
①362昭8.B/
山極靖①382昭9.D//
②111昭16.D//③237大15.D/
山口 → 山口金作
山口麻太郎①382昭9.D//
④747[昭9]/
山口寒生④115明30.B/
④116明30.C/
山口清光④324大8.B/
山口金作(山口)④130明34.B/
④225大1.A/④248大2.C/
④264大3.C/④357大13.B/
④361大13.C/④375大15.A/
④382大15.C/④385大15.D/
④391昭2.B/④394昭2.C/
④395昭2.C/④403昭3.B/
④404昭3.B/④407昭3.C/
④421昭4.D/④553昭12.B/
④797[昭4]/
山口經濟專門學校④778[昭19]/
山口講師①199大6.D/
山口孤劍①211大8.C//
②243大8.B//③203大6.C//
④165明38.E/
山口虎太郎①54明23.B//
②185明23.D/
山口小太郎①171大3.B//
②181明22.D//③38明22.D//
④79明22.D/④285大5.B/
④291大5.B/
山口左門①243大13.A/
山口鹿三[山口鹿三生、山鹿生]
④192明42.B/④204明43.B/
④209明43.C/④210明43.D/
④253大2.E/④257大3.B/
④287大5.B/④331大9.B/
④332大9.B/④334大9.C/
④338大10.B/④381大15.C/
④442昭6.B/④477昭8.D/
④580昭14.A/④629昭16.B/
④657昭18.B/④662昭18.D/
山口鹿三生 → 山口鹿三
山口繁雄①322昭5.D/
山口正太郎①249大13.E/
①339昭6.D/①368昭8.E/
①386昭9.E//②28昭10.E/
②276昭7.E//④355大12.E/
④367大14.B/④422昭4.E/
④734[昭3]/
山口生④181明40.D/
④192明42.B/
山口静一④691[明21]/
山口爲範④419昭4.D/
山口武美④448昭6.D/
④477昭8.D/④518昭10.D/
山口沖天②230明42.F/
山口恒七④683[明13]/
山口東軒①126明39.B/
①126明39.B/
山口藤五郎①111明37.B/
山口昇③216大10.C//
④336大10.A/
山口武美④745[昭8]/
山口德夫④456昭7.C/
④744[昭7]/
山口德藏④459昭7.C/
山口等樹①360昭8.B/
①377昭9.B//②68昭13.A//
④403昭3.B/④751[昭10]/
山口秀高②192明25.D/
②222明 38.C/
山口均①195大6.B/
山口松次郎④679[明9]/
山口松五郎①33明15.E/
山口造酒②227明40.G/

山口諭(喩)助②120昭17.B//
③234大15.B/③264昭7.B//
④599昭15.A/
山崎 → 山崎八郎
山崎爲德①31明14.B//
④36明12.B/
山崎宇治彦③232大14.G/
山崎學士④298大5.E/
山崎喜代③250昭4.D/
山崎教授 → 山崎(早大教授)
山崎謹一郎①375昭9.B/
山崎謙①358昭8.B//②23昭10.D/
②81昭14.B/②83昭14.B/
②269昭6.B/②277昭8.B//
④746[昭8]/
山崎兼次郎①112明37.B/
山崎省吾④635昭16.D/
山崎生③180大3.B/
山崎佐①348昭7.C//②239大4.C/
山崎貞①320昭5.D//
④203明43.B/④211明43.D/
④224大1.A/
山崎(早大教授)②235大2.A//
④435昭5.E/
山崎三郎②90昭14.F/
②102昭15.F//④622昭15.F/
④805[昭14]/
山崎正一②147昭20.B/
山崎壽春①169大3.B/
山崎太吉④82明23.B/
山崎忠雄④431昭5.C/
山崎俊彦①150明44.A/
山崎朋子④719[大8]/
山崎直方①158明45.C//
②241大6.C//④696[明27]/
④701[明35]/④786[明39]/
④792[大3]/④792[大8]/
④793[大10]/④795[大15]/
④797[昭3]/
山崎直三①163大2.B//
③196大5.B//④240大2.A/
④249大2.C/④254大3.A/
④268大3.D/
山崎昇②141昭19.A/
山崎八郎(山崎)②93昭15.B/
②96昭15.B//④601昭15.B/
④602昭15.B/④604昭15.B/
山崎久太郎③7明9.B/
山崎彦八③81明30.B/
山崎宏②54昭12.B/
山崎祐久①369昭8.F/
山崎某④35明11.E/
山崎光子①247大13.D/
①258大14.D/
山崎宗直③298昭13.D//
④569昭13.B/
山崎義藏④616昭15.C/
山崎美成④25[24976]/
④780[嘉永3]/
山崎良平④164明38.D/
山澤俊夫④674[明治]/
④704[明治]・
山路愛山(彌吉、愛山、愛山生、愛山逸民)
①61明24.C/①86明31.B/
①91明32.C/①126明39.B/
①146明43.B/①186大5.A/
①187大5.B/①190大5.C/
①195大6.B//②192明25.E/
②195明26.D/②205明31.A//
③87明31.B//④111明29.B/
④134明34.D/④148明36.E/
④159明38.B/④162明38.C/
④294大5.C/④473昭8.C/
④705[明39]/④710[明44]/
山路影常④780[安政2]/
山路鎭男①206大7.E/
①212大8.E//③221大11.E//
④349大11.E/
山路彌吉 → 山路愛山
山成哲造③38明22.E/
山下石翁①51明22.B/

①62明24.D/
山下一二①147明43.B/
山下寛次④149明37.A/
山下教授④503昭10.A/
山下攻珠璃 → 山下芳一
山下新太郎④326大8.C/
山下生②73昭13.C//
③222大12.B/
山下太郎③309昭15.B/
山下寅次①127明39.C/
①133明40.C//③130明37.D/
山下仲次郎④120明31.C/
山下破鏡(鐘?)②220明37.D/
②223明38.D//③130明37.D/
山下破鐘(鏡?)①128明39.D/
山下八郎③19明15.E/
山下祥光④291大5.C/
山下昌邦④35明11.G/
山下昌孝①365昭8.C//
④557昭12.C/④560昭12.D/
④745[昭8]/
山下芳一(攻珠璃)①249大13.E//
②261昭3.E/
山下亮一④435昭5.E/
山科言繼④670[大永]/
④713[大3]/
山瀬佳太郎②158明11.B/
山田②36昭11.B/
山田郁子 → 山田枯柳
山田郁治 → 松湖漁史
山田郁次④62明19.A/
山田意齋④672[嘉永]/
山田伊三郎①102明35.D/
①130明40.B/①135明41.A//
④139明35.D/④175明40.B/
山田嘉吉①184大4.D/
①192大5.D/①196大6.B/
山田毅一④793[大9]/
山田久六郎①146明43.B/
①151明44.B/
山田欽一④664昭18.F/
山田金作④360大13.B/
山田藏太郎④142明36.B/
山田九朗④663昭18.D/
山田研一①65明25.C//
④70明20.D/
山田憲太郎④667昭19.C/
山田貢一郎②153明5.F/
山田幸三郎③242昭2.F//
④404昭3.B/④802[昭11]/
山田甲太郎④677[明8]/
山田枯柳(豐彦、山田郁子)
①66明25.D/①176大3.D//
③104明33.D/③106明34.B/
③112明35.B/③117明36.B/
③126明37.B/③186大3.D/
③187大3.D//④129明33.D/
④268大3.D/
Yamada,S.④744[昭7]/
④748[昭9]/
山田榮①288昭3.B/
山田坂仁②115昭16.F//
山田三良①261大14.E/
①354昭7.E/
山田重助②16昭10.B/
山田篠子①147明43.C/
山田潤二②13昭10.B/
②135昭18.D/②137昭18.D//
④662昭18.D/
山田準次郎④414昭4.B/
④423昭4.F/
山田準之助③248昭4.B/
山田申太郎④681[明11]/
④683[明13]/④782[明13]/
山田生④465昭7.G/
山田節三②66昭12.F/
山田惣七④733[昭3]/
④800[昭7]/
山田孝道②213明34.C/
山田武太郎 → 美妙齋主人
山田武吉③268昭7.F/
山田珠樹①336昭6.D//
②45昭11.D/②251大13.D//
③311昭15.D//④359大13.B/

山田保①118明38.B/
山田停雲①153明44.D/
山田奠南②220明 37.D/
山田都一郎③38明22.D//
④144明36.B/④145明36.C/
山田基男④457昭7.C/
山田智三郎②98昭15.D/
②136昭18.D/
山田豐彦 → 山田枯柳
山田寅次郎④221明44.D/
山田寅太郎④76明22.B/
山田寅(虎)之助①46明21.B/
①59明24.B//④72明21.B/
④97明26.C/④111明29.C/
④182明41.A/④183明41.A/
④236大1.C/④360大13.C/
④369大14.C/
山田肇④662昭18.D/
山田秀人①248大13.D/
山田美妙 → 美妙齋主人
山田昌邦③14明11.G//
④675[明5]/④682[明11]/
山田正司②105昭16.B//
④809[昭20]/
山田昌司②275昭7.D//
③266昭7.D/
山田萬太郎①44明20.F//
③42明23.F/
山田禎三郎［新教育史］
③92明32.B/③94明32.B/
山田保治④765[昭14]/
山田保雄①203大7.B/
山田義直④388昭2.A/
山田喜之助①35明16.E//
②159昭14.D/②167明18.C//
③39明23.B/③40明23.B/
山田孝雄④774[昭18]/
山田吉彦①332昭6.C//
④599昭15.A/
山田好文②63昭12.D/
山田聯④754[昭11]/
大和彰言②277昭8.B/
大和喜眞太④394昭2.C/
大和資雄①352昭7.D//
②145昭19.D//④779[昭20]/
④802[昭10]/
山名英次郎④783[明20]/
山名邦治①262大14.F/
山名次郎③44明24.B/
山名文夫③222大12.B/
山中［學士、講師?］③215大10.C/
山中巖彦④629昭16.B/
④657昭18.B/
山中英次郎④783[明20]/
山中經②20昭10.C/
山中謙二［講師］①210大8.C/
①268大15.C/①278昭2.C//
②23昭10.C/②45昭11.D//
③235大15.B/③237大15.D/
③253昭5.C/③279昭10.A/
③286昭11.C/③309昭15.C/
③327昭20.C//④293大5.C/
④325大8.C/④340大10.C/
④392昭2.C/④393昭2.C/
④394昭2.C/④430昭5.C/
④431昭5.C/④459昭7.C/
④513昭10.C/④804[昭12]/
山中古洞③286昭11.D/
山中貞義①266大15.B/
①276昭2.B//④390昭2.B/
山中笑④31明9.C/
山中商會④725[大13]/
山中善三郎④783[明22]/
山中定次郎④371大14.D/
山中達④167明39.B/
山中誠③8明9.C/
山中峯太郎④736[昭4]/
山中百④83明23.C/④85明23.F/
山永武雄④548昭12.B/
④557昭12.C/
山浪生③233大15.B/
山根薫②118昭17.B/
山根銀次①320昭5.D/
山の行者④184明41.B/

④192明42.B/④203明43.B/
山野九淵②157明10.C/
山野邊辰雄①317昭5.C/
山橋喜代④421昭4.D/
山林正之①368昭8.E/
山原三郎①215大9.B//
④333大9.B/
山邊好文①66明25.D/
山邊習學①136明41.B/
山邊久吉④678［昭和］/
山道秀夫①375昭9.B/
山邊平助④701[明35]/
山宮允③186大3.D//
④222明44.D/④237大1.D/
④252大2.D/④267大3.D/
④461昭7.D/④494昭9.D/
④594昭14.D/④722[大11]/
④761[昭13]/④764[昭14]/
山村才助（昌永、夢遊道人）
①7［79,90］/①8［94,99］/
①9［150］//②150［14491］//
④24[24956]/④104明28.A/
④320大7.F/④633昭16.C/
④774[昭18]/
山村昌永 → 山村才助
山村宗雪①6［46］/
山村武雄②82昭14.B/
山村春夫④446昭6.D/
山村暮鳥①248大13.D//
④356大13.A/
山村亮作④689[明20]/
④690[明20]/
山室軍平②59昭12.C//
③215大10.C/③225大13.B//
④142明36.B/④186明41.B/
④248大2.C/④250大2.C/
④285大5.B/④339大10.C/
④345大1.B/④347大11.C/
④360大13.C/④368大14.C/
④392昭2.C/④403昭3.B/
④405昭3.C/④440昭6.B/
④455昭7.B/④456昭7.C/
④469昭8.B/④488昭9.B/
④509昭10.B/④513昭10.C/
④555昭12.C/④741[昭6]/
山室靜④540昭11.D/
④651昭17.D/
山室民子④799[昭6]/
山本④437昭6.A/
山本 → 山本一清
山本 → 山本忠美
山本章④586昭14.B/
山元一郎②57昭12.B/
②93昭15.B/②105昭16.B/
山本伊津雄③248昭4.B//
④421昭4.D/
山本卯一④257大3.B/
山本英一①361昭8.B/
②14昭10.B//②20昭10.B/
山本長方②12昭10.B/
山本修①324昭5.F/①340昭6.F//
③239昭2.B/③269昭8.B/
③274昭9.B//④436昭5.F/
④448昭6.F/
Yamamoto,K.(英文學)
④736[昭4]/
Yamamaoto,O.④802[昭11]/
山本一清（山本）①227大10.F/
①370昭8.G//②78昭13.F/
②115昭16.F/②146昭19.F//
③217大10.F/③221大11.F/
③223大12.B/③287昭11.F/
③312昭15.F/③323昭17.F/
③327昭19.F//④349大11.F/
④355大12.F/④373大14.F/
④386大15.F/④747[昭8]/
④759[昭12]/④788[明44]/
④793[大11]/④794[大13]/
④795[大15]/④799[昭6]/
④804[昭12]/④805[昭14]/
④807[昭17]/④808[昭18]/
山本鼎①320昭5.D//④305大6.B/
山本供平④740[昭6]/
山本九右衛門・山本九兵衛

④671［江戸中期］/
山本供平①366昭8.D/
山本經③255昭5.D//
④533昭11.C/
山本憲一②175明21.A//
④71明21.A/
山本琴子①322昭5.E/
①323昭5.E//④435昭5.E/
山本實彦③312昭16.A//
④291大5.C/④576昭13.D/
山本三郎②129昭17.G//
③318昭16.F/
山本三吾①353昭7.E/
山本氏④23[24943]/④27[25015]/
山本重雄①231大11.D/
山本忠興④799[昭6]/
山本秀治③328昭［不明］C/
山本秀煌①247大13.C/
①272大15.G//④94明25.G/
④310大7.A/④321大8.A/
④323大8.B/④343大11.A/
④363大14.A/④364大14.A/
④375大15.A/④711[大1]/
④729[昭1]/
山本純之②254大15.B/
山本松七④756[昭11]/
山本信次郎④521昭10.G/
山本純三①263大15.A//
③233大15.B/
山本生①122明38.D/
山元生④418昭4.C/
山本正至①19明8.F//④678[明8]/
山本宣治③230大14.C/
③232大14.F/③237大15.F/
山本外吉②252大14.D/
山本大善④797[昭4]/
山本高行②258昭2.E/
山本瀧之助③142明40.B/
山本忠雄④637昭16.D/
山本忠興④622昭15.F/
山元忠美④135明35.B/
山本忠美(山本)④368大14.B/
④456昭7.B/④457昭7.C/
山本辰夫①198大6.D/
山本千代喜④649昭17.C/
山本長太郎①42明20.B/
山本智教③291昭12.D/
③311昭15.D//④803[昭12]/
④805[昭13]/④808[昭19]/
山本直一④435昭5.D/
山本直文②280昭8.G/
(紀伊)山本投④690[明20]/
山本信雄④635昭16.D/
山本治一④347大11.C/
山本半司②177明21.G/
②182明22.G/
山本羊 → 山本迷羊
山本浩④362大13.E/
山本博①363昭8.C/
山本文三郎(幽水)②195明26.C/
山本火州 → 山本松次郎
山本正夫③187大3.D/
山本正雄③220大11.D/
山本正臣④578昭13.F/
山本政喜②68昭13.A/
山本松次郎(火州)①15明5.G/
山本松之助③292昭12.D/
山本美越乃①217大9.C/
山本幹夫①358昭8.B//
②19昭10.B/②33昭11.B/
②277昭8.B//③269昭8.B/
③285昭11.B/③292昭12.E/
③294昭13.B//④802[昭10]/
山本光郎①240大12.C/
①246大13.B/①365昭8.C/
②14昭10.B//④726[大14]/
④732[昭3]/④793[大12]/
山本光雄①314昭5.B/
①327昭6.B/①358昭8.B/
①359昭8.B/①375昭9.B/
①385昭9.E//②33昭11.B/
②36昭11.B/②37昭11.B/
②69昭13.B/②93昭15.B/
②113昭16.E/②118昭17.B/

②119昭17.B/②123昭17.D/
②126昭17.D/②133昭18.B/
②141昭19.B/②261昭4.B/
②277昭8.B/③275昭9.B/
③282昭10.E//④606昭15.B/
④649昭17.D/④758[昭12]/
④773[昭17]/④803[昭11]/
山本三生④439昭6.B/
山本迷羊（羊、ストレイ・シイプ）
③145明41.A/
山本盛太郎①146明43.B/
①151明44.B/①156明45.B/
山本泰敎④454昭7.B/
④474昭8.C/④806[昭15]/
山本泰次郎④749[昭9]/
山本彌一郎④385大15.E/
山本幽水 → 山本文三郎
山本有三③177大2.D/
③228大13.D/③231大14.D/
③232大14.D//④543昭11.F/
山本幸恵④434昭5.D/
山本行夫①246大13.C/
山本與吉④591昭14.C/
山本義明①73明27.B/
山本義夫④380大15.C/
④389昭2.B/④392昭2.C/
④400昭3.A/④401昭3.B/
④405昭3.C/④409昭3.E/
④417昭4.C/④427昭5.B/
④431昭5.C/
山本義隆②154明6.C//③4明6.C//
④676[明6]/
山本義俊④29明6.B/
④684[明14]/
山本佳年④709[明43]/
④710[明44]/
山本良吉①82明30.B/
①86明31.B/①120明38.B/
①142明42.B/①356昭7.F//
③81明30.B/③87明31.B//
④137明35.B/④193明42.B/
④206明43.B/④216大44.B/
④229大1.B/④230大1.B/
④231大1.B/④258大3.B/
④259大3.B/④275大4.B/
④464昭7.F/
山本六郎②276昭7.E/
②286昭9.E/
矢本貞幹②46昭11.D/
山谷省吾①195大6.B/
①196大6.C/①197大6.C/
①240大12.C/①252大14.A/
①367昭8.D//②34昭11.B/
②37昭11.B//③203大6.C//
④302大6.B/④317大7.C/
④339大10.C/④340大10.C/
④347大11.C/④365大14.B/
④369大14.C/④405昭3.C/
④421昭4.B/④413昭4.B/
④417昭4.C/④418昭4.C/
④466昭8.B/④486昭9.B/
④532昭11.B/④548昭12.B/
④551昭12.B/④561昭12.E/
④588昭14.B/④589昭14.C/
④642昭17.B/④660昭18.C/
④729[昭2]/④799[昭6]/
④803[昭12]/
山脇巖④580昭14.A/
山脇勝三郎②201明28.F/
山脇禎三④141明35.E/
山脇敏雄④490昭9.B/
山脇房子①327昭6.B/
山脇泰一④439昭6.B/
耶山章④132明34.B/
④137明35.B/
やよい子④140明35.D/
耶羅伊々々々拉瑪薩瓦合
④671[明治]/
夜來閑人①109明37.A/
鑓田研一①252大14.A/
①256大14.C/①268大15.C/
①276昭2.B//④364大14.A/
④377大15.B/④380大15.C/

④382大15.C/④388昭2.A/
④483昭9.B/④554昭12.C/
［ゆ］湯淺精英②278昭8.D/
湯淺竹山人①182大4.C/
湯淺常山 → 湯淺禎
湯淺誠之助④426昭5.B/
④453昭7.B/
湯淺禎（常山）①6［58］/
湯淺吉郎①103明35.E/
④405昭3.C/
湯淺永年①351昭7.D//
②44昭11.D/
湯淺初男③267昭7.D//
④447昭6.D/
湯淺半月④561昭12.D/
湯淺行雄④518昭10.D/
唯物論研究會④742[昭7]/
U.K.③63明27.D/
幽花→ 坂上槙［愼］太郎
油木愼一郎④453昭7.B/
幽城生①105明36.B/
結城隆正③201大5.F/
結城素明④270大3.G/
④714[大3]/
Yuki,M.③306昭14.F/
行友都音子④156明37.D/
夕霧丹治①46明21.B/
雄山閣①319昭5.C//④746[昭8]/
挹翠樓主人④110明29.B/
幽絃郎③144明40.D/
③148明41.D//④215明44.B/
④222明44.D/
有終會②208明32.D/
夕月生④217明44.B/
有朋堂編輯所②235明45.G/
②237大2.G/②241大5.G/
②256大15.G/②277昭7.G/
湯川和夫②83昭14.B/
②129昭17.F//③310昭15.C/
③314昭16.B//④654昭17.F/
悠々庵 → 桐生悠々
吻々生④265大3.C/
④340大10.C/
油か谷③153明42.G/
紫謙太郎④173明39.E/
行岡春夫④519昭10.E/
雪丸①75明28.A//④125明32.D/
行元徹③243昭3.B/
雪山曉村④313大7.B/
④318大7.D/
雪山俊夫①258大14.D/
①296昭3.Ｄ//②36昭11.B/
②124昭17.D//④384大15.D/
④667大19.C/
弓家七郎①239大12.C/
弓削達勝①355昭7.F/
柚木馨①272大15.E/①338昭6.E/
①354昭7.E//②27昭10.E//
④741[昭6]/
柚木重三④422昭4.E/
由木康②12昭10.B/②82昭14./
⑤131昭18.B//③295昭13./
④343大11.A/④400昭3.B/
④460昭7.D/④549昭12.B/
④568昭13.B/④570昭13.B/
④571昭13.B/④583昭14.B/
④607昭15.B/④643昭17.B/
④736[昭4]/④800[昭7]/
④803[昭12]/
遊佐慶夫③221大11.E//
④519昭10.E
湯澤隆④585昭14.B/
湯原元一③124明36.E/
③190大4.B/③245昭3.D//
④146明36.D/④148明36.E/
⑤155明37.D/
湯武居士 → 湯本武比古
有美 → 青柳猛
有美狂生 → 青柳猛
弓田宇左③310昭15.D/
弓場重康①386昭9.F/
湯村榮一②118昭17.B//
④531昭11.B/④771[昭17]/
湯目補隆①30明13.F//

④57明17.E/
湯本武比古(湯武居士)
①75明28.B/①78明29.B/
①86明31.B//②178明22.B/
②197明27.B//③190大4.B//
④105明28.B/④275大4.B/
油谷生④151明37.B/
④152明37.B/④156明37.D/
④195明2.B/
湯谷磋一郎①55明23.B/
湯谷紫苑①71明26.D/
油谷治郎七④189明41.D/
油谷天行④97明26.C/
④102明27.B/
由良哲次①276昭2.B/
①287昭3.B/①288昭3.B/
①289昭3.B/①295昭3.D/
①303昭4.B/①304昭4.B/
①343昭7.B/①345昭7.B/
①346昭7.B//②14昭10.B/
②56昭12.B/②71昭13.B/
②82昭14.B/②105昭16.B/
②108昭16.B/②123昭17.C/
②258昭2.F/②259昭3.B/
②277昭8.B/②281昭9.B//
③244昭3.B//④400昭3.B/
④408昭3.D/④469昭8.B/
④537昭11.C/④604昭15.B/
由良丈一郎④682[明12]/
由利忠八郎③242昭3.B/
百合園主人→ 戸川殘花
百合若大臣(ゆり若大臣, 百合若(稚)大臣, 百合稚→ ホーメル)①5[31]/
①6[39,51,60,62]/①7[83]/
①8[101,110]/①10[169]//
③140明39.D/③241昭2.D/
③266昭7.D/③277昭9.D//
④210明43.D/④348大11.D/
④385大15.D/④671[[江戸前期, 中期, 寶永,正徳,寶暦, 天明]/
④672[文政,嘉永]/
④673[元治]/④695[明25]/
④705[明39]/④706[明41]/
④708[明42]/④710[明44]/
④713[大3]/④716[大5]/
④727[昭1]/④728[昭1]/
④740[昭6]/④741[昭6]/
④744[昭7]/④745[昭8]/
④747[昭9]/④754[昭11]/
④776[昭18]/④780[出版年不明]/④780[寶永年間]/
④781[江戸前期,江戸中期, 正徳年間]/④789[1-]/
④789[18-]/④790[1-]/
ゆり若大臣 → 百合若大臣→ ホーメル
百合若(稚)大臣 → 百合若大臣→ ホーメル
[よ]融皈一③117明36.B/
融歸一①97明34.B/
融希山③137明39.B/
③142明40.B/③146明41.B/
③149明42.B/
融道玄②230明42.B//
③132明38.B/③141明40.B/
③149明42.B/③154明43.B/
③180大3.B//④159明38.B/
陽文友①174大3.B/
羊我堂①320昭5.D/
羊角山人→ 森田思軒
容膝堂主人④44明14.F/
④77明22.B/④96明26.B/
④108明28.C/
羊舟④186明41.B/
揚城隠士④119明31.B/
暘城居士①44明20.E/
洋書調所①12[214]//
④673[文久]/④776[昭18]/
養素居士②180明22.D/
養方(軒)パウロ①4[3]/
①352昭7.D//④460昭7.D/
羊門文庫版②53昭12.B/

洋々學人④700[明34]/
與儀清修④756[昭11]/
横山一郎②253大14.E/
横井一粒子④659昭18.C/
横井貞德①247大13.D/
横井璨②150［14500］//
④25[24984]/④25[24985]/
横井璨一①9［144］/
横井小楠［小楠］①274昭2.B/
②182明23.B//③301昭14.B/
横井全卿②235明45.G/
横井琢磨③21明16.F//
④685[明16]/
横井種將③9明9.E/
横井時雄①63明25.B/
①65明25.C/①69明26.B/
①73明27.B/①81明29.E/
①83明30.C/①112明37.B/
①136明41.B//②182明23.B//
③44明24.B/③67明28.C/
③74明29.B//④81明23.B/
④86明24.B/④87明24.B/
④88明24.C/④90明25.B/
④91明25.B/④92明25.C/
④94明26.B/④95明26.B/
④96明26.B/④111明29.B/
④115明30.B/④146明36.C/
④165明38.E/④184明41.B/
④209明43.C/④695[明25]/
横井時庸④683[明13]/
横井春野②275昭7.E//
④293大5.C/④463昭7.E/
横川③258昭6.B/
横川回天④119明31.B/
横川次郎②12昭10.B/
②41昭11.B//④504昭10.B/
④531昭11.B/
横井信之④676[明6]/
④685[明15]/
横川榮長①21明9.C/①22明9.D/
①22明9.E/
横川四十八④315大7.B/
横須賀純同④690[明20]/
横瀬文彦③12明10.F/
横田章①141明42.A//
③149明42.A/
横田章臣①339昭6.D/
横田喜三郎①262大14.E//
②65昭12.E/②67昭12.G/
②78昭13.G/②253大14.E//
③300昭13.G/
横田保之助②29昭10.E/
横谷竹治④571昭13.C/
横濱語學教會④133明34.D/
横濱社會問題研究所
①260大14.E/
横濱正金銀行頭席調査課
④750[昭10]/
横部得三郎④447昭6.D/
④503昭10.A/
横堀富雄④408昭3.D/
横道復生④142明36.B/
横光利一②32昭11.A/
②53昭12.A/②279昭8.D//
③283昭11.A/③294昭13.B//
④468昭8.B/
横山巖④552昭12.B/
横山格郎②67昭12.F/
横山氏④35明11.D/
横山達三①115明37.D/
横山千代④729[昭2]/
横山雅男①83明30.C//
②173明20.C/
横山又次郎①246大13.B//
③111明34.F//④804[昭13]/
横山美智子④405昭3.C/
横山有策①224大10.D/
①271大15.E/①363昭8.C//
③200大5.D/③209大8.B//
④348大11.D/④361大13.C/
④396昭2.D/④740[昭6]/
與謝野鐵幹 → 與謝野寛
與謝野寛(鐵幹)①169大3.A//
④224大1.A/

餘山②231明44.A/
葭秋生②171明19.D/
吉井勇②16昭10.B//
④192明42.B/
吉井升庵→吉永升庵と訂正
吉井正一④116明30.C/
吉井治郎平④551昭12.B/
吉江 → 吉江喬松
吉江喬松（吉江、孤雁）
①269大15.D/①270大15.D/
①293昭3.D/①299昭4.A//
②30昭10.G/②51昭11.G/
②81昭14.B/②87昭14.D//
③221大12.A/③236大15.D//
④240大2.A/④254大3.A/
④271大4.A/④365大14.B/
④410昭3.G/④469昭8.B/
④485昭9.B/④521昭10.G/
④545昭11.G/④771[昭16]/
④800[昭7]/
吉江孤雁 → 吉江喬松
吉雄永保①8［112］//
④25[24972]/
吉雄權之助①9［133,135］/
吉雄俊藏①8［116］//④320大7.F/
吉雄如淵④24[24961]/
吉雄忠次郎①9［130］//
④25[24978]/
吉雄蓼莪④672[文化]/
吉岡教授④272大4.B/
吉岡永美①290昭3.C/
①317昭5.C//②268昭6.B/
吉岡源一郎④200明42.D/
吉岡佐太郎①286昭3.B/
吉岡修一郎②34昭11.B/
②37昭11.B/②78昭13.F/
②80昭14.B/②90昭14.F/
②93昭15.B/②128昭17.F/
②129昭17.F//④578昭13.F/
④597昭14.F/④598昭14.F/
④774[昭17]/
吉岡商店③32明21.D/
吉岡峰夫④606昭15.B/
吉岡林②190明25.B/
吉川逸治③324昭18.D/
吉川靜雄④618昭15.D/
④629昭16.B/
吉川曾水②205明31.A/
芳川太郎吉③61明27.C/
③62明27.C//④103明27.C/
吉川淡水③187大3.D/
芳川鉞雄①47明21.C//
②177明21.G/
吉川濤④547昭12.A/
吉川道春④782[明12]/
吉川英男（英男）③135明38.D/
吉川芳秋④773[昭17]/
吉川良祐②150［14491］/
吉儀千春②263昭4.E/
吉國籐吉③102明33.C/
③103明33.C//④128明33.C/
④785[明34]/
吉倉清次郎④784[明28]/
よし子③39明23.B/
吉崎口④367昭14.B/
吉崎彦一①78明29.B/
①255大14.B//④210明43.D/
④416昭4.C/④433昭5.D/
吉澤音吉④374大15.A/
吉澤孔三郎①266大15.B/
吉澤直江④86明24.B/
吉澤溶②35昭11.B/
吉島貞亮①252大14.A/
吉田①281昭2.D//④243大2.B/
吉田 → 吉田靜致
吉田幾次郎④709[明43]/
吉田五十穂①29明12.G//
③16明13.B//④40明14.B/
吉田一次②142昭19.C/
吉田卯太郎④130明34.B/
④139明35.D/
吉田悦藏④405昭3.C/
④588昭14.C/
吉田榮右②209明32.G/

吉田覺胤④444昭6.C/
吉田數義③250昭4.D//
④421昭4.D/
喜田堅男(夫?)④398昭2.E/
④419昭4.D/
吉田菊治(次)郎④341大10.D/
④354大12.D/④418昭4.D/④
吉田清①284昭3.A/
吉田潔①148明43.D/
①205大7.D//④219明44.C/
吉田教授④278大4.C/
吉田熊次(治)①90明32.B/
①96明34B/①105明36.B/
①156明45.B/①195大6.B/
①202大7.B/①209大8.B/
①212大8.E/①223大10.B/
①237大12.B/①255大14.B/
①275昭2.B/①284昭3.A//
②37昭11.B/②225明40.A/
②259昭3.B/②273昭7.B/
②275昭7.D/②284昭9.C//
③100明33.B/③112明35.B/
③151明42.B/③155明43.B/
③163明45.B/③171大2.B/
③190大4.B/③218大11.B/
③230大14.B/③233大15.B/
③234大15.B/③257昭6.B/
③323昭18.A//④132明34.B/
④137明35.B/④275大4.B/
④289大5.B/④320大7.E/
④328大8.E/④331大9.B/
④367大14.B/④391昭2.B/
④408昭3.D/④410昭3.E/
④423昭4.E/④441昭6.B/
④562昭12.E/④639昭16.E/
④707[明41]/④722[大11]/
吉田九郎④729[昭2]/
吉田圭②228明41.B/
吉田健一②79昭14.A/
②83昭14.B/②92昭15.A/
②117昭17.A/②125昭17.D/
②141昭19.B/
吉田健吉④217明44.B/
吉田源治郎④347大11.C/
④349大11.F/④355大12.F/
④358大13.B/④364大14.B/
④366大14.B/④377大15.B/
④448昭6.E/
吉田絃二郎①166大2.C/
①210大8.B//②15昭10.B//
③203大6.C/③253昭5.B//
④244大2.B/④327大8.D/
④348大11.D/④355大12.D/
吉田顯三①178大3.F/
吉田賢甫①14明3.B/①31明14.A/
吉田賢輔②235明45.G//
④675[明5]/
吉田賢龍①96明34.B/
①118明38.B/①126明39.B/
①126明39.B/①142明42.B//
④138明35.B/④205明43.B/
④631昭16.B/
吉田胡一郎④457昭7.C/
吉田耕 → 吉田養德
吉田孤雁④717[大5]/
吉田小五郎①312昭5.A/
①337昭6.D/①352昭7.D/
①367昭8.D//③322昭17.D//
④447昭6.D/④449昭7.A/
④576昭13.D/④589昭14.C/
④593昭14.D/④617昭15.D/
④618昭15.D/
余志多佐久也④51明16.B/
吉田作彌④51明16.B/
吉田三郎④513昭10.C/
④754[昭11]/
吉田松陰①11［192,193］//
③48明25.B//④742[昭7]/
吉田捨象③20明16.B//
④51明16.B/
吉田耒次郎④782[明9]/
吉田晉④786[明39]/
吉田澄夫④576昭13.D/
吉田靜致［博士］①82明30.B/

①90明32.B/①112明37.B/
①118明38.B/①120明38.B/
①130明40.B/①132明40.B/
①133明40.B/①137明41.B/
①143明42.B/①156明45.B/
①162大2.B/①163大2.B/
①253大14.B/①254大14.B/
①264大15.B/①267大15.B/
①274昭2.B/①276昭2.B//
②37昭11.B/②105昭16.B/
②132昭18.B/②220明37.B/
②222明38.B/②226明40.B//
③74明29.B/③81明30.B/
③87明31.B/③127明37.B/
③132明38.B/③143明40.B/
③167明45.B/③174大2.B/
③212大9.B/③253昭5.B//
④151明37.B/④161明38.B/
④177明40.B/④193明42.B/
④194明42.B/④206明43.B/
④216明44.B/④217明44.B/
④229大1.B/④230大1.B/
④231大1.B/④245大2.B/
④258大3.B/④259大3.B/
④275大4.B/④302大6.B/
④303大6.B/④324大8.B/
④390昭2.B/④403昭3.B/
④429昭5.B/④441昭6.B/
④464昭7.E/④510昭10.B/
④557昭12.C/
吉田(靜致)博士古稀祝賀記念會
②132昭18.B/
吉田傳二郎④782[明9]/
吉田東伍④128明33.C/
吉田東微③135明38.D//
④165明38.D/
吉田利光③264昭7.B//
④447昭6.D/
吉田虎之助④788[明治初]/
吉田恒太郎①25明10.E/
吉田直太郎①45明20.G/
①49明21.G//④70明20.D/
④71明20.G/④693[明23]/
吉田信武④444昭6.C/
吉田昇②94昭15.B/②97昭15.C/
②106昭16.B//③302昭14.B/
吉田修夫①170大3.B/
①177大3.D//③186大3.D/
③193大4.D/③207大7.D//
④183明41.B/④196明42.B/
吉田秀夫④750[昭9]/
吉田秀松③255昭5.C//
④432昭5.C/
吉田弘美②125昭17.D/
吉田碧寥④181明40.D/
吉田孚②63昭12.D/②68昭13.A/
吉田政男②270昭6.D/
吉田正信②197明27.A//
④99明27.A/
吉田正通②68昭13.B//
④588昭14.B/
吉田學②22昭10.C//
④560昭12.D/④575昭13.D/
吉田三男也①165大2.C/
①290昭3.C/①292昭3.C/
④368大14.C/④406昭3.C/
吉田巳之助①59明24.A/
吉田彌邦②78昭13.G//
④434昭5.D/④637昭16.E/
吉田彌郎④319大7.D/
④319大7.E/
吉田洋一②103昭15.F//
④597昭14.F/④622昭15.F/
④664昭18.F/
吉田養德(耕)①14明4.G/
①15明5.G//④28明4.G/
④28明5.G/
喜田嘉太郎④408昭3.D/
吉竹生④415昭4.B/
吉武聞教④684[明14]/
吉武好孝②136昭18.D//
④637昭16.D/④662昭18.D/
吉武夏男③325昭18.E//

④648昭17.C/
吉武昌明（男）④396昭2.D/
義經④751[昭10]/
吉永君①323昭5.E/
吉永榮助②88昭14.E//
④760[昭13]/
吉永十果②15昭10.B/
吉永升庵①6［41］/④671[延寶]/
吉永談水④268大3.D/
吉永壽①354昭7.E//④463昭7.E/
吉野(吉野源三郎?)④454昭7.B/
吉野源三郎［吉野］①300昭4.B/
①304昭4.B/①330昭6.B//
③258昭6.B//④439昭6.B/
吉野幸德①27明11.G/
吉野作造［博士、ヘーゲル「法の哲學」］①122明38.E/
①216大9.B/①366昭8.D//
②223明38.E/②253大14.E/
②271昭6.E//③208大7.E/
③213大10.A//④166明38.E/
④332大9.B/④356大13.A/
④362大13.D/④395昭2.D/
④464昭7.E/④726[大14]/
吉野藤一郎④623昭16.A/
吉野博士 → 吉野作造
芳野誠①20明9.A/
吉野裕④749[昭9]/
吉信泰二③309昭15.C/
③326昭19.C/
吉村貞二②124昭17.D/
吉原敎④331大9.B/
吉原藤助①254大14.B//
③229大14.B//④365大14.B/
吉原祐太郎④783[明24]/
吉原好人①287昭3.B/
①305昭4.C/①318昭5.C/
①332昭6.C/①375昭9.B/
①378昭9.C//②109昭16.C//
④401昭3.B/④567昭13.B/
④647昭17.C/
吉松虎暢③283昭10.F/
吉丸勇五郎④519昭19.E/
吉見榮藏④408昭3.D/
吉見經綸②173明20.C//
④41明14.B/
吉滿 → 吉滿義彦
吉滿義彦（吉滿）①328昭6.B/
①329昭6.B/①330昭6.B//
②35昭11.B/②37昭11.B/
②38昭11.B/②69昭13.B/
②103昭16.A/②107昭16.B/
②123昭17.C/②132昭18.B/
②259昭3.B//③239昭2.B/
③243昭3.B/③295昭13.B/
③314昭16.B/③315昭16.B/
③323昭18.B//④400昭3.B/
④429昭5.B/④441昭6.B/
④452昭7.B/④453昭7.B/
④455昭7.B/④485昭9.B/
④508昭10.B/④511昭10.B/
④526昭11.B/④528昭11.B/
④532昭11.B/④580昭14.A/
④583昭14.B/④586昭14.B/
④604昭15.B/④605昭15.B/
④606昭15.B/④624昭16.A/
④628昭16.B/④630昭16.B/
④631昭16.B/④641昭17.A/
④644昭17.B/④651昭17.D/
④655昭18.A/④657昭18.B/
④658昭18.B/④740[昭6]/
④743[昭7]/④744[昭7]/
④755[昭11]/④766[昭15]/
④769[昭16]/④770[昭16]/
④773[昭17]/④779[昭20]/
④809[昭20]/
吉村軌一④55明17.C/
吉村幸純②98昭15.C/
吉邨二郎①348昭7.C/
吉村大次郎④126明33.B/
④312大7.B/④326大8.D/
吉村正④542昭11.E/
吉村虎暢④520昭10.F/
吉村冬彦 → 寺田寅（虎）彦

吉村頼知②266昭5.D/
吉本明光④560昭12.D/
吉本國之進①101明35.B/
吉本鐵章①156明45.B/
吉本達④40明13.E/
吉本襄③105明34.A/
美哉生①147明43.C/
(聖)若瑟[ヨゼフ]④263大3.C/
依田耕雨 → 依田雄甫
與田準一④770[昭16]/
依田雄甫（耕雨）①52明22.D/
①86明31.C//③37明22.D/
③94明32.C/③96明32.C//
④120明31.C/④124明32.C/
④170明39.C/④784[明31]/
④785[明31]/④786[明39]/
世田唯一④756[昭11]/
依田豐①288昭3.B/
依田喜藏①353昭7.D/
依田百川②157明10.A//
④49明15.E/
輿地學會④785[明36]/
四目入道④136明35.B/
四元内治④253大2.F/
四屋純三郎①20明9.B/
①21明9.C/①26明11.B//
④36明12.C/
四谷浪人④65明19.D/
淀野淳耀②224明39.B/
②226明40.B//③147明41.B/
③160明44.B//④244大2.B/
淀野隆三①373昭9.B/
①374昭9.B/
米内穰②270昭6.D/
米川正夫④777[昭19]/
米倉守①254大14.B/
米澤 → 米澤尚三
米澤尚三（米澤）④144明36.B/
④225大1.A/④269大3.E/
④277大4.B/④283大4.F/
④294大5.C/④304大6.B/
④315大7.B/④316大7.B/
④348大11.C/④362大13.D/
④406昭3.C/④409昭3.E/
米澤千足①302昭4.B/
米澤益二郎④435昭5.E/
米田 → 米田庄太郎
米田庄太郎（米田）①63明25.B/
①64明25.B/①152明44.B/
①157明45.B/①161大2.A/
①212大8.E/①217大9.C/
①231大11.C/①246大13.C/
①256大14.C//③48明25.B/
③55明26.B//④91明25.B/
④240大2.A/④285大5.A/
④455昭7.B/④475昭8.C/
④695[明25]/
米田實①95明33.D/
米田稔②262昭4.C/
米田豐③199大5.C//④291大5.C/
④293大5.C/④368大14.C/
④445昭6.D/④499昭9.E/
④622昭15.E/④794[大14]/
米溪①106明36.C/
米林圖南①136明41.B/
米林冨男①311昭4.F//
④475昭8.C/
米原先②258昭2.E/
米原穰②25昭10.D//④497昭9.D/
米光信三④347大11.C/
米山梅吉④753[昭10]/
米山勝美①260大14.E//
④373大14.E/
米山國藏④500昭9.F/
米山長太郎④99明27.B/
米山廣勝④446昭6.D/
米山保三郎③52明25.D/
③57明26.D/
米山正夫④721[大10]/
輿水實②23昭10.D/②25昭10.D/
②144昭19.D//③286昭11.D//
④517昭10.D/④540昭11.D/
四方素④74明21.D/④96明26.B/
萬尾時春④671［亨保]/

萬木源次郎④370大14.C/
萬亭痩馬①8［101］/
與論社③24明18.G/
［ら］頼阿佐夫②34昭11.B/
頼山陽③45明24.C//
④165明38.D/
雷笑子④704[明38]/
洛日克④137明35.B/
樂天①147明43.B//②207明31.E/
洛陽堂①184大4.D/①184大4.D/
①192大5.D/
樂樂齋主人④66明19.D/
蘭溪(生)③86明30.F//
④114明30.B/
蘭溪女史④115明30.B/
蘭山居士④102明27.C/
蘭書譯局④779[昭20]/
［り］李根口④421昭4.D/
李根成④538昭11.D/
李根奏③250昭4.D/
李歗河①330昭6.B/①362昭8.B//
③253昭5.B//④428昭5.B/
④434昭5.D/
李戴薫①250大13.E/
①254大14.B/
李岱生①112明37.B/
理科研究會④173明39.G/
りき子①166大2.C//③175大2.C/
陸舟生③73明29.B/
陸鉞巖②200明28.B/
陸軍乘馬學校④102明27.C/
陸軍大學校④706[明40]/
理想社出版部④428昭5.B/
劉侃元③228大13.D/
龍峡生③118明36.B/
③123明36.D/
龍溪 → 矢野龍溪
隆高鑑①265大15.B//
③233大15.B/③238昭2.B/
立作太郎①261大14.E/
笠信太郎①329昭6.B/
①374昭9.B//②259昭3.A/
②262昭4.C//④399昭3.A/
④400昭3.A/④731[昭3]/
劉德夫③4明5.G/
劉優嚴②253大14.E/
流鶯散史④70明20.D/
柳雨女史④781[明5]/
龍江院住職①267大15.B//
③270昭8.B/
柳齋重春④672[嘉永]/
柳園 → 中野柳園
榴丘學人④282大4.D/
龍溪 → 矢野龍溪
龍山學人(龍山義亮?)
①97明34.B/
龍山子②188明24.D//
④88明24.C/
龍山義亮(龍山學人?)
④245大2.B/
龍作 → 渡邊龍作
柳城生①98明34.C/
流水 → 緒方維嶽
流水生②202明29.C/
柳村 → 上田敏
龍膽寺旻①265大15.B/
龍太郎④171明39.C/
柳亭種彦④781[江戸期]/
④789[18-]/
柳南②240大5.D/
龍門生④190明41.F/
④212明43.F/
笠信太郎④748[昭9]/
笠法護①318昭5.C/
柳母①105明36.B/①108明36.D/
龍峯學人②280昭8.F/
流楊子 → 佐藤次郎吉
蘆舟 → 野々村戒三
蘆村 → 蘆谷重常
蘆村漁郎 → 蘆谷重常
蓼雨④329大9.A/
廖溫仁①283昭2.F/
寮佐吉①239大12.B//

④544昭11.G/④598昭14.G/
(藤井)兩衣(生)→ 藤井生
蓼州漁史④82明23.B/
梁川 → 綱島梁川(榮一郎)
良治②201明28.F/
料治朝鳥③260昭6.D/
兩東生③154明43.A//
④200明43.A/
蓼峰[峯](子)①126明39.B//
④123明32.B/④674[明治]/
④704[明38]/
兩洋天狗④59明18.B/
亮々生④112明29.C/
綠陰閑人①108明36.D/
綠樹生①106明36.B/
綠汀④174明40.C/
綠亭可山①8[110]/
綠堂①142明42.B/
綠堂野史②196明26.D/
綠野散史 → 大戸敏
林口法②265昭5.B/
淋周士④121明31.E/
臨川 → 千葉鑛藏
りんたろう→ 森林太郎?
倫理研究會①180大4.B//
④275大4.B/
[れ]れい④129明34.A/
靈河①273昭7.B/
麗粹子③51明25.D/
嶺南生②215明35.C//
④699[明32]/
靈南白士③140明39.D/
蠡舟君②208明32.B/
曆研究會③188大3.F/
歷史及地理講習會①97明34.C//
④138明35.C/
歷史科學編輯部②284 昭9.C/
歷史教育研究會①365昭8.C//
③328昭[不明]C//
④456昭7.C/④471昭8.C/
歷史研究會①106明36.C/
①107明36.C/①347昭7.C//
④145明36.C/④219明44.C/
歷史學研究會④554昭12.C/
蓮花 → 椋木市世
蓮華寶印①119明38.B/
蓮華草堂主人①108明36.D/
[ろ]魯庵主人 → 内田魯庵
老猿③123明36.C/
蠟山政道①233大11.E/
①242大12.E//②77昭13.E/
②248大11.E//③300昭13.E//
④349大11.E/④576昭13.E/
④761[昭13]/
廬泳昌③250昭4.D//④421昭4.D/
蘆花 → 德冨猪一郎
六條隆吉④99明26.E/
④672[明治]/④696[明26]/
六盟舘④161明38.C/
④168明39.B/
六盟舘編輯所④786[明39]/
④788[明45]/④791[大2]/
六里生 → 德冨健次郎
六花績紛②213明34.C/
蘆月生④292大5.C/
④510昭10.B/
廬山生①191大5.C/
廬舟②215明35.C/
ろしや男①95明33.E/
蘆川④326大8.D/
魯鈍齋 → 本多利明
蘆風子(蘆風生?)③130明37.D/
蘆風生(蘆風子?)④147明36.D/
倫敦聖教書類會社(横濱)
④675[明治期]/
④684[明14]/④685[明15]/
④686[明17]/④688[明19]/
④690[明20]/④691[明21]/
④693[明23]/④788[18-]/
[わ]わ、か②202明29.B/
Y.I.(生)①54明23.B//
④153明37.C/
YK生①132明40.B//④299大6.A/

YM③232大15.A/
YM生①111明37.B/
Y.S.生④217明44.B/
Y.T.生④449昭7.A/
Y.Y.②224明 39.B/②233明45.B/
Y.Z.K.②129昭17.F/
和井應③33明21.F/
和英語林集成④763[昭14]/
若城治佐衛門信昌④780[安永4]/
若木貞一④391昭2.B/
若木禮①378昭9.C/①385昭9.E//
②21昭10.C/②84昭14.C//
④490昭9.C/④513昭10.C/
④589昭14.C/
若草散人①258大14.D/
若杉森榮兒④618昭15.D/
若園隆夫②22昭10.C/
②285昭9.C/
若月作市③176大2.D/
若月紫蘭 → 若月保治
若月保治(紫蘭)①120明38.B//
②221明38.A//③132明38.B//
④159明38.B/④160明38.B/
④204明43.B/④207明43.C/
④208明43.C/④709[明43]/
若槻道隆①206大7.E/
若月麻須美①290昭3.B/
若槻禮次郎①67明25.E/
若菜蝴蝶園①43明20.D//
④69明20.D/④74明21.D/
若林玵藏②173明20.B/
若林二六郎④416昭4.C/
若林龍雄②256昭2.B/
わかまつ子②201明28.D/
若宮卯之吉②229明41.E/
若目田武次①295昭3.D/
②23昭10.D//④408昭3.D/
若守 → 若守義孝
若守義孝(若守)①163大2.B/
①187大5.B/①188大5.B/
①196大6.B//④289大5.B/
④291大5.B/④302大6.B/
④314大7.B/
若山儀一④31明9.B/
若山超關①360昭8.B//
②273昭7.B/②278昭8.D//
③270昭8.B/③290昭12.B//
④453昭7.B/
若山操④152明37.B/
和木清三郎②16昭10.B//
④510昭10.B/
脇坂雄治②271昭6.E/
脇坂光次④440昭6.B/
脇田登摩④345大11.B/
④375大15.B/
脇水鐵五郎④792[大7]/
④793[大10]/
脇本樂之軒①305昭4.B/
脇山義保④36明12.B/
④62明19.B/
和久正辰①160明45.[不明]//
③27明20.B//④64明19.C/
④675[(訂正)明治期]/
和久田鐵雄②255大15.E/
和氣律④199明42.D/
和氣律次郎①209大8.B/
①210大8.B//③212大9.B//
④323大8.B/④325大8.B/
④331大9.B/
倭谿生①144明42.D/
①149明43.D/
鷲尾雨工②44昭11.D/
鷲尾順敬②197明27.B/
鷲尾正五郎①155明45.A/
①187大5.B/①203大7.B//
③165明45.B/③173大2.B/
③197大5.B//④223大1.A/
④244大2.B/④286大5.B/
鷲尾浩①215大9.B//③187大3.D/
③194大4.D/③200大5.D//
④337大10.B/
鷲司哲次④226大1.B/
鷲塚錦司④663昭18.E/

鷲野隼太郎①271大15.E/
①296昭3.E//③245昭3.E//
④385大15.E/④409昭3.E/
鷲田孝男③323昭18.B/
鷲見龜五郎(Washimi,Kamegoro)
④713[大3]/④791[大3]/
鷲山覺定②179明22.B/
鷲山弟(第)三郎①244大13.B//
④471昭8.B/④498昭9.D/
④723[大12]/④742[昭和]/
早稻田英語研究會④363大14.A/
早稻田學人②192明25.E/
早稻田大學歐羅巴文學研究會
①335昭6.D/
早稻田大學圖書舘②263昭4.E/
早稻田文學社①145明42.G/
①172大3.B/①176大3.D/
①180大4.B//③152明42.D/
早稻田文學文學部④800[昭7]/
早稻田大學編輯部④294大5.C/
和田篤憲④572昭13.C/
和田英作③135明38.D/
和田音吉③24明18.G/
③27明19.G//④49明15.G/
和田覺二③111明35.B/
和田清②274昭7.C/
和田邦三②43昭11.D/
和田小次郎①368昭8.E//
②28昭10.E/②113昭16.E/
②127昭17.E/②139昭18.E/
②145昭19.E//③317昭16.E/
③326昭19.E//④638昭16.E/
④652昭17.E/④663昭18.E/
④779[昭19]/
和田三造①206大7.D//
③246昭4.A/
和田鐘吉④194明42.B/
和田信次①202大7.B//
④378大15.B/④379大15.B/
和田愼次郎→ 福澤英之助
和田仙太郎④732[昭3]/
和田瀧太郎③23明18.B//
④55明17.B/④58明18.B/
和田治平①327昭6.B/
和田潮風④375大15.B/
和田敏郎①311昭4.E/
和田久一 → 曾我廼家五郎
和田久太郎②251大14.B/
和田秀豐④684[明14]/
和田文吉①230大11.B/
和田正恵①337昭6.D/
和田萬吉①74明27.C/
①86明31.C/①86明31.C//
②202明29.C//③21明16.G/
③94明32.C//④54明16.G/
④120明31.C/④162明38.C/
④250大2.C/④293大5.C/
④557昭12.C/④692[明23]/
④756[昭11]/
和田龍造①125明39.B/
① 135明41.B/①138明41.B//
② 222明38.C/
和田良平①149明43.E/
和田琳熊④153明37.C/
④200明43.A/④201明43.A/
④290大5.B/
和田垣 → 和田垣謙三
和田垣謙三(和田垣)
①42明20.B/①61明24.C/
①98明34.E/①116明37.E/
①141明42.B/①144明42.E/
①144明42.E/①177大3.E//
②170明19.C/②174明20.E/
②175明21.B/②181明22.E/
②214明34.G/②217明35.G/
②229明41.G/②231明43.G//
③28明20.D/③42明23.E/
③53明25.E/③153明42.E//
④44明14.G/④73明21.C/
④89明24.D/④212明43.G/
④291大5.C/④674[明治]/
④689[明19]/④693[明24]/
④707[明42]/
渡瀬 → 渡瀬恒吉

渡瀬庄三郎③104明33.F/
渡瀬恒(常)吉(渡瀬)
④185明41.B/④195明42.B/
④208明43.C/④322大8.A/
④347大11.C/④511昭10.B/
渡瀬昌雄④115明30.B/
渡邊 → 渡邊吉治
渡邊 → 渡邊聖龍
渡邊明正④626昭16.A/
渡邊安積①40明19.E/
①41明19.E//③19明15.E/
③26明19.E/③29明20.E/
渡邊幾治郎④532昭11.B/
渡部一郎④28明3.C/
渡邊一朗④650昭17.D/
渡邊英吉③243昭3.B/
渡邊鍥次郎②162明15.F/
渡部榮八④677[明8]/④678[明9]/
④686[明17]/
渡邊治①36明17.E/
渡邊海旭②199明27.D/
渡邊格司①309昭4.D//
②44昭11.D/②136昭18.D//
③311昭15.D//④617昭15.D/
④663昭18.D/
渡邊蓽(蓽)山①9[149,152]/
①10[153]/①49明21.F//
②103昭15.F/②116昭16.F/
②204明30.B//③317昭16.F//
④27[25012]/④117明30.D/
④201明43.A/④640昭16.F/
④648昭17.C/④672[明治]/
④698[明30]/
渡邊一夫①275昭2.B//
②26昭10.D/②40昭11.B/
②44昭11.D/②74昭13.D/
②93昭15.B/②117昭17.A/
②131昭18.B/②263昭4.D/
②277昭8.B//③299昭13.D/
③305昭14.D/③311昭15.D//
④421昭4.D/④479昭8.D/
④488昭9.B/④497昭9.D/
④529昭11.B/④553昭12.B/
④585昭14.B/④587昭14.B/
④588昭14.B/④591昭14.C/
④617昭15.D/④④641昭17.A/
④651昭17.D/④662昭18.D/
④663昭18.D/④668昭19.D/
④763[昭14]/④775[昭18]/
渡邊勝也④628昭16.B/
渡邊霞亭(勝)①116明37.D/
渡邊鼎(鼎)①312昭5.A/
①323昭5.E/①369昭8.E/
①386昭9.E//②22昭10.C/
②79昭14.A/②209明33.B//
④126明33.B/④479昭8.E/
④498昭8.E/④499昭9.E/
④616昭15.C/④663昭18.E/
④667昭19.C/
渡部金秋③88明31.C/
渡邊慧②129昭17.F/
渡邊國武④115明30.B/
渡邊啓一②37昭11.B//
④527昭11.B/
渡邊氏 → 渡部溫
渡邊如山①9[146]/
渡邉純②75昭13.D//
④538昭11.D/
渡邊修次(二)郎③28明20.D/
③144明40.D/③148明41.D//
④68明20.C/④70明20.D/
④109明29.A/④424昭5.A/
④705[明40]/④714[大4]/
④738[昭5]/④739[昭6]/
④764[昭14]/
渡邊春影④165明38.D/
渡邊次郎①133明40.C/
渡邊(部)審也②206明31.C//
③88明31.C//④707[明42]/
渡邊誠吾①203大7.B/
渡邊聖龍(渡邊)①78明92.B/
①221大10.B//②212明34.B//
③214大10.B//④338大10.B/
④366大14.B/④465昭7.G/

渡邊象次③250昭4.D/
渡邊晉②268昭6.B/
渡邊信治①241大12.E/
渡邊善太④344大11.A/
④362大13.D/④416昭4.C/
④426昭5.B/④512昭10.C/
④537昭11.C/④588昭14.C/
④592昭14.C/④766[昭15]/
渡邊泰三郎④472昭8.C/
渡邊泰三①330昭6.B//
②69昭13.B//③302昭14.B/
渡邊隆登④435昭5.D/
渡邊辰生④636昭16.D/
渡部溫（無盡藏（書）齋主人、梧堂、
梧堂生、渡邊氏、
T.Watanabe）
①15明5.D/①16明6.D/
①23明10.B/①28明12.D/
①47明21.D/①293昭3.D/
①320昭5.D//②154明6.D/
②178明22.B/②271昭6.D//
③4明6.D/③11明10.B/
③18明14.D/③19明15.D/
③26明19.D//④28明5.D/
④32明10.B/④34明11.D/
④59明18.D/④60明18.D/
④64明19.D/④65明19.D/
④69明20.D/④384大15.D/
④674[明2]/④678[明8]/
④691[明21]/④783[明21]/
渡邊爲藏④133明34.D/
渡邊千枝②24昭10.D/
渡邊千春③67明28.C/
渡邊長次郎①51明22.C//
③36明22.C/
渡邊次男②75昭13.D/
渡邊徹③157明43.D/
③165明45.B//④245大2.B/
渡邊敏夫④777[昭18]/
渡邊撫松④181明40.F/
渡邊元④364大14.A/
渡邊久之助③60明27.B/
渡邊光①387昭9.G/
渡邊秀高②267昭5.E/
渡邊秀太郎③197大5.B/
渡邊比登志①359昭8.B/
渡邊敏③38明22.F/
渡邊文學士③86明31.A/
渡邊兵吉①89明32.A/
渡邊誠④476昭8.C/
渡邊正知④426昭5.B/
渡邊（部）政盛①202大7.B/
①229大11.B/①229大11.B/
①242大12.G/①244大13.B/
①254大14.B/①324昭5.G/
①343昭7.B//②259昭3.B//
④356大13.B/
渡邊勝 → 渡邊霞亭
渡邊亦男②262昭4.B/
渡邊又次郎①120明38.B//
④101明27.B/④114明30.B/
④118明31.B/④137明35.B/
④176明40.B/
渡邊松茂①47明21.C/
①60明24.C/①65明25.D//
②177明21.G//④84明23.D/
④88明24.D/
渡邊松太郎④693[明24]/
渡邊萬次郎①268大15.C/
渡邊萬藏①140明41.G//
④182明40.G/④386大15.G/
④465昭7.G/
渡邊操①51明22.C//③36明22.C/
渡部雪夫④327大8.D/
渡邊庸三①259大14.D/
渡邊芳雄③146明41.B//
④184明41.B/④188明41.D/
④189明41.D/
渡邊義方④687[明18]/
渡邊世祐①281昭2.D/
渡邊吉治（渡邊）①198大6.D/
①218大9.D/①269大15.D/
①307昭4.D/①308昭4.D/
①320昭5.D/①366昭8.D//

②279昭8.D//③204大6.D/
③205大6.D/③207大7.D/
③249昭4.D//④314大7.B/
④315大7.B/④324大8.B/
④338大10.B/④538昭11.D/
④622昭15.E/
渡邊義象③111明35.A/
渡邊嘉重④66明20.B/
渡邊美豐④438昭6.B/
④442昭6.B/
渡邊龍作④126明33.B/
渡邊渡②173明20.C/
綿貫哲雄④349大11.E/
綿貫勇彦①387昭9.G/
渡野邊和吉④469昭8.B/
綿谷修次②267昭5.E/
亘理章三郎①138明41.C/
①139明41.D/①313昭5.B/
渡忠純④58明17.G/
渡平民①224大10.D/
渡利彌生①261大14.E/
①297昭3.E/①338昭6.E/
和知和太郎②163明16.C//
④57明17.E/
和辻 → 和辻哲郎
和辻生 → 和辻哲郎
和辻哲郎［和辻博士、和辻生］
①162大2.B/①163大2.B/
①194大6.A/①195大6.B/
①196大6.B/①197大6.C/
①204大7.C/①205大7.D/
①214大9.A/①224大10.D/
①233大11.D/①235大12.A/
①237大12.B/①238大12.B/
①264大15.B/①295昭3.D/
①351昭7.D/①371昭9.A/
①373昭9.B//②10昭10.A/
②11昭10.A/②32昭11.A/
②35昭11.B/②53昭12.A/
②68昭13.A/②74昭13.D/
②81昭14.B/②88昭14.E/
②92昭15.A/②243大7.D//
③166明45.B/③171大2.B/
③ 174大2.B/③175大2.B/
③201大6.B/③202大6.B/
③275昭9.B/③298昭13.D/
③328昭23//④171明39.C/
④176明40.B/④184明41.B/
④204明43.B/④211明43.D/
④228大1.B/④231大1.B/
④244大2.B/④245大2.B/
④247大2.B/④301大6.B/
④302大6.B/④305大6.B/
④312大7.B/④318大7.D/
④325大8.B/④327大8.D/
④333大9.B/④375大15.B/
④407昭3.D/④420昭4.D/
④473昭8.C/④488昭9.B/
④501昭10.A/④504昭10.A/
④509昭10.B/④523昭11.A/
④524昭11.A/④526昭11.B/
④529昭11.B/④552昭12.B/
④567昭13.B/④575昭13.D/
④576昭13.D/④632昭16.B/
④719[大8]/④720[大10]/
④739[昭6]/④748[昭9]/
④751[昭10]/④754[昭11]/
④756[昭11]/④758[昭12]/
④799[昭7]/④810[19-]/
和辻博士 → 和辻哲郎

●著譯者版元關聯・外國人名

＊［讀み不明・外國人名］

以馬維拉多①50明22.B［1214］/
馬爾加摩氏①383昭9.D［10729］/
伯里尼②151[安政5]［14522］/
麥嘉湖②151[文久2]［14523］/
比耳斯②167明18.B［14850］/
馬博士②179明22.B［15098］/
鴻儒③15明12.B［17776］/
慈亞寧氏③35明22.B[18306]/

萊氏③59明26.F[18904]/
彼氏③62明27.D［18978］/
彼氏③68明28.D［19128]
彼氏③75明29.D［19283]
維格爾暹④40明14.B[25333]/
奚服氏④40明14.B[25334]/
斐沃芳④53明16.D[25636]/
④686[明17][42258]
洛克(ロック?)氏
④105明28.B[26988]/
晉志那多斯④235大1.C[31084]/
工私蒲略倔④672[天保][[41836]
(美國)倪維思④674[明治][41835]
若望瑪利亞④675[明3] [41864]
④683[明13][42173]
理禮氏④675[明5][41851]
（米國）嘉魯日耳土④［明8］[41928]
④681[明10][41997]
倍瑠儷屢脅④683[明12][42153/4]
④683[明13][42171]
斯定筌(シュタイセン,ミッシェル?)④698[明30].[42591]
喎蘭④739[昭6][43712]/
④765[昭14][44476]
（美國）禕哲理④780[萬延][44900]/
④781[元治1][44902]
④781[明4][44921]/
格爾屯④780[文久2][44901]/
李提摩太④784[明26][45004]/
艾儒略④788[明治期][45136]/
四懿孛麟雋④809[1-][45714]/

［A］ア、ガスコ④371大14.D/
アアウグステン→ アウグスチヌス
アアクイナス→アキナス（聖）
アアサア④140明35.D/
アアネス女史④328大8.F/
アアノルド → アルノルド（M.）
アイオー③126明37.B/
アイオロス風神③264昭7.B/
アイグスチノ→ アウグスチヌス
アイグスト帝 → アウガ（グ）スタ（ト）ス（皇帝）
アイシス③145明40.F/
アイスキュ（ョ）ロス → エキスラス
あいすきろす → エキスラス
アイスキロス → エキスラス
アイスレル(Aisler)④212明43.G/④699]明33]/
Ainesidemos → Aenesidemos
アイソポス → イソップ
アイソーポス → イソップ
アイソポース → イソップ
アイヂアス③96明32.D/
アイッスキュロス→ エキスラス
Ainesidemos（Ainesidemus）③222大12.B/
アイヒホルン③85明30.E/
アイフル、ケー・イー④740[昭6]/
アウガスチノ→ アウグスチヌス
アウガ（グ）ステ（チ）ン → アウグスチヌス
アウガ（グ）スタ（ト）ス（皇帝）（オーガ（ゴ）スタス、オウギュト、オガスタ、アウグスタイン、ヲーゴスタス、ヲーガスタス、オーギュス（ト）、オ（一）グスタス、オーグスツス、アウグスツス、アイグスト、アウグスタン、オウゴストス、オウガスタス、アウグスタ、アーガスタス、ヲーゴスト（ス）、オーガス、オゴスタス、アウグスタス、アウグストゥス、アウグストス、オウガスタン、オーガ

ス、オーグスト、塢胡斯德、塹翟斯、奥我斯多、Augustus）
①10［197］/
①21明9.C/①101明35.C/
①121明38.C/①148明43.C/
①150明44.A/①175大3.C/
①235大12.A/①268大15.C/
①272大15.E/①333昭6.C/
①338昭6.E/①349昭7.C/
①364昭8.C/①376昭9.B/
①378昭9.C/①380昭9.C//
②22昭10.C/②42昭11.C/
②43昭11.C/②48昭11.E/
②60昭12.C/②84昭14.C/
②96昭15.B/②109昭16.C/
②153明5.A/②153明5.C/
②155明7.C/②158明12.E/
②161明15.E/②162明16.B/
②163明16.C/②163明16.E/
②175明21.A/②177明21.E/
②178明22.B/②184明23.D/
②191明25.C/②193明26.A/
②195明26.C/②205明30.E/
②206明31.C/②213明34.E/
②216明35.C/②238大3.B//
③6明8.C/③7明9.B/
③17明14.C/③20明16.C/
③22明17.C/③31明21.C/
③36明22.C/③49明25.B/
③51明25.C/③67明28.C/
③78明29.E/③79明29.F/
③82明30.C/③83明30.C/
③97明32.E/③102明33.C/
③113明35.B/③113明35.C/
③119明36.B/③120明36.C/
③121明36.C/③122明36.C/
③124明36.E/③128明37.C/
③132明38.B/③133明38.C/
③134明38.C/③144明40.D/
③146明41.B/③156明43.C/
③160明44.B/③227大13.D/
③235大15.C/③240昭2.C/
③256昭5.E/③258昭6.C/
③296昭13.C//④33明10.C/
④37明12.E/④42明14.B/
④42明14.C/④43明14.C/
④44明14.E/④47明15.C/
④48明15.C/④52明16.C/
④57明17.E/④61明18.E/
④68明20.C/④81明23.B/
④83明23.C/④86明24.B/
④97明26.C/④101明27.B/
④102明27.C/④111明29.B/
④119明31.B/④136明35.B/
④145明36.C/④149明37.A/
④152明37.B/④153明37.C/
④161明38.B/④162明38.C/
④165明38.E/④190明41.F/
④197明42.C/④198明42.C/
④207明43.B/④210明43.C/
④264大3.C/④293大5.C/
④308大6.D/④320大8.A/
④339大10.B/④353大12.C/
④365大14.B/④381大15.C/
④406昭3.C/④417昭4.C/
④436昭5.E/④443昭6.C/
④472昭8.C/④508昭10.B/
④513昭10.C/④515昭10.C/
④535昭11.C/④555昭12.C/
④591昭14.C/④612昭15.C/
④627昭16.B/④634昭16.C/
④661昭18.C/④741[昭和]/
④769[昭16]/
アウガテイン → アウグスチヌス
アウグスタ → アウガ(グ)スタ(ト)ス(皇帝)
アウグスタイン帝 → アウガ(グ)スタ(ト)ス(皇帝)
アウグスタス → アウガ(グ)スタ(ト)ス(皇帝)
アウグスタン帝 → アウガ(グ)スタ(ト)ス(皇帝)

アウグスチヌース→ アウグスチヌス
(聖)アウグスチ(一)ヌス(アウガスチ(一)ン、アウグスティ
(一)ヌス、アウゴステン、アウグスチン、オ(一)ガスチン、ヲーグステン、ヲーゴステン、ヲーガスチン、ヲーガステン、アウグステーン、アウグステイ(一)ヌス、オーゴスチーヌス、オーゴスチン、アウグステイン、アウガテイン、オーガスチヌス、アウグスチュヌス、アウクテイン、ヲーゴスチン、アウゴスチン、オギスチス、オーギスタン、アウグステーヌス、オウグスティーヌス、オウガステーヌス、オグスチノ、オウグスチヌス、オーガサスチン、オーガステイノ、アウグッスチノ、アアウグステン、アウガスチノ、アウグスチヌース、アウグスチノ、アウグステイニス、アウグスティヌ、アウグスチチノ、アウゴスチーノ、アルグスチヌス、オウガステーヌス、オウグスチヌス、オウグスティーヌス、オーガサスチン、オーグスチン、オーゴスチン、オギスチヌ、オグスチ、亞古士丁、聖奥斯定、St.Augustine, Augustinus,Augustinusm-us)［アウグステイニズム］
①40明19.B/①46明21.B/
①47明21.B/①55明23.B//
①60明24.B/①61明24.C/
①67明25.E/①69明26.B/
①94明33.B/①111明37.B/
①112明37.B/①118明38.B/
①125明39.B/①181大4.B/
①196大6.B/①216大9.B/
①230大11.B/①236大12.B/
①254大14.B/①264大15.A/
①284昭3.A/①288昭3.B/
①300昭4.A/①300昭4.B/
①301昭4.B/①302昭4.B/
①315昭5.B/①323昭5.E/
①326昭6.B/①327昭6.B/
①328昭6.B/①339昭6.E/
①342昭7.B/①343昭7.B/
①345昭7.B/①347昭7.B/
①364昭8.C/①374昭9.B/
①376昭9.B/①380昭9.C/
①385昭9.E//②11昭10.A/
②14昭10.B/②16昭10.B/
②17昭10.B/②18昭10.B/
②19昭10.B/②38昭11.B/
②39昭11.B/②40昭11.B/
②42昭11.C/②43昭11.C/
②47昭11.D/②54昭12.B/
②55昭12.B/②56昭12.B/
②58昭12.B/②60昭12.C/
②70昭13.B/②72昭13.B/
②82昭14.B/②83昭14.B/
②84昭14.B/②92昭15.A/
②92昭15.B/②93昭15.B/
②95昭15.B/②96昭15.B/
②97昭15.C/②106昭16.B/
②108昭16.B/②118昭17.B/
②131昭18.B/②132昭18.B/
②142昭19.B/②160明15.B/
②165明17.E/②175明21.B/
②176明21.B/②179明22.B/
②187明24.B/②202明29.C/
②205明30.E/②205明31.B/
②208明32.C/②210明33.B/

②213明34.B/②216明35.C/
②218明36.D/②222明38.B/
②230明42.B/②231明44.A/
②234明45.B/②235明45.F/
②242大7.B/②250大13.B/
②260昭3.C/②261昭4.B/
②265昭5.B/②268昭6.B/
②269昭6.B/②270昭6.C/
②273昭7.B/②279昭8.E/
②280昭9.B/②281昭9.B/
②282昭9.B/②283昭9.B/
②284昭9.B//③17明14.B/
③30明21.B/③39明23.B/
③48明25.B/③54明26.B/
③60明27.B/③65明28.B/
③66明28.B/③66明28.B/
③67明28.C/③68明28.D/
③80明30.B/③88明31.B/
③92明32.B/③93明32.B/
③100明33.B/③106明34.B/
③111明35.B/③112明35.B/
③117明36.B/③119明36.B/
③126明37.B/③138明39.B/
③141明39.F/③144明40.D/
③147明41.B/③150明42.B/
③154明43.B/③155明43.B/
③163明45.B/③174大2.B/
③180大3.B/③182大3.B/
③190大4.B/③195大5.B/
③196大5.B/③197大5.B/
③205大7.B/③214大10.B/
③218大11.B/③225大13.B/
③233大15.B/③238昭2.B/
③240昭2.B/③240昭2.C/
③243昭3.B/③248昭4.B/
③252昭5.B/③262昭7.A/
③264昭7.B/③269昭8.B/
③270昭8.B/③275昭9.B/
③280昭10.B/③284昭11.A/
③288昭12.A/③289昭12.A/
③289昭12.B/③294昭13.B/
③295昭13.B/③301昭14.A/
③301昭14.B/③302昭14.B/
③307昭15.A/③312昭15.E/
③312昭16.A/③313昭16.A/
③314昭16.B/③318昭17.A/
③319昭17.A/③320昭17.B/
③323昭18.B/③325昭19.B/
③327明［不明］B//
④33明10.C/④34明11.B/
④39明13.B/④40明14.B/
④40明14.B/④41明14.B/
④42明14.C/④45明15.B/
④46明15.C/④47明46.C/
④55明17.B/④56明17.C/
④58明18.A/④59明19.B/
④60明18.D/④63明19.B/
④67明20.B/④69明20.C/
④71明21.A/④72明21.B/
④73明21.B/④73明21.C/
④80明23.B/④81明23.B/
④86明24.B/④88明24.C/
④90明25.B/④91明25.B/
④94明26.B/④95明26.B/
④95明26.B/④96明26.B/
④100明27.B/④101明27.B/
④102明27.B/④103明27.D/
④106明28.B/④107明28.B/
④108明28.C/④110明29.B/
④111明29.B/④114明30.B/
④115明30.B/④118明31.B/
④119明31.B/④120明31.B/
④123明32.B/④127明33.B/
④128明33.B/④129明33.E/
④131明34.B/④133明34.D/
④137明35.B/④140明35.D/
④141明35.F/④141明36.A/
④141明36.B/④144明36.B/
④149明37.B/④150明37.B/
④151明37.B/④152明37.B/
④153明37.C/④158明38.B/
④159明38.B/④160明38.B/
④161明38.C/④167明39.B/
④168明39.B/④169明39.B/

④170明39.B/④170明39.C/
④175明40.B/④176明40.B/
④177明40.B/④178明40.B/
④179明40.C/④181明40.E/
④183明41.B/④184明41.B/
④185明41.B/④186明41.B/
④187明41.B/④191明42.B/
④192明42.B/④193明42.B/
④195明42.B/④196明42.B/
④203明43.B/④204明43.B/
④205明43.B/④207明43.B/
④214明44.B/④218明44.B/
④219明44.C/④225明45.B/
④226明45.B/④228明45.B/
④232明45.B/④233明45.B/
④238明45.D/④241大2.B/
④247大2.B/④254大3.B/
④255大3.B/④257大3.B/
④260大3.B/④261大3.B/
④262大3.B/④265大3.C/
④269大3.E/④272大4.B/
④273大4.B/④274大4.B/
④276大4.B/④277大7.B/
④278大4.C/④280大4.C/
④283大4.E/④285大5.A/
④286大5.B/④289大5.B/
④290大5.B/④292大5.C/
④298大5.E/④300大6.B/
④301大6.B/④302大6.B/
④303大6.B/④304大6.B/
④308大6.D/④312大7.B/
④315大7.B/④316大7.B/
④322大8.B/④323大8.B/
④325大8.B/④328大8.E/
④330大9.B/④331大9.B/
④333大9.B/④338大10.B/
④339大10.B/④342大10.E/
④344大11.B/④345大11.B/
④346大11.B/④348大11.D/
④349大11.F/④351大12.B/
④352大12.B/④356大13.B/
④357大13.B/④358大13.B/
④362大13.E/④365大14.B/
④367大14.B/④368大14.B/
④371大14.D/④372大14.D/
④375大15.B/④376大15.B/
④377大15.B/④378大15.B/
④379大15.B/④381大15.C/
④383大15.D/④388昭2.B/
④389昭2.B/④390昭2.B/
④391昭2.B/④392昭2.C/
④400昭3.B/④401昭3.B/
④404昭3.B/④406昭3.C/
④412昭4.A/④412昭4.B/
④413昭4.B/④414昭4.B/
④415昭4.B/④416昭4.B/
④419昭4.D/④425昭5.A/
④426昭5.B/④427昭5.B/
④428昭5.B/④429昭5.B/
④430昭5.B/④432昭5.C/
④438昭6.A/④438昭6.B/
④439昭6.B/④440昭6.B/
④442昭6.B/④443昭6.C/
④446昭6.D/④448昭6.E/
④451昭7.B/④452昭7.B/
④453昭7.B/④455昭7.B/
④459昭7.C/④465昭8.A/
④466昭8.B/④467昭8.B/
④468昭8.B/④470昭8.B/
④471昭8.B/④483昭9.B/
④484昭9.B/④485昭9.B/
④486昭9.B/④487昭9.B/
④490昭9.B/④495昭9.D/
④500昭9.E/④505昭10.B/
④508昭10.B/④510昭10.B/
④511昭10.B/④520昭10.E/
④521昭10.F/④523昭11.A/
④524昭11.B/④526昭11.B/
④528昭11.B/④529昭11.B/
④532昭11.B/④533昭11.B/
④534昭11.C/④548昭12.B/
④549昭12.B/④550昭12.B/
④551昭12.B/④553昭12.B/
④555昭12.C/④557昭12.C/

④566昭13.A/④566昭13.B/
④567昭13.B/④568昭13.B/
④570昭13.B/④571昭13.B/
④572昭13.C/④580昭14.A/
④582昭14.A/④583昭14.A/
④583昭14.B/④584昭14.B/
④586昭14.B/④587昭14.B/
④588昭14.B/④599昭15.A/
④601昭15.B/④602昭15.B/
④604昭15.B/④605昭15.B/
④606昭15.B/④607昭15.B/
④608昭15.B/④612昭15.C/
④620昭15.E/④621昭15.E/
④624昭16.A/④628昭16.B/
④629昭16.B/④630昭16.B/
④631昭16.B/④632昭16.B/
④633昭16.C/④641昭17.A/
④642昭17.B/④643昭17.B/
④644昭17.B/④645昭17.B/
④655昭18.A/④656昭18.A/
④657昭18.B/④658昭18.B/
④664昭19.A/④665昭19.B/
④666昭19.B/④695[明26]/
④712[大2]/④725[大13]/
④729[昭2]/④730[昭2]/
④733[昭3]/④737[昭5]/
④744[昭7]/④751[昭10]/
④753[昭10]/④758[昭12]/
④759[昭12]/④763[昭14]/
④767[昭15]/④770[昭16]/
④773[昭17]/④778[昭19]/
④779[昭20]/④798[昭5]/
④809[昭20]/

アウグスチノ → アウグスチヌス

アウグスチュヌス → アウグスチヌス

アウグスチ(ー)ン → アウグスチヌス

アウグスツス帝 → アウガ(グ)スタ(ト)ス(皇帝)

Augustinisumus → アウグスチヌス

アウグステーヌス → アウグスチヌス

アウグステイニス→ アウグスチヌス

アウグステイニズム→ アウグスチヌス

アウグスティヌ→ アウグスチヌス

アウグステイ(ー)ヌス → アウグスチヌス

アウグスティ(ー)ヌス → アウグスチヌス

アウグステーン → アウグスチヌス

アウグステイン → アウグスチヌス

アウグスト → アウガ(グ)スタ(ト)ス

アウグストゥス→ アウガ(グ)スタ(ト)ス

アウグストス→ アウガ(グ)スタ(ト)ス

アウグスチチノ→ アウグスチヌス

アウグッスチノ→ アウグスチヌス

アウクテイン→ アウグスチヌス

アウゴスチーノ→ アウグスチヌス

アウゴスチン→ アウグスチヌス

アウゴステン → アウグスチヌス

アウタブリッヂ①283昭2.E//④416昭4.C/④418昭4.C/

アウタブリンヂ、エッチ・ダブルユー④350大12.A/

Aufhauser,J.R.④264大3.C/

Aulus Gelius(アウラス・ゲリウス)①5[19]//④215明44.B/④220明44.C/

アウルリアス、マーカス→ アウ

レリウ(ア、ヤ)ス、マー(ル)カス帝
アウレユス、マルクス → アウレリウ(ア、ヤ)ス、マー(ル)カス帝
あうれりあ(や)す、まあかす → アウレリウ(ア、ヤ)ス、マー(ル)カス帝
アウレリ、マルク→ アウレリウ(ア、ヤ)ス、マー(ル)カス帝
アウレリイ、マルク → アウレリウ(ア、ヤ)ス、マー(ル)カス帝
アウレリウ(ア、ヤ、オ)ス、マー(ル)カス帝(あうれりあ(や)す、まあかす、オーレリアス・マルクス、ヲーレリウス・マーカス、アウレリュース、マルカス、アウレユス、オレリウス、アウルリアス、オルレリヤス・マアカス 、オーレキュス・マルキュス、ヲーレリュース、マルクス・ヲヲレリオス、アオレリヤス、マルカス、オレイヤス、マルカッス・オウレリアス、マルコス、アウレリヤヌス、オウレリアス、マーカス、アウレリ、オレリオ、オレリオス、アントニウス、Aurèlièn, Aelius Marcus マルクス、マルコス)
①51明22.B/①55明23.B/
①69明26.B/①73明27.B/
①87明31.C/①105明36.B/
①111明37.B/①118明38.B/
①119明38.B/①125明39.B/
①130明40.B/①131明40.B/
①132明40.B/①137明41.B/
①141明42.B/①155明45.B/
①162大2.B/①163大2.B/
①170大3.B/①180大4.B/
①187大5.B/①222大10.B/
①236大12.B/①244大13.B/
①249大13.E/①253大14.B/
①274昭2.B/①301昭4.B//
②39昭11.B/②40昭11.B/
②53昭12.B/②95昭15.B/
②142昭19.B/②190明25.B/
②210明33.B/②221明38.B/
②233明44.C/②261昭4.B/
②281昭9.B//③9明9.E/
③17明14.B/③38明22.D/
③54明26.B/③80明30.B/
③133明38.C/③127明37.B/
③135明38.D/③141明39.E/
③142明40.B/③174大2.B/
③179大3.A/③229大14.B//
④37明12.E/④42明14.C/
④43明14.D/④51明16.B/
④55明17.B/④56明17.C/
④59明18.B/④68明20.C/
④77明21.B/④80明23.B/
④82明23.B/④92明25.B/
④95明26.B/④100明27.B
④101明27.B/④105明28.B/
④107明28.B/④122明32.B/
④136明35.B/④139明35.C/
④141明36.A/④144明36.B/
④176明40.B/④177明40.B/
④187明41.B/④191明42.A/
④192明42.B/④203明43.B/
④214明44.B/④220明44.C/
④228明45.B/④246大2.B/
④251大2.D/④257大3.B/
④260大3.B/④273大4.B/
④275大4.B/④283大4.E/
④306大6.C/④337大10.B/
④357大13.B/④364大14.A/

④366大14.B/④379大15.B/
④389昭2.B/④390昭2.B/
④414昭4.B/④427昭5.B/
④436昭5.E/④455昭7.B/
④465昭8.A/④467昭8.B/
④489昭9.B/④547昭12.A/
④552昭12.B/④569昭13.B/
④605昭15.B/④631昭16.B/
アウレリヤヌス→ アウレリウ(ア、ヤ)ス、マー(ル)カス帝
アウレリュース、マルカス → アウレリウ(ア、ヤ)ス、マー(ル)カス帝
アウレン、グスタフ④566昭13.B/
④571昭13.B/
アウレル、ケー・イー
④383大15.D/④728[昭1]/
アエスデーモス④158明38.B/
アエ(ェ)ネアース(アエネーイス、エーニード、エエネアス、Aeneid, Aeneis［ヴィルジリウス］
②125昭17.D//④284大5.A/
④330大9.B/④364大14.A/
④387昭2.A/④546昭12.A/
④581昭14.A/④643昭17.B/
④659昭18.C/
アエネーイス → アエネアース
Aenesidemos(Ainesidemos、アエネシデムス)
④376大15.B/④516昭10.D/
Aeneid→ アエネアース
Aeheils,H.④235大1.C/
アエラルス②166明18.B//
③23明18.B//④58明18.B/
アオクラテス④86明24.B/
アオレリヤス、マルカス→ アウレリウ(ア、ヤ)ス、マー(ル)カス帝
アーガスタス→アウガ(グ)スタ(ト)ス(皇帝
Akade, K.B.③109明34.C/
アカデミイ → プラトーン
アカデミシャン → プラトーン
アカデミッケル(學堂)派→ プラトーン
アカデミックス → プラトーン
アガトウレス②229明42.B/
アガメムノ(ー)ン(Agamemnon)
①231大11.D/①278昭2.D/
①279昭2.D//②135昭18.D/
②171明19.D/②185明23.D/
②239大4.C//③38明22.E/
③51明25.D//④236明45.D/
④627昭16.B/
アギス③271昭8.C/
アキナス(聖)(アク井ナス、アクキナス、アクイナス、アキノス、アクイナ(ノ)、アクナ、アッキナス、アクエイナス、アアクイナス、アクナス・ト(ー)マス、トーマ、トウマス、トマ、トウマ、Aquinas, St.Thomas,Thomas d' Aquin,Thomas von Aquino、多瑪斯、多然)
①61明24.C/①74明27.B/
①91明32.C/①242大12.E/
①245大13.B/①303昭4.B/
①323昭5.E/①328昭6.B/
①329昭6.B/①330昭6.B/
①334昭6.C/①339昭6.E/
①367昭8.D/①369昭8.E/
①373昭9.B/①375昭9.B/
①385昭9.E/①386昭9.E//
②14昭10.B/②15昭10.B/
②16昭10.B/②17昭10.B/
②19昭10.B/②28昭10.E/
②29昭10.E/②39昭11.B/
②48昭11.E/②49昭11.E/
②57昭12.B/②58昭12.B/

②66昭12.E/②71昭13.B/
②76昭13.E/②101昭15.E/
②105昭16.B/②118昭17.B/
②132昭18.B/②133昭18.B/
②141昭19.B/②160明15.B/
②160明15.B/②167明18.B/
②210明33.B/②234明45.B/
②257昭2.B/②259昭3.B/
②261昭3.E/②261昭4.B/
②267昭5.E/②269昭6.B/
②279昭8.E/②281昭9.B/
②281昭9.B/②286昭9.E//
③33明21.F/③42明23.F/
③79明30.A/③80明30.B/
③85明30.E/③93明32.B/
③173大2.B/③234大15.B/
③243昭3.B/③257昭6.B/
③270昭8.B/③280昭10.B/
③287昭11.E/③292昭12.E/
③301昭14.A/③314昭16.B/
③319昭17.A/③326昭19.B//
④39明13.B/④46明15.B/
④77明21.B/④85明23.F/
④96明26.B/④102明27.B/
④106明28.B/④113明29.D/
④123明32.B/④128明33.B/
④129明33.E/④133明34.D/
④136明35.B/④141明35.F/
④149明37.B/④150明37.B/
④151明37.B/④159明38.B/
④168明39.B/④169明39.B/
④173明39.D/④181明40.E/
④190明41.E.④193明42.B/
④204明43.B/④226大1.B/
④227大1.B/④228明45.B/
④232明45.B/④238明45.D/
④242大2.B/④256大3.B/
④261大3.B/④273大4.B/
④290大5.B/④310大6.F/
④316大7.B/④327大8.E/
④331大9.B/④338大10.B/
④339大10.B/④342大10.E/
④345大11.B/④349大11.E/
④356大13.A/④357大13.B/
④358大13.B/④364大14.A/
④368大14.B/④376大15.B/
④377大15.B/④383大15.D/
④389昭2.B/④398昭2.E/
④404昭3.B/④428昭5.B/
④429昭5.B/④439昭6.B/
④440昭6.B/④442昭6.B/
④446昭6.D/④452昭7.B/
④453昭7.B/④455昭7.B/
④459昭7.C/④465昭8.A/
④471昭8.B/④479昭8.E/
④483昭9.B/④484昭9.B/
④485昭9.B/④486昭9.B/
④487昭9.B/④488昭9.B/
④489昭9.B/④495昭9.D/
④504昭10.A/④504昭10.B/
④506昭10.B/④507昭10.B/
④508昭10.B/④509昭10.B/
④511昭10.B/④519昭10.E/
④529昭11.B/④532昭11.B/
④538昭11.D/④542昭11.E/
④543昭11.E/④549昭12.B/
④550昭12.B/④551昭12.B/
④559昭12.D/④562昭12.E/
④571昭13.B/④583昭14.B/
④584昭14.B/④586昭14.B/
④588昭14.B/④597昭14.E/
④603昭15.B/④604昭15.B/
④605昭15.B/④606昭15.B/
④620昭15.E/④621昭15.E/
④624昭16.A/④627昭16.B/
④629昭16.B/④630昭16.B/
④631昭16.B/④638昭16.E/
④639昭16.E/④641昭17.A/
④644昭17.B/④651昭17.D/
④653昭17.E/④657昭18.B/
④658昭18.B/④666昭19.B/
④671[江戸期]/④720[大9]/
④736[昭4]/④740[昭6]/
④743[昭7]/④744[昭7]/

④750[昭9]/④802[昭10]/
アキノス → アキナス(聖)
Archibald,R.G.④622昭15.F/
アーキメデス → アルキメデス
アキリーズ → アキレス
あきれす→ アキレス
アキレス(アヒーレス、アヒル?、アキリーズ、アルキレス、あきれす、亜基樓、Achilleus)
①64明25.B/①126明39.B//
②197明27.B/②211明33.D/
②246大10.C//③20明16.C/
③87明31.B/③102明33.C/
③161明44.B//④200明42.F/
④241大2.B/④282大4.D/
④298大5.E/④300大6.B/
④334大9.D/④360大13.C/
④433昭5.D/④484昭9.B/
④549昭12.B/④607昭15.B/
④627昭16.B/④665昭19.B/
アクイナ(ノ) → アキナス(聖)
アクイナス → アキナス(聖)
アクエイナス→ アキナス(聖)
アグストア③251昭4.F/
アクスチデス②218明36.C/
アクタデュルナ④68明20.C/
アクタビアス②195明26.C/
Acton, H.B.(アクトン)
③300昭13.E//④473昭8.C/
アクナス → アキナス(聖)
Agnus,A.④279大4.C/
アグヌス、トーマス②217明36.B/
アグネス④418昭4.C/
アグネス、マリア④452昭7.B/
アグノダイス①43明20.C/
アクラ④392昭2.C/
アグリッパ王(第二世)
②210明33.C//④43明14.C/
④58明17.E/④128明33.C/
④161明38.C/④317大7.C/
④379大15.C/④457昭7.C/
④513昭10.C/④534昭11.C/
アグリッピア→ アグリッピナ
アグリッピ(一)ナ(アグリッピア、アグリピナ)
②240大5.C/②251大14.B//
④215明44.B/④220明44.C/
④292大5.C/
アグリピナ→ アグリッピナ
アク井ナス → アキナス(聖)
アクキナス→ アキナス(聖)
アゲシラウス第二世 → アゲシラオス(王)
アゲシラオス(王)(アゲシラウス第二世、アゲシラス?)
②246大10.B/②247大11.B//
③30明21.B/③113明35.C//
④139明35.C/
アゲシラス(アゲシラオス?)
①63明25.B//③50明25.C//
④92明25.C/
ア・ケンプス(ケンピス)、ト(一)マス(Thomas a Kempis)[由木康]
④90明25.B/④105明28.B/
④122明32.B/④202明43.B/
④242大2.B/④330大9.B/
④337大10.B/④357大13.B/
④671[慶長]/④695[明25]/
④697[明28]/④699[明32]/
④705[明39]/④715[大4]/
④720[大9,10]/④725[大13]/
④729[昭2]/④730[昭2]/
④732[昭3]/④733[昭3]/
④755[昭11]/④766[昭15]/
アコラス(亞哥剌士)①36明17.E//
④57明17.E/
Arthur, Z.P.①190大4.C/
アザアル(アザール)
②136昭18.D//④662昭18.D/
④772[昭17]/④775[昭18]/
アサドニー(麻設獨尼)

②160明15.B/
Azan, P.③120明36.C/
③121明36.C//④145明36.C/
ア・サバチエール②171明19.D/
アザール→ アザアル
亞氏 → アリストートル
ア氏 → アリストートル
アシアス③72明29.B/
アッシャー,A.P.④768[昭15]/
阿育王(アショカ、亞輸伽、König Asoka)
①97明34.C//②222明38.C/
②232明44.B//③178大2.D//
④106明28.B/④369大14.C/
Astholz, H.②285昭9.C/
Ashby, T.③256昭5.G/
Ashley,R.④393昭2.C/④418昭4.C/
④536昭11.C/
Ashley①242大12.E/
アスカニウス④121明31.F/
④134明34.F/
アスキラス→ エキスラス
アスキレス → エキスラス
アスクラピウス → アスクレピアス
アスクレピアス(アスクレーピス、エイスクラピューヌ、エスクレオイオス、エスクレピオス、アスクレピ(一)オス、エイスクラピュートス、アスクラピウス、アスクレピギシス)
①122明38.F//②135昭18.C/
②177明21.F/②255大15.F/
②257昭2.C/②264昭4.F//
③38明22.F/③263昭7.B//
④56明17.C/④401昭3.B/
④744[昭7]/
アスクレピ(一)オス → アスクレピアス
アスクレーピス → アスクレピアス
アスクレピギシス→ アスクレピアス
アスコマカス②225明39.B/
アスター(アスデ（テ)ル、エルンスト・フォン Aster,Ernst von)
①300昭4.B/①304昭4.B/
①330昭6.B//②93昭15.B/
②265昭5.B//③275昭9.B//
④226大1.B/④415昭4.B/
④441昭5.B/④412昭4.B/
④415昭4.B/
アスデ（テ)ル、エルンスト・フォン→ アスター
アスパシア(名妓アスペシア、アスパジア)
①183大4.C/①267大15.C//
②208明32.C/②216明35.C//
③31明21.B/③131明38.B/
③151明42.C/③163明45.B/
③195大5.B/③206大7.C//
④124明32.C/④278大4.C/
④317大7.C/
アスパジア → アスパシア
Asbach, D.J.③121明36.C/
Aspinwall, W.R.③166明45.B/
アスペシア → アスパシア
アスモラス④353大12.C/
アゼシラクス王①79明29.C/
アゼシロース①184大4.D/
アセナ神(アテナ、アデイナ、アテナイ、アテエナ、アテエネ、アテーネ(一)、アテ(一)ナ、アセーナイ・パラス、アテエネ・パラス、アテナ・レムニア)
①60明24.B/①79明29.B/
①139明41.C/①146明43.B/
①151明44.B/①170大3.B/
①171大3.B//②171明19.D//
③137明39.B/③152明42.D/

③156明43.C/③161明44.B/
③249昭4.D/③263昭7.B/
③297昭13.D/③326昭19.D//
④112明29.D/④187明41.B/
④352大12.C/④367大14.B/
アセーナイ･パラス → アセナ神
アゼンクール②207明32.A/
アソーリン①266大15.B/
①305昭4.B/
アタナシウス(アタナシヤス)
④234明45.C/④438昭6.B/
④442昭6.B/
アタナシヤス→ アタナシウス
アダム(亞當)④30明7.B/
アダム、エ・エム(女史)
③173大2.B/
アダム、カール(Adam,Karl)
②103昭16.A/②118昭17.B//
④485昭9.B/④623昭16.A/
④624昭16.A/④642昭17.B/
④643昭17.B/④658昭18.B/
④743[昭7]/④769[昭16]/
Adam, G.B.③94明32.C//
④337大10.A/④547昭12.A/
Adam,R.④556昭12.C/
あだむすみす④798[昭5]/
Adams①326昭6.A/
アダムス④32明10.A/
アダムス烈女④32明10.C/
アダムス、ジョン(J.P.)
①195大6.B//②243大8.B//
④227大1.B/④305大6.B/
Adams,W.J.Phythia①188大4.B/
Adamson, R.A.③165明45.B/
アタラス④432昭5.C/
アタランタ③264昭7.B//
④178明40.C/
アヂソン④97明26.C/
アチス②236大2.B/
Ackermann, R.③124明36.D//
④147明36.D/
アツカン(ジョセフ、博士)
①351昭7.D//②285昭9.D//
③303昭14.C//④478昭8.D/
アッキナス→ アキナス(聖)
アッキンソン④69明20.C/
④691[明21]/
アッシヤ④623昭15.F/
アッチカ派(彫刻)③103明33.D/
アッチクス → アッチュキス
アッチュキス(アッチクス)③6明8.C/
③46明24.D/
アップコット、ハアマン
②263昭4.D/
アッポロー → アポロ(一)神
アツルフェルト(博士)
③217大10.E/
アーデー・スチレール
④783[明18]/
アデイナ→ アセナ神
アテエナ→ アセナ神
アテエネ → アセナ神
アテ(一)ナ → アセナ神
アテナイ(女神) → アセナ神
アテナイオス②248大12.B/
アテネ・フランセ④327大8.D/
④649昭17.D/
アテーネ(一)→ アセナ神
アーテミスア → アルテミース神
アテヤス(巨人)③195大5.B/
アドアン → ハドリアヌス帝
Atkinson(Prof.)④38明12.F/
アトキンソン②158昭11.F/
アートグレンニー、ジェ・エス
③56明26.C/
Adcock, F.E.①291昭3.C//
②42昭11.C/
Adcock, E.A.①306昭4.C/
アドナヤ④347大11.C/
アドニス(Adonais、Adnis、アドネース)①66明25.D/
①119明38.B//②120昭17.B/

②132昭18.B//③99明33.B/
③138明39.B/③171大2.B/
③260昭6.D/③261昭6.D//
④90明25.B/④110明29.B/
④122明31.D/④408昭3.D/
④627昭16.B/④434昭5.D/
アドネース → アドニス
アトラス③158明43.D//
④150明37.B/④207明43.B/
④511昭10.B/
アドラッキー②37昭11.B//
④531昭11.B/
アトラン③234大15.B/
アドリアヌス→ ハドリアヌス帝
アドルフ・ホルツハウゼン
④676[明7]/
アナカリシス → アナカルジス
アナカルシス → アナカルジス
アナカルジス(アナカルシス、アナカリシス)
②214明34.F//③3[17497]/
③42明23.E/
アナキサ(ー)ゴラス → アナクサゴラス
アナキサゴラトーン → アナクサゴラス
アナキサダマス→ アナキ(シ)マンデル
アナキシマンダ(ー) → アナキ(シ)マンデル
アナキ(シ)マンデル(アナクシマンドロス、アナクシマンデル、アナキシマンドル、アナキシマンダ(ー)、アナキシマントル、アナキシマンドロス、アナキサダマス、アナクスマンドロス、アナキスマンダー、アナクジマンデル、アナクシマンデルス、アナクスマン、あなきしまんでる、Anaximander)
①82明30.B/①187大5.B//
②70昭13.B/②94昭15.B/
②157明10.C/②160明15.B/
②200明28.B/②224明39.B/
②226明40.B/②236大2.B//
③29明20.F/③31明21.C/
③38明22.F/③66明28.B/
③72明29.B/③93明32.B/
③117明36.B/③189大4.B/
④44明14.F/④67明20.B/
④72明21.B/④90明25.B/
④112明29.D/④119明31.B/
④125明32.D/④127明33.B/
④138明35.B/④194明42.B/
④231大45.B/④243大2.B/
④288大5.B/④578昭13.F/
あなきしまんでる→ アナキ(シ)マンデル
アナキシマンドロス→ アナキ(シ)マンデル
アナキシマントル→ アナキ(シ)マンデル
アナキシマンドル → アナキ(シ)マンデル
アナキシメ子(ネ)ス(アナクイメネス、 アナクシメ子(ー)ス、アナクシメネス、アナキスメネ子、アナクシネ子ス、亞那畿西墨涅斯、Anaxomenes)
①10[165]/①187大5.B//
②200明28.B/②212明34.B/
②215明35.B/②235明45.F//
③24明18.F/③60明27.B/
③117明36.B/③167明45.B/
③221大12.A/③222大12.B/
③294昭13.B//④100明27.B/
④110明29.B/④125明32.D/
④127明33.B/④138明35.B/

④193明42.B/④288大5.B/
④302大6.B/
アナキスゴラス → アナクサゴラス
アナキスマンダー→ アナキ(シ)マンデル
アナキスメ子ネス→ アナキシメ子(ネ)ス
アナクイメネス → アナキシメ子(ネ)ス
アナクサ[ザ]ゴラス(アナキスゴラス、アナキサ(一)ゴラス、アナキサゴラトーン、アナクザコール、アナクザゴール、アナサゴラス、アナザコラス、アナクザルカス、亞那畿撤我剌斯、Anaxagoras)
①10[165]/①78明29.B/
①119明38.B//②157明10.C/
②158明12.F/②158明13.B/
②162明16.B/②190明25.B/
②207明32.B/②208明32.B/
②212明34.B/②220明37.B/
②224明39.B/②231明43.B//
③18明15.B/③29明20.F/
③61明27.B/③66明28.B/
③81明30.B/③138明39.B/
③222大12.B//④39明13.B/
④63明19.B/④77明21.B/
④85明23.F/④120明31.C/
④127明33.B/④193明42.B/
④195明42.B/④114明30.B/
④216明44.B/④252大2.E/
④253大2.E/④388昭2.B/
④469昭8.B/④488昭9.B/
④698[明30]/
アナクザコール → アナクサゴラス
アナクザゴール → アナクサゴラス
アナクザルカス→ アナクサゴラス
アナクサルコ④50明16.B/
アナクシネ子ス→ アナキシメ子(ネ)ス
アナクシマンデルス→ アナキ(シ)マンデル
アナクシマンデル→ アナキ(シ)マンデル
アナクシマンドル → アナキ(シ)マンデル
アナクシマンドロス → アナキ(シ)マンデル
アナクシメネス → アナキシメ子(ネ)ス
アナクシメ子(一)ス → アナキシメ子(ネ)ス
アナクスマン→ アナキ(シ)マンデル
アナクスマンドロス→ アナキ(シ)マンデル
アナクトリア②236大2.B/
アナクレオ(一)ン(アナクレヲン、亞那古列翁、Anacreon)
①10[165]/①57明23.D/
①79明29.D/①102明35.D/
①128明39.D/①134明40.D/
①293昭3.D//②160明15.B/
②216明35.D/②217明35.D/
②270昭6.D//③72明29.B/
③76明29.D/③211大9.B/
③228大13.D//④54明17.A/
④112明29.D/④139明35.D/
④140明35.D/④147明36.D/
④156明37.D/④159明38.B/
④211明43.D/④294大5.D/
④498昭9.D/
アナクレヲン → アナクレオ(一)ン
アナサゴラス → アナクサゴラス
アナザコラス → アナクサゴラス

アナスタシヤ(聖女)
④42明14.C/
アナチゴーネ → アンテゴ子
アーナンダ・クマラスワーミ
④808[昭19]/
アノージ、アントアン
①315昭5.B/①318昭5.C//
④430昭5.C/
アノトー④76明21.B//
④546昭12.A/
アーノルド → アルノルド(M.)
アーノールド→ アルノルド、マシウ
アーノルド(アルノルド、Thomas、トマス)[ラグビー校]
①44明20.D/
①83明30.C/①112明37.B/
①157明45.B/①230大11.B/
①275昭2.B//③80明30.B/
③88明31.B//④82明23.B/
④85明23.D/④109明29.A/
Aber,Agnes③188大3.F/
アバクス②140昭18.F/
アバクロンビイ①381昭9.D/
Abercrombie, N.②83昭14.B/
Abaelard②72昭13.B/
アビオゲ子シス①122明38.F/
アビデノス④47明15.C/
アヒル → アキレス?
アヒーレス → アキレス
アピュリウス → アプレイウス
アピュレイアス → アプレイウス
アフシェ②255大15.D/
阿府曼[アフマン]④122明32.A/
Applan④612昭15.C/
アプレイウス(アピュレイアス、アピュリウス、Apuleius)[森田思軒、不語軒主人]
①5[19]/
①43明20.D/①44明20.D/
①61明24.D/①258大14.D//
②98昭15.D/②100昭15.D/
②238大3.B/②249大12.B//
③109明34.D/③177大2.D/
③298昭13.D//④88明24.D/
④700[明34]/④766[昭15]/
Aphobos③276昭9.C//④491昭9.C/
アブラマム(亞伯拉罕)
④30明7.B/
アフロジテ → アフロヂチ神
アフロダイティー → アフロヂチ神
アフロヂイチ → アフロヂチ神
アフロヂイテ → アフロヂチ神
アフロヂタス→ アフロヂチ神
アフロヂチ神(アフロデテー、アフロヂ(ジ)テ、アフロヂイチ、アフロヂイテ、アフロデット、アフロディット、アフロヂット、アフロダイティー、アフトディ(ー)テ、アフロジテ、アフロディート、アフロディジアック、アフロヂタス、アフロヂテ(ー)、アフロヂトス)
①100明35.B/①162大2.B/
①179大4.B/①188大5.B/
①192大5.D/①194大6.A/
①198大6.D/①265大15.B/
①301昭4.B/①308昭4.D//
②54昭12.B/②171明19.D/
②244大8.F/②246大10.B/
②250大13.D/②264昭4.F//
③193大4.D/③203大6.D/
③222大12.B/③249昭4.D/
③264昭7.B/③297昭13.D//
④12232.B/④135明35.B/
④171明39.D/④296大5.D/
④307大6.D/④338大10.B/
④354大12.D/
アフロヂット → アフロヂチ神

アフロヂテ(一) → アフロヂチ神
アフロヂトス→ アフロヂチ神
アフロディジアック → アフロヂチ神
アフトディ(一)テ → アフロヂチ神
アフロディート → アフロヂチ神
アフロディット → アフロヂチ神
アフロデット → アフロヂチ神
アフロデテー → アフロヂチ神
アフロニュス(阿拂路尼斯)
①9[142]/
アベラール④426④5.B/
④583昭14.B/
アヘリス①298昭3.F/
アペレス④270大4.A/
アペルト(Apelt, Otto.)
①237大12.B//③73明29.B/
③166明45.B/③172大2.B/
③174大2.B/③181大3.B/
④773[昭17]/
アヘルレス④④635昭16.D/
阿房大王④102明27.C/
アポクシュオネノス
③297昭13.D/
アボット(亞勃的)④59明19.C/
④108明28.C/④686[明18]/
Abbot, E.③121明36.C/
Abbot,G.F.④611昭15.C/
Abbott, F.F.①292昭3.C//
②49昭11.E/
Abbott,Kenneth Morgan
②99昭15.D//④767[昭15]/.
アボット、ライマン(Abbot, Lymann)④141明35.E/
④245大2.B//④246大2.B/
アポル→アポロ(一)神
アポルロ(一) → アポロ(一)神
アポルロース→ アポロ(一)神
アポルロニオス→ アポロニウス
アポルロ(一)ン → アポロ(一)神
あぽろ → アポロ(一)神
アポロ(一)神(アボロ、アポル、アポロ(一)ン、あぽろ、アポルロ(一)、アポルロ(一)ン、アッポロー、アポロ・サウロクトノス、阿保留、Apollon, Apollo Smintheus, Apollonioan)
①8[122]/
①49明21.D/①110明37.B/
①125明39.B/①142明42.B/
①314昭5.B/①366昭8.D/
①369昭8.F/①383昭9.D//
②16昭10.B/②55昭12.B/
②106昭16.B/②166明18.B/
②171明19.D/②173明20.B/
②181明22.D/②201明28.D/
②208明32.D/②225明 40.A/
②226明40.B/②232明44.B/
②233明44.E/②233明45.B/
②234明45.B/②236大2.B/
②237大3.B/②244大8.F/
②248大11.E/②259昭3.B//
③14明12.B/③23明18.B/
③35明22.B/③58明26.D/
③60明27.B/③79明30.A/
③100明33.B/③104明33.F/
③163明45.B/③179大3.A/
③205大7.B/③209大8.B/
③218大11.B/③231大14.D/
③249昭4.D/③263昭7.B/
③264昭7.B/③274昭9.B/
③289昭12.B/③297昭13.D/
③320昭17.B//④26[24997]/
④40明14.B/④53明16.D/
④58明18.B/④67明20.B/

④74明21.D/④106明28.B/
④133明34.D/④150明37.B/
④163明38.D/④168明39.B/
④181明40.D/④197明42.C/
④199明42.D/④215明44.B/
④226大1.B/④229明45.B/
④327大8.D/④352大12.B/
④397昭2.D/④483昭9.B/
④506昭10.B/④513昭10.C/
④525昭11.B/④567昭13.B/
アボロ → アポロ(一)神
Apology(Apologia) → ソクラ(ッ)ト
Apollonioan→ アポロ(一)神
Apollodorus④611昭15.C/
アポロニア・フォン・アルキゲネス③251昭4.F/
あぽろにうす→ アポロニウス
アポロニウス(アポロニュース、アポルロニオス、あぽろにうす)
①269大15.D//②158明12.F/
②201明28.F/②202明29.C/
②205明31.B/②286昭9.D//
④253大2.F/④496昭9.D/
④578昭13.F/④639昭16.F/
アポロニウス・チアネンシス
①162大2.B/①170大3.B/
アポロニュース → アポロニウス
アポロ(一)ン → アポロ(一)神
アマゾン(女神、女軍團)(アマツオーネ)①164大2.B/
①202大7.B//③154明43.B/
③156明43.C/③193大4.D/
アマスト大學③59明27.A/
アマツオーネ → アマゾン(女神)
アミクテネ②236大2.B/
アムブロウス④69明20.C/
④102明27.B/④102明27.C/
アムール③297昭13.D/
Armstrong, A.②96昭15.B/
Armstrong, G.Cyril②17昭10.B/
アムフィトリオン②255大15.F/
アメデ・ガブール④682[明12]/
アメルマン④59明18.B/
④62明19.B/④72明21.B/
アヤーラ、ペレス・デ②118昭17.B/
アライオン③200大5.D/
アラクネ(一)③201大6.B/
③263昭7.B/
Arragon, R.F.②278昭8.C/
アラチュス(亞剌□斯)
①10[165]/
アラリック(西ゴート王)
①354昭7.E//④362大13.E/
アラリック二世④463昭4.E/
アラン①361昭8.B/①366昭8.D//
②14昭10.B/②86昭14.D/
②93昭15.B/②95昭15.B/
②105昭16.B/②111昭16.D/
②112昭16.D//③316昭16.D/
③317昭16.D//④508昭10.B/
④577昭13.E/④588昭14.B/
④635昭16.D/
Allan, D.J.②40昭11.B//
④603昭15.B/
アラン、アンリー②160昭15.E/
Alan,Fyffe Ch.④73明21.C/
アラン、モオド④238明45.D/
アランドルミー④634昭16.D/
アリアドナ → アリアドネ
アリアドネ(アリアドナ、アリアドニ)
②241大6.C//③90明31.D/
③297昭13.D//④484昭9.B/
アリアヌス、フラキウス(アリアン、Arrian)
①21明9.C/①362昭8.C//
②216明35.D//④612昭15.C/
アリアン → アリアヌス
Aly,W.④610昭15.C/

アリウス派①332昭6.C/
Arius Didymus(アリウス)
③183大3.B//④330大9.B/
アリウスプラチウス②156明8.D/
アリエル④540昭11.D/
アリオン③264昭7.B/
アリグリイス、ダンテス・デ
④732[昭3]/
アリシタイデス④51明16.B/
アリシトウトル → アリストートル
アリシバイアヂス → アルシビアデス
アリシバイアデース → アルシビアデス
アリシパヤデース→ アルシビアデス
アリシヲウトル → アリストートル
Alischut,S.E.④243大2.B/
アリスタアカス(アリスタルコス、アリスタークス、Aristarchus)
②151[14516]/②186明24.A/
②264昭4.F//③70明28.F/
③149明41.F/
アリスタイズ → アリスタイデ(一)ス
アリスタイヂース → アリスタイデ(一)ス
アリスタイデ(一)ス(アリスタデ井ース、アリスタイヂース、アリスチデス、アリスタイズ、アリスタイラス、アリスチーヂス、アリスチズ、アレイスタイド、アリスチデス、アリスタイディ)①66明25.E/
①83明30.C/①180大4.B//
②153明4.C/②159明13.E/
②163明16.E/②198明27.C/
②200明28.C/②201明28.E//
③6明8.C/③41明23.C/
③49明25.B/③79明30.A/
③113明35.C/③120明36.C/
③210大8.C//④197明42.C/
④588昭14.B/
アリスタイディス→ アリスタイデ(一)ス
アリスタイラス → アリスタイデ(一)ス
アリスタークス → アリスタアカ
アリスタデ井ース → アリスタイデ(一)ス
アリスタルコス → アリスタアカス
アリスットートル→ アリストートル
アリスチズ → アリスタイデ(一)ス
アリスチーヂス → アリスタイデ(一)ス
アリスチデス → アリスタイデ(一)ス
アリスヂッファス → アリスチープ
アリスチッパス→ アリスチープ
アリスチップス → アリスチープ
アリスチッポス → アリスチープ
アリスチデス → アリスタイデ(一)ス
アリスチープ(アリスチッポス、アリスチップス、アリスヂッファス、アリスチッパス、Aristippus)［快樂派］①5[19]/
①31明14.B/①89明32.B/
①96明34.B/①101明35.B/
①179大4.B//②158明13.B/

②162明16.B/②167明18.B/
②176明21.B/②182明23.B/
③190大4.B/③228大14.A//
④106明28.B/④114明30.B/
④185明41.B/④193明42.B/
④402昭3.B/④583昭14.B/
④628昭16.B/
アリステアス②224明39.B/
アリスデース④101明27.B/
アリスーテム④120.明31.B/
アリストー④120明31.B/
Aristoxenos③169明45.D/
アリストヂトン③163明45.B/
アリストート→ アリストートル
アリストウテル→ アリストートル
アリストウト → アリストートル
アリストウトル → アリストートル
アリストール → アリストートル
アリストウル → アリストートル
アリストオ(ォ)テレス → アリストートル
アリストオトル → アリストートル
ありすとおとる → アリストートル
アリストット→ アリストートル
ありすとーつる → アリストートル
アリスト(ー)ツル → アリストートル
アリストーテリ → アリストートル
アリストテーリアン協會 → アリストートル
アリストテリアニズム→ アリストートル
アリストテリアンスム→ アリストートル
アリストテリス → アリストートル
アリストテリーズ → アリストートル
Aristotelism（Aristotelismus） → アリストートル
アリストーテレス → アリストートル
アリストテレ(ー)ス → アリストートル
アリストテレ(ー)ス後哲學(アリストートル後、Nacharistotelische Philosophie）
①78明29.B//③80明30.B/
③87明31.B/③100明33.B/
③242昭3.A/
アリストテレエス → アリストートル
アリスト(ー)テル → アリストートル
アリストテルス → アリストートル
ありすとてれす→ アリストートル
アリストテーン → アリストートル
アリストト → アリストートル
アリストート → アリストートル
アリストトル → アリストートル
ありすとーとる → アリストートル
ありすとうとる→ アリストートル
アリストウトレス→ アリストートル
ア(亞)リストートル(アレスタウレス、アレストウテレス、

アリストテルス､アリストート､アリストーテリ、アリストトル､アリストト､アリストット､アリンストートルス､アリスト(一)ツル､アリストテレ(一)ス､アリストオテレス、アリストウトル、アリストウル､アリストテレエス､アリストオトル、アリストテリーズ、アリストテリス､アリストヲト、アリストール、アリシトウトル、アリスト(一)テル、アロシヲウトル、アリストウト、アレスタウレス、アリストーテレス、アリストテーン、ア氏、アリストヲテレ、アリトシトツ、アリッストーテル、アリスットートル、アリストウテル、アリストヲトル、アリッストテレス、アリストウトレス、→ アリストートル、ありすとてれす、ありすと一つる、ありすとーとる、ありすとおとる、ありすとうとる、アリストテリアニズム、アリストテリアンスム、アリストテーリアン協會、亞利私度底列私、亞立斯德爾、亞理斯多得列、亞理斯士兒、亞理斯多、亞理斯多爾、亞利斯多的列思、亞立士度、亞立斯度**德**､亞里士多德、亞里斯多德、亞里私特德、亞里私特篤、亞里斯度德、亞拉斯德度留、亞列斯德低禮士、亞利登、阿禮須唐天聯寸、亞里阿私篤、阿李土德、亞里私鐸底兒斯、亞氏、亞利斯奪爾、亞利斯篤、亞理斯都底爾、亞理斯多、亞利斯度德、Aristoteles,Aritotle, Aristote、Aristotelism、Aristotelismus)［アテネ憲法論、アリストテーリアン協會、エティカ・ニコマケーア、エティカ・ニコマケヤ（ア）、ニコマケイア、ニコマケーア、ニコマコス倫理學、にこまつく、Peripatos、Eidos-Lehre］
①5［19,33］/①6［41］/
①7［81］/①8［116］/
①9［140］/①10［163］/
①11［180］/①15明5.B/
①17明7.E/①18明8.B/
①19明8.E/①20明9.B/
①31明14.B/①32明14.F/
①33明15.B/①33明15.E/
①36明17.E/①38明18.E/
①39明19.B/①40明19.E/
①42明20.B/①44明20.D/
①44明20.E/①46明21.B/
①48明21.D/①51明22.B/
①52明22.D/①53明22.E/
①53明22.F/①54明23.B/
①55明23.B/①57明23.D/
①58明23.D/①58明23.E/
①59明24.B/①60明24.B/
①61明24.C/①62明24.E/
①63明25.B/①64明25.B/
①66明25.D/①68明26.A/
①68明26.B/①69明26.B/

①70明26.B/①70明26.C/
①73明27.B/①75明28.B/
①78明29.A/①78明29.B/
①80明29.D/①82明30.B/
①83明30.C/①84明30.C/
①84明30.D/①84明30.E/
①85明31.B/①89明32.A/
①90明32.B/①91明32.E/
①93明33.A/①93明33.B/
①94明33.B/①96明34.B/
①100明35.B/①110明37.B/
①111明37.B/①113明37.B/
①114明37.C/①118明38.A/
①118明38.B/①119明38.B/
①120明38.B/①125明39.B/
①126明39.B/①128明39.D/
①129明49.A/①129明39.E/
①131明40.B/①133明40.D/
①134明40.E/①135明41.B/
①136明41.B/①141明42.B/
①137明41.B/①143明42.B/
①144明42.D/①146明43.B/
①150明44.A/①155明45.A/
①159明45.E/①160［4512］/
①169大3.B/①171大3.B/
①177大3.E/①179大4.B/
①180大4.B/①185大4.E/
①187大5.B/①195大6.B/
①206大7.E/①209大8.B/
①212大8.E/①213大8.E/
①218大9.D/①218大9.E/
①218大9.F/①224大10.D/
①226大10.E/①227大10.E/
①231大11.D/①232大11.D/
①233大11.E/①235大12.A/
①236大12.B/①237大12.B/
①241大12.D/①242大12.E/
①243大13.A/①245大13.B/
①246大13.B/①247大13.D/
①248大13.D/①249大13.E/
①253大14.B/①258大14.D/
①259大14.D/①261大14.E/
①264大15.A/①264大15.B/
①265大15.B/①266大15.B/
①270大15.D/①272大15.E/
①274昭2.A/①274昭2.B/
①275昭2.B/①276昭2.B/
①277昭2.B/①279昭2.D/
①282昭2.E/①284昭3.A/
①285昭3.A/①286昭3.B/
①287昭3.B/①288昭3.B/
①289昭3.B/①294昭3.D/
①295昭3.D/①296昭3.E/
①297昭3.E/①298昭3.F/
①299昭4.A/①300昭4.B/
①300昭4.B/①301昭4.B/
①302昭4.B/①303昭4.B/
①310昭4.E/①311昭4.F/
①312昭5.A/①313昭5.B/
①314昭5.B/①315昭5.B/
①316昭5.B/①322昭5.E/
①325昭6.A/①326昭6.B/
①327昭6.B/①328昭6.B/
①329昭6.B/①330昭6.B/
①331昭6.B/①332昭6.C/
①335昭6.D/①336昭6.D/
①338昭6.E/①339昭6.E/
①343昭7.B/①344昭7.B/
①345昭7.B/①350昭7.D/
①351昭7.D/①354昭7.E/
①355昭7.E/①358昭8.B/
①359昭8.B/①360昭8.B/
①361昭8.B/①367昭8.D/
①368昭8.E/①369昭8.F/
①373昭9.B/①374昭9.B/
①375昭9.B/①381昭9.D/
①384昭9.E/①385昭9.E//
②11昭10.A/②11昭10.B/
②12昭10.B/②13昭10.B/
②15昭10.B/②16昭10.B/
②17昭10.B/②18昭10.B/
②19昭10.B/②27昭10.E/
②29昭10.F/②30昭10.F/
②33昭11.A/②33昭11.B/

②35昭11.B/②36昭11.B/
②37昭11.B/②38昭11.B/
②39昭11.B/②44昭11.D/
②45昭11.D/②48昭11.E/
②53昭12.A/②53昭12.B/
②54昭12.B/②55昭12.B/
②57昭12.B/②58昭12.B/
②59昭12.B/②64昭12.E/
②65昭12.E/②67昭12.F/
②68昭13.A/②68昭13.B/
②69昭13.B/②70昭13.B/
②71昭13.B/②75昭13.E/
②76昭13.E/②77昭13.E/
②78昭13.F/②79昭14.B/
②80昭14.B/②81昭14.B/
②82昭14.B/②83昭14.B/
②86昭14.D/②88昭14.E/
②89昭14.E/②92昭15.B/
②93昭15.B/②94昭15.B/
②95昭15.B/②96昭15.B/
②100昭15.D/②101昭15.E/
②104昭16.B/②105昭16.B/
②106昭16.B/②108昭16.B/
②113昭18.E/②115昭16.F/
②116昭16.F/②118昭17.B/
②119昭17.B/②120昭17.B/
②125昭17.D/②129昭17.F/
②131昭18.B/②132昭18.B/
②133昭18.B/②136昭18.D/
②137昭18.E/②138昭18.E/
②141昭19.B/②142昭19.B/
②144昭19.D/②145昭19.E/
②147昭20.B/②147昭20.E/
②152明2.F/②154明6.B/
②155明7.B/②156明8.B/
②156明8.E/②157明10.A/
②157明10.F/②158明11.F/
②158明13.B/②159明14.A/
②159明14.B/②159明14.E/
②160明15.B/②160明15.E/
②161明15.E/②161明15.F/
②162明16.B/②163明16.E/
②164明16.E/②164明17.A/
②164明17.B/②165明17.B/
②166明18.B/②167明18.B/
②168明18.E/②169明19.B/
②170明19.B/②171明19.E/
②172明19.E/②172明19.F/
②172明20.B/②173明20.B/
②174明20.D/②175明21.A/
②175明21.B/②176明21.B/
②177明21.E/②177明21.F/
②178明22.B/②179明22.B/
②181明22.E/②181明22.F/
②182明23.B/②183明23.B/
②183明23.C/②184明23.D/
②185明23.D/②185明23.E/
②186明23.F/②186明24.A/
②186明24.B/②187明24.B/
②188明24.D/②189明24.E/
②190明25.B/②191明25.D/
②192明25.E/②193明26.A/
②194明26.B/②196明26.F/
②197明27.B/②198明27.B/
②199明27.D/②199明27.F/
②200明28.B/②201明28.D/
②201明28.E/②202明29.B/
②203明29.D/②204明30.B/
②204明30.E/②205明31.B/
②206明31.B/②206明31.C/
②207明31.E/②208明32.C/
②209明32.D/②209明32.F/
②210明33.B/②212明34.B/
②213明34.B/②215明35.B/
②217明35.D/②218明36.B/
②218明36.D/②219明37.B/
②220明37.B/②221明37.E/
②221明38.B/②222明38.B/
②224明39.A/②224明39.B/
②225明39.E/②226明40.B/
②227明40.D/②227明40.E/
②227明40.F/②228明41.B/
②229明41.E/②230明42.B/
②232明44.B/②232明44.B/

②233明44.E/②233明45.B/
②234明45.B/②236大2.B/
②237大2.E/②237大3.B/
②240大4.F/②240大5.B/
②241大6.C/②241大6.E/
②242大7.B/②243大8.B/
②246大10.B/②246大10.C/
②247大11.B/②248大11.E/
②248大11.F/②248大12.B/
②250大12.F/②250大13.A/
②251大14.B/②255大15.D/
②258昭2.F/②261昭3.E/
②264昭4.F/②264昭5.A/
②266昭5.C/②268昭6.A/
②269昭6.B/②272昭7.A/
②274昭7.D/②276昭7.E/
②277昭8.B/②280昭8.F/
②280昭9.B/②281昭9.B/
②282昭9.B/②283昭9.B/
②284昭9.B/②286昭9.E//
③5明8.B/③7明9.B/
③9明9.E/③10明9.E/
③11明10.B/③11明10.C/
③13明11.B/③14明12.B/
③14明11.E/③15明12.C/
③15明12.E/③16明12.E/
③17明14.B/③18明15.B/
③19明15.E/③19明16.B/
③20明16.B/③20明16.D/
③20明16.E/③21明17.A/
③21明17.B/③22明17.C/
③22明17.F/③22明18.A/
③23明18.B/③24明18.E/
③24明18.F/③25明19.B/
③27明20.B/③28明20.B/
③28明20.D/③29明20.E/
③29明20.F/③30明21.B/
③31明21.C/③33明21.E/
③35明22.B/③40明23.B/
③42明23.D/③42明24.A/
③44明24.B/③45明24.B/
③45明24.C/③46明24.D/
③47明24.E/③48明25.B/
③49明25.B/③50明25.B/
③50明25.C/③52明25.D/
③52明25.E/③53明25.E/
③53明25.F/③54明26.B/
③57明26.D/③58明26.D/
③58明26.E/③59明27.A/
③60明27.B/③61明27.B/
③63明27.D/③64明27.D/
③65明28.A/③65明28.B/
③66明28.B/③67明28.B/
③67明28.C/③68明28.D/
③69明28.D/③70明28.E/
③70明28.F/③71明29.A/
③72明29.B/③73明29.B/
③78明29.D/③78明29.E/
③78明29.F/③79明29.F/
③79明30.A/③80明30.B/
③81明30.B/③84明30.D/
③85明30.D/③85明30.E/
③87明31.B/③91明31.E/
③92明32.A/③93明32.B/
③97明32.E/③98明32.E/
③99明33.A/③100明33.B/
③101明33.B/③103明33.D/
③104明33.F/③105明34.B/
③106明34.B/③107明34.B/
③107明34.C/③109明34.D/
③112明35.B/③113明35.C/
③116明35.E/③117明36.B/
③118明36.B/③119明36.B/
③119明36.C/③120明36.C/
③124明36.E/③126明37.B/
③127明37.B/③131明37.E/
③131明37.F/③131明38.B/
③132明38.B/③135明38.D/
③136明38.E/③137明39.B/
③138明39.B/③140明39.D/
③141明39.E/③141明40.B/
③142明40.B/③143明40.B/
③144明40.D/③145明40.E/
③145明40.F/③146明41.B/

③147明41.B/③148明41.D/
③149明41.F/③149明42.B/
③150明42.B/③153明42.F/
③154明43.B/③155明43.B/
③156明43.B/③158明43.E/
③158明43.F/③159明44.A/
③159明44.B/③160明44.B/
③163明45.B/③164明45.B/
③165明45.B/③166明45.B/
③167明45.B/③169明45.D/
③170明45.E/③170明45.F/
③171大2.B/③172大2.B/
③173大2.B/③174大2.B/
③175大2.C/③176大2.D/
③179大2.E/③179大2.F/
③180大3.B/③181大3.B/
③182大3.B/③183大3.B/
③188大3.F/③190大4.B/
③196大5.B/③197大5.B/
③201大6.B/③203大6.D/
③206大7.B/③208大7.F/
③209大8.B/③210大8.C/
③212大9.B/③213大9.F/
③215大10.B/③218大11.B/
③221大11.F/③222大12.B/
③223大12.B/③223大12.C/
③224大12.F/③225大13.B/
③226大13.B/③227大13.D/
③228大13.D/③228大14.A/
③229大14.B/③231大14.D/
③234大15.B/③237大15.D/
③238昭2.B/③239昭2.B/
③240昭2.C/③242昭2.F/
③243昭3.B/③245昭3.E/
③246昭4.A/③247昭4.A/
③247昭4.B/③251昭5.A/
③252昭5.A/③255昭5.D/
③256昭5.F/③256昭6.A/
③257昭6.B/③258昭6.B/
③262昭7.A/③268昭8.A/
③269昭8.A/③269昭8.B/
③270昭8.B/③271昭8.B/
③273昭8.E/③273昭9.A/
③274昭9.A/③274昭9.B/
③275昭9.B/③276昭9.B/
③278昭10.A/③279昭10.A/
③279昭10.B/③280昭10.B/
③281昭10.B/③282昭10.E/
③283昭10.E/③284昭11.A/
③285昭11.B/③286昭11.C/
③288昭12.A/③289昭12.B/
③292昭12.E/③293昭13.A/
③294昭13.A/③294昭13.B/
③295昭13.B/③297昭13.D/
③301昭14.A/③301昭14.B/
③302昭14.B/③303昭14.B/
③306昭14.E/③307昭15.A/
③308昭15.A/③309昭15.B/
③312昭16.A/③313昭16.A/
③315昭16.B/③319昭17.A/
③320昭17.A/③320昭17.B/
③323昭17.F/③323昭18.B/
③325昭19.B/③326昭19.B//
④24[24953]/④26[24997]/
④26[25009]/④28明2.B/
④30明7.B/④30明8.B/
④33明11.B/④34明11.C/
④36明12.B/④36明12.C/
④37明12.E/④38明12.F/
④38明13.B/④39明13.B/
④40明14.A/④41明14.B/
④43明14.D/④44明14.F/
④45明15.A/④45明15.B/
④49明15.E/④50明16.B/
④51明16.B/④53明16.E/
④54明16.F/④54明17.A/
④55明17.B/④56明17.C
④57明17.E/④58明17.E/
④58明17.F/④58明18.B/
④59明18.B/④61明18.E/
④62明19.A/④63明19.B/
④66明20.B/④67明20.B/
④70明20.D/④71明20.F/
④71明21.B/④72明21.B/

④73明21.B/④73明21.C/
④75明21.E/④76明21.B/
④77明21.B/④78明22.C/
④79明22.E/④81明23.B/
④82明23.B/④85明23.E/
④85明23.F/④86明24.B/
④87明24.B/④89明24.E/
④89明24.F/④90明25.B/
④91明25.B/④92明25.B/
④92明25.C/④93明25.D/
④95明26.B/④96明26.B/
④97明26.C/④98明26.D/
④99明27.B/④100明27.B/
④101明27.B/④102明27.B/
④103明27.D/④104明27.F/
④105明28.B/④106明28.B/
④107明28.B/④109明28.E/
④110明29.B/④111明29.B/
④112明29.C/④113明29.F/
④114明30.B/④115明30.B/
④116明30.B/④117明30.D/
④117明30.E/④118明31.B/
④119明31.B/④122明32.B/
④123明32.B/④124明32.B/
④125明32.E/④126明33.A/
④127明33.B/④129明33.E/
④130明34.B/④131明34.B/
④132昭34.B/④135明35.A/
④136明35.B/④137明35.B/
④138明35.B/④141明35.E/
④142明36.B/④143明36.B/
④144明36.B/④147明36.D/
④148明36.D/④149命37.B/
④150明37.B/④151明37.B/
④154明37.C/④155明37.D/
④157明38.B/④158明38.B/
④159明38.B/④160明38.B/
④162明38.C/④164明38.D/
④165明38.D/④167明39.B/
④168明39.B/④169明39.B/
④172明39.D/④173明39.F/
④175明40.B/④176明40.B/
④177明40.B/④182明40.F/
④184明41.B/④185明41.B/
④186明41.B/④187明41.B/
④188明41.C/④190明41.F/
④192明42.B/④193明42.B/
④194明42.B/④195明42.B/
④196明42.B/④197明42.C/
④204明43.B/④205明43.B/
④207明43.B/④208明43.C/
④211明43.D/④212明43.D/
④213明44.A/④214明44.B/
④215明44.B/④216明44.B/
④217明44.B/④218明44.B/
④223明44.E/④224明45.A/
④225明45.B/④226明45.B/
④228明45.B/④229明45.B/
④230明45.B/④231明45.B/
④232明45.B/④233明45.B/
④240大2.A/④241大2.A/
④243大2.B/④244大2.B/
253大2.F/④257大3.B/
④258大3.B/④259大3.B/
④261大3.B/④262大3.B/
④265大3.C/④267大3.D/
④269大3.F/④270大4.A/
④271大4.A/④272大4.B/
④273大4.B/④274大4.B/
④275大4.B/④276大4.B/
④283大4.E/④285大5.A/
④286大5.B/④287大5.B/
④288大5.B/④290大5.B/
④295大5.D/④298大5.E/
④300大6.B/④301大6.B/
④302大6.B/④304大6.B/
④308大6.D/④310大6.F/
④312大7.B/④313大7.B/
④314大7.B/④316大7.B/
④317大7.C/④320大7.E/
④322大8.B/④323大8.B/
④324大8.B/④327大8.E/
④328大8.F/④331大9.B/
④332大9.B/④334大9.D/

④338大10.B/④341大10.D/
④343大11.A/④345大11.B/
④346大11.B/④347大11.C/
④348大11.D/④349大11.E/
④350大12.B/④351大12.B/
④353大12.C/④355大12.E/
④356大13.A/④357大13.B/
④358大13.B/④361大13.C/
④362大13.D/④362大13.E/
④363大13.F/④365大14.B/
④366大14.B/④367大14.B/
④369大14.C/④373大14.E/
④376大15.B/④377大15.B/
④380大15.C/④382大15.C/
④383大15.D/④385大15.E/
④386昭2.A/④387昭2.A/
④388昭2.B/④389昭2.B/
④390昭2.B/④391昭2.B/
④395昭2.D/④398昭2.E/
④400昭3.B/④401昭3.B/
④402昭3.B/④403昭3.B/
④406昭3.C/④412昭4.A/
④412昭4.B/④413昭4.B/
④414昭4.B/④415昭4.B/
④416昭4.B/④424昭4.F/
④425昭5.A/④427昭5.B/
④428昭5.B/④429昭5.B/
④436昭5.E/④438昭6.A/
④439昭6.B/④440昭6.B/
④442昭6.B/④448昭6.E/
④449昭7.A/④450昭7.A/
④451昭7.A/④452昭7.B/
④453昭7.B/④455昭7.B/
④464昭7.E/④467昭8.B/
④469昭8.B/④479昭8.E/
④480昭8.F/④482昭9.A/
④483昭9.B/④484昭9.B/
④485昭9.B/④486昭9.B/
④487昭9.B/④488昭9.B/
④489昭9.B/④494昭9.C/
④495昭9.D/④498昭9.D/
④498昭9.E/④499昭9.E/
④500昭9.E/④500昭9.F/
④502昭10.A/④504昭10.A/
④505昭10.B/④506昭10.B/
④507昭10.B/④508昭10.B/
④509昭10.B/④510昭10.B/
④513昭10.C/④520昭10.E/
④522昭11.A/④523昭11.A/
④525昭11.B/④526昭11.B/
④527昭11.B/④528昭11.B/
④529昭11.B/④530昭11.B/
④531昭11.B/④532昭11.B/
④541昭11.E/④542昭11.E/
④543昭11.E/④547昭12.A/
④549昭12.B/④550昭12.B/
④551昭12.B/④552昭12.B/
④561昭12.E/④562昭12.E/
④563昭12.E/④563昭12.F/
④564昭13.A/④566昭13.B/
④565昭13.A/④567昭13.B/
④568昭13.B/④570昭13.B/
④571昭13.B/④574昭13.D/
④577昭13.E/④580昭14.A/
④583昭14.B/④584昭14.B/
④585昭14.B/④586昭14.B/
④587昭14.B/④590昭14.C/
④592昭14.D/④596昭14.E/
④598昭14.F/④599昭15.A/
④602昭15.B/④605昭15.B/
④606昭15.B/④607昭15.B/
④608昭15.C/④609昭15.C/
④611昭15.C/④620昭15.E/
④622昭15.E/④622昭15.F/
④624昭16.A/④627昭16.B/
④628昭16.B/④629昭16.B/
④630昭16.B/④631昭16.B/
④634昭16.C/④637昭16.E/
④638昭16.E/④639昭16.F/
④640昭16.F/④641昭17.A/
④643昭17.B/④644昭17.B/
④645昭17.B/④647昭17.C/
④651昭17.D/④652昭17.E/
④653昭17.E/④654昭17.F/

④655昭18.A/④656昭18.A/
④657昭18.B/④658昭18.B/
④659昭18.B/④665昭19.B/
④666昭19.B/④669昭20.B/
④670昭20.B/④671[江戸期]/
④674[明治初期,明2]/
④678[明8]/④683[明13]/
④689[明治]/④698[明31]/
④699[明33]/④702[明37]/
④719[大8]/④722[大11]/
④725[大13]/④731[昭2]/
④734[昭3]/④736[昭4]/
④742[昭7]/④750[昭9]/
④751[昭10]/④753[昭10]/
④757[昭12]/④762[昭14]/
④762[昭14]/④763[昭14]/
④773[昭17]/④775[昭18]/
④778[昭19]/④798[昭5]/
④807[昭16]/④809[昭19]/
④810[19-]/

アリストートトル後 → アリストテレス後哲學

アリストパーヌ → アリストファネス

アリストハ子ス → アリストファネス

アリストパネ(一)ス → アリストファネス

アリストファニ(一)ス → アリストファネス

アリストファニーズ → アリストファネス

アリストファーヌ → アリストファネス

アリストファ(一)ネス(アリストハ子ス、アリストフェーナス、アリストフェニース、アリストパネ(一)ス、アリストパーヌ、アリストファニ(一)ス、アリストフィニス、アリストフィーヌ、アリストファニネス、アリストフハ子ス、アリストファーヌ、アリストファニーズ、アリストフハニス、アリストファ(一)ネース、アリストフェーヌ、阿里斯托法湟斯、Aristophanes)［雲］

①47明21.C/①57明23.D/
①83明30.C/①116明37.D/
①217大9.D/①225大10.D/
①232大11.D/①242大12.E/
①258大14.D/①320昭5.D/
①328昭6.B/①335昭6.D/
①336昭6.D/①350昭7.D/
①351昭7.D/①372昭9.A/
①382昭9.D//②25昭10.D/
②74昭13.D/②86昭14.D/
②90昭14.E/②110昭16.D/
②111昭16.D/②135昭18.D/
②145昭19.D/②149［14469］/
②160明15.B/②160明15.E/
②164明16.E/②182明23.B/
②185明23.D/②199明27.D/
②220明37.D/②240大5.B/
②255大15.D/②270昭6.D/
②281昭9.B/②285昭9.D//
③24明18.E/③58明26.D/
③59明27.A/③68明28.D/
③72明29.B/③115明35.D/
③123明36.D/③165明45.B/
③166明45.B/③175大2.C/
③189大4.B/③197大5.B/
③242昭3.B//④31明9.D/
④84明23.D/④93明25.D/
④106明28.B/④110明29.B/
④112明29.D/④117明30.D/
④128明33.C/④147明36.D/
④163明38.D/④173明40.A/
④199明42.D/④238明45.E/
④268大3.D/④271大4.B/
④286大5.B/④311大7.A/

④353大12.C/④397昭2.D/
④401昭3.B/④409昭3.E/
④428昭5.B/④432昭5.D/
④442昭6.B/④486昭9.B/
④495昭9.D/④498昭9.D/
④634昭16.D/④647昭17.C/
④650昭17.D/④667昭19.D/
アリストファ子ス → アリストファネス
アリストファ(一)ネース → アリストファネス
アリストフィニス → アリストファネス
アリストフィーヌ → アリストファネス
アリストフェーナス → アリストファネス
アリストフェニース → アリストファネス
アリストフェーヌ→ アリストファネス
アリストフハニス → アリストファネス
アリストフハ子ス → アリストファネス
Aristphron, P.②284昭9.B//④488昭9.B/
アリストメネス②246大10.B//③198大5.C/
アリストール → アリストートル
アリストトールス→ アリストートル
アリストーレース → アリストートル
アリストヲテレス→ アリストートル
アリストヲト → アリストートル
アリストヲトル→ アリストートル
アリストン①204大7.C//②208明32.D③260昭6.C//④312大7.B/
Allison, W.H.③260昭6.C//④444昭6.C/
アリッストーテル→ アリストートル
アリッストテレス→ アリストートル
アリトシトツル→ アリストートル
アリパシア③192大4.C/
アリン、トーマス④158明38.B/
アリンストートルス → アリストートル
Aal, Lic.A.③66明28.B/
アルカイオス①365昭8.D//④768[昭16]/
アルカメネス④133明34.D/
Alcan, F.③260昭6.C/
アルキアース（Alcais）②130昭18.B//③76明29.D/
アルキオイコス①139明41.C/
アルキスチス④147明36.D/
アルキビアデ(一)ス → アルシビアデス
アルキヒヤ→ アルシビアデス
アルキミーズ → アルキメデス
アルキミヂース → アルキメデス
アルキミデ(一)ス → アルキメデス
あるきめです → アルキメデス
アルキメデ(一)ス(アーキメデス、アルヒメ(一)デス、アルシメテス、アルシメード、アルキメード、アルメデス、アルクメデス、アルキミヂース、アルキミーズ、アルキミデ(一)ス、アルチミデース、アルケミデース、あるきめです、阿兒貿美鐵斯)

①9[133]/①10[176]/
①41明19.F/①58明23.F/
①122明38.F/①129明39.F/
①134明40.F/①160明45.F/
①242大12.F/①283昭2.F/
①298昭3.F/①311昭4.F/
①324昭5.F/①340昭6.F/
①387昭9.F//②29昭10.F/
②115昭16.F/②116昭16.F/
②129昭17.F/②152[14532]/
②153明5.F/②158明12.F/
②162明16.B/②177明21.E/
②201明28.F/②202明29.B/
②211明33.F/②213明34.B/
②214明34.F/②222明38.B/
②234明45.B/②250大13.A/
②264昭4.F/②267昭5.F/
②280昭9.B//③24明18.F/
③29明20.F/③33明21.F/
③70明28.F/③100明33.B/
③104明33.F/③141明39.F/
③149明41.F/③175大2.C/
③188大3.F/③222大12.B/
③273昭8.F/
③328昭[不明]F//
④38明13.B/④50明16.B/
④55明17.B/④60明19.D/
④67明20.B/④91明25.B/
④92明25.C/④102明27.C/
④109明28.F/④110明29.B/
④173明39.F/④176明40.B/
④181明40.F/④190明41.F/
④232明45.B/④253大2.F/
④257大3.B/④269大3.F/
④283大4.F/④322代8.B/
④324大8.B/④328大8.F/
④363大13.F/④449昭6.F/
④495昭9.D/④500昭9.F/
④578昭13.F/④592昭14.C/
④639昭16.F/④654昭17.F/
アルキメード → アルキメデス
アルキレス→ アキレス
Alcuin③136明38.D/
アルグスチヌス
Alkman（Alcman） ②62昭12.D//
③76明29.D/③305昭14.D//
④803[昭12]/
アルクメデス → アルキメデス
アルクメネ②255大15.F/
アルケシデース③72明29.B/
アルケシラオス②280昭9.B//
④495昭9.D/
アルケビオス②229明42.B/
アルケミデース→ アルキメデス
Algelati,F.④615昭15.C/
アルコック女史(デボラ)
④382大15.C/④368大14.C/
アルシバイアデス → アルシビアデス
アルシビアデス（オルシビアデス、オルシビヤデス、アリシバイアデース、アルキビアデ(一)ス、アルシビ(一)デス、アルシビアド、アルシビヤジヂス、アリシバイアヂス、アルシビヤヂス、アリシパヤデース、アルキヒヤ、アルシビヤド、Alcibiades）
①22明9.E/
①23明10.C/①34明16.B/
①56明23.C/①61明24.C/
①65明25.C/①76明28.C/
①104明36.B/①190大5.C/
①244大13.B//②158明11.C/
②161明15.E/②164明16.E/
②200明28.B/②201明28.E/
②201明28.F/②208明32.C/
②214明34.F/②246大10.B//
③8明9.C/③13明11.C/
③31明21.B/③60明27.B/
③71明29.B/③81明30.B/
③93明32.B/③160明44.B//
④31明9.B/④35明11.E/

④41明14.B/④45明15.B/
④76明21.B/④83明23.C/
④101明27.B/④109明29.B/
④116明30.B/④168明39.B/
④208明43.C/④225大1.B/
④347大11.C/④378大15.B/
④428昭5.B/④631昭16.B/
アルシビアド → アルシビアデス
アルシビェーツ→ アルシビアデス
アルシビ(ー)デス → アルシビアデス
アルシビヤジヂス → アルシビアデス
アルシビヤヂス → アルシビアデス
アルシビヤド→ アルシビアデス
アルシメテス → アルキメデス
アルシメード → アルキメデス
アルシヤール②165明17.C/
アルセスチス①108明36.D/
アルタバノス(安息王)
②134昭18.C//④666昭19.C/
アルチミデース→ アルキメデス
アルテミイズ → アルテミ(ー)ス神
アルテミ(ー)ス神(アーテミスア、アルテミイズ)
②166明18.B/②202明29.C/
②274昭7.B//③23明18.B/
③132明38.B/③157明43.D/
③272昭8.D//④39明13.B/
④58明18.B/④150明37.B/
④④220明44.C/④432昭5.C/
④457昭7.C/④513昭10.C/
④741[昭和]/
アルデン①31明14.C/
アルトカンプ④616昭15.C/
Altheim,F.②57昭12.B//
③237大15.E//④549昭12.B/
④552昭12.B/
Althaus,P.④567昭13.B/
アルニム(ハンス・フォン)
①242大12.E//②114昭16.E//
③259昭6.C/
アルネット②224明 39.B/
アルノーホルツ②36昭11.B/
アルノルド④677[明7]/
アルノルド③6明8.C/
アルノルド、ハンス④95明26.B/
アルノルド(アーノルド、アアノルド、アーノールド)、マシウ(マシュー)ー(Arnold, Matthew)
①55明23.B/①57明23.D/
①58明3.D/①62明24.D/
①66明25.D/①69明26.B/
①71明26.D/①77明28.D/
①80明29.D/②87昭14.D/
①90明32.B/①97明34.B/
①101明35.B/①112明37.B/
①126明39.B/①128明39.D/
①131明40.B/①144明42.D/
①214大9.A/①220大10.A/
①222大10.B/①228大11.A/
①232大11.D/①246大13.B/
①299昭4.A/①301昭4.B/
①308昭4.D/①313昭5.B/
①321昭5.D/①362昭8.B/
①367昭8.D//②25昭10.D/
②44昭11.D/②46昭11.D/
②56昭12.B/②87昭14.D/
②100昭15.D/②112昭16.D/
②145昭19.E/②158明11.B/
②173明20.C/②184明23.D/
②187明24.B/②193明26.B/
②195明26.D/②211明33.E/
②216明35.D/②229明41.D/
②229明42.B/②270昭6.D//
③30明21.B/③32明21.D/
③34明22.A/③37明22.D/
③39明23.A/③41明23.D/
③46明24.D/③62明27.D/

③63明27.D/③77明29.D/
③83明30.D③90明31.D/
③104明33.D/③138明39.B/
③140明39.D/③141明39.D/
③150明42.B/③213大9.D/
③251昭5.A/③261昭6.D/
③267昭7.D/③326昭19.D//
④70明20.D/④74明21.D/
④78明22.C/④87明24.B/
④89明24.D/④107明28.B/
④116明30.B/④138明35.B/
④139明35.C/④148明36.D/
④200明42.D/④212明43.D/
④238明45.D/④252大2.D/
④265大3.C/④322大8.B/
④332大9.B/④336大10.A/
④364大14.B/④368大14.B/
④387昭2.A/④434昭5.D/
④435昭5.D/④446昭6.D/
④447昭5.D/④477昭8.D/
④523昭11.A/④540昭11.D/
④650昭17.D/④752[昭10]/
④758[昭12]/④769[昭16]/
④779[昭20]/
アルノルド、トマス→ アーノルド、トマス
Albert,the Great④425昭5.A/
Albert, M.①39明19.B/
Albertioni,Aldo②89昭14.E/
アルバアレス(Alveres)
④618昭15.D/④670[文祿]
アルビトル②186明24.A/
アルヒメ(一)デス → アルキメデス
Afred, Dorjahn③271昭8.C/
アルブレヒト、ヂョルヂ(ジー・イー)
④77明21.B/④89明24.D/
④92明25.C/④137明35.B/
Albertini,E.③254昭5.C//
④444昭6.C/
アルベルツス④453昭7.B/
アルベルト④358大13.B/
アルベルト、コンラート
③37明22.D/
(聖)アルホ(フォ)ンソ
④207明43.C/④714[大3]/
アルマタデア(ヤ)①115明37.D//
③129明37.D/
アルメデス → アルキメデス
アルレアー、ルーシアン
②232明44.B/
Arleth, E.③66明28.B/
アルレン②205明31.B/
アルヴァレス①4[8]
アレイスタイド → アリスタイデ(一)ス
アレキオロコス③58明26.D/
Alexanders von Aphrodisia
③66明28.B/③67明28.B/
③73明29.B/
アレキサンダ(一)(アレキサンデル、アレキ(ク)サ(ザ)ンドル、アレキザンドル、アレキサンダア、アレキサンドル、アレキサントル、アレーキサンデル、あれくさんどる、歴山、(亞)歴山大王、亞歴山、亞歴山王、阿歴山、亞歴山太、亞歴山德、亞歴撒德、歴山得、亞歴散大、亞勒散得大[Alexander, der Gross, the Great,Alexandre le Grand,Alexandre]
①7[90]/①8[92]/
①10[163,166]/①11[180]/
①17明7.C/①21明9.C/
①30明13.C/①33明15.C/
①39明19.B/①44明20.E/
①51明22.C/①54明23.B/
①56明23.C/①57明23.D/
①61明24.C/①65明25.C/

①70明26.C/①71明26.D/
①74明27.C/①79明29.C/
①80明29.D/①82明30.C/
①83明30.C/①86明31.B/
①86明31.C/①87明31.C/
①90明32.C/①91明32.C/
①94明33.C/①96明34.B/
①102明35.C/①106明36.C/
①107明36.C/①114明37.C/
①121明38.C/①132明40.C/
①138明41.C/①147明43.C/
①148明43.C/①156明45.B/
①157明45.C/①158明45.C/
①165大2.C/①175大3.C/
①176大3.D/①177大3.D/
①182大4.C/①190大5.C/
①197大6.C/①204大7.C/
①205大7.D/①210大8.C/
①211大8.C/①246大13.C/
①247大13.C/①256大14.C/
①257大14.C/①317昭5.C/
①348昭7.C/①349昭7.C/
①362昭8.C/①363昭8.C/
①364昭8.C/①365昭8.C/
①379昭9.C//②20昭10.C/
②22昭10.C/②41昭11.C/
②42昭11.C/②59昭12.C/
②60昭12.C/②61昭12.C/
②86昭14.C/②108昭16.C/
②133昭18.C/②153明4.C/
②154明6.C/②155明7.B/
②160明15.B/②161明15.E/
②163明16.E/②170明19.B/
②173明20.C/②174明20.C/
②174明20.D/②174明20.E/
②176明21.B/②176明21.C/
②178明22.B/②179明22.C/
②182明23.A/②183明23.B/
②183明23.C/②184明23.C/
②187明24.B/②190明25.C/
②194明26.B/②194明26.C/
②197明27.A/②198明27.C/
②200明28.B/②200明28.C/
②201明28.E/②202明29.B/
②204明30.C/②206明31.C/
②207明31.E/②207明32.B/
②208明32.C/②210明33.B/
②213明34.B/②213明34.C/
②215明35.B/②215明35.C/
②216明35.C/②216明35.D/
②218明36.C/②220明37.B/
②224明39.A/②225明40.A/
②227明40.C/②229明42.B/
②230明42.C/②230明42.F/
②232明44.B/②233明45.A/
②234明45.B/②236大2.B/
②241大6.C/②242大7.B/
②243大7.D/②246大10.B/
②247大11.C/②249大12.C/
②261昭4.A//③5明8.B/
③8明9.B/③10明9.E/
③11明10.C/③13明11.B/
③13明11.C/③15明12.C/
③16明12.E/③16明13.C/
③18明15.C/③19明15.C/
③19明15.E/③25明19.C/
③31明21.C/③34明22.A/
③37明22.D/③38明22.E/
③40明23.B/③41明23.C/
③41明23.D/③45明24.C/
③48明25.B/③54明26.B/
③56明26.C/③58明26.D/
③60明27.B/③61明27.C/
③67明28.C/③68明28.C/
③68明28.D/③72明29.B/
③74明29.C/③76明29.D/
③78明29.F/③80明30.B/
③82明30.C/③83明30.D/
③88明31.B/③88明31.C/
③90明31.D/③92明32.B/
③95明32.C/③96明32.D/
③97明32.E/③102明33.C/
③109明34.D/③110明34.E/
③111明35.B/③113明35.C/

③114明35.C/③116明35.E/
③119明36.B/③120明36.C/
③128明37.C/③130明37.D/
③131明37.F/③132明38.B/
③133明38.C/③134明38.C/
③149明41.F/③150明42.B/
③151明42.C/③155明43.B/
③171大2.B/③175大2.C/
③176大2.C/③184大3.C/
③189大4.B/③192大4.C/
③194大4.E/③197大5.C/
③198大5.B/③202大6.C/
③207大7.C/③210大8.C/
③226大13.C/③229大14.A/
③231大14.C/③235大15.C/
③239昭2.B/③240昭2.C/
③241昭2.D/③254昭5.C/
③264昭7.C/③266昭7.C/
③268昭7.F/③276昭9.B/
③281昭10.C/③285昭11.B/
③291昭12.D/③318昭17.A/
③322昭17.D//④24[24952,
24956]/④25[24983,24988]/
④26[24996,24997,25004]/
④28明3.D/④30明7.B/
④33明10.C/④33明11.B/
④34明11.C/④35明11.E/
④36明12.B/④37明12.C/
④41明14.B/④42明14.C/
④46明15.B/④47明15.C/
④50明16.B/④51明16.B/
④53明16.C/④56明17.C/
④59明18.B/④63明19.B/
④67明20.B/④68明20.B/
④73明21.B/④73明21.C/
④76明21.B/④77明22.C/
④78明22.C/④79明22.E/
④79明22.F/④81明23.B/
④82明23.B/④82明23.C/
④83明23.C/④84明23.C/
④87明24.B/④88明24.C/
④92明25.C/④94明26.A/
④96明26.B/④97明26.C/
④99明27.A/④100明27.C/
④102明27.C/④109明28.F/
④110明29.B/④111明29.B/
④111明29.C/④114明30.B/
④115明30.B/④116明30.C/
④116明30.D/④119明31.B/
④120明31.C/④122明32.B/
④123明32.B/④125明32.D/
④128明33.C/④129明33.E/
④132明34.B/④133明34.C/
④133明34.D/④134明34.D/
④138明35.C/④139明35.C/
④140明35.D/④142明36.B/
④143明36.B/④144明36.B./
④146明36.C/④152明37.B/
④153明37.C/④154明37.C/
④159明38.B/④160明38.B/
④162明38.C/④168明39.B/
④173明40.A/④176明40.B/
④177明40.B/④178明40.C/
④181明40.D/④184明41.B/
④188明41.C/④195明42.B/
④197明42.C/④208明43.C/
④211明43.D/④213明44.A/
④215明44.B/④219明44.C/
④220明44.C/④221明44.D/
④228明45.B/④231明45.B/
④235明45.C/④248大2.C/
④249大2.C/④253大2.F/
④259大3.B/④262大3.B/
④270大4.A/④271大4.B/
④275大4.B/④278大4.C/
④279大4.C/④291大5.C/
④298大5.E/④303大6.B/
④306大6.C/④307大6.C/
④309大6.E/④313大7.B/
④314大7.B/④316大7.B/
④317大7.C/④320大7.E/
④322大8.B/④324大8.B/
④334大9.C/④339大10.B/
④339大10.C/④340大10.C/

④352大12.B/④360大13.C/
④362大13.D/④365大14.B/
④366大14.B/④377大15.B/
④380大15.C/④388大2.A/
④392昭2.C/④395昭2.C/
④398昭2.E/④399昭3.A/
④400昭3.B/④403昭3.B/
④406昭3.C/④415昭4.B/
④422昭4.C/④431昭5.C/
④432昭5.C/④436昭5.E/
④443昭6.C/④453昭7.B/
④455昭7.B/④472昭8.C/
④476昭8.C/④488昭9.B/
④490昭9.B/④491昭9.C/
④509昭10.B/④512昭10.C/
④513昭10.C/④536昭11.C/
④540昭11.D/④548昭12.A/
④554昭12.C/④555昭12.C/
④557昭12.C/④561昭12.E/
④566昭13.A/④591昭14.C/
④602昭15.B/④605昭15.B/
④608昭15.C/④624昭16.A/
④627昭16.B/④628昭16.B/
④632昭16.C/④634昭16.C/
④639昭16.E/④642昭17.A/
④645昭17.B/④651昭17.D/
④660昭18.C/④667昭19.C/
④671[江戸期]/④713[大3]/
④716[大5]/④774[昭18]/
アレキサンダア → アレキサンダー
アレキサンダア、ハトレイ・ビイ④309大6.E/
Alexander,Pfänder④492昭9.C/
アレキサンデリア學派 → アレキサンドリア派
アレキサンデリヤ學派 → アレキサンドリア派
アレーキサンデル→ アレキサンダー
アレキサンデル王 → アレキサンダー
あれきさんどりあ學校→ アレキサンドリア
アレキサンドリー學派→ アレキサンドリア派
アレキサンドリア派(アレキサンデリヤ學派、アレキサンデリア學派、アレキサンドリー學派、あれきさんどりあ學校)③24明18.F/
③55明26.B/③60明27.B/
③111明35.B/③328昭[不明]F//④90明25.B/
④96明26.B/④141明35.F/
④328大8.F/④427昭5.B/
④578昭13.F/④698[明31]/
アレキサントル → アレキサンダー
アレキサンドル → アレキサンダー
アレキザンドル → アレキサンダー
アレキ(ク)サ(ザ)ンドル → アレキサンダー
アレキサンドル・シーベリス帝②153明4.C/
アレキシス②247大11.A//④346大11.C/
あれくさんどる大王 → アレキサンダー
Aleksandrov, A.②280昭8.G/
アレケシチス(Alcestis)③124明36.D/
アレス(軍神)③297昭13.D//④229明45.B/
アレスタウレス → アリストートル
アレストウテレス → アリストートル
アレタス(詩人)②207明31.E/
アレテウス④61明18.F/
Alenio,Julius(艾儒略)④320大7.F/④671[江戸期,寛永]/

④675[明3]/④683[明13]/
アレーニ → ア(一)レニウス
ア(一)レニウス(艾儒)、スワンテ(Arrhenius, Svante A.,)
①222大10.B/①356昭7.F//
②146昭19.F/②236大2.B//
③143明40.C/③162明44.F//
④62明19.B/④269大3.F/
④444昭6.C/④500昭9.F/
④544昭11.F/
アレヴィ(イ)、D.(ダニエル)
②69昭13.B/②71昭13.B/
②119昭17.B//④738[昭5]/
アレヰ(井)イ①313昭5.B//
②266昭5.B/
Allen de Lacy, E.③295昭13.B/
アレン、G.④583昭14.B/
アレン(Allen)、P.S.②118昭17.B//
③182大3.B//④268大3.D/
Allen[Greek]①221大10.A//
③257昭6.A/③293昭13.A/
③301昭14.A/
Allen,W.C.④251大2.D/
④295大5.D/
Allen, W.H.③266昭7.D/
Arendt,Hanna③295昭13.B/
アロシヲウトル → アリストートル
アヴァルチャーグ②205明31.B/
アヴナエウス④606昭15.B/
Averroistas④538昭11.D
アー井(ビ、ヴィ)ング
③130明37.D/③139明39.D/
③140明39.D//④148明36.D/
④156明37.D/
アンガス③192大4.C//
④84明23.D/
アンキュス②206明31.C/
Angus,S.③198大5.C//
④716[大6]/
アンステニー →アンチステーン
アンセルムス④426昭5.B/
④643昭17.B/④666昭19.B/
Anderson, J.G.C.③108明34.C/
アンタイオス④595昭14.D/
アンダスン、フレデリク・エル
④291大5.C/
アンタルキダス④187明41.C/
アンチイオコス → アンティオカス王
アンチーウス①291昭3.C/
アンチオキス三世→ アンティオカス王
アンチオクス → アンティオカス王
アンチオクス(王子)
②229明41.F/
アンチオケ教團④608昭15.C/
アンチゴヌス → アンティゴノス
アンチゴネー → アンテゴ子
アンチゴーネ → アンテゴ子
アンチゴーノス → アンティゴノス
アンチゴン → アンテゴ子
アンチスシニス →アンチステーン
アンチステニース →アンチステーン
アンチステネス → アンチステーン
アンチステ子(一)ズ→ アンチステーン
アンチステーン(アンチステネス、アンチステニース、アンステニー、アンテステ子ース、アンチステ子(一)ズ、Anthisthenes)
①5[19]/①90明32.B/
①96明34.B//②158明13.B/
②162明16.B/②167明18.B/
②176明21.B/②188明24.D//
③35明22.B//④119明31.B/
④127明33.B/④243大2.B/

④274大4.B/
アンチスヤーズ④225明45.B/
アンチパルラル④115明30.B/
アンチフォン → アンチホン
アンチフォン・アリシホール
④112明29.D/
アンチホン(アンチフォン、Antiphon)
①354昭7.E//③72明29.B/
③237大15.E//④111明29.B/
④112明29.D/
アンテ(シニック學派)
④106明28.B/
アンティオカス王(アンチオクス、アンチイオコス、アンチオキス三世)
②204明30.C/②215明35.C/
②229明42.B/②232明44.B//
③151明42.C//④347大11.C/
アンティゴ子ー → アンテゴ子
アンティゴノス(アントイゴナス、アンチゴーノス、アンチゴヌス、王Antigonos)
②121昭17.C/②204明30.C/
②215明35.C/②232明44.B//
④535昭11.C/
Antigonos Monophthalmos
③296昭13.C/
アンテゴ子(アンチゴーネ、アンチゴネー、アナチゴーネ、アンチゴン、アンティゴ子ー、Antigone)
①62明24.E/①211大8.D/
①217大9.D/①231大11.D/
①258大14.D/①279昭2.D/
①280昭2.D/①375昭9.B//
②23昭10.D/②24昭10.D/
②223明38.D//③103明33.D//
④236大1.C/④407昭3.D/
④451昭7.A/
④523昭11.A/
アンテステ子ース →アンチステーン
アンデルセン(英國)①80明29.D/
①205大7.D/
アンデルセン(童話)[卽興詩人]
①371昭9.A//②47昭11.D//
③115明35.D//④93明25.D/
④117明30.D/④125明32.D/
④155明37.D/④158明38.B/
④180明40.D/④254大3.A/
④266大3.D/④319大7.D/
④350大12.A/④372大14.D/
④495昭9.D/④655昭18.A/
④727[昭1]/④758[昭12]/
アンデルツレ②157明10.A/
Ardnt, E.③173大2.B/
アントアース → アントニウス
アントアン → アントニウス
アントイゴナス → アンティゴノス
アンドキデス(アンドシデース)
④207明43.B/
アンドシデース→ アンドキデス
アントニ(一) → アントニウス
(聖大)アントニイ④47明46.C/
アントニウス(アントニ(一)、アント子ー・マーク、アントアン、アントアース、アントニヌス、アントニン、アントニュース、アントニオ、アントニノ、安斗乳、Antonie、Antony、マルク)
①43明20.C/①47明21.C/
①52明22.C/①60明24.C/
①61明24.C/①102明35.C/
①138明41.C/①174大3.C/
①175大3.C/①182大4.C/
①183大4.C/①239大12.C/
①278昭2.C/①291昭3.C/
①348昭7.C//②59昭12.C/

②72昭13.C/②163明16.E/
②170明19.C/②180明22.D/
②181明22.D/②190明25.C/
②195明26.C/②200明28.C/
②201明28.E/②209明32.E/
②218明36.C/②221明38.A/
②221明38.B//③19明15.E/
③38明22.F/③40明23.C/
③41明23.C/③56明26.C/
③89明31.C/③99明33.A/
③113明35.B/③139明39.C/
③176大2.C/③185大3.C/
③192大4.C/③193大4.C/
③199大5.C/③249昭4.C/
③255昭5.C/③260昭6.C//
④34明11.C/④37明12.E/
④44明14.E/④57明17.E/
④60明19.D/④79明22.F/
④88明24.C/④104明27.E/
④111明29.B/④124明32.C/
④139明35.C④153明37.C/
④197明42.C/④226明45.B/
④257大3.B/④265大3.C/
④266大3.C/④273大4.B/
④279代4.C/④280大4.C/
④293大5.C/④294大5.C/
④361大13.C/④392昭2.C/
④406昭3.C/④408昭3.D/
④416昭4.C/④417昭4.C/
④469昭8.B/④519昭10.E/
④554昭12.C/④432昭5.C/
④502昭10.A/④571昭13.C/
④714[大3]/④752[昭10]/
④791[大3]/

アントニオ(皇帝)→ アントニウス

アントニヌス → アントニウス

アントニノ→ アントニウス

アントニュース→ アントニウス

アントニン → アントニウス

アント子一 → アントニウス

Andra,A.④505昭10.B/

アンドラー(Andler, Ch.)
③218大11.B/

アンドルー②228明41.D/

アンドレー③20明16.C/
③31明21.C//④52明16.C/
④198明42.C/

André,L.④436昭5.E/

Andrea,W.④398昭2.E/
④514昭10.C/

アンドレアデス(アンドレディス、Andrèades, André M./ Andreas, M./ Andredes, A.)
①333昭6.C/①349昭7.C//
②29昭10.E/②66昭12.E//
④422昭4.E/④608昭15.C/

アンドレイエフ、レオニイド
①158明45.C//④219明44.C/

アンドレディス → アンドレアデス

アンドログラス①218大9.D/

アンドロークラス → アンドロクル(ロ)ス

アンドロクル(ロ)ス(アンドロークラス、アンドロクレス、あんどろーくるす)
②241大6.C//
③123明36.D/③186大3.D/
③258昭6.C//④251大2.D/
④693[明23]/

アンドロクレス→ アンドロクル(ロ)ス

アンドロニコス(安鐸路尼孤)
②162明16.B/

アンドロマキー → アンドロマク

アンドロマク(アンドロマキー、Andromache)
①293昭3.D//②18昭10.B/
②26昭10.D//④84明23.C/

アンニバル → ハンニバル

アンネウス①336昭6.D/
アンブラー④108明28.D/
アンブロース④378大15.B/
アンミアヌス③148明41.C/
イスキニース④112明29.D/
イ(ー)スキラス → エキスラス
いそっぷ → イソップ
以ソップ → イソップ
イソップ(エソポ、エソッポ、
エソップ、エソオプ、
イーソップ、ウソップ、
イソピュス、以ソップ、
アイソポース、アイソ
ーポス、アイソポス、
エソーピュス、イソホ、
イソ(ー)プ、エゾップ
いそっぷ、いそほ、
Aesop、Esop、伊曾保、
伊佐菩、伊蘇普、伊蘇
布、埃蘇巴、伊曾菩、
意拾、意拾喩、伊娑菩、
以蘇菩)[況義、田庫逸
史]
①4[1,2,6]/①5[20,21,23,24,
25,27,29,32,35, 36]/
①37,38,42,43,45,47,48,56,
58,64]/①7[70,78,84]/
①8[95,96,104,111]/
①10[160]/①11[192,193]/
①12[211,212,227,228,230]/
①13明1.D/①13明2.D/
①14明3.D/①15明5.D/
①16明6.D/①21明9.D/
①22明9.D/①24明10.D/
①28明12.D/①31明14.D/
①33明15.D/①38明18.D/
①40明19.D/①43明20.D/
①44明20.D/①48明21.D/
①52明22.D/①56明23.D/
①61明24.D/①65明25.D/
①66明25.D/①71明26.D/
①75明27.D/①79明29.D/
①80明29.D/①84明30.D/
①87明31.D/①91明32.D/
①95明33.D/①102明35.D/
①107明36.D/①108明36.D/
①115明37.D/①121明38.D/
①128明39.D/①133明40.D/
①139明41.D/①140明41.D/
①144明42.D/①148明43.D/
①149明43.D/①153明44.D/
①159明45.D/①166大2.D/
①176大3.D/①183大3.D/
①184 大 4.D/①191 大 5.D/
①192大5.D/①198大6.D/
①205 大 7.D/①211 大 8.D/
①212 大 8.E/①217 大 9.D/
①218大9.D/①224大10.D/
①231大11.D/①240大12.D/
①241大12.D/①247大13.D/
①248大13.D/①232大11.D/
①258大14.D/①259大14.D/
①279昭2.D/①280昭2.D/
①281昭2.D/①293昭3.D/
①294 昭 3.D/①295 昭 3.D/
①307 昭 4.D/①309 昭 4.D/
①320昭5.D/①3 21昭5.D/
①322昭5.D/①334昭6.D/
①3 35昭6.D/①350昭7.D/
①351昭7.D/①365昭8.D/
①381昭9.D//②23昭10.D/
②24昭10.D/②25昭10.D/
②43昭11.D/②44昭11.D/
②45昭11.D/②46昭11.D/
②61昭12.D/②62昭12.D/
②73昭13.D/②86昭14.D/
②98昭15.D/②123昭17.D/
②124昭17.D/②126昭17.D/
②137昭18.D/②151[14527]/
②152明1.D/②154明6.D/
②156明8.D/②167明18.D/
②173明20.B/②174明20.D/
②201明28.E/②206明31.D/
②215明35.B/②216明35.D/

②227明 40.D/②234明45.B/
②239大4.D/②242大7.B/
②245大9.B/②252大14.D/
②255大15.D/②271昭6.D//
③3［17498］/③4明6.D/
③9明9.D/③13明11.D/
③18明14.D/③19明15.D/
③26明19.D/③45明24.C/
③49明25.B/③51明25.D/
③83明30.D/③135明38.D/
③139明39.D/③144明40.D/
③145明40.D/③157明43.D/
③161明44.D/③162明44.D/
③168明45.D/③169明45.D/
③177大2.D/③186大3.D/
③187大3.D/③200大5.D/
③204大6.D/③205大6.D/
③207大7.D/③208大7.D/
③210大8.D/③220大11.D/
③227大13.D/③232大14.D/
③241昭2.D/③244昭3.D/
③245昭3.D/③249昭4.D/
③250昭4.D/③255昭5.D/
③277昭9.D/③282昭10.D/
③286昭11.D/③291昭12.D/
③298昭13.D/③304昭14.D/
③305昭14.D/③310昭15.D/
③311昭15.D/③316昭16.D/
③321昭17.D/③324昭18.D/
③328昭22//④23[24929]/
④24[24955,24971,24981]/
④25[24987]/④26[24997]/
④27[25024]/④27明1.D/
④28明5.D/④29明6.D/
④30明8.D/④34明11.D/
④43明14.D/④48明15.D/
④59明19.D/④60明19.D/
④64明19.D/④65明19.D/
④67明20.B/④69明20.D/
④74明21.D/④78明22.D/
④84明23.D/④85明23.D/
④88明24.D/④92明25.D/
④93明25.D/④101明27.B/
④112明29.D/④116明30.D/
④124明32.D/④125明32.D/
④133明34.C/④133明34.D/
④139明35.D/④146明36.D/
④150明37.B/④155明37.D/
④163明38.D/④169明39.B/
④179明40.D④180明40.D/
④181明40.D/④182明40.G/
④188明41.D/④189明41.D/
④198明42.D/④199明42.D/
④200明42.D/④210明43.D/
④211明43.D/④221明44.D/
④222明44.D/④236明45.D/
④238明45.D/④253大2.E/
④268大3.D/④294大5.D/
④295大5.D/④297大5.D/
④318大7.D/④319大7.D/
④326大8.D/④328大8.F/
④341大10.D/④354大12.D/
④361大13.D/④370大14.D/
④372大14.D④382大15.D/
④384大15.D/④385大15.D/
④395昭2.D/④397昭2.D/
④399昭2.G/④402昭3.B/
④407昭3.D/④409昭3.D/
④419昭4.D/④424昭4.F/
④433昭5.D/④459昭7.D/
④460昭7.D/④476昭8.D/
④478昭8.D/④494昭9.D/
④495昭9.D/④498昭9.D/
④517昭10.D/④521昭10.G/
④537昭11.D/④544昭11.G/
④557昭12.D/④558昭12.D/
④574昭13.D/④592昭14.D/
④593昭14.D/④595昭14.D
④618昭15.D/④619昭15.D/
④626昭16.A/④634昭16.D/
④649昭17.D/④662昭18.D/
④664昭19.A/④668昭19.D/
④671[江戸中期,正保, 寛文, 延寶, 元祿]/

④672[寛政,享和,天保]/
④673[慶應]/
④674[明治初期,明2]
④671[慶應3]/④671[慶應4]/
④674[明2,3]/④675[明3]/
④676[明6,7]/④678[明8,9]/
④681[明10]/④687[明18]/
④689[明18,19]/④689[明治]/
④689[明20]/④690[明20]/
④691[明21]/④692[明22,23]/
④693[明23,24]/
④694[明24,25]/④695[明26]/
④696[明27]/④697[明30]/
④699[明33]/④700[明34]/
④701[明35]/④702[明36]/
④702[明37]/④703[明38]/
④704[明38]/④705[明39,40]/
④706[明40,41]/④707[明41]/
④708[明42,43]/④709[明43]/
④710[明44]/④711[大1]/
④713[大3]/④715[大4]/
④718[大6,7]/④720[大10]/
④722[大11]/④723[大12]/
④725[大13]/④726[大14]/
④728[昭1]/④729[昭1,2]/
④730[昭2]/④732[昭3]/
④735[昭4]/④738[昭5]/
④740[昭6]/④744[昭7]
④745[昭8]/④750[昭9]/
④751[昭10]/④755[昭11]/
④758[昭12]/④759[昭12]/
④765[昭14]/④767[昭15]/
④770[昭16]/④773[昭17]/
④776[昭18]/④780[出版年不明]④781［江戸期］/
④781[明5]/④783[明21]/
④784[明27]/④784[明30]/
④785[明32]/④785[明34]/
④785[明35]/④786[明36]/
④786[明37]/④786[明38]/
④788[明44]/④788[明45]/
④791[大3]/④794[大13]/
④795[大15]/④796[*昭和]/
④796[昭3]/④797[昭3]/
④797[昭4]/④798[昭5]/
④800[昭7]/④801[昭8]/
④802[昭10]/④803[昭12]/
④810[*]/④797[昭3]/
イーソプ→ イソップ
イーソップ → イソップ
イソピュス → イソップ
イソ(一)プ→ イソップ
いそほ→ イソップ
イーツ、ジョン③24明18.F/
ウソップ → イソップ
エイスキラス → エキスラス
エイスクラピュウーヌ → アスクレピアス
エイスクラピュートス → アスクレピアス
エイセース④67明20.B/
エエネアス→ アエネアース
Aitkin,J.A.④281大4.D/
エキスラス(アイスキュ(ョ)ロス、エ(一)スキラス、エ(一)スキロス、イ(一)スキラス、エスキュラス、エスキュロス、エスキュルス、エスクイルス、エスキルス、エセスロス、アイスキロス、エシキロス、アスキレス、エスヒル、エスキラス、スキュロス、アイッスキュロス、アスキラス、エスカイラス、あいすきろす、Aeschylos, Aeschylus,Aiskylos, Aiskhylos)［中村吉藏］
①47明21.C/①54明23.B/
①55明23.B/①122明38.D/
①161大2.A/①208大8.A/
①211大8.D/①231大11.D/

①232大11.D/①278昭2.D/
①332昭6.C/①335昭6.D/
①351昭7.D/①357昭8.A//
②25昭10.D/②100昭15.D/
②125昭17.D/②135昭18.D/
②167明18.B/②169明19.B/
②171明19.D/②174明20.D/
②181明22.D/②191明25.D/
②205明30.E/②220明37.D/
②223明38.D/②232明44.B/
②234明45.B/②252大14.D/
②285昭9.D//③13明11.D/
③28明20.D/③37明22.D/
③51明25.D/③56明26.B/
③57明26.D/③58明26.D/
③59明27.A/③68明28.D/
③72明29.B/③89明31.D/
③186大3.D/③197大5.B/
③227大13.D/③228大13.D/
③266昭7.D/③268昭8.A/
③294昭13.B/③298昭13.D//
④41明14.B/④60明18.D/
④67明20.B/④93明25.D/
④98明26.D/④109明28.D/
④110明29.B/④112明29.D/
④128明33.C/④163明38.D/
④199明42.D/④198明42.D/
④207明43.B/④209明43.C/
④210明43.C/④268大3.D/
④286大5.B/④299大6.A/
④311大7.A/④351大12.B/
④361大13.D/④377大15.B/
④384大15.D/④387昭2.A/
④435昭5.D/④466昭8.A/
④495昭9.D/④557昭12.D/
④561昭12.D/④574昭13.C/
④630昭16.B/④708[明42]/

エシキロス → エキスラス
エスカイラス→ エキスラス
エスキニース(江すきねーす)
②163明16.E//③50明25.C/
江すきねーす → エスキニース
エスキラス→ エキスラス
エスキュラス → エキスラス
エスキュラピイス→ エスキラピオス
エスキュルス → エキスラス
エスキュレピアス→ エスキラピオス
エスキュロス → エキスラス
エスキラピオス(エスキュレピアス、エスキュラピイス)
③141明39.F//④61明18.F//
④100明27.B/
エ(一)スキラス → エキスラス
エスキルス → エキスラス
エ(一)スキロス → エキスラス
エスクイルス → エキスラス
エスクラス→ エキスラス
エスクレオイオス → アスクレピアス
エスクレピオス → アスクレピアス
エスヒル→ エキスラス
AS, H.②225明 39.E/
エセスロス → エキスラス
エソオプ→ イソップ
エソップ → イソップ
エゾップ→ イソップ
エソーピュス→ イソップ
エソポ → イソップ
エソッポ → イソップ
エーニード→ アエネアース
オウガスタス → アウガ(グ)スタ(ト)ス(皇帝)
オウガスタン→ アウガ(グ)スタ(ト)ス(皇帝)
オウガスチン→ アウグスチヌ
オウガステーヌス→ アウグスチヌス
オウギュト → アウガ(グ)スタ(ト)ス(皇帝)
オウグスティーヌス→ アウグス

チヌ
オウグスチヌス→ アウグスチヌ
オウグスティーヌス→ アウグス
チヌス
オウゴストス → アウガ(グ)ス
タ(ト)ス(皇帝)
オウスチン、ジョン④53明16.E/
④685[明17]/
Aubin,H.④436昭5.E/
オウレリアス→ アウレリウ(ア、
ヤ)ス、マー(ル)カス帝
オーガウチュラ帝③111明35.B/
オーガサスチン→ アウグスチヌ
ス
オーガス→ アウガ(グ)スタ
(ト)ス(皇帝)
オガスタ → アウガ(グ)スタ
(ト)ス(皇帝)
オーガ(ゴ)スタス → アウガ
(グ)スタ(ト)ス(皇帝)
オーガステイノ→ アウグスチヌ
ス
オオガステイン→ アウグスチヌ
ス
オーガスチス→ アウガ(グ)スタ
(ト)ス(皇帝
オーガスチヌス→ アウグスチヌ
ス
オ(一)ガスチン → アウグスチ
ヌス
オーガスト→ アウガ(グ)スタ
(ト)ス(皇帝)
オギスチス→ アウグスチヌス
オギスチヌ→ アウグスチヌス
オーギスタン→ アウグスチヌ
ス
(聖)オーギュスタン
④128明33.B/
オーギュス(ト) → アウガ(グ)
スタ(ト)ス(皇帝)
オ(一)グスタス → アウガ(グ)
スタ(ト)ス(皇帝)
オグスチ→ アウグスチヌス
オグスチノ→ アウグスチヌス
オーグスツス → アウガ(グ)ス
タ(ト)ス(皇帝)
オーグスト→ アウガ(グ)スタ
(ト)ス(皇帝
オゴスタス→ アウガ(グ)スタ
(ト)ス(皇帝
オーゴスチーヌス → アウグス
チヌス
オ(一)ゴスチン → アウグスチ
ヌス
Autweiler, A.③302昭14.B/
Aubin, H.①355昭7.E/
オール、アナトール③222大12.B/
オール、リンドン①331昭6.C/
Allcroft, A.H.③82明30.C/
③102明33.C/
オルシビアデス → アルシビア
デス
オルシビヤデス→ アルシビア
デス
Allbut, T.C.③111明34.F/
オールブライト、エル・エス
④678[昭和]/
Albright,W.F.④629昭16.B/
オルレリヤス→ アウレリウ(ア、
ヤ)ス、マー(ル)カス帝
オレイヤス→ アウレリウ(ア、
ヤ)ス、マー(ル)カス
オーレキュス→ アウレリウ(ア、
ヤ)ス、マー(ル)カス帝
オーレリアス → アウレリウ(ア、
ヤ)ス、マー(ル)カス帝
オレリウス → アウレリウ(ア、
ヤ)ス、マー(ル)カス帝
オレリオス→ アウレリウ(ア、
ヤ)ス、マー(ル)カス帝
スキュロス→ エキスラス
ヲーガスタス → アウガ(グ)ス
タ(ト)ス(皇帝)
ヲーガスチン → アウグスチヌ

ス
ヲーガステン → アウグスチヌス
ヲーグステン → アウグスチヌス
ヲーゴスタイン→ アウグスチヌス
ヲーゴスタス → アウガ(グ)スタ(ト)ス(皇帝)
ヲーゴスチン → アウグスチヌス
ヲーゴステン → アウグスチヌス
ヲーゴスト(ス)→ アウガ(グ)スタ(ト)ス(皇帝)
ヲーレリウス→ アウレリウ(ア、ヤ)ス、マー(ル)カス帝
ヲーレリュース→ アウレリウア、ヤ)ス、マー(ル)カス帝
ヲヲレリオス → アウレリウ(ア、ヤ)ス、マー(ル)カス帝
[B]バア、エム・ダブリュ③242昭3.B/
バ[ヴ]ァージル→ヴィルジリウス
バァルイイ、G.B. → ベリー、ゼー・ビー(G.B.)
Barr,N.C.④243大2.B/
バイアス(哲學者)④80明23.B/
バア(一)クマン、アレキサンダア①230大11.B/
貝迪榮②251大13.G/
バイイ、シャルル②111昭16.D/
Beishlag④236大1.C/
Bilble(聖書)④802[昭10]/
Bayer, R.③280昭10.B/
Beyer, Oscar②262昭4.C/
バイル④55明17.B/
バイロン(バ井ロン、梅崙、Byron)[ベイロニズム、バイロン主義､バイロニズム] ①22明9.C/
①44明20.D/①49明21.D/
①52明22.D/①57明23.D/
①59明24.B/①62明24.D/
①66明25.D/①71明26.D/
①77明28.D/①80明29.D/
①83明30.C/①84明30.D/
①87明31.D/①95明33.D/
①98明34.D/①101明35.B/
①102明35.D/①103明35.D/
①108明36.D/①116明37.D/
①122明38.D/①134明40.D/
①139明41.D/①154明44.D/
①159明45.D/①167大2.D/
①177大3.D/①184大3.D/
①199大6.D/①225大10.D/
①240大12.D/①248大13.D/
①269大15.D/①335昭6.D/
①337昭6.D//②24昭10.D/
②44昭11.D/②45昭11.D/
②63昭12.D/②75昭13.D/
②181明22.D/②188明24.D/
②195明26.D/②196明26.D/
②198明27.D/②199明27.D/
②200明28.C/②201明28.D/
②202明29.D/②204明30.D/
②205明31.A/②213明34.B/
②214明34.D/②216明35.D/
②217明35.D/②218明36.D/
②221明38.B/②223明38.D/
②224明39.A/②229明42.B/
②230明42.F/②250大13.D/
②257昭2.D/②266昭5.D/
②270昭6.D/②275昭7.D/
②285昭9.D/②286昭9.D//
③28明20.D/③30明21.B/
③32明21.D/③35明22.B/
③41明23.D/③42明23.D/
③45明24.C/③46明24.D/
③47明24.D/③49明25.B/
③51明25.D/③52明25.D/
③54明26.B/③56明26.D/
③57明26.D/③59明26.E/

③62明27.D/③63明27.D/
③64明27.D/③68明28.D/
③69明28.D/③76明29.D/
③77明29.D/③78明29.D/
③83明30.D/③84明30.D/
③85明30.D/③85明30.E/
③88明31.C/③96明32.D/
③103明33.D/③109明34.D/
③115明35.D/③124明36.D/
③129明37.D/③130明37.D/
③134明38.D/③135明38.D/
③136明38.D/③139明39.C/
③139明39.D/③140明39.D/
③144明40.D/③145明40.D/
③149明41.E/③152明42.D/
③153明42.D/③156明43.C/
③158明43.D/③175大2.C/
③186大3.D/③188大3.F/
③189大4.B/③205大6.D/
③220大11.D/③227大13.D/
③237大15.D/③250昭4.D/
③255昭5.D/③266昭7.D/
③267昭7.D/③287昭11.D/
③298昭13.D/③322昭17.D//
④37明12.D/④65明19.D/
④78明22.D/④89明24.D/
④93明25.D/④95明26.B/
④96明26.B/④98明26.D/
④99明27.A/④101明27.B/
④104明27.D/④113明29.D/
④116明30.D/④117明30.D/
④121明31.D/④123明32.B/
④125明32.D/④129明33.D/
④133明34.D/④134明34.D/
④140明35.D/④144明36.B/
④146明36.D/④147明36.D/
④148明36.D/④155明37.D/
④156明37.D/④162明38.C/
④163明38.D/④164明38.D/
④165明38.D/④168明39.B/
④172明39.D/④173明40.A/
④179明40.D/④180明40.D/
④181明40.D/④186明41.B/
④189明41.D/④199明42.D/
④211明43.D/④212明43.D/
④252大2.D/④257大3.B/
④267大3.D/④268大3.D/
④272大4.B/④282大4.D/
④295大5.D/④296大5.D/
④297大5.D/④307大6.C/
④307大6.D/④308大6.D/
④318大7.D/④333大9.B/
④348大11.D/④361大13.D/
④365大14.B/④384大15.D/
④396昭2.D/④397昭2.D/
④421昭4.D/④433昭5.D/
④434昭5.D/④495昭9.D/
④496昭9.D/④498昭9.D/
④518昭18.D/④538昭11.D/
④539昭11.D/④559昭12.D/
④592昭14.D/④619昭15.D/
④634昭16.D/④636昭16.D/
④637昭16.D/④650昭17.D/
④706[明40]/④718[大7]/
④723[大12]/④724[大13]/
④752[昭10]/
Byron（Lord）③103明33.C/
③124明36.D/
Byron, K.①318昭5.C/
①319昭5.C/
バイロン主義 → バイロン
Bywater①243大13.A//
②100昭15.D/
バイン、ジョージ④133明34.D/
Bainton,R.H.④552昭12.B/
バウア、アイリーン
②123昭17.C//④646昭17.C/
バウエル、ブルノウ
④358大13.B/
Bauer（A.）③95明32.C/
③115明35.C//④520昭10.F/
Bauer, P.V.C.③177大2.D/
Bauer, W.③265昭7.C/
バウフ、ブルーノ③206大7.B/

Bauch, G.③119明 36.B/
Bauche,B.④564昭13.A
バウマン③71明29.A/
バウマン、エミール③244昭3.C/
バウマン、エー・デー
①311昭4.F/
バウムガルテン②188明24.D/
Baumgartner, A.③115明35.D/
バウムスタルク③101明33.B//
④127明33.B/
Baeumler,A.④551昭12.B/
Bowra, C.M.②282昭9.B//
③298昭13.D/
バウン、ビー・ピー④167明39.B/
バエーフェン → バッハオオ
(一)フェン
バカス→ バッカース
バーク②66昭12.E/
バーク(E.)④42明14.C/
Bax④231大1.B/
Baxa,J.(バクサ、ヤコブ)
④423昭4.E/
バクル→ バックル
バザン、ルネ④526昭11.B/
Bazán,Pardo④317大7.C.
バシリュス③26明19.C/
バジル、ギャム・バッチスタ
①258大14.D/
Balsillie,D.④226大1.B/
バーシュレ、ダブリュ・ビー
①157明45.B/
バジョット④448昭6.E/
バージル→ ヴィルジリウス
バスク②246大10.B/
②247大11.B/
バーズル→ ヴィルジリウス
バーゼロチー③159明44.B/
Butterworth,C.W.④538昭11.D/
Badareu②58昭12.B/
Batiffol, L.①197大6.C/
Batchelor,John④116明30.D/
④673[明治]/④698[明30]/
バチナン、ドクトル
②187明24.B/
バーチン②168明19.A/
バッカ(一)ス神(バッコス、バカス、バックス、酒神)
②239大4.B//③177大2.D//
④172明39.D/④197明42.C/
④209明43.C/④312大7.B/
④330大9.B/④433昭5.D/
バック→ ベーク
バック、ユリウス①382昭9.D/
バックス→ バッカ(一)ス神
バックストン③199大5.C/
バックル(ボックル、バックレー、バクル、勃克留、勃格爾、伯克爾、抜克爾)、トーマス(トマス))
①20明9.A/①26明11.A/
①27明11.E/①29明13.A/
①31明14.A/①33明15.A/
①33明15.E/①36明17.A/
①42明20.A/①46明21.A/
①48明21.C/①54明23.A/
①69明26.B/①85明31.A/
①114明37.C/①135明41.A/
①235大12.A/①278昭2.C/
①325昭6.A/①352昭7.D//
②22昭10.C/②155明7.A/
②165明17.B/②175明21.A/
②182明23.A/②193明26.A/
②199明28.A/②202明29.B/
②207明32.A/②229明41.E//
③5明8.A/③7明9.B/
③8明9.B/③9明9.E/
③10明10.B/③11明10.C/
③13明11.B/③19明16.A/
③21明17.B/③22明18.A/
③34明22.A/③45明24.B
③45明24.C/③48明25.B/
③50明25.C/③51明25.C/
③53明26.A/③65明28.B/

③86明31.A/③170明45.E/
③194大4.E/③302昭14.B/
③312昭16.A//④30明8.A/
④32明10.A/④33明11.A/
④35明12.A/④36明12.B/
④38明13.A/④40明14.A/
④44明14.E/④44明15.A/
④49明15.E/④50明16.A/
④52明16.C/④55明17.B/
④62明19.A/④119明31.B/
④120明31.C/④122明32.B/
④124明32.B/④233明45.B/
④283大4.E/④311大7.A/
④481昭9.A/④537昭11.C/
④600昭15.A/④641昭17.A/
④678[明8]/④682[明12]/
④685[明16]/④686[明17]/
④688[明19]/
バックレー → バックル
バッコス→ バッカース
バッハオオ(一)フェン(バッハオーフェン、バホーフェン、バッホーフェン、バエーフェン、Bachofen, J.J.)［母權論］
①297昭3.E/①319昭5.C/
①323昭5.E/①385昭9.E//
②83昭14.B/②89昭14.E/
②108昭16.B//③190大4.B/
③267昭7.E/③299昭13.E/
③325昭19.A//④214明44.B/
④583昭14.B/④596昭14.E/
バッハオーフェン→ バッハオオ(一)フェン
バップ、ユリウス④199明42.D/
バッホーフェン→ バッハオーフェン
Bardenhewer②19昭10.B/
Bardenhewer,O.④612昭15.C/
Bardy, G.②108昭16.B/
バート②129昭17.F/
Birt③124明36.D/
Birt, J.①349昭7.C/
Birt, Thedor③185大3.C//④609昭15.C/④713[大3]/
バード、ロバート①256大14.C/①378昭9.C//④674[大正]/
バトラア、ジョン①269大15.D/
Badareu②58昭12.B/
Bertrand, L.③182大3.B/
バートン、ジョージ・エ(Barton,G.A.)
①254大14.B//④292大5.C/
④377大15.B/④382大15.C/
Barton,W.E.④207明43.C/
Baner,W.④226大1.B/
Bernad, Ch.③55明26.B/
バニーアス②184明23.D/
バーネット(Burnet,Johnジョン)
①284昭3.A/①342昭7.B/
①373昭9.A/①374昭9.B//
②11昭10.B/②104昭16.B/
②107昭16.B/②118昭17.B//
③49明25.B/③85明30.E/
③181大3.B/③182大3.B/
③269昭8.A/③273昭9.A/
③275昭9.B/③284昭11.A/
③288昭12.A//④116明30.E/
④277大4.B/④429昭5.B/
④441昭6.B/④502昭10.A/
④504昭10.B/④524昭11.A/
④547昭12.A/④582昭14.A/
④606昭15.B/④736[昭4]/
④742[昭7]/
Barber,G.L.④611昭15.C/
バビット、アーヴィング
①353昭7.D//④748[昭9]/
Babington,T.④60明18.D/
バブロン③161明44.C/
Babelon, E.③236大15.C//④381大15.C/
バホーフェン → バッハオオ(一)フェン
バラート③252昭5.B/

③328昭[不明]B/
バラード、スザン④197明42.C/
バラード、ミス④180明40.D/
バランタイン④178明40.C/
④706[明40]/
バラント③118明36.B/
Bahri, H.③176大2.C/
バリ、ジョン①265大15.B/
Barion, J.②18昭10.B/
バルク、ヘンリー・トマス
④349大12.A/
Balthasar, H.U.v.②58昭12.B/
Ballis, W.②76昭13.E/
Barger,E.④535昭11.C/
バルテーノペ④329大9.A/
バルト(哲學)(Barth, H.)
①99明35.A/①376昭9.B//
②18昭10.B//③116明36.A/
③275昭9.B//④343大11.A/
バルト、カール③244昭3.C//
④471昭8.B/④471昭8.C/
④480昭8.E/④490昭9.B/
④608昭15.C/④759[昭12]/
④770[昭16]/
バルト(教育學)、パウル
①265大15.B/①360昭8.B/
バルドウィン③21明17.B/
バルナバ④278大4.C/
④353大12.C/
Barbagallo④317大7.C/
バルハシアス②194明26.B/
バルバロ、フェデリコ
④776[昭18]/
バルフィンチ①161大2.B/
①229大11.B/①275昭2.B//
②118昭17.B//④729[昭2]/
バルフォア、アーサー
④277大4.B
バルフォア②227明41.A/
②246大10.D/
バルフォール、フレデリック・
エッチ④100明27.B/
バルブドー(馬留武黨)
④103明27.D/④108明28.D/
バルフヲール③67明28.C/
バルベイト①44明20.E/
バルメス、ハイメ④479昭8.E/
バルンス③77明29.D/
バレト、エマニュエル①5[19]//
④278大4.B/
Barett, H.M.②96昭15.B/
Barlow, C.W.①376昭9.B/
Bullough, Ed.②57昭12.B/
Barrow, R.H.③277昭9.C//
④492昭9.C/
バロース④626昭16.A/
Baron, Hans①364昭8.C/
①365昭8.C//④492昭9.C/
バ井ロン → バイロン
Barnhard, E.③217大10.D/
Burnside,W.F.④292大5.C/
Barns, H.E.③261昭7.A//
④574昭13.C/
Bernd, F.①364昭8.C/
Burn,A.R.④436昭5.E/
バーンズ(Barnes)④60明19.D/
④704[明38]/
Bannes, J.②17昭10.B/
バーンズ③318昭16.F/
Burns,C.D.④287大5.B/
バンヤン④332大9.B/
ビアス(Bias)①5[19]//
③70明28.F//④131明34.B/
ビアスタット、エドワード・エ
チ(Bierstadt, Edward H.)
①377昭9.B//④482昭9.A/
④483昭9.B/
Beard,C.①190大4.C//
④722[大11]/
ビ(ー)アトリス → ベアトリ
チエ(ェ)
ビィ、ロオベル・ド①306昭4.C
Bianchi,G.H.④231大1.B/
Biel, Gabriel②57昭12.B/

ビゲロウ②128昭17.F//
④436昭5.F/
ビゲロー、ジー・エス
④116明30.D/
ビゴー②171明19.D/
びざんちん學校④578昭13.F/
ビシヤ④568昭13.B/
ビスゴラス(スパルタ人)
④186明41.B/
Bisinger, J.③232大14.E/
ビスマルク（比氏）③178大2.D/
③190大4.B//④121明31.D/
④125明32.D/
Bigg, Ch.③181大3.B//
④255大3.B/
Bidez, J.③73明29.B/
ビーッル、ホーバッ④27明1.G/
Bicci,Matteo④373大14.F/
ビーダーマン④634昭16.D/
④686昭23.D/
ビート④105明28.B/
④108明28.C/
ビートン④82明23.C/
ビニオン、ローレンス
②257昭2.D/
ビープ②194明26.B/
ビフネル②166明18.B/
Beemelmann,Frdr.④256大3.B/
ビヤード、チャーレス・エー
④412昭4.A/
ビュアリー（Bury, J.B.）→ ベリー、ゼー・ビー
Bury,R.G.②17昭10.B/
②94昭15.B/②106昭16.B/
②281昭9.B//③95明32.C/
③244昭3.C/
Bysshe④722[大11]/
ビュッソン、アンリ③314昭16.B/
Büdinger,M.④610昭15.C/
ビュヒアー（ビューヒヤー）、カール①199大6.E/
①226大10.D/①338昭6.E//
④342大10.E/④721[大10]/
Büchner, K.B.②47昭11.D/
②58昭12.B/②96昭15.B//
③305昭14.D/
Buchner,R.③310昭15.C/
ビューヒヤー→ ビュヒアー
ビューモント④32明10.B/
ビュロー②234明45.B/
Bühler①358昭8.A//④548昭12.A/
ビョックリン①66明25.D/
Billicsch, F.②39昭11.B/
Billeskov,J.F.J.④507昭10.B/
ビルショウスキイ②136昭18.D//
④663昭18.D/
ビルンバウム④330大9.A/
Binswanger, L.②17昭10.B/
ビンネー④45明15.B/
Beanley,H.J.④371大14.D/
ブイコフスキー、エス・エヌ
①378昭9.C/①380昭9.C//
④752[昭10]/
Bouillon,L.③198大5.C//
④717[大5]/
Busse, A.③165明45.B/
ブウセット、ヴィルヘルム → ブセット、ヴィルヘル
ブウトルー → ブ(ー)トルー
ブウフハイト②37昭11.B/
ブウルデル → ブールデル
ブカナン、ウォタ④130明34.B/
Bouglé,C.④568昭13.B/
ブーケ博士②47昭11.D/
蒲梢④447昭6.D/
Buschor, Ernst②112昭16.D//
④636昭16.D/④636昭16.D/
ブース、ウヰリアム④178明40.C/
ブセット、ヴィルヘルム(ブウセット、Bousset, [F.]W.)
③181大3.B//④236大1.C/
④264大3.C/④279大4.C/

④287大5.B/④352大12.C./
④432昭5.D/
Boodberg, P.A.②86昭14.C/
ブチアー → ブッチャア
ブチャー → ブッチャア
佛陀②209明33.B//③210大8.D//
④203明43.B/
Bushnel,G.H.④444昭6.C/
ブッセ氏④96明26.B/
ブッチャア(ブチアー、ブチャー、ブッチェル、Butcher,J.)
①224大10.D/①235大12.A/
①237大12.B//②92昭15.A/
②117昭17.A//③68明28.D//
④333大9.B/④527昭11.B/
④541昭11.D/
ブッチェル → ブッチャア
Buchholz-Sitzler④600昭15.A/
Buchmann, A.②40昭11.B/
Buchwohl,W.④575昭13.C/
ブッレキイ③91明32.A/
ブ(一)トルー(ブウトルー)、エミール(Boutroux, Emile)
①236大12.B/①289昭3.B//
②139昭18.F/③127明37.B/
③160明44.B/③188大3.F/
③209大8.B/③215大10.B/
③218大11.B/③243昭3.B/
ブービエ、エミール④399昭3.A/
Büdigner,M.④615昭15.C/
Bubnoff,v.④442昭6.B/
ブ(ヴ)ーブ(ブウブ(一))、サント
④335大9.D/④585昭14.B/
④587昭14.B/④763[昭14]/
ブウブ(一) → ブ(ヴ)ーブ
ブウフハイト、ゲルド
④527昭11.B/④529昭11.B/
Bryan,I.④195明42.B/
Bryant,W.N.①193大5.F/
ブライス(Bryce)、ゼームズ
①246大13.C/①300昭4.A/
Bryce,V.①206大7.D/
ブライス①65明25.C/
Breisig,E.④614昭15.C/
④615昭15.C/
Breisig, Kurt②61昭12.C//
③271昭8.C//④556昭12.C/
④643昭17.B/④616昭15.C/
Breysig,H.④660昭18.C/
ブラインド、マチルダ
③46明24.D/
ブラウ④810[*]/
ブラウイング①42明20.B/
ブラウニング④720[大9]/
Brown, H.③178大2.D/
ブラウン(Braun,M.)
②141昭19.B/②282昭9.B/
ブラウン、N.④592昭14.D/
ブラウン、オットー(オット、オツトオ)(Braun,O.)
①246大13.C//④224大1.A/
④360大13.C/④473昭8.C/
Brown, R.③93明32.B/
ブラウン、ウィリアム・アダムズ
④225明45.B/
ブラウン(Brown,Nathan)
④679[明9]/④696[明27]/
ブラウン(Nathan Brown)譯
Brownson,C.L.④611昭15.C/
ブラカ②161明15.E/
Brake,J.④545昭12.A/
ブラスコ・イバーニェス
④798[昭5]/
ブラッキー①76明28.B/
①95明34.A//③69明28.D/
ブラックスト(―)ン, W.E(ダブルユー・エー)
④705[明39]/④718[大6]/
Brackmann, A.②21昭10.C/
Blass, E.③121明36.C/
Brassloff, S.②280昭8.E/
ブラタス → ブル(一)タス
Bradshaw,S.④444昭6.C/
ブラッドリー①309昭4.D//

④723[大12]/
Brann,M.④493昭9.C/
ブランキー②160昭15.E/
②163明16.E/
Brandik, M.G.①352昭7.D/
Boulanger, Andre①362昭8.B//
④468昭8.B/
ブランシュヴィック(Brubschivig, Léon)②12昭10.B//
③280昭10.B/
ブランシェー③161明44.C/
Bruns, L.③94明32.C/
Brandi, C.③124明36.D/
Brandi, K.①381昭9.C/
ブランデス、ゲオルグ(ジョジ?)
①179大4.B/①180大4.B/
①182大3.B/①183大3.D/
①184大3.D/①295昭3.D/
①320昭5.D/①366昭8.D//
②12昭10.B//②44昭11.D/
②47昭11.D/②62昭12.D/
②63昭12.D/②86昭14.D//
③191大4.B//④268大3.D/
④344大11.B/④384昭2.C/
④558昭12.D/
Blunden,Edmund④736[昭4]/
ブランデンブルク②103昭16.A/
②133昭18.C//④626昭16.A/
ブランド、イー・エム
④210明43.D/
ブランド(Brand,H.G.)
④132明34.C/④699[明32]/
ブーリエンヌ④720[大9]/
ブリオー③126明37.B/
ブリーガー③195大5.B/
Briggs,C.A.④242大2.B/
ブリヂズ④433昭5.D/
Bliss,H.E.④442昭6.B/
ブリゾ(ソ)ン、ピエル④410昭3.F/
④753[昭10]/
ブリタロス④220明44.C/
British Museum②268昭6.A/
ブリデル、ルイ④148明36.E/
Bruhier, E.①285昭3.A//
ブリユール、カール④214明44.B/
ブリュタス → ブル(ー)タス
ブリュチ(ュ)ス → ブル(ー)タス
ブリュ子チェル④117明30.D/
ブリューベル①75明27.E/
Blümer,H.④520昭10.F/
Brühl,H.Lévy(ブリュル、レヰ)
④492昭9.C/④751[昭10]/
ブリュンチュリー → ブルンチリ
ブリュンチュール→ ブルンチリ
ブリュンテイエル④384大15.D/
ブーリチェ②214明35.A/
Bullinger④402昭3.B/
ブリンクリー、F.②203明29.G/
②211明33.G//③38明22.D/
ブルウス①70明26.B/
ブルウタス→ ブル(ー)タス
ブルウチス → ブル(ー)タス
ブルウデエ①270大15.D/
ブルウデル → ブ(ー)ルデル
ブルウノウ→ ブルーノ(ー)
ブルガコフ②12昭10.B/
Burkitt,F.C.④469昭8.B/
④490昭9.B/
ブルース、アレキサンデル・バルメーン④312大7.B/
ブル(ッ)クハルト、ヤーコプ(ブ)(Bruckhardt, Jacob)
①87明31.C/①256大14.C/
①313昭5.A/①318昭5.C/
①326昭6.A/①331昭6.C/
①334昭6.C/①349昭7.C/
①350昭7.C/①379昭9.C/
①380昭9.C//②42昭11.C/
②43昭11.C/②61昭12.C/
②72昭13.B/②73昭13.C/
②80昭14.B/②108昭16.B/

②123昭17.C/②144昭19.D//
②236大2.B/②252大14.C//
③83明30.C/③108明34.C/
③121明36.C/③176大2.C/
③216大10.C/③236大15.C/
③254昭5.C/③257昭6.A/
③259昭6.C/③310昭15.C/
③316昭16.C/③321昭17.C//
④251大2.D/④311大7.A/
④359大13.B/④374大15.A/
④449昭7.A/④475昭8.C/
④492昭9.C/④493昭9.C/
④535昭11.C/④555昭12.C/
④557昭12.C/④565昭13.A/
④572昭13.C/④573昭13.C/
④582昭14.A/④633昭16.C/
④636昭16.D/④648昭17.C/
④650昭17.D/④716[大5]/
④738[昭5]/④740[昭6]/
Brugmanns, Karl②112昭16.D/
ブルジュス → ブル(一)タス
ブル(一)タス(ブルチス、ブルウチス、ブリュタス、ブラタス、ブリュチ(ュ)ス、ブルジュス、ブルタル、ブルトス、ブルツタス、ブルウタス)
①40明19.C/
①43明20.C/①47明21.C/
①52明22.C/①56明23.C/
①60明24.C/①61明24.C/
①64明25.B/①70明26.C/
①91明32.C/①114明37.C/
①119明38.B/①147明43.C/
①158明45.C/①183大4.C//
②162明16.B/②170明19.C/
②180明22.D/②181明22.D/
②184明23.C/②185明23.D/
②186明24.A/②187明24.B/
②187明24.C/②191明25.C/
②193明26.A/②195明26.C/
②196明26.E/②198明27.C/
②200明28.C/②201明28.D/
②204明30.C/②210明33.C/
②213明34.C/②234明45.B//
③6明8.C/③9明9.E/
③11明10.C/③13明11.C/
③14明11.E/③17明14.C/
③18明14.E/③36明22.C/
③41明23.C/③56明26.C/
③61明27.C/③78明29.E/
③96明32.C/③176大2.C/
③198大5.C/③209大8.B/
③218大11.B/③239昭2.B/
③247昭4.B/③248昭4.C//
④47明15.C/④48明15.C/
④49明15.E/④53明16.D/
④57明17.E/④65明19.D/
④67明20.B/④69明20.C/
④74明21.C/④77明21.B/
④81明23.B/④83明23.C/
④96明26.C/④104明27.E/
④110明29.B/④111明29.B/
④125明32.E/④148明36.E/
④159明38.B/④160明38.B/
④183明41.B/④215明44.B/
④226明45.B/④234明45.C/
④257大3.B/④272大4.B/
④273大4.B/④278大4.C/
④291大5.C/④314大7.B/
④316大7.B/④317大7.C/
④323大8.B/④384大15.D/
④415昭4.B/
Burdach, K.①375昭9.B/
①376昭9.B//④492昭9.C/
④535昭11.C/
ブルタル → ブル(一)タス
ブルチス → ブル(一)タス
ブルック①271大15.D//
④382大15.D/④729[昭1]/
Brooks,Mansfield④297大5.D/
ブルツタス→ ブル(一)タス
ブ(一)ルデル(ブウルデル)
③231大14.D/③247昭4.B/

③322昭17.D/
ブルトス → ブル(一)タス
ブルトマン④746[昭8]/
Burton, E.D.③183大3.B/
ブルノ(一) → ブルーノ(一)
ブルーノ(一)(ブルノ、ブルノオ、プラーノ、ブルウノウ、Bruno、ギョルダーノ、ジオオルダノ、ジルダノー、ジョルダーノ、ギヲルダーノ Giordano)①55明23.B/
①69明26.B/①74明27.B/
①126明39.B/①131明40.B/
①181大4.B/①202大7.B/
①203大7.B/①210大8.B/
①274昭2.B/①303昭4.B//
②15昭10.B/②131昭18.B/
②162明16.B/②166明18.B/
②184明23.C/②187明24.B/
②216明35.C/②222明38.B/
②230明42.F//②236大2.B/
②237大2.E/②237大3.B/
②238大3.B/②262昭4.B/
③30明21.B/③45明24.B/
③67明28.C/③99明33.B/
③100明33.B/③117明36.B/
③138明39.B/③141明40.B/
③146明41.B/③156明43.B/
③160明44.B/③165明45.B/
③173大2.B/③206大7.B/
③218大11.B/③233大15.B/
③234大15.B/③262昭7.A/
③285昭11.B//④45明15.B/
④61明18.E/④76明21.B/
④77明21.B/④205明43.B/
④272大4.B/④273大4.B/
④301大6.B/④302大6.B/
④356大13.A/④414昭4.B/
④439昭6.B/④509昭10.B/
④521昭10.F/④606昭15.B/
④623昭15.F/
ブルノオ → ブルーノ(一)
Burbank, J.③262昭7.A/
ブルフマン、カアル①226大10.D/
ブルフィンチ④393昭2.C/
ブルーマー、イムホフ③161明44.C/
BruMarsh, F.①291昭3.C/
ブルール、レキー④216明44.B/
Bulwer③108明34.C/
ブルンク、ベルンハルド・テン①64 明25.B/
ブルンチュリー → ブルンチリ
ブルンチリ(ブルンチュリー、ブリュンチュリー、ブリュンチュール)[加藤弘之、石津可輔、平田東助、中根重一]①22明9.E/
①25明10.E/①27明11.E/
①30明13.E/①31明14.E/
①33明15.E/①271大15.D/
①281昭2.D//②154明6.E/
②189明25.A/②193明26.A//
③10明9.E/③12明10.E/
③14明11.E/③19明15.E/
③28明20.B//④28明5.E/
④39明13.E/④48明15.E/
④49明15.E/④61明18.E/
④464昭7.E/
ブルンナー(ブルンネル、エミール、Brunner,E.)②55昭12.B/②56昭12.B//
④442昭6.B/④525昭11.B/
④532昭11.B/④534昭11.C/
④566昭13.B/④742[昭和]/
Brunnetto④557昭12.C/
ブルンネル→ ブルンナー
Blaikee, J.②189明24.F/
②193明25.F/
ブレイエ、エミル(Bréhier, É.)②39昭11.B/②72昭13.B/

②84昭14.B//③234大15.B/
③239昭2.B/③303昭14.B/
Blake③240昭2.B/
ブレイク、ウ井リアム(ヰリアム W.)
①295昭3.D//②261昭4.B//
③186大3.D/③210大8.D//
④257大3.B/④273大4.B/
④419昭4.D/④495昭9.D/
④539昭11.D/④594昭14.D/
④722[大11]/
ブレークスリー④97明26.C
Blegen,C.W.④591昭14.C/
Baisdell,A.F.④126明33.B/
ブレステド→ ブレステッド
ブレステッド(ブレステド、Breadstead, J.H.)
①183大3.C/①190大4.C/
①231大11.C/①357昭8.A//
③189大4.A/③212大9.C//
④333大9.C/④374大15.A/
④382大15.C/④393昭2.C/
④418昭4.C/④465昭8.A/
④515昭10.C/④536昭11.C/
④537昭11.C/④722[大11]/
④756[昭11]/
Bröckner, W.②38昭11.B/
ブレッツ、カール①86明31.C/
①87明31.C/
Brett, G.S.③174大2.B/
Blättner,F.④550昭12.B/
Brecht, F.J.②58昭12.B/
Bremond,H.④550昭12.B/
Burrell, P.S.③196大5.B/
③197大5.B/
Breloer, B.②61昭12.C/
ブレンキ②152［14540］/
ブレンタ(ー)ノ、ルヨ(Brentano, Lujo)①270大15.D/
①311昭4.E/①313昭5.A/
①358昭8.B//②145昭19.E/
②146昭19.E/②167明18.B/
②255大15.D//③165明45.B/
③166明45.B/③243昭3.B//
④358大13.B/④422昭4.E/
④484昭9.B/
Brendenburg,E.④614昭15.C/
Bloiz,G.④717[大5]/
ブロウニング、ヲスカー
①69明26.B/①73明27.B//
④95明26.B/④100明27.B/
ブローグ、パットン・ゼー
①59明24.B/
ブロシャール(Brocher, Henri)
①300昭4.B/①305昭4.B/
①362昭8.B//③248昭4.B//
④414昭4.B/
Brochard, V.③165明45.B/
ブロック、モリス④184明41.B/
④707[明41]/
ブロック(故人)③128明37.C/
ブロ(ッ)ク②161明15.E/
②163明16.E/②164明16.E/
Blotz, G.③199大5.C/
ブロッシュ④480昭8.E/
ブロッス、エドガア③162明44.D/
ブロツス、ゲー・ド・ラ
③188大3.F/
ブロード、T.R/④412昭4.A/
ブローニング夫人④186明41.B/
ブロンスキー③234大15.B/
Bronte,Emily④421昭4.D/
Browing②25昭10.D/
ブーヴィエール④35明11.E/
ブーン③115明35.C/
Bounden,E.④396昭2.D/
Bundt,H.H.④398昭2.E/
ベア→ ベーア
ベーア(ベア、ベアー)、マックス(エム)
①192大5.E/①233大11.E/
①236大12.B/①239大12.B/
①242大12.E/①260大14.E/
①272大15.E/①353昭7.E//

②248大12.B/②268昭6.B/
②275昭7.E//③237大15.E//
④433昭5.D/
ベアトリス→ ベアトリチエ(ェ)
ベアトリチエ(ェ)(ベアトリーチェ、ベアトリス、ビ(ー)アトリス)
①212大8.D//②202明29.D/
②216明35.D//③69明28.D/
③185大3.D/③186大3.D/
③193大4.D/③200大5.D/
③224大12.D/③241昭2.D//
④76明21.B/④108明28.D/
④113明29.D/④236明45.D/
④354大12.D/
ベアトリーチェ → ベアトリチエ(ェ)
ベアリング、モーリス
②12昭10.B/②20昭10.C/
②23昭10.D/②235明45.D/
②235明45.D//③164明45.B/
③175大2.B//④241大2.B/
④279大4.C/
ベアレル④677[明7]/
米國一信徒④178明40.C/
ベイコン→ ベーコン
ベーかー、あるふれっど
④190明41.F/
Baker, G.P.①365昭8.C/
米國應用倫理學校③42明24.A/
Bakewell,Ch.K.④448昭6.E/
吠陀④110明28.B/
ベイック,A. → ベーク
Baiyer, R.③283昭10.F/
Bailey, C.②17昭10.B/
Ballis, William②114昭16.E/
ベイル、ピエル③289昭12.B/
ベイロニズム(バイロン主義) → バイロン
Baynes, N.H.③133明38.C/
ベウムケル③71明29.A/
ベイン、アレキサンドル(倍因氏)
④50明16.B/
Bäne③99明33.A/
ベエリー博士 → ベリー
ベーク(ベツク、バック、ベイック、Boeckh,Böckh,August)
①116明37.D/①294昭3.D/
①383昭9.D//②25昭10.D//
③275昭9.B//④200明42D/
④703[明37]/④774[昭18]/
ベークエル(ベークウェル)
③127明37.B/③196大5.B/
ベークレス④727[昭1]/
ベーククワン①196大6.B/
ベークウェル → ベークエル
ベーコン(ベイコン、Bacon、倍根)、フランシス
②25昭10.D/②258昭2.F//
③38明22.D/③224大12.F//
④32明10.A/④70明20.D/
④90明25.B/④113明29.D/
④117明30.E/④126明33.B/
④184明41.B/④189明41.D/
④194明42.B/④214明44.B/
④442昭6.B/④495昭9.D/
④542昭11.E/
Bacon, Roger②277昭8.B//
④256大3.B/
ベスパシヤン(皇帝)
③139明39.C/
Best, K.D.③109明34.C/
Besmir, M.①183大3.C//
③195大4.G/
Bässler,Ferdinand④68明20.C/
ベーツ④260大3.B/
Bekker,I.④402昭3.B/
ベッカー(Becker, O.、哲學)
①346昭7.B//②108昭16.B//
③280昭10.B/③311昭15.D/
ベッカー、パウル(P.音樂)
①307昭4.D//②111昭16.D//
④636昭16.D/④637昭16.D/
④638昭16.D/

Becking, G.③214大10.A/
Beck, C.H.(出版)②39昭11.B/
Beck,L.④520昭10.F/
ベツク → ベーク
ベックマン、リー・ナイト・ゼル・カーター④61明18.F/
Beckmann,J.④520昭10.F/
ベックリン③322昭17.D/
ベッテルハイム(伯徳令, B.J.Bettelheim)
④672[安政]/④676[明6]/
④676[明7]/
Becher,W.④550昭12.B/
ベッロニアス②186明24.A/
ベーテ、エー(Bethe,E.)
①138明41.C//②228明41.C//
③296昭13.C//④516昭10.D/
Beth,E.④249大2.C/
ベディエ②136昭18.D//
④662昭18.D/④772[昭17]/
④775[昭18]/
ベテン、フランシス④641昭17.A/
ベ(ー)ト(ー)フ(ベ)ェン(ベートーヴェン)
①122明38.D/①256大14.C//
②223明38.D/②260昭3.D//
③135明38.D/③239昭2.B//
④222明44.D/
ベートーベン→ ベ(ー)ト(ー)フ(ベ)ェン
ベトルス①333昭6.C/
Böhme,Jacob(ベーメ)
④242大2.B/④337大10.B/
Beninger,Ed.④472昭8.C/
ベニンホフ③159明44.A/
Benecke, P.V.M.③108明34.C/
ベネット④776[昭18]/
ベネティクト、ユーリウス
④163明38.D/
Bevan, Ed.R.③114 明35.C/
③174大2.B//④227大1.B/
Bevan, J.O.①203大7.B/
ベーベル③190大4.B/
Boehm,A.④568昭13.B/
Böhme,R.③298昭13.D//
④574昭13.C/
Baeumler,A.④636昭16.F/
Böhme,Jacob④242大2.B/
Böhme,R.④574昭13.C/
ベリー(英國教師)②151[14525, 14526, 14527]/
Berry, G.G.③172大2.B/
ベリー(ベーリー、ビュアリー、Bury)、ゼー・ビー(G.B.)
①220大10.A/①252大14.A/
①263大15.A/①284昭3.A/
①291昭3.C/①292昭3.C/
①312昭5.A/①334昭6.C//
②133昭18.C/②147昭20.C//
②236大2.B//③103明33.C/
③114明35.C/③174大2.B//
④486昭9.B/④536昭11.C/
④547昭12.A/④609昭15.C/
④615昭15.C/④616昭15.C/
ベーリー → ベリー
ベリリュス②166明17.F/
ベル②136昭18.D/
ベル、クライグ②92昭15.A//
③307昭15.A/
ベル、チャーレス④37明12.C/
Bell,E.T.④578昭13.F/
④654昭17.F/
ベルク④112明29.D/
ベルグソン(Bergson,Henri、アンリ)
①147明43.B/①152明44.B/
①155明45.A/①157明45.B/
①159明45.D/①161大2.A/
①162大2.B/①163大2.B/
①164大2.B/①165大2.B/
①169大3.A/①169大3.B/
①170大3.B/①171大3.B/
①172大3.B/①173大3.B/
①174大3.B/①179大4.B/

①181大4.B/①182大3.B/
①188大4.B/①189大4.B/
①196大6.B/①203大7.B/
①208大8.A/①209大8.B/
①210大8.B/①212大8.E/
①223大10.B/①255大14.B/
①265大15.B/①266大15.B/
①267大15.B/①276昭2.B/
①288昭3.B/①299昭4.A/
①303昭4.B/①304昭4.B/
①315昭5.B/①316昭5.B/
①329昭6.B/①331昭6.B/
①342昭7.B/①361昭8.B/
①362昭8.B//②15昭10.B/
②16昭10.B/②25昭10.D/
②34昭11.B/②37昭11.B/
②54昭12.B/②59昭12.B/
②69昭13.B/②71昭13.B/
②80昭14.B/②81昭14.B/
②93昭15.B/②107昭16.B/
②131昭18.B/②141昭19.B/
②232明44.B/②234明45.B//
②236大2.B/②238大3.B/
②239大4.B/②239大4.D/
②251大14.B/②252大14.B/
②254大15.B/②256昭2.B/
②262昭4.B/②269昭6.B/
②273昭7.B/②274昭7.B/
②278昭8.B/②281昭9.B/
③160明44.B/③162明44.D/
③163明45.A/③164明45.B/
③165明45.B/③166明45.B/
③169明45.D/③171大2.B/
③172大2.B/③173大2.B/
③174大2.B/③175大2.B/
③177大2.D/③178大2.D/
③180大3.B/③181大3.B/
③182大3.B/③183大3.B/
③184大3.B/③189大4.B/
③190大4.B/③191大4.B/
③192大4.B/③193大4.D/
③196大5.B/③197大5.B/
③200大5.E/③201大6.B/
③202大6.B/③206大7.B/
③209大8.B/③212大9.B/
③214大10.B/③215大10.B/
③224大12.D/③230大14.B/
③230大14.C/③233大15.B/
③234大15.B/③239昭2.B/
③243昭3.B/③247昭4.A/
③247昭4.B/③258昭6.B/
③264昭7.B/③269昭8.A/
③270昭8.B/③275昭9.B/
③275昭9.B/③280昭10.B/
③281昭10.B/③285昭11.B/
③290昭12.B/③293昭13.A/
③301昭14.A/③307昭15.A/
③308昭15.B/③309昭15.B/
③312昭16.A/③314昭16.B/
③315昭16.B/③318昭17.A/
③319昭17.A/③323昭18.B//
④215明44.B/④217明44.B/
④218明44.B/④222明44.D/
④225明45.A/④226大1.B/
④227大1.B/④228明45.B/
④231明45.B/④232明45.B/
④233明45.B/④238明45.D/
④239大2.A/④242大2.B/
④243大2.B/④244大2.B/
④245大2.B/④246大2.B/
④247大2.B/④248大2.B/
④252大2.D/④253大2.F/
④253大3.A/④254大3.A/
④254大3.B/④255大3.B/
④256大3.B/④257大3.B/
④258大3.B/④259大3.B/
④260大3.B/④261大3.B/
④262大3.B/④263大3.B/
④267大3.D/④272大4.B/
④273大4.B/④274大4.B/
④276大4.B/④277大4.B/
④283大4.E/④287大5.B/
④288大5.B/④289大5.B/
④290大5.B/④297大5.D/

④300大6.B/④302大6.B/
④303大6.B/④305大6.B/
④308大6.D/④310大6.F/
④314大7.B/④315大7.B/
④316大7.B/④332大9.B/
④338大10.B/④346大11.B/
④347大11.C/④352大12.B/
④359大13.B/④361大13.C/
④367大14.B/④368大14.B/
④378大15.B/④379大15.B/
④390昭2.B/④397昭2.D/
④413昭4.B/④416昭4.B/
④440昭6.B/④450昭7.A/
④454昭7.B④455昭7.B/
④470昭8.B/④485昭9.B/
④487昭9.B/④489昭9.B/
④494昭9.C/④504昭10.A/
④505昭10.B/④508昭10.B/
④509昭10.B/④510昭10.B/
④511昭10.B/④517昭10.D/
④523昭11.A/④530昭11.B/
④531昭11.B/④532昭11.B/
④547昭12.A/④551昭12.B/
④552昭12.B/④553昭12.B/
④565昭13.A/④568昭13.B/
④569昭13.B/④577昭13.E/
④580昭14.A/④581昭14.A/
④585昭14.B/④586昭14.B/
④600昭15.A/④604昭15.B/
④605昭15.B/④607昭15.B/
④625昭16.A/④629昭16.B/
④630昭16.B/④631昭16.B/
④632昭16.B/④642昭17.A/
④656昭18.B/④778[昭19]/
Bergmann④344大11.A/
ベルゲル（Berger, H.）
③131明37.F/③132明38.B/
ベルジアエフ②121昭17.C/
ベルゼイ③32明21.D/
ベルツ④645昭17.B/
ベルトウロ③270昭8.B/
ベルトラム（ム）、ルイ
②12昭10.B/②105昭16.B/
②120昭17.B//④511昭10.B/
④599昭15.A/④629昭16.B/
④649昭17.D/④775[昭18]/
ベルドレット①164大2.B/
Bertaux③130明37.D/
ベルトロオ①346昭7.B/
Börner,W.④237大1.D/
ベルナール③242昭3.B/
ベルナル、アンリ④580昭14.A/
④655昭18.A/
ベルナール、クロード
④663昭18.F/
ベルナール、サラ④178明40.C/
ベルナヂネル②12昭10.B/
ベルレア、ベルジイ・ジュ
④97明26.C/
Börfler, J.③167明45.B/
ベルマン、チェー②224明 39.B/
ベルヴ（フ）ェ（Berve, H.）
①365昭8.C//②43昭11.C//
③231大14.C//④519昭10.E/
ベルンハイム（Bernheim, E.）
①358昭8.A/②20昭10.C//
③121明36.C//④347大11.C/
④422昭4.E/④459昭7.C/
④474昭8.C/④511昭10.C/
④523昭11.A/④537昭11.C/
④546昭12.A/④565昭13.A/
④581昭14.A/④609昭15.C/
④615昭15.C/④758[昭12]/
ベルンハルゲ④70明20.D/
Bernhart,J.④506昭10.B/
④584昭14.B/
ベルンハルト（Bernhardt,I.
②35昭11.B/②55昭12.B//
③262昭7.A/
Bereton,C.④505昭10.B/
ベレット、ゼ(ジ)ー・ジー
④158明38.B/④325大8.C/
ベレロフォン②242大7.B/
Baehrens,W.④612昭15.C/

ベロウ②146昭19.F/
ベロウ、ゲオルク・フォン
③321昭17.C/③324昭18.C//
④648昭17.C/④649昭17.C/
④771[昭17]/
Berossos④611昭15.C/
ベロッホ、カル(一)ル・ユリウス
(Beloch, K.J.)
①175大3.C/①319昭5.C/
①380昭9.C//②135昭18.C/
②238大3.C//③82明30.C/
③110明34.E/③133明38.C/
③249昭4.C/③254昭5.C//
④661昭18.C/
Berolzheimer, Fritz①233大11.E/
ベン(Benn, A.W.)②40昭11.B/
②236大2.B//③73明29.B/
③74明29.B/③166明45.B/
③190大4.B/
ベーン③30明21.B/
ベンゲル④667昭19.D/
ベン・ハー①290昭3.C/
①292昭3.C//④405昭3.C/
④445昭6.C/④737[昭5]/
④799[昭6]/
ベンサム(Bentham,J.)
②161明15.E/②164明16.E/
②284昭9.B//④621昭15.E
ベンジャミン、A.G.②146昭19.F/
Bensemann, W.③82明30.C/
勉トン④626昭16.A/
Bender,H.④402昭3.B/
ベンデル③71明29.A/
ベン子(ネ)ット(ベンネット、
エ・エ・)①76明28.B//
③27明20.B//④107明28.C/
ボアイエー(ぼあいえー)
④298大5.F
ぼあいえー→ ボアイエー
Boas, G.③215大10.B/
Boase,A.M.④507昭10.B/
ボアデイシーア(Boadicea)
④472昭8.C//④472昭8.C/
ボアソナード①31明14.E/
①32明14.E//②185明23.E/
②192明25.E//③42明23.E//
④33明10.E/④44明14.E/
④71明20.E/④85明23.E/
④121明31.G/④129明33.G/
④212明43.E/④672[明治]/
④689[明治]/
ボアロー③83明30.D/
ボイス④26[25007]/
Boissier,G.④612昭15.C/
ボイティウス(ボエティウス、
Boethius, A.)
①236大12.B/①375昭9.B//
②23昭10.C/②68昭13.B/
②96昭15.B/②235明45.F//
③248昭4.B//④311大7.A/
④365大14.B/④531昭11.B/
④666昭19.B/④779[昭20]/
Beutler, R.③302昭14.B/
Baümker③49明25.B/
ボイムケム→ ボエルケム
Bäumler, A.(ボイムラー、アルク
レート)
③267昭7.E//④514昭10.C/
ボイムレル②136昭18.D/
②141昭19.B/
ボイル①333昭6.C/
ボイルケム→ ボエルケム
ボウヘン(ボーエン、ボオエン)、
ミー・アル
②170明19.B//④55明17.B/
④119明31.B/④301大6.B/
ボウマン夫人④113明29.E/
ボーエン→ボウヘン
ボエティウス→ ボイティウス
ボエルケム(ボイルケム、ボイム
ケム)①118明38.A/
①315昭5.B//③125明37.A/
③230大14.B/
ボーエンシュタイン

④679昭21.D/
ボオエン→ ボウヘン
Boak, A.E.R.①318昭5.C/
ボオドレエル①270大15.D/
ボカクシオ → ボッカース
ボーカス④130明34.B/
④138明35.C/④187明41.C/
Bogas, A.K.③208大7.E/
ボカッチョ→ ボ(ッ)カース
ボガニフスキー、B.L.②61昭12.C/
Bogardus, E.S.②101昭15.E/
ボグイエー、ジャック
③201大5.F/
ボクスラウスキー④132明34.C/
ボグダノフ①270大15.D/
Bouglé,C.④568昭13.B/
Bokownew, P.③182大3.B/
ボザンケ(ト)(ボーザンケット、バーナード、Bousanquet, B.)②44昭11.D/
②144昭19.D//③52明25.D/
③93明32.B/③200大5.D/
③224大12.D//④464昭7.E/
ボーザンケット → ボザンケ(ト)
ボシカBosscha(暴思嘉)
①10[174]/①11[179]
ボシカシオ → ボ(ッ)カース
ボス、シャルル・デユ
④623昭15.G/
ボスウェー④348大11.D/
ボズウエル、ヂェームズ
④71明21.A/④769[昭16]/
ボスウォ(ー)ス④347大11.C/
④396昭2.D/
ボーダッハ、E.②12昭10.B/
ボチチュリ → ボ(ッ)テイチェリ
ボチチェルリ→ ボ(ッ)テイチェリ
ボッカシヲ → ボッカース
ボッカッチョ→ ボッカース
ボッカチオ → ボッカース
ボッカチヲ→ ボッカース
ボ(ッ)カ(ー)ス翁(ボッカチオ、ボッカシヲ、ボッカチヲ、ボカッチョ、ボッカッチョ、ボカクシオ、Boccacio、ジョバンニ)[デカメロン、七日物語]①57明23.D/
①77明28.D/①83明30.C/
①84明30.C/①260大14.D//
②171明19.D/②191明25.D/
②208明32.D/②230明42.F/
②232明44.B/②285昭9.D//
③19明15.D/③23明18.D/
③26明19.D/③28明20.D/
③37明22.D/③51明25.D/
③52明25.D/③63明27.D/
③68明28.D/③77明29.D/
③78明29.D/③84明30.D/
③89明31.D/③90明31.D/
③96明32.D/③109明34.D/
③112明35.B/③115明35.D/
③124明36.D/③148明41.D/
③152明42.D/③157明43.D/
③162明44.D/③187大3.D/
③194大4.D/③227大13.D/
③228大13.D/③236大15.D/
③237大15.D/③244昭3.D/
③266昭7.D/③322昭17.D/
③327明[不明]D/③328昭[不明]D//④48明15.D/
④60明18.D/④65明19.D/
④93明25.D/④104明27.D/
④108明28.D/④113明29.D/
④117明30.D/④125明32.D/
④134明34.D/④148明36.D/
④222明44.D/④231明45.B/
④318大7.D/④335大9.D/
④371大14.D/④383大15.D/
④384大15.D/④395昭2.D/
④397昭2.D/④402昭3.B/

④408昭3.D/④419昭4.D/
④434昭5.D/④445昭6.D/
④461昭7.D/④477昭8.D/
④495昭9.D/④688[明19]/
④714[大3]/④717[大5]/
④723[大12]/④735[昭4]/
④738[昭5]/
Box,G.H.④476昭8.C/
ホツグソン④372大14.E/
ボックル → バックル
ボゴスロフスキー④784[明29]/
Bosch-Gimpera, P.③249昭4.C/
③254昭5.C//④417昭4.C/
④431昭5.C/
Bossert, Hermut T.H.③240昭2.C/
ボッチェリ(一) → ボ(ッ)テイチェリ
ボッチチエリ(一) → ボ(ッ)テイチェリ
ボッチツエルリー → ボ(ッ)テイチェリ
ボッチテリー → ボ(ッ)テイチェリ
Bozold②258昭2.F/
ボップ、フランツ(Bopp,Frannz)
②211明33.D/②214明34.D/
ボツフォード(ボツフォールト、Bostford,G.W.)
①211大8.C/①317昭5.C/
①320昭5.C/①326昭6.A//
③121明36.C//④393昭2.C/
④418昭4.C/④445昭6.C/
④536昭11.C/
ボツフォールト→ ボツフォード
ボ(ッ)テイチェリ(ボッチツエルリー、ボッチテリー、ボッチチエリ(一)、ボチチェルリ、ボッチェリ(一))
①199大6.D//②244大8.D//
③135明38.D/③188大3.F/
③200大5.D/③214大10.B/
③231大14.D/③236大15.D/
③255昭5.D/③322昭17.D//
④297大5.D/④342大10.D/
④354大12.D/④445昭6.D/
④772[昭17]/
Borries,K.④614昭15.C/
ボーナー、ジェイムズ
①226大10.E/
ボナール、シルヴェストル(シルエシトル、シルヴエストル)
④199明42.D/④618昭15.D/
④722[大11]/
ボナヴェトウラ(聖)①328昭6.B/
ホーニックスハイム、パウル
②15昭10.B/
ボーニッツ(Bonitz,H.)
①313昭5.B/①316昭5.B//
④402昭3.B/
ボニファチオ八世④301大6.B/
Bohnenblust, G.③181大3.B/
ボハール氏④27[25020]/
ボフヲース④360大13.C/
ボーマン、エミール①317昭5.C/
①318昭5.C//②269昭6.C//
④599昭15.A/④646昭17.C/
④738[昭5]/
ボーマン、ヨゼフ④808[昭18]/
ぼりあと④212明43.F/
ボーリンググローク子
④536昭11.C/
Boll,F.④256大3.B/
Boll, Marcell①375昭9.B//
②258昭2.F/
Borgese,G.A.④576昭13.D/
ボルク③19明16.A/
Bork,F.④536昭11.C/④537昭11.C/
ボルケナウ、フランツ
②12昭10.B/②40昭11.B/
②41昭11.B//④504昭10.B/
④531昭11.B/
ポルシア → ボルジア

ボルジア(ポルシア)①40明19.C/
①61明24.C/
ボールドウィン、J.③141明40.A/
ボールドウイン④178明40.C/
④219明44.C/
ボー(ル)ドキン①141明42.B/
①144明42.D/
ボールド井ン③137明38.G/
Bornhak,C.④597昭14.E/
Bornnecque,H.④612昭15.C/
ボエー(Bovet, P.)③118明 36.B/
Boissier, G.③95明32.C/
ボーン博士①107明36.C/
ボンテンペリ、マッシモ
④403昭3.B/
Bonchier, E.S.①197大6.C/
Bonner②89昭14.E/
ボンナール、ピエール
③180大3.B/
ボンヌ①14明4.C/①18明8.C//
②153明4.C/
Bonnet,B.④492昭9.C/
Bonnenot,J.④417昭4.C/
ボンファンテ①369昭8.E/
Bonhöffer, A.③172大2.B/
Bonwetsh③172大2.B/
［C］カアペンタア、ボイド
(Carpenter,W.B.)
③208大7.D//④267大3.D/
カアレイヌス(迦阿禮奴須)
①6［41］/
カイアス帝②206明31.C/
カイザル→ シーサー
Cayré, P.F.②283昭9.B//
④487昭9.B/
カイレポン③243昭3.B/
Cauer②264昭5.A/②268昭6.A//
④425昭5.A/
Cauer③131明37.E/
カウシン、ヴ井クトル
③21明17.B//④55明17.B/
カエサル → シーサー
かえざる → シーサー
カクラン④72明21.B/
カサレス③104明33.D/
カーサル → シーサー
カザン、ポオル④551昭12.B/
カ(ッ)シアス(カシヤス、カスアス、カシュス)
②186明24.A/②187明24.B/
②195明26.C/②198明27.C/
②210明33.C//③11明10.C/
カシヤス → カ(ッ)シアス
カシュス → カ(ッ)シアス
カジ(ヂ)ョリ、フロリアン(Cajori, Florian)①206大7.F/
①219大9.F/①298昭3.F//
②139昭18.F/②267昭5.F//
③201大5.F//④287大5.B/
④320大7.F/④335大9.F/
④410昭3.F/④424昭4.F/
④664昭18.F/
カション、メル・ド④768[昭15]/
カーズ、ド・ラ④711[大1]/
カスアス → カ(ッ)シアス
Castelli③130明37.D/
カスチリオーネ④806[昭16]/
カストル, ア・サバチエール
④197明42.C/④688[明19]/
カスパリー①368昭8.E/
カセライン①66明25.D/
Cater,W.H.④505昭10.B/
Cadafalch,J.P.④417昭4.C/
カーチス、オーリン・エー
④312大7.B/
カチュール②165明17.C/
カチリ(ー)ン(彈劾、カテリーナ、Catilina)
②130昭18.B/②177明21.E/
②196明26.E//③8明9.C//
④502昭10.A/④524昭11.A/
④680昭22.B/
カックストン①293昭3.D//
④424昭4.F/

Cochrane, C.N.①318昭5.C/
①319昭5.C/
カッサンダー(カッサンドル、マケドニアの)
②208明32.C//④352大12.C/
カッサンドル→ カッサンダー
カッシウス③148明41.C/
カッシ(イ)ーラ(カッシラア、Cassierer, E.)
①272大15.F//②56昭12.B/
②71昭13.B//③275昭9.B//
④357大13.B/④460昭7.D/
④529昭11.B/④627昭16.B/
カッシラア → カッシ(イ)ーラ
Cassiodorus②19昭10.B//
③122明36.C/
Casson,S.③216大10.C//
④600昭15.A/④721[大10]/
Casson(考古)④582昭14.A/
カッバディアス氏①153明44.C/
Carré,J.R.④507昭10.B/
カデ、エル子スト③29明20.G/
カテリーナ→ カチリ(一)ン
カトー(大小､ケトー､ケートー、カ(一)トウ、Cato de Reeruitica,maijor)
①5[19]/
①43明20.C/①59明24.B/
①60明24.B/①63明25.B/
①64明25.B/①79明29.C/
①119明38.B/①138明41.B/
①138明41.C/①182大4.C/
①190大5.C/①239大12.C/
①354昭7.E//②130昭18.B/
②154明6.B/②159明13.E/
②168明18.E/②173明20.C/
②186明23.E/②186明24.A/
②188明24.C/②194明26.C/
②195明26.C/②217明36.B/
②234明45.B/②239大4.C//
③11明10.C/③18明14.F/
③25明19.B/③32明21.C/
③36明22.B/③36明22.C/
③37明22.D/③47明24.E/
③47明25.A/③50明25.C/
③52明25.E/③64明27.E/
③67明28.C/③72明29.B/
③95明32.C/③120明36.C/
③163明45.B/③196大5.B/
③214大10.B/③288昭12.A/
③304昭14.C//④35明11.D/
④50明16.B/④70明20.D/
④72明21.B/④92明25.C/
④94明26.B/④97明26.C/
④547昭12.A/④112明29.C/
④124明32.C/④151明37.B/
④161明38.B/④168明39.B/
④170明39.C/④171明39.C/
④177明40.B/④183明41.B/
④188明41.C/④192明42.B/
④226明45.B/④234明45.C/
④265大3.C/④311大7.A/
カ(一)トウ → カトー
Cartuff④236大1.C/
カミーユ・フラマソオン
④802[昭10]/
カトリック思想科學研究所
④535昭11.C/
Catlin, G.②101昭15.E/
カニンガム(Cunningham, W.)
①271大15.E/①342昭7.A/
①372昭9.A//③91明31.E/
③105明34.A//④646昭17.C/
④719[大9]/
カニンガム②121昭17.C/
カー子ギーホール④151明37.B/
カピロ、ヨゼフ④772[昭17]/
カープ,E.S.④353大12.C/
④357大13.B/
カーブ④285大5.A/④368大14.B/
Capelle, W.②19昭10.B//
④486昭9.B/
カーペンター①161大2.A/
カーペンター④102明27.C/

④108明28.C/
カーペンター、エストリン
①314昭5.B/①315昭5.B//
③187大3.D/
カミツラス①114明37.C/
カミュラス②153明5.A/
カメラー、ミス④161明38.C/
Carmody,F.J.④557昭12.C/
④578昭13.F/
カムビセス④333大9.C/
Collar④252大2.D/
カーライル、ト(ー)マス(Carlyle, 鬼臭先生)［英雄崇拝論］
①69明26.B/①82明30.B/
①199大6.D/①206大7.D/
①212大8.D/①241大12.D/
①271大15.E//②182明23.B/
②188明24.D/②206明31.C//
③88明31.C/③93明32.B/
③102明33.C/③103明33.C/
③123明36.D/③140明39.D/
③175大2.C/③216大10.D/
③220大11.D/③223大12.B/
③244昭3.D//④90明25.B/
④97明26.C/④102明27.C/
④116明30.C/④120明31.C/
④128明33.C/④134明34.D/
④140明35.D/④146明36.C/
④148明36.E/④153明37.C/
④162明38.C/④171明39.C/
④191明42.B/④237大1.D/
④495昭9.D/④530昭11.B/
④646昭17.C/④717[大6]/
Carlyle, A.J.①213大8.E/
Carlyle, A.T.③131明37.E/
Carlyle, R.W.①324昭5.E//
③125明36.E/
カラカラ帝②143昭19.C/
②206明31.C//③211大8.E//
④431昭5.C/
カリキュラ帝(カリギュラ(一)、カリグラ、駕里古剌、Calligula)
②210明33.C/②216明35.C/
②242大7.B//③5明7.E/
③15明12.E//④37明12.E/
④40明14.B/④136明35.B/
④158明38.B/④243大2.B/
④455昭7.B/
カリギュラ帝 → カリキュラ帝
カリグラ → カリキュラ帝
Callikles → Kallikles
カリスゼ子ス → カリスセンス
カリスセンス(カリスゼ子ス)
③78明29.F/③149明41.F/
カリステーニス④502昭10.A/
Calippus③235大15.C/
カリポス②247大11.C/
カリマコス(Callimachus)
①367昭8.D//③48明25.B//
④516昭10.D/
カール大帝②261昭4.A//
③246昭4.A//④354大12.D/
カール、オイレル④212明43.F/
Calkins, M.W.③219大11.B/
Carcopino, J.③254昭5.C/
③263昭7.A/
カルサーウィン、レオ
③234大15.B/
カルシュ、フリッツ④525昭11.B/
カールス④686昭23.D/
Caldwell,W.D.①185大3.E//
③192大4.C/
Carsow, M.(カルソ、マリオ)
②66昭12.E/④655昭18.A/
Cartésiamisume → デカルト
Cartellieri,A.④418昭4.C/
Caldelon, G.③168明45.D/
カルネアデス④400昭3.B/
④623昭15.F/
カルミデ(ー)ス(Charmides) → ハルミデース
カルピニ、リュブルック
④777[昭19]/

Carriere,M.④353大12.C/
カルリステ子ス(加利斯的尼)
②170明19.B/
カルロスフェルド②28昭10.E/
カルヴァン(派)(カルヴィン、ジョン)
①369昭8.E/①385昭9.E//
④445昭6.D/④634昭16.D/
④685昭23.C/④616昭15.D/
カルヴィン→ カルヴァン(派)
Careopino,J.④431昭5.C/
Callege③53明25.F/
Calette, A.②284 昭9.B/
Calogero③270昭8.B/
カロッサ(、カロッサ)
②68昭13.A//④594昭14.D/
カロリン女史④314大7.B/
④323大8.B/
カロロ④650昭17.D/
カヴァロッチ(カヴァレッチ)、フェリス)①87明31.C//
③90明31.D/
Canter,Haward Veron②99昭15.D//
④767[昭15]/
カンダダルサ④108明28.D/
カンドウ、サルバトル(Candau, S.)①315昭5.B/
①334昭6.C/①387昭9.E//
③278昭9.G//④439昭6.B/
④440昭6.B/④465昭8.A/
④528昭11.B/④588昭14.B/
④623昭15.G/④750[昭9]/
カントコール(Cantecor, G.)
③118明36.B/
カンパ子(ネ)ラ、(トマス)
③93明32.B/③130明37.E/
③153明42.E//④103明27.D/
④335大9.D/④412昭4.B/
④451昭7.B/
カンベル③87明31.B/
カンペーレ③80明30.B/
Campenhausen, H.②40昭11.B/
キウピッド → キューピッド
Cioli,L.④597昭14.E/
キケロ(一) → チチェーロ
Ciccotti①224大10.C/①300昭4.A/
キセロ → チチェーロ
キニーク學派 → キニック學派
キニコス → キニック學派
キニック學派(キニコス、セニック、ニック、サイニック(ス)、キニク、キュニコス學派、キニーク學派、犬儒派、Cynikers)[アンテ(シニック學派)]
①90明32.B/①96明34.B/
①111明37.B/①131明40.B/
①135明41.B/①136明41.B/
①137明41.B//②194明26.B/
②200明28.B//③127明37.B/
③149明42.B/③155明43.B/
③222大12.B//④97明26.C/
④106明28.B/④110明29.B/
④111明29.B/④119明31.B/
④127明33.B/④150明37.B/
④216明44.B/④273大4.B/
④549昭12.B/④631昭16.B/
④666昭19.B/
キモン(アテンスの、チモン、Cimon)
①83明30.C//④95明26.B/
④133明34.C/④340大10.C/
キャソス②186明24.A/
Cameron, A.③271昭8.C/
キャバネ①277昭2.C/
Capelle, Wilhelm②282昭9.B//
③271昭8.C/
Campell③85明30.E/
Carrington, R.C.③271昭8.C//
④472昭8.C/
キャロライン、バン・ペテン
④116明30.D/
キュニコス學派→ キニック學派

キューピッド(ク(ー)ピード、キュピト、キウピッド、クピッド、美童)
①229大11.B/①258大14.D//
②98昭15.D/②212明34.B/
②230明42.B//③238昭2.B/
③313昭16.B//④81明23.B/
④204明43.B/④766[昭15]/
キュピト → キューピッド
キュモン(Cumont, Franz)
③127明37.B/
キュモント④358大13.B/
Cyrillus Alexandrinus②19昭10.B/
キュルペ④344大11.B/
④454昭7.B/
キリスト(基督、契利斯督) → 耶蘇
キリストリープ → ク(キ)リストリ(ロ)ープ
キルパトリック④388昭2.A/
キレニー學派 → キレーネ學派
キレーネ學派(キレニー學派、シレニック學派、シレ子イク教、セレ子ーク學派、セレネーク、セレネーク派)
①90明32.B//②158明13.B//
③222大12.B//④106明28.B/
④110明29.B/④119明31.B/
④150明37.B/
Chilo Lacedaimonius①5[19]
キロス王①152明44.C//
④47明46.C/
キロン②177明21.E//③70明28.F//
④555昭12.C/
Cincius②230明42.F/
ク井ンチリアン(クインテリアン、ク井ンテリヤヌス)
④45明15.B//④364大14.B/
④427昭5.B/
クインテリアン→ ク井ンチリアン
ク井ンテリヤヌス→ ク井ンチリアン
クウチ、クヰラ①256大14.C/
クウルティウス → クルチウス
クーク③32明21.D/
クサーヌス、ニーコラース
④428昭5.B/
クーザン(Cousin, J.)②40昭11.B//
③87明31.B//④495昭9.D/
Cues, Nicolas v.②88昭14.D/
クタル②178明22.B/
Cook, A.B.②96昭15.B//
④276大4.B/
クック、ジョ[ウ]セフ④45明15.B/
④45明15.B/④48明15.E/
④50明16.A/
Cook, E.T.①138明41.B/
Cook, S.A.①291昭3.C/
①306昭4.C//②42昭11.C/
クック、トーマス・アイ
②66昭12.E/
Cooks, A.P.②59昭12.B/
Cushman④425昭5.A/
Cousin,D.R.④506昭10.B/
クテシアス③240昭2.C/
クーノー②102昭15.F/
ク(ー)ノー、ハインリッヒ(Cunow, H.)
①249大13.E/①384昭9.E//
②64昭12.E/②113昭16.E/
②239大4.B/
クーノー(クノー)、フ井シャー(フィッシャー)
④167明39.B/④246大2.B/
④274大4.B/
クーパー④349大11.E/
クーパー、シ・ゼ②159昭14.B/
クピード → キューピッド
クピッド(美童) → キューピッド
Cumont, F.③166明45.B/
③172大2.B/

Coolugde, M.L.③320昭17.B/
クー(ウ)ランジュ(クーランヂ、クーランジュ、クランジュ、Coulanges)、Fustel(フステル)de.［鈴木錠之助］①101明35.B/
①171大3.B/①213大8.E/
①230大11.C/①231大11.C/
①236大12.B/①240大12.C/
①247大13.C/①275昭2.B/
①276昭2.B/①354昭7.E/
①380昭9.C//②29昭10.E/
②57昭12.B/②89昭14.E/
②110昭16.C/②141昭19.B//
③290昭12.C//④205明43.B/
④206明43.B/④328大8.E/
④364大14.A/④391昭2.B/
④410昭3.E/④436昭5.E/
④448昭6.E/④551昭12.B/
④562昭12.E/④631昭16.B/
④713[大3]/
クラアチ②20昭10.C/
クライジウス → クラウデヤス帝
クライステネ(子)ース
③101明33.C/
Christ → 耶蘇
Christ,W.N.④619昭15.D/
Christ,W.v.④609昭15.C/
④615昭15.C/
クライヂウス → クラウデヤス帝
クライデホ→ クラウデヤス帝
Christ,W.V.④506昭10.B/
クライブ・デー③170明45.E/
クラウジアス → クラウデヤス帝
くらうぢうす → クラウデヤス帝
クラウヂ(ジ)ウス → クラウデヤス帝
Clausing, R.③236大15.C/
③310昭15.C/
クラウディオ→ クラウデヤス帝
クラウデヤス帝(クラウヂ(ジ)ウス、クラウジアス、クライジウス、クライヂウス、クラージュス、クラヲジウス、クライデホ、クラウディオ、クラオデア、くらうぢうす、Claudeus(Cladius) Kaiser)
①61明24.C/①291昭3.C//
②165明17.E/②194明26.B/
②246大10.B/②247大11.B//
③50明25.C/③56明26.C/
③205大7.B/③231大14.C/
③244昭3.C//④37明12.C/
④37明12.C/④75明21.E/
④95明26.B/④136明35.B/
④153明37.C/④220明44.C/
④283大4.E/④293大5.C/
④352大12.C/
クラオデア→ クラウデヤス帝
クラーク、エドワード
②246大10.D/
クラーク(Clarke)①186大4.A/
①202大7.A/①214大9.A/
①253大14.A/①264大15.A/
①285昭3.A/①300昭4.A/
①312昭5.A//④284大5.A/
④387昭2.A/
クラーク、ジェムズ(ゼームズ)・フリーマン
②165明17.B//③7明9.B/
Clark,M.④138明35.C/
クラーク①331昭6.C/
クラーク②159昭14.D/
クラクテル②99昭15.D/
クラシウス②156明8.D/
クラージュス(帝) → クラウデヤス帝

クラスソン②161明15.E/
クラチロス(Cratyrus)→ クラチュロス(Kratyrus)
クラックス③53明25.F/
クラ(ッ)セ、ジアン(ジャン)
③13明11.D//④33明11.A/
④38明13.A/④240大2.A/
④335大10.A/④363大14.A/
Classen, Walther②266昭5.C/
クラデオス③297昭13.D/
クラテシクレア①40明19.C/
クラテース④111明29.B/
クラテノ(ヌ)ス③72明29.B//
④112明29.D/
クラデル③213大9.D/
Craford, D.②99昭15.D/
クラマース④673[安政]/
クラヲジウス→ クラウデヤス帝
クランジュ→ クー(ウ)ランジュ
クーランジュ → クー(ウ)ランジュ
クーランヂ → クー(ウ)ランジュ
クーリー①83明30.C/
クリアンテス→ クレアンテス
クリオパトラ → クレオパトラ
クリオペイトラ→ クレオパトラ
クリオメネース④809[19-]/
クリーシー(クリシイ、グリイセイ?、孔理齎)
①60明24.C//③45明24.C//
④55明17.C/④82明23.C/
クリシイ→ クリーシー
クリシアス→ クリチアス
Crisius, O.③113明35.B/
クリシス(妖婦)④354大12.D/
クリシッパス(クリシッポス、クリシップス、Chrysippus Chrisippe)
①5[19]//③91明31.E/ ③97明32.D/③295昭13.B//
④159明38.B/④367大14.B/
④567昭13.B/
クリシップス→ クリシッパス
クリシッポス → クリシッパス
Chrysippus → クリシッパス
Chrysostoms,Dion④538昭11.D/
④555昭12.C/
クリスゼニス②177明21.E/
クリスチナ(女奴隷)④369大14.C/
クリステネ(子)ス③133明38.C/
③211大8.E//④161明38.C/
④162明38.C/
クリスト → 耶蘇
クリストナス④513昭10.C/
くりすとりーぷ → ク(キ)リストリ(ロ)ープ
ク(キ)リストリ(ロ)ープ(くりすとりーぷ)①68明26.B/
①73明27.B/①76明28.B/
①78明29.B//③54明26.B/
③63明27.D/③66明28.B/
③72明29.B//④46明46.C/
④100明27.B/④104明27.D/
④105明28.B/④106明28.B/
④107明28.B/④130明34.B/
④303大6.B/
クリセイデ④807[昭17]/
④808[昭18]/
クリセル神父④589昭14.C/
クリソストム④292大5.C/
クリタス(マケドニア)
④178明40.C/
クリタス? → クリトー(ン)
クリチアス(クリシアス、Critias, Kritias)
①104明36.B/①110明37.B/
①124明39.B/①244大13.B//
④51明16.B/④148明36.E/
④428昭5.B/
クリチムネストラ[クリタイムネストラ?]④627昭16.B/
クーリッシャー④479昭8.E/

④499昭9.E/
クリト → クリトー(ン)
クリトー(ン)(クリト、クリタス?Crito, Kriton,Κριτον)
①93明33.B/①104明36.B/
①124明39.B/①150明44.A/
①221大10.A/①221大10.B/
①222大10.B/①243大13.B/
①253大14.B/①315昭5.B/
①357昭8.A//②108昭16.B/
②215明35.B/②273昭7.B/
②283昭9.B//③81明30.B/
③93明32.B/③127明37.B/
③159明44.A/③247昭4.A/
③252昭5.A/③268昭8.A//
④213明44.A/④311大7.A/
④401昭3.B/④411昭4.A/
④427昭5.B/④454昭7.B/
④466昭8.A/④487昭9.B/
④552昭12.B/④581昭14.A/
④626昭16.B/④627昭16.B/
④730[昭2]/
クリトス④502昭10.A/
クリトプロ④403昭3.B/
クリッフォルド、ジョン
④232明45.B/
クリフォードッフォルド、ポール
④37明12.D/④88明24.D/
Chrimes③276昭9.C//④492昭9.C/
クリヲハトラ → クレオパトラ
クリンストム④69明20.C/
クリンセス②72昭13.B/
クルウ、ヘンリ④500昭9.F/
クルチアス → クルチウス
クルチウス(クルチュス、クルチアス、クウルティウス、Curtius)、エルン(子)スト①71明26.C/
①74明27.C/①79明29.C/
①91明32.C//②113昭16.D/
②232明44.C//③75明29.C/
③322昭17.D//④462昭7.D/
④478昭8.D/④700[明34]/
Curtius, L.③217大10.D//
④595昭14.D/
クルチュス → クルチウス
クルチェ③263昭7.B/
Coulton, G.G.①364昭8.C//
②96昭15.B/
Coutbaud,E.④612昭15.C/
Clair, St.③123明36.C/
クレアンツス→ クレアンテス
クレアンテス(クリアンテス、クレアンツス)
③129明37.D//④51明16.B/
④127明33.B/④340大10.C/
④432昭5.C/
Clay②22昭10.C//④515昭10.C/
Cramer,W.③302昭14.B/
クレオストラトス②247大11.C/
クレオデス③242昭2.F/
Cleopatora → Kleopatora
クレオパ(ー)トラ(クレヲパトラ、クレヲパツラ、クレオペ(ー)トラ、 クレオパトル、クリオパトラ、クリヲハトラ、クリオペイトラ、リ[ク?]レオパトラ、久麗王葩都羅、Cleopatora、Kleopatora)
①18明8.C/①43明20.C/
①47明21.C/①48明21.C/
①55明23.B/①106明36.C/
①107明36.C/①138明41.C/
①143明42.C/①153明44.C/
①165大2.C/①174大3.C/
①175大3.C/①182大4.C/
①183大4.C/①190大5.C/
①197大6.C/①203大7.C/
①204大7.C/①210大8.C/
①216大9.C/①223大10.C/
①240大12.C/①246大13.C/
①257大14.C/①291昭3.C/

①293昭3.C/①332昭6.C/
①333昭6.C/①347昭7.C/
①348昭7.C/①363昭8.C/
①378昭9.C//②21昭10.C/
②22昭10.C/②41昭11.C/
②59昭12.C/②72昭13.C/
②73昭13.C/②84昭14.C/
②97昭15.C/②108昭16.C/
②109昭16.C/②123昭17.C/
②144昭19.D/②155明7.C/
②181明22.D/②183明23.C/
②190明25.C/②201明28.E/
②202明29.C/②208明32.C/
②218明36.C/②241大6.B/
②242大7.C/②243大8.B//
③44明24.B/③56明26.C/
③75明29.C/③79明30.A/
③89明31.C/③90明31.D/
③116明35.F/③128明37.C/
③131明38.B/③139明39.C/
③139明39.C/③143明40.C/
③154明43.A/③156明 43.C/
③160明44.B/③162明 44.D/
③176大2.C/③184大3.C/
③185大3.C/③192大4.C/
③193大4.C/③199大5.C/
③203大6.C/③206大7.C/
③210大8.C/③215大10.C/
③223大12.C/③230大14.C/
③244昭3.C/③248昭4.C/
③249昭4.C/③255昭5.C/
③260昭6.C/③276昭9.C/
③321昭17.C//④34明11.C/
④60明19.D/④76明21.B/
④79明22.F/④80明23.B/
④95明26.B/④102明27.C/
④133明34.C/④137明35.B/
④139明35.C/④145明36.C/
④146明36.C/④153明37.C/
④158明38.B/④170明39.C/
④178明40.C/④197明42.C/
④226明45.B/④248大2.C/
④263大3.C/④264大3.C/
④265大3.C/④266大3.C/
④278大4.C/④279大4.C/
④280大4.C/④293大5.C/
④294大5.C/④306大6.C/
④307大6.C/④325大8.C/
④326大8.C/④333大9.C/
④334大9.C/④361大13.C/
④366大14.B/④392昭2.C/
④405昭3.C/④406昭3.C/
④408昭3.D/④416昭4.C/
④417昭4.C/④432昭5.C/
④472昭8.C/④476昭8.C/
④491昭9.C/④502昭10.A/
④512昭10.C/④519昭10.E/
④536昭11.C/④541昭11.D/
④554昭12.C/④571昭13.C/
④714[大3]/④721[大10]/
④752[昭10]/④769[昭16]/
④791[大3]/④792[大6]/
④792[大7]/④795[大15]/
クレオパトル → クレオパ(ー)トラ
Cleobulus Lidius①5［19］
クレオペ(ー)トラ → クレオパ(ー)トラ
クレオメー(スパルタ王)
②198明27.C/
クレオメネース④810[19-]/
クレオン①62明24.E//
④210明43.C/
クレサンス(詩人)④72明21.B/
クレシダ④796[昭2]/④801[昭9]/
Cresson, A.③280昭10.B//
④586昭14.B/
くれっぺ①39明19.B/
①42明20.B//
クレッペル①50明22.B//
③26明19.B/
クレテイ④72明21.B/
クレトランブル、エッチ

④126明32.G/
Croebe,P.④418昭4.C/
Chrétienne④249大2.C/
クレーマン、エー②237大3.B/
クレーマ、エル・アール
④90明25.B/
Clemen, C.③168明45.D/
③176大2.C//④237大1.D/
クレメンス(スパルタ王)
②210明33.C/
クレメンス(アレキサンド(デ)リア、アレキサンデラ[亞歷山得亞、亞歷山德利亞]、亞歷山府の、クレメント、クレメンテ、格勒綿亞歷山德弧、アレキサンドリヌス、Clemens Alexandrinus、ローマの)
①156明45.B/①195大6.B//
②17昭10.B/②162明16.B/
②173明20.B/②176明21.B//
③80明30.B/③81明30.B/
③215大10.B//④56明17.C/
④72明21.B/④87明24.B/
④88明24.C/④90明25.B/
④91明25.B/④140明35.D/
④168明39.B/④193明42.B/
④209大43.C/④214明44.B/
④217明44.B/④231明45.B/
④262大3.B/④276大4.B/
④316大7.B/④346大11.B/
④352大12/B/④368大14.B/
④376大15.B/④419昭4.D/
④444昭6.C/④453昭7.B/
④456昭7.B/④529昭11.B/
④605昭15.B/④658昭18.B/
クレメンテ(アレキサンデラの)
→ クレメンス
クレメント(アレキサンデラの)
→ クレメンス
クレラ、アルフレッド
④527昭11.B/
クレヲグラス③70明28.F/
クレヲパガス②177明21.E/
クレヲパツラ → クレオパトラ
クレヲパトラ → クレオパトラ
クロアゼ → クロワセエ
クロイソス(王)④171明39.C/
クロウチエ→ クロー(オ)チェ
クロウヂウス④146明36.C/
クロエ(一)(クロオイ)
①253大14.B/①258大14.D//
③180大3.B/③189大4.B//
④358大13.B/④685昭23.D/
クロオイ → クロエ
クロオチェ→ クロー(オ)チェ
クロオテ大帝④392昭2.C/
クロシュース②157明10.C/
クロジュウス②163明16.C/
Clausing, Roth②98昭15.C//
④381大15.C/
クロース、B. → クロー(オ)チェ
Crossman, R.H.S.②76昭13.E/
クローセ、B.④286大5.B/
クローヂアン④627昭16.B/
クローヂュス(グローデオス)
②192明25.E//③154明43.B/
クロチュロス → クラチュロス
クロー(オ)チェ(クロッチェ、クロウチエ、クロオチェ、クローツェ、クロース、Croce)、ベネディ(ッ)ト(一)(Benedetto.)
①218大9.D/
①241大12.D/①249大13.D/
①259大14.D/①268大15.C/
①270大15.D/①286昭3.B/
①295昭3.D/①296昭3.D/
①308昭4.D/①321昭5.D//
②23昭10.D/②85昭14.C/
②239大4.B/②254大15.C//
③204大6.D/③216大10.C/

③236大15.C/③304昭14.C/
③309昭15.C//④198明42.C/
④264大3.D/④362大13.D/
④375大15.A/④394昭2.C/
④455昭7.B/④473昭8.C/
④474昭8.C/④515昭10.D/
④534昭11.C/④556昭12.C/
④573昭13.C/④591昭14.C/
④609昭15.C/④613昭15.C/
④614昭15.C/④616昭15.C/
④617昭15.D/④648昭17.C/
④651昭17.D/④736[昭4]/
④742[昭7]/④767[昭15]/
④772[昭17]/④805[昭15]/
④807[昭17]/
Cloché, P.②61昭12.C/
クロッチェ → クロー(オ)チェ
クローツェ→ クロー(オ)チェ
グローデオス → クローヂュス
クロード(Claude, Humber)
②247大11.A/②251大14.A/
②268昭6.A/
クロフォード④437昭6.A/
クロムウェル(格朗空)
④84明23.C/
クローラス④280大4.C/
クロワゼ→ クロワセエ
クロワセエ(クロアゼ、アルフレッド、Croiset,A.)
①307昭4.D//③105明34.A/
③223大12.B/③234大15.B//
④609昭15.C/④611昭15.C/
Croisset(A.et M.)③130明37.D//
④609昭15.C/④615昭15.C/
クロワゼ、ポール④379大15.C/
ケー、ダビッド④109明29.B./
Cadafalch, J.P.③249昭4.C/
Cady,C.M.④133明34.D/
Cary,L.E. ④612昭15.C/
Cary, M.②61昭12.C//
④612昭15.C/
Carus,P.④256大3.B/④281大4.D/
Cuntz,O.④611昭15.C/
ケーザー → シーサー
ケーザア → シーサー
ケーザル → シーサー
ケイアス①55明23.B/
ケイザアル → シーサー
Case, S.J.(ケイス)①247大13.C//
③185大3.C/③190大4.B//
④236大1.C/④443昭6.C/
④445昭6.C/④500昭9.E/
ケシアス④48明15.C/
ケトー → カトー
ケート(一) → カトー
ケート、アイ・ダブリュ
④158明38.B/
ケートメージョル②156明8.D/
ケネー、フランソワ②261昭3.E/
ケーネス④104明28.A/
ケヤード、エドワァド(エドワード)
①97明34.B/①244大13.B//
③106明34.B/③117明36.B/
③132明38.B/③151明42.B//
④159明38.B/
Celsus②90昭14.F/
ケレース(女神)②242大7.B/
ケンタウルス(Centaurus)
②132昭18.B//③177大2.D/
ケンブリッヂ大學③32明21.D/
Cambridge Platonists
②120昭17.B//③239昭2.B/
③240昭2.B/
コー③20明16.C/
コー、ウイリアム・ル④284大5.A/
コア、チャールズ②95昭15.B/
コアニャール①238大12.B/
コイン、ダブリュー・ピー
③60明27.B/
Cowell, E.C.②112昭16.D/
コウネリユウス③188大3.F/
コーエ(へ)ン(コヘン、Cohen)、ヘルマン

①187大4.B/
①189大4.B/①203大7.B/
①229大11.B/①255大14.B/
①261大14.E/①266大15.B/
①276昭2.B/①288昭3.B/
①289昭3.B/①295昭3.D/
①298昭3.F/①314昭5.B//
②262昭4.B//③172大2.B/
③174大2.B/③206大7.B/
③248昭4.B//④338大10.B/
④366大14.B/④390昭2.B/
Cohen, Robert①278昭2.C//
③236大15.C/③291昭12.C/
Cohen,P.V.④276大4.B/
Coker,F.W.④621昭15.E/
コークラン、アリス③185大3.D/
③327明［不明］B/
④255大3.B/
コクトオ、ジャン①275昭2.B/
Cochrane, C.N.②96昭15.B//
③255昭5.C//④611昭15.C/
コサンド④117明30.E/
コーサンド、ジョーセフ
④241大2.B/
コシャーカー②89昭14.E/
Costas, P.S.②87昭14.D/
コーツ、アグネス④126明32.G/
Cox, C.W.M.③271昭8.C/
Cox.G.W.④700[明34]/
コックス④73明21.C/
コックッス、シー・エフ
④210明43.D/
コッサ④435昭5.E/
コッサ、ピエトロ④713[大3]/
コット（Cottes）①150明44.A/
①155明45.A/①186大4.A/
①194大6.A//②233明45.A/
②240大5.A/②241大6.A//
④201明43.A/④213明44.A/
④271大4.A/④299大6.A/
④311大7.A/
コットリープ②158明11.F/
コー子リヤ → コルネ(子)リア
Conon②239大4.C/
Coffey,P.④256大3.B/
Coffmann, G.R.①383昭9.D/
コーヘレス④405昭3.C/
コペルニクス（Copernicus,
Coppernichus,Nicholaus）
②129昭17.F/②264昭4.F//
③188大3.F//④449昭6.F/
④464昭7.F/④495昭9.D/
④521昭10.F/④640昭16.F/
④669昭19.F/④753[昭10]/
④808[昭18]/
コヘン→ コーエ(へ)ン
コムペーレ(ル)、ガーブライエル
①42明20.B/①63明25.B//
④90明25.B/
コムモン、トーマス
③119明 36.B/
コモジュス(帝)(コモドウス)
③9明9.E//④523昭11.A/
コモドウス→ コモジュス(帝)
Collart③263昭7.A/
Coralnik,A.④256大3.B/
Corrance,H.C.④256大3.B/
コリオラニウス(コリオラヌス、
コリヲラナス、コリヲラニュス)②153明4.C/
②157明10.C/②181明22.D//
③96明32.C/
コリオラヌス → コリオラニウス
コーリヂス④552昭12.B/
コリニヨン②113昭16.D//
④735[昭4]/
Collinet, Paul③116明35.E//
③249昭4.C//④417昭4.C/
コリャード、ディエーゴ①5［26］/
コリヲラナス → コリオラニウス
コリヲラニュス → コリオラニ

ウス
コリングウッド①306昭4.C//
④735[昭4]/
Collingwood, K.G.②77昭13.E/
Collins, Ch.③124明36.D/
コリンズ④59明19.C/
コリンズ、ウィリアム
①249大13.D/
コリンズ、ウィ(ヰ)ルキイ
①38明18.C/
コル、グスターフ④375大15.A/
Cole,R.P.④287大5.B/
コルス④341大10.C/
Colson, F.H.②282昭9.B//
④484昭9.B/④486昭9.B/
④609昭15.C/
コルディヒ(エ)、アンリ
②141昭19.A//④664昭19.A/
コルト、マルセル・ド(Corte, M.de)②13昭10.B/
②38昭11.B/②283昭9.B//
③281昭10.B//④487昭9.B/
コルニュ④509昭10.B/
コル子リー → コルネ(子)リア
コルネリアス(コルネリオ、Colnelius［Nepos］、孤嶺鳴禮那斯)
①221大10.A/①236大12.A//
④235明45.C/
コルネ(子)リア(ヤ)(コル子リー、高寧理亞)
②200明28.B/②202明29.C/
②213明34.C//③113明35.C/
③192大4.C//④145明36.C/
④29明6.C/④235明45.C/
コルネリオ→ コルネリアス
Cornelius, F.①380昭9.C/
Colson, F.H.②17昭10.B/
Cornish, F.W.③98明32.G/
コルヴィン、サー④319大7.D/
Corbett, B.E.①339昭6.E/
コリリール(科利耳、Collier)
④27明2.B/
Collinwood,R.G. ④436昭5.E/
Colwell,E.C.④636昭16.D/
コールリッヂ→ コレリジ
コルレット、エス④225明45.B/
コルンフォード､アクドーナルド(コーンフォード､Cornford, F.M.)
②17昭10.B/②84昭14.B/
②282昭9.B//③172大2.B/
③281昭10.B/③295昭13.B//
④231明45.B/④486昭9.B/
④508昭10.B/④567昭13.B/
④611昭15.C/
コレリジ(コールリッヂ、湖、Colerige, S.T.)
②120昭17.B/②213明34.B//
④442昭6.B/④743[昭7]/
Colerus,E.④578昭13.F/
コレッヂオ③236大15.D/
コレル[宣教師]④711[明45]/
コロ子ルインガルサム
④72明21.B/
コローニス③263昭7.B/
コロンタイ、アレキサンドラ
③230大14.C/
コロ(ン)ブス①107明36.C//
③121明36.C//④92明25.C/
コーン③123明36.D/
Cohn, Jonas②247大11.A//
④343大11.A/④344大11.A/
コンコルド④261大3.B/
コンスタンタイン → コンスタン(チン)帝
コンスタチニデイ(希臘代理公使)④345大11.B/
コンスタンチウス→ コンスタン(チン)帝
コンスタンチヌス → コンスタン(チン)帝
コンスタンチ(一)ノ → コンスタン(チン)帝

コンスタンチュス帝→ コンスタン(チン)帝
こんすたんちん → コンスタン(チン)帝
コンスタン(チン)帝(コンスタンチヌス、コンスタンティウス、コンスタンタイン、コンスタンチ(ー)ノ、コンスタンテン、コンスタンチュス、コンスタンッチン、コンスタンティヌス、コンスタンチウス、こんすたんちん、こんすたんち~ んぬ、君士丹丁、孔士丹顚、孔士丹、當定、公斯當丁、Constantinus、Konstantin,Constantine the Great)
①24明10.C/①58明23.E/
①61明24.C/①93明33.B/
①97明34.C/①100明35.B/
①127明39.C/①150明44.A/
①191大5.C/①288昭3.B/
①318昭5.C/①332昭6.C//
②60昭12.C/②109昭16.C/
②155明7.C/②191明25.C/
②194明26.B/②197明27.B/
②200明28.C/②203明29.E/
②206明31.C/②208明32.C/
②209明32.E/②230明42.C/
②241大6.C/②260昭3.C//
③3[17499,17500]/
③44明24.B/③45明24.C/
③56明26.C/③89明31.C/
③102明33.C/③107明34.C/
③111明35.B/③117明36.B/
③121明36.C/③139明39.C/
③141明40.B/③150明42.B/
③151明42.C/③154明43.B/
③155明43.B/③156明43.C/
③161明44.C/③227大13.D/
③235大15.C/③249昭4.C//
④25[24978]/④32明10.C/
④41明14.B/④42明14.C/
④45明15.B/④47明15.C/
④55明17.C/④69明20.C/
④74明21.D/④75明21.A/
④76明21.B/④83明23.C/
④88明24.C/④102明27.C/
④115明30.B.④116明30.C/
④122明32.B/④123明32.B/
④124明32.B/④125明32.E/
④149明37.A/④152明37.B/
④179明40.C/④183明41.B/
④186明41.B/④187明41.C/
④207明43.B/④208明43.C/
④228明45.B/④234明45.C/
④235明45.C/④237明45.D/
④243大2.B/④249大2.C/
④250大2.D/④265大3.C/
④268大3.E/④280大4.C/
④293大5.C/④298大5.E/
④300大6.B/④301大6.B/
④303大6.B/④304大6.B/
④307大6.D/④311大7.A/
④312大7.B/④314大7.B/
④318大7.D/④323大8.B/
④339大10.B/④347大11.C/
④351大12.B/④352大12.B/
④355大12.E/④362大13.E/
④369大14.C/④373大14.E/
④379大15.C/④389昭2.B/
④392昭2.C/④399昭2.F/
④419昭4.D/④423昭4.E/
④443昭6.C/④455昭7.B/
④469昭8.B/④490昭9.B/
④533昭11.C/④542昭11.E/
④554昭12.C/④563昭12.E/
④570昭13.B/④616昭15.C/
④647昭17.C/④660昭18.C/
④661昭18.C/
Constans, L.A.②38昭11.B/

こんすたんち~んぬ → コンスタン(チン)帝
コンスタンティ・フロリイ(父)④42明14.C/
コンスタンティウス → コンスタン(チン)帝
コンスタンティヌス→ コンスタン(チン)帝
コンスタンッチン→ コンスタン(チン)帝
コンスタンテン帝 → コンスタン(チン)帝
コンチウス③125明36.E/
コンヌビイ、カステイ④443昭6.C/
コンバリウ、ジュコール④646昭17.D/
コーンフォード→ コルンフォード
Cornford, F.M. → コルンフォード
Combès, G.②284昭9.B//④487昭9.B/
コント④143明36.B/
コンモ(ダ)デス帝(Commodius)④37明12.E/④73明21.B/④136明35.B/
Conrat③131明37.E/
サイニック(ス)派 → キニック學派
サイプシーラス④197明42.C/
サイブル④493昭9.C/
シーサー(セサ(ザ)ル、カーサル、カエサル、ケイザアル、シイサア、シイ(井)ザル、シーザ(一)、シーザ(一)ル、シーサ(ザ)ル、ケーザア、ケーザー、ケーザル、シイザー、しーざる、しーざあ、しいざー、セーサル、シーザア、シイザア、獅イザル、ツエーサル、セーザー、セーザル、シザル、セザール、カイザル、シーザル、かえざる、志一ざる、輕座阿留、加撒爾、該撒、垓撒、細柴而、塞撒、沙撒、斯西、獅威挫、獅威羔、志撒兒、Caesar/ジュラス、ヂュリアス、ジュリアス、ジュルアス、ヒュリエス、ゆりあす、じゅりあす、シリウス、志ゆりあ、孺犁亞蘇、儒流、荸由利由私、入略、權利歐司、Caesar、Cäsar、Cêsar、Càsar、シーザリズム)[ガリア戦記、De Bello Gallico]①5[18]/①6[41]/①9[142]/①12[229]/①17明7.C/①21明9.C/①23明10.C/①24明10.C/①30明13.C/①33明15.C/①34明16.C/①36明17.C/①47明21.C/①48明21.C/①51明22.B/①52明22.C/①54明23.B/①56明23.C/①58明23.E/①60明24.C/①61明24.C/①64明25.B/①65明25.C/①70明26.C/①76明28.C/①83明30.C/①86明31.B/①87明31.C/①90明32.C/①91明32.C/①94明33.C/①97明34.C/①98明34.C/①98明34.D/①100明35.B/①101明35.C/①102明35.C/①106明36.C/①107明36.C/①114明37.C/①138明41.C/①143明42.C/①152明44.C/①156明45.B/①158明45.C/①165大2.C/①166大2.D/①174大3.C/①175大3.C/

①177大3.E/①183大4.C/
①190大5.C/①196大6.C/
①197大6.C/①203大7.C/
①204大7.C/①211大8.C/
①214大9.A/①216大9.C/
①217大9.C/①223大10.C/
①230大11.C/①239大12.C/
①257大14.C/①268大15.C/
①280昭2.D/①285昭3.A/
①290昭3.C/①299昭4.A/
①300昭4.A/①313昭5.A/
①318昭5.C/①332昭6.C/
①333昭6.C/①347昭7.C/
①348昭7.C/①349昭7.C/
①354昭7.E/①363昭8.C/
①364昭8.C/①365昭8.C/
①372昭9.A/①373昭9.A/
①378昭9.C//②20昭10.C/
②23昭10.C/②28昭10.E/
②59昭12.C/②72昭13.C/
②73昭13.C/②108昭16.C/
②121昭17.C/②122昭17.C/
②123昭17.C/②135昭18.C/
②137昭18.E/②151［14523］/
②152明1.C/②154明6.C/
②156明8.D/②156明8.F/
②159明13.C/②159明14.E/
②161明15.E/②162明16.B/
②163明16.C/②163明16.E/
②164明16.E/②165明17.C/
②166明18.A/②167明18.B/
②167明18.C/②167明18.D/
②169明19.B/②170明19.C/
②171明19.C/②173明20.C/
②174明20.C/②175明21.A/
②176明21.C/②177明21.E/
②179明22.B/②179明22.C/
②180明22.D/②181明22.D/
②181明22.F/②182明23.B/
②183明23.C/②184明23.C/
②187明24.B/②187明24.C/
②188明24.C/②189明24.E/
②190明25.B/②190明25.C/
②191明25.C/②192明25.E/
②194明26.B/②194明26.C/
②195明26.C/②196明26.E/
②198明27.C/②200明28.C/
②201明28.D/②201明28.E/
②204明30.C/②205明31.A/
②206明31.C/②209明32.E/
②210明33.B/②210明33.C/
②212明34.A/②213明34.C/
②215明35.B/②215明35.C/
②216明35.D/②218明36.C/
②220明37.C/②222明38.C/
②223明38.D/②224明39.A/
②225明39.C/②230明42.F/
②234明45.B/②237大3.B/
②241大6.C/②255大15.C/
②262昭4.B/②262昭4.C/
②263昭4.E/②265昭5.B/
②269昭6.C//③3明5.B/
③6明8.C/③7明8.F/
③8明9.C/③11明10.C/
③13明11.C/③14明11.E/
③15明12.E/③16明13.C/
③17明14.C/③18明14.E/
③19明15.C/③19明15.E/
③20明16.C/③22明17.C/
③23明18.B/③25明19.B/
③26明19.C/③30明21.B/
③31明21.C/③34明22.A/
③35明22.C/③36明22.C/
③38明22.E/③39明22.F/
③41明23.C/③44明24.B/
③46明24.C/③47明24.E/
③49明25.B/③50明25.C/
③51明25.D/③53明25.E/
③54明26.B/③56明26.C/
③59明26.E/③61明27.C/
③62明27.D/③68明28.D/
③72明29.B/③74明29.C/
③76明29.D/③78明29.E/
③79明29.F/③80明30.B/

③82明30.C/③83明30.C/
③83明30.D/③87明31.B/
③88明31.B/③88明31.C/
③94明32.C/③95明32.C/
③96明32.D/③97明32.E/
③98明33.A/③101明33.C/
③102明33.C/③107明34.C/
③108明34.C/③110明34.E/
③113明35.C/③116明35.E/
③119明36.C/③120明36.C/
③122明36.C/③128明37.C/
③129明37.C/③129明37.D/
③133明38.C/③136明38.E/
③138明39.B/③139明39.C/
③143明40.C/③148明41.C/
③150明42.B/③151明42.C/
③154明43.A/③155明43.B/
③160明44.B/③163明45.B/
③175大2.C/③176大2.C/
③184大3.C/③185大3.C/
③189大4.B/③193大4.C/
③197大5.C/③198大5.C/
③199大5.C/③200大5.F/
③209大8.B/③215大10.C/
③218大11.B/③219大11.C/
③223大12.C/③227大13.C/
③239昭2.B/③242昭2.F/
③242昭3.B/③244昭3.C/
③258昭6.C/③268昭8.A/
③269昭8.A/③273昭9.A/
③278昭10.A/③281昭10.C/
③284昭11.A/③296昭13.C/
③304昭14.C/③309昭15.C/
③321昭17.C//④23[24942]/
④26[25004]/④30明7.B/
④32明10.A/④32明10.B/
④32明10.C/④33明10.C/
④34明11.C/④35明11.E/
④36明12.B/④42明14.C/
④43明14.C/④45明15.A/
④45明16.B/④47明15.C/
④48明15.C/④48明15.E/
④49明15.E/④50明16.B/
④51明16.B/④52明16.C/
④53明16.C/④54明16.E/
④57明17.E/④59明19.B/
④60明19.D/④61明18.E/
④65明19.D/④67明20.B/
④68明20.B/④68明20.C/
④69明20.C/④71明21.A/
④75明21.E/④76明21.B/
④78明22.C/④81明23.B/
④82明23.B/④83明23.C/
④84明23.C/④87明24.B/
④88明24.C/④91明25.B/
④92明25.C/④93明25.E/
④94明26.A/④94明26.B/
④97明26.C/④102明27.C/
④103明27.C/④104明27.E/
④110明29.B/④111明29.B/
④115明30.B/④119明31.B/
④120明31.C/④122明32.B/
④123明32.B/④124明32.C/
④125明32.E/④129明33.E/
④136明35.B/④137明35.B/
④138明35.C/④139明35.C/
④145明36.C/④146明36.C/
④148明36.E/④151明37.B/
④152明37.B/④153明37.C/
④154明37.C/④159明38.B/
④161明38.B/④162明38.C/
④164明38.D/④170明39.B/
④170明39.C/④173明39.F/
④173明39.G/④176明40.B/
④177明40.B/④178明40.C/
④179明40.C/④182明40.F/
④195明42.B/④198明42.C/
④202明43.A/④207明43.B/
④210明43.C/④211明43.D/
④212明43.F/④215明44.b/
④218明44.B/④219明44.C/
④228明45.B/④232明45.B/
④233明45.C/④234明45.C/
④235明45.C/④241大2.B/

④244大2.B/④248大2.C/
④249大2.C/④250大2.C/
④257大3.B/④262大3.B/
④263大3.C/④269大3.F/
④278大4.C/④279大4.C/
④280大4.C/④282大4.D/
④285大5.A/④290大5.B/
④292大5.C/④293大5.C/
④294大5.C/④295大5.D/
④298大5.E/④299大6.A/
④301大6.B/④302大6.B/
④306大6.C/④307大6.C/
④309大6.E/④311大7.A/
④314大7.B/④316大7.B/
④317大7.B/④320大7.E/
④325大8.B/④328大8.E/
④332大9.B/④336大10.A/
④338大10.B/④339大10.B/
④339大10.C/④340大10.C/
④349大11.E/④351大12.B/
④353大12.C/④356大13.A/
④358大13.B/④360大13.C/
④361大13.C/④365大14.B/
④366大14.B/④367大14.B/
④369大14.C/④378大15.B/
④384大15.D/④385大15.D/
④388昭2.B/④395昭2.C/
④396昭2.D/④397昭2.D/
④406昭3.C/④409昭3.E/
④418昭4.C/④443昭6.C/
④455昭7.B/④459昭7.C/
④476昭8.C/④490昭9.B/
④490昭9.C/④502昭10.A/
④523昭11.A/④524昭11.A/
④530昭11.B/④533昭11.C/
④535昭11.C/④540昭11.D/
④546昭12.A/④548昭12.A/
④554昭12.C/④555昭12.C/
④557昭12.C/④558昭12.D/
④590昭14.C/④616昭15.C/
④615昭15.C/④627昭16.B/
④645昭17.B/④646昭17.C/
④648昭17.C/④659昭18.C/
④693[明24]/④694[明25]/
④717[大5]/④733[昭3]/
④746[昭8]/④749[昭9]/
④792[大7]/
シーザ(一) → シーサー
シーザア → シーサー
しーざあ・じゅりあす → シーサー
シーザリズム→ シーサー
シザル → シーサー
シーザル→ シーサー
しーざる → シーサー
志ーざる、志ゆりあす→ シーサー
シーサ(ザ)ル → シーサー
しいざー → シーサー
シイザ(一) → シーサー
シイサア → シーサー
シイザア → シーサー
シイ(井)ザル → シーサー
獅イザル → シーサー
Chevalier,J.④416昭4.B/
シシロー → チチェーロ
シス(セ)ロ(一) → チチェーロ
しせろ → チチェーロ
シセロン → チチェーロ
シニック → キニック學派
シピオン②201明28.E/
シャトオブリアン③106明34.B/
Chambry,E.④487昭9.B/
Chavanon③127明37.B/
Chapot③133明38.C/
Chapot,Victor①291昭3.C/
①349昭7.C/
Charpenter, Jahl③219大11.C/
Charles d'Anjou③130明37.D/
Charlemagnue③119明36.B/
③310昭15.C/
シャルモン①282昭2.E/
Chestov, I.②72昭13.B/

ショセロ→ チチェーロ
シルラ②194明26.C/
シレニック學→ キレーネ學派
シレ子イク敎→ キレーネ學派
シンデ［ダ］レラ①153明44.D//
②232明44.B//④710[明44]/
セーザー → シーサー
セーサル → シーサー
セーザル → シーサー
セサ(ザ)ル → シーサー
セザール → シーサー
セシロ → チチェーロ
セシル→ チチェーロ
セニック（學派） → キニック學派
セレネーク→ キレーネ學派
セレ子ーク學派→ キレーネ學派
セレネーク派→ キレーネ學派
チゥロツ、ヨハンネス・フォン
④673[明治]/④702[明36]/
④703[明37]/
チェイス、スチュアート
②272昭6.F/
チェシヂートス④215明44.B/
チェスカ、P.④461昭7.D/
Chester-Beatty④516昭10.D/
Chestow,L.④534昭11.C/
チェチェロ → チチェーロ
チェチリア③209大8.B/
チェノー④205明43.B/
チェホフ③148明41.D/
チェムバレーン①177大3.D/
Cerarесco③131明37.F/
Cerroti③75明29.C/
ヂオスコサデス③64明27.F/
Cioli, L.②90昭14.E/
チーグラー（チーグレル、T.）
①118明38.A/①274昭2.B//
③125明37.A//④375大15.B/
チーグレル→ チーグラ
チシエロ → チチェーロ
チセロ→ チチェーロ
チセロン→ チチェーロ
チチェーロ（キケロ（一）、シスロ、シス（セ）ロ（一）、シシロー、シセロン、チッェエロ、キセロ、チツェロン、チチロ、チツェロ、セシロ、シセロン、チェチェロ、チシエロ、セーサル、ショセロ、チセロ、チセロン、しせろ、吉設羅、基改羅、西塞魯、西施勞、西塞羅、施塞路、西塞、志清老、紫聲朗、Cicero、Cicéron, Marcus Tullius）
①4［4,8］/①5［19,25］/
①6［49］/①9［142］/
①15明5.B/①24明10.C/
①25明10.E/①27明11.E/
①28明12.C/①33明15.C/
①42明20.B/①43明20.C/
①46明21.B/①52明22.C/
①54明23.B/①55明23.B/
①58明23.D/①58明23.E/
①59明24.B/①60明24.B/
①60明24.C/①67明25.F/
①70明26.C/①83明30.C/
①85明31.B/①89明32.A/
①93明33.B/①98明34.D/
①110明37.B/①111明37.B/
①119明38.B/①144明42.E/
①147明43.C/①149明43.E/
①152明44.C/①158明45.C/
①167大2.D/①182大4.C/
①190大5.C/①197大6.C/
①214大9.A/①221大10.A/
①228大11.A/①233大11.E/
①245大13.B/①247大13.C/
①260大14.E/①268大15.C/
①297昭3.E/①300昭4.A/
①312昭5.A/①326昭6.B/

①332昭6.C/①338昭6.E/
①354昭7.E/①357昭8.A/
①372昭9.A/①378昭9.C/
①384昭9.E//②11昭10.B/
②38昭11.B/②88昭14.D/
②99昭15.D/②104昭16.B/
②130昭18.B/②132昭18.B/
②133昭18.B/②145昭19.E/
②151［14507,14514］/
②152［14532］/②153明4.C/
②154明6.B/②159明13.C/
②159明13.E/②160明15.B/
②160明15.C/②162明16.B/
②163明16.E/②164明17.B/
②165明17.E/②167明18.B/
②168明18.E/②170明19.C/
②171明19.D/②171明19.E/
②172明19.E/②173明20.B/
②175明21.B/②176明21.B/
②176明21.C/②177明21.E/
②179明22.B/②180明22.C/
②181明22.D/②183明23.B/
②184明23.C/②184明23.D/
②185明23.D/②188明24.D/
②190明25.B/②192明25.E/
②193明26.A/②194明26.B/
②195明26.C/②196明26.E/
②197明27.B/②198明27.C/
②199明27.D/②200明28.B/
②202明29.C/②203明29.E/
②205明30.E/②207明31.E/
②209明32.E/②213明34.B/
②219明37.B/②221明37.E/
②222明38.C/②231明43.B/
②233明44.E/②234明45.B/
②246大10.C/②259昭3.C/
②266昭5.C//③5明8.A/
③6明8.C/③7明9.B/
③8明9.B/③8明9.C/
③9明9.E/③13明11.B/
③14明12.A/③15明12.E/
③17明14.B/③19明15.E/
③20明16.E/③21明16.F/
③25明19.B/③26明19.B/
③29明21.B/③34明22.A/
③36明22.C/③38明22.D/
③39明23.B/③40明23.B/
③41明23.C/③44明24.B/
③45明24.C/③46明24.D/
③47明24.E/③47明25.A/
③48明25.B/③49明25.B/
③50明25.C/③53明25.F/
③54明26.B/③55明26.B/
③59明27.A/③64明27.E/
③72明29.B/③74明29.B/
③81明30.B/③83明30.D/
③87明31.B/③97明32.D/
③107明34.B/③112明35.B/
③120明36.C/③126明37.B/
③131明37.E/③147明41.C/
③153明42.E/③170明45.E/
③187大3.E/③200大5.D/
③200大5.F/③240昭2.C/
③269昭8.A/③277昭9.C/
③288昭12.A/③318昭17.A/
③319昭17.A//④26[24997]/
④31明9.D/④32明10.B/
④33明10.B/④36明12.B/
④38明13.B/④40明14.B/
④41明14.B/④42明14.B/
④42明14.C/④45明15.B/
④46明15.B/④50明16.B/
④51明16.B/④59明18.B/
④60明19.D/④62明19.B/
④69明20.C/④70明20.D/
④71明20.E/④73明21.B/
④76明21.B/④77明21.B/
④81明23.B/④82明23.B/
④87明24.B/④91明25.B/
④94明26.B/④96明26.C/
④100明27.B/④101明27.B/
④102明27.B/④105明28.B/
④109明28.F/④110明29.B/
④122明32.B/④124明32.B/

④129明34.A/④131明34.B/
④141明36.B/④141明36.B/
④145明36.C/④152明37.C/
④157明38.B./④159明38.B/
④161明38.B/④167明39.B/
④173明39.F/④173明39.G/
④176明40.B/④183明41.B/
④187明41.b/④191明42.A/
④204明43.B/④206明43.B/
④235明45.C/④241大2.B/
④243大2.B/④272大4.B/
④278大4.C/④279大4.C/
④284大5.A/④300大6.B/
④301大6.B/④309大6.E/
④311大7.A/④313大7.B/
④321大8.A/④331大9.B/
④345大11.B/④354大12.D/
④356大13.A/④358大13.B/
④365大14.B/④367大14.B/
④372大14.E/④376大15.B/
④379大15.C/④381大15.C/
④387昭2.A/④413昭3.B/
④416昭4.C/④436昭5.E/
④448昭6.E/④466昭8.A/
④469昭8.B/④499昭9.E/
④527昭11.B/④533昭11.B/
④534昭11.C/④543昭11.E/
④546昭12.A/④547昭12.A/
④549昭12.B/④550昭12.B/
④551昭12.B/④563昭12.E/
④570昭13.B/④584昭14.B/
④605昭15.B/④623昭15.F/
④627昭16.B/④628昭16.B/
④629昭16.B/④631昭16.B/
④642昭17.A/④647昭17.C/
④658昭18.B/④667昭19.C/
④679[明10]/④767[昭15]/
チッェエロ → チチェーロ
チツェロ → チチェーロ
チツェロン → チチェーロ
チップソン①250大13.F/
チテニエ、ウィクレスノエ
④142明36.B/
チー子ス③132明38.B/
チベサー④446昭6.D/
チーベルマン④168明39.B/
チモーネ④329大9.A/
チモン→ キモン
チミュース②161明15.E/
Child,J.M.④287大5.B/
Childe, Gordon(チャイルド)
③235大15.C//④380大15.C/
④633昭16.C/
チャップマン④108明28.D/
チャーチ①240大12.D/
Church,A.J.④139明35.D/
④142明36.B/④713[大3]/
④791[大3]/
チャーチ、テイン④207明43.B/
チャーチル③124明36.D/
Charniss, H.②39昭11.B//
④527昭11.B/
チャ(ン)ニング②194明26.B//
③55明26.B//④94明26.B/
④114明30.B/
チャモレー、エル・ビー
④133明34.D/④179明40.D/
Chiapelli③90明31.D/
チャンバー④56明17.D/
④676[明6]/
チャムバア④35明12.A/
Chambry, Emile②282昭9.B/
②283昭9.B/
Charles,R.H. ④273大4.B/
チャールス大帝③315昭16.C//
④491昭9.C/
Charlesworth, M.O.①306昭4.C/
Charlesworth, M.P.②42昭11.C/
チャム(ン)プル[チャンブル]
①15明5.D/①16明6.C/
①21明9.C//④40明14.B/
④675[明3]/
チャンダアス④73明21.C/
チュメルン③259昭6.C/

チュリューヌ②201明28.E/
チュレニック學派②200明28.B/
チョーサー(チョウサル、Chaucer)ジョフレー[カンタベリー物語」
①270大15.D/①383昭9.D//
②213明34.D//③90明31.D/
③244昭3.D/③322昭17.D//
④383大15.D/④420昭4.D/
④807[昭17]/④808[昭18]/
趙婉④56明17.C/
張騫④747[昭9]/
チョウサル → チョーサー
張春濤④166明39.A/④182明40.G/
チーラス、ポール①211大8.D/
チリングリイ、ケネルム
④60明19.D/
チロ②198明27.C/
チエール①24明10.C/
チング、チー・エス①68明26.B//
③54明26.B/③55明26.B//
④248大2.C/
陳博④127明33.B/
ツエーサル → シーサー
ハルミデース(カルミデ(一)ス)(Charmides)①104明36.B/
①124明39.B/①243大13.B/
①358昭8.B//②53昭12.B/
②108昭16.B/②118昭17.B//
③202大6.B/③284昭11.A/
③312昭16.A//④625昭16.A/
[D]ジオゲネス、ラエリチウズ → ヂオゲネス(D.L.)
シオニシス王 → ヂオニシウス王
ジオニシオス(尊者)
②248大12.B/
シオニソス → ヂオニソス神
ジオニソス(酒の神) → ヂオニソス神
ジオニュシュス王 → ヂオニシウス王
ジヲクリシアン → ヂオクレチアン帝
ゼモステンス → デモスセニ(ン)ス
ダイアナワッツ①272大15.F/
ダイオクリシアン帝 → ヂオクレチアン帝
ダイオクレシアン→ ヂオクレチアン帝
ダイオゲネス → ヂオ(ヲ)ゲネス
ダイオゲ子(一)ス→ ヂオ(ヲ)ゲネス
ダイオジ(ェ)子ス → ヂオ(ヲ)ゲネス
ダイオジェネス → ヂオ(ヲ)ゲネス
ダイオジェネス→ ヂオゲネス(D.L.)
ダイオジニ(一)ス → ヂオ(ヲ)ゲネス
ダイオジニヤス→ ヂオ(ヲ)ゲネス
ダイオジネス→ ヂオゲネス(D.L.)
ダイオジラス→ ヂオ(ヲ)ゲネス
ダイオセニス(ハリカーナサスの)
③36明22.C/
ダイオゼニス → ヂオ(ヲ)ゲネス
ダイオ(ヲ)ゼネ(子)ス → ヂオ(ヲ)ゲネス
ダイオゼンス → ヂオ(ヲ)ゲネス
ダイオゼンス→ ヂオゲネス(D.L.)
ダイオヂネース → ヂオ(ヲ)ゲス
ダイオヂェネス→ ヂオ(ヲ)ゲネス

ダイオデ子ス → ヂオ(ヲ)ゲネス
ダイオドルス③148明41.C/
ダイオニサス神 → ヂオニソス神
ダイオニシアス → ヂオニシウス王
ダイオニシアン → ヂオニソス神
ダイオニシウス(史家)
③148明41.C//④265大3.C/
ダイオニシヤス(羅馬)
②200明28.B/
ダイオニシヤス → ヂオニソス神
ダイオニショス→ ヂオニシウス王
Dykmans,G.④577昭13.E/
ダイジェニ子ス→ ヂオ(ヲ)ゲネス
ダイス、エルネスト・ラ
③310昭15.C/
ダイスン、ジョォジ②74昭13.D/
ダイス(ズ)マン、アドルフ
(Deismann Adolf)
①268大15.C/①317昭5.C//
③161明44.C/③175大2.C/
③176大2.C//④249大2.C/
④359大13.B/④367大14.B/
④369大14.C/④379大15.C/
④382大15.C/④430昭5.C/
④470昭8.B/④477昭8.D/
④493昭9.C/
ダイゼニス→ ヂオ(ヲ)ゲネス
ダイドオ → ディオドロス
ダイナゼンス→ ヂオ(ヲ)ゲネス
ダイニソス → ヂオニソス神
Deichgräber, K.②26昭10.D//
③307昭14.F//④517昭10.D/
ダイメリヤス王②216明35.C/
ダイモニオン→ ダイモン
ダイモン(ダイモニオン、鬼神)
④302大56.B/④526昭11.B/
④627昭16.B/
Dyroff,A.D.②83昭14.B//
③93明32.B/③100明33.B//
④584昭14.B/
ダイヲクレシアン→ ヂオクレチアン帝
ダイヲジニス→ ヂオ(ヲ)ゲネス
ダイヲジェニーズ→ ヂオ(ヲ)ゲネス
ダイヲスコライデス④61明18.F/
ダイヲゼネス → ヂオゲネス(D.L.)
タイヲゼ子ス・ラエチュス → ヂオゲネス(D.L.)
ダイヲゼニス→ ヂオ(ヲ)ゲネス
ダイヲヂニス→ ヂオ(ヲ)ゲネス
ダイヲトラス③33明21.F//
④75明21.F/
ダイヲニシヤス → ヂオ(ヲ)ゲネス
Deinker, E.②16昭10.B/
Deinhardt,H.④518昭10.D/
ダウデー(ドウデエ、ドオデエ)、アルホンス
①115明37.D/①116明37.D/
①166大2.D/①258大14.D/
①382昭9.D//④495昭9.D/
ダグロン②151[14528]/
ダタリ③161明44.C/
Duchesne, M.L.③167明45.C/
ダット氏④104明28.A/
Daniel④252大2.D/
ダニエル④278大4.C/
ダニール(駝懦屡)①14明3.C/
②22昭10.C/
ダニレフスキイ(ー)、ヴェ(V.)
④757[昭12]/④762[昭13]/
ダニング(Dunning, W.A.)

②126昭17.E//③116明35.E//
④621昭15.E/
ダヌンチ（ツイ）オ(ダヌンチョ、ダヌンチョオ、ダヌンツオー)
②240大5.C//③135明38.D/
③152明42.D/③187大3.D//
④249大2.C/④274大4.C/
④281大4.D/④319大7.D/
④769[昭16]/
ダヌンチョ →ダヌンチ（ツイ）オ
ダヌンチョオ→ ダヌンチ(ツイ)オ
ダヌンツオー→ ダヌンチ(ツイ)オ
ダ子キ③161明44.C/
ダビデ王④749[昭9]/
ダヒネ→ ダフネ姫
Duff, A.M.③256昭5.E/
③277昭9.C//④492昭9.C/
Duff, D.M.①306昭4.C/
Duff, J.D①291昭3.C/
Duff,J.W.④615昭15.C/
ダフ、ワイト(Duff, J.W.)
②124昭17.D/②126昭17.D/
②137昭18.D//③277昭9.C//
④609昭15.C/
Duff, P.W.②89昭14.E/
ダフニ → ダフネ姫
ダフニス → ダフネ姫
ダフネ姫(女、ダヒネ、ダフニ、ダフニス)
①125明39.B/①253大14.B/
①258大14.D//②259昭3.B/
③189大4.B//④26[24997]/
④358大13.B/
Dampier, Whetham①340昭6.F//
②267昭5.F/
Darmet, A.②19昭10.B/
ダモン①147明43.C//②153明4.C/
ダライヲス④124明32.C/
ダラコ →ドロコ(ン)
ダラニス③180大3.B/
ダランベルト［律例精義大意］
①19明8.E/①22明9.E//
②253大48.E/
ダリアス④248大2.C/
ダリバン③160明44.B/
Dahl,G④716[大5]/
Dalton, R.M.③199大5.C/
達磨④193明42.B/
ダルマン師④313大7.B/
ダールマン①250大13.E/
ダールマン④311大7.A/
④362大13.E/
ダールマン、ゼー(Dahlmann,J)
①180大4.B//④227大1.B/
ダールマン、ヨ(一)ゼフ
③152明42.D/③157明43.D//
④215明44.B/
ダアルマン(靈父)④739[昭5]/
Darmstädter,L.④500昭9.F/
Daremberg④520昭10.F/
ダ・ヴィンチ、レオナルド
①248大13.D//②83昭14.B/
②126昭17.D/②141昭19.B/
②258昭2.F//③322昭17.D/
③324昭18.D//
④112名29.D/④280大4.D/
④420昭4.D/④575昭13.D/
④637昭16.D/④654昭17.F/
④806[昭16]/④807[昭17]/
④808[昭18]/
ダー(ウ)井ン、チャーレス
②161明15.F//③131明37.F/
③306昭14.F//④54明16.F/
④259大3.B/④389昭2.B/
ダヲジュニス → ヂオ(ヲ)ゲネス
ダン、ヒュー・パルシー
③59明27.A/
ダンカーヴ井ル③177大2.D/
ダンカン①89明32.A/

Duncan, P.③314昭16.B/
ダンター(?) → ダンテ
ダンツ → ダンテ
だんて → ダンテ
ダンテ(ダンテー、ダンチー、ダンツ、ダント、ダンター、だんて、斷天、Dante、エリギエリ)［上田敏、神曲、ダンテ特集、ダンテ記念號、La Divina Comedia］
①52明22.D/①57明23.D/
①58明23.D/①58明 23.E/
①60明24.B/①62明24.D/
①66明25.D/①71明26.D/
①80明29.D/①83明30.C/
①84明30.D/①98明34.D/
①103明35.D/①108明36.D/
①109明36.D/①116明37.D/
①121明38.D/①122明38.D/
①126明39.B/①128明39.D/
①132明40.B/①144明42.D/
①154明44.D/①176大3.D/
①181大3.B/①187大4.B/
①198大6.D/①199大6.D/
①205大7.D/①206大7.D/
①212大8.D/①218大9.D/
①221大10.B/①222大10.B/
①223大10.B/①224大10.D/
①225大10.D/①226大10.D/
①227大10.E/①232大11.D/
①233大11.D/①240大12.D/
①241大12.D/①245大13.B/
①248大13.D/①249大13.D/
①257大14.C/①258大14.D/
①259大14.D/①260大14.D/
①269大15.D/①270大15.D/
①279昭2.D/①281昭2.D/
①289昭3.B/①295昭3.D/
①295昭3.D/①296昭3.D/
①300昭4.A/①307昭4.D/
①308昭4.D/①309昭4.D/
①313昭5.B/①316昭5.B/
①321昭5.D/①337昭6.D/
①350昭7.D/①352昭7.D/
①355昭7.E/①367昭8.D/
①373昭9.B/①386昭9.E//
②23昭10.D/②24昭10.D/
②38昭11.B/②44昭11.D/
②46昭11.D/②47昭11.D/
②61昭12.D/②63昭12.D/
②75昭13.D/②93昭15.B/
②124昭17.D/②128昭17.E/
②160明15.B/②167明18.B/
②174明20.D/②175明21.B/
②179明22.B/②185明23.D/
②188明24.D/②190明25.B/
②191明25.D/②192明25.D/
②194明26.B/②195明26.D/
②199明27.D/②203明29.D/
②204明30.D/②206明31.D/
②208明32.D/②211明33.D/
②213明34.B/②214明34.D/
②216明35.D/②218明36.B/
②218明36.D/②219明37.B/
②220明37.D/②221明37.D/
②223明38.D/②224明39.A/
②225明39.D/②229明41.D/
②229明42.B/②230明42.F/
②231明43.D/②232明44.B/
②232明44.C/②234明45.B/
②243大7.D/②244大8.D/
②245大9.D/②246大10.D/
②248大11.D/②249大12.D/
②250大13.A/②250大13.D/
②255大15.D/②256昭2.B/
②257昭2.D/②260昭3.D/
②261昭3.D/②262昭4.D/
②263昭4.E/②265昭5.B/
②266昭5.D/②270昭6.C/
②270昭6.D/②271昭6.D/
②273昭7.B/②274昭7.D/
②275昭7.D/②279昭8.E/
②285昭9.D//③23明18.B/

③28明20.D/③32明21.D/
③41明23.D/③42明23.D/
③42明24.A/③45明24.C/
③47明24.D/③50明25.C/
③51明25.D/③52明25.D/
③56明26.D/③58明26.D/
③60明27.B/③61明27.C/
③62明27.D/③63明27.D/
③64明27.D/③65明28.A/
③68明28.D/③69明28.D/
③72明29.B/③76明29.D/
③78明29.D/③78明29.E/
③79明30.A/③80明30.B/
③83明30.D/③84明30.D/
③85明30.D/③89明31.D/
③90明31.D/③91明31.D/
③92明32.B/③93明32.B/
③96明32.C/③97明32.D/
③102明33.C/③103明33.D/
③109明34.D/③112明35.B/
③115明35.D/③119明36.C/
③120明36.C/③123明36.D/
③124明36.D/③129明37.D/
③130明37.D/③134明38.D/
③135明38.D/③139明39.D/
③140明39.D/③141明40.B/
③144明40.D/③148明41.D/
③150明42.B/③152明42.D/
③153明42.E/③157明43.D/
③162明44.D/③169明45.D/
③173大2.B/③177大2.D/
③178大2.D/③179大2.D/
③179大2.E/③185大3.D/
③186大3.D/③187大3.D/
③193大4.D/③194大4.D/
③195大5.B/③200大5.D/
③202大6.B/③203大6.D/
③204大6.D/③205大6.D/
③207大7.D/③208大7.D/
③209大8.B/③210大8.D/
③211大8.D/③211大9.A/
③213大9.D/③216大10.D/
③218大11.B/③220大11.D/
③223大12.D/③224大12.D/
③225大13.B/③228大13.D/
③231大14.D/③236大15.D/
③237大15.D/③241昭2.D/
③245昭3.D/③250昭4.D/
③255昭5.D/③259昭6.C/
③260昭6.D/③270昭8.B/
③282昭10.D/③283昭11.A/
③286昭11.D/③287昭11.E/
③298昭13.D/③302昭14.B/
③305昭14.D/③316昭16.D/
③322昭17.D/③324昭18.C//
④39明13.B/④69明20.C/
④73明21.B/④76明21.B/
④77明21.B/④78明22.D/
④81明23.B/④85明23.D/
④89明24.D/④91明25.B/
④92明25.C/④93明25.D/
④95明26.B/④96明26.B/
④98明26.D/④103明27.B/
④106明28.B/④108明28.D/
④112明29.D/④113明29.D/
④116明30.B/④117明30.D/
④121明31.D/④125明32.D/
④129明33.E/④130明34.B/
④132明34.D/④133明34.D/
④134明34.D/④136明35.B/
④140明35.D/④141明36.A/
④146明36.D/④147明36.D/
④148明36.D/④155明37.D/
④156明37.D/④160明38.B/
④162明38.C/④163明38.D/
④164明38.D/④165明38.D/
④172明39.D/④173明39.D/
④173明39.F/④176明40.B/
④178明40.B/④180明40.D/
④186明41.B/④189明41.D/
④191明42.A/④196明42.B/
④199明42.D/④204明43.B/
④214明44.A/④215明44.B/
④218明44.B/④221明44.D/

④222明44.B/④229明45.B/
④231明45.B/④232明45.B/
④238明45.B/④243大2.B/
④245大2.B/④251大2.D/
④252大2.D/④266大3.D/
④267大3.D/④268大3.D/
④269大3.E/④269大3.F/
④272大4.B/④280大4.D/
④281大4.D/④282大4.D/
④283大4.D/④290大5.B/
④294大5.D/④295大5.D/
④296大5.D/④297大5.D/
④298大5.E/④302大6.B/
④303大6.B/④304大6.B/
④306大6.C/④307大6.D/
④308大6.D/④309大6.D.
④311大7.A/④318大7.D/
④319大7.D/④323大8.B/
④327大8.D/④329大9.A/
④331大9.B/④333大9.B/
④334大9.D/④335大9.D/
④338大10.B/④341大10.D/
④342大10.D/④343大11.A/
④344大11.A/④344大11.B/
④348大11.C/④348大11.D/
④350大12.A/④352大12.B/
④354大12.C/④354大12.D/
④355大12.D/④356大13.A/
④359大13.B/④362大13.D/
④370大14.D/④371大14.D/
④372大14.D/④373大14.E/
④376大15.B/④382大15.D/
④383大15.D/④384大15.D/
④385大15.D/④386大15.E/
④387昭2.A/④394昭2.C/
④395昭2.D/④396昭2.D/
④397昭2.D/④400昭3.B/
④406昭3.C/④407昭3.D/
④412昭4.A/④419昭4.D/
④420昭4.D/④421昭4.D/
④431昭5.C/④432昭5.D/
④433昭5.D/④434昭5.D/
④446昭6.D/④447昭6.D/
④460昭7.D/④461昭7.D/
④462昭7.D/④472昭8.C/
④482昭9.A/④485昭9.B/
④494昭9.D/④495昭9.D/
④498昭9.D/④499昭9.E/
④501昭10.A/④513昭10.C/
④517昭10.D/④518昭10.D/
④539昭11.D/④540昭11.D/
④542昭11.E/④552昭12.B/
④558昭12.D/④559昭12.D/
④561昭12.D/④562昭12.E/
④566昭13.B/④574昭13.D/
④575昭13.D/④576昭13.D/
④585昭14.B/④591昭14.C/
④594昭14.D/④607昭15.B/
④608昭15.B/④617昭15.D/
④618昭15.D/④632昭16.B/
④635昭16.D/④636昭16.D/
④637昭16.D/④649昭17.D/
④650昭17.D/④651昭17.D/
④653昭17.E/④662昭18.D/
④668昭19.D/④669昭19.E/
④683[明13]/④702[明36]/
④713[大3]/④717[大6]/
④720[大9,10]/④722[大11]/
④723[大12]/④725[大13]/
④727[昭1]/④730[昭2]/
④735[昭4]/④742[昭7]/
④753[昭10]/④758[昭12]/
④760[昭13]/④767[昭15]/
④778[昭19]/④791[19-]/
④794[大13]/④795[大15]/
④801[昭8]/④802[昭10]/
④805[昭15]/④809[昭20]/
ダンチー → ダンテ
ダンツィク、トビアス
④780[昭20]/
Danzel,T.W.④615昭15.C/
ダンテー → ダンテ
ダント→ ダンテ

ダントン、ウチッツ①154明44.D/
①159明45.D/
ダンニング④663昭18.E/
ダン子ツカル④78明22.D/
ダンネマン(Daunemann,S.F.)
②115昭16.F/②116昭16.F//
③205大6.F/③318昭16.F/
④309大6.F/④500昭9.F/
④639昭16.F/④640昭16.F/
Dunnenbauer, H.①333昭6.C/
①352昭7.D//③265昭7.C/
③272昭8.C//④460昭7.D/
④591昭14.C/
Dunlsp, W.N.V.①326昭6.A/
ヂアスラン①163大2.B/
ヂアナ(女神) →ディアーヌ
ヂアーノ(女神) → ディアーヌ
ヂオクリシャン→ ヂオクレチアン帝
ヂオクレシアン → ヂオクレチアン帝
ヂオクレス(ぢをくれす、Diokles)②78昭13.F/
②84昭14.B/②168明18.F//
④269大3.F/
ヂオクレチア(一)ヌス → ヂオクレチアン帝
ヂオクレチアン帝(ディオクレティアン、ヂオクレチア(一)ヌス、ディクレティアン、ジヲクリシアン、ヂヲクレシアン、ヂオクレシアン、ダイオクレシアン、ディオクレチアン、デオクレシアン、ディオクレチアノ、デヲクレチアン、ダイヲクレシン、ダイオクレシア、ヂオクリシャン、ディオクレデイアヌス、デオクレチアン帝、Diokletian)
①47明21.C/①197大6.C/
①231大11.C//②145昭19.E/
②164明16.E/②177明21.E/
②208明32.C/②216明35.C//
③78明29.E/③99明33.A/
③111明35.B/③122明36.C/
③161明44.C/③203大6.D//
④44明14.E/④50明16.B/
④56明17.C/④112明29.C/
④161明38.C/④170明39.C/
④187明41.C/④208明43.C/
④264大3.C/④362大13.E/
④472昭8.C/④515昭10.C/
ヂオクワント②201明28.F/
ヂオ(ヲ)ゲネス(ヂヲセ子ス、ヂオジェ子シス、ダイオジ(ェ)子ス、ダイオ(ヲ)ゼネ(子)ス、ヂオジューヌ、ディオゲネ(一)ス、デオ(ヲ)ゼネス、ダイオジニ(一)ス、ダイヲニシヤス、ダヲジュニス、ヂオジネス、ヂヲジネス、ダイオゼンス、ダイオゲネス、ダイオデ子ス、ダイオヂネース、ダイオゼニス、デイオゲネ(子)ス、デ井オゲネス、ダイオジェネス、ダイジェニ子ス、ダイヲジニス、ダイオゲ子(一)ス、ダイオジニヤス、ダイオヂェネス、ダイヲジェニーズ、ダイヲゼニス、ダイナゼンス、デイヲゲネス、デ井ヲゼニス、樽の哲人、樽犬、實阿厄湟士、大於善、Diogenes) ［犬儒］
①44明20.E/①94明33.B/
①96明34.B/①106明36.C/
①107明36.C/①111明37.B/
①130明40.B/①136明41.B/

①142明42.B/①156明45.B/
①162大2.B/①237大12.B/
①245大13.B/①301昭4.B/
①343昭7.B/①363昭8.C//
②14昭10.B/②80昭14.B/
②160明15.B/②162明16.B/
②166明18.B/②167明18.B/
②179明22.B/②183明23.B/
②202明29.B/②205明31.B/
②207明32.B/②213明34.B/
②216明35.C/②229明42.B/
②232明44.B/②235明45.F/
②259昭3.B/②261昭4.B/
②265昭5.B/②273昭7.B//
③24明18.F/③55明26.B/
③137明39.B/③142明40.B/
③164明45.B/③167明45.B/
③182大3.B/③183大3.B/
③184大3.B/③189大4.B/
③210大8.C/③239昭2.B/
③268昭7.F/③270昭8.B/
③281昭10.B/③285昭11.B/
③292昭12.E//④46明15.B/
④54明17.A/④81明23.B/
④92明25.C/④95明26.B/
④102明27.C/④111明29.B/
④127明33.B/④130明34.B/
④131明34.B/④144明36.B/
④173明40.A/④186明41.B/
④188明41.C/④194明42.B/
④206明43.B/④225明45.B/
④235明45.C/④243大2.B/
④247大2.B/④249大2.C/
④263大3.B/④271大4.B/
④313大7.B/④324大8.B/
④332大9.B/④353大12.C/
④402昭3.B/④526昭11.B/
④567昭13.B/④586昭14.B/
④605昭15.B/④628昭16.B/

ヂオゲネス(ダイオジェネス、ダイオゼンス、ヂヲセネシス・ラエルチュース、ラエルチオス、ヂオジェ子シス、タイヲゼ子ス・ラエチュス、ジオゲネス・ラエルチウズ、デオゲネス・ラエルテウス Diogenes Laertius, D.L.)
①5[19]/①46明21.B/
①327昭6.B/①373昭9.B//
②164明17.B/②202明29.B/
②246大10.B/②247大11.B//
③34明22.B//④106明28.B/
④109明28.E/④167明39.B/
④586昭14.B/④606昭15.B/

ヂオジェ子シス → ヂオゲネス(D.L.)
ヂオジネス → ヂオ(ヲ)ゲネス
ヂオジューヌ → ヂオ(ヲ)ゲネス
ヂオチマ③171大2.B/
ヂオドート(・ド・シシル、史家) → ディオドロス
ヂオドール②250大12.F//④209明43.C/
ヂオニサス→ → ヂオニソス神
ヂオニーシアス→ ヂオニシウス王

ヂオニシウス王(シオニシス、ジオニュシュス、ディオニシアス、オニシアス、ヂオニーシアス、ダイオニショス、デオヌシオス[シラキイスの])
①147明43.C//②163明16.E//
③13明11.C/③180大3.B/
③198大5.C//④83明23.C/
④169明39.B/④415昭4.B/

チオニソス → ヂオニソス神

ヂオニソス神(ダイオニサス神、デイオニソス、ディオニゾス、デオニソス、ディオニ(一)ソス、ディオニュ(一)ソス、ディオニイゾス、ダイオニシヤス、

ヂオニュソス、ヂオニゾス、ダイオニシアン、ジオニソス、シオニソス、ダイニソス、デイオニュソス、デオニュス、チオニソス、ヂオニサス、ディオニュシス、デ井ニサス、デオニソス、デオニゾス、Dionysian, Dionysos）①60明24.B/
①110明37.B/①142明42.B/
①144明42.D/①202大7.B/
①222大10.B/①275昭2.B/
①299昭4.A/①337昭6.D/
①358昭8.B//②57昭12.B/
②70昭13.B/②81昭14.B/
②105昭16.B/②106昭16.B/
②132昭18.B/②190明25.B/
②191明25.D/②194明26.B/
②234明45.B/②236大2.B/
②283昭9.B//③141明40.B/
③162明44.D/③179大3.A/
③210大8.D/③297昭13.D/
③320昭17.B//④199明42.D/
④327大8.D/④335大9.D/
④338大10.B/④396昭2.D/
④419昭4.D/④467昭8.B/
④483昭9.B/④487昭9.B/
④506昭10.B/④551昭12.B/
④647昭17.C/④657昭18.B/
ヂオニゾス → ヂオニソス神
ヂオニツソス→ ヂオニソス神
ヂオニュソス → ヂオニソス神
ヂオバラス（史家）③128明37.C/
ぢおふぁんと④578昭13.F/
ヂオン（シラクーサの、Dion）
②17昭10.B/②132昭18.B/
②239大4.C/
ヂッケンズ(Ch.)④78明22.D/
ヂッチス、フリードリヒ
④109明29.B/
ヂーツゲン①137明41.B//
③149明41.E/
ヂュアメル→ デュアメル
ヂュウヰー → デュウェ（イ）ー
ヂューガ③74明29.B/
ヂユドン子ー③161明44.C/
ヂュア（ー）ラント（デュアラント（ド）、デューランド、デュラント、ドラント、ウイル）
①274昭2.B/①286昭3.B/
①305昭4.B//②93昭15.B//
④454昭7.B/④604昭15.B/
④607昭15.B/
ヂュモリン④779[昭20]/
ヂヨチマ（ディオテマ、ディオテイーマ、ディオテイマ）
①360昭8.B/①375昭9.B//
③163明45.B//④168明39.B/
④315大7.B/④389昭2.B/
ヂョップ③131明38.B/
ヂールス → ディールス
ヂレット、クラレンス
④584昭14.B/
ヂロン③89明31.D/
ヂヲクレシアン → ヂオクレチアン帝
ヂヲセネシス・ラエルチュース → ヂオゲネス（D.L.）
ヂヲセ子ス → ヂオ（ヲ）ゲネス
ヂヲジネス→ ヂオ（ヲ）ゲネス
ヂヲドラス③153明42.F/
ぢをにそとらす④269大3.F/
ヅービニ、ボナペンツウラ
④327大8.D/
ヅーフ（道冨、法兒）・H（ハルマ）［江戸ハルマ、ハルマ和解］
①7[77]/①8[103]/
①9[137]/①11[184,194]/
①205大7.D/①232大11.D//
②235明45.G/②280昭8.G//
③53明25.G/③110明34.F/
③210大8.D/③238大15.G//

④25[24993]/④26[24997]/
④173明39.G/④465昭7.G/
④744[昭7]/④766[昭15]/
デアウス→ ゼウス神
デ・ロース①312昭5.A/
デー、クライブ①154明44.E//
④674[明治]/④711[明45]/
Demal, S.③268昭7.F/
ディアデュメネス③297昭13.D/
ディアナ → ディアーヌ
ディアーヌ(月女神、狩の神、ディアナ、ヂアーノ、ヂアナ、ディアンヌ)
①255大14.B//②234明45.B//
③169明45.D//④157明38.B/
④526昭11.B/
ディアンヌ→ ディアーヌ
D'Arey, Ch.F.③172大2.B/
Darey,C.F.④287大5.B/
ディエス、オーギュスト(Diès, A.)②14昭10.B/
②38昭11.B/②67昭12.F//
③270昭8.B/③281昭10.B/
デイエチリッヒ④358大13.B/
Diocles of Carytus(ディオクレス)
③309昭15.B/
ディオクレチアノ → ヂオクレチアン帝
ディオクレチアン → ヂオクレチアン帝
ディオクレデイアヌス→ ヂオクレチアン帝
ディオクレティアン → ヂオクレチアン帝
デイオゲネ(子)ス → ヂオゲネス
ディオゲネ(一)ス → ヂオゲネス
ディオゲネス・フォン・アポロニア④288大5.B/
ディオスコリデス②248大11.F/
デイオゼン③79明30.A/
ディオテマ → ヂヨチマ
ディオテーマ→ ヂヨチマ
ディオテイマ→ ヂヨチマ
デイオドル → ディオドロス
ディオドロス(デヲドル、デイオドル、ダイドオ、ヂオドート・ド・シシル、地阿垤利私、Diodorus, Diodore)
①9[142]//②179明22.B/
②216明35.D//③24明18.E/
③73明29.B/③90明31.D//
④611昭15.C/
ディオニイゾス → ヂオニソス神
Dionysian → ヂオニソス神
ディオニシアス王 → ヂオニシウス王
デイオニシウス②260昭3.C//
④378大15.B/
ディオニシオス大主教
④101明27.B/
ディオニ(一)ソス → ヂオニソス神
デイオニソス → ヂオニソス神
ディオニゾス → ヂオニソス神
ディオニッス→ ヂオニソス神
ディオニュシス → ヂオニソス神
Dionysius(Halicarnassus, Halikarnass)
④611昭15.C/
デイオニュソス → ヂオニソス神
ディオニュ(一)ソス → ヂオニソス神
ディオニュソス・シラキュース王 → デニース王
Diodore → ディオドロス
Diomede(ヂオメーデース)
①205大7.D//④171明39.D/
Dion → ヂオン(シラクーサの)

Dion Cassius④612昭15.C/
Dion Chrisostomos②49昭11.E/
Dakyns,H.G.④611昭15.C/
ディキンズ④490昭9.C/
④801[昭9]/
デイキンソン（Dickinson,G.L.）
③155明43.B//④401昭3.B/
ディクソン、マクネイル
④259大3.B/
ディクレティアン → ヂオクレチアン帝
ディケー（神）④666昭19.B/
ディケンス、チャーレス
③19明15.C/③45明24.C//
④87明24.C/④88明24.D/
Dickens, D.③169明45.D/
ディスコリデス②115昭16.F/
Diessmann, A.③186大3.D/
ディーツゲン②37昭11.B/
デイッケンズ、チャールズ→ ディケンス、チャーレス
Dittrich, O.②247大11.A//
③275昭9.B/
Davis, G.M.N.①180大4.B/
①188大4.B/
Davis, H.A.②60昭12.C/
Davis,H.W.④503昭10.A/
デイヒス(Davis,J.)④63明19.C/
Davis, W.S.②287昭9.E/
Davioson,J.A.③305昭14.D/
Davidson, T.③107明34.B//
④231大1.B/
Deebs, H.H.③240昭2.B/
D.-K.（Diels-Kranz）①376昭9.B//
②284 昭9.B/
Diogenes Laertius → ヂオゲネス（D.L.）
Dibelius,M.(デウベリウス、マルチン)④264大3.C/
④513昭10.C/④589昭14.C/
④634昭16.D/④759[昭12]/
デイミータ → デイミーター（神）
デイミーター（神）(デイミータ、デイメーター)
①216大9.B//③145明40.F/
Dame,A.M④767[昭15]/
デイメーター → デイミーター（神）
ディミトリ・ソロコフ
④783[明25]/
デイモクリット → デモクリタス
デイモン④333大9.C/
Diringer, D.②87昭14.D/
Diel,Ch.③263昭7.A/
ディールス（ヂールス、Diels, H.）
①376昭9.B//②116昭16.F/
②140昭18.F/②146昭19.F/
②284昭9.B//③81明30.B/
③87明31.B/③172大2.B/
③222大12.B//④254大3.B/
④380大15.C/④388昭2.B/
④487昭9.B/④520昭10.F/
ディルタイ、ウィルヘルム（デルタイ、Dilthey,W.）
①173大3.B/①210大8.B/
①243大13.A/①244大13.B/
①246大13.B/①253大14.A/
①254大14.B/①255大14.B/
①259大14.D/①266大15.B/
①267大15.B/①275昭2.B/
①276昭2.B/①283昭2.E/
①284昭3.A/①288昭3.B/
①296昭3.D/①301昭4.B/
①303昭4.B/①316昭5.B/
①330昭6.B/①337昭6.D/
①346昭7.B/①353昭7.D/
①359昭8.B/①361昭8.B/
①367昭8.D/①376昭9.B/
①377昭9.B//②12昭10.B/
②14昭10.B/②15昭10.B/
②20昭10.B/②24昭10.D/
②33昭11.B/②45昭11.D/

②56昭12.B/②60昭12.C/
②69昭13.B/②73昭13.C/
②80昭14.B/②93昭15.B/
②131昭18.B/②274昭7.C/
②277昭8.B/②279昭8.D/
②280昭9.B/②284昭9.B//
③100明33.B/③101明33.B/
③160明44.B/③166明45.B/
③181大3.B/③253昭5.B/
③259昭6.C/③275昭9.B/
③280昭10.B/③291昭12.C//
④379大15.B/④390昭2.B/
④438昭6.B/④440昭6.B/
④452昭7.B/④453昭7.B/
④454昭7.B/④468昭8.B/
④469昭8.B/④475昭8.C/
④485昭9.B/④493昭9.C/
④495昭9.D/④508昭10.B/
④509昭10.B/④527昭11.B/
④550昭12.B/④551昭12.B/
④557昭12.C/④572昭13.C/
④585昭14.B/④604昭15.B/
④606昭15.B/④614昭15.C/
④616昭15.C/④746[昭8]/
④760[昭13]/④775[昭18]/
Dirmeier, F.③295昭13.B/
Dillon,William(キリアム、ディロン)④229大1.B/
デイヴィス、W.W.④601昭15.A/
David,Dringer④764[昭14]/
デイヲゲネス→ ヂオ(ヲ)ゲネス
ディーン、A.C/④755[昭11]/
Dean,J.T.④295大5.D/
デインイング④404昭3.B/
Dinkler,E.④505昭10.B/
Dingwall, E.J.①330昭6.B/
デエメル、ミス・アリエル ①167大2.D/
Dölger,F.④597昭14.E/
Dörfler, J.③170明45.F/
デオクレシアン帝 → ヂオクレチアン帝
デオクレチアン帝 → ヂオクレチアン帝
デオゲネス・ラエルテウス→ ヂオゲネス
デオ(ヲ)ゼネス → ヂオ(ヲ)ゲネス(哲人)
デオドタ(藝妓)④428昭5.B/
デオニシウス(アレキサンドリアの)④346大11.B/
デオニシス→ ヂオニソス神
デオニソス → ヂオニソス神
デオニゾス→ ヂオニソス神
デオニュス → ヂオニソス神
Deonna, W.②63昭12.D/
ヂオニシウス王→ デオヌシオス［シラキイスの］
デオフィルス(帝)④37明12.E/
デカルト(Descartes, Cartésiamisume)②95昭15.B/
②107昭16.B//③93明32.B/
③197大5.B/③314昭16.B//
④346大11.B/④550昭12.B/
④588昭14.B/④606昭15.B/
④645昭17.B/④732[昭3]/
④733[昭3]/
デギュー④398昭2.E/
デクヒア④353大12.C/
デーシーライク④370大14.C/
Desgrippes,G.④507昭10.B
デスセンス → デモスセニ(ン)ス
デズゾイル③71明29.A/
デスチャ子ル③29明20.F/
デステエヌ③82明30.C/
Destrez,J.④486昭9.B/
Deter,Ch.J.④227大1.B/
データ④127明33.B/
デヂャルダン、アルチュール（Desjardins, A.）①272大15.E//③55明26.B/
デッサウ(Dessau, Herman)①349昭7.C//③92明32.A/

③249昭4.C/③259昭6.C/
デッソア(Dessoir)①124明39.A//
③145明41.A/
デッソアル(Dessoir?)④430昭5.B/
Dessoir,Max③247昭4.B/
Dittrich④344大11.A/
デトレイトイー④102明27.C/
デニー④738[昭5]/
Denny,J.(デニー、ジェイムズ)
④296大5.D/④548昭12.B/
デニース王(ディオニュソス・シラキュース王)
②153明4.C/
デニスン、ゼ・エチ③278昭10.A/
デーニッツ④673[明治]/
④704[明治]/
Denifle,H.④256大3.B/
デニング、ダブリ(ル)ュー
①34明16.B//②162明16.B/
②167明18.B//③23明18.B/
④45明15.B/④51明16.B/
④62明19.B/④685[明16]/
④690[明20]/
Decharme,P.④308大6.D/
Deper④394昭2.C/
デビス①31明14.B/
デビス(同志社?)④674[明治]/
④688[明18]/④704[明治]/
デビス、ゼー・デー(J.D.同志社)
④77明22.C/④80明23.B/
④86明24.B/④94明26.B/
デビス、ウキリアム(W.W.)
①223大10.C/①268大15.C//
④382大15.C/
デビニー、エフ・エイチ
④361大13.D/
デフォレスト→ デホレスト
デボーリン①275昭2.B//
②265昭5.B/②266昭5.B/
デホレスト(デフォレスト)、ゼ・エッチ①63明25.B/
①69明26.B//②175明21.B//
④72明21.B/④73明21.C/
④87明24.B/④87明24.C/
④90明25.B/
デホルスト→ デホレスト
デマクリタス→ デモクリタス
デマスセンス → デモスセニ(ン)ス
デマリアス③50明25.C/
デマレータス → デメーター神
Dempf,Alois.④506昭10.B/
④510昭10.B/
デメエテル → デメーター神
デメータ→ デメーター神
デメーター神(デメータ、デマレータス、デメ(一)テ(一)ル、デメエテル、Demeter)
①202大7.B/①229大11.B//
②246大10.B/②274昭7.B//
③64明27.D/③297昭13.D/
③321昭17.D//④367大14.B/
④751[昭10]/
デメ(一)テ(一)ル → デメーター神
デメトリウス(デメトルウス)
①20明9.B//②184明23.C/
②229明42.B/②278昭8.B/
デメトリオス王①57明23.D/
デメトルウス → デメトリウス
デモアルカス③38明22.F/
デモキ(ク)リツス → デモクリタス
デモキリトス → デモクリタス
デモクライトス→ デモクリタス
でもくりたす → デモクリタス
デモクリ(一)タス(デモキ(ク)リツス、デモクリチス、デモクリット、デモクリ(一)ト、デ(一)モクリトス、デモキリトス、デイモクリット、デモクリツス、デーモクレト、デマ

クリタス､デモクライトス、德摩古利多、特摸克利都士、Democritus, Demokritus）
①5［19］/①46明21.B/
①78明29.B/①89明32.B/
①96明34.B/①146明43.B/
①169大3.B/①187大5.B/
①196大6.B/①215大9.B/
①276昭2.B/①286昭3.B/
①287昭3.B/①314昭5.B//
②13昭10.B/②18昭10.B/
②157明10.C/②160明15.B/
②162明15.F/②162明16.B/
②164明17.A/②166明18.B/
②167明18.B/②175明21.B/
②186明23.F/②190明25.B/
②197明27.B/②200明28.B/
②204明30.D/②208明32.B/
②217明36.B/②220明37.B/
②224明39.B/②226明40.B/
②229明42.B/②231明43.B/
②236大2.B/②237大2.E/
②248大11.F/②259昭3.B/
②280昭9.B//③24明18.F/
③38明22.F/③40明23.B/
③54明26.B/③60明27.B/
③99明33.B/③105明34.B/
③171大2.B/③197大5.B/
③213大9.F/③221大11.F/
③222大12.B/③264昭7.B/
③275昭9.B//④46明15.C/
④59明18.B/④63明19.B/
④67明20.B/④76明21.B/
④81明23.B/④87明24.B/
④100明27.B/④101明27.B/
④106明28.B/④110明29.B/
④119明31.B/④122明32.B/
④135明35.B/④138明35.B/
④144明36.B/④148明36.F/
④149明37.B/④162明38.C/
④176明40.B/④184明41.B/
④186明41.B/④192明42.B/
④193明42.B/④195明42.B/
④196明42.B/④200明42.F/
④205明43.B/④228明45.B/
④244大2.B/④254大3.B/
④288大5.B/④320大7.E/
④312大7.B/④314大7.B/
④331大9.B/④346大11.B/
④362大13.E/④365大14.B/
④378大15.B/④389昭2.B/
④427昭5.B/④429昭5.B/
④452昭7.B/④469昭8.B/
④495昭9.D/④500昭9.F/
④505昭10.B/④509昭10.B/
④698[明30]/④742[昭7]/
デモクリチス → デモクリタス
デモクリツス → デモクリタス
デモクリット → デモクリタス
デモクリ(一)ト → デモクリタス
デ(一)モクリトス → デモクリタス
デモクリートス→ デモクリタス
デーモクレトス→ デモクリタス
デモス③26明19.C/
Demos,R.④603昭15.B/
デモスシニ(一)ス → デモスセニ(ン)ス
デモスセース → デモスセニ(ン)ス
でもすせにす → デモスセニ(ン)ス
デモスセニース → デモスセニ(ン)ス
デモスゼニ(一)ス → デモスセニ(ン)ス
デモスセニ(ン)ス(デモセニース、デモスゼンス、デモスゼニ(一)ス、デモステネ(一)ス、ゼモステンス、デモスゼ子ス、デモンセス、デモゼニ(一)ス、デ

井スゼニース、デモスデ子ス、デモスシニ(一)ス、デモゼ子ス、デモスゼネス、テモステネス、デモスセーンス、デモセニス、デモステース、デスセンス、デモステーンス、デモスゼ子ス、デモスチューネス、デモステ子ス、デモスセ子ース、デモンスニ子ス、デモステーネス、デモツセンス、デモスゼン、レ[デ?]マスセンス、デモスニース、デモスセーヌ、デモスセ子(一)ス、デモステニース、デモツセニス、デモスセンス、デモステンス、デモセネス、デモッスセンス、特摸斯的涅、特摸斯的士、丁莫斯典、泥蒙西筮尼斯、Demosthenes、Demothène)①5[19]/
①23明10.C/①28明12.C/
①30明13.C/①31明14.C/
①33明15.C/①36明17.C/
①40明19.C/①43明20.C/
①47明21.C/①52明22.C/
①55明23.B/①56明23.C/
①58明23.E/①60明24.C/
①65明25.C/①70明26.C/
①74明27.C/①86明31.C/
①94明33.C/①97明34.C/
①98明34.D/①100明35.B/
①147明43.C/①152明44.C/
①158明45.C/①204大7.C/
①239大12.C/①291昭3.C/
①341昭7.A/①348昭7.C/
①354昭7.E/①357昭8.A//
②61昭12.C/②73昭13.C/
②98昭15.C/②108昭16.C/
②109昭16.C/②121昭17.C/
②143昭19.C/②152明1.C/
②159明13.C/②160明15.C/
②160明15.E/②165明17.C/
②170明19.B/②170明19.C/
②171明19.D/②172明19.E/
②176明21.C/②180明22.C/
②184明23.D/②185明23.E/
②186明24.A/②187明24.C/
②188明24.D/②192明25.E/
②194明26.B/②195明26.C/
②198明27.C/②199明27.D/
②201明28.E/②208明32.C/
②209明32.E/②215明35.B/
②220明37.C/②222明38.C/
②224明39.A/②248大11.E/
②259昭3.C//③8明9.C/
③9明9.E/③12明10.E/
③13明11.C/③16明13.C/
③17明14.C/③18明14.D/
③18明15.C/③31明21.C/
③35明22.C/③36明22.C/
③37明22.D/③40明23.C/
③41明23.C/③45明24.C/
③47明24.E/③47明25.A/
③48明25.B/③50明25.C/
③51明25.D/③55明26.B/
③60明27.B/③68明28.D/
③71明29.B/③76明29.D/
③79明30.A/③88明31.C/
③90明31.D/③91明32.A/
③120明36.C/③121明36.C/
③147明41.C/③248昭4.C/
③263昭7.A/③268昭8.A/
③276昭9.C/③313昭16.A//
④32明10.C/④35明11.E/
④42明14.B/④42明14.C/
④43明14.C/④45明15.B/
④46明15.C/④48明15.C/
④52明16.C/④56明17.C/
④58明17.F/④60明18.D/
④64明19.C/④67明20.B/
④68明20.C/④70明20.D/

④71明20.E/④73明21.C/
④74明21.C/④75明21.E/
④77明21.B/④95明26.B/
④96明26.C/④109明29.B/
④110明29.B/④111明29.B/
④112明29.C/④112明29.D/
④124明32.B/④141明35.E/
④163明38.D/④171明39.C/
④173明39.F/④187明41.C/
④207明43.B/④208明43.C/
④226明45.B/④235明45.C/
④269大3.E/④270大4.A/
④278大4.C/④300大6.B/
④303大6.B/④322大8.B/
④347大11.C/④376大15.B/
④379大15.C/④402昭3.B/
④414昭4.B/④450昭7.A/
④466昭8.A/④491昭9.C/
④492昭9.C/④530昭11.B/
④535昭11.C/④572昭13.C/
④613昭15.C/④627昭16.B/
④647昭17.C/④660昭18.C/
④679[明10]/
デモスセーヌ → デモスセニ(ン)ス
デモスセ子(一)ス → デモスセニ(ン)ス
デモスゼネ(子)ス → デモスセニ(ン)ス
デモスゼン → デモスセニ(ン)ス
デモスセンス→ デモスセニ(ン)ス
デモスセーンス → デモスセニ(ン)ス
デモスゼンス → デモスセニ(ン)ス
デモスチューネス → デモスセニ(ン)ス
デモステース → デモスセニ(ン)ス
デモステニース → デモスセニ(ン)ス
デモステネス → デモスセニ(ン)ス
デモステ子ス → デモスセニ(ン)ス
デモスデ子ス → デモスセニ(ン)ス
デモステーネス → デモスセニ(ン)ス
デモステネ(一)ス → デモスセニ(ン)ス
デモステ子(一)ス → デモスセニ(ン)ス
デモステンス→ デモスセニ(ン)ス
デモステーンス → デモスセニ(ン)ス
デモスニース → デモスセニ(ン)ス
デモスラン②158明11.C/
デモセニ(一)ス → デモスセニ(ン)ス
デモゼ(セ)ニ(一)ス → デモスセニ(ン)ス
デモセネス→ デモスセニ(ン)ス
デモゼ子ス → デモスセニ(ン)ス
デモッスセンス→ デモスセニ(ン)ス
デモツセニス→ デモスセニ(ン)ス
デモツセンス → デモスセニ(ン)ス
デモンスニ子ス → デモスセニ(ン)ス
デモンセス → デモスセニ(ン)ス
デュアラント(ド)→ ヂュア(一)ラント
デュアメル(ヂュアメル)
②93昭15.B//④594昭14.D/

デュウェ(イ)ー(ヂュウヰー)
①89明32.A/①209大8.B/
①210大8.B/①286昭3.B/
デュギー、レオン②258昭2.E//
④733[昭3]/
Declarenil, J.③116明35.E/
Ducondray, M.G.①39明19.B/
De Marchi③127明37.B/
Dupréel③223大12.B/
③230大14.B/
Duprat, G.L.③93明32.B/
デュモリン②70昭13.B/
②133昭18.B//④605昭15.B/
④644昭17.B/④657昭18.B/
④658昭18.B/④665昭19.B/
④668昭19.D/
デュモン②132昭18.B
デュラント→ ヂュア(ー)ラント
デューランド→ ヂュア(ー)ラント
Durand①307昭4.D/
Durry, M.③265昭7.C/
デュルケム②82昭14.B//
④585昭14.B/④586昭14.B/
デュルプヘルト②98昭15.C/
④806[昭15]/
Drexler, D.③296昭13.C/
Duvall, T.G.②71昭13.B/
Drumann③102明33.C/
デランス②165明17.C/
デランダ①115明37.C/
Doe(ö)ring, A.③73明29.B/
③81明30.B/③87明31.B/
③93明32.B/
デール④97明26.C/
Dölger,F.J.④226大1.B/
デル・レー(レエ、del Re, A.
①289昭3.B/①294昭3.D/
①297昭3.E/①321昭5.D/
①336昭6.D//③244昭3.D//
④420昭4.D/④443昭5.D/
④446昭6.D/④561昭12.D/
デルタイ→ ディルタイ
デルテー③70明29.A/
デルブリュック(Delbrück, Hans)
①150明44.A/①210大8.C/
①247大13.C//③114明35.C/
③226大13.C/③259昭6.C/
③265昭7.C/
デルーメ②207明31.E/
デル、ヴェキオ④638昭16.E/
デルン、アルンデル②260昭3.D/
デルンブルヒ①310昭4.E/
Deresényi, H.M.②38昭11.B/
デロリエ、フィリップ
②55昭12.B/②70昭13.B/
デロルム③9明9.E/
デヴァス④436昭5.E/
デヴィス④325大8.C/
④381大15.C/
デヲクレチアン→ ヂオクレチアン帝
デヲドル → ディオドロス
デ井オゲネス→ ヂオ(ヲ)ゲネス
デ井スゼニース → デモスセニ(ン)ス
デ井(ヰ)ッドソン③218大11.B//
④722[大11]/
デ井ニサス→ ヂオニソス神
デ井ヲゼニス→ ヂオ(ヲ)ゲネス
デンプ④644昭17.B/
ドイシャン→ ドイ(ッ)セン
ドイ(ッ)セン(ドイシャン)、パウル
①96明34.B/①210大8.B/
①216大9.B//③222大12.B//
④106明28.B/④175明40.B/
④185明41.B/④300大6.B/
④324大8.B/
Deubner, L.②19昭10.B/
Doyseus,G.④394昭2.C/
ドイル、コナン④711[大1]/
Doyle, Phyllis①386昭9.E/
ドウソン→ドーソン

ドウデエ → ダウデー
ドー(ウ)マン①63明25.B/
①64明25.B//③55明26.B//
④91明25.B/
ドウマン、アイ③48明25.B/
ドゥ・モルガン④418昭4.C/
Dzintzko,K.④609昭15.C/
ドエーリング①124明39.A/
ドオスン→ドーソン
ドオデエ → ダウデー
ドオデン教授③77明29.D/
ドガ③253昭5.C/
ド・カストル②171明19.D/
Dow,S.④590昭14.C/
Dawson, C.①345昭7.B/
Doucondray,Gustav④67明20.B/
ドゴビリー、アサー④361大13.D/
ド・サシ④553昭12.B/
④570昭13.B/
ドストイェヴスキイ
④547昭12.A/
ドーソン(ドウソン、ドオスン)、
クリストファ(一)
(Dowson,A.H.Ch.)
②19昭10.B/②143昭19.C//
③326昭19.C//④103明27.D/
④484昭9.B/④437昭6.A/
④510昭10.B/④583昭14.B/
④613昭15.C/④614昭15.C/
④643昭17.B/④644昭17.B/
④667昭19.C/④769[昭16]/
ドーソン、ウィリアム
④80明23.B/
ドッヂ、ヂョセフ・スミス
④104明28.A/
ドッド④94明26.B/
Dodd,C.H.②53昭12.A//
④547昭12.A/④759[昭12]/
Dodds, E.R.②281昭9.B//
④486昭9.B/
ドドネス③125明36.F/
ドニー③229大14.B/
ドニクリンソン①15明5.G/
ド子ラス、クーヂヤシアス
③85明30.E/
ドノーヴァン④477昭8.D/
ドーフ → ヅーフ・H
ド(ー)プシュ(Dopsch, Alfons.アルフォンス)①334昭6.C/
①364昭8.C//②66昭12.E/
②77昭13.E/②133昭18.C/
②147昭20.C//③221大11.E/
③251昭4.E/③261昭6.E//
④464昭7.E/④500昭9.E/
④536昭11.C/④561昭12.E/
④577昭13.E/④596昭14.E/
④625昭16.A/④653昭17.E/
④715[大4]/④766[昭15]/
④799[昭6]/
Dopschütz,E.von④237大1.D/
ドブロリウボフ③37明22.D/
ドーマン④695[明25]/
ドミシアン → ドミツアン(帝)
ドミチニアン → ドミツアン
(帝)
ドミツアン(帝)(ドミチニアン、
ドミシアン、ドミテアン、
ドミティリアヌス、
Domintian)
②156明8.D//③9明9.E/
③104明33.E/③111明35.B//
④40明14.B/④56明17.C/
④136明35.B/④292大5.C/
④523昭11.A/
ドミテアン(帝) → ドミツアン
ドミティリアヌス→ ドミツアン
(帝)
ドミニク派④504昭10.A/
ドミニック、ルネ④631昭16.B/
ドミヌス④618昭15.D/
ドミーユ④211明43.D/
ド・メーストル④222明44.D/
Dürr,E.④572昭13.C/
ドラー、ヘンドリック

①205大7.D/
ドライデン①52明22.D/
①291昭3.C//②188明24.D/
②213明34.C//③42明23.D//
④111明29.C/④138明35.C/
④724[大13]/
Drauson,Arthur(Dr.)
④211明43.D/
ドラクマン、ホルガア
③235大15.C/
ドラコ(ー) →ドロコ(ン)
ドラコーン →ドロコ(ン)
ド・ラマルゼール④320大8.A/
ドラモンド、ヘンリー
④375大15.B/
ドラン、H.①374昭9.B/
ドラント、ウィル→ヂュア(ー)ラント
Doland,W.A.①138明41.B/
ドリヨール氏④715[大4]/
ドリュフォロス③297昭13.D/
ドリンクウオータ、ジョン
①204大7.C/
ドルアール④123明32.B/
ドルシュ②102昭15.F/
ドルーシュ、ハンス
②224明 39.B/
ドルーズス帝②194明26.B/
ドルナア、アウグスト(Dorner,A.)
③181大3.B//④255大3.B/
ドルフェルド④64明19.C/
Dredieu,P.④252大2.E/
Dornseiff, F.③298昭13.D/
ドレイ、ギュスタヴ
④727[昭1]/
ド・レゼー、ドルワール(ドルワイド、ドルワル、ドワルト)
④114明30.B/④128明33.B/
④131明34.B/④182明41.A/
④214明44.B/
ドレーパー(Dreher, E.)
① 172明20.B//③55明26.B/
Draper,J.W.(ドレーパー、ジョン・ウイリアム)
④601昭15.A/④543昭11.F/
Drever, J.(ドレバル、ジョン・ウヒルリアム、戎維廉違勒巴兒)
③166明45.B//④50明16.B/
Dräseke, J.③182大3.B/
Drechsler, J.②18昭10.B/
Drerup, E.③172大2.B/
Drews,Arthur①142明42.B//
④235大1.C/④243大2.B
ドロイゼン(ドロヱセン、Droysen, Johann Gustav)
①292昭3.C/①318昭5.C/
①372昭9.A//②25昭10.D/
②43昭11.C/②60昭12.C/
②61昭12.C/②73昭13.C/
②82昭14.B/②85昭14.C/
②98昭15.C/②109昭16.C/
②110昭16.C/②135昭18.C/
②260昭3.C/②285昭9.C//
③23明18.C/③254昭5.C//
④279大4.C/④293大5.C/
④406昭3.C/④424昭5.A/
④493昭9.C/④556昭12.C/
④557昭12.C/④563昭12.E/
④566昭13.A/④572昭13.C/
④574昭13.C/④616昭15.C/
④661昭18.C/④758[昭12]/
④803[昭12]/
ドロコー → ドロコ(ン)
ドロコ(ン)(ドラコ(ー)、ドロコー、ドラコーン、ダラコ)
①25明10.E//②177明21.E/
②192明25.E/②196明26.E/
②233明44.E//③9明9.E//
④35明11.E/④89明24.E/
ドロス④243大2.B/
ドロテア → ゲエテ
ドロモンド、プリンシパル

③30明21.B/
ドロービッシュ④126明33.B/
④135明35.B/
ドロエセン→ドロイゼン
ドンキホーテ①127明39.B/
ドン・ボスコ社④496昭9.D/
［E］Eicken,H.v.④615昭15.C/
アイスレル（Eisle, R.）
③104明33.G/③170明45.G/
③188大3.G/③220大11.D/
③224大12.D//④242大2.B/
④269大3.G/
Eibl,M.④264大3.C/
Eitrem, S.③249昭4.C/
③251昭4.D/
Eyre, E.②29昭10.E/
アイレス、クリストワン
④728[昭1]/
Einhorn, David③215大10.B/
アインシュタイン④346大11.B/
アピカリア(*エピクロス, 亞比加利耶）→ エピキュラス
イアパミノンダス→ エパミノンダス
いうくりど → ユークリット（ド）
イウークリッド→ ユークリット(ド)
イウ(エ)クリッド → ユークリット(ド)
イウリピデ(ー)ス(ユー(ウ)リピデ(ー)ス、オイリ(レ)ピデス、イフリピデス、ユーリピデ井ース、エウリピデ(ー)ス、ユリピデ(ー)ス、ユーリピード、ユーリパ イデス、エウリビデス、ゆりーぴでーす、オイリピデース、ユーリピデイス、ユウリピデス、ユウリピデセース ユリピデエス、迪利彼泥、Euripides)［中村吉藏、メデキヤ(ア)、でうす・えくす・まあきなあ］
①5［19］/①47明21.C/
①60明24.B/①66明25.D/
①79明29.D/①83明30.C/
①139明41.D/①184大4.D/
①224大10.D/①231大11.D/
①232大11.D/①257大14.D/
①258大14.D/①270大15.D/
①278昭2.D/①295昭3.D/
①300昭4.A/①312昭5.A//
②25昭10.D/②26昭10.D/
②74昭13.D/②86昭14.D/
②98昭15.D/②125昭17.D/
②169明19.B/②170明19.B/
②181明22.D/②185明23.D/
②191明25.D/②216明35.C/
②220明37.D/②232明44.B/
②235明45.F/②285昭9.D//
③12明10.E/③14明11.E/
③28明20.D/③37明22.D/
③47明25.A/③50明25.C/
③58明26.D/③59明27.A/
③66明28.B/③72明29.B/
③75明29.D/③134明38.D/
③135明38.D/③172大2.B/
③175大2.C/③193大4.D/
③228大13.D/③269昭8.A/
③294昭13.B//④41明14.B/
④46明15.B/④67明20.B/
④93明25.D/④95明26.B/
④165明38.D/④201明43.A/
④308大6.D/④351大12.B/
④361大13.D/④377大15.B/
④383大15.D/④396昭2.D/
④400昭3.A/④407昭3.D/
④451昭7.A/④466昭8.A/
④495昭9.D/④517昭10.D/
④581昭14.A/④586昭14.B/
④590昭14.C/④642昭17.A/
④685昭23.D/④656昭18.A/

④698[明30]/④779[昭20]/
いーくりーど→ ユークリット(ド)
イースト、ゴルトムント(ゴルドン?)
②43昭11.C//④535昭11.C/
④613昭15.C/
イーストウッド④583昭14.B/
④607昭15.B/
イーストレーキ①50明21.G//
②177明21.D/②182明22.G/
②186明23.G/②189明24.G/
②192明25.E/②199明27.G/
②203明29.G/②207明31.G/
②214明34.G//③91明31.G//
④89明24.G/④121明31.G/
④158明38.B/
イーストン①195大6.B/
イーソン王③86明30.F//
④114明30.B/
イー子、キリアム④97明26.C/
イバビノンダス→ エパミノンダス
イパミナンダス → エパミノンダス
イパミノンダス → エパミノンダス
イビー、シー・エス②174明20.D/
イービ(Eby)、チャールズ
④51明16.B/④686[明17]/
イピキウラス → エピキュラス
イピキュラス→ エピキュラス
イピクチータス → エピクテート
イピゲネイア → イフキゲニヱ
Iphigenie Tauris → イフキゲニヱ
Ihimels,D.I. ④273大4.B/
イピュクス④163明38.D/
イフィゲニア→ イフキゲニヱ
イフィゲニイ → イフキゲニヱ
イフィゲ(一)ニエ → イフキゲニヱ
イフィゲニー → イフキゲニヱ
イフィゲ(一)ニエ → イフキゲニヱ
イフィゲネイア → イフキゲニヱ
イフィゼニア→ イフキゲニヱ
イフィニエア(タウリス) → イフキゲニヱ
イフゲニア→ イフキゲニヱ
イフリピデス → イウリピデ(一)ス
イフ井ゲ(一)ニ → イフキゲニヱ
イフ井ゲ(一)ニエ(ヱ) → イフキゲニヱ
イフキゲニヱ(イフィゲ(一)ニエ、イフィゲネイア、イピゲネイア、イフィゲニー、イフ井ゲ(一)ニエ(ヱ)、イフィゲニエ、イフィゲ(一)ニイ、イフィゼニア、イフ井ゲ(一)ニ、イフィゲニ、イフィニエア、イフゲニア、Ephigenia, Iphigenia in Tauris)、アウリケ、タウリス)
①176大3.D/①177大3.D/
①198大6.D/①248大13.D/
①257大14.D/①259大14.D/
①278昭2.D/①279昭2.D/
①312昭5.A//②25昭10.D/
②44昭11.D/②47昭11.D/
③84明30.D/②86昭14.D/
②98昭15.D/②124昭17.D/
②270昭6.D//③186大3.D/
③211大8.D/③216大10.D/
③220大11.D//④158明38.B/
④172明39.D/④201明43.A/
④268大3.D/④271大4.A/
④282大4.D/④311大7.A/

④327大8.D/④538昭11.D/
④642昭17.A/④650昭17.D/
④656昭18.A/④714[大3]/
イラスモス → エラスマ(ム)ス
イラトステニス → エラトスセニーズ
イーヴァンス → エヴァンス
イヴァンズ → エヴァンス
インペドクレス → エンペドクレ(ル)ス
エアラバガルス②269昭6.B/
エーアリヒ④454昭7.B/
エイ、ホッシュ④633昭16.C/
英國無名氏④55明17.C/
英國文部省②240大4.F/
エイスクラピュース → エピキュラス
エイスパス①61明24.C/
Eitrern,S.④417昭4.C/
Einise,Geyser④377大15.B/
Eibl, H.②283昭9.B/
エイレンボス④623昭15.C/
エウオラ圖書舘④728[昭1]/
エウクリヂウス → ユークリット(ド)
エウクリッド → ユークリット(ド)
エウジュリアン④345大11.B/
エウセビウス(Eusebius Phamphili)
②109昭16.C//④249大2.C/
④380大15.C/④382大15.C/
④492昭9.C/④506昭10.B/
④556昭12.C/④612昭15.C/
④613昭15.C/④647昭17.C/
エウチ(ュ)デーモス（エウデモス)①104明36.B/
①124明39.B/①243大13.B/
①314昭5.B//②118昭17.B/
②282昭9.B//④486昭9.B/
エウチプロン → エウチュフローン
エウチュフローン(エウチプロン、Euthyphro、Euthyphron)
①104明36.B/①124明39.B/
①243大13.B/①373昭9.A//
②81昭14.B/②118昭17.B/
②130昭18.B//③239昭2.B/
③273昭9.A/
エウデモス → エウチ(ュ)デーモス
エウドキュス(エウドクソス、ユウドクサス、ゆうどきすゆうどくそす Eudoxos v. Kunidos、歐獨屈斯)
①10[165]//②129昭17.F/
②282昭9.B//③38明22.F//
④486昭9.B/④578昭13.F/
エウドクソス(メガラの)
④82明23.B/
エウドクソス → エウドキュス
エウメニデス①278昭2.D/
エウリゲナ②70昭13.B//
④351大12.B/
エウリピデ(一)ス → イウリピデ(一)ス
エウリビデス → イウリピデ(一)ス
エウリピード→ イウリピデ(一)ス
エウロパ③78明29.F/
Eehardt, L.③85明30.E/
エエベルヒ②168明18.E/
エカテリナ(聖女) ④47明46.C/
エカルト②259昭3.B/
エクオラス③38明22.F/
Egmont④299大6.A/
エクリーショス→ ル(一)クレチウス
エークリド → ユークリット(ド)
エケモアヌ③229大14.B/
③231大14.D/

エケルマン → エッケルマン
Egenmann, Fr.②38昭11.B/
エゴン②228明41.B/
エシュロス②170明19.B/
エス、チー①48明21.D/
エスクツラ(ソフォクレス)
④93明25.D/
エスチャイラス①83明30.C/
エスツペルテス①133明40.C/
Esnelin, A.③113明35.B/
Espinas, A.③67明28.B/
エゼリア(神)②248大11.E/
エチプラート③40明23.B/
エヂポス → ソホフレス
エッカーマン → エッケルマン、J.P.
Eck, S.③124明36.D/
エックハルト、マイスター
②71昭13.B//④438昭6.B/
④658昭18.B/
エッケルマン(エケルマン)、J.P.
①149明43.D/①232大11.D/
①279昭2.D//②44昭11.D/
②99昭15.D/②111昭16.D//
③148明41.D/③152明42.D/
③208大7.D/③220大11.D/
③224大12.D//④210明43.D/
④370大14.D/④575昭13.D/
④662昭18.D/
エッセネ教團(派)④355大12.E/
④306大6.C/④484昭9.B/
エッダ(北歐神話)④673[明治]/
エッピングハウス、ヘルマン
③71明29.A/③151明42.B/
Edith, H.③124明36.D/
エディプス→ ソホフレス
Edelsheim④236大1.C/
Edgarick④320大7.F/
エドキンス、ジョセフ(艾約瑟)
②152[14507,14510,14513,14514,14518,14522]/
エトストラートス③154明43.B/
艾約略②154明6.B/
エニアス(エニュース?、エ子アス?)④296大5.D/
エニュース②165明17.C/
エ子アス③36明22.C/
エネカ → セネ(子)カ
エパマインダス → エパミノンダス
エパミノンダス(イパミナンダス、エパマインダス、イパミノンダス、イアパミノンダス、イバビノンダス、Epaminondas)
①40明19.C/
①94明33.C/①101明35.C/
①114明37.C/①231大11.C//
②121昭17.C/②169明19.B/
②198明27.C/②206明31.C/
②208明32.C/②210明33.C/
②220明37.C//③36明22.C/
③48明25.B/③55明26.B/
③74明29.C/③94明32.C/
③161明44.C/③175大2.C//
④32明10.C/④54明16.F/
④77明21.B/④83明23.C/
④102明27.C/④124明32.C/
④154明37.C/④208明43.C/
④332大9.B/④510昭10.B/
④627昭16.B/
エピアネス王④432昭5.C/
エピイキウキャン派 → エピキュラス
エピキウラス → エピキュラス
エピキウリアン → エピキュラス
エピキクテタス→ エピクテート
エピキュ(ウ)ル → エピキュラス
エピキュエロス → エピキュラス
エピキューラス → エピキュラス

エピキュ(一)ラス(エピキュ(ウ)ル)、エヒキュラス、エピキウラス、エピク(一)ロス、エピクルス、エピクレース、エピクール、イピキウラス、エピキウリアン、エピキュ(一)ロス、エピクル、エピキュ(一)ル、エヒクル、エヒクリアン、エピクウル、エピキュリス、エピキュリヤス、エピキュリ井ス、エピキュローズ、イピキュラス、エピクルルス、エピクレア、エピクロース、エピキュエロス,エイスクラピュース、エピキュリヤニズ、エピイキウキャン派、エピクレイア學派、エピキュリアン派、エピキュレイス派、エピクーロス學派、エピクリアン派、エピクルス派、エピクレス學派、エピクロス學派、エピクロス派、エピクロス主義、エペキュリアン主義、Epikuros學派、Epicure、葉皮休綠斯、以彼古羅、彼古羅、厄比鳩底、埃比哥列斯、亞比加利耶)[マリウス、原子、アタラクシア、古代唯物論]
①9[142]/①31明14.B/
①36明17.E/①42明20.B/
①46明21.B/①50明22.B/
①51明22.B/①55明23.B/
①57明23.D/①58明23.E/
①60明24.B/①69明26.B/
①78明29.B/①90明32.B/
①96明34.B/①100明35.B/
①105明36.B/①111明37.B/
①119明38.B/①125明39.B/
①130明40.B/①131明40.B/
①170大3.B/①187大5.B/
①195大6.B/①209大8.B/
①210大8.B/①215大9.B/
①236大12.B/①245大13.B/
①249大13.E/①253大14.B/
①266大15.B/①275昭2.B/
①276昭2.B/①282昭2.E/
①287昭3.B/①288昭3.B/
①301昭4.B/①304昭4.B/
①314昭5.B/①345昭7.B/
①359昭8.B/①373昭9.B//
②11昭10.B/②34昭11.B/
②40昭11.B/②71昭13.B/
②84昭14.B/②105昭16.B/
②106昭16.B/②148[14467]/
②156明8.B/②160明15.B/
②162明16.B/②166明18.B/
②167明18.B/②170明19.B/
②175明21.B/②178明22.B/
②183明23.B/②190明25.B/
②192明25.D/②194明26.B/
②196明26.E/②197明27.B/
②199明28.B/②200明28.B/
②200明28.C/②203明29.E/
②207明31.D/②207明31.E/
②207明32.B/②208明32.B/
②212明34.B/②215明35.B/
②217明35.E/②222明38.B/
②224明39.B/②226明40.B/
②230明42.E/②234明45.B/
②278昭8.B/②280昭9.B//
③30明21.B/③33明21.F/
③35明22.B/③40明23.B/
③44明24.B/③45明24.B/
③49明25.B/③57明26.D/
③80明30.B/③81明30.B/
③87明31.B/③94明32.C/
③97明32.D/③101明33.B/
③106明34.B/③118明36.B/

③119明 36.B/③126明37.B/
③138明39.B/③145明40.F/
③146明41.B/③155明43.B/
③156明43.C/②158明13.B//
③160明44.B/③163明45.B/
③165明45.B/③177大2.D/
③181大3.B/③182大3.B/
③183大3.B/③189大4.B/
③209大8.B/③212大9.B/
③214大10.B/③218大11.B/
③219大11.B/③223大12.C/
③231大14.D/③270昭8.B/
③280昭10.B/③314昭16.B//
④26[24997]/④30明8.B/
④42明14.B/④46明15.B/
④51明16.B/④52明16.B/
④60明18.D/④63明19.B/
④67明20.B/④72明21.B/
④81明23.B/④86明24.B/
④95明26.B/④96明26.B/
④98明26.D/④99明27.B/
④114明30.B/④118明31.B/
④119明31.B/④122明32.B/
④123明32.B/④123明32.B/
④127明33.B/④137明35.B/
④138明35.B/④141明36.A/
④142明36.B/④144明36.B/
④149明37.B/④151明37.B/
④159明38.B//④160明38.B/
④169明39.B/④170明39.B/
④173明39.E/④175明40.B/
④177明40.B/④185明41.B/
④186明41.B/④192明42.B/
④193明42.B/④195明42.B/
④200明42.F/④203明43.B/
④204明43.B/④205明43.B/
④214明44.B/④216明44.B/
④217明44.B/④218明44.B/
④227明45.B/④229明45.B/
④230明45.B/④233明45.B/
④241大2.A/④241大2.B/
④244大2.B/④245大2.B/
④257大3.B/④274大4.B/
④275大4.B/④289大5.B/
④313大7.B/④314大7.B/
④317大7.C/④320大7.E/
④323大8.B/④325大8.B/
④331大9.B/④343大11.A/
④351大12.B/④355大12.E/
④357大13.B/④360大13.B/
④365大14.B/④376大15.B/
④391昭2.B/④400昭3.B/
④402昭3.B/④410昭3.E/
④415昭4.B/④432昭5.C/
④453昭7.B/④469昭8.B/
④500昭10.B/④505昭10.B/
④511昭10.B/④516昭10.D/
④522昭11.A/④525昭11.B/
④531昭11.B/④532大11.B/
④551昭12.B/④563昭12.E/
④569昭13.B/④583昭14.B/
④628昭16.B/④652昭17.E/
④666昭19.B/④679[明10]/
④683[明13]/④684[明13]/
④687[明18]/④698[明30]/
④711[明45]/④742[昭7]/
④774[昭[昭17]/

エピキュリアン派 → エピキュラス
エピキュリ井ス→ エピキュラス
エピキュリス→ エピキュラス
エピキュリヤス → エピキュラス
エピキュリヤニズム→ エピキュラス
エピキュ(一)ル → エピキュラス
エピキュルス → エピキュラス
エピキュレイス派→ エピキュラス
エピキュ(一)ロス → エピキュラス
エピキュローズ→ エピキュラス
エピクウル → エピキュラス

エピクテタス → エピクテート
エピクテータス → エピクテート
エピクテート(エピクテタス、エピクテートス、エピクテータス、エピクテトス、エピクテット、イピクチータス、エピクテト、エピキクテタス、エピクテェトス、エピクテツス、エペクテタス、エピクテイテス、Epictetus、Epiktet)①54明23.B/①64明25.B/①69明26.B/①96明34.B/①99明35.B/①104明36.B/①105明36.B/①110明37.B/①112明37.B/①118明38.B/①119明38.B/①131明40.B/①126明39.B/①132明40.B/①136明41.B/①137明41.B/①142明42.B/①146明43.B/①155明45.B/①156明45.B/①180大4.B/①228大11.B/①230大11.B/①236大12.B/①241大12.D/①274昭2.B//②53昭12.B/②179明22.B/②198明27.C/②207明31.E/②215明35.B/②217明36.B/②220明37.B/②226明40.B/②228明41.B/②229明42.B/②231明43.B/②256昭2.B/②261昭4.B/②265昭5.B/②273昭7.B//③7明8.F/③17明14.B/③54明26.B/③63明27.D/③104明33.F/③126明37.B/③138明39.B/③146明41.B/③155明43.B/③160明44.B/③164明45.B/③167明45.B/③174大2.B/③183大3.B/③191大4.B/③238昭2.B/③239昭2.B/③246昭4.A//④55明17.B/④68明20.C/④80明23.B/④92明25.B/④101明27.B/④105明28.B/④130明34.B/④142明36.B/④150明37.B/④168明39.B/④176明40.B/④191明42.B/④194明42.B/④196明42.B/④209明43.C/④215明44.B/④220明44.C/④229明45.B/④233明45.B/④246大2.B/④250大2.C/④258大3.B/④340大10.C/④344大11.B/④364大14.A/④375大15.B/④436昭5.E/④489昭9.B/④528昭11.B/④569昭13.B/④570昭13.B/④606昭15.B/④672[明治]/④683[明13]/④689[明治]/

エピクテイテス→ エピクテート
エピクテェトス→ エピクテート
エピクテト→ エピクテート
エピクテツス→ エピクテート
エピクテット → エピクテート
エピクテトス → エピクテート
エピクテートス → エピクテート
エピクユル → エピキュラス
エピクラス → エピキュラス
エピクラトス④101明27.B/④553昭12.B/
エピクラルス→ エピキュラス
エヒクリアン → エピキュラス
エピクリアン派 → エピキュラス
エヒクリス → エピキュラス
エヒクル → エピキュラス
エピクル → エピキュラス
エピクール → エピキュラス
エピクルス → エピキュラス
エピクルス派 → エピキュラス
エピクルルス→ エピキュラス
エピクレア→ エピキュラス

エピクレイア學派 → エピキュラス
エピクレ(一)ス → エピキュラス
エピクレス學派→ エピキュラス
エピク(一)ロス → エピキュラス
エピクロス學派→ エピキュラス
エピクロス主義→ エピキュラス
エピクロス派→ エピキュラス
エピクロース→ エピキュラス
エピクーロス學派→ エピキュラス
エピシオス③40明23.B/
エピファニス②272昭6.F/
エピファノウィチ④693[明23]/
エピメシウス④658昭18.B/
エピメ(一)トイス③117明36.B//④313大7.B/
エピメニデス②44昭11.D/②234明45.B//④72明21.B/④340大10.C/
エピリテトス③29明21.B/
エピリュス(王)③14明11.E/
Epheraim, Charlotte②63昭12.D/
エヒロクテトス④100明27.B/
エフル、ロポルトソン④137明35.B/
Ephorus④611昭15.C/
エペキュリアン主義→ エピキュラス
エペクテタス→ エピクテート
エヘス④52明16.C/
エヘン・アートン①158明45.C/
エーベルト③259昭6.C/
Ebert,A.④615昭15.C/
エポレット③53明26.A/
エマアスン → エメルソン
エマアソン → エメルソン
エマ(一)スン → エメルソン
エマソン→ エメルソン
エマトン博士④152明37.B/
Emmanul,M.④371大14.D/
エマリー、シー・エッチ②175明21.A/
エマルソン → エメルソン
エーマン、ペ③45明24.B/
エミール②251大14.B//④356大13.B/
Emge, C.A.②50昭11.E/
エムヒドリクス→ エンペドクレ(ル)ス
エムペドクリ(レ)ス → エンペドクレ(ル)ス
エムピドークル → エンペドクレ(ル)ス
エムピドークルス → エンペドクレ(ル)ス
エムピドークル → エンペドクレ(ル)ス
Empiricus,Sextus(エムピリクス、S.)④184明41.B/④185明412.B/④486昭9.B/
エムペドクールス → エンペドクレ(ル)ス
エムペドークルス → エンペドクレ(ル)ス
エムペドクレ(一)ス → エンペドクレ(ル)ス
エムペドークレス → エンペドクレ(ル)ス
エムペドール→ エンペドクレ(ル)ス
エメペドクレス→ エンペドクレ(ル)ス
Emmerrich,E.④484昭9.B/
エメルソン(エマ(一)ソン、エアスン、エマルソン、エモルソン、エマアソン、エマアスン、エマ(一)スン、惠麻孫、惠馬遜、Emerson)、ラルフ・ワルド(R.W.)①43明20.B/①47明21.B/

①51明22.B/①55明23.B/
①56明23.C/①57明23.D/
①61明24.C/①62明24.D/
①64明25.B/①66明25.D/
①69明26.B/①70明26.C/
①73明27.A/①73明27.B/
①83明30.C/①94明33.B/
①101明35.B/①112明37.B/
①121明38.D/①126明39.B/
①130明40.B/①131明40.B/
①132明40.B/①155明45.B/
①156明45.B/①162大2.B/
①168大2.E/①172大3.B/
①179大4.B/①194大6.B/
①195大6.B/①203大7.B/
①205大7.C/①214大9.A/
①215大9.B/①229大11.B/
①253大14.B/①255大14.B/
①265大15.B/①274昭2.B/
①301昭4.B/①342昭7.B//
②15昭10.B/②36昭11.B/
②146昭20.B/②158昭12.C/
②159明14.B/②166明18.A/
②176明21.B/②178明22.B/
②182明23.B/②187明24.B/
②190明25.B/②197明27.B/
②198明27.B/②200明28.B/
②204明30.B/②206明31.D/
②210明33.B/②217明36.B/
②222明38.B/②226明40.B/
②240大5.B/②250大13.A/
②256昭2.B/②262昭4.D/
②285昭9.D//③30明21.B/
③32明21.D/③34明22.A/
③35明22.B/③39明23.A/
③39明23.B/③40明23.B/
③44明24.B/③45明24.B/
③45明24.C/③46明24.D/
③49明25.B/③50明25.C/
③51明25.D/③54明26.B/
③55明26.B/③59明27.A/
③60明27.B/③60明27.B/
③62明27.D/③63明27.D/
③64明27.D/③64明27.E/
③65明28.B/③68明28.D/
③72明29.B/③80明30.B/
③87明31.B/③88明31.C/
③96明32.D/③97明32.D/
③98明33.A/③105明34.B/
③109明34.D/③112明35.B/
③117明36.B/③127明37.B/
③132明38.B/③137明39.B/
③138明39.B/③142明40.B/
③145明41.A/③146明41.B/
③147明41.B/③150明42.B/
③155明43.B/③156明43.B/
③160明44.B/③162明45.A/
③163明45.B/③164明45.B/
③167明45.B/③169明45.D/
③174大2.B/③175大2.B/
③183大3.B/③191大4.B/
③192大4.B/③197大5.B/
③206大7.B/③214大10.B/
③221大12.A/③223大12.B/
③230大14.B/③239昭2.B/
③251昭5.A/③253昭5.B/
③262昭7.A/③267昭7.D/
③301昭14.B/③327明［不明］B//④29明6.A/
④29明6.B/④43明14.C/
④44明15.A④46明15.C/
④59明18.B/④79明23.A/
④87明24.B/④88明24.C/
④89明24.D/④93明25.D/
④98明26.D/④101明27.B/
④103明27.D/④107明28.B/
④115明30.B/④116明30.B/
④117明30.D/④122明32.B/
④130明34.A/④130明34.B/
④137明35.B/④142明36.B/
④144明36.B/④148明36.D/
④158明38.B/④160明38.D/
④164明38.D/④169明39.B/
④172明39.D/④177明40.B/

④179明40.C/④184明41.B/
④187明41.B/④202明43.B/
④211明43.D/④218明44.B/
④225明45.B/④226明45.B/
④233明45.B/④237明45.D/
④238明45.D/④240大2.A/
④243大2.B/④252大2.D/
④253大2.E/④259大3.B/
④261大3.B/④267大3.D/
④268大3.D/④275大4.B/
④277大4.B/④286大5.B/
④288大5.B/④296大5.D/
④300大6.B/④301大6.B/
④304大6.B/④305大6.B/
④312大7.B/④313大7.B/
④317大7.C/④321大8.A/
④322大8.B/④323大8.B/
④348大11.D/④361大13.C/
④362大13.D/④364大14.B/
④367大14.B/④375大15.B/
④388昭2.B/④404昭3.B/
④451昭7.B/④467昭8.B/
④495昭9.D/④523昭11.A/
④551昭12.B/④553昭12.B/
④566昭13.B/④569昭13.B/
④627昭16.B/④642昭17.A/
④645昭17.B/④669昭10.B/
エモス(亞摩斯)①35明16.E/
エモルソン → エメルソン
エーラー、マックス①245大13.B/
①266大15.B//④377大15.B/
エラキステネス(越剌斯底涅**斯**)
①10[165]/
エ・ラゲ④787[明43]/
④795[大15]/④799[昭6]/
④802[昭10]/④808[昭18]/
エラシストラツス(侍醫)
②229明41.F/
エラストラートス①146明43.B//
④203明43.B/
エラスマ(ム)ス(えらすむす、エラスミュス、 エラスモス、Erasmus)、デシヂリウス)[カテキ尊者、貨狄様、化狄、貨狄舟、くれてき(カテキ)]
①83明30.C/
①181大4.B/①223大10.B/
①228大11.A/①255大14.B/
①267大15.B/①277昭2.B/
①289昭3.B/①290昭3.B/
①305昭4.B/①316昭5.B/
①376昭9.B//②12昭10.B/
②15昭10.B/②30昭10.F/
②37昭11.B/②38昭11.B/
②40昭11.B/②66昭12.E/
②93昭15.B/②105昭16.B/
②107昭16.B/②118昭17.B/
②131昭18.B/②210明33.B/
②230明42.F/②236大2.B/
②250大13.A/②257昭2.B/
②280昭9.B//③3[17488]/
③3[17489]/③3[17489]/
③48明25.B/③50明25.C/
③54明26.B/③72明29.B/
③80明30.B/③101明33.B/
③182大3.B/③191大4.B/
③212大9.B/③229大14.B/
③233大15.B/③240昭2.B/
③240昭2.C/③242昭3.B/
③243昭3.B/③248昭4.B/
③253昭5.B/③270昭8.B/
③272昭8.D/③292昭12.D/
③294昭13.B/③299昭13.D/
③300昭13.E/③306昭14.D/
③324昭18.C/③327昭[不明]B/③328昭[不明]B//
④26[24997]/④80明23.B/
④113明29.D/④144明36.B/
④160明38.B/④268大3.D/
④290大5.B/④300大6.B/
④312大7.B/④334大9.D/
④348大11.D/④383大15.D/
④384大15.D/④385大15.D/

④388昭2.A/④396昭2.D/
④397昭2.D/④399昭2.F/
④409昭3.D/④414昭4.B/
④423昭4.F/④451昭7.A/
④498昭9.D/④516昭10.D/
④527昭11.B/④529昭11.B/
④539昭11.D/④541昭11.D/
④550昭12.B/④558昭12.D/
④574昭13.C/④576昭13.E/
④594昭14.D/④618昭15.D/
④619昭15.D/④627昭16.B/
④635昭16.D/④637昭16.D/
④663昭18.F/④658昭18.B/
④733[昭3]/④746[昭8]/
④769[昭16]/④776[昭18]/
エラスミュス→ エラスマ(ム)ス
エラスモス→ エラスマ(ム)ス
Elert,W.④628昭16.B/
エラトスセニーズ(えらとすてねす、エラトステネ(子)ス、イラトステニス)
①324昭5.F//
②60昭12.C//③31明21.C/
③38明22.F/③149明41.F//
④38明13.B/④269大3.F/
④554昭12.C/④555昭12.C/
④663昭18.F/
エラトステネ(子)ス → エラトスセニーズ
えらとすてねす → エラトスセニーズ
エラバガルス(帝)②256大15.F/
②274昭7.B/
エリア學派 → エレア學派
エリアヌス②240大5.F/
②242大6.F/
エリアン②153明4.C/
Eliot,T.S.(エリオット)
①362昭8.B//②63昭12.D/
②75昭13.D/②100昭15.D/
②112昭16.D//③267昭7.D/
③326昭19.D//④232明45.B/
④287大5.B/④446昭6.D/
④496昭9.D/④518昭10.D/
④543昭11.F/④560昭12.D/
④619昭15.D/④620昭15.E/
④779[昭20]/
エリゲナ(哲學者)④414昭4.B/
エリザベス女王①333昭6.C/
①336昭6.D/
エリザベト、ニイチェ
②236大2.B/
エリス③139明39.C/
エリス、ハブロック①320昭5.D//
③80明30.B//④205明43.B/
Elis,W.④719[大8]/
Église(Apostlique)④675[大正]/
エリネエス(女神)④526昭11.B/
エリヤ學派 → エレア學派
エリュキシアス①104明36.B/
①244大13.B/
エーリング④223明44.E/
Ellinger②21昭10.C/
Elington, G.A.②57昭12.B/
エルオス②236大2.B/
エルカット④150明37.B/
エルキュル①367昭8.D/
Elser, K.③61明27.B/
エルジン → エルギン
Elston, C.S.③277昭9.C/
エルダー①236大12.A/
エルダー、ウイリアム
④157明38.B/
エルギン(エルギン卿、エルジン、Elgin)①149明43.D//
②25昭10.D/②209明32.D/
エルドマン、カ・オ④134明34.D/
エルドマン(Erdmann,J.E.)
①46明21.B/①69明26.B/
①70明26.B/①124明39.A/
①377昭9.B//③71明29.A/
③87明31.B//④136明35.B/
④167明39.B/④274大4.B/
④489昭9.B/④562昭12.E/

エルナア①206大7.D/
Erb, O.②77昭13.E/②90昭14.E/
②102昭15.E//④596昭14.E/
④597昭14.E/
Elmslie,W.A.L.④292大5.C/
Ernst,Risch④764[昭14]/
エレア派→ エレア學派
エレア學派(エリヤ學派、エレア派、エリア學派、エレアチック、エレアチムクス、エレアット、)
①51明22.B/①203大7.B//
②200明28.B/②220明37.B/
②226明40.B//③45明24.B/
③189大4.B/③270昭8.B/
③308昭15.B//④114明30.B/
④127明33.B/④176明40.B/
④195明42.B/④244大2.B/
④245大2.B/④276大4.B/
④288大5.B/④313大7.B/
④363大13.F/④442昭6.B/
④530昭11.B/④551昭12.B/
エレアット→ エレア學派
エレアチック → エレア學派
エレアチムクス→ エレア學派
エレクトラ(悲劇) → イウリピデ(一)ス
エ(一)レクトラ①167大2.D/
①217大9.D/①241大12.D/
①247大13.D/①293昭3.D/
①259大14.D/①279昭2.D//
②63昭12.D/②238大3.D//
③157明43.D/③177大2.D/
③178大2.D/④250大2.D/
④252大2.D/④268大3.D/
④713[大3]/
エレネ派④193明42.B/
Ehrenberg, Victor.②90昭14.E//
③236大15.C/③265昭7.C//
④381大15.C/
エレミア①65明25.C/
エレンジ③78明29.F/③79明29.F/
エロイーズ④426昭5.B/
④583昭14.B/
エロイテロプロス④410昭3.F/
エロス神①64明25.B//
②212明34.B//③140明39.D/
③297昭13.D/
Eward,O. ④273大4.B/
エヴァンス(イーヴァンス、Evans, Arthur)
①143明42.C//③219大11.C/
③227大13.D/④573昭13.C/
④648昭17.C/
エヴァンス②228明41.C/
エヴレット④218明44.B/
エンカー③132明38.B/
エンゲルス(F.)①129明39.E/
①233大11.E/①254大14.B/
①275昭2.B/①282昭2.E/
①287昭3.B/①296昭3.E/
①305昭4.C/①306昭4.C/
①309昭4.D/①313昭5.B/
①353昭7.D/①376昭9.B//
②34昭11.B/②37昭11.B/
②43昭11.C/②266昭5.C/
②267昭5.E/③247昭4.B/
③266昭7.D//④404昭3.B/
④415昭4.B/④416昭4.C/
④509昭10.B/④733[昭3]/
Engers, M.③231大14.C/
エンゲルハルト、V.②104昭16.A/
Engelmann,G.④621昭15.E/
Ensslin,W.①292昭3.C//
③254昭5.C//④431昭5.C/
Entz,G.④226大1.B/
エンデミオン(Endymion)
③206大7.C/③208大7.D/
③255昭5.D/③255昭5.D/
③261昭6.D//④434昭5.D/
④518昭10.D/
Enoch Powell,J.④767[昭15]/
エンニウス(Ennius,Quintus)

②181明22.D/②185明23.D/
②285昭9.D//③236大15.C//
④381大15.C/④495昭9.D/
エンペドクルース → エンペドクレ(ル)ス
エンペドクレ → エンペドクレ(ル)ス
エンペドクレ(ル)ス(エンペドクレ、エムペドクレ(ー)ス、エムピドークル、エムペドークレス、インペドクレス、エムピドークルス、エムペドークルス、エンペドクルース、エムペドークルス、エンペドクレース、エムヒドリクス、エメペドクレス、エムペドール、Empédocle)
①59明24.B/
①111明37.B//②162明16.B/
②166明18.B/②167明18.B/
②170明19.B/②200明28.B/
②202明29.B/②211明33.F/
②215明35.B/②217明36.B/
②220明37.B/②224明39.B/
②226明40.B/②228明41.B/
②281昭9.B//③30明21.B/
③57明26.D/③63明27.D/
③65明28.B/③73明29.B/
③87明31.B/③142明40.B/
③145明40.F/③196大5.B/
③222大12.B/③285昭11.B//
④44明14.F/④100明27.B/
④101明27.B/④106明28.B/
④114明30.B/④125明32.D/
④127明33.B/④190明41.F/
④195明42.B/④200明42.D/
④228明45.B/④231明45.B/
④244大2.B/④285大5.B/
④288大5.B/④302大6.B/
④388昭2.B/④389昭2.B/
④399昭3.A/④455昭7.B/
④495昭9.D/④590昭14.C/
④622昭15.F/④635昭16.D/
④645昭17.B/
エンペドクレース → エンペドクレ(ル)ス
エンマニエル(陽瑪若)
④69明20.D/
エンリクエス、フェデリーゴ
②139昭18.F/
ゆうどきす→ エウドキュス
ユウドクサス → エウドキュス
ゆうどくそす→ エウドキュス
ユークッド→ ユークリット(ド)
ユウクリッド → ユークリット(ド)
ユウリピデス → イウリピデ(ー)ス
ユリピデエス → イウリピデ(ー)ス
ユー(ウ)リピデ(ー)ス → イウリピデ(ー)ス
ユウリピデセース→ イウリピデ(ー)ス
ユ(ー)クリード → ユークリット(ド)
ゆーくりつと(ど) → ユークリット(ド)
ユークリット(ド)(ユ(ー)クリード、イウ(エ)クリッド、イウークリッド、ユウクリッド、エウクリッド、エークリド、エウクリヂウス、ユークリドゥス、ユークッド、いうくりど、ゆーくりっど、いーくりーど, 宥克立、格拉克、Euclides Euklid,Euclid)
[幾何原本]①5[25]/
①19明8.F/①29明12.F/

①36明17.F/①49明21.F/
①85明31.B/①136明41.B/
①141明41.F/①227大10.F/
①234大11.F/①311昭4.F/
①387昭9.F//②30昭10.F/
②51昭11.F/②78昭13.F/
②116昭16.F/②129昭17.F/
②158明12.F/②158明13.B/
②162明16.B/②168明18.F/
②173明20.B/②174明20.D/
②177明21.F/②181明22.F/
②182明23.B/②186明23.F/
②201明28.F/②202明29.B/
②203明29.F/②222明38.C/
②225明39.F/②228明41.B/
②231明43.B/②240大4.F/
②250大13.A/②267昭5.F//
③16明12.F/③35明22.B/
③41明23.C/③59明26.F/
③70明28.F/③80明30.B/
③91明31.E/③158明43.F/
③175大2.C/③180大3.B/
③209大8.B/③218大11.B/
③242昭2.F//④32明10.B/
④58明17.F/④81明23.B/
④104明27.F/④109明28.F/
④118明30.F/④134明34.F/
④141明35.F/④148明36.F/
④166明38.F/④173明39.F/
④181明40.F/④190明41.F/
④200明42.F/④212明4.F/
④253大2.F/④270大4.A/
④328大8.F/④373大14.F/
④386大15.F/④436昭5.F/
④467昭8.B/④500昭9.F/
④510昭10.B/④543昭11.F/
④544昭11.F/④577昭13.E/
④577昭13.F/④578昭13.F/
④622昭15.F/④671［亨保]/
④675[明5]/④678[明8]/

ゆーくりっど→ ユークリット(ド)

ユークリドゥス→ ユークリット(ド)

ユードクサス③149明41.F/

ユーリパイデス → イウリピデ(ー)ス

ユリピデ(ー)ス → イウリピデ(ー)ス

ゆりーぴでーす → イウリピデ(ー)ス

ユーリピデイス → イウリピデ(ー)ス

ユーリピデ井ース → イウリピデ(ー)ス

ユーリピード → イウリピデ(ー)ス

ユーロピデース → イウリピデ(ー)ス

オイクリド → ユークリット(ド)

オイ(ッ)ケン(オーケン、オイッケン、)、ルードルフ、(Euken,Rudolf)［安倍能成］

①137明41.B/①147明43.B/
①152明44.B/①153明44.C/
①155明45.A/①155明45.B/
①156明45.B/①157明45.B/
①162大2.B/①163大2.B/
①164大2.B/①165大2.B/
①169大3.B/①171大3.B/
①172大3.B/①173大3.B/
①174大3.B/①179大4.B/
①181大4.B/①189大4.B/
①216大9.B/①229大11.B/
①230大11.B/①244大13.B/
①267大15.B/①275昭2.B/
①276昭2.B/①316昭5.B/
①377昭9.B//②22昭10.C/
②37昭11.B/②95昭15.B/
②177明21.F/②234明45.B/
②235明45.D/②250大13.B/

②251大14.B/②254大15.B/
②257昭2.B/②259昭3.B/
②262昭4.B/②280昭9.B//
③111明35.B/③147明41.B/
③154明43.A/③155明43.B/
③160明44.B/③163明45.A/
③164明45.B/③165明45.B/
③166明45.B/③167明45.B/
③171大2.B/③173大2.B/
③174大2.B/③180大3.B/
③181大3.B/③182大3.B/
③183大3.B/③184大3.B/
③189大4.B/③190大4.B/
③191大4.B/③192大4.B/
③194大4.D/③194大4.E/
③195大5.B/③197大5.B/
③200大5.E/③202大6.B/
③212大9.B/③214大10.B/
③225大13.B/③229大14.B/
③233大15.B/③234大15.B/
③290昭12.B/③325昭19.B//
④115明30.B/④167明39.B/
④195明42.B/④214明44.B/
④216明44.B/④217明44.B/
④218明44.B/④221明44.C/
④225明45.A/④226大1.B/
④227大1.B/④228明45.B/
④230明45.B/④231明45.B/
④232明45.B/④233明45.B/
④238大45.D/④241大2.B/
④242大2.B/④243大2.B/
④244大2.B/④245大3.B/
④246大2.B/④247大2.B/
④248大2.B/④254大3.A/
④255大3.B/④257大3.B/
④258大3.B/④259大3.B/
④260大3.B/④261大3.B/
④262大3.B/④263大3.B/
④265大3.C/④269大3.E/
④272大4.B/④273大4.B/
④274大4.B/④275大4.B/
④276大4.B/④277大4.B/
④278大4.B/④279大4.C/
④288大5.B/④289大5.B/
④290大5.B/④297大5.D
④300大6.B/④302大6.B/
④303大6.B/④305大6.B/
④306大6.C/④307大6.D/
④309大6.E/④314大7.B/
④315大7.B/④316大7.B/
④332昭9.B/④346大11.B/
④347大11.C/④360大13.C/
④361大13.C/④364大14.B/
④365大14.B/④376大15.B/
④377大15.B/④378大15.B/
④390昭2.B/④403昭3.B/
④428昭5.B/④454昭7.B/
④473昭8.C/④495昭9.D/
④510昭10.B/④511昭10.B/
④562昭12.E/④568昭13.B/
④711[大1]/　④674[大正]/
オイリピデス → イウリピデ(一)ス
オイリ(レ)ピデス → イウリピデ(一)ス
オイリピデース → イウリピデ(一)ス
エリナ①57明23.D/
[F]Faye, Ede.③174大2.B//
④249大2.C/
フ(ァ)イト、ワーナー(Fite,W.)
①130明40.B/①132明40.B/
①135明41.B/①137明41.B/
①138明41.B/①142明42.B//
②226明40.B//③143明40.B//
④176明40.B/④185明41.B/
④206明43.B/④216明44.B/
④217明44.B/④229明45.B/
④230明45.B/④258大3.B/
④259大3.B/④324大8.B/
Fyffe,W.F.②100昭15.D/
Feine,P.④251大2.D/
ファウスト → ゲエテ
ファウスト、アウグスト

②251大14.B//④377大15.B/
Ferguson, A.S.②19昭10.B//
③215大10.B//④613昭15.C/
ファーガソン、ワレ(ル)ス・K
(Ferguson, Wallace K.)
②95昭15.B//④613昭15.C/
④635昭16.C/
Ferguson,W.S.④265大3.C/
Fowler,W.W.③136明38.E/
ファゲ、エミイル①371昭9.A//
②32昭11.A//④280大4.D/
④522昭11.A/
ファーネス、カロリン
①213大8.F/
ファーネル(Farnell,L.R.)博士
①148明43.C//③126明37.A/
③168明45.D/
Fabia,Ph. ④612昭15.C/
ファビュウス(Fabius Pictor)
①5[19]//②183明23.B/
ファーベル(花之安)
①59明24.B//③44明24.B//
④78明22.D/
フアラー①236大12.B/
ファラー①246大13.C/
ファリングトン(Farrington,
Benjamin)②90昭14.F/
②128昭17.F/
Falke, T.von②171明19.D/
ファルケンベルヒ③87明31.B/
ファルコ、マリオ④463昭7.E/
ファールロ、G.③306昭14.E/
フーイエ → フイエー(エ)
フィエー、アルフレッド
②93昭15.B/
フイエー(エ)(フーイエFouillee、
ジャン)
①34明16.E/①39明19.B/
①110明37.B/①120明38.B/
①157明45.B/①209大8.B//
③20明16.E/③25明19.B/
③40明23.B/③112明35.B/
③118明36.B//④291大5.B/
フーイエ③117明36.A/
フイシヤ(ヨ)ル④90明25.B/
Firth③128明37.C/
フィスク、ジョン③66明28.B//
④167明39.B/
フィステル(フュステル)、パウロ
③314昭16.B//④566昭13.B/
④630昭16.B/
フィチーノ(Ficino M.)
②236大2.B/②39昭11.B/
Figgis,J.N.④612昭15.C/
フィッシャー(フヰシヤア、ジ
ー・エム)(史家)
①107明36.C//②189明25.A/
②193明26.A/②198明27.C//
③82明30.C//④128明33.C/
④393昭2.C/④394昭2.C/
Fisher, H.A.L.②73昭13.C/
フィッシャル(フィシェル、フッ
シェル、フイスシェル、
フィッシャー、フッシャ
ー、フィシャア、フヒッ
セル)、クーノー(クノ
ー)(哲學史家)[加藤玄
智] ①46明21.B/
①74明27.B/①96明34.B/
①286昭3.B/①288昭3.B//
②12昭10.B/②15昭10.B/
②36昭11.B/②167明18.B/
②213明34.B/②215明35.B/
②226明40.B//③71明29.A/
③79明30.A/③106明34.B/
③107明34.B/③111明35.B/
③143明40.B/③147明41.B//
④206明43.B/
フイツセル → フィッシャル
フイツエ氏④137明35.B/
フィノー、ジャン①137明41.B/
①187大4.B//②228明41.B/
Fiebig,P.④234大1.C/

フィヒテ(Fichte)
①173大3.B/①175大3.C/
①202大7.B/①318昭5.C//
④550昭12.B/
フィラレト④47明15.C/
Field, C.③322昭17.E/
フィルダウシー④717[大5]/
フィンレー②223明 38.E/
Finlay, T.A.③165明45.B/
Finley, J.H.①364昭8.C/
Findlay,G.G.④296大5.D/
Fay,S.B.④444昭5.C/
フウカー③128明37.C/
フェアグリーヴ(Fairgrieve)、J.
②144昭19.C//③207大7.C/
フェアハンクス③47明25.A/
フェアバンクス(Fairbanks)
③123明36.D/
フェアウェザー、ダブリュー
①255大14.B/
Fay, S.B.③266昭7.D/
フェイ、ウージェヌ(Faye, Eugène de)③218大11.B
Feiherr, R.Th.③266昭7.C/
Föster,E.Nietzsche④506昭10.B/
Fester,G.④520昭10.F/
Federn, K.③115明35.D/
③124明36.D/
フェードルス④726[大16]/,
フェヌ(ス)③23明18.B//
④58明18.B/
フェノ(子)ロサ①245大13.B//
③14明12.B/③37明22.D/
③83明30.D/③226大13.B/
③314昭16.B//④691[明21]/
フェネ(ヌ)ロン(ヘネロン、フェ子ロン)［テレマク
①27明11.D/
①28明12.D/①224大10.D/
①270大15.D/①366昭8.D//
②257昭2.D//③19明16.B/
③20明16.D/③51明25.D/
③62明27.D/③89明31.D/
③123明36.D/③237大15.D/
③244昭3.D//④34明11.D/
④53明16.D/④74明21.D/
④89明24.D/
フェ子ロン→ フェネ(ヌ)ロン
Février, J.C.②284昭9.B//
④488昭9.B/
フェリー、エンリコ③153明42.E/
フェリス④85明24.A/
フェリ(ー)ニ、コンタルド
④253大2.E/④653昭17.E/
フェルウオレン、エム
②223明 38.F/
フェルシェル → フィッシャー(フヰシヤア)(史家)
フェルスタ①150明44.A/
Förster, A.③302昭14.B/
Förster, B.②229明42.B/
Feldhaus, F.M.③268昭7.F//
④521昭10.F/
Ferber, J.③172大2.B/
フェルベルン④91明25.B/
Felton,c.C.④700[明34]/
Fervis, G.T.③40明23.B/
フェレロ(Ferrero, Guglielmo)
①167大2.D/①217大9.C/
①223大10.C/①364昭8.C//
②143昭19.C//③120明36.C/
③219大11.C//④145明36.C/
④209明43.C/④317大7.C/
④596昭14.E/④725[大13]/
フォイエルバッハ①329昭6.B/
Fogg,C.F.④281大4.D/
Foakes,F.J.④492昭9.C/
Foakes-Jackson,E.J.④493昭9.C/
フォーコンネ③225大13.B/
フォーサイス④803[昭12]/
Fotheringham,J.H.④612昭15.C/
フォション、ゴールドスミス
③87明31.B/
フォス、H.①149明43.D//

④210明43.D/
フォスター将軍③74明29.C/
Foster,B.O.④612昭15.C/
フォスター、チャルース
④74明21.D/④693[明23]/
Forster, E.S.②67昭12.F/
Foster, M.B.②29昭10.E//
④520昭10.F/④544昭11.F/
Foster,T.B.④281大4.D/
フォスヂック、ヘンリー・エマー
ソン④278大4.C/
Focke,Fr.④610昭15.C/
フォード①241大12.E/
Forbes, H.O.③219大11.C/
Fobes,W.H.④611昭15.C/
Forman, Lewis L.（福爾曼）
②74昭13.D/
Fowler, W.W.③182大3.B/
③196大5.B/
フォール②163明16.E/
フォルコマン③136明38.D/
フォルサイス、ピイ・テイ
④426昭5.B/
フォールス、アール・エス
②182明22.G/
フォールズ（ヅ）、ヘンリー
④40明14.A/④45明15.A/
フォルト④36明12.B/
フォルトケ、ヨハネス
②263昭4.D//③89明31.D/
③96明32.D/③116明36.A/
④699[明33]/
フォールワール①324昭5.F/
Forenhorst,E.④484昭9.B/
フォン・ワルテンブルヒ,ヨルク
④711[大1]/
Forest③270昭8.B/
Foucart, P.③182大3.B/
Fougres, G.①278昭2.C/
Foucher③286昭11.D/
フック、エーク③186大3.D/
Fucks,H.③253昭5.B/
Fucks,S.③304昭14.C/
Fggenschwyler,W.④242大2.B/
フッテン②105昭16.B/
フート(米人）④47明25.C/
フビー→ フービー
フービー(フビー)、ヨゼフ
④388昭2.B/④404昭3.B/
④453昭7.B/④485昭9.B/
④665昭19.B/
Foucher,A.④280大4.D/
フヒシャル、ジョルヂ・ビー
④88明24.C/
フホルヒハムメル①74明27.C/
フーフ、リカルダ④627昭16.B/
フュステル→ フィステル
Fuester,E.④573昭13.C/
Festgière, A.J.②59昭12.B/
Fuller, B.A.G.③172大2.B/
Fray, S.B.③260昭6.C/
フライエル、ハンス④604昭15.B/
フライエンフェルスノ
④359大13.B/
Freyer, H.②58昭12.B//
④344大11.A/④506昭10.B/
フライターク（フライタッハ）、
G.(グスターフ)
②133昭18.C//③321昭17.D
③324昭18.C//④300大6.B/
フライタッハ→ フライターク
フライタッハ（Freytag, W.）
①89明32.A/①235大12.A/
Freiyer, Hans③300昭13.E/
フラウド②199明28.A/
フラサルサイト（弗拉撤載多拉）
①13明2.C/①14明4.C//
④28明4.C/
フラス、ヒュ・ゼームス
④122明32.B/④198明42.D/
④341大10.D/④348大11.D/
④354大12.D/④418昭4.D
④695[明25]/④705[明39]/
④715[大4]/④720[大10]/

④725[大13]/
フラセル③4明5.C/
Fraccaro, P.③198大5.C//
④717[大5]/
フラックスマン、ジョン
③289昭12.B/
フーラデチェク、フランツ・ユリア④509昭10.B/
フラートン［フラトーン］（Fullerton, J.S.ジョン・スチュアート）
③118明36.B//④241大2.B/
④712[大2]/
Frahm, F.②22昭10.C//
③254昭5.C//④431昭5.C/
Flowler,W.W.④262大3.B/
フラキウス(フラヴィウス、アリアヌス)①210大8.C/
①211大8.C//④443昭6.C/
フランク①36明17.B/
フランク③234大15.B/
Frank, F.③217大10.D/
フランク、ヘンリー④151明37.B/
フランク、T.(Frank,Tenny)
①349昭7.C/
①364昭8.C//②77昭13.E/
②78昭13.E/②114昭16.E/
②115昭16.E/②276昭7.E/
②280昭8.E//③277昭9.C//
④492昭9.C/④610昭15.C/
④770[昭16]/
Frankl, W.M.③202大6.B//
④301大6.B/
Frankl,P.④237大1.D/
Franklin, A.M.②25昭10.D/
Frenchet,L.④436昭5.E/
フランコイスハルマ④253大2.G/
フランシス派④504昭10.A/
フランス、アナトオ(ー)ル（Anatole Frannce)［和氣律次郎、壺井繁治、水野和一］①142明42.B/
①147明43.B/①156明45.B/
①157明45.B/①179大4.B/
①182大3.B/①202大7.B/
①209大8.B/①210大8.B/
①216大9.B/①238大12.B/
①246大13.B/①248大13.D/
①255大14.B/①266大15.B/
①277昭2.B/①281昭2.D/
①288昭3.B/①301昭4.B/
①304昭4.B/①315昭5.B/
①316昭5.B/①362昭8.B//
②45昭11.D/②56昭12.B/
②63昭12.D/②87昭14.D/
②100昭15.D/②131昭18.B/
②231明43.D/②235明45.D/
②240大5.D/②243大7.D/
②248大11.D/②251大13.D/
②252大14.D/②253大14.D/
②257昭2.D/②259昭3.C/
②260昭3.C/②266昭5.D/
②270昭6.D/②275昭7.D/
②285昭9.D//③84明30.D/
③134明38.C/③150明42.B/
③152明42.D/③169明45.D/
③178大2.D/③186大3.D/
③187大3.D/③189大4.B/
③191大4.B/③193大4.D/
③194大4.D/③199大5.D/
③200大5.D/③204大6.D/
③212大9.B/③220大11.D/
③227大13.D/③231大14.D/
③245昭3.F/③270昭8.B/
③282昭10.E/③286昭11.D/
③287昭11.D/③311昭15.D/
③328昭［不明］D//
④125明32.D/④141明35.E/
④192明42.B/④193明42.B/
④199明42.D/④204明43.B/
④207明43.C/④208明43.C/
④211明43.D/④231明45.B/
④251大2.D/④252大2.D/
④263大3.B/④264大3.C/

④267大3.D/④274大4.B/
④277大4.B/④283大4.E/
④285大5.A/④287大5.B/
④296大5.D/④325大8.B/
④331大9.B/④332大9.B/
④336大10.A/④345大11.B/
④346大11.B/④357大13.B/
④358大13.B/④359大13.B/
④390昭2.B/④402昭3.B/
④403昭3.B/④413昭4.B/
④420昭4.D/④430昭5.B/
④461昭7.D/④469昭8.B/
④502昭10.A/④508昭10.B/
④510昭10.B/④520昭10.E/
④529昭11.B/④530昭11.B/
④531昭11.B/④553昭12.B/
④563昭12.F/④559昭12.D/
④570昭13.B/④604昭15.B/
④607昭15.B/④618昭15.D/
④629昭16.B/④656昭18.B/
④709[明43]/④775[昭18]/
フランス、デニー④616昭15.C/
ふらんちぇすか → フランチェスカ
フランチェスカ(ふらんちぇすか)・ダ・リーミニ
①225大10.D/①223明38.D//
③130明37.D/③135明38.D/
③152明42.D/③187大3.D//
④156明37.D/④579昭14.A/
フランチェスカ、パオロ
④155明37.D/
(聖)フランチェスコ④359大13.B/
Franz,H.③309昭15.B/
Friars,D.④487昭9.B/
Fried, F.②90昭14.E/
Fridrich, der Grosse③230大14.C/
フリイドリッヒ、パウル
①189大4.B/
フリイマン①266大15.B/
フリイマン(フリーマン、弗氏弗里蔓)、イドワルド 、エドウード・オーガスタス)[永井謙藏]
①28明12.C/①38明18.C/
①47明21.C/①107明36.C//
②184明23.C/②191明25.C/
②191明25.D//③22明17.C/
③23明18.C/③31明21.C/
③56明26.C/③74明29.C//
④92明25.C/
フリエ、ジュリアン①315昭5.B/
フリース、ヨゼフ・ド
④644昭17.B/
Fries, C.③119明 36.B/
フリーチェ、ウラジミル
①320昭5.D/①322昭5.D/
①335昭6.D/①337昭6.D/
①367昭8.D//②47昭11.D/
②62昭12.D/②86昭14.D/
②270昭6.D/
フリッツ②114昭16.E//
④638昭16.E/
Fritz,K.v.④638昭16.E/
④633昭16.C/④638昭16.E/
フリッツャイゼンケラー(Frischeisen- Köhler,M.)
①246大13.B//③146明41.A//
④227大1.B/
Flitner,W.④508昭10.B/
④585昭14.B/④603昭15.B/
フリードリヒ(大王)
④774[昭18]/
Friedrich,R.④615昭15.C/
Friedrich, W.H.②25昭10.D//
③304昭14.C/
フリードレンデル、ベネヂクト
②225明39.E/
Friedländer, L.③101明33.B/
③107明34.B/③113明35.B/
③229大14.A/
フリーマン → フリイマン
フリーラン②154明6.C/

Frühgriechischen Philosophie → ソクラテス前哲學者
Fürst,A.④520昭10.F/
Frutiger, M.③264昭7.B/
フルトヴェングラー ③103明33.D/
フルトン(J.K.)①369昭8.F// ④480昭8.F/④750[昭9]/
フルトン、ジ・ダブリュ ④188明41.D/
Furneaux,H.④612昭15.C/
フルビースト④23[24932]/
フルベツキ①24明10.E// ③70明28.G//④75明21.D/ ④691[明21]/
Furmann, S.L.②99昭15.D/
フルロム④32明10.C/
フレイザア(一)(フレイザー Frazer, Sir J.G.) ②133昭18.C/②143昭19.C/ ②268昭6.B//③107明34.B/ ③171大2.B//④130明34.B/ ④242大2.B/④273大4.B/ ④400昭3.A/④484昭9.B/ ④506昭10.B/ ④659昭18.C/ ④666昭19.C/④766[昭15]/
Fresenius, Karl③254昭5.C/
Framer,Franz①191大5.C/
Flewelling,R.T.④415昭4.B/
フレウデンタアル③71明29.A/
Flüsel③88明31.B/
フレッチャア①211大8.D/
フレデリック(弗勒德力・大王) ④68明20.C/④82明23.C/ ④92明25.C/④111明29.C/
Freny, E.②87昭14.D/
フレヒトハイム②66昭12.E/
フレーベール④112明29.C/
フレミング①32明14.G// ④6886[明17]/
フレミング④677[明7,8]/
Fleming, W.B.③198大5.C/
Fleming,W.K.④242大2.B/ ④256大3.B/
Fröhlich, Fr.③129明37.C/
Fränkel, H.②18昭10.B/
フレンケル、マンフレッド ②238大3.C//③188大3.F/
フレンド、J.N.③238大15.F/
Flendes, P.③195大5.A/
Freunden, Jener③260昭6.C/
フロイソス④168明39.B/
フローラ(花神)④365大14.B/
フローリー④676[明6]/
フロリアン④108明28.D/
フロ(一)レンツ(ス)(Florenz、カ・ア、カルル) ①110明37.A/①172大3.B// ②209明33.A/②224明39.A/ ②227明41.A/②229明42.A// ③54明26.A/③126明37.A/ ③183大3.B//④129明33.D/ ④146明36.D/④164明38.D/ ④201明43.A/④213明44.A/ ④224大1.A/④250大2.D/ ④281大4.D/
フロンドール、ラドゥ ②103昭15.G/
フロンマン③100明33.B/ ③101明33.B/
Frews,Arth.④243大2.B/
フヰシヤア → フィッシャー
Funk③79明29.G/
ヘネロン → フェネ(ヌ)ロン
ヘルメース神②171明19.D/
[G]ガイ、ニコライ③63明27.D/
ガ(一)イウス(ガイユス、Gaius Grachus) ①177大3.E/①185大3.E/ ①192大5.E/①199大6.D/ ①249大13.E/①384昭9.E// ②26昭10.E/②137昭18.E/ ②145昭19.E/②221明37.E/ ②248大11.E//③9明9.E/

③136明38.E/③193大4.E//
④283大4.E/④297大5.E/
④298大5.E/④309大6.E/
④333大9.C/
ガイクス②177明21.E/
Geyser, J.③212大9.B//
④343大11.A/
ガイタ④599昭15.A/
Geyer, Frtz.①349昭7.C//
③232大14.E//④515昭10.C/
ガイユス → ガ(一)イウス
ガイルス、ピー④104明28.A/
ガウエン、ハーバート・エチ
④363大14.A/
Gauss, H.②57昭12.B/②59昭12.B/
Gagé,J.④535昭11.C/
ガス④58明18.A/
Gaskoin, C.J.B.③136明38.D/
ガスセンデュス → ガッセンデ
ィ
ガスト、ペーテル②16昭10.B/
ガストンバテイ④652昭17.C/
Gaspary,A.④619昭15.D/
ガスリー④29明6.B/
Guthrie, K.S.③215大10.B/
Guthrie, W.K.C.②18昭10.B/
Gadamer, H.G.②16昭10.B/
學舘學派 → プラトーン
ガッサンヂ → ガッセンディ
ガッサンディ → ガッセンディ
ガツセット、ホセ・オルテガ・イ
④530昭11.B/
ガッセンディ(一)(ガスセンデュ
ス、ガッサンディ、ガッ
サンヂ、岳私仙送由私、
Gassendi,P.ピエール)
①7[69]/①9[142]/
①119明38.B//②11昭10.B/
②12昭10.B/②96昭15.B/
②155明7.B/②170明19.B/
②280昭9.B//③30明21.B/
③81明30.B/③150明42.B//
④30明7.B/④99明27.B/
④275大4.B/④300大6.B/
④495昭9.D/
Gattler,J.B.④653昭17.E/
Gardiner, H.N.③209大8.B//
④322大8.B/
ガードナー、イ・エ(Gardiner, E.N、
アーネスト)
①308昭4.D/①311昭4.F//
②135昭18.D//④355大12.F/
Gardner, E.G.③162明44.D/
③173大2.B//④251大2.D/
Gardner, P(ガードナー、パーアヒ
ー).③126明37.A//
④270大4.A/④279大4.C/
④292大5.C/
Gardner-Smith,P.④493昭9.C/
ガニメーデース②242大7.B/
ガノー③29明20.F/
ガブレル(鵞撫列爾[兩])
③16明12.G/④38明12.G/
ガベルレ②162明16.B/
ガボル、アンドレイ②24昭10.D/
Galahad, Sir①175大3.C/
ガラノス、ヂメトリオス
④108明28.D/
Gerland,E.④520昭10.F/
ガルガンチュア②131昭18.B//
③311昭15.D//④663昭18.D/
④775[昭18]/
ガリバルジ(ヂ)ー(鹿兒嶋人、加
厘波地、傑氏)
②184明23.C//③158明43.D//
④33明10.C/④68明20.C/
④85明23.E/④89明24.D/
ガリヤナス(帝)③18明15.C/
ガリルヲ → ガリレオ(イ、ヲ)
ガリレイ、ガリレオ(イ、ヲ)(勒
禮阿、嘉利珂)
①219大9.F/①227大10.F/
①344昭7.B//②152[14545]/

②258昭2.F//③13明11.B/
③33明21.F/③79明30.A/
③125明36.F/③158明43.F/
③245昭3.F//④181明40.F/
④399昭2.F/④495昭9.D/
④521昭10.F/④577昭13.F/
④578昭13.F/④597昭14.F/
④654昭17.F/④669昭19.F/
④673[明治]/④704[明39]/
ガリヴァ④731[昭2]/
カール大帝④734[昭4]/
Galdi,M.④610昭15.C/
④612昭15.C/
Gallouede,L.④394昭2.C/
ガールドストーン、アール・ビー④208明43.C/
ガルトハウゼン③99明33.A/
Gardthausen,V.③134明38.C/
Galba④136明35.B/
ガルベ(一)①96明34.B//
②72昭13.B/
ガレニュス → ガレ(一)ノス
ガレ(一)ノス(ガレニュス、ガレ(一)ン、ゲーレン、ガーレン、哈列耨斯、Galenus)
①6[65]/①311昭4.F//
②152[14544]/②166明17.F/
②174明20.E/②181明22.F/
②187明24.B/②217明35.F/
②223明 38.F/②235明45.F/
②248大11.F//③53明25.F/
③179大2.F/③315昭16.B//
④23[24938]/④61明18.F/
④229明45.B/④340大10.C/
④367大14.B/④480昭8.F/
④520昭10.F/
ガレ(一)ン → ガレ(一)ノス
ガーレン → ガレ(一)ノス
ガロウェー、ジョージ
②54昭12.B/②70昭13.B/
ガンディー②137昭18.E/
ギアラル③105明34.A/
ギイ(一)ゲス(ギューゲス)
①198大6.D/①254大14.B/
①301昭4.B//②147昭20.D/
ギイザウ → ギゾー
ギイゾー→ ギゾー
ギイヨオ → ギヨー
ギエリキ、ヲー・エッチ
①31明14.C/
ギーゼケ、ワルテル
②101昭15.E/
ギーゾ→ ギゾー
ギゾ(一)(ギイゾー、ギーゾ、ギゾウ、ギイザウ、ギゾ、ギゾオ、ぎぞー、フランソワ彼爾、魏像、魏層、義藏、M.Guizot)[歐羅巴文明史]
①15明5.C/
①16明7.A/①18明8.A/
①20明9.A/①21明9.C/
①22明9.E/①22明10.A/
①23明10.A/①24明10.C/
①26明11.A/①28明12.A/
①31明14.A/①33明15.E/
①35明16.E/①36明17.A/
①42明20.A/①55明23.B/
①57明23.D/①60明24.B/
①85明31.A/①89明32.A/
①138明41.B/①160明45.[不明]/①182大3.C/
①214大9.A/①235大12.A/
①243大13.A//②22昭10.C/
②89昭14.E/②123昭17.C/
②130 昭18.A/②154明6.A/
②157明10.A/②159昭13.C/
②160昭15.A/②160昭15.E/
②161明15.E/②163明16.E/
②164明16.E/②166明18.A/
②167明18.B/②169明19.A/
②172明20.A/②173明20.C/
②175明21.A/②189明25.A/

②191明25.D/②193明26.A/
②201明29.B/②202明29.B/
②205明30.E/②206明31.C/
②232明44.B/②256昭2.A//
③4明6.A/③4明7.A/
③5明8.A/③7明9.A/
③8明9.B/③10明10.A/
③12明10.E/③13明11.A/
③16明13.A/③16明13.B/
③17明14.A/③18明15.B/
③19明16.A/③25明19.A/
③25明19.B/③45明24.C/
③46明24.D/③48明25.A/
③59明27.A/③86明31.A/
③94明32.C/③302昭14.B/
③312昭16.A//④30明8.A/
④32明10.A/④35明12.A/
④40明13.E/④40明14.A/
④45明15.A/④49明15.E/
④52明16.C/④54明16.E/
④54明16.F/④59明18.B/
④62明19.A/④69明20.C/
④89明24.D/④120明31.C/
④174明40.A/④287大5.B/
④300大6.B/④306大6.C/
④311大7.A/④322大8.A/
④356大13.A/④370大14.C/
④388昭2.A/④412昭4.A/
④481昭9.A/④559昭12.D/
④573昭13.C/④600昭15.A/
④641昭17.A/④648昭17.C/
④664昭19.A/④677[明7]/
④682[明12]/④710[明44]/
ギゾウ → ギゾー
ギゾオ → ギゾー
ギチャルヂニ③120明36.C/
ギッシング(Gissing,G.R.ジョージ、ジョオジ)[藤野滋]
①241大12.D/①247大13.D/
①248大13.D/①307昭4.D/
①366昭8.D//②270昭6.D//
③194大4.D/③250昭4.D/
③260昭6.D/③261昭6.D/
③267昭7.D//④198明42.C/
④268大3.D/④720[大9]/
④724[大13]/④733[昭3]/
④736[昭4]/④743[昭7]/
④745[昭8]/④746[昭8]/
④746[昭8]/④748[昭9]/
④763[昭14]/
ギッゼンス③53明25.E/
ギッピンス(器賓)④673[明治]/
④695[明25]/④697[明29]/
ギデンズ②229明41.E/
Ginelin, U.②60昭12.C/
ギビンズ②64昭12.E/
Gibson,Boyce④246大2.B/
ギブソン(Gibson)、チャールズ・アール(C.R.)
①185大3.F//③188大3.F/
ギブソン、モンロー④368大14.C/
ギブソン、ロイス①137明41.B/
①157明45.B//③147明41.B/
ギブスン、ハーヴェー(Gibson,R.J.Harvey)
②115昭16.F//④639昭16.F/
ギボン(ギッボン、ギッポン、魏ボン、吉本)、エドワード(Gibbon, Edward)[羅馬衰記]①48明21.C/
①52明22.C/①57明23.D/
①61明24.C/①70明26.C/
①83明30.C/①84明30.C/
①94明33.C/①143明42.C/
①182大3.C/①203大7.C/
①216大9.C/①305昭4.C/
①349昭7.C//②84昭14.C/
②133昭18.C/②144昭19.C/
②153明5.C/②154明6.A/
②181明22.D/②184明23.C/
②185明23.D/②192明25.D/
②202明29.C/②205明30.E/
②206明31.C/②220明37.C/

②232明44.C/②234明45.B/
②248大12.B/②256大15.F/
②257昭2.C//③3明5.B/
③6明8.C/③8明9.B/
③14明12.A/③19明15.C/
③34明22.A/③36明22.C/
③50明25.C/③51明25.C/
③52明25.D/③56明26.C/
③59明27.A/③62明27.D/
③67明28.C/③72明29.B/
③74明29.C/③80明30.B/
③82明30.C/③83明30.C/
③89明31.C/③89明31.D/
③90明31.D/③97明32.D/
③102明33.C/③103明33.C/
③108明34.C/③140明39.D/
③188大3.F/③199大5.C/
③203大6.C/③316昭16.C/
③326昭19.C//④29明6.C/
④36明12.B/④41明14.B/
④63明19.B/④69明20.C/
④84明23.C/④94明26.B/
④95明26.B/④99明27.A/
④101明27.B/④113明29.D/
④118明31.B/④138明35.B/
④147明36.D/④157明38.A/
④162明38.C/④172明39.D/
④174明40.A/④182明41.A/
④186明41.B/④219明44.C/
④265大3.C/④294大5.C/
④523昭11.A/④547昭12.A/
④573昭13.C/④④609昭15.C/
④634昭16.C/④648昭17.C/
④659昭18.C/④666昭19.C/
④778[昭19]/
ギボンズ, ハーバート・アダムズ
④799[昭6]/
ギャロッド(Garrod, H.W.)
④769[昭16]/
ギュイザ(ゾ)ウ → ギゾー
Guitton, J.③280昭10.B/
ギュイヨー → ギヨー
Guilland, Antonie①191大5.C/
Gueroult, M.③239昭2.B/
ギューゲス → ギイ(一)ゲス
Güttler,C.③81明30.B/
ギュツラフ(郭實臘,善德)
④672[天保]/
ギュツラフ(善德纂)
ギュツラ(ッ)フ、カール(K.F.A.)(善德纂)
②63昭12.D/②88昭14.D//
④558昭12.D/④592昭14.D/
④757[昭12]/④762[昭13]/
④770[昭16]/
Guinebert③263昭7.A/
ギュヨー → ギヨー
ギュヨウ → ギヨー
Gulick, C.B.③121明36.C/
ギュリキ(ヲヲエッチ) → ギューリック[ヲヲエッチ]
ギューリッチ→ ギューリック[ヲヲエッチ]
ギューリック(J.T)[ヲヲエッチ、ギュリキ、ギューリッチ]
①151明44.A//④39明13.B/
④42明14.C/④43明14.C/
④171明39.D/④174明40.A/
④191明42.B/④195明42.B/
④196明42.B/④225明45.B/
④269大3.F/④686[明17]/
ギュリック、シドニイ
①178大3.F//③188大3.F/
Günter,E.④234大1.B/
Günter,H.F.K.④444昭6.C/
ギュンタア、ジイグモ(ム)ンド(Günther,S.)
①199大6.F/①200大6.F//
④310大6.F/④500昭9.F/
④520昭10.F/
Gunnar, Mickwitz③277昭9.C/
ギヨー(ギュヨー、ギョヨー、ギイヨオ、ギュヨウ、ギュイヨー、Guyou, J.M.)

①47明21.B/①120明38.B/
①163大2.B/①170大3.B/
①182大3.B/①184大3.D/
①192大5.D/①215大9.B/
①223大10.B/①275昭2.B/
①276昭2.B/①294昭3.D/
①314昭5.B/①335昭6.D//
②15昭10.B/②34昭11.B/
②93昭15.B/②141昭19.A/
②253大14.D/②265昭5.B/
②286昭9.E//③109明34.D/
③118明36.B/③171大2.B/
③278昭9.D//④137明35.B/
④160明38.B/④229明45.B/
④273大4.B/④282大4.D/
④390昭2.B/④453昭7.B/
④711[明45]/
ギョエテ → ゲエテ
ギョオテ → ゲエテ
ギョツツ①350昭7.D/
ギョテー→ ゲエテ
ギョヨー→ ギヨー
Günter, H.F.K.③260昭6.C/
Gilard,Paul Frédérie③245昭3.E//④409昭3.E/
ギリシア(ャ)英雄→ オリムポス
希臘人の多神教 → オリムポス
希臘神話→ オリムポス
ギリシア(ヤ)神話→ オリムポス
希臘傳說→ オリムポス
希臘日神→ Helios(神)
ギリック、ジニー③221大12.A/
Gill, R.②38昭11.B//③285昭11.B/
Girsberger, K.E.②18昭10.B/
Guildmann, A.③227大13.C/
Gilbert, A.H.③237大15.D/
ギルバアト①304昭4.B/
Gilbert, F.③165明45.B/
Gilbert,G.H.④236大1.C/
ギルバル(ー)ト、ゼームズ・ウィ(ヰ)リアム)
①34明16.E//②160昭15.C/
②163明16.C//④40明14.A/
ギルマン、ダニエル・シー
②167明18.B/
ギルレット、ラムソム④29明6.E/
キング、アーキング①254大14.B/
キングスリー①359昭8.B/
Ginzberg,E.④515昭10.C/
Guardini, R.(グァルディーニ、ロマ)
②39昭11.B//④630昭16.B/
④644昭17.B/
グィチャルヂニー①87明31.C/
グエーテ → ゲエテ
グエラン、モウリス・ド
④113明29.D/
グウルモン、レミイ・ド → グルモン
グストゥル(少尉)④769[昭16]/
Gusman, P.③108明34.C/
グゼー③187大3.D/
グセル、ポール①176大3.D//②257昭2.D//③177大2.D/
③187大3.D/③208大7.D/
Gooch, G.P.①349昭7.C/
Gutschmid,A.v.④610昭15.C/
Gutbrod,W.④505昭10.B/
Goodspeed,E.J.(グッドスピード)
④371大14.D/④372大14.D/
④382大15.D/④383大15.D/
④385大15.D/④636昭16.D/
グッドスピード、ジョルヂ
④107明28.C/
Gudemann, A.②283昭9.B//④487昭9.B/
グードリッジヂ①17明7.C/
Goodman,P.④436昭5.E/
Goodrich,S.G.④145明36.C/
グムプロキッチ④386大15.E/
グナイスト④57明17.E/
グネデイッチ、ノワウイチ
②73昭13.D/

グ子ラト子②170明19.B/
グノー③177大2.D/
グノーシス派(グノスティック派、グノスチック、グノステック、グノスチシズム、Gnostic,Gnostique, Gnosticisme)①203大7.B//②120昭17.B/②232明44.B/②277昭8.B//③72明29.B/③117明36.B/③167明45.B/③168明45.D/③174大2.B//④136明35.B/④184明41.B/④218明44.B/④227明45.B/④228明45.B/④323大8.B/④368大14.B/④370大14.C/④471昭8.B/④469昭8.B/④490昭9.B/④528昭11.B/④532昭11.B/④644昭17.B/④658昭18.B/
グーノー②237大2.D/
グノスチシズム→ グノーシス派
グノスチック→ グノーシス派
グノスティック派 → グノーシス派
グノステック→ グノーシス派
Goumard, R.②57昭12.B/
グムプロ井ツ(Gumplowicz, Ludwich)①297昭3.E//③70明28.E/
Gmür,H.④486昭9.B/
グライデル③143明40.C/
Graillot,H.①180大4.B/
グラウコン(グラコン、グラオコン)①54明23.B//②155明8.B//③71明29.B//④109明29.B/
グラオコン → グラウコン
グラカイ → グラッカ(ク)ス(兄弟)
グラカス → グラッカ(ク)ス(兄弟)
グラクチウス、シー②163明16.C/
グラコス→ グラッカ(ク)ス(兄弟)
グラコン → グラウコン
グラシアン②156明8.C/
グラ(ー)ス①322昭5.E/①386昭9.E/
グラソン②161昭15.E/
グラーツ③140明39.D/
グラチュス→ グラッカ(ク)ス(兄弟)
グラッカイ→ グラッカ(ク)ス(兄弟)
グラッカ(ク)ス(兄弟、ク(グ)ラックス、グラック、グラカイ、グラカス、グラコス、グラッチー、グラッカ、グラッスス、ぐらっくす)①48明21.C/①52明22.C/①55明23.B/①70明26.C/①74明27.C/①150明44.A/①246大13.C/①257大14.C/①348昭7.C/①349昭7.C//②180明22.C/②202明29.C/②205明30.E//③24明18.E/③62明27.D/③82明30.C/③113明35.C//④37明12.E/④71明21.A/④75明21.E/④111明29.B/④133明34.C/④145明36.C/④192明42.B/④333大9.C/④405昭3.C/④417昭4.C/
グラック → グラッカ(ク)ス(兄弟)
ぐらっくす → グラッカ(ク)ス(兄弟)
ク(グ)ラックス → グラッカ(ク)ス(兄弟)
グラツキ、コル子リア①48明21.C/①190大5.C/
Grassi,E.④603昭15.B/
グラッスス→ グラッカ(ク)ス(兄弟)

グラッチー→ グラッカ(ク)ス
（兄弟）
グラ(ツ)ドスト(ー)ン(グラッドストウイン、虞刺敦、具翁、虞翁、グ翁、虞拉土斯頓、虞刺怒須屯、具氏、虞氏）
①66明25.D/①71明26.D/
①77明28.D/①102明35.C//
②171明19.D//②180明22.D/
②185明23.D/②188明24.D/
②191明25.D/②204明30.D/
②206明31.D/②207明31.D/
②218明36.D/②230明42.D/
②257昭2.D//③23明18.D/
③26明19.C/③28明20.D/
③37明22.D/③52明25.D/
③58明26.D/③68明28.D/
③76明29.D/③78明29.D/
③89明31.D/③90明31.D/
③91明31.D/③97明32.D/
③115明35.D/③139明39.D/
③143明40.D/③144明40.D/
③153明42.D/③155明43.B/
③158明43.D/③161明44.D/
③162明44.D/③175大2.C/
③199大5.D/③203大6.D//
④53明16.E/④60明19.D/
④65明19.D/④70明20.D/
④72明21.B/④75明21.D/
④78明22.D/④84明23.C/
④89明24.D/④93明25.D/
④121明31.D/④125明32.D/
④129明33.D/④134明34.D/
④172明39.D/④180明40.D/
④181明40.D/④199明42.D/
④297大5.D/④407昭3.D/
④433昭5.D/④495昭9.D/
④749[昭9]/
グラツドストン夫人④296大5.D/
グラッペ④212明43.F/
ゲラッペ、デ④637昭16.E/
グラハム④104明27.E/
グラープマン(Grabmann, M.)
①313昭5.B/①373昭9.B//
②16昭10.B/②72昭13.B/
②96昭15.B/②105昭16.B/
②282昭9.B/②283昭9.B/
③280昭10.B//④484昭9.B/
④485昭9.B/④507昭10.B/
④586昭14.B/④587昭14.B/
④627昭16.B/④629昭16.B/
④665昭19.B/
Glawe, W.③172大2.B/
Granger, F.②46昭11.D//
③81明30.B/
グランメーゾン④599昭15.A/
Graves,R.H.(紀好弼)④43明14.D/
Grundy, G.B.③114明35.C/
③126明37.A//④611昭15.C/
Grant,E.④267大3.D/
Grandlean,Fr.④242大2.B/
グリアスン④749[昭9]/
グリスオード③131明38.A/
グリグスビー、ダブリュー・イー
①26明11.B/
グリーソン、ジ(ヂ)ョージ
④207明43.C/④221明44.D/
④241大2.B/
グリック①104明36.B/
グリッフス(グリフス)
①16明6.D//④676[明6]/
④728[昭1]/
グリッフヒス④109明29.A/
グリフィス④96明26.B/
グリム(童話)②214明34.D//
④65明19.D/④70明20.D/
④86明24.B/④175明40.B/
④384大15.D/
Grimme,H.③172大2.B//
④619昭15.D/
グリューン、カルル①353昭7.D/
グリゥリンヘルド④677[明7]/

グリアスン①366昭8.D/
④749[昭9]/
グリルパル(ウ)ツェル
(Grillparger)
①231大11.D/①258大14.D/
①293昭3.D/②24昭10.D//
④311大7.A/
グリーン(具リーン、グーリーン、
Green,T.H.)、ト(一)マス・ヒル)
①70明26.B/①74明27.B/
①76明28.B/①96明34.B/
①97明34.B/①100明35.B/
①101明35.B/①113明37.B/
①120明38.B/①132明40.B/
①137明41.B/①138明41.B/
①141明42.B/①142明42.B/
①147明43.B/①165大2.B/
①174大3.B/①201大7.A/
①210大8.B/①284昭3.A/
①304昭4.B/①314昭5.B/
①316昭5.B/①330昭6.B/
①346昭7.B//②27昭10.E/
②33昭11.B/②48昭11.E/
②251大14.B/②256昭2.B/
②259昭3.B/②262昭4.B/
②265昭5.B/②269昭6.B/
②273昭7.B/②277昭8.B//
③45明24.B/③87明31.B/
③112明35.B/③127明37.B/
③171大2.B/③182大3.B/
③192大4.C/③220大11.E/
③239昭2.B/③253昭5.B/
③262昭7.A/③264昭7.B/
③296昭13.B/③303昭14.B//
④67明20.B/④105明28.B/
④116明30.B/④150明37.B/
④169明39.B/④177明40.B/
④187明41.B/④206明43.B/
④216明44.B/④229明45.B/
④230明45.B/④231明45.B/
④233明45.B/④259大3.B/
④275大4.B/④310大7.A/
④430昭5.B/④440昭6.B/
④441昭6.B/④485昭9.B/
④530昭11.B/④542昭11.E/
グリントゲス神父④533昭11.C/
Greenough④451昭7.A/
グリンナン、アール・ビー
④121明31.D/
Greenidge②22昭10.C//
④515昭10.C/
Greenidge③85明30.E/
Greenidge, A.H.J.③108明34.C/
③109明34.C//
グリンム④157明38.B/
④704[明38]/
Greenfield,K.R.③267昭7.E/
Guerout,M.④505昭10.B/
グルチェル③104明33.E/
グルック、モンティベルデイ
①170大3.B/
Groupp,G.③129明37.C/
Grupp③134明38.C/
Gruppe③149明42.B/
Grube, G.M.A.②38昭11.B/
グルニエ、P.④668昭19.E/
グールマン④299大6.A/
グルモン(グールモン、グウルモン)、レミ(イ)(ルミイ)・ド
①187大4.B/③160明44.B/
③206大7.B//④244大2.B/
④323大8.B/④495昭9.D/
④552昭12.B/④553昭12.B/
グールモン→ グルモン
Grunzel, J.③98明32.E/
Grundorff③293昭13.A/
Groorich, A.L.③103明33.C/
グレー、アレキサンダー
②276昭7.E/
グレイ、アンドリウ②255大15.D/
グレイ、A.H.④388昭2.B/
グレイ、セシル④432昭5.D/

Gray,W.D.①183大3.C//
③192大4.C/
Greidanus,Tjardas①355昭7.E/
Greusterd,I.W.④251大2.D/
グレエチェン③213大9.D/
Gregovius, F.③103明33.C/
グレゴリイ(ツールの)
④369大14.C/
グレゴール④478昭8.D/
グレッグ、デヴィッド
④233明45.C/
Gredt, J.②18昭10.B/②19昭10.B/
Grenier③129明37.C/
Grenier,A.④556昭12.C/
Graefer,F.④535昭11.C/
Graves③256昭6.A/
③262昭7.A/③274昭9.A/
③284昭11.A//④450昭7.A/
グレーベル①355昭7.F/
Groethuysen④343大11.A/
Graevius,J.G.G.④615昭15.C/
Grenler, A.②77昭13.E/
Groag, E.③253昭5.C/③266昭7.C/
Groos, Karl③52明25.D/
グロサトーレン①385昭9.E/
グロ(一)シアス → グロ(一)チア(ウ)ス
グロシウス→ グロ(一)チア(ウ)ス
グロシュアス → グロ(一)チア(ウ)ス
グロシュイユス → グロ(一)チア(ウ)ス
Groth,A.④417昭4.C/
グロセ①129明40.A/
グローセ(Grosse, E)①66明25.D//
③217大10.D/
グロ(一)チア（ウ)ス(グロ(一)シアス、グロシュアス、グロチュース、グロシュイユス、グロチュース、グロシウス、グロシアス)、ゴ[グ?]ロジウス、フ(ヒ)ーゴー(ヒウゴ)
①49明21.E/
①117明37.E/①160明45.E/
①261大14.E/①262大14.E/
①309昭4.E/①311昭4.E/
①338昭6.E/①339昭6.E/
①385昭9.E//②28昭10.E/
②29昭10.E/②77昭13.E/
②128昭17.E/②161明15.E/
②199明27.E/②203明29.E/
②205明30.E/②245大9.E/
②250大13.A/②251大13.E/
②253大14.E/②267昭5.E/
③12明10.E/③14明11.E/
③33明21.E/③47明24.E/
③59明26.E/③64明27.E/
③131明37.E/③211大8.E/
③245昭3.E/③326昭19.E//
④57明17.E/④86明24.B/
④148明36.E/④238明45.E/
④253大2.E/④269大3.E/
④298大5.E/④309大6.E/
④320大7.E/④328大8.E/
④335大9.E/④355大12.E/
④362大13.E/④398昭2.E/
④409昭3.E/④410昭3.E/
④423昭4.E/④436昭5.E/
④464昭7.E/④541昭11.D/
④652昭17.E/④672[明治]/
④679[明10]/④711[大1]/
④719[大8]/
グロチウス夫人②258昭2.E/
グロチュース → グロ(一)チア(ウ)ス
グロックナー、ヘルマン（Glockner, Herman）
①303昭4.B/①316昭5.B/
①327昭6.B//②259昭3.B//
③326昭19.B//④438昭6.B/

④454昭7.B/④485昭9.B/
④586昭14.B/④603昭15.B/
グロツス③71明29.A/
グロッツ、ギュスタアヴ
（Glotz,Gustav）
①278昭2.C/①306昭4.C/
①319昭5.C//②22昭10.C/
③236大15.C/③263昭7.A/
③276昭9.C//④380大15.C/
④492昭9.C/④514昭10.C/
④661昭18.C/
グロットフッス①101明35.B/
グローデオス帝③156明43.C/
グロート①48明21.C/①61明24.C/
グロート（史家）①224大10.C//
②161明15.E/②232明44.C//
③6明8.C/③8明9.B/
③11明10.C/③40明23.B/
③60明27.B/③65明28.B/
③66明28.B/③74明29.C/
③175大2.C//④50明16.B/
④64明19.C/④69明20.C/
④76明21.B/④88明24.C/
④188明41.C/④378大15.B/
④418昭4.C/④537昭13.C/
④573昭13.C/④582昭14.A/
Glover,T.R.④227大1.B/
④476昭8.C/④610昭15.C/
④611昭15.C/④612昭15.C/
Grobe, P.①326昭6.A/
Gwatkin, H.M.③167明45.C/
グワルチエリ④746[昭8]/
Gwynn,A.④436昭5.E/
グンデルト、ウィルヘルム
②275昭7.D//③233大15.B/
グンドルフ、フリードリヒ
①320昭5.D/
①329昭6.B/①352昭7.D//
②111昭16.D/②285昭9.D//
③287昭11.D//④354大12/D/
④384大15.D/④487昭9.B/
④618昭15.D/④738[昭5]/
④801[昭9]/
Gunnar,M.④492昭9.C/
ゲーア神②166明18.B//
③23明18.B//④58明18.B/
ゲーアス②158明12.E/
Geyer,F.④372大14.E/
ゲイテ → ゲエテ
ゲエテ（ゲーテ、ゲーテー、ゴエテ、ギエテ、ギョテ、ギョーテ、ギョオテ、ギョエテ、ゲヨェテ、ゲヨーテー、グエーテ、ゲーテン、ゲテー、ゲイテ、 ゲヨエテ、ギョテー、ギイヨオテ、ゲェーテ、ゴエテ、ごえて、藝天、Goethe、詩仙）［ファウスト、フワスト、增富平藏、林久男、高橋五郎、キルヘルム・マイステル、ヴェルテル、ヱルテル］
①44明20.D/①49明21.D/
①52明22.D/①54明23.B/
①55明23.B/①56明23.C/
①57明23.D/①58明23.D/
①60明24.B/①62明24.D/
①64明25.B/①66明25.D/
①71明26.D/①77明28.D/
①78明29.A/①79明29.B/
①80明29.D/①83明30.C/
①84明30.D/①97明34.B/
①103明35.D/①108明36.D/
①109明36.D/①110明37.A/
①111明37.B/①119明38.B/
①121明38.D/①122明38.D/
①128明39.D/①131明40.B/
①141明42.A/①144明42.D/
①149明43.D/①155明45.A/
①156明45.B/①167大2.D/
①168大2.D/①169大3.A/
①172大3.B/①176大3.D/
①177大3.D/①184大3.D/

①185大3.F/①187大4.B/
①193大5.F/①198大6.D/
①199大6.D/①200大6.F/
①202大7.A/①206大7.D/
①208大8.A/①214大9.A/
①216大9.B/①217大9.D/
①218大9.D/①221大10.B/
①223大10.B/①226大10.D/
①228大11.A/①229大11.B/
①230大11.B/①232大11.D/
①233大11.D/①236大12.A/
①240大12.D/①241大12.D/
①245大13.B/①247大13.D/
①248大13.D/①252大14.A/
①253大14.A/①258大14.D/
①259大14.D/①263大15.A/
①264大15.A/①269大15.D/
①271大15.D/①273昭2.A/
①276昭2.B/①279昭2.D/
①281昭2.D/①284昭3.A/
①285昭3.A/①288昭3.B/
①295昭3.D/①296昭3.D/
①300昭4.A/①304昭4.B/
①307昭4.D/①309昭4.D/
①312昭5.A/①322昭5.D/
①329昭6.B/①337昭6.D/
①341昭7.A/①342昭7.B/
①343昭7.B/①345昭7.B/
①346昭7.B/①352昭7.D/
①353昭7.D/①356昭7.F/
①362昭8.B/①366昭8.D/
①367昭8.D/①369昭8.F/
①372昭9.A/①373昭9.A/
①376昭9.B/①377昭9.B/
①382昭9.D/①383昭9.D/
①387昭9.E//②10昭10.A/
②15昭10.B/②23昭10.D/
②24昭10.D/②24昭10.D/
②25昭10.D/②26昭10.D/
②32昭11.A/②36昭11.B/
②38昭11.B/②44昭11.D/
②45昭11.D/②46昭11.D/
②47昭11.D/②54昭12.B/
②56昭12.B/②58昭12.B/
②62昭12.D/②63昭12.D/
②66昭12.E/②69昭13.B/
②70昭13.B/②72昭13.B/
②74昭13.D/②85昭14.C/
②99昭15.D/②100昭15.D/
②103昭15.F/②103昭16.A/
②105昭16.B/②111昭16.D/
②112昭16.D/②116昭16.F/
②117昭17.A/②118昭17.A/
②124昭17.D/②125昭17.D/
②130昭18.A/②136昭18.D/
②137昭18.D/②145昭19.D/
②164明16.F/②174明20.D/
②175明21.A/②177明21.D/
②177明21.F/②179明22.B/
②180明22.D/②181明22.D/
②182明23.B/②183明23.B/
②184明23.D/②185明23.D/
②188明24.D/②191明25.C/
②191明25.D/②192明25.D/
②193明26.A/②195明26.D/
②196明26.D/②199明27.D/
②201明28.D/②202明29.D/
②203明29.D/②204明30.D/
②205明30.D/②205明31.A/
②206明31.D/②207明31.D/
②208明32.D/②210明33.B/
②211明33.D/②214明34.D/
②216明35.D/②217明35.D/
②218明36.B/②218明36.D/
②221明37.D/②222明38.C/
②223明38.D/②224明39.A/
②225明39.D/②229明41.D/
②229明41.F/②229明42.B/
②230明42.D/②230明42.F/
②231明43.D/②232明44.B/
②233明44.D/②233明44.E/
②233明44.F/②234明45.B//
②236大2.B/②237大2.D/
②237大2.F/②237大3.B/

②238大3.D/②238大3.F/
②239大4.B/②239大4.D/
②240大5.D/②245大9.F/
②250大13.A/②250大13.D/
②251大13.D/②252大14.D/
②253大14.D/②254大15.B/
②255大15.D/②256昭2.B/
②258昭2.F/②260昭3.D/
②262昭4.D/②263昭4.D/
②265昭5.B/②266昭5.D/
②270昭6.D/②271昭6.D/
②273昭7.B/②274昭7.D/
②275昭7.D/②278昭8.B/
②278昭8.D/②279昭8.D/
②280昭9.B/②281昭9.B/
②285昭9.D/②286昭9.D/
②287昭9.F//③23明18.D/
③32明21.D/③34明22.A/
③37明22.D/③38明22.D/
③40明23.B/③41明23.D/
③42明24.A/③44明24.B/
③45明24.B/③45明24.C/
③46明24.D/③47明24.D/
③49明25.B/③50明25.C/
③51明25.D/③52明25.D/
③55明26.B/③56明26.D/
③57明26.D/③58明26.D/
③58明26.E/③59明27.A/
③61明27.C/③62明27.D/
③63明27.D/③64明27.D/
③65明28.B/③68明28.D/
③69明28.D/③72明29.B/
③76明29.D/③77明29.D/
③78明29.D/③80明30.B/
③83明30.D/③84明30.D/
③85明30.D/③85明30.E/
③88明31.C/③89明31.D/
③90明31.D/③91明31.D/
③94明32.C/③96明32.C/
③96明32.D/③97明32.D/
③103明33.D/③104明33.D/
③109明34.D/③112明35.B/
③115明35.D/③116明36.A/
③117明36.B/③120明 36.C/
③123明36.D/③124明36.D/
③125明36.F/③125明37.A/
③129明37.D/③130明37.D/
③131明38.A/③134明38.D/
③135明38.D/③136明38.D/
③138明39.B/③139明39.C/
③139明39.D/③140明39.D/
③144明40.D/③145明40.D/
③148明41.D/③149明41.E/
③150明42.B/③152明42.D/
③155明43.B/③157明43.D/
③162明44.F/③163明45.A/
③168明45.D/③169明45.D/
③173大2.B/③174大2.B/
③175大2.C/③177大2.D/
③178大2.D/③179大2.D/
③179大2.E/③179大2.F/
③179大3.A/③183大3.B/
③186大3.D/③187大3.D/
③188大3.F/③189大4.B/
③190大4.B/③191大4.B/
③193大4.D/③194大4.D/
③201大5.F/③202大6.B/
③205大6.D/③205大6.F/
③208大7.D/③208大7.F/
③211大8.D/③215大10.B/
③216大10.D/③217大10.E/
③220大11.D/③224大12.D/
③225大13.B/③228大13.D/
③231大14.D/③232大14.D/
③236大15.D/③237大15.D/
③238大15.F/③239昭2.B/
③241昭2.D/③244昭3.D/
③245昭3.D/③250昭4.D/
③253昭5.B/③260昭6.D/
③263昭7.A/③264昭7.B/
③266昭7.D/③269昭8.A/
③272昭8.D/③273昭9.A/
③276昭9.B/③277昭9.D/
③278昭9.D/③279昭10.A/

③282昭10.D/③283昭10.E/
③283昭10.F/③284昭11.A/
③285昭11.B/③286昭11.D/
③287昭11.D/③288昭12.A/
③290昭12.B/③291昭12.D/
③292昭12.D/③292昭12.F/
③293昭13.A/③294昭13.B/
③299昭13.D/③300昭13.F/
③301昭14.A/③304昭14.D/
③305昭14.D/③306昭14.F/
③307昭15.A/③311昭15.D/
③313昭16.A/③317昭16.D/
③319昭17.A/③320昭17.A/
③322昭17.D/③324昭18.D/
③326昭19.D/③327昭20.D/
③327昭［不明］D//
④54明16.F/④55明17.B/
④70明20.D/④72明21.B/
④75明21.A/④78明22.D/
④84明23.D/④89明24.D/
④91明25.B/④94明26.A/
④95明26.B/④102明27.B/
④103明27.D/④104明27.D/
④108明28.D/④109明29.A/
④110明29.B/④112明29.C/
④113明29.D/④113明29.F/
④116明30.B/④116明30.B/
④117明30.D/④120明31.B/
④121明31.D/④122明32.B/
④129明33.D/④130明34.A/
④130明34.B/④131明34.B/
④134明34.D/④139明35.D/
④140明35.D/④144明36.B/
④147明36.D/④148明36.D/
④151明37.B/④155明37.D/
④156明38.A/④158明38.B/
④162明38.C/④163明38.D/
④164明38.D/④165明38.D/
④168明39.B/④170明39.B/
④172明39.D/④173明39.D/
④173明40.A/④176明40.B/
④ 177明40.B/④180明40.D/
④181明40.D/④185明41.B/
④186明41.B/④188明41.C/
④189明41.D/④192明42.B/
④195明42.B/④199明42.D/
④200明42.F/④201明43.A/
④204明43.B/④207明43.B/
④210明43.D/④211明43.D/
④218明4.B/④222明44.D/
④226大1.B/④231明45.B/
④232明45.B/④234大1.C/
④236明45.D/④238明45.D/
④237大1.D/④242大2.B/
④243大2.B/④247大2.B/
④250大2.D/④251大2.D/
④252大2.D/④253大3.A/
④257大3.B/④259大3.B/
④267大3.D/④268大3.D/
④271大4.A/④272大4.B/
④279大4.C/④282大4.D/
④285大5.A/④289大5.B/
④295大5.D/④296大5.D/
④297大5.D/④298大5.E/
④299大6.A/④300大6.B/
④302大6.B/④304大6.B/
④307大6.C/④307大6.D/
④308大6.D/④309大6.D/
④310大6.F/④310大7.A/
④311大7.A/④312大7.B/
④319大7.D/④321大8.A/
④322大8.B/④327大8.D/
④328大8.E/④329大9.A/
④332大9.B/④333大9.B/
④335大9.D/④336大10.A/
④341大10.D/④342大10.D/
④343大11.A/④344大11.B/
④345大11.B/④346大11.B/
④348大11.D/④351大12.B/
④352大12.B/④354大12.D/
④355大12.E/④356大13.A/
④358大13.B/④359大13.B/
④361大13.C/④361大13.D/
④362大13.D/④364大14.B/

④365大14.B/④367大14.B/
④370大14.D/④371大14.D/
④372大14.D/④377大14.D/
④382大15.D/④383大15.D/
④384大15.D/④385大15.D/
④387昭2.A/④388昭2.B/
④391昭2.B/④394昭2.C/
④395昭2.D/④396昭2.D/
④397昭2.D/④400昭3.B/
④403昭3.B/④407昭3.D/
④408昭3.D/④409昭3.E/
④419昭4.D/④420昭4.D/
④423昭4.E/④433昭5.D/
④442昭6.B/④452昭7.B/
④453昭7.B/④460昭7.D/
④461昭7.D/④462昭7.D/
④463昭7.D/④468昭8.B/
④477昭8.D/④478昭8.D/
④479昭8.D/④483昭9.B/
④491昭9.C/④494昭9.D/
④495昭9.D/④496昭9.D/
④497昭9.D/④498昭9.D/
④501昭10.A/④502昭10.A/
④509昭10.B/④515昭10.D/
④516昭10.D/④517昭10.D/
④518昭10.D/④519昭10.E/
④521昭10.F/④522昭11.A/
④523昭11.A/④524昭11.A
④527昭11.B/④528昭11.B/
④530昭11.B/④532昭11.B/
④537昭11.D/④538昭11.D/
④539昭11.D/④540昭11.D/
④541昭11.D/④542昭11.E/
④544昭11.F/④546昭12.A/
④547昭12.A/④548昭12.A/
④549昭12.B/④550昭12.B/
④552昭12.B/④557昭12.C/
④558昭12.D/④559昭12.D/
④560昭12.D/④563昭12.F/
④564昭12.F/④566昭13.B/
④569昭13.B/④573昭13.C/
④574昭13.C/④575昭13.D/
④576昭13.D/④582昭14.A/
④585昭14.B/④586昭14.B/
④587昭14.B/④593昭14.D/
④594昭14.D/④598昭14.F/
④603昭15.B/④604昭15.B/
④606昭15.B/④617昭15.D/
④619昭15.D/④627昭16.B/
④634昭16.D/④635昭16.D/
④636昭16.D/④640昭17.A/
④641昭17.A/④649昭17.D/
④650昭17.D/④651昭17.D/
④652昭17.D/④654昭17.F/
④655昭18.A/④659昭18.B/
④661昭18.C/④661昭18.D/
④662昭18.D/④663昭18.D/
④664昭19.A/④668昭19.D/
④687[明18]/④701[明35]/
④702[明37]/④703[明37]/
④709[明43]/④711[明45,大1]/
④714[大3]/④718[大7]/
④719[大8]/④723[大正]/
④732[昭3]/④751[昭10]/
④756[昭11]/④758[昭12]/
④760[昭13]/④763[昭14]/
④769[昭16]/④775[昭18]/
④778[昭19]/④793[大10]/
④793[大11]/④795[大15]/
④795[19-]/④796[昭2]/
④798[昭5]/④803[昭12]/
④807[昭17]/④808[昭18]/
④808[昭19]/④809[19-]/
ゲェーテ→ ゲエテ
Georgiev, V.②87昭14.D/
ゲオルゲ派①377昭9.B//
④485昭9.B/④495昭9.D/
ゲジオド→ ヘシオドス
月支王①218大9.D/
ゲスタ・ロマノールム
④726[大16]/
Goetz,Walter①350昭7.C/
①380昭9.C/
Göth,Richart③326昭19.B//

④665昭19.B/
ゲッチ、ゲルトルード
①255大14.B/
ゲッテル、レーモンド
（Gettell,R.R.）
①262大14.E/①296昭3.E//
④409昭3.E/
Getberg,R.④550昭12.B/
ゲーテー → ゲエテ
Genule,G.④568昭13.B/
ゲネリ、ボナベンチューラ
③289昭12.B/
Gebauer,W.④542昭11.E/
Gebirol, Jhn③55明26.B/
ゲヨエテ → ゲエテ
ゲヨェテ → ゲエテ
ゲヨーテ(一) → ゲエテ
ゲラシムウジ④40明14.B/
Gerrard,Th.J.④255大3.B/
ゲーリー①89明32.A/
ゲリンヂッツヒ③129明37.C/
ゲール④777[昭18]/
ゲルステンベルグ、クルト
④575昭13.D/
Gelzer, H.③104明33.E/
③110明34.E//④612昭15.C/
Gelzer, M.②23昭10.C/
ゲルツェル、マチアス(→Gelzer,
M.）②135昭18.C//
④549昭12.B/
ゲルテル、レーモン③245昭3.E/
Gaerttringen, F.Hiller von
③236大15.C/
Gerhard,Röttger④605昭15.B/
④767[昭15]/
Gerhardt, G.A.③167明45.B/
Görlitz, W.②40昭11.B/
ゲーレン → ガレ(一)ノス
ゴア、チャールス④203明43.B/
ゴウイヨウ、ジョルジュ
④496昭9.D/
Gautier-Vignal, L.②40昭11.B/
ゴエ(一)テ → ゲエテ
ゴオゴリ→ゴーゴリ
ゴオチェ④721[大10]/
ゴオ(一)リキイ、マキシム
①363昭8.C//②24昭10.D//
④802[昭11]/
ゴーガルテン④509昭10.B/
ゴーゴリ④803[昭12]/
④805[昭15]/
ゴス、フィリップ②97昭15.C//
③310昭15.C/
ゴージアス→ ゴルギアス
ゴージュス→ ゴルギアス
ゴスリン、ライリス・アレキサン
ダー④619昭15.E/
ゴーチェ(一)③185大3.C//
④170明39.C/④263大3.C/
ゴッサー②168明18.E/
ゴーデー④360大13.C/
④752[昭10]/④755[昭11]/
Godolphin,M.④713[大3]/
Godwin②25昭10.D/
ゴードン④698[明30]/
Gottschick,J.④256大3.B/
Gottlieb③239昭2.B/
ゴーブル、ジョナサン④28明4.D/
④571昭13.C/④762[昭13]/
Goheen,J.④603昭15.B/
ゴムベルク②26昭10.E/
Gompertz, H.(ハインリヒ)
②58昭12.B//③81明30.B/
③119明36.B/③166明45.B/
③170明45.F/③226大13.B/
③248昭4.B//④415昭4.B/
④569昭13.B/
Gompertz, Thodor(ゴムペルツ、テ
オドール)②58昭12.B//
③85明30.E/③119明36.B/
③172大2.B//④569昭13.B/
④615昭15.C/
ゴメス①363昭8.C/
ゴーリキー④753[昭10]/

ゴルギアス(ゴルチアス、ゴージュス、ゴージアス、Gorgias)
①104明36.B/①124明39.B/
①244大13.B/①313昭5.B/
①358昭8.B//②38昭11.B/
②53昭12.B/②58昭12.B/
②108昭16.B/②118昭17.B//
③66明28.B/③72明29.B/
③173大2.B/③181大3.B/
③189大4.B/③222大12.B/
③262昭7.A/③269昭8.A/
③302昭14.B//④93明25.D/
④100明27.B/④109明28.F/
④112明29.D/④143明36.B/
④158明38.B/④185明41.B/
④300大6.B/④366大14.B/
④376大15.B/④454昭7.B/
④470昭8.B/④524昭11.A/
ゴール④229明45.B/
Gohlke, P.②39昭11.B/
ゴルゴン①179大4.B/
①253大14.B//③192大4.B/
Golgon, G.③66明28.B/
ゴルジアス(フリギアの)
②266昭5.B/
ゴルジンジー、アルサア
①61明24.C/
ゴルスワアシー、ハンキン・バアカア④281大4.D/
ゴールズワーズ、ジョン
④479昭8.D/
ゴルチアス → ゴルギアス
ゴルティエ③275昭9.B/
ゴルハム、チャレース
④285大5.B/
ゴールドスミス[哥德斯米]
②191明25.C//④94明26.A/
④675[明治期]/
④781[明6]/
Goleman,Ch.B.①191大5.C/
ゴルドン(同志社)、エム・エル
④73明21.C/④86明24.B/
④111明29.B/
ゴルドン、ヂョージ・エー
④186明41.B/
ゴルビオニ④797[昭3]/
ゴ(グ?)ロジウス→ グロ(一)チア(ウ)ス
ゴ(グ?)ロチュス → グロ(一)チア(ウ)ス
Golodphin,Marry④791[大3]/
ゴロート → グロート
ゴローバー、チ・アール
④404昭3.B/
ゴヱテ→ ゲエテ
ゴンギラ②236大2.B/
ジア子ー③118明 36.B/
Gint,A.-J.④536昭11.C/
ジイド(Gide)、アンドレ
①314昭5.B/
①343昭7.B/①373昭9.B/
①374昭9.B/①375昭9.B//
②33昭11.B/②80昭14.B/
②263昭4.D/②277昭8.B/
②286昭9.D//④421昭4.D/
④477昭8.D/④489昭9.B/
④496昭9.D/④587昭24.B/
④749[昭9]/④763[昭14]/
Gettel,R.G.④621昭15.E/
ジェルシモン②160昭15.E/
②161昭15.E/
Gerloff, O.③186大3.D/
Gentile, G.②96昭15.B/
ジオット(ネ)(ヂヨット)
③69明28.D/③193大4.D/
③211大8.D/③216大10.D/
③236大15.D//④108明28.D/
Gigon, O.②17昭10.B/
ジーベルト④126明33.B/
George④378大15.B/
ジョージ、ヘンリー②205明30.E/
ジョルジョネ③322昭17.D/
Georges-Berthier, A.③214大10.B/

Goffredo, A.②60昭12.C/
Gibelin, J.②61昭12.C/
ジムメル→ ジンメル
Gernet, Louis①362昭8.B//
④468昭8.B/
ジルソン(ヂルソン、Gilson,)エティエンヌ、エチエーネ(E.)
②19昭10.B/②57昭12.B/
②80昭14.B/②95昭15.B/
②96昭15.B/②118昭17.B/
②283昭9.B//③104明33.E/
③234大15.B/③280昭10.B//
④452昭7.B/④487昭9.B/
④507昭10.B/④527昭11.B/
④584昭14.B/④605昭15.B/
④617昭15.D/④618昭15.D/
④665昭19.B/
Gilson,Stefan④485昭9.B/
Gillesple,C.M.④243大2.B/
ジロウ、井クトル④311大7.A/
ジンメル(ジムメル)、G.(ゲオルク)
④358大13.B/④361大13.D/
④369大14.C/④495昭9.D/
④668昭19.D/
ヂッテス①96明34.B/
ぢーど、しゃーる(ジ(ヂ)イド、シャルル)①199大6.E//
②47昭11.E/②75昭13.E/
ヂヨット → ジオット(ネ)
ヂルソン→ ジルソン
[H]アムラン(Hamelin, O.)
③209大8.B/③218大11.B/
アリイ、ミリヤム(Harry, Miriam)
②21昭10.C/
Henri de Towwille③82明30.B/
ユー(ウ)ゴー(ウ) 、井クトル
①225大10.D//②196明26.D//
③58明26.D/
Huvelin③277昭9.C/
エスピナ③98明32.E/
エック氏[師](Heck、エミール)
①110明37.A/
①186大4.A//②209明33.A/
②224明39.A/②226明40.A/
②229明42.A/②233明45.A/
②239大4.A/②240大5.A/
②241大6.A//③54明26.A/
③126明37.A//④201明43.A/
④213明44.A/④240大2.A/
④271大4.A/④284大5.A/
④297大5.D/④299大6.A/
④311大7.A/④769[昭16]/
④776[昭18]/
H.D.④733[昭3]/
エライリット → ヘラ(ー)クレイトス
H.Weimer, von①326昭6.A/
オメール → ホーメル
ハアナック、アドルフ
①236大12.B/
ハールバアト→ ハールバット
Haarhoff, T.J.②86昭14.C/
Highet,G.②39昭11.B/
Heigel, K.T. von①191大5.C/
ハイゼ(巴依西)③16明12.G//
④38明12.G/
ハイゼンベルグ(ヒ)、ヴェルネル
②129昭17.F//③259昭6.C/
③285昭11.B//④759[昭12]/
Haidie, R.P.③69明28.D/
ハイデ(ッ)ガー(ハイデッゲル、マルチン、マルティン、Heidegger,M.)
①316昭5.B/①330昭6.B/
①362昭8.B//②14昭10.B/
②247大11.A//③247昭4.B/
③297昭13.D//④343大11.A/
④426昭5.B/④453昭7.B/
④484昭9.B/④559昭12.D/
④560昭12.D/④606昭15.B/
④631昭16.B/④645昭17.B/
④651昭17.D/④760[昭13]/

ハイデッゲル→ ハイデ(ッ)ガー
Heidel, W.A.③240昭2.B/
ハイデルベルグ學派
④760[昭13]/
ハイト、アイバー・ビー
④654昭17.F.
ハイド④195明42.B/
Heitmüller,W.④249大2.C/
Heitland,W.E.①231大11.C/
①364昭8.C/①380昭9.C//
②22昭10.C/②143昭19.C//
③260昭6.C/
ハイドン④389昭2.B/
Heinimann,F.④559昭12.D/
④603昭15.B/
ハイ子(ネ)(ハインリヒ、Heine)
①206大7.D/①243大13.A/
①357昭8.A/①361昭8.B//
②45昭11.D/②199明27.D//
③38明22.D/③135明38.D/
③299昭13.D//④121明31.D/
④140明35.D/④165明38.D/
④172明39.D④197明42.B/
④296大5.D/④335大9.D/
④495昭9.D/④539昭11.D/
ハイパシア(ハイペイシア)
①190大5.C/①195大6.B//
③131明38.B/④392昭2.C/
Heichelheim, Fritz①349昭7.C//
②50昭11.E//③231大14.C/
③272昭8.C/③277昭9.C/
ハイピリオン→ ヒペリオン
ハイペイシア → ハイパシア
ハイペリオン(Hyperion)→ ヒペリオン
Hypereides④535昭11.C/
Heiberg,I.L.④174明40.A/
ハイベルク(はいべるく、Heiberg)②51昭11.F/
②67昭12.F/②102昭15.F/
②103昭15.F/②115昭16.F/
②116昭16.F//③149明41.F/
③312昭15.F//④622昭1.F/
④640昭16.F/④770[昭16]/
Heichelheim,H.④436昭5.E/
④492昭9.C/
ハイマー①342昭7.B/
ハイム③71明29.A/
ハイム、カアル(カール)
④471昭8.B/④483昭9.B/
Haym,R.④513昭10.C/
ハイムゼート、ハインツ(Heimsoeth,H.)
②80昭14.B/②85昭14.C//
④531昭11.B/④572昭13.C/
④587昭14.B/
ハイロー(シュラキュース王)
④46明46.C/
ハインチェ(Heinze)
③146明41.A/③116明36.A/
Heinza, R.③304昭14.C/
ハインツエ、マックス
③157明43.D/
Heinze, R.②76昭13.E//
③260昭6.C/
ハインド④158明38.B/
ハインド、ゼームズ④210明43.D/
ハインリ(ッ)ヒ、ゲオルグ
①196大6.C/①197大6.C/
①205大7.C//③203大6.C//
④302大6.B/④316大7.C/
④317大7.C/
How, W.W.(ハウ、ダブリュ・ワヲルシャム)③95明32.C/
④326大8.D/
Hauser,H.④436昭5.E/
ハウス①359昭8.B/
Hausheer,H.④415昭4.B/
ハウスマン、エイー・イー(Houseman, A.E.)
①192大5.D/①352昭7.D/
①352昭7.D/①384昭9.D//

②46昭11.D/②87昭14.D/
②248大11.D//③261昭6.D/
③267昭7.D//④155明37.D/
④435昭5.D/④446昭6.D/
④497昭9.D/④517昭10.D/
ハウゼン、ワルター・ス
②271昭6.E/
ハウゼンスタイン②43昭11.D//
④775[昭18]/
Haussoullier,B.④611昭15.C/
ハウプト、レーマン①150明44.A/
ハウプトマン、ゲルハルト
①167大2.D/①173大3.B/
①243大13.A/①248大13.D/
①299昭4.A//②111昭16.D/
②263昭4.D//③84明30.D//
④251大2.D/④255大3.B/
④257大3.B/④636昭16.D/
④704[明39]/④727[昭1]/
④769[昭16]/④772[昭17]/
Haupt,W.④249大2.C/
ハガリッカ④364大14.A/
ハーキュリース → ヘラクレエス
ハーキュールス → ヘラクレエス
ハクスレー→ ハックスレー
ハークネス、ウ井リヤム
③70明28.F/
Hashagen, J.②29昭10.E//
④542昭11.E/
ハーシェル③221大11.F/
ハジュール①17明7.C/
ハシンガー①318昭5.C//
④430昭5.C/
ハース①93明33.B/
ハース博士③115明35.D/
Haskins,C.H.①318昭5.C//
③260昭6.C/
ハースト、ジェー・ビー
④74明21.D/
ハスラック①217大9.C/
ハーゼブレ(ロ)ック(Hasebroek, Johannes)①334昭6.C/
①355昭7.E//②137昭18.E/
②139昭18.E//③253昭5.C/
③259昭6.C/③276昭9.C//
④444昭6.C/④491昭9.C/
④616昭15.C/
ハーゼンクレーフェル
①240大12.D/①259大14.D/
①280昭2.D/
ハツガー、マンドレーク
③287昭11.F/
ハツガート(ド)①339昭6.F//
④741[昭6]/
ハツガッド、ライダー
③75明29.C/
Hackin, J.②22昭10.C/
ハックスレー(ハクスレイ)、アレダス(オルダス)
②159昭13.F//③66明28.B/
③194大4.D/③250昭4.D//
④113明29.F/④118明30.F/
④176明40.B/④508昭10.B/
Hassall, A.①224大10.C/
Hatsch④178明40.B/
ハッヂ(チ)ルストン
①121明38.C//②222明38.C/
ハッチンソン、エ・ビー
④225明45.B/
ハッチンソン、ウーヅ
③33明21.F/
ハーツホーン①108明36.D//
④148明36.D/
ハーツホルン、ヘンリー
④109明29.B/
ハーツラー、ジョイス
②50昭11.E/
ハッドン、J.カスバート
④770[昭16]/
ハットン、リチャルド・ホルト
③63明27.D/
Hardie, W.F.R.②58昭12.B/

Hardie, R.P.③74明29.B/
Hardy,H.④369大14.C/
ハーディン③190大4.B/
Hudson, C.F.①349昭7.C/
ハドソン、ジー・ジー④98明26.D/
Hudson,H.G.④556昭12.C/
ハドリアヌス帝(アドアン、ハドリヤン、ハドリアン、アドリアヌス、Hadrian)
①183大4.C//
②60昭12.C/②64昭12.E/
②153明4.C/②198明27.B/
②206明31.C/②221明38.A//
③9明9.E/③192大4.C/
③290昭12.C//④136明35.B/
④184明41.B/④187明41.B/
④207明43.B/④280大4.C/
④319大7.D/④405昭3.C/
④554昭12.C/④588昭14.B/
ハドレイ(發度黎)①36明17.E//
③22明17.E/③24明18.E/
ハドリアン→ ハドリアヌス帝
ハドリヤン → ハドリアヌス帝
ハニバル → ハンニバル
ハハキュリーズ神 → ヘラクレエス
ハピアン(巴毘弁)④28[25032]
ハーバー④257大3.B/
ハーバー、ウイリアム④107明28.C/
ハーフィ④558昭12.D/
ハーブル④97明26.C/
Haverfield,F.③128明37.C/
Hampl,F.④590昭14.C/
④591昭14.C/
Hampe,R.③304昭14.C/
Hummel, J.②90昭14.E/
ハムモンド(Hammond, W.A.)
③118明36.B/
ハムレット(班烈多、Hamlet)
①127明39.B/①308昭4.D//
②167明18.D//④733[昭3]/
ハーモヂウス③163明45.B/
Haller, Johannes②43昭11.C/
ハラタマ②152明2.F/
ハラビン、F.G/④632昭16.C/
ハラム、マコーレー②193明26.A/
ハリス(米使節)④761[昭13]/
ハーリス、ダウリュー・テー
②175明21.A//④40明14.A/
ハリス, エム・シー④46明15.C/
④69明20.D/④690[明20]/
Harris, Z.S.②87昭14.D/
Harrison,C.④282大4.D/
ハリスン、J. → ハリソン(Harrison, J.E)
ハリソン②190明25.B/
ハリソン②199明28.A/
ハリソン、フレデリック(Harrison,F.)
①64明25.B/①87明31.E//
②234明45.B//③50明25.C/
③60明27.B/③103明33.C//
④232明45.B/④249大2.C/
ハリソン(Harrison, ジェーンJ.E)
①205大7.D/①209大8.B//
②105昭16.B/②107昭16.B/
②120昭17.B/②130昭18.B/
②132昭18.B/②244大9.B//
③165明45.B/③168明45.D//
④236大1.D/④258大3.B/
④451昭7.B/④645昭17.B/
④657昭18.B/
HarrisonP.N.④555昭12.C/
Halimann,W.N.④231大1.B/
ハリントン、シー・ケー
④221明44.D/
ハリングトン、エフ・ジー
④126明33.B/④188明41.D/
ハルステッド、ジー・ピー
④166明38.F/④173明39.F/
Harder, R.②39昭11.B/
②40昭11.B/②59昭12.B/
②72昭13.B/②283昭9.B//

③305昭14.D//④487昭9.B/
Haldane, E.S.③55明26.B/
ハルツエル④173明39.F/
ハルディーレ④274大4.B/
はるとぜん②178明22.B/
ハルトレーベン①269大15.D/
Hartmann,Almia von ④236大1.D/
Hartmann,L.M.①224大10.C//
③103明33.C/③122明36.C/
ハルトマン、エドアルド・フォン
②225明39.B/②247大11.A//
③138明39.B/③229大14.A/
④344大11.A/
ハルトマン、H.③289昭12.B/
ハルトマン、ニコライ（Hartmann, N.）①300昭4.B/
①312昭5.A/①313昭5.B/
①329昭6.B//②13昭10.B/
②14昭10.B/②18昭10.B/
②59昭12.B/②96昭15.B/
②188明24.D//③85明30.D/
③88明31.B/③100明33.B/
③290昭12.B//④365大14.B/
④442昭6.B/④525昭11.B/
④630昭16.B/④69]明33]/
ハルドウィン④675[明3]/
ハルドーン、イブーン
④514昭10.C/
Harmack,A.④237大1.D/
ハルナック(Harnack,A.v.アドルフ・フォン)
①224大10.C//②93昭15.B/
②277昭8.B//③105明34.B//
④95明26.B/④153明37.C/
④226大1.B/④237大1.D/
④214明4.B/④266大3.D/
④365大14.B/④413昭4.B/
④471昭8.B/④548昭12.B/
④588昭14.B/④612昭15.C/
ハルナック、シュミーデル
④701[明35]//
Halbherr-Guarducci②87昭14.D/
Halbfas,F.④611昭15.C/
ハールバット(ハールバアト)、ジェイ(ジェッセー)・エル
④128明33.C/④155明37.D/
④161明38.C/④278大4.C/
④699[明32]/
Halbherr-Guarducci④764[昭14]/
Halphen, Louis③248昭4.C//
④393昭2.C/④417昭4.C/
ハルベル①16明7.B//④29明6.C/
ハルマ（江戸ハルマ和解）→ヅーフ・H.
ハルムス①233大11.E/
ハルリス①26明11.B/
ハルルス③220大11.E/
Harold,Childe（ハロルド、チャイルド）③250昭4.D/
③267昭7.D//④104明27.D/
④116明30.D/④121明31.D/
④139明35.D/④140明35.D/
④155明37.D/④164明38.D/
④172明39.D/④189明41.D/
④199明42.D/④211明43.D/
④538昭11.D/④650昭17.D/
Huwardas, Strawtos G.①350昭7.C/
ハーン①355昭7.F/
ハーン、ラフカディオ（ヘルン）
①280昭2.D//③228大13.D//
④396昭2.D/④478昭8.D/
④559昭12.D/④650昭17.D/
ハーンショウ①305昭4.C/
Hernshaw,F.J.C.④621昭15.E/
ハンチングスン①257大14.C/
ハンチングトン,エスステルス → ハンチントン
ハンチントン(ハンチングトン,エスステル)
④566昭13.A/④717[大5]/
④722[大11]/④761[昭13]/
ハント③96明32.C/
ハンノット、ス(Hannot,S.)
④270大3.G/

ハン子バル→ ハン子バル
ハンニバ(ー)ル(ハニバル、ハン子バル、漢尼巴、Annibal)①54明23.B/①65明25.C/①79明29.C/①83明30.C/①87明31.C/①90明32.C/①91明32.C/①102明35.C/①107明36.C/①114明37.C/①120明38.C/①127明39.C/①138明41.C/①143明42.C/①165大2.C/①175大3.C/①182大4.C/①190大5.C/①210大8.C/①231大11.C/①278昭2.C//②143昭19.C/②174明20.E/②183明23.B/②186明24.A/②190明25.C/②193明26.A/②198明27.C/②206明31.C/②208明32.C/②215明35.B/②215明35.C/②224明39.A/②233明44.C/②234明45.B/②239大4.B//③8明9.C/③36明22.C/③56明26.C/③58明26.E/③72明29.B/③74明29.C/③88明31.C/③95明32.C/③102明33.C/③110明34.E/③120明36.C/③121明36.C/③133明38.C/③139明39.B/③148明41.C/③151明42.C/③175大2.C/③184大3.C/③185大3.C/③198大5.C/③230大14.C/③248昭4.C/③253昭5.C/③266昭7.C//④32明10.B/④33明10.C/④34明11.C/④50明16.B/④53明16.E/④68明20.C/④83明23.C/④97明26.C/④102明27.C/④110明29.B/④115明30.B/④124明32.C/④132明34.C/④145明36.C/④159明38.B/④208明43.C/④219明44.C/④226明45.B/④265大3.C/④278大4.C/④300大6.B/④312大7.B/④339大10.C/④340大10.C/④349大11.E/④361大13.C/④414昭4.B/④627昭16.B/④664昭19.A/④778[昭19]/
ハンボルト → フムボルト
ハンム、井ルヘルム③45明24.C/
ハーンレ、アルフレッド③214大10.B/
ヒアシンス③263昭7.B/
ヒアデルング、フリードリヒ②203明29.D/
ヒウス、プライス④97明26.C/
ヒウピアス④137明35.B/
ヒウロン④185明41.B/
Hieronymus(ヒエロニムス、イエロニムス、Hieronyms)④485昭9.B/④556昭12.C/④612昭15.C/④695[明25]/
ビカステス、エドワード④695[明25]/
ヒコック、ロウ(ー)レンス①17明7.C//④30明7.E/
His③82明30.C/
ヒースオドス → ヘシ(ジ)オドス
Historischen und Antiquarischen geselsch aft zu Basel②40昭11.B/
Heath, ThomasL.②116昭16.F/②264昭4.F/
ヒスロップ、ジェームズ・エッチ③66明28.B/
Hickeiter, F.①191大5.C/
ヒッパコス→ ヒッパルカ(コ)ス
ヒッパルカ(コ)ス(ヒッパコ、ひつぱるかす、ひぱるかす、飛把兒吉斯)①9[142]//②151[14516]//

③29明20.F/③149明41.F/
③273昭8.F//④38明13.B/
④51明16.B/④269大3.F/
④298大5.F/
ひつぱるかす → ヒッパルカ(コ)ス
ヒッパルキア④111明29.B/
ヒッピアス(Hippias)
③190大4.B/③222大12.B/
③270昭8.B//④185明41.B/
ヒッポカラテス → ヒポク(一)ラテス
ヒッポカラテツ→ ヒポク(一)ラテス
ヒッポクラアテス → ヒポク(一)ラテス
ヒッポクラチーズ → ヒポク(一) ラテス
Hippocratica → ヒポク(一) ラテス
ヒッポクラテス → ヒポク(一)ラテス
ヒッポクラテース→ ヒポクー)ラテス
ヒッポメネース③264昭7.B/
ヒッポリタス④602昭15.B/
Hidelbrandt, K.③172大2.B/
ヒーデルマン①22明9.E/
ヒトラー②120昭17.B//
④502昭10.A/④572昭13.C/
ヒパチア②239大4.C/
ひぱるかす→ ヒッパルカ(コ)ス
ひぷしれくす(あれきさんどりやノ)④269大3.F/
④520昭10.F/
ヒペリオン(ヒュ(一)ペリオン、ヒュペーリオン、Hyperion)
①264大15.A/①280昭2.D/
①296昭3.D/①309昭4.D/
①373昭9.A//②24昭10.D/
②44昭11.D/②130昭18.B/
③242昭3.A/③250昭4.D/
③261昭6.D/③267昭7.D/
③268昭8.A/③324昭18.D//
④408昭3.D/④421昭4.D/
④435昭5.D/④447昭6.D/
④342大10.D/④372大14.D/
④446昭6.D/④518昭10.D/
④752[昭10]/④775[昭18]/
ヒポカラス→ ヒポク(一)ラテス
ヒポカラテ(一)ス → ヒポク(一)ラテス
ヒポクラット → ヒポク(一) ラテス
ヒポクラチース→ ヒポク(一)ラテス
ひぽくらてす → ヒポク(一) ラテス
ヒポクラーテス → ヒポク(一)ラテス
ヒポク(一)ラテス(ヒポクラット、ヒッポカラテス、ヒッポクラテス、ヒポカラテス、ヒッポクラチーズ、ヒポクラーテス、ヒッポクラアテス、ヒポカラス、ヒポクレーテス、ヒポクラチース、ヒポクレーツス、ヒッポカラテツ、ヒッポクラテース、ヒポクラド、ひぽくらてす[キオスの]、兮撥哈拉跕斯、兮撥蛤蠟跕斯、依卜加拉得斯、非剝葛剌的私、依卜子、必波古拉得斯、依卜加得、必甫拉(剌)的斯、必甫葛剌的斯、Hippocratica)
①7[73,74,85,86,87,88]/
①8[99,103,114,115,117,

118, 119,120,122,123]/
①9[126,127,128,129,130,
131, 133,135,136,139,
146,150,151]/
①10[153,154,156,157,159,
161,171]/
①11[181,182,183,184,195,
199, 200,202,203,207,
208]/
①12[210,217,222,223]/
①19明8.F/①25明10.F/
①30明13.F/①49明21.F/
①58明23.F/①67明25.F/
①72明26.F/①75明27.F/
①140明41.F/①149明43.F/
①178大3.F/①185大4.F/
①250大13.F/①251大13.F/
①298昭3.F/①324昭5.F/
①339昭6.F/①340昭6.F/
①383昭9.D//②66昭12.F/
②78昭13.F/②90昭14.F/
②103昭15.F/②115昭16.F/
②116昭16.F/②158明12.F/
②163明16.E/②165明17.F/
②174明20.E/②174明20.F/
②177明21.F/②181明22.F/
②182明22.F/②186明23.F/
②187明24.B/②189明24.F/
②192明25.F/②195明26.C/
②196明26.F/②201明28.F/
②205明30.F/②214明34.F/
②223明38.F/②224明39.A/
②230明42.F/②235明45.F/
②238大3.F/②258昭2.F/
②264昭4.F/②276昭7.F//
③17明13.F/③29明20.F/
③35明22.B/③39明22.F/
③53明25.F/③59明26.F/
③60明27.B/③67明28.C/
③78明29.F/③179大2.F/
③190大4.B/③208大7.F/
③221大11.F/③232大14.F/
③251昭4.F/③283昭10.F/
③286昭11.C/③300昭13.F/
③306昭14.F/③307昭14.F/
③317昭16.F//④23[24938]/
④25[24975]/④26[24997
25005]/④27[25012,25018]/
④28明4.F/④42明14.B/
④55明17.B/④56明17.C/
④60明18.D/④61明18.F/
④85明23.F/④110明29.B/
④176明40.B/④190明41.F/
④215明44.B/④222明44.D/
④322大8.A/④340大10.C/
④480昭8.F/④577昭13.F/
④578昭13.F/④639昭16.F/
④640昭16.F/④671[江戸期]
④689[明治]/④810[19-]/
ヒポクラド→ ヒポク(一)ラテス
ヒポクレス(?)④73明21.C/
ヒポクレーツス→ ヒポク(一)
ラテス
ヒポクレーテス→ ヒポク(一)
ラテス
ヒポナックス④73明21.C/
ヒメロス①64明25.B/
Huisk, I.③166明45.B/
ヒュイスマン①77明28.D/
ヒューグラント③137明39.A/
Hügel F.v.②265昭5.B//
④227大1.B/
ヒュージング③259昭6.C/
ヒュース、ヒュー・ブライス
④102明27.B/
Husseri④343大11.A/
ヒューダリータス④248大2.C/
Huber, O.②102昭15.E/
ヒュッパリキュス(費巴利屈斯)
①10[165]/
Hübner, P.G.③177大2.D/
Hübner,R.④556昭12.C/
ヒュプネル①9[132]//

④25[24978]/
ヒューブラック③180大3.A/
ヒュ(ー)ペリオン → ヒペリオン
ヒュペーリオン→ ヒペリオン
Hubert, K.③302昭14.B/
Huvelin④492昭9.C/
ヒュポリトス①257大14.D/
①279昭2.D/
ヒューム、ダビッド(フーム、ダビッド、Hume ,D.)
①36明17.E//
②159昭14.E/②187明24.B//
③135明38.D//④57明17.E/
④163明38.D/④227大1.B/
④346大11.B/④495昭9.D/
ヒューム、T.E.②25昭10.D/
Hulme,E.M.④287大5.B/
斐沃芳④53明16.D/④221明44.D/
Hiller,F.④574昭13.C/
ヒラクリタス → ヘラ(ー)クレイトス
Hill,C.E.④249大2.C/
Hill, G.B.③108明34.C/
Hill, G.F.③166明45.B/
Hill③111明34.G/
ヒル、ウイ(井)リアム・バンクロフト(ビー・)(ダブリュー・ビ)
④325大8.C/④368大14.C/
④676[大正]/④723[大正]/
ヒル博士④370大14.C/
ヒル④379大15.C/
ヒル③80明30.B/
ヒル①382昭9.D/
Hill Thallon Ida③236大15.C/
ヒル・ボウゲル④781[明6]/
ヒルギリウス→ ヴィルジリウス
Hilgenfeld, H.De L.③49明25.B/
Hirsch,F.④589昭14.C/
Hirsch, H.③231大14.C/
ヒルシュフェルド①150明44.A//③92明32.A/
ヒルス④183明41.B/
Hirst, F.W.②49昭11.E/
ヒルチー → ヒルティ
ヒルデブラント、クルト(Hildenbrant,K.)
③290昭12.B//④441昭6.B/
④595昭14.D/
ヒルティ(ー)、カール(カアル、Hilty,Karl)
①162大2.B/①210大8.B/
①221大10.B/①274昭2.B//
②12昭10.B/②108昭16.B/
②120昭17.B/②141昭19.A//
③127明37.B/③212大9.B/
③215大10.B//④159明38.B/
④258大3.B/④322大8.B/
④330大9.B/④332大9.B/
④401昭3.B/④404昭3.B/
④467昭8.B/④525昭11.B/
④549昭12.B/④583昭14.B/
④601昭15.B/④627昭16.B/
④802[昭11]/④803[昭12]/
④805[昭14]/④806[昭15]/
④807[昭16]/④807[昭17]/
④809[昭19]/
ヒルト③95明32.C/
ヒルドレ(ッ)ス①29明12.E/
①33明15.E/
Hilbert④578昭13.F/
ヒルン③187大3.D/
ヒロダテス → ヘ(ー)ロドトス
ヒロドトス→ ヘ(ー)ロドトス
ヒロビブリアス①18明8.B//④50明16.B/
ヒルロス(王) ④42明14.C/
ヒルン、イルジョー①176大3.D/
ヒンクス④108明28.D//④587昭14.B/
ヒンスプール③74明29.C/

フウツセル→ フッサル
Ferchl,F.④773[昭17]/
不干ハピアン①5［18］/
フーゲル、フリードリヒ・フォン
④232明45.B/
Huss,J.④292大5.C/
フッサル(フッセアル、エトムント)②254大15.B//
③71明29.A//④567昭13.B/
フッセアル→ フッサル
フッテン、ウルリッヒ・フォン
①383昭9.D//③278昭9.D//
④495昭9.D/④569昭134.B/
フービー、ヨゼフ②259昭3.B/
Buchwohl,W.④574昭13.C/
フーム、ダビッド→ヒューム、ダビッド
Hultzmann④226大1.B/
フンボルト、アレキサンデル・フォン③28明20.D//
④515昭10.C/④591昭14.C/
フム(ン)ボルト(F.)①191大5.C/
①224大10.C/①288昭3.B/
①349昭7.C/①365昭8.C/
フム(ン)ボルト(ハンボルト、Humboldt, Wilhelm v.)
①53明22.F/①84明30.D/
①173大3.B/①275昭2.B/
①358昭8.B/①379昭9.C/
①380昭9.C//②22昭10.C/
②24昭10.D/②36昭11.B/
②40昭11.B/②43昭11.C/
②117昭17.A/②203明29.E/
②204明30.C/②208明32.D/
②211明33.D/②217明35.D/
②278昭8.D/②281昭9.B/
②285昭9.C/③37明22.D/
③49明25.B/③62明27.D/
③69明28.D/③76明29.D/
③77明29.D/③83明30.D/
③84明30.D/③104明33.F/
③220大11.D/③239昭2.B/
③298昭13.D//④55明17.B/
④113明29.E/④120明31.C/
④128明33.C/④197明42.C/
④270大4.A/④333大9.C/
④476昭8.C/④485昭9.B/
④514昭10.C/④555昭12.C/
④575昭13.D/④760[昭13]/
④768[昭16]/④806[昭16]/
④807[昭17]/
フライターク③321昭17.D/
佛蘭西ルーヴル美術舘研究所
④756[昭12]/
フレイベル③137明39.B/
フリーデル②23昭10.C/
フリーチェ①309昭4.D/
フルトン、ジ・ダブリュ
④707[明41]/
フレイ、アレリ③291昭12.D/
フレーム、ゼ・イ④170明39.B/
Hronzny③254昭5.C/
Huhn, F.③239昭2.B/
ペー②62昭12.D/
ヘアン④804[昭13]/
Hearlam,A.C.④264大3.C/
ヘイガル → ヘーゲル
Hake,K.④277大4.B/
ヘイシオドス→ ヘシ(ジ)オドス
Heys③265昭7.C/
ヘイデース②184明23.D/
ヘイデン、クンデル④79明22.G/
Heitland,M.E.④444昭6.C/
ヘイネマン、フリッツ
①361昭8.B/
Hales, John W.③58明26.D/
ヘインズ①355昭7.E/
ヘイステル①7［74］/
ヘイゲル → ヘーゲル
ヘエスチングス → ヘスティングス
ヘカタイオス(ヘカテウス)

①305昭4.C//②121昭17.C/
②216明35.D//③38明22.F/
ヘカテウス → ヘカタイオス
ヘクト(ー)ル(Hektor)
①108明36.D/①126明39.B//
②18昭10.B/②26昭10.D/
②211明33.D//③30明21.B/
③134明38.D//④84明23.C/
④163明38.D/④282大4.D/
④627昭16.B/
Hekler, A.③309昭15.B/
ヘーガル(博士)②240大4.F/
ヘーグッド、アッチカス
④102明27.C/
ヘーゲシヤ(ア)ス③117明36.B//
④106明28.B/④400昭3.B/
④628昭16.B/
ヘーゲリアニズム → ヘーゲル
ヘーゲリアニスムス → ヘーゲル
ヘーゲリ→ ヘーゲル
ヘゲル → ヘーゲル
ヘーゲル(ヘイゲル、ヘゲル、ヘエゲル、ヘーゲリ、俾歇兒、Hegel)[ヘーゲリアニスムス、ヘーゲリアニズム]①46明21.B/
①55明23.B/①64明25.B/
①65明25.B/①65明25.C/
①66明25.D/①67明25.E/
①70明26.B/①73明27.B/
①83明30.C/①89明32.B/
①94明33.B/①122明38.E/
①126明39.B/①132明40.B/
①137明41.B/①157明45.B/
①185大3.E/①223大10.B/
①230大11.B/①245大13.B/
①247大13.C/①257大14.C/
①267大15.B/①269大15.C/
①270大15.D/①286昭3.B/
①288昭3.B/①289昭3.B/
①303昭4.B/①304昭4.B/
①306昭4.C/①307昭4.C/
①309昭4.D/①313昭5.B/
①315昭5.B/①316昭5.B/
①319昭5.C/①323昭5.E/
①326昭6.B/①327昭6.B/
①329昭6.B/①330昭6.B/
①331昭6.C/①334昭6.C/
①337昭6.D/①339昭6.E/
①342昭7.B/①344昭7.B/
①345昭7.B/①346昭7.B/
①347昭7.C/①350昭7.C/
①351昭7.D/①359昭8.B/
①361昭8.B/①363昭8.C/
①364昭8.C/①369昭8.F/
①373昭9.B/①374昭9.B/
①376昭9.B/①377昭9.B/
①380昭9.C/①381昭9.C/
①383昭9.D//②11昭10.A/
②12昭10.B/②14昭10.B/
②15昭10.B/②16昭10.B/
②21昭10.C/②22昭10.C/
②28昭10.E/②29昭10.E/
②32昭11.A/②33昭11.B/
②34昭11.B/②37昭11.B/
②38昭11.B/②41昭11.B/
②43昭11.C/②45昭11.D/
②56昭12.B/②61昭12.C/
②66昭12.E/②67昭12.F/
②71昭13.B/②72昭13.C/
②73昭13.C/②80昭14.B/
②83昭14.B/②85昭14.C/
②95昭15.B/②102昭15.E/
②105昭16.B/②107昭16.B/
②114昭16.E/②120昭17.B/
②123昭17.C/②131昭18.B/
②133昭18.B/②134昭18.C/
②139昭18.E/②143昭19.C/
②165明17.B/②167明18.B/
②169明19.B/②175明21.B/
②176明21.C/②179明22.B/
②182明23.B/②183明23.B/
②186明23.F/②187明24.B/

②190明25.B/②191明25.D/
②192明25.E/②194明26.B/
②197明27.B/②198明27.C/
②199明27.D/②200明28.B/
②201明29.B/②202明29.B/
②205明31.A/②205明31.B/
②207明31.D/②210明33.B/
②213明34.B/②215明35.B/
②217明36.B/②218明36.B/
②220明37.B/②221明38.B/
②222明38.B/②223明38.E/
②224明39.B/②226明40.B/
②230明42.B/②230明42.F/
②232明44.B/②233明45.B//
②236大2.B/②238大3.B/
②239大4.B/②240大5.B/
②242大7.B/②251大14.B/
②252大14.B/②254大15.B/
②256昭2.B/②257昭2.B/
②259昭3.B/②260昭3.C/
②261昭3.E/②262昭4.B/
②262昭4.B/②264昭4.E/
②265昭5.B/②266昭5.B/
②266昭5.C/②268昭6.A/
②269昭6.B/②270昭6.C/
②271昭6.D/②271昭6.E/
②272昭6.E/②272昭7.A/
②273昭7.B/②274昭7.C/
②275昭7.D/②276昭7.E/
②277昭8.B/②278昭8.B/
②278昭8.C/②278昭8.D/
②279昭8.E/②280昭9.B/
②281昭9.B/②284昭9.B/
②286昭9.E//③18明15.B/
③30明21.B/③35明22.B/
③44明24.B/③45明24.B/
③47明24.D/③49明25.B/
③52明25.D/③54明26.B/
③57明26.D/③59明26.E/
③60明27.B/③64明27.D/
③66明28.B/③67明28.C/
③73明29.B/③80明30.B/
③86明31.A/③88明31.B/
③93明32.B/③103明33.D/
③107明34.B/③117明36.B/
③123明36.D/③132明38.B/
③138明39.B/③143明40.B/
③144明40.D/③146明41.B/
③151明42.B/③166明45.B/
③169明45.D/③172大2.B/
③190大4.B/③197大5.B/
③202大6.B/③205大7.B/
③209大8.B/③216大10.D/
③218大11.B/③223大12.C/
③225大13.B/③228大14.A/
③229大14.B/③230大14.B/
③230大14.C/③233大15.B/
③234大15.B/③236大15.D/
③239昭2.B/③239昭2.B/
③240昭2.B/③242昭3.A/
③243昭3.B/③248昭4.B/
③248昭4.C/③252昭5.B/
③253昭5.C/③255昭5.D/
③257昭6.B/③258昭6.B/
③263昭7.B/③264昭7.B/
③265昭7.C/③270昭8.B/
③271昭8.B/③271昭8.C/
③272昭8.D/③275昭9.B/
③276昭9.B/③278昭9.D/
③280昭10.B/③281昭10.B/
③282昭10.C/③282昭10.D/
③285昭11.B/③285昭11.B/
③288昭12.A/③290昭12.B/
③293昭13.A/③294昭13.B/
③296昭13.B/③298昭13.D/
③302昭14.B/③303昭14.B/
③304昭14.C/③306昭14.E/
③307昭15.A/③308昭15.A/
③309昭15.B/③310昭15.C/
③311昭15.D/③312昭15.E
③314昭16.B/③315昭16.C/
③321昭17.B/③323昭18.B/
③325昭19.B/③326昭19.E/
④30明8.B/④39明13.B/

④41明14.B/④50明16.B/
④55明17.B/④59明18.B/
④67明20.B/④76明21.B/
④79明22.E/④90明25.B/
④91明25.B/④95明26.B/
④100明27.B/④106明28.B/
④107明28.B/④114明30.B/
④122明32.B/④124明32.C/
④127明33.B/④130明34.A/
④132明34.B/④134明34.D/
④140明35.D/④150明37.B/
④151明37.B/④159明38.B/
④165明38.D/④166明38.E/
④167明39.B/④168明39.B/
④169明39.B/④172明39.D/
④173明39.E/④176明40.B/
④177明40.B/④185明41.B/
④186明41.B/④187明41.B/
④193明42.B/④194明42.B/
④198明42.C/④204明43.B/
④205明43.B/④216明44.B/
④217明44.B/④222明44.D/
④223明4.E/④226大1.B/
④228明45.B/④232明45.B/
④233明45.B/④238明45.D/
④244大2.B/④245大2.B/
④257大3.B/④258大3.B/
④265大3.C/④274大4.B/
④275大4.B/④276大4.B/
④279大4.C/④283大4.E/
④286大5.B/④288大5.B/
④289大5.B/④290大5.B/
④296大5.D/④298大5.E/
④300大6.B/④302大6.B/
④303大6.B/④306大6.C/
④307大6.C/④314大7.B/
④317大7.C/④319大7.D/
④323大8.B/④328大8.E/
④346大11.B/④351大12.B/
④358大13.B/④359大13.B/
④360大13.C/④362大13.E/
④366大14.B/④367大14.B/
④377大15.B/④378大15.B/
④379大15.C/④383大15.D/
④389昭2.B/④390昭2.B/
④391昭2.B/④398昭2.E/
④402昭3.B/④403昭3.B/
④407昭3.C/④410昭3.E/
④415昭4.B/④416昭4.B/
④417昭4.C/④422昭4.E/
④423昭4.E/④426昭5.B/
④428昭5.B/④429昭5.B/
④430昭5.B/④431昭5.C/
④432昭5.C/④433昭5.D/
④438昭6.B/④439昭6.B/
④440昭6.B/④441昭6.B/
④442昭6.B/④445昭6.C/
④448昭6.E/④449昭7.A/
④453昭7.B/④454昭7.B/
④455昭7.B/④459昭7.C/
④461昭7.D/④467昭8.B/
④469昭8.B/④470昭8.B/
④471昭8.C/④472昭8.C/
④473昭8.C/④474昭8.C/
④484昭9.B/④485昭9.B/
④487昭9.B/④489昭9.B/
④490昭9.B/④494昭9.C/
④495昭9.D/④499昭9.E/
④500昭9.E/④501昭9.G/
④505昭10.B/④508昭10.B/
④509昭10.B/④510昭10.B/
④514昭10.C/④517昭10.D/
④524昭11.A/④525昭11.B/
④526昭11.B/④527昭11.B/
④528昭11.B/④530昭11.B/
④531昭11.B/④536昭11.C/
④542昭11.E/④543昭11.E/
④547昭12.A/④550昭12.B/
④552昭12.B/④556昭12.C/
④559昭12.D/④560昭12.D/
④564昭12.F/④567昭13.B/
④568昭13.B/④569昭13.B/
④570昭13.B/④571昭13.B/
④572昭13.C/④573昭13.C/

④576昭13.E/④577昭13.E/
④582昭14.A/④584昭14.B/
④585昭14.B/④586昭14.B/
④587昭14.B/④591昭14.C/
④603昭15.B/④604昭15.B/
④606昭15.B/④607昭15.B/
④609昭15.C/④614昭15.C/
④615昭15.C/④616昭15.C/
④631昭16.B/④633昭16.C/
④638昭16.E/④639昭16.E/
④641昭17.A/④643昭17.B/
④644昭17.B/④645昭17.B/
④648昭17.C/④653昭17.E/
④656昭18.A/④659昭18.B/
④659昭18.C/④660昭18.C/
④661昭18.C/④736[昭4]/
④740[昭6]/④742[昭7]/
④743[昭7]/④748[昭9]/
④752[昭10]/④755[昭11]/
④757[昭12]/④758[昭12]/
④760[昭13]/④775[昭18]/
④778[昭19]/④801[昭8]//
ヘザクリタス④373大14.F/
ヘシオット → ヘシ(ジ)オドス
ヘシオ(ヲ)ッド → ヘシ(ジ)オドス
ヘシオ(ヲ)ド → ヘシ(ジ)オドス
ヘーシオドス → ヘシ(ジ)オドス
ヘージオドース → ヘシ(ジ)オドス
ヘジオト→ ヘシ(ジ)オドス
ヘシ(ジ)オドス(ヘシシジュス、ヘシオ(ヲ)ド、ヘシオ(ヲ)ッド、ヒーシオドス、ヘージオドース、ヘシオット、ヘーシオドス、ゲジオド、ヘジオト、ヘイシオドス、ヘーヂオッド、歇阿儒斯、Hesiodos、Hesiod)
①5[19]/①10[165]/
①20明9.B/①69明26.B/
①248大13.D/①269大15.D/
①295昭3.D/①326昭6.B/
①335昭6.D/①369昭8.E//
②62昭12.D/②102昭15.F/
②138昭18.E/②178明22.B/
②179明22.B/②181明22.D/
②185明23.D/②195明26.D/
②197明27.B/②219明37.B/
②236大2.B/②260昭3.C/
②264昭4.E//③18明14.F/
③36明22.D/③62明27.C/
③99明33.B/③120明36.C/
③126明37.B/③180大3.B/
③195大5.B/③231大14.D//
④41明14.B/④63明19.B/
④98明26.D/④100明27.B/
④185明41.B/④232明45.B/
④311大7.A/④346大11.B/
④366大14.B/④367大14.B/
④399昭3.A/④413昭4.B/
④495昭9.D/④558昭12.D/
④666昭19.B/④666昭91.C/
④763[昭14]/
ヘシシジュス → ヘシ(ジ)オドス
Hess, G.②96昭15.B/
Hastings,J.④251大2.D/
④264大3.C/④298大5.G/
ヘステングス(ヘエスチングス、Hasting)
②244大8.G//③195大4.G/
ヘスペラス④158明38.B/
Heck④224大1.A/
ヘック師④716[大4]/
ヘックナー②233明44.E/
ヘッケル、(テオドル?)
①173大3.B/①181大4.B//
④511昭10.B/
ヘッケル、エルンスト
②224明 39.B/

ヘッセ(Hesse,Hermann)
②68昭13.A/
②84昭14.C/②86昭14.D/
②99昭15.D/②103昭16.A/
②109昭16.C/②111昭16.D/
②117昭17.A//③297昭13.D//
④758[昭12]/④769[昭16]/
Hesselmeyer, E.②61昭12.C/
ヘッセン④658昭18.B/
Hessen, J.②96昭15.B/
Hessen,S.④429昭5.B/
④527昭11.B/
ヘーヂオッド→ ヘシ(ジ)オドス
Headlam,A.C.④281大4.D/
ヘッドレー④693[明24]/
④694[明25]/
Höffer,M.④227大1.B/
ヘッフディング④315大7.B/
ヘッベル(ヘーベル、Hebbel、フリードリッヒ)[ギーゲス、ギイゲス]
①164大2.B/
①167大2.D/①181大3.B/
①186大4.A/①196大6.B/
①198大6.D/①254大14.B/
①285昭3.A/①301昭4.B//
③135明38.D/③206大7.C/
③228大13.D/③298昭13.D/
③324昭18.D//④251大2.D/
④268大3.D/④299大6.A/
④384大15.D/④446昭6.D/
④495昭9.D/④502昭10.A/
④518昭10.D/④524昭11.A/
④540昭11.D/④559昭12.D/
④594昭14.D/④650昭17.D/
Hett, W.S.②17昭10.B/
②40昭11.B/
ヘッポカテレイス(邊津補賀天聯伊須)①6[41]/
ヘツリゲル①263大15.A/
ヘーデマン①250大13.E/
Headlam,A.C.④394昭2.C/
ヘドラム、サンデイ④221明44.D/
ヘーナス①89明32.A/
Hönigswald, R.②72昭13.B//
④256大3.B/
ヘニオコス③322昭17.D/
Henning, R.①341昭7.A//
③254昭5.C/③271昭8.C//
④431昭5.C/④431昭5.C/
④520昭10.F/④535昭11.C/
ヘーネー(ヘネー、リュキス、リユ井ウス)①241大12.E//
④355大12.E/
ヘネー→ ヘーネー
ヘネストース③23明18.B//
④58明18.B/
Hebing,R.③128明37.C/
ヘ(一)ファイストス → ヘフハイストス(神)
Hefele,H.④266大3.D/
ヘフディング、H.①195大6.B//
②273昭7.B//③206大7.B//
④290大5.B/④314大7.B/
④316大7.B/④400昭3.B/
④454昭7.B/
ヘフトル(海弗得)③12明10.E/
ヘフハイストス(神)(ヘ(一)ファイストス)②234明45.B//
③137明39.B/③195大5.B/
③263昭7.B//④150明37.B/
ヘーベル→ ヘッベル
ヘーベルリン③161明44.C/
ヘボン、ヘンリー(顯理平文)
④126明32.G/
ヘボン(Hephurn), J.C.(ゼー,平文、亞醫)
①12[221]/①15明5.G/
①16明6.G/①17明7.G/
①39明18.G/①41明19.G/
①45明20.G/①50明21.G/
①53明22.G/①58明23.G/
①67明25.G/①123明38.G/

①154明44.G/①272大15.G//
②52昭11.G/②152明1.G/
②154明5.G/②172明19.G/
②189明24.G/②193明25.G/
②233明44.G/②235明45.G/
②280昭8.G//③3[17495]/
③5明7.G/③24明18.G/
③27明19.G/③29明20.G/
③53明25.G/③70明28.G/
③153明42.G/③162明44.G/
③232大14.G/③242昭2.G/
③251昭4.G/③283昭10.G/
③293昭12.G/③300昭13.G/
③307昭14.G//④30明7.D/
④31明9.D/④35明11.D
④36明12.C/④37明12.C/
④49明15.G/④50明16.A/
④65明19.D/④66明19.G/
④71明20.G/④73明21.C/
④75明21.D/④85明23.G/
④94明25.G/④155明37.D/
④189明41.D/④200明42.G/
④223明44.G/④306大6.C/
④617昭15.D/
④675[明治期,明5]/
④676[明6]/④681[明10]/
④711[大1]/④729[昭1]/
④789[18-]/

ヘラ(女)神(ヘーラ)
①133明40.C//③231大14.D/
③264昭7.B/③297昭13.D//
④150明37.B/

ヘーラ→ ヘラ(女)神

Heller, J.L.①362昭8.B/

ヘラー④577昭13.E/

ヘラキュース → ヘラクレエス

ヘラクライタス→ ヘラ(一)クレイトス

ヘ(一)ラクライトス → ヘラ(一)クレイトス

ヘラクラウトス→ ヘラ(一)クレイト

ヘラクリス → ヘラクレエス

ヘラクリタ(ト)ス → ヘラ(一)クレイトス

ヘラクリチュス → ヘラ(一)クレイトス

ヘラクリツス → ヘラ(一)クレイトス

ヘラクリーヅ → ヘラクレエス

ヘラクリト → ヘラクレエス

ヘラクリート→ ヘラ(一)クレイトス

ヘラクリイト→ ヘラ(一)クレイトス

ヘラクリ(一)トス → ヘラ(一)クレイトス

ヘラクルス派 → ヘラ(一)クレイトス

ヘラクレイタス → ヘラ(一)クレイトス

ヘラクレイデース → ヘラ(一)クレイトス

ヘラクレイト → ヘラ(一)クレイトス

ヘ(一)ラ(一)クレイト(一)ス(ヘラクレイト、ヘラクリタ(ト)ス、ヘ(一)ラクライトス、エライリット、ヘラクリチュス、ヘラクルス、ヘラクリツス、ヘラクレイタス、ヘラクレイデース、ヘラクリス、ヘ(一)ラクレス、ヘラクリ(一)トス、ヘラクレトス、ヘーラクレイトース、ヘラクライタス、ヘラクラウトス、ヘラクリート
ヘラクリイト、
Heracleitus, Heraklitus, Heraklit)
①78明29.B/①89明32.B/

①105明36.B/①119明38.B/
①187大5.B/①203大7.B/
①215大9.B/①229大11.B/
①249大13.E/①265大15.B/
①287昭3.B/①303昭4.B/
①327昭6.B/①342昭7.B/
①344昭7.B//②17昭10.B/
②34昭11.B/②36昭11.B/
②58昭12.B/②70昭13.B/
②81昭14.B/②105昭16.B/
②119昭17.B/②157明10.C/
②158明13.B/②162明16.B/
②164明17.A/②175明21.B/
②176明21.B/②179明22.B/
②197明27.B/②200明28.B/
②215明35.B/②221明38.B/
②222明38.B/②224明39.B/
②226明40.B/②234明45.B/
②235明45.F/②241大6.B/
②242大7.B/②279昭8.E//
③34明22.A/③60明27.B/
③65明28.B/③66明28.B/
③72明29.B/③106明34.B/
③111明35.B/③119明36.B/
③166明45.B/③172大2.B/
③173大2.B/③180大3.B/
③189大4.B/③215大10.B/
③218大11.B/③221大12.A/
③222大12.B/③226大13.B/
③325昭19.B/③326昭19.B//
④51明16.B/④63明19.B/
④95明26.B/④100明27.B/
④106明28.B/④113明29.E/
④114明30.B/④123明32.B/
④125明32.D/④132明34.B/
④143明36.B/④149明37.B/
④176明40.B/④188明41.C/
④192明42.B/④194明42.B/
④205明43.B/④216明44.B/
④228明45.B/④231明45.B/
④232明45.B/④242大2.B/
④243大2.B/④244大2.B/
④272大4.B/④273大4.B/
④274大4.B/④277大4.B/
④288大5.B/④290大5.B/
④314大7.B/④321大8.A/
④323大8.B/④324大8.B/
④359大13.B/④366大14.B/
④367大14.B/④368大14.B/
④375大15.B/④377大15.B/
④401昭3.B/④415昭4.B/
④427昭5.B/④439昭6.B/
④442章6.B/④448昭6.E/
④467昭8.B/④468昭8.B/
④483昭9.B/④516昭10.D/
④530昭11.B/④583昭14.B/
④587昭14.B/④590昭14.C/
④607昭15.B/④627昭16.B/
④630昭16.B/④657昭18.B/
④665昭19.B/④666昭19.B/
④740[昭6]/④746[昭8]/
ヘラクレエス(へ(一)ラクレ(一)ス、ヘルクレス、ヘラクレス、ヘルキュール、ハーキュールス、ヘルキュリ(一)ス、ヘルキュルス、ヘラクリス、ハーキュリース､ヘラクリーヅ、ハハキュリーズ、ヘラキュース、ヘラクリト、ヘルキュリーズ、ヘルキュレス、Heraclius)
①100明35.B/①128明39.D/
①343昭7.B//②119昭17.B/
②179明22.B/②181明22.D/
②184明23.D/②187明24.B/
②197明27.B/②208明32.D/
②219明37.B/②234明45.B/
②242大7.B/②255大15.F/
②269昭6.B/②273昭7.B/
②280昭9.B//③24明18.F/
③31明21.C/③52明25.D/
③133明38.C/③141明39.E/
③195大5.B/③199大5.D/

③209大8.B/③247昭4.B/
③274昭9.B/③276昭9.B/
③280昭10.B/③297昭13.D/
③304昭14.D//④29明6.B/
④93明25.D/④100明27.B/
④142明36.B/④147明36.D/
④197明42.C/④286大5.B/
④322大8.A/④390昭2.B/
④392昭2.B/④525昭11.B/
④595昭14.D/④810[19-]/
ヘ(一)ラクレ(一)ス → ヘラクレエス
ヘラクレトス→ ヘラ(一)クレイトス
ヘーラクレイトース→ ヘラ(一)クレイトス
ヘラニクス③72明29.B//
④112明29.D/
ヘラール、アルフレッド
②233明44.F/
ヘリオクレス②229明42.B/
Helios(神)②284昭9.B//
④257大3.B/④488昭9.B/
ヘリゲル(Herriger,Eu.)
③246昭4.A/③253昭5.B//
④441昭6.B/
ヘリダオタス③31明21.C/
ヘリツゲル、オイゲン
①273昭2.A
ヘーリング④586昭14.B/
ヘーリング③29明20.D//
④73明21.C/
ヘーリング、オルトー
①46明21.B/
ヘーリング、テオドール
③244昭3.C/
Haering,T.L.④615昭15.C/
ヘルキュリ(一)ス → ヘラクレエス
ヘルキュリーズ→ ヘラクレエス
ヘルキュール → ヘラクレエス
ヘルキュルス → ヘラクレエス
ヘルキュレス→ ヘラクレエス
ヘルクレス → ヘラクレエス
Hölscher④479昭8.E/④670昭20.E/
ヘルダー → ヘルデル
ヘルダーリン → ヘルデルリン
ヘルダアリン → ヘルデルリン
ヘルツ②224明39.B/
ヘルツォグ、ペーテル
④653昭17.E/
ヘルツォーク(ヘルツォグ)、ルードルフ(Herzog,R.)
②121昭17.C//③219大11.C//
④657昭18.B/
Herzberg, A.(ヘルツベルグ、アレキサンデル)
③243昭3.B//④415昭4.B/
Hertzler, J.O.②49昭11.E/
ヘルデル[辭典」③292昭12.G/
Herder,J.G.④556昭12.C/
ヘルデル(ヘルダー、Herder)
①87明31.C/
①239大12.C/①256大14.C/
①347昭7.C/①363昭8.C/
①364昭8.C/①380昭9.C//
②22昭10.C/②32昭11.A/
②42昭11.C/②43昭11.C/
②63昭12.D/②73昭13.C/
②147昭20.D/②179明22.B/
②184明23.D/②185明23.D/
②203明29.D/②230明42.F//
②236大2.B/②238大3.F/
②262昭4.B/②266昭5.C/
②275昭7.D/②277昭8.B/
②278昭8.C/②278昭8.D/
②285昭9.D//③36明22.C/
③37明22.D/③56明26.C/
③62明27.C/③66明28.B/
③67明28.C/③69明28.D/
③78明29.D/③117明36.B/
③144明40.D/③156明43.C//
③187大3.E/③272昭8.C/

③285昭11.B/③290昭12.B/
③294昭13.B/③304昭14.C/
③309昭15.B/③321昭17.C/
③327昭20.C//④47明15.C/
④103明27.C/④109明29.A/
④113明29.F/④122明32.B/
④124明32.C/④151明37.B/
④162明38.C/④195明42.B/
④224大1.A/④234大1.C/
④236明45.D/④237大1.D/
④286大5.B/④311大7.A/
④362大13.D/④431昭5.C/
④473昭8.C/④474昭8.C/
④495昭9.D/④501昭10.A/
④513昭10.C/④514昭10.C/
④535昭11.C/④547昭12.A/
④572昭13.C/④573昭13.C/
④575昭13.D/④591昭14.C/
④606昭15.B/④609昭15.C/
④613昭15.C/④614昭15.C/
④615昭15.C/ ④616昭15.C/
④633昭16.C/④649昭17.C/
④794[大12]/④809[昭20]/
ヘルデルリン(ヘルダアリン、ヘルダーリン、ヘルデルリーン、Hölderlin,)、フリードリッヒ、Friedlich)［渡邊格司、Hyperion］
①241大12.D/
①248大13.D/①280昭2.D/
①304昭4.B/①308昭4.D/
①309昭4.D/①321昭5.D/
①347昭7.B/①353昭7.D/
①367昭8.D/①373昭9.A/
①383昭9.D//②24昭10.D/
②32昭11.A/②44昭11.D/
②71昭13.B/②83昭14.B/
②100昭15.D/②112昭16.D/
②130昭18.B/②145昭19.D/
②263昭4.D/②269昭6.B/
②271昭6.D/③211大9.B/
③217大10.D/③236大15.D/
③242昭3.A/③268昭8.A/
③278昭9.D/③297昭13.D/
③311昭15.D/③324昭18.D//
④211明43.D/④354大12.D/
④372大14.D/④421昭4.D/
④433昭5.D/④446昭6.D/
④496昭9.D/④497昭9.D/
④517昭120.D/④518昭10.D/
④559昭12.D/④560昭12.D/
④595昭14.D/④617昭15.D/
④618昭15.D/④619昭15.D/
④635昭16.D/④636昭16.D/
④644昭17.B/④752[昭10]/
④760[昭13]/④775[昭18]/
④809[昭20]/④802[昭8]/
ヘルデルリーン → ヘルデルリン
ヘルドタス→ ヘロドトス
ヘルバート→ ヘルバルト
ヘルバルト(ヘルバート、ヘルベルト)
①126明39.B/①303昭4.B//
④312大7.B/④313大7.B/
④452昭7.B/
Herbart①144明42.E/
Helbig,G.④251大2.D/
ヘルビデイアス・プチスカス
③139明39.C/
ヘルフリッチ(Hellfrisch)
①228大11.A/①236大12.A/
④387昭2.A/
ヘルベルト→ ヘルバルト
ヘルマイオス③107明34.C/
ヘルマン → ゲエテ
ヘルマン①173大3.B/
ヘルマン(Hermann, A.)
①350昭7.C/①365昭8.C/
ヘルマン・ベルゴース④781[明7]/
Hermann,E.④227大1.B/
④246大2.B/
Herrmann,W.④226大1.B/

Hellmann, F.②283昭9.B//
④493昭9.C/
Hermann, H.②25昭10.D/
ヘルミス → ヘルメス神
ヘルメ(ー)ス神(ヘルミス)
①205大7.D//②156明8.F/
②234明45.B//③146明41.B/
③152明42.D/③227大13.D/
③257昭6.B/③297昭13.D//
④256大3.B/④317大7.C/
④612昭15.C/
ヘルモルト(Helmolt, I. von)
③95明32.C/③120明36.C//
③129明37.C//④393昭2.C/
Hermes Trismegistus②19昭10.B/
ヘルン､ラフカディオ → ハーン、ラフカディオ
ヘルン②129昭17.F/②268昭5.G/
Herre④393昭2.C/
(聖)ヘレナ④379大15.C/
ヘレナ → ヘレン(美姫)
ヘレン(美姫、ヘレナ、烈納、Helena)①43明20.C/
①47明21.C/①209大8.B/
①232大11.D//②55昭12.B/
②111昭16.C/②229明42.B/
②232明44.B/②234明45.B//
③102明33.C/③216大10.C/
③230大14.C//④323大8.B/
④351大12.B/
Helen,Zimmern④791[大1]/
Héródas, Thokritos①381昭9.D/
ヘロデ・アンテパス③133明38.C/
④34明11.C/④472昭8.C/
ヘロデタス→ ヘロドトス
ヘロデチース → ヘロドトス
ヘロドウトス→ ヘロドトス
ヘロドシュス → ヘロドトス
ヘろどたす → ヘロドトス
ヘロド(ー)タス → ヘロドトス
ヘロドチュ(ー)ス → ヘロドトス
ヘロドツス → ヘロドトス
ヘロドート→ ヘロドトス
ヘロドートス→ ヘロドトス
ヘロド(ッ)ト → ヘロドトス
ヘロドトウス → ヘロドトス
ヘ(ー)ロドトス(ヘロド(ー)タス、ヘロドチュ(ー)ス、ヘロドツス、ヘロド(ッ)ト、ヘロドート、ヘロドトウス､ヒロダテス、ヘロデチース、ヘロドシュス、ヒロドトス、へろどたす､ヘルドタ、ヘロデタ、ヘロドウトス、ヘロドートス、墨陸漁都、Herodotus, Herodotas)[ヒストリー]
①16明7.C/①21明9.C/
①65明25.C/①69明26.B/
①90明32.C/①113明37.C/
①114明37.C/①174大3.C/
①175大3.C/①190大5.C/
①198大6.C/①214大9.A/
①216大9.C/①221大10.A/
①256大14.C/①300昭4.A/
①305昭4.C/①318昭5.C/
①332昭6.C/①357昭8.A//
②97昭15.C/②98昭15.C/
②108昭16.C/②109昭16.C/
②110昭16.C/②114昭18.E/
②121昭17.C/②122昭17.C/
②134昭18.C/②151[14522]/
②161明15.E/②163明16.E/
②171明19.D/②172明19.E/
②179明22.B/②181明22.D/
②185明23.D/②195明26.C/
②202明29.C/②205明31.B/
②210明33.C/②213明34.B/
②215明35.C/②216明35.C/
②222明38.C/②224明 39.A/

②226明 40.B/②228明41.C/
②230明42.F/②239大4.B/
②242大7.B/②250大13.A/
②251大14.B/②259昭3.B/
②260昭3.C/②264昭5.A/
②266昭5.B/②283昭9.B//
③4明7.C/③7明8.F/
③12明10.F/③13明11.D/
③24明18.E/③25明19.B/
③28明20.D/③33明21.F/
③35明22.B/③36明22.C/
③42明24.A/③48明25.B/
③50明25.C/③56明26.C/
③59明27.A/③67明28.C/
③68明28.D/③71明29.B/
③82明30.C/③88明31.B/
③94明32.C/③96明32.C/
③104明33.F/③107明34.C/
③120明36.C/③128明37.C/
③133明38.C/③139明39.C/
③142明40.B/③148明41.C/
③149明41.F/③175大2.C/
③176大2.C/③185大3.C/
③219大11.C/③240昭2.C/
③256昭5.F/③266昭7.C/
③268昭8.A/③285昭11.B/
③304昭14.C/③316昭16.C//
④47明15.C/④48明15.C/
④57明17.E/④60明18.D/
④73明21.B/④75明21.F/
④76明21.B/④78明22.C/
④79明22.E/④81明23.B/
④109明29.B/④110明29.B/
④112明29.D/④128明33.C/
④133明34.C/④162明38.C/
④166明38.F/④206明43.B/
④265大3.C/④306大6.C/
④311大7.A/④316大7.C/
④329大9.A/④364大14.A/
④367大14.B/④381大15.C/
④466昭8.A/④493昭9.C/
④521昭10.F/④535昭11.C/
④582昭14.A/④589昭14.C/
④610昭15.C/④611昭15.C/
④634昭16.C.④646昭17.C/
④660昭18.C/④661昭218.C/
④669昭19.E/④702[明36]/
④713[大3]/④754[昭11]/
④767[昭15]/
ヘロルト、マリース［鈴木力］
①42明20.B/①43明20.B/
ヘロン（へろん）④109明28.F/
④124明32.C/④269大3.F/
へろん→ ヘロン
ヘーロンダース②135昭18.D/
ヘン①20明9.B/
Henn,T.R.④516昭10.D/
Hengstengerg④402昭3.B/
Hennke, F.G.②237大3.B/
Henss, A.③296昭13.C/
Hensel,P.④227大1.B/
Henderson,B.W.③133明38.C/
Henne, H.②58昭12.B/
Henry, P.②72昭13.B//
④506昭10.B/
ホーア、G.F.③91明31.E/
Huizinga, J.①380昭9.C//
②97昭15.B//④491昭9.C/
④575昭13.C/④603昭15.B/
④658昭18.B/
Heuss, A.①386昭9.E/
Häusler,R.④619昭15.D/
Heussi, C.②270昭6.C/
Heussi,H.④555昭12.C/
Heussi,K.④571昭13.C/
ホイソン①89明32.A/
ホイッテーカ、エドマンド
②102昭15.E/
ホイデン, ダニエル・デ
④690[明20]/
ホイヤー、オットー・バルデン
③244昭3.C/
Heudel, M.③215大10.B/
ホイヴェル（ル）ス（ホルヴェル

ス)、ヘルマン
①315昭5.B//④440昭6.B/
④511昭10.B/④629昭16.B/
④644昭17.B/④630昭16.B/
④638昭16.E/④752[昭10]/
法印ヴィセンテ①4[3]/
Heuberger, R.①292昭3.C/
ホウエル、フェアラース
①232大11.D//④348大11.D/
彭基相④753[昭10]/
Hawkes,C.F.C④613昭15.C/
Haws, C.H.&H.B.③216大10.C//
④721[大10]/
Hawthorne②85昭14.C/
ホウマー→ ホーメル
ホウメル → ホーメル
ホウレーシ→ ホ(一)レ(一)ス
ホエザム①185大3.F/
ホエトリー②170明19.B/
鳳マア → ホーメル
Hoerenlé, R.F.A.③300昭13.E/
ホオマア → ホーメル
Hogarth, D.G.①143明42.C//
④191明42.D/
ホーキンス、デキストル・エ
②156明8.B/
北欧神話④729[昭2]/
ホクスラウスキー②213明34.C//
③108明34.C/
北平北堂圖書舘④757[昭12]/
ホグベン、ランスロット
②90昭14.F/②102昭15.F/
②124昭17.D//④622昭15.F/
④805[昭14]/
ホグラウスキー、アー・フォン →
ホクスラウスキー
Hosius,C.④610昭15.C/
ホスト、ヘルマン②196明26.E/
ホツグソン④372大14.E/
Hodges, G.(ホッジス、ジョージ)
③192大4.C//④263大3.C/
ホーッパ、ビーツル
④674[明治初期]/
ホッブス(ホッフ(ブ)ス、拂波士、
發佩)①110明37.B//
②163明16.E//③12明10.E//
③105明34.B//④106明28.B/
④119明31.B/④442昭6.B/
Hoff, F.③254昭5.C/
ホッフ、ルードウィヒ
①154明44.F/
ホッフ(ブ)ス → ホッブス
Hoffmeister, J.③275昭9.B/
ホッフマン④442昭6.B/
ホッペ(Hoppe, E.)②261昭3.E/
②264昭4.F//④408昭3.E/
④409昭3.E/④410昭3.F/
ホト(一)①303昭4.B/①351昭7.D/
ホニグスハイム②16昭10.B/
Honigmann, E.③231大14.C/
Hoching,W.E.④242大2.B/
ホフ①46明21.B
ホプキンス、アルフレッド
④478昭8.D/
ホプキンス、マーク④120明31.B/
ホプキンス④678[明8]/
ホブソン(合信)①11[201]/
Höffding,H.④227大1.B/
ホブハウス①157明45.B/
①164大2.B//④362大13.E/
ホフマン②257昭2.B/
ホフマン、エルンスト(Hoffmann,
E.)①237大12.B/
①245大13.B/①254大14.B/
①287昭3.B/①310昭4.E/
①375昭9.B//②19昭10.B/
②88昭14.D//③226大13.B/
③258昭6.B//④442昭6.B/
④452昭7.B/④760[昭13]/
Hoffmann, F.②282昭9.B//
④486昭9.B/
Hoffmann,J.④567昭13.B/
Hoffmann,Wilhelm②22昭10.C/
ホ(一)フマンスタール(フゥゴ

オ・フォン)
①167大2.D/①217大9.D/
①247大13.D/①293昭3.D//
③162明44.D/③178大2.D/
④713[大3]/
Hauvette,A.④610昭15.C/
Hochholzer,I.②53昭12.A//
④591昭14.C/
保ーマー → ホーメル
ホーマ(ー) → ホーメル
ホ(ー)マル → ホーメル
ほーまー→ ホーメル
ホーマル→ ホーメル
Homans,G.C.④557昭12.C/
ホーム → ホーメル
Holmes, T.R.③223大12.C/
③227大13.C/
ホムセン②63昭12.D/
ホムマン③116明36.A/
ホームル → ホーメル
ホメーア→ ホーメル
ホメイロス → ホーメル
ホメエル → ホーメル
ホメエロス → ホーメル
ホメヤ → ホーメル
ホーメル(ホモル、ホメール、ホームル、ホメ(ー)ロス、ホーマア、ホーマ(ー)、ホオマア、ホーモル、ホーム、ホウメル、ホ(ー)マル、ホメエル、オメール、ホメエロス、ホメイロス、ホウマー、ホルメル、ホーマル、ほうまあ、ほーまー、鳳マア、保ーマー、ホメヤ、ホメーア、ホメ(ー)ル、忽墨略斯、和墨耳、和馬傳、哈麻、法滿、法馬、Homer、Homerus、Homere)[イリアッド、イリヤッド、ウリセス、オヂソイス、オデュッセ、オデッセウス、オディセー、イニード、イ(ー)リアス、イリアド、イリヤド、オデセイ、オヂシイ、オデッシイ、オジッセウス、オヂッセウス、イリアード、オデッセ(ー)、オヂュッセーア、おでゅすせいあ、オドユツセイ、トロイ戦記、ツロイ物語、ユーリセス、ユリース、ユリシース、ウリッセス、オデシイ、オデシー、オヂッセウス、オデイツセー、オデイッセー、ゴメル、オデュセイ、オヂソイス、オデソイイ、オデッセイ、おでゆつせいあ、Odyssee、Odyssey、Iliad、ゆり若大臣、百合若大臣、百合稚[鶴田喜一郎、田中秀央、松浦嘉一、トーロー、トロヤ、トロヤ城、トロア、Troie]①5[19,31]/
①6[39,51,60,62]/
①7[83]/①8[101,110]/
①10[165]/①15明5.B/
①16明6.D/①17明7.D/
①19明8.D/①30明13.D/
①43明20.C/①44明20.D/
①47明21.C/①48明21.C/
①48明21.D/①49明21.D/
①52明22.D/①54明23.B/
①56明23.C/①56明23.D/
①57明23.D/①59明24.B/
①60明24.B/①61明24.D/
①62明24.D/①64明25.B/
①65明25.D/①66明25.D/
①69明26.B/①71明26.D/
①74明27.D/①77明28.D/
①80明29.D/①82明30.D/

①87明31.C/①87明31.D/
①90明32.C/①91明32.C/
①95明33.D/①98明34.C/
①102明35.D/①104明36.B/
①108明36.D/①115明37.D/
①116明37.D/①118明38.A/
①121明38.C/①121明38.D/
①125明39.B/①128明39.D/
①133明40.D/①134明40.D/
①139明41.C/①149明43.D/
①150明44.A/①161大2.A/
①162大2.B/①165大2.C/
①166大2.D/①167大2.D/
①176大3.D/①177大3.D/
①183大3.D/①184大4.D/
①198大6.D/①204大7.C/
①205大7.D/①214大9.A/
①217大9.C/①217大9.D/
①221大10.A/①228大11.A/
①231大11.D/①232大11.D/
①243大13.A/①248大13.D/
①264大15.A/①266大15.B/
①268大15.C/①270大15.D/
①278昭2.D/①280昭2.D/
①293昭3.D/①294昭3.D/
①295昭3.D/①298昭3.F/
①300昭4.A/①305昭4.C/
①307昭4.D/①312昭5.A/
①320昭5.D/①336昭6.D/
①337昭6.D/①347昭7.C/
①351昭7.D/①352昭7.D/
①357昭8.A/①362昭8.B/
①364昭8.C/①367昭8.D/
①372昭9.A/①381昭9.D/
①382昭9.D//②18昭10.B/
②23昭10.D/②24昭10.D/
②25昭10.D/②26昭10.D/
②44昭11.D/②45昭11.D/
②47昭11.D/②55昭12.B/
②61昭12.D/②62昭12.D/
②73昭13.D/②75昭13.D/
②86昭14.D/②87昭14.D/
②89昭14.E/②97昭15.B/
②98昭15.D/②102昭15.F/
②110昭16.D/②111昭16.D/
②123昭17.D/②125昭17.D/
②126昭17.D/②135昭18.D/
②136昭18.D/②137昭18.D/
②144昭19.D/②149［14469］/
②151［14518］/②161明15.E/
②163明16.C/②163明16.E/
②164明16.E/②165明17.B/
②165明17.C/②165明17.F/
②167明18.B/②167明18.D/
②170明19.B/②171明19.D/
②172明19.E/②173明20.C/
②174明20.E/②177明21.D/
②177明21.F/②179明22.B/
②180明22.D/②181明22.D/
②183明23.B/②184明23.D/
②185明23.D/②186明24.B/
②188明24.D/②191明25.D/
②192明25.E/②193明26.A/
②194明26.B/②195明26.D/
②196明26.D/②197明27.B/
②198明27.D/②199明27.D/
②201明28.D/②202明29.B/
②202明29.C/②205明31.A/
②206明31.D/②209明32.E/
②210明33.C/②211明33.D/
②213明34.B/②216明35.D/
②217明36.B/②218明36.D/
②220明37.B/②220明37.D/
②221明37.E/②221明38.A/
②221明38.B/②222明38.B/
②222明38.C/②223明38.D/
②223明39.A/②225明40.A/
②228明41.B/②228明41.D/
②229明42.B/②230明42.D/
②230明42.F/②232明44.B/
②233明44.D/②233明44.E/
②234明45.B/②236大2.B/
②238大3.D/②249大12.D/
②250大13.A/②256大15.F/

②257昭2.D/②262昭4.D/
②278昭8.D/②282昭9.B//
③7明9.B/③14明12.B/
③17明14.C/③23明18.B/
③25明19.B/③28明20.D/
③31明21.C/③32明21.D/
③33明21.F/③34明22.A/
③35明22.B/③37明22.D/
③38明22.E/③38明22.F/
③41明23.D/③42明23.D/
③42明24.A/③44明24.B/
③48明25.B/③51明25.D/
③52明25.D/③54明26.B/
③56明26.B/③56明26.D/
③57明26.D/③58明26.D/
③59明27.A/③62明27.D/
③63明27.D/③66明28.B/
③68明28.D/③69明28.D/
③70明28.F/③71明29.B/
③72明29.B/③74明29.C/
③76明29.D/③77明29.D/
③78明29.D/③80明30.B/
③83明30.D/③84明30.D/
③89明31.D/③90明31.D/
③91明31.D/③96明32.C/
③96明32.D/③101明33.C/
③104明33.D/③114明35.C/
③118明36.B/③120明36.C/
③129明37.D/③133明38.C/
③134明38.D/③135明38.D/
③136明38.D/③140明39.D/
③141明40.B/③142明40.B/
③144明40.D/③145明40.F/
③149明39.D/③149明41.F/
③149明42.B/③150明42.B/
③153明42.D/③153明43.A/
③155明7.B/③158明43.D/
③159明44.A/③162明44.D/
③168明45.D/③169明45.D/
③175大2.C/③177大2.D/
③179大2.D/③179大3.A/
③180大3.B/③186大3.D/
③187大3.D/③188大3.F/
③193大4.D/③195大5.B/
③198大5.B/③203大6.D/
③207大7.C/③209大8.B/
③218大11.B/③219大11.C/
③220大11.D/③224大12.D/
③227大13.D/③228大13.D/
③233大15.B/③236大15.D/
③237大15.D/③241昭2.D/
③244昭3.C/③252昭5.A/
③263昭7.A/③268昭8.A/
③288昭12.A/③289昭12.B/
③294昭13.B/③298昭13.D/
③299昭13.D/③304昭14.D/
③311昭15.D/③317昭16.D/
③326昭19.B//④30明7.B/
④40明14.A/④41明14.B/
④42明14.C/④47明15.C/
④50明16.B/④51明16.B/
④52明16.C/④53明16.C/
④53明16.D/④54明17.A/
④55明17.B/④56明17.C/
④59明18.B/④60明18.D/
④61明18.F/④62明19.A/
④63明19.B/④67明20.B/
④71明21.A/④72明21.B/
④73明21.B/④73明21.C/
④75明21.D/④75明21.F/
④76明21.B/④77明21.B/
④81明23.B/④82明23.B/
④84明23.C/④85明23.D/
④86明24.B/④91明25.B/
④93明25.D/④98明26.D/
④99明27.B/④100明27.B/
④101明27.B/④102明27.B/
④103明27.D/④104明28.A/
④106明28.B/④108明28.C/
④108明28.D/④109明29.B/
④117明30.D/④119明31.B/
④121明31.D/④123明32.B/
④124明32.B/④125明32.D/

④127明33.B/④135明35.B/
④136明35.B/④139明35.D/
④140明35.D/④146明36.D/
④147明36.D/④148明36.D/
④150明37.B/④155明37.D/
④156明37.D/④161明38.C/
④162明38.C/④163明38.D/
④164明38.D/④165明38.D/
④166明38.F/④170明39.B/
④173明39.F/④176明40.B/
④180明40.D/④181明40.D/
④185明41.B/④186明41.B/
④194明42.B/④201明43.A/
④210明43.D/④211明43.D/
④213明44.A/④215明44.B/
④217明44.B/④221明44.D/
④222明44.D/④231明45.B/
④232明45.B/④237明45.D/
④238明45.D/④243大2.B/
④252大2.D/④267大3.D/
④268大3.E/④275大4.B/
④278大4.C/④280大4.D/
④281大4.D/④289大5.B/
④290大5.B/④297大5.D/
④301大6.B/④307大6.D/
④311大7.A/④315大7.B/
④318大7.D/④319大7.D/
④320大7.E/④321大8.A/
④322大8.B/④326大8.D/
④328大8.E/④329大9.A/
④332大9.B/④346大11.B/
④348大111.D/④349大11.E/
④359大13.B/④362大13.D/
④364大14.A/④365大14.B/
④366大14.B/④367大14.B/
④368大14.B/④371大14.D/
④376大15.B/④384大15.D/
④386昭2.A/④387昭2.A/
④392昭2.C/④397昭2.D/
④399昭3.A/④403昭3.B/
④404昭3.B/④407昭3.D/
④408昭3.D/④419昭4.D/
④422昭4.E/④423昭4.E/
④442昭6.B/④460昭7.D/
④466昭8.A/④472昭8.C/
④494昭9.D/④498昭9.D/
④516昭10.D/④517昭10.D/
④523昭11.A/④524昭11.A/
④539昭11.D/④542昭11.E/
④546昭12.A/④547昭12.A/
④549昭12.B/④558昭12.D/
④574昭13.D/④575昭13.D/
④576昭13.D/④582昭14.A/
④592昭14.C/④595昭14.D/
④600昭15.A/④618昭15.D/
④627昭16.B/④630昭16.B/
④631昭16.B/④649昭17.D/
④661昭18.C/④662昭18.D/
④666昭19.B/④668昭19.D/
④678[明8]/④687[明18]/
④698[明30,31]/④704[明治]/
④712[大2]/④729[昭2]/
④741[昭和]/④743[昭7]/
④751[昭10]/④761[昭13]/
④767[昭15]/④810[19-]/
ホメ(一)ロス → ホーメル
ホメ(一)ル → ホーメル
ホモル → ホーメル
ホーモル → ホーメル
ホモール氏③134明38.C/
ホラシ(一)アス → ホ(一)レ(一)ス
ホラシウス → ホ(一)レ(一)ス
ホラシュス→ ホ(一)レ(一)ス
ホラース → ホ(一)レ(一)ス
ホ(一)ラス → ホ(一)レ(一)ス
ホラチアス → ホ(一)レ(一)ス
ホラチイ → ホ(一)レ(一)ス
ホラ(一)チウス → ホ(一)レ(一)ス
ホラ(一)チ(ティ)ウ(ア)ス → ホ(一)レース
ホラテウス→ ホ(一)レ(一)ス
ホラチヲ → ホ(一)レ(一)ス

ホラツ → ホ(一)レ(一)ス
ホラーティウス → ホ(一)レ(一)ス
ホーランド④66明19.E/④75明21.E/④105明28.B/
ホーランドローヅ④393昭2.C/
Hollie,Ch.④498昭9.D/
ホル、カアル④401昭3.B/④404昭3.B/④430昭5.B/
ホール、チャルース・カスベルト④175明40.B/
ホール(博士)①238大12.B/
ホール、フランシス・ゼ④365大14.B/
ホール(Hall, H.R.)①317昭5.C/①334昭6.C//③249昭4.C/③254昭5.C/③259昭6.C//④417昭4.C/④431昭5.C/④444昭6.C/
Hohl,E.④573昭13.C/④590昭14.C/④591昭14.C/
Holst, H.③249昭4.C/③251昭4.D//④417昭4.C/
Holt,H.④429昭5.B/
Hort④448昭6.D/
ホルツ、マール②124昭17.D/
ホルツハウゼン,アドルフ④676[明6]/
Holzmann,O.④236大1.C/
ホルテンシアス②209明32.E
ホールト、オックス③147明41.C/
ホルブルック④138明35.C/④686[明18]/
ホルトン、アール(ロバート)・エフ④111明29.B/④122明32.B/④160明38.B/
Holborn,H.④585昭14.B/
ホルムヘルツ④127明33.B/
ホルメル→ ホーメル
ホルヴェルス、ヘルマン→ ホイヴェル(ル)ス
ホレイス → ホ(一)レ(一)ス
ホレシアス → ホ(一)レ(一)ス
ホレシウス → ホ(一)レ(一)ス
ホ(一)レ(一)ス(ホラチアス、ホラ(一)チウス、ホラティウス、ホラーティウス、ホラチヲ、ホレシウス、ホレシアス、ホレイス、ホラ(一)ス、ホラシ(一)アス、ホラシュ、ホラツ、ホラシアス、ホラチイ、ホウレーシ、ホラテウス、ホレラテス、Horatius、Horaz、Horace)①4[8]/①5[19]/①33明15.D/①42明20.B/①52明22.C/①56明23.D/①57明23.D/①61明24.D/①62明24.D/①71明26.D/①83明30.C/①104明36.B/①122明38.D/①148明43.C/①150明44.A/①155明45.A/①159明45.D/①184大4.D/①232大11.D/①253大14.A/①258大14.D/①279昭2.D/①295昭3.D/①300昭4.A/①336昭6.D/①373昭9.A/①383昭9.D//②46昭11.D/②111昭16.D/②125昭17.D/②135昭18.D/②144昭19.D/②154明6.D/②178明22.B/②180明22.D/②185明23.D/②190明25.B/②191明25.D/②195明26.D/②207明31.E/②223明38.D/②224明39.A//③14明11.E/③32明21.D/③35明22.B/③36明22.D/③37明22.D/③41明23.D/③45明24.C/③46明24.D/③47明25.A/③50明25.C/③51明25.C/③51明25.D/③54明26.B/③56明26.D/③58明26.D/③59明27.A/

③80明30.B/③84明30.D/
③90明31.D/③96明32.C/
③134明38.D/③159明44.A/
③163明45.A/③228大14.A/
③244昭3.C/③304昭14.C/
③305昭14.D//④36明12.B/
④40明14.B/④43明14.D/
④48明15.D/④63明19.B/
④69明20.C/④73明21.B/
④76明21.B/④101明27.B/
④102明27.B/④121明31.D/
④128明33.C/④161明38.B/
④172明39.D/④179明40.D/
④199明42.D/④213明44.A/
④212大明43.E/④224大1.A/
④251大2.D/④303大6.B/
④337大10.B/④365大14.B/
④376大15.B/④387昭2.A/
④412昭4.A/④523昭11.A/
④530昭11.B/④627昭16.B/
④630昭16.B/④661昭18.D/
④694[明25]/④796[昭2]/
④797[昭3]/
ホレラテス→ ホ(一)レ(一)ス
ホロス④185明41.B/
Horovitz, Philippe③272昭8.C/
Horovitz, S.③165明45.B/
ホワルド①30明13.E/
Howald,E.④510昭10.B/
④575昭13.C/
Howey, M.O.②141昭19.B/
Horn, D.B.③240昭2.C/
ホヰツテケル、ジョン・イー
④305大6.C/
ホ井ットニー④61明18.F/
香港英華書院③9明9.C/
Hondus, J.J.E.②87昭14.D/
ホンボルト → フムボルト
Hoffbauer, F.③134明38.C/
Homo, Le[è]on①291昭3.C//
③133明38.C/③221大11.E/
③235大15.C/③240昭2.C/
[I]アイヲニア學派 → イオニア學派
Iamblichus④140明35.D/
Iasinowski③283昭10.F/
イエロニムス → Hieronymus (ヒエロニムス)
イオニア學派(アイヲニア學派)
③60明27.B//④127明33.B/
④185明41.B/④363大13.F/
④505昭10.B/
イオマン(聖人) ④42明14.C/
④47明15.C/
イオ(一)ン①104明36.B/
①124明39.B/①243大13.B/
①358昭8.B//②53昭12.B/
②108昭16.B/②118昭17.B/
イクチノス③175大2.C/
イグナティオス④749[昭9]/
イシス神①179大4.B/
イシチェンコ②67昭12.G/
イスクレチス→ イソクラテ(一)ス
イスコマカス③150明42.B/
イストラム②82昭14.B/
イソキウラテス→ イソクラテ(一)ス
イソクラテ(一)ス(イソキウラテス、イスクレチス)
①317昭5.C/①354昭7.E//
②170明19.B/②197明27.B/
②201明29.B//③31明21.C/
③72明29.B//④101明27.B/
④109明28.F/④112明29.D/
④400昭3.B/
イーダ④158明38.B/
イーニアス → ホーメル
イニード → ホーメル
Iphigenie Tauris →イフヰゲニエ(Ephigenie)
イプセン①142明42.B/
①240大12.C//③168明45.D/
イポリット・アドルフ・ティエン

ヌ④707[明41]/
イム(ン)ブリー、ウィリアム (Imbrie,M.)
④56明17.D/④81明23.B/
④93明25.D/④98明26.D/
④138明35.C/④146明36.D/
④241大2.B/④354大12.D /
④368大14.C/④690[明20]/
イラシスツレータス③98明33.A/
イ(一)リアス → ホーメル
イリアード → ホーメル
イリアッド → ホーメル
イリアド → ホーメル
イリヤ(ッ)ド → ホーメル
イリ(一)ン、M.(エム)②59昭12.C/
②117昭17.A//④490昭9.C/
④555昭12.C/④661昭18.C/
イリングウオース、ゼ・ア(一)ル④202明43.B/
④214明44.B/
イル女神①244大13.B/
イルギニア②234明45.B
イルチェンコ④484昭9.B/
イルフォォール①226大10.D/
イレネウス②274昭7.C/
Ivanka, E.③303昭14.B/
イング、デアン(インゲ、デイン)
④375大15.A/④332大9.B/
イング、W.R.②118昭17.B//
④373大14.E/④471昭8.B/
④489昭9.B/
イングラハム④352大12.C/
イングラム(Ingram, ジ(ェ)ー・ケイJ.K.)
①257大14.C/①260大14.E/
①305昭4.C//②133昭18.C//
②203明29.E//③78明29.E/
③103明33.C//④373大14.E/
④416昭4.C/④421昭4.E/
④422昭4.E/
インゲ、デイン→ イング、デアン
Ince, Richard②52昭11.G/
インニアス②198明27.C/
インノケンテイ④128明33.C/
Iustinus①5[19]/
[J]ヤクンチコフ③161明44.C/
ヤーコップ・ハン・ブレンキ④673[安政]/
ヤコビイ①164大2.B/
ヤコビィ(Jacoby,F.)①365昭8.C//
④609昭15.C/④610昭15.C/
④611昭15.C/
ヤコブ(雅各書)④53明16.D/
④88明24.D/④198明42.D/
④348大11.D/④351大12.B/
④445昭6.D/④667昭19.D/
ヤコブ、グオルク①263大15.A/
ヤコブセン②84昭14.C/
ヤージナブルキヤ①202大7.B/
ヤストロウ → ジャストロウ
ヤスペルス②57昭12.B/
②131昭18.B//③290昭12.B/
ヤソ → 耶蘇
耶蘇(クリスト、キリスト、イエス、イエ(一)ズス、メシア、ヤソ、エス、イススハリスト、主、耶穌、基督、契利斯督、ナザレの聖者、聖主、御主、十字架、Yesu、Iesu Krisuto、Christ 、Kyrios Christos)①6[40]/
①93明33.B/①143明42.C/
①151明44.B/①152明44.B/
①158明45.C/①168大2.E/
①189大5.B/①190大5.C/
①192大5.E/①196大6.B/
①209大8.B/①229大11.B/
①239大12.C/①252大14.A/
①255大14.B/①266大15.B/
①268大15.C/①290昭3.C/
①293昭3.C/①325昭6.A/
①348昭7.C/①375昭9.B//
②146昭20.B/②148[14467]/

②215明35.C/②218明36.C/
②225明39.C/②229明41.D/
②235明45.D/②239大4.B/
②260昭3.C/②265昭5.B//
③50明25.C/③51明25.C/
③56明26.C/③61明27.C/
③74明29.C/③81明30.B/
③94明32.C/③105明34.B/
③164明45.B/③181大3.B/
③189大4.B/③201大6.B/
③202大6.B/③232大14.E/
③257昭6.A/③276昭9.C/
③301昭14.A/③318昭17.A//
④30明7.C/④36明12.B/
④46明15.B/④46明15.C/
④47明15.C/④53明16.D/
④55明17.C④56明17.D/
④59明18.D/④65明19.D/
④68明20.B/④68明20.C/
④69明20.C/④73明21.C/
④76明22.B/④77明22.B/
④77明22.C/④81明23.B/
④82明23.B/④82明23.C/
④86明24.B/④87明24.B/
④87明24.C/④88明24.C/
④90明25.B/④92明25.C/
④94明26.B/④95明26.B/
④96明26.B/④97明26.C/
④102明27.B/ ④105明28.B/
④107明28.C/④108明28.C/
④111明28.C//④115明30.B/
④116明30.D/④117明30.E/
④118明31.B/④112明32.B/
④124明32.B/④124明32.C/
④126明33.B/④128明32.C/
④130明34.B/④133明34.D/
④134明34.C/④138明35.C/
④144明36.B/④145明36.C/
④146明36.C.④148明36.E/
④152明37.B/④157明38.B/
④158明38.B/④162明38.C/
④167明39.B/④169明39.B/
④170明39.C/④170明39.C/
④175明40.B/④176明40.B/
④179明40.C/④183明41.B/
④186明41.B/④187明41.C/
④197明42.C/④199明42.D/
④202明43.B/④206明43.B/
④207明43.C/④209明43.C/
④210明43.D/④214明44.B/
④215明44.B/④218明44.B/
④219明44.C/④228明45.B/
④233明45.C/④234明45.C/
④235明45.C/④236明45.C/
④241明45.B/④243明45.B/
④246明45.B/④247大2.B/
④248大2.C/④249大2.C/
④250大2.C/④263大3.C/
④264大3.C/④278大4.C/
④279大4.C/④283大4.E/
④285大5.B/④291大5.C/
④292大5.C/④293大5.C/
④301大6.B/④304大6.B/
④305大6.C/④306大6.C/
④313大7.B/④317大7.C/
④319大7.E/④325大8.C/
④326大8.C/④330大9.B/
④333大9.C/④334大9.D/
④337大10.A/④337大10.B/
④339大10.C/④341大10.D/
④345大11.B/④346大11.C/
④347大11.C/④349大11.E/
④350大12.A/④350大12.B/
④352大12.C/④353大12.C/
④357大13.B/④358大13.B/
④360大13.C/④361大13.C/
④363大14.A/④366大14.B/
④367大14.B/④368大14.C/
④369大14.C/④370大14.D/
④378大15.B/④379大15.C/
④380大15.C/④382大15.D/
④385大15.E/④392昭2.C/
④394昭2.C/④395昭2.D/
④396昭2.D/④394昭2.C/

④398昭2.E/④402昭3.B/
④404昭3.B/④405昭3.C/
④406昭3.C/④407昭3.C/
④409昭3.E/④412昭4.A/
④416昭4.C/④417昭4.C/
④426昭5.B/④430昭5.C/
④435昭5.E/④443昭6.C/
④448昭6.E/④451昭7.B/
④456昭7.C/④459昭7.C/
④467昭8.B/④469昭8.B/
④471昭8.C/④472昭8.C/
④477昭8.D/④479昭8.E/
④480昭8.E/④485昭9.B/
④490昭9.C/④491昭9.C/
④494昭9.C/④498昭9.E/
④512昭10.C/④513昭10.C/
④519昭10.E/④525昭11.B/
④533昭11.C/④534昭11.C/
④549昭12.B/④553昭12.B/
④554昭12.C/④561昭12.E/
④568昭13.B/④570昭13.B
④571昭13.C/④572昭13.C/
④579昭15.A/④588昭14.C/
④589昭14.C/④592昭14.D/
④599昭15.A/④600昭15.A/
④601昭15.B/④602昭15.B/
④629昭16.B/④632昭16.B/
④632昭16.C/④634昭16.D/
④648昭17.C/
④672[安政]/④673[慶應]/
④674[明1]/
④675[明3,明治期]/
④676[明7]/
④674[大正]/④676[大正]/
④676[昭和]/④677[昭和]/
④679[昭和]/④678[明8]/
④683[明13]/④684[明14]/
④688[明19]/④690[明20]/
④691[明21]/④693[明23]/
④694[明24]/④695[明25]/
④696[明27]/④698[明30]/
④699[明31]/④704[明38]/
④705[明39]/④706[明40]/
④707[明41]/④709[明43]/
④710[明44]/④711[明45]/
④712[大3]/④715[大4]/
④716[大5]/④718[大6]/
④719[大8]/④722[大正]/
④723[大正,大12]/
④727[大/昭]/④729[昭1]/
④731[昭2]/④732[昭3]/
④733[昭3]/④736[昭4]/
④738[昭5]/④741[昭6,昭和]/
④743[昭7]/④744[昭7]/
④747[昭8]/④749[昭9]/
④751[昭10]/④752[昭10]/
④753[昭10]/④755[昭11]/
④757[昭12]/④759[昭12]/
④760[昭13]/④761[昭13]/
④765[昭14]/④766[昭15]/
④767[昭15]/④769[昭16]/
④770[昭16]/④772[昭17]/
④773[昭17]/④776[昭18]/
④785[明36]/④787[明44]/
④788[明治期]/④788[18-]/
④791[19-]/④795[大15]/
④796[昭2]/④797[昭3]/
④798[昭5]/④799[昭6]/
④801[昭8]/④801[昭9]/
④802[昭10]/④803[昭12]/
④804[昭13]/④806[昭16]/
④808[昭18]/
耶蘇會（イエズス會、ゼスス會/セミナリオ、コレジオ）
④477昭8.D/④565昭13.A/
④579昭14.A/④585昭14.B/
④590昭14.C/④593昭14.D/
④595昭14.D/④618昭15.D/
④626昭16.A/④628昭16.B/
④651昭17.D/④657昭18.B/
④672[明治](天草)
④738[昭5]/
ヤヌス神②103昭16.A/

ヤムプリクス④264大3.C/
ヤーン、エルヴィン（エルキーン、E.）②10昭10.A/
②142昭19.B/②275昭7.D//
④539昭11.D/④649昭17.D/
ヤンゼン、ベルンハルト
④528昭11.B/
Janssen,R.④226大1.B/
Janner,A.④529昭11.B/
Jägeｒ④267大3.D/
イェーガー（エーゲル、ヴェルナー、Jaeger,W.）
①289昭3.B/①376昭9.B/
①377昭9.B//②39昭11.B/
②56昭12.B/②58昭12.B/
②71昭13.B/②73昭13.C/
②78昭13.F/②84昭14.B/
②98昭15.C/②282昭9.B/
②283昭9.B//③165明45.B/
③167明45.B/③294昭13.B/
③309昭15.B//④256大3.B/
④487昭9.B/④507昭10.B/
④552昭12.B/④572昭13.C/
④613昭15.C/
イエス → 耶蘇
イエ(ー)ズス → 耶蘇
イエズス會→ 耶蘇會
Jülicher,A.④226大1.B/
④264大3.C/
イエリング（イェ(ー)リング、エ(ヱ)ーリング、イヘリング、イヤリング、井エリング、匝氏、ルードルフ・フォン，ル・ウヲン）
①67明25.E/
①72明26.E/①109明36.E/
①168大2.E/①208大8.A/
①213大8.E/①249大13.E/
①261大14.E/①272大15.E/
①297昭3.E/①311昭4.E/
①385昭9.E//②29昭10.E/
②65昭12.E/②89昭14.E/
②102昭15.E/②113昭16.E/
②114昭16.E/②126昭17.E/
②128昭17.E/②146昭19.E/
②167明18.B/②192明25.E/
②199明27.E/②207明31.E/
②211明33.E/②219明37.B//
③26明19.E/③34明22.A/
③42明23.E/③53明25.E/
③64明27.E/③85明30.E/
③273昭8.E/③292昭12.E/
③311昭15.E/③317昭16.E//
④48明15.E/④49明15.E/
④99明26.E/④104明27.E/
④356大13.A/④423昭4.E/
④499昭9.E/④577昭13.E/
④653昭17.E/④689[明19]/
④695[明25]/④697[明27]/
④716[大4]/④741[昭6]/
④747[昭8]/④770[昭16]/
イェスペルセン①279昭2.D//
④133明34.D/
イエリネック、G.③251昭4.E/
③267昭7.E/
イェ(ー)リング → イエリング
イススハリスト→ 耶蘇
イヘリング → イエリング
イヤリング→ イエリング
井エリング→ イエリング
ウージェーヌ・ヴェロン(維氏)
④685[明16]/
エーゲル → イェーガー
エリネック①362昭8.B/
エ(ヱ)ーリング → イエリング
エーリング、ル・エラン
④66明19.E/
Juifs(Philosophes)④675[大正]/
ユウセビウス①256大14.C/
①268大15.C/
ユウェナ(ー)リス → ジウベナル

ユエナリス→ ジウベナル
ユスチチア(女神)④309大6.E/
ゆすちにあぬす → ユスチ(一)ニアヌス帝
ユースチニアーヌス
ユスチニアーヌス → ユスチ(一)ニアヌス帝
ユスチ(一)ニアヌス帝(ユスチニアーヌス、ユスティーニアーヌス(ユ)帝、ジャスチニヤン、ヂャスチニヤン、ジュスチニヤ(ア)ン帝、ジェースチニアン帝、ジェスチニヤン、ユスチニアン、ジュ(一)スチニアン、ジュスチンジアン、ジャステイニアン、ユスティニアン、ジュスチニアヌス、ユスチニヤヌス、ユスチニヤン、ユースティニアーヌス、ゆすちにあぬす、ぢあすちにあん、ユ帝、儒帝、如智仁安)［羅馬法、儒帝、法學提要、ノインスチチウチョネス、Justinian］
①34明15.E/①36明17.E/
①58明23.E/①62明24.E/
①75明27.D/①154明44.E/
①168大2.E/①177大3.E/
①185大3.E/①192大5.E/
①226大10.E/①241大12.E/
①249大13.E/①271大15.E/
①272大15.E/①281昭2.E/
①282昭2.E/①296昭3.E/
①309昭4.E/①310昭4.E/
①322昭5.E/①338昭6.E/
①354昭7.E/①355昭7.E/
①367昭8.E/①384昭9.E/
①385昭9.E//②26昭10.E/
②27昭10.E/②47昭11.E/
②50昭11.E/②64昭12.E/
②66昭12.E/②75昭13.E/
②76昭13.E/②77昭13.E/
②78昭13.E/②84昭14.C/
②85昭14.C/②88昭14.E/
②89昭14.E/②100昭15.E/
②102昭15.E/②113昭16.E/
②126昭17.E/②138昭18.E/
②153明5.A/②153明5.B/
②153明5.C/②157明10.F/
②158明12.E/②159明14.E/
②160明15.A/②161明15.E/
②171明19.E/②172明19.E/
②174明20.E/②186明23.E/
②186明23.E/②186明23.F/
②189明24.E/②192明25.E/
②196明26.E/②206明31.C/
②207明32.A/②209明32.E/
②216明35.C/②221明37.E/
②232明44.C/②276昭7.E/
②286昭9.E//③4明5.B/
③9明9.E/③12明10.E/
③28明20.E/③42明23.E/
③59明27.A/③70明28.F/
③85明30.E/③86明30.F/
③98明32.E/③125明36.E/
③128明37.C/③136明38.E/
③139明39.C/③193大4.E/
③312昭15.E//④26[24997]/
④71明20.E/④71明20.F/
④76明21.B/④85明23.E/
④89明24.E/④91明25.B/
④118明31.B/④152明37.B/
④269大3.E/④283大4.E/
④297大5.E/④301大6.B/
④339大10.B/④365大14.B/
④397昭2.E/④380大15.C/
④463昭7.E/④499昭9.E/
④541昭11.E//④544昭11.E/
④561昭12.E/④576昭13.E/
④589昭14.C/④590昭14.C/
④731[昭2]/

ユスチニア(一)ヌス → ユスチ(一)ニアヌス帝
ユスチニアン → ユスチ(一)ニアヌス帝
Justinian→ ユスチ(一)ニアヌス帝
ユスチニヤヌス→ ユスチ(一)ニアヌス帝
ユスチニヤン→ ユスチ(一)ニアヌス帝
ユスチノ(聖)④273大4.B/
ユスティーニアーヌス(ユ) → ユスチ(一)ニアヌス帝
ユースティニアーヌス
ユスティニアン → ユスチ(一)ニアヌス帝
ユステイニュース→ ユスチ(一)ニアヌス帝
Justus,H.④543昭11.E/
ユスチヌス(殉教者)①362昭8.B//④272大4.B/
ユセフス → ユウセビウス
(少将)ユソン(纂集)④682[明12]/
ユダ(イスカリオテの)④219明44.C/④766[昭15]/
ユダ(猶太書)④74明21.D/④88明24.D/④198明42.D/④219明44.C/④248大2.C/④348昭11.D/④445昭6.D/
Judeich, Walter③260昭6.C/
ユーデット④268大3.D/
ユーノ女神②166明18.B//③23明18.B//④58明18.B/
ユノポリス④112明29.D/
ユピクテトス①51明22.B/
ユピテ(一)ル → ジュピター神
ユヘナール→ ジウベナル
ユベナル → ジウベナル
ユリアヌス → ジュリアン（ノ）帝
ユリアン帝→ ジュリアン（ノ）帝
ユリウ(一)ス(暦) → ジュリアン
ユリヌース帝 → ジュリアン(ノ)帝
ユリユース(暦) → ジュリアン
ユヴェナーリス → ジウベナル
Jung, G.②30昭10.F/
ユングラス④627昭16.B/
Jünthner,J.③306昭14.E/
エス→ 耶蘇
Joachimi,M.④619昭15.D/
ヨァニシアニ、ボチャロフ(ウ)①347昭7.C/①350昭7.C/
ヨエル(Joel,Jöel,Karl.カール)①230大11.B/①235大12.A/①304昭4.B//③55明26.B/③67明28.B/③73明29.B/③87明31.B/③214大10.A/③222大12.B/③285昭11.B//④339大10.B/④413昭4.B/
徐光啓④373大14.F/④671[慶長]
ヨシイーファス④366大14.B/
ヨシュア④351大12.B/
Josephu(ヨセフ、ヨゼフ、Joseph)④234明45.C/④235大1.C/④264大3.C/④340大10.C/④741[昭6]/
ヨゼフ→ Josephu
Josephus(Flavius)④396昭2.D/④611昭15.C/④612昭15.C/
Jodl,F.④429昭5.B/④510昭10.B/
ヨハネ[約翰傳、Johanne，St.John]、よは祢、施洗者)①216大9.B//②36昭11.B/②70昭13.B//③190大4.B/③280昭10.B/③303昭14.B//④56明17.D/④69明20.D/④74明21.D/④84明23.D/④86明24.B/④88明24.D/④89明24.D/④92明25.D/

④93明25.D/④129明33.D/
④133明34.D/④139明35.D/
④163明38.D/④171明39.D/
④188明41.D/④198明42.D/
④210明43.D/④221明44.D/
④227明45.B/④237大1.D/
④249大2.C/④250大2.D/
④256大3.B/④274大4.B/
④285大5.B/④296大5.D/
④337大10.B/④344大11.B/
④345大11.B/④347大11.C/
④368大14.B/④369大14.C/
④376大15.B/④377大15.B/
④379大15.C/④390昭2.B/
④405昭3.C/④407昭3.D/
④418昭4.C/④418昭4.D/
④432昭5.D/④439昭6.B/
④467昭8.B/④471昭8.C/
④512昭10.C/④525昭11.B/
④548昭12.B/④602昭15.B/
④627昭16.B/④634昭16.D/
④646昭17.C/④658昭18.B/
④665昭19.B/
④672[天保,安政]
④675[明治期,明4,明5]/
④676[明6]/④682[明11]/
④683[明12]/④684[明14]/
④685[明16]/④686[明17]/
④691[明21]/④695[明25]/
④696[明27]/　680昭21.C/
④681昭22.B/④695[明25]/
④698[明30]/④699[明32]/
④738[昭5]/④762[昭13]/
④770[昭16]/④773[昭17]/
④788[明治期]/④805[昭14]/
ヨハンゼン、オットー(O.)
②129昭17.F/②146昭19.F//
④520昭10.F/④664昭18.F/
ヨハンソン④771[昭16]/
ヨハンネス・ヤコッブ・ウヲイツ
(王函涅斯・雅谷歩・伍乙志)
④672[文政]・
ヨブ(約百)④176明40.B/
Jorga④380大15.C/
ジウリアノ → ジュリアン（ノ）
帝
ジェームズ④207明43.B/
じえのー④578昭13.F/
ジスアンドロニコス③12明10.E/
ジャックス③39明22.F//
④79明22.F/
ジャクスン、ヘンリ①276昭2.B/
Jackson,F.J.④612昭15.C/
Jackson,J.④612昭15.C/
ジャクソンン、R.②136昭18.D/
ジャスチニヤン → ユスチ(一)
ニアヌス帝
ジュスチニヤ(ア)ン帝 → ユ
スチ(一)ニアヌス帝
ジャスチン帝→ ジュリアン
(ノ)帝
ジャステイニアン → ユスチ
(一)ニアヌス帝
ジャステイン(殉教者)
③239昭2.B/
ジャスト、アドルフ③195大5.B/
ジャストロウ(ヤストロウ、
Jastrow)②230明42.B//
③137明39.B/③141明40.B/
③142明40.B/③149明42.B/
③219大11.B//④328大8.E/
ジャップ、W.J.④185明41.B/
Jamot,P.④237大1.D/
ジャ子(ネ)ー(慈亞寧)、パウル
①55明23.B//③35明22.B/
③127明37.B/
Jardé③282昭10.C/
ジャン、シャール・エフ
②42昭11.C/
ジャン、グレー(姫)①42明20.B/
ジャンバチストセー
②164明16.E/
Jusserrand, J.J.①240大12.C/
Juster, J.①183大4.C/

ジウベナル(ユベナル、ユウェナ(ー)ス、ジュウ(ヴ)ェナール、ジュベナル、ジュヴェナル、ユヘナール、ジュエルナル、ユエナリス)
①42明20.B/①60明24.B/
①336昭6.D//②125昭17.D/
②191明25.D/②208明32.C/
②223明38.D//③32明21.D/
③36明22.D/③45明24.C/
③46明24.D/③50明25.C//
④26[24997]/④63明19.B/
④102明27.B/④209明43.C/
④436昭5.E/
ジウリアノ → ジュリアン（ノ）帝
ジュールシモン④57明17.E/
ジウ(ゃ)ールダン①35明16.E//④57明17.E/
儒帝 → ユスチーニアヌス帝
ジュアメル、ジョオジ①277昭2.B/
ジュアランド②95昭15.B/
Juillet④237大1.D/
ジュウェー③172大2.B/
ジュウ(ヴ)ェナール → ジウベナル
Joulin, J.③198大5.C/
ジュエルナル→ ジウベナル
ジュガルサ(ニウミチヤ國王)②186明24.A/
ジュギュルタ王①367昭8.D/
ジュース神④367大14.B/
ジュスチニアヌス→ ユスチ(一)ニアヌス帝
ジュ(一)スチニアン → ユスチ(一)ニアヌス帝
ジュスチノ(哲人)④136明35.B/
ジュスチンジアン → ユスチ(一)ニアヌス帝
じゅぴたー → ジュピター神
ジュピター神(じゅぴたー、ユピテ(一)ル、ヂュピター、ジュピタル、ジュピタカ、ジュピチー、ジュヒテル、Jupiter)①60明24.B/
①119明38.B/①125明39.B//
②160明15.E/②179明22.B/
②184明23.D/②190明25.B/
②193明26.A/②195明26.C/
②215明35.B/②232明44.B/
②248大11.E//③60明27.B/
③117明36.B/③139明39.B/
③180大3.B/③225大13.B/
③269昭8.B//④26[24997]/
④41明14.B/④55明17.B/
④67明20.B/④110明29.B/
④131明34.B/④201明43.C/
④204明43.B/④234明45.C/
④306大6.C/④318大7.D/
④403昭3.B/④513昭10.C/
④601昭15.A/④627昭16.B/
④664昭19.A/④723[大12]/
ジュピタカ → ジュピター神
ジュピタル → ジュピター神
ジュピチー → ジュピター神
ジュヒテル → ジュピター神
ジュベナリス → ジウベナル
ジュベナル → ジウベナル
ジュリー(ジュリュイ)、ヴィクトル(ビクトヲル)②206明31.C//③31明21.C//④82明23.C/
ジュリア(殉教者)④512昭10.C/
ジュリアン(暦、ユリユース、ジュリヤ、ユリウ(一)ス、入畧妄)②170明19.C/②222明38.C/
②249大12.C//③179大2.F//
④30明8.C/④459昭7.C/
ジュリアン、カミュ(イ)②109昭16.C//④473昭8.C/

ジュリアン、カール①213大8.E/
ジュリアン（ノ）帝（ジウリアノ、ジュリアヌス、ユリアヌス、ユリヌース帝、ジリアン、ジリヤン、ユリアン帝、ヂュリアン、ジャスチン、Julians）
①55明23.B/
①147明43.C//②59昭12.C/
②155明7.C/②177明21.F/
②245大9.C//③15明12.E/
③56明26.C/③67明28.C/
③111明35.B/③141明40.B/
③156明43.C/③254昭5.C/
③290昭12.C//④45明15.B/
④47明15.C/④56明17.C/
④76明21.B/④187明41.B/
④197明42.C/④208明43.C/
④209明43.C/④210明43.C/
④212明43.F/④219明44.C/
④252大2.D/④264大3.C/
④269大3.F/④306大6.C/
④389昭2.B/④392昭2.C/
④418昭4.C/④431昭5.C/
④468昭8.B/④469昭8.B/
④554昭12.C/④625昭16.A/
④633昭16.C/④634昭16.C/
④657昭18.B/
ジュリエイ（猶里）④36明12.C/
ジュリヤ（暦）→ ジュリアン（暦）
ジュリュイ、ビクトヲル→ ジュリー、ヴィクトル
ジュールダン（儒氏）
②160昭15.B/②162明16.B//
④66明20.B/
Jourdain,Ph.E.R. ④287大5.B/
ジュルナール、アントニオ・デ・カンパス②279昭8.D/
Juret, A.C.②87昭14.D/
ジュ（一）ルバルニ（一）
②164明16.E/
ジュヴェナル → ジウベナル
Jèquier,G.④712[大3]/
荀子④701[明35]/
ジェームズ（W.）③174大2.B/
ジェイムズ（ゼームス）、トーマス、James Thomas)
①12［211］/
①15明5.D/①16明6.D//
④39明13.D/④678[明8]/
④691[明21]/④715[大4]/
ジェースチニアン帝 → ユスチ（一）ニアヌス帝
ジェスチニヤン → ユスチ（一）ニアヌス帝
ジェネジチ④161明38.C/
ジェファ(一)ソン(博士)
④327大8.E/④368大14.C/
④382大15.C/
ジェブ、サー・リチャード
①126明39.B/①320昭5.D/
①365昭8.D//②86昭14.D/
②136昭18.D//④615昭15.C/
ジェームズ③174大2.B/
James(St.)④295大5.D/
Jerusalem④231大1.B/
Jenkins, C.③231大14.C/
徐光啓④373大14.F/
ジョイス（Joyce Jamesヂョイス、ジェイムズ）［ユリシー（イ）ズ、Ulysses］
①321昭5.D/①335昭6.D/
①337昭6.D/①351昭7.D/
①352昭7.D/①353昭7.D//
②47昭11.D/②99昭15.D/
②112昭16.D/②270昭6.D/
②275昭7.D/②278昭8.D/
②285昭9.D//③250昭4.D/
③255昭5.D/③261昭6.D//
④125明32.D/④461昭7.D/
④462昭7.D/④478昭8.D/

④517昭10.D/④518昭10.D/
④560昭12.D/④618昭15.D/
④635昭16.D/
ジョウイット → Jowett, B.
ジョウエット → Jowett, B.
ジョーウェット → Jowett, J.
Joseph,H.W.B.④507昭10.B/
ジョセフィン(皇后)④59明19.C/
ジョーナス②205明30.E/
ジョハンダス(アレキサンドリアの)②181明22.F/
Jowett, B.(ジョーヴェット、ジョーウェット、ヂョウエット、ジョウエット、ジョウイット、ヂョーエット)
①69明26.B/
①70明26.B/①74明27.B/
①86明31.B/①104明36.B//
③81明30.B/③85明30.E/
③173大2.B/③301昭14.A//
④95明26.B/④184明41.B/
④611昭15.C/④798[昭5]/
④802[昭11]/
ジョリ④157明38.B/
Joliver, R.②17昭10.B/
Jöhr, W.A.②76昭13.E/
Jordan,A.④614昭15.C/
ジョーヴェット → Jowett, J.
ジョン・ブル④68明20.C/
ジョーンズ①69明26.B/
Jones,M.④264大3.C/
Jones,R.④269大3.F/
Jones,T.B.④648昭17.C/
④623昭16.A/
ジョーンズ、ウィリアム
④74明21.D
Jones, W.H.S.②264昭4.F/
Johnston,J.L.④256大3.B/
ジョンストン④783[明26]/
④784[明28]/④785[明32]/
ジョンソン(大博士Sammuel、サミュール、如溫游)
②218明36.D//④65明19.D/
④70明20.D/④84明23.D/
④98明26.D/④147明36.D/
④148明36.D/④163明38.D/
④199明42.D/④769[昭16]/
Johnson, A.Ch.②49昭11.E/
②50昭11.E/②77昭13.E/
②78昭13.E/
Johnson,S.③302昭14.B//
④584昭14.B/
ジョントッド①59明24.A/
ジョンノット(如安諾)、ゼイムス(惹迷斯)[如氏]
③21明17.B/③22明18.B/
③40明23.B/
ジョンブル④187明41.C/
ジリアン → ジュリアン（ノ)帝
ジリヤン帝 → ジュリアン（ノ）帝
Jilbert,F.④621昭15.E/
ジンギスカン(成吉思汗)
④624昭16.A/
ゼスス會→ 耶蘇會
ゼームス→ ジェイムズ、トーマス
ぢあすちにあん → ユスチ(一)ニアヌス帝
ヂュスチニヤン → ユスチ(一)ニアヌス帝
ヂュツフレー②210明33.C/
ヂュピター → ジュピター神
ヂュブスケ③17明13.E/
ヂュモラール①92明32.E/
ヂョイス→ ジョイス(Joyce James)
ヂョウエット → Jowett, J.
ヂョーエット→ Jowett, J.
Jolles④397昭2.D/
ヂュリアン→ ジュリアン（ノ）帝
ヂュリエノス④36明12.B/
ヂュリユース(入畧該說)

④30明8.C/
ヂンスモーア(チーャレス、エレン、神州孟亞)
①144明42.D//④199明42.D/
④618昭15.D/④636昭16.D/
[K]懷疑的詭辯派→ ソフィスツ
懷疑派 → スケプシス
快樂派 → アリスチープ? /エピキュ(一)ラス?
Keim④236大1.C/
Kein,O.④506昭10.B/
カウエル、パウル③69明28.D/
カウツキー、カール①209大8.B/
①290昭3.C/①305昭4.C/
①313昭5.B/①316昭5.B/
①331昭6.C//②260昭3.C/
②266昭5.C//③168明45.C/
③172大2.B/③174大2.B/
③209大8.B//④323大8.B/
④328大8.E/④405昭3.C/
④416昭4.C/④422昭4.E/
Kaufmann, F.③129明37.C/
Kaufmann, J.③215大10.B/
Kaufmann, M.③93明32.B/
郭開文④182明40.G/
カーカス①32明14.F/
カークス、シー①65明25.C/
Kazarow,G.I.④417昭4.C/
Kastl, L.②280昭8.E/
Karsten,R.④507昭10.B/
Kattigara③254昭5.C/
カケンボス④46明46.C/
カックラテース④74明21.D/
Katsuji,A.S.④575昭13.C/
カップ、エルンスト③75明29.C/
Kade,R.④227大1.B/
カテキ(様)尊者(貨狄) → エラスマ(ム)ス
Kadel,L.L.④603昭15.B/
Kadmos④517昭10.D/
Karmarsch,K.④520昭10.F/
カニシカ王(迦膩色)
③107明34.C/
Karpp, H.②282昭9.B//
④486昭9.B/
Kallikles(カリクレス、カリクリイズ、)
③173大2.B//
④185明41.B/④309大6.E//
④666昭19.B/
Kallen,H.M.④237大1.D/
Karystos②78昭13.F/②84昭14.B/
訶梨跋摩④231明45.B/
Kalinka, E.③249昭4.C//
④417昭4.C/
Kahle, P.②30昭10.F/
Karls der Grossen③109明34.C/
カルキンス③172大2.B/
Kahrsteadt,U.④556昭12.C/
④573昭13.C/④591昭14.C/
Karst,J.④612昭15.C/
Kardinal,J.④234大1.C/
カールト子一、ダブリュー・エル②187明24.B/
カルピーデルマン④44明14.E/
カンチャニ③130明37.D/
カント(韓圖、官途、康德、Kant)[清野勉]
①65明25.B/①75明28.B/
①78明29.B/①79明29.B/
①110明37.B/①113明37.B/
①143明42.B/①151明44.B/
①157明45.B/①162大2.B/
①163大2.B/①167大2.D/
①174大3.B/①196大6.C/
①203大7.B/①215大9.B/
①222大10.B/①223大10.B/
①237大12.B/①245大13.B/
①246大13.B/①250大13.E/
①255大14.B/①261大14.E/
①265大15.B/①275昭2.B/
①286昭3.B/①288昭3.B/
①289昭3.B/①328昭6.B/
①346昭7.B//②48昭11.E/

②251大14.B/②265昭5.B/
②283昭9.B//③63明27.D/
③69明28.D/③72明29.B/
③119明36.B/③73明29.B/
③93明32.B/③127明37.B/
③145明41.A/③159明44.B/
③172大2.B/③174大2.B/
③181大3.B/③182大3.B/
③183大3.B/③188大3.F/
③191大4.B/③201大6.B/
③205大7.B/③206大7.B/
③218大11.B/③225大13.A/
③225大13.B/③226大13.B/
③228大13.D/③230大14.B/
③239昭2.B/③253昭5.B/
③264昭7.B/③267昭7.E/
③272昭8.C/③273昭8.E/
③303昭14.B/③309昭15.B/
③314昭16.B/③320昭17.B/
③323昭18.B/③325昭19.B//
④91明25.B/④106明28.B/
④111明29.B/④118明31.B/
④137明35.B/④193明42.B/
④194明42.B/④231明45.B/
④234大1.C/④237大1.D/
④275大4.B/④316大7.B/
④331大9.B/④344大11.B/
④351大12.B/④355大12.E/
④357大13.B/④358大13.B/
④361大13.D/④367大14.B/
④389昭2.B/　④453昭7.B/
④454昭7.B/④484昭9.B/
④487昭9.B/④495昭9.D/
④507昭10.B/④556昭12.C/
④577昭13.E//④605昭15.B/
④753[昭10]/
カントネル、バウム②257昭2.B/
Kamper, H.①352昭7.D/
カンベル③87明31.B/
キイヒッツ［杉亨二］
①15明5.E/①17明7.E/
キイペルト③95明32.C/
Kisten, E.③304昭14.C/
キーツ（キイツ、キッス）、ジョン（Keats, John）①66明25.D/
①80明29.D/①83明30.C/
①84明30.C/①95明33.D/
①154明44.D/①184大4.D/
①225大10.D/①226大10.D/
①228大11.A/①296昭3.D/
①308昭4.D/①309昭4.D/
①321昭5.D/①337昭6.D//
②24昭10.D/②74昭13.D/
②75昭13.D/②120昭17.B/
②229明42.B/②252大14.D/
②257昭2.D/②260昭3.D/
②262昭4.D/②270昭6.D//
③45明24.C/③57明26.D/
③64明27.D/③69明28.D/
③77明29.D/③80明30.B/
③153明42.D/③200大5.D/
③204大6.D/③208大7.D/
③211大8.D/③236大15.D/
③250昭4.D/③255昭5.D/
③260昭6.D/③261昭6.D/
③267昭7.D/③311昭15.D//
④89明24.D/④104明27.D/
④134明34.D/④140明35.D/
④147明36.D/④156明37.D/
④163明38.D/④165明38.D/
④180明40.D/④189明41.D/
④282大4.D/④311大7.A/
④318大7.D/④319大7.D/
④327大8.D/④342大10.D/
④354大12.D/④361大13.D/
④365大14.B/④396昭2.D/
④408昭3.D/④421昭4.D/
④424昭5.A/④433昭5.D/
④434昭5.D/④435昭5.D/
④446昭6.D/④447昭6.D/
④518昭10.D/④538昭11.D/
④540昭11.D/④559昭12.D/
④593昭14.D/④618昭15.D/
④650昭17.D/④674[明治]/

④704[明治]/④721[大10]/
④724[大12,13]/④736[昭4]/
④758[昭12]/④796[昭2]/
キッス→ キーツ
Kittele,G.④264大3.C/
キッド③25明18.G/
キッド、ベンジャミン
①252大14.A//②205明31.A//
④99明27.A/④141明36.A/
キットル、ヘンリイ①20明9.B/
キッドル、ヘレン①29明12.G/
①31明14.D/
キップ、テオドール①339昭6.E/
キップ､ダブル･アイ③209大8.B/
Kiefl,F.X.④255大3.B/
キプリアン(カルファゲドンの
司教) ④47明46.C/
詭辯學者 → ソフィスツ
詭辯派 → ソフィスツ
キーメー③102明33.C/
キャンドル(キッドル?)、ヘレン
①39 明18.G/
キュック②28昭10.E/
キューネマン②22昭10.C/
キューネル、エフ②229明41.F/
キュブラア③92明32.A/
Kühler,O.④505昭10.B/
Kyrillos von Skythopolis
②96昭15.B/
キュルペ(Külpe)①258大14.D/
①259大14.D//④231大1.B/
キューン博士③268昭8.A/
キ(ェ)ルケゴール①361昭8.B/
①362昭8.B//②14昭10.B/
②37昭11.B/②82昭14.B/
②131昭18.B/②133昭18.B/
②142昭19.B//④468昭8.B/
④631昭16.B/④657昭18.B/
④751[昭10]/
キョーラア③92明32.A/
虚白原④447昭6.D/
Kirsch, J.P.③172大2.B//
④234大1.C/
キルソン、ダニール･ジョセッフ
①28明12.C/
Kirchmann,J.H.v.④402昭3.B/
Kircher,E.④619昭15.D/
キールロイト子ル①311昭4.F/
キロン②42昭11.C/
Keen, H.G.③114明35.C/
金學燁④549昭12.B/
キング､エドワード･ウィリアム
④68明20.C/
キング、ヘンリー・チャーチル
④202明43.B/
キングスレ(リ)ー、チャールス
(ズ)[Charels Kingsley]
①110 明37.B/
①124明39.A/①157 明45.C/
①209大8.B//③98明32.E/
③164明45.B/③192大4.B//
④150明37.B/④392昭2.C/
④400昭3.B/④495昭9.D/
④735[昭4]/
キンケル①118明38.A/
キンダーマン、カール
②129昭17.F/
キンデルマン③305昭14.D/
キント、アウグスト④135明35.B/
キンレイ②138昭18.E/
クシストロス③180大3.B/
Kuster, E.③178大2.D/
クテジス(史家)②215明35.C/
クートユラー①120明38.B/
クドリャフツェフ、ウ・デ
④167明39.B/
クナウル(Knaurs)②21昭10.C//
④514昭10.C/
クナウエル(Knauer)
③132明38.B/
Knoelldit, P.②17昭10.B/
Knoke③75明29.C/
Knonan, Meyes von③99明33.A/
Knuth, W.②16昭10.B/

Kunert,K.④265大3.C/
Kraiker,W.③295昭13.B/
③304昭14.C/
Klein③38明22.D/
くらいん、F①272大15.F/
クライン、チム④755[昭11]/
クライン（W.）②113昭16.D/
Kleingünther, A.②283昭9.B/
Kleinpaul, Rud.②211明33.D/
クライス(Kreis, F.)①269大15.D//
③222大12.B/
クライスト(Kleist)①154明44.D/
①270大15.D/①321昭5.D//
③228大13.D/③231大14.D//
④163明38.D/④370大14.D/
④372大14.D/④408昭3.D/
クライン、チム④525昭11.B/
④532昭11.B/
クラウス、エー・ベルハルド
②227明41.A/
クラウス、ヨハネス①323昭5.E/
①339昭6.E//②27昭10.E//
④440昭6.B/④568昭13.B/
④585昭14.B/④669昭19.E/
④740[昭6]/
Klaus, K.②25昭10.D/
クラウス、ヲット・ベー(Kraus, O.)①339昭6.E//
②79昭14.A/
Krahe,H.③305昭14.D/
クラーゲス①353昭7.D//
③179大2.F/
クラコウスキー(Krakowski, Ed.)
②282昭9.B//③197大5.B//
④486昭9.B/④488昭9.B/
クラチュロス(クロチュロス、クラチロス、Kratyrus、Cratyrus)①104明36.B/
①235大12.A/①244大13.B/
①375昭9.B//②47昭11.D/
②118昭17.B//③202大6.B/
③277昭9.D/③301昭14.A//
④581昭14.A/
Kratzer③196大5.B//④273大4.B/
クラナッハ、ルカス③313昭16.B/
Krappe,A.H.④540昭11.D/
クラポオトキン → クロポ(パ)トキン
くらむ④293大5.C/
Kranz,W.①376昭9.B//
②83昭14.B/②284昭9.B//
③295昭13.B//④487昭9.B/
Kriegbaum, S.③173大2.B/
クリセイス③38明22.E/
Kritias → Critias
クリトン(Kriton) → クリトー(ン)(Crito)
クリタス②241大6.C/
クーリッシャー①386昭9.E/
Klibansky, R.②96昭15.B/
クリューゲル③154明43.A/
Krüger,G.④621昭15.E/
Krüger,H.④587昭14.B/
クリョオゲル → クレ(ロ)エゲル
Klinger,F.②25昭10.D/
②46昭11.D/②96昭15.B/
クリンゲル、マツクス
①122明38.D//③135明38.D/
クルイロウフ(クルイロフ、クロイロフ)[伊蘇布]
③58明26.D/③103明33.D/
③186大3.D/③187大3.D//
④268大3.D/④318大7.D/
④695[明26]/
クルイロフ → クルイロウフ
Kurst,G.②108昭16.C/
クルムス①8[114,119]/①9[131]/
①11[207]//④23[24938]/
Kleopatora(Cleopatora) → クレオパ(一)トラ
Kröger,G.③167明45.C/
クレーガー→ クレ(ロ)エゲル
クレッチメル③325昭18.D/

Klemennse I④591昭14.C/
クレ(ロ)エゲル(クリョオゲル、クレーガー)
①133明40.D/①135明41.B/
①244大13.B/①343昭7.B//
②69昭13.B//④202明43.B/
クレップス、エンゲルベルト
④389昭2.B/
クレールン④626昭16.A/
クレヲビュロス③42明23.E/
クレヲン①26明11.C/
Kreuger④344大11.A/
クロイロフ→ クルイロウフ
Krogmann②87昭14.D/
クロ(ー)ナー、リヒャルト(リヒアルト、Kroner, R.)
①329昭6.B//②37昭11.B/
②273昭7.B//③264昭7.B/
③275昭9.B/③282昭10.C/
③285昭11.B//④453昭7.B/
クロノマイヤー、ヨハンネス
④514昭10.C/
クロポ(パ)トキン(クラポオトキン)、ピヨトル(ピータ、ピエル?)［堺利彦］
①120明38.B/①126明39.B/
①129明39.E/①131明40.B/
①142明42.B/①164大2.B/
①181大4.B/①183大3.C/
①188大4.B/①196大6.B/
①210大8.B/①213大8.E/
①215大9.B/①216大9.B/
①218大9.E/①219大9.E/
①219大9.F/①230大11.B/
①233大11.E/①236大12.B/
①244大13.B/①253大14.B/
①255大14.B/①277昭2.B/
①286昭3.B/①288昭3.B/
①290昭3.B/①296昭3.E/
①297昭3.E/①353昭7.D/
①386昭9.E//②75昭13.E/
②244大8.E/②248大11.F/
②250大13.B/②251大14.B//
③142明40.B/③153明42.E/
③174大2.B/③212大9.B/
③213大9.E/③218大11.B/
③229大14.B//④246大2.B/
④248大2.B/④331大9.B/
④332大9.B/④335大9.E/
④364大14.A/④365大14.B/
④367大14.B/④415昭4.B/
④416昭4.B/
Kromayer, J.①224大10.C//
③121明36.C/③230大14.C/
Kromayer−Veith③235大15.C//
④380大15.C/
Kroll,Jos.④256大3.B/
Kuhn,A.④236大1.D/
Kuhn, H.②16昭10.B/
クキラ、クイラ④726[大14]/
ケイ、ダビッド③40明23.B/
Key, Thomas H.②235明45.D/
Keydell, R.②25昭10.D/
Keightley,T.④231大1.B/
Keil,J.③304昭14.C/
ケエニヒ③34明22.A/
Keiper, W.②83昭14.B/
Koepp, E.③119明 36.B/
ケエ(ー)ベル → ケーベル
Kaegi,Werner④573昭13.C/
ケシキーデニス → ツキュデイデス
Kesseler,K.④226大1.B/
Kestner, Otto③296昭13.C//
④535昭11.C/
Koetschau④538昭11.D/
ケッロツジー④153明37.C/
ケトレー②51昭11.F/
Kenyon,F.G.④609昭15.C/
④611昭15.C/
Kennedy, H.A.③173大2.B/
Kennedy,K.A.A.④287大5.B/
Kühnemann,E.④234大1.C/

ケーベル(コイーベル、コエ(ー)ベル、ケエ(ー)ベル)、ラファエル・フォン（Koeber,Raphael von）
①70明26.B/①76明28.B/
①77明28.D/①78明29.A/
①79明29.D/①82明30.B/
①85明31.A/①86明31.B/
①93明33.A/①95明34.A/
①99明35.A/①104明36.A/
①105明36.B/①112明37.B/
①118明38.A/①124明39.A/
①129明40.A/①135明41.A/
①141明42.A/①145明43.A/
①150明44.A/①151明44.B/
①155明45.A/①161大2.A/
①170大3.B/①172大3.B/
①173大3.B/①195大6.B/
①203大7.B/①209大8.B/
①210大8.B/①216大9.B/
①220大10.A/①230大11.B/
①232大11.D/①233大11.D/
①236大12.B/①237大12.B/
①238大12.B/①244大13.B/
①245大13.B/①277昭2.B/
①286昭3.B/①289昭3.B/
①326昭6.B/①343昭7.B/
①362昭8.B//②82昭14.B/
②83昭14.B/②95昭15.B/
②120昭17.B/②132昭18.B/
②149［14474］/②204明30.B/
②206明31.B/②209明33.A/
②218明36.B/②224明39.A/
②225明39.B/②226明40.A/
②227明41.A/②236大2.A/
②242大7.B/②243大8.B/
②248大12.B/②250大13.D/
②252大14.B/②256昭2.B/
②261昭4.B/②265昭5.B/
②266昭5.D/②273昭7.B/
②280昭9.B//③53明26.A/
③54明26.A/③55明26.B/
③60明27.B/③62明27.D/
③64明27.D/③65明28.A/
③65明28.B/③66明28.B/
③68明28.D/③69明28.D/
③71明29.A/③72明29.B/
③76明29.D/③79明30.A/
③82明30.B/③84明30.D/
③85明30.D/③86明31.A/
③90明31.D/③91明31.D/
③91明32.A/③92明32.A/
③92明32.B/③96明32.D/
③99明33.A/③101明33.B/
③104明33.D/③105明34.A/
③106明34.B/③107明34.B/
③111明35.A/③112明35.B/
③116明36.A/③117明36.B/
③123明36.D/③125明37.A/
③127明37.B/③130明37.D/
③132明38.B/③136明38.D/
③137明39.B/③138明39.B/
③141明40.A/③142明40.B/
③144明40.D/③146明41.B/
③148明41.D/③150明42.B/
③154明43.B/③155明43.B/
③159明44.A/③162明44.D/
③163明45.A/③165明45.B/
③166明45.B/③181大3.B/
③182大3.B/③183大3.B/
③184大3.B/③187大3.D/
③201大6.B/③204大6.D/
③205大7.A/③205大7.B/
③206大7.B/③207大7.D/
③208大7.D/③208大8.A/
③209大8.B/③210大8.B/
③210大8.C/③210大8.D/
③211大8.D/③212大9.B/
③213大9.D/③214大10.B/
③215大10.B/③220大11.D/
③222大12.B/③223大12.B/
③224大12.D/③225大13.B/

③226大13.B/③227大13.D/
③228大13.D/③229大14.B/
③232大14.D/③236大15.D/
③241昭2.D/③249昭4.D/
③256昭5.D/③257昭6.B/
③261昭6.D/③262昭7.A/
③264昭7.B/③267昭7.D/
③271昭8.B/③272昭8.D/
③274昭9.B/③277昭9.D/
③282昭10.D/③287昭11.D/
③288昭12.A/③292昭12.D/
③294昭13.B/③297昭13.D/
③306昭14.D/③314昭16.B/
③315昭16.B/③317昭16.D/
③318昭17.A/③320昭17.B/
③321昭17.B/③323昭18.B/
③325昭19.B/③327明［不明］D/③328昭23//
④54明16.E/④96明26.B/
④106明28.B/④114明30.B/
④119明31.B/④121明31.D/
④151明37.B/④152明37.B/
④162明38.C/④165明38.E/
④169明39.B/④173明39.D/
④173明40.A/④174明40.A/
④175明40.B/④176明40.B/
④177明40.B/④180明40.D/
④183明41.A/④185明41.B/
④189明41.D/④202明43.B/
④210明43.A/④207明43.B/
④209明43.C/④213明44.A/
④215明44.B/④218明44.B/
④224明45.A/④232明45.B/
④238明45.D/④240大2.A/
④243大2.B/④256大3.B/
④257大3.B/④261大3.B/
④262大3.B/④272大4.B/
④274大4.B/④287大5.B/
④288大5.B/④305大6.B/
④323大8.B/④324大8.B/
④324大8.B/④333大9.B/
④338大10.B/④352大12.B/
④365大14.B/④391昭2.B/
④439昭6.B/④469昭8.B/
④495昭9.D/④501昭10.A/
④508昭10.B/④531昭11.B/
④542昭11.E/④551昭12.B/
④629昭16.B/④630昭16.B/
④635昭16.D/④642昭17.B/
④644昭17.B/④656昭18.B/
④657昭18.B/④659昭18.B/
④661昭18.C/④666昭19.B/
④669昭20.B/④672[明治]/
④673[明治]/④696[明26]/
④697[明28,29]/④699[明32]/
④702[明36]/④706[明40]/
④717[大6]/④718[大7]/
④719[大9]/④722[大11]/
④723[大12]/④724[大13]/
④725[大13]/④729[昭2]/
④732[昭3]/④735[昭4]/
④742[昭7]/④751[昭10]/
④752[昭10]/④753[昭10]/
④767[昭15]/④769[昭16]/
Kern,Otto②18昭10.B/②72昭13.B/②284昭9.B//③119明36.B/
ケムプ(Kemp,E.L.)①125明39.B//④231大1.B/
Koeschau,P.④242大2.B/
Koehler, G.②39昭11.B/
Köhler, L.③248昭4.B/
Köhler, P.④242大2.B/
ケーラー、ヴェー④472昭8.C/
Köhler, W.④574昭13.C/
Koehler,Wolfgang④343大11.A/
Keller, A.G.③114明35.C/
ケラー、M.②33昭11.B/
ケラー、ヨハンネス④774[昭18]/
Keeler, L.W.②283昭9.B//④487昭9.B/④538昭11.D/
Kehrer, H.③186大3.D/
ケーラス、ポール①206大7.F/
ケリー、イー・エム④97明26.C/

Kelly,M.④226大1.B/
ケリー、オーチス④88明24.D/
Köhl, E.④264大3.C/
Kehr, M.W.③197大5.B/
ケルクウイク、ファン
③161明44.C/
ケールスト③99明33.A/
ケルゼン、ハンス②76昭13.E//
③273昭8.E/
Körte, A.②18昭10.B/②46昭11.D//
④507昭10.B/
ケルネイ(傑氏)①16明7.C/
①18明8.C/
ケルマン、ジャネー・ハーヴェー
④248大2.C/
ケレー博士④285大5.A/
ケレット、E.E.③129明37.D/
Köhlen,L.④415昭4.B/
ケロッグ(翁)②179明22.C/
②183明23.C/
犬儒派 → キニック學派
Kent,C.F.④295大5.D/
Kaempffert,W.④521昭10.F/
ケンペ(プ)ル、エンケルベルト
(檢夫爾)
①7[91]/①8[92]//
②203明29.D//④24[24957]/
④25[24994]/④545昭12.A/
コイーベル → ケーベル
コエ(ー)ベル → ケーベル
コーインク、ヘルムート
②128昭17.E/
孔丘 → 孔子
孔子(夫子、夫人、孔丘)
①54明23.B/
①59明24.B/①61明24.C/
①63明25.B/①90明32.B/
①93明33.B/①104明36.B/
①151明44.B/①170大3.B/
①215大9.B/①237大12.B/
①276昭2.B/①375昭9.B//
②24昭10.D/②80昭14.B/
②254大15.B//③105明34.B/
③142明40.B/③148明41.D/
③164明45.B/③233大15.B//
④105明28.B/④110明29.B/
④115明30.B/④122明32.B/
④132明34.B/④186明41.B/
④216明44.B/④701[明35]/
孔夫子→ 孔子
孔夫人→ 孔子
國姓爺③241昭2.D/
Kocehler,W.④567昭13.B/
古代の神々の傳說④313大7.B/
コッサー①36明17.E/①38明18.E/
コッサール、Y.G.④522昭11.A/
④545昭12.A/
コッペー④80明23.B/
Konow, S.③128明37.C/
Kochem,L.④614昭15.C/
Koch,W.③102明33.C/
コフマン、ラモン①263大15.A/
①371昭9.A//④373大15.A/
④481昭9.A/
コヘビンスキー②44昭11.D/
コルサール①13明2.B/
Korsch,K.④614昭15.C/
コル子ーユ②185明23.D/
Kornermann, E.①291昭3.C/
①349昭7.C/①350昭7.C//
②42昭11.C//③266昭7.C//
④573昭13.C/
コルフ①309昭4.D//④415昭4.B/
④420昭4.D/④668昭19.D/
④807[昭17]/④808[昭19]/
Korff,H.A.(コルフ、ハー[ヘルマン]・アー[アウグスト])
④382大15.D/④384大15.D/
④415昭4.B/④617昭15.D/
④668昭19.D/
Korff,R.Th.④574昭13.C/
コルフラン、アリース
④272大4.B/

Kohlbrugge, I.H.F.②238大3.F/
Kohlhammer,W.④505昭10.B/
Kolbe, Walter③272昭8.C/
③304昭14.C/
Kohlmann, W.(出版)②39昭11.B/
②50昭11.E/
コレル(宣教師)④674[大正]/
コヴァレフ②26昭10.E//
④519昭10.E/
Kowarz,Agnellus.(コワレス、アグネス)
④726[大14]/
コワレフスキー(Kowalewski,G.)
②115昭16.F//④578昭13.F/
④807[昭16]/④809[昭19]/
コンクラード王國①379昭9.C/
Konstantin the Great → コンスタン(チン)帝
Konrad II④587昭14.B/
④621昭15.E/
Knight③52明25.D/
Knudson,A.C.④571昭13.B/
ノックス、ヂ・ウィリアムス(Knox,G.W.納屈士、襄・維)
③35明22.B//④55明17.B/
④72明21.B/④80明23.B/
Knox,I.④455昭7.B/
Knopf,R.④249大2.C/④493昭9.C/
[L]ラアイカルガス → リキュルギウ
ライアソン、イ④234明45.C/
ライカーグス → リキュルギウ
ライカルガス → リキュルギウ
ライク、ディー・シー
④368大14.C/④379大15.C/
ライコルゴス→ リキュルギウ
Leisegang, Hans②278昭8.D//
③264昭7.B//④255大3.B/
ライゼウキッツ④384大15.D/
ライダーハガード④406昭3.C/
ライヒ②191明25.C/
Leifer, F.③198大5.C//④716[大5]/
④675[大正]/
ライプニッツ(Leipniz)、ゴットフリード・ウキルヘルム
①203大7.B/①230大11.B/
①286昭3.B/①325昭6.A//
③155明43.B/③230大14.B/
③239昭2.B/③257昭6.A//
④113明29.D/④257大3.B/
④287大5.B/④312大7.B/
④313大7.B/④345大11.B/
④364大14.B/④415昭4.B/
④452昭7.B/④454昭7.B/
④495昭9.D/④505昭10.B/
④506昭10.B/④525昭11.B/
④550昭12.B/④552昭12.B/
④566昭13.B/④567昭13.B/
④568昭13.B/④570昭13.B/
④583昭14.B/④586昭14.B/
ライブマイル、Y.E.
②223明 39.A/
ライト、W.K.④645昭17.B/
ラウィッス④309大6.E/
Laugenhove, George van
②63昭12.D/
ラウエル、ベルトルド
②242大6.F/
ラエルチウス→ ヂオゲネス、D.L.
ラエルチス→ ヂオゲネス、D.L.
ラウレス、ヨハ(ン)ネス
②64昭12.E//③316昭16.D//
④424昭4.F/④440昭6.B/
④479昭8.E/④540昭11.D/
④559昭12.D/④562昭12.E/
④618昭15.D/④635昭16.D/
④652昭17.D/④757[昭12]/
ラエリウス①326昭6.B//
②130昭18.B/
ラオコオン→ ラオコー(オ)ン

ラオコー(オ)ン(ラヲコン、ラオコン、ラオコオン、Laokoon)
①199大6.D/①231大11.D/
①243大13.A/①259大14.D/
①279昭2.D/①295昭3.D//
②24昭10.D/②44昭11.D/
②124昭17.D/②126昭17.D/
②136昭18.D/②184明23.D/
②217明35.D//③34明22.A/
③84明30.D/③124明36.E/
③139明39.D/③140明39.D/
③152明42.D/③153明43.A/
③159明44.A/③169明45.D/
③186大3.D/③199大5.D/
③227大13.D/③228大13.D/
③245昭3.D/③297昭13.D/
③324昭18.D/③328昭[不明]D//④146明36.D/
④148明36.E/④155明37.D/
④172明39.D/④212明43.D/
④213明44.A/④222明44.D/
④238明45.D/④268大3.D/
④370大14.D/④538昭11.D/
④594昭14.D/④649昭17.D/
④650昭17.D/
ラオコン → ラオコー(オ)ン
Lauffen,S.④561昭12.E/
Lagarde,A.④279大4.C/
ラゲ、エ④82明23.C/④210明43.D/
④709[明43]/④728[昭1]/
④738[昭5]/
Lagerlöf,Selma④369大14.C/
Laquer, R.①376昭9.B//
④611昭15.C/④612昭15.C/
Lagune, T.de③215大10.B/
Lazani,C.③198大5.C/
④292大5.C/④717[大5]/
ラザフォード、マーク
④301大6.B/
ラザロ①158明45.C/
Lazarus④239大2.A/
ラスキ(H.ハロルド・ゼイ)
①301昭4.B//④391昭2.B/
④409昭3.E/④744[昭7]/
ラスク①189大4.B//④454昭7.B/
Last, Hugh③277昭9.C/
Lasteyrie,M.R.de④237大1.D/
ラセデモニア④392昭2.C/
ラセラス(羅西拉斯、剌世拉斯)
④65明19.D/④70明20.D/
④84明23.D/④98明26.D/
④163明38.D/④199明42.D/
Larsen, S.③220大11.D/
ラックハム、アール・ビ
④207明43.C/
ラッサール→ ラッサ(ア)ル
ラッサ(ア)ル(ラッサール)、フェネヂナンド
①105明36.B//②262昭4.D//
④579昭14.A/
ラッセン、クリシチャン
④108明28.D/④108明28.D/
ラッソン(Lasson,Adolf.)
①130明40.A/①345昭7.B//
③145明41.A/③166明45.B/
③262昭7.A//④402昭3.B/
④571昭13.C/④659昭18.C/
④687昭24.C/
Lattry, C.③176大2.C//
④249大2.C/
Latini,Br.④578昭13.F/
ラッテイガン①95明33.E/
ラッド②190明25.B//③47明25.A/
ラッネッド、ディー・ダブリュー→ ラ(ー)ルネ(子)
ラッヘース(ラヘス)
①104明36.B/①124明39.B/
①243大13.B//②118昭17.B/
ラッポポオル、シャルル
①189大4.B/
ラトス、J.④509昭10.B/
ラルネド→ ラ(ー)ルネ(子)デ
ラーネット→ ラ(ー)ルネ(子)

ラー子ッド→ ラ(ー)ルネ(子)デ
ラーネルデ→ ラ(ー)ルネ(子)
Lachamann,B.③182大3.B//
④256大3.B/
ラピアーナ④301大6.B/
ラビス→ ラヴィス
Lachièze-Ray, P.②83昭14.B/
ラフアギュ、ポール①226大10.E//
④721[大10]/
ラフィット、ピエル①68明26.A/
ラブジョーイ → ラヴジョイ
ラ・ファルグ③220大11.E/
ラフォ(ヲ)ンテーヌ(ラ・フォンテイン、ラフォンテーン、La Fontaine)
①91明32.D/
①108明36.D/①218大9.D/
①269大15.D/①384昭9.D//
②124昭17.D/②211明33.D/
②253大14.D/②211明33.D/
②216明35.D//③37明22.D/
③51明25.D/③58明26.D/
③68明28.D/③77明29.D/
③311昭15.D//④84明23.D/
④103明27.D④125明32.D/
④150明37.B/④169明39.B/
④341大10.D/④397昭2.D/
④416昭4.C/④④498昭9.D/
④728[昭1]/④735[昭4]/
④738[昭5]/④740[昭6]/
④749[昭9]/④772[昭17]/
ラフォンテーン → ラフォ(ヲ)ンテーヌ
ラ・フォンテイン → ラフォ(ヲ)ンテーヌ
ラプソン④291大5.C/
ラ・ブリュイエエル
ラ・ブリュイエール(Labriolle, P.de)
④612昭15.C/④626昭16.B/
④627昭16.B/④769[昭16]/
ラブリン、ヤンコ(Lavrin,J.)
②38昭11.B/②96昭15.B/
ラフランキ③161明44.C/
Labbriolle, P. de②283昭9.B//
④487昭9.B/
ラヘス → ラッヘース
ラポック④119明31.B/
ラボック(ルボック)
①42明20.A①119明38.B//
③25明19.A//④62明19.A/
④135明35.B/
ラボワー④70明20.D/
Lambecke,War P.①274昭2.A/
Lammers,H.④527昭11.B/
Lammert, E.③114明35.C/
ラマルチヌ(ラマルティン、ラマルティイヌ、ラマルティーヌ、ラマルチーヌ、ラマルチ井ヌ)
①145明43.A//③51明25.D/
③106明34.B//④102明27.B/
④133明34.D/④200明43.A/
④421昭4.D/④576昭13.D/
ラマルチーヌ→ ラマルチヌ
ラマルチ井ヌ→ ラマルチヌ
ラマルティーヌ → ラマルチヌ
ラマルティイヌ → ラマルチヌ
ラマルティン → ラマルチヌ
ラミヤ②241大6.B/②278昭8.B/
ラム、チャール(ス)ズ
②253大14.D//
④53明16.D/④65明19.D/
④70明20.D/④73明21.C/
④199明42.D/④702[明37]/
④706[明40]/④717[大5]/
④722[大1]]/④724[大13]/
④727[昭1]/④731[昭2]/
④743[昭7]/
ラム、メリー④717[大5]/
④724[大13]/
ラムプシニタス王①256大14.C/
Lamblicus④140明35.D/

ラムベルク、ハンアン・フィッシャー④619昭15.D/
Lamprecht,K.(ラムプレヒト、ランプレヒト、ランプレヒー、カアル)
①191大5.C/①318昭5.C//
③148明41.C/③154明43.A//
④293大5.C/④311大7.A/
④418昭4.C/④422昭4.E/
④473昭8.C/④474昭8.C/
④503昭10.A/④615昭15.C/
④807[昭17]/
Lamprecht,S.P.③239昭2.B/
ラムプレクロース④631昭16.B/
Lambeck,G.④387昭2.A/
Lameere, J.③298昭13.D/
ララント、アンドレ③197大5.B/
③211大8.F/③214大10.B/
③218大11.B/③223大12.B/
③230大14.B/③270昭8.B/
ラルネッド→ ラ(ー)ルネ(子)デラ(ー)ルネ(子)デ、デイ・ダブリュー(ラーネット、ラーネルデ、ラルネッド、ラー子ッド、ラーネド、ヂ・ダブリュー)
①33明15.E//
②226明40.C//③243昭3.B/
④65明19.D/④69明20.D/
④74明21.D/④77明22.C/
④78明22.D/④84明23.D/
④88明24.D/④89明24.D/
④93明25.D/④98明26.D/
④99明27.B/④102明27.C/
④163明38.D/④171明39.D/
④172明39.D/④174明40.A/
④178明40.C/④179明40.D/
④188明41.D/④198明42.D/
④210明43.D/④304大6.B/
④285大5.A/④305大6.C/
④354大12.D/④356大13.A/
④395昭2.D/④407昭3.D/
④416昭4.C/④418昭4.C/
④445昭6.D/④691[明21]/
④695[明25]/④722[大正]/
ラルノード(教授)③221大11.E//
④349大11.E/
Larfeld,W.④264大3.C/
ラルポレット、エフ・ニックス④443昭6.C/
ラレー③148明41.C/
ラレー、トーマス①44明20.E/
ラレンツ、カール(Larenz,K.)
②28昭10.E/②139昭18.E//
④638昭16.E/
ラ・ロシフコー(ラ・ロシュフコー、ラ・ロシフコー)
③51明25.D/③52明25.D/
③57明26.D/③62明27.D/
③63明27.D/③77明29.D/
③83明30.D/③179大2.D//
④712[大2]/④755[昭11]/
ラ・ロシフコールド → ラ・ロシフコー
ラロシュフコー → ラ・ロシフコー
ラヴィ→ ラヴィス
ラヴィス(ラヴィ、ラビス、Lavisse, Ernst)
①183大3.C/①291昭3.C//
②47昭11.E/②77昭13.E/
②97昭15.C//④249大2.C/
④339大10.C/④393昭2.C/
④424昭5.A/④542昭11.E/
ラヴジョイ(ラブジョーイ、Lovejoy, A.O.)
②40昭11.B/②137昭18.D//
③173大2.B//④242大2.B/
④243大2.B/④245大2.B/
ラヴダン、ピエル①381昭9.C/
ラルグス③251昭4.F/
ラワール(Laval)①39明18.B//
④62明19.B/
ラ井カルガス → リキュルギウ

ラヲコン → ラオコー(オ)ン
Langerbeck, H.②18昭10.B/
ラング、アンヅルー(アンドリュー、Lang Andrew)
③104明33.F/③169明45.D//
④241大2.B/
ラング、ボルランド①38明18.E/
ラングロア(Langlois)
③95明32.C/
ランゲ③68明28.D/
ランゲ③23明18.C/
ランゲ、コンラッド④297大5.D/
ランゲ、F.(フリイドリヒ・アルバート、アルベルト、Lange,F.A.)
①86明31.B/①124明39.A/
①212大8.E/①245大13.B/
①286昭3.B/①289昭3.B/
①301昭4.B/①313昭5.B/
①342昭7.B/①359昭8.B//
②34昭11.B/②204明30.B//
③106明34.B/③234大15.B/
③265昭7.C//④400昭3.B/
④367大14.B/④416昭4.B/
④606昭15.B/
Landsberg, P.③270昭8.B/
ランソン②87昭14.D/
ランヂス,エチ・エム④784[明27]/
ランド④113明29.D/
ランドマン②228昭41.B/
②228明41.C/②228明41.D/
ランドルミイ(ー)、ポール(P.)
①270大15.D//②111昭16.D/
ランバート、チャールス
③238昭2.B/
ランプレヒー → Lamprecht,K.(ラムプレヒト)
ランプレヒト→ Lamprecht,K.(ラムプレヒト)
Lancher,Fr.④237大1.D/
李鴻章③74明29.C/
李善蘭④373大14.F/
リー③125明36.G//④57明17.D/
Lee, G.C.①323昭5.E/
Lee, H.D.P.②19昭10.B/
Lee,Hetty④379大15.C/
リー、ロバート④392昭2.C/
リー、シドニー④749[昭9]/
リイプマン④701[明3]/
リウキパス → レウキッポス
リウクレシウス → ル(ー)クレチウス
Liusmeler,A. ④239大1.F
リエル、ミュラー②233明45.B/
リエンジ③139明39.C//
④59明19.C/
リエンツ(オ)ォ、コラ・ディ
④384大15.D/④408昭3.D/
④637昭16.D/④649昭17.C/
リウィウス → リヴ井
リカーガス → リキュルギウ
リカーガルス → リキュルギウ
リカルガ(ー)ス → リキュルギウ
理かるガス→ リキュルギウ
リカーガスルリ→ リキュルギウ
ルキニウス(・アウリス)
①385昭9.E//②130昭18.B//
④513昭10.C/
リキュルギ → リキュルギウ
リキュルギュ → リキュルギウ
リキュルギウ(リキュルギュス、リキュルゴス、リクルグズス、リコルゴス、ライカルガス、ラ井カルガス、リカーガス、リカルガ(ー)ス、リクルガス、リュクルゴス、リュクルギュ、リキュルグ、リキュルギ、リキュルギュ、リクルグス、リクルゴス、リコルギュゴス、リコルゴス、ライカーグス、リカーガルス、ラアイ

カルガス、リクルグ、ライコルゴス、リカーガス、理かるガス、リカーガスルリ、リコウルゴス、レキュリクス、利古爾互、列古里屈、Lycurgas, Lykurgos）
①18明8.C/
①25明10.E/①30明13.E/
①47明21.C/①48明21.C/
①58明23.E/①105明36.B/
①111明37.B/①113明37.C/
①115明37.C/①152明44.C/
①190大5.C/①261大14.E/
①268大15.C//②156明8.B/
②159明14.E/②160明15.E/
②163明16.E/②168明18.E/
②177明21.E/②186明23.E/
②189明24.E/②197明27.B/
②201明28.F/②205明30.E/
②209明32.E/②215明35.C/
②233明44.E/②239大4.F/
②239大4.C/②248大11.E//
③5明7.E/③7明9.B/
③9明9.E/③19明15.E/
③33明21.E/③45明24.C/
③48明25.B/③49明25.B/
③50明25.B/③54明26.B/
③67明28.C/③72明29.B/
③73明29.B/③87明31.B/
③100明33.B/③110明34.E/
③110明34.F/③117明36.B/
③120明36.C/③125明36.E/
③132明38.B/③224大12.F/
③242昭3.B//④57明17.E/
④57明17.E/④62明19.A/
④83明23.C/④112明29.D/
④115明30.B/④119明31.B/
④141明35.E/ ④148明36.E/
④154明37.C/④193明42.B/
④197明42.C/④208明43.C/
④275大4.B/④311大7.A/
④324大8.B/④400昭3.B/
④409昭3.E/
④674[明治初期]/
リキュルグ → リキュルギウ
リキュルゴス②159明14.E/
リギョ(一)ル師(Ligneul)
①39明18.B//③80明30.B/
③85明30.E/③101明33.B/
③106明34.B/③113明35.B//
④62明19.B/④109明29.B/
④111明29.C/④117明30.E/
④124明32.C/④129明33.E/
④130明34.B/④131明34.B/
④138明35.B/④452昭7.B/
④697[明29]/④698[明30]/
④699[明32]/
リークス、マーガレット
④634昭16.D/④650昭17.D/,
リクルガス → リキュルギウ
リクルグ → リキュルギウ
リクルグス → リキュルギウ
リクルゴス → リキュルギウ
リクルグズス → リキュルギウ
リーケ①18明8.B/①20明9.B//
②156明8.B/
李玄伯④576昭13.E/
リコウルゴス→ リキュルギウ
リコルギュゴス → リキュルギウ
リコルゴス → リキュルギウ
リザヤノフ④729[昭2]/
リサンドル③14明11.E/
リシアス→ リュシス/
リシス → リュシス
リシェ④504昭10.A/
リシダス④136明35.B/
④161明38.C/④748[昭9]/
リシッパス③44明24.B/
リシニアス①55明23.B/
リシヤル、ポール④357大13.B/
Lieske,A.④568昭13.B
リスト、シャルル②47昭11.E/

②75 昭13.E/
Leeson,Spencer②19昭10.B/
リーゼンベルク④519昭10.E/
李善蘭④373大14.F/
リーダー④755[昭11]/
Leaz,Walter①191大5.C/
Leatzmann, Hans①362昭8.B//
②61昭12.C//③198大5.C/
③310昭15.C/
リーツマン②139昭18.F/
Lietzmann, H.(リーツマン)
③167明45.C//④252大2.E/
④470昭8.B/④493昭9.C/
④516昭10.D/④534昭11.C/
④537昭11.C/
リットル、ダブリュー・ノックス
④107明28.C/
リットン → リトン
リッタ、モリツ④473昭8.C/
リッピー、ダブリュー
④794[大12]/
リップス、ジー・エフ/②236大2.B/
Lippmann,S.④500昭9.F/
リップマン、ウオルター
④765[昭14]/
Litt④344大11.A/
Litt,Th.④510昭10.B/
リード(リイド)、ウイリアム
④116明30.C/④334大9.D/
④341大10.C/
Liddell, H.G.③108明34.C/
Liddle(&Scott)④448昭6.D/
リトン(リットン、笠頓、笠頓翁、Lytton、エドワード)、ロウド(ロード、ロールド、エチ・ビ)[織田(丹羽)純一郎、花柳春話]
①27明11.D/①28明12.A/
①29明12.D/①34明16.D/
①36明17.D/①47明21.D/
①83明30.C/①182大3.C/
①183大3.C/①190大4.C/
①239大12.C/①290昭3.C/
①294昭3.D/①305昭4.C//
②59昭12.C/②191明25.C/
②229明42.B//③14明11.D/
③15明12.D/③17明14.C/
③20明16.D/③23明18.C/
③34明22.A/③131明38.B/
③132明38.C/③135明38.D/
③136明38.D/③139明39.C/
③193大4.C/③231大14.C/
③237大15.D//④37明12.D/
④59明19.C/④60明19.D/
④88明24.D/④126明33.B/
④158明38.B/④162明38.C/
④189明41.D/④198明42.C/
④353大12.C/④384大15.D/
④724[大13]/
リネエル、アン③281昭10.B/
リパニウス④73明21.C/
Lieber, A.③275昭9.B/
リーバー、フランシス
③116明35.E/
リビウス → リヴ井
Lichtenberger④372大14.E/
④385大15.D/
リヒテンベルゲル、アンリ(Lichtenberger, A.)
①97明34.B//③74明29.B/
③106明34.B/④131明34.B/
リピー①242大12.F/
リビー → リヴ井
リビウス → リヴ井
Lievs③75明29.C/
リープク子ヒト①126明39.B/
Lipsius④344大11.A/
リープマン、オット③115明35.D/
リーブル④651昭17.D/
リベーニヤス④69明20.C/
リーベルト、アルトウール(アルツール)(Liebert, A.)
③247昭4.B/③270昭8.B/

③280昭10.B/③283昭10.F/
③285昭11.B/③290昭12.B//
④426昭5.B/④441昭6.B/
④462昭7.D/④507昭10.B/
リポー③30明21.B/
リヤ王④435昭5.D/
リューキアーノス → ルーシアナス
リュクリーシャス → ル(ー)クレチウス
リュクルギュ → リキュルギウ
リュクルゴス → リキュルギウ
リュクレアス→ ル(ー)クレチウス
リュクレシセス → ル(ー)クレチウス
リュークレシア → ル(ー)クレチウス
リュークレシアス→ ル(ー)クレチウス
リュクレシヤス → ル(ー)クレチウス
リュークレショス→ ル(ー)クレチウス
リュ(ー)クレ(ー)ス → ル(ー)クレチウス
リュクレチュース → ル(ー)クレチウス
リュクレショス→ ル(ー)クレチウス
Lückenbach④418昭4.C/
リュコフロン④666昭19.B/
リュシス(リシス、リシアス、Lysias)
①104明36.B/①124明39.B/
①243大13.B//②118昭17.B/
②172明19.E //③59明27.A/
④112明29.D/④171明39.C/
④207明43.B/
リューシポス②157明10.C/
リュツラー、ハインリッヒ
③316昭16.D/
Lütigert,R.④249大2.C/
リューファス④215明44.B/
④220明44.C/
リュメリン②145昭19.E/
リヨン、ヘ子ネー・アム
③22明18.A/
リーランド、ジョーヂェ
③16明12.F//④38明12.F/
リリー④74明21.D/
リール(アロイス)①124明39.A/
①130明40.A/①174大3.B/
①221大10.B//③145明41.A/
③181大3.B//④257大3.B/
④258大3.B/
リ[ク?]レオパトラ→ クレオパ(ー)トラ
リ井ウス → リヴ井
リヴィー → リヴ井
リウィウス → リヴ井
リヴィウス → リヴ井
リヴース④475昭8.C/
リヴ井(ー)(リヴィウス、リビー、リウィウス、リヴキス、リヴィー、リ井ウス、リビウス、Liuius、Livius、Livy)①4[8]/①5[19]/
①21明9.C/①285昭3.A/
①313昭5.A/①332昭6.C/
①380昭9.C//②23昭10.C/
②101昭15.E/②165明17.E/
②196明26.D/②222明38.C/
②260昭3.C//③36明22.C/
③47明25.A/③50明25.C/
③59明27.A/③236大15.C/
③273昭9.A//④367大14.B/
④373大14.E/④582昭14.A/
④612昭15.C/
リヴキス → リヴ井
Livingston, R.W.(レヴィングストン)②19昭10.B/
②245大9.D/
リヲンダス→ レオニダス王

I’Institute de Linguistique de I’Universite de Paris.V ④767[昭15]/
リンコルン(倫古龍・大統領) ④84明23.C/
リンコルン(リンコン)、ヒ(一)マン ①31明14.A//④126明33.B/
リンコン→ リンコルン、ヒ(一)マン
リンゼー(リンドセー、林稷、Lindsay,A.D.) ③165明45.B/③214大10.B// ④232明45.B/④233明45.B/ ④277大4.B/④471昭8.B/ ④484昭9.B/④586昭14.B/ ④603昭15.B/④753[昭10]/
リンゼー、Th.M. → リンドセー、トーマス・エム
Lindsay, J.③218大11.B/
Lindy,J.④564昭12.F/
Lindegaad,I.④251大2.D/
リンドストロム、エッチ ④187明41.C/
リンドセー、A.D. →リンゼー
リンドセー(リンゼー)、トーマス・エム(Lindsay,Thomas M.) ④86明24.B/④277大4.B/ ④285大5.B/
Lind, P.von③69明28.D/
Linde, A.②38昭11.B/
林田[リンデン][和蘭人] ④672[弘化]④673[安政]/
リンデン、ヤコブ④330大9.B/
リンドナー③114明35.C/
Lindner①300昭4.A/①341昭7.A/
ルイス①270大15.D/
ルイス(辭書)④780[昭20]/
ルイス十四世④210明43.A/
Lewis,E.④596昭14.E/
Lewis,K.④609昭15.C/
ルウイ→ ルキイス、ピエール
ルウテル→ ルター
ルウクリシャス → ル(一)クレチウス
ルカ(ルカーン、路加傳、St..Luke) ④31明9.D/④69明20.D/ ④73明21.C/④88明24.D/ ④108明28.D/④125明32.D/ ④129明33.D/④163明38.D/ ④221明44.D/④235大1.C/ ④248大2.C/④249大2.C/ ④250大2.D/④251大2.D/ ④266大3.D/④295大5.D/ ④325大8.C/④347大11.C/ ④348大11.D/④368大14.C/ ④370大14.D/④390昭2.B/ ④408昭3.D/④430昭5.C/ ④443昭6.C/④512昭10.C/ ④662昭18.D/④667昭19.D/ ④672[安政]/ ④671[明治]/④675[明5]/ ④676[明6]/④683[明13]/ ④697[明28]/④719[大8]/ ④736[昭4]/④738[昭5]/ ④741[昭6]/④770[昭16]/ ④776[昭18]/④782[明8]/ ④788[明治期]/
ルカジェウィッツ、ジャン ④549昭12.B/
ルカチェフスキー①343昭7.B/
ルカーヌス→ ルーシアナス
ルーカン → ルーシアナス
ルギョル①93明33.A/
ルキアノス → ルーシアナス
ルキアヌス → ルーシアナス
ルキウス → ルーシアナス
ルーキウス(キケロ分) ②130昭18.B/
ルクルグ③24明18.E/
ル(一)クリシヤス → ル(一)クレチウス
ルークリース → ル(一)クレチ

ウス
ルークレシア(節婦)(ルクレチア、ルクレス)①31明14.C//②202明29.C/②234明45.B//④42明14.C/
ルクレシアス → ル(一)クレチウス
ルークレシヤ→ ル(一)クレシア
ルクレシャス → ル(一)クレチウス
ルークレショス → ル(一)クレチウス
ルクレス → ル(一)クレシア
ルクレチア → ル(一)クレシア
ルクレチアス → ル(一)クレチウス
ル(一)クレチウス(ルウクリシャス、ルークレショス、ルクレチアス、ル(一)クレシヤス、リュクリーシャス、リュ(一)クレ(一)ス、リュクレチュース、リュクレシヤス、リュクレシセス、ルークリース、レクレツ、リュークレシア、ルクレティウス、ルークリシヤス、ルクレシアス、ルクレス、リュークレショス、エクリーショス、リュクレショス、リュクレアス、リュークレシアス、ルクレチュア、Lucretius、緑骨列由私、路克勒周、ティトウス・カー)①9[142]/①55明23.B/①62明24.D/①64明25.B/①73明27.B/①91明32.C/①111明37.B/①136明41.B/①187大5.B/①311昭4.F//②11昭10.B/②16昭10.B/②58昭12.B/②112昭16.D/②142昭19.B/②148[14468]/②162明16.B/②166明18.B/②191明25.D/②200明28.C/②205明31.A/②207明31.E/②208明32.B/②228明41.B/②284昭9.B/②285昭9.D//③35明22.B/③37明22.D/③59明27.A/③72明29.B/③137明39.B/③145明40.F/③190大4.B/③213大9.F/③268昭7.F//④36明12.B/④45明15.A/④51明16.B/④56明17.C/④67明20.B/④81明23.B/④89明24.F/④90明25.B/④91明25.B/④100明27.B/④110明29.B/④161明38.B/④127明33.B/④137明35.B/④138明35.B/④142明36.B/④149明37.B/④150明37.B/④190明41.F/④233明45.B/④281大4.D/④410昭3.F/④423昭4.F/④466昭8.A/④487昭9.B/④495昭9.D/④500昭9.F/④505昭10.B/④529昭11.B/④547昭12.A/④627昭16.B/④661昭18.C/④698[明30]/④742[昭7]/
ルクレチュア→ ル(一)クレチウス
ルクレティウス → ル(一)クレチウス
ルクレツ → ル(一)クレチウス
ル・コック①238大12.B//④351大12.B/④354大12.D/
ル・サージュ④63明19.C/④68明20.C/④77明22.C/
ルーシアナス(ルーカン、ルキアヌス、ルキアノス、ル(一)シアン、ルキウス、ルカーヌス、Lucianus、Lucian, Lukios)

①5[19]/①56明23.D/
①61明24.D/①320昭5.D/
①336昭6.D/①358昭8.B//
②135昭18.D/②137昭18.D/
②232明44.B/②242大7.B//
③47明25.A/③132明38.B/
③298昭13.D//④151明37.B/
④271大4.A/④299大6.A/
④523昭11.A/④586昭14.B/
④662昭18.D/④627昭16.B/
ル(一)シアン → ルーシアナス
ルーシパス(ルシポス)
③31明21.C//④76明21.B/
ルシポス→ ルーシパス
ルシヤ(教授)②260昭3.D/
ルストラウスキ(ルストワフスキー、ルストワスキ)
①112明37.B/①300昭4.B//
③248昭4.B//④703[明37]/
ルストワスキ → ルストラウスキ
ルストワフスキー → ルストラウスキ
ルータ(一) → ルター
ルター(ルーテル、ルータ(一)、ルウテル、ルッター、ルッテル、るーてる、路易、Luther, M.マルティン、まるてん)
①195大6.B/②12昭10.B/
②183明 23.B//③94明32.C/
③172大2.B/③190大4.B/
③201大6.B/③202大6.B/
③205大7.A/③252昭5.B/
③257昭6.B/③278昭9.D/
③306昭14.D//④72明21.B/
④76明21.B/④80明23.B/
④113明29.D/④114明30.B/
④142明36.B/④144明36.B/
④184明41.B/④237大1.D/
④241大2.B/④242大2.B/
④256大3.B/④264大3.C/
④273大4.B/④285大5.B/
④290大5.B/④300大6.B/
④303大6.B/④304大6.B/
④312大7.B/④313大7.B/
④315大7.B/④337大10.B/
④348大11.D/④352大12.B/
④375大15.B/④401昭3.B/
④404昭3.B/④407昭3.D/
④413昭4.B/④414昭4.B/
④426昭5.B/④427昭5.B/
④453昭7.B/④467昭8.B/
④483昭9.B/④505昭10.B/
④511昭10.B/④525昭11.B/
④527昭11.B/④532昭11.B/
④550昭12.B/④567昭13.B/
④572昭13.C/④574昭13.D/
④575昭13.C/④583昭14.B/
④601昭15.B/④603昭15.B/
④627昭16.B/④628昭16.B/
④634昭16.D/④665昭19.B/
④717[大6]/④751[昭10]/
④755[昭11]/④763[昭14]/
④770[昭16]/④801[昭8]/
④801[昭9]/
ルタンド④85明23.E/
ルツクリシャス→ ル(一)クレチウス
ルッター→ ルター
ルッテル→ ルター
ルツールノー③107明34.B/
③110明34.E/
ルーテル → ルター
ルチンデ④749[昭9]/
るーてる、まるてん→ ルター
ルトウル、シャルル①190大4.C/
Lutolawski, W.③73明29.B/
Ludwig ,Emil④770[昭16]/
Ludwig, R.②133昭18.C/
ルナチャルスキー④518昭10.D/
Lebègue, H.②84昭14.B/
Loofs,Er.(ルフ)④273大4.B/
④360大13.C/

ルブルトン④658昭18.B/
ルボック→ ラボック
ルマルシャル④161明38.C/
④187明41.C/④548昭12.B/
Lummis,E.W.④295大5.D/
ルーミス、ヘンリー④155明37.D/
ルメイル、ジャン④752[昭10]/
ルモアヌ師(孟庵散士)
③315昭16.B/
③317昭16.D//④345大11.B/
④358大13.B/④428昭5.B/
④635昭16.D/④700[明34]/
④769[昭16]/
ルレー、ジョン②218明36.D/
Le Roy,Albert④67明20.B/
Le Roy,E.④227大1.B
ルロン,M.H.④665昭19.B/
ルキイス(ルウイ)、ピエール
④379大15.C/④354大12.D/
Lunte①318昭5.C/
レア子ド,ディ・ダブリュ
④685[明16]/④783[明19]/
レアンデル②62昭12.D/
Lake,K.(レイク、カーリプ、カーソップ)
④261大3.B/④287大5.B/
④341大10.C/
Laitng, Samuel③128明37.C//
④153明37.C/
レイバアン、ヒュウ・エイ
②34昭11.B/④467昭8.B/
④525昭11.B/
レーング、ビー・エム(Laing,B.M.)
④273大4.B/④287大5.B/
④349大11.E/
レウキッポス(リウキパス、ロイキポス、ロイキッポス、ロイキップ、ロイキュポス)
①89明32.B//②162明15.F//
③99明33.B/③222大12.B//
④122明32.B/④148明36.F/
④193明42.B/④200明42.F/
④231明45.B/④314大7.B/
④346大11.B/
Löwe,R.④506昭10.B/
レオ(帝)②286昭9.D/
Leo,F.(レオ)④307大6.D/
④496昭9.D/④610昭15.C/
レオナルド、ダ・ヴィンチ→ レオナルド、ダ・ヴィンチ
レオニダス王(オニダス、レオンダス、リヲンダス、レヲニダス、レオノダス、禮溫夫、領尼陀斯)
①56明23.C/①60明24.C/
①82明30.C/①114明37.C//
②169明19.B/②187明24.C/
②200明28.C/②201明28.D/
②206明31.C/②210明33.C/
②222明38.B/②246大10.B/
②247大11.B//③73明29.B/
③120明36.C/③160明44.B/
③192大4.C//④34明11.B/
④52明16.C/④77明21.B/
④102明27.C/④235明45.C/
④339大10.C/④532昭11.C/
レオノダス→ レオニダス王
レオン②95昭15.B//④620昭15.E/
Leon, P.③212大9.B/
レキー → レッケー
レキュリクス →リキュルギウ
レギュリュス②153明4.C/
レーク①175大3.C//④263大3.C/
Legrand③121明36.C/
Legrand,E.④308大6.D/
レグルス④116明30.C/
④353大12.C/
レサビイ、W.R.②144昭19.D//
④667昭19.D/④779[昭19]/
レスタアー③75明29.C/
レセップ②191明25.C/
レ(ー)ダ①351昭7.D//
③269昭8.B/

レッキー → レッケー
Leckie,G.G.④550昭12.B/
レッケー(レッキー、レキー、)(Leckey, W.E.A.)
①47明21.B/①111明37.B/
①117明37.E/①145明43.B//
②191明25.D/②203明29.E/
②246大10.B/②247大11.B//
③50明25.C/③54明26.B/
③119明36.B/③163明45.B//
④62明19.B/④78明22.C/
④118明31.B/④138明35.B/
④151明37.B/④156明37.D/
④175明40.B/④196明42.B/
④215明44.B/④219明44.B/
④369大14.A/
Legge③124明36.D/
Legge,F.④292大5.C/
レートー姫③263昭7.B/
レ(ッ)(ス)シング(烈眞具、列眞具、Lessing)[ラオコー(オ)ン]①52明22.D/
①60明24.B/①65明25.C/
①77明28.D/①80明29.D/
①82明30.B/①83明30.C/
①84明30.C/①84明30.D/
①89明32.A/①91明32.D/
①128明39.D/①156明45.B/
①192大5.D/①231大11.D/
①243大13.A/①253大14.A/
①259大14.D/①279昭2.D/
①281昭2.D/①285昭3.A/
①295昭3.D/①362昭8.B/
①383昭9.D//②24昭10.D/
②26昭10.D/②63昭12.D/
②124昭17.D/②126昭17.D/
②175明21.B/②179明22.B/
②181明22.D/②184明23.D/
②185明23.D/②188明24.D/
②191明25.D/②195明26.D/
②196明26.D/②199明27.D/
②207明31.D/②207明31.E/
②214明34.D/②217明35.D/
②219明37.B/②224明39.A/
②233明44.F/②236大2.B/
②244大9.B/②252大14.D/
②255大15.D/②260昭3.D/
②262昭4.D/②263昭4.D/
②266昭5.D/②271昭6.D/
②275昭7.D/②278昭8.D/
②285昭9.D//③32明21.D/
③34明22.A/③37明22.D/
③42明23.D/③46明24.D/
③50明25.C/③51明25.D/
③52明25.D/③56明26.D/
③57明26.D/③62明27.D/
③69明28.D/③72明29.B/
③78明29.D/③80明30.B/
③85明30.D/③89明31.D/
③91明31.D/③96明32.C/
③97明32.D/③109明34.D/
③117明36.B/③135明38.D/
③140明39.D/③141明39.D/
③144明40.D/③153明43.A/
③157明43.D/③159明44.A/
③169明45.D/③187大3.E/
③211大9.B/③228大13.D/
③272昭8.D/③317昭16.D/
③324昭18.D//④91明25.B/
④98明26.D/④108明28.D/
④111明29.B/④112明29.C/
④113明29.D/④156明38.A/
④164明38.D/④165明38.D/
④177明40.B/④210明43.D/
④213明44.A/④224明45.A/
④236明45.D/④238明45.D/
④262大3.B/④287④5.B/
④304大6.B/④325大8.B/
④331大9.B/④384大15.D/
④396昭2.D/④401昭3.B/
④442昭6.B/④460昭7.D/
④483昭9.B/④495昭9.D/

④516昭10.D/④649昭17.D/
④650昭17.D/④689[明19]/
④709[明43]/④720[大9]/
④741[昭6]/④767[昭16]/
レナード①272大15.F/
①275昭2.B/
レーニッツ③71明29.A/
レ(ー)ニン①227大10.E//
②34昭11.B/②37昭11.B//
④400昭3.B/④439昭6.B/
④730[昭2]/
レヒダス④57明17.E/
レビンスキー①226大10.E//
④721[大10]/
Leffingwell,G.W.①211大8.C/
①213大8.E/
レビングストン④35明11.D/
Lefmann, S.②211明33.D/
レーブレー、エミール
④73明21.B/
Lebrinsky④236大1.C/
レーベルト、アルトウール
③265昭7.C/③267昭7.E/
③268昭7.F/
Lehmann, H.③300昭13.E/
レーマン(R.Lehmann)
④675[明5]/④681[明10]/
Lehmann-Haupt, C.F.①380昭9.C//
③254昭5.C/③271昭8.C/
レーム、ヴァルテル④560昭12.D/
レーメル、フォン②221明38.A/
Lehmen, A.③172大2.B/
レモニイ②154明6.C/
レーラー、ジョーン・ジェー
④99明26.E/
レール、H.②136昭18.D/
レールネット②159昭14.B/
Levy(i),A.③309昭15.B/
③315昭16.B//④620昭15.E/
レヴィ(Levi)②101昭15.E//
④620昭15.E/
Lévy,Isid'sore④590昭14.C/
レヴィ、シルヴィアン
③282昭10.C/
レヴィー(美術史)②124昭17.D//
④660昭18.C/
レヴィー、イスイドル
③247昭4.B/
レヴィス(レウエス)③21明17.B/
③23明18.B//④55明17.B/
④58明18.B/
レヴィス②89昭14.E//
④596昭14.E/
レヴィット→ レーヴィット
レーヰット→ レーヴィット
レーヴィット(レヴィット、レーヰット、カール、Löwith, Karl)①361昭8.B//
②36昭11.B/②61昭12.C/
②85昭14.C/②131昭18.B//
③285昭11.B/③288昭12.A/
③293昭13.A/③314昭16.B//
④468昭8.B/④506昭10.B/
④531昭11.B/④547昭12.A/
④555昭12.C/④557昭12.C/
④569昭13.B/④572昭13.C/
④573昭13.C/④577昭13.E/
④582昭14.A/④587昭14.B/
④653昭17.E/④657昭18.B/
レヴィングストン→ Livingston,R.W
レウエス → レヴィス
Lévy-Bruhl②29昭10.E/
Loewenstein, J.②264昭4.E/
レヲニダス→ レオニダス王
Lenschau,T.④573昭13.C/
④591昭14.C/
レンツ③92明32.A/
Lentze,O.④609昭15.C/
ロイキポス → レウキッポス
ロイキップ→ レウキッポス
ロイキッポス → レウキッポス
ロイキュポス→ レウキッポス
ロイコス③264昭7.B/

Loisy,A.④226大1.B/
ロイテル④58明18.A/
ロイテル、カイリエル
②239大4.C/
ロイド、アーサー(Lloyd,Arthur)
①73明27.B/①75明28.B/
①145明43.A//②212明33.G/
②232明44.B//③154明43.B/
③155明43.B//④100明27.B/
④106明28.B/④155明37.D/
④213明44.A/
ロイド③126明37.A//
④201明43.A/
ロイド師④71明21.A/
Lloyd,T.①184大4.D/
ロー、シドニー②229明42.B/
ローウニ④249大2.C/
Lowell,F.C④118明31.B/
ローカス③180大3.B/
ローガン、シ・エ(イ)④490昭9.C/
④512昭10.C/
ロゲンドルフ④637昭16.D/
④641昭17.A/④644昭17.B/
④667昭19.C/④769[昭16]/
④773[昭17]/
ロクヒル、ウィリアム
④777[昭19]/
ロジデストワェンスキイ
④692[明22]/
ロシュラス(王)③36明22.C/
ロチ,P.④717[大5]/
ロック、J.①110明37.B//
③197大5.B//④193明42.B/
ロッヂ、サー・オリバー
④218明44.B/
Lodge, R.C.③214大10.B/
③226大13.B/③234大15.B/
③239昭2.B/
ロッツェ、ヘルマン③30明21.B//
④454昭7.B/
ロッツエル②209明32.E/
Lot, F.①319昭5.C//③249昭4.C//
④417昭4.C/④536昭11.C/
ロード②168明19.A/
ロード、ウムベルク
②227明41.A/
ロドピス②245大9.B/
ロブスタード(Lobscheid,W.羅布存徳)
①30明13.G/①37明17.G//
②209明32.G//③21明16.G//
④54明16.G/
Lobel,E.④516昭10.D/
Lombard③121明36.C
ロヨラ、イギナシャス
④540昭11.D/
Laurent, J.③276昭9.C//
④491昭9.C/
ローラン、マノン①83明30.C/
ローリ、ウォルター
④752[昭10]/
ロ(一)リエ、フレデリック(F.)
③194大4.D//④210明43.D/
④280大4.D/④715[大4]/
Laurie, S.S.③107明34.B/
Lory③134明38.C/
Loria, A.③174大2.B/
Lolimeyer④586昭14.B/
ロルンストン①155明45.B/
Loreh,F.④226大1.B/
Lohrisch,H.④536昭11.C/
ローレンス②226明40.A/
②227明41.A/②231明43.A/
②239大4.A//③162明44.D//
④271大4.A/④296大5.D/
④297大5.D/
Laurence, A.W.②266昭5.D/
ロレンス(D.H.)④496昭9.D/
④539昭11.D/④805[昭14]/
(伊留滿)ロレンソ(いるまん・ろれん)
④773[昭17]/
ロレンツ(ィ)オ④631昭16.B/
④651昭17.D/

Loisky,A.④492昭9.C/
Lowie, R.②88昭14.E/
Lowell,F.C.④118明31.B/
Loon, H.V.②53昭12.A/
ロンギナス→ ロングス
Long, A.③102明33.C/
ロングス(ロンゴス、ロンギナス、Longinos, Longinus)
①253大14.B/①258大14.D/
①293昭3.D//②46昭11.D/
②46昭11.D/②47昭11.D/
②84昭14.B//④164明38.D/
④358大13.B/④516昭10.D/
ロングフェロー④158明38.B/
④167明39.B.
ロンゴス → ロングス
ロンジアス①56明23.C/
Lones, T.②235明45.F
Lones,W.T.④242大2.B/
ロンブローゾー②227明40.D/
[M]マアテルリンク③141明39.E/
③192大4.C/
Maass, E.③119明 36.B/
マァビン、エフ・エス
①208大8.A/
マアフィー④719[大8]/
マイアー E.→ マイヤ(ー)、エドワー(ル)ド
マイアス(マイア(ー)ズ)、フレデリック・ウィリアム・ヘンリ
①182大3.C/①363昭8.C//
④293大5.C/
マイア(ー)ズ→ マイアス
マイウリ、アマディオ
②42昭11.C/
マイエル、E.②121昭17.C//
④660昭18.C/
マイエル、エドアルド → マイヤ(ー)、エドワー(ル)ド
マイエル、ハインリヒ
②282昭9.B//④509昭10.B/
マイエル、ハンス③280昭10.B//
④635昭16.D/
マイエル、リチャード
①154明44.E/
マイケル、コンラード・フェルディナンド
②105昭16.B/
Meyen, H.②71昭13.B/
Michael, F.③180大3.B/
Micheal, I.R.②50昭11.E/
Myser, E.②87昭14.D//
④593昭14.D/
Meiner, F.(出版)②39昭11.B/
Mynors, R.A.B.②19昭10.B/
マイネッケ、フリードリッヒ(Meinecke, Fridrich)
①358昭8.A//②98昭15.C/
②133昭18.C/②135昭18.C//
③254昭5.C/③299昭13.D//
④263大3.B/④513昭10.C/
④514昭10.C/④557昭12.C/
④572昭13.C/④600昭15.A/
④614昭15.C/④661昭18.C/
マイヤー②193明25.F/
Maier,H.②40昭11.B/
②247大11.A//③181大3.B//
④343大11.A/④441昭6.B/
Maier,J.④622昭15.E/
Mayer, E.W.③172大2.B/
Meier, H.③100明33.B/
Meier,M.④242大2.B/
Meyer,A.④236大1.C/
Meyer,F.③310昭15.C/
マイヤ(ー)(マイアー、エドワー(ル)ド[エーヴワード](Meyer, Edward)
①150明44.A/①247大13.C/
①306昭4.C/①333昭6.C/
①334昭6.C/①364昭8.C/
①381昭9.C//②23昭10.C/
②135昭18.C/②143昭19.C//
③120明36.C/③121明36.C/

③122明36.C/③198大5.C/
③219大11.B/③221大11.E/
③234大15.B/③259昭6.C/
③265昭7.C/③266昭7.C//
④196明42.B/④360大13.C/
④380大15.C/④445昭6.C/
④573昭13.C/④611昭15.C/
④614昭15.C/④615昭15.C/
④616昭15.C/④665昭19.A/
④667昭19.C/④717[大5]/
Meyer,Hans④742[昭7]/
Meyer,R.M.④242大2.B/
Meyer,T.(テオドル・マイヤー)
③75明29.C/③310昭15.C//
④394昭2.C/④459昭7.C/
④562昭12.E/④577昭13.E/
マイヤー(Myer, E.エルン[ネ]スト)
②114昭16.E/③217大10.E//
④638昭16.E/
マイヤズ、フレデリク・ウィリアム・ヘンリ
④715[大4]/
マイヤス牧師④183明41.A/
マイヨール③310昭15.D/
マイル、リチャート
①159明45.E/
Myres, J.L.③126明37.A/
③259昭6.C//④536昭11.C/
マイルス、P.V.②143昭19.C/
②228明41.C/
マウソン、C.D.S.②30昭10.G/
マ・エ・レ・フ研究所
④531昭11.B/
マカウレー → マコーレイ
マーカス→ アウレリウ(ア、ヤ、オ)ス、マー(ル)カス帝
マガス②215明35.C/
マガヌ②232明44.B/
マカリオス(瑪加理乙)
④55明17.B/
マガレット③68明28.D/
Magie,D.④612昭15.C/
マキアベリ → マキャヴェリ(一)
マキアヱリ → マキャヴェリ(一)
マキアヴェリ→ マキャヴェリ(一)
マキアヴェルリ→ マキャヴェリ(一)
マキャエリイ → マキャヴェリ(一)
マキャベリー → マキャヴェリ(一)
マキャヴエリ → マキャヴェリ(一)
マキャヴリ → マキャヴェリ(一)
マキャヴェリ(一)(マキャエリイ、マキャベリー、マキャヴリ、マキャヴエリ、マキアベリ、マキアヴェリ、マキアヴェルリ、マキアヱリ、マキャヴェルり、瑪基亞威里、Machiavelli, Nicolo、ニコロ、マキャヴェリズム)
①84明30.E/
①87明31.E/①98明34.D/
①127明39.C/①128明39.C/
①133明40.C/①289昭3.B/
①297昭3.E/①303昭4.B/
①319昭5.C/①333昭6.C/
①339昭6.E/①372昭9.A/
①385昭9.E/②21昭10.C/
②95昭15.B/②97昭15.C/
②98昭15.C/②101昭15.E/
②110昭16.C/②114昭16.E/
②115昭16.E/②128昭17.E/
②139昭18.E/②171明19.E/
②177明21.E/②267昭5.E/
②271昭6.E/②286昭9.E//

③12明10.E/③33明21.E/
③34明22.A/③292昭12.E/
③300昭13.E/③306昭14.E/
③309昭15.C/③317昭16.E/
③325昭18.E//④54明16.E/
④57明17.E/④61明18.E/
⑤ 66明19.E/④75明21.A/
④179明40.C/④269大3.E/
④319大7.E/④355大12.E/
④373大14.E/④386大15.E/
④423昭4.E/④434昭5.D/
④436昭5.E/④463昭7.E/
④474昭8.C/④479昭8.E/
④493昭9.C/④498昭9.E/
④499昭9.E/④513昭10.C/
④514昭10.C/④515昭10.C/
④519昭10.E/④537昭11.C/
④542昭11.E/④555昭12.C/
④562昭12.E/④563昭12.E/
④596昭14.E/④616昭15.C/
④620昭15.E/④621昭15.E/
④622昭15.E/④638昭16.E/
④654昭17.E/④689[明19]/
④714[大3]/④715[大4]/
④738[昭5]/④750[昭9]/
④753[昭10]/④767[昭15]/
④802[昭10]/④803[昭11]/
マキャヴェルリ → マキャヴェリ(一)
マーキュリー③144明40.D/
マキリース神(メルキュリー、マーキュリー)
②206明31.C//③117明36.B/
③144明40.D//④627[明治]/
Marcus,R.④611昭15.C/
Maxmehle, B.①207大7.E/
Maxentius④616昭15.C/
McGiffert,A.C.④513昭10.C/
マクシミヤン④406昭3.C/
マクスオール④365大14.B/
マクドナルド③161明44.C/
マクドナルド、アーサー
①63明25.B/
マクドナルド、エー・シー
③133明38.C/
Magner,A.④267大3.D/
Magnien, Victor②265昭5.B/
Macaigne,R.④472昭8.C/
McNeil,A.H.④295大5.D/
④360大13.B/
マクナップ(マックナップ)、ヴィンセント(ヴ井ンセント)④453昭7.B/
④467昭8.B/④469昭8.B/
マクニール④356大13.A
マグヌス、アルベルス
②142昭19.B/
マグヌス、フウゴー
②230明42.F/
マクネア(ヤ)④99明27.B/
④105明28.B/④108明28.C/
④307大6.D/
マグ子ンチウス④83明23.C/
マークビー、ウィリアム
④53明16.E/
マクファーシス①366昭8.D/
マクファーソン(Mary Macpherson)
④395昭2.D/④730[昭2]/
M’Mahon,J.④402昭3.B/
マクマレーヘン④607昭15.B/
マクミラン③71明29.B//
④109明29.B/④112明29.D/
Macmillan④502昭10.A/
④524昭11.A/④547昭12.A/
④582昭14.A/
マクラウド → マクレオー(ッ)ト
マクレイン④99明27.B/
マクレオー(ッ)ト、(マクラウド、麻クレオド)ダンニング②161明15.E//

②164明16.E/②172明19.E/
②174明20.E//④48明15.E/
④672[明治]/④685[明15]/
麻クレオド→ マクレオー（ッ）ト
M’Clymont,J.A.④266大3.D/
Maxey, C.C.②89昭14.E/
McKeon, R.①376昭9.B/
Macwilliam,J.④416昭4.B/
マケール、J.W.②124昭17.D/
マーゲル、アイロス
④658昭18.B/
マコ(馬可傳、Mako)
④78明22.D/
④88明24.D/④92明25.D/
④103明27.D/④129明33.D/
④146明36.D/④163明38.D/
④188明41.D/④221明44.D/
④236大1.D/④266大3.D/
④305大6.C/④318大7.D/
④494昭9.D/④673[慶應]/
④675[明5]/④678[明8]/
④681[明10]/④684[明14]/
④691[明21]/④692[明22]/
④694[明24]/④695[明25]/
④696[明27]/④699[明32]/
④706[明40]/④707[明41]/
④710[明44]/④715[大4]/
④716[大5]/④717[大6]/
④738[昭5]/④749[昭9]/
④789[1-]/④789[18-]/
マコッシュ、ジェイムズ
④63明19.B/
マコーリ → マコーレイ
マコーレー→ マコーレイ
マコーレイ（マコーリ、マカウレー、マコーレー、麻鴻禮、麻鴻禮郷、Macauley,T.B.）
①33明15.C/①56明23.C/
①58明23.E/①159明45.D//
②171明19.D/②174明20.D//
③28明20.D/③42明23.D//
④33明10.D/④60明18.D/
④70明20.D/④82明23.C/
④84明23.D/④92明25.C/
④98明26.D/④111明29.C/
④113明29.D/④117明30.D/
④126明33.B/④147明36.D/
④180明40.D/④214明44.B/
④370大14.C/④693[明23]/
マコーレー（ミセス, 夫人）
④697[明28,29]/
マーシー、ジョン①269大15.D/
マシアスノスケボラ(勇將)
④102明27.C/
マシウス→ Matthews, S.
マシス、アンリ①281昭2.D//
④390昭2.B/
Marsh, F.B.①350昭7.C/
②22昭10.C/
Macé,A.④612昭15.C/
M’Giffert,A.C.④249大2.C/
Mathieu,G.④611昭15.C/
マシュウス→ Matthews, S
マシュース、バ(ー)ゼル
④404昭3.B/④405昭3.C/
マシュース［ズ］、ブランダー（教授）(Mathews,Brandas)
①159明45.D/①167大2.D//
④216明44.B/④252大2.D/
④268大3.D/④711[大2]/
マシューズ、ペエジル
④554昭12.C/
Matthews, S.(マシユウス、マシウス、シェイラ、セエラー、セーラー)
①331昭6.B//④117明30.E/
④479昭8.E/④480昭8.E/
④498昭9.E/
Matthews → マタイ
マスターズ、D.（Masters David）
②121昭17.C//③227大13.C/

マスタマン、ジェ・エチ・ビー
④219明44.C/
マクニール④356大13.A/
マスペロ、ジャン①191大5.C/
マセソン、ジョルジュ
④232明45.B/
Masé-Dari③107明34.B
マーセット④42明14.C/
Mazeppa(マゼッパ、まぜつば、バイロン)
④147明36.D/④180明40.D/
マーセル④70明20.D/
マゾッホ、ザッハー
④168明39.B/
マタイ(マトフェイ、馬太傳、摩西、摩太、またい、Matthews,Matthäus)
④28明4.D/④31明8.D/
④43明14.D/④48明15.D/
④74明21.D/④78明22.D/
④88明24.D/④92明25.D/
④98明26.D/④163明38.D/
④171明39.D/④179明40.D/
④188明41.D/④210明43.D/
④221明44.D/④235大1.C/
④236明45.D/④281大4.D/
④295大5.D/④339大10.C/
④341大10.D/④368大14.C/
④370大14.D/④395昭2.D/
④432昭5.D/④443昭6.C/
④512昭10.C/④571昭13.C/
④616昭15.D/④676[明
④675[明4,明5]/④678[明8]/
④679[明9]/④681[明10]/
④682[明11]/④683[明13]/
④684[明14]/④685[明15]/
④686[明17[/④688[明19]/
④690[明20]/④691[明21]/
④694[明24]/④698[明30]/
④702[明36]/④707[明41]/
④736[昭4]/④738[昭5]/
④741[昭6]/④762[昭13]/
④770[昭16]/④778[昭19]/
④788[明治期]/④789[1-]/
④789[18-]/④802[昭10]/
④809[昭19]/
マダリアガ、サルヴァドル・デ
④745[昭8]/
マーテルリンク①215大9.B/
マチルダ③129明37.D/
Martin,A.v.②108昭16.B//
④492昭9.C/
マーチン①44明20.E/
Martin, J.②284昭9.B/
Mattingly, H.①191大5.C/
Matz, F.②23昭10.C/
マッカティー④675[明治期]/
McCabe, J.③119明36.B//
④225大1.A/④235大1.C/
マッカルシ、ジョスチン
③57明26.D/
マッキウス①336昭6.D/
Mackinney,L.C.④653昭17.E/
マッギファート(マッギファルト、マッギフオート)、アーサー・クシュマン
④300大6.B/④328大8.E/
④426昭5.B/
マッギファルト→ マッギファート
マッギフオート→ マッギファート
MacIver,R.M.④224大1.A/
マッキントッシュ、エッチ・アール④339大10.C/
マッキンレー、エス・ビ
③281昭10.C/
MacCunn, J.③127明37.B/
Macintosh,D.C.④256大3.B/
McClure, M.T.②283昭9.B//
④487昭9.B/④506昭10.B/
マックアーサー、ロバート・スチュアルト④137明35.B/
マックナップ→ マクナップ

McLachlan,H.④235大1.C/
マックレー④99明27.A/
マックヴァン、W.M.②86昭14.C/
Mcllwain, G.H.②114昭16.E/
マッケイ①224大10.D/
マッケイ④675[明治期]/
マッケイ、ジョン・ヘンリイ
②265昭5.B/
マッケンジー(馬徒瑞、馬健瑞)
[何禮之]①24明10.E/
①25明10.E/①62明24.E/
①218大9.E//③12明10.E//
④132明34.B/
Mackengie, G.②148昭20.E[不明]/
マッケンジー (Mackenzie.J.?ジョン・エス)
①113明37.B/①272大15.F/
①275昭2.B//②240大5.B//
③107明34.B//④177明40.B/
Mackenzie, W.③175大2.C/
マッケンナ(Mackenna, S.)
②17昭10.B/②107昭16.B/
McCormack, T.J.③127明37.B/
マッコル、マルコルム
④99明27.B/
MacCauley,C.(マッコーレー、クレイ)④88明24.C/
④109明29.B/
マッシー、ゲラルド③61明27.C//
④102明27.C/
マヅジニー③46明24.D/
Matz,F.④517昭10.D/
Mazdaismus③176大2.C/
Mattingly,J.R.③303昭14.B/
マッテン④52昭7.B/
マツラ派③227大13.D/
マーテルリンク、モーリス
④392昭2.C/
マーデン④203明43.B/
Madkour, I.②18昭10.B/
マトフェイ(馬太) → マタイ
マドレエヌ①166大2.C/
マネ③241昭2.D/
マ子ソ④47明15.C/
Mahaffy,G.④615昭15.C/
マハアフィー(Mahaffy, J.P.)
①149明43.E//③158明43.E/
マハン、ダブリュー・ジ
④77明22.C
マビヨー③74明29.B/
マピヨン、ジャン④408昭3.D/
④731[昭3]/
Mabbott,J.D.③303昭14.B/
マーヘン④390昭2.B/
Mahomet(マホメット)
③310昭15.C//④112明29.D/
マムフォード①250大13.E/
マラテスタ、エッリコ
①297昭3.E/
Mally,E.④507昭10.B/
マリー、ミドルトン④770[昭16]/
(聖母)マリア(マリヤ)
④124明32.C/④161明38.B/
④196明42.B/④207明43.C/
④263大3.C/④533昭11.C/
④548昭12.B/④588昭14.C/
④657昭18.B/④714[大3]/
④733[昭3]/④738[昭5]/
マリア(マグダラの)
①217大9.C//④392昭2.C/
④417昭4.C/
Mariana, Juan de②57昭12.B/
マリウス(瑪留斯、Mario)
①12[229]/②220明37.C//
③198大5.C//④71明21.A/
④292大5.C/④627昭16.B/
④717[大5]/
マリウス(メイリアス、Marius、エピキュリアン、エピクロス學徒)
①170大3.B/①189大5.B/
①230大11.B/①274昭2.B/

①289昭3.B/①377昭9.B//
③248昭4.B/③253昭5.B/
③264昭7.B//④421昭4.D/
④434昭5.D/④447昭6.D/
④559昭12.D/④729[昭1]/
マーリアム④398昭2.E/
Mario → マリウス
マーリオー③270昭8.B/
Mariott,Sir J.A.R.④423昭4.E/
④646昭17.C/
マリオン②270昭6.D/
マリシアン④646昭17.C/
マリジーマ④433昭5.D/
マリタン(マリテン)、ジャック
④400昭3.B/④630昭16.B/
④644昭17.B/④528昭11.B/
④657昭18.B/
マリチオー、エル①31明14.B/
マリテン→ マリタン
マリニョーリ、ジョン
②134昭18.C/
マリノウスキー④769[昭16]/
マリヨン②165明17.B/
マリヲット④423昭4.E/
マルカス → アウレリウ(ア、ヤ、オ)ス
マルカム④32明10.C/
マルカム(馬爾加摩)④491昭9.C/
Marquart,J.④520昭10.F/
マルガレーテ③177大2.D//
④252大2.D/
マルキシズム→ マル(ア)クス
マルク②65昭12.E/
Marcus Varro①5[19]/
マル(ア)クス、カール(カアル、K.)[マルキシズム]
①100明35.B/①101明35.B/
①105明36.B/①113明37.B/
①126明39.B/①129明39.E/
①189大4.B/①196大6.B/
①203大7.B/①204大7.C/
①209大8.B/①210大8.B/
①213大8.E/①215大9.B/
①216大9.B/①223大10.B/
①236大12.B/①239大12.B/
①249大13.E/①254大14.B/
①275昭2.B/①276昭2.B/
①282昭2.E/①287昭3.B/
①296昭3.E/①297昭3.E/
①301昭4.B/①303昭4.B/
①306昭4.C/①309昭4.D/
①313昭5.B/①314昭5.B/
①320昭5.D/①327昭6.B/
①331昭6.C/①335昭6.D/
①339昭6.E/①346昭7.B/
①353昭7.D/①359昭8.B/
①376昭9.B/①383昭9.D/
①384昭9.E//②15昭10.B/
②34昭11.B/②36昭11.B/
②37昭11.B/②43昭11.C/
②248大12.B/②250大13.B/
②267昭5.E/②268昭6.B/
②269昭6.B//②270昭6.C//
③112明35.B/③127明37.B/
③146明41.B/③195大5.B/
③201大6.B/③205大7.B/
③209大8.B/③211大9.B/
③212大9.B/③225大13.B/
③231大14.D/③247昭4.B/
③258昭6.B/③266昭7.D//
④136明35.B/④323大8.B/
④325大8.B/④331大9.B/
④332大9.B/④355大12.E/
④359大13.B/④367大14.B/
④372大14.D/④391昭2.B/
④400昭3.B/④402昭3.B/
④404昭3.B/④409昭3.E/
④415昭4.B/④426昭5.B/
④428昭5.B/④436昭5.E/
④445昭6.C/④452昭7.B/
④473昭8.C/④474昭8.C/
④509昭10.B/④531昭11.B/
④674[明治]/④706[明40]/
④730[昭2]/④733[昭3]/

④734[昭3,4]/④740[昭6]/
④746[昭8]/④752[昭10]/
マルクス、ヨット④535昭11.C/
マルコ（St.Mark傳、Maruko、馬留古，末留古）
④281大4.D/④295大5.D/
④368大14.C/④382大15.D/
④430昭5.C/④512昭10.C/
④675[明5]/④686[明18]/
④736[昭4]/④741[昭6]/
④752[昭10]/④755[昭11]/
④767[昭15]/
マルコフ③161明44.C/
マルシヤス③13明11.C/
マルジャリア④519昭10.E/
マルシャン將軍②121昭17.C/
マルシリウス④622昭15.E/
マルス（軍神）②229明42.B/
マルタン、オンリ②62昭12.D//
④759[昭12]/
マルチェリ④637昭16.E/
マルチーノ、ゼームス
④105明28.B/
マルチン④30明8.B/④32明10.A/
④105明28.B/④288大5.B/
マルチン、ベルリー④88明24.C/
マルティカル④523昭11.A/
マルティン、アルフレッド・フォン（Martin, Alfred v.)
①345昭7.B/①350昭7.C/
Martin,J.④487昭9.B/
Martroye,F.③129明37.C/
マルヴン、イー・ビー
②187明24.B/
マ(ー)ルブランシュ
②170明19.B//③318昭17.A/
③319昭17.A/
Male,E.④237大1.D/
マーレー、アンドリュー
④659昭18.C/
マーレー → マレー、G.
マレー（マレイ、ギルバート Murray, Gilbert）
②39昭11.B/②96昭15.B/
②100昭15.D/②131昭18.B/
②281昭9.B//③84明30.D/
③111明34.G/③125明36.G/
③169明45.D/③173大2.B//
④211明43.D/④242大2.B/
④258大3.B/④384大15.D/
④410昭3.E/④486昭9.B/
④527昭11.B/④538昭11.D/
④610昭15.C/④615昭15.C/
マレイ→ マレー、G.
Murray, M.A.③108明34.C/
Murray, R.H.(マレイ、ロバート・エッチ①323昭5.E//
④436昭5.E/④621昭15.E/
Marek, S.③174大2.B/
マレシャル、ヨゼフ
④605昭15.B/
Marrou,H.④527昭11.B/
マロス②204明30.C/
マーヴィン、エフ・エス
①243大13.A/
Marvin,W.A.④303大6.B/
Marvin,W.T.①245大13.B/
マン、トーマス（Mann,Thomas トオマス）
②24昭10.D/②24昭10.D//
④515昭10.D/④558昭12.D/
マンカ、モーリス④500昭9.F/
マンガザリアン②239大4.B/
Manguat,M.④500昭9.F/
マンスフキルド①20明9.B/
①21明9.C/
マンタイ①362昭8.C/
Manthey,F.④559昭12.D/
Mantz,K.A.④550昭12.B/
マンツィウス①320昭5.D/
Manzies,Allan④351大12.B/
Mantey, J.R.②112昭16.D/
マンデヴィル②213明34.D/

Mandonne, P.②38昭11.B/
マンハル、トマス④617昭15.D/
④650昭17.D/④768[昭16]/
マンロー③156明43.C/
マンロー、エヌ・ジ①139明41.C/
Miéville,H.L.④506昭10.B/
三浦按針③243昭3.B/
ミウラー、マクス → ミューラー、マクス
ミオル②159明14.B/
Mikhailovskil,Vasilli(和志理・米迦勒斯基)
④42明14.C/
ミカエルアンジロ → ミケランジェロ
Mickw(u)itz, G.②42昭11.C/
②43昭11.C/②89昭14.E/
②90昭14.F//④596昭14.E/
ミケランジェロ(ミカエルアンジロ、ミケ(一)ルアンゼロ、ミケルアンヂェロ、ミケルアンジェロ)
②188明24.D//③209大8.B/
③278昭10.A/③306昭14.D//
④112明29.D/④180明40.D/
④280大4.D/④282大4.D/
④295大5.D/④334大9.D/
④361大13.D/④593昭14.D/
④595昭14.D/④668昭19.D/
④714[大4]/
ミケルアンジェロ → ミケランジェロ
ミケ(一)ルアンゼロ → ミケランジェロ
ミケルアンヂェロ→ ミケランジェロ
ミシテシズム(神秘主義)
④456昭7.B/
ミシュレー②206明31.C/
ミスリデーテス②186明24.A/
ミダ王 → ミダス王
ミダス王(ミダ)①143明42.C//
②187明24.B//③60明27.B//
④142明36.B/④180明40.D/
ミッシュ(Misch,Clara)
④485昭9.B/
ミッシュ、ゲオルク(Misch,G.)
①289昭3.B/①329昭6.B//
③191大4.B/
Mitteis,L.③102明33.C/
③124明36.D/
Mitteris,Ludwig②64昭12.E/
Michell, H.②115昭16.E/
ミッチェル④682[明12]/
④685[明15]/④689[明20]/
④781[明4]/
ミーヂゴス④60明18.D/
ミーティン②67昭12.G/
ミットフォヲルド④69明20.C/
ミード①89明32.A/
Mitgehll&Student④783[明22]/
Mitras(ミトラ密教)④290大5.B/
④505昭10.B/④669昭20.B/
ミナンドロス④47明15.C/
MeNeil,A.H.④281大4.D/
ミーニン②174明20.D/
ミネルヴァ(ミ子ルワ女神)
②45昭11.D//④187明41.B/
④538昭11.D/
ミノス王①58明23.E/
①175大3.C//②189明24.E/
②202明29.C/
ミノタオル④132明34.B/
ミノテダデス六世④197明42.C/
ミハイル(美波伊留, 密哈伊)
④48明15.D/④56明17.D/
④65明19.D/④103明27.D/
④108明28.D/④685[明15]/
④686[明17]/④696[明27]/
④697[明28]/
ミハ(ア)イ(エ)リス
①239大12.C/①247大13.C/
①257大14.C/①268大15.C/
①277昭2.C/①292昭3.C//

②113昭16.E//④393昭2.C/
④395昭2.C/
Michetschlager, Heinrich
①289昭3.B/
ミュアー、マクス → ミューラー、マ(ッ)クス
ミュ(ー)アヘッド → ミュ(エ)ールヘッド
ミュイア(ー)ヘッド → ミュ(エ)ールヘッド
ミュゲ、A.②131昭18.B/
ミューシウス(ミューセウス)
③244昭3.C/④367大14.B/
ミューズ神①295昭3.D//
③264昭7.B/③327昭[不明]D//④123明32.B/
④135明35B/④142明36.B/
④158明38.B/④172明39.D/
④215明44.B/
ミューセウス→ ミューシウス
ミュツラーリャー、エフ
①220大10.A//④721[大10]/
ミュラ、フォン④686昭23.D/
ミュラー → ミューラー、ハンス
ミュラー→ ミューラー、ヨハネス
ミュラー、アーダム②98昭15.C/
Müller, A.V.④227大1.B
Müller,C.④609昭15.C/
Müller, Erz.③186大3.D/
Müller, E.④227大1.B/
ミュラー、エフ④163明38.D/
Müller④520昭10.F/
Müller, H.F.③202大6.B/
Mueller,G.E.④507昭10.B/
ミューラー(ミュラー)、ハンス
④586昭14.B/④593昭14.D/
ミューラー(ミュラー)、ヨハネス
①345昭7.B//④518昭10.D/
Müller, K.①318昭5.C//
③249昭4.C/
Müller,K.A.v④514昭10.C/
Müller, L.④520昭10.F/
ミュラ、マキス→ ミューラー
ミュラー→ ミューラー、ハンス
ミューラー(ミウラー、ミューレル、ミュラー、ミュラア、ミュルラー、ミラー、ムロル、ミラル、ミレル、ミュラ、ムーラ、ムーレル、Müller)、マックス、マキス(馬、Max)
①51明22.B/①69明26.B/
①70明26.B/①74明27.B/
①90明32.B/①94明33.B/
①97明34.B/①128明39.D/
①133明40.D/①142明42.B/
①143明42.B/①147明43.B/
①245大13.B/①255大14.B/
①267大15.B/①315昭5.B//
②120昭17.B/②202明29.B/
②209明33.B/②210明33.B/
②211明33.D/②213明34.B/
②214明34.D/②220明 37.B/
②227明40.D//③35明22.B/
③49明25.B/③60明27.B/
③65明28.B/③80明30.B/
③82明30.B/③87明31.B/
③105明34.B/③106明34.B/
③107明34.B/③112明35.B/
③157明43.D/③172大2.B//
④42明14.B/④62明19.A/
④63明19.B/④67明20.B/
④90明25.B/④104明28.A/
④114明30.B/④119明31.B/
④123明32.B/④127明33.B/
④131明34.B/④132明34.B/
④137明35.B/④138明35.B/
④143明36.B/④151明37.B/
④172明39.D/④180明40.D/

④191明42.B/④193明42.B/
④198明42.C/④228明45.B/
④231大1.B/④367大14.B/
④376大15.B/④453昭7.B/
④668昭19.D/
Mrs.Müller, Max③119明 36.B/
Müller,O.④214明44.B/
Müller,W.③128明37.C/
ミュラア → ミューラー、マ(ッ)クス
Müller-Freienfels④242大2.B/
ミュラル→ ミューラー、マ(ッ)ク
Mühl,Max④491昭9.C/
ミュルラー → ミューラー、マ(ッ)クス
ミュルレル、マクス → ミューラー、マ(ッ)クス
ミューレル、フランツ④589昭14.C/
ミューレル → ミューラー、マ(ッ)クス
ミュレル（ン）、ライエル①162大2.B//②236大2.B/
Muehl, M.③222大12.B/
Mühl, Max③276昭9.C/
ミュルパウエル④535昭11.C/
ミュ(エ)ールヘッド(ミュイア(ー)ヘッド、ミュ(ー)アヘッド、Muirhead,J.H.)①82明30.B//③80明30.B/
③81明30.B/③99明33.B/
③101明33.B/③103明33.D/
③220大11.E/④387昭2.A/
③309昭15.B//④137明35.B/
④186明41.B/④389昭2.B/
Müllenhoff, K.③102明33.C/
ミュンスターベルヒ④715[大4]/
ミュンステル(勿的爾)①13明2.C/
ミュンヒ、フリッツ③176大2.C/
ミュンヒ、ヴィルヘルム①202大7.B/①209大8.B/
Miller④383大15.D/
Miller, J.W.②83昭14.B/
Miller,L.M.④287大5.B/
ミラー、マクス → ミューラー、マ(ッ)クス
ミラー①89明32.A/
ミラー①250大13.F/
Miller,W.③129明37.C/
ミリガン、ジョウジ(Milligan, G.)①279昭2.D//②257昭2.D//
③195大4.G//④251大2.D/
④397昭2.D/④448昭6.D/
④755[昭11]/
ミリタイヤヂース(ミルチアデ井ース、彌リタヤデース、ミルチアデ(ー)ス、ミリチヤデ(ー)ス、ミルチヤデス、ミルティヤデス、ミルテアデス、ミルティアデス)①70明26.C/①83明30.C//
②171明19.D/②206明31.C/
②241大5.F/②242大6.F//
③30明21.B/③41明23.C/
③50明25.C/③102明33.C//
④103明27.C/④210明43.C/
④502昭10.A/
ミリタスノシャーリーズ→［ミレタスの］ターレス?
彌リタヤデース → ミリタイヤヂース
ミリチヤデ(ー)ス → ミリタイヤヂース
Miline,J.G.④491昭9.C/
ミリンタ王(ミリンダ、メアンデル)①125明39.B//
②72昭13.B/②170明19.B/
②211明33.G/②229明42.B//

③257昭6.A/
ミリンダ → ミリンタ王
みる → ミル, J.S.
ミル,J.S.(みる、約翰・士低瓦的・彌留、彌兒、彌爾)［中村敬宇、西周、自由之理］①15明5.B/
①23明10.B/①24明10.E/
①43明20.B/①49明21.E/
①138明41.B/①229大11.B/
①275昭2.B/①301昭4.B/
①359昭8.B//②15昭10.B/
②48昭11.E/②157明10.B/
②166明18.A/②169明19.A/
②170明19.B/②170明19.C/
②190明25.B/②234明45.B/
②254大15.B/②256昭2.B//
③12明10.E/③20明16.D/
③25明19.A/③49明25.B/
③55明26.B//④28明5.B /
④32明10.A/④32明10.B/
④37明12.D/④45明15.B/
④49明15.E/④54明16.E/
④59明18.B/④62明19.A/
④86明24.B/④109明29.B/
④110明29.B/④255大3.B/
④300大6.B/④315大7.B/
④323大8.B/④360大13.C/
④364大14.B/④495昭9.D/
④530昭11.B/④588昭14.B/
④682[明11]/
Mills, L.③119明 36.B/
ミルチアデ(一)ス → ミリタイヤヂース
ミルチアデ井ース → ミリタイヤヂース
ミルチヤデス → ミリタイヤヂース
ミルテアデス→ ミリタイヤヂース
ミルティアデス→ ミリタイヤヂース
ミルティヤデス → ミリタイヤヂース
Miltner,F.④536昭11.C/
④537昭11.C/
Milton,J.(ミルトン、みるとん、彌兒頓、彌爾敦、彌耳敦)
④33明10.D/④60明18.D/
④70明20.D/④84明23.D/
④98明26.D/112明29.D/
④113明29.D/④117明30.D/
④129明33.D/④132明34.B/
④134明34.D/④136明35.B/
④140明35.D/④146明36.D/
④147明36.D/④155明37.D/
④156明37.D/④163明38.D/
④164明38.D/④165明38.D/
④172明39.D/④180明40.D/
④189明41.D/④219明44.C/
④277大4.B/④382大15.D/
④395昭2.D/④419昭4.D/
④433昭5.D/④435昭5.D/
④446昭6.D/④447昭6.D/
④478昭8.D/④495昭9.D/
④574昭13.D/④617昭15.D/
④693[明23]/④717[大6]/
④721[大10]/④723[大12]/
④727[昭1]/④730[昭2]/
④736[昭4]/④743[昭7]/
④745[昭8]/④748[昭9]/
④756[昭11]/④758[昭12]/
④761[昭13]/④769[昭16]/
Milhaud, G.②284昭9.B//
④487昭9.B/
Milne, J.G.③276昭9.C/
ミルレ④137明35.B/
ミルレル、オー②229明41.F/
Millet④380大15.C/
ミレー①366昭8.D/
ミレタスノターレス→ タ(一)レス
ミレタス派→ ミレートス學派

みれつとノたーれす→ タ(ー)
レス
ミレートス學派(ミレタス派)
③171大2.B//④158明38.B/
ミレル→ → ミューラー、マ
(ッ)クス
Mielert, H.③311昭15.D/
ミロ(クロトナの)④106明28.B/
ミロ、ヴェニス・ド④308大6.D/
ミロー、ガストン③211大8.F/
ミロの井ーナス→ ウェナス神
ミロン②216明35.D//
④176明40.B/
ミンキネン④208明43.C/
ミントー①71明26.D/
ムーア①89明32.A/
Moore,A.W.④227大1.B/
Moore,C.H. ④612昭15.C/
ムーア、ジ・エフ③242昭3.B/
ムーア(More, P.E.)①230大11.B/
①239大12.B/①286昭3.B/
ムイアヘッド→ ミュ(エ)ール
ヘッド
Moog,W.③169明45.D/
ムクホポートヒャヤー
④103明27.C/
ムシウス④291大5.C/
ム(ッ)ソリーニ(ー)[ムソリニ]、
ベニト
②109昭16.C//④398昭2.E/
④409昭3.E/④421昭4.E/
④448昭6.E/④463昭7.E/
④498昭9.E/④499昭9.E/
④511昭10.C/④561昭12.E/
④616昭15.C/④632昭16.C/
④637昭16.E/④655昭18.A/
④733[昭3]/
ムッレー②228明41.D/
ムデ氏④31明9.A/
ムーディ(ムーデー)、ヂー・エ
ム④199明42.D/
④407昭3.D/
ムデタセンース④133明34.D/
ムーラ、マックス→ ミューラー、
マ(ッ)クス
ムーランエール、オ・ド・ム
③26明19.E//④66明19.E/
④689[明19]/
Mulger, Ch.②87昭14.D//
③592昭14.D/
ムーレル→ ミューラー, M.
Moulton, J.H.③195大4.G/
ムロル → ミューラー
ムンチンゲル①68明26.B//
③40明23.B/
Munzer, F.①291昭3.C/
①292昭3.C
メー → メイ
Mary③109明34.C/
メアンヅロス → メナンデル
メアンデル → ミリンタ王
メイ(メー、米伊、オルスキン)
①35明16.E/①72明26.E//
④48明15.E/
メイ、トーマス・アースキン
④47明46.C/
メイ(エ)エ、アントワーヌ
(Meille,A.)
①308昭4.D/①382昭9.D/
①383昭9.D//②136昭18.D/
Mager, Alois②58昭12.B//
③183大3.B/
Macan, R.M.③126明37.A/
Macan,R.W.④610昭15.C/
Masom, W.F.③82明30.C/
メイニヤン③129明37.D/
メイラン④475昭8.C/
メイリアス → マリウス
Meyrich,Sir S.R.③136明38.D/
メイ(ヰ)ン(メエーン、メーン、
緬氏、Maine,)、サー・
ヘンリー・サムナー
①36明17.E/①38明18.E/
①49明21.E/①67明25.E/

①109明36.E/①185大3.E/
①261大14.E/①271大15.E/
①272大15.E/①354昭7.E/
①385昭9.E/①386昭9.E//
②29昭10.E/②49昭11.E/
②139昭18.E/②145昭19.E/
②172明19.E/②177明21.E/
②178明22.A/②180明22.C/
②181明22.E/②182明23.A/
②189明24.E/②191明25.D/
②196明26.E/②209明32.E/
②211明33.E/②221明37.E//
③19明15.E/③24明18.E/
③25明19.B/③28明20.D/
③29明20.E/③33明21.E/
③34明22.A/③39明23.A/
③91明31.E/③125明36.E//
④44明14.E/④57明17.E/
④58明17.E/④61明18.E/
④74明21.C/④85明23.E/
④138明35.B/④148明36.E/
④181明40.E/④448昭6.E/
④686昭23.E/
メエツゲル、エドムウンド(→ Megger, E.?)
③214大10.A/
メエ(ー)テルリンク、モーリス
①166大2.C/①217大9.C//
④137明35.B/④144明36.B/
④236明45.D/④251大2.D/
メエ(ー)ビウス、P.①162大2.B//
④244大2.B/④247大2.B/
④262大3.B/
メエーン → メイ(ヰ)ン
メガステネ(ー)ス②216明35.D/
②230明42.C//③151明42.C//
④143明36.B/
メガラ(學)派(メガリック教)
②81昭14.B/②158明13.B/
②162明16.B/②194明26.B/
②200明28.B/②220明37.B//
③222大12.B/③308昭15.B/
メガリック教 → メガラ派
Meeg,W.④237大1.D/
Mekler④118明31.B/
メクリ①89明32.A/
メー(イ)シー①293昭3.D//
②99昭15.D/②100昭15.D/
メシア → 耶蘇
メシャローヤ、ヴィットーリオ
①385昭9.E//④499昭9.E/
メーストル、ジョセフ・ド
③24明18.E/
Mesote②38昭11.B/
メーソン②21昭10.C/
メタクサ伯爵夫人④322大8.A/
メーチェン①363昭8.C/
メヂチ家②209大8.A//
④361大13.C/④749[昭9]/
メチニコフ②224明 39.B/
②226明40.B//④276大4.B/
④722[大正]/
Megger, E.③214大10.A/
Mekler③87明31.B//
④118明31.B/
メツゲル④537昭11.D/
メッケル參謀少佐②85昭14.C/
メッサリナ④326大8.C/
Messer, A.②57昭12.B//
③182大3.B/
メッシ(ー)ナ、ジョゼッペ
①337昭6.D//④446昭6.D/
メッセル、アウグスト
④373大15.A/
Mette,H.J.④506昭10.B/
メディア → イウリピデ(ー)ス
Medieus,Fr.④273大4.B/
メディオクレタス、アウレリア
④530昭11.B/
メテラス④92明25.C/
メデヰヤ(ア)(MEDEA) → イウリピデ(ー)ス
メドハースト(Medhurst)

①9[134]//③3[17491]/
③3[17493]/③246昭3.G//
④25[24980]/
メトリイ①326昭6.B/
メドレー、A.②237大2.G/
メトロドーロス④114明30.B/
メナンデル → メナンデル
メナンドル → メナンデル
メナンドロス → メナンデル
メナンデル(メナンドロス、メナンドル、メナンダ(ー)、メナンデル、メアンヅロス、Menand, Menander)①5[19]/
①66明25.D/②192明25.D/
②211明33.G/②216明35.D/
②220明37.D/②229明42.B//
③72明29.B/③129明37.D/
③203大6.C/③305昭14.D//
④110明29.B/④268大3.D/
④270大4.A/④531昭11.B/
④698[明30]/
メーナンドロス王①114明37.C/
メニケウス④400昭3.B/
メニース①87明31.C/
メニッポス②135昭18.D/
メネキ(ク)セノス①104明36.B/
①244大13.B//②118昭17.B/
メ子ニコス④58明17.E/
めねらうす④269大3.F/
④578昭13.F/
メ子リウス④43明14.C/
メ子レラウス④83明23.C/
メノ(ー)ン(Meno)①104明36.B/
①124明39.B/①243大13.B/
①254大14.B/①345昭7.B/
①358昭8.B/①359昭8.B//
②40昭11.B/②53昭12.B/
②54昭12.B/②108昭16.B/
②118昭17.B/②130昭18.B/
②256昭2.B/③262昭7.A/
③270昭8.B/③307昭15.A/
③312昭16.A/③318昭17.A//
④451昭7.A/④451昭7.B/
④470昭8.B/④642昭17.A/
④600昭15.A/
メービー、エッチ・シー
④261大3.B/
メフィスト→ メフィストフェレス
メフィストフェレス
③140明39.D/③290昭12.B//
④348大11.D/④541昭11.D/
メモラビア → キセノフォーン
メモラビリヤ → キセノフォーン
Merin,D.G.④472昭8.C/
メランクソン→ メランヒトン
Mélanges③295昭13.B//
④567昭13.B/
メランヒトン(メランクソン)
③257昭6.B//④76明21.B/
Mehlis,G.②247大11.A//
③172大2.B//④343大11.A/
メーリック②207明32.A/
Mehlhorn,P.④234大1.B/
④237大1.D/
メレヂス → メリ(レ)ディス
メリアム④103明27.D/
メリ(レ)ディス(メレヂス、Meredith)、ヂォー ヂ(ジョージ)
①241大12.D/①248大13.D/
①259大14.D//②23昭10.D/
②63昭12.D//③140明39.D/
③152明42.D/③171大2.B/
③208大7.D/③255昭5.D//
④191明42.D/④239大2.A/
④242大2.B/④281大4.D/
④296大5.D/④307大6.D/
④434昭5.D/④495昭9.D/
④517昭10.D/
メリトス④401昭3.B/

Merrimann, F.V.③190大4.B/
メリメ①244大13.B/
①293昭3.D//②44昭11.D/
②74昭13.D/
メーリング(ク)、フランツ
①287昭3.B/①309昭4.D/
①313昭5.B/①335昭6.D//
②16昭10.B/②262昭4.D/
②263昭4.D/②269昭6.B//
④460昭7.D/
メレジコウ(フ)スキー(メレシュコフスキー、メレヂユコフスキイ、メレジュコフスキイ、メレジコウスキ、メレジコフスキイ(ー)、メレジコ(ー)フスキイ、メレヂユコフスシキー、メレヂユコフスキー、メレヂユコフスキイ、ドミトルリイ)[神々の死]
①145明43.A/
①147明43.C/①190大4.C/
①295昭3.D//②238大4.C/
②247大11.A//③156明43.C/
③178大2.D/③203大6.C/
③210大8.C//④139明35.C/
④171明39.C/④197明42.C/
④203明43.B/④208明43.C/
④209明43.C/④210明43.C/
④219明44.C/④220明44.C/
④221明44.C/④346大11.C/
④392昭2.C/④554昭12.C/
④571昭13.C/④668昭19.D/
④721[大10]/④777[昭19]/
メレジコウスキイ→ メレジコウ(フ)スキー
メレジコフスキイ(ー) → メレジコウ(フ)スキー
メレジコ(ー)フスキイ→ メレジコウ(フ)スキー
メレシュコフスキー → メレジコウ(フ)スキー
メレジュコウスキイ → メレジコウ(フ)スキー
メレヂユコウフスキイ → メレジコウ(フ)スキー
メレヂユコフスシキー→ メレジコウ(フ)スキー
メレヂユコフスキー→ メレジコウ(フ)スキー
メレヂユコフスキイ→ メレジコウ(フ)スキー
メレル③233大15.B/
メール④412昭4.A/④416昭4.B/
メルキュリー → マキリース神
メルキュール→ マキリース神
Merchel,C.④520昭10.F/
メルロー③30明21.B/
メレス(リデア王)③252昭5.A/
メロス④608昭15.C/
メロヴィンガー(朝)
④573昭13.C/④591昭14.C/
メーン → メイ(ヰ)ン
メンガー①238大12.B/
Mengel, E.②282昭9.B/
Mengel,W.④486昭9.B/
メンジース、アラ(ー)ン
②213明34.B//④181明40.E/
④130明34.B/
Mönch, W.②39昭11.B/
メンツェル(Menzel, Adolf、アドルフ)
②145昭19.E//④596昭14.E/
メンデルスゾーン、モーゼス
③209大8.B/③212大9.B/
メンフォルト③24明18.E/
モア、C.H.②269昭6.B/
モーア教授④152明37.B/
モ(ー)ア、ト(ー)マス
①93明33.B/①95明33.E/
①219大9.E//④48明15.E/

④53明16.E/④104明27.E/
④148明36.E/④479昭8.E/
④499昭9.E/④559昭12.D/
④563昭12.E/④620昭15.E/
④691[明20]/④696[明27]/
④712[大2]/④735[昭4]/
④746[昭8]/④748[昭9]/
④750[昭9]/
モアイナス②238大3.D/
Mau, A.③178大2.D/
Moyer④393昭2.C/
モウクレル、カミーユ
④808[昭18]/
孟子①63明25.B//②203明29.E//
③78明29.E//④701[明35]/
孟嘗君①97明34.C/
モウセ(モーゼ)①103明35.E/
①270大15.D//④80明23.B/
④113明29.B/
モウパッサン(モーパッサン)、ギイ・ド
①161大2.A/①205大7.D//
②24昭10.D/②74昭13.D/
②111昭16.D//④239大2.A/
モウルド(ト)ン、リチャード・グリーン
①382昭9.D//④742[昭7]/
モエービウス③136明38.F/
Morgan, G.A.③275昭9.B/
モオリアック④678[昭和]/
モーキイ④55明17.C/
モーク、W.(キリ)①266大15.B/
④378大15.B/④743[昭7]/
Moog,W.④237大1.D/
モークレール、カミイユ
①198大6.D//③204大6.D/
③205大6.D/
Moser, S.②17昭10.B/
Mosca, G.②66昭12.E/
②77昭13.E/
もすこぷらす④578昭13.F/
モスニー、イー③86明30.F/
モーゼ → モウセ
モーゼス→ モウセ
モットー、アグネス④424昭5.A/
モッファト(Moffatt,F.)
①317昭5.C//④370大14.C/
Morton(Latin)④299大6.A/
④311大7.A/④523昭11.A/
④546昭12.A
モニカ(モ子カ)[偉人の母、オーガスチンの母、偉人の母」
①40明19.B/①47明21.B/
①94明33.B//②202明29.C//
②273昭7.B//③39明23.B/
③44明24.B/③92明32.B/
③150明42.B/③156明43.B/
③159明44.B/③163明45.B/
③195大5.B/③238昭2.B/
③243昭3.B/③252昭5.B/
③327明[不明]B/
③328昭[不明]B//
④80明23.B/④111明29.B/
④128明33.B/④159明38.B/
④160明38.D/④179明40.C/
④184明41.B/④186明41.B/
④225明45.B/④241大2.B/
④243大2.B/④255大3.B/
④301大6.B/④304大6.B/
④315大7.B/④325大8.B/
④351大12.B/④358大13.B/
④365大14.B/④378大15.B/
④388昭2.B/④390昭2.B/
④392昭2.C/④413昭4.B/
④505昭10.B/④526昭11.B/
④567昭13.B/④645昭17.B/
④712[大2]/④737[昭5]/
Monod, V.③280昭10.B/
モーパッサン → モウパッサン
Mommsen,A.④609昭15.C/
モムゼン(モンムゼン)、テ(セ)オドル(ア)(テオドール、Mommsen, Th.)

①94明33.C/①107明36.C/
①115明37.C/①121明38.C/
①165大2.C/①313昭5.A/
①347昭7.C//②26昭10.D/
②85昭14.C/②89昭14.E/
②98昭15.C/②110昭16.C/
②135昭18.C/②143昭19.C/
②159昭13.E/②171明19.C/
②211明33.D/②216明35.C/
②218明36.C/②222明38.C//
③40明23.B/③45明24.C/
③51明25.C/③62明27.D/
③74明29.C/③94明32.C/
③103明33.C/③110明34.E/
③122明36.C/③123明36.C/
③128明37.C/③129明37.C/
③133明38.C/③134明38.C/
③249昭4.C/③327昭20.C//
④74明21.C/④97明26.C/
④138明35.B/④146明36.C/
④154明37.C/④156明37.D/
④214明44.B/④248大2.C/
④279大4.C/④293大5.C/
④306大6.C/④377大15.B/
④529昭11.B/④573昭13.C/
④574昭13.C/④616昭15.C/
④765[昭15]/④778[昭19]/
モ子カ → モニカ
モラタ、ヲリンピア①49明21.D/
①52明22.D/
モラッキス④143明36.B/
モーリ(、デー・エ(一))
③32明21.D/④170明39.C/
④171明39.D/
モオリアック④759[昭12]/
モリエエ(一)ル②192明25.D//
④713[大3]/④763[昭14]/
Morris, C.R.②16昭10.B/
モリス(W.ウ井リアム)
①218大9.D/①281昭2.D//
③77明29.D/③109明34.D/
③217大10.E//④155明37.D/
④398昭2.E/④409昭3.E/
④433昭5.D/④495昭9.D/
④497昭9.D/④696[明27]/
モーリス③161明44.C/
Maurice, F.②61昭12.C/
モーリス、ヘンリー
①114明37.C/①115明37.C//
②228明41.C/
モリソン(模禮松)④30明7.E/
モール④158明38.B/
④208明43.C/
モール夫人④92明25.C/
モール、ジ・エチ④548昭12.B/
モルガン、ジー・エッチ
④279大4.C/
モルガン、リュイス(L.)
①249大13.E/①322昭5.E/
①323昭5.E/①338昭6.E/
①353昭7.E//②180明22.C/
②233明44.C/②272昭6.E/
②285昭9.C//③211大8.E/
③219大11.C//④279大4.C/
④435昭5.E/
モルトビー④673[明治]/
④701[明35]/
モールトン(MOULTON)
④236明45.D/④802[昭10]/
モルナアル①351昭7.D/
Morey,C.R.④595昭14.D/
モルレー、ダウキット
①26明11.B//②157明11.B/
モル(一)レー(モーレー、モーレ)、ジョン
①70明26.C/①84明30.E //
②257昭2.D//③72明29.B//
④55明17.C/④172明39.D/
モーレ、ジョン→ モル(一)レー
モーレー、ジョン→ モル(一)レー
モロ、エー①298昭3.F/
モロオ④282大4.D/
Moreau, J.②96昭15.B/

Morrow, G.R.②19昭10.B//
③302昭14.B/③317昭16.E/
モロード・ジョンネー
④788[18-]/
モ(ー)ロワ(A.)、アンドレ
①337昭6.D//②24昭10.D//
④539昭11.D/④752[昭10]/
モングスレー①190大4.C/
モンクレテイアン①355昭7.E/
Montgomery, W.③190大4.B//
④276大4.B/
モンゼン → モムゼン
モンターグ①89明32.A/
モンティ、アントニオ
④649昭17.C/
モンテイニュー → モンテー(ィ)ン(ス)
モンテイヌ→ モンテー(ィ)ン(ス)
モンテェニュ→ モンテー(ィ)ン(ス)
モンテェーニュ→ モンテー(ィ)ン(ス)
もんてすきゆう → モンテスキュー
モンテスキウ → モンテスキュー
モンテスキュ(ー)(モンテスキウ、モンテスキュウ、もんてすきゆう、孟徳斯鳩、孟得斯鳩、孟的斯鳩、門的九、孟德咎、孟德斯咎、孟的鳩)[何禮之、鈴木唯一、土居言太郎、大岩誠、律例精義、萬法精理、法の精神]
①18明8.A/
①19明8.E/①20明9.B/
①21明9.B/①22明9.E/
①26明11.B/①27明11.E/
①30明13.E/①33明15.E/
①34明15.E/①34明16.C/
①35明16.E/①48明21.E/
①58明23.E/①61明24.C/
①62明24.E/①65明25.C/
①67明25.E/①81明29.E/
①83明30.C/①84明30.E/
①109明36.E/①122明38.E/
①206大7.E/①212大8.E/
①311昭4.E/①322昭5.E/
①364昭8.C//②28昭10.E/
②29昭10.E/②48昭11.E/
②49昭11.E/②64昭12.E/
②66昭12.E/②75昭13.E/
②101昭15.E/②108昭16.C/
②110昭16.C/②155明8.B/
②156明8.E/②158昭11.E/
②158昭12.C/②158昭12.E/
②159昭13.C/②160昭15.E/
②161明15.E/②163明16.E/
②171明19.E/②172明19.E/
②173明20.C/②177明21.E/
②189明24.E/②192明25.E/
②199明27.E/②201明28.E/
②203明29.D/②203明29.E/
②207明31.E/②214明34.D/
②221明37.E/②227明40.E/
②229明41.E/②233明44.E/
②239大4.B/②253大48.E/
②258昭2.E/②267昭5.E/
②280昭9.B//③5明8.A/
③6明8.E/③7明9.B/
③8明9.B/③9明9.E/
③10明9.E/③11明10.C/
③12明10.C/③12明10.E/
③13明11.C/③14明11.E/
③15明12.E/③16明12.E/
③16明13.C/③17明13.E/
③18明14.E/③19明15.E/
③20明16.D/③21明16.E/
③34明22.A/③38明22.E/
③46明24.D/③53明25.E/
③58明26.E/③64明27.E/
③65明28.B/③70明28.E/

③72明29.B/③78明29.E/
③80明30.B/③88明31.C/
③97明32.E/③98明32.E/
③131明38.E/③136明38.E/
③141明39.E/③164明45.B/
③187大3.E/③221大11.E/
③221大11.F/③251昭4.E/
③278昭9.D/③302昭14.B/
③325昭18.E//④31明8.E/
④32明10.A/④35明11.E/
④37明12.E/④44明14.E/
④53明16.E/④54明16.E/
④57明17.E/④59明18.B/
④63明19.B/④75明21.E/
④85明23.E/④89明24.D/
④95明26.B/④113明29.B/
④115明30.B/④121明31.E/
④141明36.A/④148明36.E/
④159明38.B/④174明40.A/
④228明45.B/④283大4.F/
④327大8.E/④349大11.E/
④356大13.A/④365大14.B/
④398昭2.E/④423昭4.E/
④436昭5.E/④470昭8.B/
④479昭8.E/④495昭9.D/
④514昭10.C/④542昭11.E/
④543昭11.E/④562昭12.E/
④600昭15.A/④638昭16.E/
④639昭16.E/④653昭17.E/
④669昭19.E/④684昭23.C/
④620昭15.E/
モンテスキュウ→ モンテスキュー
モンテーニウ→ モンテー(ィ)ン(ス)
モンテーニュ → モンテー(ィ)ン(ス)
モンテーヌ → モンテー(ィ)ン(ス)
モンテーユ → モンテー(ィ)ン(ス)
モンテリウス(モンテリュース)
①349昭7.C//②133昭18.C//
③271昭8.C/③272昭8.C//
④456昭7.C/④459昭7.C/
④590昭14.C/
モンテリュース→ モンテリウス
モンテー(ィ)ン(ス)(モンテーユ、モンテーヌ、モンテーニュ、モンテイニュー、モンテーニウ、モンテイヌ、モンテェニュ、モンテェーニュ、Montaigne)
①83明30.C/①84明30.C/
①119明38.B/①179大4.B/
①260大14.D/①266大15.B/
①274昭2.B/①275昭2.B/
①286昭3.B/①288昭3.B/
①305昭4.B/①324昭5.F/
①339昭6.E/①361昭8.B/
①373昭9.B/①376昭9.B//
②16昭10.B/②26昭10.D/
②34昭11.B/②37昭11.B/
②46昭11.D/②54昭12.B/
②56昭12.B/②80昭14.B/
②82昭14.B/②83昭14.B/
②107昭16.B/②141昭19.B/
②142昭19.B/②185明23.D/
②230明42.F/②263昭4.D/
②277昭8.B//③30明21.B/
③34明22.A/③35明22.B/
③47明24.E/③60明27.B/
③65明28.B/③80明30.B/
③154明43.B/③164明45.B/
③174大2.B/③180大3.B/
③209大8.B/③244昭3.B/
③303昭14.B/③314昭16.B/
③315昭16.B/③320昭17.B//
④87明24.B/④143明36.B/
④144明36.B/④205明43.B/
④207明43.B/④228明45.B/
④285大5.A/④323大8.B/

④371大14.D/④400昭3.B/
④420昭3.B/④421昭4.D/
④469昭8.B/④479昭9.D/
④484昭9.B/④486昭9.B/
④488昭9.B/④497昭9.D/
④498昭9.D/④504昭10.B/
④507昭10.B/④509昭10.B/
④511昭10.B/④519昭10.E/
④523昭11.A/④525昭11.B/
④529昭11.B/④531昭11.B/
④532昭11.B/④552昭12.B/
④553昭12.B/④570昭13.B/
④585昭14.B/④587昭14.B/
④588昭14.B/④603昭15.B/
④630昭16.B/④637昭16.D/
④645昭17.B/④657昭18.B/
④669昭20.B/④670[明治]/
④730[昭2]/④749[昭9]/
④763[昭14]/④772[昭17]/
④778[昭19]/
モントラゴーネ、ヴェネーレ・デイ④594昭14,.D/
モンムゼン→ モムゼン
モンロー博士④204明43.B/
モンロー、パウル(Monroe, P.)①146明43.B/①155明45.B//③170明45.G/③247昭4.A/③293昭13.A//④524昭11.A/④564昭13.A/
[N]N.N.④429昭5.B/
Nicene Fathers④612昭15.C/
Neidemeier,H.④562昭12.E/
ナウクラテス④360大13.C/
ナウシケア①62明24.D/
ナケーキ②161明15.E/
ザレの聖者→ 耶蘇
ナシカ③7明8.F/
ナータン(賢者)②262昭4.D//④720[大9]/
ナチス④768[昭15]/
ナッタル、オースチン(Nuttall, P.Austin.)①39明18.G//②177明21.G//④66明19.G/
ナトループ → ナトルプ
ナトルプ(Natorp, P.パウル、ポール)①69明26.B/①229大11.B/①236大12.B/①246大13.B/①276昭2.B/①288昭3.B/①314昭5.B/①325昭6.A/①346昭7.B/①359昭8.B/①361昭8.B/①369昭8.E/①377昭9.B//②15昭10.B/②56昭12.B/②120昭17.B//③60明27.B/③93明32.B/③100明33.B/③119明36.B/③172大2.B/③182大3.B/③226大13.B/③230大14.B/④300大6.B/④366大14.B/④369大14.C/④428昭5.B/④440昭6.B/④530昭11.B/④569昭13.B/④629昭16.B/④749[昭9]/
Nacharistotelische Philosophie → アリストテレ(ー)ス後哲學
Nachsokratiker → ソクラテス後哲學者
なぽれおん→ナポレオン
ナポレオン(拿勃翁、拿破列翁、那翁第一世、那波烈翁、那波列翁、奈翁、那翁、佛郎王、拿破、拿破崙、拿破崙第一世、なぽれおん, 樸把尓的,勃納爾的[ボナパルト])①102明35.C/①268大15.C/①333昭6.C/①364昭8.C//②121昭17.C/②122昭17.C/②123昭17.C/②204明30.D/②207明32.A/②213明34.C/②237大3.A//③46明24.D/③98明32.G/③226大13.C/③241昭2.D/③242昭2.F/

③287昭11.D//④25[24986,
24988]/④26[24996]/
④26[25004]/④28明5.C /
④59明19.C/④115明30.B/
④340大10.C/④369大14.C/
④381大15.C/④443昭6.C/
④518昭10.D/
④672[弘化,嘉永]/
④673[安政]/④676[明6]/
④682[明12]/④683[明13]/
④684[明14]/④686[明18]/
④690[明20]/④691[明21]/
④693[明24]/④697[明27]/
④699[明32]/④701[明34]/
④701[明35]/④705[明39]/
④706[明40]/④707[明41,42]/
④709[明43]/④710[明44]/
④711[大1]/④712[大2]/
④714[大3]/④715[大4]/
④717[大5]/④718[大6,7]/
④719[大8]/④720[大9,10]/
④723[大12]/④724[大13]/
④728[昭1]/④735[昭4]/
④740[昭6]/④749[昭9]/
④755[昭11]/④758[昭12]/
④763[昭14]/④768[昭15]/
④770[昭16]/④773[昭17]/
④774[昭18]/④775[昭18]/
④777[昭19]/④795[19-]/
ナポレオン三世①84明30.D/
①203大7.C/①204大7.C//
②173明20.C//④318大7.C/
④443昭6.C/
ナルキスソス(水仙)
③263昭7.B/
ナルセス②246大10.B/
②247大11.B/
ナヴィード②165明17.C/
ナヲミ、イーストレーキ
④541昭11.D/
南懐仁→フルビースト
ニイツチエ → ニツシエ
Nieboer,H.J.④418昭4.C/
ニウドソン、エー・シー
④391昭2.B/
ニウトン④58明18.B/
ニウニカ②236大2.B
Niokedes③162明44.D/
ニオプラト學派 → 新プラトーン派
ニオ(ー)ベ①80明29.D//
②234明45.B/③152明42.D/
③199大5.D/③310昭15.D
Nikas③219大11.C/
ニカノル④130明34.B/
④695[明26]/
ニグレン(Nygren, A.)
②54昭12.B//③289昭12.B//
④509昭10.B/④584昭14.B/
ニケ(勝利神)③152明42.D/
③297昭13.D/③322昭17.D/
③326昭19.D/
ニコマケーア → アリストートル
ニコマケイア → アリストートル
ニコマコス → アリストートル
にこまつく→アリストートル
ニコメデス(にこめです､アレキサンドリアの)
②168明18.F//④269大3/F/
にこめです→ ニコメデス
ニコライ(尼格頼)④34明11.C//
④66明19.E/④678[明9]/
ニコラウス④622昭15.E/
ニコラス④47明15.C/
Nicole, G.③169明45.D/
ニコル④723[大正]/
ニコル④236明45.C/
ニコル、ジョン①269大15.D/
ニコル、ロポルトソン
④132明34.C/
ニシアス③5明8.A/
Niese③82明30.C/③95明32.C/

Nissen,Th.④560昭12.D/
ニーチェ → ニツシエ
ニーチェ、エリザベ(ー)ト・フェルスター(テル)(E.F.)
②38昭11.B/②93昭15.B/
②236大2.B//④276大4.B/
④285大5.B/④291大5.B/
ニーチェアニズム(ニスムス)
①126明39.B//③112明35.B/
③138明39.B/
ニーチヱ → ニツシエ
ニーツェ→ ニツシエ
ニーツェズム→ ニツシエ
ニーッチェ→ ニツシエ
ニーッツェ→ ニツシエ
ニイチェ→ ニツシエ
ニイチェイ→ ニツシエ
ニイチヱ → ニツシエ
ニイツェ → ニツシエ
ニイッチェ→ ニツシエ
ニイッチェ → ニツシエ
ニエチェ → ニツシエ
Nithack-Stahn,W.④226大1.B/
ニチェ→ ニツシエ
ニーツ → ニツシエ
ニーツエ → ニツシエ
ニツシエ(ニーチェ、ニイチェ、ニーツエ、ニイッチェ、ニーツ、ニイツチエ、ニーツチェ、ニイチヱ、ニエチェ、ニーチヱ、ニイツェ、ニッチェ、ニッチエー、ニイッチェ、ニーツェ、ニーッチェ、ニーッツェ、ニーツェズム、ニチェ、ニイチェ、Nietzsche,Fr.)、フリデヒ(フリイドリヒ、フリードリヒ)、E.F.[長與善郎、金子馬治、齋藤龍太郎、土井虎賀壽、ツアラツスツラ、ざらつすとら、ザラツストラ、ツアラツストラ、タウアラッストラ、ツァツストラ、ツアラツーストラ、ツアラトウストラ、ツアラトーストラツラツストラ、ツラツートラ]①70明26.B/
①74明27.B/①90明32.B/
①94明33.B/①95明34.A/
①96明34.B/①97明34.B/
①99明35.B/①100明35.B/
①101明35.B/①105明36.B/
①106明36.B/①111明37.B/
①112明37.B/①120明38.B/
①126明39.B/①127明39.B/
①130明40.B/①132明40.B/
①142明42.B/①147明43.B/
①151明44.B/①152明44.B/
①155明45.B/①157明45.B/
①162大2.B/①163大2.B/
①164大2.B/①167大2.D/
①169大3.B/①172大3.B/
①173大3.B/①174大3.B/
①177大3.D/①179大4.B/
①180大4.B/①181大4.B/
①183大3.D/①184大3.D/
①185大3.D/①187大4.B/
①188大4.B/①189大4.B/
①195大6.B/①196大6.B/
①202大7.B/①203大7.B/
①209大8.B/①210大8.B/
①215大9.B/①216大9.B/
①222大10.B/①223大10.B/
①225大10.D/①229大11.B/
①229大11.B/①236大12.B/
①238大12.B/①244大13.B/
①245大13.B/①253大14.B/
①255大14.B/①264大15.B/
①265大15.B/①266大15.B/
①269大15.D/①274昭2.B/
①275昭2.B/①286昭3.B/
①288昭3.B/①301昭4.B/

①305昭4.B/①307昭4.D/
①313昭5.B/①316昭5.B/
①330昭6.B/①333昭6.C/
①342昭7.B/①346昭7.B/
①359昭8.B/①361昭8.B/
①362昭8.B/①373昭9.A/
①374昭9.B/①376昭9.B/
①383昭9.D//②12昭10.B/
②15昭10.B/②16昭10.B/
②20昭10.B/②23昭10.D/
②24昭10.D/②25昭10.D/
②26昭10.D/②32昭11.A/
②34昭11.B/②36昭11.B/
②37昭11.B/②40昭11.B/
②44昭11.D/②46昭11.D/
②54昭12.B/②57昭12.B/
②59昭12.B/②63昭12.D/
②68昭13.A/②69昭13.B/
②70昭13.B/②71昭13.B/
②72昭13.B/②73昭13.C/
②80昭14.B/②81昭14.B/
②82昭14.B/②83昭14.B/
②85昭14.C/②93昭15.B/
②96昭15.B/②105昭16.B/
②107昭16.B/②108昭16.B/
②118昭17.B/②119昭17.B/
②120昭17.B/②121昭17.C/
②123昭17.C/②124昭17.D/
②125昭17.D/②131昭18.B/
②132昭18.B/②133昭18.B/
②136昭18.D/②137昭18.D/
②141昭19.B/②142昭19.B/
②214明34.D/②215明35.B/
②217明35.E/②217明36.B/
②218明36.B/②218明36.D/
②221明38.B/②222明38.B/
②224明39.A/②224明39.B/
②228明41.B/②230明42.F/
②231明43.B/②232明44.B/
②233明44.F/②234明45.B/
②236大2.B/②238大3.B/
②242大7.B/②243大8.B/
②244大9.B/②252大14.B/
②254大15.B/②263昭4.D/
②265昭5.B/②266昭5.B/
②270昭6.D/②277昭8.B/
②281昭9.B/②285昭9.D//
③50明25.C/③67明28.B/
③87明31.B/③88明31.B/
③101明33.B/③106明34.B/
③111明35.B/③112明35.B/
③113明35.B/③118明36.B/
③119明36.B/③126明37.B/
③127明37.B/③129明37.D/
③130明37.D/③132明38.B/
③134明38.C/③135明38.D/
③136明38.F/③138明39.B/
③139明39.B/③146明41.B/
③152明42.D/③154明43.A/
③155明43.B/③160明44.B/
③162明44.F/③164明45.B/
③165明45.B/③167明45.B/
③168明45.D/③171大2.B/
③174大2.B/③175大2.B/
③177大2.D/③179大3.A/
③180大3.B/③181大3.B/
③182大3.B/③183大3.B/
③184大3.B/③189大4.B/
③190大4.B/③191大4.B/
③192大4.B/③194大4.D/
③194大4.E/③195大5.B/
③196大5.B/ ③197大5.B/
③201大6.B/③202大6.B/
③205大7.B/③206大7.B/
③207大7.D/③209大8.B/
③211大9.B/③212大9.B/
③218大11.B/③222大12.B/
③225大13.B/③233大15.B/
③246昭4.A/③247昭4.B/
③252昭5.A/③258昭6.B/
③264昭7.B/③267昭7.E/
③270昭8.B/③274昭9.A/
③275昭9.B/③276昭9.B/
③280昭10.B/③281昭10.B/

③282昭10.D/③285昭11.B/
③288昭12.A/③290昭12.B/
③291昭12.D/③293昭13.A/
③294昭13.B/③298昭13.D/
③299昭13.D/③301昭14.B/
③302昭14.B/③305昭14.D/
③308昭15.B/③311昭15.D/
③314昭16.B/③320昭17.B/
③322昭17.D/③323昭18.B/
③323昭18.C/③325昭19.B//
④125明32.E/④128明33.B/
④131明34.B/④132明34.B/
④134明34.D/④135明35.B/
④136明35.B/④137明35.B/
④140明35.D/④142明36.B/
④143明36.B/④144明36.B/
④147明36.D/④148明36.D/
④150明37.B/④156明37.D/
④158明38.B/④159明38.B/
④160明38.B/④164明38.D/
④165明38.D/④167明39.B/
④168明39.B/④169明39.B/
④172明39.D/④176明40.B/
④177明40.B/④181明40.D/
④185明41.B/④186明41.B/
④187明41.B/④193明42.B/
④199明42.D/④204明43.B/
④205明43.B/④206明43.B/
④211明43.D/④212明43.D/
④215明44.B/④216明44.B/
④2217明44.B/④218明44.B/
④227明45.B/④228明45.B/
④229明45.B/④230明45.B/
④231明45.B/④232明45.B/
④233明45.B/④237明45.D/
④238明45.B/④238明45.E/
④241大2.B/④242大2.B/
④243大2.B/④244大2.B/
④245大2.B/④246大2.B/
④247大2.B/④248大2.B/
④251大2.D/④255大3.B/
④256大3.B/④257大3.B/
④258大3.B/④259大3.B/
④260大3.B/④261大3.B/
④262大3.B/④263大3.B/
④265大3.C/④267大3.D/
④269大3.E/④272大4.B/
④273大4.B/④274大4.B/
④275大4.B/④276大4.B/
④277大4.B/④278大4.B/
④279大4.C/④281大4.D/
④282大4.D/④283大4.E/
④284大5.A/④285大5.A/
④285大5.B/④286大5.B/
④287大5.B/④288大5.B/
④290大5.B/④291大5.B/
④293大5.C/④298大5.E/
④299大6.A/④300大6.B/
④301大6.B/④302大6.B/
④304大6.B/④305大6.B/
④306大6.C/④309大6.E/
④311大7.A/④312大7.B/
④313大7.B/④314大7.B/
④315大7.B/④316大7.B/
④319大7.D/④321大8.A/
④324大8.B/④325大8.B/
④326大8.C/④327大8.D/
④328大8.E/④331大9.B/
④332大9.B/④333大9.B/
④336大10.A/④337大10.B/
④338大10.B/④339大10.B/
④341大10.D/④342大10.D/
④343大11.A/④346大11.B/
④351大12.B/④352大12.B/
④353大12.C/④356大13.A/
④362大13.E/④364大14.A/
④364大14.B/④367大14.B/
④371大14.D/④377大15.B/
④378大15.B/④379大15.B/
④382大15.C/④391昭2.B/
④396昭2.D/④400昭3.B/
④402昭3.B/④403昭3.B/
④413昭4.B/④414昭4.B/
④415昭4.B/④420昭4.D/

④423大4.E/④425昭5.A/
④428昭5.B/④430昭5.B/
④435昭5.D/④438昭6.A/
④442昭6.B/④453昭7.B/
④454昭7.B/④455昭7.B/
④465昭8.A/④468昭8.B/
④469昭8.B/④483昭9.B/
④484昭9.B/④487昭9.B/
④489昭9.B/④495昭9.D/
④500昭9.E/④502昭10.A/
④506昭10.B/④508昭10.B/
④509昭10.B/④510昭10.B/
④511昭10.B/④517昭10.D/
④518昭10.D/④524昭11.A/
④524昭11.B/④526昭11.B/
④527昭11.B/④528昭11.B/
④529昭11.B/④530昭11.B/
④531昭11.B/④532昭11.B/
④538昭11.D/④540昭11.D/
④541昭11.D/④547昭12.A/
④550昭12.B/④551昭12.B/
④552昭12.B/④553昭12.B/
④560昭12.D/④568昭13.B/
④569昭13.B/④572昭13.C/
④577昭13.E/④580昭14.A/
④582昭14.A/④583昭14.B/
④585昭14.B/④586昭14.B/
④587昭14.B/④594昭14.D/
④597昭14.E/④601昭15.B/
④602昭15.B/④604昭15.B/
④605昭15.B/④606昭15.B/
④622昭15.E/④629昭16.B/
④631昭16.B/④633昭16.C/
④636昭16.D/④641昭17.A/
④642昭17.A/④644昭17.B/
④645昭17.B/④657昭18.B/
④658昭18.B/④665昭19.B/
④666昭19.B/④697[明29]/
④698[明31]/④699[明33]/
④700[明34]/④701[明34,35]/
④704[明39]/④710[明44]/
④711[明45]/④718[大7]/
④719[大8]/④721[大10]/
④722[大11]/④736[昭4]/
④738[昭5]/④740[昭6]/
④743[昭7]/④744[昭7]/
④750[昭9]/④751[昭10]/
④756[昭11]/④758[昭12]/
④769[昭16]/④772[昭17]/
ニーツチェ → ニツシエ
ニッチェ → ニツシエ
Nieber, H.J.①306昭4.C/
ニーブ(一)(ウ)ル(ニーボル、B.G.Niebur,Niebuhr史家)
①83明30.C//②185明23.D/
②226明 40.B/②273昭7.B//
③17明14.B/③21明17.B/
③36明22.C/③56明26.C/
③112明35.B/③265昭7.C/
③266昭7.C/③327昭20.C//
④73明21.C/④97明26.C/
④103明27.D/④109明29.A/
④156明37.D/④188明41.C/
④235明45.C/④265大3.C/
④270大4.A/④718[大7]/
④732[昭3]/④792[大7]/
④796[昭3]/
ニーボル → ニーブ(一)(ウ)ル
Newell,E.T.④674[大正]/
ニューサ②81昭14.B/
ニューソノアス④215明44.B/
④220明44.C/
ニュードソン④571昭13.B/
ニュートマ → ニューマ
Newton,Ch.④536昭11.C/
ニュートン(力學)①311昭4.F//
④104明27.F/④109明28.F/
④202明43.B/
ニュートン、リチャード
④82明23.C/
Newberry, J.S.②16昭10.B/
ニューベリー④392昭2.C/
ニューホルド①89明32.A/
ニュ(一)マ(ニュートマ)

①113明37.C/①115明37.C//
②206明31.C/②220明37.C//
④154明37.C/
ニューマン、カーディナル
①62明24.D/①313昭5.B/
②10昭10.A/②25昭10.D//
④207明43.B/④430昭5.B/
④453昭7.B/④483昭9.B/
④627昭16.B/
Newmann, C.③91明31.E/
③236大15.C/
ニューマン、トーマス
④485昭9.B/
Neumann, K.J.③128明37.C/
Nilson, Martin P.(ニルソン)
①380昭9.C//②108昭16.B/
②143昭19.C/②256昭2.B//
③249昭4.C//④226大1.B/
④417昭4.C/④603昭15.B/
④609昭15.C/
ニレタス③30明21.B/
ニロ帝 → 子ロ
ニロー→ 子ロ
ニーロ(一)(暴帝) → 子ロ
ニロウ → 子ロ
ニンフ④168明39.B/
ヌアレ③35明22.B/
Nugent②153明4.G/
ヌ(一)マ(ソ・レ)②170明19.C/
②248大11.E//③45明24.C/
ヌマーヌス②144昭19.D/
ヌミデアス②208明32.C/
ネオ・プラト→ 新プラトン學派
ネオ・プラトン→ 新プラトン學派
Neuplatonismus → 新プラトン學派
Neoplatonism→ 新プラトン學派
ネストリウス派①331昭6.B/
ネストル③289昭12.B/
Nesslhawf,H.④573昭13.C/
Nestle, W.①274昭2.A//
②25昭10.D/②97昭15.B//
③166明45.B/③223大12.B/
③300昭13.F/③326昭19.B/
ネッフ、カール②125昭17.D/
Nettleship, R.L.②19昭10.B/
尼プチュン(子プチューン)
②176明18.D/②239大4.B//
③51明25.D/
子プチューン → 尼プチュン
ネプトイン(ネプトニュス)
④26[24997]/
ネプトニュス→ ネプトイ
Nebel, G.②38昭11.B/
子ーポー①21明9.C/
Nepos③288昭12.A/④311大7.A/
④547昭12.A/
ネラーティウス④797[昭3]/
ネレイズ②230明42.B/
ネレイダ②232明44.B/
ネルソン(子ルソン)
③162明44.G//④182明40.G/
Nerba④136明35.B/
ねろ → 子ロ
子ロ(ネロ(一)、ニロ、ニーロ(一)、ニロウ、ネーロー、ネロン、ニロー、子ロン、ねろ、尼羅、Nero Emperior皇帝)
①30明13.C/①60明24.C/
①61明24.C/①69明26.B/
①98明34.C/①121明38.C/
①217大9.C/①246大13.C/
①277昭2.C/①363昭8.C/
①379昭9.C//②157明11.B/
②160明15.E/②163明16.E/
②170明19.C/②186明24.A/
②194明26.B/②195明26.C/
②201明28.E/②202明29.C/
②206明31.C/②238大3.B/
②240大5.C/②242大7.B/
②246大10.B/②247大11.B/
②251大14.B//③15明12.E/
③50明25.C/③54明26.B/

③55明26.B/③56明26.C/
③98明33.A/③100明33.B/
③133明38.C/③147明41.B/
③156明43.C/③175大2.C/
③176大2.C/③184大3.C/
③205大7.B//④26[24997]/
④35明11.E/④37明12.E/
④39明13.B/④40明14.B/
④42明14.C/④46明15.B/
④50明16.B/④51明16.B/
④57明17.E/④64明19.C/
④69明20.C/④77明22.C/
④84明23.C/④88明24.C/
④95明26.B/④102明27.C/
④103明27.D/④112明29.C/
④136明35.B/④139明35.C/
④154明37.C/④158明38.B/
④171明39.C/④181明40.F/
④197明42.C/④208明43.C/
④215明44.B/④220明44.C/
④226明45.B/④257大3.B/
④266大3.C/④276大4.B/
④292大5.C/④316大7.B/
④326大8.C/④333大9.C/
④338大10.B/④360大13.C/
④379大15.C/④406昭3.C/
④456昭7.B/④470昭8.B/
④472昭8.C/④534昭11.C/
④537昭11.C/④547昭12.A/
④566昭13.A/④632昭16.C/
④713[大3]/
ネーロー→ 子ロ
ネロ(ー) → 子ロ
ネロン → 子ロ
子ロン → 子ロ
ネーヴィウス②285昭9.D/
Newell, E.T.③198大5.C//
④675[大正]/
ノア(諸亞)④30明7.B/
④752[昭10]/
ノアイユ④760[昭12]/
Noack③179大3.A/
Neudeck,G.④520昭10.F/
Neugebauer, H.②17昭10.B/
Neugebauer, K.A.②25昭10.D/
Neugebauer, O.②30昭10.F/
ノイヘウゼル③71明29.A/
Neumann③99明33.A/
Neumann,A.(ノイマン、アルノー)
④207明43.C/④209明43.C/
④235大45.C/④535昭11.C/
Neumann, C.③124明36.D/
Neumann, K.③108明34.C/
Neuwith,J.④237大1.D/
Newell,E.T.④716[大5]/
Nogara, Bartlomeo②60昭12.C/
Nostrand, J.G. van②77昭13.E//
③236大15.C/
ノスチック→ グノーシス派
Notizen④665昭19.B/
ノースロップ、バーゼー・ジ
④109明29.B/
ノースブルック卿④167明39.B/
ノートン①89明32.A
Nohl,M.④242大2.B/
ノル、ウゴリン①315昭5.B/
①328昭6.B//④469昭8.B/
ノルダウ、M.①172大3.B/
Nordin, R.③78明29.E/
Norden,E.④264大3.C/
④610昭15.C/
Norden,Gecke-Edd④615昭15.C/
ノルトン、シー・イー
①128明39.D//③105明34.B/
Norton,F.O.④370大14.C/
Norvin, Ed.W.②58昭12.B/
ノヴァ(ー)リス(ノワーリス、
Novalis)
①295昭3.D//②45昭11.D//
④237大1.D/④164明38.D/
ノンチンブルグ①116明37.D/
[O]ウラヌス②166明18.B/
エーヂップ王 → ソホフレス
エヂプス → ソホフレス

エヂポス → ソホフレス
Oickie, W.M.③224大12.F/
オイセビュース①127明39.C
Oedipus → ソホフレス
オイヂプース → ソホフレス
オイヂポス → ソホフレス
オイヂプス → ソフホレス
Oudius → オビッド
オイヂポス → ソフホレス
オイデイウス→ オビッド
オイデプス→ ソフホレス
オイデ(イ)ポス → ソホフレス
オイデエプス → ソホフレス
オイヘメロス①89明32.B/
王陽明①110明37.B/①131明40.B/
①343昭7.B//③65明28.B/
③155明43.B/③191大4.B/
③327明[不明]B//
④135明35.B/④203明43.B/
④204明43.B/④355大12.E/
④429昭5.B/④701[明35]/
オエヂポス → ソホフレス
オウィディウス → オビッド
オウィッド → オビッド
オヴ井ッド→ オビッド
王光①146明43.B/
王秋林④134明34.D/
王力①365昭8.D/
オエリクルニ③11明10.C/
オキスホルド、ウィリアム（維廉阿斯福）[沼間守一、久松義典、中村正直]
①28明12.C/①30明13.C/
オクタウス → オクタヴィア(ナス)
オクタビア→ オクタヴィア（ナス）
オクタビアヌス→ オクタヴィア(ナス)
オクタビュース → オクタヴィア（ナス）
オクタヴィア（ナス）(帝、オクティヴィアヌス、オクタビュース、オクタ井アナス、オクタヴィウス、オクタウス、オクタビア、オクタビアヌス、Octavianus)
②72昭13.C/②173明20.C/
②201明28.E/②202明29.C/
②218明36.C/②234明45.B//
③11明10.C/③131明38.B/
③139明39.C/③198大5.C//
④92明25.C/④220明44.C/
④339大10.B/④406昭3.C/
④717[大5]/
オクタ井アナス → オクタヴィア（ナス）
オクタヴィウス → オクタヴィア（ナス）
オクティヴィアヌス → オクタヴィア（ナス）
オクタ井アス④270大4.A/
オグデン(&リチャーズ)
④516昭10.D/
オクレス②223明 38.D/
オーケン → オイ(ッ)ケン
オザナム(護教家)④323大8.B/
オジシイ → ホーメル
オジッセウス → ホーメル
Ostia-Scari③304昭14.C/
Osiris④567昭13.B/
オストロゴルスキ(Ostrogorsky, G.)②122昭17.C//
④436昭5.E/
オストワルド校長④174明40.A/
オストワルド、ウィルヘルム
②237大3.B/
Osborn,E.B.③229大14.A/
オズボン①355昭7.F/
オスワルド①378昭9.C/
オスワルド、ドクトル(Oswald,W.)
②158昭12.F//④500昭9.F/
Othero④502昭10.A/

オヂセース → ホーメル
オヂソイ → ホーメル
オヂソイス→ ホーメル
オヂッセウス → ホーメル
Odyssee → ホーメル
オーヂパス→ ソホフレス
オヂュッセーア → ホーメル
Oxford Clarendon Press
③95明32.C/
オックス・ホールト(王)
③147明41.C/
Otte, H.③169明45.D/
オットレー、アル・エル
④248大2.C/④794[大13]/
Otteley,R.R.④281大4.D/
Otto, L.(オットー、ルゥドルフ)
②108昭16.C//④729[昭2]/
Otto,R.④236大1.C/
Otto,Walter F.①333昭6.C/
①349昭7.C//②40昭11.B/
②261昭4.A/②272昭7.A/
②283昭9.B//③265昭7.C//
④411昭4.A/④450昭7.A/
④574昭13.C/
オドラ(皇后)④37明12.E/
オデイセー → ホーメル
オデイッセー → ホーメル
オデシー → ホーメル
オデシイ → ホーメル
オデセイ → ホーメル
オデソイイ→ ホーメル
オデッサイヤ(Odysseus) → ホーメル
オデッシイ → ホーメル
オデッセ(ー) → ホーメル
オデッセイ → ホーメル
Odyssee → ホーメル
オデッセウス → ホーメル
おでゅすせいあ → ホーメル
オデュセイ→ ホーメル
オデュツセイ → ホーメル
おでゆつせいあ→ ホーメル
オドユツセイ → ホーメル
オニダス王 → レオニダス王
O'Neil,G.V. ④273大4.B/
オネシモ④220明44.C/
④392昭2.C/
オノコロ島④728[昭1]/
オノリアス → オノリウス帝
オノリウス帝(オノリアス)
②161明15.E//③111明35.B/
Oppermann②43昭11.C/
Overmanns②251大14.A/
オビド→ オビッド
オビッド(オウィディウス、オヴ井(ッ)ド、オウィッド、オ(ー)ヴィッド、オヴィジウス、ヲピド、オヴィデイウス、オヒデイュス、オイデイウス、オヴ井ッド、オービッド、オビド、Oudius,Ovidius)
①5[19]/
①48明21.D/①56明23.D/
①61明24.D/①66明25.D/
①80明29.D/①161大2.A/
①214大9.A/①357昭8.A/
①372昭9.A//②156明8.D/
②159明14.F/②223明38.D/
②241大6.B//③32明21.D/
③36明22.D/③37明22.D/
③41明23.D/③60明27.B/
③200大5.D/③268昭8.A/
③286昭11.C/③315昭16.B//
④23[24944]/④26[24997]/
④100明27.B/④161明38.B/
④163明38.D/④466昭8.A/
④523昭11.A/
オービッド→ オビッド
オヒデイュス→ オビッド
オーフィウス→ オルフォイス
オフェラス④161明38.C/
オブザーバー紙(倫敦)

②21昭10.C/
Oman, Ch.③114明35.C/
③121明36.C/
オメール → ホーメル
オラス②196明26.E/
オリエンチス神父④101明27.B/
④106明28.B/④115明30.B/
④119明31.B/
オリオン④602昭15.B/
オリゲネ(子)ス(オリゲネース、オリゲ子ース、オリゲン、オリゼヌ、オリゼネス、オリゼン、Origen、Origenes、居利爾]
①246大13.B//②56昭12.B
②131昭18.B//④45明15.B/
④107明28.B/④109明28.E/
④110明29.B/④168明39.B/
④207明43.B/④209明43.C/
④242大2.B/④303大6.B/
④323大8.B/④325大8.B/
④346大11.B/④351大12.B/
④352大12.B/④356大13.A/
④362大13.E/④367大14.B/
④538昭11.D/④568昭13.B/
オリゲネース→ オリゲネ(子)ス
オリゲ子ース→ オリゲネ(子)ス
オリゲン→ オリゲネ(子)ス
オリゼネス→ オリゲネ(子)ス
オリゼヌ→ オリゲネ(子)ス
オリゼン→ オリゲネ(子)ス
オリフィアス → オルフォイス
Olympidor → Olymmpiodorus
Olymmpiodorus(Olympidor)
②58昭12.B//③302昭14.B/
オリムピヤス②200明28.B/
オリムポス(十二神、ギリシア(ヤ)、英雄希臘人の多神教、希臘神話、希臘傳說、ギリシア(ヤ)神話)
④135明35.B/④143明36.B/
④197明42.B/④215明44.B/
④228明45.B/④238明45.D/
④241明45.B/④255大3.B/
④286大5.B/④290大5.B/
④312大7.B/④319大7.D/
④322大8.B/④330大9.B/
④337大10.B/④375大15.B/
④388昭2.B/④413昭4.B/
④451昭7.B/④455昭7.B/
④570昭13.B/④609昭15.B/
④657昭18.B/④658昭18.B/
④673[明治]/④727[昭1]/
④729[昭2]/④737[昭5]/
④743[昭7]/④766[昭15]/
オリリアス④100明27.B/
オール、ゼームス④167明39.B/
④214明44.B/
Orr,M.A.④269大3.F/
オール、リンドン①182大3.C/
オルケアス④315大7.B/
オルコット③37明22.D/
オルチン宣教師④102明27.B/
オルトマンス,I.④723[大正期]/
オルテアー②169明19.B/
Oldfather,C.H.④611昭15.C/
Oldfather, William .Abbot
②99昭15.D//④767[昭15].
オルヒュース→ オルフォイス
オルフィアス→ オルフォイス
オルフィズム → オルフォイス
オルフュイス→ オルフォイス
オルフェウス → オルフォイス
オルフォイス(オルフェウス、オリフィアス、オルフィアス、オルヒュース、オーフィウス、オルフュイス、Orpheus)[オルフィズム]
①104明36.B/①106明36.B/
①108明36.D/①110明37.B/

①170大3.B/①171大3.B//
②18昭10.B/②47昭11.D/
②99昭15.D/②137昭18.D/
②234明45.B/②242大7.B//
③57明26.D/③123明36.D/
③139明39.D/③252昭5.B/
③264昭7.B/③294昭13.B/
③328昭22//④143明36.B/
④289大5.B/④367大14.B/
④40明14.B/④552昭12.B/
④95明26.B/④172明39.D/
オールブライト、エル・エス
④761[昭13]/
オルブレクト①59明24.B//
④88明24.C/
Olmstead, A.T.①211大8.C/
オレステイア(オレステス、Orestes)
①308昭4.D//②74昭13.D//
④147明36.D/④268大3.D/
オレステス→ オレステイア
Oresme, Nicols②57昭12.B/
オレーム①338昭6.E/
オ(ー)レル、マクス①124明39.A/
④187明41.C/④190明42.A/
④198明42.C/④384大15.D/
オレークー、コンラード・フォン
①164大2.B/
オレゼヌ④193明42.B/
オロイテス②259昭3.B/
Orosius④613昭15.C/
オヴィジウス → オビッド
オウィディウス → オビッド
オヴィデイウス → オビッド
オ(ー)ヴィッド → オビッド
Ovink, B.J.H.③270昭8.B//
④629昭16.B/
オーヴェルベック、ヨハンネス
③77明29.D/
Owen, J.③61明27.B/
オヴ井(ッ)ド → オビッド
オンケン(Onken)③92明32.A//
④393昭2.C/
ヲイジプース → ソホフレス
ヲジョノバロー②160昭15.E/
ヲデーセー → ホーメル
ヲピド → オビッド
[P]パアシイ④38明13.B/
パアセアス → ペルセウス
パアセフォォニ①216大9.B/
パアン神①130明40.B/
パイオン②255大15.F/
パイ[ピ?]サゴラス → ピタ(サ)ゴラス
パイシストラダス → ペイシストラタス
Païs,Ettore③198大5.C//
④716[大5]/
パイドラ → パンドラ
パイドロス → ファイドロス
パイドン → ファイドーン
パイペルズ③71明29.A/
パイロー → フィロン
Powell, J.E.②98昭15.C/
パウサニアス(Pausanias)
①332昭6.C//②242大7.B//
③236大15.C//④400昭3.A/
パウマン、ジュリアス
③172大2.B/
パウリ、エリザベット・フォン・シュミット④456昭7.C/
④472昭8.C/
Pauler, Akos von③239昭2.B/
Pauly-Wissowa(R.E.)
①283昭10.G//④520昭10.F/
④610昭15.C/
パウリュス→ パウロ
パウル①129明40.A//
②226明40.A/
パウル→ ベッカー、パウル
パウルゼ(ー)ン(Paulsen,Fr..)
①93明33.B/①106明36.B/
①112明37.B/①130明40.A/
①132明40.B/①135明41.A/

①137明41.B/①142明42.B/
①216大9.B//③70明29.A/
③126明37.B/③204大6.D//
④123明32.B/④127明33.B/
④137明35.B/④176明40.B/
④177明40.B/④193明42.B/
④194明42.B/④206明43.B/
④216明44.B/④229明45.B/
④230明45.B/④246大2.B/
④258大3.B/④259大3.B/
④414昭4.B/
パウルトン④514昭10.C/
パウルマイフ①150明44.A/
パウロ（ポーロ、パウリュス、パエル、パワェル、保羅、Paul、Paulus)
①31明14.C/
①76明28.C/①83明30.C/
①102明35.C/①138明41.B/
①182大4.C/①195大6.B/
①197大6.C/①211大8.C/
①240大12.C/①243大13.A/
①256大14.C/①257大14./
①268大15.C/①274昭2.A/
①277昭2.C/①278昭2.C/
①290昭3.C/①293昭3.C/
①312昭5.A/①317昭5.C/
①318昭5.C/①325昭6.A/
①363昭8.C/①375昭9.B//
②16昭10.B/②19昭10.B/
②20昭10.C/②34昭11.B/
②37昭11.B/②41昭11.C/
②84昭14.C/②222明38.C/
②259昭3.B/②260昭3.C/
②269昭6.C/②272昭7.A//
③44明24.B/③88明31.C/
③107明34.C/③113明35.C/
③115明35.C/③128明37.C/
③129明37.D/③131明38.B/
③146明41.B/③151明42.C/
③156明43.C/③157明43.C/
③167明45.C/③173大2.B/
③174大2.B/③175大2.C/
③180大3.B/③192大4.C/
③198大5.C/③202大6.B/
③203大6.C/③206大7.C/
③219大11.C/③223大12.C/
③233大15.B/③235大15.B/
③235大15.C/③244昭3.C/
③246昭4.A/③252昭5.A/
③257昭6.A/③284昭11.A/
③288昭12.A/③301昭14.A/
④26[24997]/④34明11.C/
④53明16.D/④56明17.D/
④68明20.C/④69明20.C/
④83明23.C/④84明23.D/
④86明24.B/④92明25.C/
④93明25.D/④108明28.C/
④110明29.B/④116明30.C/
④124明32.C/④136明35.B/
④138明35.C/④139明35.C/
④153明37.C/④161明38.C/
④162明38.C/④175明40.B/
④179明40.C/④183明41.B/
④188明41.D/④197明42.C/
④207明43.B/④219明44.C/
④221明44.C/④221明44.D/
④227明45.B/④236明45.D/
④240大2.A/④243明45.B/
④248大2.C/④249大2.C/
④251大2.D/④264大3.C/
④265大3.C/④273大4.B/
④281大4.D/④291大5.C/
④296大5.D/④305大6.C/
④306大6.C/④313大7.B/
④315大7.B/④325大8.B/
④326大8.C/④333大9.C/
④338大10.B/④339大10.C/
④341大10.C/④347大11.C/
④352大12.C/④353大12.C/
④357大13.B/④359大13.B/
④360大13.B/④360大13.C/
④361大13.C/④366大14.B/
④367大14.B/④368大14.C/

④379大15.C/④380大15.C/
④382大15.C/④389昭2.B/
④390昭2.B/④392昭2.C/
④394昭2.C/④400昭3.B/
④404昭3.B/④405昭3.C/
④407昭3.C/④412昭4.A/
④416昭4.C/④417昭4.C/
④422昭4.E/④427昭5.B/
④430昭5.C/④439昭6.B/
④456昭7.C/④457昭7.C/
④458昭7.C/④467昭8.B/
④470昭8.B/④471昭8.B/
④471昭8.C/④477昭8.D/
④483昭9.B/④486昭9.B/
④489昭9.B/④493昭9.C/
④494昭9.C/④504昭10.B/
④505昭10.B/④507昭10.B/
④508昭10.B/④511昭10.B/
④512昭10.C/④515昭10.C/
④524昭11.A/④525昭11.B/
④526昭11.B/④532昭11.B/
④533昭11.C/④534昭11.C/
④537昭11.C/④538昭11.D/
④544昭11.F/④547昭12.A/
④548昭12.B/④549昭12.B/
④551昭12.B/④554昭12.C/
④555昭12.C/④557昭12.C/
④557昭12.D/④567昭13.B/
④572昭13.C/④583昭14.B/
④584昭14.B/④588昭14.C/
④589昭14.C/④599昭15.A/
④608昭15.C/④625昭16.A/
④627昭16.B/④628昭16.B/
④632昭16.C/④642昭17.B/
④646昭17.C/④660昭18.C/
④661昭18.D/④672[安政]/
④671[明治]/④695[明25]/
④698[明31]/④709[明43]/
④715[大4]/④736[昭4]/
④738[昭5]/④742[昭和]/
④749[昭9]/④752[昭10]/
④755[昭11]/④756[昭11]/
④759[昭12]/④763[昭14]/
④788[明45]/④792[大7]/
④797[昭4]/④803[昭12]/
パウンズ④29明6.B/
パウンド、エズラ④478昭8.D/
④496昭9.D/④517昭10.D/
パウンド、ロスコー①218大9.E/
①338昭6.E//②263昭4.E/
②267昭5.E/②272昭6.E//
③292昭12.E//④448昭6.E/
Paetow,L.J.④444昭5.C/
パオロ①225大10.D/①257大14.C/
Paolucci③75明29.C/
パオン、ゼー・ピー④59明19.B/
Parker, H.M.D.①318昭5.C/
パーカー①89明32.A/
パーカー③55明26.B/
パーカー、シエドル④94明26.B/
④202明43.B/
パーカー、テオドア②179明22.B/
Perkins (et al.)④623昭16.A/
パークストン→ パックストン
パジ(ヂ)ェス・レオン①11[206]/
①13明1.G/①337昭6.D/
①352昭7.D/①367昭8.D//
②75昭13.D//③322昭17.D//
④576昭13.D/④589昭14.C/
④593昭14.D/④617昭15.D/
④618昭15.D/
Percy④722[大11]/
パシリナ④181明40.D/
パスカル、ジ(ュ)ルベルト
③294昭13.B//④549昭12.B/
パスカル(Pascal、ブレーズ、ブレエス)
①47明21.C/①170大3.B/
①174大3.B/①216大9.B/
①221大10.B/①230大11.B/
①236大12.B/①286昭3.B/
①359昭8.B/①373昭9.B//
②11昭10.B/②12昭10.B/
②58昭12.B/②82昭14.B/

②95昭15.B/②107昭16.B/
②131昭18.B/②142昭19.B/
②277昭8.B//③151明42.B/
③160明44.B/③294昭13.B/
③295昭13.B/③314昭16.B/
③315昭16.B/③320昭17.B/
③323昭18.B//④215明44.B/
④247大2.B/④256大3.B/
④272大4.B/④365大14.B/
④366大14.B/④420昭4.D/
④453昭7.B/④485昭9.B/
④495昭9.D/④507昭10.B/
④508昭10.B/④527昭11.B/
④530昭11.B/④549昭12.B/
④550昭12.B/④553昭12.B/
④568昭13.B/④570昭13.B/
④571昭13.B/④583昭14.A/
④583昭14.B/④585昭14.B/
④605昭15.B/④607昭15.B/
④628昭16.B/④630昭16.B/
④643昭17.B/④665昭19.B/
④699[明32]/④733[昭3]/
④766[昭15]/
パーセノン④163明38.D/
パターソン、W.P.④483昭9.B/
④490昭9.B/
Pachali,H.④264大3.C/
パッキングトン、H.
②144昭19.D//④667昭19.D/
④779[昭19]/
パックストン（パークストン）、ビー・エフ
④102明27.C/④291大5.C/
④293大5.C/④294大5.C/
パッセリーニ伯③204大6.D/
③211大8.D/
Patch,H.R.④531昭11.B/
Patin③93明32.B/
Patzschke,W.④603昭15.B/
Patzell,E.④577昭13.E/
パッテソン④79明23.A/
パットン[宣教師]
④711[明治-大正]/
パップス(はつぷす、はっぷす)
④269大3.F/④464昭7.F/
④578昭13.F/
はつぷす→ パップス
はっぷす→ パップス
パーテル④65明19.D/
パティソン④381大15.C/
パテルキュリユース（Paterculus, Velieius）①58明23.E//
④612昭15.C/
パテルノストロー③38明22.E//
④70明20.E/④79明22.E/
④121明31.E/
パドア④134明34.F/
Patrick,J. ④276大4.B/
Paton,W.R.④611昭15.C/
パートリッチ[宣教師]
④711[明治-大正]/
パネス、F.③242昭2.F/
Papastarw④557昭12.C/
パピー④809[昭20]/
Papanni,G.④518昭10.D/
パピ(一)ニ(一)（パピーニ）、ジョヴァ(バ)ンニ
①326昭6.B//③228大13.D//
④360大13.C/④361大13.C/
④438昭6.B/④440昭6.B/
④630昭16.B/④651昭17.D/
④794[大13]/④797[昭3]/
④798[昭5]/④806[昭16]/
④808[昭18]/
パヒニアーヌス③211大8.E/
パピリタス④83明23.C/
パーマー①89明32.A/
パーマー、ジョージ・ハーバード④137明35.B/
パラス④542昭11.E/
パラス, P.S.①7［72］/
パラメデス④26[24997]/
パラメニデス → パルメニデ(一)ス

Parry,C.A.④786[明37]/
Parisina（バイロン）④147明36.D/
パリス③230大14.C/
パリッシー④29明6.B/
パリサイ④366大14.B/
パリシナ④146明36.D/
Perl, C.J.②108昭16.B/
Perls, H.②50昭11.E/
パルマア①129明40.A/
パールフォース④419昭4.D/
④435昭5.D/
パルミニデース→ パルメニデ(一)ス
パルメニデ(一)ス(パラメニデス、パルミニデース、パルメニード、Parmenides)
①104明36.B/
①119明38.B/①187大5.B/
①244大13.B/①254大14.B/
①265大15.B/①266大15.B/
①287昭3.B/①315昭5.B/
①327昭6.B//②12昭10.B/
②19昭10.B/②35昭11.B/
②55昭12.B/②59昭12.B/
②68昭13.B/②69昭13.B/
②84昭14.B/②141昭19.B/
②167明18.B/②191明25.D/
②220明37.B/②224明39.B/
②251大14.B/②268昭6.B/
②282昭9.B/②284昭9.B//
③73明29.B/③74明29.B/
③87明31.B/③118明36.B/
③146明41.B/③172大2.B/
③221大12.A/③222大12.B/
③226大13.B/③247昭4.B/
③257昭6.A/③268昭8.A/
③285昭11.B/③295昭13.B/
③301昭14.A/③320昭17.B/
③322昭17.F/③325昭19.B/
③326昭19.B//④67明20.B/
④106明28.B/④118明31.B/
④127明33.B/④143明36.B/
④149明37.B/④175明40.B/
④196明42.B/④205明43.B/
④243大2.B/④257大3.B/
④272大4.B/④321大8.A/
④323大8.B/④344大11.A/
④359大13.B/④366大14.B/
④376大15.B/④390昭2.B/
④413昭4.B/④416昭4.B/
④427昭5.B/④467昭8.B/
④470昭8.B/④488昭9.B/
④505昭10.B/④516昭10.D/
④530昭11.B/④547昭12.A/
④582昭14.A/④587昭14.B/
④622昭15.F/④654昭17.F/
④665昭19.B/④702[明37]/
パルメニード→ パルメニデ(一)ス
パルメル③53明26.A/
パルラシュス②184明23.D/
パーレ→ パーレー
パーレー(パアリー、パーリー、パレー、パーレ、ぱあれ、巴來)ピトル(ピートリ、ペートル、彼得、Parley, Peter)
①14明4.C/
①15明5.C/①17明7.C/
①21明9.C/①23明10.C/
①24明10.C/①25明10.E/
①26明11.C/①27明11.C/
①34明16.C/①38明18.C/
①43明20.C/①47明21.C/
①82明30.C/①94明33.C/
①124明39.A/①182大3.C/
①203大7.C/①268大15.C//
②22昭10.C/②85昭14.C/
②154明6.C/②193明26.A//
③4明6.C/③12明10.C/
③13明11.C/③15明12.C/
③16明13.C/③17明14.C/
③20明16.C/③23明18.C/
③31明21.C//④34明11.C/

④37明12.C/④47明15.C/
④54明17.A/④159明38.B/
④165明38.D/④393昭2.C/
④394昭2.C/④679[明9]/
④680[明10]/④682[明11]/
④685[明16]/④686[明18]/
④688[明19]/④690[明20]/
④691[明21]/④692[明22]/
④727[昭1]/
パレラ、ケレヨウ④34明11.C/
パロット、エフ④155明37.D/
パロルラ、ルードルフ
①51明22.B/
Parvan,Vasile①292昭3.C/
パワェル→ パウロ
パエル→ パウロ
パン神(パーン)[牧羊神、牧神]
①216大9.B//②245大9.D//
③93明32.B/③141明40.B/
③195大5.B/③322昭17.D//
④142明36.B/④161明38.C/
④192明42.B/
パーン→ パン神
Pancoast, H.S.③116明35.D/
パンサ③161明44.C/
パンダグリ(ュ)エル(パンタグリュエリスム)
②71昭13.B/②131昭18.B//
④775[昭18]/
パンド(ー)ラ(パンドオラ、シ[パ?]ンドラ)
①59明24.B/①130明40.B/
①152明44.B/①209大8.B/
①222大10.B/①232大11.D/
①245大13.B/①266大15.B/
①301昭4.B/①314昭5.B/
①345昭7.B//②70昭13.B/
②217明36.B/②234明45.B//
③117明36.B/③238昭2.B/
③345大11.B//④300大6.B/
④330大9.B/④359大13.B/
④483昭9.B/
パンドオラ → パンド(ー)ラ
Panton,Sir①281昭2.D/
パンピュリー③74明29.C/
Panraskevopulos,J.P.④422昭4.E/
ピアー③126明37.B/
ピアス(比亞斯)②160明15.B//
③42明23.E/
Pears, E.③121明36.C/
③122明36.C/
ピアスタット、エドワード・エチ
③275昭9.B/
ピアソン→ ピヤソン
ピアトリス④307大6.D/
ピイタア④346大11.C/
ピイタルス、アルバアタス
④368大14.C/
ピイロン → フィロン
Piur,Paul④492昭9.C/
ピエトロ、オルシ④661昭18.C/
ピオーニ(スミルナの司祭)
④47明46.C/
ピエール、ルイス①301昭4.B/
Pierrer, P.②272昭7.A/
Pierron④402昭3.B/
ピカタス②177明21.E/
Picard, Ch.①362昭8.B//
③263昭7.A/③265昭7.C/
Pichard-Camridge(ピカアド、ケムブリヂ、A.W.)
②121昭17.C//④660昭18.C/
Piganiol, André M.③263昭7.A/
③277昭9.C/③291昭12.C//
④444昭6.C/④492昭9.C/
Peek, A.L.②67昭12.F/
ピカステス,エドワード
④695[明25]/④705[明39]/
④715[大4]/④720[大10]/
④725[大13]/
ピーク、アーサー・エス
④219明44.C/
ピクレサオス④192明42.B/
ピゲロウ④654昭17.F/

ピコタス④50明16.B/
Piganiol, Andre M.①291昭3.C//
③259昭6.C/
Pigler,A.③302昭14.B/
Peters, Theodor②51昭11.F/
ピサグリアン學派→ ピタ(サ)ゴラス
ヒサゴラス → ピタ(サ)ゴラス
ピサゴラス → ピタ(サ)ゴラス
ビサゴラス → ピタ(サ)ゴラス
ピシアス④333大9.C/
ピシェム①31明14.D/
ピータア②247大11.A/
ピタゴラ → ピタ(サ)ゴラス
ピタコラス → ピタ(サ)ゴラス
ヒタゴラス → ピタ(サ)ゴラス
ぴたごらす → ピタ(サ)ゴラス
ピタ(サ)ゴラス(ピタゴラスハン、ピタゴラ、ぴたごらす、ピタゴ(一)ル、ヒタゴラス、ヒサゴラス、ピュタゴラス、パイ[ピ?]サゴラス、ピサゴラス、ビサゴラス、ピタコラス、ピファゴル、ペサゴラス、ペタゴラス、撇蹋餓刺數反、龐太我刺私、費太我刺斯、比太克羅、比太古刺私、ピサグリアン學派、ピタゴリアン、ピタゴラス學派、Pytag., Phythagoras)
①5[19]/①7[66,69]/
①9[142]/①10[165]/
①44明20.F/①51明22.B/
①58明23.F/①64明25.B/
①71明26.D/①78明29.B/
①79明29.B/①110明37.B/
①122明38.F/①125明39.B/
①185大4.F/①187大5.B/
①233大11.E/①262大14.E/
①266大15.B/①283昭2.F/
①298昭3.F/①311昭4.F/
①314昭5.B/①327昭6.B/
①351昭7.D/①358昭8.B/
①387昭9.F//②19昭10.B/
②30昭10.F/②51昭11.F/
②81昭14.B/②90昭14.F/
②102昭15.F/②113昭18.E/
②145昭19.E/②150[14501]/
②153明5.E/②158明12.F/
②159明14.F/②160明15.B/
②162明16.B/②164明16.E/
②164明16.F/②165明17.B/
②167明18.B/②169明19.B/
②176明21.D/②178明22.B/
②183明23.B/②186明23.F/
②193明26.B/②196明26.F/
②197明27.B/②200明28.B/
②202明29.B/②205明31.B/
②209明33.B/②220明37.B/
②222明38.B/②223明 39.A/
②229明42.B/②230明42.D/
②230明42.F/②231明43.F/
②233明44.F/②234明45.B/
②236大2.B/②240大4.F/
②241大6.E/②242大7.B/
②279昭8.E//③7明9.B/
③14明11.E/③17明14.B/
③20明16.D/③30明21.B/
③31明21.C/③35明22.B/
③42明23.F/③44明24.B/
③45明24.B/③47明25.A/
③48明25.B/③53明25.F/
③57明26.D/③58明26.D/
③59明26.F/③60明27.B/
③70明28.F/③71明29.B/
③72明29.B/③80明30.B/
③86明31.A/③87明31.B/
③91明31.F/③99明33.B/
③104明33.F/③117明36.B/
③119明36.C/③138明39.B/
③165明45.B/③179大2.F/

③222大12.B/③247昭4.B/
③275昭9.B/③299昭13.E//
④24[24953]/④32明10.B/
④36明12.B/④39明13.B/
④41明14.B/④45明15.B/
④51明16.B/④63明19.B/
④72明21.B/④76明21.B/
④81明23.B/④93明25.D/
④95明26.B/④99明26.E/
④100明27.B/④106明28.B/
④109明29.B/④110明29.B/
④114明30.B/④125明32.D/
④132明34.B/④136明35.B/
④143明36.B/④150明37.B/
④156明37.F/④162明38.C/
④167明39.B/④177明40.B/
④178明40.B/④190明41.F/
④215明44.B/④223明44.F/
④226明45.B/④228明45.B/
④231明45.B/④243大2.B/
④244大2.B/④253大2.E/
④257大3.B/④273大4.B/
④288大5.B/④298大5.F/
④302大6.B/④306大6.C/
④323大8.B/④357大13.B/
④366大14.B/④375大15.B/
④386大15.F/④391昭2.B/
④399昭2.F/④404昭3.B/
④412昭4.B/④423昭4.F/
④464昭7.F/④466昭8.A/
④480昭8.F/④483昭9.B/
④485昭9.B/④488昭9.B/
④500昭9.F/④505昭10.B/
④509昭10.B/④510昭10.B/
④516昭10.D/④543昭11.F/
④557昭12.C/④563昭12.F/
④578昭13.F/④586昭14.B/
④597昭14.F/④631昭16.B/
④639昭16.F/④656昭18.A/
ピタゴラス學派→ ピタ(サ)ゴラス
ピタゴラスハン → ピタ(サ)ゴラス
ピタゴリアン→ ピタ(サ)ゴラス
ピタゴ(一)ル → ピタ(サ)ゴラス
Petersdorff③120明 36.C/
Peterson③284昭11.A/
ピタッタユ(コ?)ス(ピッタカス、ピッタコス、Pittacus Mityleneus)①5[19]//
②160明15.B//③42明23.E/
③70明28.F/
ピダリタス(Pidaritas)
④83明23.C/
ピチアス①147明43.C/
ピック、ベルンハルド
②232明44.C/
ピッタカス → ピタッタユ(コ?)ス
ピッタコス → ピタッタユ(コ?)ス
ピッタル③301昭14.A/
ピットクラテース③72明29.B/
ヒッパークス③70明28.F/
ピッピアス①244大13.B//
②118昭17.B/
ヒッピロス②177明21.E/
ピテアス(費底亞斯)①10[165]/
ヒデヤス → フ井デイアス
ピーテル→ ペテロ
ピートル→ ペテロ
ピニ、ジョルジオ④637昭16.E/
ピノグラドフ、ポール
①380昭9.C/
ピファゴル→ ピタ(サ)ゴラス
ピーポデー(ピーポディ)
②236大2.B/③53明26.A/
ピーポディ → ピーポデー
ピヤソン(ピアソン)、ジ・ピ(一)
④294大5.D/④370大14.D/
④494昭9.D/
ピュース③38明22.F/
ピュタゴラス → ピタ(サ)ゴラス

ス
ピューヂンス④220明44.C/
ピュリズム③252昭5.B/
ピュローン→ フィロン
ピュルローン→ フィロン
ピラス王③88明31.C/
Plummer,A.④281大4.D/
ピラト(比棯多)、ポンテオ(ヲ)
③67明28.C/③133明38.C//
④77明22.C/④179明40.C/
④317大7.C/④803[昭12]/
ピラトーン → プラトーン
ピリピ(腓立比)①70明26.C/
①71明26.C//③56明26.C/
ピリピ(腓立比・書)④78明22.D/
④84明23.D/④116明30.D/
④179明40.D/④188明41.D/
④221明45.D/④354大12.D/
④368大14.C/
ピリピ王→ ヒリップ王
(英國)ヒリプ④782[明11]/
ヒリープ → ヒリップ王
ヒリップ王(マセドンのフィリップ、ヘリップ、ヒリープ、フ井リップス、フ井リップ、フヒリプス、フ井リッ、フヒリップ、ピリピ、非立、費律布、非立丕、Philipps)
①36明17.C/①74明27.C/
①152明44.C/①182大4.C/
①349昭7.C//②41昭11.C/
②156明9.C/②158明12.E/
②160明15.B/②161明15.E/
②176明21.B/②184明23.D/
②186明24.A/②191明25.C/
②198明27.C/②206明31.C/
②208明32.C/②216明35.C/
②241大6.C//③8明9.C/
③9明9.E/③13明11.C/
③17明14.D/③40明23.B/
③41明23.C/③58明26.D/
③130明37.D//④33明10.C/
④42明14.C/④53明16.E/
④77明22.C/④96明26.B/
④317大7.C/④605昭15.B/
④671[明治]/④678[明8]/
ピルシニヤ①52明22.C/
ピルタール、ウゥジーヌ
②92昭15.A/
ピルローン → フィロン
ヒルローン→ フィロン
ピレトー → プラトーン
ピレボス → フィレーボス
ピレモン(腓禮門)④78明22.D/
④220明44.C/④392昭2.C/
④407昭3.D/④516昭10.D/
④574昭13.D/④797[昭3]/
ピレンヌ(Pirenne, Henri)
②73昭13.C/②133昭18.C//
③310昭15.C//④536昭11.C/
ヒロー → フィロ(一)
ひーろー(あれきさんどりやの)
→ フィロ(一)
ヒロデアス③51明25.D/
ピロラス③70明28.F/
ピロン(翁) → フィロン
Pink,K.④557昭12.C/
ピンダー(ピンダル、ピンダロス、ヒンダル、Pindar)
①184大4.D//
②25昭10.D/②145昭19.E/
②231明43.B//③37明22.D/
③59明27.A/③68明28.D/
③72明29.B/③299昭13.D/
③305昭14.D/③311昭15.D//
④41明14.B/④110明29.B/
④112明29.D/④260大3.B/
ピンダル → ピンダー
ピンダロス → ピンダー
ファイエーケス②55昭12.B//
④549昭12.B/
ファイデアス④89明24.D/
④181明40.D/

ファイドロス(パイドロス、
Phaidros)
①104明36.B/①124明39.B/
①244大13.B/①265大15.B/
①328昭6.B/①373昭9.A//
②39昭11.B/②118昭17.B//
③209大8.B/③273昭9.A/
ファイド(ー)ン(フェードン、パイドン、Phaedon、Phaedo、Phédon、Phado)
①179大4.B/①228大11.A/
①237大12.B/①243大13.B/
①254大14.B/①276昭2.B/
①299昭4.A/①301昭4.B/
①312昭5.A/①358昭8.B//
②69昭13.B/②93昭15.B/
②118昭17.B//③44明24.B/
③67明28.B/③93明32.B/
③100明33.B/③174大2.B/
③209大8.B/③239昭2.B/
③247昭4.A/③262昭7.A/
③269昭8.A/③284昭11.A/
③312昭16.A//④159明38.B/
④427昭5.B/④454昭7.B/
④463昭7.D/④484昭9.B/
④485昭9.B/④523昭11.A/
④546昭12.A/④583昭14.B/
④802[昭11]/
ファイロ(ー) → フィロン
ファレレウス②184明23.C/
フィゲアス②194明26.B/
フィジアス → フ井デイアス
フイヂアス → フ井デイアス
ふいぢあす → フ井デイアス
フィデアス → フ井デイアス
フィディアス → フ井デイアス
フィラックス②62昭12.D/
Phillippi①341昭7.A/
フィリップ(物語)④39明13.C/
フィリップ(医師)①247大13.C/
①257大14.C/
フ井リップ→ ヒリップ王
フィリップ王 → ヒリップ王
フィリップス、S.(ステイブン)
①320昭5.D/④171明39.C/
Philippson,A.③134明38.C/
フィリネ②236大2.B/
フィリピクス王 → ヒリップ王
フィレーボス(ピレボス、Philebos,Philebe)
①104明36.B/①244大13.B/
①276昭2.B/①314昭5.B/
①315昭5.B/①327昭6.B/
①342昭7.B//③73明29.B/
③172大2.B/③182大3.B/
③262昭7.A//④427昭5.B/
④683昭23.B/
フィロ(ー) → フィロン
フィロオ → フィロン
フィロクラテエス③141明39.E/
フィロストラトス①248大13.D/
フィロ(ー)ン(ピロン(翁)、ピイロン、フィロ(ー)、ファイロ(ー)、フィロオ、ピルローン、フ井ロン、パイロー、フワイロー、フ井ロー、フヒロー・アレキサンドリア、ピュルローン、ヒロー、フィロン、フハロー、ピュローン、ヒルローン、ひーろー、アレキサンドリアの、Philo Alexandorinus, Philos von Alexander, Philon)①5[19]/
①33明15.E/①34明16.B/
①59明24.B/①100明35.B/
①156明45.B/①202大7.B/
①254大14.B//②16昭10.B/
②17昭10.B/②18昭10.B/
②36昭11.B/②72昭13.B/
②148[14467]/②167明18.B/
②176明21.B/②206明31.C/
②258昭2.F/②261昭4.B/

②282昭9.B//③7明9.B/
③30明21.B/③55明26.B/
③111明35.B/③117明36.B/
③150明42.B/③198大5.C/
③223大12.B/③228大14.A/
③258昭6.B/③280昭10.B/
③325昭18.F//④56明17.C/
④86明24.B/④89明24.D/
④96明26.B/④114明30.B/
④120明31.C/④127明33.B/
④137明35.B/④146明36.C/
④150明37.B/④184明41.B/
④196明42.B/④206明43.B/
④230明45.B/④247大2.B/
④322大9.B/④366大14.B/
④367大14.B/④368大14.B/
④484昭9.B/④486昭9.B/
④520昭10.F/④635昭16.D/
④666昭19.B/④717[大5]/
フェーソン③205大7.B/
フェードン → ファイドーン
フェニーマ④67明20.B/
フェナレーテ(ソクラテスの母)
②191明25.C/
フェービアス → フ井デイアス
フェッツス②242大7.B/
フェレシテルス(シロスの)
④72明21.B/
フォーチウス①48明21.C/
フクジアス → フ井デイアス
プーシキン③104明33.D/
③287昭11.D/
プシュケ、シュルベン(プスケ)
②98昭15.D//④207明43.C/
④733[昭3]/
プシュケェ(神)④766[昭16]/
プシュワラ、エリヒ(S.J.)
①328昭6.B/①329昭6.B//
④429昭5.B/
プスケ→ プシュケ
プセー③65明28.B/
プタウテウス → プラウタ(チ)ス
フヂアス → フ井デイアス
プッフデラー → プフライデラー
Putzger(プツケル)④394昭2.C/
④418昭4.C/④432昭5.C/
④445昭6.C/
プティジャン(B.Th.Petitjean)
④674[明1]/④675[明3,明5]/
④676[明6]/
プトレマイオス(トレミー埃及王、トーレミー、トレミ(一)、トレミイ、プトレミース、Ptolemäus, Ptolemines)
①90明32.C/①91明32.C//
②42昭11.C/②66昭12.E/
②73昭13.C/②87昭14.D/
②191明25.C/②204明30.C/
②206明31.C/②208明32.C/
②218明36.C/②232明44.B//
③18明15.C/③128明37.C/
③231大14.C/③254昭5.C/
③315昭16.C//④116明30.C/
④377大15.B/④573昭13.C/
④578昭13.F/
プトレマイオス(トレミー、トレミイ、プトレミウス、ぷとれみい、とれみ(一)、ぷとれみうす、プトレミー、プトレメユス、プトレマイック學派、獨レミー派、布都祿某斯)①7[69]/
①9[142]/①175大3.C/
①311昭4.F//②60昭12.C/
②109昭16.C/②152[14532]/
②164明16.F/②172明19.E/
②174明20.E/②177明21.F/
②186明23.F/②189明25.A/
②211明33.F/②216明35.D/
②232明44.B/②248大11.F/
②258昭2.F//③24明18.F/

③31明21.C/③59明26.F/
③70明28.F/③79明30.A/
③80明30.B/③99明33.B/
③119明36.C/③128明37.C/
③138明39.B/③149明41.F/
③158明43.F/③179大2.F/
③221大11.F/③242昭2.F/
③316昭16.C//④27[25020]/
④35明12.A/④38明13.B/
④51明16.B/④56明17.C/
④70明20.D/④178明40.B/
④269大3.F/④298大5.F/
④367大14.B/④373大14.F/
④578昭13.F/④622昭15.F/
プトレマイック學派 → プトレマイオス
プトレミー → プトレマイオス
ぷとれみい → プトレマイオス
ぷとれみうす→ プトレマイオス
プトレミウス → プトレマイオス
プトレミース → プトレマイオス(王)
プトレメユス→ プトレマイオス
フハイジャス → フ井デイアス
フハイロー→ フィロン
フヒジヤス → フ井デイアス
プヒリプス → ヒリップ王
フヒリップ→ ヒリップ王
フヒロー → フィロン
プファフ④79明23.A/
Pfeiffer, R.②43昭11.C//
③95明32.C//④595昭14.D/
Pfister, F.③172大2.B/
プフライデラー(フライデラー、プッフデラー)
①286昭3.B/①304昭4.B//
②262昭 4.B/
Pryse,J.M.④281大4.D/
プライス、P.G.④439昭6.B/
Pfleiderer, O.③165明45.B/
フライデラー → プフライデラー
プライニー → プリニウス
プラウト①239大12.B/
プラウトス → プラウタ(チ)ス
プラウタ(チ)ス(プロ(ウ)ータス、プラウトス、プラウツス、プラウテウス、プラタス、Plautus、Plautas)①5[19]/
①48明21.D/①70明26.C/
①179大4.B/①211大8.C/
①213大8.E/①321昭5.D/
①336昭6.D//②167明18.C/
②209明32.E/②220明37.D//
③32明21.D/③36明22.D/
③38明22.D/③47明25.A/
③52明25.D/③56明26.D/
③59明27.A/③89明31.D/
③305昭14.D//④70明20.D/
④74明21.D/④74明21.D/
④75明21.D/④163明38.D/
④600昭15.A/④625昭16.A/
④642昭17.A/④656昭18.A/
④737[昭5]/
プラウツス → プラウタ(チ)ス
プラエ④83明23.C/
プラエタオル、ジャン
④662昭18.D/
Praettorius, F.③124明36.D/
プラキシテル → プラキレテレ(一)ス
プラキーダ(將軍) ④42明14.C/
プラキレテレ(一)ス(プラクシテレス、プラキシテル)
①176大3.D/①205大7.D//
②99昭15.D/②216明35.D//
③72明29.B/③152明42.D/
③227大13.D/③310昭15.D/
プラコサゴラス④61明18.F/
プラクシテレス → プラキレテレ(一)ス
プラターク → プルタ(一)ク
プラタス → プラウタ(チ)ス

プラタルク → プルタ(一)ク
Plattard,J.④486昭9.B/
プラット、ダブリイ・エス
①87明31.D/
Platner, S.B.③256昭5.G/
プラト → プラトーン
プラトー → プラトーン
ふらとー → プラトーン
フラトウ→ プラトーン
ふらとう→ プラトーン
ぷらとう → プラトーン
プラトウ → プラトーン
プラトオ → プラトーン
プラトオン → プラトーン
Platonica → プラトーン
プラトニスト→ プラトーン
プラトニズム(Platonism, Plato Nismus,Platonist) → プラトーン
プラトニック派→ プラトーン
フラトム → プラトーン
プラトヲ → プラトーン
プラトン → プラトーン
プラトーン(フラトム、プラトン、プラト、プレト(一)、プレート(一)、プラトオ、プラトー、プラトオン、プラトウ、プレ(一)トオ、プレートス、プレトウ、プレイトー、ぷらとう、ふらとー、ふらとう、ぷれとー、プラトヲ、プラトオン、ピラトーン、プレトウ、ピレトー、フラトウ、プレイトオ、プレイトウ、布剌度、普拉的、布拉多、布拉圖、普拉土、伯拉多、布剌敦、弗拉多、不羅多、巴累多、Plato, Platon、Πλατον)[ソクラチース、Jowett、阿部次郎、久保勉、岡田正三、プラトン・アカデム、アカデミシャン、アカデミックス、アカデミッケル(學堂)派、アカデミイ、シュムポジオン、プラトニズム、プラトニスト、プラトニック派、(Platonism, Platonismus,Πλατων)、ポリティコス、ポリテイヤ、πολιτεια、饗宴、辨明、Platonica]
①5[19,33]/①9[142]/
①15明5.B/①18明8.B/
①20明9.B/①25明10.E/
①27明11.E/①28明12.B/
①29明12.E/①29明13.B/
①31明14.B/①32明14.F/
①33明15.B/①33明15.E/
①36明17.E/①39明19.B/
①42明20.B/①43明20.B/
①44明20.E/①46明21.B/
①47明21.C/①48明21.C/
①51明22.B/①52明22.D/
①54明23.B/①55明23.B/
①58明23.E/①59明24.B/
①60明24.B/①61明24.C/
①62明24.D/①62明24.E/
①64明25.B/①66明25.E/
①67明25.E/①67明25.F/
①68明26.B/①69明26.B/
①70明26.C/①73明27.B/
①75明28.B/①76明28.B/
①77明28.E/①78明29.A/
①78明29.B/①79明29.B/
①82明30.B/①83明30.C/
①84明30.D/①85明31.B/
①93明33.B/①94明33.B/
①95明33.E/①96明34.B/
①97明34.B/①100明35.B/
①104明36.B/①105明36.B/
①106明36.B/①109明36.E/

①110明37.B/①111明37.B/
①112明37.B/①116明37.D/
①117明37.E/①118明38.B/
①119明38.B/①124明39.A/
①124明39.B/①125明39.B/
①126明39.B/①127明39.B/
①130明40.B/①131明40.B/
①134明40.D/①134明40.E/
①135明41.B/①136明41.B/
①137明41.B/①138明41.B/
①140明42.E/①141明42.B/
①142明42.B/①143明41.E/
①146明43.B/①147明43.B/
①149明43.E/①150明44.A/
①151明44.B/①156明45.B/
①159明45.E/①161大2.B/
①162大2.B/①163大2.B/
①169大3.B/①170大3.B/
①178大3.E/①179大4.B/
①180大4.B/①185大4.E/
①187大5.B/①194大6.A/
①195大6.B/①199大6.E/
①201大7.A/①202大7.B/
①203大7.B/①206大7.E/
①208大8.A/①208大8.B/
①209大8.B/①212大8.E/
①213大8.E/①214大9.A/
①215大9.B/①218大9.D/
①218大9.E/①220大10.A/
①221大10.A/①221大10.B/
①222大10.B/①224大10.D/
①226大10.E/①227大10.E/
①228大11.A/①229大11.B/
①230大11.B/①232大11.D/
①233大11.E/①234大11.E/
①235大12.A/①236大12.B/
①237大12.B/①239大12.B/
①241大12.E/①242大12.E/
①243大13.A/①243大13.B/
①244大13.B/①245大13.B/
①246大13.B/①249大13.E/
①250大13.E/①253大14.A/
①253大14.B/①254大14.B/
①255大14.B/①260大14.E/
①261大14.E/①263大15.A/
①264大15.B/①265大15.B/
①266大15.B/①270大15.D/
①273昭2.A/①274昭2.A/
①274昭2.B/①275昭2.B/
①276昭2.B/①282昭2.E/
①285昭3.A/①285昭3.B/
①286昭3.B/①287昭3.B/
①288昭3.B/①296昭3.E/
①297昭3.E/①298昭3.F/
①299昭4.A/①300昭4.B/
①301昭4.B/①302昭4.B/
①303昭4.B/①305昭4.B/
①309昭4.E/①310昭4.E/
①312昭5.A/①313昭5.B/
①314昭5.B/①315昭5.B/
①316昭5.B/①322昭5.E/
①323昭5.E/①326昭6.B/
①328昭6.B/①332昭6.C/
①335昭6.D/①338昭6.E/
①339昭6.E/①342昭7.B/
①343昭7.B/①344昭7.B/
①345昭7.B/①346昭7.B/
①351昭7.D/①355昭7.E/
①355昭7.F/①357昭8.A/
①358昭8.B/①359昭8.B/
①360昭8.B/①361昭8.B/
①362昭8.B/①364昭8.C/
①368昭8.E/①369昭8.E/
①372昭9.A/①373昭9.A/
①373昭9.B/①374昭9.B/
①375昭9.B/①377昭9.B/
①387昭9.F//②11昭10.A/
②12昭10.B/②13昭10.B/
②14昭10.B/②16昭10.B/
②17昭10.B/②18昭10.B/
②19昭10.B/②25昭10.D/
②26昭10.E/②29昭10.E/
②30昭10.F/②33昭11.B/
②34昭11.B/②35昭11.B/

②36昭11.B/②37昭11.B/
②39昭11.B/②47昭11.D/
②47昭11.E/②48昭11.E/
②49昭11.E/②50昭11.E/
②53昭12.B/②54昭12.B/
②55昭12.B/②57昭12.B/
②58昭12.B/②59昭12.B/
②59昭12.C/②62昭12.D/
②64昭12.E/②66昭12.E/
②67昭12.F/②68昭13.B/
②69昭13.B/②70昭13.B/
②71昭13.B/②72昭13.B/
②75昭13.E/②76昭13.E/
②80昭14.B/②81昭14.B/
②83昭14.B/②84昭14.B/
②88昭14.E/②89昭14.E/
②92昭15.B/②93昭15.B/
②94昭15.B/②95昭15.B/
②96昭15.B/②101昭15.E/
②104昭16.B/②105昭16.B/
②106昭16.B/②106昭16.B/
②107昭16.B/②108昭16.B/
②113昭16.E/②114昭18.E/
②115昭16.F/②118昭17.B/
②119昭17.B/②120昭17.B/
②126昭17.E/②127昭17.E/
②128昭17.F/②130昭18.B/
②131昭18.B/②132昭18.B/
②133昭18.E/②136昭18.D/
②137昭18.D/②138昭18.E/
②139昭18.E/②141昭19.B/
②142昭19.B/②145昭19.D/
②145昭19.E/②146昭19.E/
②146昭20.B/②147昭20.B/
②148［14457,14465,14467,
14468］/②153明4.C/
②153明5.A/②154明6.B/
②155明7.B/②156明8.B/
②157明10.C/②158明12.F/
②158明13.B/②159明13.E/
②159明14.A/②159明14.B/
②159明14.E/②160明15.B/
②160明15.E/②161明15.E/
②162明16.B/②163明16.E/
②164明16.E/②165明17.B/
②166明18.B/②167明18.B/
②168明18.E/②170明19.B/
②171明19.C/②171明19.E/
②172明19.E/②172明20.B/
②173明20.B/②173明20.C/
②174明20.E/②175明21.A/
②175明21.B/②176明21.B/
②176明21.D/②178明22.B/
②179明22.B/②181明22.E/
②182明23.B/②183明23.B/
②184明23.D/②185明23.D/
②186明23.E/②186明23.F/
②187明24.B/②189明24.E/
②190明25.B/②191明25.D/
②192明25.D/②192明25.E/
②193明26.B/②194明26.B/
②196明26.D/②196明26.E/
②196明26.F/②197明27.B/
②198明27.B/②198明27.C/
②199明27.E/②200明28.B/
②201明28.D/②201明29.B/
②202明29.B/②203明29.E/
②204明30.B/②204明30.D/
②205明30.E/②205明31.A/
②205明31.B/②206明31.B/
②207明31.E/②207明32.B/
②208明32.B/②208明32.C/
②208明32.D/②210明33.B/
②211明33.D/②213明34.B/
②214明34.E/②215明35.B/
②215明35.C/②216明35.D/
②217明36.B/②218明36.B/
②219明37.B/②220明37.B/
②221明37.E/②221明38.B/
②222明38.B/②222明38.C/
②224明39.A/②224明39.B/
②225明39.B/②225明39.E/
②225明39.F/②226明40.B/
②227明40.E/②227明40.F/

②228明41.B/②229明41.E/
②229明42.B/②230明42.B/
②231明43.F/②232明44.B/
②233明44.E/②233明45.B/
②234明45.B/②235明45.F/
②236大2.B/②237大3.B/
②238大3.B/②239大4.C/
②239大4.F/②240大4.F/
②241大6.E/②243大8.B/
②246大10.B/②250大13.A/
②250大13.B/②251大14.B/
②254大15.B/②255大15.D/
②261昭4.B/②256昭2.B/
②259昭3.B/②261昭3.E/
②264昭4.F/②265昭5.B/
②268昭6.B/②269昭6.B/
②273昭7.B/②275昭7.E/
②276昭7.E/②279昭8.E/
②281昭9.B/②282昭9.B/
②282昭9.B/②283昭9.B/
②284昭9.B/②286昭9.E//
③3明5.B/③7明9.B/
③8明9.B/③11明10.B/
③14明11.E/③14明12.A/
③15明12.C/③15明12.E/
③16明12.E/③17明14.B/
③18明15.B/③20明16.B/
③20明16.E/③23明18.B/
③24明18.E/③25明19.B/
③28明20.B/③28明20.D/
③28明20.E/③29明20.F/
③30明21.B/③35明22.B/
③37明22.D/③38明22.E/
③39明23.A/③40明23.B/
③42明23.D/③42明23.E/
③42明23.F/③44明24.B/
③45明24.C/③46明24.D/
③47明24.E/③47明25.A/
③48明25.B/③49明25.B/
③50明25.B/③50明25.C/
③51明25.D/③52明25.D/
③52明25.E/③53明25.F/
③54明26.B/③55明26.B/
③56明26.B/③57明26.D/
③58明26.D/③58明26.E/
③59明26.E/③59明27.A/
③60明27.B/③63明27.D/
③64明27.E/③65明28.B/
③66明28.B/③67明28.B/
③67明28.C/③68明28.D/
③69明28.D/③70明28.E/
③71明29.A/③72明29.B/
③73明29.B/③74明29.B/
③76明29.D/③78明29.D/
③78明29.E/③80明30.B/
③81明30.B/③83明30.D/
③84明30.D/③85明30.D/
③85明30.E/③87明31.B/
③89明31.C/③89明31.D/
③91明31.E/③92明32.A/
③92明32.B/③93明32.B/
③97明32.E/③99明33.B/
③100明33.B/③101明33.B/
③103明33.D/③105明34.B/
③106明34.B/③107明34.C/
③109明34.D/③111明35.B/
③112明35.B/③113明35.C/
③116明35.E/③117明36.B/
③118明36.B/③119明36.B/
③120明36.C/③124明36.E/
③126明37.B/③130明37.E/
③131明38.B/③132明38.B/
③135明38.D/③136明38.E/
③137明39.B/③138明39.B/
③139明39.B/③141明39.E/
③141明40.B/③142明40.B/
③143明40.B/③144明40.D/
③145明41.A/③146明41.B/
③147明41.B/③149明41.F/
③149明42.B/③150明42.B/
③153明42.E/③154明43.B/
③155明43.B/③158明43.E/
③159明44.A/③159明44.B/
③160明44.B/③161明44.B/

③163明45.B/③164明45.B/
③165明45.B/③166明45.B/
③167明45.B/③170明45.E/
③170明45.F/③171大2.B/
③172大2.B/③173大2.B/
③174大2.B/③175大2.C/
③178大2.D/③179大2.E/
③180大3.B/③181大3.B/
③182大3.B/③186大3.D/
③187大3.E/③188大3.F/
③189大4.B/③190大4.B/
③191大4.B/③195大5.B/
③196大5.B/③197大5.B/
③201大6.B/③202大6.B/
③205大7.B/③207大7.C/
③209大8.B/③211大8.F/
③212大9.B/③213大9.E/
③214大10.B/③215大10.B/
③217大11.A/③218大11.B/
③220大11.D/③220大11.E/
③221大11.E/③221大12.A/
③222大12.B/③223大12.B/
③223大12.C/③224大12.F/
③225大13.A/③225大13.B/
③226大13.B/③228大13.E/
③228大14.A/③229大14.A/
③229大14.B/③232大14.E/
③233大15.A/③234大15.B/
③238昭2.B/③239昭2.B/
③240昭2.B/③242昭2.F/
③243昭3.B/③245昭3.E/
③246昭4.A/③247昭4.A/
③247昭4.B/③248昭4.B/
③250昭4.D/③252昭5.A/
③252昭5.B/③253昭5.B/
③255昭5.D/③256昭5.E/
③257昭6.A/③258昭6.B/
③261昭6.E/③262昭7.A/
③264昭7.B/③267昭7.E/
③268昭7.F/③268昭8.A/
③269昭8.A/③269昭8.B/
③270昭8.B/③271昭8.B/
③273昭8.E/③273昭9.A/
③274昭9.A/③274昭9.B/
③275昭9.B/③276昭9.B/
③279昭10.A/③279昭10.B/
③280昭10.B/③281昭10.B/
③283昭11.A/③284昭11.A/
③285昭11.B/③286昭11.C/
③289昭12.B/③290昭12.B/
③292昭12.E/③293昭13.A/
③294昭13.B/③295昭13.B/
③297昭13.D/③298昭13.D/
③299昭13.E/③300昭13.E/
③300昭14.A/③301昭14.A/
③301昭14.B/③302昭14.B/
③302昭14.B/③303昭14.B/
③306昭14.E/③306昭14.F/
③307昭15.A/③308昭15.B/
③309昭15.B/③311昭15.D/
③312昭16.A/③313昭16.A/
③314昭16.B/③315昭16.B/
③317昭16.E/③318昭17.A/
③319昭17.A/③322昭17.E/
③323昭17.F/③323昭18.B/
③323昭18.C/③325昭19.B/
③326昭19.D//④26[24997]/
④26[25009]/④30明7.B/
④31明9.B/④32明10.B/
④33明11.B/④36明12.B/
④36明12.C/④37明12.E/
④38明13.B/④39明13.B/
④40明13.F/④41明14.B/
④45明15.B/④46明15.B/
④48明15.E/④49明15.E/
④50明16.B/④51明16.B/
④54明17.A/④55明17.B/
④56明17.C/④56明17.D
④57明17.E/④58明17.E/
④58明18.B/④61明18.F/
④62明19.A/④62明19.B/
④63明19.B/④66明20.B/
④67明20.B/④68明20.B/
④70明20.D/④71明20.E/

④71明21.A/④72明21.B/
④73明21.B/④73明21.C/
④74明21.D/④75明21.E/
④76明21.B/④79明22.E/
④79明22.F/④81明23.B/
④82明23.B/④83明23.C/
④84明23.C/④86明24.B/
④87明24.B/④89明24.E/
④90明25.B/④91明25.B/
④93明25.D/④95明26.B/
④96明26.B/④98明26.D/
④99明26.E/④100明27.B/
④101明27.B/④102明27.B/
④103明27.D/④105明28.A/
④105明28.B/④106明28.B/
④107明28.B/④109明28.E/
④109明29.A/④110明29.B/
④111明29.B/④112明29.C/
④113明29.F/④114明30.B/
④115明30.B/④116明30.B/
④117明30.D/④117明30.E/
④118明31.B/④119明31.B/
④120明31.B/④120明31.C/
④122明32.B/④123明32.B/
④124明32.B/④125明32.E/
④126明33.A/④127明33.B/
④128明33.C/④130明34.B/
④131明34.B/④132明34.B/
④135明35.B/④136明35.B/
④136明35.C/④138明35.B/
④139明35.C/④141明35.A/
④141明35.E/④142明36.B/
④143明36.B/④144明36.B/
④148明36.E/④149明37.B/
④150明37.B/④151明37.B/
④152明37.B/④154明37.C/
④156明37.E/④157明38.B/
④158明38.B/④159明38.B/
④160明38.B/④162明38.C/
④165明38.D/④166明38.E/
④166明38.F/④168明39.B/
④169明39.B/④170明39.B/
④172明39.D/④173明40.A/
④173明39.F/④174明40.A/
④175明40.B/④176明40.B/
④177明40.B/④178明40.B/
④179明40.C/④181明40.D/
④181明40.E/④184明41.B/
④185明41.B/④186明41.B/
④187明41.B/④189明41.D/
④190明41.F/④191明42.A/
④192明42.B/④193明42.B/
④194明42.B/④195明42.B/
④196明42.B/④197明42.C/
④198明42.C/④199明42.D/
④200明42.D/④201明43.B/
④203明43.B/④204明43.B/
④205明43.B/④206明43.B/
④207明43.B/④209明43.C/
④212明43.F/④213明44.A/
④215明44.B/④216明44.B/
④218明44.B/④219明44.B/
④222明4.D/④223明44.E/
④224明45.A/④225明45.B/
④226明45.B/④227明45.B/
④228明45.B/④229明45.B/
④231明45.B/④232明45.B/
④233明45.B/④238明45.B/
④241大2.A/④241大2.B/
④243大2.B/④244大2.B/
④245大2.B/④246大2.B/
④247大2.B/④252大2.E/
④255大3.B/④258大3.B/
④259大3.B/④260大3.B/
④261大3.B/④262大3.B/
④263大3.B/④264大3.C/
④265大3.C/④267大3.D/
④269大3.B/④271大4.A/
④272大4.B/④273大4.B/
④274大4.B/④275大4.B/
④276大4.B/④283大4.E/
④285大5.A/④286大5.B/
④287大5.B/④288大5.B/
④289大5.B/④290大5.B/

④295大5.D/④298大5.E/
④299大6.A/④300大6.B/
④301大6.B/④302大6.B/
④303大6.B/④304大6.B/
④306大6.C/④309大6.E/
④311大7.A/④312大7.B/
④313大7.B/④314大7.B/
④315大7.B/④316大7.B/
④318大7.D/④319大7.D/
④320大7.E/④322大8.B/
④323大8.B/④325大8.B/
④326大8.C/④327大8.E/
④328大8.E/④329大9.A/
④330大9.B/④331大9.B/
④332大9.B/④333大9.B/
④334大9.D/④335大9.E/
④337大10.A/④337大10.B/
④338大10.B/④339大10.B/
④341大10.D/④342大10.E/
④344大11.A/④345大11.B/
④346大11.B/④350大12.A/
④350大12.B/④351大12.B/
④352大12.B/④353大12.C/
④354大12.D/④355大12.E/
④356大13.A/④356大13.B/
④357大13.B/④358大13.B/
④359大13.B/④361大13.C/
④362大13.E/④363大13.F/
④364大14.A/④365大14.B/
④366大14.B/④367大14.B/
④369大14.C/④371大14.D/
④372大14.E/④373大14.E/
④373大14.F/④375大15.B/
④376大15.B/④377大15.B/
④378大15.B/④382大15.C/
④384大15.D/④385大15.E/
④386昭2.A/④387昭2.A/
④388昭2.B/④389昭2.B/
④390昭2.B/④391昭2.B/
④398昭2.E/④400昭3.B/
④401昭3.B/④402昭3.B/
④403昭3.B/④404昭3.B/
④410昭3.E/④411昭4.A/
④412昭4.B/④413昭4.B/
④414昭4.B/④415昭4.B/
④416昭4.B/④419昭4.D/
④420昭4.D/④421昭4.D/
④423昭4.E/④424昭5.A/
④425昭5.A/④426昭5.B/
④427昭5.B/④428昭5.B/
④429昭5.B/④435昭5.E/
④436昭5.E/④437昭6.A/
④439昭6.B/④441昭6.B/
④442昭6.B/④448昭6.E/
④450昭7.A/④451昭7.B/
④452昭7.B/④453昭7.B/
④454昭7.B/④455昭7.B/
④456昭7.B/④462昭7.D/
④463昭7.E/④464昭7.E/
④465昭8.A/④466昭8.A/
④467昭8.B/④468昭8.B/
④469昭8.B/④470昭8.B/
④472昭8.C/④479昭8.E/
④480昭8.E/④480昭8.F/
④482昭9.A/④483昭9.B/
④484昭9.B/④485昭9.B/
④486昭9.B/④487昭9.B/
④488昭9.B/④489昭9.B/
④490昭9.B/④494昭9.C/
④496昭9.D/④498昭9.E/
④499昭9.E/④500昭9.E/
④502昭10.A/④504昭10.A/
④504昭10.B/④507昭10.B/
④508昭10.B/④509昭10.B/
④510昭10.B/④516昭10.D/
④519昭10.E/④520昭10.F/
④522昭11.A/④523昭11.A/
④524昭11.A/④524昭11.B/
④525昭11.B/④526昭11.B/
④527昭11.B/④530昭11.B/
④531昭11.B/④532昭11.B/
④534昭11.C/④539昭11.D/
④541昭11.E/④543昭11.E/
④545昭12.A/④546昭12.A/

④547昭12.A/④549昭12.B/
④550昭12.B/④551昭12.B/
④552昭12.B/④553昭12.B/
④555昭12.C/④561昭12.E/
④562昭12.E/④563昭12.E/
④563昭12.F/④567昭13.B/
④568昭13.B/④569昭13.B/
④570昭13.B/④571昭13.B/
④571昭13.C/④577昭13.E/
④581昭14.A/④582昭14.A/
④583昭14.B/④584昭14.B/
④587昭14.B/④588昭14.B/
④596昭14.E/④598昭15.A/
④600昭15.A/④602昭15.B/
④604昭15.B/④606昭15.B/
④605昭15.B/④607昭15.B/
④618昭15.D/④620昭15.E/
④621昭15.E/④622昭15.F/
④625昭16.A/④626昭16.B/
④627昭16.B/④629昭16.B/
④630昭16.B/④631昭16.B/
④638昭16.E/④641昭17.A/
④642昭17.A/④643昭17.B/
④644昭17.B/④645昭17.B/
④647昭17.C/④650昭17.D/
④651昭17.D/④652昭17.E/
④653昭17.E/④654昭17.F/
④655昭18.A/④659昭18.B/
④663昭18.E/④666昭19.B/
④669昭20.B/④674[明2]/
④683[明13]/④689[明治]/
④698[明30]/④698[明31]/
④702[明36,37]/④703[明37]/
④722[大11]/④725[大13]/
④728[昭1]/④729[昭1]/
④730[昭2]/④733[昭3]/
④736[昭4]/④737[昭5]/
④742[昭7]/④743[昭7]/
④750[昭9]/④755[昭11]/
④757[昭12]/④763[昭14]/
④767[昭15]/④769[昭16]/
④772[昭17]/④776[昭18]/
④777[昭19]/④802[昭11]/
④804[昭13]/④805[昭14]/
④806[昭16]/④809[昭19]/
④809[昭20]/
プララパウブ①89明32.A/
Pullan, R.P.③133明38.C/
Prang, H.②40昭11.B/
プラントル（Plantl.,C.）
①313昭5.B//②18昭10.B/
②38昭11.B//③30明21.B/
プリー → プリニウス
プリカ、ブルノ④456昭7.C/
④472昭8.C/
プリスキラ④392昭2.C/
Priswerk, A.②96昭15.B/
プリゼイス③161明44.D/
プリターク → プルタ(一)ク
Pryzwara, E.②16昭10.B/
②283昭9.B//④487昭9.B/
プリートル③9明9.E/
プリニ(一) → プリニウス
フリニウス→ プリニウス
フルニース→ プリニウス
ぷりにうす → プリニウス
プリニウス(プリニ(一)、プライニー、プリー、フリニウス、フルニース、フリニユス、フリニユス、プレニウス、ぷりにうす、プリーヌ、夫利仁由須、Plinius Iunior、Pliny［父子、大小］
①5［19］/①12［224］/
①44明20.F/①49明21.F/
①53明22.F/①57明23.D/
①60明24.B/①67明25.F//
②66昭12.F/②134昭18.C/
②154明6.C/②156明8.F/
②158明11.F/②161明15.E/
②163明16.C/②165明17.F/
②168明18.E/②176明21.C/
②200明28.B/②203明29.E/

②215明35.C/②227明40.F/
②229明42.B/②231明43.B/
②232明44.B/②238大3.B/
②239大4.B/②240大5.B/
②240大5.F/②241大6.B/
②242大6.F/②242大7.B/
②243大8.B/②244大9.B/
②245大9.B/②246大10.B/
②246大10.C/②247大11.B/
②248大11.F/②248大12.B/
②249大12.B/②250大12.F/
②258昭2.F/②266昭5.B/
②269昭6.B/②286昭9.D//
③18明14.F/③33明21.F/
③44明24.B/③52明25.E/
③58明26.E/③59明27.A/
③64明27.F/③67明28.C/
③70明28.F/③72明29.B/
③91明31.F/③104明33.F/
③108明34.C/③117明36.B/
③145明40.F/③195大5.B/
③219大11.C/③256昭5.F/
③323昭18.C//
④23[24932]/④23[24939,
24940,24943]/④24[24956]/
④25[24973,24976]/
④27[25015,2516]/
④50明16.B/④55明17.B/
④56明17.C/④68明20.C/
④76明21.B/④79明22.F/
④86明24.B/④90明25.B/
④109明28.F/④119明31.B/
④187明41.B/④191明42.A/
④211明43.D/④273大4.B/
④289大5.B/④306大6.C/
④397大15.C/④496昭9.D/
④501昭9.G/④630昭16.B/
Plinius Senior①5［19］/
フリニユス→ プリニウス
フリニユスト→ プリニウス
プリーヌ→ プリニウス
プリープ、アー②238大3.F/
プリミーシウス → プロメエチウス
プリュ(一)タ－ク → プルタ(一)ク
プリュータルク→ プルタ(一)ク
プリュタルキュス → プルタ(一)ク
プリュ(一)タルク → プルタ(一)ク
フリュネ②99昭15.D/
プリンツ①143明42.C/
プリンニグル④381大15.C/
プルー①328昭6.B//④448昭6.E/
④453昭7.B/④483昭9.B/
Poole, R.L.③82明30.C/
③89明31.C/
プルウターク → プルタ(一)ク
プルウタルヒオス → プルタ(一)ク
プルウドン④48明15.D/
Purser,L.C.③107明34.B//
④767[昭15]/
プルスオルド、ジョン
④108明28.D/
Poulsen, F.③186大3.D/
③296昭13.C/
プルタ(一)ク(プルタルヒ、プロターク、プロタルク、プルタルコス、プリュ(一)ターク、プリュ(一)タルク、プルウタルヒオス、プリュタルキュス、プラタルク、プルタークス、プルターチ、プルウターク、プルタルキ、プリターク、プラターク、プルターコス、プルタルクス、プルタルフイー、プルタルキク、プルータール、プリュータルク、Plutarchus, loutarkhos)［早稲田講義錄、大山千代雄、

高橋五郎 ］
①5［19］/①30明13.C/
①40明19.C/①43明20.C/
①47明21.C/①48明21.C/
①51明22.B/①56明23.C/
①57明23.D/①70明26.C/
①79明29.C/①83明30.C/
①86明31.0/①90明32.C/
①94明33.C/①97明34.C/
①101明35.C/①102明35.C/
①105明36.B/①106明36.C/
①110明37.B/①113明37.C/
①115明37.C/①120明38.C/
①121明38.C/①124明39.A/
①128明39.C/①138明41.C/
①165大2.C/①166大2.C/
①174大3.C/①182大3.C/
①256大14.C/①257大14.C/
①267大15.C/①277昭2.C/
①278昭2.C/①287昭3.B/
①316昭5.C/①317昭5.C/
①332昭6.C/①377昭9.C/
①378昭9.C//②19昭10.B/
②120昭17.C/②142昭19.C/
②144昭19.C/②162明16.B/
②163明16.E/②165明17.B/
②178明22.B/②186明24.B/
②190明25.B/②200明28.B/
②205明31.B/②210明33.B/
②217明36.B/②218明36.C/
②219明37.B/②220明37.C/
②222明38.C/②229明42.B/
②237大3.B/②239大4.B/
②278昭8.B//③9明9.E/
③13明11.C/③20明16.C/
③24明18.E/③25明19.B/
③29明20.F/③30明21.B/
③37明22.D/③41明23.C/
③45明24.C/③50明25.C/
③56明26.C/③65明28.A/
③68明28.D/③72明29.B/
③80明30.B/③87明31.B/
③88明31.C/③96明32.C/
③102明33.C/③108明34.C/
③114明35.C/③117明36.B/
③129明37.C/③134明38.C/
③137明39.B/③141明39.E/
③145明40.F/③160明44.B/
③163明45.B/③175大2.C/
③185大3.C/③193大4.C/
③201大6.B/③271昭8.C/
③290昭12.C/③302昭14.B/
③326昭19.C//④35明12.A/
④39明13.C/④40明14.B/
④48明15.D/④50明16.A/
④50明16.B/④59明18.B/
④70明20.D/④72明21.B/
④76明21.B/④77明21.B/
④86明24.B/④90明25.B/
④107明28.B/④110明29.B/
④112明29.C/④128明33.C/
④137明35.B/④145明36.C/
④149明37.B/④151明37.B/
④152明37.C/④154明37.C/
④157明38.A/④162明38.C/
④171明39.C/④175明40.B/
④188明41.C/④191明42.A/
④195明42.B/④235明45.C/
④246大2.B/④250大2.C/
④266大3.C/④280大4.C/
④346大11.B/④353大12.C/
④361大13.C/④364大14.A/
④365大14.B/④404昭3.B/
④432昭5.C/④451昭7.A/
④470昭8.B/④482昭9.A/
④498昭9.D/④534昭11.C/
④546昭12.A/④556昭12.C/
④565昭13.A/④569昭13.B/
④590昭14.C/④612昭15.C/
④637昭16.D/④704[明38]/
④754[昭11]/

プルタークス → プルタ(一)ク
プルターコス → プルタ(一)ク
プルターチ → プルタ(一)ク

プルタルキ → プルタ(一)ク
プルタルキク→ プルタ(一)ク
プルータールク→ プルタ(一)ク
プルタルクス → プルタ(一)ク
プルタルコス → プルタ(一)ク
プルタルヒ → プルタ(一)ク
プルタルフイー→ プルタ(一)ク
Przywara,E.④429昭5.B/
Przeworski,Stefan③271昭8.C/
プルトー → プルートー(神)
プルートー(神)(プルトン、プルトー)
②239大4.B/②255大15.F//
③51明25.D/
プルトン → プルートー(神)
プルロタン②162明16.B/
Playfair,A.W.④791[大3]/
プレーフェア、S.③24明18.F/
プレイトー → プラトーン
プレイトウ→ プラトーン
プレイトオ → プラトーン
プレイフェア(Playfair ,A.W.)
②240大5.A//④284大5.A/
④713[大3]/
Préchac,F.④550昭12.B/
プレツ(Ploetz, Karl)③89明31.C//
④120明31.C/④393昭2.C/
④418昭4.C/
ぷれとー → プラトーン
プレト(一) → プラトーン
プレートー → プラトーン
プレトウ → プラトーン
プレ(一)トオ → プラトーン
プレートス → プラトーン
プレトノフ①374昭9.B/
Plethon③182大3.B/
プレニウス→ プリニウス
プレハノフ④748[昭9]/
Preller, L.②283昭9.B//
④487昭9.B/
Prehn,J.④242大2.B/
プレンティス、E.P.②117昭17.A/
Preusehn, E.③167明45.C//
④249大2.C/
プロウダス、ヂョン・デ
④161明38.C/
プロ(ウ)ータス → プラウタ(チ)ス
プロゥチノス → プローティーノス
プロカルド①68明26.A/
プロクタテス②189明24.E/
プロクラス → プロクロス
プロクルステ(エ)ス
①110明37.B//④238明45.D/
プロクロス(プロクラス、Ploclus)
①54明23.B//②141昭19.B/
②190明25.B/②281昭9.B//
③60明27.B/③70明28.F/
③218大11.B//④100明27.B/
④486昭9.B/
フロージット③126明37.B/
普[プロシャ]國中等學校
③59明27.A/
プロセルピナ②254大15.B/
プロターク → プルタ(一)ク
プロタゴラ → プロタ(一)ゴラス
プロタゴーラス→ プロタ(一)ゴラス
プロタ(一)ゴラス(プロトゴラス、プロタゴラ、プロタゴーラス、Protagoras、プロタゴリアン)
①104明36.B/①124明39.B/
①131明40.B/①212大8.E/
①243大13.A/①243大13.B/
①253大14.B/①254大14.B/
①255大14.B/①274昭2.B/
①287昭3.B/①288昭3.B/
①290昭3.B/①302昭4.B//
②89昭14.E/②101昭15.E/

②108昭16.B/②113昭18.E/
②118昭17.B/②190明25.B/
②236大2.B/②284昭9.B//
③117明36.B/③182大3.B/
③189大4.B/③222大12.B/
③289昭12.B/③309昭15.B/
③315昭16.B//④64明19.C/
④100明27.B/④143明36.B/
④149明37.B/④150明37.B/
④158明38.B/④185明41.B/
④195明42.B/④244大2.B/
④256大3.B/④260大3.B/
④274大4.B/④365大14.B/
④413昭4.B/④416昭4.B/
④454昭7.B/④467昭8.B/
④470昭8.B/④488昭9.B/
④511昭10.B/④525昭11.B/
④570昭13.B/④586昭14.B/
④587昭14.B/④620昭15.E/
④666昭19.B/④730[昭2]/

プロタゴリアン→ プロタ(一)ゴラス

プロタルク → プルタ(一)ク

プロヂカス③189大4.B/

プロチナス→ プローティーノス

プロチ(一)ノス → プローティーノス

プロチーヌス→ プローティーノス

ぷろちゆーす→ プローティーノス

プロチ(一)ン → プローティーノス

プロチュース→ プローティーノス

プロテーヌス→ プローティーノス

プロテイヌス → プローティーノス

プロティノス → プローティーノス

プロテイノス → プローティーノス

プロ(一)ティーノス(プロテ(チ)ヌス、プロチ(一)ノス、プロゥチノス、プロティノス、プロテイノス、プロ(一)チン、プロテイヌス、プロチュース、プロテーヌス、プロチナス、プロチーヌス、ぷろちゆーす、Plotinos、Plotin)

①60明24.B/①201大7.A/
①222大10.B/①224大10.D/
①228大11.A/①237大12.B/
①265大15.B/①285昭3.A/
①286昭3.B/①287昭3.B/
①300昭4.B/①302昭4.B/
①327昭6.B/①328昭6.B/
①358昭8.B/①373昭9.A/
①374昭9.B//②11昭10.A/
②11昭10.B/②12昭10.B/
②17昭10.B/②18昭10.B/
②33昭11.B/②35昭11.B/
②39昭11.B/②54昭12.B/
②59昭12.B/②72昭13.B/
②79昭14.B/②80昭14.B/
②93昭15.B/②96昭15.B/
②99昭15.D/②108昭16.B/
②118昭17.B/②119昭17.B/
②191明25.D/②256昭2.B/
②261昭4.B/②268昭6.B/
②282昭9.B//③61明27.B/
③78明29.D/③92明32.A/
③111明35.B/③126明37.B/
③146明41.B/③172大2.B/
③178大2.D/③202大6.B/
③215大10.B/③223大12.B/
③234大15.B/③238昭2.B/
③243昭3.B/③252昭5.A/
③264昭7.B/③268昭8.A/

③273昭9.A/③279昭10.A/
③285昭11.B/③289昭12.B/
③295昭13.B/③313昭16.A//
④70明20.D/④114明30.B/
④115明30.B/④④130明34.B/
④131明34.B/④143明36.B/
④156明37.D/④166明38.F/
④186明41.B/④228明45.B/
④233明45.B/④244大2.B/
④258大3.B/④286大5.B/
④332大9.B/④337大10.B/
④357大13.B/④367大14.B/
④368大14.B/④378大15.B/
④413昭4.B/④439昭6.B/
④442昭6.B/④450昭7.A/
④466昭8.A/④482昭9.A/
④486昭9.B/④488昭9.B/
④502昭10.A/④504昭10.B/
④528昭11.B/④531昭11.B/
④571昭13.B/④587昭14.B/
④605昭15.B/④606昭15.B/
④630昭16.B/④658昭18.B/
④664昭19.A/④666昭19.B/
④779[昭20]/④802[昭10]/
プロテシラウス王④552昭12.B/
プロテヌ(チ)ス →プローティーノス
プロトゴラス → プロタ(一)ゴラス
プロピデス④510昭10.B/
プロファヌス④383大15.D/
プローブス(Probus帝)
②60昭12.C/②233明44.C/
Properius①5[19]/
プロペルチュース②201明28.E/
プロミューシュス→ プロメエチウス
プロメエチウス(プロメシウス、プロメ(一)トイス、プロメテ(一)、プロメ(一)テウス、プロメエテ、プロメテーオ、プリミーシウス、プロメシュス、プロミューシュス、Prometheus)①125明39.B/
①161大2.A/①211大8.D/
①223大10.B/①230大11.B/
①231大11.B/①275昭2.B/
①278昭2.D/①281昭2.D/
①289昭3.B/①314昭5.B/
①343昭7.B/①357昭8.A/
①360昭8.B/①375昭9.B/
①383昭9.D//②24昭10.D/
②33昭11.B/②54昭12.B/
②55昭12.B/②63昭12.D/
②80昭14.B/②81昭14.B/
②94昭15.B/②106昭16.B/
②118昭17.B/②119昭17.B/
②135昭18.D/②161明15.E/
②234明45.B/②252大14.D//
③24明18.E/③92明32.B/
③109明34.D/③117明36.B/
③158明43.D/③255昭5.D/
③261昭6.D/③267昭7.D/
③268昭8.A//④136明35.B/
④247大2.B/④255大3.B/
④299大6.A/④313大7.B/
④345大11.B/④348大11.D/
④365大14.B/④387昭2.A/
④390昭2.B/④396昭2.D/
④400昭3.B/④434昭5.D/
④435昭5.D/④439昭6.B/
④447昭6.D/④466昭8.A/
④489昭9.B/④540昭11.D/
④559昭12.D/④560昭12.D/
④584昭14.B/④658昭18.B/
プロメエテ→ プロメエチウス
プロメシウス → プロメエチウス
プロメシュス → プロメエチウス
プロメシュース → プロメエチウス
プロメテ (一)→ プロメエチウ

ス
プロメ(ー)テウス → プロメエチウス
プロメテーオ → プロメエチウス
プロメ(ー)トイス → プロメエチウス
Proller,L.④493昭9.C/
フワイヂアス → フ井デイアス
フワイロー → フィロン
フ井ヂアス → フ井デイアス
フヰジアス→ フ井デイアス
フ井ヂヤス → フ井デイアス
フ井デアス → フ井デイアス
フヰデアス → フ井デイアス
フ井デイアス(フイヂアス、フィデアス、フヰデアス、フ井デ井アス、フェービアス、フィジアス、フィディアス、フ井ヂアス、ヒデヤス、フィデアス、フハイジャス、フ井ヂヤス、フワイヂアス、フヂアス、フヒジヤス、フクジアス、フヰジアス、ふいぢあす)
①70明26.C/
①78明29.A/①80明29.D/
①83明30.C/①114明37.C//
②183明23.B/②186明23.E/
②234明45.B/②246大10.B/
②250大13.A//③37明22.D/
③38明22.D/③48明25.B/
③72明29.B/③76明29.D/
③83明30.D/③89明31.C/
③109明34.D/③151明42.D/
③175大2.C/③186大3.D/
③187大3.D/③207大7.C/
③213大9.D//④41明14.B/
④74明21.D/④128明33.C/
フ井デ井アス → フ井デイアス
フ井リップ → ヒリップ王
フ井リップス → ヒリップ王
フ井ロン → フィロン
ペー②62昭12.D/
ペアリング、モーリス
①180大4.B/
Paget, S.③121明36.C/
ペイシストラタス(パイシストラダス)
②174明20.E/②177明21.E/
Päis,Ettore④675[大正]/
ペイタ → ペイ(エ)ター
Pater,H.④610昭15.C/
Peter,W.④615昭15.C/
ペイ(エ)ター(ペイタア、ペーター、ペイタ、Pater)、ヲ(ウォ)ルタア(ウヲータ、オルター)、ウイリアム?Walter,Pater)
①76明28.B/①86明31.B/
①142明42.B/①144明42.D/
①162大2.B/①164大2.B/
①170大3.B/①173大3.B/
①179大4.B/①187大4.B/
①189大4.B/①196大6.B/
①221大10.B/①232大11.D/
①246大13.B/①255大14.B/
①259大14.D/①274昭2.B/
①286昭3.B/①289昭3.B/
①314昭5.B/①326昭6.B/
①327昭6.B/①330昭6.B/
①336昭6.D/①337昭6.D/
①338昭6.E/①343昭7.B/
①346昭7.B/①359昭8.B/
①362昭8.B/①366昭8.D/
①377昭9.B/①383昭9.D//
②12昭10.B/②46昭11.D/
②54昭12.B/②100昭15.D/
②118昭17.B/②120昭17.B/
②126昭17.D/②229明42.B/
②230明42.D/②244大9.B//
③66明28.B/③84明30.D/

③90明31.D/③109明34.D/
③119明36.B/③140明39.D/
③141明40.B/③210大8.D/
③213大9.D/③244昭3.B/
③246昭4.A/③248昭4.B/
③250昭4.D/③253昭5.B/
③267昭7.D/③299昭13.D/
③326昭19.D//④108明28.D/
④172明39.D/④241大2.B/
④282大4.D/④283大4.D/
④296大5.D/④311大7.A/
④319大7.D/④323大8.B/
④330大9.B/④355大12.D/
④356大13.A/④361大13.D/
④408昭3.D/④421昭4.D/
④428昭5.B/④433昭5.D/
④434昭5.D/④435昭5.D/
④445昭6.D/④446昭6.D/
④447昭6.D/④453昭7.B/
④454昭7.B/④461昭7.D/
④538昭11.D/④540昭11.D/
④559昭12.D/④593昭14.D/
④595昭14.D/④618昭15.D/
④619昭15.D/④631昭16.B/
④635昭16.D/④636昭16.D/
④650昭17.D/④721[大10]/
④724[大13]/④729[昭1]/
④733[昭3]/④743[昭7]/
④758[昭12]/④773[昭17]/
ペイン、ダブリュ・エッチ
①63明25.B//④90明25.B/
ペインター(Painter)①42明20.B//
②178明22.B//④231大1.B/
ペエトラルカ → ペトラルカ
Peghaire,C.S.④549昭12.B/
ペサゴラス→ ピタ(サ)ゴラス
ペーシル④69明20.C/
ペスタロッチ②256昭2.B//
④568昭13.B/
ペーター → ペイ(エ)ター
ペーターゼン④668昭19.D/
ペタゴラス→ ピタ(サ)ゴラス
ペッシュ、ティルマン
④376大15.B/
ペツラルカ → ペ(エ)トラルカ
ペテー④115明30.B/
ペディエ②136昭18.D/
Peter,H.④610昭15.C/
Peters,Th.④544昭11.F/
ペテロ(ピーテル、ピートル、聖ペトル、彼得、伯多祿、Peterus,Peter)
①183大4.C//②61昭12.C//
③198大5.C/③272昭8.C//
④26[24997]/④69明20.D/
④88明24.D/④95明26.B/
④136明35.B/④139明35.C/
④198明42.D/④219明44.C/
④287大5.B/④291大5.C/
④307大6.D/④317大7.C/
④326大8.C/④341大10.D/
④347大11.C/④353大12.C/
④369大14.C/④416昭4.C/
④445昭6.D/④555昭12.C/
④570昭13.B/④571昭13.C/
④572昭13.C/④770[16]/
ペトラーカ→ ペ(エ)トラルカ
ペトラーク → ペ(エ)トラルカ
ペトラチオ③31明21.B/
ペトラルカ(ペエトラルカ、ペトラーク、ペトラーカ、Petrarch, Petrarca Francesco)
①57明23.D/①83明30.C/
①84明30.C/①126明39.B/
①322昭5.D//②71昭13.B/
②95昭15.B/②108昭16.B/
②123昭17.C/②178明22.B/
②184明23.C/②208明32.D/
②230明42.F/②285昭9.D//
③44明24.B/③45明24.C/
③51明25.D/③52明25.D/
③56明26.D/③68明28.D/
③79明30.A/③80明30.B/

③84明30.D/③90明31.D/
③134明38.D/③135明38.D/
③141明40.B/③211大9.B/
③228大13.D/③241昭2.D/
③284昭11.A/③315昭16.B/
③317昭16.D//④152明37.B/
④163明38.D/④211明43.D/
④266大3.C/④297大5.D/
④④318大7.D/④383大15.D/
④420昭4.D/④434昭5.D/
④446昭6.D/④495昭9.D/
④517昭10.D/④562昭12.E/
④575昭13.D/④617昭15.D/
④618昭15.D/④636昭16.D/
④637昭16.D/④669昭19.E/
④674[明治]/④704[明38]/
Petrie,Fliamaers④344大11.A/
ペトリー、フリンダース
④224明45.A/④548昭12.A/
ペトリー(Petrie, R.)
②231明44.A//③77明29.D/
③165明45.B/
ペトリオチズム、ウォード
④299大6.A/
(聖徒)ペトル→ ペテロ
ペトルス③265昭7.C/
Petrus Hipanus②72昭13.B/
ペトロ(ー)ニウス②110昭16.D/
②112昭16.D//③156明43.C/
③286昭11.D//④102明27.C/
④183明41.B/④635昭16.D/
④636昭16.D/④647昭17.C/
ペ子ロープ③24明18.F/
Pelagianisumus → ペラギウス
ペラギウス(Pelagianisumus)
①315昭5.B//③218大11.B//
④337大10.B/④401昭3.B/
④438昭6.B/
ペラギヤ(聖女) ④42明14.C/
ペラン、ジャン①253大14.B//
④364大14.B/
ペリ①86明31.B//②204明30.B//
③270昭8.B/
ペリー④757[昭12]/
ペリー、ヂョルジュ・ヂー
④191明42.B/④197明42./
ペリー(Perry,R.B.)①216大9.B//
④226大1.B/④332大9.B/
ペリー→ ペーリー
ペーリー(ペリー)①325昭6.A//
④411昭4.A/
ペリアス③86明30.F//
④114明30.B/
ペリアンダア → ペリアンドル
ペリアンドロス → ペリアンドル
ペリアンドル(ペリヤンドル、ペリアンドロス、ペリアンダア、 Periander)
①5[19]//②168明18.E/
②177明21.E//③42明23.E/
③70明28.F//④115明30.B/
ペリイ、エー・エム④694[明24]/
ペリイクリス → ペリクレス
Perrius①5[19]/
Pelius, Rudolf von②262昭4.B/
ペリキュルス→ ペリクレス
ペリクリ(ー)ス → ペリクレス
ペリクリーズ → ペリクレス
ペリグリーノス④682昭22.D/
④686昭23.D/
ペリクレー → ペリクレス
ヘリクレス → ペリクレス
ぺりくれーす → ペリクレス
ペリクレエス → ペリクレス
ペリクレス(ペリクルス、ペリクリーズ、ペリクリ(ー)ス、ペリクレエス、ペリクル、ペリクレー、ペルクレス、ペリクルス、ヘリクレス、ペリクルズ、ペリキュルス、ぺりくれーす、Pericles)①48明21.C/

①56明23.C/①59明24.B/
①61明24.C/①65明25.C/
①70明26.C/①78明29.A/
①79明29.C/①80明29.D/
①83明30.C/①87明31.D/
①91明32.C/①114明37.C/
①128明39.D/①138明41.C/
①139明41.C/①143明42.C/
①182大4.C/①183大4.C/
①190大5.C/①221大10.A/
①223大10.C/①239大12.C/
①274昭2.A/①277昭2.C/
①280昭2.D/①348昭7.C/
①368昭8.E/①378昭9.C//
②158明11.C/②160明15.E/
②161明15.E/②174明20.E/
②176明21.B/②178明22.B/
②179明22.B/②180明22.C/
②184明23.D/②186明23.E/
②195明26.C/②201明28.E/
②203明29.D/②206明31.C/
②215明35.B/②216明35.C/
②224明 39.A/②234明45.B/
②241大6.E/②273昭7.B//
③8明9.C/③10明9.E/
③13明11.C/③26明19.C/
③28明20.C/③28明20.D/
③31明21.B/③36明22.C/
③37明22.D/③40明23.C/
③48明25.B/③50明25.C/
③53明25.F/③54明26.B/
③58明26.D/③60明27.B/
③61明27.C/③69明28.D/
③71明29.B/③76明29.D/
③81明30.B/③82明30.C/
③83明30.C/③83明30.D/
③91明32.A/③94明32.C/
③96明32.C/③98明33.A/
③101明33.C/③141明40.B/
③142明40.B/③175大2.C/
③184大3.C/③207大7.C/
③327明［不明］C//
④31明9.B/④35明11.E/
④55明17.B/④61明18.E/
④64明19.C/④68明20.C/
④71明20.E/④71明21.A/
④83明23.C/④91明25.B/
④92明25.C/④93明25.E/
④100明27.B/④109明29.B/
④110明29.B/④112明29.C/
④116明30.B/④127明33.B/
④129明33.E/④156明38.A/
④165明38.D/④170明39.C/
④176明40.B/④181明40.D/
④185明41.B/④190明41.F/
④197明42.C/④210明43.C/
④232明45.B/④243大2.B/
④252大2.E/④278大4.C/
④293大5.C/④308大6.D/
④311大7.A/④314大7.B/
④345大11.B/④349大11.E/
④387昭2.A/④451昭7.A/
④590昭14.C/④613昭15.C/
④703[明37]/④733[昭3]/
④749[昭9]/
ヘリクレス → ペリクレス
ペリクル → ペリクレス
ペリクルス → ペリクレス
ペリクルズ → ペリクレス
Pelis, H.②283昭9.B/
ヘリップ → ヒリップ王
ペリパティーック派→ アリストートル
Peripatos → アリストートル
ペリヤンドル → ペリアンドル
ペリヨー、ポール①158明45.C/
Perrin,B.④610昭15.C/
④612昭15.C/
ペルガヌス③38明22.F/
ペルクリス → ペリクレス
ペルクレス → ペリクレス
Persius③59明27.A/
ペルセウス（パアセアス）［希臘勇

士譚］①110明37.B/
①112明37.B/①137明41.B/
①290昭3.C//②242大7.B/
Pelham, H.F.③126明37.A/
Pölmann, Rovert von①190大5.C/
①349昭7.C/①381昭9.C//
③75明29.C/③91明31.E/
ペルリ①129明40.A/
Pérès, J.(ペレエ、ジュ)
③119明36.B//④776[昭18]/
ペレグレーノス④682昭22.D/
ペレレメウス②215明35.C/
ペロソス④47明15.C/
ペンタメロ④726[大16]/
ペンドルフ④562昭12.E/
ペロー④728[昭1]/
ペロピダ(ー)ス①184大4.D//
②210明33.C//③36明22.C/
Pendlebury, J.D.S.(ペンドルベリー)
②98昭15.C//④613昭15.C/
Penty, Arthur J.③227大13.C/
ぽんあんかれー④200明42.F/
ポオ(ー)①327昭6.B//
②126昭17.D/
ポサイドン神(ポセイドン、ポザイドン)②166明18.B/
②221明38.B/②233明45.B//
③23明18.B//④58明18.B/
④150明37.B/④367大14.B/
④401昭3.B/
ポザイドン → ポサイドン神
ポジー、エー・ビ②175明21.A/
ポシドニオス → ポセイドニオス
ポーシャ③198大5.C//
④291大5.C/
ポステスタス④144明36.B/
ポスト、アルベルト・ヘルマン
①72 明26.E/
Post,G.④653昭17.E/
Post, L.A.③234大15.B/
Post-Nicene Fathers④612昭15.C/
ポス子ッド、ハチェソン・マツコレー②184明23.D//
④84明23.D/
ポセイドニオス(ポシドニオス、ポセトニアス、Poseidonios)
①315昭5.B//②209明32.E/
②258昭2.F//③38明22.F//
④256大3.B/
ポセイドン → ポサイドン神
ポセトニアス → ポセイドニオス
ポソケアス②200明28.B/
ポーター③145明40.F/
ポーダッハ､エーリッヒ(Podach)
②16昭10.B//④510昭10.B/
ポタロメウス(剝多魯繆斯)
①10［165］/
ポックサー(大尉)
④757[昭12]/
Poschmann,B. ④226大1.B/
ポッチェリ③224大12.D/
Pottier,E.④251大2.D/
Pott,A.④273大4.B/
ポトス①64明25.B/
ポープ(Pope)、アレキサンドル
①52明22.D//②126昭17.D//
③34明22.A/③62明27.D/
③68明28.D/③83明30.D/
③89明31.D/③158明43.D/
④98明26.D/
ポフリコラ(ポプリュラ)
①113明37.C/①115明37.C/
ポプリュラ → ポフリコラ
ポペドノスツェフ④695[明26]/
ポーベース①33明15.E/
Pomtow, H.③185大3.C/
③226大13.C//④713[大3]/
ポムペイ、セザール①79明29.C/
ポムロイ③14明11.E/
ポーラ③86明31.B/

Polycarpus④555昭12.C/
ポリーキセナス④83明23.C/
ポリグトス④172明43.F/
ポリグノオトス(ポリュグノータス、ポリグノ(一)トス、ポリグノタス)
①184大4.D//②184明23.D//
③310昭15.D//④190明41.F/
④128明33.C/④207明43.B/
④319大7.D/
ポリグノタス→ ポリグノオトス
ポリグノ(一)トス → ポリグノオトス
ポリクラテ(一)ス(ポリクレイトス)
②259昭3.B//③139明39.D/
③227大13.D/
ポリクレイトス → ポリクラテ(一)ス
ポリクレット③199大5.D/
ポリクラチダス④248大2.C/
ぽりしらてす④166明38.F/
ポリニケス・エレフィル
③161明44.D/
ポリビース→ ポリ(ュ)ビウ
ポリビアス → ポリ(ュ)ビウス
ポリビオス → ポリ(ュ)ビウス
ポリビヲス→ ポリ(ュ)ビウス
ポリュグノータス → ポリグノオトス
ポリュグノトス→ ポリグノオトス
ポリ(ュ)ビウス(ポリュビース、ポリビオス、ポリビアス、ポリュビオス、ポリビオス、ポリビース、破里伯士、Polybios、Polybius)
①117明38.E/
①199大6.E/①257大14.C/
①332昭6.C/①348昭7.C/
①380昭9.C/①385昭9.E//
②64昭12.E/②134昭18.C/
②138昭18.E/②163明16.E/
②171明19.E/②184明23.D/
②260昭3.C//③38明22.F/
③148明41.C/③226大13.C//
④56明17.C/④168明39.B/
④183明41.B/④234明45.C/
④278大4.C/④456昭7.C/
④457昭7.C/④474昭8.C/
④590昭14.C/④611昭15.C/
ポリュビース → ポリビウス
ポリュビオス → ポリビウス
ポーリュー③64明27.E/
Paul, H.③127明37.B/
Paul,N.M.④273大4.B/
Pohl,J.④242大2.B/
ポル(教授)③217大11.A/
ポルソン、リチャード
④72明21.B/
ポルチア①147明43.C/
ポルチカ②234明45.B/
ポルロック①233大11.E/
ポルロック、フレデリック(Pollock, Friedrich Sir)
①44明20.E/①372昭9.A/
ポルロック、ウィリアム
①44明20.E/
Pohlenz, M.②100昭15.D//
③307昭14.F//④611昭15.C/
④629昭16.B/
ポーロ、マルコ④493昭9.C/
ポーロ → 保羅
ポンヒー → ポンペウス
ポンペー → ポンペウス
ポンペ(一)(蘭醫)[朋百]
④560昭12.D/④674[明1]/
④701[明35]/
ポンペークラサス②209明32.E/
ポンペウス(ポンペー、ポンヒー、ポンペイ、Pompeius Trogus, Justin)

①24明10.C/①30明13.C/
①33明15.C//③11明10.C/
③36明22.C/③49明25.B/
③148明41.C//④43明14.C/
④47明15.C/④69明20.C/
④71明20.F/④71明21.A/
④278大4.C/④612昭15.C/
サイキ → さいけ
さいけ(サイキ)①130明40.B/
①258大14.D/
[Q]クイック、オリバー③173大2.B/
クインチリアヌス → ク井ンテリアス
クインチリアン → ク井ンテリアス
クインチリヤン → ク井ンテリアス
クインチェリアン → ク井ンテリアス
クインテリアヌス → ク井ンテリアス
クインテリアン → ク井ンテリアス
クウ井ンテ(チ)リアン → ク井ンテリアス
クエッケンボス(クワッケンボス)②166明18.A//
④47明15.C/
クオバヂス → シェンキエヰツチ
クオバヂイス → シェンキエヰツチ
クオ・バデス → シェンキエヰツチ
クオ・ヴァディス → シェンキエヰツチ
クオーヴヂス → シェンキエヰツチ
クオ･ヴヂス → シェンキエヰツチ
クオ(一)ワヂス → シェンキエヰツチ
クリーンセス → ク井ンテリアス
Q.Curtius(Rufus)①5[19]/
ク井ンチリヤン→ ク井ンテリアス
ク井ンテリアス(クインチリアン、クインテリアヌス、クウ井ンテ(チ)リアン、クインチェリアン、ク井ンチリヤン、クリーンセス、クインテリアン、クインチリヤン、クインチリアヌス、Quintilianus、Quintilian)①4[8]/
①5[19]/①315昭5.B//
②40昭11.B/②171明19.D/
②174明20.D/②184明23.D/
②186明24.A/②235明45.F//
③29明21.B/③30明21.B/
③40明23.B/③48明25.B/
③54明26.B/③59明27.A/
③132明38.B/③154明43.B/
③247昭4.B//④507昭10.B
クワッケンボス→クエッケンボス
ケネイ①354昭7.E/①355昭7.E/
[R] R.Meiklejohn,Co.④695[明25]/
ライクロフト、ヘンリイ(一)(Ryecroft,Henry)
①247大13.D/①307昭4.D/
①366昭8.D//③194大4.D//
④372大14.D/④720[大9]/
④724[大13]/④736[昭4]/
④748[昭9]/④763[昭14]/
Reiser,O.L.④506昭10.B/
Reisinger,E.④237大1.D/
ライス①267大15.C//
②201明28.E/②224明39.B//
④167明39.B/④292大5.C/
④627昭16.B/
Reis,E.④519昭10.E/
Reis, H.①334昭6.C/

Reiter, S.②26昭10.D/
Rider④419昭4.D/
Reitzenstain,R.(ライツェンスタイン、リヒアルド)
④358大13.B/④610昭15.C/
④612昭15.C/④615昭15.C/
Rait,R.S.④227大1.B/
Reiner,H.④487昭9.B/
Reinach, S.(ライナック)
③172大2.B/③199大5.C/
③254昭5.C//④181明40.D/
④308大6.D/④397昭2.D/
④431昭5.C/
ライヒ①129明39.E/
Reich,Emile(ライヒ、エミール)
①143明42.C//④200明43.A/
Reich,K.③303昭14.B/
③309昭15.B//④507昭10.B/
Reich,O.④487昭9.B/
ライプニッツ①242大12.E/
ライマン、パウル(ハウイ)
①353昭7.D//④460昭7.D/
④616昭15.C/
Ryle.G.③302昭14.B/③303昭14.B/
ラインハルト(演出家)
②248大11.D/
Reinhart, J.A.①105明36.B/
Reinhardt,C.W.④613昭15.C/
Reinhardt, E.(出版)②39昭11.B/
Reinhardt,K.④506昭10.B/
Reinmuth,O.W.④515昭10.C/
ラウイッス、エルンスト
①199大6.E/
Rauschenberger, W.(ラウシェンブシ、ウオルター)
③326昭19.B//④319大7.E/
④665昭19.B/
Rauppo,O.④239大1.F/
ラオダマイイヤ(王妃)
④552昭12.B/
洛氏 → ロックチャー
ラシイヌ→ ラシーヌ(ン)
ラシ子ー②207明32.A/
ラシーヌ(ン)(ラシイヌ、Racine)、ジャン
①236大12.A/①293昭3.D/
①300昭4.A//②188明24.D/
③157明43.D//④495昭9.D/
④566昭13.A/④752[昭10]/
ラジュオー、ガストン
④399昭3.A/
らすきん → ラスキン
ラスキン(らすきん、Ruskin)、ジァ(ョ)ン、ジョン)
①44明20.D/①47明21.B/
①49明21.D/①57明23.D/
①58明23.D/①60明24.B/
①62明24.D/①75明27.D/
①77明28.D/①83明30.C/
①91明32.D/①95明33.D/
①126明39.B/①134明40.D/
①135明41.A/①138明41.B/
①154明44.D/①167大2.D/
①181大4.B/①198大6.D/
①205大7.D/①210大8.B/
①212大8.D/①218大9.D/
①232大11.D/①241大12.D/
①248大13.D/①250大13.E/
①254大14.B/①255大14.B/
①269大15.D/①271大15.E/
①281昭2.D/①316昭5.B/
①320昭5.D/①327昭6.B/
①329昭6.B/①330昭6.B/
①335昭6.D/①337昭6.D/
①339昭6.E/①342昭7.B/
①346昭7.B//②15昭10.B/
②24昭10.D/②46昭11.D/
②63昭12.D/②74昭13.D/
②75昭13.E/②102昭15.E/
②182明23.B/②183明23.B/
②198明27.D/②200明28.B/
②206明31.B/②211明33.D/
②211明33.E/②215明35.B/
②218明36.D/②223明38.D/

②228明41.B/②229明42.B/
②232明44.B/②256昭2.B/
②257昭2.C/②259昭3.B/
②261昭4.B/②262昭4.B/
②268昭6.B/②273昭7.B/
②276昭7.E/②277昭8.B//
③42明23.D/③54明26.B/
③57明26.D/③62明27.D/
③65明28.B/③71明29.B/
③77明29.D/③80明30.B/
③96明32.D/③100明33.B/
③101明33.B/③104明33.D/
③105明34.B/③112明35.B/
③117明36.B/③124明36.E/
③130明37.E/③136明38.D/
③136明38.E/③140明39.D/
③149明42.A/③150明42.B/
③152明42.D/③155明43.B/
③157明43.D/③160明44.B/
③162明45.A/③163明45.A/
③171大2.B/③179大2.D/
③189大4.B/③191大4.B/
③194大4.D/③202大6.B/
③205大6.D/③209大8.B/
③213大9.D/③216大10.D/
③217大10.E/③220大11.D/
③221大11.E/③224大12.D/
③224大12.E/③228大13.D/
③228大13.E/③229大14.B/
③241昭2.D/③247昭4.B/
③250昭4.D/③255昭5.D/
③257昭6.B/③257昭6.B/
③261昭6.D/③266昭7.D/
③267昭7.D/③289昭12.B/
③305昭14.D//④49明15.E/
④96明26.B/④103明20.D/
④107明28.B/④116明30.B/
④129明33.D/④130明34.A/
④138明35.B/④142明36.B/
④144明36.b/④147明36.D/
④165明38.D/④172明39.D/
④181明40.D/④184明41.B/
④188明41.D/④189明41.D/
④190明42.A/④199明42.D
④204明43.B/④222明44.D/
④236明45.B/④237大1.D/
④238明45.D/④243大2.B/
④245大2.B/④252大2.D/
④268大3.D/④283大4.D/
④300大6.B/④318大7.D/
④319大7.D/④327大8.D/
④339大10.B/④350大12.A/
④356大13.A/④361大14.B/
④364大14.B/④372大14.D/
④385大15.D/④385大15.E/
④398昭2.E/④409昭3.E/
④437昭6.A/④440昭6.B/
④441昭6.B/④448昭6.D/
④460昭7.D/④477昭8.D/
④478昭8.D/④511昭10.B/
④538昭11.D/④594昭14.D/
④604昭15.B/④618昭15.D/
④635昭16.D/
ラズゾン③70明29.A/
ラタデチエク、フランツ・マリア
②17昭10.B/
Raderrmacher,Ed.L.④507昭10.B
Rados,C.N.③198大5.C//
④675[大正]/
Rackham, H.②17昭10.B/
②40昭11.B//④611昭15.C/
Rasche, F.①331昭6.B/
らっせる氏→ ラッセル
ラッセル、バア(一)トランド(らっせる氏、Russell,B.)
①181大4.B//②244大9.B//
③190大4.B//④200明42.F/
④227大1.B/
④256大3.B/④330大9.B/
④378大15.B/④446昭8.A/
Russell, F.W.②49昭11.E/
Russell, P.①319昭5.C//
④431昭5.C/
ラッソン③145明41.A/

ラッソン②145昭19.E/
ラッド①89明32.A/
ラッド、ヂー・チー①64明25.B//
④90明25.B/④695[明25]/
ラッヲハガン、ダブリュー・エーチ②211明33.E/
Rados,C.N④716[大5]/
Radhakrishnan,S. ④287大5.B/
羅念生②74昭13.D/
ラフアギュ、ポール④676[大正]/
ラファエ(エ)ル(ラファエロ)、サンティ①102明35.D/
①103明35.D/①313昭5.A//
③104明33.D/③129明37.D/
③135明38.D/③203大6.D/
③204大6.D/③211大9.B/
③217大10.D/③298昭13.D/
③316昭16.D/③321昭17.D/
③324昭18.D//④112明29.D/
④251大2.D/④280大4.D/
④361大13.D/④636昭1.D/
ラファエロ → ラファエ(エ)ル
Rapson,E.J④369大14.C/
ラブレ(ー)(ラベレー、ラブレエ、ラブレェ、ラブレイ、ラブレエ、ラベレース、Rablais,F.フランソワ)
①83明30.C//②117昭17.A/
②131昭18.B/②185明23.D/
②250大13.A//③77明29.D/
③228大13.D/③299昭13.D/
③305昭14.D/③311昭15.D//
④400昭3.B/④420昭4.D/
④517昭10.D/④624昭16.A/
④641昭17.A/④649昭17.D/
④651昭17.D/④661昭18.D/
④662昭18.D/④663昭18.D/
④668昭19.D/④672[明治]/
④696[明26]/④775[昭18]/
ラブレイ→ ラブレー(F.)
ラブレエ→ ラブレー(F.)
ラブレェ→ ラブレー(F.)
ラベレー → ラブレー(F.)
ラベレース→ ラブレー(F.)
ラポージ、ゲ・ド②222明 38.C/
ラマバイ、プンヂッタ①51明22.B/
ラムスデン、エッチ・エー①154明44.E/
ラムセ(ゼ)ー、サー・ダブリュー(Ramsay, William, M.)
①319昭5.C//②228明41.B//
③249昭4.C/③254昭5.C//
④139明39.C/④249大2.C/
④251大2.D/④281大4.D/
④282大4.D/④380大15.C/
④417昭4.C/④431昭5.C/
Ramband, A.③121明36.C//
④393昭2.C/
ラヴリン④606昭15.B/
ラヴ(ー)レー(ラヴェレエ)、エミーユ(ル)・ヅ(ド)
①62明24.E/①65明25.C/
①338昭6.E//②164明16.E/
②189明24.E/②194明26.B/
②276昭7.E/
ラウォール、チャールズ・エイチ①355昭7.F/
ランケ、レオポルド・フォン(Ranke, Leopold von)[世界史進講錄]
①107明36.C/①175大3.C/
①203大7.C/①204大7.C/
①206大7.D/①217大9.C/
①235大12.A/①243大13.A/
①252大14.A/①257大14.C/
①264大15.A/①318昭5.C/
①333昭6.C/①364昭8.C/
①365昭8.C/①380昭9.C/
①381昭9.C//②42昭11.C/
②85昭14.C/②98昭15.C/
②108昭16.C/②110昭16.C/
②123昭17.C/②235大2.A/

②285昭9.C//③26明19.C/
③51明25.C/③89明31.C/
③103明33.C/③114明35.C/
③115明35.C/③151明42.C/
③178大2.D/③207大7.C/
③231大14.C/③309昭15.C//
④154明37.C/④265大3.C/
④328大8.E/④369大14.C/
④374大15.A/④380大15.C/
④393昭2.C/④418昭4.C/
④422昭4.E/④431昭5.C/
④432昭5.C/④445昭6.C/
④474昭8.C/④476昭8.C/
④514昭10.C/④556昭12.C/
④565昭13.A/④572昭13.C/
④582昭14.A/④590昭14.C/
④609昭15.C/④613昭15.C/
④614昭15.C/④616昭15.C/
④633昭16.C/④642昭17.A/
④648昭17.C/④649昭17.C/
④670[明治]/④701[明35]/
④765[昭15]/
ランドルミー、P.②111昭16.D/
ランボウ（詩人）①367昭8.D//
④549昭12.B/④558昭12.D/
④741[昭和]/
リアンチスオ①202大7.A/
Riekher④402昭3.B/
リーグル④539昭11.D/
リゴルド①17明7.C/
リゴリオ、アルフォンソ・マリア・デ④263大3.C/
リザウェル③129明37.C/
リザヤノフ④730[昭2]/
リシュ③274昭9.A/
リシェ（一）①357昭8.A/
Rischette③122明36.C/
Rees(リース)④170明39.C/
Rieth, O.②282昭9.B/②283昭9.B/
リース（Riess）（教師、ドクトル）
①95明4.A//②176明21.C/
②201明29.A/②203明30.A/
②207明32.A//③59明27.A/
③71明29.A//
Rieth, O.②282昭9.B/②283昭9.B/
Riesse,H.④606昭15.B/
Riesse, Ludwig → リース、ルードヰヒ
リース、ルードヰヒ（ルードウィヒ、Riesz, Riesse, Ludwig）
①223大10.C/①224大10.C/
①231大11.C//③212大9.C/
③235大15.C/③249昭4.C//
④235明45.C/④347大11.C/
④473昭8.C/④672[明治]/
④697[明29]/
リチャーズ(&オグデン)
④516昭10.D/
リチャーズ、ハーバート（Richards, H.）
③165明45.B/③172大2.B/
Richard, J.A.②60昭12.C/
リチャード④482昭9.A/
リチャードソン（Richardson, E.C.）
①124明39.A//③137明39.A/
リッカー④442昭6.B/
リッカート→ リッケルト
Rick, H.③202大6.B/
リッケルト（リッカート、Rickert,H.）、ハインリッヒ①231大11.C/
①234大11.F/①236大12.B/
①238大12.B/①275昭2.B/
①286昭3.B/①288昭3.B/
①289昭3.B/①345昭7.B/
①353昭7.D/①377昭9.B//
③71明29.A/③222大12.B//
④338大10.B/④346大11.B/
④442昭6.B/④452昭7.B/
④454昭7.B/④455昭7.B/
④474昭8.C/④530昭11.B/

Risch, E.②87昭14.D/
リッター、コンスタンティン（Ritter, C.）②18昭10.B/
②40昭11.B/②284昭9.B//
③223大12.B/③270昭8.B//
④441昭6.B/④490昭9.B/
リッター → リッテル
Ritter, H.②283昭9.B//④487昭9.B/
④493昭9.C/
Ritter, J.②58昭12.B/
リッチ①269大15.D/
リッチ、マテオ(利瑪竇)
①227大10.F//②154明6.B//
③312昭15.F//④84明23.C/
④279大4.C/④309大6.E/
④340大10.C/④669昭19.F/
④671[慶長]/④683[明13]/
④768[昭16]/④803[昭11]/
リッチー(理智)③28明20.D/
リッチル→ リッチュル
リッチュル(リッチル)
②25昭10.D//④316大7.B/
リッヂウェー(Ridgeway,W.)
①278昭2.C/①350昭7.C//
④354大12.D/④392昭2.C/
リッテル①288昭3.B/
リッテル④700[明33]/
リッテル、モリッツ③216大10.C/
Rittelmeier④235大1.C/
Riezler, K.②282昭9.B/
Read, Herbert②36昭11.B/
リドレー、F・A.③306昭14.E/
Richt, Ch.①326昭6.A/
Reeb, Wilhelm①334昭6.C/
Ripl,W.④610昭15.C/
Ripley,W.Z.④364大14.A/
リベック①68明26.A//
③130明37.D/
リーベル①22明9.E/
利瑪竇→ リッチ、マテオ
リーメル(ス)、ロベルト
②204明30.C//④297大5.E/
リヤ(ア)ザノフ①275昭2.B/
①313昭5.B/
リャシチェンコ②47昭11.E/
Rüger,C.④515昭10.C/
龍軍①114明37.C/
龍樹③205大7.B/
Rüdiger,Horst③295昭13.B/
リュレース②157明10.F/
梁啓超④133明34.D/
リヨースレル③20明16.D/
リール、A.①163大2.B/
リルケ(Rilke)②99昭15.D/
②125昭17.D//③268昭8.A/
③311昭15.D//④619昭15.D/
④651昭17.D/
Riraud, A.②274昭7.B/
林語堂④570昭13.B/
ルクリュ、エリゼ②130昭18.A/
ルウサウ、ジャン・ジャック → ル(一)ソー
Rougier③280昭10.B/
リンナス(林奶私)④27[25016]/
Ruge,A.④226大1.B/
ルシアス④51明16.B//
④116明30.B/
ルーズベルト①150明44.A/
ル(一)ソー(ルッソウ, ルウサウ、ルーソオ、ジャン・ジャック、婁騷・蘆騷、戎雅窟、Rousseau,J.J.)
①62明24.E/①242大12.E/
①288昭3.B//②161明15.E/
②163明16.E/②234明45.B//
③20明16.C/③119明36.B/
③164明45.B/③221大11.E//
④33明10.E/④48明15.E/
④53明16.E/④85明23.E/
④183明41.B/④335大9.E/
④356大13.B/④372大14.E/
④495昭9.D/④577昭13.E/
④715[大4]/
ルーソオ→ ル(一)ソー

Ruhe,A.④273大4.B/
ルッソウ → ル(ー)ソー
Rüdiger, Horst②18昭10.B/
② 75昭13.D//④606昭15.B/
ルナール④635昭16.D/
ルナン、エル子(ネ)スト
(Renan,E.)
③50明25.C/③51明25.C/
③74明29.C//④128明33.C/
④260大3.B/④291大5.C/
④303大6.B/④339大10.C/
④347大11.C/④379大15.C/
④390昭2.B/④494昭9.C/
④583昭14.B/④592昭14.C/
④648昭17.C/④670昭20.C/
④679[昭和]/④707[明41]/
④716[大4]/④720[大10]/
④755[昭11]/④763[昭14]/
④770[昭16]/
ルヌーヴィエ → ルヌーヴェー
ルヌーヴェー(ルヌーヴィエ)
③118明 36.B/③197大5.B/
ルービンシュタイン③211大8.D/
Rupprecht,E.④622昭15.E/
ルーベンス③274昭9.B/
ルヲームセ④[24942]/
ルーン､ヘンドリック・ヴァン(ウイエム)[前田晃]
①252大14.A/
①357昭8.A/①371昭9.A//
②136昭18.D/②144昭19.D/
②146昭20.A/②251大14.A//
④356大13.A/④363大14.A/
④370大14.D/④375大15.A/
④443昭6.C/④456昭7.C/
④624昭16.A/④640昭17.A/
④794[大13]/
レアンデル②62昭12.D/
レイ、アベル(Ray, A.)
②51昭11.F/②91昭14.F/
②282昭9.B//③247昭4.B/
③264昭7.B/③280昭10.B/
③283昭10.F//④520昭10.F/
レー、オー④471昭8.B/
Radet, G.②61昭12.C/
Reidl,C.C.④484昭9.B/
Reinald,C.④429昭5.B
レイノオ(ウ)、ル井(イ)
③317昭16.D//④629昭16.B/
④635昭16.D/
Reynolds,R.L.④590昭14.C/
Reymond, A.③280昭10.B/
レウウス④55明17.B/
Règis, L.M.②38昭11.B/
Regling,K.④417昭4.C/
レッグ(理雅各) ④43明14.D/
Regenbogen, O.②40昭11.B/
Röck, H.③166明45.B/
Rösener,K.④256大3.B/
レダコフ、アレキサンドル
④59明19.C/
列子④110明28.B/
レードラー①309昭4.E/
レーナック、サロモン
①307昭4.D/①366昭8.D//
③249昭4.D/
レナン、エルネスト → ルナン、エル子スト
Renel③129明37.C/
レバンスタイン、イダ
③215大10.C/
レーブレー、エミル・ド
②176明21.B/
レーベデフ、N.②251大14.B/
レ[デ？]マスセンス → デモスセニ(ン)ス
レーベル④168明39.B/
Roemer,W.F.④464昭7.E/
レミュス→ ロムルス
Rehm,A.④598昭14.F/
Rehm, W.①364昭8.C//
②47昭11.D/②63昭12.D/
②143昭19.C//③325昭19.A//
④451昭7.A/④458昭7.C/

④558昭12.D/④614昭15.C/
レムケ(Rehmke, J.?)③71明29.A/
Rehmke, J.③172大2.B/
レムス②246大10.B/
Relton,H.M.④292大5.C/
レヴィーユ、ジャン②257昭2.B/
レンギル②133昭18.C/
Renz,K.④227大1.B/
ロー、シー・エ④234明45.C/
ロー、フレデリック①271大15.E/
ロアジー、アルフレッド
②257昭2.B/
ロ(一)イス①89明32.A/
①129明40.A//③53明26.A/
③138明39.B/③201大6.B/
Rois-Raymond,K.du④500昭9.F/
老子(老荘)①64明25.B/
①119明38.B/①136明41.B/
①164大2.B/①173大3.B//
②194明26.B//④101明27.B/
④106明28.B/④119明31.B/
④160明36.B/④606昭15.B/
ロエスレル③25明19.B/
Roques,P.④227大1.B/
Roser, D.②58昭12.B/
Rothert④394昭2.C/
Rosalewski,W.④237大1.D/
ロジデストワェンスキイ
④76明21.B/
Rossiter, A.P.①352昭7.D/
Rogers,A.K.④231大1.B/
④238大1.E/
Rogers,A.P.④429昭5.B
Rogers,K.④527昭11.B/
ロ(一)ジャーズ、レギナルド
(Rogers,R.)[藤井健治郎、藤本慶祐、北昤吉]
①169大3.B/
①171大3.B/①172大3.B/
①253大14.B/①255大14.B//
③180大3.B/③184大3.B//
④205明43.B/④230大1.B/
④258大3.B/④263大3.B/
④314大7.B/④367大14.B/
④510昭10.B/
ローシュグロス③88明31.C/
Ros, Jan.S.T.②98昭15.C//
④767[昭15]/
ロス、ヰリアム・ディヴィド(Ross, W.David)①375昭9.B//
②11昭10.A/②16昭10.B/
②19昭10.B/②33昭11.A/
②36昭11.B/②53昭12.A/
②264昭4.F//③223大12.B/
③239昭2.B/③288昭12.A/
③293昭13.A/③303昭14.B/
③313昭16.A//④402昭3.B/
Rose,G.B.④280大4.D/
Rose, H.J.A.②47昭11.D//
④610昭15.C/
ローズ、ホランド(Rose, J. Holland)
①256大14.C/①365昭8.C//
②262昭4.B//④745[昭8]/
ロストブッエフ(ロストフツェフ、ロストヴツェフ、Rostovtzeff, M.)
① 240大12.C/①247大13.C/
①291昭3.C/①297昭3.E/
①319昭5.C/①364昭8.C//
②22昭10.C/②42昭11.C/
②50昭11.E/②77昭13.E/
②78昭13.E/②100昭15.D/
②110昭16.C/②123昭17.C/
②142昭19.C/②143昭19.C/
②147昭20.C/②280昭8.E//
③254昭5.C/③277昭9.C/
③310昭15.C//④422昭4.E/
④513昭10.C/④536昭11.C/
④556昭12.C/④609昭15.C/
④633昭16.C/
ロストフツェフ → ロストブッエフ
ロストヴツェフ → ロストブッ

エフ
Rosebery,Lord④211明43.D/
ローズベルト③144明40.D/
Rosmer, Kuri①325昭6.A/
ロセッチ → ロッセチ、ダンテ・ガブリエル
ローゼンクランツ①327昭6.B//④455昭7.B/
Rosenthal,E.④519昭10.E/
Rosenthal,L.④237大1.D/
ローゼンベルク②142昭19.B//④743[昭7]/
Rosenberg,A.(ローゼンベルグ)④615昭15.C/④637昭16.D/
Rossbach, O.③172大2.B/
ロダアン → ロダン
Rothacker,E.④616昭15.C/
ロダン(ロダアン、Rodin)、アウガスト(オーギュスト、アウギュスト、A.)①116明37.D/①159明45.D/①167大2.D/①176大3.D/①191大5.D/①198大6.D/①199大6.D/①205大7.D/①206大7.D/①212大8.D/①248大13.D//②235明45.D/②255大15.D/②257昭2.D//③148明41.D/③157明43.D/③162明44.D/③168明45.D/③178大2.D/③186大3.D/③187大3.D/③204大6.D/③205大6.D/③207大7.D/③208大7.D/③210大8.D/③213大9.D/③220大11.D/③250昭4.D/③268昭8.A/③311昭15.D/③316昭16.D//④136明35.B/④222明44.D/④238大45.D/④252大2.D/④267大3.D/④268大3.D/④269大3.F/④281大4.D/④294大5.D/④296大5.D/④305大6.B/④308大6.D/④318大7.D/④319大7.D/④327大8.D/④335大9.D/④342大10.D/④348大11.D/④408昭3.D/④419昭4.D/④566昭13.B/④619昭15.D/④651昭17.D/④808[昭18]/
ロダンテ②253大14.F/
ローヂエー(ロディエ、Rodier,G.)③70明28.F/③79明29.F/③132明38.B/③247昭4.B/
ロック①288昭3.B/
ロックチャー(洛氏)①29明12.F/
ロッシュ③132明38.B/
ロツシェア③93明32.B/
ロッセチ、ダンテ・ガブリエル(ロセッチ)③58明26.D/③84明30.D/③134明38.D/
Rossetti, Christian②75昭13.D/
Rossow③119明36.B/
ロヂャーズ、W.H/④767[昭15]/
Rotter, G.②95昭15.B/
Rotten, Elizabeth③173大2.B/
ロッツ、ヨハンネス④644昭17.B/
Rohde, Erwin(ローデ)③61明27.B/③113明35.B//④351大12.B/④358大13.B/
ロディエ → ローヂエー
Rohden,P.R.④514昭10.C/
ローデンワルト(Rodenwaldt, G.)②98昭15.D/②136昭18.D/
Rodocanachi, E.③254昭5.C/
ロートン、フレデリク①116明37.D/
ロドリゲ(一)ス、ジョアン(ヨハン)①4[16]/①5[22]//④501昭10.A/④616昭15.C/
ろばちふすきー④212明43.F/
Roberts, Andrew②85昭14.C/
ロバーツ、マオケル④776[昭18]/
Robert, E.R.①380昭9.C/
Robert, J.M.③191大4.B/

Robert,S.D.F.④273大4.B/
Roberts,W.R.④611昭15.C/
ロバートソン、エイ・エイチ
④352大12.C/
Robertson, A.T.③193大4.D/
ロバン、レオン（Robin, Lèon）
②38昭11.B/②72昭13.B/
②96昭15.B/②281昭9.B//
③211大8.F/③223大12.B/
③230大14.B/③234大15.B/
③239昭2.B/③285昭11.B/
③290昭12.B//④485昭9.B/
④486昭9.B/
ロビン（→ Robin, Lèon?）
③173大2.B/③178大2.D/
ロビンスン①256大14.C/
ロビンソン③193大4.C/
③212大9.C//④333大9.C/
④382大15.C/④445昭6.C/
Robinson, D.M.②43昭11.C/
Robinson, D.S.③218大11.B/
Robinson, J.H.①190大4.C/
①204大7.C/①231大11.C/
①246大13.B//③265昭7.C//
④382大15.C/④394昭2.C/
④418昭4.C/④459昭7.C/
④536昭11.C/④722[大11]/
Robinson, Richard②283昭9.B//
④487昭9.B/
Robinson, W.S.③115明35.C/
Robb, N.A.②18昭10.B/
Robson,E.I.④612昭15.C/
Ropes,J.H.④295大5.D/
ロベール、マルセル③291昭12.D/
Ropol,H.④506昭10.B/
Rocholl③129明37.C/
羅馬教皇[法皇-④181明40.F/
④673[明治]/④704[明39]/
④798[昭5]/
ローマ七賢人④743[昭7]/
羅馬神話④729[昭2]/④737[昭5]/
Rohmeyer, J.②84昭14.B/
ロマン帝④41明14.B/
ロミュラス → ロムルス
ロミュリュース → ロムルス
ロミュールス → ロムルス
ローミロース→ ロムル
Romstedt,M.③198大5.C//
④716[大5]/
ロムラス → ロムルス
ロムリュ(一)ス → ロムルス
ロムール → ロムルス
ロムルス（ロミュールス、ロミュラス、ロムラス、ロムール、ロムリュース、ロミュリュース、ロヲーム、ロヲオムセ、ロヲムスセ、ローミロー、羅幕路）
①24明10.C/①48明21.C/
①113明37.C/①115明37.C/
①325昭6.A//②153明5.C/
②166明18.A/②170明19.C/
②179明22.C/②184明23.C/
②206明31.C/②220明37.C/
②229明42.B/②232明44.B/
②238大3.B/②246大10.B//
③9明9.E/③129明37.C/
③139明39.C/③208大7.E//
④23[24942]/④26[24997]/
④27[25020]/④30明8.C/
④61明18.E/④73明21.C/
④83明23.C/④102明27.C/
Rolife,J.C.④612昭15.C/
ロ(一)ラン（ロオラン）、ロマン（ロオマン）
②63昭12.D/②260昭3.D//
④233明45.B/④282大4.D/
④559昭12.D/④657昭18.B/
④714[大4]/
(マダム)ローランド
③102明33.C/
Rolland,E.④506昭10.B/
④507昭10.B/

Rawlinson, A.G.③204大6.D/
Rawlinson, H.G.①197大6.C/
①326昭6.A//④364大14.A//
④610昭15.C/
Rall,H.F.④267大3.D/
Roltes, E.③301昭14.A/
Rolfes, E.③55明26.B/③179大2.E/
③308昭15.A//④402昭3.B/
Rolfe,J.C.④612昭15.C/
Rolfe,William④155明37.D/
Rolff③129明37.C/
ロルレストン①110明37.B/
ロヲーム→ ロムルス
ロヲムセ→ ロムルス
ロヲムセス→ ロムルス
ロンロー③191大4.B/
[S]サイクス、パークス(Sykes, P.M.)
①190大4.C//②110昭16.C//
③198大5.C/
サイソン、ブルータ④68明20.C/
サイデル、マーテン④178明40.C/
Sait, E.M.②89昭14.E/
Sydow,Eck.V.④264大3.C/
サイツフェルト②239大4.B/
サイト夫人④84明23.D/
ザイベル①339昭6.E//
④448昭6.E/
サイプル、ウイリアム・ジョー
④430昭5.C/
Syme, R.①380昭9.C/
サイモンス(ズ)、A. → シモンズ、A.
サイモンズ、ジョン・アディングトン(Symonds,J.A.)
①241大12.D/①306昭4.C
サイラス王②170明19.B//
④333大9.C/
サイレン(女神セイレーン、セーレンス)①57明23.D//
②257昭2.D//③47明24.E/
③49明25.B/③64明27.E//
④40明14.B/④401昭3.B/
サウズゲート、ヘンリー(H.)
④33明10.D/④679[明10]/
サウロ④720[大9]/
サクラテス→ ソクラ(ッ)ト
Sackur, E.③99明33.A/
③109明34.C/
Sagnac④393昭2.C/
Sargent, R.L.③236大15.C//
④380大15.C/
Sason Nicholas④671[天明]/
サーゼント④29明6.C/
ザックス、カール④62明19.A/
ザックス、ハンス④538昭11.D/
④651昭17.D/
Sabbadini,R.④619昭15.D/
サッフォ(ー、ヲ)(サッホー、サワポー、サッポー、サフホー、Sappho)
①57明23.D/①79明29.D/
①80明29.D/①128明39.D/
①191大5.D/①241大12.D/
①258大14.D/①267大15.C/
①269大15.D/①270大15.D//
②44昭11.D/②62昭12.D/
②202明29.C/②237大2.B/
②227明40.D//③34明22.A/
③52明25.D/③58明26.D/
③75明29.D/③76明29.D/
③131明38.B/③140明39.D/
③144明40.D/③151明42.C/
③151明42.D/③162明44.D/
③175大2.C/③188大3.F/
③212大9.B/③228大13.D/
③231大14.D/③236大15.D/
③256昭5.D/③305昭14.D//
④81明23.B/④112明29.D/
④163明38.D/④173明39.F/
④226明45.B/④296大5.D/
④340大10.C/④361大13.D/
④380大15.C/④383大15.D/
サッホー → サッフォ(ー、ヲ)
サッポー → サッフォ(ー、ヲ)

Sussenguth,a.④773[昭17]/
サトー、アーネスト④412昭4.A/
サトウ、イー・エム④626昭16.A/
サートン(さーとん、Sarton, G.)
①283昭2.F/①298昭3.F/
①356昭7.F//②90昭14.F//
③306昭14.F//④399昭2.F/
④410昭3.F/④520昭10.F/
④584昭14.B/④597昭14.F/
④598昭14.F/④618昭15.D/
④623昭15.F/
サテルマ④69明20.C/
サバスチャン④249大2.C/
Sachr,A.I.④436昭5.E/
サバチェー、オーグスト
④186明41.B/
サファー、イフワーン・ウス
④514昭10.C/
サフホー → サッフォ(ー、ヲ)
サホー(サフォ、ザフォー、サッフー)[ダウデー、ドウデー、グリルパルツエル]
①115明37.D/①116明37.D/
①166大2.D/①240大12.D/
①293昭3.D/①381昭9.D//
②24昭10.D/②99昭15.D//
④211明43.D/④268大3.D/
④319大7.D/④397昭2.D/
サボナロ(ー)ラ→ サヴォナローラ
サマン、アルベル②235明45.D/
Sammuel G.Goodrich④781[明7]/
サムソン(闘技者)④748[昭9]/
Samson Agnistes②25昭10.D/
Samter, E.③114明35.C/
③182大3.B/
Summner, Heywood③216大10.C//
④721[大10]/
Sallastius③284昭11.A/
Sarapis(サラピス)④567昭13.B/
サリー、ジェイムズ④93明25.D/
ザ(サ)ーリス②136昭18.D//
④661昭18.D/
Saglis④520昭10.F/
サリバン②128昭17.F/
サリュスト(Sallustus)①5[19]/
①58明23.E//④502昭10.A/
④524昭11.A/④612昭15.C/
Salin, E.②72昭13.B/②73昭13.C/
ザリーン②145昭19.E/
サル、アントワ(ン)ヌ・ドゥ・ラ
①258大14.D//④370大14.D/
サルターティ④519昭10.E/
④543昭11.E/
Saltar, William M.③206大7.B//
④273大4.B/④287大5.B/
Salzi, P.②284昭9.B//④488昭9.B/
Sartian, F.①319昭5.C/
Sartiaux, F.③198大5.C//
④716[大5]/
Sartorius, M.③73明29.B/
Salvioli,Guiseppe①369昭8.E//
③277昭9.C//④492昭9.C/
サルウィーヌス②134昭18.C/
Salomé(サロメ)④209明43.C/
Salomon, M.②77昭13.E//
④567昭13.B/
サレジオ、フランシスコ
④522昭11.A/
サ井ス神②212明34.B/
ザヴィニー→ ザヰ(ビ)ニー
サーウィニー → ザヰ(ビ)ニー
Savage,E.A.④444昭6.C/
④457昭7.C/
サヴェーヂ、マイノット・ジェー
②176明21.B/②179明22.B/
サヴォナローラ(サボナロ(ー)ラ)
④94明26.B/④158明38.B/
④348大11.D/④370大14.D/
④418昭4.C/④617昭15.D/
④737[昭4]/
サヰニー→ ザヰ(ビ)ニー

ザヰ(ビ)ニー(サヰニー、サーウィニー、サヴィニー、ザヴ井グニー)、カール・フォン
②28昭10.E/②50昭11.E/
②65昭12.E/②77昭13.E/
②89昭14.E/②211明33.E//
③85明30.E//④74明21.C/
④501昭10.A/④519昭10.E/
④542昭11.E/④577昭13.E/
ザヴ井グニー → ザヰ(ビ)ニー
サワポー → サッフォ(ー、ヲ)
サンガー①56明23.C/
Sander,E.④590昭14.C/
④596昭14.E/
Sanderson, E.③94明32.C/
④704[明38]/
サンタヤ(ー)ナ(Santayana, ジ、G.)
①89明32.A/①129明40.A/
①187大4.B/①203大7.B/
①221大10.B/①230大11.B/
①236大12.B/①238大12.B/
①266大15.B/①330昭6.B//
②244大9.B/②269昭6.B/
②272昭7.A/②273昭7.B//
③53明26.A/③143明40.B/
③194大4.D/③202大6.B/
③214大10.B//④303大6.B/
④312大7.B/④323大8.B/
④337大10.B/④350大12.B/
④378大15.B/④403昭3.B/
④449昭7.A/④454昭7.B/
④527昭11.B/④569昭13.B/
④595昭14.D/④604昭15.B/
サンデ師、エドゥアド[エヅアルド]・デ・サンデ
④640昭17.A/④748[昭9]/
Sandy,W.④226大1.B/
Sandys,E.④256大3.B/
Sandus,J.E.④611昭15.C/
Santeler,J.S.④603昭15.B/
サントブーヴ①275昭2.B/
Sundwall, J.③249昭4.C//
④417昭4.C/
Sandulescu-Godeni, C.②72昭13.B/
サンナー③38明22.E/
サンボル、イフ・ピー
②175明21.A/
シイリング、ドロテゥス
④664昭19.A/
シーウェル、アール②204明30.C/
シェ(ー)ク(キ)スピ(ー)ア(セ(ー)キスピ(ー)ア、セクスピア、シェイクスピア、シェーキスペア、シエークスピア、Shakespare、沙比阿、沙吉比亞、沙翁)[河島敬藏、坪内逍遙、マクベス、澤村氏、班烈多[ハムレット]物語、アントニー・エンド・クレオパトラ、ジュリアス・シーザー、じゅりあす・しーざる]
①36明17.C/①40明19.C/
①65明25.C/①77明28.C/
①80明29.C/①102明35.C/
①108明36.D/①121明38.D/
①122明38.D/①102明35.C/
①133明40.C/①158明45.C/
①165大2.C/①166大2.C/
①182大3.C/①183大3.C/
①184大4.D/①210大8.C/
①230大11.C/①239大12.C/
①256大14.C/①265大15.B/
①277昭2.C/①285昭3.A/
①290昭3.C/①291昭3.C/
①352昭7.D/①363昭8.C/
①365昭8.C/①378昭9.C//
②16昭10.B/②165明17.C/
②167明18.D/②170明19.C/
②179明22.C/②181明22.D/
②195明26.C/②222明 38.C/

②223明 38.D/②252大14.C/
②255大15.D/②275昭7.D//
③20明16.C/③26明19.C/
③28明20.C/③29明21.B/
③30明21.B/③38明22.D/
③40明23.C/③42明24.A/
③45明24.C/③56明26.C/
③72明29.B/③88明31.C/
③89明31.C/③94明32.C/
③124明36.D/③138明39.B/
③143明40.C/③159明44.B/
③171大2.B/③176大2.C/
③185大3.C/③193大4.C/
③199大5.C/③200大5.D/
③219大11.C/③237大15.D/
③255昭5.C/③260昭6.C//
④53明16.D/④63明19.C/
④65明19.D/④68明20.C/
④70明20.D/④74明21.C/
④74明21.D/④78明22.D/
④90明25.B/④97明26.C/
④102明27.C/④110明29.B/
④112明29.D/④120明31.C/
④122明32.B/④125明32.D/
④133明34.D/④139明35.C/
④140明35.D/④147明36.D/
④155明37.D/④163明38.D/
④164明38.D/④170明39.C/
④172明39.D/④179明40.C/
④180明40.D/④181明40.D/
④219明44.C/④263大3.C/
④279大4.C/④280大4.C/
④293大5.C/④294大5.C/
④297大5.D//④392昭2.C/
④405昭3.C/④408昭3.D/
④409昭3.D/④416昭4.C/
④418昭4.C/④432昭5.C/
④435昭5.D/④447昭8.D/
④448昭6.D/④474昭8.C/
④477昭8.D/④495昭9.D/
④515昭10.D/④516昭10.D/
④518昭10.D/④541昭11.D/
④558昭12.D/④566昭13.B/
④576昭13.D/④617昭15.D/
④651昭17.D/④702[明36]/
④702[明37]/④704[明38]/
④706[明40]/④709[明43]/
④714[大3]/④722[大11]/
④723[大12]/④724[大13,14]/
④727[昭1]/④731[昭2]/
④733[昭3]/④736[昭4]/
④743[昭7]/④745[昭8]/
④749[昭9]/④752[昭10]/
④758[昭12]/④791[大3]/
④792[大6]/④795[大15]/
④796[昭2]/④801[昭9]/
シェーキスペア→ シェ(一)ク(キ)スピ(一)
シエークスピア→ シェ(一)ク(キ)スピ(一)
シェストウ、レオ③234大15.B/
シェストフ①373昭9.B//②12昭10.B/②80昭14.B//③281昭10.B//④134明34.D/④181明40.D/④384大15.D/④489昭9.B/④504昭10.B/④585昭14.B/
シエティーヴェ②121昭17.C/④645昭17.C/
Schöner, R.③94明32.C/
Schaenebeck,J.④616昭15.C/
シェパード①282昭2.E/
シェビーア④339大10.B/
Schäfer, M.②284昭9.B/
シェファー①331昭6.C/
シェーフィル④191明42.B/
シェファード、ウォルター④669昭19.F/
シェーフェ(ィ)ル(Schäfer,H.)①141明42.B//④192明42.B/
Schefold,K.③310昭15.C/
Scheller,F.④610昭15.C/
シェラー、マクス①304昭4.B//②120昭17.B//④454昭7.B/

Schüler④264大3.C/
Schaerer,A.H.④444昭6.C/
Schaerer, R.②72昭13.B/
Shaerey, A.H.③260昭6.C/
シェリ(ー) → シェレー
Schelina, R. von②17昭10.B/
②47昭11.D/
シェリング(Schelling,F.W、シリング)
①86明31.B/①257大14.C/
①366昭8.D/①382昭9.D//
②24昭10.D/②25昭10.D/
②39昭11.B/②45昭11.D/
②62昭12.D/②74昭13.D/
③262昭7.A//④453昭7.B/
④476昭8.C/④495昭9.D/
④506昭10.B/④527昭11.B/
④539昭11.D/④656昭18.B/
④657昭18.B/④661昭18.C/
④665昭19.B/
Scheel,O.④505昭10.B/
シェルドン、ヘンリー・シー
④105明28.B/
Sheldon, W.H.③219大11.B/
シェルドン、ウォーター・エル
④707[明42]/
シェルリー → シェレー
シェルレイ → シェレー
シェレー(シェリ(ー)、シェリイ、シェリイ、シェルレイ、シェルリー、西黎、譯錫磊、Shelley,P.B.)
①44明20.D/①57明23.D/
①62明24.D/①66明25.D/
①69明26.B/①77明28.D/
①80明29.D/①83明30.C/
①122明38.D/①134明40.D/
①154明44.D/①184大4.D/
①202大7.A//①233大11.D/
①281昭2.D/①308昭4.D/
①321昭5.D/①383昭9.D//
②25昭10.D/②36昭11.B/
②87昭14.D/②198明27.D/
②201明28.D/②203明29.D/
②229明42.B/②230明42.D/
②252大14.D/②260昭3.D/
②270昭6.D/②275昭7.D/
②286昭9.D//③46明24.D/
③52明25.D/③60明27.B/
③62明27.D/③80明30.B/
③84明30.D/③88明31.C/
③109明34.D/③135明38.D/
③152明42.D/③156明43.C/
③158明43.D/③175大2.C/
③204大6.D/③212大9.B/
③236大15.D/③237大15.D/
③250昭4.D/③255昭5.D/
③260昭6.D/③261昭6.D/
③266昭7.D/③267昭7.D/
③298昭13.D//④48明15.D/
④89明24.D/④93明25.D/
④129明33.D/④134明34.D/
④140明35.D/④147明36.D/
④164明38.D/④172明39.D/
④180明40.D/④181明40.D/
④243大2.B/④348大11.D/
④354大12.D/④396昭2.D/
④408昭3.D/④421昭4.D/
④424昭5.A/④433昭5.D/
④434昭5.D/④435昭5.D/
④446昭6.D/④447昭6.D/
④496昭9.D/④538昭11.D/
④539昭11.D/④540昭11.D/
④559昭12.D/④593昭14.D/
④635昭16.D/④636昭16.D/
④650昭17.D/④651昭17.D/
④662昭18.D/④722[大11]/
シェレイ → シェレー
シェロ④605昭15.B/
Shewan, A.②24昭10.D//
④517昭10.D/
Schöne,A.④613昭15.C/
Schoen,H.④226大1.B/
シェンキエヴィッチ→ シェンキ

エキツチ
シェンキ井チ→ シェンキエキツチ
シェンエ井ッチ→ シェンキエキツチ
シェンキエキツチ(シェンキーヴィッチ、シェンキウィッチ、シェンキエウイッチ、シェンキーウ井ツチ、ジンキ井ッチ、シェンキ井ッチ、シェンキイイッチ、シェンーヴィッチ、シェンキエヴィッチ、シェンキ井チ、シェンエ井ッチ、シェンキエヴィッチ、シェンキュ井ッチ、シェンキエウキク、シェンキーウキッチ、シェンクウェッチ、シェン井ーヴィッ)［覇王樹、木村毅、土井晩翠、大宅壮一、谷口武、田邊元、クオ・ヴァディス、クオ・バデス、クオーワヂス、クオ・ワヂス、クオバヂス、クオーヴヂス、クオ・ヴヂス、クオバヂイス、Quo vadis?、何處へ］
①91明32.C/
①127明39.C/①166大2.C/
①175大3.C/①278昭2.C/
①290昭3.C/①292昭3.C/
①317昭5.C//②22昭10.C/
②123昭17.C/②228明41.C/
②239大4.C/②280昭8.F//
③96明32.D/③97明32.D/
③133明38.C/③147明41.C/
③148明41.C/③156明43.C/
③175大2.C/③176大2.C/
③184大3.C/③185大3.C/
③192大4.C/③193大4.C/
③197大5.C/③198大5.C/
③199大5.C/③203大6.C/
③231大14.C/③248昭4.C/
③276昭9.C//④132明34.C/
④133明34.C/④138明35.C/
④142明36.B/④161明38.C/
④188明41.C/④265大3.C/
④278大4.C/④280大4.C/
④294大4.C/④306大6.C/
④333大9.C/④334大9.C/
④306大13.C/④369大14.C
④394昭2.C//④405昭3.C/
④406昭3.C/④407昭3.C/
④446昭6.D/④495昭9.D/
④649昭17.C/④700[明34]/
④715[大4]/④716[大4]/
④720[大9]/④724[大13]/
④769[昭16]/
シェーンキーツ → シェンキエキツチ
シェンキーヴィッチ → シェンキエキツチ
シェンキイイッチ→ シェンキエキツチ
シェンキウィッチ → シェンキエキツチ
シェンキエウイッチ → シェンキエキツチ
シェンキエヴィッチ→ シェンキエキツチ
シェンキュ井ッチ→ シェンキエキツチ
シェンキーウ井ツチ → シェンキエキツチ
シェンキーウ井ツチ → シェンキエキツチ
シェンキエウキク→ シェンキエキツチ
シェンキーウキッチ→ シェンキエキツチ
シェンキ井ッチ → シェンキエキツチ
シェンクウェッチ→ シェンキエ

ヰツチ
シェンーヴィッチ → シェンキエヰツチ
シェン井ーヴィッチ、ヘンリック→ シェンキエヰツチ
Schenkl, E.③181大3.B/
シォウ、B. → ショウ(オ)
シオッペンハワー(ショッペンハワー、ショペンハウエル、ショウペンハウエル、ショペンハワー、ショーペンハワー、ショ(ッ)ペンハウエル、ショウオペンハウエル、ショーツペンハウアー、ショオペンハウエル、Schopenhauer)
①72明26.E/①74明27.B/
①78明29.A/①84明30.D/
①104明36.A/①106明36.B/
①132明40.B/①161大2.A/
①162大2.B/①163大2.B/
①187大4.B/①189大4.B/
①190大4.B/①230大11.B/
①238大12.B/①245大13.B/
①253大14.B/①265大15.B/
①266大15.B//②119昭17.B/
②182明23.B/②187明24.B/
②196明26.D/②202明29.B//
③37明22.D/③58明26.D/
③60明27.B/③65明28.A/
③66明28.B/③71明29.A/
③79明30.A/③86明31.A/
③117明36.B/③132明38.B/
③138明39.B/③154明43.B/
③166明45.B/③190大4.B//
④63明19.B/④100明27.B/
④106明28.B/④126明33.B/
④140明35.D/④168明39.B/
④207明43.B/④216明44.B/
④222明44.D/④442昭6.B/
④495昭9.D/④588昭14.B/
勝論派④101明27.B/
ジーガードナー、E.②124昭17.D/
Siegfried,Fuchs.④764[昭14]/
Siegfried,L.④562昭12.E/
Siegfeied,W.④611昭15.C/
Seek,O.④610昭15.C/
シクラチース → ソクラ(ッ)ト
ジーゲット③325昭18.F/
Siegel, C.②238大3.F/
Siger de Brabant④753[昭10]/
ジーザリン①150明44.A/
師氏 → シジウィック
シジウィック(シデェヰック、シヂウヰック、シヂゥック、シヂュヰック、シヂ井ック、師氏、Sydgwick、Sidgwick、エチ[ヘンリー])
①82明30.B/①86明31.B/
①93明33.B/①113明37.B/
①120明38.B/①126明39.B/
①131明40.B/①132明40.B/
①134明40.E/①137明41.B/
①161大2.A/①203大7.B/
①210大8.B//②56昭12.B//
③101明33.B/③105明34.B/
③106明34.B//④101明27.B/
④104明28.A/④128明33.B
④175明40.B/④195明42.B/
④196明42.B/④230大1.B/
④429昭5.B/④510昭10.B/
シーシウス①152明44.C/
シシセス③198大5.C/
シシプース②228明41.B/
シ(ー)セアス①113明37.C/
①115明37.C//③129明37.C/
シダス王②205明31.B/
シヂゥック → シジウィック
シヂウヰック → シジウィック
シヂュヰック → シジウィック
シヂ井ック → シジウィック
シッキンゲン、フランツ・フォン
①105明36.B/

Sickle, C.E.①380昭9.C/
①381昭9.C//②143昭19.C/
Sickles,C.E.Van④590昭14.C/
Schissel, O.③254昭5.C//
④431昭5.C/
Sitter, W. de①361昭8.B/
シッドウェック、ヘンリー（Sidgwick, Henry）
③130明37.E/③131明37.E/
Shipman, H.R.③260昭6.C/
③266昭7.D//④444昭6.C/
Shipley,F.W.④612昭15.C/
七賢人④432昭5.D/
シッルレ → シルレル
シデェキック → シジウィック
シデンハム、フロワー
④72明21.B/
シード①150明44.A/
志とぎやうでん→使徒行傳
使徒行傳(使徒行錄、神學、時代・宗教、志とぎやうでん)
④33明10.C/④34明11.C/
④36明12.D/④65明19.D/
④74明21.D/④88明24.C/
④146明36.D/④171明39.C/
④171明39.D/④175明40.B/
④197明42.C/④208明43.C/
④234明45.C/④236明45.D/
④266大3.D/④285大5.B/
④291大5/C/④294大5.C/
④305大6.C/④317大7.C/
④339大10.C/④368大14.C/
④370大14.C/④379大15.C/
④392昭2.C/④405昭3.C/
④418昭4.C/④432昭5.C/
④457昭7.C/④512昭10.C/
④592昭14.D/④674[明1]/
④675[明治期]/
④681[明10]/④728[昭1]/
④789[1-]/④809[1-]/
シド(ッ)チ[シドチ、G.B.Sidotti 宣教師]
①143明42.C/①247大13.C//
④23[24930,24931]/
④180明40.D/④198明42.C/
④311大7.A/④708[明42]/
④768[昭16]/
使徒行錄 → 使徒行傳
Sidonius①5[19]//③199大5.C/
シドネー③125明36.G/
Schitlowsky, G.③100明33.B/
シニアス(賢人) ④42明14.C/
シニッツラー → シュニッツ(レ)ル
Signoret,E.④550昭12.B/
シ子カ → セネ(子)カ
シバスチアン③175大2.C/
シピオ → スキピオ
ジーベック、ヘルマン(Siebeck, H.)①124明39.A/
①266大15.B/①328昭6.B/
①382昭9.D//③67明28.B/
③73明29.B/③100明33.B/
③173大2.B/③282昭10.D//
④494昭9.D/
ジーベルト④126明33.B/
シベーレ(神)③139明39.B/
シペングラー→ シュペングラー
シペングレル → シュペングラー
シーボルト①9[129]//
④564昭12.G/④576昭13.D/
④761[昭13]/
Schmaus②40昭11.B/
Simkhovitch, V.G.(Simkhovith,
①380昭9.C/①381昭9.C//
④718[大7]/
ジーメス、ヨハネス④630昭16.B/
④644昭17.B/
④670昭20.B/
シメック④379大15.C/
ジーメンス④658昭18.B/
Siemenroth③95明32.C/

シモナイデス → シモニデ(ー)ス
シモニデ(ー)ス(シモナイデス、西蒙士至思)
①56明23.D//②152［14541］/
②216明35.C//③72明29.B/
③75明29.D/③162明44.D//
④102明27.B/④112明29.D/
シモ子チ③161明44.C/
Simon von Faversham②282昭9.B/
シモン、ジュル③35明22.B/
シモンズ(ス、ヅ)、A(アーサア)
①177大3.D/①197大6.B/
①313昭5.B/①316昭5.B/
①331昭6.C/①333昭6.C/
①373昭9.B//②12昭10.B/
②93昭15.B/②242大7.C//
③109明34.D/③250昭4.D//
③326昭19.D//④778[昭19]/
謝衛樓④56明17.C/
Schaubart,W.④563昭12.E/
釋迦牟尼①375昭9.B//
④143明36.B/④144明36.B/
④549昭12.B/④570昭13.B/
Schater, D.①358昭8.A/
Schachermeyr, F.③266昭7.C/
Schade,L.④556昭12.C/
Schaebermyr,F.④431昭5.C/
Scharder,F.④394昭2.C/
Schadenwald, W.①352昭7.D/
②18昭10.B/②26昭10.D//
③255昭5.C/
Shadenwalett-Freiburg, Wolfgang
①386昭9.E/
シャッツマイヤー④616昭15.C/
シャッド、メレー・エチ
④88明24.C/④97明26.C/
シャトーブリアン→ シャトウ(オ)ブリアン
シャトウ(オ)ブリアン(シャトーブリアン)
①134明40.D//④156明37.D/
④180明40.D/④221明44.D/
④430昭5.C/④485昭9.B/
④495昭9.D/
シャーマン、ヘンリ・ブルトン
④752[昭10]/
Schaff,D.④292大5.C/
シャフ、フ井リップ④58明18.A/
Schafer,D.④387昭2.A/
Sharp, D.S.①180大4.B//
③183大3.B/
Schaller,H.(シャルラー、ハインリッヒ)④546昭12.A/
④623昭16.A/
シャールミダス④275大4.B/
シャレーマン③74明29.C/
③154明43.B/
シャロン、イジドール
④130明34.B/④189明41.D/
Schawahn,W.④431昭5.C/
シャンクス、L.P.②131昭18.B//
④656昭18.B/
Schanz,M.v.④610昭15.C/
④615昭15.C/
Schsrrenbroich,H.④242大2.B/
シュヰル④47明46./
Schuyler, R.Livingston①318昭5.C/
Shuckburgh, E.S.③107明34.B/
③108明34.C/③121明36.C/
朱國章①210大8.B/
朱子①82明30.B//④114明30.B/
周作人①381昭9.D/
シュアレス③304昭14.D/
シューシウス①295昭3.D/
酒神 → バッカース
Startham③204大6.D/
Steichen,M.(斯定荃)
④116明30.C/④145明36.C/
Steiner → スチルネ(子)ル
Stein, Arthur①330昭6.B//
③199大5.C//④675[大正]/
Steiner, A.③202大6.B/

シュタイン(須多因)[協調會]
①282昭2.E//②258昭2.E//
③38明22.E//④49明15.E/
④398昭2.E/④399昭2.E/
シュタイン、ハインリッヒ・フォン④649昭17.D/
シュタイン①322昭5.D/
シュタイン夫人③231大14.D/
Stein③90明31.D/
Stein, A.Sir③266昭7.C/
Stein, Ernst①306昭4.C/
①319昭5.C//④506昭10.B/
Stein, J.③100明33.B/
Stein, L.③73明29.B//
③85明30.E/③87明31.B/
シュタイン、シャルロッテン・フォン④619昭15.D/
Steinbüchel,T.④506昭10.B/
Stählin,,F.④558昭12.D/
Stählin, O.②282昭9.B//
④496昭9.D/
Stadelmann, von R.①318昭5.C//
④492昭9.C/
Schuckhaedt, Carl③265昭7.C/
Stammler,R.④614昭15.C/
シュタンゲ、カール④483昭9.B/
④489昭9.B/④548昭12.B/
シュピツテル、カァル
④313大7.B/④318大7.D/
シュッペ、ウィルヘルム
③174大2.B/
Steeker,K.④237大1.D/
Stoeks,H.④251大2.D/
シュテイルネル → スチルネル, M.
Steck,R.④235大1.C/
Stöckl, A.③165明45.B/
Stöcklein, P.③326昭19.D/
Sternburg, K.(シュテルンベルヒ、クルト)③217大11.A//
④372大14.E/
シュテンツェル(ト)、ユリウス(ユーリュス)(Stenzel, J.)
①329昭6.B/①387昭9.E//
②36昭11.B//③275昭9.B/
③285昭11.B//④509昭10.B/
Schytt③125明36.E/
シュトックマン①352昭7.D/
Strzygowski, J.③124明36.D/
シュトラック、H.L.③244昭3.C/
Strack, M.L.③277昭9.C/
シュトリッヒ、フリッツ
①366昭8.D//②124昭17.D//
④618昭15.D/④636昭16.D/
④778[昭19]/
Sturminger, A.②89昭14.E/
②137昭18.E/
Strohm, G.②30昭10.F//
④507昭10.B/
シュナイダー、エタ・ハリッヒ
②145昭19.D/
シュナイデル④638昭16.E/
Schneider, Fr.③217大10.D//
④472昭8.C/
Schneider, R.②83昭14.B/
Schunabel, P.③235大15.C//
④611昭15.C/
シュニッツラー → シュニッツ(レ)ル
シュニッツ(レ)ル(シニッツラー、シュニッツラー)
①82明30.C/①228大11.A/
①232大11.D/①243大13.A/
①247大13.D//②44昭11.D//
③186大3.D/
シュネダー③145明41.A/
Schffganz,H.④256大3.B/
Schwyzer,E④771[昭16]/
Schuchhardt, C③185大3.C//
④712[大3]/
Schuchhardt, W.-H.②46昭11.D//
③309昭15.B/
シュパルヂング、H.N/
④614昭15.C/

Schubart, W.②50昭11.E/
②66昭12.E//③296昭13.C/
③305昭14.D//④544昭11.F/
④562昭12.E/④609昭15.C/
Schwartkoff,G.④589昭14.C/
Schwartz,E.④611昭15.C/
シュパン①271大15.E//
②138昭18.E//④385大15.E/
シュピーゲルブルヒ③259昭6.C/
Spitta,F.③179大3.A//④235大1.C/
シュフィールド、ウオルター
②146昭19.F/
シュプランガー(Spranger,Ed.エードゥアルド)
②56昭12.B/②95昭15.B//
③291昭12.C/③324昭18.D//
④378大15.B/④555昭12.C/
④598昭15.A/④661昭18.D/
シューペ③71明29.A/
Schwegler,A.④402昭3.B/
シュベーグラー → シュヴェーグラー
シュペングラー(シペングレル、シュペングラア、スペングレル、スペングラー、シペングラー、シュヴェグラー、スペングラア、スペンギラー、Spengler、オスヴァルド、オスワル)[スペングレリズム]
①228大11.A/①346昭7.B/
①371昭9.A//②32昭11.A/
②247大11.A/②259昭3.A/
②262昭4.C//③214大10.A/
③217大11.A/③218大11.A/
③284昭11.A//④337大10.A/
④344大11.A/④350大12.A/
④364大15.A/④373大15.A/
④374大15.A/④375大15.A/
④399昭3.A/④400昭3.A/
④400昭3.B/④411昭4.A/
④412昭4.A/④413昭4.B/
④415昭4.B/④438昭6.A/
④473昭8.C/④474昭8.C/
④481昭9.A/④482昭9.A/
④483昭9.A/④489昭9.B/
④502昭10.A/④523昭11.A/
④547昭12.A/④587昭14.B/
④604昭15.B/④631昭16.B/
④656昭18.A/④661昭18.C/
④727[昭1]/④731[昭3]/
④753[昭10]/④777[昭19]/
シュペングラア → シュペングラー
Schumacher, K.①334昭6.C/
Schumacher,O.④550昭12.B/
シュマルソウ①99明35.A/
Schmidt④236大1.C/
Schmidt,C.④237大1.D/
シュミット、カアル④470昭8.B/
シュミット①260大14.E/
シュミット①324昭5.F/
Schmidt(シュミット), F.J.
②247大11.A//④343大11.A/
④599昭15.A/
Schmidt(斯米德), Heinrich
①359昭8.B//②282昭9.B//
③170明45.G/
Schmidt, I.③265昭7.C/
Schmidt, K.①343昭7.B/
Schmidt, W.②40昭11.B/
②84昭14.B/②282昭9.B//
③301昭14.A//④227大1.B/
④449昭7.A/④486昭9.B/
④496昭9.D/④507昭10.B/
④582昭14.A/④609昭15.C/
シュミット、W.②143昭19.C/
シュミットボン①156明45.B/
①162大2.B/①237大12.B/
①241大12.D/①343昭7.B//
②80昭14.B//③164明45.B/
③184大3.B//④241大2.B/
④257大3.B/④332大9.B/

シュミーデル①61明24.D//
④694[明24]/
シュムポジオン → プラトーン
シュメーケル(Schmekel, A.)
②71昭13.B//③49明25.B/
③71明29.A/
しゆもらあ教授④718[大6]/
Schneider,H. ④344大11.A/
シュラー → シルレル
シュライベル①99明35.A/
Schreiber④153明37.C/
シュライエエルマル → シュライエルマッヘル
シュライエルマッヘル(シュライエエルマル、Schleiermacher)
①55明23.B/①64明25.B/
①93明33.B/①111明37.B/
①119明38.B/①155明45.A/
①157明45.B/①169大3.A/
①170大3.B/①173大3.B/
①174大3.B/①196大6.B/
①203大7.B/①223大10.B/
①230大11.B/①255大14.B/
①267大15.B/①276昭2.B/
①285昭3.A/①286昭3.B/
①289昭3.B/①303昭4.B/
①304昭4.B/①320昭5.D/
①325昭6.A/①329昭6.B/
①330昭6.B/①346昭7.B/
①359昭8.B/①361昭8.B/
①362昭8.B/①374昭9.B/
①377昭9.B//②36昭11.B/
②38昭11.B/②56昭12.B/
②69昭13.B/②80昭14.B/
②93昭15.B/②175明21.B/
②210明33.B/②238大3.B/
②241大6.B/②254大15.B/
②259昭3.B/②269昭6.B/
②273昭7.B/②281昭9.B//
③44明24.B/③116明36.A/
③160明44.B/③181大3.B/
③229大14.B/③246昭4.A/
③256昭6.A/③257昭6.A/
③269昭8.A/③273昭9.A/
③281昭10.B/③284昭11.A/
③302昭14.B/③307昭15.A//
④58明18.A/④91明25.B/
④165明38.D/④177明40.B/
④187明41.B/④195明42.B/
④196明42.B/④204明43.B/
④238明45.D/④242大2.B/
④255大3.B/④260大3.B/
④276大4.B/④323大8.B/
④376大15.B/④411昭4.A/
④482昭9.A/④495昭9.D/
④550昭12.B/④604昭15.B/
④738[昭5]/
Schreiber③128明37.C/
シュライネル、オリブ(女史)
③175大2.C/
Schlauch, M.①364昭8.C/
Schlatter,A.④534昭11.C/
④572昭13.C/
Schramm, P.E.①352昭7.D/
①362昭8.B/
Schlumberger,G.①183大3.C/
シュリイマン→ シュリ(一)マン
シュリ(一)マン(シュリイマン、Schliemann, Heinrich)
①139明41.C/①190大4.C/
①231大11.C/①379昭9.C//
②60昭12.C/②121昭17.C/
②192明25.E//③26明19.C/
③108明34.C/③153明43.A/
③227大13.D/③310昭15.C/
③324昭18.C//④133明34.C/
④155明37.D/④573昭13.C/
④645昭17.C/④646昭17.C/
④648昭17.C/④660昭18.C/
④771[昭17]/
シュリーマン夫人①364昭8.C/
Schul, P.M.②284昭9.B//
④488昭9.B/④587昭14.B/

Schur, W.③226大13.C/
③231大14.C/③237大15.E//
④612昭15.C/
シュルツ①366昭8.D/
シュルツ④331大9.B/
シュルツ、フリッツ②49昭11.E/
シュルツ、ジーグムンド
④455昭7.B/
シュルツ（Schultz,W.）
③145明40.F/③174大2.B/
Schulze, W.②61昭12.C/
Schulthess③99明33.A/
Schulten, A.③82明30.C/
①249昭4.C/③254昭5.C//
④417昭4.C/④431昭5.C/
シュルマン、ジェー・ジー
②88明31.B/
シュールマンマー、ゲオルグ
④616昭15.C/
シュルレル → シルレル
シュレ、エヴアール①164大2.B//
④241大2.B/
シュレーゲル、A.(アウガスト・
ウ井ルヘルム・フォン)
④108明28.D/④164明38.D/
シュレーゲル、フリードリッヒ
①383昭9.D//④660昭18.C/
④749[昭9]/④755[昭11]/
④775[昭18]/
シュレーゲル、フレデリック
①39明19.B/①380昭9.C//
②22昭 10.C/②43昭11.C/
シュレーゲル、ヴォルフガング
（Schlegel,W.）
②71昭13.B/②121昭17.C//
③276昭9.B//④572昭13.C/
④772[昭17]/
Schrecken,P.④567昭13.B/
Schräder, O.②30昭10.F//
④520昭10.F/
Schröder,Ch.M.④527昭11.B/
Schlosser④619昭15.D/
Schlechta,K.④506昭10.B/
Schwabe, E.③124明36.D/
Schwahn, W.③254昭5.C//
④491昭9.C/
シュワイチェル、アルベルト
④358大13.B/④364大14.B/
④366大14.B/
Schweier③99明33.A/
シュヴァリエー③197大5.B/
Schwartzkoff,G.③304昭14.C/
Schwart,Eduart③310昭15.C//
④612昭15.C/
Schwyzer, E.①235大12.A//
②112昭16.D//③110明34.D/
③123明36.D//④636昭16.D/
Schweitzer④236大1.C/
シュヴェグラー→ シュヴェー
グラー
シュワルツ、ヘルマン
③181大3.B/
シュワルツ、ヘンリー・ビー
④278大4.C/
Schwarz, J.②39昭11.B//
④568昭13.B
Schwartz, E.②96昭15.B//
③216大10.C//④249大2.C/
Schwartz,H.④242大2.B/
Schwill, F.③121明36.C/
シュヴェーグラー（Schwegler）
①113明37.B//②79昭14.B//
③87明31.B/
Schwen,P.④235大1.C/
シュンベリ②150［14498］/
諸葛亮②208明32.C/
商羯羅②231明43.B/
ショー、チャールス④285大5.A/
ショー、ダブリュー・エー
④673[明治]/④701[明35]/
ショウ、エ・シ④86明24.B/
ショウ（オ）（シォウ、Shaw,
Bernardバーナード）

①174大3.C/①216大9.C/
①223大10.C/①347昭7.C//
②73昭13.C/②125昭17.D/
②241大6.C//③154明43.A/
③163明45.A//④204明43.B/
④211明43.D/④251大2.D/
④263大3.C/④264大3.C/
④476昭8.C/④792[大7]/
ショウオペンハウエル→ シオッペンハワー
ショウペンハウエル → シオッペンハワー
逍遙學派 → アリストートル
ショオブ → ショヲブ
ショコラテス → ソクラット
Shotwell,J.T. ④615昭15.C/
④634昭16.C/
ショーウツペンハウエル→ シオッペンハワー
ショオペンハウエル→ シオッペンハワ
ショ(ッ)ペンハウエル → シオッペンハワー
ショッペンハワー → シオッペンハワー
Schonck,W.④251大2.D/
ショペンハウエル → シオッペンハワー
ショペンハワー → シオッペンハワー
ショーペンハワー → シオッペンハワー
Scholz, Heirich①316昭5.B//
④242大2.B/
ショーレー①89明32.A/
Shorey, Paul②17昭10.B/
②72昭13.B/②282昭9.B//
④486昭9.B/
ショヲブ、マルセル①268大15.C/
①305昭4.C//③248昭4.C//
④416昭4.C/
シラー → シルレル
Schiller, F.C.S.③181大3.B/
③206大7.B/
シリー②158昭12.E/
シーリー、ジュリヤス・エッチ
②112明35.B/
シリウス(斯魯斯)
②155明7.F[14627]//
④30明7.F/
シリング→ シェリング(F.W.)
Schilling, Harold②38昭11.B/
Schilling, Kurt②76昭13.E/
Schilling,O.④543昭11.E/
Silvestein, H.T.①367昭8.D/
Silverberg,T.④621昭15.E/
シルラ、マリウス①269大15.D//
③56明26.B/③58明26.E/
シルラー → シルレル
シルラア→ シルレル
シルレル(京都)④165明38.D/
シルレル④699[明32]/
シルレル、エミール④405昭3.C/
シルレル(シラー、シルラー、シュルレル、シュラー、シッルレ、シレッル、シルラア、志留禮、親而列兒、Schiller、フリードリッヒ)
①49明21.D/
①52明22.D/①54明23.B/
①57明23.D/①62明24.D/
①66明25.D/①71明26.D/
①78明29.A/①80明29.D/
①83明30.C/①84明30.D/
①108明36.D/①110明37.A/
①116明37.D/①122明38.D/
①128明39.D/①131明40.B/
①144明42.D/①151明44.A/
①176大3.D/①202大7.A/
①208大8.A/①233大11.D/
①241大12.D/①258大14.D/
①269大15.D/①322昭5.D/
①359昭8.B//②24昭10.D/

②25昭10.D/②26昭10.D/
②36昭11.B/②44昭11.D/
②54昭12.B/②111昭16.D/
②112昭16.D/②113昭16.D/
②122昭17.C/②136昭18.D/
②175明21.A/②177明21.D/
②180明22.D/②181明22.D/
②182明23.B/②183明23.B/
②184明23.D/②185明23.D/
②188明24.D/②191明25.D/
②194明26.B/②196明26.D/
②199明27.D/②202明29.D/
②203明29.D/②204明30.D/
②206明31.D/②207明31.E/
②208明32.D/②213明34.B/
②214明34.D/②218明36.D/
②222明38.C/②223明38.D/
②224明39.A/②225明39.D/
②233明44.E/②235明45.F/
②236大2.B/②238大3.F/
②248大11.D/②249大12.D/
②250大13.D/②252大14.D/
②253大14.D/②256昭2.B/
②257昭2.D/②260昭3.D/
②262昭4.B/②270昭6.D/
②278昭8.D/②285昭9.D//
③30明21.B/③32明21.D/
③34明22.A/③37明22.D/
③38明22.D/③40明23.B/
③41明23.D/③46明24.D/
③49明25.B/③51明25.D/
③52明25.D/③57明26.D/
③58明26.D/③62明27.D/
③63明27.D/③68明28.D/
③71明29.A/③76明29.D/
③77明29.D/③78明29.D/
③80明30.B/③83明30.D/
③84明30.D/③85明30.D/
③88明31.B/③90明31.D/
③91明31.D/③96明32.C/
③96明32.D/③97明32.D/
③104明33.D/③117明36.B/
③130明37.D/③134明38.D/
③135明38.D/③136明38.D/
③139明39.D/③140明39.D/
③143明40.B/③143明40.D/
③144明40.D/③148明41.D/
③152明42.D/③175大2.C/
③181大3.B/③187大3.D/
③188大3.F/③211大8.D/
③213大9.D/③217大10.D/
③228大13.D/③231大14.D/
③232大14.D/③241昭2.D/
③245昭3.D/③268昭8.A/
③273昭9.A/③286昭11.D/
③287昭11.D/③291昭12.D/
③292昭12.D/③299昭13.D/
③311昭15.D/③317昭16.D/
③321昭17.D/③322昭17.D//
④37明12.D/④48明15.D/
④55明17.B/④70明20.D/
④72明21.B/④78明22.D/
④79明22.D/④84明23.D/
④90明25.A/④98明26.D/
④103明27.D/④109明29.A/
④112明29.C/④112明29.D/
④113明29.D/④121明31.D/
④134明34.D/④140明35.D/
④147明36.D/④148明36.D/
④155明37.D/④157明38.A/
④157明38.B/④159明38.B/
④162明38.C/④163明38.D/
④164明38.D/④165明38.D/
④170明39.B/④181明40.D/
④186明41.B/④189明41.D/
④199明42.D/④200明42.D/
④204明43.B/④211明43.D/
④216明44.B/④217明44.B/
④236明45.D/④237大1.D/
④238明45.D/④244大2.B/
④266大3.D/④268大3.D/
④270大4.A/④271大4.A/
④288大5.B/④290大5.B/
④302大6.B/④304大6.B/

④307大6.D/④308大6.D/
④311大7.A/④315大7.B/
④321大8.A/④322大8.B/
④325大8.B/④328大8.E/
④335大9.D/④341大10.D/
④342大10.D/④349大11.D/
④351大12.B/④361大13.D/
④364大14.B/④371大14.D/
④372大14.D/④382大15.D/
④384大15.D/④396昭2.D/
④397昭2.D/④408昭3.D/
④409昭3.E/④418昭4.C/
④429昭5.B/④442昭6.B/
④469昭8.B/④495昭9.D/
④497昭9.D/④498昭9.D/
④517昭10.D/④538昭11.D/
④539昭11/D/④540昭11.D/
④542昭11.E/④552昭12.B/
④557昭12.C/④558昭12.D/
④559昭12.D/④568昭13.B/
④570昭13.B/④575昭13.D/
④576昭13.D/④586昭14.B/
④594昭14.D/④618昭15.D/
④619昭15.D/④635昭16.D/
④636昭16.D/④637昭16.D/
④649昭17.D/④652昭17.D/
④668昭19.D/④756[昭11]/
④775[昭18]/④795[大15]/
④795[19-]/④798[昭5]/
シルレル、フランツ(エフ)
①383昭9.D//②44昭11.D/
シレーブス①222大10.B/
シロ(一)テ、ヨアン(ヨワン)
④356大13.A/④362大13.D/
シン(博士)①381昭9.C/
清呉震④23[24932]
秦尊風④122明32.B/
Singer, Charles②264昭4.F/
ジンガー、クルト(Singer, Kurt)
①355昭7.E/①360昭8.B/
①375昭9.B//②28昭10.E/
②35昭11.B/②47昭11.E/
②50昭11.E/②139昭18.E//
③247昭4.B/③267昭7.E//
④663昭18.E/
ジンキ井ッチ → シェンキエヰツチ
Schink, W.③181大3.B/
③182大3.B/③183大3.B/
Sington,A.J.④438昭6.A/
シンクレア、ジョン②99昭15.D/
シンケル②125昭17.D/
シンシナタス(シンシ子タス)
②273昭7.B//③96明32.C/
シンシ子タス → シンシナタス
シンシンケトス④42明14.C/
シンチンゲル、R.(ローベルト)
②120昭17.B/②123昭17.C/
②142昭19.B//④651昭17.D/
シンテニス、カール
②221明 37.E/
シンデレ(Scindele, St.)
③118明36.B/③127明37.B/
シ[パ?]ンドラ→ パンド(一)ラ
シンプソン④138明35.C/
シンプソン夫人②200明28.B/
シンプソン、カーネギー
④554昭12.C/
シンプソン、エ・ビ④89明24.F/
新プラトー哲學
新プラトー派 → 新プラト(一)ン學派
新プラトン→ 新プラト(一)ン學
新プラトン運動 → 新プラト(一)ン學派
新プラト(一)ン學派(ニオプラト派、新プレトー派、新プラトー派、新プラトン派、新プラトン主義、新プラトン運動、新プラトン、新プラトー哲學、新布拉多學派、ネオ・プラト、ネオ・プラトン、

Neoplatonism、
Neuplatonisumus）
①111明37.B/①282昭2.E//
②18昭10.B/②176明21.B/
②194明26.B/②197明27.B/
②220明37.B/②221明38.B/
②230明42.B/②231明43.F/
②236大2.B//③71明29.A/
③126明37.B/③178大2.D/
③229大14.B/③258昭6.B/
③295昭13.B//④95明26.B/
④102明27.B/④105明28.A/
④120明31.B/④123明32.B/
④136明35.B/④143明36.B/
④151明37.B/④167明39.B/
④169明39.B/④194明42.B/
④226明45.B/④256大3.B/
④290大5.B/④315大7.B/
④346大11.B/④351大12.B/
④367大14.B/④368大14.B/
④391昭2.B/④414昭4.B/
④500昭9.E/④528昭11.B/
④531昭11.B/④549昭12.B/
④579昭14.A/④586昭14.B/
④630昭16.B/④644昭17.B/
④658昭18.B/
新プラトン主義→ 新プラト
(一)ン學派
新プラトン派→ 新プラト(一)
ン學派
シンプリシウス③240昭2.C/
新プレトー派 → 新プラト(一)
ン學派
新ピサ(タ)ゴラス(ピタゴロー
ス)學派
②194明26.B//④105明28.A/
新ピタゴロース學派→ 新ピサ
(タ)ゴラス學派
ジンメル、ゲオルヒ(Simmel,G.)
①124明39.A/①130明40.A/
①248大13.D//②119昭17.B/
②130昭18.A/②250大13.D//
③145明41.A/③173大2.B/
③178大2.D//④251大2.D/
スイダス(スーダ)④606昭15.B/
Sweet③262昭7.A/
スイフト(J.Swift)④731[昭2]/
④748[昭9]/
スイットウェル④420昭4.D/
スイヲゲネス④583昭14.B/
スウイート、H.(ヘンリー)
③168明45.D/③170明45.D/
スウィントン → スウヰ(井)ン
トン
スウィンバーン(スウ井ンバー
ン、スヰンバーン)
①279昭2.D//②126昭17.D//
③152明42.D//④296大5.D/
スウィンボルン④66明20.B/
スウエル①47明21.C/①51明22.C/
スウ井ンバーン → スウィンバ
ーン
Swayne,W.S.④273大4.B/
スウヰ(井)ントン(ス井ントン、
スゥ井ントン、すゐんとん、
すーゐんとん、須因頓、
斯因頓、Swinton)、William,
ウィリアム(維廉)
①34明16.C/①38明18.C/
①51明22.C/①56明23.C/
①61明24.C//②22昭10.C/
②164明17.A/②166明8.A/
②168明19.A/②169明9.A/
②171明19.C/②172明0.A/
②175明21.A/②176明1.C/
②179明22.C/②184明3.C/
②189明25.A//③19明5.C/
③20明16.C/③22明17.C/
③23明18.C/③25明19.A/
③26明19.C/③31明21.C/
③34明22.A/③36明22.C/
③48明25.A//④43明14.C/
④52明16.C/④56明17.C/

④68明20.C/④85明24.A/
④97明26.C/④101明27.B/
④107明28.B/④113明29.F/
④120明31.C/④128明33.C/
④207明43.C/④688[明19]/
④690[明20]/④691[明21]/
④697[明29]/④704[明38]/
スエトニウス(すゑとにうす、スエトン、Suéton、Suetonius Tranqullius,)
①5[19]//②260昭3.C//
③205大7.B//④139明35.C/
④146明36.C/④273大4.B/
④352大12.C/④379大15.C/
④470昭8.B/④612昭15.C/
スエトン→ スエトニウス
スカシス、アンリ・ア②53昭12.A/
Scahwahn, Walter③276昭9.C/
Sganzini,C.④239大2.A/
スキピオ(・アフリカヌス)(シピオ、スシピオ、スピオ、シキピオ、Scipio Africanus)
①239大12.C/①378昭9.C//
②163明16.E/②175明21.A/
②178明22.B/②193明26.A/
②201明28.D/②246大10.B//
③7明8.F/③260昭6.C//
④112明29.C/④145明36.C/
④232明45.B/④278大4.C/
④302大6.B/④331大7.A/
④444昭6.C/④584昭14.B/
スキュロス④433昭5.D/
スキラックス②220明37.B/
スキレソス(王)③8明9.C/
Skutella,M.②17昭10.B/
Skutsch, K.L.②39昭11.B//
④527昭11.B/
スクマティン④64明19.C/
ス[ソ?]クラチス → ソクラ(ッ)ト
Scullard, H.H.③260昭6.C//
④444昭6.C/④536昭11.C/
Scramuzza, V.H.②77昭13.E/
Scramuzza,V.M.④591昭14.C/
スクリボニウス③251昭4.F/
Sclomitz, H.②50昭11.E/
スケチズム→ スケプシス
スケプシス(懐疑派、スケチズム、Sceptics, Skepsis)
①36明17.E/①51明22.B//
③45明24.B/③61明27.B/
③174大2.B//④122明32.B/
④256大3.B/④488昭9.B/
④683昭23.B/
スケ(一)ム、アレキサンドル・ジェー①29明12.G/
①39明18.G//③25明18.G/
スコット④677[昭和]/
Scott, C.③105明34.A/
Scott, E.F.(スコット、イ・エフ)
③197大5.B//④265大3.C/
④367大14.B/④395昭2.C/
④467昭8.B/④476昭8.C/
④738[昭5]/
Scott,J.W.④256大3.B/
Scott, W.R.②19昭10.B//
③61明27.B/
Scott(Liddle &)④448昭6.D/
Scotus,Johannes Dums
④567昭13.B/
スコラ學派(哲學、神學、スコラ、Scholatic)
③88明31.B/③165明45.B/
③172大2.B/③197大5.B/
③205大7.B/③209大8.B//
④100明27.B/④130明34.B/
④154明37.C/④313大7.B/
④316大7.B/④355大12.E/
④376大15.B/④398昭2.E/
④400昭3.B/④409昭3.E/
④424昭4.F/④452昭7.B/
④562昭12.E/④563昭12.E/
④586昭14.B/④630昭16.B/
④657昭18.B/④665昭19.B/

スサンナ(節婦)①31明14.C//
④42明14.C/
須氏 → ストーカル
Sjölund,R.④592昭14.D/
スーシダイヂース③148明41.C/
スシピオ → スキピオ
スタアト、ヘンリイ①132明40.B/
Steiner,R.④279大4.C/
Steichen,M.(斯定筌)④116明30.C/
④145明36.C/
A.Stein④717[大5]/
スタイン夫人②214明34.D/
スタイン［協調會］→ シュタイン
スタイン④35明11.D/
スタイン②235明45.C/
スタイン、ハウゼン①294昭3.D/
スタウカル、ゼームス
④87明24.C/
スタチスト②231明44.A/
スタフボ→ ストラボン
Stubbs, Wm.③108明34.C/
Stählin, F.③236大15.C//
④380大15.C/
Staelin,R.④237大1.D/
スターリング④36明12.C/
Souttar,Rolinson④154明37.C/
スターン①89明32.A/
スタンジッシュ、マイルス
①61明24.C/
スタンダァル → スタンダール
スタンダール(スタンダァル)
③324昭18.D//④626昭16.A/
④651昭17.D/④758[昭12]/
④768[昭15]/④777[昭19]/
④795[19-]/
スタントン、テオドル
④68明20.C/
スタンレー、エー①211大8.D/
スチュアート、ジョン
④601昭15.B/
すちるなー → スチルネ(子)ル
スチルナア → スチルネ(子)ル
スチルネリズム→ スチルネ(子)ル
スチルネ(子)ル(すちるなー、シュテ イルネル、スティルネ(子)ル、Steiner, Max、マクス)
①129明39.E/①181大4.B/
①189大4.B/①196大6.B/
①229大11.B/①301昭4.B//
②107昭16.B/②217明35.E/
②265昭5.B//③182大3.B//
④204明43.B/④373大14.E/
④391昭2.B/ ④550昭12.B/
Szabb,A.③295昭13.B/
スツロング, ヂョサイア
④705[明39]/]
スツ(ッ)ドニッツカ①99明35.A//
③116明36.A/
スッハクヒー①124明39.A/
Stakar④328大8.F/
スティース①267大15.B/
Stace, W.T.③214大10.B/
ステイブ(ヴェ)ンス、ジョージ(ヂ)・パーカー
④175明40.B/④312大7.B/
Stickney,Ch.④74明21.D/
④92明25.D/④116明30.D/
④133明34.D/④139明35.D/
④236大1.D/④672[明治]/
④696[明27]/④697[明30]/
④701[明35]/④725[大13]/
④784[明27]/④784[明30]/
④785[明34]/④785[明35]/
④786[明37]/④788[明45]/
④794[大13]/④795[大15]/
Styliano,G.④636昭16.D/
ステイール、エワルド
②235明45.F/
ステイルネ(子)ル → スチルネ(子)ル
スティーヴンスン、ヂェイムズ

①296 昭3.E/
ステシコラス③72明29.B//
④112明29.D/
Stöcklein, P.③295昭13.B/
ステットン①32明14.G/
ステッド氏④703[明37]/
ステ(ッ)ド、エフ・ハーバート
④232明45.B/④394昭2.C/
④435昭5.E/
ステパノ→ ステファノ
Stebbing,G.④292大5.C/
ステハヌス、ロベルト
④732[昭3]/
ステファノ(ステパノ)
④85明24.A/④208明43.C/
ステファン②85昭14.C/
Steuart,E.M.③236大15.C//
④381大15.C/
Stewart,H.F.④628昭16.B/
Stewart, J.A.③205大7.B/
ステーリング①99明35.A/
ステヴン④283大4.E/
ストーカー、ゼームズ
④709[明43]
ストナー夫人③189大4.B/
Stupperrich, R.③299昭13.D/
Stölzle, R.③173大2.B/
ステルンベルヒ、クルト
（Sternberg, K.）
①249大13.E/①260大14.E//
②38昭11.B/
ステワルト（Stewart, H.J.）
③172大2.B/③196大5.B/
Stenzel, Julius②281昭9.B//
③220大11.D/③271昭8.B/
③275昭9.B//④486昭9.B/④
603昭15.B/
すとあ → ストア
ストア(すとあ、ストイ(一)ック、
ストイックス、ストイク、
ストカ[ア?]學派、すと
いっく、ストイ(ッ)シズ
ム（Stoicism）、ストイッ
クチック、ストイリ、ス
トイシアン學派、ストイ
セン、ストイケ、スチッ
ク哲學、スト(一)ア學派、
ストア派、ストア哲學、
ストア主義、ストイック
主義、ストイック哲學、
ストイック派、士多亞、
西土伊句, Stoic,Stoiker）
①20明9.B/①36明17.E/
①38明18.B/①51明22.B/
①55明23.B/①58明23.E/
①61明24.C/①64明25.B/
①66明25.E/①68明26.B/
①69明26.B/①75明28.B/
①76明28.B/①81明29.E/
①82明30.B/①84明30.E/
①85明31.B/①90明32.B/
①93明33.B/①96明34.B/
①99明35.A/①100明35.B/
①105明36.B/①111明37.B/
①118明38.B/①119明38.B/
①131明40.B/①135明41.A/
①135明41.B/①136明41.B/
①146明43.B/①156明45.B/
①180大4.B/①187大5.B/
①195大6.B/①215大9.B/
①229大11.B/①249大13.E/
①253大14.B/①264大15.B/
①282昭2.E/①313昭5.B/
①314昭5.B/①315昭5.B/
①343昭7.B/①344昭7.B/
①354昭7.E/①375昭9.B//
②12昭10.B/②96昭15.B/
②100昭15.D/②132昭18.B/
②145昭19.E/②151[14517]/
②158明13.B/②159明14.B/
②162明16.B/②168明18.E/
②176明21.B/②178明22.B/
②183明23.B/②192明25.D/
②194明26.B/②197明27.B/

②199明28.B/②207明31.D/
②207明31.E/②208明32.B/
②212明34.B/②215明35.B/
②217明36.B/②220明37.B/
②222明38.B/②224明39.B/
②225明39.E/②226明40.B/
②228明41.B/②230明42.B/
②230明42.E/②232明44.B/
②234明45.B/②238大3.B/
②263昭4.E/②282昭9.B/
②283昭9.B//③3明5.B/
③10明10.B/③12明10.F/
③20明16.E/③37明22.D/
③40明23.B/③44明24.B/
③45明24.B/③49明25.B/
③54明26.B/③55明26.B/
③57明26.D/③63明27.D/
③65明28.B/③66明28.B/
③80明30.B/③81明30.B/
③85明30.E/③87明31.B/
③88明31.B/③91明31.E/
③93明32.B/③99明33.B/
③104明33.F/③111明35.B/
③113明35.B/③117明36.B/
③122明36.C/③138明39.B/
③147明41.B/③149明42.B/
③150明42.B/③156明43.B/
③160明44.B/③163明45.B/
③165明45.B/③166明45.B/
③174大2.B/③177大2.D/
③179大3.A/③181大3.B/
③190大4.B/③194大4.D/
③218大11.B/③233大15.B/
③234大15.B/③238昭2.B/
③258昭6.B/③303昭14.B/
③306昭14.E/③307昭15.A/
③314昭16.B//④28[25031]/
④28**明**2.B/④41明14.B/
④43明14.D/④46明15.B/
④49明15.E/④51明16.B/
④52明16.B/④62明19.B/
④63明19.B/④67明20.B/
④72明21.B/④77明22.B/
④81明23.B/④82明23.B/
④86明24.B/④90明25.B/
④93明25.E/④95明26.B/
④97明26.C/④98明26.D/
④100明27.B/④102明27.B/
④106明28.B/④107明28.B/
④109明28.E/④110明29.B/
④118明31.B/④119明31.B/
④120明31.C/④122明32.B/
④123明32.B/④127明33.B/
④130明34.B/④131明34.B/
④132明34.B/④137明35.B/
④141明36.A/④142明36.B/
④144明36.B/④148明36.E/
④151明37.B/④156明37.D/
④158明38.B/④159明38.B/
④160明38.B/④167明39.B/
④168明39.B/④169明39.B/
④176明40.B/④177明40.B/
④184明41.B/④185明41.B/
④186明41.B/④192明42.B/
④194明42.B/④195明42.B/
④197明42.C/④203明43.B/
④204明43.B/④205明43.B/
④207明43.B/④214明44.B/
④215明44.B/④216明44.B/
④217明44.B/④218明44.B/
④220明44.C/④226明45.B/
④229明45.B/④232命45.B/
④233明45.B/④241大2.A/
④244大2.B/④245大2.B/
④247大2.B/④258大3.B/
④272大4.B/④275大4.B/
④276大4.B/④277大4.B/
④278大4.C/④283大4.E/
④288大5.B/④289大5.B/
④290大5.B/④302大6.B/
④303大6.B/④309大6.E/
④313大7.B/④317大7.C/
④320大7.E/④331大9.B/
④339大10.B/④340大10.C/

④343大11.A/④344大11.A/
④345大11.B/④346大11.B/
④352大12.B/④353大12.C/
④357大13.B/④360大13.B/
④365大14.B/④366大14.B/
④367大14.B/④376大15.B/
④400昭3.B/④402昭3.B/
④403昭3.B/④432昭5.C/
④439昭6.B/④442昭6.B/
④448昭6.E/④453昭7.B/
④456昭7.B/④465昭8.A/
④466昭8.A/④468昭8.B/
④487昭9.B/④494昭9.C/
④499昭9.E/④500昭9.E/
④511昭10.B/④522昭1.A/
④529昭11.B/④532昭11.B/
④549昭12.B/④569昭13.B/
④586昭14.B/④606昭15.B/
④622昭15.E/④624昭15.E/
④627昭16.B/④628昭16.B/
④629昭16.B/④631昭16.B/
④652昭17.E/④656昭18.B/
④666昭19.B/④683[明13]/
④698[明30]/④711[明45]/
ストア學 → ストア
スト(ー)ア學派 → ストア
ストア主義 → ストア
ストア哲學 → ストア
ストア派 → ストア
Steuer, G.②57昭12.B/
ストイケ→ ストア
ストイク派 → ストア
ストイシアン → ストア
ストイセン→ ストア
すといっく → ストア
スト(ー)イック → ストア
ストイック主義→ ストア
ストイックス → ストア
ストイックチック → ストア
ストイ(ッ)シズム(Stoicism) → ストア
ストイック哲學→ ストア
ストイック派→ ストア
ストイリ → ストア
ストウカァ(ストーカー)、ジェムズ④197明42.C/
④207明43.C/④219明44.C/
スト(ウ)ムプ①130明40.A//
③71明29.A/
ストカ[ア?]學派 → ストア
ストーカ(ー)、ゼームス③157明43.C//④382大15.C/
ストーカル(須氏)①76明28.C/
Stocks, J.L.③191大4.B/
Stoddart,U.T.④281大4.D/
Stoderl,W.④538昭11.D/
ストッダード④727[昭1]/
ズード(ト)ハイメル、ヘルムート①373昭9.A//④517昭10.D/
④518昭10.D/
Stobeus(ストベイオス)①5[19]/
④167明39.B/
ストラウス③157明43.D/
Strachan-Davidson, J.L.
③110明34.E/
ストラトー(Strato)①5[19]//
②229明42.B/
Strack,M.L.④492昭9.C/
ストラ(ッ)ボ → ストラボン
ストラボン(ストレーボ、ストラ(ッ)ボ、ストラボー、ストラボーン、スタフボ)
①12[224]/
①40明19.C/①132明40.C//
②60昭12.C//②157明10.C/
②161明15.E/②202明29.C/
②203明29.D/②216明35.D/
②229明42.B/②232明44.B/
②239大4.B/②246大10.B/
②247大11.B/②260昭3.C//
③15明12.C/③33明21.F/
③38明22.F/③82明30.C/
③151明42.C/③153明42.F/

④24[24956]/④36明12.C/
④75明21.F/④107明28.B/
④110明29.B/④116明30.C/
④209明43.C/④338大10.B/
④379大15.C/④606昭15.B/
ストラボー→ ストラボン
ストラボーン→ ストラボン
Strich, F.①300昭4.A/
ストリンドベルヒ(ク)、オーガストス(Strindberg, August)
①176大3.C/①187大4.B/
①197大6.C/①198大6.C/
①199大6.D/①229大11.B/
①236大12.B/①237大12.B/
①244大13.B/①257大14.C//
③199大5.D//④172明39.D/
④263大3.C/④305大6.C/
④306大6.C/④350大12.B/
④357大13.B/④428昭5.B/
Stolz,O.①292昭3.C/
ストルヴェ②84昭14.C//
④609昭15.C/
Strecker, W.③49明25.B/
ストレイチー、リットン
④648昭17.C/
ストレーボ → ストラボン
ストロング④133明34.D
Strong,A.(Mrs.)④282大4.D/
Strong,H.A.④227大1.B/
ストロング、ジョシア
④107明28.C/
ストロング①191大5.D/
①217大9.D/①240大12.D/
①241大12.D//③83明30.D/
④723[大12]/
Strong,S.④207明43.C/
スナイダー(Snider)
③118明36.B/
スニース③47明25.A/
Snell, B.③251昭4.F/③304昭14.C/
③305昭14.D//④589昭14.C/
スパー、ダブリュー
①139明41.D//④189明41.D/
④190明41.F/
Super, Ch.W.③173大2.B/
スパーゴ①209大8.B/
Spicer, E.E.②284昭9.B//
④487昭9.B/
Speiser, A.②59昭12.B/
スパータカス → スパルタカ(ク)ス
スパルジョン、シー・エッチ
④77明22.C/
スパルタカ(ク)ス(スパルタス、スパルタキュース、スパータカス)①52明22.C/
①114明37.C/①158明45.C/
①204大7.C/①210大8.C/
①219大9.E/①305昭4.C//
②160明15.E/②179明22.C/
②183明23.C/②195明26.C//
③153明42.F/③185大3.C/
③286昭11.C//④77明22.C/
④153明37.C/④264大3.C/
④342大10.E/
スパルタキュース → スパルタカ(ク)ス
スパルタス → スパルタカ(ク)ス
スパルディン③313昭16.A/
スパンゴ④325大8.B/
ス・ハンノット④253大2.G/
④270 大3.G/
スピオ → スキピオ
Spicker, Giden③55明26.B/
スピナツオルラ、ヴィットリオ
③324昭18.C/
スピノ(一)ザ(Spinoza, Spinozism)①109明36.E/
①110明37.B/①116明37.E/
①126明39.B/①265大15.B/
①377昭9.B//③202大6.B/
③233大15.B/③238昭2.B/
③320昭17.B//④62明19.B/

④107明28.B/④222明44.E/
④244大2.B/④254大3.A/
④257大3.B/④301大6.B/
④420昭4.D/④454昭7.B/
④551昭12.B/
スヒンクス → スフィンクス
Spingarn, J.E.③224大12.D/
スピンダーン④651昭17.D/
スピン子(ネ)ル①48明21.D//
④63明19.B/④64明19.C/
④67明20.B/④72明21.B/
④73明21.C/④695[明25]/
スフィンクス(スヒンクス)
①210大8.B/①268大15.C//
③49明25.B/③189大4.B//
④264大3.C/④266大3.D/
④322大8.B/
Sprauger, E.②125昭17.D//
④649昭17.D/
Spranger④343大11.A/
スプンリングスハイム
②28昭10.E/
スペイト(スペート)④336大10.A/
④343大11.A/
スペート→ スペイト
Speusippe③295昭13.B//
④567昭13.B/
スペンク(Schenki,Petri)
④27[25020]/
スペンギラー→ シュペングラー
スペングラア → シュペングラー
スペングラー → シュペングラー
スペングレリズム → シュペングラー
スペングレル → シュペングラー
Spengel,A.③128明37.C/
すぺんさー → スペンサー
斯ペンサー→ スペンサー
スペンサー(スペンセル、すぺんさー、斯ペンサー、斯邊鎖、斯邊瑣、斯邊撒、Spencer)、ヘルベルト(ハルバルト)[尾崎行雄]①24明10.E/
①29明13.B/①33明15.E/
①36明17.E/①59明24.B/
①101明35.B/①106明36.B/
①136明41.B/①354昭7.E//
②158昭12.E/②159昭14.E/
②161明15.E/②167明18.D/
②168明19.A/②169明19.A/
②169明19.B/②190明25.B/
②193明26.A/②219明37.B//
③13明11.B/③14明11.E/
③18明14.E/③25明19.A/
③55明26.B/③80明30.B/
③87明31.B/③132明38.B//
④32明10.A/④38明13.A/
④38明13.B/④51明16.B/
④54明16.E/④57明17.E/
④59明18.B/④62明19.A/
④62明19.B/④63明19.B/
④70明20.D/④72明21.B/
④86明24.B/④143明36.B/
④150明37.B/④151明37.B/
④496昭9.D/④688[明18]/
Spencer,W.W.④455昭7.B/
スペンセル → スペンサー
スペンダー、J.A.③306昭14.E/
スマイス④109明29.B/
スマイス、ニューマン
④88明24.C/
スマイス → スマイルズ
スマイル → スマイルズ
スマイルス → スマイルズ
スマイルズ(スマイス、スマルス、スマイルス、スマイル、斯邁爾斯、斯滿爾斯)、サミュエル[自助論、中村敬宇、山縣悌三郎、品性論

西洋立志篇］①14明4.A/
①18明8.A/①20明9.A/
①28明12.A/①28明12.B/
①42明20.A/①47明21.B/
①55明23.B/①60明24.B/
①65明25.B/①68明26.A/
①83明30.C/①99明35.A/
①104明36.B/①106明36.B/
①112明37.B/①113明37.B/
①119明38.B/①187大4.B/
①204大7.C//②168明19.A/
②173明20.C/②216明35.C/
②221明38.A/②226明 40.B/
②273昭7.B/②274昭7.B/
②284昭9.B//③5明8.A/
③8明9.B/③11明10.B/
③13明11.B/③16明13.B/
③17明14.B/③42明23.D/
③48明25.B/③50明25.B/
③132明38.B/③137明39.B/
③139明39.B/③155明43.B/
③156明43.B/③167明45.B/
③194大4.D/③225大13.B/
③235大15.B//④28明4.B/
④29明6.B/④32明10.B/
④44明15.A/④50明16.B/
④86明24.B/④87明24.B/
④90明25.B/④92明25.B/
④128明33.B/④138明35.B/
④150明37.B/④151明37.B/
④152明37.B/④157明38.A/
④159明38.B/④160明38.B/
④167明39.B/④169明39.B/
④177明40.B/④178明40.B/
④187明41.B/④196明42.B/
④218明44.B/④233明45.B/
④243大2.B/④277大4.B/
④278大4.B/④285大5.B/
④302大6.B/④397昭2.B/
④588昭14.B/④606昭15.B/
④761[昭13]/④764[昭14]/
スマート①335昭6.D/
スマート、ジョン④745[昭8]/
スマルス → スマイルズ
スミジス、ウィリアム
①70明26.C/
スミス、アーサー④208明43.C/
スミス、コルド④246大2.B/
Smith③134明38.C/
Smith②89昭14.E/
スミス②245大9.B/②246大10.B/
②247大11.B/②248大12.B/
②266昭5.B/
スミス①277昭2.C/
スミス④500昭9.E/
スミス教授④333大9.C/
スミス①321昭5.D/
スミス、アダム［冨國論］
①322昭5.E//②161明15.E/
②267昭5.E//④355大12.E/
スミス、D.E.②128昭17.F/
スミス、デヴィッド(デヴキッド、デッビド)④137明35.B/
④232明45.B/④250大2.C/
④278大4.C/④280大4.C/
④347大11.C/④392昭2.C/
スミス③188大3.F/
Smith, E.P.①231大11.C//
④722[大11]/
Smith,F.④611昭15.C/
Smith, G.A.(スミス、ヂョージ・アダム)
③198大5.C/
Smith,G.R.④287大5.B/
Smith, H.B.③240昭2.B/
スミス、ムンロー②207明31.E/
Smith,O.N.④256大3.B/
Smith, P.③95明32.C/
Smith, P.(パタソン)④242大2.B/
④250大2.D/
Smith, Pr.①255大14.B/
Smith, Wm.③108明34.C/
スミス、ウィリアム・ジョージ(Smith,W.G.)

④98明26.D/④138明35.C/
④145明36.C/④158明38.B/
④785[明35]/
スミス、ヴ井ンセント
④139明35.C/
スミツス③74明29.C/
Smellie, K.B.②89昭14.E/
スミルナ④180明40.D/
スミルノフ、エ④138明35.C/
スュルラ(Sulla))①94明33.C/
①365昭8.C//③198大5.C//
④292大5.C/④717[大5]/
ズュッセンドルフ②128昭17.F/
Sulla → スュルラ
スランケ④108明28.D/
スルツセー、ジャン・ポール
③236大15.D/
スレェータル、デ・イ
④107明28.C/
スレータリイ、ジョン
④446昭6.D/
Sulbach,W.④614昭15.C/
スロース①281昭2.D/
Slonimsky, H.③172大2.B/
スヴェドベリー④774[昭17]/
Souvestre,Emile④114明30.B/
スワン、H.②219明 36.G/
Swete,H.B.(スキート、ヘンリー・バークレー)④281大4.D/
④292大5.C/④339大10.C/
④601昭15.B/
スキフト(J.Swift)
②100昭15.D/②107昭16.B//
④748[昭9]/
ス井ントン(史家) → スウキ(井)ント
ス井ントン③42明23.D/
すゐんとん → スウキ(井)ントン
すーゐんとん → スウキ(井)ントン
スウ井ンバー→ スウィンバーン
すゑとにうす → スエトニウス
Swoboda,Glorg①278昭2.C/
Sée, Henri①334昭6.C//
④536昭11.C/④614昭15.C/
セアイエ(ユ)③118明 36.B/
③127明37.B/
セイ①189大4.B/①331昭6.C/
セイイェール、エルネスト
②80昭14.B/
Sage,E.T.④612昭15.C/
セイス①158明45.C/①364昭8.C//
④347大11.C/
西大后②218明36.C/
セイッフェ③171大2.B/
セイニョボン → セ(一)ニョボス
Sabine, G.H.②66昭12.E/
聖福音書④728[昭1]/
Seymour,J.N.④336大10.A/
西洋神話④312大7.B/
セイレーン → サイレン
セウエール(セエル、息宕爾、E.M.Sewell)
①15明5.C/①17明7.C//
④73明21.C/
セエル → セウエール
Sewell, R.③133明38.C/
セオドタ③163明45.B/
せおん④269大3.F/
セキストス・エムピリクス→ セクスツス・エンピリクス
セ(一)キスピ(一)ア → シェク(キ)スピア
セギュウル③287昭11.D/
Seek,O.④615昭15.C/
Ségu,Fr.④572昭13.C/
セクスツス・エンピリクス(セキストス・エムピリクスセクストス、セクスト、Sextus Empericus Empeirikos)
①221大10.A//②17昭10.B/

②202明29.B/②281昭9.B//
④114明30.B/④167明39.B/
④184明41.B/④185明41.B/
セクスト→ セクスツス・エンピリクス
セクストス→ セクスツス・エンピリクス
Sextus Julius Africanus ④612昭15.C/
Seeck, O.③110明34.E/
③114 明35.C/③120明36.C/
③128明37.C//④133明34.E/
④139明35.C/④145明36.C/
セザール、ジュール③263昭7.A/
セジイ(ィ)ク（セジ井ク）、タフラー
①324昭5.F/①340昭6.F/
②128昭17.F//④436昭5.F/
④448昭6.F/④654昭17.F/
Séchan, Louise②272昭6.F/
ゼーシュス③14明11.E/
セジ井ク→ セジイ(ィ)ク
セース④121明31.D/
セス、ジェームズ③66明28.B/
セスタ④83明23.C/
セスピス・バキュス③13明11.D/
セスラン師④623昭15.G/
Seta,A.Della④282大4.D/
Söderblom③288昭12.A/
セニオル③110明34.E/
セ(ゼ)ーニョーボー(セーニョボス、Seignobos、ラングロア)①93明33.A/
①94明33.C/①150明44.A/
①161大2.A//③121明36.C/
③126明37.A//④270大4.A/
④285大5.A/④306大6.C/
セ(一)ニョボス(セイニョボン、Seignobos、シャルル[Ch.])
②133昭18.C/②141昭19.A//
③95明32.C//④393昭2.C/
④582昭14.A/④810[19-]/
ゼッケム、ディートリヒ ②116昭16.G/
ゼッケル、ディートリヒ ②125昭17.D//④619昭15.D/
セツフェル④32明10.A/
セデ③324昭18.C/
セナカ → セネ(子)カ
せなか → セネ(子)カ
セニカ → セネ(子)
セネ(子)カ、ルシアス(セナカ、せなか、ゼネカ、エネカ、セ子(ネ)ーク、セネガ、セニカ、センカ、シ子カ、セネク、Senek、Seneca Philosophus、Senecanism、塞内加)
①4[8]/①5[19]/①20明9.B/
①46明21.B/①54明23.B/
①59明24.B/①63 明25.B/
①64明25.B/①68明26.B/
①69明26.B/①73明27.B/
①111明37.B/①119明38.B/
①161大2.B/①163大2.B/
①179大4.B/①195大6.B/
①249大13.E/①265大15.B/
①274昭2.B/①279昭2.D/
①302昭4.B/①327昭6.B/
①336昭6.D/①373昭9.B/
①342昭7.B/①346昭7.B/
①352昭7.D/①358昭8.B/
①376昭9.B//②34昭11.B/
②40昭11.B/②82昭14.B/
②149[14470]/②153明4.C/
②156明8.C/②168明18.E/
②183明23.B/②185明23.D/
②186明24.A/②194明26.B/
②195明26.C/②202明29.C/
②203明29.E/②207明31.E/
②208明32.C/②210明33.B/
②211明33.E/②217明36.B/
②219明 37.B/②222明38.C/
②234明45.B/②237大3.B/

②261昭4.B/②280昭9.B//
③15明12.E/③17明14.B/
③29明21.B/③30明21.B/
③32明21.D/③34明22.B/
③39明23.B/③40明23.B/
③45明24.C/③48明25.B/
③49明25.B/③54明26.B/
③57明26.D/③59明27.A/
③101明33.B/③107明34.B/
③120明36.C/③132明38.B/
③153明42.F/③200大5.D/
③218大11.B/③242昭3.B/
③286昭11.C//④36明12.B/
④41明14.B/④45明15.B/
④45明15.C/④50明16.B/
④56明17.C/④59明18.B/
④63明19.B/④68明20.C/
④69明20.C/④71明21.B/
④72明21.B/④77明21.B/
④77明22.B/④80明23.B/
④81明23.B/④100明27.B/
④109明29.B/④116明30.B/
④120明31.B/④122明32.B/
④127明33.B/④131明34.B/
④151明37.B/④152明37.C/
④161明38.B/④183明41.B/
④187明41.B/④195明42.B/
④197明42.C/④204明43.B/
④206明43.B/④208明43.C/
④209明43.C/④215明44.B/
④226明45.B/④248大2.B/
④269大3.F/④285大5.B/
④303大6.B/④345大11.B/
④356大13.B/④358大13.B/
④365大14.B/④367大14.B/
④372大14.E/④390昭2.B/
④470昭8.B/④489昭9.B/
④495昭9.D/④523昭11.A/
④566昭13.A/④627昭16.B/
④665昭19.B/
セネガ → セネ(子)カ
ゼネカ → セネ(子)カ
セネク→ セネ(子)カ
セ子ーク → セネ(子)カ
セネクス③110明34.E/
セバスチア④179明40.C/
セプチーム→ セプテミウス
セプチミアス→ セプテミウス
セプテミウス・セエルス(セプチーム、セプチミアス、Septimius Sevenus)
②20昭10.C//④120明31.C/
④280大4.C/
セベステン、カール④391昭2.B/
セベラス④280大4.C/
セベリ、フランチェスコ(セヴィリ)(教授)②32昭11.A//
③284昭11.A/
Seeberg,E.④603昭15.B/
Seeberg,K.④572昭13.C/
Seeberg,R.③172大2.B//
④264大3.C/
せぼん③25明19.A/
ゼーマン、オット①101明35.B/
セミソン④56明17.C/
セミラミス③131明38.B/
ゼムペル、ハー②227明40.D/
Semenov,A.④535昭11.C/
Sera,L.G.④205明43.B/
Seligman, Edwin①113明37.B//
④614昭15.C/
セリス④36明12.B/
セーリス→ タ(一)レス
セリストリス③79明30.A/
セリリング①126明39.B/
セルウヒーヌ②161明15.E/
セルサス(エピキュリアン派、ローマの鴻儒、セルスス、セルシュス)
②165明17.F//④81明23.B/
④107明28.B/④323大8.B/
セルシュス→ セルサス
セルススス→ セルサス
セールス → タ(一)レス

Seltzer,Thomas④711[大1]/
Sölderblom,N.③246昭4.A/
③252昭5.A//④273大4.B/
Sertillanges,A.D.④485昭9.B/
セルトリウス(皇帝)
③132明38.B/
セルバンテス④655昭18.A/
セルビュース②201明28.E/
Seel, O.②76昭13.E/
Sehl, E.②58昭12.B/
Selmer,C.④616昭15.C/
セルヴィウス・トリウス(ツリウス)①379昭9.C//
②246大10.B/
セーレ、エルヴィン②22昭10.C/
セレウクス家(せれうこす家)
①348昭7.C//②200明28.C/
②230明42.C//④457昭7.C/
せれうこす家 → セレウクス家
せれなす④269大3.F/
セーレンス → サイレン
セロイコス②232明44.B/
セヴィリ → セベリ
Sevin, L.udwig①179大4.A//
②238大4.A//④271大4.A/
④284大5.A/
せをとしようす④269大3.F/
錢稻孫④739[昭6]/
センカ→ セネ(子)
センキウキッチ → シェンキエキツチ
Sait-Hilaire,B.④402昭3.B/
センプル、エレン・チャーチル
①365昭8.C/
センベルヒ④470昭8.B/
Soare,Th.G.④207明43.C/
ソウカテレイス(宗家禮須) → ソクラ(ッ)ト
ソウクリシャス→ ソクラ(ッ)ト
ソウ井ンヴリーデン
④113明29.D/
荘子(老荘)①136明41.B//
③105明34.B//④114明30.B/
④143明36.B/④159明38.B/
④187明41.B/④701[明35]/
曹操①85明31.A/
Saurat, Danis②281昭9.B/
巣林子④140明35.D/
Sauter, J.②277昭8.B/
ソウレー → ソオレイ
ソオクラテース → ソクラ(ッ)ト
ソオクレス → ソホフレス
ソォフィスト → ソフィスツ
ソォフクレス→ ソホフレス
ソオレイ(ソーレー、ソウレー)、W.①155明45.B/
①156明45.B/①164大2.B//
③165明45.B/③173大2.B//
④228明45.B/④229明45.B/
④244大2.B/
蘇格蘭④28明4.C/
ソキウラテス → ソクラ(ッ)ト
ソクラアト → ソクラ(ッ)ト
ソクラエス → ソクラ(ッ)ト
ソクラチース → ソクラ(ッ)ト
ソ(ー)クラチーズ → ソクラ(ッ)ト
ソクラチイス → ソクラ(ッ)ト
ソクラチイーズ(ス) →ソクラ(ッ)ト
ソクラチス→ ソクラ(ッ)ト
ソクラーツ → ソクラ(ッ)ト
ソクラッチス→ ソクラ(ッ)ト
ソクラテ→ ソクラ(ッ)ト
ソクラテイ→ ソクラ(ッ)ト
Sokratiker③248昭4.B/
ソクラテイス→ ソクラ(ッ)ト
ソークラテイス→ ソクラ(ッ)ト
ソクラテイース→ ソクラ(ッ)ト
ソクラテイズ → ソクラ(ッ)ト
ソクラティ(ー)ス → ソクラ(ッ)ト
ソークラテ井ス→ ソクラ(ッ)ト

ソクラテーズ→ ソクラ(ッ)ト
ソクラ的 → ソクラ(ッ)ト
ソクラテス → ソクラ(ッ)ト
曾クラテス → ソクラ(ッ)ト
蘇クラテス → ソクラ(ッ)ト
そくらて(一)す → ソクラ(ッ)ト
ソクラテース → ソクラ(ッ)ト
ソークラテース → ソクラ(ッ)ト
ソクラーテス → ソクラ(ッ)ト
ソクラーテーズ → ソクラ(ッ)ト
ソ(一)クラテ(一)ス → ソクラ(ッ)ト
ソクラテス後哲學者（Nachsokratikern）
③223大12.B/
ソクラテス前哲學者(前ソクラテ期、Vorsokratikern、frühgriechischen Philosophie)
①63明25.B/①68明26.B//
①73明27.B/①97明34.B/
①130明40.B/①302昭4.B/
①376昭9.B//②19昭10.B/
②39昭11.B/②83昭14.B/
②219明37.B/②221明38.B/
②284昭9.B//③55明26.B/
③66明28.B/③172大2.B/
③222大12.B/③225大13.A/
③225大13.B/③295昭13.B/
③327明[不明]B//
④67明20.B/④73明21.B/
④90明25.B/④119明31.B/
④130明34.B/④150明37.B/
④206明43.B/④343大11.A/
④487昭9.B/④527昭11.B/
ソクラ(一)ト → ソクラ(ッ)ト
ソクラ(ッ)ト(ショコラテス、ソクラテイズ、ソクレートス、ソコラテ(一)ス、ソクレチス、ソクラチース、ソ(一)クラチーズ、ソクラテス、ソクラテース、ソキウラテス、ソクラテ、ソクラティース、ソークラテース、ソクラ的、そくらて(一)す、ソオクラテース、ソクラーツ、ソクラーテーズ、ソクレテス、ソクラアト、ソクラチイーズ(ス)、曾クラテス、蘇クラテス、ソクラ(一)ト、ソクラエス、ソクラチイス、ソクラーテス、ソクラテイス、シクラチース、ソクラティス、ス[ソ?]クラチス、ソクレート、ソクレエー、ソコレト、ソウクリシャス、ソクラテイ、ソコラチス、ソクレチーズ、サクラテス、ソクラテーズ、ソークラテ井ス、ソークラテイス、ソクラチス、ソクラッチス、ソクラテイース、ソクラテイス、宗家禮須、瑣格拉的、瑣格刺庭、瑣格刺底、瑣格底、瑣克拉的、瑣克刺底、瑣克拉底、索克拉得、瑣刺底、索格拉的斯、索氏、瑣氏、瑣克底、索克拉的、索古刺其底、索刺底士、索刺底、蘇哥列的、蘇格刺底、底阿厄、壽各太斯、曾虞刺鐵、蘇固辣地斯、蘇氏、Socrates, Socrate)[アポロギア、Apology,Apologia]
①5[19]/①6[41]①15明5.B/
①18明8.B/①20明9.B/
①22明9.E/①23明10.B/

①26明11.B/①29明13.B/
①31明14.B/①34明16.B/
①39明19.B/①42明20.B/
①43明20.B/①44明20.E/
①46明21.B/①49明21.E/
①50明22.B/①51明22.B/
①54明23.B/①55明23.B/
①56明23.C/①57明23.D/
①58明23.E/①59明24.B/
①60明24.B/①61明24.C/
①63明25.B/①64明25.B/
①67明25.E/①68明26.B/
①69明26.B/①70明26.B/
①70明26.C/①73明27.B/
①74明27.B/①75明28.B/
①76明28.B/①78明29.B/
①79明29.B/①82明30.B/
①83明30.C/①85明31.B/
①86明31.B/①89明32.A/
①89明32.B/①90明32.B/
①93明33.B/①94明33.B/
①96明34.B/①97明34.B/
①99明35.B/①100明35.B/
①104明36.B/①105明36.B/
①106明36.B/①110明37.B/
①111明37.B/①112明37.B/
①114明37.C/①118明38.B/
①119明38.B/①120明38.B/
①124明39.B/①125明39.B/
①126明39.B/①130明40.B/
①131明40.B/①132明40.B/
①133明40.D/①135明41.B/
①136明41.B/①141明42.B/
①142明42.B/①143明42.B/
①146明43.B/①150明44.A/
①151明44.B/①156明45.B/
①162大2.B/①163大2.B/
①170大3.B/①171大3.B/
①175大3.C/①179大4.B/
①180大4.B/①187大5.B/
①195大6.B/①202大7.B/
①203大7.B/①209大8.B/
①215大9.B/①221大10.B/
①222大10.B/①229大11.B/
①236大12.B/①237大12.B/
①243大13.B/①244大13.B/
①245大13.B/①253大14.B/
①254大14.B/①255大14.B/
①264大15.B/①265大15.B/
①284昭3.A/①286昭3.B/
①287昭3.B/①300昭4.B/
①302昭4.B/①310昭4.E/
①314昭5.B/①326昭6.B/
①328昭6.B/①339昭6.E/
①343昭7.B/①344昭7.B/
①345昭7.B/①354昭7.E/
①360昭8.B/①362昭8.B/
①374昭9.B/①375昭9.B/
①377昭9.B//②12昭10.B/
②13昭10.B/②14昭10.B/
②16昭10.B/②18昭10.B/
②33昭11.B/②35昭11.B/
②36昭11.B/②37昭11.B/
②54昭12.B/②55昭12.B/
②58昭12.B/②68昭13.B/
②69昭13.B/②70昭13.B/
②71昭13.B/②79昭14.B/
②80昭14.B/②82昭14.B/
②93昭15.B/②94昭15.B/
②97昭15.B/②102昭15.E/
②105昭16.B/②106昭16.B/
②108昭16.B/②113昭18.E/
②118昭17.B/②119昭17.B/
②131昭18.B/②146昭20.B/
②148［14464,14467］/
②153明4.C/②153明5.B/
②154明6.B/②155明8.B/
②158明11.B/②158明13.B/
②159明14.A/②159明14.B/
②160明15.B/②160明15.E/
②161明15.E/②162明16.B/
②163明16.C/②163明16.E/
②164明16.E/②164明17.A/
②164明17.B/②165明17.B/

②166明18.B/②167明18.B/
②168明18.E/②169明19.B/
②170明19.B/②172明19.E/
②173明20.B/②175明21.B/
②176明21.B/②177明21.E/
②178明22.B/②179明22.B/
②180明22.D/②181明22.D/
②181明22.E/②181明22.F/
②182明23.B/②183明23.B/
②185明23.D/②186明23.E/
②187明24.B/②188明24.D/
②189明25.A/②190明25.B/
②191明25.C/②192明25.E/
②193明26.A/②193明26.B/
②194明26.B/②197明27.B/
②198明27.B/②199明28.B/
②200明28.B/②201明29.B/
②202明29.B/②203明29.D/
②203明29.E/②203明30.B/
②204明30.B/②205明30.E/
②205明31.A/②206明31.B/
②206明31.C/②207明31.E/
②207明32.B/②208明32.C/
②208明32.D/②209明33.B/
②210明33.B/②212明34.B/
②213明34.B/②214明34.F/
②215明35.B/②215明35.C/
②216明35.C/②216明35.D/
②217明36.B/②218明36.B/
②218明36.C/②219明37.B/
②220明37.B/②221明38.B/
②222明38.B/②222明38.C/
②224明39.A/②225明39.B/
②226明40.B/②228明41.B/
②230明42.B/②232明44.B/
②234明45.B/②235明45.F/
②241大6.E/②243大8.B/
②246大10.B/②250大13.A/
②254大15.B/②256昭2.B/
②259昭3.B/②263昭4.E/
②265昭5.B/②271昭6.E/
②273昭7.B/②279昭8.E/
②280昭9.B/②282昭9.B/
②286昭9.E//③7明9.B/
③8明9.B/③8明9.C/
③10明9.E/③11明10.B/
③12明10.E/③13明11.B/
③14明11.E/③14明12.B/
③15明12.E/③16明13.B/
③17明14.B/③18明15.B/
③19明15.E/③20明16.B/
③20明16.D/③20明16.E/
③21明17.B/③22明18.B/
③25明19.B/③28明20.B/
③28明20.D/③30明21.B/
③31明21.B/③34明22.B/
③35明22.B/③36明22.C/
③37明22.D/③40明23.B/
③41明23.C/③42明23.D/
③42明23.E/③44明24.B/
③45明24.B/③47明24.E/
③47明25.A/③48明25.B/
③49明25.B/③50明25.B/
③50明25.C/③51明25.D/
③52明25.E/③53明25.F/
③54明26.B/③55明26.B/
③57明26.D/③58明26.D/
③58明26.E/③60明27.B/
③61明27.C/③62明27.D/
③64明27.D/③64明27.E/
③65明28.B/③66明28.B/
③67明28.B/③69明28.D/
③70明28.F/③71明29.B/
③72明29.B/③77明29.D/
③79明30.A/③80明30.B/
③81明30.B/③82明30.C/
③87明31.B/③88明31.B/
③91明31.E/③91明32.A/
③92明32.B/③93明32.B/
③94明32.B/③97明32.D/
③97明32.E/③99明33.B/
③100明33.B/③105明34.B/
③106明34.B/③111明35.B/

③112明35.B/③116明35.E/
③118明36.B/③120明36.C/
③126明37.B/③127明37.B/
③132明38.B/③135明38.D/
③137明39.B/③138明39.B/
③141明39.E/③141明40.B/
③142明40.B/③143明40.B/
③146明41.B/③147明41.B/
③147明41.C/③149明42.B/
③150明42.B/③153明42.E/
③154明43.B/③155明43.B/
③156明43.B/③159明44.B/
③160明44.B/③161明44.B/
③163明45.B/③164明45.B/
③165明45.B/③166明45.B/
③170明45.F/③171大2.B/
③172大2.B/③175大2.B/
③175大2.C/③180大3.B/
③181大3.B/③182大3.B/
③187大3.E/③189大4.B/
③190大4.B/③191大4.B/
③195大5.B/③196大5.B/
③197大5.B/③201大6.B/
③205大7.B/③207大7.C/
③209大8.B/③211大8.E/
③212大9.B/③214大10.B/
③215大10.B/③218大11.B/
③222大12.B/③223大12.B/
③225大13.B/③226大13.B/
③228大14.A/③233大15.B/
③240昭2.B/③242昭3.B/
③243昭3.B/③244昭3.B/
③247昭4.A/③247昭4.B/
③248昭4.B/③252昭5.A/
③253昭5.B/③262昭7.A/
③264昭7.B/③265昭7.C/
③270昭8.B/③274昭9.B/
③275昭9.B/③276昭9.B/
③285昭11.B/③289昭12.B/
③294昭13.B/③300昭13.E/
③302昭14.B/③303昭14.B/
③308昭15.B/③313昭16.A/
③313昭16.B/③314昭16.B/
③323昭18.B/③325昭19.B/
③326昭19.B//④26[24997,
25009]/④31明9.B/
④32明10.B/④33明11.B/
④34明11.C/④36明12.B/
④38明13.B/④39明13.B/
④40明14.A/④40明14.B/
④41明14.B/④42明14.B/
④44明14.E/④45明15.B/
④46明15.B/④49明15.E/
④50明16.A/④50明16.B/
④51明16.B/④54明17.A/
④55明17.B/④56明17.C/
④58明18.B/④59明18.B/
④60明19.D/④61明18.E/
④62明19.B/④63明19.B/
④64明19.C/④67明20.B/
④68明20.B/④72明21.B/
④73明21.C/④76明21.B/
④77明21.B/④78明22.C/
④81明23.B/④82明23.B/
④83明23.C/④85明23.F/
④85明24.B/④86明24.B/
④87明24.B/④90明25.B/
④91明25.B/④92明25.B/
④94明26.B/④95明26.B/
④96明26.B/④97明26.C/
④98明26.D/④100明27.B/
④101明27.B/④102明27.B/
④103明27.D/④105明28.B/
④106明28.B/④107明28.B/
④109明29.A/④109明29.B/
④110明29.B/④111明29.B/
④114明30.A/④114明30.B/
④115明30.B/④116明30.B/
④116明30.C/④117明30.D/
④117明30.E/④118明31.B/
④119明31.B/④120明31.B/
④120明31.C/④121明31.D/
④122明32.B/④123明32.B/
④124明32.B/④124明32.C/

④125明32.E/④126明33.A/
④126明33.B/④128明33.B
④128明33.C/④130明34.B/
④132明34.B/④135明35.A/
④135明35.B/④136明35.B/
④137明35.B/④138明35.B/
④141明35.E/④142明36.B/
④143明36.B/④144明36.B/
④149明37.B/④150明37.B/
④151明37.B/④152明37.B/
④153明37.C/④154明37.C/
④157明38.B/④158明38.B/
④160明38.B/④161明38.B/
④162明38.C/④165明38.D/
④168明39.B/④169明39.B/
④173明40.A/④174明40.A/
④175明40.B/④176明40.B/
④177明40.B/④178明40.B/
④179明40.C/④183明41.B/
④184明41.B/④185明41.B/
④187明41.B/④187明41.C/
④188明41.C/④191明42.A/
④191明42.B/④192明42.B/
④193明42.B/④195明42.B/
④196明42.B/④198明42.B/
④198明42.C/④202明43.B/
④203明43.B/④204明43.B/
④205明43.B/④206明43.B/
④207明43.B/④214明44.B/
④215明44.B④216明44.B/
④217明44.B/④218明44.B/
④221明44.D/④223明44.E/
④225明45.B/④226明45.B/
④227明45.B/④228明45.B/
④229明45.B/④232明45.B/
④235明45.C/④236大1.C/
④238明45.D/④240大2.A/
④241大2.B/④243大2.B/
④244大2.B/④245大2.B/
④246大2.B/④248大2.C/
④249大2.C/④251大2.D/
④255大3.B/④257大3.B/
④258大3.B/④259大3.B/
④260大3.B/④264大3.C/
④269大3.E/④270大4.A/
④271大4.B/④272大4.B/
④274大4.B/④275大4.B/
④276大4.B/④277大4.B/
④280大4.C/④281大4.D/
④282大4.D/④286大5.B/
④287大5.B/④288大5.B/
④299大6.A/④300大6.B/
④301大6.B/④303大6.B/
④309大6.E/④311大7.A/
④315大7.B/④317大7.C/
④320大7.E/④321大8.A/
④322大8.B/④324大8.B/
④326大8.C/④330大9.B/
④331大9.B/④332大9.B/
④334大9.D/④335大9.E/
④337大10.B/④338大10.B/
④339大10.B/④341大10.D/
④350大12.B/④351大12.B/
④352大12.C/④353大12.C/
④355大12.E/④356大13.B/
④357大13.B/④359大13.B/
④360大13.C/④361大13.C/
④362大13.D/④362大13.E/
④364大14.A/④365大14.B/
④367大14.B/④368大14.B/
④375大15.B/④376大15.B/
④378大15.B/④382大15.C/
④386大15.E/④389昭2.B/
④390昭2.B/④397昭2.D/
④399昭3.A/④401昭3.B/
④402昭3.B/④403昭3.B/
④412昭4.B/④413昭4.B/
④415昭4.B/④416昭4.B/
④419昭4.D/④427昭5.B/
④428昭5.B/④429昭5.B/
④435昭5.D/④439昭6.B/
④442昭6.B/④448昭6.E/
④450昭7.A/④451昭7.B/
④452昭7.B/④453昭7.B/

④454昭7.B/④458昭7.C/
④463昭7.E/④466昭8.A/
④469昭8.B/④470昭8.B/
④480昭8.E/④483昭9.B/
④488昭9.B/④489昭9.B/
④490昭9.B/④494昭9.C/
④495昭9.D/④499昭9.E/
④500昭9.E/④504昭10.B/
④505昭10.B/④508昭10.B/
④509昭10.B/④510昭10.B/
④525昭11.B/④528昭11.B/
④530昭11.B/④531昭11.B/
④532昭11.B/④549昭12.B/
④550昭12.B/④551昭12.B/
④561昭12.E/④566昭123.B/
④567昭13.B/④569昭13.B/
④570昭13.B/④579昭14.A/
④584昭14.B/④586昭14.B/
④587昭14.B/④602昭15.B/
④605昭15.B/④606昭15.B/
④607昭15.B/④621昭15.E/
④622昭15.F/④627昭16.B/
④628昭16.B/④629昭16.B/
④631昭16.B/④632昭16.B/
④637昭16.E/④643昭17.B/
④645昭17.B/④655昭18.A/
④665昭19.B/④666昭19.B/
④674[明2]/④683[明13]/
④685[明16]/④688[明19]/
④689[明治]/④730[昭2]/
④758[昭12]/④763[昭14]/
④773[昭17]/
ソクラ(ー)ト → ソクラ(ッ)ト
ソクレエート→ ソクラ(ッ)ト
ソクレチ(ー)ス(ズ) → ソクラ(ッ)ト
ソクレテス → ソクラ(ッ)ト
ソクレート → ソクラ(ッ)ト
ソクレートス → ソクラ(ッ)ト
ソコラット → ソクラ(ッ)ト
ソコラチス→ ソクラ(ッ)ト
ソコラテ(ー)ス → ソクラ(ッ)ト
ソコレト→ ソクラ(ッ)ト
ソシュール(ソッスユール)
②99昭15.D//④408昭3.D/
ソーセー、シャンテヒー・デ・ラ
①164大2.B/
ソッスユール→ ソシュール
Soden,H.V.④251大2.D/
ソーパル④45明15.B/
ソヒイスト→ ソフィスツ
ソヒスト → ソフィスツ
ソヒストス→ ソフィスツ
ソピステ(ー)ス → ソフィスツ
ソフィスチーク → ソフィスツ
ソフィスツ(ソフィスト、ソヒイスト、ソヒスト、ソォフィスト、ソフィステース、ソピステ(ー)ス、ソフィスチーク、ソフ井(ー)スト、ソフヒスト、詭**辯**學者、詭**辯派**、懷疑的詭**辯派**、Sophists, Sophistik)
①42明20.B/①131明40.B/
①168大2.E/①187大5.B/
①203大7.B/①209大8.B/
①226大10.E/①229大11.B/
①234大11.E/①245大13.B/
①275昭2.B/①302昭4.B/
①313昭5.B/①328昭6.B/
①338昭6.E/①342昭7.B/
①345昭7.B/①368昭8.E//
②14昭10.B/②16昭10.B/
②53昭12.A/②97昭15.B/
②104昭16.B/②108昭16.B/
②138昭18.E/②202明29.B/
②225明39.E/②243大8.B/
②254大15.B/②271昭6.E//
③59明26.E/③80明30.B/
③92明32.A/③100明33.B/

③147明41.B/③159明44.B/
③168明45.D/③182大3.B/
③189大4.B/③211大8.E/
③213大9.E/③214大10.B/
③222大12.B/③225大13.B/
③228大14.A/③233大15.B/
③242昭3.B/③247昭4.B/
③268昭8.A/③270昭8.B/
③274昭9.A/③276昭9.B/
③313昭16.A/③326昭19.B//
❹26[25009]/④49明15.E/
④51明16.B/④91明25.B/
④100明27.B/④106明28.B/
④110明29.B/④127明33.B/
④136明35.B/④138明35.B/
④143明36.B/④150明37.B/
④156明37.F/④159明38.B/
④177明40.B/④184明41.B/
④193明42.B/④223明44.E/
④229明45.B/④244大2.B/
④276大4.B/④330大9.B/
④345大11.B/④349大11.E/
④362大13.E/④376大15.B/
④391昭2.B/④401昭3.B/
④413昭4.B/④414昭4.B/
④429昭5.B/④442昭6.B/
④470昭8.B/④496昭9.D/
④499昭9.E/④500昭9.E/
④525昭11.B/④543昭11.E/
④606昭15.B/④627昭16.B/
④629昭16.B/④645昭17.B/
④647昭17.C/④666昭19.B/
④730[昭2]/④757[昭12]/

ソフィステース → ソフィスツ
ソフィステイツリ→ ソフィスツ
ソフィスト → ソフィスツ
ソフィスト以前の哲學者
④688[明19]/
ソフィツレス → ソホフレス
ソフォウクリス → ソホフレス
ソフォクリイズ → ソホフレス
ソフォクリス → ソホフレス
ソフォクリース → ソホフレス
ソフォクリーズ → ソホフレス
ソフォクール→ ソホフレス
ソフォークル → ソホフレス
ソフォ(一)クルス → ソホフレス
ソフォクレ(一)ス → ソホフレス
ゾフォクレス → ソホフレス
ソフォクレズ → ソホフレス
ソフォクレエス → ソホフレス
ソフクレス→ ソホフレス
ソプクレス → ソホフレス
ソフヒスト→ ソフィスツ
ソプホクレス → ソホフレス
ソフロニスカス④90明25.B/
ソフ井(一)スト→ ソフィスツ
ソフヲクリース → ソホフレス
ソフヲクレス → ソホフレス
そふをくれーす → ソホフレス
ソホークリス → ソホフレス
ソホクール → ソホフレス
ソホクルス → ソホフレス
ソホークルス→ ソホフレス
ソホクレス → ソホフレス
ソポクレス → ソホフレス
ソボルン④108明28.C/
ソプフォクレス→ ソホフレス
ソホフレス(ソフォクレ(一)ス、ソポクレス、ソホクレス、ソフヲクレス、ソフォクリイズ、ソフォクリーズ、ソフォウクリス、ソフォクリス、ソフヲクリース、ソホルクルス、ソプホクレス、ソホクール、ソフォクレズ、ゾフォクレス、ソホクルス、ソフォクリース、ソオクレス、ソフォ(一)クルス、ソフィツレス、そふをくれーす、ソッフォクレース、ソォ

フクレス、ソフォクール、ソフクレス、ソホークルス、ソプフォクレス、Sophocles)［オイ(エ)ヂポス、エヂポス、エヂプス、オイデ(イ)ポス、オイヂポス、オイデプス、オイヂプース、ヲイジプース、オーヂパス、中村吉藏］
①5［19］/①47明21.C/
①55明23.B/①60明24.B/
①62明24.E/①66明25.D/
①80明29.D/①83明30.C/
①108明36.D/①122明38.D/
①128明39.D/①131明40.B/
①133明40.D/①134明40.D/
①139明41.D/①140明41.D/
①149明43.D/①150明44.A/
①153明44.D/①167大2.D/
①191大5.D/①211大8.D/
①217大9.D/①231大11.D/
①232大11.D/①240大12.D/
①253大14.A/①268大15.C/
①279昭2.D/①300昭4.A/
①336昭6.D/①372昭9.A//
②23昭10.D/②75昭13.D/
②110昭16.D/②111昭16.D/
②125昭17.D/②126昭17.D/
②147昭20.D/②163明16.C/
②169明19.B/②170明19.B/
②180明22.D/②181明22.D/
②184明23.D/②185明23.D/
②191明25.D/②216明35.C/
②220明37.D/②223明38.D/
②227明40.D/②228明41.B/
②229明41.D/②231明43.B/
②248大11.D/②250大13.A/
②255大15.D/②278昭8.D/
②285昭9.D//③13明11.D/
③34明22.A/③36明22.D/
③37明22.D/③49明25.B/
③50明25.C/③51明25.D/
③56明26.B/③57明26.D/
③59明27.A/③63明27.D/
③66明28.B/③71明29.B/
③90明31.D/③97明32.D/
③129明37.D/③135明38.D/
③152明42.D/③157明43.D/
③162明44.D/③175大2.C/
③186大3.D/③193大4.D/
③206大7.C/③207大7.C/
③216大10.D/③217大10.D/
③228大13.D/③269昭8.A/
③294昭13.B/③324昭18.D//
④41明14.B/④46明16.B/
④60明18.D/④67明20.B/
④73明21.C/④93明25.D/
④98明26.D/④102明27.B/
④103明27.D/④109明28.D/
④109明29.B/④110明29.B/
④112明29.D/④120明31.C/
④128明33.C/④135明35.B/
④158明38.B/④164明38.D/
④165明38.D/④184明41.B/
④187明41.B/④199明42.D/
④207明43.B/④210明43.C/
④266大3.D/④268大3.D/
④273大4.B/④311大7.A/
④319大7.D/④351大12.B/
④353大12.C/④361大13.D/
④377大15.B/④384大15.D/
④396昭2.D/④400昭3.A/
④412昭4.A/④451昭7.A/
④466昭8.A/④477昭8.D/
④495昭9.D/④509昭10.B/
④523昭11.A/④530昭11.B/
④540昭11.D/④575昭13.D/
④625昭16.A/④647昭17.C/
④649昭17.D/④652昭17.D/
④661昭18.C/④666昭19.B/
④706[明40]/
ソッフォクレース→ ソホフレス
ソホルクルス → ソホフレス

蘇曼殊④133明34.D/
ゾーム、ルードルフ(Sohm,Rud.)
①347昭7.C/①350昭7.C//
②126昭17.E/②127昭17.E/
②128昭17.E//④104明27.E/
④227大1.B/④459昭7.C/
④653昭17.E/
ソムノス神③264昭7.B/
Somenov, A.F.②87昭14.D/
ゾムバルト → ゾンバルト
ソーメルス、ロベルト
③70明28.E/
ソユクレス → ソホフレス
Solinus①5[19]/
ソール③288昭12.A/
ゾ(ソ)ルムゼン(Solmsen, F.)
②25昭10.D/②30昭10.F//
③270昭8.B/
ソールター、ウリアム・エム
(Salter,W.M.)
②196大5.B//④314大7.B/
Soltan,G.C.W.④610昭15.C/
Soltan,W.④612昭15.C/
④615昭15.C/
ソルトウ、ジョージ④233明45.C/
④250大2.C/
ソーレー → ソオレイ
Soret,Frédéric Jacob④649昭17.D/
ソレル③197大5.B/
Sorel, G.②38昭11.B/
ソロウイエフ→ ソロウイヨフ
ソロウイヨフ(ソロヴイオフ、ソロ井エフ、ソロウイエフ、Solovyof, V.)
①187大4.B/①188大4.B/
①189大4.B/①220大10.A/
①263大15.A/①274昭2.B//
②38昭11.B/②250大13.B//
③196大5.B/③197大5.B/
③246昭4.A/③251昭5.A/
③285昭11.B//④289大5.B/
④291大5.B/④301大6.B/
④332大9.B/④345大11.B/
④390昭2.B/
ソローキン、ピトリム(ピテリム)
④410昭3.E/④413昭4.B/
④590昭14.C/
ソロコフ,ディミトリ
④694[明24]/④695[明25]/
Solomon(王)④754[昭1]/
ソロモン、ジョセフ④232明45.B/
ソロヴイオフ → ソロウイヨフ
ソロ井エフ→ ソロウイヨフ
ソロヲン→ ソ(ー)ロン
ソ(ー)ロン(ソロヲン、梭論、梭倫、Solon Atheniensis)
①5[19]/①25明10.E/
①30明13.E/①49明21.F/
①58明23.E/①113明37.C/
①115明37.C/①175大3.C/
①182大4.C//②76昭13.E/
②100昭15.E/②101昭15.E/
②152明1.C/②156明8.C/
②157明10.C/②159明14.E/
②160明15.B/②161明15.E/
②163明16.E/②174明20.E/
②176明21.C/②177明21.E/
②178明22.B/②181明22.E/
②194明26.C/②195明26.C/
②196明26.E/②201明28.E/
②206明31.C/②209明32.E/
②210明33.C/②214明34.F/
②215明35.C/②216明35.C/
②223明 39.A/②233明44.E/
②239大4.B/②247大11.C//
③5明7.E/③7明9.B/
③8明9.C/③9明9.E/
③10明9.E/③11明10.B/
③24明18.E/③36明22.C/
③42明23.E/③46明24.D/
③48明25.A/③54明26.B/
③58明26.D/③70明28.F/
③72明29.B/③81明30.B/
③83明30.C/③89明31.C/

③96明32.C/③117明36.B/
③125明36.E/③137明39.B/
③208大7.E/③211大8.E/
③235大15.C/③276昭9.C//
④32明10.B/④40明14.B/
④46明15.B/④50明16.B/
④61明18.E/④64明19.C/
④78明22.C/④79明22.E/
④81明23.B/④83明23.C/
④97明26.C/④112明29.D/
④133明34.C/④140明35.D/
④141明35.E/④148明36.E/
④208明43.C/④225明45.B/
④322大8.B/④346大11.B/
④349大11.E/④492昭9.C/
④505昭10.B/④597昭14.E/
④622昭15.F/④665昭19.B/
④674[明治初期]/
Solon Mityleneus①5［19］/
ソヴィエト（ソ連）大百科版
②59昭12.C/②60昭12.C/
Soehnger,O.③223大12.B/
ソンダン、イフ・エル
②175明21.A/
Sontheimer, W.①380昭9.C/
Sonnenschein③82明30.C/
ゾンバルト（ゾムバルト、Sombart,W.）
①339昭6.E/①368昭8.E//
②276昭7.E//④367大14.B/
④479昭8.E/④492昭9.C/
孫文④727[昭1]/
［T］ケシキーデニス → ツキュデイデス
サシヂヂス→ ツキュデイデス
サシジデス → ツキュデイデス
サスシデス → ツキュデイデス
Thackeray,H.St.J.④611昭15.C/
④612昭15.C/
Thatcher, O.J.③121明36.C/
サンダーランド、ゼイ・ティー
①190 大4.C/
シェシデイデス→ ツキュデイデス
シシデヂス→ ツキュデイデス
シーミストクリーズ → セミストクルス
シュイスデース(?) → ツキュデイデス
シュウシデヂス → ツキュデイデス
シュシヂデ（一）ス → ツキュデイデス
シルリー（イ）（チルリー、ティリー、Thilly、フランク（F.）［若守義孝］
①180大4.B/
①187大4.B/①188大4.B/
①196大6.B//③119明36.B//
④150明37.B/④205明43.B/
④289大5.B/④291大5.B/
④302大6.B/④314大7.B/
④429昭5.B/④441昭6.B/
シヲドシヲス→ テオドシア（ウ）ス帝
シンシンケトス → ツキュデイデス
Simplicos③81明30.B/
スウシデデス → ツキュデイデス
スキヂデス → ツキュデイデス
スシデ井デ井ース → ツキュデイデス
スラシマコス④583昭14.B/
セオクリタス → テオクリトス
セオドシアス帝→ テオドシア（ウ）ス帝
セオドシウス → テオドシア（ウ）ス帝
セオドシャス→ テオドシア（ウ）ス帝
セオドルス④526昭11.B/
セオフラステス→ セオフラストス

セオフラストス(テヲフラトス、テヲフラクチュス、テオフラストス、テオフラテース、セオフラステス、的和孚樂思絀斯、帖阿弗拉多、Theophrastus)
①5[19]/①39明19.B/
①46明21.B/①50明22.B/
①63明25.B/①179大4.B
①226大10.E//②68昭13.B/
②106昭16.B/②115昭16.F/
②152[14544]/
②170明19.B//③222大12.B/
③256昭5.F//④75明21.B/
④112明29.D/④588昭14.B/
④626昭16.B/④628昭16.B/
④640昭16.F/
セベス帝 → チベリウス帝
セミスクルース→ セミストクルス
セミスチクリス → セミストクルス
セミストクリ(一)ス → セミストクルス
勢ミストクリーズ → セミストクルス
セミストクルス(セミストクリ(一)ス、テミストクレ(一)ス、シーミストクリーズ、チミストクレス、テミストヲクル、勢ミストクリーズ、セミスチクリス、テミスト(一)クル、テミストクール、テモストークス、セミストクレス、セミストークルス、セミストート、セン[ミ]ストークル、セミスクルース、テメストクリス、てみすとくれす、世美西土國留,Themistkles)
①48明21.C/
①66明25.E/①83明30.C/
①101明35.C/①114明37.C/
①190大5.C/①210大8.C//
②161明15.E/②171明19.D/
②174明20.E/②186明24.A/
②193明26.A/②198明27.C/
②206明31.C/②218明36.C/
②222明38.B/②239大4.B//
③6明8.C/③8明9.C/
③13明11.C/③28明20.D/
③30明21.B/③36明22.C/
③41明23.C/③49明25.B/
③62明27.D/③120明36.C/
③133明38.C/③184大3.C/
③210大8.C//④33明10.C/
④70明20.D/④77明22.C/
④83明23.C/④133明34.C/
④197明42.C/④235明45.C/
④502昭10.A/
セミストークルス → セミストクルス
セミストクレス → セミストクルス
セミストートル→ セミストクルス
セミラミス④158明38.B/
セ[タ?]ールス → タ(一)レス
セヲドシアス → テオドシア(ウ)ス帝
テヲフラクチュス → セオフラストス
セヲフラストス → セオフラストス
セヲフラトス → セオフラストス
セン[ミ]ストークル→ セミストクルス
ソシジデス → ツキュデイデス
Thorndike, E.Lynn(ソーンダイク)
①193大5.F/①251大13.F/
①367昭8.D//②116昭16.G//
④152明37.B/④399昭3.A/

Thorndike,I.④256大3.B/
タア(一)レス → タ(一)レス
タアレーラン③46明24.D/
ダイイス → タイス(舞姫)
タイス(舞姫)(ダイイス → フランス、アナトオ(一)ル)
②231明43.D/②243大7.D/
②245大9.D//③152明42.D/
③169明45.D/③187大3.D/
③191大4.B/③194大4.D/
③227大13.D//④193明42.B/
④277大4.B/④291大5.C/
④332大9.B/④357大13.B/
④358大13.B/④359大13.B/
④413昭4.B/④570昭13.B/
タイタス帝③82明30.C/
タイタン神①237大12.B//
④63明19.B/
タイ[キ?]トス→ タキトウス
タイプラス②223明 38.D/
タイベリアス帝 → チベリウス帝
タイベリチス帝→ チベリウス帝
Tylor④214明44.B/
Tyolor, E.B.③126明37.A/
Theiler, W.②17昭10.B/
タイラー→ タイラァ(一)
タイラァ(一)(タイラー)
①324昭5.F/①340昭6.F//
②128昭17.F//④436昭5.F/
④448昭6.F/
タイルチアス②211明33.D/
タイレス → タ(一)レス
Taubenschlag①339昭6.E/
Taubler,E.④610昭15.C/
タウト、ブルーノ④498昭9.D/
④537昭11.D/④560昭12.D/
④592昭14.D/④595昭14.D/
④600昭15.A/④649昭17.D/
Tautas③59明27.A/
タウンゼント(都運箋土)
①43明20.D//④69明20.D/
④74明21.D/
Townsend,G.F.①91明32.C/
④29明6.D/④785[明32]/
タキツス → タキトウス
タキトウス(タシタス、タシ(一)ト、タキツス、タチトス、タシット、たしつと、タンタツス、タキトッス、テシトス、タチトウス、タチツス、タシチス、タセトス、タイ[キ?]トス、タキトゥス、タシツス、タシトス、タチタス、タントウス、Tacitus)
①48明21.C/①58明23.E/
①91明32.C/①114明37.C/
①177大3.E/①221大10.A/
①228大11.A/①253大14.A/
①264大15.A/①310昭4.E/
①317昭5.C/①318昭5.C/
①331昭6.C/①332昭6.C/
①334昭6.C/①347昭7.C/
①349昭7.C/①357昭8.A/
①365昭8.C/①377昭9.C//
②22昭10.C/②38昭11.B/
②61昭12.C/②73昭13.C/
②84昭14.C/②108昭16.C/
②121昭17.C/②122昭17.C/
②134昭18.C/②138昭18.E/
②143昭19.C/②156明8.F/
②160明15.E/②161明15.E/
②163明16.E/②173明20.C/
②184明23.C/②187明24.B/
②190明25.B/②194明26.B/
②201明29.A/②215明35.C/
②216明35.C/②220明 37.C/
②222明38.C/②228明41.B/
②233明45.A/②246大10.B/
②247大11.B/②260昭3.C/
②274昭7.C//③24明18.E/
③34明22.A/③35明22.C/

③40明23.B/③56明26.C/
③67明28.C/③71明29.A/
③72明29.B/③74明29.C/
③101明33.C/③102明33.C/
③109明34.C/③117明36.B/
③139明39.C/③148明41.C/
③155明43.B/③199大5.C/
③228大13.D/③251昭4.E/
③268昭8.A/③286昭11.C//
④48明15.C/④50明16.B/
④57明17.E/④62明19.A/
④64明19.C/④67明20.B/
④73明21.C/④76明21.B/
④88明24.C/④102明27.B/
④110明29.B/④152明37.C/
④208明43.C/④211明43.D/
④212明43.E/④264大3.C/
④265大3.C/④273大4.B/
④303大6.B/④320大7.E/
④340大10.C/④352大12.C/
④364大14.A/④367大14.B/
④374大15.A/④379大15.C/
④387昭2.A/④390昭2.B/
④422昭4.E/④443昭6.C/
④444昭6.C/④466昭8.A/
④482昭9.A/④582昭14.A/
④609昭15.C/④612昭15.C/
④630昭16.B/④647昭17.C/
④717[大5]/
タキトス → タキトウス
タキトゥス→ タキトウス
Tagliacarne,G.④613昭15.C/
Tager,F.④638昭16.E/
タゴール(ラビン・ドラナート)
②239大4.B//③191大4.B/
③217大10.E//④273大4.B/
④274大4.B/④358大13.B/
ターサルト、ゼシウイト(ゼシワイム?)(Tachart,Jeziji)
④253大2.G/④270大3.G/
タシタス → タキトウス
タシツス→ タキトウス
タシ(一)ト → タキトウス
タシトス→ タキトウス
タシヂデス → ツキュデイデス
たしつと → タキトウス
タシット → タキトウス
タセトス → タキトウス
タソル④58明17.E/
タチタス→ タキトウス
タチツス → タキトウス
タチトス → タキトウス
タチトウス → タキトウス
タットル博士④170明39.B/
タートン、ダブリュー・エチ
④214明44.B/
ターナー①116明37.D//
④116明30.D/
Tarmer, H.G.①376昭9.B/
Turner, C.H.③175大2.C/
Turner,W.St.Cl.④242大2.B/
タニール①19明8.C/
タビース氏③14明11.G/
④35明11.G/
タフツ①89明32.A/
タムソン②168明18.G//
③24明18.G/
タムソン、W.①28明12.B/
Tannery,P.③66明28.B/
③73明29.B/③87明31.B/
タラジャン帝→ トラジャン帝
ターリース→ タ(一)レス
タルク井ン(王)③10明9.E/
ターレス → タ(一)レス
タルチジウス④456昭7.C/
④472昭8.C/
タルド①157明45.B/
タールハイマー②259昭3.B/
タルマ②201明28.D/
タルリュース帝②161明15.E/
タレー氏 → タ(一)レス
タレース → タ(一)レス
たれーす→ タ(一)レス
タ(一)レス(タア(一)レス、テー

ルス、タレー氏、タイレス、タールス、セ[タ?]ールス、テーリース、テレース、ターリース、セーリス、テールス、ミリタスノシャーリーズ、ミレタスノターレス、たれーす、みれつとノたーれす、吞列斯、Thales）
①10[165]/①42明20.B/
①64明25.B/①85明31.A/
①85明31.B/①187大5.B/
①245大13.B/①275昭2.B/
①283昭2.F/①298昭3.F/
①375昭9.B//②95昭15.B/
②106昭16.B/②157明10.C/
②158明12.F/②160明15.B/
②162明16.B/②164明17.A/
②164明17.B/②175明21.B/
②177明21.E/②179明22.B/
②199明27.D/②200明28.B/
②205明31.B/②207明32.B/
②210明33.B/②211明33.F/
②212明34.B/②215明35.B/
②222明38.B/②223明39.A/
②226明40.B/②230明42.F//
③17明13.F/③29明20.F/
③30明21.B/③31明21.C/
③33明21.F/③40明23.B/
③45明24.B/③59明26.F/
③65明28.B/③70明28.F/
③73明29.B/③81明30.B/
③86明31.A/③99明33.B/
③117明36.B/③137明39.B/
③142明40.B/③147明41.B/
③170明45.F/③189大4.B/
③190大4.B/③222大12.B/
③244昭3.B/③287昭11.F/
③325昭19.B//④49明15.E/
④57明17.C/④63明19.B/
④72明21.B/④76明21.B/
④79明22.E/④95明26.B/
④100明27.B/④106明28.B/
④110明29.B/④119明31.B/
④121明31.F/④125明32.D/
④127明33.B/④134明34.F/
④138明35.B/④143明36.B/
④166明38.F/④194明42.B/
④204明43.B/④228明45.B/
④229明45.B/④255大3.B/
④290大5.B/④300大6.B/
④302大6.B/④314大7.B/
④315大7.B/④332大9.B/
④344大11.A/④365大14.B/
④369大14.C/④377大15.B/
④411昭4.A/④416昭4.B/
④505昭10.B/④578昭13.F/
④597昭14.E/④659昭18.B/
タレンス → テレンス
タレント、ユリウス・フォン
④384大15.D/
Tarn,W.W.(ターン)①299昭4.A//
②85昭14.C//④410昭4.A/
④590昭14.C/
タングル③92明32.A/
タンタツス → タキトウス
タントウス→ タキトウス
Tandry,A.④535昭11.C/
タンナリー、ポール（Tannery, P.）
①68明26.A//②274昭7.B/
チオリウス③99明33.A/
チーグレル、ハー・エー
②222明38.B/
チッセンドルフ④58明18.A/
チチェリン①144明42.E/
チベリウス帝（チベール、タイベリアス、タイベリチ、セベス、チベル帝、テベリウス、テベリオ、テヘリウース、Tiberius, Kaiser、Tibère）
①65明25.C/①350昭7.C/
①379昭9.C//②160明15.E/
②163明16.E/②216明35.C//

③128明36.C/③254昭5.C//
④35明11.E/④53明16.E/
④86明24.B/④136明35.B/
④149明37.A/④158明38.B/
④190明41.F/④265大3.C/
④490昭9.C/
チベーレ神①180大4.B/
チベル帝→ チベリウス帝
チベール → チベリウス帝
チマイオス(ティマエウス、テマイオス、Timaios、Timee、Timaeus)①104明36.B/
①110明37.B/①124明39.B/
①244大13.B//②11昭10.A/
②30昭10.F/②54昭12.B/
②254大15.B/②265昭5.B//
③182大3.B/③262昭7.A/
③284昭11.A/③289昭12.B/
③294昭13.B/③307昭15.A//
④502昭10.A/④520昭10.F/
④598昭15.A/④600昭15.A/
チミストクレス → セミストクルス
チュロツ、ヨハンネス・フォン④673[明治]/
チュエステス①279昭2.D/
チュシチ(ヂ)デス → ツキュデイデス
チュチシデス → ツキュデイデス
チューラ②170明19.B/
チュリュス②206明31.C/
Turnbull, E.H.②17昭10.B/
張騫④747[昭9]/
チリポニアン③9明9.E/
チルリー(Thilly, Frank) → シルリー(イ)、フランク(Thilly, F.)
チンダル③61明27.B/
チンヂデス → ツキュデイデス
ヅ・プレスサンセー、フランシス③83明30.C/
ツキチ(ヂ)デス → ツキュデイデス
ツキヂィデス → ツキュデイデス
ツキュデイデス(ケシキーデニス、ソシジデス、チンヂデス、ツキチ(ヂ)デス、トゥーキュディデース、スシデ井デ井ース、スキヂデス、シュシヂデ(ー)ス、トーキュディデエス、ツキヂィデス、ツクュディデス、サシジデス、ツシチデス、トキデイデス、ツチジデス、トウキ(ュ)デイデス、チュチシデス、シンシンケトス、スウシデデス、サスシデス、チュシチ(ヂ)デス、タシヂデス、シュウシデヂス、トウキュデイデエス、シュイスデース、シシデヂス、サシヂヂス、シェシデイデス、トゥキュデイデス トゥーキューデイデス, 土居堤代傳、Thucydides, Thukydides,Θουκυδιδης)①5[19]/
①16明7.C/①21明9.C/
①47明21.C/①83明30.C/
①90明32.C/①94明33.C/
①114明37.C/①152明44.C/
①223大10.C/①239大12.C/
①256大14.C/①274昭2.A/
①318昭5.C/①319昭5.C/
①332昭6.C/①372昭9.A/
①373昭9.A//②42昭11.C/
②98昭15.C/②121昭17.C/
②122昭17.C/②133昭18.C/
②134昭18.C/②147昭20.C/
②151[14518]/②185明23.D/
②210明33.C/②213明34.B/

②222明38.C/②223明38.E/
②224明39.A/②226明40.B/
②235明45.E/②260昭3.C//
③13明11.C/③17明14.C/
③35明22.B/③50明25.C/
③56明26.C/③59明27.A/
③72明29.B/③74明29.C/
③88明31.C/③99明33.A/
③101明33.C/③107明34.C/
③110明34.E/③160明44.B/
③175大2.C/③226大13.C/
③247昭4.A/③273昭9.A//
④47明15.C/④77明21.B/
④110明29.B/④112明29.D/
④128明33.C/④207明43.B/
④210明43.C/④265大3.C/
④306大6.C/④367大14.B/
④387昭2.A/④411昭4.A/
④473昭8.C/④502昭10.A/
④524昭11.A/④535昭11.C/
④582昭14.A/④611昭15.C/
④646昭17.C/④660昭18.C/
④661昭18.C/④767[昭15]/
ツクュディデス → ツキュデイデス
ツシチデス → ツキュデイデス
ツチジデス → ツキュデイデス
ツラシマコス→ トラシュマコス
ツラジャン帝 →トラジャン帝
ツルゲーネフ①54明23.A//
②182明23.A//③83明30.D//
④88明24.C/④120明31.C/
④135明35.B/④168明39.B/
④182明41.A/④203明43.B/
ツロイ物語 → ホーメル
ツロケーオス①57明23.D/
ツヴレイ､エム･ゼイ④447昭6.D/
テ・エス②183明23.B/
テアイテートス(テアエテトス、テヘアエテーツス、Thaetet、Theaetetus)
①104明36.B/①124明39.B/
①244大13.B/①302昭4.B/
①359昭8.B/①374昭9.B/
①375昭9.B//②13昭10.B/
②38昭11.B/②39昭11.B/
②68昭13.B/②69昭13.B/
②70昭13.B/②71昭13.B/
②104昭16.B//③93明32.B/
③100明33.B/③222大12.B/
③257昭6.A/③268昭8.A/
③293昭13.A/③295昭13.B/
③296昭13.B/③308昭15.B/
③318昭17.A/③319昭17.A//
④466昭8.A/④547昭12.A/
④568昭13.B/④570昭13.B/
④588昭14.B/④642昭17.A/
④680昭22.B/
テアエテトス → テアイテートス
Theasaurus④615昭15.C/
テアン、パシフォード
①128明39.D/
Thear., C.②51昭11.F/
Thieme, V.③170明45.G/
鄭元芳④739[昭6]/④747[昭9]/
ティタル氏②165明17.E/
Tizian④595昭14.D/
ティティウス①336昭6.D/
Titus④136明35.B/
テイト(プロフェソル)
④684[明13]/
テイトル①17明7.C/
テイヌ → テーヌ
ティボーデ、アルベール(Thibaudet,Albert)
②107昭16.B//④484昭9.B/
Timaeus(Timaios,Timee) → チマイオス
Timaios → チマイオス
Timee → チマイオス
ティマエウス → チマイオス
Thieme-Becker④269大3.G/
ティモン②135昭18.D/

テイラー(テーロア、Tayror)、
A.E.②106昭16.B/
②148昭21.[補遺]/
②283昭9.B/②284昭9.B//
③74明29.B/③81明30.B/
③118明36.B/③165明45.B/
③166明45.B/③275昭9.B/
③300昭13.E/③306昭14.E//
④487昭9.B/④488昭9.B/
④499昭9.E/
Tayler④320大7.F/
Taylor, H.O.③107明34.B/
④351大12.B/
Taylor, T.M.③98明32.E/
③104明33.E/
Taylor,Thomas④402昭3.B/
Taylor,W.H.④686[明17]/
Theiler,W.③305昭14.D/
テイラー(ていらー)
②128昭17.F//④654昭17.F/
ていらー→ テイラー
Tilley,A.④573昭13.C/
ティリー→ シルリー(イ)
ティーリッヒ②141昭19.B/
Thiel, El.③172大2.B/
ティール(Thiel, J.H.)①333昭6.C/
Tiele,Th.④251大2.D/
Tiele-Sönderblom①284昭3.A//
④399昭3.A/
ティレル①73明27.B/
Tyrrell③69明28.D/
テイロ、マルクス・テユリウス
④416昭4.C/
テイロル、サー・ヘンリー
④85明23.E/
Tyviell, R.Y.③107明34.B/
テイン → テーヌ
Tinder④394昭2.C/
テエヌ → テーヌ
テオグニス②138昭18.E//
④627昭16.B/
テオクリソス→ テオクリトス
テオクラトス→ テオクリトス
テオクリトス(テオクラトス、セオクリタス、テオクリソス、Theocritus, Theakritos)
①5[19]/①150明44.A/
①300昭4.A/①312昭5.A//
②111昭16.D/②123昭17.D/
②124昭17.D/④213明44.A//
③59明27.A/③72明29.B/
③75明29.D/③90明31.D/
③171大2.B//④147明36.D/
④213明44.A/④241大2.B/
テオデリッヒ①332昭6.C/
①334昭6.C/
テオドオジウス → テオドシア(ウ)ス帝
テオドシア(ウ)ス帝(セオドシアス、セオドシウス、セオドシャス、セヲドシアス、テヲドシウス、テヲドリック、セオドシウス、テオドヲス、テオドオジウス、シヲドシヲス、テオドジオ、底阿獨秋斯、Theodosius)
①10[165]/①58明23.E/
①94明33.C//②161明15.E/
②191明25.C/②206明31.C/
②208明32.C/②216明35.C/
②247大11.B//③6明8.C/
③9明9.E/③56明26.C/
③101明33.C/③122明36.C/
③133明38.C/③138明39.B/
③141明40.B//④88明24.C/
④232明45.B/④235明45.C/
④292大5.C/④352大12.B/
④378大15.B/④379大15.C/
④661昭18.C/
テオドジオス
テオドテ → テオドラ

テオドラ(テオドテ?)
③25明19.B/③41明23.C/
Theodor,D.③254昭5.C/
テオドヲス → テオドシア（ウ）ス帝
テオフラストス → セオフラストス
テオフラテース → セオフラストス
テオフ井ヒラス④207明43.B/
テオポリス④625昭16.A/
Theopompus④611昭15.C/
④633昭16.C
Taeger,F.④535昭11.C/
Texier,C.③133明38.C/
テクスタタス④83明23.C/
テシトス → タキトウス
テスピス②177明21.E/
テシアス→ テシウス
テシウス(テセウス、テシアスTheseus)
①360昭8.B//③211大8.E/
③297昭13.D//④47明15.C/
テスピス④140明35.D/
テセウス → テシウス
Tegart, F.J.(テガート)
①306昭4.C/①318昭5.C/
①333昭6.C//④474昭8.C/
テツガアト②141昭19.A/
テッド氏④90明25.B/
テデラス④36明12.B/
テトス(一)(提多)④53明16.D/
④78明22.D/④353大12.C/
テニソン①87明31.D//
②210明33.B//③90明31.D//
④140明35.D/④163明38.D/
テーヌ(テエヌ､テイヌ､テーン、テイン、Taine)、ヒッポリット、イポリット)
①103明35.D/①108明36.D/
①149明43.D/①270大15.D/
①350昭7.D//②15昭10.B/
②16昭10.B/②85昭14.C/
②111昭16.D/②135昭18.C/
②195明26.D/②221明37.D/
②232明44.B//③57明26.D/
③58明26.D/③79明30.A//
④98明26.D/④361大13.D/
④383大15.D/④421昭4.D/
④475昭8.C/④537昭11.C/
④559昭12.D/④590昭14.C/
④591昭14.C/④612昭15.C/
④641昭17.A/④667昭19.C/
④758[昭12]/
テヘアエテーツス → テアイテートス
テベリウス→ チベリウス帝
テヘリウース→ チベリウス帝
テベリオ帝→ チベリウス帝
テマイオス → チマイオス
テミス(神) ④26[24997]/
テミスト(一)クル → セミストクルス
テミストクール → セミストクルス
てみすとくれす → セミストクルス
テミストクレ(一)ス → セミストクルス
テミストヲクル → セミストクルス
テミストクリス→ セミストクルス
テモストークス → セミストクルス
テモステネス → デモスセニ(ン)ス
テモテ(提摩太)④78明22.D/
Täuber,E.④611昭15.C/
テユシヂード①58明23.E/
テュルゴー④556昭12.C/
テーラー(低洛爾、送洛爾)
①26明11.C//②171明19.C//
③26明19.C/③74明29.C/

テランス → テレンス
テリー、ヘンリー・チー
①29明12.E//④37明12.E/
④38明12.E/
テーリース → タ(ー)レス
テリチュリアヌス→ テルトリアン
テル、ウィルヘルム④164明38.D/
テルチュリエン→ テルトリアン
テリツリアン→ テルトリアン
テリトリアヌス→ テルトリアン
テル、ウィルヘルム(哲爾、維廉得利)
②208明32.D//④48明15.D/
テルクレリアン(史家)
①48明21.C/
テルシテス③20明16.C/
テルトリアヌス→ テルトリアン
テールス → タ(ー)レス
テルチュリアン → テルトリアン
テルチュリヤン → テルトリアン
テルトリアン(テルチュリアン、テリチュリアヌス、テリトリアヌス、テルチュリヤン、テリツリアン、テルトリアヌス、テルチュリエン、Terturian)
②207明31.E//
③50明25.B/③59明27.A/
③72明29.B//④47明46.C/
④73明21.C/④91明25.B/
④120明31.C/④140明35.D/
④272大4.B/④285大5.B/
テルトリヤン→ テルトリアン
Thernus,J.④568昭13.B/
テル子ール①32明14.F/
テルメン美術舘③321昭17.D/
テルリンク、K.④417昭4.C/
テレ、ヘンリー・チー → テリー、ヘンリー・チー
テレシア(女詩人)②202明29.C/
テレシラ①43明20.C/
テレニック②194明26.B/
テレマキュス→ テレマック
テレマク → テレマック
テレマック(テレマキュ、テレマク)[フェヌロン]
①28明12.D/①224大10.D/
①270大15.D/①366昭8.D//
②164明16.E//③6明8.E/
③62明27.D/③89明31.D/
③123明36.D//④26[24997]/
④34明11.D/④307大6.D/
④364大14.B/④397昭2.D/
テレンス(テレンティ(ア)ウス、テレンチウス、テランス、タレンス、テレンツ、Terennce,Terentius)
①61明24.D/
①211大8.C/①213大8.E/
①336昭6.D//②179明22.B/
②181明22.D/②185明23.D/
②186明24.A/②192明25.D/
②210明33.C/②260昭3.D//
③32明21.D/③36明22.D/
③52明25.D/③60明27.B/
③62明27.D//④26[24997]/
④117明30.E/④129明33.D/
④131明34.B/④450昭7.A/
④600昭15.A/④627昭16.B/
④737[昭5]/
テレンツ → テレンス
テレンチウス → テレンス
テレンティ(ア)ウス → テレンス
テーロア①125明39.B/
テーロア(Tayror、A.E.) → テイラー(Tayror)、A.E.
Tellows,John④252大2.D/
テーロル → テーラー
テー(エ)ン → テーヌ

テヲドシウス → テオドシア(ウ)ス帝
テヲドリック帝 → テオドシア(ウ)ス帝
テヲフラクチュス → セオフラストス
テヲフラトス → セオフラストス
テヲリーク②160明15.E/
テーン → テーヌ
天狗(西洋古代)④150明37.B/
テンドル、ドクトル②159昭14.F/
トーイ(教授)①229大11.B/
①230大11.B/④116明30.D/
④152明37.B/
Teuffel,W.S.④610昭15.C/
④615昭15.C/
トイビ、バジョット①226大10.D/
トインビー、アルノルド(Toynbee,A.)
①61明24.C/①64明25.B//
②249大12.C//③271昭8.C//
④103明27.C④107明28.B/
④116明30.B/④334大9.C/
④609昭15.C/④610昭15.C/
④716[大4]/④719[大9]/
④797[昭4]/
Toutain, J.③256昭5.E/
トゥエイ(ー)ン、マーク
①106明36.C//③111明35.A/
③120明36.C//④118明31.A/
④135明35.A/④145明36.C/
④146明36.C/④161明38.C/
④200明43.A/④224明45.A/
トウキ(ュ)デイデス → ツキュデイデス
トゥキュデイデス→ ツキュデイデス
トゥーキューデイデス→ ツキュデイデス
トゥーキュディデース → ツキュデイデス
トウキュデイデエス → ツキュデイデス
陶錫祈④53明16.D/
トウ(ル)ストイ、レオ
①70明26.B/①74明27.B/
①79明29.B/①87明31.D/
①97明34.B/①142明42.B/
①188大4.B/①210大8.C/
①218大9.D/①233大11.D/
①246大13.C/①257大14.C/
①332昭6.C//②16昭10.B/
②20昭10.C/②94昭15.B//
③112明35.B/
Toutain, J.②276昭7.E/
Toutain,T.①297昭3.E/
Tuvenal③59明27.A/
Tourneur②25昭10.D/
トエプリッツ、オットー
②67昭12.F/
トキデイデス → ツキュデイデス
トーキュディデエス → ツキュデイデス
トークヴィル(トクヴキル)
①31明14.E//④29明6.E/
④43明14.E/
トクヴキル→ トークヴィル
トスカ②108昭16.C/
トッコー③159明44.B/
トーデイ、ヤコポウ・ダ
④295大5.D/
Tod,M.N.④494昭9.C/
Todd.O.④611昭15.C/
ト(ッ)ドハンター①36明17.F//
②165明17.F/
トッニー①151明44.B/
トーニカー④221明44.C/
トビュラス④316大7.B/
杜甫④717[大6]/
トマ、アルベール①354昭7.E/
トマ(聖) → アキナス(聖)
トーマ(聖) → アキナス(聖)

Thomas, E.③95明32.C/
ト(ー)マス(聖) → アキナス(聖)
トーマス③74明29.B/
トマス、バートランム ②86昭14.C/
Thomas,James④28明5.D/ ④781[明5]/④783[明21]/
Thomas,W.B.④544昭11.F/
トム、チ④185明41.B/
トーム、ロバート(羅伯珅、Thom,Robert) ④25[24987]/④27[25024]/
Thomson,A.④227大1.B/
トムスン、フランシス ④745[昭8]/
Thomson,Ja Alexker④290大5.B/
Thomson②189明24.F/ ②193明25.F/
トムソン、ラットホルド ①50明22.B/
Thomsen,P④266大3.D/
トムセン、ヴィルヘルム ②61昭12.D/
Thompson,G.H.④266大3.D/
Thompson, D.A.W.②235明45.F/
Thompson, J.W.①355昭7.E// ④417昭4.C/
Thompson, Maurice S.①178大3.E/
Tomlinson,R.B.④276大4.B/
トライチケ(トライチュケ、ハインリッヒ・フォン) ①210大8.B/ ①333昭6.C//③208大7.E// ④279大4.C/④369大14.C/ ④648昭17.C/④672[明治]/ ④697[明29]/
トライチュケ→ トライチケ
Traumiller,F.④520昭10.F/
トラシュマコス(ツラシマコス) ④185明41.B/④666昭19.B/
トラシラウス①119明38.B/
トラジャン帝(トラヤヌス、トラヤン、ツラジャン、トロセン、トラジヤン、タラジャン、トレジャン、Trajan) ①127明39.C// ②59昭12.C/ ②84昭14.C/②206明31.C/ ②208明32.C/②216明35.C// ③139明39.D/③265昭7.C/ ③272昭8.C/③291昭12.C// ④42明14.C/④42明14.C/ ④50明16.B/④56明17.C/ ④76明21.B/④136明35.B/ ④184明41.B/④187明41.B/ ④300大6.B/④306大6.C/ ④316大7.B/④379大15.C/ ④572昭13.C/④589昭14.C/
トラジヤン → トラジャン帝
トラットナア、アーネスト ④597昭14.F/
トラヤヌス帝 →トラジャン帝
トラヤン帝 →トラジャン帝
トリゴー、ニコラ(金尼閣) ①295昭3.D/
Tricot, J.②39昭11.B/②59昭12.B/ ②83昭14.B/②282昭9.B/ ②283昭9.B//④484昭9.B/ ④486昭9.B/④487昭9.B/
トリスティアニン①47明21.C/
トリストラム①313昭5.B// ④430昭5.B/
Trinitafrian Bible Society ④738[昭5]/
トリマルキオー(ン) ②110昭16.D/②112昭16.D// ③286昭11.D//④636昭16.D/ ④635昭16.D/④647昭17.C/
Tolington,R.B.④262大3.B/
トルストイ(トルスト井、杜翁、Tolstoi(y)) ③106明34.B//④110明29.B/ ④117明30.D/④133明34.D/

④147明36.D/④157明38.B/
④172明39.D/④218明44.B/
④233明45.B/④237大1.D/
④246大2.B/④252大2.D/
④267大3.D/④293大5.C/
④334大9.D/④347大11.C/
④389昭2.B/④392昭2.B/
④455昭7.B/④462昭7.D/
④489昭9.B/④558昭12.D/
④717[大5]/④727[昭1]/
④760[昭13]/
トルスト井→ トルストイ
Tolstoi(y) → トルストイ
トールミフヒラデルファス帝
③104明33.F/
トルヴァルゼーン③144明40.D/
トレー④305大6.C/
トーレー、アール・エ
④125明32.D/④133明34.D/
トレジャン→ トラジャン帝
Treitek, L.③223大12.B/
Tredennick, Hugh②17昭10.B/
②59昭12.B/②281昭9.B//
④486昭9.B/④505昭10.B/
トレミ → プトレマイオス
とれみ(一)→ プトレマイオス
トレミイ→ プトレマイオス
トーレミー → プトレマイオス
トーレミー王 → プトレマイオス
トレミー王 → プトレマイオス
獨レミー派 → プトレマイオス
トレルチ、エルンスト(Troeltsche, E.)①174大3.B/
①239大12.B/①240大12.C/
①289昭3.B/①303昭4.B/
①306昭4.C/①342昭7.B/
①347昭7.B//③181大3.B/
③196大5.B/③222大12.B/
③240昭2.B//④292大5.C/
④351大12.B/④358大13.B/
④480昭8.E/④727[昭1]/
④736[昭4]/④778[昭19]/
④796[19-]/
Treves,P.②61昭12.C/
トロイ(戦記) → ホーメル
トロイラス④560昭12.D/
④796[昭2]/④801[昭9]/
トロイルス④807[昭17]/
④808[昭18]/
Troie → ホーメル
トログス③148明41.C/
トロス(王)②242大7.B/
トロセン帝→トラジャン帝
トロヤン(コルコス)帝→トラジャン帝
Trower,W.J.④686[明17]/
トロンク(コ)オワ、エマニュエル③76明29.D/
③90明31.D/
Troschel③95明32.C/
[U]ウア①150明44.A/
ウイリシース→ ユ(一)リシー(イ)ズ
ウユルフ③209大8.B/
うえすぱしあぬす③205大7.B/
U.-S.Arthur,Freiherr④442昭6.B/
ウオビスカス、フラウ井アス④74明21.D/
ウースタル(烏斯多爾)
④64明19.C/
Usener(ユーゼナー、Hermann.)
②18昭10.B/②284昭9.B//
④242大2.B/④358大13.B/
④507昭10.B/
ウテイツ(ウティッツ)、エミール(Utitz, E.)
①366 昭8.D/①382昭9.D//
④450昭7.A/④470昭8.B/
④748[昭9]/④748[昭9]/
ウパニシャット(Upanishad)
①170大3.B//④255大3.B/
④272大4.B/
うぴわ王①130明40.B/

ウフユエス③71明29.A/
ウ(一)ラヌス(神)③23明18.B//
④58明18.B/
Urist,F.R.④590昭14.C/
ウリイシース→ ホーメル
ウリスミス③47明24.E/
ウリセス → ホーメル
ウリッセス → ホーメル
ウーリッヒ③71明29.A/
ウールセイ(一)①33明15.E/
①35明16.E//②154明6.E//
③4明6.E/③19明15.E//
④49明15.E/④54明16.E/
ウルセル、マッソン
④658昭18.B/
ウルバン④378大15.B/
ウル井ック④253大2.E/
Ulmer,Jos.④458昭7.C/
ウールランド②231明43.D/
ウレキア③95明32.C//
④124明32.C/
ウワシュロー②163明16.C/
ウンダア、スタニイ④464昭7.E/
ウンターマン④364大145.C//
④726[大14]/
ウンチリアン、ドクトル・R
④209明43.C/
ウンルウ、フリッツ・フォン
④457昭7.C/
ユウリシス → ユ(一)リシー(イ)ズ
ユノポリス③72明29.B/
Uberschaar①312昭5.A/
ユーバリエーヒ→ ユーベルエーヒ(ク)
ユーベルヴェッヒ→ ユーベルエーヒ(ク)
ユーバーヴエーヒ → ユーベルエーヒ(ク)
Uebinger, J.③67明28.C/
ユーヘルヴェラス → ユーベルエーヒ(ク)
ユーベルエーク→ ユーベルエーヒ(ク)
ユヴェラン→ ユ(一)ヴラン
ユ(一)ヴラン(ユヴェラン)、ポール
②258昭2.E/②261昭3.E/
②266昭5.E/②267昭5.E//
③256昭5.E//④422昭4.E/
ユーベルエヒ → ユーベルエーヒ(ク)
ユーベルヴィーク → ユーベルエーヒ(ク)
ユーベルエーヒ(ク)(ユーベルエヒ、ユーベルヴィーク、ユーバーヴエーヒ、ユーヘルヴェラス、ユーバリエーヒ、ユーベルエーク、 ユーベルヴェッヒ、エーベルヴェグ、Ueberweg, Fr.)
①188大4.B/①346昭7.B/
①358昭8.B/①373昭9.B/
①375昭9.B/①377昭9.B//
②93昭15.B/②131昭18.B/
②202明29.B/②273昭7.B//
③18明15.B/③81明30.B/
③165明45.B/③182大3.B/
③275昭9.B//④106明28.B/
④110明29.B/④167明39.B/
④454昭7.B/④488昭9.B/
④489昭9.B/④606昭15.B/
ユリシース → ホーメル
ユリシーズ→ ユ(一)リシー(イ)ズ
ゆりしす→ ユ(一)リシー(イ)ズ
ユ(一)リシー(イ)ズ(ユリスィズ、ユウリシス、ユーリセイス、ウイリシース)
①320昭5.D/①321昭5.D/
①335昭6.D/①337昭6.D/
①351昭7.D/①352昭7.D/

①353昭7.D//②75昭13.D/
②99昭15.D/③250昭4.D/
③260昭6.D//④40明14.B/
④407昭4.D/④426昭7.D/
④433昭5.D/④461昭7.D/
④478昭8.D/④498昭9.D
④517昭10.D/④593昭14.D/
④539昭11.D/④743[昭7]/
ユーリセイス→ ユ(一)リシー(イ)ズ
ユーリセス → ホーメル
ユリース[イタック王] → ホーメル
ユリスィズ → ユ(一)リシー(イ)ズ
ユール、H.[教授]③282昭10.D//④664昭19.A/
Umland, K.②71昭13.B/
エーベルヴェグ→ ユーベルヱーヒ(ク)
[V]エルギリウス → ヴィルジリウス
バルジル → ヴィルジリウス
ビ(一)ナス → ウェナス神
ビーナス(ミロの) → ウェナス神
ビルジル→ ヴィルジリウス
フアイヒンゲル③71明29.A/
フィシェル、フリードリッヒ③73明29.B/
Völker, W.②72昭13.B/
Völkelt, H.②247大11.A/
Verwiebe, W.②282昭9.B//④486昭9.B/
Venske, W.②71昭13.B/
Vorsokratikern → ソクラテス前哲學者
Voigt, Ch.②282昭9.B/
Vogt, Joseph①381昭9.C//②42昭11.C/
フォーゲル③123明36.D
Vogel, J.③163明45.A/
フォーゲル、エー①257大14.C/
Volkelt,H.④344大11.A/
フォルケルト(ボルケット)、ヨハンネス①167大2.D/①258大14.D/①259大14.D//②260昭3.D//③104明33.D/③179大2.D/③186大3.D/
フォルレンダア(フォールレンデル、フォアレンダー)、カルル(Vorländer, Karl)①223大10.B/①271大15.E/①300昭4.B/①304昭4.B/①330昭6.B//②59昭12.B/②118昭17.B//③258昭6.B/③275昭9.B//④429昭5.B/④441昭6.B/
フォンデル、ヨースト・ファン④419昭4.D/
ベーヌ神 → ウェナス神
ベヌス神 → ウェナス神
ボルケット、ヨハンネス → フォルケルト、ヨハンネス
ボルジル → ヴィルジリウス
Veith③198大5.C//④675[大正]/
ヴァイリー、ハービー③132明38.B/③133明38.C/③134明38.D/
Vine,W.E.④281大4.D/
ヴァインズ、シェラード①382昭9.D//④748[昭9]/
ヴァジュル → ヴィルジリウス
Virgil → ヴィルジリウス
ヴァ(一)ジル → ヴィルジリウス
Vasilier, A.①349昭7.C/
ヴァチカーノ帝①385昭9.E/
ヴァ(一)ジル → ヴィルジリウス
ヴァーヅル→ ヴィルジリウス
ヴァ(一)ヂル → ヴィルジリウス
ヴァーヅル→ ヴィルジリウス

Vattel②114昭18.E/
ヴァリニヤーノ(ヴァレニヤーニ)、アレッサンドロ
④23[24928]/④237明45.D/
ヴアルジル→ ヴィルジリウス
ヴァルロー②173明20.C//
③52明25.E/
Varese③198大5.C//④716[大6]/
Vallette, P.②284昭9.B//
④487昭9.B/
ヴァレニヤーニ→ ヴァリニヤーノ
ヴァレリー(バレエリー)、P.(ポォル、ホール)
①357昭8.A/①362昭8.B//
②79昭14.A/②83昭14.B/
②125昭17.D/②132昭18.B/
②141昭19.B//④412昭4.A/
④430昭5.B/④477昭8.D/
④807[昭17]/
Vallerius Maximus(ヴァレリウス)
①5[19]//④212明43.E/
Varro②87昭14.D/
ヴァシロー氏④698[明31]/
van Eysinga, B.③168明45.D/
ヴァンズ、ジェムズ・アイ
④740[昭6]/
ヴァンセロウ④593昭14.D/
ヴァンダイク④198明42.C/
ヴァンダール、ハンス
①58明23.E/
ヴァンドリエス①321昭5.D//
②74昭13.D/②99昭15.D/
②112昭16.D//④768[昭15,16]/
④804[昭13]/④807[昭17]/
Vio Cajetanus,Thomas de
④507昭10.B/
ヴィクトリア(女王)
②198明27.D/
Vignel, L.G.③299昭13.D/
Vignaux,P.④506昭10.B/
ヴィコ①224大10.C/①364昭8.C//
②42昭11.C//④340大10.C/
④381大15.C/④535昭11.C/
④573昭13.C/④648昭17.C/
④667昭19.C/④732[昭3]/
④736[昭4]/④742[昭7]/
④772[昭17]/
ウィトルーウィス(ヰトルーヰウス、井トル井ウス、井トルー井ウス, Vitruvius)
①320昭5.D/
①334昭6.D/①337昭6.D/
①351昭7.D//②135昭18.D//
③325昭18.F//④397昭2.D/
④744[昭7]/④801[昭9]/
ヰトルーヰウス → ウィトルーウィス
井トルー井ウス → ウィトルーウィス
ヴィアネ③311昭15.D/
ヴィジル→ ヴィルジリウス
ヴイ(ィ)ナス → ウェナス神
ヴィーナス → ウェナス神
ヴィニー(ストイック哲學詩人)
④498昭9.D/
ヴィーノス→ ウェナス
ヴィノグラドフ、パウル（Vinogradoff, Paul）
②138昭18.E/
②139昭18.E//③256昭5.E/
③261昭6.E/
ヴィーノス → ウェナス神
Vinet,A.④527昭11.B/
ヴィヌス(淫神) → ウェナス神
ヴィラーニ、ジョヴァンニ
①386昭9.E/
Vierkandt④343大11.A/
ヴィルジリウス(ウェルギリウス、ヴァ(ー)ジル、ヴォルジル、エルギリウス、エルギリウス、ヴァ(ー)ヂル、

ヴィ(ー)ルジ(ー)ル、ヴアルジル、バルジル、ヴィルチル、井ルギル、ウハージル、ウオルジル、ボルジル、ヴ井ルジリウス、ウ井ルギル、ヴァジュル、ウオルヂル、ヴォルジル、ヴ井ルギリウス、ヴォルヂル、ウ井ルジル、ウ井ルヂル、ウエルギリウス、ヒリギリウス、ビルジル、ウィルセシウス、ヴァーヅル、ヴィジル、ヴ井ルヂル、ヰルギリウス、バ[ヴ]ァルジル、バーズル、バージル、Virgil,Vergil,Virgillius）

①4[8,13]/①5[19]/①7[91]/①58明23.D/①62明24.D/①80明29.D/①84明30.D/①108明36.D/①161大2.A/①184大4.D/①191大5.D/①214大9.A/①217大9.D/①221大10.A/①240大12.D/①269大15.D/①276昭2.B/①279昭2.D/①280昭2.D/①285昭3.A/①287昭3.B/①293昭3.D/①300昭4.A/①303昭4.B/①328昭6.B/①336昭6.D/①352昭7.D/①357昭8.A/①372昭9.A//②17昭10.B/②76昭13.E/②89昭14.E/②98昭15.D/②110昭16.D/②112昭16.D/②125昭17.D/②137昭18.D/②144昭19.D/②149[14469]/②156明8.D/②167明18.B/②168明18.F/②171明19.D/②176明21.D/②179明22.B/②181明22.D/②185明23.D/②196明26.D/②197明27.B/②199明27.D/②207明32.A/②208明32.D/②222明38.C/②250大13.A//③17明14.C/③25明19.B/③32明21.D/③36明22.C/③37明22.D/③42明23.D/③50明25.C/③51明25.C/③51明25.D/③56明26.D/③58明26.D/③66明28.B/③74明29.C/③76明29.D/③77明29.D/③80明30.B/③83明30.D/③84明30.D/③90明31.D/③97明32.D/③123明36.D/③164明45.B/③200大5.D/③209大8.B/③218大11.B/③236大15.C/③268昭8.A/③326昭19.D//④24[24957]/④26[24997]/④42明14.C/④53明16.C/④67明20.B/④91明25.B/④95明26.B/④101明27.B/④102明27.B/④110明29.B/④121明31.F/④134明34.F/④147明36.D/④161明38.B/④210明43.D/④221明44.D/④229明45.B/④231明45.B/④253大2.F/④284大5.A/④299大6.A/④301大6.B/④304大6.B/④311大7.A/④348大11.D/④364大14.A/④542昭11.E/④365大14.B/④370大14.D/④376大15.B/④387昭2.A/④446昭6.D/④451昭7.A/④453昭7.B/④466昭8.A/④546昭12.A/④581昭14.A/④594昭14.D/④627昭16.B/④629昭16.B/④630昭16.B/④635昭16.D/④643昭17.B/④644昭17.B/④659昭18.C/

ヴィ(一)ルジ(一)ル → ヴィルジリウス

ウィルセシウス→ ヴィルジリウス

ヴィルチル → ヴィルジリウス
ヴィレ、ピエル(Villey,P.)
②80昭14.B//④519昭10.E/
ヴィーンス → ウェナス神
ヴィンチ④798[昭5]/
Veith④717[大5]/
Vegetius de ree militari①5［19］/
ヴェザリウス②26昭10.D/
ヴェスタ神②232明44.B/
ヴェスパー④617昭15.D/
ヴェスパシア帝→ ウェスパシアヌス
ウェスパシアン→ ウェスパシアヌス
ウェスパシアヌス(ウェスパシアン、ヴェスパシア)
②48昭11.E/
②49昭11.E//④37明12.E/
④42明14.C/④83明23.C/
ヴェ(ッ)キオ、デル(Vecchio,Del)
③317昭16.E//④635昭16.D/
④638昭16.E/
ヴェッキオ、ヂオルヂオ
②145昭19.E/
ウェナス神(ウェ(一)ヌス、ヴィーノス、ビ(一)ナス、エーナス、ヴイ(ィ)ナス、ヴヰナス、ヴニュス、ヴェニコス、ヴィーナス、ヴ井(一)ナス、ウ井ーナス、ベーヌ、ベヌス、ウエヌス、ヴヌス、井ーナス、ヴィーンス、ヴェヌス、ヴィーノ、ミロの井ーナス、勿内斯、Venus)
①11［185］/①48明21.C/
①49明21.D/①66明25.D/
①108明36.D/①119明38.B/
①125明39.B/①167大2.D/
①171大3.B/①198大6.D/
①229大11.B/①283昭3.B/
①287昭3.B/①288昭3.B/
①352昭7.D//②12昭10.B/
②166明18.B/②181明22.D/
②184明23.D/②209明32.D/
②212明34.B/②213明34.D/
②230明42.B/②233明44.F/
②235明45.D/②235明45.F/
②242大7.B//③35明22.B/
③68明28.D/③72明29.B/
③89明31.D/③99明33.B/
③117明36.B/③123明36.D/
③131明38.B/③138明39.B/
③152明42.D/③164明45.B/
③171大2.B/③175大2.B/
③193大4.D/③199大5.D/
③203大6.D/③225大13.B/
③227大13.D/③229大14.B/
③233大15.B/③241昭2.D/
③242昭3.B/③260昭6.D/
③282昭10.D/③311昭15.D/
③321昭17.D/③322昭17.D/
③324昭18.D/
③327明［不明］B//
④74明21.D/④110明29.B/
④122明31.D/④158明38.B/
④168明39.B/④172明39.D/
④209明43.C/④212明43.D/
④247大2.B/④257大3.B/
④294大5.D/④296大5.D/
④300大6.B/④307大6.D/
④359大13.B/④401昭3.B/
④434昭5.D/④549昭12.B/
④558昭12.D/④588昭14.B/
④602昭15.B/④627昭16.B/
ウェート、ダブリュー
④55明17.B/
ヴェニコス → ウェナス神
ウエヌス → ウェナス神
ヴェヌス → ウェナス神
ウェ(一)ヌス神 → ウェナス神
ヴェラスクエー②235明45.D//
③164明45.B/
ヴェラスケス①293昭3.D/

ウェーランド④676[明6]/
Verig, C.③285昭11.B/
ヴェール、チャールス・エッチ
②245大9.F/
ヴェール、ミルトン・エス
④105明28.B/
ウエルギリウス → ヴィルジリウス
ウェルギリウス → ヴィルジリウス
Völter,D.④264大3.C/
ウェルタル④56明17.C/
Verro(ヴェロ、ルシオ)
④90明25.B/④417昭4.C/
ヴェントウリ、リネルロ
③322昭17.D/
Voigt,A.④237大1.D/
Voigt,G.④619昭15.D/
フォーゲル③227大13.D/
Vogel,E.H.④557昭12.C/
④561昭12.E/
Vossius④615昭15.C/
Votaw,C.W.④281大4.D/
Vonier,D.A.④279大4.C/
Vorsokratikern → ソクラテス前哲學者
ウオルジル → ヴィルジリウス
ヴォルジル → ヴィルジリウス
ウオルヂル → ヴィルジリウス
ヴォルヂル → ヴィルジリウス
ヴォ(ヲ)ルテール①35明16.E/
①62明24.E//②21昭10.C/
②56昭12.B/②110昭16.C/
②143昭19.C//④32明10.A/
④113明29.D/④115明30.B/
④515昭10.C/④633昭16.C/
④744[昭7]/④778[昭19]/
ヴォルトマン②224明 39.B/
ヴニュス → ウェナス神
ヴヌス → ウェナス神
ウハージル → ヴィルジリウス
ヴヒナス④250大2.D/
Vulliamy, C.E.③235大15.C/
Vlastos, G.③315昭16.B/
ヴルヂル → ヴィルジリウス
ウルピア(一)ヌス(ウルピヤヌス)
①134明40.E/①177大3.E/
①185大3.E/①199大6.D/
①233大11.E/①249大13.E/
①384昭9.E//②211明33.E//
③193大4.E//④57明17.E/
④283大4.E/④297大5.E/
④298大5.E/
④309大6.E/④373大14.E/
④499昭9.E/
ウルピヤヌス → ウルピアーヌス
ヴルルアン、エミイル
③106明34.B/
ウリレンチース帝②156明8.C/
ウ井ーナス → ウェナス神
ヴ井(一)ナス → ウェナス神
ヴ井ルギリウス → ヴィルジリウス
ウ井ルギル → ヴィルジリウス
ウ井ルジル → ヴィルジリウス
ヰーゼ④386大15.E/
井ーナス → ウェナス神
ヰルギリウス→ ヴィルジリウス
井ルギル → ヴィルジリウス
ヴヰルジニアス①56明23.C/
ヴ井ルジリウス → ヴィルジリウス
ウ井ルジル → ヴィルジリウス
ウ井ルヂル→ ヴィルジリウス
ヴ井ルヂル→ ヴィルジリウス
ヴヰナス → ウェナス神
ウヰルレム、マアチン(丁韙良)
④27[25013]/④32明10.B/
井トル井ウス→ ウィトルーウィス
ヰトルーヰウス→ ウィトルーウィス

エーナス → ウェナス神
エルギリウス → ヴィルジリウス
ヲノリウス③6明8.C/
［W］Waas,Ad.③310昭15.C/
Waas,Ch.④669昭20.B/
Weizsäcker,A.④612昭15.C/
ワァヅワス → ウォーズヲース
ウアレース、アルフレッド②234明45.B/
ウァンヂントン①68明26.A/
Weigell, Brom①190大4.C/
Weise,B.v.④508昭10.B/
Weise,G.④636昭16.D/
Weisterschausen, A.①364昭8.C/
Weissbach, W.③169明45.D/
Weizsäcker, H.③298昭13.D/
ワイズマン③328昭［不明］C//④406昭3.C/
Weinet,Heirich④493昭9.C/
ワイペルト、ハインリッヒ③26明19.E/
ワイヤ、ジョン④109明29.B/
Wylie④373大14.F/
Wilder,N.④256大3.B/
ワイルト②112昭16.D/
ワイルド②100昭15.D/
Wild,K.W.③303昭14.B/
ワイルド、オスカー(Wilde,O.)③171大2.B/③193大4.D/③200大5.D//④89明24.D/④189明41.D/④199明42.D/④209明43.C/④555昭12.C/④559昭12.D/④619昭15.D/④650昭17.D/
ワインシュトック（Weinstock, H.）②58昭12.B//③290昭12.B/
Weinreich, O.②25昭10.D/
ワグナー → ワ(ー)グネル
Wagnall③79明29.G/
ワグネア → ワ(ー)グネル
ワ(ー)グネル(ワグナー、ワグネア、ヴァーグナー)、R.①129明49.A/①216大9.B/①265大15.B/①307昭4.D//②44昭11.D//③178大2.D/③222大12.B//④164明38.D/④174明40.A/④179明40.C/④181明40.D/④284大5.A/④484昭9.B/④531昭11.B/④582昭14.A/④756[昭11]/
ワシントン③89明31.D/
ワースフォルド③58明26.D/
Woess, F. von③236大15.C/
ワッソン④741[昭6]/
ワッドマン、ゼー・ダブリュー④116明30.D/
ワーヅワース → ウォーズヲース
ワッドマン④116明30.C/
Watt, W.A.③127明37.B/
ワッツ、ローヂャー④268大3.D/
Wartenburg①312昭5.A/①325昭6.A/
Wadington③127明37.B/
ワトソン、ヂ(ジ)ョン（Watson, John）①96明34.B/①101明35.B//③173大2.B/
Watson,J.S.④612昭15.C/
Wachburn, E①273昭2.A/
ワール③247昭4.B/
ワルツェル、オスカー④348大11.D/
ワルテル、ギーゼケ②144昭19.C/
ワルデルタール、H.S.フォン②224明 39.B/
ワルド、ジェイムズ①63明25.B/
ワルドガウエル②44昭11.D/
ワルドスタイン（Waldstein）、チァレス（Ch.）

①191大5.C/①192大5.D/
①199大6.D/①205大7.D/
①211大8.D//③108明34.C/
③203大6.C//④133明34.C/
④318大7.D/
ワルバッセ、ゼ・ピ③292昭12.E/
ワルレース③81明30.B/
ワレース、リウィス
④187明41.C/
ワレース、テー・ケース・ダブリュー④104明28.A/
ワレンス②156明8.C/
ワレンスタイン②252大14.D/
②253 大14.D/
ワレンチアン帝①36明17.E/
ワンナ、モンナ①167大2.D/
ヴァーグナー(R.) → ワ(一)グネル
Weickert, C.③296昭13.C/
Weiss,B.④236大1.C/
Wachsmuth,C.④611昭15.C/
④615昭15.C/
Wachsmuth,K.④610昭15.C/
ヴィーガン、テオドール
②257昭2.C/
Wieksteed, Ph.H.(→ ウイツクステード、ピー・エチ?)
③173大2.B/
ウイグモア②28昭10.E/
②29昭10.E/
ウィーア、アーチボルド
③149明42.A//④200明43.A/
④201明43.A/
Wiegers, F.③198大5.C/
Wisuss①262大14.F/
Wiesner,J.③310昭15.C/
Wispear,A.D.④621昭15.E/
ウィ(ェ)スレー、ジョン
④116明30.D/616昭15.D/
ヴィゾワ③259昭6.C/
ウィッキ、レウェンド
①26明11.B/
ウイツクステード、ピー・エチ（Wickstead, Philipp H.）
②282昭9.B//③173大2.B/
③179大2.E//④267大3.D/
④486昭9.B/
ウィケルスハム④676[明6]/
ウィツコフ①34明16.A/
Wickuritz,G.④597昭14.E/
ウィッテ④218明44.B/
Whitaker, G.H.②282昭9.B/
ウィット①382昭9.D/
ウィットフォーゲル
②275昭7.D//④477昭8.D/
④747[昭9]/
ビーデルマン④31明9.E/
Wichmann,O.④602昭15.B/
Wittmann, M.③100明33.B/
Wiener①338昭6.D/
Winners①325昭6.A/
ウィラード、フランセス
①64明25.B/ ①69明26.B/
井(ヰ)ラモ(一)井(ヰ)ッツ・モェレンドルフ(ウヰラモウィツ・メーレンドルフ、メウレンドルフ、Willamowitz-Moellendor - ff, U.von)①150明44.A/
①159明45.E/①383昭9.D/
②26昭10.D/②63昭12.D/
②75昭13.D/②136昭18.D/
②275昭7.D/②284昭9.B//
③183大3.B//④507昭10.B/
④529昭11.B/④562昭12.E/
④574昭13.C/④610昭15.C/
④611昭15.C/④612昭15.C/
Wieland,F.④235大1.C/
ウィリアム(慕維廉, 英國)
①11［191,204］//
④673[文久]/④674[明治]/
維廉(ウィリアム)二世（孛帝）
③82明30.C/
ウイリアム・マーチン(丁韙良)

①12(慶應1)[215]//
④683[明13]/
ウィリアムス(老監督)
④713[大3]/
Williams,J.F.④597昭14.F/
Williams,S.W.(斯維爾士維廉士)①13明2.G/
Williamson④686[明17]/
Weale, W.H.J.③109明34.D/
韋廉臣(ウイリアレッソン)
④564昭12.F/
ウィルクス、パ(バ)ジェット
④339大10.C/④445昭6.D/
ヴィルケン(Wilcken, Ulrich von)①274昭2.A/
①285昭3.A/①365昭8.C//
②256昭2.A/②260昭3.C/
②280昭9.A//③235大15.C/
③266昭7.C//④387昭2.A/
Wirth, A.③73明29.B/
Wilson③91明31.E/
ウ井ルソン、アルフィアス・ダブリュー④183明41.B/
ウィルソン、グロウブ
②90昭14.F/
ウイルソン → ウヰルソン
ウィルソン、ウッドロー → ウ井ルソン、ウードロオ
ウィルト(史家)①347昭7.C/
ウィルド②231明44.A/
ヴィルト(哲學史)①99明35.A/
Wilheim, J.②26昭10.D
ヴィルブラント①296昭3.E/
Wilhelm,A.④535昭11.C/
Wilpert,G.④536昭11.C/
Willmann,O.④606昭15.B/
Willms, H.②18昭10.B/
Wilmawsky,D.von③136明38.D/
Willoughby, H.R.②269昭6.B//
③258昭6.B/
ヴィルラム(ヴキルラム)、フランツ・M
④588昭14.C/④752[昭10]/
Willrich③75明29.C/
③103明33.C/
ウィンケルマン → ヴ(ヰ)井ンケルマン
ウィンスロウ①16明6.C/
ヴィンセント③78明29.E/
Winter,F.③246昭4.A
ウインチイエール④41明14.B/
ヰンヅ、アドルフ①232大11.D/
ウィンデッシュマン
④106明28.B/
ウィンデルバント → ヰ(井、ヴ井)ンデルバント(ド)
ヰ(井、ヴ井)ンデルバント(ド)(ウィンデルバント、ヴヰンデルバンド)(Windelband)、ウ井ルヘルム、ヴ井ルヘルム(W.)①93明33.B/
①99明35.B/①106明36.B/
①124明39.A/①147明43.B/
①150明44.A/①173大3.B/
①180大4.B/①181大4.B/
①188大4.B/①189大4.B/
①202大7.B/①203大7.B/
①230大11.B/①239大12.B/
①244大13.B/①245大13.B/
①255大14.B/①256大14.C/
①263大15.A/①264大15.B/
①273昭2.A/①289昭3.B/
①316昭5.B/①361昭8.B//
②33昭11.B/②36昭11.B/
②68昭13.B/②80昭14.B/
②131昭18.B/②226明40.B/
②250大13.B/②252大14.C/
②280昭9.B//③49明25.B/
③74明29.B/③87明31.B/
③100明33.B/③101明33.B/
③118明36.B/③119明36.B/
③143明40.B/③166明45.B/
③190大4.B/③191大4.B/

③192大4.C/③195大5.B/
③196大5.B/③206大7.B/
③212大9.B/③212大9.C/
③214大10.B/③215大10.B/
③230大14.C/③270昭8.B/
③308昭15.B//④127明33.B/
④194明42.B/④255大3.B/
④275大4.B/④276大4.B/
④288大5.B/④290大5.B/
④300大6.B/④306大6.C/
④315大7.B/④316大7.B/
④324大8.B/④338大10.B/
④357大13.B/④364大14.B/
④366大14.B/④391昭2.B/
④441昭6.B/④454昭7.B/
④455昭7.B/④470昭8.B/
④474昭8.C/④475昭8.C/
④495昭9.D/④507昭10.B/
④531昭11.B/④587昭14.B/
④700[明34]/④725[大13]/
④760[昭13]/④803[昭11]/
ウィンドシャイド②128昭17.E/
R.Q.Way(禕理哲)④673[蔓延]/
Wace,A.J.B.④591昭14.C/
Waitz,Darlman④393昭2.C/
Weil,G.④565昭13.A/
ウェイランド❹26[25006]/
Woess,Friedrich von④381大15.C/
Wesley, E.B.①349昭7.C/
ウェスターマーク、エドワード
①290昭3.C//②84昭14.C/
②97昭15.C//③133明38.C//
④302大6.B/④309大6.E.
ウェスターマルク→ ウェスターマーク、エドワード?
Westermann,T.H④484昭9.B/
Westermann,W.L.①183大3.C/
①185大3.E//②73昭13.C//
③189大4.B/③254昭5.C/
④573昭13.C/④590昭14.C/
West, A.B.③256昭5.E/
ウェスト、ブラウン③258昭6.C/
Westcott,F.B.④242大2.B/
Westcott④448昭6.D/
Westberg, Fr.③185大3.C//
④713[大3]/
M.N.Westmore④767[昭15]/
ウェッテル(Wettel, B.Ban)
①92明32.E/①95明33.E/
ヴェ(一)デキント①152明44.B/
①222大10.B/①314昭5.B/
ウェード、ゲラルド・ラヂングトン④132明34.C/
Weniger,E.④550昭12.B/
Weber, A.③49明25.B//
④205明43.B/④231大1.B/
ウェーバー、フリードリヒ・ウィルヘルム④402昭3.B/
Weber,G.②108昭16.C/
②133昭18.C/
Weber,K.③267昭7.E/
Weber-Langer④418昭4.C/
Weber, Leo③235大15.C/
ウ(ヴ)ェバー(Weber, M.マックス)
①320昭5.D/①369昭8.E//
②122昭17.C/②143昭19.C/
②280昭8.E//③212大9.C//
④476昭8.C/④514昭10.C/
Weaver, R.③241昭2.D/
Wedgewood③151明42.B/
Wetter,G.P.④227大1.B/
ウェッブ、クレメント
①358昭8.B/
Wefer,W.④235大1.C/
ウェーブス④373大14.E/
ウェブスター②66昭12.F/
ウェブスター①271大15.E/
Webster, H.①318昭5.C//
④536昭11.C/
ウエブスター、エフ・エイ・エム
④760[昭12]/
Webster, N.①41明19.G/

ウェブストル、ダニエル
④42明14.B/
ウェブストル(ウェブスタアー)、W.(Webster)[英和對譯辭書]①17明7.G/
①38明18.G/①50明21.G/
②155明6.G/②172明19.G/
②186明23.G/②189明24.G/
②203明29.G//③4明6.G/
③22明17.G/③24明18.G/
③27明19.G/③79明29.G/
③105明33.G//④58明17.G/
④121明31.G/④640昭16.G/
ウェベル③24明18.G/
Woemann, K.③109明34.D/
ウエ(ェ)ーランド、フランシス(准蘭德)③4明6.B//
④29明6.B/④30明8.B/
④36明12.B/
ウェリス②189明25.A/
Wahle, R.③81明30.B/
ウェルインフォーム、ドクトル
②182明23.B/
Wells,A.R.④361大13.C/
ウエルス(ズ)、Wells,H.G.(エッチ・ジー)
①228大11.A/①235大12.A/
①252大14.A/①299昭 4.A/
①341昭7.A/①357昭8.A//
②32昭11.A/②68昭13.A/
②79昭14.A/②104昭16.A/
②252大14.C/②254大15.A/
②261昭4.A/②252大14.C//
④343大11.A/④344大11.A/
④349大11.G/④356大13.A/
④363大14.A/④386昭2.A/
④422昭4.E/④466昭8.A/
④472昭8.C/④474昭8.C/
④580昭14.A/④581昭14.A/
④723[大12]/④757[昭12]/
Wells, L.S.③167明45.C/
ウェルス、エム④92明25.C//
④97明26.C/
ウェールス公②246大10.D/
ヴェルツマン②44昭11.D/
②46昭11.D//④756[昭11]/
ウェルテ(タ)ル(エルテル)
①38明18.C//②196明26.D//
③22明17.C/③23明18.C//
④59明19.C/④686[明18]/
Wertheimer④343大11.A/
Werner,A.④287大5.B/
Werner,Ch.③302昭14.B//
④584昭14.B/
ウェル子③126明37.B/
ウェルネル(Werner)
ウェルブラント、ロバート
①271大15.E/
ウェルフェル④174明40.A/
ウェルフェル②128昭17.F/
ウェルフェル(Wurfel,G.)
①238大12.B/
Wölfflin,Ed.③109明34.C/
③246昭4.A/
ヴ(ウ)ェルフリン(Wölfflin,H.ハインリッヒ)
①264大15.A/①270大15.D/
①274昭2.A/①281昭2.D/
①285昭3.A/①307昭4.D/
①308昭4.D/①309昭4.D//
②25昭10.D/②44昭11.D/
②63昭12.D/②100昭15.D/
②144昭19.D//③274昭9.A//
④384大15.D/④420昭4.D/
④447昭6.D/④474昭8.C/
④478昭8.D/④518昭10.D/
④540昭11.D/④541昭11.D/
ウェルペッキ②173明20.B/
Wermer,G.④562昭12.E/
ヴェレユース①58明23.E/
Wernle③129明37.C/
Wenger①292昭3.C/
Wünsch, R.③168明45.D/
ウェント、アドルフ

④135明35.B/④138明35.C/
④698[明31]/
ヴェンチヤー①373昭9.B/
ウェンツケ④94明26.B/
ウェンテ④223明45.A/
ウエンライト④154明37.C/
ウエンライト、エス・エイチ
④418昭4.D/④548昭12.B/
Wenland,H.D.④507昭10.B/
Wendland, P.③178大2.D/
ウォーカー③210大8.C/
ウォーカー④330大9.A/
Walker,M.G.③295昭13.B/
ウォーカー、ロリン④498昭9.E/
④554昭12.C/
ウォーカア、ウイリアム
④333大9.C/
ウオースレー③68明28.D/
ウォーズヲース(ウォルヅオス、
ワァヅワス、ワーズワー
ス、ウオルツオルス)
①80明29.D/①121明38.D/
①269大15.D/①279 昭2.D/
①337昭6.D//②99昭15.D/
②103昭15.F/②216明35.D//
③78明29.D/
Wachter③299昭13.D/
ウォーバミン、ゲオルグ
④337大10.B/
Warmington,E.H.③277昭9.C//
④492昭9.C/
Wallis,W.D.③249昭4.C/
Walser,E.①376昭9.B/
Walson,Ph.S.④584昭14.B/
Walter,M.④516昭10.D/
Walter,Otto.F.④487昭9.B/
Walter,J.v.④256大3.B/
④516昭10.D/
Walters,H.B.③169明45.D/
Waltz, P.③224大12.D/
Waltzing③95明32.C/
ウォルヅオス → ウォーズヲー
ス
ウオルツオルス → ウォーズヲ
ース
Waldstein, Ch.③186大3.D/
ウォルトマン、エル
②225明40.A/
ウォルトマン②225明 39.E/
Wollheim, G.②280昭8.E/
ウ(ヴ)ォルフ(Wolf, August)
①294昭3.D/①309昭4.D/
②25昭10.D/②26昭10.D//
④421昭4.D/④481昭9.A/
④529昭11.B/④546昭12.A/
④736[昭4]/
Wolf, A.②30昭10.F/
ヴォルフ(史家)①371昭9.A/
Walford,E.④719[大8]/
Wolfgang, H.①352昭7.D/
ウ(ヴ)ォリンゲル(ヴォリンガ
ー、Worringer)
①248大13.D/①295昭3.D/
①309昭4.D/
ウォーレス,L.④799[昭6]/
ウードブリジ(ヂ)→ ウッドブ
リッジ
Wessely,R.④242大2.B/
Wood,H.G.④378大15.B/
Wood,T.P.④267大3.D/
ウッドブリッジ(ヂ)(ウードブ
リジ)
③127明37.B//④59明19.C/
④73明21.C/
ウッドブリッジ、フレデリック
②41昭11.C/
ウッドベリイ①366昭8.D/
Woodward, E.L.③203大6.C/
Woolley,E.C.④253大2.G/
ウルフ④414昭4.B/
ウールフ④103明27.D/
④663昭18.E/
Wulf,Maurice de④527昭11.B/
ウルホン④149明37.B/

Wurzel, W.③304昭14.C/
Wüst,F.R.④597昭14.E/
ウ井リアム、モニエル
②213明34.B/
ウ井ルアリ③34明22.A/
ウ井ルゴー①121明38.C/
ウ井ルソン、アンドリウ
②164明16.F/
ウキルソン(ウイルソン、ウ井ルソン、史家)
①17明7.C//②22昭10.C/
②157明10.A//④68明20.C/
ウ井ルソン→ ウキルソン
ウ井ルソン(ウィルソン)、ウードロオ(ウッドロー)
③70明28.E/③200大5.E/
ヴキルブラント①254大14.B/
ウ井ンケルマン→ ヴ(キ)井ンケルマン
ヴキルラム→ ヴィルラム
キンケルマン→ ヴ(キ)井ンケルマン
井ンケルマン → ヴ(キ)井ンケルマン
ヴ(キ)井ンケルマン(ウィンケルマン、井ンケルマン、ウ井ンケルマン、キンケルマン、Winkelmann, J.J.)①58明23.D/
①66明25.D/①77明28.D/
①80明29.D/①116明37.D/
①128明39.D/①159明45.D/
①167大2.D/①177大3.D/
①248大13.D/①281昭2.D/
①284昭3.A//②25昭10.D/
②26昭10.D/②44昭11.D/
②45昭11.D/②63昭12.D/
②112昭16.D/②126昭17.D/
②136昭18.D/②137昭18.D/
②147昭20.D/②180明22.D/
②275昭7.D/②285昭9.D/
③46明24.D/③52明25.D/
③69明28.D/③78明29.D/
③84明30.D/③97明32.D/
③140明39.D/③141明39.D/
③144明40.D/③210大8.D/
③317昭16.D/③327昭20.C//
④140明35.D/④172明39.D/
④197明42.C/④222明44.D/
④461昭7.D/④462昭7.D/
④473昭8.C/④496昭9.D/
④539昭11.D/④540昭11.D/
④636昭16.D/④662昭18.D/
④775[昭18]/
Winkelmann(史家)①372昭9.A/
キトルーキウス → ウィトルーウィス
井ルギル → ヴィルジリウス
ウルスレー③82明30.C/
Wulff,O.④237大1.D/
Wunderer,C.④611昭15.C/
ウンデルバント(ド) → キ(井、ヴ井)ンデルバント(ド)
ヴント(Wundt, Max、マクス)
①90明32.B/①109明36.E/
①110明37.B/①112明37.B/
①113明37.B/①120明38.B/
①143明42.B/①161大2.A/
①164大2.B/①189大4.B/
①214大9.A/①220大10.A/
①228大11.A/①235大12/
①263大15.A/①273昭2./
①373昭9.B//②19昭10.B/
②35昭11.B/②75昭13.E//
②213明34.B//③116明36.A/
③163明45.A/③166明45.B/
③182大3.B/③189大4.A/
③195大5.A/③211大9.A/
③238昭2.A/③247昭4.A
③285昭11.B③288昭12.A/
③306昭14.E/③319昭17.A//
③ 123明32.B/④132明34.B
④193明42.B/④194明42.B/

④205明43.B/④206明43.B/
④224明45.A/④225明45.A/
④229明45.B/④230明45.B/
④239大2.A/④240大2.A/
④243大2.B/④246大2.B/
④258大3.B.④259大3.B/
④288大5.B/④299大6.A/
④311大7.A.④312大7.A./
④315大7.B/④329大9.A/
④330大9.A/④337大10.A/
④338大10.B/④347大11.C/
④350大12.A/④351大12.B/
④364大14.C/④387昭2.A/
④388昭2.A/④427昭5.B/
④483昭9.B/④484昭9.B/
④495昭9.D/④504昭10.A/
④510昭10.B/④517昭10.D/
④562昭12.E/④601昭15.A/
④627昭16.B/④656昭18.A/
④715[大4]/
ヴント、キルヘルム(ウ井ルヘルム)(Wundt, W.)
③174大2.B/③181大3.B/
③205大7.A/③215大10.B//
④656昭18.B/
エイクフィールド、ハロルド(Waikefield, H.)
②68昭13.B/
エッテル → ウェッテル
エルテル → ウェルテ(タ)ル
Wheeler, B.I.③102明33.C/
Whitaker,G.H.④484昭9.B/
④486昭9.B/
ホイットマン、ウォルト
①66明25.D/
ホイ(ッ)トニー②211明33.D//
④125明32.D/
ホイットン(保伊頓)
①31明14.E/①33明15.E/
ホワイト②90昭14.F//
④598昭14.F/
ホワイト④332大9.B/
ホワイト、イー・ジー
①347昭7.C//④248大2.C/
④325大8.C/④347大11.C/
④405昭3.C/
White,L.④557昭12.C/
④597昭14.F/
White,L.H.④612昭15.C/
ホワイト、アール・エー
①76明28.C/①147明43.B//
④203明43.B/
ホワイト(保准多)①16明6.C/
White［Greek］①214大9.A/
①228大11.A/①235大12.A/
①236大12.A/①243大13.A/
①253大14.A/①264大15.A/
①274昭2.A/①285昭3.A/
①299昭4.A/①300昭4.A/
①312昭5.A//④284大5.A/
④299大6.A/④311大7.A/
④387昭2.A/④438昭6.A/
ホワイトヘッド、エ・エヌ
④662昭18.F/
ライト、エフ・エー①193大5.F/
①311昭4.F/
ライト、W.K.(ウイリアム・ケリー)②118昭17.B/
②120昭17.B//④441昭6.B/
ヲストン③88明31.B/
ヲーズヲース → ウォーズヲース
ヲーベルブライエル
①63明25.B//④75明21.B/
ヲーレル、マックス④68明20.C/
ヲルペンツ、ハンス
②228明41.B/
［X］エキスノホン → キセノフォーン
エキセポン → キセノフォーン
エクゼノホン → キセノフォーン
キサンチッペ→ サンチペ

キセノファネス→ クセノファ(一)ネス
キセノフォーン(ゼノフォン、セノホン、ゼネホン、ゼノホン、クセノフォン、クセノフォオン、グゼノフヲン、クゼノフォン、セノフォン、ゼノフホン、ゼノフィニー、エキスノホン、クゼノボン、クゼノホン、エキセポン、ゼノファニース、ゼノファネース、ゼノファ子ス、ゼボン、ゼーフォン、クセノホン、Xenophon)[ソクラテス、メモラビリヤ、メモラビア] ①5[19]/①21明9.C/①42明20.B/①46明21.B/①47明21.C/①56明23.C/①58明23.E/①59明24.B/①64明25.B/①83明30.C/①96明34.B/①114明37.C/①118明38.B/①135明41.B/①161大2.B/①206大7.E/①214大9.A/①221大10.A/①250大13.E/①285昭3.A/①332昭6.C/①338昭6.E/①372昭9.A/①373昭9.A//②118昭17.B/②142昭19.C/②158明13.B/②159明13.E/②159明14.E/②160明15.E/②162明16.B/②163明16.E/②164明16.E/②166明18.A/②167明18.B/②168明18.E/②172明19.E/②173明20.B/②178明22.B/②213明34.B/②222明38.C/②233明44.E/②253大14.F/②270昭6.D//③21明17.B/③33明21.F/③45明24.C/③52明25.E/③55明26.B/③58明26.E/③74明29.C/③88明31.B/③127明37.B/③141明39.E/③148明41.C/③149明42.B/③150明42.B/③155明43.B/③161明44.B/③197大5.B/③201大6.B/③219大11.C/③239昭2.B/③269昭8.A/③273昭9.A/③288昭12.A/③304昭14.D//④31明9.B/④47明15.C/④50明16.B/④75明21.F/④83明23.C/④99明27.B/④106明28.B/④112明29.D/④120明31.B/④128明33.C/④241大2.B/④275大4.B/ ④286大5.B/④299大6.A/ ④301大6.B/④311大7.A/ ④335大9.E/④339大10.B/④364大14.A/④365大14.B/④385大15.E/④400昭3.B/④500昭9.F/④502昭10.A/④523昭11.A/④546昭12.A/④547昭12.A/④569昭13.B/④581昭14.A/④600昭15.A/④602昭15.B/④611昭15.C/④625昭16.A/④630昭16.B/
キリスト → 耶蘇
基督 → 耶蘇
クサンチッペ(プ) → サンチペ
クセノファ(一)ネス(クセハア子ス、クセノファー子ス、ゼノファ子ス、ゼニフィニー、ゼノファニース、ケノファ子ス、ゼノファネース、クセノフハネス、ゼノフェニース、キセノファネス Xenophanes)①105明36.B/①119明38.B/①187大5.B/①254大14.B//②81昭14.B/②170明19.B/

②179明22.B/②183明23.B/
②221明38.B/②229明42.B//
③57明26.D/③72明29.B/
③117明36.B/③215大10.B/
③147明41.B/③150明42.B/
③222大12.B/③276昭9.B/
③325昭19.B//④67明20.B/
④72明21.B/④175明40.B/
④232明45.B/④346大11.B/
④505昭10.B/④702[明37]/

クセノファー子ス → クセノファ(一)ネス

クセノフォン → キセノフォーン

クゼノフォン → キセノフォーン

クセノフハネス → クセノファ(一)ネス

グゼノフヲン → キセノフォーン

クセノホン→ キセノフォーン

クゼノホン → キセノフォーン

クゼノボン → キセノフォーン

クセハア子ス → クセノファ(一)ネス

クセルクセス(王)(ゼルキセ(ゼ)ス、ザークシス、ゼルクセス、Xerxés)
③5明8.A/③134明38.C/
③120明36.C/③192大4.C//
④324大8.B/④590昭14.C/

クリスト → 耶蘇

クロノス②275昭7.D/

ケノファ子ス → クセノファ(一)ネス

ザークシス大王 → クセルクセス(王)

ザビエー→ ザベリヨ

ザビエル→ ザベリヨ

ザベリヨ(ョ)(ザビエル、ザ[ヴィ]エル、ザ井エル、ザビエー、ザヱリオ、シャ[ヴィ]エル、Xavier、フランシスコ)
④85明24.A/④350大12.A/
④424昭5.A/④437昭6.A/
④449昭7.A/④465昭8.A/
④481昭9.A/④623昭16.A/

ザ[ヴィ]エル→ ザベリヨ

ザヱリオ→ ザベリヨ

ザ井エル→ ザベリヨ

ザンチープ → サンチペ

ザンチップ → サンチペ

サンチペ(ザンチップ 、ザンチッペ、クサンチッペ(プ)、キサンチッペ、ザンチープ、幾三窒伯、ソクラテスの妻)
①55明23.B/①82明30.D/
①171大3.B//②12昭10.B/
②160明15.B/②182明23.B//
③35明22.B/③54明26.B/
③60明27.B/③150明42.B/
③175大2.B/③195大5.B//
④168明39.C/④225明45.B/
④241大2.B/④401昭3.B/

ザンチッペ → サンチペ

シャ[ヴィ]エル→ ザベリヨ

ジュウス → ゼウス神

ゼニフィニー → クセノファ(一)ネス

ゼネホン → キセノフォーン

ゼノクラチュス②153明4.C/

ゼノファニース → クセノファ(一)ネス

ゼノファ子(ネ) ス → クセノファ(一)ネス

ゼノファネース → クセノファ(一)ネス

ゼノフィニー → キセノフォーン

ゼノフェニース→ クセノファ(一)ネス

(コスの) ゼノフォン④61明18.F/

ゼノフォン → キセノフォーン
セノフォン → キセノフォーン
ゼノフホン → キセノフォーン
セノホン → キセノフォーン
ゼノホン → キセノフォーン
ゼーフォン → キセノフォーン
ゼボン→ キセノフォーン
ゼルクセス→ クセルクセス(王)
ゼルキセ(ゼ)ス → クセルクセス(王)
[Y]Y.F.③138明39.B/
Y.N.②72昭13.B/
Young, Arthur①318昭5.C/
ヤング、シ・チ②164明17.B/
イエイツ → イエ(ー)ツ
イェーツ → イエ(ー)ツ
イエ(ー)ツ(W.B.Yeats詩人、イェーツ、イエイツ、ヰリアム・バトラァ)
③186大3.D/③208大7.D//
④222明44.D/④237明45.D
④251大2.D/ ④252大2.D//
④267大3.D/④361大13.D/
④362大13.D/④408昭3.D/
④433昭5.D/④461昭7.D/
④497昭9.D/④595昭14.D/
④635昭16.D/④714[大3]/
④731[昭2]/④765[昭14]/
イーツ、ジョン(經濟學)
①62明24.E//④60明18.E/
④61明18.E/④672[明治]/
④688[明18]/
ユール、ヘンリー②141昭19.A/
Yung Chi Hoe②49昭11.E/
エール大學研究科③47明25.A/
楊貴妃②108昭16.C/
②123昭17.C//③321昭17.C/
楊朱④106明28.B/
養方(軒)パウロ①4[3]/
①352昭7.D/
楊錬④747[昭9]/
ヨング①14明4.E/
ヨング、ジョン③41明23.C//
④77明22.C/
[Z]ざらつすとら → ニツシエ(ニーチェ)
ザラツストラ → ニツシエ(ニーチェ)
ジュース神→ ゼウス神
ズウ井ングリ、オルリッチ
④69明20.C/
ゼイエ、J. ④514昭10.C/
ぜうす→ ゼウス神
ゼウス神(ヅース、ツオ(ォ)イス、ツオオイス、ツェウス、ツヲエス、ジュウス、ツオユス、ヂュース、ゼーウス、ツヲイス、ジュース、ヅウス、ぜうす、デアウス、Zeus)
①20明9.B/①60明24.B/
①80明29.D/①170大3.B/
①188大5.B/①222大10.B//
②96昭15.B/②106昭16.B/
②166明18.B/②171明19.D/
②181明22.D/②221明38.B/
②226明40.B/②232明44.B/
②233明45.B/②234明45.B/
②236大2.B/②239大4.B/
②242大7.B/②246大10.B/
②256昭2.B/②266昭5.B/
②276昭7.F/②284昭9.B//
③23明18.B/③96明32.D/
③146明41.B/③157明43.D/
③180大3.B/③263昭7.B/
③264昭7.B/③286昭11.D
③297昭13.D/③322昭17.D//
④41明14.B/④45明15.B/
④58明18.B/④110明29.B
④131明34.B/④142明36.B/
④161明38.B/④234明45.C/
④276大4.B/④278大4.C/
④317大7.C/④488昭9.B/
④552昭12.B/

ゼーウス→ ゼウス神
ゼスタイ門派①204大7.C/
ゼノ(皇帝)②241大6.C/
ゼノ(一) → ゼノン
ゼノオ → ゼノン
ぜの氏→ ゼノン
ゼノン(ゼノ(一)、ゼノオ、ツェーノ、ヅェノー、ストア派、熱那)
①39明19.B/①51明22.B/
①66明25.E/①90明32.B/
①96明34.B/①119明38.B/
①368昭8.E//②35昭11.B/
②88昭14.D/②153明5.A/
②162明16.B/②164明17.A/
②169明19.B/②170明19.B/
②176明21.B/②186明24.A/
②194明26.B/②197明27.B/
②203明29.E/②239大4.C//
③3明5.B/③87明31.B/
③91明31.E/③97明32.D/
③113明35.B/③196大5.B/
③223大12.B/③273昭8.F//
④96明26.B/④149明37.B/
ゼノン(ゼノ(一)、ゼノオ、ツェーノ、ヅェーノ(一)ン、ツェノー[エリカ]、ツエーノー、ゼノウ、ゼノーン、ツェーノ(一)ン、ヅェノン、ぜの氏、チェノンの徒、Elea派、熱那)
①39明19.B/①51明22.B/
①66明25.E/①90明32.B/
①96明34.B/①181大4.B//
②19昭10.B/②35昭11.B/
②69昭13.B/②153明5.A/
②162明16.B/②164明17.A/
②169明19.B/②170明19.B/
②176明21.B/②186明24.A/
②194明26.B/②203明29.E/
②239大4.C//③87明31.B/
③97明32.D/③142明40.B/
③155明43.B/③163明45.B/
③173大2.B/③196大5.B/
③201大5.F/③201大6.B/
③223大12.B/③240昭2.B/
③273昭8.F/③302昭14.B//
④39明13.B/④41明14.B/
④42明14.B/④51明16.B/
④55明17.B/④67明20.B/
④80明23.B/④81明23.B/
④82明23.B/④96明26.B/
④131明34.B/④137明35.B/
④142明36.B/④176明40.B/
④194明42.B/④200明42.F/
④217明44.B/④340大10.C/
④346大11.B/④352大12.B/
④365大14.B/④390昭2.B/
④413昭4.B/④427昭5.B/
④442昭6.B/④479昭8.E/
④505昭10.B/④549昭12.B/
④606昭15.B/④607昭15.B/
④608昭15.C/
バイロン ブイコフスキー/Zerffi
ゼノーン→ ゼノン
ゼフィー①30明13.C/
ゼフィラス④224明45.A/
ゼフィロス(西風神)
④224明45.A/
ゼボ(ホ)ン(惹穏)、スタンレー
②166明18.A/②189明25.A//
④36明12.B/④44明15.A/
④62明19.B/
ゼールス①129明40.A/
ゼルピル、ハー①134明40.D/
ゼルフィー①47明21.C/
前ソクラテ期 → ソクラテス前哲學者
ゾイクシス③210大8.D/
ゾラ(.E)④141明35.E/
タウアラッストラ→ ニツシエ(ニーチェ)
チェノンの徒→ ゼノン

ヂュース神 → ゼウス神
Zeiss, H.③265昭7.C//
④596昭14.E/
Zeissberg,H.V.④615昭15.C/
ツアキントス④140明35.D/
Zatschek,H.④515昭10.C/
Zeitlin,J.③241昭2.D/
ツァツストラ→ ニツシエ(ニーチェ
ツアラツストラ → ニツシエ(ニーチェ)
ツアラツーストラ→ ニツシエ(ニーチェ)
ツアラツスツラ → ニツシエ(ニーチェ)
ツアラトウストラ→ ニツシエ(ニーチェ)
ツアラトーストラ→ ニツシエ(ニーチェ)
ツアラトストラ → ニツシエ(ニーチェ)
ツアレック、オットオ
①257大14.C/
Zahnfleisch, J.③66明28.B/
③67明28.B/③73明29.B/
③81明30.B/③93明32.B/
③100明33.B/③101明33.B/
ツーメルス①77明28.E/
Ziehen,Th.①304昭4.B/
ツィアラトウストラ → ニツシエ(ニーチェ)
Ziegter,L.④237大1.D/
ツィーグラー(ツイーグレル)、テオバルト(T.)
①180大4.B//③138明39.B/
ツイーグレル → ツィーグラー
Ziegenspeck, E.②71昭13.B/
Ziebarth, Erich①334昭6.C//
③259昭6.C//④491昭9.C/
ツィーベルト④616昭15.C/
Zielenski,Th.②257昭2.B//
③256昭5.D/
ヅイロス②229明42.B/
Zimmermann, F.②38昭11.B/
Zimmern,A.(ツインメル)
③122明36.C//④145明36.C/
④271大4.A/
ツインメル(ン)、ヘレン
①161大2.A//④224明45.A/
ヅウス神→ ゼウス神
ツェウス → ゼウス神
ツェノー→ ゼノン
ヴェノオン[草紙]②21昭10.C//
④534昭11.c/
ヴェノー → ゼノン(ストア派)
ツェーノ → ゼノン(エレア派)
ツエーノー→ ゼノン(エレア派)
ツェーノ(ー)ン(エレア派) → ゼノン
ヴェーノ(ー)ン(エレア派) → ゼノン
ツェノン→ ゼノン(エレア派)
ヴェノン→ ゼノン(エレア派)
Zuebarth, Erich③276昭9.C/
ツェーフェル(Zerffi)
①94明33.C//④752[昭10]/
ツェラー(ツェルラー、ツェラル Zeller)、エドワード(Ed.)
①55明23.B/①74明27.B/
①136明41.B/①302昭4.B/
①342昭7.B//②33昭11.B/
②37昭11.B/②226明40.B/
②250大13.B//③66明28.B/
③67明28.B/③87明31.B/
③100明33.B/③143明40.B/
③147明41.B//④63明19.B/
④167明39.B/④216明44.B/
④274大4.B/④321大8.A/
④429昭5.B/④306大6.C/
④441昭6.B/④615昭15.C/
ツェラル → ツェラー
ツェルラー→ ツェラー
Zévort④402昭3.B/

Zenler, E.V.③75明29.C/
ツオ(ォ)イス → ゼウス神
Zeussen,P.④243大2.B/
ツオオイス → ゼウス神
ツオユス → ゼウス神
ヅース → ゼウス神
ツッカー(Zucker,F.)①304昭4.B//
④413昭4.B/
ヅヅラ、エレーヌ・ア②34昭11.B/
ヅーノ → ゼウス神
ヅミーツリエフ④695[明 26]/
ツーメルス①77明28.E/
ツラツストラ→ ニツシエ
(ニーチェ)
ツラツーストラ→ ニツシエ
(ニーチェ)
ツヴァイク(ツワイク、ステファン、Zweig, Stefan.)
①288昭3.B/①376昭9.B//
②80昭14.B/②105昭16.B/
②131昭18.B//③292昭12.D/
③301昭14.B//④558昭12.D/
④627昭16.B/④769[昭16]/
④776[昭18]/
ツヴレイ、エム・ゼイ②270昭6.D/
ツワイク → ツヴァイク
Zwarc, J.③93明32.B/
ツヲイス→ ゼウス神
ツヲエス → ゼウス神